文學博士 大槻文彦著

大言海

第四卷

ひ──を

東京
冨山房發行

ひ び ぴ

ひ 五十音圖、波行第二ノ假名。はノ條ヲ見ヨ。此音ハ、他ノ音ノ下ニアルトキ、其發聲ヲ失ヒテ、韻ノいニ呼ブコトアリ、いひ(飯)、うひ(初)、たひ(鯛)、あひだ(間)、かひな(腕)、ナドノ如シ。

び ひノ濁音ノ假名。ばノ條ヲ見ヨ。

ぴ ひノ半濁音ノ假名。ぱノ條ヲ見ヨ。

ひ (名) 日 (一)〔太陽系ノ中央ニアリテ、照リ輝ク廣大無邊ナル圓キ體ニテ、諸行星ニ、光ト溫氣トヲ與フルモノ。直徑、約三十五萬四千餘里(地球ノ直徑ノ約百九倍)、地球トノ平均距離三千八百萬里。日輪。太陽。金烏。 字類抄「日、ヒ、大陽精不虧也」 古事記、中(神武)「吾者爲日神之御子、向日而戰不良、云云、自今者行廻而、背負日以撃」 景行紀、十七年三月「是國也、直向於日出方、故號其國曰日向也」 萬葉集、三廿七長歌「天ノ原、フリサケ見レバ、ワタル日ノ、陰モカクロヒ、照ル月ノ、光モ見エズ」 古詩賞析、一、擊壤歌「日出而作、日入而息、鑿井而飮、耕田而食、帝力於我何有哉」 淮南子、天文訓「日出于暘谷、浴于咸池」 (二)〔一日ノコト。明六ツヲ一日ノ初トシ、次ノ明六ツヲ終トセシヲ、夜九ツヨリト改ムル由、元文五年ノ曆ノ端書ニ見エタリ。 景行紀、四十年十月「カカナベテ、夜ニハココノヨ、比ニハトヲカヲ」 古今集、四、秋、上「八日ノ日ヨメル」 孟子、離婁、下篇「爲政者、毎人而悅之、日亦不足矣」 (三)日ノ光。日ノ熱。日光 後漢書、竇憲傳「玄甲耀日、朱旗絳天」「日ニ當ル」日ニ曬ス」日ノ目ヲ見ズ」 (四)日ノ神(天照大神)ノ御裔ニマシマス至尊ニ就キテノ御物事ヲ、稱ヘ奉リテ云フ語。「日ノ御子」日ノ御門」日ノ宮」日嗣」

ひ (名) 日 (一)地球ノ表面ノ、太陽ノ光ヲ受ケテアル間。晝。晝間。 盛衰記、三十四、範賴義經上洛事「御所ノ回祿申サン爲ニ、夜ヲ日ニ繼デ下向ス」「日ノ御座」日ノ裝ヒ」日ノ中」日ヲ暮ラス」 (二)ニチ。ジツ。地球ノ、全ク自轉一回シテ終ハル間ノ稱。卽チ、二十四時間。一晝夜。一年ノ三百六十五分ノ一。日本ヲ始メ、萬國、率ネ、前夜ノ夜半ヨリ翌夜ノ夜半マデトス。但シ、巴比倫人ハ、日出ヨリ、猶太人ハ、日沒ヨリ算セリ。 書經、洪範篇、疏「三曰日、從夜半以至明日夜半、周十二辰爲一日、以所紀一日也」 (三)〔定メタル日限。日切。刻日 源、五十一、蜻蛉十一「カカル所ニ、日ヲカギリテコモリタレバナン、云云、日ヲノベテモサルコトハスルモノヲ」 晉書、羊祜傳「每與吳人交兵剋日方戰不爲掩襲之計」「日ヲ延バス」日ヲ決ム」日ヲ切ル」 (四)〔多クノ日。日數。經日 土佐日記、正月廿日「タダ日ノヘヌル數ヲ、今日イクカ、二十日、三十日ト數フレバ」「日ヲ積ム」日ヲ歷ル」 (五)〔時。時代。頃。 土佐日記、正月九日「御館ヨリ出デタウビシ日ヨリ、ココカシコニ追ヒ來ル」「世ニアリシ日」後ノ日」 (六)日每ニモノスルコト。 史記、司馬相如傳「臨邛令繆爲恭敬、日往朝相如」「日履ヒ」日賦」日掛ケ」

ひ (名) 火 (一)物ヲ燒ク元トナルモノ。燃エテ赤ク光リテ、極メテ熱シ。ほ。 字類抄「火、ヒ」 肥前國風土記「其夜虛空有火、自然燎、稍稍降下就此山」 淮南子、天文訓「積陽之熱氣生火」 (二)〔火打ノ火。燧火 古事記、上五十七「鑽出火云、是我所燧火者、於高天原者、云云」 景行紀、四十年十月「則以燧出火之向燒」 論語、陽貨篇「新穀既升、鑽燧改火、期可已矣」「火ヲ取ル」火ヲ打ツ」 (三)〔トモシビ。燈火 顯宗卽位前紀「命居竈傍左右、秉燭」 萬葉集、十五廿「旅ニアレド、夜ハ火トモシ、ヲル吾ヲ、暗ニヤ妹ガ、戀ヒツツアルラム」 源、二、帚木三十「アナクラシトテ、火カカゲナドスベシ」 同、同三十九「木丁ヲサウジグチニタテテ、火ハホノグラキニ見給ヘバ」「火ヲトボス」 (四)スミビ。炭火 「火ヲ埋クル」 (五)煮ルコト。「火ノ物斷チ」 (六)〔火事。火災 榮花物語、廿一、後悔大將「出デサセ給ヒヌルナゴリ、火ヲ打消チタルヤウニ人聲モセヌニ」 方丈記「戌ノ時バカリ、都ノタツミヨリ火出デ來テ、云云、一夜ガ程ニ塵灰トナリニキ」 宇治拾遺、三、第六條「隣ノ家ヨリ火出デ來テ、風オシオホヒテ責メケレバ」 王維詩「春窓曙滅九微火」「火ノ元」火ノ見」火消」火ノ用心」 (七)〔怒リ、妬ミ、戀フルナド、情ノ極メテ烈シク發スルモノ。 萬葉集、十七四十五長歌「イフスベノ、タドキヲ知ラニ、心ニハ、火サヘ燃エツツ、思ヒ戀ヒ」「胸ノ火」

ひ (名) 梭杼 機ノ具。緯絲ヲ卷ケル筟ヲ容ルルモノ。經絲ノ中ヲクグラシメ、布ノ端ヨリ端ヘ遣リ通ハス。ヒイ。 倭名抄、十四五十「織機具「杼、受緯曰筟、筟、亦謂之梭、今案、筟、杼字也、比」 神代紀、上廿七「是時天照大神驚動、以梭傷身、由是發慍、云云」 仁德紀、二年三月「妃日向髮長媛、生大草香皇子、幡梭皇女」 晉書、陶侃傳「侃少漁雷澤、網得一梭、挂壁上、雷雨暴至、化龍而去」 說文「杼、機之持緯者」

ひ (名) 楲廁 〔次條ノ語意ニ同ジ〕 廁ノ具。糞ヲ受クル器。提ゲ去リテ、水ニテ洗ス。此事ヲ司ル下司ノ女ヲ、ひすましト云フ。 倭名抄、十四八十坐臥具「楲廁、楲、音威、比、廁也、廁、行淸圊也」 今モ廁ノ床ノ孔ノ木匡ニ、樋箱ノ名ヲ存セリ。

ひ (名) 楲 〔放ル意カ、又、いひトモ云フ。いハ發語カ。說文「楲窬、褻器也」(前條ヲ見ヨ) 洩水ノ意ヨリ轉用ス〕 又、いひ。今、ヒノクチ。いひ(楲)、及、ひのくち(樋口)ノ條ヲモ見ヨ。 武烈紀、五年六月「使人伏入塘楲、流出於外」

ひ (名) 樋 〔前條ノ語ニ同ジ〕 (一)〔又、とひ。樋、蓋シ、竹、木通ノ二合和字〕 竹、木等ノ方圓ノ長キ管。水ヲ遠キニ導キ遣ルニ用ヰル。梘 かけひ(筧)、うづみび(埋樋)、受け樋、ナド、(下樋)、アリ。 字類抄「樋、ヒ」 神代紀、上三十二「春則廢渠槽、云云、廢渠槽、此云秘波鵝都」 太平記、六、赤坂合戰事「案ノ如ク、土ノ底ニ丈餘ノ下ニ樋ヲ伏セテ、側ニ石ヲ疊ミ、上ニ眞木ノ瓦ヲ覆セテ、水ヲ十町餘リノ外ヨリゾ懸ケタリケル」 (二)刀ノ刃ニ刻リ作ル細長キ溝。チナガシ。血槽 刀劍略說「一、血溝、倭訓ニテ樋ト云、樋ハ水ヲ通ズルモノ、是ヲ流ス樋ナルユヘニ血溝ト云、其義、樋ト同ジ、凡樋、棒樋、二筋樋ナド云コトアリテ、太平物ノ重キヲ厭ヒテ樋ヲ彫アリ、又血走リノ爲トテ彫モアリ、其本ハ血溝ノ字ニテ、血ヲ流ス溝ナリ」

ひ (名) 隔重 〔重ト通ズ〕 物ヲ隔ツルモノ。又、事ノ重ルコト。目翳、氷、ヲひト云ヒ、曾祖父、曾祖母、曾孫、ナド云フひモ、是レナリ。

ひ (名) 目翳 〔前條ノ語意ニ同ジ〕 眼ノ病。眼睛ノ上ニ、蠅翅ノ如キモノヲ生ジテ物ヲ隔テ、明カニ見エヌモノ。 倭名抄、三九病類「目翳、比、目膚眼精上有物、如蠅翅是也」 字類抄「目翳、ヒ」「內障眼」外障眼」

ひ (名) 氷冰 〔前前條ノ語意ニ同ジ〕 水ノ上ニ隔テヲ生ズレバ云フ〕 (一)水ノ凍レルモノ。コホリ。 倭名抄、一七水泉類「氷、比、又、古保利」 名義抄「冰、コホリ、ヒ」 允恭紀、廿四年六月「御膳羹汁、凝以作氷」 讚岐典侍日記「御前ニ、金椀ニ氷ノオホラカニ入リタルヲ御覽ジテ、アレ見レバ、心チノサワヤカニ覺ユル、氷ノ大キナラン、提子ニ入レテ、人ドモ集メテ食ハセテミント、云云」「氷池」氷室」氷樣」垂氷」 (二)氷

雨。雹。 名義抄「雨レ氷」 源、十三、明石四「地ノ底、トホルバカリノひ降リ」 紀略、後篇、十二、長和二年三月廿九日「雷鳴氷降、大如二梅李一」 古事記、中（景行）五十三「於是零二大氷雨一打二惑倭建命一」

ひ (名) 檜 〔火ノ義、此木ニテ鑽レバ火ヲ得、故ニ名トス〕 常ニ、ヒノキ。山地ニ繁茂スル常綠喬木ノ名。幹、直ク高ク聳エテ、十丈餘ニ至ル。葉ハ、平ニ布キテ茂リ、面、綠ニシテ、背ニ白脈アリ。春ノ末、細小ノ花ヲ開キ、毬實ヲナス、杉ノ實ニ似テ、刺無シ、秋ノ末ニ熟ス、中ニ子アリ、大キサ麥ノ如シ。材、堅密ニシテ美シク、且、久シク水濕等ニ堪フルヲ以テ、建築、造船等ニ必用ナル良材トシ、最モ貴重セラル。扁柏 倭名抄、廿木類「檜、柏葉、松身、非」 字鏡四十六「檜、比」 名義抄「檜、ヒノキ、ヒ」 和漢三才圖會、八十二、香木類「檜、音膾、和名、非、言、火乃木也」 神代紀、上三十九「拔二散胸毛一是成レ檜、云云、檜可下以爲二瑞宮一之材上」 萬葉集、一廿二長歌「淡海ノ國ノ、衣手ノ、田上山ノ、マキサク、檜ノツマデヲ、モノノフノ、八十氏河ニ」

ひ (名) 鄙 (一)イヤシキコト。 古詩、焦仲卿妻「人賤物亦鄙」 (二)身分卑キモノ。 潛夫論（漢、王符）「賞レ鄙以招レ賢」 (三)ヰナカ。 左傳、隱公元年「大叔命二西鄙、北鄙、貳二於己一」

ひ (名) 否 (一)ウベナハザルコト。首肯セザルコト。然ラザルコト。 孟子、萬章、上篇「象憂亦憂、象喜亦喜、曰、然則舜僞喜者與、曰、否」 (二)同意セザルコト。贊成セザルコト。(可ニ對ス) 論語、雍也篇「予所レ否者、天厭レ之、天厭レ之」 (三)アシキコト。ヨカラザルコト。 易經、鼎卦「初六、鼎顚レ趾利レ出レ否」註「否謂二不善之物一也」

ひ (名) 非 (一)然アラヌコト。 (二)理ニ適ハザルコト。惡シキコト。(是ニ對ス) 書經、說命、中篇「無レ恥レ過作レ非」 易經、繫辭、下傳「辯二是與一レ非」 史記、殷紀「紂智足二以拒一レ諫、言足二以飾一レ非」 漢書、元帝紀「俗儒不レ達二時宜一、好是レ古非レ今」「非ニ落ツ」理ヲ非ニ曲グ」 (三)アヤマリ。キズ。「非ヲ打ツ」 (四)勤メノ明キタルコト。散官 「非役」非番」非參議」

ひ (名) 誤字ノ旁ニ「ヒ」ト書ク。非ノ義。或ハ、非字ノ省略ナル丬ト書キタルモアレバ、其又、省略カ。

ひ (名) 緋 朱色ノ濃クシテ明彩アルモノ。ヒイロ。 名義抄「緋、アケ、アカシ」 酉陽雜俎（唐、段成式）「狒狒亦曰二梟羊一、狀如レ猴、血可レ緋、髮可レ爲レ髲」 李郭、少年行「追逐輕薄伴、閒遊不レ著レ緋」 劉基詩「王母桃花凍不レ緋」 讚岐典侍日記「緋ノ裝束ナル殿ハ、今スコシ人達ノ座ヨリハ上リテ」

ひ (名) 匕 〔說文「匕亦所二以用レ比取レ飯、一名、柶」玉篇「匕、匙也」〕 さじ（匕）ニ同ジ。 三國志、蜀志、先主劉備傳「先主方レ食失二匕箸一」 貝瓊詩「小兒行レ觴不二計籌一、大兒劉レ肉能操レ匕」 孕常盤（寶永、近松作）二「一粒一匕ノ藥ヲ與ヘテ、死シタル者ヲヨミガヘラセ」

ひ (名) 比 (一)クラベ。タグヒ。 唐書、鄭覃傳「覃於二經術一該二深醇一、篤二守正一、帝尤重レ之、云云、帝嘗言、殷侑善言レ經、其爲レ人鄭覃比也」 元史、哈剌哈孫傳「亦語二皇太子一曰、苔剌罕非二常人比一、可二善遇一レ之」「其比ニアラズ」 (二)漢詩ノ六義ノ一。他ノ物事ニ喩ヘ比ベテ、其事ヲ述ブルモノ。 詩經、關雎篇、序「故詩有二六義一焉、一曰風、二曰賦、三曰比、四曰興、五曰雅、六曰頌」 (三)數學ニテ、同種類ノ甲乙ノ二量アル時、甲ノ乙ニ對スル比トハ、甲ガ乙ノ幾倍ナルカ、又ハ、幾分ノ幾ツナルカヲ表ハス關係ヲ云フ。率。割合。

ひ (名) 妣 〔爾雅、釋親篇、宗族「父爲レ考、母爲レ妣」〕 母ヲ、死後ヨリ稱スル語。先妣。かう（考）ノ條ヲモ見ヨ。 禮記、曲禮、下篇「生曰レ父、曰レ母、曰レ妻、死曰レ考、曰レ妣、曰レ嬪」

ひ (名) 妃 (一)キサキ。正シク云ハバ、皇后、夫人、嬪ノ稱ナラム。後ニ嵯峨天皇ノ御代ニ更衣、光孝天皇ノ御代ニ女御ヲモ云ヘリ。 禮記、檀弓、上篇「舜葬二於蒼梧之野一、蓋三妃未二之從一也」 史記、呂后紀「呂太后者、高祖微時妃也」 後宮職員令「妃二員、右四品以上、夫人三員、右三位以上、嬪四員、五位以上」職員令集解、六「禮記云、天子之妃曰レ后、令法用二妃以下一皆爲レ妾也、朱云、妃二員、謂二皇后之次妻一也、凡妃、夫人、嬪者、幷皆天子之婦也」 神武卽位前紀二「神日本磐余彥天皇、云云、年十五、立爲二太子一、長而娶二日向國吾田邑吾平津媛一爲レ妃、生二手研耳命一」 續紀、三十九、延曆七年五月「夫人從三位藤原朝臣旅子薨、云云、贈二妃一位一、妃贈右大臣從二位藤原朝臣百川之女也」 (二)皇族ノ妻。「皇太子妃」親王妃」王妃」

ひ (名) 脾 古名、ヨコシ。ツチクラ。內臟ノ一。肋骨ノ內、胃ノ下、稍、後方ノ左側ニアリ、形、橢圓形ニシテ平ニ、褐色ヲ呈シ、狀、海綿ノ如シ。白血球ノ新生ト崩解トヲ司ル器官ト云フ。脾ノ臟。脾臟。 桑家漢語抄、六「脾、都智倶良」 醒睡笑（元和、安樂庵策傳）五「大盃ヲ以テ數ヲ盡クサバ、イカデ、脾、胃ノ損ゼヌ事アラン」

ひ (名) 髀 〔釋名（漢、劉熙）釋形體篇「髀、卑也、在レ下稱也」說文「髀、股也」〕 モモ。脚ノ上部。 禮記、三年問篇「帶下毋レ厭レ髀」 漢書、馮唐傳「迺拊レ髀曰、嗟虖、吾獨不レ得二廉頗李牧爲一レ將、豈憂二匈奴一哉」

ひ (名) 婢 〔奴ニ對ス〕 コシモト。ハシタメ。ミヅシメ。下女。下婢。 酉陽雜俎（唐、段成式）「令レ從婢以二銀稜椀一就レ井取レ水」 白居易詩「豪家多二婢僕一、門內頗驕奢」

ひ (名) 碑 イシブミ。石碑。 名義抄「碑、ヒ、俗作レ碑、碑石」 蔡邕、郭有道碑文「樹レ碑、表レ墓」 文心雕龍（梁、劉勰）「自レ漢以來、碑碣雲起、才鋒所レ斷、莫レ高二蔡邕一」 初學記（唐、徐堅等）「碑以悲二往事一也、今宮室廟屋墓隧之碣、鐫二文於石一、皆曰レ碑」 喪葬令「凡墓皆立レ碑、記二其官姓名之墓一」 寫本、榮花物語、十五、疑「匪右之所レ思、書二妙法一、而代二立レ碑旌レ德之文一」「碑文」碑石」古碑」墓碑」

ひ (數) 一 ヒトツ。ヒイ。

ひ (接頭) 或語ニ冠シテ、其物事ノ柔軟ナル意ヲ云フ語。「ひ弱シ」

ひ (接頭) 非 或名詞ニ冠シテ、其物事ヲ打消ス意ニ用キル語。「非立憲的」非常識」

び (名) 靈 〔靈ノ轉ナル靈ノ轉〕 神ノ靈ヲ稱スル語。靈妙ナルコト。クシビ。 神代紀、上三「次、高皇產靈尊、次、神皇產靈尊、皇產靈、此云二美武須毗一」 同、同十五「禍之靈」（禍津見）

び (名) 美 (一)ウツクシキコト。ウルハシキコト。(醜ニ對ス) 論語、子張篇「夫子之牆數仞、不レ得二其門一而入、不レ見二宗廟之美、百官之富一」 老子、第二章「天下皆知二美之爲一レ美、斯惡已、皆知二善之爲一レ善、斯不善已」 (二)味ノ旨キコト。 韓非子、揚權篇「夫香美脆味、厚酒肥肉、甘レ口而疾レ形、曼理皓齒、說レ情而捐レ精」 (三)ホムベキコト。ヨミスベキコト。 易經、文言傳「君子黃中通レ理、正レ位居レ體、美在二其中一」 詩經、召南、甘棠篇、小序「甘棠美二召伯一也、召伯之敎、明二於南國一」 (四)哲學上ニテ、吾人ノ直覺的ニ、善ナリ、眞ナリト認メラルル事柄ノ、具象化セラレタルモノ。「藝術美」

び (名) 微 (一)カスカナルコト。スコシナルコト。ヨワキコト。 史記、屈原傳「其文約、其辭微」 列子、周穆王篇「眞見二燕國之城社一、眞見二先人之廬冢一、悲心更微」「力、微ナリ」 (二)度量ノ稱。がう（毫）ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

び (接尾) 傍 〔邊ノ轉、又、轉ジテ、み〕 べ（邊）ニ同ジ。 萬葉集、五十七「梅ノ花、散リマガヒタル、乎加肥ニハ、鶯鳴クモ、春カタマケテ」 同、十七八十「時鳥、鳴キテ過ギニシ、乎加備カラ、秋風吹

キヌ、ヨシモアラナクニ」「畝傍山」

びあ (名) 【微痾】 〔玉篇、痾「同レ疴、病也」漢書、五行志「及レ人謂二之痾一、痾、病貌」〕 イササカナルヤマヒ。微少ナル病氣。微恙。 愍塚、與二陰夏一書「乃知、郎君頓微痾、告二詞靈神一」 蘇軾詩「微痾坐杯勺、止レ酒則瘳矣」

ひあい (名) 【悲哀】 カナシムコト。悲歎。哀痛。 易林節用集(慶長)下、言辭門「悲哀、ヒアイ」 史記、五帝紀「堯辟レ位凡廿八年而崩、百姓悲哀、如レ喪二父母一」 嵇康、琴賦「稱二其材幹一、則以二危苦一爲レ上、賦二其聲音一、則以二悲哀一爲レ主」

ひあが・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【乾上】 (一)全ク乾ル。カワキ切ル。乾涸。 (二)生活シカヌル。活計ノタタズナル。飢ウ。 長町女腹切(正德、近松作)中「年寄ッタ此ノ親ガ、鼻ノ下ガひあがる、廿兩ト云フ金ガ、天カラ降ルカ、地カラ湧クカ」

びあく (名) 【美惡】 (一)ヨキコトト、アシキコトト。 禮記、學記篇「君子知二至レ學之難易一、而知二其美惡一、然後能博喩」 莊子、天地篇「德人者、居無レ思、行無レ慮、不レ藏二是非美惡一、同海之內、共利レ之之爲レ悅、共給レ之之爲レ安」 公羊傳、隱公七年「春秋、貴賤不レ嫌二同號一、美惡不レ嫌二同辭一」 (二)ミメヨキト、アシキト。 史記、鄒陽傳「女無二美惡一、入レ宮見レ妒、士無二賢不肖一、入レ朝見レ嫉」

ひあし (名) 【日脚】【日晷】 日ノ、空ヲ過ギ行クコト。ヒカゲ。日ノ足。又、ヒザシ。 杜甫詩「日脚下二平地一」 韓愈、進學解「焚二膏油一以繼レ晷」 曠野集「武藏野ト、思ヘド冬ノ、日脚哉」「日脚高シ」「日脚遲シ」「冬ハひあしガ短クテ」

ヒアシンス (名) 〔英語、Hyacinth.〕 (一)舶來植物ノ名。百合科ノ多年生草本ニテ、葉ハ細長クシテ水仙ニ似、下ノ鱗莖ヨリ生ジ、多クノ葉ノ中央ヨリ七八寸ノ花梗ヲ抽キ、白、赤、紫ナドノ花ヲ總狀花序ニ群リ開ク。一重、及、八重ナドアリテ、芳香ヲ放ツ。觀賞用トシテ、廣ク栽培セラル。タウズキセン。風信子。 (二)鑛物ノ名。風信子石ノ異稱。 (三)染色ノ名。紫藍色。

ひあたり (名) 【日當】 日光ノアタルコト。又、其場所。 夫木抄、廿二「日あたりノ、深田ノ、霜解ケニ、ツタヒカネタル、畔ノホソミチ」

ピアノ (名) 【洋琴】 〔伊太利語、Piano-forte.ノ略、強(forte.)弱(piano.)自在ノ音ヲ發スル器ノ意ト云フ〕 びやの(洋琴)ノ條ヲ見ヨ。

ひあはひ (名) 【廂間】 〔日光ノ透サヌ間ノ意ナラム。伊豆ニテ、略シテ、ひあひト云フ〕 家ト家トノ間ノ狹キ處。

ひあひ (名) 【日間】 數日ノ間。又、ヒカズ。「日間立ツ」「日間無シ」

ひあひのさけ (名) 【日合酒】 其場ニアリアハセタル酒。

ひあふぎ (名) 【檜扇】 (一)官人ノ、衣冠、又ハ、直衣ナドノ時、笏ニ代ヘテ持ツ扇。專ラ冬ノ用トシ、夏ハ蝙蝠扇ヲ用キキ。但、束帶ノ時ハ、夏モ檜扇ナリ。檜ノ薄板ヲ、要ノ所ニテ、白絹絲ヲ以テ綴ヂテ作ル。板ノ數ハ、親王以下三位以上ハ、廿五枚、四位以下ハ、廿三枚、六位以下ハ、十二枚ナリ。種種ノ繪ヲカケリ。 易林節用集(慶長)下、器財門「檜扇、ヒアフギ」 本朝書史、四、扇面畫法「蝙蝠扇者、本是吾朝之器也、有二檜扇一、有二紙扇一、所レ用因二其禮節一也」 海人藻芥(應永)中「檜扇、公卿扇、廿五橋、殿上人扇、廿三橋」 右記(守覺法親王、建久二年入寂)「冬用二檜扇一、暖暑之比、用二蝙蝠一」 玉海、建久二年六月廿五日「次出行、先レ是着二裝束一云云、白檜扇」 裝束集成、三、扇「扇、本式、檜扇也、此檜扇ヲ略シテ、紙ヲ以テ作リタルヨリ、檜扇、蝙蝠ノ二品トナル、云云、夏ト冬ト差別ナク檜扇タルベキヲ、後世ニ及ビテ、檜扇ハ冬扇、蝙蝠ハ夏ノ扇トナリタル、云云」(古事類苑) (二)貴婦人正裝用ノ衵扇ヲモ、後ニハ、檜扇ト云ヘリ。コレハ、丈、稍、長クシテ、長キ絲ヲ垂ル。あこめあふぎ(衵扇)ノ條ヲモ見ヨ。 河海抄「檜扇ノ兩方ノ上、三重ヅツ、薄樣ニテ包ミテ、色色ノ絲ニテトヂテ、末ヲあはびむすびニシテ置キタル也、五重モ同ジ風情也」

ひあふぎ (名) 【檜扇】 鳶尾科ノ草ノ名。山野ニ自生シ、又、庭園ニ栽培ス。長葉、五ニ斜ニ竝ビテ、平タク生ズ、檜扇ヲ開キタルガ如シ。其中心ニ一莖ヲ出ス。夏、秋ノ交、高サ三四尺、梢ニ多ク小枝ヲ分チテ、花ヲ開ク、大キサ一寸許リ、六瓣、細長クシテ、黃赤色ニ紫斑アリ。古名、カラスアフギ。【射干】【烏扇】 又、紅檜扇、黃檜扇アリ、皆花ノ色ニ因リテ名トス。 重修本草綱目啓蒙、十三、毒草「射干、ヒアフギ、山中ニ自生アリ、家園ニモ多栽テ花ヲ賞ス、鳶尾ノ如キ長葉、五ニ斜ニ竝ビ、扁ク生ズ、扇ヲ開ゲタル形ニ似タリ、ソノ中心ニ一莖ヲ抽ヅ、六七月ニ至テ、高サ三四尺、梢ニ多ク小枝ヲ分チ、花ヲ開ク、云云、其紅色ノモノハ、べにひあふぎト云、黃色ノモノハ、黃ひあふぎト云フ、共ニ紫點ナキモノヲ賞ス、藥ニハ尋常ノモノヲ用ユベシ」 生玉心中(正德、近松作)上「縱、南天ニ小天鵝ニ、イトシ男トひあふぎノ、扇ノナリニ末廣ノ」

ひあぶり (名) 【火炙】【火焙】 (一)火ニテ炙リ殺スコト。 續武家閑談、六「宗徒ノ奴原十七人、大浦河原ニテ火あぶりニシ」 (二)武家時代、刑ノ名。死罪ノ一ニシテ、放火犯ニ行フモノ。犯人ヲ柱ニ縛リ、下ニ茅、薪ヲ積ミテ、火ヲ點ジテ燒キ殺ス。火刑。焚殺。 淀鯉出世瀧德(寶永、近松作)下「紙子一枚ノ我等、トテモノ事ニ、火刑ニナリタイト」 土津靈神言行錄、下「會津太守蒲生氏之世、云云、作二大壇一、植二一木一、以二首械一繫二罪人一、令三兩手抱二竹輪一、而束二麻蒸一燃レ之、左右前後持レ之焚レ之」 勢州軍記、下、具教騷動「信雄朝臣(北畠)、以二四人等一被レ害レ之、先以二峯乙、栗栖二人一火二焙之一」

ひあやふし (句) 【火危】 古ヘ、禁中ニ、近衞ノ官人、夜、巡行シテ、火ヲ警メムト呼ビ行ク語。火の用心。ヒマハリ。 倭訓栞、二「ひあやうし、源氏ニミユ、夜行ノ者、火危ト警ムルヲイフナリ、近衞ノ夜行ハ、左近ハ子、丑、代ル代ル禁中ヲ巡ルナリト云ヘリ」 本朝文粹、一、夜行舍人詩「夜行翁、夜夜警二火舊府中一、呼曰二火危一彼何翁」 源、四、夕顏卅七「弓弦イトツキヅキシク打チ鳴ラシテ、ひあやうしト云フ云フ、預ガ曹司ノ方ヘ往ヌルナリ」 同、五十、浮舟六十「弓ヒキナラシ、アヤシキヲノコドモノ聲シテ、火あやうしナド云フモ、イト心アワタダシケレバ」

ひあり (句) 【有日】 日限極レリ。マダ間ガアル。 垂仁紀、三十二年七月「臨葬有レ日焉」

ひい (名) 【杼】 ひ(杼)ノ延。 字鏡四十六「杼、桙、絹織、比伊」 天治字鏡、七六「杼、機持レ緯者、比伊」

ひい (名) 【緋衣】 〔說文、新附字「緋、帛赤色也」〕 緋ノ色ノ衣。赤色ノ服。 唐書、蔣乂傳「公所レ居守二法度一、務有レ安レ人、治レ身儉薄、所レ衣緣袍、更十年、至二緋衣一乃易」

ひい (動) 冷ノ轉。 倭名抄、十六十四水蟹類「冷酢、比伊須由禮流」 名義抄「冷酢、ヒイスユレル」

ひい (數) 【一】 〔ひ(一)ノ延〕 ヒトツ。 雪女五枚羽子板(寶永、近松作)中「藤內、羽ヲ取出シ、扇ヲ廣ゲテ、ひい、フウ、ミイ、ヨウト云フ聲ニ」 長唄、春昔由緣英「羽突禿、突ク突ク庭ニ羽根ヲツク、ひい、二ウ、三イ、四オ、五重ニ七重」

びい (名) 【微意】 イササカナル心。又、己レノ意志ノ謙稱。 魏武帝、與二諸葛亮一書「今奉二雞舌香五斤一、以表二微意一」 李商隱詩「微意何

曾有二一毫ノ空携二筆硯ヲ奉二韶韶ニ」

ひ-いか (名) 烏賊ノ屬。大キサ二寸餘、體中ニ飯粒ノ如キモノアルコト、飯蛸ノ如シ。味、美ナリ。

ひい-き (名) 【贔屓】〔屓ハ屭ノ俗字。援引ノ延、或ハ云フ、張衡、西京賦「贔(音、備)屓(許備切)」注「贔屓、作レ力之貌也」其音ノ延ト、亦通ズ〕力ヲ添ヘテ、人ヲ引立ツルコト。愛シテ、扶クルコト。カタヒクコト。カタチハヒ。　靈異記、下、第十三縁「法花經神力、觀音贔屭」訓釋「贔屭、力起也、是以レ山起甚大力也」(贔屭ハ引ニ其字義似通ヘバ當テ用ヰル、人ニ荷擔スルニモ、人ヲ推擧スルニモ、我ガカヲ用ヰルナリ) 字類抄「贔屓、ヒキ、チカラオコシ」下學集、下、疊字門「贔屓、ヒイキ、着レ力扶レ人之皃也」杜甫詩「昔在開元中、韓蔡同贔屓」尺素往來「將亦奉行、若耽二賄賂囑託二贔二屓一方二者、太以不當也」太平記、十一、書寫山行幸事「天下草創ノ功、偏ニ汝等贔屓ノ忠戰ニヨレリ」

ひいき-ぶん (名) 【贔屓分】ヒイキノシカタ。ヒイキスル心モチ。

ひいき-め (名) 【贔屓目】ヒイキヲスル人ノマナコ。又、其見方。　一茶句集「ひいきめニ、見テサヘ寒キ、ソブリ哉」

ひ-いけ (名) 【火活】炭火ヲ、灰ノ中ニ埋メテ、活クルコト。埋火スルコト。又、其モノ。香爐ノ類。いく(生、第三語)ノ條ノ(二)ヲ參見セヨ。

ひ-いけ (名) 【氷池】ひのためし(氷様)ノ條ヲ見ヨ。　年中行事歌合、氷様「今日ゾ知ル、年ハ昨日ニ、來栖野ノ、ひいけノ水ノ、深キ惠ミヲ」

ひい-ぢぢ (名) 【曾祖父】〔ひぢぢノ延〕ひおほぢ(曾祖父)ニ同ジ。

ひ-い・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ(自動、下二) 【秀】

〔秀出づノ轉ト云フ〕(一)〔穗出ヅ。約メテ、ひづ。ヒイデル。　論語、子罕篇「子曰、苗而不レ秀者有矣夫、秀而不レ實者有矣夫」萬葉集、七四十三「イソノカミ、フルノ早稻田ヲ、雖レ不レ秀、繩ダニ延ヘヨ、守リツツ居ラム」(二)甚ダ勝ル。ヌキンヅ。　字類抄「秀、ヒイヅ」靈異記、中、第二縁、訓釋「秀、勝也、須久禮爾多留、又云、備伊弖爾多流」易林節用集(慶長)下、言辭門「秀、ヒイヅ」

ひいづる-くに (名) 【日出國】我ガ大日本ノ美稱。コレニ對シテ、支那ヲ、日の入る國ト云フ。　日本書紀、纂疏、二「日本、吾國之大名、在二東海中一近二於日所レ出也」隋書、倭國傳「大業三年、云云、遣レ使朝貢、云云、其國書日、日出處天子、致二書日沒處天子一無レ恙、云云、帝(隋、煬帝)覽レ之不レ悅」萬葉集、十九三十六遣唐使に賜ふ歌「住吉ノ、三律ニ船乘リ、直渡リ、日入國ニ遣ハサユ」

⁂ひ-い・でる (動) 【秀】ひいづ(秀)ノ口語。

ヒイト (名) 【呎】英國ノ尺度ノ名。ふうと(呎)ノ條ヲ見ヨ。フィイト。

ビイドロ (名) 【玻璃硝子】〔西班牙語、Vidrio. 葡萄牙語、Vitreo. 梵語、瑠璃、一名、毗頭梨、同根ノ語ニヤ〕種種ナル珪酸鹽類ヲ融合シテ作レルモノ。板ニ作リテ障子ナドニ用ヰ、又、種種ノ器具ニ作ル。極メテ透明ニシテ、堅クシテ、碎ケヤスシ。初ハ、和蘭舶來ナリシガ、元祿頃ニヤ、長崎ノ人、法ヲ傳ヘテ吹キ始ムト。ギヤマン。がらス(硝子)ノ條ヲモ見ヨ。　名義抄「瑠璃、一名、毗頭梨」武野燭談(延寶)「障子ハ、びいどろヲ以テ、四方ハ見エテ内ハ見エヌヤウニカマヘ」　蕪村句集(天明)秋「硝子ノ、魚オドロキヌ、今朝ノ秋」同「びいどろヤ、コレモ籟、秋ノ風」居籠句藻(文化、抱一)「アヂサヰヤ、びいどろ吹キガ、樣ノ先」　艶道通鑑(享保)「花見ノ群集、覗カラクリヲびいどろナシニ、大津繪ヲ生デ見ルケシキ」もえぐひ(延寶)「筑紫ノ海ヨリ富士ノ山ヲ心ガクルびいどろノメガネ」

ビイドロ-かがみ (名) 【玻璃鏡】玻璃ノ裏ニ水銀ヲ塗リテ鏡トスルモノ。オノボレカガミ。ウヌボレカガミ。

ビイドロ-がみ (名) 【硝子紙】ビイドロノ如ク、透キ徹リタル紙。　賤小手卷(享和)寛延頃ノ煙草入「びいどろ紙トテ、寒天ヲ薄ク板ヘ流シテ、能カワキタル時ヘガシテ、紙ノ如クナルヲ、カンセン縫ニシテ、煙草入ニ用ヒタリ、タバコノ色透キ通リテ、景氣ナルモノ也、子供ナドノ持ツベキモノ也」

ひいな (名) 【雛】ひひな(雛)ノ音便。其條ヲ見ヨ。

ひい-ばば (名) 【曾祖母】〔ひばばノ延〕ひおほば(曾祖母)ニ同ジ。

びい-び (名) 小兒ノ語。帶ノ稱。

ひい-ひい (副) (一)泣ク聲ニ云フ語。(二)ひりひりニ同ジ。　曾我會稽山(享保、近松作)二「鼻ヲ突拔ク嚔シャックリ、カライ涙ニ目玉モ飛ンデ、咽ハひいひい、火花ヲ散ラシテ防ギケル」

びい-びい (副) 前條ノ語ノ強キモノ。

ぴい-ぴい (名) (一)小兒ノ語。笛。(二)泣クコト。(三)貧乏ノ異稱。(びいびい風ニ吹カレテ、寒キヨリ、貧乏ニ移ル)

ぴい-ぴい (副) 笛ノ音、其他、モノノ鳴リ響ク音ニ云フ語。

ビイフ (名) 〔英語、Beef.〕ウシ。又ハ、牛肉ヲ云フ。

ビイフステイク (名) 〔英語、Beef-steak.〕びふてきノ條ヲ見ヨ。

ひい-ふっ-と (副) 【鳴吻】射ル矢ノ響ニ云フ語。矢ノ風ヲ切リテ進ム音。又、ヒフット。　平家物語、四、鵺射事「次ニ小鏑取ッテ番ヒ、ひいふっと射切ッテ、鵺ト竝ベテ前ニゾ落シタル」同、十一、那須與一事「扇ノ要際一寸バカリオイテ、ひいふっとゾ射切リタル」「ひいふっと切ッテ放ツ」

ヒイ-ホン (名) 披風ノ唐音。

ひい-まご (名) 【曾孫】ひまご(曾孫)ノ延。其條ヲ見ヨ。

ひ-いん (名) 【庇蔭】ヒサシノカゲ。轉ジテ、カバフコト。タスケマモルコト。オカゲ。　左傳、文公七年「公族、公室之枝葉也、若去レ之、則本根無レ所二庇蔭一矣」國語、晉語「重耳之卬レ君也、若二黍苗之卬二陰雨一也、若君實庇二廕膏二澤之一、使下能成二嘉穀一、薦在中宗廟上、君之力也」　蘇軾詩「雖レ非二曳裾者一、庇廕或華屋」(廕ハ蔭ニ同ジ)

ひ-いん (名) 【碑陰】〔文體明辯(明、徐師曾)「碑面曰レ陽、背曰レ陰」〕石碑ノ背面。　柳宗元、亡姊崔氏夫人墓誌蓋石文「今之制、凡誌二於墓二者、琢二密石二加二蓋於其上一、用敢附二碑陰之義一、假二玆石二而書焉」集古錄(宋、歐陽修)「余家所レ錄、漢碑陰題名頗多」　蘇軾、送二表忠觀錢道士歸レ杭詩「墮涙行看會祠下、挂名爭欲レ刻二碑陰一」

ひいやり-と (副) 【冷】ひやりと(冷)ノ延。其條ヲ見ヨ。　狂言記、寢聲「苦シウナイ飲メ、云云、サテモ氣味ノヨイ飲ミ樣カナ、何トアッタゾ、イヤ、唯ひいやりとシテ、覺エガゴザラヌ」

ひいら (名) 【鱰】ぉいら(鱰)ニ同ジ。

ひいら・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(自動、四) 【疼】〔ひらぐ(疼)ノ音便〕ひひらぐ(疼)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ひいる (名) 【蛾】ひひる(蛾)ノ音便。其條ヲ見ヨ。　和玉篇「蛾、ヒイル」

〔**ひい・る** (動) 【沖】ひひる(沖)ノ音便。其條ヲ見ヨ。　字類抄「沖、翀、ヒヰル、鳥高飛也」

ビイル (名) 【麥酒】〔獨逸語、蘭語、Bier. 英語、Beer.〕大麥ニ、宿根葎草ヲ加ヘ

ノ[illegible]セ[illegible]、大麥、[illegible]ノ[illegible]トシテ水ヲ加ヘ、飴狀ノ液トナシ、コレニ忽布(ホップ)ヲ加ヘテ苦味芳香ヲ與ヘ、更ニ酵[illegible]ヲ加ヘテ醱酵セシメテ[illegible]ス。西洋ノ釀法ナリ。バクシュ。ビヤ。

ひ-いれ (名) 【火入】 烟草ヲ吸ハムガ爲ノ、炭火ヲ盛ル小サキ器。火盆 狂言記、[illegible] [illegible]

「[illegible]ケタバコ盆ノ火入レニ伽羅ヲタキカケ」

ひ-いろ (名) 【緋色】 (一)ひ(緋)ニ同ジ。[illegible] (二)火ノ[illegible]ニ付ク色。棕色ノ、赤クアザヤカナルモノ。

ヒイロオ (名) 〔英語、Hero.〕 (一)優レスキンデタル人。英雄。勇士。(二)ろいん(小說、詩歌、演劇等ノ主人公。(ひろいんニ對ス)

ひ-う (名) 【飛宇】 〔宇ハ簷(ノキ)ナリ〕 高キノキ。飛簷。高軒。[illegible]

ひ・う・ウル・ウレ・・・〔[illegible]〕 (他動、下二) [illegible] 薄ク小サク切ル。剝グ。(肉ナド) [illegible] 古事記、中(神武)「[illegible]鯨障(サヤ)ル、[illegible]」

び-う (名) 【微雨】 コマカニ降ル雨。小雨(コサメ)。細雨 [illegible] 杜甫詩「微雨不レ滑レ道、斷雲疎復行」

び-う (名) 眉宇 〔眉ハまゆ、宇ハ簷(ノキ)、眉[illegible]〕

ノ顏面ニアルハ、家ニ簷アルガ如ケレバ云フ〕 マユ。マユノホトリ。 唐書、宗[illegible] 「[illegible]人」 [illegible]

ひうが-あふひ (名) 【日向葵】 ひまはり(日廻)ノ異名。其條ヲ見ヨ。

ひうが-し (名) 【東】 ヒガシ。ヒムガシ。ヒンガシ。 西宮記、[illegible]、ヒウガシノウミノミチ」

びう-けん (名) 【謬見】 アヤマリタル意見。マチガヒタル見解。

びう-ご (名) 【謬誤】 ごびう(誤謬)ニ同ジ。 三國志、蜀志、[illegible]

びう-せつ (名) 【謬說】 アヤマリタル、トキゴト。誤謬ノ說明。 莊子、[illegible]

ひうち (名) 【燧】 (一)〔火打石ト火打金トヲ打合ハセテ、火ヲ取リ、又、打チカケテ、物ヲ清淨ニスルコト。又、其具。 倭名抄、十二「燧、火具[illegible]」字類抄「燧、ヒウチ」 古事記、中「[illegible]以其火打而打出火」 [illegible] 後撰集、十九、離別「ミチノクニヘマカリケル人ニ、火うちヲ遣ハストテ、カキツケケル」 (二)三角形ノモノ。(火打袋ノ三角ナルヨリ云フ) 夕霧阿波鳴渡、上「冬編笠モ垢張リテ、紙子ノ火打、膝ノ皿、風吹キ破レ紙子ノ古火打」「[illegible]ノひうち」桐油合羽ノひうち」

ひうち-いし (名) 【火打石】 石英ノ類ノ粗ナルモノ。色、多クハ白クシテ、青ミアリ、[illegible]、火打金ト打合ハセ、火ヲ[illegible]取ル。[illegible]用トス。燧石。火打金ハ、鋼ニテ作ル。火刀。其諸具ヲ貯フル小箱ヲ、火打箱ト云ヒ、携帶スルタメ盛ル小サキ袋ヲ、火打袋ト云フ [illegible]云、カマヘテ火打石ナドニ、オ召サリャルナヤ」

ひうち-がね (名) 【火打金】 火打道具ノ一。鋼鐵製ノモノヲ、木ニ嵌メ[illegible]ルモノ。火打石ト打合ハセテ、發火セシム。火打鎌。

ひうち-がま (名) 【火打鎌】 前條ヲ見ヨ。 [illegible]ニテひうちがまト云

ひうち-ば (名) 【火打羽】 鷹ノ翼ノ最下部ノ羽。矢ニハグニツキテ稱ス。 徒然草、六十六段、鳥柴(トシバ)の事「枝ノ半ニ鳥ヲツク、ツクル枝、踏マスル枝アリ、黑葛(シジラ)藤ノワラヌニテ、二所ツクベシ、藤ノサキハ、火うち羽ノタケニクラベテ切リテ、牛ノ角ノヤウニタワムベシ」

ひうち-ばこ (名) 【火打箱】 火打石、火打金(サシテ)、火口ナド、貯フル小サキ箱。狹ク小サキモノノ譬トシテモ云フ。 曾根崎心中(元祿、近松作)上「有明(行燈)ノ火モ消エタ、起キテト[illegible]、火うち箱ガ[illegible]」[illegible](享保、近松作)上「[illegible]ノ火打箱、朝夕ノ煙サヘ、一度ヲ二度ニ追分ヤ」

ひうち-ぶくろ (名) 【火打袋】 ひうちいし(火打石)ノ條ヲ見ヨ。 盛衰記、四十四、三種寶劍事(日本武尊の燧袋の事を云へる所に)「彼ノ燧ヲ錦ノ袋ニ入レ劒ニ付ケラレタリケルナリ、今ノ世迄ニ、人、腰刀ニ錦ノ[illegible]下ケテ燧[illegible]云フ事ハ、[illegible]

びう-でん (名) 【謬傳】 アヤマリ傳フルコト。[illegible]

ひう-ひう-と (副) 風、[illegible] 鬼貫句集、冬「ひうひうと、風ハ空ユク、冬牡丹」

ひ-うん (名) 【非運】 【否運】 運命ノ塞ガリテ、開ケヌコト。[illegible]

ひ-うん (名) 【飛雲】 風ノタメニ吹カレ[illegible]

び-うん (名) 【微雲】 イササカナル雲。ワヅカナル雲。[illegible]

び-うん (名) 【微運】 フシアハセ。薄命。 [illegible]

びう-ろん (名) 【謬論】 アヤマリタル議論 [illegible]過刑謬論、如レ此甚ニ也」

ひ-うを (名) 【乾魚】 魚ノ乾カシタルモノ。ヒモノ。ホシウヲ。[illegible]ヤ、干魚カケタル、[illegible]」

ひえ (名) 【冷】 (一)ヒユルコト。 心中二枚[illegible] (二)[illegible]ノヒユル病

ひえ (名) 【稗】 〔日得(ヒエ)ノ義、日每ニ盛ンニ茂ゲレバ云フ。韓語、ぴい〕 (一)穀ノ名。水、陸、二種アリ。田稗ハ、猾地ノ

水田ニ植エ、畑稗ハ、陸ニ植ウ。共ニ、形、粟、黍、ニ似タリ。穂ハ粟ノ如クニシテ小サク、枝多シ、芒(ノギ)アルト無キトアリ。邊鄙ニテ、其子ヲ食用トス。 [稗子] 倭名抄、九、稻穀類「稗、比衣、字類抄、稗、ヒエ、草之似穀者也」 神代紀、上「乃以粟稗麥豆、爲陸田種子、以稻爲水田種子」 萬葉集、十二「打田ニモ、稗ハアマタニ、アリトイヘド、エラレシ我ヲ、夜一人ヌル」 同、十二「水ヲ多ミ、上ニ種マキ、比要(ヒエ)ヲ多ミ、エラエシワザゾ、吾獨ヌル」 (二)又、野稗(ノビエ)、草稗(クサビエ)ト云フハ、苗、甚ダ稻ニ似テ、葉、平タク、叢生シテ正立セズ、夏ノ後、穂ヲ生ズ、稗子(ヒエ)ニ似テ小サク、緑ナリ、食フベカラズ。稗子 其水田ニ生ズルヲ水稗(ミヅビエ)(水稗)ト云ヒ、陸ニ生ズルヲ犬稗(イヌビエ)(旱稗)ト云フ。

〔ひ-え (名) [比叡] 比叡山ノ略稱。山城國ノ東境。山上ニ延暦寺アリ。北嶺。(興福寺ヲ南都ト云フニ對ス)山門。長嶽。台嶺。山 都の不二。我立杣(ワガタツソマ)。 伊勢物語、第九段「コノ山(富士山)ハ、ココニタトヘバ、比叡ノ山ヲ二十バカリ重ネタランホドシテ」 源、四、夕顔四十九「カノ人ノ四十九日、シノビテ比叡ノ法花堂ニテ、事ソガズ、云云、願文ナドセサセ給フ」

ひえあが・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [冷上] 全ク ヒエル 非常ニツメタクナル。

〔ひえ-い・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [冷入] (一)サムサ、イタク、體ニトホル。冷氣、身體ニ沁ミ込ム。 源、四十、幻四「雪降リタリシ曉ニタチ休ラヒテ、我ガ身モひえいるヤウニ覺エテ、空ノケシキハゲシカリシニ」 (二)身體ノ溫度失ス。 源、四、夕顔廿九「添ヒ臥シテ、ヤヤト驚カシ給ヘド、タダヒエニひえいりテ、イキハトク絶エハテニケリ、云ハン方ナシ」

ひ-えう (名) [祕要] (一)あうぎ(奥義)ニ同ジ。 晉書、[illegible]傳「雅好佛學、善談[illegible]祕要之義、無不精覽」 唐、明皇詩「[illegible]中得祕要、方外散幽襟」 盛衰記、廿五、行高齋會事「南都、北嶺ハ、圓宗[illegible]ノ道場、天台、法相ハ天下奈牛ノ祕要也」 (二)祕密ニシテ、緊要ナルコト。 魏書、任城王澄傳「凡所奏事、閤道通之、蓋以祕要之切、防其宣露」 (三)佛教ニテ、妄リニ人ニ示サザル肝要ノ法門。 法華經、法師品「此經、是諸佛祕要之藏、不可分布妄授與人」

ひえ-おろし (名) [比叡颪] やまおろし(山下)ノ條ヲ見ヨ。

ひ-えき (名) [裨益] [說文「裨、接益也」正韻「埤、附也、增也、厚也」] 助ケトナリ、利益トナルコト。 詩經、邶風、北門篇「王事適我、政事一埤益我」

ひ-えき (名) [飛驛] 古ヘ、驛傳ノ急飛脚。 戶令集解「問、飛驛、馳驛、其別何、答、馳驛、令條有行程、飛驛、不合有其限、以是爲別也、博士御意、飛驛者驛使上下非常事使、但馳驛專使上下也」 續紀、三十三、寶龜五年十一月「陸奥國言、太宰、陸奥同警不虞、飛驛之奏、當記時刻云云」

ひえ-くび (名) [冷首] ヒエタル首。即チ、死ニタル者ノ首。 三河物語(大久保彥左衞門)中「鐵炮ニアタリテ死ニタルひえ頸ニ御座候」

ひえ-しやう (名) [冷性] 貧血、神經衰弱ナドニ因リテ、手足、腰ナドノ冷ユルモノ。コノ性ノ人ハ、孕ミツカレズト。 コレ身體ノ虛弱、脂肪ノ不足、貧血、一般榮養不良ナドニ起ルトゾ。

ひ-えつ (名) [披閲] 文書ナド、開キテ、改メ見ルコト。 舊唐書、段文昌傳「祕閣書籍、披閲皆遍」 [illegible]題郡界寺詩「香[illegible]陳[illegible]、幽[illegible]披閲」 皮日休、二遊詩「引之看祕寶、任得窮披閲」 太平記、十七、山門牒送南都事「牒狀披閲ノ後、南都大衆、則チ山門ニ同心シテ返牒ヲ送ル」

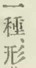
〔ひえ-どり (名) [鵯] 稗ヲ食ヘバ云フナラム。字ハ、義、稗鳥ノ二合和字。 ひよどり 鵯ニ同ジ。 倭名抄、十八、羽族名「鵯、比衣土里」 字類抄「鵯、ヒエトリ」 夫木抄、廿七「鶯ノ[illegible]ウチニ、マダ住ミナレヌ、ひえどりハ、心ナラデモ、世ヲスグスカナ」 同、同「呼ビカハス、テコノひえどり、朝起キニ、イカガカマヘテ、世ヲ過サマシ」

ひえどり-じやうご (名) ひよどりじやうごニ同ジ。茄科ノ多年生蔓草。

ひえ-ばら (名) [冷腹] 冷氣ニアタリテ、腹ノ痛ミ、又ハ、腹ノ下ルコト。

ひえ-ほふし (名) [比叡法師] 比叡山ノ法師 (寺法師ニ對ス) 平家物語、[illegible]劍「奈良法師、云云、阿波ノ上座ト云フ者ニハカラレテ、山法師、禁獄セラル、云云、比叡法師、アハノ上座ニ、ハカラレテ、嚴シク獄ニ、ツガレケルカナ」

ひえ-まき (名) [稗蒔] 小サキ鉢ニ、野稗(ノビエ)ヲ蒔キ、其芽出デテ青田ノ狀トナリタルニ、小家ヲ造リ、人形ヲ置キ、村落ノ體ニ見セテ、小兒ノ玩トスルモノ。

ひ-えん (名) [飛鳶] (一)鏃ノ一種、形  ノ如ク、鳶ノ中天ヲ飛翔スル狀ナレバ名トス。(二)凧(タコ)ノ異稱。又、古ヘノ飛行機 列子、湯問篇「班輸之雲梯、墨翟之飛鳶、自謂能之極也」 韓非子、外儲說、左篇「墨子爲木鳶、三年而成、蜚一日而敗、弟子曰、先生之巧、至能使木鳶飛」 淮南子、齊俗訓「魯般墨子、以木爲鳶而飛之」 八犬傳(文政、瀧澤馬琴)第四輯、一、三十一回「畢氏カ飛鳶ヲ借サレバ、虛空ヲ翔ルベクモアラズ」

〔ひ-えん (名) [飛簷飛椽] (一)〔殿堂ノ簷ノ製ニ、二重椽(ダルキ)ノ、上ハ延ビ、下ハ縮マリ、四隅ニ至リテ、曲リ起チタルモノ。飛簷椽 又、南面殿屋ノ東西ノ檐ノ反リテ、鳥ノ翼ヲ舒ベタル如ク作レルモノ。 倭名抄、十、[illegible]「飛簷、[illegible]比衣[illegible]、[illegible]似[illegible]」 [illegible]「[illegible]ヒエン[illegible]」 延喜式、木工寮式、[illegible] (二)高キノキ。飛宇。 [illegible]

ぴ-えん (名) [鼻淵] はなひせ(鼻塞)ニ同ジ。鼻痔。 類按、古方、鼻淵、即今之腦漏、是也」

✣ひ・える (動) [冷] ひゆ(冷)ノ口語。

ひ-おほぢ (名) [曾祖父] 〔ひハ、隔テ、又ハ、重ル義〕 祖父ノ父。オホオホヂ。 ヒイヂヂ ヒイヂヂ 易林本節用集(慶長)下、人倫門「曾祖父、ヒヲホヂ、ヒヂヂ」 書言字考節用集、四、人倫門「曾祖父、ヒオホヂ」 狂言記、二、千石「サテモ、ソチガ親ノ親ハ祖父ヨナ、其ノ親ハ曾祖父ヨナ」

ひ-おほば (名) [曾祖母] 祖父ノ母。オホオホバ。 ヒイババ ヒイババ 前條ヲ參見セヨ。 爾雅、釋親「王父之妣、爲[illegible]、[illegible]曾祖王母」(爾雅モ同ジ)

ひ-おほひ (名) [日覆] (一)日光ノ當ルヲ覆ヒ避クルモノ。ヒヨケ。 天神記(正德、近松作)二「三十九ノ騎首ニテ、櫓ヲ射ラルベシト、矢落ニハ錦ノ幄幕、云云、作リ花ヲ以テ付キタレバ、右近ノ馬場ノ松櫻」 (二)芝居ノ舞臺ノ前部ノ上ノ方ニ、簾ヲ紙ニテ張リ、黑ク塗リテ懸ケタルモノ。昔ノ芝居小屋ニハ、棧敷ノミ屋根アリテ、土間ニハナシ、舞臺ノ前ニ日覆アリシ故ノ名ナリ。此內ヨリ、雪紙ヲ降ラシ、鳥ナド下シタリス。又、此處ニテ、人魂ノ類ヲモツカフト。 俗耳鼓吹(天明)欄外「日覆、其前一面ニ、櫻、紅葉ノ造花ヲ釣リオク」

び-おん (名) [美音] ウルハシキ聲。(謠フ

二云ノ一首好 [illegible]十八段、名[illegible]

ひか (名) [illegible] [illegible]ナルワタ 悲壯ナル[illegible]

ひか (名) ［非家］ 斯道家ノ人ニアラザルコト。ソノ道ノ人ニアラザルコト。門外漢。 徒然草、百八十七段「萬ヅノ道ノ人、タトヒ不堪ナリトイヘドモ、堪能ノ非家ノ人ニナラブ時、必ズマサル事ハ、撓ミナク愼ミテ、云云」

ひか (名) ［飛舸］ 舸ノ、飛ノ如ク迅キモノ。ハヤク馳スル舸。ハヤフネ。

ひが (名) ［飛蛾］ 飛ビメグル蛾。又、ヒトリムシ。 燈蛾 [illegible] 拂ニ夜火ニ。呼蝶舞ニ秋株ニ」

ひが (名) ［彼我］ 彼レト、我レト。自他。 [illegible]

ひが (接頭) ［僻］ アルベキ様ニ違ヒタル。理ニ中ラズ。ヒガミタル。 天治字鏡[illegible]「眦、比加目」 宇津保物語、藏開、中「心地ウチ騷ゲバ、シヅムトスレド、僻語ミ多クス」 源、四十八、寄生「忍ビテハヨカルベウオボスコトモ有リケルガ、ウレシキハ、僻耳カト聞エサセントゾ」 同、十九、[illegible]僻[illegible]ツベケレトモ」 同、[illegible]サフハ僻心ニテ、我身ヲサシモアルマジキサマニアコカラシ給フト」 同四十「ヨクコノヨノ外ノヤウナル、僻愛ドモニトリマゼツツ、アヤシキ昔ノ事ドモ、出デマウデキツランハヤ」 同、三十、藤袴「年比カクテハグクミ聞エ給ヒケル御心ザシヲ、僻様ニコソ人ハ申スナレ」 同、廿一、少女「世ノ僻者ニテ、ザエノ程ヨリ用ヰラレズ、スケナク、[illegible]シクナン有ケレ[illegible]」

びか (名) ［鼻下］ 鼻ノ下。 [illegible]

ひがい (名) [illegible] 「加害ノ反」 害ヲカウムルコト。ソコナハレタルコト。

ひがい (名) ［鰉］ ［此魚ハ、明治天皇、嗜ミ給ヘルニ因リテ、皇魚ノ合字ヲ作ル］ 魚ノ名。近江ノ湖ノ産、鰱ニ似テ、形痩セ骨高シ。 ヒガイス。 [illegible] 比我[illegible]ひがい[illegible]云フ、此魚、形痛セテ骨高ケレバ、名ヅクト」 重修本草[illegible]江州ニテ冬春多ク取リ、食ニ供スルモノヲひだいト云フ、形[illegible]ニ相似テ、頭、口倶ニ小ク、色白シ、[illegible]ヲはぜト訓ズルハ非ナリ」

ひがいす (名) ［鰉］ (一) 前條ノ語ニ同ジ。 (二) 痩セタル人ノ稱 俗語考（橘守部）「東國ニテ、ひはづニ痩ミタル小兒ヲ、ひがいすト云フモ、此弱細ヲ急語ニ唱ヘ顛セル詞ナルベシ」 曾根崎心中（元祿、近松作）「彼ノひがいすナ小男ヲ、オノレガ大十ナ獻半デ、ヨウモヨウモ縮ミヲ、タナ」

ひかう (名) 披講 詩歌ノ會ノ時、其詩歌ヲ聞キテ讀ミアグルコト。又、其役ノ人 八雲御抄、二、講師作法[illegible] 能、披講ヲモ聞キハテズ出デニケリ」

ひかう (名) 比校 クラベ考フルコト。 [illegible]

[illegible]

ひかう (名) ［秕糠］ ぬひなト、ぬかト。 [illegible]

ひかう (名) 飛行 空中ヲ飛ビ行クコト ヒギヤウ。[illegible]「飛行機」「飛行船」

ひかう (名) ［非行］ 非道ノ行狀。道理ニ非ザル行爲 ワルキ、オコナヒ。

びかう (名) ［美行］ 善美ナル行爲 ウツクシキ、オコナヒ。善行 [illegible]「此誠士君子之高致、古今不易之美行也」

びかう (名) ［微行］ シノビアルキヲスルコト。おしのびありき（忍歩）ノ條ヲモ見ヨ。 史記、范雎傳[illegible]微行、敝衣閒歩之邸」[illegible]微行出入」

びかう (名) ［尾行］ アトヲツケユクコト。

びかう (名) ［備考］ 參考ニ備ヘムタメニ設ケオクコト。又、ソノモノ

びかう (名) ［鼻腔］ 鼻ノ孔 口腔ノ上ニアリ、上ハ頭蓋腔ノ基底、眼窩ノ中央、下ハ兩顎骨ノ間、口腔ノ上蓋ニ接ス。眞中ニ隔アリテ、腔内ヲ二分スレドモ、後部ニ至リテ一ニ合ス

びかう (名) ［鼻高］ 僧家ナドニテ用ヰル履ノ名。はなたかぐつ（鼻高履）ニ同ジ。 [illegible]

[illegible]

ひかうき (名) ［飛行機］ （英語 Airplane, [illegible] Aeroplane ノ譯語）人ノ乘リテ、空中ヲ自由ニ飛行スル機械。形、多クハ蜻蛉ノ如ク、コレニ飛行發動機、推進器（プロペラ）、翼、尾、舵ナドヲ裝置ス。此機ハ、翼ノ數ニ因リ、單葉、[illegible]ニ分ケ、更ニ發動機ノ位置ニ因リテ、二ツニ分ケテ、[illegible]ノ前ニアルヲ牽引式ト云ヒ、後ニアルヲ推進式ト云フ。其所用ニ因リテ、輸送機、軍用機ナドアリ。又、軍用機ニハ、戰鬪用、偵察用、爆擊用ナドノ種類アリ。我ガ國ニテハ、明治四十三年十二月、東京代代木原ニ於テ、[illegible]機ヲ用ヰテ飛行セルヲ初メトス。飛車

ひかうしや (名) ［飛香舍］ 昔ヘ、禁中五舍ノ一。ひぎやうさ（飛香舍）ニ同ジ。 字類抄「飛香舍、ヒカウシャ、フヂツボ、宮中五舍也」

ひかうせん (名) ［飛行船］ （英語、Airship, 又ハ、Dirigible balloon.ノ譯語。）其形、船ニ似タルヨリ、輕氣球ト分チテ名ヅク。原動機關ヲ有シ、自由ニ航空シ得ル氣球 航空船トモ云フ。現今ノ飛行船ハ、一般ニ水素瓦斯ヲ囊內ニ、一部分、空氣囊ヲ設ケ、水素瓦斯ノ壓力ヲ調整ス。卽チ、昇騰スル際ニハ、空氣囊內ノ空氣ヲ棄テテ、水素瓦斯ヲ膨脹セシメ、反對ニ降下スル際ニハ、空氣ヲ壓入シテ、水素瓦斯ノ容積ヲ縮少セシム 船

ノ構造ニハ、硬式、軟式、半硬式ノ三種アリ。硬式飛行船ハ、氣嚢ノ形狀ヲ骨組ニテ保タシメ、其内部ニ水素氣嚢ヲ納メテ、浮揚力ヲ得ルモノニテ、骨組ニハ、あるみにうむヲ用ヰ、氣嚢ニハ、特殊ノごむ引ノ木綿、絹布等ヲ用ヰル。軟式ハ、骨組ニ木材ヲ使用セルモノアリ。軟式ハ、其氣嚢ニ全ク骨組ヲ有セズ、單ニ氣嚢ノ張力ト、水素瓦斯ノ膨脹力トニヨリテ、其形狀ヲ維持セルモノニテ、吊船(Gondola. ト云フ、常ニ一箇ナリ)ハ、數多ノ索ニヨリテ、氣嚢ヨリ懸垂ス。吊船ニハ乘員室ヲ設ケ、發動機、推進器等ヲ具ヘ、燃料ヲ搭載シ、此處ニテ舵ヲ操縱ス。半硬式ハ、軟式氣嚢ノ下部ニ、前端ヨリ後端ニ亙リ、龍骨ヲ固定シ、コレニ機關室、乘員室、其他ヲ設ケタルモノナリ。又、水素瓦斯ハ引火スルノ虞アルヲ以テ、最近、コレニ代ヘテ、へりうむ瓦斯ヲ用ヰルニ至レリ。

ひが-うた (名) 〔僻歌〕 事實ニ違ヒタル歌 理ニ中ラヌコトヲ詠メル歌。マチガヒタル歌 賀茂翁家集、八月バカリ、月アカキ夜、花山院ノ、ひが歌ヨマントテ、秋ノ夜ニ、山ホトトギス、鳴カマセバ、(連歌)垣ネノ月ヤ、花ト見エマシ」

ひかう-てい(ヒコウテイ) (名) 〔飛行艇〕 〔英語、Flying-boat. ノ譯語〕 水上飛行機ノ一種。胴體ト浮舟(フロオト)トノ一ツニ合體シタルモノ。長距離ノ飛行ニ堪ヘ、荒天ニモ長時間海上ニ留マルコトヲ得、軍用、並ビニ、貨客輸送用ニ用ヰラル。

びかう-り(ビコウリ) (名) 〔鼻高履〕 びかう(鼻高)、及、はなたかぐつ(鼻高履)ノ條ヲ見ヨ。字類抄「鼻高履、ビカウリ」注「今僧侶所レ著鼻高履」

〔〕**ひが-おぼえ** (名) 〔僻覺〕 事實ニ違ヒタル記憶。誤リタル記憶。ひが(僻)ノ條ヲ參見セヨ。枕草子、一、第十三段「御冊子ヲ塞ゲサセ給ヒテ、云云、サウナリト心得サセ給フモヲカシキモノノ、ひがおぼえモシ、忘レタルナドモアラバ、イミジカルベキコト、ワリナクオボシ亂レヌベシ」

ひ-かがみ (名) 〔膕〕 〔引屈(ヒキカガ)みノ約〕 古名、ヨボロ。ウツアシ。又、ヨボロクボ。今、又、ヒッカガミ。膝ノ背ノ窪ミテ、坐ルトキニ引キ屈ム處 〔靜岡縣ニテ、つ〻〕膝膕背、書言字考節用集、五、肢體門「膕、ヒカガミ、ヨフロ、膝後曲處」

ひ-かき (名) 〔火搔〕 (一)薪ノ火ナド搔キ出ス具。オキカキ。撥火杖。遊歩色葉集「火搔、ヒカキ」 (二)又、十能(ジフノウ)。火斗。物類稱呼、四、器用「煨昇、ジウノウ、京ニテ、ヲキカキ、江戸大坂共ニ、ジフノウ、云云、泉州南部ニテ、ひかきト云フ、今按、遞火、ひかきト訓ズ、江戸ニテ竈ジフノウト云物也」類聚名物考、調度、十一「都ニテ火かきト云フ物、江戸ニテハ、俗ニ治字能ト云フ」治平金訓、松平遠江守忠喬、嚴寒ニ火燵、云云、茶坊主正斎トテ云フモノ、火かきニ火ヲ入レ持來レリ」

ひ-がき (名) 〔檜垣〕 (一)〔檜ノ薄板ヲ、網代(アジロ)ノ如ク、斜文ニ組ミタル垣。字類抄「檜垣、ヒカキ」 源、四、夕顏「家ノカタハラニ、ひがきト云フモノ新シウシテ」 著聞集、十一、蹴鞠「大カタ、此大納言ハ、カクワカクヨリ、ハヤワザヲ好給テ、築地ノハラ、モシハ檜墻(ヒガキ)ノハラナドヲモ、ハシラレケリ」 夫木抄、三十一、墻「心アル、ヤドノトナリノ、中ひがき、フミノカヨヒノ、ハザマヤハナキ」 (二)衣服ノ模樣ニ、檜垣ノ編目ノ如キモノ 親元日記、寛正、大追物裝束「御素襖地白、地紋ニひがき」 同「淺目附ケ通リニひがきニ寸アマリノスヂ一通リ」 (三)檜垣廻船ノ略。ひきがきくゎいせん(菱垣廻船)ノ條ヲ見ヨ。

ひが-ぎき (名) 〔僻聞〕 マチガヒ聞キタルコト。キキアヤマリ。誤聞。著聞集、廿、魚蟲禽獸「ヒシひが聞きカト、人ヲカヘテ聞カスルニ」

ひがき-くゎいせん(ヒガキカイセン) (名) 〔檜垣廻船〕 ひきがきくゎいせん(菱垣廻船)ニ同ジ。

ひ-かく (名) 〔比較〕 〔較ハ、集韻、韻會、正韻「乾岳切、音覺」說文「車輸上曲銅也」廣韻「古孝切、音教、與、校通、比較也」トアリ、故ニ比較ノトキハ、かうト讀ムヲ正シトス〕 ひかう(比校)ニ同ジ

ひ-かく (名) 〔秘閣〕 (一)大切ナル文書ナドヲ秘藏シオク宮廷ノ庫。秘府 書言故事、九、兩制「淳化三年、秘閣成、云云、新韻、(宋)太宗御書額曰、秘閣、字以帶之」 南史、倉聚傳「謝秘書號、校書秘閣」 羅隱、高宣官賀詩「臣代念、秘閣四部、亂離已來、散失部帙」 元稹詩「關右西省通律侶、秘閣中房文錄」 (二)すみつか(墨柄)ニ同ジ 畢近俳諧(寶曆、大枝流芳)二、秘閣、偶也八段云、秘閣有以長樣古玉爲之者、甚多、而彫花、紫檀亦常有之、近有以玉爲秘閣、上碾螭文臥蠶梅花樣、長六七寸者、以竹雕花、巧人物爲之者亦佳、而倭人稱秘閣如一寸、又有方下闊、寸高、用稱繼起、恐著字誤長七寸、上描金泥花樣、其質輕如紙、此物秘閣上品、此ノ土ニテすみづかト云フ、今民間ノ兒童、すみはさみトテ用フルモ、此ノ遺制ナルベシ、云云、又蟾尾トモ云フ」

ひ-がく (名) 〔費額〕 入費ノ高。イリメ。

び-がく (名) 〔美學〕 〔英語、Æsthetics. ノ譯語〕 しんびがく(審美學)ニ同ジ。

〔〕**ひ-がくし** (名) 〔日隱日藏〕 (一)はしがくし(階隱)ニ同ジ。夏山雜談、二「はしかくし(ひがくしトモイヘリ)ハ、南階ノ間ニ、柱二ツ立、上ヲツキ出ス、鳳輦ヲ東向ニスヱテ、左ノ腋ヨリ乘御ノタメナリ、云云」 (二)ヒオホヒ。後世ニ云フ庇(ヒサシ)。ひさし(庇)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

弓林節用集、暖長下、乾坤門、日隱、ヒザクシ」伸正集「暮レニケリ、西ノひがくし、取リノケヨ、月ヲ厭フト、人モコソ見レ」 方丈記「日野山ノ奥ニ跡ヲカクシテ後、南ニ假ノひがくしヲ差シ出シテ、竹ノ簀子ヲ敷キ」 十訓抄、中、第六、第廿、「深日隱ノ下ニ、小桶ニ杓ヲ具シテ、水ヲ入レ置キテ」 海人藻芥、下「日御供ノ時、云云、日隱ニモ日蔭トモ可書之」

ひかく-てき (副) 〔比較的〕 ヤリアヒニ。彼レト此レトヲ、比ベタル上ニテハ。ひかく(比較)ノ條ヲ參見セヨ。

ひ-かげ (名) 〔日影〕 (一)日ノ影。日ノ光。ヒナタ。萬葉集、四十「アサ日影、ニホヘル山ニ、照ル月ノ、アカザル君ヲ、山ゴシニオキテ」 榮花物語、二十三、歌合「日影モ見エズ、暮レクヒウナ」天照ラス、豐ノアカリト、思ヘドモ」 續後撰集、五、秋、上「日影サス、岡邊ノ松ノ、秋風ニ、夕グレカケテ、鹿ソナクナル」 風雅集、八、冬「雪寒キ、朝ケノ山ハ、ウスキリテ、氷レル雲ニ、モル日影カナ」 (二)ひあし(日脚)ニ同ジ。孕常盤(寶永、近松作)三「御命ハ、晦日ノ日影待ツ間ノ露ノ身、アラ日出度ヤト、ケガノ顏シテ絞殺サン」 俳諧古選「破風口ニ、日影ヤ弱ル、タスズミ」

ひ-かげ (名) 〔火影〕 ほかげ(火影)ニ同ジ。

ひ-かげ (名) 〔日陰〕 (一)日ノ光ニ映ル物ノ陰。蔭 平家女護島(享保、近松作)二「思ヒ積モリシ日かげノ雪、消ユル間ヲ待ツバカリナリ」 (二)ひかげかづら(羅葛)ノ略。其條ヲ見ヨ 枕草子、三、三十二段「草ハ、云云、山スゲ、ヤマヰ、ひかげ、ハマユフ」 (三)ひかげかづら(日蔭鬘)ノ略 其條ヲ見ヨ 讚岐典侍日記、御前ニ侍ヒシカバ、日蔭ヲモロトモニ作リテ、結ビヰサセ給ヒタリシ事ナド」 (四)ひかげもの 日蔭者ノ略 淨瑠璃、寶永、近松作、中「イッソ內ヲ走ラフカ、源五兵衞樣モ日蔭ノ身、其上ニ苦ヲ持セテハ、イトシイ人ノ身ノ大事」 傾城反魂香(寶永、近松作)上「日影ノ師匠ヲ重ンジテ、半道餘リヲ夫婦ツレ、夜ナ夜ナ見舞フゾ殊勝ナル」

ひ-がけ（名）[日掛] 日毎ニ、若干ヅツ金錢ヲ貯フルコト。月掛ニ對スル語。[illegible]云ノ[illegible]ハ、云云、何ヤ角ヤテ、一日二三百ノ出入リダ」

ひ-がけ（名）[火掛] 乾菓子ノ製造ニ云フ語。こんぺいとう（金米糖）ノ條ヲ見ヨ。

ひ-がけ（名）[illegible]掛 又、さはりかけ。乾菓子ノ製造ニ云フ語。こんぺいとう（金米糖）ノ條ヲ見ヨ。

ひかげ-かづら（名）[蘿葛][日蔭葛]〔日光ノアタル所ニハ生エズト云フ〕又、ヒカゲヅル。ヒカゲノカヅラ。略シテ、ひかげ。石松科ノ蔓草ノ名。山地ノ樹下ナドニ生エ、地上ニ匍ヒ、長ク這ヒマハル。其長キハ丈餘ニ及ブ。小枝、ツギツギニ左右ニ生シ、其先端、穂ヲナシテ直立シ、子嚢ヲ生ジ、胞子ハ石松子ト稱シテ、藥用ニ供セラル。葉ハ、蔓又ハ枝ニ、鱗ノ如ク繁ク着キテ、杉ニ似ル。山城ノ山山ノモノハ、今モひかげトイフトゾ。此草、上代ニハ、神事ノ手繦、又ハ、日蔭鬘ニ用ヰラレキ。其色、深緑ニシテ、清ク美シク、採リテ日ヲ經テモ、色變ハラサレバナルベシ。石松 神代紀、上、[illegible] 古語拾遺、[illegible] 古事記、上、[illegible]天香山之天之日影[illegible]物日影蔓二荷ニ」千載集、廿、神祇「神ウクル、豐ノアカリニ、ユフ蘭ノ、日影蔓ゾ、ハエマサリケル」

ひかげ-かづら（名）[日陰鬘][日影鬘]〔日影ヲ翳シ隔ツレバ名トスト云フ〕又、ヒカゲノカヅラ。略シテ、ひかげ。新嘗、大嘗、等ノ神事ニ、冠ノ笄ノ左右ニ掛クルモノ。元ハ蘿葛ヲ用ヰタリシガ、後ニハ、青キ組絲、又ハ、白キ組絲ヲ揚卷ニシテ、冠ノ巾子ノ左右ニ、四筋ノ、又ハ、六筋ヅツ垂ル。故ニ、ひかげの組トモ、ひかげの絲トモ云フ。又、同時ニ、巾子ニ梅花ノ造花ヲ插ス、コレヲ心葉ト云フ。倭名抄、十三、祭祀具「蘿鬘、比加介加都良、一名[illegible]、蘿鬘、ヒカクカヅラ」[illegible]大嘗會「親王已下及群官、井内侍已下女孺已上、青摺衫、加日蔭鬘」[illegible] 萬葉集、十九[illegible]新嘗祭[illegible]足引ノ、山下日影、可豆良ケル、上ニヤ更ニ、梅ヲシヌバム」雅亮裝束抄、二、小忌事「冠ノ巾子ノモトニ、日蔭の鬘ト云フ物ヲ結ヒテ、白キ絲ノ端、云云、アゲマキニナヲ結ビ下ゲテ、片片ニ四スヂヅツ、冠ノ角ヲハサメテ前ニ二筋、後ニ二筋、左右ニ下ゲタル也」公事根原、下、新嘗會「ト食ノ人人、青衣、日蔭ヲ着ス」讃岐典侍日記「舞人タチ、小忌ノ姿ニテ、赤紐カケ、日蔭の絲ナト、ナマメカシク見ユルニ、插頭ノ花ノアリサマ、云云」

ひかげ-かづら（名）[日蔭葛]〔前條ノ物ニ用ヰルヨリ名アリト云フ〕さるをがせ（猿麻桛）ニ同ジ。略シテ、ひかげ。女蘿

ひかげ-ぐさ（名）[日影草] あふひ（葵）ノ異名。其條ノ（一）ヲ見ヨ。萬葉集抄（仙覺）十六「葵ハ、日ノ影ノサセル方ニ從ヒテ靡キ傾ク、故ニ日影草ト云フ」

ひかげ-ぐさ（名）[日蔭草]（一）ひかげかづら（蘿葛）ニ同ジ。ヒカゲ。ヒカケヅル。ヒカゲノカヅラ。後拾遺集、十九、雜、五「ひかげ草、輝ク影ヤ、マガヒケン、マスミノ鏡、クモラヌモノヲ」蜻蛉日記、下、下廿八「ひかげの絲結ビテトテ[illegible]、リケレハ、ソレニカハリテ、カケテ[illegible]モ絕エニシ、日蔭草、何ニヨソヘテ、今日[illegible]」（二）前前條ノ語ニ同ジ。新古今集、七、賀「茜サス、朝日ノ里ノ、日かげ草、豐ノアカリノ、カザシナルベシ」新千載集、六、冬「宮人ノ、豐ノアカリノ、ひかげ草、袂ヲカケテ、靡ムスブナリ」

ひかげ-づる（名）[日蔭蔓] ひかげかづら（蘿葛）ニ同ジ。ヒカゲ。ヒカゲグサ。

ひかげ-もの（名）[日蔭者]（一）亡命無籍ノ者。世ヲ隱レ忍ブ者。略シテ、ひかげ。[illegible] 曾我會稽山（享保、近松作）二「コノ恥辱ハ遁レヌ、日[illegible]者トナリ」（二）世ニ知ラレズニ、埋モレ居ル者。世ニ埋モレテ、立身セザル者。

ひ-が・け・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔日翳ける、ノ略〕朝日、夕日ノ直射スヲ、受クルコトニ云フ語。古事記、下（雄略）[illegible]日代ノ宮ハ、朝日ノ、日照ル宮、夕日ノ、比賀氣流宮、タケノネノ、ネタル宮、[illegible]朝日ノ日向フ國、夕日ノ日[illegible]」古事記、上「[illegible]朝日之直刺國、夕日之日照國也」萬葉集、十三[illegible]「朝日ナス、マクハシモ、夕日ナス、ウラグハシモ」

ひが-ごころ（名）[僻心] 思ヒ違ヒシタル心。ヒガミタル心。源、三十四、上、若菜、上三十八「ひがごころニテ、ワカ身ヲサシモアルマジキサマニアコガラシ給フト、中比思ヒタダヨハレシ事ハ」

ひが-ごと（名）[僻事] 理ニ中ラヌ事。マチガヒタル事。アヤマリ。ヒガワザ。ひが僻ノ條ヲモ參見セヨ。宇津保物語、忠社三十四「オコナヒススメル人ヲイナビタマフハ、ひがごとタルココチナンスル」源、十三、明石三十一「夢ノ中ナル心チノミシテ、サメハテヌホド、イカニひがごと多カラントテ、ソコハカトナクカキ亂リ給ヘル」盛衰記、十一、辭惡與三入道問答事「第一ノ遺恨ト存ズル間、[illegible]僻事ニテ侍ルカ」[illegible]石集、[illegible]上、[illegible]「伊勢人はひがごとしけり」ニハ二義アリ、一ハ、伊勢齋宮ノオカサレ給ヘルコト、一ハ、伊勢人ト日向人ト、トリ違ヘタルコトナリト云フ。[illegible]ハ二ツノ義有ルベシ、一ツニハ、カノ齋宮ノオカサレ給ヘル事、マコトナラバ、事出キテ後、京ワラベノワザ歌ニ、イセ人ハひがごとしけりトウタヒナドシケンヨシ、今一ツハ、伊勢ヤ日向ノ物語ト云フコトモ、古ク云ヒ傳フルヲ、いせ人ト日向人トトリタガヘタルコト故ニ云フカ、師ナ、いせいひがの物がたりト云フコトヲ、ヨコナマルニヤ、右ノコトハイマダサダカナラネド、人ニ心ヅケン爲ニシルス也」山家集「伊勢人ハ、ひがごとしけり、笹栗ノ、笹ニハナラデ、柴ニコソナレ」

ひ-がさ（名）[檜笠] 檜ヲ薄ク剝ギテ作レル晴雨用ノ笠。峯入ノ山伏ナド、コレヲ用ヰル。[illegible]ヨリ有、我州大峯ヘ入山伏、是ヲカムルコト、古來ヨリ有、雨笠、日笠兩用ニス」宇治拾遺、八、第二條[illegible]ヲ着テ、[illegible]ノ上ニ[illegible]ヲ[illegible]ニ[illegible]テ、ひがさノ[illegible]ニテカラゲツケテ、云云」

ひ-がさ（名）[日傘]（一）さしがさ（傘）ノ一種。頗大キク、柄長ク、紙ニ油ヲ塗ラズ、日光ヲ遮ルニノミ用ヰルモノ。古ヘ、貴人ナドノ用トス。ヒデリガサ。涼傘 [illegible]、十九、[illegible]イトアヤシキキヌ着、ヤレタルひがささシテ、ヒモトキテ[illegible]年、八日[illegible]キンハ御ナヲシノ下ニハラマキヲメシ、御騎馬ニメシテ、ひがさヲサシカク」（二）[illegible]日光ヲ除クルニサス傘。多クハ婦人ノ用ナリ。醫、僧ナドモ用ヰタリ。小兒ノ用ヰルハ、紙[illegible]彩色シタルモノニテ[illegible]禮ナドニ用ヰルニハ、丹一色ニ染ムルモアリ、[illegible]鈴ナドヲ垂ルルアリ。ヒガラカサ。貞順故實集、室町時代、[illegible]

人モ候［illegible］文化、二、馬ノ四端、上「アレアレ、［illegible］ナセエ」 坂本太郎［illegible］「日傘、一時雨ナリ、龍田川」（紅葉ヲ書キタルカ） 京日［illegible］日ノ傘ニ、［illegible］ノ立ツ」 人倫［illegible］［illegible］シノタメ傘ヲカキタル事 云云

ひがさま （名）［僻樣］ ヒガミタル容子。理ニ叶ハヌ方。 蜻蛉日記、中、下「御聲ナド變ラセ給フトラハ、イト堪ニハアレド、更ニコソ聲サジ、世ニカクテ止ミ給フヤウハアラジナド、ひがざま二思ヒナシテ［illegible］ニヤアランドイフ」 源、［illegible］、藤袴「年ゴロ、カクテハグクミ聞エ給ヒケル御心ザシヲ、ひがざまニコソ人ハ申スナレ、カノ大臣モ、サヤウニナンオモムケテ」云云」

ひか・さ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（他動、下二）［被引］（引かせらるるノ約） 他ノモノニ引カルル。 曾丹集「吾妹子ガ、今朝ノ朝寢ニ、ひかされテ、セナサヘアマリ、カヒタユキカナ」 元輔集「谷フカク、シヅムタトヒニ、ひかされテ、老イヌル松ハ、人モ手フレズ」 散木集「花ミント、オモフ心ニ、ひかされテ、スガルスガルモ、カキノボルカナ」

ひがし （名）［東］ （ひむかしノ約、其條ヲ見ヨ） ヒンガシ。ヒウガシ。（一）四方ノ一。南北ノ間ニテ、西ト對ヒ合フ方。即チ、日ノ昇ル方。 字類抄「東、ヒカシ、ヒムカシ、以日在木中、春方也」 源、三十一、槇柱「常ニ倚居タマフひがしオモテノ柱」云云」 （二）東ノ風。東ノ方ヨリ吹キ來ル風。コチ。 （三）京都ニ對シテ、鎌倉幕府ノ稱。 増鏡、第一、新島守「ひがしザマニモ、其心ヅカヒスベカメリ」

ひがし-うけ （名）［東受］ 東方ヲ受クルコト。東ニ向キ居ルコト。

ひがし-おもて （名）［東面］ 東方ニ向ヒタル方。ヒガシムキノ方。ヒガシムキ。

ひがし-の-いち （名）［東市］ にしのいちのつかさ（西市司）ノ條ヲ見ヨ。

ひがし-の-いち-の-つかさ （名）［東市司］ 又、とうしし。にしのいちのつかさ（西市司）ノ條ヲ見ヨ。

ひがし-の-きゃう （名）［東京］ さきゃう（左京）ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。 帝王編年紀、十二、延暦十三年正月十五日、始遷平安京、東京ニ愛宕郡、又謂左京、唐名洛陽、西京ニ葛野郡、又謂右京、唐名長安」 三代實錄、四十七、仁和元年十二月十八日「夜東京一條備中士町失火、延燒三百餘家」

ひがし-の-たい （名）［東對］ 東の對屋ノ略。一の對トモ云フ。コレニ對シテ、西の對ヲ二の對ト云フ。たいのや（對屋）ノ條ヲ見ヨ。 枕草子、一、第四段「東の對ノ西ノ廂カケテアル北ノ障子ニハ」

ひがし-むき （名）［東向］ ひがしおもて（東面）ニ同ジ。 源、一、桐壺「オハシマス殿ノ東ノ廂、ひがしむきニ御イス立テテ、冠者ノ御座、ヒキイレノオトドノ御座、御前ニアリ」

ひがしやま-じだい （名）［東山時代］ 日本美術史上ノ一區劃。足利將軍義政、京都ノ東山ニ、慈照寺ヲ造リテ銀閣ヲ起シ、遊樂ニ耽リ、美術ヲ振作シタルヨリ、一種、精巧ナル物、出來タル時代ノ稱。

ひ-かす （名） せうちう（燒酒）ノ粕。

ひ-かず （名）［日數］ 經ル日ノカズ。ニッスウ。 易林節用集（慶長）下、言辭門「日數、ヒカズ」 神代紀、下「時ニ諸鰐魚、各隨其長短定其日數」 源、二、帚木「例ノ、内ニ日かずヘ給フコロ、サルベキ方ノ、イミマチ出デ給ヒテ」 拾遺集、三、秋「今ヨリハ、紅葉ノモトニ、宿リセジ、惜シムニ旅ノ、日數ヘヌベシ」 金葉集、二、夏「五月雨ハ、日數ヘニケリ、東屋ノ、カヤガ軒端ノ、下朽ツルマデ」 太平記、二、俊基朝臣再關東下向事「急グトシモハナケレドモ、日數ツモレバ、七月廿六日ノ暮程ニ、鎌倉ニコソ着給ヒケレ」

ひ-かた （名）［干潟］ 潮ノ干タル潟。 斥鹵 續古今集、一、春、上「霞ミ［illegible］ノ、浦ノひかたノ、曙ニ、［illegible］、浮島ノ松」 續千載集、十六、雜、上「滿ツ潮ニ、浦ノ千鳥ハ、［illegible］、立ツ千鳥カナ」 新後撰集、六、冬「朝アケノ、干潟ヲカケテ、シホツ山、吹キ越ス風ニ、ツモル白雪」

ひ-かた （名）［日方］ 西南ヨリ吹キ來ル風ト云フ。坤ノ風。（蝦夷語、西南風ヲぴかたト云フ） 又、東南風ヲモ云フ。 袖中抄、十八「ひかたハ坤風ナリ」 無名抄（俊頼）「ひかたハ巽風（東南風）ナリ」 萬葉集、七、廿「天霧ヒ、日方吹クラシ、水莖ノ、岡ノ水門ニ、波立チワタル」 夫木抄、十九「ひかた吹ク、ヨサノ浦波、高カラシ、ミギハノ千鳥、ムレテタツナリ」

ひ-かた （名）［火方］ ひつけたうぞくあらため（火付盜賊改）ノ條ヲ見ヨ。

ぴ-カタル （名）［鼻加答兒］ 病ノ名。感冒ニ起リ、惡寒、發熱シ、頭痛ヲ催シ、鼻腔燒クルガ如ク、水バナ盛ンニ出デ、クシャミヲ發シナドスルモノ。

ぴか-ちゃう （名）［鼻下長］ 〔ハナノシタナガキ者ノ義。女ニノロキ相トスト〕 女ニ迷ヒ易キコト。女色ニオボレ易キコト。又、ソノ性質ノ人。はな（鼻）ノ條ヲモ見ヨ。

ひがな-いちにち （名）〔夜がなよっぴてニ對ス〕 朝ヨリ晩マデ。ヒネモス。終日。 傾城反魂香（寶永、近松作）上「日がな一日立チズクミ、何ヲスルヤラノラクラト」

ひ-がのこ （名）［緋鹿子］ 緋色ノ鹿子シボリ。 衣食住記「安永ノ頃ヨリ緋縮緬、ひがのこ」

ひ-がはり （名）［火變］ 陶器ノ釉ニ變色ノアルモノ。窯ノ中ノ空氣、或ハ、火候ノ關係、又ハ、釉水中ニ含メル物質ノ變化ナドヨリ生ズルナリ。 窯變

ひか-ひか （副）［煌煌］ 光リキラメク狀ニ云フ語。ピカピカ。 ［illegible］言辭門「曜曜、ヒカヒカ、毛詩註、電光兒」閃閃、閃爍、ヒカヒカ」 一茶の［illegible］ひかひか［illegible］ノ花」

ぴか-ぴか （副）［煌煌］ 前條ノ語ヲ強メテ云フ語。 ［illegible］ひかひか［illegible］ズハ、エノ［illegible］ノ、［illegible］ミケリ」

ひが-ひが・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二） 僻僻 甚ダ僻ミタル狀ニアリ。イトヒガミタリ。 源、九、若紫「山住ミモセデ、サル海ヅラニ出デ居タル、ひがひがしきヤウナレド」 同、三十八、夕霧「［illegible］聞カシナト、ひがひがしき事トモシ出テ給ヒツベキト」 同、四十六、總角「姬君ノ、御心ヲアヤシク、ひがひがしくモテナシ給フト、モドキ、クチヒソミキコユ」 同、六、末摘花「君ノ、斯クマメヤカニ宣フニ、聞キ入レザランモ、ひがひがしかるベシ」 徒然草、三十一段「コノ雪イカガ見ルト、一筆ノタマハセヌ程ノひがひがしからン人ノ仰セラルルコト、聞キ入ルベキカハ」

ひか・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（自動、下二）［控扣］ 進マズシテ、待チ居ル。停マリ居ル。ヒカヘル。ヒカユル。 候 源、七、紅葉賀「ワビシサニフルフルフ、ツトひかへタリ」 兼盛集「釣舟、ツリヲ垂レテ、海ノ上ニひかへタリ」 參考保元物語、二、白河殿攻落事「手グスネ引テゾ控ヘタル」 平家物語、七、倶利伽羅落事「日ノ宮林ニ控ヘタル今井ノ四郎ノ六千餘騎モ、同ジウ鬨ノ聲ヲゾ合ハセケル」「次ニ控ふ」

ひか・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［控扣］ 〔引くノ延、向く、むかふ。嘆く、なげかふ。靡く、なびかふ、ト同趣〕 （一）引キ留ム。止ムル。引キ支フ。 控 易林節用集（慶長）下、言辭門「扣、ヒカユル、馬」控、同」 源、七、紅葉賀「ワヅラハシサニトテ立チ給フヲ、ひかへテ」 後拾遺集、十一、戀、一「女ヲひかへテ侍リケ

ルニ、ナサケナクテ入リニケレバ」宇治拾遺、一、第六條「詳ズル所、嶺儲ニ控ヘラレテ、今ニカクテ、ウキ[illegible]」[illegible]近松作)上「行違フ袖ヲ控ヘテ、コレ申シ」「馬ヲ扣ふ」[illegible]集、一、碑銘「モノタノシミニ誇リナバ、イカガト思[illegible]控ふ[illegible]ヤムル。落窪物語、一「下襲ヒ出デテ、従[illegible]衣折ラントテ、イカデ阿闍梨起サントノ給ヘバ、少将ひかヘントノ給フ、女君見グルシカラントノ給ヘド、几[illegible]ひかへサセ給ヘ、イミジキ物師ゾマロハトテ、針ヒテ折ラセ給フ」[illegible]タリケレドモ、ソノ一事ヲバ、ひかへテ教ヘサリケリ[illegible]ふ[illegible]控ふ[illegible]「手帳ニ控ふ」

ひかへ（ヒカヘ）(名) 控扣 (一)ヒカフルコト。ヒキトムルコト[illegible]不時ノ用ニ備ヘムト[illegible]後ノ用ニ[illegible]書留メ置クモノ[illegible]副稿[illegible]ブリ[illegible]コト

ひかへ-ちやう（ヒカヘ・チヤウ）(名) 控帳 控ヘニ記シオク帳簿。底簿

ひかへ-ばしら（ヒカヘ・バシラ）(名) 控柱 屏、垣ナドニ添ヘテ立ツル柱。其倒ルルヲ支フ。支柱

ひかへ-め（ヒカヘ・メ）(名) 控目 控ヘテ内端ニスルコト。[illegible]世[illegible]文化[illegible]内端、中[illegible]見ル[illegible]事ガ、[illegible]何[illegible]可笑シイカト、オツニひかへめニナッテ畏リマス」

ひかへ-やしき（ヒカヘ・ヤシキ）(名) 控屋敷 用意ノタメ別ニ設ケオク屋敷。別莊

ひ-がへり（ヒガヘリ）(名) 日歸 其日ノ中ニ、往キテ歸ルコト。[illegible]巻、十、下、品第三十二「此アタリニ、氏寺、要害ハナキカ[illegible]ひかへり[illegible]一茶の句、ひかへりノ、湯治道者ヤ、春ノ雨」

❖**ひか-へる**（ヒカ・エル）(動) 控扣 控ふ(自、他動)ノ口語。其他ヲ見ヨ。ヒカユル

ひがみ（名）僻 僻ムコト。心、ネヂケタルコト。源、十、榊五十「オトドハ、思ヒノママニ、コメタル所オハセヌ本性ニ、イトド老イノ御ひがみサヘ添ヒニタレバ、何事ニカハ滯リ給ハン」

ひ-がみ (名) 日髪 日毎ニ髪ヲ結ヒナホスコト。思出冊子[illegible]寛政寫本「女子、[illegible]ハ日髪也、云云、[illegible]流行リ、[illegible]ヲ用ヒ持髪トナル、日髪ト持髪ト、半半也」

ひがみ-ごころ (名) 僻心 ヒガミタルココロ。思ヒ違ヘタル心。ネヂケタル心。松風村雨束帯鑑、一、近松作、當世[illegible]行平一家ガ恥ヲサラシ、天下ニ浮名ヲ流セシモ、皆オノレガ一心ノ僻心ヨリ起ッタリ」

ひがみ-こんじやう（ヒガミ・コンジヨウ）(名) 僻根性 ヒガミタル根性。ネヂケタル性質

ひが-みみ (名) 僻耳 聞キチガヒ。聞キソコナヒ。源、十三、明石八十[illegible]「山ブシノひがみみニ、松風ヲ聞キワタシ侍ルニヤアラン、イカデ、コレ忍ビテ聞[illegible]サセテシカナト、聞ユルママニ」

ひ-かん (名) 脾疳 [illegible]正字通「疳、小兒食ニ甘物、多生疳病、疳有五、心、肝、脾、肺、腎也、脾疳ハ其一ナリ」小兒ノ慢性消化不良症。下痢ヲ起シ、貪食シテ痩セ、腹甚シク脹レ、皮膚モ蒼白、目、過敏トナル。オトミヤミ。疳勞

ひ-かん (名) 避寒 (避暑ニ對ス) サムサヲ避ケ[illegible]詩「西園[illegible]梅發、只有[illegible]避寒」

ひが-む・ム・メ・マ・ミ・[illegible] 僻 [illegible]ヲ活用ス、拉げ屈む（ヒシゲカガム）ノ意) ユガム。カタヨル。ヒズム。[illegible]ネヂケ心曲ル。[illegible]名[illegible]花鳥[illegible]十、[illegible]心ノひがみ[illegible]アハレ、有樣ヲモ知ラセ給ハヌ」宇津保物語、蔵開[illegible]院[illegible]ツタナキ人ニツキ給ヘリトテ、觀ヲカクシシ奉リナン、ひがみタルヤウナル大臣ハ」

ひが-む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 僻 僻ムヤウニナス。曲グ。源、五、若紫[illegible]シ召シひがめタルコトナドヤ侍ラント、ツツマシウナン」同、廿[illegible]ホホケシキ人ノ、神カケテ聞エひがめ給フナメリヤト、[illegible]アカス」さりかへばや物語、一「若君、姫君ヲ思ヒタガヘ、聞キひがめタリケルトノミゾ心得ケル」

ひ-がん (名) 彼岸 〔梵語、波羅(Pāra.)ノ譯語〕(一)〔佛經ノ語。生死ノ境界ヲ此岸トシ、涅槃ヲ彼岸トシ、煩惱ヲ中流ニ譬ヘ、波羅蜜ヲ到彼岸トス〕即チ、菩薩、無相ノ智慧ヲ以テ、禪定ノ舟航ニ乘ジ、此岸ヨリ彼岸ニ到ラシムト云フ。智度論「以生死爲此岸、涅槃爲彼岸」[illegible]佛國品[illegible]稽首已到彼岸[illegible](二)佛家ニ、春分、秋分ノ日ヲ中日トシテ、其前後、各、三日、合ハセテ、七日間ノ稱。一百年前、春分、秋分ノ日ヨリ三日目ヲ初トシ、其六日目ヲ中トシ、九日目ヲ終トセシコトモアリキ) 此期間、佛事ヲ修スルコト、コレヲ彼岸會ト云ヒ、道、俗、共ニ、諸佛ニ詣デ、亡靈ニ供養ス。[illegible]隨筆、廿六「春分ヨリ六日前、秋分ヨリ三日前ヲ彼岸ニ入ルトス[illegible]中[illegible]月モ十餘日ニナリヌ、云云、ひがんニ入リヌレバ」源、廿九、[illegible]ひがんノ初ニテ、イミジウサワガシウ、オソロシキマデニ覺エテ」兵範記、仁平三年二月廿三日「[illegible]彼岸也、[illegible]北川[illegible]所、[illegible]行[illegible]法ニ」吾妻鏡、建長六年八月十一日「今日[illegible]云、[illegible]月、太政官符[illegible]五畿七道諸國[illegible]經ニ[illegible]其七日間[illegible]

ひ-がん (名) 飛雁 雁ノ天空ヲ飛ビ翔ケルモノ。史記、孔子世家「衛靈公與孔子語、見ニ飛雁[illegible]色不在孔子、孔子[illegible]」

び-かん (名) 美感 [illegible]審美ヲ感ズルコト。美麗ノ快感。又、醜美ヲ判別スル感情能力。

び-がん (名) 美顔 美麗ナル顔色。ウルハシキ、カンバセ。「[illegible]」

ひがん-ざくら (名) 彼岸櫻 櫻ノ一種。最モ早ク春ノ彼岸ノ頃ニ開クモノ。花、枝梢ニ簇リ着キ、甚ダ開カズ、單瓣ニシテ、[illegible]紅ナリ。[illegible]曰、彼岸櫻、小彼岸、俗ニ彼岸櫻ト云、河内[illegible]ノ邊ニハ彼岸櫻多シ」

びがん-じゅつ (名) 美顔術 顔容ヲ美シクスル術。

ひがん-たらう（ヒガン・タラウ）(名) 彼岸太郎 〔太郎ハ長ノ義、魁ノ意〕彼岸ニ入リテ、第一ノ日ノ稱。此日ノ晴雨ハ、年ノ豐凶ニ關スルトテ、農家ニテハ晴天ヲ祈ルト)

ひがん-ばな (名) 彼岸花 まんじゆしやげ(曼珠沙華)ニ同ジ。[illegible]石蒜、シビトバナ、伊勢ニテ、セソビ、中國[illegible]

シビトバナ、又、ひがんばな、云云、又、まんじゆしやげト云」和漢三才圖會、九十二、末、山草類「石蒜、云云、俗云、死人花、又云、彼岸花、曼珠沙華、云云」

ひがんゑ（ヒガン・エ）(名)【彼岸會】〔般若波羅蜜多經ニ、波羅蜜ハ、到彼岸ト譯ス、彼岸會ノ名ハ、此般若經ニ起ルカ〕春秋ノ彼岸ノ七日中ニ行フ佛事。コレ佛典ニハ、見エズ、又、印度、支那ニ行ハレシコトナシ。恐ラクハ、本邦、祖先崇拜ノ風ヨリ轉ジテ、行ハレタルモノカ。本朝ノ古代ニ始マリ、後朱雀天皇ノ御宇、長久四年ニ、朝廷、永久ノ儀式トナレリ

ひがめ (名)【僻目】(一)瞳(ヒトミ)ノ正シカラヌモノ。又、ソノ目ツキ。ヨコメ。スガメ。ヒガラメ。ヒンガラメ。瞟眼。天治字鏡、二「眇、與己目、又、比加目、又、一目盲也」(二)見違フルコト。ミアヤマリ。ミチガヘ　今昔物語、十六、第六語「射殺シテシ佛師モアリ、取返シテシ馬モ有ケレバ、モシ僻目カト思テマモリ立テルニ」平治物語、二、待賢門軍事「此ノ門ノ大將軍ハ、信賴卿ト見ルハ僻目カ」

ひがもの (名)【僻者】心ノ僻ミタル人。ネヂケビト。偏人　落窪物語、一「カカルひがものナレバ、世ツカヌ文ハ、書キ出ダシタルナリケリ」源、五、若紫四「出デタチモスベカリケル人ノ、世ノひがものニテ、交ラヒモセズ」聘禮合戰物語(文明)「ハヤリヲノ若盛、死生知ラズノひがもの、弓ニ弦打シ、矢ヲ爪繰ッテ待懸クル者ナリ」

ひか・ゆる (動)【控】〔ひかへるノ訛〕ひかふ(控)ノ口語。其條ヲ見ヨ。

ひがら (名)【日次】ヒカズ。日數。「日次モ僻シ」「日次モ立ナテ」「日次モノ」

ひがら (名)【日柄】曆ノ上ニテ、其日ノ吉凶　書言字考節用集、二、時候門「日幹、ヒカラ」狂言記、素襖落「明日ハ日柄モヨウ御座ルニヨッテ、フト思ヒ立ッテ、伊勢參宮致サウト存ズル」「日柄ガヨイ」「日柄ガワルイ」

ひがら (名)【瞟眼】〔僻目ノ轉カ、梵語、賓伽羅(ビンガラ)、譯シテ青目ト云フ〕眇ノ類

ひがら (名)【日雀】〔其眼、瞟(ヒガラ)ナレバ名トスト云フ、或ハ、火雀(ヒガラ)ノ義ニテ、赤キヲ云フカト〕又、ひがらめ。小鳥ノ名。四十雀(シジフカラ)ニ似テ小サク、頭、背、灰赤色、頰ノ邊、黑、白、相雜ル。腹白ク、翅、尾、黑シ。秋ノ末、群リ來ル　運歩色葉集「鶲、ヒガラ」易林節用集、生物門「鶲、ヒガラ」林逸節用集、生物門「鶲(長)」下、氣形門「日鶲、ヒガラ」聘禮合戰物語「四十雀、ひがら、鶸、松ムシリ」倭訓栞、前編「ひがら、小鳥ノ名ニモイヘリ、其眼ノ瞟ナルヲモテ也、鶲也トイヘリ」本朝食鑑、六、林禽「日鶲、訓比加良、名義不詳、或曰、火雀、以赤色而稱、此亦不穩當矣、云云」佐夜中山集(寶永)「瓢簞ノ、輕口タタク、ひがらカナ」

ひがらかさ (名)【日傘】ひがさ(日傘)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。骨董集、上編「オ乳付日傘(ヒガラカサ)ト云フ諺、昔ハ乳母ヲメシツカフホドノシカルベキ者ノ兒ニハ、日傘ヲサシカケサセタルユヱニ、サハイフメリ、ソノからかさハ、丹青モテ、サマザマノ繪ヲカキシ也」續境海草集、夏「夕立ニ、サシ合ハセケリ、日傘」

ひからか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)テラフ。ヒケラカス。自慢顏ニフルマフ。甲陽軍鑑、十、上、品第二十「武士道不案内ナレハ、セリアヒノ時ニモナラサル口ヲキキ、御旗本ヲひからかし、先手ノカセグ者共ヲモ二腹ヲタタセ」

ひから・びる (動)【乾涸】次條ノ語ノ口語。

ひから・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ(自動、上二)【乾涸】甚シク乾ル。乾キテ、水分ナクナル。カラビル。カワク。ヒカラビル。

ひがらめ (名)【瞟眼】ひがめ(僻目)ノ條ノ(一)ニ同ジ。音便ニ、ひんがらめ。書言字考節用集、五、肢體門「角眼、ヒガラメ、言眼義、日邪也」好色二代男(貞享)、西鶴二「色黑キひがらめノ女カ、ヌルクウスキ茶ヲ運ブモニクシ」

ひがらめ (名)【鶲】小鳥ノ名、ひがら(日雀)ニ同ジ。又、からめノ條ヲモ見ヨ。

ひかり (名)【光】(一)ヒカルコト。又、ヒカルモノ。日、月、又ハ、火等ヨリ發シテ、目ニ物ヲ明(アフ)ク見スル元トナルモノ。神代紀、上二十「是時火手力雄神侍、磐戸側、則引開之者、日神之光(ヒカリ)滿於六合」萬葉集、十五二十「月ヨミノ、比可里ヲ淸ミ、神島ノ、礒マノ浦ユ、船出ス吾レハ」同、十八八廿「アブラ火ノ、比可里ニ見ユル、吾ガカヅラ、サユリノ花ノ、ヱマハシキカモ」(二)カガヤクコト。美シク、華ヤカナルコト。光華(こ)ハエ　神代紀、上「此子光華明彩、照徹於六合之内」萬葉集、十七三十「アメノ下、スデニオホヒテ、降ル雪ノ、比加里ヲ見レバ、尊クモアルカ」竹取物語「コノ兒ノカタチ、ケウラナルコト世ニナク、屋ノウチハ暗キ所ナク、ひかり滿チタリ」(三)イキホヒ。威光　古今集、十八、雜「久カタノ、中ニ生ヒタル、里ナレバ、光ヲノミゾ、賴ムベラナル」新葉集、十六、雜、上「我カ名ヲモ、君カひかりニ、アラハシテ、今夜ノヨヒノ、月ゾサヤケキ」源、一、桐壺二十一「月モ見エ侍ラヌニ、カシコキ仰セゴトヲひかりニテナントテ見給フ」同、四、夕顏十「オホカタニ、ウチ見奉ル人ダニ、ココロシメ奉ラヌハナシ、云云、コノ御ひかりヲ見奉ルアタリハ、ホドホドニツケテ、吾ガカナシト思フ女ヲ、ツカウマツラセバヤト願ヒ」娥歌加留多(享保、近松作)二「主君ノ御威光、親ノひかりヲ以テ立身、近日ニ候ト、イヒモ果サズ西鶴、ハッタト睨ンデ、ヤアダマレダマレ、聞キタウナイ」「國ノ光」「親ノ光ハ七光」(四)貴人ノ來ルヲ敬ヒテ云フ語。光臨(クワウリン)ノ語ヨリ云ヘルカ　源、四十六、總角九「產屋ノひかりヲコソ待チ出デメ」後撰集、九、戀、一「ひかり待ツ、露ニ心ヲ、オケル身ハ、キエ返リツツ、世ヲゾ恨ムル」新古今集、十八、雜、下「ひかり待ツ、枝ニカカレル、露ノイノチ、消エハテネトヤ、人ノツレナキ」

ぴかり (副) ヒカリノ閃ク狀ニ云フ語。

ひかりか・み (副)【光】モノノ光澤(ツヤ)アル狀ニ云フ語。　榮花物語、廿五、峯の月「見奉ラマツラヒ給ヘバ、唯、ノヤウニナラセ給ヘルモノカラ、御色ノ白ク麗シクひかりかみオハシマス、イトオソロシク、ソレモイカニイカニト見奉ラセ給フ」

ひかりごけ (名)【光蘚・光苔】蘚ノ一種。極メテ小サク、高サ五六分ニ過ギズ。絲狀ナルアリ、球狀ナルアリ、ソノ葉粒ニヨリテ、鮮カナル綠色ニ光ル。山地ニ多ク、濕氣アリテ、一方ヨリ光線ヲ受クル洞窟內、又ハ、樹根ノ間ナドニ叢生ス。信濃國、及、日光、東北地方等ニアリ。信濃國ニテハ、約四千尺以上ノ山地ニ多ク、南安曇郡有明山、北佐久郡岩村田千疊敷ノ洞穴等、約三十箇所ニアリ。

ひかりだう（ヒカリ・ドウ）(名)【光堂】黃金ヲ以テ鏤(チリバ)メ飾リタル佛堂。金色堂。　元亨釋書、十七、願雜「房州刺史源親元、云云、年過四十、務佛事、於洛東作一宇、安彌陀像、華麗壯麗、俗稱光堂」山城名勝志、十四、愛宕郡、光堂、在祇園南、號仁等車、近世、安井門主建花院創之」平泉實錄志　金色堂、世俗、是ヲ光堂ト云、天仁二年、清衡建立ス、堂三間四面、中ノ間七尺二寸、兩脇ノ間五尺五寸、柱高サ一丈九尺、內外上下四壁、悉ク纏布ヲカケ、其上ヲ黑漆ヲ以テ厚ク塗リ、金箔ヲ貼テ金色トナセリ、長押ノ地紋ニ螺鈿珠玉ヲチリバメタリ、云云」狂言記、佛師「佛堂ヲ一ツキ、一間四面ノ光り堂ヲ建テテゴザルカ、本尊ホゾンガゴザラヌ」奧の細道「五月雨ノ、降殘シテヤ、光り堂」窩簡「元文三年七月、從江戶、御問合御答書、寛延二年二、六七年以前、奧州光堂ノ佛ノ眼ニ入タル金ヲ、人ノ盜ミシ事在、云云」

ひかりのかみ (名)【光神】雷ノ敬稱。ひかるかみ(光神)ニ同ジ。雷神。雷公

ぴかりぴかり (副) ぴかりヲ強メテ云フ

語」其條ヲ見ヨ」〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓
「マタ田ハ上リケリ上リケリ、ひかりひかり、グッラリグッラリ、柔原柔原柔原」

ひかりも (名) 光藻 藻ノ一種、水ニ生ズ〓〓ノ如キ生物ニテ、金色ニ光リ、球ノ如ク聚リテ水上ニ浮ブ。信濃國、下伊那郡、飯田ノ近在、下虎岩ノ井中、及、ト〓國、荻生ノ〓ノ泉水等ニアリ

ひかりもの (名) 光物 夜、空中ニ光ヲ發シテ飛ビユクモノ。流星、イナヅマ、鬼火ノ類 ヒカルモノ 流火 〓〓記、廿六、〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓林ノ雷同、〓〓ノ〓〓ノ内〓〓〓〓〓、光り物コソ〓〓エタリケレ、或時ハサト光、光テハ消、消テハ又サト光ル」

ひか・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 光 〔日赫ノ義、かか〓燦爛ノ及、かがやり、篇ニノ條ヲモ見ヨ〕 光リヲ放ツ。照ル。カガヤク 萬葉集、十七「〓〓〓宮ノ、内ニモ外ニモ、〓〓〓マデ、フレル白雪、見レドアカヌカモ」竹取物語「ソノ竹ノ中ニ、モト光ル竹一筋アリケリ、怪シガリテ寄リテ見ルニ、筒ノ中光リタリ」神武紀「有レ人出レ自二井中一、光而有レ尾」

ひか・る (動) 叱るノ訛。(畿內) 其條ヲ見ヨ。浮世風呂(文化、三馬)二編、上「ソリャソリャ上ガタモワルイワルイ、ひかり人ッサ、光るトハ稲妻カエ、オッダネエ、江戸デハ叱ルトイフノサ」

ひかる-かみ (名) 光神 らい(雷)ヲ敬ヒテ云フ語。ヒカリノカミ。雷神 雷公 萬葉集、十九 三十四 長歌「アメッチノ、神ハナカレヤ、ウツクシキ、吾ガ妻サカル、光神、ナルハタ少女、手タヅサヒ、トモニアラムト、思ヒシニ」

ひ-がれ (名) 日離 〔夜がれニ對ス〕 晝ノ間、離レ居ルコト 成〓記、三十二、「〓行人人、〓〓子〓〓〓〓ンカバ、〓別レヲ悲ツソ、云云、夜カレ〓〓人、日がれノダニモ〓ミシニ、後ハ其ノ期ヲ知ラサリケルコソ悲シケレ」

ひかれもの (名) 被引者 江戸時代、引廻シノ刑ニ處セラルルモノ。其罪人ノ白〓白〓ニ〓〓〓〓、〓〓〓〓〓〓ヲ歌ヒ、馬ノ上ニテ唄ヲウタフヲ、ひかれもの の小唄ト云フ。轉ジテ、負惜シミスル事ニモ云フ。

ひが-わざ (名) 僻事 〔ひがごと(僻事)ニ同ジ〕 源、四十九、宿木「例ナラズシヒテ、アサテバカリ中ナラン、ソノ程ノ所タゾネ給ヘ、ユメヲコガマシクひがわざスマジウヲト、ホホヱミテ宮ヘバ」〓〓抄「ひがわざ、僻事」

ひき (名) 引 (一)〔引クコト。率キルコト〕 萬葉集、六 〓十 長歌「奈良ノ京ノ、新タ世ノ、事ニシアレバ、大君ノ、引ノマニマニ、云云、朝立チ行ケバ」 (二)〔助クルコト。贔屓。援引〕 萬葉集、十九 廿 長歌「マニマニ、ひきノマニマニ、シナザカル、越路ヲサシテ」續紀、廿六、天平神護元年三月、宣命「己ガ心ノ比岐比岐、太子ヲ立テムト思ヒテ」落窪物語、二「辨ノ君ガひきニテ、參リタリ」拾遺愚草員外、春「コレマデニ、心心ニ、別レケリ、苗代水モ、オノガひきひき」堀河院百首「賤ノ男ガ、苗代水モ、ひきひきニ、アハレニナドカ、イソグナルラン」 (三)紙ノ名。ひきあはせ(引合)ノ略。海人藻芥、下「近比ハ將軍家ニモ、女房達、皆異名ヲ申スト、云云、椙原ヲバスイバ、引合ヲバひき(檀紙ノコト)ト申也」 (四)ひきでもの(引出物)ノ略。其條ヲ見ヨ。心中萬年草(寶永、近松作)中「塔ノ供ノ者共、コレノ内ノ奴等ニモ、何カナシニ三百ヅツ、オ引きヲヤルガ、テンジャ」

ひき (名) 蟇蟆 〔氣ヲ以テ小蟲ヲ引寄セテ食ヘバ名トスト云フ〕 仙臺ニテ、びき、靜岡ニテ、びっき」ひきがへるノ略。蛙ノ屬 形、大キク、腹、殊ニ大ナリ。皮膚ニ數多ノ疣アリ、雄ハ瘠セ、雌ハ肥エ、性鈍ク、行クコト遲シ。溝、床下ナドニ棲ミ、夜出デテ、蚊、及、諸蟲ヲ捕ヘ食ヒ、冬ハ土中ニ蟄シ、〓〓ニ代ハル、〓〓〓ニ鳴ク、〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓ルモノアリ。タニグク。蟾蜍 倭名抄、十九 蟲豸類「蟾蜍、比木」本草和名、下 廿三「蝦蟇、一名、〓〓〓〓〓〓一字〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓 比支〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓、カヒヤカヘルノ、ひきノ〓」

ひ-き (名) 避忌 忌ミ嫌ヒテ、ヨケ避クルコト 忌避

ひ-き (名) 悲喜 カナシキコトト、ヨロコバシキコトト、カナシミト、ヨロコビト。 頭字韻 清、余〓「悲喜〓〓〓〓ル」

ひ-き (名) 誹毀 非毀 惡口スルコト 他ノ名譽ヲ傷ツクルコト 〓〓〓〓、〓〓〓、〓〓號不〓威儀、而〓非毀〓〓〓〓〓排擯」

ひき (接頭) 引 物事ヲ強メテ云フ語。「ひきツクロフ」「ひきクリカヘル」「ひきサグル」「ひき越ス」「ひき明ケ」「ひきコモル」

ひき (接尾) 匹 疋 〔唐韻「匹、譬吉切」廣韻「匹、俗作レ疋」五音集韻「疋、譬吉切、音匹」ひつノ古音、ひきナリト云フ〕 布帛ノ二段ノ稱。たん(端)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 小爾雅 〓、孔〓〓〓〓〓〓兩〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓、〓〓端二〓〓」左傳、昭公廿六年「幣錦二兩」〓〓「二丈爲レ端、二端爲二一兩一、所レ謂匹也」孝德紀、大化二年正月「絹、絁、絲、綿、並〓〓土所レ出、田一町絹一丈、四町成レ疋」賦役令「〓丁、人、絹〓八尺五寸、六丁成レ疋」

ひき (接尾) 匹 疋 〔牽ノ義、馬ハ綱ヲツケテ牽クモノナレバ云フ〕 風俗通「馬稱レ疋者、俗說云、相レ馬及二君子一與レ人相レ疋、故日レ疋」康熙字典「馬日レ匹」藝文類聚「馬光景一疋長、故日レ疋」」 獸類ヲ數フルニ云フ語。 書經、文侯之命篇「王曰、父義和、其歸視二爾師一、寧二爾邦一、用賚二爾秬鬯一卣、彤弓一、彤矢百、盧弓一、盧矢百、馬四匹二」 轉ジテ、

ひき 〓、〓、〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓代ノ銀貨一分ニ當ツ。後ニハ、錢二十五文ヲ以テ一匹トセリ。(犬追物ニ起ルト云ヒ、或ハ、弓射ルニ、鳥ヲ賭ケテ、一疋ハ十文〓〓〓〓〓〓〓〓) 簠簋雜談集、三「料足ヲ十疋、廿疋トイフイハレハ、犬追物ノ時、河原者、犬ヲ百疋ハナテバ、一貫文トル、〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓當ル、故ニ十錢ヲ一疋トイヒ、百文ヲ十疋トイヘリ、是犬追物ヨリ出タルコトバナリ」徒然草、六十段「眞乘院ニ、盛親僧都トテ、ヤンゴトナキ智者アリケリ、云云、〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓リタリケルヲ、坊ヲ百貫ニ賣リテ、カレコレ三萬疋ヲ芋頭ノ錢ト定メテ、京ナル人ニ預ケオキテ、云云」〓〓也」〓〓記、應永六年六月十七日〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓出ル」〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓云云、〓〓〓〓〓千〓〓下」

ひぎ (名) 氷木 ちぎ(千木)ニ同ジ。〓〓〓比〓〓」古事記、上〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓レ」

ひ-ぎ (名) 非義 義理ニ違フコト 〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓

ひ-ぎ (名) 非議 誹議 論議シテ、ソシルコト 管子、法法篇「〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓而所〓〓〓、則民不〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓不レ學勃、但下レ獄」

ひ-ぎ (名) 比擬 〔康熙字典「擬、像也、比擬也」〕 (一)ヒキクラブルコト ナゾ

ラフルコト。(二)もどき(抵捂)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

〜ひきあ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 引開 引キテ開ク。ヒキアケル 源、二、帚木三十九「掛金ヲ、ココロミニ引きあけ給ヘレバ、アナタヨリハ、ササザリケリ」 同、四、夕顔十九「遣戸ヲひきあけ給ヒテ、共ニ見出シ給フ」

ひきあ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下二) 引上 (一)〔高ク擧グ。ヒキアゲル。夫木抄、廿二「ワガ心、クるクる苦ナタル、井ノ、ひきあぐる人ノ、ナキゾ悲シキ」 源、四、夕顔三十四「ワレハ徒歩ヨリ括りひきあげナドシテ出デ立ツ」 同、六、末摘花二十四「格子ひきあけ給へり」 枕草子、十一、百三十三段「車ノ左右ニ、大納言殿、三位ノ中將、誘シテ簾ウチアゲ、下スダレひきあげテ乘セ給フ」 (二)軍ヲ率キテ退ク。收兵 (三)人數ヲマトメテ去ル。(四)拔擢ス。登用ス。

ひきあけ(名) 引明 夜ノ明クル時。ヨアケ。アケボノ。アカツキ。黎明

⁂ひきあ・ける(動) 引開 ひきあく(引開)ノ口語。其條ヲ見ヨ。

⁂ひきあ・げる(動) 引上 ひきあぐ(引上)ノ口語 其條ヲ見ヨ。

ひきあ・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 引當 ヒキクラブ。アテハム。ヒキアテル 好色一代男(天和、西鶴)四「サテモ脆キ命カナ、播磨カ數カウト云フ、身ニ引き當てテ悲シク」

ひきあて(名) 引當 金ヲ借ルニ、償ヒノ爲ニ當テテ、一時、品物ヲ渡シ置クコト。カタ。抵當 擔保

⁂ひきあ・てる(動) 引當 ひきあつ(引當)ノ口語。其條ヲ見ヨ。

ひきあは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) 引合 (一)引キ寄セテ合ハス。ヒキアハセル。「襟、引き合はせテ」 (二)引キ寄セテ、比ベテ考フ。對照「脊側ニ引き合はす」 (三)取持チテ、對面セサス。紹介 謠曲、檀風「今一度御對面アリタキ由ニテ、云云、遙遙コレマデ御供申シテ候、然ルヘキ樣ニ御申シ候ヒテ、引き合はせ申サレテ賜り候へ」 狂言記、腹不立「ハテサテ、過分ニコソゴザレ、ソレニ待タッシャレ、庄屋殿ニ引き合はせマセウ」

ひきあはせ(名) 引合 (一)ヒキアハスルコト カホツナギ 紹介 傾城島原蛙合戰(享保、近松作)一「八幡樣ノ引き合はせ、見ヒレヲ序ニ御目ニ見タシ、詞ヲ普ヘソ」 (二)引合紙ノ略。古ヘ、檀紙ノ皺無キモノ。又、略シテ、ひき。後ニハ、直ニ檀紙ト混ジテ同名トナル。 貞丈雜記、十四、紙類「引合ト云フ紙ハ昔ハ有リテ、今ハナキ紙ナリ、色ウス黑キ紙ナル故、ウス墨紙トモ云フ、又陸奥國ヨリ出デシ故、みちのく紙トモ云ヒシナリ、云云、引合ト云フ事、八雲大式ニ、此ノ引合紙ト云フイハレハ、往古、他ノ女子ヲ以テ我カ子ノ男子ニ引合セ、夫婦ノ情ヲ結ブ時、此ノ紙ニ因ヲ書キテ、女子ノ親ニ遣ハス、其ノ時、女子ノ親、我カ機ニアヘバ、彼紙ノ裏ニ書報ヲ成シテ、約束ヲ結ブ、又女子ノ親、我ガ機ニ合ハザレバ書答ナシ、如此旨趣ヲ以テ夫婦ヲ引合スル所ナリ、故ニ引合紙ト云フ」 和簡禮經、五、日安、料紙ノ事、公家門跡ハ引合せ、武家ハ杉原」 後深心院關白記、延安五年九月十七日「今日注意見、書ニ引合二枚、好時之比、故殿御注進如此」 滿濟准后日記、應永廿二年八月一日「御要御出緒子一段、引合二十帖」 看聞御記、應永廿九年七月廿八日「仙洞、去年八朔御返、下、云云、堆紅盆、引合廿帖拜領」 (三)鎧ノ右脇ニテ、脇立ノ上ニ、引合ハスル所。 平家物語、七、忠度都落事「俊成、秀歌ト覺シキヲ百首書集メラレタル卷物ヲ、云云、鎧ノ引合セヨリ取出デテ」 長門本、平家物語、十六、本三位中將被生捕事「汀ニオリ立テ、刀ヲヌキ鎧ノ引合オシ切、高紐ハッシテ」 太平記、九、高氏被籠願書於篠村八幡宮事「四郎妙玄、鎧ノ引合ヨリ矢立ノ硯ヲ取リ出シ」

⁂ひきあは・せる(動) 引合 ひきあはす(引合)ノ口語。其條ヲ見ヨ。

ひきあはび(名) 引鮑 鮑ヲ薄ク切リテ、乾シタルモノ。

ひきあひ(名) 引合 (一)商家ノ語。賣買ノ取組。(二)マキゾヘ。連累 小町踊(寛文、立圃)「ネガラミハ、引合公事カ、姫小松」 (三)引證。又、引合人トナルコト。 牧民金鑑、十一、寶曆十四年詮議二十四番「遠國奉行掛り吟味引合ひ候武家家來取計ラヒ」 張紙留、天明四辰年閏正月十八日「檜門方領分之者、諸吟味引合取計、云云」

ひきあひにん(名) 引合人 訴訟ノ關係者トシテ、法廷ニ呼ビ出サレ、事實ノ理非ヲ判決スル材料ニ供セラルル人。 法曹後鑑「本人ハ壹人ニ而モ、引合人數多之節ハ、取調ベ認方モ手間取り候フ」

ひきあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 引合 (一)商家ノ語。賣買ヲ取組ム。(二)又、賣買シテ利アリ。割ニ合フ 浮世風呂、文化、三、四「上方ハ都ガ恋イト、休ミカ勝ナマスカラネ、ヤッパリ引合ひマセン」 (三)援ケ合フ。 太平記、三十七、畠山入道道誓謀叛事「援ハ、葛山ト引合ひテ、畠山御方ヲ討タントスルモノナリト心得テ、共ニ心ヲ置キ合ヒケレバ」

ひきあみ(名) 引網 ぢあみ(地網)ニ同ジ 曾丹集「ミホノ浦ノ、ひきあみノ綱ノ、タグレドモ、長キハ春ノ、一日ナリケリ」 夫木抄、三十二、網「住吉ノ、神ノクシキ、タメシニテ、ひきあみノ日ノ、數シラヌマニ」

ひきいた(名) 引板 又、ひきた。ひた(引板)ノ條ヲ見ヨ 下學集、下、器財門「引板、ヒキイタ、鳴子之類也、驚鳥獸也」

ひきいだ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 引出

(一)ヒキテ、外へ出ス。ヒキダス。 盛衰記、六「二人ノ者、ウケタマハッテ、門ヨリ引出シ奉リテ、ノ内ニ」 太平記、取合戰事、一人モ不殘、首ヲ刎ネテ、被懸ケリ」 (二)預金ヲ取戻ス (三)賃金ヲ取出ス

〜ひきい・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ(他動、下二) 引出 (一)引キテ出ス。引出ス。 源、二、帚木四十二「御車ひきいでテヨナド云フナリ」 枕草子、六、五十段「宮ノ御子タチトテ引き出でタランニ、ワロクハ侍ラジカシナド、ノタマハスルヲ、云云」 徒然草、百八十五段「盛ハ、ナキ馬ナリケリ、ノ引き出でサセケルニ」 (二)引用ノタメ取出ス。 源、一、桐壺三「人ノモテナヤミグサニナリテ、楊貴妃ノタメシモひきいでツヘウナリユクニ、云云」 玉葉集、三、夏「谷深キ、岩根ノアヤメ、君ガタメ、長キタメシヲ、引きいでツルカナ」 (三)ヒキデモノトシテ、贈ル 落窪物語、二「コレハ女ノ、カクマメナル物ヲ引き出でケルト、チリヲムスブ心バカリノワサトニ聞エテ侍ルハ、云云」

〜ひきいでもの(名) 引出物 ひきでもの(引出物)ニ同ジ 宇津保物語、吹上、下「ひきいでものハ、侍從ニサマザマノブチウマノ、タケ八寸ハカリ、年六ツ許ナル許リ四ツ、云云」 同、同九三十「カカルホドニ、オクリモノ、ひきいでもの、設ケタル數ノゴト奉リタマフ」

ひきい・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 引入 (一)引キ退ク ヒキコム 源、五、若紫廿「我カ車ニ乘セ奉リ給ヒテ、身ヅカラハひきいりテ座レリ、モテカシヅキ聞エ給ヘル御心バヘノアハレナルヲゾ、サスガニ心グルシクオモホシケル」 (二)カクレ忍ブ。ヒキコモル 源、三十八、夕霧五十「モノノアハレヲモ、ヲカシキ事ヲモ、見知ラヌサマニ引き入り、シヅミナドスレバ、何ニツケテカ、世ニ經ルハエパエシサモ、常ナキ世ノ徒然ヲモ慰ムベキゾハ」 榮花物語、十三、木綿四手「女房ナドノ出デ入リモナク、ひきいりタル御アリサマモ口ヲシウゾ」 (三)心ニ入ル。深入リスル 更級

日記「コマヤカニ云ヒ出デテ、サスガニキヒシウ、ひきいり難キ節節アリテ、我モ人モ茗ヘナドスルヲ」 (四)息絶ユ。ヒキトル。十訓抄、中、可レ存ニ[illegible]「[illegible]ケリ」

ひき・い・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(他動、下二) 引入 (一)[ヒキテ内ヘ入ル。源、二、帚[illegible] (二)[illegible] 八、初花「御烏帽子引き入れテ、臥シタマヘリ」

ひき・いれ (名) 引入 (一)[昔、元服ノ時ニ、冠ヲ被ラスル人。烏帽子親ノ類。源、一、桐壺「ひきいれノ大臣ノミコバラニ、タダヒトリカシヅキ給フ御ムスメ、春宮ヨリモ御氣色アルヲ、オボシワヅラフコトアリケルハ、コノ君ニ奉ランノ御心ナリケリ」 榮花物語、八、初花、一「タヅ君、十二許リニナリ給フ、今年ノ冬、枇杷殿ニテ、御冠セサセ給フ、ひきいれニハ、閑院ノ内大臣ゾオハシマシケル」 (二)挽物ノ合子(ガフシ)。皿(ケイレ)ノ類。約メテ、ひきれ。或ハ、云フ、細入ノ義セルモノカト。[illegible] ひきいれ[illegible] 飯ヲバ、屋ノ上ニウチアケ候ベキカ、カハラケニトリ候ベキカ、我ひきいれノ皿ニ取リ候フベキカ」

ひきいれ・えぼし (名) 引入烏帽子 烏帽子ヲ、髻緒ヲカケズシテ、頭ニ引入レ被ルヨリ云フ稱。[illegible]六、[illegible] 花田ノヒトヘカリ衣、アノハリマキテ、ひきいれ烏帽子シタル[illegible]ハセキタレアリ」

〔ひきいれ・ごゑ (名) 引入聲 氣息(イキ)ヲ引入ルルヤウニ、幽ニ云フ聲。又、ソノヤウナル聲ニテ、モノ云フコト。枕草子、二、第[illegible] ひきいれ聲シテ、戯ダチタル」 春曙抄「源氏帚木ニ、イキノ下ニ引きいれト云フニ同ジ」

ひき・いろ (名) 引色 [illegible]ノサマ。引キ退カムトスル樣子。 太平記、七、先帝船上山行幸事「サンヌル二月ノ初メヨリ、攻メ戰ヒ候ト雖モ、[illegible]引色ニ[illegible]」

ひき・きう (名) 貔貅 [illegible]「[illegible]」 古ヘ、之ヲ馴シテ、戰爭ニ用ヰシト云フ。轉ジテ、勇敢ナル兵士ニ喩フル語。又、其獸ヲ畫キタル軍旗。[illegible]

びきう (名) 彌久 久シキ間ニワタルコト。[illegible]

ひき・う・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 引受 (一)受ケテ、己レガ負フベキ務トス。自己ノ責任トス。ヒキウケル (二)[illegible]受持ツ。負擔ス。(三)[illegible]身許保證ニ立ツ。

ひき・うけ (名) 引受 (一)受ケテ、己レガ負フベキ務トスルコト。自己ノ責任トスルコト。受持。擔當。(二)[illegible]身元保證ニ立ツコト。(三)商法上ニテ、社債募集ノ請負、社團加入ノ意志表示ナドヲ云フ。又、手形ノ支拂ガ、手形ノ支拂ヲナスベキ義務ヲ負擔スル意志表示ヲ、其手形ニ記入スルコト。

∴**ひき・う・ける** (動) 引受 前前條ノ語ノ口語。

ひき・うす (名) 引臼 石ニテ造レル臼。[illegible]シウス。磨臼(スリウス)ニ似テ、徑一尺許リ。下座ノ定石ヲしたうすト云フ、(碾)上面ニ刻ミアリ、中央ニ[illegible]ト云ヒ、上座ノ[illegible]ト云フ、(碾)其下面ニ刻ミアリ、中央ノ凹處ニ[illegible]うはうすノ上面ニ穴[illegible]、コレヨリ穀物ヲ入レ、柄ヲ取リテ廻ラセバ、穀、上下ノ石ノ間ノ刻ミニテ碾カレテ、粉トナリテ、周圍ヨリ出ヅ。

ひき・うど (名) 侏儒 ひきびと(低人)ノ音便。[illegible] 宇治拾遺[illegible]、ひきうどニイカメシク、力強ク見ハヤク」

ひき・うま (名) 引馬 古ヘ、貴人若クハ、諸侯ナドノ外出ノ際、其行列ニ、裝飾トシテ、鞍、覆ヲカケテ、引キ連レタル馬。[illegible]

ひき・おこし (名) 引起 唇形科ノ多年生草本。山野ニ自生ス。莖ハ方形。シテ、毛茸アリ、高サ二三尺ニ至リ、葉ハ對生ニシテ、緣ニ鈍鋸齒ヲ有シ、花ハ小形ノ五瓣ニシテ、淡紫色、秋ノ頃ニ開ク。ヤマハクカ。延命草。 大和本草、九、雜草「[illegible]」[illegible]

ひき・おとし (名) 引落 (一)ヒキオトスコト。(二)相撲ノ手ノ一。烈シク押シ來ル敵ノ左ノ二ノ腕ヲ、我ガ右手ニテ押ヘ、體ヲ右ニ開キ、左手ニテ、敵ノ左手ノ手首ヲ捉ヘ、捻ル如ク、引キスエテ、敵ヲ前ヘノメラセテ倒スコト。タタキコミ。

ひき・おと・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 引落 引キテ落トス。引キオロス。

ひき・おひ (名) 引負 商家ニ、番頭、手代ナドノ、主人ニ代リテ、其物ヲ他ニ賣リ込ミ、代金ヲ[illegible] 出ルカラハ、七十兩モ役奴盗ミニ極ッタ」

〔ひき・おび (名) 引帶 袍、直衣、等ニ用ヰル小サキ帶。褶帶ノ變ジタルモノナラム。又、[illegible] キコシ。後ノかけおび(掛帶)ハ、コノ遺ナリトゾ。[illegible] 名義抄「袷帶、ヒキオビ」 雅亮裝束抄[illegible]「忘れ緒ノ引帶ヲバ、ウシロバカリニアテテ、前ヲバハヅシ[illegible]、端ニハコメズ」 [illegible]ダノ、タヘノ帶ヲ、引帶ナス、カラ帶ニ取ラシ」

ひき・がき (名) 引柿 柿ノ[illegible]

ひき・か・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 引驅 馬ヲ驅ケ走ラス。[illegible]

〔ひき・か・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 引掛 (一)モノヲ、掛ケテ釣リ下グル。[illegible]

レヌカナ」（二）モノヲ、上ニ引キオホフ。源、四、夕顔「シヒラダツ物、カゴトバカリひきかけテ、カシヅク人侍ルメリ」同、三十五、柏木「白キ衣ドモノ、[illegible]カナルヲ、アマタ[illegible]テ、フスマひきかけテ、[illegible]給ヘリ」

〜ひきかく・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［引隠］ヒキコメ、カクス。源、十、榊五十四「今ゾヤヲラ顔ひきかくしテ、トカクマギラハス」同、四十、幻四「袖ノイタウ泣キ濡ラシ給ヘリケルヲ ひきかくしテ、セメテ紛ラハ[illegible]給ヘリ[illegible]ト、云云」

ひきかく・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［引隠］ヒキコモリ、カクル。

〜ひきかさ・ぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ（他動、下二）［引襲］ヒキテ、オホヒカサヌ。源、九、葵「[illegible]夏ノ御衣ニ、紅ノツヤヤカナレひきかさねテ、ヤツシ給ヘルシモ、見ドモアカヌ心地ゾスル」

ひきかぜ（名）引風　風ヲヒクコト、カゼヒキ。風邪。感冒。「引風ノ妙藥」

〜ひきかづ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［引被］ヒキテ、オホヒカブル。源、九、葵四十六「ノゾキ給ヘバ、イヨイヨ御衣ひきかづきテ、臥シ給ヘリ」讃岐典侍日記「膝高クナシテ、蔭ニカクサセ給ヘバ、我モ單衣ヲ引きかづきテ臥シ聞ケバ」

〜ひきかなぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）アララカニ、引キノクル。手荒ク、引除ケ棄ツ。源、二、帚木十四「ナミナミノ人ナラバコソ、荒ラカニモ引きかなぐらメ、ソレダニ人ノアマタ知ラレンハ、イカカアラン」

ひきがね（名）［引金］（一）鳥銃ノ火門ニアル仕掛。打金ヲ懸ケテ上ゲオキ、引ケバ落チテ火發ス。撥軌　國性爺後日合戰（正徳、近松作）二「鐵砲ノ引きがね」（二）銃ノ裝底部ニアリテ、指ニテ引キ、雷管ヲ衝キ撃セシメテ發火セシムル梃子仕掛ノ具。

ひきがね（名）［引鉦］軍勢ヲ引キ上グル時ニ打鳴ラス鉦。（おしだいこ、せめつづみナドニ對ス）又、陣鉦。

ひきか・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［引替］（一）物ト物トヲ取リ替フ。ヒキカヘル。交換（二）全ク反對トナス。アベコベニナス。反　源、四十七、早蕨九十「山里ノケハヒ引きかへテ、ミスノ内、心憎ク住ミナシ」金葉集、二、夏「菖蒲草、ワガ身ノウキニ（ヲイ）、引きかへテ、ナベテナラヌニ、生ヒモ出デナン」新古今集、十六、雜、上「引きかへテ、野邊ノ景色ハ、見エシカト、昔ヲ[illegible]フル、松ハナカリキ」「夫レニひきかへ」

ひきかへ（名）［引替］ヒキカフルコト。取リカフルコト　交換　狭衣、一、上四「女車、牛ノひきかへナドシテ、還キ所ニ歸ル」

ひきかへし（名）［引返］（一）ヒキカヘスコト。モドスコト。復　源、五、夕顔十「六條ワタリニモ、トケガタカリシ御氣色ヲ、オモムケキコエ給テ後、ひきかへしナノメナランハ、イトホシカシ」濱松中納言物語「ひきかへしケサヤカニハナレソムキ聞エサセンモ」（二）次條ノ語ノ略。芝居ニテ、一幕ノ演技ノ内ニ、暫シ幕ヲ引キ、直ニ引キカヘシテ、又、殘部ヲ演ズルコト。道具立ヲ變ズルタメナドニスルコトナリ。カヘシマク。（三）婦人ノ盛裝ノ衣服ニテ、綿入レ、又ハ、袷ノ裙廻シニ、表ト同ジ切地ヲ用キルコト。ヒッカヘシ。

ひきかへしまく（名）［引返幕］略シテ、ひきかへし。前條ノ語ノ（二）ニ同ジ。

ひきかへ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［引返］（一）モドス。カヘス。ヒッカヘス。繰返ス。復　反復　夫木抄、卅二「タチ難キ、思ヒノ綱モ、ツナガレテ、ひきかへさるル、コトゾ悲シキ」新後拾遺集、十二、戀、二「イツハリノ、言ノ葉シゲキ、玉章ニ、ひきかへ[illegible]テモ、[illegible]ミツルカナ」源、九、葵「[illegible]ひきかへし、ツブツブト宣ヒシコトドモモ、思シ出ヅルニ心憂ケレバ」（二）モトヘモドス。後ヘカヘス。保元物語、二、「[illegible]向ヒタル者ガ、敵陣強シトテ引返す樣ヤアルベキ、[illegible]ヤ者共トテ」平治物語、一、「[illegible]都ヲサシテ引[illegible]す」

※ひきかへ・る（動）［引替］ひきかふ（引替）ノ口語。其條ヲ見ヨ。

ひきがへる（名）［蟾蜍］ひき（蟇）ニ同ジ。和玉篇「蟾蜍、ヒキカヘル」續紀、三十八、延暦三年五月「蝦蟆[illegible]、長可四分、其色[illegible]斑、從[illegible]南道、南行池列可[illegible]町、隨[illegible]南行、入[illegible]四天王寺内、至[illegible]於午時、皆悉散去」今物語「僧官[illegible]、云云、法眼ヲ望ミ申シテ、法ノ橋、許ニ年フル、ひきがへる、今ヒトアガリ、飛ビアガラバヤ、ト申シタリ、サレバヤガテ、（法眼ニ）ナサレタリ」

ひきき（名）［引木］磨臼ヲ挽キ旋ラスタメノ木。木肘　謠曲、放下僧「茶臼ハひききニモマルル、云云、コキリコハ放下ニ揉マルル」

ひききり（名）［引切］釜ノ蓋ヲ載セ置ク竹筒。徑二寸許リ、長サ二寸餘ノモノ。フタオキ。雍州府志（貞享、黑川道祐）七、土産門、竹屋「倭俗、圓竹徑二寸許、長二寸許、存節切之、[illegible]、安[illegible]釜蓋於竹頭、是謂[illegible]引切[illegible]以鋸引[illegible]切之之謂也、或稱[illegible]竹輪、又謂[illegible]蓋置[illegible]」松屋筆記、百五「槐記、五、享保十二年十月廿一日ノ條ニ、蓋置ニ、三ツノ名ト云フノコトアリ、云云、釜ノ蓋ノ引切ニオク名ト、茶碗ヲフタタミニオク名ト、茶杓ニテ茶碗ノフチヲタタク名ト、コレ三ツノ音也」

〜ひききりに（副）［引切］物事ニイラダツ狀ニ云フ語。セッカチナルサマ。性急ニ　源、三十八、夕霧七十「イト急ニ物シタマフ本性ナリ、コノオトドモ、ハタ、オトナオトナシウ、ノドメタル所サスガニナク、イト引ききりに、花ヤイ給ヘル人人ニテ」同、同、六十七「女ノ、斯クひききりなる[illegible]」

ひきき・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［挽切］鋸ナドニテ、挽キテ切ル

ひきき・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［引切］引キテ切ル。ヒッパッテ切ル。宇治拾遺、二、第十六條「[illegible]、刀ニテ切リタルヤウニ、引き[illegible]切リテケリ」

〜ひきぐ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ［引具］ぐす（具）ニ同ジ。竹取物語「中將、人人ひきぐシテ歸リマヰリテ」源、九、葵六十「還キ岡ヨリ、メコヲひき具シツツマウテ來ナルヲ」更級日記「我ガ身一ツナラバ安ラカナラマシヲ、トコロセウ引きぐシテ、云ハマホシキ事モ云ハズ」

ひきぐすり（名）［引藥］膚ニ延キ塗ル藥。ヌリグスリ。塗抹劑。

ひきく・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［引組］引キ寄セテ、組付ク。盛衰記、三十四、佐佐木[illegible]「河端ニテモ河中ニテモ、引組テ落[illegible]、勝負ヲ決スベシト、申定メテ出デニケリ」

ひきくる・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［引括］一處ニ統ブ。マトム。包括

ひきこ（名）［挽子］車宿ニ抱ヘ置ク車夫。

ひきこ（名）［熟蠶］十分ニ發育シテ、身體ノ透明トナリ、繭ヲ作ル時期ニ達シタル蠶。ジュクサン。

ひきこか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）ヒキコロガス　[illegible]記、[illegible]「[illegible]ソリャ引きこかした、サア勝タゾ勝タゾ」

ひきこし（名）［引越］ヒキコスコト。ヤウツリ　轉宅　移轉　移徙　音便ニ、ひっこし。轉居　皇都午睡（嘉永）三編、上「借家ノ分ニハ、宿替ヘ、轉宅ヲ、江戸ニテハ引越ト云フ」

ひきこし（名）［引腰］ヒキオビ。古ヘ、婦人ノ正裝ノ時、裳ノ後ニ引ク紐。玉

[illegible]八、[illegible]

ひきお・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 引越 (一)他ヲ越シテ引キ上グ。 榮花物語、四、見はてぬ夢「山ノ井ノ中納言ニテオハスルニ、コチ[illegible]」[illegible]

ひきおこ [illegible]

ひきおみ (名) 引込 (一)ヒキコムコ[illegible]他ノ事ヲ引キテ、證トシ譬トシテ、俳ハ[illegible]出典[illegible]ト、[illegible]ニヒキコミ[illegible]カブロ[illegible]下ノ出典ヲ見ヨ。 客衆肝膽鏡(天明)「引込、カブロ十四五ヨリ[illegible]シ」 (三)ヒキコミ新造ノ稱。下ノ出典ヲ見ヨ。 川柳吉原志(大正拾)「引込新造ト云フノハ、[illegible]タ、[illegible]ノ新造[illegible]外發) 寛政の川柳「新造ニ、ナルマデ三度、名ガ變リ[illegible]」

ひきおみしあん (名) 引込思案 [illegible]ニ、ひきおみあん、[illegible]果敢ナキ考スベテ、シリゴミスル思案。又、引籠リテ考フルコト。物事ヲヒカヘメニスルコト [illegible]

ひきお・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 引込 (一)退ク。退 (二)家ニ籠ル。閉居 (三)隱退ス。甲陽軍鑑、六、品第十四「遊子共ニ別レン[illegible]

病ヲ[illegible]ヘ」 (四)サガリテ低クナル。窪ム。

ひきお・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) 引込 (一)ヒキコマス。 (二)他ノモノヲ、[illegible]ヒ入ラシム。

ひきお・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 引込 [illegible]ニ同ジ。 [illegible]「ヒトリひきおめ侍ランモ、人ノ御心タガヒ侍ルベケレバ、御ランゼサセテコソハト、キコユレバ」同、四十四、橋姫「カノワタリハ、カクイトモ埋レタ[illegible]ヤムヘキケハヒニモ侍ラネバ[illegible]」

ひきおも・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 引籠 〔ひきハ、接頭語〕おもる(籠)ト云フニ同ジ。カキコモル。[illegible]

ひきごゑ (名) 低聲 聲ノヒクキコト。又、低キ聲。コゴエ。テイセイ。

ひきさが・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 引下 さがる(下)ト云フニ同ジ。 とりかへばや物語「カンノ君ハ、スコシ引きさがりテ、云云」

ひきさ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 引裂 引キ張リテ裂ク。ヒキテヤブル。ヒキヤル。ツンザク。音便ニ、ひっさく。

ひきさ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下二) 提引下 取リテ持ツ。下ゲテ持ツ。ヒッサグ。 源、五、若紫「ヨベ[illegible]御ゾトモ、ひきさげテ」 枕草子、五、四十七段「ナガビツモタル者、鋤ナド引きさげテ、只掘リニ掘リテイヌルコソ、ワビシウ[illegible]シカリケレ」

ひきざくら (名) 蕪夷 〔低櫻ノ義〕モ[illegible]ノにがにれ。 [illegible]名抄、廿[illegible]比木佐久良」 [illegible]名、也[illegible]

ひきざん (名) 引算 算術ノ[illegible]若干ノ

數ノ中ヨリ、若干ノ[illegible]ト。減法。減算

ひきざらへ (名) [illegible] [illegible]ノ一種ニテ、[illegible]タルモノ。さらひ(木杷)ノ條ヲ參見セヨ[illegible]

ひき・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 低 ひくし(低)ニ同ジ。 字類抄「短、ヒキキナリ」 沙石集、一、上、第三條「ひきき人ノタケ比ベハ、ひききヲ勝トスルガ如シ」 源、十、賢木「ミスベカリハひきくテ、ナゲシニ[illegible]カカリテ」[illegible]タル人ノ、マジリ(皆)イタウひきく、顏モココハト見エル所[illegible]」[illegible]タケひきかり ケル男」 史記抄(文明)八「山ガひきうチイサウテ」 同、十六「朱儒デ、セイハひきいホドニゾ」 醒睡笑(元和、安[illegible])「ア、[illegible]カタカイ、ひきうひきう」

ひきしじ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 引縮 [illegible]ト云フニ同ジ。 [illegible]廿九、御幸「シタシキ程ニハ、其[illegible]ヒノモひきしじめ給ヒテコソハ、トブラヒ物シ給ハメトナン、恨メシキ折折ハベルト聞エ給ヘバ」 同、五十、浮舟「コヱひきしじめ、カシコマリテ[illegible]リシケルヲ」

ひきしたた・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) [illegible]したたむト云フニ同ジ

ひきしの・ぶ・ブ・ヘ・バ・ビ・ヘ(自動、四) 引忍 しのぶ(忍)ト云フニ同ジ [illegible]九、[illegible]キ人人、イデヤオノガドチ、ひきしのびテ見侍ランコソ、映ナカルベケレ」

ひきしほ (名) 引汐 〔あげしほニ對ス〕潮ノ沖ヘ引去ルコト。イリシホ。ヒシホ。退潮 うしほ(潮)ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]滿潮、引潮諍ヒテ、溜レドモ溜レドモ見エザリケリ」

ひきしぼ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 引絞 [illegible]引ノ弦ヲ、引キ張リ得ルダケ引キ張ル、[illegible]云云、神、討手ノ大將ハ、誰ト申ス人ノ向ハレテ候ヤラン、近ヅイテ名一ツ請ケテ御覽候ヘトイフ儘ニ、[illegible] ひきしぼりテ、手ゴタヘ高ク、ハタト射ル」

ひきしやう (名) 火起請 古ヘ、火ヲ踏ミテ邪正ヲ定メタル起請。邪ナル者ハ火傷スルモノトセリ。[illegible]下諸[illegible]ト云ハ、鐵ヲ火ニシテ、是ヲ掌ヘ受ルナリ」[illegible]

ひきしら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 引合 ひきしろふ(引合)ニ同ジ。

ひきしりぞ・く・ク・[illegible]・ケ(自動、四) 引退 ヒキテノク。ヒキサル。シリゾク。[illegible]二、白河[illegible]セテ引退けバ、最重勝ツニ乘ッテゾ懸ケ入リケル」

ひきしりぞ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 引[illegible] 保元物語、二、白河殿攻落事「イザサラバ大將ニ、矢風負ハセテ引退けント思フハ如何ニ、ト宣ヘバ」

ひきしろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 引合 〔しろふハ爭フナリ、いひしろふナドモ云フ、其條、參見セヨ〕互ニ引張ル。引[illegible]

「蹴、ヒキシラフ、ナブル、ナヤマス」易林節用集(慶長)下、言辭門「挑撥、ヒキシロフ」 源、七、紅葉賀「脫ガジト爭フヲ、トカク引きしろふ程ニ」同、三十八、夕霧「御文ハ引キカクシタマヘレバ、云云、チヒサキ乳兒ニヒカカリひきしろへバ」 史記抄(文明)十七「禍ガ五世マデツタワリテ、ひきしろうタゾ」

〔ひきす・う ワル・ウレ・ヱ・ヱ・ヱヨ(他動、下二) 引据 すう(据)ニ同ジ。 源、四、夕顏「見カハリ給ヒテ、端ノ間ノ勾欄ニ、シバシ引きすゑ給ヘリ」 讃岐典侍日記「御手ヲトラ人タチひきすゑテ、二ノ間ニ出ダセラレシカバ」

〔ひきすま・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 彈澄 十分興ニ入リテ、彈ク。餘念ナク彈ク。 源、十三、明石「箏ノ琴 陵トイフ手ヲ、アルカギリひきすまし給ヘルニ」(古板本)

ひきずみ (名) 引墨 (一)書狀ノ封ジ目ナドニ、墨ヲ引クコト。〆ヲ書クコト。 北山抄「封字ノカハリニ、近代ハ忽引墨」 菟玖波集、十九「墨ヲ引クカト、見ユル黑カミ 思フ筋、書キヤル文ノ、結ビメニ」 三中口傳「引墨謂封也、但非二祕蔵事一不レ書、封シテ引墨也」 (二)眉ヲ剃リタルアトニ、墨ヲ引クコト。 薩摩歌(寶永、近松作)源五兵衞おまん夢分船「アアアレ、アレアレ眉ノ引墨、ベニ落チテ、髮ハバラバラ油和布ニ」

ひきずり (名) 引摺 (一)ヒキズルコト。(二)ひきずりもの(引摺者)ノ略。不精ナル婦人ヲ罵リテ云フ語。 浮世風呂、文化、三編、上「カカア殿ハ、其座中デ評判ノ引きずりヨ」 ひきずり餅トハ、餅屋ヨリ臼、杵、釜、蒸籠ナドヲ商家ナドニ運ビ來リテ、店前ニテ正月ノ餅ヲ搗クモノ。 文化の川柳「女房ノ、ひきずり亭主、餅ニツキ」

ひきずり・せった (名) 引摺雪駄 雪駄ヲ引摺ルヤウニ歩ムコト 好色具合(貞享)「例ノ据エ腰ノイタリ歩ミ、クリダシノひきずり雪駄」 [illegible] 嬉シヤ雪モアガ タソ ウナ、近所ノ德ハ引ずりデ軒傳ヒ」

ひきすり・バオリ (名) 引摺羽織 羽織ノ丈長ク、衣ノ裾ニ及ブモノ。

ひきずりもの (名) 引摺者 〔衣服ノ裾ヲ、引きずり居ル意〕略シテ、ひきずり。自墮落ノ女房ノ異名。オヒキズリ。 東海道[illegible](元祿[illegible])[illegible]ニ嘗ニスルモ、ひきすりメガ失セテカラ、所帶ニ性根モ入レズ」

ひきず・る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 引摺 垂レテ地ヲ摺ル。「裳カひきずる」

ひきず・る ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 引摺 長ク地ヲ摺ッテ曳キテ行ク 〔ひきしろふノ轉〕 好色一代男(天和、西鶴)二「何モナク大欠伸シテ、跡ヨリ竹杖ヲひきずるハ、トガメル犬ノ爲ゾカシ」「裾ヲ引きずる」重キ物ヲ引きずる」

ひきそば・む ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 引側 引キテ側ニ寄ス。 菩提集、九、武者「チヒサキ太刀ヲひきそばめテ、持チタリケルヲ拔キテ、トビザマニ碁盤ノ角ヲ、五六寸斗ヲカケテ、トドコホリナク、キッテ入ニケリ」

〔ひきそ・ふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 引添 引キテ添ヘ加フ。 萬葉集、十六「大船ニ、小船引きそヘ、カヅクトモ、志賀ノアラ雄ヲ、カヅキアハムヤモ」 續後拾遺集、十五、雜、上「末遠キ、子ノ日ノ松ニ、引きそヘテ、若葉モ千世ノ、春ヤ摘ムベキ」

ひきぞへ (名) 引副 引副馬ノ略。馬ヲ進物ナドニスル時、鞍置キタルニ副ヘテ引キ行ク裸馬。 [illegible]年中行事「管領被官武州守護代、子或ヒハ弟、或ヒハ兄弟等、御中將ノ立砂ノ前ニ、御馬御鞍ヲ置キテ引立、同引副ハ裸馬也」

ひきぞめ (名) 彈初 新年ニ、初メテ、琴、三味線ナドヲ彈キ試ミルコト。

〔ひきた (名) 引板 〔ひきいたノ約〕鳥威シノ鳴子。オドロカシ。ヒタ。 萬葉集、八「衣手ニ、水澁ツクマデ、植エシ田ヲ、引板我レ延ヘ、守レル苦シ」 拾遺一得、一「山里ニハ引板ヲ用テ山獸ヲ妨グ、鳴ル子ニテハ、鳥ハ鷺ケレド、野猪ナドハ怖ヌユヘナリ」

〔ひきたが・ふ フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 引違 たがふ(違)ト云フニ同ジ。 源、二、帚木「久シクホド經テ渡リ給ヘルニ、方塞ゲニひきたがヘ、ホカサマヘト思サンハ、イトホシナルベシ」

ひきだし (名) 引出 (一)引キテ出スコト。(二)簞笥、机ナドニ、入籠ニ作レル匣ノ、横ニ拔キサシスベキモノ。抽匣。抽斗。 卯月潤色(寶永、近松作)[illegible]「タトヘ此度ナガラヘテモ、重ネ簞笥ノ引き出しノ、一重足ラヌ如クニテ、才鑑ナケレバ甲斐モナシ」

ひきだ・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 引出 (一)ひきいだす(引出)ニ同ジ。 平家物語、二、西光被レ切事「事ノ仔細ヲ尋ネ問ヒ、其ノ後、河原ヘ引出シテ、頭ヲ刎ネヨ」 (二)預金ヲ取リモドス。(三)資金ナドヲ取出ス。

ひきた・つ ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) 引立 發ル。勇マシクナル。榮エ、淡ハル。ヒノタツ。 銳發 新六帖、六「仙山ノ、アサ木ノ柱、フシ繁ミ、ひきたつヘクモ、ナキ我ガ身カナ」「氣力、引き立つ」景氣、引き立つ」

ひきた・つ ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(自動、下二) 引立 怖ヂ畏レテ、浮足トナル。シリゾキハジム。浮足タツ。 平治物語、二、待賢門軍事「引き立てタル勢ナレバ、馬ノ足ヲ立テカネテ、大宮ヲ下リニ、二條ヲ東ヘ引キケレバ」

ひきた・つ ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 引立 (一)引キテ立ツル。起ス。 更級日記「船ニ車カキ据エ渡シテ、アナタノ岸ニ車ひきたてテ、送リニ來ツル人人、コレヨリ皆歸リヌ」 平治物語、二、待賢門[illegible]、左右ノ[illegible]ヲサシテ、打烏帽子ひき立てテ、大床ニカシコマル」 盛衰記、一、五節夜闘打事「ウツブシニ伏シタリケル間、誰人ゾトテ引起給ヒタレバ、ワナナクワナナク弱弱シキ聲ニ[illegible]」 (二)勇マシム。 [illegible]引き立つ」 (三)擧ゲ用キル。力ヲ添ヘテ扶ク。 登庸 菩提集、一、神祇「中原師方、云云、重代ケイゴノモノナリケレドモ、引きたつる人モナカリケルニ」 謠曲物語、四「國ノ主ヨクナシタリケレバ、ひきたてヨクテ、ヤカテ[illegible]ニナシツ」 (四)捕ヘ起シテ、引キ連レ行ク。 拘引

ひきたて (名) 引立 ヒキタツルコト ヒキオコスコト。

ひきたて・えぼし (名) 引立烏帽子 もみえぼし(揉烏帽子)ノ條ヲ見ヨ。 盛長記、三十二、法皇自天台山還御事「行家ハ着物ノ紺ノ直垂ニ、同ジ毛ノ鎧、引立烏帽子ヲ着ケテ」 吾妻鏡、三、壽永三年三月廿八日「丁巳、被レ謁二本三位中將(〇〇直垂、引立烏帽子)於廊、令レ謁給」

ひきたふし (名) 引倒 ヒキタフスコト。 會我會稽山(享保、近松作)二「カタムクロニ信長ヲ引ク、波ハ枯屑ノ引き倒し、文武二道ノ弓取トテ、強イ許リカ武士デナイ」

ひきたふ・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 引倒 引キテ倒ス。ヒキコカス。ヒキコロガス。ヒノコロバス。 狂言記、富士松「小家ノ一軒ヤ二軒ハ、引き倒しテ退ケマセウ」

ひきだめ (名) 挽溜 末茶ヲ茶臼ニテ挽キタルヲ、移シオクモノ。大海ナドト云フアリ。今、多ク錫製ノ中次ヲ用キル。

ひきたら・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 引垂 引キテ垂ラス。音便ニ、ひつたらす。

ひきちがひ (名) 引違 紋所ノ名。二本ノ畫ノ、引違ヒタルモノ、

ひきちが・ふ フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 引違 違フヤウニス 打チ違ヒニス

字[illegible]

[illegible]

ト、頼リニ么ノ紛ヲ、引違ヘ引違ヘゾシ給ヒケル」十訓抄、中、第六、第三十四條「西ノ陣ヨリ出ダセト[illegible]」[illegible]記、三、宗祇諸事「大力ノ律師ノアリケルガ、袴衫ノ袖ヲ結ンデ引違ヘ、云云、大盤石ヲ軽軽ト脇ニ挾ミ」

ひきちゃ (名) |碾茶| 一[illegible]テ[illegible]モノ、[illegible]熱湯ニ投[illegible]飲ム。又、[illegible]チラシ。碾茶ト濃茶トノ別アリ。年數ヲ歴タル[illegible]時地ノ茶樹ヲ[illegible]ヒ、濃茶ハ、肥ヲ一年ニ十度、薄茶ハ、五六度與ヘ、[illegible]ニテ[illegible]ヒ、霜ヲ防ギ、立夏ノ[illegible]、新芽ノ未開ナルヲ、三葉掛ケテ摘ミ、蒸シテ、焙爐ノ[illegible]氣ナキ厚紙ニ載セ、手ニテ揉[illegible]ズ、[illegible]ゼ、乾キタルヲ[illegible]上ゲ、[illegible]ヲ[illegible]シテ作ル。コレヲ貯ヘ、時[illegible]用ヰル。ひきちゃ(茶)ノ條、見合ハスベシ。卯月潤色(寶永、近松作)中「私ガヤウナ薄茶ハ、云云、サメ切ッテホクサウテ、香マレマイ、五ニ濃茶ノ初昔」

ひきづ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ (他動、下二) |引出| 〔ひきいづノ略〕 ヒキズリイダス。

ひきつぎ 名 引[illegible] ヒキツ[illegible]ウ ケワタシスルコト。「事務引繼」

ひきつ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) |引付| 口ヲマハスコト。小兒、高熱ヲ發シ、[illegible]癇[illegible]ノ生シタルニ多シ。ヒキツケル。[illegible]

ひきつ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) |引付| 身近クヒキヨス。ヒキツケル。

ひきつ・ぐ・[illegible] (他動、四) 引[illegible] (一)代リノ人ニ渡ス。(二)アトヲ引キウケ繼グ。繼承。承繼

ひきつくろ・ふ・[illegible] (他動、四) |引繕| つくろふ(繕)ノ條ノ(二)ニ同ジ。易林[illegible]ヒキツクロフ、字[illegible][illegible]ライ[illegible]ナシ[illegible]ひきつくろふニ、イミジウ[illegible]マデ、常ヨリモ引きつくろはレタリ」義經記、四、義[illegible]リノ如クナレバ、ひきつくろへトテ、尋常ニコソ出立タレケレ」

ひきつけ (名) |引付| (一)引キ來テ合ハスルコト。(二)先例ヲ記シ置ケル文書、又ハ記錄。又、ソノ引付ニ引キ合ハセテ、事ヲ處分スルコト。 武家名目抄、職名、五、下「モト引付ト云ヘルハ、記錄ノ名ヨリ出デシ名目ナリ、云云、[illegible]ニテハ[illegible]注記シ、其訴ヲ沙汰セル奉行人ノ姓名ヲ傍書シタル記錄ヲ名ヅケ[illegible]、[illegible]引付ト云フ、マタ[illegible]中、[illegible]日ノ[illegible]ヲ記セシ[illegible]モ引付ト云ヘリ、其[illegible]、何[illegible]ニテモアレ、後證トナスベキ事ヲ記錄セシモノヲバ、然云ヒシト[illegible]」[illegible]人[illegible]、被[illegible]引付[illegible]可[illegible]申[illegible]也」 (二)引付衆ノ略。鎌倉、室町幕府ノ職名。評定衆ノ下司ニテ、其[illegible]トシテ、訴訟ヲ[illegible]、庶務ヲ取扱ヒ、[illegible]、政所ニ出デ、時時ノ日記ヲ記シ、例[illegible]ヲ[illegible]留ム。又、コノ引付ニテナス評定ヲ内談トモ[illegible]ス、内ノテコノ衆ヲ、内談衆トモ云ヘリ。吾妻鏡、四十、建長二年九月十日「[illegible]人[illegible]之事、[illegible]守[illegible]式條ハ不レ可レ參差之由、今日被レ篇ニ仰引付幷問注所、政[illegible]」[illegible]追[illegible]中[illegible](文永元年)「寺[illegible]、共以不法也、[illegible]引付[illegible]、早速可[illegible]」 (三)[illegible]病ニ云フ、身體ノ筋肉ノ[illegible]テ痛ムモノ [illegible]

ひきつけがしら (名) |引付頭| 引付衆[illegible]、引付[illegible]、[illegible]建長元年十二月十三日、始テ引付頭ニ」

ひきつけしゅう (名) |引付衆| 又、内談衆。ひきつけ(引付)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。[illegible]」

ひきつ・ける (動) |引付| ひきつく(引付、自、他動)ノ口語。

ひきつづ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 引[illegible] 〔ひきハ接頭語〕 つづく(續)ト云フニ同ジ。宇[illegible]「[illegible]モノキンダチ、ひきつづき出デ給フ」源、九、葵、廿五「殿ノ御アタリ離レ給ハネバ、ミナひきつづき出デ給ヒヌ」

ひきつつ・く・[illegible] (他動、下二) 引[illegible] ヒキツ[illegible]ニナス。源、六、末摘[illegible]「[illegible]、云云、[illegible]、マラウドニモ參リ給ヒテ、ひきつづけタレド、一ツニ參リテ」河海[illegible]、七、[illegible]ルモ[illegible]エモ云ハズ亂レ乘リコボレテ」

ひきつり (名) ヒキツルルコト。[illegible]

ひきつ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) |引攣| 筋肉ツレテ痛ム。

ひきつ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (他動、下二) |引連| (一)つる(連)ト云フニ同ジ。ヒキツレル [illegible]物語、二十二、[illegible]「引き連れテ、歸ルヲ見レバ、梓弓、諸矢ハイトド、嬉シカリケリ」後拾遺集、一、春上「引きつれ[illegible]、今日ハ子ノ日ノ、松ニマタ、イマ千年ヲゾ、ノヘニ出ツル」[illegible]集「引連れ[illegible]、[illegible]人ノ、家マセレバ、[illegible]ウレニクモ、思ホユルカナ」 (二)ひきゐる(率)ニ同ジ。

ひきづ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) |引釣| 物ヲ引キ張ル。ヒコノラフ

ひきつ・れる (動) |引連| ひきつる(引連)及、ひきつる(引攣)ノ口語。

ひきつゑ (名) 引[illegible] [illegible]又、[illegible]引[illegible]三、第十六話「[illegible]ヲバ取置テ、侍共ミナ與杖シテ、祭[illegible]ノ[illegible]」

ひきて (名) 引手 (一)[illegible]戶、[illegible]、[illegible]、障子ナドノ開閉ニ、手ヲ掛クル處。[illegible]ナドヲツク。鋪首。倭名抄、十、[illegible]戶具「鋪首、[illegible]」[illegible]「戶引手金、二勾(徑三寸六分)」萬葉集、[illegible]トモナシ」 (二)導ク人。誘フ人。

ひきて (名) |彈手| 琴、三味線ナドヲ彈ク人。又、其技ニ巧ナル人。好色一代男(天和、西鶴)四「挾箱ヨリ總箏ノ黑檀、六筋懸ヲ取出シ、[illegible]、云ヘバ、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、サリトテハ[illegible]、云云」

ひきでもの (名) |引出物| 祝宴、饗應ノ終ナドニ、主人ヨリ客ヘ出ス贈物。モト馬ヲ引キ出シ、贈レル[illegible]、諸物ニ通ジ、云云、略シテ、ひきキイデモノ。カヅケモノ。祿。ハナ。祝儀 [illegible]「御遊ビアリテ、引出物、祿ドモナド、二ナシ」[illegible]出シ、箱王ニコソ取ラセケレ」

ひきと (名) |低人| 〔ひきびとノ略〕 ひ

きびと(低人)ノ條ヲ見ヨ。 天武紀、下、四年[illegible]男女、伎、百姓(ヒャクセイ)」

ひきど (名) 引戸 敷居、鴨居ノ溝ニハメテ、左右ヘ引キ交ヘテ開閉スベク作レル戸。遣戸。開戸ニ對ス。

ひきどかね (名) 引戸[illegible] 出入口ノ戸ノ引戸トナリテ、錠ナドヲ掛ルトコロ[illegible]、京四ツ路[illegible]ハ引戸ニシタルモアレド、稀ニテ、垂レヲ專トス」

ひきとき (名) 引解 ワタヌキノ衣 ト キワケゴロモ ヒトキ、

ひきと・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 引解 引キテホドク。引キテ、結ビ目ナドヲ離ス。 源、七、紅葉賀卅「サラバ諸共ニコソトテ、中將ノ帶ヲひきときテ、ヌカセ給ヘバ、ヌガジトシ給フヲ」 紫式部日記「アル時ハ、ワリナキワザシカケ奉リ給ヘルヲ、御紐ひき解きテ、御几帳ノ後ニテ」

ひきととの・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 彈整 琴、琵琶、三味線ナド、絃樂器ヲ彈キテ、調子ヲ整フ。

ひきとど・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 引止 ヒキテ、トマラス。ヒキトム。 源、二、帚木廿三「木枯ニ、吹キアハスメル、笛ノ音ヲ、ひきとどむべキ、言ノ葉ゾナキ」 萬葉集、廿、長歌「白栲ノ、袖泣キヌラシ、タヅサハリ、別レガテニト、ひきとどめ、慕ヒシモノヲ」 拾遺集、九、雜、下、旋頭歌「梓弓、思ハズニシテ、入リニシヲ、サモネタク、ひきとどめテゾ、フスベカリケル」 宇治拾遺、一、第十五條「童ノ袖頸ヲトリテ、引き留めテ云フヤウ」

ひきとほし (名) 引通 中程ニテ繼(ツ)ガズ、全部ヲ通スコト。

ひきと・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 引留 前前條ノ語ニ同ジ。 源、十二、[illegible]八三十「琴ノ音ニ、ひきとめラルル、綱手縄、タユタフ心、君シルラメヤ」 千載集、十七、雜、中「イカデ我、行ク月ヲ、ひきとめテ、昔ニカヘル、道ヲタヅネン」 新勅撰集、二、春、下「行ク春ノ、霞ノ袖ヲ、ひきとめテ、シヲルバカリヤ、恨ミカケマシ」

ひきと・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 引取 (一)罷(マカ)ル。退キ去ル。退散ス。退ク。 (二)息絶ユ。死ヌ。絶息。 大職冠、正徳、近松作「サラバ、サリタ[illegible]ノ、引き取る息ヤ波ノ泡、終ニハカナクナリニケリ」「息ヲ引き取る」

ひきと・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 引取 (一)自分ノ方ニ受ケ取ル。 世間胸算用、(享保、江島其磧)二「村木屋[illegible]兵衛タメニハ、一人ノ姪、近ヒ比ヨリ手前ヘ引取り養育セラレシカバ」 (二)奪ヒ取ル。 枕草子、三、廿三段「ソバエタル小舍人、ワラハナドニ、ひきとられテ泣クモヲカシ」

ひきなほし (名) 引直衣 引袴(ヒキバカマ)ニ直衣ヲ着ルコト。(襴(ラン)、常ノ袍ヨリハ甚ダ長シ) 肩衣ニ長袴ヲ、長上下ト云フ類 西宮[illegible] 裝束抄、直衣文「天子、云云、御引直衣トテ尋常ニ召之、臣下ニ著レル直衣ナリ」 禁秘御抄、上「恒例毎日次第、於御手水間大床子、理御鬢、着御引直衣、生袴」 貞丈雜記、五、裝束之部「御引直衣、又御下直衣トモ云、天子常ノ御裝束也、其形ハ、常ノ直衣ノ如クニテ、後ノスソ甚ダ長クシテ曳給フ故、御曳直衣ト云」 右京大夫集「中宮ノ御方ヘ、內ノ上渡ラセ給ヘリシ御引直衣ノ姿」 增鏡、第十一、草枕「ウヘ(後宇多天皇)ハ八ニナラセ給ヘバ、イト小サク美シケニテ、ビンヅラ結ヒテ、御引なをし、ウチ御ぞ、張袴[illegible]レ御ケシキ、オトナオトナシウメデタク」

ひきなほ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 引直 ナホシテ、モトノ如クニナス。アラタム。 源、三十四、上、若菜、上卅「ニゲントヒコジロフ程ニ、御簾ノソバ、イトアラハニ引キアゲラレタルヲ、トミニひきなほす人モナシ」 同、廿八、野分「人人打チソヨメキ、御木帳引直しナドス」

ひきなら・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 彈馴 琴、琵琶ナドヲ、彈キ馴ルルヤウニス。彈キテ、馴レシム。 源、十一、槇柱「ワビ給ヒテ、御琴カキ鳴ラシテ、ナツカシウ彈きならし給ヒシ爪音、思ヒ出テラレ給フ」

ひきにく (名) 挽肉 碾肉 牛肉ナドヲ、碾肉機械ニカケテ、挽キ潰(ツブ)シタルモノ。

ひきぬき (名) 引拔 演劇、又ハ、踊ニ、衣裳ニ着キタル相引ノ絲ヲ引キ拔キテ、重ネタル上ノ衣裳ナド脫ギ、俄ニ別裝トナルコト。 八笑人(文化、鯉丈)二編、上「ココガ山(ヤマ)ダ、引拔きデ、上ノ縕(ボロ)ガバラリト落チル、手拭ヲヒ、イト取テ、後ヘ放ルト、綵毛ノミダシデ、保名ノ物狂ト云フ拵ヘダ」

ひきぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 引拔 引キテ、拔ク。 源、七、紅葉賀廿「イミジウ怒レル氣色ニモテナシテ、太刀ヲひきぬけバ、云云」

ひきの・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 引退 ありぞく(退)ト云フニ同ジ

ひきの・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 引退 (一)シリゾカス。サガラシム。 (二)はなす(離)ト云フニ同ジ。 讃岐典侍日記「休マントセ思ヒテ、單衣ヲヒキカヅクヲ御覽ジテ、引きのけサセ給ヘバ」

ひきのば・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 引延 (一)ヒキテ、ナガクス。ヒキノブ。ヒキハフ。 吉野拾遺、下「唯、云云、左右ノ翅ヲひきのばしテ見レバ、七尺餘リアリケリ」 (二)オクルルヤウニナス。延引セシム。

ひきのひたひぐさ (名) 〔蟇額草ノ義カ〕 細辛(サイシン)ノ古名。(其條、及、みらのねぐさノ條ヲ見合ハスベシ) 倭名抄、廿、草類「細辛、[illegible]良乃比太比久佐」 本草和名、上十六「細辛、一名、比岐乃比太比久佐」

ひきの・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ(他動、下二) 引延 前前條ノ(一)ニ同ジ。 源、[illegible]若菜、上七十「日日ニ、物ヲひきのぶるヤウニ、オヨヅケ給フ」(校本ニ據ル)

ひきばかま (名) 引袴 袴ノ背長ク足ニ餘リテ、後ニ引クモノ。後ノ長袴ハ、コレヨリ出デタルナルベシ。

ひきはぎ (名) 引剝 ヒキトリテ、ハグコト。又、其人。オヒハギ。ヒハギ。追落(オヒオトシ)。 今昔物語、廿[illegible]衣ヲ剝ガントシタル男、云云、法師走リ返リテ、房ニ行キテ、御房ハ引剝ニ合ハセ給タリ、御房達、速ニ參リ給ヘト云ヒケレバ」 建武式目「可[illegible]打、夜盜、强盜、所所之[illegible]殺、辻辻之引剝[illegible]」「辻辻ニテ追落シ、引剝スルホドニ、出合出合ト云」

ひきはこ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(他動、下二) カカゲテ、フクラムヤウニナス 枕草子、八、八十一段、うらやましきもの「二十アマリバカリナル女ノ、ツボサウゾクナドニハアラデ、タダひきはこえタルガ」 [illegible]抄「ヨキ人ニハアラフヌサマ也、ヒキアゲタル也」

ひきはだ (名) 蟇皮 (一)蟇皮革(ヒキハダガハ)ノ略。革ニ蟇ノ膚ノ如キ皺文ヲ作レルモノ。シボミカハ。皺文革 名義抄「皺文、ヒキハタ」 民部省式「皺文皮」 (二)蟇皮革ニテ、細ク作レル後鞘(シリザヤ)。旅行ナドニ用キル。

ひきはだがは (名) 蟇皮革 前條ノ語ノ(一)ヲ見ヨ。

ひきはな・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(他動、四) 引放 ヒキトリテ、ハナス。 萬葉集、十二、長歌「取リ持タル、弓彈ノウゴキ、云云、引放(ヒキハナツ)、箭ノシケク」 源、九、葵十「イト堪ヘカタケニ思シテ、御袖モひきはなち給ハズ、見奉ル人人モイト悲シ」

ひきは・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 引延 ひきのばす(引延)ニ同ジ。 新後撰集、三、夏「道ノベノ、山田ノミシメ、引きはへテ、

[illegible]トシテ、[illegible]サラシナノ里」

ひきびき（副）［引引］ヒイキビイキ。オモヒオモヒ。[illegible]十八、[illegible]ひきびきニ、人ハ高瀬ノ、登リ舟、綱手コサルル、身ヲイカニセン」山家集、下「ひきびきニ、ワガソ（メイ）デツルト、思ヒケル、人ノ心ヤ、セバマクノ衣」

ひきびと（名）［低人］（一）丈ノ低キ人。ヒキウド。ヒキト。矮人。[illegible]ヒキヒト、[illegible]八年三月「大進三休[illegible]」（二）チンチクリン。一寸法師。小人。

ひきふ（名）［悲泣］カナシミ、ナクコト。[illegible]「[illegible]佛法ミナ亡ビナンースル[illegible]」

ひきふだ（名）［引札］商家ノ賣弘メナド、賣物名、店名、地名、時日、ナドヲ紙ニ記シテ、諸方ヘ引キ配ルモノ。古ク札廻（フダマハシ）、今、チラシ。廣告札。宣傳。[illegible]

ひきふね（名）［引舟・曳船］（一）流ニ溯ル舟ナドニ、綱ヲ付ケテ曳キ行クモノ。[illegible]モ來マセ、夜クダタヌマニ」（二）芝居ニ、舞臺ノ正面[illegible]

[illegible]、十間宛アリ」（三）[illegible]ハ、其[illegible]引キテ、[illegible]ト云フ）[illegible]上「ナフアレヲ見ヤ、中カラ[illegible]ソリ[illegible]十八人、引舟同前、天神九十一人」桑花咄（貞享）「大坂ノ新町ニ、木村屋ト云ヘルヨリ、御大夫ヲ仕出シ、云云、[illegible]一日モ[illegible]ナク、云云、[illegible]夫ニ昇進）ノ出ル時ハ、カイセウノアル引舟ヲツケル也、新艘ノ間ハ、アタマノ道具カラ穿物ニ至ル迄、ヨロヅ引[illegible]引舟[illegible]投島田ニテ、色事[illegible]人ノ悅ブ事ナリ」

ひきへぎ（名）［引倍木・引折］袷、綿入ノ衾（フスマ）ノ裏ヲ去リタルモノ、絹帛ノ襲ノ名。夏ハ單ヲ板引ニシタルヲ用キルト云フ。約メテ、ひへぎ。榮花物語、十七、音樂「エモ云ハズメデタキ袖口、衣ノ褄ドモノ、打出シワタシタル、云云、ソガ中ニモ、クレナヰ、[illegible]子ノひきへぎナドノ、カカヤキワタルニ」同、廿三、[illegible]「[illegible]殿ノ御下襲ノ菊ノひへぎ、カガヤキ、メトドマリタリ」雅亮裝束抄、二「祭ノ御幸ナドニハ、六位ハひきへぎニ、スズシノ[illegible]カサネテ着ルナリ」

ひきぼし（名）［曳干］海藻ヲ引干シタルモノ。干シタル海藻。字[illegible]抄「曳干、ヒキボシ」[illegible]上「色色ノ折敷、四ツシテ、中干、[illegible]」[illegible]日記、上、下「海松ノ曳干ノミジカクチギリタルヲ」源、五十三、夢浮橋「雲、アナタ（僧都）ニひきぼし奉レタリツル返事ニ」

ひきまう・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［引設］弓ヲ引キ設リテ、待チ設ク。保元物語、一、白河殿[illegible]、一定夜討ハ引儲ケテソイフラン、云云、木ヨリ引儲ケタル[illegible]ナレバ、

[illegible]高ク切ッテ放ツ」

ひきまかな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［引[illegible]］弓ヲ引キ[illegible]ト、待チ[illegible]なふノ條ヲ見ヨ。[illegible]

ひきまく（名）［引幕］［揚幕ニ對ス］横ニ引キテ、開閉スル幕。[illegible]ノ着物ヲ、脫ガウトスルトコロヘ、云云」

ひきまた（名）［[illegible]］祝ノ時ノ昆布ノ切リヤウノ名。二端ノ布ヲ一ツニ連ネテ、兩ノ端ヨリ卷キタル形ナリ。夫婦ヲ祝ブナルベシ。

ひきまど（名）［引窓］〔挿風窓（ヒキマド）ノ義カト云フ〕（一）搏風（ハフ）ノ下ニツケタル窓。（二）てんまど（天窓）ニ同ジ。アカリマド。五元集「飼猿ノ、引窓モ、一度ニアクヤ、江戶ノ春」一茶句集、春「引窓ツタフ、時雨哉」

ひきまはし（名）［引廻］（一）江戶時代ノ重罪ノ附加刑。斬罪、火刑、獄門、磔等ノ死刑ニ加フ。江戶小傳馬町ノ牢屋ヲ出シ、其罪狀ヲ紙幟ニ記シ、罪人ヲ馬ニ乘セテ、近地數十町、日本橋、江戶橋邊ヲ引廻シ、市民ニ示シ、鈴ガ森、或ハ、小塚原等ニテ刑ス。或ハ、犯罪ノ地、犯人ノ住所ヲ引廻ハシテ、衆ニ示シ、然ル後ニ本刑ニ行フ。[illegible]（二）綿布ニテ製シタル丸合羽。かっぱ（合羽）ノ條ヲ見ヨ。

ひきまは・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［引廻］（一）引キ連レテ步ク。[illegible]（二）人ヲ[illegible]（三）江戶時代、引[illegible]

ひきまゆ（名）［獨繭］〔繭ハ絲ヲ抽（ヒ）クガ故ニ名トス〕一[illegible]成セル繭。ヒトツマユ。[illegible]消息道にしける女の返事に、まめやかにしもあらじ[illegible]セマホシミ、桑コキタレテ、ナクヲ見セバヤ」新[illegible]古今集、十一、戀、一「引繭ノ、イトカク身ヲモ、ツツマズバ、戀シキノミゾ、ナゲキナラマシ」月[illegible]集、九、雜、ドイトボシト、[illegible]ひきまゆノ、ウキコモル[illegible]基方丹波國桑原の里を「桑原ノ、里ノ引まゆ、絡ヒオキテ、[illegible]八千代ノ、衣[illegible]セン」

ひきまゆ（名）［引眉］眉毛ヲ剃リタル痕ニ、又、墨ニテ、眉ノ形ヲ畫キタルモノ。（まゆずみノ條ヲ見ヨ）ヒキマユゲ。

ひきまゆげ（名）［引眉毛］前條ノ語ニ同ジ。

ひきん（名）［卑近］[illegible]ナラザルコト、深遠ナラザルコト。[illegible]通俗。[illegible]

びきん（名）［微吟］小サキ聲ニテ、詩歌ヲウタフコト。[illegible]

ひきめ（名）［蟇目］〔響目（ヒビキメ）ノ約、或ハ云フ、其孔、蟇ノ目ニ似タリト〕鏃ノ一

種、木具ニシテ、鏑矢ノ鏃ニ似テ長ク、凡ソ四寸許リ、圓ミ五寸、五孔、或ハ六孔アリ、射ル物ニ傷ツケヌ爲、用トシ、又、空氣、孔ニ觸レテ高ク響ケバ、能ク妖魔ヲ伏スト云フ。弓術ノ道ニ、蟇目ノ矢ヲ射ルコトト、弦打チスル鳴弦ト云フコトトニテ、共ニ其發音ニテ邪氣ヲ退クト云フ。産屋ナドニテ行フ。 宇治拾遺、三、「蟇目ノ音、引目シテ射タレバ、狐ノ腰ニ射中テケリ」 著聞集、九、武勇「チヒサキひきめノモテ射タリケルニ、犬射ラレテ、ケイケイトナキテ走ルヲ」 十訓抄、下、第十、五十六條「鏑、蟇目ノ外ニ、征矢ヲ取具シテ持タリケルヲ」 太平記、十五、正月廿七日合戰事「篦ノ太サハ尋常ノ人ノ蟇目柄ニスル程ナル三年竹ヲ、モギツケニ押削リテ」 七十一番職人盡歌合、五十五番、蟇目刳り「一尺ニアマル御ひきめハ、刳リニククテ、云云、我戀ハ、カサカケひきめ、なりコメテ、イトメモ見エズ、泣ク涙カナ」 成氏年中行事「若君姫御料樣御誕生之時、云云、御蟇目之射樣、又心中ニ祈ニ念申歌、矢取并御弓持若黨兩人之樣體之事」 今川大雙紙、御産ノ蟇目射ルニハ、白キ大口直垂ニテ射ベシ、白ベリノ疊一疊出スヘシ、ソレニムカバキヲカケテ射ベシ、云云、射ル數ハ、女子ニハ一手射ベシ、男ニハ三カイナ可レ射」

ひきめ-がは（ヒキメ-ガワ） (名) 引目革 黑染ノ革ニ、赤漆ニテ蔵手ノ狀ノ紋ヲ書キタルモノ。

ひきめく・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 引捲 引キテメクル。 狂言記、子盗人「蔵垣、云云、サラバ此レヲ引きめくらう、メリリ、メリリ」

ひきめ-さげを（ヒキメ-サゲオ） (名) 引目下緒 引目革ノ下緒 酌賴記「ひきめ下緒事、見レハ必ズエヒサヤ卷ニサゲタル也」

ひき-めし (名) 引飯 ほしひ(糒)ヲ云フトゾ。ホシイヒ。カレイヒ。 洛陽集「引飯、道明寺、喰ウテモ涼シ、信仰心」

〔一〕**ひき-もの** (名) 彈物 彈キテ、鳴ラスモノ、即チ、琴、琵琶、三味線ナドノ諸樂器 宇津保物語、俊蔭「ひきものハ、北ノ方、サル上手ニオハスレド」 源、十八、松風廿「アソビ始マリテ、イトイマメカシ、ひきもの、琵琶、和琴バカリ、笛ドモ上手ノ限リシテ」 同、三十四、上、若菜、上廿十「置物ノ御厨子、ひきもの、フキ物ナド、藏人所ヨリ賜ハリ給ヘリ」 河海抄「清涼殿置物、御厨子置樣、等箏記、北第一階無二置物一、第二階、右ニ箏手、左琵琶ニ[illegible]、中、北第三階、箏、第四階、和琴、云云」

ひき-もの (名) 引物 引出物ノ轉カ、或ハ、引添フルマデノ意カ」 (一)膳部ニ、特ニ添ヘテ出ス肴、菓子ノ類。客ノ携ヘ歸ルニ供フ 榮花物語、十九、御裳着「[illegible] 一臺殿バラ、御ひき物ナト、イヒ盡クスベカラス」 一統大雙紙「引物ニモ三様在、折ハ右ニ置ク也、公卿ノ物ハ左ニ置テ可レ盛也、土器ノ物ハ中ホドニ置テ盛ベシ」 鎌方明記、四「引物五ツ目迄有ハ、是モ給様[illegible]同前、汁有引ナラバ喉侍テ箸ヲ取直シ、ミヲ給モノニテ候ナリ」 (二)〔引キ張ル物ノ意〕 壁代、帆、几帳等、スベテ布帛ヲ引キ張リテ、内外ノ隔トスル物。 字鏡集「幭、ヒキモノ、トバリ」 盛衰記、三十五、木曾惜貴女事「イカニ聞ニ打解給ヒ、角ハト云ヒケレドモ、引物ノ中ニ隠リ居テ、猶モ名殘ヲ惜ミケリ」 同、同「御運ハハヤ盡キ給ヒニケリトテ、引物ノ前ニテ、此モ腹切テ臥シニケレバ」

ひき-もの (名) 挽物 木地物、錫器ナド、轆轤ヲ用キテ、挽キ彫リ造レル器ノ稱。錫器 東海道名所圖會、五「箱根名品挽物細工、街道湯本村ニアリ、花美ナル諸品ヲ細工シテ、色色彩リ[illegible]ニ飾ル」

ひきもの-かみ (名) だうそぢん(道祖神)ノ異名、其條ヲ見ヨ。 貫之集「行ク今日モ、歸ラン時モ、玉ボコノ、ひきもの神(異本、チブリノ神)ヲ、イノレトゾ思フ」

ひきもの-ぢ (名) 挽物師 ヒキモノヲスルモノ。ロクロシ。挽物工。鏇匠 名物六帖、工匠、鏇匠、旋匠、ヒキモノシ」

ひき-や (名) 挽家 挽物ノ容器 茶器ノ茶入、茶碗ナドヲ入ルルモノ

ひ-きやう（ヒ-キヨウ） (名) 悲境 カナシムベキ境遇。アハレナル境遇 「悲境ニ陥ル」

ひ-ぎやう（ヒ-ギヨウ） (名) 非形 いぎやう(異形)ニ同ジ。

ひ-ぎやう（ヒ-ギヨウ） (名) 飛行 ひかう(飛行)ニ同ジ 謠曲、羽衣「カナシヤナ、羽衣ナクテハ飛行ノ道モ絶エ、天上ニ歸ランコトモ叶フマジ」

ひぎやう-さ（ヒギヨウ-サ） (名) 飛香舍 又、ひかうさや。ひぎやうさや。 古ヘ、禁中五舍ノ一。清涼殿ノ北、弘徽殿ノ西ニアリ、庭前ニ藤ヲ植エシヨリ、藤壺トモ云フ。 紀略、後篇、二、天慶三年四月十九日「三品成明親王、於二飛香舍一要三中納言左衞門督藤原師輔女二」 西宮記、臨時、八、藤花宴「於二飛香舍一有二藤花宴二」

ひぎやう-やしや（ヒギヨウ-ヤシヤ） (名) 飛行夜叉 不動明王ニ屬シ、空中飛行ノ作用アル夜叉。 楞嚴經、八「大力鬼王、飛行夜叉」

ひきやか-に (副) 低 身長ノ低キ狀ニ云フ語。

ひ-きやく (名) 飛脚 (一)昔、急事ヲ遠地ニ通ズル使。ハヤビキヤク。急足 百練抄、十五、仁治三年正月十九日「今夕關東飛脚參洛」 吾妻鏡、一、治承四年九月七日「遣二飛脚於木曾之陣一、告二事由一」 盛衰記、二十四、福原京上洛事「關東ノ説ニ付テ、飛脚ヲ諸國へ立候ヒヌ、其返事ニ隨ハン爲ニ、暫シ京ニ逗留ス」 明月記、嘉祿元年十一月十九日「又侍始政所始事、同可レ有二同文一云云、此等事、明日以二飛脚一可レ遣、云云」 [illegible]記、[illegible]廿四、正月廿一日「十九日自二關東一飛脚到來」 (二)轉ジテ、近ク、人ノ音信ヲ持シテ、遠方へ達スルヲ業トスル者。脚夫 郵子 源氏冷泉[illegible]「[illegible]ニ寄リシ由、飛脚ヲ以テ申サセ[illegible]人人[illegible]十日[illegible]リ相待共、今日マデ歸ラズ」

ひきやく-せん (名) 飛脚船 時日ヲ定メテ急航スル蒸汽船 ヒキャクブネ

ひき-やま (名) 引山 祭ノ練物トシテ曳ク山。山車、樂車ノ類。其條、及、やまぼこ、山鉾、條ヲモ見ヨ

ひき-やま (名) 低山 〔高山ニ對ス〕 ヒクキヤマ。 大祓祝詞「高山之末、短山之末ヨリ、サクナダリニ落チタギツ、速川ノ瀬ニ」

ひき-や・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 引破 ヒキテヤブル。ヒキテサク。ヒキサク

✣**ひき・ゆ** (動) 率 ひきゐる(率)ノ訛。

ひ-きう (名) 匪躬 我ガ身ノ利害ヲカヘリミズシテ、國家、又ハ、君主ノタメニ、忠節ヲツクスコト。 易經、蹇卦「王臣蹇蹇、匪二躬之故一」 [illegible]「[illegible]居二[illegible]用之地一而致二匪躬之節一也」

ひ-きよ (名) 非據 (一)己レノ居ルベカラザル處ニ居ルコト。 易[illegible]「非レ所レ據而據焉、身必危」 [illegible]官表「微臣無二四子之美一、襲二四子之榮一、豈可二明居以彰二非據一」 (二)道理ニ據ラザルコト。 平家物語、三、法印問答事「假令、入道如何ナル非據申シ行フトモ、一度ハナドカ聞シ召シ入レデハ候フベキ」

び-きよ (名) 美擧 美シク立派ナルフルマヒ。譽ムベキ行ヒ。

〔一〕**ひ-きよう** (名) 比興 (一)事ヲ物ニ託シテ、打チ興ズルコト。 著聞集、十六、興言利口「比興ノ事、カノ卿聞カレテ入興セラレケリ」 (二)殊ニ、ヲカシク興アルコト。 著聞集、十六、興言利口「競馬ヲ仕ウマツリケルガ、十度ムナバセヲシタリケルヲ、云云、不幸ノ者ノ十列カト云ハレ

[illegible]ノ[illegible]リケリ[illegible]一條「負ケタレバコソ勝チタレ、勝チタラバ負ケナマシ、カシコクゾ負ケニケル、希有ニ負ケニケリトコソ申スベケレトテ、一座ノひけうニテヘベリキ」

ひきょう (名) 〔非興〕 〔比興ト書クハ非興ノ當字〕 (一)興ナキコト。興ノサメタルコト。白河文書(相樂家藏、興國二年十二月[illegible]一日「治久(小田)歸參之由其聞候、事實候哉、比興ニ候」若園御記、應永廿七年七月廿三日「自三簀方二取ニ[illegible]其[illegible]沙汰、社說比興事也」 (二)アサマシキコト。笑止千萬[illegible]今川大雙紙[illegible]ハ、サノミカウバシキハヒロウ也、又、臭キモひけうナ[illegible]ドモ、知リテ知ラザレバ苦シカラズ」

ひきょく (名) 〔秘曲〕 管絃ノ筒ナドニ[illegible]メテ容易ク他ニ傳ヘヌ曲。絲竹口傳「絃管祕曲、笛ノ祕書ニハ、皇帝、團亂旋、獅子、荒序、以上、四ノ祕曲也」 盛衰記、廿八、經正竹生島詣事附仙童琵琶事「琵琶モイミジキ名物ナリ、樂モ目出タキ祕曲ナリ[illegible]曲[illegible]ヲ[illegible]日シタタマリヌ、祕曲ヲバ皆傳へ敎へ候」

ひきよ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) 引寄 引キテ、身近ク寄ス。[illegible]寄如[illegible]事」[illegible]寄するヤウニテ、ワヅラヒナクテ」 源、四、夕顏[illegible]「右[illegible]ひ[illegible]よせ[illegible]ナホ持テ寄レト宣フ」

ひきよ・づ・ヅル・ヅレ・ヂ・ヂ・ヂヨ(他動、上二) 〔引攣〕 ヒキテ、トリスガル。 萬葉集、十四[illegible]

ウラ[illegible]弱女ニ、吾ハアレドモ、引若ちテ、傘モトヲヲニ、ウ[illegible]シミ、引若ちテ、袖ニコキレツ、染マバ染ムトモ」

ひきよもぎ (名) (一)〔鼠麴草〕ノ一名。[illegible]葉ハ[illegible]似テ、折レバ白絲ヲ曳ク[illegible]ジタルハ妥當ナラズ) (二)又、草ノ名。陽地ニ生ズ。高サ二三尺、葉ハ、艾ノ葉ニ似テ、小サク薄シ。花岐多クシテ、毛茸アリ、黃綠ニシテ紫ヲ帶ビ、背ニ白色ナ[illegible]夏、秋ノ交、梢、葉ノ間毎ニ花ヲ生ズ、赤小豆ノ花ニ似テ、大キサ一三三分、黃色ナリ[illegible]花下ニ細房アリ、長サ五六分、圓クシテ[illegible]數稜アリ、胡麻ノ房ノ如シ。內ニ小子多シ、罌粟ノ子ヨリ小サシ。秋ノ半ニ至リ、苗枯レテ黑ムコト、紫草ニ異ナリ。ヨモギモドキ。鬼油麻[illegible]字[illegible]子、大薊、比[illegible]毛[illegible]」

ひきり (名) 〔火鑽〕 檜ノ木ヲ鑽リテ火ヲ發セシムルコト。(鑽るノ條ヲ見ヨ) 此火ヲひきり火ト云ヒテ、極メテ淸淨ナ[illegible]モノトス。今モ伊勢神宮ノ御饌ニ[illegible]此火ヲ用キルト云フ。倭名抄、十二十五燈火具「火鑽、比岐利」 古事記、上[illegible]作[illegible]燧[illegible]中[illegible]作[illegible]ヒキリ[illegible]」

ひぎり (名) 〔日切〕 日數ノ限リ。日限。大[illegible]祭式[illegible]云云[illegible]枚、火[illegible]枚」 書言字考節用集、二、時候門「日限、ヒギリ」 本朝若風俗(貞享、西鶴)三「望ミ三十日ガ間、獻立ヲトリ[illegible]一便」

ひぎり (名) 〔緋桐〕 一名、唐桐(タウギリ)。アカギ[illegible]

リ。[illegible]小[illegible]ノ名[illegible]ヲ賞ス[illegible]尺、葉、[illegible]ノ葉ニ似テ、圓ッシ[illegible]リ、邊ニ[illegible]アリ、大ナルハ尺ニ至[illegible]夏、葉ノ梢ニ、長キ穗ヲ出シ、枝ヲ[illegible]ラ、多ク花ヲ開ク。[illegible]シ、秋ニ至[illegible]デ開ク[illegible]十二[illegible]マヒノ[illegible]スベシ」

ひきりうす (名) 〔鑽臼〕 火ヲ鑽リ出ス[illegible]ヲ、臼ニ喩ヘテ云フ語。きる[illegible]ひきり(火鑽)ノ條ノ出典ヲ見ヨ。

ひきりぎね (名) 〔鑽杵〕 火ヲ鑽リ出[illegible]ヲ、杵ニ喩ヘテ云フ語。きる(鑽)、及、ひきり(火鑽)ノ條ノ出典ヲ見ヨ。

ひきりやう (名) 〔引兩〕 紋所ノ名。輪ノ中ニ、横ニ二畫アルモノ。足利氏ノ章ナリ。又、輪ナクシテ、二ツノ線ノミヲ引キタルモノヲモ云フ。フタツビキ。二ツ引兩。其三畫ナルヲ、三ツ引兩ト云フ。[illegible]記、三十四、佐佐木[illegible]四[illegible]ハ、[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]引兩[illegible]ゾ引カセケル」 太平記、十四、新田足利確執奏狀事「[illegible]云云[illegible]ヲ打傷[illegible]テ[illegible]ニ、錦ノ袋ニ入リタル二引兩ノ旗アリ」同、十八、瓜生[illegible]何レガ勝レタル[illegible]テ候[illegible]ク、吉凶ヲ云ハバ、大中黑ホト目出タキ[illegible]滅ビテ、今ノ世二ツ引兩ニ成リヌ、是レヲ又亡サントスル文ハ、一ツ引兩ニテコソアランズラメ」見物[illegible]八幡太郎」

ひき・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 〔蹴〕ノ十分ニ[illegible]トナル。熟蹴トナル。

ひき・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(他動、下二) 〔引入〕 [illegible]」

ひきれ (名) 〔引入〕 (ひきいれノ約) 器ノ名。ひきいれ(引入)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。[illegible]次第[illegible]ひきれノ中[illegible]椀[illegible]一杯一食ニ宛ツ。七ツ椀ナド云フハ、大椀ヲ汁椀トシ、中椀ニ大椀ノ飯ヲ取分ケテ食フ、其外ハ[illegible]ナドニス、即チ合子(ガフシ)ナリ。 七十一番職人盡歌合、十七番「ひきれウリノ詞、コレハ因幡合子ニテ候、メセ」我慰ハ、極月ノハテノ、賣リひきれ、ヌルカトスレバ、イソグ別レ路」庭訓往來[illegible]「[illegible]引入[illegible]きれト讀ベシ、云云、椀ハメシワン、汁ワン、フタ等ヲ重ネ入ルヤウニ作タル故ニ、引入ト云ナリ」

ひきれがふし (名) 〔引入合子〕 組入ノ椀。三ツ四ツ、或ハ七ツ、入子ニシタルモノ[illegible]略シテ、ひきれ[illegible]合子ノ條ヲモ見ヨ[illegible]庭訓往來、五月[illegible]合子」

ひきわ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 〔引分〕 ヒキハナシテ、別ニス。

ひきわけ (名) 〔引分〕 角力ニ、永ク闘ヒ[illegible]ヲ果テストキ[illegible]方引キハナシ[illegible]ヲ定メズ[illegible]

ひきわけど (名) 〔引分戸〕 二枚ノ戸ヨリ[illegible]

成ヽ引[illegible]両方ニ[illegible]アリ、一筋ノ溝ニヨリテ、左右ニ開閉スルモノ

ひきわけ-の-つかひ（名）［引分使］古ヘ、駒牽ノ時、[illegible]ヨリ奉レル馬ノ中、[illegible]レルモノヲ、院、東宮ナドヘ分チ奉ル使者。[illegible]ノ次将、コレニ任ズ。[illegible]八月、駒牽「ケフハ信濃ノ勅旨ノ牧ノ馬ヲ牽ル、六十[illegible]二[illegible]、[illegible]ト八十五日ニ[illegible]作リシカドモ、云云、[illegible]二日[illegible]リテ、[illegible]、云云、[illegible]ハテテ公[illegible]以、[illegible]、云云、[illegible]ノコシノ[illegible]、引分の使トテ、次将ヲモテ、院、[illegible]ナド、[illegible]ルヘキ所所ヘマキル」

ひきわた（名）［引綿］もめん綿ノ上ニ、眞綿[illegible]モノ。綿入ノ服ナドニ）今鏡、中、藤波、下「雪フリノ御幸ニ、ひきわたノ[illegible]ヘリ、云云、花ノ色、モミチノ形ナド、染付ケラルベカリケルヲ、ひきわたノ、アラアラシクオモホシメシケルニヤ、云云」

ひき-わたし（名）［引渡］（一）ヒキ渡スコト。更級日記「カリソメノ假屋ナド云ヘド、風スサマジク、ひきわたしナドシタルニ、云云、イト手放チニ、[illegible]シケニテ（[illegible]ニテ[illegible]也）」（二）本膳ニ盃ヲ三ツ添ヘタル膳部。又、二ノ膳ヲうちみ、三ノ膳ヲわたいりト云フ。元服次第「本膳ニ盃三ツスワリタルヲ、引渡シト云フナリ」同「出[illegible]ノ[illegible]ヲ引渡シ也、云云、[illegible]時、云云」同「[illegible]ノヤウハ、引わたしノ[illegible]一小[illegible]ニ[illegible]リ付クル也」好色一代男（天和、西鶴）七「カカ州ガ引渡シノ[illegible]ギテ、ハヤカギリアル夜トテ」

ひき-わた-す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［引渡］（一）長ク引キ張ル。従三位頼政卿集「引きわたす、大原山ノ、横霞、スグニノボルヤ、烟ナルランン」枕草子、十一、百四十五段「イト白キミチノクニガミ、白キ色紙ノムスビタル上ニ、ひきわたしケル[illegible]ノ、フト氷リニケレバ」（二）引キテ通ラシム。[illegible]、引渡す、[illegible]ノ杉村、月モレバ、皆

カゲブチノ、駒トコソミレ」月詣集、雜、下「望月ノ、[illegible]ニモテラス、[illegible]ナレバ、夜ハ[illegible]イカニ、ひきわたす[illegible]」（三）[illegible]ク[illegible]人ヲ引渡す」

ひき-わり（名）［破割］次條ノ語ノ略。大麥ヲ、碾ニテ粗ク碾キ割リタルモノ。炊グニ便ニス。略シテ、わり。又、わりむぎ。麥屑［碾割麥］

ひきわり-むぎ（名）［碾割麥］前條ノ語ヲ見ヨ。

ひき-ゐる・ヰル・ヰレ・ヰ・ヰ・ヰヨ（他動、上一）［率・師・将］［引き以る（率）ノ義］引キ連ルヿ。伴フ。[illegible]シテ、ヒキヰ[illegible]「[illegible]、提挈也、率也、将行也、比支井天由久」字類抄「率、ヒキイル、率由、帥、同」名義抄「率、ヒキヰル、ヒク、ヰル、ミチビク」[illegible]林[illegible]用集（慶長）下、言辭門「将、帥、ヒキヰル、率、同」[illegible]代紀、下[illegible][illegible]如[illegible]前[illegible]其女弟玉依姫[illegible]到[illegible]武郎[illegible]位前紀「天皇親帥諸皇子舟師東征」顯宗郎位前紀「小楯[illegible]、[illegible]承[illegible]供[illegible]欽代」神功紀、四十九年三月「[illegible]精兵[illegible]比企井古」枕草子、十、百三十二段「ナドカク[illegible]クトテ、引ゐるナマキルニ」今昔物語、十一、第一語「蘇我ノ大臣、太子ニ申シテ、共ニ[illegible]ヲ引率テ、守屋ヲ討タントスル」[illegible]記、中、廿五[illegible]」

ひき-を（名）［引尾］山鳥ナドノ、長ク引キタル尾羽。太平記、十七、[illegible]八[illegible]々[illegible]合作ノ太刀ノ上ニ、三尺八寸ノ[illegible]ノ太刀帯キ副ヘ、三十六差タル山鳥ノ引尾ノ征矢、森ノ如ニトキミダシ、三人張ノ弓ニセキ絃カケテクヒシメシ」

ひき-をり（名）［引折］次條ノ語ノ（一）ノ名詞形。永享九年十月廿一日行幸日記（後花園院、[illegible]亭ニ行幸）「春日局、新中納言局[illegible]ひきをりニテ、御供ニサブラフ」

ひき-を-る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［引折］

（一）一重ナルヲ折リテ、二重ニシ、短カクス。[illegible]廿九、廿八[illegible]ヲ引折リテ、[illegible]ニ其[illegible]ヘツル[illegible]其ノ岸[illegible]、[illegible]門ヨリ[illegible]出ヌ」（二）［指ルバカリ強ク引ク］[illegible]、廿[illegible]夕ニ、[illegible]比伎乎里、誘ヒテ、漕ギ行ク君ハ」同、二十長歌「イサナドリ、海ヲカシコミ、行ク船ノ、梶引折テ、ヲチコチノ、島ハ多カレド」（古義、オホケド）

ひ-く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［引］退ク。後ヘシサル。罷ル。退 六帖、三「イサ知ラズ、鳴海ノ浦ニ、引く潮ノ、早クゾ人ハ、遠ク去リニシ」[illegible]、六、冬「引く波ノ、サソヒヤカヘス、[illegible]マタ[illegible]ク、[illegible]ノヰコユル」「役所ヲ引く」[illegible]ヲ引く」[illegible]引く」

ひ-く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［引］（一）［取リテ我ガ方ヘ寄ス。前ヘ手繰リテ近ヅク］引キ寄スル。字[illegible]「引、ヒク、又、[illegible]」萬葉集、十[illegible]弓ヲカ巻キカヘ、アナ[illegible]ハ、サラニ引くトモ、君ガマニマニ」同、同[illegible]「[illegible]ハ、[illegible]フ、小野ノ淺茅ヲ、心ユク、人引かメヤモ、吾ナラナクニ」同、十四「足柄ノ、箱根ノ山ニ、ハフクズノ、比可婆ヨリコネ、シタナホナホニ」同、同[illegible]「トッモ野、カホヤガ沼ノ、イハヰヅラ、比可婆ヌレツツ、吾ヲナ[illegible]エソネ」竹[illegible]物語「[illegible]トクオロサントテ、[illegible]ヲ引[illegible]テ、[illegible]ユル」（二）［抜キ出ス］抽 [illegible]、[illegible]井ノ、コガヤ莉[illegible]メナケ、ソレニコソ、[illegible]ナサメ」「[illegible]ヲひく」綿ヲひく」（三）［後ニ從ヘ行カシム］牽・挽 字[illegible]抄「牽、ヒク、牛[illegible]」後[illegible]、[illegible]、下「秋[illegible]ノ、立ツ野ノ駒ヲ、ひく時ハ、心ニノリテ、君ゾ[illegible]シキ」源、廿二、玉[illegible]「[illegible]四ツ五ツひかせテ、イミジク忍ビヤツシタレド」「車ヲひく」舟ヲひく」（四）［ヒキヰル］連レ立ツ。携伴 [illegible]保物語、[illegible]、上[illegible]、ひきテ[illegible]リ給フ」（五）［長ク地ヲ摺リ行ク］曳 字類抄「曳、ヒク、曳衰」萬葉集、十七[illegible]長歌「[illegible]ノ、裙ヲリカヘシ、紅ノ、赤モスソ[illegible]」同、八、花宴[illegible]十[illegible]下襲、シリイト長クひきテ」「裾ヲひく」[illegible]ヲひく」

[illegible]（六）[illegible]、[illegible]ケ、幕ナドひきタリ」沙石集、一、上、第一條「岩戸ニ[illegible]」「[illegible]ヲひく」線ヲひく」[illegible]ヲひく」[illegible]ヲひく」（七）長ク標ヲツク。［畫］「線ヲひく」[illegible]ヲひく」[illegible]ヲひく」朱ヲひく」（八）［弓弦ヲ張リ開ク］彎弓 字[illegible]、ヒク、[illegible]」[illegible]集、二十「梓弓、ツラ緒トリハケ、引人ハ、後ノ心ヲ、知ル人ゾ引」同、同十「ミスズカル、信濃ノ眞弓、吾ガ引[illegible]、ウマビトサビテ、イナト云ハムカモ」同、七「陸奥ノ、アダタラ眞弓、ツラハケテ、引バカ人ノ、吾ヲコトナサム」（九）援ク。贔屓ス。援引「心ヲひく」氣ヲひく」眞目ヲひく」（十）誘ヒ試ム。（十一）採リ來リテ用キル。引用 [illegible]榮花物語、一、月宴「其時ノ貫之、コナタノ上手ニテ、古ヘヲひき、今ヲ思ヒ、行ヘヲカネテ面白ク作リタルニ」「古例ヲひく」[illegible]ヲひく」古歌ヲひく」（十二）染メ取ル。摸リ出ス。索引 [illegible]、[illegible]、云云、マヅひけ[illegible]セラレシカハひきシニ」「字引ニテ字ヲひく」[illegible]ヲひく」（十三）除キ減ラス。減「[illegible]ヲひく」直段ヲひく」給金ヲひく」（十四）退クル。退 太平記、七、千劍破城軍事「アハレ、大剛ノ者カナト覺エテ、一足モ引かザリツル兵」「身ヲひく」陣ヲひく」（十五）延ベ塗ル。塗付「[illegible]ヲひく」油ヲひく」[illegible]ヲひく」[illegible]ヲひく」[illegible]ヲひく」（十六）研リ潰ス。磨滅「刃ヲひく」（十七）引出物トス。[illegible]記、九、[illegible]四、白幅輪ノ鎧十領、金作ノ太刀一ツ副ヘテ被引タリケリ」「太刀一腰ヲひく」肴ヲひく」（十八）抜キ採ル。[illegible]拾[illegible]、九、[illegible]「メヅラシキ、千世ノ始ノ、子ノ日ニハ、マヅケフヲコソ、引くベカリケレ」後撰集、一、春、上「君ノミヤ、野邊ニ小松ヲ、引きニ行ク、吾モカタミニ、摘マン若菜ヲ」「アヤメヲひく」（十九）[illegible]リテ[illegible]ル。[illegible]平家物語、四、南都[illegible]「北國ノ[illegible]二千匹、往來ニ寄セラル、是ヲ谷谷嶺嶺ニ引かレケル」「盃ヲひく」（廿）聲ヲ延ベテ讀ム。名目抄「女院、常ノ音、ニ、ナリ、名目時引之」（廿一）切ルヲ忌ミテ、ひ

くト云フ。「大提ヲせんニ引く」(廿二)此語[illegible]他[illegible]後を引くトハ、續ク。息を[illegible]引くトハ、[illegible]引[illegible]浴ス(ユアミ)[illegible]て御産衞「御臍ノ緒ヲツギ參ラセテ、御湯ヲひかセ參ラントテ、云云」

ひ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 彈・鼓 〔引く義〕[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、挽、[illegible]ラス。カナノ[illegible]ク、「彈琴」鼓、ヒク、鼓「琴瑟」也」鼓、ヒク、「技琴」古事記、下(仁德)廿「シガ餘リ、琴ニ作リ、カキ比久ヤ、ユラノトノ」雄略紀、十二年十月「寥酒公侍坐、欲以[illegible]イトヲカ[illegible]ウ、ナソカ[illegible]ウ彈きテ、臥シ給ヘリ」

ひ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 挽 〔引き切ル意〕(一)鋸ニテ切リ割ル。鋸切　易林[illegible]ヒク、木」[illegible]挽物ノ[illegible]吹上、下廿「沈ヲ一尺二寸バカリノカラワニ、[illegible]ニ挽きテ、樣樣ニ色ドリテ、成候ノオモノ參ル」

ひ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 碾 〔引き廻ハス意〕[illegible]ノ廻ハシテ物ヲ磨ル。

びく(名)(一)籠。竹ナドニテ作レル器ノ[illegible]簗[illegible]ニテ、メカゴト云フヲ、東國ニテ、メカイト云、或ハ、ふご、びく」書言字考節用集、七、器財門「簗、ビク、又作籠、俚民盛土具」(二)漁リタル魚ヲ入ルル竹籠。魚籃[illegible]、正字[illegible]ナルベシ、[illegible]ハ[illegible]ノ字ヲモナユ、魚籃トカキ[illegible]可ナルベシ[illegible]付ケル、コレヲ口[illegible]ル[illegible]、江戸ニ、びくト云フハ、[illegible]ルベ

ン[illegible]耳[illegible]「聰ツケ參ラント思ヒタレバ、耳ノびくガ薄ク坐シケルト取イテ、空笑ヒシテコソ返シケレ」

びく(名)[illegible]　己レガ身[illegible]ヲ云フ[illegible]非[illegible]服[illegible]而荷[illegible]能力不[illegible]衣」杜甫詩「多[illegible]

ビク(名) 比丘・比久 〔梵語、Bhiksu. 巴利語(パアリイ)、Bhikkhu. 乞士ト譯ス〕(一)出家シテ具足戒ヲ受ケシ男子。卽チ、僧ノ稱。女ナルヲ比丘尼(ビクニ)(あまトモ云フ)ト云フ。大[illegible]云、何名比丘、比丘名乞士[illegible]、比[illegible]

(二)[illegible]リテ、比丘尼ノ稱。

ひく・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 低・痿 (一)長(タケ)少シ。高カラズ。下ニアリ。ヒキシ。低(二)身分、下ニアリ。賤シ。卑(三)高ク響カズ。[illegible]ナリ。低聲「聲低し」

ひ・くだち(名) 日降　日ノ斜ニナルコト。日ノ[illegible]ルコト。くだちハ降、及、くだつ、降ノ條ヲモ參見セヨ。名義抄[illegible]「日斜、ヒクタチ」

ひ・ぐち(名) 火口 (一)鳥銃ノ火皿ニアリテ、火氣ヲ筒ノ中ニ通ズル穴。火門(二)火事ノ火ノ燃エ口。盛衰記、四、「吉卜事「占ハ指[illegible]口占トテ、火口トイヘバ、燃エ[illegible]ガラン」

ひ・ぐち(名) 樋口 (一)樋ノ在ル所。盛衰記、四、[illegible]天狗ノシワザニテ、[illegible]ノ樋口ヨリ、[illegible]」(二)樋ノ、水ノ出口。ヒノクチ。[illegible]

[illegible]和漢三才圖會、五十七、水「水[illegible]、ヒノクチ」

ひくつ(名)[illegible]タルコト。意氣張リナキコト。

ひ・くづ(ヒクズ)(名) 簸屑 穀、茶、ナドヲ箕ニテ簸(ヒ)[illegible]照門「簸屑、ヒクヅ、惡茶」狂言記、通圓「大茶ヲタテント茶杓ヲオットリ、ひくづドモヲチャチャット打チ入レテ、浮キヌ沈ミヌ、タテカケタリ」

ひく・つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) ヒクヒクス。ひくひくノ條ヲ參見セヨ。

びく・つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) ビクビクス。びくびくノ條ヲ參見セヨ。

ひく・つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) ビクビクス。びくびくノ條ヲ參見セヨ。

ひく・て(名) 引手　引ク人。誘フ人。古今集、十四、戀、四「オホヌサノ、ひくてアマタニ、ナリヌレバ、オモヘドエコソ、タノマザリケレ」續古今集、十七、雜、上「ミソギスル、袂ニフルル、大幣ノ、ひくてアマタニ、ナビク川風」

ビク・ニ(名) 比丘尼・比久尼 〔梵語、Bhikṣuṇī. 巴利語(パアリイ)、Bhikkhunī. 尼ハ、梵語ニテ、女性ヲ顯ハス聲〕(一)四衆(シシュウ)ノ一。出家シテ具足戒ヲ受ケタル女子。びく(比丘)ノ條ヲモ見ヨ。略シテ、尼。[illegible]比丘、梵[illegible]乞士、比丘尼[illegible]尼卽女也」[illegible]八「[illegible]除女、亦[illegible]士、[illegible]女、今言比丘、比丘尼、也、[illegible]言比丘、此言乞士、卽與[illegible]六情[illegible]貪欲染也、以[illegible]紀、六年十一月「百濟王、付[illegible]若干卷、幷律師、禪師、比丘尼、[illegible]工六人」[illegible]比丘ヨリ、比丘尼ハ[illegible]リ、比丘尼ヨリ[illegible]ハあり」(二)江戸市中ニアリシ剃髮法衣ノ遊女。昔、隱賣女(カクシ)ノ一種ヲシュスビン、後ニハ常ノ女ノスルコトトナル。くゎんぢんびくに(勸進比久尼)ノ條ヲ見ヨ。[illegible](寶永)二「酒ナド少シヅツ飮ミケル處ニ、比丘尼ドモ一二人イデ來テ、歌ヲウタフ、云云、イツノ頃カ、比丘尼ノ伊勢熊野ニ詣デテ行ヲツトメシニ、云云、イツノ頃[illegible]、[illegible]ズ、[illegible]ドリノ眉細ク、薄化粧、齒ハ雪ヨリモ白ク、手足ニベニヲサシ、云云、ソノ行狀ハお山[illegible]ニナリ、ヒタスラ傾城白拍子ニナリタリ」[illegible]一本、下、赤坂「メッタ町[illegible]

ビクニ[illegible]御所 江戸時代ニ制定セラレシ尼寺ノ[illegible]卽チ、[illegible]女、王女、[illegible]公卿[illegible]女[illegible]ノ、出家[illegible]シテ、住マハセ[illegible]寺院[illegible]比丘尼御所[illegible]宮、中宮[illegible]宮[illegible]カセギノ[illegible]御所マデ[illegible]」

ピクニック(名)〔英語、Picnic.〕野遊會。[illegible]遊山

ひく・ひく(副) 氣息ノ絶エ絶エニナリテ、少シヅツ動ク狀ニ云フ語。ヒクリ。

びく・びく(副)(一)動(ヤヤモ)スレバ、臆シ恐ル狀ニ云フ語。ビクリ。惴惴(二)響ク音ニ云フ語。傾城酒呑童子(享保、近松作)四「[illegible]、[illegible]ハ村田ニ[illegible]ル[illegible]、[illegible]びく、びくト」

ひく・ひく(副) 少シヅツ動ク狀ニ云フ語。ヒクヒク。ピクリ。

ひ・くひ・どり(ドツトリ)(名) 火食鳥 [illegible]

鶴ヲ、文字讀ニシタル語ナラム。[illegible]、火ヲ食フト想像シテ名アリ」[illegible]ニ似タル一種ノ鳥。東印度諸島[illegible]ニ棲ム。體、大形ニシテ、高サ五六尺ニ達シ、頸、短ク、脚ニハ三指アリ。羽、黒ク細ソク、垂リテ獸ノ毛ノ如シ。頸、頭ハ、毛無クシテ淺[illegible]色ナリ。又、頭上ニ角ノ如キ瘤アリ。脚、強大ニシテ能ク走リ、好ミテ小石ヲ食フ。一名、イシワリ。英語、Cassowary. 馬來語、Kassuwaris. 又、カゾアル。カズワル。カズアル。
食火鷄 和漢三才圖會、四十四、山禽類「食火鷄、駝鷄、駝鳥、骨托禽、俗云、火久比止利」

ひぐま (名) [羆] しぐま(羆)ノ訛　其條ヲ見ヨ。

びくん (名) [微醺] 〔說文「醺、醉也」〕少シ酒ニ醉フコト　ホロエヒ　ホロヨヒ、微醉　宋史、邵雍傳「且則焚香燕坐、晡時酌酒三四甌、微醺即止、常不及醉也」「微醺ヲ帶ブ」

ひくらうど (名) [非藏人] (一)藏人所ノ下ニ屬シテ、殿上ニ候シ、侍臣ノ驅使ニ供スル職　六位ノ中ヨリ補ス　[illegible]
(二)後世、朝廷、衰ヘテ非藏人ナクナリ、加茂、稻荷、松尾ノ社家、其外、筋目ヨキ者ヲ召サレ、無位無官ニテ、表向ノ雜役ヲ勤メサセラルルモノノ稱。[illegible]「…人、定番候宮中」」

ひぐらし (名) [日暮] (一)日ヲ暮スコト。(二)蟬ノ一種、身ノ色、淡褐、淺黒、相雜ハリテ、線條アリ、長サ六分許、羽ノ長サ身ニ倍シテ、透明ナリ。山中ニアリテ、秋日、多ク午後ヨリ日暮ニ鳴ク。聲、哀韻ニシテ、かなかなト聞ユ、かなかなぜみノ名モアリ。茅蜩　倭名抄、十九、蟲豸類「茅蜩、比久良之」[illegible]「日晩、ココダクモ、日毎ニ聞ケド、飽カヌ聲カモ」同、十五「今ヨリハ、秋ヅキヌラシ、足引ノ、山松蔭ニ、日具良之鳴キヌ」古今集、四、秋、上「ひぐらしノ、鳴キツルナベニ、日ハ暮レヌト、思フハ山ノ、カゲニザリケル」源、三十八、夕霧「山ノカゲハ小暗キ心地スルニ、ひぐらし鳴キシキリテ、垣ホニ生フル撫子ノウチナビキケル色モ、ヲカシウミユ」同、四十八、寄生「ひぐらしノ鳴ク聲ニモ、山カゲノミ戀シク、オホカタニ、聞カマシモノヲ、ひぐらしノ、聲ウラメシキ、秋ノ暮カナ」拾遺集、八、雜、上「朝ボラケ、ひぐらしノ聲、聞ユナリ、コヤアケグレト、人ノ云フラン」新六帖、六、ひぐらし「明クルヨリ、鳴キモタユマズ、山里ニ、ケニひぐらしノ、聲ゾキコユル」

ひぐらし (副) [日暮] 朝カラ晩マデ。日一日　ヒネモス　終日　[illegible]「螢ハひぐらし、夜ハ目ノサメタルカギリ、火ヲ近クトモシ…」[illegible]「日暮し遊ビコウジテ、物ノ欲シカリケル時ニ」徒然草、序「ツレヅレナルママニ、ひぐらし硯ニ向ヒテ、心ニウツリユクヨシナシゴトヲ、ソコハカトナク書キツクレバ」[illegible]「櫻花、ひぐらし見ツツ、今日モマタ、月マツホドニ、ナリニケルカナ」

ひぐらしもん (名) [日暮門] 鳥獸、花木ナドヲ彫刻シ、彩色シテ美麗ヲ極メタル門ノ稱。見ル者、其華麗ニ見トレテ、日ヲ暮ラストテ名ヅク。雍州府志ニ、京都ノ聚樂第ノ日暮門ノ事ヲ云ヒ、又、日光山ノ東照宮ノ陽明門ナドハ名高キモノナリ。落穗集「豫州侯ノ御門、處ガラ人通リモ多ク、見物人ノ絶ユル間モナク、其ノ頃、世上ニ於テ日暮の御門ト申スヨシ」

ひくらす (自動、四) 日ヲ終ラス。朝ヨリ夕マデ暮ラス。[illegible] 伊勢物語、四十五段「暮レガタキ、夏ノ日くらし、ナガムレバ、其事トナク、物ゾ悲シキ」

ひくり (副) ひくひくニ同ジ。

びくり (副) びくびくノ條ノ(一)ニ同ジ。[illegible]「…菓子ニ押ス、ヤウナル印判ヲ捺ヘ、軒號ニびくりサセ」

ぴくり (副) ぴくぴくニ同ジ。

ひぐるま (名) [日車] 草ノ名。ひまはり(日廻)ニ同ジ。

ひぐれ (名) [日暮] 日ノ暮レムトスル時。夕。クレガタ。晩。名義抄「暝、ヒクレ」平治物語、二、待賢門軍「コノ首、失フベカラズト、云ヒ含メテ驅ケ出ヅレバ、失ウテハ惡シカリナントテ、日暮れマデ、爭ヒ爭ヒ守リケルナリ」

ひぐろみ (名) [日黑] 日光ニ焦ケテ、皮膚ノ色ノ黒ズムコト。ヒヤケスルコト。[illegible]「…旅ニ出給ヒタルシルシトオボエテ、日ぐろみシテ、スコシオモヤセテ見エ給フ」

びくゎ (名) [美化] (一)美シク爲リ變ハルコト　(二)美ノ感化ヲ受クルコト

ひくゎい (名) [鄙懷] 己レガ胸中ヲ云フ謙稱　[illegible]

びくゎう (名) [備荒] 凶年ノ爲ニ、平年、其準備ヲナスコト　「備荒貯蓄」

ひくゎし (名) [乾菓子干菓子] くゎし(菓子)ノ條ヲ見ヨ　[illegible]「新、干菓子、煎餅」本朝世事談綺、一、飲食門「干菓子、菓子ハ今云、水菓子ノ事也、ヨッテ菓子ノ字ヲ用、昔古ハ[illegible]中古、アルヘイ糖、コンペイ糖ノ類ヲ渡ス、コレニ倣ヘテ、數品ノ干菓子ヲ製スト也」

ひくゎん (名) [悲觀] [illegible] (一)凡テ、物事ヲ悲シムベキモノト觀ズルコト　(二)厭世ノ念ニテ觀ズルコト

ひくゎん (名) [被管被官] 〔被官ハ、被管ノ誤〕 (一)附屬ノ官、支配下ノ官　省ノ下ニ管セラルル寮、司等ノ稱　[illegible]　(二)武家時代ニ、大小名ノ家臣ノ稱。陪臣ノ武士。[illegible]

ひぐゎん (名) [悲願] 佛教ノ語。佛、菩薩ノ、衆生ノ苦惱ヲ拔カムタメニ、大慈悲心ヲ起シ、誓願ヲ立ツルコト。又、其誓願。[illegible] 謠曲、盛久「有難ヤ、大慈大悲ハ普陲ノ誓願、定業亦能轉ハ菩薩ノ直道トカヤ」

ひぐゎん (名) [飛丸] 飛ビテ來ル彈丸。飛彈　[illegible]「…飛丸ニ中ル」

びくゎん (名) [美觀] ウツクシキミモノ

[illegible]

ぴくゎん(ビ・カン) (名) 微官 イヤシキ官職。ヒクキ官職。又、官吏ノ己レヲ云フ謙稱。小官。[illegible] 錦繡段「白雲樓上傍朱不敢點」微官 [illegible]

ひけ (名) 引 (一)ヒケルコト 退キ散ルコト [illegible] 負クルコト。マケ。オクレ。敗 [illegible] 文武五人 [illegible] (二)賣買ニ價ノ減ルコト。「ひけヲ取ル」「ひけガ立ツ」「ひけヲ取ル」[illegible] 一、時限ノ終 [illegible] (五)肩身ノ狹キコト。大經師昔暦 [illegible] ヒカケテハ、大事ノ娘ニひけガ付ク」

ひげ (名) 髭 [秀毛(ヒゲ)ノ意、或ハ、鰭毛(ヒレゲ)ノ意] [illegible] 毛。口ノ上ナルヲかみつひげ、又、[illegible] はひげト云フ。クチヒゲ。髭 口ノ下、頤ニアルヲ、或もつひげ、又、或たひげト云フ。アゴヒゲ。鬚 頰ナルヲほほひげト云フ。髯 ソノ強キモノヲ鬼髭(オニ)ト云フ。又、なまづひげ(鯰髭)、どぢょうひげ(泥鰌髭)[illegible] 男子ノ [illegible] 髭ヲ [illegible] 去ルヤウニナリシハ、[illegible] 頃ニヤ、明治ノ初年ニ至リ、再ビ西洋風ニ倣ヒテ生シタリ。倭名抄、三「毛髮類「髭、[illegible] 比介 [illegible] 比介 [illegible] 也」字 [illegible] 口 上曰ㇾ髭、口下曰ㇾ鬚、[illegible] 同、口下曰ㇾ鬚[illegible] 神代 [illegible] 八 [illegible] 歸ニ沙門ニ」萬葉集、五廿九長歌「鼻ヒシビシニ、シカトアラヌ、比宜(ヒゲ)カキ掻デテ、アレヲ置キテ、人ハアラジ [illegible] 三十五、柏木ニ「フリガタウ稍ゲナル御カタチ、イ [illegible] 口ヘテ、[illegible] ナドモ取リノクコヒ [illegible] ハネバ、シゲリテ、親ノ孝ヨリモ、ゲニヤツレ給ヘリ」榮花物語、十三、木綿四手「御年廿三四バカリニオハシマセバ、サカリニメデタク、髭ナドモ少シケハヒヅカセ給ヘル、云云」 宇治拾遺、十一、第一條「[illegible] 云ヒテホムルユヱニ、[illegible] ヲ顧ヒタマヘリ、ほう髭ヲバ鍾馗髭トテ諸人好ム、鬼髭左右ヘワカレナド古記ニアルハ、此髭ノ事ナリ、アゴサキノ髭ヲバ天神髭トテ、武家ニハサノミ好ミタマハズ」 武野燭談「土井大炊頭、髭剃リテ登城シテ、一殺ニ倣フト」(髭剃リシハ、信長ニ始マルトモ云フ) (二)獅子、虎、猫ナドノ口ノ邊ニ生フル [illegible] 長キ毛 [illegible] トハ、貴人ニコビヘツラフ。宋史、寇準傳、[illegible] 公ノ故事ヨリ出ヅ」

ひげ (名) 卑下 (一)イヤシムコト。イミキラフコト。[illegible] 之也」 (二)〔へりくだる〕ヘリクダルコト。謙遜スルコト。史記、武安侯傳「武安侯新欲ㇾ用ㇾ事爲ㇾ相、卑ニ下賓客ニ進ニ名士家居者ㇾ貴ㇾ之」 源、三十二、梅枝ニ「知ル人ニモアラズヤトひげシ給ヘド、言ヒ知ラヌ [illegible] 同、三十四、上[illegible]、上九「身ニカヘテ覺シタリシカド、心ノママニモオゴラズひげシテ、廿カウチニハ、納言ニモナラズ成ニナカシ」

ひけい (名) 祕計 (一)祕密ナル計略(ハカリゴト)。太平記、十二、公家一統政 [illegible] 依、內奏 [illegible] デハ [illegible] ナリツル [illegible] 賜ハリ」 (二)不思議ナルハカリゴト。漢書、高帝紀、下「遂至ニ平城一爲ニ匈奴所一圍七日、用ニ陳平祕計一得ㇾ出」

びけい (名) 美景 (一)美シキ景色。陳 [illegible] 「天下良ハ [illegible] 右近「花ノ [illegible] 事ヲ忘ルルハ、美景ニヨリテ花心、惑レ亂レソメテ [illegible] (二)コヤ景品 [illegible]

びけい (名) 美形 [illegible] 又、美シキ人。美人。佳人。麗人。世說 [illegible] 不ㇾ婦」[illegible] 際ヨリ自然ト麗ハシキ黑髮ナルヲ」 同、同「居ナガラ美形ヲ競ブコト、畫圖ニナガメ暮ラス」

ひげかお (名) 髭籠 ひげお(髭籠)ニ同ジ

ひげき (名) 飛檄 檄文ヲ急ニ配付スルコト。又、急ギノ檄文 [illegible]

ひげき (名) 悲劇 [英語、Tragedy.ノ譯語] 觀客ヲシテ悲哀ノ情ヲ起サシムル仕組ノ演劇。悲慘ナル人生、又ハ、世相ヲ描寫、脚色シタル芝居。(喜劇ニ對ス)

びげき (名) 尾擊 つゐげき(追擊)ニ同ジ。又、敵軍ノ背後ヲ擊ツコト。[illegible] 擊之 [illegible]

ひげお (名) 髭籠 竹ヲモテ籠ニ作リ、殘レルガ恰モ髭ノ如シ。端午ノ幟ノ頭ナドニ用ヰ、又ハ、贈物ナドヲ入ル。下學集、下、器財門「髭籠、ヒケコ」 源、廿 [illegible] 北ノオトドヨリ、云云、ひげ [illegible] へリ」 同、五十 [illegible] ケタル、云云、立文取リソヘテ、云云」(此籠ハ、カネヲツクリテ色ドリタルおナリ) 枕草子、五、四十六 [illegible] 一出 [illegible] サセ給ヒケルひげおニ、花ヲコキ入レテ」 [illegible] 集「正月七日、ひげおニ [illegible] ヲ入レテ遣ルトテ」

ひけし (名) 火消 火災ヲ防ギ消スヲ職トス [illegible] 十人火消ト云フ。(定火消ハ一組十人ナレバナリ、出火ノ報ニ、太鼓ヲ用ヰル) [illegible] ルアリ。又、大名十二家ニ命ジテ、大手 [illegible] メタルモノヲ、方角火消ト云ヘリ。別ニ江戶市中 [illegible] ニ「火消役十人、當ニ東部[illegible]、大夫家、民居連綿溢ニ府內、[illegible] 火之災 [illegible] レノ場所ヘモ掛ルナリ、城附近、手合八町ノ內ナリ、[illegible] アフハ [illegible]

ひけしつぼ (名) 火消壺 熾(オキ)ヲ消スニ用ヰル蓋(フタ)アル壺。コレニテ薪ノ熾火ヲ密閉シテ、消炭ヲ作ル。

ひげす・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、下二) 卑下 己レヲ卑シメテ禮ス。ヘリクダル。[illegible] 卑下ノ [illegible] 見セ [illegible] 「女モ、云云、過ギタルト覺スバカリノ事ハ、シ出デズ、スイタクひげせズナドシテ、御心オキテニモテ [illegible] ナル [illegible] ド、ケハヒ思ヒナシモ心憎ク、アナヅラハシカラズ」

ひげだいもく (名) 髭題目 はねだいもく(跳題目)ニ同ジ。

ひけつ (名) 祕訣 [illegible] 奧義(アウギ)。[illegible] 學文本、至德觀孟法師碑「信山[illegible]、傳ニ神 [illegible]

ひけつ (名) [否決] 否ナリト決ムルコト。(可決ニ對ス)

ひけつ (名) [祕結] 醫ノ語。大便、滯リテ、通ゼヌコト。結スルコト。便祕。 和漢雅…、身…門「祕結、ヒケツ」

ひけつ (名) [碑碣] (文選、「方者爲碑、圓者爲碣」) 石碑。イシブミ。 唐宋…、書敍之文、凡四十八首」 同、故…文序「予…碑碣之文、以…」

びげつ (名) [彌月] 翌月ニワタルコト。又、幾月ニモワタルコト。月ヲ越スコト。月ヲ累スルコト。 …「無…月不…」…物…、彌月…、…本…千秋…、…居…之…」

ひげづら (名) [髭面] 髭ノ多ク生エタル顏。又、其人。ヒゲツラ。ヒゲムシャ。

ひけふ (名) [卑怯] (一)勇氣ナキコト。臆病。 書言字考節用集、九、言辭門「卑怯」注「儒弱之義、或用比興字、非是」 (二)心術ノ卑シキコト。心事ノ陋劣ナルコト。 源氏冷泉…(寶永、近松作)上「佐殿ノ御名ニ、疵ハ付キマジキ、卑怯ハ曲クマイモノト」

ひげふ (名) [丕業] (正韻「丕、大也」) 大ナル業。鴻業。 史記、司馬相如傳「皇皇哉斯事、天下之壯觀、王者之丕業、不可貶也」 …敬宗、…計…表「…闕…繼代之丕業、…天子之能事」

ひげふ (名) [罷業] 執務ヲヤムルコト。業務ヲヤスムコト。「同盟罷業」

ひげまん (名) [髭慢] 髭ノ多キヲ自慢スルコト。 宗因千句「ひげまんヲスル、野守ナリケリ」「頰ケタニ、毛拔ヲヒトツ、取ラサバヤ」 醒睡笑…「…世ニ…シテ…大髭ヲ持チタマヘルアリ、餘リニひげヲまんジ、來ル者ノ毎ニ、我ガ髭ヲバ何ト云フゾト問ヒ給フ」 而…狂詩「髭從達…自慢」

ひけん (名) [披見] 文書ナド、披キテ見ルコト。披覽。 易林本節用集(慶長)下、言辭門「披見、ヒケン」 … 太平記、六、正成天王寺未來記披見事「是ヲバタヤスク人ノ披見スル事ハ候ハネドモ」

ひけん (名) [鄙見] 己レガ見込ノ謙稱。

ひけん (名) [比肩] カタヲ、ナラブルコト。 北齊書、王晞傳「比肩…東西南之…」…

ひげん (名) [飛言] ネナシゴト。ウハサ。根モナキ風聞。オコツレゴト。流言。蜚語。浮言。浮說。流說。 …

ひげん (名) [鄙諺] ヒナビタル、コトワザ。鄙俗ナル諺。下世話。俗諺。俚諺。 史記、蘇秦傳「臣聞、鄙諺曰、寧爲雞口、無爲牛後、今西面、…何異於牛後乎」

ひげん (名) [卑言鄙言] ひご(卑語)ニ同ジ。 南史、臨川烈武王道規傳「…文章…」

ひげむしゃ (名) [髭武者] 髭ノ多ク生エテ居ル武士。又、髯多キ人。

ひげんすう (名) [被減數] 數學ノ語。引算ニテ、或數ヲ、減ゼラルル數。

ひげやっこ (名) [髭奴] 武家奴ノ頰髭ヲ作リタルモノ、又ハ、作髭シタルモノノ稱。後ニハ、罌ニテ作レルモアリ。 諸袖海(元祿)「昔ノ俤、今ノひげ奴ト成リテ、薄髮ノ一筋ニ心ナキ身ト思ヘドモ」 同「頭巾ニ作リ髭カケテ、戀ノ奴姿トナルル」 雙生隅田川(享保、近松作)四「赤坂奴、髭奴、年中振、テモ振リ止マヌ」

ひけらかす・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) (光らかすノ轉) ミセビラカス。テラフ。 浮世風呂…(元文、江戸…)四「後世モ…世モ忘レハテテ、娘ヲツレテひけらかす事ヲ、又モナキ樂ミニシテ」 東海道中膝栗毛(享和、一九)二編、上「五大力ノカンザシ、云云、自慢ラシク、內中ノ者ニひけらかすカラ」 本朝…六「其男ハ、…ク髭自慢、目ヲ世間ニひけらかし、仁王閣助トヤ、關東ニカクレナキモテアマシ者ナリ」

ひ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) [引] (引かるノ訛) (一)罷ル。退ク。退散ス。 「役所ガ引ける」 (二)怖ヅ、臆ス、ヒルム。 「心ガ引ける」「氣ガ引ける」 (三)價ガ安クナル。マカル。安價ニナル。 「直段ガひける」 (四)夜ノ就寢トナル。

ひげをとこ (名) [髭男] 髭ノ多ク生エタル男。髭ヲ多クタクハヘタル男。 唐船噺今國性爺(享保、近松作)中「髭男ノ朱一貫」

ひこ (名) [彥] (日子ノ義、日ハ美稱、ひめモ同ジ、相對ス。爾雅、釋訓篇「美女爲媛、美士爲彥」) 男子ヲ美メテ呼ブ語。 字鏡…「彥、比古」 古事記、上…「可遣天津國玉神之子、天若日子」 同、同…「天津日高日子番能邇邇藝命」 神代紀、上「彥、此云比古」 同、下「天稚彥」私記「安女和加比古」

ひこ (名) [孫] (ひハ物ヲ隔ツル義、曾孫ヲ更ニひひこト云フモコレナリ。ひ(隔)ノ條ヲモ見ヨ) 子ノ子。ウマゴ。今、マゴ。(次條ノ語ヲ參見セヨ) 倭名抄、二十…子孫類「孫、無萬古、一云比古」 同、六…「…河國、會飯郡、…孫郷、安加比古」

ひこ (名) [曾孫] (ひひこノ約) 孫ノ子。ヒマゴ。ヒイマゴ。 書言字考節用集、一、人倫門「曾孫、ヒマゴ、ヒコ」 皇極紀卽位前紀「天豐財重日足姬天皇、渟中倉太珠敷天皇曾孫」

ひこ (名) [小舌] 咽喉ノ上ニ垂リタル肉狀ノモノ、…ノドヒコ。ノドチンコ。懸壅垂。

ひこ (名) 會厭。舌根ノ後下部ニアル軟骨ニテ、食物ヲ嚥下スル際、後下部ニ屈折シテ、喉頭ノ上口ヲ閉鎖シ、飲食物ノ喉中ノ氣道ニ落ツルヲ防グ作用ヲナスモノ。エエン。會厭軟骨。

ひご (名) [籤] (纖弱ノ略) 竹ヲ極メテ細ソク削レルモノ。籠ヲ編ミ、又ハ、提燈ノ骨ナドトス。

ひご (名) [卑語鄙語] イヤシキ言葉。サトビコトバ。卑言。 白居易…「鄙語不可棄」

ひご (名) [蜚語] (集韻「蜚、與飛通」) 無根ノ事柄ヲ、人人ノ間ニイヒ觸ラスコト。又、ソノ語。オヨヅレゴト。造言。 史記、灌夫傳「乃有蜚語爲惡言聞上」

ひご (名) [飛語] ネナシゴト。ヒャウバン。ウハサ。飛言。浮說。流說。 劉克莊…「…飛語之中傷」

ひご (名) [庇護] カバヒ、マモルコト。 五代史記、丁建立傳「明宗…庇護之以免」

ひこう (名) [罷工] 工事ヲ休ムコト。又、業務ヲヤムルコト。罷業。「同盟罷工」

びこう (名) [微功] ワヅカナル、テガラ。微少ナル功勞。 後漢書、班超傳「班超上書請…超曰、…以微功…」 …曹植、…求自試表「今臣…微功…」

びこう (名) [鼻孔] (一)鼻ノ穴。 山海經… (二)禪家ニテハ、本分ノ意ニ譬ヘ云フ語。 續燈錄、天鉢…

[illegible]身是眼、[illegible]」

びこう (名) 獼猴 サル。マシラ。[illegible]猿ガ帶曇天ヲ嘲ルトヤラ、オノレガ足ラザルヲ以テ、人ノ大智ヲ計ラントシテ」

ひこえ (名) [illegible] 小枝 [illegible]

ひこおび (名) 彥帶 小兒ノ衣ノ附紐。[illegible]

ひこがみ (名) 彥神 (ひこ(彥)ノ條ヲ見ヨ) 男子ノ御神。 仲哀紀、八年正月「是謂日有男女二神、男神曰二大倉主一、女神曰二菟夫羅媛一」

ひこき (名) [illegible] ヒゴ、作ル[illegible]

ひこく (名) [illegible]

ひこし (名) 火輿 [illegible]輿ノ中ニ油火ヲトモスモノ。[illegible]輿、俗云二火輿一是」 類聚雜例「火輿、輿内立二小臺一、居二油坏於其上一明レ火」

ひこじろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 劉 [illegible]ケタリケルヲ、物ニ引キカケマツハレニケルヲ、逃ゲントひこじろふホドニ」 同、廿、胡蝶「[illegible]ノイトイタク綻ビニケレバ、云云、ヤヤクシクひこじろひ、アケテ入リタマフ」 同、三十八、夕霧「[illegible]ニテ[illegible]ハス」 狹衣、一、上「切ニ引留セ給フヲ、アナムヅカシ、窓ク作ルニト、ひこじろひ給ヘル」

ひこずいき (名) [illegible] 芋 白芋 乾シ[illegible]モノ、肥後國ノ産、名アリ。色白ク、太クシテ長ク、味、[illegible]、房具ニナリ、又、[illegible]性アル故、[illegible]、房具ニ用ヰル。[illegible]

ひごたい (名) 平江帶 (一)(ひごハ、平江ノ宋音、ひんごうノ約。支那、平江府ニテノ[illegible]ヨリ出ヅ、[illegible]ト云フ」 又、ひんごうたい。 平江帶[illegible]ニテ、[illegible]ニ飾アリテ、ヒラウチノ帶ノ稱。 徵書記紀談「前探題了後、[illegible]」 (二)菊科ノ草ノ名。山野ニ自生シ、春、宿根ヨリ叢生ス。葉ハ、小薊ニ似テ、刺ナク、厚クシテ大ナリ、葉ノ長サ一尺許リ、背ニ白毛アリ。夏ノ後、莖ヲ出スコト四五尺、秋ニ至リテ、莖ノ頂ニ、藍紫色ノ小花、簇リテ毬ヲナス。[illegible]

ひこたらう (名) 比古太郎 九州ニテ、夏ノ雲ノ[illegible]。 物[illegible]呼、一、[illegible]「夏[illegible]、ナックモ、九州ニテ比古太郎ト云フ」

ひこつ (名) [illegible] 側[illegible]其外[illegible]

びこつ (名) 鼻骨 顏面骨ノ一。上顎骨ノ間ニアリテ、鼻ヲ構成スルモノ。形、[illegible]

ひこつか・す [illegible] ヒコヒ[illegible] (狹衣[illegible]) 匂ヒニ、二人ハ鼻ノサキヲひこつかしテ」

ひこつか・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 前條ノ[illegible]同ジ。ヒコツカセル。[illegible]フット、鼻ヲひこつかせテ、アア臭イ」

ひこつか・せる (動) 前條ノ語ノ口語。

ひこつ・く・ク・ケ・キ・ケ (自動、四) ビリツク。ヒコヒコス。

ひこづら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 劉 (引釣ルノ延) 引キ爭フ。引キ張ル。ヒコジロフ。ヒキシロフ。ヒキズル。 名つらふ(挐)ノ條ノ(一)ヲ參見セヨ。 [illegible]、ヒコヅラフ、ヒコシラフ、ヒク[illegible]、ヒコヅラフ」攫、ヒコヅラフ、ツカム」 古事記、上三十「板戸ヲ、云云、比許豆良比[illegible]」 [illegible]ニ、[illegible]リカケテ、引ヅラヒ[illegible]スレー[illegible] アリナミスレド、アリナミエズゾ」 張衡、西京賦「熊[illegible]」

ひこと (名) 火事 火ノコト 火災

ひごと (副) 日每 ニチニチ。マイニチ。 [illegible]、十四「タカケニ、ホ鳴クヒグラシ、ココダクモ、毎日ニ聞ケド、アカメ[illegible]カモ」

ひこねびゃうぶ (名) 彥根屛風 岩佐(浮世)又兵衛ノ筆ト傳ヘラルルモノニテ、當時ノ優[illegible]ナル男女遊樂ノ狀ヲ描キタル屛風[illegible]浮世[illegible]

ひこばえ [illegible]

ひこば・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) 蘖 伐リタル草木ノ根株ヨリ、芽、生ズ。[illegible] 江」 同、八「[illegible]比古波江」 ひこばえテ、秋ニ出ヅルホドニ、ナリニケル哉」

ひごひ (名) 日乞 晴天ニナラムコトヲ祈ルコト。(雨乞ニ對ス)

ひごひ (名) 緋鯉 金魚ノ、鯉性ナルモノ。畜ヒテ玩ブ。鯉ニ似テ、頭、尖リ、大ナルハ尺ニ過グ。[illegible] 橋、小船、平生所レ好、嶽行二其中一」

ひこひこ [illegible] 生玉心中(正德、近松作)上「踏マクリシテネヂ寄レバ、ヤアひこひこスルナイ、ワヤニシテモ、サセヌサセヌ」

ひごふ (名) 非業 [illegible]因ニアラザルコト。又、惡業ニアラヌコト。[illegible]

會ニ一切衆生、特ニ非業ノ命ヲ使ム…ニ」 太平記、廿六、[illegible]モ、非業ナレバ蘇生スベシ」

ひこ-ぼし (名) 〔彦星〕 〔彦、男子ノ美稱〕 星ノ名。(織女ニ對ス) イヌカヒボシ。牽牛星 いぬかひぼし(犬飼星)、及、たなばた(棚機)ノ條ノ(三)ヲモ參見セヨ。 倭名抄、一、星宿類「牽牛、比古保之、又、以奴加比保之」 名義抄「牽牛、ヒコボシ」 萬葉集、八、[illegible] 比古保思モ、ワレニマサリテ、オモフラメヤモ」

ひこ-みこ (名) 〔彦御子〕 (ひこ(彦)ノ條ヲ見ヨ) 男子ノ御子。姫御子ニ對ス。 古事記、中、景行「此天皇之御子等、并八十柱…王五、女王三」 景行紀、四年二月「天皇聘之、仍喚八坂入媛爲妃、生七男、六女」

ひ-ごむ (名) 〔祕錦〕 ひごんき(緋金錦)ニ同ジ。 名義抄「祕錦、ヒコム」 續紀、十四、天平十三年閏三月「…八幡神宮…」 大安寺伽藍緣起并流記資財帳「合祕錦[illegible]」

ひごん-あを (名) 〔比金襖〕 (一)襲(カサネ)ノ色目ノ名。表ハ黃バミタル青色ニテ、裏ハ二藍ナルモノ。(二)青黑ノ經(タテイト)ニ、黃ノ緯(ヨコイト)ヲ織リタル織物 太平記、廿四、天龍寺供養事「藤大中納言光朝卿、浮線綾ノ比金襖ノ狩衣、珍シクゾ見エタリケル」

ひごん-き (名) 〔緋金錦〕 錦襴ノ類ノ織物 又、ヒゴム。 源、三十二、梅枝「古院ノ御世ノハジメツカタ、コマウド(高麗人)ノ奉レリケルアヤ、ひごんきドモナド、今ノ世ノ物ニ似ズ」細流抄「金襴ナドノ類ナリ」明星抄「祕今綺ト書リ」河海抄「緋金錦、金ヲ織付タル錦也、金襴ノ類歟」

ひこ-め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 鼻ノア

タリ、ヒョヒョス

ピコル (名) 〔擔担〕 〔英語、Picul. 馬來語、[illegible] 在東洋ノ歐羅巴人ノ稱呼、一人ニテ擔フベキ重サナル故、擔ノ字ヲ當ツ〕 支那ノ秤目ノ名。我ガ十六貫二百四十三匁三分強。凡ソ百斤ニ當ル。

ひ-ごろ (名) 〔日頃〕 (一)多クノ日ヲ經ルコト。數日。又、日數。 蜻蛉日記、中、下「カクシツツひごろニナリ、[illegible]メマサルニ」 枕草子、九、九十一段「天人ナドノ降リ來タルニヤト覺エテシヲ、日頃スギヌレバ、イトサシモナキワザニコソアリケレ」 讃岐典侍日記「聽カセ給ヘル御ママミナド、ひごろノ經ルママニ、弱ゲニ見エ給フ」 (二)フダン。平生。平常。 榮花物語、一、月宴「御オボエモ、ひごろニ劣リニケリトゾ聞エ侍リシ」 宇治拾遺、一、第四條「郡司ニ[illegible]メタル人ナリケルガ、日頃ハサモセヌニ、時ノ外ニ[illegible]シテ」

ひ-ごろ (副) 〔日頃〕 數日コノカタ。ケネテヨリ。ツネヅネ。日來。 源、四、夕顏「ひごろオコタリ難ク物セラルルヲ、安カラズ歎キワタリツルニ」 榮花物語、一、月宴「式部卿ノ宮、ひごろイタク煩ヒ給フト聞ユレバ」 玉葉集、三、夏「夕立ノ、ナゴリバカリノ、ニハタヅミ、ひごろモ聞カヌ、蟲鳴クナリ」「日頃ノ思」「日頃ノ願」

ひ-ごろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 〔ひ(日)ハ、日ナリ、ごろふハ、類ふ義、ごろ、ごろふ(比)ノ類、もごろ(若)ノ條ヲモ見ヨ〕 光、日ノ如クナリ。(彗星ニ云フ) 孛ハ星ノ名、彗星ノ、光ヲ四周ニ放射スルモノ。サレバ、日ノ如クナルナリ。 隋書、天文志「孛星、彗之屬也、偏指曰彗、芒氣四出曰孛」 天武紀、下、十三年十一月「是月有星、孛于中央、與昴星雙而行之、及月盡而失焉」

ひ-ごゑ (名) 〔失聲〕 〔乾聲(ヒゴヱ)ノ義カト云フ〕 聲ノシハガルルコト。聲ノ嗄レテ、出デヌコト 又、[illegible]テ、嗄ンナル[illegible]シ ハ[illegible]レゴエ [illegible] 倭名抄、三[illegible]「失聲、比古惠」 名義抄「失聲 ヒコエ」

ひさ (名) 〔久〕 〔ひさし(久)ノ語根〕 長ク時ヲ經ルコト。 萬葉集、十三、[illegible]「月モ日モ、カハリユケドモ、久ニ經ル、三諸ノ山ノ、トツ宮ドコロ」 同、十七、廿六「ナカナカニ、死ナバ安ケム、君ガ目ヲ、見ズ比佐ナラバ、スベナカルベシ」

ひざ (名) 〔膝〕 〔ひき、ゐざるノ意、坐儀ニ進退スルヨリ云フ語カ〕 (一)股ト脛トノ骨節(ホネブシ)ノ前面 倭名抄、三、手足類「膝、比佐、脛頭也」 名義抄「膝、ヒザ」 古事記、中(垂仁)二十四「[illegible]云云、枕其后之御膝、爲御寢坐也」 萬葉集、五、十「イカナラム、日ノ時ニカモ、聲シラム、人ノ膝ノヘ、吾カ枕カム」 同、十四、廿「ウナ日サス、宮ノ比射ノ、大和女ノ、比射マク每ニ、ワヲ忘ラスナ」 源、七、紅葉賀「ヤガテ御ひざニヨリカカリテ、寢入リ給ヒヌレバ」 (二)紐、絲ヲ結ブニ、一タビ結ビテ、又結ビカヘスニ、折リタル膝頭ノ如ク、牛輪ヲ成スコト 一方ノミナルヲ、片膝に結ぶナド云フ。又、カタテムスビ。

ひ-さい (名) 〔比歲〕 ひねん(比年)ニ同ジ。 管子、樞言篇「一日不食、比歲歉、三日不食、比歲飢、五日不食、比歲荒」 漢書、成帝紀「[illegible]比歲不登、吏民以義收食」

ひ-さい (名) 〔非才〕 才能ナキコト。又、自己ノ謙稱。 羅隱詩「侯門未必用非才」

ひ-さい (名) 〔菲才〕 〔論語、泰伯篇、何晏註「菲、薄也」〕 才能ノウスキコト ニブキ才 鈍才 短才 不才。又、自己ノ謙稱。 頤字韻(…、余照)「菲才」

び-さい (名) 〔微細〕 (一)至ッテチヒサキコト 事ノコマカナルコト 細密。 漢書、刑法志「皆復古刑、爲三千章、詆欺文致、微細之法、悉蠲除」「纖悉微細」 (二)びせん(微賤)ニ同ジ [illegible]

び-ざい (名) 〔微罪〕 スコシバカリノ罪。些些タル罪 「微罪不檢擧」

び-さい-に (副) 〔微細〕 コトコマカニ。クハシク。緻密ニ。細密ニ。

ひ-さう (名) 〔彼蒼〕 〔彼ノ蒼天ノ義〕 天ノ稱。仰ギテ天ニ訴フル時ナドニ云フ語。 カノサウ 詩、秦風、黃鳥篇「彼蒼者天、殲我良人、如可贖兮、人百其身」 韓愈、祭十二郎文「彼蒼者天、曷其有極」 杜甫詩「[illegible]」「彼蒼ヲ仰グ」

ひ-さう (名) 〔皮相〕 〔史記、朱建傳「足下、云云、以皮相、恐失天下之能士」ヨリ出ヅ〕 物事ノ外部。ウハッラ。表面。又、ウハベノカンガヘ。表面ノミヲ見テ下ス淺薄ナル判斷。 韓詩外傳「延陵子知其爲賢者、問姓字、牧者曰、子乃皮相之士也、何足語姓字哉、遂去」「皮相ノ見」

ひ-さう (名) 〔悲壯〕 (一)悲慘ナルト共ニ、壯大ナルコト。悲哀ノ中ニ、意氣ノ盛ンナルコト。 後漢書、禰衡傳「聲節悲壯、聽者莫不慷慨」 陳傅良詩「使氣[illegible]時事、悲壯若以[illegible]」 (二)哲學ニテ、美ノ一種 現象界ニ於テ、葛藤ノ解決ガ不可能トナリタル場合、コレヨリ脫却セムトスル美。即チ、死ヲ云フ。「悲壯美」

ひ-さう (名) 〔悲愴〕 〔說文「愴、傷也」〕 カナシミ、イタムコト。 白居易詩「事勿追思、追思多悲愴」 陸游詩「回首二十年、撫事增悲愴」

ひ-さう (名) 〔祕藏〕 祕メ藏ムルコト、珍

[illegible]シ二[illegible]、六、[illegible]ト云フ[illegible]家集、廿、仙洞歌、宮内卿家隆卿「ひさうノヒヨドリ、ヲギノハト云ヘ、ラ[illegible]ニア、ケテ鳴ハ[illegible]ケル[illegible]」

ひざう (名) [秘蔵] 前條ノ語ニ同ジ。法[illegible]

ひざう 二 [非常] [illegible]非常[illegible]十分ナ[illegible][illegible]ざうノ時ニモ相見デヤミスベキカ、イカニ思ヒタルゾ、云云」源、廿一、少女「アサマシウ、トガメ出デツツオロス、オホシ(凡ノ意)カイモトアルジ(垣下)ハ、ハナハダひざうニ侍リタウブ、云云、鳴リ高シ、鳴リヤマン、ハナハダひざうナリ、座ヲ引キテ、立チタウビナンナド、ヲドシ云フモイトヲカシ」枕草子、七、六十八段「ナホコノ事ノタマヘ、ひざうニオナジ(オカシキ)事モコソアレトイフヲ」

ひざう (名) [脾臓] ひ(脾)ニ同ジ。

びさう 名 [美相] 美シキ相貌。ウルハシキ相好。ウツクシキカホカタチ。美容[illegible]今昔物語[illegible]

ひざうこ 名 [秘蔵子] 秘蔵スル子。愛スル兒[illegible]一「マノノ長者ノ秘蔵子、玉ヨノ姫ハタマタマノ、上方住居ナラヲヨリ、ナレテ所ノ風ニソミタル姿容」

ひさうせき 名 [砒霜石] 一、銀、銅等ノ鑛ヲ吹キ分クル時ニ出デ、白ク凝結スルモノ。[illegible]酸化砒素[illegible]石、今砒霜石ト云ナリ、生ハ砒石ト云、コレヲ焼タルハ砒霜ト云、砒霜ニスル石ト云コトニテ、砒霜石ト云ナリ」(二)俗ニ、砒石ノ異稱。

ひさう-なき (形) 「非[illegible]」ノ意[illegible]ニテ、形容ノ[illegible]、假粧ノ不精、甚シキモ、ナルベシ」美相ニテアラザリ。(細流抄ニ、貧相、源注拾遺、無ニ美相ニ歟トアリ)[illegible]ニマメマメシキスヂヲ[illegible]、目ハサミサナニ、ひさうなき[illegible]ノヒトヘ打トケタル」

ひさうむすこ (名) [秘蔵息] 秘蔵スル子息。最モ大切ニ養育スルムスコ。

ひさうむすめ 名 [秘蔵娘] 秘蔵スル娘。最モ大切ニスル娘。箱入リ娘[illegible]スメ。浄瑠璃三重帷子(寶永、近松作)上「先大抵、目鼻揃フタ秘蔵娘、添ハスル殿御ハ、コナ様ノケテ外ニナイ、何ト合點シテ下サンスカト」

ひざ-おくり (名) [膝送] 膝ヲ順次ニ送リヤルコト。キザリナガラ、順次ニ身ヲ送リ移ルコト。

ひさかき (名) [柃] 實葉樹ノ轉、實多ケレバ云フ、山茶科ノ常緑樹ノ名、山谷ニアリ、高サ十二三尺、葉ハ、略、茶ニ似テ、狹ク長ク、互生シ、鋸齒アリ。花、最モ小サクシテ、白ク、臭シ。葉ノ本岐ニ、細小ノ實、[illegible]ニ顆ヲ生ズ、赤黑クシテ、紫ヲ帶ブ　今、此枝葉ヲ榊ニ代ヘテ用キル。訛シテびしゃかき。ビシャシャケ。ヒササキ。フクラ。フクラノキ。フクラシバ[illegible]、此樹葉ノ灰ハ、染家ノ媒染上、必用ノ灰汁トナル。(柃灰)因リ、[illegible]灰汁柴　名モアリ。倭名抄、廿[illegible][illegible]ホソメテ、藤ノ花、夕ひさかきノ、ハヒヲサスラン」

ひざ-かけ (名) [膝掛] (一)マヘカケ。マヘダレ。(二)車、乗、時ナドニ、膝ニ掛クル蔽ヒ物。

ひざ-がしら (名) [膝頭] 膝ノ折レ曲ル頂ノ所。アハタコ。ヒザカブ。ヒザグル[illegible]膝小僧ノ[illegible]見セヨ」)和爾雅、三、身體門「膑、ヒザガシラ、俗名云、膝頭日[illegible]、云[illegible]」一茶の句「膝がしら、木曽ノ夜寒ニ、古ビケリ」鬼貫の句[illegible]ら、治メタイ木曽ノ[illegible]」

ひさかたの (枕) [久方・久堅] [illegible]、日ノ方ノ義トモ云ヒ、或ハ云フ、天先ヅ成レレバ、[illegible]ヨリ久シキ意ニテ、久堅ノ義、或ハ云フ、天ハ虚ナレバ、匏形ノ義ト、或ハ皆、牽強ナラム」(一)天ノ枕詞。古事記、中、景行記「比佐迦多能、天ノ香山、利鎌ニ、眞渡ル杙、弱細、手弱腕ヲ、枕カムトハ」萬葉集、五十五「ワガ岡ニ、梅ノ花散ル、比佐可多能、天ヨリ雪ノ、流レクルカモ」同、廿五長歌「比左加多能、天ノ戸開キ、高千穂ノ、嶽ニアモリシ、スメロギノ」同、二十八「久堅乃、天見ル如ク、仰ギ見シ、皇子ノ御門ノ、アレマクヲシモ」(二)轉シテ、雨、月、星、雲、光、ドスベテ、天上ノ物ニモ用キル。萬葉集、廿四十「比左可多乃、雨ハ降リシク、ナデシコガ、イヤ初花ニ、戀シキ吾ガセ」同、四十「久堅乃、雨モ降ラヌカ、雨ツツミ、君ニタグヒテ、此日クラサム」同、十五卅「比左可多能、月ハ照リタリ、イトマナク、海人ノイサリハ、トモシアヘリ見ユ」同、八九五十「久方乃、月夜ノ[illegible]梅ノ花、心開ケテ、吾ガ思ヘル君」古今集、五、秋、下「久かたの、雲ノ上ニテ、見ル菊ハ、天ツ星トゾ、アヤマタレケル」拾遺集、九、長歌「久かたの、雲ノ上マデ、カクレナミ、高クキコユル、カヒアリテ」(三)又、轉ジテ、日ノ光、月ノ都、ナドヲ略シテ、光、都、ニモ用キ、光ヨリ轉ジテハ、鏡ナドニモ用キル。古今集、二、春、下「久かたの、光リノドケキ、春ノ日ニ、シヅ心ナク、花ノ散ルラン」萬葉集、十三「久堅之、王都ヲ[illegible]ユク[illegible]」

ひさかた-ぶり (名) [久方振] ひさしぶり(久振)ニ同ジ。

ひ-ざかな (名) [乾魚] 魚ニ、鹽ヲ延キナドシテ、[illegible]ニモ[illegible]。ヒウヲ。ヒモノ。[illegible]ニモリツケテ、明ケクレ、ひさかたヨリ外ナク、遊ブヲ仕事ニ女一人猫一疋」

ひざ-かぶ (名) [膝頭] ひざがしら(膝頭)ニ同ジ。[illegible]

ひ-ざかり (名) [日盛] 日ノ照ルコトノ盛リナル時。多ク、暑氣ノ頃ノ午後[illegible]。俳諧集「夏ノイトアツキ日ざかりニ、同ジ兒ノヨミタリケル」散木集、二、夏「日ざかりハ、遊ビテ行カム、カゲモナシ、マノノ萩ハラ、風タチニケリ」

ひ-さき (名) [火先] (一)火ノ燃エアガル[illegible]。(二)[illegible]

ひさぎ (名) [楸] 木ノ名。今、きささげ[illegible]「楸、比佐木」萬葉集、十一「波間ヨリ、見ユル小島ノ、濱久木、久シクナリヌ、君ニアハズシテ」夫木[illegible]ひさぎ[illegible]千鳥、空サヘキヨキ、月ニナクナリ」

ひさぎくさ 名 [久木草] 松[illegible]倭抄「春日野ヤ、雪消ノ澤ノ、ひさぎぐさ、花ニ咲キケリ、雪ニ[illegible]レテ」

ひざ-きち (名) [膝吉] 〔膝ヲ、擬人シタル語。脛吉ト同趣〕膝頭ノコト。ひざっこぞう(膝小僧)ニ同ジ

〔ひさぎ-びと〕(名)【鬻人】物ヲ鬻グ人。あきびと(商人)、あきんど(商人)ニ同ジ。倭名抄、二[illegible]比佐岐比止」

〔ひさぎ-め〕(名)【鬻女】女、ヒサグ[illegible]。行商ス[illegible]

〔ひさく〕(名)【杓】〔ひさごノ轉〕ひしゃく(柄杓)ニ同ジ。名義抄「[illegible]、ヒサク、ツノサカ[illegible]」[illegible]ヤイヒテ、ヨカラヌ物ニトゾ、或人仰セラレシ」

ひ-さく(名)【秘策】秘密ニ盡策スルコト。[illegible]

ひ-さく(名)[illegible]行者ノ背ニカクル珠柴[illegible]

〔ひ-さ・く〕・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四)【引裂】〔引き裂くノ略〕眦(マナジリ)ヲ吊リ上グ。背ヲ決ス。名義抄「[illegible]、ヒサク」枕草子、十二、百五十六段「トコヲトラセテ、ヲヲト、目ウチひさきテ、ヨムダラニモ、イトタフトシ」

ひさ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(他動、四)【塞】ふさぐ(塞、他動、四)ニ同ジ。字[illegible]「[illegible]、ヒサグ、フサグ」今物語「コノ僧、目ヲヤム由云ヒケレバ、目ヲひさぎテ入ルハ苦シカルマジキ由ヲ、人人云ヒケレバ」

ひさ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(他動、四)【鬻販】〔提(ヒキサ)ぐノ活用轉〕賣ル。サバク。販賣　名義抄「鬻、ヒサグ、販、ヒサグ、ウル」徒然草、百三十七段「花ヲひさぐモノ、作リテウチ置ク程ナシ」

〔ひさ-ぐ〕・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(他動、四)【拉】ヒシグ。オシツブス。字類抄「拉、ヒサグ、ヒシグ」撰集抄、七、第十條「[illegible]計打ひさがレテ、云云、[illegible]ノ、云云、宗盛ノ坊モ打ひさがレタル内ニテ」[illegible]二崩レ埋メラレテ、アトカタナク、ヒラニ打チひさがレテ、二ツノ目ナド、一寸バカリウチ出ダサレ」

〔ひ-さ・ぐ〕・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(自動、下二)【拉】ヒシガル。オサレテ、ツブル。撰集抄、七、十一條「家ノひさげタル時ニ、コノ本尊ノ等身ノ觀音、宗盛ノ上ニオホヒテ、コトナルアヤマチ露計ナカリケリ、イト不思議ニゾ侍ル」

〔ひ-さ・ぐ〕・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下二)【提】〔引き下ぐノ略〕手ニ下グ。ヒキサグ。ヒッサグ。名義抄「提、ヒサグ」[illegible]、知知良良「錫錑ヲ比佐介テ、云云、己レカヤ、イトコセノ門ニ、錫錑ヲ比佐介テ」

〔ひさく-がた〕(名)【杓形】塔ノ九輪ノ上ニ置ク火焔附キノ寶珠。火珠　倭名抄、十三「[illegible]具、火珠、[illegible]乃比佐久加太」

ひざ-ぐみ(名)【膝組】(一)膝ヲ組ミ合ハスルコト。左右ノ膝ヲ重ヌルコト。(二)對坐スルコト。甲陽軍鑑、七、品第十五「男ト男ガ出アヒテ、膝組ニテ堪忍ノ成リガタキ時」

ひ-ざくら(名)【緋櫻】櫻ノ一種。花、小サク、千瓣ニシテ、莖、長ク垂リ、蕾、甚ダ赤ク、開キテ淡紅ナルモノ。山ザクラ　天治字鏡、七「[illegible]、比佐久良」字鏡五十「木辛夷、山佐久良」近江[illegible]息所歌合、火櫻ノ花「梓弓、春ノ山邊ニ、燃立ナ、[illegible]ユトモミエヌ、火櫻ノ花」

ひざ-くりげ(名)【膝栗毛】〔己レガ脚ヲ、栗毛ノ馬トシテ行ク意ニテ〕一馬、肩籠ナドノ乗物ニ乘ラズ、徒歩ニテスル旅行　丹波與作(寶永、近松作)道中雙六「五十三次ヲ、居ナガラアユ[illegible]、ひざ[illegible]、ハイシャ道中雙六、南無[illegible]」[illegible]「天地ノ[illegible]居ニ[illegible]シク、日月ノ過客ニ[illegible]シタガヒテ、ソゾロ浮レアリクモノハ十偏舎ノ主ニシテ、コレガ爲ニ一雙ノ膝栗毛ノ[illegible]フ」

ひざ-ぐるま(名)【膝車】ひざがしら(膝頭)ニ同ジ。物ヲ[illegible]スルニツキテ云フ。[illegible]物語、三「[illegible]ヲ膝車ニノセテ折敷キ」

〔ひさげ〕(名)【提子】金属ニテ鍋ノ如ク造リ、酒ヲ盛リテ盃ニ注グ器。注口アリ、又、鉉(ツル)アリテ、提グベシ。(銚子(テウシ)ノ條見合ハスベシ)注子　名義抄「提、ヒサゲ」枕草子、九、九十九段「物マヰルホドニヤ、ハシ、カヒナドノ取リマゼテナリタル、ひさげノ柄ノ倒レ伏スモ、耳コソトドマレ」今昔物語、廿六、第十七語「大キナル土器シテ、銀ノひさげノ、斗納許ナル、三ツ四ツ許ニ汲入テ持[illegible]タルニ、大[illegible]上、時[illegible]「ハンザフタラヒシテ、御手スマスコトナカリキ、[illegible]ノヒンカシノマニ棚ヲシテ、小桶ニチヒサキひさげシテオカレタレバ、仕丁ツトメテゴトニ、湯モテマヰリテイレケレバ」宇治拾遺、一、第十四條「[illegible]ニ提(ヒサゲ)ニ酒ヲ入レ、[illegible]コリ入ランハ、人目ツベシト思ヒテ、云云[illegible]大[illegible]サル、ひさげ五ツゾ入リケル」

〔ひさご〕(名)【杓】〔提子(ヒサゲ)ノ約カ〕水ヲ汲ム器　蓋シ、古キハ、今ノ杓子ノ如クニシテ深キモノ。後ニ轉ジテ、ひさくト云ヒ、ひしゃくト云ヒ、更ニ略シテ、ひさくト云フ　倭名抄、十六「[illegible]、比佐古[illegible]」[illegible]外宮儀式帳「[illegible]乎計リスエタレ酒盞」[illegible]宇治拾遺、三、第十六條「ナベテノ瓢ニモ似ズ、大ニ多クナリタリ、云云、大ナル七ツ八ツハひさごニセント思ヒテ、家ニ吊リツケテ置キタリ」

〔ひさご〕(名)【瓠】【瓢】〔一杓(ヒサゴ)ノ義、[illegible]、長[illegible]ト云フモノ[illegible]、故ニ、なりひさご(生瓢)トモ云フ(結實杓(ナリヒサゴ)ノ義)〕古ク、又、ナリヒサゴ。ヘウタン。ゆふがほ(夕顏)、ふくべ(匏)、へう(瓢)類ノ總稱。各條ヲ見ヨ。倭名抄、十六[illegible]今昔物語、十三、第四十語「法花ノ聖ノ田一町ガ中ニ、瓢一本生ヒタリ、其ノ瓢、[illegible]、枝八方ニ指テ、[illegible]一町ニ[illegible]アリテ[illegible]シ、一二[illegible]ノ瓢ヲ見ルニ、大ナルコト甕ノ如クシテ隙无ク、並ビ臥タリ」

ひざ-ご(名)【膝子】〔[illegible]膝元ヲ[illegible]レザル子ノ意〕幼兒ノ異名。(江戸ノ女詞)

ひさご-がた(名)【瓢形】瓢ノ如キ形状。ヘウタンガタ。ヘウタンナリ。

ひざこゾウ(名)【膝小僧】ひざこぞう[illegible]
〔膝小僧〕ニ同ジ

ひさご-づる(名)やぶからし(烏蘞苺)ニ同ジ。多識[illegible](林道春)二、[illegible]「[illegible]比左古豆[illegible]」[illegible]云云、[illegible]云云、[illegible]ニ延ス、故ニ、やぶからしト云フ」

〔ひさご-ばな〕(名)【瓠花】〔形、瓠ノ花ニ似タレバ云フ〕(一)上代ノ少年ノ髮風ノ名。髮ヲ額ニ束ヌルモノ。一ツニ結ビタルナリ、分レテ角子トナル。みづら(角髮)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]「[illegible]」[illegible]古俗、年少兒年十五六間、[illegible]於額、十七八間、分爲二角子、今亦然之」(二)古ヘ、相撲ノ[illegible]分[illegible]トシテ、頭髮ニ插シタル造花。宇津保物語、初秋、上三十「ミ

[illegible]イトメ[illegible]八[illegible]年六月廿七日「今日相撲召合也、云云、右紀勝末(隋後說)如ニ左出ニ揺ニ袍花ニ」

〔ひささ (名) [久] 〔久久ノ略〕久シキ間。[illegible]「相見テハ、幾久ニモ、アラナクニ、年月ノゴト、思ホユルカモ」[illegible]「[illegible]イクひささニカ、ナリヌラン、イタク木高キ、庭ノ苔カナ」

ひささき (名) [illegible] ひ[illegible]ト[illegible]同[illegible]

ひさざら (名) [膝皿] 古名、ヒザノカハラ[illegible]又、ヒザカシラ[illegible]膝ノ關節ノ前面ヲオホフ皿狀ノ骨。膝蓋骨 膝㒵 膝骨 書言字考節用集、五、肢體門「膝蓋、ヒザカハラ、ヒザザラ、又云、膝盖」

ひさし (名) [庇廂] 〔母屋ノ前ニテ、日影ノサシ入ル所ノ意カ、或ハ、日支(ヒササヘ)ノ約ト云フ〕(一)古ヘ、殿ノ正中ヲ母屋トシ、其四面、各一間、狹キ處アリ、コレヲひさしトス。又、ひさしのま、廂間トモ云フ。後世、いるかは(又ハ、いりかは)ト云フ。[illegible]名[illegible]ヒサシ」[illegible]十[illegible]「正殿之東西室、皆號曰ニ廂」天治字鏡、十[illegible]ノひさしノ下リタル方ニ、ヤツレテオハスルニ」紫式部日記[illegible]ノ御障子ヨリひさしノ柱マデ、隙モアラセズ立テキリテ[illegible]云フモノノ築地ノホドニ、ひさしサシテ居タル」大和物語、中「ひさしニ御座敷キテ、大殿篭リナドシテ降リ給

ウテ、程久シウオハシマサザリケリ」(二)後世ハ[illegible]戸口、窓、ナドノ上ニ、別ニ作リ添ヘテ垂レタル[illegible]キオロシタル所。古ヘノひだくしナリ。日穀集「草ノ庵ニ、軒ノアヤメヲ、フキツレバ、ヒトひさしサス、ココチコソスレ」金葉集、八、戀、下「アフコトノ、ひさしニ葺ケル、アヤメ草、タダカリソメノ、ツマトコソ見レ」(三)髮ノ、日差ヲ覆フモノ[illegible]し[illegible]庇髮ノ略[illegible]烏打帽子ナドノ、額上ニ差出デテ、日光ヲ遮ルタメノモノ。マビサシ。庇を貸して母屋(オモヤ)を取らるトハ、己レノ所有物ノ一部ヲ貸シタルガタメ、遂ニハ其全部ヲ取ラルル意ノ諺。

ひさ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [久] [illegible]意[illegible]二[illegible]〔時、逢ナリ[illegible]〕長ク時ヲ歴[illegible]久ナリ 萬葉集 十五[illegible]「離レ磯ニ、立テルムロノ木、ウタカタモ、比左之伎時ヲ、過ギニケルカモ」千載集、十七、雜、中「位山、花ヲ待ツコソ、久しけれ、春ノ都ニ、年ハヘシカド」[illegible]アメツチノ、ーモニ比佐斯久、イヒツケトコノクシミタマ、シカシケラシモ」同、十五[illegible]「秋サレバ[illegible]ニダニ、比左之久[illegible]、アケニケルカモ[illegible]同、十七[illegible]リズ、ニギ[illegible]ゴトニ、ミナウフハヘデナ」[illegible]四十四[illegible]ヲサナゲニ、ひさし[illegible]キ出デ給ヘリ」(二)キマリモンクナリ。陳腐ナリ。浮世床(文化[illegible])上「モシ思召シガアラバ、御相談ニ乘リマセウ、錢右衞門サン、ひさしいモノサ」面美多勤身「サヤウナラ、オツトツグマイ、久しいモンダ、一ツタベナ」

ひ-ざし (名) [日指日差] (一)日光ノ窓ナドヘ差入ルコト。日ノ光ノ照リックルコト[illegible]日影[illegible]「[illegible]ナツカシキ、日ざしカナ」(二)ひあし(日脚)ニ同ジ。

[illegible]ノ時計ハ八ツサガリ」

ひさし-がみ (名) [庇髮] 〔庇ノ如ク額上ニ突キ出シタル髮ノ意〕(一)束髮ノ一[illegible]前方ニ[illegible]フモノ[illegible]ひさし[illegible]優川上貞奴ノ創意ト云フ。(二)一時、女[illegible]生ガ盛ニ結ヒシ故、轉ジテ、女學生ノ異稱トス

〔ひさし-ぐるま (名) [廂車庇刺車] 又、ひさしのくるま。牛車(ギッシャ)ニ庇アルモノ。[illegible]車、ヒサシノクルマ、俗、庇刺車具也」西宮記、臨時、四、上[illegible]十四年[illegible]月八日[illegible]院[illegible]庇[illegible]車、檳榔毛車十」

〔ひさし-の-だいきゃう (ヒサシノダイキヤウ) (名) [庇大饗] 〔庇の間ニテ行フ故ニ云ノ〕古ヘ、大臣ノ大饗ノ一。始メテ大臣トナリタル年ノ大饗ハ、母屋(モヤ)ノ庇ニテ行ヒ、通常ノ年ニハ、母屋ニテ行ハル[illegible]正月、大臣家大饗[illegible]北山抄[illegible]三[illegible]云云」[illegible]

ひさし-ぶり (名) [久振] 〔久しく舊りノ義〕久シク時日ヲ歷タルコト。ヒサカタブリ。天神記(正德、近松作)三「久し振りニテ姻ノ便、ヨイコトモ聞キマセヌ、ユルシテ下サレ父上ト、カタリモアヘズナキケレバ」辰巳之園(夢中山人)ニモ、横サマニ居ヱサセ給ヒケルコソ、年ゴロスコシ傍イタク思サレケル御心トケテ、イカニカタミニ心ユルシ給ヘリケント、御アハレヒメデタケレ」

「今日モオサヘカヘ、久しぶりダニ、チョト空ラウカトヒヤス」「久振ノ面白ク久振ニテ逢フ」

ひさつ [illegible]札ヲ以テ仰セラルル其ノ國ハ」義經太平記(寶永、近松作)「ヤイ、己レハ最前、關東ノ札ヲ讀ミ、關取マデヲ書ナガラ、一文不通ノ無筆ト偽リ」

ひさづ (ヒサヅ) (名) [illegible]十一、第十六條「[illegible]、此ノ國ニハひさづト云ヒケル、[illegible]、俗云ニ比佐頭ト云ヘリ」

〔ひざつき (名) [膝] [illegible]薦ナリト云フ。(牛車ノ小半疊[illegible])[illegible]門[illegible]

ひざ-おゾウ (名) [膝小僧] [illegible]ヒサ[illegible]ガシ[illegible]又[illegible]ひざつき[illegible]四「ひざつき、膝突、是ハ地ニひざまづく[illegible]半疊ノ薄キニテ、俗ニ云フうすべりノ小サキナリ」

ひざ-つづみ (名) [膝鼓] [illegible]大鼓ノ稱、かたつづみ(肩鼓)ノ條ヲ見ヨ

ひざづめ-だんぱん (ヒザヅメダンパン) (名) [膝詰談判] 相手ニ對シ、膝ヲ詰メ寄セテ談判スルコト

ひさ・み (副) [久] ヒサシク。ナガラク。 六帖、五「住吉ノ、マツガホ[illegible]ひさ[illegible]ナリヌレバ、アシタヅノ音ニ、鳴カヌ日ゾナキ」

〔ひざ・の・かはら (名) [膝關] [illegible]〔膝の瓦ノ義、瓦ナガ如シ〕ヒザザラ。又、アハタコ。アハタ。今、ヒザノサラ。ヒザガシラ 膝蓋骨 倭名抄、三、手足類「膝蓋、[illegible]比佐乃佐良、[illegible]」[illegible]ヒサノカハラ」 和爾雅、三、身體門「膝蓋、ヒサノカハラ」 字類抄「膝關、ヒサカハラ、髕、同」

〔ひざ・の・こゑ (名) [膝聲] 〔古事記、下(允恭)ニ「[illegible]手打膝[illegible]傳歌来」〕皇太神宮儀式帳、六月月次祭ノ直會歌「宇都奈留比佐波、宮毛止止呂爾」トアリ〕膝ヲ打チテ、拍子ヲ取ル音。ヒザビャウシ 神樂歌、[illegible]「トヨヘツヒ、御遊ビスラシ、久方ノ、天ノ河原ニ、コトノコヱスル、ひざのこゑスル」

ひざ・の・さら (名) [膝骨] 〔形、皿ヲ伏セタル如シ〕古言、ひざのかはら。前前條ノ語ヲ見ヨ。

ひさ・びさ (副) [久久] 永ク打絶エタル狀ニ云フ語。ナガラク。久シク。 狂言記、鬼瓦子「見舞ニ參リマセウ、久久参ラヌガ、何事カナイカ、心元ナウゴザル」「久久會ハヌ」

ひざ・びゃうし (名) [膝拍子] 膝ヲ打チテ、拍子ヲトルコト。又、ソノ拍子。ヒザノコヱ。 [illegible]竹抄「ひざびゃうし、足拍子ヲシカラズ」

ひざ・ぼね (名) [膝骨] ひざざら(膝皿)ニ同ジ。

び・ざま (名) [美樣] 樣ノ字ノ書キ方ノ一。えいざま(永樣)ノ條ヲ見ヨ。

〔ひざ・ま・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [膝枕] 〔まく(枕)ノ條ヲ見ヨ〕膝枕ヲ行フ。他ノ膝ヲ枕トシテ臥ス。 萬葉集、十四「ウチヒサス、ミヤノワガセハ、大和女ノ、比射麻久ゴトニ、我ヲワスラスナ」 仁德紀、四十年三月「隼別皇子枕二皇女之膝一以臥」

ひざ・まくら (名) [膝枕] 他ノ膝ヲ枕トシテ臥スコト。前條ノ語ヲ參見セヨ。 好色五人女、[illegible]「[illegible]女房トモハ、上ヒソダチニシテ、物ニヤハラカナルガ、氣ニハイラネドモ、親類ノフシヨウナリト、ひざ枕シテ、ユタカニ臥シケル」

〔ひざ・まづ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [跪] 〔膝曲衝(ヒザマゲツ)ノ意ト云フ〕 釋名「跪、危也、兩膝隱レ地、體危阻也」 地ニ膝ヲ衝キテ、屈リ居ル。雨膝ヲ地ニツケテ、延ビアガリテ前ニ傾ク。カシコマル。ウズクマル。シャガム。 跽 正字通「朱子云、兩膝着レ地、以レ尻著レ膝而稍安者爲レ坐、伸レ腰及股一而勢危者爲レ跪、因レ跪而益致二其恭一」 禮記、曲禮、上「[illegible]」 古事記、中、第廿七段、言擧「長跪、ヒサマズキテ」 天武紀、下、十一年九月「自今以後、跪禮、匍匐禮、並止之、更用二難波朝廷之立禮一」 源、四十九、東屋「コヨナク見ユル五位四位ドモ、アヒひざまづきサブラヒテ」 著聞集、一、神祇「神鏡云云、ナンテンノ櫻ノ木ニ、カカラセ給ヒタリケルヲ、ヲノノミヤ殿ひざまづきテ、御目ヲフサギテ、ケイヒツヲタカクトナヘテ、御ウヘノキヌノ袖ヲヒロゲテ、ウケマイラセラレケレバ、スナハチトビカヘリテ、御袖ニイラセ給ヒタリト、申ツタヘテ侍リ」

ひさみ・ぐさ (名) [久見草] 松ノ異名。 莫傳抄「名ニアラバ、幾世ヲカ見ン、ひさみぐさ、カリソメナガラ、花ハ咲クトモ」

ひ・さん (名) [悲慘] [悲酸] イタマシク、カナシキコト。ミジメナルコト。 魏明帝、樂府「[illegible]和、悲傷二人情一」 [illegible]「形レ古多二悲酸一」

ひ・さん (名) [砒酸] 無水亞砒酸ヲ濃硝酸ニテ熱シ、酸化セシメテ得ル菱板狀ノ結晶體。顏料、又ハ、染料トス。

〔ひ・さんぎ (名) [非參議] 大、中納言、參議等ニ任ジタル人ニテ、見任ニ居ラヌ者ノ泛稱。又、三位、四位ニテ、終ニ參議ニ昇ルベキ人ノ泛稱トモス。 [illegible]「[illegible]非參議[illegible]」 [illegible]、官職門「非參議、前官公卿、[illegible]三位、[illegible]」 [illegible]「[illegible]非參議ノ號ノ事、前官ト可レ心得レ之、又參議ニ可レ成人ノ未レ任レ之ヲ(又、又ベテ參議ニ任ゼザル散三位ヲモ云也)、他人、[illegible]シテモ稱レ之一」 故實拾要、十一「非參議、[illegible]云也」 [illegible]二位三位ノ無官タルノ人ヲ、非參議[illegible]」 [illegible]「ナマナマノカンダチメヨリモ、非參議ノ四位ドモノ、ヨノオボエクチオシカラズ、モトノネザシイヤシカラヌガ、ヤスラカニ身ヲモテナシ」

〔ひ・さめ (名) [大雨] [甚雨] 〔直雨(ヒタノ)ノ轉ナラムト云フ。ふたぐ、ふさぐ、たね、されト同趣 文字ノ大雨ヲ火雨ト誤レル多シ〕甚シク降ル雨。オホアメ。ヒタメ。 倭名抄、一、雲雨類「霈、大雨也、比左女、俗云、比布留」 垂仁紀、五年十月「大雨從二狹穗一發而來之濡レ面」 武烈紀、八年三月「好二田獵一、走レ狗試レ馬、出入不レ時、不レ避二大風甚雨一」 萬葉集、二 四十長歌「玉梓ノ、道來ル人ノ、泣ク淚、霈霖ニ降レバ」 天智紀、九年四月「火雨(大雨ノ誤)雷震」

〔ひ・さめ (名) [氷雨] ひょう(雹)ニ同ジ。 倭名抄、一、雲雨類「雨氷、比左女」 古事記、中(景行)「[illegible]零二大氷雨一、打二惑倭建命一」 神武[illegible]紀「時忽然天陰而雨氷」 [illegible]紀、[illegible]年四月「[illegible]」 [illegible]于九日[illegible]「[illegible]人及牛馬[illegible]死[illegible]」

ひさ・め (名) [鬻女] 〔ひさぎめノ略〕ひさぎめ(鬻女)ニ同ジ。販婦。販女。 今昔物語、二十一、第三十二語「其ノ門ノ下ニ販婦ノ女、傍ニ賣ル物共入レタル平ナル桶ヲ置テ臥セリ」云云、市町ニ賣ル物モ、販婦ノ賣ル物モ極メテ穢キ也」 盛衰記、二、[illegible]「[illegible]百人舞[illegible]アナ[illegible]シノ君ノ御代ヤ、販女ノ女御トハ、サレバ誰ゾ、若丹後ノ局ノ事歟、ソモ[illegible]ヲ[illegible]テ[illegible]バコソ[illegible]」

〔ひさめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [密語] ヒソヒソト語ル。ヒソメク。ササメク。 沙石集、四、下、第六條「京中ノ道俗男女、聞ヲヨブニ隨テ、[illegible]センナドテ、ココラ[illegible]ひさめきテ、拜マントテ云ヘバ、出デテ拜マシケリ」

ひざ・もと (名) [膝元] (一)膝ノ邊。 [illegible]「[illegible]共杯開テハイヌカ、コレヘコレヘト、膝もとへ招キ」 (二)父母、貴人ノ座ノ手近キ處。膝下 著聞集、一、神祇「我ガひざもとニテ生レナガラ、我レヲ忘レタルモノナリ」「親ノ膝元ニ[illegible]」 (三)皇居。又ハ、幕府ノ所在地 曾我[illegible]、[illegible]作)下「小ジウトノ曾我兄弟、敵討トハ云ナガラ、オ膝[illegible]ヲ騒ガセシハ、先ヅ上ヘ對シテ狼藉者」

ひざ・よろひ (名) [膝鎧] 膝ニ着クル鎧。草摺ト臑當トノ間ニアツルモノ。 太平記、八、四月三日合戰事「鎧ノ上ニ[illegible]ヲ重ネテ着、大立擧ノ臑當ニ膝鎧カケテ、龍頭ノ兜、猪首ニ着ナシ」

ひ・ざら (名) [火皿] (一)火繩筒ニテ、火口ヲ注ミテ、火藥ヲ盛ル處。火藥池 [illegible]字考節用集、七、器財門「藥池、ヒサラ」 (二)烟管ノ名所。其條ヲ見ヨ。火頭。 好色一代男(天和、西鶴)五「烟管放サズ續ケサマニ七八服、云云、其アタリ遠クホトノニホヒニツマテコク所ヲ、火皿ニテ押ヘケル」

〔ひし (名) [菱] 〔[illegible]ノ意ニテ、鋭刺ヨリ云ヘルカ、或ハ云フ、鰭ト通ズト〕(一)水草ノ名。池、沼ナドニ自生シ、根ハ、水底ニアリテ、葉ハ、水面ニ叢生ス、形平タク、蝶ノ翅ノ如ク、厚クシテ光ル。夏、葉ハ長クシテ脹レ、蛙ノ股ノ如シ。夏、四瓣ノ小白花ヲ開ク。實、形、三角ナリ、或ハ、四角、兩角モアリテ、堅刺、尖リテ鋭シ。秋、熟スレバ黒ク、仁、白ク、

食フ[illegible]

(古訓)、ヒシ、云云、ひしノ葉ハ、七八葉擁生シテ、水面ニ浮ブ、夏月、四瓣ノ黄白花ヲ開ク、大サ五分許アリ、又、實ノ小ナルヲ野菱トシ、大ナルヲ家菱トスル[illegible]菱トシ、野生ノモノヲ野菱トス」 和漢三才圖會、九十[illegible]河菱[illegible]云云」 應神紀、十三年九月「河股江ノ、比辭餓[illegible]レニケルカモ」 同、十六[illegible]ノ、キクノ池ナル、菱ノウレヲ、ツムトヤ[illegible]ヌレケム」 夫木抄、九、菱「[illegible]船バタヲ、タタクモサビシ、宵ノ間ニ、ひし取ル船ヤ、江ニ歸ルラ[illegible]」

(二)[illegible]横長キ[illegible]角ノ形ノ稱。上下ノ角ハ鈍ク、左右ノ角ハ鋭シ。斜角[illegible]横[illegible]、紋所ナドニ用ヰ[illegible]花菱、[illegible]菱、松皮菱、武田菱ナド云フ。各條ニ註ス。

ひし (名) [illegible] 菱[illegible]後アリテ、菱角ノ如シ」 漁具ノ一。鐵ヲ棹ノ頭ニ[illegible]ケテ、刺シテ魚ヲ捕ルモノ。矠ノ類 [illegible]

ひし (名) 又[illegible] 魚杖、菱ト同シ、刺ア[illegible]ルモノ[illegible]「鏃、矢金也」ト 即チ、鏃ニ同ジ、[illegible]武器ノ[illegible]、兩岐ノ鏃ニ、長キ柄アルモノ[illegible]指股ノ類 [illegible]

ひし (名) [鐵蒺藜] 〔語意、前ニ同ジ〕 又、[illegible] 軍用ノ具、鐵製ニシテ枝刺多キコト、菱ノ實ノ如キモノ、戰場、又ハ、河中ナドニ、[illegible]テ、或ハ、[illegible]ラシ[illegible]用ヰル。逆茂木ノ類。 盛長記、八、大納言入道

[illegible]しヲ植テ、突落シテゾ殺シケル」 承久記、上「向ノ岸[illegible]」

ひ志 (名) [illegible] 比條ヲ見ヨ。

ひ志 (名) [illegible] がんぴ志(雁皮紙)ノ古名 [illegible]

ひ志 (名) [非時] (一) 佛教ノ語。日中ヨリ後夜(夜明ケ)マデノ間ノ稱 [illegible] (二)〔非時食ノ略〕 佛制ニ、比丘ハ午ヲ過グレバ食ハザルヲ法トス、故ニ云フ」 僧家ニテ、正午過ギノ食事ノ稱 齋ノ條、見合ハスベシ [illegible]

ひ志 (名) 秘事 秘密ナル事柄。ヒメゴト [illegible]

び志 (名) 微志 少シバカリノ志 [illegible] 謙稱 寸志 [illegible]

[illegible]

び志 (名) [美事] 褒ムベキ事柄。又、ウルハシキ行ヒ。 [illegible]

び志 (名) [美辭] 美シキ言語。美ハシキ言葉 [illegible]

び志 (名) [illegible] [illegible]ニ同ジ。[illegible]

ひしいた (名) [菱板] ひしぬひのいた(菱縫板)ニ同ジ [illegible]

ひしう (名) [比周] グルニナリテ、助ケアフコト。同類トナルコト。 論語、爲政篇「君子周而不比、小人比而不周」 左傳、文公十八年「昔帝鴻氏有不才子、掩義隱賊、好行凶德、醜類惡物、頑嚚不友、是與比周、天下之民謂之渾敦」 管子、立政九敗解「人君唯毋聽羣徒比周、則羣臣朋黨、蔽美揚惡」

びしう (名) [美醜] 美ト、醜ト。うつくしきト、みにくきト。醜美。

ひしがきくわいせん (名) [菱垣廻船] 〔船端ノ欄ノ垣立ト云フヲ、檜垣、即チ、菱形ニ組ミ造レバ云フ〕 又、檜垣廻船。渡海船ノ名。大坂ノ廻船問屋ノ大ナル渡海船。九店商品、即チ、鐵物、蠟、紙、油、木綿、綿、砂糖、藥種、鰹節等ヲ主トシテ、其他、雜貨ヲ江戸ヘ廻漕シタリ。其初ハ元和五年ナリシガ、中絶シ、寛政ヨリ再ビ起リ、明治ノ初ニ[illegible]盛ニ、其數、百艘ヲ越エタリ サレド、汽船ノ航スルニ及ビテ、此廻船、廢レタリ。とく

みさんや(十組問屋)ノ條ヲモ見ヨ。 [illegible]

びしかく (名) [illegible] 同ジ。

ひしかくし (名) [祕隱] 祕シ、カクスコト。祕密ニシテ、隱スコト。

ひしがた (名) [菱形] 四邊形ノスベテノ[illegible]ブラザルモノ。即チ、菱ノ實ノ如キ形。ヒシナリ。斜角 孝德紀、大化三年十二月「小[illegible]」

ひしき (名) [引敷] 敷物。シトネ。今、ヒッシキ。ヒシキモノ。[illegible]

ひしき (名) [火敷] 香ヲ薰クトキ、火ノ上ニ敷ク具。上品ナルハ、[illegible]薄ク片トセルヲ、小サク方ニシテ、銀ナドニテ緣ヲ付ク。銀盤。銀葉。香敷。隔火 [illegible] 火ト云フ」

ひじき (名) [鹿尾菜] 〔ひずきもノ轉略、或ハ、干杉藻ノ義カト云フ、イカガ〕 古名、ヒズキモ。海藻ノ名。海中ノ石上ニ生ズ、長サ二三寸、鼠尾ノ如クシテ、黃、蒼黑ナリ、煮レバ黑ク、脆クシテ、味、淡シ。ヒジキモ。ヒジキモノ。羊栖菜 [illegible]

テ未尖ル、乾セバ黒色ナリ、煮テ食ス、筍艮、米ニマジエテ飯トシ、糧ヲ助ク」

ひぢき-おほの（名）〔青飯ヲ訓メリ〕鹿尾菜ヲ雜ヘタル飯カト云フ（通證）。又、一說ニ、喪葬令集解ニ古記ヲ引キ、生目（垂仁）天皇ノ皇子圓目王ノ妻、伊賀比自支和氣之女ノ殯斂ノ事ヲ司レル事ヲ云ヒテ「凡天皇崩時、比自支和氣等、到殯所供奉其事、云云」トアルニヨリテ、殯宮ニ奉レル御飯ヲ、比自支飯ト名付ケラレタルナルベシ（通釋）ト。おほのハおものノ轉ニテ、めしあがりものヲ云フ。殯宮ニ供ヘ奉ル御飯。 持統紀、元年八月「嘗于殯宮、此曰御青飯也」

ひしぎだけ（名）〔挫竹〕 丸キ竹ヲ押シ挫ギタルモノ。 好色一代男（天和、西鶴）一「オ手水ノ濡緣、ひしぎ竹ノ荒ケナキニ、カナ釘ノ頭モ御心モトナク、光ナホ見セマヰラスレバ、云云」

ひぢきも（名）〔鹿尾菜〕 ひずきも（鹿尾菜）ニ同ジ 今、略轉シテ、ひぢき。 其條ヲ見ヨ 伊勢物語、第三段「女ノモトニ、ひぢきもト云フモノヲヤルトテ」 出世景清（貞享、近松作）二「歌ニヨマレシひぢき藻ヤ、カダメ（かぢめカ）甘海苔若モズ、若布マジリノメサシナス」

ひぢきもの（名）〔引敷物〕 ひぢき（引敷）ニ同ジ。 伊勢物語、第三段「思ヒアラバ、葎ノ宿ニ、ネモシナン、ひぢき物ニハ、袖ヲシツツモ」 新續古今集、十、羇旅「苫ヤカタ、潮タレアカス、今夜カナ、アマノ刈ル藻ヲ、ひぢき物ニテ」 夫木抄、三十六「マツシマヤ、磯風サムキ、磯ネカナ、アマノカルモヲ、ひぢき物ニテ」

ひぢきもの（名）〔鹿尾菜〕 ひぢき（鹿尾菜）ニ同ジ。 山家集、下「アマ人ノ、イソシクカヘル、ひぢきものハ、小ニシ蛤、ガウナシタダミ」

ひし・ぐ・ゲ・ガ・ギ・グ・ゲ（他動、四）〔拉〕 〔緊ヲ

活用シタル語〕 緊ト壓シ折ル、壓シ潰ス。トリヒシグ。 名義抄「挫、ヒシグ」 字類抄「拉、ヒシグ」 皇極紀、三年六月「[illegible]」 枕草子、九、百十段「五月バカリ山里ニアリク、イミジウヲカシ、云云、艾ノ、車ニオシひしがレタルガ、輪ノマヒタチタルニ、近ウカケタルモ、イトヲカシ」

ひし・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（自動、下二）〔拉〕 緊ト壓サレテ潰ル、挫ケ碎クル。ヒシゲル。 壓碎 宇津保物語、祭使、上「カウブリノヤレひしげテ、コジノ限リアル、尻切ノ尻ノ破レタル穿キテ」 源、四十六、總角「イトドナヨナヨト、アエカニテ臥シタマヘルヲ、空シウ見ナシテ、イカナル心地セント、胸モひしげテ」

ひしくひ（名）〔鴻〕 〔菱食ノ義〕 又、オホガリ、又、約シテ、ウカリ。 游禽類ノ鳥ノ名。雁ヨリ大キクシテ、背、頸、淡黒褐色ニテ、羽ノ邊、白シ。翅ハ深黒ニシテ、白邊アリ、腹ハ白クシテ、褐色ヲ帶ブ。湖澤ニ集リテ、好ミテ菱ヲ食フ。沼太郎。 下學集、上、氣形門「鴻、菱喰」 撮壤抄、[illegible]「鳥名、菱喰」 本朝食鑑、五、水禽「鴻、和名通稱二加利、俗稱、菱喰、故名、又近俗有下稱二[illegible]一者上、或稱二沼太郎、又曰酒頰（サケラ）、大抵與二菱喰一同、而眼上有二淡白條、觜脚皆黑」

ひし・げる（動）〔拉〕 ひしぐ（拉、自動）ノ口語。

ひしこ（名）〔鯷〕 次條ノ語ヲ見ヨ。 下學集、上、氣形門「鯷、ヒシコ」 運步色葉集「鯷魚、ヒシコ」 嫗山姥（正德、近松作）二「股引カケテ三味線トハ、若漬ニ鯷ノオ摘ミ、ヒラサラ御免ト逃出ルヲ」

ひしこいわし（名）〔鯷〕 略シテ、ひしこ。東京ニテハ、更ニ略訛シテ、シコ。小魚ノ名。鰯ニ似テ小サク、別種ナリ。背ハ蒼黑ニシテ、腹部ハ白ク、體長四寸許リ、處處海中ニ多シ、賤民ノ食トス。

鮮ナルハ味好シ。多クハ乾シテ、たつくりトス。一名、セグロイワシ。 おまめ（鱓）ノ條ヲモ參見セヨ。 馬鮫 倭名抄、十九、龍魚類「鯷、比師古以和之」 [illegible]「鯷、イハシ、ヒシコ」 主計寮式、上「備中國、[illegible]、比志古鰯」 [illegible]「鯷年魚、鰯、比志古鰯」 毛吹草、二、正保「[illegible]小鯷、世ニコレヲごまめ、又[illegible]ごのばらト云フ」（ほしかハ、ひしかノ轉音）

ひぢき（名）〔非時食〕 〔ひぢ（非時）ノ條ヲモ見ヨ〕 略シテ、ひぢ。佛敎ノ語。僧侶ガ、日中ヲ過ギテ、食事スルコト。（コレ、佛ノ戒ニ背クモノト云フ）又、其食事。 老學庵筆記（宋、陸游）二「佛戒、比丘非時食、盡其法、過午、不食也」

ひぢやう-もく（句）〔飛耳長目〕 〔居ナガラニシテ、數千里ノ外ヲ耳ニ聞キ、數千年ノ古ヘヲ目ニ見ル義〕 學問ノ道ノ稱。（荀子）又、事物ノ觀察ニ甚ダ銳敏ナルヲ云フ。 管子、九守篇「一曰、長目、二曰、飛耳、三曰、樹明、明知二千里之外、隱微之中一」

ひぢつ（名）〔卑濕、卑溼〕 ひぢふ（卑濕）ニ同ジ。 史記、袁盎傳「南方卑溼、君能日飲、毋レ何」

びぢつ（名）〔美質〕 ウツクシキ性質。ウルハシキタチ。 漢書、儒林傳「關內侯鄭寬、中有二顏子之美質、包二商偃之文學、嚴然總二五經之眇論、立二師傅之顯位一」 韓詩外傳（漢、韓嬰）「雖レ有二良玉、不レ刻鏤則不レ成レ器、雖レ有二美質、不レ學則不レ成二君子一」

びぢつ（名）〔彌日〕 日ヲワタルコト。日數ノカサナルコト。 南史、劉[illegible]之傳「[illegible]笑、彌日瓦時、未レ嘗二倦苦、裁有二閑暇一手自寫書」 遠識、章臺賦「[illegible]彌日而消レ憂」

ひしづめ（名）〔火鎭〕 （一）火ヲシヅムルコト。防火。 神祇令義解「爲レ防二火災、故謂二鎭火一」 （二）次條ノ語ノ略。

ひしづめ-の-まつり（名）〔鎭火祭〕 古ヘノ祭事ノ一ツ、季夏、季冬（陰曆六月、十二月）ノ晦ニ、宮城ノ四方外角ニテ、卜部、火ヲ鑽リテ行フ。火災ヲ防ガムタメナリ。又、チンクヮサイ。略シテ、ひしづめ。 延喜式、四時祭式、上「鎭火祭」 公事根源、六月「二十日（鎭火祭）、[illegible]宮城四隅祭、卜部氏ノ人、火ヲウナテ、宮城ノ四ツノ角ニテ祭事アリ、火災ナカラムタメトカヤ、此ノ祭禮ノ間、諸衞多ク侍ルナリ」

ひしと（副）〔緊緊〕 〔擬聲語〕 引キ締メ壓シ潰スヲ名狀スル語。又、緊シク壓サレテ鳴ル聲ニ云フ語。重ネテ、ヒシヒシト。 萬葉集、十三、長歌「[illegible]夜ハスガラニ、此ノ床ノ、比師跡鳴ルマテ、嘆キツルカモ」 拾玉集、四「イカニセン、人モハラハヌ、夏ノ池ノ、ひしトモモノノ、思ヒトラレヌ」

ひしと（副）〔緊〕 〔前條ノ語ノ轉ナラム、俗ニ、犇ノ字ナド記ス〕 緊シク。ツヨク。キツク。ハゲシク。緩ミナク。ヒシヒシト。 平治物語、二、待賢門軍事「伏樣ニドウト落ツ、急ギ引起シテ見レバ、頭ニ[illegible]ひしとツキ、鼻血流レテ見苦シカリケリ」 古事談、四、勇士「腕ヲひしと握リ」 撰集抄、六、第十條「風ノ聲、波ノ音、ミナ妙ナル御法ニ侍ルナル事、コノ遊女ノ歌ノ法文ナルニテ、ひしと、ケニ思定メテ侍リ」 著聞集、十、相撲強力「馬車、ひしと立テテ」 同、十九、草木「[illegible]ヲひしと植ヱラレタリケレバ、花ノ盛ニハ色色サマザマニテ、錦ヲ山ニオホヘルニ似タリ」 同、廿、魚蟲禽獸「一疋ノ猿、死ニタル猿ヲツクヅクトマモリテ、コノ猿ニひしと抱キツキテ、ヤガテコレモ死ニケリ」 愚管抄、三、桓武「神武ヨリ成務マデ十三代ハ、ひしと正法ノ王位ナリ」 同、同、平城「末代サマノ、トカクマモラセ給フト、ひしと心得ベキニテ侍ルナリ」 徒然草、四十九段「心ニひしとカケテ、束ノ間モ忘ルマジキナリ」 同、百七十五段「近ヅカマホシキ人ノ、上戸ニテ、ひしひしと馴レヌル、又嬉シ」

ひしなり (名) [菱形] ひしがた(菱形)ニ同ジ。斜角 大森相伴聞書「ハサミザカナノ事、菱云云、ひしなりニ切ルコト、子細アリ」

ひしに (名) [餓死] 飢エテ死スルコト。ウエジニ。餓死 今昔物語、十六、第廿八「[illegible]モシコノコト[illegible]クバ、ヤガテコノ[illegible]ニテ、ひしにニ死ナム」[illegible]物語[illegible]「[illegible]ニ死ニケリ」

ひし・ぬ・ぬる・ぬれ・な・に・ね (自動)(下二) [乾死] 飢エテ死ス。ウエジニス。餓死

ひしぬひ (名) [菱縫] 緒ニテ菱形ニ縫ヒツクルコト。又、ソノモノ。(鎧ノ鍾、肩甲ナドノ) 太平記、九、六波羅攻事「[illegible]ノひしぬひ、カブトノ吹返シニ立ツ所ノ矢」同、三十一、八幡合戦事「我ガ身モ痛手ヲ負ハザレバ、袖ノ菱縫、[illegible]少少[illegible]リカケテ、[illegible]山ノ陣ヘゾ歸ラレケル」

ひしぬひのいた (名) [菱縫板] 兜ノ鍾、鎧ノ袖、草摺、栴檀板ナドノ最下部ノ板。緒、革ナドニテ、X形ニ綴ヒツクル故ニ云フ。ヒシイタ [illegible]雑記、[illegible]「[illegible]ノシコロ、胸當ノヨダリカケ、鎧ノ袖、草ズリ、センダンノ板ナドノ終ノ板ヲバ、ひし縫の板トイフ、菱縫アル故也、ひしぬひの板ハ、何レモ黒ク[illegible]ル也」太平記、[illegible]「[illegible]ツニ打[illegible]ント、[illegible]ニ打チケルガ、[illegible]シテ、袖ノ冠板ヨリ菱縫の板マデ、片[illegible]ニ、[illegible]ス切ッテ落ス」

ひしば (名) [illegible]芝ノ義、草地ニ生ジ、枯レズト云フ〕草ノ名、雌ひしばハ、[illegible]地ニ多シ、夏、生ズ、細莖、地ニ布キテ、蔓ナス、[illegible]節、根アリテ、抜キ難シ、葉ハ、ゑのころぐさ(狗尾草)ニ似テ小サク、[illegible]、秋、穂ヲ生ズ、[illegible]ニ似テ、甚ダ小サク、淡緑ニシテ、蘂ハ、紫、又ハ、白ナリ。一名、ヂシバリ。京都ニテ、カヤツリグサ。小兒、穂ヲ交ヘテ引合ヒ、又、[illegible]ニ勝負ス、故ニ、すまふとりぐさ(相撲取草)、又、ちからぐさ(力草)ノ名モアリ。苓[illegible]雄ひしはハ、田野ニ多シ、一根、數十莖叢生ス、葉ハ、細長ク、[illegible]草ノ如シ。秋、[illegible]ヲ出ス、平タクシテ八寸許リ、穂ハめひしはヨリ大キクシテ、深緑ナリ、根ボクシテ、引抜キ難シ。馬唐

ひしばひ (名) [菱灰] 菱ノ實ノ殻ヲ焼キテ灰トセルモノ、褐色ナリ。香爐ナドノ灰ニ用ヰル。

ひしひしと (副) [緊緊犇犇] (一)キビシク壓サレテ鳴ル狀ニ云フ語。源、四、夕顔「ひしひしと踏ミ鳴ラシツツ、ウシロヨリ寄リクル心地ス」宇治拾遺、一、第十二條「今一度オコセカシト思ヒ、ネニキケバ、ひしひしとタダ食ヒニ食フ音ノシケレバ」 (二)スキマモナク、ヒタト寄リツキタル狀ニ云フ語。著聞集、十六、興言利口「互ニひしひしと取リ組ミテ、此法師ヲウチマロバシテケリ」同、廿、魚蟲禽獸「蛇、ヲリ[illegible]ヲひしひしとマキケルガ、次第ニツヨクマカレテ、ヲリノ屋ノウヘヤブレテ、一所ヘトリヨセタルヤウニナリニケリ」宇治拾遺、一、第十五條「コノ男、袴ヲヌギテ、懐ヲヒロゲテ、クハ見給ヘト云ヒテ、ひしひしとス」 (三)手キビシク、ユルミナキ狀ニ云フ語 盛衰記、五、[illegible]「八條ノ堂ニテ、ヤ行([illegible])ニカケテ、ひしひしと聞ヒケレバ、皆落チニケリ」

びしびしと (副) 〔みしみしニ通ズ〕 ひしひしと(犇)ニ同ジ。沙石集、三、上、第二條「此ノ次ニびしびしと御沙汰候ベシト、口口ニ申ケレバ」

ぴしぴしと (副) (一)烈シクモノヲ折ル音ニ云フ語。 (二)鞭ナドニテ、強ク撃ツ音ニ云フ語 (三)少シモ容赦ナク、嚴シク處分スル時ニ云フ語。

ひしひしみ (副) 嚔ノ聲ニ云フ語 [illegible]集、五[illegible]、[illegible]アラヌ、[illegible]カキ[illegible]デテ、アレヲオキテ、人ハアラジト」

ひしふ (名) [卑濕卑溼] [說文]溼、幽溼也 卑濕 地、溼同、水[illegible]也 土地、低クシテ、濕氣多キコト。ヒシツ [illegible]

ひしほ (名) [乾潮干汐] ひきしほ(引汐)ニ同ジ 宇治拾遺、四、第四條「[illegible]ケレバ、舟ハ浮キタリケルヲ、ハナツキニ少シ吹キ出サレタリケル程ニ、干汐ニヒカレテ、[illegible]ヘ出デニケリ」

ひしほ (名) [醬] 〔ひハ、[illegible]ノ義、醸造久シケレバ鹽ト隔ツ、故ニ名トストイフ、或ハ云フ、浸鹽(ひたしじほ)ノ意カト〕 其ニハ、ひしほみそ(醬味噌)ノ食物ノ名。精ゲタル麥ノ飯ニ、大豆、糯米ヲ炒リテ粉トセルヲ雑ヘ、ネセテ麹トシ、鹽水ヲ煮テ加ヘ、攪キマゼテ貯フルコト數十日ニシテ成ル。多ク瓜、蔬等ヲ漬ク ナメモノ。麹醬 肉ナルヲ、肉醬、又、しほからト云フ 醢 倭名抄[illegible]「醬、ヒシホ、[illegible]」和漢三才圖會、百五[illegible]「[illegible]」[illegible]

ひしほす (名) [醬酢] ひしほ(醬)ノ類ニ、醬ニ酢ヲ加ヘタルモノカト云フ。[illegible]

ひしん (名) [illegible] ノ、衣衾、藥物ノ類ヲ納レテ負ヒシニ起ルト云フ」おひ(笈)ノ異名。[illegible]

ひしん (名) 披針披鍼 さどりばり 外科[illegible]

びしん (名) 微震 地震ニ云フ語 [illegible]セル人、又ハ、特ニ注意シテ居ル人ノ、漸ク感ズル程ノ微微ナルモノ。

びしん (名) 微臣 君ニ對シテ、臣下ノ謙稱。せうしん(小臣)ニ同ジ。太平記、十一、正成參兵庫事「正成畏ッテ、コレ君ノ聖文神武ノ徳ニ不依ハ、微臣爭カ尺寸ノ謀ヲ以テ、[illegible]ノ圍ミヲ可出候乎ト、功ヲ辭シテ謙下ス」

びじん (名) [美人] (一)顔色ノ麗ハシキ女。美女 國色 佳人 麗人 [illegible] (二)常ニ敬慕スル君主、又ハ、

聖人 詩經、邶風、簡兮篇「云誰之思、西方美人、彼美人兮、西方之人兮」ヲ註「西方美人、託言以指西周之盛王」 前漢、張衡傳「思美人兮不得、望美人兮天一方」 (三)漢代ノ女官ノ名。 事物紀原、漢光武置美人、歷代多有之、國初亦置之、正四品也」 (四)虹ノ異稱。 釋名「虹又曰美人、陰陽不和、婚姻錯亂、淫風流行、男美于女、女美于男、互相奔隨之時、則此氣盛、故以其盛時名之也」

びじんさう(名) [美人草] (一)〔虞美人草ノ略〕ひなげし(雛芥子)ニ同ジ。くびじんさう〔虞美人草〕ノ條ヲモ見ヨ。 曾子固詩、虞美人草注、項王亡滅、虞姬自刎、其墓上草、人呼爲美人草」 (二)さなかづら(佐那葛)ニ同ジ。又、美男葛。

びじんしよ(名) [肥人書] 肥前、肥後ノ國中ニテ、古へ、通ハシ用キシ一體ノ文字ナラムト云フ。古代ノ字ト云フハ假名ノ如シ、乃川ノ如キアリト云フ。(釋日本紀) 又、薩人書ト云フアリ、同ジ類ノモノナルベシ。(本朝書籍目錄、薩人書) クマビト。 釋紀、卷一、開題「問、假名字、誰人所作哉、答、師說、大藏省御書中、有肥人之字六七枚許、云云、其字皆用假名、或其字未明、或乃川等明見之、若以彼可爲始歟」 同文通考、二「肥人書、謹按ズルニ、冷泉大納言爲富卿ノ本朝書籍目錄ニ、肥人書五卷ト載セラレタリ、サラバ此書、モト五卷ナリシニ、後ニ纔ニ六七枚バカリ、大藏省ノ御書ノ中ニノコレルナリ、肥人書トハ、肥ノ國人ノ書也、云云、薩人書、冷泉家ノ書籍目錄ニ、薩人書トイヘル物アリ、是モ肥人書ノ類ニシテ、隼人ノ用ヒシ書體ナルヨシ、イヒ傳ヘヌ」

びじんすゐ(名) [美人水] へちま(絲瓜)ノ條ヲ見ヨ。

びじんせう(名) [美人蕉] 又、ヒメバセウ。植物ノ名。芭蕉ノ一種ニシテ、琉

球ノ產、天和年中、渡來ス、寒ヲ畏ル。芭蕉ニ似テ小サク、葉モ狹クシテ短シ。花ハ朱色ニテ、形、みやうが(蘘荷)ノ花ノ如ク、纖狹ク、三寸許リ、左右ニ互生スルコト四五寸ナリ。女ノ髮ヲ洗フニ、此葉ヲ煎ジテ用キ、又、黑燒ニシテ油ニ煉リテ用キレバ、禿ゲタルニ髮生ズト云フ。因リテ此名アリ。紅蕉 近代世事談、二、「草木、美人花、一名、紅蕉、天和年中、琉球ヨリワタル、薩摩、日向ニ多シ、近年、畿內、關東ヘ來ル、花紅、春開ク、秋ニイタッテ猶芳シ、濕地ヲ忌ム、陽地ニウユベシ」

ひしめく・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [犇] (一)〔ヒシヒシト音ス〕 枕草子、四、四十四段「ヒトリネンジテ明クルイト重シ、片ツ方ナレバひしめく(一本、きしめく)ニ、オドロカセ給ヒテ」 (二)押合ヒテ、騷ギ立ツ、隙間ナク押合フ。 宇治拾遺、一、第三條「百人バカリひしめきアツマリテ、火ヲテンノメノゴトクニトモシテ、我ガ居タル空虛木ノ前ニヰマハリヌ」 同、五、第九條「ソノ坊ハ、一二町バカリヨリひしめきテ、田樂、猿樂ナドひしめく」 義經記、四、土佐房義經の討手に上る事「宿ヘ歸リテ、今宵寄セズバ叶フマジキトテ、オノオノひしめきケル」 曾我物語、八、源太重保鹿論事「日本國中ニ名ヲ知ラルル程ノ侍、魚鱗ニ重ナリ、鶴翼ニ連リテ、ヒタひしめきニひしめきケリ」 太平記、八、山徒寄京都事「大衆、鬨ノ聲ニ驚イテ、物具、太刀ヨ、長刀ヨトひしめいテ、取物モ不取敢」

ひしもち(名) [菱餅] 熨斗餅ヲ菱形ニ切リタルモノ。鏡餅ニ載ス。又、餅ヲ菱形ニ切リテ、三枚重ネタルモノハ、三月ノ雛祭ニ供ス。コレ小笠原流ノ禮式ニ起リテ、小笠原氏ノ家ノ紋、三蓋菱ニ因メルモノカト云フ。

ひじもんと(名) [秘事門徒] 天台宗ヨリ

分立セシ佛教ノ一派。近江國、坂本ノ三明院ヨリ起ル、煩惱即菩提等ノ文ヲ僻解シ、密密流布セシ宗旨ナリト云フ。攝津國、天龍寺モ此流派ナリ、德川幕府ヨリ禁斷セラル。(享保以前ナリ)

ひしや(名) [飛車] (一)風ニ從ヒテ、空中ヲ飛行スト云フ車。トブクルマ。 帝王世紀「奇肱氏能爲飛車、從風遠行、湯時、西風吹奇肱車、至於豫州、湯破其車、不以示民」 倭名抄、十一、車類「飛車、ヒシヤ、奇肱國人、能作飛車、從風飛行、故曰飛車」 (二)支那ニテ、飛行機ノ稱。 (三)將棋ノ駒ノ名。縱、橫トモ直線ニ、幾格ニテモ飛ビ行クコトヲ得ルモノ。 壽門松(享保、近松作)中「先ヅ飛車先キノ歩ヲツキマセウ、ヤ、此成金シテ遣フデノ、斯ウ寄リマセウ、淨閑、頭ヲ叩イテ、ハアア南無三、此馬落タ」

ひしやう(名) [悲傷] カナシミ、イタムコト。カナシミ、ナゲクコト。 杜甫詩「不須吹急管、衰老易悲傷」

ひしやう(名) [飛翔] 鳥ナドノ、飛ビ翔ケルコト。 關尹子、三、極篇「雲之卷舒、禽之飛翔、皆在虛空中、所以變化不窮、聖人之道則然」 拾遺記(晉、王嘉)「洹流如沙塵、大風吹沙如霧、中多神龍魚鼈、皆能飛翔」

ひしやう(名) [飛將] ひしやうぐん(飛將軍)ノ略。其條ヲ見ヨ。 北史、韓果傳「果勁勇趫捷、號爲著翅人、周文聞之笑曰、著翅之名、寧減飛將」 宋史、向寶傳「寶至大原、從適射狐冉中的、授寶矢、射之、四發三中、適曰、今之飛將也」

ひしやう(名) [裨將] 〔漢書、項籍傳「籍爲裨將」注「裨、相輔助也」〕 輔佐ノ將。副將。裨將軍。副將軍。 史記、項羽紀「梁爲會稽守、籍爲裨將、徇下縣」 漢書、衛青傳「衛曰、自大將軍出、未嘗斬裨將、今建棄軍、可斬以明將軍之威」 李商隱詩「代北偏師銜使

節、關中裨將讓行臺」

ひじやう(名) [非常] (一)〔ヨノツネナラヌコト〕 常並ナラヌコト 思ヒ設ケヌコト。定法ヲ外レタルコト。ヒザウ。 左傳、莊公廿八年「[illegible]、非常也」 史記、司馬相如傳「蓋世必有非常之人、然後有非常之事、有非常之事、然後有非常之功」 源、五十、浮舟「非常ノ如キひじやうノ事ノサブラハンヲバ、イカデカ承ラヌヤウハ侍ラン」 著聞集、二、釋敎「良眞法師、東寺ノ坊ニテ經ヲ讀ミケルニ、大キナル鷲出デ來リテ見エケリ、非常ノモノト思ヒテ見ズ」 (二)非常ノ事、轉ジテ、高貴ノ逝去。又、一般ノ人ノ死亡。 榮花物語、一、月宴「ソノ宮、非常ノ事モオハシマサバ、云云」 長秋記、元永二年十一月廿八日「三宮已ニ非常シ給フ」

ひじやう(名) [非情] 木、石、ナドノ如ク、心無キモノ。(動物ノ有情ニ對ス) 太平記、廿四、依山門嗷訴公卿僉議事「非情草木雖具理佛性、無行佛性、無行佛性何有成佛義」 謠曲、遊行柳「人ハ朽木ノ柳ノ精、御法ノ敎ヘナカリセバ、非情無心ノ草木ノ、臺ニ到ルコトアラジ」

びしやう(名) [微傷] アサデ。ウスデ。少シノ切疵。又、輕微ナル傷。

ひしやうぐん(名) [飛將軍] 動作ノ迅速ニシテ、測リ知ルベカラザル將軍。略シテ、飛將。 史記、李將軍傳「天子乃召、拜爲右北平太守、云云、廣居右北平、匈奴聞之、號曰漢之飛將軍、避之、數歲不敢入右北平」

ひしやうぐん(名) [裨將軍] ひしやう(裨將)ニ同ジ。 太平記、十、鎌倉合戰事「一方ニハ堀口三郎貞滿ヲ上將軍トシ、大島讃岐守守之ヲ裨將軍トシテ、其勢都合十萬餘騎」

ひじやうしき(名) [非常識] 常識外ノコト。常識ニ外ルルコト。沒常識。

ひじやうしや（名）【非常赦】［非常ノ赦ノ略］赦ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

❖びしやかき（名）【桧】 樹ノ名。ひさかき（桧）ノ訛。其條ヲ見ヨ。

ひしやく（名）【柄杓】［ひさご、ひさくノ轉、字ノ音ナラズ］古クハ、ヒサゴ、又、ヒサク 今、又、略訛シテ、ひしやく、さく 湯水ヲ掬ヒ取ル器 頭ヲ竹筒、又ハ、桧物ニテ作リ、長キ柄アリ。杓。水杓。[illegible]シヤク [illegible] 法隆ノ身トシテ、ひしやくヲ [illegible] 臓ニ指シ、マホシ（マボロシノ略）ノゴトク見エタマフハ「イカナル人ニテマシマスゾ」[illegible] 四「月カゲヲ、ナゲルヤナシキ、水ぴしやく [illegible] 文化、三馬[illegible] 小サナ柄杓デ、ダラリダラリト汲ムヤツサ」

ひしやく（名）【飛錫】［錫ハ錫杖ノ略］比丘ノ巡遊スルコト。僧ノ旅行。行脚。[illegible]

びしやく（名）【微弱】 形小サク、力弱キコト。又、微賤ニシテ、勢力ナキコト。[illegible] 微弱、ビジャク」

❖ひしやける（自）【匪平】 オサレテ、ツブル。ひさぐ（拉、自動）ノ口語。

❖びしやしやけ（名） 樹ノ名。ひさかき（桧）ノ訛。其條ヲ見ヨ。

びしやびしや（副） 雨ナドノ降リ、又、ソレニ濡ルル状ニ云フ語

ぴしやぴしや（副） 平手ナドニテ、物ヲ打ツ音ニ云フ語

ビシヤモン（名）【毘沙門】［梵語、Vaiśravaṇa; 又ハ、Vaiśramaṇa. 巴利語、Vessavaṇa. 吠室羅摩拏ノ約轉 多聞ト譯ス、福德ノ名、四方ニ聞ユル義ト云フ］ 又、毘沙門天。佛經ニ、四天王ノ一。須彌山中腹ノ北方天敬城ニ居リ、身ニ七寶莊嚴ノ甲冑ヲ着ケ、多クノ夜叉、羅刹ヲ支配シテ、北方ヲ守護ス 其左手ニ寶塔ヲ捧グルハ、六道ノ貧民ニ財福ヲ與ヘ、右ニ寶棒ヲ執ルハ、十方ノ怨敵ヲ摧ク意ナリト。密教ニテハ、佛法守護、及、福德施與ノ誓アル天王トナス。一名、多聞天。 釋氏要覽「四天王之一、在二北方一、福德之名、聞二於四方一」仁王經疏「北方毘沙門天、此云二多聞王一」今昔物語、一、第廿二語「此ノ人、一日ノ出家ノ功德ニ依テ、即チ四天王天ニ生レテ毘沙門ノ子ト成テ、諸ノ天女ト五欲ノ樂ヲ受ク」宇治拾遺、十五、第七條「トリワキテ仕ウマツル毘沙門ニ、物モ食ハデ物ノホシカリケレバ、助ケ給ヘト申シケル程ニ」太平記、三、主上御夢事附楠事「其日若カリシ時、志貴ノ毘沙門ニ百日詣デ、夢想ヲ感ジテ設タル子ニテ候トテ、稚名ヲ多門トハ申候也」

ぴしやり（副） 押シヒシグ音ニ云フ語、又、ぴしやり。

ぴしやり（副）（一）前條ノ語ニ同ジ。（二）障子ナドヲ、荒ク開閉スル音ニ云フ語。（三）平手ナドニテ、打ツ音ニ云フ語。

〔ひしゆ〕（名）【匕首】［通俗文「匕、劍屬、其頭類レ匕、短而便レ用、故曰二匕首一」名物六帖、器財箋、匕首、可リ可、詩者[illegible]］劍ノ類 [illegible] 之神、右手持二匕首一揕レ之、秦王驚、自引而起」江淹[illegible] 四年九月 [illegible]

びしゆ（名）【美酒】 味ノ佳良ナル酒。ウマザケ。旨酒。醇。[illegible]「美酒嘉肴」[illegible]

ビシユ（名）【苾芻、苾蒭】［梵語、Bhikṣu. 比丘ノ轉訛ナ］ 苾芻ノ比丘ニ同ジ 又、比丘ノ轉訛ナラムト云フ。一説ニ、印度ノ芳草ノ名。コノ草、五德ヲ具スル故、之ヲ比丘ニ喩フト］又、ひぴい（ひぴノ延）。ひぴう。出家シテ佛弟子トナリ、具足戒ヲ受ケシ者ノ總稱。僧侶。法師。 善覺要覽「僧曰二苾芻一、苾芻草名、[illegible]」探玄記、十八「比丘者、梵有二三名一、或云二比呼一、或云二苾芻一[illegible]」翻譯名義集[illegible] 二十九條「苾芻ハ法師ノ梵語也、苾芻トハ草名ナル由、古ク妙吉祥制門經トイフモノニ見エタリト。西域寺翻音云ヘリ、釋氏要覽モ上ニ梵語也、是西天草名、具二五德一故將喩二出家人二トモ見エタリ、唐以前、玄奘三藏ノ譯ヨリ前ニハ、法師ノ事ヲ比丘トモ沙門トモ云ヘリ、玄奘ヨリ後、苾芻ト云ヘルトゾ、翻音、又云フ、苾芻ヲ草名ト云ヘルハ誤ナルベシ、比丘、苾芻、梵音ノ轉訛ナラント云ヘリ」

びしゆ（名）【眉壽】［眉毛ノ長キハ、長壽ノ兆ト云フ］ 生命長キコト。又、長壽ヲ祝シテ云フ語。 詩經、豳風、七月「爲二此春酒一、以介二眉壽一」[illegible]

ビシユカツマ（名）［梵語、Viśvakarman; 巴利語、Vissakamma. 毘首羯磨］[illegible] 今、佛トシテ祭ル。 帝釋ノ臣ニシテ、種種ノ工巧物ヲ作リ、又、建築ヲ司ル天神トシテ、天竺ノ工人之ヲ祭ル。 毘首羯磨天。[illegible] 今昔物語、六、第五[illegible] タセ給ヘリ [illegible] ラザリケント見エサセ給フ」今昔物語、六、第五 [illegible]

ひじゆつ（名）【秘術】 秘メテ、容易ク傳ヘヌ術。 易林節用集（慶長）下、言辭門「秘術、ヒジュツ」[illegible]

びじゆつ（名）【美術】 目ニ美シク見エ、耳ニ美妙ニ聞エ、人ヲシテ快感トシテ我レヲ忘レシムル爲ノ美ヲ表現スル術ノ稱。詩、歌、音樂、畫、彫刻、建築、等コレニ屬ス。

ひじゆん（名）【批准】［谷響集、九「客曰、御批或云二敕批一、批字如何、答、凡署二于書尾一曰二之批一也、批本作レ𢪁、說文云、反レ手擊也、帝自書答曰二之批一者、批二之所レ上表奏尾一也」］臣下ノ上奏スル文書、又ハ、事柄ノ可否ヲ、判決シテ[illegible]

許スコト

ひしよ (名) 【避暑】 〔避寒ニ對ス〕 暑氣ヲ避クルコト 拜開、盾賦「來燈避暑、涛夜放清涼」 梁時太子、七[illegible]「避暑[illegible]」 梁簡文太子、納涼詩「避暑高梧側、[illegible]」

ひしよ (名) 【祕書】 (一)祕密ノ文書。又、ソレヲ扱フ人。(二)祕メテ容易ク人ニ示サヌ書籍 祕傳ノ書 [illegible] 太平記、二、南都北嶺行幸事「打物ハ子房カ兵法ヲ得給ヘバ、一卷ノ祕書盡ク見サレズト云フ事ナシ」 同、六、正成天王寺未來記披見事「其外ニ又一卷ノ祕書ヲ被留候」 (三)侍ニ、天子ノ藏書。コレヲ守ル職ヲ祕書監ト云フ 張衡、西京賦「匪唯翫好、乃有祕書」 [illegible]「後漢之時、[illegible]書東觀、在祕書監[illegible]祕書之名始此」

ひしよ (名) 【飛書】 書狀ヲ急ギオクルコト、又、急用ノ書狀。 傳庭、紙賦「鱗鴻附便、授管飛書、寫情于萬里、精思于一隅」 揭傒斯詩「飛書九重天、請給兵民[illegible]」

ひじよ (名) 【飛絮】 飛ビチル柳ノ花。又、風ニ飛ブ茅、薄ナドノ花。 羅陶詩「落花門外春將盡、飛絮庭前日欲高」 蘇軾詩「楊花何如[illegible]飛絮作浮萍」

ひしよう (名) 【卑稱】 イヤシメテ云フ稱。卑下ノ呼稱。

びしよう (名) 【美稱】 ホメタタフルコト。又、美ムル稱。稱美。 晉書、王洽傳「王洽、字敬和、導第三子、中最知名、與導有美稱」 唐書、陸贄傳「與其增美稱而失人心、不若黜舊號以[illegible]」

ひじようすう (名) 【被乘數】 數學ノ語。掛算ニテ、或數ノ乘ゼラルベキ數

ひしよかん (名) 【祕書監】 ときのかみ

(圖書頭)ノ唐名。猶、ひしよ(祕書)ノ條ノ(三)ヲモ見ヨ。 職原抄、上「圖書寮、頭一人」注「唐名、祕書監」 二中歷、七、官名歷「圖書(祕書省)[illegible]」

ひしよく (名) 【非職】 (一)官ニ在リテ勤メナキコト。又、ソノ人。非役。(二)官職ナキ人。 太平記、廿一、[illegible]「是ヲ討チテ出シタラン輩ニ於テハ、非職、凡下ヲイハズ、[illegible]云云」 (三)官吏カ其地位ヲ失ハズシテ、其職務ノミヲ免ゼラルルコト。

ひしよく (名) 【祕色】 又、ひそく。せいじ(青磁)ノ條ヲ見ヨ。 嬉遊笑覽、二、下、器用「孟津抄、祕色、今ノ茶碗也、祕色ハ磁器、越州ヨリ奉ルモノ也、其色、翠青ニシテ、殊ニスグレタリ、仍テ是ヲ祕藏シテ、尋常ニ不用、故號祕色云云、今按、祕色ハ、アヲキ茶碗ノ類ヲイフ也、孟津抄ニ、是ヲ祕藏シテ云云トイヘルハ、誤也」

びしよく (名) 【美食】 味ヨキ食物ヲ食フコト。又、味ヨキ食物。玉食。 後漢書、鮑宣傳「[illegible]、美食大官、重高門之地哉」 三國志、魏志、周宣傳「[illegible]問宣曰、吾昨夜夢[illegible]、其占何也、宣答曰、君欲得美食耳、有頃出行、果遇豐膳」 白居易詩「與君美食復甘眠」「美衣美食」

ひしよくわん (名) 【祕書官】 大臣、總督ナドニ屬シテ、機密ノ事務ヲ取扱フ官。

❖びしよぬれ (名) 全身ヌレソボチタルコト、ビッショリ、ヌルルコト ズブヌレ。

❖びしよびしよ (副) (一)雨ノ絶間ナク降ル狀ニ云フ語。霏霏 (二)濡レソボチタル狀ニ云フ語。

ひじり (名) 【聖】 〔日知ノ義ニテ、聖ノ字ニ就キテ作リタル訓カト云フ〕 (一)〔日ノ如ク、天下ノ事物ヲ知レル人。聖

人。せいじん(聖人)ノ條ヲモ見ヨ。 名義抄「聖、ヒジリ」 神武即位前紀「皇祖皇考乃神乃聖」 同「夫大人立制、義必隨時、苟有利民、何妨聖造」 垂仁紀、廿五年二月「御間城入彦五十瓊殖天皇、惟叡作聖、欽明聰達」 推古紀、廿九年二月「[illegible]曰、於日本國有聖人、曰上宮豐聰耳皇子、固天攸縱、以玄聖之德、生日本國、[illegible]、是實大聖也」 (二)〔日ノ如ク、天ノ下知シメス意ニ移シテ、天皇ヲ讃メ奉リテ申ス語。 萬葉集、一、長歌「橿原ノ、日知ノ御代ユ」(神武天皇) 古事記、下(仁德)「是以百姓之榮、不苦役使、故稱其御世、謂聖帝世也」 仁德紀、十年十月「不閲日夜、竭力競作、是以未經幾時、而宮室悉成、故於今稱聖帝也」 孝德紀、大化二年二月「明聖帝明王、所以有而勿失、得而勿亡也」 續後紀、十九、嘉祥二年三月、長歌「我國ノ、聖ノ君ハ、尊クモ、オホマシマスカ、日ノ宮ノ、聖ノ御子ノ、天ノ下ニ、オホマシマシテ、御世御世ニ、相ウケツギテ、云云」 續紀、十五、天平十五年五月「大八洲所知志聖乃天皇命」 (三)〔スベテ、凡人ニ勝レタル人ノ稱。 推古紀、廿一年十二月「先日臥于道飢者、其非凡人、必眞人也」 古今集、序「柿本人麻呂ナン、歌ノ聖ナリケル」 豐鑑、十二「竹中半兵衞ナラズ、云云、京ニコソ藥ノ聖モ有レトテトリシニ」 (四)〔神仙。仙人 垂仁紀、九十九年明年三月「是常世國、則神仙祕區、俗非所臻」 雄略紀、四年二月「一言主神、云云、到於格、有若逢仙」 同、廿二年七月「浦島子、云云、到蓬萊山、歷覩仙衆」 (五)〔清酒ノ異名。支那ニテ「謂清酒者爲聖人、濁者爲賢人」(三國志、魏志、徐邈傳 徐邈、太祖禁酒、而邈私飲、故難言酒、以白酒爲賢者、以清酒爲聖人) 萬葉集、三「酒ノ名ヲ、聖ト負セシ、古ヘノ、大キ聖ノ、言ノ宜シサ」 (六)〔高德ノ僧ノ稱。 源、三十七、鈴蟲「日頃カ、佛ニ近キ聖ノ身ニテ」 同、五、若紫「深キ山ノ中ニソ、ひじり入リヰタリケル」 榮花物語、二、[illegible]「[illegible]ノ辨モイミジウひじりニテ、只今ノ佛カナト見エ聞コエテ

行ヒケリ」 平家物語、十、[illegible]上人[illegible]「[illegible]ト申スヤラン、黑谷ノ法然房ト申ス人ナリ」 (七)〔泛ク僧ノ稱。 字類抄「僧、ヒジリ」 宇津保物語、[illegible]「[illegible]コノ御法ノヒロコリ[illegible]ニコソハ、我レハひじりニナリニタレ」 源、四十四、橋姫「心深ク思ヒスマシ給ヘルホド、マコトノひじりノオキテニテナン見エ給フ」 宇治拾遺、一、[illegible]「[illegible]納言、其法師引張レト宣ヘバ、ひじり云云、哀レナル顏ヲシテ」 愚管抄、五、二條「信乃入道トテ、西山吉峯ノ往生院ニテ、最後十念成ジテ、決定往生シタリト世ニ云フ聖ノアリシガ」 (八)〔僧ノ眞似スルコト。 源、四十四、橋姫「イト世ツカヌひじりサマニテ、コチゴチシウ」 同、三十四、上、若菜、上「サルひじり心チニテ、イト嬉シク覺エケレバ」 (九)吳服賣ノ行商人。〔昔、吳服物ヲ背負ヒテ商フモノニ云ヘルハ、其狀、高野聖ノ旅修行ノ笈ヲ負ヘルニ似タル故ナリト〕 嬉遊笑覽、十一、商賈「吳服賣モノニ、ひじりトイフガアリ、新吉原[illegible]集ニ、江戶[illegible]町一丁目ニ、[illegible]ト云フ商聖アリ、云云、トアリ、思フニ、吳服所茶屋ト稱スルモノ、剃髮僧形ノモノアル、寬文八年申二月廿四日町觸ニ、去年御觸之通、今度吳服[illegible]共、手前ニ百匁以上之小袖表、御法度ニ付、町中ニ吳服ひじり方ヨリ賣候物、於有之者、早早其主方ヘ返シ可申候、云云、昔シノ物賣、ミナ其形、高野聖ノ笈ヲ負ヘルニ似タリ」

ひじりアンドン (名) 【聖行燈】 「高野聖ノ笈ニ似タルヨリ云フ、一說ニ、聖窓ノ軒ニ掛ケタルヨリ云フト」 昔、遊郭ノ局見世ノ格子ニ掛ケテ、看板ニ代ヘタル掛行燈。 好色一代男、貞享、西鶴、七、[illegible]「[illegible]寺里行燈ノ光ヲウケテ、大カタ[illegible]フシカネタル女郎」 嬉遊笑覽、十、下、火燭「ひじり行燈、云云、局ミセノ掛行燈ヲ云ヘリ、ひじりトハ、高野聖ノ笈メク故ノ名ニヤ」 同、一、上、居處「ひじり窓ト云フハ、出格子ハカハリテ、箱ノヤウニ作リ出シテ、連子モ短キ子ヲ雖ヘサルナリト云ヘリ、云云、西鶴ガ書ル物ニ、ひじりあんどんト云ハ、小巷ニ、ササヤカナル窓ヲ構ヘテ居ル賣女ガ軒ニアル行燈ヲイヘリ」

ひじりさゝ (名) [illegible]ゐかヲ修驗者ノ許ヘ遣ルトテ、ヨミ侍リケル、いか[illegible]ハ、何ヲ鳴クラン」

ひじりごころ (名) 聖心 高徳ノ人ノ心。又、僧タル人ノ心。源、四十、幻「ナゴリナキ[illegible]ひじりごころノ[illegible]モ」同、四十五、椎本「アザリノアマリサカシキひじりごころ[illegible]シクル」

ひじりことば (名) 聖詞 僧ノ云フコトバ。又、僧侶メキタルコトバ。源、三十六、[illegible]レド」同、四十四、總角「レイノオドロオドロシキひじりことば、ミハテテシガナトテ、ワラヒ給フ」

ひじりだ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 聖立 ヒジリノサマナリ。坊主クサシ。又、佛クサシ。[illegible]ノイトドマサレバ、言少ナニテ、聖だつト言ヒナガラ[illegible]四十四[illegible]師ナドハ、世ニ多カレド」同、同「コノ宇治山ニ聖だちタル阿闍梨住ミケリ」

ひじりづか (名) 聖柄 〔其狀、僧ノ頭ノ毛ナキニ似タレバ云フト。又、魚類、即チ、鮫ノ皮ナドヲ用ヰザル故ノ名ト〕唐木類ニテ造リ、上ヲツツミ飾ラザル刀ノ柄。柄[illegible]ナキモノ。[illegible]小[illegible]白キ大口[illegible]ミククミ、聖柄ノ刀、押[illegible]ツロケテサスママニ」[illegible]云、世[illegible]刀、聖[illegible](弘治)[illegible]刀者、[illegible]柄ノ刀ノ事、云云、此聖柄ノ事詳ナラズ、貞丈按ズルニ、刀ト云フハ、サヤマキノ刀ナリ、サヤ卷ノ柄ハ、[illegible]ノカケ[illegible]、又サメヲカケズ[illegible]、唐木ナドニテ作リタル柄モ有リシナリ、其サメヲカケザルヲ、聖柄ト云フナルベシ、法師ノ事ヲ、ひじりト云フ、[illegible]ケズ、坊主ノ[illegible]キガ如クナルヲ[illegible]ハ[illegible]ノ皮ナリ、[illegible]ヲ

ひじりのみよ (名) 聖御世・聖御代 (一) 天皇ノ御代ヲ、タタヘ奉リテ云フ語。聖代 [illegible]「玉ダスキ、[illegible]ソラミツニ、天ノイハフネ、クダシシハ、ひじりのみよヲ、ワタストテナリ」(二) 國ノ善ク治マリタル世。特ニ、醍醐天皇ノ延喜時代ノ稱。後撰集、廿、賀「君ガタメ、イハフ心ノ、深ケレバ、聖の御代ノ、アトナラヘトゾ」千載集、序「延喜ノひじりの御代ニハ古今集ヲエラバレ」[illegible]世ニ傳ヘタマヘリ、所謂古今和歌集是レナリ」

ひじりまど (名) 聖窓 匣ノ如ク作リ出シタル窓ニテ、連子ニ短キ子ヲマジヘザルモノト云フ。ひじりあんどん(聖行燈)ノ條ノ出典ヲモ見ヨ。六玉川(紀逸)三「ひじり窓ヲモ、フラヌ錫杖」

ひじりめ (名) 聖目 せいもく(聖目)ヲ訓讀シタル語。其條ヲ見ヨ。徒然草、百七十一段「碁盤ノ隅ニ石ヲ立テテ彈クニ、云云、我ガ手元ヲ能ク見テ、ココナルひじりめヲ直ニ彈ケバ、立テタル石必ズ中ル」

ひじりよ (名) 聖世 僧侶ノ境遇。源、四十八、寄生「イマサラニ、ひじりよノモノノ、世ニカヘリイデン心チスベキコトトオモフモ」

ひじ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 鹿ノ鳴ク聲ニ云フ。散木集、九、雜、上「山ニ遊ビアルキケルニ、鹿ノひじる聲ノシケレバ」

ひじ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 聖 〔ひじりノ活用〕聖トナル。佛、又ハ、僧トナル。沙石集、四、下、第三條「上人ノ子ハ、イカニモ智者ニテヒジリナリト申セバ、或人難ジテ云フ、父ニ似テ聖るベカラズト云フ、答テ云フ、サラバ、一生不犯ノ聖ノユヘ、父ニ似テ聖らンズラント答テ、比興ス」

ひじろ (名) [illegible]代 [illegible]也、[illegible]代ハ[illegible]也、[illegible]天上ヨリ大[illegible]降リシ奉リシ時、納アリシ樋ノ代ト云フ意也」ト」伊勢ノ大御神ノ、御神體ヲ容ルル器ノ名。純金ニテ、楕圓形ナリトゾ。[illegible]代一具」注「深一尺四寸、内八寸三分、徑二尺、内一尺六寸三分」大神宮儀式解「御樋代ハ美比之呂トヨムベシ、御正體ヲヒメ奉ル具也、云云、新宮ヲ作リ奉ル時、[illegible]ニ見エ、今ノ世モタガハズ([illegible]外、黄金ノ御樋代アリ、[illegible])傳アリト云ヘリ」大神宮式、雜備雜物「大神宮船代三具、云云、樋代一具(正宮料、高二尺一寸、深一尺四寸、内徑一尺六寸三分、外徑[illegible]尺[illegible]代四具、云云、樋代一具(正宮料、徑口各一尺九寸)」

ひ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 祕 隱シテ示サズ。包ミカクス。史記、[illegible]「此ノ御文ひせラルルヨシ、行政コソ承リツレ」

ひ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 比 比較ス。クラブ。ナゾラフ。タクラブ。[illegible]記、[illegible]「古之[illegible]者、比物醜類」同、[illegible]「君子反[illegible]以和[illegible]志、比[illegible]以成[illegible]其行」

ひせい (名) ひすゐ(翡翠)ノ訛。其條ヲ見ヨ。[illegible]四十[illegible]二位[illegible]ノ事ナレバ、皆藤重ノ十二單ヘノ御衣ヲ召レタリ、翡翠ノ御髪ヨリ始メ、皆[illegible]御[illegible]キ」

ひせい (名) 紕繆 ぴきゅう(紕繆)ノ條ヲ見ヨ。

ひそう (名) 紕繆 〔[illegible]〕[illegible]紕繆[illegible]ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

ひずか・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 臨 〔歪むノ意〕心、歪ミタリ。心、ネヂケ

タリ。ヒガミタリ。カダマシ。ヒズシ。名義抄「[illegible]、ヒズカシ、カタクナシ」[illegible]モトル、[illegible]「一ノ宮ニ目ノ王子ハ、人相野人、[illegible]ひずかしニ、國王ノ器量マシマサネバ」

ひすがら (名) [illegible]日 [illegible]

ひすかわざ (名) 奸姦 〔ひずかしきわざノ意〕女ヲ犯スコト。又、[illegible]ハシキ行ヒ。名義抄「奸、ヒスカワザ、ヲカス」

ひずき (名) 鹿尾菜 大伴ノ語ノ略。天治字鏡、十二[illegible]「[illegible]、比[illegible]支」

ひずきも (名) 鹿尾菜 [illegible]ヲ分クルヨリ云フ」略シテ、ひずき。又、ひじきも。今、略シテ、ひじき。其條ヲ見ヨ。[illegible]十七[illegible]「[illegible]稱ニ比之木ニ也」

ビスケット (名) [illegible]包 〔[illegible]語、Biscuit.ノ訛、英語、Biscuit.〕西洋菓子ノ名。小麥粉ヲ原料トシ、コレニ砂糖、牛酪、牛乳ナドヲ混ゼテ煉リ、型ニ入レテ蒸燒ニシタルモノ。堅麪包ノ類ナリ。

ひず・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 臨 ひずかし(臨)ニ同ジ。

ビステキ (名) 〔英語、Beef-steak.ノ訛〕正シクハ、びいふすていく。又、びふてき。略シテ、てき。柔カキ上等ノ牛肉ニ、鹽、胡椒ノ粉ナドヲ振掛ケ、牛酪

ヲヒキタル焼鍋ニテ焼キタルモノ。

ヒステリイ (名) [比斯的里] 〔獨逸語、Hysterie. 英語、Hysteria.〕 多ク婦人ノ病トス、概シテ云ヘバ、精神興奮、戀愛苦悶、心痛失望、憂愁忿怒、驚愕恐怖ナドヨリ起リ、又、生殖器病ナドニ續發ス。此此タル事ニ興奮シ易ク、小事ニ苦慮シ、或ハ痴鈍トナリ、事物ニ干與セズ、嘔、頭痛、眩暈、耳鳴、不眠、全身ノ倦怠ナドヲ覺ユルニ至ル。

ピストル (名) [短銃] 〔英語、Pistol. 創造ノ地、伊太利國、Pistola. (今ノ Pistoja. ノ古名) 府ノ名ニ起ルト。蘭語、Pistool.〕 甚ダ小サク短ク、片手ニテ用キルベキ銃ノ稱。拳銃。

ひ-すまし (名) [樋洗] 〔樋箱ヲ洗す意。ひ(械)ノ條ヲモ見ヨ〕 古ヘ、禁中ニテ、廁ノ掃除ヲ司リシ下司ノ女。御廁人。 箋注倭名抄、六十坐臥具「械、云云、人放、曾則提去、掃除之司、之女背曰比須万之」 類聚雜要抄、樋洗」 宇津保物語、梅花笠「ひすまし六人、青ニノウヘノキヌ着テアユミメ」 源、廿六、下途下八「ワンナ(女バウ)バラアルカギリ三人、ツボ装束シテ、ひすましメク者、フルキ下司女フタリバカリ」 榮花物語、八、初花「ひすまし二人、トトノヘタル姿ゾ、マトヒタリト、人ホホヱミタリ」

ひずみ (名) [歪] ヒズムコト、又、ヒズミタル形、イビツ。ユガミ。 御觸記「ひずみヲヨクヨク見テ、補ヲナホシ退キ候」

ビスミット (名) 〔英語、Bismit.〕 普通ハ、蒼鉛華トシテ自然ニ產ズ。又、金屬ヲ空氣中ニテ強熱シ、又ハ、水酸化蒼鉛、硝酸蒼鉛ナドヲ熱スル時ニ生ズル淡黃色ノ粉末。

ひす・む ‥ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [潛] ひそむ(潛)ニ同ジ。 落窪物語、一「ノノシリテ出デ給ヒヌレバ、カイひすみテ心細ゲナレバ、我ガ君トウチ語ラヒ居タルホドニ」

ひず・む ‥ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [歪] 方、圓、ノ形、其規ニ合ハズ。イビツニナル。カタヨル、ユガム 俳諧古選、秋「寶ノ入ッタ、夕顏ノ宿、ひずみケリ」

ひすら・ぐ ‥グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) [磷] スレテ薄クナル、ウスラグ。ヒスログ。 名義抄「磷、ヒスラグ、ツブ、ウスラグ」 字鏡集「磷、ヒスラグ、ウスラグ」

ひすろ・ぐ ‥グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) [磷] 前條ノ語ニ同ジ。 北條九代記、三、前司朝雅伏誅事「盛者必衰ノ理、マコトニ額ミナキ世ノアリサマ、勢ヒ磷ぎ傾キ、一朝ニ亡ビテ、云云」

ひ-すゐ (名) [翡翠] (一)鳥ノ名。やませび、かはせみ(魚狗)ニ同ジ。 淨書、費山傳、注「應劭曰、雄曰翡、雌曰翠」 異物志(漢、楊孚)「翡、身通黑、唯胸前背上頸後有赤毛、翠、身通青黃、惟六翮上毛長寸餘青」 史記、司馬相如傳「下摩蘭蕙、上拂羽蓋、錯翡翠之葳蕤、繆繞玉綏、縹乎忽忽、若神仙之彷彿」 (二)〔鳥ノ尾ノ長キ羽。 倭名抄、十八九羽族體「翹、俗云、翡翠、是鳥尾上長毛也」 (三)髮ヲ形容シテ翡翠ト云フハ、鳥毛ノ長キニ寄セテ云フナルベシ。 濱松中納言物語、二「髮ハ、スコシ光澤ナルガ、筋モ見エズ、コマゴマト、翡翠ナドイフランヤウニ、ヒロゴリカカリテ」 盛衰記、四十四、女院出家事「ひすゐノ髮狀ニツケテモ、今ハ、何ニカハセサセ給フベキナレバ、御サマヲ變ヘサセ給ヘリ」 (四)綠色ナルコト。(翡ハ赤色、翠ハ綠ノ字ナリ) 吉野拾遺(異本)「嶼福寺寶藏、其色ひすゐヲアザムク黑髮ツヤヤカニシテ」 淨瑠璃物語、笛のだん「此女房ト申スハ、年ヲ申セバ十六年ナリ、云云、丈ニ餘レルひすゐノカンザシヲ、梅ノ匂ニ寄セサセテ」 (五)次條ノ語ノ略。

び-すゐ (名) [微醉] 少シク酒ニ醉フコト。ホロエヒ。微醺 方岳詩「小亭閒眠微醉消一局殘詩、閒日半局棋、微醉、花落中庭樹影移」

ひすゐ-ぎょく (名) [翡翠玉] 寶石ノ名。翡翠鳥ノ羽ノ色ニ似タリ。色、純翠ニシテ溫潤ニ、透キ徹ルヲ上品トス。 略シテ、翡翠

ひ-せい (名) [秕政粃政] 〔秕、粃ハ、共ニ、しひな〕 ヨカラヌ政治。ワルキマツリゴト。惡政。 國語、晉語「軍無秕政」 晉書、文帝紀「朝無秕政、人無謗言」 郭璞、省刑疏「官方不審、則秕政作、懲勸不明、則善惡渾」

び-せい (名) [鼻聲] 鼻ニカカル聲 んノ如キ音。ハナゴヱ。鼻音。

び-せい (名) [美聲] ウルハシキコヱ。美音。 張衡、西京賦「妖蠱艷夫夏姬、美聲暢於虞氏」

び-せいがう (名) [美精好] 美シキ精好織。 庭訓往來、七月「美精好裳」 孕常盤(寶永、近松作) 一「ソゾロ浮立ツ出立ハ、赤地ノ錦ノ若長ニ、美精好ノ大口、重代ノ御佩刀」

ひ-せう (名) [費消] ツヒヤシ、ウシナフコト。悉ク費スコト。消費。「官金費消」

び-せう (名) [微笑] ホホヱムコト。ニッコリ笑フコト。ミセウ。 傅毅、舞賦「遷延微笑、退復次列、觀者稱麗、莫不怡悅」 張衡、思玄賦「離朱脣而微笑兮、顏的礫以遺光」 杜牧、送劉三十詩「微笑知今是、因風謝釣舟」

び-せうぢょ (名) [美少女] 顏色ノ美シキ少女。美貌ノ少女。 好色一代女(貞享、西鶴)一「何レヲ見テモ、十一二三マデノ美少女ナルカ、ヨクヨク是レニソマリ、都ノ人馴レテ」

び-せうねん (名) [美少年] 顏色ノ美シキ少年。美貌ノ少年。美兒 劉希夷詩「伊昔紅顏美少年」

ひ-せき (名) [肥瘠] 肥エタルト、瘠セタルト。肥瘦。 禮記、月令篇「視全具、案芻豢、瞻肥瘠、察物色、必比類」 書注、禹貢、冀州、云云、厥田惟中中」注「田之高下肥瘠、九州之中爲第五」 韓愈、爭臣論「視政之得失、若越人視秦人之肥瘠、忽焉不加喜戚於其心」

ひ-せき (名) [丕績] オホイナル功績。 書經、大禹謨「予懋乃德、嘉乃丕績」 張說、中宗神道碑「聖風微于將流、丕績墜于昏后」 司馬光、古獸賦「發不拔不世之鴻休、張大無倫之丕績」

ひ-せき (名) [碑石] (一)碑材ニ用キル石。(二)せきひ(石碑)ニ同ジ。 庾信、預麟趾殿校書詩「芸香上延閣、碑石向鴻都」

ひ-せき (名) [砒石] 砒素ト硫黃ト鐵トヨリ成ル鑛物ノ名。山中ノ銀鑛、又ハ、鉛鑛ニ作ヒテ出ヅ。色、黑キアリ、灰色ナルアリ、形、土塊ノ如クニシテ脆ク、極メテ烈シキ毒物ナリ。一名、礜石。俗ニ、紕霜石。 和漢三才圖會、六十一、雜石類「砒霜石、砒石、信石、按、倭所謂砒霜石非石、而銅、錫、鉛等之鑛中皆有之、而銅中多有之」 大和本草、三、金玉土石類「砒石、中夏ノ信州ヨリ出ル故、信石トモ云フ、云云、錬タルヲ砒霜ト云フ、大熱大毒アリ、云云、昔ハ日本ニワタル、近年、唐船ニ持來ラス、那須野ノ殺生石ハ砒石ナル歟」 本草綱目譯義、十、石「砒石、今、砒霜石ト云ナリ、生ハ砒石ト云フ、コレヲ燒タルハ砒霜ト云フ、云云、今藥店ニ礜石ト云モノモ、砒石ト云モノモアリ、云云」

び-せつ (名) [眉雪] 眉毛ノ、雪ノ如ク、白クナリヲルコト。又、ソノ眉毛。 韓維、和景仁元夕詩「詩翁懷盛事、眉雪倍霜稜」 藤井竹外詩「眉雪老僧時輟帚、落花深處說南朝」

び-せふ (名) [眉睫] マユト、マツゲト。

極メテ空ニ直ニ東ヘ[illegible]云フ語。[illegible]

ひせん (名) 〔飛泉〕 山ナドニテ、急ニ落下スル水。タキ。瀑布。 後漢書、耿恭傳「恭[illegible]」

ひせん (名) [illegible]

ひせん (名) 〔卑賤〕 身分低クイヤシキコト。地位ヒククキコト。下賤。 史記、[illegible]

ひせん (名) 〔皮癬ノ音カ、或ハ云フ、肥前ノ者、肥前國、島原ヨリ邪法ヲ流布セシヲ、傳染セシヘテ云フト〕 濕瘡ノ一種。微細ナル疥癬蟲ニヨリテ生ズル皮疹。傳染ス。多ク指間、腕、腋下、陰部ナドニ生ジ、痒ミ甚シ。疥癬。 [illegible]有ルベカラズ」

ひせん (副) 〔怫然〕 立腹スル狀ニ云フ語。 [illegible]身道人也、修身嗅人也」

ひせん (副) [illegible]然 物ノナビク狀ニ云フ語。史記、儒林傳、序論「公孫弘以春秋白衣爲天子三公、[illegible]」

びせん (名) 〔鼻尖〕 ハナノサキ。ハナサキ。[illegible]

びせん (名) 〔微賤〕 〔微ハ卑賤ノ意〕 身分ノ賤シキコト。又、ソノモノ。 後漢書、[illegible]

びぜん (名) 〔美髯〕 美シキホホヒゲ。又、美シキアゴヒゲ。 [illegible]

びせんたう (名) 眉尖刀 なぎなたニ同ジ。長刀ニ同ジ 名物六帖、[illegible]

ひぜんぶし (名) 〔肥前節〕 淨瑠璃節ノ一種。寛文ノ頃、杉山丹後椽ノ子、肥前椽清政ノ語リ出シタルモノ。 [illegible]之丞、後、二代ノ肥前トナル」

びぜんやき (名) 〔備前燒〕 備前國、和氣郡、伊部村ヨリ製出スル陶器。故ニ、伊部燒ノ名モアリ。モト齋瓮ヲ燒キタレバ、地名トシタルニテ、日本最古ノ陶處ト云フ。今ノ陶、黑褐ニシテ厚ク、極メテ堅質ナリ、茶器、擂鉢、甕子、等多シ。甕子ニ德利ノ稱アルモ、備前燒ハ、堅クシテ德利ナリト云ヘルニ起ルト云フ。今、又、偶像、[illegible]いむべやき(伊部燒)ト稱ス。本朝陶器考證、三「山陽道ノ國國ハ、大呂、朝鮮ニ似ル、九州路、[illegible]所名、云云、一、瀬戸燒、伊勢尾張邊、一、備前燒」

ひぜめ (名) 火攻 火ヲ放チ、敵ヲ攻ムルコト。ヤキウチ。 [illegible]

ひぜめ (名) 〔火責〕 罪人ヲ火ニヨリテ拷問スルコト。 太平記、[illegible]

ひそ (名) 〔檜曾・檜楚〕 〔そハ楚ノ約、楚割ヲすはやりト約メ、又、そわりト約ムルニ同ジト云フ〕 (一)檜ノ木ノ材ノ、細小ニシテ、方形ニ削ルベカラザルモノト云フ。檜ノ小割。今ノ小丸太ノ類。 [illegible] (二)木ノ小割

ひそ (名) 〔砒素〕 元素ノ一。灰白色ノ金屬光澤ヲ有スル脆キ固體ニシテ、稀ニハ、天然ニ游離シテ存スレドモ、多クハ、硫黃、其他、鷄冠石、雄黃、[illegible]砒鐵鑛)ナドトシテ産ズ。コレヲ熱スレバ、[illegible]

びそ (名) 〔鼻祖〕 〔正字通「人之胚胎、鼻先受形、故謂始祖爲鼻祖」〕 [illegible]

ひそう (名) 〔飛走〕 (一)トビハシルコト。 [illegible] (二)〔飛ハ鳥、走ハ獸ノ意〕 とりト、けものト。鳥獸。禽獸。 左思、[illegible]

ひそかごと (名) 〔密事〕 ヒソカニスルコト。ミソカゴト。 [illegible]

ひそかみ (副) 〔私・竊・密〕 人ニ知ラレジト隱シテ。シノビヤカニ。コッソリト。ナイショウニテ。ミソカニ。 名義抄「竊、ヒソカニ、シノビヤカナリ」字鏡「私、比曾加爾」 [illegible] 土佐日記、正月七日「アル人ノ子ノワラハナル、ひそかみ云フ、マロ、此ノ歌ノ返シセント云フ」 同、同、三十日「聞ク人ノ思ヘルヤウ、ナゾタダゴトナルト、ひそかみイフヘシ」[illegible]

ひそく (名) 〔祕色〕 〔初、支那、越ノ國ニ産ズ、錢氏、國ヲ御スル時ニ燒進ス、臣庶ノ用ルコトヲ得ズ、故ニ祕色ノ名アリト云フ〕 (一)青磁ノ磁器ノ名。飯ナド盛ルモノト云フ。せいぢ(青甆)ノ條

ヲモ見ル」 字類抄「秘色、ヒソク」 今昔物語、十九、九「天皇露…得テ…秘色ノ坏一…」 源、六、末摘花廿二「御臺、ひそくやうノ唐土ノ物ナレド」 李部王記「御膳沈香、折敷四枚、御器用秘色二」 嬉遊笑覽、二、下、器用「秘色トハ、人巧ノ及ビガタキ色ト云フ義也、今青磁ト稱スルモノナレドモ、質、厚薄ト稱スベキ品ニ、ココニワタラズ、其上ニ又ラ斷片モ希ナレバ、ココニトハ俾也、其色、鮮碧ニシテ、ヨノ常ナルトハ異ナルベシ、猶コノ外ニ、定、汝、官、哥ノ四種アリ、ミナ宋代ノ器ナリ」 (二)ひそくいろ(秘色色)ノ略。衣ノ染色ノ名。瑠璃色ナリト云フ 雅亭裝束抄、二「カラアヤ、云云、ひそく、シロアヲ」

ひ-ぞく (名) 卑族 卑屬 〔尊族ニ對ス〕 目下ノ血族 宋書、袁淑傳「卑屬、謂兄弟之子孫」

ひ-ぞく (名) 卑俗 鄙俗 イヤシキコト。下品ナルコト。又、イヤシキモノ。 後漢書、班彪傳「…常時、司馬遷著史記…自太初以後、闕而不錄、後好事者、頗或綴集時事、然多鄙俗、不足以踵其書、彪乃繼採前史遺事、傍貫異聞、作後傳數十篇」 晉書、隱逸傳「元康以來、賤經尚道、以玄虛宏放爲夷達、以儒術清儉爲鄙俗」 東海道名所記、萬治、六「儒者ノ時ナラデハ、常ノ卑俗ハ、人モ門ニ入レラレズ」

び-そく (名) 鼻息 (一)ハナイキ。鼻ノ息ヅカヒ。 宋史、王舒傳「前部遇敵、矢石已交、呼聲震山谷、侍者什伴股栗、而舒鼻息自如」 蘇軾、起伏龍行「眼光作電走金蛇、鼻息爲雷撼…」 (二)他人ノ意向、又ハ、機嫌。「鼻息ヲ窺フ」 鼻息を仰ぐトハ、人ノ喜怒ヲウカガフノ意 後漢書、袁紹傳「孤客窮軍仰我鼻息、譬如嬰兒在股掌之上、絶其乳哺、立可餓殺」

び-ぞく (名) 美俗 ウルハシキ風俗。ホムベキナラハシ。美風。 三國志、魏志、管寧傳「…」「良風美俗」 荀子、王制「…美俗」 韓詩外傳「…」「人之欲、修政美俗、則莫若…其人」

〔**ひそく-いろ** (名) 秘色色 (一)染色ノ名。瑠璃色。略シテ、ひそく。(二)襲ノ色目ノ名、表ハ、經紫ニシテ、緯青ナル織色。裏ハ薄色ナルモノ。

ひそ-けき (連體) 密 ヒソカナリ。

ひそ-ひそ (副) 密密 竊ニ物スル狀ニ云フ語。シノビヤカニ。ヒッソリト。コッソリト。コソコソ。悄悄 字類抄「密密、ヒソヒソ」 平家女護島(享保、近松作)二「杉戸ノ外ニハ笛竹ガ、耳ヲソバタテ息ヲツメ、窺フ内ノひそひそマデ、洩ルル方ナク、聞コユラン」「ひそひそ話ス」

ひそひそ-ばなし (名) 密密話 コソコソバナシ 内證バナシ。私語。

ひそま・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 潛 (一)ヒソムヤウニナル。隱ル。(二)靜ニナル。ヒッソリトナル。オチツク。鎭靜 盛衰記、四十六、義經申ニ賜下文ニ事「何トナク見ル人、上下恐レヲナシテ、ひそまる氣色ナリケルニ、思フヨリモ閑カニシテ」 (三)〔眠ニ就ク。〕就眠 土佐日記、正月九日「心チ惡シミ(クィ)シテ、物モ物シ給ハデ、ひそまりヌ」

ひそま・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 顰 ヒソムヤウニナル。 和玉篇「顰、ヒソマル」

ひそみ (名) 顰 眉ノ皺ムコト 眉ノ間ニ皺ヲ寄スルコト。 李白詩「蛾眉不可妬、況乃效其顰」 蘇軾、贈李彥威秀才詩「…不論手、與世爲擬西子顰」「西施ノ顰ニ倣フ」

ひそ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 潛 〔竊ニナル意〕 (一)ヒソヒソスル。シノビ隱ル。シノビテ居ル。ヒスム。「魚、淵ニ潛む」 (二)クチヒソム。口ユガム。

ひそ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 潛 潛ムヤウニナス。隱ス。シノバス。 著聞集、十六、興言利口「日暮ルレバ、家ニくだト云フ

小竹ノよヲ多ク散ラシオキテ、ツトメテハトリひそめケリ」「身ヲ潛む」「聲ヲ潛む」

〔**ひそ・む**・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 顰 嚬 〔前條ノ語意ニ同ジ〕 (一)眉、皺ム。眉ノ間ニ皺寄ル シカム。 易林節用集(慶長)下、言辭門「顰、ヒソム、嚬、同」 源、四十九、東屋五十九「悲シト見奉ルニ、只、ひそみニひそむ」 泣ク眉ノ狀ナリ。 同、三十五、柏木十九「目モ見エスヤト、云云、打チひそみツツ見給フ」 同、三十四、上、若菜、上五十七「ロツキナドハ、見苦シクヒロゴリタレド、マミノワタリウチシグレテ、ひそみ居タリ」 榮花物語、一、月宴「コノ宮ヲゾ、モテ笑ヒクサニシ奉リ給ヒケレバ、トモスレバウチひそみ給フヲ、イトドヲコガマシキ事ニ笑ヒ奉リ給ヘルニ」 (二)老イテ、口スゲム。老イテ、口ユガム。クチヒソム。 易林節用集(慶長)下、言辭門「顰、ヒソム、嚬口」 源、四十六、總角四十九「アヤシクトガヒカシクモテナシ給フヲ、モドキ、口ひそみ聞コユ」 六帖、三「百年ニ、老口ひそみ、ナリヌトモ、我ハ忘レジ、戀ハマストモ」

〔**ひそ・む**・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 顰 嚬 顰ムヤウニナス。眉ニ皺寄ス シカムル。(顰フル貌) 源、廿二、玉鬘十九「イタウ搖イひそめテ、カタミニ、心ヅカヒシタリ」 太平記、二、武家繁昌事「衛ノ靈公カ鶴ヲ乘セシ樂シミ早盡キ、秦ノ李斯カ犬ヲ牽キシ恨ミ今ニ來リナント、見ル人、眉ヲ顰め、聽ク人、唇ヲ翻ス」

ひそ-め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 密語 ヒソヒソト語ル。ササヤク。 義經記、三、熊野別當亂行事「遙ニ夜フケテ、内陣ニひそめきタリ、何事ナラント、姫君御覽スル所ニ」

ひそ-やか-に (副) 私 密 竊 竊ニ。シノビヤカニ。ヒッソリト コッソリト。シントシテ。 悄悄 寂寂 俳諧、選、冬「ひそやかニ、來テ居ル鳥ヤ、桃花ノ花」

ひ-ぞり (名) 乾反 (一)ヒゾルコト。乾キテ反ルコト。又、其モノ。 今宮心中(寶永、近松作)中「乾反りシ直シ、上下ヲ膝ニカケテ打

チケルガ、エエ是ハ揚加減ノ惡イ袴ジャ」 (二)クネリテ、腹立ツコト スネルコト。

ひぞり-ぶご (名) 無理ナル…ヒッカヘルコト、 長門、正九附…二、私イ附ノひぞり言、エエ、何ヂャイナ、揩カシャンセ」

ひ-ぞ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 乾反 (一)乾キテ、反リカヘル。「板カひぞる」 (二)クネリテ、腹立ツ。スネル。 御伽名代紙子(元文)「ひぞッテ云フヤウハ」

〔**ひた** (名) 引板 〔ひきいたノ約ナルひきたノ約〕 又、ひきた。オドロカシ。なるこ(鳴子)ニ同ジ。 源、五十二、手習九「門田ノ稻苅ルトテ、所ニツケタルモノマネビシツツ、若キ女トモハ、歌ウタヒ興ジアヘリ、ひた引キ鳴ラス音モヲカシ」 續和泉式部集「トモスレバ、引キ驚カス、小山田ノ、ひたスラ寢ネヌ、秋ノ夜ナ夜ナ」 新古今集、四、秋、上「水シブツキ、植ヱシ山田ニ、ひた延ヘテ、又袖ヌラス、秋ハ來ニケリ」 夫木抄、十二、秋田「ネタル間ニ、露ヤオキツツ、シヲルラン、ひたウチハヘテ、守ル山田ヲ」 更級日記「田トイフモノノひた引キ鳴ラス音ナド」 山家集、下「何トナク、露ゾコボルル、秋ノ田ノ、ひた引キナラス、大原ノ里」 源師時歌「群レテ來ル、田中ノ庵ノ、稻雀、我ガ引クひたニ、立チサワグナリ」 又、流レ落ツル水ニ、板ヲ當テテ、水ヲ衝キカクレバ、動搖シテ鳴リ響クモノヲモ云フ。皆、鳥獸ヲ驚カシ防グタメノモノナリ。 水牌 山家集、下「還クサス、ひたノ面ニ、引ク汐ハ、沈ム心ゾ、悲シカリケル」

〔**ひた** (接頭) 直 頓 〔一ノ轉カト云フ〕 一向ニテ、他ヲ雜ヘヌ。タダヒトスヂニ、グナル。ヒタスラナル。タダチナル。打付ケナル。 ヒッタリ、ピッタリ 純一 萬葉集、十八廿二「大君ハ、トキハニマサム、橘ノ、殿ノ橘、ひたテリニシテ」 宇津保物語、藏開、下四十九「頭ひた白ニ、腰ハフタヘナル女ナレド」 源、三十一、槇柱

[illegible]「ひた騒キニススミ給ヘル御心ニテ、人ノ御心動キスベキコトオホカリ」同、十、[illegible]「アサマシウメザマシウ心ヤマシケレド、ひた面ニハ、イカデカアフハ[illegible]ハン」[illegible]桧山ヲ、ひたクレナキニ、匂ハセルラン」夫木抄、[illegible]ノウチニ、イハデ思フカ」徒然草、八十七段「ひた切リニ[illegible]百人ガホド、ひた胄ニ鎧ウテ、楯ヲ前ニ進メ」

ひ‐だ（名）[襞積]〔ひハ重ル義、だハ疊ハル意カ〕又、ヒダメ。衣裳、袴、ナドノ[illegible]襞ニ、細ソク折リタタミタル縫ヒツケタル處。[illegible]也、[illegible]、又、[illegible]落窪物語、一「ソノ縫ヒサシタル袴ノひだ、マヅ縫ヒ給ヘト云ヘバ」著聞集、六、管絃歌舞「五帖ノ袈裟ノ、ひだ新シキカケタル老僧」

びた（名）[鐚]〔びたハめた、べたノ意、減文ヨリ云フカ。字ハ[illegible]合和字〕びたせん（鐚錢）ノ略。其條ヲモ見ヨ。

びたせん（鐚錢）ノ略。其條ヲモ見ヨ。[illegible]錢ノ[illegible]人、[illegible]安[illegible]十四、[illegible]永樂[illegible]大明國[illegible]永樂[illegible]ノ錢ナびた[illegible]トイフ、[illegible]錢ナルニヨリテ、金當ニ懸ノ字ヲ書テ、鐚ノ字ヲ作リ出シテ、びたトイフ字ニ用タリ、「びた四文ハ、永樂一文ニ當ル也」難波鑑心中、中「身ノタメニ、鐚一文ツケタ事ハナイ」

び‐だい（名）[尾大]背ヨリ尾ノ大ナルコト「尾[illegible]掉[illegible]トハ、獸ノ尾、[illegible]リ大ナレバ、自由ニ搖ッスコト能ハズ、故ニ、上、[illegible]小ニシテ、下、強大ナレバ、制シ難キコト[illegible]ヘテ云フ[illegible]

ひ‐たう（名）[illegible]

ひ‐たう（名）[illegible]桃[illegible]ノ一種　花ノ色、深赤ニシテ、花ノミ賞スルモノ。ヒモモ。[illegible]

ひ‐たう（名）[非道]道理ナラヌコト。非[illegible]讃岐典侍日記「女房ドモ呼ビヨセテ、ひだうニ引キノスルヲ、カクスルコトハ、イトひだうナルコト」北條九代記、[illegible]ヤウニ、人ノ脊中ニオホセテヤリツ」[illegible]時政出[illegible]「時政ニ向ヒテ、[illegible]誡セラルル所ニ」

ひた‐うら‐ごろも（名）[直裏衣]ムサウノ服。表裏同ジ色ナル布帛ノ衣。[illegible]ワガモフ君カ、見エヌ頃カモ」

ひたえ‐の‐ひさご（名）[直柄瓠]〔ひたえハ、作リツケノ柄ノ義〕つるくび（鶴頸）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。更級日記「我ガ國ニ、七ツ三ツ作リスヱタル酒壺ニ、サシ渡シタルひたえのひさごノ、南風フケバ北ニナビキ、北風フケバ南ニナビキ、西フケバ東ニナビキ、東フケバ西ニナビクヲ見テ」

ひた‐おもて（名）[直面]遠慮モナク、ヒタスラニ、ソレト顯ハスコト。面ノ現ハナルコト、打付ケナルコト。源、四十四、橋姫「明ウ成リユケバ、サスガニひたおもてナル心チシテ」同、十、榊五十「アサマシウメザマシウ心ヤマシケレド、ひた面ニハ、イカデカアラハシ給ハン」同、三十八、夕霧「カラウジテ明カタニナリヌ、カクテノミコトトイヘバ、ひたおもてナルベケレバ出給フトテ」紫式部日記「タダカウ、殿上人ノひた面ニサシムカヒ、紙燭ササヌバカリゾカシ」

ひだか‐おり（名）[日高織]全部、綿絲ヲ用ヰ、絲ヲ種種ノ色ニ染メ、[illegible]模[illegible]

[illegible]

ひたかのこ（名）[直鹿子]音便ニ、ひったかのこ。略シテ、ひた。布帛ノ地ノ面ニ、鹿子模ナルモノ。地黒シノ鹿子

ひた‐がふ（名）[直甲]甲ノ、一枚板ナルモノトイフ

ひた‐かぶと（名）[直胄]一同揃ヒテ、甲胄ヲ帶シタルコト。又、ソノモノドモ。平家物語、[illegible]、兵トモ、ひたかぶと三百[illegible]ラセテ、前後ヨリ一度ニ鬨ヲドットゾツクリケル」盛衰記、三十三、頼朝征夷將軍宣事「家ノ子郎等都合十二人、彼レモ此レモ、共ニ直甲ニテ、今日ヲ晴ト、上下心モ及バズ出デ立チタリ」

ひたかみ‐の‐くに（名）[日高見國]此語、諸説、區區ナリ、日ニツキテ云ヘルハ、イカガナリ、何處ニカ日ヲ高ク見サル地ノアルベキ。是レハ、直高處、源氏物語、葵、淺みニヤ人ハ下リ立ツ）ノ約ニテ、一面ニ地勢ノ高キ處ノ意ナリト云フ說、當レリ。大和國ニ云ヘルハ、全州、海拔高キニ、其中ニ平地アレバナリ、常陸、陸奥ナドニ、此地名アルモ、同ジ故ナルベシ。大祓祝詞「四方之國中、大倭日高見之國乎安國止定奉氏」[illegible]

ひ‐たき（名）[illegible]一古ハ、[illegible]内外[illegible]クコト。炬　古事記、中（景行）二十一「御火燒之老人」主殿寮式、火炬小子、四人」萬代集、十四、雜、一「衞士ガタク、ひたきニ見ユル、花ナレバ、心ノ中ニ、イハデ思フゾ」（二）爐ノ古言。倭名抄、十二[illegible]

ひ‐たき（名）[illegible]上[illegible]火、若ニ今火爐ニ」

ひ‐たき（名）[illegible]大[illegible]レバ、心ノウチニ、イハデ思フカ」

ひ‐たき（名）[鶲]火燒ノ義ニ、背、頭、赤ケレバ云フト云フ」小鳥ノ名。又、ひたきどり。大サ雀ノ如ク、頭、黑ク、背、灰色ニシテ、白キ斑アリ、頷、頰、黑ク、胸、[illegible]ト白キ斑アリ、[illegible]翅、黑羽、背、脚、[illegible]秋ノ末、來リ、清亮ナル聲ニ啼ク[illegible]食ノ故、[illegible]ノ一トス、又、[illegible]トモアリ。[illegible]止」枕草子、三、廿五段、鳥は「ヒワ、ひたき」夫木抄、廿七、火燒鳥「思ヒカネ、シバトリクブル、山里ヲ、[illegible]「さひたき[illegible]アリ[illegible]ト秋ノ末ニ出ル」

ひたき‐どり（名）前條ノ語ニ同ジ。[illegible]草、十、鳥類「火燒鳥」

ひたきや (名) [火焼屋] (一)炬火スル舍。古ヘ、衞士ナドノ、庭火、篝火ナド燒キテ、夜ヲ守ル小サキ屋。字類抄「炬舍、ヒタキヤ」源、十、賢木「ひたきや幽カニ光リテ、人ハ少ク、シメジメトシテ」亦、衞門集「ひたきやヲ見テ、消エニケル、衞士ノ焚ク火ノ、跡ヲ見テ、煙トナリシ、君ゾ悲シキ」後拾遺集、十七、雜、三「小一條院、春宮トキコエケル時、思ハズ位オリ給ヒケルニ、火たきやナド、コボチサワグヲミテ」更級日記「國ノ人ノアリケルヲ、ひたきやノ火焼ク衞士ニ、サシタテマツリタリケルニ」(二)古ヘ、京中ノ街頭ニ設ケタル建物。衞府ノ官人、行夜スルニ用キル。助鋪。倭名抄、十、居宅類「助鋪、如衞士屋也、古夜、一云、比太岐夜」宮衞令「凡京路分街立鋪」集解「宮城、助鋪、是也」左右衞門式「凡黄昏之後、宮門皆令衞士焼火」

ひたぎり (名) [直切] ムヤミニ切ルコト。ヤタラニ切ルコト。メッタギリ。盛衰記、廿七、信濃横田川原軍事「只一騎ニテ敵ノ中ニ馳セ入ッテ、人ヲバ嫌ハズ、直切リニコソ切リ廻レ」

ひたく (名) 車ノ音ニ云フ語。名義抄「轔、ヒタク、スル、車ノコエ」

ひ-た・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) [日|高] 日、高クナル。たく(長)ノ條ノ(一)ヲ參見セヨ。萬葉集、十九「朝露ニ、咲キスサビタル、ツキ草ノ、日斜ナヘニ、消ヌベク思ホユ」源、四、夕顏「ひたくるホドニ、オキ給ヒテ」同、九、葵「日たけ行キテ、儀式モ、ワザトナラヌ樣ニテ出デ給ヘリ」枕草子、七、六十四段「スコシ日たけヌレバ、萩ナドノイト重ケナリツルニ、露ノ落ツルニ」紫式部日記「例ノサ云フトモ、日たけナント、タユキ心ドモハタユタヒテ」

ひたくれなゐ (名) [直紅] 全體、紅ナルコト。ミナクレナヰ。六帖、五「誰カ萌キシ、紅ナレバ、三輪山ヲ、ひたくれなゐニ、匂ハセルラン」

ひたぐろ (名) [直黑] 全體、黑キコト。

ひたおろ (名) [直心] 一途ナルココロ。ヒタスラナル心。蜻蛉日記、中、中「ひたおろニナクモナリツベキ身ヲ、ソコニサハリテ、今マデアルヲ、イカガセンズル」

ひたおもり (名) [直籠] 一途ニコモルコト。ヒタスラコモルコト。

ひたし (名) [臛] 肉ノアツモノ。肉ノ汁。遊仙窟「植、七啓「臛江東之潜鼉」注「臛、肉羹也」遊仙窟、注「雉臛、キジノヒタシ」

ひ-だし (名) [簸出] 箕ニテ、簸テ出スコト。又、ソノ出シタル屑。「茶ノ簸出」

ひたしもの (名) [浸物] ユデモノ。小松菜、菠薐草ナド、洗ヒテ煠デテ冷ヤシ、切リテ堅ク水ヲ搾リ、醬油ヲカケテ一寸搾リ、煮出汁ト醬油ト、各五分ヅツ混ジタルヲ、注ギテ食フモノ。訛シテ、おたしもの。茹|煠|淪 書言字考節用集、六、服食門「淪、ヒタシモノ」俗字、好色一代男(天和、西鶴)八「菠薐草ノ浸物」料理獻立(寛政七年卯二月十六日、御昼、御膳方、夕御膳、御ひたしもの、ツクシ」續俳家奇人談「梅咲クヤ、一所同ジ、ひたし物」

ひたおろ (名) [直白] 全體、白キコト。宇津保物語、藏開、下「顏カタチ鬼ノ如クシテ、頭ハひたおろニ、腰ハ二重ナル女ナレド」

ひた・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [浸漬] (漬ヅノ他動) 漬ケテ潤ス。濡ラシ濕メス。字鏡、九、上「漏、漬也、比太須」仁德紀、六十二年五月「掘土丈餘、以草蓋其上、敦敷茅荻、取氷以置其上、既經夏月而不泮、其用之、卽當熱月漬水酒以用也」宇治拾遺、三、第七條「虎、云云、キレタル足ヲ、水ニひたしテヒラガリヲルヲ」

ひ-た・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [養] (日足すノ義、成長ノ日數ヲ足ラス意ト云フ) 養ヒ育ツ。生シタツ。神代紀、上、廿、五男神悉是吾兒、乃取而子養焉」釋紀「師說、比太須者、猶如日月也、凡人子初生之時、日數最少而漸漸長養、日數最和足、故謂養爲日足也」神代紀、上、八「以素盞嗚尊田媛、遷出雲國簸川上而長養焉」同、同、上「播川上、他娘婦、以乳養是子焉」此世取乳母、湯坐、飯嚼、湯坐、凡諸部備行、以奉養焉」同、同、八「留其女弟玉依姬、以持養兒焉」古事記、中(垂仁)「本牟智和氣御子、云云、何爲日足奉」繼體卽位前紀「妾今遠離桑梓、安能得膝養育比陀斯」無親族部之國、唯我獨難養育比陀斯」

ひ-だ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [簸出] 箕ニテ、ヒテイダス。

ひたすら (副) [頓|一向] (直向ノ義ト云フ)タダ其事バカリナルニ云フ語。專ラ。一向ニ。頻リニス。頻リニス。一向ニ。ヒタブル。ヒタモノ。セチニ。一途ニ。只管|只顧 近思錄、傳習錄、上「初作根時、只管栽培灌漑、勿作枝想」神代紀、上、十「永歸根國」源、四、夕顏「アフマデノ、カタミバカリト、見シ程ニ、ひたすら袖ノ、朽チニケルカナ」同、九、葵「イト名立タシウ、ひたすら世ニナクナリテ後ニ、恨ミ殘スハ世ノ常ナリ」後撰集、七、秋、下「ひたすらニ、我ガ思ハナクニ、オノレサヘ、カリカリトノミ、鳴キワタルラン」「ひたすら頼ム」「ひたすら願フ」

びたせん (名) [鐚錢] (びたハめた、べたト通ズ、文字ノ漫漶リ、メタクタニナリシ意、鐚ハ、悪錢ノ二合和字ニテ、粗惡ナル錢ノ義) 錢ノ面ノ文字ノ磨滅シタルモノ、又、割レタルモノノ稱。略シテ、びた。惡錢 本邦、中世ノ通用錢ハ、平安朝時代ニ鑄タルモノト、混淆シタリシカバ、永年、使用スル爲ニ、錢面ノ文字、磨滅シテ、鐚錢トナレルモノ多カリキ。室町時代ニ、支那ヨリ永樂錢、渡來シテ、コレガ良好ナリシカバ、其一文ハ、鐚錢四文ニ當ルトナリシコトアリ。因リテ此永樂錢ニ對シテ、從來ノ粗惡ナルモノヲ、鐚錢ト稱セリ。又、德川時代ニ、鐵ニテ鑄造シタル鐵錢ヲモ、鐚錢ト稱スルニ至レリ。(鐚、及、永樂錢ノ條ヲモ見ヨ) 慶長見聞集、六「天正年中、金一兩ノ代ニ米八四石、永樂八一貫、但シ、びた四貫ニアタル」宋貨說、十五、近代和錢「鐚錢、按ズルニ、鐚錢ノ說、區區ナリトイヘドモ、鐚錢ハ多クハ足利家治世ノ時ヨリ起レリ、其頃ハ、皆唐宋ノ錢ヲ渡來シテ通用セリ、故ニ民俗、私ニ其錢文ヲ摸鑄テ、コレヲ挾モノアリ、皆銅色鉛赤、文字磨漫シテ、錢質至テ惡薄、云云」

ひたた (副) [總] ワヅカニ。宮寶記、下、第二段「是人總死、其犬殺、我」同、同「比多太一」齊明紀、三年九月「彼地、病白識、際」

ひた・た・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) [叨|滔|混|浪|濫] (直長くノ意カト云フ) 取締ナクナル。隱レズ現ハニナル。ミダリガハシクアリ。名義抄「浪、ヒタタク、ウカル」「ミダリガハシ」字類抄「濫、ヒタタク」字鏡集「混、ヒタタク、ヒタタケテ、ムラガル、ヒタス」紫式部日記、下「ナドカ、必シモ、面憎ク、引キ入リタランガ、賢カラン、又、ナドテ、ひたたけテ、サマヨヒ差出ヅベキゾ」源、十三、須磨「人繁ク、ひたたけタラン住ヒハ、イト本意ナカルベシ」同、三十四、上、若菜、上「コレヲゾ、オイラカナル人ト言フベカリケル、云云、又、アマリひたたけテ、賴モシゲナキモ、イトロ惜シヤ」榮花物語、八、初花「内ノ御使、エ、ひたたけテ參ラズ」同、廿五、峯月「院ハ故宮ノ御トモニモ、此女御ノ御オクリニモ、ひたたけテ、アユマセタマフコト、マタナキコトニナン」「シマシケル」太平記、三十三、新興目當事「常ノ酒宴ヲ替ヘントモシタマハズ、少シ混けタル式ニテ」

ひだたくみ (名) [飛驒匠|飛驒工] (一)古ヘ、工匠ハ專ラ飛驒國ヨリ出デテ、公ニ參リ仕ヘタリ。一年ヅツ勤番ス、番匠

ト云ノ、是レナリ。又、ひだのたくみ、[illegible]ヒダビト[illegible]驒匠丁十人二年一替」木工寮式、凡工部一人、飛[illegible]「ヒトスヂニ、コヒヤワタラン、ひだたくみ、ウツ[illegible]縄ノ、アトニマカセテ」(二)直ニ、工匠ノ稱。大匠。[illegible]イ[illegible]タレバ、ひだりたくみモ[illegible]メシキ[illegible]テ、[illegible]くみノ、手斧音、ホドホドシカル、メヲモミシ哉」

ひたたれ (名) [直垂] 〔モト、宿直ノ時、直衣ノ上ニ着タルモノト云フ、上ニ直トナル意ノ名ナルベシ。身ノ前後共ニ短ク、帶ヲ以テ、袴ニ着込ミ、武士ノ專用トシタルモノ、宿衛ニ必ズ着タルニ起レルナルベシ〕(一)古ヘ、庶人ノ服ニテ、後ニ禮服トナル。紗、生絹(スズシ)、精好(セイガウ)等ニテ作リ、方領ニテ、紋無シ、袖括リアリ、胸紐、菊綴、指、組緒ナリ。裾ハ、袴ノ内ニ入リ、袴ハ、踝ニ至ル。後世ハ、長袴ヲモ用ヰル。地、色、文ハ、長袴ト共ニ同ジク、鎧直垂、[illegible]直垂アリ、各條ニ註ス。[illegible]オリモノノ直垂ヲキタリケル」忠見集「アル人ノ直垂エサセントアルガ、ウラヲナン失ヒタルト申ス」[illegible]集、五、和歌「オトド感ジ給ヒテ、萩織リタル御ひたたれ[illegible]ヲ押シ、云云、大内修理亮、地香ノ直垂、云云、本間左衛門太郎義貞、地白紫ノ片身ガハリノ直垂、云云、征[illegible]縫物ノ指貫ニ、紅ノ打衣ヲ出シ、常ノ直垂也」(二)[illegible]二月五日「男女相伴設、入三帳中、下官裂裘、(原注、直垂也)」今昔物語、廿六、第十七語「入テ殺ントスルニ、ソコニ綿四五寸バカリアルひたたれアリ」云云、[illegible]色ノ衣、カ上ニ、[illegible]ひたたれ[illegible]シタリケル」玉海、文治六年正月十一日「御入内、北方臥御、其ト先[illegible]」

ひたたれぶすま (名) [直垂衾] 領(エリ)ト袖トヲ附ケ、綿ヲ厚ク入レテ、形、直垂ニ似タル夜具。略シテ、ひたたれ。前條ノ(二)ノ出典ヲ見ヨ。

ひだち (名) [肥立] ヒダツコト。「小兒ノ肥立」病後ノ肥立」産後ノ肥立」

ひたちおび (名) [常陸帶] (一)〔昔、正月十四日、常陸國ノ鹿島ノ神ノ祭ニ、男女、布ノ帶ニ、我ガ想フ男、又ハ、女ノ名ヲ記シテ神前ニ供ヘ、巫覡ノ結ビテ與フルヲ受ケテ、婚ヲト定ス。コレヲ帶占(オビウラ)ト云フトゾ。又、男女ノ名ヲ布ノ帶ニ書キテ神前ニオキ、其帶ノオノヅカラウラガヘルヲ見テ、男女ノ緣ヲ定ムト云フ〕無名抄、奧儀抄」公任集「衣手ノ、常陸ノ帶ノ、[illegible]ニテ、人ノ妻ヲモ、結ブナリケリ」新古今集、十一、戀、一「東路ノ、道ノハテナル、ひたち帶、カゴ(該具)トバカリモ、アハントゾオモフ」謠曲、常陸帶「常陸鹿島ノ明神、云云、當社ニ祈リヲカケシ身ノ、今日待チエタル、常陸帶ノ、[illegible]ニカゴトハヨモアラジ、ソモ末ノ契リノネノ常陸帶トハ、御前ニ見エタル花田ノ帶ニ書ク歌占ヲ、一番ニ詠ゼン人ヲ妹背ゾト、[illegible]」(二)專ラ、茶壺ニ、形、色、帶ニ似タルモノノ名。(茶器名物記)

ひたちさいもん (名) [常陸祭文] 〔淨瑠璃ノ一種。歌祭文ヨリ出ヅ、常陸國筑波山附近ノ地ニ行ハレシヨリ名トス。天明ノ頃、[illegible]トイフ者、其地ニ[illegible]メ、說經淨瑠璃、祭文ノ正本ヲ多ク板行セシガ、其後、專ラ俗說ヲ作リ、又、[illegible]物ヲ語リテ、淨瑠璃ハヤミタリ。ソノ曲節ハ、歌祭文、ちよぼくれ、淨瑠璃ナド、種種混ジテ、極メテ卑俗ナルモノナリシト云フ〕三味線ハ本調子ニテ、何トナク彈鳴ラシ、時時文句ニ合ハスルモノナリトゾ。(嬉遊笑覽)一名、日本祭文(サイモン)。其條ヲモ見ヨ。

ひだ・つ ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) [肥立] 〔日數の立つ義〕(一)日ヲ逐ヒテ成長ス。「赤子肥立つ」(二)日ヲ歷ルママニ快クナル。病癒エテ後、次第ニ健カニナル。

ひたづかひ (名) [頓使] 〔ひたハ一向(ヒタスラ)ノ意〕頻リニ遣ハサルル使。又、副使、從者ナドノナキ使者。神代紀、下[illegible]

ひたつち (名) [直土] 〔土ノミナル意。ひた(直)ノ條ヲモ見ヨ〕床ナキ地面。又、土ニ直接ナルコト。萬葉集、[illegible]「フセ廬ノ、マゲ廬ノウチニ、直土ニ、藁解キ敷キテ」同、十一[illegible]土ニ、足フミツラネ」

ひたと (副) [直] 隔テナク。直ニ。直接ニ。ヒッタリ。「ひたと寄添フ」

ひだのたくみ (名) [飛驒工] ひだたくみ[illegible]ニ同ジ。

ひたひ (名) [額] [illegible](一)〔顏ノ上ノ部ニテ、髮際ヨリ眉ノ邊[illegible]〕[illegible]子ガ、額ニ生フル、[illegible]六ノ、コトヒノ牛ノ、鞍ノ上ノ[illegible]テテ落ブ」源、九、葵「アヤシノ者ドモノ、手ヲツクリテひたひニアテツツ[illegible]カサ」[illegible]透額、薄額、ナドアリ。あつびたひ(厚額)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]コハクナリ、烏帽子ノひたひナド云フコトモ、ソノ頂ヨリ出デニキ」(三)〔物ノ差シ出デタル處〕枕草子、三、三十三段「アヤフグサハ、岸ノひたひニ生フラン」四季集「ナミカクル、岸ノ額ノ、メナレ木ノ」(四)[額月]ノ略。其條ヲ見ヨ。すみまへがみ。女重寶記(元祿)「額ノ作リヤウ、大びたひ、小びたひ、丸びたひ、火燈口」

ひたひ (名) [髮] 〔額ノ義〕古ヘ、貴婦人ノ髮ノ飾トセシモノ[illegible]倭名抄、十四[illegible]字類抄「蔽髮、ヒタヒ」[illegible]テアリ」雅亮裝束抄、一、ひめ君のさうぞく「トラノ日、云云、スヱ、ひたひ、カミアケマウク」新古今集、[illegible]ノ御ひたひヲ奉リ給ヒケルヲ、出家ノ時、返シ奉リ給フトテ、[illegible]、ソノカミノ、玉ノカザシヲ、打返シ、今ハ衣ノ、ウラヲ賴マン」

ひだひ (名) [干飼] [illegible]ニシテ乾シタル[illegible]

饌、式ノ贈物ナドニ、鮮ナル物ノ得難キニ代ヘテ用ヰル。 內膳司式、六月神今食[illegible]、云云、干鯛六隻、干鰹三十隻」

ひたひあて（名）〔額當〕 いそ（磯、[illegible]）ノ條ノ（二）ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。 西宮記、臨時、四「冠、大帷、小忌舞人、額當、着、垂纓、冠、額允、古人不レ着、今人皆着レ之」 侍中群要、五「裝束、闕腋袍、云云、舞用ニ打衣若有レ色綾褂等ニ額當白衣等ニ、但舞非ニ使、當以ニ青色ニ為ニ宿衣ニ（白褂等無ニ其忌ニ）儀式官着ニ青色ニ時、故ニ着額宛ニ、鬼、裼着ニ赤色帶ニ」 後松日記、十九「中古ニ至リテ、云云、巾子テフモノヲ作リテ、纓ニサシ、前ニハ額宛ト云フモノヲアテテ、纓ヲ作リテ、カウブリタルナリ、コノ額宛ヲ用ル事、塵添抄マデハ見エ、纓ヲ結ブコト、江次第マデハ見エタリ」

ひたひえぼし（名）〔額烏帽子〕 額ニツクル小サキ烏帽子。小童ノ着用スルモノ。三角ノ黑キ絹、又ハ、紙ナドヲ、山ヲ上ニシテ、額ニアツルモノ。烏帽子ノ略體ニテ、昔ハ賤民ノ斯クシタリ。後世、人ノ死シタル時、死人、又ハ、送葬者ノ額ニ、三角ノ白紙ヲアツルコトアルハ、此遺ナリ、幽靈ノ繪ニ書ク、此紙ニ片假名ノ「シ」ノ字ヲ記シタルモアリ。 夫木抄、三十二、弓「ささ々メテ、雀弓張ル、男ノワラハ、ひたひ烏帽子ノ、ホシゲナルカナ」（弓張ル大人ノ所爲スルハ、初冠シテ大人ニナリタカラムトナリ） 貞丈雜記、十六、凶事之部「死人ノ額ニ、白紙ヲ三角ニシテ、アツル事アリ、云云、是レひたひゑぼしトイフ物ナルベシ、云云、死人ニハ、白紙ニテ作リ用タルガ、ゑぼしノ代リナルベシ」

ひたひかくし（名）〔額隱〕 もかう（帽額）ノ條ノ（一）ニ同ジ。 有職問答「もかうトハ、能、狂言ナドノ舞臺ノ上ニ幕キ申シ候モノニテ候、今ノ世俗ニ水引ト申候、帽額ト書テ、ひたひかくしト申シ候」

ひたひがね（名）〔額金〕 軍用ノ鉢卷ノ、額ニ當ル處ニ入ルル鋼、又ハ、鐵ノ薄キ板。題鐵。 運歩色葉集「額金、ヒタヒガネ」

ひたひがみ（名）〔額髮〕 （一）マヘガミ。 字類抄「額髮、ヌカガミ、ヒタヒカミ」 曾我會稽山（享保、近松作）一「イツ迄モナ額ヒト、額髮押シナテテ、マバユカラヌ張縛顏口」 （二）〔婦人ノ額、及、左右ノ鬢ヨリ、左右ノ頰邊ニ長ク垂ルル二條ノ髮、顏ヲ隱スタメナリ。其垂リタルヲ、さがりばト云フ。後ニ大鬢ト稱ス。又、コレヲ耳ノ後ニハサムヲ、みみはさみト云フ。 萬葉集、十一 二十八「ウマビトノ、額髮結ヘル、染木綿ノ、染メシ心ハ、我レ忘レメヤ」 源、二、帚木「ミツカラひたひがみヲカキサグリテ、アヘナク心細ケレバ」 同、九、葵 十二「イト長キ（髮ノ）人モ、ひたひおみハスコシ短クゾアメル」 同、同、四十六「汗ニオシヒタシテ、ひたひ髮モ、イタウ濡レ給ヘリ」。落松中納言物語、二「色クマナク白キニ、コボレカカレル額髮ノタエマタエマ、髻ナドココソワロケレト、メダツ所ナクヲカシ」

ひたひきざむ（他動、四）〔額刻〕 額ヲ鑿リテ、入墨ス。額ニ、イレズミス。 履中紀、元年四月「垂ニ大恩ニ而免ニ死、科ニ墨、即日黥之」

ひたひぎは（名）〔額際〕 額ノ毛髮ノハエギハ。カウギハ。 本朝若風俗（貞享、西鶴）六「額ハヨリ自然ト鬢ハシキ黑髮ナルヲ」

ひたひじろ（名）〔額白〕 つきまろ（月代）ニ同ジ。馬ニ、ツキビタヒ。戴星馬。的顱。的盧（上、平御覽、相馬經） 字類抄「騏、ヒタヒシロ、馬額白」 古事談、二、臣節「馬二匹引立テ、皆額白」

ひたひた（副） 水ナドノ溢ルルバカリナ

ル狀ニ云フ語。濤ヲ打ツ音。 曾丹集「夏野ノ花ニ、ひたひた水ノ、濁リ哉」

ぴたぴた（副）〔浸す意〕 （一）モノノ濕ル狀ニ云フ語。（二）濡レツボツ狀ニ云フ語。

ぴたぴた（副） 地ニ直ト伏ス狀ニ云フ語。ピッタリ。

ひたひつき（名）〔額月、月額〕 〔額の月代ノ意。額付、額突ナド書ケルハ、當字ナリ〕 （一）古ヘ、男子ノ額上ノ毛髮ヲ半月形ニ拔キ去リオクモノ、又、月額トモ云ヘリ。冠、又ハ、烏帽子ヲ被リテ、額ノ髮際ノ見エヌヤウニトテ拔キ去レルナリ 略シテ、ひたひ。さかやき（月額）、及、つきまろ（月代）ノ條ヲモ參見セヨ。 太平記、廿一、天下時勢粧事「公家ノ人人、云云、着モナレヌ折烏帽子ニ額ヲアラハシテ、武家ノ人ニ紛レントシケレドモ、云云、額付ノ痕以テノ外ニサガリタレバ、公家ニモ附カズ、武家ニモ似ズ、さがりは退クニテ、公家ノ額月ハ武家ノヨリ深カリシナルベシ」 （二）寢居ノ壁ナドノ中央ニ出入口ヲ作リ、其上部ヲ半月形ニ塗リタルモノ。後ニ云フ瓦燈口ナリ。又、塚形、袴腰形ニ塗リタルモアリシガ如シ。轉ジテ、寢居ヲモ直ニ、ひたひつきト云ヒキ。 盛衰記、廿、八牧夜討事「景廉、云云、內ヘ攻メ入リテ、寢殿ヲサシノゾイテ見レバ額突アリ、燈白ク搔キタテ、障子ヲ細目ニ開キテ、太刀ノ帶取、五寸許引殘セリ」 沙石集、一、上、第二條「高阿彌陀佛ト云フ遁世ノ聖、云云、僧正ノ坊ヘ參リヌ、云云、高野聖ト聞テ、ナツカシク思ハレケルニヤ、ひたひつきシタル寢居ニ呼入レテ、高野ノ事、後世ノ物語ナンドシテ、通夜セラレケリ」

ひたひつき（名）〔額附〕 〔つきハ、くちつき、おしつき、てつきト同趣。つき（付）

ノ條ヲモ見ヨ〕 額ノ樣子。 [illegible]「[illegible]、ひたひつき、[illegible]モノ[illegible]サヤカニ、マミ[illegible]チツキ、イトアイギャウツキ、ハナヤカナルカタチナリ」 [illegible]、六、[illegible]「[illegible]ひたひつき[illegible]モノアルハヤト」 紫式部日記「硯ノ箱ニ枕シテ臥シ給ヘルひたひつき、イトラウタゲニナマメカシ」

ひだびと（名）〔飛驒人〕 （一）ヒダタクミ。工匠。ダイク。 萬葉集、十一 卅九「カニカクニ、物ハ思ハズ、斐太人ノ、ウツ墨繩ノ、タダヒト道ニ」 （二）杣人ノ稱。 萬葉集、七 十五「斐太人ノ、眞木流スト云フ、爾布ノ川、事ハカヨヘド、船ゾカヨハヌ」

ひたひわた（名）〔額綿〕 （一）綿帽子ノ異名。其條ヲ見ヨ。 寬永[illegible]「[illegible]、今[illegible]、ソノママ額ノ、額綿」 （二）昔、月代ヲ剃リタル男ノ俳優ノ、女形ニ扮スルトキ、額ヲ掩フタメニ用ヰタル綿。

ひたぶるごころ（名）〔一向心〕 ヒトスヂナル心。一途ナル心。 源、六、葵 十八「ウツツニモ似ズ、猛クイカシキひたぶるごころ出デ來テ、ウチカナグルナド見エ給フコト、タビ重リニケリ」

ひたぶるに（副）〔頓、一向〕 〔ひたハ、直、ぶるハ、あらぶる、ちはやぶるノぶるト同趣ニテ、強ク勵ム意〕 ヒタスラニ。ヒタモノニ。一向ニ。ツネニ。スコブル。 名義抄「永、ヒタフル」 字類抄「頓、ヒタフル」敢死、ヒタフル」 神代紀、上 廿「永退」 同、下 卅七「根莖既切」 垂仁紀、七年七月「不レ期ニ死生、頓得爭力」 履中紀、五年九月「自レ是後、頓絕以不レ祭ニ飼部ニ而止之」 欽明紀、五年三月「恐任那由レ茲永滅」 竹取物語、龍ノ首「コトヲ、ひたぶるにイナビ申サン事ノイトホシサニ」 伊勢物語、十段「ミヨシノノ、タノムノカリモ、ひたぶるに、君ガ方ニゾ、ヨルトナクナル」 源、六、末摘花「アサマシウモノヅツミシ給フ心ニテ、ひたぶるに見モ入レ給ハヌナリケリ」 同、十五、蓬生「ひたぶるに物ヅツミ

シタルケハヒノ、サスガニアテヤカナルモ、心ニクク覺サレテ」狹衣、四、下「…サキザキハ、ひたぶる[illegible]」

ひだま (名) [火玉] (一)球狀ヲナシテ空[illegible]。ヒノタマ。(二)[illegible]火トナリタルモノ

ひたまきゑ (名) [直蒔繪] まきゑ(蒔繪)ノ條ヲ見ヨ。

ひだまひのふだ (名) [日給簡] 日給札、日給簡ニ同ジ。[illegible]三寸、弘(上八寸、下七寸)、厚、六分、袋(表面、裏平絹)有三大字銘、其下三段、書殿上人官位姓名ニ(上、四位、中、五位、下、六位)[illegible]「ひだまひのふだ一、内侍ノカミニナス由書カセ給ヒテ」

ひたみち (名) [直路] ヒトスヂ。一途。和泉式部集、下「思ヒヤル、心ハ立チモ、後レジヲ、タダひたみちノ、畑トヤ見シ」

ひたみちに (副) [直路] ヒトスヂニ。一途ニ。一向ニ。ヒタブルニ。源、十、榊「[illegible]ノ衰レヲ思ボシ捨テテ、ひたみちに出立チ給フ」紫式部日記「タダひたみちに背キテモ、雲ニノボラヌ程ノ、タユタフベキ樣ナル、カカル[illegible]」[illegible]、月[illegible]「御衣ノ色トモ、ひたみちに[illegible]ナリ」和謌集「ひたみちに、オモヒ入リニシ、カタナレド、マドハザルベキ、シルシヲゾマツ」

ビタミン (名) [英語、Vitamin. or Vitamine 活力素、又、活素ナドト譯ス] 食品中ニ含有セラルル榮養素ノ一。西紀一九一一年、波蘭人Funk ノ發見、命名ニ係リ、コレガ人體ニ及ボス作用ハ、其身體ノ諸腺ヲ刺戟シテ、其活動ヲ促スニアリ。故ニ、身體ノ成長、及、健康ニ、多大ノ關係ヲ有ス。近頃、研究セラレタル結果、A、B、C、ナドノ種類アルコト知ラレタリ。Aハ、牛乳、鱈ノ肝油ナドニ含マレテ、脂肪分ノ中ニ溶解スル事ノ出來得ルモノ、B、及、Cハ、何レモ水ヲ以テ溶解スル事ノ出來得ルモノニテ、其Bハ、[illegible]、及、米ノ胚子ナドニ存在シ、Cハ、[illegible]、おれんぢノ果實ナドニ含有セラル。

ひたん (名) [飛湍] 流レノ激シキ瀨。急湍。奔湍。[illegible]

ひたん (名) [悲歎] カナシミ、ナゲクコト。曹植詩「上有愁思婦、悲歎有餘哀」 陸雲詩「遊子[illegible]、悲歎[illegible]」著聞集、十二、[illegible]「上人、コノ事ヲ聞キテ、イヨイヨ悲歎ノ心深シ」「悲歎ノ涙」

びだん (名) [美談] 美ムベキ話。稱美スベキ物語。公羊傳、閔公[illegible]「[illegible]今以爲美談」[illegible] 後漢書[illegible] 朗詠集、下「[illegible]」

ぴたんこ (名) 平坦ナルコト。マタヒラニナルコト。ツブレテ、平ニナルコト。

びだんし (名) [美男子] ビナンシ。美男。顏色ノ美シキ男子。

ひため (名) [大雨] (直雨ノ義、ヒタブルニ降ル雨ノ意) 甚シク降ル雨。オホアメ。轉ジテ、ヒサメ。垂仁紀、五年十月「朕今日夢矣、錦色小蛇、繞于朕頸、復大雨從狹穗發而來之濡面」(大雨ニ、ひためト、ひさめトノ兩訓アリ)

ひだめ (名) [襞積目] ひだ(襞積)ニ同ジ。倭名抄、十二「衣服具 襞積、比多米」

ひたもの (副) [頓物] (一)一向ニ他ノ物ヲ雜ヘズニ。ひたすら(頓)ニ同ジ。狂言記、居杭「居杭ヨウ來タトテハ、頭ヲハリ、ひたものアタマヲハラセラルルガ迷惑サニ」(二)(ウツハニ物ヲ滿タス狀ニ云フ語) イッパイニ。枕草子、四、[illegible]ラン所、ひたもの入レテモテコ」

ひたものぐるひ (名) [直物狂] マサノカタナキ狂人。全クノキチガヒ。

ひたやごもり (名) [直隱] (やハ感動詞ナルカ) 何ノ故トモ言ハズ、只、ヒタスラニ引籠ルコト。只、一筋ニ籠リ居ルコト。宇津保物語、[illegible]ナギリフカクバ、又モマイリキナン、今日ハ御供ニサブラヒツレバ、ひたやごもりナリトテ、カヘリ給ハン、ビンナカルベシトテ、タチ給フ程ニ」源、二、帚木「[illegible]艶ナル歌モ詠マズ、氣色バメル消息モセテ、ひたやごもりニ情ケ無カリシカバ」同、十二、[illegible]世ヲ[illegible]ル際ニハ、心苦シキ事ノ、自ラ多カリケルヲ、ひたやごもりニテヤハ、常ナキ世ニ、云云」同、三十八、夕霧「アキラメ聞エサスルモアヤナケレド、ヨベノ罪ハひたやごもりニヤ」同、四十六、[illegible]「イトハヅカシケレド、ひたやごもりニテエヤムマジキヲ」和泉式部日記「ウキニヨリ、ひたやごもりト、思フトモ、近江ノ湖ハ、ウチ出テテ見ヨ」

ひだら (名) [干鱈] 鱈ヲ薄鹽ニシテ、乾シ固メタルモノ。ボウダラ。好色二代男(貞享、西鶴)三「干鱈燒ケト、セハシクイハルル」太祇全集「商人ヤ、干鱈カサネル、バタリバタリ」

ひたらす・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) [日足] (日足るノ敬語) 人ト成ル。成長ス。萬葉集、十八、長歌「何時シカモ、日足ラシテ、望月ノ、タタハシケムト、ワガモヘル、皇子ノ命ハ」

ひたり (名) [一人] (ひとたりノ略) ひとり(一人)ニ同ジ。神武即位前紀ニ「エミシヲ、ヒダリ、百ナ人ト、人ハ云ヘドモ、手向モセズ」

ひだり (名) [左] [illegible] キ意) (一)人ノ身ノ、南ヘ向ヒテ、東ニ[illegible] 集、九、長歌「ワギモコハ、クシロニアラナム、左手ノ、ワガ奥ノ手ニ、マキテイナマシヲ」落窪物語、二「ひだりミギニ[illegible]」[illegible] (二)俗ニ、酒飲ム[illegible]コト[illegible]飲手[illegible]トゾ[illegible]「ひだりきき」

ぴたり (副) (一)物ノ密着スル狀ニ云フ語。(二)俄カニ止マル狀ニ云フ語。(三)丁度、相當ル狀ニ云フ語。

ひだりうちは (名) [左團扇] 左ノ手ニテ團扇ヲ使フコト。安佚ノ意ニテ、樂隱居ノ境遇ヲ云フ語。「左團扇デ暮ス」

ひだりがな (名) [左假名] ふりがな(振假名)ノ條ヲ見ヨ。

ひだりきき (名) [左利] (一)右手ヨリ左手ノ方ノ能ク利クコト。又、ソノ人。左利ノ人ノ、箸持トシテ、箸、小刀、鉋ナドヲ執リ、弓ヲ射ルナド、スベテ左手ニテナス。ひだりぎっちょう。俳諧新選、春「七草ヤ、何ニカケテモ、左利」(二)酒ヲ好ムコト。又、其人。酒飲。飲手。飲酒家。酒客。ひだり(左)ノ條ノ(二)ヲ參見セヨ。

ひだりぎっちょう (名) [左利] 左器用ノ轉ナリ。きヲ急呼シテきっト云フヨリ、つトよト約マリテ、ちょトナル。(不器用、ぶきっちょう)ト云フニ同シ。

ひだりざま (名) [左樣] 正シキ道ニ[illegible]

フコト。さだう(左道)ニ同ジ。知顕抄「次第不同ニシテ、サダカナラズ、ひだりざまナル事」

ひだりぞなへ (名) 左備 みぎぞなへ(右備)ノ條ヲ見ヨ。

ひだりづま (名) 左褄 (一)衣服ノ左方ノツマ。(二)藝者ノ異名(歩ク時、左方ノツマヲ取ルヨリ云フ)

ひだりて (名) 左手 〔右手ニ對ス〕(一)左方ノ手。萬葉集、九「吾妹子ハ、釧ニアラナム、左手ノ、吾ガ奥ノ手ニ、纏キテイナマシヲ」同、十一「メヅラシキ、君ヲ見ムトゾ、左手ノ、弓トルカタノ、眉根カキツレ」(二)左ノ方向。左ノカタ。て(手)ノ條ノ(十三)ヲ參見セヨ。左方「左手ニ見ユル山」

ひだりどもゑ (名) 左巴 紋所ノ名、巴ノ左ヘ旋回スルモノ。宇都宮氏ノ定紋。謡曲、調伏曾我「左巴ハ宇都宮ノ紋、右巴ハ小山ノ判官」太平記、十七、山門攻事「千葉、宇都宮、土居、得能、四國中國ノ兵、ココヲ堅メタリト覺エテ、左巴右巴、月ニ星、片引兩、傍ヲ翻シ、文字書キタル旗共、六十餘流」

ひだりなは (名) 左繩 (一)撚リヲ、ヒダリヘカケタル繩。ヒダリ撚リノ繩。左撚繩 夫木抄、九、忠和、禊スル、今日ノ淺芽ノ、左なは、荒ブル神モ、心トクラシ」(二)物事ノ逆ニナルコト。夫木抄、三十六、戀「ツラカリシ、夢ハサメテモ、カハラヌニ、アフト見ツルゾ、左なはナル」

ひだりねぢり (名) 左捻 モノヲ左ニ捻ルコト。松尾雜記、五十一、十二「左ねぢり、俗ニ、左ねぢりトイフハ、左繩ニヨレル語也、雲仙散錄、左掛巾式、面往ニ、隣座用ニ左掛巾ハ式、面信有二光彩一(白鹿傳)、云云、トイフ事モ見ユ」

ひだりばらみ (名) 左孕 腹ノ左ノ方ニ孕ムコト。三國志、魏志、華佗傳「佗視レ脈曰、胎已死矣、使ニ人手摸知一所在、在レ左則男、在レ右則女」

ひだりまき (名) 左巻 たかのはだひ(鷹羽鯛)ノ異名(關西)。體長七八寸、褐色ニシテ濃褐色ノ斜線アリ、暖海ニ産ズ。

ひだりまへ (名) 左前 (一)衣ノ右ノ衽ヲ、左ノ衽ノ上ニ合ハセテ着ルコト。古ヘノ風ナリ。左衽 論語、憲問篇「微二管仲一、吾其被レ髪左衽矣」(二)俗ニ、事ノ、習ヒニ背キテ、逆ニ成リ行クコト。運ノ惡シクナルコト。日本新永代藏(正德、北條團水)一「隨分人ヨリ稼ギ働キテモ、立身ナクひだりまへナル」

ひだりもじ (名) 左文字 印ナドニ、文字ヲ裏返シテ刻リタルモノ。押セバ、常ノ字ニ現ハル。左文 常ノ字ニ刻ルヲ、みぎもじ(右文字)ト云フ 右文

ひだりゆがみ (名) 左曲 (一)左方ノユガムコト。又、左ノ方ヘユガムコト。(二)貧シキ人ガ、不相應ナル美人ヲ妻ニ持ツコト。盛衰記、一、兼家扣子時忠讚岐事「右中將家盛ト云フ人、云云、左曲ノ右中將トゾハヤシタル、貧シキ者、嬰シキ妻ヲ儲クルハ、ひだりゆがみト云フ事ナレバ、カクハヤシケルナリ」

ひだりより (名) 左縒 左撚 左方ヘヨリヲカクルコト。又、其絲。

ひた・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 浸漬 「浸すノ自動」染ミテ潤フ。濡レトホル。ヒヅ。ツカル。シメル。詞花集、九、雜、上「住吉ノ、波ニひたれし、松ヨリモ、神ノシルシゾ、アラハレニケル」堀河百首、五月雨「五月雨ハ、日數フレドモ、ワタノベノ、大江ノ岸ハ、ひたらざりけり」拾遺集、八、雜、上「松ノ海ニひたりタル所ヲ」

ひ・だる・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 饑 〔乾怠(ヒタル)しノ義カ〕饑エタリ。腹、減リタリ。空腹ナリ。ヒモジ。曆筑波集(寛永)二「ひだるき故ニ、ヤセワタル袖」史記抄(文明)十七「イカニひだるけれトモ、鳥獸ヲバ不レ食」萬聞集、十二「發、此ノ、兩日、食物絶エテ、術ナクひだるく候マヽニ」酒食論(足利時代)「相撲、目カクシ、力持、ひだるくナリテハ、カヒモナシ」東海道中膝栗毛(享和、一九)二、上「ソレデモ、モウひだるくテ、歩カレヌ」曾呂利物語(天和)下、夫丸、ひだるい時モ、ネムタイ時モ」織留(元祿、西鶴)一「ツマルトコロハ、食ハネバ、ひだるいト云フニゾ」嘘野集「一トシキリ、ひだるうナリテ、夜ゾ長キ」醒睡笑(元和、安樂庵策傳)六「ひだるさト、寒サト、戀ト、クラブレバ、恥カシナガラ、ひだるさゾマス」

ひたれ (名) 臎 鳥ノ尻ノ脂肉。あぶらぼり。臎ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、十八、羽族體「臎、比太禮、鳥尾肉也」箋注倭名抄、七、四十七「鳥尾肉、原書不載、按、玉篇云、臎、鳥尾上肉也、疑源君誤引之、腓亦云二尾上肉、則比似脫二上字一」同事類記「調備故實、云云、雉ハ生鳥トモ云フ、鳥ノ右ノひたれヲツクリ、重ネテ盛ルベシ」

ひたを (名) 頓丘 〔ひた(頓)及、を(丘)ノ條ヲ見ヨ〕ヒタスラ丘ノツヅクコト。丘ノミニテ、他ノモノノナキコト。神代紀、下五「頓丘、此云二毗陀烏一」

ひぢ (名) 肘肱臂 〔引縮(ヒキチヂ)みノ意ニモアルカ。說文「肘、臂節也」〕(一)〔かひなトただむきトノ間〕即チ、二の腕ト腕トノ間ノ折レ曲ル節。倭名抄、三、七手足類「肘、比知」名義抄「肘、ヒヂ」字鏡四「肘、臂節也、比知」華嚴經私記音義「肘、比地」續紀、廿一年六月「今爲ニ使者一、昔爲ニ吾伴一、摩ニ肩觸レ肘、共器同レ食、安得ニ卒爾爲ニ使一傳ニ余自ニ代卿前」大平記、五、大塔宮熊野落事「夜モスガラノ長汀ニ、御肩屈アリケレバ、御肱ヲ曲テ枕トシテ、暫ク御マドロミアリケル御夢ニ」(二)臂ニ似テ、曲リ出デタルモノノ稱。「肘木」「肘金」「肘壺」

ひぢ (名) 泥 〔漬土(ヒヂツチ)ノ略カ〕土ノ水ニ和シタルモノ、ウヒヂ、コヒヂ、ヒヂリコ。ドロ。泥土。倭名抄、六「遠江國、敷智郡、土形、比知加多」名義抄「泥、ヒヂ、ヒヂリコ、コヒヂ」華嚴經私記音義「泥、比地乃古」古事記、上「次、妹神名、宇比地邇神」神代紀、上「如二葦牙之初生一泥土(ウヒヂ)中一」同、同「埿土、此云二于毗尼一」萬葉集、十五「鹽比治ノ、數ニモアラヌ、我故ニ、思ヒワブラム、妹ガカナシサ」

ひ・づ (動) 漬 ひづ(漬)ノ條ヲ見ヨ。

びちう (名) 鼻鈕 ちう(鈕)ノ條ヲ見ヨ。輟耕錄(明、陶宗儀)三十「千石、六百石、四百石至二二百石以上、皆銅印鼻鈕、文曰二印」

ひぢかけ (名) 肘掛 けふそく(脇息)ニ同ジ。

ひぢかけまど (名) 肘掛窓 〔坐シテ肱ヲ掛クベキ窓ノ意〕敷居ヲ床ヨリ一尺二三寸許リ高ク作リタル窓。

ひぢかさ (名) 肘笠 (一)笠ノ一種。東海道名所記(萬治)三「田ノ中ニハ、早乙女ドモヲリタチ、田蓑ひぢかさキテ、思フコトナゲニ、田歌ヲウタヒテ早苗ヲウユ」(二)肘ヲ頭上ニカザシテ、袖ヲ笠ノ代リトシ、雨ヲ凌グコト。袖笠 次條ヲモ參見セヨ。謡曲、蘆刈「難波女ノ、カヅク袖笠肘笠ノ、雨ノ蘆邊モ亂ルルカタヲナミ」蟬丸(元祿、近松作)蟬丸道行「賤ノ男ガ、カヅク袖笠肘笠ノ、雨ニ木ノ葉モ亂ルル初時雨」

ひぢかさあめ (名) 肘笠雨 俄雨ノ稱。俄雨ニシテ笠モ取リアヘズ、肘ヲ頭上ニカザシテ、袖ヲ笠ニカヅク故ニ云フト、袖笠雨トモ云フ、字類抄「霈、ヒヂカサアメ」催馬樂、妹之門「妹ガ門、セナガ門、行キ過ギカネテ、我ガ行カバ、ひぢかさノ、ひぢかさノ、雨モ降ラナム、云云」源、十二、須磨「ひぢかさ雨トカ、降リ

來テ、イトアワクダシケレバ」 枕草子、八、七十六段、名おそろしきもの「ひちかさあめ」

ひちかさの (枕) ひさかたの(枕)ノ訛ト云フ。雨ノ枕詞 [illegible]過ギカネツ、ひちかさの、雨モ降ラナン、アマカクレ[illegible]ひさかたの、雨モ降ラヌカ、ソヲ由ニセム」)

ひぢかづら (名) [蔓] かづら(葛)ノ一種ナルベシ。字鏡「蔓、比地加豆良」

ひぢがね (名) [肘金] 開キ戸ノ樞ニ用キル具。ひぢつぼ(肘壺)ノ條ヲ見ヨ。大[illegible]式、[illegible]

ひぢき 名 [肘木] (一)[宮殿、社寺等ノ建築] 柱ノ上ニアリテ斗栱ヲ承ケ、横ニ出デタル、曲拳ノ如キモノ。ウデギ。曲栱 倭名抄、[illegible]「[illegible]比知岐」 [illegible] (二)[illegible]

ひち[illegible]と 名 [被治者] [治者ニ對ス] 國家ノ權力關係ニテ、治者ノ統治ヲ受クルモノ、即チ、臣民。[illegible]

ひちだい (名) [筆臺] ひつだい(筆臺)ニ同ジ。[illegible]「[illegible]、比知太伊」

ひぢたま 名 [釧] くしろ(釧)ニ同ジ。其條、及、たまき(手纏)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。名義抄「釧、ヒヂタマ」 天治字鏡、六、「[illegible]、女人[illegible]上也、釧同、比知[illegible]」

ひぢぢ (名) [曾祖父] [ひ(隔)ノ條ヲ見ヨ] 父ノ祖父。祖父ノ父。オホオホヂ。ヒイオホヂ。ヒイヂヂ。曾大父。[illegible] 節用集、四、人倫門「曾祖父、ヒヲホヂ、ヒヂヂ」 箋注倭名抄[illegible]云云、曾祖父高父之祖父、故曰大祖父、今俗呼ニ比治治」

ひぢちかみ (形) 「泥近ノ義ニテ、俗ニ、土氣ノハナレヌナドノ意カト云フ。或ハ云フ、肘近ニテ、手ノ短キハ[illegible]高カラズ、ト云フ」 [illegible]

ひぢつき (名) [泥漬] 泥ノツクコト。泥ニツカルコト。轉略シテ、ひづち。

ひぢつき (名) [肘突] (一)小サク圓キ布團。脇息、机ナドノ上ニ置キ、肘ヲ突ク時、受ケシムルモノ。(二)男達ノ者ノ異名。張肘シテ、動モスレバ、人ニ肘鐵砲ヲ食ハスルヨリ云フカ。 事蹟合考(神田勝久)「天和頃マデ、町中ニ男達ト云フ者ヲ異アリテ、各[illegible]ナシテ徘徊セシ奴、云云」

ひぢつぼ (名) [肘壺] 開キ戸ノ樞ニ用キル具。鐵ニテ壺ノ如ク作リ、柱ニ釘ス。別ニ肘金アリ、鐵釘ニテ、曲レルコト、肘ノ如ク作リ、柱ニ釘シ、牝(肘壺)ト、牡(肘金)ト、相合ヒテ樞トナリ、戸ヲ開閉セシム。つぼがね(壺金)。樞 鈕 好色一代女(貞享、西鶴)三「夜毎ニ我レ行キテ吟味シテ、寢間ノ戸鎖シヲ、外カラ肱壺ヲ打タセテ」

ひぢでっぱう (名) [肘鐵砲] (一)肘ノ端ニテ、劇シク突クコト。(二)挑マレタルヲ、スゲナク、ハネツクルコト。

ひぢは (名) 岸ノ異名 肥前風土記、高來郡、土齒池 [illegible]

ひぢはる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [肘張] (一)肘ヲ張リ出ス。(二)意地ヲ張ル。[illegible]ノ御ウシロミヲシ、アヤマツベキ事カハトノ給ハセ、ひぢはらせ給フモ、アハレニ見奉ル」

ひちひち (副) モノノ水ニ交リテ、排出スル音ニ云フ語。又、ビチビチ。落窪物語、[illegible]

びちびち (副) (一)前條ノ語ヲ[illegible]語。(二)活潑ニ跳ネマハル狀ニ云フ語。バタバタ。[潑剌] [illegible]シテハヌシテハ、びちびち跳ネルススキ殿、尾鰭ヲツケテ生臭イ言分召サルレド」

ぴちぴち (副) 生キタル海老、鯛、鯉ナドノ、跳ネテ、俎ノ上ナドニ打ツ音ニ云フ語 東海道中膝栗毛(享和、一九)初編「去年オラガ行ッタ時、ぴちぴちスル鯛ノ燒物」

ひぢまき (名) [釧] [肘纏ノ義] くしろ(釧)ニ同ジ。其條、及、たまき(手纏)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 倭名抄、十四、服玩具「釧、[illegible]在臂上者、名之釧、比知萬岐」 名義抄「釧、ヒヂマキ、タマキ」

ひぢまくら (名) [肱枕] 己レガ肱ヲ曲ゲテ、枕トスルコト。 信州川中島合戰(享保、近松)作、二「寢殿御殿ト、足[illegible]ミ伸バシ肱枕」 [illegible]

ひぢも (名) 海草ノ名。まくり(海仁草)ノ古名、大同類聚方、廿八「比知毛、今云、萬久利」 モ見ジ、鹿闘クマテハ、ひちまくら」

ひぢもち (名) [肘持] 肘ヲ張リテ行クコト。 源、六、末摘花「儀式官ノネリイデタルひぢもちオボエテ、サスガニ打笑ミ給ヘルケシキ」

ひちや (名) [非茶] [本茶ニ對ス、下ノ出[illegible]ヲ見ヨ] 又、さのちゃ。山城國[illegible]

ひち[illegible] [illegible]

ぴちゃぴちゃ (副) (一)雨路ヲ歩ム草履ノ音ナド[illegible]。(二)魚ノ尾[illegible]、水ヲ打ツ音ナドニ云フ語。

ぴちゃん (副) 平タキ物ノ、水面ニ落ツル音ナドニ云フ語。

ぴちゃんこ (名) ペタンコ。ペチャンコ。

ぴちゃり (副) (一)小波ノ岸打ツ音ニ云フ語。(二)鞭ウツ音ニ云フ語。

ひぢゅう (名) [比重] 物理學ニテ、或ル物體ノ重サト、其物體ト同容積ノ標準體ノ重サトノ比。[illegible]二一・四、金ハ一九・三、鉛ハ一一・三、銀ハ一〇・五、銅ハ八・九、鐵ハ七・九ナリ。

びちゅう (名) [微衷] 「衷、誠也[illegible]」 微意。寸志。自己ノ眞心ノ謙稱。イササカナル、マゴコロ。

びちゅう (名) [鼻柱] はなばしら(鼻柱)ノ條ヲ見ヨ。

びぢょ (名) [美女] ウツクシキ女。美人。佳人。麗人。 [illegible] 好色一代女(貞享、西鶴)一「美女、美形ナレバ」

トテ、不斷見ルニハ必ズ飽クコト」

ひぢょがね（名）【鉸具】〔みづをがねノ轉カ、又、鞦鐙金ノ轉カ〕又、鉸具カコガシラ、ヒトウガネ、ビトウガネ。サスガ。鐙ノ頭ノ鐵環ノ中ニ釘アリテ、旋搖スルモノ、環ニ鐙韃ヲ插シ、鐵片ナ其孔ニ穿チテ、止メテ鐙ヲ釣ル。或ハ、此製ノ金具ニテ、革帶ナドニ用キルモノニモ云フ。安多武久路（寶暦、近藤芳俊）下「或人問テ云、伊勢物語ニ、ムサシアブミ、サスカニカケテトアリ、此サスカト云フハ如何、芳俊答云、サスガト云フハ、力革ノ穴ヘサシ入テ、鐙ヲ懸ル金ヲサスガト云フ、保元、平治ニ、サスガトアリ、今俗、美女金ト云フ歟」

ひぢょそう（名）【被除數】數學ノ語、割算ニテ、或數ニテ除セラルベキ數。ぢょそう（除數）ニ對ス。

ひちら（名）【饆饠】〔字ノ音〕小麥粉ニテ作リ、中ニ餡アルモノ、又、ヒラ 倭名抄、十六、飯餅類「饆饠、比知良、餅名也」 名義抄「饆饠、ヒチラ」 厨事類記「饆饠、ヒラハ、ヒラタク、ウスク、形、花瓣ノ如シ」 翻經音義、三十七「油餅胡食、顧公云、今內國語、以油酥煮之、案、此油餅本是胡食、中國效之、微有改變、所以近代方有此名、胡食者、饆饠、燒餅、胡餅、搭納等、是也」 正字通「饆饠、餅屬、用麪爲之、中有餡」

ひちりき（名）【篳篥】〔原名、悲篥、其聲、悲壯ナレバ名トスト云フ〕モト西域ノ龜茲國ヨリ出デタル雅樂ノ樂器 管ノ長サ六寸、尾ノ徑三分許リ、表ニ七孔、裏ニ二孔アリ、簧ヲ含ミテ吹ク、左手ヲ上ニ、右手ヲ下ニス。歌口ニハ別ニ蘆舌ト云フモノヲ插ス、碧蘆ニテ作ル。觱篥 李頎詩「南山截竹爲觱篥」 倭名抄、四ニ管絃類、觱篥、俗云、比千利岐」 宇津保物語、國讓、上ナ

「大篳篥」 枕草子、九、百九段「笛ハ、云云、ひちりきハイトムツカシウ、秋ノ蟲ノ云ハバ クツワ蟲ナドニ似テ、ウタテケ近ク聞カマホシカラズ」 著聞集、六、管絃歌舞「峯吉ハ篳篥ノ上手ニテ賞ヲ蒙リ、オトドハ和琴ゾシラベ給ヒケル」

ひぢりこ（名）【泥】〔泥子ノ義、りハ助辭、おハすなおノおノ如シ〕ひぢ（泥）ニ同ジ。コヒヂ。ドロ。倭名抄、一七塵土類「泥、土和水也、比知利古、一云、古比千」 天武紀、上、元年七月「雨降、于川、云云、馬能拔以出泥」

ひぢりめん（名）【緋縮緬】（一）縮緬ノ深紅ニ染メタルモノ。博多小女郎波枕（享保、近松作）上「緞子二本、緋子五本、此緋縮緬雲ニヨカラウ」 好色二代男（貞享、西鶴）四「物隱シノ緋縮緬モ、裾一尺餘リマクレテ」 本朝若風俗（貞享、西鶴）六「細目布ノハシ縫ギ、左ノ脇腹ニ結ビトメ、緋縮緬ノ下紐、色ハ變レド、サスガ殘リテ」 （二）しそ（紫蘇）ノ異名。

ひぢをる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【肘折】肘ノ折レタル狀ニ、ナダラカニ折レ曲ル。枕草子、九、百十三段「人ノ家ニツキヅキシキ物、云云、ひぢをりタル廊」 保家女集、ひぢをりテ、行カレンモノカ、春山ノ、ホキ路ノ櫻、今盛リナリ」

ひつ（名）【櫃】（一）匣ノ、大キクシテ、上ニ向ヒテ蓋アルモノ。長櫃、韓櫃、折櫃、小櫃、ナドアリ 倭名抄、十六ナ木器「櫃、似廚向上開闔器也、比都、俗有長櫃、韓櫃、折櫃、小櫃等之名」 太平記、五、大塔宮熊野落事「大般若ノ唐櫃三ツアリ、二ツノ櫃ハ御經ヲ半バ過ギ取出シテ、蓋ヲモセザリケリ、一ツノ櫃ハ未開蓋」 （二）鎖ノ鎖鬚ヲ受クルモノ。ツツ。ぢやう（鎖）ノ條ヲ見ヨ。鎖筒

ひつ（名）【弼】彈正臺ノ次官、大弼、少弼、アリ。職員令「彈正臺、云云、弼一人」

ひつ（名）【匹】（一）タグヒ。トモガラ。

禮記、緇衣「唯君子能好其正（匹）、小人毒其正」 （二）ツレアヒ。メヲト。配偶。（三）トモ。アヒテ。左傳、僖公二十三年「秦伯納女五人、懷嬴與焉、奉匜沃盥、既而揮之、怒曰、秦晉匹也、何以卑我」 （四）ソロヒ。ツキ。爾雅、釋詁「匹、合也」 疏「匹者、配合也」

ひつ（名）【蹕】〔周禮、夏官篇、隸僕、註「蹕謂止行者、淸道」〕ミチオサヘ。サキバラヒ。又、鹵簿 史記、張釋之傳「廷尉奏當、一人犯蹕、當罰金」 晉書、文帝紀「建天子旌旗、出警入蹕」 「蹕ヲ駐ム」 「蹕ヲ犯ス」

ひつ（名）【濕】しつ（濕）ノ訛。

ひづ（名）【氷頭】鮭、鯨、ナドノ頭蓋ノ軟骨。透明ナルコト氷ノ如クニシテ、脆クヤハラカナリ、刻ミテ食フ、かぶらぼね（蕪骨）ノ條ヲモ見ヨ。倭名抄、十六八「魚鳥類、氷頭、比豆」 名義抄「氷頭、ヒヅ」 內膳司式「鮭、氷頭」「氷頭膾」

ひづ・ヅ・デ・ダ・ヂ・デ（自動、四）【漬沾】次條ノ語意ニ同ジ、濡ル。ヒタル。萬葉集、四ニ十「アヒオモハヌ、人ヲヤモトナ、白タヘノ、袖漬ヅマデニ、ネノミシ泣カモ」 同、十一五十「吾妹子ガ、ワレヲ送ルト、白タヘノ、袂漬マデニ、ナキシオモホユ」 古今集、三、夏「聲ハシテ、涙ハ見エヌ、時鳥、我カ衣手ノ、ひづヲ借ラナン」 後撰集、十三、戀、五「イサヤマタ、人ノ心モ、白露ノ、オクニモトニモ、袖ノミゾひづ」 金葉集、一、春「池ニひづ、松ノ延枝ニ、紫ノ、浪ヲリカクル、藤咲キニケリ」 源、一、桐壺九「タダ涙ニひぢテ、明シ暮サセ給ヘバ」 榮花物語、七、鳥邊野「アケ暮レハ涙ニひぢテ、アハレニ過グサセ給フ」

ひづ・ヅル・ヅレ・ヂ・ヂ・ヂヨ（自動、上二）【漬沾】水ニ漬ク。染ミテ潤フ。濡ル。ヒタル。ヒヅツ。 源順集「降リ立テバ、裏マテひづる、袂故、何ウチカヘス、アラ田成ルラン」 萬葉集、二十五「歎キツツ、丈夫ノ、戀フレコソ、吾カ髪結ノ、漬而ヌレケレ」 拾遺集、十四、戀、四「サ男鹿ノ、爪ダニひち

ヌ、山川ノ、アサマシキマデ、訪ハヌ君哉」

ひづ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ（他動、下二）【漬沾】水ニ漬クル。漬ケテ潤ス。濡ラス。濕メス。ヒタス。土佐日記、二月四日「手ヲひでテ、寒サモ知ラヌ、イヅミニゾ、汲ムトハナシニ、日ゴロヘニケル」 同、二月十六日「天雲ノ、遙ナリツル、桂川、袖ヲひでテモ、渡リヌル哉」

ひづ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ（自動、下二）【秀】〔秀出ノ約轉〕草ガ穗ナ出ス。又、穀類、伸ブ。延ベテ、ひいづ。字鏡七十五「穎、高也、秀也、比豆」 名義抄「秀、ヒヅ」「英、ヒデタリ」 天治字鏡、十一、三十「秀、保爾比豆」 天武紀、下、一年閏六月「大錦下百濟沙宅昭明卒、爲人、聰明叡智、時稱秀」 萬葉集、七、十四「石ノ上、振ノ早稻田ヲ、雖不秀、繩ダニ延ヘヨ、守リツツ居ラム」

ひつい（名）【筆意】カキタル書畫ノ趣キ。フデヅカヒ 宣和書譜「唐人學字、多倣王氏、其或肥瘦疏密、小大布置之不同、要其筆意則一而已」 朱子、跋米元章明帖「米公書此尊體、此卷評書一紙、獨有歐虞筆意、甚可愛也」 畫鑑（宋、湯垕）「筆意位置、淸氣襲人」

ひついで（名）【日次】ヒドリ。ヒナミ日ガラ。源、三十八、夕霧四十八「ケフヨリノチ、ひついでアシカリケリナド、人ギキニハノ給ヒテ」 榮花物語、七、鳥邊野「日日ニ見奉ラマホシウ思ホシタレド、日ついでナドエラセ給ヒテ」

ひつう（名）【悲痛】カナシミ、イタムコト。史記、淮南王安傳「徐福得平原廣澤、止王不來、於是百姓悲痛相思、欲爲亂者、十家而六」

ひつえう（名）【必要】ゼヒトモ入用ナルコト。無クテハナラヌコト。

ひっか（名）【筆架】フデカケ。筆ヲ架ケオク臺。筆牀 撮壤集、中「筆架、ヒッカ」 開元天寶遺事、唐、鄭虔「蘇廻有錦紋花石、鐫爲筆架、每天欲雨、津出如汗」 杜甫詩「筆架霑窗雨、書籤

[illegible]

ひっかう（名）〔筆耕〕〔ぜっかう(舌耕)ニ對ス〕傭夫ノ田ヲ耕スニ擬シテ、[illegible]物ヲ寫スコト。[illegible]以封侯、安久筆耕乎」(東觀記、耕或作研)

ひっかがみ（名）〔膕〕ひかがみ(膕)ノ音便。其[illegible]ヲ見ヨ。

ひっかかり（名）〔引掛〕ヒッカカルコト。關係アルコト。又、ヒッカカル所。

ひっかかる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔引掛〕（一）カカリトドマル。カカリテ離レズ。關係ス。（二）アザムカル。ダマサル。

ひっかく・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）〔引搔〕爪ニテ搔ク。又、刺ナドニテ搔ク。[illegible]名所記(萬治)三「痒クバひっかくベイヨ」

ひっかくる・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）〔引掛〕（一）カケテオク。カケテ釣リ下グ。（二）アザムク。ダマス。タブラカス。（三）無造作ニ着ル。肩ニカク。カブル。太平記、十四、箱根竹下合戰事「同宿共、面面ノ手負ヲ肩ニひっ懸ケテ、麓ノ陣ヘゾ下リ[illegible]」[illegible]「ひっかけテ、行クヤ吹雪ノ、豐島莚」（四）一息ニ飲ム。(湯、水、酒ナドヲ) 湯藝太平記[illegible]

ひっかけ（名）〔引掛〕（一）ヒッカクルコト。（二）ひっかけむすびノ略。婦人ノ帶ノ結ビ方。後ニ一ツ結ビテ、輪ヲ作リ[illegible]モノ。

ひっかつぐ・グ・ガ・ギ・ゲ（他動、四）〔引擔〕[illegible]肩ニカツグ。[illegible]

[illegible]落スモ晰ヤラン」博多小女郎波枕(享保、近松作)上「コリャン、ホタユルナト、ヌひっ拋いデ投ゲタガノ」

ひっかへし（名）〔引返〕ひきかへし(引返)ニ同ジ。日本永代藏(貞享、西鶴)一「白キ紋羅ノひっかへしニ、緋縮緬ヲ中ニ入レテ」

ひっかへす・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔引返〕ひきかへす(引返)ニ同ジ。

ひっからぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）〔引紮〕下部ヲヒキアツム。殘ラズヒキクルメテ括ル。[illegible]

ひっからむ・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）〔引絡〕（一）ツヨク、カラミツク。キツク絡ム。（二）複雜ナル關係ヲ有ス。コミイル。[illegible]ダ鼓ハネエカラ」

ひつき（名）〔日月〕天ノ日ト、月ト。ツキヒ。ジツゲツ。萬葉集、五[illegible]長歌「日月ハ、アカシト云ヘド、アガ爲ハ、照リヤタマハヌ」同、十三[illegible]長歌「モモシキノ、大宮人ハ、アメツチト、日月ト共ニ、[illegible]代ニモガ」

ひつき（名）〔火附〕火ノ燃エツクコト。又、ソノ工合。「火附ノヨイ炭」

ひっき（名）〔筆記〕筆ニテ記スコト。書キ取ルコト。又、ソノモノ。[illegible]

ひつぎ（名）〔日次〕日毎ニ貢進スル物。[illegible]

[illegible]近江ナル、オモノノ宮ノ、海士ノひつぎハ」

ひつぎ（名）〔日嗣〕〔日神ノ大命ヲ受ケ繼ギ[illegible]〕（一）天皇ノ大御位ノ尊稱。アマツミクラヰ。[illegible]

ひつぎ（名）〔棺〕〔ひとき(棺)ノ轉〕（一）キ。ヒトギ。人ノ屍ヲ納ルル木造ノ匣。棺。[illegible]「ひつぎニ入レ奉リテ、フタカタメナドシ奉ル」宇治拾遺、[illegible]（二）通ジテ、[illegible]モ云フ。

ひつぎのみこ（名）〔日嗣御子〕天津日嗣ヲ、受ケサセタマフベキ儲ケノ君。太子。皇太子。[illegible]

ひっきゃう（副）〔畢竟〕ツマルトコロ。トドノツマリ。終ニハ。ハテハ。結局。[illegible]

ひっきり（名）〔挽切〕小サクシテ、齒ノ細カキ鋸。（木工ノ語）

ひっきりなしに（副）〔無引切〕頻ナシ

ニ。ヒキツヅキテ。間斷ナク。[illegible]ニ。カギリナク。タエズ。

ひっきる・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）〔挽切〕[illegible]

ひっつく・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）〔乾付〕全ク[illegible]ノひつき中スニ、水ヲツンノミ」

ひつぐう（名）〔匹偶〕〔匹耦〕（一）ツレアヒ。メヲト。匹[illegible]（二）トモ。アヒテ。

びっくり（副）〔びくりノ音便〕不意ニ驚ク狀。[illegible]ヲ取リテハ、びっくりトスル、念ヲ入レ、結フタル筆ハ、天下一」「びっくりスル」「びっくり仰天」

ひっくりかへし（名）〔顚覆〕ウラガヘシニナルコト。サカシマニナルコト。

ひっくりかへす・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔顚覆〕ウラガヘス。[illegible]マニナス。顚覆ナス。

ひっくりかへる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔顚倒〕ウラガヘル。サカサマニナル。顚倒ス。

ひっくわ（名）〔筆禍〕[illegible]文ナドノ、官ノ[illegible]ニ觸レテ、科罰ニ處セラルルコト。文筆ノ災。[illegible]

ひっくん（名）〔筆管〕フデヅカ。[illegible]

ひつけ（名）〔火付〕[illegible]

ニ報イムガ爲ニ、或ハ、保險金ヲ得ムガ爲ニ、竊ニ人家ニ火ヲ付ケテ燒クコト。又、其罪ヲ犯セル人。放火　御定書百箇條「火附御仕置之事、火ヲ附候者、火罪」

〜**ひ-づけ** ヒ-ヅケ (名) [日付] 文書ニ、其書キタル月日ヲ記シツクルコト。又、ソノ月日。宇津保物語、藏開、上、四「父ノ日記シ、一ツハ琵琶、和琴、一ツエリトリ侍リケル日マデ、日づけヲシナドシテオキテ侍リケルヲ」

ひ-づけ ヒ-ヅケ (名) [日着] 旅ニ、其日ノ中ニ、目的地ヘ到リ着クコト

ひっけい (名) [必携] 必ズ携フル程、入用ナルコト。又、ソノモノ。「墨場必携」

ひつけ-たうぞく-あらため ヒツケ-トウゾク-アラタメ (名) [火付盜賊改] 江戸時代、江戸市中ヲ巡廻シ、火災ヲ豫防シ、盜賊ヲ逮捕シ、博徒ヲ考察スル職。又、加役。(火方ト云フ)下ニ與力、同心アリ。吉標表、三「御手先之内ヨリ壹人出役シテ、火附盜賊改ヲ勤ムル事ナリ、コレヲ俗ニ加役ト云」内安錄「火附盜賊改ト云フ役ハ、假令バ、町奉行、御定奉行ハ大名之居、加役ハ乞食之居ト人口イヒ傳ヘタレド、夫ヨリモ猶イカガト思フ事ハ、忍ビ廻リノ自身召捕ヲ、組ニテ御馬先ト唱ヘ、立派ナ名目ニテアレド、何日ニハ忍廻リヲスルト者ヘ達セバ、組ノ者、二三日モ前ヨリ五里六里先ニテ召捕シ置フ、ソノ日ノ頭ノ休息スル自身番屋ヘ、朝ヨリククシ置、組ノ吟味スルモアリ」元治元年武鑑「火附盜賊御改、御役扶持百人扶持、千五百石高」

ひっけん (名) [筆研][筆硯] (一)筆ト、硯ト。又、文字ヲ書クコト。文筆。後漢書、班超傳「大丈夫無ニ他志畧、猶當下效ニ傅介子張騫、立ニ功異域、以取中封侯上安能久事ニ筆研間ニ乎」岑參、銀山磧西館詩「丈夫三十未ニ富貴、安能終日守ニ筆硯」蘇軾詩「何日時軒親ニ筆硯、林相隔更從容」(二)手紙文ニテ、文筆ニ從事スルモノ

ノ起居ノ義ニ云フ語。「筆硯益御多祥」

※**びっこ** (名) [跛] (足ヲ引く意ノ語カ) アシナヘ。チンバ。

ひっこし (名) [引越] ヒッコスコト。住所ヲカフルコト。移轉。轉居。浮世床(文化二、三篇)初篇、上「オラカ向ノ婿殿ハ、下女ノ引越ノ樣ニシテ、仲人カ葛籠ヲ脊負ツテ、左ノ手ニ鐵瓶ヲ提ケテ、右ノ手ニ酒一升提ケテ來タワ」

ひつこ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) (一)色、又ハ、味ナド、極メテ濃厚ナリ。シツコシ。(二)至ッテ念入ニ過ギタリ。ウルサシ。

ひっこ・す・ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) [引越] 住所ヲウツス、ヤウツリス。轉居ス。

※**ひっこ-ぬ・く**・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) [引拔] ヒキヌク　ヌキトル。強ク引キ拔ク。

ひっこみ (名) [引込] (一)ヒッコムコト。浮世風呂(文化、三馬)四篇、上「アノ女ニ入レ上ゲテ、漸漸内ヘ引ッ込みノ、盡モ節笥ノ環カ鳴ルト云フ世界サ」(二)クヒコムコト。缺損トナルコト。損失。

ひっこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [引込] (一)ひきこむ(引込)ノ音便。信州川中島合戰(享保、近松作)三「勘介ニハ未ダ對面致サズ、在鄕ヘひっ込み、鋤、鍬取ッテ自ラ耕シ」(二)クヒコム。缺損トナル。損ス。

ひっさい (名) [筆才] 文章ノ上ノ才。文筆上ノ才能。文才。文心雕龍、梁、劉勰「庾以ニ筆才ニ逾親」王隱、晉書「樂廣長ニ口才ハ、摯虞長ニ筆才ハ、廣坐廣談、虞不能答、虞退筆難廣、廣不能答、便相嗤笑、紛紜於世ニ」

ひっさ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) [引裂] ひきさく(引裂)ノ音便。其條ヲ見ヨ。

ひっさ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ケヨ(他動、下二) [提]

手ニ引キ下ゲ行ク。ヒキサグ。ヒサグ。太平記、一、賴員回忠事「廿四差タルタヅサフ胡籙ト、繁藤ノ弓トヲひっさげテ、門ノ上ナル櫓ヘ走上リ」「刀ヲ提ぐ」

ひっさん (名) [筆算] (一)物書くコトト、算盤取ルコトト。文筆ト、算術ト。「筆算ニ長ズ」(二)西洋法ナル算術ノ、筆ニテ算用數字ヲ記シテ行フモノ。(算盤ナルニ對ス) 洋算。

ひっし (名) [筆紙] ふでト、かみト。又、文ニ書キ取ルコト。文章ニ書キアラハスコト　全唐詩話(宋、尤袤)「賜詩令題座右、帝親書、且給ニ筆紙ニ令ニ自賦ニ」最明寺殿百人上臈(元祿、近松作)發端ふくみ狀「後生ノウラミ有ルベカラズ、萬タン筆紙ニ盡シ難シ」

ひっし (名) [必死] (一)必ズ死スルコト。萬萬、生クル見込ナキコト。太平記、赤坂城軍事「正成、必死ノ鏃ニ死ヲ遁レ、廿餘町落延テ、跡ヲ顧ケレバ」(二)死ストモ止マジト、力ノ限リスルコト。シニモノグルヒ。殊死。決死　漢書、朱博傳「且喜且懼、對曰、必死」「必死ノ覺悟」「必死ノ苦ミ」「必死ニ働ク」

ひっし (名) [必至] 是非トモ其事情ニ到着スルコト。是非トモ其事物ノ來ルコト。必ズ或ル事ノ到來スルコト　史記、孟嘗君傳「物有ニ必至ニ事有ニ固然ニ」漢書、蒯通傳「猛虎之猶與、不如ニ蜂蠆之致螫、孟賁之狐疑、不如ニ童子之必至ニ」「必至ノ勢」

〜**ひつじ** (名) [羊] (じハ、獸ノ略、養す獸ノ義或ハ云フ、十二支ノ未ヨリ起ル、日、中スル時ハ午ニ止マリ、ソレヨリオクリテ未ニ至ル、日辻ノ意カト云フ) 反芻獸ノ名。外國渡來ナリ。高サ二尺許リ、長サ三尺許リナルヲ常トス。牡ニ角アリテ、螺旋ノ狀ヲナス。牝ニ角ナ

シ、稀ニハアルモアリ。全身、白、又ハ、黑、或ハ、雜斑ナルモアリ。脚ノ爪ハ偶蹄ナリ。性、順良、怯弱、常ニ畜ヒテ、其毛ヲ剪ミテ毛布トシテ、最モ佳ナリ。肉、亦、甚ダ美ナリ。又、綿羊。野羊。各條ニ詳ス。倭名抄、十八ノ七「羊、比豆之」名義抄「羊、ヒツジ」推古紀、七年九月「百濟貢ニ駱駝一疋、驢一疋、羊二頭、白雉一隻ニ」羊の歩みトハ、居所ニ歩ミ行ク羊ヲ、人世ニ譬ヘテ云フ語。一歩每ニ死ニ近ヅクヲ云フ。とこのひつじ、居所羊ノ條ヲモ見ヨ。狗抄子「人在ニ人間ニ日失ニ一日ニ如ニ牽ニ羊以詣ニ屠所ニ每ニ進ニ一歩ニ而去ニ死轉近」源、五十、浮舟七十「川ノ方ヲ見ヤリツツ、ひつじのあゆみヨリモ程ナキ心地ス」續古、二、上、十九「ケニヤ常ヨリモ、イト惱マシク暮レ行クヲ、ひつじの歩ノ心地シテ、サスガニモノ心細ク思サルルヲ」中務内侍日記「徒ニ明シ暮ス春秋ハ、タダ羊の歩みナル心地シテ」新後拾遺集、十七、雜、下「ツヒニ行ク、道ハイマハノ、時ナレヤ、ひつじのあゆみ、身ニゾ近ヅク」

ひつじ (名) [未] 羊ノ義 (一)干支ノ一。其條ヲ見ヨ。(二)時ノ名。其條ヲ見ヨ　落窪物語、二「タダ今ハ、サモセマ欲シクゾアルト宜ヘバ、ひつじノ時マデ、人モ目見入レヌレバ」(三)方角ノ名。えと(干支)ノ條ヲ見ヨ

ひつ-じ (名) [匹似] 甚シク似ニ似カヨヘルコト。(多ク漢詩ニ用キル語) 徐鉉、雜歌謠「莫ニ嫌ニ春夜短ニ匹似楚襄王」黄庭堅詩「田多穀少無ニ人餓、匹似無ニ田過ニ一生ニ」

〜**ひっしき** (名) [引敷] (一)敷物。ひしき(引敷)ニ同ジ。(二)おしあて(腰當)ノ條ノ(一)ニ同ジ。年中恒例記「御供ノ同朋マデ、小打刀ヲ持チ、ひっしきヘ上ニ着座」(三)次條ノ語ノ略

ひっしき-の-いた (名) [引敷板] 又、ひっし

…ノ後ノ草摺ノ[illegible]シテ、ひしき、又ハ、ひっしき。[illegible] イフ、射向ノ方ヲバ、フルキ物ニハ、弓手の草摺トゾシルセル」

ひつしぐさ (名) 〔白鮮〕 ＝羊草ノ義ニ、木質ノ草本ノ名、[illegible]、以テ、羽狀複葉ナリ、苗ノ高サ[illegible]ハ山椒ニ似テ、夏ノ初、[illegible]花ノ間々、桔梗ノ花ニ似タリ、根ハ蔓菁ニ似テ、黄白色ニシテ、羊ノ臭アリ、根ト皮トヲ藥用ニ供ス。ハクセン。 倭名抄、廿九草類「白鮮、[illegible]」 本草和名上、白鮮[illegible]

ひつしぐさ (名) 〔睡蓮〕 ＝花、未ノ刻(午後二時)ヨリ閉ヅル故ニ名ヅクト」 すゐれん(睡蓮)ニ同ジ。

ひつしさる (名) 〔未申〕 方角ノ名、西ト南トノ間。坤。 名義抄「坤、ヒツジサル」 皇極紀、元年八月、是日夜半雷鳴、[illegible]」 宇治拾遺、八、第[illegible]、[illegible]ノトヤカニ住スベキ所アルト、ヨロヅノ所ノ見マハシケルニ、ひつじさるノ方ニアタリテ山カスカニ見ユ」 方丈記「ツジ風、云云、コノ風ひつじさるノ方ニ移リ行キテ、多クノ人ノ歎ヲナセリ」

ひっしゃ (名) 〔筆寫〕 カキウツスコト。

ひっしゃ (名) 〔筆者〕 筆ヲ執リテ記ス人。カキテ。書者。執筆者。 [illegible]、サテハ[illegible]ノ筆ノ[illegible]リカ」

ひっしゃう (名) 〔筆匠〕 筆ヲ製造スル職人。筆師。筆工。 唐書、百官志、註「秘書省有二[illegible]」

ひっしゃり (副) 物ヲ打チタル時、發スル音ニ云フ語。[illegible]

ぴしり (副) (一)水ナドノ物ニ、ヒ[illegible]ギタル音ニ云フ語。(二)物ノ音ノ俄ニ止ミタル狀ニ云フ語。

ひっしゅ (名) 〔必須〕 必ズ須キルベキコト。無クテハ叶ハヌコト。必需。

ひっしょ (名) 〔必需〕 前條ノ語ニ同ジ。

ひっしょう (名) 〔必勝〕 必ズ勝ツコト。必ズ勝利ヲ得ルコト。 孟子、公孫丑、下篇「君子有不戰、戰必勝矣」 [illegible] 「必勝ヲ期ス」

ぴっしょり (副) 濡ルル狀ニ云フ語。ズブヌレニナル。ビショヌレニナル。ひっ[illegible](文化、一九)四篇、下「誰カ土瓶ヲウチコカイタサウナ、ソレソレ、煙草入モ紙入モびっしょりヂャ」 東海道中膝栗毛

ひっしり (副) スキマナク並ブル狀ニ云フ語。ヒシト。ヒシヒシ。ビシビシ。 狂言記、佛師「軒ト軒トヲ、ひっしりト建テ並ベタ程ニ」

びっしり (副) 〔前條ノ語ヲ強メテ云フ語〕 物ノ一面ニツキテアル狀ニ云フ語。一面ニスキマナシニ。ビシビシ。

ひっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 〔必〕 堅クソレト定ム。確ニ期ス。 [illegible]「成功ヲ必ス」

ひっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 〔筆〕 カク。シルス。書キ付ク。筆ニス。 中庸章句、小序「此篇乃孔門傳授心法、子思恐二其久而差一也、故筆二之於書、以授二孟子一」

ひっすう (名) [illegible] ノ條ヲ見ヨ。 盛衰記、十一、金剛力士兄弟事「火ハ斧子計ナレドモ、一切ノ物ヲ亡シ、佛ハ[illegible]ニ御座ドモ、一切衆生ノ導師タリ」

ひっすゐ (名) [illegible] 必ズ衰フルコト。[illegible]

ひっせい (名) 〔筆勢〕 書キタル筆ノイキホヒ。運筆ノ勢、筆力。 [illegible]

ひっせい (名) 〔畢生〕 (一)生ヲ畢ルマデノ意。一生。生涯。終生。「畢生ノ大事業」

ひっせい (名) 〔筆生〕 (一)書キ役。寫字生。(二)フデヤ。「筆生」 法苑珠林(唐、[illegible]) 名物六帖[illegible]

ひっせき (名) 〔筆蹟〕 筆迹 フデノアト。書キタル文字ノ風。書跡。 南史、王[illegible]「[illegible]、辭制既雅、筆亦又麗、時人以比[illegible]」

ひつぜつ (名) 〔筆舌〕 筆ト、舌ト。文章ト、言語ト。 揚子法言(漢、揚雄)「[illegible]、書不盡言、[illegible]、帝王之筆舌也」 柳宗元[illegible]「思不[illegible]孔子之筆舌」

ひっせん (名) 〔筆戰〕 〔筆ト筆トノ戰ヒノ意〕 文章ニテ、戰論ヲ戰ハスコト。又、文章ノ優劣ヲ競ヒ爭フコト。

ひっせん (名) 〔筆洗〕 筆ノ穗先ヲ洗フ器。フデアラヒ。筆池。 [illegible]「筆洗」

ひつぜん (副) 〔必然〕 必ズシカアルベキ狀ナリ。 戰國策、[illegible]、下篇「[illegible]必然之[illegible]可[illegible]」

ひっそく (名) 〔逼塞〕 (一)江戸幕府ノ制ニ、武士以上ノ罰ノ名、[illegible]門ヲ[illegible]、晝間ノ出入ヲ[illegible]、罪ニ因リテ、日數ニ多少アリ。其輕キヲ、遠慮ト云フ。 [illegible] (二)[illegible]世ヲ忍ビ隱レ居ルコト。[illegible]シテ、引籠リ居ルコト。 博多小女郎波枕(享保、[illegible]) [illegible] 武家義理物語(元祿、西鶴)二「弟惣八ニ家ヲ繼ガセ、其ノ身ハ遠州ノ山里ニひっそくシテ」

ひっそり (副) 〔ひそひそ(密密)ノ轉〕 鎭マリテ、靜ナル狀ニ云フ語。ヒッソリ。シントシテ。森閑 悄然 閴然 寂寞 [illegible]「[illegible]ひっそりト、[illegible]ル、暗ノ浦」月見ニ着ルヤ、シマノ繼物」

ひったい (名) 〔筆臺〕 又、ひきだい。筆ヲノスル臺。筆架。 江家次第、二、敍位「[illegible]」

ひつだう (名) 〔筆道〕 フデノミチ。文字ヲ書ク法。書法。書道。 [illegible] 元來ハ一流ニ候」[illegible]

西鶴）二「彼レハ若年ノ時、筆道ノ師匠ナル」

ひッたかのこ (名) 匹田鹿子 〔直鹿子(ヒタカノコ)ノ音便〕一面ニ鹿子シボリニシタルモノ。ヒッタシボリ。おだいふかのこ(小大夫鹿子)ト云フモ、コノ類ナリト云フ 長唄、五條花見踊「匹田鹿子ノ小袖マク」

✤✤**ひッたく・る・ル・レ・ラ・リ・レ** (他動、四) 引手繰 無理ニ手ニテ奪ヒ取ル。強ヒテ奪フ 狂言記、たんのうい「狐ヒカ食ヒニカカラレマスル所ヲ、コノ縄デヒッシメテ、皮ヲひったくりマスルガ、イカウ氣味ノエイモノデゴザル」

ひッたこぼり (名) 匹田絞 前前條ノ語ニ同ジ。

✤✤**ひッた・つ・ツ・テ・タ・チ・テ** (自動、四) 引立 キハダチテ見ユ。ハユ。

ひッた・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 引立 (一)手アラク、連レテ行ク。強ヒテ、連レ行ク。ヒ、タテル 娥哦加留多(享保、近松作)二「カネテイヒシハ合點カ、舟岡山へひッ立てヨ」 (二)引キテ、立タシム。 幸若舞曲、和田酒盛「ワタガミ摑テひ立て、草摺長ニサゾクト着ル」 狂言記、文藏「ドナル股野ヲ引立て、錯ニ附キタル臨、ホ、ポサ サ、ト打チ拂ウテ」

✤✤**ひッた・てる** (動) 引立 前條ノ語ノ口語

ひッたん (名) 筆端 筆ノサキ。又、作レル文章、繪畫ノ端 筆鋒。 三國志、魏志、程昱傳「隨ニ危任ニ情、唯心所ニ適、法造ニ於筆端ニ不レ依ニ科品ニ獄成ニ于門下ニ不レ顧ニ覆訊ニ」 韓詩外傳(漢、韓嬰)「避ニ文士之筆端、避ニ武士之鋒端、避ニ辯士之舌端ニ」 許渾、王維畫輞川圖「意出ニ塵外ニ怪生ニ筆端ニ」

ひつだん (名) 筆談 (一)隨筆、筆記ナドヲ云フ。 宋史、藝文志「沈括、夢溪筆談二十五卷」 (二)用事ヲ文ニ書キテ話シ合フコト 言語ニヨラズ、互ニ字ヲ書キテ意思ヲ通ズルコト 〈異國人、又ハ、聾ナドニテ話ノ通ゼヌナドニ〉 天神記(正德、近松作)二「臣、云云、唐帝ノ王室ニ至リ、萇文籍ト云フ臣下ニ筆談シ、長篇ノ詩ヲ奏シ」

ひッたり (副) 〔直(ヒタ)とノ音便〕 (一)物ノ善ク相合フ狀ニ云フ語 ヒタリ ピタリ。 狂言記、花子「ひったりト抱キツイタレバ」 孕常盤(寶永、近松作)四「亂レ伏ス猪ノ床ノ内、シッポリひッたり、シッポリひッたり」 (二)隙ナク閉ヅル狀ニ云フ語。ピッタリ。

ぴッたり (副) 前條ノ語ニ同ジ。

ひッち (名) 筆致 〔致ハおもむき〕 運(ハコビ)筆ノオモムキ。カキブリ。フデツキ。

ひッち (名) 筆池 筆ノ穗先ヲ洗フ器。フデアラヒ 筆洗 王梅溪集「有ニ筆池銘ニ」

~~**ひづち**~~ (ヒズチ) (名) 穭稲孫 〔刈レル後ノ乾土(ヒツチ)ヨリ生フレバ名トスルカト云フ〕 稲ヲ刈リタル株ヨリ、再ビ蘖(ヒコバエ)ノ生ジ、實リタルモノ。今、まばえ。稲ノ二番生(バエ)。オロカオヒ。再熟稲 倭名抄、十七 稻類「穭、比豆知」 新撰字鏡、七、禾「穭、ヲロカオヒ、俗云、ヒツチ」 日本釋名、下、飲食、秋「ヒツチ、稻ノ再生シテ實ナルヲ云、秋田ヲカリ、水ヲオトシテ後、干土(ヒツチ)ヨリ出テ、ミノルモノナレバひつちト云」 好忠集「ワガ宿ノ、門田ノワセノ、ひづち穗ヲ、ミルニツケテゾ、親ハコヒシキ」 古今集、五、秋、下「刈レル田ニ、生フルひづちノ、穗ニ出デヌハ、世ヲ今更ニ、アキハテヌトカ」 夫木抄、十六、寒草「ヨシサラバ、生フルひづちノ、カジケツツ、物ニモナラデ、霜枯レニケリ」

ひッちう (ヒツチユウ) (名) 匹儔 タグヒ。トモガラ。ナカマ アヒテ 曹植詩「中有ニ孤鴛鴦、哀鳴求ニ匹儔ニ」 韓愈、應ニ科目ニ時與ニ人書「天池之濱、大江之濆、日有ニ怪物ニ焉、蓋非ニ常鱗凡介之品彙匹儔ニ也」 韓愈詩「陳端生ニ絕域ニ自矜無ニ匹儔ニ」

ひづちだ (ヒズチダ) (名) 穭田 ひづちノ生ヒタル田 新千載集、十八、雜、下「老イテ世ニ、アルカヒモナキ、ひづち田ノ、霜ヲ穢ク、身トゾナリヌル」 もとの水「ひづち田ニ、霜ノ花見ル、朝カナ」

ピッチャア (名) 〔英語、Pitcher.〕 野球ノ語。投球者。ナゲテ。投手。

ひつぢやう (ヒツヂヤウ) (副) 必定 カナラズ。タシカニ。キ、ト。テ、キリ。 僧法決疑經「必定得ニ近ニ涅槃ニ」 謠曲、木曾「此ノ度ノ軍ニ勝タンズル事、必定ナリ」

ひッちう (ヒツチユウ) (名) 筆誅 書キタテテ、其罪惡ヲ誅(セ)ムルコト。「筆誅ヲ加フ」

ひッちらか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 引散 ちらかす(散)ヲ、強メテ云フ語

ぴッちり (副) 人ナドノ、場所ニ充滿シタル狀ヲ云フ語

ひつぢん (ヒツヂン) (名) 筆陣 文章ノ雄健ナルコト (戰ノ陣立ニ喩ヘテ云フ) 杜甫詩「詞源倒流ニ峽水、筆陣獨掃千人軍」

ひづつ (ヒズツ) (名) 火筒 鐵砲(テツパウ)ニ同ジ。小筒。

~~**ひづ・つ・ツル・ツレ・チ・チ・チヨ**~~ (自動、上二) 漬沾 ひづ(漬)ニ同ジ。 萬葉集、七 五「吾妹子ガ、赤裳ノ裾ノ、染(ヒヅ)漬つラム、今日ノ小雨ニ、吾レモ濡レテバ」 同、二 三十長歌「朝露ニ、玉裳ハ漬(ヒヅ)打、夕霧ニ、衣ハ濡レテ、草枕、タビネカモスル、アハヌ君ユヱ」 同、二 四十長歌「泣ク涙、霈霖(ヒサメ)ニ降レバ、白妙ノ、衣漬(ヒヅ)而、立留リ」 同、九 十二「吾妹兒カ、赤裳泥漬(ヒヅチ)テ、植ヱシ田ヲ、苅リテヲサメム、倉ナシノ濱」 同、十五 五廿長歌「朝露ニ、裳ノ裾比都知、夕霧ニ、衣手濡レテ」

ひッつか・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 引摑 〔ひきつかむノ音便〕 つかむ(摑)ヲ、強メテ云フ語。

ひッつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 引着 〔ひきつくノ音便〕 くッつくト云フニ同ジ。

ひつッこし (形) ひつおしノ音便。

ひッつめ (名) 引詰 婦人ノ髮風ノ名。おめつけおまだ(締付島田)ニ同ジ。 浮世風呂(文化、三馬)四編、上「十二バカリノ小娘、ひッつめニ結ウタル髮ノすウレキカ聢ト壁ナル故、手拭ヲスッポリ巻イテ、鉢巻ノヤウニ額デ結ビ」

ひッつり (名) 引釣 瘢痕ナドノ皮膚ノ、縮ミ寄レルコト。

ひッてき (名) 匹敵 (一)相手トナルコト 肩ヲ竝ブルコト 三國志、魏志、文德郭后傳「自ニ寤與ニ鄉里門戶ニ匹敵者ニ」 (二)ツレアヒ 配偶 漢書、鼂錯傳「郡縣之民、云云、人情非ニ有ニ匹敵ニ不レ能ニ久安ニ其處ニ、塞下之民、祿利不レ厚、不レ可レ使ニ久居ニ危難之地ニ」

ひッてん (名) 〔旱(ヒデリ)ニ通ズ〕 (一)空虛ナルコト 浮世床(文化、三馬)初編、上「ひ、てんナ所バカリハ曾我ダ」 (二)錢ノナキコト。 劇場新話「ひッてん、錢ノナキコト」

ひッとう (名) 筆筒 筆ヲ入レオク筒。フデヅツ。フデタテ。フデイレ。 致虛雜俎「有ニ斑竹筆筒、名ニ裘鐘ニ」

ひッとう (名) 筆頭 (一)フデノサキ。 徐氏筆精「隋智永禪師取ニ筆頭ニ瘞ニ之、號ニ退筆塚ニ」 開元天寶遺事(唐、王仁裕)「李太白少時、夢ニ所ニ用之筆頭上生ニ花、後天才贍逸、名聞ニ天下ニ」 (二)書キ始ムルコト。カキダシ。フデガシラ (三)筆ノ如ク尖リタル頭。 魏書、古弼傳「世祖大閱ニ將校、獵ニ於河西ニ、弼留守、詔以ニ肥馬ニ給ニ騎人ニ、弼命給ニ弱者ニ、世祖大怒曰、小頭奴敢ニ裁ニ朕、也、朕還、臺先斬ニ此奴ニ、弼頭尖、世祖常名ニ之曰ニ筆頭ニ」

ひッとうさい (名) 筆頭菜 ツクヅクシ。

ひッとき (名) 引解 〔ひきとき ノ音便〕 わたぬきノ衣。冬ハ綿ヲ入レ、拔キテ袷トシ、又、解キテ單トス。

ひつごく (名) [illegible] 必ズ讀マザルベカラザルコト。「必讀ノ書」

ひづなます (名) [氷頭膾] 料理ノ一種。[illegible]例ヘバ、鮭ノ氷頭ヲ細ソク二分位ノ小口切[illegible]大根[illegible]引キタルト、おろし[illegible]ト絞リテ雜ゼ、柚子ヲコマカク切リテ入レ、コレニ、前ノ氷頭ヲ取上ゲテ加ヘ、更ニ、酢[illegible]加減シテ、カキマゼテ作ル。又、鹽引ノ鮭ノ肉ヲコマカク切リ、鮭ノハララゴヲ加ヘタルヲ、[illegible]

ひつば (名) [匹馬] 一匹ノ馬。又、馬匹。[illegible]「匹馬風ニ嘶エテ、天龍河ヲ打渡リ」

ひっぱぎ (名) [引剝] [引剝ノ音便] ひはぎ[illegible]「[illegible]ニ合ヒ、辛十合ヒリケキッツ」

ひっぱく (名) [逼迫] [字ノ音、ひきはくノ音便] (一)セマルコト。サシツヅマルコト[illegible] (二)極メテ乏シクナルコト 又、惱ミ苦シムコト [illegible]太平記、廿三[illegible]二彼ノ逼迫シケレバ」

ひ、はた・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [引擊] はたく(擊)ヲ強メテ云フ語。ナグル。

ひつばつ (名) [必罰] 有罪ノモノハ、必ズ罰スルコト [illegible]

ひっぱづ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [引外] 引外すノ音便[illegible]ハ、入道ヒラリト引ぱづし、ヤ、ナサレナ」

ひっぱふ (名) [筆法] (一)筆ヅカヒノ法。[illegible]ノ法則 書法 [illegible] (二)文ノ書キ方 [illegible]「春秋ノ筆法」

ひっぱり (名) [引張] (一)ヒッパルコト。又、強ヒテ、引キ立テ行クコト [illegible]答選「内内聞クニ、新大納言ノ樣ニ、引張りナドセンズルニヤト、心迷ヒシケレバ、足フルッテ、緣ノ上ヘ[illegible]」 (二)夜間、路傍ニ立チテ、通行人ノ袖ヲ引キテ、賣淫スル女。夜鷹、ヤホチ [illegible]

ひっぱりだこ (名) [引張凧] (一)[illegible]モノヲ、我ガ手ニ入レムト、爭ヒ競フコト。方方ヨリ所望セラルルコト。浮世風呂(文化、三篇)二編、下「好イ男ホド浮虛デ飽キッポイ物サ、ソノ筈ダモノヲ、方方カラ引っぱりだこニスルカラ、ウヌボレデ、身持ガ惡イワナ」 (二)磔刑ニ處セラルルコト。ハリツケ。五十念[illegible]ナリ」

ひっぱ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [引張] (一)強ヒテ連レ行ク。拘引ス。盛衰記、十八、[illegible]

[illegible]モ、少モロハ、[illegible]ノ方ヲ眼ヘテ、天子ノ親トモ覺エズ、生死不知事セ[illegible]ケナル者トモ、[illegible]ひっぱり、イマシムベウヤ候ヤラント申シケレバ」 (二)[illegible]作中[illegible]ナ事ト思ヒ居ル、木ノ空デ引っ張らルルハ今ノ事」 (三)延引セシム。ノバス。[illegible]

ひっぷ (名) [匹夫] [庶人ノ夫婦ヲ匹夫匹婦ト云ヒ、ソレヨリ庶人ヲ云フ] 身分卑キ、タダノ人。ツネノヒト。平人。次官ヲ卑見セヨ。[illegible]

ひっぷ (名) [匹婦] 身分卑キ、タダノ婦人。前條ヲ參見セヨ。[illegible]

ひっぽう (名) [筆鋒] (一)筆ノサキ。筆端。[illegible] (二)筆ノ勢。文章、又ハ、書畫ノ勢[illegible]白詩「筆鋒殺盡中山兔」

ひつぼく (名) [筆墨] 筆ト、墨ト。フデスミ。又、ソレヲ用ヰテ記シタルモノ。

手[illegible]

ひづ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [歪] [ひずむ(歪)ノ訛ナルベシ] 歪ムヤウニス。名義抄「[illegible]、ヒヅム、イサフ、イカル、ゼム」玉篇、四十一「[illegible]弓ノソッタヲ押シアテテ、矯メツひづめツスル木ナリ、檠ト云フ」

ひづめ (名) [蹄] [平(指ニ分レズ)爪ノ略ニテモアルカ] (一)[牛、馬、羊等ノ、形、圓キ爪 [illegible] (二)[illegible]騎馬[illegible]

ひつめつ (名) [必滅] 必ズ滅ブルコト。[illegible]

ひつもん (名) [華門] 竹ノシヲリド。竹ノヲリカケ門。荊竹ニテ編ミタルマガキ。次條ヲモ見ヨ。[illegible]

ひつもんけいとう (名) [篳門閨竇] 篳門ト、閨竇ト。貧者ノ住居ヲ云フ語。前條、及、けいとう 閨竇ノ條ヲモ見ヨ。又、[illegible]

ひつよう (名) [必用] 必ズ用ヰルベキコト。無クテ叶ハヌコト。必要。

びづら (名) みづら(角髮)ノ訛。其條ヲ見ヨ。ビンヅラ。

ひつらう (名) 筆分 物書ク骨折

ひつりよく (名) [筆力] ひッせい(筆勢)ニ同シ。唐史、王僧虔傳「孔琳之書、天然放縱、極有筆力、規矩恐在羊欣後」 書言字考「筆力 費筆力」

ひで (名) [火出ノ意カ] 松ノ村ノ脂アルモノ。「明リノタメニ焚ノひでヲ焚ク」

ひ・で (動) [秀] ひづ(漬、他動、下二)ノ條ヲ見ヨ。

ひ・で (動) [秀] ひづ(秀)ノ條ヲ見ヨ。

ひてい (名) [否定] こうてい(肯定)ノ條ヲ見ヨ。

びていとつ (名) [尾骶骨] かめのを(尾骶骨)ニ同ジ。

ひてう (名) [飛鳥] とぶとり(飛鳥)ニ同ジ。翡鳥、飛禽、蜚禽 禮記、曲禮、上篇「鸚鵡能言、不離飛鳥、猩猩能言、不離禽獸」 宋玉、高唐賦「飛鳥未及起、走獸未及發」 謠曲、西行櫻「朝ニ落花ヲ踏ンデ相伴ヒテ出ヅ、夕ニハ飛鳥ニ随ッテ一時ニ歸ル」

ひでひらわん (名) [秀衡椀] 奧州ノ藤原秀衡ノ初メテ造ラセタリト云フ椀。今モ往往存ス。大椀三ツ組ニテ、内ハ朱漆、外ハ黑漆ニ、朱箔ニテ武田菱ノ如キ文ヲ押ス、陸奧藤繪ト云フ、後ノ南部椀ハ其遺ナリ 櫻塢漫録「南部椀、マタ秀衡椀トモ云フ、其始メ詳ナラズト雖モ、土人ノ口碑ニヨレバ、藤原秀衡ノ創意ヨリ出デシモノナリトゾ」

ひてん (名) [披展] ヒラキノブルコト。披キ見ルコト 魏徵、檄文「早掲、芳猷、末、諸ニ披展、長招ニ網佇、顒、展懷、勞」

ひてん (名) [批點] (一)詩歌、文章ナドヲ添削シテ、評點ヲツクルコト 又、文

章中ノ文字ノ右側ニ打ツ點、眼目ノ文字、要アル語、趣味アル語ナドニツク。小サキ輪ノ如クナルヲ圏點ト云フ、意味、一層深キヲ示ス、マルボシ 黑圏 四庫全書總目「批點孟子二卷」 (二)非難スベキ點 缺點

ひでん (名) [祕傳] 藝術ナドニ、祕メテ容易ニ人ニ傳ヘヌモノ 祕密ノ傳授。續史愚抄、七十六、寶曆十二年二月四日 戊辰、主上(御年二十二)有二入木(筆道祕傳)御傳受一入道一品尊胤親王奉レ授レ之」 曾我扇八景 寶永、近松作)上「弓馬ノ家家、祕傳トス」

ひでん (名) 飛電 (一)キラメク電光。潘岳、秋興賦「飛電之晨曜、似ニ移景之雲流ニ」 李白、望ニ廬山瀑布一詩「歘如ニ飛電ニ來、隱若ニ白虹ニ起」 (二)急用ノ電報。至急ノ電信。

ひでん (名) [悲田] 悲シミ愍ムベキ貧窮ノ人ニ、惠ミ施シテ、福果ヲ得ルコト。ふくでん(福田)ノ條ヲ見ヨ。 沙石集、四、下、第二條「貧病、孤獨ノ悲田ニモ施サズ、却ッテ殺盜、邪淫、云云、アラユル失、是ヨリ起ラズト云フ事ナシ」

びでん (名) [美田] 肥沃ナル良キ田地。良田。 齊民要術、美田欲レ稠、薄田欲レ稀」 後漢書、馬防傳「防兄弟貴盛、奴婢各千人已上、資産巨億、皆買ニ京師膏腴美田こ 楊侃、皇畿賦「衰平割、宋之美田、鄭邑裂、晉之沃土」

ひでんじ (名) [悲田寺] (一)悲田院ニ同ジ。 雍州府志(貞享、黑川道祐)八、古蹟門「悲田寺、古在ニ京師、今在ニ東三條、古施藥院、爲レ救ニ大人之病、惱、而設レ之、悲田院爲ニ小兒之藥局、施藥院、悲田院始不レ詳レ在ニ何處、凡小兒有レ病、於ニ悲田院、而療ニ貧之、其後至ニ乞兒有レ病者寓レ焉、藥局之事無、幾而絶、爲ニ大人、小兒、乞丐之寓居こ」 (二)乞食ノ稱。物類稱呼、一、人倫「乞人、云云、悲田寺ハ小兒及乞食ノ病ヲ治ス、後、終ニ乞食ノ寓トナリシヨシ見エタ

リ、云云、或說ニ、癩病人ヲかったいト云フハ、悲田院ト書テ、悲田院ヨリ起リタル名ナリト云フ」

ひでんは (名) [悲田派] 日蓮宗ノ一派ナル不受不施派ノ一稱ナリシガ、元祿四年四月、幕府コレヲ停禁シ、同十一年十一月ニ、僧徒ヲ配流シテ、其宗ヲ悉ク天台宗トナセリ。 常憲院殿御實記、二十三「元祿四年四月二十八日、日蓮宗悲田派、云云、今猶、不受不施ノ邪義ヲ建テ、悲田宗ト唱ヘ、コレヲヒロムルヨシ、イトヒガ事ナリ、今ヨリ後、悲田派不受不施ヲ革メ、受不施ナリトモ、又ハ他宗ニ歸スルトモ、ソハ心ノママナルベシ、今ヨリ後、悲田派カタク停禁セラルレバ、嚴ニ改ムベシ、云云」

ひでんゐん (名) [悲田院] (佛經ニ、貧者ヲ憐ムヲ悲田ト云フ 福田ノ條ヲ見ヨ」 古ヘ、官ヨリ、京中路邊ノ病者、棄兒、貧シキ老人ナドヲ、養フニ設ケラレタル所。施藥院ニ屬ス。後、專ラ乞兒、居兒ノ居ル所ノ稱トナル。悲田寺ナド云フ、コレナリ。(京ノ東三條ノ悲田寺、攝津國天王寺ノ悲田院) 左京職式 凡京中路邊病者孤子、仰ニ九箇條令、其所ニ見所、遇、隨、便必令レ取ニ送施藥院及東西悲田院こ 扶桑略記、廿四、續日本紀書「延長八年二月十四日、仰ニ撿非違使井左右京、令安ニ置施藥院、悲田院、幽獄井石ニ便宜ニ所、令レ窮人こ」

ひでり (名) [旱] (日照ノ義) (一)永ク晴レ續キテ、雨降ラズ、水涸レテ、草木ノ枯ルルニ至ルコト。乾クコト。カンパツ 倭名抄、二、神靈類「旱魃、比天利乃加美、旱神也」 古事記、下、第四段、訓釋「赫然、於無日天利シ天」 神代紀、上「此皆良田、雖ニ經ニ霖旱、無レ所ニ損傷こ」 方丈記「二年ガ間、世ノ中飢渇シテ、アサマシキ事侍リキ、或ハ春夏ひでり、或ハ秋冬、大風大水ナド、ヨカラヌ事ドモウチ續キテ」 義經記、五、静被レ棄ニ吉野山ニ事「ヒトトセ都ニ百日ノ日でりアリシニ、云云」 (二)錢ノナキコト。

ひでりあめ (名) 日照雨 日ノ照リナガラ降ル雨。 夫木抄、十九、雨「トニカクニ、御カサト申セ、夏フカキ、スエノ原野ニ、日でり雨フル」

ひでりがさ (名) [日照笠] (一)ひがさ(日傘)ノ一名。 舞の草子(室町時代)相撲川「大、將殿(頼朝)云云、御馬副ニハ五郎丸、云云、日でりがさノ御役ハ大膳大夫ノ嫡子」 (二)あやゐがさ(綾藺笠) 同シ 四季草、秋草、仕物具之上「日でりがさハ、アヤヰガサ(繭草ニテ、アミタル笠ナリ、笠ノ上ニ角ノ如クニ筒ヲアミ作ルナリ、此筒ノ中へ本ドリヲ入ベキ爲ナリ)ヲ用タリ」 吾妻鏡、廿七、安貞二年七月廿三日、將軍家、云云、令レ御日照笠こ」

ひでりぐも (名) 日照雲 日沒ノ頃、夕照ノ如ク、空ニ美シク紅ヲ染メタル状ノ巴ノ字ナリニ見ユル雲。天候ノ定マル象徴ナリト云フ。

ひでりどし (名) [旱歲] ヒデリノスル歲。 蕪村句集、秋「いな妻、代ホノ小菊、旱ヒクリ」

ひでりまつり (名) [旱祭] アマゴヒ。其條ヲ見ヨ。

ひ・でる ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [旱] (日照ル義) 日ノ光、照リカガヤク 古事記、下(雄略)三十「マキムクノ、ヒシロノ宮ハ、朝日ノ、比傳流宮、夕日ノ、日カケル宮」 神代紀、上「此皆礦地、雨則流之、旱則焦之」

ひと (名) [人] (靈ノ止マル所ノ意カト云フ) (一)動物中ニテ、其最上等ニ位シテ、言語ト思想トヲ有スルモノ。人類、人間、ヒトコ。 字類抄「人、ヒト、仁」 古事記、中(景行)五十「ヒトツ松、比登ニアリセバ、大刀佩ケマシヲ、衣着セマシヲ」 萬葉集、五 比等ワクラバニ、比等トハアルヲ」 同、十五 廿「モミヂ葉ノ、散リナム山ニ、宿リヌル、君ヲ待ツラム、比等ノカナシモ」 (二)[世ノ中ノ人。 世人 古事記、下(允恭)廿「笹葉ニ、ウッヤアラレノ、タシダシニ、

[illegible]ハ、[illegible]ハカユ[illegible]
[illegible]
其三、[illegible]「人ニ超ユ」「人ノ爲トナル」
[illegible]天ガ下ノ人。即チ、臣下。 (四) 古今集、序「コレハ、君モひとモ身ヲ合ハセタリトイフナルベシ」 後記、十[illegible]人ヲ[illegible]名シテ、此方ハ、人ヲ遊レサッシャレヌカ」 (四)「[illegible]ヒト。 他人。[illegible]、[illegible]ツツゾ[illegible]ノハヒダ」[illegible]ひとノ國トニ作ル[illegible]山ノ有様ナドヲ、御覧ゼサセテ侍ラバ」 同、十二、須磨「[illegible]ナホサルベキニテ、ひとノミカドニモ、カカルタグヒ多ク侍リケリ」 枕草子、十二、百四十八段「寄居蟲ノヤウニ、人ノ家ニ尻ヲサシイレテサブラフ」[illegible]、ソレヲひとノトカク云ヒケレバ」「人ノ手ニカカル」「人ノ子」「[illegible]人」 (五)「オトナ。大人。 成人 萬葉[illegible]ケクモ、ヨケクモ見ムト、大船ノ、思ヒ頼ムニ」 源、四、夕顔「[illegible]人トナリテ後、限リアレバ、朝夕ニシモエ見奉ラズ」「人ニナル」 (六)俗ニ、ココロネ。ココロダテ。性行 「人ガワルイ」

ひ-と (名) 費途 金錢ノツカヒミチ。

ひ-と (名) 匪徒 暴動ヲナスヤカラ。遊[illegible]ナクシテ、地方ノ人民ヲ害スルモノ。匪賊 匪類。[illegible]

ひと (代) 人 妻ヨリ夫ヲ呼ブ語。義經記、[illegible]云、人ノオハシマサヌアトニトメ參ラセテハ、云云」

ひと (數) 一 〔直ノ轉、單一ノ義〕 (一)〔數〕[illegible]ヒトツノ。[illegible]「コルシイロノ、ワリナウハジラミタルひとカサネ」[illegible]ホノソギ給ヘバ、ひと[illegible]ノ[illegible]度ノ[illegible]

ノ。 更級日記「ひと年ゴロ、モノニマカリタリシニ、[illegible]」「一日」「一日」 (五)「滿チタル。一杯ノ。其内コトゴトクナル。ヒトモノ。 神代[illegible]「夜一夜風吹キアルルニ」 大和物語、下「一寺、求メサスレド、サラニ逃ゲテ失セニケリ」 宇治拾遺、十、第一條「ひと家泣キノノシル」 (六)次第ニ云フ語。ヒトツ。「ひと、フタ、ミ、ヨツ、イツ」

ひ-ど (名) 肥土 肥エタル土壤。沙土、及、粘土ヨリ成リタル土。耕作ニ適ス。

ひと-あきびと (名) 人商人 人ノ子ヲ、カドハカシテ、賣買スルモノ。ヒトカヒ。カドハカシ。ヒトカドヒ。勾引人 [illegible]

ひと-あし (名) 人足 (一)人ノ足音。(二)人人ノ往來。行ク人。人行 狂言記、[illegible]「人足ガ繁ウナッタ」 心中天網島(享保、近松作)上「[illegible]、人足薄クナリニケリ」

ひと-あし (名) 一足 ヒトアユミ。一歩。「ひとあし御先キヘ」

ひと-あて (名) 一當 一度當ルコト。一度相手ニシカケテミルコト。 保元物語、[illegible]

ひと-あと (名) 人跡 ヒトノアシアト。ジンセキ。

ひと-あなづられ (名) 人侮 人ヨリアナドラルルコト。 源、十九、薄雲「近キホドニ交ラヒテハ、[illegible]」

ひと-あなどり (名) 人侮 人ヲ[illegible]スルコト。人ヲ侮辱スルコト。

ひと-い (名) 一寢 ヒトネイリ。ヒトネムリ。一睡 [illegible]「[illegible]山杜鵑、鳴キモ行カナン」

ひと-い (形) 〔ひどしノ口語〕 ハナハダシイ。キビシイ。テヒドイ。意ヲ強メテ、[illegible]

ひと-いき (名) 一息 (一)一度ノ息ツギ。ヒトヤスミ。[illegible]「馬乘リニシッカト乘リ、一息ホットツイタルハ」 (二)一度、吸ヒ込ム息ノアヒダ。一氣 [illegible]ユミナク、引キツヅクコト [illegible]「百切ハ、ノテ見タレバ、勝程ニ勝程ニ、一いきニ七百、コリャ門出ガ面白イ」

ひと-いへ (名) 一家 家内中ノコラズ。全家 渾家 宇治拾遺、十、第一條「罵セラルル使ゾト心得テ、ひといへ泣キノノシルニ」

ひと-いろ (名) 人色 人ノ肉ノ如キ色。肉色。[illegible]

ひ-どう (名) 悲慟 〔正韻「慟、哀過也」〕 甚シク悲シミナゲクコト

び-どう (名) 微動 微小ナル動搖。

ひどう-がね (名) 〔[illegible]〕 [illegible]ね。びちゃうがね 鉸具 ノ條ヲ見ヨ [illegible]「[illegible]ひどうがねハ折ルルカ、[illegible]」

びどう-がね (名) 鼻頭金 みづかがね

(鎧頭鐵)ノ訛。 びちゃうがね(鉸具)ノ條ヲ見ヨ。

ひと-うけ [illegible]

ひと-うけ (名) 人受 他人ノ氣受。他人ノ信用。 略シテ、受。「人受ガヨイ」

ひと-うと・し・き・けれ・く・く (形、一) 人疎 人[illegible]ノ[illegible]君ハ、カク人うとき心クセナレバ」

ひとう-ばん (名) 飛頭蠻 妖怪ノ名[illegible]ろくろくび(轆轤頸)ニ同ジ。

ひと-えり (名) 人選 人物ヲ選リ拔クコト。ヒトエラミ。ニンセン。 源、廿四、胡蝶「人ヲバひとえりシテ、イラヘナドハセサセヨ」

ひと-おと (名) 人音 (一)人ノ居ルオトナヒ。人ノ居ル音。 萬葉集、二[illegible]「[illegible]」 花宴「奥ノクルルドモアキテ、人音モセズ」

ひと-おめ (名) 人怖 ハニカムコト。見知ラヌ人ヲ見テ、恐ルルコト [illegible]「[illegible]セシモオノヅカラ、共ニ冥途ノ友達ト」

ひと-おもひ (名) 一思 一度、苦シキ思ヒヲ[illegible]

ひと-が (名) 人香 人ノニホヒ。人ノカヲリ。 源、三、空蟬「小ウチギノ、イトナツカシキ人ガニシメルヲ、[illegible]」

ひと-がき (名) 人垣 儀式ノ時ナドニ、人ヲ、垣ノ如ク、立チ並バシムルコト。

又、隙ナク人ノ立チ列ナリテ、垣ノ如クナルモノ。 皇太神宮儀式帳「遷宮儀ニ、抱仕奉男女等仁、垣立串令持給」 古事記、中、垂仁天皇「倭日子命(此王之時、始而於陵立人垣)」(死ノ生埋ナリ)

〔ひとかげ (名) 人影 人ノ影ノ、物ニ映ルモノ。 神代紀、下「時有二豊玉姫侍者一持二玉鋺一、當汲二井水一、見二人影在二井中一、…不得」 和字式正「住ミナレシ、人かげモセズ、我ガ宿ニ、有明ノ月ノ、イク夜トモナク」

ひとかさ (副) 一嵩 ヒトキハ。ヒトシホ。一段。一層

〔ひとがしら (名) 髑髏 〔人頭ノ義〕人ノ頭ノ骨。ナウガイ。ヅカイ。サレカウベ。ノザラシ。ハチ。ドクロ。倭名抄、三「頭骨髑髏、比止加之良」 顕宗紀、元年二月「雖由乳母…髑髏云云」

ひとかす (連語) 〔ひとながすノ略〕人ヲ流スコト ヒトヲ退カスルコト。 名義抄「人流、ヒトカス」

〔ひとかず (名) 人数 (一)ヒトノカズ。アタマカズ。人数。人頭。 仁徳即位前紀「太子…云云、乃…八田皇女、日、雖不足…」 源、十五、蓬生「カミシモノ人かず、スクナクナリユク」 …「…死罪ニ行ハルベキ人数ニテアナル」 (二)人ト数マヘラルルコト 人ノ中ニ数ヘラルルコト 源、十三、明石「世ノ人数ニモ思ボサレザランモノユヱニ」 同、四十六、總角「人数ナラヌ女バラノ昔物語ニイフヲ」 …「…云云、人数ナラヌ牛若モ、左ヘ折ラセテ着バヤト思召シ」

ひとかすみ (名) 一霞 (一)一條ノカスミ。 夫木抄、二、霞「明石潟、沖ユク船モ、カツキエテ、ひとかすみナル、波ノ上カナ」 (二)一入、深クナルコト。 増鏡、第十九、久米のさら山「船云

云、遥カニオシ出スホド、今ひとかすみ心細ウアハレニテ、誠ニ二千里ノ外ノ心持スルモ、今サラメキタリ」

ひとかせぎ (名) 一稼 ヒトタビカセグコト。ヒトハタラキ。又、ヒトマウケ。

〔ひとがた (名) 人形 (一)諸種ノ物ニテ、人ノ形ヲ作リナセルモノ。今、人形。偶人。俑。 倭名抄、十三、祭祀具「土偶人、木偶人、俗云二人形一」 箋注倭名抄、五、祭祀具「偶人、比度加太」 源、四十八、寄生「昔オボユル人がたヲモ作リ、絵ニモカキトメテ行ヒ侍ラン」 (二)かたしろ(形代)ノ條ノ(二)ニ同ジ。 源、十二、須磨「陰陽師召シテ、ハラヘサセ給フ、舟ニコトゴトシキ人がた乗セテ、流スヲ見給フニモ、ヨソヘラレテ」 謡曲、鐵輪「茅ノ人形ヲ人尺ニ作リ、夫婦ノ名字ヲ内ニ籠メ、云云」 木工寮式「御贖料、木偶人…」 (三)支那ノ祭ニ、人ヲ神ノ形代トスルモノ。尸 (孫、祖父ニ代ル)

〔ひとがたき (名) 人敵 カタキトナル人。テキ。アタ。カタキ。 栄花物語、二、花山「コノ女御ノ居給ヘンヲ、世ノ人イカニカハイヒ思フベカラント、ひとがたきハ取ラヌコソヨケレナド、思シツツ過シ給ヘバ」

ひとかたけ (名) 一片食 一度ノ食事。

〔ひとかたならず (副) 不一方 一通リノミニテ無ク。ナミナミナラズ。サマザマニ。 源、四、夕顔「ムスメヲサルベキ人ニアヅケテ、北ノ方ヲバヰテドリスベシト聞キ給ヒテ、ひとかたならず心アハタダシクテ、云云」 續後撰集、六、秋、中「世ノウキニ、一方ならず、ウカレ行ク、心サダメヨ、秋ノ夜ノ月」

ひとがち (副) 人勝 人数ノ多過ギル状ニ云フ語。 狭衣、二、下「見タニイト思ハズニ、人がちニムツカシト思セド、殿ノアナガチニ添ヘサセ給フ人人ハ、エトドメ給ハザルベシ」 宇治拾遺、二、第十三條「昨日参ラザリシ相撲ナド数多召シ集メテ、人がちニナリテ逦ラント構フルヲ」

ひとかど (名) 一角 一廉 一才 (一)一ツノカド。一ツノフシ。ヒトキハ。 津國女夫池(享保、近松作)「…一かど大名ニ取リテハ、…契約ノ印ト、大判五十枚取ク、是レガ證據」「ひとかどユエヅケテ」「ひとかど稼出デテ」 (二)ナミスグルルコト。又、ソノモノ。一人前。「一廉ノ人物」

ひとかどひ (名) 人勾引 人ノ子女ナドヲ勾引フコト。又、ソレヲ業トスル賊。カドハカシ。略シテ、ひとかひ。ヒトアキビト 略賣人 尺素往来「山賊、海賊、勾引」 吾妻鏡、二十九、寛喜…年六月五日「人勾引事、有其沙汰、兄弟者不可…、人勾引之儀、以…可…、勾引人事(寛元二)…賣買…其業…之輩、准…可…有…其沙汰、以後守…此法…可…施行之」

ひとかひ (名) 人買 前條ノ語ノ略。 謡曲、自然居士「人買ト申シツルハ、云云、人買ト云フ恐ハナキニ」 落葉集、延寶「人かひノ、名ニヤ顧レン、ホクソ頭巾」 博多[?]…(元禄、近松作)中「彼ノ子ニ悪気ヲ付ケ、人ノ目ヲ晦マスハ、人買ヨリモノ太イ奴」

ひとがひ (名) 人詮 人ラシキ、シルシ。人トシテノ資格。 謡曲、烏帽子折「身ノナル果ノ牛若丸、人がひモナキ今ノ身ヲ語レバ、主モ心ト知ラルルゾ、事不思議ナル」

ひとがまし・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 一人前ノ人間ラシ。ナミノ人ラシ。 謡曲、胡蝶「サノミ包ムモナカナカニ、人がましくヤ思シ召サレン、サリナガラ、眞ハ吾ハ人間ニアラズ」

〔ひとがら (名) 人柄 ヒトトナリ。人ノ性質、品位。人ノ品格 人品 人體。人格。 伊勢物語、十二段「ヨノツネノ人ノゴトニモアラズ、人がらハ心ウツクシウ、アテハカナルコトヲ好ミテ」 源、十、柳「ヤンゴトナクモテナシテ、人がらモイトヨクオハスレバ」 同、五十、浮舟「人がらノマメヤカニ、ヲカシウモアリシカナト」 更級

日記「アノ人がらモ、イトスクヨカニ、ヨノ常ナラヌ人ニテ…、…、…ナレバ、昔ノ人がらヤ…」

ひ-とき (名) 日時 ひト、ときト。時刻。光陰。 續紀、十九、…年三月、…「…ネサス、ヒネモスガラニ、烏玉ノ、サ夜通スマデ、時日ヘテ、…ル時ニ、タギツ瀬ノ、云云」

〔ひとき (名) 棺槨 〔きトノミモ云フ〕 孝徳紀、二年三月、「棺槨ヲ謂シ、…ト」モ見エ、奥津城(墓)ナドモ云フ。人ノ屍ヲ納ルルきナリ。き(棺)ノ條ヲモ見ヨ」 人ノ屍ヲ納ルル棺。轉ジテ、ひつぎ、棺。 倭名抄、十四、送葬具「棺、比止岐、所以斂屍也」 大治字類、七「棺、人木」 同、…「棺、比止岐也、上(比ノ誤)度乃木」 景行紀、四十三年「開其棺櫬而視之、明衣空留而屍骨無之」

〔ひとぎき (名) 人聞 外ノ人ノ耳ニ聞エルコト。世ノ噂トナルコト。世間ヘノ聞エ。外聞。 竹取物語「人ぎきハヅカシク、オボエ給フナリケリ」 源、十、榊「ツラキモノニ思ヒ果テ給ヒナンモイトホシク、ひとぎきナサケナクヤト思シ返シテ」 同、四十九、東屋「ツクバ山ヲ、ワケミマホシキ御心ハアリナガラ、ハ山ノシゲリマデ、アナガチニ思ヒイランモ、人ぎきカロガロシウ、カタハライタカルベキ程ナレバ」「人聞ワロシ」

〔ひときは (副) 一際 一段。ヒトシホ。トリワケ。殊ニ。一層 源、十三、明石「我ヨリヨハヒマサリ、モシハ位タカク、トキ世ノヨセ、今ひときはマサル人ニハ、ナビキシタカヒテ」 栄花物語、四、見果ぬ夢「何事ニモ今ひときは今メカシウ、サマザマニシ奉ルコト更ナリ」 讃岐典侍日記「ミナミナ人人、縁扇ニカケテ立ツニ、殿ハ人ニハ今ひときはマサリ参ラセテ、云云」「一際目立チテ」

ひときり (名) 一切 (一)ヒトツノキリ。一段。一段落。(二)ヒトコロ。一時。「ひときりハヤル」

ひとぎり (名) 人切ノ[illegible]。罪人ノ[illegible]首ヲ斬ルヲ職トスル者。クビキリ。[illegible]

ひときり (副) 一切 ひときり(一頻)

同。一時。

ひときりばうちやう (名) 人切庖丁 人斬 庖丁。刀ノ異名。

ひときれ (名) 人切 (一)人ノ往來ノ絶ユルコト。(二)人ノハシクレ。ヒトゲ。好色[illegible]代女[illegible]「[illegible]ハ[illegible]セヌク、[illegible]ハ不斷留守、西鶴ハ七十餘ノ姥、シカモ耳遠シ、向ヒハ五加木ノ生垣ニテ、人切れナシ」

ひとく (名) 非德 〔非ハ薄ナリ〕 德ノウスキコト。薄キ德。又、自分ノ德行ノ謙稱。[illegible]

ひどく (名) 披讀 披見シテ讀ムコト。ヒラキテ讀ムコト。北史、胡叟傳「叟少聰慧、[illegible]

びとく (名) 美德 ホムベキオコナヒ。スグレタル德行。[illegible]

ひとくくり (名) 一括 統べテ、一ツニ括ルコト。イックヮツ。

ひとくさ (名) 人民蒼生 〔人草ノ義〕 昔ヨリ民ヲ呼ブ語。タミグサ。あをひとくさ(青人草)ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、[illegible]職類「人民、比止久佐」神代紀、上[illegible]「常以[illegible]哭泣[illegible]行、[illegible]國内人民[illegible]以夭折」

ひとくさ (名) 一種 ヒトイロ。一ノ種類。源、[illegible]「々々有[illegible]くさ合セ給ヘリ」[illegible]ノサブラヒニ、コレカレ

モノ、ひとくさ取リニヤレトアルニ」

ひとくさもの (名) 一種物 [illegible] 一種物[illegible]くさものシテ參レトイヘルニ、菓子十種ヲ山吹ニマゼテソヘタリ」[illegible]サブラヒニ、[illegible]物ワタスニ、紅梅ノ枝ニ烏ツケテイダストテ」

ひとくさり (名) 一闋 〔くさり(接尾語)ノ條ヲ見ヨ〕 ヒトキリ。一段落。

ひとくさり (名) モノノ對ニナリタルコト。名義抄「一對、ヒトクサリ、ヒトカサネ」

ひとくせ (名) 一癖 (一)一ツノ癖。(二)イヅレカニ、人ト異ナリタル特有ノ事ノ認メラルルコト。

ひとくち (名) 一口 (一)一遍ニ食フコト。伊勢物語、六段「鬼ハヤひとくちニ食ヒテケリ、アナヤトイヒケレド、神ノ鳴ル騷ギニ、エ聞カザリケリ」[illegible]ル、[illegible]ノ御料ニ、[illegible]ケテ、只一口ニ、九[illegible]」(二)一概ニ言フコト。狂言記、竹子爭「サリナガラ、オヌシモ思ウテ見ヤレ、牛ノ子ト竹ノ子トハ、一口ニハ言ハレマイ」「一口ニ評ス」(三)一言。一言半句。「一口モ云ヘヌ」

ひとくちあきなひ (名) 一口商 一言ニテ、賣買ノ確定スルアキナヒ。轉ジテ、一言ノ下ニ諾否ヲ決スルコト。國性爺合戰(正德、近松作)三「日本ヲ出ル時ヨリ覺悟ノ前、逢ニ見ヌ舅ヨ壻ヨト親ミダテシテ、不覺ヲ取ランヨリ、穎マレウカ穎マレヌカ一口商ひ、否トイハバ卽座ノ敵」假名手本忠臣藏(寛延、出雲等合作)五「ムム、此街道ハ無用心ト知テ合點ノ一人旅、見レバ飛道具ノ一口商ひ、得コソハ貸サン出ナホセト」

ひとくちばなし (名) 一口咄 ミジカキ談話。チョットシタル話。好色一代男(天和、西鶴)三「道スガラノ一口咄ニモ人ノ耳ヲコスリテ、夕ハ夜更ケテ[illegible]サレタモ知ラズ」

ひとくどり (名) 人來鳥 〔古今集、十九、誹諧歌ノ「鶯ノ、人來人來ト、イトヒシモ居ル」ヨリ出ヅ〕 うぐひす(鶯)ノ異名。[illegible]

ひとくに (名) 人國 たこく(他國)ニ同ジ。萬葉集、五[illegible]「朝露ノ、消ヤスキ我身、比等國(異國)ニ、[illegible]カモ、[illegible]ノ目ヲ欲リ」[illegible]國ニ、結婚ニ行キテ、太刀ノ緒モ、マダ解ケザレバ、サヨゾ明ケニケル」同、十五[illegible]「比[illegible]、佐ミ戀シトゾ云フ、スムヤケク、ハヤ歸リマセ、戀ヒ死ナヌトニ」同、同「比等久爾ニ、君ヲイマセテ、イツマデカ、アガ戀ヒヲラム、時ノ知ラナク」續紀、十七、天[illegible]年四月、宣命、黃金ハ人[illegible]ツ[illegible]ハアレドモ、此國ニハ無キモノト思ヘルニ」

ひとくひとく (副) 人來人來 鶯ノ鳴聲ニ云フ語。古今集、十九、誹[illegible]梅ノ花[illegible]ソ來ツレ、[illegible]ノ、ひと[illegible]、ひとくひとく[illegible]居ル」[illegible]諧集「サビシサヲ、トフハウレシキ、柴ノイホニ、ひとくひとくト、イトフナルカナ」

ひとぐま (名) 人隈 人ノ居ラヌ所。紫式部日記「タレモトリハヅシテハ、カクレナケレド、人ぐまヲモヨウイスルニ、カクレテゾ侍ル」

ひとぐるし ・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 人苦 ヒトギキワロシ。外聞惡シ。さりかへばや物語、三「サリトモ、オノヅカラ、人ぐるしう聞キニクク物言ヒノアリシハヤト、思召サレヌヤウモ侍リナンカトテ」

ひとけ (名) 人氣 (一)人ノ居ル氣色。人ノ居ル樣子。源、二、帚木[illegible]「人げトホキココチシテ、モノオソロシトイフナレバ」同、十五、蓬生[illegible]「人ノ音スル方ヤト見ルニ、イササカ人げモセズ」宇治拾遺、十五、第二條「人ヤミユルト見ケレドモ、人げモナシ」(二)人ラシクアルコト。人ガマシキコト。源、二、帚木[illegible]「サリトテ、ウチトケ、ひとげナキ有樣ヲ見エ奉リテモ、アヂキナク夢ノヤウニテ過ギニシ歎キヲ、又ヤ加ヘント」枕草子、三、廿五段「人ヲモ人げナク、世ノオボエ、アナヅラハシク」同、四、四十三段「オドロオドロシウ聞ヘバ、ナドテカ、サ人げナキモノハアラン」

ひどけい (名) 日時計 日景ヲ以テ時ヲ計ル器。[illegible]

ひとげしき (名) 人氣色 人ノ來ル容子。[illegible]源、五十、浮舟[illegible]「更ニ今宵ハ、人げしき見侍リナバ、[illegible]ン」

ひとご (名) 人子 [illegible]人[illegible]同ジ。ヒトッコ。「ひとご一人通ラヌ」

ひとこいと (名) 一子絲 〔ふたこいと(二子絲)ニ對ス〕 かたいと(片絲)ニ同ジ。[illegible]ノ條ヲモ參見セヨ。

ひとごこち (名) 人心地 次條ノ(三)ニ同ジ。古事談、二、臣節「九條民部卿顯賴云云、早[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ物ヲ引キソバメテ、皆喫テ、只今ゾ人心地スルトテ」[illegible]人心地出來給ヒテ、生キテ物ヲ思フモ悲シケレバ、

ひとごころ (名) 人心 (一)人ノ心。人間ノ精神。後撰集、十八、雜、四「人心、タトヘテ見レバ、白露ノ、消ユルマモ[illegible]シカリケリ」續詞花[illegible]長能集「人心、ウシトハ思ヒ、知リナガラ、サスガニ物ノ、[illegible]サヨ」[illegible]狐矢ハ、タダソノママニ、マタ消ゾセヌ」(二)ナサケ。情愛。人情。[illegible]り、病裏裝アルモノハ、人心ナリケルゾヤ」(三)ヨミガヘルコト。イキカヘルコト。ヒトゴコチ。「人心ガツク」

ひとこと (名) 人言 ヒトノクチ。他人ノ言フコト。世ノ人ノウハサ。世評。萬葉集、十[illegible]、[illegible]ネモコロニ、[illegible]人[illegible]、

繁キニ因リテ、アハヌコロカモ」同、同七「タダケフモ、君ニアハメド、人言ヲ、シゲミアハズテ、戀ヒワタルカモ」後撰集、九、戀、一「人言ハ、マコトナリケリ、シタ紐ノ、トケヌニシルキ、心ハオモヘバ」

ひとごと (名) [人事] 他人ノ事。餘處ノコト。[illegible]「[illegible]タベテ習狂ヲ致シ」心中重井筒(元祿、近松作)中「ハアア、人ごと言ハバ疑ヲ敷ケ、徳兵衞様サウナト、胸ヨリ胸モサハサハト、涙ニ下リタキ心ナリ」

〜**ひとごと** (名) [人[illegible]] タレモカレモ。毎人。各人。萬葉集、[illegible]「[illegible]一折リカサシツツ遊ベドモ、イヤ[illegible]シキ、[illegible]ノ花カモ」

〜**ひとこのかみ** (名) [魁帥首長] 〔人兄ノ義〕一羣ノ人ノ長。神武即位前紀「是兩人、[illegible]之魁帥(ヒトコノカミ)也」注「魁帥、此云比登誤廼伽[illegible]」景行紀、十二年九月「爰有女人、曰神夏磯媛、其徒衆甚多、一國之魁帥(ヒトコノカミ)也」[illegible]「[illegible]魁帥[illegible]」同「[illegible]」景行紀、四十年十月「蝦夷[illegible]首帥[illegible]」[illegible]神代紀、下「[illegible]魁帥之首[illegible]」成務紀、四年二月「[illegible]首渠」孝德紀、大化元年八月「若[illegible]之人、云云」[illegible]元年六月「有二猪名二十餘人、大伴杵本連大關[illegible]」

ひとこまらせ (名) 人ヲコマラスルコト。他ニ迷惑ヲカクルコト。

ひとごみ (名) [人込] 人ノ込合フコト。又、人ノ羣ガル處。叢集。雜沓。好色二代男、貞享、西鶴、四「湯ニ入リニマカリテ、往昔マシリノ人ごみ、サト[illegible]」京羽二重(元祿)「人ごみゾ、アタラ櫻ノ、伊勢踊」

ひところ (名) [一頃] イチジ。アル時分。アル時代。

ひところし (名) [人殺] (一)非理ニ人ヲ殺スコト。又、其人。下手人。[illegible] 狂言記、胸突「人ノ命ガ、二百目ヤ三百目ヤデ買ハルル若カ、ヤイ人ごろし、人ごろし」(二)美女ノ一稱。(人ヲ惱殺スル故ニ云フ) 好色一代男(天和、西鶴)三「愛デノ人殺し、小金ト云フ約束シテ」

ひところ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) [僭] 〔ひとハ、等しノ語根ナリ、ころふハ、類ふノ義、ころふ(比)ノ條ヲ見ヨ〕(一)臣トシテ君ニ擬フ。僭ス。(其位ト等シクス) 名義抄「僭、タクヒ、トモガラ、ヒトコロヘリ、ヒトコロフ」匹、ヒトコロヘリ、トモ、ナラブ、タクラブ、トモガラ」配、タグヒ」字類抄「偶、ヒトコロイ、兩人臥時之名也」僞、ヒトコロフ、兩人共臥也」和玉篇「僭、ヒトコロヒ」成務紀、四年二月「德侔二覆[illegible]」[illegible]「[illegible]於天下[illegible]」[illegible]立二」春秋左氏傳[illegible]「[illegible]國(都如レ國也) 匹レ嫡(庶如レ嫡也)」(二)庶人ノ分限ヲ越エテ、高位ノ人ノ眞似ス。

ひとさかり (名) [一盛] 暫シ盛ルコト。一時、盛ンナルコト。ヒトシキリ。古今集、二、春、下「イザ櫻、ワレモ散リナン、ひとさかり、アリナバ人ニ、ウキメ見エナン」風雅集、十六、雜、中「時アリテ、花モ紅葉モ、ひとさかり、哀レニ月ノ、イツモカハラヌ」

ひとさし (副) [一差一指] 〔さし(差、接尾語)ノ條ヲ見ヨ〕いちど(一度)ニ同ジ。イッペン。一回。一番。相撲、舞ナドニ。古事談、六、亭宅諸道「伊成弘光相撲[illegible]一番仕テ見候ハン」謠曲、自然居士「自然居士ノ舞ノ事ヲ承リ及ビテ候、一指舞ウテ御見セアレト申サレ候」同、安宅「トテモノ事ニ、先達ひとさし御舞ヒ候ヘ」

〜**ひとさしゆび** (名) [食指] 〔人差指ノ義〕手ノ大指ト中指トノ間ニアル指。ヒトサシノユビ。ヒトサシノオヨビ。ショクシ。倭名抄[illegible]「[illegible]食指[illegible]第二指也」増補下學集、上、支體門「食指、ヒトサシノオヨビ、ヒトサシユビ、第二指也」[illegible]「[illegible]お手ニ把[illegible]人差指[illegible]中指[illegible]」

ひとざと (名) [人里] 田舍ニ人家ノアルトコロ。人ノ住居スル里。太平記、五、大[illegible]「[illegible]其ノ道ノ程[illegible]ハ、絕エテ人里モ無カリケレバ」

ひとさま (名) [人様] 他人ノ敬稱。好色一代男(貞享、西鶴)三「ソレコソ思ヒ當リタル人様ナリ」「人様ニ對シテ失禮ナ」

〜**ひとざま** (名) [人狀] ヒトガラ。人品。ニンテイ。竹取物語「コノタビハ、イカデカイナビ申サン、人ざまモヨキ人ニオハス、ナド云ヒ居タリ」源、十三、明石「イトホシウ、スズロナリトオボセド、人ざまノアクマデ思アガリタルサマノアテナルニ、オボシユルシテミ給フ」狹衣、三「[illegible]マヤカニ[illegible]ウラフヘキひとざまニモアラネバ」

ひとさわがせ (名) [人騷] 理由モナク、他人ヲサワガスコト。

ひとし・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [齊均等] 〔[illegible]ヲ活用ス〕(一)揃ヒタリ。不同ナシ。孝德紀、大化二年三月「混[illegible]齊治(ヒトシクヲサメ)」源、六、末摘花「[illegible]手ハサスカニ文字ツヨウ、ナカサダノスヂニテ、上下ひとしく書イ給ヘリ」宇治拾遺、十二、第廿四條「丈ハ軒ト等しくテ、馬ノ頭ナル鬼ナリケリ」(二)恰モ同ジ。相似タリ。同一ナリ。伊勢物語、百廿四段「思フコト、イハデゾタダニ、ヤミヌベキ、ワレトひとしき、人シナケレバ」神代紀、下「此神形貌、自與二天稚彦一恰然相似」(三)同時ナリ。讃岐典侍日記「[illegible]ルトひとしく參リ給ヒテ、云云」

ひどし・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 〔非道ヲ活用セシカ、或ハ云フ、火疾シニテ、火急ノ意ト〕(一)苛シ。ムゴシ。酷「ひどく扱フ」「手ひどし」「イラひどし」(二)甚シ。過度ナリ。甚「ひどく早イ」

ひとしきり (副) [一頻] 一時頻リテ。ヒトサカリ。ヒトキリ。[一陣] 萬代集、十五、雜、二「深キ夜ニ、マツ一しきり、[illegible]、ウツツトリハ、マタネシテケリ」風雅集、二、春、下「一しきり、吹キミダシツル、風ハヤミテ、誘ハヌ花モ、[illegible]ニゾチル」同、六、秋、下「一しきり、嵐ハ過ギテ、桐ノ葉ノ、シヅカニ落ツル、夕グレノ庭」

ひとしぐれ (名) [一時雨] ヒトシキリ降ル時雨。風雅集、十五、雜、上「秋寒キ、[illegible]ノ、ひと時雨、クモルモツラキ、情ナリケリ」新續古今集、十七、雜、上「ひと時雨、スギニケラシナ、ミ吉野ノ、吉野ノ瀧ツ、岩タタクナリ」

ひとじち (名) [人質] (一)契約ヲ破ラザラム證トシテ、妻子ナドヲ質トシテ、他ヘ遣リ置クコト。質子。松平記、一「今川殿ヨリ[illegible]松平ヘ、御人質ヲ可レ給トノ儀[illegible]ヨリテ、[illegible]竹千代殿(家康)、七歲ニテ[illegible]駿河ヘ[illegible]人ニ御越[illegible]」甲陽軍鑑、[illegible]「人質ヲ召シ置カレ」小松軍記、和睦之事「橋ノ上ニテ對面シ、人質ヲ取リハシ、[illegible]ノ契ヲ結バレケルトソ聞エシ」[illegible]記(享保、近松作)三「誰ヲコラス爲ノ人質トモ、捕ヘ置キタル其益ナシ」(二)人ヲ質入レスルコト。新編追加、政所「人質事、人倫賣買之御制以前、致二訴訟一於レ給二問狀一者、任二[illegible]、可レ[illegible]質人一也」

〜**ひとしなみ** (副) [等並] 同ジ列ノモノニ。同列ニ。源、廿二、玉鬘「サリトモ、スヤツバラヲ、ひとしなみニハ、シハベリナンヤ」和泉式部集「君ヲコソ、[illegible]ノ[illegible]ハ、思ヒシカ、ひとしなみニハ、誰レカ越ユベキ」

ひとじに (名) [人死] 非常事ニテ、人ノ死スルコト。榮花物語、八、初花「世ノ中トモスレバ、イト騷シウ、人じにナドス」本朝若風俗(貞享、西鶴)八「人死ニ絕エマジ」

ひとしほ (名) [一鹽] アマジホ。魚、菜ナドニ、淡ク鹽ヲ引クコト。又、ソノ引

[illegible]
白妙ヤ、雪ノ前」

ひとしほ (名) 一入 〔しほ(入)ノ條ヲ見ヨ〕[illegible]タスコト。名義抄「一入、ヒトシホ」詞花集、一、春「シラニハ、サモタタバタテ、紅ノ、今ひとしほヲ、君シソムレバ」風雅集、七、秋、下「日影サヘ、今一しほノ、ソメ[illegible]」[illegible]帖、五「シノブテフ、タダ一しほノ、スリ衣、アサキモノユエ、何亂レケン」

ひとしほ (副) 一入 〔しほ(入)ノ條ヲモ見ヨ〕ヒトキハ。一段。一層 古今集、一、春、上「トキハナル、松ノ緑モ、春來レバ、今ひとしほノ、色マサリケリ」「一入好シ」

ひとし・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 齊 ヒトシクスル。ヒトシカラシム。撰集抄、八、第九條「何シニカ後忠ノ欲ニひとしむべ[illegible]

ひとすぢなは (名) 一筋繩 (一)ヒトスヂノ繩。(二)尋常ノ手段。

ひとすぢに (副) 一條一筋 ヒタスラ。ヒタモノ。一向ニ。ヒタブルニ。タダモノ。ヒトムキニ。一途ニ。榮花物語、三十四、暁まつ星「春傳ノ、イト亂レタル、コノ頃ハ、[illegible]」[illegible]マタ、マスダノ池ノ、ウキヌナハ、ひとすぢにヤハ、[illegible]「一筋ニ敵ノ打入ランズルヲ相待チテ」

ひとすぢみち (名) 一筋路 (一)[illegible]外ハ曲[illegible]直線。

ひとずれ (名) 人擦 人ニ、モマルルコト。パズレスルコト。

ひとせまち (名) 一畝町 一畝程ノ田。[illegible]田ノ、ひとせまち、アラシメ延ヘテ、拜蒔キニケリ」

ひとぞう (名) 一族 同族。[illegible]チゾク。源、十、繪四十「今ハイトド一ぞうノミ、カヘスガヘスサカエ給フ事限ナシ」增鏡、第十七、春のわかれ[illegible]ノ中納言[illegible]藤、ナヤミテウセヌ、云云、セメテ勅撰ノ事、撰ビハツルマデナドカハトゾ、ひとぞうノ[illegible]」

ひとそで (名) 一袖 袖ニ一杯ナルコト。[illegible]廿八、[illegible]袖ニ入レテ、持來タルナリケリ」

ひとそばえ (名) 人戯 人ニソバユルコト。人ニ狎レ、フザケルコト。人ニ懷キ、タハムルルコト。丹波與作(寶永、近松作)下「ワタシ計ニ[illegible]サラセタ、[illegible]カ、[illegible]イヘバ人そばえ、先立テ持アケウト」

ひとたがひ (名) 人違 次條ノ語ニ同ジ。[illegible]記、廿九、小督局事「小女房、[illegible]バカリ指出シ、[illegible]所[illegible]、アヤシキ[illegible]也、サヤウニ内裡ヨリ御使給ベキ所ニ侍ラズト云ケレバ」

ひとたがへ (名) 人違 人ヲマチガフルコト。ヒトタガヒ。ヒトチガヒ。ヒトチガヘ。源、三、空蟬「ヤウヤウ見アラハシ給ヒテ、アサマシク心ヤマシケレド、ひとたがへト、タドリ[illegible]ヒテ[illegible]ひとたがへシテ[illegible]」宇治拾遺、二、第十一條「若シ人たがへシタランハ、イトホシク不便ナル[illegible]」

ひとだかり (名) 人集 〔たかる(集)ノ條ヲモ見ヨ〕人ノ多ク集リツキテ見ルコト。浮世床(文化)二、[illegible]下「シバラクア[illegible]ケニトラレテ居タガ、往來ノ人だかりハスル、ミット

モネエカラ引揚ゲヨウトスルガ」 [illegible]句選「何迷フ、彼岸ノ入日、人だかり」

ひとだけ (名) 人長 人ノ身長ニ等シキ[illegible]

ひとだち (名) 人立 人ノ多ク集リ立ツコト。人ダカリノスルコト。狂言記、磁石「コチラニ騒シウ人立ガアル、アレハ何ヂヤ、坂本ノ市ヂヤ」心中天網島(享保、近松作)上「人立マギレ[illegible]」

ひとだ・つ・ツ・テ・タ・チ・[illegible] 人立 人ラシクナル。大人ラシクナル。成人ス。成人 源、廿二、玉鬘「人人モ、オノヅカラ、[illegible]オートノ君モタゾネ聞コエ[illegible]」

ひとだね (名) 人種 (一)「アル程ノ人ノ數」[illegible]「人種盡ク」 (二)人種。(其條ヲ見ヨ)

ひとだのみ (名) 人頼 自ラ爲サズシテ、他人ノ力ヲ頼ムコト。他人ヲ頼ミニスルコト。好色[illegible](天和、西鶴)二「[illegible]ニ性根ヲウツシ、メシアハセノ戶ニクロロヲオトシ、用心時ノ自身番ニモ、人頼みスルコトコソアレ」

ひとだのめ (名) 人頼 人ニ頼モシク思ハセテ、サモアラヌコト。人ヲタラスコト。古今集、十二、戀、二「ワビヌレバ、強ヒテ忘レント、思ヘドモ、夢ト云フモノノ、人だのめナル」拾遺集、十[illegible]「コトナラバ、闇ニゾ[illegible]ラマシ、秋ノ夜ノ、ナゾ月影ノ、人だのめナル」[illegible]内ニ、否トモ諾トモ、言ヒハテヨ、人だのめナル、コトナセラレソ」新勅撰集、六、冬「奥山ノ、松ノ葉凌ギ降[illegible]花ニゾアリケル」

ひとだま (名) 人魂 (一)夜、燐火ノ地ヨリ起リテ飛プモノ。古來、人ノ魂ト想像セラル。形、大抵、頭圓ク、尾長ク、色、青白クシテ、赤ミアリ、地ヲ去ルコト

甚ダ高カラズ、徐ニ浮ビ行ク。人魂火 萬葉集、十六、三十[illegible]「人魂ノ、[illegible]ナル君ガ、[illegible]リ、[illegible]ヘリシ雨夜ハ、サビシク思ホユ」[illegible]イミ[illegible]ヌルト語レド、作ノ人ナドノニコソハト思フ」伊勢物語、百十段「思ヒアマリ、出デニシ魂ノ、アルナラン、夜深ク[illegible]リ」[illegible]ノ地ニ須チタルヲ、人魂ト云フコトア[illegible]出[illegible]

ひとだまひ (名) 人給 (一)從者ニ給ヒテ所用セシメラルル物。宇津保物語、初秋、下[illegible]ニ貸シ給フ牛車。供ノ女房ナドノ乘ル牛車 副車 [illegible]比叡[illegible]ツケツレバ[illegible]エズ」同、十九[illegible]人、ワラハナド[illegible]

ひとだまり (名) 一溜 少シノ間、支ヘモツコト。[illegible]十[illegible]一條[illegible]ケリ、桑頼久ヲ召シテ乘セラレタリケルニ、ひとたまリモセズ[illegible]守[illegible]サセズ、拔ツレテ嘔リケル程ニ、敵一たまりモタマラズ、谷底ヘマクリ落テ、大略皆討レニケリ」

ひとたり (名) 一人 [illegible]ト云フ。たり(人)ノ條ヲモ見ヨ」ひとり(一人)ニ同ジ。ヒタリ。

ひとちがひ (名) 人違 ひとたがへ(人違)ニ同ジ。

ひとちがへ（名）〔人違〕前條ノ語ニ同ジ。

〔一〕**ひとつ**（名）〔一〕〔一箇ノ意〕（一）〔其物ノミナルコト。單一。落窪物語、二「アリトアリシ、ひとつモナシ」更級日記「コノ文ニ書カレタリシ、一つタガハズ」宇治拾遺、二、第十條「綿厚キ衣一つヲ給ハリテ」（二）ヒトツニナルコト。男女、相婚スルコト。嫁グコト（三）〔似タルコト　同ジキコト　同一。土佐日記、二月十六日「ひとつ家ノ如クナレバ」源、一、桐壺「母宮、ウチノ一つ后腹ニナンオハシケレバ」同、十九、薄雲廿「殿上人ナド、ナベテ一つ色クロミワタリテ、モノノハエナキ春ノ暮ナリ」同、三十五、柏木「ひとつ思ヒニモエヌルシルシニハセメ」狹衣、一、上廿「一つ心ナル心チシテ」古今集、四、秋、上「緑ナル、ひとつ草トゾ、春ハ見シ、秋ハ色色ノ、花ニゾアリケル」（四）同ジ所。一處。更級日記「母ナクナリシ姪ドモ、生レシヨリひとつニテ、夜ハ右左ニ臥シ起キスルモ」（五）其物ニ滿ツルコト。一杯　今昔物語、廿八、第三十九「信濃守藤原陳忠、平茸ヲ籠ひとつ入レタリ」

〔一〕**ひとつ**（數）〔一箇〕〔つ（箇）ノ條ヲ見ヨ〕數ノ始。對（ツイ）ナキ數。イチ。ヒト。源、三十五、柏木三「ひとつフタツノ節ゴトニ身ヲ思ヒオトシテ」枕草子、七、六十段、わびしげにみゆる物「雨ノイタウフル日、チヒサキ馬ニ乘リテ、前驅シタル人ノカウフリモヒシゲ、上ノキヌモ下カサネモ一つニナリタル」千載集、一、春、上「天津空、一つニ見ユル、コシノ海ノ、浪ヲワケテモ、カヘルカリガネ」

ひとつあな（名）〔一穴〕（一）同ジ穴。又、穴ニ同ジクシテ棲ムコト。又ハ、死ヲ共ニスルコト。詩經、王風、大車篇「穀則異室、死則同穴」鑓權三重帷子（享保、近松作）上「是レゾ冥途ヘ通ヒ路、契リハ偕老同穴ト、一ツ棺ニ一つ穴」（二）互ニ同類トナリテ、事ヲ企畫スルコト。大經師昔曆（正德、近松作）中「ソブリナリトモ人ニ見ラレテハ、ソリャ一つ穴ノイタヅラ狐、一所ニヨ、タハ、扨コソ玉ガ中立デ、おさん茂兵衞ヲ不義ハ惡ク一」

ひとつがき（名）〔一書〕目録ナド、箇條多キ文書ニ、一條ヅツ平出シテ、首ニ一ノ字ヲ記シ、一、云云、一、云云ト揭ゲテ、書キ分クルコト。又、ソノ文書。コレヲ一打（イチウチ）トモ云フ。貞永式目抄、約ニ一つ書ヲスルモ、此心也」甲陽軍鑑、十四、品第四十、下「善惡共ニ、一つ書きニテ、言上致セ」

ひとつがしら（名）〔一頭〕紋所ノ名。巴ノ一ツヨリ成レルモノ。コレヲ一巴（ヒトツトモエ）トモ云フ。又、二巴、三巴ヲ、ソレゾレ、二頭、三頭ナド卜云フ。

ひとつかまど（名）〔一竈〕（一）一箇ノ竈。（二）同ジ竈　（三）同ジ竈ニテ煮炊（ニタキ）スルコト。轉ジテ、親友ノ意ニ云フ。博多ニテ、親友ヲへくひ同士ト云フハ、竈食ナルベシ（竈、古語、へ）

〔一〕**ひとつき**（名）〔一木〕〔き（四、第二語）ノ條ヲモ參照セヨ〕人ヒトリ。一人前。古事記、上卅八「男子之一木（ヒトツキ）」日本紀私記「舊古以ニ貴人ヲ喩於木、故謂神及貴人爲ニ一柱、一ホニ」

ひとづき（名）〔人付〕人ト人ト、親シミツクコト。又、他人ニ與フル感ジ。

ひとづきあひ（名）〔人附合〕他人トノ交際　人トノ交リ。織留（元祿、西鶴）五「分ニ過ギタル人づきあひセズ」

ひとつきおき（名）〔一月置〕隔月。かげつ（隔月）、又、いちにちおき（一日置）ノ條ヲ見ヨ。

ひとつきがはり（名）〔一月代〕一月毎ニ替リ合フコト。ツキガハリ。

ひとつぎり（名）〔一限一切〕一時カギリ。ヒトシキリ。ヒトサカリ。一時

〔一〕**ひとつけ**（名）〔一兒〕ひとつきニ同ジ。神代紀、上廿「唯以ニ一兒（ヒトツケ）替ニ我愛之妹者」私記云、謂男子之一木、古語謂木爲ニ一

〔一〕**ひとつご**（名）〔一子〕ヒトリゴ。萬葉集、九、長歌「秋ハギヲ、ツマドフ鹿コソ、一子（ヒトリコ）ニ、子モタリトイヘ、鹿兒ジモノ、吾獨子ノ、草マクラ、タビニシユケバ」伊勢物語、八十四段「ひとつ子ニサヘアリケレバ」宇津保物語、忠社、三「ソノ北ノ方、ナラビナキ世ノ寶ノ王ナリ、云云、イササカ立並ブ人ナクテ、ひとつごニイマスカリケリ」

ひとッご（名）〔人子〕ひとご（人子）ニ同ジ。「ひとッご一人通ラヌ」

〔一〕**ひとつこと**（名）〔一事〕（一）一ツノ事柄。源、廿、朝顏廿「ヨロヅニ罪カロゲナリシ御アリサマナカラ、コノ一つことニゾ、コノヨノニゴリヲススギ給ハサラント」（二）同ジ事　一樣ノ事

ひとつざし（名）〔一差〕刀ヲ一本サスコト。好色一代男（貞享、西鶴）四「夏ナカラ、紙子ノ袖ノ、一つざし、夜ノ編笠ハ、スマヌモノナリ」

〔一〕**ひとづて**（名）〔人傳〕〔ひとづたへ（人傳）ノ約〕他人ニ因リテ、言ヲ傳フルコト。コトヅテ。コトツテ。傳言　傳語　寄語　源、六、末摘花廿「ひとづてニハアラヌ樣ニ聞エナセバ」同、廿、朝顏五「一コト憎シナドモ、人づてナラデノ給ハセンヲ」同、五十一、蜻蛉十「タダ今ハ悲シサ醒メヌベキ事、人づてニ聞シ召サンハ、ナホイトホシキ事ナルベシ」後撰集、十三、戀、五「イカニシテ、カク思フテフ、コトヲダニ、人づてナラデ、君ニ語ラン」拾遺集、二、夏「小夜更ケテ、ネザメザリセバ、ホトトギス、人づてニコソ、キクヘカリケレ」後拾遺集、十三、戀、三「今ハタダ、思ヒ絶エナントバカリヲ、人傳ナラデ、イフヨシモカナ」

ひとつどもゑ（名）〔一巴〕ひとつがしら（一頭）ノ條ヲ見ヨ。大職冠（正德、近松作）二「仏ヲ殺シテ共ニ刳レ、名ヲ三國ニ三巴、是ハ日本當代ニ、一つ巴ノ波ノ音、四海ニカクレナカリケリ」

ひとつとや（句）かぞへ唄ナドノ文句ノ、第一條ニ發スル語。和泉式部草子ニ、道命阿闍梨ガ、柑子（カンシ）賣トナリテ數ヘウタヘヲ唄ヲ始トス。和泉式部草子「一つとや、ヒトリマロ寐ノ、草枕、袂シボラヌ、曉モナシ」今宮心中（正德、近松作）下「一つとや、ヒトツ涙ノ露ノ絲、落チテ三途ノ川トナル」

ひとつなべ（名）〔一鍋〕一ツ鍋ニテ物ヲ煮炊（ニタキ）シテ食フコト。

〔一〕**ひとつのもの**（名）〔一物〕天下第一ノ名物　誤リテ、いちのもの。源、三十四、上、若菜、上廿「名ダカキ帶、御ハカシナド、云云、フルキ世ノひとつのものト名アルカギリハ、ミナツドヒ參ル御賀ニナンアメル」

ひとつば（名）〔一葉〕（一）古名、いはくさ。羊齒類ノ草ノ名。山中陰地ノ土石ニ生ズ。根ハ長ク蔓延シテ繁茂シ、處處ニ葉ヲ生ズ、幅一寸餘、長サ六七寸、勁厚ニシテ深緑ナリ、背ニ褐毛、斜紋アリ、冬ヲ歷テ枯レズ。夏、新葉ヲ生ズ、初ハ白ク、長ズレバ緑ナリ、根ヲ採リ、縮（ツカ）ネテ檐ナドニ懸ク、時時、水ヲ注ゲバ、年ヲ歷テ、彌茂ル。イハノカハ。イハシ、イハクミ　石韋　石葦　林逸節用集、草類「石葦（ヒトツバ）」大和本草、九、雜草類「石葦、石ノ側及陰濕ノ地ニ生ズ、好事ノ者、庭ニウヘテ石ニ伴ハシム」採藥使記、中、駿州「按ズルニ、石韋、和名ヒトツ葉ト云フ、丹波、伊豫ナドヨリモ出ル、葉、白キノ葉ニ似テ小ク、一枚ヅツ岩石ノ間ニ生ズ、葉ノ面ニ微黄ノ紋アリテ、毛ノ如シ、背ハ淺白色ニシテ、白毛アルガ如シ」（二）又、羊齒類ノ草ノ名。山陰ノ斷崖ナドニ、一根、數葉、下垂シテ生ズ。葉ノ長サ三寸、幅五六分、蒂、葉、共ニ甚ダ細ク、蒂、葉、共ニ甚ダ固

[illegible]ク、[illegible]背ハ[illegible]ニシテ、小[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ、多ク[illegible]ハ[illegible]ズ。カラヒトツバ。イハクサ。ウラボシ。[illegible] 類、カラヒトツバト訓ズルハ、アヤマレリ、本邦ニ、モトヨリアリ、[illegible] 名、[illegible] ウ[illegible]、[illegible]中[illegible]」

ひとは [illegible]【一葉】 一ツノ葉ヨリ轉ジ テ、イササカ。僅カバカリ。チョット。[illegible] 世[illegible]、[illegible]モ化人カホエカラ、セウ事ナシニ、俺ガ取リ始末スレバノ、大勢ノ子持ヲ擶ニ借ッテ、内ノ事ハ、一ッぱモ揃ハネエ」

〔ひとつばし (名) 【一橋】 一本ノ材ニテ亙セル橋。マルキバシ。一本橋。獨梁 獨木橋 倭名抄、十八道路具「獨梁、比度豆波之、一名、獨木橋」 名義抄「獨梁、ヒトツハシ」 源、五十二、手[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ノコロヨリサハ、ひとつ橋危ガリテ歸リ來タリケンモノ」 夫木抄、廿一、橋「クチノコル、野田ノ入江ノ、ひとつばし、心ボソクモ、身ゾフリニケル」

ひとつばたご (名) 樹ノ名 なんぢゃもんぢゃノ木ノ名 其[illegible]ヲ見ヨ

ひとつはちす (名) 【一蓮】〔一蓮ノ訓讀〕 [illegible]一ツノ蓮臺 又、同ジ蓮ノウテナ。[illegible] 集、十七、[illegible]、下[illegible]、ひとつはちすニ、ムスヘトヤ、[illegible] 集、八、釋教「ウスク濃ク、御法ノ花ノ、色ハミナ、ひとつはちすノ、身トゾナリヌル」

ひとつばなし (名) 【一話】 常ニ語ルハナシ。又、ハナシヤ話。 好色一代男、[illegible] 西鶴)七「思ヒ切ッタル風俗ト、ズヰ分、物ニ驚カヌ人モ、見テ來テノ一つ話ゾカシ」

ひとつひきりやう(ヒトツヒキリヤウ) (名) 【一引兩】 紋所ノ

ひとつびとつ [illegible] [illegible]ニ、一一。蜻蛉日記、下、下「ひとつびとつヲダニ、ナス事ニシ侍ラン、カヘリミサセ給ヘトイヒテ」「ひとつびとつシラベル」

〔ひとつびる (名) 【一蒜】 にんにく(大蒜)ノ鱗莖ノ一つノ稱。獨子蒜 倭名抄、十七八、葷菜類「獨子蒜、比止豆比流、一云、獨子胡、獨頭蒜」[illegible]名[illegible]下、[illegible]獨子[illegible]、小[illegible]、[illegible]片一ツ[illegible]、獨子胡、於保比留」

ひとつぶえり (名) 【一粒選】 ひとつぶより(一粒擇)ニ同ジ。

ひとつぶだね (名) 【一粒種】 (一)純粹ナル種子。(二)鍾愛ノ一人子。獨子(ヒトリゴ)

ひとつぶて (名) 人礫 人ヲ提ヘテ、礫ノ如ク投ゲ遣ルコト。 太平記、三十三、京軍事「[illegible]中ニ[illegible]シトケタレーモ、人礫(ヒトツブテ)ニ[illegible]ツマデハ、サスガ不レ叶」 孕常盤(寶永、近松作)二「松明持タル下僧ヲ擒ンデ、本堂ノ屋根ヘ人礫ニ打上ゲ」

ひとつぶより (名) 【一粒擇】 一一粒ヅツ、細カニヨリヌクコト。(二)多クノ中ヨリ、秀レタルモノヲ拔キ取ルコト。

ひとつぼし (名) 【一星】 入相ノ空ナドニ、始メテ一ツ見ハルル星。デキボシ。兒童、夕景ニ天ヲ仰ギテ、一つ星見ッケタ、長者ニナロナ」ト云ヒハヤセリ。 色の染色(貞享)二「今日カラ江戸屋仁左衞門處ヘ小櫻ト申シテ、此町ノ楊貴妃、ひとつぼしガ出マスヨ、長者ニ後ハ仁左衞門ガナリマスルノデト、皆人ノコレ沙汰」

〔ひとづま(ヒト・ヅマ) (名) 【人妻】 他人ノ妻 萬葉集、[illegible]、秋萩ノ、ニホヘル妹ヲ、ニククアラバ、人嬬故ニ、吾レ[illegible]ヒメヤモ」同、九[illegible]、カカフカカヒニ、他妻ニ、吾レモマシラム、吾ガ妻ニ、他モ[illegible]」 催馬樂、市屋、其戶云云、押シ開イテ來マセ、我ヤ比止

川末」 後撰集、十、戀、二「人妻ニ、心アヤナク、カケハシノ、危キモノハ、戀ニゾアリケル」

〔ひとつまつ (名) 【一松】 一株、地ニ生ヒタル[illegible]松 一本松 一松[illegible] 萬葉集[illegible]十「尾張ニ、タダニムカヘル、尾津ノ前(サキ)ナル、比登都麻都、アセヲ、比登都麻都、人ニアリセバ、太刀佩ケマシヲ、[illegible]マシ[illegible]、六[illegible] [illegible]ノ、ひとつ松、ダ[illegible]モナク、スメル月カナ」

ひとつまへ(ヒトツマヘ) (名) 【一前】 衣物ヲ二枚以上重着シテ、前ヲ一ツニ揃フルコト。 天和笑委集「一尺五寸ノ大振袖、云云、二ツ三ツ四ツ重ネ着ナ、云云、一つ[illegible] [illegible]テ、[illegible] 好色[illegible]代女[illegible]、西[illegible] 常トハ替[illegible]テ、當[illegible]二[illegible]一つ[illegible]」

ひとつまみ (名) 【一撮】 (一)一ツノ手ニテツマム程ノ僅カノ量。(二)敵ナドヲ倒スニ、容易ナルコト。

ひとつまゆ (名) 【一繭】〔雙繭(フタツマユ)ニ對ス〕 古言、ひきまゆ。一蠶ノ作レル繭。絲質、最モ良シト云フ、ひきまゆ(獨繭)ノ條ヲモ見ヨ。

ひとつみ (名) 【一身】 長サ八尺乃至一丈、一尺ノ[illegible]幅ノ布帛ニテ、仕立ツル衣服。ミゴロノ一幅ニテ、成ルモノ。乳兒ノ衣トス 浮世風呂、文化、[illegible]、上「ひとつ身ノキモノヲヒロゲ、チイチイヲ拾ッテキル」

〔ひとつむすめ (名) 【一娘】 只一人アル女。姉妹ナキ女ノ子。ヒトリムスメ。 源、十、榊「五十、致仕ノ大臣モ、マタナクカシヅクひとつむすめヲ、兄ノ坊ニテオハスルニハ奉ラデ」

ひとつめこぞう [illegible]【一目小僧】 [illegible]一つ目小僧ト身ヲ變化」

ひとつや (名) [illegible]、山[illegible]、[illegible] 遠ク離レテ一戸アル家。ハナレヤ。一軒屋 孤舍 孤家 嫗山姥(寶永、近松作)一 横笛道行「人サトハマダハルカ成、ひとつ屋ノ、雪ニ[illegible]」

ひとつら (名) 【一連】 いちれん(一連)ニ同ジ。

ひとつれ (名) 【一連】 ヒトクミ。一隊。夫木抄、十二、鴫「ひとつれハ、スソノニイデテ、ヲグノ[illegible]モノフル[illegible]」

ひとて (名) 【一手】 (一)[illegible]片ノ手。タカタノ手。カタテ。一手 偏手 隻手 [illegible]、前ニスヱオキテ、一手(ヒトテ)ニハ、木綿トリモチテ、一手ニハ、和栲マツリ」 (二)唯一人ノ仕業イッテ。獨力「一手ニ受持ツ」 (三)一ツニ[illegible] 手、[illegible]生大夫十二五郎一手ニテ出合爲樂[illegible]之」「一根竹下合戰事「此處ヲ散ラサデハ叶フマジトテ、七[illegible] (五)一回ノソザ。 狂言記、惡坊「長刀ノ出樣ハ、早カラウカ、遲カラウカ、何トゴザリマセウゾ、手ヲハナシャレ、一手ツカウテ見セウ」 同、料理聟[illegible]ニ、舞ヲひと手舞ハウゾヤ、ハヤイテタベヤ人人」 (六)同一ノ種類。(七)手ニ執ル矢二本ノ稱 [illegible]矢一手ト云ソハ、[illegible]一手アルヲ云フ、不レ然バ一ニト云フ」

ひとで (名) 〔人手〕 (一)他人ノ手。又、他人ノ。盛衰記、廿三、福朝譴責事「縄付ケ引張リ、御前ノ大庭ニ将テ参リタリ、舎兄ニ懐島平權頭、人手ニカヽンヨリトテ、申給ヒテ切テケリ」謠曲、七騎落「君ノ仰セ、父ガ命ヲ背ク者ナラバ、人手ニハ掛ケマジ」「人手ニ渡ス」 (二)他人ノ助ケ。盛衰記、六、西光父子亡事「人手ニ懸カランヨリ、塔ニテ侍レバ修羅ニ預ケ給ハリ候ヘ」「人手ヲ借ル」 (三)他人ノ、我ニ加フルシワザニ云フ語。(四)オ働ク人。人間ノシワザ。人工。輔親集「人手ニハ、染ムトモ見エヌ、紅葉葉ノ、色ハ錦ニ、立チゾマサレル」(五)

ひとで (名) 人手 棘皮動物ノ名。形、平タクシテ、四邊ハ深ク五枝ニ分レテ、人ノ手ノ如ク、又、楓ノ葉ノ如シ。故ニもみぢ貝ノ名モアリ。口ハ腹部ノ中央ニアリ、肛門ハ其反對側ニアリ、皮膚ハ多クノ石灰板ヲ有シ、海ニ棲ミ、其色、赤、褐、黑、等、種種ナリ。海盤車 久、蜘蛛人手ト云フハ、體小サク、其左出、甚ダ細長クシテ、蜘蛛ノ如シ 陽遂足 又、絲卷人手ト云フハ、其五角、桔梗ノ瓣ノ如シ、徑三寸許リ、面ハ青キアリ、黃褐ナルアリ、並ニ丹斑アリ、腹ハ平ニシテ、丹褐ナリ、中心ニ口アリ。絲卷トスベシ。海燕 又、皺人手ト云フハ、五出、長クシテ、皆、枝ヲ分チ、又、數叉ヲ分チテ、蔓ノ如シ

ひとで (名) 〔人出〕 人ノ多ク出デテ、集ルコト。「今日ノ人出ハ夥シ」

ひとでなし (名) 〔人非人〕 人ニシテ人ニアラザル行ヒヲナスモノ。德義、人情ナキ人ヲ、罵リ呼ブ語。人ニアラヌモノ。人倫ニハヅレタル人。ニンピニン。

人外 君岡女夫池ニ享保、近松作 旅腹帶「此近ハ二好カ百姓、欲ニ眈ケル人でなしノ畜生共、コソトモセバ擧テ掛テト」

ひとてら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 〔人衒〕 てらふ(衒)ト云フニ同ジ 雄略紀、十二年三月「ヤマノベノ、小島コユヱニ、比登涅羅賦、ウマノヤツケハ、ヲシケクモナシ」

ひとゝせ (名) 〔一年〕 十二箇月ノ間。一月ヨリ十二月迄。イチネン。萬葉集、十廿「ひとゝせニ、七日ノ夜ノミ、アフ人ノ、戀モツキネバ、夜ノフケュクモ」 同、同、十「渡守、舟ハヤ渡セ、ひとゝせニ、一タビカヨフ、君ニアラナクニ」 古今集、一、春、上「年ノ内ニ、春ハ來ニケリ、ひとゝせヲ、去年トヤイハン、今年トヤイハン」

ひとゝせ (副) 〔一年〕 或ル年。先年。源、一、桐壺「ひとゝせノ春宮ノ御元服」 榮花物語、一、月宴「ひとゝせウセ給ヒニシゾカシ」

ひとゝなり (名) 爲人質性 (人と爲りタル狀ノ意) ウマレツキ。タチ。モチマヘ。シヤウブン。資性。稟性。名義抄「天性、ヒトトナリ」天生、ヒトトナリ」 靈異記、中、第十一條、訓釋「人得、比止止加利」 神代紀、上九、大日孁貴及月弓尊、足具 性明麗、故使ニ照ニ臨天地ニ」

ひとゝな・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 〔爲人〕 人並ノ身トナル 生ヒ立ツ。成長ス。名義抄「育、ヒトトナル」長、ヒトトナル、オトナヅク」長成、ヒトトナル」 應神紀、四十年正月「長者多經ニ寒暑ニ既爲ニ成人ニ更無ニ悒矣ニ」 萬葉集、五ノ九、長歌「イツシカモ、比等等奈理出デテ」 沙石集、一、上、第一條「深宮ニ長なり、萬人ニ仰カレマシマシキ」 本朝俚諺、古歌「人となり、人とならバヤ、トゾ思フ、サラスバツヒニ、墨染ノ袖」

ひとゝほり (名) 〔一通〕 (一)ヨノツネ、ツネナミ。尋常「一通ノ學問」 (二)一度、通リ過ギルコト 謠曲、柏崎「今行ク道ハ雪ノ下、一通リ降ル村時雨」

ひとゝほり (副) 〔一通〕 ヒトタビ。ヒトワタリ。アラマシ。一應。一回

ひとどほり (名) 〔人通〕 人ノ行キ通フコト。人ノ往來スルコト。ユキキ。ワウライ 人行 狂言記、鷺宗守「我モ我モ、今日ハサヒシイ事カナ、人どほりモ御座ラヌヨ」

ひとゝも (名) 〔一部〕 (ともハ、伴ト同ジク、一黨、同類ノ意) いちぶ(一部)ニ同ジ。「一部ノ書籍」

ひとなか (名) 〔人中〕 衆人ノ中 衆中 垂仁紀、七年七月「復語ニ衆中ニ曰、云云」私記「比止奈加一」 武列即位前紀「奈、待ニ海柘榴市巷ニ、云云、立ニ歌場 衆ニ」 源、十八、松風「マハユキひとなか、イトハシタナク」 新六帖、一「コトシゲキ、世ノ人中ヲ、ノガレテモ、春ハ霞ニ、タチマジリツツ」

ひとなかせ (名) 〔人爲泣〕 人ヲナカスルコト、他人ヲ苦ムルコト 又、其所業

ひとながれ (名) 〔一流〕 (いちりうヲ、文字讀ニシタル語) (一)一本ノ旗。一旒 (二)一ツノ流儀。 續拾遺集、十九、釋教「一流の書をかきおき侍るとて「谷川ノ、ワカひとながれ、カキトメテ、絕エザリケリト、人ニシラセン」

ひとなだれ (名) 〔人頽〕 葉集ノ、次第ニ押サレテ、頽レ掛ルコト 太平記、十七、山門攻事「大嶽ヨリ人頽ヲツカセテゾ逃ゲタリケル、云云、人馬イヤガ上ニ落重、テ死ニケル有樣一」

ひとなぶり (名) 〔人嬲〕 人ヲナブルコト。萬葉集、十五、三十「サスタケノ、大宮人ハ、今モカモ、比等奈夫理ノミ、好ミタルラム」 遊仙窟「劇」

ひとなみ (名) 〔人並〕 世ノ常ノ人ノ列ナルコト。ヒトナミナミ。世間並。尋常 萬葉集、五、三十三長歌「ワクラバニ、人トハアルヲ、比等奈美ニ、我モ作ルヲ」 後撰集、十四、戀、六「人なみニ、アラヌ我身ハ、難波ナル、蘆ノネノミゾ、下ニ泣カル

ル」 宇津保物語、祭使ニ「ミナカミニ、カサシツルカナ、桂川、今日人なみノ、ココチノミシテ」

ひとなみ (名) 〔人波〕 葉集ノ、動搖スル狀ヲ、波ニ譬ヘテ云フ語 「ひとなみヲ打ツ」

ひとなみなみ (名) 〔人並並〕 前前條ノ語ニ同ジ 源、三、帚木「男ハひとなみなみニモナラバ」 同、十三、明石「イツノ世ニ、人なみなみニナルベキ身トハ、思ハザリシカド」 枕草子、三、廿四段「ネズモチノ木、人なみなみナルベキサマニモアラネド」 金葉集、三、秋「タナバタノ、苔ノ衣ヲ、イトハズバ、人なみなみニ、カシモシテマシ」

ひとならはし (名) 〔人習〕 世間ノナラハシ 社會ノ習慣。源、四十八、寄生「ナベテノ世ヲモ思ヒメグラシ、深キ情ヲモナラヒ給ヒニケル、イトホシノひとならはしヤトゾ」

ひとな・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 〔人馴〕 (一)人中ノ交リニ馴ルル。交際ニ馴ルル 源、八、花宴「男ノ御教ヘナレバ、スコシ人なれタルコトヤマジラント思フコソ、後メタケレ」 (二)人ニ馴レ親シム。人ニナツク 馴染ム 禽獸ナドニ 更級日記「イトヲカシゲナル猫ナリ、飼ハントアルニ、イミジウ人なれツツ、傍ニ打臥シタリ」 夫木抄、廿七、雉「人馴れヌ、スカノ荒野ノ、荒雉ノ、イル矢ノサキモ、知ラズガホナル」 源重之集「人馴れヌ、ミツノ御牧ノ、駒ナレヤ、立ツ名モ更ニ、アラジトゾ思フ」

ひとにぎり (名) 〔一握〕 (一)一ツノ手ニ握ル程ノ量。轉ジテ、ワヅカノ量。(二)敵ナドヲ、押ヘツクルニ容易ナルコト、

ひとねいり (名) 〔一寐入〕 次條ノ(一)ニ同ジ。 狂言記、つたう山伏「何トヤラ、アツウオヂヤル程ニ、マヅ此ノ涼シイ處ニ、一ねいり致サウ」

ひとねむり (名) 〔一眠一睡〕 (一)一度、眠ニ就クコト。ヒトネイリ。(二)一ツヅケニ、眠リ通スコト。

ひとの (名) [一布] 布帛ノヒトハバ。[illegible]

ひとの (名) [一野] ヒトツノ野原。又、[illegible]。[illegible]

ひとの (名) [閾] 〔械殿(樋殿)ノ義カ〕カハヤ。セツイン。長秋記、元永二年十月二十日「[illegible]」今物語「ハコノシタカリケレバ、云云、物メギ散ランテ、[illegible]ハ、付キタリケルニ、[illegible]バカリヒリテ、又物モナカリケリ」

ひとのか (名) [人香] 人ノウツリ香。

ひとのひ (名) [人日] 〔じんじつ(人日)ヲ訓讀シタル語〕陰暦、正月七日ノ稱。好色一代女(貞享、西鶴)二「人の日ノハジメ、都ノ西、嵯峨ニ行ク事アリシニ」

ひとのみ (名) [一呑] (一)一口ニ呑ミコムコト。一息ニ呑ミホスコト。狂言記、[illegible]「今夜カ太刀ヲ見レバ、[illegible]トシテ[illegible]程ニ、キッサキカラ只一呑みニセウゾ」(二)相手ヲ眼中ニ置カザル態度ニ云フ語。吉野都女楠(正徳、近松作)四、「大宮がおちの御ゆき ヒラリヒラリトヒフメクヲ、小鷲ト見ル[illegible]ヘキカ、一のみ[illegible]ンタル心ヒトノ[illegible]」

ひとのやま (名) [人山] (一)人ノ死骸ノ積リテ、山ノ如クナレルヲ譬ヘテ云フ語。鳩巣小説、上「[illegible]之ホ討死、家来の[illegible]「人の山ヲ御築キ候テ、御討死ナサレ候」(二)人ノ多ク集リ集ルコト。ヒトヤマ。本朝若風俗(貞享、西鶴)六「人ノ山、崩レテ笑フベラナレバ」

ひとのよ (名) [人代人世] (一)現ツ神ノ統べ治メ給フ御代。神武天皇以後、[illegible]代ノ天皇ノ御代。神代ニ對ス。古今集、序「人の世トナリテ(人ノ世トナリテカラハノ意)[illegible]モジアマリ一モジハ詠ミケル」[illegible]集、一、神祇「神武天皇ヨリゾ、人の代トハナリニケル」[illegible]抄、三、[illegible]御代ハ[illegible]以後「百王トキコユル」(二)人ノ世ノ中。人間世界。人生。[illegible]集、廿、[illegible]「[illegible]の世ノ、思ヒニ叶フ、モノナラバ、我ガ身ハ君ニ、後レマシヤハ」

ひとは (名) [一葉] (一)ヒトツノ葉。詞花集、二、夏「下紅葉、ひと葉ヅツチル、木ノモトニ、秋ト覺ユル、蟬ノ聲カナ」新古今集、廿、釋教「[illegible]ノ、ひと葉ナリトモ、磯ガクレ、思ヒナカケソ、沖ツ白浪」夫木抄、三十六、眺望「ウナバラヤ、[illegible]ニ浮カブ、ササ竹ノ、一はバカリノ、アマノ釣舟」謠曲、[illegible]「[illegible]ハ、ユルカメ梢ト見エツレド、風ノ[illegible]ヘバ一葉モ散ルナリ」(二)舟ノ異名。いちえふ(一葉)ニ同ジ。

ひとは (名) [一羽] ヒトタビ羽振ヒシテ飛ブコト。[illegible]ズ、一氣ニ飛ブコト。保元物語、[illegible]「[illegible]ツ連レテ、沖ノ方ヘ飛ビ行クヲ見テ、鷲ダニ一羽ニ千里ヲ飛ブトイフヲ聞カズ、況ヤ鵞ハ、一二里ニハヨモ過ギジ」

ひとばえ (名) [人映] 小兒ノ他人ノ面前ニテ、アマユルコト。人前ニテ、ソバユルコト。枕草子、八、七十五段「ひとばえスルモノ、異ナル事ナキ人ノ子ノ悲シク爲慣ハサレタル」

ひとばし (名) [人橋] (一)ナカウド。媒介者。媒妁。世間息子氣質(正徳、江島其磧)三「人橋ヲ架ケテ呼ビニ遣レバ」(二)事ヲイソグ時、數人ノ使者ヲ出スコト。(毛吹草) 本朝若風俗(貞享、西鶴)[illegible]「人橋ヲカクレトモ、門ヲ閉ヂテ東ニ渡リアハズ」良將[illegible]、八、小田原陣[illegible]以ノ外御怒ニテ、[illegible]可ベト頻リノ上意、人橋ヲカケテ被召ケレバ」

ひとばしら (名) [人柱] 昔、橋柱ヲ立テムトシテ成ラヌ時ナドニ、人ヲ生ケナガラ[illegible]水底ニ埋ムルコト。又、ソノ人。[illegible]トスト云フ。[illegible]河[illegible]ヘノ[illegible]、[illegible]柄橋ノ故事ナドアリ)盛衰記、廿六、入道非直人[illegible]「白馬ニ白鞍ヲ置キ、童ヲ一人乘セテ、人柱[illegible]云、[illegible]見エ、云云、弘仁ハ新造歟、修造歟、不可辨之由モ見エタリ、又古老傳ニ、人柱タテラレタリトモ見ユ、最初ノ[illegible]、[illegible]トラヘテ人柱ニタテタリト云ヘリ」

ひとはた (名) [一端] 「一端ノ義カ」器一杯ナルコト。宇治拾遺、[illegible]「[illegible]細ト切リテ、ひとはた入レテ」同、同、第十六條「七八ハヒサゴニセントオモヒテ、内ニツリツケテオキタリ、云云、トリオロシテロアケントスルニ、スコシオモシ、アヤシケレドモキリアケテミレバ、物ひとはた入、タリ、ナニニカアラントテ、ウツシテミレバ、白米ノ入タル也」發心集、八、第十一條「文ノキレ、小キ唐櫃ニ、ひとはたニゾ成リニケル」

ひとはだ (名) [人膚] (一)人ノハダヘ。永久四年百首、冬「アセイフハ、ウレタクモ[illegible]ハ、思ハジヤ、人はだフルナ、マダラ小衾」(二)人ノ膚ホドノ溫ミ。狂言記、佛師「イロウテ見マシタレバ、マダ人肌デコザッタ」

ひとはだ (名) [一肌] 「一方ノ肌ヲ脫グ意」一奮發シテ、力ヲ盡スコト。

ひとはな (名) [一花] (一)一輪ノ花。イックヮ。夫木抄、十六、枯野「霜サユル、アシタノ原ノ、霜ガレニ、一花殘ル、女郎花カナ」同、十一、秋花「ハチスサク、池ノ夕風、夏アレド、ヨシ一花ノ、秋ノ撫子」(二)一時盛ンナルコト。一時ノ榮華。イックヮ。いっか(一時)ノ條、參見セヨ。[illegible]風集、[illegible]歌ノ浦ヘ、イサ歸リナン、朝[illegible]ノ、ひと花[illegible]、ウツロヒニケリ」

ひとはなおろ (名) [一花心] 一時ノ情。ゴコロ。一時ノ情。[illegible] 倉光ニ事「氣康道スガラ思ヒケルハ、妹尾マデ行キヌルモノナラバ、[illegible]トテ[illegible]ひとはなおろニテモ[illegible]

ひとはなおろも (名) [一花衣] 一度、染メタル程ノ、淡キ色ノ衣。[illegible]、六、[illegible]「クレナヰノ、ひとはなおろも、ウスクトモ、ヒタスラ[illegible]」[illegible]キ草ニ、摺スリマゼン、秋萩ノ、ひとはなおろも、色[illegible]

ひとはなずり (名) [一花摺] 一度、花ズリヲシタルコト。又、ソノ布帛。(花摺) [illegible]

ひとばなる・ルル・ルレ・レ・レヨ(自動、下二) [人離] 人ノ棲居ル所ヨリ離ル。人里ヲ[illegible]心トケテ寐ヌルモノカ」同、五、若紫「人ノコモリオハスベキ所ニモ、[illegible]心スゴク、若キ妻子ノ思ヒワビヌベキニヨリ」

ひとはね (名) [一刎] 背、一枚ノ稱。はね(刎)ノ條ヲ見ヨ。

ひとばらひ (名) [人拂] (一)密談ナドニ、其席ヨリ他人ヲ退クルコト。辟人 (二)貴人ノ路ヲ行ク時、往來ノ人ヲ去ラスルコト。喝道

ひとひ (名) [一日] 一日、イチニチ。又、終日。[illegible]「[illegible]」[illegible]下「猶ひとひニテモ、心ノドカナルサマニモナリナマホシクナン」(二)朔日。今昔物語、廿八、第十二語「コハイカニ、今日ハ卯月ノ、ひとひカハ、マダキ[illegible]ソル、[illegible]」(三)「[illegible]ル日」過日。先日。源、五、若紫「ひとひ、モノノタヨリニトブラヒテ侍リシカバ」同、七、紅葉賀「ひとひノ[illegible]タカケ、ユユシウオホサレノ」

〔ひとびと (名) 人人 (一)〔多クノ人。モロビト 天武紀、下、十三年四月「凡政要者軍事也、是以文武官諸人、務習用兵、及乘馬」 源、五、若紫「御迎ヘノ人人、キンタチナド、アマタ參リ給ヘリ」 榮花物語、八、初花「タダムヅカリニムツカラセ給ヘバ、見聞キ給フ人人モ、心ノ中ニ、ヲカシウ思シ見奉リ給ヒケリ」 (二)各個ノ人。各人

ひとびと‐おんなか (名) 人人御中 宛所ノ名稱。下ノ出典ヲ見ヨ。 宗五大雙紙、書札之事「宛所ノ次第、云云、家人ノ名、一、人人御中、二、小路名、三、御宿所、四、[illegible]之候、五、[illegible]之候、一書テ、肩ニ名ヲ書ク、六、ヒキクヤ之候ト女字ヲ草ニ書テ、名ヲヒキク書タル、七、[illegible]之候共不書シテ、ヒタト名計書テ、我名乘計書事、八、是ヲうちつけ書ト云フ」 貞丈雜記、九、書札之部「公家ナラズトモ、武家ニテモ、其人ノ官名ヲ書ルヨリモ、一段ウヤマヒタル儀也、其人ノ住ム所ノ名ヲカクハ、勿論、小路名書クホドナレバ、人人御中ト大字ニ書也、小路名ヲバ、人人御中ノ肩ニ小字ニ書也」

〔ひとびと・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 人人 人中ニ立交リテ人ラシクアリ。一人前ラシクアリ。 枕草子、四、四十三段「頭中將ノ宿直所ニ、人人しきカギリ六位マデアツマリテ」 宇津保物語、國讓、下廿七「イツシカモ、人人しくナリ、面々タシキ目ヲモ見給ヘトコソ、思ヒ參リシカ」 榮花物語、四、見はてぬ夢「位ナドモいたう人人しからヌアリサマニテ」 源、四十六、總角六十五「アタラシクヲカシキサマヲ、明クレノ見モノニテ、イカデ人人しうモミナシ奉ラント」

ひとひ‐ばれ (名) 一日晴 祭ノ使、行幸、御幸ナドノ、殊ナル晴ノ一日、身分ノ程ヨリモ、一層、美麗ナル裝飾ヲ用ヰルコト。(後松日記、十八)

ひとひ‐まぜ (名) 一日交 ヒトヒオキ。一日オキ。隔日 方丈記「地震、二三十度フラヌ日ハナシ、云云、ひとひまぜ、二日、三日ニ一度ナド、オホカタ其名殘、三月バカリヤ侍リケン」

〔ひとひ‐めぐり (名) 太白神 (一)一日廻ノ義。陰陽家ニ云フ神ノ名、金ノ精ニシテ、大將軍、兵内ヲ司ルト云フ。此神、一日、十一日、廿一日ハ東ニアリ、二日、十二日、廿二日ハ巽ニアリ、此ノ如ク、南、坤、西、乾、北、艮、東、巽ト日每ニ遊行シテ、九ノ日ハ天上ニアリ、十ノ日ハ地ニアリトス。而シテ其在ル方ヲバ、百事ニ避クベシトス。 簾中抄、下ニ、太白ヲ一夜廻トモ云ヘリ。 大和物語、上ニ「逢フ事ノ、方ハサノミゾ、フタガラン、ひとよめぐりノ、君トナレレバ」 金葉集、八、戀、下ニ「君コソハ、一夜廻ノ、神ナドト聞ケ、ナド逢フ事ノ、方違フラン」トアルモ、コレナルベシ。 倭名抄、二十神靈類「太白神、比止比米久利」 名義抄「太白神、ヒトヒメグリ」 運歩色葉集「太白遊行方、朔日東、二日巽、三日南、四日坤、五日西、六日乾、七日北、八日艮、九日天、十日地、中旬下旬同、是當之方也、一東二角、三南四角、五西六角、七北八角、九天十地、可愼」 中右記「嘉保三年正月十日、從殿下有召、明日被參、明日行幸御出方角、[illegible]也、明日、太伯神在東、然者可被用西陣歟、云云」

ひと‐ふし (名) 一節 (一)竹、又ハ、草木ナドノ節ヒトツ。(二)音樂ノ一調子。一曲 (三)〔一ツ特有ナル點。ヒトカド。 枕草子、三、廿四段「ひとふしアハレトモ、ヲカシトモ、聞キ置キツルモノ」 源、五十一、蜻蛉四十「カノ人ハ、ヤウヤウヒジリニナリシ心ヲ、ひとふしタガヘソメテ、サマザマナル物思フ人トモナルカナ」

ひと‐ふで (名) 一筆 (一)特ニ書キツクルコト。(手紙ナドニ) イッピツ。 夫木抄、廿一、關「稀ニダニ、逢フコトカタキ、路ナリト、ひとふで見セヨ、文字ノ關守」 徒然草、三十一段「此ノ雪イカガ見ルト、一筆ノタマハセヌ程ノヒガヒガシカラン人」「一筆申進候」 (二)チョット書キツクルコト。

ルコト。又、ソノモノ。寸楮。(三)筆ヲ休メズニ、書キ續クルコト。 今昔物語、廿八、第三十六「[illegible]呼德ノ上手ナリ、筆ハカナク立テタルヤウナレド、タダ一筆ニ書キタルニ、心地エナラズ見エテ、[illegible]シキコト限リナシ」 [illegible]六帖、六[illegible] [illegible]

ひとふで‐がき (名) 一筆書 墨汁ニ唯一度染メタル筆ニテ、書畫ヲ書キ了フルコト。又、ソノ書畫。

ひと‐へ (名) 一重 (一)〔相重ヌコト。ヒトヒラ 單 天智紀、十年十二月「[illegible]ノ子ノ、八重ノ紐解ク、[illegible]ダニ、未ダ解カネバ、皇子ノ紐解ク」 とりかへばや物語、一「カタミニひとへノ[illegible]テハ皆アリテ、ウチトクルカナキモ」 和泉式部日記「書キテ、紙ノひとへヲ引キカヘシテ」 (二)〔ヒトヘギヌ 單衣 宇津保物語、[illegible] 源、五十一、手習[illegible]「[illegible]ひとへノ袖[illegible]、イトナサケナク」 讃岐典侍日記「休マント思ヒテ、アザヤギタルニ」 更級日記「[illegible]」 (三)花瓣ノ一片ヅツナルモノ。(八重ニ對ス) 單瓣 [illegible]集、一、春「我カ宿ノ、八重山吹ハ、一重ダニ、散リ殘リナン、春ノカタミニ」 詞花集、一、春「一重ダニ、アカヌ匂ヒヲ、イトドシク、八重カサナレル、山吹ノ花」

ひとへ‐おび (名) 一重帶 (一)裏ヲツケザル帶 淨瑠璃女夫池、享保、近松作、[illegible]下ニ見ルトモ白綾ノひとへ帶、褶ニカケテ兩ノ端、手ニ取リ絡ミ一思ヒ」 (二)サンジャク。さんぢゃくおび(三尺帶)ノ條ヲ見ヨ。

ひとへ‐ぎぬ (名) 單衣褌 〔一重衣ノ義、

[illegible] (一)〔衣ノ一重ニテ裏ナキモノ。ヒトヘ。ヒトヘゴロモ。 倭名抄、十二十九衣服類「單衣、比止閉岐沼」 齊明紀、六年三月「從三船送[illegible]」 [illegible] 裝束ノ下ニ重ネテ着ル衣ノ名、[illegible]衣ノ色ニ因リテ、其色ニ定メアリ、若年ハ、重菱ノ紋、老年ハ遠菱、極老ハ白キ地ハ綾ニテ、張リ、又ハ、擣引ニス、若色、四季共ニ着用ストゾ。 [illegible]

ひとへ‐ぐさ (名) 一重草 ききゃう(桔梗)ノ異名 [illegible]八、桔梗、[illegible]ヲモ、[illegible]ウタバヤ、ひとへぐさ、葉ハ薄樣ノ、露ハ置ケドモ」

〔ひとへ‐ごころ (名) 偏心 一途ナルココロ。ヒタスラ思ヒ込ミタル心。 源、一、桐壺三十「ヲサナキホドノ御ひとへごころニカカリテ、イト苦シキマデゾオハシケル」

〔ひとへ‐ごろも (名) 一重衣 ひとへぎぬ(單衣)ノ條ノ(一)ニ同ジ。 名義抄「裂衣、ヒトヘノコロモ」 萬葉集、十二廿四「ツルバミノ、一重衣ノ、裏モナク、アラム子故ニ、戀ヒワタルカモ」

〔ひとへ‐に (副) 偏 〔一重ニノ義〕 其事ニノミ就キテ。ヒトスヂニ。ヒタスラ。 名義抄「偏、ヒトヘニ」 神代紀、下「時彦火火出見尊受[illegible]、偏依[illegible]神之教、先以其鉤與兄」 土佐日記、正月廿二日「浪トノミ、ひとへニ聞ケド、イロ見レバ、雪ト花トニ、マガヒヌルカナ」

[illegible]竹取物語「ひとへニヨウチタノミタランカハ、サバカリニテ有リヌベクナン」 盛衰記、二十、山木館ニ討入[illegible]

ひとへもの (名) |單物| (一)足利時代ニ、[illegible]裏ナキ衣ノ[illegible]。今ハ[illegible]襖ハ一重ナルヲ常服トシテ、裏ノ付タルヲバ、人中ニ着ルコトナシ、サルカタニ打マカセテ、常ノ直垂ヲ[illegible]、イヒ[illegible]」 (二)ヒトヘギヌ[illegible]、一重ナルモノノ稱。夏ノ衣ナドニ云フ。(袷、綿入ナドニ對ス) 單衣 今、專ラ、縮布、[illegible]モノノ名トシ、[illegible]「當世ハ、絹、木綿ナド、裏ナキヲ單物トイヒ、生絹、[illegible]

ひとほしおろ (名) [illegible] 日暮 [illegible]

ひとま (名) |人間| (一)〔人目ノスキマ。人ノ注意セヌ間。人ノ見ヌ間。人ノ居ラヌ間 [illegible] 竹取物語[illegible]クヤ姫、云云、トモスレバ、人間ニハ月ヲ見テ、イミジク泣キ給フ」 源、七、紅葉賀「カノ人シレヌ御心ニ、イ[illegible]テ、人ま[illegible]テ」[illegible]テ、人間ニミソカニ入リツツ、云云、ヌカヲツキ祈リ[illegible]ヌ物ヲ、梅ノ花、イツノ人間ニ、ウツロヒヌラン」 (二)間ノ絕ユルコト。疎クナルコト。[illegible]

ノサハリアル、人間ヲマコトト思ヒケルカ」

ひとまうけ (名) |人設| 人ヲ待チ合ハスルコト。ヒトマチ。 宇治拾遺、十四、第六條「船ニ乘リケル程ニ、ひとまうけシタリケレバ」

ひとまかせ (名) |人任| 他人ニノミ任セ[illegible]コト [illegible]「人まかせ[illegible]ニ人ラス」

ひとまく (名) |一幕| 芝居ナドノ、ヒトクギリ。芝居ノ一キリノ狂言。

ひとます (名) |人桝| 棧ノ桝形[illegible]其中ニ入レテ量レバ、云フ

ひとまちがほ (名) |人待顏| 人ヲ待チ[illegible]人ヲ待ツラシキ[illegible] 拾遺集、十九、雜、[illegible]人待顏ニ[illegible]メル ハ、タガタノメタル、今夜ナルラン」

ひとまづ (副) |一先| 何ハトモアレ。此度ハ、マヅ、トニカク。 平家物語、九、樋口被切事「我モ人モ腹中ヘ入ルト云フハ、自然ノ時、ひとまづノ[illegible]ツギ、シハシノ命ヲモ生カウ[illegible] 太平記[illegible]まづ[illegible]テ[illegible]ハヤト思ヒ返シテ、堀ヲ越エントシケルカ」

ひとまとめ (名) |一纏| 一ツニ纏ムルコト。殘ラズ纏ムルコト。一括。

ひとまね (名) |人眞似| (一)〔他人ノ言語、動作ナドヲ、マヌルコト 他人ニ似セテ、モノスルコト。 源、廿五、螢「心アサゲナルひとまねドモハ、見ルニモカタハライタクコソ」 同、四十八、寄生「エンナル人まねニハアラデ、イトド明シガタクナリ行ク夜ナ夜ナノ寢覺ニハ」 紫式部日記「心深キ人まねノヤウニ侍レド」 古今集、十九、誹諧「サカシラニ、夏ハ人まね、ササノハノ、サヤグ霜夜ヲ、我カヒトリ寢ル」 [illegible]人ノ[illegible] 人間ノマネ。「人眞似スル猿」

ひとまはり (名) |一廻| (一)[illegible]

抱クホド。ヒトマキ。(二)一回巡ルコト。ヒトメグリ。(三)七日ノアヒダ。[illegible]十二違フテモ、見[illegible]レバ、オレヨリハ上ダラウヨナウ、アア、上所カ、一まはり違ハア、モウ丁度ダハナ」

ひとまへ (名) |人前| 諸人ノ見テ居ル所 公衆ノ面前 人目 衆前 [illegible]十六、興言利口「コレハ人まへゾカシト思フ心候ウテ」

ひとまり (名) |火止| 〔火ハ月經ノ義〕 婦人、懷胎シテ、月經ノ止マルコト 後宮名目ニ、白河院中宮賢子ノ御懷胎ノ御ケシキオハシケル翠年正月、關白師實參內シテ、ユクリナク水ヲ注ト、カケ奉ル、是レハ、中宮ノ御火とまりノ爲ニ、殿ノ祝ヒ奉ルナリト云フコトアリ。月經ノ時ハ、婦人、對屋ニ出デテ、別火ニカマフルヨリ起ルト云フ。みづいはひ(水祝)ノ條ヲモ參見セヨ。 [illegible]字[illegible]用集、五、服餌門、姙娠、ヒーマリ、婦孕、月日ニ姙娠」

ひとみ (名) |瞳|眸|睛| 〔人見ノ義カ〕 眼ノ玉ノ黑キ處。クロメ。眼睛。眸子。 [illegible]

ひとみ (名) |一身| カラダヂュウ。カラダ全體。總身。全身。 渾身 宇治拾遺[illegible]モイハズ、ひとみニトリツキテサセドモ」

ひとみ (名) [illegible]

ヤウ[illegible]「一[illegible]ノ人見ヨリ目ヲ放サズ」 (二)ヨソノ見[illegible]

ひとみごくう (名) |人身御供| (一)昔、人ノ身ヲ生贄トシテ、神ニ供ヘタルコト。又、ソノモノ。人牲 [illegible](元祿、近松作)「ソレヨリココニ移リマス、呪詛調伏ノ願ヲミテシメ、イニシヘハ年每ニ、人身御供ヲ受ケ給フトヤ」 (二)他ノ慾望ノタメナド[illegible]

ひとみしり (名) |人見知| [illegible]ヒ[illegible]幼兒[illegible]、見馴ヌ人ヲ嫌ヒ[illegible]コト。小兒ノ、馴染ナキ人ニ遇ヒテ、[illegible]コト [illegible]

ひとみち (名) |一道| (一)〔其レヨリ外ニハ道ナキコト。一筋ナルコト。 [illegible]ツ[illegible]ノ、タダ一道ニ」 (二)一事ニ專ラナルコト。專心。(三)ヨミヂ。冥土。

ひとむかし (名) |一昔| (一)十年ノ稱トモ、[illegible] 淸水ヲ見ケルコト、一むかしニナリニケル」 [illegible]むかしカナ」 (二)廿一年一期ノ稱。 [illegible]年ヲ一昔トス、ソレ過ギヌレバ、淵ハ瀨トナリ、瀨ハ[illegible]トシキ、今ハ廿一年ヲモテ一昔トス、廿一年過ギヌレ[illegible]代ハ二十一箇年ヲ一昔トス」

ひとむきに (副) |一向| ヒタスラ。一途ニ。其事バカリニ。ヒトスヂニ。

ひと-むら（名）一叢（一）〔草木ナドノ、一所ニ叢リ茂ルモノ。萬葉集、八 四十「我ガ宿ノ、一村萩ヲ、思フ子ニ、見セズホトホト、散ラシツルカモ」古今集、十六、哀傷「君ガ植ヱシ、一むら薄、蟲ノ音ノ、繁キ野ベトモ、ナリニケルカナ」（二）物ノ一所ニカタマリアルコト　ヒトカタマリ　一團　拾遺集、四、冬「カラ錦、枝ニひとむら、ノコレルハ、秋ノカタミヲ、タタヌナルベシ」新古今集、三、夏「露スガル、庭ノ玉ザサ、ウチナビキ、ひとむら過ギヌ、夕立ノ雲」平家物語、六、小督事「龜山ノアタリ近ク、松ノ一むらアル方ニ、カスカニ琴ゾ聞エケル」

ひと-むらさめ（名）一村雨　ヒトシキリ降ル村雨。平家物語、三、少將都還事「月ノ前ノ一夜ノ友、旅人カ一むらさめノ過キ行クニ、一樹ノ陰ニ立寄リテ、別ルル名殘モ惜シキゾカシ」夫木抄、九、夕立「イツノ間ニ、峯ウツリシテ、過ギヌラン、ひとむら雨ノ、夕立ノ雲」

ひと-むれ（名）一羣　一ツニ羣レ集レルコト。又、ソノモノ。イチグン。一團。現六帖「ワカノ浦ニ、ワガ一むれノ、アシタヅノ、數ハタメシモ、アラジトゾ思フ」

〔ひと-め（名）人目（一）他人ノ見テアルコト　世人ノ注視　衆目　萬葉集、十四 四廿「椊弓、末ハ寄リネム、マサカコソ、比等目ヲ多ミ、ナヲハシニ置ケレ」同、十七、九廿「空蟬ノ、人目ヲシゲミ、逢ハズシテ、年ノ經ヌレバ、生ケリトモナシ」源、一、桐壺 四十「アナガチニ人め驚クバカリ思サレシモ」同、五十三、夢浮橋「コノ子ヲヤガテヤラントオボシケレト、人めすホクテビンナケレバ」榮花物語、八、初花「少納言ノ乳母、イト美シウ守リ奉ルニモ、ヨソノ人目ニ、アナ教シト見エタリ」讃岐典侍日記「中納言ニモ生ラズ覺ユレハ、人目モ見苦シウテ、云云」「人目繁シ」「人目ヲツツム」（二）人ノ顏。人ノ姿。萬葉集、二 八廿「島ノ宮、マカリノ池ノ、ハナチ鳥、人目ニ戀ヒテ、池ニカツカズ」

ひと-め（名）一目（一）〔一度見ルコト、チラリト見ルコト。萬葉集、十八 六廿「ワガセコガ、舊キ垣内ノ、櫻花、イマダフフメリ、比等目見ニ來ネ」同、六 九廿「フリサケテ、三日月ミレバ、一目見シ、人ノマヨビキ、オモホユルカモ」源、十一、花散里「ソコハカトナクケハヒヲカシキヲ、タダひとめミ給シヤドリナリト、オモヒイデ給フニタタナラズ」平家物語、二、少將都還事「少將ノ立入リ給フ妻戸ヲ、タダ一目見給ヒテ」（二）〔目全體。目イッパイ。目ノ中ニ滿ツルコト　源、十二、須磨 四廿「浪ヲひとめウケテ、見オコセタマヘル、イト忍ビガタシ」（三）統計ノ表。

〔ひとめか-し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）人メキテ見ユ。人ラシクアリ。人ナミナリ。人ラシ。源、三十六、横笛 三「入道ノ宮モ、此世ノ人めかしき方ハ、カケハナレ給ヒヌレバ」榮花物語、八、初花「人ハオヂネド、我心ノカギリハ、人めかしうモテナシテ、道ハラハセナドシテ」

〔ひとめか-す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）人メクヤウニナス　枕草子、三、三十四段「ワサト取リタテテ、人めかすベキニモアラヌサマナレド、カマツカノ花、ラウタケナリ」源、四十七、總角「取リワキテ、人めかしナツケ給フメルニ」

〔ひとめ-く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）人ラシクアリ　源、五十一、蜻蛉 八 上「前類ノ人めきテ、心チ無ノ狀ヤト、モノウケレバ」同、四、夕顏 三「花ノ名ハ人めきテ、カウアヤシキ垣根ニナン咲キ侍リケルト申」同、四十四、橋姫 四廿「ケハヒイタウ人めきテ、ヨシアル聲ナレバ」

ひと-めぐり（名）一周（一）一回巡ルコト、一度メグルコト。（二）いっしうき　一周忌ニ同ジ。新千載集、十九、哀傷「兼好法師カ母、身マカリケルひとめぐりノ法事ノ日、ササゲモノニソヘテ、申ツカハシケル」

ひとめ-せんぼん（名）一目千本　數十町ノ間、同ジ木ノ繁ク生ヒテ、一目ニ見得ル所ヲ云フ語。多クハ、大和國、吉野川ノ南峯ナル六田ヨリ山ニ登リ、約一里ニシテ、到ル所ノ山山谷谷、櫻樹ニテ埋ム　ソレヨリ山ニ入リ、中ノ千本、上ノ千本ヲ經テ、奥ノ千本ニ至ルマデ、一里程ノ間ニ、櫻樹ノ茂レル所ヲ云フ。千本櫻。大和廻(元祿)「吉野ノ町ヨリモ向ヒ、左ヨリ右ノ方凡二十町斗、唯一目ニ見エテ、皆花ノ林ナリ」

ひとめ-づつみ（名）人目包　人目ヲ忌ミ憚リテ、己レガ身ヲツツミ隱スコト。和歌ニテハ、多ク、つつみ(包)ヲつつみ(堤)ニ寄セテ云フ。古今集、十一、戀、一「思ヘドモ、人めづつみノ、高ケレバ、カハト見ナガラ、エコソ渡ラネ」同、同「瀧津瀬ノ、ハヤキ心ヲ、何シカモ、人めづつみノ、セキトドムラン」新後拾遺集、十一、戀、一「セキワビヌ、モラシヤセマシ、ナミダ川、人めづつみモ、ココロナリケリ」隆信集、下「朽チハテテ、桁ヲモ橋ハ、渡ルトモ、人めづつみニ、猶ヤセカレン」

ひとめ-の-せき（名）人目關（一）人目ノ己レガ事ノ妨害トナルヲ、關所ニ譬ヘテ云フ語。人目ノ妨。後拾遺集、十二、戀、二「知ルラメヤ、身コソ人目ヲ、憚リノ、關ニ涙ハ、トマラザリケリ」（二）人目ニ塞カレテ逢ハレヌヲ、關ニ譬ヘテ云フ語　三下集「思ヒヤル、心ヅカヒノ、道ノミカ、人目の關ヲ、ヘダテヤハアル」

ひ-ともし（名）火點　葬禮ノ時、タイマツヲ持チテ、前ヘ行クモノ。榮花物語、廿五、嶺月「御サキニ火ともし許リニテ、御車ノシリニハ院オハシマセバ」

ひと-もじ（名）（一文字ノ義、韮ノ二音ニ對シテ、葱ノ一音ナレバ云フ）葱ノ女房詞　ネギ　康頼本草、下「葱實、ヒトモジ」七十一番職人盡歌合、中、四十番、ひともじうり「ねトモ云フ、ひともじ故ニ、イカニシテ、書キヤル文ノ、カズツクスラン」全浙兵制附錄(日本風土記)四、蔬菜「葱、ひともじ」

〔ひともし-びと（名）秉燭者 點火人　燈火ヲツクルモノ。景行紀、四十年十月「時有秉燭者、續王歌之末、而歌曰、云云」

ひともと-ぎく（名）一本菊　花ノ紫ナル菊ナリト云フ。（ゆかりのいろノ條ヲ見合ハスベシ）拾遺集、七、物名、ひともときく「アダナリト、人もときくル、物シモゾ、花ノアタリヲ、過ギカテニスル」新拾遺集、五、題不知「名ニシ負ヘバ、花サヘ匂フ、紫ノ、一もとぎくニ、すケル初霜」兼輔集「紫ノ、一もときくニ、萬代ノ、武藏野ニコソ、タノムベラナレ」續後撰集、八、冬、一本菊を奉るとて「シグレツツ、時フリニケル、花ナレド、雲居紫庭ニウツル、色ハカハラズ」弱竹集、藤壺にて菊の宴せさせたまひけるに「ひともとの、菊ニハアレド、露霜ゾ、ワケテコトゴト、色ハ染ムラシ」

〔ひともと-すげ（名）一本菅　一本ノ菅、次條ノ語ヲモ見ヨ。古事記、下、仁德 六十「八田ノ、比登母登須宜ハ、子持タズ、立チカ荒レナム」（八田皇女ヲ一本菅ニ譬ヘ、皇女ハ子持チタマハズ）

〔ひともと-すすき（名）一本薄　蘇識ノ如ク、株高ク立チテ、其上ニ葉ノ茂リ生ヒタル芒。一株ノ薄。古事記、上 四十「ヤマトノ、比登母登須須岐、ウナカブシ」夫木抄、十一、薄「ムラサキノ、一本すすき、萬代ニ、武藏野ニコソ、思フベラナレ」

ひと-もの（副）一物　器物ニ一杯ニ、一面ニ。ひと(一)ノ條ノ(五)ヲ見ヨ。舊今昔物語、廿八、第十三語「大キナル壺ノアリケルニ、ホソ、物入レテ、ソレニ延正ヲ入レテ、頸バカリヲ指出シテ置カレタリ」宇治拾遺、二、第七條「鼻モタケノ木ユルギテ、鼻ハヅレテ、カユノ中ヘフタリトウチイレツ、内供ガ顔ニモ、童ノ顔ニモ、弱トバシリテ、ひと物カカリヌ」

〔ひと-や（名）獄 囚獄〔物ヲ納ルルガ如ク、人ヲ籠メ置ク屋ノ義、倉ト云フト同ジト云フ〕罪人ヲ捕ヘテ籠メ置ク家、

牢屋、獄舎、[illegible]。倭名抄、[illegible]十二
刑罰具、獄、牢、囹圄、比度夜」續貫記、中、廿二條、謂
獄、囹圄、ヒトヤ」 神功紀、四十七年四月「[illegible]人、
[illegible]
[illegible]
北院ノ獄舎ハジメケル聖ハ、モトイミジキ惡人ニテ、人屋ニ七度ゾ入リタリケル」續古事談、五、諸道「シレモノノ、ヨシナシゴトヲ、サカ法師、ツヒニひとやニ、イルトコソキケ」

ひと-やど (名) |人宿| (一)雇人ナドノ口入ヲ業トスル家。口入屋。[illegible]十九、[illegible]人宿之儀ニ付御觸書、[illegible]八[illegible]、[illegible]人宿共之仕八、[illegible]形、不埒ニ付、[illegible]候、云云」 手限御赦例書、七「三河町四丁目太郎右衛門[illegible]八、[illegible]十[illegible]五月二十九日、一、人宿家業取放所拂、云云」 (二)奉公人ナドノ請人ニ立ツコト。(三)旅人ナドヲ宿泊セシムル家。ヤドヤ。ハタゴヤ。[illegible]保[illegible]、十九[illegible]四[illegible]正月、[illegible]、總而人宿、又者牛馬宿、其外ニモ生類煩重候得バ、イヤヾ不[illegible]候、云云」

〔**ひとや-の-つかさ**〕(名) |囚獄司| 志うごく志(囚獄司)ニ同ジ。 倭名抄、五、官名「囚獄司、比止夜乃官」

ひと-やま (名) |一山| (一)モノヲ山ノ如ク盛リタルコト。又、ソノモノ。「一山百文」 (二)山ノ中ニ一杯ナルコト。山全體。全山。 宇津保物語、俊蔭「ソレヨリ西ヘ行ケバ、虎、狼ひと山サワグ所アリキ」

ひとやま-ひゃくもん (名) |一山百文| 〔十把一からげ、二束三文ナドト同趣〕 多クシテ、價値ナキモノニ云フ語。

〔**ひと-やり**〕(名) |人爲| 他人ヨリシテセサスルコト。他人ノシワザ。他人ノスルコト。 古今集、八、離別「人やりノ、道ナラナクニ、大方ハ、行キ憂シト言ヒテ、イザ歸リナン」 源信明集「ひとやりニ、アラヌコトニモ、アラナクニ、身モイタヅラニ、成リヌベキカナ」 又、人やりならぬト云フハ、人ノセサスルニアラズ、我ガ心ヨリス、ノ意。 源、十、[illegible]「西ノ對ニモ渡リ給ハズ、人やりならず物サビシゲニ眺メクラシ給フ」 同、十九、薄雲「胸ウチツブシテ、人やりならずおぼゆ」 千載集、十五、[illegible]、五[illegible]世ニ知ラヌ、秋ノ別ニ、打チソヘテ、人やりならず、物ゾ悲シキ」 十六夜日記「昔ニ歸レテ心ボソク悲シケレト、人やりならぬ道ナレバ、行キ憂シトテ止マルベキニモアラデ、何トナク急ギ立チヌ」 新後撰集、七、雜、別「心トヤ、行クモ歸ルモ、ナゲクラン、人やりならぬ、ヒナノ別レ路」 新續古今集、四、秋、上「ムカショリ、如何ニ契リテ、七夕ノ、人やりならぬ、物思フラン」 新拾遺集、十五、[illegible]、五「人やりノ、あらぬモノカラ、恨ムルハ、身ノ理モ、思ヒ知ラズヤ」

〔**ひと-やり**〕(名) |人遣| 人ヲ追ヒ遣ルコト。 新六帖、五、あかつきわかる「月影ハ、マダ夜深シト、ヤスラヘバ、ハヤ人やりノ、鷄ハ鳴クナリ」

〔**ひと-よ**〕(名) |一世| 人ノ此世ニ生キテアル間。一生涯。 萬葉集、五、廿九「一世ニハ、フタタビ見エヌ、父母ヲ、オキテヤ長ク、アガ別レナム」

ひと-よ (名) |一夜| (一)〔ヒトバン。イチヤ。一夕。一宵。 允恭紀、八年二月「ササラガタ、錦ノ紐ヲ、トキサケテ、アマタハネズニ、タダ比等用ノミ」 萬葉集、十五、廿「ワギモコガ、イカニ思ヘカ、ヌバタマノ、比登欲モオチズ、イメニシ見ユル」 源、九、葵「今ハひと夜ノモ、ヘダテン事ノワリナカルベキ事ト思サル」 (二)夜中。ヨッピテ。ヨモスガラ。終夜。 和泉式部日記「マドロマデ、一夜ナガメシ、月見レト、起キナガラシモ、明シ顔ナル」 (三)或ル夜。或ル晩。

ひと-よ-ぎり (名) |一節切| 尺八ニ似テ細ソク短キ樂器。長サ、曲尺ニテ一尺八分、竹ノ節一ツ籠メテ切レバ、名トス。 [illegible]一ツコメ、[illegible]八[illegible]事、[illegible]クト云フ、節ヨリ下八七寸、上八三寸八分ニ切ルナリ」 好色二代男(貞享、西鶴)五「一節切ノ連レ吹キ」 一節切竹律談題言「皇國ニ於テ、一節切ノ笛ノハジマルヤ、太古神代、天鈿女命、天ノ香久山ノ竹ヲトリテ、[illegible]ニ孔ヲモリテ、[illegible]シヨリト[illegible]傳フ、人ノ世トナリテ、[illegible]ラ[illegible]ニナルハ、[illegible]ノ頃ヨリ、連綿タル事、古キ書中ニ、尺八ノ名アル、是ナリ、其頃ハ尺八ト呼タルモノニシテ、大尺八、小尺八ノ二名アリ、中古ヨリ一節切ノ尺八ト云ヒナシ、今ハ一節切ト呼テ、尺八トイハズ」 和漢三才圖會、十八、樂器類「一節切、按、一節切似二尺八一而短、其長一尺八分、止一節、故名レ之、云云」 古契三娼(山東京傳)「祝阿彌サンハ隱居シヤシタカエ、一節切トヤラ云フ笛ヲ吹キナンスネエ」

ひと-よ-ざけ (名) |一夜酒| 〔一夜ニテ熟シ成ル故ニ云フ〕 (一)〔古ヘニ云ヘルハ、醴ノ一名。 其條ヲ見ヨ。 倭名抄、十六[illegible]「醴、[illegible]、古佐介、一日一宿酒也」 天治字[illegible]、四[illegible]「醪、一夜酒、古佐介」 東宮年中行事、六月「サケヅカサ、ひとよざけヲ奉ル」 (二)今、云フハ、甘酒ノ一名。其條ヲ見ヨ。

ひと-よせ (名) |人寄| (一)人ヲ招キ寄スルコト。又、其手段トシテ演ズル藝。 昔物語、式三番ヲ能ノ如ク摘マシ、其ノ次ニ人寄トテ、和田酒盛一流、前淨ルリニシテ」 (二)次條ノ語ノ略。

ひとよせ-せき (名) |人寄席| 人ヲ寄セ集メテ、落シ話、軍談、音曲ナドヲ演ズル所。略シテ、ヒトヨセ。ヨセセキ。ヨセ。席亭。

ひと-よ-づま (名) |一夜妻| (一)〔始メテ一夜逢ヘル女。一夜ノミ契リシ妻。一夜隱ビアヒシ妻。 萬葉集、十六、廿「吾ガ門ニ、[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

〔**ひと-よ-めぐり**〕(名) |一夜廻| ひとひめぐり[illegible]

ひと-より (名) [illegible] ヒトタビ。一回。
[illegible]
賢ヲ、ひとよりイカガ、合ハセザルベキ」

ひと-ら-し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) (一)人ノ如シ。人メカシ。人間ラシ。又、人ノ道アリ。[illegible]人ノ所業ノ、[illegible]ナドヲ云フ。[illegible]。 落窪物語、二「マロモ、今少シ人らしくナリテ」

ひ-とり (名) |燻爐| 〔火取ノ義〕 (一)〔香爐ノ類、外ハ、木ニテ、内ハ、銅、又ハ、陶ヲ塡メ、上ニ、銅ノ籠ヲ蓋ヘルモノト云フ。[illegible]安房ニテ、今モ火入ヲ火取ト云フ。 倭名抄、十二、[illegible]、[illegible]「[illegible]、比[illegible]」 宇津保物語、藤原君「シロカネノひとりニ、[illegible]ノコツクリオホヤテ、チンヲツトフル[illegible]テ、[illegible]レテ、シタノ思ヒニスエテ、クロホウヲマロガシテ」 源、三十二、梅枝「[illegible]メサセタテマツリ給フ」 榮花物語、三十二、歌合「御ひとり持テナハシマシテ、ソフダキモノ[illegible]ヒテ」 ひとりかへばや物語、一「月ノ濃ヤク[illegible]、火取モタル童ノ、濃キ衵ニ羅ノ汗衫ナンメリ、云云」 (二)ひとりのわらは(火取童)ノ略。 讃岐典侍日記、[illegible]ヨリ、[illegible]、火取、[illegible]アセテ、[illegible]

〔**ひとり**〕(名) [illegible]人 [illegible]ノ約カト云フ〕 一ツノ人。伴ナキ人。ヒタリ。 萬葉集、五[illegible]、[illegible]サレバ、マヅ[illegible]宿ノ、[illegible]ノ花、比[illegible]見ツツヤ、[illegible]フサム」 落窪物語、二、[illegible]一人モナクテ、カハリタル心チノシ侍リ

ツルニ」源、九、葵廿七「常ノ事ナレド、人ひどりカ、アマタシモ、メ事テレバ、ニヤ、タケヒニケハシコガレタリ」大和物語、下「女、云云、其ヲヨバフ男二人ナンアリケル、一人ハ其國ニ住ム男、云云、イマ一人ハ、和泉ノ國ノ人ニナンアリケル」

ひとり (副) 【獨】〔一人ノ義〕(一)〔己レノミニ、伴ナクテ〕字鏡「獨、獨寧也、比止利」字類抄「獨、ヒトリ」萬葉集、十五「シマシクモ、比等利アリ得ル、モノニアレヤ、シマノムロノ木、離レテアルラム」同、一八長歌「山越シノ風ノ、獨居ル、吾ガ衣手ニ、朝タニ、カヘラヒヌレバ」同、十、衣手ニ、アラシノ吹キテ、寒キ夜ヲ、君マサズバ、獨カモ寐ム」「獨行ク」「獨思フ」(二)人手ヲカリズニ。ミヅカラ。「ひどりデスル」

ひどり (名) 【日取】 ヒドルコト。其日ヲ定ムルコト。日程。期日。大經師昔暦、近松作、行榮合「元服ヨシノ日取りモヨシヤ」「旅立ノ日取」

ひとり-あんない (名) 【獨案内】 人ニ問ハズトモ、讀メバ獨ニテ了解セラルルヤウニ作リタル書物

ひとり-あんま (名) 【獨按摩】 自ラ己レガ體ヲ按摩スルコト。又、ソレニ使用スル具。又、ソノ方術。

ひとり-あるき (名) 【獨步】 (一)同行者ナク、身ヒトリニテ、アルクコト。(二)ツキソヒナク、單身ニテアルクコト。

〔**ひとり-うど** (名) 【獨人】〔ひとりひとノ音便〕 ヒトリモノ。ヤモヲ。ヤモメ。名義抄「鰥、鰥、ヒトリウト」著聞集、十六、興言利口「男ニ後レテ、獨ムツナキひとりうとニ候」

ひとり-かご (名) 【薫爐籠】 薫爐ノ上ニ蓋ヒテ、衣ヲカケテ、乾カシ、又ハ、香ヲタキコムルニ用ヰル籠

ひとり-がってん (名) 【獨合點】 又、ひとりがてん。己レヒトリノミ、ウナヅクコト。ヒトリノミコミ。

ひとり-ぎめ (名) 【獨極】 自己ノミノ思案ニテ、定ムルコト。獨斷。

ひとり-ぐさ (名) 【日取草】 躑躅ノ一名。莫傳抄「花咲ケバ、秋カトゾ思フ、ひどりぐさ、日ヲルニ打ツ、色ニマカヘバ」

ひとり-ご (名) 【獨子】 ヒトツブダネノ子。兄弟、姉妹モナク、タダヒトリナル子。萬葉集、六三十「コトトハヌ、木スライモトセ、アリトフヲ、タダ獨子ニ、アルガクルシサ」方丈記「アル武士ノひとり子ノ、六ツ七ツバカリニ侍リシガ」

〔**ひとり-ごつ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ** (自動、四) 【獨言】 次條ノ語ヲ活用シタル語。獨言ヲ言フ。獨語。蜻蛉日記、下、中四「蟲ダニ時節ヲ知リタルヨト、ひとりごつニ」更級日記「コノ男ノカクひとりごつヲ、イトアハレニ、云云」源、二、帚木十一「哀レトモ、打チひとりごたルルニ」同、四十七、早蕨廿七「カヘスガヘスひとりごたレテ」狹衣、三、中四十一「院ノ御方ニテモ、忍ビヤカニテモアリナントひとりごたセタマヘバ」源、廿一、少女四十「老イネド、クヅホレタル心チゾスルヤト、ひとりごちテ」榮花物語、二、様様の悦「御房ノ前ノ櫻ノイトオモシロウ盛リナルニ、ひとりごち給ヒケル」略シテ、ごて。源、四十九、東屋廿二「御ロヅカラごてタマヘル」

〔**ひとり-ごと** (名) 【獨言】 相手ナク、獨リシテ語ルコト。又、ソノ語。獨語。土佐日記、正月九日「カカレド此ノ歌ヲ、ひとり言ニシテヤミヌ」宇津保物語、俊蔭廿「月クマナウアハレナリ、人ノ聲キコエズ、カカル處ニモ住ムラン人ヲ思ヒヤリテ、ひとりごとニ」平家物語、九、一二之懸「季重ニ於イテハ、一引キモ引クマジイモノヲト、ひとり言ヲゾシキタル」

ひとり-じめ (名) 【獨占】 タダ、ヒトリニテ占ムルコト。ドクセン。壟斷

ひとり-じゃうらふ (名) 【一人上臈】 人ノ許サヌニ、自己ダケニテ上臈ト思フコト。自分免許ノ上臈。二議、鈔、上「上臈ヲ心ガクルハ、田舍人ノワザナリ、ひとり上臈トテ、カタハライタキ事也」

ひとり-すまひ (名) 【獨相撲】 敵手ナキニ、己レ獨リニテ、相撲ノ眞似ヲナスコト。鶴岡職人盡歌合、九番、日ハ入テ、月コソ出ヅルニ、ネリイヅレ、ひとりすまひノ、心地ノミシテ」

ひとり-ずまひ (名) 【獨住】〔すまひハ、すみノ延音〕次條ノ語ニ同ジ。

〔**ひとり-ずみ** (名) 【獨住】 獨身ニテ住ムコト。ヤモメグラシ。ヒトリズマヒ。宇津保物語、藏開、下上「世ノ中ニ住ミニクキモノハ、ひとりずみニ勝ルモノナカリケリ」源、五、若紫十四「世ニ心ノシマヌニヤアラン、ひとりずみニテノミナン、マダ似ゲナキ程ト、常ノ人ニ思シナズラヘテ」

ひとり-だち (名) 【獨立】 (一)〔己レ一人ノ力ニテ、立チ上ガルコト〕宇津保物語、嵯峨院三十「宮ヲカシゲニテ、ひとりだちシ歩ミ始メ給フ」(二)他ヲ恃マズシテ、己レ一人ノ力ニテ事ヲナスコト。イッポンダチ。(三)扶クル伴ナキコト。孤立。甲陽軍鑑、十、上、品第廿九「去年景虎ニ隨ウテハ、今年隨ハズシテ、ひとり立ちナラネバ」

ひとり-でに (副) オノヅカラニ。自然ニ。オノヅト。

〔**ひとり-の-わらは** (名) 【火取童】 大嘗會ニ五節ノ舞姫ノ參入スルトキ、薫爐(火取)ヲ持チテ前行スル女ノ童。略シテ、ひとり。枕草子、五、四十六段「なまめかしきもの、云云、ひとりのわらは、小忌ノキンダチモイトナマメカシ」江家次第、十、五節舞姫參入「先女、人持火取、次女一人持レ茵、次舞姫、次火取童入レ戸卽歸」

〔**ひとり-びとり** (名) 【一人一人】 何方ニモアレ、其内ノ一人。宇津保物語「ヒトリ、ヲ、ひとりびとりハ、君ニトゾ思フ」源、三十四、上、若菜、上九十「ひとりびとりツミナキ時ニハ、オノヅカラモテ、ドモアルベカメリ」

〔**ひとり-びとり-に** (副) 【一人一人】 ヒトリゴトニ。一人ヅツニ。各人ニ。竹取物語「コノ人人ノ年月ヲ經テ、カウノミイマシツツ宣フ事ヲ思ヒ定メテ、一人一人ニアヒ奉リタマヒネトイヘバ」大和物語、中「ひとりびとりニアヒナバ、今ヒトリガ思ヒハタエナントイフニ」

ひとり-ぶたい (名) 【獨舞臺】 (一)其役者タダ一人、舞臺ニアリテ技ヲ演ズルコト。(二)其人ノミニテ、萬事ヲ處理シテ、爭價アル場合 (三)競爭者ナキコト。場中ニ敵ナキコト。獨擅場。

ひとり-ぼし (名) 獨法師〔ひとりぼふしノ略〕 次次條ノ語ヲ見ヨ。俳諧古選「花鳥ヤ、散ラバ鳴子ノ、獨りぼし」

ひとり-ぼっち (名) ひとりぼふし(獨法師)ノ音便。次條ノ語ヲ見ヨ。

ひとり-ぼふし (名) 【獨法師】 相手ナク、獨リ取リノコサレテ居ルコト。略シテ、ひとりぼし。孤獨 晴小袖、寛文「ひとり法師、泪心カ、春ノ雨」堀川狂歌集「山寺ノ、獨法師ハ、ウヒコケテ、コロリトヌルカ、苔ノムシロニ」

ひとり-み (名) 【獨身】 どくしん(獨身)ニ同ジ。方丈記「勢アル者ハ貪欲深ク、ひとり身ナル者ハ人ニ輕シメラル」武家義理物語(元祿、西鶴)五「ひとり身トナルコトヲ、親ノフビンニテ、惡カニ行末ノ事ヲ案ジケル」

ひとり-むし (名) 【火取蟲】 諸木ニ生ズル毛蟲ノ羽化セルモノ。大、小、類多シ。

[illegible]アリ、腹、肥大ニシテ、赤キコト紅ノ如シ、或ハ白キモアリ。雄ハ、形、小サシ。雄ハ大キク、コレヲうちすずめ、又、ざ[illegible]
[illegible]ナレ、ナド後ノ世ヲ、カクハ思ハズ」

ひとりむしや [illegible] 他ニ肩ヲ比ブル者ナ[illegible]一人、[illegible] 人武者、イカナル天魔鬼神ナリトモ」 傾城酒呑童子(享保、近松作)一「一人武者保昌ハ、独ガ徒然尋ネント[illegible]タケ、金有タケト勤ムレバ、四天王ノ名取ヲモ、今ノ吾妻ガ下ニ見テ、獨り武者トゾ流行リケル」

ひとりよがり (名) [獨善] 自分一人、イ[illegible]キニナルコト。自讃

ひとりれんが (名) [獨連歌] 一人ニテスル[illegible]、[illegible]ノツラネ、或ヒハ獨[illegible]、[illegible]心得心ノ句」

ひとりわらひ (名) 獨笑 次次條ノ語ニ同ジ。

ひとりゐ (名) [獨居] 々ダヒトリニテ、居ルコト。寡居 名義抄「端座、ヒトリヰ、ウルハシクヰル」 [illegible]トハ、カカルひとりゐ[illegible]フ事タエザリケリ」

ひとりゑみ (名) [獨笑] 々ダヒトリニ[illegible] ルチヤナイガ、飯モ焚イタリ、水仕事、アサヨルタビ

ノ栄シミヲ、溺笑シテ來リケル」

ひ・ど・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [日取] 日[illegible]

ひ・ど・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [火取] 火ニ當テテ[illegible]ク焼ク。

ひどるたま (名) [火取玉] 南蠻、西域等ニ産ズル珠ニテ、潔白光明ニシテ、正午ニ日ニ向ケテ艾ヲ當ツレバ、艾、焼ケテ火ヲ取リ得ルモノナリト云フ。又、ヒトリダマ。火珠 火精 水晶、硝子ヲ中高ニ研リテ、日光ヲ透シテ其高キ處ニ艾ヲ當ツレバ、火ヲ取ルベシ、コレナルカ。又、水取玉アリ、玻璃ノ類、透明ニシテ、月ノ水ヲ取ルベシト云フ、[illegible] 又、ミノトリダマ。水玉 水精 倭名抄、十一九玉類「火精、火珠、比止流太萬、水精、水玉、月珠、[illegible]」 [illegible]錄、火珠、ヒトリダマ、水精ヲ圓形ニスリタル玉ヲ、俗ニ水晶精ト云、云云、之ニテ日輪ノ陽火ヲ取ルベク、月中ノ陰水ヲ取ルベシ、故ニ火どりだま、水どりだまト[illegible]フ、就中陽火トレヤスキ故ニ、火珠ト云」

ひとるゐ (名) [一類] (一)同ジ種類。一種類 (二)[一族] 同ジヤカラ 源、五十、浮舟「此大將殿ノ御ザウノ人人トイフモノハ、イミジキブタウノモノトモニテ、ひとるゐ、コノサトニミチテ侍ルナリ」 榮花物語、十五、疑「コレヲ見給ヒテ、コノ御一類ノ外ノ殿バラ、皆、アルハ不斷經、アルハ朝夕ニツトメサセ給フ」

ひとわき (名) 人別 人ニヨリテ差別ヲツクルコト。 狹衣、二、上四十「立田姫ノひとわきナドシタルニハアラジト見ユル、云云」 伊勢集「ヰルクモノ、人わきモセヌ、モノナラバ、ミヲトナミダハ、ナガレザラマシ」

ひとわた・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [人濟] (悟ノ彼岸ニ渡ラシムル意) 衆生ヲ濟度ス、[illegible]コトモ侍ラヌニ、聞キニクキコトモコソ出デマウデクレト、苦シゲニ思シタレド」 後撰集、十五、雜、一「[illegible]ナリミテ、[illegible]ノ、名ヲ聞ケバ、昔ノ罪モ、今ヤ消ユラン」

ひとわたり (副) [一往一應] (一互(一涉)ノ義) ヒトタビ。イチド。一回 字類抄「一往、ヒトワタリ」 源、廿一、少女廿二「博士ノカヘサウベキフシブシヲヒキ出デテ、ひとわたりヨマセ給フ」 同、[illegible]ハシトママニ、[illegible]給ハヌホド、サモアリヌベキ事ナレド」 同、四十、幻「[illegible]ハテ給フ[illegible]ツハ、如何ナラントスラント思シタリシニ」

ひとわらはれ (名) 人笑 人ヨリ笑ハルルコト。約メテ、ひとわらへ。モノワラヒ 胡盧 源、七、紅葉賀[illegible]「ウケハシケ[illegible]ト聞キシヲ、ムナシク聞キナシ給ハマシカバ、人笑はれニヤトオボシツヨリテナン」 枕草子、八、八十段「サスガニ、ひとわらはれニアラジトネンズル、イトクルシゲナリ」 榮花物語、四、みはてぬ夢「アナ、テヅツ、關白ノ、人わらはれナルコトヲ、云云」

ひとわらへ (名) [人笑] 「人笑はれノ約」 前條ノ語ニ同ジ。 源、九、葵廿「ヨノ人聞キモ、人笑ヘニナランコトト[illegible]」 同、[illegible]ズ人笑ヘナル事ハアリヌベキ身ニコソアメレ」 同、十九、[illegible]、イトホシカレ[illegible]ルヲ、タチ文リテ、如何ニ人笑ヘニヤト聞エタルヲ、イトアハレニ思ス」 [illegible]ニモ、ナリヌベシ、シヒテヲイハン、アルヨバカリモ」

ひとわろ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) [人惡] 人目、惡シ。外聞[illegible] 枕草子、[illegible]九十八段「烏帽子ノサマナドゾ、ナホ人わろき、ナホイミジキ人ト聞ユレド」 源、十五、蓬生十「マサニカクタヅキナク、人わろき御有樣ヲ、カズマヘ給フ人ハアリナンヤ」 同、二、帚木廿「イヅカタニツケテモ、人わろく、ハシタナカリケル御モノガタリカナトテ、ウチ[illegible]カヅラヒ、タドリヨランモ、人わろかるべく」

ひとをさ (名) [人長] 神樂ノ舞人ノ長。にんぢやう(人長)ニ同ジ。古本、江家次第、[illegible]

ひとをれ (名) [一折] ヒトサシ。ヒトフシ。一曲 源、八、花宴三「立チテ、ノドカニ袖カヘス[illegible]ルベキモノトケ[illegible]」

ひな (名) [illegible] [鄙] [illegible] (一)都ノ外ノ地ノ稱。ヰナカ。邊鄙 [illegible] 世[illegible]ル、比奈[illegible]ケリ」 同、十七八廿「天ザカル、比奈ニアル吾ヲ、ウタカタ[illegible]ヲバ、ひな[illegible](陸奥)ト、云ヒテクシキ」 海道記(貞應)「參河國ニ至リヌ、云云、ひなノスミカニハ、月ヨリ外ニナガメナレタル[illegible]」 [illegible] 里、百姓艾安、四夷賓服」

ひな (名) [雛] (ひひな(雛)ノ條ヲ見ヨ) (一)[鳥ノ子ノ小サキモノ。ヒヨコ。ヒナノコ。ヒナドリ。倭名抄、十八廿羽族類「雛、比奈[illegible]」「鶏 比ナノコ閑」 持統紀、六年五月「相撲國司、獻[illegible]」 [illegible]ハ、巣モリナリケリ」 (二)スベテ、小サキ物ニ被ラセテ呼ブ語。(大ナルヲ馬ト云フ

ニ對シ、[illegible]一二三、女兒ノ玩物ニ、小サク人ノ形ヲ作レルモノ。(ひひなノ條ヲ見ヨ) 昔昔物語「昔ノひなハ侍烏帽子ナリ」五元集、春「段ノひな、清水坂ヲ、一日カナ」

ひなあそび (名) 雛遊 〔ひひなあそびノ略〕 ひひな(雛)ノ條ヲ見ヨ。 日次紀事(延寶、黑川道祐)三月「三日、雛遊、今日良賤兒女製ニ紙偶人、[illegible]雛玩之」 其角の句「[illegible]ノ、[illegible]ヒテ、ココヨ、雛あそび」 乙由の句「まま焚キト、云ハレテ嬉シ、雛遊び」

ひなうた (名) 鄙歌 民間ニテ謡フ、ザレウタ。田舎ニ行ハルル流行歌。サトビタルウタ 俗謡 民謡 俚謡 俚歌

ひなが (名) 日永 春ノ晝間ノ永キ時ノ、其時節 ハルナガ 永日 一茶句集「待チ待チシ、日永トナレド、田舎哉」

ひながた (名) 雛形 〔雛ハ小サキ義〕 (一)物ヲ人ニ示スニ便ニセムガ爲ニ、其形ヲ別ニ更ニ小サク象リ造レル物 實物ノ模形。 好色一代女(貞享、西鶴)一「御所染ノハヤリシモ、明ケ暮レ雛形ニ心ヲ盡セシコノカタナリ」 好色五人女(貞享、西鶴)四「雛紙ヲタタミカケテ、雛形ヲ切ラルルコソウタテケレ」 源氏十二段(延寶、近松作)三「ソノ召シ給フお小袖ノ、雛形ウツシ取リタキトノ御ツカヒノタメ、マヰリシナリ」 (二)物ノ手本 カタ 書式 樣式

ひなぎきやう (名) 雛桔梗 又、ヒメギキヤウ 桔梗科ノ宿根草ノ名 原野ニ多シ。莖細ソク、高サ七八寸、叢生シテ枝ヲ分ツ。葉ハ、細ソクシテ互生シ、なでしこニ似テ、短ク薄シ。枝ノ頂ニ花ヲ開ク、桔梗ニ似テ小サク、色モ青紫ニシテ、桔梗ニ似タリ。夏、秋ノ間、花アリ。 細葉沙參

ひなぐもり (枕) 〔日の隱ノ義ニテ、影ノ薄キヲ、うすひ(薄日、碓氷)ニ掛ク〕 碓氷(上野國ノ地名)ノ枕詞。 萬葉集、廿、三十六「[illegible]、[illegible]、[illegible]エシタニ、イモカ[illegible]シク、[illegible]ラエヌカモ」

ひなげし (名) 雛芥子 [illegible]、一種、秋、種ヲ下ス。苗、葉、共ニ小サクシテ、白毛アリ、高サ一尺許リ、花、小サクシテ光ル。單瓣アリ、千瓣アリ、色モ數品アリテ、甚ダ美ナリ。漢名、虞美人草 美人草(各條)モ見ヨ。 麗春花 [illegible]三、四月開花「麗春花、花一重アリ、八重アリ、色緑紅ニ膩紫、開花四月中旬、云云」

ひなざかる (連體) 夷放 鄙離 邊鄙ノ方ニ遠離リテアル 萬葉集、十七、[illegible]長歌「吾ガ思フ君ハ、天皇ノ、遣ハシシママ、夷離、國治ニト、ムラ鳥ノ、朝タチユカバ」 同、十九、長歌「スメロギノ、ミコトカシコミ、夷放、國ヲヲサムト」

ひなさき (名) 〔雛尖ノ義カ〕 (一)烏帽子ノ眉ノ中央ニ、小サク尖リタル處 [illegible]注倭名抄、一「四、[illegible]「按、烏帽子前[illegible]之間、其中央尖高處、呼爲二比奈佐岐」 (二)女子陰部ノ溺孔ノ端ノ突肉 サネ 吉舌 陰挺 吉挺 倭名抄、三「人體類」吉舌、比奈佐岐」 [illegible]名義抄 吉舌、ヒナサキ」 字類抄「吉舌、門、[illegible]、ヒナサキ」 [illegible]注倭名抄、一「四十[illegible]「繫廷孔者、謂[illegible]之中、其上有[illegible]孔[illegible]、端[illegible]陰廷、在此[illegible]孔之上端也、則繫廷、陰廷、可謂比奈佐岐[illegible]、廷、挺也、謂陰中挺出也、今俗呼[illegible]」

ひなし (名) 日濟 借錢ヲ日毎ニ若干ヅツ濟シ行クコト 松屋筆記(高田與清)百十七「日成貸、江戸ニ日成貸トイフモノアリ、ソハ、カシタル金錢ヲ、日日ニ返濟スルヲイフ、成トハ返濟ヲ成スト云ヘルヲ、略セシ語ナリ、建武式目追加ニ、若以[illegible]之儀、可[illegible]高利井日錢等之質[illegible]、トミエタル日錢ハ、日成ノ類ナルベシ」

びな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 無便 びんなし(便無)ノ約。 狹衣、一、下二十五「イカデカ、心ナラマコト[illegible]ハ、びなし、思ホサレン[illegible]」 同、[illegible]「身ニびなきハ、イト[illegible]」

ひなた (名) 日向 日なたノ約 日ニ向ヘルカタ 日光ノアタル處 日ノ照ル處(陰ニ對ス) 日向 暄 陽 字類抄「[illegible]、ヒナタ」 相撲集「サシテコシ、ひなたノ山ヲ、顧ムニハ、目モアキラカニ、見エザラメヤハ」

ひなたぼこ (名) 次條ノ語ノ略 天[illegible]記(正德、近松作)二「春ノ[illegible]ノ野ニ[illegible]ビニ、前ノ面ヒナギワタリ、山ハ[illegible]ノ暖カニ、日向ぼこコソ[illegible]ノ[illegible]」

ひなたぼこり (名) 〔ほこりハ、ほくほくト暖キ意カ〕 冬ノ日ナドニ、日向ニ出デテ暖マルコト ヒナタボコ ヒナタボッコ ウボコリ 日光浴 負暄 今昔物語、十九、第八話「春ノ日ニ成リ、日ウラカニテ、日なたぼこりモセン、若菜モ摘ミナント思テ」 永正五年正月二日狂歌合、一番「今朝[illegible]ラス、日なたぼこりニ、[illegible]ノ、神代ノ春ヤ、立チカヘルラン」

ひなたぼっこ (名) 前前條ノ語ノ音便

ひなつめ (名) 鄙女 〔つハのノ意〕 都ニ遠キ鄙邊ニ居ル女 鄙ノ女 田舎女 神代紀、下二十[illegible]「アマサカル、比奈都謎ノ、イワタラスセト、イシカハカタブチ、カタブチニ」

ひなづる (名) 雛鶴 鶴ノヒナ。鶴ノ子。 榮花物語、六、[illegible]「ひなづるヲ、養ヒタテテ、松ガ枝ノ、カケニスマセン、コトヲシゾ思フ」 同、廿、御賀「雛鶴ノ、オリ居ル山ヲ、見ツルカテ、コレヤ千歳ノ、タメシナルラン」 公任卿集「ひなづるヲ、巣立テシ程ニ、老イニケリ、雲井ノホドヲ、思ヒコソヤレ」

ひなど (名) 曉 アカツキ アケガタ 倭訓栞「ひなどもらむ、朝日ノ出ルヲイフ也、ひなハ邊鄙ヲイフ詞ニシテ、和名抄ニ、邊鄙ヲ、アヅマヅト訓セル[illegible]、東方既白トイヘルカ如シ、遠近ノ、旅人今ヤ、タナヌラン、東ノ山ノ、ひなどシラメバ」

ひなど (名) 陰門 〔姫門ノ轉〕 女子ノ陰部 ホト [illegible]

ひなどり (名) 雛鳥 [illegible] 同ジ 其[illegible]ノ[illegible]見[illegible] [illegible]ノ、ナゾヤ待レユク、ひよト鳴クラン」

ひなのみやこ (名) 鄙都 「京ヨリ遠ク隔リタル鄙ノ都ノ意」 諸國ノ國府ノ稱ト云フ。トホノミカド。 萬葉集、十八、廿「アマザカル、比奈乃美夜故ニ、アメ人ノ、カクモヒスラバ、生ケルシルシアリ」

ひなは (名) 火繩 竹ノ肉ヲ叩キテ繩トシタルモノ。(上等ナルハ檜ノ皮ヲ用キル) 火ヲ點ジテ永ク消エズ、鳥銃ノ發火ナドニ用キル。 書言字考節用集、七、器財門「火繩、ヒナハ」 雍州府志(貞享、黑川道祐)七、上[illegible]門「火繩、鐵砲火繩所々有之、[illegible]」 北條五代記、九、[illegible]「[illegible]鐵砲ニ火繩ヲハサミ」 卯月の[illegible](近松作)中「火繩ノ[illegible]出シ、[illegible]ヲ少シ押[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ニハ、[illegible]、火繩ニ移シ、ヤスヤスト、煙草ニ氣ヲゾ休メケル」

ひなはうり (名) 火繩賣 昔、芝居ナドノ興行場ニテ、煙草ノ火ノタメニ、火繩ニ火ヲ付ケテ、客人ニ賣ルヲ業トスルモノ。きせる賣トモ云フ

ひなはじゆう (名) 火繩銃 次條ノ語ニ同ジ。

ひなはづつ (名) 火繩筒 火繩ノ火ヲ用ヰ、發火セシメテ放ツ銃 即チ、古製ノ鳥銃。ヒナハジュウ。

ひな・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) 鄙風 〔鄙帶ぶノ約カ〕 鄙ノ風ヲナス。キナカブ。田舍メク。(みやぶノ反) 伊勢物

[illegible]ナルベカリケル、玉ノ緒バカリ、歌サヘゾ、ひたびタリケル」 [illegible]、六、末摘花「イヨイヨアヤシウひたびタル限リニテ、見習ハヌ心地ゾスル」同、四十九、東屋[illegible]「イトモノツツマシクテ、マタひたびタル心ニイラヘキコエン事モナクテ」 方丈記「猶ノ手ブリ忽チニ改マリテ、タダひたびタル武士ニ異ナラズ」「ひたびタル聲」ひたびタル姿」

ひなぶり (名) 【夷振・夷曲】 (一)〔樂府ニ[illegible]〕、[illegible]ノ曲、其節ノ[illegible]、[illegible]。別チ[illegible]、何[illegible]ト云フ、其一曲ノ名。神代紀、下、九ニ「天ザカル、[illegible]ノ、イワタラス、云云」ノ歌アリテ、夷曲トス。此歌ノ初ニ、鄙ト云フ語ブルヲ採リテ、總[illegible]トストモ云フ、[illegible]ノ歌ナドト云フハ、非ナリ) 古事記、上、[illegible]「天ナルヤ、オトタナバタノ、ウナガセル、玉ノミスマル、云云、此[illegible]夷振也」神代紀、下[illegible] [illegible]

ひなべ (名) 【鄙邊】 ヰナカノ方。僻遠ノ地。村里。 萬葉集、六ニ十長歌「アマザカル、夷鄙[illegible]マツチノ山ユ、[illegible]リコヌカモ」

ひなべや (名) 【引抜屋】 數多ノ家ヲ、一棟ニ連ネ造リタルモノ。連房

ひなほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【日直】 天氣晴ル。日和ニナル。 [illegible]「日和ナントノ日和ニナリヌルヲ、畿内近國ニテモ、日なほるト云フ、東國ニテ、俄ひよりト云フ」

ひなまつり (名) 【雛祭】 ひひな(雛)ノ條ヲ見ヨ。 曾我虎磨(寶永、近松作)中「雛生ノ三日ハ[illegible]ノ節句[illegible]」 [illegible]集(几董)「雛店ヤ、タンスノ上ノ、ひな祭」

ひなみ (名) 【日次】 (日竝ノ義) (一)日記ナドニ記ス朔日、二日、三日ナドト日ノ[illegible]。日日。 [illegible]ノ[illegible]モノス ルコト。 夫木抄、十八、鷹狩「今日イクカ、日なみノ御狩、カリクラシ、カタ野ノヲ野ヲ、ユキカヘルラン」「日次紀事(延寶、黑川道祐)」 (二)日ノヨシアシ。日ガラ。 [illegible]今日ハひなみモヨウゴザル[illegible]好色一代男(天和、西鶴)三「其夜ハ辻堂ニアカシテ、明日ノ日次ノ[illegible]」

ひなみ・ぶら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 【日竝知】 (日嗣(天皇)ノ竝ニテ、皇位ニ立タズシテ、朝政ニ當ル義) 皇太子ヲ日嗣皇子ト稱シ、其攝政シタマフヲ、日竝知皇子ト稱シマヰラス。

ひなん (名) 【非難・誹難】 非ヲ難ズルコト。過失ヲ詰ルコト。非ヲ打ツコト。批駁[illegible]スルコト。 [illegible]一「非難打タレヌ至極ノ理」

ひなん (名) 【避難】 災難ヲ避ケテ、他所ヘ立退クコト。 [illegible]

びなん (名) 【美男】 (一)顏色ノ美シキ男。好男子。美男子。 [illegible]

びなんかづら (名) 【美男葛】 (一)一名、サネカヅラ。サナカヅラ。又、美人草。木蘭科ノ山野自生ノ常綠蔓性草本。又、庭園ニモ栽培セラル。葉ハ長楕形ニシ[illegible]

[illegible]澤ヲ有シ、互生ス。夏、葉ノ腋ニ帶淡黃色ノ小花ヲ下垂シ、實ヲ結ブ、小[illegible]ニ塗ル。南五味子 ごみし(五味子)ノ[illegible]ヲモ見ヨ。 [illegible]野、甲斐等ノ山中ニアリ、云云、南五味子ハさねかづらト云フ、[illegible] (二)さねかづらノ莖ヲ細カク切リテ、筒ニ入レ、水ヲ[illegible]トキハ、粘汁出ヅ。ソレヲ名トスト云フ。髮付油ナキトキ、コレヲ用ヰテ髮ニツケシト[illegible] [illegible]子かづらニテ堅メ」 二た車(正保)「春風ニ、岸ノ柳ノ、アラヒ髮」びなんかづらハ、乳母ガ [illegible]

びなんせき (名) 【美軟石】 前條ノ語ノ(二)ニ同ジ。 和漢三才圖會、九十六、蔓草類「五味子、[illegible]」 [illegible]北條五代記、三「[illegible]ハびなんせきニテ[illegible]クツケアゲ給ヘリ」

ひなもり (名) 【夷守】 戍ヲ置キテ、邊徼ヲ守ルコト。又、其者。 景行紀、十八年三月[illegible] [illegible]

ひならず (副) 【不日】 日ヲ經ズニ。近キウチニ。トホカラズ。不日。 詩經、大雅、[illegible]

ひなら・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ (自動、下二) 【日竝】 日、カサナル。 萬葉集、六ニ十「茜刺ス、日[illegible]竝ニ、吾戀ハ、吉野ノ川ノ、霧ニ立チツツ」

ひならべて (副) 【日竝】 日ヲ竝ベテ。日ヲ重ネテ。 [illegible]ノ意、夜竝而モブリ」 [illegible] マセト、チハヤブル、神ノ社ヲ、祈ヌ日ハナシ」

ひにく (名) 【皮肉】 (一)皮ト、肉ト。 [illegible]書、西域傳、下「今邊塞未正、闌出不禁、障候長吏使[illegible]」 [illegible] 得吾肉、云云」 (二)俗ニ、人ノ身ニ切ナルコト。(打付ケナル非難ナド) 「皮肉ヲ言フ」 (三)意地ワルキコト。ツケツケナル[illegible]

ひにく (名) 【脾肉】 [illegible]

ひにけに (副) 【日氣】 (け(來經)ノ條ヲ見ヨ) 日ニ日ニ。ヒゴトニ。毎日[illegible] 萬葉集、十九[illegible]イツトカ我ヲ、待ヒ待ツラム」 同、十五「我宿ノ、クスハ日殊、イロヅキヌ、來マサヌ君ハ、ナニ心ゾモ」 同、四ニ十「吾ガ命、全ケム限リ、忘レメヤ、彌日異ハ、思ヒマス[illegible]」 [illegible]川、心ユ[illegible]、月ニ日[illegible]死スル、水日異吹ケバ、水莖ノ、岡ノ木ノ葉モ、色ヅキニケリ」

ひにそひて (副) 【日[illegible]】 日ヲ經ルニツレ、日マシニ。日ニ日ニ。ヒニソヘ

テ [illegible]、[illegible]、ナラノ[illegible]、日にそひて、[illegible]ヨリ西ノ、ソラゾニクナキ」

〔ひにそへて（ヒ・ニ・ソ・エ・テ）（副）［日添］前條ノ語ニ同ジ。[illegible]、十四、下、[illegible]日にそへて、[illegible]ヨワリ給フサマニノミ見ユレバ」續千載集、十、釋教「日にそへて[illegible]、[illegible]、ツゾ、[illegible]ミマサリケル」新拾遺集、二、春、下「日に添へて、立チゾ重ナル、[illegible]吉野ノ、ヨシノノ山ノ、花ノ白雲」

びにのかみ（名）［鬢］〔鬢の髮ノ轉〕ヒゲ。ホホヒゲ。字[illegible]、[illegible]也、[illegible]乃[illegible]」

ひにん（名）［非人］〔元ト貧人ト書ケリ。〕非人トハ、惡行アリテ人間ニアラヌ者ノ名ナリ（[illegible]）（一）佛教ノ語。人ニ非ザルモノ。即チ、天龍八部、夜叉、惡鬼ナドノ稱。法華經、提婆品「天龍八部、人與非人」[illegible]無[illegible]非人[illegible]比[illegible]」（二）身體ノ不完全ナルモノ。カタハ。[illegible]、非人[illegible]、[illegible]「[illegible]非人」（三）罪人、又ハ、罪人ノ遺種ノ稱。今物語、「[illegible]門ヲ[illegible]破リテ、入リ給ヒテ[illegible]取リテ給ヒキ、云云、多クノ非人[illegible]ノ如キ[illegible]ノ破レヌル[illegible]心ノママニ[illegible]ニ[illegible]去リニ」[illegible]、十三、[illegible]九年七月、罪人[illegible]、[illegible]、[illegible]非人[illegible]ノ[illegible]、十、下、第十、五十條「壬生忠岑ハ舍人ナレドモ、古今ノ撰者ニツラナリ、山田法師ハ非人ニシテ、同ジク集ヲケガス」（五）賤民ノ一種。罪人ヲ送致シ、刑屍ヲ埋葬スルナドノ賤業ニ從事スルモノ。江戸時代、平民ノ零落シテ袖乞ナドスルモノハ、非人ノ羣ニ入リ、非人頭ノ支配ヲ受クルモノトス、若シ[illegible]引上ゲタル旨、非人頭ヘ言出デ、ソレヨリ[illegible]ノ長吏ニ證文ヲ出セバ、平民ニ復スルコトヲ得シトゾ。〔江戸ノ非人頭ハ、松右衛門、善七ト云ヒキ　心中[illegible]（享保、三[illegible]）上、私、人ヲ[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ニ[illegible]シテ裏家住、死ンダ跡デハ袖乞非人ノ飢死モナサレウカト是ノミ[illegible]サ、私トテモ[illegible]、一ツ」

ひにん（名）［否認］打チケスコト　ミトメザルコト。承認セザルコト。否定。

ひにん（名）［避妊］妊娠ヲ避クルコト。人工的ニ懷妊ヲ避クルコト。

ひにんがしら（名）［非人頭］乞食ノ頭。江戸、日本橋南北ニテ持場ヲ別チ、北ハ善七、南ハ、松右衛門ナリキ、常ハ、慶弔ノ家ニ、千分ヲシテ、米錢ヲ乞ハシメシト。記事條例、六十七、下、非人名目、井ビニ善七起立[illegible]ニ付、左ニ[illegible]申上候「慶長十[illegible]、[illegible]中、町御奉行[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]之[illegible]、非人頭被ニ仰付ニ同、同、上「天保十四卯年十月廿九日、淺草彈左衞門申上候、私支配、品川非人頭松右衞門手下[illegible]、云云」

びにらう（ビ・ニ・ロ・ウ）（名）［檳榔］びんらう（檳榔）ニ同ジ。天治字鏡、七「[illegible]、比[illegible]良[illegible]」

〔ひね（名）［晩稻］〔干稻（ヒイネ）ノ約〕[illegible]、稻、[illegible]倭名抄、九「[illegible]、晩稻、比[illegible]、云云、[illegible]久[illegible]乃[illegible]」字鏡抄「晩稻、ヒネ」

〔ひね（名）［陳］前條ノ語ノ轉カ。穀ノ、去年以前ニ收穫セルモノ（今年ノ新米ニ對ス）ヒネマイニ、フルゴメ。古米。[illegible]倭名抄、九、[illegible]「今人[illegible]、[illegible]、比[illegible]」

ひね（名）［老成］モノノ熟シタルコト。久、古ビタルコト。又、ソノモノ。内宮儀式帳、[illegible]、[illegible]、[illegible]」和泉[illegible]、[illegible]、孔舍衙坂の[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]の日根郡に[illegible]、[illegible]名「日根」ニ[illegible]、老成」[illegible]古、ヒネ」

❖ひねくる・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）（一）拈（ヒネ）リ轉ク。拈リテ弄ブ。［把玩］（二）理窟ナド、樣樣ニ言ヒマハス。（三）心、クネリテ、[illegible]、ネヂケル。［乖拗］

❖ひねくれる（動）前條ノ語ノ自語。

ひねこびる・ビル・ビレ・ビ・ビ・ビヨ（自動、上二）ヒネタルサマナリ。コマシャクレル。マセル。[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]オトサシメラル、云ム、其ノサマ[illegible]、[illegible]カシケレドモ、モテナシガラニ、[illegible]」

❖ひねこびれる（動）前條ノ語ノ自語。[illegible]ノ條ヲモ見ヨ。

〔ひねずみ（名）［火鼠］〔漢名ヲ文字讀ニシタル語〕火山ニ棲ムト云フ鼠。其毛ニテ火浣布ヲ織ルトいふ。火浣布（カハゴロモ）ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、十八、毛羣名「火鼠、比[illegible]三」竹取物語、ひねずみノ[illegible]ト云フナルモノヲ、[illegible]ヒテオコセヨ」[illegible]、十七、[illegible]、ひねずみノ思ヒ、片時ニ消エタルモ、イトアヘナシ」

ひねのおろ（名）［日根野錏］錏ノ製ノ、板ヲ絲ニテ綴ヂズシテ、[illegible]ネタルモノ。本朝軍器考[illegible]、[illegible]、上[illegible]代ニ日根野[illegible]ト云アリ、形小サクシテ、鉢ツケヨリ菱ヌヒ板ニ至ルノ間、丸キフクラミナク、下ニ[illegible]ルヲ云、是日根[illegible]ノ[illegible]ガ制シタル形也ト云」

〔ひねひねし・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）ヒネタルサマナリ。フルビタリ。盛リ過ギタリ　萬葉集、十六、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]稻ヲ、倉ニ籠メテ、アナ干稻干稻し、吾カ戀ラクハ」

ひねまい（名）［陳米］陳（フル）キ米。古米。ひね（陳）ト云フニ同ジ。

ひねん（副）［比年］トシドシ。比歲。年年（ネン）[illegible]、[illegible]、古今[illegible]、[illegible]、[illegible]和序、[illegible]、比[illegible]」史記、[illegible]「[illegible]、比[illegible]」（[illegible]本、作、久）[illegible]、[illegible]

〔ひねもす（副）［終日］［盡日］〔晝（ヒ）ノ音（ヘ）ガ盡ノ約略ト云フ、ひめもすトモ云フ、夜もすがらニ對ス〕朝ヨリ夕マデ。日一日（ヒトヒ）[illegible]、ヒメモス、[illegible]名義抄「盡日、ヒネモス、ヒメモス、終日、ヒメモス」萬葉集、九[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]、[illegible]、[illegible]本[illegible]ニ[illegible]ハセム、トホクナユキソ、[illegible]ニ、住ミワタリナケ」[illegible]、十八、[illegible]ノ[illegible]、コキタモトホリ、比[illegible]ニ、見トモ厭クベキ、浦ニアラナクニ」伊勢物語、八十四段「斷ル程ニ、雪コボスガ如ク[illegible]リテ、ひねもすニヤマス」土佐日記、二月四日「[illegible]レトモ、ひねもすニ[illegible]」[illegible]、上「別ルベキ、コトモアルモノヲ、ひねもすニ、待ツトテサハ、[illegible]キツレカ」[illegible]、十九、[illegible]、[illegible]年三月、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]乃、[illegible]右、[illegible]、[illegible]「ひめもすニ、[illegible]ラム[illegible]ル[illegible]ノ[illegible]ハ、ケニ[illegible]（[illegible]ニ、[illegible]リモシメ

ひねもの（名）［老成者］物事ニ熟シタル者。又、[illegible]者　[illegible]、[illegible]、[illegible]事「カヤウノひね者ヲバ、頼ヒナクノシ寄リテ、小首ゼメ[illegible]メテ、[illegible]ココメテ、云云」

ひねり（名）［拈］（一）ヒネルコト。ヨヂリマハスコト。（二）武器ノ名。そでがらみノ類。ネヂ。さすまた（指股）ノ條ヲ參見セヨ　室町殿[illegible]、[illegible]、[illegible]ハ[illegible]、或ハひねり、コトチナトニテ、間近クサシ詰メ生捕リニセント、云云」（三）尋常ニ異ナリテ、ネヂクレタルコト（四）紙包ノ上部ヲ拈リタル祝儀、又ハ、賽錢。（五）相撲ノ手。腕ヲ以テ敵ヲ捻チ倒スコト　其手ニ十二種アリ　捻手　古今相撲[illegible]、下、末、四十八手分別「捻十二、頭捻（ヅヒネリ）、[illegible]捻（ケヒネリ）、[illegible]捻（カイナヒネリ）、[illegible]、[illegible]、[illegible]捻（ヨツデ）、[illegible]、[illegible]、[illegible]捻、[illegible]、下[illegible]カ[illegible]草、[illegible]、[illegible]捻、[illegible]、小[illegible]、[illegible]、[illegible]」[illegible]河内通（享保、近松作）五「十二ノひねり、十二ノ投ゲ」

ひねりいだす・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［拈出］心ニ種種ニ案ジ出ス。案出ス。歌ナドニ云フ　土佐日記、二月[illegible]日「[illegible]ノ[illegible]ク ひねり

出シテ、諸シト思ヘルヲヲ、云云」 同、二月七日「辛クシテ、アヤ[illegible]」

ひねりかさね [illegible] 袖口ノ少[illegible] 狩襖」 撿長記、十六、三位入道殿御裝束「生衣ノ捻重ね二、黄ナル大口、薬草黄色ノ直垂ヲゾ着タリケル」 新六帖、五「ヨヲヤスミ、民ノワザラヒ、カヘリミテ、[illegible]」 [illegible] 正八夏ノ衣、又、狩衣ニモ若キ人多着用御座候、袖口ノ少シオクニテ、裏表トヂカサネ、ハタヲひねり申候、[illegible] 宗家ノ口傳モ有之候」

ひねりかへし (名) [捻返] 陶器ニ云フ語。みかへし(見返)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

ひねりぎやう (名) [捻狀] ひねりぶみ(捻文)ノ條ヲ見ヨ。

ひねりどめ (名) [捻止] 陶器ノ底。(いとぎりニ非ズ)

ひねりぬひ (名) [捻縫] 衣ノ縫ノ捻リタルモノ。 天治字鏡、十二 廿九「綖、比禰利奴比」

ひねりふくさ (名) 捻和巾 拈帛紗 [illegible] 又、ネヂフクサ。ネヂリフクサ。金錢ヲ入レオクモノ、[illegible]絹布ノ製ナルベシ。 好色一代男(天和、西鶴)四「武家奉公ノ女ニ、ひねりふくさヨリ[illegible]カネ取出シ、云云」 [illegible] (紀還)「ムヅカシキ、ねぢり和巾モ、ヒトムカシ」(元[illegible]

ひねりぶみ (名) [捻文] 書狀ノ作リヤウノ名。古式ナルハ、一重ニ狀ヲ書キ、巻キテ其上ヲ禮紙ヲ巻キ、其上ヲ白紙ヲ以テ包ム、コレヲ表巻ト云ヒ、表巻ノ上下ノ狀ヨリ餘リタル分ヲひねリ[illegible] オクヲ、ひねり狀ト云フ。 四季草、秋草(伊勢貞丈)下、雑事「書札禮之事、一、書札ノ禮、今世ハ[illegible] タル分ヲひねるナリ、(ひねり様アリ)、捻リタル所ヲ、[illegible] リ、(上下同ジ) 此表巻ニ名書ヲスルナリ、是ヲ式ノ[illegible]狀ノ頭計ニ捻ルナリ」

ひねりぶみ (名) [短籍] [捻文ノ義] 數枚ノ短籍ニ字ヲ書キ、捻リオキテ、人ニ探リ取ラシムルモノ。探鬮ノ類。又、タンザク。 齊明紀、四年十一月、[illegible] 謀反之事一 書紀通證、三十一、齊明紀「短籍、云云、此今俗所謂探鬮也」[illegible] 隨二其字一而賜レ物」(後世ノ福引ナリ) 宇津保物語、祭使 三十「日ニ一タビたんざくヲ出シテ、ヒトケノ飯[illegible]カイトリ」

ひ・ねる・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [拈] 尋常ニ異ナリテネヂク。一風流ヲナス。一風、變リタルコトヲナス。拗 浮世風呂(文化、[illegible])[illegible]行物ナル哉」

ひ・ねる・ネル・ネレ・ネ・ネ・ネヨ(自動、下二) [老成] ヒネコビテアリ。フルビテアリ。年ヲ經タリ。マセル。 心中萬年草(寶永、近松作)上「[illegible]ひねて、見ラメ心ノ花之本」 子息ハ[illegible]

[illegible] メントスレバ、枝折レ枯レシボムガ如シ」

ひね・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [拈] [撚] [捻] [扭] [illegible] ヒネル、捻、ヒネル、撚、ヒネル」 天治字鏡、十八「撚、比禰留」 落窪物語、一「物ヌフ事ヲ習ヒケルガ、イトヲカシゲニひねりヌヒ給ヒケレバ」 宇治拾遺、一、第六條「マメヤカ物ヲ、下ノ袋ヘひねり入レテ」「紙[illegible] ス。マハス。 回轉 落窪物語、二「ハヒ寄リテ、錠ひねり給フニ、[illegible] 五十六[illegible] ヲひねる」首ヲひねる」 (三)試ミル。考ヘメグラス。 五十年忌歌念佛(寶永、近松作)上「ヲヲ、男ヂヤモノ、迴シヲセイデヨイモノカ、若イ時ハ、小相撲ノ一番モ捻ッタオレヂヤ」

ひのあし (名) [日脚] (一)日カゲ。ヒザシ。日光。 [illegible] 上モナク、アバレタレバ、ひのあし程ナクサシ入リテ」 (二)日ノ歩ミ。ヒアシ。 卯月の紅葉(寶永、近松作)[illegible] 問フベキ占ノアレバ迚、マタ日の足モ南ヘト、羅ノ息杖息ツカズ、走ラセテコソ急ギケレ」

ひのあめ (名) [火雨] (一)[illegible] (二)火ノ粉ノ雨ノ如ク降ルモノ。 俗語考「佛家ノ俗說ニ、劍ノ山ヲ越エテ、火の雨ヲ七日夜[illegible] 鱗ヲフルヒ焔ヲフラシ、云云、鳥居ノ笠木ヲクルクルクル、クルリクルリトヒンマトヒ、虚空ニ向ッテ吐ク息ハ、タダ火の雨ノゴトクナリ」

ひのいへ (名) [火宅] [くゎたくノ訓讀] くゎたく(火宅)ニ同ジ。 宇津保物語、嵯峨院 三十九「出ヅトセシ、身ダニ離レヌ、火の家ヲ、君水ノ尾ニ、イカデ住ムラン」

ひのいり (名) [日入] 夕陽ノ沈ミ入ルコト。日ノ西ニ傾キ入ルコト。日ノ落ツルコト。又、ソノ刻限。イリアヒ。 日沒 曠野集「日の入りや、月ニ見テ行ク、桐ノ花」

ひのうち (名) [日中] 日ノ出ヨリ、日ノ入ルマデノ間。[illegible] クリ明ケヌルト、宵ク寝ルルト」

ひのえ (名) [丙] えと(干支)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

ひのおまし (名) [晝御座] 清涼殿[illegible] リ、平敷ノ御座ニテ、主上、晝、坐シマス所。[illegible] 上「起二晝御座一入レ自二夜御殿南戸一(當二東戸一今)立給、陪膳女房取二御酒二追、從二東廂御障子一(參二御作所一供[illegible] 御簾オロシテ、人人出テテ見ル」

ひのおもの (名) [日御物] 天子ノ、日日ノメシアガリモノ。日日ノ供御。日ノ御供[illegible] 宇津保物語、初秋 廿「御臺四ツタテテ、ひのおものキコ[illegible]

ひのかぶら (名) [日野蕪菁] 近江國、犬上郡、日野村ヨリ産ズ。天王寺蕪菁(其[illegible]

ひのかみ (名) [日神] 天照大神ノ申[illegible]

音樂ヽ日神之御子ニ」用明即位前紀、以ニ酢香手姫皇女ハ拜ニ伊勢神宮ハ奉ニ日神祀ニ」

ひのからす (名) 【日烏】 太陽ノ中ニアリト傳フル三足ノ鳥。轉ジテ、太陽ノ稱。金烏。 平家女護島(享保、近松作)四、舟路の道行「海面ヲ走ル舟ノ月ヲ越エ、暮レテハ岡クル日の烏、カウカウタル海ノ原」

ひのき (名) 【檜木扁柏】 〔火の木ノ義。檜(クヮイ)ノ字ハびゃくきんナリ〕 ひ(檜)ニ同ジ。トミグサ。 天治字鏡、七「檜、楅葉松身、比乃木」 神代紀、上四「檜可ニ以爲ニ瑞宮ニ之材ニ、被可ニ以爲ニ顯見蒼生奥津棄戸將臥之具ニ」 盛衰記、十五、鏑折笛事「御堂造營ノ爲ニトテ、檜木ノ材木ノ所望アリケルニ、砂金千兩ニ、檜木ノ材木ヲ進送、云云」

ひのきぶたい (名) 【檜木舞臺】 (一)檜木ニテ床ヲ張リタル能、及、歌舞伎芝居ノ舞臺。江戸ノ堺町、葺屋町、木挽町ノ三座ノ芝居ニ云フ。官芝居ナドニハ、云ハズ。 傾城酒呑童子(享保、近松作)四「檜木舞臺モ成就シ、今日コソ此處ヲ晴レノ能」 (二)自家ノ伎倆ヲ見ハスニ適當スル場所。 西洛木、下の喉「アア檜木舞臺ヲフンデ、スレカラシタル身ノハテニ」

ひのくち (名) 【樋口】 古クハ、樋(ヒ)。又、樋(イリ)。堰(ヰセキ)ノ口ニ戸アリテ、水ヲ出シ、又ハ塞ゲ口。又、江川ヨリ水ヲ引ク伏樋(フセヒ)。水門。閘。 和漢三才圖會、五十七、水類「水閘、按、如値ニ洪水ニ溢ニ田圃ニ則閉、閘去ニ水一也」 武年中行事「ひの口ヨリ七タビマヰラス」 艶姿女舞衣(安永、竹本三郎兵衛等)酒屋の段「フフ、道理ジャ宗岸殿ト、跡ハ詞モナイジャクリ、妻モお園モ一時ニ、四人カ涙、高水ニ、樋の口開ケシ如クナリ」

ひのくちまもり (名) 〔樋口守ノ義〕 鳥ノ名。みぞごゐ(溝五位)ニ同ジ。

ひのくるま (名) 【火車】 (一)地獄ニアリト云フ火ノ燃エツキタル車。惡人ノ亡魂ヲ載セテ地獄ニ運ビ、呵責スト云フ。くゎしゃ(火車)ノ條ヲモ見ヨ。 盛衰記、廿六、平家可亡夢事「盧遮那佛燒キ亡シ給ヘル咎ニ、太政入道迎ヘ取ルベキ火車ナリ」 蟬丸(元祿、近松作)五「息絶斷臨終ノ嵐ニ、貪慾私慾ノ火の車、業障ノ雲ニ、轟キ譟ヒ行ク時ンバ、日頃ノ下人モ隨ハズ、金銀衣服モ身ニ付ズ、無間奈落ニ眞逆サマニ落ツルコト、三羽ノ征矢ヨリイト早シ」 (二)俗ニ、極貧ニ苦シムコト。飢火

ひのくれ (名) 【日暮】 日ノ暮ルル頃。夕ツガレ。夕刻。夕暮。 萬葉集、十四「比能具禮ニ、碓氷ノ山ヲ、越ユル日ハ、夫子(セナ)ノガ袖モ、サヤニ振フシツ」 夫木抄、廿四「日の暮れニ、オホヤ河原ヲ、ワケ行ケバ、菅藻ガ下ニ、ククヒ鳴クナリ」

ひのけ (名) 【日氣】 太陽ノヒカリ。日光。 萬葉集、十六、長歌「足曳ノ、コノ片山ノ、モムニレヲ、イホエハキタレ、天光ルヤ、日乃異(ヒノケ)ニ干シ」

ひのけ (名) 【火氣】 (一)火ノアタタカミ。クヮキ。ホノケ。又、ケムリ。 曾丹集「富山、雪ハヒマナク、降リシケド、火のけヲ近ミ、溜ラザリケリ」 (二)ヒダネ。

ひのこ (名) 【火粉】 火災ナドノ火ノ飛ビ散ルモノ。飛火。火花。火星。火片

ひのこし (名) 【火輿】 古へ、葬禮ニ用キシ火ヲ點ジタル輿。 倭名抄、十四「葬送具、火輿、蠟燭輿、火輿」 官本雜例「火輿、輿内立ニ小臺ニ居ニ油坏於其上ニ明ニ火、駕丁二人、布衣烏帽子著ニ當色ニ荷レ之」 榮花物語、一、月宴「奉リ給ヘリケルモノノサマナドノ、イミジサニ、香ノ輿、火の輿ナド、ミナアルワザナリケリ」

ひのこと (名) 火事 くゎじ(火事)ニ同ジ。 右京大夫集、上「五セチ(トセ)ノホト、内裏ニ近キ火のこトアリテ、ニアブナカリシカバ、」

ひのざう (名) 【脾臟】 又、ひざう。ひ(脾)ニ同ジ。 傾城酒呑童子、(寶永、近松作)四「蓄花微ニ引出ス、脾の臟強キ大音ニテ」

ひのさうぞく (名) 【晝裝束】 又、晝裝(ヒノヨソホヒ)。束帶ノ一稱(衣冠、又ハ、直衣ナルヲ、とのゐ裝束ト云フニ對ス)。 蜻蛉日記、下、上二「春日祭、云云、ウルハシウひのさうぞくニ、先駈アマタ引キツレ」 枕草子、十一、百三十八段「ひとへは、シロキ、ひのさうぞくノ紅ノヒトヘ、アコメナド、カリソメニキタルハヨシ」 宇治拾遺、十二、第十五條「晝の裝束、麗シクシタル人ノ、タチハキ笏トリテ、二三人ハカリノキテ、カシコマリテヰタリ」

ひのさわぎ (名) 【火騷】 火災(クヮ)ノサワギ。 蜻蛉日記、下、中「チカウ火のさわぎス、驚キサワギスルホドニ、イト疾ク見エタリ」

ひのし (名) 【熨斗】 〔のしナリ、火ヲ加フ、熨斗蛇(ノシアハビ)ノのしニ別ツカ。沖繩ニテ熨斗(ウットウ)〕 古クハ、ノシ。布帛ノ縮ミナドヲ熨(ノ)ス具。金屬製ニテ、形、杓ノ如ク、底ニ火ヲ盛リテ、其底ノ熱ニテ熨ス、其他、形、種類多クシテ、近來ハ電氣熨斗ナドアリ。 井筒業平河内通(享保、近松作)業平歌念佛道行「肌ノ皺ノス火のしガナ」

ひのした (名) 【日下】 (一)天ガ下。世ノ中。世界。地球ノ上。 謠曲、攝待「アラ恐ヤ忠信ハ、日の下ニ於テ隱レマシマサズ」「日下開山」 (二)日附ノ下。書狀ナドノ、月日ヲ記シタル下。 和簡禮經、五「日之下御判之事、宛所アレバ、御判必日下也」 宗五大雙紙、下「書札之事、兩判ノトキ、表卷ニハ、等輩ノ時ハ、右筆ノ人位高ク共、日の下ニ名ヲカクベシ」

ひのしたかいさん (名) 【日下開山】 武藝、相撲ナドニテ、天下ニ比スベキモノナキコト。日本一ノ意ナラム。寛永頃ノ力士、明石志賀之助ト云フモノ、日下開山横綱ノ稱アリト言ヒ傳フ 近世奇跡考、四、明石志賀之助事「志賀之助ハ、大力ノ相撲取ニテ、寛永中ノサカリニヘタルモノ也、同ジ時、仁王仁太夫ト云フ者アリ、云云、京ノ相撲ニ、云云、東ノ大關ハ仁王仁大夫、西ノ大關ハ明石志賀之助也、云云、行司團扇ヲトリケレバ、兩人立向ヒ、シバシ位ヲ見合テ、ヤト一聲サケビ、五ニ組テモミアフニ、云云、仁大夫、カヤマサリケン、志賀之助ヲ引ムスビ、ツトさし上ケテ投クルト見ユ、云云、既ニ志賀之助、早業ノ達人ナレバ、空中ニテヒルガヘリ、オナサマニ仁大夫カ胸ヲ蹴ル、土俵ノ眞中ニ打倒ス、コレヨリ志賀之助、日の下相撲開山ト名告ル事ヲ許サル」

ひのたたし (名) 【日縱】 たたしハ、たて(縱)ニ同ジ。次條ヲ見ヨ」 東西ニ通ズル路。轉ジテ、東海道、東山道、西海道ノ稱。南海道、北陸道ヲ日横ト云フ。(かげとものノ條、見合ハスベシ) 成務紀、五年九月「隔ニ山河ニ而分ニ國縣ニ、云云、以ニ東西ニ爲ニ日縱(ヒノタタシ)、南北爲ニ日横(ヒノヨコシ)」 たたさノ條ヲモ見ヨ

ひのたて (名) 【日經】 (一)太陽ヲ中心トシ、東西ヲ經(タテ)トシ、南北ヲ緯(ヨコ)トス。支那ニテハ、北辰ヲ中心トシ、南北ヲ經トシ、東西ヲ緯トス。 高橋氏文「日竪(ヒノタテ)、日横、陰面(カゲトモ)、背面乃諸國人乎(ソトモ)」 「日竪、日横、陰面、背面ハ、東西南北ノ四面ノ名ナリ、オホラカニ稱ヘル古語ナリ」 (二)東西ニ通ズル大路。南北ニ通ズル大路ヲひのよこト云フ。 萬葉集、一、三十二長歌、藤原宮御井歌「大和ノ、青香具山ハ、日經(ヒノタテ)ノ、大御門ニ、春山ト、シミサビタテリ、畝火ノ、此美豆山ハ、日緯(ヒノヨコ)ノ、大御門ニ、彌豆山ト、山サビイマス、耳梨ノ、青菅山ハ、背友(ソトモ)ノ、大御門ニ、宜シナベ、神サビタテリ、名細(ナグハシ)、吉野ノ山ハ、影友(カゲトモ)ノ、大御門ユ、雲居ニゾ、遠クアリケル、云云」

ひのためし (名) 【氷様】 古へ、元日ノ節會ニ、宮内省ヨリ禁中ヘ、去年ノ氷室ノ氷ノ厚薄ノ程ヲ奏スルコト。コレヲ氷様(ヒノヤウ)奏(ソウ)ト云ヘリ。石瓦ニテ其雛形ヲ作ルト云フ。而シテ宮内省ニハ、其藏氷

ノ厚薄ヲ以テ、今年ノ豐凶(厚キヲ豐年トシ、薄キヲ凶年トス)ヲ占フ。其水ヲ[illegible]ト云フ。二年中行事[illegible]合ニ薄キ時ハ、凶當アリ、水ノ樣ヲ[illegible]ト云フ[illegible]
[illegible]
[illegible]円、闕司奏ニ厥位ヲ奏云、氷樣進奉止、宮内省官姓名[illegible]
[illegible]
屋見明拜無事「主上御座シケレドモ四方拜モナシ、云云、節會モ不レ被レ行、氷の樣モ參ラズ」

ひのつまで　(名)　〔檜爪手〕　檜ノ木ノ麁木造リシタル材。つまで(爪手)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]山ノ、眞木サク、檜乃爪手ヲ、モノノフノ、ヤソウヂガハニ、玉藻ナス、浮ベ流セレ」

ひのて　(名)　〔火手〕　〔手ハ炎ノほナリ〕　火災ノ火ノ燃エアガレル炎。火勢。「火の手アガル」火の手ツヨシ」

ひので　(名)　〔日出〕　(一)朝ニ、日ノ東天ニ昇リテ見エ初ムルコト。(二)朝日ノ昇天スル如ク、勢ヒノ盛ンナルコト。[illegible]近松作[illegible]切ランハ、寐鳥ヲ刺スヨリイト安シ、世ニナキ新田ニ心中ヲ[illegible]ヨリ、日の出ノ裁レニ[illegible]カレヨ」

ひのと　(名)　〔丁〕　[illegible]ノ條ヲ見ヨ。[illegible]フオモひの、とシフトモ、カヒアルベクモ、アラズナ[illegible]」

ひのとの　(名)　〔[illegible]殿〕　[illegible]物語、二「オトドひのとのニオハシマシケルママニ」

ひのぬき　(名)　〔日緯〕　又、ひのよこ。ひのたて(日經)ノ條ヲ見ヨ。

ひのはかま　(名)　〔緋袴〕　紅ノ精好ニテ製セル袴。官家ノ用ナリ。[illegible]
永五年八月十五日、云云、兩ノ手ニ子ノ日松、扇ヲ紙ニ包持、緋袴ヲ着用、ネリノ袷也」　[illegible]後編、四十一「推庵裝束抄ニ、紅ノハカマ、コキハカマ、濃キ張バカマナド云リ、今ハ俗ニ、ソレヲ官女ト云者ノミ着ル物トシテ、緋の袴ト云リ」傾城反魂香(寶永、近松作)中「朝カラ晩マデ緋の袴」

ひのはた　(名)　〔日旗〕　日ノ丸ノ旗。日章旗。　日の御旗。[illegible]「朝倉孝景、日の旗ヲサシ、荒手ト成リテ入替ル」長祿寛正記「抑、此右衛門佐殿(義就)ハ、上意ヲソムキ給ヒ、[illegible]フルル上ハ、[illegible]事設ヒナシ」[illegible]六角ノ森ニ立タレ錦虎ノ紋地ニ日の丸[illegible]スハ[illegible]ノ本神ゾト、[illegible]手ニ打テ払ル」

ひのべ　(名)　〔日延〕　日切ヲ延バスコト。一茶句集「山里ヤ、彼ア[illegible]ノ[illegible]ノト、日延ヘ[illegible]」

ひのまはり　(名)　〔火廻〕　火ノ用心ノタメ、廻リ歩クコト。古ヘ禁中ニテ、ひのおましと稱ヘテノ夜廻リ[illegible]北條五代記[illegible]一、伊[illegible]早雲寺殿廿一箇條、夕ニハ[illegible]所中居ノ火ノ廻リ、我ト見廻リ[illegible]ク申付、其外、[illegible]火ノ用心ヲクセニナシテ、毎夜申付ヘシ」

ひのまる　(名)　〔日丸〕　太陽ノ象、即チ、赤色ノ圓キ形。軍扇ナドニ畫キ、又、コレヲ白地ニ染出シテ旗章トセルヲ、我ガ大日本帝國ノ國旗トス。日章。　寛永十一年、德川幕府[illegible]、安宅丸ヲ造リテ日の丸ノ旗ヲ立テテヨリ、官船ニハ用ヰルコトトナリ、安政元年ニ、水戸藩ノ建議ニヨリ、外國船ニ紛レヌ爲メ、日本船印トシテ、白地[illegible]日の丸ヲ畫カシメタリ。同六年ニ、[illegible]シ、明治三年ニ、國旗ノ章トナル。ひのまた[illegible]
[illegible]

ひのみ　(名)　〔火之見〕　ひのみやぐら(火之見櫓)ノ略。其條ヲ見ヨ。

ひのみかげ　(名)　〔日御蔭〕　(一)「あめのみかげ(天御蔭)」[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]長歌「タカシルヤ、アメノミカゲ、アメシルヤ、日御影ノ、水コソハ、トキハニ有ラメ、御井ノ清水」(二)日ノ[illegible]、即チ、天照[illegible]新古今集、十九、神祇「宮柱、シタツ岩根ニ、シキタテ[illegible]」

ひのみかど　(名)　〔日御門〕　日ノ皇子ノ坐シマス宮ノ御門。即チ、帝王ノイマス宮殿。御所。禁中。内裏。皇居。[illegible]長歌「[illegible]ワガ國ハ、[illegible]」[illegible]ヨリ、[illegible]ワガ國ハ、[illegible]同、五[illegible]長歌「タカヒカル、日御門[illegible]カラ、メデノ盛リニ、マヲシタマヒシ、家ノコト」

ひのみかど　(名)　〔檜御門〕　檜ノ村ヲ以テ造レル宮ノ御門。[illegible]古事記、下[illegible]拆ク、此花ノ如ク、二ヒナヘヤニ、生ヒタテル」

ひのみく　(名)　〔日御供〕　天子ノ、日日ニメシアガル御膳。ひのおもの(日御膳)ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]太平記[illegible]十九[illegible]
[illegible]

ひのみこ　(名)　〔日御子〕　天皇、皇族ヲ稱ヘ奉ル語。日ノ神、即チ、天照皇大神ノ御子孫ノ意。[illegible]皇太子[illegible]古事記、中[illegible]タカヒカル、日[illegible]
美古、ヤスミシシ、ワガオホギミ」(日本武尊)同、下(仁德)「[illegible]高光ル、比能美古、ウベシコソ、問ヒタマヘ」同、同(雄略)「[illegible]ソノ花ノ、照リイマス、タカヒ[illegible]「ヤスミシシ、吾大王、タカヒカル、日之皇子ハ、[illegible]
[illegible]

ひのみつぎ　(名)　〔日[illegible]〕　[illegible]

ひのみつな　(名)　〔[illegible]〕　[illegible]日ノ丸ノ形ニ作リタル注連縄。[illegible]拾遺、上「[illegible]

ひのみはしお　(名)　〔火之見梯子〕　火之[illegible]
[illegible]遠近ニ因リテ、番人、梯子ノ傍ニ吊リタル半鐘ノ打チ方ヲ異ニス、最近火ニハ亂打シ、[illegible]

ひのみはた　(名)　〔日御旗〕　日ノ丸ノ國旗。[illegible]ひのはた(日旗)、[illegible]ノ條ヲ見ヨ。[illegible]る(日丸)ノ條ヲモ見ヨ。

ひのみや　(名)　〔日宮〕　天上ニアリト云フ天照皇大神ノイマス宮。又、天照皇大神ノ御子孫ノイマス宮。皇宮。[illegible]紀、十九、[illegible]
[illegible]宮ノ、[illegible]御マシマスカ、日宮ノ、聖ノ御子ノ、天ノ下ニ」

ひのみやぐら　(名)　〔火之見櫓〕　火災ノ時、[illegible]ル櫓。略シテ、ひのみ。望火樓。[illegible]
[illegible]
睡(西澤一鳳)三編、上「大久保七兵衛殿、火の見矢倉ハ、外ノ火ノ見ヨリ甚ダ高シ」

〰ひ-の-みや-びと (名) 〔日宮人〕 宮中ニ奉仕スル人。卽チ、王卿、百官ノ人人。オホミヤビト 古事記、下「雄略」ん、「百官ノ人人」スマリヰテ、ケフモカモ、サカミヅクラシ、タカヒカル、比能美夜比登、コトノカタリゴトモ、コヲバ」

〰ひ-の-め (名) 〔日目〕 太陽ノ顏ト云ハムガ如シ。空イタク曇リタルヲ、日の目も見ぬト云フ。太陽ノ面。日ノ光。萬葉集、二、十五長歌「神風ニ、伊吹惑ハシ、天雲ヲ、日之目モ見セズ、トコヤミニ、オホヒ給ヒテ」 コレニ對シテ、月のかほト云フアリ。竹取物語「アル人ノ、月のかほ見ルハ、忌ムコトト制シケレドモ」 源、十二、須磨廿五「月のかほノミマモラレタマフ」

ひ-の-もと (名) 〔火之元〕 火災ノ起ルベキ原因。「火の元用心」

〰ひ-の-もと (名) 〔日本〕 〔神代卷口訣、一「爲日本者、從日始出吾國之義、比乃茂止者、面白讀之〕 日本國ノ美稱。ひのもとのくに。次條ヲモ見ヨ。宇津保物語、俊蔭「汝、ひのもとノ父母ニ向フヘキ便リノ與ヘムト云フトキ」 源、五、若紫廿「イトムツカシキひのもとノ末ノ世ニ生レ給ヒツラント見ルニ」 同、十九、薄雲廿七「ひのもとニハ、サラニ御覽ジウルトコロナシ」 濱松中納言物語、一「コノ國(唐土)ト日の本ニ云ヒ通ハサルル事アリケリ、エラビノ使ニテ日の本へ渡リタルナリケリ」 拾遺集、十六、雜、春「日の本ニ、咲ケル櫻ノ、色見レバ、人ノ國ニモ、アラジトゾ思フ」 玉葉集、廿、神祇「我ガ國ハ、天照神ノ、末ナレバ、日の本トシモ、イフニゾアリケル」

〰ひのもと-の (枕) 〔日本〕 〔にほんノ文字讀ナリ〕 日本ノ枕詞 元來、日本ト云フハ、異國ニ示サムガ爲ニ、孝德天皇ノ御代ニ、新ニ建テタマヒシ號ナリ 其日本ト云フハ、推古天皇ノ御代ニ、隋國へ、日出處天子ト、宣ヒツカハシシニ同ジ意ナレバ、其意ヲ得テ、後ニ、日本ノ字ニ、ひのもとト云フ訓ヲツケタルガ、ヤガテ御國ノ總名トナレルニ因リテ、秋津島倭ノ如ク、日本倭トナリシナリ。然ルニ、皇朝ハ、天津日の大御神ノ生レ出デマセル本ツ國ナレバ、日の本つ國ト云フ義ニモ聞エテ、中世ニ、玉葉集、廿、神祇ニ「我ガ國ハ、天照神ノ、末ナレバ、日の本トシモ、イフニゾアリケル」ナド云フ歌モアリ。萬葉集、三、廿八長歌「日本之、山跡ノ國ノ、鎭トモ、座ス神カモ、寶トモ、成レル山カモ」(富士山ノ歌) 孝德紀、大化二年二月、詔「明神御宇、日本倭根子天皇」 續紀、十九、寳字二年三月、長歌「日本乃、野馬臺ノ國ヲ、カミロギノ、スクナビコナガ、葦菅ヲ、ウヱオホシツツ、國固メ、云云、日本乃、倭ノ國ハ、言靈ノ、幸ハフ國、云云」

〰ひのもと-の-くに (名) 〔日本國〕 〔日ノ出ヅル本ノ國ノ意〕 我ガ日本帝國ノ異稱。ひのもと(日本)ノ條ヲモ見ヨ。宇津保物語、俊蔭七「然ハアレド、ひのもとの國ニ、忍辱ノ父母アリト申スニヨリテ」 續千載集、七、雜「代代タエズ、法ノシルシヲ、傳ヘ來テ、アマネク照ラス、日の本の國」 十六夜日記「ヤマト歌ノ道ハ、タダマコト少ク、アダナルスサミバカリト思フ人モヤアラン、ひのもとの國ニ、アマノイハト開ケシ時、ヨモノ神タチノカグラコトバヲ始メテ、世ヲヲサメ、物ヲヤハラゲルナカタチトナリニケルトゾ」

ひ-の-もの (名) 〔火物〕 煮燒キシタル食物。火食 永正記、上「彼日以前食用火物、不云彼日成一燒火一也」「火物斷ナ」

ひ-の-ようぢん (名) 〔火之用心〕 火ノ元ヲ注意スルコト。ヒアヤフシ。ヒマハリ。雜徘諧狂集、冬「寒風稀度開爐節、莫忘家家火用心」 南留別志「火の用心トヨブハ、ヒアヤウシトイフ事ナリ、本朝文粹ニ見ユ、拍子木モ火危木ナリ」 鑑府譚(谷川士清)「鑑咱狂歌云、夜行翁夜夜警火、舊府中呼曰火危彼誰何、今人呼曰火用心、蓋シ火危ノ轉訛也」 本多重次の陣中より「一筆啓上、火の用心、オセン泣カスナ、馬肥セ」

〰ひ-の-よこ (名) 〔日緯〕 又、ひのぬき。次條ノ語ノ條ヲ見ヨ [illegible]ひのたて、日經ノ條ヲ見ヨ、萬葉集、一、廿三長歌「[illegible]ノ、大御門ニ、ミヅ山ト、山サビイマス、耳ナシノ」

〰ひ-の-よこし (名) 〔日横〕 南北。又、南北ニ通ズル路。ヒノヨコ。猶、ひのたてし(日縱)ノ條ヲ見ヨ。

〰ひ-の-よそひ (名) 〔晝裝〕 ひのさうぞく(晝裝束)ニ同ジ 宇津保物語、初秋廿「更衣タチ、ミナ日のよそひシ、アメノ下ノメヅラシキアヤノモムヲタテマツリツクシ」 源、廿四、胡蝶十三「ヤガテマカデ給ハデ、休ミ所トリツツ、ひの御よそひニカヘ給フ人人モ多カリ」

ひ-の-わかきみ (名) 〔日我君〕 てんわう(天皇)ノ敬稱。ヒノミコ。年中行事歌合、四十四番「萬民ノ、テラサヌ方モ、ナカリケリ、日のわが君ノ、出ヅル御幸ニ」

ひは (名) 〔鶸・金雀〕 〔鶸ハ、弱鳥ノ合字(漢名、金翅雀)、鰯モ弱魚ノ合字ナリ 弱ハ與和志ノ假名遣ナレバ、鶸モひよわきニテ、比和ナリナド云フ人アレド、非ナリ。鰯ハ脆ク死スレバ弱シナリ。鶸ハ弱キニアラズ、其形ノ纖小ナル意ナリ。ひはやかニ、ひはづニト云フ語ハ、細ソクタヲヤカナル、又、弱弱シキ意ナリ。榮花物語、十七、音樂「宮、イミジウひはやかニメデタウイラセタマフ」 源、三十一、槇柱十三「イトササヤカナル人ノ、常ノ御ナヤミニ痩セ衰へひはづニテ」ト見ユ。今モ靜岡縣ニテハ、弱弱シキヲひはづいト云フ」 (一)ひはどりノ略。燕雀類ノ小鳥ノ名。雀ヨリ小サク、全身靑クシテ、黃バミアリ、柳ノ芽ニ似タリ、頭、背、頸、[illegible]、尾、脚黑ク、腹、[illegible]白ナリ。[illegible]黃白ナリ。粟、稗ヲ食ト[illegible]、秋來[illegible]、[illegible]ナリ、[illegible]人[illegible]ト[illegible]他名ニ對シテ、眞鶸ト云フ、唐[illegible]、金翅雀[illegible]、紅鶸、[illegible]鶸、河原鶸、等アリ [illegible]各條ニ註ス [illegible]ト、[illegible]門「鶸、ヒワ」 林逸節用集、生類「鶸、ヒハ」 天正本、[illegible]用集、鳥「ヒワ」 枕草子、三、廿九段「[illegible]ハ、[illegible]、ミコドリ、ひは、ヒタキ、ヤマドリ」 山家集、下「聲セズバ、色濃クナルト、思ハマシ、柳ノ芽ハム、ひはノ群鳥」 幸若舞曲、那須與一「夏山ヤ、靑葉マジリノ木ノ下ニ、ひわトコガラト鶯ト」 (二)ひはいろ(鶸色)ノ略。淨瑠璃物語、笛のだん「生絹雙、唐綾表二重、云云、ひは柳色ヲ引キカサネ」(鶸ノ羽色、萌黃ニテ、柳ノ芽ノ色ニ似タリ)

ひ-ば (名) 〔檜葉〕 (一)檜類ノ總名。(二)今、又、アスハヒノキ。アスナラウ。

ひ-ば (名) 〔乾葉〕 大根ノ葉、莖ヲ乾シタルモノ 賤民ノ食トス。料理獻立早仕組、飯「干葉飯」 浮世床、文化十三、初編、下「賸湯ヲ使フカラ、干葉ノ古イノヲ買テクレトヌカス」

ひ-ば (名) 〔肥馬〕 コエ、フトリタル馬。論語、雍也篇「赤之適齊也、乘肥馬、衣輕裘」 孟子、滕文公、上「[illegible]有肥肉、廐有肥馬、民有飢色」 杜甫詩「朝扣富兒門、暮隨肥馬塵」 白居易詩「吾聞君王路立、肥馬蹋風塵」「肥馬ニ踏ル」

〰びは (名) 〔琵琶〕 釋名 漢、劉熙「本出於胡中、馬上所鼓也、推手前曰批、引手卻曰把、因以爲名」 蓋シ絃響ヲ名トセルナラム。胡琴ノ名モアリ」 モト西域ノ樂器。木製、體ヲ甲ト云フ、橢扁ニシテ一尺餘アリ、棹ノ頭、轉手ノアル處、背ニ折レタリ 四絃、四柱、抱キテ撥ニテ彈ズ 一名、よつのを。又、半

月、撥手(ハチシユ)、撥面(バチメン)、滿月、半月等ノ名所アリ。[illegible]
[illegible]等、ミナ圖ベアハセテ、アル限リノ上達部、聲ヲ出シ[illegible]ドモフ人ハ、びは[illegible]シツソアソブ。[illegible]四、四十三段「御アソビアリ、道方ノ少納言、琵琶イトメデタシ[illegible]コノ葉ノ[illegible]キ合セタルハ、コノ世ノ事トモ覺エズ」

びは (名) 枇杷 葉ノ形、琵琶ニ似タレバ云フト云フ。韓語、ピッパア」薔薇科ノ常綠樹ノ名 暖地ニ産ズ 高サ丈餘、葉、冬ヲ歷テ枯レズ、形、長ク大キク厚ク、[illegible]鋸齒[illegible]カク、背ニ褐毛アリ 冬月、枝ノ梢毎ニ二三寸ノ穗ヲ出シテ、五瓣ノ小白花、簇リ生ズ。實ハ、夏ノ半ニ熟ス、正圓ニシテ、大キサ寸許、黃白色ニシテ、微毛アリ、味、甘酸ニテ佳、一枝ニ多數簇ル。音便ニ、みは。 史記、司馬相如傳「黃甘橙榛、枇杷燃柿」倭名抄、十七「枇杷、俗云二味把一」本草和名、下、十三「枇杷葉、比波」字鏡、十「枇、比波乃木」[illegible]代實錄、四十三、元慶七年五月[illegible]賜宴、云云、妓女百十八人、遞出舞、酒及二數杯一、別賜二御所枇杷子一銀椀」

ひはい (名) 疲憊 罷憊 ツカレ、ヨワルコト。 柳宗元、韓愈毛穎傳後題「學者終日討說呻吟、[illegible]、故有二息焉游焉之說一」 類字韻(病、余照)「疲憊」

ひばいひん (名) 非賣品 賣物ニアラザル品。又、有志者ノミニ頒布シテ、一般ニハ賣ラザルモノ。

ひはいろ (名) 鶸色 ひはちゃ(鶸茶)ニ同ジ。[illegible]ひは

ひはう (名) [illegible]

ひばう (名) 非望 分際以外ノ希望。無理ナル[illegible]ノゾミ。身分不相應ノ希望。 [illegible] 陶潛詩「代耕本非望、所業在田桑」

ひばう (名) 誹謗 ソシルコト。惡口。 史記、[illegible] 漢書、[illegible] 枕草子、二、廿段「此ノコロ其ノヲリ、サシ出デタル人ノ命長クアリ、マシノハ、イヤハフリ誘リひはうセマシ」

びばう (名) 美貌 美シキ容貌。美容。 宋玉、神女賦、序「[illegible]」 李商隱詩「[illegible]」

びばう (名) 備忘 忘ルル萬一ノ用意ニ備ヘ置クコト。 蜀、文谷「備忘小抄」

びばう (副) 微茫 カスカニ、ボンヤリセル狀ニ云フ語 カスカ 模糊 陳子昂詩「巫山彩雲沒、高丘正微茫」 李賀[illegible] 蘇舜欽詩「[illegible]色微茫至、前山次第昏」

びばうじん (名) 未亡人 〔夫ト共ニ死スベキニ、未ダ死ナズシテアル意〕 又、みばうじん。夫死シテ後ニ遺レル妻。ヤモメ。後室。後家。元來、自稱ナルベシ、今、誤リテ、多クハ、他ヨリ敬稱ノ如クニ用ヰラル。 左傳、莊公廿八年「今令尹不[illegible]於二未亡人之側一、不二亦異一乎」[illegible]

びはえふたう (名) 枇杷葉湯 [illegible]枇杷ノ葉、背ノ褐毛ヲ去リ、[illegible]煎ジテ飲ムモノ。暑氣ヲ拂フト云フ。(京都ニテ、夏ノ間、頻リニ、路ニ賣リアリクト) 和漢三才圖會、八十七、山果類「枇杷、云云、[illegible]倭方有二枇杷葉湯一、治二食傷及霍亂一以爲レ妙」

ひばかり (名) 日計 〔噛マレ、日中ニ死ヌレバ云フト〕蛇ノ一種。茶褐色ニシテ、暗褐、[illegible]ナルモノト云フ。[illegible]

ひはぎ (名) 引剝 又、ヒキハギ。ヒッパギ。山野ナド、無人ノ路ニ潜ミテ、往來ノ人ヲ劫シ、衣ヲ剝ギ、財ヲ奪フ盜人。オヒハギ。行劫 宇治拾遺、二、第九條「大路ニ女ノ聲シテ、ひはぎアリテ人殺スヤト、ヲメク」

ひはく (名) 飛白 (一)漢字ノ古キ一種ノ書體ノ名 題額ニ書ク書體ニ云フハ、細ソク筋立チテ、墨色ノカスレテ刷毛書ノ如キモノ。宮殿題署ニ、空海、逸勢ノ書ケルハ是レナリ 書斷、宋、[illegible]

[illegible]「三日(寬政四年十一月)晴ハレ、北風タチテ、イトサムシ[illegible]リ傳來ノ七朝ノ像ニ、大師ノ飛白ニテカカレシ題名[illegible](則天書)、題額ハ尙稷ガ飛白書ナリ」 (二)畫ニ云フ[illegible]二上、蘭竹譜序「予性疎嬾、不[illegible]以二飛白一體、王羲能之、因隨圖[illegible]」 (三)織物ノ名。かすり(絣)ノ條ヲ見ヨ。

ひはく (名) 菲薄 ウスキコト。イササカナルコト。 禮記、坊記篇「君子不三以二菲薄一[illegible]」

ひばく (名) 飛瀑 高キ所ヨリタギリ落ツル水、タキ 瀑布 [illegible]

ひばこ (名) 織弱木 略シテ、ひこ。籤ノ條ヲ見ヨ。

ひばこ (名) 火箱 爐ノ底トスル箱

ひばこ (名) 樋箱 [illegible]廁ノ中ノ床ノ孔ノ木匠。廁ノ糞スル孔ノ縁ナル木、[illegible]長方形ニ作リタルモノ[illegible]

ひばし (名) 火箸 竈、爐、火鉢ナドニテ、火ヲ挾ムニ用ヰル金屬製ノ箸。火筋 倭名抄[illegible] 枕草子[illegible]スベシ、サレバ轉ビオチヌヤウニ心得テ、炭ヲ積ムベキナリ、八幡ノ御幸ニ、供奉ノ人、淨衣ヲ着テ、手

ニテ炭ヲササレケレバ、アル有識ノ人、白キ物ヲ著タル日ハ、火箸ヲ用キル、苦シカラズト申サレケリ」

ひばしら（名）［火柱］時アリテ、空中ニ、赤氣ノ立昇リテ、柱ノ如ク見ユルモノ。吾妻鏡、三十四、仁治二年二月四日「彗星、白赤氣三條出現、云云、西傍赤氣一條、出現四尺、云云、世俗之號、形、異名火柱也」北條九代記、七、火柱相言事「仁治二年二月四日、戊ノ刻バカリニ、赤白ノ氣三條、西方ノ天際ニ現ジ、ヤウヤク消エテ後ニ、赤氣ノ一條、其長七尺バカリニミエテ師ケリ、陰陽師師員朝臣、御所ニ參ジテ申シケルハ、此天變ヲ彗形ノ氣ト名ヅク、俗説ニ、火柱ト申習ハス」

ひはだ（名）［檜皮］（一）檜ノ皮。細カニ割キテ種種ノ用トス。マイハダ。檜皮葺ト云フハ、殿社ナドノ屋根ニ、檜ノ小方板、厚サ數分ナルヲ、密ニ重ネテ葺クモノ。宇津保物語、藤原君「四町ノ所ヲ四ツニ別チテ、町ヒトツニひはだノ殿、廊、渡殿、倉、板屋ナド、イト多ク建テタル」源、廿八、野分「草ムラハ更ニモ云ハズ、ひはだ、カハラ、所所ノ立蔀、透垣ナドヤウノモノ、亂リガハシ」（二）ひはだぶきニ檜皮葺ノ略。落窪物語、二「一條ノ大路ニ、檜皮ノ棧敷、イトイカメシウテ、云云」

ひはだいろ（名）［檜皮色］蘇芳ニ黑ミアル色。玫瑰紫。源、三十一、眞木柱「姫君、ひはだ色ノ紙カサネ、タダイササカニ書キテ、云云」

ひはたき（名）煙草ノ吸殻ヲハタク器。銀、銅、又ハ、木ナドニテ、小杯ノ如ク造リ、煙草入ノ根付トス。賤の小手卷、煙草入「云云、銀ノ鎖ヲ長ク紐ニシテ、銀ノ火はたきヲ根付ニシテ用ヒタリ（安永ノ頃）」

ひはだぶき（名）［檜皮葺］ひはだ（檜皮）ノ條ヲ見ヨ。宇津保物語、吹上、下「ひはだぶきノミカド三ツタテタリ」枕草子、十、百十七段「雪ハひはだぶきイトメデタシ」榮花物語、十六、本雫「ミナ金ノ地ヲシコメテ、三面四面ノひはだぶきノ御堂、イトササヤカニ、ヲカシゲニ造ラセ給ヒテ」

ひはだや（名）［檜皮屋］檜皮ヲモテ葺キタル屋。檜皮葺ノ家。海人藻芥、下「武士ノ家ニハ不造檜皮屋、皆板屋作リナリ、然共、近年將軍家渡御之在所、各構檜皮屋」宇津保物語、藤原君「ココハ師殿、ひはだや、御倉ドモアリ」枕草子、五、四十六段「新シクモナクテ、イタクフリテモナキひはだ屋ニ、菖蒲ウルハシク葺キワタシタル」甘露寺職人盡歌合、檜皮葺「軒ヅケヲ、先ヅ葺キ初ムル、ひはだやノ、マダむね合ハヌ、戀モスルカナ」

ひバチ（名）［火鉢］又、火桶。灰ヲ貯ヘテ炭火ヲ熾シ置ク器。飲湯ヲ沸シ、手ナド焙ル。木製、陶、銅、鐵製等ニテ、方、圓、種種ニ作ル。其木匣ニテ、内ニ、銅、又ハ、眞鍮板ヲ貼リタルヲ箱火鉢ト云フ。火爐 易林節用集（慶長）下、器財門「火鉢、ヒバチ」十訓抄、中、第六、二十四條「火鉢ナル火ノ、衣節ノヘリニ走リカカリケルガ」太平記、三十二、鬼丸鬼切事「冬ノ事ナレバ、暖氣ヲ内ニコメントテ、火鉢ヲ近ク取寄セタルニ、云云、太刀俄ニ倒レカカリテ、此火鉢ノ臺ナル小鬼ノ頭ヲ、カケズ切ッテゾ落シタル」庭訓往來、五月「燈臺、火鉢、蠟燭臺」

ひはちゃ（名）［鶸茶］染色ノ名。ヒハイロ。もえぎ（萌葱）ニ黃ノ多キモノ。衣食住記「染メニモ、云云、安永ノ頃ヨリ、云云、ひは茶」

ひはつ（名）［被髮］髮ヲ結バズ、頭ヲ被フコト。髮ヲ解キ亂シテ結バザルコト。論語、憲問篇「微管仲、吾其被髮左衽矣」孟子、離婁、下篇「今有同室之人闘者、救之、雖被髮纓冠而救之可也、鄉鄰有闘者、被髮纓冠而往救之則惑也、雖閉戶可也」史記、屈原傳「屈原至於江濱、被髮行吟澤畔、顏色憔悴、形容枯槁」

びはつ（名）［美髮］ウツクシキ頭髮。左傳、昭公廿八年「昔有仍氏生女、黰黑而甚美、光可以鑑」注「美髮爲黰」後漢書、明德馬皇后紀「后身長七尺二寸、方口美髮、能誦易、好讀春秋楚辭」

ひはづよ（副）［纖弱］ひはやかよ（纖弱）ニ同ジ。細ソク、タヲヤカニ、ヨワヨワシゲニ。源、三十一、眞木柱「イトササヤカナル人ノ、常ノ御ナヤミニ痩セ衰ヘ、ひはづよテ」同、四十三、竹川「イト若ウ、ひはづなりト見シハ、宰相ノ中將ニテ」宇治拾遺、十、第十條「二十許ニテ、ひはづなる僧ノ、紺袋、頸ニカケテ」

ひはづもの（名）［纖弱者］ヒハヅナルモノ。キャシャナルモノ。ホソヤカニ、ヨワヨワシキモノ。習古敎信七墓廻（元祿、近松作）櫻祭文「殊ニ初ノ子、ひはづ者、毒斷テシテ息災ニ、カイホウ賴ミ參ラスル」

ひはどり（名）［鶸］略シテ、ひは。其條ヲ見ヨ。梁塵祕抄、二、雜「小鳥ノヤウガルハ、四十カラメ、ひはとり、ツバクラメ」

ひばな（名）［火花］（一）火ノ飛ビ散ルモノ。ヒノコ。「火花ヲ散ラシテ闘フ」（二）火ノ燃ユルヲ、花ト見立テテ云フ語。傾城島原蛙合戰（享保、近松作）二「割リ碎キテ釜ノ下、燃リニムセブ觀世晉、枯レタル木トテ、火花咲ク」（三）電氣ノ放電ノ際ニ發スル火光。

びはのかふ（名）［琵琶甲］（形、琵琶ノ甲ニ似タレバ云フ）木ノ二ツニ割リタル方ハ平カニ、表ノ方ハ丸ミアルモノ。背板。ごろく（五六）ノ條ヲモ見ヨ。太平記、九、六波羅攻事「西ハ羅生門ノ礎ヨリ、東ハ八條河原邊マデ、五六七八寸ノ琵琶の甲、あんの郡ナドヲ摞リヌキテ、シタタカニ塀ヲ築リ、云云」あんの郡ハ、備後ノ安部郡ヨリ出テシ材ナルベシ）

ひばば（名）［曾祖母］祖父、祖母ノ母。オホオバ。ヒオホバ。ヒイババ。書言字考節用集、四、人倫門「曾祖母、ヒヲウバ、ヒババ」

ひはひはよ（副）細ソク、弱ク、撓ム狀ニ云フ語。ヒハヤカニ。ヒハヅニ。

ひはふ（名）［非法］法ニ外レタルコト。法ニ違ハヌコト。

びはほふし（名）［琵琶法師］（一）法師ノ琵琶ヲ彈ズルモノ。小右記、寬和元年七月十八日「召琵琶法師、令彈琵琶、給少祿」、徒然草「びはのほうし「四ツノ絃ニ、思フ心ヲ、シラベツツ、彈キアリケドモ、知ル人モナシ」源、十三、明石「入道びはの法師ニナリテ、イトヲカシウメヅラシウテ、ヒトツフタツ引出デタリ」（二）瞽者ノ、平家物語ヲ語リテ、琵琶ニ合ハセテ彈ク者ヲ云フ。又、城方ト云ヒ、八坂檢校城玄ヲ祖トシ、京都ノ八坂ニ住セルヨリ名トス。一ツヲ一方ト云フ。又、都方ト記シ、坂東方トモ稱ス。檢校如一ノ坂東ニ住セルヨリ名トスト云フ。（當道要集）庭訓往來抄、上「琵琶法師ハ、中比ハ盲タル者ハ入道シテ鼠色ナル衣ヲキテ、ビワヲ肩ニ入テ廻也、是ヲ琵琶法師ト云リ、近代、公家ニ或公達ノ盲目アリシヲ、直垂ヲ着セテ、京中計ヲ廻ラレシ也、餘ニ平家面白カリシニ依テ、禁裏ヘ被召、琵琶ヲ彈シ、物語ヲセシ也、其恩賞ニ、城ト云字ヲ賜也、ヤサ方ハ上ニツク、イチカタハ下ニツク也、何レモ城ノ字也」

ひはん（名）［裨販］小賣アキナヒ。コアキンド。又、人ヲ賤シメテ云フ語。新唐書、陸贄傳「稅及僕王之賦、算及裨販之緡」張衡、西京賦「爾乃商賈百族、裨販夫婦、鬻良雜苦、蚩眩邊鄙、何必昏於作勞」盛衰記、三、澄憲祈雨事「三百人ノ其ノ内ニ、女御百人、裨販、公卿百人、伊勢平氏、驗者百人、皆亂行、云云、百人ノ裨販ノ女御、百人ノ亂行ノ驗者達」

ひはん（名）［批判］非ヲ批チテ判決スルコト。批評シテ判斷スルコト。通鑑、唐玄宗紀「弘九齡批張守珪奏」胡注「批、今人謂之批判」中樂談儀（永享、世阿彌）世子ノ能ヲ批判シテ曰ク、云云」醒睡笑（元和、安樂庵策傳）四「地

頭ニ侭ヲ得ヨヤトテ、竝ノひはんヲ聞キタレバ」

ひはん　(名)　[illegible]　[illegible]ノ中、[illegible]スルコト。日中ノ[illegible]。[illegible]。[illegible]ナク、宮門ヲ閉テ、[illegible]シ参ル」

ひばん　(名)　｜非番｜　宿直ニ當ラズシテ家ニ居ルコト。番ニ當ラザルコト。又、ソノモノ。[illegible]一對ス。[illegible]、廿三、平家方人罪科事「八箇國ノ大名、小名、殿前ニ打隨ヘテ、四角八方ニ並ベ居エツツ、非番、當番シテ守護セラレ」[illegible]、四十[illegible]六月十三日、御城近所火事之節覺、一、非番之御番衆ハ、番[illegible]」

ひはやかゝ　(副)　｜纖弱｜　細ソク、タヲヤカニ。ヒハノ[illegible]ヒーヤカニ[illegible]シゲニ。榮花物語、十七、音樂「宮、イミジウひはやかゝ、メデタウテ入ラセ給フ」同、十六、本雫「イミジウヲカシウ、ひはやかゝ美シゲニオハシマス」

ひはら　(名)　〔傍腹ノ略カ〕　腹ノ傍。ヨコハラ。ワキバラ。カタハラ。肚側　名義抄、肚、ヒハラ、ハラ」[illegible]、十七、[illegible]四十七「[illegible]ガ雨方ノ足ヲ以テ、寺川四郎右衛門ガひはらヲ荒ケナク踏ミケレバ」

ひばら　(名)　｜檜原｜　檜ノ木ノ林。檜ノ木ノ生ヒタル原　萬葉集、七「[illegible]ミモロツク、ミワ山見レバ、コモリクノ、ハツセノ檜原、オモホエルカモ」同、十、「[illegible]檜原ニ立テル、春霞、ナホニシ思ハバ、ナヅミコメヤモ」

ひばり　(名)　｜雲雀｜　〔日晴ノ意、空晴ルレバ、飛鳴シテ雲ノ上ニ昇ル、日晴鳥ナリ〕　(一)〔燕雀類ノ小鳥ノ名。雀ニ似テ大キク、頭、背、黒クシテ、暗斑アリ、眼ノ傍、頷、白ク、胸、腹、灰白、脚、細長ク、爪モ長ク、[illegible]モ長シ。原野ノ地上ニ巣ク[illegible]、春[illegible]朗晴ノ日ニハ、雲表ニ直上高飛シ、且上リ、且鳴キ、[illegible]、[illegible]トシテ[illegible]。告天子　天鷚　日本靈異記、中、烏[illegible]ヒナドリ。告天子　天鷚　日本靈名、中、烏類「告天子、ひばり八日ノハレタル時、ソラニ高クノボリテナク鳥ナリ、ひはる也、雨天ニハノボラズ」[illegible]、比波里」[illegible]下[illegible]「雲雀、比波利」字類抄「鸙鶉、ヒハリ、俗用、[illegible]、雲雀(似[illegible]雀而大也、已上同)」古事記、下(仁德)ヤ比[illegible]八、天ニ翔ル、タカユクヤ、ハヤブサワケ、[illegible]取ラサネ」萬葉集、十九四十「ウラウラニ、照レル春日ニ、比婆里アガリ、心カナシモ、ヒトリシオモヘバ」神樂歌、小前張、閑野「天ナルひばり、降リ來ヤひばり」(二)瘦セテ、骨立チタル人ニ云フ語　天神記、正德、近松作三、「雲雀ノ樣ナル腕先ニ、大ノ男ガ[illegible]仰ノケニ、[illegible]キウ、テ打チ倒サレ」

ひばりげ　(名)　｜雲雀毛｜　馬ノ毛色ニ、黃、白、雜ハルモノ。騅　林逸節用集、[illegible]、ヒバリゲ」類聚往來「騅、ヒバリゲ」吾妻鏡、十一、建久二年八月十八日「人人所進馬、云云、一疋、鮐毛」御法寶鑑、下、五性十毛之事「騅、昔ハ黃、黃ニシテ微キ白毛雜ルヲ騅ト云、今云、雲雀毛是也、黃シ今世、黃ニシテ[illegible]色ヲ雜ル名ヲ[illegible]トシ、通ジテ雲雀毛トス、云云、雲雀毛トハ、本、[illegible]ノ色ニ因者乎、云云、雲雀ハ[illegible]也、云云」

ひ-は・る・ル・レ・ラ・リ・レ　(自動、四)　｜罅張｜　サケヤブル。ヒビガイル。名義抄「[illegible]、ヒハル、クヅル、ヤブル、アバル」坼、ヒハル、ヒラク」裂、ヒハル、ホコロブ」破、ヒハル、シワ」字鏡、六三十「坼、小開也、裂也、比波留」

ひ-ひ　(名)　｜狒狒｜　(一)狹鼻類ノ動物ノ名。身長四尺内外ニシテ、容貌醜惡ナリ。頭ハ犬ニ類シ、顏、及、兩顎ハ角大ナリ。四肢殆ド同長ニシテ、地ヲ匍匐スルニ適ス。指趾、各、五アリ。尾ハ小サク、毛、稍、長ク、全身、橄欖色ヲ呈セリ。亞弗利加ニ產ズ。性、極メテ猛ク、人ヲ見レバ大ニ笑ヒテ、脣、其目ヲ蔽フト云フ。ヤマワラハ。ヤマワロ。ヤマコ。ヤマヲトコ　[illegible]、人[illegible]、[illegible]、竹、[illegible]一、[illegible]ニ、[illegible]、[illegible]ノ、ヒヒ、人面長臂、黑身有毛、反踵、見人則笑、[illegible]、五十一、猴類「狒狒、通名也、山ワロウ、人ヲ見テヨク笑フ、云云、形、人ニシテ[illegible]、[illegible]毛長ク後ニ垂ル、臂大ニシテ、笑ヘバ、上脣ニテ目ヲ覆也」(二)猩猩ノ甚シキ人ヲ罵リテ云フ語。「狒狒おやぢ」

ひひ　(感)　(一)鳴キ聲ニ云フ語。ヒシル。(獸、鳥ナドノ)　播磨國風土記、賀古郡「一鹿走[illegible]登於比丘[illegible]鳴、其聲比比」[illegible]、十六、[illegible]「[illegible]ノ聲シテ、ひひ鳴キ、[illegible]」(二)馬ノ嘶ク聲ニ云フ語　[illegible]物語、[illegible]付キタダ駒ノヤウニテ、云云、ひひト嘶キテ」

ひ-ひ　(副)　｜霏霏｜　(一)雨、又、雪ナドノ降リシキル狀ニ云フ語。詩經、小雅、鹿鳴之什、采薇篇「昔我往矣、楊柳依依、今我來思、雨雪霏霏」張衡、西京賦「[illegible]曲未終、雲起雪飛、初若[illegible]、後遂霏霏」(二)陸續トシテ、絕エザル狀ニ云フ語　晉書、胡母輔之傳「吐佳言如鋸木屑、霏霏不絕」揚雄、河東賦「雲霏霏而來迎兮、澤滲灕而下降」

ひ-ひ　(副)　｜比比｜　イヅレモイヅレモ。ドレモドレモ。又、シキリニ　戰國策、秦策「[illegible]白刃[illegible]、[illegible]、死於前者、比比是也」漢書、成帝紀「郡國比比地動」

ひび　(名)　｜皸｜　〔罅ノ義、ひみノ轉〕古クハ、ヒミ。手、足、面ナドノ皮、寒サニ凍エ荒レテ、微ニ裂ケテ疼クモノ。あかがりノ細カキモノ。アカギレ。名義抄「皸、ヒビ、アカガリ」書言字考節用集、五、肢體門「皸[illegible]、ヒビ、指南「手皸裂曰皸[illegible]」狂言記、あかがり「アカガリハ、戀ノ心ニ、サモ似タレ、ひびニマサリテ、思ハレゾスル」

ひび　(名)　｜罅痕｜　〔前條ノ語意ニ同ジ〕(一)陶器ナドノ、破レテ痕ヲ生ジ、未ダ離レザル處。割レムトスル瑕。ヒビリ、ヒビレ。ヒビキ。龜裂。(二)一度、病氣ニ罹リタルコト。又、罪ヲ犯シタルコト。「ひびノ入リタル身」

ひび　(名)　｜篊｜　枝付ノ竹ナドヲ海中ニ立テ並ベタルモノ。魚ノ入ルヲ待チテ捕ル[illegible]。(淺草海苔ハ、初メハ、葉付ノ竹ニツケシガ、後ニハ柴ニツク。因リテ色黑クナリシト云フ)　[illegible]、ひびや町「ひびト云フモノハ、ひび網ナド唱フ、正字ハ[illegible]、漁人[illegible]、其製、海中ニ枝付ノ竹ヲナラベ置テ、云云、口ヲ二處アケオク、魚ドモオノヅカラ入ル、然レドモ出ルコトナラズヤウニ[illegible]、[illegible]セシトナリ、[illegible]ニユリコメテ、春ノ海苔ヲ取ルヲ、ひび竹ト云フ」

ひ-び　(副)　｜日日｜　今日モ明日モ。日每ニ。ニチニチ。每日　[illegible]、六、長歌、月ニ[illegible]、日日ニ見ルトモ、今ノミニ、アキタラメヤモ」源、三十五、柏木「日日ニワタリ給ヒテ」

び-び　(副)　｜微微｜　ササヤカナル狀、又、カスカナル狀ニ云フ語　[illegible]、[illegible]、以青[illegible]、滿腸[illegible]以微微」朱熹詩[illegible]、小園紛微微」太平記、四、[illegible]、事ノ微[illegible]、微微ナノンハ、[illegible]ノ可[illegible]」

び-び　(副)　｜娓娓｜　〔正字通「娓、說文、順也、一曰、美也、又他也、本作[illegible]」〕倦セズニ、纏纏ト細カニ說明スル狀ニ云フ語。「娓娓トシテ語ル」

び-び　(副)　｜亹亹｜　(一)倦マズ勤ムル狀ニ云フ語。詩經、大雅、文王之什、文王篇「亹亹文王、令聞不已」[illegible]、[illegible]勤於政事、[illegible]、[illegible]宵[illegible]

ヽ力致身」 (二)幽遠、高尚ナル狀ニ云フ語 易經、繫辭、上篇「定天下之吉凶、成天下之亹亹者、莫大乎蓍龜」

ひびか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 響 (一)響クヤウニナス。ヒビカシム。 源、廿一、少女二十五「又、斯ク此世ニ餘ルマデ、ひびかしイトナミ給フハ」 盛衰記、三十七、源平侍合戰事「ヲメキ喚ブ音、山ヲ響かし、馬ノ馳違フ音、如雷」 (二)評判セシム。ヒビキワタラス。 增鏡、第一、おどろのした「世ヲひびかしテ、遊ヲノミシ給フ」 (三)ホノメカス。 諷

ひびき (名) 響 (一)〔ヒビクコト。聲、永ク鳴ルコト。 枕草子、四、廿八段「山トヨム、斧ノひびきヲ尋ヌレバ、イハヒノ杖ノ、音ニゾアリケル」 著聞集、六、管絃歌舞「遠クテ物ヲ打ツハ、ひびきノ遲ク來ルナリ」 中務內侍日記「山ヨリ落チクル瀧ノひびきバカリゾ、オドロカシガホナル」 拾遺集、雜、下「ナク蟬モ、秋ノひびきノ、聲タテテ、イロニミ山ノ、宿ノモミヂバ」 (二)漢字、又ハ、音ノ韻。ゐん(韻)ノ條ヲ見ヨ。 (三)〔トドロキワタルコト。世ニ聞ユルコト。評判。影響 源、十四、澪標廿「カカリケル御ひびきヲモ知ラデ、タチ出デツラン」 榮花物語、八、初花「今年ハコノ使、春日祭ノ使ノひびきニテ、帥宮、花山院ナド、ワザト御車シタテテ物ヲ御覽ジ」「世間ノ響」 (四)罅痕。ヒビリ。 (五)割目。裂文。碎紋 (陶器、金器ナドニ)

ひびき-いし (名) 響石 あうむせき(鸚鵡石)ノ類。其條ヲ見ヨ。 拾聞記(唐、鄭常)「南嶽ノ門外、岑有響石、呼喚則應、南州南河縣東南丹邑有響石、狀如臥獸、人呼之應、笑亦應之」 本朝奇跡談、上「志摩國鳥羽領惠利原村、新島村、此二ケ村ニ鸚鵡石アリ、此石ニムカヒテ謠ヲウタヒ、淨瑠璃ヲカタリ、三味線、其他、物ノ音、言語マデ、次石ニ響キテ、其言語ヲナスコト、恰ニ鸚鵡ノゴトク、此外、勢州宮川ノ上、駒ケ野村ト云所ニモ、鸚鵡石有、珍奇也、唐土ニテ響石ト云フヨシ」

ひび・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 響 〔引き引くノ略カト云フ〕 (一)音、トドロキワタル 古事記、上、序、廿四「響、比比支波」 典侍日記「本末ノ拍子ノ音、サバカリ多キニ、高キ所ニひびきアヒタリ」 後撰集、十六、雜、二「ミ山ヨリ、ひびき聞ユル、日グラシノ、聲ヲ戀ヒシミ、今モケヌベシ」 (二)韻ヲ生ズ。(韻ノ條ヲ見ヨ) (三)〔トドロキワタル。通ズ。世ニ聞ユ。通徹 榮花物語、三十九、布引「今一キハ光リソヒテ、ひびきテ入ラセ給ヘバ」「名ひびく」評判ひびく (四)〔評判シ騷グ 榮花物語、十二、玉村菊「大嘗會トテ、又、人人ひびきノノシル」

〔**ひび・く**・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 疼 ヒヒラグ。ヒリヒリスル。聲ノ響クガ如シ。 古事記、中、(神武)八「垣本ニ、植ヱシ椒、口比比久」

〔**ひ-ひこ** (名) 曾孫 〔隔ヲ重ヌ。孫ノ條ヲ見ヨ〕 (一)孫ノ子。今、約メテ、ヒコ。又、ヒマゴ。 倭名抄、二、八子孫類「孫之子爲曾孫、比比古」 字鏡二十「曾孫、比比古」 垂仁紀、八十八年七月「天日槍之曾孫淸彥」 (二)子孫。後裔。 天治字鏡、二、三「彥、比比古、胤子、上同」

〔**び-び・し**・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 美美 〔字ノ音ニ、語尾ヲ添ヘタル語〕 ウルハシ。ウツクシ。ハナヤカナリ。 枕草子、十一、百四十五段「矚身ダチテ、ホソヤカニびびしきヲノコノ、裝サシテ」 宇治拾遺、三、第一、條「びびしき色好ミナリケル」 紫式部日記、下「イト、びびしく花ヤカニゾ見エ給ヘル」 枕草子、七、六十四段「はしたなきもの、びびしう、モ言ヒタツルカナ」 蜻蛉日記、下、下五「八月待ツホドニ、ソコニびびしうモテナシタマフトカ、世ニ云フメル」

ひ-ひ-ぢい (名) 高祖父 曾祖父母ノ父。祖父母ノ祖父。 釋親考「曾祖王父之考、爲高祖王父、曾祖王父之妣、爲高祖王母」云云、今稱高祖父、高祖母、太太公婆、ヒヒヂイ、ヒヒババ」

ひ-びつ (名) 火櫃 火桶、火鉢ノ類。

類聚名物考、調度、十一「火櫃、ひびつ、俗ニ云フ、火鉢ナリ、韓櫃ノサマニシタレバ云フ歟」 榮華物語、[illegible]、殿上「火櫃、[illegible]十月一至三月、[illegible]四月、撤之」 同、同[illegible]、南半敷、[illegible]、云云、御[illegible]風[illegible]外、[illegible]調度云云、火櫃、[illegible]也、[illegible]火[illegible]也、[illegible]和讀ニ」 三中口傳、三、[illegible]「火櫃、尋常之時用之」 後松日記、十「昔ハ、火桶ヲオカルベシ、火櫃モ常ノ事ナリ、火ヲ入ル時ハ土器ニモリテ、折敷ニ居テ持出ベシ、炎ナラバ、手ニテサシソヘベシ」

ひ-ひて (名) 終日 〔ひひとひ(日一日)ノ約〕 日イチニチ。ヒネモス。

〔**ひ-ひと-ひ** (副) 日一日 朝ヨリ夕マデ。ヒネモス。ヒメモス。ヒヒテ 終日 土佐日記、二月二日「雨風止マズ、日一日、夜スガラ、神佛ヲ祈ル」 源、三十一、槇柱三十「イトクルシカルベキナド、日一日イリヰテ、カタラヒ申シ給フ」 紫式部日記「日ひと日イト心モトナケニ起キ臥シ暮サセ給ヒツ」 和泉式部集、二「夕暮ノ、哀ハイタク、マサリケリ、ひひとひモノハ、思ヒツレドモ」

ひ-ひな (名) 雛 〔姫雛ノ略ナラム、雛ハ小サキ義〕 (一)〔音便ニテ、ひいな。今、約メテ、ひな。紙ニテ小サク造レル人形ノ玩具。兒女コレヲ弄ビ、小サキ屋、調度ナド供ヘテ遊ブヲ、ひひなあそびト云ヒキ。時ヲ定メズ弄ビタリ、後ノままおとのおねさままあそび、如シ 崇神紀、十年九月「比賣那素寐殊望」トアルハ、姬遊ニテ、釋紀私記ニ「爲兒女之遊、今案、比比奈遊」ト解キタルハ誤ナレド、承平年中ニ、既ニ、ひひな遊ノアリシヲ知ル。 江家次第、十七、立太子「居土器二口於御盤、拵饗、卽取御三把、帳中阿末加津八云云、後供比比奈」 宇津保物語、樓上、上、上「尋山ツクラセ給ヒテ、ひひな遊ナド、モロトモニシテ、見セ奉リ給フ」 源、七、紅葉賀十「ひひなヲシスヱテ、云云、三尺ノ御廚子一具ニ、品品シツラヒスヱテ、又チヒサキ屋ドモヲ作リアツメテ、云云、(乳母ノ詞)

十二ニアマリヌレバ、ひひなあそびハ忌ミハベルモノヲ」 同、五、若紫廿「ひひななドワザト屋ナドツクリツヅケテ、モロトモニ遊ビツツ」 同、廿五、螢廿「ひひなノ殿ノ宮仕ヘ、イトヨクシ給ヒ」 枕草子、八、七十四段「ひひなノ調度」 中務集「七夕ノ給ノ中宮ノひひな遊(アハセイ)ニ、カヘラノカタ洲濱ニ作レリ、ひいなノ車ノカタ」 (二)室町時代ヨリ、專ラ三月上巳ニ、夫婦ノ雛ヲ飾リ、桃酒、母子餠ヲ造リ、供養奉仕スルコトトナリ、コレヲひな祭ナド云フ。上巳ノ禊ノ人形ニ混ジタルモノカ。 飛鳥井榮雅歌(文明年間)「都ニハ、彌生ノ空ノ、ノドケクテ、ひなのあそびモ、思ヒヤルカナ」 骨董集、上編、下、前「三月三日ノ雛遊、云云、三月上巳ノ日、水邊ニ祓スル事、和漢トモニ古シ、云云、上巳ノ祓ニ、天兒ヲ水ニ流セシ事モアリシナルベシ、後世ニ、三月上巳ヲ雛遊ノ期トセシハ、是等ノ遺意ニテ、天兒、母子等ノ贈物ニ酒食ヲ供ジ、モロモロノ凶事ヲ是ニオハセ、オノレオノレガ身ヲ祝ヒシガ、ヤヤ古ノ雛遊ビノ方ニウツリテ、ツヒニ今ノ如クニハナレルナルベシ」 雛遊の記、上「伊勢ノ神宮ニハ、昔ヨリ女子ノモテ遊ビ草ニ、小茶びいなトテ、チイサキ男女ノ人形ヲ作リ、宜敷トテ衣服ヲ着セ、家臺ノ上ニ居置テ、夫婦ムツマシキ粧ヒヲナシテ遊ブト聞侍ル」 德川時代トナリ、內裏雛、何雛、五人囃ナドマデ飾リ、桃酒、後ニハ白酒ナド供フ、現代マデ然リ。 二百年以前九月九日ニモ行ヘリ、コレヲ後の雛ト稱シキ。(綱吉將軍ノ頃、三月三日ト定マルト云フ) 增山の井(寬文)「三月三日、雛遊コソ、儲ナル期モアラネバ、打マカセテハ雜雜ナルベシ」 國朝佳節錄(松下見林)「三月三日、兒女制紙人形、爲戲、號雛物之戲、乃祓具也」(上巳ノ祓ノ形代撫子ニ混ジタルモノカ、紙ニテ作レル故ニ、紙雛ト稱スルヲ元トスベシ、後ニ木ノ人形ニ錦綾ニテ衣服ヲ着セ、內裏雛ト云フニ至レリ) 雍州府志、貞享、七、土產門「倭俗以紙作小偶人夫婦之形、是謂雛[illegible]、云云、女子設雛壇上」 雛段ハ大保頃ヨリト」 滑稽雜談、正德「今又九月九日ニ飾ル兒女多シ、俳諧、是ヲ名付ケテ

衣の雛トス」入子枕(正徳)「二季ノ雛まつり」

ひひなあそび (名) [雛遊] 前條ヲ見ヨ。

ひひなあはせ (名) [雛合] 雛ヲ飾リ立テテ、[illegible]ヒ合ハスルコト。古今著聞集、八十九、遊戯部「ひひなあそび、ひひなあはせ、ひひなまつり」中務集「七夕ノ日ノ中宮ノひひなあはせ(遊ビ)ニ、カハラノカタ洲濱ニ作レリ、ひひな(ひいな)ノ車ノカタ七月七日」

ひひなまつり (名) [雛祭] 雛祭ニ同ジ。ひひな(雛)ノ條ヲ見ヨ。

ひひなや (名) [雛屋] (一)三月三日ニ、雛ノ節ニ、雛ノ小サキ家。[illegible]ノひひなや」[illegible]八、[illegible]ハカリニテ[illegible]六寸、高サ[illegible]、之ニ居リ、[illegible]御殿ノ形ヲ居ヘ、階下左右ニ隨身二人、中ニ夫婦一對ノ小雛ヲ居ヘ、[illegible]」(二)雛人形ヲ賣ル家。人倫訓蒙圖彙(元祿)五「雛師、[illegible]アリ、ムム、[illegible]コレヲモテ、品品仕立テ、アキナフ也」

ひひばば (名) [高祖母] 曾祖父母ノ母。[illegible]高祖父、高祖母、太太公婆、ヒヒヂイ、ヒヒババ」

ひひまご (名) [曾曾孫] (曾ハ重ノ意) 己レヨリ六代ノ孫。曾孫ノ曾孫。昆孫。浦島年代記(元祿、近松作)「雨宮七世の[illegible]、年クレテ、[illegible]ノ[illegible]マル我ガ世コソ、浦島ガ曾曾孫ノ家ニ移レバ世モ僅ニ、云云」

ひひやう (名) [批評] (一)非ヲ摘ミテ評スルコト。缺點ヲ擧ゲテ評スルコト。(二)[illegible]事ノ是非、善惡、美醜ナドヲ論ジテ、判斷スルコト。

ひびやうゐん (名) [避病院] 傳染病ノ患者ヲ隔離シテ、治療スル病院。

ひびやき (名) [罅燒] 磁器ノ釉ニ、細カク[illegible]ヤウニ燒キ成セルモノ。

ひひらか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [顫] (ひひらぐノ他動) ヒビクヤウニナス。物ヲ、ニ、口ゴクホメ、ヒラメカス。又、口ヲタタク。口ヲ動カス。フルハス。蜻蛉日記「古キ反古、引キサガシオコナヒガナニ、クチひひらがし、數珠ノ音高キナド、イト心ヅキナク見ユルワザナリ」

ひひらぎ (名) [杠谷樹柊] (柊ハ、木疼ノ略合字、疼木ノ義、葉ニ刺アリ、觸ルレバ疼ケバ云フ) 木犀科ノ常綠樹ノ名。暖地ノ山中ニ多シ、又、人家ニモ籬トス。高サ十餘尺ニ達シ、葉ハ、ねずみもちヨリ小サク厚クシテ光リ、邊ニ大刻アリテ、尖、皆、硬刺ナリ、冬枯レズ。秋、冬ノ間、小白花ヲ開ク、香氣アリ、實ハ小圓ニシテ、熟スレバ黒シ。材、白ク堅ク、細文アリテ、象牙ノ文ノ如シ、彫刻、版木、櫛、算盤玉ナド、諸器具ニ作ル。略シテ、ひらぎ。[枸骨] 同種ニシテ、葉ニ刺ナキヲ、雌柊ト云フ。因リテ、常ノモノニ鬼ひらぎノ名モアリ。倭名抄、廿木類「黄芩、比比良木、杠谷樹、上同」字鏡五十「巴戟天、比比良木」古事記、中、景行[illegible]「比比羅木之八尋矛」續紀、二、大寶二年正月「造宮職獻杠谷樹長八尋、俗曰比比良木」土佐日記、正月元日「九重ノ門ノ、シリクメ繩ノ鯔ノ頭、ひひらぎイカニトゾイヒアヘル」夫木集、二十九、ひひらぎ「世ノ中ハ、數ナラズトモ、ひひら木ノ、色ニ出デテハ、イハジトゾ思フ」節分ニ、鰯ノ頭ト共ニ、[illegible]門戶ニ插ンデ、厲鬼ヲ防グ。刺アルニ因ル。和漢三才圖會、八十四、灌木類「[illegible]骨、俗名、比比良木、云云、俗間、立春前分夜、插[illegible]枝[illegible]以[illegible]分[illegible]ト柊ノ枝ヲ[illegible]」

ひひら・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) (一)細ケザマニ語ル。ノベツマクナシニシャベル。名義抄「囀、ヒヒラグ、サヘヅル、ツマビミシ」(二)いななく(嘶)ニ同ジ。名義抄「嘶、ヒヒラグ、イナナク」(三)[illegible]ナドノ破ルル音ニ云フ語。名義抄「[illegible]、カメ、ヒヒラグ」[illegible]

ひひら・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) [疼] (ひらひら動く意、或ハ云フ、響くト通ズト) (一)動キ痛ム。ヅキヅキ痛ム。ヒリヒリ痛ム。ウヅク。ヒイラグ。[疼痛] 倭名抄、三、病類「疼、比比良久、[illegible]痛也」字鏡「[illegible]痛也、比比良久」[illegible]心集、四、[illegible]あはれむ事、[illegible]病ノ苦痛ニ責メノレテ、[illegible]ラレ侍ラズ、切リ嘖クガ如クウヅキ、ひひらぎ、身モホトリテ、堪ヘ忍ブベクモアラネバ、云云」(二)少シク震ヒ動ク。フルフ。[顫]

ひびら・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) (邊開くノ轉、君ノアタリヲ開キ避クノ意) 席ヲ改ム。源、二、帚木 廿「馬ノ頭、物定メノ博士ニナリテ、ひびらき居タリ、云云、スキズキシクトモ申侍ラントテ、近ク居寄レバ、云云」(馬ノ頭、中將ノ談ヲ聽キテ居タリシニ、談了リタレバ、其理ヲ評定メムトテ、席ヲ避ケ座ヲ改メタルナリ)

ひびり (名) [罅] ひび(罅痕)ニ同ジ。

ひひる (名) [蛾] (羽ノひひらぐ意) (一)火取蟲ノ類ノ總名。倭名抄、十九、蟲豸類「蛾、比比流」字鏡八十「蛾、比比留」靈異記、下、第十八縁「惡人所ニ貪如ニ蛾投レ火」訓釋「蛾、比比留」持統紀、六年九月「[illegible]」(二)[illegible]、蛹ノ羽化シタルモノハ、繭ノ一方ヲ破リテ出ヅ、形、ひこむしニ似テ、淺褐色ナリ、雄ハ、瘦セテ飛走シ、雌ハ、肥大ニシテ動カズ、カヒコ[illegible]。[illegible]交ル、[illegible]。重修本草綱目啓蒙、二十七、卵生蟲類「[illegible]、云云、蛾羽化シテ、繭ノ一方ヲ破リ穿チテ出ヅ、コレヲ[illegible]ト云、[illegible]ヒフノ[illegible]」

ひひ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) ([illegible]ノひらひらスル意、又、簸るヲ重ヌルカ) ヒラメキ、飛ビ上ル。音便ニ、ひいる。名義抄「[illegible]、ヒヒル、イヌル、トホシ、沖、ヒヒル」字類抄「沖、翀、ヒヰル、鳥高飛也」天治字鏡、八「[illegible]、翀也、比比留」[illegible]三十九、重衡關東下向事「遊魚湧ニ驚レ、宿鳥沖ニ翀リ」

ひびれ (名) [罅] ひび(罅)ニ同ジ。

ひびわ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [罅裂] ひび入リ、割ル。[illegible]寺ノ大鐘、[illegible]有公ノ御代マデ凡七度ひびハ[illegible]」

ひふ (名) [一二三] (數フル意) 玉ナド、手玉ニ取ル戲。タマトリ。品玉。嬉遊笑覽、四、雜伎「一二ト云フ一種ノ戲事アリ、手マリモ其サマニツクモノナリ、云云、一二トハ、數ヲ算フルヲモテ名トス、コレツクト云フコトノ本義ニテ、今ノ如ク手鞠ヲ地ニウチ返シウチ返シスルヲモ云フハ、名ノ移リタルナリ」夫木抄、八、螢火亂飛「風吹ケバ、打チアグル波ニ、立居シテ、玉ノひふツク、夜ノ螢」[illegible]

ひふ (名) [皮膚] (釋名、釋形體篇「皮、被也、被覆[illegible]也、膚、布也、布在表也」) 動物體ノ[illegible]包ム[illegible]ト、眞皮ト、皮下脂肪ト[illegible]ヨリ成ル

カハ。ハダ。ハダヘ。 南史、焦度傳「度、容貌壯醜、皮膚若ㇾ鐵、質直木訥、口不ㇾ能ㇾ出ㇾ言」 列子、天瑞篇「如ㇾ人自ㇾ世(生ノ誤)至ㇾ老、貌色智態、亡ㇾ日不ㇾ異、皮膚爪髮、隨世(生ノ誤)隨落、非ㇾ嬰孩時有ㇾ停而不ㇾ易也」

ひ-ふ (名) |鄙夫| 天性(ウマレツキ)ノ鄙シキヲトコ。 論語、陽貨篇「鄙夫可ㇾ與事ㇾ君也與哉」 孟子、萬章、下篇「聞ニ柳下惠之風ㇾ者、鄙夫寬、薄夫敦」 錢起詩「自笑鄙夫多野生、貧居數畝半臨ㇾ湍」

ひ-ふ (名) |披風| 又、唐音ニテ、ヒイホン。直衣ニ似テ上帶ナク、風ニ披(ヒラ)ク、袖モ狹ク短シ。內內ノミニ着ルモノト云フ。次條ノ語ヲ參見セヨ。 傍廂、前「披風ハ堂上方ノ略服ニテ、直衣ニ似テ、入襴アリ、上帶ナケレバ、風ニ披ク故ノ名ナリ、袖モ短ク狹シ、タダ內內ノミノ御服ナリ、サルヲ近來、下下ニテ、合羽ニ似テ、襟ノ裝束ナク、襟ノ方ニ紐ナク、襟ノ後ノ方ニ、遞掛ノ如クナルヲ附ケタルヲ、披風ト號ケテ、剃髮、總髮ナドノ着ル事アリ、コレ披風トハ、大ニ異ニシテ、序數合羽トイフ物ナリ、近キ頃ハ、總髮、剃髮ナラヌ月代頭ノ人ニモ着ルアリ、似ツカハシカラズ」 譚草小言(小宮山昌秀)四「披風トイフ物、近時着ルモノ多シ、天明ノ頃マデハ、京師ニモナカリシト見エテ、葛原詩話ニ、披風ト云フ物ハ、今ノ合羽ノヤウナルモノナリ、云云」 視聽草、十集、六「世ノスカタ、云云、享和ノ頃ヨリ、披風トイフモノ流行シテ、文政ノ頃ハ、女子、或ハ、出家ニ至ルマテ、皆コレヲ着ス、女子ハ色色ナルハテモヨウ、又ハ、紫縮メンノ類ナドヲ着ス、僧尼ノ徒ハ、緞合アリテ止タリ」

ひ-ふ (名) |被風| 羽織ニ似テ、袵(オクミ)、立衿(タテエリ)深ク左右ニ合ヒ、盤領(マルエリ)ノ製ナルモノ。僧、隱者、婦人ナド、着物ノ上ニ着ル。前條ノ披風ノ遺ナラム。 裝束集成、十二「被風、高倉家傳云、內內服ニテ、道服ノ趣ヲ被風ヲ用フル」

ひ-ふ (名) |祕府| 貴重品ナドヲ祕藏スル庫。又、宮廷ノ書物庫。祕庫。祕閣。 漢書、藝文志「建ニ藏書之策ㇾ置ニ寫書之官ㇾ下及ニ諸子傳說ㇾ皆充ニ祕府ㇾ」 搜神記(晉、干寶)「常山張顥爲ニ梁州牧ㇾ有ㇾ鳥如ニ山鵲ㇾ忽然墜ㇾ地、化爲ニ圓石ㇾ顥椎ニ破之ㇾ得ニ一金印ㇾ文曰ニ忠孝侯印ㇾ顥以ㇾ聞、藏ニ之祕府ㇾ」 太平記、六、正成天王寺未來記披見事「天下ノ治亂ヲ被ㇾ記テ候、是ヲバ輙ク人ノ披見スル事ハ候ハネトモ、以ニ別儀ㇾ密ニ見參ニ入候ベシトテ、即チ祕府ノ銀鑰ヲ開テ、金軸ノ書一卷ヲ取出セリ」

ひ-ぶ (名) |日步| 貸金ノ利息ヲ日割リニテ定ムルコト(月利、年利ニ對ス)

ひ-ぶ (名) |日賦| 借錢ナドヲ、日每ニ若干ヅツ返スコト。又、ソノ借錢。日濟(ヒナシ)。(月賦、年賦ニ對ス)

ひ-ぶ (名) |䕷蕪 蘪蕪| 川芎(オントカヅラ)ノ苗葉。オンナカヅラ せんきゅう(川芎)ノ條ヲ見ヨ。 楚辭、九歌「秋蘭兮蘪蕪」 爾雅、釋草篇「蘄茝蘪蕪」 註「芎藭苗也」 倭名抄、廿、葛類「芎藭苗曰ニ蘪蕪ㇾ」 本草和名、上二十「芎藭、一名、蘪蕪」 本草和名傳抄「蘪蕪、於奈加川良和加支苗、芎藭苗也」 書言字考節用集、六、生植門「芎藭、一名川芎、蘪蕪、芎藭之苗也」

ぴ-ふ (名) |媚附| 媚(コ)ビヘツラヒテ、附キシタガフコト。阿附。 唐書、宋之問傳「沈佺期、劉允濟傾ㇾ心媚附」 新唐書、吉溫傳「高力士居ㇾ中用ㇾ事、溫皆媚ニ附之ㇾ」

ひ-ふう (名) |悲風| 寂シク悲シゲニ吹ク風。悲ミヲ催ス風(多ク秋風ニ云フ) 李陵、答ニ蘇武ㇾ書「胡地玄冰、邊土慘裂、但聞ニ悲風蕭條之聲ㇾ」 高適、宋中詩「寂寞向ニ秋草ㇾ悲風千里來」

ぴ-ふう (名) |微風| スコシノ風。ソヨフクカゼ。ソヨカゼ。コカゼ。 吳均詩「皎皎日將ㇾ上、猿猴起ニ微風ㇾ」 杜甫詩「微風燕子斜」

ぴ-ふう (名) |美風| (一)ウツクシキナラヒ。ホムベキナラハシ。美俗。 宋玉賦「美風洋洋而暢茂」 (二)ウツクシキスガタ。美ナル風貌。 晉書、劉殷傳「殷身長八尺、美風儀善ニ容止ㇾ所ㇾ在以ㇾ滿白ㇾ」

ひ-ふき (名) |火吹| 次條ノ語ノ略。 類柑子、いたつかの管「破魔弓ノ矢筒、トドロ兒ゲタルヲ火吹トシ」

ひ-ふき-だけ (名) |火吹竹| 竈ノ下ノ火ナドヲ吹キオコスニ用ヰル竹筒。一端ノ節ヲ存(ノコ)シテ、小サキ孔ヲ穿ツ。略シテ、ひふき。フキタケ |吹火筒| 和漢三才圖會、三十一、庖廚具「吹火筒、火不岐太介、按、吹火筒長尺半許、竹末留ニ一節ㇾ穿ニ小孔ㇾ吹ㇾ火」 好色二代男(貞享、西鶴)八「杖ノ替リニ火吹竹ヲ持タセ、庭ヲ三度廻ラス」 一葉集「火吹竹、音ヤシグレテ、小豆食」 犬筑波集「シリノ穴ヨリ、烟立ツナリ」サシヨスル、火吹の竹ノ、ヨヲコメテ」

ひ-ふき-ダルマ (名) |火吹達磨| 火ヲオコスニ用ヰル具。銅ナドニテ小サキ達磨ノ形ヲ作リ、內ヲ空ニシ、水ヲ貯ヘ、火ノ傍ニ置ク。水沸ケバ、自ラ小サキ口ヨリ蒸氣ヲ吹キテ、火ヲオコス。

ひ-ふく (名) |被服| キモノ。コロモ 又、衣服ヲ被ブルコト。 史記、孝武帝紀「宮室被服不ㇾ象ㇾ神、神物不ㇾ至」 宋玉、神女賦「婿ニ被服ㇾ倪ニ薄裝ㇾ沐ニ蘭澤ㇾ含ニ若芳ㇾ」 魏文帝、與ニ羣臣ㇾ論ニ被服ㇾ書「三世長者知ニ被服ㇾ五世長者知ニ飲食ㇾ此言ニ被服飲食難ㇾ曉也」

ひ-ふぐ (名) |干河豚| 河豚ヲ乾シタルモノ。 塵塚談、下「河豚、鰒魚、我等(小川顯道、享保頃ノ人)若年ノ頃ハ、武家ハ決テ食セザリシモノ也、云云、河豚ハ毒魚ヲオソレテ也、云云、河豚モ乾ふぐハ、貴賤モ少シモオソレズ喰フ」

ぴ-ふく (名) |微服| 貴人ナドノ服裝(ミナリ)ヲ俏(ヤツ)スコト。微行ノ裝ヒヲナスコト。 孟子、萬章、上篇「孔子不ㇾ悅ニ於魯衞ㇾ遭ニ宋桓司馬將ㇾ要而殺ㇾ之、微服而過ㇾ宋」 史記、孔子世家「季桓子微服往觀、再三」 列子、仲尼篇「堯乃微服、游ニ於康衢ㇾ」 元好問、石嶺關書事詩「汗脚突騎紅塵暗、微服行人細路高」

ぴ-ふく (名) |美服| 美シキ衣服。 列子、楊朱篇「豐屋、美服、厚味、姣色、有ニ此四ㇾ者、何求ニ於外ㇾ有ニ此而求ㇾ外者、無ㇾ厭之性、無ㇾ厭之性、陰陽之蠹也」

ひふくめ (名) |比比丘女| 兒童ノ遊戲。今云フおをとろおをとろナリ。其條ヲ見ヨ。閻羅天子志王經ニ、地獄ノ獄卒ノ亡者ヲ引率スル路スガラヲ、地藏菩薩、其亡者ノ罪ヲ護シテ請ヒ、地藏ト獄卒ト、亡者ヲ取ラム取ラレジトスルコトアリ。惠心僧都(寬仁元年寂)コレヲ見テ、兒童ヲ集メテ、ソレヲ學バシメ、初ハ「取リツツ、比丘比丘尼、優婆塞優婆夷」ト云ヒシヲ、童部等早ク云ハムトテ「取テ、ウウひふくめ」ト云ヒケリ、吉野ノ天河ノ辨財天ノ御前ニ、ひふくめヲシテ法樂ス、本地ハ地藏菩薩ナリ、云云、ト、三國傳記(永享)ノ八ニアリト云フ。(おをとろおをとろト云フ遊戲ハ、此遺ナリ、此戲、幷、鬼事(オニゴト)ト云フニモ、鬼ト云フモノアルモ、ひふくめニ起ル) 骨董集、上篇、下「比比丘女(ヒフクメ)、今童遊ビニ、子(コ)トロ子トロト云フ事ヲスメリ、コレイト古キ事也、古ヘハ比比丘女トイヘリ、其原ハ、惠心僧都、經文ノ意ヲトリ、地藏菩薩、罪人ヲウバヒ取給フヲ、獄卒取カヘサントスル體ヲマナビ、地藏ノ法樂ニセラレシヨリ始レリトイヘリ」作庭記ニ、立石口傳、凡石ヲ立ル事ハ、ニグル石一兩アレバ、ヲフ石ハ七八アルベシ、タトヘバ、童部ノトラウトラウひひくめトイフタハブレヲシタルガゴトシ」

ぴふく-もん (名) |美福門| 大內裏十二門ノ一。南面、朱雀門ノ東方ニアル門。一名、壬生門。 拾芥抄、中、末、宮城部「美福門、壬生氏造ㇾ之、二階五間、戶三間、號ニ壬生御門ㇾ小錯」 有職抄、二、禁中殿門「美福門、五間戶三間、二階、南面、東ヨリ第一門ナリ、壬生の御門ト號ス、延曆年中、十二門ヲ作ルトキ、此門ハ壬生氏コレヲ造ルニヨリテ、壬生の御門ト號スル也」

ひふくれ (名) 火傷 [illegible]、皮膚ノ腫レ脹レタルモノ。[illegible]

ひふくろ (名) [火袋] (一)石燈籠ノ火ヲトモス所、[illegible]、蠟燭ノ火ヲ點ズル所ノ[illegible]。(二)[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、ひぶくろ、[illegible] ブシアンドントモ云フ」

ひぶせ (名) 火防 火災ヲ防グ神佛ノ通力。火除、避火符 [illegible]

ひぶた (名) [火蓋] 火繩筒ノ火皿ノ火口ヲ掩フ蓋。[火門蓋] [illegible] 火蓋ヲ切ルトハ、銃砲ノ火蓋ヲアケテ、將ニ發火セシメムトスル義ニテ、轉ジテ、事ニ對シテ、將ニ戰鬪ヲ開始セムト用意スルヲ云フ [illegible]「イヤ、シヤツメ共ニ通スナト、火蓋ヲ切つテ取圍ミ、[illegible]トカケテ」

ひブツ (名) [祕佛] 祕メテ、容易ニ他ニ示サザル佛像。[illegible]

びぶつ (名) [微物] スコシバカリノモノ。[illegible]「太平而後、微物衆多、取之有時、用之有道、則物[illegible]」

ひふご (名) 鳴吻 射ル矢ノヒビキニ云フ語。ひいふッと(鳴吻)ニ同ジ。

ビフテキ (名) びいふてくく(英語、Beef-steak.)ノ訛。びふてきノ條ヲ見ヨ。

ひふびやう (名) [皮膚病] 皮膚ニ生ズル病。ひぜん、たむし、しらくも、なまづノ類。

ひふみ (名) [日文] 〔文字ノひふみよいむノ初メノ三字ヲ採リタルモノカ〕日本古代ニ使用セラレタル文字ト云フ。其字體、片假名ノ如キハ、朝鮮ノ諺文ニ似タリ、又、平假名ノ如キ體ナルモアリ、又、あないち(天名地鎭)アリ。神字日文傳[illegible]「對馬國卜部阿比留氏所傳日文、出雲國大社所傳日文ニ出雲大社ノ左側文島圍中ノ石面ニ刻スルモノ、五十字、五十音ノ順ニ讀ム、形、[illegible]ノ字ノ如シ、一、二、三、等ノ數字モアリト」

ひふん (名) [悲憤] カナシミ、イキドホルコト。後漢書、[illegible]「[illegible]」

ひぶん (名) [非分] (一)分際ニアラヌコト。身分ニ過ギタルコト。盛衰記、廿、佐殿大場[illegible]「非分ノ官位任、心、過分ノ俸祿思ヒノ如クナリ」(二)理ニ當ラヌコト

ひぶん (名) [碑文] 碑ニ彫ル文章。文體明辨「碑實銘器、銘實碑文、其序則傳、其文則銘、此碑之體也」東大寺要錄、八「奈保山太上天皇山陵碑文」藤原家傳、上「內大臣諱鎌足、云云、即位二年(天智)、冬十月十六日、薨于淡海之第、時年五十有六、云云、百濟人小紫沙吒昭明、才思穎拔、文章冠世、傷令名不傳、賢德空沒、仍製碑文」

びぶん (名) [美文] 優美ナル語句ヲ用ヰテ、修飾シタル文章。

びぶん (名) [微分] 數學ノ語。函數ニ關スル算法ノ一分科。例ヘバ、變數 x ニ關スル函數 $y=f(x)$ ニ於テ x ノ微小ノ增シニ對スル y ヲ $f(x+h)$ ト表ハストキ、$\frac{f(x+h)-f(x)}{h}$ ノ極限値ヲ x ニ關スル y ノ微分商ト云ヒ、コレヲ $\frac{dy}{dx}$ デ表ハス。微分商ヲ求ムルヲ微分スルト云フ。せきぶん(積分)ノ條ヲモ見ヨ。

ひふる (動) [雨氷] 雹、降ル。ひ(氷)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ひぶるひ (名) [日震] 瘧ノ日每ニ發スルモノ。每日起ル瘧。

ひへい (名) [疲弊、罷弊] (一)ツカレ、ヨワルコト。身神ノ衰フルコト。新書(漢、賈誼)[illegible] (二)費多クシテ、貯ヘノ乏シクナルコト。諸葛亮、出師表「[illegible]今天下三分、益州疲弊、此誠危急存亡之秋也」

ひへぎ (名) [引倍木] ひきへぎ(引倍木)ノ略。其條ヲ見ヨ。榮花物語、廿三、駒競、御下ガサネノ菊ノひへぎ」增鏡、第十三、今日のひかげ「威儀ノ女房八人、白キハリ一重ガサネ、濃キひへぎ、同ジ袴、女郞花ノ衣ニテサブラフ」太平記、廿四、天龍寺供養事「紫苑、唐草ヲ織タル生ノ青襲、紅ノひへぎ、ハエバエシクゾ見エシ」後松日記、三「夏ハ引倍支トテ、襲ヲトリテキル」

ひへん (名) [日偏] 漢字ノ偏ニアル日ノ字ノ稱。明、時、晴、暖、ナドノ如シ。日旁

ひへん (名) [火偏] 漢字ノ偏ニアル火ノ字ノ稱。烟、焰、燈、燒、ナドノ如シ。火旁

ひへやけ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 歲月ノ長ビクサマナリ。ノビノビス。荏苒 天治字鏡、十二「荏苒、比[illegible]也介志」

ひほ (名) [裨補] 裨ケ補フコト。三國志、吳志、[illegible]「[illegible]」[illegible]

ひぼ (名) [紐] ひも(紐)ノ訛。名義抄「[illegible]」[illegible]イレヒボ」[illegible]「紐、ヒモ、ヒボ」[illegible]ノひぼ、長ヤカニウルハシキヲ、云云」

びほう (名) [彌縫] 補ヒフハスルコト。又、トリツクロフコト。トリナスコト。[illegible]

ひぼく (名) [婢僕] 下女ト、下男ト。メシツカヒ。[illegible]

ヒポコンデリイ (名) 〔獨逸語、Hypochondrie.〕病ノ一種。氣病。多ク精神薄弱トナレルニ起ル病。甚シク憶病トナリ、小事ヲ大事トシ、病ナキニ病アリト考へ、小患ヲ大患ト思フナド、一度、此病ニ罹ルト、消化惡シクナリ、不眠症ニ陷ル。氣鬱病、憂鬱病。

ひぼし (名) [日乾] 日光ニ晒シテ乾カスコト。テンタウボシ。宇津保物語、[illegible]、上「[illegible]ノ大キヤカナル[illegible]ツ[illegible]、三ツニ作ル)ニ、銀ノ錢一エ袋、[illegible]、黑ハウヲひぼしノヤウニシナシテ一エ袋、[illegible]ノヤウ一[illegible]一エ袋」

ひぼし (名) [干乾] 食物、無クシテ、餓ウルコト。絕食

ひぼし (名) [火干] 火ニテ乾カスコト。火乾 [illegible]「[illegible]」內膳式、火干年魚」[illegible]名、ひぼしのあゆ、[illegible]、ほしのあゆ[illegible]エツ

ルハ、螢ノ空ニ、飛ブニゾアリケル」 都のつと(觀應)「井手ノ蛙ノひほしヲダニコソ、モチハベレ」

ひほ-とき (名) [紐解] ひもとき(紐解)ニ同ジ

ひほ-と・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [紐解] (一)紐ヲ解ク ヒモトク。(二)花、綻ビ開ク 俳諧の發句(紹巴)「春雨ハ、ひほとく梅ノ、ウブユカナ」「ウミ月ガ、ハヤクひほどく、梅ノ花」

ひ-ほふ (名) [祕法] (一)祕密ノ方法、用明天皇職人鑑(寶永、近松作)二「コレ究竟ノ時節タリ、我我ガ祕法ヲ以テ春風ヲ吹キコミ」 (二)密教ニテ行フ祕密ノ祈禱 盛衰記、廿五、西京座主祈禱事「ヤヤ暫クアリテ、御返事申サレケルハ、何レノ大法、祕法ト申シ候トモ、是レニ過ギタル御祈禱仔ルマジ」 著聞集、二、釋教「一部ノ大法皆、諸尊別行儀軌等ノ祕法ヲ受ケ、祕密灌頂ヲ傳ヘ給ヘリ」 太平記、一、中宮御産御祈之事「事ヲ中宮ノ御産ニ寄セテ、カヤウニ祕法ヲ修セラレケルト也」

ひ-ほん (名) [祕本] 祕藏ノ書籍、又、祕密ノ書物。 盛衰記、三、殿下事會(殿下乘會事イ)「祕本ニ云ク、入道相國ハ福原ニテ此候彼、行ケル間也、平大納言重盛ノ所爲也ト聞ヘキト、普通ニ大ニカハレリ」

ひ-ぼん (名) [非凡] 平凡ナラヌコト、凡庸ナラヌコト。又、ソノモノ。 後漢書、李通傳「君狀貌非凡」 三國志、蜀志、先主傳「舍東南角籬上有桑樹生高五丈餘、遙望見童童如小車蓋、往來者皆怪此樹非凡、或謂、當出貴人」

び-ほん (名) [美本] 紙質、印刷、裝釘ナドノ美シキ書物 體裁ノ美麗ナル書物

ひぼろぎ (名) [神籬] ひもろぎ(神籬)ニ同ジ 鶴忠百首、下「楢ノ葉ニ、散ル卯ノ花ト、見エツルヤ、ユフシデカクル、神ノひぼろぎ」

ひぼろぎ (名) [胙] ひもろぎ(胙)ニ同ジ。 名義抄「胙、ヒホロキ 祭福肉也」

ひ-ま (名) [隙] (日間ノ義、日光ノ差入ルニ就キテ云フト云フ) (一)[物ト物トノ間ノ透キタル處。スキマ。スキ。 倭名抄、十五墻壁類「隙、比末、壁際孔也」 古今集、一、春、上「谷風ニ、トクル氷ノ、ひまゴトニ、打チ出ツル波ヤ、春ノ初花ニ」「雲ノひま」「間ノひま」 (二)[時ノ間。閒。 光陰 景行紀、四十年十月「天命忽至、隙駟難停、是以獨臥曠野、無誰語之、豈惜身亡、唯愁不面」 萬葉集、一十五長歌「時ナクゾ、雪ハフリケル、間ナクゾ、雨ハフリケル」 同、十三長歌「ソノ雪ノ、時ジキガゴト、間モオチズ、ワレハゾ戀フル、イモカタタカニ」「ひまヲ惜ム」 (三)[事ナキ間。閒 源、三十一、眞木柱「雪、少シひまアリ、夜ハ更ケヌラム」 (四)[事ヲ行フニ好キ時。 機會 雄略紀、八年二月「惟有遣高麗一人、乘閒得脱、逃入其國、皆具爲說之」 欽明紀、二年七月「窺候其閒隙、一謀其不備、一擧兵而取之」 源、七、紅葉賀「例ノひまモヤトウカガヒアリキ給フヲ」 (五)仕事無キ閒。手隙。休暇。 閒暇 狂言記、二千石「一人ノ下人メガ、某ニひまヲモ請ハズニ、何方ヘヤラオリソヘテゴザル」 (六)主從ノ間ニ、仕ヘノ約ヲ解クコト。 イトマ 致仕 博多小女郎波枕(享保、近松作)中「主從ノ縁モ是限リ、大坂ノ道ヒ餘リ一歩御金少少アリ、三人寄ッテ分ケテ取レ、ひまヲ遣ル」「ひまヲクル」「ひまヲ乞フ」「ひまヲ取ル」 (七)[交ノ中惡シキコト。人ノ中ノアハヒ明キテ、スキマノ出デ來ルヲ云フ。ナカタガヒ。 有隙 雄略紀、九年五月「韓子宿禰與大磐宿禰有隙」 舒明即位前紀「我與汝有隙、則國亦亂」 源、廿六、常夏「ウハベハ、イト好キ御中ノ、昔ヨリ、サスガニひまアリケルニ」

ひ-ま (名) [蓖麻] 植物ノ名。カラエ。たうごま(唐胡麻)ノ條ヲ見ヨ。

ひ-まけ (名) [日負] 太陽ノ熱氣ニ當リテ、負クルコト。アツキ日ノ夕メニ弱ルコト 曾根崎心中(元祿、近松作)觀音廻り「笠ハキズトモ、着ズトモ、照日ノ神モ男神、ヨケテ日まけハヨモアラジ」

ひ-まご (名) [曾孫] (曾ハ重ノ意) ひひこ(曾孫)ニ同ジ。又、ヒコ。ヒイマゴ。 爾雅、釋親篇「孫之子爲曾孫」郭注「曾猶重也」 釋親考「孫之子爲曾孫」 書言字考節用集、七、人倫門「曾孫、ヒマゴ、ヒコ」 盛衰記、三十一、青山琵琶流泉啄木事「母ノ八十有餘ニナリケルニ、具シ行キテ、此ノ子預ケ參ル、御タメニハひまごナリ、云云」

ひま-さぐり (名) (隙を遮るノ義) 石ヲ組ミ、梁ノ如クシテ、水ヲ遮リ、魚ナドヲ捕フルモノ。 天武紀、下、四年四月「詔諸國曰、云云、四月朔以後、九月三十日以前、莫置比滿沙伎理梁、且莫食牛馬犬猿鷄之宍、以外不在禁制」 書紀通證、三十四、天武下「比滿沙伎理者、遮隙之義也、荀子注、石絶水爲梁、所以取魚也」

ひ-まし (名) [日增] 食物ナド、製シテ日數ヲ歷タルコト。又、ソノモノ。

ひま-し (名) [蓖麻子] 蓖麻ノ子。

ひ-まし-に (副) [日增] 日毎ニ增シテ。日ニ增シ。日毎ニ進ミテ。「寒氣日增ニ強ク」

ひまし-の-あぶら (名) [蓖麻子油] 蓖麻ノ子ノ皮ヲ去リ、仁ヲ碎キ、蒸シテ榨リ取レル黄色、濃稠ノ油。印肉ニ合ハセ、又、紙ニ延キ、下劑、其他、工業用ナドニ使用セラル。ヒマシユ。

ひ-まぜ (名) [日交] 一日置キ。隔日。 榮花物語、五、浦浦の別「大カタニテハ、ひまぜナドノ御使アリ、右近ノ內侍ゾ、サリケナク傳ヘ人ニテ侍ラヒケル」 十六夜日記「彌生ノ末ツカタ、ワカワカキ瘧疾ニヤ、日まぜニ發ル事、二タビニナリヌ」

ひ-まち (名) [日待] (日祭ノ轉) 日ヲ祭ルコト (密家、道家ノ習慣) コレニハ、終夜、連歌、楊弓、圍碁ナドス。 日次紀事(延寶)正月「凡良賤、正五九月涓吉日、主人齋戒沐浴、自暮至朝不少寢、其中、親戚、朋友等、其家ニ遊、令醒主人睡、或倩陰陽師、令[illegible]、待朝日出、而[illegible]供物[illegible]、云云」 [illegible]月共六、相同、凡日待之遊、云云」 [illegible]永正七年十月十五日「今夜御日待、例年也」 東海道名所記、一、品治三「日マチ、月待、庚申マチ」 好色一代男(天和、西鶴)四「夜明ヲ急グ日待ノ遊ビ」

ひ-まつ (名) [飛沫] 飛散スル沫。シブキ。トバシリ。 木華、海賦「於是鼓怒、溢浪揚浮、更相觸搏、飛沫起涌、狀如天輪膠戾而激轉」 孔平仲、大風發長蘆詩「出門無揖拜、飛沫濺衣襟」

ひま-つぶし (名) [暇潰] (一)無益ニ時ヲ費スコト。時間ツブシ。 浮世風呂(文化、三馬)初編、上「角角ひまつぶしが多クテ、稽古ノ小言ヲ聞イテナラヌ、是レデ稽古ガ流行ノテハタマラヌ」 (二)時ヲ過ス手段

ひ-まつり (名) [火祭] 古ヘ、火防ノ爲ニ行ヒタル祭 鎭火祭。 大鏡、下、道長「ひまつりヤナドニト、ワヅラハシク責メシ事」

ひま-ど・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [隙取] 時間多クカカル。テマドル。

ひま-はざま (名) [隙狹閒] アキタルトコロ。スキマ。空隙、閒隙。 平家物語、二、西光被斬事「門ノ內ヘサシ入リテ見給ヘバ、兵ドモ隙はざまモナクゾ並ミ居タル」

ひ-まはし (名) [火廻] 兒女ノ戯。數人環坐シ、線香ニ火ヲ點ジタルヲ持チ、同ジ類ノ物ノ名ナド言ヒ言ヒ次次ヘ廻シ、火、指ニ迫リ、差詰リテ苦ムヲ興トス ヒマハリ。ヒワタシ。 堀河百首、雜「綠子ノ、遊フスサビニ、まはす火ノ、空シキ世ヲバ、アリトタノマジ」 隣兆波集「稻妻ニ、火まはしシテヤ、行ク螢」 寛永發句帳「竹ノ子ノ、火まはしスルカ、飛ブ螢」 心中重井筒(寶永、近松作)中「引裂キ紙ノ、捻リ元結ヒデ火廻しヲ、火ノジ、日野絹、房サマナンドト」

ひまはり 名 [日輪] 菊科ニ屬スル一年生草本ノ名。春生ジ、高サ五六尺、莖、葉、共ニ粗毛アリテ、ザラザラセリ。梢ニ花ヲ開ク、大サ六七寸、菊花ニ似テ、黄色ナリ。花、蕾、頭ノ、日輪ノ移ル方ヘ向フ。種子ハ[illegible]、皆、油ヲ得ベシ。別名ヒグルマ。[illegible]チリンサウ。[向日葵] 大和本草、七、花草類「向日葵(ヒュウガアフヒ)[illegible]大ニ、莖高シ、六月ニ花サク、頂上ニ只一花ノミ、日ニ[illegible]キテマハルヲ賞スルノミ、云云、國俗、日向葵トモ、日まはりトモ云」

ひまはり (名) [火廻] 前前條ノ語ニ同ジ。

ひまびま (名) [隙隙] (一)スキマスキマ。スキアナスキアナ。アヒダアヒダ。[illegible] (二)閑暇ノ間。手スキノ間。[illegible]

ひまん (名) [肥滿] コエ、フトリタルコト。(人ノ體ニ) 易林節用集(慶長)下、支體門「肥滿、ヒマン」

びまん (名) [彌漫] ハビコリ、ヒロガルコト。[illegible]

ひまや (名) [暇屋] (一)婦人ノ月經中ニ籠リ居ル屋。(二)轉ジテ、月經ノ稱(伊豆ニテ)

ひまゆくこま (名) [隙駒] [illegible]隙)ノ文字讀。莊子、知北遊篇「人生天地之間、若白駒之過隙、忽然而已」光陰ノ過ギ去ルコトノ速キニ譬ヘテ云フ語。[illegible] 千載集、十七、雜、中「イカデワレ、ひまゆく駒ヲ、引キトメテ、昔ニカヘル、道ヲタヅネン」新勅撰集、十八、雜、三「程モナク、ひまゆくこまヲ、見テモナホ、アハレ羊ノ、歩ミヲゾ思フ」

ひまゐり (名) [日參] (一)宮中ニ、部屋、局ナドヲ構ヘズ、里ヨリ日勤スルコト。(二)(月參ニ對ス) 寺社ナドニ、毎日參詣スルコト。ニッサン。

ひみ (名) [皸] ひび(皸)ノ古語。其條ヲ見ヨ。倭名抄、三「[illegible]、比美」[illegible]

びみ (名) [美味] ウマキアヂ。又、ソノ食物。[illegible]

ひみいわし (名) [氷見鰯] 魚ノ名。越中ノ海上ニ産ジ、同國、射水郡、氷見港ヲ最トスレバ名トス。鰯ニ似テ大キク、乾シテ遠キニ送ル。味、甚ダ美ナリ。

ひみじか (名) [日短] 冬ナドノ日ノ短キコト。短日。急景。

ひみず (名) [地鼠] [日ヲ見ずシテ死スレバ名トスト云フ] 古名、野鼠(ノラネ)。關東ニ、地鼠(カヤネ)。鼠ノ類。むぐらもちニ似テ、體、脚、共ニ小サク、鼻、長ク出デ、尾モ長クシテ廣ク、大キサはつか鼠ノ如シ。常ニ、山中ノ畑ナドノ土中ヲ潜ミ行キテ、蚯蚓ヲ求メ食フ。大、小、數種アリ。

ひみつ (名) [祕密] [illegible] カクシテ、人ニ知ラセザルコト。[illegible]

ひみづ 名 [氷水] コホリミヅ。[illegible] 氷ヲ水ニ入レタルモノ。倭名抄、十六[illegible]水漿類「氷[illegible]」[illegible] 六、常夏「大御酒參リテ、ひみづ召シテ、スヰハンナド、取リ取リニサウドキツツ、食フ」加茂保憲女集「照ル日ニモ消エヌ氷ヲモ、ひみづトイヒテ、アツシト云フホドニ」

ひみづ (名) [火水] (一)ひ(火)ト、みづ(水)ト。水火(スヰクワ)。(二)烈シク爭ヒ合フコト。梅松論「公家ト武家、火水ノ爭ヒニテ」

ひ・む・むる・むれ・め・め・めヨ 他動 (規、下、二) [秘] [ひそむ(潜)、自動ノ他動] ヒソメカス。隱シテ、人ニ示サズ。源、廿三、初音「ウルハシキ袋ドモシテ、ひめオカセ給ヘル」

ひん (名) [品] シナ。クラヰ。ミエ。タチ。[illegible]

ひん (名) [貧] 「書經、洪範篇「六極、四曰、貧」傳「貧、困於財」」 マヅシキコト。貧乏。貧窮。列子、天瑞篇「貧者士之常也、死者人之終也、[illegible]」[illegible]「人貧智短」「貧スル」貧ニ迫ル」貧ノ盜ミ」

ひん (名) [嚬顰] 顔ヲシカムルコト。眉ノ間ニ皺ヲヨスルコト。ヒソムルコト。ヒソミ。[illegible]

ひん (名) [賓] マラウド。他ヨリ訪ヒ來リタル人。客(キャク)。客人。論語、郷黨篇「賓退、必復命曰、賓不顧矣」[illegible]

ひん [illegible] (一)[illegible] (二)古ヘノ女官ノ號。後ノ更衣(カウイ)。(妃(ヒ)ノ條ヲ見ヨ)

びん 名 [鬢] [俗ニ、鬢] [illegible]耳前[illegible]也」頭ノ左右ノ、耳ノ上ノ部ノ髪。男女共ニ種種ノ形ニ作リ、[illegible]びん、絲びんナドノ名稱多シ。杜甫詩「天[illegible]」[illegible] 卷「面アヘテ鬢ニサシイレテ參リタリ、御鬢マヰラセタマハントテナリケリ」女中心得之書(文明)「びんノフクラメハ、少シタルベシ、張出デタルハ卑シ」女重寶記(元祿)「鬢モ押出スコト過ギタルハ、鳥兜[illegible]」

びん (名) [便] (一)タヨリ。ヨリツキ。タノミ。宇津保物語、國讓、下「サブラヒノヲノコドモ、ツカウマツルモノノ内ニ、びんアル所ヲナン憎坊ニシケル」源、二、帚木「人目シゲカラン所、びんナキフルマヒヤアラハレン」「便無シ」便惡シクテ」 (二)手紙ノタヨリ。オトヅレ。音信。「[illegible]便」後便」先便」等使」

ビン (名) [瓶] [字ノ唐音] (一)陶鐵器ノ名。土瓶(ドビン)、鐵瓶、溲瓶(シビン)、ナドアリ。各條ニ註ス。(二)硝子(ガ)製ノ德利。硝子壜。

ピン (名) [針] [英語、Pin.] ハリ。トメバリ(留針)。

ピン (數) [一] (一點ノ意ナル西班牙語、Punta.(英語、Point.)ノ轉訛ナラム) (一)骨牌(カルタ)、又ハ、博奕ノ采ノ目ノ、面ノ數ノ一ツナルコト。(二)轉ジテ、はじ

め、びんかゝきりまでト云フハ、始ヨリ終マデ、又、上カラ下マデノ意。

ひんか (名) 〔貧家〕 マヅシキイヘ。貧乏ナル家。寒家。 後漢書、陳蕃傳「諺云、盜不過五女門、以女貧家也」北史、…劉長卿詩「貧家…」

ビンガ (名) 〔頻伽〕 かりょうびんが(迦陵頻伽)ノ略。其條ヲ見ヨ。 法華文句、十「好聲處地、寺巳自開、頻伽在卵、聲勝衆鳥」 國性爺合戰(正德、近松作)二「御簾組ハ、極マツタリト、數多ノ女官同音ニ、凱歌揚グル頻伽ノ聲、宮中響キ渡リシハ、千羽萬百千鳥、囀リカハス如クナリ」

ひんかう (名) 〔品行〕 (一)オコナヒ。身持。行跡。(二)ヒトガラ。人格。品格。

びんかがみ (名) 〔鬢鏡〕 柄ツキノ小サキ鏡。自ラ鬢ヲ見ムト、手ニ持チテ合鏡スルニ用ヰル。 佐夜中山集(寛文二)「若キ時、持ツ物トテヤ、びんかがみ」用明天皇職人鑑(寶永、近松作)四「懷中ノびんかがみ、杖ニユイ付ケ、タトウ紙ヲ幣ニ切リカケ、煙草入打チハラヒ、烏帽子ニ折リテ打チカヅキ」

びんかき (名) 〔鬢搔〕 櫛ノ一種。鬢ヲカキツクロフニ用ヰルモノ。

ひんかく (名) 〔品格〕 (一)シナガラ。ミエ。品。 桂海香志「廠甕香品格、在黃連楓香之上」 雲笈七籤(宋、張君房)「夫仙有品格、直則一、固如是之丹砂、功力甚善、服之亦得高仙、倘未最仙也」「品格好シ」「品格劣ル」 (二)ケダカキコト。又、ヒトガラ。氣品。 韓愈、畫記「雜古今人物小畫共一卷、云云、與二三客論畫品格、因出而觀之」

ひんかく (名) 〔賓客〕 又、ひんきゃく。マラウド。客。賓。 禮記、王制篇「七教、父子、兄弟、夫婦、君臣、長幼、朋友、賓客」 論語、公冶長篇「束帶立於朝、可使與賓客言也」 事物紀原(宋、高承)著「高祖欲易太子、呂后用留侯計、迎四皓、以定太子、故賓客之名、始起於此」

ひむかし (名) 〔東〕 (日向風ノ義ニテ、風ノ名ヲ本トスルカト云フ、しハ風ナリ、あらし、つむじノ如シ。天孫人種ノ西ヨリ東ヘ遷移セシ語ニ出ヅルナルベシト云フ。琉球ニテ北ヲにしト云フモ、亦天孫民族ノ南進シタルニ因ルナルベシ) 約メテ、ひがしト云フ。其條ヲ見ヨ。音便ニ、ひんがし。 神代紀、上[三十九]「此地吾不欲居、遂以埴土作舟、乘之東渡」 萬葉集、一[廿二]「東ノ、ヌニカギロヒノ、立ツ見エテ、カヘリミスレバ、月カタブキヌ」同、二[三十]「東ノ、タキノミカドニ、サモラヘド、昨日モ今日モ、召スコトモナシ」同、十六[三十]長歌「東ノ、中ノミカドユ、參リキテ、命受クレバ、云云」 源、一、桐壺[廿]「殿ノひむかしノ廂、ひがしむきニ倚子立テテ」

ひんがし (名) 〔東〕 前條ノ語ノ音便。

ひんがしのいちのつかさ (名) 〔東市司〕 いちのつかさ(市司)ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、五、官名「東市司、比牟加之乃以知乃官」

ビンガてう (名) 〔頻伽鳥〕 略シテ、頻伽。かりょうびんが(迦陵頻伽)ノ條ヲ見ヨ。 大智度論、廿八「頻伽鳥、在殼中未出、發聲微妙、勝於餘鳥」 盛衰記、三、資盛乘會狼藉事「頻伽鳥ハ卵ノ中ニアレドモ、其ノ聲、諸鳥ニ勝レタリ」

ひむかひ (名) 〔日向〕 日ノサス方ニ向ヒタルコト。 伊勢物語、九十九段「右近ノ馬場ノ日、栅ノひむかひニ立テタリケル車ニ、云云」

びんかん (名) 〔敏感〕 感ジノスルドキコト。又、鋭キ感ジ。(鈍感ニ對ス)

ひんがらめ (名) 〔瞟眼〕 ひがらめ(瞟眼)ノ音便。ひがめ(僻目)ノ條ノ(一)ニ同ジ。ヤブニラミ。斜眼 斜視

びんぎ (名) 〔便宜〕 (一)タヨリヨロシキコト。タヅキ。テヅル。 字類抄「便宜、ビンギ」 右京大夫集「ハカナキ事ドモ、人ノ爲ハびんぎニ心シラヒアリナドシテ」 落窪物語、一「ナホ便宜告ゲラレヨ」 (二)オトヅレ。タヨリ。音信。 碇鯉出世瀧德(寶永、近松作)下「誰レニドウト談合セン、勝様カラハ便宜モナシ」

ひんきゅう (名) 〔貧窮〕〔貧窮〕 マヅシキニ、クルシムコト。ビングウ。貧乏。困窮。貧苦。 禮記、月令篇「天子布德行惠、命有司、發倉廩、賜貧窮、振乏絶」 戰國策、秦策「嗟乎貧窮、則父母不子」 戶令「凡鰥寡孤獨、貧窮老疾、不能自存者、令近親收養」同、義解「貧窮、謂貧無資財者」 萬葉集、五[廿九]「貧窮問答歌一首」

ひんきゅう (名) 〔殯宮〕 (說文「殯、死在棺、將遷葬柩、賓遇之」) 君主ノかりもがりノ宮。あらき(荒城)ノ條ヲ見ヨ。 續紀、二、大寶二年十二月「以三品穗積親王、云云、爲作殯宮司」

ひんきょ (名) 〔貧居〕 マヅシキスマヒ。マヅシキクラシ。 陶潛詩「貧居乏人工」 沈彬詩「滿城春雨貧居」

びんきり (名) 〔鬢切〕 女ノ髮ノ鬢ヲ、短ク斷ルコト。又、ソノ髮。

ひんく (名) 〔貧苦〕 ひんきゅう(貧窮)ニ同ジ。貧窶。 禮記、禮運篇「飲食男女、人之大欲存焉、死亡貧苦、人之大惡存焉、故欲惡者、心之大端也」 史記、田敬仲完世家「田野不闢、民貧苦」 金色王經「有一天女、說偈云、死苦與貧苦、二苦等無異、寧當受死苦、不用貧窮生、貧最爲苦」

びんぐう (名) 〔貧窮〕 ひんきゅう(貧窮)ニ同ジ。 著聞集、十八、飲食「ナニヨリモ、心ニゾツク、キノコ餅、びんぐうスナル、モノト思ヘバ」

びんぐき (名) 〔鬢莖〕 鬢ノ毛筋。 源、七、紅葉賀[廿八]「シドケナク、打チフクダミ給ヘルびんぐき、アザレタルウチギ姿ニテ」 狹衣、四、中[二十]「烏帽子ノヒタヒモ少シアカリ、鬢莖シドケナゲニテ、マミイトネブタゲナルマミ」

びんぐし (名) 〔鬢櫛〕 婦人ノ、鬢ヲ搔キ上グルニ用ヰル黃楊製ノ橫長キ櫛。 太平記、廿、義貞自害事「自ラ鬢櫛ヲモテカキアゲ」

ひんくてう (名) 〔貧苦鳥〕 佛書ニ云フ想像ノ鳥。かんくてう(寒苦鳥)ニ同ジ。

びんくゎつ (名) 〔敏活〕 才氣ノ敏捷ニシテ、能クハタラクコト。

ひんけい (名) 〔牝鷄〕〔牝雞〕 メスノニハトリ。メンドリ。 書經、牧誓篇「王曰、古人有言、曰、牝雞無晨、牝雞之晨、惟家之索」 蒙求、上「…降、伍氏、有雌雞司晨、晉曰、牝雞不鳴、鳴則神生、其家果大利」 保元物語、一「無鹽君ガ牝雞朝スル時ハ、ソノ里必ズ亡ブト云ヘリ、牝雞ノ時ヲ作ルハ、所ノ怪異ニテ、其郷亡ブ」

びんけい (名) 〔敏慧〕 カシコキコト。サカシキコト。慧敏。 北史、宇文忻傳「幼而敏慧、爲兒童時、與群輩戲、云云、無不用命者」 碧巖錄(唐、南泉)「汝等上座、明白特達聰慧、以其聰悟敏慧、妙達音旨、每隨事頓悟不憚」

ひんけつ (名) 〔貧血〕 身體ノ血液ノ主成分ナル赤血珠ト血色素トノ少クナルモノ。消化不良、榮養不足、運動不十分、精神身體ノ過勞ナドヨリ起ル。其症狀ハ、皮膚粘膜青ザメ、少シ動キテモ呼吸迫リ、心悸タカブリ、頭痛、耳鳴シ、四肢、腰冷ユ。又、大出血シテ血ノ量ノ減ズルニ起ルモアリ。(多血ニ對ス)

ヒンコ (名) 〔秉炬〕 〔字ノ宋音。炬火ヲ秉リテ荼毘スル意〕 禪家ノ語。あこ(下火)ニ同ジ。 禪林象器箋、十九、喪薦門「舊說曰、秉炬與下火、同、貞和集、分爲二、或曰、秉炬語長、下火語短、又下火一人行之、秉炬數人遞

[illegible]……而不ㇾ蹴ㇾ火、[illegible]更把ㇾ起」

ヒンごう-たい (名) 【平江帶】 〔ひんハ平ノ字ノ宋音〕 ひごたい(平江帶)ニ同ジ。

びんご-おもて (名) 【備後表】 疊表ノ一種、備後國、沼隈、御調、[illegible]、蘆田、沼隈ノ山南村ヲ最トス。小髭(石龍芻)ノ莖ヲ刈リテ、白キ土ノ泥中ニ漬シ、乾シテ織ル。疊表ノ最上ナルモノトス。 梵舜日記、慶長十九年七月十九日「[illegible]」

びんご-ずな (名) 【備後沙】 備後國、三上郡今、比婆郡、帝釋山ノ溪ヨリ出ヅル沙。色白シ。盆石ニ用ヰテ最上トス。

ひん-こん (名) 【貧困】 マヅシキニクルシムコト。困窮。 史記、管仲傳「管仲貧困、常欺[illegible]」

ピン-ころがし (名) 【一轉】 〔ぴん(一)ノ條ノ二ヲ參照〕 博奕ノ一種。骰子一ツヲ用ヰ、轉ガシテ一ノ出ヅルヲ勝トス。

ひん-さう (名) 【貧相】 貧シキ狀ノ容貌。又、貧乏ノ運命ヲ具ヘタル人相。窮相。 [illegible]「[illegible]貧相ニ御坐スヲ、上人、佛師ヲ呼ビテ直サシメントスルニ」

ひん-さう (名) 【品藻】 〔品ハしなながら、藻ハあやノ義〕 品評スルコト。品定メスルコト。 [illegible]「[illegible]品藻」 法言[illegible]「[illegible]品藻精當」

びん-ざさら (名) 【拍板】【編木】 〔びんハ編ノ轉、ささらハ此器ノ鳴ル音ト云フ〕 樂器ノ名、拍子(ビャクシ)[illegible]數十枚ノ小板ヲ平面ニ相合ハセ、緒[illegible]綴リ、板ト板ト相[illegible]鳴ラスモノ[illegible]ル[illegible]長サ三尺五寸、左右ノ持ツ處、長サ五寸七分、葉ノ長サ二寸五分、五色ニ彩色セリ」 洛陽田樂記「編木(ビンザサラ)[illegible]二十[illegible]長刀、云云、[illegible]木子ノ如ク切ラレテ、刃ハ鋸ノ樣ニゾ折レタリケル」 五十年忌歌念佛(寶永、近松作)お夏笠物狂「流レニアラヌ河竹ノ、笹ノ小笹ノびんざさら、花ノ手オホヒナキヲヒカレタ、是モ[illegible]野ノ修行ウヤ」 北窻瑣談(文政、橘春暉)後編、二「[illegible]ノ家ニ、[illegible]公ノ神事ノ祭ル時ノ神樂ニ用ユル樂器數多傳ヘラレタリ、[illegible]、[illegible]佐佐羅、[illegible]十六枚、拍板ナルカ[illegible]八寸アリ[illegible]物語、十九、[illegible]、田樂ト云ヒテ、アヤシキヤウナル鼓、腰ニ結ヒツケテ、笛吹キテ、ささらト云フモノツキ、サマザマノ舞シテ、アヤシノ男ドモ歌ウタヒ」

びんざさら-まつり (名) 【編木子祭】 昔、江戸、淺草觀世音寺中ノ三社權現ニテ、三月十七日、及、六月十五日ノ兩度行ヒタル祭。又、七月十三日ニハ、東都ノ王子神社ニテモ行ヘリ。 東都歲事記、一、下、「三月十七日、淺草三社權現祭禮、云云、一山衆徒法樂修行アリ、神輿三基ヲ本堂ニ遷坐ナシ奉リ、向拜ノ元ニ舞臺ヲ儲ケ、未刻ニ田樂アリ、前驅棒十筋、次ニ拍板(ビンザサラ)三人、大鼓二人、笛一人、大大鼓、獅子頭二ツ、云云、六月十五日ニ同ジ、世ニ拍板のまつりトモ云フ」 同、三、秋「七月十三日、王子權現祭禮、別當金輪寺、寺中十二坊ヨリ田樂踊リ十二番ヲ出ス、俗ニびんざさらの祭ト云フ、云云、參詣ノ輩、神前ニ小サキ鎌ヲ納メ、先ニ餘人ノ納ル所ノ鎌ト取カヘテ家ニ收メ、火災盜難除ノ守トス、翌年、此鎌ニ一本ヲ添ヘテ奉納ス、故ニ又、やりまつりトモ云フ」

びん-さし (名) 【鬢差】 女ノ髮結フニ、鬢ノ内ニ入レテ、左右ニ張出サシムルニ用ヰル具、鯨ヒレ[illegible]ニテ作ル。又、針金、紙卷キ漆塗ニセシモアリ。 浮世[illegible]「[illegible]法ナコトニナリマシタ、鬢手ニ髮ガ結ハレマス」

びん-さつ (名) 【憫察】 アハレミテ察スルコト。アハレミ思ヒヤルコト。

ひ-むし (名) 〔蠶蛾蟲(ヒヒルムシ)ノ義ナラムト云フ〕 蠶(カヒコ)[illegible] 仁德紀、廿二年[illegible]夏蟲(ヒムシ)ノ、比務始能[illegible]衣、二重着テ、カクミ八人ハ、豈善クモアラズ」

ひん-し (名) 【瀕死】 死期ニノゾミタルコト。死ニカカルコト。垂死。

ひん-し (名) 【品詞】 文法ノ語。國語ノ單語ヲ、其意味、又ハ形狀ニヨリテ分類シタルモノ。名詞、動詞、形容詞ナドノ類。

ひん-しつ (名) 【品質】 品物ノ性質。シナガラ。モチマヘ。タチ。シナ。

ひむし-の-ころも (名) 〔ひむしノ條ヲ見ヨ〕 絹布ニテ仕立テタル衣。絹ノ衣。 仁德紀、廿二年正月「皇后答歌曰、夏蟲(ヒムシ)ノ、比務始能(ヒムシノ)衣、二重着テ、カクミ八人ハ、豈善クモアラズ」

ひん-じゃ (名) 【貧者】 マヅシキモノ。ビンバフモノ。貧人。 禮記、曲禮、上篇「貧者不ㇾ以ニ貨財ㇾ爲ㇾ禮、老者不ㇾ以ニ筋力ㇾ爲ㇾ禮」

ひん-じゃく (名) 【貧弱】 (一)マヅシクシテ、弱キコト。又、ソノモノ。 史記、周紀「命ニ南宮括、散ニ鹿臺之財、發ニ鉅橋之粟、以振ニ貧弱萌隷」 (二)ミスボラシキコト ヤッヤツシキコト。豐富ナラザルコト 管語[illegible]

ひんじゃ-の-いっとう (句) 【貧者一燈】 長者ノ萬燈ヨリモ、貧者ノ供養スル一燈ノ貴キヲ云フ。貧女ノ一燈。貧ノ一燈。 [illegible]

ひん-しゅく (名) 【顰蹙】 [illegible]顏、眉ナド[illegible]シカムルコト[illegible] [illegible]「[illegible]」

ひん-しゅつ (名) 【擯出】 擯ハ[illegible] 人ヲシリゾクルコト。擯斥スルコト。 [illegible]、源氏ノ名折不當也トテ、一門ニ擯出セラレテ、[illegible]ニ成リレヌ」

びん-しょ (名) 【便所】 [illegible] 室町時代、上流ノ家ニテ、[illegible]ヲ[illegible]リ、衣服ヲ着ルトコロ。 武家名目抄稿、居處、十「按、便所ト便所ト、字ハ替レドモ同ジク聞エテ、コトトコロニオモ[illegible]、御髮アゲ、御服ヲ着ケナドスル所ナルベシ、室町殿年中行事ニハ、[illegible]」

ピン-しょ (名) 【一升】 〔ぴんハぴん(一)ノ條ヲ見ヨ。ぴんしょうノ訛、木ノ升ヲ以テ情ヲ賣ルノ義〕 淫賣婦ノ異名。大坂南堀江六丁目ニテ[illegible]トモ云フ。 [illegible]一夫婦ヲサシ、[illegible]、いれてんかー[illegible]應ジテ泊船ニ移リテ、賣色スル也、價ハ凡ソ米一升、

或ハ二升ヲ以テスル由、コレヲびんきょうト云フ」

びん-きょう (名) 【便乘】 便宜ヲ得テ、車馬ナドニ乘ルコト。

ひん・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 【殯】 〔ひんきゅう(殯宮)ノ條ヲ見ヨ〕 かりもがりスル 死者ヲ棺ニ納メ祭ル 禮記、檀弓、上篇「夫子(孔子)曰、云云、夏后氏殯於東階之上、周人殯於西階之上、殷人殯於兩楹之間、丘也殷人也」 史記、孔子世家「孔子因歎、乃殯五父之衢、蓋其愼也」 續紀、二、大寶二年十二月甲寅「太上天皇崩、云云、辛酉殯於西殿」

びん-すゐ (名) 【鬢水】 鬢ヲ梳ルニ用ヰル水。びんみづ(鬢水)ノ條ヲ見ヨ。

ひん-せい (名) 【品性】 「人品性質ノ略」 人ノ生レツキニ、モチヲル性質。又、人ノ行爲ノ、一定ノ法則ニ統一セラレテ不變ナルモノ。

ひん-せい (名) 【稟性】 天ヨリ稟ケタルウマレツキ、モチマヘノ性質。天性。天賦ノ性質。天稟。 詩經、大雅、文王之什、思齊箋、小序、疏「正義曰、論語云、天生知之者上也、明聖人稟性、自天不由於母」 宣和畫譜、宋、名詠「陸玩字士瑤、從弟也、稟性通長、不以名位格物」

ひん-せい (名) 【貧生】 貧窮ナル者。又、貧窮ナル書生。ビンバフシ。セイ。

びん-せう (名) 【閔笑】【憫笑】 アハレミ笑フコト。 公羊注疏序(漢、何休)「援引他經、失其句讀、以無爲有、甚可閔笑者、不可勝記也」 韓愈、答崔立之書「君子小人之所憫笑、天下之所背而馳者也」

ひん-せき (名) 【擯斥】 シリゾクルコト。逐ヒヤラフコト、ハジクコト。斥フコト。 宋史、王禹偁傳「禹偁文章、多涉規諷、以是頗爲流俗所不容、故屢見擯斥」 劉峻、辯命論「皆擯斥於當年、韞奇才而莫用」

ピンセット (名) 〔佛蘭西語、Pincette. 小鑷子ナドト譯ス〕 物ヲ挾ムニ用ヰル毛拔ノ如キモノニテ、鐵製ノ具。

びん-せふ (名) 【敏捷】 スバヤキコト。ハシコキコト。 機敏 漢書、嚴延年傳「延年爲人、短小精悍、敏捷於事」 夏侯湛、東方朔畫像贊序「陰陽圖緯之學、百家衆流之論、周給敏捷之辯、支離覆逆之數」

ひん-せん (名) 【貧賤】 マヅシク、イヤシキコト 禮記、曲禮、上篇「富貴而知好禮、則不驕不淫、貧賤而知好禮、則志不懾」 中庸、第十四章「素富貴行乎富貴、素貧賤行乎貧賤」 孟子、滕文公、下篇「富貴不能淫、貧賤不能移、威武不能屈、此之謂大丈夫」

びん-せん (名) 【便船】 他ノ船ニ便リテ乘リ行クコト。又、幸便ノ船。 曾南豐文「候有便船、卽歸本國」 太平記、二、阿新殿事「夜明ケテ、便船ヤアルト尋ネケルニ、折節、湊ノ内ニ、船一艘モ無リケリ」

びん-ぜん (副) 【憫然】【愍然】 イタハシク。カハイサウニ。アハレニ。

ひん-ソウ (名) 【貧僧】 貧シキ僧侶。白居易詩「貧僧也、數米、寶十定留連」 太平廣記(宋、李昉等)「營陵之側、有貧僧居之」

びん-そぎ (名) 鬢除 昔、女子、十六歳ノ時、鬢末ヲ切リシコト。コノ儀ハ、六月十六日ニ行フ。コノ夜、月見ト稱シテ、饅頭ナドヲ月ニ供ス 女子、其一箇ヲ取リテ、コレニ孔ヲ穿チ、其孔ヨリ月光ヲ覘フ 故ニ月見トモ云フ。かみそぎ(髮削)ノ條ヲモ見ヨ。 孝亮宿禰記、元和八年六月十六日「女御御方(御十六歳)、今日御鬢そぎ有之」 御湯殿の上の記「享祿三年六月廿(十ノ誤カ)六日、上ラウびんそぎニテ、五色ニカ、御テンシンマヰル」 內院年中行事「姫宮十五歳マデハ御袴黑也、御

十六歳、六月十六日、御びんそぎヨリ御袴赤ナリ」

ヒン-そく (名) 【秉燭】 〔ひんハ、秉ノ宋音〕 燈火ヲ點ズル頃、夕暮。 吾妻鏡、二、治承六年五月廿六日「金剛寺衆徒事、無日數有其沙汰之處、已及秉燭之上、其事申窮」 平家物語、一「拜賀ハひんそくニ及ンデスルコトナリ」

びん-そく (名) 【敏速】 スバヤキコト。捷速 晉書、甫謐傳「謐以病不能、博綜多通、家貧不常得油、夏月則練囊盛數十螢火、以照書、以夜繼日焉」 及、長風孫實勁、縱情放速、甚有鄉曲之譽」

びんた (名) (一)頭髮ノ鬢ノ所。(二)軍隊ノ語、他ノ頰ヲ手ノ平ニテ打ツコト。

ひん-だい (名) 【品題】 品位ノ論定。シナサダメ 後漢書、許劭傳「好共覈論鄉黨人物、每月輒更其品題、故汝南俗有月旦評焉」 李白、與韓荊州書「今天下以君侯爲文章之司命、人物之權衡、一經品題、便作佳士」 勸學、首尾吟「宰士帝觀臨三登陟、雪月風花未品題」

ひん-だう (代) 【貧道】 〔梵語、沙門那(Sramana)ノ古譯語。釋氏要覽「我寡少此道、故曰貧道」〕 僧ノ自稱ノ代名詞。謙稱ナリ。乏道。拙僧 四分律刪補隨機羯磨疏、三、下「沙門者、或云三乏道、貧道、以謂之、皆謙虛自牧不伐德也、今譯爲息惡、取其意也」 世說、言語、中篇「竺法深在簡文坐、劉尹問、道人何以遊朱門、答曰、君自見其朱門、貧道如遊蓬戶」 石林燕語(宋、葉夢得)「晉宋間、佛教初行、未有僧稱、通曰道人、自稱則曰貧道、今以名相揄、蓋自唐已然、而貧道之名廢矣」 盛衰記、十八、文覺勸進事「文覺、云云、五畿七道ノ所廣シ、ナドカ荒郷一所給テ、貧道破壞ノ伽藍ヲ助ケ給ハザラン」

びん-たたら (名) 「鬢 搖る 意ニテ、舞姫ノ髮ノ美シキ狀ニ云フト云フ」 五節ノ舞ニ歌フ謠物ノ名 公事根源、五節帳臺試「亂舞アリ、びんたたらナド歌フ」 今昔物語、廿八、第四語ニ、其歌ヲ「鬢たたらヲ搖カセバコソ、ユカセバコソ、愛敬ツキタレ」ト云ヒ、五節ノ綿絲鬢ナド華レル尾張守ナル人、內ワタリノコトヲ知ラザレバ、殿上人達、其守ノ老ヒテ鬢ノ毛ノ落チタルヲ嘲ル歌ナリトテ、欺キタルコトヲ云ヘリ。

ひんだ-の-をどり (名) 【日田踊】 小唄節ノ一名、出雲國ノ日田ニテ初リタル踊 懷橘談(承應、出雲紀行)「カブキノ歌ニ、比木ノ横田ノ若苗トウタフモ、ミナ出雲ノ國里ノ名ニシテ、此國ヨリゾ初リケル」 嬉遊笑覽、五、歌舞「空穗猿トイフ狂言ニ、ひんだのをどりハ、一ヲドリ、ト云フコトアリタリ、イヅクニモ、ヲドリアレドモ、是ハコトニ名高キヲドリナリ」

ヒン-タン (名) 【行堂】 〔字ノ唐音、廚ヨリ堂ニ持チ行クモノ〕 飯櫃 形、猿頰手桶(片手桶)ノ如キモノ、

びん-だらひ (名) 【鬢盥】 (一)鬢水ヲ入ルル小サキ盥。 運歩色葉集「鬢盥、ビンダラヒ」 (二)江戶時代、髮結ノ道具ヲ入ルル筥。

びん-ちゃう (名) 【備長】 〔元祿年間ニ、紀伊國ノ備後屋長右衞門ト云フ者ノ工夫シテ燒出シタルモノト云フ〕 木炭ノ最上品ノモノ、紀伊國ヨリ製出ス。樫、姥目樫ナドヲ燒キテ作ル。極メテ堅クシテ、火力極メテ強シ。料理屋ニテ用ヰ、鰻ノ蒲燒ニハ此炭ニ限ルトス。

ひん-ぢょ (名) 【貧女】 ひんにょ(貧女)ニ同ジ 梁元帝、法寶聯璧序「譬循貧女」

びん-つき (名) 【鬢付】 ビンノ容子。ビンノ恰好 本朝若風俗、貞享、西鶴二「鬢つき下がり過ギテ見苦シ」

びん・つけ (名) [鬢付] [illegible] の落葉(元祿)田舍苦、御歸リノアトヲ見レバ、びんつけ一具置カレタ」 嬉遊笑覽、一、下、容儀「びんつけトイフハ、云云、伽羅油ナリ」 女重寶記、一「髮ノユイヤウノ事、云云、びんノハヘサガリハ、切リソロヘタルハ古風ナリ、生シタテテ、びん付ニテカキアゲタルコシ」

びんつけ・あぶら (名) [鬢付油] 蠟ト油トニテ固ク煉リ作レルモノ。粘リ強ク、髮ヲネバシツクルニ用キル。すきあぶら(梳油)ノ條、見合ハスベシ。略シテ、びんつけ。カタアブラ。 女裝苦「下部ナドハ、蠟ニ松脂ヲ加ヘテ付ケタリ」 色道大鏡(延寶)「びん付油、[illegible]ハ[illegible]レテアシシ、[illegible]ヲ用ユベシ」 [illegible](小川[illegible])[illegible]十歲頃ハ、若男ハ[illegible]ト油ヲ多クツケテ結タリ、其後ハ水髮トイフテ少シ附テ結ヒ、云云」

ビン・づめ (名) [瓶詰] 〔びんハ、瓶ノ唐音〕 瓶ニ詰メテアルコト。又、其物。

びん・づら (名) [鬢頰] 〔角髮ノ音便轉〕 (一)中世、少年男子ノ、髮風トナリテ、總角トモ云フ。髮ヲ頭上ニ束ネ結フヲ、あげびんづらト云ヒ、左右ニ結ヒ垂ルルヲさげびんづらト云フ。ビヅラ。 江家次第、六、二孟旬「幼主之時、垂ニ鬢頰ニ」 海人藻芥、下「諸門跡ノ兒、云云、袍袴無裝束ノ時ハ、髮ヲびんづらニ結也」 狹衣、一、上廿「びんづら結ヒテ、イヒシラズヲカシゲナル童」 平家物語、七、主上都落事「七條大宮ニテ鬢づら結ヒタル童子ノ」 八幡愚童訓「[illegible]上、宮后[illegible]云云、御髮ヲびんづらニ取リ、唐輪ニワゲテ、甲裝シタマヘリ」 法體裝束抄「上上中宮御車ハ、御[illegible]ノ時、御あげびんづら」 後松日記、三「源氏ノイ裝、云云、童ノ身ナ人、赤色ノ小袖ノ文ノワキアケ、紫ノ緂ノ裾甲ノ指貫、さげびんづら、紫ノ村濃ノ元結」 (二) [illegible]、髮ノ毛。 謠曲、楊貴妃「雲ノ鬢づら、花ノ顏ばせ」

ビン・ヅル (名) [賓頭盧] 〔梵語、Pindola. 具ニハ、賓度羅跋囉惰闍(Pindola-bharadvaja.) 賓頭盧ハ不動、頗羅墮ハ重瞳ナドト譯ス〕 羅漢ノ名。十六羅漢中ノ第一ノ尊者。永ク南天ノ摩梨山ニ住シテ、佛滅後ノ衆生ヲ度セリト。白頭、長眉ノ像ヲ作リ、寺院ノ食堂ニ安ズ。我ガ國ニテハ、何時ノ頃ヨリカ、撫佛ナド云ヒテ、伽藍ノ前ニ安置シ、コノ像ヲ撫デテ、病ノ平癒ヲ祈ルコトトナレリ。 翻譯名義集、一「賓頭盧、[illegible]不動ハ字也、頗羅墮ハ姓也、本行集經[illegible]重瞳ニ」 雜阿含經、二十三「時王(阿育王)[illegible]尊者賓頭盧、頭髮皓白、辟支佛體、云云、尊者賓頭盧以レ手擧ニ眉毛ニ視レ王言、我見ニ如來ハ於レ世無ニ[illegible]」 [illegible]「[illegible]下[illegible]云、中國ノ寺[illegible]食堂中[illegible]也」 梵網[illegible]薩、西國諸小乘寺、以ニ賓頭盧ニ爲ニ上座ニ」

ビン・てう (名) [頻鳥] かりょうびんが(迦陵頻伽)ニ同ジ。 盛衰記、十七、祇王祇女佛前事「同音ニ歌ヒ澄シタリケレハ、云云、頻鳥ノ音和カニ、仙女ノ袖妙ナリケレハ」

びん・てん (名) [旻天] (一)ソラ。アメ。オホゾラ。天空。 書經、大禹謨「日號ニ泣于旻天ニ于ニ父母ニ」 孟子、萬章、上篇「舜往ニ于田ニ、號ニ泣于旻天ニ」 (二)秋ノソラ。 爾雅、釋天篇「春爲ニ蒼天ニ、夏爲ニ昊天ニ、秋爲ニ旻天ニ、冬爲ニ上天ニ」

ヒント (名) 〔英語、Hint.〕 暗示。諷刺。又、ホノメカスコト。

ひん・と (副) キット。ツント。 最明寺殿百人上臈(元祿、近松作)、衣紋術狀「錢トノテ漬ヘユク樣ナモノヂャゴザンセント、ひんとスル」

ピント (名) 〔蘭語、Brand punt. ノ略ナル、ピュント Punt.〕ノ轉、焦點ノ義〕 要點。又、寫眞ノ焦點。

ひん・と (感) 物ノソリカヘリタル狀ニ云フ語。 [illegible] ル聖八文字ニ搖ギ出デ」

ぴん・と (感) 錠ナドヲオロス音ニ云フ。[illegible]

ぴん・なが (名) 〔鰭長ノ訛、或ハ云フ、鬢長カト〕 魚ノ名。ひれなが(鰭長)ニ同ジ。又、ビンナゴ。

びん・な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [無便] (一)ヨリワルシ。都合ワルシ。 落窪物語、三「今迄カクナントモ知ラレ侍ラザリケルハ、タダ粗ヲびんなしト思ヒニナキタルニヤ」 源、[illegible]「コノ子ヲヤガテヤラントオボシケレド、人目多クテびんなけれバ」 (二)ツキナシ。不都合ナリ。ケシカリ。 宇津保物語、樓上、上「大宮、御兩ナガラミン、コナタニトノ給ヘレド、ミコタチノオハスルニ、びんなしトテ、キキ給ハズ」 源、三十四、若菜、上、五十二「[illegible]ナドケザヤカニ渡ランモびんなきヲ、夜ノマニ忍ビテトナン思ヒ侍ル」 (三)イタハシ。カハイサウナリ。フビンナリ。 源、十五、[illegible]五十「オイラカニ渡サンヲ、びんなしナドハイハデ、心ニマカセテ、キテハフラカシツルナメリ」 同、四、夕顔、三十七「イトカナシク思サルレバ、びんなしト思フベケレド、今ヒトタビ彼ノナキカラヲ見ザランガ、イトイブセカルベキヲ」

ひん・にょ (名) [貧女] 貧シキ女。貧窮セル女人。ヒンヂョ。貧婦。貧女人。 涅槃經、七「時有ニ異人ハ善知ニ方便ハ語ニ貧女人ハ我今雇レ汝」 [illegible]雜集、六「貧女[illegible]」 最明寺殿百人上臈(元祿、近松作)最明寺殿道行、アルジハ貧女トオボシキガ、年モ三五ノ玉バハキ」

ひんにょ・の・いっとう (句) [貧女一燈] ひんじゃのいっとう(貧者一燈)ニ同ジ。

ひん・ねん (名) [頻年] ナラビ行ク年。トシドシ。毎年。年年。比年 比歲

ひん・の・いっとう (句) [貧一燈] ひんじゃのいっとう(貧者一燈)ニ同ジ。

ひん・ぱ (名) [牝馬] メウマ。ヲンナ馬。 [illegible]

びん・ぱつ (名) [鬢髮] [illegible]「十善ノ鬢髮ヲ落トシ、九品ノ蓮臺ヲ志シ給フ」

びん・ばふ (名) [貧乏] 〔乏ハ、漢音、バフ、[illegible]〕 [illegible]コト、[illegible]云云、貧乏不レ能ニ供給ニ」 天武紀、下、朱鳥元年七月「[illegible]貧[illegible]」

びんばふ・がみ (名) [貧乏神] (一)人ニ憑リテ、其人ヲ貧シクセシムト云フ神。 窮鬼 [illegible] ル、屋ノ內ハ、去はん棒ニヤ、オヂ恐レケン」 永正九年正月、[illegible]、今[illegible]ス、[illegible]コリニ貧乏ノ、神代ノ昔ヤ、立チカヘレ[illegible] 一「柿園居ハ貧乏神ノツクトイヘバ、二三本ニテアフグ事、イカガ、踊畑シニ長居スベクヤ」 (二)相撲番附ニテ、第二段目ノ十兩格ノ、筆頭ナルモノノ俗稱。上ハ幕ノ內ノ力士ト組合ヒ、收入ハ割合ニ少ク、其他、種種ノ事ニテ、貧乏鬮ヲ引クヨリ云フト。

びんばふ・くじ (名) [貧乏鬮] 割合惡シキ位置。[illegible]コト、[illegible] メテ一人ハ下戸ブンニセンハイカン」

びんばふ・ゆすり (名) [貧乏搖] [illegible] 坐シナガラ、始終、膝ノアタリヲ、搖リ動カスコト。 浮世床、二編、上「アスコノ小僧ガ、火鉢ノ火ヲフキナガラ、貧乏搖リヲシテヰルト」 (二)少シク動クコト。微動。ビンパフユルギ。

びんばふ・ゆるぎ (名) [貧乏搖] 前條ノ語

ノ(二)ニ同ジ。前太平記、古詩選「公蒔カ受取ルカラハ、貧モゆるぎモサセハセヌ」

ひんぱん (名) 頻繁 ワヅラハシク、シゲキコト。イソガシキコト。シキルコト。 [illegible]「[illegible]」杜甫詩「頻繁命使及、春昔字百行」

ひんぱん (名) 蘋蘩 「蘋ハうきくさ、蘩ハしろよもぎノコト」神靈ニ供ヘマツルモノ。左傳、隱公三年「苟有明信、澗谿沼沚之毛、蘋蘩蘊藻之菜、[illegible]可薦於鬼神、可羞於王公」(註文)潘尼詩「張生牧幽華、蘋蘩登三宮」劉禹錫、送赴婚詩「手擎蘋蘩奉盛門、心知[illegible]君恩」

ひんひん (副) (一)馬ノ嘶ク聲ニ云フ語。(二)跳ネマハル狀ニ云フ語 室町千草散(享保、近松作)四「ひんひんト跳廻ハリ」

ひんぴん (副) 頻頻 物事ノ頻リニ起ル狀ニ云フ語 杜甫詩、賦詩分氣象、佳句莫頻頻 盧仝詩「員外頻小小、兩卿大頻頻」

ひんぴん (副) 彬彬 文物ノサカンニ備ハル狀ニ云フ語。論語、雍也篇「質勝文則野、文勝質則史、文質彬彬、然後君子也」漢書、儒林傳、贊「公卿大夫士吏、彬彬多文學之士矣」

びんびん (副) 綿ナドヲ打ツ音ニ云フ語。

ぴんぴん (副) 魚ナドノ跳ヌル狀、又、勢コク活動セル狀ナドニ云フ語

ひんぴょう (名) 品評 事物ノ優劣ヲ判定スルコト。シナサダメ。頭字韻(淸、余照)「品評」小學紺珠(宋、王應麟)「鍾嶸詩品、自漢以來、能詩者一百二十人、分三品評」

ひんぷ (名) 貧富 マヅシキト、トメルト。貧者ト、富者ト 孟子、梁惠王下篇「非[illegible]所謂[illegible]也、貧富不同也」晉書、[illegible]「[illegible]制度以防其淫、使貧富不相耀、以和其心」 杜甫詩「百年身後一抔土、貧富高低皆[illegible]」 蘇軾、[illegible]「[illegible]一杯[illegible]後睡、人間[illegible]花」

びんぷう (名) 便風 (一)オヒテ。オヒカゼ 順風。楊炯詩「香送便風來」李商隱詩「[illegible]不快意「破帆便風」」 (二)タヨリ。音信。黄山谷、刀筆「[illegible]便風也」

〔びんぷく (名) 鬢幅 (一)昔、官家ニテセシ髪飾。髪ヲ、長サ四尺許リ、太キ筆ノ軸程ニ油ニテ固メテ、額髪ノ下ニ廻シ、兩方ノ前ヘ下グルモノト云フ。(内内行事) (二)昔、公卿ノ男女、額ノ上ニ、義髪ニテ輪ノ如キモノ二ツ三ツヲ作リ付ケテ、飾トセシモノ。女房装束着用次第圖「[illegible]山時代、鬢ノ毛ニテ作リ、三ツ用フ。女房ノ額ニ付ク」

ひんぷん (名) 繽紛 多クシテ、入リ亂ルル狀ニ云フ語 屈原、離騷經「佩繽紛其繁飾兮、芳菲菲其彌章」張衡、南都賦「男女姣服、駱驛繽紛」左思、蜀都賦「玄黄異校、結繽紛」名義抄「繽紛、ミダレマヨフ」字鏡抄「繽紛、マガフ」

びんべん (名) 黽勉 僶俛 善ク勉ムルコト。精ヲ出スコト。詩經、小雅、十月之交篇「黽勉從事、不敢告勞」劉長卿、[illegible]「[illegible]折腰五斗間、僶俛隨塵埃」 [illegible]、南山詩「[illegible]初[illegible]開張、僶俛誰勸侑」

ひんぼ (名) 牝牡 「詩經、邶風、匏有苦葉篇、毛傳「飛曰雌雄、走曰牝牡」ニ」 メスト、ヲスト。道德指歸論(漢、嚴遵)「[illegible]筋柔、握持堅固、不[illegible]牝牡、陰陽以化、精神充實、人物[illegible]、啼號不嗄、可謂志和」

びんぼかづら (名) 次次條ノ語ニ同ジ。

ヒン-ボツ (名) 秉拂 〔字ノ宋音〕佛教ノ語 僧侶ノ拂子ヲ秉ルコト 即チ、禪林ニテ、一寺ノ住持ニ代リテ拂子ヲ秉リ、法座ニ上リテ衆ヲ開示スルコト。敕修百丈淸規、[illegible]秉拂「秉拂侍者、[illegible]出座下問訊」只秉往來「[illegible]秉拂、上堂、小參、[illegible]也」

びんほづる (名) 賓頭盧 「びんぽハ賓ノ音ノ訛カト云フ」草ノ名。やぶからし(藪枯)ニ同ジ。ビンボカヅラ。

びんぼふ (名) 貧乏 びんばふ(貧乏)ノ條ヲ見ヨ。

ピンポン (名) 「英語、Ping-pong」卓球。室内遊戯ノ一。てにすノ規模ヲ小サクシタル如キモノ。卓上ニ網ヲ張リ、せるろいど製ノ小球ヲ、團扇ノ如キらけノトモ云フ物ニテ打合ヒテ行フ。

びんみづ (名) 鬢水 髪ヲ梳ルニ用ヰル水。又、美男葛ヲ漬ケテ、髪ノ澤ヲ出スニ用ヰル水 ビンスヰ。好色一代男、天和、西鶴、一「鬢水ヲ運ビ、鏡カスヤラ、其モテナシ、何國モ昔ル事ナシ」出世景淸(貞享、近松作)三「ヲノガママナル鬢水ハ、櫛ニタマラヌ亂レ髪」

びんみづいれ (名) 鬢水入 髪ヲ結フニ用ヰル器。塗物アリ、金物アリ、形、扁圓ナリ。水ヲ盛リ、美男葛ヲ漬シテ、髪ニツクル。古ヘノ泔坏ナリ。冥途飛脚(正德、近松作)上「ヤレ有難ヤ情箱ニ、燒物ノ鬢水入レ、是氏神ト三度イタダキ」

びんみの (名) 鬢簑 古名、カミノスエ。他ノ髪ヲ以テ作ル簑ノ如キモノ。髪ノ少キモノノ髪ニ用ヰル。今モ識樣圖ノびんみのアリ。すゑ(假髪)ノ條、參見スベシ 正字通、假[illegible]用[illegible]、以[illegible]、[illegible]」[illegible]世女裝[illegible]、[illegible]ひんみのヲ[illegible]ニ、ル事、和名抄、容[illegible]ノ具ノ部ニ、和名云、假[illegible]、和名[illegible]、以此假髪ヲ髪上ニトアルハ、今イフ鬢簑ナリ」

ひんみん (名) 貧民 マヅシキタミ。窮民 史記、孝文紀「發倉廩、以振貧民」

びんめつ (名) 泯滅 ホロビ、ウスルコト。ツキテ、ナクナルコト。「[illegible]」杜甫、[illegible]詩「最是[illegible]、[illegible]今疑」

ひんもく (名) 品目 (一)品物ナドノ目錄。(二)品物ナドノ種目 [illegible]「[illegible]尺寸、分[illegible]品目[illegible]」[illegible]、其料[illegible]品目、[illegible]曲折不[illegible]、大[illegible]不[illegible]法[illegible]已」

びんらう (名) 檳榔 〔或ハ云フ、馬來諸島中ノ Pinlam 島ノ產ナレバ、檳榔ハ其音譯ナリト〕熱帶產ノ棕櫚科ノ樹ノ名。高サ五七丈、直立シテ枝ナク、葉ハ稍ニ生ジテ、蕉葉ニ似タリ。實ハ房ヲナシテ、葉中ヨリ出ヅ、一房ニ數百アリ、其實ヲ檳榔子ト云ヒテ舶載ス、形、長クシテ尖ル、破レバ紫棕色ニシテ紋アリ、生食シ、又、藥用トス、味、澁クシテ、稍、甘シ。又、形、大キクシテ、圓ク平タキアリ、大腹子ト云フ、甘味無シ。(古來、蒲葵ヲ檳榔ト混ジテ呼ベリ、びらうノ條、見合ハスベシ)ビニラウ。蘆[illegible]、劉[illegible]趙少尹詩「凡請[illegible]何[illegible]檳榔」倭名抄、廿「[illegible]檳榔、[illegible]」

びんらうじ (名) 檳榔子 前條ヲ見ヨ。

びんらん (名) 泯亂 ホロビ、ミダルルコト。書經、康誥篇「天惟與我民彝大泯亂」

ひんる (名) 貧窶 〔窶、唐韻、其矩切、集韻、郡羽切、竝音窶。廣雅、釋言篇「窶、貧也」註「窶、求矩切」トアリ、ひんくト讀ムヲ正シトス〕 ひんく(貧苦)ニ同ジ。漢書、[illegible]傳「[illegible]少貧窶、[illegible]行、每所[illegible]止、不累主人、薪水之事、皆自營給」

ひんるゐ 名 [品類] [illegible]ノタグヒ。[illegible] 仰觀宇宙之大、俯察品類之盛」

ひん·れん (名) [殯斂] [殯ハひんきゅう(殯宮)ノ條ヲ見ヨ。斂ハをさむ意] カリモガリスルコト。死者ヲ棺ニ納メ祭ルコト。「[illegible]」

ひむろ (名) 氷室 古ヘ、冬ノ氷ヲ夏マデ貯ヘ置ク處。山陰ナドニ穴シテ、厚ク氷ヲ斂メ、舊曆六月一日ニ、禁中ヘ獻ズ。[illegible]「在山中[illegible]以夏月而不泮」

びん·わん 名 [敏腕] 事務ヲ行フニ敏捷ナル手腕。「[illegible]」

ひんゐ 名 [品位] (一)クラヰ。シナガラ。[illegible] (二)金銀、地金、又ハ、金銀貨ノ中ニ含有スル他ノ金屬ノ割合

ひんゐ (名) [品彙] シナジナ。タグヒ。[illegible]

ひめ 名 [姫、媛] 日女ノ義、彥ノ條ヲ見ヨ (一)[女子ヲ美メテ云フ稱] [illegible] (二)後ニ、專ラ、貴人ノ女ノ稱。(三)遊女。賣女。(京阪)「姫買」(四)物ノ形狀ノ小サキモノニ被ラセテ呼ブ語。「姫松」「姫萩」「姫百合」「姫垣」

ひめ [illegible] 柔米、ノ音ニテ、非レ米、非レ粥之義トモ云フ。米ヲ煮テ水ノ多キモノ、トアリテ、即チ、今俗、平常食フ所ノ飯ノ類ナリト云フ。(古ヘ、飯トイヘルハ、蒸シタル強飯ナリトゾ) ひめ糊ハ、コレヲ糊トスルモノト云フ。枕草子、七、十七條ニ「御衣、ひめノ濡レタル」トアルヲ、糊ナリト云ヘリ。倭名抄、十六[illegible]

ひ·め (動) [祕] ひむ(祕)ノ條ヲ見ヨ。

ひめ·あざみ (名) [姫薊] 古名、カマナ。菊科ノ草ノ名。葉、宿根ヨリ叢生ス、其狀一ナラズ、のあざみニ似タルモアリ、又、のはらあざみニ似テ淺キ缺刻アルモアリテ、共ニ、莖、葉ニ刺アリ。葉ノ長サ、三五寸ヨリ尺餘ニ至ル。秋、末、莖ノ高サ三五尺ニ達シ、枝ヲ分チテ花ヲ開ク、淡紫色ニシテ、やまあざみノ花ニ似タリ。一名、カハアザミ。苦芙

ひめい (名) [非命] [天命ニ非ザル意] 災害、負傷ナドニテ、死スルコト。變死。横死。非業(病ナドノ自然ノ死ニ對ス) [illegible] 北史、[illegible]「非命ノ死」

ひめい (名) [悲鳴] 悲シゲニ鳴クコト。又、其聲。[illegible]

ひめい (名) [碑銘] 石碑ニ刻リツケタル死者ノ法名、及、姓名ナド。ひ(碑)、及、めい(銘)ノ條ヲ見ヨ。後漢書、郭太[illegible]

びめい (名) [微明] ウスアカリ。カスカナルアカリ。[illegible]

びめい (名) [美名] 譽レアル名。勝レタル名譽。[illegible]

ひめいひ (名) [姫飯] [強飯ニ對ス] 水ニテ炊キタル飯。今ノ釜ニテ炊キタル飯。タキボシ。ニギイヒ。おさ[illegible]いひ (朝餉)ノ條ヲモ見ヨ。常陸風土記、筑波郡[illegible]ルカト云フ」

びめう (名) 微妙 奧深ク、玄妙ナルコト。深クシテ、スグレタルコト。ミメウ。史記、老莊申韓傳[illegible]

びめう (名) [美妙] 美ノ極致ナルコト。人物志(魏、劉劭)「美妙不昧」[illegible]

ひめうり (名) [姫瓜] 瓜ノ類。花、葉、共ニ小サク、夏、瓜ヲ結ブ、大キサ二寸許リ、形、圓クシテ、色、薄青ク、熟スレバ、稍、黃ナリ、味、苦クシテ、食フニハ、カラズ、女兒、人面ヲ畫キ、衣服ヲ着セテ玩トス、[illegible] 今居ツクル、姫小瓜」

ひめ·おく·ク·ケ·カ·キ·ケ (他動、四) [祕置] [illegible]

ひめかがみ (名) [illegible] かがみニ似テ小サケレバ云フ[illegible] 古名[illegible] ヲ見ヨ。倭名抄、廿[徐長卿、比女加加美] 本草和名、上[徐長卿、比女加加美]

ひめがき (名) [女墻、女垣、堞] [ひめハ小サキ義] 丈低キ垣。メガキ。(多ク城ノ垣ニ云フ) 倭名抄、十[illegible] 城上小垣也」[illegible]

ひめ·がに (名) [illegible] 蟹ノ一種ナルベシ。[illegible]

ひめ·がひ (名) [姫貝] いがひ(貽貝)ノ一名。其條ヲ見ヨ。にたりがひ。[illegible]

ひめかぶら 名 [illegible] 小サキ鏑。萬葉集、十六長歌「梓弓、八ツタバサミ、比米加夫良、八ツタバサミ、シシ待ツト、吾ガ居ル時ニ」同、略解「比米かぶらモ、小ナルヲイフカト、[illegible]テ、カブラニ[illegible]」

ひめ·がや (名) [姫草] 萌エ出ヅル小サキ草。[illegible]

ひめ·ききやう 名 [姫桔梗] (雛桔梗)ニ同ジ。

ひめぎみ 名 [姫君] (一)貴人ノ娘ノ尊

稱。ヒメゴゼ。ヒメゴレウ。源、二、帚木「ワカ妹ノひめぎみハ、コノ定メニカナヒ給ヘリト思ヘバ」榮花物語、一、月宴「九條殿ノ御女ノ中納言ト聞ユル、イミジウカシヅキ立テテ、好君ト所ナハス」(二)又、古ヘ、公卿ナドノ第一ノ娘ノ稱。又、大君第二ナルヲ中の君ト云ヒ、以下ヲ、三の君、四の君ナド云ヘリ。

〔ひめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四)〔呻〕サケブ・ナク　盛衰記、二、清盛捕化鳥ノ事「南殿ニ鵺ノ音シテ、一ツノ鳥ひめき渡リタリ」

ひめこ (名)〔鵟〕カヒコノ異名。(伊豆ノ東岸ニテ云フ　西岸ニテハ、ヒメノコ、又、オヒメサントモ云フト)

ひめごぜ (名)〔姫御前〕〔ごぜ(御前、第二語)ノ條ヲ見ヨ〕(一)ひめぎみ(姫君)ト云フニ同ジ　其條ノ(一)ヲ見ヨ。宇治拾遺、三、第九條「大姫御前ノ紅ハ奉リタルト語リケレバ」(二)若キ女ノ敬稱。丹波與作(寶永、近松作)上「高イモ低イモ、姫御前ハ大事ノ物」

ひめごと (名)〔祕事〕(一)ナイショウゴト、カクシゴト　(二)不思議ナル神爲。

ひめこぶし (名)〔姫辛夷〕樹ノ名。こぶしニ辛夷ノ條ヲ見ヨ

ひめこまつ (名)〔姫小松〕(一)松ノ小サキモノ。ヒメマツ。東遊、求子歌「チハヤブル、賀茂ノ社ノ、比女古木川、萬代經トモ、色ハ變ラジ」後拾遺集、七、賀「姫小松、大原山ノ、種ナレバ、チトセハココニ、マカセテヲミン」新古今集、十九、神祇「知ルラメヤ、今日ノ子ノ日ノ、姫小松、オヒン末マデ、榮ユベシトハ」(二)五葉松ノ一種。(三)富士松ヲ移シ植エタルモノ。(京都)　堀河百首、春、子日「タナ隠セドモ、姫小松、ヒクマノ野邊ニ、我レハ來ニケリ」

ひめごれう (名)〔姫御寮〕〔ごれうにん

(御料人)ノ條ヲ見ヨ〕ひめぎみ(姫君)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

ひめしをん (名)〔姫紫苑〕菊科ノ草ノ名　濕潤ノ原野ナドニ生ジ、葉ハながくるま(草)ノ葉ニ似テ、小サク、尖ラズ、長サ三寸許リ、廣サ六七分、互生ス。初、地ニ就キテ叢生シ、夏ニ至リテ、莖ヲ出スコト二三尺、花ハ莖頭ニ集リテ、傘狀ニ着キ、菅ノ花ニ似テ小サシ、白色、黄蘂ナリ。花落チテ、苗枯レ、旁ニ根鬚蔓リテ、苗多ク生ズ　女菀

〔ひめたちばな (名)〔姫橘〕きんかん(金柑)ニ同ジ。

ひめぢがは (名)〔姫路革〕播摩國ノ姫路ノ地方ヨリ産ズル革。文庫ナド、種種ノ器ニ貼リ作ル　裝劍奇賞、六「姫路革、播州姫路ニテ製ス、五色アリ、イヅレモ一葉ノ菱ト散櫻ノ極印アリ、大サ一尺三寸ニ、七寸五分アリ、紅革ノモノハ、此中ニテ高直ナリ」

〔ひめつばき (名)〔女貞〕〔姫椿ノ義ニモアラムカ〕ねずみもち(鼠梓木)ノ古名。其條ヲ見合ハスベシ。倭名抄、廿九、木類「女貞、一名冬青、冬月青翠、故以名之、比女都波木」字鏡五十一「女貞、比女豆波木」

〔ひめとね (名)〔命婦〕〔宮人〕〔姫刀禰ノ義、とね(刀禰)ノ條ヲ見ヨ〕婦人ノ仕官スル者ノ稱。ミヤビト　女官　官女　仁德紀、四十年三月「當新嘗之月、以宴會日、賜酒於内外命婦等」中務省式「宮人、訓比賣刀禰」

ひめとらのを (名)〔姫虎尾〕玄參科ノ多年生草本ノ名。山野ニ自生シ、葉ノ形、細ソクシテ桃ノ葉ノ如ク、鋸齒アリ、深綠色ナリ。苗、高サ三四尺、夏、莖

ノ梢ニ、六七寸ノ穗ヲナシテ、淡碧四瓣ノ小花ヲ綴リ開ク。とらのをニ似テ細ソシ。水蔓靑

〔ひめなそび (名)〔姫遊〕〔ひめのあそびノ約〕姫刀禰タチノ中ニ遊ブコト。(油斷スル意)ヒメノアソビ。崇神紀、十年九月「御間城入彦ハヤ、己カ夫ヲ殺セムト、竊マク知ラニ、比賣那素寐スモ」一云、大城戸ヨリ、窺ヒテ、殺サムト、スラクヲ知ラニ、比賣那素寐スモ」

ひめのあそび (名)〔姫遊〕前條ニ同ジ。

ひめのり (名)〔糯の糊ノ義〕飯ヲヤハラカク煮テ、水ヲ加ヘ、碾キ潰シテ作レル糊　米糊　書言字考節用集、六、服食門「糯糊、ヒメノリ」類聚名物考、飲食部、一「今モ世ニひめのりトイフハ、姫糊ノ意ニテ、ひめハヤワラカナルノタトヘナリ」江戸記、姫糊「オノレ、草ノ木テ聞イテアル、紺屋ニ使フハ、賤カひめのりニテアル」

ひめはぎ (名)〔姫萩〕遠志科ノ多年生草本ノ名。山野ニ生ズ。苗、僅ニ三四寸、一根ニ數莖ヲ生ジ、莖毎ニ枝ヲ分ツ。葉ハ互生シ、つげ(黄楊)ノ葉ニ似テ、薄ク小サク、深綠ニシテ、冬枯レズ、春、葉ノ間ニ深紫花ヲ開ク、形、萩ノ花ニ似テ小サク、蘂多シ。實圓ク平タク、大キサ二三分、内ニ小子アリ　根ヲ藥用トス。又、スズメハギ。遠志

ひめはじめ (名)〔比目始〕〔糯糅始ノ義〕(一)曆ニ云フ語　正月、糯ヲ供シ始ムルニ吉ナル日ノ稱ト云フ。或ハ、飛馬始ナド記シテ、馬乘初ニ同ジトモ云フ　鎌倉年中行事、上、正月朔日「椀飯始」椀飯ハひめナリ、ひめはじめノ意」好色一代男、天和、西鶴、三「曆ノ讀初メ、姫はじめ可笑シ」(二)新枕ヲカハスコト　大經師昔曆(正德、近松作)序歌「湯殿始メニ身ヲ清メ、新枕セシ姫始め」

ひめばせう　名　姫芭蕉　芭蕉ノ一種。びさんばせう(美人蕉)ニ同ジ

ひめひなどり　名　姫雛鳥　小雀。異名　其條ヲ見ヨ　夫木抄、春ノ日ニ、姫雛鳥ノ、アガルナリ、霞ノ中ニ、聲聞エッツ」

ひめぼたる (名)〔姫螢〕ほたる螢ノ條ヲ見ヨ

ひめまつ (名)〔姫松〕(一)松ノ小サキモノ。ヒメコマツ。躬恒集「コノ春ゾ、枝サシソムル、行ク末ノ、千歳ヲコメテ、生フル姫松」公任集「姫松ノ、シゲキ所ニ、尋ネキテ、夏バラヘスル、心アルラシ」(二)あづまわらは(東豎子)ノ一稱　公事根源、女叙位「アヅマワラハト云フハ、内侍司ノ被官ニアルモノニテ、行幸ノ時、姫松トテ、ヲカシキ馬ニ乘リテ供奉スル、コレガ事ナリ」

〔ひめみこ (名)〔姫御子〕皇女。姫宮。内親王　公主　(彦御子ニ對ス)　古事記、中(孝靈)「此天皇之御子等、并八柱〔男王五、女王三〕」景行紀、四年二月「天皇之男、女、前後并八十子」淸寧紀、三年七月「皇女」持統紀、五年正月「賜親王、諸臣、内親王、女王、内命婦等位」

〔ひめみや (名)〔姫宮〕前條ノ語ニ同ジ　景行紀、四年二月「仍喚八坂入媛爲妃、生七男六女」源、一、桐壺「キサイノ宮ノひめ宮コソ、イトヨウオボエテ、生ヒイデサセ給ヘリ」

ひめん (名)〔罷免〕職務ヲ罷メ免ズルコト。職務ヲ罷メラルルコト　免職　舊唐書、睿宗紀「中宗時、官爵濫、因依妃主墨勅而授官者、謂之斜封、至是貢令罷免」

〔ひめもす (副)〔終日〕ひねもす(終日)ニ同ジ　名義抄「盡日、終日、ヒメモス」推古紀、十二年四月「群卿百寮、早朝晏退、公事靡監、終日難盡」　新古今集、ひめもすニ、己が鳴キヲル、鶯ノアヤハ、ゲニ百尋ニ、ナリモシヌラン」著聞集、十六、興言利口「ひめもす遊ビアリキテ、夕ベニ歸リ參ジタリケレバ」盛衰記、三十六、福原忌日事「峨山僧

〘ひめや〙(名) [illegible] 鏑矢 [illegible] 破ル器ニ矢ト云フアリ」 古へ、木ヲ割ル時、割目ニ挾ム楔。古事記、上 [illegible]

ひめゆき (名) 姫靫 靫ノ一種。檜ニテ造リ、[illegible]

〘ひめゆり〙(名) 姫百合 百合科ノ宿根草。多ク人家ニ植エテ、花ヲ賞ス。一根、一莖、高サ一二尺。葉ハおにゆり(鬼百合)ニ似テ小サク、色淺ク、密ニ互生ス。夏ノ半ニ、莖ノ頂ニ、六瓣ノ紅黄花ヲ開ク、大キサつつじノ花ノ如ク、天へ向フ。山丹。花ノ深紅ナルヲ、紅姫百合ト云ヒ、黄ナルヲ、黄姫百合ト云フ。萬葉集、八 廿九「夏ノ野ノ、繁ミニ咲ケル、姫由里ノ、知ラエヌ戀ハ、苦シキモノゾ」[illegible]ラレヌ御身ナリ」

ひめよし (名) 姫葦 葦ノ一種。荻ニ似テ細ソク、高サ數尺ナルモノ。簾ニ作ル。スダレヨシ。[illegible] 一名、スダレヨシ、云云、[illegible]ノ一種、形、小ナルモノナリ」

ひめよもぎ (名) 姫艾 艾ノ一種。原野ニ多シ。葉ノ高サ三四尺、葉細ソクシテ鋸齒深ク、互生シ、枝多シ。野艾蒿

〘ひも〙(名) 紐 〔引結ブ物ノ意カト云フ〕 調度ニ着ケテ、結ヒ束ネ、又、解クベク用ヰル太キ絲。ヒボ。其打組ミタルヲ、うちひも(打紐)ト云フ。其條ヲモ見ヨ。[illegible] 又、革ナド細ソク裁チテモ用ヰル。倭名抄、十二 [illegible] 又、くみひも(組紐)アリ。[illegible] 八年二月「ササラガタ、錦ノ紐毛ヲ、解キサケテ、アマタ、寢ズニ、ただ今夜ノミニ」[illegible] 落チニケル、明日ノ夜シ、來ナムト言ハバ、取置キテ待タム」 同、十七 廿二「カクノミヤ、アガ戀ヲラム、ヌバタマノ、夜ノ比毛ダニ、解キサケズシテ」

〘ひも〙(名) 氷面 コホリノ、ハリツメタルオモテ。[illegible] 枕草子、五、四十六段「ウス氷、アハニ結ベル、ひもナレバ、カザス日影ニ、ユルブバカリヲ」

ひもかがみ (名) 紐鏡 〔鈕ニ紐ヲツクル故ニ云フ〕 柄アル鏡ニ對シテ、圓キ鏡ノ稱。裏面ニ鼻鈕アリテ、紐ヲツケテ物ニ吊ルモノ。

〘ひもかがみ〙(名) 氷面鏡 氷ノ面ノ、鏡ノ如ク、キラキラ光ルヲ云フ、語ナリト云フ。多ク、紐ニ言ヒ掛ケテ、解クルニ寄セテ云フ 藻鹽草、五「[illegible]岩間ノ水ノ、ひもかがみ、トケテモ春ニ、向フ今日哉」

〘ひもかがみ〙(枕) 紐鏡 〔鏡ノ裏ノ紐ハ、常ニ臺ニ結ヒツケテ、解クコトナキ故ニ、なときこ(莫解)ト云フベキヲ、のごかノ音ニ通ハシテ云フト云フ〕 能登香ノ山ニカカル枕詞。(何地ノ山ナルカ知ラレズ) 萬葉集、十一 七「紐鏡、能登香ノ山ハ、誰ガ故ゾ、君來マセルニ、紐解カズ寢ム」

〘ひもがたな〙(名) 紐小刀 〔祕め刀ノ意〕 小サキ刀ヲ懷中ニ佩ビテ、下帶ニ插スモノ。匕首 古事記、中(垂仁) 二十「爾其后以紐小刀、[illegible]刺、其天皇之御頸、三度擧而不忍哀情、不能刺、而泣」 垂仁紀、四年九月「匕首」[illegible]

ひもかは (名) 紐革 革ヲ細ソク裁チテ、紐トスルモノ。革ノヒモ。ヒボカ、[illegible]

ひもかはうどん (名) [illegible] 平タク細ソク、紐革ノ如ク製シタルモノ。又、麪條ノ扁平ナルモノ。平ウドン。[illegible] 食「今ひもかはうどんト云ハ、平ウドンナリ、是ハ東海道名所記、鳴海ノアタリニ、伊も川うどんそば切トアリ、[illegible] フコトアリ、然ラバ、ひも川ハ芋川ナルベシ」

ひもく (名) 費目 支出スル費用ノ名目。

びもく (名) 眉目 (一)まゆト、めト。[illegible] (二)ホマレ。面目。太平記、七、新田義貞賜論旨事「論旨ノ文章、家ノ眉目ニ備ヘツ可キ綸言ナレバ」[illegible] 十訓抄、下、第十、第廿一條「カノ社(吉備津宮)ニ參リテ、皇帝以下ノ秘曲ヲ吹ク間、白髮タチドコロニ元ノ如シ、尤モ道ノびもくトイフベシ」

ひもくぎょ (名) 比目魚 ひらめ(比目魚)ニ同ジ。 爾雅、釋地「東方有比目魚焉、不比不行、其名謂之鰈」 戰國策、燕策「比目之魚、不相得則不能行」[illegible]

ひもさす (自動、四) 紐差 (一)紐ヲ結ブ。 曾丹集「今日ヨリハ、夏ノ衣ニ、ナルナベニ、ひもさしアヘズ、ホトトギス鳴ク」 (二)花ノ蕾、未ダ開カズ。 夫木抄、四、花「春ヲ淺ミ、トケヌ氷ニ、コトヨセテ、マダひもさせル、山櫻哉」

ひもじ (形、二) 〔ひだるきコトヲ、ひ文字ト云ヒテ、更ニ[illegible]〕 [illegible] 腹減リタリ。空腹ナリ。ヒダルシ。[illegible]「ヒダルキヲひもじト云フ」

ひもすどり (名) 「日中[illegible]」 からす(烏)ノ異名。[illegible] 山路ノ、木ノ下スゴク、鳴クひもすどり」

ひもつけ (名) 紐付 衣服、[illegible]ナドノ、紐ヲツクベキ處。

ひもと (名) 火元 [illegible] 「都ノ巽ヨリ火出デ來リ、云云、一夜ガ程ニ[illegible]トナリニキ」[illegible]

ひもとき (名) 紐解 女兒、七歲ノ賀儀。[illegible]

〘ひもとく〙(自動、四) 紐解 (一)下紐ヲ解ク。[illegible] ニホフ兒故ニ、陸奥ノ、香取ヲトメノ、結ヒシ比毛等久」 同、廿 四「秋風ニ、今カ今カト、比母等伎テ、ウラマチヲルニ、月傾キヌ」 (二)蕾、開ク。ホコロブ。[illegible] 故里ノ、秋萩ハ、今ゾ紐とく盛ナリケリ」 源、廿三、初音 十「御前ノ梅、ヤウヤウひもときテ」

ひもとく (他動、四) 繙 〔紐解ノ義、古へ、書ハ、皆、巻物ナリ〕 [illegible]

開キテ見ル、ケミス。 荘子、天道篇「往見二老聃一、而老聃不レ許、於レ是繙二十二經一以說」

ひもとほし (名) 紐通 什器ニ、紐ヲ通スベキ孔 穿紐

ひもとみ (名) 火元見 江戸時代ニ、將軍家、又ハ藩主ノ命ニヨリ、火災ノ火元ヲ見屆ケテ、告ゲ知ラスル役目。 望火馬

ひもの (名) 干物 乾物 魚介、蔬菜類ナドヲ、乾シテ、貯ヘ得ルヤウニシタルモノ。又、魚ニ、鹽ヲ延キナドシテ乾シタルモノ 鮝 腊 二中歷、八、供御既、干物二、蚫、燒鮨、干鳥、楚割」 西宮記、十月、旬、供二御飯一云云、供二干物菓子一」 執政所抄、下、四月、三日、京極殿北政所御忌日事、云云、干物、海松、昔苔、煎餅、河骨」

ひもの (名) 檜物 檜ノ薄板ニテ作レル卷物。他ノ材ナルニモ通ジテ云フ。 柄棬 「檜物町」檜物師」檜物座」

ひものざ (名) 檜物座 七座ノ一。鎌倉、室町時代ニ、檜物ヲ製シ賣リシ座。 志ちざ(七座)ノ條ヲモ見ヨ。

ひものし (名) 檜物師 檜物ヲ作ル工人。 饅頭屋本、節用集、比「檜物師、ヒモノシ」 人倫訓蒙圖彙、六、檜物師、「一切ノ木具、曲物造物、島臺、杉檜折等ヲ以テ造類、所所ニ作ス」 庭訓往來、四月「檜物師、轆轤師」

ひものを (名) 紐緒 衣ニ附ケタル紐。又、下紐ノ稱。 萬葉集、九 廿長歌「紐之緒トキテ、家ノゴト、トケテゾ遊ブ」 同、十八 廿六長歌「ヨルベナミ、サブル其ノ子ニ、比毛能緒ノ、イツガリアヒテ、ニホドリノ、二人ナラビヰ」 同、十二 上五「何故カ、思ハズアラム、紐の緒ノ、心ニ入リテ、コヒシキモノヲ」

ひもん (名) 飛紋 織物、染物ノ模樣ニ、鳥花ナド空ヲ飛ビ居ル狀ナルモノ。

ひもん (名) 祕紋 (一)衣ノ裏ヨリ附ケテ、表ニ見ユルヤウニシタル紋所、一名、かくしもん(隱紋)。 鹽尻、五、堀田家平野家系圖「紀姓堀田系圖、紋ハ立木瓜、祕紋三段頭」 (二)祕シテ、漫リニ他見ヲ許サザル紋所 鹽尻、二十九、葵の御紋「義家ノ御裔新田家、大中黑ノ御紋ハ、根本祕ナリ、新紹ハ御家ノ祕紋トシテ、德川家へ傳へ玉ヒシ」

ひもん (名) 祕文 祕密ナル呪文。 謠曲、皇帝「南無天形星王我劍降鬼ト、祕文ヲ稱へ駒ニ乘ジ、虛空ヲ翔ッテ參內セリ」

ひもろぎ (名) 神籬 〔或ハ云フ、柴室木ノ約轉、或ハ云フ、祕室木ノ略轉、或ハ云フ、秀室城ノ轉、其他、諸說、區區ナリ」 (一)〔神樹ヲ建テメグラシ、ソレヲ假ニ神ノ御室トシテ祭ル處ノ稱。又、ヒボロギ。 崇神紀、六年「以二天照大神一託二豐鍬入姫命一祭二於倭笠縫邑一、仍立二磯堅城神籬一」 註「神籬、此云二比莽呂岐一」 萬葉集、十一 八廿「神南備ニ、紐呂寸立テテ、齋へドモ、人ノ心ハ、守リアヘヌカモ」 後ニハ、神社ノ泛稱トモセリ。アマツヒモロギ。 叢祠 倭名抄、十三 四祭祀具「神籬、比保路岐」 古語拾遺「神籬者、古語、比波侶伎」 神代紀、下「吾則起二樹天津神籬及天津磐境一、當下爲二吾孫一奉レ齋矣」 (二)家ノ內ニ、假ニ社ヲ立テテ祭ル所。

ひもろぎ (名) 胙 〔干經肉ノ義〕 神ニ奉ル米餅ナドノ供物ノ稱。古へ、釋奠ニ用ヰタルハ、翌日、大學寮ヨリ內へ獻ズルコトアリキ。又、ヒボロギ。 堀河百首「卯ノ花モ、神ノひもろぎ、漸ギテケリ、トブサモタワニ、木綿カケテ見ユ」 年中行事歌合、廿二番、獻レ胙(八月二日)「祭リセシ、葉月ノ御食ヲ、取リワキ(オキイ)テ、君ニ供フル、今日ノひもろぎ」 撮壤集、上、年中行事、二月上丁日釋奠事、明日獻レ胙事」 名目抄「獻レ胙、釋奠之明有二此事一」 詞林采葉抄ニ、日本紀竟宴歌ヲ引キテ「玉ガシハ、ヲガタマノ木ノ、鏡葉ニ、神ノひもろぎ、供へツルカナ」

ひや (名) 火箭 火矢 古クハ、箭ニ火ヲ仕掛ケテ射遣ルモノ。後ニ、石火矢、棒火矢、國子火矢、はうろく火矢、ナド云フハ、火藥ヲ仕掛ケテ發スル火器ノ名。各條ニ註ス。 欽明紀、十五年十二月「射二火箭一、云云、焚二城拔一之」 太平記、六、赤阪合戰事「火矢ヲ射レバ、水彈ニテ打消シ候、云云、隙ナク火矢ヲ射ケル間、大手ノ櫓二ツヲバ燒落シヌ」 應仁記、二、所所合戰之事「寄手ヨリ火箭ヲ射テ、構ヲ燒掃フ間」

ひや (名) 火屋 火葬場 茶毘所。ヤキバ。 化城 化人場 和泉式部日記、下「物へ詣デテ歸ルニ、火やトイフモノヲ作ルヲ、アハレト思ヒテ、歸リテノ夜、云云」 後愚昧記、應安七年二月二日「新院御葬禮也、云云、到二山作所一、其構立二鳥居一、搆二荒垣一、其內張二絹幔一、其內立二火屋一」 五十年忌歌念佛(寶永、近松作)上「年六十二餘ッテ、火屋ヘ片足踏ミ込ンデ、一人ノ悴ガ木ノ空デ、引張凧ニナルノガ、云云」 渡邊幸庵對話、ミイラ「火屋ノ柱ニ、年年溜リ中候人油ヲ取リ、松脂ノ古キヲ以テ煉合スル也」

ひや (名) 冷 (一)ひやみづ(冷水)ノ略。 浮世風呂(文化、三馬)三編、下「チットお冷ヲウメマセウカ」 (二)ひやざけ(冷酒)ノ略。 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)五「私ニハひやヲクダサレヨト所望ス、卽チ冷酒出ダシケレバ」

ひや (接頭) 冷 ツメタキ意ヲ表ハス語。 「ひや水」ひや酒」ひや麥」冷飯」

ヒヤ (感) 〔英語、Hear〕 說敎、演說ナドヲ聽キテ、我ガ意ヲ得タルヲ、贊同スル語。ヒヤヒヤ。 謹聽謹聽。

ビヤ (名) 麥酒 〔英語、Beer.〕 びいる(麥酒)ニ同ジ。

ひやあせ (名) 冷汗 甚シク恥ヂ、又ハ、氣遣ヒタル時ナドニ、身ニ出ヅル汗。レイカン。 生玉心中(正德、近松作)上「怖サニ猶モ身ヲ寄セテ、締メ合フ中ノ冷汗ハ、桐油モル雨ノ如クニテ」 世間子息氣質(正德、江嶋其磧)四「目ヲ見ツメテ、冷汗雨ノ如ク」

ひやう (名) 平 平聲ノ略。ゐん(韻)ノ條ヲ見ヨ。 沈約、四聲譜「平聲分二上平、下平一」

ひやう (名) 評 〔文體明辯(明、徐師曾)「按、字書云、評、品論也、史家襃貶之詞、蓋古者、史官各有二論著一以訂二一時君臣言行之是非一、然隨レ意命レ名、莫レ協二於一一、故司馬遷史記稱二太史公曰一、班固西漢書則曰レ贊、范曄東漢書又謂二之論一、其實皆評也、而評之名則始見二三國志一、後世緣レ此」〕 シナサダメ。可否ヲ論ジ分クルコト。 後漢書、許劭傳「汝南俗、有二月旦評一焉」 韓愈、言箴「幕中之辯、人反以汝爲レ叛、臺中之評、人反以汝爲レ傾」 國性爺後日合戰(正德、近松作)三「手ヲ打ッテ評ヲツケタル發明ノ」

ひやう (名) 兵 將棋ノ駒ノ名。ふ(步)ノ條ヲ見ヨ。

ひやう (名) 飛揚 (一)高ク飛ビ揚ルコト。 史記、高祖紀「大風起兮雲飛揚、威加二海內一兮歸二故鄉一」 宋玉、高唐賦「虎豹豺兕、失レ氣恐喙、鵰鶚鷹鷂、飛揚伏竄」 (二)高キ位置ニ上ルコト。 北史、齊、神武紀「常有二飛揚跋扈之志一」 杜甫詩「痛飮狂歌空度レ日、飛揚跋扈爲レ誰雄」

ひやう (名) 飛颺 トビヒルガヘルコト。 楚辭、九辯「何曾華之無實兮、從二風雨一而飛颺」 異苑(宋、劉敬叔)「湘東姚祖、嘗二衡山一望二巖下一、有二數年少一、執レ筆作レ書、祖枉レ道過レ之、未レ至百許步、少年相與飄然飛颺」

びやう (名) 鋲 〔浮漚ノ轉カ〕 又、びっう。古ク、のしがたのくぎ。(其條ヲ見ヨ) 釘ノ一種。銅、鐵、眞鍮、或ハ、金銀ニテモ作ル。圓キ頭ヲツケ、打込ミタル痕ノ飾トス。釘カクシヲ作リタルモノ。

[浮鍋釘][鍋鋲釘] 文武五人男(元祿、近松作)四「天王寺づめ、カガヤクホシカ金鋲ニ、ラテンノベウヲスキマナク、スッテツケタルヨソホヒハ、云云」

びやう (名) [illegible]

びやうあ (名) [病痾] ナガキ病氣。

びやういん (名) 病因 病ノ起ル原因。

ひやうか (名) 評價 (一)品物ニ相應シタル値段ヲツクルコト。宋史、[illegible]傳「市物不ニ許價一、市人知而不レ欺」 (二)品質ノ美醜、良否ヲ論定スルコト。

びやうか (名) [病家] 病人アル家。患者ノ宅。(醫者ヨリ云フ)

びやうかん (名) [病間] (一)病氣ニ罹リテアル間。病中。(二)病少シク瘳(癒)エテ快キ時。[illegible]」

ひやうぎ (名) 評議 言ヒハカルコト。集リテ相談スルコト。商議。[illegible]「[illegible]評議」[illegible]傳「[illegible]百寮ニ評議、群臣咸以爲宜、依ニ舊事一、[illegible]以爲不可、[illegible]、云云」

びやうき (名) [病氣] ヤマヒ。ワヅラヒ。イタヅキ。疾病 二[illegible] 史記、倉公傳「望[illegible]其色有ニ病氣一」

ひやうぐ (名) [兵具] (一)武器。兵器。(二)鎧。具足。モノノグ。盛衰記、廿九、三箇馬場願書事「木曾ハ六動寺ニ着ク、兵具クラベ、[illegible]」

びやうく (名) 病軀 病氣ニナヤメルカラダ。病身デアルコト。病體。[illegible]

びやうく (名) 病苦 病氣ニテ苦ムコト。[illegible]」

びやうくゎん (名) [病患] ヤマヒ。ワヅラヒ。盛衰記、十一、靜憲與ニ入道一問答事「其ノ病[illegible]ニテ候ヒケル[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]レズ」

ひやうけつ (名) 評決 評議シテ決定スルコト。魏書、唐和傳「評ニ決獄訟一不レ加ニ捶楚一、[illegible]賞者甚多、世以レ是稱レ之」

びやうげん (名) [病源][病原] 病氣ノ起ルミナモト。疾病ノ原因。病根。[illegible]許胤宗傳「今人不レ能レ別レ脈、莫レ識ニ病源一、以レ情臆度、多安ニ藥味一」太平記、廿三、就ニ直義病惱一上皇御[illegible]事「[illegible]、得ニ病源之平愈一乎」

ひやうご (名) [評語] 是非、優劣ヲ批評シタル語。評言。

ひやうご (名) 兵庫 (一)[兵器ヲ收メ置ク庫。ブキグラ。ヘイコ。吳越春秋「凡欲ニ安レ君治レ民、興レ霸成レ王者、必先立ニ城郭一、設ニ守備一、實ニ倉廩一、治ニ兵庫一」孝德紀、大化元年八月「於ニ閑曠之所一起ニ造兵庫一、收ニ聚國郡刀甲弓矢一」 (二)ひやうごれう(兵庫寮)ノ條ヲ見ヨ。(三)ひやうごわげ(兵庫髷)ノ略。

びやうご (名) [病後] ヤミアガリ。病ノ癒エタル後。ヤミアゲク。

ひやうごぐさり (名) [兵庫鎖] [初、兵庫ニテ作レル鎖ヲ、陣刀ニ用ヰラレタルニ起ル。後ニハ狩衣、又ハ、直垂、水干ヲ着タル時ニモ佩ケリ] 太刀ノ帶取ヲ銀ノ鎖トシタルモノ。庭訓往來、六月「兵庫鎖太刀」ノ帶取ニ用ヰル鎖、兵庫寮附[illegible]ノ名工ニ作ラシメシヨリ名アリト云フ」伊勢貞丈ノ[illegible] [illegible]、安齋隨筆、前編、五「兵庫鎖制、太刀ノ足ニ付ル鎖也、[illegible]、レ此シテ、下ノ二ツノわたノ所ヘ〇ヲ入レテ、又二ツニ折テ下ノ二ツノわたヘ又〇ヲ入テ二ツニ折ル、如レ此シテ[illegible]シク長ク[illegible]」

ひやうごだる (名) [兵庫樽] [攝津國、兵庫ノ造酒家ニ用ヰラレシヨリノ名カト云フ] 片手ノ樋(東京ニテ猿頰ト云フ)

びやうこん (名) [病根] (一)病ノオコリ。病氣ノ根源。病源。[illegible] (二)惡習慣ノ深ク浸ミコメル根。[illegible](宋、張載)[illegible]」

ひやうごれう (名) [兵庫寮] ツハモノノクラノツカサ。古ヘ、衞府ニ屬セル寮、儀仗、兵器ヲ善ク安置スル處ヲ兵庫ト云ヒ、其出納、曝涼ノ事ヲ掌ル。[illegible]下「兵庫寮(唐名武庫署)、頭一人、五位諸大夫任レ之、助、六位諸大夫任レ之、允(大小)、六位侍任レ之、屬(大小)」兵部省式「兵庫寮權史生」朝野群載、六、太政官「兵庫寮、ツハモノノクラ」拾芥抄、中、本、百官部「兵庫寮、宮城內、安嘉門內」大內裏圖考證、二十八「兵庫寮、[illegible]安嘉門內西腋、大藏省北、[illegible]、東西四十丈、南北二十五丈」

ひやうごわげ (名) 兵庫髷 [攝津國、兵庫ノ佐比江町ノ遊女ヨリ起ルト云フ] 又、ひやうごまげ。婦人ノ一種ノ結髮ノ風ノ名。慶長ノ末ヨリ起リ、寬永ノ頃ヨリ數十年間、大イニ行ハル。古畫ヲ見ルニ、髮ヲ頂後ニ集メ結ヒ、[illegible]ヲネヂマキテ、頂上ニ突出セシム、ネヂタルハ、あるへいたう(有平糖)ノ如シ。[illegible]髷、下ニ出デテ、左右ノ耳ノ後ニ短キ[illegible]こきアリ、後來、突出ヲ縮メテ、ソレコ[illegible]ヘリ。堅兵庫ト云フハ、コレニ對シテ、元ノ形ヲ云ヘルナルベシ。略シテ、ひやうご。婦人養草(貞享)二「髮ノ結ヒヤウノ名ヲ、[illegible]」[illegible]御覽ナレ」(鎮ナリ)[illegible]

びやうざ (名) [病者] 病メル人。病人。又、バウザ。ビャウジャ。ヤマウド。源、三十四、下、若菜、下「月頃ハ色色ノびやうざヲノミアツカヒ、心ノ暇ナキヤウニ[illegible]」[illegible]

ひやうし (名) 拍子 [字ノ音ハ、ハクシノ音便] (一)[又、はうし。樂器ノ一。音樂、歌舞ノ調子、曲節ノ間ニ打入レテ、コレヲ助クルモノ。細長ク平タキ板二枚ヲ打合ハセ、[illegible]、打拍ス、[illegible]種、びゃくし(拍子)アリ。其條ヲ見ヨ。倭名抄、四、箏瑟具「拍子、打也、俗云、百師、拍レ板、[illegible]樂器名也」 (二)[illegible]聲樂、器樂ノ節、或ハ、舞踊ノ[illegible]ニ合ハセテ、調子ヲトルコト。源、三十四、下、若菜、下「[illegible]ひやうしトトノヘンコト、云云」枕草子、七、六十八段「足ブミヲひやうしニアハセテハ、云云、アヤモナキ小松ナド歌ヒテ」「拍子ヲ取ル」「手拍子」 (三)ハズミ。ヲリ。ホド。コロアヒ。具合。機。[illegible]

近松作ノ中「此ノ拍子ナラバ、大坂ノ化合セモヨカロ」心中宵庚申（享保、近松作）上「ドリヤ御相手ト立ツ拍子、二人ガ息合、ハッタハッタト蹴返セバ」

ひやうじ（名）［平字］ 平韻ノ字 ゐん（韻）ノ條ヲ見ヨ。

びやうし（名）［病死］ 病ミテ死ヌルコト。史記、魏豹傳「文王病死、戴ニ尸以行、太子發代將」

ひやうしぎ（名）［拍子木］ 方ニシテ短キ材。二箇相撃チテ響ヲナサシム。物ノ相圖ノ拍子ヲ取ルニ打チ、或ハ、夜廻リニ人ヲ警ムルナドニ用キル。ハウシギ。柝 大友興廢記「拍子木ヲタタキ、鬮引キノ下知ニ勝利有リ」 芝居ニテハ、略シテ木ト云フ。狂言作者、幕ノ明ケ締メニ、相圖ニ打ツ音ノスルモノ。木を打つ、木を入れるナド云フ。東海道中膝栗毛（文化、一九）七編、上「此ウチ樂屋ニテ拍子木、カッチカッチ」

ひやうしぬけ（名）［拍子拔］ 張合ノ拔クルコト。蕪村句集「甲入ヤ、知ル人ニ逢フ、拍子拔」

びやうしん（名）［病身］ 病多キ身。ヤミガチノ人。朗詠集、下「一葉舟中載病身」

びやうじや（名）［病者］ 病メル人、ヤマウド。病人。ビャウザ。バウザ。著聞集、二、釋教「永觀律師ハ病者ニテ侍リケルガ、云云」

ひやうじやう（名）［平聲］ 漢字發音上ノ四ツノ區別ノ一。更ニ上下ノ二聲ニ分チ、符號トシテ、字ノ左下隅ニ圈點ヲ附ク。猶、ゐん（韻）ノ條ヲモ見ヨ。康富記、文安四年十月八日「苦字爲ニ平聲之由申上、可レ改ニ祚字ニ之由被レ仰了」

びやうしやう（名）［病症］ 病ノ性。病質。鸚鵡籠（元祿、西鶴）四「醫者、云云、殊更ムツカシキ病しやうアテガハレ、推量ノ療治ヲスルモ、心すソロシキ事ナリ」

びやうしやう（名）［病床・病牀］ 病人ノ寢床。ヤマヒノトコ。病蓐。「病床日誌」

びやうじやう（名）［病狀］ ヤマヒノアリサマ。病氣ノ容子。又、病ノ經過。

ひやうしやく（名）［評釋］ 詩歌、文章ナドヲ批評シテ、解釋ヲ加ヘルコト。

びやうじやく（名）［病弱］ 病氣ニ罹リテ、身體ノ弱リ衰フルコト。

びやうじよく（名）［病蓐・病褥］ びやうしやう（病床）ニ同ジ。

ひやうす・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［評］ シナサダメヲナス。批評ヲナス。善惡可否ヲ論ズ。「評レ文」「評ニ人物ニ」

ひやうすべ（名） 化物ノ一種。かっぱ（河童）ノ一稱。（筑前、及、南九州ノ方言） 嬉遊笑覽、三、化物ノ條「ヌリ佛、ヌレ女、ひやうすべ、シャウケラ」

びやうすゐ（名）［瓶水］ （瓶ノ水ヲ他ノ瓶ニ移スヨリ云フ）師匠ヨリ弟子ガ法門ヲ傳授セラルルコト。涅槃經、四十「阿難事ヽ我二十餘年、云云、一經ニ其耳ニ不ニ曾再問ニ如ニ寫ニ瓶水、置ニ之一瓶ニ」 盛衰記、廿四、南都燒失事「弘法大師、云云、香龍寺ノ大和尚ニ謁シテ、三密五智ノ瓶水ヲ受ケ、眞乘秘密ノ奧藏ヲ傳ヘテ、大同年中ニ歸朝シ給ヒテ、法水ヲ四海ニ流シ、云云」

びやうすゐ（名）［病衰］ 病氣ニ罹リテ、身體ノ弱リ衰フルコト。

びやうせい（名）［病勢］ 病氣ノイキホヒ。「病勢募ル」「病勢衰フ」

ひやうせん（名）［兵船］ 又、へいせん。イクサブネ。軍船。軍艦。書言字考節用集、七、器財門「兵船、ヒャウセン」 平家物語、十、先帝御入水事「ヨキ武者ヲバ兵船ニノセ、雜人バラヲバ唐船ニノセテ」 盛衰記、三十六、一谷城構事「海ニハ兵船數萬艘ヲ浮ベテ、鎖ヲ散セルガ如ク」

ひやうそく（名）［平仄］ 平ト、仄ト。平字ト、仄字ト。又、平韻ト、仄韻ト。ゐん（韻）ノ條ヲ見ヨ。 滄浪詩話、詩體「平仄出入前圖起原、云云」 古詩韻範、序「如ニ七古ニ則平仄交互、長短不レ定、其法甚辨也」 平仄が合はぬトハ、話ノツジツマノ合ハザル意。

ひやうそく（名）［秉燭・柄燭］ 燈蓋ノ一種。中央ニ臍ノ如キモノアリテ、コレニ燈心ヲ立テテ、火ヲ點ズ。

ひやうぢやう（名）［兵仗・兵杖］ （一）儀衞ノ武器、太刀、弓箭ノ類 隨身コレヲ持ス。文官ニテ、隨身ヲ召連ルルコトヲ聽サルルヲ、兵仗宣下ト云フ。 平家物語、二、小松教訓事「兵杖ヲ帶シタリケル兵ドモ」 光豐公記、慶長八年二月十二日「將軍宣下有レ之〔家康〕、云云、氏長者宣旨、牛車宣旨、兵仗宣下、淳和奬學兩院官旨有レ之」（二）轉ジテ、隨身、内舍人ノ稱。 増鏡、第十一、草枕「世ヲ背カンノマウケニテ、尊號ヲモカヘシ奉ラセ給ヘバ、兵仗ヲモトドメントテ、御隨身ドモ召シテ祿カヅケ、云云」

ひやうぢやう（名）［評定］ 衆、相評論シテ決定スルコト。審事 保元物語、一「軍評定事」 平治物語、一、院御所仁和寺御幸事「歳末年始ノ營ミニモ及バズ、タダ合戰ノ評定バカリナリ」

ひやうぢやうしゆう（名）［評定衆］ 鎌倉、室町幕府ノ制ニ、軍政ニ參畫スル職。政所ニ出仕シテ、執權ト共ニ政務ヲ評定ス。 吾妻鏡、廿九、天福元年八月十八日「召ニ評定衆ニ被レ觸ニ仰之ニ」 太平記、三十五、北野通夜物語事「一人ハ古ヘ關東ノ頭人評定衆ナミニ列テ、云云」

ひやうぢやうしよ（名）［評定所］ （一）評定衆ノ、訴訟ヲ聽キテ判決スル役所。吾妻鏡、廿八、寛喜二年十月廿七日「相州、武州、令レ評定所ニ給」 （二）江戸幕府ノ最モ上級ノ裁判所。 御當家令條、三十四、公事訴訟役人起請文前書「一、於ニ評定所ニ批判相談之時、互ニ心底存寄之通、不レ寄ニ善惡ハ毛頭茂不ニ相殘ニ可ニ申出ニ事」 憲教類典、五ノ十四、町奉行「一、評定所式日、毎月四日、十三日、廿二日、御老中一人御出席也、云云」

ひやうぢやうどうじ（名）［丙丁童子］ （丙ハひのえ、丁ハひのと、共ニ火ノ緣語、童子ハ火ノ擬人語）火ノ神ノ名。八人童子。轉ジテ、火中 手紙ナド、ひやうぢやうどうじニ與フベシナド云フハ、火ニテ燒クベシトノ意。 碧巖錄、第七則、評唱「法眼云、云云、某甲問、如何是佛、林、高林云、丙丁童子來求火、法眼云、好語、恐伊錯會、可レ更說看、則云、丙丁屬レ火、以レ火求レ火、如ニ某甲ニ是佛、更去求レ佛」 同、第七則、拈雲口傳「他見ハ禁制ナレドモ、此人ヘ一目見セテ後ハ速ニ丙丁童子ニ授ケラルベシ」

びやうてい（名）［病體］ ヤマヒノアリサマ。病症。病狀。ヨウダイ。

ひやうでう（名）［平調］ 音樂、十二律ノ一。其條ヲ見ヨ。 源、七、紅葉賀「十八、「サウノ琴ハ、中ノ細緒ノタヘガタキコソ所セケレトテ、平調ニオシクダシテ調ベ給フ」 著聞集、六、管絃歌舞「良保親王、北河ノ山莊ニテ放遊シ給ヒケルニ、平調ニシラベテ、五常樂ヲナス間」

ひやうてん（名）［評點］ （一）評ト、點ト。評語ト、批點ト。（二）批評シテ施ス點。「吳齋賢評點、史記評文」

ひやうと（副） （一）矢ヲ射遣ル音ニ云フ

語。又、ヒョソト。[illegible]「例ノ大矢ヲ打番ヒ、カタメテひゃうと射ル」平家物語、十一、那須與一「[illegible]ヨッピイテ、ひゃうと放ツ」
(二)イキナリト。ヒョット。突然。 蜻蛉日記、中、下「心モクルシケレバ、几帳サシ隔テテ打チ臥ス所ニ、ココニアル人ひゃうと寄リ來テ云フ」

びゃうどう (名) [平等] ヒトシキコト。不同ナキコト。一樣ナルコト。高下深淺ナドノ別ナキコト。[illegible]

ひゃうとく (名) [評督] 〔評ハ郡ナリ。續紀、一、文武帝、四年六月、庚辰、薩末比賣、久賣、波豆、衣評督衣君縣、トアリ。續紀考證、一、文武紀、衣評督、評督蓋郡大領、云云、案、韓方言、謂郡爲評〕郡ノ大領ナリ。[illegible]〔郡司ノ條ヲモ見ヨ〕[illegible]官名、猶ニ後世郡領一也」

びゃうどく (名) [病毒] 病氣ヲ發生セシムル毒。病原トナル毒。[illegible]ハ生レテ後生ジタルモノユヱ、毒藥ニテ取ムフルルモノナリ」

びゃうなん (名) [病難] 病氣ノ災難。[illegible]「[illegible]病身人ニ身ヲマカス」

びゃうにん (名) [病人] 病ミテアル人。ヤマウド。病者。患者。[illegible]「享保十一丙午年二月二十四日、一、倒死、病人、水死、[illegible]」

ひゃうは (名) [illegible] 山鳥ノ羽ニテ、矧ギタル矢。[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

ひゃうばん (名) [評判] (一)評シテ、是非、善惡、優劣ナドヲ判ズルコト。評定。[illegible] (二)世人ノ評シテ、言觸ラスコト。世ノ風評。ウハサ。トリサタ。[illegible] ウハサノ高キコト。有名ナルコト。[illegible]結構人デゴザイマシタ」

びゃうぶ (名) [屏風] 〔風ヲ屏グ意〕室中ニ立テ、風ヲ屏ギ、又ハ、物ヲ遮ル具。古キハ、衝立障子ノ如キモノ。後ニハ折レ曲レルモノ出來タリ。[illegible]、六枚(六曲)、四枚(四曲)、二枚[illegible]曲等、[illegible]ヲツナギ、折リ疊ムヤウニ作レルヲ云フ。[illegible]枕屏風ナド云フ。又、風爐先屏風アリ。 天武紀、下、朱鳥元年四月[illegible]屏障具「屏風、七尺屏風」[illegible]

ひゃうぶきゃう (名) [兵部卿] (一)兵部省ノ長官。[illegible] (二)兵部省ノ條ノ(二)ノ長官。

ひゃうぶしゃう (名) [兵部省] (一)[illegible]モノ、ツカサ。王朝時代、八省ノ第五。諸國ノ兵士、軍旅、兵馬、城隍、兵器等ノ事ヲ掌ル所。卿、輔、丞、錄等ノ職アリ。[illegible] (二)明治時代、六省ノ一。[illegible]兵ノ招募、守衛、軍備、兵學校等ノ事ヲ掌ル所。[illegible](正、權ノ大、少アリ)、錄(大、少)、史生、省掌、使部ナドノ職アリ。明治五年二月廿七日廢シテ、陸軍、海軍ノ二省ヲ設置セラレタリ。

びゃうぼつ (名) [病歿] 病氣ニテ死ヌルコト。病死。

ひゃうほふ (名) [兵法] (一)へいはふ(兵法)ニ同ジ。[illegible] (二)劍術ノ稱。[illegible]「兵法者」「兵法つかひ」

びゃうま (名) [病魔] 病氣ヲ起サシムルモノトシテ云フ魔。[illegible]

ひゃうまし (名) [兵馬司] 又、へいばし。古ヘ、牧、及、兵馬、郵驛、公私ノ馬牛ナドノ事ヲ掌リシ司。兵部省ニ管セラル。[illegible]

ひゃうもん (名) [平文] 直垂、狩衣ナドニ、二色、三色ニテ、色取リタル模樣。又、漆塗ナドニ、金貝ノ類ヲ、平ラニ文樣ニシテ塗リタルモノ。(金銀箔ナルニモ云フ) 漆ノ地ト同ジク平ラナルナリ。又、狂文ト云フハ、平文ト同ジナレド、文樣ヲ狂ハセテ塗込メタルモノ。共ニ今云フ[illegible]「[illegible]ミナミナ金銀ノひゃうもんノ直垂ニ」[illegible]

ひゃうもんし (名) [平文師] 平文ノコトヲスル工人。 山槐記、元暦元年八月廿二日、大嘗會[illegible] 管見記、正和四年四月廿五日、日吉神社遷幸事「大宮[illegible]」

びゃうやなぎ (名) [未央柳] 〔唐土ノ未央宮ノ柳ニ起ルカ〕金絲桃科ノ灌木。高サ二三尺、葉ハ柳ニ似テ、末、圓シ、對生ス。梅雨ノ頃、花ヲ開ク、形、桃ノ花ニ似テ、黄ナリ。[illegible]垂リテ絲ノ如シ。冬ニ至リテ、葉、倘、枯レズ。訛シテ、りょうやなぎ。金絲桃

ひゃうらう (名) [兵粮] [兵糧] 軍人ノ給スル[illegible]

ひゃうらうぜめ (名) [兵粮攻] 城ヲ圍ミテ戰ハズ、只、敵ノ兵粮ノ道ヲシメテ、降ラスルコト。[illegible] 持口ノ明カザル措ニ、夏代直スヘキ也

ひゃうらうづめ (名) [兵粮詰] [兵糧詰] 兵粮攻ニセラルルコト。(前條ノ語ヲ參見セヨ) [illegible] 栗嶽山ニテ評定シケルハ、イツマデ加樣ニ兵粮詰ニセラレ、冥冥ト有ランヨリハ、弘川ヘ亂入、有無ノ合

戰ニヨリ、運命ヲ見ルベシトテ、云云」

ひやう-らん（ヒヨウ・ラン）（名）［兵亂］又、へいらん。イクサノミダレ　戰亂　戰爭。國語、楚語「金足ニ以禦ニ兵亂ニ」　保元物語、一「官軍召集事「此兵亂ノ出デ來ランズル事ヲバ、カネテ知召シケルニヤ、内裏ヘ召サルベキ武士ノ交名ヲ註シ置カセ」

ひやう-り（ヒヨウ・リ）（名）拍子（ヒヤウシ）ノ訛　其條ノ（一）ヲ見ヨ。浮世風呂、文化、二、馬、一、編、下「杓ノ水ヲ打ッカケニ掛ルト、其ノ拍（ヒヤウ）子ニ、藥罐ガブ、クル返ッタカラ、茶釜モ火吹竹モ成ダラケヨ」「時ノひやうり」

びやう-り（ビヨウ・リ）（名）［病理］疾病ノ由來、及、其狀態ナドニ關スル原理。病氣ノ理論。「病理學」「病理書」

ひやう-ろん（ヒヨウ・ロン）（名）［評論］物事ノ優劣、可否ヲ評シ論ズルコト。又、其論文。三國志、魏志、李通傳、注「言及二玄遠一而未下嘗ニ評二論時事一臧ニ否人物上」　梁書、裴子野傳「永明末、沈約所レ撰宋書、旣行、子野更刪撰爲二宋略二十卷一其敍事評論、多善、約見而歎曰、吾弗レ逮也」

びやう-ゐん（ビヨウ・イン）（名）［病院］多クノ病人ヲ宿シテ、診察、療治スル爲ニ設ケタル家。

ひやう-ゑ（ヒヨウ・エ）（名）［兵衞］兵衞府ノ衞士。古ヘ、皇城ノ閤門ヲ禁衞シ、宮闕ニ宿衞シ、行幸ニハ前後ヲ分衞セシ武官。郡司ノ少領以上ノ子弟、又ハ、內六位以下八位以上ノ嫡子ニシテ、年二十一以上ノモノヨリ取ル。ツハモノノトネリ。職員令「左兵衞府（右兵衞府准レ之）兵衞四百人」　後紀、十七、平城帝「大同三年七月、左右近衞、及左右兵衞等府、近衞、兵衞、元各四百人、今定ニ各三百人ニ」

ひやう-ゑ-ふ（ヒヨウ・エ・フ）（名）［兵衞府］武衞。古ヘ、皇城ノ閤門ヲ禁衞シ、宮闕ニ宿衞シ、儀仗ニ備ヘ、行幸ニハ車駕ノ出入ニ、前後ヲ分衞セシ武官ノ府。左兵衞府、右兵衞府ニ分レ、共四等ノ官ヲ督（カミ）、佐（スケ）、尉（ジョウ）、志（サクワン）ト云フ。ユゲヒノツカサ。ツハモノノトネリノツカサ。ヒヤウヱノツカサ。職員令「左兵衞府（右兵衞府准レ此）」　倭名抄、五「官名「兵衞府、由介比乃豆加佐」　中務省式「左兵衞府、二百六十七人、云云、兵衞二百人、駕輿丁五十人、右兵衞府准レ之」　拾芥抄、中、末、百官部「兵衞府、左右、宮城內陽明門南掖、左近衞府南、督、佐（權）、尉（權、大少）、志（大少）、府生、醫師」

ひやかし（名）［冷］（一）ヒヤカスコト。ヒヤスコト。（二）ゾメキ。素見。

ひや-か-す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［冷］（ひゆるノ他動、ふやくる、ふやかすノ類）（一）冷（ヒヤ）クルヤウニナス。ヒヤス。漬クル。名義抄「寒心、ムネヒヤカス」（二）東京ノ俗語ニ、素見（スケン）ス。ゾメク。ソソル。（モト淺草、山谷（サンヤ）邊ノ紙漉業ノ者、紙料ノ水ニ冷クル間、北里ニ遊ベル隱語ニ起ルト云フ）　嬉遊笑覽、九、娼妓「素見、ぞめき、萬葉ニ、友ノ騒（ツツ）、沙石集ニ、世間公私ノぞめきナド見エテ、古言ナリ、云云、今ハそそるトモ、ひやかすトモイヘリ、云云、或人云、ムカシ、山谷ニハ、すきかへしノ紙ヲ製スル者多ク、ソレガ方言ニ、紙ノタネヲ水ニ漬オキ、ソノヒヤクル迄ニ、廓中ノニギハヒヲ見物シテ歸ルヨリ出タル詞トイヘリ」（三）〔又、轉ジテ、ナブル。嘲弄ス。愚弄〕

ひや-かず（名）［日矢數］昔、三十三間堂ニテ通矢（トホシヤ）ヲ射ルニ、其當日ニ射ル矢ノ數ヲ云フ。江戶三十三間堂矢數帳「三十三間堂由緒書、江戶三十三間堂ノハジメハ、野傳ニイヘル所ハ、慈眼大師南光坊、御發起ノ由、云云、頃日百射千射ヲハジメテ、日矢數江戶一ニ到マデ、諸家御丹誠ノ跡ヲ印（シルシ）トドメ、云云」

ひや-か-み（副）［冷］ひややかみ（冷）ニ同ジ。名義抄「寒、ヒヤカニ」　拾遺愚草員外「打チソソグ、秋ノ急雨、ひやかみテ、風ニサキダツ、シタノ浮雲」　散木集、三、秋「秋キテハ、風ひやかなる、暮モアルヲ、アツサシメラヒ、ムツカシノ世ヤ」

ひやく（名）［百］（一）數多ノモノ。（二）百姓ノ略。田舍者。「オひやく」

ひやく（數）［百］（一）モモ。十ヲ十倍セル數　書經、禹貢「五百里甸服、百里賦納レ總、二百里納レ銍」　荀子、王霸篇「旣能治レ近、又務治レ遠、旣能治レ明、又務見レ幽、旣能當二一、又務正レ百、是過者也、猶レ不レ及也」　論衡、漢、王充「須頌篇「從二門庭一聽ニ堂宮之言一、什而失レ九、如登レ堂闚レ室、百不レ失レ一」（二）數多キ　アラユル。書經、堯典「百姓昭明、協二和萬邦ニ」　荀子、王霸篇「相者、論二列百官之長一、要二百事之聽一、以飾二朝廷臣下百吏之分ニ」　漢書、敍傳、下「述敍傳「緯二六經一、綴二道綱一、總二百氏一、贊二篇章ニ」「百年」百味」百草」百官」百事」

ひ-やく（名）［非役］勤メ無クテアルコト。

ひ-やく（名）［飛躍］（一）トビアガルコト。李羣玉詩「赤霄終得意、天池俟ニ飛躍ニ」（二）突然ニ上位ニ昇進スルコト。（三）大膽ニ活動シテ、事ヲナスコト。「暗中飛躍」

ひや-く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）［冷］（一）十分ニ冷リ冷ユ。（二）十分ニ漬（ノカ）ル。

び-やく（名）［媚藥］相手ニ戀慕ノ情ヲ起サシムルト云フ藥。又、情慾ヲ起サシムルト云フ藥。ホレグスリ。北戶錄（唐、段公路）「紅蝙蝠出ニ隴州一、雙伏紅蕉花間一、採者獲二其一、則一不レ去、南人收爲二媚藥ニ」

ひやく-いち（名）［百一］（一）百分ノ一。韓愈、別知賦「與安驅而獨裕、顧爲酔而共悲、惟知心之難レ得、斯百一而爲レ收」（二）（百語ノ中ニ一ツダケ眞實ナル意）噓言者、又ハ、大言家ノ一稱　千三（センミツ）ノ類。冬瓜ノ花ノ百一ト云フ諺ハ、ムダ花ノ多キヲ云フ。

ひやくいち-づけ（ヒヤクイチ・ヅケ）（名）［百一漬］（數多入ル意）澤氏要覽、中、道具部「百一物、大概之辭也」　澤庵漬ノ間ニ、鹽干ノ茄子ヲ入レテ、漬ケタルモノ。

びやく-え（名）［白衣］（一）白キ衣服。謠曲、羽衣「白衣、黑衣ノ天人ノ、數ヲ三五ニワカテ、一月夜夜ノ天乙女、奉仕ヲサダメ役ヲナス」（二）白小袖ニ、指貫、又ハ、袴ナドノミニテ、直衣、直垂、素袍、等ノ表衣ヲ着ヌコト。後ニハ、袴ヲモ脫シ、小袖ノミニテアルヲモ云フ。略服ヲ白衣ノ體ト云フ。發心集、一、第三條「白衣ニテアシダサシハキヲリケルママ」　盛衰記、十三、高倉宮信連戰事「右大將ハ白衣ニテ、長押ニ尻懸ケ、大床ニ足差出シテ」　幸若舞曲、和田酒盛「時宗聞イテ、仰セカシコマッテ候ヘドモ、御覽ゼラレ候如ク、びやくえニ候トテ、出デモセズ」（三）黑衣ヲ着クル僧侶ニ對シテ、在家ノ俗人ノ稱。（天竺ノ波羅門、及、俗人ハ、多ク鮮白ノ衣ヲ服スルヨリ起ル）維摩經、方便品「雖レ爲二白衣一、奉二持沙門清淨律行ニ」　遺敎經「白衣受欲非二行道人一」　大智度論、十三「白衣雖レ有二五欲一、不レ如二出門ニ」

びやくえ-くわんおん（ビヤクエ・クワンノン）（名）［白衣觀音］だいびやくえ（大白衣）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

ひやく-か（ヒヤツ・カ）（名）［百家］數多ノ作家（サクカ）。又、多クノ學者　史記、五帝紀、贊「學者多稱二五帝一、尚矣、然尙書獨載二堯以來一、而百家言二黃帝ニ」　同、始皇紀「天下敢藏二詩書百家語一者、悉詣二守尉一雜燒レ之」　同、賈生傳「賈生年少、頗通二諸子百家之書ニ」

ひやく-かう（ヒヤツ・コウ）（名）［百行］スベテノオコナヒ。アラユル行爲。詩經、衞風、氓篇「士之耽兮、猶可レ說也、女之耽兮、不レ可レ說也」　鄭箋「士有二百行一可二以功過相除一、至二於婦人一、無二外事一、維以二貞信一爲レ節」　北史、高允傳「孰謂爲レ信、百行稱レ遺」　白虎通（漢、班固）「孝道之美、百行之本也」

びゃくがう（名）[白毫] 如來ノ三十二相ノ一、佛ノ眉間ニアル[illegible]白キ毛ノ[illegible]ニ云フ。大般若經、三十一「世尊眉間有白毫相、右旋[illegible]」[illegible]妙法蓮華經、[illegible]「爾時釋迦牟尼佛、放大人相肉髻光明、及放眉間白毫相光、[illegible]照東方八萬億那由他恒河沙等諸[illegible]佛世界」[illegible]ハ、ヨソヨソノ白毫ノ秋ノ月ヲ羨ストカヤ」

びゃくがうさう（名）[白毫相] 佛ノ白毫アル形相。前條ヲ參見セヨ。

ひゃくかでう（名）[百箇條] さだめがき（定書）ノ條ヲ見ヨ。「[illegible]」

ひゃくかにち（名）[百箇日] 人死シテ百日ニ當タル日ノ稱。佛事ヲ修スルニ就キテ云フ。一百箇日。百日忌。吾妻鏡、廿六、[illegible]三年八月廿二日[illegible]延應三年八月九日[illegible]修之」[illegible]

ひゃくかん（名）[百感] イロイロノ感想。[illegible]

ひゃくがふ（名）[百合] 草ノ名。ユリ。[illegible]

ひゃくき（名）[百鬼] 種種ノ怪物。史記、[illegible]「百鬼夜行」

ひゃくき（名）[百卉] 種種ノ草花。[illegible]

ひゃくぎ（名）[百技] 種種ノ技工。數多ノ技藝。[illegible]

びゃくぎふ（名）[白及] 草ノ名、しらん（紫蘭）ニ同ジ。

ひゃくきやぎゃう（句）[百鬼夜行] （一）夜間、種種ノ怪物ノ列ヲナシテ出デ行クコト。[illegible]百鬼夜行ニ[illegible]大鏡、中、師輔「此ノ九條殿ハ、百鬼夜行ニモアハセ給ヘルハ、何ホドト云フ事ハ、エウケ承ハラズ」宇治拾遺、一、第十七「[illegible]修行者、百鬼夜行ニ逢フコト」（二）轉ジテ、怪シキモノドモガ、人目ヲ忍ビテ、奇怪ナル行動ヲナスコト。

ひゃくきゃくばた（名）[百脚旗] 百本ノ旗。百旒ノハタ。

ひゃくくけん（名）[百九軒]〔享保中、起立ノ數〕川柳ニ云フ語。札差ノ異名。札差要集、中「享保九辰年中、南御奉行大岡越前守樣江願出、御吟味之上、人數百九人ニ札差株式御定被下置候」[illegible]云云、享保九辰年七月、云云、札差宿百九人ニ限、外[illegible]

ひゃくくゎ（名）[百科] 種種ノ科目。又、種種ノ學科。「百科辭書」「百科全書」

ひゃくくゎ（名）[百花] イロイロノ花。[illegible]「百花叢」詩「何處春光多、時登百花叢」「百花譜」

ひゃくくゎじしょ（名）[百科辭書] 學術、技藝ナドノ、世ノアラユル事物ヲ、說明[illegible]

ひゃくくゎぜんしょ（名）[百科全書] [illegible]集メ合ハセタル叢書。

びゃくぐゎつ（名）[白月]〔古代印度ノ曆法ハ、月ノ盈虧ニヨリテ、黑白ノ名ヲ立ツルヨリ云フ。黑月ニ對スル語〕又、白分。陰曆ノ、月ノ一日ヨリ十五日マデノ稱。十六日以後、晦ニ至ルマデヲ黑月ト云フ。コノ兩者ヲ合ハセテ、黑白二つの月ト云フ。西域記、二「月盈至滿、謂之白分、月虧至晦、謂之黑分、[illegible]」[illegible]太平記、二十[illegible]

ひゃくくゎのさきがけ（名）[百花之魁] 梅花ノ異稱。花魁。

ひゃくくゎん（名）[百官] （一）內外ノ諸官ヲ、スベテ云フ語。數多キ官。[illegible]（二）朝廷ノ官省寮司ノ總稱。

ひゃくくゎん（名）[百貫] （一）十貫ノ十倍。（二）數多ノ錢。（三）價値アルモノニ、譬ヘテ云フ語。「男ハ裸百貫」

ひゃくくゎんな（名）[百官名] [illegible]ドノ名ヲツクル、云云、世俗ニ是レラノ類ヲバ百官名[illegible]何右衞門、何左衞門ナドヲ、百官名ニテナシト心得タル人有リ、アヤマリ也、兵衞、右衞門、左衞門ハ、[illegible]

ひゃくくゎわう（名）[百花王] 牡丹ノ異稱。[illegible]「[illegible]至今喚作百花王」[illegible]

ひゃくけい（名）[百計] 種種ノハカリゴト。多クノテダテ。各種ノ方法。[illegible]

びゃくこ（名）[白狐] 毛色ノ白キ狐。年舊リタルモノト云フ。[illegible]

びゃくこ（名）[白虎] [illegible]ヲ見ヨ。ハクコ。禮記、曲禮、上篇「行前朱[illegible]」

びゃくごふ (名) 白業 〔惡業ヲ黑業ト云フニ對ス、善ハ淸白ノ法ニシテ、淸白無垢ノ果ヲ感ズレバ云フ〕佛敎ノ語。善キ應報ヲ得ベキ所業。善業。毘奈耶雜事、八「大王當知、白業白報、黑業黑報、雜業雜報、是故應捨黑雜二業、當修白業」盛衰記、廿一、入道奉勸一萬人、以白業ヲ令祈紫宮ニ」

びゃくころう (名) 白虎樓 古ヘ、禁中ニアリシ四樓ノ一。りゅうびだう(龍尾道)ノ條ヲ見ヨ。有職抄、二、禁中殿門「白虎樓、龍尾道ノ西ノ樓」大内裏圖考證、三、中「白虎樓、年中行事秘抄、及、拾芥抄、白虎樓、假名ヒャクコロウ、兵範記、作西樓、西宮記、作右樓、古本拾芥抄曰、西謂之龍尾道西樓、上有小閣四(印本、作八)閣」

ひゃくさい (名) 百濟 くだら(百濟)、及、さんかん(三韓)ノ條ヲ見ヨ。

ひゃくさう (名) 百姓 ひゃくしゃう(百姓)ニ同ジ。大鏡、下、道長「イミジウ雪フリ冴エタル夜ハ、諸國ノ民ひゃくさう、如何ニ寒カラントテ」

ひゃくさう (名) 百草 イロイロノクサ。モモクサ。千草。楚辭、離騷「恐鵜鴂之先鳴兮、使夫百草爲之不芳」史記、曆書、曆也、正作於孟春、於時冰泮發蟄、百草奮興」

ひゃくさうば (名) 百相場 錢百文ニ何程ト云フ小賣相場。元祿ノ初、白米ノ行商、起リテヨリノ語ナリ。

びゃくさん (名) 白散 正月、酒ニ入レテ飲ム屠蘇ノ一種。山椒、防風、肉桂、桔梗、細辛ナドヲ刻ミタルモノ。とそ(屠蘇)ノ條ヲモ見ヨ。易林本節用集、(慶長)下、食服門「白散之酒、ビャクサンノサケ、禁中、元三飲藥酒也」典藥寮式「元日、云云、屠蘇、云云、然後供御、次白散」土佐日記、十二月廿九日「大湊ニ泊レリ、クスシ、フリハヘテ、屠蘇、びゃくさん、酒加ヘテ持テ來タリ、云云、元日、ナホ、オナジトマリナリ、白散ヲ、アルモノ、夜ノ間トテ、船ヤカタニサシハサメリケレバ、風ニフキナラ(ガイ)サセテ海ニイレテ、得ノマズナリヌ」下學集、下、飲食門「屠蘇白散、正月一日飲此藥也、一人飲之、一家無病、一家飲之、一里無病也、自少至老之次第也」

ひゃくじ (名) 百事 サマザマノ事。ヨロヅノ事。萬事。禮記、祭義「孝子將祭祀、必有齊莊之心以慮事、以具服物、以修宮室、以治百事」管子、七法篇「從令者不輯、則百事無功、百姓不安其居、則輕民處而重民散」

びゃくし (名) 拍子 百子 樂器ノ名。長闆、手ノ如キ板ヲ、十餘枚重ネテ、韋ヲ以テ連ネテ、相拍ツモノト云フ。びんざさらノ類。拍板 又、一種、二枚ヲ打合ハスルモノヲ、ひゃうし(拍子)ト云フ。其條ノ(一)ヲ見ヨ。

びゃくし (名) 白芷 古名、カサモチ。繖形科ノ草ノ名。山野ニ自生シ、莖ノ高サ七八尺、葉ハ大葉ノ川芎ニ似テ、大ナルハ二三尺ニ至ル。周ニ鋸齒アリ、背ニ粟紋アリ。花ハ小サク白ク、胡蘿蔔ノ花ノ如ク傘狀ヲナス。亦、大葉川芎ノ花實ニ似タリ。根ヲ藥用トス、香氣アリ。本草和名、上「白芷、一名芳香、云云、和名加佐毛知、一名佐波宇止、一名與呂比久佐」和漢三才圖會、九十三、芳草類「白芷本朝處處出、皆有二種、而一種苗高五六尺、莖葉似川芎而長大、花實亦似川芎大房、但葉色淡於川芎無香氣、一種苗高三四尺、莖有細白毛、葉似川芎而長大、其色淡於川芎、而共有香氣」

ひゃくしちゃう (名) 百子帳 〔百子トハ、檳榔ノ異名、本草圖經「檳榔生南海及嶺外州郡、云云、葉生木巓、似柄頭、又、似芭蕉、實作房從葉中出、一房數百、狀如雞子」ト見ユ。一房ニ、其子、數百生ズルヨリ名トス〕幄舍ノ一種、檳榔ニテ葺ケル四阿ノ稱。大嘗祭ヲ行ハセラルル年ノ十月、御禊ノタメ、天皇、河原ニ行幸アリテ祓シ給フ、コノトキ、河原ニ設置セラルル幄舍ヲ云フ。御代始抄「河原頓宮ニ至リテハ、先ヅ御膳ノ幄ニ御輿ヲヨセテ、下御ナラセ給フ、コレヨリ腰輿ニ召サレテ、御禊ノ幄ニ移ラセ給フ、主上ハ百子帳ノ内ノ大床子ニ召御シ給フ、百子帳ト云フハ、檳榔ヲ以テ頂ヲオホヒテ、四方ニ帷ヲカケテ、前後ヲ開キテ、出入スル樣ニ飾リタリ」

ひゃくじっこう (名) 百日紅 樹ノ名。さるすべり(猿滑)ニ同ジ。

びゃくしん (名) 柏心 〔或ハ、白身、白心、柏槙ナド記ス、柏子ノ音便カ〕又、ビャクシ、ヒャクスギ。樹ノ名。柏ノ類。山地ニ自生シ、幹ハ松ノ如ク、高サ數十尺ニ達シ、葉ハ一樣ナラズ、或ハ、ひのきノ如ク、或ハ、杉ノ如ク、又、松ノ如ク、種種ノ葉ヲ出ス、實ハ毬ニ似、材ハ建築、其他、器具用トナル。檜 はひびゃくしん(矮檜)、いぶきびゃくしん(伊吹柏槙)ナド、各條ニ註ス。

ひゃくしゃう (名) 百姓 〔孝經、天子章、正義「百姓、謂天下之民皆有族姓、言百、擧其多也」〕(一)四民ノ通稱。天ガ下ノ民ノ總稱。モモヤカラ。ヒャクセイ。民。人民。靑人草。蒼生。職員令義解、左京職、大夫一人、掌左京戶口、名籍、字養百姓、云云事」持統紀、七年正月「詔、令天下百姓、服黃色衣、奴皂衣」天武紀、下、七年十二月「筑紫國大地動之、地裂、云云、百姓舍屋、毎村多仆壞」(二)專ラ、農民ノ稱。ヒャクセイ。農 三代實錄、四十八、仁和元年十二月廿二日「[illegible]百姓辛犬甘秋子」

ひゃくしゃういっき (名) 百姓一揆 いっき(一揆)ノ條ヲ見ヨ。甲陽軍鑑、末書「百姓一揆ニヘ、推シツメテ食ヲ斷チ、後和ヲ入ルベシ」上杉謙信法令狀「信玄方攻[illegible]被追拂候、地之百姓一揆共、物取ニ出候而、其荷物ヲ令取候」

ひゃくしゃうよみ (名) 百姓讀 漢字ヲ、偏、又ハ、旁ノ字ノ音ヲ、オシアテニ讀ムコト。徒弟讀トモ云フ。例ヘバ、惰、垂涎、椽大の筆、洗滌、避暑、輸出、ナドノ如シ。海錄、二、五十九條「徂來ノ說ニ、目ト心ト、ハカルナド云フハ、世ニ云フ百姓讀ダニ恥ヅルニタヘヌヤウニナリユクメリ」

ひゃくしゃくかんとう (句) 百尺竿頭 十丈程モアル長キ竿ノ先。又、百丈竿頭トモ云フ。百尺竿頭に一歩を進むトハ、既ニ向上ノ極所ニ及ビタレドモ、更ニ一層ノ向上發展ヲナス義。無門關、宋、慧開、第四十六則「石霜和尙云、百尺竿頭如何進步、又、古德云、百尺竿頭坐底人、雖然得入未爲眞、百尺竿頭須進步、十方世界現全身」山房雜錄(宋、惠中)上「息庵曰、百尺竿頭、問津、孤峯頂上開」傳燈錄、十、長沙景岑傳「師示一偈曰、百丈竿頭不動人、雖然得入未爲眞、百丈竿頭須進步、十方世界是全身、僧問、只如百丈竿頭、如何進步、師云、朗州山、澧州水」

ひゃくしゅうた (名) 百首歌 百首ノ歌ヲ集メタルモノ。大略、三種アリ。一人ノ詠メル百首歌ハ、冷泉院東宮ノ時、源重之、令旨ヲ受ケテ詠メルヲ、初トスベキカ。春夏秋冬、各廿首、戀十首、雜十首、等ナリ。數人ノ詠メル百首歌ハ、堀河天皇ノ康和年中ニ集メラレタル堀河百首ヲ、權輿トス。又、選集ノ百首歌ハ、百人一首ヲ初トス。其條ヲ見ヨ。

ひゃくしゅつ (名) 百出 [illegible]ニアラハレ出ヅルコト。 [illegible]

ひゃくすぎ (名) 栢心 (栢杉ノ意) びゃくしん(栢心)ノ條ヲ見ヨ。

ひゃくせい (名) 百姓 (一) ひゃくしゃう(百姓)ノ條ノ(一)ニ同ジ。 詩經、小雅、鹿鳴之什 [illegible] (二) ひゃくしゃう(百姓)ノ條ノ(二)ニ同ジ。 平家物語 [illegible] スミカトシテ、土民百せいラニ服仕セラル」

ひゃくぜつ (名) 百舌 もず(百舌)ニ同ジ。 [illegible]

ひゃくせん (名) 百戰 百度ノ戰。久、度度ノ戰。 [illegible]

ひゃくぜん (名) 百全 極メテ全キコト。最モ安全ナルコト。ダイジャウブ。萬全。 史記 [illegible]

ひゃくぜん (名) 百膳 種種ノ料理物。 [illegible] ヨリ、見ノ所所ニ出タリ」

びゃくせん (名) 白鮮 草ノ名。ひつじぐさ 白鮮ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、艸草類「白鮮、一名、羊蹄、比豆之久佐」

びゃくぜん (名) 白前 草ノ名。すずめのをおけ(雀苧桶)ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、艸草類「白前、一名、石藍、能加加美」

ひゃくせんひゃくしょう (名) 百戰百勝 百タビ戰ヒ、百タビ勝ツ、卽チ、戰ヒ一トシテ勝タザルコト無キコト。 [illegible]

[illegible] 下 [illegible] 之」

ひゃくそく (名) 百足 (一) 百本ノ足。 [illegible] 足アレドモ、餘リトモ覺エズ」 (二) むかで(蜈蚣)ニ同ジ。 [illegible]

ひゃくたい (名) 百態 サマザマノ有様。 歐陽修、鳴蝸記「人心百態巧且艱、臨危利害兩相關」 [illegible]

ひゃくだいふ (名) 百太夫 (一) だうそじん(道祖神)ノ一稱ト云フ。(遊女記) [illegible] 其條ヲ見ヨ。 遊女記 [illegible] 百太夫」 (二) 德川將軍吉宗ノ頃、攝津國、西宮ノ神職 [illegible] 吉上ニテ、疱瘡ノ守護符ニ記シタル語 [illegible]錄、六)

びゃくだう (名) 白道 佛教ノ語。火ノ河ト、水ノ河ト、中間ニアリテ、淨土ニ至ルベキ一條ノ狹キ路。信心ニ譬ヘタルモノ。にがびゃくだう(二河白道)ノ條ヲ參見セヨ。 謠曲、碁「サレバ生死ノ二ツノ河ヲ渡リテノ、中ニ白道ヲアラハシ、黑石ハヨシャヤ、今打ツ五障ニ從ノ、女ノ身ニハ逃レエヌ、業フカキ石ダテ、心シテイザヤ打タウヨ」

ひゃくたん (名) 百端 數多ノ端緒。萬端。 史記 [illegible]

びゃくだん (名) 白檀 (栴檀ノ條ヲ見ヨ。紫檀、黑檀ナドニ對ス」 (一) 熱地ニ産ズル樹ノ名 [illegible] 色、白クシテ [illegible] トシ [illegible]

ひゃくだんな (名) 百旦那 [illegible] 暮ナドノ布施、百文ノミヲ出ス旦那ノ意 [illegible] 文ノ檀那ト云事ナリ」 川柳「蠟燭ニ、似タモノヲ出ス、百旦那」

びゃくだんのき (名) 白檀木 一名、和白檀、[illegible]ノ類ニシテ、幹、必ズ左ヘ旋ル。木理、白檀ニ似テ、稍、香氣アリ、左紐栢 [illegible] 類「本邦ニ白檀ト呼ブ者二品アリ、一ハ樹葉樅ニ類ス、俗ニさはらにト呼ブ、云云、一ハ檜ニ類シテ、幹必ズ左旋ス、木理、白檀ニ似テ、微シク香氣アリ、故ニ俗ニ、びゃくだんのきト呼ブ」

ひゃくちゅう (名) 百中 ひゃくはつひゃくちゅう(百發百中)ノ條ヲ見ヨ

びゃくじゅつ (名) 白朮 白荒 藥草ノ名。さうぢゅつ(蒼朮)ノ條ヲ見ヨ [illegible] 「朮、山薊」疏「朮有二兩種、白朮、葉大有毛、甜而少膏、赤朮、葉細小、苦而多膏」 蘇軾詩「丹砂久窖井 [illegible]」

びゃくでい (名) 白泥 銀泥、又ハ、泥銀ト云フニ同ジ。でい(泥)ノ條ヲ見ヨ

ひゃくどまゐり (名) 百度參 百度詣 祈願ナドノタメ、神社、佛閣ノ境内ヲ、一時ニ往返百度シテ拜スルコト、百日 [illegible]

ひゃくなりばば (名) 百成婆 百歳ニナリナムトスル婆。ツクモガミ。

ひゃくなりべうたん (名) 百成瓢簞 [illegible] もものなりべうたん [illegible] ノ。へうたん(瓢簞)ノ條ヲ見ヨ。 浮世物語 [illegible] 胡蘆ノ山盛ヲ取出シ」 四季物語、四月「秋ノ花ヲ、百なりひさうノスズキニナリタル」

ひゃくにう (名) 百乳 刻物ナドニ、面ニ乳首ノ如キモノ [illegible]

ひゃくにちかづら (名) 百日鬘 芝居ノ役者ガ、強盜、囚人ナドニ扮スル時ニ著クル鬘ニテ、月代ヲ百日モ剃ラヌ程ニ毛ノ生ヒ延ビタルサマノモノノ稱。更ニソレヨリ長キヲ大百(其ニハ大百日鬘)ト云ヒ、ソレト反對ニ、毛ノ一層短キヲ、五十日ト云フ [illegible] 二、百日、熊ノ皮、又ハ、毛ニテモスル、シッチウ [illegible] ヒナド付ルモアリ、云云、一、大百日」

ひゃくにちさう (名) 百日草 [illegible] 花、百日モ [illegible] 故ニ云フ [illegible] ノ名 山野ノ濕地ニ自生シ [illegible] 高サ一二尺 [illegible] 鈍頭ニシテ、全緣ナリ [illegible] 莖ヲ出シ、頂ニ小花ヲ [illegible] 花 [illegible]

白、紫ノ二種アリ、莖頭ニ至ルマデ層ヲ重ネ、恰モ九輪ノ如キヨリ、九輪草トモ云フ。山萵苣　(二)菊科ノ一年生草本ノ名。モト舶來種ニシテ、庭園ニ栽培セラル。莖ノ高サ二三尺、對生セル葉腋ヨリ枝ヲ分チ、七月頃ヨリ十月頃ニワタリテ、枝毎ニ一箇ノ頭狀花ヲ開ク、色、紅、紫、樺ナドアリ。

ひやくにち-ぜき　(名)　百日咳　〔發スレバ凡ソ百日ヲ歷ト云フ〕小兒ノ傳染病。普通、冬春ノ二季ニ、二歲ヨリ七八歲マデノ小兒ニ多シ。咳出デテ熱高ク、初ハコンコント短キガツヅキ、次ニ吸氣長ク、呼氣短ク、鷄鳴、又ハ、笛聲ヲ帶ビ、咳ヲ發シテ止マラズ、烈シク苦痛シ、黄色ノ痰ヲ吐ク。次第ニ減退期ニ入リテ治ス。其間、凡ソ百日トテ名アリ。(四週間ヲ通例トス、長キハ三四箇月モカカルト云フ)　クツメキ。　醫事小言、五、痾「小兒咳嗽ニ、百日咳トモ、又連聲咳トモ云フ、云云、百日バカリノ内煩フコト、流行スルトキハ一面ニ病ム」　内科祕錄、十三、小兒頓嗽「頓嗽ハ又頓咳トモ云フ、我鄕(水戶)ニテハ百日咳ト稱ス、方言ニ、ケイケイシャブキト云ヒ、又、シイレシャブキト云フ、一種ノ外邪ニシテ、流行スルトキハ、延門合戶、緜ク之ヲ患フルコトアリ、云云」

ひやくにち-ぼつけ　(名)　百日法華　他宗ノ徒ガ、病氣平癒ナドヲ祈ルタメ、一時、日蓮宗ニ歸依スルコト。　女殺油地獄、享保、近松作、中「可愛サハ實子ノ一倍、疱瘡シタトキ、日親樣ヘ願カケ、代代ノ念佛捨テ、百日法華ニナリ」

ひやくに-とぢやう　(名)　百二都城　〔百二ハ百中ノ二ノ意、又、二ハ倍ノ義ト〕天然ノ地勢、要害堅固ナル稱。　史記、高祖紀「秦形勝之國、帶二河山之險一、縣隔千里、持戟百萬、秦得二百二一焉、地勢便利、其以下二兵於諸侯一、[illegible]」　蘇林注「秦地險固、以二二萬人一足レ當二諸侯百萬人一也」

ひやくにん-いつしゆ　(名)　百人一首　〔一ノ字ヲ讀マヌヲ例トス〕(一)藤原定家ガ小倉ノ山莊ノ障子ニ、古今集ヨリ續後撰集ニ至ル十代ノ撰集中ヨリ、一人一首ヲ百人撰ミタルモノ。コレヲ小倉百人一首トモ云フ。古今百人ノ歌、之ニ始マリテ、種種ノ百人一首、出デ來レリ。下ノ出典ヲ見ヨ。　明月記(藤原定家)嘉禎元年五月廿七日「予本自不レ知レ書二文字一事、嵯峨中院、障子色紙形故、予可レ書之由、入道懇切、雖レ極二見苦事一、染レ筆送レ之、古來人歌各一首、自二天智天皇一以來、及二家隆雅經一入、夜前寄二小選一」(中院入道ハ、宇都宮彌三郎賴綱入道蓮生ナリ、其嵯峨ノ小倉山莊ノ襖障子ノ色紙形ニ賴マレテ書ケルナリ、中院ハ嵯峨ノ地名、入道ノ女ハ定家ノ子爲家ノ室)　年山打聞(元祿、安藤爲章)「今ノ百人一首ハ、云云、定家卿、京ニテ筆ヲ染メタマフ也、云云、歌ヲ撰ビタルモ彼入道ニヤ」(二種アリ、集古十種ニ反故紙ノ裏ニ書ク)　榻鴫曉筆(一條兼良作ト云フ)「京極黄門、昔今ノ歌仙一百人ヲ撰ビテ似繪ニ書カセ、彼人ノ詠歌一首ヅツ色紙形ニ書キテ、小倉ノ山莊ノ障子ニ押サレタリ」(二)後ニ、コレニ倣ヒテ、百人ニ就キ一首ヅツ集メタルヲ、何何百人一首ト稱フ。後撰百人一首(二條良基)、武家百人一首(榊原忠次)、戲場百人一首(三馬序)、狂歌百人一首(天保)等、種種アリ。

ひやく-ねん　(名)　百年　年ノ數ノ百經タルコト。　白居易、春晚詠懷贈皇甫朗之詩「一歲平分春日少、百年通計老時多」　許渾、凌歊臺詩「百年便作萬年計、岩畔古碑空綠苔」　杜甫、別唐十五誡詩「九載一相逢、百年能幾何」

ひやくねん-き　(名)　百年忌　人ノ死後、百年目ニ修スル佛事。百回忌。　南方紀傳、中、貞治六年三月十三日「北帝長講堂ヘ行幸、コレ後白河法皇百年忌ノ御追善ノ爲也、コトシ百十七年也、世上ウチツヅキ兵亂ニヨリ、イママテ御延引」　康富記、寶德三年七月五日「細川奧州[illegible]氏之百年忌、今日被レ修二作善一」

ひやくねん-め　(名)　百年目　(一)百年ニ相當スル年　(二)陰謀ナドノ露顯ニ及ビタルトキニ云フ語。

ひやつ-ぱう　(名)　百方　(一)イロイロノ方角。アラユル方面。　十洲記(漢、東方朔)序「陵陽之子、飛眞之官、上三下九天一、洞二視百方一」　(二)種種ノテダテ。　道德指歸論(漢、嚴遵)「號令聲華使二民親附一、諸事任レ己、百方仰朝、此治二天下一之有爲也」　書苑(宋、陳思)「羲之性好レ鵝、山陰道士、養鵝十餘、王求市易、百方譬說不レ能レ得」

ひやく-はち　(名)　百八　次條ノ語ノ略。

ひやくはち-の-かね　(名)　百八鐘　〔百八煩惱ヲ覺醒スル義ト。又、一歲中ノ十二月、二十四氣、七十二候ヲ合ハセテ百八トナスト〕佛敎ノ語。昔、寺院ニテ、朝晚、百八度、釣鐘ヲ撞クコト、後世、一般ニ、除夜ノ半夜ヨリ百八度撞ク鐘ノ音ヲ云フ。　敕修百丈淸規「大鐘、叢林號令資始也、曉擊則破二長夜一、警二睡眠一、暮擊則覺二昏衢一、疏二冥昧一、引杵宜レ緩、揚聲欲レ長、凡三通、各三十六下、總一百八下、起止三下稍緊」　叢談採餘「鐘聲晨昏叩一百八聲者、一歲之義也、蓋年有二十二月一、有二二十四氣一、又有二七十二候一、正得二此數一」　俗事考(宋、洪邁)「鐘聲一百八撞、以應二十二月、二十四氣、七十二候一」　禪林象器箋、廿七、唄器門「忠曰、俗說、佛寺朝暮百八鐘、醒二百八煩惱睡一、非也、天竺作相、本一百二十下、未レ聞二百八下一、其百八數、出二中華世典一、所謂十二月、二十四氣、七十二候、合成二百八一、乃應レ知、覺二百八煩惱眠一者、擧燭燕說也」

ひやくはち-の-じゆず　(名)　百八數珠　〔百八顆ノ數珠ヲ、マサグリテ念佛スレバ、百八煩惱ヲ退治スルヲ得ト云フ意〕じゆず(數珠)ノ條ヲ見ヨ。　木槵子經「佛告レ王(日比琉璃王)[illegible]、當レ貫二木槵子一百八一、以常自隨、若行若坐若臥、恒當二至心一無二分散意一、稱二佛陀[illegible]」[illegible]「其數[illegible]滿二百八一[illegible]」[illegible]二ノ母珠ヲ[illegible]トシ、之ヲ貫通スル緒ヲ觀音トナシ、百八珠ヲ[illegible]トス」　謠曲、自然居士「ササラノコニハ、百八ノ數珠、簓ノ竹ニハ、扇ノ骨」

ひやくはち-ぼんなう　(名)　百八煩惱　佛敎ノ語。百八種(眼、耳、鼻、舌、身、意ノ六根ガ、色、聲、香、味、觸、法ノ六塵ニ緣ズル時、各ニ、好、惡、平ノ三種ノ不同アリテ、十八ノ煩惱トナル、更ニ六根ニハ苦、樂、捨ノ三受アリテ、同ジク十八ノ煩惱トナリ、合ハセテ三十六トナル、コレヲ過、現、未、ノ三世ニ配スルトキハ、百八トナル)ノ煩惱。又、百八結使。〔結使ハ煩惱ノ異名〕　大智度論、七「煩惱名二一切結使一、結有レ九、使有レ七、合爲二九十八結一、如二迦旃延子、阿毘曇義中說一、十纏九十八結、爲二百八煩惱一」　謠曲、三井寺「菩提ノ道ノ鐘ノ聲、月モ數添ヒテ、百八煩惱ノ眠リノ、驚ク夢ノ世ノ迷ヒモ」

ひやくはつ-ひやくちゆう　(句)　百發百中　百タビ發シテ、百タビ中ル。事ヲナシテ過ツコトナキニ云フ語。　戰國策、西周策「楚有二養由基者一、善射、去二柳葉一者百步而射レ之、百發百中、左右皆曰、善」　吾妻鏡、一、治承四年八月廿四日「武衞久翹二智振一百發百中之藝一、被レ相二戰及二度度一、其矢莫レ不二必飮一レ羽」

ひやつ-ぱん　(名)　百般　サマザマ。イロイロ。萬般。　杜牧、詩「跡去夢一覺、年來事百般」　韓愈、詩「百般紅紫鬪二芳菲一」、「百般ノ事務」

びやく-び　(名)　白薇白微　草ノ名。ふなはらさう(白薇)ノ條ヲ見ヨ。

ひやく-ひろ　(名)　百尋　〔長キニ就キテ云フ〕はらわた(腸)ニ同ジ。腸

ひゃくぶ（名）【百部】古名、ホドツラ。フトツラ。百部科ノ草ノ名。草本ノモノハ、高サ一尺許、[illegible]、葉、互生シ、葉毎ニ[illegible]ニシテ尖リ、[illegible]ニ筒アリ、簡毎ニ[illegible]、[illegible]ノ如シ、光[illegible]アリテ、毛刺ナシ。春、花ヲ開ク、大キサ[illegible]ノ如ク、[illegible]、[illegible]ニシテ、かんあふひ（寒葵）ニ似タリ、筒ノ内ハ[illegible]ニシテ、外ハ[illegible]ト同ジク淡緑色、中ニ紫蕊アリ。根、數十、連リテ、天門冬ニ似タリ、藥用トス。蔓生ノモノハ、春、舊根ヨリ生ジ、節毎ニ[illegible]葉對生ス、形、やまのいも（山芋）ノ葉ニ似テ長ク、末、尖ラズ。夏ノ半、葉ノ上、蒂ノ方ニ寄リテ、數多ノ蕾ヲ生ジ、日ニ一花ヲ開ク、形、色、共ニ草本ノモノニ同ジク、大キサ三四分許リ、稀ニ實ヲ結ブモノアリ。[illegible]百部、味苦兒、毒、和、保土川良、一月八日採乾、似天門冬」

ひゃくふくちゃ（名）【百服茶】本茶、非茶ヲ點ジ、百服試ミルコト。ソレヲ飲ミアテテ、勝負ヲ爭フ。ぢっぷくちゃ（十服茶）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

ひゃくぶん（名）【百聞】百タビ聞クコト。又、度度聞クコト。[illegible]

ひゃくへい（名）【百弊】多クノツヒエ。又、種種ノ弊害。

ひゃくぽ（名）【百步】（一）步ム數ノ百ナルコト。百アユミ。[illegible]（二）ごぢっぽひゃくぽ（五十步百步）ノ條ヲ見ヨ。

ひゃくぼくわう（名）【百木王】〔弓ノ良材ナル故ノ名カト云フ〕梓ノ異名。

ひゃっぽんづけ（名）【百本漬】乾シタル大根百本ヲ、糠一斗、麴四升、鹽三升五合ノ割合ニテ漬ケタルモノ。

ひゃくまい（名）【百枚】〔南鐐百枚ノ略〕ふんれう（南鐐）ノ條ノ（三）ヲ見ヨ。

ひゃくまなこ（名）【百眼】（一）玩具ノ名。厚紙ニテツクリ、面部ニカクルモノ。目ニアタル所ダケヲクリ拔キ、種種ノ面相ヲ描ク。（二）種種ノ眼ツキヲナス一種ノワザ。[illegible]雜錄（難波宗建）四十六「蒔シ……[illegible]中へ、[illegible]ノ眼マネヲ致セシヲ、三笑亭ノ[illegible]ト云フ人、是レヲ一見シテ、百眼ト題シ、名ヅケ呉レケリ」

ひゃくまん（數）【百萬】（一）萬ノ百倍。（二）至ッテ大ナル數ニ云フ語。史記、高祖紀「連二百萬之軍一、戰必勝、攻必取、吾不レ如二韓信一」何休、公羊傳序「[illegible]」[illegible]「解」信州川中島合戰（享保、近松作）二「弓箭ノカヲ助ケ給ハバ、百萬ノ士卒ニマサリ」

ひゃくまんたふ（名）【百萬塔】天平寶字八年ニ、孝謙天皇ノ造ラセ給ヘル一百萬基ノ木造ノ三重ノ小塔、挽物ニテ、高サ各四寸五分、徑三寸五分、露盤ノ下ニ孔アリ、印行ノ小經ヲ納ル、コレ本朝ニ於ケル最初ノ印刷ナリト云フ。（根本、慈心、相輪、六度、四種ノ陀羅尼ヲ刊行ス）東大寺要錄、四「神護景雲元年丁未、造二東西小塔院[illegible]、天平寶字八年[illegible]月十一日、孝謙天皇造二百萬小塔一、分二配十大寺一、各[illegible]」[illegible]

ひゃくまんべん（名）【百萬遍】（一）佛教ノ語。彌陀ノ名號ヲ百萬遍唱フルコト。百萬遍ニ滿ツルモノハ、必ズ極樂往生スト云フ。伽才淨土論、下「如二綽禪師一[illegible]得經文一、但能念佛一心不亂、得二百萬遍已去一[illegible]」[illegible]「木[illegible]樹、云云、ソノ木ノ實ヲトリ、數珠トシ、念佛百萬遍ノ御念佛ナド常ニセサセ給フ」[illegible]（二）山城國、京都北白河ノ知恩寺ニテ修スル佛事。結衆十人、千八十顆ノ大數珠ヲ廻ラシ、念佛百遍シテ、百萬遍ヲ得。疫癘、邪祟ヲ禳フト云フ。俗間ニテモ、亡父母ノ年回、祖師ノ忌日、疫病ノ流行ナドノ時ニ行フ。[illegible]州府志（貞享、黑川道祐）四、寺院門「知恩寺、世所謂百萬遍也、云云、[illegible]、[illegible]百八大念珠一、以[illegible]彌陀號一、至二百萬遍一、依レ之此寺號二百萬遍一也」

ひゃくみ（名）【百味】數多ノ食物。又、種種ノ好味。[illegible]

ひゃくみおんぎき（名）【百味飮食】佛事ニ百味ヲ供スルコト。又、種種ノ好味ヲ好ム人カ、酒ヲ[illegible]稱シタル語。[illegible]

ひゃくみだんす（名）【百味簞笥】昔、醫家ニ、諸藥ヲ貯ヘ[illegible]小キ抽匣、數十百アリ。[illegible]

ひゃくみゃくこん（名）【百脈根】草ノ名。みやこばな（都花）ニ同ジ。

ひゃくめかけ（名）【百目掛】〔一挺ノ重サ、秤ニ掛ケテ百匁許リナルヨリ云フ。めハ匁ノ略〕蠟燭ノ百匁掛ナルモノ。

ひゃくめらふそく（名）【百目蠟燭】前條ノ語ニ同ジ。

ひゃくものがたり（名）【百物語】夜、數人集リテ、戲レニ種種ノ鬼話ヲ語リ合フコト。闇夜ハ、燈心百筋トモシ、物語一ツ終ハレバ一筋ヅツ滅ジテ、闇ニ至ル。百物語（萬治）序「古ヘノ人ノ語リツタヘシハ、何ニテモ百物語スレバ、必コハキモノ顯ハレ出ヅルトウケタマハリシ」俳諧染絲（元祿）「鬼デハアラジ、夜半ノ返言、中中ニ、百ニハ滿テヌ物がたり」

ひゃくやう（名）【百樣】種種ノ有樣。百態。[illegible]中藏」狂言記、文相撲「凡テ角力ノ手ハ、四十八手トハイヘドモ、碎ケバ百樣ニモ、二百樣ニモ取ル」

ひゃくやく（名）【百藥】種種ノクスリ。又、アラユル藥。[illegible]云、是月也、[illegible]」[illegible]

ひゃくやくのちゃう（名）【百藥之長】酒ヲ好ム人カ、酒ヲ[illegible]稱シタル語。[illegible]「酒ハ百藥ノ長」

食貨志、大[illegible]、宜香之冴、酒、百藥之長、[illegible]之好 徒然草、百七十五段「百薬の長トハイヘド、萬ノ病ハ酒ヨリコソオコレ」

びゃくらい (名) [白癩] (一)白キ色ノ癩(ライ)病。シロナマヅ、シラハダ。白癜(なまづはだ)、癜風ノ條ヲモ參見セヨ。 推古紀、廿年五月「自百濟國有化來者、其面身皆斑白、若有白癩者乎、[illegible]」 [illegible] 「白癩、[illegible]云、白電、之良波太、云云、醫心方、白癜、和名之良波太、[illegible]、白癩、亦同訓、按、之良波太、卽白癩之義、大祓詞、所謂白人、是白癩也、今俗呼之路奈末須」 (二)轉ジテ、白誓ノ詞。若シ誓ヒニ違ハバ、白癩ノ如キ惡シキ病ニナル、ト云フ意。 [illegible]「此批判ハ無理云フ人アリ、云云、御町衆ノアツカヒナレバ、此度ハコラユルゾ、以下々シナメ、此月ガ仲走デ、水ガ油デ有道カオレカ身ナラバ、白癩キクマイト云ヒシ二等シ」 懺悔錄 寛永九年刊、羅語を洋字にて記したる書、西班牙宣教師の著)「バクチ打ニ負ケテ、相手ニ金三百目ヲ取ラレタニ因リテ、身ヲノロウテ、赤癩(シャクライ)、白癩(ビャクライ)ニカブラウ一期ノ間ニ、モウ打ツマイト約束シタレドモ、其後二三度打チマウシタ」 松の葉(元祿)小歌「近江ノ笠ハ、形ハヨウテ、びゃくらい言ヲウテサ」 [illegible]座の忍、のほほんぶし「テキト見ルナラ、びゃくらい切ル氣、テキジャナイモノ、昔ジャモノ」 矢根五郎ニ馬士ノ馬ヲ、五郎ガ借セト云フ、貸サレス、イヤ借ル「百癩ナラヌ」ト云フ。

びゃくらいにん (名) [白癩人] 白色ナル癩病ノ人。(前條ノ語ヲ參見セヨ) 宇治拾遺、四、第十一條「如何ナル人ノ齒スルナラント思ヒテ、近ウ寄リテ見レバ、白癩人ナリ」

びゃくらふ(ビヤク・ロウ) (名) [白鑞] (一)シロナマリ、運[illegible]其條、及、すず(錫)ノ條ヲモ見ヨ。 色葉集「白鑞 ヒャクラフ」 (二)志ろめ(白鑞)ノ條ヲ見ヨ。

びゃくり (名) [白痢] 痢病ノ類、ため(白痢)ノ條ヲ見ヨ。

ひゃくりゃうきん(ヒヤク・リヨウ・キン) (名) [百兩金] 灌木ノ名、からたちばな(百兩金)ニ同ジ。

ひゃくれう(ヒヤク・リヨウ) (名) [百僚] 百官 モモノツカサ。内外ノ官僚。 書經、皋陶謨「百僚師師、百工惟時」 北史、魏收傳「辭理宏壯、帝對百僚大嗟賞之」 班固、東都賦「陳百寮而贊羣后、究皇儀而展帝容」

ひゃくれん (名) [百錬] 數多ク錬リ鍛フルコト。アマタタビ錬ルコト。 晉書、輿服志「魏劭、當官云、說者以爲、近取之剛強百錬不耗」 江總、樂府「金丹欲成猶百錬、玉酒新熟幾千年」

びゃくれん (名) [白蘞] 古名、ヤマカガミ。葡萄科ノ多年生草本ノ名。春、宿根ヨリ生ズ、其根ハ鷄卵ノ如ク、兩頭尖ル、一窠ニ數枚叢生ス。蔓、甚ダ長シ。初生ノ葉ハ圓クシテ尖リ、次生ナルハ三尖トナリ、共ニ鋸齒アリテ、のぶだう(野葡萄)ノ葉ニ似タリ。梢ノ葉ハ五叉ヲナシ、叉毎ニ細葉對生シ、蔓ヲ生ジテ物ニ纏フ。夏ノ初、蔓末ニ、五出ノ小白花、簇リ生ズ。實、大キサ豆ノ如ク、初ハ綠ニ、後ニ碧、紫ニ變ジ、秋、熟シテ、白色トナリ、內部ニ小黑點アリテ、透キテ見ユ。

びゃくれん (名) [白蓮] 白色ノ蓮華。ハクレン。 [illegible]音義、上「芬陀利、此云 白蓮華」 蓮社高賢傳「謝靈運一見遠公、肅然心伏、乃卽寺築臺[illegible]、池植白蓮」 [illegible]白[illegible]心[illegible]、世[illegible]」

ひゃくわかう(ヒヤクワ・コウ) (名) [百和香] 薫物(タキモノ)ノ名。 字類抄「百和香、ヒャクワカウ」 伊勢大輔集「院ノ御堂ニテ、百わかうツマレシニ、名モ知ラヌ花ヲ、見知リタルヤト、問ハセ給ヒケレバ、云云」 はくわかう(百和香)ニ同ジ。

ひゃくゐん(ヒヤク・イン) (名) [百韻] 俳諧ノ語。後鳥羽院ノ頃ヨリ定マリタル連歌ノ法式ノ一。ゐん(韻)ノ條ヲ見ヨ。 連歌辨義、二「連歌百句ヲ百韻ト云ヒ、五十句ヲ五十韻ト云フハ、如何ナル故ニヤ、答、詩ノ聯句ハ、一句ノ韻、二字ノ韻ト、人韻ヨリ韻字ヲ定テスル故ニ、百句アレバ、韻字百アレバ百韻トハ云フ、云云、連歌ハあいうゑをノ假名九十字ミナ韻字ナレバ、百句ヲ百韻ト云ヒ、五十句ヲ五十韻トハ云フメリ」 ひとり言(鬼貫)上「百韻ノ内、地ニ十三、連句三十三、自句十七、格外十七ト古人ノ云ヒケルハ、アナガチ句ノ數ヲ其如クニシワケヨト云フニハ非ズ、百韻皆ツケ方一樣ナル時ハ、見ルニ飽ナント云ヘル心ナルベシ」

ひゃくゑ(ヒヤク・エ) (名) [百會] (一)前頂ノ後、一寸五分、旋毛(ツムジ)アル處ノ名。頂ノ中央ナリ。 和漢三才圖會、十一、經絡部「督脈、云云、百會(顖上、天滿)在前頂後一寸五分、頂中央旋毛之心、容豆許、直兩耳尖、[illegible]」 よだれかけ(承應[illegible])歌舞妓子「頭巾ニテ百會ヲカクシ」 (二)馬ノ脊梁(セスヂ)ノ尻ノ、最高所ノ少シ前ノトコロ 大坪流馬書「物ヲカヒテ、百會ヲ石ニテタタクベシ」

ひやけ (名) [日焦] 日光ノ直射ヲ受ケテ、人ノ皮膚ノ黑クナルコト。初、褐色ヲ呈シ、漸々淡紅色ニ變リ、後、黑色トナル。皮膚ハ、白血ノタメ、日光ノ直射ヲ體內ニ及ボサシメジト努ムルヨリ、色素ニ變化ヲ生ゼシムト。ヒグロミ。

ひやけだ (名) [日燒田] 雨ナク、又ハ、水利ノ便ナクシテ、日ニ燒ケタル田。 猿蓑集、夏「日燒田ヤ、時時ツフク[illegible]」 世間子息氣質(享保、江島其磧)四「此比、天氣ウチ續キテ、田畠日やけスルト見エテ」

ひやさうめん(ヒヤ・ソウ・メン) (名) [冷索麪] ひやむぎ(冷麥)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

ひやざけ (名) [冷酒] 略シテ、ひや。冷(ヒヤ)ノ儘ニテ、燗(カン)ヲセザル酒。レイシュ。 易林本節用集(慶長)下、飮「冷酒 ヒヤザケ」 好色二代男(西鶴)七「冷酒ハ飮マレジ」

ひや・す(ス・セ・サ・シ・セ) (他動、四) [冷] 冷ゆ、ひやす、錬る、ねやすノ他動。冷(ヒ)ユルヤウニナス。ヒヤヤカニス。 蜻蛉日記、中、上「[illegible]ドモ出ニヒキナロシテ、ひやしナドシテ」 夫木抄、廿六、渡「モチ月ノ、駒ヒキタテテ、ひやしケル、ココヤカツラノ、渡ナルラン」 (二)膽ヲ寒カラシム。 [illegible](享保、近松作)三「御イタハシクモ勿體ナク、見ル人、身ヲぞひやしケル」 (三)刀ニテ人ヲ斬ル。白刃ヲ當ツル。切ル。(元祿頃ノ通語)「サハラハひやせ」

ひや・つ・く(ク・ケ・カ・キ・ケ) (自動、四) [冷] (一)ヒヤヒヤス。ツメタクオボユ。 國性爺合戰(正德、近松作)二「[illegible]ヲ見合セテ、貞冷つく風引イテ、ク、サメ、ク、サメ、村サメ、村サメト」 (二)オソレオソル。オヂオソル。

ひやっこ・し(キ・ケレ・ク・ク) (形、二) [冷] ヒヤヤカニテアリ、ツメタシ。 浮世風呂(文化、三馬)初編、下「オオひやっこい、ホイホイ、己ハオノレハ、ヤイアチラノ男、ナゼ立ッテキテ跳ヲカケタ」

ひやとひ(ヒ・ヤトイ) (名) [日傭] 日限ヲ定メテ、傭ヒ入ルルコト。又、ソノ日限ノ傭フコト。又、ソノモノ。ヒヨウ。 好色一代男(天和、西鶴)七「同ジク日雇ひノ取揚婆モアリト書イテ見スル」

ピヤノ (名) [洋琴] 〔英語、Piano. 或ハ、伊太利語、Piano-forte. ノ略〕 又、ぴあの。西洋ノ樂器ノ名。コレニハ竪型ト平型トノ二種アリ。大ナル匣ノ中ニ、長短ノ鋼鐵製ノ絃、數十條ヲ竪琴ノ如

[illegible]ハ絃ヲ打チテ、所要ノ音ヲ發ス。又、二[illegible]

ひや・ひや (副) [冷冷] (一)ヒヤヤカナル[illegible]見レバ、何ヤランヌレタルモノアリ」 (二)危ブミ[illegible]ヒ居ル[illegible]云フ語

ヒヤ・ヒヤ (感) 〔英語、Hear! hear!〕 ひやヲ重ネタル語。其條ヲ見ヨ。

びやぼん (名) [琵琶笛口琴] 〔びはぶえノ訛〕 聲、琵琶ヲ彈ズルガ如シ、其音ニ因リテ名トス」 (一)玩具ノ一。角ナル針ノ如キ鐵ニテ、三寸許リ、蕾ノ如ク二股ニ作リ、股ノ間ニ更ニ薄ク針ノ如キ鐵ヲ綴ヘツケ、ソレヲ銜ヘテ間ノ鐵ヲ指ニテ打テバ、ひやほんひやほんト鳴ル。キヤイン。ビヤボン。 世事百談(天保、山崎美成)「[illegible]ノ比、長崎ノびやぼんト云フ、鐵ニテ造リタル笛ヲ、專ラ翫ブコトノ行ハレタリシガ、其笛ハ、其頃、ハジメテ造リ出シタルモノニハアラデ、昔ヨリ邊地ナドニハモテアソビシモノトゾ」云云」 [illegible]ひやぼんヲ吹ケバ出羽、トンドント、カネ[illegible]フ、今ノ世ノ中」[illegible]テ云フ、文政七年十月ヨリ江戸兒童[illegible]セシガ、同八年二月禁止セラル」 (二)津輕ニテ口琵琶 津輕笛 鐵ノ以テ口ニ銜ムヤウニ作レルモノ [illegible]津輕民間ノ玩具」 [illegible]錄、十一、五十八條「津輕笛(俗ニびやぼんト云フ)云云、鐵ニテ作ル、コレハ、津輕ニテ口琵琶ト云フモノ[illegible]ハ[illegible]吹ク也」

ひや・みづ (名) [冷水] ヒヤヤカナル水。

[illegible]メタキ水。 レイスヰ。 [illegible]シテ、ひや[illegible]京都名所記(萬治)一「[illegible]二八第一、[illegible]ヲタシナミ、[illegible]ルナリ」「年寄ノ冷水」

ひや・むぎ (名) [冷麥] 〔あつむぎ(熱麥)ニ對ス〕 (一)きりむぎ(切麥)ノ條ヲ見ヨ。 易林節用集(慶長)下、食服門「冷麪、ヒヤムギ」[illegible]天文十一年六月廿六日「[illegible]」小的アソバサレニ貴賤ヘ[illegible]殿ニ召之具之、先湯漬マイル、的終冷麥マイル」 鷹筑波集一 后千句「世ノ中ハ、カラシト泪、コボレソヒ、ナキガラ[illegible]ニ、ナセル冷麥」 (二)今ハ、素麪ヲ煮テ、水ニ冷シタルモノ、ヒヤサウメン。

ヒャン・チン (名) [香椿] 〔字ノ北京音〕 古名、タマツバキ。今、又、訛リテ、キャンチン。チャンチン。 棟科ノ落葉喬木ノ名。高ク聳エ、梢ニ多ク枝ヲ分チテ繁茂ス。葉ハ漆ニ似テ長ク、數多シ。香ノ名アレド、臭氣アリ、雄種多ク、雌種少シ。雌ハ長キ穗ヲナシ、枝ヲ分チテ、多ク實ヲ結ブ、形、連翹ニ似テ、圓ク長シ、秋、熟シ、堅ニ裂ケテ、子、風ニ飛ブ、形、松子ニ似テ、小サシ。 黄檗宗ノ僧、きゃんちんトテ、其葉ヲ摘ミ、食物ニ合ハセテ食フト云フ。 玉椿

ひや・めし (名) [冷飯] (一)ツメタクナリタル飯。 [illegible]心中ニ正直、近松作上「[illegible]本燒ッシャレ、冷飯モ燒ッシャレト、カラゲオロシテ入リニケリ」 續狂句集、上「山寺ノ、冷飯[illegible]キ、[illegible]カナ」 (二)男子ノ二三男ノ俗稱。

ひやめし・くひ (名) [冷飯食] キサフラフ。カカリウド。食客。

ひやめし・ざうり (名) [冷飯草履] 藁ノマ[illegible]

[illegible]タトフルコト。[illegible]

ひや・やか・ま (副) [冷] (一)ヒヤヤカニ。冷エテ。ツメタク。 字類抄「冷、ヒヤヤカナリ」 源、五、若紫「雨スコシウチソソギ、山風ひややかニ[illegible]」 讃岐典侍日記「御カヒナひややかにサグレサセ給フ」 枕草子、十一、百四十五段「戀人ノアヲ色ナドノ、イトひややかニ濡レタランハ、イミジウヲカシカルベシ」 (二)冷淡ニ。冷靜ニ

ひや・やっこ (名) [冷奴] やっこどうふ(奴豆腐)ノ條ヲ見ヨ。

ひやり (副) (一)ツメタキ状ニ云フ語 (二)恥ヂ、又ハ、恐ルル際ニ、感ズル状ニ云フ語。

ひやり・ひやり (副) 前條ノ語ヲ强ク云ヒタル語。ヒヤヒヤ。

ひゆ (名) [莧] 〔本草ニ、「味甘寒無毒者也」トアレバ、冷ユノ意カト云フ〕 莧科ノ草ノ名。所在ニ生ズ、培養スルモノモアリ。苗ハけいとう(鷄頭)ニ似テ、紅ナラズ、葉モ相似テ、圓クシテ尖リ、互生ス。秋、高サ四五尺、穗ヲナシテ、細小ナル黄白花ヲ開ク。若キ莖葉ハ、食フベシ。訛シテ、ひょう。 倭名抄、十七「[illegible]」 「莧、比由」 本草和名、下三十五「莧實、比由」 字鏡五十五「赤莧(莧ノ誤リ)、比由」 天治字鏡、七廿五「莧、比由」 東雅、十三、穀蔬「莧、ヒユ、義不詳、倭名抄ニ、本草ヲ引テ、[illegible]甘寒也トシエシ事モアレバ、[illegible]性ノ寒ナルニヨリテ、此名有ケンモ知ルヘカラズ、ひゆトハ、冷ヲ云フガ如キ也」[illegible]、ひゆト云フ[illegible]ニテ、ひゃうあかざト云フ、加賀ニテ、びゃうト云フ」

ひ・ゆ (名) [譬喩] [illegible]比喩、比[illegible]タトヘ

ひ・ゆ ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(自動、下二) [冷] [illegible]ヒヤヤカナ[illegible]ツメタクナ[illegible]ル。 枕草子、七、六十八段「ウチタル衣モ、イトツメタウ[illegible]ニ、花山「引キ驚カシ奉リ給フニ、ヤガテひえサセ給ヘレバ、アサマシウテ、云云」

ひ・ゆ (名) [illegible]ノ[illegible] 其條ノ[illegible]見ヨ[illegible]ヒユ、ヘゾ[illegible]

ひゅう・どろどろ (副) [illegible]笛ノ高ク大ヤ、大[illegible]ニ打ツ音ニ云フ語。芝居ニテ、幽靈ノ出ル囃子

ひゅう・ひゅう (副) (一)笛ノ音ニ云フ[illegible]ビイビイ[illegible] (二)風ノ[illegible]ニ云フ語 (三)矢玉ナド[illegible]行ク音ニ云フ語。

ひゅう・ひゅう (副) 前條ノ語ヲ[illegible]語。

ひゆ・か (名) [illegible]歌[illegible]

[illegible]四[illegible]ヲ[illegible]メテ、アサマシモノヲ」

ひよ (名) [鵯] ひよどり、ほされト[illegible]

ひよ (副) [illegible]鳴ク聲ニ云フ語 枕草子、八、七十四段「鷄ノヒナノ、足高ニシロウヲカシゲニ、

キメミジカナルサマシテ、ひよひよトカシガマシクナキテ、人ノシリニ立チテ歩クモ、云云」

ひいと（副）不意ニ。ダシヌケニ。突然|突如| 狂言記、武惡「餘リウレシイマカセニ、綱ヲモ持タズニ、ひょいと出タハイノ」

ひょいひょい（副）（一）兩足揃ヘテ、飛ビ進ム狀ニ云フ語。ピョイピョイ。（二）不意ニ、折折出デ來ル狀ニ云フ語。

ぴいぴい（副）前條ノ語ニ同ジ。

ひょう（名）|雹|〔氷雨ヲ氷雨ト音讀シタル語ナラム。少輔、せう。早速、さそく。通夜、つやト同趣〕古ク、ひ。又、ひさめ。夏ノ雷雨ノ時ナドニ、雨ノ凍リテ降ル氷塊。多クハ豆大、乃至、鶏卵大ニシテ、透明、不透明ノ氷層、相重リテ、半球形ヲナシテ、三稜アリ。字類抄「冰、ヒョウ」

ひょう（名）|莧|ひゆ（莧）ノ訛。

ひよう（名）|日傭|（一）ヒヤトヒ。一日限リニ雇ハルルコト。（運送、土木ノ賤工ナドニ云フ）鳩巣手翰、知「一、日傭之類多ク成候事、日傭ノ者ニモ、其上アマタ相ワカレ有之候歟、御普請方ノ日雇之者、大名火消ニヤトハレ候、鳶ノ者、又道中上下ノ者ノ類、年年ニ多ク成候者不ﾚ及ﾚ申、云云」 狀使ニ元祿ノ秋、朝顏ヤ、日傭出テ行ク、跡ノ垣」（二）日傭ノ賃錢。「日傭取」

ひよう（名）|費用|ツヒエ。イリメ。入費。荀子、禮論篇「孰知ﾆ夫輕ﾚ費用ﾆ之所ﾆ以養ﾆ財也」

びょう（名）|鋲|〔假名遣詳カナラズ、浮漚ノ轉カト云フ。鋲ハモト和字、へう、ひゃうノ音、據所ナシ〕のしがたのくぎ（鉗鍋）ニ同ジ。びゃう（鋲）ノ條ヲモ見ヨ。|浮漚釘| 鉗鍋釘 書言字考節用集、七、器財門「徊漚丁、鏁」 和漢三才圖會、八十一、家宅之用「鉗鍋、乃之加太乃久岐、泡頭丁、俗云、比也宇」

びよう（名）|美容|美シキ容貌。ウルハシキ姿。ヨキキリャウ。麗容 玉臺子、鏡「有ﾆ西施之美容ﾆ、嫉妬ﾆ、以自代」「美容術」

ひょうが（名）|馮河|〔馮ハ淜ノ假字、川ヲ徒渉スルコト〕ばうこひょうが（暴虎馮河）ノ條ヲ見ヨ。

ひょうが（名）|氷河|（一）氷ノ一面ニ張リタル河。（二）高山ナドニ、雪ノ降リ積ミタルモノノ、半バトナリテ溶ケ、氷塊トナリ、山腹ノ傾斜地ニ流出シタルモノ。其狀、恰モ河流ノ如クニシテ、印度ノひまらや、北米ノあんです、ろっきいナドニアルハ著名ナリ。

ひょうかい（名）|氷海|南北兩極近キ海面ノ、冬時、一圓ニ氷トナルモノ。又、氷ノ一面ニ張リ詰メタル海。孫炎、寶劒歌「明珠指ﾆ寶錦帶ﾆ、三尺枯蛟出ﾆ冰海ﾆ」

ひょうかい（名）|氷解|（一）氷ノ解クルコト。後漢書、王霸傳「光武南馳至ﾆ滹沱河ﾆ、候吏還白、河水流澌、無ﾆ船不ﾚ可ﾚ濟、官屬恐懼、霸恐ﾆ驚ﾆ衆、還曰、氷堅可ﾚ渡、比ﾚ至ﾚ河、河氷亦合、乃令ﾆ霸護度ﾆ、未ﾚ畢數騎而氷解」（節文）（二）疑惑ナドノ、全ク了解セラルルコト。氷釋。晉書、符生載記「張拓壯洪、因ﾆ趙之成資ﾆ云云、自謂、天下可ﾚ平、關中可ﾚ固、先帝神矛一指、望ﾚ旗氷解、人詠來蘇、不ﾚ覺ﾚ易ﾚ主」「疑問氷解」

ひようかせぎ（名）|日傭稼|ひようとり（日傭取）ニ同ジ。

ひょうき（名）|氷肌|白梅ノ異名。ぎょっこつ（玉骨、第一語）ノ條ヲ見ヨ。竹坡詩話「冰肌玉骨清無ﾚ汗、水殿風來暗香滿」

ひょうきょ（名）|憑據|ヨリドコロ。根據トスルトコロ。顏師古、封禪議「記注近書、委巷浮說、不ﾚ足ﾆ憑據ﾆ、無ﾚ所ﾚ取ﾚ材」 歐陽修詩「文章自古無ﾆ憑據ﾆ、惟願朱衣一點頭」

ひょうくゎい（名）|氷塊|氷ノカタマリ。

ひょうけつ（名）|氷結|寒氣ニアヒテ、水ノ凝結スルコト。氷ノ張ルコト。

ひょうざん（名）|氷山|海洋中ニ浮游スル大氷塊ノ稱。南北兩極洋、又ハ、高緯度ノ地方ニ在リテハ、氷河ノ末端、延イテ海岸ニ及ビ、或ハ絕壁ヲナシ、或ハ舌狀ヲナシテ、海中ニ突出シ、コレラノ次第ニ破碎シ、或ハ、波浪ノタメニ切斷セラレテ、遂ニ海上ニ浮游シ、海流ニ隨ヒテ低緯度ノ洋上ニ流レ來リテ、航海ノ船舶ニ、危害ヲ與フルコトアリ。

ひょうしつ（名）|氷室|氷ヲ貯ヘ置ク部屋。コホリグラ。ヒムロ。詩經、豳風、七月篇「二之日鑿ﾆ冰沖沖ﾆ、三之日納ﾆ于凌陰ﾆ」毛傳「凌陰、冰室也」 左思、魏都賦「上菓ﾆ棟而重ﾆ雷、下冰室而沍冥ﾆ」 孟浩然詩「冰室無ﾆ暖氣ﾆ、炎雲空ﾆ赫曦ﾆ」

ひょうじん（名）|氷人|げっかひょうじん（月下冰人）ノ條ヲ見ヨ。

ひょうしゃく（名）|氷釋|ひょうかい（氷解）ノ（二）ニ同ジ。蘇軾詩「消牙期ﾆ日就ﾆ、應隨乃氷釋」 梁昭明太子、文選序「譜若ﾆ賢人之美辭、忠臣之抗直、謀夫之話、辯士之端、冰釋、泉涌、金相、玉振」

ひょうせつ（名）|氷雪|（一）こほりト、ゆきト。莊子、逍遙遊篇「藐姑射之山、有ﾆ神人ﾆ居焉、肌膚若ﾆ冰雪ﾆ、淖約若ﾆ處子ﾆ」 文天祥、正氣歌「或爲ﾆ遼東帽ﾆ、清操厲ﾆ冰雪ﾆ」（二）淸廉ナルコト。高適詩「奈何冰雪操、尙與ﾆ蒿萊ﾆ羣」

ひようせん（名）|日傭錢|ひよう（日傭）ノ條ノ（二）ニ同ジ。又、日傭賃。浮世風呂（文化、三馬）四編、下「人ヲ雇テ買ヒニヤノ、ヤル所ガ、其日ノ間ニ合ハズ、又合ッタ所ガ、日雇錢ノ、スクナクモ、百五十モヤ、ラ、云云」

ひょうたん（名）|氷炭|氷ト、炭ト。甚シク相違シタル物事ニ譬ヘ云フ語。漢書、傅燮傳「邪正之人、不ﾚ宜ﾚ共ﾚ國、亦猶ﾆ氷炭不ﾚ可ﾆ同ﾚ器」 韓愈、聽ﾆ穎師彈ﾆ琴詩「無ﾚ以ﾆ冰炭ﾆ置ﾆ我腸ﾆ」 白居易、詩「只合ﾆ一身宜ﾆ愛護ﾆ、少教ﾆ冰炭逼ﾆ心神ﾆ」 氷炭相並はすトハ、其質、全ク相反シテ、容ルベカラズノ意。楚辭、東方朔七諫「冰炭不ﾚ可ﾆ以相並ﾆ兮」

ひょうちん（名）|氷枕|醫師ノ、治療上、氷ヲ容レテ、患者ノ頭部ヲ冷スニ用ヰル護謨製ノ枕。コホリマクラ。

ひょうちゅう（名）|氷柱|（一）タルヒ、ツララ。唐書、劉乂傳「乂作ﾆ冰柱雪車二詩ﾆ、出ﾆ盧仝孟郊之右ﾆ」 李白、寄ﾆ宋太白隱者ﾆ詩「長留ﾆ冰柱ﾆ、耕耘隔ﾆ日輪ﾆ」（二）夏季、室內ヲ涼シクスルタメニ立ツル氷ノ柱。

ひょうてん（名）|氷點|水ノ凝結シ初メ、又ハ、氷ノ融解シ初メムトスル時ノ溫度。かんだんけい（寒暖計）ノ條ヲ見ヨ。

ひょうと（副）矢ナド射放ツ音ニ云フ語。又、ヒャウト。保元物語、二、白河殿夜討事「暫シ保ッテひょうと射ル」

ひようとり（名）|日傭取|ヒヤトヒノ人足。ヒコウカセギ。吾門松（享保、近松作）上「其ノ日過ギノ日雇取、騙リト見ユルモオ道理ト」

ひょうのう（名）|氷囊|醫師ノ、治療上、氷ヲ容レテ、病者ノ患部ニ當ツルニ用ヰル囊。牛ノ膀胱、又ハ、護謨製、油紙製ナドニテ、形ハ梨子狀、巾着狀、棍棒狀ナドアリ。

びょうびょう（副）犬ノ鳴ク聲ニ云フ語。（遠吠ニ云フカ）ベウベウ。望一千句「古寺ハ、びょうびょうト荒レ、秋サビシ」（狐ヲ犬ノ追ヒマ

ハスナリ」ト狂歌集、いぬまち云、べうべうト、仮[illegible]」

ひよく (名) [illegible] 土地ノ[illegible]コト。[illegible]

ひよく (名) 比翼 (一)ひよくれんり(比翼連理)ノ條ヲ見ヨ。芭蕉の句「未栄シ、比翼ノ中ハ、花ニ鳥」 (二)衣ノ製ニ、一枚ノ衣ニテ、袖口、褄、又ハ、襟ナドヲ二枚重ネノヤウニ仕立ツルコト。又、ソノ製ノ衣。[illegible]

ひよくござ (名) 比翼蓙 二枚ノ蓙ヲ並ベテ、差合ハセタルモノ。夫婦ノ寝席ナリ。文化の川柳「首蓙ハ、古風ダナアト、ひよくござ」

ひよくづか (名) 比翼塚 情死シタル男女ヲ、同ジ穴ニ葬リテ築キタル塚ノ、メヲトノリ「[illegible]」

ひよくのとり (名) 比翼鳥 (一)支那ニテ、想像ノ鳥。雌、雄、各、一目一翼ニシテ、一體ニ連リテ飛ブモノト云フ。因リテ、夫婦ノ契ノ深クシテ、睦ジキニ譬ヘ云フ。ひよくれんり(比翼連理)ノ條ヲ見ヨ。字類抄「鶼、ヒヨク、似鳧一目一足一翼也、鳳、比翼鳥也、比翼鳥、已上同」十寮物語、六、小督事「天ニ住マバ比翼の鳥、地ニアラバ連理ノ枝トナラント」 (二)又、鳥ノ名。ふうてう(鳳鳥)ノ條ヲ見ヨ。

ひよくもん (名) 比翼紋 情人ノ紋所ト、己レガ紋所トヲ組合ハセテ、造リタル紋。

ひょくり (副) ひょっくりニ同ジ。浮世床(文化、三馬)初編、上「其ノ温マリデ氷ガ解ケノ、ナ其レ、壁ガひょくりス」

ひょぐる [illegible] 尿ヲハシラスル。[illegible]ニテハ、自動ニ、[illegible]ひょぐ[illegible]ルトモ云ヒ、他動ニ、小便ヲひょぐルト云フ) 浮世風呂(文化、三馬)四編、上「立ッテ居テ小便ヲスルニ、ソノ小便ヲひょぐる内、最ウ尖頭ノ方ハ氷リヤス」

ひよくれんり (名) 比翼連理 「比翼ノ鳥、連理ノ枝ノ略」[illegible]「南方有比翼鳥[illegible]、不比不飛、其名謂之鶼鶼」註「似鳧青赤色、一目一翼、相得乃飛」山海經「崇吾之山、有鳥焉、其狀如鳧、而一翼一目、相得乃飛、名曰蠻蠻」孝經援神契「德至草木則木連理」後漢書、孝安帝紀「元初三年、東平陸上言木連理」[illegible]羽ヲ雙ベテ飛ブ鳥ト、両木ノ木理ヲ連ヌル枝ト、卽チ、夫婦ノ契ノ淺カラヌニ喩フ。白居易、長恨歌「在天願作比翼鳥、在地願爲連理枝」[illegible]比翼の鳥、連理の枝[illegible]、天ニ掛ギ[illegible]テ、[illegible]春門ノ女院[illegible]」謡曲、[illegible]「始ヨリモ色深ク、比翼連理ノ其契リ、天長ク、地久シ」

ひよけ (名) 日除 ヒオホヒ。日ノ光ヲ遮ルタメニ用ヰル簾、暖簾ノ類。[illegible]奇人談「日除ニハ、モソットヒキシ、雲ノ峰」

ひよけ (名) 火除 (一)火災ノ延燒ヲ除クルコト。又、ソノモノ。防火 視聽草、六集、御堀面御火除之高無之候」「火除ノ地」 (二)又、其神符。火防 避火符「火除ノ守」

ひよこ (名) 雛 「ひよト鳴ク雛ノ義」鳥ノ子。ヒナ。ヒナドリ。ヒヨッコ。大職冠(正徳、近松作)上「メイメイ鳥ノひよこ」

ひょこ (副) 飛ビ歩ク狀ニ云フ語。次條ヲモ見ヨ。ヒョコリ。

ひょこひょこ (副) [illegible]、蘇軾、赤壁賦ニ「馮虛御風」トアリ、[illegible]ノナキコトナリ」蛙ナドノ飛ビ進ム狀ニ云フ語。

ひょこひょこ (副) 小跳リスル狀ニ云フ語。[illegible]ドッテ股ニ入ル、コリャオ蔭デ私ハ腹ガ減ル」

ぴょこぴょこ (副) [illegible]狀ニ云フ語。ペコペコ。

ひょこり (副) ひょこニ同ジ。

ひょこりひょこり (副) 前前條ノ語ヲ強メテ云フ語。

ひょっくら (副) 次條ノ語ニ同ジ。文化の川柳「ハゼウリノ、聲ニ戸朋ヲ、ひょっくら出ル」

ひょっくり (副) 不意ニ表ハレ出ヅル狀ニ云フ語。ヒョクラ。ヒョコリ。ピョク[illegible]リ。浮世床(文化、三馬)初編、上「二町目ノ曲門テ、ひょっくり逢[illegible]タカラノ」

ひよっこ (名) 雛 「ひよこノ音便」ひよこ(雛)ニ同ジ。

ひょっこり (副) ひょっくりニ同ジ。

ひょっと (副) 「不圖ノ轉カ」(一)輕ク容易ク物スル狀ニ云フ語。不意ニ。卒爾 狂言記、[illegible]、住ミナレシ我ガ古寺ヲひょっと出テ」 (二)萬ニ一ト推シハカル意ニ云フ語。モシヤ。マンガイチ。或 心中刃氷朔日(寶永、近松作)中「若シひょっと死病ウケタリトモ」浮世床(文化、三馬)初編、上「氷ガトケテ、ひょっと落コチタラ、ドウスル」「ひょっとシタ事」「ひょっと逢フ」

ひょっとこ (名) 「大小不釣合ノ目ト、徳利ノ如キ口ノ意」 (一)オドケタル容ノ面。又ハ、一方ノ目小サク、口ヲ突出シテ滑稽ナル男ノ顔ノ假面ノ稱。シホフキ。トクス。(京都) 又、其假面ヲ被リ[illegible]ヲカブッテ、ひょっとこヲ踊テ貰ハアス」 (二)男ノ子ノ俗稱。(三)倒兎ノ雄。

ぴょっぴょ (副) 唾、痰ナドヲ吐キ出ス狀ニ云フ語。[illegible]編、上「火鉢ノ中ヘハ、ぴょっぴょっト痰ヲ吐イテ」

ひよどり (名) 鵯 「ひえどり(稗鳥)ノ語原ヲ見ヨ」古クハ、ヒエドリ。燕雀類ノ小鳥ノ名。形、つぐみ(鶫)ニ似テ、尾長ク、[illegible]背黒[illegible]色、腹下ハ灰白色ニシテ、[illegible]飛ブ。白頭鳥 [illegible]「宮内卿[illegible]ひよどりノ[illegible]」

ひよどりじやうご (名) 鵯上戸 [illegible]ノ義、其鳥、好ミテ此實ヲ食ヘバ云フ] 茄科ノ多年生蔓草、[illegible]多シ。春、宿根ヨリ生ジ、草木ニ絡フ、毛アリテ牽牛子ノ如ク、葉ハ菊ノ葉ニ似テ、薄ク柔ニ、互生ス。夏、葉ノ間ニ、小枝ヲ生ジ、多ク小叉ヲ分チ、叉毎ニ一花ヲ開ク、白色ニシテ、[illegible]ふんてん(南天)ニ似テ大キク、秋、冬、熟スレバ[illegible]ルシケシ。ヒエドリジャウゴ。蜀羊泉 [illegible]名)、ヒヨトリジャウゴ、ウルシケシ」

ひよどりばな (名) 鵯花 菊科ノ山草ノ

名。ふぢばかま（藤袴）ノ一種。山野ニ自生シ、香氣少ク、葉ハ長クシテ岐ナク、桃ノ葉ニ似テ、鋸歯淺シ。又、三尖ニシテ、藤袴ノ如キモアリ、故ニ南對ス。葉ニ斑アリテ、葉ト共ニ毛アリ。花ニ、白、淡紫、ノ二品アリ。山蘭

〔ひよ-ひよ（副）（一）鳥ノ雛ノ鳴ク聲ニ云フ語。枕草子、八、七十四段「鷄ノヒナノ、足高ニシロウヲカシケニ、キヌミジカナルサマシテ、ひよひよ、カシカマシクナキテ、人ノシリニ立チテ歩クモ」（二）顋蓋骨ナドノ動ク狀ニ云フ語。

ひよ-ふ-ゐ（名）道中ニテ、藥、又ハ、他ノ品物ヲ賣リテ、田舍人ヲタバカルモノ、ひん用師ト云フハ、社寺ノ寄附ナド集メテ、タバカリ取ルモノ。

ひ-よみ（名）〔日讀〕（讀むハ數フナリ、曆ニ同ジ）（一）曆ニ同ジ。「日讀ノ酉」（二）十二支ノ異稱。年號ヲ書カズ、甲子、丁酉ナドトノミ書クヲ、干支ヲ書クト云フ　十訓抄、中、七、第七條「日よみノ午ノ頭ヲ出ダスハ午ナリ」

ひよみ-の-とり（名）〔日讀酉〕　酉ト云フ字ノ稱。日讀、卽チ、曆ノ干支ニ用ヰレバ云フ。（常ノ鳥、又ハ、隹ニ對ス）

ぴよん（副）跳ネ飛ブ狀ニ云フ語。

ヒヨン-カツ（名）〔飄勝〕〔蠻語、交趾邊ノ語カ〕沈香ノ下品ナルモノ。飄ヨリ勝レタルモノト云フ。（飄トハ、伽羅ノ皮ニテ、輕クシテ水ニ浮ビ、最下等ナルモノト云フ）　御當家令條、十六、異國船入津留物覺「ひよんかつ」

※ひよん-な（副）意外ナル出來事ノ狀ニ云フ語。變ナ。奇怪ナ。不思議ナ　狂言記、

拔殼「ハテ、ひよんな事ヲオシャレマスル」淀鯉出世瀧德、[illegible]「ひよんな事ガ出來マシタ」

ひよん-の-き（名）樹ノ名。いすのき（蚊母樹）ノ異名。　大和本草、十二、雜木類「ひよんのき、ユスノキ、其實內空シ、長サ一二寸、唐土ニ猿ト云フ、童コレヲ採リテ穴ヲアケテ吹ケバ、笛ノ如クひようひようト鳴ル」和漢三才圖會、八十四、灌木類、蚊母樹、俗云、比與干乃木、其木名ニ伊須、按、云云、如子者、云云、大者如ニ桃李ニ、其文理如ニ檳榔子ニ、人用收ニ胡椒柔粒ニ末、以代ニ瓢ニ、故俗曰ニ瓢木ニ

ひよん-ひよん（副）兎ナドノ、跳ネ飛ブ狀ニ云フ語。

びよん-びよん（副）犬ノ鳴キ聲ニ云フ語。（九州ニテ、びようびようトモ云フ）

ぴよん-ぴよん（副）前前條ノ語ヲ強メテ云フ語。

ひよ-めき（名）〔顋門〕（ひよひよト動ク狀ヲ名トス）嬰兒ノ顋蓋骨ノ未ダ合ハザル時ニ、呼吸スル每ニ、前頂ノ中央ニテ跳リ動ク處。ヲドリ。ヲドリコ。

ひよ-やか-ね（副）ひはやかね、纖弱ニ同ジ　大石寺本、曾我物語、三「母ト乳母ニ取リツキテ、ひよやかなる聲ニテ泣キケレバ」同、同「父ノ死骸ニ取付テ、ひよやかゲナル聲ツキニテ、喚キ叫ビニ歎キシヲ」

ひより（名）〔莩〕蘆ノ莖中ノ薄キ白皮。

ひ-より（名）〔日和〕〔日寄ノ義ニテ、日ノ方ノ意ト云フ〕（一）晴レテ、和ギタル空合、靜カニ照ル空模樣　晴和　和煦　辨內侍日記「纖ヲ取ル、ソノ舟人ニ、アラヌ身ノ、明日ノひよりヲ、イカガ祈ラン」　夫木抄、廿五、泊「播磨路ヤ、空ハひよりニ、ナリヌトモ、シバシハ出デジ、室ノ泊ヲ」　曾丹集「ハルバルト、ウラウラ畑、立チワタリ、アマノひよりニ、鹽燒クカモ」　拾遺愚草、上「待チエタル、日よりヲ道ノ、タノミニテ、ハル

カニイヅル、浪ノ上カナ」（二）ソラアヒ。空ノ樣子。空模樣。天候。　爲忠百首、下「風モナミ、ひよりヨクトモ、郭公、ナクトマリヲバ、出デシトゾ思フ」　物類稱呼、五、言語「雨降ラントシテ日和ニナリタルヲ、畿內近國ニテモ、日ナヲルトイフ、[illegible]ニテ、[illegible]ヨリト云、ひよりノ定ラヌヲ、[illegible]ニテ、一兩日和ト云、筑紫ニテ、一石日和ト云」（三）事ノナリユク樣子。ナリユキ。クモユキ。形勢　「日和見」

ひより-げた（名）〔日和下駄〕下駄ノ齒低キモノ。雨天ナラズ、日和ニモハク　洒落本、辰巳之園「山岡頭巾ヲ橫チョニカムリ、日和下駄ヲハキ、大キナル顏ニテ來ル」

ひより-み（名）〔日和見〕（一）晴雨ヲ觀測スルコト。　好色一代男（天和、西鶴）三「夢モ結バズアリシニ、日和見ニ起サレ」（二）心ニ兩端ヲ抱キテ、形勢ヲ觀望シテ、去就ヲ決セムトスルコト。洞ケ峠。首鼠兩端

※ひよろ-け-る（動）ひよろつくノ口語。

ひよろ-たか-い（形）身體瘦セテ、丈ノ高キコト。

ひよろ-つ-く-ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）〔蹌踉〕足モト定マラズシテ、ヨロメク。ヒヨロヒヨロスル。ヒヨロケル。　生玉心中（正德、近松作）上「醉ヒツブレ、サセヽサセヽト割込ンデ、ひよろつく足ヲ蹈ミコカサレ」

ひよろ-ひよろ（副）（一）歩ミノヨロメク狀ニ云フ語。ヨヂヨヂ。ヨタヨタ。蹌踉　吉野都女楠（正德、近松作）四「番ノ者共目ヲサマシ、起キアガレドモ起キアガレドモ、ひよろひよろひよろ、ヨロリヨロリトヨロメキナガラ」　心中二枚繪草紙（寶永、近松作）下「サア內ジャ、這入ランセト、無體ニ押入ルレバ、上リ口ニひよろひよろト」（二）獨リ、ウネリソビユル狀ニ云フ語　挺然　「ひよろひよろト高イ」

ひよろり（副）ひよろひよろシタル狀ニ云フ語　[illegible]「ひよろりひよろりト、致イテ居リマシタ」　心中二枚繪草紙、[illegible]下「[illegible]」

ひ-よわ-し-キ・ケレ・ク・ク（形、一）〔ひハ發語カ、或ハ、ひはひはト弱キ意カ〕脆ク弱シ。ヒハヤカナリ。カヨワシ。脆弱

ひら（名）平（一）タヒラカナルコト、ヒラタキコト　[illegible]「[illegible]ひらナルノトニノボルヲ見レバ」　[illegible]、大キナルモ、小キモ、云云、サナガラひらニ倒レ」「平岡」「平地」（二）常。ナミ。直。尋常。盛衰記、二、小松大臣教訓ノ道、事「重盛ガ子ドモ、平殿上人ニテ」「ひら裝束」「ひら公家」「平人」「平侍」（三）平椀ノ略。椀ノ、稍、淺クシテ平タキモノ。　浮世床（文化、三馬）初編、上「鯉ガ食ヒテエ、云云、ト云テ、平ヲ持テ[illegible]出スワ」

〔ひら（名）〔片枚葉〕薄ク平ラカナルモノ。又、ソレヲ數フルニ云フ語。　舒明紀、四年十一月「是歲、越國守阿部引田臣比羅夫、討ニ肅愼ニ、獻ニ生羆二、羆皮七十枚ニ」　天武紀、下、五年八月「四方爲ニ大解除ニ、用物、則國別國造輸ニ、祓柱ニ、云云、首刀一口、鹿皮一張、云云」　源、三十二、梅枝「なかきかきかへルひらモアリ」（紙ノ面ナリ）　枕草子、二、廿段「手ヲ[illegible]ひら、カリソメニ打チシキテ」「花ノ四ひら五ひら」紙一ひら」貝二ひら」

ひら（名）〔鰳〕〔平鱗ノ略〕古名、ハソ。魚ノ名。海ニ產ズ、形、さのぼろ（鯛）ニ似テ、大キク平タク、體長二尺許リ、全身白クシテ、鱗ハ、梅花ノ瓣ノ如シ。腹下ノ鱗ノ三角ナルコトモ、[illegible]ノ如シ。大ナルハ一二三尺ニ達ス。肉ニ小骨多シハス。

ひら（名）〔香葉〕〔枚、又、平ノ義、形、薄

[illegible]
ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

ひら (名) [僻邪] ひちら(僻邪)ニ同ジ。

びら (名) [片枚] 〔片ノ訛〕見世物ノ名ナドヲ書キタル[illegible]、又[illegible]、見世物[illegible]ナ[illegible]、[illegible]知人ヨリ贈ル進物ノ名ナドヲ書キタル[illegible]加ヘタルヲ云ヒ、辻ニ張出ス[illegible]ト云フ、[illegible]クコトヲ、俗言ニびらびら動クナドト云フ故、びらトハびらびらノ略語ナルベシ」

ひらあした (名) [平足駄] [illegible]下駄ノ條ノ(一)ニ同ジ。今昔物語、廿八、第三十語「[illegible]ノ片足ヤ、[illegible]切ノ[illegible]ルヤ、云云[illegible]十九、[illegible]八條[illegible]ノ如クナルガ、信濃布ヲ衣ニ着、檜ノ平足駄ヲハキ[illegible]事「齢七十許ナル入道ノ、柿ノ直衣ニ文書フクロ頭ニ掛タル[illegible]、あしだ[illegible]、十[illegible]

ひらあやまり (名) 平謝 只管ニ謝リ入ルコト。[illegible]

ひらい (名) 避雷 カミナリヨケ。[illegible]北[illegible]

ひらい (副) [比來] チカゴロ。コノゴロ。[illegible]與李方叔書「比來經ニ涉世故ニ間ニ關四方ニ更[illegible]北[illegible]新[illegible]」

ひらいしん (名) 避雷針 避雷柱ノ尖頭ニ立テタル細ソキ金屬線。又、直ニ、避雷柱ノ稱。カミナリヨケ。

ひらいちゅう (名) [避雷柱] 空中ニ於ケル烈シキ放電ノ、危險ナキ大地ニ導キ、

[illegible]ノ[illegible]
具[illegible]ノ[illegible]
又ハ、[illegible]、[illegible]、自[illegible]
ノ[illegible]
[illegible]
ハ、水中ニ逆リ入ルルモノ。

ひらいど (名) [平緒] [illegible]綾ノ上ゲタル[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ナレバ、[illegible]トモ云フ。

ひらう (名) [疲勞] 身ノツカルルコト。[illegible]

ひらう (名) [罷勞] ツカルルコト。疲弊。[illegible]左[illegible]、[illegible]民不[illegible]、[illegible]政[illegible]」

びらう (名) [蒲葵] 〔檳榔ト混ジテ云フ語。あぢまさ、檳榔(イ)ノ條ヲ見ヨ。或ハ云フ、檳ノ一名桝榔ノ轉訛ト。〕蒲葵、檳榔、椶櫚、其狀相似タレバ、古クハ、和漢共ニ混同シテ云ヘリ。本草和名ニ、檳榔ヲ阿知末佐ト誤訓シタルモ、是レナリ」古名、アヂマサ。又、ビリャウ。棕櫚科ノ樹ノ名。熱地ノ産〔檳榔ハ我國ニ生ゼズ、蒲葵ハ四國、九州ニ生ズ〕椶櫚ニ似テ、高サ二十尺ニ至リ、葉最モ長大ナリ、長サ五六尺、莖モ四五尺ニ至ル、三稜ニシテ刺アリ。ホキ、椶櫚ノ葉ハ、本ヨリ分レテ岐ヲナスニ、此樹ノ葉ハ、木、續キテ分レズ、故ニ、此處ヲ取リテ笠ニ作ル。或ハ團扇トスルヲ、びらうちは〔蒲葵扇〕ト云フ〔次條ヲ參見

[illegible]

びらうちは (名) [蒲葵扇] [illegible]以テ作リタル扇。カマブフギ。倭名抄、[illegible]青島アリテ、蒲葵多ク生ヒタリ、又、大隅國、志布志[illegible]びらうちは[illegible]」

びらうぐるま (名) [檳榔車] 檳榔毛ノ車ノ略。次次條ノ語ヲ見ヨ。[illegible]

びらうげ (名) [檳榔毛] 〔次條ノ語ノ略〕牛車ノ屋形ノ簷ニ、蒲葵ノ葉ヲ裂キテ白ク晒シタルモノヲ、車箱總體ニ押シ、且、車蓋ヲ葺キ垂レタルモノ。上皇、親王、大臣以下、公卿、女官、僧侶ナドノ乘用トセリ。蒲葵ナキ時ハ、菅ヲ用キルト云フ。又、ビリャウノクルマ。源、四十八、宿木「[illegible]ノ御車ニテ、[illegible]ツ、びらうげノ黄金ヅクリ六ツ、タダノびらうげ二十、網代二ツ」枕草子、二、廿段「びらうげハ、ノドヤカニ遣リタル、急ギタルハ輕輕シク見ユ」飾抄、下「毛車、[illegible]、[illegible]」

びらうげのくるま (名) [檳榔毛車] 略シテ、びらうげ。前條ノ語ヲ見ヨ。[illegible]小右記、[illegible]、宇津保物語、國譲、下、四「由アルびらうげの車ノ、スダレヲイトタカクアゲテ、ナチヌハカリコボレ出テテ見ルアリ」枕草子、一、四段「びらうげの車ナドハ、門ナヒサケレバ、サハリテエ入ラネバ、云云」

ひらうち (名) [平打] (一)紐(ヒモ)ノ組方ニ、平タク作レ[illegible]、又、[illegible]打ツコト、又、平タク打チタル金屬[illegible]〔指輪ノ常體ノモノ〕「平打ノ[illegible]」

ひらうどん [illegible]

[illegible]ニ、伊モ川ウドンソバ切アリ、道中第一ノ賞翫ヨキ所ナリトアレバ、今ノ平温飩ヲヒモカハトイフハ、芋川ノ訛リナルベシ」好色一代男(天和、西鶴)二、三州二川「芋川ト云フ里、云云、所ノ名物、ひら饂飩」

ひらおし (名) [平押] 一面ニ押シ進ムコト。[illegible]

ひらおび (名) [褶] ひらみ(褶)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

ひらか (名) [平瓮] 〔か(甕)ノ條ヲ見ヨ〕上器(?)、平タキ皿。[illegible]

ひらがかり (名) [平懸] 平押シニ、攻メカカルコト。[illegible]

ひらがき (名) [平柿] ごしょがき(五所柿)ノ一名。

ひらかす スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) [開] ひらく(開)ノ敬語。催馬樂、東屋「東屋ノ、マヤノアマリノ、雨ソソギ、我レ立チヌレヌ、ソノトノトノ[illegible]、[illegible]」明ケ、此夜ハアケヌ、入リテアサ寐ム、此戶開(ヒラカセ)」

ひらかたき (名) [平敵] 芝居ノ敵役ノ

一ッ惡人ニテ思慮淺ク、凡庸ナル役柄。かたきやく(敵役)ノ條ヲモ見ヨ。

ひらがつを (名) [平鰹] 海魚ノ名。まぐろ(鮪)ノ類ニテ、長サ一尺許リ、一名、ヨコシ。又、ヒラメジ。通稱、サウダガツヲ。日本山海名産圖會、四、堅魚「魚品ハ、鰹鯉、橫輪鰹、宇津和鰹、ひら鰹等ニテ、中ニモ鰹鰹ヲ眞物トシテ、次ニ橫輪ナリ、此ニホヲ以テ乾魚ニ製ス、東國ニテ、小ナルヲめぢかトイフ」

ひらがな (名) [平假名] (かんな(假名)ノ語原ヲ見ヨ。此假名ハ、古クハ草假名、又ハ單ニ、かんな、かなトノミ云ヒキ (其字體モ種種ナリキ) 伴信友ノ假名本末、上ノ下ニ「草假名、云云、平假名ト云ヘル事ハ、古クハ聞エヌ稱ナリ」トアリ。刊本ノ宇津保物語、藏開、中八十ニ「ひひかた」或本ニ「ひとかた」或校本ニ「ひらかな」トアレド、決シガタシ。江戸時代ニ起リシ名ナルベシ ひらハ眞(マ)精米(上白米)ニ對スル平精(玄米)、平侍、平人ナドノひらニテ、簡易普通ナル婦人用ノ意ニモアルカ、或ハ、淨瑠璃節ノ語、不ニ、此假名ヲ極メテ扁平ク細ソク書キテ、板刻シタルモノ多シ、コレニ起レル語カト云フ說アリ。サレバ元祿頃ヨリノ名カ。記シテ參考トス」假名ノ一種。一ニ女手トモ云ヒキ。漢字ノ草體ヲ更ニ崩シテ作レル文字、總テ四十七字アリ、卽チ、いろは歌四十七字ヲ云フ。かんな(假名)ノ條ヲモ見ヨ。

ひらがなへ (名) 鍕 平タキカナヘ。かなへ(鼎)ノ條ヲ見ヨ 倭名抄、十六九金器類「鍕、比良賀奈倍」天治字鏡、六廿九「鍕、比良加奈戶」

ひらがね (名) [平金] (一)こんく(金鼓)ニ同ジ。倭名抄、十三三伽藍具「金鼓、比良加禰」(二)ふんれう(南鐐)ニ同ジ。字鏡四十二「鐐、銀美也、好也、比良金也」

ひらガハラ (名) [平瓦] かはら(瓦)ノ、中少シク凹ミテ、方形ナルモノ。和漢三才圖會、八十一、家宅之用「瓦、牝瓦、和名、女加和良、今云平瓦、云云、平瓦、丸瓦、法ニ陰陽ニ兩平瓦稍陽面仰、丸瓦陰覆、故有牝牡、平丸、版筒等之名」

ひらかんむり (名) [平冠] 漢字ノ冠ノ一、わかんむり(冖冠)ニ同ジ。

ひらが・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [平伏] ヒロガル。平タク伏ス。宇治拾遺、十二、第十九條「虎、人ノ香ヲ嗅ギテ、ツイひらがりテ、猫ノ鼠ヲウカカフヤウニテアルヲ」發心集、四、第一條「築地ノツラニ、ひらがり伏セルアリケリ」

ひらき (名) [開] (一)ヒラクコト。明クルコト。(二)開クルコト。明クコト。(三)始ムルコト。興スコト。發「會ノ開」(四)蕾ノ咲クコト。開花「花ノ開」(五)快ク晴ルルガ如クナルコト。「胸ノ開」(六)婚儀ナドノ宴席ヨリ去ルコト。解散(七)開戶ノ入口。(八)增スコト。殖ユルコト。又、差違。(商人ノ語)「直段ノ開」(九)茶室ノ濃茶了リテ後、客ヲ別ニ廣間ニ引キテ、薄茶ヲ供スルコト。披

ひらぎ (名) [柊] ひひらぎ(柊)ノ約。太祇全集「柊サセ、モシヤ築地ノ、崩レヨリ」

ひらぎ (名) [平木] 漢字ノ、下ニアル木ノ字ノ稱。架、柴、梨、栗、案ナドノ如シ。

ひらきごばう (名) [開牛蒡] 新年ノ祝賀トシテ、飾ル牛蒡。開豆ナドト共ニ、生ノママニテ土器ニ盛ル。

ひらきど (名) [開戶] (一)舞ヒ戶。樞、又ハ、蝶番ニテ開閉スル戶、(引戶ニ對ス)多武峰略記、下、第二堂舍「今講堂者、五間四面、云云、東西脇各在開戶一具」(二)興、牛車ナドノ、後ノ口ニアル扉。蔀戶トモ云フ。九條家車圖「檳榔毛、云云、車中、檳榔車、云云、猶、無物見有開戶」九條家車圖「檳榔庇、云云、開戶、黃金物」

ひらきなほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [開直] キズマヒヲ直シ、オゴソカニナル、キットキナホル。

ひらぎぬ (名) [平絹] へいけん(平絹)ニ同ジ 宇津保物語、國讓、中五十二「ひらぎぬノカイネリノ御ゾ一カサネ」雅亮裝束抄、一「女御マイリ、婿トリナドニハ、ひらぎぬノウチサウゾクアルベカラズ」

ひらきばしら (名) [葱臺] (開葱柱ノ意カト云フ) 橋ノ兩端ノ男柱ノ上ニ、葱花、卽チ、擬寶珠アルモノ。倭名抄、十八十道路具「葱臺、比良岐波之良、橋兩端所、堅之柱、其頭似葱花、故云」字類抄「葱臺、ヒラキハシラ、葱臺橋(イ本)、ヒラキハシラ」大鏡、上、基經「御車ハ川ヨリ東ニタテ、牛ハ御橋ノひらきばしらニヒキツナギ」

ひらきふう (名) [開封] 封ヲセヌ書狀。

ひらきまめ (名) [開豆] 新年ノ祝賀トシテ飾ル豆。卽チ、水煮ニシタル大豆。

ひら・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [開闢發] (韓語、ぱるく) (一)自ラ放ル。明ク。「戶開く」(二)蕾ヲ放ツ。咲ク。「花開く」(三)快クナル。晴ル。霽氣「胸開く」「氣開く」(四)去ル。退散ス。解散(婚儀ノ席ナドニ云フハ、歸るト云フヲ忌ミタルナリ)「席ヲ開く」「寺ヲ開く」(五)溢ル。「池ガ開く」「溝ガ開く」(六)增ス。殖ユ。又、違フ。(商人ノ語)「直段開く」

ひら・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [開闢披發] (一)閉ヂ、又ハ、結ビタルヲ放ツ。被ヒヲ去ル。明クル。萬葉集、九十九長歌「此ノ箱ヲ、開テ見テバ、モトノゴト、家ハアラムト」用明紀、元年五月「往觀」殯內、拒不聽入、自呼開門、七廻不應、嚴衞、新之」「戶ヲ開く」「箱ヲ開く」(二)障リヲ去ル。解ク。排 應神紀、十六年八月「撃新羅、披其道路」平治物語、一、官軍除目事「能ク能ク開コシ召シ開かるベシ」「道ヲひらく」(三)始ム。興ス。創「宗旨ヲ開く」店ヲ開く」(四)掘リ起ス。開發ス。拓 神武紀「是時大伴氏遠祖日臣命、帥大來目督將元戎、蹈山啓行、乃尋烏所向」「山ヲ開く」路ヲ開く」「田地ヲ開く」(五)退ク。退出ス。參考、保元物語、中、新院左府御沒落事、急ギ何方ヘモ御ひらき候ベシ」太平記、廿九、二宮方京攻事「京都ヲ無事故、御開き候テ、將軍ノ御勢ト一ツニナリ、可京都ヘ寄セラレ候ハバ、云云」(六)船ヲ漕ギ出ス 臨時祭式「開道、唐船居祭」(七)數學ニテ、乘根ヲ求ム。

ひら・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) [開闢] (一)放レ明ク。(二)蕾ヲ放ツ。咲ク。源、十、榊五「ソレモガト、今朝ひらけタル、初花ニ、オトラヌ君カ、匂ヒヲゾ見ル」古今六帖、六「アヂサヰノ、ヨヒラスクナキ、初花ヲ、ひらけハテズト、思ヒケルカナ」(三)快クナル。晴ル。霽氣 謠曲、砧「ひらくる法ノ花心、菩提ノ種トナリニケリ」源、四、夕顏二「笑ミノ眉ひらけタル」「胸開く」氣開く」(四)始マル。起ル。開闢 皇極紀、四年六月「中大兄使ニ將軍巨勢德陀臣、以ニ天地開闢、君臣始有、說於賊黨、令知所赴」古今集、序「コノ歌、天地ノひらけ始マリケル時ヨリ、出デキニケリ」(五)世上ノ物事、人民ノ知識ナド、時ト共ニ移リ進ム。開化 謠曲、難波「難波ノ浦ニ年ヲ經テ、ひらくる代代ノ、惠ミヲ受クル」(六)吉キ方ニ向フ。「運開く」

ひらぐけ (名) [平絎] (まるぐけ(丸絎)ニ對ス) ヒラタク、クケルコト。

ひらくび (名) [illegible] 馬ノ頸ニテ、鬣ノ下ノ左右、平ナル所。[illegible] くびヲウチテケリ」太平記、七、吉野城軍事「敵ノ馬ノ諸膝、薙イデハ切スエ、平頸切ッテハ刎落サセ」

ひらぐも (名) 平蜘蛛 又、ヒラタグモ。蜘蛛ノ一種、[illegible] 長キ八足平排ス、大キサ一寸許リ、淡黑褐色ニシテ[illegible] 上ナドニ出テ、巢ヲ構フ、[illegible]作ル、銭ノ大キサニテ、白絹ノ如シ、[illegible]ニシテ、中ニ居テ、抱ム。壁錢 [illegible]

びらくら (名) 〔びらびらくらくらノ略。〕不締(フシマリ)ナル事、シダラナキコト。フシダラ。不始末。[illegible]ヲ仕舞ハンー、[illegible]」

ひらけ (名) 開 (一)ヒラクルコト。(二)世上ノ物事、人民ノ知識ナドノ、時世ト共ニ移リ進ムコト。開化。

ひらこのしろ (名) 平鰶 魚ノ名。ひら(鰶)ノ條ヲ見ヨ。

ひらざま (名) 平様 (永様、行様ニ對ス) 様ノ字ノ草體、木ノ如ク書クヲ云フ。己レヨリ目下ノモノニ用ヰル。字形、ツクバヒタル如クナルヨリ、つくばひざまトモ云フ。さま(様)ノ條ヲ參見セヨ。

ひらさむらひ (名) 平侍 タダノさむらひ[illegible] 官位ノ無キ侍。[illegible]

ひらざや (名) 平鞘 (一)刀劍ノ鞘ノ、平タクシテ幅廣キモノ。又、ソノ刀劍。[illegible] (二)平鞘ノ太刀ノ略。[illegible]刀ノ野太刀。鞘、平タクシ、[illegible]地、柄ハ白鮫、革緒ヲ着ケ、帶取ハ紫革ナリト云フ。古ヘ、出行ニ佩ブ。一名、衛府ノ太刀。太平記、十三、[illegible]モ時ノ大理ニテ坐スル上ハ、云云、巻纓ノ老懸ニ、赤裝ノ表ノ衣、[illegible]ノ太刀ヲ佩キ、云云」[illegible]太刀ノ事ニ[illegible]トハ近衛、兵衛、衛門ノ官人ノ役所也、衛府ノ官ノ人ノ帶スル太刀ナル故、衛府の太刀ト云フ」

ひらさら (副) ヒトヘニ。ヒタスラ。曾我五人兄弟(元祿、近松作)三「簑サシ入テ小聲ニナリ、[illegible]シテタヘ、下更[illegible]存ズルト、手ヲ合テゾカガミヰル」

ひらしきのおまし (名) 平敷御座 天皇、皇后、東宮ナドノ着カセ給フ平敷ノ座(次次條ヲ參見セヨ) ヒラシキノゴザ。江家次第、八、相撲召合「作御座供平舗御座」紫式部日記「ウヘハ平敷のおましニ、御モノマヰリスヱタリ」中務内侍日記「ひらしきのおましニ、繧繝二帖ノ上ニ御シトネヨソヒテ」

ひらしきのござ (名) 平敷御座 前條ノ語ニ同ジ。

ひらしきのざ (名) 平敷座 帳臺、又ハ、床子ナドヲ用ヰズ、床ニ、疊、或ハ、敷物ヲ敷キテ、着スル座ノ稱。江家次第、六、二孟旬[illegible]シタルモアリ、[illegible]

[illegible]タル帝ノ疊ノ上ニ、主上ノ御座料ニ疊二帖シクナリ、(今按ベリナリ)平敷ト云フハ、高御座ニ對シテ云フ詞ナリ、唯御座トイヘバ、高御座ニ紛ルルナリ、故ニ[illegible]ト云フナリ」

ひらしま (名) 平島 (一)地形ノ平タキ島。(二)草木ナドノ生ゼヌ島。

ひらしゃら (副) 次條ノ語ニ同ジ。

びらしゃら (副) シナヤカニ、ビラビラ、シャラシャラトスル狀ニ云フ語。ヒラシャラ。好色一代女(貞享、西鶴)五、大坂の闇屋の蓮葉女を云ひて[illegible]ノ皮アツクシテ、人中ヲ[illegible]、びらしゃらスルガ故ニ、此名ヲ付ケヌ」

ひらしょゐん (名) 平書院 書院造ノ床ノ一種。床ノ間脇ニ窓ノミアリテ、床棚ノナキモノヲ云フ。コレニ對シテ、床棚ヲ附ケタルモノヲ、附書院(ツケショイン)ト云フ。しょゐん(書院)ノ條ヲモ見ヨ。

ひらしらげ (名) 糲 平精ノ義、粗ク精ゲタルヲ云フ。くろごめ(黑米)ニ同ジ

ひらしらげのよね (名) 平精米 玄米ニ同ジ。しらげよね(精米)ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、十七[illegible]「糲米、比良之良介乃與禰」

ひらせ (名) 平瀬 河ノ瀬ノ、ヒロビロトシテ、細波(サザナミ)ノ打立チ、平カナルトコロ。[illegible]十四「[illegible]アヂカマノ、カタニサク波、比良湍ニモ、紐トクモノカ、カナシケヲ措キテ」同、十九「[illegible]シク河、ナヅサヒノボリ、平瀬(ハヤセ)ニハ、サデサシ渡シ、早湍ニハ、鵜ヲカヅケツツ」

ひらぜめ (名) 平攻 一途ニ攻ムルコト。平家物語、十一、逆櫓事「猪、鹿、[illegible]、軍ハタダ平攻めニ攻メテ、勝チタルゾ心地ハヨキ[illegible]」

ひらた (名) 平田 (一)地形ノ平カナル田。(二)〔ひらたぶね(平田舟)ノ略。〕倭名抄、十一、[illegible]艑、比良太」[illegible]

[illegible]挟長也、比良太」滝井三代記、一、鐵山の[illegible]事「役鉄モサスガ功有兵ナレバ、兵船七八艘ヲシ出ス、[illegible]心ヤサゾセキヌラン、平駄トイフ小舟二艘ニ取ノリ、一文字ニヲシヌケントス」[illegible]文選、二、[illegible]「[illegible]平ハ大石ヲ積ミ、[illegible]ハ[illegible]ノタスケ也」

ひらた (名) [illegible] ラタ、ヒラノメ」

ひらだいみゃう (名) 平大名 役向ノナキ[illegible]大名。

ひらたぐも (名) 平蜘蛛 ひらぐも(平蜘蛛)ニ同ジ。

ひらたけ (名) 平茸 菌ノ一種。山林中ノ闊葉樹ノ枯木ニ生ズ。又、人工的ニモ生ゼシム。柄ハ短ク、蓋ハ貝殼狀ヲナシ、[illegible]灰白色[illegible]ヲ呈シ、漸次ニ[illegible]色ス、[illegible]ギ、柔カキ内部ヲ食用トス。一名、[illegible]タケ、又、アハビタケ、[illegible]「平茸、ヒラタケ」今昔物語、廿八、第三十八「片手ニハ平茸ヲ三總許持テ上給ヘリ」宇治拾遺、一、第二[illegible]集、十八、[illegible]茸ヲ[illegible]ノキャウニ、住ム人ハ、ひらたけヲコソ、食フベカリケレ、カヘシ、平茸ハ、ヨキ武者ニコソ、似タリケレ、ナソロ[illegible]、サスガ見マホシ」

ひらた・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 平 (一)壓シ潰セル如ク平カナリ。横ニ廣シ。[illegible] (二)平易ナリ。ワカリ易シ。通俗ナリ。

ひらたぶね (名) 平田舟 [illegible]ニシテ、[illegible]田ノ用トスレバ名トスト云フ。或ハ云フ、平板ノ約ト」(一)〔略シテ、ひらた。〕薄ク平タクシテ長キ舟。[illegible]

船師、篙、篙工而長者曰ㇾ篙、比良太、俗用、平田舟」 拾略、後宇、十三、寛仁元年九月廿一日、前歸改、藤原道長」ひら遂、宿鵜殿、參ニ石清水宮一、云云、渡ニ淀川一之間、沈ニ平駄船一艘一」 (二)石ヲ運送スル船。段平船。 昔昔物語(享保)「涼ミノタメ、平田船ニ屋根ヲ造リカケ、是レヲ借リテ淺草川ヲ乘廻シ」 諸造船式圖「石積艜船、俗ニひらた石舟ト云フ」

ひらだる (名) 平樽 手ノナキ平タキ樽。 俳家奇人談「平樽ヤ、手ナク生マルル、花見酒」

ひらち (名) 平地 平カナル地。平坦ナル土地。ヒラバ。ヘイチ。 太平記、七、吉野城軍事「思ヒ思ヒニ討死ヲシケル程ニ、大手ノ堀一重ハ、死人ニ埋マリテ、平地ニナル」

❖**ひらったし** (形) 平 ひらたし(平)ノ音便 浮世風呂、文化、二、四、二編、下「お髪ダノ、ヘッタクレノト、ソンナ遊バセ詞ハ、見ットムネエ、ひら、たく髪ト云ヒナア、オラアキツイ嫌ヘダア」

ひらつづみ (名) 平鼓 太鼓ノ稱。かたつづみ(肩鼓)ノ條ヲ見ヨ。

ひらづつみ (名) 平包 (袋包ニ對シテ平ト云フ) 袱紗、風呂敷、ノ類 包袱 布襆 下學集、下、絹布門「平包」 雅亮装束抄、一「ひらづつみニテ物ヲ包ム事、云云、入レ帷ノテイハ、ひらづつみノ上刺ナキナリ」 卯月潤色(寶永、近松作)中「進上物ヲ渡サウト、平包オシ開キ」

ひらづめ (名) 平詰 ナガヅカヘ、常ニ當直シテ、非番無キコト。常番。長上

ひらづら (名) 平面 鼻低クシテ、平タク見ユル顔面 宇治拾遺、九、第五條「ひらづらナル法師ノ太リタルガ、六十許リナルニテアリ」

ひらて (名) 平手 開手 掌ヲ平ニ開キタルコト、(拳ニ對ス) 開掌 名義抄「開手、ヒラテ」「平手ニテ打ツ」

〜**ひらで** (名) 枚手 葉盤 柏ノ葉ヲ十枚合ハセテ、竹ノ針ヲ以テ刺シ綴ヂテ、平タク盤ノ如ク作レルモノ、其窪キヲ、くぼて(葉椀)ト云フ、葉椀 古ヘ、共ニ食ヲ盛ルニ用キル。後ニハ、瓦器ナルニモ云フ。かしはで(膳夫)ノ條、見合ハスベシ。 倭名抄、十二、祭祀具「葉手、比良天、葉椀、久保天」 神武即位前紀、上「作 葉盤八枚、盛ㇾ食饗之」注「葉盤、此云 毗羅耐ニ」 止由氣宮儀式帳「御枚手五十六枚、日別奉進」云云、又湯貴奉進ㇾ御枚手八合千二百六十枚奉進」 新勅撰集、九、神祇「霜枯ヤ、楢ノ廣葉ヲ、八ひらでニ、サストゾイソグ、神ノミヤツコ」 相撲集「フタカタニ、ワガ氏神ヲ、祈ルカナ、コノ手柏ノ、ひらでタタキテ」 宇津保物語、俊蔭 八五十「嶺六七匹ツレテ、樣樣ノモノノ葉ヲくぼてニサシテ、椎、栗、柿、梨、イモ、トコロナドヲ入レテ持テ來ルヲ」 夫木抄、廿、山「神山ノ、柏ノくぼて、サシナガラ、オヒナホル身ノ、榮ユヘキカナ」

ひらでうし (名) 平調子 ほんてうし(本調子)ノ條ヲ見ヨ。

ひらてがひ (名) 平手貝 靑貝ノ一名。らでん(螺鈿)ニ同ジ。 雅亮装束抄、二「赤ヒモ、云云、ひらて貝ノオシタリ」

ひらど (名) 平戸 (一)金線、銀線ヲ組ミ編ミテ、種種ノ細工セルモノ。初、肥前國、平戸島ニテ、南蠻ノ工ヲ傳ヘシモノナリ。(二)ひらどやき(平戸燒)ノ略。

ひらどま (名) 平土間 芝居ニ云フ語。(東京)どま(土間)ノ條ヲ見ヨ。

ひらどやき (名) 平戸燒 略シテ、ひらど。肥前ノ平戸島ノ中野村ニテ燒ケル陶器 素地、純白ニシテ、製作ノ精巧ナルヲ以テ名アリ。高麗ヨリ老媼歸化シテ燒キ始ム 後ニ松浦郡三河内村ニ移リ、其子孫業ヲ繼ギ、三河内燒ト云フト、(或ハ云フ、松浦肥前守、朝鮮ノ巨關ト云フ者ヲ連歸リテ燒ケリト) 松屋筆記、六十七、平戸燒の陶器「平戸燒ノセトモノハ、モト三河内燒トイヘリ、高麗國ヨリ老媼歸化シテ、肥前國平戸中野村ニ住居シ、陶器ヲ造ル、コレヲ平戸燒トモ中野燒トモ呼テ、云云、茶人殊ニ賞九セリ、老媼後ニ松浦郡三河内村ニ移住ス、男子一人アリテ家業ヲ繼ク」 本朝陶器攷證、一「平戸領早岐郷、河内山陶器ノ草創ハ、慶長三年、朝鮮ヨリ御歸陣ノ節、松浦式部卿法印鎭信、熊川ノ陶器師巨關ト云者ヲ連レ歸リテ、平戸島中野村ニテ、始テ陶器ヲ製セシム」

ひらなべ (名) 平鍋 底ノ淺クシテ平タキ鍋。 字鏡集「鐁、ヒラナベ、カナヘ」

ひらに (副) 平 (まっぴらノ略) (一)切ニ。ヒタスラ ナニトゾ 盛衰記、中國兵馬汰事「生虜、云云、蒲冠者ガひらニ罷預ラント云ヒキ」 狂言記、河原太郎「一口モ召上ラルル酒デハ御座ラヌ程ニ、ひらニ御無用デゴザル」「ひらニ猶ム」「ひらニ所望ス」 (二)ヤスヤスト 無事ニ。容易ニ。 著聞集、二、釋敎「暫ク念誦ノ間ニ、ひらニ生マレニケリ」 盛衰記、三十五、範頼義經京入事「直實ダニモ平ニ渡リ付ク事難カルベシ」 (三)ヒラタク。タヒラニ。

ひらのすゐ (名) 平野水 (攝津國、池田町附近ノ平野ニテ得タル水ニヨリテ名ヅク) 炭酸瓦斯ヲ溶含シ、天然ニ湧出スル水ニテ、飲料ニ供セラルルモノ。今、人工的ニ製シテ、販賣セラル。

ひらば (名) 平場 平坦ナル土地。ヒラチ。平地。 太平記、八、山徒寄京都事「大衆コレニ射立テラレテ、平場ノ合戰叶ハジトヤ思ヒケン、又、法勝寺ノ中ヘ引キ籠ラントシケル處ヲ」 別所長治記「秀吉、云云、平場ノ軍ニ大敵ヲウケ、尋常ノ如ク出合出合戰ハバ、云云」

ひらばかま (名) 平袴 小袴ニ同ジ。長袴、馬乘袴ナドニ對シテ、平生ノ袴ノ意ナルベシ。襠ノヒクキモノ。はんばかま(半袴)ノ條ヲ見ヨ。

〜**ひらばり** (名) 平張 屋處、上ニ、平カニ張ル布帛 其棟木ヲ設ケテ、屋ノ如ク掲ゲテ張ル。掲張ト云フ 幄 百家名物考、二百四十八、調度、五「ひらばり、平張トイフハ、鋪設ノ上ノ名ニテ、別ニ幄ノ外、平張ト云物有ニハアラザル樣ニ候、云云、平張ハ幄ノ柱ヲ用ヒ設クレドモ、屋ノ形ヲナサズ、同ジ長サノ柱バカリヲ用ヰテ、庇ヲナサズ、今イハユル天幕ヲハルト云ガ如クシタルヲ云フ歟ニ候」 倭名抄、十四、障具「平張、比良波利」 大嘗會式「平張」 源、廿四、胡蝶「ワザトひらばりナドモ移サレズ、御前ニ渡レル廊ヲ樂屋ノ樣ニシテ」 同、廿九、御幸「上達部ノひらばりニ物參リ」 榮花物語、廿、御賀「殿バラ殿上人、殿ノオ前ノひらばりニミナツキ給ヘリ」 大和物語、下「生田河ノツラニ、ひらばりヲ打チテ居ニケリ」

ひらばり (名) 平針 醫療用ノ具。はばり(刃針)ニ同ジ。

ひらび (名) 平日 (平タキ日ノ字ノ意) 漢字ノ書ニ、早、昌、昏、星、晝、暑、暮、曆、曇、曩ナドニアル日ノ字ノ稱。

〜**ひらび** (名) 褶 (ひらおび(平帶)ノ略) ひらみ(褶)ノ條ヲ見ヨ 推古紀、十三年閏七月「皇太子命諸王諸臣一俾ㇾ着ㇾ褶」

ひらびたひ (名) 平額 釵子ノ一。古ヘ、女官ノ裝束ノ時、髮師ニ用キタル平タキひたひ 中務内侍日記「常ノ衣ノ上ニ、カイブノカラギヌ、カウケチノ衣、ひらびたひナリ」

ひらびと (名) 平人 (一)タダノヒト。ナミノヒト。(二)役事ニ所執ナキ者。

ひらひら (副) 片片 閃閃 紙、旗、ナドノ風ニ翻リ、或ハ、火影ノヒラメク狀ナドニ云フ語。 古事談、一、王道後宮「夜御殿ノ傍ニ塗籠中、ひらひらトヒラメキ光リケレバ、恐レ御座シテ、云云」 津國女夫池(享保、近松作)三「青柳ノ、

図ニひらひら」吉野都女楠(正德、近松作)天皇かち[illegible]キ通フ、笠モ袂モひらひらひらひら」

びら・びら (副) 物ノ垂レ下リテ靡ル狀ニ云フ語。 狂言記、二人大名「其びらびらトシタ物ズイデ、コチラヘオコセ」

ひら・ひら (副) 前條ノ語ヲ強メタル語。

ひらひら・かんざし (名) 次條ノ語ニ同ジ。

ひらひらの・かんざし (名) 花簪ノ一種。下ノ出典ヲ見ヨ。ヒラヒラカンザシ。 [illegible]ひらひらのかんざしトテ、花ノ折枝ナドニ鎖ヲ幾筋モサゲ、其ノ末ニハ、鳥、蝶、アルヒハ、鈴ノ類一品ノ物ヲ、鎖毎ニ付ケタル銀ノカンザシ流行リシ事アリ、云云、我衣ニ見エタル正德ノ花かんざしニ、短册サゲタルハ、ひらひらのかんざしノ權輿トスベシ」

ひら・ふ ・フ・ハ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 拾 〔ひろふ(拾)ノ轉〕 ひろふ(拾)ニ同ジ。 世間子息気質[illegible]ニ賓ニ當フレ、[illegible]ひらひシ事ヲ忘レタカト、仲上リテ氣色スルヲ」

ひらぶ (名) 比良夫 「古史ノ人名ニ、比羅夫トアルハ、此名ヲ負ヘルナリト云フ」 比良夫貝ノ略。介ノ名。詳ナラズ。今ノ月日貝ト云フモノカト云フ。「平日ノ轉カト云フ」

ひら・ぶ ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 平 ひらむニ同ジ。 [illegible]心集、[illegible]、下、第十一條、「室ヲアハセテ、激ヒヲガミテ、ひらびタマヒヌ」

ひらぶ・がひ (名) 比良夫貝 今ノ月日貝(ツキヒ)ト云フ。 古事記、上、「猿田毘古神、云云、[illegible]」

ひら・べ・たし ・ケレ・ク・ク (形、二) 平 [illegible] ヒラタシ

ひら・まめ (名) 藊豆 ふぢまめ(藊豆)ノ一異名、[illegible]、ヒラマメ」 重修本草、下「扁、比良末女、阿知末女」

ひらみ (名) 褶 〔ひらおび(平帶)ノ約〕 [illegible]、ヒラオビ ヒラビ シビラ 衣服ノ名。男ハ袴ノ上ニ着、女ハ唐裳ノ上ニ着ルモノ。志びら(褶)ノ條ヲモ見ヨ。 [illegible] 神祇官式「表褶一條」 天武紀、下、五年正月「衣袴、褶、腰帶、[illegible]」 [illegible]

ピラミッド (名) 方尖塔 〔英語、Pyramid.〕 埃及(エジプト)ノかいろ附近ニアル古墳。石造ノ角錐形ヲナセル記念塔式建造物ニテ、古代埃及ノ國王、王族ノ墓ナリト云フ。ないる川ノ西岸一帶ノ地ニ、大小七十五基バカリ現存ス。其製ハ、五六尺四方ノ大ナル石灰岩ニテ、角錐形ニ積上ゲ、ソノ中央、又ハ、下部ノ玄室ニ死體ヲ納メアリト。塔ノ最大ナルモノハ、高サ直立四百八十尺、礎石四方各七百六十八尺、一町四方ニ餘レリト云フ。三角塔。金字塔。

ひら・む ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 平 平タクナル。ヒレフス。ヒラブ。 竹取物語、下、「手ニひらめル物サハリケル時ニ、ワレモノニギリタリ、云云、燕ノマリオケル古貝ヲ握リ給ヘルナリケリ」 [illegible]集、下、[illegible]、馬ハヤカテ足ヲ[illegible]、ひらみ伏シニケリ」 今昔物語、五、[illegible]「[illegible]、羽ヅクロヒシテ、立タントス、センジゾトオホスレバ、ひらんデ(みてイ)トビサラズ」

ひら・む ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 平 平タクナス。タヒラニナス。 平治物語、一、[illegible] 徒然草、五十三段「傍ナル足鼎ヲ取リテ、云云、鼻ヲ押シひらめテ、顏ヲサシ入レテ、舞ヒ出デタルニ、[illegible]」

ひ・らん (名) 披覽 ひけん(披見)ニ同ジ。 [illegible]

び・らん (名) 糜爛 (一)タダルルコト。 [illegible] (二)轉ジテ、國ヲ亂シ、民ヲ疲弊セサスルコト。 孟子、盡心、下篇「[illegible]」

ひらむし (名) 扁蝨 [illegible]

ひらめ (名) 平目 〔半片ニ目アル意〕 海魚ノ名。かれひ(比目魚)ニ似テ大キク、長サ三四尺ニ至ル。左片、灰黑ニシテ、兩目アリ、右片、白キコト、かれひト反對ス。東海ニ多シ、春、夏ノ間ヲ候トス。其大ナルヲ、といたびらめ(戸板平目)ト云ヒ、小ナルヲ、そげト云フ。 易林節用集、[illegible]、下、「[illegible]、ヒラメ」 [illegible]事「女房ことば、[illegible]、カレイ、ひらめ、カタメトモ」 物類稱呼、[illegible]、動物「比目魚、カレイ、ひらめ、畿内西國トモニ、カレイト稱ス、江戸ニテハ、大ナル物ヲひらめ、小ナルモノヲカレイト呼、然レドモ、類同ジクシテ、種異也」 本朝食鑑、八、鱗「比目、訓比良女、云云、俗[illegible]其狀比目、[illegible]、其肉亦[illegible]味不美、[illegible]、味稍佳、云云」

ひらめか・す ・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 平 平タクナス。ヒラム。 [illegible]

ひらめか・す ・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 閃 「[illegible]ノ、片方ニ、シドケナク研リひらめかし、ラウオホナニナリタル、云云、[illegible]」 ヒラ[illegible]「[illegible]ヒ、アリサマ」「刀ヲ振リ閃かす」「[illegible]ヲ閃かす」

ひらめ・く ・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 閃 ヒラ[illegible]。(電光、燈火、劍光、ナドニ)ヒロメク。 字類抄「[illegible]、ヒラメク」 源、十三、明石「稻光、カミノナリひらめくサマ、更ニイハンカタナクテ」 竹取物語、上「雷ハ、落チカカルヤウニひらめきカカルニ」 宇津保[illegible]、ひらめきサワグ」

ひらめ・く ・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔含〕 魚、[illegible]

ひらめじ (名) 魚ノ名、[illegible]ニ同ジ。

ひらもとゆひ (名) 平元結 元結ノ上ニ、[illegible]白ノ丈長紙ヲ、幅一寸許リ、長サ一尺程ニ、[illegible]、若衆、又ハ、女ノ[illegible]スルコトナリ。たけなが(丈長)トモ云フ。 其[illegible]ヲ見ヨ。 宮女式正ノ下髮ノ中央ニモ結ブ。[illegible] [illegible]ゲ、盤切ノアサキヲイタダキツレテ」

ひらもん (名) 平門 屋ノ上ヲ少シ平ニシタル造方ノ門。 家屋雜考、三「平門、總ジテ平門トイフハ、屋上ヲ少シ平ニシタル造方ナリ」 [illegible]ノ所従、皆脇ニ隙候セラレテオハセシ人」 盛衰記、四十七、北條上洛尋平孫事「此人、西山梅尾ノ明惠上人ニ[illegible]フ、一條面ハ平門、小路面ハ兩檜戸ニ土門、[illegible]皮ノ御所ノ前ニ、人多ク集テヒシメキ合リ」

ひらや (名) 平屋 二階無キ家。 盛衰記、廿三、落書事「ひらや(平家)ナル、宗盛(棟ニカク)イカニ、[illegible]」

ひら-やうじ (名) 平楊枝 平メテ、少シ反ラシテ作リタル長キ楊枝 やうじ(楊枝)ノ條ヲモ見ヨ。 人倫訓蒙圖彙、七「打ヤウジ、平楊枝」 嬉遊笑覽、一、服飾「打ヤウジト云ヒシハ、今ノフサヤウジナリ、平やうじ、今モアリ、平メニシテ、少シソリタルナリ、茶菓子ナドニ二本添テ、客ニ用フ、ムカシノハ、大カタ今ノ辨當箸ヨリモ長シト見ユ」

ひら-やなぐひ (名) 平胡籙 胡籙ノ一種。朝廷ノ儀式ノ時、近衞ノ武官ナドノ儀仗トシテ帶ブルモノ。矢ハ十七筋、又ハ、廿一筋ヲ盛ル。 江家次第、九、小安殿行幸次第「左右大將立」南階左右こ註「平胡籙、淺履」 古事談、五、神社佛寺「放生會、被レ准ニ行幸之儀式一事、延久二年始也、上卿大納言隆國、云云、初年諸衞帶胡籙淺沓也、自ニ第二年一被レ改ニ平胡籙靴沓こ

ひら-ゆたん (名) 平油單 ヒラヅツミ。コロモヅツミ フロシキ。 拾遺家土産集(狂歌集)に、京都の俳人淡淡が、行脚に空風呂敷一つ持て立ちしに、見送れる人「都ヲバ、六枚肩デ、出デシカド、旅ハメンブク、ひらゆたんたん」

ひら-ら・く ・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) ヒリヒリト痛ム。 ヒリヒリス。 ヒリック。 曾我會稽山 寶永、近松作一「跡ハひらら〈天窓ノ骨、碎ケテ百八ボンノクボ、撥ンデ小庭ヘドウト投ゲ」

ひらり-ひゃらり (副) 左右ニ動キテ、定マラザル狀ニ云フ語。 東海道名所記(萬治)六「滄浪ノ水ニテ、アラヒタマヒシ冠ノ纓ハ、左往右往トシテ、イトタフトシ」 傾城酒呑童子 享保、近松作)一「花紫ヲイタダイテ、ひらりひゃらりノ町風モ、帽子ニヌルル衣ノ香ノ」

ひらり-と (副) 輕ク跳ル狀ニ云フ語。 平治物語、二、惡源太被誅事「眞前ニ進ミタル兵、四五人斬リ伏セテ、小屋ノ軒ニ手ヲ打チ懸ケ、ひらりと上リテ、家檔ニ、何處トモナク失セ給ヘル」「ひらりと身ヲカハスレひらりと飛ビオリル」

ひらり-ばうし (名) 昔、女子ノ笠ノ下ニ、冠リタル帽子。 卯月潤色(寶永、近松作)中「ひらり帽子ニ加賀菅笠、大振袖ノ後帶」

ひらり-ひらり-と (副) (一)物ノ輕ク飛ビ跳ル狀ニ云フ語。 幸若舞曲、鎌田「三重ノ堀ヲバ、ひらりひらりニ跳ネ越シテ」 狂言記、磁石「磁石ガ上ヲ、ひらりひらりと飛ビ越エテ」 (二)キラメク狀ニ云フ語。 狂言記、文藏「高綸ヲ出デシ月影ニ、打物ノひらりひらりとスルハ、アレコソ畫ノ強吞ヨ」

ひら-わん (名) 平椀 略シテ、ひら。椀ノ、稍、淺クシテ、平タキモノ。オヒラ。

ひら-を (名) 平緒 太刀ノ具。古ク、からくみ(其條ヲ見ヨ)束帶ノ時、腰ヨリ袴ノ上ニ垂ルルモノ。絲ヲ組ミテ作ル平タキ緒。文、花鳥ナド種種ノ繡アリ。 台記、久安四年六月廿三日「劍蒔繪、平緒ニ紫緂」 服飾管見、七「平緒ノ事、此モノ、朱雀、村上ノ御宇ヨリヤ初リヌラン、劍ノ緒ヲウルハシクセントテ、廣クシテ中ニ編シタルニヤ、云云」 飾抄、中「平緒、紫端(劍裝束紫革)、緂不レ定、孔雀、尾長鳥、竹、桐、鳳凰、或唐花、四季花、但黃鳥、神妙物也、云云、此平緒、壯年人モ用、宿老人モ用、云云」

ひ-り (名) 非理 道理ナラヌコト。道ニ背ケルコト。 皆書、上覽傳「覽母朱過、祥無道、屢以ニ非理一使レ祥、覽輒與レ祥俱」(祥、覽ノ兄也)

ひ-り (名) 鄙俚 言語、風俗ナドノ、鄙シキコト。 金史、斜卯愛實傳「性好ニ作詩一詞語鄙俚、人采ニ其語一以爲ニ戲笑こ

びり (名) (しり(尻)ノ轉訛カ) 物ノ極メテ終リナルコト。最尾。最末。ビキ。

び-りう (名) 彌留 病ノ重リタルコト。 書經、顧命篇「嗚呼、疾大漸、惟幾、病日臻、旣彌留、恐不レ獲ニ誓言嗣一、茲予審レ訓命レ汝」蔡注「其疾大進、惟危殆、病日至、旣彌甚而留連」 天智紀、十年十月「天皇寢疾彌留」

ひり-か・く ・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 放掛 大小便ナドヲ、モノニシカク。 落窪物語、二「老イノ、ツタナカリケルコトハ、過チヤスクテ、フトひりかけラルルヲ、イカガセン」

び-りき (名) 微力 びりょく(微力)ニ同ジ。

ビリケン (名) 英語、Billiken. 亞米利加第廿七代大統領うィりあむ・たふと(William Howard Taft.)ノ時、ソノ愛稱名 Willy, or, Billy Taft. ヲ略取轉化シテ、滑稽化シタル語ト云フ」亞米利加ノ福ノ神。其像ハ、顏色笑ヘルガ如ク、顰メルガ如ク、尖リタル頭ニテ、兩足ヲ前方ニ突キ出シ、後方ニハ佛像ノ後光ノ如キモノヲ有ス。西暦千九百〇八年、同國ノ一女流美術家ガ、一夜、不思議ナル神ヲ夢ミ、ソレヲもでるトシテ此像ヲ作リ、展覽會ニ出品セシヨリ始マルト云フ。我ガ國ニハ、明治四十二三年頃、渡來シ、一時、迷信家ノ福德ヲ招クトテ、護身符ノ如ク、持チ始メタルコトアリ。轉ジテ、此像ノ如ク頭ノ尖リタル人ノ稱。

ひり-つ・く ・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) ヒリヒリス。ビリック ピリック。

ひり-つ・く ・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 放付 小蟲、魚ナドノ、卵ヲ生ミテ、物ニ着ケ置ク。

びり-つ・く ・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) (一)前條ノ語ニ同ジ。(二)ヒコック。

ぴり-つ・く ・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) ピリピリス。ヒリヒリス。

ひり-つ-けん (名) 非立憲 立憲政治ノ趣旨ニ反スルコト。憲法ニ準據セサルコト。りっけん(立憲)ノ條ヲモ見ヨ。

ひり-ひり (副) (一)刺スガ如ク痛ミ、或ハ、烈シク辛キ狀ナドニ云フ語。ピリピリ。ヒイヒイ。疼 「疵、ひりひり痛ム」山椒ノ子、ひりひり辛シ」 (二)裂クル音ニ云フ語。ピリピリ。

びり-びり (副) (一)破ルル狀ニ云フ語。(二)ぶるぶるト云フニ同ジ。 著聞集、廿、魚蟲禽獸「蛇出デテ、びりびりトヒロメキテ、ヤガテ死ヌ」

ぴり-ぴり (副) 前前條ノ語ニ同ジ。

ひり-ふ ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 拾 ひろふ(拾)ノ古言。ヒラフ。 萬葉集、十五18「家苞ニ、貝ヲ比里布ト、オキベヨリ、寄セ來ル波ニ、コロモデヌレヌ」 同、十八「タマクシゲ、イツシカアケム、布勢ノ海ノ、浦ヲ行キツツ、玉藻比利波ム」 同、十五「歸ルサニ、妹ニ見セムニ、ワタツミノ、沖津白玉、比利比テ行カナ」

ひ-りん (名) 鄙吝 心ノイヤシキコト。又、ヤブサカナルコト。シハキコト。 後漢書、黃憲傳「時月之間、不レ見ニ黃生一、則鄙吝之萌、復存ニ乎心こ」 南史、陸慧曉傳「劉璡、清介士也、行至レ吳、謂ニ人曰、吾聞、張融與ニ慧曉一、並ニ宅、其間有ニ水、此必有ニ異味一、故命ニ駕往、酌而飮ニ之曰、飮ニ此水一、則鄙吝之萌盡矣」

ひ-りん (名) 比倫 トモガラ。タグヒ。ナカマ。又、ナラビ。 宋仁宗皇帝、勸學文「眼觀ニ無學人一、無ニ物堪ニ比倫こ

ひ-りん (名) 比鄰 比隣 軒竝ビノ隣。トナリキンジョ。トナリアヒ。 漢書、孫寶傳「寶從ニ人、舍、祭、候請ニ比鄰こ」 杜甫詩「休ニ怪兒童延ニ俗客一、不ニ將ニ鷄鴨ニ惱ニ比鄰こ」 王勃詩「海內存ニ知己一、天涯若ニ比隣こ」

びりゃう (名) 〔鼻梁〕 はなすぢ(鼻筋)ニ同ジ。ハナバシラ。鼻隆。

びりゃう 名 [illegible] [illegible]、[illegible] [illegible] ニ同ジ。字[illegible]、[illegible]、ヒ[illegible]ウ[illegible]七十一番職人[illegible]、上、六番、車作「びりゃうノ輪トテ、ヨク造レト仰セ候」「[illegible]」

びりゃうのくるま (名) 〔[illegible]車〕 びりゃう[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

ヒリユウヅ (名) 〔飛龍頭〕 (葡萄牙語、Filhos ノ訛) (一)揚物ノ一種。粳米、糯米ノ粉ヲ、等分ニ水ニテ煉リ合ハセ、[illegible]デ、油ニテ揚ゲタルモノ。紅毛雜話、二「飛龍頭、此邦ニテ云、油揚ノ飛龍頭ハ、ほるとがる(國ノ名)ノ食物ナリ、其製、左ノ如シ、ひりうづハ彼國ノ語ノヨシナリ、粳米粉、糯米粉、各七合、右水ニテ煉合セ、ユデ上テ、油揚ニシタル物ナリ」 (二)今、[illegible]ノがんもどき。ヒリウヅ。[illegible]部作睡(醒水)三、中、食物の異名「オ筋ヲオソナヘ、[illegible]ヒリユウヅ[illegible]トキ、云云」

びりょ (名) 〔尾閭〕 大海ノ底ニアリテ、水ヲ絶エズ漏ラスト云フ穴。莊子、秋水「天下之水莫大於海、萬川歸之、不知何時止、而不盈、尾閭泄之、不知何時已、而不虛」

ひりょう (名) 〔飛龍〕 (一)空ヲ飛翔スト云フ龍。莊子、逍遙遊「藐姑射之山、有神人居焉、云云、吸風飲露、乘雲氣、御飛龍、而遊乎四海之外」[illegible]山姥(近松作)「[illegible]、岩ヲ踏リ、[illegible]ノ波ヲ叩クガ如ク、ハラリハラリト薙立ツル」 (二)聖人ガ天子ノ位ニアルニ譬ヘテ云フ語。易經、上經、乾卦「飛龍在天、利見大人」書言故事(宋、胡繼宗)一「帝即位、曰飛龍」

ヒリョウヅ 名 〔飛龍頭〕 ひりゅうづ(飛龍頭)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

びりょく (名) 〔微力〕 勢力ノ乏シキコト。分際ノ劣レルコト。ビリキ。又、己レノ努力ノ謙稱ニモ云フ。[illegible]、[illegible]何以[illegible]、[illegible]力[illegible]」

びりょこつ (名) 〔尾閭骨〕 かめのを(尾骶骨)ニ同ジ。

ビリリ (名) 〔羅甸語、Bilis 英、佛語、Bile 膽汁ノ意〕 蘭人傳來ノ藥。魚ノ膽ニ藥ヲ加ヘテ煉リ固メタルモノト云フ。味、甚ダ苦シ。蛇毒、蟲毒、齒痛、霍亂ナドヲ治ス。[illegible]四、[illegible]「びりり、魚ノ血ヲ堅メタルモノ、さらた國ヨリ出ル」[illegible]「びりり、[illegible]也、魚膽ニ加藥シタル物也トイヘリ、云云、さらたト云フ所ヨリ出スト云フ」

ひる (名) 〔晝〕 〔日ニるノ助語ヲ添ヘタルモノ。ろニ同ジ〕 (一)地球ノ自轉スルニ付キテ、其表面ノ、日光ヲ受ケテアル間。朝ヨリタマデ。ヒルマ。ヒ。字類抄「晝、ヒル、日中也、日暮」古事記、中(神武)「敵火山、比流ハ雲ト居、タサレバ、風吹カムトゾ、木ノ葉サヤゲル」 神代紀、上八「大日霎貴、此云於保比屢咩能武智」 雄略即位前紀「天皇代皇后臥、書醉眠臥」 竹取物語、下「男共ノ中ニ交リテ、夜ヲひるニナシテ取ラシメ給フ」 (二)〔眞晝〕 日中午時 (朝、夕ニ對ス) 土佐日記、正月十一日「子アラヒ、例ノ事トモシテ、ひるニナリヌ」 枕草子、一、初段「ひるニナリテ、ヌルクユルビモテユケバ」「晝ツカタ」「晝時」「晝飯」「晝前」「晝過」 (三)ヒルメシ。ヒルゲ。 昨日は今日の物語「ココニ御ひるカ御座ル、九ツヲウ タラバ、キコシメセ」

ひる (名) 〔蛭、水蛭〕 (ヒラヒラ泳グ意カ、或ハ、痺ム蟲ナレバ云フカト云フ。羅甸語ニ Hirudo.(蛭)ト云フモ、暗合セリ) 蟲ノ名。多ク池溝ナドノ溜水ノ中ニ生ズ。形、竹葉ノ如クニテ、長サ一寸許リ、泳グ時、身ヲヒラメカス。黃褐色ニテ、黑キ條アリ、其一端ハ口ニシテ、善ク人ニ吸ヒ着キ、血ヲ吸フ、故ニ醫療ニ用ヰラル。又、馬蛭、山蛭、[illegible]、[illegible]ナドアリ。各條ニ註ス。スヰテツ。倭名[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible] 神代紀、上「[illegible]」

ひる (名) 〔蛾〕 (ひひるノ約) ひひる(蛾)ノ條ヲ見ヨ。(上野、奧州ニテ)

ひる (名) 〔蒜〕 (根ノ味辛ク、口ニ疼グ意) 一名、野蒜。又、根蒜。百合科ノ草ノ名。山野、水澤、所在ニ生ズ。葉ハ、ねぎ(葱)ニ似テ、甚ダ細ソク、微稜アリ。年久シキモノハ、徑二分、長サ一二尺、數葉、互生ス、臭、ねぎノ如シ。春、苗根ヲ煮食フ、根ハ白クシテ、棗ノ大キサナリ。夏、一二尺ノ莖ヲ出シ、紫花、簇リ開ク、らっきょう(薤)ノ花ニ似テ、色淺シ。實ハ、紫黑ニシテ、おにゆり(鬼百合)ノ子ノ如シ。〔野蒜 山蒜 澤蒜〕 又、さびるハ、野蒜ヲ畠ニ植エ作リタルモノ。一名、メヒル。〔小蒜〕 又、おほびるハ、にんにくナリ。〔大蒜〕 倭名抄、十七[illegible]「蒜、比流、大小蒜總名也」「大蒜、[illegible]、於保比流」「同、[illegible]、小蒜、古比流、一云、米比流」「[illegible]、[illegible]、[illegible]古比留」 字鏡「[illegible]、比流」 本草和名、下九「葫、於保比留」 景行紀、四十年十月「但從五十「[illegible]、[illegible]、葫、於保比留」 [illegible]、[illegible]白鹿、[illegible]是山ノ神、[illegible]人及牛馬、白不中神氣也」 應神紀、十三年九月「野ニ比留ツミニ、比留ツミニ、我ガ行ク道ニ」 萬葉集、十六「[illegible]ヒシホ醋ニ、蒜ツキカテテ、鯛モガモ 略解「[illegible]ニナミセソ、ナギノアツモノ」 讃岐典侍日記「御枕上ニ置キタル御粥ヤひるナドヲ、若シヤトククメ參ラスレバ」

ひ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 〔放〕 體中ヨリ外ヘ放ツ。マル。タレル。倭名抄、二十八蟲垂類「屁、放屁、倍比流、下部出氣也」 名義抄「屁、放屁、ヘヒル」 天治字鏡、三「[illegible]、放屁、[illegible]比留」 [illegible]語、[illegible]「道戶ノモトニヨリテ、ひりカケテ往ヌレバ、ヨモマウデ來ジ」 宇治拾遺、十二、第七條「尻ヲカカゲテ、狹ノ口ヨリ水ヲ出スヤウニひりチラス程ニ[illegible]ク、臭キコト限リナシ」「魚、[illegible]ヲひる」

ひ・る・ヒル・ヒレ・ヒ・ヒ・ヒヨ (自動、上一) 〔嚏〕 (前條ノ[illegible]同[illegible]、[illegible]、[illegible]ハナヒル[illegible]) 鼻ヨリ息ヲ噴キ出スコト、メヲナス。クシャミスル。倭名抄、三、[illegible]口類「嚏、波奈比流、噴鼻也」 萬葉集、十一、[illegible]「[illegible]、[illegible]、[illegible]ヒ、[illegible]、[illegible]ヒ[illegible]シモ」 古今集、十九、誹諧「出デテ行カン、人ヲトドメン、由ナキニ、隣ノ方ニ、ハナモひぬカナ」

ひ・る・ヒル・ヒレ・ヒ・ヒ・ヒヨ (自動、上一) 〔干、乾、涸〕 〔日、又ハ、火ノ活用ス〕 (一)熱ノ為ニ、水分蒸發シ盡ス。[illegible]、失ス。カハク。ハシャグ。源、九、葵[illegible]「涙モロナルワザニ侍ルヲ、マシテひる世ナク思ヒ給ヘ惑ハレ侍ル」 古今集、廿、哀傷「アシビキノ、山ベニ今ハ、墨染ノ、衣ノ袖ノ、ひル時モナシ」 [illegible]集、九、[illegible]「[illegible]フナノ花ハ、散リヌベシ、[illegible]泣ク[illegible]、イマ[illegible]ナク[illegible]ニ」 (二)潮、沖ノ方ヘ退ク。ヒキシホトナル。〔退潮〕 仲哀紀、八年正月「[illegible]、[illegible]、[illegible]潮[illegible]海[illegible]之、[illegible]不得進」 萬葉集、十五、[illegible]「シホ[illegible]ナハ、又モ我レコム、イザ行カム、沖ツシホサヰ、高クタチキヌ」 土佐日記、二月七日「河尻ニ舟入リタチテ漕ギノボルニ、河ノ水ひテ、ナヤミワヅラフ」 (三)果ツ。盡ク。〔竭〕 [illegible]「[illegible]ひる」

ひ・る・ヒル・ヒレ・ヒ・ヒ・ヒヨ (他動、上一) 〔簸〕 〔說文「簸、揚米去糠也」〕 箕ニ穀ナドヲ揚リ振フ。(屑ヲ去ル) 詩經、大雅、生民之什、生民「[illegible]、[illegible]、[illegible]」 天治字鏡、[illegible]「[illegible]、[illegible]、[illegible]比留」 著聞集、十六、[illegible]「[illegible]ヲ[illegible]カケ、[illegible]キタリ、云云、糠ノミ多ク候ヘバ、ソレヲひサセントテ、云云」 [illegible]集、[illegible]「[illegible]」

ひる-アンドン 名 〔晝行燈〕 日中ニ點ス行燈。薄暗シト云フ、謎ニ云フ。晝ノ行燈ノ火ハ、ウスボンヤリセルヨリ、愚ナル人ニ譬ヘテ云フ。大石內藏助ノ晝行燈ト云ハレシコトアリ。

ひるいひ (名) 晝飯 ヒルメシ。ヒルゲ。

ひるかぎ (名) 蛭鉤 鉤ノ、中太ニシテ、形、稍、蛭ニ似タル製ノモノ

ひるかひ (名) 蛭喰蛭飼 蛭ニ腫物ノ血ヲ吸ハシムルコト 山槐記、治承三年十月廿九日「典藥頭定成來、喰レ蛭」 長秋記、元永二年六月廿四日「近日依二腰根有一蛭飼事一」 大府記(資房卿記)寛治四年五月廿六日「余煩二二公一云云、令レ渡レ蛭」 只築住來「熱小瘡對治之法、不レ如レ於二蛭飼一」

ひるがへ・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 飜 翻 (一)ヒラリトカヘス。裏表ニナス。杜甫詩「飜レ手作レ雲覆レ手雨」 名義抄「反、ヒルカヘス」 散木集、四、冬「難波潟、アマノイサリニ、立ツ千鳥、イクタビ磯ニ、ひるがへすラン」 狂言記、雁かりがね「風白浪ヲひるがへせバ、花千片」 (二)ウラガヘス。クツガヘス。狂言記、三人百姓「イヤイヤ、仰セ出サレタ事ヲ、飜す事ハナラヌ、急イデ詠ミマセイ」「志ヲ飜す」「前說ヲ飜す」 (三)旗ナドヲ、風ニヒラメカス。太平記、五、大塔宮熊野落事「赤旗三旒、松ノ嵐ニ飜して、其勢五六百騎ガ程、カケ出タリ」「風、旗ヲ飜す」

ひるがへ・る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 翻 飜 飄 (一)ヒラリトカヘル。裏表ニナル。古詩、傷歌行「春鳥翻南飛、翩翩獨翺翔」 名義抄「飜、ヒルカヘル」「飄、ヒルカヘル」 (二)ウラガヘル、クツガヘル 神武即位前紀「長髓彦見ニ其天表之論懷、讒踏、然而凶器已構、其勢不レ得二中休一、而猶守二迷圖一、無二復改意一」 太平記、十四、箱根竹下合戰事「大友、佐々木ハ忽ニ翻テ、親王ニ向ヒ奉リテ弓ヲ引キ」 (三)旗ナド、風ニヒラメク 盛衰記、三十六、一谷城構事「赤旗、云云、春風ニ吹レテ、翻、天、猛火ノ燃上ルニ似タリ」

ひるがほ (名) 晝顏 古名、ハヤヒトグサ。旋花科ノ蔓草ノ名。原野ニ多シ。春、舊根ヨリ生ジテ、草木ニ絡フ 葉ハ互生シ、形、長クシテ尖リ、本ニ兩尖アリ。夏、花ヲ開ク、午前ニ開キテ、日夕ニ萎ム。淡紅ト、白トアリ、牽牛子ノ花ニ似テ、小サシ。旋花 鼓子花 大和本草、八、蔓草類「鼓子花、ひるがほ、又旋花ト云、二種アリ、一種ハ葉ニ兩岐アリ、蔓長ク三四尺アリ、一種ハ葉圓ク蔓短シ、花ハ同ジ、云云、花ハ牽牛花ニ似テ、淡紅色、又白色アリ、晝シボマズ、故ニ名ヅク」 本朝若風俗(貞享、西鶴)三「紫ハ色薄ク、菖蒲ノ澤水濁ク、岸ノ晝顏モ、西日ニ花ノ艶ヲ失ヒ」

ひるげ (名) 晝食 ヒルメシ。チウジキ。チウハン。午飯 狂言記、苞山伏「見レバ、ひるげカツケテアル、云云、食ベテカラ休ラにマセウ」

ひるこ (名) 蛭子 神ノ名。伊弉諾尊ノ第一ノ御子ヲ呼ビシ語。蛭ニ似テ萎萎シクアリシ御名ニ因ルカト云フ。攝津國、武庫郡、西宮神社ニ祭レリ。西宮夷ト稱ス。今俗ニ、惠比須ト申シ、商ノ神トス。 古事記、上四「雖レ然久美度邇興而、生二子水蛭子一、此子者入二葦船一而流去」 神代紀、上九「生二蛭兒一、雖二已三歳一、脚猶不レ立、故載二之於天磐櫲樟船一而順レ風放棄」 吉野拾遺、下「鱸ト云フ魚ト、二尺餘リノ鯉トヲ、左右ノワキニ挾ミテ、ひるこノサマシテ、岩ノ上ニツイ居ケルニ」

ひるご (名) 晝後 午後。ヒルスギ。

ひるさがり (名) 晝下 未ノ時、即チ、今ノ午後第二時ノ頃 下午 昳 蕪村句集「低キ木ニ、鶯啼クヤ、晝下り」

ひるさき (名) 蒜顆 (蒜頭ノ義) 蒜類ノ根ノ頭。倭名抄、十七、菜羹類「蒜顆、比流佐木」

ビルシャナ (名) 毘盧遮那 毘盧舍那 (梵語、Vairocana. 光明遍照ノ義) さんまん(三身)ノ條ヲモ參照セヨ 略シテ、盧遮那。之ヲ解スルニ、諸家一ナラズ。(一)天台宗ニテハ、毘盧遮那ヲ法身佛トシ、遍一切處ト譯ス。而シテ釋迦ヲ報身佛トシ、淨滿ト譯ス。盧遮那ヲ應身佛トス。法華文句、卷九ノ二十五「法身如來名二毘盧遮那一、此翻二遍一切處一、報身如來名二盧舍那一、此翻二淨滿一、應身如來名二釋迦一」 法華玄義、六「境妙究竟顯、名二毘盧遮那一、智妙究竟滿、名二盧舍那一、行妙究竟滿、名二釋迦牟尼佛一」 榮花物語、十八、玉臺「釋迦牟尼佛ヲ毘盧舍那ト名ヅケ奉ル、一切ノ所ニ遍シ給ヘリ」 (二)華嚴宗ニテハ、毘盧遮那、盧遮那ヲ梵名ノ具略トシテ、報身佛ノ稱號トシ、光明遍照、又、單ニ、遍照ト譯ス 華嚴探玄記、二「盧舍那者、云云、具云二毘盧舍那一、盧舍那名二光明照一、毘者此云レ遍、是謂二光明遍照一也」 (三)密教ニテハ、毘盧舍那ヲ理智不二ノ法身佛ノ稱號トシ、大日如來、又ハ、遍照、或ハ、最高顯廣眼藏ナドト譯ス。大日經疏、十六「毘盧遮那者日也、如二世間之日一、能除二一切暗冥一、而生二長一切萬物一、成二一切衆生事業一、今法身如來亦復如レ是、故以爲レ喩也」 即身成佛義注、下「毘盧遮那、此翻二最高顯廣眼藏一、毘者最高顯也、盧遮那者廣眼也、先有レ翻爲二遍照王如來一、又有レ翻二大日如來一」

ひるすぎ (名) 晝過 正午ヲ過ギタル頃。ヒルゴ。下午 午下 過午 俳諧古選、春「午時過ぎニ、雷將軍ノ、御曖カナ」

ひるつかた (名) 晝方 (晝之方ノ義) ヒルノジブン。ヒルジブン。ヒルゴロ。蜻蛉日記、中、下四「アル日ノひるつかた、大門ノ方ニ馬ノ嘶ク聲シテ」 源、二十八、夕霧七「誰レモ誰レモ御飯食リナドシテ、長閑ニナリヌルひるつかた」 讃岐典侍日記「晝つ方上ラセ給ヘト仰セゴトアレバ」

ひるつき (名) 搗蒜韲 蒜ヲ搗キテ、あへものトシタルモノ 倭名抄、十六ノ九「搗蒜韲 比流豆木」 萬葉集、十六「醤酢ニ、蒜搗キ合テ、鯛願フ、吾ニナミセソ、水葱ノアツモノ」

ひるとび (名) 晝鳶 次條ノ語ニ同ジ。白撞 蕪石雜志、四「世俗、小賊ヲ晝鳶ト云フ」

ひるとんび (名) 晝鳶 (一)白晝、他人ノ財物ヲサラヒ行ク盜人。ヒルトビ。(二)攝津ノ方言ニテ、すり(掏摸)ヲ云フ キンチャクキリ。チボ。物類稱呼、四、人倫「須利、云云、攝州ニテ、ひるとんびトイフ、とんびハ鳶ナリ、モノヲサラフト云フ心トカヤ」

ひるなか (名) 晝中 (一)ヒルマ。(二)マヒル。ヒザカリ。ヒルヒナカ。紫式部日記「タタカク晝リナキひるなかニ、扇モハカバカシク持タセズ、云云」 夫木抄、六「一年ニ、又フタ度モ、コシモノヲ、只ひるなかゾ、春ハ殘レル」

ひるね (名) 晝寐 晝間寐ルコト。ヒルフシ。ヒルヤスミ。午睡 源、四十六、總角三七「ひるねノ君、風ノイトアラキニオドロカサレテ、起キアガリ給ヘリ」 枕草子、十二、百五十七段「夏ひるねシテナキタル、イトヨキ人コソ、今少シヲカシケレ」 好忠集「妹トワレ、ネヤノカサトニ、ひるねシテ、日タカキ夏ノ、カゲヲ過サン」

ひるのおまし (名) 晝御座 ひのおまし(晝御座)ニ同ジ。源、四十、幻四「夜中ニナリテゾ、ひるのおましニイトカリソメニ寄伏シ給フ」

ひるのつぼね (名) 晝局 皇后、中宮ナドノ、晝ノ程、居給フ御局。榮花物語、十七、音樂「ひるの御つぼねニ、サシアツマリオハシマス」

ひるはしみらに (副) 〔夜はすがらにニ對ス〕 しみらに(終)ノ條ヲ見ヨ。

ひるばり (名) 蛭針 〔蛭ヲ針ニ見立タル語〕 蛭ニ腫物ノ血ヲ吸ハシムルコト。ヒルカヒ。三養雜記、一「文化ノ頃、蛭針トテ、腫物ヲ蛭ニテ吸ハセ申候事時花、是モ惡血バカリハ出デズ、鮮血ヲ吸出ス由」

ひるひなか (名) 晝日中 ヒルナカ。眞晝日中 心中天網島(享保、近松作)中「何ノ恨ニ晝日中、夫婦ノ恥ハ晒サヌト、泣流レ共聞入ズ」

ひるふし (名) 晝臥 [illegible]

ひるま (名) 晝間 晝ニテアル間。ヒル。チウカン。日中。 源、二、帚木[illegible]「ササガニノ、フルマヒシルキ、夕暮ニ、ひるまスグセト、イフガアヤナサ」 [illegible]「ひるまコソ、ナゲサムカタハ、ナカリケレ、暮ノカホノ、花モナキカナ」

ひるまき (名) [illegible] 刀劔ノ柄鞘ニモ云フ。 平家物語、二、[illegible]嚴島ノ大明神ヨリ、ウツツニ給ラレタリケル[illegible]ひるまきシタル小長刀[illegible] 經の討手に上る事「納殿ノ方ヨリシテ、身ハ一尺二寸アリケル手鉾ノ、蛭卷白クシタルヲ、細貝ヲ目貫ニシタル[illegible]」

ひるまへ (名) 晝前 [illegible] 正午前ノ時刻 [illegible]」

ひるみ (名) 日靈 日ノ神ノ御事 ひるめ(日靈)ノ條ヲ見ヨ。

ひる・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) (一) 痺ル 手足痿エテ、行クコト能ハズ。痲痺 [illegible] ルム、痿痺、ヒルムヤマヒ」 天治字鏡、三「痺、脚冷[illegible]心方「痺」 (二) 痿エ撓ム。挫ケチヂム。 [illegible] 四「箱根竹下合戰事「勝誇タル敵ナレバ、何カハ少シ[illegible] 打タレテひるみケル所ヲ」

ひるむしろ (名) [illegible]
(一) 草ノ名。はまにんじん(濱人參)ノ[illegible] 世利」 字鏡五十七「蛇床、比留年志呂」 (二) ひるも(蛭藻)ニ同ジ。

ひるめ (名) 日靈 日孁 (めハ、ち(靈)ノ[illegible]對ス) 又、ひるみ。天ツ日ヲシロシメス[illegible] 云云、一書云、天照大神、一書云、天照大日孁尊」 [illegible] メスト、葦原ノ、ミヅホノ國ヲ」 神樂歌、晝目歌「イカバカリ、ヨキワザシテカ、天照ルヤ、飛留女ノ神ヲ、シバシトドメン」 [illegible]

ひるめし (名) 晝飯 [illegible] 晝食ノ[illegible] コザル、マツ序ニ、涼シイ處デひるめしヲタベウズ」

ひるも (名) 蛭藻 (葉、蛭ニ似タリ) 又、ヒルムシロ。ササモ。水草ノ名。春、宿根ヨリ生ズ。池溝、水田ナドニ自生シ、根ハ水底ニアリテ、葉、水面ニ浮ブ。莖、細ソクシテ絲ノ如ク、葉ハ竹ニ似テ滑カナリ 花ハ緑ニシテ、粟穗ノ如ク、大イサ五分許リ、形、石菖ノ花ノ如ク密ニ綴ル 眼子菜 [illegible] 云云、田夫トリテ瞼ニハルモノ也」

ひるやすみ (名) 晝休 (一) 晝食後、暫時休息スルコト [illegible]

[illegible]

ひる・わりご (名) 晝破子 晝食ノ辨當。 [illegible] 一人、近邊ノ在家ニテ魚ヲ乞ヒテススメタリケリ」

ひるゐ (名) 比類 クラベトナルモノ。 [illegible] 朝ニ比類ナキ笛ナリ」

ひるゐ (名) 匪類 (一) 等類ニアラザルモノ (二) 匪徒、賊類 匪賊

ひるゐ (名) 悲涙 カナシミノアマリ、出ヅルナミダ [illegible] ヒケルニコソトテ、悲涙ヲ流サレケリ」 太平記、四 [illegible] 理ノ法[illegible]云云」

ひれ (名) 領巾 (鰭ト同義、ヒラメク意) (一) 古ヘ、婦人ノ服シタル白キ帛、項ヨリ肩ニ掛ケテ、左右ノ前ヘ垂レタルモノ。生絹、紗、羅ナドヲ用キル。 倭名 [illegible] 枕草子、十一、百三十三段「采女八人、[illegible]

ドノ、國ニ吹キヤラレタル、イトヲカシ」 (二) 儀仗ノ矛ナドニ付クル、小サキ旗ノ如キモノ。 [illegible]「スメラガミカドニ仕ヘ奉ル比禮掛ル伴男」 (三) 鏡臺ノ飾トスルモノ。 [illegible]、一「鏡臺ヲハリ立ツ、云云、立テテ[illegible] ノ裁尺ノヤウナルガ二ツアルヲ、中ヲ[illegible]ヒタル[illegible]所ノ、ニシキナル所ヲカク」

ひれ (名) 比禮 古ヘ[illegible] 禮ト云フモノアリ、十種ト合ハセテ振[illegible]

ひれ (名) 平禮 [illegible] 古ヘノ烏帽子ハ[illegible] ヲ用キルコトナケレバ、折リタルトコロ、ひらめくヲ以テ名トス。又、ひれ伏スサマノ義ト」 烏帽子ノ頂ヲ折リテ冠ルコト。又、其烏帽子。 [illegible]

ひれ (名) 鰭 (打振リテひらひらスル物ノ意) [illegible]

腹鰭ト云ヒ、共ニ小サキ翼ノ如キモノニテ、一二之等ヲ脇鰭トモ云フ、即チ四肢ナリ。又、臀部ニアルヲ臀鰭ト云ヒ、尾ニアルヲ尾鰭ト云フ　倭名抄、十九「鰭、魚背上鬣也」　公事根源、小甲ノ、ワタチノ六ノ、カレガレニ、ひれノル魚ハ、ワレヲヨバフカ」　新六帖、三「漕ギマハル、湊ノ舟ノ、櫂カヒニ、ひれノ騒ギノ、浪タカク見ユ」　(二)鯨ノ鰓。(三)俗ニ、人ノ肥エテ横幅アルコト　傾城島原蛙合戦、享保、近松作、二「四十許リノ鰭アル男、能ウ見レバ昔ノ郎等、獅獅木佐仲太」

ヒレ　(名)「佛蘭西語、Filet. 具ニハ、Filet-de-boeuf.」牛ノ鞍下ノ肉ニテ、第一等ノモノ。脊肉。内ろおれトモ云フ。

ひれい　(名)　比例　(一)例ヲ取リテ比ブルコト。テリアハセ。　杜甫、送樊侍御赴漢中判官ニ詩「幕府輟ニ判官、朝廷無ニ比例ニ」　(二)數學ノ語。互ニ相關聯シテ變化スル二量アリテ、一方ガn倍ニ增大スルトキ、他方モ之ニ應ジテn倍ニ增大スル二量ノ關係ヲ比例ト云フ　比例ヲ、反比例ト區別スルトキニハ、特ニ正比例ト云フ。又、互ニ相關聯シテ變化スル三ツ以上ノ量アリテ、ソノ一ツノ量ガ、他ノ量ニ正比例シ、又ハ、反比例スル關係ヲ、複比例ニ一ニ、合率比例ト云フ。複比例ニ對シテ、二量ガ正比例シ、又ハ、反比例スル關係ヲ、單比例ト云フ。又、二ツノ比ガ相等シキコトヲ表ハシタル式ヲ、比例式ト云フ。

ひれい　(名)　非禮　禮ニ缺クルコト。禮ニ背クコト。　論語、顏淵篇「非禮勿視、非禮勿聽、非禮勿言、非禮勿動」　詩經、周南、麟之趾者、小序「關雎之化行、則天下無犯非禮ニ」　禮記、禮運篇「非禮之也」(?)　左傳、莊公廿三年「公如齊觀社、非禮也」　平治物語、一、六波羅より早馬を紀州へ立てらるる事「爭カ其臣トシテコレヲ救ヒ奉ラサラン、但ハ非禮ヲ受ケズ、何カ苦シク候フベキ」

びれい　(名)　美麗　ウルハシキコト。キレイ。　戰國策、齊策「城北徐公、齊國之美麗者也」　漢書、董賢傳「賢爲人美麗自喜」　夏侯湛(?)「其儀貌ニ」　任昉、贊(?)「梁、任昉」　武都丈夫、化爲女子、顏色美麗、蓋山之精也」

ひれう　(名)　肥料　コヤシトスルモノ。

ひれえぼし　(名)　平禮烏帽子　[ひれ(平禮)ノ條ヲ見ヨ]　頂ヲ折リテ冠ル烏帽子。一名、風折烏帽子。　古事談、一、下道居宮「平禮ノ烏帽子ヲ給フ」

ひれき　(名)　披瀝　内心ヲ盡ク打チ明クルコト　上官儀、盛岐州、詩「致仕、衰、披、瀝丹愚、」　節ニ肝膽ヲ披瀝ス」「赤心ヲ披瀝ス」

ひれつ　(名)　卑劣　鄙劣　志、行、共ニ甚ダ鄙シキコト　「鄙劣」　夏侯湛文「意無惟正可ニ鄙、屬無一片、可ニ採、是以頗ニ于鄙劣ニ」　白居易、答崔侍郎書「勉樹ニ利名ハ、勿以鄙劣ニ得ニ念」

ひれなが　(名)　鰭長　魚ノ名。まぐろ(鮪)ノ一種。體長六七尺、胸鰭、甚ダ長ク、黑クシテ、桃色ヲ帶ブ。多クハ蒲鉾トス。訛シテ、ビンナガ。(東京)ビンナゴ。(伊勢)　飛魚

ひれふ・す・ス・セ・サ・シ・セ　(自動、四)　平伏　[ひらふす(平伏)ノ轉]　身ヲ平メテ伏ス。平伏ス。又、クタビレル。　源、十、紳廿四「アサマシウ、ムクツケウ覺サレテ、ヤガテひれふし給ヘリ」　枕草子、一、第四段「サハ、オキナマロトイフニ、ひれふしテ、イミジクナク」　榮花物語、一、月宴「面イト赤クナリテ、馬ノ背中ニひれふし給ヘバ」

ひれん　(名)　蜚蠊　アクタムシ。ツノムシ。油蟲ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

ひれん　(名)　蜚廉　飛廉　(一)風ノ神。風伯。風師。　漢書、揚雄傳「飛廉、風師也」　楚辭、九章、悲回風「(?)雷師之闐闐兮、通飛廉之衙衙兮」　漢武帝、功臣制「飛廉ト立於(?)前、鳳闕、陽侯之波一」　(二)長クシテ、翼ヲ有ストニ云フ怪獸　淮南子、俶眞訓「騎飛廉而從敦圄」注「飛廉獸名、毛長有翼」　(三)草ノ名。おにのまゆはき(?)(飛廉)ノ條ヲ見ヨ。

ひれんぢゃく　(名)　緋連雀　小鳥ノ名。れんぢゃく(連雀)ノ條ヲ見ヨ。

ひろ　(名)　尋　[廣ぐノ語根。あた(咫)ノ條ノ語原ヲ見ヨ]　度ノ名。兩手ヲ左右ヘ伸ベヒロゲタル長サ、凡ソ、六尺　神代紀、上五「八尋之殿」　催馬樂、總角「總角ヤ、比呂バカリヤ、サカリテ寐タレドモ」　源、四十六、總角廿七「總角ヲタハブレニトリナシシモ、心モテひろバカリノヘダテモ、對面シツルトヤ」

ひろ　(名)　日　[ろハ接尾語]　ひ(日)ト云フニ同ジ。　萬葉集、廿「八十國ハ、難波ニツドヒ、フナカザリ、アガセム比呂ヲ、ミモ人モガモ」

ひろい　(連體)　從　おほき(正)ノ條ヲ見ヨ　倭名抄、五「職名、從八位下、比呂伊役豆乃久良比乃之毛豆之奈」

ヒロイン　(名)「英語、Heroine.」又、ヘロイン。(一)女傑。勇婦。女丈夫。(二)小說、詩歌、演劇、ナドノ女主人公。

ひろう　(名)　披露　[ひろノ延]　文書ヲ披キ露シテ見スルコト。又、文書ヲ取次ギテ見スルコト　後ニハ、口傳ヘニテ、人ニ事ヲ告グルニモ云フ、(支那ニテハ、多ク披瀝ノ意ニ用ヰル)　ヒロメ。フイチャウ。廣告。　後漢書、蔡邕傳「披、露失得、指、陳政要、勿、有依違ニ」　同、寇世叔妻傳「逆昭得以ニ愚朽身一當ニ盛明一、敢不ト披ニ露肝膽一以效中萬一乚」　明月記、寛喜三年七月廿一日「雖、疑、當時祕而不ニ披露ニ」　盛衰記、二、清水寺緣起事「重盛卿ハ、當家追討ノ密奏、一條院ニ一ナリソ、参リテ御、色(?)何ハントテ、(?)石集、二、下、第八條「コノ事カクスベクモナケレバ、世間ニ披露シケルニ」

びろう　(名)　尾籠　[鄙ニ尾籠ヲ當字トシテ、又、音讀シタル語ト云フ]　(一)禮ヲ失フコト。大小便、放屁ナドスルコト。不作法。失禮。無禮。不敬。　書言字考節用集、九、言辭門「尾籠、ビロウ、本朝俗言、所出未詳」　拾玉集、九、志之所、之申狀「尾籠候哉」　盛衰記、二、資盛乘會狼藉事「御出ニ參會テ、車ヨリ下リザリケルコソ尾籠ナレ」　太平記、五、大塔宮熊野落事「アナ淺マシ、此程ノフルマヒ、サコソ尾籠ニ思召シ候ヒツラン」　宗吾大雙紙「赤ス不見エ候ハ、尾籠ナル事ニ候」「尾籠ノ振舞」　(二)キタナキコト。ケガラハシキコト　浮世風呂、(文化、三馬)初編、上「食ルト、尾籠ナガラ吐キマスル」

ひろえん　(名)　廣緣　ぢんでん(寢殿)ノ條ヲ見ヨ。　吉野拾遺、下「御イタハシクテ堪ヘカネケルニヤ、廣緣ニ出デテ、聲ヲアゲテ泣キサケブ」　花營三代記、應永三十年七月四日「御會所廣緣ニ、貞慶、貞房、貞繼、三人宿直之ニ」

ビロオド　(名)　天鵞絨　[西班牙語、葡萄牙語、Velludo. 天鵞ハ白鳥ナリ、光澤ノ白鳥ノ翼ニ似タレバ名トス]　(一)慶安二年、京都ニテ織リ始ム。(渡來ノモノノ中ニ、針鐵ノ殘リタルニテ覺ルト云フ)　地ノ經緯絲ノ外ニ、猶、一種ノ經絲ヲ用ヰ、横ニ通シタル針鐵ニヨリ、之ヲ布面ニ環狀ニ浮カシテ織リ込ミ、後ニハ、剃刀ノ如キモノニテ、上絲ヲ切リテ、鵞毛ヲ立タシメタル織物。コレニハ、織入レタル針鐵ヲ取ルトゾ。コレニハ、絹、綿、毛、麻ナドノ絲ヲ用ヰ、地絲ト鵞毛絲トノ原料ヲ、同質ニシタルモアリ、異質ニシタルモアリ。又、鵞毛ニ長短ノ別アルモアリ。故ニ、ぶらぢゅ天、本

天、絹天、緞天、互斯天ナドノ種類アリ。又、上絲ヲ切ラズ、タヾ針線ヲ抜キ取レルモノヲ、けきらずびろおど(又ハ、輪[illegible])ト云フ。[illegible]カシハ、是ヲ織事ヲシラズ、一トセ渡シケル中ニ、針線ノ殘リタルヲ見テ、織事ヲ得タリ、針線ヲ織ニ通シ、織込充テ後、剃刀ヤウノモノニテ上絲ヲ切リ、織入タル針線ヲトル也、シカル時ハ、切タル絲、鳥ノ毛ノゴトクニナリ、其光澤、天鵞ノ翼ニ似タルユヘニ名トス」[illegible]

ビロオドぜきしやう (名) 【天鵞絨石菖】 [illegible]略シテ、びろおど。石菖ノ一種。葉ノ長サ二三分、密ニシテ、天鵞絨ノ如シ。善ク石ニ着ク。雀舌 重修本草綱目啓蒙、十六、石菖蒲[illegible]セキセウ、云云、[illegible]二、[illegible]フハ、びろうどせきせうナリ、[illegible]サ二三分ニシテ、能ク石ニ附ク、即、浦城縣志ニ、謂ユル雀舌ナリ」

ひろが・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 【廣】 ヒルガヘス。ヒロメカス。神代紀、下[illegible]

ひろが・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【弘廣】 〔ひろぐノ延〕 廣ク四方ヘ延ビ張ル。ヒロメク。開大 狂言記、末ひろがり「コリャ何ヂャ、末廣デ御ザリマスル、云云、カウ致シマスルト、キツウひろがりマスル」

ひろ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) 【弘廣】 (一)ヒロガル。大同類聚方、[illegible]胸上ニ非路岐アリ」 (二)[illegible]語 他ノ爲ルコトヲ、ニクニクシク大キクスル。ハダケル。「邪魔ひろぐナ」

ひろ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) 【弘廣】 ヒロクナス。大イニ延べ張ル。ヒロゲル [illegible]「ヒロク」竹取物語[illegible]、文ソヘテマヰラス、[illegible]上ニ、[illegible]ろげテ、露ヲ待ツカナ」

びろく (名) 【美祿】 (一)厚キ食祿。南史、孔奐傳[illegible]「再拜謝、天公[illegible]」 (二)酒ノ異稱[illegible]下ノ出典ヲ見ヨ。[illegible]

びろく (名) 【微祿】 (一)僅ナル祿。小祿。[illegible]日暮ニ微祿ニ歸ル、山買ニ薄田ニ」 (二)祿ノ滅ズルコト。身代ノ傾クコト。零落。「微祿スル」

びろ・げる (動) 【弘】 ひろぐ(弘)ノ口語。

ひろ・こうぢ (名) 【廣小路】 街路ノ幅廣キ處。廣陌 本朝三國誌(寶永)二「道ひろき廣小路ヲ退出スル」「上野廣小路」

ひろ・こまひ (名) 【廣木舞】 やね[illegible] 〔屋根下地ノ條ヲ見ヨ〕

ひろ・ごる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【弘廣】 (一)ヒロクナル。ヒロガル。ヒロル。サシヒロゴル 開展 字鏡五「[illegible]、比呂己留」 源、十八、松風「[illegible]ハ、ひろごりナガラアレド」 同、三十四、上、若菜、上「ロツキナドハ、見苦シクひろごりタレド」 (二)ヒロマル。傳播 源、一、桐壺「オノヅカラ事ひろごりテ、モラサセ給ハネド、東宮ノオホヂオトドナド、イカナル事ニカト思シ疑ヒテ」 同、四十五、椎本「世ニ御名ノひろごりテ」 (三)殖ユ。繁殖 枕草子、三、三十三段「蓮ノ浮葉ノラウタゲニ、云云、ひろごり漂ヒテ」

ひろさ (名) 【廣】 ヒロキサマ。ヒロキ度合〔長さニ對ス〕 孝德紀、大化二年三月「[illegible]以上之墓者、其内長九尺、濶五尺、其外域方九尋、高五尋」 伊勢物語、八十七段「布引瀧見ニノボラントイヒテ、ノボリテ見ルニ、ソノ瀧、物ヨリコトナリ、高サ二十丈、[illegible]ヤウニナンアリケル」

ひろざしき (名) 【廣座敷】 江戸城ノ大奥、女中ノ[illegible] 「御本家、御廣座敷拾壹人」

ひろ・し・キ・ケレ・ク (形、一) 【廣・博・弘・寛】 〔狹しノ反〕 (一)面積、多シ。空處、多シ。間合ヒ遠シ。狹カラズ。打開ケタリ。萬葉集、五、長歌「アメツチハ、比呂之トイヘド、吾ガタメハ、セバクヤナリヌル」 雄略紀、十二年十月[illegible] 長歌「ムナワケノ、廣キワギモ、腰細ノ、スガルヲトメ」 金葉集、九、雜、上「髙マント、思フ心ハ、ひろけれド、ハグクム袖ノ、セバクモアルカナ」 (二)遍ク互レリ。多ク知レリ。博 源、廿一、少女「何事モひろき心ヲ知ラヌホドハ」「學問博し」 (三)ユルヤカナリ。オホヤウナリ。寛 崇神即位前紀[illegible]「心寛し」

ひろしき (名) 【廣敷】 (一)廣間ノ一名。 (二)大名ノ邸ニ、奥方女中ノ居ル奥向ノ稱。 (三)江戸城中、本丸、及、西丸ノ大奥ノ傍ニアリシ局。廣敷用人以下ノ役人伺候シテ、大奥ノ事務ヲ掌リシ所。柳營祕鑑、四「一、御廣敷御用人(役料三百俵宛)三人」 明良帶錄、新益[illegible]「御侍、御廣敷内ニテ、自分部屋ニ詰居テ、御用之節、御用人呼寄、御用申付ル」

ひろしまへゆく (句) 【廣島行】 嚴島ニテ穢ヲ忌ム、人死スレバ、死セザル由ニシテ、廣島ノ地ヘ渡シテ喪ヲ發ス、因リテ人死スルコトヲ、廣島ヘ行クト云フ。西國邊、專ラ云フトゾ。(夏山雜談、一)

ひろせ (名) 【廣瀬】 河ノ幅廣キ瀬。[illegible]紀、元年十二月「大和ノ、オシノ[illegible]ヲ、渡ラムト、足結ヒ作、腰ツクラフモ」 新[illegible] 大井川、山モト遠ク、[illegible]ギツレテ、ひろ瀬ニナラブ、[illegible]ノカゲ」

ひろそで (名) 【廣袖】 衣ノ袖口ノ下ヲ縫ハズシテアルモノ。好色二代男(貞享、[illegible]) [illegible]

ひろには (名) 【廣庭】 [illegible] (にはノ條ヲ見ヨ) 太平記、一、[illegible]「時綱ハワザト[illegible]ヲ廣庭ヘオビキ出ダシ」

ひろば (名) 【廣場】 [illegible]切リ開ケキ場所

ひろびさし (名) 【廣廂】 オホユカ。ヒロエン。[illegible]「廣廂一間アリ、妻戸ニアカリ障子タテタリ」

ひろひもの (名) 【拾物】 (一)モノヲヒロフコト。又、ヒロヒトリタルモノ。拾得物。 (二)意外ノ利得。[illegible]

ひろひよみ (名) 【拾讀】 文中ノ[illegible]字ノミ讀ムコト。所所ノミ讀ムコト。

ひろびろと (副) 【廣廣】 如何ニモ廣キ狀ニ云フ語。源、廿二、玉鬘「御門引入ルルヨリ、ケハヒコト[illegible]ひろびろと[illegible]」

ひろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 【拾撫】 (一)〔古ク、又、ひりふ。〕地ニ落チタルヲ取上ゲ收ム。ヒラフ 字鏡[illegible]「拾也、比呂布」 萬葉集、十四「信濃ナル、チクマノ川ノ、細石モ、君シ踏ミテバ、珠ト比呂波ム」 源、二、帚木「折ラバ落チヌベキ秋ノ露、ひろはバ消エナント見ユル玉ザサノ上ノ霰ナド」 欽明紀、五年十二月「嶋東禹武邑人、採拾椎子、[illegible]」

（他ノ落シタル物ヲ得。 仁徳紀、七十九月 [illegible]）(三)アチコチヨリ擇ビ取ル。(四)徒歩ニテ歩ム。徒歩（貴人ニ云フ、馬、駕籠ナド、乗物ニ對ス。）

ひろぶた (名) 廣蓋 衣服ヲ藏ムル唐櫃、衣筥ナドノ蓋ノ稱。又、ソレヲ、服ナド賜ハル時ニ、載スル器トシテ用ヰル事。後ニハ、別ニ、其蓋ノ如キ器ヲ作リ、等ラ、客ニ供スル物ナド盛ル。 [illegible] 持唐櫃ノふたニ、イトオドロオドロシウタタミ入レテ [illegible] 「[illegible]御衣十二領、ひろぶたニ入レテマヰラレタリ」 [illegible] ル、云云、御巻數ノ箱、御廣蓋ニ居ヘテ、申次持參」

ひろま (名) 廣間 (一)廣キ座敷。又、武家ノ邸ニ、玄關ノ内ニ、設ケタル廣キ室。遠侍ノ番士、處ニ武器ヲ飾リテ守ル。(二)表座敷、對面所、ナドノ廣キ席ノ稱。 [illegible] 秀吉大名ヲ呼ビテ、ひろまへ出サセラレタ、アレヘ出テ目ミエヲメサレ」

ひろまへ (名) 廣前 神佛ノ前ヲ敬ヒテ云フ語。御前ト云フニ同ジ。オホマヘ。寶前 [illegible] 祝詞「皇神等ノ廣前ニ白サク」 今物語「社ノ前ナルモノヲ見テ、此山ノ、シシイカメシク、見エルカナ、イカナル神ノ、廣まへゾコハ」

ひろま・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 弘廣 〔ひろむ(弘)ノ自動〕 (一)廣クナル。(二)弘ク行ハル。遍ク傳ハル。傳播。 字鏡 [illegible] 古今集、序「奈良ノ御時ヨリゾ、弘まりニケル」 御堂關白集「アナタフト、ノリノひろまる、君ガ代ハ、カギリナキマデ、オモホユルカナ」「今ひろまる」 [illegible]

ひろ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 弘廣 (一)廣クス。オシヒロム。ヒロマル 推古紀、十六年八月「朕欽承寶命臨仰(一本作御)區宇」 [illegible] (二)弘ク行ハルルヤウニ務ム。遍ク人人ニ知ラシム。播ツ。播揚 源、十八、松風 [illegible] 「宗旨ヲひろむ」

ひろめ (名) 弘廣 ヒロムルコト。遍ク人人ニ知ラスルコト。披露。吹聽。公告 [illegible] フリヲ内ヘ呼ビ入レ、師走ニひろめガアッタゾヤ」

ひろめ (名) 昆布 〔廣布ノ義、海藻中ニテ、葉ノ幅、最モ廣キガ故ニ云フ、[illegible] 布」、并ニ、こんぶ(昆布)ノ語原ヲ見ヨ〕 昆布ノ一名。其條ヲ見ヨ。

ひろめか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 閃 ひらめかす(閃)ニ同ジ。榮花物語、八、初花「アカキ扇ヲひろめかしツカヒテ」

ひろめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 弘廣 ひろがる(弘)ニ同ジ。名義抄「袢、燭、颭、ヒロメク」 字類抄「袢、ヒロメク」 天治字鏡、十二 [illegible]

ひろ・める (動) 弘 ひろむ(弘)ノ口語。

ひろやか・な (副) 廣 廣廣シタル狀ニ云フ語 ヒロラカニ 更級日記 [illegible] やかなる所ノ砂ゴ、ハルバルト白キニ」(舊本)

ひろらか・な (副) 廣 前條ノ語ニ同ジ。 今昔物語、廿八 [illegible]

ひろり (名) 弘廣 次條ノ語ノ名詞形。

ひろ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 廣弘 ひろおる(弘)ニ同ジ。古事記、下(仁徳)三「葉ビロ、ユツ眞椿、シカ花ノ、照リイマシ、シカ葉ノ [illegible] 比呂理イマスハ、大君ロカモ」 同、同(雄略)三十「葉 [illegible] 比呂理イマシ [illegible] リイマス、高光ル、日ノ御子ニ」

ひろろ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ケ(自動、四) 是非定マラズシテ [illegible] バ、タチヰひろろぐホドニ」 同、同「内外ニシカジカ [illegible] ひろろぎテ [illegible]」

ひわ (名) 鶸 ひは(鶸)ノ條ヲ見ヨ。

ひわい (名) 鄙猥 卑猥 イヤシク、ミダリガマシキコト。 [illegible]

ひわか・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 若 〔ひハ接頭語〕 わかし(若)ニ同ジ。

ひわたし (名) 火渡 兒女ノ戯。ひまはし(火廻)ニ同ジ。 鸚鵡波集、稻「稻ヅマニ、火わたしシテヤ、行ク螢」

ひわたり (名) 火渡 烈火ノ上ヲ、跣足ニテ歩ミ行クコト。又、ソノ術。巫覡、修驗者ナドノ、祈禱ノ時ナドニスルコトナリ。

びわぼん (名) 琵琶笛 口琴 玩具ノ一。びやぼん(琵琶笛)ノ條ヲ見ヨ。

ひわり (名) 日割 (一)日毎ニ幾許ト、割リ數フルコト。(給金ナド) (二)其日其日ニ、事ヲ割リ宛ツルコト 「試驗ノ日割」

ひわりご (名) 檜破子 檜ノ材ニテ作レル上等ノ破子 宇津保物語、國讓、中 [illegible] ノ御カタヨリ、ひわりご、ミキ、ツバイモチヒナド奉リ給ヘリ」 源、九、葵四十七「コナタバカリニ、ヲカシゲナルひわりごナドバカリヲ、色色ニテ參レルヲ見給ヒテ」

[illegible] 入レテ」

ひわ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 干割 干テ割ル。乾キテ裂ク。ヒワレル。

ひわ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 皸破 皸生ジテ割目ナツ。ヒビ入ル。皸。 ひはる(皸張)ノ條ヲモ見ヨ。 源、三十 [illegible] ウガイノサキシテ、ヲシ入レタマフ」

ひわれ (名) 干割 ヒワルルコト。

ひわれ (名) 皸破 皸ノ入ルコト。又、皸ノ生ジタル痕。 [illegible]

ひわ・れる (動) ひわる(干割)、及、ひわる(皸破)ノ口語。

ひゐ (名) 腟 兒童ノ陰部。 字類抄「腟、ヒヰ、小兒陰也」

ひゐ (名) 非違 (一)法ニタガフコト。(二)けびゐし(檢非違使)ノ略。 [illegible]

ひゐき (名) 贔屓 ひいき(贔屓)ノ誤。 [illegible]

ひゐきよ (名) 脾胃虚 胃病ノ一種。食欲ノ甚シクススムモノ。

ひゐな (名) 雛 ひひな(雛)ノ音便訛。

ひゑ (名) 髀 髀ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

ひを (名) 氷魚 〔ひうをノ約〕 近江ノ

湖中、山城ノ宇治川ニ産ス、形、志[illegible]を(白魚)ニ似テ小サク、色、[illegible]ニシテ氷ノ如シ。秋ノ末ヨリ冬ニ互リテ捕ル。[illegible]九[illegible]、比手、又、[illegible]、下[illegible]、上、[illegible]門[illegible]、ヒヲ、又[illegible]一[illegible]式[illegible]萬葉集、十六廿「吾ガセコノ、タフサギニスル、ツブレ石ノ、吉野ノ山ニ、氷魚ゾサガレル」新撰六帖、廿、物名、從[illegible]收[illegible]ヒクリ、マキノ[illegible]、オチタギリ、[illegible]火[illegible]、コメリ[illegible]イカニ、コリマサ[illegible]ヒヲン」[illegible]代ニ氷魚ノヨルモ、サナガラノノシリ明カシ(宇治川)」續詞花集、十九、物名、おもの[illegible]、タナカミ川ニ、宿ルコソ、ひをノヨル見ル、形見ナリケレ」

ひをぐくり (名) [氷魚括] (氷魚ノ色ノ括ノ意) 指貫ノ括ノ、薄キ水色ナルモノ。[illegible]十二[illegible]大納言時忠卿ハ、ひをぐくりノ直垂ニ、絲[illegible](長門本、葛ニ作ル)ノ袴着テ、野尻次郎ニ宣ヒケルハ、云云」

ひをけ (名) [火桶] 火鉢ノ木製ニシテ圓キモノカ。倭名抄、十六、木器[illegible]、手[illegible]火桶」[illegible]物語、二、[illegible]降ルヲ[illegible]出シテ、ひをけニ得シカカリテ」枕草子、一、第一段「スビツ、ひをけノ火モ、シロキ灰ガチニナリヌルハ、ワロシ」源信明集「手スサビニ、火桶ノオキヤ、ワリテケン、戀シキ人ニ、アハヌ比カナ」「桐火桶」

ひをどし (名) [緋縅] 鎧ノ縅絲ノ、總ベテ紅染ナルモノ。又、紅染ノ革ナルニモ云フ　[illegible] 緋甲 紅縅甲 紅縅[illegible][illegible]、ひおどしの[illegible]、火威トモ書ナリ、[illegible]ナシ、又、[illegible]ニテ威タルヲバ、[illegible]ヘテ、[illegible]トイフナリ、[illegible]云ハ、革ノひおどしニマギレヌ爲ナリ、又、ひおどしト赤威トノ差別ハ、緋ハ紅花ニテ染ル、赤ハ茜根ニテ染ル、緋ハ、ハナヤカニテ、火ノモエ出ル如クナル故、火威トモ書ナリ、赤ハ少黒ミアル樣ニテ、モエ出ルゴトクナル[illegible]シ、云云」平家物語、四、宮御[illegible]

[illegible]十七、山門攻事「眼サカサマニ裂ケ、髭左右ヘ分レタルガ、[illegible]ノ鎧ニ龍頭ノ兜ノ緒ヲ縮メ」

ひをどしてふ (名) [緋威蝶] たてはてふ(立羽蝶)ニ同ジ。

ひをのつかひ (名) [氷魚使] 古ヘ、宇治(山城)、及、田上(近江)ナドヨリ、九月ヨリ十二月マデ、氷魚ヲ捕リテ、朝廷ニ奉ル使。内膳司式「山城國、近江國、氷魚網代各一處、其氷魚始九月迄十二月三十日貢之」西宮記、九月[illegible]氷魚使、宇治、田上[illegible]所人[illegible]、各給[illegible]御[illegible]式[illegible]」

びをん (名) [微温] ナマヌルキコト。温度ノ低キコト　隋煬、冬日可[illegible]「微温[illegible]」[illegible]之仲、[illegible]之上」陸游[illegible]「金鴨微温[illegible]、錦茵初展情[illegible]」「微温湯」

ひをむし (名) 蜉蝣 (一生死、纔カ日ヲ終フル意カト云フ) 朝ニ生ジ、夕ニ死ヌル蟲ト云フ。かげろふノ類ナルベシ　倭名抄、十九[illegible]蟲[illegible]蜉蝣「比乎無之、朝生暮死蟲也」[illegible]、四十四、[illegible]「網代ヲコソ、コノ比ハ御ランゼメト聞ユル人人アレド、何カハソノひをむしニ爭フ心ニテ、アジロニモヨラン、云云」枕草子、[illegible]七段「ムシハ、スズムシ、云云、ひをむし、螢」曾丹集、序「我身ヒトツハ憂ケレドモ、ひをむしノ日ヲ暮ラシ、草葉ノ玉ノ風ヲ待ツホドナレバ」

びをんたう (名) [微温湯] ヌル湯。温度ノ低キ湯。ナマヌルキ湯。ヌルマユ。

ひをり (名) 次條ノ語ノ略。

ひをりのひ (名) (一)五月五日、六日ノ競馬ノ眞手番(其條ヲ見ヨ)アル日ノ稱ニテ、引折(檻ノ義、埒)ノ約ナリト云ヘド、世ニ[illegible]キ語ナルベシ、假名書、伊勢物語、第九十九段「昔、右近ノ馬場ノひをりのひむかひニ立テタリケル車ニ、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]へ[illegible]、[illegible]不聞ノ語ノ[illegible]ニ、ひをりト[illegible]ヒ、[illegible]トナレルナリ。ひハ日ナリ、をりハ埒、埒ノ日即チ埒ナリ。右近ノ馬場ノ日、埒ノ東西ニ埒アリ、埒ニ添ヒテ、日ノサス方ニ向ヒテ立テル車ナルガ故ニ、日ヲ負ヒタル方ヨリ見レバ、下簾ヘ日反シノ差シトホリテ、顔ノ見エスキタルナリ　萬葉集、十二[illegible]長歌「日[illegible]年[illegible]、[illegible]ノ國ノ、高北ノ、ククリノ宮ニ、日向ニ、行キ離カクヲ、アリトキキテ」トアル日向ト同ジ。伴信友ノ比古婆衣、卷十一ニ、「此事ヲ詳説セリ」古ヘ、大内ノ馬場ニテ、五月五日ニ左近衞、六日ニ右近衞ノ舍人ノ競馬騎射アリ。其前、近衞ノ馬場ニテ、三日ニ左近、四日ニ右近ノ荒手番(試ミ)アリ。扨、眞手番ノ當日、射手、盛裝シテ、復々試ミテ、ソノママ大内ヘ乘入ル。此日ヲひをりの日ト云ヒ、觀客群集スト云フハ、安富ナラズ、略シテ、ひをり。古今集[illegible]、[illegible]右近ノウマ場ノひをりの日、向ヒニ立テタリケル車ノ下簾ヨリ、女ノ顔ノホノカニ見エケレバ、ヨミテハシケル、云云」[illegible]字[illegible]物語[illegible]第九十九段、昔、右近ノ馬場ノ射[illegible]日、向[illegible]、假名書ノ本ノ證ヲ、ソノママ、振假名ニセル例證ナリ)散木集、二、夏、殿下にて、五月五日の心をつかうまつれるナキネモ、花ノ袂ニ、カホルナリ、今日ヤマユミノ、ひをりナルラン[illegible]、[illegible]十、[illegible]右近ノ馬場ノひをりの日ニヤアリケン、云云」

ふ ぶ ぷ

ふ [illegible]行第三ノ假名[illegible]見ヨ。此音ハ、他ノ音ノ下ニアルトキ、其發聲ヲ失ヒテ、韻ノうニ呼ブコトアリ、いふ(言)、かふ(買)、ゆふべ(夕)ノ如シ、又、[illegible]ノ音ノ下ニアルトキニおノ如ク呼ブコトアリ、あふぐ(仰)、たふる(倒)、はふる(被)ノ如シ。

ぶ ふノ濁音ノ假名。ばノ條ヲ見ヨ。

ぷ ふノ半濁音ノ假名。ばノ條ヲ見ヨ。

ふ (名) [節] (經しノ略轉) (一)薦ナドノ編目。萬葉集、十四廿八「眞小薦ノ、布ノミ近クテ、アハナヘバ、沖ツ眞鴨ノ、嘆ゾアガスル」(二)垣ノ結目。(竹ナドノ節ノ如シ) 古事記、下(清寧)[illegible]ノ[illegible]ノ柴垣、八節[illegible]、[illegible]レムシバガキ、ヤケムシバガキ」武烈即位前紀「臣ノ子ノ、耶賦(八節)ノ柴垣、シタトヨミ、地震カヨリコバ、破レム柴垣」[illegible]、其[illegible]十六[illegible]、以[illegible]、[illegible]

ふ (名) [illegible]ノ[illegible]、[illegible]編[illegible]、其物ノ[illegible]數。萬葉集、十一六「[illegible]ト、コモ朽チメヤモ、[illegible]シロ、[illegible]ニナルマデニ、君ヲシ待タム」袖中抄(顯昭)十四、とふのすがおも「ミチノクノ、十ふノスガゴモ、七ふニハ、君ヲ寐サセテ、三ふニ我レ寐ム」散木集、[illegible]、[illegible]アラシノミ、[illegible]重カ數ケル、十ふノツカナミ」幸若舞、高館「十二ふカケタル[illegible]笠ヲ、フカブカト、ヒッコウデ」

ふ (名) [斑] [illegible]ノ略カ、文ノ[illegible]トモ云フ、イカガ」地ノ色ノ中ニ、他ノ色ノマバラニ雜レルモノ。マダラ。プチ。近

世女風俗考、(生川春明)上、古製婦技之圖、[illegible]ニテ造ル、云云、ふノ處處ニ、[illegible]ヲ金ヲモテ[illegible]シタリ」守貞漫稿、十一、女扮、下「笄上製ハ、全白甲ナレドモ稀也、云云、黑甲、江戶ニテハ、ばらふト云フ、京坂ニテハ、もくト云ヒ、或ハ、ふト云フ」「虎斑」斑入ノ髮[illegible]ノ類」

ふ　(名)　生　〔生ふノ約、音便ニ、うト云フ、生ひノ義〕草木ノ多ク生ヒタル地。原。(熟語ニ用ヰラル)　名義抄「生、フ」古事記、中(神武)「ミツミツシ、久米ノ子等ガ、阿波布ニハ、臭韮一モト、ソネガモト、ソネメ繫ギテ、討チテシヤマム」神代紀、下「見ニ粟田豆田ニ」應神紀、十九年十月「橿ノ樹ニ、橫臼ヲ作リ、橫臼ニ、カメル大御酒」萬葉集、十一「櫻麻ノ、苧原ノ下草、露シアレバ、明カシテイユケ、母ハ知ルトモ」源、一、桐壺「カカル御使ノ、蓬生ノ露分ケ入リ給フニツケテモ」散木集、七、戀、上「御園生ノ、マヲノアサハギ、七タグリ、タグルニツケテ、オクル君カナ」山家集、上「タサレヤ、玉ウゴク露ノ、コザサ生ニ、聲マツナラス、藪カナ」「芽原」「葎原」「埴生」「芝生」「杉生」「淺茅生」

ふ　(名)　白魚　〔氷魚ノ約〕ひを(氷魚)ノ異稱(出雲)　其條ヲ見ヨ。

ふ　(名)　夫　(一)　男子。丈夫　易經、繫辭、下傳「君子知微知彰、知柔知剛、萬夫之望」書經、君陳篇「爾無忿疾于頑、無求備于一夫」(二)　妻タルモノノ配偶者。ヲット。ヲウト。セ。ツマ。易經、上經、家人卦「夫夫、婦婦、而家道正」禮記、內則篇「妻將生子、及月辰、居側室、夫使人日再問之」同、郊特牲篇「婦人從人者也、幼從父兄、嫁從夫、夫死從子」關尹子、三極篇「天下之理、夫者倡、婦者隨、牡者馳、牝者逐、雄者鳴、雌者應、是以聖人制言行、而賢人拱之」

ふ　(名)　婦　〔說文「婦、服也、从女、持帚灑掃也」〕(一)　ヲンナ。女子。婦人。史記、孔子世家「彼婦之口、可以出走、彼婦之謁、可以死敗」(二)　妻。ツマ。易經、上經「蒙、九二、包蒙吉、納婦吉、子克家」注「婦者、配己而成德者也」古詩、焦仲卿妻「十六誦詩書、十七爲君婦」和泉式部集、三「安藝守ノ婦、子ウミタル九日ノ日、チゴノキヌヤルトテ、云云」(三)　子ノ妻。ヨメ。媳。爾雅、釋親篇「子之妻爲婦」後漢書、于定國傳「東海有孝婦、少寡亡子、養姑甚謹、姑欲嫁之、終不肯、姑謂鄰人曰、孝婦事我勤苦、哀其亡子守寡、我老、久累丁壯、奈何、其後、姑自經死、姑女告吏、婦殺我母、吏捕孝婦、孝婦辭不殺姑、吏驗治、孝婦自誣服、具獄上府、于公以爲、此婦養姑十餘年、以孝聞、必不殺也、太守不聽、于公爭之、弗能得、乃抱其具獄、哭於府上、因辭疾去、太守竟論殺孝婦」

ふ　(名)　譜　〔釋名(漢、劉熙)釋典藝篇「譜、布也、布列見其事也」〕(一)　祖先ヨリ代代ノ系統ヲ逐ヒテ記シタルモノ。系圖。史記、陳杞世家「中國之後、或封或絶、六國楚所滅之、無譜」(二)　物ノ順次ヲ立テテ記シ、又、種類ニヨリテ類集シタルモノ。「唐、孫過庭、書譜」「宋、李孝美、墨譜」「宋、蘇簡、硯譜」「宣和書譜」「印譜」(三)　音樂ノ曲節ノ次第ヲ記シタルモノ。樂譜　源、四十八、寄生「琴ノ譜二卷、五葉ノ枝ニツケタルヲ、オトドトリ給ヒテ奏シ給フ」千載集、七、離別「青海波ノ秘曲ノコトヂタツル事、ヲシヘ侍リテ、ソノヨシノ譜カキテ給フトテ、奧ニ書キ付ケテ侍リケル」

ふ　(名)　賦　(一)　ミツギモノ。年貢。又、賦稅。書經、禹貢篇「厥賦、惟上上錯」蔡傳「上之所取謂之賦、下之所供謂之貢」(二)　韻文ノ一體。古詩ノ流ニテ、對句アリ、韻アリ。漢書、藝文志「不歌而誦、謂之賦、登高能賦、可以爲大夫、言感物造端、材知深美、可與圖事」班固、兩都賦、序「或曰、賦者、古詩之流也」「左思、吳都ノ賦」「蘇軾、赤壁ノ賦」(三)　詩ノ六義ノ一。所感ヲアリノママニ敍スルモノ。詩序、大序「詩有六義焉、一曰風、二曰賦、三曰比、四曰興、五曰雅、六曰頌」文體明辯(明、徐師曾)「按、詩有六義、其一曰賦、所謂賦者、敷陳其事而直言之也」運歩色葉集「賦、比、興、風、雅、頌」(四)　長歌ノ稱。萬葉集、十七、四十三「二上山賦」同、同卷、三十九「立山賦」

ふ　(名)　符　(一)　〔玉篇「符、符節也、分爲兩邊、各持一、以爲信」〕昔、支那ニテ、木、又ハ、竹ナドニ、證トスベキ文字ヲ書キ記シ、兩分シテ一半ヲ留メオキ、一半ヲ與ヘテ、他日ノ證據トスルモノ。シルシノフダ。ワリフ。周禮、地官篇、司關「門關用符節、貨賄用璽節、道路用旌節、皆有期以反節」史記、高祖紀「乃論功、與諸列侯剖符、行封」下學集、下、態藝門「割符、ワリフ、兩所通用之義也」「切符、キップ」(二)　一官府ノ、公文書ノ稱　太政官、及、省臺ヨリ所管ノ諸司ニ下ス文書　公式令、符式「凡應符、解向上者、其上官向下皆爲符、署名准辨官」(三)　神佛ノ守札　護符　和漢三才圖會、十九、神祭、牛王「按、熊野、祇園、八幡等諸社、出符札、帖門戶、以避災殃」(四)　法師、修驗、陰陽師ナドノ加持ノフダ。太平記、廿三、大森彥七事「陰陽師ニ門ヲ封ゼサセヨトテ、符ヲ書カセテ、門門ニ押セバ」羅山文集、六十二、符呪「夫符之於呪一也、所以信爲符、所以唱爲呪、方術家謂之越方、又號三禁架、其符謂之丹書、召鬼神之書、其字似古篆、不可解也、謂之符籙、[illegible]、陰陽家或書符以呪之、或用符水[illegible]、人亦多矣」安齋隨筆、八、赤子握符「世ニ安產ノ符ト云ヒテ、小紙ニ符ヲ書キタルヲ丸メテ孕婦ニ吞マシムルニ、產出シタル赤子ノ手ニ、符ヲ握リテ生ルト云フ」

ふ　(名)　訃　〔玉篇「訃、告喪也」〕赴トモ書ク。死去ノ通知。儀禮、士喪禮「乃赴于君」注「赴、告也、臣、君之股肱耳目、死當有恩」[illegible]宋元、[illegible]「禍、丁[illegible]氏、[illegible]訃、[illegible]」劉[illegible]、哭[illegible]、[illegible]別[illegible]兩月、[illegible]訃[illegible]始疑妄」[illegible]元年正月「大宰守[illegible]、使[illegible]新[illegible]赴[illegible]」[illegible]私[illegible]「訃、告[illegible]親[illegible]朋友」注「[illegible]」[illegible]訃[illegible]不[illegible]訃別友、[illegible]」

ふ　(名)　俘　〔說文「俘、軍所獲也」〕イケドリタル人。トリコ。イケドリ。俘虜　春秋、莊公六年「冬、齊人來歸衞俘」杜注「俘、囚也」左傳、莊公三十一年「凡諸侯有四夷之功、則獻于王、王以警于夷、中國則否、諸侯不相遺俘」

ふ　(名)　傅　(一)　カシヅキ。モリヤク。禮記、文王世子篇「立大傅、少傅、以養之、欲其知父子君臣之道也」「太子ノ傅」(二)　東宮ノ職員　[illegible]位、[illegible]傅[illegible]宮ニ出仕」　榮花物語、十三、木綿四手「傅ニハ、閑院ノ右ノオホイ殿ナリ給ヒヌ」增鏡、第十二、老の波「春宮(伏見)行啓、中門ヨリオリサセ給フ、傅ノオトド(左大臣師忠)二條、御車ニ參リ給ヘリ」東宮職員令「[illegible]傅一人、掌以道德輔導東宮」　[illegible]答、一、春宮坊東宮ハ兩様[illegible]、是ニ傅、大夫二ツ候、上古以來フトナル[illegible]候ハス候、東宮職ニハ、傅ヲ出シ、坊ニハ大夫ヲ出候事ニテハ候ヘドモ、何モ一ニテ候、但、坊中ノ事ハ、一向大夫、執權ニテ候、傅ハ太子ニ物ヲヲシヘ候役ニテ候」官職祕抄、下、東宮職「傅、大臣任之、或有大納言兼例」

ふ　(名)　賻　〔玉篇「賻、以財助喪也」〕朝廷ヨリ臣下ノ死亡者ニ財貨ヲ賜フコト。又、ソノモノ。儀禮、既夕篇「知死者贈、知生者賻」公羊傳、隱公元年「車馬曰賵、貨財曰賻」[illegible]、喪葬令[illegible]解「謂、官位[illegible]」[illegible]「賻物」[illegible]五年九月[illegible]、代實錄、五十、仁和三年六月八日「從四位下[illegible]、在原朝臣行平[illegible]、賻以[illegible]布、乃給[illegible]焉」

ふ　(名)　腑　(一)　ハラワタ。ざうふ(臟腑)ノ條ヲ見ヨ。(二)　俗ニ、思慮分別ノ宿ル所。腑の足らぬトハ、了簡ノ不足ノ意。腑ノ拔けるトハ、了簡ノ脫シタル意。醒睡笑(元和、安樂庵策傳)二「腑の拔けたる仁ニ、蝦ヲ振舞ヒケルガ、赤キヲ見テ、是ハ生レツキカ、マタ[illegible]ニテアリタルモノカト問フ」腑に落ちぬトハ、理解シ難キノ意

ふ　(名)　歩　〔步兵ノ略、雜兵ノ意〕又、兵。將棋ノ駒ノ名　唯、前ヘ一格ヅツ

進ムコトヲ得ルモノ。二中程、十三、將棊「歩[illegible]」[illegible]名立ニ九歩兵於九行内、將棋排定、[illegible]行例先製二歩[illegible]不配トラセテ軍セバ、敵ノ桂馬ニ蹴ミ殺サレ、桂馬ノ高トビ、歩ノ餌食トナル可シ」

ふ　（名）釜　[illegible]ニ同ジ。[illegible]錡釜」毛傳「錡、足曰レ釜」（二）支那ニテ、枡目ノ名。六斗四升（我ガ五六升程）ノ稱。[illegible]

ふ　（名）府　（一）〔說文「府、文書藏也」〕庫。特ニ、宮廷ノ文書、又ハ、財貨ヲ藏メ置ク庫。孟子、告子、下篇「今之事君者皆曰、[illegible]」（二）官ノ、ノ事務ヲ執ル所。ツカサ。役所。[illegible]（三）モト支那ニテ、行政上、土地ノ區域ノ名。時代ニ因リテ變化アレドモ、舊制ニテハ、州縣ハ府ニ統ベ、府ハ省ニ統ベラレ、一府ヲ治ムル官ヲ府知ト云ヘリ。（四）江戸ノ稱。幕府所在ノ地ナルガ故ニ云ヒシカ。「參府」「出府」「在府」「御府内」（五）物ノ聚リ、人民ノ聚集シ、又ハ、貨物ノ輻湊スル所。都邑。「都府」「學府」「怨府」（六）今、又、行政區域ノ稱。東京、京都、大阪ノ三都會ニ云ヒ、近傍ノ郡ヲモ併ハセ治ム。（縣ニ對ス）「府廳」

ふ　（名）封　[illegible]「封、侯、諸侯之土也」[illegible]封戸。食封。又、封地。周禮、春官、大宗伯[illegible]「封、フ、フウ」合集解、廿三、疏[illegible]土田、界[illegible]ソハ、御位久シク物スベク侍ルナレ、宮、封給ハリナドセズトモ、コノ位トコソ言ハセマホシク侍レ」榮花物語、五、浦浦の別「國國ノ御封ナドメシ物スレド、モノスガヤカニワキマヘ申スヘキ人モナケレバ」

ふ　（名）布　支那古代ノ貨幣。たうニ刀ノ[illegible]出、以共、百物[illegible]之布、其[illegible]不稱[illegible]差布、[illegible]布、[illegible]布、小布、小布長寸五分、重十五銖、文曰二小布一百一、自二小布一以上、各相長一分、相重一銖、文各[illegible]其布値、[illegible]加一百一上至二大布一長二寸四分、重一兩、[illegible]千錢矣、是爲二布貨十品一[illegible]「師古曰、布亦錢耳、謂二之布一者、[illegible]其分布流行也」

ふ　（名）麩　（一）〔ムギカス。小麥粉ノふすま。即チ、洗粉ニ用ヰルモノ。中世、誤リテ、豆腐皮ニ此字ヲ用ヰタリ。鹿苑日錄〕（二）又、食物。麩ト小麥粉トヲ水ヲ和シ、鹽ヲ少シ加ヘテ、頻ニ揉ミ、頻ニコネテ、水ニ浸シテ搖リ動カシ、澱粉ヲ洗ヒ流シ、更ニ笊ニ殘留シタル滓ト麩質トノ混合物中ヨリ分離シテ情製セルモノ。餅ノ如シ。煮テ食フ。麪筋　[illegible]「麩、フ」易林節用集[illegible]服門「麩、フ」和漢三才圖會、百五、造釀類「麪筋、俗云、不、俗用麩字非也、云云、今多造[illegible]」[illegible]

ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（自動、下二）　經　次第ニ過ギテ行ク。越エテ行ク。移リ進ム。時ニ、廻ニ、事ニ[illegible]十四、戀、四「紀ノ國ノ、アクラノ濱ノ、忘貝、我ハ忘レジ、年ハふるトモ」古今集、一、春、上「年ふれバ、齡ハ老イヌ、シカハアレド、花ヲシ見レバ、物思ヒモナシ」[illegible]島野ニ、狩ラヌ日マネク、月ゾ倍ニケル」陶淵明[illegible]

ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）　綜　「[illegible]ニ通ズト云フ、或ハ、延フル、ノ略カ」機ニ、經絲ヲ引キ延ヘテ、緯ルニ供フ。此ニシテ、へる。（此語、ふ、ふる、ナド用ヰタル例ヲ見ズ、サレド、古語ナレバ、此變化ナラザルヲ得ズ。[illegible]引、波太不」（機絲ヲ綜ル意）　古今集、十、物名、女郎花「白露ヲ、玉ニ貫クトヤ、ササガニノ、花ニモ葉ニモ、絲ヲミナヘシ」後撰集、十四、戀、六「賤機ニ、ヘツル程ナリ、白絲ノ、絶エヌル身ハ、思ハサラナン」夫木抄、十、七夕「我ガ祈ル、願ヒノ絲ノ、年ヲヘテ、アハデシモヤハ、秋ノ七夕」

ふ　（接頭）不　（一）他語ノ上ニツキテ、其意義ヲ打消ス語。ソレナラヌ。「不便利」「不信心」「不通用」「不本意」「不承知」（二）惡シキ意ヲ表ハス語。良カラヌ。「不所存」「不了簡」「不運」「不行跡」（三）拙キ、醜キ、ナドノ意ヲ表ハス語。「不出來」「不手際」「不細工」「不器量」

ぶ　（名）武　「說文、武、楚莊王曰、夫武定レ功戢レ兵、故止戈爲レ武」文ノ對照トシテ用ヰル語。（一）威力ヲ以テ暴ヲ服スルコト。能ク兵亂ヲ定ムルコト。左傳、宣公十二年「夫武、禁暴戢兵、保大定功、安民和衆、豐財者也」書經、大禹謨[illegible]「乃聖乃神、乃武乃文」[illegible]勇敢ナル行爲　廣雅、釋詁[illegible]「武、勇也」[illegible]許シテ、落セル弓ヲ拾ヒシ事ナド、[illegible]ク武ニ似タリ[illegible]クサ。軍陣。戰鬪ノ方術。戰ノ力。兵[illegible]陽道、有二此四一、其中小、不過數百里、[illegible]田地薄、四面[illegible]（四）武器。武具。イクサ道具。書經、武成[illegible]

ぶ　（名）夫　[illegible]丁。人足。夫役ノ人夫。[illegible]租ノ[illegible]見ヨ。[illegible]「一日ニ五六百人、千人ノ夫ドモヲ召ルモ、人ノ數多カルコトヲバ、カシコキコトニ思シタチ」今昔物語、十一、第廿四語「國ノ内ノ（ニイ）夫ヲ催シテ、其役[illegible]

ぶ　（名）分　[illegible]尺ノ度ノ名。寸ヲ十ニ分テル一ツ。[illegible]「凡度、十分爲寸、[illegible]中者一之廣、爲分、秬者黑黍也）」（二）貨幣ニ、兩ヲ四ツニ分テル一ツ。四銖。銀、十匁ノ[illegible]文ヲ十ニ分テル一ツ。「一文五分」（四）スベテ、全數ヲ若干ニ割リ分クルニ云フ語。二分一トハ、二ツニ分テル一ツナリ。[illegible]全數ヲ十ニ分テル一ツ。「五分五分」「七分三分」（六）又、全數ヲ百ニ分テル一ツ。（商家ノ語）[illegible]（七）扁平ナル物ノ厚サ。「分ガ厚イ」「分ガ薄イ」（八）試合、競技ナドノ優劣比較ノ標準。「分ガ良イ」「分ガ惡イ」「分ガアル」

ぶ　（名）歩　[illegible]段別。面積[illegible]大化ニ方五尺ヲ[illegible]ナシ、和銅[illegible]、唐ノ大尺ニテ方六尺ヲ歩トナス。即チ、六尺平方ノ稱。坪ニ同ジ。畝ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]

大化二年正月、詔[illegible]曰、云云、凡田長三十歩、廣十二歩爲レ段、十段爲レ町」令集解、十二、田「雜令云、度レ地以二五尺一爲レ歩、又和銅六年二月十九日格、其度レ地以二六尺一爲レ歩[illegible]」[illegible]拾芥抄、中、田籍「凡田以二方六尺一爲二一歩一(四面各六尺也)、三十六歩爲二一段[illegible]」[illegible]今(文政)ノ一段三百六十歩也」

ぶ (名) |部| (一)物事ノ、方ノ處　類ヲ以テ別ルル處　部 [illegible]「下ノ部」始ノ部」終ノ部」 (二)トモ　トモガラ　部曲　[illegible] (三)書物ヲ、冊數ニ係ハラズ、始終ノ一體ニテ數フル語。 魏書、[illegible]「經、十部」史、百部」全部」

ぶ (接頭) |不| (一)ふ(不)ニ同ジ。 長町女腹切(正德、近松作)二「ムムウ、兩人ナガラ伯母御カ、ヨイ年シテ不調法、[illegible]」ニ不[illegible] (二)拙キ、醜キ、ナドノ意ヲ表ハス語 「不細工」不人相」

ぶ (接頭) |無| 他語ニ被ラセテ、其義無シト打消ス語。「無沙汰」無用心」無遠慮」

〜ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (接尾) 動詞態ノ接尾語ニテ、熟語ニノミ用ヰ、その樣たり、トノ意ヲ表ハス語　メク　古今集、十三、戀、三「ムラ鳥ノ、立チニシ我名、今更ニ、コトナシぶトモ、驗アラメヤ」 源、三十四、下、若菜、下三「大將ハ、オホヤケ方ハ、ヤウヤウヲトナぶメレド」 同、二、帚木三十「自ラコハゴハシキ聲ニヨミナサレナドシツツ、コトサラびタリ」 同、五、若紫六「イデヤ、サイフトモ田舍びタラン」 同、四十九、東屋「イトアサマシク都びタルカミニテ、打笑ミツツ聞キ居タリ」

ぶ-あい (名) |不愛| ぶあいきやう(不愛敬)ニ同ジ　大鏡、上、[illegible]給フ路ニ、[illegible]大門ニ人人居タル中ヲオハシケレバ、ナニガシノ主ノ引キトドメラレケルコソ、イトぶあいノ事ナリヤ」

ぶ-あい (名) |蕪穢|蕪薉| 雜草ノ茂リテ、土地ノ荒レタルコト。 後漢書、陳蕃傳「蕃年十五、[illegible]」[illegible]俗而蕪穢」注「不レ治曰レ蕪、多レ草曰レ穢」

ぶ-あいきやう (名) |不愛敬| 愛敬ナキコト。略シテ、ぶあい

ぶ-あいさう (名) |無愛想| 愛想ナキコト　ブキラバウ　無愛。

ぶ-あしらひ (名) アシラヒノ、ワルキコト。待遇ノ、ヨロシカラヌコト。冷遇。 心中宵庚申(享保、近松作)中、ヤ、[illegible]カ、容體見タシト云ハントセシガ、ぶあしらひナル氣ヲカネテ、詞ヲ留メ折ヲ待チ、共ニ摺寄リ聞キヰタル」

ふ-あたり (名) |不當| アタラヌコト。人氣ナキコト。流行セヌコト。フニンキ。 [illegible]ふあたりデ、[illegible]ニモ及ブナラバ、又思案モアルベケレト」

ふ-あひ (名) |不合| ヲリアヒノ、ヨロシカラヌコト。和合セサルコト。不和ナルコト。三河物語(大久保彦左衞門)下「御姫君モ二人出來サセ給ヘドモ、御ふあひニモ有リツルカ」

ぶ-あひ (名) |歩合|分合| 幾歩ト分ッ割合。卽チ、或量ト、コレト同ジ種類ノ他ノ量トノ比。 八木の話(北越逸民)「其年、日本中、國國作方ノ分合ヲ考定メ、其分合ヲ平均セバ、八歩ナレバ、此八ヲ目安ニ置、右ノ五十目ノ五ヲ八ニ割、八五六十二匁ト知ル」[illegible]

ふ-あん (名) |不安| 心ノ、安カラヌコト　心配　[illegible]不安、ファン[illegible]

ふ-あんしん (名) |不安心| 安心セラレヌコト。心配ナルコト。

ふ-あんない (名) |不案内| 又、不知案内。(一)案内ヲ知ラヌコト　其地無案内 (二)其道ノ理ヲ知ラヌコト。理ニ暗キコト。(三)其物ニ經驗ノナキコト。無經驗　[illegible]の事、シカシ、色里ノ事ハ不案内ノ[illegible]、ソコヲ宜シク御差圖ヲ、云云」

ぶ-あんない (名) |無案内| 前條ノ語ニ同ジ。[illegible]三十一、[illegible]「思フニ、北國無案内ノ奴原ニゾアルラン、追落テ討トレトテ、云云」

ふ-あんないしや (名) |不案内者| 其道ニ暗キ人。無經驗者　[illegible]「スベテ物ノ上手、名人ト、マタ不案内者トハ、武藝ノ上ニモ斯樣ノ間違アリテ、人ノ嘲弄ニ逢ヒ、恥辱ヲ得ルコト毎ニアルモノ也」

ふ-い (名) |臥| 〔ふしノ音便〕 臥スコト。ネルコト。

ふ-い (名) |[illegible]| 手品ニ、拳ヲ吹キテ、中ノ物空シクナルコト。轉ジテ、何モナクナルコト。無ニナルコト。空。

〜ふ-い (名) |不意| 思ヒ寄ラヌコト　思ヒノ外ナルコト。ユクリナキコト。意外。 史記、[illegible] 孫子、始計篇「兵者詭道也、云云、攻二其無レ備、出二其不意一、此兵家之勝、不レ可二先傳一也」 淮南子、兵略訓[illegible] 宇津保物語、[illegible]下「サテ其ノ[illegible]ふいニ[illegible]數キテ、云云、逃ゲテ侍リケルヲ、カノ長門ノ尼君ノふいニ[illegible]」

ふ-い (名) |巫醫| みこト、いしやト。 かんなぎト[illegible]

ふ-い (名) |布衣| [illegible]漢、桓寬[illegible]「[illegible]庶人耆老而後衣レ絲、其餘則[illegible]」 庶人ノ服ナリ」 官位ナキ常人ノ稱　凡夫　史記、李斯傳[illegible] 單傳、論「王蠋布衣也、義不二北面於燕一、況在レ位食レ祿者乎」 戰國策、楚策「子之子孫、必爲二楚太子一矣、此非二布衣之利一也」

ふ-い (名) |芣苢|芣苡| 〔爾雅、釋草[illegible]馬舃、馬舃車前」詩疏、圖經、芣苢「コノ草、好ンデ牛馬ノ踏ミタル跡ニ生ズ、馬舃ハ足跡ナリ、故ニ馬舃ト云フ」〕 草ノ名　おほばこ　車前草ニ同ジ　其條ヲ見ヨ　馬舃　詩經、周南、芣苢「采采芣苢、薄言采レ之」毛傳「芣苢馬舃、馬舃車前草也」 倭名抄、廿草類「車前子、一名芣苡、於保波古」

ふ-い (名) |枎栘|夫栘| 〔爾雅、釋木篇「唐棣、栘」注「似二白楊一、江東呼爲二夫栘一」廣韻「栘、枎栘、木名」〕 落葉喬木ノ名　高サ一二丈、葉ハ橢圓形ニシテ、表面ニ白毛アリ、暮春ニ五瓣ノ白花ヲ開キ、豆大ノ實ヲ結ブ。舊說、唐棣トナシ、或ハ、白楊ト同類ニシテ異種トナス。今ノ植物學者ハ、薔薇科ノ樹トナス。たうてい(棠棣)ノ條ヲモ見ヨ。

ぶ-い (名) |無異| 異變ナキコト。カハリ

ト云コト [illegible] 平安 [illegible] ナルヤウニ成收仕ルベシト宣シテ、出デラレケリ [illegible] イト弱キコトト、ナゴミテぶいナルベク奏シケリ」

ぶい (名) |蕪荑無荑| (一)ひきさくら [illegible]

ブイ (名) 〔英語、Buoy.〕(一)浮標。水路、暗礁、又ハ、投錨ノ位置ナドヲ知ラスルタメニ、河海ノ一定ノ水面上ニ、浮バセオクモノ。(二)水泳用ノ浮袋

フィイト (名) |呎| 〔英語、Feet.〕 ひいと(呎)ノ條ヲ見ヨ。

ふいう (名) |富有| 財産ニ富ミタルコト。モノモチ。カネモチ。富裕。[illegible]

ふいう (名) |富祐| トミテ、福アルコト。太平記、三十五、北野通夜物語事「寛喜元年ニ、天下飢饉ノ時、借書ヲ調ヘ、利形ヲ加ヘテ、富祐ノ者ノ米ヲ借ルニ、云云、面面ノ狀ヲ取リオカレケリ」

ふいう (名) |蜉蝣| (一)朝ニ羽化シテ、夕ニ死ストイフ小羽蟲ノ名。かげろふ(蜉蝣)、及、あさがほ(朝顔)ノ各條ヲ參照セヨ。[illegible] 之夕、不義醜惡之年」 (二)蜉蝣ノ短命ナルヨリ轉ジテ、人生ノハカナキコトニ喩ヘ云フ [illegible] キニ消ムトスル」 幸若舞、滿仲「イナヅマ、デン火、ふゆう、カケロフ、残ノ露トノ如クニ、ハヤヤラリト失セテ、見エタマハズ」

ふいうち (名) |不意討| 敵ヲ不意ニ攻ムルコト。ダシヌケニ、斬リカカルコト。唐突ニ、打ッテカカルコト。急襲

ふいがう (名) |鞴| 〔吹皮ノ音便〕 古ク、フキガハ。今、約メテ、フイゴ。鍛冶ナドノ火ヲオコスニ用キル具。今、狸ノ皮ニテ作ル。押シツ、脹ラシツシテ、氣ヲ驅リ、孔ヨリ吹キ出サセテ火ヲオコス。又、匣ノ中ヲぽんぷ仕掛ノヤウニシタルモアリ。ハブキ。[illegible] 倭名抄、十五、鍛冶具「鞴、布岐加波、吹火也」 [illegible] フイガウ」和漢三才圖會、廿四、百工具 [illegible] 皆用之、吹 [illegible] 也、以狸皮為上」 大和事始、三、器用「鞴 ふいかは、天照大神天窟ニ入給ヒシ時、云云、眞名鹿皮ヲ全剝ニシ、以テ天ノ羽鞴ヲ作ルト舊事紀ニアレバ、是其始ナラシ」 [illegible] 近松作)「トラモ岩鼻ニ小首ヲナゲ、大イキツイダル其ヒビキ、ふいがう吹ガゴトクナリ」

ぶいき (名) |不意氣| 風流ナラヌコト。鄙ビタルコト。ヤボ。不粹。不雅 [illegible] 過稿、九、女扮、上「今世江戸、婦女ノ卑ナレドモ野ナラザルヲ [illegible] 云ヒ、之ニ反スルヲ不意氣、或ハ、野暮(やぼ、野夫訛歟)、京坂ニテハ、不粹ト云」

ふいく (名) |扶育| タスケ、ソダツルコト。養ヒ、[illegible] 幼者ヲ [illegible] 育スルコト [illegible]

ふいく [illegible] 切、[illegible] 覆也 [illegible] 切 [illegible] 也 [illegible] ふく、蓋ふ義ノトキハふト發音ス」 オホヒ、ソダツルコト [illegible]

ぶいく (名) |撫育| ナデ、ソダツルコト。恤ミ、養フコト。イツクシミ、養フコト。[illegible] 「少孤貧、爲外祖徵士何準所撫育」 [illegible] 下學集、下 [illegible] 撫育、ブイク」 [illegible] 記、六、小松殿敎訓父事「君ノ御爲ニハ彌奉公ノ忠勤ヲ [illegible] 撫育ノ哀憐ヲ致サセ給ハバ、神明ノ加護ニ預リ、云云」

ふいご (名) |鞴| 〔ふいがうノ約〕 ふいがう(鞴)ニ同ジ。字類抄「鞴、フイゴ」 [illegible] 職人盡(寶永、近松作)職人盡「皆其次ハふいご吹ク、鍛冶屋ノテコノ衆、テツ、カラリ、コロリ、テンテンカラリノ相鎚モ」

ふいごまつり (名) |鞴祭| 陰暦、十一月八日ニ、鍛冶屋ニテ行フ祭。鑄物師、餝師ニテモ。其守護神トスル稻荷ノ神ヲ祭ルナリ。此夜、子供等集リテ、ほたけほたけト打チハヤシ、蜜柑ヲ撒キ、人ニ拾ハスル習慣アリト。火燒。[illegible] 十、下「[illegible] 小鍛冶宗近カ刀ヲウツ時、稻荷神出現シテ、相槌ウチタル石ノ盤、東山智恩院山門ノ下ニアリト云フ、吹革ヲ用ル家業ノ者、ミナ是ヲ祭ル故ニ、是ヲ吹革祭ト云フ」 古今神祗類編、百、十月「稻荷祭ヲ鍛冶ノスルヲ、鞴祭ト云フ」 [illegible] 宗近、稻荷山ノ神ニ祈テ、名劍ヲ鍛出セシヨリ、代代刀工ノ祠トナリケルトカヤ」 日本歳時記 [illegible] 北條團水)一「鴫タノ汁ノ味噌ヲ石臼ニテ引カセ、吹子祭ニモ [illegible] ナシノ一汁二菜」 定雅の句「鞴祭、月代 [illegible]

ふいち [illegible] 不一 不乙 [illegible] 書 [illegible] テ、其止マル處ヲ筆ヲ以テ誌スコト。不乙ハ、記シテ止マラザル意。言ヒ盡サヌコト [illegible] 結尾ニ用キル語。[illegible] イツ。ふせん(不宣)ノ條ヲモ見ヨ。 [illegible] 淸波別志(宋、周煇)「王右軍帖、多于後結 [illegible] 不具 [illegible]

ぶいち (名) [illegible] 近江國ノ山王祭ニ、四月ノ祭日前七日間、膳所ノ町ニ關所ヲ設ケ、往來ノ車馬船ノ荷物ヨリ取ル割ヲ徴收シテ、祭料ニ供スルモノ

ふいちやう (名) |吹聽| 風聽ノ音轉ト云フ、或ハ、ふきがたりナドノ轉カ」人ニ告ゲ知ラスルコト。披露。多ク吉事ニ云フ) [illegible] 國性爺合戰(正德、近松作)五「一官ハ [illegible] ヲナシ、ヤイ [illegible] ル此一官、命存ヘ何ニナル、母ガ最期ノ健氣ナリトテ、父ニモ語リ吹聽セシヲ [illegible] 編「四五日ハ、嫁ガ嫁ガト、吹聽シ」

ふいつ (名) |不一 不乙| ふいち(不一)ニ同ジ。

ふいと (副) フト。フット。急ニ。[illegible] 元和、安 [illegible] 六、情深キ兒ノヒトハ、[illegible] フ個アリシ、姥ニ及ビテソト來レリ、兒ニコヤカニ、夏衣ヨクコソトアレバ、ソノ言葉ヲ聞クトヒトシク、ふいと立チテユク」

ぶいと (副) ぽいとニ同ジ。

ふいに (副) 不意 〔意(オモ)ハザリキノ意〕 思ヒガケナキ狀ニ云フ語 ニハカニ。急ニ。ダシヌケニ。卒然ニ。卒。 宇津保物語、藏開、下「イト物フビンナリキト申給フ、サテ其日、ふいに人ニサワガレ奉リキ」 源、廿九、行幸「思ヒマカフルコト侍テ、ふいにタヅネトリテ作ルヲ」 蕉風雜話(澁川時英)一「甚ダ鐵砲ノ音ヲ嫌ヒテ、云云、不意ニ玉音ナドスレバ、驚テ飛上ル」

ぶいにん (名) 蕪荑仁。蕪萬仁 藥種ノ名。支那ノ河東、河西、及、高麗山中ニ產ズル蕪荑(ニレ)、其條ヲ見ヨ。ノ莢果ノ仁(サネ)ヲ採取シタルモノ。一種ノ臭氣ヲ放チ、殺蟲ノ效アリト 楡莢 和漢三才圖會、八十一、喬木類「蕪荑仁、和名比木佐久良、云云、辛溫、治三疳積冷痢、去三蟲、化食、治五痔、蟲牙痛者二」

フイフイけう (名) 回回教 〔回回族(Uigurus. 西域地方ノ種族名)ノ此宗教ヲ信仰セシヨリ、支那人ノ回回ノ字音ヲ訛リテ唱ヘシ名ト云フ〕 又、ふいふいけう まほめっと教 Mahometanism.) ニ對スル支那、及、日本ニテノ俗稱。又、いすらむ教 (Islamism.)、もはめっと教 (Mohammedanism.) ナドトモ云フ。西曆七世紀頃、亞剌比亞ニ起リ、教祖ヲ同國め、かノまほめっとト云ヒ、根本經典ヲこうらん (Koran.) ト云ヒ、唯一眞神あらあふ (Allah.) ヲ信仰スル一神的宗教ニシテ、今猶、西部亞細亞、土耳古等ニ信徒多ク、世界ニハ、二億ニ餘リテ、各地ニ分布ス。信徒ハ、生涯ニ一度ハ、必ズ亞剌比亞ノめ、かニ巡禮スル義務アリト。淸眞教 天方教 正字通「回回西域大食國種也、隋開皇中入ニ中國、明丘濬曰、國在ニ天方之下、門闢外葛里ハ其俗尊ニ天、不ニ祀像、航海至ニ廣東、唐時始于ニ其地ニ創ニ寺禮拜、金元以後、遂延ニ中國ニ所ニ至築相禮守、共ニ諸教門者尤篤、今往往有之」

ふいふいと (副) (一)トキドキ物ノ隱見スル狀ニ云フ語。瓜流の句「ふいふいと、日ノ散ル野路ヤ、蕎麥ノ花」 (二)人ノ落チツカヌ狀ニ云フ語 浮世風呂(文化、六年)三編、上「高カ一年限リデ、ふいふいと氣マカセノ奉公ダモノヲ、同ジ酒ナラバ、氣散ジニ暮ス方ガ德サ」

ふいん (名) 封印 ふういん(封印)ニ同ジ。

ふいん (名) 訃音 人ノ死シタルコトヲ、親族、朋友等ヘ、其旨ヲ通知スルコト 又、ソノ通知 訃 訃報 下學集、下、態藝門「訃音、フイン、從言、外告三人死、謂三之訃音、也」 摩訶止觀輔行、八、「白衣事外ヨリ死ヲ告ヲ訃音ト云、玉篇曰、訃、告、喪也」

ぶいん (名) 無音 (一)音信ヲセヌコト。タヨリセザルコト。オトヅレザルコト。無沙汰。契闊。 易林本節用集(慶長)下、言辭門「無音、ブイン」 (二)發言セザルコト。默シ居ルコト。無言 盛衰記、四十六、賴朝義經中違事「聞口是非ノ返事申ス人ナシ、鎌倉殿相待チ給ヘドモ無音ノ間、腹立シテ、イヤイヤ、此中ニハ誰トモ云トモ、梶原計ゾ侍ラン」

ふいり (名) 斑入 (一)斑(フ)ノ入リマジリテアルコト 又、其物 (二)いさは(斑葉)ノ別稱。(安永ノ初ノ頃ヨリ)

ふいり (名) 不入 〔大入(オホイリ)ノ對〕 おほいり(大入)ノ條ヲ見ヨ。

フィルム (名) 〔英語、Film.〕 (一)寫眞術ニテ、せるろいどノ薄葉ノ表面ニ、臭化銀ぜらちんナドノ乳劑ヲ塗リテ製シタルモノ。(二)活動寫眞映寫用ノ原畫。

フィロソフィイ (名) 〔英語、Philosophy.〕 哲學(テツガク)。其條ヲ見ヨ。

ふう (名) 火、燈火ナドノ稱。(小兒ノ語) 俚言集覽「小兒ノ言ニ、火ヲ、ふうト云フ、ふハ火也、うハ韻也、蕪草集、廿、安之布多(アシフタケドモ)、鼬拔、あしふハ蘆火(アシビ)ナリ」

ふう (名) 風 (一)カゼ。空氣ノ動搖スルモノ。「八風」「東風」「暴風」「風雨」 (二)ナラハシ。風俗。風習。 禮記、樂記篇「樂行而倫淸、云云、移風易俗、天下皆寧」 櫻の林 岩瀬信比古)ニ「今ノ世ニ至リテモ、家ノ口傳トイフコトアルハ、文字無カリシ世ノ風ノ殘レルナリ」 同書「太子御別居、昔ノ風ナリ、今御同居ナルハ、里內裏ノ時ノ名殘也」「土地ノ風」 (三)ナリフリ。スガタ。オモムキ。ヤウス。アリサマ。風貌 風采 容姿 人格。 范仲淹、嚴先生祠堂記「先生之風、山高水長」「父ノ風アリ」「長者ノ風」 (四)ウハサ。トリサタ。風聞 晉書、劉毅傳「王公貴人、望ニ風憚レ之」「風ヲ聞キテ皆慕フ」 (五)風ノ草ヲ靡カスガ如ク、君主ノ政教ノ下ニ行ハルルコト。又、其ヲシヘ。教化 風化 風教 書經、說命、下篇「四海之內、咸仰ニ朕德、時乃風」注「風、教也」 戰國策、秦策「山東之國從ニ風而服」注「風、化也」 (六)詩經ノ國風ノコト。一國ノ風化ノアリサマヲウタヘル詩。正風、變風ノ別アリ。 詩序、大序「是以、一國之事繫ニ一人之本、謂ニ之風、言ニ天下之事、形ニ四方之風、謂ニ之雅」 詩經、周南、關雎篇、序「關雎后妃之德也、風之始也、所ニ以風ニ天下、而正ニ夫婦也」「陳風」「王風」 (七)詩ノ六義ノ一。君主ハ下ヲ風化シ、下ハ君主ヲ諷刺シテ、互ニ戒メ合フコト。 詩序、大序「故、詩有ニ六義焉、一曰風、二曰賦、三曰比、四曰興、五曰雅、六曰頌、上以風化下、下以風刺上、主文而譎諫、言之者無罪、聞之者足以戒、故曰風」 (八)病ノ名。身體ノ一部、自由ヲ失フモノ。 左傳、昭公元年「風淫末疾、雨淫腹疾」疏「風氣入身、則四肢有ニ緩急ニ」「中風」

ふう (名) 封 櫃、袋、ナドノ口ニ、主ナラヌ人ハ開クベカラズ、トノ標ニ、紙ニ名ナド記シテ結ヒツケ置クモノ。書狀ノ上包ナルハ、折目、糊目ニ墨ナド引ク。封緘 南史、劉孝綽傳「別本、其字ヲ書シ」 源、四十四、竹河「大臣ノ君ヲ、タマヘバ、云云、カノ御名ノふうツキタリ」 下學集、十二「封ノ字ヲ書ベキ所ニ〆トカク事、コレモ、此間北ニ、封字ノ代リニ近代ハ、急引ノ〆トイフ事有」 浮世物語、四、「今ノ手紙ヲ封スルハ石田三成ニ始リ、前封ハ小野木縫殿介ニ始ル」 春花五大力(並木五瓶)洲崎滿壽屋遊の場「文ヲ勘太衛門ニ渡シ、勘、衛門ハ仁右衛門ノ側ヘ持ツテ行ク、仁右衛門ニ上封ヲ切リテ封ヲ切ル」

ふう (數) 二 一ト一トヲ合ハセタルモノ。フタツ。フ。 享保、近松作、上「筑波根ノ峯ヨリ落ツル瀧ノ白下、一イ、二ウ、三イ、四」 長唄、吾妻由縁巽、羽衣六「花ハ袖ノフリハジメ、ツクツク壁ニ、羽根ヲツク、一イ、ふう、ミイ、ヨオ」

ふう (感) 他ノ談ヲ聞キテ、感動シ、又ハ、悃(アキ)レタル時ナドニ發スル聲。ヘイ。ホウ。ふふん。ふぃん。 春花五大力(並木五瓶)洲崎滿壽屋遊の場「此文ハ、小万サンニ遣ハシテ送リマシタ、ふう、小万ニ屆ケルノカ、左樣テ御座リマスル」

ふう (接尾) 封 書狀、包物等ノ封ジタルモノヲ數フルニ云フ語。 韓愈、左遷至藍關示姪孫湘詩「一封朝奏九重天、夕貶潮州路八千」 李端詩「新春兩行淚、故國一封書」 滿讀書曲山人)三「今日ノハ御菓子デハナイヤウダト、机ノ上ヘ差置ク一封、仲之介樣ヘ、由存ジヨリトノ文章」

ぶう (名) 湯 湯ノ稱 小兒ノ語 (飲用ニモ浴用ニモ) 浮世風呂(文化、三編)三編、下「オ鼻ノ下モババ、チイカラ、ぶうヲカケテお洗ヒ」

ふういん (名) 封印 封ジタル所ニ押ス印形。フウノイン。フイン。 鈐印 世說、德行、上篇「於ニ洛上ニ得ニ除、已數年、廢舊封印如ニ故」 續昆陽漫錄補(青木敦書)「封印內文移一封印內緊要公文、宜ニ酌ニ定章程一也」 勘契備忘記、中、正德五未年

[illegible]

ふういんつき [illegible] 金銀、有價證券ナドヲ緘メ包ミテ、封印ヲナスコト。又、ソノモノ。 八木の話(天保、北越造[illegible])「[illegible]」

ふうう (名) 風雨 (一)かぜト、あめト。 [illegible]
(二)雨、風ノアルルコト。フキブリ。アラシ。アレ。 詩經、鄭風、風雨「風雨淒淒、雞鳴喈喈、既見君子、云胡不夷」[illegible]

ふううきん (名) 風雨針 せいうけい(晴雨計)ニ同ジ。風雨計。

ふううん (名) 風雲 (一)かぜト、くもト。 [illegible] (二)龍ノ風雲ヲ得テ、天地ノ間ニ飛翔スルゴトク、英雄ノ機ヲ得テ雄飛スル機會。 後漢[illegible] 風雲ニ際會ストハ、時機ニ投ジテ、志ヲ逞シウセムトスル豪傑ニ云フ語。 後漢書[illegible]「中興二十八將[illegible]」 (三)事件ノ動靜、事ノ狀、事態。「[illegible]急ナリ」

ふうえい (名) 諷詠 詩歌ナドヲ吟ズルコト。 [illegible]

ふうえふ (名) 楓葉 カヘデノ葉。モミヂノ葉。 [illegible]

ふうえん (名) 風鳶 タコ。トビダコ。 [illegible]

ふうか (名) 富家 かねもち(金持)ニ同ジ。 書言故事(宋、胡繼宗)十、富[illegible]「[illegible]」

ふうが (名) 風雅 (一)ミヤビタルコト。風流。 風俗文選、[illegible]「[illegible]」 (二)詩經ノ國風ト、小雅、大雅トノコト。即チ、詩ノ模範。轉ジテ、詩歌、文章ノ道。 文選、序「[illegible]」 (三)風ト、雅ト。りくぎ(六義)ノ條ヲ見ヨ。

ふうがい (名) 風害 大風ノ吹キ荒レテ被ル損害。風損。風災。

ふうかう (名) 風向 カザムキ。風ノ吹キ行ク方向。

ふうかく (名) 風格 〔風采品格ノ略〕 (一)ヒトガラ。人品。 晉書、庾亮傳「亮美姿容、善談論、性好莊老、風格峻整」世說、德行、上[illegible]

ふうかくし (名) 封隱 封ヲ付ケタルトコロヲ、他ノ紙ヲ以テ隱スコト。 三河行[illegible]ヲ付テ後ハ、封隱トテ、別ノ紙ニテ封ノ上結ニ付之」

ふうがしよう (名) 風雅頌 〔詩經ニハ、國風ト、小雅ト、大雅ト、頌トアリ、故ニ云フ〕詩ノ體裁ニ就キテ云フ語。[illegible]テ、詩經ノ異稱。又、四詩トモ云フ。 詩序、大序「是以、一國之事、繫一人之本、謂之風、言天下之事、形四方之風、謂之雅、雅者、正也、言王政之所由廢興也、政有小大、故有小雅焉、有大雅焉、頌者、美盛德之形容、以其成功告於神明者也、是謂四始、詩之至也」

ふうがはり (名) 風變 (一)風體ノ普通ト異ナルコト。又、ソノモノ。 好色二代男(貞享、西鶴)五「サラバ[illegible]ヤト、始メカラ風變りニ以テ參ッテ」 (二)性癖ノ人並ト異ナルコト。又、ソノモノ。

ふうかん (名) 封緘 「廣韻 緘、封也」 ふう(封)ト云フニ同ジ。 [illegible]

ふうかん (名) 諷諫 他事ニヨソヘテ、ホノメカシ諫ムルコト。遠廻シノ異見。 史記、優孟傳「優孟者、故楚之樂人也、長八尺、多辯、常以談笑諷諫」後漢書[illegible]

ふうかん (名) 風鑑 [illegible] 識見 見識

[illegible]

ふうがん (名) [illegible]

ふうかんはがき (名) 封緘葉書 [illegible]ノ一種。政府ニテ發行ス。通信文ヲ記入シ、折リ疊ミテ封緘ヲナシ、表面ニ宛名ヲ書クヤウニ作レルモノ。

ふうがら (名) 風柄 ヒトガラ。容子。容姿。 [illegible]「[illegible]ドハ見劣リテ、昔ニアラヌ思ヒトナレリ」

ふうき (名) 風氣 (一)氣候。 [illegible] 俗、氣候ヲ云フ。 [illegible]「[illegible]トテ出合レズ」 (四)空氣ノ腸ノ中ニ滯ルモノ。 (五)中風。 [illegible]

ふうき (名) 富貴 富ト、貴キト。又、財

多クシテ、位高キコト　フッキ　論語、顔淵「子夏曰、商聞レ之矣、死生有レ命、富貴在レ天」　淮南子、精神訓「君子義死、而不レ可下以二富貴一留上也、義爲、不レ可下以二死亡一恐上也、彼則直レ於二義耳一」　周茂叔、愛蓮說「牡丹華之富貴者也」　新風雜話(淸川時英)ニ「後世、俗儒、軒冕ヲ論議ニシ、富貴ヲ隣井ニス」　太祇の句「低ク居テ、富貴ヲ保ツ、牡丹カナ」

ふう-き　(名)　風紀　風俗ニ關スル規律　風習上ノ規則　韓愈、祭二鄭常張李友員外一文「分二司憲臺一、風紀由振、遂遷二司農一」「風紀紊亂」

ふう-ぎ　(名)　風儀　(一)上ヨリ教ヘテ、民ヲナラハスコト。又、風習(ナラハシ)ノシツケ。行儀　作法　夏山雜談(平直方)二ニ「風儀ハ、上ヨリ教ヘテ民ヲナラハスノコトナリ、云云、山槐記ニ、風儀竟レ俗、風俗ト見エタリ」　拾集抄、四、第五條「忠臣ハ二君ニ不レ仕ト云、世俗ノ風儀ヲ守テ而ヲオロシ」　(二)風體(フウテイ)、威儀ノ正シキコト。　北齊書、段榮傳「榮弟二子孝言、少警發有二風儀一」　五代史、劉昫傳「劉昫、涿州歸義人也、爲レ人美二風儀一」　王儉、褚淵碑文「遊二道逍乎文雅之圃一、翺二翔乎禮樂之場一、風儀與二秋月一齊明、音徽與二春雲一等潤」

ふうき-ぐさ　(名)　富貴草　ぼたん(牡丹)ノ異名　其條、及、次條ヲモ參見セヨ。　松風村雨束帶鑑(元祿、近松作)龍神風流「花ノ八重菊、富貴草、赤キハ朝日紫ハ、夕日ニ照テ光サス、蝴蝶モ簇ノ翼ヲ揚テ」

ふうき-くゎ(フウキ・カ)　(名)　富貴花　〔周茂叔、愛蓮說「牡丹華之富貴者也」ニ本ヅク〕　ぼたん(牡丹)ノ異名。其條ヲ見ヨ。　富貴草。

ふう-きん　(名)　風琴　(一)おるがん(風琴)ニ同ジ。おるおる(風簫)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。　(二)てふうきん(手風琴)ノ略。

ふう-きん　(名)　風禽　タコ。イカノボリ。　名物法言「風禽曰二紙鴟、紙鳶一」

ふう-キン　(名)　諷經　ふぎん(諷經)ノ條ヲ見ヨ。

ふう-きり　(名)　封切　(一)封ノキリハジメ。　浮世床(文化、式亭三馬)二編、上「土龍ハ、繪入リ讀本ヲ好ミテ、貸本屋ヨリ借リ、本ニテ見ル人、尤モ封切ハ價ガ貴キ故、ズットノアトデ見ル人ナリ」　(二)近時、映畫ヲ最初ニ上映スルコト。

ふう-きり-ぼん　(名)　封切本　新板發行ノ書籍。新刊ノ圖書。

ふうき-ゑいへい(フウキ・エイヘイ)　(名)　風紀衞兵　軍隊ノ營所、又ハ、宿營地ニテ、軍紀、風紀ヲ保持スルタメニ、設クル衞兵。

ふう-くゎ(フウ・カ)　(名)　風化　(一)風ニ曝(サラ)サルルコト。　(二)政治、教育ナドニテ、人人ノ風儀ノ善ク變化スルコト。又、惡シク變化スルニモ云フ。　詩序、大序「上以レ風化レ下、下以レ風刺レ上」　同、小序、豳「七月、陳二王業一也、周公遭レ變、故陳二后稷先公、風化之所レ由、致二王業一之艱難一也」　顔氏家訓(北齊、顔之推)治家篇「夫風化者、自レ上而行二於下一者也」　卯花園漫錄(石上宣續)五「故ニ、自然ト男女ノ性ニモ、荒淫好色ノ者多シ、彼ニ風化シ、生長スルニ從テ、云云、遂ニハ、淫奔シテ相對死ヲナス」　(三)地文學ノ語。溫度ノ變化、大氣中ノ水蒸氣、酸素、炭酸等ノ瓦斯ノ作用、雨水ノ作用、冰結ノ作用ナドニヨリテ、岩石ノ崩ルルコト。　(四)化學ノ語。結晶水ヲ含メル化合物ヲ、空氣中ニ放置スル時、其水分ヲ失ヒテ、粉末トナルコト。「風化作用」

ふう-くゎう(フウ・コウ)　(名)　風光　〔文選、謝眺、和二徐都曹一詩「日華川上動、風光草際浮」五臣注「風本無レ光、草上有二光色一、風吹動レ之、如二風有一レ光也」〕　(一)ナガメ。景色。風景。風色。　駱賓王詩「二春遊地風光少」　張仲素、漢苑行「二月風光變二柳條一、九天清樂奏二雲韶一」　(二)ヤウス。品格　元稹詩「細承二風光一我獨知」　(三)オモカゲ。ヤウス。

ふう-くゎ-さい(フウ・カ・サイ)　(名)　風花菜　草ノ名。すかしたごばうニ同ジ。

ふう-けい　(名)　風景　〔風物光景ノ義〕　(一)けしき(景色)ニ同ジ。風色。風光　王勃、郪縣兜率寺浮圖碑「風恬雨霽、烟霧蔽二大地之容一、野曠川明、風光挾二江山之助一」　趙抃詩「可レ惜湖山天下好、十分風景屬二僧家一」　(二)轉ジテ、風姿、姿態等ノ意ニモ用ヰル。　晉書、劉毅傳「能令二義士宗二其風景一」　風流志道軒傳(風來山人)一「立花ハ一瓶ノ中ニ千草萬木ノ趣ヲ籠ムルト雖モ、釘ニテ打止メ、針金ニテ縛メ直スコト、自然ノ風景ニアラズ」

ふう-けう(フウ・キョウ)　(名)　風教　〔詩經、周南、關雎篇、序「風、風也、風以動レ之、教以化レ之」〕　(一)德ヲ以テ下民ヲ教ヘ化スルコト。風化。教化。　史記、五帝紀、贊「至下長老皆各往往稱二黃帝堯舜一之處上、風教固殊焉」　太平記、廿一、任二遺敕一被レ成二綸旨一事「南朝ノ君臣相議シテ、先帝ニ尊號ヲ獻ル、御在位ノ間、風教多クハ延喜ノ聖代ヲ被レ追シカバ」　(二)風習上ノ教　顔氏家訓(北齊、顔之推)風操篇「無二風教一者、其父已孤、呼二外祖父母一、與二祖父母一同」　(三)風俗ト、教化ト

ふう-けつ　(名)　風穴　(一)支那ニテ、北方ニ在リテ、寒風發生スト想像シタル土地。　淮南子、覽冥訓「徑二躡都廣一、入二日抑節一、羽二翼弱水(當作レ翟)一、暮二宿風穴一」　述異記(梁、任昉)「列禦寇御レ風而行、常以二立春日一歸二乎八荒一、立秋日遊二於風穴一」　(二)高山ノ麓ナドニアリテ、常ニ冷風ノ吹キ出ヅル洞穴。カザアナ。

ふう-げつ　(名)　風月　(一)風ト、月ト。清風ト、明月ト　自然界ノ風物。　南史、褚彥回傳「初秋涼夕、風月甚美」　花蘂夫人詩「君王避レ暑來遊幸、風月橫レ秋氣象新」　(二)風ニ嘯キ、月ヲ眺メテ、風流ヲ樂ムコト。風流。風雅　南史、徐勉傳「勉正色答云、今夕止可レ談二風月一、不レ宜レ及二公事一」　韋莊詩「總得當時好風月、管絃吹殺後庭花」　懷風藻、序「賞二古人之遺跡一、想二風月之舊遊一」　(三)詩歌、文章ノ韻事　十訓抄、下、第十、七十三條「人ハタトヒ和歌、管絃ニスグレタリトモ、才幹ノ愚ニ、風月ノカケヌレバ、ナホシアナヅラハシク、云云」　才藏狂歌集、序(四方赤良)「風月ノオハ更ニモ言ハジ、味噌鹽ノサヘマデモ」

ふう-げん　(名)　諷言　他事ニヨソヘテ云フコトバ。ホノメカスコトバ。

ふう-こう　(名)　風候　(一)カザナミ。風ノモヤウ。　東皐雜錄(宋、孫宗鑑)「江南自二初春一至二初夏一、五日一番風候、謂二之花信風一」　(二)氣候、　杜審言詩「[illegible]風候、寒暄復催」　[illegible]「向レ南風候溫、臘月見二春暉一」

ふう-こつ　(名)　風骨　スガタ。人ノ容子。又、體格。　晉書、赫連勃勃載記「論二其器識高爽、風骨魁奇一、姚興親レ之而醉心」　宋書、武帝紀「身長七尺六寸、風骨奇特、家貧有二大志一」

ふう-さ　(名)　封鎖　(一)封ジ鎖ザスコト。閉ヂテ、出サザルコト　歐陽修、論二史館日曆一狀「錄爲二草卷一、標題月分、於二史院一躬親入レ櫃封鎖、候三諸司供報齊足一、修爲二日曆一」　(二)兵力ヲ以テ、敵ノ外部トノ交通ヲ遮斷スルコト。又、外ニ監視シテ、內ナルモノヲ出デシメザルコト。　(三)海軍ニテ、敵艦ノ航通ヲ遮斷スルコト。閉塞。

ふう-さい　(名)　風采　ヒトガラ。ミカケノヤウス　風姿　漢書、黃霸傳「霸材長二於治民一、及レ爲二丞相一、總二綱紀一、號令風采不レ及二丙、魏、于定國一」　三國志、吳志、諸葛瑾傳「瑾與レ權談說諫喩、未二嘗切愕一、微見二風彩一、粗陳二指歸一、如有レ未レ合、則捨而及レ他」　李白詩「酒後競二風采一、三杯弄二寶刀一」

ふう-さい　(名)　風災　大風ノ吹キ荒レテ被ルワザハヒ。風害。風損。　禮記、月令篇「仲秋、行二冬令一、則風災數起、收雷先行、草木蚤死」　行類抄「風災改元例、正曆、仁平、貞永、正中」

ふうさい (名) 【覆載】 (一)おほふト、のすんト。天ノ萬物ヲ覆ヒ、地ノ萬物ヲ載スルコト。[illegible] (二)轉ジテ、天ト、地ト。天地。[illegible]

フウ-ソウ
ふうさう (名) 【風霜】 (一)風ト、霜ト。[illegible] (二)嚴シク烈シキ狀ニ云フ語。[illegible] (三)トシツキ。星霜。沈佺期詩「鴈塔風霜古、龍池歳月深」[illegible]「[illegible]レ、相州ノ守リテ仕ノ江ヤ、相林ノモトニ住ンテ、久シク風霜ヲ送ル」 (四)世路ノ辛苦。

フウ-ソウ
ふうさう (名) 【風騷】 風ハ、詩經ノ國風、騷ハ、楚辭ノ離騷ノ義、竝ニ詩文ノ模範タリ」 (一)詩文道ノ模範。南史、顔延之傳「[illegible]比興、更出風騷」 (二)詩文ヲ玩ブ風流韻事ノコト。又ハ、詩文ノコト。[illegible]

フウ-ソウ
ふうさう (名) 【風箏】 (一)紙鳶ノうなり。轉ジテ、紙鳶。詢芻錄(明、陳沂)「風箏即紙鳶、又、名風鳶、初五代漢李鄴、於宮中作紙鳶、引線乘風爲戲、後於鳶首、以竹爲笛、使風入作聲、如箏、俗呼風箏」 (二)ふうりん(風鈴)ノ異名。元稹、連昌宮詞「[illegible]風箏[illegible]」

ふうさんろしゆく (句) 【風餐露宿】 〔風ヲ餐ヒ、露ニ宿スル意〕風ニ曝サレ、露ニ濡レツ、原野ニ起伏スル。野宿。陸游詩「老爲世路嘗盡、風餐露宿未覺非」

ふうし (名) 大子 (一)支那ニ、大夫以上ノ稱。論語、憲問篇「子問公叔文子於公明賈曰、信乎、夫子不言不笑不取乎」[illegible] (二)長者、賢者、先生、等ヲ呼ブ尊稱。[illegible] (三)孔子ノ尊稱。[illegible]「孔夫子」 (四)妻ノ夫ヲ呼ブ稱。孟子[illegible]

ふうし (名) 【風姿】 スガタ。ナリフリ。[illegible]松竹風姿鶴性情」[illegible]

ふうし (名) 【風師】 カゼノカミ。風神。風伯。飛廉。爾雅、釋天疏「飛廉、風師」風俗通、祀典篇「風師者箕星也」

ふうし (名) 【諷刺】【風刺】 ホノメカシ、ソシルコト。ウガチ云フコト。ソレトナク、イマシムルコト。アテコスリ。詩序、大序「上以風化下、下以風刺上」[illegible]

ふうし (名) 【諷示】【風示】 ホノメカシ、示スコト 暗暗裏ニ示スコト [illegible]

ふうじ (名) 【封】 (一)フウズルコト、フウヲスルコト。(二)フウジメ。滿元、小三金五郎浮名の立額「コナタハ筆ノタテドサヘ、云云、未來ノ緣ヲ結ビ置ク、文ノふうじニ主サンヘ、女房小三ト嬉シゲニ、書クガ此世ノ筆ノトメ」

ふうじ (名) 【封事】 〔文心雕龍「或上書、或奏狀、慮有宣洩、則囊封以進、謂曰封事」〕 密封シテ上奏スル書 又、ホウジ。[illegible]「新儀式、五、臨時、封事[illegible]」[illegible]ノ政ノタガヘルニ、諫言ヲ奉ルニテアレバ、題詞ニ八、政事部、一「封事、朝廷へ、國ノタメヨカルベキコトヲ申上ルヲ[illegible]封事ト云フ」

ふうじがみ (名) 【封紙】 手紙ナドヲ封ズルニ用ヰル紙。封皮。名物六帖、三、器財、一[illegible]

ふうじきり (名) 【封切】 さすが(刺刀)ニ同ジ。其條ノ(二)ヲ見ヨ。

ふうじ-こ・む ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 【封込】 ふうずニ封ノ條ノ(二)ニ同ジ 源、三十四、下、若菜、下七十「モノノケニ向ヒテ物語シ給ハンモカタハライタケレバ、ふうじこめテ、ウヘ(紫の上)ヲバ、マタ實ニ忍ビテ渡シ奉リ給フ」

ふうしつ (名) 【風濕】【風疾】 りうまちす(流痲質斯)ノ條ヲ見ヨ 風患。[illegible]「遂稱風疾、暗不能言」朝野群載(文久、三善僧康)廿、[illegible]人」 和漢三才圖會、九十二、山草類、[illegible]氣、除風濕、安五臟、久服輕身延年不飢」

フウ-シユウ
ふうしふ (名) 【風習】 ナラハシ。ナラヒ。シクセ。風俗習慣。閑田耕筆(伴蒿蹊)二「風習トイフモノハ、イカニトモスベカラズ、唐山ニテ國國ノ風ヲ論ズルゴトク、吾朝ニテモ、大國ノ人ハ氣象オノヅカラ優ニ、小國ノ人ハ遲シリ」

ふうじぶくろ (名) 【封袋】 ふうづつ(封筒)ニ同ジ。

ふうじぶみ (名) 【封書】 ふうしよ(封書)ニ同ジ。[illegible]文封ずる事「下總トイフ女郎、客ノ方へ遣ス一通ノ眞心、初テ封じぶみツカハシケル」

ふうしん (名) 【風神】 (一)風ノ神。[illegible] (二)[illegible]五歳、風神秀異、祖父璉曰、此兒有異於衆、顧吾年老、不見其長成耳」

ふうしん (名) 【楓宸】 〔漢ノ宮殿中ニ、多ク楓ヲ植ヱシニ起ルト云フ〕 帝王ノ御住居。皇居。禁廷。帝居。[illegible]

ふうしん (名) 【風疹】 傳染性ノ皮膚發疹症 痲疹、猩紅疹ニ似テ、面、[illegible]、手脚ナドニ、小圓形、淡紅色ノ疹ノ發スルモノ [illegible]

ふうじん (名) 【風神】 カゼノカミ。風伯。[illegible]也」天武紀、下、四年四月「祠風神于龍田立野」

ふうじん (名) 【富人】 カネモチ 財産家 [illegible]不知臏之所以美惜乎」

ふうじん (名) 【楓人】 楓ノ老樹ニ生ズル瘤ノ長大ナルモノ。南方草木狀(晉、嵇含)「五嶺之間多楓木、歳久則生瘤癭[illegible]」[illegible]華)四「三才圖會ニ云、楓ノ樹、歳久シクナレバ瘤ヲ生ス、其形、人ノ如クニシテ、[illegible]

テ羽人トナルトゾ」

ふうしんし・せき（名）【風信子石】鑛物ノ名、柱狀、又ハ、錐狀ヲナシ、灰、黄褐、赤褐ナド、種種ナル色ヲ呈ス。無色透明ナルハ稀ナリ。橙黄色、赤色ナルモノハ、寶石トシテ用キラル。

ふうじめ（名）【封目】封ジタル其合ハセ目　嬉遊笑覽、一、書畫「今、封じめニ〆トカク、是引墨ナリ」同、同、同「若、大事ノ用ヲ言ヒヤラバ、封じめニ印判ヲ致スハ苦シカラズ、云云、細川ニ〆ハ、封文ノ上下ハ言フニ不レ及、封目ニ印多ク付クルコトサヘ嫌ヒ給ヒ」　好色二代男(貞享、西鶴)二「今朝オコシタル狀ハト云フ、封じ目ニ印判アッテ、七月廿二日午ノ上刻ト書キツケシヲ切リ破リテ」　春花五大力(寛永五年)二火和町貸座敷住の場「スベテ女ノ人ナニ渡ス文ノふうじめニ、閣カスマイト認メル五大力」　俳諧新選「封じめヲ、蝶ノ尋ヌル、牡丹カナ」(花鳥ト花鳥トノ合ハセ目ヲ、封ジメニ見立ツ)

ふうしめ（名）【封〆】文書ノ封ジ目ニ書ク〆ノ字。貞丈雜記、九、書札之部「禮紙ハ、謹上書ノ時ハ(等輩ニハ謹上ナリ)狀ト別ノ紙ヲ用フ、進上書ノ時(上輩ニハ進上ナリ)ハ友紙ヲ用フルナリ、友紙トハ、狀ト同ジ紙ナリ、又、謹上、進上ト書ク程ナラバ、封〆ヲカカズ、謹上トモ進上トモカカヌ狀ニハ、封〆ヲ〆如此書ナリ」

ふうじゃ（名）【風邪】カゼ。カゼヒキ。かんばう（感冒）ノ條ヲ見ヨ。　後漢書、馬皇后紀「帝幸二苑囿離宮、后輒以二風邪露霧一爲レ戒」　病源論「風邪、寒熱、客二經絡、使二血氣不一レ通」　和漢三才圖會、九十六、蔓草類「南藤、云云、氣味辛溫、治二金瘡痛、去二風邪、強二腰脚、除二痺」　武江年表、五「延享四年十月上旬ヨリ、諸國風邪流行」　天保集成絲綸錄、百六、享和二年三月「風邪流行ニ付、長ク二而出候儀、前供爲レ候而召連候儀、不レ苦候」

ふうじゃう（名）【風情】ふぜい（風情）ト云フニ同ジ　晉書、庾亮傳「風情都雅、過二於所一レ望」　白居易詩「何有二風情一或可レ求」　玲瓏隨筆（安政）「古人ノ風情ヲ學ババ、今人ノ目ニ宜シカルベカラズ」

ふうじゃう（名）【封狀】封ヲシタル書狀　フウジブミ。封書。

ふうしゃ-さう（名）【風車草】あかね（茜）ノ一名。康熙字典、茜「說文、茅蒐也、本草、一名地血、一名風車草、云云、今染二絳茜草也」　和漢三才圖會、九十六、蔓草類「茜草、風車草、云云、和名阿加禰」

ふうしゅ（名）【風趣】オモムキ。アヂハヒ。風情(フゼイ)。　古畫品錄(南齊、謝赫)「戴逵、情韻連綿、風趣巧拔、善圖二聖賢、百工所レ範」　文心雕龍(梁、劉勰)「風趣、剛柔、寧或改二其氣二」

ふうじゅ（名）【諷誦】（一）聲ヲ立テテ讀ムコト。又、ソラヨミスルコト。（二）經ヲ讀ムコト。ドキャウ。フウショウ。フジュ。　拾遺集、廿、哀傷「御諷誦オコナハセ給ヒケル時」　法隆寺記補忘集「歎門、請二諷誦一事」(文明一年)　南游荊語(釋南山)三「眞歌和尚、云云、乃大士ニ祈テ夢ノ告ヲ感ジ、合二衆行道誦二諷此咒二」

ふうじゅ（名）【風樹】〔韓詩外傳、九、「夫樹欲レ靜而風不レ止、子欲レ養而親不レ待」〕父母ニ孝養セムト欲スル頃ニハ、父母已ニ死シテ、奉養シ得ザルコトニ云フ語　風木　梁武帝、孝思賦「仲由念二枯魚、而…歎、吾丘感二風樹一而長悲」　白居易詩「應使二孝子心、皆無二風樹悲二」「風樹ノ歎」

ふうじゅ（名）【楓樹】かへでのき（楓）ニ同ジ　北史、周武帝紀「梁州上言、鳳凰集二楓樹、羣鳥列侍、以レ萬數」　司空曙、贈二衡陽隱帥一詩「石艷湖水搖二寒月、楓樹猿聲報二夜秋二」　西遊記續編(橘南谿)五、唐土に楓樹なき事「頃日我友鶴居氏、長崎ノ御藥園ノ楓樹ノ種ナリトテ、二本需得、携ヘ上リテ、余カ家園ニ植エシニ」

ふうじゅ-の-たん（句）【風樹之歎】又、風樹ノ悲　風木ノ悲　前前條ノ語ヲ見ヨ。

ふうしょ（名）【封書】（一）封ヲシタル書狀　フウジブミ　封狀　戰國策、齊策「遺二太傅、云云、封書謝二孟嘗君、曰、云云」（二）封ジメヲ書クコト。封ヲスルコト。　楓軒偶記(小宮山昌秀)一「訃告ノ書ニ封書スベカラズ、齊居ノ人、開封セマジキ爲ナリト、義公ノ命ナリ」

ふうしょう（名）【諷誦】〔周禮、春官篇、大司樂、註「倍レ文曰レ諷、以レ聲節レ之曰レ誦」〕ふうじゅ（諷誦）ノ條ノ（一）ニ同ジ。　晉書、阮瞻傳「讀レ書不レ甚研求、而默識二其要二」　東方朔、答客難「今子大夫、脩二先王之術、慕二聖人之義、諷二誦詩書百家之言、不レ可二勝數二」

ふうしょく（名）【風色】（一）ケシキ。風景。風光。　何遜詩「寒潭見二底淸、風色極天淨」（二）風モヤウ。天候。　李白詩「遠海動二風色、吹レ愁落二天涯二」　李存詩「安得二片帆隨二風色、一時飛二過洞庭湖二」　韓偓詩「舟人偶語憂二風色二」

ふうじ-らふ（名）【封蠟】蠟ヲ粘バリ強ク製煉シタルモノ。書狀、小包、又ハ、瓶詰ナドノ封ジ目ニ、鎔カシ付クルニ用キル。又、フウラフ。

✣**ふう・じる**（動）【封】ふうず（封）ノ口語。

ふうす（名）【副寺】〔篇海類編「副音富、貳也、佐也」〕僧職ノ一。禪宗ニテ、監寺ニ屬シテ、會計ヲ司ルモノ。フクジ。　敕修百丈淸規、兩序、庫頭(コヂユウ)「古規曰二庫頭、今諸寺稱二櫃頭、北方稱二財帛、其實皆此一職、蓋副二貳都監寺、分二勞也、掌二常住金穀錢帛米麥、出入隨レ時上レ曆」　雍州府志、上、禪僧「長老、首座、東堂、西堂、前堂、云云、都寺、監寺、副寺、典座」

ふう・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）【諷】ホノメカス。他事ニヨソヘテ言フ。ソレトナク、遠廻(トホマハシ)ニ言フ。　詩說(漢、申培)「候人、刺三君多任二非人、國人風レ之」　揚雄、甘泉賦「奏二甘泉賦、以風」注「不二敢正言、謂二之風二」

ふう・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）【封】（一）封ヲナス。フウジル。　漢書、平帝紀、詔「…有レ可レ郤、郤レ之、不可者、不レ得レ已、爲…面封レ之、其…」…マデハ、…ニ、狀ヲサヘ包ミテ封ずるコトナシ」　櫻の林(千…)…「問書ヲ書キ終ヘタレバ、封じテント思フ折シモ」（二）禪僧ノ道力ヲ以テ禁錮ム。封ジ込ム。　諸國里人談(菊岡沾涼)五「開山上人、蛙ノ聲ハ學問ノ妨ナリト封ぜラレタリ、一山ノ蛙今以テ鳴カズ」　源、三十四、下、若菜、下七十「モノノケニ向ヒテ物語シ給ハンモカタハライタケレバ、ふうじコメテ」　十訓抄、下、第十、第六十五條「術者コレヲ聞キテ、龍ノ泣クゾト思ヒテ、心ニ龍ノ聲トドムル符ヲ作リテ、コレヲ封じテケリ」（三）閉ヂコム。　朗詠集、上、春、霞「殘梅北山雪封寒」　即…(石上宅嗣)二「…ノ守封じヤウ有リ、即コノ守ヲ封じ置キ、人ニモ與ヘ、又重ネテ…日ヲ…フ時ノ守モ、コノ時封じ置ク」

ふうすゐ（名）【風水】（一）吹ク風ト、流ルル水ト。風ト、水ト。　杜甫詩「…風水…」　…水…閒…」　…(陽山…)…風水損二羽衣二」（二）陰陽家ニテ、墳墓ノ地ノ善惡ヲ相スル術。風水、宜シキヲ得レバ、子孫榮昌スト云フ。次條ヲモ見ヨ。　郭璞、葬經「葬者乘二生氣一也、氣乘二風則散、界二水則止、古人聚レ之使レ不レ散、行レ之使レ有レ止、故謂二之風水二」　司馬光、葬論「孝經云、卜二其宅兆、非二若二今陰陽家、相山川風水一也」

ふうすゐ-かんよ（名）【風水堪輿】〔風水家ト、堪輿家トナリ〕風水家ハ、邸、家、庭ナドヲ作ル相ヲ見ルモノ、堪輿家ハ墓ノ相ヲ見ルモノ〕山水、方角ナドニ就キテ、吉凶禍福アルヲ見ルモノ。前條ノ（二）ヲモ見ヨ。　錢大昕、恆言錄、古相宅家、郎今選擇家、近世乃以二相宅圖墓者一當レ之」　通俗編「周禮疏、引二堪輿經、黃帝問二天老二事、似言二歷家…」

[illegible]

ふうせい [illegible] 二 風ノ[illegible]オト。謠曲、高砂「草木土砂、風聲水音マデ、萬物ノコモル心アリ」(三)土地風俗ニヨリテ、敎化ノ[illegible]ルコト [illegible]

ふうせい-かくれい (句) 風聲鶴唳 〔唳ハ鶴ノ鳴聲ナリ〕 風ノ吹ク音ヤ、鶴ノ鳴ク聲ヲモ、敵ノ寄スルカト[illegible]ヒテ、驚キ怖ルルコト。極端ニ、オヂ[illegible]キタルコト 晉書、謝玄傳「苻堅衆號ニ百萬ニ列シ陣臨ニ淝水ニ幼度[illegible]云云、[illegible]皆以為王師已至」

ふうぜう (名) 富饒 ふねう 富饒ニ同ジ。

ふうせつ (名) 風雪 (一)かぜト、ゆきト。[illegible] (二)風ノ烈シク吹キテ雪フブキ。[illegible]

ふうせつ (名) 風說 世上ノウハサ。トリサタ。評判。風聞。風評。風言。

ふうせん (名) 風船 人ノ乘リテ、空中ヲ飛行スル具。布帛ノ大ナル球ニ、水素瓦斯ナドヲ滿タセ、下ニ籠ヲ吊シ、コレニ乘リテ揚ガル。輕氣球。

ふうぜん (名) 風前 風ノ吹ク所。[illegible]

ふうせんだま (名) [illegible]球。中ニ氣息ヲ吹入レテ[illegible]玩ブモノ。

ふうぜん-の-ともしび (句) 風前燈 風前ニ曝サレタル燈火。又、ソノ危キガ如ク、物事ノ危クモロキ狀ニ云フ語。風燭 風燈 又、風中燭 風中燈。[illegible]「一生是風前[illegible]」[illegible]十九、[illegible]サメテ、見ルモハカナシ、山里ノ、風のまへナル、窓ノ燈火」

ふうぞく (名) 風俗 〔上所ノ化曰ノ風、下所ノ習曰ノ俗〕 (一)世間ニ古クヨリ馴レ行ハレ來リシ事。世ノナラハシ。シキタリ。ナラヒ。テブリ。風習。 詩[illegible]、周南、關雎[illegible]、序「先王以是、云云、美教化、移風俗」 [illegible] 淮南子、齊俗訓「亂國則不然、[illegible]以[illegible]、[illegible]死以害生、久[illegible]以招行、是以風俗濁於世、而誹[illegible]」 [illegible]俗」 清寧紀、三年九月「[illegible]省風俗」 [illegible]父母兄弟、夫婦姉妹、永不白首」 [illegible]ズレドモ「意ハ違フナリ」云云、風俗トハ、民俗ノナラハシナリ、山槐記ニ「風儀竟爲風俗」ト見エタリ」
(二)身ブリ。ソブリ。動作。日本永代藏(貞享、西鶴)一「年ノ頃、二十三四ノ男、ウマレツキ太ク逞シク、風俗律義ニ」 (三)衣ノヨソホヒ。身ナリ。ヨソホヒ。イデタチ。又、ナリ形。フウ。姿。常磐津、[illegible]下「其ニ引キカヘオ前ノ行跡、緋鹿子ノ扱帶ハ何事ゾイナア、此オ髮ノ結ヒヤウ、コレガ鎌倉御直參ノ風俗デゴザンスカ」 婦女今川(文政、楚滿人)一「妹お[illegible]繁ハ容貌ノミニオズ、姿形ハ櫻ト海棠ヲ二ツ竝ベタル如ク、大家ノ御娘樣ニシテモ恥シカラヌ風俗」西[illegible]作リ眉ヲスル、云云、心アラン人ハ、早ク下リモテユク風俗ヲ改メ直サルベキ事ナリカシ」(四)ふう[illegible]俗の事「コレハ字音ニ、古クヨリふうぞくトイヘルナルベシ、クニブリトカ、クニブリ歌トカイフベケレド、サイフ例モ見アタラズ、カノ難波曲、倭部曲、[illegible]賢、六、上、音曲「風俗ハ諸國ノ國ブリ歌ナリ、拾芥抄ニ目錄アリ、東遊モコノ內ナリ」

ふうぞくうた (名) 風俗歌 又、ふぞくうた。諸國ノハヤリウタ。特ニ、平安朝時代、各地ニ行ハレタル俗間ノ小歌。後、其曲調ノ宜シキモノヲ撰ビテ、朝家ノウタヒモノトセリ。コレニヨリテ、其當時ノ風俗ヲ知ルヲ得。後紀、十二、延曆廿三年十月[illegible]

ふうぞく-がかり (名) 風俗掛 專ラ風俗ノ取締ニ任ズル警察官。風紀掛。

ふうぞくゑ (名) 風俗繪 ウキヨヱ。風俗ヲ題材トシテ畫キタル繪。風俗畫。

ふうそん (名) 風損 大風ノタメニ被ル損害。風災ノ損害。風害。後紀、廿一、弘仁十二年九月[illegible] 紀略、後篇、一、延喜十三年八月「一日、[illegible]損人宅給ゝ物、依ニ仁壽二年閏八月十二日例ニ也」

ふうたい (名) 風帶 [illegible] (一)几帳ノ上ヨリ垂ルル細長キ布帛。(二)掛軸ノ裱具ニ、上ノ方ヨリ垂ルル二條ノ帛製ノモノ。驚燕 掃燕 經[illegible] 記「風帶ノ長サ一尺八寸也」

ふうたい (名) 風體 ふうてい(風體)ニ同ジ。[illegible]座鋪ノタチフルマイ」

ふうたい (名) 封袋 風袋 (一)物ヲ秤ニテ量ル時ニ、其上包、箱、ナドノ目方ノ稱。(內ノ實物ノ量ヲ、正味ト云フニ對ス)「正味、二貫目、風袋、五百目」 (二)轉ジテ、內容ニ對シテ外觀ノ[illegible]ナルコト。無益ナルコト。[illegible]コトナクテ、無用ノ事ニ結構スルヲ、俗、封袋トイフ、張袋、亦包代トモ、風袋トモ書ク」

ふうたう (名) 封套 〔套ハ外函ノ義〕 フウジブクロ。ジャウブクロ。フウツツ。[illegible]

ふうたう [illegible] 風濤 [illegible] なみト、かぜト。風ト波也。 (二)風起リテ、濤ブラキコト。唐書、陸元[illegible]

方傳「元方、云云、式后時、使ニ鄴外ニ方歩ニ游、風濤驟荘、舟人懼、元方曰、吾受ニ命不ニ私、神豈害ニ我ニ」柳宗元詩「華嶽在ニ家、其父世傳、酒不ニ竜、死ニ於風濤ニ」

ふうたく (名) 風鐸 〔羯鼓錄「塔簷懸ニ鈴、因ニ風成ニ聲、謂ニ之風鐸ニ」〕 堂塔ノ軒ノ四隅ナドニ吊ス青銅製鐘形ノ鈴。風鈴(フウリン)ニ同ジ。 宋之問詩「風鐸喧ニ行漸、天花拂ニ舞筵ニ」 李遠、慈恩寺避暑詩「香荷疑ニ散ニ麝、風鐸似ニ調ニ琴ニ」 張耒、宿ニ仲子觀音寺ニ詩「夜久月高風鐸響、木魚呼覺五更眠」 白居易詩「風鐸鳴ニ四端ニ」

ふうち (名) 風致 アリサマ。オモムキ。アヂハヒ。風趣。風韻。 圖繪寶鑑「元、夏文彥」「趙國夫人、云云、猶ニ小詩ニ有ニ林下風致ニ」

ふうちく (名) 風竹 竹ノ、風ニテ、ソヨソヨト音立ツルコト。又、其竹。 杜甫詩「天衢浮ニ絕壁ニ風竹在ニ華軒ニ」 張祜詩「水花秋始發、風竹夏長清」

ふうちん (名) 風鎮 掛物ノ軸ノ兩端ニ懸ケテ、鎭(オモリ)トスル具。玉、石ナド、紐ニ貫キテ懸ク。

ふうぢん (名) 風塵 「風吹き塵起るノ義」 (一)風ニ起ツ塵。 陸機詩「京洛多ニ風塵、素衣化爲ニ緇」 (二)世上ノ雜事。世ノ中ノチリ。俗世。俗世界。 晉書、王戎傳「王戎曰、王衍、神姿高徹、如ニ瑤林瓊樹ニ、自然是風塵表物」 任昉、王文憲集序「哀樂有ニ高世之度、脫ニ落風塵ニ」 (三)世ノミダレ。世ノサワギ。兵亂。 漢書、終軍傳「邊境時有ニ風塵之警ニ、臣宜ニ被ニ堅執ニ鋭、云云」 晉書、陶潛傳「夫風塵之變、出ニ於非常ニ、皆亡國之餘、議不ニ足ニ採、坐見ニ微擢ニ」 杜甫詩「風塵三尺劍、社稷一戎衣」 神武即位前紀七「中洲之地無ニ復風塵ニ」 私記「左和岐」

ふうちゅうのきょく (句) 風中燭 ふうぜんのともしび(風前燈)ニ同ジ。 古樂府、怨歌行「百年未ニ幾時ニ、奄若ニ風中燭ニ」

ふうちゅうのともしび (句) 風中燈 ふうぜんのともしび(風前燈)ニ同ジ。 坐禪三昧經「譬如ニ死時、云云、譬如ニ風中燈ニ不ニ知ニ滅時ニ」 大智度論、二十三「世間譬如ニ風中燈ニ」

フウツ (名) 風通 〔風通ハ風子(フウツウ)ニテ、緞子(ダンツウ)、綸子(リンズ)ノ類、支那、近代音ニアラザルカ(新村出ノ說)〕 (一)ふうつうおり(風通織)ノ略。其條ヲ見ヨ。 (二)薄地ノ縮珍ニ似タル紋織物 地合ニ種種ノ色合ノ絲ヲ使用スレド、紋樣絲ニハ多ク白絲ヲ、時ニハ、金絲ヲ混用シタルモノ。近來ハ殆ドナシ。又、ふうつう。 雅遊漫錄(大枝流芳)四「ふうつ、地色紋品品アリ、ふうつ織カケ各別ユエ、地味絹子トハ違也、尤、上代渡リハ、紋地味トモニ見事也」 雲海、十四「ふうつモ國ノ名也、地ハシュチンニ似テ、ウスキモノナリ、地色サマザマアリテ、多クハ、モンハ白絲也、云云」

フウツウ (名) 風通 (一)もうる(毛織)ノ條ヲ見ヨ。 (二)前條ノ語ノ(二)ニ同ジ (三)次條ノ語ノ略

フウツウおり (名) 風通織 織物ノ一種 練染シタル絹、又ハ、綿ノ經緯絲ニ、二色ヲ使用シ、織物ノ表裏兩面ニ、形狀同ジク、色合ノ異ナル紋樣ヲ表ハシタル二重織物 厚板ノ類ナリト 略シテ、ふうつう 又、ふうつ 嬉遊笑覽、二、中「當用、巾着ヲ豐州ニテふうつうト云ヒ、長崎ニテだらト云フトゾ、今、厚板類ニふうつうト云フモノ、巾着ナドニ用フル故、ふうつう織カ」

ふうつけ (名) 封附 封ヲツクルコト。又、封ヲツケタルモノ。 織留(元祿、西鶴)五「諸道具モ、唆ノ大願ニ、末代物ニシテ、封付ノ銀箱ワタス」 嬉遊笑覽、三、書畫「男ヨリ遣ハス封ジ文ハ、云云、上下ヲ折リカケ、糊付ルハ初心ナリ、文箱ニ入レテ、封付タルナドハ、苦シカラズ」

ふうづつ (名) 封筒 又、ふうとう。書狀ノ上包ミトスル紙袋 フウジブクロ。書狀袋 書簡袋 加籠(カロウ)。封袋(フウタイ) 封皮 嬉遊笑覽、一、書畫「本氏文綺ニ、尺牘封筒圖式等、委シク出タレドモ、世人好ム者モ無カリシガ、近頃ハ俗間ノ手簡、ミナ封筒ヲ用ユルコトトナレリ、是ヲ書簡袋トヨブ」

ふうてい (名) 風體 ナリフリ。スガタ。風采 フウタイ 風姿 梁書、蕭範傳「風體如此、神意斯在」 任昉、齊竟陵文宣王行狀「既尤ニ禁林之求、實標ニ儀形之寄、力竟不ニ足、宣ニ功、風體所ニ以弘益ニ」 博多小女郎浪枕(享保、近松作)中「唐造リ帯ナシノ見世ヲ張リ、風體ハ無人ノ樣ニシデモ、內證ノ榮耀ハ千貫持ト、噂スル程、心得難ク」

ふうてう (名) 風潮 (一)風ニ隨フウシホ 祖珽詩「雲島相接連、風潮無ニ極已ニ」 李商隱詩「春歲生ニ雲物、風潮飮ニ雪根ニ」 孟浩然、舟中曉望詩「掛席候ニ明發、渺漫平ニ往接ニ風潮ニ」 (二)世事ノ成行。時勢ノオモムキ。時勢。

ふうてう (名) 風調 オモムキ。スガタ。風趣。 南齊書、張融傳「以ニ善平生之風調、何至使ニ婦人行哭失聲、不ニ敢ニ暫停ニ」 北史、崔昂傳「昂有ニ風調才識、謇正剛直之名、然好掘ニ上情ニ感激ニ」 白居易詩「依稀風調似ニ文君ニ」

ふうてう (名) 風鳥 〔常ニ飛ブ能ハズ、風アレバ飛ブ、故ニ名ヅクト〕 尾長鳥(オナガ)。又、極樂鳥。大、小、二種アリ。小ノ風鳥ハ、形、小サク、背ヨリ尾マデ紫褐ニシテ、腹ハ、色薄シ。嘴、脚、共ニ黑ク、脇ヨリ尾マデ、長キ羽毛アリ、尾上ニテ、長サ一尺許リ、此羽毛、白ク薄ク柔ニシテ、透徹ス。或ハ、羽毛(タイ)ノ赤ナルト紺ナルトアリ。練鵲 大ノ風鳥ハ、形、相似テ大ナリ。頭、黑クシテ綠光アリ、背ハ紫褐ニシテ、腹ノ色薄シ。背ノ正中ヨリ、粗ク黑キ鐵線ノ如キモノ、竝ビ出デテ、下ニ向ヒ、左右ニ開ケテ、末曲レリ。俱ニ熱帶地ニ產ス。 肖風 [illegible]

ふうてん (名) 風癲 瘋癲 「韻會舉要「瘋、頭風、狂疾也 韻會 癲、同ニ顛、狂也」 モノグルヒ。キチガヒ。狂氣。 辭源「俗以ニ癲狂ニ爲ニ瘋、瘋、神經病之重者ニ」「瘋癲病院」

フウト (名) 英尺 呎 〔英語、Foot.〕 英國ノ尺度ノ名。十二吋(インチ)ノ稱。我ガ曲尺ノ一尺〇〇五厘八二。其二呎以上ヲ數フルニハ、ひいと(Feet)ト云フ。

ふうど (名) 風土 〔風俗土化ノ義〕 其地ノ氣候、地味等。又、ソノ土地ノアリサマ。 後漢書、西域傳「莫ニ不ニ備ニ其風土ニ、傳ニ其怪異ニ」 常陸風土記、序「和銅以後、相繼令ニ國郡進ニ其記ニ、於ニ是天下風土人情、可ニ坐而知ニ也」

ふうど (名) 風度 (一)風力ノ程度。風ノ速度。 (二)ヒトガラ。ミカケノ容子。風采態度 後漢書、竇融傳、論「[illegible]此子之風度、雖ニ同之術無ニ足ニ多者、而進退之禮良可ニ言矣」 宋書、宋世傳「[illegible]風度凝遠、人莫ニ測ニ其量ニ」

ふうとう (名) 封筒 (一)狀箱。 時用雲箋「凡爲ニ帖必用ニ封筒ニ、單帖用ニ小封ニ、柿小封之」 (二)フウヅツ。フウジブクロ。狀袋 封皮 尺牘彙材、一、書啟之式「上ノ袋ヲ封筒ト云フ、中闊サ四寸四分、長九寸八分、兩袖ノ右ノ方ハ闊一寸二分、左ノ方二寸四分、長サ何レモ九寸八分、云云」

ふうとう (名) 風燈 ふうぜんのともしび(風前燈)ノ略。其條ヲ見ヨ。 遼史、耶律和尙傳「人生如ニ風燈石火ニ、不ニ飮將何爲」 晚年洗 蘇軾詩集、五「無常迅速、念念遷移、石火電光、逝波殘照、露華電影、不ニ足ニ以喩ニ」 [illegible]詩「[illegible]百世如ニ風燈ニ」

ふうとうかづら (名) 風藤葛 胡椒科(コセウ)

ノ蔓性灌木ノ名。蔓荊ノ一種、下品ナルモノ。暖地ノ海濱ニ生ズ。莖、柔カニシテ、蔓延ヨリ根ヲ生ジ、葉ハ、[illegible]ニ叢生ニ似テ、厚ク、互生シ、深緑色ナリ。切レバ胡椒ノ香アリ。夏、葉ノ間ニ細ソキ穂ヲ生ズ、長サ一寸許リ、細小ナル白花ノ開ク。子ハ、累累トシテ穂ヲナス、長サ一二寸、大イサ山椒ノ粒ノ如シ。土蓽撥 南藤 和漢三才圖會、九十六、[illegible]

ふうぞく (名) 風疽 りうまちす(流痲質斯)ノ條ヲ見ヨ。

ふうどびやう (名) 風土病 地質、氣候等ノ爲ニ生ズル其土地特殊ノ病、まらりあ病、脚氣ノ如キ是レナリ。 御用留、文久三年七月廿五日「北蝦夷地風土病之儀、御評議」

フウトボオル (名) 蹴球 〔英語、Foot-ball.〕 ふっとぼおるニ同ジ。

ふうねつ (名) 風熱 熱病ノ一。 和漢三才圖會、九十二、[illegible]

ふうのまつ (名) 風松 二の松ノ一稱。はしがかり(橋懸)ノ條ヲ見ヨ。

ふうは (名) 風波 (一)なみト、かぜト。ナミカゼ。風浪。風濤。 史記、閩越王傳[illegible] (二)風ヤ波ノ如ク、動搖シテ煩ハシキモノニ譬フ。イサカヒ。アラソヒ。 莊子[illegible] 朗詠集、下「人間禍福[illegible]家門ニ風波カ絶エヌ」

ふうば (名) 風馬 〔風ハ放ナリ、放逸スル馬ノ意〕ふうばぎう(風馬牛)ノ略。其條ヲ見ヨ。 [illegible]

ふうはう (名) 風砲 空氣ノ力ニテ丸ヲ發射スル銃。空氣鐵砲。空氣銃。 [illegible] 年表、文化年間「鐵砲鍛冶國友藤兵衛能當ト云フ人、云云、風ノ勢ヲ以テ放ツノ鐵砲ヘ、別ニ新意ヲ加ヘ、工夫ヲコラシ、風砲、又ハ、氣炮ト號シテ製シ始ム」

ふうばう (名) 風貌 〔風采、容貌ノ義〕スガタ、カタチ。風姿。 南史、王延之傳[illegible]

ふうばう (名) 風丰 〔丰ハ顏好キ意〕(一)ミメヨキコト。風姿ノ美ハシキコト。 詩經、鄭風、丰篇「子之丰兮、俟我乎巷兮」 (二)ヤウス。容貌。風采。

ふうばぎう (名) 風馬牛 〔左傳、僖公四年「君處北海、寡人處南海、唯是風馬牛不相及也」ノ故事ヨリ出デタル略語。疏ニ「服虔云、風放也、牝牡相誘謂之風、尚書(書經、費誓篇)馬牛其風、此言風馬牛、謂馬牛風逸、牝牡相誘、蓋是末界之微事、言此事不相及、故以取喩不相干也」トアリ〕牝牡互ニ相慕フ強キ本能ニ驅ラレテ、己レノ境界ヨリ遙カ遠方ニマデ逸走スル牛馬スラ相及ビ難キ程、兩地ノ相隔ルコト。互ニ無關係ナルニ喩フル語。略シテ、風馬 陸游詩「八十又過二、與人風馬牛」

ふうはく (名) 風伯 風ノ神。風師。飛廉。 [illegible]

[illegible]

ふうはつ (名) 風發 急ニ、フルヒオコルコト。 [illegible] 風ノ發スル如ク、[illegible]ナドノ、盛ンニ口ヲ衝イテ出ヅルコト。 [illegible]

ふうはん (名) 風範 模範トスベキ風紀。 南史[illegible]

ふうはん (名) 風帆 風ヲ受ケテ、ハシミタル帆。又、其船。 [illegible]

ふうはんせん (名) 風帆船 ホマヘセン 〔西洋形ナルニ、又、よ、と。〕

ふうはり (副) 柔カク輕ク浮ビ、漂ヒ、又ハ、被フ狀ナドニ云フ語。フハト。フハリト。 俚言集覽[illegible]

ふうひ (名) 封皮 ふうとう(封筒)ノ條ノ(二)ニ同ジ。 大明律「[illegible]封皮」

ふうび (名) 風靡 風ノ草木ヲナビカスガ如ク、從フルコト。又、草木ノ風ニナビクガ如ク、附キ從フコト 史記、淮陰侯傳[illegible]

ふうひやう (名) 風評 世ノ評判。ウハサ。トリサタ。風聞。風說。

ふうふ (名) 夫婦 (一)夫ト、婦ト。イモセ。メウト。ツレアヒ。 易經、序卦傳「有天地然後有萬物、有萬物然後有男女、有男女[illegible]

[illegible] 守ル、夫婦ノ君ニテ候フナリ」 (二)匹夫匹婦ノ略。常人。俗人。 中庸、第十二章「君子之道、費而隱、夫婦之愚、可以與知焉」

ふうふう (副) (一)イキゼハシキ狀ニ云フ語。(二)火ヲ吹キオコシ、或ハ、吹キ消ス狀ニ云フ語。

ぶうぶう (副) (一)[illegible]出ス狀ニ云フ語。[illegible] (二)絲引車ノ聲ニ云フ語。

ふうぶつ (名) 風物 〔風光、景物ノ義〕(一)ナガメニ入ルモノ。ケシキ。ケイシヨク。風景。風光。風色 [illegible] (二)其季節季節ノモノ。

ふうふづれ (名) 夫婦連 夫婦ノ、ツレ立チテ行クコト。メヲトヅレ。夫婦同道 [illegible]

ふうぶん (名) 風聞 世ノ噂ニ聞クコト。又、ホノカニ聞クコト。トリサタ。風說。風評。 [illegible]

ふうふやうし (名) 夫婦養子 夫婦ノ々

リヲ、養子女ニスルコト。又、其夫婦。

ふうふ-わかれ (名) [夫婦別] 夫婦ノ緣ヲ絕チテ、他人トナルコト。メヲトワカレ。不緣。離緣。離婚。破鏡。春秋ニ季梓(ニ亭台四)初瀬、上、二「伴ノ事ノ譯有ツテ、丁度オマヘノ四ツノ時、親父ドノトハ夫婦別れ」

ふうぼく (名) [風木] ふうじゅ(風樹)ニ同ジ。陸游詩「早歲已興風木歎、餘生永廢蓼莪詩」劉宰詩「桃李春正華、風木養不ㇾ待」

ふうぼく-の-かなしみ (句) [風木之悲] ふうじゅのたん(風樹之歎)ニ同ジ

ふうみ (名) [風味] アヂ。アヂハヒ。開天傳信記(唐、鄭棨)「唐葉法善、有二道術一、一日會二數朝士一、滿坐思ㇾ酒、忽有二人稱一麴秀才一、突二入座一、少年秀美、議論不ㇾ凡、法善以二小劍一擊ㇾ之、應ㇾ手墜ㇾ地、化爲二瓶榼一、中有二美酒一、共飮ㇾ之、皆曰、麴生風味不ㇾ可ㇾ忘也」　易林節用集(慶長)下、言辭門「風味、フウミ」狂言記、瓜盜人「サテサテ是ハ、風味ノヨイ瓜ヂヤ、手作リカト仰セラレタ」

ふ-うん (名) [浮雲] (一)ウキグモ。漂ヘル雲。淮南子、人間訓「鳳凰翔二於䨓一(?)、乎浮雲一、背負二靑天一、膺摩二赤霄一、翺二翔乎忽荒之上一、徜二徉乎虹蜺之間一」古詩、仲卿妻「文章中裝束、光彩如二浮雲一」魏文帝詩「西北有二浮雲一、亭亭如二車蓋一」(二)轉ジテ、甚ダ慥ナラヌコト。アブナキコト。論語、述而篇「不義而富且貴、於ㇾ我如二浮雲一」(三)悟ノ妨ゲトナルモノニ譬ヘテ云フ語。譬喩集抄、四、第六條「我身ヲ惜ム心ヲハナレ侍ラバヤト思侍レドモ、身ノ浮雲ノアツクソヒ來テ」

ふ-うん (名) [不運] フシアハセ。不幸。薄命。易林節用集(慶長)下、言辭門「不運、フウン」大鏡、中、道隆「隆家ハ不運ナル事コソアレ、ソコタチニ、カヤウニセラルベキ身ニモ非ズ」

ぶ-うん (名) [武運] 戰爭ノ勝負ノ運。又、武士ノ運命。謝朓、酬德賦「奉二武運之方昌一、𫆀二休風之未ㇾ澈」　太平記、二六、長崎新左衞門尉意見事

「山門イカデカ憤ヲ含マザルベキ、神怒リ人背カバ、武運ノ危キニ近カルベシ」「武運長久、武運拙シ」

ふう-ゆ (名) [諷諭・風諭] 他事ニヨソヘテ、ホノメカシ諭スコト。漢書、王褒傳「辭賦比ㇾ之、尙有二仁義風諭鳥獸草木多聞之觀一、賢二於倡優博奕一遠矣」白居易文、自戒「其閒、手笑刺二時之事一」謂二之諷論詩一」太平記、三十九、山名京都發向事「此時松風與」柳、不ㇾ及二道傍花一」ト詩人ノ賦セシ風諫ノ詞、ゲニモト思ヒ知ラレタリ」

ふう-らい (名) [風來] (一)風ノ吹キ來ルコト。李山甫詩「風來花落ㇾ帽、雲過雨沾ㇾ衣」(二)何地ヨリトモ知ラレズ、風ニ吹寄セラレタルガ如クニテ來レルコト。漂到。國性爺合戰(正德、近松作)千里竹「ヤア餓鬼モ人數、シホラシイ事ホサイタリ、身ガ生國ハ大日本、風來トハ舌長シ」「風來人」風來者」

ふうらい-ぼん (名) [風來人] (一)諸方ヲ、サマヨヒアルク人。浮浪人。何處ヨリトモナク來レル人。國性爺合戰(正德、近松作)千里竹「大將トモ覺シキ者、大音上ゲ、ヤアヤア、ウヌハイヅクノ風來人、我ガ高名ヲ妨グル」煙霞綺談(西村白烏)二「元祿、寶永ノ比、難波ノ津ニ、カシク坊トテ、異風ノ道心者アリ、云云、風來人トナリテ、東海道金屋ノ驛、小澤佐七トイフ者ノ家ニ寄宿スル事、年アリ」(二)心定マラヌ人。キマグレナル人。

ふうらい-もの (名) [風來者] ぶらいもの(無賴者)ニ同ジ。無賴漢。日本新永代藏(正德、北條團水)一「ヨシナヤ身ヲ風來者ニナシ、諸親類ニ見限ラルル類、數多ナリ」

ふうらう (名) [風浪] ふうは(風波)ノ(一)ニ同ジ。三國志、魏志、徐宣傳「至二廣陵一、六軍乘ㇾ舟、風浪暴起、帝船回倒」劉禹錫、送二僧仁湖南一詩「船到二湖南一風浪靜、可ㇾ憐秋水照二蓮花一」

ふう-らふ (名) [封蠟] フウジラフ。樹脂ヲ熔カシ、コレニてれびん油ヲ加ヘテ薄クシ、更ニ松脂、赤色ノ顏料、又ハ、白堊ナドヲ加ヘタルモノ。物ノ封目ナド一貼ルニ用ヰル

ふう-らん (名) [風蘭] 蘭科ノ多年生草本。深山ノ樹木ノ幹ノ間ナドニ多ク生ズ。葉ハ、おもと(萬年靑)ニ似テ小サク、長サ二三寸、一莖ヲ出シ、小白花ヲ開ク、末曲リテ、微香アリ。土無クテ生ク。籃ニ盛リ、軒端ナドニ懸ケテ賞ス。五雜組(明、謝肇淛)十、物部二「蘭之種類不一、有二風蘭者一、根不ㇾ着ㇾ土、以二竹籃一懸二之簷際一、時、得二風吹則花發、其葉生與二家蘭一無ㇾ異也」閩補地錦抄、六、蘭のるひ「風蘭、葉ハ長ク、セキセウノ如シ、花白シ、根ヲ竹ノ皮ヲツツミ、中ニツリテ置、風ヲ得テ榮ル也」(?)實時、風蘭生晩香」

ふう-りう (名) [風流] [風聲品流ノ略、剪燈新話(山陽瞿佑宗吉、永樂作)牡丹燈記「風聲品流能擅二一世一、謂二之風流一也」](一)ミヤビタルコト。スキ。風雅。晉書、樂廣傳「天下言二風流一者、以二王樂一爲二稱首一」花蕊夫人、宮詞「年初十五最風流」吟嘯集(宋、宋無)「沈酣鈎州、攜二壺去、我年歸娘、皆遂去、潘方驚以ㇾ詩寄曰、鐵石心腸延二宰祭一、不ㇾ風流一處却風流」古今集、漢序「雖ㇾ風流如二野宰相一、輕情如二在納言一、而皆以二他才一聞」芭蕉遺語集「我門ノ風流ヲ學フヤカラハ、云云、麻衣、ひさご、曠野、炭俵等、熟覽スベシ」柳樽(天明)七編「風流ノ、道ハ寢ボケテ、名ガ高シ」(二)先人ノ遺風。餘澤。流風餘韻。後漢書、王暢傳「士女沾二教化一、黔首仰二風流一、自中興以來、功臣將相、繼ㇾ世而隆」北史、李彪傳「金石可ㇾ滅、而風流不ㇾ泯者、惟誠爲乎」(三)美シク飾ルコト。ハデ。華美。華奢。古事談、一、王道后宮「承長元年大田樂事、云云、裝束或飾金銀、或定二紅帷一、有二風流一、以二冠蓋一爲ㇾ笠、差貫有二風流一」三代制符、建久二年三月廿八日宣旨「諸佛布施施僧過差、非二錦繡一不ㇾ裁、非二金銀一不ㇾ飾、自今已後、永停二風流美麗一」守二儉約、九、女狩、……女ノ風姿タル、風流美麗ハ古今人ノ欲スル所ナリ、而モ古人ハ、善美ニシテ流行ニ合ヒ、意匠ノ精シクシテ野卑ニ非ザレ、乃チ之ヲ風流トモ云フ。(?)雅シモノ。歌舞。フリウ。下學集、下、態藝門「風流、日本俗、呼二拍物一曰二風流一」(?)記、應永廿六年七月十四日「念物拍物如ㇾ例、田向者侍共、山臥ノ負ヲ作、異形風流作ㇾ之」同、應永廿七年正月十一日「今、夜松拍(地下殿原)、拜物風流、已下(?)物官風州下向之儀」、有二其興一、滿濟准后日記、永享二年正月廿五日「畠山風流風流、(?)目了、拵花枝、異形廿人、赤松、京極負子、最前赤仕丁六人、兒、云云、風流善美也」(五)延年舞ニ於ケル演曲ノ種目ノ一。天竺、支那、及、我ガ國上古ノ故事ヲ仕組ミタルモノ。コレニ、大風流、小風流ノ二種アリ。周防國仁平寺本堂供養日記、觀應三年三月、延年次第、十四番、風流、人數(少人十人、若徒十三人)已上廿三人」(六)能樂ニ於ケル狂言方ノ演技ノ一種。主トシテ和泉流ニ傳ハル、千歲掛り、三番叟掛りトテ、十數番アリ。(七)祭事ニ行フ一種ノ舞樂。囃子物ノ風流ノ遺ト云フ)今、筑後、肥前ナドノ地ニ殘ル。會佐說、風流祭ハ、閑愚產ニ、筑紫ノ道ノ後ノ國ニ、風流トイヘル神ワザアリケリ、ソハ八月ヨリ九月ニカケテ、新シネヲ折得テ、初穂ノ懸稅ヲ手向ケ、新醪ノ白酒ヲ醸ミテ、處處ノ產神ノ御社ニゾモノスナル、云云、醒齋語ラハク、今ハ大城ノ御能ニ、云云、蓬萊風流トカ、鶴龜風流ナドヤウニ稱ヘテ、翁、大藏ナドイフ家ノ子ノモノスナル、是ゾ古ノ神祭ニセシ風流ノ、纔ニ殘レルナリケリ、解云、コノ風流祭ハ、古ノ田舞ノ名殘ナルベシ」

ふうりう-がさ (名) [風流傘] 祭事ノ觀覽物ニスル飾リガサ。傘鉾ノ類。看聞御記、應永廿四年九月八日「御香宮(京都伏見)祭禮結構、云云、御所門狹小、風流笠不ㇾ入二門內一」嬉遊笑覽、二、中、器用「風流傘ハ文永加茂祭ノ古畫ニ見ユ、是ハタダ見物ノ爲ニテ、傘鉾ナトノ如シ」

ふうりうぐるま（フウリユウ・グルマ） [illegible]【風流車】 賀茂祭ニ、[illegible]ノ飾シテ行列ニ[illegible]、[illegible]車。百練抄、七、久壽二年四月廿日「賀茂祭、左中[illegible]」[illegible]定家）建永二年四月十六日「賀茂祭、[illegible]、近衞使右少將[illegible]」[illegible]

ふうりうじん（フウリユウ・ジン）（名）【風流人】 ミヤビタル人。風流ノ趣ヲ解スル人。風雅ヲ好ム人、風流客 風流者 [illegible]

ふうりうまつり（フウリユウ・マツリ）（名）【風流祭】 ふうりう[illegible]（風流）ノ條ノ（七）ヲ見ヨ。

ふうりン（名）【風鈴】〔りんハ字ノ唐音〕又、ふりやう ふりやう 鐘ニ似テ甚ダ小サキモノ。内ニ物ヲ垂ル、舌ト云フ 簷ナドニ懸ケ、舌ニ紙ナド添ヘテ、風ニ觸レシメ、其鳴ル音ヲ賞ス。鐸 簷鐸 簷馬 風箏 鐵馬 鐵馬兒 書言字考節用集、七、器財門「風鈴、フレウ、フウリン、一名、簷鈴」 才藏狂歌集、春「草ノ名ハ、櫻トイフゾ、風鈴モ、心シテ鳴レ、入相ノ頃」 滿元、小三金五郎[illegible]使リトカナーソヨト吹ク、風カサソウテ風鈴ノ、音サヘ胸モ後ヤ先」

ふうりンそば（名）【風鈴蕎麥】 其屋臺ニ風鈴ヲ著ケテ、賣リ歩キシ故ニ云フト よたかそば（夜鷹蕎麥）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]品品出ルトアレバ、風鈴そばト夜鷹蕎麥トハ殊ナリトミユ、云云、[illegible]、風鈴そば、夜鷹そばト、似テ非ナルモノナリ、大平ニモリ、上オキアリトイヘリ [illegible]ばトそばト呼バズ、[illegible]守貞漫稿、六、[illegible]、云云、江戸、夜鷹蕎麥ウリノ屋臺ニハ、必ズ一ツ風鈴ヲ釣ル、京坂モ天保以來、釣レ之者アリ [illegible]ニ[illegible]サセ」

ふうりやう（名）【風鈴】 ふうりん（風鈴）ノ條ヲ見ヨ。下學集、下、器財門「風鈴、フウリヤウ、[illegible]」

ふうろ（名）【風爐】 風爐ニ同ジ。

ふうろさう（フウ・ロ・ソウ）（名）【風露草】 げんのしようこノ一種、形狀、相似テ、花大キク、其色ニ紫ト白トアーテ、美シ。[illegible]本草綱目啓蒙、十三、蔬草類「牛扁、云云、尋常ノゲンノシヤウコニ、一種、紅白相雜テ、シボリノ者アリ、至テ美ナリ、又花大ニシテ色ノ異ナルヲ、花戸ニテ、風露草ト名ク、紅色ノモノヲ、べにふうろト云、[illegible]ナルモノヲ、さらさふうろト云、畿ニ縱道アルモノヲ、郡内ふうろト云、又、[illegible]白山ノ産ニ、大葉ニシテ白花ノモノアリ、[illegible]山ニハ、[illegible]葉ニシテ白花ノモノアリ、江州伊吹山ノふうろさうハ、葉ノ形大ニシテ[illegible]ク、[illegible]延布セズ、花大ニシテ[illegible]紅色ナリ、たちふうろ、又、みかゑりふうろトモ云フ」

ふうゐん（フウ・イン）（名）【風韻】 風雅ノアヂハヒ。雅致アルコト。風趣 南史、下瑞傳「[illegible]」[illegible]

ふえ（名）【吭】 のどぶえ（喉吭）ノ略 其條ヲ見ヨ。倭名抄、十八ノ九羽族體「吭、[illegible]」易林節用集（慶長）下、支體門「吭、フエ、吭、同」 和漢三才圖會、十二、支體部「吭、フエ」 太平記、廿六、楠正行最後事「楠次郎、眉間、ふえノハヅレ射ラレテ、拔クホドノ氣力モナシ」

ふえ（名）【笛】〔吹柄、或ハ、吹枝（フキエ）ノ略カト云フ〕（一）吹キテ鳴ラス樂器ノ總名。竹管、又ハ、木管ニ數孔アリ、一孔ヨリ口ニテ吹キ、指ニテ他孔ヲ開閉シテ、曲節ヲナス。横ナルアリ、竪ナルアリ。横笛、[illegible]笛、[illegible]、[illegible]。風俗通「武帝時、丘仲作笛、笛、滌也、[illegible]邪志、納之雅正、長尺四寸、七孔」字類抄「笛、フエ、[illegible]」[illegible]紀、七年九月「流レクル、竹ノイクミ竹、節竹、云云、[illegible]バ、[illegible]ニ作リ、[illegible]」[illegible]、吹キノボル」 萬葉集、二ノ四十長歌「吹キ鳴セル、小角ノ音モ（一云、笛ノ音ハ）、アタミタル、虎ガホユルト」 枕草子、四、四十三段「清政君ノ、笋ノ笙、行成ふえ、經房ノ少將ノ笙の笛ナド」（二）今、專ラ、横笛（ヨコブエ）ノ稱 其條ヲ見ヨ。

ふえ（名）【鰾】【魚脬】 イヲノフエ。今、又、ミツブクロ。ウキブクロ。魚ノ腹中ニアリテ、中ニ瓦斯ヲ充タシ、因ッテ以テ其浮沈ヲ自在ニスルモノ。形、楕圓形ニシテ、皮袋ノ如ク、透明ニシテ中空シク、水泡ノ如シ。倭名抄、十九[illegible]「脬、伊乎乃布江」 名義抄「脬、イヲノフエ」

ふえう（フ・ヨウ）（名）【不要】 ふよう（不用）ノ條ノ（一）ニ同ジ。繪卷枕草子、四、四十三段「笑ヒナマシカバ、ふえうソカシ」

ふえう（フ・ヨウ）（名）【扶搖】（一）爾雅、釋天「[illegible]扶搖、謂之猋」注「猋、暴風從下上」ト。即チ、猋（又ハ、飇）ノ音ナリ」（二）アラシ。ハヤテ 飇 莊子、逍遙遊「[illegible]」[illegible]也、水撃三千里、摶扶搖而上者九萬里」 淮南子、[illegible]「[illegible]」 [illegible]扶搖、[illegible]（三）東海ノ中ニアリト云フ神木 一樹、根ヲ同ジクシ、相扶ケテ生ズル故、又、扶桑トモ云フ。莊子、在宥「雲將東遊、過扶搖之枝、[illegible]」 注「扶搖、東海神木也」

ふえう（フ・ヨウ）（名）【賦徭】〔[illegible]、徭、役也〕ふえき（賦役）ニ同ジ。[illegible]「[illegible]」

ふえき（名）【不易】 カハラザルコト。ス[illegible]、[illegible]、[illegible]、而用ニ天下、下必有レ得、得ニ天下用、此不易之道也」[illegible]「[illegible]」

ふえき（名）【賦役】 [illegible]、[illegible]、徭。徭賦。唐書、百官志「掌識徭書各諸司、其州[illegible]、[illegible]」 其賦役也其[illegible]」

ふえき（名）【[illegible]】（一）[illegible]ノ[illegible]、其條ヲ見ヨ。[illegible]、無射有レ林、耳不レ及也」（二）陰曆、九月ノ異名。[illegible]、四十九、[illegible]

ふえき（名）【夫役】 又、[illegible]、公ノ[illegible]、自治團體ニテ課役ノ一、勞働ノ役務ヲ課スルモノ。

ふえきたい（名）【不易體】 俳諧ノ一體 流行體ニ對シテ、變化ナキモノ [illegible]、[illegible]、三、[illegible]「[illegible]ガ、不易、流行ノ二體ヲ唱ヘ初メシハ、去來抄ニ、正風トイフコトハ、奧羽行脚ノ中ニ工夫[illegible]、[illegible]不易、流行ノ敎ヲ說キタマヘリ」

ふえさし（名）【笛指】 扇子ヲ右ノ帶ノ[illegible]ニ指シ入レオクコト 之ニ對シテ、背ノ帶ニ指スヲ、やなぐひ指ト云フトゾ。夏山雜談（小野高尙）五「蝙蝠、或ハ、扇子ヲ隨身スルニハ、[illegible]持ツトキ、[illegible]中ノ時ハ、[illegible]ニサシ入ルルナリ、右ノ方ヲ腰ニサス時ハ、笛指ト云フ、後ロニサス[illegible]ト云フ、[illegible]ノ腰ニサスハ無キコトナリト」 同、同「蹴鞠ノ時、扇子ハ笛指、矢箙指（ヤナグヒサシ）、或ハ、左ノ手ニ持ツナリ、右ノ手ニハ持タヌモノナリト云ヘリ」

ふえたけ（名）【笛竹】 竹製ノ笛。ふえ（笛）ト云フニ同ジ。轉ジテ、音樂ノ義

ニモ云フ。管絃。 源、廿一、少女「四十「古ヘヲ、吹キ傳ヘタル、ふえたけニ、サヘヅル鳥ノ、音サヘ變ラヌ」 同、五十二、手習「三十五「忘ラレス、昔ノコトモ、笛竹ノ、ツラキ節ニモ、音ゾナカレケル」 後撰集、十三、戀、五、笛をおくるとて「笛竹ノ、モトノ古ネハ、變ルトモ、オノガヨヨニハ、ナラズモアラナン」

ふえ-だけ (名) |笛竹| ふえニ作ル竹材。笛材。 雜字類編、五「笛材、フエタケ」

ふ-えて (名) |不得手| 〔えてノ反〕 其事ニ慣レザルコト。得手ニアラザルコト。不得意。 源氏烏帽子折(元祿、近松作)三、烏帽子折名盡「朝比奈ノ三郎義秀、色黑ク手足荒レ、盛サハリノ荒男、茶ノ湯、連歌ハ不得手ナレドモ」

ふえ-ごう (名) |笛籐| 弓ノ幹ヲ、黑塗リニシテ、籐ヲ赤ク塗リタルモノ。(其樣、笛ニ似タル故ニ云フ) 盛衰記、四十二、下蟲立扇與一射扇事「廿四指イタル白羽ノ矢ニ、笛籐ノ弓ノ塗籠メタル眞中取ッテ、云云」

ふえ-ばしら (名) |笛柱| 能舞臺ノ奧ノ柱ニテ、地謠ノ座ノ端、笛吹ノ座ニ最モ近クアリ。大臣柱ト相對ス。

ふえ-ふき (名) |笛吹| (一)笛ヲ吹ク人。雅樂ノ笛ヲ吹ク役目ノ者。笛伶。笛手 名義抄「笛工、フエフキ」 雅樂寮式「笛工八人」 萬葉集、十六、長歌「歌人ト、ワヲ召スラメヤ、笛吹ト、ワヲ召スラメヤ、琴引ト、ワヲ召スラメヤ」 源、三十四、下、若菜、下「三十三「此ノ笛ふきドモ、マダイトヲサナゲニテ、拍子トトノヘンタノミ強カラズト、笑ヒ給ヒテ」 (二)魚ノ名。やがら(矢柄)ノ條ノ二ニ同ジ。

ふえまき-じる (名) |笛卷汁| 料理ノ名。尺八大ノ竹ヲ型ニシテ造リタル蒲鉾ヲ、斜切、又ハ、車切ニシ、味噌、三番研ノ白水、及、鰹節ダシニテ調理シタル汁ノ實トスルモノ。 貞丈雜記、六、飮食之部「鯉ノ長者、尾花燒、鯉ノ白根アヘ、笛卷汁、其他、名アル料理ノ仕方」

ふえ-まち (名) |笛待| 笛ヲ吹キテ、獸ヲ誘ヒ寄セテ、ウチトルコト。 盛衰記、三十六、鷲尾一谷案內者事「春夏ハネラヒ射、秋冬ハ、ふえまち、落シ、ククリ、押上ゲ、犬山ナド申シテ」

ふ-えん (名) |不緣| (一)緣組ノ離ルルコト。夫婦ノ緣ヲ絕ツコト。夫婦ワカレ。離緣 離婚。 氏家叢書、廿「明和八卯年、私妻、云云、不緣ニ付、雙方申談之上、此度離緣仕候」 大江俊矩記「文化七年八月八日庚寅、渡邊權守方へ、お柔不緣一件ニ付、先達及ニ契約ニ前、云云」 (二)緣ノナキコト。緣組ノマトマラザルコト。

ふ-えん (名) |布衍|敷衍| ノベ、ヒログルコト。ヒキノバスコト。 宋史、范沖傳「上雅好ニ左氏春秋、命ニ沖與ニ朱震ニ專講、沖敷ニ衍經旨、因以規諷、上未ニ嘗不ニ稱ニ善」 張衡、西京賦「芙蓉蓮蒻、彌ニ皐被ニ岡、蔆蔚敷衍、編ニ町成ニ篁」「論旨ヲ布衍ス」

ぶ-えん (名) |無鹽| (一)鹽氣ナキコト。鹽ヲ用ヰザルコト。 涅槃經「食無ニ鹽、名爲ニ無鹽ニ」 蘇軾詩「豈是聞ニ韶解ニ忘ニ食、爾來三月食無鹽」 (二)醃藏ナラザルコト。ナマ。新鮮 盛衰記、三十三、光隆卿向ニ木曾許ニ事「義仲、云云、何レモ生シキ物ヲバ無鹽ト云フゾト心得テ、云云」 東海道中膝栗毛(文化、一九)四編、上「無鹽ノ肴デ、酒デモオ飯デモ上リマアシ」 橘窓自語(橋本經亮)二「コノタケハ木曾ノ無鹽ナリ(木曾谷ノ生ノ茸ナリ)、諏訪ノ國ニハ有ルマジ」 (三)靜岡縣ニテ鮮魚ヲ云フ。 (四)轉ジテ、人ズレセザルコト。ウブ。 梅曆(春水)五「コンナカハイラシイ無鹽ノ娘」 (五)味ノナキモノ。又、醜キモノヲ云フ。 劉向新序、雜事篇「齊有ニ婦人、極醜無雙、號曰ニ無鹽ニ」

❖**ふ-える** (動) |殖| ふゆ(殖)ノ口語。

ふ-おう (名) |婦翁| 妻ノ父。岳父。婦公。外舅。 三國志、魏志、武帝紀「第五伯魚、三娶ニ孤女、謂ニ之撾婦翁ニ」

フォオク (名) 〔英語、Fork.〕 ニクサシ。西洋料理ヲ食マル時ニ用ヰル

ふ-おん (名) |訃音| ふいん(訃音)ニ同ジ。

フォルマリン (名) 〔英語、Formalin.〕 澄明無色ニシテ刺戟臭ヲ有スル藥 百分中、三十五分ノ純ふぉるむ・あるでひどヲ含ム。めちる・あるこおるノ蒸氣ヲ、大氣ト共ニ灼熱シタル銅中ニ通ジテ酸化セシメ、コレヲ水ニ溶解シテ製シタルモノ。殺菌、消毒、又ハ、防腐劑トシテ用ヰラル、

ふか (名) |鱶| 鮫ノ類。其成長シタルモノトモ云フ。子ハ胎生ナリ。喙、長ク出デ、腮、五ツニ切レ、口、頷下ニアリ。皮ニ鱗無クシテ、砂着ケリ。全身、大ナル者ハ二三丈、能ク舟ヲ覆ヘシ、人ヲ食フ。種類多シ 別名、フカザメ シロブカ。メウガザメ ワニ。(鮫ノ條ヲ併セ見ヨ) 鱶 沙魚 鮫鯊 倭名抄、十九、龍魚類「鯊魚、布可」 正字通「鱶、魚名、鯊、乾魚」 和漢三才圖會、五十一、江海無鱗魚「鱶、黃魚、蠟魚、下飯魚、俗云布可、云云、本綱、鱘、海中無鱗大魚也、狀似ニ鱘、云云、按、鱶、小者一二尺、大者二三丈、狀略類ニ守宮蟲ニ而頭扁口、嘴尖、眼大、口在ニ頷下ニ而闊大、有ニ齒牙ニ而最利、云云、其大者、好取ニ人嚙ニ云云、海淵最畏レ之、胎生產ニ於口ニ」 日本永代藏(貞享、西鶴)一「所ハ酒ノ辛口、鱶ノ刺身ヲ好ミ」 松の葉、四、長崎「昔ヨリ今ニ渡リクル黑船、縋カ遠クレバ鱶ノ餌トナル」

ふ-か (名) |府下| 府ノ支配ノ下。一府ノ區域ノ內。「東京府下」「大阪府下」

ふ-か (名) |附加| ツケクハフルコト。附ケ添フルコト。「附加稅」

ふ-か (名) |不可| 可カラズト禁止シ、或ハ、然ルベカラズト否定スルニ用ヰル語。 論語、先進「顏淵死、門人欲ニ厚葬ニ之、子曰、不可、門人厚葬之」 孟子、梁惠王、上「孟子對曰、王好ニ戰、請以ニ戰喩、云云、以ニ五十步ニ笑ニ百步ニ則何如、曰、不可、直不ニ百步ニ耳」 國語、周語、上「穆王將ニ征ニ犬戎、祭公謀父諫曰、不可、先王燿ニ德不ニ觀ニ兵」

ふ-か (名) |負荷| 背ニ負ヒ、肩ニ荷フコト。ふたん(負擔)ニ同ジ。轉ジテ、子ガ先人ノ業ヲ受ケツギテ、其任ニタフルコト 左傳、昭公七年「子產曰、古人有ニ言、曰、其父析ニ薪、其子弗ニ克ニ負荷、施ニ人名ニ將懼不ニ能任ニ其先人之祿、其況能任ニ大國之賜ニ」 潘岳、西征賦「彼負荷之殊重兮、雖ニ伊周ニ其猶殆」 劉子翬詩「況沈ニ玉辰酒、最淺難ニ負荷ニ」

ふ-か (名) |夫家| ヲットノイヘ。

ふ-か (名) |婦家| 妻ノ里方。 北史、隋、蔡王整傳「我有ニ同生二弟ニ、竝倚ニ婦家勢ニ、常憎ニ疾我ニ」 宋史、劉勉之傳「勉之一介不ニ妄取ニ、婦家富無ニ子、謀盡以ニ貲歸ニ子女、勉之不ニ受」

ふ-か (名) |富家| 富ミタル家。ブゲン。モノモチ。カネモチ。フウカ。財產家。 漢書、貨殖傳「新崗街居在ニ齊秦楚趙之中、富家相矜以ニ久賈ニ」 白居易、議婚詩「富家女易ニ嫁、嫁早輕ニ其夫ニ、貧家女難ニ嫁、嫁晚孝ニ於姑ニ」 書言故事(宋、胡繼宗)十「郝隆、七月七日、見ニ富家ニ皆曬ニ曝衣帛ニ、乃出ニ日中ニ仰臥、人問ニ其故ニ、曰、我曬ニ腹中書ニ耳」

ふか (接頭) |深| 他ノ語ニ冠シテ、深キ意ヲアラハス語。 拾遺集、八、雜、上「海ニノミ、ヒヂタル松ノ、ふかミドリ、幾シホトカハ、シルベカルラン」 續千載集、七、誹諧歌「カナ人ノ、野分ニアヘル、深蓑ノ、毛ヲ吹クヨコソ、苦シカルラン」

ぶ-か (名) |部下| 陣ノ部曲ノ下ニ從フモノ。又、手下ノ者ドモ。テシタ。支配下。配下 宋書、百官志「[illegible]、云云、其領兵外討、則營有ニ五部、部有ニ校尉一人、軍司馬一人、部下有ニ曲、曲有ニ軍候一人ニ」

ふかあみがさ (名) |深編笠| 編笠ノ裾廣

ニ、顏ヲ覆フヤウ作レルモノ。(武士、盧無僧ナドノ、人目ヲ避クル爲ニ用ヰシモノナリト) 好色二代男(貞享、西鶴)七「[illegible]ヲ着テ、深編笠ニ竹杖」 生玉心中(正德、近松作)「[illegible]ク、サガハ見付テ、是突ヂャ、突ヂャト招ケバ、チョコチョコ[illegible]月「三春行江、總州小金一月寺、武州青梅鈴法寺門弟[illegible]、云云」

ふかい (名) [深井] 能樂ノ面ノ一。角田川、櫻川、三井寺ナドニ用ヰル女面。(或ハ、深井[illegible]作ル、面作者ノ名カ) [illegible]「[illegible]姫ヤ、ふかいノ面、イカナラン」

ふがい・な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [言かひなしノ上略ふがひなしノ音便] 氣慨ナシ。イクヂナシ。意氣張ナシ。役ニタタズ。 新可笑記(元祿、西鶴)二「人知レズ內談スルニ、惣領某聞キツケ、立腹シテ、我レアリナガラ[illegible]甲斐ナノ[illegible]、サレシハ、世間ノ取沙汰ニ迷フト云ヒ」 日本新永代藏(正德、北條團水)三「女房ニ懸乞ノアテガフ男ノ身ニシテハ、[illegible]なく、サゾヤ[illegible]ノ[illegible]ニアルヘシ」

ふかいり (名) [深入] 程ヲ過シテ入リ込ムコト。 謠曲、春榮「弟ニテ候フ春榮ふか入りシ、ヤミヤミト生捕ラレテ候」「敵地ニ深入ス」

ふかう (名) [不孝] フケウ (一)孝ナラヌコト。孝行セヌコト。 孝經、紀孝行章「[illegible]居[illegible]、亂、爭、不除、雖日用三牲之養、猶爲不孝也」 [illegible]、[illegible]所安、[illegible]、[illegible]命不敬、作命不孝、[illegible]何[illegible] 下學集、下、[illegible]門「不孝、不孝者其子不[illegible]父母之命也」[illegible]日本俗、以不孝字[illegible]勘當之義、似無其理歟」 (二)罪科ノ名。八逆ノ一。 [illegible]、[illegible]刑之屬千、而罪莫大[illegible]不孝」 律疏、名例「八虐、云云、七曰不孝」

ふかう (名) [不幸] (一)[サイハヒナキコト。フシアハセ。不運。薄命。 論語、[illegible]、[illegible]、不幸短命死矣」[illegible] 源、三十一、槇柱「サ思ハル我ガ身ノ不幸ナルニコソハアラメ、ツレナウテ、ミナカノ沈ミ給ヒシ世ノムクイハ」 徒然草、第五段「不幸ニ愁ニ沈メル人ノ、カシラオロシナド」 (二)俗ニ、親族ノ死シタルコト。[凶事] [illegible]

[illegible]人不幸、天下所[illegible] 政、楚滿人)一、一回「アノ御子モ、度度ノ御不幸ニ、力ヲ御落シナサレタモンダカラ、云云」 立路[illegible](林[illegible])[illegible]ノ限リアリテ、家ノ棟ニ上リ、一升ヲ持テ、其坑ヲ叩クコト久シ、是ニテ一村ヘ不幸ヲ知ラスルトゾ」

ふがう (名) [符號] (一)シルシ。アヒジルシ。記號。 (二)數學ニテ、數ノ性質ヲ表ハシ、又ハ、演算上、便宜ノタメニ用ヰル一種ノ記號。例ヘバ、+、−、×、÷、=、a>b、<ナドノ類。

ふがう (名) [富豪] カネモチ。モノモチ。財産家。金滿家。 漢書、卜式傳「是時富豪皆爭匿財、唯式尤欲助費」 八木の話(北越過民)入替兩替の事「入替兩替トイフハ、小手前ノ者ニハ中中出來ヌコトニテ、鴻池屋善右衛門、辰巳屋久右衛門ナドノタグヒ、格別富豪ノスルコトナリ」

ふかうてう (名) 不孝鳥。又、ふかうどり。ふくろふ(梟)ノ異名。其條ヲ見ヨ。 說文「梟、不孝鳥也」 倭名抄、十八、羽族名「梟、布久呂不、食父母、不孝鳥也」

ふかうもの (名) [不孝者] 親ヲ粗末ニスルモノ。オヤフカウモノ。 新內、千日寺名殘鐘、三勝殺切の段「カハイガラシャル半七ヲ、不孝者ト言ハサウト、孝行者ト言ハサウト、コレ、ココガ

ふかうるめ (名) [[illegible]] [illegible]ニ同ジ。
辛抱ヂャ、[illegible]見ヲシテ下サレト」

ふかえ (名) [深江] [illegible]、[illegible]ツ、かえノ、ウナカミノ」

ふ-か-かい (名) [不可解] 解キ得ヌコト。解釋スベカラザルコト。

ふかかうりよく (名) [不可抗力] 人力ニテ、如何トモスベカラザルコト。又、自己ノ力ニテ抵抗スベカラザル自然、又ハ、人爲ノ出來事。オモニ、天變地異ナドニツキテ云フ語。

ふかがはがた (名) [深川形] 裝飾用ノ櫛ノ形ノ一、利休形ニ似テ、背アラキモノ。 守貞漫稿、十、女扮、中「深川形櫛、京坂ニテノ名ナリ、鼈甲ヲ專トシ、又木櫛ニ蒔繪モアリ」

ふかく (名) [不覺] [不覺悟ノ略カ] (一)覺悟ノ慥ナラヌコト。物モ覺エヌサマナルコト。 大鏡、中、道兼「サバカリノ重キ病ヲ受ケ給ヒテケレバ、云云、コトノ外ニ不覺ニナリ給ヒニケリト見エ給ヒナガラ」「前後不覺」 (二)怠リテ、ダシヌカルルコト。油斷。不注意。不覺悟。 平家物語、十一、[illegible]川合戰事「先先ノ日代ハ、皆不覺デコソ與シマレタレ」 (三)シクジリ。失敗。又、ナヲレ。不面目。不名譽。 下學集、下、言辭門「不覺、フカク、失錯之義也」 平家物語、九、木曾最後事「弓矢取リハ、年比日比、イカナル高名候ヘドモ、最後ニ不覺シヌレバ、長キ瑕ニテ候ナリ」 盛衰記、十八、仙[illegible]「[illegible]サル事ハ、高名ニコソ依ル事ナルニ、資行ハ不覺ヲ現ジテ大床ニ上ル」 十訓抄、下、第十、第五十六條「若シ不覺カキタラバ、申シ行ヒタリケル人ヲ射ンガ爲ナリトゾ、答ヘケル」 (四)卑怯ナルコト。臆病ナルコト。 謠曲、[illegible]「身[illegible]ナナキ子

ヲ押シテ、上リカネテゾ休ラヒケル、アア不覺ナリトヨ[illegible]」「不覺人[illegible]」 (五)思ハズ知[illegible]人ノ不覺ノ淚トヤ思シ召スラン」

ふがく (名) [不學] 學問セヌコト。學術ノ素養ナキコト。無學。 禮記、學記篇「人不[illegible]人ノ植ウル種ハ、芽ヲ出ダシ、不學ノ人ノ植ウル種[illegible]不學ノ過ニシテ、[illegible]ガ[illegible]レル所ナリ」

ぶかく (名) [illegible] [illegible]

ぶがく (名) [舞樂] 舞ノ伴フ雅樂。其左方ニ用ヰルヲ、左樂(唐樂ノ一名)ト云ヒ、右方ニ用ヰルヲ、右樂(高麗樂)ト云フ。ががく(雅樂)ノ條ヲモ見ヨ。 [illegible]河南浦ノ庖丁ヲ舞ヒスマシタリケリ」 同、三十二、福原管絃講事「公卿殿上人、家ヲ正シテ舞樂ヲ奏シ[illegible]山藍ノ」 同、鶴[illegible]「每年ノ嘉例ノ如ク、[illegible]ヲ舞ハセラレ、其ノ後[illegible]テ候」

ぶがく (名) [武學] 兵法ノ學問。兵學。軍學。 宋史、職官志[illegible]

ふかくご (名) [不覺悟] ふかく(不覺)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]「フカクゴ」 日本[illegible]、北條團水[illegible]

平ノ御代ニ生レテ、云云、分際相應ノ稼ギ、其ヲ勸メズ、油斷シテ徒ニ日ヲ費シ、無益ニ夜ヲ深ス、サリトハ不覺悟千萬ナリ」

ふかくさ-うちは（名）｜深草團扇｜　山城國、深草ニテ製造スル團扇。柄ヲ別ニ木ニテ作リ、漆ニテ塗リ、端ニ總ヲ付ケテ、團扇ニ塡メタルモノ。　雜俳の句「燒芋屋カ、持テル深草、團扇カナ」

ふかくさ-かはらけ（名）｜深草土器｜　土器ノ一種。山城國、深草ニテ製スルモノ。　雍州府志、七、土産門「土器、或於二深草井上嵯峨二幡枝村一亦製レ之、斯深草元土器師之始也」

ふかくさ-やき（名）深草燒　陶器　山城國、深草ニテ製スルモノ、表面ニハ、押型模樣ヲ出シ、裏面ニハ、ふかくさ、又ハ、深草ノ印アリ。　日本山海名物圖會、四、京深草陶器「人皇二十二代雄略天皇十七年ニ、土師連吾笥ト云人、土器ノ細工人ヲ、山城國伏見村ニ置カルル由、國史ニ見エタリ、其時ノ細工人、今ノ世マデ傳ハリテ、伏見街道ノ土物サイク、西行行脚ノスカタ、或ハ、狐牛ノタグヒ、其外イロイロノ人形、ウツハ物等ヲツクリテ家業トス、其由來久シキ事成ヘシ、庭訓ニモ、深草ノ土器師トアレバ、久シキ名物ナル事知ルベシ」　本朝陶器攷證、六「山城國深草陶器之儀、左ニ、云云、深草燒初發來由之譯、云云」

ふか-ぐつ（名）｜深履、深沓｜　革ニテ作レル深キ沓。雨、又ハ、雪ノ時ナドニ用ヰル。（又、藁ニテ作レルヲモ、云フ）　倭名抄、十二「履襪類「深履、唐韻深頭曰レ履、今案、此間云二布加久豆一深履ハ其深履也」　名目抄「深履、政ノ時用レ之」　枕草子、六、第五十八段「ふかぐつ、ハウクツナド履キテ、廊ノホドナド沓スリ入ルハ、内ワタリメキテ、ヲヲカシ」　孝經樓漫筆、三「令記、四五位牛靴、有レ引帶、有レ華仙二、六位深沓、無レ引帶、無レ華仙二」　貞丈雜記、五、裝束之部「深沓ハ、靴トイフ沓ノ事也、物具抄ニ、靴、深沓、同事歟」

ふかく-にん（名）｜不覺人｜　（一）覺悟ノ慥ナラザル人。　十訓抄、上、第一、第三十條「ワザハヒノ不覺人カナ、シャ、若キ宮ノ子ノ日ニ、カカル歌ヨムヤウヤハアルトゾ云ヒケル」　（二）怠リテ、ダシヌカルル人。油斷シテ居ル人。（三）卑怯ナル人。不覺者。　平治物語、一、源氏勢汰事「御身カ信賴トイフ日本一ノ不覺人ニ同意シテ」　同、二、待賢門軍事「アノ信賴トイフ不覺人ハ膽シタリナ」（四）ソゾロナル人。心ノアサハカナル人。　曾我扇八景（寶永、近松作）十番斬「モッタイナクモ、我君ノ所領ツヒヤス不覺人」

ふがく-ふぶん（名）　不學不文　學問ナキコト　無學文盲　常山樓筆除、一「豐臣秀吉、匹夫ヨリ起リ、大運ニ乘ジテ、云云、海內ヲ治メラレシ、不學不文ニオハシケル程ニ、古ノイミジキ風俗ハ、衰セタル世トナリキ」

ふかく-もの（名）｜不覺者｜　前前條ノ語ノ（三）ニ同ジ。　曾我扇八景（寶永、近松作）十番斬「白洲ニ飛テ降リ、オノレガ樣ナル不覺者ニ、討タレシ父カ運命コソ、口惜シケレ」

ふがく-むぎゅつ（名）｜不學亡術、不學無術｜　學問モ技術モナキコト　無學無藝ナルコト　漢書、霍光傳、贊「光爲二師保一雖二周公阿衡一何以加レ此、然、光不學亡術、闇二於大理一」　宋史、寇準傳「詠（張詠）謂二將レ去、準送レ之郊、問曰、何以敎レ準、詠徐曰、霍光傳不レ可レ不レ讀也、準莫レ諭二其意一、歸取二其傳一讀レ之、至二不學無術一笑曰、此張公謂レ我矣」　風流志道軒傳（風來山人）一「聖人ノ政ナリトテ井田ノ法ヲ行ハバ、百姓共ニハ安本丹ノ親玉ニセラレナン、然レドモ不學無術ニテハ、本ヨリ行フ可キニ非ズ」

ふか-さは（名）｜深澤｜　水ノ深キ澤。　和泉式部集、二「深澤ノ、菰ヲゾ刈レル、君ガタメ、玉ハ衣ノ、袖ニカクラン」　返シ「深澤ノ、菰ハカタミニ、刈リケレド、君ガ涙ノ、玉ゾカカレル」

ふかさは-だ（名）｜深澤田｜　深キ水澤ノ邊ノ田。　和泉式部集、三「深澤田、汀ガクレノ、眞菰

草、キノフ菖蒲ニ、ヒカサレニケリ」

ふか-ざめ（名）｜鱶鮫｜　ふか（鱶）ノ異名。

ふか・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）｜深｜（淺しノ反）（一）下ヘ遠シ。底ニ隔ル。淺カラズ。　源、五十一、蜻蛉「イカデ、カナラズふかき谷ヲモ求メ出デマシト」　萬葉集、廿七「すホキ海ノ、ミナゾコ布可久、思ヒツツ、モ引キ喩ラシシ、スカ原ノ里」「海深し」「穴深し」（二）外ヨリ內ヘ遠シ。奧マリタリ。幽深　竹取物語、上「タダヒトトコロ、ふかき山ニ入リ給ヒヌ」　源、十四、澪標「世ノ中定マラヌ折ハ、ふかき山ニ跡ヲ絕エタル人ダニモ」　同、二十四、上、若菜、上「思ヒヤルカタナク、ふかきマドノ內ニ、云云」「山深し」「奧深し」（三）カリソメナラズ。オモシ。甚シ。｜深重｜　神代紀、下「憂苦甚深」　源、二、帚木「心ふかしヤナド、ホメタテラレテ、アハレ進ミヌレバ、ヤガテ尼ニナリヌカシ」　ふかしハ、カリソメナラズノ意　同、廿八、野分「マコトニシミテ、ふかき所ハ、ナキ人ニナン物セラレケル」（ふかきハ、オモオモシキノ意）「交深し」「契深し」「欲深し」「深き仇」（四）時刻、年月ヲ經ル、タケナハナリ　フケテアリ　玉葉集、五、秋、下「初瀨山、ヒバラガ嵐、鐘ノコエ、夜ぶかき月ニ、スマシテゾ聞ク」　萬葉集、四四二十長歌「年深く、長クシイヘバ」　同、三二七十「昔看シ、舊キ堤ハ、年深ミ、池ノ渚ニ、水草生ヒニケリ」

ふかし・い（形）｜深｜　ふかし（深）ノ訛リタル口語。　夢想兵衞胡蝶物語（馬琴）前編、少年國「假名手本ノ二三本モアグレバ、ハヤ物ノ用ニタツコトト覺エ、貧乏人ノ子ニ、ふかしいコトハイラヌモノヂャト、師匠ニコトワリ云ウテ、年季奉公ニ出シタ所カ、我家ニ遣ンデヰル樽ニハアラズ」

ふかし-いも（名）｜蒸薯｜　フカシタル薩摩薯（燒薯ニ對ス）又、フカシタル芋。　守貞漫稿、二十六、雜服「フカシ立ノ薩摩芋、京坂ハ今モ專ラ蒸芋ヲ賣ル」

ふかしぎ（句）｜不可思議｜　（一）佛經ノ語、暗シテ、不思議、思ヒ測ルベカラザルコト。心ヲ以テ思ヒ、口ヲ以テ議スベカラザルコト。　維摩經、六、不可思議品」　華嚴義疏「不可思議者、智中亦名二不思議一也」（ほかに不明瞭な注記あり）　一、於二中分別一謂二無二莊嚴一、聰實、不可思議」　謡曲、竹生島「六人ノ觀ノ悲シミノ、不可思議ナルアハレミニヤ、虛空ニ聲アリテ、竹林ノ七賢、竹故消ユルミドリ子ヲ、云云」（二）フシギナルコト　怪シキサマナルコト。　著聞集、十六、興言利口「葦毛ナル馬ノ、ふかしぎナルニコソ乘リテ候ヘト云ヒケレバ、云云」

ぶかすら（名）｜武頭｜（步卒ノ頭ノ義）ものがしら（物頭）ニ同ジ。足輕頭。　奧羽永慶軍記、二十一、長谷堂合戰、城中ノ物頭ニ、大風左衛門尉樋口尾解由ト云フ者」

ふか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）｜深｜「深ケシムル意」　夜ノ深クルマデ起キテアリ。　源、六、葵「シノビテ、イタウ夜ふかしテモテ參レリ」　とりかへばや物語、一「サリヤ、夜ヲタニふかし給ハヌサマ、コノ人ノ御心ナロカニ、云云」　俳諧新選、借着シテ、ふかす、夜ヤ、鹿ノ聲」

ふか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）｜蒸｜（化ケシムル意）　蒸シテ熟セシム。甑、蒸籠ナドニテ蒸ス　ウムス。ムス。　守貞漫稿、十六、雜服「ふかしタテノ薩摩芋」

ふか・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）｜𧜎｜（𧜎ヲ活用ス）　力、力む　濕氣、濕氣る　ノ類）　𧜎ヲ出ス　フクラマス　色道大鏡（延寶、箕山）丹前風の裝衣「身ノ裾蹈ク、小裾高シ、裏ヲ深クふかせテ」

ふか-ぜり（名）｜深芹｜　根ノ深ク生ヒタル芹。　拾遺集、七、物名、あらふねのみやしろ「觀モ葉モ、ミナ綠ナル、深芹ハ、洗フ根ノミヤ、白ク見ユラン」　謡曲、求塚「澤邊ナル、木芽ハ、ウスク殘レドモ、水ノ深芹カキ分ケテ、青緑、色ナカライザヤ摘マウヨ」

ふか-そぎ（名）｜深除、深削｜　（髮ヲ少シバ

[illegible]ヲ撰ム[illegible]ト云フ、[illegible]、深ソギト云フハ、吉ニ轉ジテ云フナリト云フ」(二)中古、童女ノ髮風。髮置ノ後、散髮ノ末ヲ、肩ノ邊ニ比[illegible]、[illegible]切ルコト。[illegible]まそぎ。二水記、永正十四年十一月廿五日「今日[illegible]、若君[illegible]三歳[illegible]ハ[illegible]髮子、九歲ノ御グシソガセ給フ、殿(道通)ソそき參ラセ給フ」嬉遊笑覽、一、下、容儀、萬葉略解ニ、兒四歲[illegible]ソメテ[illegible]そぎ[illegible]イフ、[illegible]、云云、八歲ノ[illegible]サズ」(二)[illegible]、小兒[illegible]ノ時、髮ノ先ヲ少シ剪ル祝儀。看聞日記、應永廿[illegible]十二月廿七日「今夜[illegible]、井[illegible]前ぎ[illegible]、[illegible]之[illegible]「ふかそぎトイフ祝ハ、小兒五ツノ年、生エ揃ヒタル髮ノ先ヲ少シハサム祝ナリ、髮ハサム役人ハ、髮置ノ時、しらがヲ冬ラセシ人ノスル事ナリ、云云、吉方ニ向ハセ申シテ、鋏ヲトリテ、髮ノ先ヲ鋏ミテ紙ニ包ミ、打敷[illegible]、[illegible]タル髮ハ川ヘ流ス也、是モ髮ノ長クナル事ヲ祝フナリ、男女同ジ」

ふかだ (名) 深田 泥深キ田。沼田。フケダ。[illegible]、上、九年七月[illegible]田[illegible]行」[illegible]九、[illegible]ハカリノ頃ナルニ、薄氷張ッタリケリ、深田アリトモ知ラズシテ、馬ヲサット打入タレバ、馬ノ頭モ見エザリケリ」

ぶかっこう (名) 不恰好 恰好ノ善カラヌコト。形ノ見惡キコト。

ふかって (名) 不勝手 (一)勝手惡シキコト。都合ワルキコト。不便。(二)生計ノ困シキコト。家政ノ不如意ナルコト。日本所[illegible]代[illegible]正[illegible]六、萬事[illegible]上[illegible]、[illegible]持、[illegible]、サレバ何時トナク[illegible]上ふか[illegible]分[illegible]」[illegible]民[illegible]モ其ニ引付ケラレテ、[illegible]ハ下リ勝ニテアリシト

[illegible]コト、[illegible]ニテ、[illegible]十分ニハ[illegible]カヌ[illegible]ナリ」

ふかつみ (名) [illegible] 深之[illegible]ノ略[illegible]草ノ名。たがらし(田枯)ノ古名。其條、及、うまのひたひぐさ(牛額草)ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]小寶[illegible]如[illegible]云云」

ふかづめ (名) 深爪 爪ヲ肉ノ際マデ切ルコト。女鏡(慶安)「爪ノ切リヤウ、ふか爪好ミ給フベカラズ」

ふかで (名) 深手 甚シク被レル傷。重手。又、闘ニ重キ疵ヲ受ケタルコト。重傷。痛手。「淺手ニ對ス」 太平記、三十三、[illegible]、宮ハ三所マデ深手ヲ負ハセ給ヒケレバ」

ふかとく (名) 不可得 佛教ノ語。(一)求メテ何モノモ得ヘカラザルコト。何モ手ニ入ラザルコト。永嘉、證道歌「不可得中、得[illegible]」(二)空ノ異名。諸法ノ空無ニシテ、所得ノ實體ナキヲ云フ。涅槃經、德王品「一切諸法本性自空、何以故、一切法性不可得故」金剛經「須菩提、過去心不可得、現在心不可得、未來心不可得」法華玄[illegible]「不可得、即是理也」大職冠(正德、近松作)三「アリトモ無シトモ、手ノササレヌ不思義、不可得ノ妙理ヲサシテ、寶ヲ名付ケシモノナラント、推量セシニ違ハズ」

ふかの (名) 深野 草深ク茂リタル野。萬葉集、一「タマキハル、宇智ノ大野ニ、馬竝メテ、朝フマスラム、ソノ草深野」

ふかのう (名) 不可能 成シ得ベカラザルコト。人力ニテ出來ザルコト。

ふかのひれ (名) 鱶鰭 鮫、又ハ、鱶ノ鰭ヲ採リテ、皮ヲ去リ[illegible]支那ヘ送ル、其國ハ[illegible]食用ス、黃、白ノ二種アリ、[illegible]金絲菜[illegible]ト云フ、[illegible]鱶菜[illegible]のひれト云フ、[illegible]、色[illegible]云フ、黃白二色アリ、[illegible]シテ光アリ、長サ一二三寸、一頭尖リテ針ノ形ノ如シ、[illegible]ナリ」俚言集覽「ふかのひれ、四條流庖丁書、コノひれノ名ヲバ、しらおトモ申ス」

ふかバチ (名) 深鉢 京都ニテ、どんぶり鉢ヲ云フ。

ふがひなし・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 腑甲斐無 ふがいなしノ條ヲ見ヨ。

ふがふ (名) 不合 和合セザルコト。不和。又、家風ニ合ハヌコト。大鏡、中、[illegible]「人ノホドモ、ヤンゴトナクオハシマシシカド、ふがふニオハストテ、カカル今北ノ方ヲマウケテ」

ふがふ (名) 符合 (一)割符ノ相合ヘルコト。(二)物ノ寸分タガハズ相合フコト。相符。符同。宋書、[illegible]志、四、[illegible]「[illegible]、符合如[illegible]」下學集、下、[illegible]門「符合、フカフ」[illegible]林[illegible]用集、[illegible]下、[illegible]門「符合、フカフ」[illegible]集、[illegible]、云云、[illegible]符合[illegible]ノ化身ト云フコト、コレヨリ符合スルトコロナリ」

ふかふか (副) うかうか、浮浮ニ同ジ。或ハ、うかうかト讀[illegible]意ニ[illegible]本地(寶永、近松作)一「カカル御[illegible]モナク、ふかふかト[illegible]中心中ノ[illegible]、ふかふかト物語リ」

ふかぶか (副) 深深 [illegible]ノ加賀笠ヲ、眉ふかぶかト着ナシツツ、ナマメキア[illegible]」

ふがふが (副) [illegible]ノ漏ルル狀ニ云フ、[illegible]セニ、舌柱ア咬リカカレテ、ふがふが言ッテ、ヒユムノ、ヒユマヌノト吐シャアガル」

ぶかぶか (副) (一)人ナドノ肥滿シタル狀ニ云フ語。ブクブク。(二)モノノ寬闊シタル狀ニ云フ語。(三)中ノ空洞ナルモノノ、水ニ浮ベル狀ニ云フ語。

ふがふかく (名) 不合格 [illegible]ニ合ハザルコト。試驗、[illegible]ニ云フ。

ふかぶん (名) 不可分 物ヲ分ツベカラザルコト。分割スベカラザルコト。「不可分債權」

ふがふり (名) 不合理 道理ニ合ハザルコト。又、眞理ニ合致セザルコト。

ふかべり (名) 深縁 疊、筵、蓙ナドノ縁ノ、廣ク[illegible]タルモノ。[illegible]リヲ廣ク差タルヲ云フナルベシ」

ふかま (名) 深間 (一)水ノ深キ處。フカミ。「ふかまニハマル」(二)男女ノ情交ノ、親密ナルコト。又、情交深キ間夫。[illegible]カリハ[illegible]モノヂャ」

ふかみ (名) 深 (一)水ノ深キ處。フカ[illegible]

爲也」「深みニハマル」(二)物事ニ深入リシテ、脱レガタキ態　フカマ

〰**ふかみ-ぐさ** (名) 深見草　(一)(二)〔樹木ノ深ミニ、生フルヲ以テ名トス」〕(一)やぶかうじ(藪柑子)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。(二)〔ぼたん(牡丹)ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、廿五草類「牡丹、布加美久佐」本草和名、上、十一「牡丹、布加美久佐、一名、也末多知波奈」和名善異「牡丹、布加美久左」出雲國風土記、意宇郡、諸山野所在草木、云云、牡丹(フカミグサ)」千載集、十一、戀、一「人知レズ、思フ心ハ、ふかみぐさ、花サキテコソ、色ニ出テケレ」新古今集、八、哀傷「六條攝政カクレ侍リテ後、植ヱオキ侍リケル牡丹ノ咲キテ侍リケルヲ折リテ、女房ノ許ヨリ遣シテ侍リケレバ、形見トテ、見レバ歎キノ、ふかみ草、ナニナカナカノ、匂ナルラン」梅村載筆、林(存信)人巻「牡丹ヲふかみ草トモ、はつか草トモ云」

ふか-みどり (名) 深綠　綠ノ濃キモノ。濃綠色。後撰集、一、春、上「深みどり、トキハノ松ノ、蔭ニ居テ、ウツロフ花ヲ、ヨソニコソ見レ」拾遺集、八、雜、上「海ニノミ、ヒヂタル松ノ、ふかみどり、幾シホトカハ、シルベカルラン」榮花物語、二十八、松の下枝「[illegible]島江ノ、岸ニヒマナキ、ふかみどり、君ガ御幸ヲ、まつニゾアリケル」

〰**ふか-みる-の** (枕) 深海松　〔海底深ク生フル海松ノ意カト云フ〕　深む、見るト云フ語ノ枕詞。同音ノ語ヲ、重ヌルナリ。萬葉集、二十九長歌「深海松乃、深メテ思ヘド、サヌル夜ハ」同、六十八長歌「浦回ニハ、ナノリソヲ苅リ、深見流乃、見マク欲シケド」

〰**ふか・む・ムル・ムレ・メ・メヨ** (他動、下二) 深　深クナス。フカクス。萬葉集、十二、廿「大海ノ、底ヲ深目而(フカメテ)、結ビテシ、妹カ心ハ、疑ヒモナシ」同、十六、十「カクノミニ、アリケルモノヲ、猪名川ノ、奥(オキ)ヲ深目(フカメ)テ、吾ガ念ヘリケル」

ふ-かん (名) 俯瞰　高キ所ヨリ、見下(ミオロ)スコト。下瞰「俯瞰圖」

ふ-かん (名) 不堪　〔不堪能ノ略〕　藝ニ堪能ナラヌコト　易林節用集(慶長)下、言辭門「不堪、フカン」徒然草、第百三十四段「無智ニシテ大才ニ交リ、不堪ノ藝ヲモチテ堪能ノ座ニツラナリ」同、第百五十段「天ノ下ノ物ノ上手トイヘドモ、初メハ不堪ノ聞エモアリ、ムゲノ瑕瑾モアリキ」

ふ-かん (名) 浮桿浮竿　〔英語、Rod-float. ノ譯語〕　水流ノ縱直面ニ於ケル全水深ノ平均流速ヲ測ルニ用ヰル桿。多クハ徑二吋許リノ木棒ニテ、下端ニ重錘ヲ附ケ、水中ニテ縱直ノ位置ヲ保チ得ルヤウニ作ラル。

ぶ-かん (名) 無勘　盲人ノ勘(カン)ノワルキコト　轉ジテ、行歩ニ堪ヘザルコト。歩ミナヤムコト。俚言集覽「無勘、盲人ノ勘ノ善カラサルヲ無勘ト云、(諺草) 歩艱、人ノ行歩ニ堪ザルヲぶかんト云ハ此字ナリ、あゆみなやむト謂ムベシ、愚案、此歩艱ノ字ヲ充シハ、イカガアルベキ」

ぶ-かん (名) 武鑑　武家(大名ナド)ノ姓名、紋所、知行高、家來ノ姓名(重職ノモノ)ナドヲ記載シタル書物。太平武鑑、鎌倉武鑑、天保武鑑ノ類。

ふかん-でん (名) 不堪田　水旱等ニテ破損シテ、耕スニ堪ヘズナレル田地。又、不堪佃田(フカンデンデン)。次條ヲモ見ヨ。紀略、後篇、十、長保三年十二月七日「甲寅、奏二諸國不堪田一」閏十二月七日甲戌「不堪田定奏」　主稅寮式「其國司解申不堪佃田事」

ふかんでん-の-そう (名) 不堪田奏　古ヘ、毎年九月ニ、不堪田ノ坪附(ツボツケ)ヲ、國司ヨリ太政官ニ奉リ、大臣以下、コレヲ議定シテ奏聞スルコト。コレヲ官奏(クワンソウ)ト云ヒ、又、不堪佃田の奏トモ云フ。年中行事歌合、廿六番、不堪田奏(九月)「此秋ハ、千町ノヲシネ、數ソヒテ、作るにたへぬ、坪ヅケモナシ」云云、右、不堪田奏トテ、諸國ノ田ノ損ジテ作ルニ堪ヘヌ所所ノ目錄ヲシテ奏レバ、其ニツキテ租稅ヲ、分一ナド免ジ給フ事ノ有シナリ、綱ニ諸國ヨリ坪付ヲ奉レバ、大臣陣ニ參リテ定申シテ、諸國ニ施行シ侍ル也」紀略、後篇、十、長保三年十二月十七日、奏ニ諸國不堪田、閏十二月七日甲戌、不堪田定奏」北山抄、三、官奏事「裏書、關白殿御記、國國乃申セル當レル年、作爾不堪ル田乃坪付乃文、諸卿加久定申セリ」

ふ-がら (名) 麩殼　麩ヲ製造スル時ニ生ズルカス。柳樽(天明)二編「麩殼マデ、入レレバ、八色唐辛」(辛ヲ增スタメニ、奸商ノヒソカニ混入シタルモノ)

ぶ-がり (名) 歩刈　つぼかり(坪刈)ニ同ジ。地方凡例錄、三、遠見檢見、坪檢見、准合之事「准合ト云ハ、村內離レ耕地カ、或ハ、新田場所等、別ニ歩刈可致處、不田歩刈之合毛ニ而請ケ度ト望願ヒ、又ハ、村村入組タル田場一ケ村致ニ坪刈一外村モ其通之合毛ニ而請度段相願ヒ、別段ニ歩刈不致、隣村之合毛通リ歩刈帳ニ記ヲ准合トイフ」

ふき (名) 袘　〔裏ヨリ表ヘ吹き出ヅル意〕　袷、又ハ、綿入ノ衣ノ裾ニ、裏ノ布帛ヲ表ヘ折返シテ、緣トシテ縫ヒツケタル處。フキカヘシ。儀禮、士昏禮篇、注「袘謂、緣、袘之言施、以ニ緇緣ニ裳、象ニ陽氣下施一也」書言字考節用集、六、服食門「袘、フキ」守貞漫稿、十三、男服、中「裏ノ表ニ出ル大略一寸餘也、俗ニふきト云、衣服ノふきハ大略四分」(一寸餘ハ、どてらノふきヲ云フ)同、十六、女服「女服之吹、袷ハ五分」

ふき (名) 蕗　〔ふふきノ約〕　(一)古クハ、フフキ。菊科ノ多年生草本ノ名。山野ニ自生スレドモ、又、畠ニ植ヱテ蔬菜トス。冬春ノ交、宿根ヨリ、先ヅ花莖ヲ生ズ、初生ハ、大キサ大指ノ如ク、薄青シ、蕗の薹(トウ)ト云ヒ、(款冬花)　食用トシテ賞ス、苦味アリ。春、高サ四五寸、梢ニ黃白花ヲ開ク。別ニ莖ヲ出スコト一二尺、葉ノ初生ハ、ところ(野老)ニ似テ、又尖ナク、大ナルハ牛蒡ノ葉ニ似テ圓シ　莖、青白ニ紫ヲ帶ブ、若葉ノ皮ヲ剝ギテ煮テ食フ、亦、苦味アリ。款冬(…)　倭名抄、十七、園菜類「蕗、崔禹錫食經云、蕗、音路、和名布布木、葉似ニ葵而圓廣、其莖可ニ噉之」字鏡、六「蕗、不不支、葉同」名義抄「蕗、フキ」和玉篇「蕗、フキ」林逸節用集「蕗、フキ、款冬、フキノタウ」書言字考節用集、六、生植門「款冬、フキ、蕗、フキ」(二)ふきぐみ(蕗組)ノ略

ふ-き (名) 不羈　〔羈ハつなぐ義〕　(一)馬ノ荒レテ、羈(ツナ)ギ止ムルコト能ハサルコト。(二)才識、衆ニ越エテ、抑ヘラレサルコト。非凡。跌宕。漢書、司馬遷傳「僕少負ニ不羈之才、長無ニ鄕曲之譽」韓愈詩「惠師浮屠者、乃是不羈人」

ふ-き (名) 不軌　〔漢書、賈山傳、注「軌、謂ニ法度、故凡不レ循ニ法度一者、謂ニ之不軌ニ」〕　法ニ從ハザルコト。オキテヲ守ラザルコト。又、謀叛ヲ企ツルコト。反逆。中記、[illegible]「[illegible]」漢書、卜式傳「此非ニ人情、不軌之臣、不レ可ニ以爲ニ化而亂ニ法、願陛下勿レ許」注「軌、亦法也」

ふ-き (名) 不起　〔再ビ起タヌ義〕　病、癒エズシテ、死ヌルコト。「不起ノ人」

ふ-き (名) 不歸　(一)往(ユ)キテ歸ラザルコト。(二)轉ジテ、死ヌルコト。「不歸ノ客」

ふ-き (名) 不諱　(一)(忌ミ嫌ハザル義)　憚ラズ直言スルコト。漢書、揚雄傳「今子幸得ニ遭ニ明盛之世、處ニ不諱之朝、與ニ羣賢ニ同行、歷ニ金門、上ニ玉堂、有ニ日矣」屈原、卜居篇「寧正言不諱、以危ニ身乎」說苑、君道篇「規諫必開ニ不諱之門」(二)(避ク可カラザル義)　死ヲ云フ　後漢書、[illegible]病、太子朝夕[illegible]中傅、問病、云云、謂曰、如有ニ不諱、無ニ憂ニ家室一也」

ふ-き (名) 附記　本文ノ補足、又ハ、參考

トシテ、[illegible]スルコト、又、其[illegible]錄[illegible]ノイテニ附記ス」

ぶ-ぎ (名) 不義 [illegible]也[illegible]子、背[illegible]上[illegible]人路也」同、離婁、上篇「義、人之正路也」」(一)宜シカラザルコト。適宜ナラザルコト[illegible]

背クコト　[illegible]逆ナルコト　(二)人タル道ニ[illegible]行ニ一不義ヲ殺ニ一不辜ヲ而得ニ天下ヲ皆不ル爲也」[illegible]之兵ハ伐ニ無罪之國ヲ殺ニ不辜之民ヲ絶ニ先聖之後ニ」

(三)律ノ一。八虐ノ第八。本主、師、長官ナドヲ殺スモノ。名例律「八虐[illegible]八曰ニ不義[illegible]殺本主、本國守、見受業師ニ」

(四)男女ノミソカゴト。密通。私通

密通[illegible]加[illegible]故[illegible]セバ、男ハ切腹、女ハ一生押籠ト、コレハ先規ノ御[illegible]」

ぶ-き (名) 武器　戰ヒニ用ヰル甲冑、刀槍、弓矢、銃砲等、一切ノ器ノ總稱。武具。モノノグ。兵器　後漢書[illegible]云ム、[illegible]以存守[illegible]」

ぶ-き (名) 武伎　ぶぎ 武技ニ同ジ。[illegible]軒物談、一「武伎」

ぶ-き [illegible] 舞姫　次條ノ語ニ同ジ。まひひめ(舞姫)ノ條ヲモ見ヨ。

ぶ-ぎ (名) 舞妓　マヒコ。マヒヒメ。ヲ[illegible]

[illegible]ドリコ[illegible]

ぶ-ぎ (名) 武技 ぶげい(武藝)ニ同ジ。武技、武[illegible]有力」

ふき-あ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下二) 吹上 吹キテ上グ。[illegible]抄、中、[illegible]六[illegible]六條「二[illegible]カ[illegible]出デサテ、後ノ[illegible]ヲ巻キテ、コトゴトク[illegible]ヘ[illegible]吹上げタリ」[illegible]門[illegible]ニ打[illegible]ロシ[illegible]シウシテ、御簾ヲ吹上げタルヨリ龍顏ヲ拜シ奉タレバ」

ふき-あげ (名) 吹上 (一)吹キ上グル所　(二)吹キ上グルコト。古今集、五、秋、下、吹上の濱のかたに、菊植ゑたりけるをよめる「秋風ノ、吹上ニ立テル、白菊ハ、花カアラヌカ、波ノヨスルカ」　(三)水ヲ樋ニテ、先ヅ低キヘ導キ、夫レヨリ吹上ゲシムルモノ。噴泉　(四)吹上の湯ノ略。いかりゆ(檻湯)ノ條ヲ見ヨ。(五)次條ノ語ノ略。

ふきあげ-がみ (名) 吹上髮　婦女ノ髮風ノ一。略シテ、ふきあげ。下ノ出典ヲ見ヨ。近世女風俗考(生川春明)上「吹上譜、ふきかへし、是今ノ世ニ龍輪トイフモノノ本ナリ」云云、[illegible]九、上、下編ノ、ふきあげがみノ、[illegible]カナ、佐夜中山[illegible]秋[illegible]ノ、ふきあげニ結フ、[illegible]カカ[illegible]吹ニ[illegible]句ノ[illegible]ナリ」

ふき-あつ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 吹集　風吹キテ、物ヲ一所ニ寄セアツム。蕪村句集「[illegible]ヲ、ふき集めてヤ、花ムシロ」蕪村句集拾遺「水鳥ヲ、吹きあつめタリ、山オロシ」

フキ・アワ・ス
ふき-あは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) 吹合　モノヲ吹キテ、調子ヲ合ハスル　源、五十二、手習[三十]「松風モ、イトヨクモテハヤス、吹きあはせタル笛ノ音ニ、月モ通ヒテ澄メル心地ス

[illegible]、イヨイヨメデ[illegible]

ふき-あ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 吹荒　風[illegible]サブ。源、五、若紫[三十]「夜ヒト夜、風ふきあるるニ[illegible]州下向[illegible]宮ノ御座船ヲ中ニ立テテ、天[illegible]」

ふき-いた (名) 葺板 やねいた(屋根板)ニ同ジ。字類抄「葺板、フキイタ」宇治拾遺、十五、第四條「ワヅカナル家ノ、ふきいたヲヌキテ、トモシテ射ケリ」[illegible]門京[illegible]ヲカケテ吹キマハルママニ、云云、檜皮、ふき板ノタグヒ、冬ノ木ノハノ風ニ亂ルルガ如シ」

ふき-いだ・す・ス・セ・サ・シ・[illegible](自動、四) 噴出　水ワキ出ヅ。フキイヅ。フンシュツス。字類抄「噴、フキイダス」

ふき-いだ・す・ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) 吹出　(一)モノノヲカシクテ、堪ヘカネテ笑ヒ出ス。氣息ヲ急ニ出シテ笑フ。噴飯　失笑　日本[illegible]「[illegible]モ吹出[illegible]し、[illegible]打ツ[illegible]ヲ[illegible]テ、腹ヲ抱ヘテ笑ヒケリ」　(二)吹キ初ム。「風吹き出す」

ふき-いだ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 吹出　(一)吹キテ、外ニ出ス。道[illegible]集「山ガクレ、[illegible]レル[illegible]ヲ、[illegible]ツルカナ、世ニ吹き出す、風ニ[illegible]ネテ」　(二)吹キ初ム「笛ヲ吹き出す」

フ・キュウ
ふ-きう (名) 腐朽 クサレ、朽ツルコト　朽腐　後漢書[illegible]

フ・キュウ
ふ-きう (名) 不朽 朽チヌコト。永ク滅ビヌコト　左傳、[illegible]公廿四年[illegible]以[illegible]聞、此之謂[illegible]不朽[illegible]大上

[illegible]此之謂[illegible]不朽[illegible]」史記、太史公自序「聖人不朽、時變是[illegible]念」[illegible]文選[illegible]典論、文章經國之大業、不朽之盛事」

ふき-おく・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 吹送　風ナドノ吹キヤル。新後拾集、八、羇旅、吹き[illegible]

ふき-お・つ・ツル・ツレ・チ・チ・チヨ(自動、上二) 吹落　風ノ上ヨリ吹キクル。下[illegible]集、十五、雜、二「ヒビキ來ル、松ノウレヨリ、吹きおちテ、草ニ聲ヤム、山ノ下風」

[illegible]ロ月夜ノ、春風ニ、梅ガ香ノミゾ、カスマザリケル」

ふき-おこ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [illegible]　風吹キテ[illegible]シム[illegible]野ノ露」

ふき-おろし (名) 葺下　屋根ノ造リ、本家ノ棟ヨリ下屋ナドノ軒先マデ、屋根ヲ續ケテ葺キタルモノ。接欂　催馬樂、東屋「アヅマヤノ、マヤノ安萬利ノ、雨ソソギ、ワレ[illegible]ヌレ[illegible]ソノトノト[illegible]あまり[illegible]チ、屋ノ端ノ餘リニテ、今云フ葺[illegible]下ナリ」(守部注)

ふき-か・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 吹掛　(一)風吹キテ、打チカカル　[illegible]吹キ[illegible]下[illegible]六[illegible]月[illegible]きかけテ、[illegible]四、秋、下[illegible]ヘナク[illegible]ふきかけ[illegible]　(二)息ヲ吹キカク[illegible]噴嚔ス。(三)仕掛ク。仕向ク。「喧嘩ヲ吹掛けル」　(四)オホゲサニ云フ。誇大ニ云フ　又、[illegible]

ふき-かけ (名) 吹掛　[illegible]笛ノ[illegible]ノ管ノ先ニ、附ケタルモノ。兒童之ヲ口ニ[illegible]ヒテ、吹キ[illegible]大[illegible]トシ、又、[illegible]

細工ニシテ遊ブ。 守貞漫稿、五、生業、下「飴丸ヲ葭頭ニ粘シ、吹レ之テ中虚ノ大丸トスルアリ、云云、京坂ニテハ、前ニ云フ丸ヲ吹キ、大ニシタルモノヲ吹掛ト號ク、專ラ葭頭ニ粘シ、未ダ吹廣ゲザルヲ買テ自ラ吹レ之、故ニ吹かけトイフ歟」

❖ふきか・ける (動) 〔吹掛〕 ふきかく(吹掛)ノ口語。

〜ふきがたり (名) 〔吹語ノ約ト云フ、或ハ、吹語カ、今、吹聽ナド云フ語、此轉カ〕 己レガ事ヲ差出デテ言フコト。 枕草子、十一、第百三十三段「殿上ユルサルル内舍人ナメリト、云云、ソコニ上リ居テ見ルハ、イト面ダタシ、斯ル事ナドヲ自ラ言フハ、ふきがたりナドモアリ」

〜ふきがは (名) 〔鞴〕〔吹皮ノ義〕 ふいがう(鞴)ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、十五八鍛冶具「鞴、布岐加波、韋囊吹レ火也、野王案、所下以吹二治火一令上熾之囊也」 天治字鏡、十二、十オ「鞴、吹皮、鞴袋、上同」 木工寮式「鍛冶、吹皮」

ふきかは・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 〔吹交〕 風ナドノ、アチラコチラト吹ク。吹キ交フ。 新續古今集、十一、戀、一「知ルラメヤ、宿ノオズエヲ、吹きかはす、風ニツケテモ、思フ心ヲ」

ふきか・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 〔吹交〕 前條ノ語ニ同ジ。 玉葉集、十一、戀、三「アナ戀シ、吹きかふ風モ、言ヅテヨ、思ヒワビヌル、暮ノナガメヲ」

ふきか・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (自動、下二) 〔吹變〕 カザムキ變ハル。吹キカタ變ハル。フキカハル。 玉葉集、夏、三「松風モ、涼シキ程ニ、吹變テ、小夜更ケニケリ、谷川ノ音」 俳諧新選「吹きかへテ、程ヨク蚊火ノ、スサリケリ」

ふきか・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 〔葺替〕 屋根ヲ葺キアラタム。 改メテ屋根葺ク。 新千載集、一、春、上「霜枯ノ、コヤノ八重ブキ、葺きかへテ、蘆ノ若葉ニ、春風ゾ吹ク」

ふきか・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 〔吹替〕 金器ヲ鎔カシテ、更ニ吹キアラタム。吹キナホス。吹キカヘス。改鑄ス。

ふきかへ (名) 〔葺替〕 屋根ヲ葺キカフルコト。ヤネガへ。

ふきかへ (名) 〔吹替〕 (一)金器ヲ鎔カシテ、更ニ吹キアラタムルコト。フキナホスコト。改鑄。 享保集成絲綸錄、三十二、寶永七年四月「先年、吹替ヘヨリ已前之古金、云云」 金銀御吹替次第、一、吹方「通用銀御吹替之次第、云云」 (二)芝居ニ、籠細工ニテ作レル人ノ形。紙ニテ張ル。役者ノ死シテ倒レタル狀ナドノ時、其死骸ノ代リニ投ゲ出シオクモノ。身代。

ふきかへし (名) 〔吹返〕〔袘返〕 (一)ふき(袘)ニ同ジ。 室町殿日記、五「公方樣御フトン、表モン付ノ段子、裏ハ塵紫、吹返し五寸ニシテ」 (二)婦女ノ髪風ノ一。 近世女風俗考(生川春明)上「吹上鬢、ふきかへし、是今ノ世ニ籠輪トイフモノノ本ナリ、吹かへしトイヘルモノハ、吹上鬢トハ異物ニヤ同物ニヤ、未詳、云云、雜俳帳、上、春、柳髪、ふきかへしニヤ、ダアラシ、云云、吹かへしトハ、吹上タルヲ、吹キオロシタルト云意歟」

ふきがへし (名) 〔吹返〕 兜ノ眉庇ノ左右ニ、耳ノ如ク添ヒテ出デタルモノ。後へ反ル。耳門。 盛衰記、四十二、下畠立、與一射扇事「盛嗣、判官ヲ懸外シテ、安カラズ思ヒ、游艇ニ乘移、指寄テ宗行ガ兜ノ吹返ニ、熊手ヲカラト打懸テ、曳音ヲ出シテ引」 太平記、三十一、八幡合戰事「我カ身モ痛手ヲ負ハザレバ、袖姿吹返しニ立ツ處ノ矢、少少折リカケテ、御山ノ陣ヘゾ歸ラレケル」 本朝軍器考頭書、九、上「吹返ハ、シコロノ左右ノ端ノ上ノ方ヘ、ヒネリカヘスヲ云フ、ソノ形、風ニテ吹ヒルガヘシタルカ如シ、云云」 類聚名物考、百三十四、武備部、一「ふきかへし、古ヘノ吹返しハ、大キク長シ、ズリテ長キハ、二三尺ニ至ルモ有リキ、ソノウヘ、志古呂ノ端ヲモ、三枚ニテモ五枚ニテモ同ジヤウニ、コレヲ吹返シタル多カリキ、云云」

ふきかへ・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 〔吹返〕 風ガ吹キ來ル方ニ、逆ニ吹キユク。 後拾遺集、十九、雜、五「吹きかへす、東風ノカヘシハ、身ニシミキ、都ノ花ノ、シルベト思フニ」

ふきかへ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔吹返〕 (一)風吹キテ、物ヲ飜ス。 萬葉集、三十五「淡路ノ、野島ノ崎ノ、濱風ニ、妹ガ結ビシ、紐吹キ返ス」 新勅撰集、四、秋、上「山里ハ、葛ノ裏葉ヲ、吹きかへす、風ノケシキニ、秋ヲ知ルカナ」 (二)風、物ヲ吹キテ戻ス。 竹取物語「三四日吹キテ、ふきかへし寄セタリ、濱ヲ見レバ、播磨ノ明石ノ濱ナリケリ」 (三)古キ金屬ヲ鎔カシテ、更ニ鑄ナホス。フキカフ。改鑄ス。 才藏狂歌集、春、款冬「黄金ノ、色ニタグヘシ、山吹ヲ、籬ノ風ニ、吹きかへすカナ」 (四)呼吸ヲ恢復ス。蘇生ス。 綟手摺昔木偶(文化、柳亭種彥)一、發端、下「大地ニ撲ト倒レ伏シ、更ニ生氣アラザレバ、云云、稍アリテ息ふきかへし、アリシ事ドモ委シク語リ」

ふきき・やす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔吹消〕 ふきけす(吹消)ニ同ジ。 太祇全集「吹ききやす、胸ハシリ火ヤ、卵酒」

ふきき・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔吹切〕 腫物ナド敗レテ、膿汁出ヅ。

ふきき・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 〔吹切〕 (一)風ハゲシク吹キ、モノヲチギル。 方丈記「風ニ堪ヘズ吹き切らレタル焰、飛フガ如クニシテ」 (二)風吹キテ、物音ナドヲ遮斷ス。 俳諧新選「ふききらレ、又啼ク聲ヤ、小夜千鳥」

ふきぐみ (名) 〔蕗組〕 筑紫箏ノ奏調ノ名。六唱歌ヲ一組トシ、第一ノ歌詞ヲ名トス。即チ、其歌ニ「蕗ト云フモ草ノ名、茗荷ト云フモ草ノ名、富貴自在ノ徳アリテ、冥加アラセタマヘヤ」他ノ五歌ト合ハセテ、組唄ノ初ト云フ。八橋檢校、越天樂ニ因リテ作レリト云フ。略シテ、ふき。くみうた(組歌)ノ條ヲモ見ヨ。 八橋檢校十三回忌碑銘「天明四年甲辰六月十二日、[illegible]百年之忌、云云、初[illegible]中[illegible]、其[illegible]、越[illegible]、作二秋冬曲、云云」 [illegible]「[illegible]ノ人、筑紫[illegible]サレテ、配所ノツレヅレニ、箏ノ手ヲヒキカヘテ爲手ニシ、雅樂ノ越天樂ノ歌ヲ延バシテ長ウシテ、是ニ箏ヲ合セテヒカレシヲ、筑前國[illegible]寺ノ[illegible]、其曲ヲ習ヒ傳ヘテ、世ニ弘メシヨリ、筑紫箏ト名付ケテ、世ノ玩ビトナレリトカヤ、其後、八橋ノ檢校ト云フ目クラ法師、此曲ヲナラヒテ、殊ニ上手ナリシカバ、越天樂ノ歌ノ、ふきと云ふも草の名ト云フ歌ヲ本トシテ、色色ノ歌ヲ讃人ニカ作ラセ、タクミニ名付ケテ、サマザマノ曲ヲナシケル」

ふきけ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔吹消〕 強ク吹キテ、燈火ナドヲ消ス。フキキヤス。 狂言記、こんくゎい「大風吹キ來リ、御前ナル四十二ノ燈火、一段ニハフハラバット吹キ消シケレバ、東西俄ニ暗ウナル」 春花五大力(並木五瓶)仲町茶家儀の場「二階ニハ仁左衛門、勘左衛門、ドヲ見テ燭臺ヲふきけし、イロイロ可笑味、勘左衛門ハソット下ヘオリ、窺ッテヰル」

ふきげん (名) 〔不機嫌〕 機嫌ノ善カラヌコト。心ノ面白カラヌコト。 狂言記、箕かづき「悉イト思ウテ、云云、音バウハズヂ、ソノ如クニ不機嫌ニスルハ」 太祇全集「掛乞ノ、不機嫌見セソ、魂祭」

〜ふきこ・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 〔吹越〕 風ガ、モノノ上ヲ過ギユク。 萬葉集、二十「タカマドノ、尾花吹きこす、秋風ニ、紐トキアケナ、タダナラズトモ」 千載集、十一、戀、一「我ガ戀ハ、尾花吹きこす、秋風ノ、音ニハ立テジ、身ニハシムトモ」 新後拾遺集、六、冬「朝アケノ、下風ヲカケテ、シホツ山、吹き越す風ニ、ツモル白雪」

ふきこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 〔吹込〕

[illegible]入リコム。吹キ入ル。[illegible]ナリニ、吹きゐむ霰ヤ、此モト」

ふき‐ゐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）[吹入]
（一）攻ヘ込ム。ソソノカシ教ヘル。教唆。 世間息子気質（正徳、江島其磧）一「親元ノくめニ、袖ノ下カラ黄ナル物ヲ握ラセ、我身ノ上ノ狂言ノ仕組ヲ吹込み、云云」 冥途の飛脚（正徳、近松作）中「[illegible]ノヤウ[illegible]マス、[illegible]ヘ吹キ込ンデ、[illegible]リノ[illegible]切リ」 （二）[illegible]ノ近女ニ[illegible]物[illegible]ル。[illegible]

ふき‐ゐ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）吹込 吹キテ中ヘ入ルル。蓄音器ノ音盤ナドニ）

ふき‐さらし（名）[吹曝] 蔽障ナクシテ、風ニ吹キアテラルルコト。

ふき‐さら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[吹曝] 露天ニサラシテ、風ノアタルニ任ス。 [illegible]冬、[illegible]ふきさらす、[illegible]ノ風ノ、[illegible]サウモナシ」

ふき‐しく・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）[吹頻] 頻ニ吹ク。[illegible]集、六、秋、中「白露ニ、風ノ吹きしく、秋ノ野ハ、貫キトメヌ、玉ゾチリケル」 同、五、秋、上「秋風ノ、ヤヤ吹きしけバ、野ヲ寒ミ、ワビシキ聲ニ、松蟲ゾナク」

ふき‐しく・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）[吹敷] 風ノママニ、木ノ葉ナド吹カレテ敷ク。 [illegible]山里ノ梅[illegible]、上「寂寂寥寥タル片山里ノ侘住居、[illegible]木ニ苔ムシテ、軒ニ吹きしく落葉、孫生ヒタル竹椽ノ」

フキ・シヲ・ル
ふき‐しをる・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）[吹萎] 吹キテ、タワメシヲラス。 [illegible]集、四、秋、上「吹きしをる、四方ノ草木ノ、裏葉見エテ、風ニ白メル、秋ノ曙」[illegible]木[illegible]ノ、沖ノソマ山、ふきしをり、荒クシヲレテ、モノ思フコロ」

ふき‐す・ぐ・グル・グレ・ギ・ギ・ギヨ（自動、上二）[吹過] 風ナドノ、吹キテ過ギ行ク。 [illegible]古今集、四、秋、上「吹きすぐる、音ハスレドモ、秋風ノ、宿リハ萩ノ、上葉ナリケリ」 古今集、四、秋、上「女郎花、吹き過ぎテ來ル、秋風ハ、目ニハ見エネド、香コソシルケレ」 猿蓑抄、一、第三條「吹き過ぎヌル[illegible]、又[illegible]所ニ不[illegible]」

ふき‐すさ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ（自動、四）[吹荒] 風ナドノ、吹キテ荒ル。フキアル。 新古今集、四、秋、上「吹きすさぶ、風ハムカシノ、秋ナガラ、アリシニモ似ヌ、袖ノツユカナ」

ふき‐すさ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ（他動、四）[吹荒] 笛ナド、吹キ楽ム。モノヲ、吹キナグサム。 源、六、末摘花「御笛ドモ吹きすさびテオハスレバ」 同、七、紅葉賀「笛ヲナツカシウ吹きすさびツツ、ノゾキ給ヘレバ」

ふ‐きそ（名）[不起訴] 起訴セザルコト。裁判所ニ訴訟ヲ提起セラレザルコト。

ふ‐きそく（名）[不規則] キマリナキコト。シマリナキコト。亂雜。

フキ・ソ・ウ
ふき‐そ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）[吹添] 風ナドノ、吹キクハハル。吹キ一サル。 源、[illegible]「ウチ掃フ、袖モ露ケキ、常夏ニ、アラシ吹きそふ、秋モ來ニケリ」 新古今集、五、秋、下「トフ人モ、アラシ吹きそふ、秋ハ來テ、木ノ葉ニ埋ム、宿ノ道シバ」

フキ・ソ・ウ
ふき‐そ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）[吹添] モノヲ吹キクハフ。 新後撰集、三、[illegible]「ヒグラシノ、鳴ク音ニ風ヲ、吹きそへテ、夕日涼シキ、岡ノヘノ松」

ふき‐だけ（名）[吹竹] ひふきだけ 火吹竹ノ略。其條ヲ見ヨ。 [illegible]、四、下、雑傍「破魔弓ノ矢筒、云云、[illegible]ヤウハ、カハラケドモ、吹竹ニ用ヒシハ、今ノ如ク紙ノ張拔ニハアラジ」

ふき‐だ・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）[吹出]
（一）涌キ上ガリ出ヅ。噴出ス。 俳諧新選「吹き出しタ、淺間ノ石ヤ、萩野原」 （二）堪ヘカネテ、[illegible]笑ヒ出ス。[illegible] 噴飯。失笑。 [illegible]キ」 一茶集「春風ニ、吹出し笑フ、花モガナ」

ふき‐た・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）[吹立] 風ナドノ、吹キ初ム。 [illegible]集、十二、[illegible]、四「[illegible]風モ、吹立ちニケリ、今ヨリハ、來ル雁ガネノ、小羽[illegible]ヲフツツ[illegible]」

ふき‐た・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（他動、下二）[吹立] モノヲ、吹キアグ。 新[illegible]、十七、雑、上「吹立つる、木ノ[illegible]ノ下モ、[illegible]、風ダニフケヌ、君ノ通ヒ路」 宇治拾遺、一、[illegible]、造リ重ネタル殿舎ノ、[illegible]シキ風ニヤ[illegible]ラレテ、此燃地ニ進リケレバ」 [illegible]記[illegible]ノ如ク吹きたてタレバ、スベテ目モ見エズ」

フキ・タフ・ス
ふき‐たふ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[吹倒] （一）風吹キテ、物ヲ轉倒セシム。 蕪村句集「[illegible]ハ、吹きたふされテ、雞頭花」 （二）大言壮語シテ、相手ヲ壓倒ス。フキマクル。

ふき‐だま（名）[吹玉] 硝子（ビイドロ）ヲ吹キテ、球ニ作レルモノ。ガラスダマ。

ブキチヤウ
ぶ‐きちゃう（名）[無几帳] キチャウメンナラザルコト。

ぶ‐きちょう（名）[無器用不器用] 手細工ナドノ、不恰好ナルコト。ブキッチョウ。ヘタ。拙劣。

ふき‐ち・らす・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[吹散] （一）吹キテ、物ヲ散ラス。 源、廿八、野分「カク吹散らしテンニハ、何事カセラレン、スサマジカルヘキ秋ナメリ」 [illegible]物語、六、紅葉[illegible]「[illegible]タナウ吹イテ、紅葉ミナ吹き散らし、落葉[illegible]」 （二）言ヒフラス。吹聴ス。大言壮語ス。 落窪物語、二「只今、此ノ君大臣カネト、ふきちらし給ヘバ、人人モゲニモト聞ユ」

ふき‐ちり（名）[吹散] ふきながし（吹流）ノ方言。（京都）

ふ‐きつ（名）[不吉] （一）ヨロシカラザルコト。[illegible] （二）[illegible]ルコト。エンギノ惡シキコト。不祥。凶。[illegible]不吉」 太平記、十三、龍馬進奏事「[illegible]必シモ不足不吉ノ表事ニ候ハズヤ」 謡曲、七騎落「父義朝、[illegible]」

ふき‐つ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）[吹附] （一）吹キテ、[illegible]ニ附ク[illegible]ル。 宇治拾遺、七、第五條「風ノ吹きつくるヤウニ聞キツキテ、イミジキトク人ニテゾアリケル」 （二）吹キテ、火ヲ[illegible]、[illegible]云云、一時ガウチニ皆灰燼ノ地トゾナリニケル」 方丈記「遠キ家ハ煙ニムセビ、近キアタリハ、ヒタスラ焔ヲ地ニ吹きつけタリ」 （三）轉ジテ、タキツク。ソソノカス。教唆ス。 婦女今川（文政、梵[illegible]人）一、一回「何ガナト、有ル事無イ事吹きつけテ、親子ナカモ自ラ、隔テノ塊ヲオ築ヘアタリ」

フキ・ズクリ
ふき‐づくり（名）[吹作] 〔吹ノ字ニ因リテ云フカ〕 漢字ノ旁ニアル欠ノ字ノ稱。即チ、次、欣、歡、欽、歎、等ノ[illegible]。

ふき‐つ・ける（動）[吹附] ふきつく（吹附）ノ口語。 俳[illegible]「[illegible]立ツ、[illegible]カナ」

ぶ‐きっちょう（名）[無器用不器用] 〔ひだ[illegible]ぎっちょう[illegible]ノ例ノ語ヲ見ヨ〕[illegible]見ヨ 浮世風呂（文化、三馬）四編、上「無器用ノ御子ダ」

ふき-づつ（フキ-ズツ）（名）〔吹筒〕吹矢（フキヤ）ノ矢ヲ入レテ吹ク竹筒。木、紙ニテモ作ル。又、フキヤヅツ　倭訓栞、中「ふきや、木叶傳ニ、吹筒也トイヘリ」翁草、九「加藤出羽守吹矢筒之事、云云」

ふき-でもの（名）〔吹出物〕カサ。デキモノ。腫物（シユモツ）。特ニ、皮膚ニ生ズル小サキ粟粒ノ如キ腫物。小瘡。瘍腫　雜字類編、五「小瘡、フキデモノ」

ふきとば・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔吹飛〕（一）風フキテ、物ヲ飛散セシム。　芭蕉句集「吹き飛ばす、石ハ淺間ノ、野分カナ」（二）大言壯語シテ、相手ヲ壓倒ス。

ふき-どめ（名）〔吹止〕錢ノ鑄造ヲ打切ルコト。　八木の話（北越逸民）「臨時ノ水旱損、御買上米、御關米、金銀錢吹增吹止、米商人ノ買占」

ふき-ながし（名）〔吹流〕旗ノ類。長キ帛ヲ半月形ノ輪ニ付ケ、帛ノ端ハ數條ニ斷（タ）ル。コレヲ竿ニツケテ立ツ。五月ノ節句ニ、鯉ノ形ニ作リテ立テタルモノヲ、鯉のふきながしト云フ。フキチリ。（京都）〔號旒　號帶〕　武家[illegible]記、五十一、武裝「旌旗、竿頭ニ絹一幅半幅ヲ付ケテ、或ハ長大、或ハ短小ニ致ス、短小ナルヲ、俗ニまねきト云ヒ、長大ナルヲ、吹流しト云フ、云云、吹流ヲモ手ト云也、乃光耀流星ノ類也、吹流ハ國ノ吹流也」　福富覺書「掃部頭殿、云云、吹流モ赤十絹、八幡大、香餘ト書、但書付ハ白ク御座候」　日本歲時記、四、五月「五日、云云、紙旗ニイロイロノ繪ヲカキテ長竿ニツケ、是ヲモ戶外ニ立テ侍ル、コレヲノボリト云、或ハ、絹ヲ用ルモアリ、或ハ、長旒ノ加ヘテ、是ヲ吹ながしト云、朔日ヨリ五日マデ、兒童ノ弄事トス」

ふきな・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔吹鳴〕吹キテ、ナラス。吹キナラス。　萬葉集、二、二十四長歌「ミイクサヲ、云云、トトノフル、鼓ノ音ハ、雷ノ、聲ト聞クマデ、吹響流（フキナセル）、小角ノ音モ、アタミタル、虎カホユルト、諸人ノ、オビユルマデニ」

ふきな・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔吹成〕モノヲ、吹キツケル。　續古今集、四、秋、上「大空ノ、雲モ殘ラズ、吹きなしテ、隈モ月待ツ、ケシキナルカナ」下葉集、二、春、下「モロク散ル、花ヲバ輕ク、吹きなしテ、梢ニ重キ、春ノ夕風」

ふきなら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔吹鳴〕前前條ノ語ニ同ジ。　源、二、帚木卅「フトコロナリケル笛、トリ出デテ吹きならし、影モヨシナド、ツヅシリ歌フホドニ」

ふき-ぬき（名）〔吹貫〕（一）風ノ吹キトホル處。（二）旗ノ一種。圓キ輪ニ長キ絹、數條ヲ張リ、竿ノ端ニツケタルモノ。（輪ノ中ヲ、風、吹キ貫ク意ト云フ）　新撰信長記「秀吉卿ハ横山ノ城ニ居給ヒシガ、云云、吹貫ノ長旗ヲ押立テ」　氏鄉記、中、筑紫[illegible]給ヒ名字ニ非「坂源次郎ハ先筆ヲ承テ、勇ニ勇ンデ攻戰ヒケリ、白キ吹貫ヲ持セテ、寄セケルヲ見レバ、云云」

ふき-の-しゅうとめ（フキ-ノ-シユウトメ）（名）〔蕗姑〕次條ノ語ニ同ジ。　和漢三才圖會、九十四、濕草類「欵冬花、俗云布木乃之宇止女」　俚言集覽「ふきのしうとめ、大和ノ方言ニテ、ふきのとうヲ云フ」　俳諧古選「中ヨカレ、蕗の姑、嫁カ萩」

ふき-の-とう（フキ-ノ-トウ）（名）〔蕗薹〕蕗ノ花軸。ふき（蕗）ノ條ヲ見ヨ。ふきのと。フキノヂイ。フキノシウトメ。〔款冬花　鑽凍〕　俚言集覽「ふきのぢい、河内ノ方言ニテ、ふきのとう、本草、款冬花ヲ云フ」

ふき-の-ぢい（フキ-ノ-ジイ）（名）〔蕗祖父〕前條ノ語ヲ見ヨ。

ふきはな・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（他動、四）〔吹放〕次條ノ語ニ同ジ。　大祓祝詞「科戶ノ風ノ、天ノ八重雲ヲ吹放コトノ如ク」　方丈記「ツジ風、云云、門ノ上ヲ吹きはなちテ、四五町ガ外ニ置キ」

ふきはら・ふ（フキ-ハラ-ウ）・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）〔吹拂〕

吹キテ、拂ヒ退ク。フキトバス。フキハナツ。　大祓祝詞「朝ノ御霧、夕ノ御霧ヲ、朝風夕風ノ吹（フキハラフ）掃コトノ如ク」　源、九、葵三十八「木ノ葉サソフ風、アワタダシウ吹きはらひタルニ、御前ニ侍フ人人、モノイト心細ク」　盛衰記、十一、旋風事「平門棟門ナドヲ吹拂テ、四五町十町持行テ拋チナドシケル」

ふきはれ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）〔吹晴〕風、雲ヲ吹キ拂ヒテ、空晴ル。　玉葉集、十四、雜、一「明ケシラム、波路ノ霧ノ、吹きはれテ、遠島ミユル、秋ノウラ風」　太祇全集「吹きはれテ、マタ降ル空ヤ、春ノ雪」

ふき-びん（名）〔吹鬢〕女ノ髪ノ鬢ヲ、吹キ出シタル如ク、浮カセタルモノ。　近世女風俗考（石川春圃）上「寶永ノ始、元祿ノ末ヨリ、吹鬢トイフ名、諸書ニ見エタリ、是ハ鬢ヲ浮カシ出シタル故、コノ名アルナルベシ」　後日男（正德）「吹びんノ沈ミヤウニテ、地髪ノ少ナキヲ見ル」

ふ-きふ（フ-キユウ）（名）〔普及〕アマネク、オヨブコト。ユキワタルコト。又、アマネク及ボスコト。　法華經「普ニ及於一切ニ」

ふ-きふ（フ-キユウ）（名）〔不急〕急ヲ要セザルコト。サシアタリテ用ナキコト。　漢書、昭帝紀「元平元年、詔曰、天下以ニ農桑ヲ爲ニ本、日者省ニ用、罷ニ不急官ニ」　荀子、天論「傳曰、萬物之怪、書不ニ說、無用之辯、不急之察、棄而不ニ治、若ニ夫君臣之義、父子之親、夫婦之別ハ則日切瑳而不ニ舍也」

ふき-ぶり（名）〔吹降〕風吹キ、且、雨降ルコト。風雨　信州川中島合戰（享保、近松作）二、衛門姫道行「黑髮山ノ宵ノ間、篠ヲツクナル吹降リニ、雨具ハ持タズ宿ハナシ、野邊ニイブセキ東屋モ」

ふき-べり（名）〔吹減〕金銀、貨幣ナドヲ吹キ替ヘラルルニツキテ、量目ノ減ズルコト　金位并金吹方手續書「金銀吹減定法之事、云云、是ハ、元文最初、灰吹銀ヲ花降銀ニ銀座ニ而吹拔キ候、吹減り定法ヲ以、勘定仕ト候事」

ふきほころば・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）

〔吹綻〕吹キテ、ホコロブヤウニス。　山家集、下「大方ノ、秋ヲハ月ニ、ツツマセテ、吹きほころばス、風ノ手カナ」

ふきほ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔吹干〕風吹キテ、乾カス。　續古今集、六、冬「白妙ノ、衣ふきほす、木枯ノ、ヤガテシグルル、天ノ香山」

ふきほそ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔吹細〕風ナドニ吹カレテ、細クナル。　太祇全集「夜嵐ニ、ふきほそりタル、寒山子カナ」

ふきまが・ふ（フキ-マガ-ウ）・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）〔吹紛〕風ニ吹カレテ、入リ亂ル。フキマギル。　拾遺愚草、下「吹紛ふ、櫻色コキ、春風ニ、野ナル草木ノ、ワカレヤハスル」　源、三十八、夕霧五十七「夜モフケヌベシト、ミナサワグ、時雨、イト心アワタダシウ吹きまがひ、ヨロヅニモノカナシケレバ」

ふきま・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）〔吹捲〕風吹キテ、マク。甚シク風吹ク。　古今集、八、離別「山風ニ、櫻ふきまき、ミダレナン、花ノ紛レニ、タチトマルベク」

ふきまく・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）〔吹捲〕風吹キテ、マキ上グ。烈シク吹キマハス。　方丈記「中御門京極ノホトヨリ、大イナル旋風、云云、三、四町ヲカケテ吹きまくるニ」

ふきまさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔吹增〕マヘツカタヨリモ、烈シク吹ク。更ニ吹キツノル。　續後撰集、十四、戀、四「肌寒ク、風ハ夜每ニ、吹きまさる、我ガ見シ人ハ、音ヅレモセズ」　續拾遺集、五、秋、下「風ノ音モ、吹きまさるナリ、サラデダニ、我ガ寐ネガテノ、秋ノ夜ノ月」

ふき-まし（名）〔吹增〕錢ノ鑄造ヲ增加スルコト。　八木の話（北越逸民）「臨時ノ水旱損、御買上米、御關米、金銀錢吹增吹止、米商人ノ買占」

ふきまは・す（フキ-マワ-ス）・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔吹廻〕風渦（ウヅ）マキテ、物ヲマハシ漂ハス。　竹取物語「船ヲ、海中ニマカリ入リヌベクふきまはしテ」

ふきま・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［吹舞］風ナドノ、吹キマハル。 千載集、二、春、上「花ノ色ハ、[illegible]ノ、移リ香ニ、[illegible]」、「思ヒケルカナ」 續千載集、二、春、下「春風ノ、吹きまふ時ハ、[illegible]、散リメル枝ニ、[illegible]カーゾ[illegible]」

ふきまへがみ（名）［吹前髮］女ノ前髮ヲ高ク吹キ出サシメタルモノ。 [illegible]「ふきまへがみ、[illegible]ノヒレノ、マカレタルモノヲ、[illegible]前髮[illegible]ルベシ」

ふきまよ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［吹迷］風ノ、向ヲ定メズ、吹キマハル。 古今集、十五、戀、五「吹きまよふ、野風ヲ寒ミ、秋萩ノ、ウツリモ行クカ、人ノ心ノ」 長秋詠藻、上「ふきまよふ、嵐ニタグフ、鹿ノ音ハ、一方ナラズ、袖濡シケリ」 方丈記「戊ノ時バカリ、都ノ巽ヨリ火出デ來リテ、云云、吹き迷ふ風ニ、トカク移リ行ク程ニ」

ふきみ（名）［不氣味｜無氣味］キミノワルキコト。不快、恐怖ナドノ氣分。

ふきミソ（名）［蕗味噌］蕗薹ヲ細カク切リ、味噌ニ和シテ擂リタルモノ。苦味、芳香アリ。 俳[illegible]「[illegible]冬[illegible]味噌ヲ[illegible]ヤウナ[illegible]」

ふきみだ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［吹亂］風ノ吹キテ亂ス。フキミダル。 續古今集、五、秋、下「行ク秋ノ、露ノ形見モ、トメジトヤ、草葉ヲ風ノ、吹きみだすラン」 風雅集、二、春、中「春風ハ、柳ノ絲ヲ、吹きみだし、庭ヨリハルル、夕暮ノ雨」

ふきみだ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［吹亂］前條ノ語ニ同ジ。 萬葉集、十九「吾ガサセル、柳ノ絲ヲ、吹き亂、風ニカ妹ガ、梅ノ散ルラム」 千載集、五、秋、下「吹きみだる、柞ガ原ヲ、見渡セバ、色ナキ風モ、紅葉シニケリ」

ふきん（名）［布巾］［紛巾ノ略カ、或ハ、拭布ノ約轉カトモ云フ］布ヲ、尺許リニ切リタルモノ。食器ナド拭フニ用ヰル。 [illegible]「[illegible]、フキン」 [illegible]、布巾ヲ[illegible]、是ヲ持テ出テ來ル」

ふきん（名）［附近］チカキホトリ。近邊。 [illegible]

ふきん（名）［賦金］（一）賦課ノ金。賦課セラレタル金。 韓愈文「賦金之州耗金一歲八百、[illegible]」 （二）月賦金、又ハ、年賦金ナドノ略稱。

ふきん（名）［斧斤］ヲノ。マサカリ。 孟子、梁惠王、上篇「斧斤以レ時入二山林一、材木不レ可二勝用一也」 曹植、七啓「[illegible]所レ措、其斧斤ハ[illegible]之失レ[illegible]」

ふギン（名）［諷經］［經ハ字ノ宋音］經文ヲ諷誦スルコト。特ニ、禪家ニテハ、佛前ノ勤行ヲモ云フ。 下學集、下、態藝門「諷經、フギン」 [illegible]集、上、行事（禪家）「諷經、フギン」 [illegible]、諷經、フギン」 [illegible] 南禪規式「[illegible]」 [illegible] 「日本號二日中諷經一[illegible]、外國[illegible]、[illegible]諷經ス」

ふきもの（名）［吹物］樂器ノ、笛、尺八、笙、ナド、スベテ吹キ奏スルモノノ稱。吹器 源、廿四、胡蝶五「ミナオノオノ、ヒキモノ、ふきもの、トリトリニシ給フ」 同、三十四、上、若菜、上六十九「嶌物ノ御厨子、ヒキモノ、ふきものナド、藏人所ヨリ賜リ給ヘリ」 歌舞品目、五、奏樂汎稱「吹物、管籥ノ通稱ナリ」 續教訓抄、十一、上「吹物部、第一笙、第二篳篥、第三竹笛、第四太笛、第五中管、第六尺八」

ふぎもの（名）［不義者］（一）道ナラヌコトヲスル人 榕樹三重帷子（享保、近松作）上「[illegible]、主アル[illegible]付ケニスル不義者」 （二）男女ノ私ニ通ズル者。密通者。姦通者。 [illegible]「密夫ヲ引[illegible]レテ[illegible]二線組ヘタリ、此體ヲ見附ケ、オノレ不義者、逃シハセジト、聲高ニ呼ハリ騷グ」

ふきや（名）［吹矢］三尺許リナル竹筒、又ハ、木筒ノ中ヘ、紙羽ノ矢ヲ入レ、息ニテ吹キ出シテ、物ヘ射遣ルモノ。小鳥ナド捕フル用トス。 [illegible]志（貞享、黑川道祐）七、土產門「楊弓、云云、又一種有二吹矢一長三尺或四尺、圓木突二貫其內一入二矢於其頭一以レ息吹レ矢、其矢中二鳥[illegible]、其所レ用之筒長短、[illegible]吹、之ハ氣息强弱一」 好色二代男（貞享、西鶴）四「鴫ハ中ヌマデモナク、[illegible]モ吹矢ニテ留メルコト、又有ルマジキ名人ナリ」 文昭院殿御實紀附錄、上「前朝（德川綱吉）ノ牛禁ノ嚴ナリシヲモテ、云云、吹矢ト云フモノニテ雀ヲ打シ事アラハレ、采地收公セラルル類少カラザリキ」

ふきやう（名）［不況］景況ノヨカラザルコト。景氣ノ惡シキコト。 「財界不況」

ふぎやう（名）［俯仰｜俛仰］［俛ハ俯ニ通ジ用ヰル］下ヲ向クト、上ヲ向クト。轉ジテ、一般ノ行ヒ。 禮記、樂記篇「習二其屈伸俯仰一、容貌得レ莊」 淮南子、道應訓「若二神明一四通並流、無レ所レ不レ及、上際二於天一下蟠二於地一、化二育萬物一、而不レ可レ爲レ象、俛仰之間、而撫二四海之外一、昭何足二以明一レ之」 「俯仰、天地ニ愧チズ」

ぶぎやう（名）［奉行］（一）ウケタマハリテ、オコナフコト。又、官府ノ命ヲ受ケテ、其公事ヲ專ラ執リ行フコト。官ノ文書ノ末ニ、何某奉行、又ハ、奉ト書シテアル、コレナリ。 辨内侍日記、[illegible]七日、[illegible]巧[illegible]ノ夜、頭中將（まさいへ）事ドモ奉行ス」 吾妻鏡、四十[illegible]、建長[illegible]年六月五日「[illegible]評定[illegible]、云云、秋田城介義景、輕服之後始出仕、奉二行此事一」 徒然草、第四十八段「光親卿、院ノ最勝講奉行シテ侍ヒケルヲ、御前ヘメサレテ、供御ヲ出サレテ食ハセラレケリ」 （二）［奉行人ノ略］奉行スル人。「四方[illegible]」 [illegible]武家時代[illegible]、[illegible]評定衆、引付衆[illegible]ハ、奉行人ト云ヒ、又、人ヲ[illegible]テ、[illegible]奉行、安堵奉行ナドアリ、室町時代モ然リ。豐臣氏ノ時、執政ヲ大老ト云ヒ、其下ニ參政ノ職五人ヲ、單ニ奉行、又、五人奉行ナド云ヘリ。江戸時代トナリテモ、寺社奉行、勘定奉行、町奉行、郡奉行、普請奉行、作事奉行、ナドアリ。又、町奉行、郡奉行、長崎奉行、伏見奉行、ナドハ、其地ノ地方官ナリ。 [illegible] 新御式目、弘安七年五月廿七日「引付衆[illegible]、云云、仍引付[illegible]、[illegible]人不レ憚二手人一」 太平記、三十五、青砥左衞門事「德宗領ニ[illegible]、[illegible]モ、奉行、頭人、評定衆、皆德宗領ニ憚テ、公文ヲ負カシケルヲ、云云」

ふぎやうぎ（名）［不行儀］行儀ノ善カラヌコト。不作法。

ふぎやうじやう（名）［不行狀］行狀ノ善カラヌコト。ミモチノ正シカラヌコト。フシダラ。不行跡。不品行。

ぶぎやうしゆう（名）［奉行衆］武家時代ノ官職ノ一。下ノ出典ヲ見ヨ。 貞丈雜記、四、役名之部「奉行衆トイフハ、貞衛云ク、是ヲ右の筆カトイフ、[illegible]、十六人アリ、公事[illegible]、[illegible]政所ヘ出ンテ、[illegible]アルナリ、[illegible]」 [illegible]部、五、下「建武年中、引付ヲ置カレ、云云、此頃ニ至リテ、ツネニハ引付[illegible]衆トモイヒ、或ハ[illegible]」

ト寄人トヲナベテ、右筆衆、奉行衆トモ稱セリ」

ぶぎやう-しよ (名) 奉行所 武家時代ノ官署ノ一。奉行ノ執務スル役所。 梅翁隨筆、二「卯七月頃ヨリ本所[illegible]シク、往來ノ者ヲ剝ギ取ルヨシ風聞アリ、云云、無宿仙藏トイフ者、奉行所ヘ召捕ラレショリ、云云」 八木の話(北越逸民)「堂島ノ市紀ニ立事、早朝ノ寄附ヨリ大引迄ノ相場、一二年行司ヨリ、日日、奉行所ニ訴フルコトナリ」

ふ-ぎやう-せき (名) 不行跡 ふぎやうじやう(不行狀)ニ同ジ。 娥歌加留多(正德、近松作)二「御分カ弟ハ京ノ進、不行跡ノ浮名ヲ厭ヒ、病氣分ニシテ追ヒコメオキシトナ」

ぶぎやう-にん (名) 奉行人 事ヲ奉行スル人。支配頭。ぶぎやう(奉行)ノ條ヲモ見ヨ。 吾妻鏡、脫漏、元仁二年九月廿日「武州(泰時)召ニ集奉行人等、令ニ對面ニ」 著聞集、廿、魚蟲禽獸「コノ事、中御門右大臣殿ノ御尋ネニヨリテ、奉行人經房朝臣カキテ奉リケル也」 庭訓往來、八月「管領、寄人、右筆、奉行人等之評判也」

ふきや-まと (名) 吹矢的 からくりまと(絡繰的)ノ條ヲ見ヨ。

ふ-きよ (名) 芙蕖 芙渠 扶渠 (爾雅、釋草篇「荷、芙渠、云云、其華菡萏」說文「蕳(菡ト同ジ)、菡萏、芙蓉(渠ノ誤リ)華、未レ發爲ニ菡萏ニ、已發爲ニ芙蓉ニ」) ハチス、ハス。荷 別名、芙蓉(爾雅注) 詩經、鄭風、山有扶蘇編「隰有ニ荷華ニ」毛傳「荷華(之荷)、扶渠也、其華菡萏」 何晏、景福殿賦「茄蕖倒植、吐ニ被芙蕖ニ」 曹植、洛神賦「迫而察レ之、灼若ニ芙蕖出ニ淥波ニ」 倭名抄、廿、蓮類「芙蕖、符芙音同、音渠」 文海披沙「芙蓉、蓮花也、一名荷、一名芙蕖、一名菡萏」 詩疏圖解「荷、和名はちす、云云、花未ダ開カサルヲ菡萏ト云ヒ、開キタルヲ芙蕖ト云ヒ」

ふ-きよう (名) 不興 (一)興ノ醒ムルコト。無興。敗興。殺風景。 春花五大力(並木五瓶)洲崎滿屋臺の場「最前ヨリ、ヨシナイコトデ座敷ノ不興、千太郎樣ニハ御座敷ヲ替ヘラレ、又改メテ御酒ニ致シマセウ」 (二)機嫌ヲ損ジタルコト。長者ノ怒リ。譴怒。 心中重井筒(寶永、近松作)上「イフ顏ノ不興ナレバ、優シクモ女房ハ、夫ノ惡性押包ミ、何ンノ餘所ヘ往ヤリマショ」 (三)勘當。勘氣。 保元物語、二、白河殿夜討事「兄タチヲモ蔑ニスルエセモノトテ、親ニ不興セラレシガ、適(タマタマ)勘當許サレタル身ノ」 謠曲、小袖曾我「カホドニ他念ナキ身ヲ、コノ三年不興蒙ル、恩顏ヲ拜セネバ、御戀シサモ一ツ」「君ノ不興ヲ蒙ル」

ぶ-きよう (名) 無器用 不器用 (器用ノ反) 事ヲ行フニ巧ナラヌコト。スルコトノ下手ナルコト。技ノ拙キコト。ブキッチョウ。拙劣 易林本節用集(慶長)下、言辭門「無器用、ブキヨウ」 書言字考節用集、九、言辭門「不器用、フキヨウ」 甲陽軍鑑、十七、品第四十七「總別、器用ダテヲスルハ、無器用ノ眞只中」 蕉風雜話(瀧川時英)二「武藝モ其通リニテ、云云、タトヘ手足ハ不器用ニテモ、始終ハ變化シテ、成就セヌト云フコトナシ」 婦女今川(文政、楚滿人)一、一回「私ハ何事モ不器用ダカラ出來ヌヨト、サシウツムイテロゴモル」 鎌倉諸藝袖日記(多田南嶺)二、目次「無器用ナ者ノスル業ト、此道ギラヒガ誹謗ルハ、茶碗ト茶碗ノアタ、テ碎ケシ古備前ノ花生」

ぶ-きよう (名) 無興 ふきよう(不興)ノ條ノ(一)ニ同ジ。 柳庵隨筆餘編(栗原信光)「昔一老人ヲ招キシ時、御本ノ茶碗銘七夕ト云フヲ用ヒシニ、老人茶ヲ飲ミ終リテ、何トナク顏色宜シカラズ、無興ニテ退出シタリ」

ふきよう-がほ (名) 不興顏 悅バザルカホツキ。不快ナルオモモチ。 俚言集覽「不興顏、今ぶつてうづらトイフ、是歟」

ぶきよう-もの (名) 不器用者 不器用ナル人。 蕉風雜話(瀧川時英)二「スベテ何ホド不器用者ニテモ、出精シテ稽古スレバ、手直マデニハ成ラルレドモ、名人ニハナラレヌモノナリ」

ぶ-きよく (名) 部曲 (一)組分(クミワケ)。區分。班。部伍 史記、李廣傳、索隱「案、百官志云、將軍領レ軍、皆有ニ部曲、大將軍營五部、部校尉一人、部下有レ曲、曲有ニ軍候一人ニ也」 (二)上古、臣、連、國造(クニノミヤツコ)等、諸豪族ノ私有セシ部落、カキ。カキベ。トモ。トモベ。部民。 かき(部曲)、及、とも、べ、部曲ノ條ヲモ見ヨ。

ぶ-きよく (名) 舞曲 (一)舞ト、音樂ト。 盛衰記、二十六、福原管絃講事「伶人舞曲ヲ盡スニ及デ、宮中澄渡リ、聽衆ノ諸人、各袖ヲ絞リケリ」 (二)舞ノふし。 樂府古題要解(唐、吳兢)「前溪歌、晉車騎將軍沈玩所レ造舞曲也」 朱德林詩「歌聲越ニ齊市ニ、舞曲[illegible]陽ニ」 樂家錄、二十七、舞曲「本朝所レ傳舞曲、載ニ于教訓抄ニ者、中華之曲凡八十六曲也、此中十九曲者全傳、二十八曲者斷絕也」 卯花園漫錄(石上宣續)四「猿樂ノ舞曲ニ、袖ヲ移シ或ハ肩ヲ脫シテ、一段ノ段ヲ分ツ」

ふきよ・す スル・スレ・セ・セ・セヨ(自動、下二) 吹寄 (一)吹キテ、寄セ集ム 風雅集、三、春、下「吹きよする、風ニマカセテ、池水ノ、汀ニ餘ル、花ノ白波」 俳諧新選「吹きよせて、形リニ片ヅク、落葉カナ」 (二)吹キテ、押シヤル。 竹取物語「大納言、南海ノ濱ニ吹寄せフレタルニヤアラント思ヒテ」 太平記、廿、奧勢下向遭難風事「津津浦浦ノ泊ニ舟ノ吹寄せラレヌハナカリケリ」

ふきよせ (名) 吹寄 (一)風ニテ吹キ寄スルコト。又、雜種ノ物ヲ集ムルコト。又、ソノ物。 百合若大臣野守鏡(寶永、近松作)二「磯山陰ノ吹きよせヲ掃集メ置キタル粕」 (二)種種ノ落葉ノ模樣ヲツケタル杯。 嬉遊笑覽、十、上、飮食「諸ヲ色色モヤウニ付ルヲ、ふきよせトイフ、後京極殿、木ノモトニ、積ル木葉ヲ、搔キツメテ、露アタタムル、秋ノ盃トイフ歌ヨリ、吹よせトイフ杯アリトカ」 (三)俗謠ノ一種。色色ノ唄ヒモノヨリ、一二句ヅツ拔キ出デタルヲ寄セ綴リテ、一ツノ歌詞ニ纏メタルモノ。五目。例ヘバ、「春ハ花、イザ見ニゴンセ、東上總ノ市見ノ郡、一人娘ノオ染トテ、ドウナルモノゾネラヘテ、我ガナキアトデ一週ノ、回向セウトテすまう、風ニハカカセハセズモノヲ、魂返ス反魂香、名畫ノカカアルナラバ、オ聲ナリトモ聞カセテオクレ、タノメバ田町ノ袖摺稻荷」ノ類。「吹寄コワイロ」音曲吹寄」

ふきよせ-しる (名) 吹寄汁 種種ノ品ヲ加ヘテ、料理シタル汁。

ふきよせ-どう (名) 吹寄籐 弓ニ籐ヲ卷キツクル方ノ稱 曾我物語、八、すけつねヲ射ん、せし事「スケツネ、云云、キリウノ矢すヒ、ふきよせどうノ弓ノマン中取リ、云云」 貞丈雜記、十、弓矢之部「ふきよせ籐ノ弓ノ事、ふきよせどうハ、籐ヲ二所ヅツ押寄セ卷キタル也」

ふきよせ-めし (名) 吹寄飯 數種ノ魚菜ヲマゼテ、味ヲツケタル飯。五目飯。骨董飯 雜字類編、五「骨董飯、フキヨセメシ」

ふきよ・る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 吹寄 吹キオトヅル。又、吹カレテ、此方ニヨリ來ル。 源、三十六、橫笛「笛竹ニ、吹きよる風ノ、ゴトナラバ、末ノ世ナガキ、ネニ傳ヘナン」 玉葉集、十二、戀、四「荻ノ葉ニ、風ノ吹きよる、夕グレヲ、同ジ心ニ、ナガメマシカバ」 俳諧新選、夏「月浮キテ、吹きよる水ヤ、夕スズミ」

ふきよわ・る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 吹弱 風ノ勢、弱クナル。 新古今集、十八、雜、下「竹ノ葉ニ、風吹きよわる、夕暮ノ、物ノアハレハ、秋トシモナシ」 夫木抄、二十二、鐘「吹きよわる、絕エ間絕エ間ニ、聞ユナリ、入合ヒノ鐘ヲ、ウヅム山風」

ふ-ぎり (名) 不義理 義理ヲカクコト。人ノ交際ノ道ヲ盡サザルコト 轉ジテ、俗ニ、借金ノ濟マサルコト

ふ-きりつ (名) 不規律 規律ノナキコト。シマリノナキコト。フシダラ。

ふ-きりやう (名) 不器量 (一)才能ナキ

コト。[illegible]ノナキコト。凡[illegible]「[illegible]タ不出來、不手際、不釣合、不器量ナドハ、拙キ醜キコトナリ」 (二)容貌ノ醜キコト。醜

ふきわ (名) 吹輪 次次條ノ語ヲ見ヨ。

ふきわ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 吹分 (一)風吹キテ、モノヲ彼方此方ニ分ツ。フキワケル。 續古今集、二、春、下「[illegible]ハリツモル、花ノ白[illegible]、吹きわけテ、風コソ[illegible]ハ見セケレ」 [illegible]屋の段「泣イテ明石ノ風待チニ、偶、逢ハ逢ナガラ、面ナキ嵐ニ吹分ケラレ」 (二)鑛物ヲ鎔解シテ、其中ノ含有物ヲ製煉ス。

ふきわげ (名) 吹輪 徳川時代、婦女ノ髮風ノ一。形、片外ニ似テ、[illegible]高ク浮キ出デタルモノ。古名、吹輪。 守貞漫稿、十、女扮、下「吹輪、古名也、今、吹輪ト云、[illegible]髷ノ背ヨリ前ニ高ナルフイフ、大[illegible]ノ娘、[illegible]ツケ、眉末レ割ノ時、専ラ此形ノ幅廣キニ結フ」

ふきわ・ける (動) 吹分 前前條ノ語ノ口語

※**ふきわた・る・ル・レ・ラ・リ・レ**(自動、四) 吹渡 ハルバルト、風吹キ行ク。遠ク吹キ過グ。 風雅集、三、春、下「吹きわたる、春ノ嵐ノ、一ハラヒ、アマギル花ニ、霞ム山モト」 鬼貫句選、上「秋風ノ、ふきわたりケリ、人ノ顔」

ふきゑ (名) 吹繪 一種ノ戯畫。即チ、種種ナル切拔ノ型ヲ、地紙ノ上ニアテ、コレニ墨汁、又ハ、繪具ヲ含マセタル筆ヲ吹キカケテ、色色ノ形ヲ現ハスモノ。

ふく (名) 鯸鮧 ふぐ(河豚)ノ古名。其條ヲ見ヨ。 倭名抄、十九 [illegible]云、布久閉、[illegible]怒則腹脹、浮出水上[illegible]」

ふく (名) 福 〔康熙字典「福、祐也、休也、善也、祥也」〕(一)サイハヒ。シアハセヨキコト。 易經、下傳、[illegible]「利用祭祀[illegible]」 [illegible]ム人、其野ニ來テ、家造リ、田ヲ作リテ住ミケリ云云、弓ヲ射ルニ的ナカリケルニヤ、餅ヲ括リテ的ニ射ケル程ニ、其餅白キ鳥ニナリテ、飛去リニケリ、其ヨリ次第ニ衰ヘテ、遂ヒ失セニケリ、云云、餅ハ福ノ源ナレバ、福神去リケル故ニ衰ヘケルニコソ、福ノ[illegible]ナレバ、年始ニモテナスベシ、一人對ヒテ餅ヲ引[illegible]ルヲバ、福引ト云ヒ習ハセルモ、故ナキニアラザルカ、[illegible]ト云ルトイヘリ」 (三)神佛ニ供ヘテ、オロシタル物。落閏 [illegible]十八、[illegible]ヲ多クマウケタルヲ、或人ノ[illegible]ハツカハストテ、詠メル、[illegible]ノふくニテ候フゾ、サレバトテマタ、ムカデメスナヨ」 狂言記、福渡し「御ふくハ何ンヂャ、福ハアリノ實デゴザリマス」

ふく (名) 副 〔そふ意ノ時ノ副ノ字音ハ、ふ、延音、ふう〕、析ク、破ル意ノ時ノ音ハ、ふくナリ、今混同シテ、皆ふくトス。安齋隨筆、十一「神祇官ノ大副少副、又、副將軍、又、副使ナドニハ、音、ふトヨムベシ、ふくトヨム可ラズ、玉篇ニ、芳富切、音、ふう、貳也、字彙ニ、數救切、音ふ、貳也、云云、又玉篇ニ、普逼切、音ふく、析也、破也トアリ」 (一)副フモノ。 (二)正官ニ副ヒテ、其務ヲ助クル官名ニ云フ語。添役。 漢書、[illegible]「[illegible]將軍[illegible]」「副將軍」「副使」 (三)ふくほん(副本)ニ同ジ。ヒカヘ。ウツシ。 史記、大史公自序「藏之名山、副在京師」 漢書、[illegible]

ふく (名) 幅 〔布帛ノ幅ヨリ轉ジテ、書[illegible]〕[illegible]掛物。「山水ノ幅」

ふく (名) 複 カサナルコト。ヒトヘナラヌコト。(單ニ對ス)「複葉」

ふく (名) 復 「[illegible]」 [illegible]租調、ナドヲ免ズルコト。ふくす(復)ノ條ノ(三)ヲモ見ヨ。 [illegible]

ふく (名) 腹 〔背ニ對ス〕はら(腹)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

ふく (名) 服 (一)〔コロモ。キモノ。衣服 左傳、僖公廿四年「君子曰、服之不衷、身之災也、詩[illegible]」 (二)俗ニ、洋服ノ稱

ふく (名) 伏 〔孫子、行軍篇、註「李筌曰、藏レ兵曰レ伏、不レ意而至曰レ覆」〕ふくへい(伏兵)ノ略。其條ヲ見ヨ。 北史、趙䢴傳「[illegible]六代[illegible]」 孫子、行軍[illegible]伏也[illegible]」

ふ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 吹 (一)〔風、動ク。〕風、動キテ當ル。 [illegible]「行ク水ノ、カヘラヌ如ク、布久風ノ、見エヌガ如ク」 同、十四「[illegible]布久日布加ヌ日、アリト云ヘド、アガコヒノミシ、時ナカリケリ」 古事記、中(神武)「畝傍山、雲ハ雲ト居、夕サレバ、風布加ムトゾ、木ノ葉サヤゲル」 神代紀、上「我所レ生之國、唯有二朝霧一而薰滿之哉、乃吹撥之氣化爲神、號曰二級長戸邊命一、亦曰二級長津彦命一、是風神也」「[illegible]風吹く」「吹き拂フ」 (二)うそぶく(嘯)ニ同ジ。 字鏡集「嘯、フク、ウソフク」

ふ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 吹 [illegible] (一)口ヨリ氣ヲ出ス。息ト共ニ[illegible]。 [illegible]テ見テ」「息ヲ吹く」 (二)〔息ヲ込メテ、鳴[illegible]〕 [illegible]笛篳篥ノボル、近江ノヤ、ケナノ雅子イ、笛篳篥ノボ[illegible] (三)[illegible]内ヨリ出ス。噴出 萬葉集、五、長歌「カマドニハ、[illegible]テ、飯カシグ、コトモ忘レテ」「鼻ヨリ水ヲ噴く」「山ヨリ火ヲ噴く」 (四)萌ス。メグム。萌芽 [illegible]「芽ヲふく」 (五)〔鎔カシ分ク。〕鎔解 萬葉集、十四「眞金布久、丹布ノマソホノ、色ニ出デテ、云ハナクノミゾ、アガ戀フラクハ」「銀ヲふく」「銅ヲふく」 (六)鑄テ作ル。鑄 「錢ヲふく」「鍋ヲふく」「硝子ヲふく」

ふ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 振揮 振る、ノ古言。 古事記、上[illegible] 神代紀、上[illegible] [illegible]草ノ山吹ナリ)ノ、立チヨソヒタル、山清水、酌ミニ行カメド、道ノ知ラナク」

ふ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 葺 物ニテ、屋ノ上ヲ蓋ヒ作ル。 [illegible]茅、瓦、板、[illegible]ナドナルハ、[illegible]テ打チ[illegible] 集、下[illegible]トヤ[illegible]「コノ方ニ、今年檜皮ヲふかズナリ侍リスルコト

ノ口惜シサ」萬葉集、十五[廿五]長歌「秋萩ノ、チラヘル野ベノ、初尾花、カリホニ布伎テ」

ふ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) ウヲノ鱗ヲ、皮ヨリ取リノゾク。ヒク。狂言記、餓道心「コノ鯛ノ鱗ヲふいテ、云云、皮ヲ剝クトハ云ハヌ、鱗ヲふくト申ス、ヨウ覺エサシマセ」

ふ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) |拭| 〔吹キ拂フ意カト云フ〕ぬぐふ(拭)ニ同ジ。

ふ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) |深| 〔深(フカ)ノ活用〕(一)深クナル。長(タ)ク。タケナハニナル。|闌| 玉葉集、五、秋、下「荻、ナクヨリホカノ、オトモナシ、月影ふくる、淺茅生ノ宿」拾玉集、五「ワガ秋ノ、ふくれバ冬ノ、山オロシ、ツヨク身ニシム、曉ノソラ」水無瀨殿御十五首歌合、四十三番「鶉ノ、アスカノ里ニ、秋ふけヌ、出デニシ人ハ、音ヅレモセデ」新古今集、四、秋、上「秋ノ月、シノニ宿カル、影タケテ、小笹カ原ニ、露ふけニケリ」同、五、秋、下「秋ふけヌ、ナケヤ霜夜ノ、キリギリス、ヤヤカケ寒シ、蓬生ノ月」(二)〔專ラ、夜ニ云フ〕|更闌| 天治字鏡、十二[廿]「俟夜、過夜之[illegible]、通夜也、與戸奴、又、與不介奴」景行紀、廿七年十二月「于時也更深人闌、川上梟帥且被酒、於是日本武尊抽裀中之劒、刺川上梟帥之胸」萬葉集、十二[廿七]長歌「ヌバタマノ、夜モふケ去ケリ、サ夜深テ、アラシノ吹ケバ」同、十七[十九]「ヌバタマノ、夜ハ布氣ヌラシ、タマクシゲ、二上山ニ、月カタブキヌ」源、一、桐壺「夜イタウふけヌレバ、今宵スグサズ御返リ奏セン」夫木抄、十三、月「ふけニケリ、獨リ寐待ノ、月出デテ、ムナシキ山ノ、峯ノ松風」(三)專ラ、齡ニ云フ |老爛| 新拾遺集、三、夏、徒フニ、ふくるハヤスキ、老カ世モ、思ヒ知ラルル、夏ノ夜ノ月」拾遺集、八、雜、上「有明ノ、月ノ光ヲ、待ツホドニ、ワガヨノイタク、ふけニケルカナ」

ふ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) |化| 〔前條ノ語意ニ同ジ〕(一)蒸(ム)レ舊ビテ形ヲ變フ。陳化「米ふく」(二)空氣ニ晒ラサレ、解ケテ粉トナル。風化「石灰ふく」

ふく (接尾) |幅| 掛物ヲ數フル語。軸。「掛物二幅」二箇揃ヒタルヲ、二幅對、又ハ、對幅(對軸、雙幅)ト云ヒ、三箇ナルヲ、三幅對ナド云フ。[illegible]「月壽三四幅」喫茶南方錄、三、掛物「風帶ト一文字ヲ同切ヲ用ルヲ中風帶ト云ヘリ、云云、總テ表具ノ事、切ノ取合等、吟味スベシ、四幅對、三幅對、二幅對、幅ノ長物、大横物共、ソレゾレニ表具ノカネニ有リ、云云」

ふく (接尾) |服| (一)一度ニ飲ムベキ藥包ヲ數フルニ云フ語。ツツミ。「丸藥、三服」散藥、二服」(二)煎藥、煎茶、烟草、ナド飲ム度數ヲ云フ語「湯藥、一服」茶、二服」烟草、二服」

ふぐ (名) |河豚| 〔怒レバ、腹、脹ルル故ニ云フト〕古名ハ、清音ニ、ふく。又、フクベ。フグト。海產ノ魚。形、蝌斗(カヘルゴ)ノ如ク、大ナルハ尺餘、頭廣ク、腮(アギ)ナク、鱗ナク、尾、細ソクシテ、岐、無シ。腹、最モ大キク、物ニ觸ルレバ、怒リテ腹ヲ脹ラムルコト毬ノ如シ。背、青黑クシテ斑アルモアリ、腹、白シ。味、美ナリ。然レドモ、體中、皮邊ニ蟲アリ、蝶(テフ)ト名ツク、形、ソレニ似タリ、麻醉ノ劇毒アリ、又、肝臟、及、卵巢中ニモ劇毒アリテ、之ヲ食ヘバ、多クハ死ス。まほさいふぐ、虎ふぐ、雀ふぐ、針ふぐ、等アリ。各條ニ註ス。鮐 鯸(俗用) 西施乳 書言字考節用集、五、氣形門「河豚、フグ、肝及子有大毒、[illegible]中、又其色炎黑有文點者、名斑魚、毒最甚」和漢三才圖會、五十一、江海無鱗魚「河豚、フク、フクヘ、フクト、吹吐魚、嗔魚、[illegible]、氣包魚」

ふ-ぐ (名) |不虞| 思ヒハカラザルコト。豫期セザル出來事 易經、下象傳、萃卦「君子以除戎器、戒不虞」左傳、桓公十七年「公曰、疆埸(エキ)之事、愼守其一、而備其不虞」國語、楚語「有不虞之備、而皇神相之」淮南子、[illegible]射御、以戒不虞」天智紀、元年十二月「若有不虞、其悔難及者矣」

ふ-ぐ (名) |不具| (一)具(ソナ)ハラヌコト。揃ハヌコト 後漢書、[illegible]散亡、篇無不具」(二)身體ノ或部分ノ、ソロハヌモノ。カタハ。 [illegible] 小右記、長和五年六月十九日「大納言示云、日付物、云云、雖一兩有日疾、其所、讀音、不足不具」[illegible]不具ハ依新物所被忌歟」(三)手紙ノ文ノ末ニ記ス語。意ノ盡キヌ意ヲ云フ。|不乙| |不盡| |不備| |不宜| 書言字考節用集、九、言辭門「不具、フグ」推古紀、十六年九月「[illegible]、其辭曰、東天皇敬白西皇帝、云云、謹白、不具」庭訓往來、二月、心底之趣、雖紙上、併期參會之次、不具、恐恐謹言」

〜ぶく (名) |服| 〔服ヲ濁ルハ吳音ナリ、茯苓ヲ濁ルト同ジ〕(一)喪服(モフク)。源、四、夕顏 四十「ぶく、イト黑ウシテ、貌ナド好カラネド」同、七、紅葉賀、九「御ぶく、母方ハ、三月コソハトテ、ツゴモリニハ、脫ガセ奉リ給フヲ」增鏡、第三、藤衣、上「後堀河院ノモ御服タテマツル、キビハナル御程ニ、イトイミジウ哀ナル御事ナメリ」(二)轉ジテ、喪服ヲ着テ、喪ニ籠リ居ル時限ノ稱。後世、別ニ忌(イミ)ト云フ事出デ來テ、服忌、忌服(ブク)ナド稱ス。合ハスレバ、卽チ喪(モ)ナリ。死者ノ親疎ニ因リテ、忌ト服トノ日數ニ長短アリ。例ヘバ、武家ノ制ニテハ、父母ノ忌(イミ)ハ、死後五十日トシ、家ニ籠リテ出デズ、更ニ死後十三箇月ノ間ヲ服トス。忌、明クレバ、常ノ如ク事ヲ執レドモ、服果テヌ間ハ、尙、死穢アリトテ、神事ナドニハ出デズ。其他、祖父母ニハ、忌三十日、服百五十日、兄弟ニハ、忌二十日、服九十日ナド、等級、種種ナリ。[illegible]カクレ給ヒニシ[illegible]ハテ給ヒニケルコロ[illegible]榮花物語[illegible]ハ、民部卿ノぶくニテ籠リ居給ヘレバナルベシ」增鏡、第十一[illegible]カクレサセ給ヒテ後、御服ニテ下リ給ヘレド、ナホ御暇ユリザリケレバ」

ブ-く (名) |佛供| ぶっく(佛供)ノ略。佛ニ供物ヲ奉ルコト。又、其モノ。榮花物語、十五、疑「山ニハ、四季ノ懺法ニ奉ラセ給ヒテ、ぶく(流布本、佛供(ブツグ))、ミアカシマデノ事ヲセサセ給フ」

ブ-ぐ (名) 佛具 佛事ニ用ヰル道具。ブツグ。榮花物語、廿九、玉[illegible]「中宮[illegible]シマス、云云、ミナ百體ノ御前ニぶく揃エテ[illegible]、云云」

ぶ-ぐ (名) |武具| (一)戰ヒニ用ヰル器。武器。モノノグ。兵器。書言字考節用集、七、器財門「武具、ブグ」宇治拾遺、四、第十四條「シカルベキ武具ヲ御代ノ上ニスクベキ[illegible]アリテ、義家朝臣ニ召サレケレバ」(二)專ラ、鎧、兜、ナド、戰ヒノ服ノ稱。甲冑 平治物語、一、信[illegible]、月頃日比、拵ヘ置カレタル、具足五十領、[illegible]ツ樣ニ召サレケリ」

ふく-あん (名) |腹案| 豫(カネ)テ心ノ中ニカマフル考。心中ノ考案。

ふく-いう (名) |福祐| サイハヒ。幸福。|福祉| 漢書、王莽傳「宜思正[illegible]心、以求福祐」[illegible]下、言辭門「福祐、フクユウ」書言字考節用集、九[illegible]

ふく-いく (名) |腹蜟| 蟲ノ名。にしどち〔腹蜟ニ同ジ〕

ふく-いく (副) |馥郁| 香ノ薫ル狀ニ云フ語。 [illegible]后生有異香[illegible]馥郁[illegible]久之、[illegible]陳傳良[illegible]衣襲」

ふく-いん (名) |福音| 〔希臘語、Εὐαγγέλιον (ヨキオトヅレノ意)ニ基ヅク佛蘭西語、Évangile. 獨逸語、Evangelium.

菩薩、(Pratyeka-buddha) 或ハ、Pratyeka-buddhaノ譯語）ニ、菩薩教ニア、教化[illegible]、其弟子等ニ[illegible]、佛ノ國ノ實現シテ、救ヒノ道ノ將ニ成立セムコトヲ説カレタルオトヅレ。(二)又、人ニ光明、慰安、幸福ヲ與フル教ノ詞。(三)轉ジテ、ヨロコバシキオトヅレ。

ふ-ぐう (名) 不遇 時ノ命ノ時ニ遇ハズシテ、拙キコト。フシアハセ。不幸。[illegible]不遇之文ニ乎」

ふくう-けんじゃく (名) 不空羂索 〔梵語、Amoghapāśa、阿牟伽皤賒ノ譯語。此尊ハ手ニ不空（功德、空シカラザル意）ノ羂索ヲ持シテ、人天ノ魚ヲ菩提ノ岸ニ釣リ取リテ、必ズ所獲、空シカラザル故ニ云フト〕又、ふくうけんさく。不空羂索觀音ノ略、六觀音ノ一。其像ハ、三面ニシテ、寶冠ニ彌陀佛ヲ頂キ、右第一手ニ寶瓶、第二手ニ念珠、左第一手ニ蓮花、第二手ニ羂索ヲ持チ、身ニ鹿皮ヲ服シ、蓮臺ニ坐ス。（奈良ノ南圓堂ナルハ、三目八臂ナリ、又、東大寺三月堂ナルハ、一丈三尺乾漆像、三目八臂ナリト云フ）[illegible]「不空羂索、人ノ念珠モ、此籍ニアリトカヤ」[illegible]八十四「不空羂索ト申スハ、人ノ心ハ春ノ馬ニニタリ、云云、コノアレタル心ヲシヅメテ調伏シ、利益シタマフナルベシ」

ふくうめぼし (名) 福梅干 福茶ニ添ヘテ食フ小梅ノ梅干。ふくまめ(福豆)ノ條ヲモ見ヨ。

ぶく-え (名) 服衣 もふく(喪服)ニ同ジ。狂信胡母集「日数タチ、佛ノワザモハテテ、京ニカヘリネト人人イフ、ぶく衣ヲヌグトテ」

ぶく-えき (名) 服役 (一)役ニ就クコト。[illegible] (二)兵役ニ就クコト。(三)懲役ヲ勤ムルコト。

ふく-えふ (名) 複葉 〔單葉ニ對ス〕(一)植物學ノ語。葉ノ形態ノ一種。即チ、葉身ガ多クノ小葉ヨリ成リテ、其全體ガ一葉柄上ニアルモノ（羽狀複葉、例、ばら、[illegible]）ト、葉片一箇ナルモ、葉身ト葉柄トガツヅキタルモノ（掌狀複葉、例、[illegible]）トアリ。(二)飛行機ノ翼ノ、左右、各二葉ナルコト。又、ソノ翼。複翼。

ふく-おん (名) 複音 〔單音ニ對ス〕(一)父母音ノ複リタル音。はッせい(發聲)ノ條ヲモ見ヨ。(二)異ナル發音ガ、同時ニ振動シテ發シタル數多ノ音。

ぶく-か (名) 服暇 服假 服喪ト、賜暇ト。服ニ際シテ、官ヨリ賜ハル忌。[illegible]「服暇、父母一年」法曹至要抄、下「一年服假事」[illegible]「服暇トイフハ、幾日マデ服ヲ[illegible]、忌籠リテ出仕セヌ間ヲ暇トイフナリ、暇過グレバ、服ノ中ニテモ、御用アラバ召出サルルナリ、服過グレバ[illegible]出仕スルナリ[illegible]」[illegible]

[illegible]古、天子ヘ奉公スル人ノ、親兄弟ニ離レテ、[illegible]リ、故ニ服ノ字ヲ書キ替ヘテ忌服トイフモノ歟」

ふく-かう (名) 腹腔 腹部ノ、横隔膜ヨリ下ニテ、内臟ノアルトコロ。

ふく-かう (名) 腹稿 〔腹中ノ草稿ノ意〕心ノ中ノシタゴシラヘ。（詩文ノ）宋史、[illegible]

ふく-かく (名) 複閣 複リタルタカドノ。層樓。層閣。何晏、景福殿賦「豈惟嬛情、[illegible]」[illegible]

ぶく-かげん (名) 服加減 茶ノ湯ニテ、茶ノ温度ノ濃淡等ノ、飲ムニ丁度ヨキ加減ナルコト。飲加減。[illegible]吹、上「昔ユカシキ御服紗ニ、茶杓ヲ戴セテサシ出ス、コハ何ヨリノ馳走ゾト、禮儀正シク飲ミ終リ、コレハ至極ノ服加減、少女ガ手前、感心イタス」

ふく-がふ (名) 複合 二種以上ノモノガ、複リアヒテ、一ツニナルコト。「複合名詞」

ふく-かまり (名) 伏屈 忍ビノ斥候。シノビモノ。フシガマリ。フセガマリ。兵法雌鑑、五十一、「[illegible]伏兵之事、伏兵ト云ハ、云云、深草、カヤワラ、麥バタケナトノ[illegible]ニカクレ伏シテ、敵ノ使、或ハ物見武者ナドノ來ルヲ待ヲ、伏かまりト云、ふくかまり、ふしかまり、草かまり、草ヲフスルナドト云、皆同ジ儀也、伏兵也」

ふく-かん (名) 覆勘 (一)鎌倉時代ノ裁判上ノ語。原裁判ノ判決ニ不服ナル時、

或ロ實ヲ造リテ再審ヲ訴願スルコトナラムト云フ。[illegible](二)父祖ノ代ニ出訴セザリシ事件ヲ、孫ノ代ニナリテ[illegible]

ふく-き (名) 復歸 モドルコト。カヘルコト。[illegible]

ぶく-き (名) 服忌 ぶく(服)、及、ぶくか(服暇)ノ條ヲ見ヨ。

ふく-きう (名) 復仇 仇ヲトルコト。シカヘシヲスルコト。アダウチ。復讐。

ふく-きう (名) 復舊 舊ニ復ルコト。モト通リニナルコト。宋書、武帝紀「詔曰、百官[illegible]」

ぶく-ぎょ (名) 服御 天子ノ召サルルモノ（衣服、車馬ナド）ノ總稱。漢書、文帝紀「大旱、蝗、令諸侯無入貢、弛山澤、減諸服御、損郎吏員、發倉庾以賑民」後漢書、梁皇后紀「宮[illegible]服御[illegible]」

ぶくき-れい (名) 服忌令 忌服ノコトヲ規定セラレタル法令。明治六年、太政官布告ニヨリ、武家ノ制服ノ[illegible]見ヨリ採用シ、貞享元年ノ服忌令ヲ改正セル元祿六年ノ制、並ニ、元文元年増補セルモノヲ以テ、服忌令ト定メ[illegible]タリ[illegible]忌令、仰出サル」享保集成絲綸錄、十七、元祿十一寅

年六月、服忌令追加之内付被仰出之云云」御當家令條、三十六、服忌令「父母、忌五十日、服十三月」

ふくくつ（名）〔復活〕（一）イキカヘルコト。ヨミガヘルコト。蘇生。晉書、苻堅載記「我藉命未死、但服藥太多、傷我五臟耳、今當復活」（二）一旦、廢シタルモノヲ、復ビ用キルコト。復興。

ふくくつさい（名）〔復活祭〕〔英語、Easter. ノ譯語〕基督教ニテ、毎年、基督ノ復活日（陽曆三月廿一日以後ニ來ル滿月後ノ第一日曜日）ニ、其復活ヲ記念スルタメニ行フ祭典。復活節。

ふくくゎん（名）〔副官〕陸海軍ニテ、長官ニ直屬シテ、軍事上ノ庶務ヲ掌ル武官ノ稱。「元帥副官」

ふくげ（名）〔𦀌𥿋〕〔ふふき毛ノ義〕鳥ノ雛ノ、卵ヨリ孵リテ、始メテ出デタル時ノ、産毛ノ事ニテ、自ラ吹キ出デタル細キ毛。フクヨカナル毛　フクタゲ。毳毛。（未ダ羽ニナラザルモノ）倭名抄、十八、羽族體、𦀌𥿋、布久介」

ふくけい（句）〔副啓〕添ヘテ申ス。ナホナホガキ。追啓。追白。（書狀ノ語）

ふくげつ（名）〔復月〕陰曆、十一月ノ異稱。此月、冬至アリテ、一陽來復スレバ云フ　霜月。

ふくげふ（名）〔副業〕本業ノ片手間ニナス業。内職。

ふくけん（名）〔復權〕（一）喪失シタル權利ヲ回復スルコト。（二）確定判決ニヨル刑ノ言渡シヲ受ケタルタメ、法令上ノ資格ヲ、喪失シ、又ハ、停止セラレタルモノニ對シテ、司法大臣ノ執奏ニ基ヅキ、大權ノ命令ニヨリ、將來ニ向ヒテ、其、一般、又ハ、特定ノ資格ヲ回復セシムルコト

ふくこ（名）〔復古〕古ヘノ制ニ復スコト　モトノ制度ニナルコト。詩經、小雅、車攻篇、序「車攻、宣王復古也、宣王能内修政事、外攘夷狄、復文武之境土」「王政復古」復古神道」

ふくご（名）〔複語〕漢語ニテ、同ジ語ノ二ツ複リタルモノ。即チ、彬彬、鬱鬱ノ類ノ如シ。疊語。

ふくこう（名）〔復興〕再ビ興スコト。復タ興ルコト。後漢書、祭遵傳「斯誠、大漢厚下安人、長久之德、所以累世十餘、歷載數百、廢而復興、絶而復續者也」同、劉不傳「再徵遷、拜趙相、入門生就學者、常百餘人、關中號之曰、五經復興」

ぶぐこう（名）〔武具工〕武具ヲ製造スル職人。守貞漫稿、四、生業、上「武家所用鉏押ノ物ハ、武具工ニテ製之」

ふくこく（名）〔覆刻〕書物ノ板木ヲ、故ノ如ク彫刻シテ出版スルコト。又、ソノモノ。重版。翻刻。「宋版覆刻」

ふくこしんたう（名）〔復古神道〕儒教、佛教ナドノ外來思想ヲ交ヘズ、我ガ邦固有ノ神道ヲ宣布スルヲ目的トスル教　江戸時代、古學（其條ノ（三）ヲ見ヨ）ノ學者ナドノ、專ラ唱道セシモノ。

ふくさ（名）〔覆紗　服紗〕〔字ハ借字ナリ、ふくらかに柔らかナル義。玉勝間、十三「近江、美濃、尾張ナドニテ、物ノ柔カナルコトヲふくさトイフ」〕衣裳、食膳ナドノ柔カナルコト。強ク調ゼザル故ニ云フ。貞丈雜記、十五、言語之部「ふくさトイフ詞、古ハ無キ詞ナリ、今ハふくさトイフ事多シ、ふくさ小袖、ふくさ料理、ふくさ衣物、ふくさ帶、ふくさ時服、ふくさ物、云云、是等ノ詞、皆本式ニアラザル物ニハ、ふくさトイフ事ヲ付ケテ云フナリ、コレラハ皆、今世ノ詞ナリ、昔ハナシ」好忠集「秋風ノ、ふくさ衣ヲ、取リミダリ、歸ル、ホドニゾ、實十メヲ見ル」海人藻芥、下「鳥羽院ノ御代ヨリ強キ裝束ヲ用ル、云云、上代ハ皆ナ裝束ニテ、ふくさニテ、強クハ不調也」昔傳拾葉、二、古侍裝束事「鳥羽院以前ハ、しゃうぞくモふくさニテ、コハク調ゼザリシ也、此御代以前ニハ、公家ニオハグロヲ付、眉ヲ作リ、オシロイナドヤウノ事、一圓ナシ、云云、此御代ヨリ以後、裝束モ見分ノ能ヤウニコハクトトノヘ、假粧ナドハアル事也」海録、十八、第十一條「鳥羽院ノ御時ニ、裝束ヲモ強張ニシテ、ふくさ裝束ヲ改メラレシハ、花園大臣、キラヲ好マレシ故、仰セ合サレシ故、ソノ時、粧ノ事始マレルニヤ」松屋筆記、三十八、第四條「武家ニ七五三、五五三ナドノ晴ノ膳ノ時ハ、別ニふくさノ御膳トテ、マヰラスルガゴトシ」海録、廿、第八條「中御大王ニ御膳參ル折カラ、御儀式ニハ生物ノ膳ヲ供シ、次ニ御ふくさ御膳ト唱ヘテ、常ノ御膳ヲ參ト云フ」

ふくさ（名）〔袱紗〕〔袱子ノ音轉カト云フ。字彙「袱音伏、包袱」紗ハ借字、ウスモノニアラズ〕（一）帛ニテ作レル風呂敷、綿帕　袱包　轉ジテ、總テ物ヲ包ムニ用キル方形ノ布帛。平包　フロシキ　貞丈雜記、八、調度之部「絹ニテモ、布ニテモ、四方ニ廣ク縫ヒツヅケテ、物ヲ包ムヲ、古ハ平裹トイヒシナリ、殿中日日記ナドニ、ヒラヅツミノコト見エタリ、今ハ絹ニテ縫ヒタルヲ、ふくさトイヒ、布ニテ縫ヒタルヲ、風呂敷トイフ、古ハふくさ、ふろしきトイフ名ハ無シ、スベテ平裹トイヒシナリ」（二）茶湯ニテ、茶入、茶杓、ナドノ塵ヲ拭ヒ、又ハ、茶椀ヲ受クルニ用キルモノノ稱。方、八寸許リ、紫帛ニテ製ス。老人、婦人ナドハ、種種ノ色ヲモ用キル。和漢三才圖會、三十一、庖廚具「手帕、服茶、俗服紗、俗云ニ不久左ニ」人倫訓蒙圖彙（元祿）五「手帕」病閒長語（井上金峨）「[illegible]」[illegible]云フ[illegible]キ[illegible]付ケ顏ニウケリ、[illegible]モノヲ月代[illegible]クルニヨリ、月代ヲカクス」

ふくざい（名）〔服罪〕罪ニ服スルコト　〔伏罪〕罪ニ落ツルコト。[illegible]國志、[illegible]在[illegible]相也、云云、開誠心、布公道、盡忠益時者、雖讐必賞、犯法怠慢者、雖親必罰、服罪輸情者、雖重必釋、游辭巧飾者、雖輕必戮」

ふくざい（名）〔伏在〕ヒソミテアルコト。

ふくさう（名）〔福相〕福福シタル狀ノ容貌　有福ナルベキ運命ヲ具ヘタル人相〔貧相ニ對シテ〕書言字考節用集、九、言辭門「福相、フクサウ」一茶句集、夏「テモ扨モ、テモ福相ノ、牡丹カナ」

ふくさう（名）〔服裝〕ミナリ。衣服ノヨソホヒ。又、衣物ヲ着ルコト。服飾

ふくざうな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）〔無覆藏　無腹藏〕オホヒカクスコトナシ。心ノ底ヲ打明カス。書言字考節用集、九、言辭門「無二覆藏一、フクザウナク」俚言集覽「物ヲ隱サズ言フヲ、俗ニ覆藏なくトイフ」

ふくざうり（名）〔福草履〕蘭ニテ作レル草履ノ、緒、太クシテ、白紙ヲ卷キツケタルモノ。守貞漫稿、廿七、客服「福草履、京坂ニ云フ中拔草履、同物也、士民、持草履ト號シテ、奴僕ニ持セ歩行スルハ、此草履ヲ專トス、京坂ニテハ、阿波草履ト云」同、廿六、羽[illegible]、「[illegible]印籠筥、近世之居茶屋ニノ、客ニ貸ス福草履ニハ、各標印アリ」

ふくさおび（名）〔覆紗帶〕下帶以外ノ帶ノ稱。ふくさ（覆紗）ノ條ヲ參見セヨ。諸家奥女中袖鏡、御制禁品品の事「一、福布帶、琥珀ノ類、縮緬ノ類、腰合セナリ、云云」貞丈雜記、十五、言語之部「ふくさ帶、さげ帶ニ對シテ云フ」俳風曲（享保）「藪入ニ、押貸スルゾ、ふくさ帶」

ふくさ-がみ (名) [illegible] [illegible]、フクサガミ、[illegible]、[illegible]、フク[illegible]メリ」

ふくさ-ごぜん (名) [袱紗御膳] 柔カナル[illegible]。[illegible]ノ條ヲ參見セヨ。[illegible]二御ふくさ御膳ト唱ヘテ、常ノ御飯ヲ奉ト云フ」

ふくさ-こそで (名) [袱紗小袖] 柔カナルコソデ。ふくさ(袱紗)ノ條ヲ參見セヨ。貞丈雜記、十九、[illegible]ふくさ小袖、のしめニ對シテ云フ」[illegible]、廿、[illegible]衣服ニハ、[illegible]ニ對ヘテ、絹布ヲふくさ小袖ト云ヒ、云云」享保集成絲綸録、七、享保十四年十一月[illegible]、[illegible]候時之通(竹姫入輿)、云云、外之者ニハふくさ小袖麻上下、足袋ニハ對之紺足袋サセ可申候事」

ふくさ-すひもの (名) [袱紗吸物] 鯉ノ[illegible]以外ノ、普通ノ吸物ノ稱。ふくさ(袱紗)ノ條ヲ參見セヨ。貞丈雜記、十五、「[illegible]ふくさ物、鯉ノあつ物ニ對シテイフ、云云、本式ニアラザル物ニハふくさト云フ」

ふくさ-たうし (名) [袱紗唐紙] 礬水ヲ引キタル紙ニ對シテ、タダノ紙ノ稱。ふくさ(袱紗)ノ條ヲ參見セヨ。[illegible]、廿、[illegible]八條トウサ紙ニ對ヘテ、生紙ヲふくさ唐紙ト云フ」

ふくざつ (名) [複雜] (一)多ク入リクミ、マジレルコト。種種イリクムコト。(二)[illegible]ルコト。

ふくさ-づつみ (名) [袱紗包] (一)フクサ小袖ヲ包ムモノ。後ノ風呂敷ナリ。(二)ふくさニつつむコト。又、ソノモノ。フロシキヅツミ。[illegible]フカタナキ御家ノ重寶」同、同「服紗包ヲ取り出シ、[illegible]」

ふくさ-みそ (名) [袱紗味噌] 摺ラヌ味噌ノ[illegible]。ふくさ(袱紗)ノ條ヲ參見セヨ。貞丈雜記、十五、言語之部「ふくさみそ、味噌ヲスラヌヲ云フナリ、スリタル味噌ニ對シテイフ」

ふく-さんぶつ (名) [副産物] 主タル生産物ニ附随シテ出來ル産物。

ふくさ-もの (名) [袱紗物] 袋物ナドニ對シテ、平包ノ稱。今ノ袱紗ニ同ジ。ふくさ(袱紗)ノ條ヲ參見セヨ。貞丈雜記、十五、言語之部「フクサト云フ詞、云云、ふくさ物、包絹ノ事ヲ云フ、昔ハ絹ニ包ムナドト云ヒ、又ひらづつみナドト云ヒシナリ、ふくさものト云フモ、織物ノ袋ナドニ對シテ云フ詞ナリ、ふくさト計モ云フ」下學集、下、絹布門「帛物、フクサモノ」

ふく-さよう (名) [副作用] 醫學ノ語。主要目的トスルトコロノ作用ニ伴ヒテ起ル藥ノ他ノ作用。

ふくさ-れうり (名) [袱紗料理] 袱紗御膳ニ調フル料理。ふくさ(袱紗)、及、ふくさごぜん(袱紗御膳)ノ條ヲ參見セヨ。貞丈雜記、十五、言語之部「フクサト云フ詞、云云、ふくさ料理、七五三ノ膳部ナドニ對シテ云フ」

ふく-し (名) [福祉] (説文「祉、福也」) 又、ふくち。シアハセヨキコト。サイハヒ。福祐。易林、[illegible]「賜我福祉、[illegible]無極」

ふく-し (名) [副詞] 語學ノ語。常ニ動詞ニ副ヒ、又、或ハ、形容詞、又ハ、他ノ副詞ニモ副ヒテ、其意義ヲ言ヒ添フル語ノ稱。例ヘバ「暫し留ル」「屢、思フ」「尙、早シ」「甚だ高シ」ノ「暫し」「屢」「尙」「甚だ」ナドノ如シ。そへことば。

ふく-し (名) [副使] 又、ふうす。附添ノ使者。[illegible] 唐書、百官志「[illegible]使一人」(五千以上有二副使一人」) [illegible]本節用集、人倫「正使、副使」

ふく-し (名) [副事] [illegible]ニテ、[illegible]コト。[illegible]

ふく-じ (名) [副寺] ふうす(副寺)ニ同ジ。

ふぐし (名) [肺] 「[illegible]ニテ、ふぐトモ云フ」五臓ノ一。はい(肺)ノ一名。又、フクフクシ。[illegible]、肺、フクフクシ、[illegible] 類聚方、一「[illegible]之八、胸上ニ腫ギアリ」

ふ-ぐし (名) [掘串] (掘串ノ約轉カト云フ) 竹ニテ作リ、其先ヲ尖ラセ、地ニ刺シコミテ、土ヲ掘ル具。今、訛シテ、[illegible]ホグセ。鐵ナルヲ鐵ふぐしト云フ。萬葉集、一、長歌「籠モヨ、御籠モチ、布久思モヨ、美夫君志持チ、此ノ岳ニ、菜摘マス子」倭名抄、十五、造作具「鍬、加奈布久之」

ふく-しう (名) [復讐] アダヲトルコト。シカヘシヲスルコト。アダウチ。復仇。[illegible]「富二天下一也、爲二匹夫匹婦一復讐也」

ふく-しき (名) [複式] (一)二ツノモノヨリ成レル方式。又、複雜ナル方式。(二)複式簿記ノ略。簿記法ノ一。一ツノ取引ヲ、同一ノ帳簿ニ、貸借ノ雙方ヲ分ケテ記入スルモノ。

ふく-しく (名) [副詞句] 文章ノ構造上ニ於テ、他ノ語、又ハ、句ニ對シ、副詞ト同ジ位置ニアル句。

ふく-じつ (名) [伏日] 三伏ノ日。さん[illegible]

ふく-じふ (名) [illegible]

ふく-しん (名) [腹心] (一)腹ト、心ト。[illegible] (二)[illegible] 一心同體ノ人。[illegible]トモ賴ム人。[illegible] 賴タノミニナル人。[illegible] 「[illegible]大臣亦猶之」「腹心之臣」 (三)心ノ奥底。心底。[illegible]成)一「大石ガ腹心ヲ示シテ大義ヲ果セルモ、利兵衛[illegible]」[illegible]トハ、心ノ底マデ打明カス意。左傳、宣公十二年[illegible]

ふく-しん (名) [復申] (一)返答ヲ申シ上グルコト。返事ヲ申スコト。(二)ふくめい(復命)ニ同ジ。カヘリマウシ。

ふく-しん (名) [覆審] [illegible]

ふく-じん (名) [福人] 福アル人。運ノ好キ人。福者。カネモチ。富人。醒睡笑(元和、安樂庵策傳)五「堀池ト云フ福人ノモトニ賀

ヲ諷キ、毎年ウクルコトナク過ゴシ」 常磐津、子寶三番叟「身ハ福人ト見エ候カ、又、徳人ト見エ候カ」

ふく-じん (名) [福神] ふくのかみ(福神)ニ同ジ。しちふくじん(七福神)ノ條ヲモ見ヨ。 狂言記、蛭子大黒天「惠比壽、大黑、詣ラントセシガ、猶モ所ノ福神トナランナラント」 傾城色三味線(元祿、其磧、自笑合作)湊之卷、三、切繼シ女郎數多ノオ敵ヲ釣寄セ、一日モ隙ナク流行ラルル故ニ、親方ノ爲ニハ福神、客ノ爲ニハ身代ニ尾ヲ出サス」 塵添壒囊鈔、三、第廿七條「餅ハ福ノ源ナレバ、福神去リケル故ニ衰ヘケルニコソ」 常磐津、豐文字名譽三開「昔ヲ忍ブ名所ニ、惠比壽ノ宮ト大黑天、キマスヲ拜ミ福神ノ、惠地ヲ尋ネ詣デバヤ」

ぶく-じん (名) [茯神] ぶくりゃう(茯苓)ノ、松ノ木ノ根ヲ抱クモノノ稱。藥種トス。 和漢三才圖會、八十五、寓木類「茯苓出二大松下一、附二根而生、云云、茯神、抱二根者也、治二風眩驚悸、多恚怒、善忘一、開二心益一智、安二魂魄一」

ふくじん-さう (名) [福神草][福人草] ふくじゅさう(福壽草)ノ異名。

ふくじん-づけ (名) [福神漬] [材料七種ヲ七福神ニ寄セタル語] 通常ハ茄子、瓜、生薑、紫蘇、刀豆、小蕪ノ出盛ノモノニ、乾大根ヲ加ヘ、鹽多クシテ漬込ミ、後ニ細カニ刻ミテ混ゼ合ハセ、水ニ漬ケテ、度度水ヲ變ヘテ鹽ヲ出シ、布巾ニ包ミテ、堅ク絞リテ水分ヲ取ル。別ニ醬油一升ニ、砂糖八十匁ノ割合ニテ入レ、煮立テテ冷シタルモノニ、前ノ材料ヲ漬ケテ、醬油ヲ吸込ミタラバ、又、サシ加ヘ、ヒタヒタニシテ置キテ作ル。

ふくし-もの (名) [肴] [服し物、ノ義ト云フ、藥ヲ服す、ナド是レナリ] さかな(肴)ニ同ジ。 倭名抄、十六[三十]酒醴類「肴、佐加奈、一云、布久之毛乃」 名義抄「肴、サカナ、フクシモノ」

ふく-しゃ (名) [福者] シアハセヨキ人。有福ナル人。富者。 日本永代藏(貞享、西鶴)三「家有德ナルカタニタヅネケレバ、云云、是皆金溜トヨロコビ、彼福者ノ教ニ任セ」 常磐津、子寶三番叟「ヤレヤレ、目利カナ目利カナ、身共コソ福者ニテアレ、其中ニモ子福者ニテ、子供十二人持チ候」

ふく-しゃ (名) [複寫] (一)一旦、寫シタルモノヲ、更ニ寫スコト。(二)同一ノモノヲ、二枚以上、一時ニ寫スコト。

ふく-しゃ (名) [副寫] 原本ヲ寫シ取リテ、ヒカヘ置クコト。又、ソノ寫。 正字通「凡物有二二曰レ副、非二一之辭、副寫藏書、正本外副本也」

ふく-しゃ (名) [覆車] 車ノクツガヘルコト。又、ソノ車。 蒙書(漢、黃石公)安禮篇「與二覆車一同レ軌者傾、與二亡國一同レ事者滅」 書言故事(宋、胡繼宗)十二「驂、前代軍曰二覆車之戒一、賈誼策、前車覆、後車戒、秦世所二以亟絕一者、其轍迹可レ見、然而不レ避是後車又將レ覆也」

ふく-しゃ (名) [副車] ソヘグルマ。カヘグルマ。後乘。 史記、留侯世家「良與レ客狙二擊秦皇帝博浪沙中一、誤中二副車一」 南齊書、輿服志「衣書十二乘、古副車之象也、今亦曰二五時副車一」

ふく-しゃう (名) [副將] 主將ノ副タル人。 欽明紀、廿三年七月「是月遣二大將軍紀男麻呂宿禰一、將レ兵出二哆唎一、副將河邊臣瓊缶、出二居曾山一」 松隣夜話、上「松山ノ副將北條玄庵」

ふく-しゃう (名) [副章] 正章ノ勳章ニ、副ヘテ下賜セラルル勳章。

ふく-しゃうりゃう (名) [福聖靈] 生前幸福ナリシ人ノ靈ノ、盂蘭盆會ニ迎ヘ祀ラルルモノ。 俳諧古選附錄「福聖靈、子ノ家多シ、身ハ一ツ」

ふく-しゅ (名) [覆手] 琵琶ノ甲ノ面ニアリテ、掌ヲ屈シテ、内ニ向フガ如キモノ。ココヨリ轉手ニ絃ヲ張ル。 其下ニ穴アリ、隱月ト云フ。 蓋シ、絃ノ響ヲ助クルモノナラム。 倭名抄、四[廿]琴瑟具、注「琵琶、云云、覆手者在二腹、如二屈掌一者也、云云、滿月(隱月ノ誤ナラム)、半月者、在二腹之孔名也」 倭爾雅、五、器用「琵琶、云云、覆手、フクシュ」 樂家錄、九、琵琶之名所「覆手、是腹板上持二絃本一之處也、其形如レ覆レ手、故名レ之、覆或作レ伏」

ふく-じゅ (名) 福壽 幸福ニシテ、壽命アルコト。仕合ニシテ、長命ナルコト。 宋史、張齊賢傳「齊賢母孫氏、年八十餘、封二晉國太夫人一、每レ入二謁禁中一、上歎二其福壽有一レ令子一」 歐陽修、答二陣旅驗方一書「惟思高賢還福、早能起二出處以宜享二福壽於無涯一也、企望企望」 謠曲、江口「衆生濟度ノ其御方便モ、先ヅ福壽圓滿ノ願ヒヲ叶ヘ」

ふく-じゅう (名) [服從] 命ノママニ服シ從フコト。 禮記、內則篇「四十始仕、方物出レ謀發レ慮、道合則服從、不可則去」

ふくじゅかい-むりゃう (句) [福聚海無量] 又、福壽海無量。佛教ノ語。幸福ノ聚集スル、猶、大海ノ量リ知ル能ハサルガ如シノ意。 法華經、普門品「具二一切功德一、慈眼視二衆生一、福聚海無量、是故應二頂禮一」 國性爺合戰(正德、近松作)九仙山「姬宮小ムツモ手ヲ合セ、南無日本住吉大明神、福壽海無量ト丹精無二ノ心サシ、天モ感應、地モ納受」

ふくじゅ-さう (名) [福壽草] 毛茛科ノ多年生草本ノ名。早春、寒ヲ犯シテ、舊根ヨリ生ズ。莖、肥エテ、高サ二三寸、葉ハ胡羅蔔ニ似テ小サク、花、黃ニシテ、半開ノ菊花ノ如シ。紅ナルモアリ、又、白キヲ帶ブルモアリ。多ク鉢植トシテ、歲首ニ用キル。故ニ、元日草ノ名モアリ。福神草(或ハ云フ、福人草)。福德草。長壽草。朔日草。滿作草。側金盞花。報春花。 和漢三才圖會、九十二、山草類「元日草、

[illegible]、按、[illegible]草[illegible]山[illegible]陰處有レ之、多花、不生二於宿根一、[illegible]、[illegible]、兄貴ノソバニ、居候」

ふく-しょ (名) [復書] へんしょ(返書)ニ同ジ。

ふく-しょ (名) [副書] (一)原書ノ副本。 唐書、虞世南傳「有司[illegible]以行[illegible]副書[illegible]本一也」 (二)ソヘガキ。ナホナホガキ。

ふく-しょ (名) [副署] 國務大臣ガ、輔弼ノ責ニ任ズルコトヲ明カニスルタメ、詔書、勅書、法令、條約、其他ノ公文書ノ御名御璽ニ副ヘテ、署名スルコト。又、ソノ署名。

ふく-しょく (名) [復飾] [落飾ノ反] げんぞく(還俗)ニ同ジ。

ふく-しょく (名) [服飾] 衣服ト、裝飾ト。又、衣服ノ裝飾。ミナリ。 北史、周、宣帝紀「好令下京城少年、爲二婦人服飾一入レ殿歌舞上」

ふく-しょく (名) [服色] 衣服ノイロアヒ。 史記、殷紀「先王言不レ可レ不レ勉、云云、湯乃改二正朔一、易二服色一」 古今原始、明、趙式「隋文帝楊堅、定二服色一始服レ黃、後世人君、服レ黃始レ此」

ふく-しょく (名) [復職] 故ノ職ニカヘルコト。舊職ニ就クコト。 陳書、陸山才傳「高宗南征周迪一、以山才一爲二軍司一、迪平復レ職」

ふく-しょくぶつ (名) [副食物] 主タル食物(飯、麪包ナド)ニ副ヘテ食フモノ。ソヘ。サイ。オカズ。

ふぐ-じる (名) [河豚汁] 河豚ノ肉ヲ實ニシタル味噌汁。甚ダ美味ナリ。サレド中毒ヲ起シ易シト云フ、又、フグトジル。 大草家料理書「ふぐ汁料理ハ、差合有候故、取捨化候也、但シ十ミノ木、又ハ、古屋ノ煤早嫌ベシ」 柳芭蕉句集、冬「ふぐ汁ヤ、鯛モアルノニ、無分別」

ふく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ [illegible] 伏
[illegible]シテ從フ。[illegible] 政心替事「我平我ガ武略ニ達セルママニ、伐タバ忽チ[illegible]、ヌメバダズ[illegible]ノ思[illegible]」[illegible]ニ伏す」 (二)伏ス[illegible]クル。ヒソム。「獸、內ニ伏す」「災、下ニ伏す」

ふく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ [illegible] 服
(一)得心シテ附キ從フ。心服ス。書經、[illegible]太甲、中[illegible]民服ニ厥命ニ罔レ有レ不レ悅」平治物語、二、頼政心替事「天下ハ終ニ漢王ニ服すベシ」「萬民、皆、服す」 (二)從事ス。就ク。「兵役ニ服す」

ふく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 服
(一)附キ從ハシム。孟子、公孫丑、上篇「以力服人者、非心服也、力不贍也、以德服人者、中心悅誠服也」「敵ヲ服す」「天下ヲ服す」 (二)着ル。(衣ニ) 孝經、卿大夫章「非先王之法服不敢服」[illegible] (三)飲ム。食フ。ブクス。

ふく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 復
カヘル。モドル。モト通リニナル。左傳、成公十八年「復其位」[illegible]

ふく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 復
(一)カヘス。モドス。公羊傳、昭公五年「舍中軍、舍何、復古也」 (二)クリカヘシテサラフ。(讀書ニ云フ) 復讀 (三)役ヲ免ス。租ノ[illegible]ヲモ見ヨ) [illegible]役ヲ免サル。(一年ヨリ十年マデアリ、又、終身ナルモアリ) 漢書、高帝紀「非七大夫以下、皆復其身及戶、勿事」[illegible]一年」天智紀、五年七月「大水、是秋復租調」

ふく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 覆
[illegible]

ぶく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 服
[illegible]喪ニ服ス。喪ニコモル。[illegible]ムスメ(江侍從)ノ亡クナリタリシニ、ぶくすトテ」

ぶく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 服
ふくす(服、他動、左變)ノ條ノ(三)ニ同ジ。[illegible]藥ヲぶくしテ、イトクサキニ依リテ[illegible]ナン、エ對面給ハラヌ」長門本平家物語、一、得長壽院導師事「ハナ机ノ下ニ、紙ニヒネリタル物有、云云、閼伽桶ナル水ヲ入テ、カキ立テゾぶくしケル」

ふく-すう (名) 複數 文法ノ語。物ノ二ツ以上ナルコト。一ツナルヲ、單數ト云フニ對ス。複素數。

ふく-すけ (名) 福助 俗ニ、背低ク、頭顱ノ甚ダ大ナル人物ノ像、木偶ニ作リ、畫ニカキナドシテ、福分アルモノトス。又、福、心ノママニ叶フトテ、叶福助トモ云フ。又、其形ノ人。俚言集覽「福介、頭ノ大ナル人形、コノ土偶、寬政年中製シ出ス」

ふく-すゐ (名) 覆水 容器ヲ覆シテ、コボシタル水。覆水盆に返らずトハ、妻、一度、離緣シテ、夫ノ家ヲ去ラバ、再ビ返ルコト能ハズノ意。拾遺記(晉、王嘉)「太公初娶馬氏、讀書不事產、馬求去、太公封齊、馬求再合、太公取水一盆傾于地、令婦收水、惟得其泥、太公日、若能離更合、覆水定難收」以上ノ文ヨリ、覆水不收ト云フ句ヲ、支那ニテモ[illegible]ハヤセリ [illegible]筆記(宋、[illegible])「[illegible]、覆水不收、太白詩、市若不上天、覆水難再收」

ふぐせ (名) 〔ふぐしノ訛〕 ふぐしノ條ヲ見ヨ。[illegible]せト云ハ何レノ字ゾ、答ニハ是ヲ土器子ト云、[illegible]ニハ、ついふぐせト云也、ついハつち也、[illegible]子、ふぐ[illegible]タニテ、まてヲ取ルニハ、云云、上手ハふぐせニテモ[illegible]

ふく-せい (名) 服制 [illegible]

ふく-せい (名) 複製 (一)或物ト同ジ物ヲ、更ニ製造スルコト。又、[illegible]、其原物作者以外ノモノガ、[illegible]同ジヤウニ、製作スルコト「不[illegible]」 (二)書畫ヲ、寫眞版ナドニ取リテ、印刷スルコト。

ふく-せい (名) 複姓 (一)支那ニテ、姓氏ノ二字ナルモノ。司馬、歐陽、諸葛ノ如シ。[illegible]日、代[illegible]、廿九日、[illegible]、十日、[illegible]、複姓、皆與其二字姓也」 (二)我ガ邦ニテハ、本ノ姓ニ重ネテ賜ハリタル姓。即チ、平群ノ文室ノ朝臣、中臣ノ酒人ノ宿禰、藤原ノ惠美ノ押勝ナドナリ。後世ノ佐佐木鹽谷判官、宇都芳賀兵衞ナドモ、此類ナリ。[illegible]

ふく-せき (名) 復籍 一旦、他家ニ入リテ除籍シタル者ヲ、元ノ戶籍ニ復スコト。(離緣ノ人ナドニ云フ)

ふく-せき (名) 復席 前ノ席ニモドルコト。

ふく-せん (名) 複線 (一)二ツ以上ノ線。(二)二軌以上、並行ニ設ケタル汽車、電車ノ線路。(單線ニ對ス)

ふく-せん (名) 伏線 [illegible]後部ニ言ハムトスル事柄ノ豫備ト[illegible]

ふく-そ (名) [illegible]也」運ノヨキコト。サキハヒ。サイハヒ。[illegible]

ふく-そ (名) 復[illegible] [illegible]ニ同ジ。

ふく-そう (名) 覆[illegible] [illegible]

ふく-そう (名) 伏奏 天子ノ御前ニ伏シテ、奏聞スルコト。[illegible]「闕下ニ伏奏ス」

ふく-そう (名) 輻湊 輻輳 〔車ノ輻ノ、轂ニアツマル義〕物ノ、[illegible]一處ニ[illegible]ルコト。漢書、地理志「郡國輻湊、浮食者多」同、[illegible]

ふく-ぞく (名) 服屬 シタガヒ、ツクコト。ツキ從フコト。[illegible]

ふく-だ (名) 福田 ふくだもち(福田餅)[illegible]

ノ略。行宗集「モチヒコソ、イタキヤツナレ、皆人ノ、ふくだトノミモ、名ヅクト思ヘバ」日高川繪詞「ふくだヤシナハセタマヘ」

ふくたい (名) |複體| げんそ(元素)ノ條ヲ見ヨ。

ふぐたいてん (句) |不倶戴天| 又、倶不戴天。倶ニ天ヲ戴カザルコト。復讐セザレバ、已マザル怨ミアルコト 卽チ、必ズ復讐シテ、讐ト倶ニ同ジ天地ノ間ニ生キズト云フ意 禮記、曲禮、上篇「父之讐弗與共戴天、兄弟之讐、不反兵」

フク・ドウ
ふくだう (名) |復道 複道| 道路ノ上ニ、更ニカケワタシ設ケタル路。又、廊下。史記、秦始皇紀「始皇、云云、乃令咸陽之旁、二百里内、宮觀二百七十、復道甬道相連」幃帳鐘鼓美人充之」漢書、張良傳「上居雒陽南宮、從復道望見諸將往往數人偶語」杜牧、阿房宮賦「複道行空、不霽何虹」注「周馳爲閣道、自殿下直抵南山、表南山之巓以爲闕、爲複道」蕪村句集「山蟻ノ、復道ツクル、牡丹カナ」(地下道ヲ復道ニ見立ツ)

フク・ドウ
ふくだう (名) |覆堂| (ふうだうト讀ムヲ正音トス) さやだう(鞘堂)ニ同ジ。

ふくだけ (名) 蓬起ミタル毛。フクゲ。ムクゲ。

ふくだみ (名) |福多味| 鰒ノ肉ト腸トヲ刻ミ、少シ鹽ヲ加ヘタルモノ。フクダメ。 鰒醬 重修本草綱目啓蒙、三十、二、蚌蛤類「石决明ノ一種小ナル者ヲ、トコブシト云フ、云云、此物二三寸ノ大サニ過ギズ、殼薄ク、形瘠セ、ソノ孔數多シ、云云、東西諸州皆アリ、云云、勢州、阿州、日州ニテ、腸醬ヲ造リ出ス、ふくだめト云」

〜**ふくだ・む**・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) |蓬起| (脹れ回むノ義) 亂レワワクル。ソソケミダル。ホホケダツ。ケバダツ。字類抄「毿毿、フクダム」字鏡六廿「鬇鬡、鬖亂、不久太女利」

字類抄、一、第十五條「紙ナドノふくだむト云ハ何ノ字ゾ、毿毿ヲふくだむト讀ム」源、紅葉賀十八「シドケナク、打チふくだみ給ヘル鬢莖」枕草子、九、九十八段「宮女垂髮「久シウ寐起キタルママニ、云云、髮ハ風ニ吹キマヨハサレテ、少シ打チふくだみタルガ、肩ニカカリタル」榮花物語、四、見果ぬ夢「イト若ウ、毛ふくだみテゾ二人オハスメルモ」

〜**ふくだ・む**・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) |蓬起| 蓬起ムヤウニナス。ケバダタス。枕草子、二、十四段「文、云云、イト、キタナケニ持チナシ、ふくだめテ、上ニ引キタリツル墨サヘ消エ」宇津保物語、國讓、上四十「白キ綾一カサネ着リテ、御髮ナドモ、大殿籠リふくだめタレド」

ふくだもち (名) |福田餅| (ふくだみ餅ノ義、或ハ、餺飥ノ轉か、はくたく(餺飥)、及、ふくでノ條參見セヨ) ソナヘモチ。圓ク作レル餅、略シテ、福田。ブンタク。

ふくち (名) |福祉| (祉ハ丑里切、音ち) ふくし(福祉)ニ同ジ。

〜**ふくちのその** (名) |福地園| 福德ノヨリテ起ル園。卽チ、サイハヒノ生ズルトコロ 源、三十四、上、若菜、上五十九「尼君モタダふくちのそのニ、種マキテト樣ナリシ一言ヲウチタノミテ、後ノ世ヲ思ヒヤリツツ、ナカメ居給ヘリ」河海抄「或勸文ニ、耶輸多羅ガ、福地の園ニ、種マキテ、必ズアハン、有爲ノ都ニ、與入ニ云、雖有此說、證據不知」(岷江入楚)

フク・ジヤ
ふくちや (名) |福茶| 昆布、梅干ナドヲ和シタル茶湯。古ヘ正月三箇日、又ハ、元日ヨリ十六日マデノ式日ニ、客ヲ祝ヒテ服シタルモノ。今ハ大晦日、或ハ、節分ノ夜ニ用ヰル。又、昔、仙臺域ニテハ、正月ノ福茶ヲ區別シテ、元日ヨリ七日マデト、十一日トニハ、大福ト號シテ、昆布、梅干ヲ茶湯ニ入レテ飲ミ、右

ノ外、十四日マデヲ小福ト號シテ、昆布、山椒ヲ茶湯ニ入レテ飲ミシト云フ。守貞漫稿、廿六、春時「福茶、京坂ニテハ、元日先ツ若水ヲ以テ手水ヲツカヒ、次ニ大福ト號ケテ、茶礼ノ茶ニ、梅干ト昆布一片ヲ入テ飲レ之、主人ヨリ以下、各飲レ之、唯今、朝一同ノミ、蓋、茶ヲ大服ニ汲ムヲ祝テ、服、福、音近キヲ以テ行レ之ナラン、梅ハ中州梅トイフ小顆也、江戸ニテハ大福ト云ハズ、福茶トイフ、元日、二日、三日、六日、七日、十一日、十五六日等、數回飲レ之、或ハ、二箇日飲レ之家モアリ、元日ノミト云ニ非ズ、然モ多クハ夜食前ニ烹レ之也、中州梅干、大豆、山椒、以上、三味ヲ二三粒ツツ、釜中ニ投ジ、喰レ之、昆布ハ用ヒズ」

フグ・チヤ ヨウ・チン
ふぐちやうちん (名) |河豚挑燈| 河豚ノ體内ノ肉ヲ去リ、皮ヲ乾シ脹ラマシメテ造リタル挑燈。

ふくちゆう (名) |腹中| (一)腹ノ內部。ハラノ中。蒙求、上「郝隆、七月七日、出二日中一仰臥、人問二其故一、曰、我曬二腹中書一也」古詩「石ヲ取リ腹中書」風來假名文選、菩提樹之辨「彼ノ水木ノ實ノ肉ハ、烏ノ腹中デトロケテモ、中ノ核ハ、其ママ二糞ニマジリテ出デタルガ、云云」(二)ハラ。オナカ 熊谷女編笠(錦文流)二、列ニ御家流ノ律義ナ手跡ニテ、大和今井鮓、鰻ノ蒲燒、酒有トノ書付、ココニテ腹中ヲヨクセント云ヘバ」(三)轉ジテ、心中 ココロノ中 後漢書、光武紀「降者更相語曰、蕭王推二赤心一置二人腹中一、安得レ不二投死一乎」李白、與二韓荊州一書「知二侯推二赤心於諸賢腹中一」

ふくつ (名) |不屈| 屈セザルコト。服從セザルコト。撓マザルコト。 晉書、王長文傳「後於成都市中、蹲踞嚙胡餅、刺史知二其不屈一、禮遣レ之」 輟耕錄(明、陶宗儀)「剛彷得、云云、作詩曰、南八男兒終不屈、皇天上帝眼分明」

ふくつう (名) 腹痛 ハライタミ 又、胃ヤ腸ノ痛ム病 魏武帝、祭二橋太尉一文「車過三步、腹痛勿レ怪」 醫學大正記、乾、文祿二年十一月「腹痛、藤堂少兵衞殿、心腹右傍、筋堅引痛不レ可レ堪」

〜**ふくつけがる**・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) |貪| ムサボル。ムサブル。ヨクバル。源、廿、朝顏廿「雪マロバシ、云云、イト多ウマロバサント、ふくつけがれドモ、エ押シ動カサデワブメリ」

〜**ふくつけし**・キ・ケレ・ク・ク(形、一) |貪| (貪ルヨリ轉ズ) 貪ル心アリ。ドウヨクナリ。 名義抄「欲、フクツケシ、貪生、フクツケシ」源、廿六、常夏四「イト多カメル列ニ離レテ後ルル雁ヲ、強ヒテ尋ネ給フランガ、ふつけきゾカシ」

ふくつんだま (名) |福一玉| (ふくつんハふくいちノ訛カ) 穴一ニ用ヰル厚キ錢ノ如キモノ。又、古錢家ニテ、寛永ノ厚キモノヲ云フトゾ。 嬉遊笑覽、十、下、「銭用「厭勝品、漢駒ノ類ハ、凡テ漢土ノ兒童ノ弄ビ物ニシテ、和錢ノ福一玉ノ類ナルベシ、和錢ノ中ニモ、是大錢、玉貨駒ノ類、凡テ錢貨ノ格別ニ厚キモノハ、皆コレ兒童ノ弄ビ福一玉ノ類也、云云、福一玉トハ、穴一ノ玉ヲイフトアレバ、近世ノ名カ」 同、四、雜伎「古錢ニ、精錢ノ厚キモノヲ、福一玉ト云ル、是ナリ」

ふくで (名) (神佛ニ供ヘテ、福田ヲ祈ル意カ) 華寶年浪草ニハ福出トシ、福生菓ノ稱、又、フクデン。 物類稱呼、四、衣食「カガミ餅、諸國ノ通稱ナリ、云云、中國ニテ、ソナエト呼、又ふくでん共云、越後及信濃ニテ、ふくでト云」俚言集覽「ヲふくだト云、云云、信濃ニテ供餅ノ大ナル形ナルヲふくでト云、でトだトハ通音ナリ」

ワダチ
ふくてつ (名) |覆轍| (一)前車ノ覆ヘリタル轍ノ痕 (二)轉ジテ、仕損ジタル、役失敗ノ前例 史記、貨殖傳、贊、注「武帝不能法二祖宗之仁一、而蹈二始皇之覆轍一」劉長卿、陪睢州二首「羊腸留二覆轍一、虎口脫二餘生一」 新唐書(宋、劉昫)「立法者、譬如二善御、察二馬之力一、揣二途之數一、齊二其衡一、以從二其勢一、故能一取遠一而無一覆敗之敗一」

ふくでん (名) |福田| (田ニ穀物ノ産ズルニ喩ヘテ、福ノ種ヲ植エテ、德ノ實ヲ

結ブ意ニ取ル。佛經ノ語。三寶ノ德ヲ恭敬シテ供養スルヲ敬田ト云ヒ、父母師長ヲ恭敬シテ供養スルヲ恩田ト云ヒ、貧者ヲ憐ミテ施與スルヲ悲田ト云フ。之ヲ三種ノ福田ト云ヒ、此無上ノ功德ハ[illegible]生ズト云フ。又、大方便佛報恩經ニハ、有作福田、無作福田ノ二種ヲ揭ゲ、[illegible]八福田、佛田、聖人田、和尚田、闍梨田、父田、母田、病田ヲ舉ゲタリ。大藏法數「[illegible]」[illegible]沙石集、七、下、第十六條「三寶ノ福田、父母師長ノ恩田、貧病乞丐ノ悲田ニモ施セズシテ」

ふぐと (名) |河豚| ふぐ(河豚)ニ同ジ。一茶句集「五十ニテ、ふぐとノ味ヲ、知ル夜哉」太祇全集「死ヌヤウニ、人ハイフナリ、ふぐと汁」

ふぐとう (名) 河豚 [illegible] ふぐとう [illegible]「ふぐとう、河豚也」

ふくとく (名) |福德| (一)僞年號ノ稱。[illegible]年ヲ元年トストモ云フ [illegible] 我國、福德ノ年號ナケレドモ、後土御門院ノ御筆ト云フ、云云、[illegible] 史官、失シテ書セザルニヤ」僞年號考「常陸國赤須ク用ヒラレ、改元アリタレドモ、應仁兵亂ノ時ユエ、[illegible]、明也、云云 (二)[illegible] 得ル幸福。利得 [illegible]

[illegible]人ノ家ニ」傾城色三味線(元祿、其磧、自笑合作)[illegible]キ仕合セナリ」

ふくさく (名) |複[illegible]| 書物ヲサラヒヨムコト。クリカヘシ讀ムコト。

ふくどく (名) |服毒| 毒藥ヲ服用スルコト。毒ヲノムコト。

ふぐとおる (名) |河豚汁| ふぐ(ふぐとおる)河豚汁ニ同ジ。[illegible]句集、冬「アラ何トモナヤ、昨日ハ過ギテ、ふぐとおる」

ぶくなほし (名) |服直| 服喪中ノ人ガ、喪服ヲ[illegible]ギテ常服ニ着カフルコト。[illegible]服 [illegible]少女「年カハリテ、宮ノ御果テモ過ギヌレバ、世ノ中、色改マリテ、更衣ノ程ナドモ、云云、御服なほしノ程ナドニモ」

ふくにち (名) |復日| 曆ノ上ニ、凶事ニ[illegible]吉ナリト云フ日。[illegible]、ふく日、漢字重日、復日ハ、復日ノ[illegible]ズル也、吉事ヲバ用ヒ、凶事ヲバ捨ベキ也、嫁娶ノ事、尤イトフベシ、重ルトイフコトヲ嫌フユヘ也、復日ハ善事ニ用ル時ハ幸アリ、凶事ニ用ル時ハ禍アリ、モシ吉事タリトイフトモ、嫁娶結婚等ニハイトフベキ也」曆林問答集、下、[illegible]復日「木與、[illegible]、火與、[illegible]土、[illegible] 日也」後紀、十三(桓武)大同元年[illegible]月甲申、有司[illegible]

ふくのかみ (名) |福神| (貧乏神ニ對ス)人ニ幸福ヲ授クルト云フ神。フクジン。醒睡笑(元和、安樂庵策傳)一「アスハ早クオキテ來リ、門ヲ叩ケ、内ヨリタソヤト問フ時、福の神ニテ候ト答ヘヨ」日本新永代藏[illegible]世ノ[illegible]是ヲ[illegible]セヨト、[illegible]福の神ノ門々タタキ給フヨリ[illegible]萬載狂歌集、雜「御存ジノ、頭勿論、コノ宿ハ、尻ノ長イモ、ふくのかみナリ」

ふくはい (名) |伏拜| フシヲロガムコト。ヒレフシ、スヰノクコト。[illegible]

ふくはい (名) |腹背| 腹ト、背ト。前ト、後ト。[illegible]ジテ、互[illegible]モノ。[illegible]觀、朝夕圖謀、共爲二叛亂一」[illegible]孟嘗傳「羽翼之美用、[illegible]

ふくはう (名) |復[illegible]| [illegible]

ふくはうち (名) |福內| 追儺ノ時、煎豆ヲ打蒔キナガラ唱フル語。鬼は外ニ對ス。古クハ除夜ニ、後世ハ、節分ノ夜ニ行フ。(おにやらひ、及、まめまきノ條ヲモ參見セヨ)[illegible]除夜ニ豆打事ヲバ(禁中ノサマ)、極臈ノツトムル事ナリ、殿殿ヲ少シヅツ打ナリ、口中ニテ、福は內、鬼は外、ト[illegible]二唱フルナリ」[illegible]手記、大永六年十二月廿五日[illegible]ノ夜、大豆ヲ打ツ[illegible]、[illegible]、煎豆ノ今夜、モテナシヲ、拾ヒ拾ヒヤ、鬼ハ出ヅラン」狂言記、節分「ヨイ時分デゴザル、豆ヲハヤシマセウ、福は內、福は內、鬼ハ外、鬼ハ外」

ふくひ (名) |複比| 數學ニテ、二ツ以上ノ比ノ前項ノ積ヲ前項トシ、後項ノ積ヲ後項トシタル比ノ、モトノ各比ニ對シテノ稱。例ヘバ、2:3, 5:7, 8:11 ノ複比ハ、2×5×8:3×7×11 ノ類。

ふくびき (名) |福引| (一)昔ハ兩人シテ、餅ヲ引合ヒテ、兩方ノ多少取リタルヲ見テ、其年中ノ禍福ヲ見タリ、餅ヲ引取ル故ニ、福引ト云フ。寶引ニ同ジク、物ヲ取ラスルノミニテ、勝負ハセザリキ。[illegible]、二、第廿七條「[illegible]ハ、云云、福ノ[illegible]ナレバ、年始メニモテナスベシ、二人向ヒテ餅ヲ引キワルヲバ、福引ト云ヒ[illegible]ハセルモ、故ナキニ非ズ、[illegible]物ヲ賜ヘルコトアリ、此類ナリト云フ。(三)はうびき(寶引)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。運歩色葉集「福引、正月、小兒[illegible]、有無之[illegible]不[illegible]國ニテ人ニ物取ラスルコトアリ」

ふくびやう (名) |[illegible]| [illegible]集「水無月ハ、ふくびやうヤミノ、[illegible]サカナ」

ふくひれい (名) [illegible] |複比例| 數學ニテ、三ツ以上ノ量ノ相關聯シテ變化スル三ツ以上ノ量ノ間ニ、其一量ガ他ノ量ノ各ニ正比例シ、又ハ、反比例スル關係ニアル量ハ、複比例スト云フ。又、比例式ノ一方、若シクハ、雙方ノ複比ナルモノヲ、複比例式ト云フ。合率比例。

ふくぶ (名) |腹部| (一)腹ノ部分。(二)物ノ中央ニ當ル部分。

ぶぐぶぎやう (名) |武具奉行| 德川時代ノ官職ノ一。文久三年、具足奉行、及、弓矢鎗奉行ヲ改メタルモノ。[illegible]ノ武具一切ノ事ヲ掌ル。德川禁令考、十七、[illegible]

ふく-ふく (副) フックリシタル狀ニ云フ語 古事談、一、「王道后宮ニ、杖ノサキニ、圓ナル物ノ綿ふくふくト入レタルヲ付ケタル物有、人不レ知、云云、通憲申云、是ハ嚊法杖ト申也」

ぶく-ぶく (副) (一)水ブクレナル狀ニ云フ語。(二)水ニ陷ル狀、又ハ、溺ルル狀ニ云フ語。(三)水中ナドヨリ泡ノ浮キ上ガル狀ニ云フ語。

ふく-ふくし (名) 肺 〔脹ラカナル意カ、或ハ云フ、呼吸シテ吹ク意ト。はいノ古名。 倭名抄、二、臟腑類「肺、布久不久之」 字鏡、四「肺、不久不久志」 華嚴音義私記、九「肺、布久布久之」

ふく-ぶく・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 福福 福分アリゲナリ。福德アルラシク見ユ。福相アリ。(容貌ナドニ)

ふく-ぶん (名) 福分 福アル分際 好運ナル天分 運ノ好キコト。 醒睡笑、一、「滿盛捕ノ化鼠ノ事、鼠ハ、大黑天神ノ仕者也、此人ノ榮花ノ先表タリ、威勢ハ大威德大、福分ハ辨才妙音陀天ノ御利生也」「福分アル人」

ふく-ぶん (名) 復文 漢文ヲ假字交リ文ニ譯シタルヲ、更ニ原ノ漢文ニ飜譯スルコト 刊誤正俗附錄、譯文法式「復文、復者賦二譯文ハ以漢字、復其、照二數箇注意、以原本二一査對、朱二書于旁ハ號」其中否、其科有、四、云云」修辭通(佩足萬里)「初學屬文、從二其材高卑ハ全移復文數十首ハ云云、伊藤氏復文、漢音皆代用二國字二」

ふく-べ (名) 匏瓠 〔脹瓮ノ意カト云フ。實ハ朝鮮語、瓠、ぱく〕(一)夕顏ノ一種。實ノ形、圓ク平タキモノ。又、其肉ヲかんぺう(乾瓢)トス、或ハ中ヲ空ニシ、乾シテ、大小ノ形ニ因リテ、炭取、烟草入、ナドトス ゆふがほ(夕顏)ノ條ヲモ見ヨ。 大同類聚方、五「布久倍、由布加保」 新選集「瓢、匏、瓠也、フクベ」(物類稱呼、三)「慶長見聞集、四、富世男詑なき事「頭ハふくべノ如クニテ、毛ノナキヲ男ノ本意風俗トス」(外法頭ノ貌ニ似タルニ云ヘリ) 新犬筑波集、夏「ユフガホノ、花ヤふくべノ、タムケカナ」 (二)へうたん(瓢簞)ノ一稱。 ヒサゴ。ナリヒサゴ。 芭蕉句集「物一ツ、ふくべハ輕キ、我ガ世カナ」

ふく-べ (名) 河豚 〔怒レバ、腹、脹ルルコト、匏ノ如クナレバ云フカト云フ〕 (一)〔又、ふく。ふぐ(河豚)ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、十九、鱗介類「鯸鮧、布久、一云、布久閉、紀之削怒、怒則腹脹、浮二上水上二者也」 和玉篇「鯸、フク、フクベ」 易林節用集(慶長)下、氣形門「鯸、フクベ」 (二)魚ノ腮際ニ寄生スル蟲。

ふく-へい (名) 伏兵 軍勢ノ一部ヲ或地點ニ潛伏セシメ、機ヲ見テ不意ニ起リテ、敵軍ヲ襲ヒテ潰亂スル戰術。又、其軍兵。待伏セノ兵。フセゼイ。略シテ、伏。 一國志、呉志、甘寧傳、注「雲陰、敵還、云云、更大開門、偃旗息鼓、公軍疑二雲有二伏兵、引去」 史記、淮陰侯傳「信乃益爲二疑兵、陳レ船欲レ渡二臨晉一、而伏レ兵從二夏陽一以木罌缻渡レ軍、襲二安邑一」 書言字考、八用、四、人倫門「伏兵、兵家使二卒伍代二山野一以襲二敵者一」 續武將感狀記「此ノ林伏兵アルベシト申ス、氏郷聞テ、云云、何條事ノアラント云處ニ、伏兵起テ撃テカカル處ヲ、氏郷切崩テ追拂ハル」

ふく-へき (名) 復辟 〔書經、咸有一德篇「伊尹既復二政厥辟一」ニ基ヅク。辟ハ君ナリ〕位ヲ失ヒタル人君、復タ之ヲ得ルコト。(一)重臣ノ攝政ヲ辭スルコト。名義」 物六帖、四、人事箋、一「復辟、テウツ按、明英宗即位、改元正統、唐所、執、北狩後七年、復入襲二大統一改元曰二天順一明人稱二復辟一本取二商書復二子明辟一本朝則曰二重祚一曰二再祚一至二復辟一則爲二攝政還レ政之稱一與二中夏之名二不レ同、此語本係二伊尹還レ政之事一則本朝之稱、卻得 其實二」 勘仲記、弘安元年十二月七日「今日攝政殿被レ上二復辟御表一予所二奉行一也」 (二)支那ニテ、天子ノ再ビ位ニ卽クコト。重祚。再祚。復辟。 文獻通考、帝系考「唐中宗、甲申武后廢レ之、後廿二年乙巳復辟」

ふく-へき (名) 腹壁 腹腔ノ側壁。

ふく-ぼつ (名) 覆沒 (一)船クツガヘリ沈ムコト 一國志、吳志、甘寧傳「於レ是舟津一試二船、遂至二覆沒、退之不也」 續日本後紀「承和元年…時英」 「某侯、往年、阿波ノ鳴門ノ邊ニテ難風ニ遭ハレ、從者溺沒シタリ」 (二)轉ジテ、軍隊ノ敗北ノ意

ふく-ほん (名) 副本 原本ノママヲ、別ニ寫シタルモノ ヒカヘボン。 副書 史記、太史公自序「副在二京師一」注「言、正本藏二之書府、副本留二京師一也」 隋書、經籍志「隋帝卽位、秘閣之書、限寫二五十副本ハ分爲二三品一」 宋史、邢昺傳「昺言、家無二遺書一、願得二副本ハ上許レ之、詔錄未二畢而昺卒一」

ふく-ぼん-し (名) 覆盆子 實、覆盆ノ形ニ似タレバ云フ ーさ、くりいちご(覆盆子)ニ同ジ。 缺盆 爾雅、釋草「茥、缺盆」 疏「藥錄、一名覆盆、云云、其實名二覆盆子二」 本草和名(香月牛山)「覆盆子、クハンスイチゴ、云云、筑紫方言、名二樟子苺ハ卽草苺也」

ふく-ま (名) 伏魔 魔ノ伏住スルコト。 皇甫冉、贈二普門上人一詩「多力堪二降虎、禪功久伏魔」 杜荀鶴詩「伏魔峯之獄、寒頂亦非」「伏魔殿」

ふく-まく (名) 腹膜 腹壁ノ內面、及、腹腔中ノ內臟ノ表面ヲ被フ膜 前者ヲ體壁腹膜ト云ヒ、後者ヲ內臟腹膜ト云フ。

ふくまく-えん (名) 腹膜炎 感冒、創傷等ヨリ起リ、又、胃腸病、及、肋膜炎、ソノ他、種種ノ病ヨリ腹膜ニ續發スル病 腹部、劇痛シテ腫レ、腹壁張リ、嘔吐シ、下痢、又ハ、便泌シテ發熱ス。急性ト慢性トアリ。急性腹膜炎ハ、普通、數日ニシテ死ヲマネキ、慢性腹膜炎ハ、多クハ結核性ニシテ、急性ヨリ轉ジタルモノニテモ、數週、或ハ、數箇月ヲ經ズシテ死スルコトアリ。

ふくま-でん (名) 伏魔殿 (一)魔物ノ潛伏スル殿。又、怪物ノ隱レ居ルト云フ處 水滸傳、楔子「洪太尉書二四箇金字ハ寫道二伏魔之殿一、大老開二門禮道二此殿、是甚ト 太尉、云云、真人ガ道、此是前代老祖天師封二鎖魔王二在レ此」 (二)轉ジテ、禍ノ根源地。又、秘密ノ謀メル處

ふく-まめ (名) 福豆 追儺ニ打ツ煎豆。 ー茶筌ヤ、福梅トヤ、齒ニ合ハヌ、福梅ト八福茶ニ添ヘテ食フ梅干、トモニ田キモノ」

ふくま・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 含 含マレテアリ。中ニ包ミ保タル。フフマル。ホホマル。

ふく-まゐり (名) 福參 畿內地方ノ年中行事ノ一。初午ノ日、山城國、伏見稻荷社ニ參詣スルコト。ハツウママウデ。 日次紀事、二、二月「初午日、稻荷詣、俗謂二福參ハ云云、今日鄉民參詣特多」 菊舍の句「年寄ノ、何ヲ願ヒヤ、福まゐり」

ふくみ (名) 含 フクムコト 又、フクムモノ。

ふくみ (名) 鑣 〔含ノ義〕 くつばみ(馬銜)ノ條ヲ見ヨ 俚言集覽「ふくみ、銜」

ふく-み (名) 女房詞、刺身ヲ云フ 貞丈雜記、六、飲食之部、「頭書、女房ハ皆異名ヲ申ス、云云、ふくみトハさしみノ事、云云、享保六年九月二十七日、法皇、林丘寺へ御幸ノ記ニ見エタリ」

ふくみ-ごゑ (名) 含聲 口ノ中ニ、音ノコモレルガ如ク聞ユル聲。 俚言集覽「ふくみ聲、小町踊、夏郭公、子規、花橘ヤ、ふくみ聲」 娥歌加留多(正德、近松作)小鳥盡「神ノ惠ミノ深キ世ニ、大ルリ、小ルリ、ツバクラメ、袖ニムツレテナク聲ハ、ヒヰヤヒヨ鳥、四十カラ、色モ匂ヒモ、ふくみ聲」

ふぐみせ (名) [illegible] 一二主トシテ古武士ノ、[illegible]モノ、[illegible]テ石[illegible]ト、[illegible]古鏡ヲ數十箇、軒ニ懸タリ」

ふくむ (名) [服務] 職務ニ服スルコト。事務[illegible]ハ、[illegible]務ニ服スルコト。

ふく・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [包] (一)[包] [illegible]テアリ、有ソ。包含ス [illegible] 若葉、下モヽ「露グシ、云云、トミニモ乾カネド、ツユバカリ打ナ・ふくみ、逆フ[illegible]モナクテ、イトキヨラニ (二)フクラミテアリ。フクラメリ。永久四年百首、秋「長月ノ、九日マデニ、ふくみタル、十日ノ菊ノ、花開ケナン」

ふく・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) [含] [銜] [哺] [服ノ活用] (一)[內ニ物ヲ持ツ。フフム。ホホム。ククム。包含セシム。易[illegible] [illegible]「麥ノ穗ノ、ショリリト秋ヲ、含みケリ」(二)心ニ收ム。念ニ止ム。記念 松風村雨束帶鑑(元祿、近松作)二「庄司ガ傍ニ突立ッテ、鼻息ヲサメ、サシ足ノ、ふくむ心ハ、敵ト敵、知ラヌ閨コソ、危ケレ」「[illegible]」(三) [illegible] 其状ヲ得ブ。[illegible]矣」(四)忍ブ。堪フ。 左傳、宣公十五年「國君含垢、天之道也」杜注「含垢、忍恥也」

ふく・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) [含] (一)[含ムヤウニナス。口ニ入ルル。フフムル。ククムル。哺 [illegible] 孝德紀、大化二年三月「[illegible]」(二)[illegible]シム。「水ヲ含む」[illegible]ヲ含む」(三)言ヒキカス。ノミコマシム。 宇治拾遺、十、第六條「宮[illegible]シテ、云云、今ヨリ後ハ、カカル事ナセソト[illegible]」[illegible]「山城判官秀助、宣命ヲ含めサセテ」

ふくん (名) [府君] (一)支那、漢ノ時代ニ、郡ノ太守ノ尊稱。明府。 [illegible] (二)[illegible]死後ノ尊稱。[illegible] (三)神ノ稱。 搜神記(晉、干寶)「胡母班爲泰山府君[illegible]」

ふくん (名) [父君] 父ノ尊稱。チチギミ。家君。嚴君

ふくん (名) [夫君] 夫ノ尊稱。 [illegible]閨怨詩「人世七歡不可知、夫君初破黑山歸」

ふくん (名) [不君] 「君ニシテ君タラザル意」君タル德ヲ備ヘザルコト。君タルノ道ヲ失フコト。 左傳、宣公二年「晉靈公不君、厚斂而彫レ牆、從レ臺上一彈レ人、而觀二其避一丸也」[illegible]「[illegible]如君不君、臣不臣、父不父、子不子、雖有粟、吾豈得而食諸」

ふぐん (名) [不羣] [他ト類セザルノ意] 羣類ニ拔ケ出ヅルコト。出羣。拔羣。 [illegible] 近江[illegible] 曹植詩「[illegible]」[illegible]公隨筆(德川光圀)「サレバ人馬一體ニシテ、始テ不羣ノ功ヲ立ツヘシ」

ぶくん (名) [武勳] ぶこう(武功)ニ同ジ。

ふくめ (名) [覆面ノ義カ、ふくめだひ(覆面鯛)ノ出典ヲ參見セヨ] 魚肉料理ノ一[illegible]、[illegible]「ふくめノ仕樣、干鱈ヲ炙リ、板ノ上ニテソト扣キ、ムシ、[illegible]ニテモ致シ候」同、一「鰹、ヤキテ、ナマビ、ふくめ」

ふくめい (名) [復命] カヘリマウシ。使者ノ、[illegible]テ、[illegible]テ告グルコト。 [illegible]

ふくめい (名) [複名] [illegible]名ノ單名ニ對ス。 [illegible]

ふくめだひ (名) [覆面鯛] [ふくめハ、白クふくよかニシテ、[illegible]故ノ名カ] 食品ノ一。干鯛ヲ炙リテ、[illegible]ノ如ク細カニ揃リホグシタルモノ。覆面ノ[illegible]見セヨ。 [illegible]

ふくめつ (名) [覆滅] クツガヘリ、ホロブルコト。又、覆ヘシ、ホロボスコト。

ふくめん (名) [覆面] [正音ハ、ふうめんナルベシ。[illegible]] (一)面ヲオホフコト。顏ヲ隱スコト。又、ソノタメニ用キルアリ合ハセノモノ、頭巾、[illegible]ナド。 [illegible]テ行タル[illegible]ニ、昔ハ、ふくめんヲ垂レテ、面ヲ隱シテ[illegible]トアルニ、[illegible]也、[illegible]カリギヌノ袖ナドヲ覆面ニセルニヤ、[illegible]ナドサシカザシテ、半面ニ隱シタル意カト云ヘリ」 (二)德川時代ニ、男女外出徒步ノ時、布帛、綿、等ニテ顏ヲ包ミ隱スコト。又、ソノ物。 易林節用集(慶長)下、食服門「覆面、フクメン」[illegible]、女ノ[illegible]、息[illegible]女、[illegible]リ、[illegible]二出テ、先ニテ[illegible]ヨリ[illegible]時ハ、ふく[illegible]ハ一人モ無カリシ、萬治ノ頃ヨリ、徒步ニテ步ク女ハ、覆面ノ上ニ、玉襷トイフ[illegible]ヲカブレリ」(三)神佛ノ供物、又ハ、貴人ノ食膳ナド扱フ時ニ、息ノカカリテ穢レ[illegible]、[illegible]ニテ口[illegible]モノ [illegible] 細細要記、貞治四年八月十二日「[illegible]」云[illegible] 今川大雙紙「[illegible]主ノ前ノ加用ノ事、云云、衣裝ヲ改メ、ふくめんヲスベシ」

ふくめんづきん (名) [覆面頭巾] [illegible]レバ、ほほ[illegible]トモ云ヒ、目ノミ出ノレバ、めだ[illegible]トモ云ヒ、又、[illegible]ヅセバ、常ノ頭巾トモナリ、ともかうもナルニ因リテ、ともかうもトモ云ヒ、意ノ如クナレバ、[illegible]トモ云ヒ、[illegible]不思議ナレバ、奇特トモ云フ、夢想[illegible]ヲ見ヨ)ト云ハムガ如シ] 頭巾ノ一種。[illegible]長ク[illegible]テ、ほたんニテ[illegible]ミアラハルルヤウニ作レルモノ[illegible]目ヲ忍ビテ遊里ニ通ヒナドスルニ用ヰル。後ニ[illegible]トモ云フ。異名多シ。ほほ[illegible]、ともかうもづきん、ともおもづきん、めだしつきん、[illegible]くづきん、ナド。 衣食住記(天明)「頭巾、[illegible]ろ[illegible]ほたん[illegible]號シ、異名ヲともかうもト云フ」犬筑波集(永正、山崎宗鑑)「頭巾ヲ出スモ、今ハカヅカズ」ともかうも、セ[illegible]シケレ」[illegible]

も頭巾ノ、ともかうもセヨ、浮世狂ヒノ若者バラ、云云、世ヲ忍路ノほほあて頭巾、云云、花ノ顔ノ、ほほあてカ隠ス、八重霞」 好色一代女(貞享、西鶴)四、女風俗「きごく頭巾ヨリ目ばかりアラハシ」 作原(元禄)「目ばかりヲ、氣まま頭巾ノ、浮世カナ」 武袖海(元禄)最集中の女、深ウ人目ヲ忍ブト見エテ、きごく頭巾ニ顔カクシ」 躑の小手巻「目計頭巾トテ、鼻ノ上通リ目ノ下ヲ横ニ、アゴ迄キレヲ付テ、片方ニテほたんガケニスル」 近世女風俗考(生川春明)下「覆面頭巾、奇特頭巾、或、きまま頭巾トモ云、今ノ眼出し頭巾ナリ」 柳亭筆記、中「頭巾ノ名目、云云、ともかう頭巾、奇特頭巾、氣儘頭巾、此三種、時代ニヨリテ、製作ノタガヒハアルベケレド、名義ハ同ジ」

❖**ふく・める** (動) [含銜] ふくむ(含)ノ口語。

ふく・もち (名) [福餅] 攝津國、住吉社ノ神事ニ用ヰル土製ノ團子 立路隨筆(林百助)二「福餅、攝津國一ノ宮住吉(古名、墨吉)大明神ノ神事ニ、大和國畝傍山ノ土ヲ取リ團子トナシ、八幡ノ前ノ門ニ懸ケ、十一月初ノ丑ノ日ノ初更ニ、是ヲ取リテ、社前ニ供フルナリ、土團子ノ起リ」

ふく・もん (名) [覆問] 一度問答ヲ終ヘタル訴訟人ナドヲ、重ネテ問答セシムルコト。 沙汰未練書、一、覆問事「問答之後、訴論人共有ニ所存ニ者、重遂ニ問答ニ、是覆問云」 吾妻鏡、四十九、正元二年八月十二日丁未「今日有レ被レ仰ニ遣于六波羅ニ事ニ、其御教書云、云云、於ニ自今以後ニ者、謂文之外、不レ可レ副ニ進訴陳之状ニ、若令レ備ニ進闕要證文ニ者、遂ニ覆問ニ可レ令レ副ニ進證文ニ之状、依レ仰執達如レ件」

ふく・やか・み (副) [脹] ふくらかみ、又、ふくよかみニ同ジ。 名義抄「絮、フクヤカナリ」 宇治拾遺、十三、第十四條「手ノイト白クふくやかみテ、イトヨカリケレバ、コノ手ヲハナシエズ」

ふく・やく (名) [服藥] (一)藥ヲ飲ミモチヰルコト。 史記、扁鵲傳「故病有ニ六不治ニ、云云、形羸不レ能レ服藥ニ、五不治也」 歐陽修、與ニ焦殿丞ニ書「凡疾病不レ欲ニ驟藥ニ、臓須ニ消息有ニ以調釋ニ、其效多レ於ニ服藥ニ」 (二)生藥(キグスリ)ニ對シテ、服ス可ク調合シタルクスリ。調劑。製藥。 名物六帖、三、器財箋、二「服藥牌子、セイヤクノカンバン」 註「避戎嘉話、立ニ泥中ニ懸ニ一服藥牌子ニ」

ふくや・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) アザムク。イツハル。又、讒言ス。 字鏡廿「讒、毀也、與己須、不久也久」 同廿二「詆、誤也、詐也、辟也、差云、阿也万豆、又、不久也久」

ぶく・やつれ (名) [服窶] 喪中ニテ容姿ノヤツルルコト。 榮花物語、廿九、玉飾「一品宮、御ぶくやつれイトアハレニ心苦シウ、常ニモ當カマホシウオハシマス」

ふく・ゆう (名) [福裕] 家富ミテ豐カナルコト。富有。裕福。 梅松論、上「伯耆國、奈和庄、野津郷、云云、奈和又太郎ト申ス福裕ノ仁候」

ふく・よう (名) [服用] 身ニモチヰルコト (衣ニ、藥ニ) 禮記、内則篇「子弟猶歸ニ器衣服裘衾車馬、則必獻ニ其上、而后敢服ニ用其次ニ也」 晉書、賀循傳「賜ニ六尺牀薦席褥、并錢二十萬、以表ニ至德、暢ニ孤意ニ焉、循又讓不レ許、不レ得レ已留レ之、初不ニ服用ニ」 庭訓往來、十一月「以ニ名醫加減ニ合ニ一劑ニ、欲レ令ニ服用ニ候」

ふく・よう (名) [服膺] [中庸、第八章、註「服猶レ著也、膺胸也、奉持而著ニ之心胸之間ニ、言ニ能守ニ也」] 心ニ止メテ忘レヌコト。中庸、第八章「得ニ一善ニ、則拳拳服膺而弗レ失レ之」 漢書、東方朔傳「今子大夫修ニ先王之術ニ、慕ニ聖人之義ニ、諷ニ誦詩書百家之言ニ、不レ可ニ勝數ニ、著ニ於竹帛ニ、脣腐齒落、服膺而不レ釋、好レ學樂レ道之效、明白甚矣」

ふく・よか・み (副) [脹] 肥エ脹レタル狀ニ云フ語。フクラカニ。フクヤカニ。 [豐肥] 源、五、若紫五十「イトワカケレド、オヒサキ見エテ、ふくよかみカイ給ヘリ」 榮花物語、十一、含花「抱キ取リ奉ラセ給ヒテ、見奉ラセ給ヘバ、ふくよかみ美シウ御座シテ」 源、廿四、胡蝶「ふくよかなる陸奥紙ニ」 宇治拾遺、五、第八條「綿、ふくよかなる衣、一ツ脱ギテ賜ビテ」

ふく・よく (名) [伏翼] [晝伏シテ、夜ハ翼ニテ飛ブ故カ] かうもり(蝙蝠)ノ異稱。天鼠。其條ノ(一)ヲ見ヨ。 爾雅、釋鳥註「蝙蝠、服翼」 揚子方言(漢、揚雄)「蝙蝠、自レ關而東、謂ニ之服翼ニ」 倭名抄、十九、羽族類「蝙蝠、一名伏翼、加波保里」 本草和名、下廿六「伏翼、一名蝙蝠、一名蟙蠌、加波保利」 和漢三才圖會、四十二、原禽類「伏翼、蝙蝠、天鼠、仙鼠、飛鼠、夜燕、和名加波保利、今云加宇毛利」

ふく・よし (名) [福吉ノ義ニテ、倒語カト云フ] 癩病(ライビヤウ)ノ異稱。 日本風土記(全浙兵制附錄)四、寄語、疾病「癩子、フクヨシ」 和訓栞「ふくよし、全浙兵制附錄ニ、癩風子ヲ譯セリ、今モものよしト云ヘリ、反語セルナルベシ、又なりト稱ス」

ふくら (名) 弓場ノ間數ヲ弓杖(ユヅエ)ニテ測ル時、ソノ一張ノ弓ノ長サ。即チ、己レノ手尺(タバカリ)ニテ七尺五寸ノ稱。 貞丈雜記、十五、射數之部「弓ヲ一ふくら、二ふくらト云フ事、一杖、二杖ト云フナリト、小笠原殿聞書ニ在レ之ト、用害記ニ見エタリ、一ふくらト云フハ、ハヅシ弓ニテ、射場、馬場ナドノ間數ヲ打ツ時、弓ヅエ一杖トカ云フ事ヲ、一ふくらトモ云フナリ」 同頭書「一、ふくらノ事、軍陣聞書ニ、ふくらトハ弓一張ノ事ナリ、二ふくらト云フハ二張ノ事ナリトアリ、是ハ弓杖ヲ打ツ時ノ事ナリ」

ふくら (名) [彇淵] [脹(フクラミ)ノ略カ] 弓ノ上下ノ彎曲シタル部分ノ名所。 康熙字典「彇、下齋、弓上下曲中、類篇、弓隈也、通作レ淵、釋名、弓末曰レ簫、中央曰レ弣、簫弣之間曰レ淵、淵宛也、言ニ曲宛ニ也」 名物六帖、二、器財箋、一「弓隈、ユミノフクラ」 註「品字箋、淵、弓隈、上下曲也」

ふ・くら (名) [柃木] ふくらしば 柃木ニ同ジ。 俚言集覽「ふくら、木ノ名、云云、大和國ノ方言ニテハ、ふくらしばト云ヒ、又他所ニテ、ふくらの木トモ云フ」

ふ・ぐら (名) [文庫] ふみぐら(文庫)ニ同ジ。

ふくら・いり (名) [脹熬] 料理ノ名、下ノ出典、及、ふくらに(脹煮)ノ條ヲ見ヨ。 易林節用集(慶長)下、食服門「脹熬、フクライリ」 料理物語、十六、煮物「ふくらいり、ナマコヲ大キニ切リ、タシタマリフカセ、出シサマニ入レ、ソノママモル事也、すつぽうトモ云フ、アハビ、イカモヨシ」

ふくら・か・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [脹] フクルルヤウニナス。フクラムル。 醒睡笑(元和、安楽庵策伝)八「大キニ怒リ、ふくらかし、恐ロシゲナル聲ヲシテ、八百トゾイヒタリケル」

ふくら・か・み (副) [脹] 肥エフクレタル狀ニ云フ語。フクヤカニ。フクヨカニ。 [豐肥] 源、四十八、寄生四十「御服モ、コシふくらかみナリタルニ」 枕草子三、廿七段「五ツ六ツバカリナルガ、云云、面イト赤ウふくらかなる、云云」

ふくらぎ (名) [鰛] 魚ノ名 動植名彙、八、魚類「ふくらぎ、(林鳥)鰒、フクラギ」

ふくらぎ・びやう (名) [福來病] [字ノ音ヲ、ふくれニ借リタルナリト云フ] 頸ノ腫レ脹ルル病。今ノはさみばさナルベシ。オフクカゼ。オタフクカゼ。 紀略、後篇、四、天德三年「今年、人民頸腫、世號ニ福來病ニ」 松屋筆記、三十七、福來病「福來ハふくれノ語ニカリ用シ字ニテ、ヤガテふくれ病トイフ事ナリ、福來病、ふくれやまひト訓ズベシ」

ふくら・しば (名) [柃木] [脹柴(フクレシバ)ノ義、葉ヲ火ニアブレバ脹ルル故ニ云フト] ひさかきニ柃ニ同ジ。略シテ、ふくら。フクラノキ。 貞丈雜記、十、弓矢之部「ふくらしばハ柃木(ヒサカキ)ト云フ木ナリ、又ひさかきトモ云フナリ(さかきニ似タリト云フ)、大和本草ニ云ク、柃、ヒサカキ、順、和名ニ、比佐加木、西土ノ民俗、小柴ト云フ、葉ハサザレニ似テ、黑キ實ナル、上書ニ曰ク、柃似レ荆可レ作レ染、衣青也、今俗ひさささト云フ、其灰汁ヲ用テ布ヲ染ム、黄色ナリ、云云、大和國宇太郡ノ方言ニ、腹柴(フクラシバ)ト云フ、ひさささノ事ナリト、云云、又或人ノ

目、一名、ふくらの木トモ云フ」

ふくら-すずめ (名) 脹雀 (一)ふくらふくらニ、肥エ太リタル雀ノ子。子雀。[illegible]、故下學「ふくら雀ハ竹ニ栖ルル」 松葉抄「雀ノ子ハ、羽ヨリモフクラカニ見ユレバ、ふくら雀トイフ」 (二)雀ノ寒氣ヲ防グタメ、全身ノ羽毛ヲフクラマセテ、フクラカニ見ユルモノ。[illegible]テ、ふくら雀ノツクヅクト並ビ居タル、衣貧シタキ心地ゾスル」 (三)肥エ脹レタル雀ノ羽ヲ延バシタル形ヲ紋所トシ、又ハ、彫物、染物、ナドノ模様トス。

ふくらっぱぎ (名) 腓 ふくらはぎ(腓)ノ音便。東京地方ノ方言。

ふくらっぱみ (名) 腓 ふくらはぎ(腓)ニ同ジ。

ふくら-に (名) 脹煮 鰒、海鼠、烏賊ナドノ肉ヲ、甚ダ柔ク旨煮ニシタルモノ。フクライリ。スッポウニ。スッポンニ。 笑談[illegible]立川談馬「芝居、マダ幕前ユエ出来マセヌガ、鯰ノふくらにト鯔ガゴザリマス」

ふくら-の-き (名) 桴木 ふくらしば(桴木)ニ同ジ。其條、及、ひさかき(桴木)ノ條ヲ見ヨ。

ふくら-はぎ (名) 腓 (脹脛ノ義) 古名、コブラ。コムラ。脛ノ背面ノ、脹レテ肉ノ多キトコロ。體中ノ急所ノ一ナリ。フクラッパミ。フクラッパギ。腿肚 物類稱呼、一、人倫「腓、コムラ、東國ニテ、ふくらはぎト云、云云、伊豫ニテ、ふくらト云」 八笑人(文化、鯉丈)四、[illegible]、上「今云 夕通り、ふくらはぎへ力ヲ入レテ、前ヘカカンノ」

ふくら-ま-す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 脹 フクルルヤウニナス。フクラム、ル。

ふくら-む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 脹 〔ふくろノ[illegible]〕 フクフカニナル。フクレテ、大キクナル。膨起

ふくら-む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 脹 フクルルヤウニナス。フクラカス。フクラマス。 榮花物語、八、初花「御色白クウルハシウ、ホホツキナトヲ、吹キふくらめテ、揃エタランヤウニゾ見エサセ給フ」

ふくり (名) 福利 幸福ト、利益ト。 後漢書、仲長統傳「利稀、理亂篇曰、云云、是使、姦人擅、無窮之福利、而善士挂、不赦之罪辜」

ふく-り (名) 複利 (一)預金、又ハ、金錢ノ貸借ニテ、毎期ノ末ニ、其利息ヲ元金ニ加ヘ、最後ノ元利總計ヨリ最初ノ元金ヲ減ジタル高。重利。(二)ふくりはふ(複利法)ノ略。其條ヲ見ヨ。

ふぐり (名) 錘 〔垂レ重ル狀ヲ、陰囊ニ比シテ云フカト〕 ハカリノ分銅。オモリ。 字鏡六「錘、稱錘也、重也、布久利」

ふぐり (名) 陰囊 (一)(脹ぐノ義ト云フ、桑家漢語抄ニ、陰囊、布倶里、字園云、相不倶良倶之義、有二兩丸一爲二其要一、可レ書二脹之字一ト見ユ、又、一說ニ、囊ノ義トス、玄同放言ニ、陰囊爲ニ布久利一、云云、布久利之言、囊也、形狀相似」トアリ) いんなう(陰囊)ニ同ジ。 倭名抄、三 八莖垂類「陰囊、布久利」 同、十八 廿三毛蟲體「豚卵、爲乃布久里」 名義抄「囊、フクリ」 易林節用集(慶長)下、支體門「陰囊、フグリ」 宇治拾遺、五、第五條「オホヤケノ御前ニテ、細脛カキ出ダシテ、ふぐりをランナト候ハンハ、便ナクヤ候フベカラン」 (二)まつふぐり(松毬)ノ略。其條ヲ見ヨ。 新犬筑波集(永正)雜「ふぐりマデ、ウシホニウツル、ミネノ松」

ぶくり (名) 木履 [illegible] げた(下駄)ニ同ジ。 嬉遊笑覽、二、中、服「あ[illegible]中國ニテほくり、又ぶくりト云フ物ハ、江戸ニテイフ下駄ノコトナリ」

ふくり-き (名) 福力 富有ニテ勢力アルコト。 [illegible]

ふぐり-だま (名) 陰囊玉 陰囊ト睾丸トノ併稱。キンタマ。 [illegible]

ふぐり-つき (名) 〔つきハ、反吐ヲつくナドニテ、切リテ鳴ル意ト云フ〕 馬ノ病ノ名。今、きんなり(睾鳴)ト云フ。其條ヲ見ヨ。 倭名抄、十一、牛馬病「睾、布久利都岐、馬腹下聲也(睾ハ[illegible]ニ鳴也」トアリ)

ふぐり-なし (名) 陰囊無 ヲトコラシカラヌコト。メメシキコト。氣力無キコト。イクヂナシ。又、ソノ人。懦夫。 俚言集覽「ふぐりなし、[illegible]用集、世話詞、睾丸無」

ふくり-はふ (名) 複利法 數學ノ語。利息算ニテ、一期間毎ニ、利息ヲ計算シテ、ソレヲ元金ニ加ヘ込ミ、其合計ヲ次期ノ元金トシテ、利息ヲ計算スル一種ノ方法。略シテ、複利。

ふくりふ (名) 腹立 〔はらたちヲ音讀シタル語。出張ヲ、しゅっちゃうト云フ類〕 ハラダチ。リップク。 [illegible]記、四十六、[illegible] 經中遮那「我ヲ我ト思ハン人ハ、[illegible]ベト宣ヒケレドモ、口ヲ閉ヂ、是非ノ返事申ス人ナシ、鎌倉殿指待チ給ヘドモ、無音ノ間腹立シテ」

ふくりん (名) 覆輪 伏輪 (一)刀ノ鍔、鞍[illegible]、鏡等ニテ、覆ヒ飾レルモノ。ヘリグクリ。稜裝 字類抄「伏輪、フクリン」 [illegible] (二)[illegible]ノ切モテ細ク縁ヲトリタルモノ。 [illegible]稿、十五、女服「雛子、玩物トモニ、京坂ハ雛女人形トイフ腹脇ノ所ニ、ふくりんト云テ、紫縮緬等ニテ、細ク縁ヲトルモアリ、江戸ハ雛女ニハ用ヒズアリ」

フクリン (名) 幅綸 ごろふくれん [illegible] ん、かっさんハ幅りんニ近シ、又、幅綸ヲ江戸俗ハてろト云、京坂ハ、ふくりんト云ニ

ふくりん-たう (名) 福輪糖 菓子ノ一種。下ノ出典ヲ見ヨ。 種飛鳥川(文化頃)「福輪糖、[illegible]くりん糖ふくりん糖ト賣リ歩ク、煎餅ノ如クニテ、小ク厚ク搗ヘ、芥子ヲ入レテ燒キタルモノ也」

ぶくりゃう (名) 茯苓 伏苓 古名、[illegible]。マツノホヤ。一種ノ寄生ノ植物。黒松ノ舊根株ノ邊ノ土中ニ自生シ、塊ヲナスコト拳ノ如ク、皮ハ黒クシテ皺アリ、肉ハ白キアリ、赤キアリ、或ハ、外白ク、内赤キアリ、[illegible]ハ白茯苓多ク、赤松ニハ赤茯苓アリ。輕虚ナルアリ、堅實ナルアリ。藥用トス。特ニ、利尿ノ效アリ[illegible] 淮南子、[illegible] 蘇軾答劉貢父書「伏苓松脂、雖レ云ニ近效一而歲計有レ餘、未レ可レ樂也」 倭名抄、廿 三十木具「松脂、滴入レ地

千[illegible]、別名伏苓[illegible]保止」 本草和名、上[illegible]「伏苓、末都保止」 和漢三才圖會、八十五、寓木類「茯苓、ブクリャウ、伏靈、伏[illegible]、不死[illegible]、松[illegible]」[illegible] 近[illegible]作）上「アマウマイ」作リ、且[illegible]、[illegible]、センギマチマチ茨門冬[illegible]五 老[illegible] 館[illegible]諸名 伏苓ハ千歳松脂化爲 琥珀」[illegible]（指南[illegible]）後集、三「黄連茯苓モ、日本ノ産、萬國ニ勝レリ」

ぶくりゃう-さう（名）［茯苓草］薔薇科ノ多年生草本。原野ニ多シ、春、宿根ヨリ生ズ、葉ノ形長ク、一莖、七葉、對生シ、各葉ハ縁ニ鋸齒ヲ有シ、背ニ白毛アリ。春ノ末、五六寸ノ莖ヲ出シ、頂ニ枝ヲ分チテ、五瓣ノ黄花ヲ開ク。形、委陵菜ニ似タリ。カハラザイコ。ウラカゼグサ。ツチグリ（翻白草）。鷄腿兒 重修本草綱目啓蒙、十九、柔滑類「翻白草、ツチグリ、ブクレウサウ、ウラカゼクサ、ミツバザイコ、カワラサイコ」

ふくりょう（名）［伏龍］（隱レ伏ス龍ノ義）世事ヲ遁レテ、山野ナドニ隱レ住ム英傑ノ士ヲ云フ。臥龍。 三國志、蜀志、諸葛亮傳、註「襄陽記曰、劉備訪世事於司馬徳操、徳操曰、儒生俗士豈識時務、識時務者、在乎俊傑、此間自有伏龍鳳雛、備問爲誰、曰、諸葛孔明龐士元也」 朱買[illegible]、伏龍一[illegible]

ふく・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［脹］〔噴く、ノ轉カト云フ〕（一）〔内ヨリ外ヘ張ル〕起チアガル。モチアガル。 倭名抄、二、病類「脹、[illegible]不久流、[illegible]也」 字鏡、廿「脹、不久留」 天治字鏡、二九「腫、不久留」 大鏡、上、序「オボシキ事イハヌハ、ゲニゾ腹ふくるる心チシケル」 竹取物語、上「風イト重キ人ニテ、腹イトふくれ、コナタカナタノ目ニハ、李ヲニツツケタルヤウナリ」（二）〔俗ニ〕怒ル。ハラダツ。フクレル。

ふぐるま（名）［文車］又、ふみぐるま。書棚ノ類。下ニ車輪アリテ、牽クベシ。

[illegible]「[illegible]文書[illegible]」[illegible] 徒然草、第七十二段「多クテ見苦シカラヌハ、文車ノ文、塵塚ノ塵」 同、文段抄「ふぐるまハ、今禁中ニアリ、又、東寺ニモアリ、失火ナドノ時、早ク引キ出サンタメノ用ナリ」 同、[illegible]「文車ハ、[illegible]事ニテ、今ノ世ニハ、知ル人マレ也、必失火ノタメニ非ズ、學文ノ為ニテ引用キル[illegible]車ナリ」

ふくれ（名）［脹］フクルルコト。又脹レタル狀。 萬葉集、十六 卅六「ウマシモノ、何レカ飽カヌヲ、坂門ガ、角ノ布久禮ニ、シグヒアヒニケム」

ふく-れい（名）［復禮］他ヨリノ好意ニ對シテ、謝スルコト。答禮。回禮。多ク佛事ニ云フ。 南畝莠語（擁南山）三「回禮、答禮也、復禮トモ云」

ふくれ-づら（名）［脹面］腹立テテ、頰ヲフクラセタル顔ツキ。怒レル面相。不滿ノ色。フクレッツラ。 新撰犬筑波、初編「[illegible]比[illegible]樣、河豚カ釣レルト、ふくれづら」 同、同「びいところ飯、忙シイ程、ふくれづら」

✣**ふく・れる**（動）［脹］ふくる（脹）ノ口語。 新撰犬筑波、初編「[illegible]ヲ折ル、時ニ脹れる、[illegible]ノ顔」

ふくろ（名）［袋］〔物ヲ含ミテ脹ルル意〕（一）〔布、帛、革、紙、ナドニテ、物ヲ收メテ、口ヲ閉ヅベク製セルモノ。 倭名抄、十四、[illegible]旅具「嚢、袋、[illegible]布久路」 顯宗即位前紀「近江狹狹[illegible]山ノ君韓帒、[illegible]云云」 萬葉集、十八 卅七「ハリ夫久路、コレハタバリヌ、スリ夫久路、イマハエテシガ、オキナサビセム」（二）橘、柑、ノ類ノ瓤ノ、一ツ一ツニ包マレテアルモノ。瓣 俳諧新選「鬼燈ヤ、袋ニ色ノ、アラハルル」（三）母ダツ人ノ稱。オフクロ。（胎中ニ兒ヲ持タルヨリ云フトゾ） 仙臺[illegible]語（林笠翁）「母タル人ヲ袋ニナゾラヘ侍ル事ハ、胎中ニ其子籠レル時、袋ノ中ニ物アル如クニテ侍レバ、メデタキ事ニ譬キテ申侍ル也」（四）〔俗ニ、事ヲ爲スニ人ニ後ルルコト。（古ヘ、旅用ノ物ヲ袋ニ入レ、從者ニ擔セ行ケルヨリ云フト云フ） 古事記、上、二「八十神[illegible]云云、於是大穴牟遲神[illegible]」 [illegible]「事功ノ人ニ後ルル者ヲ、世俗ニ袋持トイフモ、コノ故事ニヨレリ」

ふくろ（名）梟 ふくろふノ約。 [illegible]本節用集「梟、フクロ」 重修本草綱目啓蒙「ふくろ（常陸）、よづく（出雲）、云云」 日本釋名、中、鳥類「梟、其毛フクルル鳥ナル故也、るハろト通ズ、一說、ははくらふ也、梟ハ惡鳥ニテ、其母ヲクラフモノ也、ふハはは也、はトふト通ズ、らトろト通ズ」

ふくろ-あらひ（名）［袋洗］攝津國、伊丹ノ造酒家ガ、新酒ノ濾袋ヲ川ニテ洗フコト。其洗汁ヲ袋洗ノ酒トテ、附近ノ賤者請ヒ得テ飲ム。 鬼貫句選「賤ノ女ヤ、袋あらひノ、水ノ汁」

ふくろいれ-がさ（名）［袋入傘］昔、武家等、道中ニ用キタル長柄ノ傘ニシテ、不用ノ時ハ、天鵞絨ナドノ袋ニ入レテ、擔ギ行クモノ。 守貞漫稿、廿七、[illegible]「[illegible]二袋内傘トイフ、[illegible]、武正路トモニ用[illegible]之、[illegible]云、官[illegible]ハ式正路トモニ用[illegible]之、[illegible]、紫紺ヲ用フルコト[illegible]ニヨル」[illegible]袋入ノ立傘ハ[illegible]、[illegible]、大番タリシ時ヨリ、是モ家格次第ノ事トナリ」

ふくろ-うち（名）［袋打］〔平打ニ對ス〕打紐ヲ管狀ニウツコト。又、其狀ニ打チタル紐 [illegible]「[illegible]、云云、袋打ナリ」 本朝若風俗（貞享、西鶴）八「縫分霜ノウネ帶、萌黄ノ袋うちノ柄糸、ナデ角ノ鍔」

ふくろ-おり（名）［袋織］表裏二枚ノ織物ヲ、互ニ挾カズシテ織シ、緯絲ハ表ヲ組織スルト同時ニ、裏ノ組織ヲ作リ、因リテ筒狀ニ織ルコト。又、其狀ノ織物。

ふくろ-かづき（名）［負囊］（一）〔從者ニ、衣服、其他、旅用ノモノヲ納レタル袋ヲ持タスルモノ。今、又、袋背負。フクロモチ。略シテ、おふくろ。（江戸時代ニテモ、物ヘ行クトキハ、調度、衣物等、袋ニ入レテ、從者ニ持タシムル習ヒアリキ） 古事記、上、二「於是大穴牟遲神、負帒、爲從者率往」 雄略紀、十四年四月「賜茅渟縣主、爲負囊者」（二）事功ノ人ニ後ルルヲ、袋持、又ハ、ふくろヲかづくト云フ。多ク歌骨牌取リ、[illegible]ナドニ、最後トナリテ負ケタルモノヲ云フ。ふくろ（袋）ノ條ノ（四）ヲモ參見セヨ。（三）天然痘ニ感染セヌ體質ノ者ヲ云フ。人ニ後ルル義カ。 俚言集覽「袋持、後レ下ガル者ヲ袋持ト云フ、云云、又老イテ疱瘡セヌ者ヲ袋かづきトイフ」

ふくろかんばん（名）［袋看板］江戸時代ニ、三都ノ藥種屋、砂糖屋ノ、店頭ニ据エタル高四尺許ノ袋形ノ看板。 俚言集覽「袋看板、藥種屋ノ看板（毛吹草）」

ふくろく（名）［復祿］モトノ秩祿ニ復サルルコト。

ふくろく（名）［福祿］（一）福ト、祿ト。又、サイハヒ。シアハセ。 詩經、大雅、文王之什、旱麓「豈弟君子、福祿攸降」 國語、晋語、[illegible]子曰、[illegible]之、[illegible]不[illegible]、福祿[illegible]至、[illegible]之幸也」 淮南子、人間訓「君子致其道而福祿歸焉」（二）次條ノ語ノ略。（三）獸ノ名。形、驢ニ似テ、黑白ノ斑文アリ、今ノ斑馬ノ類ト云フ。 大清一統志[illegible]「[illegible]似驢、[illegible]花文可愛」

ふくろく-じゅ（名）［福祿壽］（一）福ト、祿ト、壽命ト。又、畫題ニ、壽老人ニ蝙（福）ト鹿（祿）トヲ書キ添ヘテ、福祿壽トスルコトアリ。或ハ、蝙蝠（福）、鹿（祿）、龜（壽）ヲ併セテ福祿壽ヲ表ハシ、陶朱

公(福)、周文王(祿)、南極老人(壽)トスルモアリ。北窓瑣談(橘南谿)四「漢土ノ畫家、福祿壽[illegible]ノ化身ナリト云フ。常ニ畫キテ七福神ノ一トス。短身、長頭、多髯ニシテ、杖ニ[illegible]ト。略シテ、ふくろく。南極老人星。[illegible]老人星。南極老人。[illegible]年冬十一月、京師有二道人一遊二于市一莫レ知二所一從[illegible]都人士[illegible]

ふくろぐも (名) 袋蜘蛛 つちぐも(土蜘蛛)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]云、腹ヲ破ルモノナリ、是ニ依テ腹切蛛ト云フ、又穴グモ、袋ぐもナド、多ク名アリ、本草ニハ蛭蟷トイヘリ」其杉の句「夕暮ニ、ワカレ出ニケリ、袋ぐも」

ふくろご (名) 袋子 嚢兒 胎兒ノ、薄キ膜ニ包マレナガラ、生ルルモノ。[illegible]子迚、大内ヘモイレズ、此葛城山ニ捨タルトヤ」

[illegible]頭裝、一、貼子位置形状[illegible]第一「東南山下門外、筵[illegible]」

ふくろざうし (名) 袋草子 袋册子 [illegible]ほん(折本)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]一、[illegible]「今ノ册子ノ樣ナサマ、一枚、長ニ[illegible]如クニ見ナサルル邊ヨリ、袋册子ト云フナルベシ」[illegible]七、[illegible]册子「ふくろざうし、[illegible]二折カヘシ、端ニテ、ツギ合スルナリ、ヒロゲレバわたーナルュヘニ此名アリ、[illegible]」

ふくろしやうじ (名) 嚢床子 昔、禁中ニテ、公事ノ時ニ用キタル腰掛ノ一種。中ニ綿ヲ入レタルモノト云フ。ツボシヤウジ。 江家次第、二、七日節會裝束「[illegible]障子北、[illegible]一枚、其内立二嚢床子二脚一」

ふくろだたき (名) 袋叩 (一)人ヲ袋ニ盛リテ、上ヨリ撲チタタキテ殺スコト。嚢撲 本朝俚諺、五「嚢撲、史記ニ云、秦王政、嚢撲二弟一、又見二說苑一、コレハふくろニイレテ、タタキコロスナリ、東國ニテ、俗語ニイヘリ」(二)一人ヲ多人數ニテ打チタタクコト。(嚢ニ入レテ打ツ如ク、相手ニ抵抗ノ餘裕無カラシムル故ニ云フ)人ニ手足ヲ出サシメズ、我ガ十分ニイタメツクルコト

ふくろだな (名) 袋棚 (一)茶道ニ用キル一種ノ製ノ棚。下ノ出典ヲ見ヨ。書言字考節用集、一、乾坤門、上「袋棚、フクロダナ」卯花園漫錄(石上宣續)五「袋棚、茶人紹鷗トイフモノ作ルヨシ、武野大黑庵紹鷗一閑トイフ」 和漢茶誌、一、「袋棚 其制用[illegible]」(二)[illegible]違棚ノ上部ニ設クル戸棚 横ニ細長ク、書畫ノ軸物ナド容ル[illegible]昔ハ、高貴ノ家ニノミ設ケ[illegible]ルモノ、今世ハ倡シテ民間ニモ設ケタル家アリ、云云、[illegible]ケラルルモノトゾ」家屋雜考、五、書院造「今時ノ如[illegible]リツケニスル事ハ、武士ノ家居ヨリ移レルニテモアルベシ、一書ニ、違棚ハ、武士ノ高名シタル首ドモヲ[illegible]ニモスルナリ、袋棚ハ、右ノ首ドモヲ納メ置ク所ニテ、首[illegible]ノリ一尺一寸ニスルナリナドイフ事、云云、據モナキ妄說ナリ」(三)[illegible]壁ノ外ヘ張リ出シテ、袋ノ如ク作レル棚。戸アリ。

ふくろたび (名) 袋足袋 足袋ノ、親指ト次指トノ間ニ、縫込ミノ隔ナキモノ。 用捨箱、下「イトタクマシキ丸ケノ紐、[illegible]足袋ト云フハ、木綿トモ製ノコトナリ[illegible]ノ事ナリ」 都女品定(元祿)上「下女、腰元ニイタルマデ、帶ノムスビメチヒサクシテ、袋足袋ニ藥金剛、一ツ前ニキナサネバ、サンリモ見セズ」 福神通夜物語(元祿)「[illegible]ベシ、袋足袋」

ふくろち (名) 袋地 他人ノ土地ニ圍マレテ、公道ニ通ゼザル土地。

ふくろづきん (名) 袋頭巾 芝居ニテ、惡黨ガ、顏ヲ隱シ、又ハ、他ニ打チカブセテ、カドハカスナドニ用キル胡椒頭巾ノ類ナラムト云フ。[illegible]「コノ袋頭巾トイヘルハ、卽チ胡椒頭巾ナルベシ」

ふくろづつみ (名) 袋包 (平包ニ對ス)布袋ニテ、衣ヲ包メルモノ。衣ヲ包ム袋。つつみ(包)ノ條ヲ見ヨ。 紫式部日記「人ノ局局ニハ、大キヤカナルふくろづつみドモ持テチガヒ」 榮花物語、廿四、若枝「イミジウ大キナルふくろづつみナド、持テサワギ取入レサマヨフ」

ふくろづの (名) 袋角 [illegible] 倭名抄、十八毛群體「鹿茸、鹿乃和加豆乃、鹿角初[illegible]」

ふくろど (名) 袋戸 床ノ間ノ傍ナドノ違棚ノ上下、[illegible]作レル棚ノ戸。卽チ、袋棚ノ戸。多クハふすま障子ナリ。下ニアルヲ、地袋ト云ヒ、其戸ヲ地袋戸ト云フ。

ふくろどうろう (名) 梟燈籠 石燈籠ノ一[illegible]同ジ。

ふくろどだな (名) 袋戸棚 ふくろだな(袋棚)ニ同ジ。

ふくろとぢ (名) 袋綴 草子ノ綴方ノ[illegible]下ノ出典ヲ見ヨ。[illegible]綴樣「ふくろとぢト稱スルハ、紙ヲ二ツ折リニシテトヅル也、[illegible]

ふくろぬひ (名) 袋縫 帶物ナドニ用キル縫ヒ方。表ヨリ淺ク縫ヒ、ソノママ裏ヲ返シテ縫フコト[illegible]織地ノ[illegible]ホツルルヲ、防グタメナリ)

ふくろねずみ (名) 袋鼠 英語 Kangaroo. ノ譯語) 有袋類ノ動物ノ名。濠洲ノ產 形、鼠ニ似テ、大ナルハ六尺ニ至ル 體色、淡茶褐ニシテ、毛茸ツク 頭小サク、體大ナク、前脚ハ短小ニ、後脚ハ長大ナリ 尾モ長大ニシテ、後脚ト尾トニテ跳ネテ走ル 牝ノ腹ニ腹皮アリテ袋ノ狀ヲナシ、常ニ其兒ヲ容レテ哺乳[illegible] カンガルウ

ふくろのえぼし (名) [袋烏帽子] えぼしノ一種。貞丈雜記、三、烏帽子之部「ふくろのゑぼしノ事、宇治拾遺物語ニ云ク、七十アマリ許ナル翁ノ、髮モハゲテ、白キトテモオロオロアル頭ニ、ふくろのゑぼしヲヒキイレテ、光チヒサキカ、イトド腰カガマリタルガ、杖ニスガリテ歩ム、云云、按ズルニ、錢稍好ニテ作ルなしうちゑぼしトイフ物ハ、古ノ袋の烏帽子トイフ物ノ類ナルベシ」

ふくろのねずみ (名) [袋鼠] フクロノ中ニトヂ込メラレタル鼠。死地ニ陷リタル者ヲ云フ譬。春秋二季種(二、亭春馬)三、下「間男見付ケタト、二人取ッツカマヘルノハ、袋の鼠デザウサモ無エガ、ソンナ野暮ハ俺ア嫌ヘタ」

ふくろばり (名) [袋張] 額、又ハ、ふすま(襖)ナドニ、紙ノ縁ニノミ糊ヲ附ケテ、貼リタルモノ。

✣✣**ふくろび** (名) [綻] ほころび(綻)ノ轉訛。巾佳里の梅(天保、鼻山人)初編、上「着物ノふくろび、洗濯モノ、何カヲ頼ミテ、其償ニ、ワザト餘計ノ小錢ヲチラバシ」

ふくろふ (名) [梟] (其鳴ク聲ヲ名トスト云フ) 猛禽類ノ鳥ノ名。又、サケ(伊豫國、宇摩郡東部ニテハ、ふるつくト云フ)形狀、性質、みみづく(木菟)ニ似テ、形大ナリ。但シ、毛角無ク、斑ハ黄黑ナリ、赤晝伏シ、夜出デテ、小鳥ヲ捕リ食フ。眼、圓ク大キク、瞳孔モ大キクシテ、夜間モ能ク見ルヲ得。其聲、人ヲ呼ブガ如シ、畜ヘバ馴ル。約メテ、フクロ。鴟。不孝鳥 羽色ノ黄赤ナルヲ縞梟トモ云フ。倭名抄、十八 四 羽族名「梟、布久呂不、佐介、食父母不孝鳥也」本草和名、下 四 五十「鴟目、一名、梟、惡聲鳥、布久呂布」字鏡 五 六十「鴟、不久呂不」源、四、夕顏「松ノヒビキ木深ク聞エテ、ケシキアル鳥ノ、カラ聲ニ鳴キタルモ、ふくろうハコレニヤトオボエ」拾玉集、一「山深ミ、ナカナカ友トナリニケリ、サ夜フケガタノ、梟ノ聲」詩疏圖解「流離、梟也、云云、其子適長大、還食二其母一云云、許愼云、梟、不孝鳥是也、本草、鴟一名梟、鴞一名鵩、一名訓狐、ふくろふナリ、鴟、梟、訓狐ハ其聲ニヨリテ名トシ、鵩ハ其色服色ノ如クナルニヨリテ名トスト、時珍云ヘリ」

✣✣**ふくろ・ぶ**・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) [綻] ほころぶ(綻)ノ轉訛。

ふくろまち (名) [袋町] 路ノ行キドマリテ、通リ拔ケノナラヌ町。死巷 雜字類編、五「死巷、フクロマチ、イキヅマリノコウヂ」

ふくろもち (名) [袋持] (一)ふくろかづき(負袋)ノ條ノ(一)ニ同ジ。太神宮司諮歌行事記「袋持者從者也」(俗語考) 太秦牛祭祭文(應永九年)「家家ノ大黑天神ノ袋持ニ至ルマデ驚カシ中サク」嘯風波集(寬永)「旅人殿ヲ、見レバ大黑兩替ノ、跡ニサガレル、袋もち」(二)ヒケヲ取ルコト。人後ニ落ツルコト。(三)伊勢、紀伊地方ニテ、乞食ノ一種。賤者考(本居内遠)「乞食ノ者ノ制度名目、國國ニテ異アルベシ、云云、薦持、ふくろ持、手桶喚ナドイフモアリ、長吏頭ヲ道踏ト、世世、名ノル」

ふくろもの (名) [袋物] 鼻紙袋、烟草入、ナド、袋狀ヲナセルモノノ稱。コレヲ製シ、或ハ、商フモノヲ袋物師、袋物屋ト云ヒ、其店ヲ袋物店ト云フ。守貞漫稿、四、生業、上「紙入、タバコ入等ノ囊類、云云」

ふくわ (名) [浮華] (浮薄ニシテ、華ヤカナル意) ウハベノ華ヤカニシテ、中味ノナキコト。漢書、杜欽傳、贊「探二陳女戒一、終如二其言一、庶二幾乎關雎之見レ微、非二夫浮華博習之徒、所一レ能規一也」晉書、陶侃傳「老莊浮華、非二先王之法言一、不レ可レ用也」天德内裏歌合御記「後代之不レ知二意旨一、恐成二好二浮華一輩之内謗一、仍具記レ之」

ふくわ (名) [附和] 何ノ理由モナク、他人ノ說ナドニ贊同スルコト。フワ。「附和雷同」

ふくわ (名) [孵化] (集韻「孵、孵化也」) 卵ノ子ニ化スルコト。カヘルコト。又、卵ヲカヘスコト。

ふくわ (名) [賦課] 租稅、年貢ナドヲ、割リ當テテ課スルコト。

ふくわい (名) [傅會附會] (一)ツケアハスルコト。接合 附着 列子、湯問篇「偃師大懼、立剖二散倡者一以示レ王、皆傅二會革木膠漆白黑丹青之所一レ爲」陸賈、漢高祖功臣頌「附二會下邑一、叛二懷翦氏一、所謂伊人、拔萃之彥」(二)理窟ヲ押シテ、強ヒテ附合セシムルコト コジツケ。牽強 牽合 史記、袁盎傳、贊「雖レ不レ好學、亦善傅會」胡寅讀史管見「日本ヲ以テ呉ノ太伯ノ子孫トナシ、又ハ、夏后少康ノ裔也ト云フ說アレドモ、牽合附會、信用スベカラズ」(三)一篇ノ文章ノ、首尾全ク相整フコト。文心彫龍(梁、劉勰)附會篇「何謂二附會一、謂下總二文理一、統二首尾一、彌二綸一篇一、使中雜而不上レ越者也」

ふくわい (名) [不快] (一)ココロヨカラヌコト。不愉快 史記、信陵君傳「公子行數里、心不快」范曄、後漢書、自序「吾書雖二小小有一レ意、筆勢不快、餘竟不レ成就、每愧二此名一」(二)ヤマヒ。ワヅラヒ。不快氣。病 三國志、魏志、華佗傳「有二一士大夫不快一、佗云、君病甚、當レ破レ腹取」靈風雜話(瀧川時英)二「御自分モ、今迄不快ナル時分ハ、藥ヲ飲ミタル覺アルベシ」(三)仲惡キコト 反目 不和 不會 著聞集、十一、書圖「四條道去ノ後、後家ト不快ニナリテ、相論ノ事アリケリ」平治物語、一、信賴信西不快事「ナカ惡シクテ、事ニフレテ不快ノ由聞エケリ」

ふくわい (名) [不會] 前條ノ語ノ(三)ニ同ジ。謠曲、丹後物狂「頃ハ、文治ノ初メツカタ、賴朝義經不會ノ由、スデニ落居シカナク」

ふくわい (名) [府會] 府ト云フ地方自治團體ノ議決機關 即チ、一府下ノ人民ノ選舉シタル議員ヲ以テ組織シ、府ノ歲出入、其他、法律命令ニヨリテ定メラレタル重要ナル事項ヲ議決ス。

ふくわいき (名) [不快氣] ふくわい(不快)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

ふくわかし (名) [福沸] (一)元日ノ早朝ニ汲ミタル若水ヲ煮ルコト。白齋の句「長閑ナル、釜ノ音ナリ、福わかし」(二)正月ニ、神供ノ餅ヲ粥ニ入レテ煮タルモノ 諸國圖會年中行事大成、一、正月「十五日、小豆粥祝、云云、今日、小豆粥ノ中ヘ餅ヲ入テ食ス、是ヲ粥杜ト云、又、福沸トイフ」俚言集覽「ふくわかしハ餅福ナランニ(餅ヲ福ト云フコト、福ノ條ヲ見ヨ)」又一說ニ、正月三箇日ノ供物ヲ煮雜ゼタル食品。華實年浪草(天明、鵜川麁文)一、上「福沸注、正月四日ニ、神棚ヘ三箇日供ジタル飯、汁、菓ノ類ヲ撤スルヲ、棚さがしト云ヒ、是ヲ集メテ一ツニ煮無シテ合家食フ、是レ福沸也」又、七種ノ粥ヲ煮ルコトヲモ云フ 小町踊(寬文)春、上、若菜、附、七種「若菜ニメデテ、祝フバカリゾ、福沸」

ふくっくでん (名) [負郭田] (城郭ヲ負フ田ノ義) 城下附近ノ田地ヲ云フ 史記、蘇秦傳「且使二我有二雒陽負郭田二頃一、吾豈能佩二六國相印一乎」注「近二城之地、沃潤流澤、最爲二膏腴一、故云二負郭一」溫庭筠詩「未レ展二干時策一、徒摧二負郭田一」

ふくわけ (名) [福分] (一)祝賀ノ品物ナドノ餘分ヲ分ケテ、人ニ贈ルコト。フクワタシ。(二)外ヨリ、贈ラレタル物ヲ、分ケテ人ニ贈ルコト スソワケ 嬉遊笑覽、八、忌諱「狂言記、福渡ニ、福ハ何ジャ、アリノ實デ御ザリマスナド見ユ、今世ニモ、外ヨリクレタル物ヲ分チテ人ニ賜ルヲ、福わけト云フ」

ふくわと (名) [不課戶] 租稅、又ハ、雜役

ヲ賦課セラレザル家。くゎこう(課口)ノ[illegible]ヲモ見ヨ。[illegible]

ふくわたし (名) [福渡] ふくわけ(福分)ノ(一)ニ同ジ。狂言記、福渡「八十許リノ老僧ノ、道ニテ抑ヘテ取ラルルナラバ、福わたしト云フ事ヲセズバ、渡スナト御意ナサレテゴザル」

ぶくゎん (名) [武官] (一)軍陣、警衛、ナド、武事ニ係ル官。文官ニ對ス。[illegible]

ふくわら (名) [福藁] 昔、元日ニ新シキ藁ヲ門口ニ敷キタルモノ。嗚呼矣草(田宮仲宣)四、第百七條[illegible]尾張[illegible]ノ上民ノ村居セル[illegible]テ居セリ、云云、神代ノ穴居ノ遺風トゾ思ハル、福藁ヲ正月ニ敷クハ、此例ナリト思ハル」季吟の句「昨夜ハ[illegible]、大晦日ノ[illegible])アスハ福藁、式作法」

ふくゐ (名) [復位] 元ノ位ニ復スルコト。

ふくゐん (名) [幅員] [説文「幅、布帛廣也、員、物數也」] ハバ。ヒロサ。詩經、商頌、長發篇「禹敷下土方、外大國是疆、幅隕既長」(隕、古、員ニ通ズ)

ぶくゑ (名) [服穢] 服忌ノケガレ

ふけ (名) [雲脂] [陳化ノ義カ] イロコ。リシラアカ。カミアカ。髮ノ根ノ皮ニ生ズル垢。カシラノアカ。頭垢。箋注倭名抄、[illegible]「雲脂、頭垢也」[illegible]

ふけ (名) [深] [illegible]コト。又、[illegible]クルコト。千載集、十六、雜、上「ハカナクモ、ワガ世ノふけヲ、知ラズシテ、イザヨフ月ヲ、待ワタルカナ」(二)ふけた(深田)ニ同ジ。

ぶけ (名) [武家] 武士ノ家筋。即チ、鎌倉時代以後、公家ニ對シテ、將軍、大小名、及、其家人ノ稱。武弁[illegible]

ふけい (名) [父兄] 父ト、兄ト。又、父、兄ナド、メウヘノ人。論語、子罕篇「子曰、出則事公卿、入則事父兄」西山公随筆(徳川光圀)「今世ノ僧、云云、渡世ノ爲ニ、父兄ノススメテ出家セシム、然バ如法戒行ノ人、稀ナル事理也」

ふけい (名) [不敬] (一)ウヤマハヌコト。失禮。無禮。禮記、王制篇「山川神祇、有不擧者、爲不敬、不敬者、君削以地」[illegible](二)不敬罪ノ略。其條ヲ見ヨ。

ふけい (名) [不稽] 考ヘザルコト。考慮セズ、謂ハレナキコト。轉ジテ、根據ノナキコト。信用デキヌコト。デタラメ。孟浪。[illegible]

ふけい (名) [不經] [經ハ常法ナリ] 常道ニ外ルルコト。常軌ヲ逸スルコト。史記、[illegible]「[illegible]不經」

ふけい (名) [符契] アヒフダ。ワリフ。節符。五代史、[illegible]「[illegible]如符契」聖徳太子[illegible](享保、近松作)一「師子吼[illegible]ノ證文、ア

タカモ符契ヲ合スル如ク」

ふけい (名) [負荊] [荊ハ答刑ニ用キル] いばらノ杖。下ノ廉頗ノ故事ニ起ル[illegible]

ふけい (名) [浮磬] [illegible]ヨリ出ヅル浮石。磬トナスヲ得、故ニ云フト。書經、禹貢「[illegible]浮磬」[illegible]「水流浮磬動、山喧[illegible]飛」白居易、華原磬歌「古稱浮磬出泗濱」(二)佛具ノ一。ウチナラシ。[illegible]

ぶげい (名) [武藝] 弓、馬、槍、劍、拳法、砲術、ナド、スベテ戰鬪ニ係ル技。武術。武技。[illegible]

ふけいき (名) [不景氣] 「不經紀」ノ俗用ナルベシト云フ。(一)ノ出典ヲ見ヨ」(一)景氣ノ好カラヌコト。賑ハヌコト。繁昌セヌコト。サビレ。衰況。東牖子(田宮仲宣)二「[illegible]、今、長崎ナドヘ來ル商買ノ、常ニ用ル言葉ナリ、今時、本邦ノ商買、アキナヒノ寂シキヲ不景氣ト云ヘリ、正シク不經紀ナルベシ」春秋二季[illegible]初編、上「私達ノ手稼ギモ、コノ不景氣デハイケナイカラ、日日ノ事ニ追ハレルバカリ」(二)轉ジテ、人ニ陰氣ナル感ジヲ起サシムルコト。活氣ナキコト。アハレッポキコト。浮世風呂(文化、三馬)初編、下「ふけいきナ聲ダ」「不景氣ナ顏」

ふけいざい (名) [不敬罪] [illegible]ニタナハヌコトヲムダゾカヒスルコト。

ふけいざい (名) [不敬罪] [illegible]不敬ヲ行フナスニヨリテ成立スル罪。

ぶげいしゃ (名) [武藝者] 武藝ノ[illegible]ル人。又、武藝ニ長ケ、ソレヲ以テ身ヲ立ツル人。[illegible](瀧川時英)二「凡、世ノ武藝者、我修行ノ長ヲ誇ルトテ、他流ノ人ト仕合ヲ好ム[illegible]」

ふけう (名) [拂曉] ふっけう(拂曉)ニ同ジ。

ふけう (名) [不孝] [illegible]同ジ。字類抄「不孝、フケウ」宇津保物語、忠社「心ヨロシカラズ、[illegible]打、ふけうノ[illegible]ナドハ、皆打入レテ、セム方ナク籠リ居タルヲ」[illegible]ガレントスレバ、君ノ御タメニハ不忠ノ逆臣トモナリヌベシ」(二)律ニ八虐ノ第七。祖父母、父母ニ不孝ナルコト。條件多シ。律ノ疏ニ[illegible]

ふけう (名) [不教] [illegible]ニ同ジ。俚言集覽「君父ノ勘氣ヲ被ムルヲ、不敎ヲ受ルト云、又、不興[illegible]

ふけう (名) [布敎] 宗教ヲ弘ムルコト。敎法ヲ弘布スルコト。佛本行集經、七「佛布ニ[illegible]如來布敎之[illegible]」

ふ-けう（フ-キヨウ）（名）［浮橋］ふなばし（船橋）ニ同ジ。ウキハシ。浮橋船。爾雅、釋水篇「天子造舟」疏「詩、大雅、大明、云、造舟爲梁是也、言、造舟比舟於水、加板於上、卽今之浮橋」後漢書、吳漢傳「岑彭、利、遂自將步騎二萬餘人、進逼成都、去城十餘里、阻江北爲營、作浮橋」

ふけう-せん（フキヨウ-セン）（名）［浮橋船］ふなばし（船橋）ニ同ジ。名物六帖、二、器財箋、二「浮橋船、フナハシ」註「仕學大乘、罰造浮橋船一隻」

ぶけ-がた（名）［武家方］武家筋ノ家。武家ノ人人。世間娘容氣（正德、江嶋其磧）二「近キ頃ハ武家方ノ女中ヲ見習ヒ、都ニ山谷羽若ル女モ見エケル一當世流、款德忠山吹、上「氏モ素姓モ御座リマセネト、若イ折ニ武家方ニ御奉公致シマシテ、琴ヲ學ビマシタユエ」

ふけ-き（名）［普化忌］普化宗ノ祖、支那、唐ノ普化禪師ヲ祭ル法事。陰曆、六月十三日ニ行フ。俚言集覽「普化禪師、コム僧ノ始祖、今ノ世、尺八ヲフクモノコレヲ祭ル、六月十三日、普化忌トイフ」

ふ-げき（名）［巫覡］（巫ハ女ミコ、覡ハ男ミコ。說文「能齋肅事神明也、在男曰覡、在女曰巫」）女みことおとこみこ。ミコ。晉書、李特載記「流未、張省居、帝馬以鬼道致百姓、賓人敬信巫覡、多往奉之」顏氏家訓（北齊、顏之推）治家篇「吾家巫覡禱請、絕於言議、符書章醮、亦無所祈」字類抄「巫覡、フゲキ」

ぶけ-くゎぞく（ブケ-カゾク）（名）［武家華族］大名華族ニ同ジ。くゎぞく（華族）ノ條ヲ見ヨ。

ぶけ-こじつ（名）［武家故實］こじつ（故實）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

ぶけ-じだい（名）［武家時代］歷史上、專ラ武家ノ政治ヲ執リシ時代ノ稱。卽チ、鎌倉、室町、江戶ノ各時代ノ總稱。

ふけ-しゅう（名）［普化宗］（一）禪宗ノ一派。支那、唐ノ普化禪師ヲ祖トスルモノ。禪師ハ、盤山ノ寶積禪師ニ嗣法シ、常ニ「明頭來明頭打、暗頭來暗頭打、四方八面來旋風打、虛空來連架打」ノ四句ノ偈ヲ唱ヘ、鐸ヲ振ヒテ市中ニ托鉢シ、咸通元年、鐸ヲ振リ、空ヲ凌ギ、隱隱トシテ逝クト。（二）我ガ國ニテハ、紀州由良ノ法燈國師（覺心）、建長中、入宋シ、普化禪師ノ風ヲ聞キテ、大イニ悟ル所アリ、歸朝後、其韻事ニ基ヅキ、普化ノ禪風ト、虛鐸ノ祕法トヲ傳ヘ、常ニ吹簫ヲ以テ修禪ノ助法トセリト。爾來、其會下ニ普化僧（虛無僧）ノ名出デ、覺心ヲ以テ、吾朝、普化宗ノ祖トシ、京都大佛ノ南、虛靈山明暗寺ヲ以テ本山トナス。又、一說ニ、後深草天皇ノ御宇、宋ヨリ四人ノ僧、普化ノ禪意ヲ得タルモノ渡來セリ。其徒、尺八ヲ吹キテ、普化ノ禪風ヲ弘ム。次デ其徒ノ一人、下總國、葛飾郡、小金井ニ寺ヲ建テ、金龍山梅林院一月寺ト稱シ、又、武藏國、青梅ニ一寺ヲ建テ、鈴法寺ト號シ、共ニ普化宗總本山トナス（淸僧ナリ）。又、越後國、蒲原郡、下田鄉ノ妙安寺モ亦本山ニテ、妻帶僧ナリ。其本末寺、多キ時ハ、全國十八派、百三十餘箇寺アリキ。江戶時代ニテハ、勇士、浪人ノ一時ノ隱家トシテ、守護不入ノ寺ナレバ、仇討、又ハ、故アリテ浪人セルモノ、身ヲ此宗門ノ寺ニ寄スレバ、逃ルルコトヲ得タリト云フ。後、其徒、禪宗ノ一派トシテ、其面目ヲ沒却スルモノアルヲ以テ、明治四年、遂ニ廢宗トナレリ。こむそう（薦僧）ノ條ヲモ見ヨ。普化宗門之掟、虛無僧始祖并開山之事「始祖者普化之禪也、普化トハ、釋迦如來三十八世之法孫、大唐鎭州普化和尙ヲ以、始祖トス、開山ハ金先古山禪師也、金先ト云ハ、人王八十八代之聖帝、後深草院之治天ニ、建長之頃、紀州由良興國寺開山法燈國師、入唐シテ、歸朝之時、普化禪師之四居、寶伏、國佐、理正、宗恕、同船シテ、我朝ニ來ル、寶伏居士、暫ク山城國宇治ノ邊ニ居ヲシメシ、普化ノ禪ヲ聞通セント、庵室ヲ結ビテ、行住坐臥ノ法容、偈ニ普化ノ遺風ヲ慕フ、居士、專ラ尺八ヲ吹テ、始祖振鐸ノ話ニ準擬ス、云云、其頃、頭陀有、金先ト名ク、寶伏ノ法筵ニツラナリ、供ニ尺八ヲ發シ、行脚修行シテ、所所ヲ經巡、東ニ下リ、下總國小金宿ニ止リ、光陰ヲスマシム、然ニ寶伏居士、年ヲ經テ卒シヌ、金先其法統ヲツイデ、妙音、又奇也、云云、爰ニ一宇ヲ造立シ、寶伏ノ遺意ニ任テ、山ヲ金龍ト號、寺ヲ一月ト號、此時、執權北條時賴時、金先ノ碩德ヲ尊テ、造立ノ大旦那トシテ之ヲ經營シ、金龍山一月寺ト云、此開山則金先禪師也、金先ヲ以、虛無僧之基トス」普化宗雜記、下「一、普化宗門ノ事、延寶年中被仰出候御番付ノ通、寶義ヲ專トシ、師弟禮義ヲ不失樣ニ相守ベシ」

ふけ-ソウ（名）［普化僧］こむそう（虛無僧）ニ同ジ。前條、及、こもそう（薦僧）ノ條ヲモ見ヨ。守貞漫稿、六、雜業「虛無僧、云云、或ハ菰僧トモ云フカ、普化禪師ヲ祖トス、故ニ普化僧トモ云、或ハ、梵論寺トモ、又ぼろぼろトモ云フ」

ふけ-た（名）［深田］泥ノ深キ田。ドロタ。フカダ。フケ。（伊豆ニテ、四時ニ水ノ沸出ヅル田ヲふけ、た、又、どぶ、たト云フ）盛衰記、三十五、粟津合戰事「ツララ結ベル田ヲ橫ニ打ツ程ニ、ふけだニ馬ヲ馳入レテ、打テ共打テ共不行ケリ」太平記、廿、義貞自害事「細川ガ方、云云、深田ニ走リ下リ、前ニ持楯ヲ衝並テ」

ふ-けつ（名）［不潔］イサギヨカラヌコト。又、キタナキコト。穢レ。不淨。孟子、離婁、下篇「孟子曰、西子蒙不潔、則人皆掩鼻而過之」國語、楚語「其不潔也、見之共行之、而加之以不仁、奉之以不義、蔑不克矣」

ふ-げつ（名）［風月］ふうげつ（風月）ニ同ジ。徒然草、第八十六段「惟繼中納言ハ、ふげつノ才ニ富メル人ナリ」十訓抄、一、秋「段フリモ、壯男ト、マメ男、イヅレ風月ノ、才ハジケタリ」

ふ-げつ（名）［不月］出產ノ日、豫定ヨリ遲延スルコト。名物六帖、四、人事箋、五「不月、ヒノビル」註「類按、一婦半年不月」

ふ-けっくゎ（フ-ケツカ）（名）［不結果］善カラヌ結果ニナルコト。成功セザルコト。不成功。

ぶけ-てんそう（名）［武家傳奏］武家ノ用事ヲ、天皇、上皇ニ執奏スル職。室町幕府、始メテ之ヲ置キ、江戶時代ニハ、惡ク幕府ノ命ヲ以テ、公卿（納言、參議）中ヨリ、辯舌、文筆ノ勝レタルモノ二人ヲ選任セリ。略シテ、武傳。てんそう（傳奏）ノ條ヲモ參見セヨ。光臺一覽、三「武家傳奏、二人、大中納言、宰相迄、右ハ總、武家方ノ執奏タリ、關東御往返、官位昇進、寺社諸人參內之譯、禁中一切、上下奧口之取次人也、云云、尤文才之上智、辯舌公道之人ニアラザレバ難叶也」官職知識職方聞書、武家傳奏「御番御役ハ、後光明院ノ御宇ノ始ヨリ始ル也」慶永年中行事、二月「關東へ御使、日限定ラズ、關東へ年頭御使トシテ、武家傳奏參ル」

ぶけ-ほうこう-がまへ（ブケ-ホウコウ-ガマヘ）（名）［武家奉公構］江戶時代、武家ニ奉公スルモノニ科シ、再ビ奉公スルヲ得ザラシムル刑。御仕置例類集、三、寬政五丑年四月「メグリ博奕可致與申合候段、不埒ニ付、武家奉公構」

ふけ-まち（名）［更待］次條ノ語ノ略。寢待ノ翌夜ノ月。卽チ、陰曆、廿日ノ月ノ稱。嬉遊笑覽、七、行遊「魚ノ歌合ノ判ニ、廿日ノ月ヲ、ふけまちト云ヘリ」

ふけまち-づき（フケマチ-ヅキ）（名）［更待月］前條ノ語ヲ見ヨ。藻鹽草、一、天象「ふけ待の月、廿日ノ月」

ふ-けん（名）［負喧］ヒナタボッコ。ひな

たるべりノ[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]

ふげん (名) [illegible] [illegible]ハナキウハサ。無[illegible]

ふげん (名) [illegible] ヒトイツハリテ、言[illegible]ソコトバ、[illegible]

ふげん (名) 不言 [illegible] 物言ハヌコト。無言。 老子、第四十三章「不言之[illegible]」

ふげん (名) 附言 附加シテ云フ言。

ふげん (名) 富源 富ヲ生ズル本。

ふげん (名) 普賢 〔梵語、Visvabhadra (邲輸跋陀)、又ハ、Samantabhadra (三曼多跋陀羅)、普賢、又ハ、徧吉ト譯ス〕 [illegible] 佛ノ右方ニ侍ス。常ニ白象ニ騎レ[illegible]

ぶげん (名) 分限 (一)ぶんげん(分限)ニ同ジ。ミノホド。分際。 [illegible]「イテ[illegible]ハ、諸事ノ列ヲ仰セ付ケラレ、サホドノ分限ノ者サヘ御馬ヲ申ス」 (二)專ラ、富メル分際。カネモチ。モノモチ。長者。 [illegible]

ふげん-えんめい (名) 普賢延命 [illegible] 佛教ノ語。[illegible] 又、コノ[illegible]ニ向ヒテ延命ノ[illegible]スル作法[illegible]

ふげんざう (名) 普賢象 (一)普賢菩薩ノ騎レル白象ノ稱。(二)櫻ノ一種。花ノ[illegible]長ク[illegible]、色赤ク、千[illegible]ニシテ、五六花、一處ニ密付ス。[illegible]、縮ミタルガ如シ[illegible]ニテ、[illegible]ノ間ニ、[illegible]テ出ノ[illegible]花[illegible]コノ[illegible]ヅトテ、名ヅクト云フ [illegible]

ふけんしき (名) 不見識 一定ノ見識ナキコト。見識ノ足ラヌコト。 [illegible]ノ外ノ不見識、言語同斷ノ事ナリ」

ぶげんしゃ (名) 分限者 カネモチ。モノモチ。長者。資產家。富豪。 名物六帖、二、人品箋、五「豪子、ブゲンシャ(過庭錄)」同、同「富[illegible]、ブゲンシャ」 日本新永代藏(正德、北條團水)五「貧者ハ貧ニシテ、分限者ハ次第ニ富メリ」

ふけやく (名) 老役 年長者ニ、フサハシキ役柄

ぶけやく (名) 武家役 室町時代、地頭、家人ノ所領ニ、石高ニ隨ヒテ、毎年課セシ稅。 太平記、二十九、諸大名讒道譽事「近年、日本國ノ地頭、御家人ノ所領ニ、五十分一ノ武家役ヲ、[illegible]ラレケルヲ、[illegible]ノ時ニ、二十分一ニナサル、コレ天下ノ先例ニアラズ」

ぶけやっこ (名) 武家奴 江戸時代、大名、旗本ニ仕ヘシ下部ノ稱。[illegible]ニシテ、[illegible]スルヲ皆トス[illegible]ノ作髭ナドシタリ。明治ノ數年前マデハ、主人出行ノ時ニ、槍持、挾箱擔ナドスル者、皆是レナリキ。[illegible]、町奴、[illegible]山ノ手ノ地名)ナドト稱シタリ。コレ大小名ノ[illegible] 其頃、奴ノ番頭アリテ、十三ケ條ノ條目ナドアリ、是ニカナフ奴ヲ[illegible]人ニモ、コレヲ[illegible]、町奴ト[illegible] 奴トハ國モ避ヒタリ」 紫の一本(天和)市谷八幡祭「祭ニ出ル[illegible]ハ、[illegible]公[illegible]シ、山の手ノ奴ト、人ノマネル男ドモナリ」

ふけ-ゆ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 更行 夜深クナリユク。深更トナル。更闌ク。 拾遺集、[illegible]、秋、秋ノ月、西ニアルカト、見エツルハ、ふけゆくホトノ、影ニゾアリケル 新古今集、十四、戀、四「待ツ宵ニ、ふけゆく鐘ノ、聲聞ケバ、アカヌ別レノ、鷄ハ物カハ」

ふけら-か・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) テラフ。自慢ス。ヒケラカス。 今鏡、第四、藤波、上「雪ノ降リタリケルツトメテ、俊綱ガ、イタク[illegible]ふけらかさ[illegible]、[illegible]一行キテ見ントテ、云云、カヤウニモテ興ゼラルルアマリニ、ふけらかしマキラセラレケル」 賀茂保憲女集「シヲルラン、クサキニタグフ、タマシヒヲ、心ヲカゼヤ、ふけらかしツル」

ふけ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 耽 〔深け入るノ義〕 心ヲ深ク入ルル。程度ヲ過シテ、心ヲ寄ス。スサム。オボル。ハマル。 [illegible]マス事オホク侍リ」 土佐日記、正月十八日「人ノ何カト云フヲ、アル人、聞キふけりテヨメリ」 宇治拾遺、一、第一條「今ハ昔、道命阿闍梨トテ、傅殿ノ子ニ、色ニふけりタル僧アリケリ、和泉式部ニ通ヒケリ」

ふけ・る (動) (一)深ク、又ハ、化クノ口語。 [illegible]「[illegible]ル子ヤ、深けるマデ」 (二)[illegible] [illegible]ロウロカカル、云云、中シ三五兵衛サン、宮ニハ居ラレマセヌ、早クふけッタ、ふけッタ」

ふこ (名) 浮誇 [illegible] 實ナキコト。[illegible]大ナルコト。 [illegible] (二)オゴリ、タカブルコト。驕矜。 [illegible]

ふこ (名) 不辜 [illegible] 罪ナキ者。 [illegible] 孟子、公孫丑、上篇「行二一不義一、殺二一不辜一[illegible]」

ふこ (名) 巫蠱 [illegible] (一)マジナヒ。又、女巫ノ術ヲ以テ人ヲ詛フコト。 漢書、江充傳「上以[illegible]」 (二)ミコ。カンナギ。

ふご (名) 畚 [illegible] (一)竹、藁ナドニテ作リ、籠ノ代リトシテ物ヲ盛リ、運ブ具。[illegible]

名物六帖、一、器財箋、二「篝、フゴ」詩、孟子(滕文公上篇)集注、「蔂、土籠也」同、同「蕢、フゴ」註「字彙、蕢、艸器」拾玉集、二「早蕨ノ、折ニシナレバ、賤ノ女ガ、ふご手ニカクル、野邊ノ夕暮」夫木抄、九、春ノ野ニ、ふご手ニカケテ、行ク賤ノ、タダナドヤラン、物アハレナル」(二)小兒ヲ入レオク籠。

ふご (名) 釣リタル魚ヲ容ルル籠。ビク。物類稱呼、四、器用「笭、イカキ、云云、關西ニテ、めかごト云ヲ、東國ニテ、めかいト云、或ハ、ふご、ビク、又、コメアゲザル、云云、ト云」

ふ-こ (名) 封戸 又、食封。古ヘ、位、又ハ、官ニツキテ、地方ノ戸口ヲ給セラレシコト。其租ハ半ヲ給シ、調、庸(課丁)ハ皆給ス。太上天皇二千戸、三宮千五百戸、親王、一品八百戸ヨリ、以下次第ニ減ジテ、無品ハ百五十戸ニ至ル。(内親王ハ半減)、又、正一位三百戸ヨリ、從三位百戸ニ至リ、太政大臣三千戸ヨリ、左右大臣、内大臣、大中納言、次第ニ減ジテ、參議六十戸ニ至ル。ヘビト。ホウコ。 賦役令「凡封戸者、皆以課戸充、調、庸、全給、其田租爲二分、一分入官、一分給主」天武紀、下、五年四月「勅、諸王諸臣被給封戸之税者、除以西國、相易給以東國」

ぶ-こ (名) 武庫 武器ヲ納ムル藏。ムコ。ヒャウゴ。 漢書、高祖紀「蕭何治未央宮、立東闕、北闕、前殿、武庫、太倉、上見其壯麗甚怒」王勃、滕王閣序「紫電清霜、王將軍之武庫、家君作宰」大日本志、兵志、一「蓋以神宮爲武庫也」夏山雜談(小野高尚)二「ムカシ諸國ニ便宜ニ隨ヒ、兵器ヲ納メ置カル、是ヲ武庫トモ兵庫トモ云フ、攝津國ノ武庫トイフ、是ナリ、兵庫ノ浦モ是故ナリ」

ぶ-ご (名) 部伍 陣法。隊伍。 史記、李將軍傳「廣行無部伍行陣、就善水草屯舍止」 一國志、魏志、賈逵傳「逵、字梁道、云云、自爲兒童、戲弄常設部伍、祖父習異之曰、汝大必爲將率」

ふ-こう (名) 婦公 ふおう(婦翁)ニ同ジ。 後漢書、第五倫傳「問、倫曰、[illegible]吏、篣婦公、不過從兄飯、寧有之邪」

ぶ-こう (名) 武功 (一)イクサノイサヲ。タタカヒノテガラ。武勳。 著聞雜話(湯川時英)二「豐田長政ノ家士某ト云フ者、老年ニ及ビシ時、女房、娘ナド打語リテ、壯年ノ頃ハ度度ノ武功ニ、數多ノ人ヲ殺シ給ヒシ事ナレバ、後世ノホドイカガアルベキヤト、云云」 (二)イクサノコト。武事。 詩經、魯頌、七月篇「載纘武功」左傳、宣公十二年「潘黨曰、君盍築武軍、而收晉尸、以爲京觀、臣聞、克敵必示子孫、以無忘武功」

ぶ-こう (名) 不功 無功 功者ナラヌコト。上手ナラザルコト。未熟。 著聞雜話(湯川時英)二「古ヨリ傳來ル上手名人書キタル馬書ニモ、多ク誤リタル事アリ、云云、思フニ、壯老ノ違ニテ、修行ノ功不功、上手下手ノ差別アレバ、上手名人ノ書ト雖モ、或ハ不功未熟ノ時分ニ、誤リテ記置キタルヲ受傳ヘタルモアルベシ」

ふ-こうへい (名) 不公平 公平ナラザルコト。偏頗ナルコト。カタテオチ。

ふご-おろし (名) 畚卸 山城國、鞍馬山ニテ、正月ノ初寅詣、又ハ、第二ノ寅日詣ノ日、所ノ山民、同地名産ノ燧石ヲ賣ルニ、崖上ヨリ畚ヲ弔シ下シ、客、之ニ錢ヲ入ルレバ、釣リ上ゲテ相當ノ燧石ヲ入レ、再ビ畚ヲ下スモノ。 月居の句「松風ニ、錢コボシケリ、畚おろし」

ふ-こく (名) 布告 (一)世ニ布キ告グルコト。昔、太政官ヨリ、國民ニ遍ク命ヲ傳フルコト。觸。公移。又、諸官省、府縣廳、等ヨリ、遍ク國民ニ傳フルヲ布達ト云ヒ、又、諸官ヨリ、其配下ノ諸衙ニ告グルヲ達ト云フ。史記、匈奴傳「朕已許之、其布告天下、使明知之」 (二)明治十九年二月(公文式ノ發布セラレシ)以前ニ於

ケル法律、又ハ、命令ノ稱。

ふ-こく (名) 富國 國ヲ富マスコト。 戰國策、秦策「[illegible]」

ぶ-こく (名) 誣告 (一)イツハリシヒテ告グルコト。ブコク。(二)故意ニ、虚僞ノ事實ヲ、告訴、又ハ、告發スルコト。ブコク 漢書、宣帝紀「自今以來、諸年八十以上、非誣告殺傷人、佗皆勿坐」 文獻通考、八十四、刑[illegible]律云、誣告人、各反坐」

ふ-こく (名) 訃告 人ノ死ヲ報ズルコト。死亡ノシラセ。訃音。訃報。 續紀、[illegible]四年十一月「庚子、能登守從五位下[illegible]」 [illegible] 私說、初終「訃告於親戚朋友」注「[illegible]」 [illegible]俗不可[illegible]則訃告爲最急」 楓軒偶記(小宮山昌秀)一「訃告ノ書ニ封皆ス可ラズ、齋居ノ人、開封セマジキ爲ナリト、義公ノ命ナリ」

ふ-こく (名) 布穀 〔六書故、其聲若曰布穀〕かつこうどり(郭公)ニ同ジ。 爾雅、釋鳥、鳲鳩、註「今之布穀也」杜甫詩「布穀處處催春種」

ぶ-こく (名) 誣告 ふこく(誣告)ニ同ジ。

ぶ-こころがけ (名) 不心掛 ココロガケノ良シカラザルコト。不料簡。 著聞雜話(湯川時英)一「自分ノ腎前ナガラ、既ニ家ヲ離レテ外ヘ出ルニ、無刀ニテ居タルハ、不心掛ナル事也」

ふご-ぼり (名) 畚臀 フゴノ形シタルシリ。臀部ノ姿ノ醜キヲ云フ 伊呂波集「自身坊、尻ハふごぼり」

ぶ-こつ (名) 無骨 〔ほちふし(無骨)ノ字ノ音讀〕(一)風骨無キコト。不風流。ブイキ。不作法。粗笨。 平治物語、一、信西出家由來事「御遊、云云、其興ヲサマシ參ラセンモ無

骨ナレバ、[illegible]」(二)役ニ立タヌコト。不才。不敏。 曾我物語、五、呉越戰事「吾、無骨ナリト雖、呉王ヲ欺キテ君王ノ死ヲ救ヒ」(三)[illegible]シキコト [illegible]「[illegible]ノ侍ニ思召シ准フベカラズ、[illegible]コソ無骨ニ覺エ侍レ」(四)輕業ノ類ノ曲藝。骨ナキガ如ク見ユル故ニ云フ。 [illegible]云云、無骨トハ、字義ノ如ク、骨無キヤウニ、[illegible]ドスルモノニヤ、田樂ノ種類ト見ユ」

ふ-こつ-そ (名) 腐骨疽 ホネノクサル病。骨疽。骨瘍。

ふ-こつ-そ (名) 附骨疽 ホネニ附着シテ、膿ヲ生ズル病。 名物六帖、四、人事箋、五「附骨疽、フコツソ」註「外科秘法、骨肉成膿者、又名白虎飛尸」[illegible]「附骨疽ハ[illegible]千金方ニ、附骨疽、[illegible]骨ト肉トノ間ニアテ、肉ヲ侵ス時ハ骨朽チ、外ニ潰スル時ハ、漏ヲナス」

ぶこつ-もの (名) 無骨者 ブコツナル人。無骨人。不風流人。 古事談、五、神社佛寺「天然無骨者候之間、由玄ノ腰ヲエ雖候ハ、メナリ」

ふさ (名) 總 〔ふさふさシタル意〕(一)組紐ノ端ヲ束ネテ、其條ヲ散ラシ、花蘂ノ如クセシモノ。飾トス。流蘇 倭名抄、十四、服玩具「總、布散、聚、緒成、東也」 (二)扉ノ古語。 古語拾遺、中「臨所、生故謂之總國」注「古語、[illegible]之總也、今爲上總、下總二國」 (三)藤、萩、山吹ナドノ花、又ハ、葡萄ノ實ナド、一莖ニ簇リ垂リタルモノノ稱。房。 萬葉集、八、二十「イメ立テテ、跡見ノヲカヘノ、撫子ノ、花總手折リ、吾ハ持チイナム」

ふ-さ（名）[illegible] 佛教ノ語。（一）[illegible]ニテ、一衆ノ大衆ニ向ツテ法ノ提倡 [illegible] （二）[illegible]ノ略。セト、黄檗宗ノ寺ニテ精進ノ一種ノ普茶料理 [illegible] ルニハ、必ズ普茶料理ニテ饗應スル事常例ナリ」

ふ-さ（副）多 [illegible] 同ジ。[illegible]

ふ-ざ（名）趺坐〔あぐむ（趺坐）ノ條ヲ見ヨ〕アグミヰルコト。アグラカクコト。ヰロク。けっかふざ（結跏趺坐）ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]「趺坐」

∴ぶ-ざ（名）武左 武ハ、不粹ノぶト、武士ノぶトヲ兼ネタルモノト云フ〕江戸時代、遊里ノ語。武士ヲ嘲リテ云フ。新五左。[illegible]「新五左トハ武士ヲイフ、云云、今ハ是ヲ武左トイフ、武左衛門ノ略ナルベシ、其人、誰トモ無シ、タダ似ツカハシキ名ヲイフノミ也」天明の川柳「武左曰ク、持兼山ノ、ホトトギス」[illegible]「見合セント、武左怒リ」

∴ぶ-ざ（名）負借 カリ。借金。〔花柳界ニテ〕[illegible]「ナンデサウ客ヲ惡シクスルノダ、エエ聞エタ、コレヤ何、源九兵衛ハガぶざガアルニヨ、テカ」

ふ-さい（名）富歳 五穀ヨク實リテ、收穫多キ年。豐年。豐歳。フウサイ。孟子、告子、上篇「富歳子弟多頼、凶歳子弟多暴」

ふ-さい（名）夫妻 夫ト、妻ト。メヲト。ツレアヒ。夫婦。易經、上經、小畜卦、九三「輿說輻、夫妻反目」今昔物語、三十、第十語「今昔、下野國ニ[illegible]郡ニ住ム者有ケリ、年來、夫[illegible]用共ニ違ケル理ニ」

ふ-さい（名）不才 才能ナキコト。愚ナルコト。鈍才。又、己レノ謙稱ニモ用ヰル。左傳、成公三年「二國治戎、臣不才、不勝其任」[illegible]

ふ-ざい（名）不材 ヤクニ立タザルコト。用ヲナサヌコト。莊子、山木篇「莊子行於山中、見大木枝葉盛茂」云云、此木以不材得終其天年」

ふ-さい（名）負債 債務ヲ負フコト。オヒメ。カリ。借財。借金。逋債。[illegible]

ふ-さい（名）府債 地方自治團體タル府ノ債務。又、府ノ公債。

ふ-ざい（名）不在 家ニ居ラヌコト。ルス。[illegible]

ぶ-さい（名）蕪才〔粗末ナル才ノ義〕才智ノ劣レルコト。又、自己ノ才智ノ謙辭。短才。庸才。

ぶ-さいく（名）不細工（一）細工ノ拙劣ナルコト。又、其細工。（二）無器用。物ヲスル手際ノ、拙クブザマナルコト。下手。（三）醜キコト。ブキリヤウナルコト。膝の宿替、二「斯ウシテ後家デ暮ス程、氣樂ノコトハ無イ、ドンナ事シテモ、亭主ニ氣兼ハ無シ、云云、ソシテアンマリ不細工ニモ生レテ來ナンダニヨッテ、グルリカラ世話ノ燒キ手ハタントアル」

ふ-さう（名）扶桑〔二樹、根ヲ同ジクシ相扶ケテ生ズル故ニ、扶桑ト云フト〕（一）樹ノ名。又、若木。通名ハ佛桑花。[illegible] 帶トノ二種アリ、六月頃、葉間ニ木槿ノ花ニ似タル花ヲ開キ、[illegible]（二）東海ノ中ニアリト云フ神木ノ名。[illegible]（三）扶桑國ノ略。支那ニテ、西ノ虞淵ニ對シテ、遠キ東ニアル國トス。轉ジテ、日本國ノ異名。[illegible]（四）ふえう（扶搖）ニ同ジ。

ふ-さう（名）浮躁 カルハズミナルコト。輕浮ニシテ、躁急ナルコト。[illegible]

ふ-さう [illegible]

ぶ-さう [illegible] 同ジ。[illegible]

ぶ-さう（名）無雙 フタツナキコト。ナラビナキコト。比ビ無キコト。[illegible] 太平記、六、人見本間抜懸事「無雙ノ弓矢取ニテ、國ノタメニ殿ムタリ」

ぶ-さう（名）武裝 戰鬪ノヨソホヒヲナスコト。又、ソノヨソホヒ。

ぶ-さう（名）蓬草 茂レル草。叢草。

ぶ-ざう（名）武像 武人ニカタドリタル人形。武者人形。[illegible]

ふ-さうおう（名）不相應 相應セヌコト。フサハシカラヌコト。ツリアハヌコト。[illegible]

ふさう-くわ（名）扶桑花 ふさう（扶桑）ノ條ノ（一）ニ同ジ。

ふさう-けう（名）扶桑教 富士山ニ據リテ布教セント[illegible]神道ノ一派。造化ノ三神（天之御中主神、高皇産靈神、神皇産靈神）ノ、[illegible]

敬シ、惟神ノ大道ヲ宣布スルヲ以テ主旨トスル教。此教、初、富士講ト稱シ、明治九年、扶桑教會ト改メ、同十五年十二月、神道扶桑教ト改稱セリ。

ふさう-こく (名) 扶桑國 ふさう(扶桑)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。 下學集、上、天地門「扶桑國、フサウコク」注「日本總名也、朝暾必昇於若木扶桑之梢、故呼日本云扶桑國也」 王[illegible]送[illegible]上人歸日本詩「上人住近扶桑國、我家亦在蓬萊丘」

ふさう-じゅ (名) 扶桑樹 次次條ノ語ヲ見ヨ。 西遊記(橘南谿)續編、一「扶桑木略記「此色黑キ木ノキレハ扶桑樹ナリ」」

ふ-さうたう (名) 不相當 程善ク釣合ハヌコト。理ニ適ハヌコト。

ふさう-ぼく (名) 扶桑木 (一) ふさうじゅ(扶桑樹)ニ同ジ。ふさう(扶桑)ノ條ノ(二)、及、(三)ヲ見ヨ。 (二) うもれぎ(埋木)ノ一種。下ノ出典ヲ見ヨ。 桂林漫錄、上「扶桑木、豫州伊豫郡森村ト云フ地ノ海底ヨリ出ヅ、又同所ニ社谷ト云フ地アリ、其處ヨリ一里程ノ間ヲ堀レバ、古木ヲ得、土人、杜木ノ根ナリト云フ、云云、世ニ稱スル扶桑木ナリ」 重修本草綱目啓蒙、五、石炭「奥州大隈川、及ビ同國棚倉ノ埋木、豫州ヨリ出ル所ノ扶桑木、皆同物ナリ、又阿州麻植郡森藤村ニモ産ズ、地ヲ堀ルコト二三尺、或ハ五六尺、其厚サ一尺許ニシテ、横行スルコト數十間ニ及ブ」

ふざか・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 汗 ヌレタルサマナリ。 古言類韻(藤原秀成)六「汗、フザカシ」 同、四「汗、上野國乎都宮在ノ村名ニアリ、甲斐方言、モノノヌレタルヲふざほいトイフ」

ふさがり (名) 塞 (一) フサガルコト。サハハリ。 [illegible](寶永、近松作)中「大井ノ娘ヲソソノカシ、塞がりノ此ノ國へ、前[illegible]シテ能ヲ變へ、云云」 (二) 暦ニ云フ語。としとくぢん(歲德神)、及、たいしゃうぐん(大將軍)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 保元物語、一、白河殿義朝夜討事「明クレバ十一日、東塞ナル上、朝日ニ向ツテ引弓カンコト恐アリトテ、三條へ打下リ」

ふさが・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 塞 〔ふさぐノ自動〕 (一) 〔通ト、詰マル。閉ヂテ、通ハズ。フタガル。 神功皇后攝政前紀「大磐塞之、不得穿溝」 祈年祭祝詞「四方能御門爾、湯都磐村能如塞坐氏」 「穴塞がる」「胸塞がる」 (二) 他ニ所用セラレテ、用ヰルコト能ハズ。「席が塞がる」「器カ塞がる」「手ガ塞がる」 (三) 開キテアラズ。閉ヂテアリ。 名義抄「閉、塞、フサガル」 (四) 滿ツ。ツマル。 延慶本、平家物語、一、末、成親卿流罪事「物參ラセタリケレドモ、胸モセキ、喉モふさがりテ、聊カモ召サレズ」

ふさぎ (名) 塞 フサグコト。フサガリ。

ふ-さく (名) 不作 作物ノ實ノ少キコト。遊作。凶作。 不登 撮壤集、中、豐作部「不作、フサク」 八木の話(北越逸民)米相場豐凶直段極意「五分已上ノ不作ハ、決シテ無キコトト見積リタル法ノヨシナリ」(十分ヲ豐作、五分ヲ不作トス、五分以下ノ不作ハ、實際ニ有リ得ズトナリ)

ふ-さく (名) 斧鑿 〔急就篇(漢、史游)「斧所以伐木也、鑿所以穿木也」〕 (一) 斧ト、鑿ト。又、ソレヲ用ヰテ細工スルコト。 (二) 轉ジテ、詩文、書畫ナドヲ作ルニ、徒ニ技工ヲ加ヘテ、飾リ立ツルコト 宣和書譜「[illegible]長於花鳥、精於設色、如良工之無斧鑿之痕」 韓愈、調張籍詩「徒觀斧鑿痕、不矚治水航」

ふさ・ぐ・ゲ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) 塞 (一) フサガル。閉ヅ。 (二) 胸フサガル。心ムスボル。(氣鬱ス。) 鬱衆。鬱結。鬱憂。 八笑人(文化、鯉丈)初編、二「クノト氣ヲ蒸シツケ、ウツムイテふさいテ居ナガラ」 新[illegible]、初編「穴ヲ明ケ、手代翌朝、ふさいデル」

ふさ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (他動、四) 塞 杜 塞 〔ふたぐノ轉、塞ゲテ、通ゼズ〕 (一) フタグ。蓋ヲナス。口ヲオホフ。 延慶本、平家物語、五、本、一谷落事「日ヲふさぎテ」 (二) 〔他ノ通ヒヲ支フ。鎖ス。フセグ。ホセグ。 仁德紀、十一年十月「將防北河之滸、以築茨田堤、云云、天皇夢有神、誨之曰、武藏人強頸、河內人茨田連衫子、二人以祭於河伯、必獲塞」 延慶本、平家物語、三、末、肥後守貞能西國鎭めて京上する事「丹波國ニ打越エテ、大江山ヲ打塞ぐ」 (三) ミタス。ツメルヤウニナス。 字鏡集「實、フサグ」

ふさ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) 塞 前條ノ語意ニ同ジ。遮リ防グ。 延慶本、平家物語、二、末、石橋山合戰事「返シ合セテ、佐ノ前ニふさげタリ」

ぶ-さく (名) 部索 テワケシテ、サガスコト。部署シテ、探索スルコト。部分搜索。 名物六帖、四、人事箋、五「部索、テワケテサガス」注「前漢書許后(外戚)傳、部索罪人」師古注「部分搜索罪人也」」

✤**ふざ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ** (自動、下一) 巫山戲 (一) アザルル。ザルル。ジャレル 戯謔 八笑人(文化、鯉丈)四編、追加、上「テエケエニふざけタラ、稽古ニカカラシ」 春花五大力(並木五瓶)仲町菓子家座の場「今宵ハ、身トモカ振舞ヂャ、大野屋方デ、存分ふざけサシャイ」 (二) 他ヲ馬鹿ニスル。愚弄ス。 春秋二季種(三亭春馬)上、一「人ノウチへ挨拶モナク這入ッテ來テ、イケふざけタ大アグラ」

ふさ-ぢん (名) 浮詐人 〔浮詐ハ浮辭、謡詐ノ略〕 イツハリモノ。ウソツキ。ヤマシ。 名物六帖、二、人品箋、五「浮詐人、ウソツキ、イツハリモノ」註「名山藏朝鮮傳、賜諭羅書、自後無遣浮詐人偽使」

ふさ-しりがい (名) 總鞦 古クハ連着ノ鞦。ソレニ絲ノ總ヲ着ケタルモノ。其總ノ厚ク大キク長キヲ厚總、又ハ、大總ト云ヒ、紫ナルヲ最上トシ、(小總モアリ)、馬ノ三頭ノ上(辻ト云フ)ニックルヲ辻總ト云フ。天皇ノ御料ハ、悉皆紫染、其他ハ緋染(五位以上)、又、紫裾濃等、種種ノ色アリ。 相國寺供養記「次御隨身長、騎馬總鞦」 禮服記「[illegible]」注「俗云大總」 盛衰記、廿一、小坪合戰事「泥障毛ノ馬ニ、云云、燃立バカリノ厚總ノ鞦カケ」 小右記、長和三年五月十六日「親王公卿走馬、云云、或懸[illegible]鞦(大納言齋信)、或小總、辻總」 太平記、十、長崎次郎高重最後合戰事「坂東一ノ名馬ニ、金貝ノ鞍ニ、小總ノ鞦カケテゾ乘タリケル」 吉部祕訓抄、仁安四年三月十三日、高野御幸、左衞門權佐經房「沃懸地鞍、辻總鞦」 馬[illegible]式「御鞦、云云、紫絲、云云」 玉葉、治承二年十月二十日「春日祭使、右少將良通、紫末濃鞦」

ぶ-さた (名) 無沙汰 不沙汰 (一) 知ラセナキコト。挨拶ナキコト。 春秋二季種(三亭春馬)初編、上「月月二兩ヅツ掛金ノ對談ノ處、七月餘リ一向無沙汰サ、ソコデ私モ腹立マギレニ、今ノヤウニ申シマシタガ」 (二) 無關係。沒交涉。無關心。 海人藻芥、中「連歌ノ最上手ト、名譽ハ有トモ、歌ヲ一向無沙汰ナランハ、愛ナカルベシ」 謡曲、蟻通「宮守一人モナキ事ヨ、云云、アラ無沙汰ノ宮守ドモヤ」 (三) 訪問、又、音信ヲ怠ルコト。無音。 契闊 平治物語、一、信頼信朝兵擧事「丹波藤國弘ト名ノリテ、鎌倉へ參リタリシカバ、我レモ尋ネタク思ヒツレドモ、公私ノ怨劇ニ思ヒ忘レ、今ニ無沙汰ナリ」 狂言記、さんくゎい「此ノ中ハ、手前取紛レマシテ、御見マヒモ申サズ、ぶさたイタシテ御座ル」 (四) 轉ジテ、神佛ヘノ參詣ヲ怠ルコトナドニモ云フ。 太祇全集「長閑サニ、無沙汰ノ神社、廻リケリ」 (五) 不都合。 曾我物語、十一、箱女[illegible]事「ワラハナクテハ無沙汰アルベシ」 (六) 不用意。無念。 武野燭談、廿九「夜前アヤマチテ、火事ヲ出シ、云云、火ノ元無沙汰ニ致シ、火ヲ出シタルコソ曲事ナレ」

フサツ (名) 〔布薩〕 〔モト梵語、Upavasatha ヨリ〔illegible〕、Posadha ニ同ジ、〔illegible〕〕 〔illegible〕ノ義、〔illegible〕ス。北方ノ佛者ハ、之レヲ誤リテ、梵語ノ〔illegible〕ト〔illegible〕トナシ、〔illegible〕シテ、〔illegible〕ト云ヘ〔illegible〕二一回、又ハ、一ケ月ニ一回、僧侶相集リテ、〔illegible〕五二〔illegible〕テ、能ク善法ヲ〔illegible〕ニハ、〔illegible〕〔illegible〕佛法ニ名ヲ布薩〔illegible〕此布薩〔illegible〕生生不〔illegible〕

ふ-ざつ (名) 〔illegible〕 〔illegible〕ノ入ノ亂レタルコト。イリマジリテ、整ハザルコト。〔illegible〕

ふさ-なり (名) 〔總生〕 すずなり(鈴成)ニ同ジ。

ふさ-な・る (連語) 〔離離〕 フサフサナルコト 倭名抄、十七ニ豆類「一般名ニ數十粒、離離結〔illegible〕、〔illegible〕佐奈〔illegible〕」名義抄「森、フサール」

ふさ-に (副) 〔多〕 フスサニ。オホク。繁ク。サハニ。アマタ。タクサンニ。 宇津保物語、初秋「北ノ方、絹ヲふさニ取ウデ得サセ〔illegible〕」〔illegible〕「〔illegible〕マカナヒノモ、タタノモ、ふさニ、傳ヘ給ヘ」〔illegible〕、上〔illegible〕、〔illegible〕ニ、〔illegible〕ふさにシカ〔illegible〕ツ」

ふさ・ぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ (他動、下二) 〔總〕 總ベ括ル。聚メテ束ヌ。スブ。 名義抄「〔illegible〕、フサヌ、〔illegible〕、フサヌ」 用明紀、元年五月、「居〔illegible〕東

ふさは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔相應〕 〔illegible〕フベキ狀ナリ。釣合ヒタ〔illegible〕〔illegible〕十二、〔illegible〕ヲ、ふさはしきモノニ思ヒ聞エサセ給ヒテ」 源、五十、浮舟〔illegible〕「ココニハ、イトメデタキ御スマヒノ心ブ〔illegible〕

ふさ-はじかみ (名) 〔房椒〕 一實、房ヲナシテナル〔illegible〕ニ云フ」 はじかみ(椒)ノ條ヲ見ヨ。 倭〔illegible〕、十六、〔illegible〕〔illegible〕

ふさひ (名) 〔相應〕 フサフコト。善ク適フコト。釣合フコト。 源、四十二、紅梅〔illegible〕「物〔illegible〕シメヤカニ引キ、〔illegible〕ヘルヲ、宮ハ、〔illegible〕ふさひ(流布本、い二作ル)ノ方ニ聞キ傳ヘ給フテ」 宇津保物語、〔illegible〕本、い二作ル)ノ方ニ聞キ傳ヘ給フテ」 〔illegible〕、イト〔illegible〕アヤニ、〔illegible〕ツ物ナルト見レバコソ、ふさひ(流布本、い二作ル)ニハ〔illegible〕エネ」

ふさ・ふ・フ・ヘ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 〔相應〕 〔illegible〕物ノ人ニ善ク適フ。釣合フ。 〔illegible〕相應〔illegible〕 古事記、上〔illegible〕「是レハ布佐波ズ、云〔illegible〕」

ふさ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 〔令適〕 〔令相應〕 フサハス。似合フヤウニナス。似ツカス。似ツカハス。 萬葉集、十八〔illegible〕「鳥ノ鳴ク、東ヲサシテ、布佐倍シニ、行カムト思ヘド、ヨシモサネナシ」

ふさ-ふさ-と (副) 〔多ノ義〕 線狀ノモノノ、揃ヒアツマリタル狀ニ云フ語。繁ク多ク。フサヤカニ。タップリト。 〔illegible〕松中納言物語、〔illegible〕、下「御髪〔illegible〕、ふさふさと、短ウテ、ユラメキカカリタレ」 讃岐典侍日記「我ガ有タル物ノ色アヒ、〔illegible〕、ふさふさとコソメテ〔illegible〕サニ」

ぶさ-ほふ (名) 〔不作法〕 〔illegible〕コト。〔illegible〕

ぶ-ざま (名) 〔無様不様〕 容子ブリノ見苦シキコト。フテイサイナルコト。無作法。 〔illegible〕〔illegible〕ハ、オ前ノオ氣ニ入リタサノ、〔illegible〕ノ思モ天トヤラ」

ふ-さん (名) 〔不參〕 マヰラヌコト。行カヌコト。 太政官式「若有ニ不參者、下ニ式兵二省ニ」〔illegible〕

ふ-さんじ-くゎい (名) 〔府參事會〕 府ノ執行機關。其組織〔illegible〕、權限ナドハ、略、縣參事會ト同ジ。けんさんじくゎい(縣參事會)ノ條ヲ見ヨ。

ふざん-の-くも (句) 〔巫山雲〕 「下ノ出典ノ楚襄王ノ故事ヨリ出ヅ」 巫山雨。巫山雲雨。巫山夢トモ云フ。男女相會ヒテ、情交ノ濃ヤカナルニ云フ。 〔illegible〕「巫山の雲ハ、忽ニ陽臺ノモトニ消エヤスク、湘江ノ雨ハ、シバシバモ楚畔ノ竹ヲ染ムルトカヤ」

ふざん-の-ゆめ (句) 〔巫山夢〕 前條ノ語ニ同シ。〔illegible〕、九、〔illegible〕ヌ暮代七、心動キ、其夜ハ枕ヲ並ベテ、巫山の夢ヲ結ビタルガ、其ヨリハ幻ニ、其裝ヒヲ忘レズ」

ふさ-も (名) 〔總藻〕 馬藻ノ一種。きんぎょも(金魚藻)ニ同ジ。

ふさ-やう-じ (名) 〔illegible〕 〔illegible〕云ヒシハ、今ノふさやうじナリ」 日本〔illegible〕代鑑(正〔illegible〕

ふさ-やか-に (副) 〔illegible〕 フサフサト。タップリト。 源、〔illegible〕、空蟬〔illegible〕「髮〔illegible〕ハイト、ふさやかニテ、長クハアラネド、サガリバ〔illegible〕〔illegible〕イトふさやか〔illegible〕

ふさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔伏〕 〔ふせらる(被伏)ノ約轉、すてらる(被棄)、すたるノ類〕 (一)サカサマニ向ク。 〔illegible〕集覽「ふさる、覆也」「皿、ふさる」 (二)ネル。〔illegible〕フ〔illegible〕ト云」「ふさりテ話ス」

ふし (名) 〔節〕 〔illegible〕 (一)〔竹、葦等ノ幹ノ中ニ、隔テトナレルモノ。又、草木ノ幹枝ニモ、間ヲ置キテ、高クナレル處〔illegible〕〔illegible〕也、竹〔illegible〕〔illegible〕山ニモ、サヤハワヒシキ、ふしヲノミ見シ」 新古今集、十一、戀、一「難波潟、短キ蘆ノ、節ノ間モ、アハデコノヨヲ、過シテヨトヤ」〔illegible〕 (二)樹ノ〔illegible〕、枝ノ〔illegible〕ル痕〔illegible〕六「杣山ノ、アサキノ杜、ふしシゲミ、ヒキタツベクモ、〔illegible〕 (三)〔illegible〕ノ骨ノツガヒメ。骨節 字鏡集「腰、フシ、シヒ」 (四)〔絹、麻絲ノ處處ニ、瘤ノ如クナレルモノ。類 後撰集、十、戀、二「ふしナクテ、〔illegible〕リケル」 倭名抄、十四〔illegible〕「類、伊度乃布之、絲節也 〔illegible〕」「ウゲンベリノ疊ノフリテ、ふし出デキタル」「ふし

錄」ふし鐵」(五)鰹ナド、魚ノ身ヲ、竪ニ四ツニ割キタルモノノ一ツ。「鰹ノ一節」ナマリぶし」(六)簳ノ節ノ稱。高忠聞書「ふしハ三ふし、篦本ナリ、スゲぶし一所、羽中一所、篦中ノふし、以上三所ナリ」

ふし（名）【節】〔前條ノ語意ニ同ジ〕(一)事ノ廉。間ニ隔アルヨリ、事ノ箇條。條件　源、四十七、總角 四十九「ツレナキハ、苦シキモノヲト、ヒトふしヲ、思シ知ラセマ欲シクテ」拾遺集、雜、上「ソノふしト、思ヒモワカヌ、涙哉、月ヤハツラキ、秋モ憂カラズ」(二)時ノ窺フベキ所。機。時期　源、四十六、早蕨 廿「斯ウ思ヒ知リケリト見エ奉ルふしモアラバヤト」古今集、十八、雜、下「世ニ經レバ、言ノ葉シゲキ、吳竹ノ、ウキふし每ニ、鶯ゾ鳴ク」(三)歌フ調子ノ高低、長短ノ轉ズル處。曲節　平家物語、一、妓王事「聲ヨク、ふしモ上手ナリケレバ、ナジカハ舞ハ損ズベキ」狂言記、粟田口「ナウナウ、今度ハ長ウ、ふしデ呼ボ」歌儛品目、七、上、詠歌協律「節、拍、聲ノ高低曲折ヲイフ、又ふしノコトヲ曲節曲折ニ作ル」

ふし（名）女房詞。芋ノ莖ノ干シタルモノ。ホシズヰキ。　貞丈雜記、六、飮食之部「禁裏女房內內記ニ云ク、云云、ふし、干シタル芋殼ノコト」嬉遊笑覽、十、上、飮食「ふし汁ハ、芋ガラ、赤小豆ヲ入タル汁ナリ、云云、ふしハ芋ガラノコトナリ」

〜**ふし**（名）【柴】〔節木ノ略。枝ニ葉ナキモノヲ云ヒ、木ノ節ノアラハニ見ユル意カト云フ〕志ば(柴)ニ同ジ。　古事記、上 五十四「靑柴垣」訓柴云布斯」拾遺集、十、神樂「シナガ鳥、猪名ノふし原、トビワタル、鴫ノ羽根音、オモシロキカナ」猿丸大夫集「シナガドリ、猪名ノふし原、靑山ニ、ナラン時ニヲ、色ハカハラン」

ふ-志（名）【父子】父ト、子ト。オヤコ。　易經、序卦傳「有男女、然後有夫婦、有夫婦、然後有父子、有父子、然後有君臣」禮記、曲禮、上篇「父子兄弟、非禮不定」孟子、滕文公、上篇「父子有親、君臣有義、夫婦有別、長幼有序、朋友有信」

ふ-志（名）【不死】死ナヌコト。イツマデモ、ナガイキスルコト。　大戴禮、易本命「不食者不死而神」淮南子、墬形訓「黃水三周復其原、是謂丹水、飮之不死」云云、涼風之山、登之而不死」張衡、靈憲序「月者、陰宗之精、積而爲獸象兎陰之類、其後羿請不死之藥於西王母、其妻姮娥、竊以奔月、是爲蟾蜍」

ふ-志（名）【浮詞】浮華虛飾ニシテ、實際ニ卽セザルコトバ。　後漢書、明帝紀「明者章奏、頗多浮詞」

ふ-志（名）【罘罳】〔說文「罘罳、屛也」〕椅子ノ後ニ立ツル板張リノ屛風。ツイタテ。又、土思。　博雅「罘罳謂之屛」南畝莠言(釋南山)「板屛在椅子後者、亦謂罘罳」名物六帖、三、器財箋、三「罘罳、ヒャウブ」註「漢書、文帝紀註、罘罳、屛也、行廚集、屛風曰罘罳」

〜**ふ-志**（名）【附子五倍子】【鹽麩子】〔鹽麩子(白膠木)ノ音ノ略カト云フ、ぬるで(白膠木)ノ條ヲ見ヨ〕又、みみふし。ぬるでノ樹ニ生ズル物。山中ニ自生セル者ノ樹枝、或ハ、葉莖、或ハ、葉背ニ、一寸許リノ袋ノ如キモノヲ生ズ、扁圓ニシテ、長短一ナラズ、初、靑ク、後ニ茶褐色トナル、コレ蟲ノ巢ニテ、內空シク、さぬかノ如キ蟲多シ。常ニハ、生五倍子ト云ヒ、粉トセルヲ、五倍子の粉ト云ヒ、はぐろめニ用ヰル。又、藥用トモシテ、五倍子ト云フ。　易林節用集(慶長)下、草木門「五倍子、フシ、鹽麩」和漢三才圖會、八十九、味果類「鹽麩子、云云、名ニ布子、其樹名ニ沼留天」本草和名、下 廿七「樗雞、奴留天乃岐乃布之」本草和名傳抄(康頼)「五倍子、美美不之」露顯草「五倍子、みみふし」

ふ-志（名）【不時】(一)時ナラヌコト。定レル時ノ外ナルコト。臨時。　左傳、桓公五年「秋大雩、書不時也」論語、鄕黨篇「失飪不食、不時不食」(二)米相場ノ語。自然ニヨル長期ノ高下以外、卽チ、人爲ニヨッテ發生スル日日ノ相場ノ高下ヲ云フ。　八木の話(北越逸民)「切手ノイレ、切手ノシメ賣ナドニテ、日日ニ高下スルヲ、米方ニテハ不時ト唱フ、是等ハ、豐凶定ラザル以前、其時限ノ空高下ナリ」

ふ-志（名）【不次】(一)次第ニハヅルルコト。順序ニヨラヌコト。常例ニ據ラヌコト。　史記、五宗世家「少子名慶、母愛幸、寄常立之、爲不次因有過、遂無言」漢書、東方朔傳「武帝初卽位、徵天下擧方正賢良文學材力之士、待以不次之位、四方士、多上書言得失」不次ノ恩賞「不次ノ登庸」(二)書簡ノ終ニ書ク語。不宣。不一。　蘇軾、與范元長昆仲書「某頓首言、云云、謹奉疏、上慰、不次、謹疏」

ふ-志（名）【不二】フタツナラヌコト。二ツナキコト。一ツナルコト。同一ナルコト。　他我身の上(山岡元隣)五「モシ佛家ヨリコレヲ言ハバ、善惡不二、不思善不思惡、邪正一如、有無一致ノ理ト通フ可シ」玲瓏隨筆、樓還庵、二「生死卽涅槃、煩惱卽菩提、迷悟不二」

ふ-志（名）【父事】他ノ人ニ、父トシテ仰ギ事フルコト　禮記、曲禮、上篇「年長以倍、則父事之、十年以長、則兄事之」史記、張丞相傳「張蒼德王陵、王陵者安國侯也、及蒼貴、常父事王陵」

ぶ-志（名）【奉仕】ほうし(奉仕)ニ同ジ。　易林節用集(慶長)下、言辭門「奉仕、ブシ」太平記、十三、龍馬進奏事「天人花ヲ捧ケテ來リ、鬼神手ヲ束ネテ奉仕シケル間、敢テ虎狼惡獸ノ恐ナクシテ」

ぶ-志（名）【武士】常ニ武術ヲ習ヒ、軍陣ニ出ヅルヲ職トスル者。モノノフ。サムラヒ。武者。武人。兵士。　漢書、韓信傳「高祖令武士縛信、載後車」後漢書、功臣表傳「先以詔書告示都、密微求武士、未其賜尤乃進軍」續紀、八、養老五年正月詔「文人武士國家所重、醫卜方術古今斯崇」安齋隨筆、十五、武士武家「武士トイフハ、朝廷武官ノ人ノ總稱ニテ、上古ノ書ニモ、武士トイフ名目アリ」

ぶ-志（名）【附子】うづ(烏頭)ノ條ヲ見ヨ。　和漢三才圖會、九十九、毒草類「附子、ブス、烏頭乃附子之母、云云、附烏頭而生者爲附子」

ブ-志（名）【佛師】ぶ、志(佛師)ノ略。其條ヲ見ヨ。　落窪物語、三「八講、云云、八月ノホドニセントテ、經書カセ、ぶしヨ呼バセテ、皆ケウヤウナルベクト、男君女君、心ニ入レ給ヘリ」(大成本)

ぶ-志（名）【無事】(一)變ハルコトナキコト。異狀ノナキコト。　皇甫冉、秋日東郊作詩「閑看秋水心無事、臥對寒松手自栽」古今狂歌集、秋「送ラレシ、手紙ニ無事ヲ、菊ノ酒、珍重陽ニ、存ジ候」(二)恙ナキコト。健康ナルコト。無病ナルコト。　三省錄(志賀忍)二「無事ニシテ能食ニテ食フコトハ、病アリテ良藥ヲ服スルニハ勝レリ」(三)過失ナキコト。失敗ナキコト。無難ナルコト。　夢想兵衞胡蝶物語(馬琴)少年國「ソノ中ニ、鼻ノ下ノ長キ者アリ、爪ノ長キ者アリ、手ノ長キ者アリ、鼻ノ下ノ長キハ生涯無事ナリ、爪ノ長キハ必ズ貪リ、手ノ長キハ必ズ盜ム」(四)事變ナキコト。平穩ナルコト。　史記、平準書「漢興七十餘年之間、國家無事、非遇水旱之災、民則人給家足」(五)仕事ナキコト。ヒマナルコト。閑散ナルコト　淮南子、精神訓「茫然仿佯于塵垢之外、而消搖于無事之業」世說新語補序「余治燕許部同獄、少間無事」

ぶ-志（名）【武事】武人ノナスベキ一切ノコトガラ。戰爭ニ關スル事柄。又、ソノ技術。武功。軍事　詩序、大雅、常武篇、小序「常武、召穆公美宣王也、有常德以立武事、因以爲戒然」後漢書、光武帝紀「初帝在兵間久、厭武事」晉書、胡奮傳「奮性開朗、有籌略、少好武事、宣帝之伐遼東也、以白衣侍從」

ぶ-志（名）【蕪辭】粗末ナルコトバ。又、自己ノ言辭ノ謙稱。蕪雜

[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ス」

ふしあな（名）[節孔] 板ナドノ節目ノア[illegible]ナル[illegible]。[illegible]

ぶしあはせ（名）[不仕合] 仕合惡シキコト。運ノ[illegible]ト。不幸。不運。薄幸。名物六帖、四、人事箋、四「薄倖、フシアハセ」[illegible]コレハコレハ[illegible]ノウチノ不仕合故、[illegible]デアラウ」日本新永代藏、北條、北條[illegible]水）一「餓死シテ、アハレヤ憂キ目ヲ見ルコト、是ラヲ不仕合ノハジメトシテ」[illegible]作）中「此不仕合ヲ聞イテ[illegible]、[illegible]ケンネジツイテ、[illegible]ケスル[illegible]マシサ」東[illegible]子（田宮仲宣）三「[illegible]ガ身ヲ、助クル程ノ、不仕合」柳樽、七編「センザイヲ、翁ガ荷フ、不仕合」

ぶしあはせもの（名）[不仕合者] マハリアハセノ惡キ人。不運ナル人。薄命ノ人。名物六帖、二、人品箋、五「薄命人、フシアハセモノ」注「薄命之人、不足與成功也」

ぶじいう（名）[不自由] （一）自由ナラヌコト。已レガ意ノマヽニナラヌコト。又、便利ノ惡キコト。[illegible]由」[illegible]記、人馬「某ノ召使フ者ハ、只一人デゴザル、殊ノ外、一人デハ不自由デ、使ヒ足ラヌ」東[illegible]子（田宮仲宣）四「醫師殿ノ、不自由ナ里ノ、賀振舞」俳諧新選「不自由ナル、手デ候フヨ、花ノ下」（二）勝手ワルキコト。家計不如意ナルコト。柳底[illegible]（栗原信光）「久久ノ蟄居、サゾ不自由ニ候ハン」遊女[illegible]錦（梅暮里谷峩）二「[illegible]ケタル後ハ[illegible]、不自由ナ[illegible]」

ふしいと（名）[節絲] 節アル絹絲。粗ナル絹布。略シテ、ふしいとり。[illegible]

ふしいとおり（名）[節絲織] 節絲ニテ織レル織物。[illegible]ノ[illegible]ヲ[illegible]見ル一[illegible]「[illegible]」

ぶしう（名）[俘囚] （一）トリコ。トラハレビト。捕虜。[illegible]、[illegible]、俘囚[illegible]、[illegible]野雄[illegible]、[illegible]乃[illegible]」名[illegible]抄「俘囚、フシュ」大[illegible]記、下、十一年四月、[illegible]俘人七千戸、[illegible]一郡、乃[illegible]之」（二）王民ノ夷ニ抄略セラレテ、賤隷トナレルモノ。ウカレビト。浮浪人。夷俘。江次第抄、一「俘囚本是王民、爲夷所略、[illegible]、賤謂之夷俘」[illegible]記、十八（仁明　承和十五年二月「[illegible]俘囚丸子[illegible]」[illegible]字類抄「俘囚、エビス」

ぶしうぎ（名）[不祝儀] 次條ノ語ニ同ジ。

ぶしうげん（名）[不祝言] 又、不祝儀。フキツナルコト。凶事。[illegible]元和、安樂[illegible]（傳）四、主ノトブラヒ、親ノ年忌、イヅレカ祝言、不祝言、飲ムト喰フトニ、洩レタルヤアル」

ふしおき（名）[臥起] おきふし（起臥）ニ同ジ。[illegible]日記、上、上「タダふしおきアカシ暮スママニ、世ノ中ニ多カル古物語ノハシナンド」

ふしおり（名）[節織] ふしいとおり（節絲織）ニ同ジ。

ふじおろし（名）[富士颪] （一）富士山ヨリ吹キオロス山カゼ。謠曲、富士太鼓「誠ノ富士おろしニ絶エズモマレテ、裾野ノ櫻四方ヘパット散ル」歌舞伎「市中ヤ、木葉モ落チズ、不二颪」（二）編笠ノ一種。ソノ形、富士山ニ似タルヨリ云フ。本朝若風俗（[illegible]、西鶴）六「年ノ頃、廿四五ト打見エタル人、富士おろしトイフ大編笠ヲ[illegible]ケバ、紫ノ手ボソニテ頰カムリシテ」

ふしがき（名）[[illegible]] [illegible]ニ同ジ。[illegible]

ふしかげ（名）[節陰] 矢ノ節[illegible]。[illegible]。しかげハ、唯矢竹ノ節ニスルニ非ズ、竹ノ芽ヲカキテ取タルアトノクボキ所ヨリ、竹ハ鋭ワルルモノナリ、コレニヨリテ、ヒワレヌサキニ、其所ニウルシヲ、タメヌリ置ケバ、ウルシガ陰ニナル故、日ヲヨケ[illegible]、ヒワレヌ也、サレバ[illegible]ト[illegible]付タル也」

ぶしかたぎ（名）[武士氣質] 武士ニ[illegible]ノサハシキ氣性。サムラヒカタギ。[illegible]今日[illegible]、享保、[illegible]作）中「職人ナガラ武士ノ[illegible]」

ふしがね（名）[附子鐵漿] 黑色染料ノ名。五倍子ノ粉ヲ鐵ニ漬シタル汁ニテ染ムルモノ。海人藻芥、下、俗裝服事「僧者衣裝等ヲふし金ニ染メ、[illegible]同ク染ム[illegible]」[illegible]、十七、[illegible]法、云云、[illegible]ニハ、[illegible]子ヲ用テ染ルヲ本トス、吉岡氏、附子鐵漿法ヲ始ムト云リ、何レカ是ナル、後考ニ可シ」同、同「今ノ[illegible]ハ、[illegible]子モふしがねモ用ヒズ、[illegible]トイフ[illegible]ノ下品ヲ用ヒ、豆ノ汁ヲ以テ止レ之」

ふしかへり（名）[臥返] フシカヘルコト。ねがへり（寢返）ノ（一）ニ同ジ。後撰集、十二、戀、四「ホノミテモ、目ナレニケリト、聞クカラニ、ふしかへりコソ、シナマホシケレ」

ふしかへる ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[臥返] 寢ナガラ、體ノムキヲカフ。宇治拾遺、二、第三條「行キモヤラデ、ヨミタリケル時、ウトイヒテ、ウシロザマニコソ、ふしかへりタレ」

ふしがまり（名）敵ノ來ルヲウカガフモノ。フクカマリ。斥候。淺井物語、五「山、峯ソバダチテ、伏がまりヲ置クニ、タヨリヨシ」

ふしき（名）[節木] 節アル木。節、穴ナドアリテ、中ノ空ナル樹。俳[illegible]、[illegible]ノ、ふし木[illegible]

[illegible]、[illegible]」二[illegible]ヲ持チ、手勢七人、中間ノ東谷ニトドマリテ」

ふしき（[illegible]）[illegible]木[illegible]

ぶしぎ（名）[不思議] （不可思議ノ略）思ヒハカラレヌコト。イブカシキコト。[illegible]入リテ役セ、[illegible]共ト下知シケルニ」[illegible]抄、一、第八條「アナ不思議、サレバ佛ノ御シワザニコソ」方丈記「四十アマリノ春秋ヲ送レル間ニ、世ノ不思議ヲ見ルコト、ヤヤ度度ニナリヌ」

ぶしき（名）[不食] （一）食物ヲ食ハヌコト。食ヲ攝取セヌコト。[illegible]。（二）つはり[illegible]。[illegible]シカ、云云、[illegible]、不[illegible]シテ、云云、[illegible]絶テ食セサルヤウニナレリ」[illegible]ヨリハ少女、食ノコナシモ白ラ不食スルコト出デ來リ」[illegible]「若後家ノ、ふしき顏ル、珍粥ナリ」

ふしきぬ（名）[富士絹] 「明治四十年頃、富士瓦斯紡績會社ニテ製織シタル絹ノ名稱ヨリ起ル、[illegible]紡績絹絲ヲ用ヰテ、織上ゲタル絹織物、通俗[illegible]上後、精練[illegible]、地合、[illegible]ニ似テ、光澤、[illegible]力共ニ[illegible]ル[illegible]地、小兒服地ナドニ用ヰラル。

ぶしくれだつ ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）[節[illegible]] [illegible]、[illegible]、凹凸ノ[illegible]、[illegible]

れ立ちシヲ嘸デオロシ」嗚呼矣草、三、五十五條「今時、俳諧者流、俳諧トテ、新規流行ノ歎キ、下品ノ手濡波ヲ用ユルコト、奇ヲ好ミ、却テふしくれだち、和歌、連歌ナドノ歌詞ノ譯ニ遠ザカルハ拙ク、云云、語路ノふしくれだつトハ、車ル坊カ十高ニモ、云云、小兒ノ習フ商賣往來ヲ轉ジテ、往來商賣トイハバ、一度讀ミ聞カ雲助カト思ハルベシ」

ふし-ぐろ (名) [節黑] 矢ガラノ節ノ下ヲ、黑ク漆ニテ塗リ卷クコト。ソノ箭ヲ盛リタル胡籙(ヤナグヒ)ヲ、ふしぐろのやなぐひト云ノ。今昔物語、廿八、第二十七語「年十餘許ノ男ノ、云云、打出ノ太刀ヲ帶キテ、節黑ノ胡籙ノ雁胯二筋、征矢四十許差タルヲ負タリ」武器考證、十二「節黑ノ胡籙トハ、節黑ノ矢ヲ差タル箙ヲ云ナリ、節黑トハ、ふしかげヲ塗リタルヲ云」

ふし-ぐろ (名) [節黑] 石竹科ノ多年生雜草。莖節、紫黑色ヲ呈スルヲ以テ此名アリ。逢坂草(アフサカサウ) 和漢三才圖會、九十四、濕草類「逢坂草(アフサカサウ)、ふしぐろ、俗稱、本名未詳、云云、高七八寸、葉似眼皮草葉、五六月開小花、亦似眼皮草花形、而有白紅淺紅之數品、但葉弱長、莖節黑、故又名節黑、逢坂新撰六帖ニ」

ふじ-こう (名) [富士講] 駿河ノ富士山ノ神靈ヲ信ズル一種ノ宗教。其祖ヲ書行(ショギャウ)藤佛(トウブツ)ト云フ、(或ハ角行、長谷川竹松丸、長崎ノ產、天文十一年生)富士ノ人穴ニ入リテ修行シ、山ヲ仙元大菩薩ト稱シテ、教旨ヲ立テテ信仰セシメ、各自ニ職業ニ勤メ、山ノ恩ニ報イシム。享保中、第八代食行身祿(ジキギャウミロク)(富士清兵衛、伊勢ノ人)ニ至リテ、盛ニ其教ヲ弘メ、水ヲ呪シ、符字ヲ書キテ、病者ニ與ヘナドス。一種讀ムベカラザル文字ヲ作リテ神祕トスト。此教旨ヲ奉ジテ一組ヲ結ブヲ中ト云ヒ、多年、登山シタルモノヲ先達講ト云フ。御山開(オヤマビラキ)ト共ニ登山シ、御鉢廻(オハチメグリ)(其條ヲ見ヨ)、或ハ中道(チュウダウ)(高サ八千餘尺ノ五合目ヲ一周スル道、數里アリ)ヲ廻リテ修法ス。先達ハ種種ノ祈禱ヲナシ、又、此徒、葬式ヲ送ルトキ、かけねんぶつヲ唱フ。後、神道ノ一派タル扶桑教ハ、コノ富士講ノ組織ヲ改稱シタルモノナリ。嬉遊笑覽、七、行遊「富士詣、云云、年毎ニ富士參スル者ハ、大山ニモ詣スルナリ、多年登山シタル者ヲ先達トイフ、其群(ムレ)イト多シ、是ヲ富士講ト唱フ」續飛鳥川(文化)當時ノ流行物ヲイフ條「家相、地相、劍相、方位、富士講、大極丹、云云」

ふじしし-りう (名) [富士越龍] 畫題ノ一。富士山上ニ、龍ノ昇天セル繪ノ稱。立チ登ル雲ヲ、龍ニ見立テタルモノニテ、日本一ノ名山ヲ越スヲ、出世ノ意トシテ、メデタキ繪トス。

ふじ-ごり (名) [富士垢離] 山開キ前ノ五月下旬ニ、山麓ノ修行場ニテ、富士登山ノ道者ノ、七日間、水垢離ヲトリ、心身ヲ淸ムル修行。牛阿の句「富士ごりヤ、山ハ日頃ノ、薄煙」

ふし-しづ・む ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [伏沈] 思ヒニ沈ム。ナゲキニ沈ム。源、一、桐壺十「ヤミニクレテ、ふししづみタマヘルホドニ、草モ高クナリ、云云」平治物語、三、金王丸從尾張馳上事「アノ君達ヲバ如何スベキトテ、伏しづみケレバ」長門本、平家物語、五、丹波少將殿召返事「北ノ方ハ、猶現トモ覺給ハズ、ふししづみテゾオハシケル」

ふし-しば (名) [柴] 〔ふしハふしばニ同ジ、重ネテ云フ〕柴(シバ)ト云フニ同ジ。千載集、十三、戀、三「カネテヨリ、思ヒシコトゾ、ふししばノ、コルバカリナル、歎キセントハ」新古今集、十三、戀、三「ツラシトハ、思フモノカラ、ふし柴ノ、シバシモコリヌ、心ナリケリ」

ふし-しば (名) ましも(眞菰)ノ異名、篠

日f「ミガクレノ、ふししばナレバ、イツトナク、カリソメ待チシ、ミナツキノ雨」

ふし-しる (名) [芋莖汁] 〔ふしハ芋莖、ふしノ條ヲ見ヨ〕いもがらノ、古製ニシテ、芋ガラト赤小豆トヲ、煮込ミタル汁。嬉遊笑覽、十、上、飮食「いもに煮、云云、ふし汁ハ、芋殼、赤小豆ヲ入タル汁ナリ、今ノいもに煮ニ芋ガラハ入ザレドモ、用ヒシコトモ有シヨリ、此名ヲ呼シモノナラン、云云、女重寶記、大和詞ノ內、芋ノ莖、小豆ノ汁ハ、ふをつけトアリ、ふし汁ナリ」風俗文選、一、揚挿豆賦「從弟煮(イトコニ)、不死汁(フシジル)」

ふしぜん-ふしあく (句) [不思善不思惡] 佛教ノ語。善惡ヲ思念スルコトナキコト。卽チ、善惡正邪ヲ超越シタル絕對ノ理想ヲ云フ。六祖壇經「明日、我來求法、非爲衣也、願行者開示、祖云、不思善不思惡、正與麼時、那箇是明上座本來面目」他我身の上、山岡元隣、五「可不可ハ、一條ナリ、如何ナルヲカ善トイヒ、云云、此段此草子ノ建立ノ所、云云、此段、陽ニシテ語中庸、モシ佛家ヨリ之ヲ言ハバ、善惡不二、不思善不思惡、邪正一如、有無一致ノ理ト通フ可シ」(此草子トハ、徒然草ヲ云フ)

ぶし-だう (名) [武士道] 武士ノ守ルベキ道。尙武ノ氣象ニ、忠孝、勤儉、慈悲、節操、禮讓ナドノ諸德ヲ具備シタルモノ。我ガ日本民族固有ノ尙武、廉直ノ思想ニ胚胎シ、武門ノ勃興ト共ニ、其君臣間ノ情義ハ、漸次ニ一種ノ道德主義ヲ養成シ、江戶時代ニハ、之ヲ補クルニ儒教ヲ以テシ、カクテ其發達ヲ遂ゲタリ。甲陽軍鑑、十七、品第四十七「第一ハ義理ニ違シ、就中武士道不案內ナル申分ナリ」春花五大力(並木五瓶)大和町貸座敷住の場「御家門ノ息女ヲ妻女ニ申シウケマシテハ、源五兵衞ハ女房ノ蔭デ、立身致シタナド申サレテハ、武士道ガ立チマセヌ」

ふし-だか (名) ゐのさづち(牛膝)ニ同ジ

和名抄、十、草類「牛膝、ヰノシタカ、延喜式、イノコヅチ(同上、古今通ニ)」

ふし-たけ (名) [臥長] 臥シタル丈ケ。盛衰記、四十四、老松若松尋劍事「長サ、不知、臥長二丈モヤアルラント覺ユル大蛇、劍ヲロニクハヘ、云云、眼ハ日月ノ如ク、口ハ朱ヲサセル如シ」

ふし-だ・つ ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) [節立] 莖高クノビテ、節(フシ)アラハル。又、フシクレダツ。白河殿七百首「ケフノミト、イソグヤ田子ノ、手モタユク、千町ノナヘノ、ふしだたヌ間ニ」

ふ-シダラ (名) シバラナキコト。行事(シワザ)ノ檢束(トリシマリ)ナキコト。

ふじ-たらう (名) [富士太郎] (一)富士山ニ住ミシト云フ天狗ノ名。謠曲、鞍馬天狗「御供ノ天狗ハ誰誰ゾ、云云、飯綱ノ三郎、富士太郎、云云、天狗ダフシハオビタダシヤ」(二)富士山ノ異名。するがたらう(駿河太郎)ノ條ヲ見ヨ。俳諧ニ、富士山ノ稱、山ノ魁ナルニ云フ。隨葉(延寶)雜、夏「初雪ノ、花ノ兄キヤ、富士太郎、富士太郎」

ふし-だらけ (名) 節、澤山ナルコト。節ニテ一パイナルコト。才藏狂歌集、春「春雨ノ、細キウミソニ、比レバ、ふしだらけナル、青柳ノ絲」柳樽、七編「川竹ノ、文ハ御ゲンノ、ふしだらけ」

ふし-ぢか (名) [節近] 竹ナドノ、節ト節トノアヒダノ近キコト。又、ソノモノ。保元物語、二、白河殿義朝被夜討事「年竹ノ節近ナルヲ、少シ押削イテ、山鳥ノ尾ヲ以テ作イダルニ、云云、暫シ保テヒ、ウト射ル」

ふ-しつ (名) [父執] 〔しつ(執)ハ、しふ(執)ノ促音〕ふしふ(父執)ノ條ヲ見ヨ。

ふ-しつ (名) [不悉] 手紙ノ結尾ニ用キル語。十分ニ意ヲ悉サザル意。不盡。不

例「[illegible]不[illegible]見ハ云云、[illegible]不老」

ふしつ (名) [不實] マコトナキコト。深切ナラヌコト。人情無キコト。不信 無情 易林節用集(慶長)下、言辭門「不實、フジツ」

ふしつ (副) [不日] 日ナラズ。多クノ日ヲ[illegible]、不日成之 字類抄[illegible]四、第十七條「詔曰、一家ヒロキモノナレバ、人數ノオホシ[illegible]、不日ニ[illegible]ケ[illegible]ゾ」

ふしづ・く ・ク・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) [柴漬] フシツケナス。フシツケス。ふしづけ(柴漬)ノ條ヲ見ヨ。 夫木抄、廿七、雜「ふしづくる、オドロガ下ニ、擬ム鰭ノ、今ノ命モ、定メナノ世ヤ」 同、廿六、淀「ふしづけシ、ムツダノ淀ノ、アサ氷、トクレバ袖ノ、ヌレマサルカナ」

ふしづけ (名) [柴漬] 冬ノ内ニ、柴ヲ水中ニ束ネ入レオケバ、魚、寒ヲ避ケテ、其中ニ集リ居ルヲ、春ニ至リテ、柴ヲアゲ、網モテコレヲ捕フルモノ。今、コレヲ切込トモ云フ。 [柴臥] 倭名抄、十五、漁獵具「[illegible]」 [illegible]「[illegible]、フシヅケ、[illegible]」 名義抄六帖、三、[illegible] 笑覽、十二、漁獵「柴漬ハ、云云、俗ニふしつけヲ切込トイフ」 千載集、六、冬「泉川、水ノミワタノ、ふしづけニ、岩間ノ氷ル、冬ハ來ニケリ」

ふしづけ (名) [臥漬] 〔其狀、柴漬ニ似タルヨリ云フ〕 私刑ノ一種。罪人ヲ簀卷ニシテ、水中ニ投ズルコト。 盛衰記、十八、文覺[illegible]「[illegible]伊豆ノマツカハノ[illegible]、白瀧ノ底ニ、ふしづけニセヨト云ヒケレバ」 [illegible]「此女、カツラ河ノ深キ所ヲタヅネテ、ふしづけニシタリケリ」 [illegible]記、下「罪宗ヲ故路[illegible]サル故ヲバ、[illegible]重刑ニ行フ、云云、三人ヘ[illegible]ニ[illegible]ニス」

ふしづけ (名) [節附] 歌ノ[illegible]節ヲツクルコト。[illegible]作曲[illegible]云云、往古、出家ノ稽古本トイフモノナキ頃ハ、[illegible]ヲ自分ニ寫シ、[illegible]ニ便リテ節附ヲ乞ヒシトナリ」

ぶしつけ (名) [不躾] 躾ノナキコト。無作法ナルコト。無禮。 今川大雙紙[illegible]ぶしつけナリ」 [illegible](文化、一九)五編、上「モシ、ぶしつけナガラ、ナント[illegible]マセウ」

ぶしつけもの (名) [不躾者] 禮儀ヲ心得ヌ者。無作法ナル人。 俚[illegible]世話字盡)無躾者」

ふしど (名) [臥所] 夜、臥ス處。ネドコロ。ネヤ。フシドコロ。 盛衰記、十一、有王俊寛問答事「次第ニ弱テ云事モ聞エズ、息止リ眼閉ニケリ、[illegible]臥居タル臥所ニ、[illegible]泉ニ咽ベドモ、巴峡秋深ケレバ、猿ノ猿ノミ叫ビケリ」 長門本、平家物語、十九、六代御前事「曾坂山ヲ見給テハ、是ヤ我ガ臥所トナラント思ヒケルコソ無慚ナレ」

ふしどころ (名) [臥所] 前條ノ語ニ同ジ。 平治物語、[illegible]、信賴信西不快事「大内ハ、云云、殿舍[illegible]シ、[illegible]シテ、牛馬ノ敵、雉[illegible]ノ伏所トナリタリシヲ」 盛衰記、十一、有王俊寛問答事「イザサラバ、我ガ夜ノ臥所ヘト、具シテ行ク」

ふしなはめ (名) [伏繩目] コロヒノヲドシニ用ヰル染革ノ名。据繩目。下ノ出典ヲ見ヨ。 安齋隨筆、下「ふしなはめト云フハ、染革ノ名也、白、アサギ、紺三色ヲ、藻ノ手縄ノ如ク[illegible]ヘテ、節ヲ染メタル革也、コノ革ヲ我ナテ、[illegible]威ノ如ク威シタルヲ、ふしなはめの鎧ト云フナリ」 義經記、[illegible]、[illegible]上[illegible]、廿二「[illegible]ノ下ニ、[illegible]」

ふしなまり (名) [節訛] 歌謠ノフシノ變[illegible]調子[illegible]モ同ジ事ナレド、心得分クベシ」

ふしな・む ・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [伏並] フシナラブ。[illegible]十八[illegible]、云云、タテ[illegible]、スイガイナトノふな[illegible]みさしニ、(みだれタルニ)[illegible]シケナリ」

ふしのき (名) [柹子樹] 〔白膠木ニ同ジ。[illegible]木ニ同ジ。[illegible]ふしの木無ケレバ、[illegible]皮ニ、モ染ムルト云ヘリ」

ふしのくに (名) [不死國] 不老長壽ノ人類ノ棲メリト云フ傳説ノ國。 山海[illegible]十四、[illegible]不死國[illegible]「不死樹、食之乃壽、在赤泉、飮之不老」

ふしのこ (名) [五倍子粉] 五倍子ヲ粉トシタルモノ。ふしこ(五倍子)ノ條ヲ見ヨ。

ふしのま (名) 〔節の間カ〕 節ト節トノ間。轉ジテ、スコシノ間。ツカノマ。 新古今集、十一、戀、一、「難波潟、短キ蘆ノ、ふしのまモ、逢ハデコノ世ヲ、過グシテヨトヤ」

ふじのやま (名) [富士山] (一)短小ナル物事ノ對照トシテ、長大ナルモノノ譬ニ用ヰル語。長短、高低ノ長、高。 俚言集覽「富士の山ト長クラベ(源平盛衰記)」 又、多少ノ多。 俚言集覽「凡テ衆多ナル喩ニ、富士の山ほどト云フ[illegible]チハ交ヤ、富士ノ山ホド[illegible]ラン(ト云フ句ニ)[illegible]ニ心ハ、ウキ島ガハラ」 又、大小ノ大。 俚言集覽「富士の山ホド願ッテ、蟻塚ホドカナフ」 又「富士の山ヲ蟻ガセセル」 (二)紋所ノ一。

ふしば (名) [伏[illegible]] [illegible]集、十一、戀、二[illegible]二出デシ、[illegible]ノふしばノ、下[illegible]レ、入江ノ[illegible]ニ、朽チハハツトモ」

ふじは (名) [富士派] 日蓮宗ノ一派。[illegible]ノ諸派トノ間ニ、教義上、大イニ異ナル[illegible]、徳川時代[illegible]ノ道ニ[illegible]トテ、弘教ヲ[illegible]、富士[illegible]、[illegible]ニ[illegible]テ、其[illegible]、富士門[illegible]テ、[illegible]、勝劣派ノ中ノ一派ナリ、明治九年、日蓮[illegible]シ、一派獨立ス」

ふしはかせ (名) [節博士] 〔博士ノ教フルコトナレバ云フ、或ハ云フ、はかせハ拍子ノ訛ナリト〕 [illegible]、其[illegible]ノ高低、長短[illegible]モノ。略シテ、はかせ。俗ニ、[illegible]ノ譜ヨ[illegible]リシテ[illegible]永)上、[illegible]博士ニ[illegible]華押」[illegible]レトモ、[illegible]ノ[illegible]士ハ[illegible]ノ[illegible]、今ニ[illegible]顔ニテ、ふしはかせ音曲ヲ專ラトタシナミ」

ふしはず (名) [節筈] 矢ノ筈ノ、竹ノ節ノ部分ニテ作ルコト。又、ソノ筈。よはずニ對ス。 貞丈雜記、十、弓矢之部「ふしはずトイフハ、竹ノ節ニテ筈ヲシタルナリ」

ふしはら (名) [柴原] 柴ノハエタル野

原。 拾遺集、十、神樂歌「シナガ鳥、猪名ノふしはら、飛ビワタル、鴫ノ羽根音、オモシロキカナ」新後拾遺集、五、秋「小笹シク、猪名野ノ月ノ、フクル夜ニ、ふし原寒キ、ツユノ手枕」

ふ-じひ (名) 不慈悲 ナサケナキコト。アハレミナキコト。人情ナキコト。無慈悲。 卯花園漫錄(石上宣續)三「不慈悲ナル事アリヤナシヤ」(日日ノ自省箇條ノ一)

ふじ-びたひ (名) 富士額 婦人ノ額ノ髮際ノ、富士山ノ頂ノ形ニ似タルモノ。又、シカ作ルニモ云フ。 俚言集覽「富士額、女ノヒタヒヲ、富士山ノ如クニ作ルヲイフ」

ふ-しふ (名) 父執 〔執ハ執友ノ略、杜甫詩「執友驚二淪沒一」註「執友執レ手之友、謂二同志一也」〕 又、フシツ。父ノ同志。父ノ朋友。 禮記、曲禮、上篇「見二父之執一不レ謂二之進一不二敢進一不レ謂二之退一不二敢退一不レ問不二敢對一此孝子之行也」 杜甫、贈二衛八處士一詩「怡然敬二父執一問二我來一何方一」

ふし-ぶし (名) 節節 (一)ソコココノふし。(絲、竹ナドノ) (二)身體ノ各關節。歷節 三〔カレコレ　件件　事事　物物〕 源、十二、須磨「アハレト思ヒキコエ給フふしぶしモアレバ、ウチ泣カレ給ヒヌ」とりかへばや物語、一「イミジウ恥カシゲニテ、忍ビ難キふしぶしバカリヲ、ウチホノメカシテ、我ガ心ノ中ニモ、イヅクヲ限ミドコロニカハト、云云」

ふ-じふぶん (名) 不十分 十分ナラザルコト。又、完全ナラヌコト。不完全。

ふ-じべ (名) 贅 ふすべ(贅)ニ同ジ。 字鏡「瘤、癭、宿肉也、波奈布志倍」 天治字鏡、一、五「癭、宿肉也、波奈布志倍」 萬安方「疣、フシベ」

ふじ-まうで (名) 富士詣 (一)陰暦、六月一日ヨリ二十一日マデ、富士山ニ登山シ、絶頂ナル富士權現社(祭神、淺間大神、木花開耶姫命)ニ參詣スルコト、其登山者ノ團體ヲ富士講ト云ヒ、一行ヲ行人、又ハ、富士道者ト云フ。各團體ニ先達アリ、登山ヲ遂ゲタル者ヲ山上(センジャウ)又ハ、禪定(ゼンヂャウ)ト云フ。富士參。 續[illegible]集「武士ニ、川越聞クヤ、富士詣」 俳諧新選「珍シキ、一夜ノ冬ヤ、富士詣」 (二)陰暦、五月晦日、六月一日ノ兩日、江戸市內ニ模造シタル富士淺間神社ニ參詣スルコト。本郷駒込ノ富士、最モ名アリ。 守貞漫稿、廿四、夏冬「五月晦日、六月朔日ノ兩日、江戸淺草、駒込、高田、深川、目黒、四谷、茅場町、下野小野照(以上八所トモニ江戸ノ地名也、皆ニ富士山ヲ模造シテ、淺間ノ神ヲ祭レリ、平日ハ此模山ニ登ルコトヲ聽サズ、コノ兩日ノミ諸人ヲ登ス、[illegible]、駒込ヲ江戸ノ本所トス)等ノ富士詣ト謂テ群參ス、各所トモ必ズ麥藁製ノ蛇形ヲ、生杉枝ニ纏ヒタルヲ賣ルニ、大小アレドモ皆同制ナリ、富士詣人ノ方物トス」

ふしまき-の-ゆみ (名) 節卷弓 竹ノ節ノ上ヲ、籐ニテ卷キタル弓。又、竹ノ節ノ如ク、處處ニ籐ヲ卷キタル丸木弓。 保元物語、二、義朝白河殿夜討事、半井本云、爲朝ハ、云云、節卷の弓、握リフトニテ八尺五寸ヲ持ツ」 四季草、弓矢、射器「節卷の弓の事、弓ハ、節ノ所、節ノ所ウキユヘ、多クハ、節ノ所ウキ上リテ、ニベハナルル物ナリ、ソノ用心ノ爲ニ、節ノ上ヲ籐ニテ卷キタルヲ、ふし卷の弓トイフナリ」

ふしまち-の-つき (名) 臥待月 〔出ヅルコト遲ケレバ、臥シテ待ツ月ノ意〕 陰暦、十九日ノ夜ノ月ノ稱。又、寐待(ネマチ)の月。其條、見合ハスベシ) 或ハ、十九日以後ノ月ヲモ云フ。 後撰集「數フレバ、昨日ノ月ノ、臥待モ、ナホ宵ノ間ハ、過ギテ出デニキ」(二十日ノ歌) 平治物語、一、院御所仁和寺御幸事「廿六日、夜深ケテ、云云、御馬ニ任セテ御幸ナル、未ダ夜半ノ事ナレバ、臥待の月モ未出テズ」

ふ-しまつ (名) 不始末 始末ノ善カラヌコト。シダラナキコト。不都合。

ふじ-まつ (名) 富士松 〔富士山ニ多ケレバ名トス〕 松ノ一種。冬、落葉スルモノ。富士山、其他ノ深山ニ多シ、日光山ニモ多ケレバ、日光松ノ名モアリ。高サ五六丈ニ達シ、春、新葉、簇針、圓ク聚リテ生ズ、形、菊花ノ如ク、大イサ錢ノ如シ、淡綠、細小ニシテ、ヤハラカナリ。幹ノ皮、鱗ノ狀ヲナサズ。材ハ建築、及、器具用、又ハ、製紙ノ原料トナリ、皮ヨリ染料、及、てれぴん油ヲ採ル。カラマツ。落葉松 和漢三才圖會、八十二、香木類「落葉松、富士松、俗、[illegible]、云云、葉如レ刺、栢ハ霜後葉脫、故名二落葉松一按、云云、信州木曾、及、富士山有レ之、故俗名二富士松一京師稱[illegible]、呼曰二姫小松一多難レ長」

ふじまつ-ぶし (名) 富士松節 淨瑠璃節ノ一派、宮古路豐後掾ノ門人富士松薩摩掾ノ語リ創メタルモノ。 聲曲類纂、三「富士松薩摩掾、宮古路豐後掾ガ門弟ニシテ、始、宮古路加賀太夫トイフ、師ト絶シテ後、延享四年卯ノ春、富士松薩摩掾ト改メ、一派ヲ語レリ」

ふしまろ-ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 臥轉 伏シテ、アチコチニマロブ。コロビウツ。輾轉反側ス。 源、五十一、蜻蛉十「人ノナクナリタルケハヒニマネビテ、出シタツルヲ、メノト、母君ハ、イトイミジクユユシトふしまろぶ」 宇津保物語、嵯峨院廿「ナミダヲナガシテ、ふしまろび給フ」 榮花物語、二、花山「アサマシクイミジケレバ、カカヘテ、タダふしまろび惑ハセ給フ」

ふじ-まゐり (名) 富士參 富士山ニ參詣スルコト。又、其行中。ふじまうで(富士詣)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]集(寛永)二「一夜ドマリニ、身ヲゾクルシム」足弱キ、人ノイラザル、富士參 [illegible]、七、[illegible]、云云、[illegible]參スル者ハ、大山ニモ詣ズルナリ、多年登山シタル者ヲ先達トイフ、其許[illegible]イト多シ、[illegible]富士講ト唱フ、云云、富士參ノ出立ヒ、昔ハ異ナリ」

ふし-み (名) 伏見 〔伏拜(フシヲガミ)ノ略トモ云フ〕 ふしをがみ(伏拜)ノ條ヲ見ヨ。難波ノ伏見ハ、今ノ三津八幡社ノ邊ナリト云ヒ、平城ノ伏見ハ、菅原ナリ。其外、美濃ナドノ地名ニモアリトゾ。

ふじ-み (名) 富士見 (一)富士山ヲ見ルニ都合ヨキ所。「富士見ノ櫓」富士見臺」 (二)昔、京都邊ニテ、攝津ヨリ江戸ヘ出シテ、再ビ戻リタル酒ノ稱。廻船ニテ運漕シ、日ヲ歷テ練レテ、味、殊ニ美ナリトテ賞ス。 コレヲ富士見酒ト云フト說ニ、池田、伊丹ノ酒樽ヲ、一旦、海ニ積ミ出シ、富士山ノ見ユル所マデ乘リテ、漕ギ戻シ、上方ニ鬻グモノト。

ふ-じみ (名) 不仁身 〔康熙字典「手足痿痺、爲二不仁一」或ハ、不死身ナドトモ記ス〕 人ノ體ニ、一種ノ生得ニテ、打テドモ痛マズ、切レドモ血ノ出デヌモノト云フ。 俚言集覽「ふじみ、不死身也」

ふじみ-さいぎやう (名) 富士見西行 繪畫、彫刻、燒物、玩具ナドニ、富士山ヲ前ニシテ、僧ノ笠ト旅包トヲ脇ニ置キテ、後向キニ、山ヲ見テ居ル所ヲ圖ス 卽チ、西行上人ノ像ナリ。上人ノ駿河ノ久能山ニ宿セシ歌、山家集ニ見エタリ。 嬉遊笑覽、六、下、[illegible]「[illegible]寺裏ノ門前、[illegible]ノ名物、地[illegible]ニテ作リシ鉢、鈴、鳩、云云、富士見西行、金ヲ溜メル者ハ、アノ西行ノ心ノヤウナラデハナラヌ、其故ハ、タトヒ首ハ落サレテモ、風呂敷包ハ放サヌ」 萬才狂歌集、春、西行忌「水無月ノ、雪ニハ

アラデ、キサラギノ、[illegible]ニ消エタル、富士見西行」

ふじみざけ (名) 富士見酒 ふじみ(富士見)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ふしみさんぜん (名) 伏見三寸 小サキ[illegible]

ふ-志-みづ (名) 五倍子水 はぐろめ(歯黒)ノ女房詞。[illegible]ハ、公家方ヨリ申シナラハシタリ、是ヲ内裏ニテハ、ふ[illegible]ト申シタマフ、[illegible]」

ふじ-みなみ (名) 富士南 西南ノ風ノ稱。[illegible]

ふしみ-にんぎやう (名) 伏見人形 次條ノ語ニ同ジ。

ふしみ-びな (名) 伏見雛 又、伏見人形。山城國、伏見ノ、京都市、伏見區)ヨリ造リ出ス雛人形。でんぼうノ條ノ(二)ヲ参見セヨ。

ふ-志ん (名) 不審 (一)ツマビラカナラヌコト。(二)イブカシキコト。疑ハシキコト。[illegible]云、君違云、不審、公譜ニ謂何何似人」[illegible]集、九、弓爲「中ラン事ハ不審ナケレドモ、今二ノ矢ガ数アマリヌレバ、云云」[illegible]記、廿一、[illegible]「イカニモ伏木ノ底、不審ナリ、[illegible]」(三)覺束ナク思フコト。[illegible]、比日不審、[illegible]、不審[illegible]、白[illegible]、其領合作)五「三日向顔セザレバ、其心ハカリ難シトハ申セドモ、近頃以テ不審ニ存ズルト言ヘバ、[illegible]」[illegible]用ノ[illegible]

二用ヰル。[illegible]日、[illegible]」

ふ-志ん (名) 不臣 臣タル道ヲ盡サザルコト。忠實ナラヌコト。又、主君ニ背クコト。不忠。[illegible]君、臣不臣、父不父、子不子、雖有粟、吾豈得而食諸」[illegible]

[illegible]アリ、太平ノ化ニ浴シナガラ、下ニハ不臣ノ心ヲイダク[illegible]モアルベク、云云」

ふ-志ん (名) 不信 信實ナキコト。マコトナキコト。イツハリ多キコト。國語、[illegible]

ふ-志ん (名) 不振 フルハヌコト。振興セザルコト [illegible]

ふ-志ん (名) 腐心 心ヲ腐ラスコト。心ヲ痛メナヤマスコト。苦心。史記、刺客傳[illegible]

ふ-志ん (名) 負薪 〔公羊傳、桓公十六年「屬負茲舍不廩、托也、天子有疾稱不豫、諸侯稱負茲、大夫稱犬馬、士稱負薪」〕タキギヲ負ヒタル疲勞。又、タキギヲ負フニ難ムヨノ、士ノ病氣ヲ云フ謙稱。采薪之憂。禮記、曲禮、下篇「君使士射、不能、則辭以疾、言曰、某有負薪之憂」

フ-シン (名) 普請 〔志んハ、請ノ字ノ宋音[illegible]〕(一)又、[illegible]、遍ク人[illegible]招キテ、[illegible]共ニ事ヲナスコト。[illegible]、禪林ニテ

ハ、大衆ヲ集メテ作務スルコト。[illegible]」

[illegible]在ニ某甲手裏、黃檗云、今日大有人普請、便歸院」

(二)轉ジテ、多クノ人ノ、寄附ヲ請ヒテ、堂塔ナドヲ建立スルコト。[illegible]又、轉ジテ、建立、修理ナドノ事ヲ云フ。[illegible]一般ニ、建築、土木ノ工事ヲ云フ。作事。ヤヅクリ。トアヅクリ。守貞漫稿、四、生業、上「普請トイフハ、諸人ノ施財ヲ普ク請ヒ受ケテ、堂舎ヲ造營スル[illegible]」言ナルヲ、近世ハ武家、市民トモニ、家宅ヲ作ルヲ普請トイフ」安齋隨筆、七、普請「我ガ國史、及、上世ノ書ニ、俗家ノ造作ヲ普請トイヒタル例ナシ、俗家ノ造營ヲ普請トイフハ、甚ダ近キ世ノ詞ナリ」日本新[illegible]」

(四)又、鳥ノ、巣ヲ造ルコトナドヲ、建築工事ニ準ヘテ云フ。[illegible]」

ふ-志ん (名) 不仁 (一)仁慈ノ心ナキコト。情ケノナキコト。易經、繫辭、下傳「小人不恥不仁、不畏不義」[illegible]必有」孟子、離婁、上篇「不仁者可與言哉」[illegible](二)シビレテ、[illegible]ルコト[illegible]且七十、[illegible]「不仁、[illegible]」

ふ-志ん (名) 不盡 (一)ツキザルコト。タエヌコト。(二)ふ志つ(不悉)ニ同ジ。

ふ-志ん (名) 富人 ふうぢん(富人)ノ條ヲ見ヨ。

ふ-志ん (名) 夫人 〔夫ハ扶ナリ、能ク夫人ノ[illegible]〕(一)[illegible](二)[illegible](三)[illegible]八年八月「從三位藤原朝臣宮子稱三夫人」(四)[illegible]

ふ-志ん (名) 婦人 〔婦ハ、服ナリ、[illegible]〕服スル意、或ハ、家事ニ服シ、人ニ事フルモノトス、詳シクハ、ふ(婦)ノ條ヲ見ヨ〕(一)[illegible]、女子[illegible](二)既ニ嫁シタル女。和漢三才圖會、八、人倫[illegible]」[illegible]ノ意ヲ含メテ云フ語。女子。婦女子。

ぶ-志ん (名) 武神 [illegible]

ル神 ユミヤガミ。軍神。 劉熙、釋名「鎬、兒(?)ハ兵器、兵精、馬者難者、火爲武神、介胄將士動、而[illegible]之」

ぶしん (名) 〔武臣〕 武事ヲ以テ仕フル臣。ぶし(武士)ニ同ジ。 宋史、岳飛傳「或問、天下何時太平、飛曰、文臣不愛錢、武臣不惜死、則天下平矣」 太平記、一、御告文事「臣子、武臣ニ對シテ、直ニ告文ヲ被下タル事、異國ニモ我ガ朝ニモ、未ダ其ノ例ヲ承ラズ」

ぶしん (名) 〔武人〕 軍陣ノ事ヲ職トスル人。イクサビト。ツハモノ。モノノフ。軍人。武士。 詩經、小雅、都人士之什、漸漸之石章「武人東征、不遑朝矣」 曉のなだ(森山孝盛)「サテ武人ニハ、小南市郎兵衛ヲハジメ、遊川伴五郎、武光植園軒、云云ナド、上手ドモダカリケリ」

ぶしん (名) 〔舞人〕〔儛人〕 マヒヲマフヒト。マヒマヒ。マヒビト。舞踊者。 江家次第、六、三月、石淸水臨時祭試樂「舞人進、寄堅竹壘下」 名物六帖、二、人品箋、二「舞人、マヒビト、會典、舞人樂工三十二人」同、同「儛人マヒマヒ、世說、儛人張淨瑰、腰圍一尺六寸、時人威推、能掌中舞」

フシン-かた (名) 〔普請方〕 (一)室町、及、江戸幕府ノ職名。普請奉行ノ下ニ屬シ、幕府ノ土木、建築ノ事ヲ掌ル。(二)京阪ニテ、家屋建築業者ヲ云フ。 守貞漫稿、四、生業、上「大工、左官以下、造家ニ拘ル者ヲ、京坂ニテ、俗ニふしんかたト云フ、普請方也、江戸ニテやしくにんト云フ、家職人也、江戸ニテ普請方ト云ハザルハ、幕府及諸大名等職名、俗ニ云フ役名ニ、普請方アル故ナラン」

フシン-ガオ
ふしん-がほ (名) 〔不審顏〕 怪訝ナルオモモチ。會得セザル顏ツキ。怪ミ疑フヤウス。 新撰繪入柳樽、初編「ビイドロノ、金魚ニ猫ハ、不審顏」

ふしん-がみ (名) 〔不審紙〕 書物ノ中ノ文句ノ不審ナル處ニ、紙ヲ付ケテ標トスルコト、又、ソノ紙。ツケガミ。オシガミ。 紙簽。簽帖 昨日今日物語(天正、此レハ不審トテ、合點ノユカヌ所ニ付ケテ、後ニ師匠ニ問フタメニツケル、夫レニヨリテ、不審紙ト云フ」 雅言漫鈔(大枝流芳)「牛子丸顔曰、當時亦不明、猶出只逞以以紙簽簽之、今々紙貼トモ書ク、俗ニ不審紙トモイフ、書中考フ可キコト、抄出ス可キコト、先、紙簽ヲ用ヒ、後ニ閑ニ隨テ正ス可シ」 幼學課業次第(佐藤一齋)「此類、潜心シテ讀ミ、不審紙ノ貼ケ、師授ノ人ニ教ヲ乞フ可シ」 俚言集覽「不審紙、昔ハ押紙ト云フ」

フジンクワ
ふじん-くゎ (名) 〔婦人科〕 婦人特有ノ病氣ニ關スル醫術。 月令廣義「大醫院十三科、云云、婦人科、口齒、咽喉、外科、正骨、痘疹、眼科、鍼灸等七科各一員」 中條流產科全書、序「夫婦人有ニ經產也、雖世少有難産、故自古醫有二十三科、而大科爲二其最、亦別設婦人科、以列二于其數二」 千里之比登邊、中世醫士「中條帶刀、豐臣秀吉公ノ臣、兵ヲ用ルノ暇、醫術ヲ好ミ、婦人科ヲ以テ稱セラル」 閑窓筆記(西村遠里)三「投御懷妊トイフ程コソアレ、マヅ御出入ノ婦人科ノ醫者ニ頭ケ、每日ノ御見舞、依テ安産ノ爲トテ藥ヲ飲マセ、云云」

ふしん-しん (名) 〔不信心〕 神佛ヲ信仰セヌコト。神佛ニ冷淡ナルコト。 太祇全集「達磨忌ヤ、宗旨代代、不信心」

フシン-チヨウ
ふしん-ちゃう (名) 〔不審帳〕 書中ノ不審ノ字句ヲ抜キ出シ、書留メ置ク手帳。 疑義簿。 雜字類編、五「疑義簿、フシンチャウ」

フシン-ノ-ウレエ
ふしん-の-うれへ (名) 〔負薪之憂〕 負薪、及、采薪之憂ノ條ヲ見ヨ。

フシンば (名) 〔普請場〕 土木建築ノ工事場。建築場。役所。工 雜字類編、五「役所、フシンバ、巡工、フシンバヲマハル」

フシン-ブギヨウ
フシン-ぶぎゃう (名) 〔普請奉行〕 室町、及、江戸幕府ノ職名。室町時代ニハ、城壁、堤防、牆垣等ノ修築ヲ掌リ、江戸時代ニハ、江戸城ノ曲輪外、要害ノ場所、出陣ノ時ハ城ノ水ヲ灌ギ、堀ヲ埋ムル等ノ事ヲ掌ル職 其人足ヲ黑鍬ト云フ。作事奉行ト共ニ、老中ノ支配下ニアリ。又、小普請奉行アリ。(幕朝故事談)土工監。 興記抄「一、作事奉行、普請奉行ハ、公方樣ニテハ、奉公人御沙汰候、門役奉行ハ、右ニ奉行仕候」 柳營秘鑑、四、諸役人員、井組支配「御普請奉行、貳人」 吏徵、上「御普請奉行二人、老中支配、芙蓉間、諸大夫、貳千石高、承應元年壬辰十一月廿八日始置」 名物六帖、二、人品箋、一「土工監、フシンブギャウ、大唐新語、楊務廉造二仁智宮、引二于德璋一爲二土工監一」

ふし-め (名) 〔伏目〕〔臥目〕 ウツムクコト。人ニ向ヒテ、眼、見合ハスコト能ハズ、下ノ方ヲノミ見ルコト。物悲シキ時ニモ、病者ノ目ニモ云フ。 俯視 字鏡、四「低視、不志目」 源、五、若紫十「見給フモ、スズロニ悲シ、ヲサナ心チニモ、サスガニ打守リテ、ふしめニナリテ、ウツブシタルニ」 同、四十、幻九「母ノ宮ヒシコトヲ、マガマガシウ宣フトテ、ふしめニナリテ、御ゾノ袖ヲ引キマサグリナドシツツ」 平治物語、一、光賴卿參內事「伏目ニナリテ色ヲ失ハレケレバ」

ふし-もの (名) 〔賦物〕 連歌、俳諧ニテ、一種ノ遊技トシテ、或事物、景物ナドノ名ヲ、緣語モテ、句中ニ隱シテ詠ミコムコト。和歌ノ物名ニ類ス。後、轉化シテ、發句ノミニ詠ムコトトナレリ。上賦、下賦ノ別ヲ生ジ、上賦トハ「賦山何」トヤウニ題シ、下賦トハ「賦何山」トヤウニ題スルモノニシテ、コノ「何」ト云フ字ニ充當ス可キ語ヲ、句中ニ言ヒ現ハスナリ。後、又、一字露顯、二字反音、三字中略、三字上略、三字下略、四字上下略、一字重轉、二字除篇、除冠、加冠ナド云フ繁雜ナル方式、出現スルニ至レリ。 明月記、連歌白集集、俳諧獨吟吉「八雲御抄、二、正徹「神楽、初、何中ハ、可[illegible]也、アラハストハ、タトヘバ、物ノ名ヲカクシテハセヌ也、あがらト云鳥ヲ木がらしトイヒ、さめト云フ魚ヲはみさめナドイフ類也、云云」 [illegible]ト賦ハ、山路ヲ何路ト賦ル也、下賦ハ、山路ヲ何山ト賦ル也、一字露顯ハ、香ハ、鹿也、二字反音ハ、花ハ、經也、三字中略ハ、あやめハ雨也、四字上下略ハ、うぐひすハ杭也、(ひノカナ違ヘドモ此類不苦、くひトハ嘉ガタシ、詞アシシ、口受)、五字中二字略ハ、杜若ハ屑也、字上下略ハ、あやめハ矢也」 今物語「ヨリ合ヒテ連歌シケルニ、云云、ふしものハ何ニテヤラント問ヒケレバ、くくりモトカズ、足モぬらさず、ト云ヒタリケレバ、云云、恐レナガラ付ケ候ハントテ、名ニシオフ、花ノ白河、わたるニハ、ト云ヒタリケレバ、云云」 蒐玖波集、一、春「後鳥羽院御時、白黑賦物ノ連歌メサレケルニ、乙女子ガ、かつらぎ山モ、春カケテ、霞メドイマダ、嶺ノ白雪」

ふじ-もんと (名) 〔富士門徒〕 日蓮宗中ノ一派タル富士派ノ門徒。ふじは(富士派)ノ條ヲモ見ヨ。 鹽尻、廿五「或問、東都ニテ、遠島セラレシ富士門徒ハ、如何ナル僧宗祖トナルヤ、答、日蓮カ上足ノ弟子六人アリ、其中ニ、白蓮、日興トイフモノ、本遮勝劣ノ義ヲ立、駿州富士郡ニ寺ヲ建立シ、大石寺ト號セシ、其弟子ニ日間トイフ僧、勝劣ノ邪義ヲ分リ、我執甚シカリシ、北、云云、程、情コワナルハナシ、云云、心ヨカラヌモノ多シ」

ふ-しゃ (名) 〔富者〕 〔貧者ニ對ス〕 富メルモノ。富貴ナル人。財產ヲ多ク有スル人。カネモチ。富人 國語、吳語「越國之中、富者吾安之、貧者吾予之、使貧富皆利之」

ふ-しゃ (名) 〔府社〕 神社ノ社格ノ一。國幣社ノ下、鄕社ノ上ニアリ、府下ニ在リテ其管轄ニ屬シ、祭時ニハ、府ノ官吏、奉幣ス。

ぶ-しゃ (名) 〔步射〕 〔奉射ト書クハ非〕 カチユミ。騎射ニ對シテ、弓ヲ、徒立ニテ

射レコト。[illegible]「[illegible]」[illegible]フハ、歩射ニ對シテ云フナリ、スベテ、カチ立ニテ射ル大的、小的、草鹿、圓物ナドノ總名ナリ、又、奉射ト八別ナリ」紀略、後篇、二、天暦九年正月廿四日「內[illegible]」

ぶしや (二) [奉射] [illegible] 大的ヲ射ルコト。[illegible] 射ルヲ云フ、射手五人ナリ、歩射トハ別ナリ」同、同「奉射ノ二字、いたてまつるトヨミテ、神前ニテ大的ヲ射テ、神ニ手向ケ奉ルヲ云フナリ、コノ奉射ト云フ[illegible]ズ、室町殿ノ比ノ俗語ナリ、神事ノ的トイフ可キ事、本ナルベシ、云云、北辰ノミニ限ラズ、神慮ヲ慰メ奉ル的ナレバ、何神ヲモ祭ルベシ」

ふしやう (名) [不正] タダシカラヌコト。フセイ。桑楊庵一夕話(岸誠之)二「國人、モトハ恐裳ニシテ此祭紀ヲナシ、今ハふしやうニシテ[illegible]」

ふしやう (名) [不祥] (一)[illegible]コト。[illegible] (二)サガナキコト。メデタカラヌコト。エンギノ惡キコト。不吉。西山公隨筆(徳川光圀)「士タル者ノ家ニ、戸札トヤラン云テ、門戸ニ、[illegible]不祥ハアル[illegible]モノ、マシテヤ下ツカタノ人、云云」

ふしやう (名) [不詳] ツマビラカナラザルコト。ハキト知レザルコト。

ふしやう (名) [不請] [illegible]心ニ請ヒ望マザルコト。イヤイヤナガラスルコト。[illegible]

[illegible]呼バザルコト。又、請ヒ求メザルコト。[illegible]不請勝友ヲ向ニ一句下ハ有レ殺有レ活」

ふしやう (名) [負傷] テオヒ。テキズヲ負フコト。ケガスルコト。受傷。

ふしやう (名) [府生] 六衛府、檢非違使、等ノ下官。フサウ。朝野群載、十一、廷尉[illegible]善邦等」同、十一、廷尉「請レ被レ殊蒙ニ天恩ニ因ニ准先[illegible]任[illegible]佐一人、尉一人、志一人、府生一人、火長九人」

ふじやう (名) [不淨] (一)清淨ナラヌコト。穢レ。フザウ。汚穢。[illegible]同、同「カクふじやうナル程ハ、夜晝ノイトマモアレバ」謠曲、小鍛冶「卽チ壇ニ上リツツ、不淨ヲヘダツル七重ノ注連」 (二)女子ノケガレ。經水。月經。卯花園漫錄(石上宣續)一「近世、江戸[illegible]小女、赤キ切ニテ[illegible]結ハヘ申候、是ハ內裏ニテ、經水ノ女ヲ、別家ヘ被レ遣候ヘドモ、御無人ノ節ハ、七日過候テ[illegible]候ヘドモ、[illegible]赤キ切ニテ結ハヘ申候、是不淨ノ印ナリ」 (三)俗ニ、大小便。殊ニ小便ヲ云フ。

ふじやう (名) [不情] ナサケナキコト。不人情。無情。櫻の林(千家尊澄)二「既焚、子退レ朝曰、云云ノ是非ノ事、カヘリテ孔丘ガ不情ヲアラハセリ、不レ問レ馬ノ二字ヲ削リテヨロシ」

ぶしやう (名) 不精 (一)クハシカラザルコト。精練ナラザルコト。ゾンザイ。ブロウ。フセイ。宋書、曆志「測候不精、遂乃[illegible]之至也」(二)精ヲ出サヌコト。オコタリ

ガチナルコト。ナマケルコト。モノグサ。[illegible]ラ門口デ喧シウ申シテ居ッタレド、イツモ貴公ノ御出下サル時分、今ニ稽シテ下サレウト存ジ、打捨テ置キマシタ、ハテぶしやうナ御人ヂャ」[illegible]「不性サヤ、カキ起サレシ、春ノ雨」名物六帖、二、人品箋、五「懶奴、ブセウナシモベ」

ぶしやう (名) [武將] 軍陣ノ大將、軍ノ大將。又、武道ニ長ケタル大將。漢書、[illegible] 北史、[illegible] 保元物語、一、新院召ニ爲義一事「其上、武將ノ身トシテ、夢見、モノイミナド、アマリニ怖メタリ」

ぶしやう (名) [部將] 一部隊ノ大將。後漢書、[illegible]得レ繫レ獄」

ぶじやう (名) [亡狀] 誤リテ、はうじやう ト訓ム、其條ヲ見ヨ。無狀。[illegible]カバ、臣ハ[illegible]狀ナラント云テ辭セラレ、云云」

ぶしやう-がほ (名) [不請顏] フシャウブシャウナル顏。イヤガルカホツキ。

ぶしやう-ごま (名) [不精獨樂] 「叩カレテ動ク意」こまノ獨樂ノ條ヲ見ヨ。チンタンボウ。[illegible]「思ヒマハセバ、[illegible]」[illegible]トイフハ、ぶせうごまナリ、[illegible]打タネド躍リ、マハル春駒、ソノ判ニ云、ぶせうごまヲ[illegible]ニ引キマハサレタリ、云云、[illegible]ごまナリ、云云、小兒コレヲ廻シテ勝負ヲ挑ム」

ふしやう-ぢ (名) [不[illegible]] [illegible]

ぶしやう-し (名) [無狀子] 性質ノ良カラヌモノ。シャウワル。ワルモノ。ナラズモノ。[illegible]二、人品箋、五「無狀子、セウワル」

ふじやう-にち (名) [不成就日] く、ふじやうぶにち。陰曆ノ上ニテ、萬事成就セズトスル日。小田原記、六、天正十八年「[illegible]數ヲ可ニ引入ニ由議定ス、云云、左馬助トテモ、此事ノ[illegible]スベシ、去リナガラ、十五日ハ不成就日ナリ、十六日[illegible]五日、[illegible]八日、廿八日、廿九日、卯ノ[illegible]日、物ヲシソムルニモ、人ニ物借ヒカケテモ、ふじやう[illegible]テ、何事[illegible]文ニハ見エザルコトト思ヒシニ、難波戰記大全、卷二、評ニ云ク、世ニ不成就日アリ、三二一四六ト次第シテ、正月ニ始リ六月ニ至ル、又七月ニ始リ十二月ニ[illegible]正月ハ、[illegible]日、十一日、十九日、[illegible]如シ、[illegible]、山門、寺門、兒、喝食マデモ、共ニ知ル所ナリト見エタリ、コレラ本說ノ據ナル可シ」

ふじやう-しよ (名) [不淨所] (一)キタナキトコロ。不潔ノ場所。(二)カハヤ。便所。[illegible]

ふじやう-ば (名) [不淨場] 前條ノ語ノ(二)ニ同ジ。

ふしやうぶしやう (副) [不請不請] イヤイヤナガラニ、行フ狀ニ云フ語。ふしやうぶしやう(不承不承)ニ同ジ。

ぶしやうもの (名) [不精者不性者] (佛家ニハ、作用是性トスル故ニ、手足ヲ動カスニ懶キ者ヲ不性者ト云フ) オコタリガチナルモノ。モノグサガルモノ。ホネヲシミスルモノ。ナマケルモノ。 俳諧、佛寶、無性者、懶者ヲ云」 鶉衣、隅田川(享保、近松作)狂女道行「旅ノ疲レノ御悩ミヲ、無性者ヨ強情者ト、蔵シノ爲ニ打ツ杖ノ、當所ニヤ當リケン」

ふじやうもん (名) [不淨門] 江戸時代、大名、旗本ナドノ屋敷ノ練塀ニ造リタル戸板一枚程ノ潜リ門。下肥ヲカツギテ出入シ、又ハ、死者ナドヲ送リ出スタメノモノ。(夜間ノ事トス)

ぶしやうらく (名) [武昌樂] たいへいらく(太平樂)ノ異稱。其條ヲ見ヨ。 倭名抄、四、曲調類「道調曲、太平樂、出時曲調之胡少子武昌樂一也」教訓抄、二「武將太平樂、云云、又、稱武昌樂一也」拾芥抄、上、末、音樂「大食調、武昌樂」

ふしやく (名) [不借] (甚ダ廉價ナルモノナレバ、他ヨリ借リ用ヰル要ナシトノ義) ワラグツ。草履。草鞋。 名物六帖、三、器財箋、五「不借、ワラグツ、中華古今註、不借、蝉履也、云云、漢文帝履不借以視朝、是也」

ふしやなぎ (名) [伏柳] (横サマニ臥シタル形ノ柳ノ樹。 下葉集、一、春、上「浪カクル、立田河原ノ、ふしやなぎ、コズヱハ底ノ、下臺ナリケリ」謠曲、遊行柳「タダヨフ足モトモ、ヨロヨロヨワヨワト倒レ伏柳、假寐ノ床ノ草ノ枕」 毛吹草、五、春「若ミドリ、タツコソ不老、ふし柳」

ぶしやまと (名) [奉射的] 神事ノ奉射ニ用ヰル大的。ぶしや(奉射)ノ條ヲ參見セヨ。 夏山雜談(小野高尙)一「奉射的ヲ常ニ興行セザル故ニ、知ル人、稀ニ成テ、傳授スルコトニナリヌ、京的ナドモ、後ニハ祕傳ス」

ふしゆ (名) [浮腫] 病氣ナドノタメニ、全身、又ハ、局所ノ皮下ノ組織ニ、或液ノ浸ミ入リテ、皮膚ノ腫レ高クナルコト。ムクミ。ハレ。

ふしゆ (名) [符呪] マジナフコト。ノロフコト。 百草露、十六「[illegible]ニハ、符呪ノ符呪アリ、是ヲ神符トモ、靈符トモ、寶符トモ稱ス」

ふじゆ (名) [諷誦] ふうじゆ(諷誦)ノ條ヲ見ヨ。 無量壽經、上「受經法、諷誦持說」庭訓往來、九月「普根本、雖日可致、進諷誦願文」謠曲、自然居士「諸佛十方ノ降臨ニ中シテ中サク、總神分ニ般若心經、ヤ、是ハ、諷誦ヲ御アゲ候カ」書言字考節用集、九、言辭門「諷誦、フジュ、梵云伽陀」

ふじゆ (名) [腐儒] 役ニ立タヌ學者。無用ノ儒學者。クサレ儒者。 史記、黥布傳「項籍死、天下定、上置酒、上折隨何之功、謂何爲腐儒、爲天下安用腐儒」荀子、非相篇「終身不免埤汗傭俗、故曰、括囊無咎無譽、腐儒之謂也」鎌倉將軍[illegible]日記(自笑)一、第二「腐儒ノ智慧自慢、校合ノ違ウタ身代」

ぶしゆ (名) [部衆] 部下ノモノドモ。

ブしゆかん (名) [佛手柑] 芸香科ノ常綠亞灌木ノ名。暖地ノ産、高サ一丈許リ、葉ハ、もくせい(木犀)ニ似テ、鋸齒ナク、香氣アリテ、互生ス、樹ニ刺アリ。花ハ白色五瓣ニシテ、からたち(枳殼)ノ花ニ似、初夏、梢葉ノ腋ニ開キ、實ノ肌、粗ク、柚子ニ似テ長大ナリ、熟スレバ黃ニシテ、香氣多シ、本ハ圓ク、柚子ノ如ク、半ヨリ末ハ細ソク分レテ、指ヲ列ネタルガ如シ、故ニ、手佛手柑トモ云フ、十餘指アリ、初ハ、指ノ末、內ヘ曲ル、後ニハ、直シ、肉ノ色、白クシテ、瓤、核、共ニ無シ。又、まる佛手柑アリ。其條ニ註ス。 香橼、枸櫞、香櫞 書言字考節用集、六、生植門「佛手柑、ブシュカン」注「俗用二枸櫞字」[illegible]八十七、山果類「佛手柑、ブシュカン、枸櫞、香橼、不之由加年」

ふしゆく (名) [巫祝] 神ニ奉仕シテ、祭事、神儀ナドヲ掌ルモノ。ハフリ。カムナギ。カムヌシ。 史記、日者傳「[illegible]」[illegible]

ふじゆく (名) [不熟] (一)熟エヌコト。成熟セヌコト。 禮記、月令篇「仲冬、云云、行ニ冬令、則陽氣不勝、麥乃不熟、民多相掠」「不熟ノ果」 (二)親シマヌコト。「家內不熟」

ふしゆつ (名) [不出] 外ニ出デサルコト。外ニイダサザルコト。 運歩色葉集「不出、フシュツ」「門外不出」

ぶじゆつ (名) [撫恤撫卹] ナデ、アハレムコト。イツクシミ、メグムコト。 北史、源賀傳「賀、云云、治於有、惠政、善撫恤、劫盜息止」

ぶじゆつ (名) [武術] ぶげい(武藝)ニ同ジ。 武技 [illegible]「武術ノ中ニ於テ、弓馬ハ、マタ車輪ノ如シ」夏山雜談(小野高尙)五「武術之進歩、二三百年以來、[illegible]術、砲術、柔術アリ、世ハ次第ニ事多クナリモテ行クナリ、後ニハ又イカナル武術カ起リヤセン」

ふしゆび (名) [不首尾] (一)首尾ノ調和ノ惡シキコト。 好色一代男(天和、西鶴)四「[illegible]盤ト云フ事ハ、銚子ノ下ニ道ヲツケテ、不首尾ナレバ脫ケサスナリ」 (二)不成功ニ終ルコト。結果ノ惡シキコト。 [illegible]「[illegible]立身、今日不首尾」[illegible]

ぶじゆふせは (名) [不受不施派] (法華宗ノ行者タルモノハ、法華宗ノ信者以外ノ者ノ供養ヲ受ケズ、又、他宗他門ノ者ニ施サズト云フ教義ナルヨリ、名、出ヅ」佛教、日蓮宗ノ一派。文祿四年、京都、妙覺寺ノ僧日奧、始メテ唱フ。本宗ト爭ヒシヤバ、德川氏ノ世、元祿年中ニハ、堅ク禁制セラレシヲ、明治九年ヨリ公許セラル。今、本山、妙覺寺、備前國御津郡、金川町ニアリ。悲田派 日蓮宗不受不施派。又、日奧ノ孫弟子、日講ノ唱ヘタル日蓮宗ノ一派ヲ、不受不施講門派ト稱ス。德川時代ニハ布教ヲ禁止セラレシガ、明治十五年、獨立シテ一派ヲナス。本山ハ、同國、同町ノ本覺寺ナリ。日蓮宗不受不施講門派。 御定書百箇條「[illegible]」[illegible]一、元祿四未年四月「口上之覺、日蓮宗之內、不受不施之儀ハ、[illegible]、悲田宗ト號、不受不施之[illegible]付之[illegible]云云」

ふじゆん (名) [不順] (一)常ニ順ハヌコト。(多ク時候ニ云フ) (二)正道ニタガフコト 左傳、僖公八年「子魚辭曰、能以國讓、仁孰大焉、臣不及也、且又不順、遂走而退」孟子、盡心、上篇「伊尹曰、予不狎于不順」 (三)スナホナラヌコト。人ニ逆フコト。 中庸、第廿章「信乎朋友有道、不順乎親、不信乎朋友矣、順乎親有道、反諸身不誠、不順乎親矣」

ふじゆん (名) [不準] 平均セヌコト。平準ナラザルコト。波瀾アルコト。 八木

[illegible]ニユケバ、[illegible]利翁諸ク面白カラネバ、相搗ヲ淋シ、正木モ目結ナシニナリ、不承ノ相搗ニ至ルコトアリ」

ふしよう (名) 扶[illegible] タスケレコト。カヲ[illegible]フルコト。[illegible]」 常磐津、戯猿恵山吹、下「イエ、娘ニハ御座リマセヌ、拙者ガ扶助ヲ蒙リシ、主人ノ息女ニゴザリマスル」

ふしよう (名) [illegible] テツパウ。テツケ。[illegible]

ふしやう (名) 不勝 心地ノスグレヌコト。気分ノヨカラヌコト。不快。微恙。

ふしやう (名) 不承 (不承知ノ略) 常ニ「不承をする」「不承する」ナド云ヒテ、強ヒテ忍ビ背ノ意ニ云フ。[illegible] 世間娘気質(享保、江島其磧)一「ソコヲ御不承ナサレマス代リニハ、コノ御器量ニ千両トイフ土産ガゴザリマス」

ふしよう (名) 鳧鐘 (一)十二律ノ一。(二)鐘 鳧氏ノ鋳造シタリショリ名トス、周禮、冬官考工記「鳧氏爲鐘」[illegible] 朗詠集、下「鳧鐘夜鳴、響徹於暗天之聽」 謡曲、鷺頭寺「タベノ鐘ノ[illegible]ノ松風、オノレオノレトカハレドモ」

ふしやうち (名) 不承知 承知セヌコト。ウケガハヌコト。不承諾。 春花五大力(並木五瓶、大和町賃座宿住の場)「右衛門ノ儀ハ、手前不承知デゴザル」

ふしやうふしやう (名) 不承不承 承知セザルコト。不承知。不承諾。不得心。

[illegible] 春花五大力(並木五瓶)[illegible]事ヤラト、不承不承ノ思入」

ふしやうぶしやう (副) 不承不承 不承知ナガラ強ヒテ。否ミナガラ。イヤイヤナガラ。シブシブ。 大經師昔暦(正德、近松作)中「マ一ツ椊ヲ喰フカト、キメツケラレテ、不承不承ニ掻ヒッポドキ」

ふしやうききよ (感) 不如歸去 杜鵑ノ鳴ク聲。[illegible] 本草「李時珍曰、杜鵑出蜀中、春暮即鳴、[illegible]其聲哀切、若曰不如歸去」

ふしよく (名) 不食 ふしよき(不食)ニ同ジ。

ふしよく (名) 扶植 (説文「扶、佐也」揚子方言「扶、護也」)(一)カバヒテ、植エツクルコト。タスケ、植ウルコト。(二)扶持スルコト。 [illegible]

ふしよく (名) 腐蝕 クサレ、ムシバムコト。クサレ、クヅルルコト。

ふしよく (名) 不職 役目ノツトマラザルコト。職務ニ堪ヘザルコト。[illegible] 名物六帖、四、人事箋、一「不職、ツトマラヌ、行[illegible]」

ふしよく (名) 布褥 ヌノノシトネ。綿布ノ蒲團。 名物六帖、三、器財箋、五「布褥、ヌノフトン、倉典、布褥一味」

ぶじよく (名) 侮辱 アナドリ、ハヅカシムルコト。

ふしよぞん (名) 不所存 考ヘノ足ラザルコト。思慮ノナキコト。 春花五大力(並木五瓶、大和町賃座宿住の場)「傍友ノ交リハ、[illegible]ノ

如クト中スニ違ハズ、[illegible]ク、委ナウ存ジマスル」

ふじよれう (名) 扶助料 (一)生活ヲ扶助スルタメニ、給與スル金錢。(二)特ニ、法定ノ[illegible]官吏ノ遺族ニ、[illegible]給與スル金錢。

ふしるし (名) 不印 事ノ結末ノ、思ハシカラザルコト。不結果。

ふしをがみ (名) 伏拜 遙ニ帝都、神社ナドヲ拜シテ遙ツル地ニ云フ。社ノサシ入リニ、木ヲ横ザマニ倒テテ、其處ヨリ遙拜ス。山城國ノ八幡ノ伏拜、紀州、信夫郡ノ伏拜ナドナリ。(伏見ト云フ地名モ同ジト云フ) 遙拜所 [illegible]

ふしをがむ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 伏拜 平伏シ拜ム。又、遙カニ拜ス。遙拜ス。 平治物語、一、院御所仁和寺御幸事「上西門ノ前ニテ、北野ノ方ヲ伏拜ませ給ヒテ、其ヨリ御門ニ召サレケリ」 竹取物語「ムスメヲ我ニ給べト、ふしをがみ、手ヲスリタマヘド」 太平記、二六、[illegible]事「何時カ我身ノ尾張ナル、熱田ノ八劍ふし拜み」

ふす・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 伏 (一)下ニ隱ル。ヒソム。 書經、大禹謨篇「嘉言罔攸伏」[illegible] (二)下ヘ向フ。ウツブス。俯。 萬葉集、五、貧窮問答歌「アマツ神、仰ギ乞ヒノミ、國ツ神、布之テヌカヅキ」 (三)足ザシ延ベテ、ハラバ

ヒニナル、[illegible]いぬト異ナリ) 臥 [illegible] (四)タフル。倒。(五)ウツブク。俛。 竹取物語「其シテホテオハセネ[illegible]」

ふす[illegible] (一)下ニカクス。蔵ムル。藏ム。 史記[illegible] (二)下ヘ[illegible]努ノ猶[illegible]ヲリ伏テ、寝ネヤスラム、荒キ濱邊ニ」[illegible]コダニ、ナステソト、ノタマヒテ、御カタハラニふせ給ヘリ」 (四)クツガヘス。覆。(五)タフ[illegible] 仆 [illegible]ゲニテ、取ッテふせテ、ヲメカセヨトゾ宣ヒケル」

ふす・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 俯 ウツブス。ヘウツムク。下ヲ向ク。[illegible] 孟子、盡心、上篇「仰不愧於天、俯不怍於人」 神代紀、下「可不試敗、於是俯順衆言」

ふす・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 附 ツク。[illegible]

ふす[illegible]

ふす・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 補 又、ホス。職ニ任ズ。(任ず、ノ條ヲモ見ヨ) [illegible]

事「[illegible]等職ニ補す」貞丈雜記、四、官位之部「[illegible]ヲ被仰付ラバ、補するト云、侍所別當ニ補する、藏人頭ニ補するナド云類也」

ふ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［賦］（一）クバル。割リツクル。莊子、齊物論「狙公賦芧、曰、朝三而暮四、衆狙皆怒、曰、然則朝四而暮三、衆狙皆悦、名實未虧而喜怒爲用」（二）作ル。「詩ヲ」宋潛、歸去來辭「臨清流而賦詩」蘇軾、赤壁賦「釃酒臨江、横槊賦詩」

ぶ-す（名）［附子］（一）ぶし（附子）ニ同ジ。其條、及、とりかぶと（鳥冠）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。（二）毒物ノ一。鳥頭（トリカブト）ノ汁ヲ、日ニ晒シテ、製シタルモノ。狂言記、附子「ぶすト云フテ、人ノ身ニハ大毒ノ物デ、アノ方カラ吹ク風ニ當ッテモ、滅却スルニヨッテ、風ニ當ラヌヨウニ、能ウ番ヲセイ」（三）轉ジテ、惡ミ嫌フ可キモノ。俚言集覽「俗ニ毒ノ事ヲぶすトイフ、因テ人ニモ、甚ダ惡ミ嫌フヲバぶすトイフ」

ぶ-すう（名）［部數］（一）書籍ナドノ部ノ數。（二）部類ノ數。

ぶ-すき（名）［不好］コノマザルコト。タシナマザルコト。好色二代男（西鶴）二「ソノ方ニハ、そば切りハぶすきカ」

ふ-すく（名）［粉熟］［粉粥］〔字ノ音、ふぬぶくノ約。分限（ブゲン）、熟柿（ズクシ）ト同趣〕又、ふんぞく。フンジュク。餅ノ類。點心トス。米粉、麪粉ヲ餅トシ、煮テ、あまづら（甘葛）トコネ合ハセ、筒ニ固ク押シ入レテ、突キ出シ、切リテ用キルモノト云フ。倭名抄、十六、飯餅類「粉熟、以粥[illegible]之」内膳司式「供御、粉熟料」康富記「粉熟」源、四十八、宿木「[illegible]モニテ、ふずく參ラセ給ヘリ」榮花記、五「心ノ旁、[illegible]之後、居ニ[illegible]」

ふすさ-に（副）多ニ。ユタカニ。タクサンニ。萬葉集、十四[illegible]「麻衾ラヲ、麻笥ニ布須左ニ、績マズトモ、アスキセサメヤ、イサセ小床（ヲドコ）ニ」

ふ-すぢ（名）［不筋］スヂミチニ、タガヘルコト。道理ニ、背ケルコト。

ぶす-づら（名）［附子面］毒毒シキ顏ツキ。ニクニクシキ面相。俚言集覽「甚ダ惡ミ嫌フヲバ附子トイフ、マタぶすづらトイフ」

ふす・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ（他動、下二）［燻］〔ふすハ燃ユル音カ〕（一）燃ヤシテ、烟ニ立タス。クユラス。ケブラス。イブス。クスブ。名義抄「薫、フスブ、ヤク、タク」燻、フスブ」源、十二、須磨[illegible]「烟ノイトチカク時時立クルヲ、コレヤアマノシホヤクナラントオボシワタルハ、オハシマス後ノ山ニ、柴ト云フモノふすぶるナリケリ」徒然草、十九段「アヤシキ家ニ夕顏ノ白ク見エテ、蚊遣火ふすぶるモアハレナリ」狂言咄「八瀬ノ竈風呂、云云、黒木ト云フ物ヲふすべケル次デニ、竈風呂ヲ立ツル」（二）革、銀器、ナドヲ烟ニ中テテ、色ヲツクル。イブシヲナス。（三）嫉妬ス。悋氣ヲ仕向クル。妬　源、二、帚木[illegible]「心ヤマシキ問題シニテナン、逢ヒテ侍リシ、ふすぶるニヤト、ヲコガマシクモ、又ヨキフシナリトモ思ヒ給フルニ」蜻蛉日記、上、上十「サカシラスル迄ふすべカハシテ、コノ頃ハ、コトニ久シウ見エズ」後撰集、十三、戀、五「異女（コトヲンナ）ニ物言フト聞キテ、本ノ女ノ内侍ノ、ふすべ侍リケレバ」（四）煙（イブ）シ責ム。（五）火葬ス。茶毘ニ附ス。

ぶす-ぶす（副）（一）物ノフスブル狀ニ云フ語。（二）機嫌惡（ワル）ク、怒ル狀ニ云フ語。

ふすぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［燻］〔前條ノ語原ヲ見ヨ〕（一）〔火燃エタタズケブル。フスムル。フスボル。クスボル。イブル。クユル。古今集、十一、戀、一「夏ナレバ、宿ニふすぶる、蚊遣火ノ、イツマデ我ガ身、下燃エニセン」（二）燻ケ黑ズム。松屋筆記、五、五十六條「彌律松鴎軒記ニ、フモ黑クふすぶリテ、日ノ[illegible]モ赤クウルム也ト云云」

ふすべ（名）［贅］又、ふすべ、瘤（コブ）ノ古名。其垂ルル如キヲ、さがりふすべト云フ。倭名抄、三、[illegible]病類「贅、布須倍、瘤也、佐加利布須倍」名義抄「贅、フスベ、シシノシリ」增補下學集、上、二、支體門「贅、フスベ、フゼイ」

ふすべ-いろ（名）［燻色］フスベタル色。黑ズミタル色。煤ケタル色。[illegible]

ふすべ-うめ（名）［燻梅］梅ノ實ノ核ヲ去リ、黑クふすべタルモノ。藥用トス。烏梅（うめ）（梅）、及、うばい（烏梅）ノ條ヲモ見ヨ。和漢三才圖會、八十六、五果類「烏梅、布須倍宇女」俚言集覽「ふすべうめ、黑クフスボリ乾タルヲ烏梅トイフ也、常ノ干梅ヲバ白梅ト云也」

ふすべ-がき（名）燻柿　澁柿ノ皮ヲ去リ、竈ノ上ナドニ釣リ置キテ、黑ク熟セシメタルモノ。アマボシノ一種。烏柿

ふすべ-かは（名）［燻革］革ノ地ヲ松葉ノ烟ニテ燻ベ、模樣ヲ白ク殘シタルモノ。貞丈雜記、十四、皮類之部「ふすべ革ハ、松葉ヲ火ニ燒キテ、其煙ニテフスベテ、色ヲ付クル也、今世ハ松葉ニ煙草ノ莖ト一色ヲ用フルナリ、革ニ白ク紋ヲ出スニハ、厚紙ニテ紋ヲホリ拔キテ、其ヲソクヒニテハリ付ケテ、サテフスベテ後、紙ノ紋ヲバ、ハギ取ルナリ、其アト白クナル也」太平記、三十一、笛吹峠戰事「彌津小次郎ハ、ふすべ革ノ鎧ニ、同ジ毛ノ兜キテ」增鏡、第十二、老の波「[illegible]（半臂）、紋ナキふすべかは、内ノ大臣（[illegible]）、[illegible]ヲ縫ヒタリ（鎧鞠ノ様）、藤大納言爲氏、無紋ノふすべかは」

ふすべ-がほ（名）［燻顏］［妬顏］憤リ妬（フス）ブル顏色。悋氣ガホ。ふすぶ（燻）ノ條ノ（三）ヲモ見ヨ。源、三十一、眞木柱「大將ノ君、云云、アヤシウ、ワカワカシキナカラヒノヤウニ、ふすべがほニテ、物シ給ヒケルカナ」

ふすべ-ぎん（名）［燻銀］銀ヲ燻ベテ、黑キ色ヲ付ケタルモノ。イブシギン。いぶし燻ノ條ノ（二）ヲモ見ヨ。

ふすべ-こもん（名）［燻小紋］革ナド、小紋ヲ燻ベテ、染メタルモノ。

ふすべ-まり（名）［燻鞠］［薰鞠］フスベ革ニテ造リタル蹴鞠。[illegible]中竹馬記「ふすべ鞠ハ陽也、春夏賞ス、白革鞠ハ陰也、秋冬賞ス」蹴鞠九十九箇條「ふすべ鞠の事、四月初ノコロ、ふすべ出シテ、五月中旬マデ用、又秋ハ紅葉ノ時分、冬ハ雪ノアシタ、春ハ花ノ頃、賞翫シテ蹴也」

ふす・べる（動）燻　ふすぶ（燻）ノ口語

ふすぼ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［燻］〔ふすぶるノ轉、局（ツボネ）、つぶね、贏利（クボサ）、くぶさ〕（一）燃エズシテ、烟ニ立ツ。フスムル。フスモル。クユル。ケブル。クスボル。クスブル。クスモル。イブル。太平記、廿、平泉寺調伏法事「宿老五十人ハ、壇場ノ兩ニふすぼリ返ッテ、怨敵調伏ノ法ヲゾ行ハレケル」古今著聞集[illegible]「[illegible]遺、下「香ノ煙ニふすぼり給ヘル御カタチニ、淚ヲ浮ベサセ給ヒテ」（二）濕氣、又ハ、水氣コモル。ムス。名義抄「烝、フスボル」鬱、フスボル」

ふす-ま（名）［衾］［被］〔臥裳（コスモ）ノ轉カト云ノ、或ハ、臥間（フスマ）の衣ノ略〕寢ヌルトキ、身ノ上ニ被フモノ。方形、長サ、八尺五寸ト云フ。紙ニテ作レルヲ、紙衾ト云フ。古へ、民間ニテハ、皆、用キタリトゾ。倭名抄、十二、衣服類「衾、布須萬」名義抄「衾、フスマ、被、フスマ」雅亮裝束抄、一「御衾ハ紅ノ打タルニテ、クビナシ、長サ八尺、又八幅カ五幅ノ物也」神代紀、下五「于時高皇產靈尊、以眞床追衾（マトコオフスマ）、覆於皇孫天津彦彦火瓊瓊杵尊、使降之」仁德紀、十六年四月「皇后且言、宮垣壞而不得修、殿屋破之、衣被露、何謂富乎」萬葉集、五[illegible]長歌「寒クシアレバ、麻衾（アサフスマ）引キカガフリ」同、十四[illegible]「キヘノ、斑衾（マダラフスマ）ニ、綿（ワタサハダ）多、入リナマシモノ、妹ガ小床（ヲドコ）ニ」鴛鴦のふすまト云フハ、（一）鴛鴦ノ雌雄甚ダ睦

ンテヨリ、男女寢臥ノ床ニ云フ。[illegible]、砧「夫レ鴛鴦の衾ノ下ニハ、立去ル思ヒヲ悲シミ」

(二)[illegible]長方形ニテ、多クハ[illegible]キ縁ヲツケタルコト、今ノ鏡布團ノ如クナリシナラム。(衾障子ト云ノモ、四邊ニ深キ縁アリ)

ふすま (名) 襖 〔紙衾(前條ヲ見ヨ)ニ似タルヨリ云フナラムト云フ、又ハ、衾ニ代ヘテ寒ヲ防グ意カ〕 衾障子ト云フノ[illegible]。紙障子ノ一種、格ノ兩面ニ、紙ヲ貼リ重ネテ作ル。多ク唐紙ニテ張レバ、唐紙障子、略シテ、からかみ。 紙門 [illegible]二、上、居處「衾障子モ、今ハ、ふすま、又タダ唐紙ニテ通用ス、コトバ略ニ過ギタリ」 [illegible] 東海道中膝栗毛(文化、一九)五編、上「次ノ間ノ襖ヲ傳ハッテ行クト、イキアタッタ所ノ[illegible]ヲ引キアクレバ」

ふすま (名) 麩 〔麥ノ被衾ノ義カ〕 古名、[illegible]。小麥粉ノ製セル後ノ皮屑ヲ云フ。[illegible]洗粉トシテ、物ヲ洗ヘバ、能ク脂垢ヲ去ル。又、牛、馬、鷄ナドノ食糧ニ用ヰル。 倭名抄、十七[illegible]小麥皮屑也」

ふすま‐しやうじ (名) 襖障子 〔衾障子(障子)ノ條ヲ見ヨ〕 前條、及、ふすま(障子)ノ條ニツキテハ、ほね、及、ほねばりノ條ヲ見合ハスベシ)略シテ、ふすま。 [illegible] 襖障子ノコトニテ、今イフ障子ハ明リ障子ナリ、サテ又ふすま障子トイフヨシハ、衾ヲヒロゲタランヤウニ張リタル故ナリ」 名物六帖、三、器財箋、三「襖[illegible]

[illegible]、フスマシャウジ」[illegible]云云」

ふすまの‐せんじ (名) 衾宣旨 「衾宣旨ト云フ名目、國史、令式等ニ未ダ見ズ、唯、中世ノ俗稱ナリ、[illegible]ニ限ラズ、俗人ニテモ[illegible]スルヲ、衾ハ[illegible]リテ身ヲ覆フ物ナルユヱ、[illegible]ル者ヲ制セム[illegible]ニ、上ヨリ罪人ヲ覆ヒ給フヲ以テ衾トハ云フ歟、今俗ニ、天ノ網ガカカルト云フ如クノ意歟、其ノ詳、[illegible]屋筆記、七十八)」 吉ヘ、惡法、[illegible]ヲ追捕ス可キ牧旨ノ下知 [illegible] 門葉記、建仁三年、十月十一日「去年於[illegible]」 [illegible]テ、山門ニハ安堵シ難クテ」 元德二年三月日吉社井[illegible]山行幸記「神人、神輿ヲ射奉ル、云云、神人ノ方人ハ猶存、當歎ナリケレバ、早ク衾の宣旨ヲ下サル」

ふすむ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 燻 ふすぶる(燻)ニ同ジ。 天治字鏡、一廿「焇、烟氣也、布須左留」

ふすも・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 燻 ふすぶる 燻ニ同ジ。 字鏡「焇、烟氣也、布須毛留」(一本、毛、在ニ作ル)

ぶしや (名) 附子矢 鳥ノ羽ノ莖ニ、附子ノ毒ヲ塗リツケタル矢。とくきのや(鳥莖矢)ノ條ヲモ見ヨ。

ふすゐ (名) 臥猪 臥シタル猪。かるもかく(枯草掻)ノ條ヲモ見ヨ。 久安百首「戀ヲシテ、ふすゐノ床ハ、マドロマデ、ヌタウチスマス、夜ハノネザメニ」 土御門院御集「谷フカミ、ふすゐノ[illegible]、ウ[illegible]成リユク」 八雲御抄、三、下、獸「ふすゐ、カルモヲカキテヌルナリ」

ふすゐ (名) [illegible] 〔[illegible]〕ノロシ。狼火。烽火。[illegible]

ふずゐ (名) 附隨 ツキシタガフコト。

ぶすゐ (名) 撫綏 (一)ナデ、ヤスンズルコト。[illegible] (二)心ヲヤスンズルコト。安心スルコト。[illegible]

ぶすゐ (名) 不粹 無粹 粹ナラヌコト。意氣ナラヌコト。通ナラヌコト。ブイキ。ヤボ。又、ソノ人。[illegible]粹ノ條ヲモ參見セヨ。 守貞漫稿、九、女扮、上、「今世、江戸ノ嬉女ノ、卑ナレドモ野ナラザルヲ、婀娜(其人ヲアタモノト云)ト云、反之ヲ不意氣、或ハ野暮、京坂ニテハ不粹ト云」 端唄、春は[illegible]「東山、色[illegible]フ夜櫻ヤ、浮カレ浮カレテ、ぶすゐモぶすゐモ物語リ」

ふせ (名) 伏 ふくへい(伏兵)ニ同ジ。 謙信家記、仁田山城攻「伏せヲ置キタルト見申ス事」 大友興廢記、廿、[illegible]合戰事「[illegible]ノ侍大將ト定シテ、一ノふせハ、中里伊豆守、二ノふせハ、後藤近江守、三ノふせハ大森大炊助ニ相定メ」

ふせ (名) 布施 〔梵語、Dāna.(檀那)ノ譯語、又、布襯、挌施ノ略ト、襯、嚫、䞋、皆同ジ〕 增一阿含經「噠嚫」梵語、此云檀施〕 佛、及、僧ニ施ニ與フルモノ。品物ヲ以テ施スコトヲ財施ト云ヒ、敎法ヲ以テ施スコトヲ法施ト云フ。 法界次第「檀那、秦言布施」 大乘義章、十二「言布施者、以己財事分布與他、名之為布、[illegible]己惠人、目之為施」 大智度論、[illegible]「以財寶布施、是名[illegible]布施、以身布施、是名中布施、[illegible]中心不[illegible]」[illegible]是名上布施」 [illegible]とあり[illegible] 五[illegible]「布施[illegible]キテ、[illegible]キテ、[illegible]シメ」 源、三十七、鈴蟲「御誦經ノ

ふせナド、イト所セキマデ、絹ニナンコトヒロゴリケレ」[illegible]

ふせ (名) 伏 束ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。(指ヲ伏セナラベタル幅ノ數モテ、矢ノ長サニ云フ語)[illegible]「[illegible]ふせアルヲ、能引テ放チケレバ」

ふせ‐あみがさ (名) 伏編笠 編笠ヲ眉下マデ深ク被ルコト。我ガ顏ノ、人ニ見エヌヤウニスルナリ。[illegible](寶永、近松作)上「武士ハ、道具ヲふせ編笠ニ、鎌倉ヤウノ編ミ笠シ」

ふせい (名) 不正 (一)タダシカラザルコト。齊整ナラザルコト。不規則。[illegible] (二)直ナラヌコト。曲レルコト。邪ナルコト。不正直。 論語、子路篇「其身正、不令而行、其身不正、雖令不從」 [illegible]トヲ恨ミテ起ス所ノ叛逆ナレバ、君ノ御政ノ不正ヨリ起ル所ナレドモ」

ふせい (名) 賦性 ウマレツキ。モチマヘ。天賦ノ性質。生得。天性。資性。

ふせい (名) 浮世 うきよ(浮世)ニ同ジ。 阮籍、[illegible]「天地[illegible]生、逍遙浮世、與道俱成」 [illegible]「浮世之書中見古人」「浮世如夢」

ふせい (名) 浮生 ハカナキ生活。又、ハカナキ人生。 [illegible]「浮生若夢」[illegible] ノ道心ダニ進ミ通ルモノナラバ、浮生ノ榮華ヒラケテモ、幾程カアランナレバ」

（前頁ヨリ続キ）…ヲ呼ブ稱。古詩、焦仲卿妻、詩「府吏聞此變、因求假暫歸、未至二三里、摧藏馬悲哀、新婦識馬聲、躡履相逢迎、悵然遥相望、知是故人來、擧手拍馬鞍、嗟歎使心傷」…

ふ-せい（名）|夫壻| ヲット。又、妻ガ夫ヲ呼ブ稱。古詩、焦仲卿妻、詩「…〔中道還〕兄門。…」

ふ-せい（名）|風情|（一）ケシキ。趣致。方丈記「跡ノ白波ニ身ヲヨスル朝ニハ、岡ノ屋ニ行キカフ船ヲナガメテ、滿沙彌ガ風情ヲヌスミ」花傳書別紙口傳（世阿彌）「口傳ニ曰ク、音曲、舞、働、振、風情、コレマタ同ジ心ナリ」（二）サマ。ヤウス。ヤウス。平家物語、一、鱸事「似ルヲ友トカヤノ風情ニテ、忠盛ノ好イタリケレバ、此女房モ優ナリケリ」謠曲、羽衣「…地ニヒレフシ、穴ヘモ入リタキ風情ナリ」（三）ナドヤウノモノ。平家物語、十二、土佐房被斬事、長持、云云、黄金、卷物、染物ふせいノ物ヲ入レテ奉ラル」徒然草、五十四段「風流ノ破籠ヤウノ物、箱風せいノ物ニシタタメ入レテ、雙ノ岡ノ便リヨキ所ニ埋ミオキテ」（四）ナドヤウノヤカラ。又、タグヒ。卑メテ云フ。海人藻芥、中「近時禪家竝時宗風情ノ輩、坊中ノ具足ヲ令結構」 抑樹、七編「下女ふせい、ナドト陝ズル、若旦那」

ふ-ぜい（名）|賦税|〔急就篇（漢、史游）「斂財日賦、斂穀曰稅」〕稅ヲ課スルコト。運上ヲカクルコト。又、ソノ租稅。書經、禹貢篇「厥賦、惟上上錯」疏「九州賦役、義亦不行」史記、田敬仲完世家「田常子乞、事齊景公爲大夫、其收賦稅於民以小斗受之、其粟予民以大斗、行陰德於民」

ぶ-せい（名）|不精無精| オコタルコト。ブシャウ。怠惰。浮世風呂（文化、式亭三馬）二、編、上「毎日ヨク稽古ニオ通ヒナサリマス、云云、ヤレサラヘ、ソレサラヘト申シテ、ヤウヤウサラヒマス、兎角無精デコマリマスヨ」

ぶ-ぜい（名）|無勢| 人數少キコト。小人數。小勢。寡。平治物語、一、從六波羅紀州被立早馬事「多勢ヲ以テ無勢ヲ討ツコト、常ノ事ナリ」平家物語、七、篠合戰事「六千餘騎防ギ戰フト雖モ、多勢ニ無勢、叶フベシトモ見エザリケリ」

ぶ-せい（名）|蕪菁| かぶらな（蕪菜）ニ同ジ。〔急就篇、注「蕪菁、一名葑、一名芥」、說文、一曰、〈蕪菁〉」〕本草、蔓菁也、（亦）云云、二音、阿乎奈、云云、下體、加布良、下體、根莖也」

ふ-せい-こう（名）|不成功| 成功セザルコト。結果ノヨカラザルコト。

ふ-せい-さん（名）|不生産| 直接ニ生産ニ關係ナキコト。又、生産セザルコト。

ふ-せい-しゅつ（名）|不世出|〔常ニ世ニ出デザル義、史記、淮陰侯傳「略不世出也」淮南子、秦族訓「夫欲治之主不世出」ナドニ本ヅク〕世ニ稀ナルコト。滅多ニ無キコト。稀世。希有。非凡。漢書、伍被傳「夫吳太子、知略不世出、非常人也」傳休奕詩「管鮑不世出、結交安可爲」

ふせい-ひん（名）|不正品| 不正ノ方法ニヨリテ、得、又ハ、製シタル物品。ゴマカシモノ。

ふせ-いほ（名）|伏廬| 地ト軒トツキテ、苫ヲ伏セタル如キ廬。土民ノ小屋。フセヤ。萬葉集、五、長歌「布勢伊保ノ、マゲイホノ內ニ、ヒタツチニ、藁トキシキテ」

ふ-せう（名）|不肖|〔肖ハ似ル義〕（一）人ノ、物ニ肖ザルコト。漢書、刑法志「人肖天地之貌」注「肖似也、不似則謂之不肖」言其狀貌無所象似、類古貌字」（二）人ノ、父ニ似ザルコト。不似。史記、五帝紀「堯知子丹朱之不肖、不足授天下」（三）才智ノ劣レルコト。オロカ。不才。中庸、第四章「賢者過之、不肖者不及也」淮南子、主術訓「今夫朝廷之所不擧、鄉曲之所不譽、非其人不肖也、其所以官之者、非其職也」保元物語、一、官軍方方手分事「大將ト覺シキ者、云云、貝鞍置イテ乘ッタリケルガ進ミ出デ、身不肖ニ候ヘドモ、形ノ如ク系圖ナキニシモ候ハズ」（四）フシアハセ。不運。不遇。曾我物語、四、十郎元服ノ事「身ノ不肖ナルニツケテモ、ナホ人ノ下ニ居ンコトノ口惜シケレバ、鎌倉殿ニ元服シテ、曾我ノ苗字ヲ取リ、曾我十郎祐成トゾ名乘リケル」

ふ-せう（代）|不肖| 前條ノ（三）ヨリ轉ジテ、己レガ身ヲ、才鈍シト卑遜シテ、自稱ノ代名詞。蘇軾、與陳傳道書「某苦乃有逢不遇之說、甚非所以安全不肖也」

ふ-せう-くゎ（名）|不消化| 消化セザルコト。コナレザルコト。モタルルコト。

ふせう-ながら（副）|乍不肖| 見カケニヨラズト、身大ニ構ヘテ云フ語。愚ナリト雖モ、憚リナガラ、斯ウ見エテモ。春色五大力（三）「聞ゆる…ノ…ヤカマシイワエ、身ふせうながら、阿兄ヨリ指圖ヲ受ケ、大切ナ…ニ參リ候身共」

ふせ-がさ（名）|伏笠| 笠ヲ前下リニ被リテ行クコト。人目ヲ憚ルタメ、又ハ、身ヲ潛ムル人ナドノスルコトナリ。ねざめ草「西ニカタブク月サヘモ、誰レニ人目ヲ忍ビテヤ伏笠ヲメス」伊勢踊（寬文）「ふせ笠ヤ、淺ウテウルサキ、人時雨」葉の一本（天和）「知ル人ノ、見ルコトモヤハ、熊谷笠ヲふせテカブリ」

ふせ-がね（名）|伏金|（一）金具ノ平タキモノノ稱。ヒラガネ。鍱。（二）佛具。たたきがね（鉦）ニ同ジ。

ふせ-かまり（名）|伏屈| 忍ビノ斥候。（小勢ノ場合ニ云フ）芝見。フシカマリ。松屋筆記、十一、第四十條、一、淺井物語五ノ卷、淺井新三郎、上坂、今濱兩城ヲ破却シ、小谷山ニ城ヲコシラフル事ノ條ニ、山峰ソバダチテ、伏かまりヲ置クニモタヨリヨシ、云云、按ニ、ききかまりトモ云ヒテ、敵ノ來ルヲウカガフ者ヲイヘリ」

ふ-せき（名）|附籍|（一）他ノ戶籍ニ附屬シテアル戶籍（二）戶籍簿ニ附載スルコト。大寶令、戶令「凡浮逃、云云、若…附貫也」新附貫也」

ふ-せき（名）|浮石| かるいし（輕石）ニ同ジ。本草、輕石、…浮石若」

ふせぎ（名）|防禦| フセグコト。コバムコト。又、フセグモノ。防禦。天智紀、元年十二月「今所以不遷者、…山峻高而谿隘、守易而攻難之故也」（通釋本）

ふせぎ-ば（名）|防場| 防禦ノ場所。太平記、十、鎌倉合戰事「鎌倉ナニ、防ギ場、戰所ナリケレバ、打出打出、相支ヘテ戰ヒケル」

ふせぎ-や（名）|防矢| 敵ノ襲來ヲ防禦セムトテ射ル矢。平家物語、九、木曾最期事「ココニ射殘シタル矢七ツ八ツ候ヘバ、暫ク防矢仕リ候ハン…、云云、廿七、…本田…返合セ返合セ戰ケレドモ、…ナレバ、只身ヲ助ケント計ノ防矢ニテ、西ヲサシテゾ落行ケル」

ふせ-ぐ・ぐ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（他動、四）|防禦拒距|〔塞ぐ、ニ通ズ〕（一）侵サシメジト、守ル。他ノ入ルヲ拒ム。ホセグ。論語、子張篇「人將拒我、如之何其拒人也」孟子、萬章、下篇「今有禦人於國門之外者」後漢書、應劭傳「舊制宿衞、畏夜作、以防火災」晏子春秋、內篇、問下、第十三「夫儒、滑于君之側、距于朝之外」神代紀、上「不逐讓、竝、如何乞宿於我」 神代紀、上「若不讓之歟、神代紀、上「…」欽明紀、五年十一月「若不遣南韓郡領城主、修理防護、不可以禦此強敵」神代紀、上「解帶十握劍、九握劍、八握劍、又背上負靫、又臂著稜威高鞆、手提弓箭、親迎防禦」（二）サヘギリ、トドム。源、十五、蓬生「雪霰ガチニテ、外ニハ消ユル間モアルヲ、朝日夕日ヲふせぐヨモギムグラノ蔭ニ、深ウツモリテ」雄略紀、九年三月「新羅、云云、阻高麗之貢、吞百濟之城」

ふせ-ぐみ（名）|伏組| 蛇ばら（蛇腹）ノ

…ノ(一)ヲ見ヨ」 [illegible] 人ハ、組ヒモノ、羅ナド、袖口ニオキ口ヲシ、白ガネノたたノ緒シテふせぐみシ、袖ニシ経ギアヘリ」 後松日記、十七「力革ノコト、鐙トヒトツモノニテ [illegible] 、心ニマカスヘシ、伏組ハスルニ及バズ」

ふせご (名) 伏籠 (一)籠ヲ伏セテ、上ニ衣ヲ被ヒテ、内ニ香爐ヲ置キ、香ヲ薫キシムルモノ。薫衣ノ籠。タキモノノコ。[illegible] 衣、又、火ニアテテ乾カスニ用ヰルモノアリ。アブリコ。 貞丈雑記、八 [illegible] ふせごト云フハ [illegible]、竹ニテ籠ヲ作リ、紙ニテ張リ、所所ヘ穴ヲアケタル物也、火鉢ノ上ヘ、右ノ籠ヲ覆ケテ、衣服ノシメリ [illegible] 名也」 源、五、若紫「雀ノ子ヲイヌキ(童ノ名)ガ逃シツル、ふせごノ中ニ籠メタリツルモノヲトテ、イト口惜シト思ヘリ」 所花抄「鳥ヲ入ルル籠モイヘルヤ [illegible] ニホフ、ふせごノ下ノ、埋火ニ、春ノ心ヤ、マヅ通フラン」 (二) [illegible] ヒトリ [illegible] 八、度之部「類聚雑要抄ニ、火取籠トイフ物アリ、此ノ火取籠ノふせごトイフ物(火取籠ハ木ニテ作リ [illegible]) [illegible] 火取籠ハ、カゴヲ伏セタル如キ故、ふせごトイフ歟」

ふせぜい (名) 伏勢 軍勢ヲ、敵ノ心付カヌ地ニ待チ伏セニ置キテ、機ニ乗ジテ、不意ニ襲ハシムルモノ。フクヘイ。伏兵。 名物六帖、二、人品箋、一「伏甲、フセゼイ、伏士」 信 [illegible] ニト切リカクル、悲シヤ伏勢、ヤレ逃ゲヨト、云云」 俳諧新選「伏勢ノ、袖引キ合フヤ、ホトトギス」

ふせだけ (名) 伏竹 木ニ竹ヲ膠シテ合ハセ作レル弓。後ニハ弓ト云フモノ、専ラ是レナリ [illegible] 古ハ丸木ノミナリシガ、後ニテ、丸木ノ外ニノミ竹ヲ伏セタルニ、中古ニ至リテ、内外イヅレモ竹ヲ伏セ作ルコトトナレリ。 新六帖、五「梓弓、末マデトホス、ふせ竹ノ、避レ難クモ、契ル中カナ」

ふせだま (名) 伏玉 〔隠シ置クシロモノノ義〕 江戸ノ方言ニ、女郎、妾者等ヲ指シテ云フ」 江戸ニテ、本所、深川ノ私娼ノ異称。安永頃ヨリ天保ノ末頃マデ、又、茶屋ニ出向キテ客ニ接スル遊女ヲ、呼ビ出シト云フニ對シテ、自家ニ客ヲ引キ入ルルヲ、ふせだまト云フ [illegible] ふせだまトイフ [illegible] 也」 天保の川柳「伏玉モ、雲カラ上ル、ノロシノ日」(両国川開ノ日ヲ云フ、笑ふ女)

ふせつ (名) 浮説 (一)ネナシゴト。根據ナキウハサ。流言。浮言。 東方朔、七諫 [illegible] (二)人ヅテニ知ルモノゴト。評判。トリサタ。 [illegible] 浮説ニ依リテ承リ侍リ」 徒然草、百六十四段「世間ノ浮説、人ノ是非、自他ノタメニ失多ク得少シ」

ふせつ (名) 誣説 事實ヲ誣ヒ詐リタルウハサ。イツハリノ風説。誣言。

ふせつ (名) 布設 敷設 シキ、マウケルコト。地ニ作リツクルコト。構ヘ設クルコト。「鐵道ノ布設」敷設水雷」

ふせつ (名) 符節 〔釋名「符、付也、付使傳行之也」節、赴也、執以赴君命也」〕 わりふ(割符)ニ同ジ。符契。 周禮、地官 [illegible]

[illegible]

ふせつ‐すいらい (名) [illegible] 水雷 [illegible] (水雷)ノ條ヲモ見ヨ。

ふせづる (名) 布施弦 昔、越中國、射水郡(今、氷見郡)、布施ヨリ産ズル弓弦。 [illegible] せきつる、同國 [illegible] 貞丈雑記、十 [illegible] 「[illegible] ふせづるモ候、せきづるモ候」

ふせてふ (名) 臥蝶 又、ふせんてふ。布帛ノ模様ノ名。蝶ノ臥シタル形ヲ圓ク圖ス、臥蝶ノ丸ト云フ。コレヲ浮線綾ニシタルヲ、浮線綾の丸ト云ヒ、又、圓織トモ云ヒ、更ニ畧シテ、浮線綾、丸トモ云フ。 名目抄、衣服「臥蝶、冬直衣、又同下重」 羽倉考、二「冬ノ下襲ノ文、所謂浮線綾者可レ爲二臥蝶ノ轉訛之事、冬ノ下襲ノ文ノ、名目抄ナトニ、臥蝶トアリ、云云、飾抄、桃花蘂葉以下ニハ、浮線綾ト書リ、浮線綾ハ、地合ノ名ナレバ、其義合ハズ、[illegible]、名目抄ニふせんてうト點シ、古來、ふせんト名目シタルガ故ニ、例ノ借音ヲ用ヒテ、後稱念院装束抄ニハ、浮線蝶トシテ書キ、云云、[illegible] アル故ニ、是ト混ジテ、終ニ語ヲ訛レルナルベシ」

ふせどひ (名) 伏樋 シタビ。ウヅミビ。土中ニ伏セ埋メタル樋。暗渠。陰溝。

ふせどり (名) 伏鳥 狩猟上ノ語。空中ヲ飛翔スル鳥ヲ射ルヲかけとりト云フニ對シテ、地上ニ伏シ隠レタル雉子、鴨ナド射ルヲ云フ。轉ジテ、雉子、鴨ノ

[illegible] 鳥、ふせ鳥トイフコトアリ、ふせ鳥トハ、雉子、鶉ナラデハ、伏鳥トイハヌナリ、[illegible] 二見エタリ、コノ二ツノ鳥ハ、其鳥ノアタリヲ馬ヲ乗リマハセバ、驚キテ地ニ伏スナリ、伏セテ置キテ射ルナリ」 [illegible] 書「ふせ鳥、かけ鳥ヲイル時ハ、カブラ、カリマタニ [illegible]」

ふせぬひ (名) 伏縫 [illegible] ウニヌフコト。 狂言記、布施無経「イッソ此ノ穴ヲフセ縫ガウ、ふせ縫ひニ致サウト存ジマシタ」

ふせ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) イタル。オ [illegible]

ふせん (名) 符瑞 〔後漢書、李通傳、贊 [illegible]〕 [illegible]

ふせん (名) 膚淺 [illegible] 膚不レ深也」 せんぱく(淺薄)ト云フニ同ジ。 [illegible]

ふせん (名) 不宣 〔述ベ [illegible]〕 不悉、不具、不備 [illegible] ノ末尾ニ [illegible] 不宣、不具 [illegible] 不乙(不一)ナド同ジ。又、不一ハ、不二一一ノ略ナリ、句句ハ草草ト同ジ [illegible] 詳ニスルコト能ハズトノ意ナリ。 南嶺日記、四「今書牘ノ結尾ニ、不備、不宣、不具、不一ナド書ケリ、其始ヲ記ス、云云 [illegible] 再拝、此正不宜識之所二從出一也」

ふせん (名) 附箋 [illegible] 其他、重要ナル箇所ナドニ、用件ヲ記シテ、貼リ

附クル紙片。ツケガミ。サゲガミ。ハリガミ。紙簽。簽貼。

ふ-せん（名）［布泉］〔周禮、天官、泉府、注「布、泉也、其藏曰レ泉、其行曰レ布、取‐名於水泉、其流行無‐不‐偏也」〕ぜニ。錢。貨泉。刀布。せん（泉）ノ條ヲモ見ヨ。後周書、武帝紀「保定元年更鑄‐錢、文曰‐布泉、以一當‐五、與‐五銖‐並行」

ふ-ぜん（名）［不善］ヨカラヌコト。邪ナルコト。道ニソムクコト。不良。非。書經、伊訓「作‐上帝不‐常、作‐善降‐之百祥、作‐不善降‐之百殃」大學、第六章「小人閒居爲‐不善、無‐所‐不‐至」論語、述而篇「德之不‐脩、學之不‐講、聞‐義不‐能‐徙、不善不‐能‐改、是吾憂也」

ぶ-せん（名）［夫錢］武家時代ノ制ニ、夫役ニ出デザル者ノ、代償トシテ納付セシメラレタル錢。丁錢。北條五代記、四、北條氏政百姓憐愍事「世澆季ニオヨビ、武欲フカフシテ、百姓年中ノ耕作ヲ捨地シ、四ツモナキ所ヲバ、五ツトイヒカケテ取、此外、十錢、棟別、野山ノ役ヲカケ、アラユル程ノ物ヲ押テ取、云云」

ぶ-ぜん（名）［奉膳］又、ぶんぜん。ほうぜん。古ヘ、内膳司ノ長官ニテ、オモノ（御膳）ノ事ヲ掌ルモノ。古クハ二人、後、一人トナル。職員令「内膳司、奉膳二人、掌下摠‐知御膳‐進‐食先嘗事上、典膳六人、掌下造‐供御膳‐調‐和庶味‐寒温之節上」職原抄、上「内膳司、正一人、奉膳一人、近代奉膳乃爲‐正、高橋氏相傳任‐之」

ぶ-ぜん（副）［憮然］〔廣韻「憮然、失‐意貌」〕茫然ト自失シ、又、驚愕スル狀ニ云フ語。論語、微子篇「夫子憮然曰、鳥獸不‐可‐與同‐羣、吾非‐斯人之徒與‐而誰與」孟子、滕文公、上篇「夷子憮然爲‐閒、曰、命‐之矣」

ふ-せんぎ（名）［不僉議］センギセザルコト。考ヘノ至ラザルコト。思慮ノ不足ナルコト。常山紀談（湯淺常山）二「是ハ、其主君ノ不僉議ナル可シ」（某侯ノ家士、無刀ニテ狼藉者ヲ取押ヘタルヲ、侯其勇ヲ稱セズ、却テ無刀ナリシヲ咎メテ、暇ヲヤリシヲ云フ）

ふ-せんぎ（名）［不詮議］トリシラベザルコト。吟味セザルコト。

ふ-せんさく（名）［不穿鑿］穿鑿セザルコト。考究セザルコト。調査ノ疎漏ナルコト。鳴呼矣草（田宮仲宣）五、百十條「辛、苦、酒ナリ、云云、酒ハ欺く、怠るト訓ム字ナレバ、殊ニ書肆ノ曖廉ナドニ杢ノ字ヲ書クコトハ、イカガアラン、云云、書スル程ノ人ノ不穿鑿トイフベシ」

ふぜん-にん（名）［不善人］ヨカラヌ人。不良ノ人。惡人。尹文子、大道、上篇「善人之與‐不善人、名分日離、不‐待‐審察‐而得‐也」

ふせん-てふ（名）［臥蝶浮線蝶］ふせてふ（臥蝶）ノ條ヲ見ヨ。名目抄「臥蝶、フセンテウ」貞丈雜記、一「コノ紋ハ臥蝶ナリ、云云、當世ノ呉服商人ハ、浮線蝶トイヘリ」

ふせん-りょう（名）［浮線綾］（一）浮織ノ綾織物。榮花物語、二十七、煙の後「薄キウナタルふせんれうノ上衣」我衣、三、下「蘇方ノ上衣ト云モノ、イト濃キヨリ、薄クヽヒタル上ニ、唐ノふせんりょうノ、白キヤウナル藤ノ菊ノ、枝ザシヨリハジメ、ウツロヒタルニモ、色色ニ織浮カサレタルモ、云云」後西園寺相國記（文永）「上皇（龜山院）出御、御裝束、浮線綾、白御衫衣、文、松唐草」（二）誤リテ、臥蝶の丸。ふせてふ（臥蝶）ノ條ヲ見ヨ。三條家裝束抄、直衣事「春冬面シジラ綾、文浮線蝶圓」古今沿革考、柏崎永以「浮線綾トハ、官家ノ袍、下襲、直衣、表袴等ニ付ル紋ナリ、昔ハ臥蝶トテ、蝶トイフ蟲ヲ伏セタル形ナリ、今ハ唐草ノヤウニ作レトモ、モトハ、蝶ナリ、故ニ浮線蝶トモイフ、之ヲ轉ジテ、浮線綾トハ云ヘリ」

ふせんりょう-まる（名）［浮線綾丸］ふせてふのまる（臥蝶丸）ノ誤。ふせてふ（臥蝶）ノ條ヲ見ヨ。

ふせ-や（名）［伏屋］屋根ヲ地ニ打伏セタルガ如キ低キ家。賤民ノ家。萬葉集、三四十長歌「伏屋立テ、妻トヒシケム、葛飾ノ、眞間ノ手兒ナガ、オクツキヲ」千載集、三、夏「市晴ルル、眞間ノ手兒ガ伏屋ノ、板間ヨリ、月ゾモリ來テ、袖ヌラシケル」

ふせ-や（名）［布施屋］王朝時代ニ、驛路ノ諸所ニ設ケタル、行旅者ノ接待所、又、無料宿泊所。（飲食ヲモ供ス）官立アリ、私立アリ。行基年譜「山城國、乙訓郡、大江里、泉江布施屋」續日本後紀、六、承和二年六月廿九日、太政官符「布施屋一處、右造立尾張兩國境墨俣河左右邊」同、十七、承和十五年三月廿一日、太政官符「愛甲高座二郡（相模）五間布施屋一字」

ふせや-たき（枕）［伏屋焚］すすし（伏屋ニテ火ヲ焚ケバ煤ケルヨリ）ニカクル枕詞。萬葉集、九、長歌「ウナヒ壯士ノ、伏屋焚キ、ススシキホヒテ、相結婚、シケル時ニ」

ふせ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［伏臥］臥すニ同ジ。推古紀、廿一年十一月「皇太子遊‐行於片岡、時飢者臥‐道垂、仍問‐姓名、而不‐言、皇太子視之與‐飲食、卽脫‐衣裳、覆‐飢者‐而言、安臥也」伊勢物語、四段「アバラナル板敷ニ、月ノ傾クマデふせりテ」大和物語、下「コレヲ思ヒ死ニ傍ニふせりテ死ニケリ」沙石集、三、下、第六條「此子、云云、父トハ都テ寢候ハデ、母トノミふせり候」

ふせ・る（動）伏す（他動、下二）ノ口語。

ふ-そ（名）［父祖］（一）父ト、祖父ト。（二）先祖。祖先。晉書、陸機傳「機曰、我父祖、名播‐四海、寧不‐知耶」（父祖ノ清譽）

ふ-そ（名）［扶疏扶疎］樹木ノ枝葉、繁茂スルコト。漢書、武五子傳「枝葉扶疏、異姓不‐能‐間也」司馬相如、上林賦「垂條扶疏、落英幡纚」

...文選、柳賦「上扶疏以猗散、下交錯而龍鱗」朗詠集、下、山水「草木扶疎、春風梳‐山祇之髮」

ふ-そう（名）［敷奏］〔書經、舜典、傳、註「敷、陳也、奏、進也」〕事ヲ主上ニ奏聞スルコト。書經、舜典篇「敷奏以‐言、明試以‐功、車服以‐庸」後漢書、桓榮傳「每‐朝會、輒令‐榮於‐公卿前‐敷‐奏經書上、帝稱‐善」

ふ-そく（名）［不足］（一）足ラヌコト。缺ケタルコト。不十分。淮南子、本經訓「振‐困窮、補‐不足、則名生、興‐利除‐害、伐‐亂禁‐暴、則功成」世說、德行、上篇「禰、不足ハ天之道也」世間息子氣質（正德、其磧）四「三五ノ十八ハラリト違ヒテ、次第増ノ不足ツモレバ、大キニアク所アリテ」（二）モノ足ラヌコト。アキタラヌコト。不滿足。平治物語、一、信賴信西不快事「カクノミニテ過分ナリシカドモ、ナホ不足シテ、家ニ絶エテ久シキ大臣、大將ニ、ノゾミヲカケテ」（三）かたは。不具。春花五大力（並木五瓶）洲崎茶屋遊の場「親ガ滿足ニ生ミツケタ五體ノ指、ソレヲ不足サシテノ其方ガ禮、承知シタ」

ふ-そく（名）［不測］ハカラレザルコト。ワカラヌコト。知レヌコト。フシギ。史記、袁盎傳「陛下從‐代乘‐六乘傳‐馳‐不測之淵」淮南子、精神訓「出‐入無閒‐役‐使鬼神‐淪‐於不測‐入‐於無閒‐以‐不‐同形相傳‐也」

ふ-そく（名）［附則］或規則ニ、附加セラレタル規則。

ふ-ぞく（名）［風俗］ふぞくうた（風俗歌）ノ略。諸國ノ風俗ノ謠物。今樣ノ類。ふぞくうた（風俗歌）ノ條ヲモ見ヨ。枕草子、十一、百三十五段「ウタハ、風俗ノ中ニモ、杉タテタル門、云云、ふぞく、ヨクウタヒタル」教訓抄、六、取諸芸術「ヒ以ヲウタフ、笛笛ヲ付ク、太鼓ヲ打、云云、風俗ニ太鼓ヲ打事、普通ナラヌ事也」（大鳥ハ風俗歌ノ一）

ふ-ぞく（名）［附屬］（一）ツキ從フコト。

又、其物。孺堤雜話(德川時代)ニ「武士ニ勿論スル者ハ、タトヒ雜人タリトモ、不義ニ與フル爪牙ナクンバアル可ラズ」(二)傳授スルコト。又、[illegible] 生流等「一心ニ觀ノ血脈相承ヲ授ケラル、此法八識ヨリ次第ニ相傳シ來レルヲ、今日ノ僧ニ授ケラル」

ふぞく (名) [illegible] 部下ノヤカラ。手下ノモノドモ。

ふぞく (名) [illegible] 附ケ分チテ、ソレニ屬セシムルコト。クミ。[illegible]

ふぞくうた (名) 風俗歌 又、ふうぞくうた。古代ノ諸國ノ流行謠。之レヲ歌フヲ、笛ナド加ヘテ、諸國ニ傳習セシメタノ。又、踐祚ノ大嘗會ニ、悠紀國、主基國ノ奏スル歌ヲモ云フ。略シテ、ふぞく。今、風俗歌一卷アリ。多クハ東ノ民謠ニシテ、二十五曲、二十六首ヲ載ス。[illegible]

ふぞくまひ (名) 風俗舞 大嘗會ノ時、風俗ノ歌ヲ唄ヒテ、奏スル舞。後紀、廿[illegible] 隼人云云、奏二風俗歌舞一(主基亦同)」

ふそん (名) 不遜不孫 (正韻「遜、順也、謙恭也」集韻「孫、與遜同」) 謙遜ナラザルコト。ヘリクダラザルコト。書經、舜典「[illegible]不遜」[illegible] 論語、陽貨篇「唯女子與小人爲難養也、近之則不孫、遠之則怨」

ふそりかぜ (名) 疝氣 せんき(疝氣)ニ同ジ。其條、及、せん(疝)ノ條ヲモ併ハセ見ヨ。[illegible] フソリカゼ、下聖」

ふぞろひ (名) 不揃 ソロハザルコト。[illegible]ナラザルコト。[illegible]

ふた (名) 蓋 (一)〔容器ノ一部。上ロニカブセテ、身ヲオホフモノ。又、ふたアル器物ヲ、ふたものト云フ。字類抄「蓋、フタ」和漢三才圖會、三十二、家飾具「蓋、盍同、覆也、俗云二不太一」源、五十一、蜻蛉二十「氷ヲモノノふたニオキテワルトテ」赤染衛門集「手箱ノふたニ[illegible]レテオコセテ、云云、ソノふたニ書キツケテヤリシ」(二)〔螺貝類ノ上ロヲ塞グ扁圓ナルモノ。ヘナタ。靨。[illegible]乃布多」(三)すっぽん(鼈)ノ異名。圓キコト、錢金ノ蓋ノ如キ故ニ云フ。まる。[illegible] 浮世風呂(文化、三篇)二、上「麥飯カト思ッタラ鼈カエ、オオ氣味ノワリイ、江戸ヂャアネ、鼈ヲ、シャレテ、蓋トイヒヤスヨ、云云、蓋トハ、マア、ナンコ、チャイナ、蓋ノヤウダカラ蓋サ、上方ノ丸トハナゼダネエ」

ふた (數) 二兩雙 一ヲ倍ニシタルカズ。フタツノ。仁德紀、廿二年正月、皇后[illegible]「衣コソ、赴多ヘモヨキ、サヨ床ヲ、ナラベム君ハ、カシコキロカモ」[illegible]十三、[illegible]「ウキモノト、又イトフトモ、ワカレヂニ、ふたタビミバヤ、有明ノ月」[illegible]「ふた月バカリ、別レケリ」

ふだ (名) 札 [illegible] 〔ふみた(文板)ノ音便ナルふんだノ略。ふんで(筆)、ふで、あんふい(案內)、あふい、かんな(假名)、かなノ類〕 (一)〔事ヲ記シツクルニ用ヰル木ノ小板。又、紙片。フミタ。フン[illegible]

[illegible] ヲ見レバ書ケルコト、云云」(二)神佛ノ靈ノ[illegible]コモレルト云フ[illegible] 二、札守ト云事ハ諸社諸寺有レ之、宗廟、又餘社、大社、[illegible] シ、云云、サレドモ年中門戸ニ貼シ、或ハ、屋神宮ニ安ジ崇フ事、亦深ク有レ以也」甲陽軍鑑、十一、下、品[illegible] ベク候」(三)高ク掲ゲテ、公衆ニ示ス記事ヲ書ケルモノ。[illegible]タテフダ。高札。掲示札、[illegible]札ナド。[illegible] ツキ、[illegible]テウト存ズル、マツ札ヲアゲマヽセウズ、一段札ナリ見事ニゴザル」羈旅漫錄(馬琴)中、第八十條「京ニテ[illegible]ノ札ハ、必ズ子供ニ[illegible]セテ、札ヲ[illegible]」(四)[illegible] ゐり(千社參ニ用ヰル紙札 其條ヲ見ヨ。ミフダ。[illegible]」(五)通過、又ハ、入場ノ權利ヲ證明スルタメノフダ。鑑札、手形、入場券、木戸札ナド。冥途飛脚(正德、近松作)中「[illegible]カラ[illegible]ガデラレマセヌ」(六)附箋、質札ナド。用箱(種彦)中、第十六條「昔ハ、質屋ニ看板アリ、[illegible]ノ駒ノ形シタル板ヲ紐ニテ釣リ、其板ノ上ニ質札ノ反故ヲ、紙ノ趣ハタキノ如ク束ネタルモノナリ、云云、近キ假名草紙ノ挿ニモ折折見ユレド、板札ヲカキタルハ稀ナリ」(七)〔に、きっぷ、ふだ〕 日給簡ニ同ジ。宇津保物語、初秋「[illegible]ナルヒダマヒノふだニ、內侍ノカミニナスコシ書カセ給ヒテ」(八)サツ。紙幣。(九)かるたノ牌花札ナド。

ブタ (名) 豚 〔南洋語、腿ノ義。馬來語、べちゃ。すんだ(Sunda)語、びちゃ。暹羅語、ぼちゃ。支那人、此語ヲ本邦ニ入

レタリトオボユ。サルハ、豚ノ腿ロ[illegible] 製シタルモノヲ、[illegible](廣東音ナルベシ)[illegible] 後ニ其獸ノ渡リテ、名ノ移レリト思フ。サル理ノアルベキハ、きさ(象)ハ、初、[illegible] ナレリ。コレラト同趣ナルベシ。沖繩ニ[illegible] モ面高太ナルベシ(面高ハ面ヲ高クサシアグルナリ)。因リテ、ぶた(豚)モ太ク肥エタレバ、猪太ノ上略轉ノ語トルベシ。本草和名、下「豚卵(卵一本、作卵)[illegible]留毛[illegible] 祭二宗廟一之禮、云云、豕曰二剛鬣一、豚曰二腯肥一」トアレバ、支那三代ノ世ヨリアリタリ。故ニ豕ハ家猪、卽チ、豚ナリト云フヲ得ハ[illegible] 郡、山田里ニ、猪飼野[illegible] 世ニ猪ヲ放飼シタル地ナリトアルヲ以テ、猪、豚ナルコト[illegible] ノコ、野猪ノ[illegible]シテ、其性ヲ變ジタルモノト云フ。初、[illegible]舶來シ、家ニ畜ヒテ專ノ其肉ヲ食用トス。形、野猪ニ似テ肥エ、尾短ク小サク、

鼻長ク出ヅ、牙アレドモ、野猪ノ如ク大ナラズ。毛、黒クシテ粗シ、又、白色、雜斑ノモノモアリ。性、鈍ナリ。繁殖力強ク、種類多シ。何物ヲモ擇バズシテ食フ。文選、[illegible]祭[illegible]文[illegible]序「[illegible]」[illegible]十一、[illegible]、云云、[illegible]渠厄厨之殘汁一而食、日日肥䐁」增補華夷通商考(寶永)二、中華、[illegible]西省七種「[illegible]」同、三、[illegible]七[illegible]「山豕」[illegible]、三十七、[illegible]、[illegible]二家猪多シ、形、牛ノ小キガ如ク、[illegible]、其町西[illegible](寶曆)五「安[illegible]、[illegible]ク、毛禿ケテ、フツツカナルモノナリ」

ふたあけ (名) [illegible] (一)フタヲアクルコト。(二)事ヲハジムルコト。

フタ・アヰ
ふたあゐ (名) [二藍] (一)染色ノ名。赤藍ト青藍トノ間ノ色。(紅)トニテ染ムル故ニ、二藍ト云フ」 [山藍(青)ト呉藍 略シテ、ふたゐトモ云フ。 榮花物語、三十二、[illegible]、左ノカタノ人人、云云、ふたあゐノ[illegible]重ニ、紅ノウチタル白キ單衣ヲゾ着タル」 讚岐典侍日記「リガ局ニ置キタル二藍ノ[illegible]衣カヅキタルモノ、云云」 蜻蛉日記、上、下「行ク人ハふたゐノコウチギナリ」 (二)赤花(落葵)ト青花(露草)トニテ染ムルモノ。(柳亭記、上) (三)襲ノ色目ノ名。表ハ赤バミタル濃キ縹色ニテ、裏ノ縹色ナルモノ。」 節抄、上「[illegible]色之事、二藍、[illegible]之比[illegible]用之」

ふ-たい (名) [附帶] ツキソフコト。トモナフコト。「附帶事業」

ふ-たい (名) [負戴] 荷ヲ、背ニ負ヒ、又ハ、頭ニ戴クコト。 孟子、[illegible]上[illegible]序之教[illegible]孝悌之義、頒白者不負戴於道路」 [illegible]、[illegible]田[illegible]「[illegible]老往來無負戴、[illegible]道有[illegible]」[illegible]、[illegible]負戴、以[illegible]」

ふ-たい (名) [不退] 〔梵語、阿毘跋致(Avinivartaniya. 又ハ、Avaivartika.)ノ譯語〕 佛教ノ語。功德善根ノ增進シテ、退轉スルコトナキコト。又、退轉スルコトナク勤行修習スルコト。不退轉。[illegible]、下「[illegible]不退、[illegible]不失[illegible]、[illegible]行不退、[illegible]則不失[illegible]正念」 太平記、[illegible]、[illegible]不[illegible]、行業不退ニシテ、一鉢ノ空シキ事ヲ不レ愁」 謠曲、寶盛「處ハ不退ノトコロ、命ハ無量壽佛トナウ」

ふ-たい (名) 布袋 ヌノブクロ。名物六帖、三、器財箋、五「布袋、ヌノノフクロ、玉堂雜字、[illegible]布袋」 文[illegible]、[illegible]不可作直頭布袋」

ふ-だい (名) [譜第] [說文「譜、籍錄也」 釋名「譜、布也、布列見其事也」又、正韻「第、次第也」] (一)家筋ノ次第ガキ。系圖。 [illegible]、[illegible]傳「[illegible]」 [illegible]、市[illegible]、[illegible]」 (二)世世家系ヲ繼ギ來ルコトノ稱。家筋。 [illegible]、廿一、弘仁二年二月十三日「[illegible]」 (三)臣下ノ、代代、其主家ニ仕フルモノ。譜代。世臣[illegible]、[illegible]上シ、[illegible]兵士[illegible]ニ[illegible]、[illegible]府ノ兵士[illegible]京上シテ[illegible]、[illegible]京上シ、諸衛府ニ番ス、遂ニ郷里ノ戸籍ニモ、衛府ノ[illegible]ニモ、父子、孫、[illegible]イテ兵士衛士ノ譜ニ、次第交代スルヲ業トシテ、譜代ノ兵士ト稱セシナリ」 平治物語、二、忠宗心替事「譜代ノ家人ナル上、鎌田兵衛モ婿ナレバ」 吉野拾遺、下「父ノ敵ト云ヒ、譜代ノ主君ノアタト云ヒ、一方ナラネベト思ヒ定メ」 (四)江戸幕府ニテ、累世德川氏ニ臣屬シタル者ヲ云ヒ、(譜代)其外ナルヲ外樣ト云フ 東照宮[illegible]「[illegible]坂[illegible]以前[illegible]從ノ士ヲ譜代トシ、以後、歸服ノ士ヲ外樣トス」 御[illegible]、[illegible]代之[illegible]「一、[illegible]河安[illegible]七[illegible]代、云云、一、三河岡崎御譜代、云云、一、駿河御領國以後之御譜代、云云、一、秋田、有馬、相馬、水谷、片桐、常德院殿(綱吉)御代、貞享元年子十二月晦日、[illegible]代之席[illegible]付、此內、片桐者外樣」

ぶ-たい (名) [部隊] 古語、ふたむろ。一部分ノ軍隊。軍ノ部曲隊伍。 [illegible]傳「[illegible]、[illegible]所不可[illegible]」[illegible]、[illegible]力[illegible]、[illegible]、只先[illegible]、[illegible]、必見[illegible]」 隋書、[illegible]、[illegible]相[illegible]、[illegible]部隊、不[illegible]」

ぶ-たい (名) 舞臺 舞樂、能、芝居ニ、揚ノ正面中央ニ、一段廣ク高クシタル處。即チ、技ヲオコナフ處。戲臺。又、芝居ノ舞臺ノ床ニ、更ニ、一段高ク設ケタル床ヲ、二重舞臺ト云フ 普通、二尺八寸高ヲ高足トシ、二尺一寸高ヲ中足、一尺四寸高ヲ常足トス。 內裏式、上、七日[illegible]「[illegible]一日、所司[illegible]舞臺[illegible]」 [illegible] ぶたい「[illegible]ト[illegible]式ニ書ケリ、[illegible]ナリ」 榮花物語、十七、[illegible]、[illegible]モナカニ舞臺ハセテ、今日カノ日ノ舞ト[illegible]リナクシ[illegible]サセ給フ」 花傳書(應永、世阿彌)六「大庭ノ舞臺ハ三間四方、此ハ其カッカウ成ベシ、緣ノ高サ五尺也、云云」 春遊浪話(土肥經平)一「昔ノ泉殿ノアリシヲスグニ猿樂能ヲスル所ニ用ヒシヨリ、舞臺トノミイヒテ、泉殿トイフ名ハ廢レタルナルベシ」 [illegible]笑)二「芝居ノ中央ニ、舞臺ヲ方三間ニタツル故、名付テ三間ノ間トイフ、ココニテ藝ヲナス所也」

ぶたい-こ (名) [舞臺子] 江戸時代、蔭間ノ芝居ニ出テ、歌舞スル者ノ稱。色子。 [illegible]、六、[illegible]、芳町ニ[illegible]モ有リケルヨシ、此中ヨリ、芝居ヘ出テ歌舞スルヲ舞臺子トイヒ、又色子トモ稱シテ、四五十人モアリテ、此色子ドモ、末ニハ皆役者ニナレリ」

ふ-だい-し (名) 傅大士 〔傅ハ姓、名ハ翕、自ラ善慧大士ト稱セシ故、傅大士ト云フ」 支那、六朝ノ梁ノ人ニテ、[illegible]、其[illegible]轉輪藏ヲ造レルモノ。今、寺院ニテ、其像ヲ輪藏ノ中ニ安置ス、其前、[illegible]ヲナセバ、俗ニ、笑佛トモ云フ。二人ノ童子ヲ脇侍トシ、普成、普建ト云フ、倶ニ、大士ノ子ナリト。 [illegible]、八十一、[illegible]、[illegible]云、[illegible]十[illegible]、[illegible]」

フタイ・ジ
ふたいぢ (名) [不退地] 〔不退ノ位地ノ意〕 (一)佛教ノ語 菩薩初地ノ位。 法華[illegible]、分別功[illegible]品、[illegible]不退地[illegible]」 (二)不退ノ揚所。即チ、極樂淨土。

ふ-たいてん (名) 不退轉 佛教ノ語 ふたい(不退)ニ同ジ。圓覺經「晨夕守護、令レ不[illegible]轉」 [illegible]、上「[illegible]不[illegible]、不[illegible]正覺」

ふた-いとこ (名) [二從兄弟] いやいとこ(彌兄弟)ニ同ジ。 名物六帖、一、人品箋、四「從祖昆弟、チチカタノマタイトコ、フタイトコ、大學衍義補、從祖昆弟、[illegible]從兄弟、[illegible]別也」

フタイトコ・ヲ
ふたいとこをぢ (名) [族父] 父ノマタイトコ。二從父 オホオホヂ 名物六帖、二、人品箋、四「族父、フタイトコヲヂ」 [illegible]「[illegible]族父」

フタイトコオジ・ヨメ
ふたいとこをぢよめ (名) [族母] フタイトコヲヂノ妻。 名物六帖、二、人品箋、四「族母、フタイトコヲヂヨメ、按、族母、族父之妻也」

ぶたい-びらき (名) [舞臺開] 新築ノ舞臺ニテ、演藝ノシゾメヲナスコト。

ふだい-もの (名) [譜代者] 又、譜代者。譜代ノ家來。代代一ツノ主家ニ奉公スル者。(譜第ノ條ヲ參見セヨ)

ふたう（名）［不當］當ヲ得ザルコト。道[illegible]ニ[illegible]ハ[illegible]、[illegible]。[illegible] [illegible]たうニナン、只今モ覺エ侍ルトテ、云云」 後[illegible]記、廿、石橋合戰事「先祖ノ首ニ血ヲアヤス、欲心ノ程コソ不當ナレト云ヒケレバ」

ふだう（名）［不道］（一）ぶだう（無道）ニ同ジ。[illegible] 以[illegible] 二律ニ、八虐ノ第[illegible]、[illegible]等ノ罪「條件多シ、律ノ疏ニ[illegible]ナリ）

ふだう（名）［婦道］婦女ノ守ルベキ道。[illegible] 女功[illegible]、[illegible] 可ᴗ以[illegible]婦[illegible]安父母[illegible]化[illegible]天下[illegible]以[illegible]婦道[illegible]也」

ぶたう（名）［舞蹈］（[illegible]）[illegible] 舞[illegible]也、長言[illegible]之也、說[illegible]之[illegible] 手之[illegible]、足之[illegible]也」ニ本ヅク」（一）朝賀ノ禮、即位ノ式、正月元日、七日、五月五日等ノ節會ニ、皇太子以下、堂下ニテ再拜舞蹈ノ儀アリ、[illegible]內裏式[illegible] 又、授位、任官、及、別ニ[illegible]アル者ハ、舞蹈[illegible] [illegible]ニハ、殊更ニ庭上ニ降リテ此儀アルナリ、喜ビテ、手ノ舞ヒ足ノ蹈ム所ヲ知ラズトノ成語ニ出ヅ。唐制ニ本ヅク。又、舞踏。九拜、及、拜ノ條ヲモ併ハセ見ヨ」[illegible] [illegible]、左右左、取[illegible]笏小拜、立再拜」 名物六帖、四、人事[illegible] [illegible]、宋之問[illegible]始」 唐書、禮樂志「[illegible]禮、云云、[illegible]官客使、[illegible]

千秋ナド、[illegible]ニテ[illegible]給フ、云云、[illegible]侍從宰相ナ[illegible]（二）西洋式ノ[illegible]。だんすニ同ジ。

ぶだう（名）［[illegible]］人タル道ヲ失ヘルコト。人道ニ背クコト。非道。不道。[illegible] [illegible]トイフモノハ、イミジキぶだうノ者ドモニテ」平治[illegible]ケレ」

ぶだう（名）［武道］（一）ぶしだう、武士道）ニ同ジ。甲陽軍鑑、十七、品第四十七「武士ハ只心バセノ至ッテ強キ根本ヲ糺シ、其善惡ヲ以テ批判イタス、ヲ、侍ノ[illegible]ト申シテ、弓矢ヲトル人ノ武道[illegible]リ」（二）弓矢ノ道。武術ニ關スル道。（三）武道方ノ略。芝居ニテ、武術ニ達シテ忠義ナル武士ニ扮スル役。

ぶだう（名）［葡萄］（モト西域ヨリ支那ニ入リシト云フ。梵語、[illegible] 漢[illegible]「[illegible]頭」ヲ蒲桃果ト譯スレドモ、此語ハ恐ラクハ、中央亞細亞ノ方言ヲ介シテ得タル譯語ナルベシトノ說アリ」（一）古名、オホエビカヅラ。エビカヅラ。エビ。樹ニシテ蔓生ナルモノ。棚ヲ作リテ[illegible]ハシム、葉、大キク、五尖ニシテ、鋸[illegible]、春ノ末、穗ヲ成シテ、黃白ノ小花ヲ開ク、秋、實ヲ結ブ、小圓實、[illegible]ナシテ垂ル、色、[illegible]、[illegible] 他色ニ對シテ、[illegible]葡[illegible] 紫葡萄）

トモ云フ、味、甘[illegible]ナリ、生、[illegible]、[illegible]、又、酒ヲモ釀スベシ。ぶだう[illegible]、實、[illegible]シテ[illegible]シ。[illegible]ハ、實、淡[illegible]ニシテ、[illegible] [illegible]葡萄ハ、其[illegible]長シ、[illegible] [illegible]實ノ色[illegible]紫ノ[illegible]キモノ。

ぶだういろ（名）［葡萄色］[illegible]（二）ニ同ジ。えびぞめ（葡萄染）ノ條ヲモ併ハセ見ヨ。[illegible] 葡色ヲえびいろト訓ズ、紫ニ近キ色ナリ」

ふたうおう（名）［不倒翁］おきあがりこぼし[illegible] [illegible]上小法師[illegible]ノ[illegible] [illegible]、[illegible] 人[illegible]也」

ぶだうがき（名）［葡萄柹］柹ノ一種。其實、冬ニ至リテ、大イサ金柑ノ如ク、熟スレバ紫黑色（葡萄色）ヲ呈スル故ニ名トス。サルガキ。マメガキ。君遷子 [illegible]十七、[illegible] 君遷子、丁香柹、[illegible] 葡萄柹、又云[illegible]柹」

ぶだうざけ（名）［葡萄酒］次條ノ語ニ同ジ。

ぶだうしゅ（名）［葡萄酒］葡萄ノ果汁ヲ採リテ、釀造シタル酒。大別シテ、白赤ノ二種トス。ブダウザケ。紅酒 太平 [illegible]

[illegible]

ぶだうたう（名）［[illegible]］（[illegible] [illegible] ノ譯語）葡萄、其他ノ甘味アル果實[illegible] [illegible]一種ノ[illegible] 蔗糖ニ劣レドモ、一種ノ風味アリテ、藥[illegible] [illegible]

ぶだうだな（名）［葡萄棚］[illegible]フルヤウ、竹、又ハ、木[illegible] [illegible]ル架。又、裝飾用[illegible]トシテ、一時設クルコトアリ。[illegible] （天明頃）「神田ノ辻與兵衞トイフ者、月見ニ葡萄棚ヲ飾ルトテ、葡萄ヲ五貫程引イテ來リケル、是ガ月見ノ葡萄棚ノ始メニテ、殊ニ評判セルトナリ」

ふたうにん（名）［不當人］不當ナル人。不法モノ。平家物語、二、教訓事「西光ト云フ下[illegible]」

ふたうにん（名）［不道人］不道ナル者。非道ヲ行フ者。フタウモノ。惡人。兇人。[illegible] 斷程ノ不道人、然ドモヲバ何トカ思ハン」（中非本）

ぶだうねずみ（名）［葡萄鼠］[illegible] 鼠色ノ赤ミアルモノ。七偏人（安政、[illegible]）[illegible] ぶだうねずみタトイイノダガ、[illegible]色ダカラ、誠ニ氣ニ入ラナイ」

ぶだうびゃう（名）［[illegible]］[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]ナリ、[illegible]

ヒ、泣キ、或ハ、食慾ノ缺乏ヲ訴フルコトアリ、顔面、手指、足趾ハ一種ノ不隨意ナル運動ヲ起ス。其病源ハ精神ノ過勞、腸ノ寄生蟲、心臟病ナドニアリト。

ぶだう-ぼく (名) 葡萄木 支那ノ蜀ノ地ノ產。材ヲ舶來ス。花ハ梨木ノ如ク、木理ニ葡萄ノ狀ヲナスアリ、或ハ、縱橫ニ山水、人物、花鳥ナドノ狀ヲナスアリ。骰柏楠 鬪柏楠

ふたう-もの (名) 不當者 不當人 不道人 道理ニアタラヌ行ヲナス者 無狀者、橫暴者 松屋筆記、百四、第五十九條、不當人、不道人、俗ニ不當者トイフハ、不道者トモ書ベシ、保元物語參考本、三、二、不當人トモ不道人トモ書タリ」鹽尻、六十七、不當人「俗ニ、道理ニ應ゼヌイタヅラモノヲ、不當人ト呼ブ」

ふだうり-もの (名) 不道理者 道理ニ循ハザル者、人道ニ乖ク者。不道人。名物六帖、二、人事箋、五「乖角、フダウリモノ」

ふた-おき (名) 蓋置 茶家ニテ、釜ノ蓋ヲ載セ置ク小サキ竹筒。或ハ陶製ナルモアリ。茶道早合點、下「蓋置、釜ノ蓋、柄杓ヲノセ置ク道具ナリ」和漢三才圖會、三十一、庖廚具「蓋居、和太平岐、用ニ竹筒際ニ作レ之、其徑高共一寸」

ふた-おもて (名) 兩面 りめん(兩面)ト、へうめん(表面)ト。リャウメン。ウラオモテ。新千載集、十六、雜、上「時雨降ル、兒手柏ノ、二おもて、トニモカクニモ、ヌルル袖カナ」

ふた-おや (名) 二親 父ト、母ト。カゾイロハ。兩親 雙親 繼體紀、廿二年三月「兩不親二親、既經多年ニ」金葉集、十、雜、下「玉匣、カケゴニ塵モ、スヱザリシ、ふた親ナガラ、ナキ身トヲ知レ」輕口春の山、二「一人娘ブラブラト煩ヒケルニヨリ、云云、ふたおやノナゲキ言ハン方ナシ」

ふた-かはめ (名) 二皮眼 ふたへまぶち(二重瞼)ニ同ジ。重瞼 書言字考節用集、五、肢體門「眥皮、フタカハメ、眥、眉也、皮、華也、面重華也、見(於)說辭注ニ」好色二代男(貞享、西鶴)二「鼻筋サシ通リテ、二皮眼ノ形、麗ハシク」

ふたが・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 塞 〔ふたぐノ自動〕ふさがる(塞)ニ同ジ。名義抄「塞、フタガル」景行紀、四十年七月「山有邪神、郊有姦鬼、遮衢塞徑、多令苦人」字津保物語、國讓、下九「兵衞ノ君トイフ人、道ニふたがり給ヒテ」源、二十八、夕霧、七十「シバシ臥シ給ヘル程ニ、暮ニケリ、ヒグラシノ聲ニオドロキテ、山ノカゲイカニ霧ふたがりヌラン、云云」

ふたき-ぐさ (名) 二季草 ふぢ(藤)ノ異名 藏玉集「二季草、藤(春秋ニカカル草ナレバ、二季草ト云ヘリ)、トキハナル、花トモ見バヤ、二季草、松ニノミタダ、カカル名ナレバ」

ふたき-どり (名) 二季鳥 〔春秋ノ二季ニ往來スル故ニ云フ〕がん(雁)ノ異名。藏玉集「二季鳥、雁、イヅカタヲ、故鄕トテカ、ふたきどり、年ニ二度、ユキ歸ルラン」

ふたき-の-まつ (名) 二木松 古へ、陸奧國ノ武隈(今、名取郡、岩沼町)ノ國府ノ別館ニアリシ松ニテ、幹二股トナレルモノナリシト。宮內卿藤原元善ノ植エタルモノトゾ云フ。此人、再ビ國司トナリテ、後ノ旅ニ詠メル歌、後撰集、十七、雜、三ニ、みちのくにの守にまかり下れりけるに、たけくまの松の枯れて侍りけるを見て、小松を植ゑつがせ侍りて、任果てて後、又同じ國にまかりなりて、彼のさきの任に植ゑし松を見侍りて「植エシ時、契リヤシケン、武隈ノ、松ヲ再ビ、逢見ツルカナ」トアリ。後拾遺集、廿、誹諧「橘季通、ミチノ國ニ下リテ、武隈ノ松ヲ歌ニヨミ侍リケルニ、ふたきの松ヲ人問ハバ、みきト答ヘ侍ランナド詠ミテ侍リケルヲ、ツテニ聞キテ」

ふ-たく (名) 附託 タノミコムコト。マカスルコト。依賴 晉書、劉毅傳「旣以貧賤自通、每以計協(爲)進、附託者必達、守道者困悴」韓愈、寄崔立之詩「拔擢(爭)附託、無人角謝嚨」

ふた・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (他動、四) 塞 〔ふさぐノ轉。いさぶる(搖)、いたぶる、くさす(腐)、くたす、ノ類〕蓋ヲナス。フサグ。天治字鏡、五、廿七「塞、フタク」同、十二、廿四「抑塞、(於)之不多久」古事記、上「刺塞汝身不成合處而」仁德紀、十一年十月「唯衫子取全匏兩箇、臨于難塞水、乃取兩箇匏投於水中」蕪村句集「飯粒デ、紙子ノ破レ、ふたぎケリ」

ふた・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) 塞 前條ノ語意ニ同ジ。フサグル。源、五十一、蜻蛉四「道ニ、ふたげラレテ、滯リ居タル」同、十八、松風三「寢殿ハふたげ給ハズ、トキドキワタリ給フ御ヤスミ所ニシテ、云云、御シツラヒドモシ置カセ給ヘリ」

ふた-こ (名) 二子 (一)〔一子絲ニ對ス〕二子絲ノ略。絲ヲ二筋カケテ縒リタルモノ。雙線 二線 二股絲 (二)ふたこおり(二子織)ノ略。其條ヲ見ヨ。

ふた-ご (名) 二子 一ツ胎內ヨリ同時ニ二人生マレ出ヅルコト。又、其兒。雙生兒 雙胎 雙捧子 駢胎 孿生 孖子 字類抄「孖、フタゴ、兩兒也」和漢三才圖會、八、親族「孿、孖、不太古」名物六帖、二、人品箋、四「雙生子、フタゴ、孿生子、孿子、倂子、孖、孳、孶」神代紀、上五「雙生 隱岐洲與佐度洲」景行紀、二年三月「大碓皇子、小碓尊、一日、同胞而雙生」藤原長能集「イヅレヲカ、ワキテシノバン、ふた子ヨリ、思フ心ヘ、ヒトツナリトモ」

ふたこ-いと (名) 二子絲 ふたこ(二子)ノ(一)ニ同ジ。

ふたこ-おり (名) 二子織 フタコ絲ニテ織リタル布 略シテ、ふたこ。守貞漫稿、十、「男服、中古近年、二子縞、二大縞、唐棧ナド、綿縮、羽二重ニ超エタルアリ、二絲並べ織リタルナリ、故ニふたこおりト云ヒ、近年、江戶ニテ織レ之」

ふたこ-ぐり (名) 二子栗 三栗ノ中ナキモノ。一いがノ中ニ、實二ツアル栗。

ふた-ごころ (名) 貳心 (一)〔思フ心ノ二樣ナルコト。コトゴコロ。アダシゴコロ。〔君臣ノ義ニ、男女ノ情ニ〕神功紀、五十一年三月「今臣在下、固如山岳、永爲西蕃、終無貳心」源、三十四、下、若菜、下五十「昔語ドモニモ、アダナル男、色ゴノミ、ふた心アル人ニ、カカヅラヒタル女」(二)身方ニ背キ、敵ニ通ズル心。又、君ニソムク心。字鏡集「貳、フタゴコロ」六帖、二「シモツケヤ、フタラノ山ノ、ふたごころ、アリケル人ヲ、タノミケルカナ」金槐集、下「山ハサケ、海ハアセナン、世ナリトモ、君ニふた心、ワガアラメヤモ」平治物語、一、源氏勢汰事「伊勢平氏ニツキ給フモノカナ、御邊ガ貳心ニヨリテ、當家ノ弓矢ニ疵ツキヌルコソ口惜シケレ」

ふた-こと (名) 二言 繰返シ言フコト。重ネテ云フコト。ふたことと無くト、副詞形ニ用キテ、一言ノ下ニ。直チニ。大鏡、中、道隆「大弍ノ闕出デ來テ、人人望ミノノシリシニ、云云、試ニナラバヤト申シ給ヒケレバ、一條院ノ御時ニテ、又イトホシクモヤ思召シケン、ふたことなくナラセ給ヒテシゾカシ」

ふたこと-め (名) 二言目 二度メノ發言。次イデ云フコトバ。〔惡シキ方ニ云フ〕新撰繪入柳樽、初編「梶原ハ、ふたことめニハ、穴ヲ言ヒ」常盤津、生雜緣作中「此年口、御新造樣ノ御苦勞ヲ、ヨソニ見ナシテ聞キ入レズ、二言目ニハ今ノヤウニ、譯モ聞カズニ打チ打擲」

ふた-ごもり (名) 二籠 (一)二ツノ物、一ツニ包マレタルコト。又、ソノモノ。

[illegible](秋ノ菟ノ、一莖ノ中ニ、又、一莖ヲ生ジタルモノ)(二)二蠶ニテ一繭ヲ成スモノ。フタツマユ(獨繭ニ對ス) 本草和名、下、十九「原蠶蛾、[illegible]比比留乃布多古毛利」(原蠶ハ、夏、再ビ出ヅルモノ、[illegible])[illegible]ホシミ、栗コキタレテ、ナクヲ見セバヤ」

ふたこゑどり (名) 二聲鳥 [illegible]鳴ノ異名。散木集抄「ソコトシモ、知ラヌ立木ニ、シバシバト、ふたこゑどりノ、ヒトリスゲナキ」

ふださし (名) 札差 [illegible]俵又、荷ニ標札ヲ差ス義」(一)江戸時代、旗本扶持人ノ金融ノ間[illegible]、旗本御家人ニ代リ、ソノ廩米ヲ受取ル商人。後ニハ此米ヲ抵當トシテ、其商人ヨリ金ヲ借入ルルニ至レリ。藏宿。初ハ九十六戸アリシガ、後、百九戸トナリシ故、百九軒トモ云ヘリ。[illegible]二取テ金銀ヲ貸ス仕方ニテ、何ノ勞煩モナク、聊ノ遲滯モナク、押ヘ取ニスル也、當時、札差九十六軒有、[illegible]應ジ金子ヲ貸込ミ、何レモ分限高ノ内、四分一カ三歩[illegible]取替ニ、貸込シモノ也、云云」(二)宿場ノ問屋場ニテ、荷物ノ貫目ヲ改ムル者。

ふたさやの (枕) [二鞘] 隔ツ、ト云フ語ノ枕詞。[illegible]之[illegible]ラム」

ふたしか (名) [不慥] タシカナラザルコト。アヤフヤ。不確實。 八木の話(北越[illegible])[illegible]ル米切手)ノコトナリ、尤、時勢ニヨリ、聊ト思ヒシガ、不慥ニナルコトモアルベシ」

ブタぢさ (名) 豚[illegible] 鳴ノ[illegible]。うばぢさ(姥鵲)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

ふたしちや (名) 二七夜 産後ノ十四日目。二臘。 雜字類書、九「二臘、サンゴノフタシチヤ」

ふたしへ (名) [二重] [しハ助辭] ふたへ(二重)ト云フニ同ジ。 後撰集、九、戀、一「イカデカク、心一ツヲ、ふたしへニ、憂クモツラク[illegible]」伊勢集「ふたしへニ、時分クル、露ナレバ、モミヅル方ニ、宿ルナルベシ」

ふたしほ (名) [二入] しほ(入)ノ條ヲ見ヨ。

ふだしよ (名) 札所 三十三所ノ觀音詣、又ハ、八十八箇所詣ノ其觀音堂、又ハ、大子堂[illegible]場ヲ稱スル語。 詣ヅル者、詣デタル證ニ札ヲ受ケ、又ハ納ム 曾根崎心中(元祿、近松作)「三ツヅツ十ト三ツノ里、札所札所ノ靈地、靈佛廻レバ」俚、集覽「二十一番ノ札所」

ふたすぢ (名) 二筋 (一)一途ナラヌコト。フタマタ。兩天秤 [illegible]「ハテ宜イワイ、斯樣ナ難儀ニナラバ頼マレマイ、又難儀ニナラズバ頼マレヨウ、トイフヤウナ、二筋ナ頼マレヤウハセヌ」(二)二本。二條。雙行。 [illegible]フタスヂノナミダ、本事詩、其妻佳[illegible]雙淚垂[illegible]」

ふたすぢみち (名) [二筋道] 兩岐ニ分レタル道 フタマタミチ。岐路。 [illegible]女[illegible]葉錦[illegible]初、錢「中ニモ當利ハ二筋道」

ふだぜに (名) 札錢 [illegible]ぜにさつ(錢札)ニ同ジ。フダセン。きんさつ(金札)ノ條ヲモ見ヨ。

ふだせん (名) 札錢 (一)前條ノ語ニ同ジ。(二)江戸時代、振賣リノ許可ヲ受ケタル證トシテ、下附セラレタル札ニ對シテ上納スル金錢。[二]芝居、見世物ナドノ入場料。木戸錢。

ふたそぢ (數) 二十 ニジフ。十ヲ二ツ合ハセタル數 ハタチ。 [illegible]首、戀「ヲ車ノ、錦ノコトノ、ハヲカケテ、ふたそぢヘテモ、逢フト聞カバヤ」

ふたたび (副) 再 [二度ノ義] 二ツ目ノ度。次ノ度。カサネテ。マタ。二度。兩度。 天智紀、十年五月[illegible]萬葉集、十四[illegible]古今集、二、春、下[illegible]過シツルカモ」[illegible]ヒト年ニ、ふたたびトダニ、來ベキ春カハ」

ふたたびいひ (名) [二度飯] 又、ふたたびめし。湯取飯ヲ復煮テ食スル飯。病弱者ナドノ養生食トス 大和本草、四、造釀類「二度飯、亦二法アリ、一法ハ、タキボシノ冷飯ヲ用ヰ、先、鍋ニ湯ヲワカシ、タギル時ニ飯ヲ入レ、ヤガテ飯ヲ鍋ニ[illegible]ナガノ、其湯ヲナベノ口ヨリ退クシタミ去テ、フタヲ掩ヒ、薪ヲ去、火ヲ少シモヤシ、ヤガテ熟ス、或ハ[illegible]ニテ熟ス、云云、又一法、湯取飯ヲ用、[illegible]ニテムス、ユトリ飯ヲナベニテ二度アタタムレバ、糊ノ如クニナリテアシシ、云云、是ふたたびいひナリ」

ふたたびす ·スル·スレ·セ·シ·セヨ (他動、左變) [再貳] 二度ナス。重ネテ行フ。 論語、公冶長篇「季文子、思而後行、子聞之曰、再、斯可矣」[illegible]不貳過、不幸短命死矣」

ふたたびめし (名) 二度飯 [illegible]ニ同ジ。

ぶだち [illegible]刀、[illegible]太刀ナドニ紛レヌ爲ニ、武太刀ト云フ」

ふたつ (名) 布達 ふこく(布告)ノ條ヲ見ヨ。

ふたつ (數) 二 [illegible]神代紀、下[illegible]「又[illegible]取ラシテ、イハヒ給ヒシ、マ玉ナス、布多都ノ石ヲ」(二)フタタビ。二度。再度。[illegible]季「モシ心ニアラズ[illegible]侍ラバ[illegible]侍リナン、又ふたつ、コト人見ル可キニモ侍ラズ」

ふたつガハラ (名) 二瓦 [瓦、二字、[illegible]骨ノ義、かはら(瓦骨)ノ條ヲ見ヨ] [illegible]ノ間切骨 其[illegible]造レルモノ[illegible]ツ瓦トハ、[illegible]ナルニヤ」ノ解ハ誤ナリ) 盛衰記、七、成親[illegible]ニハ、二つ瓦ノ三棟ニ造リタル船ニ、次ノ船二三十[illegible]

ふだづかひ (名) [簡使] 書簡ヲ携行スル使。フミヅカヒ。 欽明紀、五年六月[illegible]

ふだつき (名) 札附 (一)[illegible]札ノ附キテアルコト。(二)正札附ノ略。[illegible]ケネナキコト。[illegible]

イタリスル札付きノオシャベリアマニテ」柳樽、七[illegible]「ふたつきノ、娘ニマテ、カケネ也」

ふたつ-きぬ　(名)　二衣　あをきぬ(祖)ヲ二枚着タルモノ　[illegible]中、[illegible]之事、冬[illegible]衣、[illegible]白衣、[illegible]也　平家物語、十一、先帝[illegible]二[illegible]ヨト思ヒ[illegible]ヘル事ナレバ、鈍色ノふたつぎぬウチカヅキ、[illegible]ノソバ高ク取リ」

ふたつ-ぶろ　(名)　二白　馬ノ前ノ脚、又ハ、後ノ脚ノ、揃ヒテ白キモノ。二本ジロ。[illegible]、フタツジロ、[illegible]皆白、[illegible]」

ふたつ-だま　(名)　二玉　火縄筒ニ、十匁ノ彈丸ヲ、二ツ込メテ打ツコト。猶ナドヲ射止ムルニ用ヰル。　假名手本忠臣藏(竹田出雲等)五、[illegible]ル當ハ一文字、云云、アハヤト見ル定九郎カ、[illegible]ヘカケテド、サリト、肋ヘ抜ケル二つ玉、ウン共ギャ共言フ間ナク、[illegible]テ死ンダルハ、「心地ヨクコソ見エニケレ」

〜**ふたつ-と-なし**　(句)　無二　タダ一ツノミアリ。カケガヘナシ。唯一。無二ナリ。　竹取物語「天ノ下ニふたつとなき鉢ノ、百千萬里ノ程行キタリ　テ、イカテカ取ルヘキ」

フタツ-ドモエ
ふたつ-どもゑ　(名)　二巴　又、ふたつがゑら。紋所ノ名。巴ノ中ノ渦ノ二箇ノミナルモノ。其旋ノ左、右ニヨリテ、右二つ巴、左二つ巴ナドアリ。太平記、十四、「官軍引退[illegible]ノ紋ヲ見レバ、二つ巴ヲ、旗ニモ笠符ニモ書キタリ」

ふたつ-どり　(名)　二取　二ツノ中ヲ選ミテ、其一ヲ取ルコト。　本朝[illegible]俗[illegible]西鶴)八「ムカシ、末摘トイヘルモノ、スグレテ鼻醜カリシニ、[illegible]女トナン云ヘリ、其ヲ思ヘハ、二つどりニハ、低キヨリ高キニ[illegible]ノアルヘシ」　[illegible](狂文、石田未得)秋「智人ハ、關子マサルト、云フナレド、ふたつどりニハ、萩ノ花カナ」

〜**ふたつ-な・し・キ・ケレ・ク・ク**　(形、二)　無二　タグヒナシ。雙ナシ。無二ナリ。　史記、淮陰侯傳「所謂功無二於天下二」萬葉集、[illegible]ニ、[illegible]ル下ハ、無二、カニモカクニモ、君ガマニマニ」土佐日記、二月六日「皆人人、女、オキナ、額ニ手ヲ當テテ、喜ブコト二つなし」宇津保物語、[illegible]「春宮ノ學士ニナサレナドシテ、時メクコト、二つなし」萬葉集、十[illegible]「[illegible]ヲ[illegible]ブヘク、我身ハ成リヌ」[illegible]ヲ[illegible]、[illegible]シスレバ、常ノ[illegible]ハ「見捨テテ行カンモアハレニ、ウシロメタク覺ユル事ノふたつたければ」

ふたつ-の-みち　(名)　二道　(一)忠ト孝トノ道。　[illegible]遺集、十六、雜、中「トニカクニ、ふたつのみちヲ、思フコソ、世ニ仕フルモ、苦シカリケレ」　(二)〔貧ト富トノ兩道〕又、貧家ノ女ノ行ヒト、富家ノ女ノ行ヒト。　白氏文集、二、秦中吟「主人會良媒、置酒滿玉壺、四座且勿飲、聽我歌兩途、富家女易嫁、嫁早輕其夫、貧家女難嫁、嫁晩孝於姑」源、二、[illegible]木「[illegible]聞キツケテ、杯モテ出デテ、我カ二つの道ウタフヲ聞ケトナン、キコエゴチ侍シカド」

フタツ-ヒキリヤウ
ふたつ-ひきりやう　(名)　二引兩　紋所ノ名。ひきりやう(引兩)ノ條ヲ見ヨ。　盛衰記、三十七、平山[illegible]木戸口事「[illegible]二、[illegible]ノ[illegible]テ、二つ引兩ノ[illegible]ヲカケ、[illegible]ノ馬ニコソ乘タリケレ」太平記、三十三、笛吹峠軍事「二人作ラ俄ニ二つ引兩ノ笠符ヲツケ替ヘ」

ふたつ-ひとつ　(名)　二一　(一)二者ノ何レカ一方。「二つ一つノ返辭」ハ承知カ不承知カノ返答。　(二)ノルカソルカ。一カバチカ。乾坤一擲。　曾我物語、八、富士野の狩場への[illegible]カガミノ鞭ヲトリ添ヘテ、二つ一つノ捨テ手綱、ムクンリウニ落カカリ」

ふたつ-へんじ　(名)　二返辭　言下ニ承諾スルコト。喜ムデ承知スルコト。

フタ-ズマ
〜**ふた-づま**　(名)　二妻　同時ニ、二人持ツ妻。嫡妻、次妻ナリ。フタリノツマ。フタリヅマ。(こなみ(嫡妻)ノ條、見合ハスベシ)　神樂歌、小前張、[illegible]、我ヲ[illegible]テ、不多川藺取ルヤ、取ルナテフ、笠ノ淺茅ガ原ニ」仁德紀、廿二年正月、天皇[illegible]皇后曰、納八田皇女、將爲妃、時皇后不聽、[illegible]云云、皇后答歌曰、[illegible]コソ、二重ヒヨキ、廿[illegible]、[illegible]ハ、カシコキロカモ」欽明紀、廿三年八月「美女媛、并其從女吾田子、送[illegible]、[illegible]、[illegible]、女以爲妻、居[illegible]」

ふたつ-まゆ　(名)　雙繭　一ツノ繭ヲ作レルモノ。フタゴモリ。

ふたつ-みぞ　(名)　二御衣　小袖ニ、[illegible]ヲ重ネ着ルコト。又、ソノ衣。[illegible]、[illegible]川「東ハ大宮院(姑子)、東二條院(公子)、皆白キ御袴ニ、ふたつ御衣奉レリ」

ふたつ-め　(名)　二目　芝居ニテ、第二ノ狂言。二番目。　靜軒痴談、一「今、演ノ芝居ノ語ヲ、江戸ノ[illegible]ニヒキアテテ[illegible]ハ、[illegible]ハほったん、云云、沖[illegible]ハ、ふたつめ、[illegible]ハ、口上せりふ」

ふたつ-もじ　(名)　二文字　(一)こノ字、二ツノ點ヨリ成ル故ニ云フ」平假名ノこノ隱語。うしのつのもじ(牛角文字)ノ條ヲ見ヨ。　徒然草、六十二段「ふたつもじ、牛の角文字、直グナ文字、ユガミ文字トゾ、君ハオボユル」

ふたつ-わり　(名)　二割　(一)二ツニ割ルコト。半分ニワクルコト。又、ソノモノ。折半。(二)四斗入ノ酒樽ヲ、二分シタルモノ。即チ、二斗入ノ酒樽。

ふた-て　(名)　二手　二通ノ様。二筋ノ[illegible]

ふた-と　(副)　はたと(礑)ト云フニ同ジ。　其[illegible]見ヨ　[illegible]物語、廿[illegible]ヲ取テ、云云、[illegible]セバ、[illegible]カ[illegible]ニふたと[illegible]ニケリ」

ふた-ところ-どう　(名)　二所籐　弓ニ云フ語。一定ノ間隔ヲオキテ、一所ニ籐ヲ寄セテ、二箇所ヅツ卷キタルモノ。平[illegible]、[illegible]所[illegible]の弓之[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ニ、籐ヲ二所ヅツ寄テ卷ヲ、二所籐トイフ」　平治物語、一、[illegible]「[illegible]中[illegible]、[illegible]十六[illegible]、云云、白[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]ニテ作イタル、[illegible]、[illegible]ノ弓持チテ、[illegible]記、九、[illegible]石打ノ征矢ノ廿四サシタルヲ、カシラダカニオヒナシテ、二所籐ノ弓ノ眞中取ッテ」

ふた-なぬか　(名)　二七日　人ノ死後、十四日目ノ忌日。フタナノカ。　[illegible]紀、九、承和七年五月「丙申、[illegible]使於左右京[illegible]、[illegible]太上天皇二七日也」　因果物語(鈴木正三)上「[illegible]程ナク、[illegible]、二七日目ニ、云云、死シテ、二七日ニナレドモ、火ヲトボシ、香華ヲ手向クル者無シ」

ふた-なり　(名)　二形　(一)二ツノ形狀ヲ具フルモノ。(二)はにわり(半月)ノ條ヲ見ヨ　和[illegible]、[illegible]十、[illegible]半男女、フタナリ、半月、和名波爾和利、俗云、二形」　醒睡俗談(大[illegible])[illegible]半、女、九[illegible]ニ云、[illegible]ノ時ニ、京[illegible]ニ人アリ、其形、男女ノ[illegible]テ、[illegible]カラ人道ヲ用ルモノアリ、今ノ人、是ヲ半男女トイフ」[illegible]、九、[illegible]門[illegible]、[illegible]男女[illegible]、俗名二形[illegible]名[illegible]解、一、[illegible]、俗ニ云フ、ふたなり、又人痾ト云」

ふた-の　(名)　二幅　二布　(の(幅)ハ法ノ意、布帛ノ尺度ヲ云フ」(一)女褌ノ一名。布帛二幅ヲ横ニ縫合ハセ作ルコシマキ。　牛馬問(新井[illegible])[illegible]「[illegible]ミハ、夕[illegible]ノ、シタ[illegible]ミ、[illegible]ハテテラ、女ハ、ふたのシテ」[illegible]四、[illegible]、二布、女ノ身ニ近ク腰ヲフサク具也、云云、江戸ニテ、[illegible]、又、ユモジト云、[illegible]ニテ、[illegible]キト云」みをつくし(大坂新町細見)「[illegible]メンノ二布ヲトキハナシ」好色一代女(貞享、西鶴)四「[illegible]二[illegible]、[illegible]布バカリニナリシ」　(二)[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、即チ、[illegible]ニテ作リ、[illegible]ノ[illegible]ニ附ケ、帆ヲアグル時、帆綱ヲ擦リテ捲キ上グルモノ

ふだのちゅう [illegible] 人ノ [illegible] ふ。院中ナドノ殿上人ノ通稱。吾妻鏡、[illegible] 叉山槐記(小野宮御)ニ「院中、中宮、春宮等ノ殿上人ヲふだのちゅうト云フ、殿上ノ御簡ニツク故ナリト」

ふだのつじ (名) 札辻 昔、官ノ制札ノ [illegible] 辻 [illegible] ニ、今モ故地ヲ元札の辻ト唱フ」

ふたのもの [illegible] パ、機ニ置ク、盾八十文字ニ載ニ置クベシト見ユ、ふたの物トハ、撰盃ノ事也」

ふたば [illegible] モノ 又、多ク [illegible] 芽出シノ二葉 [illegible] ツ葉ニ、萌ユルマデ、消エセヌ雪ト、見エモスルカ [illegible]

フタバアフヒ
ふたばあふひ (名) 二葉葵 かもあふひ [illegible] グサ。アフヒ。
両葉不去、將用を拾柯こ

ふたばぐさ (名) 二葉草 (一)すみれ [illegible] ル、人ヤアラン、月ヲ宮居ノ、花ノタヨリニ」(二) [illegible]

ふたはこ [illegible] ノ札ヲ入ルル箱。[illegible]

[illegible] ニスベシ」

ふたばのまつ (名) 二葉松 (一) [illegible] 松ナドニ對ス」黑松、赤松ナドノ、葉ノ二針ナルモノノ稱。(二)〔松ノ芽出シノ、二葉ナルモノ。幼キモノナドニ譬 [illegible] ふたばの松モ、イマハタノモシキ御オヒサキト、イハヒ聞エサスルヲ」

ブトウ
ぶたふ (名) [illegible] 二同ジ。

ぶたぶた (副) 肥エ太リテ居ル狀ニ云フ [illegible] ボタボタ。デブデブ。

ふたふたと (副) [illegible] 二云フ語。パタパタ。パタパタ。枕草子、二、第十七段 [illegible] ロケテ、ふたふたニ打チツカヒ」[illegible] ふたふたとフタメク [illegible] 四 [illegible]「ヨリマシた [illegible] ふたふたと [illegible] ケレバ [illegible] ふたふたと [illegible] シテ、[illegible] ニ出デタリ」

フタエ
ふたへ (名) 二重 (一)〔フタツニ重ルコト。又、フタツ重ヌルコト。ニチュウ。[illegible] 仁 [illegible] 年正月 [illegible] テ、[illegible] 門 [illegible] アヤノセ二 [illegible] ふたへニ [illegible] レル [illegible] へ屈ムコト。大和物語、下「コノ翁、イトイタウ老イテ、ふたへニテ居タリ」清輔集「四位ノ正下シタリケル喜ビヲ、若キ人人ノイヘリケレバ、云云、今日コソハ、位ノ山ノ、峯マデニ、腰ふたへニテ、上リ [illegible] ふたへ ニ、アリナガラ、野邊ノ小松ヲ、タノミテゾ引ク」

フタエアカウルシ
ふたへあかうるし (名) [illegible]

[illegible] ブラ懸三所ニ白鑞ヲ使フナリ、赤漆トハ、漆ニ付モ [illegible] ニ、木ヲウス赤ニシタルヲバ、ふたへ赤漆ト云也」

フタエオリモノ
ふたへおりもの (名) [illegible] ノ地文ノ上ニ、[illegible] シタルモノ [illegible] ノふたへおりもの、一重ハ打チタルヲ、白キ紋ヲス [illegible] 物ニテ、イトメデタク、ケウラニコソキラメカセ給 [illegible] 二重織物ノ御下襲、櫻ニ蝶ヲ色色ニ織ル」

フタエガキ
ふたへがき (名) 二重書 [illegible] (籠寫)ニ同ジ。

フタエオシ
ふたへおし (名) [illegible] レ [illegible] ユ [illegible] シ。

フタエヒトミ
ふたへひとみ (名) [illegible] ノ [illegible] タヘヒトミ、[illegible]

フタエマブチ
ふたへまぶち (名) [illegible] 瞼ノ [illegible] ノ、生得ニテ、二重ニナレルモノ [illegible] ハメ。フタヘマブタ。重瞼 [illegible] 也」

ふたへもじ (名) 二重文字 [illegible] 字)ニ同ジ。かおうつし(籠寫)ノ條ヲ見ヨ。雙鉤字 [illegible] 賢ニ、雙鉤字ヲ俗ニ籠字、マタ二重もじナドイフ、明人コレヲ飛白トイフ、石墨鐫華ニ出タリ」

フタエモノ
ふたへもの (名) 二 [illegible] ドノ染方ノ一。下ノ出典ヲ見ヨ。貞丈 [illegible] 云フ染メヤウモ、下地ヲ何色ニテモ染メテ、ソノ上ヲ別ノ色ニテ、紋像草ナドヲ白出シニルモノナル [illegible] タタレハ、黑クモふたへ物モヨク候、武家ニ着候ウラ打ハ、タダアサギニ紋ヲ染メ付ニ付タルザ [illegible] [illegible]

ふたほがみ (名) [illegible] キコト。轉ジテ、人情ヲ知ラザルコト。萬葉集、廿「右多假我夫、惡シケ人ナリ、アタユマヒ、我ガスル時ニ、防人ニサス」

ふたま (名) 二間 (二間ヲ以テ一室ト [illegible] 侍日記「[illegible] ヲヨク認メテトラセント仰セラレテ、御行ヒノツイデニ、二間ニテ立チテオハシマシ [illegible] たまニナン候ヒ給ヒケルトコソ承リシカ」(二) [illegible] サシテ、御シトネウチオキ」枕草子、六、五十段 [illegible]

ふたまかみ (名) 杜衡 草ノ名。又、ツブネグサ。かんあふひ(寒葵)ニ同ジ。

ふたまた [illegible] (垂仁)八十七年「二俣 操作三二俣小舟こ」(二)二様ニ [illegible] 內裏 [illegible] 或ヒハふたまたニテ、小身ナル敵ニ勝チ」

ふたまた-がうやく（フタマタ-ゴウヤク）（名）［二股膏藥］うちまたがうやく、内股膏藥ニ同ジ 前條ノ語ノ（二）ヲモ參見セヨ。 雜字類編、五「持兩端、フタマタガウヤク、兩可」

ふたまた-だいこ（名）二股大根 又、ふたまただいこん 蘿蔔ノ下部ノ分岐シテ、股狀ヲナセルモノ 守貞漫稿、廿、「春暮、毎月、甲子日ハ大黑天ヲ祭ル、三都トモふたまただいこヲ供ス」

ふたまた-だけ（名）二股竹 竹ノ幹ノ、地上尺許リノ所ヨリ分岐シテ、股狀ヲ呈スルモノ 扶竹 天親竹 和漢三才圖會、八十五、苞木類「雙岐竹、フタマタタケ、云云、按、攝州天王寺有之、淡竹之二岐者、處處亦希有」 雲根志、四十六 扶竹ハふたまただけナリ、王子敬カ竹ヲ及ビ瑯琊代醉等ニ見エタリ」 心中天網島（享保、近松作）中「ナウ悲シヤト言ヒ棄ツル、アトニ見捨ツル子ノ捨ツル、數ニ夫婦ノふたまただけ、末ハ別レト」

ふたまた-ぶね（名）二俣舟 二股船 丸木船ニテ、艫ノ二岐ニナリタルモノト云フ 履中紀、二年十一月「丙寅朔辛未、天皇泛二兩枝船于磐余市磯池、與皇妃各分乘而遊宴」 古事記、中（垂仁）「以二尾張之相津二俣榲一作二二俣小舟一而持上來、以浮二倭之市師池、輕池一」

ふだ-まはし（フダ-マワシ）（名）［札廻］札ヲマハスコト 札ヲクバルコト。ヒキフダ。

ふだ-まもり（名）［札守］神佛ノ靈ノコモリテ、護身ノ力アリト云フ札。マモリフダ。オマモリ。 古今神學類編、五十、祭祀「札守、按ニ、札守ト云事ハ諸社皆有之、云云、諸社ノ札守、大抵不異、云云、守トハ守護ノ謂」

ふた-みち（名）二道 一、二道 「フタ筋ミチ」 二途 源、四、夕顔「過ギニシモ、今日別ルルモ、二道ニ、行ク方シラヌ、秋ノ暮カナ」 狹衣、四、上「一方ニ、ナリナバ狹モ、ヤムベキヲ、ナド二道ニ、思ヒ惱マス」（二）フタマタ、兩天秤 首鼠兩端 東路の記「君ハ思フ、都ハコヒシ、人シレズ、ふた道カケテ、ナゲクコロカナ」

ふ-たん（名）［負擔］（正韻「背曰負、肩曰擔」）（一）物ヲ背ニ負ヒ、又、肩ニ擔フコト。負荷 漢書、食貨志「[illegible]西南夷道、作者數萬人、千里負擔饋饟、率十餘鍾致一石」（二）事ヲ身ニ引キ受クルコト 義務ヲ負フコト 義務責任 左傳、莊公廿二年「赦其不閑於教訓、而免於罪戾、弛於負擔、君之惠也、所獲多矣」

ふ-だん（名）不斷 （一）タユルコトナキコト 斷絶セザルコト 何時マデモ續クコト 隋書、突厥傳「子子孫孫、乃至萬世不斷」 紫式部日記「空モ艶ナルニモテハヤサレテ、ふだんノ御讀經ノ聲聲、アハレマサリケリ」（二）ツネナルコト 平生 平常 織留（元祿、西鶴）五「物云フコトモ人ノ後ニ付テ、不斷ノ身ダシナミモ、自然トソコソコニシテ」 浮世風呂（文化、三馬）二編、下「ソンナ事ハ小兒ノイフ詞ヂャネエ、アノ親メラガ、不斷ヌカスカラノ事ダ」（三）褻ナルコト（晴ニ對ス） 浮世風呂（文化、三馬）二編、下「不斷着ノ裾廻シハノ、秩父絹ヂャア切レル」（四）煮エキラヌコト 決心ノ鈍キコト 決斷ノナキコト 三國志、魏志、楊阜傳「袁公寛而不斷、好謀而少決、不斷則無威、而少決則失後事」

ぶ-だん（名）［武斷］（一）兵力ヲ後援トシテ、烈シク事ヲ處斷スルコト 又、武力ヲ以テ政務ヲ斷行スルコト。 史記、平準書「民富役財驕溢、或至兼并豪黨之徒、以武斷於鄉曲」（二）威力ニヨリテ處置スルコト

ふだん-いしゃ（名）［不斷醫者］（一）常ニ其家ニ出入スル醫者 カカリツケノ醫者 胸算用（元祿、西鶴）、二、「不斷醫者ハ、次ノ間ニ鍋ヲ仕懸ケ、早メ藥ノ用意」（二）醫療ヲ主トセズ、タダ寵愛ニスガリ、左右ニ居リテ話相手ナドスル醫者 本朝若風俗（貞享、西鶴）四「書院ニハ、御心易キ出入ノ者、不斷醫者、樂出家マジリニ、横手ヲ打チ[illegible]ヲツクテ笑フ」

ふだん-ぎ（名）不斷着 褻ノ衣 家ニ居テ平日着用スル衣服（禮服、晴レ着ナドニ對ス）古ク、ケゴロモ。褻服、便服 名物六帖、四、人事箋、四「衵、フダンギ、正字通、說文、日日所常衣也」 守貞漫稿、十、女扮、中、今俗、褻ヲ不斷着ト云フ、ふだんぎト訓ズ」

ふだん-さう（フダン-ソウ）（名）［不斷草］又、ふだんな。たうぢさ（唐萵）ニ同ジ 和漢三才圖會、百二、柔滑菜類「莙薘、俗云唐萵、云云、不時下種生、四時有之、故名二不斷草一」

ふだん-ざくら（名）不斷櫻 櫻ノ一種。花ハ、彼岸櫻、又ハ、姥櫻ニ似テ、葉リテ生ジ、春ノ初ヨリ咲キツヅキテ、四時斷エザルモノ。（伊勢國、奄藝郡（今、河藝郡）白子町寺家ニアルモノ、有名ナリ。今、天然記念物ニ指定セラル） 櫻品、不斷櫻「一名若木櫻、一名節會櫻、一名十六日櫻、按、節會櫻、一名十六日櫻、伊豫松山大須社前ニアリ、正月十五日ニ必開、單瓣小花也、云云、此櫻、勢州廣嶋ニモアリ、播州明石ノ邊ニテハ、不斷櫻ト名ク、皆一物也」 西遊記（橘南谿）三「伊勢國白子トイフニ、子安ノ觀音トテ、名高キ寺アリ、其寺内ニ、不斷櫻トテ、常ニ花咲ケル櫻アリ、云云、唯、三月ハ殊ニ花多ク、其餘ハ花少シ、冬ナドハ、纔ニ尋求メテ見附クル程ナリ、然レドモ、常ニ其花斷エセズシテ咲ケルコト、世ニ類ナキ名木ナリ」

ふだん-な（名）［不斷菜］又、ふだんさう。たうぢさ（唐萵）ニ同ジ。

ふ-たんれん（名）［不鍛錬］熟練セザルコト。フナレナルコト 不熟練 未熟 霜鳳雜話（瀧川時英）二「見齋ガ曰、ソレカシ相撲ハ不鍛錬ノ事ナレバ、自然負クル事アラン、サアラバ彼カ喉ヘ咬付テ咬殺ス覺悟也ト」

ふ-ため（名）［不爲］タメニナラヌコト。得ニナラヌコト 不利益

ふた-め（名）二目 再ビ見ルコト 平家物語、二、座主流事「文殊樓ノ軒端ノ白白トシテ見エケルヲ、二目トモ見給ハズ」 太平記、廿、義貞首懸獄門事「内侍局、是ハ義貞ノ首ゾト、二目トモ見給ハズシテ、傍ナル築地ノ陰ニ、泣キ倒レ給ヒケリ」

ふためか・す ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）フタメクヤウニナス。フタフタト音ヲ立ツル。 宇治拾遺、二、第十六條「雀、云云、頭部、石ヲトリテ打チタレバ、アタリテ、腰ヲウチ折ラレニケリ、羽ヲふためかしテマドフホドニ、烏ノカケリアリキケレバ、アナ心ウ、烏取リテントテ、云云」

ふため・く ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）「詩經、小雅、北山之什、北山篇「鞅掌」注「趨走促遽之貌」」（一）バタバタト音ヲ立ツ。腦膊 今昔物語、十九、第六語「鳥、フタフタトふためく」 同、廿、第十二語「大キナル屎鵄ノ、翼折レタルニ成リテ、木ノ上ヨリ土ニ落チテふためくヲ」 徒然草、百六十二段「大雁ドモふためきアヘル中ニ」 發心集、八、第十三條「鯉、云云、未ダ生キテふためきケルヲ」（二）立チ騷グ。慌忙 著聞集、十六、興言利口「蒔繪師、アワテふためき寄リケルニ」

ふた-もじ（名）［二文字］（葱ノ一文字ニ對ス）にら（韮）ノ異名。（女房詞） 大上臈御名之事、女房詞「一、にら、ふたもじ」 貞丈雜記、六、飮食之部「禁中女房ノ詞、食物異名品品、禁裏女房内内記ニ云ク、云云、ふたもじ（にらノ事）」 物類稱呼、三、生植「韮、にら、上總ニテ、ふたもじト云、是ハ、葱ヲヒトモジト呼故ニ、にらヲふたもじト云」

ふた-もの（名）［蓋物］方圓ノ陶器ノ、蓋アルモノ。陶器ノ合子。（靜岡縣ニテ、かさねばち）

ふだ-もの（名）札物 大小刀ノ價格ノ、折紙物ニ次グモノ 嬉遊笑覽、或問附錄「凡大小ノ價、金一枚ヨリ三枚五兩マデノ極メアルヲ札

ふたゆ・く・ク・キ・カ・キ・ケ（自動、四）[二行] [illegible]
（一）心ノ南方ニ通フ。萬葉集、十四「沼二ノ[illegible]アルココロ、[illegible]ハリソネ」（古義ノ訓）（二）ニツナガラ經行ク。[illegible]

ふたよぐさ（名）[二夜草] すみれ（菫）ノ異名 [illegible]ふたよぐさニモ、花ノ咲キツツ」

ふたより（副）[二寄] フタタビ。二度。二回 千載集、十八、雜、下「[illegible]ニ、明ケニケリ、ふたよりミヨリ、逢フトセシ間ニ」信明集「アケニ（テイ）ミシ、カゲメヅラシキ、マスカガミ、ふたよりミヨリ、アフトセシマニ」

フタラ（名）[二荒] （二荒ハ當字。梵語、Potalaka（補陀落迦）ノ音譯略）二荒山（今ノ日光山）ノ舊稱。性靈集、二、沙門[illegible]山水[illegible]九[illegible]同令[illegible]補陀名山[illegible]二荒山[illegible]荒[illegible]補陀落[illegible]二荒[illegible]日光」

フダラク（名）[補陀落補陀落迦]（梵語、Potalaka. 海島ノ山、光明山ナドト譯ス）モト印度ノ南海岸ニアリテ、觀世音ノ住所トス、其山ノ形、八角ナリト。今、觀世音ノ[illegible]久、文德天皇、齊衡中中、日本僧、慧萼、唐ノ浙江、明州ノ一海島（今ノ定海縣、東海中ノ普陀山）ヲ開キ、觀世音ヲ祀リ、遂ニ其島名トナレルニ起ルトモ云フ。新華嚴經、八法界[illegible]觀世音[illegible]補陀落[illegible]今ゾ榮エン、北ノ藤浪」風雅集、十八、釋敎「補陀落ノ、海ヲ渡レル、モノナレバ、ミルメモ更ニ、[illegible]ヒタル子ヲ相具シテ、粉河寺ニ詣デテ、彼ノ子ヲ[illegible]フナル、モノナレバ、コノミルメヲバ、タマヘトゾ思フ、ト思ヒ懸ケテ、マドロミケル夢ニ、觀音ノ示シ給ヒケルトナン」

フダラクせん（名）補陀落山 前條ノ語ニ同ジ。西域記、十[illegible]山東、有[illegible]山、山徑危險、[illegible]」

ふたり（名）[二人] 人ノ數ヲ云フ語。たり（人）ノ條ヲ見ヨ。萬葉集、五長歌「妹ノ命ノ、アレヲバモ、イカニセヨトカ、ニホドリノ、布多利ナラビ居、語ラヒシ」同、十九「シキシマノ、大和ノ國ニ、人二人、アリトシ思ハバ、何カ歎カム」

ふたりしづか（名）[二人靜] 一實ノ形ヲ、義經ノ妾靜ガ長刀ニ擬シテ云フト云フ」古名、ツキネグサ。金粟蘭科ノ多年生草本ノ名 陰地ニ多シ 春、宿根ヨリ叢生ス。莖、高キハ一尺許リ、三四節アリ、其葉、莖梢ニ、二重ニ兩對シ、形、あぢさゐ（紫陽花）ノ葉ニ似テ、細鋸齒アリ。四葉ノ上ニ、細莖二條ヲ出ス、長サ一寸餘、圓小ノ白花簇リ生ズ。其色、次第ニ綠ニ變ジテ、後ニ實ヲ結ビ、下垂シテ、二穗トナルヲ常トス。ヨシノシヅカ。及已

ふたりと（副）ハタト。ハッタト。字鏡拾遺[illegible]第七條「コノ翁、鼻ヲヒンドテ、帽擢向キテ鼻ヲヒル程ニ、手震ヒテ、鼻持上ノ木ユルギテ、鼻ハヅレテ、粥ノ中へふたりとウチ入レツ」

ふち（名）淵潭（深内處ノ義）（一）水ノ殺ミテ深キ處。[illegible]

[illegible]紫御記、六十年七[illegible]對照シテ、變幻常ナキモノノ譬ニ用ヰル。古今集、十八、雜、下「世ノ中ハ、何カ常ナル、飛鳥川、昨日ノ淵ゾ、今日ハ瀨トナル」[illegible]川、瀨ニモアラヌ、我宿モ、瀨ニカハリ行ク、モノニゾアリケル」夫木集、三、柳「瀨ハ瀨ニ、ナルヤ飛鳥ノ、川ノベニ、變ラヌモノハ、春ノ靑柳」

ふち（名）緣（一）物ノ端。ヘリ。ハシ。ハタ。邊端 名物六帖、三、器財「[illegible]ツボノフチ」[illegible]
（二）刀ノ柄ノ、鐔ニ接スル所ヲ包ム金物。フチガシラ。[illegible]

ふち（名）斑駁駮 斑散ノ略ト云フ、溷リテ、ぶちト云フ。獸類ノ毛色ノ、種種マジレルモノ。マダラ。倭名抄、十一六牛馬「駁馬、布知無馬、不純色馬也」[illegible]「劍ニ天斑駒穿殿甍而投納」神樂歌、其駒「アシ布知ノヤ、モリノ下ナル、吾ガ駒井テコ、アシ布知ノ、虎毛ノ駒」

ふち（名）[扶持]（一）タスクルコト。合力スルコト 孟子、[illegible]文公、上[illegible]病扶持、則百姓親睦」[illegible]左提右挈[illegible]扶持、フチ[illegible]集（慶長）下[illegible]扶持、フチ」謠曲、[illegible]年ニ餘リ、扶持中シタル[illegible]」（二）扶持米ノ略 米ニテ給スル祿（知行ニ對ス）[illegible]米 名[illegible]六帖、四[illegible]フチ[illegible]祿[illegible]米ノ事ヲ扶持トモ云、米五合ヲ一人扶持[illegible]ハ、己レガ扶持ヲ、マルデ賣リ」

ふち（[illegible]）[illegible]

ふち（名）[不智] チエノナキコト。賢カラヌコト [illegible]

ふち（名）[不治] 病ナドノ癒エヌコト。ナホラヌコト [illegible]不治、[illegible]死ニ「不治ノ病」不治ノ症」

ふち（名）府治 府トイフ地方自治團體ノ政治。府ノ行政。

ふぢ（名）葛 葛、藤ナドノ蔓ノ[illegible]「ふちカヅラ」

ふぢ（名）藤 [illegible]一二[illegible]蔓生ノ落葉植物 年久シキモノハ、甚ダ大キクシテ、木ノ如シ、架ニ延ヘシメ花ヲ賞ス。葉ハ互生シ、奇數羽狀複葉ニシテ、小葉ハ[illegible]花、莖、[illegible]穗ヲナシテ開ク、蝶形ニシテ[illegible]莢ヲ結ブ、なたまめ（鉈豆）ニ似テ小サク、內ニ子アリ、形、碁石ノ如シ。花ノ色、紫ナルハ、穗、五六尺ニ至ル、紫藤、白花ナルヲ、しらふぢト云フ、穗短ク、開クコト早ク、葉、大キクシテ厚シ 倭名抄、廿[illegible]本草和名、上[illegible]「狼跋子、布知乃美」同、下「狼跋子、布知加都良」

和漢三才圖會、九十六、蔓草類、藤、和名、布知、上ニ藤ノ字ヲ用ヰ、[illegible]咲ク、布治ノ木葉ノ、ウラヤスニ、サメレ[illegible]、コロフシ黒ハ[illegible]紫[illegible]ノ名、[illegible]花ノ色、卽チ淡紫。フヂイロ。淡紫 榮花物語、十九、御裳着、卽シツラヘフ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ノ織物ノ御几帳ニ、指枝ヲヌヒタリ」（二）襲ノ色目ノ名、表ハ淡紫ニシテ、裏ノ青ナルモノ。一說ニ、表ハ淡紫ニシテ、裏ノ淡紫ナルモノ 源氏、第九、花宴「上臈ダツ人ノニヤ、アハセノ五ギヌ、藤ノ上衣、袖ロイダサル」同、第十二、老の波「イロイロノ衣ドモ、藤、躑躅、撫子ナド、著更ヘラレケル」（四）〔ふぢおろも〕藤衣ノ略 其條ヲ見ヨ 源、上、椎本「御年ノウチニテ、ふぢノ袂ニヤツレ給ヘレバ」

ぶち（名）斑駁〔（一）ふち、斑ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。（二）一般ニ、色ノマジレルモノ。マダラ。

ぶち（名）鞭策〔打ト通ズ、天治字鏡、五、「鞭、夫知、夫ハ濁音ナリ」むち、鞭ニ同ジ 天治字鏡、八、「策、馬撾也、夫知」和漢三才圖會、三十、「中略之用、鞭、和名、布知、俗云、武知」俚言集覽、ぶち、鞭也、ぶトむト通ズ、古事記）馬ノハ、むち、鞭トハぶちト云」源、十五、蓬生「御先ノ露ヲ、馬ノぶちシテ拂ヒツツ、入レ奉ル」拾遺集、廿、哀傷「太子ノ乗リタマヘル馬、トドマリテ行カズ、ぶちヲ揚ゲテ打チ給ヘド」

ぶち（名）桴枹〔撥ノ轉カ、或ハ云フ、桴ノ義カト〕ばち（桴）ニ同ジ。

ぶちあ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）打上〔（一）トリアグ。ヒキアグ。丹波與作、中、近松作〕中「海道筋ノ五器ノ實ヲぶちあげ、腕カヅカセテ見セフズト、身ヲ捨振ッテ立歸ル」（二）モノ云フ ヌカス 浮世床、文化、三、中）初編、下「アイツガヤウニ、噓ヲツク奴モネエ者ダ、ヌケヌケトシタ事ヲ、ぶち上げルゼ」（三）あぐ

ニ上ヲ強メテ云フ語 浮世床、文化、中）初編、上「アノ野郎、此ノ頃、血道ヲぶちあげ居ルゼ」

ふちあんない（名）不知案内 案内ヲ知ラザルコト。モノノ容子ヲ知ラザルコト。不案内 易林本節用集「不案内」[illegible]、[illegible]曲、[illegible]「不知案内ノ[illegible]ニテ候ヘバ、[illegible]ノ神[illegible]シク御物語リ候ヘ」

ふぢいろ（名）藤色〕ウスキ紫イロ 淡紫色 略シテ、ふぢ。守貞漫稿、十七、[illegible]「薄ムラサキハ淡紫也、今云、藤色也」

ふちうま（名）斑馬 又、ふちむま。マダラウマ。毛ノブチナル馬 フチコマ。駮馬 倭名抄、十一、牛馬毛「駮馬、俗云、布知無萬、不純色馬也」宇津保物語、吹上、下「引出物ハ、侍從ニサマザマノふちむまノ、丈八寸バカリ、トシ六バカリナル走リ馬四ツ」

ふぢうり（名）葛行李〔藤行李〕又、ふぢごり。くず（葛）ノ蔓ヲ編ミテ作レル行李 日本山海名産圖會、三、「葛 葛ハ水ニ浸シ皮ヲ去リ、[illegible]ネテ器トシ、是ヲ葛籠トイヒテ、水口ニ製スルモノ、是也」

ふぢがき（名）藤垣〕垣ニ藤蔓ヲ絡マセタルモノ。藤ニテ作レル垣。俚言集覽「ひさむ集、藤垣ノ、窓ニ紙燭ヲ、挾ミ置キ（珍碩）」

ふぢがさ（名）藤笠〕元文頃ハヤリタルカブリガサ 富士山形トス 我衣（文化、曳尾庵）「藤笠、藤ヲ編ミテ作ル、元文比、流行スル人、花生、茶碗、手拭懸ケヲ作リ、此笠モ作リタリ、若キ武士、醫者ナド、御坊主多クカムリタリ、上方ヨリモ下ル、細工ヨシ、イロイロ模樣ヲ織リテ見事ナリ」

ふぢがさね（名）藤重〕襲ノ色目ノ名。表ハ淡紫ニテ、裏ハ萌黃ナリ。夏季ノ初ニ服ス 源、十七、繪合「アカ色ニ櫻カサネノカザミ、袙ハ紅ニ藤がさねノ織物ナリ」盛衰記、四十三、[illegible]位禪尼入海事「女院ハ、云云、彌生ノ末

ノ事ナレバ、藤重ノ十二單ノ御衣ヲ召サレタリ」

ふちがしら（名）緣頭 つかがしら、柄頭ニ同ジ。長町女腹切（正德、近松作）上「御池ノ町ノふちがしら、小川通リノセカイラギ、今日晴日ニ持タシテヤレ」

ふちかた（名）扶持方〔知行取ニ對ス〕祿ヲ扶持米ニテ受クルモノノ稱 又、其祿 俸給 又、扶持ニ關スル事 コレヲ掌ルモノヲ、扶持方奉行ト云フ。太閤記、十、筑紫陣御歸之事「御扶持方ノ奉行ハ、石田治部少輔、大谷刑部少輔、長束大藏大夫也」甲陽軍鑑、十二、品第三十九「御藏前衆之內ニテ、五騎ハ駿州ムキノ代官衆御扶持方、蔵ノタメニ御供也」

ふちかたちやう（名）扶持方帳 俸米ノ受渡ヲ記載スル册子。

ふぢかづら（名）藤蔓〕（一）藤ノ蔓。フヂヅル 略シテ、ふぢづら（二）蔓草ノ總稱。特ニ、葛かづらヲモ云フ 大木抄、六、藤花「折ラスナヨ、垣ホニ咲ケル、藤かづら、クル山人ノ、歸ルカザシニ」

ふぢくら（名）藤倉〕次條ノ語ノ略。

ふぢくらざうり（名）藤倉草履 藺ニテ編ミタル草履ニ、白木綿ノ緒ヲ著ケタルモノ 略シテ、ふぢくら。守貞漫稿、廿七、傳履「藤倉草履、云云、コノ草履ノ麻裏ヲ不用物ヲ、藤倉草履トイフ、價五六十錢」諸家與女中袖鏡、履ものの事「御殿中、御下バキハ總女中トモ、白羽二重ニテ一筋端緒、藤くら草履ノ事、但シ、ハナ緒ハ白紬、木綿ニテモヨシ」

ぶちこはし（名）打壞打毀〔ぶちハ、接頭語〕こはし（壞）ヲ強メテ云フ語。

ぶちこは・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）打壞 打毀〔ぶちハ、接頭語〕物事ヲコハシ

破ル 打破ル 東大寺[illegible]「實ニ此度ノ菩提樹ノ事ハ、靈座、後光ヲぶちはなし、[illegible]ノ手へ渡ト云モアレハ夢ニモ知ラヌ事ナリ」

ぶちこま（名）斑駒 マダラウマ フチ[illegible] 古事記、上、[illegible]其服屋之頂、逆剝天斑馬、剝而[illegible]、神代紀、上、[illegible]「見日神方、織殿時、則剝斑駒、納其殿內」

ぶちこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）打込 うちこむ（打込）ノ條ノ（一）ニ同ジ。風流[illegible]、[illegible]菩提樹之[illegible]ニモアレ、彌陀ニモアレ、[illegible]ノ[illegible]ヘぶちこまし、御ヤ[illegible]ト[illegible]ノ住居ナリシ」

ふぢごり（名）葛行李〔藤行李〕ふぢがうり（葛行李）ニ同ジ。

ぶちころ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）打殺（一）ころす（殺）ヲ強メテ云フ語。東海道中膝栗毛（文化、[illegible]）九、四編、上「オノレ出テミロ、ぶち殺シテクレウト、リキミカヘッテ」（二）俗ニ、賣拂フ（三）俗ニ、質入ス

ふぢごろも（名）藤衣〔（一）葛蔓ノ皮ノ纖維ニテ織レル布ノ衣 古へ、賤民ノ着タル粗末ナル服ニシテ、和栲ニ對シテ、荒栲ト云フ 古今集、五、秋、下「秋ニモ出デヌ、山田ヲモルト、藤衣、稻葉ノ露ニ、ヌレヌ日ハナシ」（二）麻布ノ喪服ノ稱 縗衣 倭名抄、十四、九「[illegible]、縗衣、不知古路毛、喪服也」古今集、十六、哀傷、藤衣、ハヅルル絲ハ、ワビビトノ、淚ノ玉ノ、緒トゾナリケル」拾遺集、廿、哀傷「藤衣、ハラヘテ棄ツル、淚川、キクニモマサル、水ゾ流ルル」小大君集「オナジ人、服ヌギ給ヒシ、限アレバ、今日脫ギ捨テツ、藤衣、淚ノハテゾ、知ラレザリケル」

ふぢごろも（枕）藤衣〕間遠し、馴るる、ノ枕詞 萬葉集、[illegible]、四「須磨ノ海人ノ、鹽燒衣ノ、藤服、間遠ニシ（織目ノ疎ナル意）アレバ、未ダ

[illegible]レズ[illegible]ナルトハ(蒜類ニテ、ヨレヨレトナル意)スレド、イ[illegible]

ふぢさはぎく（ブザワ・ギク）[illegible]ノ名[illegible]二尺、[illegible]枝ヲ分ケ[illegible]花ノ開ク[illegible]形、をぐるま(小車)ノ花ニ似テ、大キサ錢ノ如シ、後ニ白絮トナリテ飛ブ。サハヲグルマ。ウグサ。ウシノシタ。狗舌草[illegible]フヂサ、ギク(江戶、京)、ウグサ(筑前)、サハヲグルマ(大和本草)、云云、チャウト(越後)」

ふぢじ（名）府知事　府ノ長官[illegible]及、ちじ(知事)ノ條ヲ見ヨ。

ふぢせ[illegible]萬葉集、九[illegible]「ミツ川ノ、淵瀬モオチズ、サデサスニ、コロモデ濡レヌ、ホス子ハナシニ」壬二集「吹ク風[illegible]」(二)古今集、十八、雜、下「世ノ中ハ、何ッ常ナル、飛鳥川、昨日ノ淵ハ、今日ノ瀨トナル」ノ古歌ニ本ヅキ、世上人事ノ變遷ヲ云フ語。伊勢集「世ノ騷ガシキ頃、宅メナキ、世ヲキクトキノ、涙コソ、袖ノ上ナル、淵瀬ナリケレ」寶方集「佗ヒツツモ、此世ハヘナン、渡川、淵瀬ヲ誰ニ、問ハントスラン」

ふぢそこ（名）淵底　フチノソコ。深キオクソコ

ふぢだか（名）緣高　膳ノ名　足付ノ膳ノ緣ノ高キモノ。(足ノ付カザルモアリ)三方ノ條ヲモ見ヨ。下學集、下、器財門[illegible]

ノナリ、菓子ナドヲ盛ル器ニ、緣ヲ高クスルナリ、大[illegible]角ナリ」同、同「菓子盆トイフ物、古ハナシ、菓子ハ[illegible]二、下、器用「今緣高トイフモノハ、足付ノ折敷、木具[illegible]

ふぢだか（名）扶持高　扶持米ノ額[illegible]米ノ額、石高

ふぢだな（名）藤棚　柱ヲ立テ、桁ヲ互[illegible]藤ノ蔓ヲ高ク掛ケテ這ハスルモノ[illegible]

ふぢだにドンス（フジタニ）（名）[illegible]

切ナリトイフ」

ぶちちゃうちゃく（名）打打擲　「打ト打擲ト、同語ナリ」ウチタタクコト[illegible]

ぶちつける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二)打付　ブッケル。ナゲッケル。

ふぢづな（名）[illegible]　藤蔓(フヂヅル)ニテ綯(ナ)ヒタル綱。名物六帖、三、器財箋、五「藤絲絲、フヂヅナ」

ふぢつぼ（フジ・ツボ）（名）藤壺　〔庭ニ藤ヲ植エラレタル故ニ名ヅク〕禁中、殿舍ノ名清涼殿ノ北、弘徽殿ノ西ニアリ、后、女御ノ内住スル所。本名、飛香舍。倭名[illegible]ノ藤ノ花、エモ云ハズ面白ク塀ニ咲キカカリテ」更[illegible]

[illegible]日記「月ノイトアカキニ、藤壺ノ東ノ戶ヲオシアケテ、サベキ人人、物語リシツツ月ヲ眺ムルニ」[illegible]鏡、上、五十八代「コノ御時ニ、藤壺ノ上ノ御局ノ[illegible]戶ハアキタルト、聞キ侍ルハマコトニヤ」[illegible]三、藤衣「今ノ女御(源子)モ、ヤガテ后ダチアリ、[illegible]

ふぢつぼ（名）[illegible]岩石、又ハ他ノ貝殼ノ上ニ[illegible]其中ニ棲ム[illegible]體、小サキ蝦ノ如ク、壺ノ上孔ヨリ鬚手ヲ出シテ食物ヲ捕フ。イハガキ。

ふぢづら（名）藤蔓　[illegible]ふぢかづら[illegible]ノ略　古事記、中[illegible]

ふぢつる（名）藤蔓　藤ノ幹、又ハ、枝ノ細長キモノ　フヂノツル　フヂカヅラ。

ふぢづるがさ（フジズル・ガサ）（名）藤蔓笠　藤ノ細キ莖ニテ編ミタル笠[illegible]

ふぢとのり（フジト・ノリ）（名）藤戶海苔　紫菜(アマノリ)ノ一種　備前國ノ藤戶ニ産ズ　ウキミノリ毛吹草、三「備前、藤戶苔(ノリ)」食物知新、首、日域諸國名[illegible]藤戶苔、備前」

ふちとり（名）扶持取　扶持米ヲ給セラレテ居ル者。

ふぢとりばり（トリバリ）（名）[illegible]　茜科ノ蔓生草木ノ名　山地ニ自生シ、葉ハ對生シテ

卵狀ヲ呈シ、カヅラハ中空ニシテ、狀、[illegible]紫色ノ鬚アリ、コレヲ以テ他物ニ纏繞[illegible]

ふぢな[illegible]

ぶちなぐる・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四)　プッナグル。ブンナグル。打擲ス。

ふぢなでしこ（フジ・ナデシコ）（名）藤撫子　石竹科ノ宿根草[illegible]尺許[illegible]柄ヲ有シ[illegible]花[illegible]開ク。ハマナデシコ。シナノナデシコ。

ふぢなみ（フジ・ナミ）（名）藤浪　〔藤花(フヂハナ)ノ意〕(一)藤ノ花ノ房ノ垂レタルコト[illegible]今[illegible]假リテ、藤原氏ノコトニ云フ。[illegible](二)ふぢト云フ音ヲ[illegible]實ハ、咲キテ散リニキ」[illegible]第五、内野の雪「コノ三所ノ御後ノミ、今ニ絶エズ、御流レ久シキ藤なみニテ、立チ榮エ給ヘルコソ、類ヒナキヤンゴトナサナメレ」袋草子、四「補陀落ノ、南ノ岸ニ、家居シテ、今ゾ榮エン、北ノ藤波(藤原氏北家)」

ぶちぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）〔打拔〕ウッテヌク　隔テヲ取去ル　ブコヌク

ふぢぬの（名）藤布　藤ノ皮ノ纖維ニテ織リタル粗布。不斷バキノ袴、又、ゴザノ縁ナドニ用ヰル　舒ビ、綟ミナドシタルトキ、霧ヲ吹キカケテ疊ミ置ケバ、舊ニ復スト。モト奥州相馬ノ産ト云フ　和漢三才圖會、廿七、絹布類「藤布、不知沼乃」

ふぢのはな（名）藤花　（一）徳川時代ニアリシ餅菓子ノ一名、藤實　嬉遊笑覽、十、上、飲食「…白絲ノ餅（形ニヨリテ名ツク）三赤小豆ヲ付ケタルヲ、藤の花トイフ」（二）藤花貝ノ略　貝ノ一　偏三角形ノ二枚貝ニシテ、殼ノ内面、藤色ヲ呈セルヨリ此名アリ。殼ノ外表ハ平滑、淡黄褐色ナリ。我ガ國、各沿海ニ產ズ。（三）蛸ノ子（卵）ノ稱　重修本草綱目啓蒙、三十、無鱗魚類、章魚、タコ「云云、子ヲ藤のはなト云、播州ノ二見、名產ナリ、二三寸ノ長サノ絲ノ如キ者ニ、粟粒ニ似タル者、多ク綴リ連リテ、藤ノ花穗ニ似タリ、黃白色ナリ、鹽藏シテ遠ニ送ル、云云、此ヲ海藤花ト云フ」

ふぢのはながき（名）〔藤花書〕葦手書ノ類　嬉遊笑覽、二、書畫「藤の花がき、ツノハガキモ蘆手ナリ、後京極攝政良經公ヨリ始ルトイヘリ、按ルニ、今モ芝ノ神明祭リニ賣ル千木筥ノ藤ノ花、コレ藤の花がき也」

ふぢのはながひ（名）〔藤花貝〕前前條ノ（二）ニ同ジ。

ふぢのみ（名）〔藤實〕ふぢのはな（一）ニ同ジ。嬉遊笑覽、十、上、飲食「藤の花、マタ藤の實トモイフニヤ、寬文元年、成安ガ撰メル埋草ニ、藤の實ノ、咲カバ敎訓ケ、シンコ馬、トイフ發句アリ」

ぶちのめ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔ぶち（接頭語）〕強ク打ッテ、前ノ方ヘコロバス。又、イタク打擲スル。　春花五大力（並木五瓶）木場泥仕合の場「人殺シノ訴人スルトヌカシタナ、ソンナ事言ウタカイナァトイフ、ぶちのめす」同、同、萬屋ノ居所ノ場「何レモ千太郎様ノ御意ヂャ、ぶちのめさっしゃレイ、ぶちのめさっしゃレイト、宗十郎ヲ皆皆扇ニテ、サンザンニ打擲スル」

ふぢばかま（名）〔藤袴〕（一）〔花ノ色、藤ニ似テ、花瓣ノ筩ヲナスコト袴ノ如キ意ナリト云フ〕菊科ノ宿根草　原野ニ自生シ、春、苗ヲ叢生ス、莖、圓クシテ、節長ク、葉ハ節ニ對生シ、形、長ク、左右ニ枝アルコト燕尾ノ如ク、邊ニ鋸齒深ク、香氣多シ　夏秋ノ際、莖、高サ三四尺、又、六七尺、枝ノ末每ニ、細小花、簇リ咲キテ、瓣ハ薄紫ナルガ、其一蕚ノ筩ハ、殊ニウルハシキ紫色ニテ、瓣ノ下ニツク。秋ノ七草ノ一トス。〔蘭草〕和本草和名、上廿「蘭草、布知波加末」（倭名抄、同ジ）和名考異、蘭「蘭草、布知波賀萬」和漢三才圖會、九十四、濕草類「藤袴、フヂバカマ、俗稱、本名未詳」萬葉集、八、三十五山上臣憶良詠秋野花二（旋頭歌）「萩ノ花、尾花、葛花、瞿麥ノ花、女郎花、又藤袴、アサガホノ花」古今集、四、秋、上「何人カ、來テ脫ギカケシ、ふぢばかま、來ル秋每ニ、野邊ヲ匂ハス」金葉集、三、秋「サガニノ、絲ノトヂメヤ、アダナラン、綻ビワタル、藤袴カナ」樵談藝集「弓固メ、トル比ナレヤ、藤袴」（二）襲ノ色目ノ名　表裏トモニ紫ナルモノ

ふぢばし（名）〔藤橋〕谷川ナドノ兩岸、石崖ノ突出セルニ架セル橋。藤葛ヲ經トシ、木ヲ緯トシテ作ル。橋柱ナシ。飛驒國、吉城郡、船津町ノ高原川ニ架セルモノ名高シ　又、兩岸ニ大繩ヲ渡シ、小籠ヲ掛ケ、籠ニ二繩アリテ、人コレニ乘リ、自ラ繩ヲ手繰リテ渡ルヲ、籠のわたりト云フ　同郡中山村ノ神通川ニ架セルモノ、又、名アリ　〔周山耕作、…〕

ふぢばなし（名）〔藤放〕〔昔、鰾膠ニテ弓ヲ卷キ、葛藤ニテ卷キツケ、枝打チテ枯ラス故ニ、藤放ト云フ　卷キタル葛藤ヲ解キ放シタルママノ意　又、學繩、又ハ古キ弓弦ナドニテ卷ク〕未製品ノ弓　荒木ノ弓　貞丈雜記、十、弓ノ部「ふぢばなしの弓トイフハ、弓師、弓ヲ打チテ未ダ削リ立テズシテ、弭モ切ラズ、四角ニシテ置クヲ、ふぢばなしの弓ト云フナリ、藤放ノ弓モ進物ニスルモノナリ」伊勢貞丈雜記「ふぢばなしノ弓モ張弓ノ如ク、…」

ぶちはな・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔打放〕うちはなす（打放）ヲ、強メタル語　狂言記、武惡「ホモタマラズぶちはなしテ御座ル、サテモサテモ、ヨウ切レル御大刀デ御座ル」

ふちまい（名）〔扶持米〕扶持トシテ與フル米。略シテ、扶持。俸米　安土日記「諸卒之人數ニ隨テ、御扶持米、信長フカシニテ渡シ被下」御勘定所定書、中「御扶持米渡候時モ、御藏ヲ改、先ヅ南相可然、相談之上書出可、云云」

ふぢまきゆみ（名）藤卷弓　〔ふぢハ籐ノ誤、籐カ〕弓ノ節ノ部分ヲ、籐ニテ卷キタルモノト云ヘド、恐ラクハ、節卷弓ノ誤ナルベシ。其條ヲ見ヨ。　羅月庵國書漫抄（尾崎雅嘉）七「弓ハ節ノトコロ、厚キ所多ク、フシノ所ヨリウキ上ガリテ鰾ハナルル也、其用心ノタメ、節ノ所ヲ籐ニテ卷タルヲ、ふち（しカ）卷の弓トイフ也」平治物語、四、源氏勢汰事「イカモノツクリノ太刀ヲハキ、クロ羽ノ矢オヒ、ふぢまき弓持テ」

ぶちま・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）（一）器物ヲ覆シテ、中ニアルモノヲ、殘ラズ撒ク　（二）ツツミクサズニ云フ　心底ヲ打チアク　披瀝ス

ふぢまめ（名）〔藤豆〕〔花、藤花ニ似タリ〕一名、アヂマメ、又、ヒラマメ　豆ノ一種。春、種ヲ下ス、蔓甚ダ長シ。葉ハ、葛ニ似テ小サク、毛ナシ。花、穗ノ狀ヲナシテ開ク、莢、下タク、未熟ナルハ、莢ノママニ煮食フベシ、豆、圓ク平タシ。京ニテ、インゲンマメ。別名、タウマメ。花ノ色、紫ナルモノハ、豆ノ色、黑褐ナリ。鵲豆、藊豆　又、白花ナルハ、豆、白クシテ、小黑點アリ、

ふちん（名）〔浮沈〕（一）浮クト、沈ムト。ウキシヅミ　又、興ルト、衰ブルト。榮ユルト、衰フルト　平治物語、一、信賴信西不快事「便宜候ハバ、當家ノ浮沈ヲモ試ムベシトコソ存ジ候ヘ」（二）世上ノ變遷ニ伴ヒテ行クコト　史記、屈原傳、序論「拘攣…忠臣之義、久擬於世、豈若卑論儕俗、與世浮沈、而取榮名哉」（史記、論文）淮南子、要略篇「言道而不言事、則無以與世浮沈」

ふぢんし（名）〔浮塵子〕小飛蟲ノ名。うんか（浮塵子）ニ同ジ。

ふぢむすめ（名）〔藤娘〕大津繪ニカク娘、塗笠ヲカブリ、藤ノ花ノ模樣ノ衣裳ヲ着、藤ノ枝ヲ擔グモノ。又、ソノ服裝シテ舞フ圖

ふぢもどき（名）〔莞花〕さつまふぢ（薩摩藤）ノ一名。又、ちゃうじざくら。各條ヲ見ヨ。

ふちゃ（名）〔普茶〕又、ふさ。普茶料理ノ略　卓袱ノ料理ノ精進ナルモノ　黃檗宗ノ寺ニテ調ズ。ふさ（普茶）ノ條ヲモ見ヨ。　黃檗清規、常住設普茶「普茶及二一衆一也」叢林宗器箋、廿五、飲啖門「點、茶、普及二一衆一故曰二普茶一」

ふちゃう（名）［符帳符丁］（或ハ、符牒）（一）商家ニテ、直段ナドヲ、隱語ニテ商品ニ記スモノ。[illegible]（二）相圖ニ用ヰル隱語。アヒコトバ。

ふちゃう（名）府廳 府中ノ[illegible]ノ下ニ、一府内ノ行政事務ヲ統ベ治ムル廳。

ふぢゃう（名）［不定］サダマラヌコト。[illegible]定ナリツル御出タチノ、カク定マリユクヲ、ウレシ[illegible]セテタビ候へ、心ノ不定ニ候ハンハ直サセ給ヒテ、[illegible]

ぶちゃう（名）部長 一部ノ長タル人。[illegible]

ふちゃうご（名）符帳語 次條ノ語ニ同ジ。

ふちゃうことば（名）符帳詞 又、ふちゃうご。帳ニ符ス詞ノ、一商家ニ限ルガ如キモノ、八百屋、魚屋ナドノ符帳、大抵[illegible]ノ如シ、語原始ニド知ルベカラズ。（百文今、一錢ナリ、他ハ之ニ倣へ）[illegible]百文、そく。[illegible]百文、ふり。[illegible]百文、[illegible]、又、きり、大の字。四百文、たり。五百文、げんこ、又、がれん。六百文、ろんじ。七百文、せいなん。八百文、ばんどう。九百文、きわ、又、がけ。一貫文（十錢）、なで。五十文（五厘）、めのじ。百五十文、そくがれん。七十二文、ぬけ。百七十二文、[illegible]。二百五十文（二錢五厘）、やっこ、又、あたま。三百文、げた。三百五十文、げため。次ニ鷄籠屋、人力車夫ナドノ符帳ハ、百文（一錢）、[illegible]二百文（二錢）[illegible]三百文（三錢）[illegible]。四百文（四錢）、だり。五百文（五錢）[illegible]。六百文（六錢）[illegible]。七百文（七錢）、せいなん。八百文（八錢）、ばんどう。九百文（九錢）[illegible]。一貫文（十錢）、どて。又、三錢ノやみ。又、はったり、又、ばったりさ、うさん。（ちゃうちんヲばったり落セバ、闇トナル意）十二錢、[illegible]。十三錢、と[illegible]てやみ。十四錢、ぞてだり。十五錢、ぞてげん。十六錢、ぞてろく。十八錢、ぞてばん。三十五錢、やみげん。又、一朱（六錢二厘五毛）、めぬき。二朱（十二錢五厘）、めた[illegible]。三朱（十八錢七厘五毛）、さんさめ。一歩（廿五錢）、やりぶ、又、やり。二歩（五十錢）、ふりぶ。三歩（七十五錢）、かちぶ。一兩（一圓）、大やり。又、二十錢、ふりかん（かんハ貫ナリ）。四十錢、やり。三十錢、やみかん。シカシテ、廿五錢、だりかん。五十錢、ふり。五十錢、ふりかん。五十錢、ふり。[illegible]三十ヲ、三ならび、五百五十ヲ、五ならびト云ヒ、略シテ、三なら、五ならトモ云フ。小間物店ニテハ、人、平、生、丸、刀、モノ、片リナドト云フトゾ。[illegible]俗談正文叫）新吉原松葉屋、傾城遊女ハ、此家ニテ、隱シ言葉、相圖、又ハ、ふてう言葉ナトトテ、色色、[illegible]コリ客ノ聞キ知ラヌ事ヲ、女郎、志ハ、云ササヤキ、外ヘハ何ト云フ事ヤラ、ワカラザルヤウニスルコトハ、傾城ニ限ラズ、諸藝諸商人ニテモ、言葉ツカヒ符[illegible]、外ノ人、是ヲ知ラズ、先、傾城ヨリ出タリ、[illegible]ふてう言葉ハ、源氏六十帖トイフ風雅ノモノナリ」

ふちゃく（名）附着 [illegible]

ふちゃく（名）不着 到着セザルコト。[illegible]

ふちゃれうり（名）普茶料理 又、ふされうり。ふちゃ（普茶）ニ同ジ。江戸流行[illegible]

ふちゅう（名）不忠 忠義ナラヌコト。不臣。國語、晉語「夫不忘恭敬社稷之鎭也、賊二[illegible]二不忠ノ[illegible]ヲトリヌベシ」

ふちゅう（名）釜中 カマノナカ。釜中ノ魚トハ、ヤガテ煮ラルルニ、[illegible]キセラレヌ譬ニ云フ。[illegible]ガヌ故、釜中ニ魚生ズル意ニテ、[illegible]貧ノ譬ニ云フ [illegible]長ハ適ニ母憂ハ不ニ到、云云、識者欲ニ以爲ニ侍御史ハ因逍[illegible]

ふちゅう（名）府中 （一）こふ（國府）ノ條ヲ見ヨ。（二）政治ヲ行フ所。（宮中ニ對ス）[illegible]中、倶爲ニ一體、陟ニ罰臧否、不ニ宜ニ異同ニ」

ふぢゅう（名）不住 [illegible]ザルコト。住[illegible]

[illegible]居人ノナキコト。又、一所ニトドマラザルコト。[illegible]

ふちょうい [illegible]。氣ヲ着ケザルコト。ヌカルコト。

ふぢょ（名）［婦女］ヲンナ。婦人。女子。[illegible]不ニ吉凶、公庭不ニ言ニ婦女ニ」

[illegible]

ふち [illegible]

[illegible]源氏ニ事「神明ノ冥慮ニ任スベシトテ、田部ノ[illegible]

フツ [illegible]佛國」「佛學」「佛語」「佛法」「佛人」「和佛」「日佛」「英佛」

ふ・つ・ツル・ツレ・テ・チ・テヨ（他動、下二）［棄］すつ（棄）ニ同ジ。大和物語、下「此ノ水、アツ湯[illegible]」

ブツ（名）［佛］〔梵語、Buddha. ぶつだ（佛陀）ノ略。覺者、又、智者ト譯ス〕（一）ホトケ。ほとけ（佛）ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]（二）[illegible]三佛教 佛法[illegible]「佛經」「佛書」「佛語」

ぶ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（他動、四）［打擊撲］擊ッ[illegible]

モ、ハタイテモ、僕ニ釘ト云フ奴ダカラ、ヤルセガネエ」 丹波與作(寶永、近松作)上「オ乳人ノ背中ヲトントントン[illegible]」

ふ-つう (名) [普通] アマネク、カヨフコト。ヨノツネ。ツネナミナミ。ナミ。ツイトホリ。尋常。 易林節用集(慶長)下、言語門「普通、フツウ」[illegible] 重盛ノ所爲也トキコエキト、普通ニ大ニカハレリ」 消息「中ニモ普通ノニハ超エタル具足ニテ」

ふ-つう (名) [不通] (一)トホラヌコト。カヨハヌコト。 易林節用集(慶長)下、言辭門「不通、フツウ」「音信不通」 (二)緣ヲキルコト。絶緣 日本新永代藏(正德、北條團水)[illegible]「是ヨリ一家義絶シ、不通ニナリ」

ブッ-う (名) [佛宇] 〔宇ハ、說文「屋邊也」詩經、豳風、七月篇、注「宇、簷下也」孔穎達正義「于屋則簷邊爲宇」〕 てら(寺)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

ふつう-がく (名) 普通學 一般國民ニ必要ナル、普通ノ知識ヲ授クル諸種ノ學問 (專門學ニ對ス)

ふつう-けういく フツウ-キヨウイク (名) [普通教育] 普通學ノ教育 卽チ、小學校、中學校、高等女學校等ノ教育 是レナリ

ふつう-せんきょ (名) [普通選擧] 選擧法ノ[illegible]納稅、及、財産ノ有無ニ拘ハラズ、或一定ノ條件ヲ具備シタル普通一般ノ人ニ、選擧權ヲ有セシムル制度。略シテ、普選。

ふつう-ぶん (名) [普通文] 普通ニ使用スル文章

ふつう-ぶんくゎん フツウ-ブンカン (名) [普通文官] (一)外交官、技術官[illegible]ノ如キ特殊ナラヌ官職ノ文官。(二)判任官ノ俗稱。

ふつう-めいし (名) 普通名詞 めいし(名詞)ノ條ヲ見ヨ。

ブツ-えん (名) [佛緣] ホトケノ因緣。佛ノユカリ。 日本新永代藏(正德、北條團水)一「明暮[illegible]シテ、[illegible]佛[illegible]モトメ、ロヲシヘ[illegible]ヲ叩キ」

ふつ-か (名) [二日] [二日(フタカ)ノ轉] (一)二(フタ)個ノ日。二日間。 [illegible]十八年八月「[illegible]代宿[illegible]一日一夜」 萬葉集、十七[四十]長歌「チカクアラバ、イマ布都可ダミ、トホクアラバ、七日ノウチハ、過ギメヤモ」 伊勢物語、第四十二段「ふつか、ミカバカリサハル事アリテ、エイテカクナ[illegible]」 (二)月ノ第二ノ日。

ぶっ-か (名) [物價] 貨物ノ價格。賣買ノ物ノ直段。 [illegible]馬、以三物八一日、戎馬、二日、田馬、三日、駑馬、皆有三[illegible](價通用ス) [illegible]、二[illegible]物價之[illegible]、[illegible]代末[illegible]也」[illegible]下「[illegible]文年間、[illegible]色ノ價ノ事、[illegible]近[illegible]ノ價ト相違セシヲ抄出ス」「物價[illegible]」

ブッ-か (名) 佛家 ぶつけ(佛家)ニ同ジ。

ぶつ-が (名) [物我] 〔物ハ客觀ノ境、我ハ主觀ノ人〕 佛家ニテハ、もつがト云フ。外界一切ノ物ト、己レ自身ト。自己以外ノモノト、自我ト。又、主觀ト、客觀ト 關尹子、五鑑篇「物我交心生、兩木摩火生、不可謂之在我、不可謂之在彼、不可謂之非我、不可謂之非彼、執而彼我之、則愚」 [illegible]經注「可謂[illegible]之[illegible]、物我無違矣」 物我ヲ忘ルトハ、大悟ノ境域ニ入ル意 物我一如

ブッ-かい (名) [佛界] 諸佛ノ住ム世界。佛ノ國土。又、諸佛ノ境涯 梵網經、上「能轉魔界入佛界、佛界入魔界」

ブッ-かい (名) [佛戒] 佛ノ示サレタル戒律。佛ノイマシメ。五戒、十戒ヨリ、五百戒ニテアリ[illegible] 佛果ニ至ラムトスルモノハ、此戒ヲ受持セザルベカラズト。 梵網經、下「一切有心者、皆應攝佛戒、衆生受佛戒、卽入諸佛位」

ふつか-きう フツカ-キユウ (名) [二日灸] (一)陰曆ニテ、二月ノ二日ト、八月二日トニ据ウル灸 特效アリトシテ行フ フツカヤイト。(二)續ケテ二日据ウル灸。

ブッ-かく (名) 佛閣 寺ノ建物 佛堂。佛寺。伽藍。又、テラ。 [illegible]

ぶっ-か・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [打缺] タタキクダク。ウチコハス。

ブツ-がく (名) [佛學] 佛教ニ關スル學問。佛教學 [illegible] 石林詩話(宋、[illegible])[illegible]

ぶっ-か・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケ (他動、下二) [打掛] ソソギカク。ウチカケル。

ふつか-しほ フツカ-シホ (名) [二日潮] おほしほ(大潮)ノ條ヲ見ヨ。

ふ-つがふ フ-ツゴウ (名) [不都合] (一)都合ノ惡シキコト。便利ワロキコト。不便 不利 (二)常規ニ適合セザルコト。常制ニ差フコト 法ニ合ハザルコト。 [illegible]自語(橋本經亮)八「鴨社、安永年中、造替ノ時ニ、禰宜俊[illegible]、神服已下、丈尺ノ不都合ナト、改メテ裁縫セシハ、故實ヲ存ゼザルコト也」 (三)フラチ。フトドキ。不當 「不都合ノ至 不都合千萬」

ブッ-かふさう ブツ-コウ-ソウ (名) [佛甲草] いはれんげ(岩蓮華)ニ同ジ。

ブツ-がん (名) [佛龕] 佛像ヲ安置スル廚子 [illegible](廚子)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。 [illegible]十九、佛供[illegible]、佛[illegible]、[illegible]廚子[illegible]

ふつか-やいと (名) 二日灸 ふつかきう(二日灸)ニ同ジ。 [illegible]上「二日もや、今日ノ二日ニ、明ケヌラン」二日やいとノ、心ニ候ヤ」

ふつか-よひ フツカ-ヨイ (名) [二日醉] 次次條ノ語ニ同ジ。

ぶつか・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 打チ當ル。ツキアタル。ブッカル。衝突

ふつか-ゑひ フツカ-エイ (名) [二日醉] 酒ノ醉ヒノ、翌日マデ醒メズシテアルコト。宿醉ノ醉 フツカヨヒ。酲 宿酲 宿醉 あづまの道の記(元祿)「アシケレド、飲ミテナホサン、二日醉、今日醒ガ井ノ、水臭ノ酒」

ぶっ-き (名) [富貴] ふうき(富貴)ノ音便。其條ヲ見ヨ。 平家物語、一、妓王事「毎月ニ、百石百貫オクラレタリケレバ、家内富貴シテ、樂シイ事ナノメナラズ」 謡曲、[illegible]時[illegible]時來リケルニヤ、次第次第ニ富貴ノ身トナリテ候」

ふ-づき フ-ズキ (名) [文月] 〔ふみづきノ略〕 陰曆、七月ノ異稱。 字類抄「七月、フツキ」 欽明紀、元年七月「秋七月丙子朔己丑、遷都倭國磯城郡磯城嶋」 [illegible]秋、上「契アリテ、同ジふづきノ、數添ハバ、今宵モ渡セ、天ノ河舟」(閏七月)

ブッ-き (名) [佛器] (一)佛事ニ用ヰル一切ノ器。佛具。(二)佛ヘノ供物ヲ盛ル器。 榮花物語、十七、音樂「佛ノ御前ニ、螺鈿ノ花机、同ジ螺鈿ノ高坏ドモ、コガネノ佛器ドモヲスヱツツ、奉ラセ給ヘリ」

ぶつ-ぎ（名）［物議］世ノ取沙汰。世人ノ [illegible]

ふ-きそう（名）[illegible] ノ異名 [illegible]

ふうきくゎ（富貴花）ニ同ジ。

ふ-きまり [illegible] ノ [illegible] ニナヤハ [illegible]

ふつ-きん（名）［紛巾］ふきん（布巾）ニ同ジ。和漢三才圖會、廿八、衣服類「紛巾、俗云不豆 [illegible]」

ブツ-キヤウ（名）佛 [illegible] 稱志 [illegible] 佛

[illegible] 尼 [illegible] 太子 [illegible]

[illegible]

門「欽明天皇十三年、百濟聖明王、經論若干卷ヲ獻ル [illegible]」

「不空羂索經一千卷供養シ給ヘリ、云云、藤氏ノ人人トリテ守リニシアヒ給ヘリ、ソノ佛經ノ力ニコソ侍ルメレ、マタ榮エテ、御門ノ御後見、今ニ絶エズ」

ぶつ-きら-ばう（名）打切坊 [illegible] ナルコト。木ノ切端ノヤウナルコト、質朴過ギ [illegible]

ぶつ-きり-あめ（名）打切飴 [illegible] 引延パシテ、七八分ニ切リタルモノ。

ぶつ-き-る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）打切 [illegible] 切ル [illegible] ヤギル。 [illegible] 成敗イヅレモ甲乙ナキモノ [illegible]」

ふつ-く・ク・ク・ケ・キ・ケ [illegible] イキド

ホル。イクブ。フヅクム。神代紀、上十「神 [illegible]」

フ-く [illegible] 同ジ。[illegible]

ブ-く（名）［佛供］佛前ノ供物。略シテ、ぶく。其條ヲ見ヨ。枕草子、四、第四十四段「爲カノ御ぶっくノオロシハベリナント云ヘバ、[illegible] 佛供ノ [illegible] スヲ、コノ御坊達ノ惜シミ給フ」

ブツ-ぐ（名）［佛具］ぶっき（佛器）ニ同ジ。[illegible] 十九、[illegible] 云云」

ふづ-くさ（名）おきなぐさ（翁草）ノ（一）ニ同ジ。天治字鏡、七三十「白頭公、布豆久佐」和名考異「白頭公、於支奈久佐、不都久左」

ぶっ-くじ-く・ク・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［打挫］ウチクジク。ウチクダク。

ふつ-くちき（名）入聲ノ字ニアル五韻 [illegible] 谷ナドノ漢字ナリ [illegible] 此韻ハ、五ツニ限ルモノトス [illegible] 明）四五十「入聲ニふつくちきト云フヲクリ假名アリト云フ、此ヲ云フゾ」

ふつく-に（副）［悉］コトゴトク。ノコラズ。[illegible]

ふづく-む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［憤］イキドホル。フヅク。イクブ。[illegible] 嘆むノ約、頬ヲフクラスノ意 [illegible] ム「フヅクム、[illegible]」

ふ-くら（副）[illegible] 次條ノ語ニ同ジ。

ふ-くり（副）[illegible] ナル狀ニ云フ語

ふづく-る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）（一）モノヲ、トトノフ。取リツクロフ。色道大鏡（延寶）[illegible]「尋常ノふづくりハ、物ヲ整フル事ニ云フ [illegible]」云ヘリ、又、障子張ルニ、紙ヲふづくるトモ云フ」（二）ダマシ、スカス。アザムク。タブラカス。（昔ノ遊里ノ語）

ふつ-くわ（名）［物化］（一）物ノ [illegible] コト。莊子、齊物論篇「莊周夢爲胡蝶、栩栩然胡蝶也、[illegible] 不知周之夢爲胡蝶與、胡蝶之夢爲周與、周與胡蝶則必有分矣、此之謂物化」益部方物記 [illegible] 謂之物化」（二）ぶっこ（物故）ニ同ジ。[illegible]

ふつくろ（名）[illegible]

ブッ-くゎ（名）［佛果］佛道修行ノ原因ニヨリテ、成佛ノ結果ヲ得ルコト。此果報ヲ得ルモノハ、眞實ノ智慧ヲ具備シテ、能ク一切世間ノ事理ニ通曉スト云フ。成佛ノ [illegible] 果。[illegible] 果ニ至ル花ノ色、深キ恨ミヲ晴ラシツツ」

ブッ-ぐゎ（名）［佛畫］佛教ニ關ハル事柄ヲ題材トシテ描キタル [illegible]

ぶつ-ぐゎい（名）［物外］有形物ノ範圍ノ外。世事ノ外。俗事ヲ離レタル世界。[illegible]

ふ-づくゑ（名）［文机］ふみづくゑ（書案）ノ [illegible] 枕草子、十二、百五十六段「アユミ入リテ、ふづくゑノアタリニオキテ侍リケルニ、[illegible]」[illegible] 雜、五「紀伊國タカシマト申ス所ノ石ヲトリテ、文づくゑノアタリニオキテ侍リケルニ、青キ付ケケル」

ブ-け（名）佛家 [illegible] 合戰（享保、近松作）一「佛ニハ是レヲ異端ト嫌ヒ、佛 [illegible]」

ふつ-げう（名）拂曉 [illegible] ふつげう。朝早キコト。夜アケガタ。

ふつ-げう（名）［拂曉］前條ノ語ニ同ジ。

ブ-けう（名）佛教 [illegible] 法 [illegible] 九日年（[illegible]）ニ、中印度ノ迦毘羅衞城主淨飯王ノ子トシテ生レ、[illegible] 元歳ニシテ成道シ、[illegible] 八十歳ニテ涅槃ニ入ル。此教、[illegible] 印度ニ行ハレシガ、後漢ノ明帝ノ永平年間、西域ヨリ [illegible] ハ、欽明天皇ノ十三年ニ百濟ヨリ入リキ [illegible] 一切ノ事物

ハ無常ナリ、人間萬事ハ苦惱ノ種ナリ、由ル所ニ執着シ、物ヲ渇愛スルハ迷ナリ、此迷ヲ破レバ、一切ノ苦惱ヲ去リ、眞如ノ域ニ達スト解說セリ。サレド釋迦ノ說法ハ、時ト處ト聽衆トニヨリテ、其揆ヲ一ニセズ、又、時代ヲ經ルニ隨ヒ、種種ノ異說行ハレ、大乘、小乘、顯教、密教ナドノ別ヲ生ズルニ至レリ。支那ニ入リテハ、三論、成實、法相、攝論、涅槃、地論、天台、華嚴、眞言、禪、律、淨土ナドノ諸宗顯ハレ、我ガ國ニテモ、天台、眞言、律、法相、華嚴、淨土、眞、日蓮、禪、時、念佛ナドノ各宗行ハレ、西藏、蒙古ナドニハ、特殊ノ系統タル喇嘛教、盛ナリ。其信者ノ多キコトハ、今ヤ世界宗教中ノ第一トナス。ホトケノヲシヘ。佛法。釋教。 隋書、經籍志「佛敎東流自レ此而盛」 高僧傳(梁、釋慧皎)「孫權已制、江右而佛教未レ行」 字類抄「佛法、佛說、佛道、佛教」

ぶっ-けん (名) 物權 「英語、Real right. ノ譯語」 財產權ノ一。直接ニ物ノ上ニ行ハレ、且、一般ノ人ニ對抗シ得ル權利。卽チ、所有權、占有權、地上權、永小作權ナドノ類。

ぶっ-けん (名) 物件 ブッピン。シナモノ。

ブッ-げん (名) 佛眼 佛教ノ語。五眼ノ一。諸法實相ヲ照ラス眼。卽チ、覺者ノ眼。 觀無量壽經、下「佛眼具足、覺了法性」 字類抄「佛眼」 最明寺殿百人上﨟(元祿、近松作)上「忍辱、柔和ノ佛眼モ、睨マセ給フト御影ノ御顏」

ブッげん-そん (名) 佛眼尊 佛教ノ語。具ニハ、一切佛眼大金剛吉祥一切佛母。又、佛母尊トモ云フ。密教ニテハ、大日如來ノ變化身ナリト云フ 其像ハ、身

色、月ノ暉ノ如ク、兩眼ニ微笑ヲ含ミ、二手ヲ臍ニアテ、大白蓮ノ中ニ坐ス。虛空佛 瑜伽經、金剛吉祥大成就品「時金剛薩埵對二一切如來前一、忽然現レ作二一切佛母身一、住二大白蓮一、身作二白月暉一、兩目微笑、二手住レ臍、如レ入二奢摩他一」 秘藏記私鈔、八「虛空眼、卽佛眼故、又云二佛眼一也」

ブッげん-ほふ (名) 佛眼法 又、ぶつげんのほふ。佛教ノ語。密教ニテ、佛眼尊ニ對シテ、息災、延命、其他ヲ祈ル修法。 太平記、八、禁裏、仙洞御修法事「梶井ノ宮ハ、云云、禁裏ニ壇ヲ立テテ、佛眼の法ヲ行ハセ給フ」

ぶつ-ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下一) 打附 打ちつくるノ訛。投ゲツケル。

ふっ-こ (名) 魚ノ名。すずき(鱸)ノ條ヲ見ヨ。

フツ-ご (名) 佛語 佛蘭西(フランス)語ノ略。佛蘭西ノ國語。

ぶっ-こ (名) 物故 〔漢書、蘇武傳「前以降及物故、凡隨二武還一者九人」師古注「物故謂レ死也、言其同二於鬼物一而故上也、一說、不レ欲レ斥言一、但云二其所レ服用之物皆已故上耳」 三國志、蜀志、劉璋傳「兄瑁狂疾物故」注「物、無也、故、事也、言レ無二復所一レ能二於事一也」〕 死ヌルコト。歿。亡。死亡。モッコ。物化。 荀子、君道「不レ得レ不レ有二疾病物故之變一焉」 和爾雅、一、身體門「死、物故」 紀略、前篇、十三「延曆廿二年三月丁巳、詔曰、入唐大使賀從二位藤原朝臣河淸、云云、物二故於他鄕一、可レ贈二正二位一」

ブツ-ご (名) 佛語 (一)佛教、又ハ、佛經ニ關スル特別ノ語。 運歩色葉集「佛語」 (二)佛、卽チ、釋迦ノ敎ヘタル語。 書言字考節用集、九、言辭門「佛語、ブッゴ」 淨住子(北齊、竟陵王子良)二「若遵二佛語一、必離二惡道一」 「佛語法門經(菩提留支ノ譯)」

ブッ-こう (名) 佛工 ぶっし(佛師)ニ同ジ。ブック。 書言字考節用集、四、人倫門「佛工、ブッコウ」 上宮法王帝說「佛工、鞍作鳥」 大和事始、六、佛家門、後一條院治安六年秋七月、佛工定朝ニ法橋上人位ヲ授ケラル」

ブッ-こつ (名) 佛骨 〔法苑珠林、五十三、舍利篇「佛骨、卽舍利也」〕 佛(ホトケ)、卽チ、釋迦牟尼ノ遺骨。佛舍利。 韓愈、諫佛骨表「今聞、陛下令三群僧迎二佛骨於鳳翔一、御樓以觀」 太平記、廿四、依二山門嗷訴一公卿僉議事「摩騰法師等、釋氏ノ敎ヲ佛ヘテ、佛骨ノ貴キ事ヲ說ク」

ぶっ-こぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 打抜 うちぬく(打拔)ヲ強メテ云フ語。

ぶっ-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) 打込 うちこむ(打込)ヲ強メテ云フ語。

ふつ-ころ (名) 懷中 ふところ(懷)ト云フニ同ジ。 名義抄「懷、フツコロ、フトコロ」 允恭紀、七年十二月「經二七日一、伏二於庭中一、與二飲食一而不レ食、密食二懷中之糒一」

ブッ-ざ (名) 佛座 佛像ヲ安置スルトコロ。ホトケノマシマス蓮臺。 白居易、香山寺經藏記「堂中設二高廣佛座一、座ノ上列二金色像五百軀一、後設二西方極樂世界圖一」

ぶっ-さう (名) 物騷 物騷(モノサワガ)シキコト。又、物怨(モノイソガハ)シキコト。世上ニ穩ナラヌ事アルコト。恟恟 保元物語、一、官軍方方手分事「此ノ程、京中物騷ノ由承ル間、其子細ヲ承ラン」(小中村本) 延慶本、平家物語、五「主上ハ御甥、僧ニ[illegible]、春宮ハ御叔父、六歲ニ成ラセタマフ、照穆相叶ハズ、物騷ナリ」 此語、又、物忩トモ記ス、「忩(悤ノ俗字)ヲ騷ニ通ハセテ用キタルモノカ。 饅頭屋本節用集「物忩、ブッソウ」 運歩色葉集「物忩」 易林節用集(慶長)下、言辭門「物忩、ブッソウ」 書言字考節用集、九、言辭門「物忩、ブッソウ」 朝野群載、廿二「如レ是物忩日夜不レ絕也」 保元物語、

一、官軍方方手分事「是程京中物忩ノ由承ル」ニ(流布本) 白河文書、[illegible]年十二月カ「春日以下數輩被二發向一八、無二左右一無二物忩一儀候」 中記抄(文明)六八「此ホド物忩ナル時分ニ、遊獵シコトモナイニシタコトヨ」

ブッ-さう (名) 佛葬 佛道ノ式ニテ、死者ヲ葬ルコト。佛式ニテ葬ルコト

ブッ-ざう (名) 佛像 ホトケノ彫像、又、ソノ繪スガタ。 義楚六帖、一「日神爲二工匠一、將二三十二人工匠一、往二忉利天一以二梅檀木一、剋二彫佛像一、下二界爲一」 扶桑略記、三、欽明天皇十三年「獻二佛像、經教法師一附二使貢獻一」

ブッ-さうげ (名) 佛桑花 一名、扶桑(フサウ)。錦葵科ノ灌木ノ名。暖地ニ產ズ。德川時代ノ初、琉球ヨリ渡リシガ、中絕シテ、後、又、來ル。琉球木槿(ムクゲ)ノ名モアリ。葉ハ、桑ニ似テ、ザラザラセズ、深綠ニシテ互生ス、蔕ニ靑キ紫ナルトアリ。夏ノ末、花ヲ開ク、暖國ニテハ、仲春ヨリ開キテ、仲冬ニ至ル、單瓣、五出ニシテ、むくげノ花ノ如ク、大キサ三寸許リ、蔕、長ク、瓣、深紅ニシテ光ル、長キ一紅蕊ヲ出シテ、黃粉多シ、朝ニ開キ、夕ニ萎ム、後ニ實(蒴果)ヲ結ブ。花ハ、紅色ヲ常トスレドモ、白色、黃色ナドモアリ。又、千瓣ナルアリ。 多識編、三、木部「扶桑、今俗云、布豆敷(散ノ誤リ)宇久佐、薩摩有之」 重修本草綱目啓蒙、廿九、灌木類「扶桑、佛桑花(通名)、琉球ムクゲ、云云、和產ナシ、云云」 和爾雅、七、艸部「佛桑花、ハコ子イバラ、ブッセウゲ」注「出二丁花史一」 中山傳信錄(徐葆光)六、六月、佛桑燒空 注、月開至冬、此月尤盛」 和漢三才圖會、八十四、灌木類「扶桑、ブッサウケ、佛桑、朱槿、赤槿、日及、按、佛桑花本出二於琉球一、插レ枝能活」

ぶっさき-バオリ (名) 打割羽織 せさ

きはぶり 行、[illegible]ニ同ジ。[illegible]二、上、服飾「今俗ニぶっさきばぶりトイフ物、云云、[illegible]ぶっさきばおりトイフ、[illegible]凡テ[illegible]錄、十七「二十年已來、世ニ行ハルモノ、云云、御家人ノ、夏服ノ單ナルぶっさき羽織キル事」

ブッさつ (名) 佛刹 [illegible] Buddha-ksetra. 刹ハ土ノ義。さつ(刹)ノ條ヲモ見ヨ。寺院。又、寺ノ塔。[illegible]

ぶっさん (名) 物產 さんぶつ(產物)ニ同ジ。[illegible]

ブッさん (名) 佛參 テラマヰリ。寺ニ詣デ、佛、又、尊キナドヲ拜スルコト。

ふっさり (副) 總 フサヤカナル狀ニ云フ語。ふさふさ(多)ニ同ジ。狂言記、佐渡狐「狐、云云、顏ガ犬ヨリ細長ウテノ、イカニモ、尾ガふっさりトシテ、ソレソレ、コレモ合ウタ」

ブッし (名) 佛師 又、ぶし。佛像ヲ刻ミ作ル工人。佛工 又、佛師ヲ尊稱シテ、大佛師トモ云フ。[illegible]榮花物語、十七、音樂「今日ノ講師ノ山ノ座主ハ、僧正ニナサセ給フ、御佛ツカウマツレル佛師定朝ハ、法橋ニナサセ給ヒツ」今昔物語、十六、第五語「觀音ノ像ヲ造奉ラムト思テ、京ニ上テ一人ノ佛師ヲ語ヒテ、其ノ物ヲ與テ[illegible]ニ語フ」[illegible]沾涼)五「本朝佛師ノ祖ハ、鞍作トイフ人ナリ、光孝[illegible]」

ブッし (名) 佛氏 しゃくし(釋氏)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

ブッじ (名) 佛事 佛法ノ祭。法會。法事 法要 [illegible]「近例、諒闇年、依レ供ニ佛事ハ或不レ止レ之、可レ有レ議」[illegible]北山抄、一、正月八日御齋會始事[illegible]デ、セサセ給ヘル佛事ハ數ヲ知ラズ」徒然草、百二十九段「四十九日ノ佛事ニ、或聖ヲ請ジ侍リシニ、說法イミジクシテ、皆人涙ヲ流シケリ」

ブッじ (名) 佛寺 てら(寺)ノ條ノ(一)ニ同ジ。字類抄「佛寺」晉書、王恭傳「恭先信佛道、[illegible]」[illegible]

ブッしかふ (名) 佛指甲 つるれんげ(佛甲草)ニ同ジ。

ブッしき (名) 佛式 佛教ニテ行フ法式。佛教ノ法式。[illegible]「佛式襯懸搦レ手接レ足」

ぶっしつ (名) 物質 〔英語、Matter. ノ譯語〕(一)或空間ヲ占有シ、吾人ノ感覺ニヨリテ認識セラルルモノ。精神上ノ知識ナドニ對シテ、目ニ見ユル事物。又、物體ノ究極ノ成分。(二)轉ジテ、物體。

フッじん (名) 佛人 佛蘭西國ノ人。フランスジン。

ブッしん (名) 佛神 (一)天竺ノ神、卽チ、ホトケ。ブッシン。[illegible](二)佛ト、神ト。[illegible]シルシニヤ、佛神ノ御シルシノアラハルベキニヤ」

ブッしん (名) 佛心 ホトケノココロ。如來ノ心。大慈悲心。ぶつい(佛意)ニ同ジ。[illegible]バ、ソレコソ卽チ佛心ナレ」

ブッしん (名) 佛身 ホトケノ身、卽チ、無上正覺ヲ成就セシ佛陀ノ身體。佛體 謠曲、舍利「鷲ノ御山モ、在世ノミギンニコソ草木モ法ノ色ヲ見セ、皆佛身ヲ得タリシモ」

ブッしんしゅう (名) 佛心宗 〔文字、經典ヲ主トセズ、直ニ佛心ヲ悟了スルヲ以テ旨トスル宗派ナレバ云フ〕ぜんしゅう(禪宗)ニ同ジ。書言字考節用集、九、言辭門「佛心宗、ブッシンシウ、注「又云、禪宗」」宗鏡錄、一「達磨大師云、明佛心宗、了無差悞、名之曰師」

ブッしゃ (名) 佛者 ホトケヲ信ズルモノ。又、僧侶。僧家。韓愈、原道「老者曰、孔子吾師之弟子也、佛者曰、孔子吾師之弟子也」聖德太子傳記(享保、近松作)[illegible]思ヒコウタル佛者共、女モ皆[illegible]

ブッしゃ (名) 佛舍 ホトケヲマツル堂舍。祠堂。佛堂。持佛堂。天武紀、下、十四年三月「壬申、詔、諸國、每レ家作ニ佛舍、乃置ニ佛像及經、以禮拜供養」

ブッしゃう (名) 佛餉 佛ニ米飯ヲ供フルコト。又、ソノ米飯。[illegible]「佛餉、ブッシャウ、佛供也、日本俗、飯作、餉、或作、聖、[illegible]」書言字考節用集、六、服食門「佛供、ブッグ、佛餉、ブッシャウ[illegible]」

ブッしゃう (名) 佛性 佛トナルベキ性質。[illegible]中ノ佛性ノ、煩惱ニオホヒカクサレツルモ、今宵ノ[illegible]レモ佛性具セル身ヲ、隔ツルノミコソ悲シケレ」

ぶっしゃう (名) 物情 (一)物ノ容子。モノノアリサマ。舒元輿、牡丹賦「我研ニ物情[illegible]」(二)世間ノ容子。世人ノ心情。「物情騷然タリ」物情、恟恟タリ」

ブッしゅしょ (名) 佛手薯 「根、佛手柑ニ似タル故ニ云フト」つくねいも(佛掌薯)ノ條ヲ見ヨ。和漢三才圖會、百二、[illegible]

ブッしゃうにち (名) 佛生日 釋迦牟尼佛ノ誕生日。[illegible]佛生ノ月日ヲ、二月八日トナスモノト、四月八日トナスモノトアレドモ、普通ニハ、陰曆四月八日トス。くゎんぶつゑ(灌佛會)ノ條ヲモ見ヨ。佛生日 [illegible]「四月八日佛生日」[illegible]老)「四月八日、佛生日、十大禪院有ニ浴佛齋會、乃煎ニ香藥糖水、相遺、謂ニ之浴佛水」[illegible]

ブッしゃうび (名) 佛生日 前條ノ語ニ同ジ。 太平記、八、主上自令レ修二金輪法一給事「四月八日、云云、今日ハ佛生日トテ、心アルモ心ナキモ、諸佛ノ水ニ心ヲ清シ、供花、焼香ニ経ヲ讀シテ、捨悪修善ヲ事トスル習ナルニ」

ブッしゃうゑ (名) 佛生會 くゎんぶつゑ(灌佛會)ニ同ジ。 書言字考節用集、神祇門「佛生會、フシャウヱ」注、又云二灌佛一 [illegible]、六、灌佛、亦云二佛生會一、四月八日於二宮中一行之」 [illegible]「四月八日、灌佛會、叡山首楞嚴院佛生會」故實拾要、[illegible]灌佛、是四月八日ニ誕生ノ行也、是ヲ佛生會ト云也、推古天皇ノ御宇ニ始ルト云」

ブッしゃり (名) 佛舍利 ぶつこつ(佛骨)ニ同ジ。其條、及、しゃり(舍利)ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、十 佛塔具「舍利、法華經云、以二佛舍利一起二七寶塔一」 [illegible]錄(明、陶宗儀)廿九「[illegible]氏紀錄云、後晉、天福己亥、[illegible]道湖一夕見二光[illegible]山門光明一、往視之得二香木一、命二良工一刻二成觀世音菩薩像一、白光[illegible]、[illegible]佛舍利[illegible]、[illegible]冠頂[illegible]」

ブッしゅ (名) 佛種 佛果ヲ起ス種子。佛トナルベキ根原。佛種子。 法華經、方便品「佛種從レ緣起、是故說二一乘一」 [illegible]「下二佛種子於衆生田一、生二正覺芽一」 謠曲、木賊「カクテ親子ニ合竹ノ、世ヲ故郷ニ改メテ、佛法流布ノ寺トナシ、佛種ノ緣トナリニケリ」

ブッしゅかん (名) 佛手柑 ぶしゅかん(佛手柑)ニ同ジ。

ブッしょ (名) 佛書 佛教ニ關スル書籍。佛典。内典(儒教ノ書ヲ外典ト云フニ對シテ)。 書言字考節用集、九、器財門「佛書、ブツシヨ」 [illegible]「[illegible]佛書」 [illegible]「架上藏禍牛佛書」 西山公隨筆(德川光圀)「巫覡ナントノ施物ヲ貪ラントテ斯ル事ニヤ、佛書ニかテ如斯ノ祈念祈禱モアル事ニヤ」

ブッじょう (名) 佛乘 衆生ヲ乘セテ、彼岸ニ達セシムル教。即チ、一切衆生、悉ク成佛スベキ道ヲ說ケル教法。一乘。又、三乘ノ一。菩薩乘ヲ云フ。 法華經、方便品「如來但以二一佛乘一故、爲二衆生一說レ法、無レ有二餘乘一」 [illegible]法數、十二「如來以二一乘實相之法一、運二載衆生一到二涅槃彼岸一、故名二佛乘一」 薛季宣、登二西山都壇閣一詩「[illegible]佛乘、渺瀰無二復現一天燈一」

ぶっしょく (名) 物色 (一)物ノ色。イロメ。 書言字考節用集、九、言辭門「物色、イロメ」 (二)犧牲ノ毛色。 禮記、月令篇「仲秋之月、云云、命二宰祝一循二行犧牲一、視二全具一、案二芻豢一、瞻二肥瘠一、察二物色一」 (三)轉ジテ、人相書ニテ、人ヲ求ムルコト。 後漢書、嚴光傳「帝令下以二物色一訪上レ之、後齊國上言、有二一男子一、披二羊裘一釣二澤中一、帝疑二其光一云云、遣レ使聘レ之、三反而後至」 (四)任スベキ人物ヲサガスコト。 唐書、李泌傳「肅宗即位、遣二使物色一、求レ訪[illegible]、泌亦自至、已謁見、陳二天下所二以成敗一事、帝悅」

ブッせき (名) 佛跡 ホトケノ足アト。又、佛ノ遺跡。如來ノ古跡。 古京遺文、佛足石記「西域記云、今摩揭陀國、昔阿育王方精舍中、有二一大石一有二佛跡一、各長一尺八寸、廣六寸、云云」 盛衰記、九、山門堂塔事「遠ク天竺ニ佛跡ヲ訪ヘバ、[illegible]年ノ秋、佛法[illegible]ノ爲ニ、玄奘[illegible]、流沙[illegible]ヲ渡テ佛生國ヘ渡リ、云云」

ブッせつ (名) 佛說 佛教ノ所說。又、佛ノ親シク說キタル所ノ說。 梁武帝、斷二酒肉一文「凡出家人、所以異二于外道一者、正以信二因信果一、信二[illegible]所說一、信二是佛說一、[illegible]」 色葉字類抄「佛說」 易林本節用集(慶長)下、言辭門「佛說、[illegible]」 太平記、三十五、北野通夜物語事「佛說ノ所、遣ヲ見ルニ、云云」

ブッセツ (名) 佛刹 ぶっさつ(佛刹)ニ同ジ。

ブッぜん (名) 佛前 (一)佛像ノ前。 [illegible]代[illegible]「[illegible]花供二佛前一」 [illegible] 易林本節用集(慶長)下、言辭門「佛前、ブッゼン」 盛衰記、四十二、金仙寺觀音講事「佛前ニハ花香供ジ、佛具燈明備ヘタリ」 (二)位牌ノ前。

ふつぜんと (副) 佛然艴然 (一)怒ル狀ニ云フ語。勃然。 孟子、公孫丑、上「曾西艴然不レ悅、曰、爾何曾比二予於管仲一」 荘子、天地「[illegible]謂二己道人一、則勃然作レ色、謂二己諛人一、則怫然作レ色」 [illegible]也」 (二)氣ノフサグ狀ニ云フ語。

ブッそ (名) 佛祖 佛教ノ宗祖。又、佛ト、祖ト。即チ、佛ハ三世ノ諸佛、祖ハ歷代ノ祖師。祖ハ宗派ニヨリテ異ナリ。 [illegible] 易林本節用集(慶長)下、人倫門「佛祖、ブッソ」 [illegible]和尚語錄、[illegible]「上堂、佛祖[illegible]、[illegible]大小、云云、佛祖宗風[illegible]、云云」

ブッそくせき (名) 佛足石 釋迦ノ足ノ裏ノ形ヲ、石ニ刻リタルモノ。釋迦、入滅セムトスル時、摩揭陀國ニ於テ足跡ヲ石ニ留メシニ基ヅクト云フ。我ガ國ニテハ、モト百濟國ヨリ傳來セシト云フ佛足跡ヲ轉寫セシモノニ、大和國、添上郡、藥師寺ニアルモノ名アリ、碑ニ廿一首ノ歌アリ、(天平勝寶年中ニ建テラレタルモノ。常ノ短歌ノ末ニ、七音一句添ヘテアリキ)又、信濃國、善光寺ニモアリ。 西域記、八「昔者如來、將レ取二寂滅一、北趣二拘尸那城一、南顧二摩揭陀國一、蹈二此石上一、告二阿難一曰、吾今最後留二此足跡一、[illegible]」 古京遺文、佛足石記「案二西域傳一云、[illegible]摩揭陀國、昔阿育王方精舍中、有二一大石一有二佛跡一、各長一尺八寸、廣六寸、輪相花文、十指各異、云云」

ブッダ (名) 佛陀 〔梵語、Buddha. 即チ、佛ノ原語〕 知者、又、覺者ト譯ス。大[illegible]

藏法數、[illegible]「佛陀、此云レ覺、謂自覺、覺他、覺行圓滿也」 淨[illegible] [illegible]法、[illegible]性ヲ盡セシ覺者。即チ、自ラ覺シ、復タ能ク他ヲ覺セシメ、自他ノ覺行、窮滿セシモノ。ぶつ(佛)、及、ほとけ(佛)ノ條ヲモ見ヨ。 大智度論、二「佛陀、秦言二知者一、[illegible]一切諸法、[illegible]故名二佛陀一」 宗鏡錄[illegible]「佛陀、[illegible]」 易林本節用集(慶長)下、[illegible]「佛陀、フツダ」 書言字考節用集、[illegible]神祇門「佛陀、フツダ」 [illegible]「[illegible]佛陀、[illegible]性之稱」 平家物語、[illegible]「[illegible]マ、マス[illegible]ノ[illegible]ヲ致サセ給ハバ、神明ノ加護ニ背キ、佛陀ノ冥慮ニ背クベカラズ、神明、佛陀[illegible]アラバ、云云」

ぶったい (名) 物體 (一)物質ノ集合ヨリ成レル形體。形アルモノ。(二)感覺、精神等ノ具ハラザル有形體。

ブッたい (名) 佛體 ぶっしん(佛身)ニ同ジ。 謠曲、卒都婆小町「タトヒ深山ノ朽木ナリトモ、花咲キシ木ハカクレモナシ、イハンヤ佛體ニ刻メル木、ナドカシルシノナカルベキ」

ふったう (名) 沸湯 ニエユ。熱湯。 後漢書、張宗傳「以二張將軍之衆一、當二百萬之師一、猶下以二[illegible]小雪[illegible]、[illegible]力、其勢不レ全也」 南齊書、[illegible]國傳「[illegible]獄、有二訟者一、則以二金指鐶一、[illegible]、投二沸湯中一、令レ探レ之、又燒二鎖令一レ赤、著二手上一捧、行七步、有罪者、手皆燋爛、無レ罪者不レ傷」

ブッだう (名) 佛道 〔道ハ梵語、Bodhi.(菩提)ノ譯語。佛道ハ諸佛ノ道ノ意〕 ホトケノミチ。佛ノ教へ。佛ノ說ケル道。又、成佛スベキ道。 大智度論、[illegible]、四「菩提名二佛道一」 安樂集、上「菩提、乃是無上佛道之名也」 法華經、譬喩品「慼以二是法一、(聲聞)漸入二佛道一」 後漢書、西域傳、論「[illegible]、不レ備二其情形一、[illegible]佛道神化、興二自身毒一、而二漢方志、莫レ有二稱形一」 字類抄「佛道」 狹衣、三、下「經佛ノ御

[illegible]テベテナラズ、マコトニ日ノ中ニ佛道ナリヌベキサマニ、オボシ捉テタリ」 共榮昭記、三、[illegible]天皇六年十月「[illegible]十年ノ修ニ行佛道こ」

ブツだう (名) 佛堂 佛、菩薩ノ像ヲ[illegible] [illegible]經要、廿六、注、西方名ニ佛所住堂ニ爲ニ健陀俱知ニ健陀[illegible]俱摂、其所住之殿ニ即如ニ此方王所陛下之類ニ然[illegible]」

ぶったぎ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 打手切 ぶっきる(打切)ニ同ジ。

ぶったく・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 打手繰 (一)[illegible]ヒ取ル。ヒタクル。ワフンダクル。強奪スル。(二)商賣ニ、價格以上ノ値ヲ貪ル。ボル。

ブツタフ (名) 佛塔 [illegible]たふ塔ノ[illegible]

ぶったふ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 打倒 倒スヲ、強メテ云フ語。ウチタフス。

ブツだん (名) 佛壇 佛ノ像、又ハ、位牌ヲ安置スル壇。持佛堂。祠堂。佛舍[illegible]「佛壇、フツタン」[illegible]佛壇ヲバ其家ノ深奥ノ上亭ニ構ヘ置クベシ、若シ店下ニ安置セバ、不[illegible]ノ行ナ[illegible]ベシ」

ブツだんがへし (名) 佛壇返 [illegible]抱キアゲテ、仰向サマニ投棄ツルコト。

ブツだんごゑ (名) [illegible] 高サ[illegible]ナルモノ。[illegible]六、家作「床、云云、床ハ佛壇ノ掛ヲカケ、香花ヲ備フル[illegible]ヲカケテ[illegible]ルニ[illegible]ル事ニナレリ、床ノ高サヲ一尺バカリニスルヲ、俗ニ佛壇[illegible]下云フ、高クナクテモ、[illegible]」

ブッち (名) 佛智 [illegible] 梵語ニテ、八、Anuttarasamyaksambodhi.(阿耨多羅三藐三菩提)ト云フ、其[illegible]ヲモ見ヨ。佛ノ圓滿ナレ[illegible] コレニ過グルモノナキ故、[illegible]トモ云フ。[illegible] 婆沙論、十五「佛智、是一切功德住處」 大智度論、八十五「唯佛一人智慧、名ニ阿耨多羅三藐三菩提こ」

ブッち (名) 佛地 (一)菩薩ノ、最後ノ煩惱ヲ斷ジテ正覺成道セシ地位。心[illegible]、注「[illegible]」以[illegible]佛地、謂之彼岸」(二)寺ノアル土地。醒睡笑(元和、安樂庵策傳)一「タトヘバ、何レノ佛地ニテモ、一寺、一院ト相續スル程ノ所ニハ」

ぶっちがひ (名) 打違 うちちがひ(打違)ノ訛。交叉。「鷹羽ノ打違」

ブッちやうそん (名) 佛頂尊 釋迦如來ノ頂上ヨリ化現シテ、輪王ノ形ヲ作シ、頂ニ重髻ヲ有スト云フ佛。コレニハ[illegible]佛頂、五佛頂ナドアリ。[illegible]記、木「白[illegible]佛頂、[illegible]色、[illegible]亦名[illegible]」

ふつぢよ (名) 祓除 [illegible]祓、除ノ惡祭[illegible]也」ハラヘ。祓。解除。ばつぢよ(祓除)

ぶっちやうづら (名) [illegible] 擬シテ、佛頂面ナドト記ス」不承知ナル[illegible] プッチョウガホ。信長[illegible]山(享保、近松作)三「薪成ニ於テハ、敵討ノ事フッツト思切ッタルガ、五郎イカニトアリケレバ、不承不承ニ佛頂顔」

ふつつか (副) [illegible]ノ意ニヤ」(一)太ク丈夫ニ。 宇津保物語、藏開、上「[illegible]イト大キヤカニ、ふつつかニ肥エ給ヒツルガ」 源、三十四、下、若菜、下「[illegible]御髮、昔ヨリモイミジク[illegible]ふつつかニ、モノモノシ[illegible]」(二)[illegible]ニ、ヤサシキ[illegible] [illegible]イフ鳥ノ、ふつつかニ鳴クヲ聞キ給ヒテ」(三)心至ラズ。 徒然草、第五段「不幸ニ愁ニ沈メル人ノ、カシラオロシナドふつつかニ思ヒ取リタルニハアラデ、有ルカ無キカニ門サシコメテ」 源、二、帚木「ふつつかなるウシロミマウケテ、カクアナヅリ給フナメリ」湖月抄、ふつつか「下衆シキ心ナリ」

ふつつかさ (副) 不束 「前條ノ語ノ轉」 無骨ニ。才能足ラズ。麁忽ニ。

ふつつかもの (名) 不束者 [illegible] 無骨ナル者。才能足ラザル者。

ぶっつか・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 打付 (一)ウチアタル。ツキアタル。(二)[illegible]直接ニ[illegible]

ぶっつか・る [illegible]

ぶっつけがき (名) 打付書 紙ニ書キ[illegible]ツクルコト。

ぶっつけみ (副) 打附 うちつけみ(打附)ノ轉。イキナリニ。又、直接ニ。

ぶっつ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下一) [illegible]

ふつと [illegible]ベ、風ノタモチニ彈カレテ、船ハ沖ヘ十町斗」(二)[illegible]カ、ぶっつと思リ居ルマジク候フ」

ふつつり [illegible] (一)物ヲ斷ツ音ニ云フ語。プッツリ。プッツリ。「ふっつり切ルル」(二)コレヲ限リトシテ。コレギリ。斷然 心中天網島(享[illegible]踏込ムマジ」「ふっつり思ヒ切ル」

ぷっつり (副) (一)前條ノ語ニ同ジ。(二)[illegible]化、三、馬)二編、下「ゾンサイ者デゴザイマスノニ、ツヒシカぷっつりトモオッシャリマセン」

ふってい (名) 拂底 [illegible]カクノゴトク(版本、トカクノコト)ほてい(拂底)ニ[illegible]

ブッてき (名) 佛敵 佛法ニ仇ヲナスモ[illegible]

ブツ-でし (名) 佛弟子 釋迦ノ弟子。佛戒ヲ受ケテ佛法ヲ信奉スルモノ。釋迦如來誕生會(元祿、近松作)五「三人ココニテ剃髮シ、比丘、比丘尼ノ號ト成、佛弟子ノ願ヒナラバ、佛モ御悅ビノ御對面有ベシ」

ブッ-てん (名) 佛天 〔佛ヲ尊崇スルコト、世人ノ天ニ於ケルガ如クナレバ云フ〕佛ノ尊稱。又、佛ト、天神ト。運歩色葉集「佛天」 書言字考節用集、一、神祇門「佛天、ブッテン」 源、十九、薄雲三十「カカル老法師ノ身ニハ、タトヒウレヘ侍リトモ、何ノクイカ侍ラン、佛天ノツゲアルニヨリテ奏シ侍ルナリ」平家物語、五、勸進帳事「人里遠クシテ實塵ナク、論事ナクシテ信心ノミアリ、地形勝レタリ、尤佛天ヲ崇ムベシ」

ブッ-てん (名) 佛典 ぶつきやう(佛經)ニ同ジ。

ブツ-でん (名) 佛殿 (一)ぶつだう(佛堂)ニ同ジ。運歩色葉集「佛殿」易林節用集、(慶長)下、乾坤門「佛殿、ブツデン」厚德錄「適有二富人一施二錢五百貫一、請二佛殿一下二幸老一」 上宮法王帝說「燒二滅佛殿、佛像一、却二於難波堀江一」 太平記、五、大塔宮熊野落事「兵共ハ佛殿ニ立歸リ」 (二)禪寺ノ中央ノ本堂。正宗贊、德山禪師傳「師凡住院、拆二却佛殿一、獨存二法堂一而已」 歷代寶記「熙平元年、靈太后胡氏、造二永寧寺一云云、浮圖北有二佛殿一所一、形如二大極一」 撮壤集、上「佛堂(禪院) 佛殿」

ふつ-と (副) 又、ふと。(一)淸ク切レ離ルル狀ニ云フ語。常陸風土記、行方郡「段、斬所(ノゾミテ)、自、今謂二布都奈(フツナ)之村一」 (二)絕エテ。フッニ。フッフッ。フッツリ。名義抄「都、フツト、フッニ」 撫名抄「見ヲ見テ後ニ」 字類抄「都、フツ、フツニ」 撰ノ歌トイフコト、ふつと思ヒ寄ラズ」 枕草子、七、第六十四段「淚ノふつと出デ來ヌ」 發心集、六、第十一條「サマザマ語ラヘド、ふつと應(イラ)ヘモセズ」

ふッ-と (副) (一)ふつとノ音便。前條ノ語ノ(一)ニ同ジ。義經記、四、住吉大物二所合戰事「鏑ハ遠ナリシテ、大ノ雁股ノ手サキ、云云、首

ノ骨ヲカケテふッと射チギリテ」(二)又、ふッと。(三)ふッと急ニ息ヲ吹キ出ス狀ニ云フ語。

ブッ-と (名) 佛徒 佛門ノ徒。佛法ヲ信奉スル人。佛教徒。

ブツ-ど (名) 佛土 (一)佛ノ住スル國土。淨土。法華經、方便品「十方佛土中、唯有二一乘法一」(二)佛ノ直接感化ヲ受クベキ領域ニ存スル國土。字類抄「佛土」十訓抄、下、第十、六十七條「音樂ヲバ、仙家ノ人ノ中ニモコレヲ玩ビ、佛土大上ニモコレヲ先トス」

ふッ-とう (名) 沸騰 (一)沸キアガルコト。詩經、小雅、祈父之什、十月之交篇「百川沸騰、山冢崒崩」左思、吳都賦「濤瀾沸騰、寂寥長邁」(二)高ク起リ立ツコト。「物價沸騰」「議論沸騰」(三)物理學ニテハ、水ノ攝氏百度ニ熱セラレテ、ニエタギルコト。「沸騰點」

ブッ-とう (名) 佛燈 佛前ニ供フル燈。

ふッとう-さん (名) 沸騰散 飲物ノ名。重炭酸曹達四ト、酒石酸三トノ割合ノ混合物ヲ、水、又ハ、砂糖水ノ中ニ攪ゼタルモノ。泡立チテ沸騰ス。淸涼劑、又ハ、緩下劑トシテ用キル。

フット-ボオル (名) 蹴球 〔英語、Foot Ball.〕又、ふうとぼおる。西洋傳來ノ戶外競技ノ一種。庭上ヲ區劃シテ、競技場トナシ、其兩端ニ勝負門(ゴオル)ヲ立テ、競技者ハ十一人ヲ一組トシ、二組ニテごむ球ヲ革ニテ包メル球一箇ヲ蹴テ爭ヒ、一定ノ時間內ニ、敵ノ門ニ球ヲ入レタル數ニヨリテ勝負ヲ決ス。

フツ-とん (名) 佛噸 〔佛蘭西國ノ噸數ノ意〕とん(噸)ノ條ヲ見ヨ。

ブッ-とん (名) 佛恩 ぶつおん(佛恩)ノ連聲。其條ヲ見ヨ。

ぶつ-なふ (ブツノウ) (名) 物納 〔金納ニ對ス〕租稅、又ハ、小作料ヲ納入スルニ、物品ヲモテスルコト。

ふつ-に (副) 絕エテ。フット。フッツ。フツフッツ。フッツリ。字類抄「都、フツ、フツニ」神代紀、上「求之都無所見」 神武卽位前紀「盡起二屬兵一、私紀、甚、布豆爾」 崇峻卽位前紀「大連之軍、忽然自敗、合軍悉一本、フツクニ被二皂衣一」 三代實錄、十三、貞觀八年七月「種種災、皆悉消比」 父子相迎(元享、僧向阿)上「ふつに思ヒ捨テニケルハ」

ブツ-にち (名) 佛日 佛、能ク衆生ノ痴闇ヲ照破スル故、日ニ喩ヘテ云フ語。涅槃經、十九「佛日將レ沒二大涅槃山一」 觀無量壽經「唯願佛日、敎二我觀二淸淨業處一」 榮花物語、三十、鶴林「佛日スデニ涅槃ノ山ニ入リ給ヒナバ、生死ノ闇ニ惑フベシ」謠曲、氷室「佛日光リマスマスニシテ、法輪、常ニ轉ゼリ」同、東岸居士「罪障ノ山ニハイツトナク煩惱ノ雲アツウシテ、佛日ノ光リ晴レ難ク」

ふつ-ぬし (名) 經津主 韴靈(フツノミタマ)ノ劍ヲ掌ル神。次條ヲ見ヨ。神代紀、上「復劍刃垂血、是爲二天安河邊(カハラ)所在五百箇磐石(イホツイハムラ)一也、卽此經津(フツヌシノ)主神之祖矣」

ふつ-の-みたま (名) 韴靈 〔韴ハ、市音ノ合字、音弗(フツ)、利クシテ、ふつと斬ルル御魂ノ義、廣韻「韴、斷聲」〕上古ノ神劍ノ名。古事記、中(神武)四「此刀名、云云、亦名、布都御魂」 神武卽位前紀五「予劍號曰二韴靈一」 舊事紀、天孫紀「凡厥神劍韴靈、此云二赴屠能瀰哆磨一」 劍刀、亦名布津主神魂(ミタマノタチ)刀」

ブッ-ばち (名) 佛罰 佛ヨリ與ヘラルル罰。用明天皇職人鑑(寶永、近松作)鐘入「空恐シヤ誓文ノ、神罰、佛罰、皆身ノ上ニフリカカル」

ぶっ-ぱな・す ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 打放

うちはなす(打放)ヲ、强メテ云フ語。

ぶつ-ぴん (名) 物品 (一)モノ。シナモノ。有體物。(二)特ニ、不動產ヲ除キタル有體物ノ稱。動產。

ふつ-ふつ (副) (一)物ヲ斷ツ音ニ云フ語。今昔物語、廿八、第三十二語「刀ヲ以テ、荒卷ノ繩ヲふつふつト押切リテ」(二)斷チ切リテ、フッツリ。斷然。好色一代女(貞享、西鶴)二「身ノイタヅラふつふつトヤメテ、何ノ氣モナカリシニ」

ぶつ-ぶつ (名) 數多生ズル粒狀ノモノ。

ぶつ-ぶつ (副) 〔つぶつぶノ倒語〕(一)粒(ツブ)立ツ狀ニ云フ語。「肌ニぶつぶつデキル」(二)ツブヤク狀ニ云フ語。ブツクサ。諸藝太平記(元祿)二「ぶつぶつ獨言ヲ云フ」

ぷつ-ぷつ (副) (一)湯ナドノ盛ンニ沸ク狀ニ云フ語。沸然。(二)腫物ナドノ多ク出來ル狀ニ云フ語。

フツ-ぶん (名) 佛文 佛蘭西國ノ文章。又、同國ノ文字。佛蘭西文。

ブッ-ぽふ (ブツポウ) (名) 佛法 ホトケノノリ。佛、所說ノ敎法。八萬四千ノ法門、皆是レナリ。佛ノ敎ヘ。佛道。佛敎。勝鬘經「一切佛法、攝二八萬四千法門一」 大寶積經、四「如來常說二一切諸法皆是佛法一、以下於二諸法一能善了知上、名爲二佛法一」 晉書、孝武紀「帝初奉二佛法一、立二精舍於殿內一」 隨南紀談(明、都穆)「佛法、世傳、漢明帝時、佛法始入二中國一、非也、列子曰、西極之國、有二化人一來、穆王事レ之、作二中天之臺一、其高千仞、及二秦時一、沙門室利房等至、始皇以爲レ異、囚レ之、夜有二金人一、破レ戶以出、又、霍去病過二焉耆山一、得二休屠王祭天金人一、以レ是考レ之、周秦西漢、知レ有二佛久矣一」 字類抄「佛法」(運歩色葉集、同) 續紀廿四、天平寶字七年五月「大和上鑒眞物化、和上者、楊州龍興寺之大德也、云云、留學僧榮叡業行等、白二和上一曰、佛法東流至二於本國一、雖レ有二其敎一、無二人傳授一」 源、五十二、手習四「ヨカラヌ人ノ、モノヲ便ナクイヒナシ侍ル時ニハ、佛法

ノ[illegible]ズトナリ侍ル[illegible]ナリ」榮花物語、十五、疑「天下[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]ン人ヲ殺ト知レトコソハ、蓋千[illegible]カセ給フナレ」

ブッ[illegible]ソウ (名) 佛法僧 (一)[illegible]寶ノ[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]修」心則依二佛法僧一[illegible]之三[illegible]、若二君子之三畏一也」[illegible]ブフソウ」(二)杜[illegible]、[illegible]ノ鳥ノ名。[illegible]山ニ棲ム。[illegible]ハ、[illegible]ニ似テ小サク、[illegible]黑ク、[illegible]ニシテ、腹、背、碧[illegible]文アリ、[illegible]、碧ニ、[illegible]、背、[illegible]、其[illegible]赤シ。夜鳴ク。其聲、佛法ト、サヤカニ二聲[illegible]、後ニ、低ク僧ト鳴クト云フ。[illegible]鳥。佛法僧鳥。[illegible]五、[illegible]佛法[illegible]、ブッポフソウ、[illegible]鳥、形類二[illegible]入夜鳴、其聲如レ謂二佛法僧一故名、又謂二之三寶鳥一云云」紀略、後篇、一、延喜十八年八月[illegible]道ノ、傚ケレバ、鳥モ唱フル、佛法僧カナ」辨内侍日記「[illegible]ノ御[illegible]ニオカレタリシガ、雨ナドノ降ル日ハ、殊ニ鳴クニ、其名モサヤカニ聞ユ、姿ハ、ヒエ鳥ノヤウニテ、今スコシ大キナリ、トニカクニ、カシコキ君ノ、御代ナレバ、[illegible]ノ鳥モナクナリ」[illegible]十八年八月十四日[illegible]、佛法[illegible]林鐵[illegible]草堂曉、三寶之聲聞二一鳥一、一鳥有レ聲人有レ心、聲心雲水倶了了」

ブッぽふソウてう (名) 佛法僧鳥 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

ふつま (名) 太馬 「ふとうまノ約」肥エ太リタル馬。[illegible]十八「[illegible]カタオヒヒノ、馬ノ爪都築ニ、負セモテ、[illegible]ニヤァバ、ハ、カタハムカモ」

ブッま (名) 佛間 佛壇ノ安置シアル[illegible]寶。[illegible]瑠璃(近松作)一「[illegible]ボダイノ下[illegible]シ[illegible]十二[illegible]ヒ、泣ク泣ク佛間ニ入リ給フ」

ブッみゃう (名) 佛名 (一)ホトケノ名。[illegible]ノ名號[illegible] (二)佛名會ノ略。[illegible]トモ云フハ、[illegible]中ノ公事ニテ、佛名會ノ[illegible]トナリ。毎年、陰暦十二月十九日ヨリ三日間、清涼殿ニテ、僧ニ、佛名經ヲ誦ミ、三世ノ諸佛ノ名號ヲ唱ヘシメラル、六根ノ罪ヲ滅スト云フ。ごぶつみゃう。佛名懺悔[illegible]七、承和五年十二月、天皇於二清涼殿一修二佛名懺悔一限以二三日三夜一云云、内裏佛名[illegible]代實錄、四十六、元慶八年十[illegible]九[illegible]仁壽[illegible]始修佛名[illegible]、限以三日」榮花物語、十、日蔭鬘「内ヨリハジメ、宮宮ノ御佛名モ、[illegible]ト[illegible]ル[illegible]モナウシキニ」公事根源、下、十二月、御佛名「ケフ(十九日)ヨリ廿一マデ三ケ日ナリ、或ハ一夜モ例アリ、仁壽殿ノ御本尊ヲウツシテ、御帳ノ中ニカケテ、南ノ額ノ間ニ、又南北二[illegible]ヲタテテ、佛[illegible]ナク、[illegible]ニ[illegible]ナドヲソナフ、ヒサシニ地獄變ノ御屏風ナドヲ立ツ、云云、コノ佛名トイフハ、三世ノ佛ノ名號ヲ唱ヘテ、六[illegible]ノ[illegible]、心ヲリ、[illegible]ニ佛名經ニ說カルル所ノ功德ハ、[illegible]リナキニヤ」

ブッみゃうさん (名) 佛名懺 次條ノ語ノ略。[illegible]九、比良山[illegible]安[illegible]從西大寺[illegible]。[illegible]法[illegible]比良山[illegible]十二佛名[illegible]、云云、[illegible]宮中李[illegible]佛名懺」

ブッみゃうさんげ (名) 佛名懺悔 前前條ノ(二)ニ同ジ。略シテ、佛名懺。

ブッみゃうゑ (名) 佛名會 禁中、竝ニ、諸國ノ寺院ニテ行フ佛名ノ會式。ぶつみゃう(佛名)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。[illegible]次[illegible]、[illegible]中川[illegible]、十二月十九日「[illegible]仕吉神[illegible]佛名會二」

ブッめつ (名) [illegible] (二)釋迦ノ死スルコト。佛滅度。涅槃。入滅。十[illegible]抄、上、第一、第八條「中天竺ニ、佛[illegible]ノ[illegible]」

ブッめつにち (名) 佛滅日 陰陽家ニテ、萬事ニ凶ナリトスル日[illegible]日。略シテ、佛滅トモ云フ。[illegible]四月、十月、[illegible]ク日ナリ、ヨロヅモチュベカラズ」

ブッもん (名) 佛門 ホトケノミチ。佛道。僧ノ境涯。又、釋迦、所說ノ法門。即チ、佛教。「佛門ニ入ル」

ブッラウキ (名) 佛狼機 「五、六世紀頃、西歐ニ強大ナリシ種族名ふらんくノあらびあ化音ふらんぎヲ語原トス、後世、地中海沿岸ノ西方亞細亞種族ハ、此ヲ歐洲人ノ稱呼ニ用ヰシガ、ソレガ南支那ニ及ビ、東漸シ來レル歐人(葡萄牙人等)ノ稱トナリ、字モ佛狼機トナリ、斯テ其等ノ傳ヘシ大砲ノ稱トナル」一名、フラン。ハラカン。ポルトガル。大砲ノ古名。支那ニテハ、明ノ正德十二年、西洋人、[illegible]東[illegible]渡セリト云ヒ、本邦ニテハ、天文十二年、葡萄牙人、九州ニ渡セリト云フ。フランキ。イシビヤ。[illegible]ニクゾシ [illegible]名山[illegible]佛狼機、云云、新[illegible]佛狼機」皇明世法錄「佛[illegible]利、[illegible]銃、[illegible]、所[illegible]、其[illegible]用銅鑄、大者千餘斤」利瑪[illegible]、兵器、佛狼機、ポルトカルノラン、[illegible]

[illegible]

ぶつり (名) 物理 (一)物ノ道理。又、物體ノ理法。(二)次條ノ語ノ略。

ぶつりがく (名) 物理學 [illegible]ノ譯語」理學ノ一部門ノ稱。物體ノ性質、運動、[illegible]、ねるぎい、光、熱、音、電氣ナドニツキテ研究スル科學。古クハ窮理學ト云フ。略シテ、物理。

ブッりき (名) 佛力 佛ノ通力。功力。[illegible]平ノ[illegible]タリシモ、即チ當寺ノ佛力ナリ(清水寺)」

ぶつるゐ (名) 物類 物ノ同ジタグヒ。淮南子、說林訓[illegible]不知物類[illegible]」宋玉、高唐賦[illegible]令、無物類之可二儀比一」

ぶつろん (名) 物論 ぶつぎ(物議)ニ同ジ。[illegible]

ふづゑ (名) 文杖 文挾ノ[illegible]。

ふて (動) 棄[illegible]ノ[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]十六、興言利口「年比タダ爲メシツカヒツルニ、ふてコトドモシテ、ヤスカラズ覺エシカドモ」

ふで (名) 筆 「ふみて、ふんで、ふでト轉ジタル語、ふみて(筆)ノ語原ヲ見ヨ。筆ノ字音ノ[illegible]ナリト云フハ、イカガ」朝鮮語、フツツ」(一)文字、圖畫ヲ書クニ用ヰル具。羊、狸、鹿、馬、[illegible]ノ毛ヲ束ネ結ヒテ、細キ竹管ノ[illegible]ニ[illegible]ヘ[illegible]

ルモノ。毛ニ墨汁ヲ染メテ書ク。柄ヲ束(ツカ)、又、軸ト云ヒ、コレヲ遺ルヲ結(ユ)ニト云フ。[illegible]毛穎、毛錐子、管城子。[illegible]水ぐき。中書君。黒頭公。兎毫。[illegible]抄、十二「文書具[illegible]、張華博物志云、[illegible]作[illegible]、古今注「古[illegible]、不[illegible]、竹[illegible]」[illegible]伯[illegible]字[illegible]フデ」源、廿八、野分廿「筆ノサキ、ウチ見ツツ、コマヤカニ書キ」[illegible]筆トリテ書キ給フ」(二)[illegible]、文字ナドヲ書クコト。又、ソノ記シタルモノ。手。書[illegible]、[illegible]ニカケル[illegible]ノカタナハ、イミジキ繪師トイヘドモ、筆限リアレバ匂ヒナシ」「筆ノ跡」「筆消ユ」「筆ヲ試ム」「何某ノ筆ナリ」筆を入る。添刪筆を加ふトハ、他ノ文ヲ正ス意。染筆 濡筆 筆を染むトハ、字ヲ書ク意。染筆 揮毫 筆を取るトハ、物書ク意。執筆[illegible]記、十八、文[illegible]「[illegible]八天[illegible]、筆を取らヌ者也」筆を下(クダ)すトハ、書ク意。記ス。下筆 筆の海トハ、硯。

ふであと (名) 筆跡 筆迹 又、ふでのあと。ひっせき(筆蹟)ニ同ジ。

ふであらひ (名) 筆洗 筆ノ墨ヲ洗フベキ水ヲ盛ル器。フデスヽギ。ヒセン。筆池。[illegible]器也、マレニハ陶器モアルベシ、硯ニソヘテ、下ノ方、右ヘ寄セテ置クベシ」

ふてい (名) 不逞 〔正韻「不レ檢、謂二之不逞一」玉篇「逞、快也」〕(一)シメククリナク、勝手ニ振舞フコト。又、品性、行爲ノ正シカラザルコト。(支那ニテハ、志ヲ得ザル不逞ノ徒ハ、志士ノ意。左傳、襄公十年「五族聚二羣不逞之人一、因二公子之徒一以作レ亂」宋史、[illegible]「一人不逞、包[illegible]心[illegible]、[illegible]神[illegible]、終亦[illegible]、[illegible]矣」(二)快ラザルコト。又、其モノ。左傳、昭公十一年「天禍二許國一、鬼神實不レ逞二于許君一」

ふてい (名) 不弟不悌 兄ニ服從セザルコト。弟タル道ニ背クコト。周禮、地官[illegible]、[illegible]以[illegible]八[illegible]、[illegible]、不[illegible]刑」[illegible]、不孝、不悌[illegible]、而罰レ之、以助二攝氣一」

ふてい (名) 不貞 妻トシテ操ノ正シカラヌコト。貞操ヲ守ラヌコト。越絶書(漢、袁康)「衒女不貞、衒士不信」

ふてい (名) 不庭 朝庭ニ來貢セザルコト。又、ソノモノ。[illegible]、[illegible]、作、[illegible]「[illegible]不[illegible]、[illegible]不庭[illegible]以佐[illegible]辟」[illegible]、隱公十年「君子謂、鄭莊公於レ是乎可レ謂レ正矣、以二王命一[illegible]不庭[illegible]、[illegible]其[illegible]正[illegible]也」

ふてい (名) 不定 サダマラヌコト。サダメナキコト。サダカナラヌコト。

ふていさい (名) 不體裁 體裁ノ宜シカラヌコト。キマリノ惡キコト。

ふていれ (名) 筆入 筆ヲ入レ置ク具。フデヅツ。ヒットウ。

ふてう (名) 不調 トトノハヌコト。成立セザルコト。「談判不調」

ふでう (名) 不調 前條ノ語意ニ同ジ。又、思ハシカラヌコト。[illegible]下、[illegible]門、不[illegible]、フテウ[illegible]記、十八、文[illegible]天神[illegible]、アナ[illegible]ヤ、少クヨリ不調ナリト[illegible]エシ者ハ、終ニ果シテ憂目ヲ見ルゾトヨ」沙石集、六、下、第十二條「各カノ門ニテ候シガ、世間不調ニシテ、[illegible]ノ所[illegible]仕キ」

ぶてうほふ (名) 不調法 (一)爲ル事ノ行キ屆カヌコト。物事ニフツツリナルコト。考ヘナキコト。[illegible]法ノ[illegible]、[illegible]見セヨ)狂言記、餓道心「ワタクシ不調法ナ者デコザレドモ、抱ヘテ下サレ」(二)アヤマチ。疎忽。[illegible]「[illegible]、[illegible]トハ、ヨイ手ナコトオッシャレナヤイノ」(三)飲酒ナドノトキ、辭退スルニ云フ語。

ふでがき (名) 筆柿 又、[illegible]、柿ノ一種。きざはしがき(木醂柿)ノ類ニテ、[illegible]ヨリ、[illegible]、食フベシ。實ノ長サ二寸半許、[illegible]二寸[illegible]、頭尖リテ、筆ノ頭ニ似タリ、冬初ニ出ヅ。一名、八王子(ハチワウジ)。鹿心柿 和漢三才圖會、八十七、山果類「柿、云云、筆柿、形小而長、本草所謂鹿心柿、和名[illegible]」[illegible]ノ品品ハ筆柿モ、甞キツクサレズト賞リニケリ」

ふでかけ (名) 筆掛 筆ヲ倒シ掛ケテ置ク具、多ク[illegible]ノ形ヲ作ル。[illegible]漫錄、二、筆床、筆架「文房圖贊云ニハ、石ノ小ク山ノ如クナルヲ[illegible]ノモノヲ用ユ、[illegible]、マヽ小山[illegible]トモ名ケタリ、此二物ハ、要具ニアラズ」

ふでがしら (名) 筆頭 一 筆ノ頭。筆ノ穗。(二)記スニ第一ナルコト。筆頭(ヒットウ)。(連名ナドニ) 斑頭

ふでがへし (名) 筆返 違棚、又ハ、短キ袋棚ナドノ端ニ、附ケル彎曲狀ノ木ノ稱。物ノ辷リ落ツルヲ止ムルモノ。

ふてき (名) 不敵 不レ敵(スカナハ)ノ義、敵セズ、[illegible]、肝太ク物ニ畏レヌコト。[illegible]記、[illegible]、[illegible]四十萬、號二百萬一、沛公兵十萬、號二二十萬一、力不レ敵」保元物語、一、新院御所[illegible]クタンノ[illegible]朝)、云云、ヨウセウヨリ[illegible]、[illegible]テ、兒ニモ所ヲオカズ」[illegible]記、十六、[illegible]、[illegible]千[illegible]、[illegible]、ニテ、[illegible]、七、コラヘテ、防ギ戰ヒケル楠ガ、心ノ程コソ不敵ナレ」「大膽不敵」生死知ラズノ不敵ノ人」

ふでき 名 不出來 出來ノ宜シカラヌコト。[illegible]ゴザレドモ」好色一代女(貞享、西鶴)二「[illegible]チ[illegible]レ[illegible]恐シクナッテ、氣ニ入ル心ノ仕カケ」

ふてきたう (名) 不適當 適當セザルコト。ツリアハヌコト。アテハマラヌコト。[illegible]ニ[illegible]ヒ、

ふてきにん (名) 不適任 適任ナラザルコト。任務ニ適セザルコト。

ふてぎは (名) 不手際 手際ノツタナキコト。出來ノ[illegible]キコト。

ふでくさ (名) 筆草 こうぼふむぎ(弘法麥)[illegible]ノ[illegible]見ヨ。

ふてくされ (名) 不貞腐 不平ニテ、狂妄ヲ起スコト。

ふでさき (名) 筆先 (一)筆ノ穗さき。筆端 筆鋒 筆尖 (二)筆ノハコビ。筆[illegible]ヒ[illegible]、[illegible]ヒイ彈カレズ、筆先ノ物語」「筆先デゴマカス」

ふでし (名) 筆師 筆ヲ製造スル職人。フデヤ。フデユヒ。筆職人。造筆手。筆工。[illegible]「筆師藤原正吉任二出雲掾一云云、右職事經房」萬天[illegible]十枚、御筆師小法師石見」

ふですさび (名) 筆荒 又、ふでのすさび。[illegible]筆ニマカセテ書クコト。ナグサミニ書クコト。又、ソノモノ。フデズサミ。[illegible]隣女集「イトセメテ、物思フ時ノ、筆すさび、[illegible]八、雑、中「見ルタビニ、老ノ淚ヲ、ソソグカナ、昔ノ人ノ、ふでのすさびニ」

ふですさみ (名) 筆荒 前條ノ語ニ同ジ。

ふでたて (名) 筆立 一 筆ヲ立テ書キ

初ムルコト。筆ノタチド。カキダシ。

初[illegible]　日本国士記(全新兵制附録)三、新設[illegible] [illegible]カナ」醒睡笑(元和、安樂庵策傳)三、文の品品「筆たて[illegible]ノ字ア[illegible]」[illegible]

具。竹、又ハ、陶製ノ筒ナドヲ用ヰル。

[illegible]筆たてハ、蒔繪ノ小箱、或ハ、筒ヲ用フ」　當流女用鑑、二「筆たてハ、石ヒヤウノ前、次ニ水入ナリ」

ふでついて　[illegible]　筆ニテ書クツイデ。フデノツイデ。

ふでづか（フデヅカ）(名)　[illegible]　筆ノ軸。フデヂク。フデノツカ。筆管　今昔物語、三十、第一話「野老合セ(トコロ)薫物(タキモノ)ヲ、甘葛(アマヅラ)ニヒヂクリテ、大キナル筆ノ管(フデノツカ)ニ入レテ、ソレヨリ出サセタル也ケリ」　七十一番[illegible]ツメタル、筆竹ノ、長キ夜知ラズ、月ヲ見ルカナ」

ふでづか（フデヅカ）(名)　[illegible]　[illegible]（フルフデ）ヲ集メ[illegible]其用[illegible]

ふでづかひ（フデヅカヒ）(名)　筆遣　文字ヲ書クニ、筆ノ[illegible]ヒヂ[illegible]ル方法。又、書キタル文字ノ趣キ。[illegible]　源、十二、須磨「[illegible]カラヌ事ドモ書キ給ヘリ、言ノ葉、ふでづかひナドハ、人ヨリモ[illegible]ナマメカシウ、手[illegible]タリ」

ふでつぐさ　(名)　[illegible]　[illegible]ノ[illegible]ニ同ジ。

ふでづつ（フデヅツ）(名)　筆筒　(一)筆ヲ入レ置ク筒。[illegible]　[illegible]ヒットウ。

ふでつばな　(名)　筆津花　又、ふでつぐさ。つくづくし(土筆)ノ一名。其條ヲ見ヨ[illegible]云、花ノ名ヲ、ふでつぐさ、ふでつばなト云」

ふでつむし　(名)　[illegible]チテ成ルト云フ傳説アルヨリ云フト」[illegible]モ今ハト、淺芽生ニ、カタオロシナル、露ヨワルナリ、(筆つむしハ蟲ヲ云也、古筆ノナル也)」

ふでとり　(名)　筆執　筆ヲトリテ、物ヲ書クコト。[illegible]　[illegible]ニ八枚ヲ遷ミテ、筆執リシテアリケル古山法師ニ、[illegible]

ふでね　(名)　不逞寐不貞寢　フテクサレニ[illegible]　三編、上「アノモウ顏付キヲスルノト、ふて寐ヲ致スノガ、第一ニワルウゴザイマス」

ふでのあと　(名)　筆跡　又、[illegible]　書キタル文字。ミヅグキノアト。略シテ、あと。筆迹　平家物語、一、妓王事「イヅレカ秋ニ、逢ハデハツベキト、書置キ給ヒシ筆の跡、ゲニモト思ヒ侍リシゾヤ」新六帖、五、いひはじむ「思ヒカネ、知ラセ初メツル、筆の跡、ウチツケナラヌ、言ノ葉ゾナキ」　萬葉集「千年マデ、跡トマル筆の、跡ナレバ、書ク人ガラヤ、人モシノバン」源、四十、幻「御文ドモ、云云、過ギニシ人ノ跡ト見ルハ、アハレナル[illegible]ヲ」[illegible]キ跡ナレド、云云、此御願文ハ、近キ御簾子ナドニ[illegible]

ふでのさきら　(名)　筆尖　〔さきら(先)〕(一)フデサキ。筆ノサキ。[illegible]ノ條ヲ見ヨ」[illegible]ノ紙ニ書ケル文字ノ作リ、ふでのさきら、イトカシコクオモシロキ奥ノカタニ」

ふでのすさび　(名)　[illegible]　(筆荒)ニ同ジ。

ふでのながれ　(名)　[illegible]　モアヤシク、ナベテナラズ、ナマメカシキケシキニ、[illegible]

ふでばうふう　(名)　[illegible]　ニテ防風ノ根ノ、筆頭ノ如キモノノ稱。[illegible]舖ニテ、蘆ノ筆防風ト云フアリ、一名、伊吹防風、山[illegible]ク、六七寸ニシテ、堅實ナリ、云云」

ふてふ（フチヨウ）(名)　符牒　ふちやう(符帳)ニ同ジ。[illegible]レ持ニ符牒ニ」洒落本、面美多勤身「[illegible]ノコトヲけんまト云フふてふサ」

ふてぶしやう（フテブシヤウ）(名)　[illegible]　[illegible]ノ人。(筆忠實ニ對ス)

ふてぶてし　[illegible]　(形、二)

ふでぶと　(名)　筆太　文字ヲ太ク書ク[illegible]ト。又、ソノ文字。

ふでまき　(名)　筆卷　[illegible]

小サキすだれ。

ふでまめ　(名)　筆忠實　[illegible]

ふでん　[illegible]コロ。アメガシタ。天下。天下中。[illegible]二、教訓抄「普天ノ下、王地ニアラズト云フ事ナシ」[illegible]ニヨレリ」「普天之下」

ふでん　[illegible]

ふでんのもと　(名)　[illegible]

ふでや　(名)　筆屋　[illegible]筆ヲ商フ家。又、ソノ人。筆店　名物六帖、二、人品箋「筆行、フデヤ」　(二)[illegible]年十月廿五日、ふでやジ、ウリヤウ申ス」名物六帖、二、人品箋「筆匠、筆工、筆人、筆師、フデヤ」

ふでゆひ（フデユヒ）　[illegible]ル[illegible]　閑、下二「ユキマサノ朝臣、ナニノサイカ侍ル、ふでゆひノサイナン侍、イテツカマツレ」續古事談、五、七日ト云ニ死ニケリ」　七十一番職人歌合、上、八番、筆ゆひ「ナビクホド、イカガゆはマシ、我ガタメハ、夏毛ノ筆ノ、心強サヲ」　醒睡笑(元和、安樂庵策傳)三「[illegible]院ヘ出入リスル筆匠アリ」

ふ・てる・テル・テレ・テ・テ・テヨ(自動、下一)　(一)

葉ツノ口語」(二)〔心ニ太ル意カ〕愼テ、命ヲ聽サズ。恨ミ逆ノ〔ス〕ラバチニナル。很 書言字考節用集、九、言辭門「很、フテル」太平記、十七、義貞軍事「義貞、ソゾロニ深入リシテ引キカノナサニ、ふてテ仕リ候ナ」中〔記抄〕文〔明〕十四〔…〕テ、ふてテワルイ事ア、戰テ死ゾ」閑吟集「〔…〕ふてテ、一段イフテ見ウ、イヤナラバ、ワレモタダソレヲ限リ」

〔ふ-と〕(名) |餺飩| 〔又、伏兎〕 麪ヲ油ニテ煎タルモノ。 倭名抄、十六、飯餅類「餢飳、〔…〕部斗、俗云、伏兎、油煎餅名也」 字鏡「〔…〕、大比」 庭訓往來、十月「伏兎、曲、〔…〕」

フト (名) |浮圖|浮屠| 〔梵語、Buddha.ノ轉音ナリト。(中央亞細亞ニテ Futo.)〕 ぶつ(佛)、ぶった(佛陀)ニ同ジ、覺者ト譯ス」 (一)ほとけ(佛)ニ同ジ。 廣弘明集、二「浮圖、或言佛陀、聲明轉也、譯云淨覺、滅穢成明覺、爲聖悟也」 秘藏記、本「浮圖、佛也、新人曰物他(佛陀)也、古人曰浮圖也」 後漢書、楚王英傳「晚節更喜黃老學、爲浮屠齋戒祭祀」 (二)佛寺。又ハ、僧侶。僧。 鶴岡齋筆塵(明、王肯堂)「梵語、佛陀、其身、僧也、〔…〕、浮圖〔…〕佛陀之轉〔…〕」 魏書、釋老志「〔…〕浮圖〔…〕」 (三)塔。アララギ。佛塔。 隱於浮圖」 〔…〕記、十一、上「〔…〕、此云供養〔…〕浮圖、音訛也」 洛陽伽藍記「〔…〕、〔…〕七寺〔…〕五層浮圖一所、去地五十丈」 續紀、四十、延曆十年四月「山背國部内諸寺浮圖、經年稍久、破壞處多、詔遣使咸加修理」

ふ-と (副) (一)〔輕クタヤスキ意ニ云フ語〕ツイチョット。タヤスク。チキニ。 竹取物語、上「我ガ弓ノカハ、龍アラバ、ふと射殺シテ」 落窪物語、二「呼ビ給ヘバ、ふと寄リタリ」 源、四十九、東屋「若キ御ドチ、物聞エ給ハンハ、ふとシモ染ミツクベクモアラヌヲ」 (二)ふつとニ同ジ。フット。

〔ふ-と〕(副) |不圖| 〔論語、述而篇「不圖爲樂之至於斯也」ニ ハツラズ〕 オモヒガケズ。フトシモ。ユクリナク。不意ニ。フット。偶然 書言字考節用集、十一、言辭門「文選注、不圖、不意也」 竹取物語「綱ヲ釣リ上ゲテ、ふと子安貝ヲ取フセタマヒナバ」 源、十、榊五十二「大將ハ、物ノマギレニモ、左ノオトドノ御有樣、ふと思シクラベラレテ」 堤中納言物語、貝合「組入(天井)ノ上ヨリふと物ノ落チタラバ、マコトノ佛ノ御功德トコソ思ハメナド言ヒアヘルハ、ヲカシ」

〔ふと〕(接頭) |太| 〔腹所ノ義〕 メデタキヲ、美メテ云フ語。 古事記、上「爾天神之命以、布斗麻邇爾、卜相而詔之」 神代紀、上「使天兒屋命、主其解除之太諄辭」 「ふとのりと」「ふとだすき」「ふとたまぐし」「ふとみてぐら」「ふとしく」

ぶと (名) |蟆子|蚋| 〔螫サレタルアト、ぶつぶつトスルヨリ出デタルカ〕 雙翅類ノ小蟲ノ名。蠅ニ似テ、長サ一分許リ、全身、色黑ク光リ、翅ハ、薄ク小サクシテ、透キトホル。夏ニ、山野、水邊ニ甚ダ多ク、晝出デ、夜伏ス。人ヲ螫セバ、腫レテ癢キコト數日ニシテ、其害、蚊ヨリ甚シ。ブユ。ブヨ。 俳諧新選、雜「乘レタ腰ヲ、蚋ニ喰ハレソ、カチワタリ」

ふと-いき (名) |太息| 太クユルヤカニツク息。オホイキ。たいそく(太息)、及、おほいき(大息)ノ條ヲモ見ヨ。

ふ-とう (名) |埠頭| 〔康熙字典「埠頭、籠貨物、積販商泊之所」〕 はとば(波止場)ニ同ジ。 通雅(明、方以智)「埠頭、水瀕也、說文、瀕水涯亦謂之步、今謂貨物積聚商泊之所曰埠頭」 范成大、虎牙灘詩「埠頭可檥船、安穩聽殘夜」

ふ-ぞう (名) |浮動| 定マラズ、浮キテ動クコト。タダヨヒ、動クコト。 林逋、梅花詩「疏影橫斜水清淺、暗香浮動月黃昏」

ふ-ぞう (名) |不同| オナジカラヌコト。ソロハヌコト。 狂言記、栗田口「寸ハ次第不同、是ハ間フニ不及」

ふ-ぞう (名) |不動| (一)動カザルコト。(二)〔梵語、Āryācalanātha.(阿梨阿遮羅曩他)、不動尊、又、無動尊ト譯ス〕 佛經ニ、五大明王ノ一。不動明王トモ云フ。顏色、獰惡ニシテ、右ニ降魔ノ劍ト云フヲ持チ、左ニ縛ノ繩ト云フヲ提リ、背ニ火焰アル象ヲ圖ス。一切ノ鬼魅、諸障惱ヲ降伏スト云フ。五大明王ノ主尊トシテ、其中央ヲ守護ス。脇士ノ二童子ヲ、制吒迦、矜羯羅ト云フ。 大日經、二「不動如來使、持慧刀羂索、頂髮垂左肩、一目而諦觀、威怒身猛焰、安住在盤石、面門水波相、充滿童子形」 同疏、五「不動明王、如來使者、作童子形、右持大慧刀印、左持羂索、頂有莎髻、屈髮垂在左肩、細閉左目、以下齒嚙右邊上脣、其左邊下脣稍翻外出、額有皺文、猶如水波相、坐於石上、其身卑而充滿肥盛、作奮迅忿怒之勢、極忿怒之形、是其密印標幟相也」云云」 今昔物語、十一、第十二語「心ヲ致シテ、不動ヲ念ジ給フ」 謠曲、道成寺「北方ニ金剛夜叉明王、中央ニ大日大聖不動、云云、千手ノ陀羅尼、不動ノ慈救ノ咒、明王ノ火焰ノ黑煙ヲ立テテゾ祈リケル」 (三)ふどうこく(不動穀)ノ略。 類聚國史、八十二、大同二年九月「論滅」云云、井諸寺封五百戶、移附東國、郎收其租、以爲不動」

ふ-ぞうい (名) |不同意| 同意セザルコト。不贊成。不承知。

ふぞう-こく (名) |不動穀| 古ヘ、大稅ノ中ヲ割キテ貯ヘ置キ、常ニ移動セズシテ、不時ノ需メニ供スル米穀。略シテ、不動。 三代實錄、三十三、元慶二年正月十五日「敕以攝磨國不動穀六十斛、轉充和泉國、班給百姓、以去年旱飢也」 正倉院文書、二十六、長門國天平九年収納大稅目錄帳「所以不可〔…〕不動穀〔…〕、倂今年國〔…〕、不得〔…〕、云云」

ふぞう-さう (名) |不動倉| 〔動キナキ御倉ノ義〕 古ヘ、米ヲ久シク貯ヘオクトコロ。卽チ、不動穀ヲ貯ヘオク倉庫。 續紀、廿四、天平寶字七年、月、丁卯、「令天下諸國、〔…〕不動倉〔…〕、以國司交替〔…〕也」 類聚代格、八、寬平九年五月十一日太政官符「應〔…〕不動倉事」 江家次第、四、定受領功過事「不〔…〕、云云、不動倉穀三千石、〔…〕千石也」

ふぞう-さん (名) |不動產| 〔獨逸語、Unbewegliches Vermögen. 英語、Immovable property. ノ譯語〕 財產ノ動カスベカラザルモノ。卽チ、土地、家、藏ナド、及、其定着物ヲ云フ。其他、一切ノ動カスベキ財產ヲ動產ト云フニ對ス。

ふぞう-そん (名) |不動尊| ふどうノ不動ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 狹衣、二、下「廿九「不動尊ノオソロシゲナルニ、クハレントヤト、オドシ給フ」 今昔物語、廿、第六語「我レ魔縁ニ取リ籠ラレタリ、不動尊我ヲ助ケ給ヘ、ト云テ、云云」

ふぞう-なは (名) |不動繩| 米俵ニ、横ニ細繩ヲ以テ、シメタル後ニ、竪ニカケテ結フ太キ繩。不動穀ノ俵ニ結ビシ繩ヨリ云ヒ始メタルカト云フ。「讚尻」

ふぞう-みやうわう (名) 不動明王。ふどう(不動)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ふ-とうめい (名) |不透明| 透明ナラヌコト。スキトホラザルコト。

ふと-おり (名) |太織| 〔太ハ、太キ絲ノ太ナリ〕 フトギヌ。太キ粗ナル絹絲ニテ織レル一種ノ絹布。約メテ、フトリ。 絁 倭訓栞「フトギヌ、日本紀

[illegible]
とりトイフ、共國ノ稱也」

ふとおりさめ [illegible] 前條ノ語ヲ見ヨ。

ふとき (名) 風土記 (一)國國ノ風土、傳說ナド[illegible]記シタル書。[illegible] 二和銅六年[illegible]國ノ土地ノ產物、土壤、山川原野ノ名號ノ所由、古老相傳ノ舊聞異事ナド記サシメラレ、(續紀)年ヲ逐ヒ次第ニ奉レルモノ。今猶、播磨、常陸、出雲、豐後、肥前ナドノ風土記存ス。又、延長三年、太政官符ニテ、風土記ヲ[illegible]コトアリ[illegible](朝野群載) 總國風土記ト云フモノアレド、後世ノ僞作ナリ。[illegible]
[illegible]原野名號所由、又古老相傳舊聞異事、載ニ于史籍ニ言[illegible]
[illegible]

ふとぎぬ (名) [illegible] (一)絹ノ最モ[illegible]アシギヌ。フトオリギヌ。フトオリ。フトリ。
[illegible]
[illegible]
絹絁六一町成レ端」續紀、一(文武)三年正月「壬午、京[illegible]
匹、綿五屯、布十端、稻五百束、乳母一人二」

ふとく (名) 不徳 (一)徳ノナキコト。身ニ徳ヲソナヘザルコト。 書經、伊訓篇「爾惟德罔レ小、萬邦惟慶、爾惟不德罔レ大、墜二厥宗一」
(二)徳ニソムクコト。背徳。

ふとく [illegible] 女誡、漢、曹大家
[illegible]

[illegible]
[illegible]守[illegible]
[illegible]
各師ニ其國一」 北史、節[illegible]
[illegible]
[illegible]入レ室、公主必立以待レ之、[illegible]」

ふとく (名) 武德 [illegible]
武徳、功[illegible]、戢[illegible]、武[illegible]
ノ徳。又、武道ノ徳。[illegible]
[illegible]
哀、衆、[illegible]」 太平記、十六、正成
[illegible]
[illegible]
シ事ニテ候ヘバ、云云」

ふとくい (名) 不得意 不得手ナルコト。長所ニアラヌコト。

ふとくえうりやう (句) 不得要領 趣意ノ曖昧ナルコト。トリトメナキコト。要領ヲ得ザルコト。

ふとくぎ (名) 不徳義 徳義ニ背クコト。又、義理ヲ缺クコト。

ふとくさく (名) 不得策 利益ニナラヌコト。タメニナラヌコト。不利益。

ふとくしん (名) 不得心 (一)氣ニ入ラヌコト。納得セザルコト。承知[illegible]キコト。 易林節用集(慶長)下、言辭門「不得心、フトクシム」 盛衰記、十四、木下馬事「馬、云云、我レ[illegible]、不得心ナリト思ヒテ、[illegible]ト答ヘケレバ」 (二)轉ジテ、不心得ナルコト。 [illegible]小町「不得心ナル事ニテ[illegible]
[illegible]申シ」

ふとくたいへいらく (名) 武德太平樂 [illegible] 曲名。わうだいはんじやう 皇帝破陣樂[illegible]
[illegible]

ふところでん [illegible]
アリシ殿舎ノ名。宜秋門ノ西、左右[illegible]
[illegible]
覽ニ供セシ所。ウマキドノ。イバドノ。
[illegible]史、七十三、天長六年四月「[illegible]
[illegible]
[illegible]
殿二」 公事根源、五月「五日節會、天皇武德殿ニ出御ナリテ、宴會ヲ行ハレ、群臣ニ酒ヲ賜フナリ」

ふとくび (名) 太頸 馬ノ頸ノ、太キトコロ。[illegible]
[illegible]ヨルト思フホドニ、ふとくびニノセテ、ト
[illegible]」

ふところ (名) 懷 [illegible] (一)[和服ノ右襟ヲ下前トシ、左襟ヲ上前トシテ打交ハス、其間ノ稱。コノ所ヲ、内懷ニ對シテ、外懷トモ云フ。又、胸ノ上ニテ、更ニ其下前ノ内ヲ内懷、下懷トモ云フ。[illegible]
[illegible]
[illegible]
キ入レテ持タリ」 枕草子、一、第四段「猫ハ御ふところニ[illegible]」 (二)[illegible]タル所。「山懷」谷懷」 (三)次條ノ語ノ略。
「懷ガ暖イ」懷ガ寒イ」懷ガサビシイ」

ふところあひ (名) 懷合 (一)所持金ノ[illegible] 略シテ、ふところ。又、フトコログアヒ。フトコロ都合。「懷合ガヨイ」懷合ガワルイ」 (二)己レガ懷ケル意見

ふところがたな (名) 懷刀 [illegible] 懷中ニ[illegible]揣ミ携フル小刀。[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
密ノ計劃ナドニアヅカル股肱ト頼ムモ

[illegible]

ふところがみ [illegible]
ハナガミ。くわいし(懷紙)ノ條ヲモ見ヨ。
[illegible]
[illegible]
[illegible]
トリマゼ、オシタタミテ」

ふところかんぢやう (名) 懷勘定 フトコロ[illegible]

ふところぐあひ (名) 懷工合 ふところあひ(懷合)ニ同ジ。

ふところずみ [illegible]
[illegible]
原君「女ゴハ離レタラヌ所ナレド、一人バカリハふところずみセサセテアランナド」

ふところぢやうちん (名) 懷提燈 提燈ノ、懷ニ入ルルモノ。 [illegible](延寶)附句「思ヒノ燈、ふところ挑燈」

ふところで [illegible] 懷手 [illegible]手ヲ懷ニ入レテ居ルコト。[illegible]
[illegible]
ツ、イトハシタナキワザカナト、ワビアヘリ」(二)[illegible]
袖手。 [illegible](寶永、近松作)一「下人バラニ[illegible]
[illegible]

ふところでつぱう (名) 懷鐵砲 ピストル。短銃。拳銃。

ふとざを (名) 太棹 義太夫節ニ用ヰル三味線ノ[illegible]。又、ソノ三味線。中棹ヨリ稍太シ。さみせん(三線)ノ條ヲ見ヨ。
[illegible]
風呂(文化、三馬)三編、下「ふとざをノ[illegible]ノ緒モテ、
[illegible]ヘテ」

ふと・し・[illegible]（形、一）[illegible] 此ハ、[illegible]しノ略、細しノ反」（一）圓ミ大イナリ。[illegible] 藤原君二十「ツイタテサウジ立テ、ふとき緒ヒキテ、[illegible]」（二）肥エタリ。肥太リタリ。 枕草子、三、第廿八段「受領ナド、オトナダチタルハ、ふときイトヨシ」[illegible]（三）俗ニ、肝太し、ノ略。「太い奴」 肝太しトハ、物ニ畏レヌ意。膽大 [illegible] 勇キ心ハ、アリシカド、コノワガ心、シヅメカネツモ」

ふどし（名）［褌］［犢鼻褌］［踏通し、ノ約、[illegible]ノ如クナレバ云フト云フ、或ハ云フ、ふもだしノ轉カト］はたのおび（膚帶）ニ同ジ。フンドシ。シタ[illegible]ニテ、フンドシトイフ、西國、オヨビ、中國ニテ、ヘコトイフ」 蕪村句集「帆頭ノ、ふどし流サン、春ノ海」

ふと-し・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［太敷］［太ハ、讃辭、ふと（太）ノ條ヲモ見ヨ］柱ヲイカメシク建ツ、轉ジテ、御德、澤、太ク尊ク、天ノ下ニ敷キ施ス、堅ク基礎ヲ固ム。又、太高敷くトモ云ヘリ。 萬葉集、一 十八長歌「秋津ノ野邊ニ、宮柱、太敷マセバ」同、二 廿七長歌「飛鳥ノ、淨見宮ニ、神ナガラ、太布マシテ」[illegible] 大殿祭詞 [illegible]」

ふと-しも（副）［しも、ハ助辭］ ふと（不圖）ニ同ジ。 源、廿[illegible]「イト[illegible]」[illegible]見シニ、フトリ過ミテヤツレタレバ、多クノ年經タル目ニハ、ふとしも見ワカヌナリケリ」

ふと-し・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［太知］［太ハ讃辭、知るハ知らすニ同ジ、堅ク敷占ムル意］ 多クハ新築ノ宮ヲ祝シテ云ヒ、[illegible]宮柱ニツケテ云[illegible]つト云フ。又、太敷く（敷座す）ノ條ヲモ見ヨ）、高知るトモ云ヒナセリ。 古事記、上「ウカノ山ノ山本ニ、底ツ石根ニ、宮柱布刀斯理」 [illegible] シラシメシケル、スメロギノ」

ふと-たか-し・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四） 太高敷 ふとしく、ノ條ヲ見ヨ。 萬葉集、六 四十長歌「長柄ノ宮ニ、眞木柱、太高敷テ、食ス國ヲ、治メ給ヘバ」

ふと-だすき（名） 太襷 襷ノ美稱。 祈年祭[illegible]」

ふと-たまぐし（名） 太玉串 玉串ノ美稱。其條ヲモ見ヨ。[illegible]」

ふとっちょ（名） 太女 ［太女ノ音便、小女、尼女ノ類］ 肥エ太リタル女ヲ呼ブ卑語。罵リ云フ。轉ジテ、肥エ太リタル男ヲモ云フ。又、フトチャウ。

ふとっぱら（名） 太腹 ［ふとはらノ音便］（一）腹ノ肥エ太リタルモノ。（二）度量ノ廣クシテ大ナルコト。大膽

ふと-つら（名） 百部 ［百部］ 蔓ノ名。ひゃくぶ（百部）ノ條ヲ見ヨ。

ふ-とどき（名） 不屆 （一）心ノ法度ニ屆カヌコト。法ヲ憚ラズシテ犯スコト。フラチ。[illegible] 千萬ナ、身共方ヘハ不屆キシテ、[illegible]ドコロデハアルマイゾ」（二）フツツカ。ユキトドカヌコト。注意ノ足ラヌコト。フユキトドキ。（三）江戸時代、所拂、追放ナドノ刑ニ處スベキ裁判ニ於テ、ソノ宣告文ノ末尾ニ書スル[illegible]セテ用[illegible] 居之旨ト認メ、死罪ニモ及ブベキモノハ、不屆之旨[illegible]云」 御仕置例類集、一ノ三十五、文政四巳年御渡「吾[illegible]」

ふと-ぬの（名） 太布 太キ絲ニテ粗ク織レル布。又、單ニ、ぬの（布）トモ云フ。 [illegible] 色一代男（天和、西鶴）五「アラヒガキノ給帷子ニ、ふと布ノ花色羽織ニ、サシ渡シ四寸五分許リノ紋」

ふ-どの（名） 文殿 フミドノ[illegible] 文庫 書庫 [illegible]ク置ク所。 [illegible]

ふと-のりと（名） 太祝詞 ［太ハ讃辭］ 次條ノ語ノ略。のりとおと（祝詞）ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]」

ふと-のりとおと（名） 太祝詞 ［太ハ讃辭］ のりとおと（祝詞）ノ條ヲ見ヨ。略シテ、ふとのりと。

ふと-ばし（名） 太箸 新年ノ雜煮餅ヲ祝フ時用ヰル箸ノ美稱。[illegible] 町人嚢、二「正月ノ儀式ハ、神代ノ風俗ヲウツシテ、清淨質朴ナ[illegible]ジナ、木具、太箸ノ[illegible]ヲヨシトス」

ふと-ばら（名） 太腹 腹ノ肥エ太リタル[illegible] 小[illegible]タリ」 盛衰記、廿一、小坪合戰事「馬ノ太腹ヲ射テ、[illegible]」

ふと-まち（名） 太町 [illegible] ふとまに（太占）ニ同ジ。次條ヲ見ヨ。

ふと-まに（名） 太占 ［太ハ讃辭、太祝詞、太玉串、太知る、太敷く、ナドノ太ニ同ジ。まにハ、ままに、ままにノ義、神ノ御心ニ問ヒテ、其象ニ出デタル任ニ行フ意ト云フ。或ハ又、まにハ、まじなひノまじノ轉カ］ 太古ノ占ノ法。鹿ノ肩骨ニ溝ヲ刻リ、波波迦ノ木ヲ著ノ如[illegible]ケテ燒キ、骨ノ裂ケタル[illegible]ヲ見テ、其吉凶ヲ定メタリ。[illegible]町トモ云フ、其裂目ノ縱横ノ町形ナレバ稱ス。古昔ノ事、ヨク傳ハラザレド、後ノ龜トノ如クナルベシ。（かめのうら）ノ條ヲモ見ヨ。 古事記、上 [illegible] 以二太占一而卜合之 [illegible] 太占、此云二布斗磨爾一 [illegible]

ふと-まへ（名） 太前 ［大前ノ誤訓ト云フ］ 神ノ御前 大前 祈年祭祝詞[illegible]」

ふと・む・ムル・ム・メ・メ・メヨ（他動、下二） 太 太クス。 字鏡「具、張、目也、万夫止牟」

フトン（名） 蒲團 ［字ノ宋音、炭團ノ

[illegible]蒲團[illegible]、廿八、[illegible]蒲綿造、其形團圓、故言蒲團[illegible]」蒲ノ[illegible]ハ[illegible]蒲ノ[illegible]布[illegible]用[illegible]後[illegible]ノ[illegible]

[illegible]竹樹蒲團一條、侶、不レ異ニ前財見一最寂静婆羅門ニ[illegible]何[illegible]良[illegible]

[illegible]ノ[illegible]ふとん[illegible]トイフモノ也ト云リ、左ニアラズ、ヤハリ蒲團也、木綿ワタラサル以前ハ、庶人ノ冬ノ衣服ニハ、布ニ蒲ノ穂ワタヲ入テキタリ、云云、蒲團マタ同ジ蒲ノ穂ヲ綴テ入ル、ヨッテ蒲團ノ名アリ」

フトン (二) 布團[illegible] 前[illegible]ノ語ノ轉〕布帛ヲ被トシテ、内ニ厚ク綿ヲ入[illegible]タルモノ[illegible]ルニ敷クヲ、座布團、(又、ふとね)ト云ヒ、臥スニ敷ク長方形ナルヲ、敷布團ト云ヒ、臥スニ被ヒ掛クルヲ、掛布團ト云ノ[illegible]夜衾[illegible]十六、雜服附雜事「夜着蒲團、云云、今ハ下ニ三幅ノ[illegible]

ふどむぎ (名) [大麥] おほむぎ(大麥)ニ同ジ。[illegible]

ふどもの (名) [太物] 太織物ノ中略。[illegible]衣服ニ[illegible]布帛ノ[illegible]織物[illegible]反物、織物[illegible]

ふども (名) [太股] 股ノ内部ノ膨ラ[illegible]

ふどやかみ (名) [illegible]突キ貫イテ、引キ緩ネタリケルヲ」[illegible]ノトノニ

ふどらみ (名) 太[illegible] 前條ノ語ニ同ジ。

ふどり (一) [太織] ふとおりノ約。其[illegible]ヲ見ル。[illegible]色ニシテ、[illegible]五「[illegible]物[illegible]庭)「町人衣服之事、貞享年中迄ハ、云云、冬、上田島ツムギ、[illegible]ノふとり」

ふどり肉 (名) 太肉 [illegible]タル肉ノ[illegible]キ[illegible]、肥[illegible]タル肉。[illegible]ンヤ、ニモ[illegible]ニカクヤント引上ルニモラバコソ、ヤア、女房ハ、ふとり肉、[illegible]ハ[illegible]思ヒ入」

ふとり-せ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(自動、四) 太[illegible] 甚ダシク太ル。肥滿ス。[illegible]語[illegible]曾門[illegible]云云、太りせめタルたノ男ノ、大鎧ハ著タリ、馬ハ大キナリ」

ふと・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 太 肥エテ、大キクナル。たくナル。肉ヅク。肥[illegible]天治[illegible]下[illegible]「年三十バカリナルオノコノ、タケタカク、モノモノシクふとりテ、[illegible]八、第七十二[illegible]人ノ子ニ、法師子ノふとりタル」[illegible]八、[illegible]「イミジウコソふとり給ヘリシカ」

ふとゐ (名) 太藺 古名、オホヰ。莎草科藺ノ[illegible]水澤中ニ生ズ、一根ニ叢生シ、長サ丈餘、莖ハ小鱗片狀ニシテ、葉ノ廣サ五分許リ、深綠色、正圓ニシテ、心無シ。夏ノ後、莖頂ニ花梗ヲ抽キ

[illegible]花[illegible]「[illegible]トモイヘリ、如意トモ云フ」

ふな (名) [鮒鯽] 〔鮒魚ノ音訓合呼、陪[illegible]〕淡水產ノ魚。形、稍、鯉ニ似テ、大イナルハ尺餘ニ至ル。身、平タク[illegible]首、小[illegible]高[illegible]黃白ニシテ大イ[illegible]上トン[illegible]圓[illegible]鯉ノ如[illegible]下[illegible]十九[illegible]宇[illegible]「[illegible]不[illegible]」[illegible]「[illegible]ドレル、藻臥束鮒」宇津保物語、祭使ヒ「御マヘノ池ニ[illegible]ナロシテ[illegible]ナトテ[illegible]ヨキ[illegible]思ヒカケタル人ノ、鮒ヲオコセテ、サマカヘテ、世ヲ心ミン、アスカ川、淵路ニエツル、ふな人ゾコレ」

ふな (名) [船] ふね(船)ニ同ジ。萬葉集、十八三十長歌「馬ノ爪、イ盡ス極ミ、布奈ノ舳ノ、イ果ツルマデニ」[illegible]リテ、ワカルヲ見レバ、イトモスベナシ」

ぶな (名) [橅樹] 又、ぶなのき。シロブナ。殼斗科ノ落葉ノ喬木。深山ニ生ジ、幹、高ク聳エ、七八十尺ニ達シ、樹皮、灰黑色ニシテ、滑カナリ。葉ハ、粗、けやきニ似テ、鋸齒ナシ。春[illegible]ヲ着ク、雄ハ長梗[illegible]リテ、毬ノ如シ、花ハ淡綠[illegible]瓣ハ枝頂[illegible]花[illegible]三四ノ苞アリテ包ミ、花ハ四裂ス。實、卵形殼斗ノ内ニアリテ、褐色、三稜ヲナシ[illegible]栗ノ如シ、故ニそばのきノ名モアリ。[illegible]器具用トナル。山毛欅[illegible]

ふなあし (一) [船脚] (一)船ノ進ムコト[illegible]シモ、ヤスム時アリ、濱ノ松」(二)積荷ノ輕重[illegible]シテ、あし。吃水。フナバラ。フネノアシ。入脚。[illegible]「寬文十三丑年、御城米廻船之儀ニ付御書付、云云、[illegible]六、船足八寸[illegible]可[illegible]吃水三四尺トイヘリ、ふねのあしト歌セリ」堀川後度狂歌集、六、雜「近ヅキノ、山ガ迎ヒニ、イヅテ舟、[illegible]」

ふなあそび (名) [舟遊] 船ニ乘リテ遊ブ[illegible]ド)宇津保物語、吹上、下「ヤリ水ニ、コガネノ船ドモ、酒ギツラネテ、船あそびシテ」太平記、十七[illegible]シ、實ヲワスレ賤サム、此舟遊ノ初也」

ふなあまり (名) [illegible]船ノ岸ニ着[illegible]コト[illegible]ニハ[illegible]ムゾ」

ふなあらため (名) 船檢 フナシツベ

官ニテ船ノ檢査ヲスルコト。船舶ノ臨檢 西洋本、辰巳之間「ココハ六代將ニハ御番所ダ、見ネエ、辨方カラハ是レニ火ヲトモス」

ふ-ない (名) 府内 〔ふ-府ノ條ヲ參見セヨ。〕其府ノ内。府ノ區域内。又、國府ノ地。府中。 宰歩色葉集「府内、フナイ一御府」備考、凡例「此書、始ニ江戸總説ヲ出シテ、御府内ノ大略ヲ示シ」 徳川禁令考、四十七、天明八申年十二月「御府内御府外之境心得之儀ニ付、評定所一座寄合ノ上」

ふな-いうれい (名) 船幽靈 海中ノ怪物。雨夜ナド、行ク船ノ邊ニアラハレテ、柄杓ヲ乞フニ、底ヌケルモノヲ與ヘバ、海水ヲコナタノ船ヘ汲入レテ、覆ヘスナドイフ。コレ溺死シタル者ノ靈、己レガ如ク沈メムトスルトゾ。 百物語評判(貞享)四「西國、又ハ北國ニテモ、海上ノ風荒ク浪ハゲシキ折カラハ、必ズ波ノ上ニ火ノ見エ、又、人形ナドノ現ハレ侍ルヲバ、舟幽靈ト申シナラハセリ」 太平記(?)、舟幽靈ノ、呼バフ聲」

ふな-いかだ (名) 船筏 小船ヲ、ツナギナラベテ、筏ノ如クナシタルモノ。 太平記、十六、將軍自八幡御上洛事「其ノ筏ノ、舟筏ヲ沈メ、釜甑ヲ燒イテ、戰ヒ負ケバ、云云」

ふな-いくさ (名) 船軍 (一)兵船ノ軍兵。船手。舟軍。舟師。水軍。 神武即位前紀「天皇親帥皇子、舟師東征」 雄略紀、廿三年四月「筑紫安致臣、馬飼臣等、率船師以撃高麗」 (二)船ニテ水上ニ戰フコト。水戰。 平家物語、十一、嗣信最後事「能登殿、船いくさハ、ヤウアル物ゾトテ、鎧直垂ヲバ着給ハズ」 謡曲、八島「思ヒゾ出ヅル壇ノ浦ノ、ソノ船軍、今ハハヤ」

ふな-いた (名) 船板 (一)船ノいた。多クハ、其朽敗セルヲ板塀ナドニスルニ云フ。 柴の(?)「船板ニ、淡風(?)ケド、ヒタルサヨ」 (二)船中ノアゲイタ。

ふな-いり (名) 船入 貴人ノ入棺式。御船入。

ふな-うた (名) 船歌 船、櫂ヲ押シナガラ、水夫ノウタフ歌。棹歌 櫂歌 欸乃 土佐日記、正月九日「フナコ、カヂトリハ、ふなうたウタヒテ、何トモ思ヘラズ」 和漢通用集、二、棹歌之事「召ノ御座船ニハ、櫂ノ雫ヲ歌フコト、和漢トモニ同ジ、船歌ト云、初テ聲ヲ發スルヲ音出名ト云、同音ニ音ヲ歌組ト云、櫓拍子ニ合テ是ヲ謡テ祝スル也」

ふな-おろし (名) 船卸 新造ノ船ヲ、始メテ水ニ卸シ浮ブルコト。進水。

ふ-なか (名) 不仲 互ノ間ノ睦ジカラヌコト。ナカタガヒ。不和。有隙。

ふな-がかり (名) 船繋 (一)船ヲ繋ケテ泊ルコト。繋泊。繋纜。(二)又、ソノ處。湊。舟泊。

ふな-がく (名) 船樂 船中ニテ行フ音樂。 紫式部日記「新シク造ラレタル船トモ、云云、龍頭鷁首ノ生ケルカタチ、云云、行幸ハ辰ノ時、云云、御輿迎ヘタテマツルふながく、イトオモシロシ」 中務内侍日記「夜ハ殊ニ引キツクロヒタル御舟樂アリ、春宮御琵琶、北山院大納言笛、琴ハ沖中ナリ」 十訓抄、下、第十、五十八條「船樂ノ時、笛ヲ河ノ淵ニオトシ入レテエトラザリケレバ」 狛氏新錄「一、船樂之事、昔ハ、閑院内裏御池ニ船樂、南院行幸船、其外所所ノ船遊有レ之、近代無レ之、船樂之時、第一先鳥向樂ヲ奏ス、中日ニ向故、名鳥向樂ニ」

ふな-かけ (名) 船駈 ふなぎほひ(船競)ニ同ジ。

ふな-かた (名) 船方 〔牛方、馬方ナドニ對ス〕船ニ乘ルヲ業トスル者。フナノリ。カコ。フナコ。船頭。舟子

ふな-ぎ (名) 船木 船ヲ造ル材料トスベキ木。船材。舶材。 推古紀、廿六年八月「至山資船材、便得好材」 萬葉集、三 十四「トブサ立テ、足柄山ニ、船木キリ、木ニキリユキツ、アタラ船材ヲ」 同、十七 四十「トブサ立テ、船木キルトイフ、能登ノ島山、今日見レバ、木立シゲシモ、幾代カミヅソ」

ふな-ぎほひ (名) 船競 船ヲ漕ギ走ラスヲ競爭。フナクラベ。フナカケ。競漕。 萬葉集、一八 九 十 長歌「モモシキノ、大宮人ハ、船竝メテ、朝川渡リ、舟競、夕川渡ル、此川ノ、タユル事ナク」

ふな-ぎほ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 船競 船ヲ互ニ競ヒテ、漕ギ進ム。船ノ競漕ヲ行フ 萬葉集、廿 卅七「舟奈藝保布、堀江ノ川ノ、ミナ際ニ、来居ツツ鳴クハ、都鳥カモ」

ふな-ぎみ (名) 船君 (一)船中ノ主タル人トシテ、ふなをさ(船長)ノ尊稱。(二)船ノ乘客ノ主タル人ノ尊稱。 土佐日記、正月十四日「曉ヨリ雨降レバ、同ジ所ニ泊レリ、ふなぎみ節忌ス」

ふな-きり (名) 船切 槽ニ入レタルソバキリ。 衣食住記(天明)「享保ノ頃、雨傘店ニ、麥屋ヘ、船切ニシテ取出セタリ、其後明四ニ、ヘウタン屋ト云フケンドンヤ出來、蕎麥切ユデテ、竹ガラ位ノ桶ニ入レ、汁ヲ桶ニ入レテ持出ル」

ふな-ぐ (名) 船具 船ニ用ヰル總ベテノ器具。セング。

ふな-ぐら (名) 船藏 船庫 (一)水邊ニテ、船ヲ收メ置ク家 徳川禁令考、十六、作事奉行、享保三年五月廿五日「深川御船藏番人居宅共、云云」 有徳院殿御實紀附錄、四「元祿ノ頃ヨリ、久シク御舟ニメサルル事ナカリシカバ、御舟庫ニアリシ船ドモ、皆朽ソコナハレタルヨシ聞召シ」 (二)船中ニテ、品物ヲ納レ置ク處。船艙 船艙

ふな-くらべ (名) 船競 數隻ノ舟、漕ギツレ、漕ギ競ベテ、早キヲ爭フコト。支那ニテハ五月五日ニ行フ、屈原ガ汨羅ニ投ジテ死セシ日ナリ、其死ヲ傷ミテ、救フ狀ヲナスナリ。フナギホヒ フナカケ。競漕。競舟。パイロン。競渡 荊楚歳時記「五月五日競渡、俗爲屈原投汨羅日、傷其死、故並命舟楫以拯之」 倭名抄、四「競渡、フナクラベ」 古今集、十九、雜、下、長歌「吉野ノ國、云云、百敷ノ、大宮人ハ、フネナラベ、朝川ワタリ、ふなくらべ、夕川ワタル、コノ川ノ、絶ユルコトナク、コノ山ノ、イヤ高カラシ」

ふな-くり (名) 船繰 船ノ出帆ヲ、都合ヨク繰合ハスコト。

ふな-くゎじ (名) 船火事 船中ノ火災

ふな-こ (名) 舟子 船ニ乘リテ船ヲアヤツル人。カコ。フナビト。フナノリ。フナカタ。水夫。水手。センドウ。舟人。 倭名抄、二「船子、布奈古」 神功紀、攝政前紀「微叱旱岐、令毛麻利叱智、船子」 土佐日記、正月九日「ふなこ、カヂトリハ、フナウタウタヒテ、何トモ思ヘラズ」 同、廿一日「舟子ドモ、海ヲ見ワタシテ、カヘル波モ、ウラヤマシク心ボソキニ、舟子ドモノ、アラ、ラシキコエニ、云云」

ふな-ごくゎう (名) 舟後光 佛像ノ背部ニ、舟ノ如キ狀ヲナセル後光。ゴクゎう(御光)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。

ふな-ごころ (名) 船心 (一)船ニ乘リタル氣持。 芭蕉の句「凉しさや、夏ノ日ノ出ノ、船心」 (二)船醉ノ心地 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)二「或人、風呂ニ入リケルガ、俄ニ顏色變リ、アラ苦シヤ、ふな心ガアルト云ウテ吐逆スル、コハ何事ゾ、海ハナシ船ハナシ、異ナ病ヂャ、云云」

ふな-こぼれ (名) 〔こぼれハ出ヅルノ意〕江戸時代ノ遊里ノ語。主人ノ供ヲナシテ、郭ノ觀物ヲナスコト。 吉原(寛永)「年タクルマデ、色里ヲ見ザリケレバ、心安ク覺エ、アルはふなこぼれシテ、ヨリマカデケリ」

ふな-ごや (名) 船小屋 船、又ハ、船ノ具ヲ納レ置ク小屋。船廠

ふなし (名) [船[illegible]] [illegible]又、船井 [illegible]

ふなしうづら (名) [船鶉] うづらど り(鶉)ノ條ヲ見ヨ。

ふなじるし (名) [船標] 船ノ所屬國、又ハ、所有主ナドヲ示スタメ、標(シルシ)トシテ、船ニ立ツル旗、吹流シナドノ稱。太閤記、十[illegible]御渡海有リシ所へ、御迎舟、多ク浮出タリ、船じるし[illegible]十八[illegible]船印ハ、白地日之丸相用ヒ候様被ニ仰出一候」

ふなしろ (名) [船代] 伊勢大神宮ノ樋代(ヒシロ)(其條ヲ見ヨ)ヲ奉安スル箱。皇太神宮儀式帳「正殿御船代一具(長七尺五(ニィ)寸、内五尺七寸、内深一尺四寸、廣二尺五寸、高二尺一寸、内弘二尺[illegible]

ふなずし (名) [鮒鮨] [illegible]鹽ヲ加ヘタルニテ藏シ、酸味ヲ生ゼシメタルモノ。すし(鮨)ノ條ノ(一)ヲモ見ヨ。内膳司式、諸國貢進御贄「太宰府」注「鮒鮨一百七十八[illegible]六年六月二十六日[illegible]

ふなずまひ (名) [船住] 船ヲスマヒトスルコト。

ふなすゑ (名) [船居] 船ヲオロシ居(ス)ウル所。又、[illegible]船ヲ止メ置ク所。フナカ[illegible]

ふなせ (名) [船瀬] 船ノ碇泊スル處。[illegible]

ふなせうえう (名) [舟逍遙] [illegible]、花[illegible]コト。フナアソビ。フナユサン。重之集「難波ニテふなせうえうシテ、岸ノ藤花ヲヲリテ」

ふなぞこ (名) [illegible] (一)[船ノ底]。竹取物語「エオキ上リ給ハデ、ふなぞこニ伏シ給ヘリ」[illegible]女ハ、ふなぞこ[illegible]テ、ネヲノミゾ泣ク」(二)器ノ形ニ、底ノ弓形ヲナシタルモノ。「[illegible]ノ枕」

ふなぞこまくら (名) [船底枕] 箱枕ノ一種。底ヲ船底ノ如ク反(ソ)セタルモノ。

ふなぞろへ (名) [船揃] 多クノ船ノ、航海準備ヲナスコト。平家物語、十一、逆櫓事「[illegible]揃ヘタチテ、津ノ國、渡邊、[illegible]島兩所ニテ船揃シ[illegible]

ふなだいく (名) [船大工] 船ヲ造ル大工。船匠。船工。[illegible]ニテ五郎兵衛ト云フ船大工、早船ヲ造ルナリ」

ふなだいしやう (名) [船大將] 軍船ヲ率ヰル將軍。船手ノ大將。太閤記、[illegible]

ふなだち (名) [發船] [船立ノ義] ふなでニ同ジ。[illegible]

ふなだち (名) [illegible] 條ヲ見ヨ。

ふなだな (名) [船棚] (一) ふなばた(船端)ノ條ノ(一)ニ同ジ。略シテ、たな。[illegible] (二)[船ノ兩舷ニ、家ノ縁ノ如ク板ヲ打チツケタルモノ。舟子ノ檝櫓ヲアヤツル所。又、其上ヲ歩ミモスル[illegible] 七十三奈吳ノ海人ノ、釣スル舟ハ、今コソハ、敷奈太[illegible]打チテ、アヘテ漕出メ」

ふなだま (名) [船魂] 船ヲ守ルト云フ神。[illegible] 七年八月[illegible] 池田寬親)上「船玉トハ、船ノヌシ也、帆柱ヲ立ツル筒ノ下ニ、紙雛一對、其船主ノ妻ノ髮ノ毛少シ、雙六ノ采二ツヲ納メ[illegible]」

ふなぢ (名) [船路] [illegible]船ノ通ギ行ク路。[illegible]ニ對ス」シホヂ。ナミヂ。ウミツヂ。ウミヂ。水行。水路。航路。土佐日記、十二月廿二日「藤原言實、ふなぢナレド、馬ノハナムケス」宇津保物語、[illegible]「旅人モ、越エナレヌトカ、渡シ守、オノガ舟路ノ[illegible]」

ふなちん (名) [船賃] 船ニ[illegible]、又ハ、[illegible]賃。[illegible]んナドモ取ラズ」

ふなつ (名) [船津] (つ(津)ノ條ヲ見ヨ) 次條ノ語ニ同ジ。萬葉集、十七「秋風ニ、河浪タチヌ、シマシクハ、八十ノ舟津ニ、ミ船トドメヨ」[illegible]

ふなつき (名) [船著] [illegible]處。フナガカリ。フナバ。フナツ。港。

ふなづみ (名) [illegible]

ふなて (名) [illegible]

ふなで (名) [船出] 船ノ港ヘ[illegible]。フナダチ。フナネ。出帆。[illegible]イサナトリ、ヒジキノ灘ヲ、今日見ツルカモ」[illegible]タツナユメ」相撲集「ミシマ江ヲ、ふなでシ人モ、ヲリヲリノ、波ノナゴリニ、袖ヌラスラン」[illegible]ヌレバ、アトタエテ、ふなでニ殘ル、冬ノ通ヒ路」

ふなどこ (名) [舟答] [舟床ノ義] 舟ノ床ニ敷ク簀子。[illegible]

ふなどのかみ (名) [岐神] くなどのかみ[illegible]見ヨ。

ヨ」（倭名抄、二十[illegible]）[illegible]「奈止乃[illegible]」古事記、上「[illegible]」[illegible]代紀、下「[illegible]」[illegible]「[illegible]」

ふなに (名)〔船荷〕船ニ積ミテ運送スル荷物。舶 倭名抄、十一、舟具「舶、布奈爾」本朝二十不孝、[illegible]「長崎ヘ金ヲ下スハ、長其ノ船荷ヒナリ、云云、船荷ノ積ミテ、住吉大明神ニ祈[illegible]ヲ愚ケンヨリ、云云」

ふなに-しようけん (名)〔船荷證券〕〔英語、Bill of lading. 赤船荷證券ハ Red bill of lading.〕船會社ガ荷送人ノ請求ニヨリテ發行スル證券ニテ、コレト引替ニ積荷ヲ引渡スベキコトヲ約スルモノ。コレヲ讓渡スルコトニヨリテ、貨物ノ讓渡ト同ジ效力ヲ生ジ、又、コレニヨリテ未着荷物ノ賣買ヲモ爲シ得。普通ハ二通乃至四通ヲ發行ス。又、コレヲ朱字ニテ印刷シタルヲ赤船荷證券ト云フ。相異ナル所ハ、運送契約ト共ニ、保險契約ヲモ併ハセテ行フモノナリ。モト支那、及、日本ノ沿岸ノ運送ニ使用セラレタレドモ、今ハ餘リ行ハレズ。

ふなのへ（フナ・ノ・エ）(名)〔船椪〕〔船の邊ノ義〕ふなだな（船椪）ノ條ノ（二）ニ同ジ。神代紀、下四「船椪、此云二浮那能倍一」

ふなのり (名)〔船乘〕（一）〔船ニ乘ルコト。上船 萬葉集、一「ニギタヅニ、船乘セムト、月待テバ、シホモカナヒヌ、今ハコギデナ」同、一廿「アゴノ浦ニ、船乘スラム、少女等ガ、タマモノスソニ、シホミツラムカ」（二）船ヲ漕ギヤルヲ業トスルモノ。フナコ。カコ。センドウ。舟子

ふなば (名)〔船場〕船ノ出入スル所。フナツキ。ハトバ。埠頭 捨櫓、重帷子（草假、近松作）下「[illegible]」[illegible]膝栗毛（文化、一九）四編、上「往來ノ貴賤絶間ナク、舟場ヘ[illegible]、是モ[illegible]ヨバフ」

ふなばし (名)〔船橋〕舟ヲ並ベテ、綱、鎖ナドニテ兩岸ニ繋ギヤテ、橋トスルモノ。浮船橋。浮梯 萬葉集、十四「カミツケヌ、サノノ布奈波之、トリ放シ、親ハサクレド、ワハサカルガヘ」夫木抄、廿一、橋「水マサル、ヌマノ船橋、トモスレバ、ウキヨリタリニ、袖ヌラシツツ」加賀[illegible]山川記「神通川ハ、云云、第二ノ大河ナリ、云云、番山ノ北、舟橋有リ、舟數六拾六艘程入」

ふなばた (名)〔船端〕（一）セガイ。フナダナ。（各條ヲ見ヨ）椪 屈原、漁父辭「鼓椪而去」夫木抄、八、鵜河「椪ニ、棹打チ鳴ラシ、篝火ノ、イカナルフチヲ、行キカヘルラン」同、九、雙椪「マ、叩クモサビシ、霄ノ間ニ、ヒシトル舟ヤ、江ニカヘルラン」（二）船ノ緣。船ノ側面。フナベリ。舷 易林節用集（慶長）下、器財門「船緣、フナバタ」宇治拾遺、十、第七條「舟ばた[illegible]テ、ウツブシテ、海ヲ見レバ、山ノ影ウツリタリ」平家物語、十一、那須與一事「沖ニハ平家、舷ヲタタイテ感ジタリ」太平記、十六、[illegible]事「十四五里ガ程ニ漕連テ、舷ヲ轟リ、艫舳ヲ竝ベタレバ」

ふなはらさう（フナワラソウ）(名)〔白薇〕〔馬病ヲ治スレバ、梢薬ノ義カトモ云ノ、イカガ〕（一）蘿藦科ノ草ノ名。山野ノ陽地ニアリ、春、舊根ヨリ生ズ。莖、圓ク、高サ二三尺、葉ハ柿ノ葉ニ似テ、小サク短ク、對生ス。莖、葉、共ニ白毛アリ。夏、梢葉ノ間ニ、大キサ四五分ノ濃紫黑花、穗ヲナシテ、簇リ開ク、形、すずさいこ（鈴柴胡）ニ似テ大ナリ。後ニ莢ヲ結ブ、長サ二寸許リ、內ニ白絮ト子トアリ。一名、鹿苑草。鐵砲草。又、ふなばらさう。重修本草綱目啓蒙、八、山草「白薇、フナワラ」（二）又、ヒメカガミ。すずさいこ（鈴柴胡）ノ條ヲ見ヨ。徐長卿

ふなばら (名)〔船腹〕船ノ腹ノ部分。古事記、中（仲哀）[illegible]船腹[illegible]二十、[illegible]水島[illegible]「船共ノ[illegible]切リ放ミ、[illegible]ギ出セ、舟腹ヲ乘リカタムケテ、馬共ヲロシ」（二）ふなあし（船脚）ノ條ノ（二）ニ同ジ。

ふなびと (名)〔舟人〕（一）舟ノ中ノ人。舟ニ乘リテアル人。萬葉集、十五「[illegible]ギニ、船出ヲセムト、船人モ、カコモ聲ヨビ」（二）舟ヲ漕ギヤルヲ業トスルモノ。フナコ。フナカタ。カコ。船頭。舟子 字類抄「舟人、フナヒト」[illegible]用集、四、人倫門「梢人、フナヲサ、フナンド、フナビト、棹卒、舟子、フナビト」萬葉集、十五「クゾクコヨ、[illegible]チヨリノ[illegible]、アマノ川、[illegible]フナビト、見ルガトモシサ」[illegible]、廿二、玉鬘五「舟人モ、誰ヲコフトカ、オホ嶋ノ、浦カナシゲニ、聲ノキコユル」

ふ-なふ（フ・ノウ）(一)〔不納〕納付セザルコト。ヲサメイレザルコト。

ふなふな (副) 力無クユラメク狀ニ云フ語。フラフラ。好色一代女（貞享、西鶴）六「寄トハ各別ニ抓ミ捻サレ、ふなふなト勝モ定メカネ」

ふなべり (名)〔船緣〕ふなばた（船端）ノ條ノ（二）ニ同ジ。船邊（フナベ）舷

ふなま (名)〔船間〕京坂ヨリ江戸ヘ、東下スル商品ノ、廻船ノトギレシ間。

ふなまど (名)〔船窓〕船內ニ明リヲ引ク所。船船ノアカリマド。

ふなまはし（フナ・マワシ）(名)〔船廻〕船使ニテ、貨物ヲ送リ屆クルコト。廻漕。運漕

ふなマンヂュウ（フナ・マンジュウ）(名)〔船饅頭〕江戸時代、夜ニ入レバ、船ニ乘リ、大川筋ノ河岸、又ハ、[illegible]ノ賣女。蜘蛛の絲卷（弘化、岩瀨京山）かくし賣女「船饅頭トテ、深川吉永町ニ軒ヲツラネタルモノ、夜ニ入レバ、船ニ一人ヅツ乘リテ、所所川岸、アルヒハ高瀨[illegible]」[illegible]モナク、夜鷹ニ羽ハ無ケレドモ、皆ソレゾレノスギハヒ[illegible]」[illegible]文化ノ[illegible]饅頭[illegible]二八文、[illegible]舟饅頭[illegible]二十二文、夜鷹そばハ二十四文ナレバナリ」

ふなみち (名)〔船路〕[illegible]ニ同ジ。[illegible]「舟路」[illegible]ノボリス、マヅ[illegible]レリ、ふなみちノ[illegible]トテ、少シ黑ミヤツレタル旅姿、イトフツツカニ、心ヅキナシ」夜拾遺、[illegible]、八、羇「行ク春ト、共ニ立チヌル、ふなみちヲ、祈リカケタル、藤ナミノ花」

ぶ-あん (名)〔無難〕ササハリナキコト。難ノナキコト。無事。平安 [illegible]「無難[illegible]」

ふなむし (名)〔船虱、船蟲〕甲殼類ノ蟲ノ名。河海ノ岸ニ生ジ、好ミテ船底ニツク。色、黑ク、長サ一二寸、長キ鬚アリ、走ルコト疾シ。海蛆 書言字考節用集、五、氣形門「海蛆、フナムシ」

ふなもち (名)〔船持〕船ヲ所有スルコト。又、ソノモノ。船主（フナヌシ）名物六帖、二、人品箋「[illegible]、船戶、フナモチ」

ふなもよひ（フナ・モヨイ）(名)〔船催〕船出ヲモヨホスコト。出帆ノ準備。フナヨソヒ。一字御抄（後水尾院御撰）四「今宵ゾト、星ノ逢フ瀨ノ、安川ヤ、月ノ御舟モ、舟もよひシテ」

ふなもり (名)〔船守〕（一）船中ノ諸事ヲ取扱フ人。（二）船ノ番ヲスル人。

ふなや (名)〔舟屋〕次條ノ語ニ同ジ。天治字鏡、九「[illegible]、舟屋也、不奈太奈、又、舟屋」

ふなやかた (名) [illegible]
[illegible] ノ [illegible] ノ [illegible]
[illegible] フナヤカタ、[illegible] 名義抄「[illegible]、フナヤカタ」倭[illegible] 本草和名[illegible]「[illegible]、フナヤカタ」 土佐日記、元日「白[illegible] [illegible] サ [illegible]
メスナ、舟やかたヨリ、[illegible]ミユメリ」

ふなやど (名) |船宿| (一)船ノ運送ヲ業トスル家。[illegible] (二)[illegible] 又、[illegible] [illegible] ヲ仕立ツルコトヲ業トスル [illegible] [illegible]
[illegible]

ふなやどり (名) |船宿| 船ノ泊スルコト。又、舟中ニ宿ルコト。[illegible]
[illegible] ワカルト云フ類ツキニテ、船宿ヘズットハヒル」

ふなやもひ (名) |船病| 又、ふなやまひ。フナヤモイ
ふねゑひ。船ノ搖ルルニ醉フコト。フナエヒ。[illegible] 船暈 苦船 注船 [illegible]
五、股燃門「舡暈、フネヤミ、苦船、同」注「又云、注船」

ふなゆ (名) [illegible] 又、[illegible] 水入 船中
由、舟湯ノ [illegible] 見ヨ」又、ゆ、舟

中ニ [illegible]
[illegible]

ふなゆさん [illegible] 船遊山 [illegible]
[illegible]
[illegible] 書)五「時ハ五月ノ末ノ夕暮、隅田河原ノ船遊山」

ふなよそひ (名) [illegible] 舟装 [illegible] 又、ふなよそほひ。出船ノ用意シテ岸ニツクルコト。出帆ノ準備。 倭名抄、十一船[illegible]「[illegible]、フナ[illegible]」[illegible]
[illegible]

ふなよどめ (名) [illegible] 船ノ[illegible]スルコト。フナガカリ。停泊。泊繫。 夫木抄、十、七夕「[illegible] 船よどめスナ、[illegible]、年ニアフ夜ハ、タダコヨヒノミ」

ふなよばひ (名) |舟呼| 船ヲ呼ビ寄スルコト。又、其聲。 [illegible]
波ノ聖ニ飛ブ鳥[illegible]ノ沖ノ舟呼ひ」

ふなり (名) |不形| 形ノ惡シキコト。[illegible]
恰好ノ惡シキコト。ブナリ。[illegible]
九、下、品第廿六「子細ハ家來チンバデ、片目ニテ、色黑ク、ぶなりニテ、シカモ無[illegible]」

ふなれ (名) |不慣| 慣レズニアルコト。
經驗ノ少キコト。

ふなれ (名) [illegible]

ふなわた [illegible]
ルモノ。マルワタ。テボソ。コキンワ
[illegible]

ふなわたし (名) [illegible] 又、ソノ所。[illegible] 人、物ヲ渡スコト。又、ソノ所。[illegible]
リ。ワタシ。渡頭 雜字類編「フナワタシ、船渡、[illegible]」[illegible]

ふなわたばうし (名) |船綿帽子| 略シテ、[illegible]
[illegible] ヲ見ヨ。

ふなわたり (名) [illegible] 船ニテ渡ルコト。又、ソノ所。[illegible]
[illegible] 山家集、上「水無瀨川、ヲチノ通[illegible]

ふなゑひ (名) |船醉| 船ノ搖ルルニ醉フコト。フナヤモヒ。フナゴコロ。フナヨヒ。船暈 苦船 注船 土佐日記、二月六日「カ[illegible]
[illegible] モトヒトイフトマリニテ」

ふなをさ (名) |船長| 又、ふねのつかさ。舟子ノ長。水夫ノ頭。センチャウ。船頭。[illegible]
[illegible]

ふにあひ [illegible]
[illegible]

ふにふ (名) |不入| 其處ニ入リコマスコト。[illegible]
[illegible]

ふにん (名) [illegible] 任 [illegible]
[illegible]

ふにん (名) [illegible] 任 [illegible]
記、十七、山門[illegible]南都ノ事「江州ノ闕所分、三百箇所ヲ設ケ行テ、當國ノ闕所ヲ山門永代管領スベキ[illegible]

ぶにん (名) |無人| 人數ノ無キコト。人手ノ少キコト。 易林節用集(慶長)下、言辭門「無人、ブニン」

ぶにんさう (名) [illegible]
[illegible]

ふにんしやう (名) [illegible]
[illegible] 愛敬 [illegible] キ。

ふにんじやう (名) 不人情 ナサケナキコト。人情ニ背クコト。

ふにょい (名) |不如意| [illegible]

ラズ。思フ通リニナラズ。不便。晉書、羊祜傳「祜曰、天下不如意、恆十居七八」陸游詩「不如意事常八九」 (二)生計ニ物乏シ。易林節用集(慶長)下、言辭門「不如意、フニ、イ」醒睡笑(元和、安樂庵策傳)一「…故、手前不如意ナレバ、孝養ノイトナミモ調ヘガタシ」

ふぬけ (名) 腑脱 〔臟腑ノ脱ケテアル義〕人ヲ罵リテ云フ語。マヌケ。アハウ。ウツケモノ。トンチキ。鈍漢。

ふね (名) 舟船艦 (一)又、ウキタカラ。人、又ハ、物ヲ載セテ、水ノ上ニ浮ミ渡ス具。木材、又ハ、鐵材ニテ中ヲ窪メテ作ル。大、小、製作、種種ニシテ、小サキハ田舟、端舟ヨリ、大ナルハ千石船、軍艦等ニ至ル。コレヲ進ルニ、大小ニ因リテ、棹、櫂、艪ヲ用ヰ、帆ヲ用ヰ、或ハ、蒸氣ノ力ヲ借ル。易、繫辭、下傳「刳木爲舟、剡木爲楫、舟楫之利、以濟不通、致遠、以利天下」漢書、五行志「…以舟爲家、以魚爲食」倭名抄、十一、船類「舟、船、布禰」字類抄「舟、フネ、船、布禰」饅頭屋本節用集「船、フネ、同、舟」書言字考節用集、七、器財門「舶、フネ、舸、船、舟、同、浮家、又云、泛宅、…」神代紀、上「有…」…以白銅鏡爲舟、以…爲舟…神武即位前紀…年…兵…將從、以…「…平天下也」欽明紀、五年十二月「越國言、於佐渡嶋北御名部之碕岸、有肅愼人、乘一船舶而淹留」 (二)水ヲ盛ル箱形ノ器ノ名。槽 「水槽、湯槽、酒槽、紙漉槽」 (三)[馬槽ノ稱。] 倭名抄、十五、鞍馬具「槽、…和名與舟同、馬槽也」字鏡抄「鞍、馬槽、等是也、槽、フネ、亦云、ミヤ」書言字考節用集、七、器財門「槽、フネ、馬槽」馬寮式「凡平野夏冬祭、飼馬四疋」 (四)[くゎん(棺)ヲ云フ] 古事記、中(仲哀)六十…「息長帶日賣命、…云云、因疑ニ人心ニ一具ニ喪船ニ」古事記傳、三十一「喪船ハ、棺ノ義ナル船ナリ」…尻、五十三「今野俗、謂棺稱船、云云」「御船入式」

ふねい (名) 不佞 〔佞ハ才ノ義。說文「佞、巧讇高材也」〕才智ノナキコト。又、口才ノナキコト。不才。論語、公冶長「雍也仁而不佞」左傳、成公十三年「君若不施大惠、寡人不佞、其不能以諸侯退矣」國語、晉語「君幼弱、諸臣不佞、吾何以及此」

ふねい (代) 不佞 自稱ノ代名詞。謙稱ニ用キル。前條ヲ參見セヨ。不才。不肖。范成大詩「不佞頤東…遠鑑峽口碑」

ふねう (名) 富饒 〔次條ノ語ヲ見ヨ〕又、ふうぜう。富ミテ物多キコト。ユタカナルコト。史記、吳…「…」…用富饒」易林(漢、焦贛)「富饒豐衍、快樂無已」

ぶねう (名) 豐饒 〔玉篇「饒、多也、飽也、豐也、厚也、餘也」又(…也、膽也)〕又、ほうぜう。ユタカニ多キコト。ユタカナルコト。書言字考節用集、九、言辭門「豐饒、ブネウ」…十、木曾山門牒狀事「早速…萬民豐饒之計…」

ふねさし (名) 船差 棹サシテ、船ヲヤル人。撐夫。爲尹千首、雜「シバシタダ、後ルル人ヲ、待ツホドト、イダシモヤラヌ、淀ノ舟さし」

ふねのあく (名) 敗船筎 船ノ漏ヲ塞グモノ。竹皮ヲ刮リテ作ル。槙皮ノ類。ふねのめ(船架)ノ條ヲモ見ヨ。本草和名、上…「敗船筎、此大編船刮竹筎、以捏…布禰乃阿久」字類抄「敗船筎、フネノアク」

ふねのあし (名) 船脚 ふなあし(船脚)ノ條ヲ見ヨ。

ふねのめ (名) 船架 船ノ漏ヲ塞グまいはだ(槙皮)ノ類。竹皮ナルヲふねのあく(…)ト云フ。…船御ノ條ヲモ見ヨ。倭名抄、十一、舟具「…周易注云衣袽、…布禰乃能米、所以塞舟漏也」

ふねへん (名) 舟偏 漢字ノ偏ノ名。即チ、般、舳、舵、舶、艦、舸、船、艀、艇、艙、ナドノ左傍ニアル舟ノ字ノ稱。

ぶねん (名) 無念不念 心付カザリシコトヲオコタリ。書言字考節用集、九、言辭門「不念、ブネン」狂言記、末ひろがり「身共ハ…念ナ事ヲ致イタ、末廣カリト申ハ、イカヤウナ物デ、又ドコモトニ有ヲモ問ハズニ參ッタ」

ふのう (名) 不能 (一)能ナキコト。ハタラキナキコト。論語、泰伯篇「以能問於不能、以多問於寡、有若無、實若虛、犯而不校」同、子張篇「君子尊賢而容衆、嘉善而矜不能」 (二)行フ能ハサルコト。榮花物語、二、花山「ワリナクテ參ラセ給ヒテ、コノ東三條ノ大將ノふのうヲ奏シタマヒテ」

ふのかみ (名) 府頭 古ヘ、衛府ノ長官ノ稱。即チ、近衛府ノ大將、又、衛門府、兵衛府ノ督。

ふのひと (名) 婦人 婦ノ人。婦人。

ふのやき (名) 麩燒 一種ノ菓子ノ名。下ノ出典ヲ見ヨ。雍州府志、六、土産門「麩燒、所所製之、其法、小麥粉合水、…」…「…燒トハ、物ノ名トモ聞エヌ可ヤウナリ、…麩トイフ物アルカラ、マガハヌヤウニ、イヒタルニテモ有ルベシ、云云、後世ノ南佛事ニハ是ヲ作リシトゾ、小麥ノ粉ヲ水ニ解、ヤキナベノ上ニテ、ウスクノベテ、…片面ニ、味噌ヲヌリ、巻テ用フ、云云」江戸…(…)「麩の燒、…」

ふのり (名) 布海苔 〔中、空洞ナレバ、樋海苔ノ轉カ、麩糊ト云フハ、イカガ〕海藻ノ名。磯ノ石ニ多ク叢生ス、長サ二三寸、枝アリテ鹿角ノ如シ、枝每ニ長サ一寸許リ、圓クシテ中空シク、太サ一二分、上下狹シ、紫黒色、採リテ味噌汁ニ煮テ食フベシ。沙土ニテ、…、水ヲ注ギテ曬セバ、黄白ニ變ズルヲ、薄ク席ノ如ク製シテ貯フ。水ニテ煮テ糊トシ、又、婦人ノ髮ヲ洗フ用トス。海蘿。鹿角菜 倭名抄、十七、海菜類「鹿角菜、…不乃利、俗用布苔」字類抄「海蘿、フノリ、布苔、俗用之、鹿角菜、已上フノリ」易林節用集(慶長)下、草木門「海蘿、フノリ、布苔、同」…鹿角菜…不乃利、…俗用布苔二字…「豆乃末太」…式、下「布乃利、九升六合」

ふのりかづら (名) さなかづら(佐那葛)ニ同ジ。其條、及、びなんかづら(美男葛)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。物類稱呼、三、生植「五味、さねかづら、…坂ニテ、ビジンサト云、東國ニテ、…ナンカヅラト云、出…ニテ、トロロカヅラト云、伊勢、白子ニテ、クッパト云、土佐ニテ、ふのりかづらト云」

ふば (名) 駙馬 〔支那、漢代以後ニ、公主ノ夫タル、駙馬都尉ノ官ニ補シタル故事ニ基キタル語〕貴人ノ聟。ふばさま。(駙馬都尉)ノ條ヲモ見ヨ。行營雜錄(宋、…)「…公主、其夫必拜駙馬都尉、故謂之駙馬」…

ぶば (名) 舞馬 〔馬舞ノ倒語〕火災ノ異名。下ノ出典ヲ見ヨ。馬舞ノ災。海錄、十八、十九條…晉書、索紞傳「黃平問…」…馬舞…人也、卒未歸而火作」

ふはい (名) 腐敗 クサルコト。又、ヤブレクヅルルコト。漢書、食貨志「武帝之初、太倉之粟、陳陳相因、充溢露積於外、腐敗不可食」

ぶはい (名) 蕪廢 土地ノアレハツルコ

[illegible]」

ふはう（名）［訃報］［[illegible]ノ[illegible]］死シタルシラセ。死亡ノ通知。訃音。

ふばう（名）［誣妄］[illegible]ルコトヲモテ、人ヲ誣フルコト。誣罔

ふはく（名）［輕薄］ [illegible]ト、人情ノ輕薄ナルコト。輕薄。ウハ[illegible] 五代史、桑維翰傳「初李崧悉林[illegible]」

ふはく（名）［布帛］ぬのトきぬト。布ト、帛ト。[illegible]

[illegible]」

ふばこ（名）［文箱、文筬］（一）フバコ。昔、書狀ヲ往復スルトキ、納ルルニ用キシ小サク細長キ匣。狀箱。文筒。狀匣。[illegible]川、身サヘ流ルト、キカバタノマン、トイヘリケレバ、男イトイタウメデテ、今マデ卷キテ、ふばこニ入レテアリトナン[illegible]ルヲ、云云」書言字考節用集、七、器財門「文筒、フミバコ、文云、狀匣」（二）書物ヲ入レテ負ヒ運ブ箱。［笈］笈 [illegible]「文笈、フバコ」書言字考節用集、七、器財門「笈、フバコ、フミバコ、[illegible]」[illegible]匣字」字[illegible]「[illegible]、函、フミハコ」

ふばさみ（名）［文挾］ふみはさみ（文挾）ニ同ジ。竹取物語[illegible]、ふばさみニ文ヲハサミテ申ス」下學集、下、器財門「文夾、ブンカウ、フミハサミ」

ふはつ（名）［不拔］[illegible]ト。確固トシテ動カザルコト。宋史、宋[illegible]」

ふはと（副）（一）輕キ狀ニ云フ語。フハリト。幸若舞曲、高館「上ニ着タル打カケヌイデ、[illegible]フ語。ヒラリト。最明寺殿百人上臈（元祿、近松作）女鉢の木「アノ馬ニ鞍置キテ、ふはと乘り、[illegible]ザル狀ニ云フ[illegible]ウクヮツニ。狂言記、鱸庖丁「總ジテ人ハ、乘セラルルトイヘドモ、褒メラルルハ、嬉シイモノヂャ、ソコデ某ガふはと乘ッテ」

ふばとゐ（名）［駙馬都尉］支那、漢代ノ官名。天子乘輿ノ副馬ヲ掌ルモノ。[illegible]

ふはふ（名）［不法］法ニカナハザルコト。規則ニ違反スルコト。又、道ニハヅルルコト。無法。[illegible]ホフ」著聞集、十一、蓋圖「候、云云、アマリ供米不法ニ候ヒテ、マコトノ物ハ入リ候ハデ、糟糠ノミ入リテ輕ク候ユヱニ、辻風ニ吹キ上ゲラレ候」

ふは-ふは（副）（一）柔ク輕キ狀ニ云フ語。フハリト。浮世風呂（文化、三馬）三稿、上「蓋ヲツマンデ傍ヘ置クト、其中ガ汁還山ノ、鷄卵ノふはふはサ」（二）浮キテタダヨフ狀。又、浮キテ落着カヌ狀ニ云フ語。今川大雙紙、上、[illegible]中、[illegible]ナドハ、ふはふは（ふわふわ）トシテ、人前ニ出合フ事有ルベカラズ」（三）[illegible]

[illegible]ニコヤガ下ニ、タクブスマ」

ふはらひ（名）［不拂］支拂ヲ行ハザルコト。「[illegible]」

ふはり-と（副）前前條ノ語ノ（一）ニ同ジ。

ぶばる［illegible］ 武[illegible]ッタル武士ハ、皆所持致スワ」

ふひ（名）［小豆花］あづきのはな（小豆花）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

ふび（名）［不備］（一）備ハラザルコト。完備セザルコト。缺ケタル處アルコト。[illegible]（二）書翰文ノ終リニ書ク語。ふせん（不宣）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]ド書ケリ、ソノ始メヲ記ス、淸波別志云、五代劉岳書儀[illegible]」

ぶび（名）［武備］武備 イクサノソナヘ。戰ヒノ用意。軍備。兵備。史記、孔子世家「孔子[illegible]」

ふびと（名）［史］［文人ノ略］（一）事ヲ記ス官。ふみひと（史）ノ條ヲ見ヨ。（二）古ヘノ姓ノ名。[illegible]天平勝寶九年、史ヲ改メテ毗登トシ、寶龜元年[illegible]

[illegible]毗登ト書クベシ、云云、史ハ淡海公ノ名ナド不比等トモ書レバ、美ヲ省テ、不比登トモ記スベシ」[illegible]井眞淵）「思フニ、史ハ職ノ號ナリシガ、姓トナレル也、史ノ職ナリシトキハ、其道道ノ書籍ヲミテ、コ[illegible]ヲ任シメラレシナレバ、コノナゴリ、ナホ後世マデモアリテ、諸道ニ史生ヲ置ルルコトトナレリ」

ふびとべ［illegible］二年十月「是月置史戸河上舍人部」[illegible]

ふびん（名）［不便］（一）［便ナキ］ニ、不便ナリキコト。タヨリナキコト。タノミ少キコト。不便。不便宜。不都合。宇津保物語、藏開、中「不便ナル所ニマウデテ、カシコク打タレ侍リツル」源、四、夕顏「御供ニ、人モ候ハザリケリ、ふびんナルワザカナ」榮花物語、十七、音[illegible]（二）[illegible]テ、憐ムベキコト。カハイサウナルコト。（當字ニ、不憫ナド書ス）愍然 可憐 宇治拾[illegible]メサルル人人ナレバ、傍ニ隱シ置カレテ」[illegible]「[illegible]」（三）甚思フ通リ一定討タレタルラント宣フ」

ニナラヌコト。不如意。昨日は今日の物語「オナコ程、オ男ナ不便サニ、時ガマシキ時ハ、何モカモ借物ヂヤ」

ふ-びん (名) [不敏] 才、敏カラヌコト。敏ナラヌコト。不才。[illegible]

ふびん-が・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [不便] イトホシト思フ。カハイサウニ考フ。好色一代男(天和、西鶴)二「葛西ノ長八ト云ヘル小者ヲ不便がり、云云」[illegible]「隨分ト妹メヲふびんがッテヤッテ下サイ」

ふ-びやう (名) [風病] 又、ふうびやう。カゼ。ヒキ。風邪。感冒。[illegible]「月比、ふびやう重キニ堪ヘカネテ、云云」[illegible] 異疾草紙「チカゴロ男アリケリ、風病ニヨリテ、ヒトミ常ニユルギケリ」

ぶ-ふ (名) 武夫 モノノフ。武士。武人。軍人。[illegible]

ぶ-ふうりう (名) 不風流 風流ナラザルコト。雅ナラザルコト。[illegible]

ふ-ふき (名) [蕗] 草ノ名。今、約メテ、ふきト云フ。其條ヲ見ヨ。欵冬。[illegible] 本草和名、下四「款冬、一名、蕗伏、又、有[illegible]」

ふぶき (名) [亂吹] (降吹ノ略) (一)フブクコト。吹キミダスコト。(専ラ、雪ニ云ヒ、常ニ、吹雪ト記ス) 風雪 [illegible] ニ散亂スルヲイフ、其状、優美モノ故、花ノ散ルヲ是ニ比シテ、花雪吹トイヒテ、古歌ニモ、アマタ見エタリ、[illegible] 雪ヲ卷、朧朧也、雪中第一ノ難義、コレガタメニ死スル[illegible] 山ヲ、見渡セバ、尾ノ上ヲ越ユル、志賀ノ浦浪」山 [illegible] ラレヌ、志賀ノ山道」[illegible] バ越エテ、降ル雪ノ、ふぶきニトマル、不破ノ中山」[illegible]

ふぶき-づき (名) 吹雪月 陰暦、五月ノ異名。卯花ヲ雪ト見立テテノ語カト云フ。[illegible]

ふ-ふく (名) 俯伏 首ヲ下ゲ、ウツブスコト。[illegible]

ふ-ふく (名) 不服 シタガハヌコト。得心セヌコト。又、心ニ滿タヌコト。不滿。[illegible]

ふ-ふ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) フキダス。[illegible]

ふ-ぶ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 亂吹 吹キニ吹ク。烈シク吹キ亂ス。[illegible] 夫木抄、四「オモシロヤ、風ノ蒔繪ニ、ふぶく山風」[illegible] ふぶかレテ、庭ノ隙ナキ、花ノ沃懸地」

ぶぶ-しやう (名) 武部省 淳仁天皇ノ御宇、一時、兵部省ヲ改稱セシ役所。天平寶字二年ニ改稱シ、幾モナクシテ舊ニ復セラル。[illegible] 天平寶字二年八月「甲子、[illegible]

ふふ-どり (名) 布穀鳥 (又、ふほどり、[illegible]) 共ニ鳴聲ヲ名トス) かっこう鳥 [illegible] 江東呼爲[illegible] 名、[illegible]「布穀鳥、ホホトリ」[illegible]

ふふま・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [含] 花未ダ開カズ、テアリ。又、若葉未ダ開ケザルホドニテアリ。フクマル。ホホマル。[illegible]「アドモヘカ、アジクマ山ノ、讓葉ノ、布敷麻留時ニ、風吹カスカセ」

ふふ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [含] (一)フクム。ツホム。[illegible]「フフム、フクム、クフム、クラフ」頷、フフム、フクム、ククム、クラフ、[illegible] 花未ダ蕾ミテアリ。萬葉集、十八「ワガセコガ、フルキカキツノ、櫻花、未ダ敷布賣リ、ヒトメ見ニコネ」同、廿三「布敷賣リシ、花ノハジメニ、來シ我ヤ、散リナム後ニ、[illegible] 花ノ、咲ク月タチヌ、ホトトギス、キ鳴キトヨメヨ、敷布美タリトモ」

ふふ・む(含)ノ他動 ふくむ(含)ニ同ジ。[illegible]

ふふん (副) (一) 首肯スル狀ニ云フ語。「ふふんナルホド」(二) 慠然タル狀ニ云フ語。「ふふんト鼻デアシラフ」

ふ-ぶん (名) 不文 (一) 文事ニ通ゼザルコト。文字、學問ニ暗キト。[illegible] トシテ、アノ風情ノ耳ニ入ル事アランヤ、[illegible] マコトシカラザリシガ」(二)條文ニ記サレコト。成文ノ反、其條ヲ見ヨ。「不文律」[illegible] 拙キ文章。拙文。惡文。

ぶ-ぶん (名) 部分 ブワケ。物ノ中ノ一部分。[illegible]

ぶ-ぶん (名) 舞文 無理ニ文辭ヲ弄スルコト。又、曲筆スルコト。史記、貨殖傳「吏[illegible]

ぶぶん-きよくひつ (句) 舞文曲筆 事實ヲ曲ゲテ、アラヌサマニ記スコト。

ぶぶん-しよく (名) 部分蝕 又、分蝕。にっそく(日蝕)ノ條ヲ見ヨ。

ふぶん-はふ (名) 不文法 「成文法ニ對ス」法律ノ語。文書ヲ以テ公布セラレズ、習慣ナドニヨリテ自ラ有力ナル法律。習慣ニ因リテ行ハルル國家秩序ノ法律。不文律。

ふぶん-りつ (名) 不文律 「成文律ニ對ス」前條ノ語ニ同ジ。

ふ-へい (名) [不平] (一)ヤスカラズ思フコト。感情ノ常態ヲ失ヘルコト。又、心ニ不滿足ナルコト。又、不滿。意ニ滿タヌ。[illegible]「不平ヲ鳴ラス」(二)平カナラヌコト。又、公平ナラヌコト。偏頗ナルコト。淮南子、說山訓「[illegible]」

ふ-へい (名) 浮萍 (一)水草ノ一。水

田、池沼ニ浮ビテ生ズルモノ。うきくさ(水萍)ノ條ヲ見ヨ。爾雅、釋草[illegible]「萍蓱」[illegible]

[illegible]

太平記、廿四、天龍寺建立事「此渦山陽師、天性木石ニ心ヲ寄セ、浮キノ節ヲ[illegible]事ヲ[illegible]ヒシカバ、云云」

ふ-へう(フ・ヒヨウ) (名) [浮標] [英語、Buoy. ノ譯] [illegible]

ふへき (名) [illegible] 二、斧ノ削リ痕ノ如キ筆ヅカヒヲスルコト。[illegible]

[illegible] 有ニ大斧劈、所見之所ニ由發、遂ニ北畫ニ」

ぶ-べつ (名) [侮蔑] アナドリ、サゲスムコト。[illegible]

ふ-へん (名) [不偏] 偏セザルコト。カタヨラザルコト。無偏「不偏不黨」

ふ-へん (名) [不變] 變ゼザルコト。カハラザルコト。尹文子「不變之法、君臣上下是也」[illegible]

ふ-へん (名) [不返] モトニ返ラザルコト。[illegible] ニ行ハルトモ、忽チニ失ハルル事ハヨモアラジ」

ふ-へん (名) [不便] [illegible] 便利ナラヌコト。不都合ナルコト。漢[illegible]

[illegible]

ふ-べん (名) [不辯] 物事ノ、意ノ如ク辯ゼヌコト。不如意ガチナルコト。[illegible] 心ガクル共、不辯ニテ事タラズバ、心ニ存ジテモ、[illegible]成ガタシ」[illegible](寛永)「通ヌルヤ、破レ紙子ハ、紙頭巾」不辯スルガノ、安部川ニ住ム」

ふ-べん (名) [不辯] 辯舌ノ巧ナラザルコト。[illegible]ヌコトノ[illegible]ナルコト。[illegible]

ぶ-へん (名) [武邊] 武道ニ係ハル事。武道ニ關スル事柄。[illegible] 事、カカルモ引クモ、時ノシホアヒ、合戰ノ習ナリ」(我ニカケヒキスル意) 增補武將感、六「上中下共ニ[illegible]

ぶ-べん (名) [武弁] [弁ハ冠(カンムリ)ノ意] (一) 武官ノ被ル、カンムリ。[illegible]

[illegible]

ぶ-へんじ (名) [不返事] 返事ノアシキコト。[illegible] 重井筒(寶永、近松作)中「ココヘト呼ビカクレバ、病人トイヒ、兄ノ命、異議モ言ハレズ不返事ニ、モヂモ[illegible]ソーリヤル」

ぶへんだて (名) [武邊立] [illegible] 打チ振舞フコト。武邊者ノソブリヲナスコト。狂言記、伯母酒「七ツ下ッテ、殊ニ女ノ身

トシテ此家ニ一人居ルハ、定而武邊立デアラウ、[illegible]カラ一口ニイデ食ハウ、アア武邊立デハ[illegible]ラヌ」

ふへん-ふたう(フヘン・フトウ) (名) [不偏不黨] [illegible] ズ、クミセザルコト。偏セズ、黨セザルコト。[illegible]

ぶへんもの [illegible]

ふほ (名) [父母] [illegible] クハ、ぶもト云フ)。書經、泰誓、上篇「惟天地[illegible]

「枉道而事人、何必去父母之邦」 國語、[illegible]「女子十七不嫁、其父母有罪、丈夫二十不取、其父母[illegible]

[illegible] 一年、假卅日、服、不計閏月」 御當家令條、三十六、服忌令「一、父母、忌五十日、服十三ケ月」

ふ-ほう (名) [附鳳] 鳳凰ニ附隨スル如ク、勢力ノアルモノニ、附屬スルコト。[illegible] 附驥ノ勢ヒヲ貪ッテ、[illegible]ノ望ミヲ期スル族ハ、人ノ[illegible]

ぶほうこう (一) [不奉公] [illegible] ザルコト。主ニ勤メザルコト。狂言記、[illegible]

ふほく [illegible]

ふほふむ・る [illegible] 中ニ含マル。フフマル。ホホマル。[illegible] アカレル少女、イササカバエナ」

ふほふ (名) [不法] [illegible] 智山ニ弥「那智ノ行者、不法解怠ノアル時ハ、此ノ天[illegible]

ふほほてぐさ [illegible]

ふほま・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [含] ふふまる(含)ニ同ジ。

ふほ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) [含] 又、ふふむ。ふくむ(含)ニ同ジ。

ふ-ぼん (名) [不凡] ナミナミナラヌコト。[illegible]

ふ-ほん (名) [illegible] ケテ見給フニ、芯紙ニ書ケル文一巻アリ」 蝉丸(元[illegible]

ふほんい (名) [不本意] 本意ニ背クコト。心ト違フコト。心ナラザルコト。

ふま (名) [不磨] ツブレ、キエザルコト。磨滅セザルコト。不朽。後漢書、南匈奴傳、論「呼、千里之差、興自毫端、失得之原、百世不磨矣」范成大詩「道義不磨鮭在、靈江流水貫呉城」「千古不磨」

ぶま (名) [不間] 間ノ拔ケタルコト。氣ノ利カヌコト。マヌケ。ヘマ。

ぶま (名) 撫摩 ナデサスルコト。イタハリテ服從セサスルコト。撫循。宋史、理宗紀「輕徭薄賦、一意撫摩」名臣言行錄「宋、朱岱」「選強吏討賊、以良吏撫摩之、使之投集」

ふまい (名) 不昧 [靈臺昭昭ノ意] (一)明カナルコト。大學「大學之道、在明明德」朱注「明德者、人之所得乎天、而虛靈不昧、以具衆理」 (二)貪欲ニクラマサレザルコト。

ふまう (名) 誣妄 ふばう(誣妄)ニ同ジ。

ふまう (名) 誣罔 無根ノ事ヲ眞實ラシク言フコト。無根ノ事柄ヲ以テ、人ヲ誣フルコト。漢書、薛宣朱博傳、贊「遂陷誣罔辭、偏得、仰藥飮鴆」晉書、石勒傳「誣罔敗法、古今所疾」

ふまう (名) [不毛] [公羊傳、宣公十二年、注「境埆不生五穀曰不毛」毛(第二語)ノ條ヲモ見ヨ] 地味ヤセテ、穀類、蔬菜ノ生ゼザルコト。又、ソノ地。瘠地。境埆。磽确。公羊傳、宣公十二年「君如矜此喪人、錫之不毛之地、使帥一二耋老而綏焉」孔明、出師表「五月渡瀘、深入不毛」

ふまき (名) [帙] [文卷ノ約] 書籍ノ上ヲ包ムモノ。ちつ(帙)ノ條ヲモ見ヨ。書言字考節用集、七、器財門「帙、フマキ、文卷、フマキ」類聚名物考、二百五十一、調度部、八「帙、書卷、ふまきト云フハ、書卷ノ意ナリ、書ノソコネモメヌタメニ、之ニテ包ムナクナリ、今俗ニマタマ、本朝ニテモ、厚紙ニテ作ルハ略ナリ、モトハ細キ竹ノ簀ナリ、御簾ノヤウニアミテ、裏ニ綿錦等ヲ付テ、緒ヲ付タルモノナリ、坂本ノ來迎院ニ、古代ノ竹簀アリ」

ふま・す・ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) [蹈][踏] 蹈むノ敬語。フミタマフ。古事記、下(允恭)「夏草ノ、アヒネノ濱ノ、蠣貝ニ、足布麻須ナ、アカシテトホレ」萬葉集、一「タマキハル、宇智ノ大野ニ、馬並メテ、朝布麻須ラム、其草深野」

ぶまはし (名) 步廻 貸金ヲシテ、步合、卽チ、利息ヲ取ルコト。日本新永代藏(正德、北條團水)「步廻しノヨキ家ヲ求メ、貸銀ノ利ヲ取リテ暮ラス、質屋ノ人」

ふま・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) [蹈][踏] [蹈むノ延、住む、すまふ、取る、とらふノ類] (一)蹈ミツケテ、抑フ。フマヘル。狹衣、三、上「衣ノ裾ヲオノオノ、ふまへツツ、次次ニ倒レ伏シ」史記抄(文明)四「秦ノ地ヲ、全シテふまゑウゾ」 (二)フミワケル。思案ス。考慮ス。甲陽軍鑑、九、上、品第廿三「無分別ノ、後サキふまへヌ人人ハ、云云」

ふまへ (名) [蹈][踏] フマフルコト。考慮。思案。出世景淸(貞享、近松作)四「嫉妬ノ恨ミニ取リ亂レ、後先ノ蹈まへモナク、當座ノ腹立ヤルカタナク、トモカクモト申シツル」

ふまへどころ (名) [蹈所][踏所] (一)足ニテフム所。新六帖、二、かきほ「崩レソフ、破レツイヂノ、犬バシリ、ふまへ所モ、ナキワガ身カナ」 (二)タチバ。立脚地。甲陽軍鑑、五、品第十三「強キ大將ハ、ふまへ所有ルニ付、下劣ノ口ニ從ハレズ、生付タルゴトクニアリテ、云云」

ふま・へる (動) [蹈][踏] ふまふ(蹈)ノ口語。

ふまん (名) [不滿] 心ニ滿足セヌコト。心ニミタヌコト。不足ニ思フコト。不滿足。不平。雲歩色葉集「不滿」

ぶまん (名) [侮慢] 書經、大禹謨傳、疏「侮ハ謂レ輕ニ人身ヲ、慢ハ謂レ忽ニ言語ヲ」人ヲアナドリ、自ラオゴリ高ブルコト。書經、大禹謨「蠢茲有苗、昏迷不恭、侮慢自賢、反道敗德」中論、譴交「六國之君、雖不用賢、及其致人也、猶脩禮盡意、不敢侮慢也」

ぶまる (名) [夫丸] [古ヘ、牛飼、奴婢ナドヲ、某丸ト云ヒシ名ニ基クナラム] ぶ(夫)ト云フニ同ジ。人夫。まろ(麿)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。鎌倉年中行事「夫丸ニ銀ヲ持タセテ山ニ登リ、地ヲ七尺ニ掘リ」

ふみ (名) [文][書] [文ノ字音、ふむヲふにト云ヒ、ソレガふみト轉ジタルナリ。かみ(紙)ノ簡ノ字音ノ轉ナルモ同ジ。正身ヲさうざみ、調半ヲてうはみ、目論ヲもくろみト云フモ、同然ナリ。になみた(蜷)、みら、にら(韮)、みほ、にほ(鳰)、みがし、にがし(苦)、なみはや(波速)、なには(難波)、皆通ズ] (一)事ヲ書キ記シタル物ノ稱。カキモノ。書物。書籍。文書。名義抄「文、フミ」神代紀、上「一書曰、天地初判」應神紀、十五年八月「阿直岐亦能讀經典、卽太子菟道稚郎子師焉」萬葉集、一長歌「ワガ國ハ、トコヨニナラム、圖オヘル、アヤシキ龜モ、アタラ代ト、イヅミノカハニ」續紀、廿五、天平寶字八年十月、詔「仲麻呂我家物計夫流爾、書中爾仲麻呂等通家流乃文在」 (二)玉章。手紙。(多ク婦人ニ) 消息。書翰。土佐日記、十二月廿九日「カミノタチヨリ呼ビニ、ふみモテキタレリ」讃岐典侍日記「タガふみゾト問ハセ給ヘバ」 (三)詩。カラウタ。漢詩。宇津保物語、菊宴「殘レル菊ノ宴聞召シケルニ、云云、ハカセ、文人等メシテ、ふみ作ラセ、御遊ナドシ給フ」源、八、花宴「其道ノハ、皆、探韻賜ハリテ、ふみ作り給フ」 (四)フミノ道。學問。文學。源、四、夕顏「ふみノ師ニテ、ムツマシクオボス」

ふみ (名) [不味] (一)アヂナキコト。味ノ惡キコト。マヅキコト。 (二)取引所ノ語。相場ノ下落ノ傾向アルコト。

ふみあ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) [蹈明] 蹈ミテ穴ヲ穿ツ。伊勢物語、第五段「童ノふみあけタル築地ノクヅレヨリ通ヒケリ」源、六、末摘花「ふみあけタル跡モナク、ハルバルトアレワタリテ、イミジウサビシゲナルニ」(雪路ニ)

ふみあた・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) フミチラス。ケチラス。フミオトス。萬葉集、十九「天雲ヲ、ホロニ布美安太之、鳴神モ、今日ニマサリテ、カシコケメヤモ」

ふみあはせ (名) 蹈合 家中、途中等ニテ、死穢ニ行合ヒタルヲ穢レトスル稱。イキブレ。フミアヒ。ユキブレ。觸穢。

ふみあひ (名) [蹈合] 前條ノ語ニ同ジ。和漢三才圖會、十、人倫之用「踏合、入病死及自害人、或忌中之家、者、謂踏觸穢稱之踏合」

ふみいし (名) [蹈石] (一)履脫ノ處ニ据ヱ置ク石。好色一代男(天和、西鶴)七「降ル雪掃ヒカネ、踏石ノ上ナル引下駄ヲ沈ニ」 (二)蹈ムタメニ、庭ニ散布シタル石。トビイシ。

ふみいた (名) 蹈板 (一)蹈ミ渡ルタメニ架設シタル板。 (二)牛車ノ前後ノ口ニ、横ニ敷キワタセル板。シキイタ。輿車圖考、九「前板、踏板、車ノ口ニアル板ニテ、踏板トモイフ」今昔物語、廿八、第二語「如此シテ行ク程ニ、二三人乍ラ醉メレバ、踏板ニ物突散シテ、烏帽子ヲモ落シテケリ」 (三)おるがんニテ、發音セシムルタメニ、足ニテ蹈ム板。又、ぴあのニテ、音ヲ調節スルタメニ、足ニテ蹈ムべだるヲモ、俗ニ蹈板ト云フ。

ふみ-い・る・ル・ル・レ・レ・レ・レヨ（他動、下二）[illegible]物語、廿三、第廿二話「足ヲ強ク踏立テケレバ、岡キ[illegible]」

ふみ-うす（名）踏碓蹈臼　から-うす（碓）[illegible]西ノ方言ナリ、東國ノ器ニテ、地踏臼トイフ」物類稱呼、四、器用「江戶ニテ云カラウスハ、畿內ニテ云[illegible]」

ふみ-お-す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）蹈起（一）蹈ミテ起ス。フミタツ。萬葉集、三[illegible]テ、馬蹈テ」（二）〔ふみハ接頭語〕おこす[illegible]起トスヲ[illegible]起ス

ふみ-おこし[illegible]作法ニ、[illegible]出題

ふみ-がき[illegible]文書[illegible]文ノ書[illegible]ント、云云、女ノふみがきハイカガアルトテ、開ケ給ヘバ[illegible]「ケチエンニハアラデコソ、云ヒ給ラハサメ、見所アルふみがきカナナト[illegible]ズ」

ふみ-かた-む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）蹈堅　蹈ミテ堅クス。出雲國造神賀詞「大宮能內外御柱乎、上津石根爾蹈堅米、云云」

ふみ-がら（名）文柄　文章ノ容子。文ノ書キ[illegible]文體

ふみ-がら（名）文殼　不用トナリタル書簡。讀ミヲハリタル手紙。フミホゴ。

ふみ-から-す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）蹈枯　草ナドヲ、蹈ミニジリテ、枯レシム。萬葉集、十一「[illegible]道ノ[illegible]、[illegible]、吾レ立チ待ツト、妹ニ告ゲコソ」[illegible]

ふみ-き[illegible]時、經絲ヲ上下セシムルタメニ、足ニテ[illegible]ウチハシワタス、君ガコムタメ」

ふみ-きり[illegible]蹈切[illegible]

ふみ-き-る・ル・レ・レ・ル・レ（他動、四）蹈切（一）蹈ミテ切ル。（下駄ノ緒ナドヲ）（二）相撲ニテ、土俵ノ外ニ足ヲ蹈ミ出ス

ふみ-く-む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）蹈含　物ノ中ヘ押シ込ム。枕草子、十二、百四十八段「直衣ノイト白ウミユルニ、指貫ノナカラふみくくまレテ、袖ヲヒカヘテ、倒ルナド云ヒ」著聞集、十[illegible]ハナタ[illegible]

ふみ-ぐら（名）文庫　又、ふぐら。ぶんこ（文庫）ノ條ノ（一）ニ同ジ。宇津保物語、[illegible]開、上「中納言見給ヒテ、驚キテ、コレハふみぐらナラン、昔ルイダイノ博士ノ家ナリケルヲ、云云」

ふみ-ぐるま（名）文車　ふぐるま（文車）ニ同ジ。

ふみ-こし（名）蹈越　ふみきり（蹈切）ノ條ノ（二）ニ同ジ。

ふみ-こみ（名）蹈込（一）蹈ミ込ムコト。（二）家ノ玄關ナドニテ、履物ヲヌギオク揚所[illegible]家ノアガリガマチ[illegible]浮世風呂（文化、[illegible]下[illegible]蹈込ミニ下駄カ重ナリ合テ、足ノ立チ端カネエダ」

ふみ-こ-む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）蹈込（一）蹈ミテ、深入リス。蹈ミテ、オチコ

ふみ-こ-む・ム・ム・メ・メ・メヨ（他動、下二）[illegible]折名[illegible]「[illegible]クレ給フカ庄司殿、蹈込んデ一討ニ遊バセト云ヘバ」（三）力ヲ入レテ、足ヲ前ヘ蹈ミ出ス[illegible]

ふみ-こ-ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ（自動、下二）蹈越　蹈ミテ、越エ行ク[illegible]ふみ[illegible]道ニフセタレ[illegible]萬葉集、九[illegible]ラシ、埋モル身ハ」[illegible]森ニ、布纍越バ、ケダシ吾妹ニ、直ニアハムカモ」

ふみ-こら-す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）蹈凝　蹈ミテ、カタムル。蹈ミテ、凝ラ固マラス。[illegible]出[illegible]上津石根[illegible]蹈堅[illegible]下津石根[illegible]云云」

ふみ-さく-む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）困難シテ蹈ミ行ク。フミワクル。ツヨクフム[illegible]六[illegible]木ノ根、[illegible]

ふみ-さし（名）文挾　ふみばさみ（文挾）ニ同ジ。文杖[illegible]今昔物語、廿九[illegible]名符ヲ書キテ、ふみさしニ差シテ」

ふみ-しだ-く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）蹈拉（一）蹈ミ荒ス。しだくノ條ヲモ見ヨ。貫之集、三「露ノ、花ふみしだく、木ノモトハ、イタク雪フル、春ベナリケリ」（二）強クフム。榮花物語、十六、本雫「或ハ、紫、[illegible]物ノ指貫、[illegible]紫、[illegible]ニテ、々ケニ、尻バカリふみしだき、[illegible]住吉物語、[illegible]ヒトヘ袖ふみしだき、サシ歩ミ給ヘル御姿」

ふみ-し-む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）蹈締　確ト蹈ム。フミカタム。

⁂**ふみ-し-める**（動）蹈締　前條ノ口語。

ふみ-そ-む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）蹈初　蹈ミハジム。蹈ミ出ス。足ヲハ[illegible]ヨレト、ふみそむる、[illegible]ウチ濁ツナ、我ヲ自ラ渡」[illegible]今ゾ心ノ、[illegible]ハ晴レヌル」

ふみ-そら-す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[illegible]足ヲ前ニ出シテ、後ニ反ルヤウニナス。フンゾリカヘルヤウニナス。著聞集、十、[illegible]バ、人人寄リテ、オシカガメテ、カキ出シニケリ」

ふみ-た[illegible]フンダ。今、略シテ、ふだ。ふだ（札）ノ[illegible]

ふみ-だい（名）蹈臺（一）あしつぎ（足繼）ニ同ジ。フミツギ。（二）[illegible]揭）ノ條ノ（二）ニ同ジ。アシシロ。（三）[illegible]目的ノ達セムタメ、一時、[illegible]ルモノ。浮世床（文化、三馬）初編、下「今ノ世ノ中ハ、昔ノ事ヲ蹈臺ニシテ、段段ソノ上ソノ上ヘト登ツテ往クカラ、人ハ賢クナッタニ違ヘネエ」

ふみ-たけ-ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ（自動、四）蹈哮　足[illegible]蹈[illegible]、猛ク叫ブ。[illegible]

ふみ-だ-す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）蹈出（一）蹈ミテ、足ヲ出ス。前ヘ進ム。フミダス。發足ス。國性爺合戰（正德、近松作）三「味方モセヌ甘輝メニ、母ハ預ケ置カレズト、蹈み出す足ノ早瀨川」（二）仕事ニ取リカカル。着手ス。「蹈み出す時ガ悪カッタ」

ふみ-た-つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（他動、下二）蹈立（一）蹈ミテ、立タシム。[illegible]テ、立ツヤウニナス。[illegible]「朝狩ニ、イホツ鳥タテ、夕狩ニ、千鳥[illegible]

六十四長歌「朝獵ニ、十六履起之、夕狩ニ、十里蹋立テ、馬並テ」 (二)蹈ミシメテ立ツ。出雲國造神賀詞「白御馬ノ前足ノ爪、後ヘ足ノ爪、蹈ミ立ツル事ハ、大宮ノ内外ノ御門ノ柱ヲ、上ツ石根ニフミカタメ」 宇津保物語、藏開、下「馬ドモ、スベテエふみたてデ、サラニマカリ歩キト云フモノモシ作ラデ」

ふみだな (名) 書棚 書籍ヲ載セオク棚。ホンダナ。シヨダナ。フミヅシ。書物棚。書架 書厨 和爾雅「書厨、フミダナ」

ふみたふ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 蹈倒 (一)フミテ、タフス。フミコカス。狂言記、目近「親ノふみたふして行キ居ル奴ハ、何女房ナレヤ、其方ニ居レ」 (二)人ノ面目ヲ損ズ。(三)他人ニ損害ヲ蒙ラシム。又、代金ナドヲ支拂ハズニ、損ヲカケル。

ふみだん (名) 蹈段 階子ノ段ノ、蹈ミテ上ル處。階

ふみちら・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 蹈散 蹈ミテ、散散ニス。フミアラス。類政集「カクレナキ、涙ノ色ノ、紅ヲ、ふみちらさジト、ナニ包ムラン」 新六帖、六、らに「カラ衣、スソ野ニ匂フ、藤袴、ふみちらしタル、鹿ノ跡カナ」

ふみづかひ (名) 文使 書狀ヲ携ヘ行ク使。フダヅカヒ。夫木抄、二十五、使「結ビ目ノ、タガフモ知ラズ、ふみづかひ、ホカニミセズト、イフガハカナサ」

ふみつぎ (名) 蹈繼 あしつぎ(足繼)ニ同ジ。フミダイ。

ふみづき (名) 文月 (稻ノ穂ノ含月ノ義、一說ニ、七月七日、牽牛、織女ノ二星ニ、詩歌ノ文ヲ供ヘテ祭ルヨリ起ル名ト云フ) 陰暦、七月ノ異稱。略シテ、ふづき。又、フミヒラキヅキ。フミヒロゲヅキ。七月 八雲御抄、三、上、時節「七月、ふみづき、本ハ、ふむ月ナリ」 語意考「七月ヲ布美月ト云フハ、保布布美月ノ上下ヲ略キイフ也、稻ハ七月ニ穂ヲ含メリ、云云」 下學集、上、時節門「文月、此月、七夕、諸人以二詩歌之文一獻二於二星一、或曬二書籍一以供レ星、故云二文月一也」 古今要覽稿、三十五、時令部「ふづき、七月「ふづきハ七月ノ和名ナリ、ふみづきトモイヘリ、云云、七月七日、二星ニ文書ヲ備ヘテマツルヨシミエテ、此月ヲ文月トイフ、云云、ふみづきノ名ハ、ふくみ月ノ義ニトルカタシカルベシ、此月、稻穂ヲ含メリ、八月穂ヲ張リ、九月カリトルナリ」 萬葉集、十三、三十長歌「七月ノ、七日ノ宵ハ、我レモ悲シモ」 源、十二、須磨「ふみづきニナリテ歸リ給フ」

ふみつ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 蹈附 (一)フミテ、跡ヲツック。又、強ク蹈ミテ、押ヘル。フミツケル。永久四年百首、雜「ふみつくる、跡モ見エネバ、濱千鳥、タチヌル浦モ、カヒナカリケリ」 (二)蔑ニスル。アナドル。ナミス。甲陽軍鑑、四、品第十二「家ニ書功ノ諸侍ヲモ蹈附くれバ、大事ナクシジミ」

ふみつくり (名) 文作 カラウタヲ作ルコト。作詩。又、ソノ人。源、廿一、少女三十「師モ弟子モ、イトドハゲマシ給フ、殿ニモふみ作リシゲク、博士、才人ドモ所得タリ」

ふみづくゑ (名) 書案 書籍ヲ載スル机。略シテ、ふづくゑ。今、更ニ略シテ、つくゑ。倭名抄、十三、五文書具「書案、不美都久惠」 名義抄「書案、フミツクヱ」 宇津保物語、祭使三十三「御學院ノ西曹司、藤英、ふみづくゑニ向ヒテ、文ドモメグリニ山ノ如ク積ミテ」

ふみつ・ける (動) 蹈附 ふみつく(蹈附)ノ口語。

ふみづし (名) 文廚子 (一)ふみだな(書棚)ニ同ジ。(二)ちょちゅう(書廚)ノ條ノ(二)ニ同ジ。書籠 雲州消息、中末「雖レ讀二書籍一、而不レ得二其心一、則有二文廚子之誚一」 晉書、劉柳傳「時右丞傅迪、好廣讀レ書、而不レ解二其義一、柳惟謂、老子、而已、迪每輕レ之、柳云、卿讀レ書雖レ多、而無レ所レ解、可レ謂二書簏一矣、時人重二其言一」

ふみつぶ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 蹈潰 (一)フミテ、ツブス。蹈ンデ、コハス。狂言記、合柿「何ノ、オノレ憎イ奴ノ、柿モ皆ふみつぶしテノケ」 (二)敵ヲ取リヒシグ。打滅ボス。甲陽軍鑑、十、下、品第廿九「義元公ノ、信長ヲふみつぶしナサルベキトテ、尾州ヘ發向アリ」

ふみつよ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 蹈強 力ヲ入レテ、蹈ミシメル。今昔物語、廿三、第廿二、語「其時ニ蹈強リテ立テルニ、極ク強ク引ト思エケルニ、履キタル足駄ノ齒蹈ミ折リツ」

ふみて (名) 筆 〔文手ノ義、手ハ書クコト〕音便ニ、ふんで。略シテ、ふで。(札、ふみた、ふんだ、ふだノ類) ふで(筆)ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、十二、四文書具「筆、布美天」

ふみど (名) 蹈處 〔と(處)ノ條ヲ見ヨ〕足ノ蹈ムベキ處。蹈ミテ立ツ所。フミドコロ。津國女夫池(享保、近松作)四「足ノ蹈み度モ忘レ、悦ビ勇ミ取リ上ゲル」 艷容女舞衣(安永、竹本三郎兵衛等)酒屋の段「アノ伴サマ、オカハリモ御座リマセヌカト、言フ挨拶モドコヤラニ、疵持ツ足ノ蹈處サヘ、低キ敷居モ越エカネル」

ふみどころ (名) 蹈處 前條ノ語ニ同ジ。丹後守爲忠百首「散リシケル、花ヲ惜シムト、ヨク程ニ、春ハ山路ニ、ふみどころナキ」

ふみとどま・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 蹈止 足ヲフミシメテ、トドマル。又、他ノ去リタル後マデ、頑強ニ居殘ル。太平記、三十、三、菊池合戰事「葉室左衞門督ニ至ル迄、宮ヲ落シ參ラセント、蹈止テ討レ給フ」

ふみとどろか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 蹈轟 蹈ミテ、鳴リヒビカス。源、二、夕顔十九「ゴホゴホト、鳴ル神ヨリモ、オドロオドロシクふみとどろかすカラ臼ノ音モ、枕上トオボユ」 神代紀、上、廿八「火處燒、覆槽響、顯神之憑談」

ふみどの (名) 書殿 文殿 (一)書物ヲ納レ置ク所。書庫。文庫。略シテ、ふどの。フミグラ。萬葉集、五、廿五「書殿ニテ餞酒ノ日ノ倭歌」 西宮記、二月、列見「一局史生儲文殿」 百練抄、十、寶治二年八月廿七日「去夜官文殿(五間瓦葺)燒亡、累代文書爲二灰燼一」 (二)校書殿。其條ヲ見ヨ。倭名抄、五、四官名「校書殿、布美止乃」 字鏡抄、八、坤儀「校書殿、フミトノ」 大内裏圖考證、十二、上「校書殿、西宮記作二西殿一、又作二文殿一、作二校書殿一」

ふみとほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 蹈通 蹈ミテ、通リ過グ。萬葉集、廿、長歌「大久米ノ、マスラタケヲヲ、先ニ立テ、靱取リ負ホセ、山河ヲ、岩根サクミテ、布美等保利、國覓ギシツツ」

ふみと・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 蹈留 蹈ミテ、トドム。フミトドメル。夫木抄、十六、「ふみとむる、跡ナキ澤ヤ、柏木ノ、森ガ上ノ、鷺ノ爪カタ」 六帖、五「春ノ、チチナガフ見シ、花ユヱニ、ふみとめテケル、跡ノクヤシサ」

ふみなづさ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 「なづさふハ、滯泥むニ通ズト云フ」 拘泥シテ、早ク行カズ。泥ミテ、進行ヲ止ム。天治字鏡「躓、不彌奈豆佐不」

ふみなら・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 蹈均 蹈平 蹈ミテ、平ニナス。蹈ミツケテ、高低、凹凸ヲナクス。フミタツ。フミツク。崇神紀、十年九月「時官軍屯聚、而蹈草木、其地號曰那良山」 萬葉集、六、卅四長歌「大宮人ノ、蹈平、通ヒシ道ハ、馬モ行カズ、人モ行カネバ、荒レニケルカモ」 源、十五、蓬生「クヅレガチナルメグリノ垣ヲ、馬、牛ナドノふみならしタルミチニテ」

ふみなら・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 蹈鳴 蹈ミテ、鳴リヒビカス。フミトドロカス。續紀、二十、寶龜元年三月「供二奉歌垣一、云云、ヲトメ等ニ、男タチ添ヒ、布美奈良須、西ノ都ハ、萬ヅ

[illegible]……胸モトドロト踏鳴らす、[illegible]

ふみにじ・る [illegible]（他動、四）[illegible] [illegible]ノ、[illegible]アラ[illegible]ノ、[illegible]ジウ[illegible]ンズル。蹂躙 [illegible]「[illegible]フミニジル」[illegible]

ふみぬき [illegible] 音便ニ、ふんぬき。釘、刺ナドヲ蹈ミテ、履ヲ貫キ、足ニ傷ツクルコト。[illegible]蹈マム、金剛經ノ、釘付ヲ、知ラデ走ラム、足ノふんぬき」（履物ノ金剛ニカク）

ふみぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）蹈抜 蹈ミテ、[illegible]フミ貫ク。[illegible]「ヨセヤ[illegible]」

ふみぬ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（他動、四）蹈脱 [illegible]足ニテ履ナドヲ脱ギ去ル。[illegible]ヲ、ヌギツルゴトク、布美奴伎テ、行クチフ人ハ、石木ヨリ、ナリテシ人カ」

ふみのつかさ（名）（一）圖書寮。其條ヲ見ヨ。倭名抄、五、職名「圖書寮、不美乃豆加佐」（二）又、ふんのつかさ。書司 後宮ノ書籍、紙、墨、几案、樂器ナドヲ掌ル[illegible]納言ワゴン給ハリ給フ」

ふみばこ（名）文箱 （一）書籍ヲ入レテ負フ箱。笈。（笈ノ、行李ノ具ヲ納レテ負ヒ行クハ、用ヲ轉ジタルナラム）倭[illegible]

[illegible]

ふみばさみ（名）音便ニ、ふんばさみ。文挾 文杖 （一）約メテ、ふばさみ。集中ニテ公事ヲ行ハル時、杖ノ如クナル木ノ先ヲ割リタルニ、文書ヲ挾ミテ、地下ノ官人、庭上ヨリ殿上ヘ捧グルモノ。安齋隨筆、後集、六、[illegible]ナド、竹ノ先ニ書狀ヲ挾ミテ肩ニ走ル。フミサシ。下學集、下、器財門「文夾、ブンカウ、フミハサミ、[illegible]」[illegible]第二十一話「ふみばさみニ文ヲサシテ、目ノ上ニ捧ゲテ」宇治拾遺、十一、第四條「名簿ヲ書キテ、ふみばさみニハサミテ、サシ上ゲテ、小舎二郎等一人乘セテ持タセテ」大鏡、上、時平「コノ史、ふんばさみニ文ハサミテ、此大臣ニ奉ルトテ」北山抄、一、七日節會「大將立巽角壇上[illegible]云云、大將[illegible]文杖[illegible]」（二）書物ヲ讀ミサシタル所ノ紙ノ頭ヲ挾ミ置ク具。形、略、琴柱ノ如ク、銀、銅、象牙ナドニテ作ル。薄キコト紙ノ如シ、後水尾院ノ御作トゾ云フ、後ノ枝折ノ用ナリ。

ふみはじめ（名）書始 （一）古へ、新年ニ、天皇、皇太子、親王、諸皇子ナド、始メテ句讀ヲ習ヒ給フコト。又、ソノ儀式。用書ハ御注孝經ヲ例トス。明治ニ至リテ、宮中ノ御書始ニハ、漢書、國書、洋書ヲ併ハセ講ゼシメラル。御書始、讀書始トモ云フ。[illegible]寛和二年例、侍讀[illegible]（參議左大辨大江齊光）、尚復（大學頭忠輔朝臣、坊學士）、御書（御注孝[illegible]）」今鏡、第一、すべらぎ、上「二[illegible]

ふみはだか・る[illegible]（[illegible]）蹈開 足ヲヒロゲテ立ツ。フミハタバル。[illegible]「[illegible]フミハタカル[illegible]」[illegible]

ふみはたば・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）蹈張 前條ノ語ニ同ジ。[illegible]「[illegible]ふみはたば[illegible]」

ふみはづし（名）蹈外 （一）フミハヅスコト。フミドヲ失フコト。（二）鳥ヲ捕フルわなノ一種。散木集、九、雜、上「山田ノ畑ニ、ふみはづしト云フ物ヲ[illegible]ケルヲ、人モ同ジ程ニ、ウカヽ[illegible]カカラザリケレバ、守ラスル[illegible]」

ふみはづ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）蹈外 （一）蹈ムベキ所ヲハヅシテ、他ヲ蹈ム。フミドヲ失フ。吉野拾遺、下「網ヲ入レントセシガ、ふみはづすガ如クニシテ、ツブツブト水ノ底ニ沈ミケルヲ」心中二枚繪草紙（寶永、近松作）下「二階ノ梯子ヲふみはづし、[illegible]」（二）失敗シテ、地位ヲ失フ。失墜ス。

ふみは・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）蹈張 音便ニ、ふんばる。足ヲヒロゲテ、力ヅヨク蹈ム。[illegible] 著聞集、十七、變化「[illegible]引キ入レンーシケレー、松ノ根ヲ強ク[illegible]ふみはりテ、引キ入レラレズ」

ふみびつ（名）書櫃 文櫃 書物ヲ藏メ置ク櫃。音便ニ、ふんびつ。倭名抄、十三、文書具「書櫃、布美比都」[illegible]「文櫃[illegible]」云云

ふみひと（名）史 「文人ノ義、略シテ ふびと」（一）書ヲ讀ミ、事ヲ書クコトヲ以テ、朝廷ニ仕フル職。其部ヲ史部ト云フ、後ニ戸トナル。多クハ韓國人[illegible]（二）古へ、官廳四等ノ官ノ一。判官、主典、佐官ナドノ稱。何レモ文案ヲ審署[illegible]（三）部司ノ主帳ノ古稱。又、シュチャウ。孝徳紀、大化二年正月「[illegible]主典從者五人」

ふみびと（名）文人 ぶんじん（文人）ヲ[illegible]

ふみひらきづき（名）文披月 〔次條ノ[illegible]〕[illegible]七月[illegible]

ふみひろげづき（名）文披月 前條ニ同ジ。二中歴、五、歳時「七月、俗說云、七月七夕、俗人稱、借與織女、令披書於庭戸、故稱此月」[illegible]略也」

ふみひろじ・る[illegible]（[illegible]）[illegible]立テリケレバ、鞅切レテ、車ハ落チテ碎ケニケリ、牛ハ一ツ橋ノ上ニ留マリテゾアリケル」

ふみぶくろ（名）書袋 （一）書籍ヲ納レテ攜帶スル袋。書嚢 [illegible]

同作、其座ハ[illegible]文場ノ所ニ[illegible]、名曰ニ書袋、此入ニ抄箱ニ之器也」（二）書狀ヲ入ルル袋 盛衰記、十九、文覺ハ[illegible]京上事「院宣ヲ[illegible]ツラントテ、懐ヨリ文袋ヲ取出シ、中ナル院宣ヲ[illegible]ル」

ふみ・まど・ふ・フ・へ・ハ・ヒ・へ（自動、四）［蹈惑］ フミ入リテ、迷フ。フミマヨフ。 後撰集、十七、雜、三「道知ラヌ、物ナラナクニ、足引ノ、山ふみ惑フ、人モアリケリ」 宇津保物語、藤原君「イク度カ、ふみまどふラン、三輪ノ山、杉アル門ハ、見ユルモノカラ」

ふみ・まよ・ふ・フ・へ・ハ・ヒ・へ（自動、四）［蹈迷］ 前條ノ語ニ同ジ。 後撰集、十七、雜、「白露ノ、雪モ消エニシ、足引ノ、山路ヲ誰カ、ふみまよふべキ」 太平記、十七、北國下向勢凍死事「千葉介貞胤ハ五百餘騎ニテ打チケルガ、東西クレテ降ル雪ニ、道ヲ蹈迷ひテ、敵ノ陣ヘゾ迷出デタリケル」

ふみ・みぐさ（名）［文見草］ をぎ（荻）ノ異名 藏玉集「文見草、荻」

ふ・みん（名）［不眠］ ネムラザルコト。又、ネムラレザルコト。 杜甫詩「不眠瞻ニ白兎ニ」「不眠不休、不眠症」

ふみん・しやう（名）［不眠症］ 神經ノ興奮シテ、ネムラレザル病氣。

ふみ・や（名）［文屋］（一）學問スル所。學校 音便ニ、ふんや。（其條ヲ見ヨ） 名義抄「黌、フミヤ」 江次第抄、五、釋奠「大學寮謂ニ之文屋之司ニ」（二）本屋。書店。書肆。

ふみ・やぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［蹈破］ 蹈ミ入リテ、破ル。蹴破ル。蹈破ス 今昔物語、六、第、「諸ノ僧迦如來、云云、虚空ヨリ飛來リ給ヒテ、此ノ獄門ヲ蹈み破リテ入リ給ヒテ、利房ヲ取リテ、去リ給ヒヌ」

ふみ・や・わらは（名）［文屋童］ だいがくれう（大學寮）ノ學生。ふやわらは。 江次第、四、五、釋奠「文屋童、上學者、[illegible]之文屋之司、[illegible]學生名ニ文屋童也」 江家次第、五、釋奠、注「問難者、明經稱ニ大學生、[illegible]法稱ニ學生ニ」

ふみよみ・びと（名）［書讀人］ 能ク讀書スル人。學者。又、はかせ（博士）ニ同ジ。 [illegible]紀、十五年八月、天皇問ニ阿[illegible]曰、如[illegible]、[illegible]亦有耶、對曰、有ニ[illegible]也」

ふみ・わ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［蹈分］ フミテ、分ケヒラク。 古今集、三、秋「秋ハ來ヌ、紅葉ハ宿ニ、降リシキヌ、道ふみわけテ、トフ人ハナシ」 同、四、冬「三吉野ノ、山ノ白雪、ふみわけテ、入リニシ人ノ、オトヅレモセヌ」

ふみ・わた・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［蹈渡］ 陸ヲ行キ、川ヲ渡ル。又、跋渉 神代紀、上「其足以跋ニ渉遠自來參」

ふみ・ゑ（名）［蹈繪］ 徳川三代四代將軍ノ頃、正月四日以後七日間、宗門改メノ時、役人立合ノ上ニ、諸人ニ基督ノ像ヲ鑄タル銅板ヲ蹈渡ラシム。切支丹ノ信者ハ、蹈ミ得ザルヲ以テ、捕縛セムガタメナリ。十日以後ハ、近キ城市ニ渡シテ蹈マストゾ。其繪板ト云フハ、長崎奉行所ニアリ、橢圓形ニテ長サ六寸、横四寸許リ、高サ二寸五分、印子金ノ純黄ナルニテ作ル。其面ニ緣アリテ、中ニまりあノ子ヲ抱ク圖、耶蘇ノ十字架ニ上レル圖ヲ彫リ上ゲニス。同ジ大キサノ木ノ中央ニ金ノ小方版ヲ容レ、ソレニ耶蘇ノ像ヲ鑄物ニセシモアリ。又、長崎ニテ、正月四日以後、官吏、獄舍ニ藏スル六七寸ノ銅板ニ耶蘇ノ像ヲ鑄タルモノヲ、市ニ出シテ諸人ニ蹈マシムルコト、又、異國船入津スレバ、亦、船中ノ人ヲシテ、コレヲ蹈マシメテ、後ニ、上陸ヲ許ス、當時、切支丹宗ヲ嚴禁シ、其信者ナラヌヲ證セシメシナリ。 長崎志、五、切支丹改條之事「每年切支丹ノ門徒改ニ付、總町人數男女不ㇾ殘、宗旨[illegible]仕立、正月四日ヨリ八日迄、町年寄年番ヨリ蹈[illegible]取、一町限リニ乙名組頭立合、[illegible]宛相改、印形ヲ取、蹈繪[illegible]蹈申候」 長崎港草、四、蹈繪之始「蹈繪ノ始マリシハ、寛永五戊辰ノ年、水野君（守信）ノ御時ニ、轉ビノ者ヲ試ン爲、切支丹ノ尊信スル掛物ノ繪像ヲ以、是ヲ蹈セラル、翌年、竹中氏、掛物並ニ鑄物ノ銅像ノアルヲ版ニ彫イレ、廣ク諸人ニ、コレヲ蹈セラル」

ふみ・を・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［蹈折］ 物ヲ蹈ミテ折ル。 今昔物語、廿二、第廿二語「極ク強ク引ト思エケルニ、履キタル足駄ノ齒蹈折ツ」 盛衰記、廿四、南都合戰同燒失事「御堂猛火ニ懸リケレバ、不ㇾ劣不ㇾ劣ト落ラルル程ニ、階踏折テ、下ニ成者ハ押殺、上ニ成者モ高キヨリ落重リケレバ」

ふ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［蹈］［踐］［履］（古語ニ、ほむ）（一）足ノ下ニス。足ヲ載セテ壓ス。 古事記、下（允恭）廿二「夏草ノ、アヒネノ濱ノ、カキ貝ニ、足布麻スナ、明カシテ通レ」 同、上卅五「於ニ天之石屋戸ニ伏ニ汙氣ニ而、蹈登杼呂許志」 神代紀、下卅六「擧ニ足蹈行、學ニ其溺苦之狀ニ」 萬葉集、十四廿一「信濃ナル、千曲ノ川ノ、サザレ石モ、君シ布美テバ、玉トヒロハム」（二）［步］ 步ム。 源、四十三、竹川二十一「竹川ウタヒテ、ミハシノモトニ、ふみヨルホト、過ニシ夜ノ、ハカナカリシ遊ビドモ思ヒ出デラレ」「淺瀨蹈む」「路蹈み分ク」「路蹈み違ヘ」（三）守リテ行フ。履行 「約ヲ履む」（四）漢詩作ノ語ニ、韻字ヲ句ノ下ニ用キル。押韻 「韻ヲ履む」（五）商人ノ語ニ、直段ヲ當テ定ム。（淺瀨ヲ蹈ミ測ルナドノ意カ）ネブミヲスル。「直ヲ蹈む」（六）身ヲ其上ニ置ク。己レノ位置トス。 太平記、廿、奥州下向勢逢難風事「此宮、[illegible]ノ君トシテ、九五ノ天位ヲ蹈ませ給フベキ所ヲ」

ふん（名）［封］ 封ノ音便。 宇津保物語、藏開、上「世ニナクイカメシキ錢カケタリ、ソノ錢ノ上ナルバ、カネヲヨリカケテ、ふんじタリ、ソノふんノ結ビ目ニ、故治部卿ノ主ノ御名、文字彫リツケタリ」

ふん（名）［粉］（一）粉。コナ。こ（粉）ノ條ヲモ見ヨ 周禮、天官、籩人「羞籩之實、糗、餌、粉、餈」（二）金、銀ナドヲ粉ニシタルモノ。鑢ニテ研リオロシ、鋼板ノ上ニテ、鐵器ヲ以テ、細カニ壓シ潰シテ粉トス。畫料、又ハ、蒔繪ノ料トス 「金粉、銀粉」（三）オシロイ。白粉 本朝文粹、十、賦ニ花光水上浮ニ「花非ㇾ花、水非ㇾ水、[illegible]之水、則漢女施ニ粉之鏡清」

ふん（名）［糞］ クソ。大便。くそ（糞）ノ條ヲモ見ヨ 呉越春秋（勾踐）「太宰、嘗ニ糞」 醒睡笑（元和、安樂庵策傳）一「馬屋ニ金ヲ二枚入レテ置キケリ、云云、三日ニ一度ハ黃金ヲ糞ニ仕リ候」 浮世風呂（文化、三馬）二編、上「鼠ノふんノヤウナ垢ガヨレルヨ」

ふん（名）［墳］〔說文「墳、墓也」〕土ヲカサネテ塚トセシモノ」ツカ。ハカ。 禮記、檀弓、上篇「孔子既得ㇾ合ニ葬於防ニ、曰、吾聞ㇾ之、古也、墓而不ㇾ墳」注「土之高者、曰ㇾ墳」

ふん（名）［分］（一）秤目、銀目ニ、匁ヲ十ニ分テル一。即チ、十釐。（二）天地ノ經緯度、又ハ、一時間ヲ六十ニ分テル一。即チ、六十秒。（三）角、度、弧ヲ六十ニ分テル一。即チ、一度ノ六十分ノ一。

ふん（感）（一）相手ノ言語ヲ了解シ、又、承諾スル意ヲ表ハス語。 狂言記、宗論「ふん、其ノ儀ナラバ語ラウ程ニ、ドチラナリトモ、負ケタ方ヲ數珠ヲ切ラスル」（二）人ノ話ナドヲ、鼻ニテアヘシラフ時ニ發スル語 狂言記、鹿狩「左近ノ、郎ト申スハ、某ガコトデオヂャル、ふん、ソナタハ狩人カ」

ふん（接頭）（ふみ（蹈）ノ音便）動詞ニ被

ラセテ[illegible]ノ[illegible]テ[illegible]反ル」「ふん諸ル」

ぶん (名) 分 (一)受持ツ[illegible]、或ハ、割付クル[illegible]ノ分ナ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ニテ、[illegible] (二)[illegible]ノ程。身分。分際。分限。[illegible]ルハ、コトノ外、多ク(称)出來タリケレバ」「人ノ分ト[illegible]」徒然草、百三十一段「己レガ分ヲ知リテ、及バザル時ハ、速ニ止ムヲ智ト云フベシ」狂言記、老武者「年寄ノ分トシテ、深シイ事ガアルモノカ」「分ニ應ジテ」身ノ分ヲ知ラズ」「分相應ニ」「職分」(三)假ニ定ム[illegible]。[illegible]方ヲ兩方カラ引連レテ、總語へ二人ナラブ」

ぶん (名) 文 (一)アヤ。モヤウ。[illegible]衣、錦絢ノ綢、[illegible]其文之著一也」「五彩、文ヲ成ス」(二)語句ヲ[illegible]綴リテ記セルモノ。文章。又、文[illegible]。「[illegible]」(三)詩歌ニ對シテ、句ノ制限ナク、押韻ナドナサルモノ。即チ、散文。(四)書ヲ讀ミテ、學藝ヲ修ムルコト。(武ノ反)文學。[illegible]

ぶんあん (名) [illegible]通鑑、晉孝武帝[illegible]

ぶんい (名) 文意 文章ノ意味。文ノ意趣。[illegible]

ぶんいく (名) 芬郁 カグハシキコト。カンバシキコト。芬芬。[illegible]

ぶんいん (名) 分陰 (一)分ノ光陰ノ意。僅カノ時間。寸陰。[illegible]乃惜二寸陰一、至二於衆人一、當レ惜二分陰一」

ぶんうん (名) 紛紜 事ノ亂レモツルルコト。入リ亂ルルコト。紛擾。[illegible]

ぶんうん (名) 紛紜 (一)入リ亂ルル狀ニ云フ語。[illegible](二)多キ狀。又ハ、盛ンナル狀ニ云フ語。[illegible]司馬相如傳、威武紛紜、湛恩汪濊」

ぶんうん (副) 氛氳 氣ノ盛ンナル狀ニ云フ語。[illegible]

ぶんうん (名) 文運 (一)世ノ中ノ學問ノ形勢。文藝ノ趨勢。又、學問ノ盛ンナル氣運。[illegible](二)文明ノ氣運。[illegible]「文運隆盛」

ぶんえい (名) 墳瑩 [illegible]墓也 ハカ。ハカバ。オクツキ。墓所。[illegible]

ぶんえん (名) [illegible]

ぶんか (名) 文[illegible] [illegible]不レ及、而文雅過レ之也」「文雅風流」(二)文事ニ長ケテ、風流ナルコト。[illegible]

ぶんがい (名) 憤慨 イキドホリ、ナゲクコト。[illegible]「獨坐懷レ憂、憤慨申レ旦」

ぶんかい (名) 分解 (一)細カク事理ヲ分クルコト。[illegible](二)組立テタル物ナドヲ、一一分チ解クコト。(三)[英語、Decomposition.ノ譯語] 化學ノ語。或物質ガ消亡シテ、コレト全ク性質ノ異ナル二種以上ノ物質ニ分カルル變化ノ稱。

ぶんかう (名) 紛更 カキミダシテ、改メカフルコト。史記、[illegible]武功、何乃取二高皇帝約束一紛更之一爲」

ぶんかう (名) 聞香 ききかう(聞香)ニ同ジ。かうたう(香道)ノ條ヲ見ヨ。

ぶんがう (名) 文豪 文筆ニスグレタル人。文章ノ大家。又、文學ノ大家。文宗。[illegible]

ぶんかく (名) 文格 文章ノ法格。文章ノ法式。[illegible]

ぶんがく (名) 文學 (一)書ヲ讀ミテ講[illegible](二)自然科學、[illegible]法律學以外ノ[illegible]レバ旬ヒモナク、其色モ深カラズ」[illegible](内親王ヲ除ク)ノ家ニ置キ、經ヲ講ゼシメシ職。[illegible]但、文學不レ在二此例一」一品、文學一人(掌三執レ經講授二[illegible]文學一其職、講レ經、任二授間著作事一」(五)[英語、Literature.ノ譯語] 人ノ思想、感情ヲ、文章ニヨリテ表現シ、人ノ感情ニ訴フルコトヲ主トセル美的作品。詩歌、小説、戯曲、又、文學批評、歴史ナド、總テヲ、或ハ呼ビタル稱。[illegible]モ此稱ヲ用ヰシコトアリ」)(六)支那漢代ノ諸州府學ノ博士ナリ。[illegible]

ぶんかつ (名) 分割 ワケサクコト。[illegible]

ぶんがふ (名) 吻合 脗合 (吻モ脗モくちびる、上下ノ唇、相合フ義ニ云フ)合フコト。ヨク合フコト。シックリ合フコト。

莊子、齊物論「予嘗爲汝妄言之、汝以妄聽之、奚旁日月、挾宇宙、爲其脗合」止ヲ心法ニ宋、陸希聲「數百八十有四、以同求之、其數脗合」

ぶ-むき（名）［不向］相應セヌコト。ヨク適セザルコト。フサハヌコト。

ふん-き（名）［噴氣］水蒸氣、瓦斯ナドヲ噴キ出スコト。又、其噴キ出ヅルモノ。

ふん-き（名）［奮起］（一）氣ヲ引キ立テ、勵ミ起ツコト。フルヒ起スコト。歐陽修、文「自言公之奮起、徒步而名動京師」（二）突キ出ヅルコト。突起スルコト。兀立。謝天籟詩（宋、曾希顏）「李贊丘作三山來、危拔奮起、蔚然天成」

ふん-ぎ（名）［紛議］モツレタル議論。

ふん-き（名）［分岐］ワカルルコト。マタニナルコト。エダワカレ。「分岐點」

ぶん-ぎ（名）［文義］文章ノ意義。文意。孔安國、古文尚書序「以所聞伏生之書、考論文義、定其可知者、爲隸古定」南史、陸厥傳「設當世稱爲低昂、論易者、年不解文義」

ふん-きう（名）紛糾　モツレテ、ヲサマラザルコト。亂レモツルルコト。イサクサ。ヤヤ、サモ、サ。史記、陳丞相世家、贊「高帝常出奇計、救紛糾之難、振國家之患」漢書、劉向傳「傳授增加、文字紛糾、前後錯謬、毀譽渾亂」

ぶんきう-せん（名）［文久錢］文久三年ニ、幕府ノ鑄タル銅錢。面ニ文久永寶ノ字アリ、背ニ波文アリ、一枚ヲ四文ニ當テキ。明治中世マデ、一厘五毛ニ通用セリ。文久永寶錢。略シテ、文久。吹塵録、九、文久錢の記「文久錢ハ、文久三年二月ノ發行ニシテ、壹枚四文ノ通用ト令セリ、眞鍮製ナリトイヘドモ、其質甚ダ粗惡ナリ、直徑曲尺八分七厘ヨリ八分八厘マデ、孔徑曲尺二分二厘ヨリ二分四厘マデ、重量平均一匁、文ヲ文久永寶トイフ、裏面ノ波文、青海波ニ同ジ、筆者ニ人、書體同ジカラズ、云云、筆者ハ中村作五郎、筆者板倉周防守勝靜、號松堂、下谷小笠原圖書頭長行」

ぶん-きん（名）文金　（一）ぶんきんきん（文字金）ノ略。人見雜記「元文年中、フキカヘアリテ、今ノ文金ニナリタリ、其ノ頃ハ、文金一分ニ錢七百文ホドカヘタリ」（二）次次條ノ語ノ略。（三）次條ノ語ノ略。追影記「髮髻ヲ揚ゲ結ブヲ文金ト稱ス、元文丙辰年ヨリ世人好レ之」

ぶんきん-たまだ（名）［文金島田］文金風ノ島田髷。略シテ、文金。

ぶんきん-ふう（名）文金風　「元文元年、改鑄セシ文字金發行セラル、其文金ノ名ヲ取リテ、流行ノ髮ニ名付ケタリト」男子ノ結髮ノ風ノ名。元文元年、上方下リノ淨瑠璃ノ大夫都古路豐後（豐後節創始者）ノ結ヒシ風ナリト云フ。一名、都古路風トモ云フ。髻ニ元結ヲ多ク卷キテ、長ク突出シテ天ニ朝シ、髮先下ニ俯スルモノ。ハケサキニ竹串ヲ入ル、卷髮ナリ。今、女ノ島田髷モ、髻ヲ高クシ、髮先ノ前ニ俯スル如ク結フヲ、文金島田、又ハ、文金の高島田ト云ヒ、又、針打ノ島田トモ云フ、竹串ト意同ジ　怪我アラセジト小楊枝ナド用ヰル。辰松島田ト略同ジ。少女ノ髮ニ結フ守殿風ノ高尚ナルモノトス。略シテ、文金。賤小手卷「豐後節ノ流騂、次第ニ淫風ニ移リテ、道上俗人ノ風俗、アラヌモノニ成行テ、髮モ文金風トテ、ワケノ髮ヲ突立、元結多ク卷テ、後髮トテ、髻ノ毛ヲ下ヨリ上ヘカキ上ゲ、月代ノキハニテ卷コミテ結ヒタリ」

ふん-ぎ-る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［蹈切］［ふみきるノ音便］押シテ進ム。強ヒテ行フ。決行

ぶん-ぐ（名）文具　（一）［文法完具ノ略］徒ニ律例ヲ備フコト。又、表ノ飾リノミ具ハレルコト　漢書、張釋之傳「秦以任刀筆之吏、爭以亟疾苛察相高、其敝徒文具、亡惻隱之實」宋史、李壽傳「一有レ心私、氏以介乎其間、則雖欲勵精勤、力以求治、卒亦莫得」〔徒爲レ文具、而天下之事、愈至レ於不可爲矣〕（二）筆、紙、硯、墨、机、等ノ稱。文房具　（三）クシバコ。行厨集「杭陳日、文具、以奩具」

ぶん-くん（名）［文勳］［武勳ニ對ス］學問、文學上、又ハ、政治上ニオケル勳功。

ふん-くわ（名）［噴火］（一）火ヲ噴キ出スコト。拾遺記「宣、王嘉、南陲之南、有扶婁之國、其人善能機巧、變化、易形、改服、吐雲、噴火、鼓腹、則如雷霆之聲」（二）火山ナドノ、硫氣、水蒸氣、熔岩、泥流ナドヲ噴キ出スコト。徵古文書、乙、中製、富士山噴火官符案書、寶永四丁亥十月、云云」「噴火山」噴火口」

ふん-くわ（名）粉華　粉飾ノ華ヤカナルコト。又、假粧。史記、禮書「出見二粉華盛麗一而說、入聞二夫子之道一而樂、二者心戰、未レ能二自決一、而況中庸以下乎」漢書、貨殖傳「各安二其居一而樂二其業一、甘二其食一而美二其服一、雖レ見二奇麗紛華一、非二其所一レ習」

ぶん-くわ（名）［文華］（一）文章ノ華ヤカナルコト。梁、昭明太子、文選序「若二其讚論之綜二緝辭采一、序述之錯二比文華一、事出二於沈思一、義歸二乎翰藻一」（二）文學ノヲシヘ。文教。又、教養。後漢書、荀彧傳「荀數二文章一、以綜二國典一、以守二賤薄一而無二聞譽一」晉書、袁湛傳「湛少有二操植一、以二沖粹一自立、而無二文華一、故不レ爲二流俗所一レ重」

ぶん-くわ（名）［文化］（一）武力、刑罰ナドヲ用ヰズニ、教化スルコト。說苑（漢、劉向）「凡武之興、爲レ不レ服也、文化不レ改、然後加レ誅」束晳、補亡詩「文化內輯、武功外悠」（二）［獨逸語、Kultur.英語、Culture.ノ譯語］自然ヲ純化シ、理想ヲ實現セムトスル人生ノ過程。卽チ、人間ガ自然ヲ征服支配シテ、本來、其有スル價値、理想ヲ實現完成セムトマスル過程ヲ。總ベテカカル過程ノ産物ハ、學問、藝術、道德、宗教、法律、經濟、ナド是レナリ。（三）俗ニ、西洋風ナルコト。又、新シガルコト。「文化住宅」「文化村」「文化的設備」

ぶん-くわ（名）文科　（一）作文ノ科。鶴峰文集、七十一、忍岡學中程式「文科者、其所レ作二文作一者及二三十篇一、則可レ進二一等一、若有下冠二羣作一者上、則一舉可二直二」（二）文學ニ關スル學科。又、文學ノ科目。「文科大學」

ぶん-くわ、（名）分科　科ヲ分クルコト。又、其分ケラレタル科目。

ぶん-くわ（名）［文火］トロトロビ。トロビ。弱キ火力。（烈火ヲ武火ト云フニ對ス）宋、白玉蟾、（海瓊白眞人）「千鍛中一日一夜、文火爲二煆、不レ可レ施二以武一」孫皎然詩「文火香偏勝、寒泉味轉嘉」

ぶん-くわい（名）［文會］同人、集リテ、文章ナドヲ作リ合ヒ、又、ソレヲ批評シ合フ會。晉書、楊駿遺傳「師道尊嚴、必引二當時英俊一、宴二作於池一、而文會之盛、當時無レ比」劉禹錫先生文集、一二、辛巳（正藏十四年）三月、日東山會得詣、今日文會宴、清詩高作立等閑、以儀　雅之與文會、於學、孔子云以文會友、以友輔仁、偸」

ぶん-ぐわい（名）［分外］身分ノ外。分限ノ外。過分。三國志、魏志、程昱傳「上不レ賓二非職之功一、下不レ務二分外之賞一、吏無レ用二紀之勢一、民無二二事之役一、是識將二國步一、追二治亂所レ由也」王安石、詩「家常飯靑長少、分外詩簡有二酬和一」

ぶん-かく（名）［分劃］分畫　分割シテ、區別スルコト。元稹、詩「獨孤二十六、送二歸□」

近州ニ站「分鑿久已定、浚瀹何足ㇾ慮」

ふんくゎこう（名）〔噴火口〕 火山ノ硫[illegible]

ぶんくゎん（名）〔文官〕 武官以外ニテ、國家ノ行政事務ヲ掌ル官。ぶくゎん（武官ノ[illegible]）[illegible]「[illegible]已下並ニ文官、帶劔之職也」

ぶんくゎん（名） 分管 官吏ノ、事務ヲ分離シテ管理シ、又ハ、管轄スルコト。

ぶんけ（名）〔分家〕 本家ヨリ分レタル家筋。產ヲ分チテ、子弟ナドニ別ニ家ヲ起サセタルモノ。別家。末家。

ふんけい（名）〔刎頸〕〔說文「刎、剄也」〕 刀ニテ、頸ヲ斬ルコト。（二）刎頸ノ交ノ略。次次條ノ語ヲ見ヨ。[illegible]「[illegible]、刎頸之交」

ぶんけい（名） 文藝 （一）文學ト、藝術ト。（二）文學ニ係ル藝。[illegible] 中[illegible] 二、美的現象ヲ理想化シテ表現スルモノ。即チ、詩歌、文章、小說、戲曲、繪畫、彫刻ナドノ稱。

ふんけいのまじはり（句）〔刎頸交〕 略シテ、刎頸。生死ヲ共ニシテ、頸ヲ刎ネラルトモ、渝ラザル親交。[illegible]「刎頸之交」

ぶんけう（名） 文敎 文學ノ敎。文事ヲ以テ人ヲ敎化スルコト。又、其敎化。[illegible]

ぶんげき（名）〔奮擊〕 力ヲ入レテ敵ヲ擊ツコト。[illegible]

ふんけき（名） 憤激 烈シク、心ヲ奮ヒ起スコト。[illegible]

ぶんげふ（名）〔分業〕（一）夫レ夫レ分レテ業ヲ營ムコト。（二）〔英語、Division of labour. ノ譯語〕 經濟學ノ語。多數ノ人ガ、或ル一ツノ生產事業ニ從事スルニ、其勞力ヲ箇箇ニ分割シテ行フコト。即チ、勞働ヲ技術的、職業的、場所的ニ分割セラレテ、生產事業ヲ營ムコト。

ぶんけん（名）〔分見〕〔分間〕 山野ノ高低、遠近ナドヲ測ルコト。測量。「分見道具」「分見繪圖」

ぶんけん（名）〔文獻〕〔論語、八佾篇、朱注「文、典籍也、獻、賢也」〕（一）古ヘノ制度、文物ヲ知ルベキ書物ト、賢人ト。又、古ヘノ事柄ヲ知ルニ證據トナルモノ。論語、八佾篇「宋不足徵也、文獻不足故也」[illegible]（二）ノリ。制度。（三）文書。

ぶんけん（名） 文檢 文部省敎員檢定試驗ノ略稱。

ぶんげん（名）〔分限〕 カギリ。ホド。分際。又、身ノホド。身分。ブゲン。[illegible]

ぶんこ（名）[illegible] 庫。フミグラ。フグラ。圖書館。[illegible]（二）書册、雜品ナド納ルル紙張ナドノ手箱。（文匣ノ音カトモ云フ）[illegible]明ケテ、金ヲ出ダサントセラルルヲ、云云」

ぶんご（名） 文語 口語ニ對ス。詩歌、文章ヲ綴ルニ用ヰル雅語。文章語。[illegible]

ふんこう（名） 紛江 [illegible] 紛亂 ウチワモメスルコト。[illegible] 內訌。紛亂。

ぶんごうめ（名） 豐後梅 [illegible] 梅ノ一種。樹、長大ニシテ、花モ大キク、淡紅、重瓣ナリ。實モ圓ク大キク、肉ト核ト善ク離ルルコト、桃ノ如ク、甘酸、香美ナリ。[illegible]「豐後梅、ブンゴウメ、豐後」[illegible]

ぶんこく（名）〔分國〕 分ケテ領スル國。[illegible]分國、越後、上野、駿河、播磨ナドニ、足利ノ一族共ノ知行ノ庄園ヲ抑ヘテ、家人共ニゾ皴ゾ行ケル」

ふんこつ（名）〔粉骨〕 力ノ限リ骨折ルコト。身ヲ粉ニシテ働クコト。[illegible]

[illegible]管ヲ[illegible]ヘゾ向ヒケル」

ぶんごぶし（名）〔豐後節〕（一）淨瑠璃節ノ一。一中節ヨリ分レテ、都古路豐後[illegible]古路豐太夫ト改メ、一中節ヲ變化セシメ、一流ヲ[illegible]（二）京阪ニテハ、江戶ノ俗謠ニ行ハル」[illegible]

ふんごみ（名） 踏込 [illegible]リ出デタリ（衣食住記）、袴ノ狹キモノニテ、[illegible]細ト云ヒテ、[illegible]布ナリ。今モ東北地方ニテハ、[illegible]綿ナドニテ仕立テテ穿ク。フンゴミバカマ。スソボソ。のばかま（野袴）ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]ソトイヒテ、下ヲ細ク作レドモ、かるさんノ樣ニアラズ、イハバ、袴トかるさんノ間ノモノナリ」

ふんごむ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）〔踏込〕[illegible]（享保、近松作）中「スカサズカクル片足ヲ、ガハトふんごみ、[illegible]ス」狂言記、老武者「年コソ寄タレ、此ウヘハ身共カ踏込んデ、御盃ヲイタダイテ見セウ」

ふんこん（名）〔忿恨〕 怒リ、恨ムコト。[illegible]

ぶんさい (名) 粉碎 烈シク打チクダクコト。コナミヂンニスルコト。 晉書、郭璞傳「王導令作卦、璞言、公有震厄、可命駕西出數十里、得一柏樹、截斷如身長、置牀上寝處、災可消矣、導從其言、數日果震、柏樹粉碎」 楊萬里詩「大波一跳入天半、粉碎銀山成雪片」

ぶんさい (名) 分歲 〔舊年ト新歲トノ分ルル意、風土記(晉、周處)「除夜祭其先、竣事長幼聚飲、祝頌而散、謂之分歲」〕歲暮ノ夜、即チ除夜ニ、一家相集リテ、祖先ヲ祭リ、共ニ宴飲シテ、祝セシコト。トシワスレ。禪家ニテハ、ぶんさいトイフ。 春秋繁露(漢、董仲舒)「分人之變、以爲四選、選立之臣、如天之分歲之變、以爲四時」 [illegible] 「[illegible]分歲[illegible]」 [illegible]「歲夜小祭[illegible]年[illegible]無可與語人分歲、且祭[illegible]向各桃火明村田樂」

ぶんさい (名) 文才 文學ノ上ノ才。文筆ノ才。 後漢書、應劭傳「鄭弟子瑒、璩、並以文才稱」 保元物語、一、新院御謀叛思召立事「大臣殿ト申スハ、云云、和漢共ニ人ニ勝レ、云云、文才世ニ知ラレ、諸道ニ淺深ヲ探ル」

ぶんざい (名) 分際 (一)カギリ。ホド。分限。 史記、儒林傳「臣謹案詔書律令下者、明天人分際、通古今之義」 太平記、七、船上合戰事「城中ノ勢トモハ、敵ニ勢ノ分際ヲ見エジト、木陰ニ縫ハレ伏シテ」 (二)身ノ分ニ應ズル程。身ノホド。身分。 狂言記、笠濡「身代落チブレタレドモ、分際相應ノ理ヲ辨ヘヌデハナイ」

フンサウ
ぶんさう (名) 紛爭 紛諍 事ノモツレテ相爭フコト。モメ。ゴタゴタ。 徐陵、傅大士碑「風神淸朗、氣調高高、流化親同、斷和紛諍」

フンサウ
ぶんさう (名) 扮裝 〔扮ハはん、又、ふんノ音ナリ、今慣用音ニ從フ〕ヨソホヒ。イデタチ。裝飾。打扮。 中原雅音「裝、扮也、今俗、以裝飾爲打扮」

ブンサウ
ぶんさう (名) 文藻 (一)アヤ。モヤウ。又、文章ノアヤ。(二)文章ノ才智。才藻。 魏志、文帝紀、評「文帝天資文藻、下筆成章」 唐書、裴矩傳「[illegible]」 張說、陰君府碑「秉禮樂而觀正直、體文藻而含淸眞」

ぶんさく (名) 紛錯 次條ノ語ニ同ジ。 揚士勛、穀梁傳、序「各信所習、是非紛錯、準裁靡定、故有父子異同之論、石渠分爭之說」

ぶんざつ (名) 紛雜 入リ交ルコト。紛錯。混雜。 梁書、任昉傳「自齊永元以來、祕閣四部、篇卷紛雜、昉手自讎校、由是篇目定焉」 文心雕龍、[illegible]「宇宙綿邈、黎獻紛雜」

ぶんさん (名) 分散 (一)ワカレテ、チリヂリニナルコト。四散。離散。 左傳、桓公五年「公疾病而亂作、國人分散」 菅家後集、六、管絃歌舞「大宮右相府薨去ノ後、七七忌ハテテ、人人分散シケルニ」 (二)ワカチ、チラスコト。 史記、貨殖傳「十九年之中、三致千金、再分散與貧交疏昆弟、此所謂富好行其德者也」 (三)借財ナド償フ能ハズシテ、身代ノアル限リヲ分チテ貸方へ濟スコト。倒帳。破產。 好色二代男(貞享、西鶴)五「物ノアハレヲモ知ラズ、人ノ分散ニアヘルモ可笑シカリシニ」

ぶんし (名) 文士 文筆ニ從事スル人。文人。文章家。 五代史、王瓊傳「瓊、云云、尤不喜文士」 唐書、劉知幾傳「禮部尙書鄭惟忠、嘗問、自古文士多、史才少、何耶」 十訓抄、下、第十、第五十五條「登蓮ノトキ、八幡ハ元ト名付ケテ、十六族ノ文士ヲエラバレシカ如シ」

ぶんし (名) 分子 (一)〔英語 Molecule.ノ譯語〕理化學ノ語。物質ヲ細分スル時、其本質ヲ失ハズシテ、更ニ分割シ能ハサル極限ニ達スル物ト想像セラル微粒物。(二)國體ヲ構成スベキ各部分。(三)數學ニテ、分數ノ分母ニ對スル稱。ぶんぼ(分數)ノ條ヲ見ヨ。

ぶんし (名) 分詞 〔英語 Participle.ノ譯語〕西洋文法ノ語。動詞ヨリ分レテ形容詞トナルモノ。動詞ノ、名詞ノ上ニ冠ラスベキ形ヲナスモノ。

ぶんじ (名) 文事 文學ノ上ノ事。文雅ノワザ。又、學問、文教ノ上ノ事。 史記、孔子世家「臣聞、有文事者、必有武備」 十訓抄、下、第十、第五十五條「朝家ニハ文武ニ道ヲ分キテ、左右ノ翅トセリ、文事アレバ、カナラズ武備アルイハレナリ」

ぶんじ (名) 文辭 文章ノコトバ。文詞。又、文章。 史記、孔子世家「約其文辭而指博、故吳楚之君自稱王、而春秋貶之曰子」

ブンシユウ
ぶんしう (名) 文繡 美シキアヤモヤウノヌヒトリ。又、其衣服。 禮記、月令篇「乃命有司、具飾衣裳、文繡有恒」注「此謂祭服也、文謂畫也、祭服之制、畫衣而繡裳」 孟子、告子、上篇「令聞廣譽施於身、所以不願人之文繡也」

ぶんじきん (名) 文字金 〔文ノ字ノ添極印アル故ニ云フ〕元文元年改鑄セシ小判・分判ノ金貨ノ稱。其銀ナルヲ文字銀、又ハ、元文丁銀ト云フ。ぶんきん(文金)ノ條ノ出典ヲモ見ヨ。 貨幣通考「按ルニ、小判重三匁五分、分判重八分七厘五毛、文ノ字ノ記アリ、世ニコレヲ元文金トモ、文字金トモ云フ」

ぶんじ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 封込 モノノ中ニ入レテ、封ヲナス。 源、二十四、上、胡蝶「上ハ、カノ仕ニタテ集メタル頃文トモヲ、大キナルチンノ文箱ニ、ぶんじこめテ奉リタリ」 同、同八十九「何ノ箱ゾ、深キ心アラン懸想ノ、長歌ヨミテぶんじこめタル心チコソスレト宮ヘバ」

ぶんしちごま (名) 文七獨樂 ぜにおまニ(錢獨樂)ノ條ノ出典ヲ見ヨ。

ブンシチモトユイ
ぶんしちもとゆひ (名) 文七元結 元結ノ上品ナルモノ。文七ト稱スル杉原紙ノ、極メテ白ク光澤アルモノニテ製ス。〔下野ノ農民文七ト云フ紙漉ノスキシモノ、遂ニ紙ノ名トナル、コレヲ作ル者ヲ、直チニ文七ト云フ〕 本朝世事談綺、二、器用「摺元結、文七元結トイフアリ、是ハ紙ノ名也、至テ白ク艶アル紙ナレバ、此紙ニテ製スルヲ上品トス」 世事百談「紫一本ニ、永坂ノ下ニテ、文七髻結トテ、名物ノ元結ヲコシラフナリ、文七トイヘルモノノコシラヘ侍ルカトタヅネケレバ、アル老人ノ物語ニ、文七トイフハ、元結ニコシラフ杉原紙ノ印ノ名ナリト申サレキ」 類柑子(寶永)上「文七ト云フ者、元結コッてニナリメルナリ、云云、其角ガ 又ヒニ、蹈マルナ、庭ノカタツブリ」大紋ハ、晒ラスもとひニ、落ツレ雁」

ぶんしつ (名) 紛失 マギレ、ウスルコト。物ノ無クナルコト。 古言字考節用集、九、言辭門「紛失、フンシツ」

ぶんしつ (名) 文質 〔文采實質ノ略〕あやト、中みト。外觀ノ美ト、實質ト。 論語、雍也篇「質勝文則野、文勝質則史、文質彬彬、然後君子」 隋書、[illegible]「[illegible]」 李嶠、[illegible]「施恩澤[illegible]該二文質一」

ぶんしてん (名) 文之點 天正、慶長ノ頃、薩摩國、內浦ニ、僧アリ、文之ニ南浦ト號ス、ト云フ、コレガ四書ニ附ケタル訓點ノ稱。朱子學ナリ。文之ノ著書ニ、四書新注、周易傳義、南浦文集等アリ。

ぶんしば・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 縛 縛ルヲ、強ク云ヒタル語。

ブンシユウ
ぶんしふ (名) 文集 次條ノ語ニ同ジ。 南史、范泰傳「泰博覽篇籍、好爲文章、愛獎後生、

[illegible]

ぶん-しふ（名）文集 (一)文章ヲ集メタル書。又、ぶんしふニ、[illegible] 白氏文集ノ略。[illegible] 白樂天ノ詩文集ニシテ七十[illegible] [illegible] 生「ヨロヅノ御具ドモカガヤクヤウニ、漢書ノ御屏風、文集ノ御屏風トモナド、シアツメ給ヒケレバ」

ぶん-しん [illegible]

ぶん-しん [illegible]

ぶん-しん [illegible]

ぶん-しん（名）[分身] (一)一ツ身ノ、二ツニ分ルルコト。太平記、十、長崎次郎高重最期[illegible] 身シテ、漢卒ニ同ク相當リケレバ」 (二)諸佛、衆生ヲ濟度セムガタメ、方便力ヲ以テ、身ヲ十方ニ分チテ、種種ノ相ヲ現ハルルコト [illegible] (三)子ヲ生ムコト。分娩。出產。

ぶん-しん（名）[文身] 身ヲモドロクルコト。身體ニホリモノヲナスコト。イレズミ。[illegible] 後漢書、又、三國志ニ、[illegible]

[illegible] 容儀ニ、善使ヲ好ム惡少輩、文身スル、云云」

ぶん-じん（名）[文人] (一)詩文、書畫ナドノ、文雅ノ事ヲ修ムル人。文藝ノコトニ從事スルモノ。文學者。文士。[illegible] (二)文德アル人。轉ジテ、周ノ文王ヲ云フ。[illegible]

ぶんじん-ぐわ（名）[文人畫] 南宗畫ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

ぶん-しゃう（名）文相 文部大臣ノ異稱。

ぶん-しゃう（名）[文昌] (一)支那ニテ、神ノ名トス。世ニ文昌帝君、又ハ、梓潼帝トモ稱ス。[illegible] 帝命ニ梓潼ヲ掌ニ文昌府事、及人間祿籍ヲ故元加ヘ號爲[illegible] (二)ぶんしゃうせい(文昌星)ノ略。

ぶん-しょう（名）文章 (一)言語、文字ヲ連ネテ記シツヅリタルモノ。文。詩歌ニ對シテハ、句ノ字數ヲ限リ、韻ヲ履ムナドノ制ナク記シタルヲ云フ。散文。[illegible] 千古事、得失寸心知」 (二)色色ノアヤモヤウ。[illegible]

ぶん-しゃう（名）分掌 事務ヲ分ケテ掌ルコト。[illegible]

ぶんしゃう-ことば（名）[文章詞] 文章ニ使用スル言葉。(くちことば、はなしことばニ對ス) 文章語。文語。

ぶんしゃう-せい（名）[文昌星] (一)支那ニ云フ星ノ名。北斗星ノ魁前ニアル六ツノ星。[illegible] 天下ノ文運ヲ主トス。[illegible] 圖ニハ、上ニ六星ノ[illegible]ニ連ルアリ、下ニ鬼形ノ者、右ニ筆ヲ採リ、左ニ印ヲ握リ、左足ヲアゲ、振リ返リ、[illegible] 見ル狀ヲ畫ク [illegible] 六「文昌星、坊間ノ資本ノ軼標題ヲ題セシ右肩ナドニ、押印スル文昌星ト云物アリ、一鬼形ノ飛龍ノ如キ[illegible] 擧ゲタルモノアリトイヘリ、或ハ頭上ニ三連星ヲ畫クハ、或ハ文昌星ノ三字ノミ[illegible]、各朱ヲ以テ押印シテ文飾トナス」 (二)文昌星[illegible] 魁星トモ云フ。故、其名ニ因テ科第ヲ此星ニ祈ル [illegible]

ぶん-しょく [illegible]

ぶん-しゅ（名）[分手] 人ト別ルルコト。訣別。離別。沈約、樂府「分手桂林岸、送別峴[illegible]

ぶん-しゅく（名）[粉熟] 又、ふんぞく。ふぞく(粉熟)ノ條ヲ見ヨ。

ぶん-しゅつ（名）[噴出] 噴キ出ヅルコト。又、噴キ出ヅルコト。

ぶん-しょ（名）[illegible] フミ。カキモノ。[illegible]

ぶん-しょく（名）[粉飾] ヨソホヒ、カザルコト。[illegible]

ぶん-しょく（名）[分蝕] にっそく(日蝕)ノ條ヲ見ヨ。

ぶん-しょく（名）[文飾] (一)文句ノ上ノ[illegible] 篇傳「後生性愚促、惡聞過失、毎有惡事、篇必曲爲文飾、稱揚讃美」 (二)イロドリ。アヤ。[illegible]

ぶん-す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）[扮] [illegible] 擊劇)「里中雜劇、楓扮作東方朔」

ぶん-ず（動）[封] 封すノ音便。宇津保物語、嵯峨院、五十「オトドノトモニアル御文、イトヨクふんじテアリ」 源、三十四、上、若菜、上、八十「願文ド

モヲ、大キナル沈ノ文箱ニふんじコメテ」 大和物語、中「カキテふんじテ、コレヲ御帯ニタテマツレ」 枕草子、八、第八十一段「心もとなきもの、遠キ所ヨリナモフミ、ノフミヲエテ、カタクふんじタル、[illegible]ナド放チアクルホド、心モトナシ」

ぶん-すう (名) 分數 〔小數、整數ニ對ス〕數學ニテ、一未滿ノ端數ノ現ハシ方、即チ、或數aヲ、他ノ數bニテ除シタル商ヲ、$\frac{a}{b}$ナル形ニ、アラハシタルモノ。ソノ被除數aヲ分子ト云ヒ、除數bヲ分母ト云フ。

ふん-ぞく (名) 粉熟 ふぞく(粉熟)ニ同ジ。字類抄「粉熟、フンズク」注「以、米爲之」

ふん-すゐ (名) 噴水 噴キ出ヅル水。フキアゲ。フキミヅ。

ぶん-すゐ-かい (名) 分水界 方向ヲ異ニスル二ツノ河ノ相分ルル處 多ク山脈ヲ以テ界トス、其山脈ヲ分水嶺ト云フ

ぶんせい-こばん (名) 文政小判 〔背ニ草書ノ文字ヲ極印セリ、因リテ草文小判トモ云ヒテ、元文年間ノ眞文小判ト別ツ〕文政年間、江戸幕府ノ發行セシ小判金。縱二寸一分弱、横一寸一分五厘ノモノト、縱二寸五厘弱、横一寸五厘弱ノモノトノ二種アリ。文政小判金。草字小判。又、文政三年發行ノ新文字銀ニ對シ、從來ノ文字銀ヲ古文字銀、或ハ眞文字銀ト云フ。貨幣秘錄、金銀品位「文政小判金一枚、重サ三匁五分」 貨幣通考「是金ヲ文政金ト云フ、頭書、是時ノ金、紀年ノ字、文政ナレバ、文ノ一字ヲ用ユ、是迄ノ元文金ト同ジ」

ふん-ぜう (名) 紛擾 事ノミダレモツルルコト。モメルコト。紛紜。後漢書、朱浮傳「長吏多不勝任、時有纖微之過者、必見斥

罷、交易紛擾、百姓不寧、[illegible]」

ぶん-せき (名) 分析 (一)紛レタルモノヲ、ワカチ解クコト。通鑑、梁大祖紀「帝命ニ[illegible]分析」 (二)〔英語、Analysis. ノ譯語〕化學ノ語。物質ノ成分ヲ分チテ檢定スルコト。コレヲ分チテ、定性分析ト、定量分析トノ二トス。前者ハ、單ニ、物質ノ成分ノ何ナルカヲ攻究シ、後者ハ、ソレ等ノ成分ノ量ヲ測定スルモノナリ。(三)〔英語、Analysis. ノ譯語〕論理學ニテ、一ツノ概念ヲ、其屬性ニ從ヒテ分解スルコト。(綜合ニ對ス)

ふん-せん (名) 奮戰 イサミタッテ、タタカフコト。奮鬪。

ふん-ぜん (副) 憤然 忿然 (一)怒ル狀ニ云フ語。戰國策、齊策「宣王忿然作色不說」 (二)發憤スル狀ニ云フ語。淮南子、人間訓「孔子讀易至損益、未嘗不憤然而歎」

ぶん-せん (名) 分錢 分米ナドヲ、錢ニテ代納スルコト。錢幾貫文ト云フニ因リテ、田畑ニ、ソレヲ積リテ、算用シテ、貫高ト云フ(永高、石高ノ條ヲモ併ハセ見ヨ) 岩松文書、永祿四年二月廿六日、[illegible]江鄕目錄「宇田[illegible]町一段、此内一段四十歩セキメン、御公事免ノソク、以上分錢參貫九百五十七文」

ぶん-せん (名) 文錢 寛永錢ノ一種。背ニ文ノ字アリ、一文ニ當ツ。寛文二年、京都所司代松平伊豆守信綱ノ建議ニヨリ、方廣寺ノ銅大佛ヲ毀チテ鑄タルモノ、錢質甚ダ美ナリ。大佛錢。貨幣秘錄「寛文元年辛丑、京都方廣寺ノ銅佛ヲ毀チテ新錢ヲ鑄ル、裏ニ文ノ字ヲ記ス、世ニ是レヲ文錢ト云フ」

ぶん-せん (名) 文選 活版所ニテ、原稿ノ文ニヨリテ、其所要ノ活字ヲ拾フコ

ト。又、其職工。

ぶん-ぜん (名) 奉膳 〔ぶぜんノ延〕ぶぜん(奉膳)ノ條ヲ見ヨ。

ぶんせん-わう (名) 文宣王 支那唐代ニ、孔子ニ追贈セル諡號。又、宋ノ大中祥符元年ニハ、至聖文宣王ト追諡シ、元ノ大德十年ニハ、大成至聖文宣王、明ノ嘉靖九年ニハ改メテ至聖先師ト稱シ、清ノ順治二年ニハ大成至聖文宣先師ト諡セリ。又、孔子ノ後裔ノ爵ヲ、衍聖公ト云フ。是レ宋ノ仁宗ノ賜フトコロニシテ、世襲ナリ 舊唐書、玄宗紀「開元廿七年八月甲申制、追贈孔宣父、爲文宣王」 續紀、廿九、神護景雲二年七月「[illegible]使人唐、云云、國子監有二兩門、題曰、文宣王廟、云云」 平家物語、二、烽火之沙汰「君ノ爲ニハ忠アッテ、父ノ爲ニハ孝アレト、文宣王ノノタマヒケルニ違ハズ」 百日曾我(元祿、近松作)一「文宣王ハ、大野ニ狩シテ麒麟ヲ獲」

ぶん-そ (名) 分疏 (一)箇條ヲ立テテ説クコト。品字箋「分疏、即條陳也」 (二)マウシワケスルコト。イヒワケ。辨解。資治通鑑(宋、[illegible])「世俗自辯解曰分疏」 漢書、袁盎傳「夫一日即門、不以親爲解、師古曰、解若今言分疏矣」 方岳詩「却令閑處費分疏」

ぶん-そく (名) 文則 文章ノ規則。句法文體ノ法則。文心雕龍(梁、劉勰)「九代詠歌、志合文則、黃歌斷竹、質之至也」

ふん-ぞべ-る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 仰ギテ臥ス。浮世風呂(文化、三馬)二編、下「トボロヲマタグガ早エカ、大ノ字ニ踏んぞべッテ」

ぶん-そん (名) 分村 本村ヨリ分レタル村。デムラ。新在家。

✣ふんぞり-かへ-る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 踏反返 次條ノ語ニ同ジ。

✣ふんぞ-る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 踏反 〔ふみぞるノ音便〕足ヲ前ヘ踏出シテ、體、後ヘ反ル。フンゾリカヘル。

ふんだ (名) 札 〔ふみた(札)ノ音便〕ふだ(札)ニ同ジ。名義抄「札、フムダ」 碑、フムタ、シルス」 靈異記、中、第十縁、訓釋「[illegible]」 [illegible]

ふん-たい (名) 粉黛 (一)おしろいト、まゆずみト。(二)假粧スルコト。北史、[illegible] (三)轉ジテ、美人ノ稱。白居易、長恨歌「回眸一笑百媚生、六宮粉黛無顏色」

ぶん-たい (名) 文體 文章ノ體裁。又、文章ノ題ニ因リテノ書方、敍事文、議論文アリ、又、序、跋、論、記、說、辨、銘、表、傳、等ノ別アリ、又、四六文、散文アリ。各條ニ註ス。ブンテイ。晉書、王隱傳「隱雖好著述、而文辭鄙拙、蕪舛不倫、其書次第可觀者、皆其父所撰、文體混漫、義不可解者、隱之作也」 宋書、謝靈運傳、論「自漢至魏、四百餘年、辭人才子、文體三變、相如巧爲形似之言、云云」

ぶん-たい (名) 分隊 小隊ヲ分割シタル一部分。

ぶん-だい (名) 文題 (一)文章ノ題目。(二)作文ノ題。

✣ぶん-だい (名) 文臺 蓋ヲアヲムケニ、懷紙、短冊ナドヲ載スルモノ。後ニ、文机ノ小サクシテ、高サ五六寸ノモノ。歌合ニ、短册ナドヲ置クニ用ヰル。矮几 源、四十八、寄生「ハ寄紙サシテ歌トモ奉ル、ぶんだいノモトニヨリツツ、云云」 山槐記、治承二年六月十七日、內御作文「文臺上、置二朝餉御硯

[illegible]於テ文筆上ニ退」
[illegible]
タル文筆ニテ、論ゼラレテ作リシ詩、云云」

ぶんたく [illegible] 名。ふくだもち(福田餅)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]北條語(福田忠任)五「俗ニ、餅ヲぶんたくト云フハ、餅飪ノ音ノ轉ズルナリ」

ぶんだく・る [illegible](他動、四) ウバヒトル。取ル。強奪ス。

ぶんたつ (名) 聞達 [illegible]聞ニ、聞エアラハルルコト。評判セラルルコト。南史、[illegible]

ぶんたん (名) 〔分擔〕 物事ヲ分チテ、負擔スルコト。

ブンタン (名) 文旦 文橙ノ唐音) ざぼん、香欒ノ一名。其條ヲ見ヨ。暖地ニ生ズ。[illegible]ニテハ、ぶんたんト文旦ト呼ビナセリ。薩摩ノ阿久根ニテ、皮ヲ砂糖漬ニシタルヲ、文旦漬ト云フ。筑前ニテ、ウチムラサキ(内紫)ト云フ。 福岡府志、十九、果之部、補、云云、其[illegible]、文旦、出長崎、[illegible]

ぶんたん (名) 文談 (一)文學上、又ハ、文章上ノ話 晉書、張充傳[illegible] (二)書状ニヨリテノ相談

ぶんたん (名) 文壇 (一)文藝ノ壇場、又、文學者ノ社會 騷壇 詞壇 文場。文藝界 (二)文人ノ集會スル場所

ぶんだん (名) 〔分段〕 (一)物事ノ段落。キレメ。(二)佛教ノ語。凡夫ノ身。凡夫ハ六道[illegible]ニテ、[illegible]果報ヲ受ク、身ナル故ニ云フ。分段ノ身。[illegible]ナレ共、欲レ借分段ノ音也」 (三)佛教ノ語。分段生死 平家物語、十一、[illegible]マンキカナ、ぶんだんノアラキ波、[illegible]シヨリ此方、冥冥トアル苦海ニ沈ミ、云云」 百日曾我[illegible]分段ノ凡身ニハ、[illegible]リ、仇アリ、貪瞋アリ、善惡上下ノシナジナモ、云云」

ぶん・だん・に (副) 〔ふだん(不斷)ノ音便〕 多ク。澤山ニ。タントト。浮世風呂(文化、[illegible])二編、上「オ高ガヨイ所爲カ、御富貴デゴザイマシテネ、オアテガヒカラ何カマデ、萬事ガふんだんテゴザイマス」

ふんたる・ダルマ (名) 〔ふんたるハ、ふんだんノ訛〕 兒童ノ口ズサミニ、ふんだるたるまノ、角マデナコト云フ語。 嬉遊笑覽、六、下、兒戲「小兒ノ謎ゴトニ、[illegible]ニふんだるだるまガ、赤イ頭巾カブリ、フンマイタ(スンマイタノ訛)トイヘリ」 河内名所鑑(延寶)「夜モ晝モ、ふんだん達磨ハ、面太子ノ、法ノ光ハ、絶エヌ常燈ニ」 よものあか(文化)「達磨ノ一葉ノ猪牙ニ乘リテ、九年面壁ノキツヅケトハ、汝ガ尻ノクサレ縁カ、金ガふんだんだるまナルカ、カラカラ、喝」

ぶんち (名) 分地 土地ヲ分チテ、子弟ナドニ與フルコト。又、ソノ分チタル土地。分割地 史記、匈奴傳[illegible] 漢書、高后紀[illegible]

ぶんち (名) 文治 教化、又ハ、法令ニヨリテ、政務ヲ扱フコト。文道ヲ以テ、國家ヲ治ムル政治 禮記、祭法[illegible]文王以文治、武王以武功」[illegible]

ぶんち (名) [illegible] 聞キテ心得居ルコ[illegible]

ぶんちん (名) 文鎭 [illegible]ラヌヤウニ、壓シトスル具。鐵、石、ナドニテ、方形、長形、又ハ、[illegible]ナドニ作ル。ケイサン。ケサン。書鎭 壓尺 [illegible]

ぶんちやう (名) 蚊帳 かや(蚊屋)ノ條ヲ見ヨ。 (鳳凰紫、牡丹白)、左近御獻上了」

ぶんつう (名) 文通 手紙ノ往復。音信 書信 [illegible]節用集、九、言辭門「文通、ブンツウ」

ふんづき (名) 〔七月〕 ふみづき(七月)ノ音便。其條ヲ見ヨ。 源、十三、明石六「[illegible]心ボソク思サレケレバ、七月廿ヨ日ノホドニ、又カサネテ京ヘ歸リ給フベキ宣旨クダル」 蜻蛉日記、中、[illegible]ノふんづき、トモナヒ[illegible]ヒタレバ、サナリト答ヘテ、云云」

ふんづくゑ (名) 〔文机〕 ふみづくゑ(文机)ノ音便。略シテ、ふづくゑ。

ふんづ・ける (動) 蹈附 「ふみつける(蹈附)ノ音便」 ふみつく(蹈附)ノ口語。

ふんづまり (名) 〔糞詰〕 大便ノ滯リテ通ゼザルコト。秘結 便秘。

ふんで (名) 筆 「ふみて(文手)ノ音便」 ふで(筆)ニ同ジ。 名義抄「翰、フムデ」筆、フムデ、フデ」毫、フムデ」

ぶんてい (名) 〔文體〕 文章ノカキザマ。雅文、俗文、書簡文ナドヲ作ル、各、其法アルヲ云フ。ブンタイ。 [illegible](文保、近松作)ニ「サリトテハ[illegible]モナキ此ノ文體」

ぶんてう (名) [illegible]

ぶんてん (名) [illegible]ル書。語學ノ書。

ぶんてん (名) 〔分店〕 〔本店ニ對ス〕 デミセ。支店。

ぶんてん (名) [illegible]文[illegible]ノ略稱。明治四十二年創設、大正八年ヨリ帝國[illegible] 帝展トナル

フント (名) 磅、Pfund. Pound 英國ノ一封度、露西亞國ノ重量單位ノ名。我ガ約百廿一匁ニ當ル。

ふんど (名) 〔糞土〕 (一)穢レタル土。キタナキ土。 論語、公冶長篇「朽木不可雕也、糞土之牆不可杇也」 (二)賤シムベキモノ。[illegible]

ふんど (名) 忿怒 [illegible] 立腹 [illegible]

ぶんと (副) 蚊ナドノ飛ブ音ニ云フ語。[illegible]

ぷんと (副) (一)臭氣ナドノスル狀ニ云フ語。(二)忿怒スル狀ニ云フ語。

ふん-とう (名) 奮鬪 (一)フルヒタタカフコト。奮戰 宋史、呉挺傳「挺、奮騎、撲ニ將兵、奮鬪」 (二)困難ナドニ對シテ、ハゲミ勉ムルコト。努力スルコト。

ふん-とう (名) 噴騰 噴キ出シアガルコト。フキアガルコト。

ふん-どう (名) 分銅 (一)ふんどん(分銅)ニ同ジ。書言字考節用集、七、器財門「分銅、フンドウ、又作二分等一、本名法馬」貨幣秘録、一「今造ル所ノ分銅秤ハ、慶長年中、幕府御命ヲ以テ、今ノ座方ノ祖ニ造ル事ヲ免許セラル、分銅ノ形、如レ今表ニ兩銘アリテ、[illegible]秤目ト云フ」 (二)古ヘ、秤ノ分銅ノ如キ形ニ鑄造シタル金銀塊 不時ノ用ニ供セシモノト云フ 永禄已來出來初之事「秀吉御代之事、一、金之千枚分銅」當代記、六「慶長十三戊申年十月、東山大佛、來年可レ被レ立トテ、云云、秀賴ムヨリ金銀材木被レ出、此タメニ黃金ノ千枚吹ノふんどうヲ江戸ヘ被レ下、云云」 (三)南鐐ノ二朱判ノ俗稱。裏面ニ分銅ノ形ヲ刻レリ。 (四)細太刀ノ鍔。形ヨリ云フカ。

ぶん-どう (名) 文豆 又、ぶんどうまめ (一)やへなり(八重生)ニ同ジ。マサメ。東雅、十三、殺蔬「豆、綠豆、俗ニぶんどうトモ、やへなりトモイフモノ是也」 物類稱呼、三、生植「綠豆、ぶんどう、東國ニテ、やへなりト呼、又どうろく共ヨブ、畿内ニテぶんどうト云」 (二)ゑんどう(豌豆)ニ同ジ。

ぶん-どう (名) 粉豆 豆ヲ粉ニシテ用ヰルモノ 東雅、十一、穀蔬「豆、或說ニ、ぶんどうトハ粉豆也、其豆ノ餌トナスニ宜シキヲイフ」

ぶん-とく (名) 文德 文事ノ德。學問、文教ノ德。(武德ニ對ス) 易經、上象傳 風行ニ天上ニ小畜、君子以懿ニ文德ニ」 書經、大禹謨篇「帝乃誕敷ニ文德一、舞ニ干羽于兩階ニ」 詩經、大雅、蕩之什、江漢篇「明明天子、令聞不レ已、矢ニ其文德一、洽ニ此四國ニ」

ふん-どし (名) 犢鼻褌 褌 「ふみとほし(蹈通)ノ音便、膚袴ニ兩足ヲ蹈通シタル名ノ移リシナリ、安房ノ外房地方ニテ、へさし、内房ニテ、たうさぎ、とくびこん(犢鼻褌)ノ條ヲモ見ヨ」 (一)男子ノ陰部ヲ蔽ヒ隱ス布 下帶。シタノオビ。ハダノオビ。マハシ。フドシ。タンナ [illegible] 相撲ニ、[illegible] 倶ニ[illegible]上、[illegible]ナリ、ふんどしバカリニナリ」 好色一代男(天和、西鶴)七、遊所の事を云ひて「日野ノ洗濯着物、ふんどしノカキカヘモナキ人ノ行ク所ニアラズ」 安永の川柳「娘ノ生醉、ふんどし、目立ツナリ」(女のゆもじ) 湯具ニ用ホルヲ、特ニ、風呂ふどしト云フ。 犬子集(寛永)「別レヲ惜ミ、引クはなの帶イッカマタ、逢ハント思ル、風呂ノ口」 (二)越中ふんどしト云フハ、綿布三尺餘ナル一端ヲ袋縫ニ縫ヒクケ、紐ヲ通シテ、背ノ腰ニ當テ、紐ヲ前ヘ廻ハシテ結ビ、布ノ他端ヲ、股ヲヨリクグラセテ、前ノ紐ノ内ニクヾフス。昔ハ其兩端ニ紐ヲ附ケテ頸ニ繫ク。其名稱ノ起リハ、細川越中守忠興ノ[illegible]ノ創意ナリトモ云ヒ、其他、諸說アリ、湯具ノ條ヲ見ヨ) (三)畚ふんどしト云フハ、布ノ四隅ニ紐ヲ付ケ、足ヲ蹈ミ通シテ紐ヲ結ブモノ 昔ハ其紐ヲ頸ニ繫ク [illegible]良玉藻、十九、伊藤[illegible]老實の[illegible]、細川[illegible]戰究[illegible]の下帶の事に就きて「功者ナル心掛ノ者ハ、下帶ノ結ビ目ノ前ニ緒ヲ付ケ肩ニカク、或ハ、前ノタレノハシニ緒ヲ付テ首ニカケ、もッこふんどしト申シ用ヒ候、[illegible]ニモ掛ケ帶チヌ用心ナリ」 守貞漫稿、十四、男服、下「貫褌、云云、もッこふんどしト云、形畚ニ似タル故也、前後ヲ竪テ、是ニ紐ヲ通シ、或ハ左、或ハ右ニ結ブ、女[illegible]二用、之由ヲ聞ク」 (四)蟹ノふんどしトハ、即チ、蟹ノ腹部ニアル生殖器ノ蓋板

ふんどし-かつぎ (名) 褌擔 關取ノ褌ヲ擔グヨリ云フ」 (一)相撲取ノ下級ナルモノノ稱。 (二)轉ジテ、其部内ニ於テ、最下級ナルモノノ稱。

ふんどして (名) 褌手 字ノ掛キコトヲ戲レ云フ語。 [illegible]用ニ[illegible]、[illegible]五[illegible]「如何ナル[illegible]ニカセヨ、[illegible]トイフ手ヂャトイフ、ソレハ如何ナルコトゾトイヘバ、今ノ世ニ男モヒレ、コレ[illegible]ハナイニヨテ、コレヲ褌手トゾ笑ヒケル」

ふん-どん (名) 分銅 「字ノ音ノ音便」 天平秤ノ一方ノ皿ニ載セテ、他方ノ物ノ輕重ヲ比ベ知ル具 銅ニテ作ル 形、楕圓ニシテ厚ク、左、右、括ル 大小數箇ヲ具フ。フンドウ。駝馬。法馬

ぶん-どり (名) 分捕 (一)ブンドルコト 戰場ニテ、敵ノ首ニ、大小、刀、兜ナドヲ添ヘテ、取リ來ルコト 盛衰記、十七、[illegible]、[illegible]中前[illegible]力頭、搖保近平六、四郎、分捕ニシタリト叫ビケリ」太平記、十七、山門攻事「一太刀モ敵ニ打チヘテ、陣ヲ破リ、分捕ヲモシタランズレ者ヲバ、凡下ナラバ侍ニナシ、云云」義經記、四、土佐房[illegible]の討手にノボル「後々ヲ初トシテ、生捕、分捕思ヒ思ヒニソシケル」 分捕高名 (二)轉ジテ、敵地ノ物ヲ掠メ取ルコト 抄掠 (三)戰利品 鹵獲

ぶん-ど・る ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 分捕 分捕ヲナス。鹵獲スル

ぶん-ない (名) 分内 定メラレタル領分ノ内。(場所ノ内) 保元物語、一、主上、[illegible]幸ノ事「[illegible]ハ、高松殿ナリシカバ、分内狹クシテ、便宜惡シカリナントテ、俄ニ東三條殿ヘ行幸ナル」

⁂ぶん-なぐる (動) ブチナグル。ナグル。

ふん-ぬ (名) 忿怒 ふんど(忿怒)ニ同ジ。[illegible]、[illegible]、云云、外ニハ、忿怒ノ相ヲ現ズト雖、[illegible]心[illegible]ノ[illegible]、[illegible]不[illegible]ノ理ヲアラハシ」 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)一「忿怒ノ前ニハ、[illegible]ヲヒ サケテ、隣[illegible]ノ[illegible]ヲ[illegible]ス事アリ」

ぶん-ぬ・く ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 打拔 うちぬく(打拔)ニ同ジ。

ふん-ぬん (名) 紛紜 ふんうん(紛紜)ノ連聲 其條ヲ見ヨ。

⁓ふん-のつかさ (名) 書司 ふみのつかさノ條ヲ見ヨ。 職中抄、下、女官「書司一頭、十七、[illegible]合ノ[illegible]カタノ華ナウシキ程ナルニ、ふんのつかさノ御琴メシ出テ、權中納言ワゴン給ハリ給フ」

ぶん-ぱ (名) 分派 分ルルコト。エダワカレ。エダハ。 [illegible]詩「[illegible]分派」 張衡、[illegible]、[illegible]川[illegible]分派、引[illegible]水以回[illegible]池」

ぶん-ぱい (名) 分配 (一)ワケクバルコト。配分。 [illegible]、[illegible]紀、[illegible]將、[illegible]人、[illegible]分[illegible]前將、[illegible]下藍」 (二)英語、Distribution ノ譯語。經濟學ノ語。財貨生產上ノ利得ヲ報酬トシテ、其生產ニ參加シタル者ニ分配スルコト 即チ、其利益ヲ生產ノ要素タル自然、資本、勞力ノ三者ニ分チ與フルコト。自然ニ與フルモノハ地代、資本ニハ利潤、勞力ニハ給料ナリ

ぶん-ばう (名) 文房 (一)文書ヲ作ル室。南史、江革傳「任昉與、革書云、比聞、雍府妙選ニ文房之職、總ニ卿昆季」 (二)讀書ノ室。書齋。書房。 杜牧、詩「[illegible]、[illegible]金門[illegible]文房ニ」

ぶん-ばう-ぐ (名) 文房具 讀書室ニ必須ナル具。即チ、筆、紙、墨、硯、ナドノ類ナリ。文具。

ぶん-ばく (名) 文莫 論語、述而篇「文莫吾猶レ人也」集解「莫、無也、文無者猶」

俗言ニ多ク[illegible]、文書不レ通ノ人」ト云フヨリ出ヅ」無智ナルコト。下學集、[illegible]

ふんはぇ [illegible]ノ音便。名義抄「匣、フムハコ、篋、フムハコ」

〜ふんばさみ (名) [文挾] ふみばさみ(文挾)ノ音便。[illegible]ハサミテ、出立チ給フ」

ふんはつ (名) [奮發] (一)心ヲフルヒオコスコト。ヤッキトナルコト。後漢書、伏湛傳[illegible] (二)憤リ切ッテ金品ヲ出スコト。ハリコムコト。ハヅムコト。

〜ふんばなち (名) [蹈放] オトシ。おし(押機)ノ條ヲ見ヨ。天武紀、下、四年四月「制諸[illegible]

ぶんぱふ (名) [文法] (一)文章ヲ作ル起結、照應、波瀾、頓挫、等ノ法。[illegible]文字ノ形、及、[illegible]、詞語ノ成立、及、變化、并ニ、文章中ニテ、言語ノ互ニ相關係結合スル法ナドヲ説ク學。語學。[illegible]法令ノ成文。法文。法制。史記、酷吏傳[illegible]自己、弘、大體不レ拘二文法一[illegible]傳、成宣「故盜賊寖多、上下相爲匿、以避二文法一焉」

ふんぱん (名) 噴飯 [illegible]失笑シテ、口中ノ飯ヲ噴キ出ス義[illegible]フキダシ笑フコト。[illegible]

ふんばり [illegible] 蹈張 [illegible]ヲ、バルコト[illegible]下等ノ賣淫婦、又、野卑ナル女ヲ罵リテ云フ語。(下野國足利地方ニ[illegible]機織女ヨリ出デタル名カト云フ) 大津繪節「二人連レ、ふいト出テ、淀川ノ福井町ノふく[illegible]タ、ホイ、忘レタふるふんどし」[illegible]ケレバ、ふんばりメ、血迷ウテ何ヌカス」

ふんば・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [蹈張] [ふみはる(蹈張)ノ音便] (一)跨ヲ開キ、力ヲナシテ[illegible]蹈張[illegible]上リ、大音聲ヲアゲ」(二)堪フ。耐ヘル。

ぶんび (名) [illegible] 學問、文教上ノ用意[illegible]孔子世家[illegible]

ぶんぴ (名) [分泌] (一)液ノ分レテ浸ミ出ヅルコト。(二)生理學ニテ、生物體内ノ分泌物[illegible]、腺ヨリ輸出管ニテ體外ニ排出スルヲ外分泌ト云ヒ、其分泌物ガ輸出管ニヨラズニ、直接、血液中ニ入ルヲ内分泌ト云フ。

ぶんぴつ (名) [文櫃] ふみびつ(文櫃)ノ音便[illegible]

ぶんぴつ (名) [分泌] ぶんぴ(分泌)ニ同ジ。

ぶんぴつ (名) 分筆 一筆ノ土地ヲ、分ケテ數筆ニナスコト。フデワケ

〜ぶんぴつ (名) 文筆 筆ヲ執リテ、詩歌、文章ヲ書キツヅルコト。又、ソノ書キツヅリタルモノ。[illegible]

〜ふんひと (名) [史] ふみひと(史)ノ音便[illegible]

ぶんぶ (名) 文武 [illegible]文事ト、武事ト。又、文道ト、武道ト。[illegible]下、第十、第五十五條「朝家ニハ文武二道ヲ分キテ、左右ノ翅トセリ、文事アレバ、カナラズ武備アルイハントナリ[illegible]名ヲアゲ給ヘバ、文武二道ノ忠臣、云云」(二)文[illegible]

ぶんぷ (名) [分付] 分ケ渡スコト。[illegible]

ぶんぷ (名) [分賦] フリワクルコト。ワリツクルコト。

ぶんぷ (名) [分布] 分カレヒロガルコト。又、ワカチシクコト。配置。宣和書譜[illegible]已分布」

ぶんぶくちゃがま (名) [文福茶釜] (一)上野國、館林ノ茂林寺ニ現存スル狸ノ化シタリト云フ茶釜。同寺ノ什物ノ一トス。[illegible]茶釜トハ、イカナル物ゾ、字ハ分福トモ書クヤラン」本朝俗諺志[illegible]度水ヲサセバ、五七日ガホド涌出デ、水ヲサス事ナシ、常ニぶんぶく、ぶんぶくト沸キケル」(二)海産動物ノ一[illegible]類ニテ、形、[illegible]

ぶんこつ [illegible] 禮樂、典章ナド、スベテ一國ノ文化ニ關[illegible]

ふんぷん [illegible]

ふんぷん [illegible]

ぶんぶん (副) 烈シク風ノウナル狀ニ云フ語

ぷんぷん (副) (一)蠅ノハゲシキ狀ニ云フ語[illegible]ハ、ぷんぷんト匂ヒテ、下男ノ鼻ヲウガチ」(二)大イニ怒リ不平ナル狀ニ云フ語。

ぶんべい (名) [分袂] タモトヲ分ツコト。人ト別ルルコト。別離。[illegible]

ふんへいほふつ (名) 粉本[illegible]粉本、粟本、米本[illegible]云云、白與黒[illegible]支那ノ天子ノ十二章ノ服ニ、コレヲ繪ニアラハセリ。こんりゅう[illegible]

ふんべつ（名）|分別| （一）諸ノ事ヲ心ニワキマフルコト。カンガヘ。思量。法華經、方便品「非思量分別之所能解」 七、末「言分別者、有漏三界心心所法」 狂言記、店藥「他國ヲ致サウカ、但シ淵川ヘデモ身ヲ投ゲウカト、トツ追ヒツ分別ヲ致ストコロ」 甲陽軍鑑、九、品第廿四「上山本勘介工夫シテ申故、信玄ノ息女、晴信者智カル、勘介カ分別ノ如ク、諸人皆コレヲ悦ブ」（二）俳優ノ、鰹魚節ヲ云フ隱語。

ぶんべつ（名）分別 物事ノ類ヲ分クルコト。又、切リハナスコト。淮南子、齊俗訓「□□人□、別□也、□□□之斷削□柄也、穿鑿之切割分別也、曲得其宜而不折傷」

ふんべつくさし（名）|分別臭| 智慧ダテスルコト。

ぶんべん（名）|分娩| 〔正字通「娩、婦産子、通作挽」〕子ヲ産ミオトスコト。產。出產。分身。

ふんぼ（名）墳墓 〔急就篇「墳、封土也、墓、壙穴也」〕（一）ハカドコロ。ツカ。墓所。つか。塚。及、はか。墓ノ條ヲモ見ヨ。 史記、司馬相如傳「□□□□□□□分、魂無歸而不食」 淮南子、兵略訓「乃令軍師曰、毋伐樹木、毋抉墳墓」 倭名抄、十四、葬送具「墳墓、□□□□□、四」はか、墓、□加」 □□□□□「墳墓、墓所、思フニ、墳墓ノ字、ソノ意ハ異ナレトモ、スベテ波加ト訓ムニタガヒナシ、字ヲイハバ、屍ヲ埋ミタル所ヲ墓トイヒテ、ソノ上ニ土ヲアツメテ山ヲ築ヲ墳トイフ」（二）先祖代代ノ墓ノアルトコロ。又、故鄕。フルサト。故國。 史記、留侯世家「天下游士、離其親戚、棄墳墓、去故舊」 墳墓ノ地「墳墓ノ國」

ぶんぼ（名）|分母| 〔分子ニ對ス〕數學ノ語。分數ニテ、$\frac{a}{b}$ ニオケル b ノ稱。ぶんすう（分數）ノ條ヲモ見ヨ。

ぶんぼく（名）文墨 詩文、書畫ナドノ

道。又、文筆。 史記、蕭相國世家「今蕭何未嘗有汗馬之勞、徒持文墨議論、不戰、顧反居臣等上、何也」 杜甫、杜鵑行「□□□□□□□□、張濁杜周起文墨小吏」

ぶんぼてう（名）|蚊母鳥| かすひどり（蚊吸鳥）ノ條ヲ見ヨ。 和漢三才圖會、四十一、水禽「蚊母鳥、吐蚊鳥、本綱、蚊母鳥、江東多之、生池澤茄蘆中、大如鷄、黑色、其聲如人嘔吐、每吐出蚊一二升云云」

ふんぽん（名）粉本 （一）〔古ク胡粉ヲ用ヰテ下繪ヲ畫キ、後、墨ヲ施シタル故ニ云フ〕畫ノ草案。シタヱ。 圖繪寶鑑（元、夏文彥）「古人畫稿謂之粉本、前輩多寶蓄之、□宣和紹興所藏粉本、多有神妙者」 圖畫見聞誌（宋、郭若虛）「宋泉、工畫佛道、有白畫菩薩粉本坐神等像、傳於世」 好古小錄、上、書畫「賢聖障子粉本、書者姓名不傳、但、正和前粉本也」（二）手本。

ぶんまい（名）|分米| （一）祿米ヲ子弟ナドニ分チ與フルコト。（二）昔、田畑ノ地質、段別ノ多少、收穫ノ多寡ナドニ應ジテ課スル租米。（分錢ノ條ヲ併ハセ見ヨ） 地方凡例錄、一、分米「一村之中ニ而、上、中、下、所所之畝歩之高ト云フ時、此分米、何程ト唱フルナリ、云云、一村之内、所所ノ畝歩之分ニ、掛リタル米ヲ附ケルト云フ心ニテ、分米ト唱フル也」 地方落穗集、四、分米高辻と云事「分米ト云ハ、反別ニ其位切ニ石盛ヲカケ、上ノ分米何程、中ノ分米何程、下ノ分米何程ト、上下ノ米ヲ仕出スニ付、分米ト云」

ふんまつ（名）粉末 コ。コナ。細末。 □□□□「粉末爲四體、春風爲生涯」

ぶんまはし（名）|規| 〔振廻ノ轉カ、或ハ云フ、筆廻ノ略ト〕（一）正シキ圓形ヲ作ル具。直キ竹ヲ幹トシ、支出デテ、斜ニ外ヘ垂ル、支ニ、筆ナドヲ繼ギテ、幹ヲ立テ支ヲ廻ハセバ、圓キ線ヲナス。古制ナルハ、尺ノ中心ニ錐ヲ立テテ廻ハシタリト云フ。今ハ金屬製モア

リ。コンパス。|兩脚器| 慶長八年日葡辭典「フンマワシ、コンパス」 和漢三才圖會、廿四、百工具「規、俗云、不無末波之、根發子、云云、近頃異國、來于長崎之器、以鐵作之」 盛衰記、三十七、一谷落城事「卯ノ花ニ郭公書キタル扇紙、云云、急ギ張リケル程ニ、分廻シヲ隱シ樣ニ充テテ、郭公ノ中ヲ切リ」（二）廻舞臺ノ條ヲ見ヨ。

ふんまへる（動）蹈 〔ふまへる（蹈）ノ音便〕ふまふ（蹈）ノ口語。 淋敷座之慰、昔大黑舞「一二俵ヲふんまへテ、ニコニコ笑テ」

ふんまん（名）|忿懣|憤懣| イキドホリモダユルコト。イキドホリ。 司馬遷、報任少卿書「不得舒憤懣以曉左右」

ふんみやうに（副）|分明| 少シモ疑ヒナキ狀ニ云フ語。アキラカニ。サダカニ。ハキト。ブンミヤウニ。ブンメイニ。明白ニ。 盛衰記、四十二、六條北政所使事「京ヨリハ誰人ノ御許ヨリ、屋島ノ何レノ御方ヘゾト問ヘバ、イヤ只ト云ヒテ、イト分明ならズ」

ぶんみやく（名）|分脈| 分レタルスヂ。分派シタル脈。「尊卑分脈」（書名）

ぶんめい（名）|分明| アキラカナルコト。サダカナルコト。ハキトセルコト。 史記、秦始皇紀「咸承聖志、貴賤分明、男女禮順、愼遵職事」 杜甫、花鴨詩「羽毛知獨立、黑白太分明」

ぶんめい（名）|文明| 〔英語、Civilization.ノ譯語〕文學、知識、教化ナド善ク開ケテ、政治甚ダ正シク、百般ノ事物、完備シテ、風俗最モ善キコト。又、人智、進歩シテ、禮儀□□ノコト。 易經、文言傳「見龍在田、天下文明」 同、大有象傳「其德剛健而文明、應乎天而時行」 書經、大禹謨「文命敷于四海」

ぶんめん（名）|文面| フミノオモテ。又、文章ニ記シタル趣意。

ぶんもち（名）|分持| ぶもち（分持）ノ音

便。其條ヲ見ヨ。

ふんもん（名）|噴門| 胃ト食道トノ間ノ部分。いうもん（幽門）ノ條ヲ見ヨ。

ふんや（名）文屋 ふみやノ音便。學問スル處。約メテ、ふや。學校。學官。大學寮。 官位令「□□□、□□、□□」 □□□、下、四年正月「大學寮□□」 紫式部日記「ク、リノ女官ニテ、大學寮ナドサカシダチオラギ居タリ」

ぶんや（名）文野 文明ト、野蠻ト。開ケタルト、開ケザルト。

ぶんや（名）分野 〔支那、古代ニ於テ、王者ノ列國ヲ封ズルヤ、天ノ列星ノ位ニ配當セシニ基ヅク〕（一）古キ天文地理學ノ語。天ノ星宿ノ各定レル分度ヲ守リテ亂ルルコトナシ、其羅布ノ配置セル天上ノ區分ノ稱。 國語、周語「歲之所在、則我有周之分野也、月之所在、辰馬農祥也、我太祖后稷之所經緯也」 周禮、春官、保章氏「掌天星、以志星辰日月之變動、以觀天下之遷、辨其吉凶、以星土辨九州之地、所封封域皆有分星、以觀妖祥」注「九州中諸國中之封域、於星亦有分焉」 □□□□□□□□□□三百六十五度ノ分野外レズ、天ニ現レ、其ノ國國ノ法ヲ示ス」（二）轉ジテ、宿リ。トマリ。 謠曲、雜事「トウトウ御歸リ候ヘ、思ヒモ寄ラヌ分野カナ」（三）アリサマ。 下學集、下、言辭門「分野、アリサマ、有様也、日本天台宗之論者也」

ぶんやづかさ（名）大學寮 又、ふんやのつかさ。ふむやづかさ。だいがくれう（大學寮）ニ同ジ。 天智紀、十年正月「以小錦下、授學職頭」 □□□、□□年中行事、二月上卯、釋奠□□□、□□□□、ふん屋のつかさノ奉レル昨日ノ釋奠ノ胙」

ぶんやぶし（名）|文彌節| 俗謠ノ一種。元祿年中、京ノ人、岡本文彌ニ始マル。

[illegible] 佐渡ニ文𩕄節トテ傳ハレリ。竹[illegible]世ニ鳴ラレシ也」

ふんや-わらは [illegible] モノナラフヒト。（大學寮ノ學生ハ、年十三以上、十六以下ヨリ入校スト）[illegible]

ふんゆう [illegible] 分ハ聚マル意、ふんようト訓ムヲ正音トス」 水ナドノ[illegible]ルコト [illegible]

ふんゆのき [illegible] 竹樹 「村樹ハにれのきナリ、此樹ノ皮白キヨリ白楡トモ云フ、コレ天上、又ハ、仙人ノ居ニアルト云フヨリ、神聖ナル神社、又ハ、仙洞ノ御所ナドヲ稱スル語」 上皇、又ハ、法皇ノ御住居。[illegible]

ぶんよ（名） 分與 分チ與フルコト。[illegible]

ぶんらい（名） 蚊雷 [爾雅翼（宋、羅願）]「[illegible]者、蓋水中子所化、嘗ニ人肌膚、其聲如雷」 多クノ蚊ノ集リ鳴ル聲ヲ雷ト見ナシテ云フ語。 周必大詩「[illegible]」

ふんらん [illegible] 紛亂 [illegible] コト。又、マギレ、モツルルコト。 戰國策「所貴ニ於天下之士ニ者、爲ニ人排ニ患釋ニ難、[illegible]」

[illegible]

ぶんらん（名） 紊亂 ミダルルコト。又[illegible]

ぶんり（名） 文理 （一）キサ。スヂメ。[illegible]（二）文章ノスヂミチ。文脈。

ぶんり（名） 分理 イヒワケスルコト。[illegible]

ぶんり（名） 分離 分レ離ルルコト。又、分ケ離スコト。 戰國策[illegible]

ぶんりう（名） 分流 （一）エダガハ。支流。[illegible] 司馬相如、上林賦「[illegible]乎八川分流、相背而異態」（二）エダワカレ。分派。

ぶんりん（名） 文林 （一）フミノハヤシ。文學者ノナカマ。文苑。文壇。[illegible]（二）詩歌、文章等ヲ多ク集メタルモノ。 林下偶談（宋、吳子良）[illegible]（三）茶入ノ一種。茄子（唐物ニテ一ニ次グ品物 [illegible]

ぶんりやう（名） 分量 （一）秤ニテ計ル輕重ノ嵩。目方。（二）ホド。程度。分限。 宋史、[illegible]

[illegible]（文保、近松作）中「大ハ土[illegible]デ約喰ヘド、[illegible]ノ[illegible]セヌハ、身ノ分量ヲ知ッタルユヱ」

ぶんりやく（名） 文略 文句ヲ省クコト。

ぶんるい（名） 分類 [illegible]ケ。種類ニヨリテ分別スルコト。類ニ[illegible]

ふんれい（名） 奮勵 奮厲 （一）フルヒ、ハゲムコト。（二）フルヒ、ハゲマスコト。激勵。[illegible]

ぶんれい（名） 文例 文言ノ書方ノ例。文章ノ書方ノ標準。

ぶんれつ（名） 分裂 （一）[illegible]コト 又、[illegible]サクルコト [illegible]（二）動物學ノ語。一箇體ガ二箇體ニ分カルルコト。

ぶんれつ（名） 分列 [illegible]ルコト。[illegible]

ぶんれつ-しき（名） 分列式 觀兵式ナドニテ、隊形ヲ分列シテ、檢閱者ノ前ヲ通過シ、規定ノ敬禮ヲ行フコト

ぶんわ（名） 文話 [illegible]詩話ニ對ス」 文章ニ關スル談話。又、文學ニ關スルハナシ。

ぶんゐ（名） 文位 動位ニ對シ[illegible] 位ノ稱。 式部省式、上「凡勳位朝參者、服ニ文位服ハ列ニ當位次第ハ若無ニ文位ハ着ニ黃袍ニ」

ふんゐき（名） 雰圍氣 [illegible] 氣）ニ同ジ。（物理學ノ語）（二）天體ヲ

ぶんゑん [illegible] ヲ、紙ニ書キ捨ジテ、各取リテ當レルモ[illegible]

ふんゑん（名） 忿怨 ふんこん（忿恨）ニ同ジ。[illegible]

ぶんゑん（名） 文苑 ぶんりん（文林）ニ同ジ。[illegible]

ふめい（名） 不明 （一）アキラカナラザルコト。不明瞭。不分明。（二）事理ニ暗キコト。[illegible]

ぶめい（名） 武名 武功ノ名[illegible]ホマレ。

ふめ・く（ク・ケ・カ・キ・ク（自動、四）） [illegible] ぶんト鳴ク。 宇治拾遺、七、第五條「虻一ツふめきテ、顏ノメグリニアルヲ、云云、ウルサク、ふめきケレバ、捉ヘテ」

ふめつ（名） 不滅 ホロビザルコト。[illegible] 禪師）生死卷「滅モ一時ノ位ニテ、マタ前アリ後アリ、コレニヨリテ滅即不滅トイフ」

ふめんぼく（名） 不面目 面目ヲ失フコト。面目ヲケガスコト。

ぶも (名) 父母 ふぼ(父母)ニ同ジ。 義經記、三十九、横笛事「父母ノ諫ニモ拘ラズ、イトド志淺カラズ通ヒケレバ、云云」 曾我物語、十一、箱根にて佛事の事「ぶもノヲンツクルコトナシト見エタリ、云云、シンテイハ、ブヲぶもニウケ」

ふもじ (名) 鮒文字 鮒ノ女房詞。さもじ(鯉文字)ノ條ヲ見ヨ。 海人藻芥、下、內裏、仙洞ニハ、一切ノ食物ニ異名ヲ付テ被召事也、云云、松蕈ハマツ、鯉ハコモジ、鮒ハふもじ、云云

ぶもじ (名) 不文字 文字ヲ辨ヘザルコト、文字ヲ知ラザルコト。文盲。 醒睡笑、一、元和、安樂庵策傳ハ一虎老野干ト云フ四字ヲカケテ置キタリ、亭主一向、不文字ナルヲ知リタル人、是レハ何ト云フコトゾ」

ふもだし (名) 〔踏默ノ約ニテ、踏ムコト止ム意カト云フ、ほだしハ更ニ約メタルナリト云フ〕(一)馬ノ具。馬ノ足ヲ繫グ綱。 萬葉集、十六 三十七 長歌「馬ニコソ、布毛太志懸クモ、牛ニコソ、鼻繩ハグレ」(二)褌ノ一種。

ぶもち (名) 分持 分ケテ受持ツコト。ブンモチ。擔當。

ふもと (名) 麓 〔踏本ニテ、山ヲ踏始ノ意、山上ヲ末ト云フ、麓ハ國字〕山ノ裾。山ノ下。ハヤマノ本。麓。 倭名抄、一 三 山谷類「麓、不毛止、山足也」 字鏡 四十五「麓、山足、不毛止」 萬葉集、九 廿「イ行キアヒノ、坂ノ踏本ニ、咲キヲヲル、櫻ノ花ヲ、見セム子モガモ」 蜻蛉日記、上、上 三十「山ヅラヲ見レバ、霧ゾゲニふもとヲコメタリ」 東雅、二、地輿「麓、フモト、云云、ふもとトハ踏初ナリ、山ニノボル初ナルノ義也、初ノ字、古訓もとト云フ」

ふもん (名) 不問 問ヒタダサザルコト。ステオキテ、トハザルコト。 周禮、秋官篇、大行人「凡大國之孤、執皮帛以繼小國之君、出入三積不問、壹勞」 蘇軾詩「何當一醉百不問、我欲眠矣君歸休」「不問ニ附ス」

ぶもん (名) 武門 武士ノ家筋。 吾妻鏡、五、元暦二年十二月廿三日「前對馬守親光、爲公家[illegible]」 [illegible](近松作)ト「今マテカ皆ウツケノ[illegible]、一家一門、武門ノ名折レ」

ぶもん (名) 部門 分ケテ一廉ニ立テタルモノ。區分シタル部類。

ふや (名) 文屋 ふんや(文屋)ノ略。其條ヲ見ヨ。

ふやう (名) 扶養 タスケ、ヤシナフコト。生活ノ道ヲ與ヘテ養フコト。「扶養ノ義務」

ぶやう (名) 撫養 ナデ、ヤシナフコト。イツクシミ、育ツルコト。撫育。 後漢書、陳蕃傳「[illegible]」

ふやか・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 潤 〔殖くノ他動〕 水ニ漬ケテ太クサス。水ニ浸シ太ビサセ、殖ユルヤウニナス。ホトビサス。ヒヤカス。

ふや・く クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) 潤 〔殖ゆノ轉〕 (一)水ニ潤ヒテ脹ル。ホトブ。(二)淫蕩ニナル。ダラケル。

ぶやく (名) 賦役 (一)そ(租)ノ條ヲ見ヨ。(二)賦ハ、地租、役ハ夫役、卽チ、國税ノ總稱。賦徭。 唐書、百官志「戶部郎中員外郎掌[illegible]戶口田土賦役貢獻、云云」 六韜、文韜、盈虛篇「其自奉也甚薄、其賦役也甚寡、故萬民富樂、而無飢寒之色」

ぶやく (名) 夫役 エダチ。民ノ公用ニ使ハルルコト。そ(租)ノ條ヲ見ヨ。 榮花物語、十五、疑「國國ノ守ドモ、地子官物ハオソナハレドモ、只今ハコノ御堂ノ夫役、材木、云云、ナド、多ク參ラスルワザヲ、我レモ我レモト、競ヒ仕ウマツル」 盛衰記、廿四、南都合戰同燒失事「四海八方ノ冥衆ハ數萬ノ夫役ヲ勤テ、遠近ノ公事ニ從ヘリ」

ふや・ける (動) 潤 ふやく(潤)ノ口語。

ふやじやう (名) 不夜城 〔夜モ晝ノ如ク暗カラザル所ノ義〕(一)支那、東萊郡、不夜縣ニアリシ城。故城址ハ、今ノ山東省、榮城縣ノ西北ニアリ。古傳ニ、日アリテ夜出デ、東萊ニ見ハル、故ニ萊子、コノ城ヲ立テ、不夜ト名ヅクト。 漢書、地理志「東萊郡、云云、不夜」注「有成山日祠、齊地記云、古有日夜出、見於東萊、故萊子立此城、以不夜爲名」 三齊略記、伏琛三齊記「不夜城在陽邑東南、蓋古有日夜出、此城以不夜爲名、異之也」(二)轉ジテ、燈火ノ耀クコト晝ノ如クシテ、繁華ナル街。 蘇頲詩「[illegible]不夜城」(三)又、燈火ノ明カナルヲ、月夜、雪夜ノ景色ニ見ナシテ云フ。 蘇軾詩「雪月長臨不夜城」

ふや・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 殖 殖ユルヤウニナス。益ス。增ス。

ふやのはかせ (名) 大學博士 文屋博士 大學寮ノ博士。ふんや(文屋)ノ條ヲ見ヨ。 紫式部日記「クスリノ女官ニテ、ふやのはかせ、サカシラダチ、ギラギキタリ」

ぶやまぶし (名) 夫山伏 人夫ノ如キ山伏。下賤ナル山伏。 太平記、五、大塔宮熊野落事「我等ハ夫山伏ニテ候間、叶ヒ候マジ」

ふやわらは (名) 文屋童 ふみやわらは(文屋童)ニ同ジ。 宇津保物語、祭使 下「オトドノ一男トシテ、レウ給ハレルふやわらはニ侍ル」

ふゆ (名) 冬 〔冷ゆニ通ズト云フ〕 一年四時ノ一。秋ノ後、春ノ前(神無月ヨリ極月マデ)ニテ、最モ寒キ候ナリ。 詩經、邶風、谷風篇「我有旨蓄、亦以御冬」 禮記、月令篇「孟冬之月、云云、是月也、天子始裘、命有司曰、天氣上騰、地氣下降、天地不通、閉塞而成冬」 古事記、中、應神「[illegible]」 萬葉集、十七 四十 長歌「天ソソリ、高キ立山、冬夏ト、別クコトモナク、白タヘニ、雪ハ降リ置キテ」 同、廿 五十六「ミ雪降ル、冬ハ今日ノミ、ウグヒスノ、鳴カム春ベハ、アスニシアルラシ」

ふ・ゆ ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(自動、下二) 殖 〔榮ゆト通ズ〕 數、嵩、多クナル。增ス。

ぶゆ (名) 蚋 ぶと(蟆子)ニ同ジ。

ふゆあふひ (名) 冬葵 かんあふひ(寒葵)ニ同ジ。 箋注倭名抄、九 四十「葵、云云、[illegible]秋種葵、覆養經冬、至春作子、謂之冬葵」 大和本草、六、菜類「冬葵、冬ミノル、葉有小岐、花ニワカル、花甚小不足觀者也、古ハ菜トシテ食ス」

ぶゆう (名) 武勇 心、力、共ニ、猛クシテ、戰ニ強キコト。猛ク勇マシキコト。勇武。 史記、李斯傳「長子剛毅而武勇、信人而奮士」 漢書、韓信傳「今大王誠能反其道、任天下武勇、何不誅」 平治物語、三、牛若奥州下事「源九郎義經、云云、武勇、人ニスグレテ、云云」

ふゆがひ (名) 冬飼 冬季ニ飼ヒ養フコト。 夫木抄、三、春駒「冬飼ノ、手間ノ駒モ、放チテン、間ベノ小笹、生エヌトナラバ」

ふゆがまへ (名) 冬構 冬籠ノ用意。冬ヲ凌グ準備。 堀河百首、冬「カミナ月、マダ冬ガマヘ、セヌモノヲ、トリモアヘズモ、荒ルルケフカナ」

ふゆが・る ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 冬枯 冬ニ在リテ、草木枯ル。フユガレトナル。 新六帖、六、冬の草「草ハミナ、冬(霜)がれワタル、冬ノ森、イカニスミカノ、サビシカルラン」 拾遺愚草、中「冬がれテ、青葉モ見エヌ、ムラススキ、風ノナラビハ、ウチ靡キツツ」

ふゆがれ (名) 冬枯 (一)冬、草木ノ葉

ノ枯ルルコト。[illegible]ノ、野ベト我ガ身ヲ、思ヒセバ、モエテモ待ヲ、待タマシモノヲ」 拾遺集、上「冬がれノ、荒野ノ原ヲ、ヤキシヨリ、早蕨アサル、雉子鳴クナリ」 (二)冬ノ[illegible]、[illegible]。[illegible]十六、冬月「冬枯ノ、スサマジゲナル、山里ニ、月ノスムコソ、アハレナリケレ」 徒然草、第十九段「サテ冬枯ノ景色コソ、秋ニハヲサヲサ劣ルマジケレ」 (三)商業上ノ語。俗ニ、不景氣ニテ、客ノ少キコト。

ふゆき (名) 冬木 (一)「冬ノ木、冬枯ノ木 [illegible]、八、[illegible]フリシ、雪ニキホヒテ、我ガ宿ノ、冬木ノ梅ハ、花咲キニケリ」 (二)今、常葉木。夫木抄、十八、雪「奥山ノ、習ヒトナレバ、アナシケノ、雪ヨリサキニ、冬木コリツム」

ふゆぎ (名) 冬蕗 常ノ蕗ノ[illegible] 冬ヲ經テ枯レザレバ云フ 和名[illegible]「[illegible]冬不死、冬[illegible]也、[illegible]冬蕗、[illegible]「冬蕗、フユキ」

ふゆぎ (名) |冬着| 冬ニ着ル衣服。フユギヌ フユモノ 冬衣

ふゆぎく (名) |冬菊| かんぎく(寒菊)ニ同ジ 一名、殘菊

ふゆくさ (名) 冬草 冬季ノ草。冬、枯レズニアル草 古今集、六、冬「ワガ待タヌ、年ハ來ヌレド、冬草ノ、カレニシ人ハ、オトヅレモセズ」 [illegible]冬草ノ、[illegible]ニ、[illegible]夜ノ、枕モ知ラズ、霰降ルナリ」 太平記、七、吉野城軍事「枯野ニ殘ル冬草ノ、風ニ偃シタル如ク」

ふゆげ (名) |冬毛| 鳥獸ニ、冬生ズルヤハラカキ毛 [illegible] 倭名抄、十八、毛[illegible]「[illegible]毛、[illegible]也」

ふゆこだち (名) 冬木立 [illegible]ス」 冬枯ノ木、冬枯ノ立木。 蕪村句集、冬「[illegible]」 井華集、几董、冬「アケボノヤ、アカネノ中ノ、冬木立」

ふゆごもり (名) 冬籠 (一)冬ノ[illegible] [illegible] 新撰古今集、ヨリ、花トヒルマデ、雪ゾ降リケル」 新撰古今集、八、「待數ヘ遠カナル、四方ノ梢ノ、冬ごもり、イカデ咲クベキ、花ト見ユラン」 拾遺集、下「冬ごもり、跡カキタエテ、イトドシク、雪ノ内ニゾ、若ツミケル」

ふゆごもり (枕) 冬隱 春ノ枕詞 冬籠リ春ニナリテ、張リ出ヅルニ[illegible]云フ。 萬葉集、七、二十一「冬隱、春ノ大野ヲ、燒ク人ハ、ヤキタラネカモ、我ガ心ヤク」 同、十三「冬隱、春咲ク花ヲ、手折モチ、チタビノカギリ、戀ヒワタルカモ」 同、二十 長歌「冬木成(フユコモリ)(盛ノ省字)、春サリ來レバ、[illegible]鳥モ來鳴キヌ[illegible]」 [illegible]冬木成、春ニ知ラレヌ、花ナレヤ、吉野ノ奥ノ、雪ノ夕暮」

ふゆごもる・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 冬籠 冬ノ寒キ間、内ニ籠リテアリ。(動物、草、木、皆云フ) 躍信集「雪フカミ、フルサト寒キ、ミヨシノノ、[illegible]」 [illegible]院集「冬ごもる、[illegible]竹ノ[illegible]、[illegible]ハレテ、イク秋メグル、時雨ナルラン」

ふゆぞら (名) 冬空 冬季ノ中空。冬ノ天空。又、冬ノ空模様。サムゾラ。寒天

ふゆどし (名) 冬年 去年ノ冬。コゾノ冬。舊冬。昨冬。去冬。客冬 好色一代女[illegible]「[illegible]ニテ、日焼フテ死ンダカ」

ふゆな (名) |冬菜| たうな(唐菜)ニ同ジ。菘 物類稱呼、三、生植「[illegible]、京ニテ、みづな、又、はたけなト云フ、云、畿ニテ京菜トイフ、江戸ニテモ水菜トイフ有、(京都ノ水菜ヨリハ、葉黑ズミテ、厚ク脆シ、京ノ水菜ニ及ハズ、葛西菜、又、小松川、本所、牛島邊ノ冬菜ニオヰテハ、京、大坂ニモナシ)」「三河島ノ冬菜」

ふゆぼたん (名) |冬牡丹| (一)牡丹ノ一[illegible]冬ニ花咲クモノ。寒牡丹[illegible]フ。(二)火鉢ノ異名。火ノ熾ンナルヲ、牡丹花[illegible]「冬牡丹ハ、日本ニテ火鉢ヲ云フ、火ノ熾ナルヲ、[illegible]」

ふゆもの (名) 冬物 冬、着ル着物。冬着ノ衣、又、ソレニ用キル布帛。冬衣

ふゆもも (名) |冬桃| 桃ノ一類。實ノ形からすうり(烏瓜)ノ如ク、冬ニ至リテ熟シ、青クシテ、少シ赤ミアルモノ。カンモモ シモモモ 倭名抄、十七「[illegible]冬桃、[illegible]」

ふゆやま (名) 冬山 冬季ノ山 六帖、六「冬山ニ、ヒトリヌル鳥、夜ヲ寒ミ、人ハ絶エケル、木ヲゾ求ムル」 曾丹集「冬山ノ、炭燒衣、ナレヌトテ、人ヲバ人ノ、タノムモノカハ」

ふよ (名) |附與|付與| アタフルコト。クルルコト。杜甫詩、[illegible]法則、付[illegible]世傳」

ふよ (名) 賦與 ワケアタフルコト。クバリ與フルコト。

ふよ (名) 不豫 (一)二正韻「豫、悦也」ヨロコバザルコト。快カラザルコト 孟子、公孫丑、下篇「孟子去齊、充虞路問曰、夫子若有不豫色然、前日虞聞諸夫子、曰、君子不怨天、不尤人、曰、彼一時、此一時也」 (二)〔病ミタマフコト。(帝王ニ)〕 王儉、褚淵碑文「明皇不豫、[illegible]」 [illegible]不豫、[illegible]」

ぶよ (名) |蚋| ぶと(蟆子)ニ同ジ。

ふよう (名) 不用 (一)[illegible]モチヰヌコト、用ナキコト。イラヌコト。不要。無用 孫子、始計篇「兵者、詭道也、故能而示之不能、用而示之不用、近而示之遠、遠而示之近」 宇津保物語、[illegible]上、下二十五「世中ニふようナル人モナカリケレバ」 枕草子、二、第十三段「十巻ニモナリヌ、サラニふようナリケリトテ、御サウシニ歸歩シテ、ミトノゴモ[illegible]」 「[illegible]ノ闕エアラバ、我身コソハ、イヨイヨ不用ノモノニナリ果テテ、都ヲ出デヤミナメ」 (二)事ノ叶ハヌ[illegible] ハント宣フ程ニ、石山ノ人、ノノシリテ歸リナハシヌ、「ふようナメリトテ、出給ハズナリヌ」 [illegible]、[illegible]ヲウシロメタク待チフシ給ヘルニ、ふようナル由ヲ[illegible]

ふよう (名) 芙蓉 (一)[illegible]、[illegible]。(一)蓮ノ華ノ漢名。史記、司馬相如傳「其西則[illegible]」 [illegible]ニ通ヒタリシカタチ」 (二)木芙蓉ノ略。石[illegible]

ふようのま (名) 芙蓉間 江戸城中ノ席ノ名。又、大名ノ席次ノ名。

ぶようひ (名) 蟲ノ名。ひをむし(蜉)ノ一名。 嬉遊笑覧、四下「ヒヲムシヲバ、ワラハベハ、ぶようひ、[illegible]云フ古キ蟲ノ、ヲトナシクナリテ、翁ノオヒタルヲ、ぶようひト名ヅケテ、頭ニヌルアブラムシナレバ、髪ノキラアルユヘ歟、實ノ蜉ハ、ソレニハ非ズ」

ふよく (名) 扶翼 タスケ[illegible]ヒタスクルコト。晉書、孫惠傳「抗[illegible]」 [illegible]以相扶翼、[illegible]無、似云以、水濟水邪」

ぶよぶよ (副) 水ノタメニ脹レタル狀。[illegible]云ノ語 ヤハラカ

フライ (名) 「英語、Fry」 西洋料理ノ

名ヲ、麪包粉(パンコ)ヲツケテ、魚介、果物、野菜ナドヲ、油ニテ揚ゲタルモノ。

ぶらい (名) 無頼 (一)生業(ナリハヒ)ヲ顧ミズ、法度ヲ畏レズ振舞フコト。ヤクザ。ダウラク。史記、高祖紀「始大人常以、臣無頼、不能治産業、不如仲力」注「頼、利也、無利入於家也、或曰、江淮之間、謂小兒多詐狡猾爲無頼」雜纂、義山允文ニ不信「子弟好」用ニ博奕ハ無頼」字類抄「無頼」易林節用集、慶長、下、言辭門「無頼、ブライ」(二)憎ミ罵リテ云フ語。徒然草「唯暇無頼夜尚將、天河未落猶爭鳴」

ぶらいかん (名) 無頼漢 〔輟耕錄「今人謂賤丈夫、爲漢子」卽チ、漢ハをとこノ意〕ミモチアシキ男(モノ)。ナラズモノ。ゴロツキ。無頼者。破落戸

フライパン (名) 〔英語、Fryingpan.ノ中略〕油ニテ、魚介、野菜ナドヲ揚グルニ用ヰル薄ク平タキ鍋。アゲナベ。

ぶらいもの (名) 無頼者 前前條ノ語ニ同ジ。

ふらう (名) 父老 (一)年老イタル男。老人。又、一村、一鄕ノ長老。史記、馮唐傳「文帝輦過、問唐曰、父老何自爲郎、家安在、唐具以實對」漢書、高帝紀「悉召故人父老子弟佐酒」(二)老人ノ尊稱。揚子方言「凡尊老、南楚謂之父、或謂之父老」

ふらう (名) 不老 イツマデモ、年ノヨラザルコト。壽命、無量ナルコト。法華經、藥王品「此經則爲閻浮提人病之良藥、若人有病、得聞是經、病卽消滅、不老不死」列子、湯問篇「其中有五山焉、云云、五曰、蓬萊、其山、云云、珠玕之樹皆叢生、華實皆有滋味、食之皆不老不死」宇津保物語、吹上、上「蓬萊ノ不老不死ノクスリノツカヒトシテ」

ふらう (名) 浮浪 (一)サスラフコト。サマヨフコト。流浪。梅堯臣、聞進士販茶詩「浮浪書生亦貪利、史笥經箱爲茶籠」「浮浪ノ徒」(二)轉ジテ、浮浪人。ウカレビト。浮浪者。天智紀、九年二月「造戸籍、斷盜賊與浮浪」類聚三代格、七「太政官符、云云、一、應勘他國浮浪事」

ぶらう (名) ささげ(大角豆)ノ一名。(信濃、上野、九州) 物類稱呼、三、生植「紅豆、ササゲ、九州、及、上州、信州、總州ニテ、ぶらうト云」

ふらうにん (名) 浮浪人 前前條ノ(二)ニ同ジ。通典「無貫之人、不樂編戶、於州縣之籍、浮浪人」天武紀、六年九月「詔曰、浮浪人、其送本土者、猶復還到、則彼此並科之課役」

ふらうもん (名) 不老門 大内裏、豐樂院ノ北面ニアル門。拾芥抄、中、末「不老門、北面、謂北面外大門、北一門也、無額、五間戸三間」朗詠集、下「長生殿裏春秋富、不老門前日月遲」

ぶらく (名) 部落 (一)民家ノ一聚ヲナシタル處。數戶ノ家ノ聚居スル處。ムラザト。村落。聚落。後漢書、鮑宣傳「部落鼓鳴、男女遮道」六七也」(二)轉ジテ、部落ノ住民。唐書、李勣傳「勣長率其部落五萬、降、于勣」

プラグ (名) 〔英語、Plug.〕電氣機械ノ一。回路ヲ容易ク接續シ、又ハ、切斷スルニ用ヰル金屬栓。

ぶらくでん (名) 豐樂殿 大内裏ニ於ケル豐樂院ノ正殿ノ名。九間四面ノ殿。倭名抄、十、居宅類「殿、豐樂殿、豐樂院正殿名也」貞觀儀式、六、元日御豐樂院儀「構立御斗帳於豐樂殿高御座上」三代實錄、三、貞觀元年十一月十九日「天皇御豐樂殿、宴百官」

ぶらくゐん (名) 豐樂院 古ヘ、大内裏ノ内、朝堂院ノ西ニアリテ、一劃ヲナシ、天皇ノ節儀、大宴會ヲ行ハセ給フ所。正殿ヲ豐樂殿ト云フ。倭名抄、十、居宅類「院、豐樂院」拾芥抄、中、末「豐樂院、天子宴會所、謂之馬場殿」内裏式、中、新嘗會「御豐樂院」續紀、廿一、弘仁元年十一月、御豐樂院、宴五位以上」

ぶらゐ (名) 鞦韆 ぶらんこ、及、ぶらんど。しうせん(鞦韆)ノ條ヲ見ヨ。太祇全集「ぶらゐノ、會釋コボルルヤ、高見ヨリ」

ぶらさがる ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) (一)ブラリト、サガル。ツリサガル。小町踊(寛文)春、上「月モ露ニ、ぶらさがりケリ、絲柳」(二)目ノ前ニチラツク。目ニツク。長町女腹切(正德、近松作)中「太郎内ニカ、四五日お目ニぶらさがらヌ」浮世風呂(文化、三馬)四編、上「廿次サン、暫クオ目ニぶらさがらネエノ」

ぶらさぐ グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下二) ブラサガルヤウニナス。ツリサグ。ブラサゲル。淀鯉出世瀧德(寶永、近松作)下「脇差ノ鐺ヲ持テ立ツ程ニ、柄ハ殘レド下ハ見ズ、目ハソラ猜ヲぶらさげテ、ブラブラ勝手ヘ入リニケル」

✣ぶらさげる (動) 前條ノ語ノ口語。

ブラシ (名) 刷毛 〔英語、Brush.〕ケハラヒ。ハケ。ブラシ。刷子 はけ(刷毛)ノ條ヲモ見ヨ。「齒ぶらし」

ふらす ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 降 〔降ルノ他動〕降ルヤウニナス。フラシム。フラクダス。萬葉集、二十「吾ガ岡ノ、オカミニ言ヒテ、令落(フラセタル)、雪ノクダケシ、ソコニチリケム」月詣集、七「雨乞ノ使ニテ、雨降らしテ」

ふらす ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 觸 フルルヤウニナス。フレシム。フレサス。又、觸レヒロム。觸ル。觸 金葉集、七、戀、上「ツツメドモ、涙ノ雨ノ、シルケレバ、戀スル名ヲモ、ふらしつる哉」

ふらす ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 振 振るノ敬語。振リタマフ。欽明紀、廿三年七月「カラ國ノ、キノヘニ立チテ、大葉子ハ、領巾振ラスモ、ヤマトヘ向キテ」萬葉集、十四「日ノ暮レニ、碓氷ノ山ヲ、越ユル日ハ、夫ノガ袖モ、サヤニ布良思ツ」

フラスコ (名) 硝子壜 〔葡萄牙語、及、西班牙語、Frasco. 蘭語、Flask.〕モト西洋舶來ノ硝子(ガラス)ノ頸長キ德利。玻璃壜。書言字考節用集、七、器財門「佛狼察、フラスコ」和漢三才圖會、六十、玉石類「硝子、ビイドロ、云云、有蓋者、白、阿蘭陀、來、瑠璃瓶、方缶也、盛酒久不變、盛薬久不脫、最宜貯香油」古今、云云、本朝阿蘭陀吉珍太宇酒之缶也、傾城酒呑童子(享保、近松作)四「瑠璃、白玉ノふらすこニ、チンダ泡盛、藥ト設ムヤ玉ノ井ガ、云云」

フラタナス (名) 篠懸 〔希臘語、πλάτανος. 羅甸語、Platanus. 英語、Plane, Platan(e).〕又、ぶらたぬす。ぷらたあぬ。篠懸(スズカケ)科ノ落葉喬木。モト舶來ノ植物ニシテ、今ハ、庭園、道路ナドニ栽植セラル。幹ノ高サ四五十尺ニ達シ、樹皮ハ帶綠白色ニシテ、葉ハ闊クシテ掌狀ヲナシテ互生シ、四月頃、葉腋ニ花梗ヲ抽キテ、黃綠色ノ細花ヲ簇リ開ク。實ハ、球形ニシテ、褐色ヲ呈ス。

ふらち (名) 不埒 〔加茂ノ競馬ノ見物人ノ待チ侘ビテ言ヘル語ニ起ル〕(一)埒アカヌコト。分ラヌコト。不解決。寛文十年十二月、伊達兵部少輔宛、伊達安藝の狀「其上、重ねて不埒ニ被思召候ハバ、拙者、其御地ヘ罷登可申旨、最前御老中樣ヘ申上候ニ付、御老中樣、尤ニ被思召候由、云云」寛文年間の狀「同役共モ最初ヨリハ、延々不埒ナル披把仕、延引申候」(二)轉ジテ、不法。埒アカヌヨリ怠ル意ニナリ、法ニ遵ハヌ意トナリシナリ。フトドキ。非理。謠曲、莇營「言語道斷、ふらちナル事ヲ承ルモノカナ、ナフ、不得心ナ

[illegible]ニヨリタル事ニテ候」 日本新永代藏(正德、[illegible]ノ[illegible]ナシ、[illegible]、[illegible]付、百日手錢」其迄の月賦(寶永、近松作)上「ナゼ斯樣ニ不埒ナト、膝ヲシカメテ云ヒケレバ」

ブラチナ (名) [白金] (英語、Platina.) 金屬中最モ重キモノ[illegible]ノ[illegible]、金属ト、合金トナ[illegible]テ現ハ[illegible]、光澤[illegible]ナリ、[illegible]器械、及、電氣器具、ペンノ先、指輪、鎖、時計[illegible]ナドニ作ラル。白金

ぶら・ちやうちん (名) 弓張提燈ナドニ對シテ、常ノ提燈ノ柄ノミニテ持ツニ、ブラブラスルモノ[illegible]、ぶらちやうちんハ挑燈ノ[illegible]ヲ見ヨ。 [illegible]天保十三[illegible]上、下、[illegible]、[illegible]提燈ニテモ、弓張ニテモ、小田原ニテモ、不落ニテモ、[illegible]供ノ者ヘ渡置ベシ」

ふら・つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) (一)フラフラス。ヒョロヒョロスル。蹣跚歌(寶永、近[illegible]ノ上ニ[illegible]イタレバ、アア、イカウふらつくヤアヱイト」 (二)ウロツク。ブラブラスル。彷徨ス。徘徊ス。

ぶら・つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) (一)ブラブラ[illegible](大和、西鶴)三「腰元ぶらつきテ、間ナク大アクビシテ、跡ヨリ竹杖ヲ引ズル」 (二)ブラサガル。 律國女[illegible]ノ大事トナル事、鼻ノ先ニぶらつけドモ、諫言申ス人ハ七里ケンバイ」 (三)ウロウロス。

ブラック・リスト (名) (英語、Black list.) [illegible]

ドヲ記入シタル帳簿。略シテ、りすと。[illegible]其使用ノ方法[illegible]、資本家ノ[illegible]業止[illegible]者、取引所ノ取引禁止者、[illegible]警察署ノ要監視人ナド、各種ノぶらっく、りすとアリ。

ブラ・シュ (名) [illegible](英語、Brush.) [illegible]ヲ見ヨ。

ブラ・トフ・オム (名) (英語、Platform.) 汽車、電車ナドノ停車場ノ昇降場。歩廊。略シテ、ふぉおむ。

ふら・ば・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(自動、下二) [illegible] ふる、ふらふノ再延ノ語。古事記、下[illegible]「中ツ枝ノ、枝ノウラ葉ハ、下ツ枝ニ、落チ[illegible]」[illegible]「上ツ枝ニ、[illegible]モハ、下ツ枝ニ、流レ觸[illegible]」(略解ノ訓)

フラフ (名) (蘭語、Vlag.) 旗。國旗。幕末ヨリ明治時代ニ使用セラレタル語。

ふら・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) [觸] 觸ルノ延。更ニ延ビテ、ふらばふ。

ふらふら (名) 槍ノ鞘ニ云フ語。黒羅紗ニテ中結シタルモノ。柄袋ノ如シ。

ふら-ふら (副) [物ノサガリテ、振レ動ク貌ヨリ移リテ、動キメグル意] 振ラレテ落チ[illegible]カヌ狀、又、物ノ輕ク搖レ動ク狀ニ云フ語。ブラブラ。[illegible]第六條モノ中ヨリ、松タケノ大キヤカナルモノノ、ふらふら[illegible]」同、三、[illegible]十六條「雀、云云、飛ビヤスル、見ントテ捧ゲタレバ、ふらふらト飛ビテイヌ」史記[illegible]「容顔ノ天井ニ、ふらふらトサガリテアルヲ」「[illegible]ぶらぶらスル」

ぶら-ぶら (副) (一)前條ノ語ニ同ジ。(二)定マレル仕事ナク、手モチブサタナル狀ニ云ノ語。[illegible]病ノ全ク癒エズ

シテ[illegible]三馬)初編、下「[illegible]シイ一心デ、ぶらぶらトワヅラヒ付イタガ、タウトウアッチノ物ニナッタ」

ぶらぶら あるき [illegible] ナシニ、歩クコト。ソゾロブルキ。スズロブルキ、[illegible]

ぶらぶら・やまひ (名) サホド重クナキニ、長ラク全快セザル病。

フラン (名) [法] (佛蘭西語、Franc.) 佛蘭西國ノ貨幣ノ單位。モト我ガ國ノ三十八錢[illegible]ニ當リ、今ハ約八錢ニ當ル。

ふらん (名) [腐爛] クサレ、タダレルコト。[illegible]

ブラン (名) ぶらんでいノ略。其條ヲ見ヨ。

プラン (名) (英語、Plan.) (一)計畫。設計。「ぶらんヲ立テル」 (二)圖面。平面圖。

フランキ (名) 佛狼機 [illegible](佛狼機)ニ同ジ。又、ふらんき[illegible]「明ノ正德年中、佛狼機國ノ船來リテ、此器ヲ遺ス」(紅毛雜話、五) [illegible]、フラン、[illegible]佛狼機、ホルトガル、[illegible]國名也[illegible]

フランク (名) [法] (佛蘭西語、Franc.) ノ英語式發音) ふらん(法)ニ同ジ。

ブランケット (名) (英語、Blanket.) 轉ジテ、ふらんけっと、ふらんけ、略シテ、けっと。訛ニテ、けっと、モト西洋舶來ノ、密ニ厚ク織リタル毛布ノ名。

ぶらんこ (名) [鞦韆] (ぶらんどノ轉) 古ク、ユサハリ。ユサブリ。ぶらんど。[illegible]正作ニ秋千ニ作ル[illegible]此戯始メニ中國ニ云、[illegible]「鞦韆、ユサフリ、ユサハリ」

フランス・ちりめん (名) 佛蘭西縮緬 [illegible]

ブランデイ (名) (英語、Brandy.) 西洋酒ノ一種。[illegible]ヲ蒸溜シテ製シ、ソノ他、林檎、桃、[illegible]桃、巴旦杏等ノ果實ノ[illegible]略シテ、[illegible]

ぶらんど (名) [鞦韆] ぶらんこ(鞦韆)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]音、布良武抒)「ぶらんどヤ、櫻ノ花ヲ、持チナガラ」

フランネル (名) [小絨] (英語、Flannel.) [illegible]寛ク、[illegible]テ擬製シ、コレヲ綿ふらんねるト云ヒ、略シテ、ねるト云フ。

ふらめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [illegible]ク。フラフラ[illegible]

ふらり (副) (一)フラフラスル狀ニ云フ

語。フラフラ。(二)思ヒカケナキ狀ニ云フ語。不圖 偶然

ぶらり (副) (一)垂レサガル狀ニ云フ語。天神記(正德、近松作)三「ササエノ瓢簞ぶらり」 (二)何事モナスコトナキ狀ニ云フ語。俳諧新選 吹カヌ日ハ、ぶらりト暮レル、鳴イカナ」 一休狂歌問答「世ノ中ハ、何ノ絲瓜ト、思ヘドモ、ぶらりトナルト、暮サレハセヌ」

ふらり-び (名) 化物ノ一種。怪物ノ火。嬉遊笑覽、三、書畫「化物繪、云云、目一ツ坊、ヌケ首、ヌノペラボウ、ヌリ佛、ヌレ女、ヒャウスベ、シャウケラ、ぶらり火、云云」

ぶらり-ぶらり (副) シヅシヅト進ミ行ク狀、又、タダヨヒ行ク狀ニ云フ語。狂言記、六人僧「深イ所ヘハマツテ、二人ナガラ、棒ヤナドヲ振ル如クニ、ぶらりぶらりト流レテ死ンダ」

ふら・る (動) 被降 [降るノ動詞ニ、受身ノ助動詞ノ添ヒタル受身相ノ動詞] フレル。萬葉集、十四　三「筑波嶺ニ、雪カモ布良留、イナヲカモ、カナシキ兒ロガ、布干サルカモ」

ふり (名) 風振 (一)[形狀、風采] 風丰 又、フルマヒ。ナリフリ。擧動 擧止 [人ニ、物ニ、振リ動ク貌ニ云フ] 轉ジテ、敎化。風化。崇神紀、七年二月「聖業逾高、王風轉盛」(王ノ風化ノ意) 狂言記、箕かづき「身代ふりヨクシタレバ、女房ニサヘ見捨テラレタ」 用明天皇職人鑑(寶永、近松作)一、職人づくし「人ノふり見テ我ガふり袖ノ、姿ナホセバ心ノウチモ」 (二)其容子ヲナスコト。オモモチ。盛衰記、四十九、重衡向南都被斬事「何トナキふりニモテナシ、我ニ不知、首ヲ打テト宣ヘバ」「見ヌふり」「聞エヌふり」 (三)[樂府ノ奏歌ニ、數首、一部ヲナスモノノ稱。ウタヒザマ。音ふり同ジキモノ。(風韻ニテ、ひびきニ因リタル詞) 神代紀、下、九「此兩首歌辭、今號夷曲」 續紀、十一、天平六年二月「難波曲、倭部曲、淺茅原曲」 古今集、廿、大歌所御歌「近江ぶり、水莖ぶり、四極山ぶり」 琴歌譜「高橋扶理、鷦鷯扶理、庭立扶理」 (四)舞踊上ノ語。歌舞伎役者ナドガ、舞臺上ニテ音樂ニ作ウテナス動作、又ハ、所作。ふりつけ(振付)ノ條ヲモ見ヨ。戲場年中鑑、下、十月「振付師、云云、役者ニテ、ふり付ヲカネシ人ハ、中村仲藏(二代目)、仲藏(初、大谷鬼次)、中山小十郎、市川鰕藏(初、吾妻之藏)、此外ニモ、役者ノ内ニテ、ふりニクワ數人モアレド、ふり付ヲカネシハナシ」 (五)無褌ノコト。(六)娼妓ノ客ヲ嫌フコト。

ふり (名) 曲 [前條ノ語ノ(三)ニ同ジ] 俗曲ノ節。

ふり (名) 降 フルコト。雨、雪ナドノ空ヨリクダルコト。

ふり (名) 瓜 うり(瓜)ノ轉。易林節用集(慶長)上、草木門「冬瓜、カモフリ」 枕草子、八、第七十四段、うつくしきもの「ふり(うりイ)ニカキタル兒ノ顏」(姫瓜ナリ) 大上﨟御名之事、女房詞「香ノ物ハ、かうのぶり」 夫木抄、九、瓜「百敷ヤ、クラノツカサノ、ふりウリニ、我レオトラジト、ツトフウナヰコ」 東雅、十四、瓜蔬「瓜、或說ニ、俗ニ瓜ヲふりトシルス事ヨカラズトイフナリ、古語ニ、うトイヒ、ふトイフハ、相通ジテイヒケリ」

ふり (接尾) 振 刀劍ヲ數フルニ云フ語。刀身ノママナルモノ。其具裝シタルヲ數フルニハ腰ト云フ。太平記、六、關東大勢上洛事「銀ノ臂著ノ臑當ニ金作ノ太刀二振帶テ」

ぶり (名) 漁具ノ名。浮子ノ如キ木片。嬉遊笑覽、十二、漁獵、頭註「鵜繩ト云フハ、綱ニ長キ繩ヲ付、ソレニ、ぶりトイヒテ、篩ニ作ルベキ片木ノ輪ヲ二ツニ切タルヲ、多クアマタ處ニツケタリ」

ぶり (名) 鰤 [あぶらノ略轉カ] 海魚ノ名。身、圓ク大キクシテ、鮪ニ似、頭、大キク、口、尖リ、鱗、細カク、背、青黑ク、腹、白シ。七八寸ナルヲ、わかなご(若魚子)ト云ヒ、一二尺ナルヲ、いなだ、はまち(魬)ト云ヒ、年ヲ經タルヲ、はなぶり(鼻白)ト云ヒ、漸ク大イナルヲ、わらさト云ヒ、四五歲ニシテ二三尺ナルハ、卽チ、ぶりナリ。此魚、冬ハ味美ニ、夏ハ不味ナリ。海鰱 易林節用集(慶長)下、氣形門「鰤、鰱、ブリ」(易頭屋本、同ジ) 和漢三才圖會、四十九、江海有鱗魚「鰤、ブリ、魚師、鰱、俗名、波里萬知、昨日波萬知」 草庵集、魚名、十「アメふりテ、川モミヅマス、アチコチニ、フナ人コヒシ、コサバサハラン」 浮世風呂(文化、三馬)三編、上「昆布鰑ニ、鰤ノ鰭貴ト云フオ定マリ」

ぶり (接尾) 振 (一)カタチ。樣子。ツキ。浮世風呂(文化、三馬)二編、下「お丸ドン、髮ヲ結ノタノ、云云、別ニ女ぶりカ上ノタ」 (二)年月日ノ經過シタル程度ヲ表ハス語。博多小女郎波枕(享保、近松作)上「息災ニアッタノ、一年振りニ顏ヲ見テ」

ふり-あか・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 降明 明方マデ降リツヅク。繪卷枕草子、七、第六十四段「九月バカリ、夜ヒト夜ふりあかしタル雨ノ、今朝ハヤミテ、朝日ノハナヤカニサシタルニ」

ふり-あ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) 振上 (一)モノヲ、振リナガラ、高ク上グル。フリアゲル。平家物語、一、鵜川合戰事「白山中宮ノ神輿、飾リ奉テ、比叡山ヘ振上ゲ奉ル」 (二)モノヲ振リテ、高ク上グル。フリアゲル。謠曲、鐵輪「命ヲトラントテ、シモトヲ振上ゲ、ウハナリノ髮ヲ手ニカラマイテ打ツ」

ふり-あて (名) 振當 割振リテ、アツルコト。割當。配當。

ふり-あひ (名) 振合 [觸合ノ義] (一)他ノ例ト照リ合フコト。他トノ比較。(二)グアヒ。アンバイ。

ふり-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 觸合振 互ニ觸レ合フ。狂言記、杖誡「袖ノふり合フモ他生ノ緣、イフガ、此ヤウナ事デゴザラフ」

ふり-い・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ (他動、下二) 振出 (一)聲ヲ高ク出ス。振リ立ツ。フリヅ。蜻蛉日記、上、上「知ラレネバ、身ヲウグヒスノ、振出でツツ、鳴キテコソ行ケ、野ニモ山ニモ」 (二)紅ヲ水ニ振出シテ染ム。古今集、十二、戀、二「クレナヰノ、振出でツツ泣ク、淚ニハ、袂ノミコソ、色マサリケレ」

ふ-りう (名) [風流ノ略] (一)衣服、車ノ上、其他種種ノモノニ、花ナド飾ルモノ。ツケモノ。飾リ物。ふうりう(風流)ノ條ノ(一)ヲモ見ヨ。著聞集、五、和歌「少將隆房、賀茂ノ祭ノ使ツトメケルニ、車ノ風流ヨクミエケレバ、云云」 今鏡、第四、藤波、上「皆、若キ女房ノ車、色色ニ、紅葉ノ匂ヒ出シテ」 (二)後ニハ、舞踊、囃子物。又、鳴物拍子ニテ歌舞スルコト。又、ふうりう。下學集、下、態藝門「風流、ブウリウ、ブリウ」注「風情也、日本俗呼拍子物曰風流」 康富記、嘉吉二年六月、祇園祭「神幸抃拝山已下、風流如例、渡四條大路者也」 桂川地藏記(弘治)上「在在所所風流、囃物、品品區區、不可勝計者也」 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)八「夏ノ天ニ數日雨ナウテ、民、雨ヲ歎キ、氏神ノ社頭ニ風流ヲカケ、雨ヲ請フニ、云云、太鼓ヲバ、テレツケテレツケト打チ、鉦ヲバ、テンキテンキヤト叩イテ、笛ヲバ、ヒヨリヒヨリヤト吹イタ」 隣筑波集「盆ニナリ、打テヤふりうナ、鼓鉦」 (三)思ヒツキノ飾物。雅亮裝束抄、一、五節「ヒタリニイダシ火桶ヲ置ク、ふりう心ニアリ」 明月記、建保元年十一月十二日(五節)「今日風流絡等、構出送之、按察火桶、押錦、以白物塗灰、縮廿入之」

ふりう-がさ (名) 風流傘 又、ふうりうがさ。長柄ノ傘ニ飾ヲシテ見物ニスルヲ云フ。文永ノ賀茂祭ノ古畫ニ見ユ。

ふりうざ（名） 風流者 ふりうざん（風流人）ニ同ジ。大鏡、中、伊尹「コノ花山院ハ、ふりうざニコソ、オハシマシケレ」

ふりうづ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四） 降埋 雪ナドノ降リ積ミテ、物ヲ埋ム。玉葉集、六、冬「ふりうづむ、雪ノ姿ト、見エツルヲ、消エユクカゾ、竹ニナリユク」 風雅集、十五、雜、上「降りうづむ、雪ニ日數ハ、杉ノ庵、タルヒゾ繁キ、山陰ノ軒」

ふりうり（名） 振賣 品物ヲ、振リ提ケ、又ハ、擔ヒテ、聲立テナガラ、路ヲ賣リ行クコト。フリハヘウリ。ボテイフリ。ボテノ略シテ、ボテ。 行賣 行商 大乘院寺社雜事記、文明十年八月十二日、六方ヨリ近日、奈良中ふり賣之魚、并於二住屋八木之賣買、一切[illegible]、此外ハ不可許旨、嚴密ニ加二下知一」 北條五代記、下、小田原繁昌事、天正十八年「毎日市立テ、七座ノ棚ヲ構ヘ、自力スル物、手賣、ふりうり、自ノ賣物、下ノ買物有リテ、貯集ス」 契情斷絶記、政、長十制札「ふり賣ニ平物、兩隣ヘ見セズシテ買ベカラザルコト」

ふりおこ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四） 振起 氣分ヲ振ヒオコス。奮起ス。萬葉集、廿、廿二「大君ノ、ミコト畏ミ、云云、マスラヲノ、心振起、トリヨソヒ、門出ヲスレバ」 同、十九、長歌「マスラヲノ、心振起、ツルギタチ、腰ニトリハキ」

ふりお・つ・ツル・ツレ・チ・チ・チヨ（自動、上二） 降落 モノノ、上ヨリ降リ來ル。落チ來ル。源、五十一、蜻蛉十五「涙ノヤガテトドコホラズふりおつれバ、イトハシタナケレド」

ふりおとし（名） 振落 （一）振動カシテ、オトスコト。フルヒオトスコト。（二）取引所ノ語、大手筋ガ、自己ノ方針ニ當リテ邪魔ニナル時、一時、反對ノ行動ヲ取リテ、彼等ヲ、掃スルコト 又、マバラフリオトシ。

ふりおと・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四） 振落 振動カシテ、オトス。フルヒオトス。[illegible]集[illegible]「[illegible]振落し、行クヤ霞野ノ、[illegible]」

ふりかか・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四） 降懸 ソソギカカル。フリソソグ。風雅集、九、旅「霞ノ葉ニ、雨ふりかかる、暗キ夜ノ、入江ノ舟ニ、[illegible]ゾ思フ」 宇津保物語、藏開、上「[illegible]ノ[illegible]ノ上ニふりかかりメルヲ、[illegible]」 拾遺集、一、春「梅ガ枝ニ、ふりかかりテゾ、白雪ノ、花ノ便リニ、折ラルベラナル」

ふりか・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二） 振掛 振リテ、オホヒカク。散シカク。枕草子、九、第九十一段「ササケタル扇ヲサヘ取リ給ヘルニ、ふりかくべキ髮ノアヤシササヘ思フニ、云云」 源氏法眼集「ふりかけシ、ネクタレ髮ヲ、カイサグリ、人遣ヘタル、心チモヤセン」

ふりかく・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四） 降隱 降リテ、物ヲオホヒカクス。拾遺集、十八、雜、賀「白雪ハ、降りかくせドモ、千世マデニ、竹ノミドリハ、カハラザリケリ」 古今集、五、秋、下「フミ分ケテ、サラニヤ訪ハン、モミヂ葉ノ、ふりかくしテシ、道ト見ナガラ」

ふりかざ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四） 振翳 モノヲ打振リテ、頭ノ上ニ被フ。頭上ニ振上グ。「太刀ヲ上段ニ振翳す」

ふりかた（名） 振方 處置ノ方法。持チアツカヒ方。「身ノふりかた」

ふりかた・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二） 振擔 振リアゲテ、肩ニ擔フ。菩聞集、十一、帝闕、梢本ノ中ニ、云云、男ノ肩ヌギテ、タツギふりかたげテ、大木ヲ切リタルアリ」

ふりがた・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二） （舊り難し、ノ義） 昔ニ變ハラズ。源、廿、朝顔十四「イトド昔思ヒ出テツツ、ふりがたく、ナマメカシキサマニモテナシ」 同、九、葵廿二「アサマシウ、ふりがたくモ、今メクカナ」

ふりがた・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二） （觸り難し、ノ義カ、振捨テ難し、ノ意カ） 一通リナラズ。和泉式部集、三「古ヘハ、アリケルコトト、聞キナガラ、ナホ悲シサノ、ふりがたきカナ」 [illegible]「[illegible]、夕暮[illegible]ヨソノオボエ[illegible]ふりがたく」 同、廿、[illegible]ノ[illegible]ムル人ノ心バヘコソ、ふりがたく、ラウタケレ」 蜻蛉日記、中、下「ふりがたく、[illegible]ハレトロツツ行キ過ギテ、山路ニ至リカカレバ、云云」

ふりがな（名） 振假名 漢文、又ハ、漢字ニ、和語ヲ當テテ讀ム、其傍ニ、和語ヲ假名ニテ振分ケテ記シ付クルコト 例ヘバ、「學而時習之」、「徒然ナル儘ニ日暮シ硯ニ向ヒテ」ナドノ如シ。傍記[illegible]或ハ、「學而時習之」ノ如ク、こにをはノミヲ記スヲ、送假名、助假名、捨假名、ナド云フ。萬葉集、[illegible]「[illegible]」 [illegible]、[illegible]、[illegible]、云云、源[illegible]於漢字傍付、進假名一[illegible]、云云、[illegible]付二假名於漢字之傍一乎」

ふりか・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二） 振替 一時、取リカヘテ用ヰル。流用ス。フリカヘル。

ふりかへ（名） 振替 （一）ふりかふるコト。一時、流用スルコト。（二）簿記ニテ、金錢ノ出入ナキ取引ノ仕譯、即チ、一勘定科目ト他勘定科目トヲ、相交換スルノ謂ニシテ、コレヲ勘定科目ノ振替トモ云フ。（三）振替貯金ノ略

ぶりかへし（名） ブリカヘスコト。サイカヘルコト。ヤミカヘシ。再發。

ぶりかへ・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四） 一度、癒リタル病ノ、復オコリテ元ニカヘル。病、再發ス。サイカヘル。

ふりかへちよきん（名） 振替貯金 郵便貯金ノ手續ニヨリテ、金錢ノ取引ヲナス者ノ、現金ノ授受ヲ省略シテ、相互ノ貸借ヲ完了セシムル一種ノ制度。多ク送金上ニ利用セラル。即チ、其加入者ハ、加入申込書ニ基本貯金十圓ヲ添ヘ、郵便局ヲ經テ、遞信省貯金局ニ申込メバ、貯金局ニテハ、其口座番號ヲ定メ、其口座ヲ原簿ニ登錄シテ、此加入者ニ送金セムトスル者、振替用紙ニ必要ノ事項ヲ記入シ、現金ニ所定ノ料金ヲ添ヘテ郵便局ニ申込メバ、郵便局ハ、之ヲ貯金局ニ送付シ、其加入者ノ貯金トナス。加入者ハ又、其口座貯金ヨリ郵便局ヲ經テ、他ノ加入者ヘノ貯金ニ振替ヘ得ルト共ニ、又其他ヘモ送金シ得ル仕組ナリ。略シテ、ふりかへ。

ふりかへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四） 振返 後ヘ返リ向ク。フリムク。回顧 百日曾我[illegible]「[illegible]ふりかへりふりかへり[illegible]」 八笑人（天保、鯉丈）四編、追加「面白ナイト云フ所デ、ふりかへッテ一足逃ゲルヲ」

ブリキ（名） 錻葉 錻力 武力 和蘭、Blik ノ訛） ぶりき（錻葉）ニ同ジ。

ふりき・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四） 振切 振リテ放ス。強ヒテ振放ス。提ヘラレタル袖ナドヲ[illegible]ふりきりテ」 東海道中膝栗毛（享和、一九）初編「イメエマシイ、離サヌカト、ヤウヤウニふり切ッテ」

ふりくら・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四） 降暮 雨、雪ナドノ、降リツヅキテ日暮ル。拾遺愚草、下「降りくらす、吉野ノ深雪、イク日トモ、春ノ近キハ、知ラヌ里カナ」 源、二、帚木三「ツレヅレ

ト、ふりくらしテ、シメヤカナル宵ノ雨ニ、殿上ニモオサオサ人ズクナニ」

ふり-お (名) 振子 さげふり(下振)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

ふり-お・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 振越 後ニ下リタル髮ヲ、前ヘ振返ス。カキコス。 金葉集、七、戀、上「アサネガミ、誰ガ手枕ニ、タハ(ワイ)ツケテ、今朝ハカタミニ、ふりおしテ見し(ユイ)」

ふり-おど (名) 振事 所作事(ヲドリ)。フリ。をどり(踊)ノ條ノ(五)ヲ見ヨ。

ふり-お・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 降籠 降リテ、内ヘ籠ラス。フリコメル。 伊勢物語、第八十五段「雪ニふりおめラレタリト云フヲ題ニテ、歌ヨミケリ」

ふり・おめる (動) 降籠 前條ノ語ノ口語。

ふり-さ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 振放 〔放(サ)くハ、さく(放、四段)ノ條ヲ見ヨ〕 遠ク目ヲ放ツ。遙カニ仰グ。 萬葉集、六、廿九「振仰(フリサケ)テ、三日月見レバ、一目ミシ、人ノマヨヒキ、オモホユルカモ」 山家集、上「ふりさけシ、人ノ心ゾ、知ラレケル、今宵三笠ノ、山ヲ眺メテ」

ふりさけ-あふ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(他動、四) フリサケ・アオ・グ 振放仰 手ヲカザシテ、遙カニ仰グ。遠方ヲ仰ギ見ル。 新千載集、十八、雜、下、長歌「天ノ原、ふりさけあふぐ、春ノ日ノ、光リアマネク、テラス世ニ」 新續古今集、廿、神祇「春日山、ふりさけあふぐ、コトノ葉ノ、昔ノ跡ヲ、ナホ頼ミツツ」

ふり-さけ・みる・ミル・ミレ・ミ・ミ・ミヨ(他動、上一) 振放見 振リ仰ギテ、遠ク望ム。瞻仰 あまのはら(天原)ノ條ヲモ見ヨ。 萬葉集、二、廿「天ノ原、振放見レバ、大王ノ、御命ハ、長ク、天足フシタリ」 同、十三「天ノ原、振放見バ、天ノ河、霧立チワタル、君ハ來ヌラシ」 古今集、九、羈旅「天ノ原、ふりさけ見レバ、春日ナル、三笠ノ山ニ、

出デシ月カモ」 萬葉集、廿一「遠妻ノ、振仰(フリサケ)見ツツ、シヌブラム、此月ノ面ニ、雲ナタナビキ」

ふりしき・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 降頻 〔しきる(頻)ノ條ヲ見ヨ〕 シキリニフル。サカリニフル。タエマナクフル。フリニフル。フリシク。 俳諧新選「降りしきる、雪ニアヤシヤ、御忌ノ鐘」 萬葉集、十七「梅ノ花、咲キ散ル[illegible]ヌ、シカスガニ、白雪庭ニ、降頻(フリシキ)ツツ」

ふりし・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 降頻 前條ノ語意ニ同ジ。 萬葉集、十九、四十「白雪ノ、布里之久山ヲ、越エ行カム、君ヲゾモトナ、イキノヲニ思フ」 同、六、四「久堅ノ、雨ハ零敷、思フ子ガ、宿ニ今宵ハ、明カシテ行カム」

ふりし・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 降敷 降リテ、一面ニ敷ク。一面ニワタリテ降ル。 萬葉集、九、五十四「沫雪ノ、ホトロホドロニ、零敷(フリシケ)バ、奈良ノ都シ、思ホユルカモ」 宇津保物語、吹上、下、廿「行ク舟ニ、花ノ殘ラズ、ふりしけバ、ワレモ手ゴトニ、積マントゾ思フ」

ふりし・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(自動、下二) 降染 降リテ、ウルホヒトホル。降リテ、染(シ)ムヤウニナル。 金葉集、一、春「春雨ハ、降りしむれトモ、鶯ノ、聲ハ、シホレヌ、モノニゾアリケル」 風雅集、八、冬「寒キ雨ハ、枯野ノ原ニ、降りしめテ、山松風ノ、音ダニモセズ」

ふりしゃり (副) 立腹シテ、拗ネル狀ニ云フ語。 犬子集(寛永)魚鳥「ふりしゃりトスル、絹ノ振袖」腹立チテ、クネルモ戀ノ、ウキウラミ」

ふり・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 舊 フルクナル。フルブ。 拾遺集、十四、戀、四「身ハ早ク、奈良ノ都ニ、ナリニシヲ、戀シキコトノ、ふりせザルラン」 大貳三位集、秋萩ニ、聞キナラセドモ、イカナレバ、ふりせザルラン、鈴蟲ノ聲」

ふり-ず (副) ヒトトホリナラズ。 源、五十一、蜻蛉、三十五「二人(匂宮ト薫大將トナリ)ノ人ノ御心ノウチ、ふりずカナシク、アヤニクナリシ御心ノサ

カリニカキ絶エテハ、ト、イトイミジケレド」

ふりすさ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ(自動、四) 降荒 ハゲシクフル。サカリニフル。 風雅集、八、冬「降りすさぶ、時雨ノ空ノ、浮雲ニ、見エヌタ日ノ、影ゾウツロフ」

ふりすす・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(他動、四) 振灑 フリ動カシテ、ススグ。又、振出シテ、アラヒキヨメル。 神代紀、上、[illegible]「[illegible]天淳名井、亦名去來之眞名井、而食之」

ふりす・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 振棄 振リハナシテ去ル。フリステル。 源、六、末摘花、八「ヌキ足ニ歩ミノキ給フニ、フト寄リテ、ふりすてサセ給ヘルツラサニ、御送リ仕フマツルハ、云云」 撰集抄、一、第四條「雞」去姿、イトホシキ子ヲふりすて、行方不知成給」 新後撰集、二、春、下「エゾ過ギヌ、コレヤ鈴鹿ノ、關ナラン、ふりすてガタキ、花ノ陰カナ」

ふりす・てる (動) 振棄 前條ノ語ノ口語。

プリズム (名) 〔英語、Prism.〕 相交ハル二平面ヨリ成ル透明體ヲ云フ。普通ハ、からす(硝子)製ノ三角柱ニシテ、光線ヲ此一面ニ當ツレバ、光ノ他ノ側面ヨリ出ヅル際、屈折分散シテ、虹様ノ色帶ヲ生ズ。分光器ニ用ヰラル。三稜玻璃。稜鏡。

ふり-そで (名) 振袖 昔、男、女、元服以前ニ用ヰシ服、袖ヲ甚ダ長ク作リテ、掖下ヲ縫ハズ。(今ハ專ラ若キ婦人、又ハ、少女ノ禮服トス) 元服シテ、常ノ長サニ縮ムルヲ、袖止(トメ)ト云ヒ、其服ヲ留袖(トメソデ)ト云フ。又、特ニ、袖ノ長サ三尺ナルヲ大振袖、又ハ、三尺振袖ト云フ。 好色五人女(貞享、西鶴)五「戀ヨリ通フ嵐ハ、梅ガ薫リヲ作レテ振袖ニ移リ」 近代世事談(享保、菊岡沾涼)一、衣服「袖袂、云云、延寶、天和ノ頃マデハ、ふり袖、長一尺

五寸[illegible]、ふり袖一尺、小袖二尺、[illegible]尺袖ヲ、トウタヒシ也、今世(享保)二尺ヲミジカシトス、八尺袖也、コレニテハ定尺マスマスタラヌハヅ也」 [illegible]ニハ似合ハズ」(誰袖ハ匂袋ナリ) 五十念忌歌念佛(寶永、近松作)中「コノ袖下ハ何事ゾ、若衆ノ前髮、[illegible]振袖セヌサニ[illegible]「一人ノ娘[illegible]」

ふりそで-しんざう (名) フリソデ・シンゾウ 振袖新造 〔振袖ヲ着用セショリ云フ〕 江戸時代、ワカキ遊女。即チ、禿ノ年長ジタルモノ。略シテ、振新(フリシン)ト云フ。 川柳吉原志「新造トハ、禿上リノ年若キ、突出シ前ノ見習女郎デ、マア勿論、一本立ノ花魁トハ、ナラヌ、先ヅ上級ノ妓女郎トイッタ格デアル、句面デハ、老人客ニ可愛ガラレタモノラシク、[illegible]、赤色勝ノ振袖ヲ着テ居タ[illegible]、外貌ノ[illegible]明和ノ川柳「振袖ノ、前帶ノ如ク、[illegible]」文化ノ川柳「振袖ヲ、グットスクッテ、新造逃ゲ」 天保の川柳「振新ハ、尺(酌)取蟲ニ、ハサミ蟲」

ふりそほ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) 降濡 フリテ、ヌルル。降リテ、イタクソボツ。 古今集、十三、戀、三「アケヌトテ、歸ル道ニハ、コキタレテ、雨モ涙モ、降りそぼちツツ」 蜻蛉日記、上、上、八十「初時雨、曇リモアヘズ、ふりそぼち、心細クハ、アリシカト」

ふり-だし (名) 振出 (一)振リ出スコト。(二)器ニ小サキ穴アリテ、打振リテ、内ノ物ヲ出スモノ。「香煎ノ振出」金米糖ノ振出」 (三)藥ヲ、布ノ小袋ニ入レテ、熱湯中ニテ振リ動カシテ、藥氣ヲ出スモノ。「風藥ノ振出」 (四)道中雙六ニ、采ヲ振リ始ムル處。出發點。初發。(五)銀行ナドニテ、爲替、又ハ、手形ヲ發行スルコト。

ふり-だ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 振出

(一)打振リテ、[illegible]。(二)[illegible]。又ハ、[illegible]行ス。(スベテ、前條ヲ見合ハスベシ)

ふりた・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) (一)打振リテ、[illegible]。[illegible]八、初花「八百萬ヅノ神モ、耳ふり立テヌハアラジト見エ候ユ」(二)張リアゲル。古今集、三、夏「夏山ニ、戀シキ人ヤ、入リニケン、コヱふりたてテ、鳴クホトトギス」鶉鈴日記、中、上七「西ノミヤマノ[illegible]ノ聲ノふりたてテ」(三)打振リテ[illegible]ふりたつるニ劣ラズ」

ふりつ (名) 府律 地方自治團體タル府ニテ、設立、維持スルコト。又、ソノモノ。「府立醫科大學、府立高等學校」

ふりつ (名) 不律 〔不律ノ二字ノ合音、ひつ(筆)ナレバ云フ〕(一)筆ノ異名。[illegible]「[illegible]不律[illegible]」(二)法ヲ守ラザルコト。[illegible]「[illegible]不律」

ふり・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ(他動、下二) 振出 ふりいづ(振出)ニ同ジ。新勅撰集、五、秋、下「狩ニノミ、來ル君待ツト、ふりでツツ、鳴ク志賀山ハ、秋ゾカナシキ」

ブリッキ (名) 鐵葉 錻力 武力 〔蘭語、Blik〕又、ぶりき。薄キ鐵板ヲ、錫ノ鎔液中ニ浸シテ、面ニ、錫ノ膜ヲ附着セシメタルモノ。モト西洋ヨリ輸來シ、種種ノ用ヲナス。「[illegible]鐵葉(ブリッキ)[illegible]」

ふりつけ (名) 振付 歌舞伎ナドニテ、振ヲ工夫シ、役者ニソレヲ教ヘ、又ハ、新作ノ踊ニ、振ヲ付クルコト。又、其人。ふり(振)ノ條ノ(四)ヲモ見ヨ。[illegible]下「振り付」注「瀬山七左衛門、小川理右衛門ヲヨシトスル、役者木頭ノ後、今少シフリノツカサル役者ニふりヲ付ケ、或ハ顔方、若衆ナドニ舞ヲ教ヘ、歌舞ノトリ廻リヲ教ユル人ナリ」[illegible]年中鑑、下、十月「振付師、所作事ハふり付コシラヘテ、子役ニオシユル、立ヤク若女形ナドハ、師匠ノふりナドヲ其ママニウツシ、又工夫ノ振モアリ、アテふりモアリ、何レふり付師ト相談ノ上デナケレバナラズ」

ふりつけし (名) 振付師 ふりつけヲナス人。前條ノ語ヲ見ヨ。

ふり・つ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下一) 振付 嫌ヒテ、相手ニセズ。ふる(振)ノ條ノ(十六)ヲモ見ヨ。浮世風の卷(文政、田螺金魚)「キリ山ハ、瀬川ヲ請ケテ、ワガ物トシテ、クドケドモ、詐病ノ床ニふりつけラレ」

ふりつづみ (名) 振鼓 樂器ノ一。鼓ノ如クニシテ、小サクシテ柄アリ、兩旁ニ絲ニテ珠ヲ懸ケ、柄ヲ搖レバ、珠、自ラ革ノ面ヲ擊チテ鳴ル。搖鼓 鼗鼓 倭名抄、[illegible]門「鞀鼓[illegible]」「振鼓[illegible]」榮花物語[illegible]「ウヘノ(一條天皇)、イト若ウオハシマセバ、ふり鼓ナドシテ參ラスルニ」千載集、十八、雜[illegible]「池モふり、つつみ崩レテ、水モナシ、ウベカツマタニ、鳥モヰザラン」

ふりづんばい (名) 飄石 訛シテ、ふんべい、略シテ、ふる。又、ふりづばい。づんばい(飄石)ニ同ジ。和漢三才圖會、廿一、征伐具「飄石、不利豆牟波以」

ふりで (名) 振出 紅ヲ水ニ振出シテ染ムルコト。(ふりいづノ條ヲ見ヨ) 永久四年百首「クレナヰノ、ふりでノ色ノ、岡ツツジ、妹ガ眞袖ニ、アヤマタレツツ」

ふりは・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(自動、下二) 舊果 フルビヲハル。拾遺愚草、上「ふりはつる、身ニコソ待タネ、梅ノ花、積ナク宿ノ、春ナ忘レ[illegible]」

ふりは・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(自動、下二) 降果 フリ盡ル。[illegible]十七、雜、上「[illegible]ふりは[illegible]、袖ニトマルハ、涙ナリケリ」月清集「ふりはてテ、雪消エ[illegible]」

ふりはな・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 振放 フリテ、ハナレサス。フリハナツ。大貳三位集「オボロゲノ、契リトゾ見ン、ウベノリヲ、振りはなしタル、音ヲ聞キシモ」

ふりはな・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(他動、四) 振放 前條ノ語ニ同ジ。

ふりは・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(自動、下二) 振延 (心ヲ振リ延ヘテ意) 延ベテ振ル。古今集[illegible]「[illegible]袖振りはへテ、人ノ行クラン」(次條ノ語意ニ掛ク)

ふりは・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(自動、下二) 振延 其方ザマヘ、一向キニ物ス。コトサラニス。ワザワザナス。源、五、若紫三十五「山里人ニモ、久シウ音ヅレ給ハザリケルヲ思シ出デテ、振りはへ遣ハシタリケレバ」同、十九、薄雲五十「タマサカニテ、カヤウニ振りはへ給ヘルコソ、タケキ心チスレ」後撰集、八、冬「白雪ノ、ふりはヘテコソ、トハザラメ、トクル便リヲ、過サザラナン」

ふりはへ (副) 振延 次條ノ語ニ同ジ。大和物語、下「カカル心バヘニテ、ふりはへ來タレド、我ガ睦シキ從者モナシ」源、十二、須磨八「カレ(御息所)ヨリモ、ふりはヘタヅネ參レリ」

ふりはへて (副) 振延 又、ふりはへ。コトサラニ。ワザワザ。(前前條ノ語ヲモ見ヨ) 古今集、十、物名「ふりはへて、イザ古里ノ、花見ント、來シヲ匂ゾ、ウツロヒニケル」土佐日記、十二月廿九日「[illegible]ふりはへて、[illegible]酒加ヘテ持テ來タリ、志アルニ似タリ」[illegible]「ふりはへて、花見ニ來レバ、ヲグラ山、イトドカスミノ[illegible]」

ふりは・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [illegible]ノ空ハ、ノドカニテ、日カゲニ落ツル、軒ノ玉水」玉葉集、六、冬「ふりはれテ、月ノカゲサス、庭ノ雪ハ、深キモ深ク、見ユルナリケリ」

ふりふ (名) 不立 「不立文字ノ略」[illegible]ノ語ヲ見ヨ。[illegible]

ふりふもんじ (句) 不立文字 佛教ノ語。禪門ハ、文字、言句ニ依ラズ、直ニ、佛ノ心印ヲ單傳シテ、自己ノ心地ヲ開明スルヲ本旨トスル故ニ、此宗ヲ一ニ不立文字宗トモ云フ。けうげべつでん(教外別傳)ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]

ふりふり (副) (一)[illegible]云フ語。[illegible]發心集[illegible]「アラチ山、梢ノ雪ニ、風吹ケバ、ハルルトスレド、マタハふりふり」今昔物語、廿六、第三語「[illegible]ルホドニ遙也ケリ」(二)振リナガラ。振リツツ。「袖ヲふりふり行ク」

ぶりぶり (名) 振振 又、ぶりぶりぎっちゃう。男兒ノ玩物。木ヲ八角ニ削リ、

長サ五寸餘、兩端ヲ細ク、中フクラニシテ、細キ方、上ノ方左右ニ、木瓜形ノ穴ヲ穿チ、ココニ大戸ノ戸車ノ如キ玉ヲツケテ、總體、金箔ニテダミテ、其上ニ鶴、龜、松、竹、尉、姥ナドヲ彩色繪ニシタル槌形ノモノ。用キル時ハ、玉ヲハナシ、木瓜形ノ穴ヘ、竹木ノ杖ヲ貫キ、柄トシテ毬杖トシテ、玉ヲ抛チテ打ツ(打毬ト混ズ)モノ。昔、魔ヲ除クトテ、年始ニ用ヰ、又、室內ノ飾物トス(支那ノ田ヲ平ラニスル農具ニ、碌碡、礰礋アリ、其形、ブリブリニ似タレバ、コレヨリ起ルカト云ヘド、此器、和漢三才圖會、八十八、夷果類、五斂子ノ條ニ、碌碡、田器也、本朝田家、未レ見レ之トアリテ、緣ナシ)だきう(打毬)ノ條ノ(一)ヲモ參見セヨ。誰身の上(明曆)ニ「飾リワラベノ玉毬打、ぶりぶり振リシ佐保姬ニ」松の落葉(寶永)、大木扇(德)一、京齋「先ヅ正月ハ、云云、ぶりぶりぎちヨヲ手ニフレテ、玉ヲ打出ノ濱弓ヤ」

ぶりぶり (副) ぶらぶらニ同ジ。沙石集、八、上、第十一條、天狗の物語「其後、空ヨリ、足アル釜、ぶりぶり(ふりふりィ)トシテ落ツ」

ぷりぷり (副) (一)魚ナドノ肉ノ、新鮮ニシテ、生生(イキイキ)トシタル狀ニ云フ語。浮世風呂(文化、三馬)四編、下「ぷりぷりスル鰹ガ、一節九文サ、ソレデ其土地ガ、海ヘ僅カニ一里アル」(二)怒リテ、口ヲキカヌ狀ニ云フ語。

ぶりぶりぎっちゃう(ブリ・ブリ・ギッチヨウ) (名) 振振毬杖　ぶりぶり(振振)ニ同ジ。

ふりほど・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 振解　打振リテ解ク。トキハナツ。撰集抄、三、第八條「去給ニケルヲ、袖ヲ引留テ、云云、泊瀨山ノ迎西トテナン、ふりほどき出給ニケリ」

ふりまが・ふ(フリ・マガ・ウ)・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 降紛　入リ混リテ降ル。降リテ、分チ難シ。拾遺愚草、下「降りまがふ、雪ヲヘダテテ、出デツレド、雲間ニ消ユル、蜑ノ釣舟」

ふりまが・ふ(フリ・マガ・ウ)・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 降紛　降リテ、入リ混ルヤウニス。又、降リテ、紛ルルヤウニス。降リテ、分チ難カラシム。新古今集、六、冬「草モ木モ、ふりまがへタル、雪モヨニ、春待ツ梅ノ、花ノ香ゾスル」

ふりま・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 振撒　(一)ソソギカク。マキチラス。「水ヲふりまく」(二)惜ミナク分チ施ス。「愛嬌ヲふりまく」「金ヲふりまく」

ふりまさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 舊增　舊リユクコトノ增サル。老イノ益加ハル。一層老イユク。續拾遺集、七、雜、春「ふりまさる、ヨハヒヲ花ニ、數ヘテモ、アカヌ心ハ、タヌ春カナ」古今集、六、冬「アラタマノ、年ノ終リニ、ナルゴトニ、雪モ我ガ身モ、ふりまさりツツ」

ふりまさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 降增　降ルコトノ增サル。降リ益加ハル。一層降リツノル。新古今集、十四、戀、四「言ノ葉ノ、ウツロフダニモ、アルモノヲ、イトド時雨ノ、ふりまさるラン」後拾遺集、五、秋、下「見シヨリモ、荒レゾシニケル、石ノ上、秋ハ時雨ノ、降りまさりツツ」

ふりまは・す(フリ・マワ・ス)・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 振廻　(一)己レヲ中心トシテ、其周圍ニ廻轉セシム。轉ジテ、自由ニ使ヒコナス。「棒ヲ振廻す」「人ヲふりまはす」(二)テラフ。テラハス。ヒケラカス。「通(ツウ)ヲふりまはす」

ふりみだ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 振亂　髮ナドヲ、打振リ亂ス。

ふりみだ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 降亂　雪ナドノ、亂レテ降ル。萬葉集、三

七「八釣山、木ダチモ見エズ、落(フリ)亂(ミダル)、雪ハダラナル、アシタ樂(タヌ)シモ」源、五十、浮舟「ふりみだれ、汀ニ氷ル、雪ヨリモ、中空ニテゾ、我ハケヌベキ」

ふりん (名) 不倫　(倫ハ道ノ意)人道ニソムクコト。人倫ニモトルコト。道德ニハヅルルコト。破倫。

ふりむ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 振向　他ノ方ヘ向ク。回顧。俳諧新選「振向けバ、燈トボス里ヤ、夕霞」東海道中膝栗毛(文化、一九)四編、上「脇ノ方ヲグットふりむいテヰルト」俳諧古選「水ノ輪ヲ、振向いテ行ク、千鳥カナ」

ふりむ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 振向　移シテ、他ノ方ヘ向クル。他ヘ向カシム。フリムケル。

✣✣**ふりむ・ける** (動) 振向　前條ノ語ノ口語。

ふりやう(フ・リヨウ) (名) 不良　ヨカラヌコト。善良ナラザルコト。書經、君陳篇「簡二厥修一、亦簡二其或不修一、進二厥良一、以率二其或不良一」蒼話錄(唐、劉餗)「李勉爲二畿縣尉一、時有二不良、好納二人賄一」

ぶりやうし(ブリヨウ・シ) (名) 部領使　ことりづかひ(部領使)ニ同ジ。

ぶりやく (名) 武略　戰ノ駈引ヲナスニツキテノ謀。戰爭上ノ謀略。戰略。軍略。後漢書、梁慬傳、論「日、時政平、則文德用、而武略之士、無二所一施二其力能一」唐書、王忠嗣傳「忠嗣及レ長、雄毅寡言、有二武略一」保元物語、一、新院御所各門門固事「義朝ハ武略ノ奧儀ヲ究メタル者ナレバ」

ふりゆ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 舊行　フルビユク。フルクナリ行ク。老イユク。古今集、一、春、上「百千鳥、サヘヅル春ハ、モノゴトニ、アラタマレドモ、我ゾふりゆく」後拾遺集、十八、雜、四「古ヘニ、ふりゆく身コソ、アハレナレ、昔ナガラノ、橋ヲ見ルニモ」新古今集、十六、雜、上「春ヲヘテ、御幸ニナルル、花ノ蔭、ふりゆく身

ヲバ、アハレトヤ思フ」

ふりよ (名) 不慮　思ヒマウケヌコト。意外。不意。杜甫詩、[illegible]「人生富貴[illegible]」[illegible]太平記、十四、南都山門牒狀事「去十四日[illegible]二皇子、不慮ニ外、所[illegible]寺[illegible]給也」「不慮ノ[illegible]」

ふりよ (名) 俘虜　イケドリタルモノ。イケドリ。トリコ。捕虜。晉書、祖逖傳「置酒大會、耆老中坐、流涕曰、吾等老矣、云云、乃歌曰、幸哉遺黎免二俘虜一、三辰既朗遇二慈父一」

ぶりよ (副) 無慮、亡慮　(大率ニシテ、小計慮セザル意、亡、無、相通ズ)凡ソ。アラマシ。大方。ムリョ。漢書、趙充國傳「亡慮萬二千人」注「師古曰、亡慮、大計也」唐書、郭子儀傳「子儀歷二官位一、無慮二十四鎭」

ぶりようたうげん(ブリヨウ・トウゲン) (名) 武陵桃源　(晉ノ陶淵明ノ假設ノ記事ニ因リテ、人間ト離レタル別天地ノ稱)仙人ノ住所。仙境。たうげん(桃源)ノ條ヲモ見ヨ。

ぶりよく (名) 武力　武勇ノ力。又、軍隊ノ力。兵力。史記、秦始皇紀「二世皇帝元年、趙高曰、云云、今時、不レ師二文而、決二於武力一」漢書、食貨志「入レ物者補レ官、出レ貨者除レ罪、選擧陵夷、廉恥相冒、武力進用」

ふりわ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 振分　割リテ分ツ。割リアテ分ツ。區分ス。配當ス。分賦。

ふりわけ (名) 振分　(一)フリワクルコト。(二)次條ノ語ノ略。萬葉集、十一「振別(フリワケ)ノ、髮ヲ短ミ、春草ヲ、髮ニタクラム、妹ヲシゾ思フ」宇津保物語、藏開、上「十ノ御子、四バカリニテ御髮ふりわけニテ、白ク美シゲニコエテ」榮花物語、十一、若花「若宮ノ御髮、アサマシク長ク、ふりわけニ生ヒサセ給ヘリ」(三)驛ト驛トノ路程ノ、等分ニ分ルル處ナドノ稱。又、道

堤ノ、背面ヨリ表面ヘ、ブノ中央ノ處。(四)穿物ナド擲ノ、前後ニ[illegible]分クルコト。(五)本一ツニテ、末ノ斜ニ、左右ヘ分レタルコト。又、ソノモノ。

ふりわけがみ (名) 振分髪 放髪 童男女ノ髪ニ、左右ニ振分ケテ垂レタルモノ。末ヲ肩ニ比ベテ切ルトゾ。略シテ、ふりわけ。松屋筆記、六十七、髪の條「按ニ、振別髪ハ、八歳マデ肩ニ比ベテ切タルガ、頂ノ下ヨリ左右ニ別レ、頬ノアタリヘ垂下レバ、振別髪トハイヘル也」[illegible]ベキ」源、三十四、上、若菜、上「二人同ジヤウニ、ふりわけがみノ、何心ナキ古衣姿[illegible]」

ふる (名) 古 故 舊 古キコト。故ナルコト。年ヲ歷タルコト。又、ソノモノ。源、四十四、総角姫「カカル古物、世ニ侍リケリトバカリ、シロシメサレ侍ラナン」枕草子、七、第六十八段「オナジふる事トイヒナガラ、シラヌ人ヤハアル」「古人」古果」古歌」古言」故事」舊ノ品」

ふる (名) 柄 柯 〔振ル意カト云〕 斧ノ柄。カラ。倭名抄、十五工匠具「柲、乎乃乃江、[illegible]、布流、斧柄名也」金葉集、六、別離「伊勢ノ海、小野ノふるエニ、朽チ果テテ、都ノカタヘ、カヘレトゾ思フ」續古今集、四、秋、上「ミナトコス、夕波スズシ、イセノ海ノ、ヲノノふるエノ、秋ノ初風」(二首トモ、斧ノ柄ニ言ヒ掛ケタリ)

ふる (名) ふるふんべいノ略。其條ヲ見ヨ。

ふ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 降 空ヨリ落チ下ル。高キ處ヨリ落チ來ル。ソソグ。萬葉集、五「春ノ野ニ、キリタチワタリ、布流雪ト、人ノ見ルマデ、梅ノ花散ル」同、二十「吾里ニ、大雪落有、大原ノ、フリニシ里ニ、フラマクハノチ」推古紀、二十四年三月「雹以霜降」[illegible]、五年十二月[illegible]「[illegible]」「雨降る」

ふ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 觸 アタル。サハル。[illegible]觸ス。萬葉集、八、[illegible]「[illegible]」九十三「落チタギチ、流ルル水ノ、磐ニ觸(古義ノ訓)、淀メル淀ニ、月ノ影見ユ」同、廿七「大君ノ、ミコトカシコミ、磯ニ布理、海原ワタル、父母ヲ置キテ」

ふ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 震 震フ。搖リ動ク。ユラメク。允恭紀、五年七月「己丑、地震」[illegible]大地震、古老[illegible]「[illegible]ヘふりテ、イトケウトマシキ事ノミアレバ」[illegible]

ふ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 振 (一)起ツ。オコル。(波ニ云フ) 萬葉集、十一「風ヲ痛ミ、甚振る浪ノ、間ナク、吾ガ念フ君ハ、アヒ念フラムカ」同、十七長歌「遠近夫利ノ、白浪ノ、荒磯ニ寄スル」(二)吹ク。(風ニ云フ) 源順集「夜ヲ寒ミ、コトニシモイル、松風ハ、君ニヒカレテ、千代ゾふる(經るニ振るヲカク)ラン」

ふ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 振 (一)〔搖〕搖リ動カス。一端ヲ取リテ、他端ヲ搖リ動カス。[illegible]欽明紀、廿三年七月「カラ國ノ、城ノ上ニ立タシ、大葉子ハ、比禮甫羅ス見ユ、難波ヘ向キテ」萬葉集、廿「足柄ノ、御坂ニ立シテ、袖布良バ、家ナル妹ハ、サヤニ見モカモ」相摸風土記、識有郡「見越崎、毎有速浪、崩石、國人名號伊會布利、謂振石也」「刀ヲ振る」旗ヲ振る」(二)散ラシテ、蒔キカク。「鹽ヲ振る」砂ヲ振る」(三)配リツク。當ツ。配 「播ヲ振る」假名ヲ振る」割り振る」振り分ク」振り向クル」(四)〔禮儀ヲ整ヘテ、神ヲ出デサセ奉ル。神ノ出行ニ、仕ヘ奉ル。(神威ノ、震ヒタマフベク仕フル意ト云フ)〕早キ遷ス。天武紀、下、十四年十一月「是日、爲天皇招魂之」四時祭式、下「鎮魂祭」倭姫命世記「大若子命使龍往天、奉罷奉」大鏡、下、道長、[illegible]テハ、又近クふり奉リテ、大原野ト申ス、云云、備モ近クトテ、又、ふり奉リテ、吉田ト申シテオハシマスメリ、此吉田ノ明神ハ、山蔭ノ中納言ノふりタテ奉リ給ヘルゾカシ」[illegible]

ふ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 觸 (一)アタル。サハル。接觸ス。又、馴レ添フ。雄略紀、元年三月「以裙觸體、即便懷脈」萬葉集、十四「馬柵ゴシ、麥ハム駒ノ、ハツハツニ、ニヒ肌布禮シ、子ロシカナシモ」[illegible]「トミニ御手モふれサセ給ハザリシモノヲ」「衣ニ觸る」手ニ觸る」[illegible] 源、七、紅葉賀「カクヲサナキ御ケハヒノ、コトニふれテシルケレバ」同、十、榊「コトニふれテ、ハシタナキ事ノミ出デクレバ」[illegible]「折ニふれテ」(三)染ム。感ズ。[illegible]「時候ニふる」[illegible]「耳ニ觸るトハ、見ユノ意ニテ」刑法「豈不哀哉」

ふ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(他動、下二) 觸 〔縦横回旋ノ義〕遍ク告グ。衆人ニ告ゲ知ラス。仰セ出サル。觸レマハル。徇フ。今、専ラ、官ヨリ世ニ令スルニ云フ。布告ス。廻文ヲ廻ハス。フレ狀ヲ廻ス。徇 狥 盛衰記、六、[illegible]「侍トモ二可有用意トふるべシ」源、廿九、夢「サモアリヌベキアタリハ、ハカナシゴトモ、宜ヒふるるハアマタアレド」金葉集、九、雜、上「小弓ヲ取リテ、サブラヒニ、コレハオロシツトふれテ、出デニケリ」[illegible]

[illegible]

ふ・る・ルル・ルレ・リ・リ・リヨ(自動、上二) 舊 〔經ニ通ズ〕(一)古クナル。古ブ。年ヲ歷ル。古今集、十四、戀、四「鎖メコシ、君ノ葉今ハ、返シテン、我身ふるれバ、置キドコロナシ」[illegible] 古今集、十七、雜、上「世ノ中ニ、ふりヌルモノハ、津ノ國ノ、長柄ノ橋ト、我トナリケリ」(二)舊クナル。舊サルル。(賞翫セラレヌ意) 催馬樂、本滋「本滋キ、吉備ノ中山、昔ヨリ、名ノ不利來ヌハ、今ノ世ノタメ」

ふ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 狂 [illegible]。シキヨリ外ル。カタヨル。クルフ。「氣ガふる」東ノ方ニふれテ」

ふ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(他動、下二) 經科 〔徇ノ義〕ふる(觸、他動、下二)ニ同ジ。[illegible]

ふ・る (動) ふ(經)ノ變化。其條ヲ見ヨ。源、二、帚木「世ニふるタヅキ少ク、トキ世ウツロヒテ、すゑナドロヘヌレバ」

ぶる 振 他ノ語ニツキテ、其[illegible]ヲ云ヒ表ハス語。ラシクスル。「才子ぶる」[illegible]ぶる」

ふるあと (名) 古跡 こせき 古跡ニ同ジ。[illegible] 抄、廿二、田「ニヒハリノ、道ノヨコタヲ、引捨テテ、ヨヨノふる跡、早苗トルラン」

ふるいけ (名) 古池 フルキイケ。又、

ソ、フルビタル池。芭蕉句集、存「古池ヤ、蛙トビコム、水ノ音」

ふるいへ（名）古家　フルキイヘ。又、フルビタル家。フルヤ。狂言記、居杭「大水出レバ堤ノ弱リ、大風吹ケバ古家ノタタリ」

ふるうた（名）|古歌|　古人ノ詠ミタル歌。ムカシノ和歌。古歌。土佐日記、正月十一日「ふるうたニ、數ハ足ラネド、カヘルベラナル、ト云フ事ヲ、云云」榮花物語、五、浦浦別「云云ト云フふる歌ヲ、カヘサセ給ヘルナルベシ」

ふるえ（名）|古江|　フルキ入江。又、フルビタル入江。續後拾遺集、十、賀「萬代ノ、カゲヲナラベテ、鶴ノスム、ふる江ノ浦ハ、松ゾ木ダカキ」夫木抄、廿三、江「カケロフノ、ヲノノふるえヲ、越ス潮ノ、ミナトヤイヅク、春ノタナギ」

ふるえ（名）|古枝|　フルキエダ。又、年經タル木ノ枝。フルエダ。萬葉集、八、六十「百濟野ノ、萩ノ古枝ニ、春待ツト、スミシ鶯、鳴キニケムカモ」續古今集、十七、雜、上「春日野ノ、松ノ古枝ノ、悲シキハ、ネノ日ニアヘド、引ク人モナシ」

ふるえぐさ（名）|古枝草|　はぎ（萩）ノ異名。藏玉集、古枝草、萩（宮城野ニアリ）「宮城野ヤ、露モ色アル、古枝草、コトシノ秋モ、花ハ咲キケリ」

ふるおきな（名）|舊翁|古翁|　齡老イタル翁。フルキオキナ。老翁。老叟。古老。故老　おきな（翁）ノ條ヲ參見セヨ。倭名抄、二「老幼類「耆宿、布流於木奈」」顯宗即位前紀「兄友弟恭、不易之典、聞諸古老」同紀、元年二月「是月、召聚耆宿（フルオキナ）、親歷問」萬代集、一、春、下「花ニヨリ、オホクノ春ヲ、チギリツツ、ふるき翁ト、ナレル我身ゾ」

ふるかね（名）|故鐵|　銅、鐵等ノ諸器ノ、用ヰ舊シ、又ハ、毀ハレタルモノヲ、賣買スルニ就キテ云フ語。享保令典、水鑑、三十六、諸商賣、寛文七未年九月「覺、一、江戸中辻辻橋橋之邊、何ニテモ古かねノ類、一切賣買仕ベカラザル事」天保集成絲綸錄、九十三、文化九申年九月、町觸「町中古鐵買共、去ル卯年、組合相極、鑑札相渡置候處、云云」

ふるかは（名）|古川|古河|　フルキカハ。又、フルビタル川。新六帖、三、ふね「古河ニ、カタブキヲレル、ステ船ノ、ウカブカタナク、朽チヤハテナン」古川に水絶えずトハ、モト富有ナリシ家ハ、衰微シテモ、猶、容易ニ盡キザル譬ナドニ云フ。毛吹草「古川に水絶えず」里の小田卷、評「各各タシナミノ藝術アリ、コレ昔ノ風儀殘り、古川に水たえず」

ふるかほ（名）|古顏|　古クヨリ居住シテ、其朋友間ナドニ知ラレタルモノ。又、古クヨリ官衙ニ奉職シテ、其同僚間ニ崇メラルル人。フルカブ。故參。

ふるかんだちべ（名）|古上達部|　古キ上達部。年數ヲ經タル上達部。宇治拾遺、二、第五條「今ハ昔、左京ノ大夫ナリケル古上達部アリケリ、年老イテ、イミジウ古メカシカリケリ」

フルキ（名）|黑貂|　〔渤海ノ語。蒙古語、Bulaga. だふうる語、Bulga. コレニ當ル（新村出ノ說）〕獸ノ名。朝鮮、遼東地方ノ產。黃貂、てんノ類ニテ、松樹ニ棲ミ、其實ヲ食フト云フ。毛ノ色、黑シ、數枚ヲ續ギテ、裘トシ貴ブ。又、白貂モアリト云フ。殊ニ、我ガ奈良、平安朝ノ頃、渤海國ノ使、此獸皮ヲ朝廷ニ獻ジ、コレヲ用キル風習ヲ作リシガ、其後、絕エタリ。戰國策、趙策、上「蘇秦說李兌、李兌送蘇子明月之珠、和氏之璧、黑貂之裘、黃金百鎰」倭名抄、十八、廿二、毛羣名「黑貂、布流木、唐韻云、有黃貂黑貂、出東北夷」名義抄「黑貂、フルキ」源、六、末摘花、廿五「ウハ着ニハふるきノ皮衣、イト淸ラニ香バシキヲ着給ヘリ」多武峯少將物語「ふるきノ皮ノオホンゾ、云云、タテマツラセ給フ御歌、憂ナレド、山ハサムシト、イフナレバ、コノカハギヌゾ、風ハフセガン」西宮記、臨時、八「臨時祭（十一月）……賀茂、舞人歸路、着黑貂皮衣」續紀、十、神龜五年正月「甲寅、天皇御中宮、高齊德（渤海郡ノ王ノ使）等、上其王書并方物、其詞曰、云云、并附貂皮三百張、奉送」三代實錄、四十七、仁和元年正月廿七日「始禁着用貂裘、但參議已上非制限」

ふるき（名）|古木|　年數ヲ經タル木。老木。老樹。續古今集、十七、雜、上「山カゲノ、古木ノ櫻、オナジエモ、イカナルホドニ、花ノ咲クラン」

ふるぎ（名）|古着|　着舊シタル衣服ノ稱。故衣　狂言記、末廣「イツモおごう樣カラ、女ドモ方ヘ、古着ノ御小袖ヲクダサルル」信州川中島合戰（享保、近松作）三「輝虎殿カ、兩度モ着給フトアルカラハ、輝虎ノ古着、此ノ婆ハ此ノ年マデ、人ノ古着貰ウテ着タ事ガナイ」

ふるきず（名）|古創|古疵|　（一）フルクナリタル疵。年數ヲ經タルキズ。槍權三重帷子（享保、近松作）下「止メハイヅレモ一刀、槍ノ權三ガ古身ノ槍、疵モ古疵、話モ古シ、歌モ昔ノ古歌ナレド」（二）フルキ犯罪。モト犯シタル罪。舊惡。「古創ヲアバク」

ふるぎつね（名）|古狐|　（一）多クノ歲ヲ經タル狐。古キキツネ。夫木抄、廿七、野干「花ヲ見ル、庭ノホトリノ、ふるぎつね、カリノ色ニヤ、人マヨフラン」盛衰記、廿六、祇園女御事「ヨモ實ノ鬼ニハアラジ、祇園林ノ古狐ナドガ、夜深ケテ人ヲ誑スニコソアラメ」（二）轉ジテ、老猾ナルシレモノヲ、罵リ云フ語。古狸ト云フモ、コノ意ナリ。其條ヲモ見ヨ。

ふるくさ（名）|古草|　舊年ノ草。去年生ヒテ、今ノ年ナホアル草。萬葉集、十四、廿九「オモシロキ、野ヲバナ燒キソ、布流久左ニ、新草マジリ、生ヒハ生フルガニ」

ふるくさ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）|古臭|　甚ダ舊ビタリ。フルメカシ。陳腐。今昔物語、廿三、[illegible]「[illegible]ニ、タチバナナドハ、ふるくさきトヤ」

ふるぐひ（名）|古杙|　フルクナリタル杙。年數ヲ經タル杙。千載集、十五、戀、五「人心、何ヲタノミテ、水無瀨川、瀨瀨ノふるぐひ、朽チハテヌラン」六帖、三「大井河、セキノ古杭、年フトモ、我忘ラレン、トヤハ思ハン」

ふるごたち（名）古御達　古キ女房達。ご（御）、及、ごたち（御達）ノ條ヲモ併セ見ヨ。源、二、帚木「使フ人、ふるごたちナド、君ノ御心ハアハレナリケルモノヲ、云云」

ふること（名）|古言|　フルキ言葉。古語。又、古キイヒツタヘ。古傳。神武紀、元年正月「古語（私記、不留古止）」續後紀、十九、嘉祥二年三月「古語ニ、ツタヘ來レル、神語ニ、ツタヘ來レル」源、十三、明石、十五「サシモキキ置キ給ハヌ世ノふる言ドモ、クヅシイデテキコユ」

ふるごと（名）|故事|　こと（事）、故事ノ條ヲ見ヨ。讃岐典侍日記「芹摘ミシト云ヒケン古事ヲ、云云」赤染衛門集「ふるごとモ、アタラシクノミ、思ホヘテ、今ハ昔モ、闇キヤワカレシ」

ふるごめ（名）|舊米|古米|　フルクナリタル米。又、前年ニ穫リタル米。ヒネマイ。陳米　書言字考節用集、六、服食門「陳米、フルコメ、フケゴメ、正曰舊倉米、又云、古米」

ふるこもち（名）|古子持|　年タケタル子持ノ女。榮花物語、十一、蕾花「アヤシク見苦シキ子持ノ御樣カナ、ふるこもちナドハ、娑ノ樣侮ウ、色高ビレナドシタレバコソ心苦シケレ」

ふるごろも（名）|古衣|　キフルシタル衣。フルギヌ。フルギ。故衣。萬葉集、十一、廿五「古衣、ウツテシ人ハ、秋風ノ、タチクル時ニ、モノモフモノゾ」

ふるごろも（枕）|古衣|　〔垢ツキタル衣ヲ、解キ洗ヒ、張リテ砧シテ更ニ打ツ意

ヨリ、古衣ヲ又打ニカケタル語) 又打(マタウツ) [illegible]

[illegible]マツチノ山ユ、[illegible]リコスカモ」 同、十二(廿八)「[illegible]ノ、衣[illegible]キ洗ヒ、又打山、古人ニハ、猶如カズケリ」

ふるこゑ [illegible] 古聲 [illegible]ノ[illegible]ビタル[illegible]。サキツトシノコヱ。モトノママノコヱ。[illegible]キ、今モ鳴カナン、コゾノふるこゑ」 躬恒集、下「アクラシク、照ル月カゲニ、ホトトギス、ふる聲シルク、鳴キワタルカナ」

ふるざけ (名) 古酒 フルキサケ。去年[illegible] 下、食服門「古酒、[illegible]、フルサケ」

ふるさと (名) 古里 (一)舊リタル里。フルビ荒レタル里。[illegible]古ク、物ノアリタリシ地。古跡 故蹟 古今集、二、春、下「[illegible]ハラズ、花ハ咲キケリ」 同、六、冬「ミヨシ野ノ、山ノ白雪、ツモルラシ、故郷寒ク、ナリマサルナリ」 (二)本居所。他國ニ移リテ住メルモノナドノ、モト住ミシ里ヲ云フ語。コキャウ。故郷 故山 故國 家山 源、十二、須磨「故郷ノ女コヒシキ人人ノ心、ミナナゲサミニケ[illegible]」 古今集、六、冬「ふる里ハ、吉野ノ山シ、近ケレバ、[illegible]日ミ雪ノフラヌ日ハナシ」 [illegible]集、四、秋、上「故郷ヲ、思ヒオキツツ、來ル雁ノ、旅ノ心ハ、空ニゾアリケル」 (三)[illegible]往時、假初ニ居タリシ地。舊遊地 古今集、一、春、上「人ハイサ、心モ知ラズ、古里ハ、花ゾ昔ノ、香ニ匂ヒケル」

ふるさとびと (名) 古里人 フルサトノ人。故郷ノ人。鄕人 源、三十二、梅枝「メ[illegible]」 古今集、[illegible]、春、[illegible]櫻花、散ラバ散ラナン、[illegible]ふるさとびとノ、來テモ見ナクニ」 [illegible]、雜、[illegible]「思ヒキヤ、古里人ニ、身ヲナシテ、花ノタヨリニ、山ヲ見ントハ」

ふるし・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 古 故 舊 (一)[illegible]久シ[illegible]。古ナ[illegible]リケル」 (二)〔多ク年ヲ經タリ。年久シ。枕草子、二、第十四段「古きモノノ(春曙抄、老人也)、サモエ[illegible]マジキハ」「[illegible]ふるし」[illegible]メリ」 (三)〔新シカラズ。陳ケタリ。陳[illegible]、[illegible]ふるき枕、ふるきフスマ」[illegible]ロ、ふるきアタラシキト[illegible]ツツ引キ包ミテ」(衣ナリ)「衣ふるし」ふるき米」

ふるしき (名) 風呂敷 ふろしき(風呂敷)ノ訛。

ふるじゃうるり (名) 古淨瑠璃 義太夫節 其節ヲ見ヨ)ヨリ以前ニアリシ大薩摩節、加賀節、土佐節、ナドノ淨瑠璃節ノ稱。コジャウルリ。

ふるす (名) 古巣 (一)〔フルキ巣。年數ヲ經タル巣。モトノ巣。 古今集、十九、[illegible]「[illegible]ノ、コゾノ宿リノ、ふるすトヤ、我ニハ人ノ、ツレナカルラン」 千載集、二、春、下「花ハ根ニ、鳥ハ古巣ニ、歸ルナリ、春ノトマリヲ、知ル人ゾナキ」 (二)轉ジテ、住ミフルシタル處。 芭蕉句集「古巣タダ、アハレナルベキ、隣カナ」 泊船集(元[illegible]、旅[illegible]、古巣ハ、梅ニナリニケリ」

ふるす・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 舊 (一)用ヰテ古クナス。舊ビシム。 新六帖、一、むつき「ササナミヤ、大津ノ宮ハ、荒レヌレド、春ハふるさズ、立チカハル哉」 古今集、[illegible]、[illegible]「コゾノ夏、鳴キふるしテシ、時鳥、ソレカアラヌカ、聲ノカハラヌ」 後撰集、十一、戀、三「思フテフ、事ヲゾネタク、ふるしケル、君ニノミコソ、云フベカリケレ」「聞キふるす」住ミふるす」着ふるす」 (二)捨ツ。忘ル。 古今集、十五、戀、五「秋トイヘバ、ヨソニゾ聞キシ、アダ人ノ、我ヲふるせル、名ニコソアリケレ」 [illegible]撰集、十[illegible]、[illegible]、四「[illegible]ヒタブルニ、思ヒナ[illegible]ビソ、ふるさルル、人ノ心ハ、ソレヨ世ノ常」

ふるずらう (名) 古受領 フルキ受領。[illegible]モトノ[illegible]神、モトノ有樣アラタムルコトモナキ物カラ」

ふるせ (名) 古背 [illegible]キナルモノ。(初[illegible]ヲ[illegible]ニ[illegible]「ふるせ、[illegible]ノ[illegible]フ」

ふるた (名) 古田 フルキ田。荒レフルビタル田。 相撲集「中山ノ、ふる田アラサズ、今年ヨリ、我マモリツツ、ナデテオホサン」

ふるだうぐ (名) 古道具 家具、器物ノ用ヰ舊シタルモノヲ、賣買スルニツキテ呼ブ稱。古物。骨董 「古道具屋」

ふるだぬき (名) 古狸 (一)年經タル狸。 著聞集、十七、變化「イカ程ノ事シタレゾトテ、見ケレバ、スハ見給ヘトテ、古狸ヲナゲ出シタリケリ」 (二)奸智ノタケテ、人ヲ誑カスモノヲ、罵リテ云フ語。腹黒キ人。 [illegible]長)「ふるだぬき、惡心アル人」 好色二代男(貞享、西鶴)一「タダモノトハ見エズ、彼コソ古狸ノ[illegible]ニト[illegible]フ運ノ[illegible]山、一切ノ女[illegible]メコミ、[illegible]コレガ[illegible]」 浮世風呂(文化、三馬)二、[illegible]、下「オレガコトヲ古狸ダト云フケレド、テンデンハ狼ダア」

ふるち (名) 古血 質ノ惡シキ血。汚レタル血。ワルキ血。惡血 [illegible]集、五、肢體門「瘀血、フルチ」

ふるづか (名) 古塚 フルキツカ。多クノ年代ヲ經タル塚。古墳 [illegible]、[illegible]行柳「來テ見レバ、昔ヲ[illegible]、古塚ニ、朽木ノ柳枝サヒテ」 同、[illegible]花トシ[illegible]古塚ノ、マコトナキカナ古ヘノ跡、ナツカシキケシキカナ」

ふるつはもの (名) 古兵 老功ノ武者。多クノ經驗ニ富ミタル兵士。コヒャウ。 平家物語、十一、[illegible]中ニモ[illegible]、古兵ニテアリケレバ」 幸若舞曲、元服曾我「助經ハふるつはもの、箱王ハ生年十三ナリ」 常山[illegible]ル西鶴ナリ、タヤスク討ン事思ヒモヨラズ」

ふるて (名) 古手 (一)[一ハ布帛ノ類)(一)[illegible]云フ稱。フルゴロモ。フルギヌ。フルギ。[illegible]ハたへノ反也トイヘリ」 落穗集追加、二、小間三ケ條の事「御當地(江戸)ニ於テ、武家、町屋ニ限ラズ、[illegible] (二)[illegible]ク古クヨリアル手段。陳腐ナル方法。

ふるてかひ (名) 古手買 古キ品物ヲ買ヒ集ムルヲ業トスル人。又、其人。[illegible]

ふるテラ (名) 古寺 古ビタル寺。[illegible] 五、秋、下「年ヲ經テ、苔ニウモルル、ふる寺ノ、軒ニモ、[illegible]」 [illegible]モ、春雨ニ、ソボチテ花ノ、綻ビニケリ」 方丈記「スベ[illegible]古寺ニ[illegible]佛ノ[illegible]具ヲ破リ取リテ、ワリクダケルナリケリ」

ふるとし (名) 舊年 (一)年明ケテ、去年ヲ云フ語。コゾ。去年。(立テル春ヨリ云フ) 客年 客歲 拾遺集、一、春「春立チテ、アシタノ原ノ、雪見レバ、マダふる年ノ、心チコソスレ」 補親集「ふるとしニ、サキハジメニシ、ウメガカモ、春ニナリテゾ、ニホヒマシケル」 新敕撰集、十六、雜、一「今日ヨリヤ、オノガ春ベト、白雪ノ、ふる年カケ[illegible]」

對ヘテ、今年ノ内ニモ云フ。古今集、一、春、上、ふる年に、春立ちける日詠める「年ノ内ニ、春ハ來ニケリ、ヒトトセヲ、去年トヤイハン、今年トヤイハン」新續古今集、一、春、上、立つ春の心を詠み侍りける「春來ヌト、イフヨリ雪ノ、ふる年ヲ、四方ニヘダテテ、立ツカスミカナ」(雪ノふるト、ふる年ノふるトヲ兼ヌ)

ふる-とり (名) 隹 〔鳥ノ字ノ古字ノ意カ、且、讀ノ西ニ別チテ云フ〕漢字ノ旁ニアル隹ノ字ノ稱。雄、雌、雉、雅、雛、等ノ如シ。字類抄「隹、フルーリ」

フルナ (名) 富樓那 〔梵語、Pūrṇa.又、富蘭那、具ニハ、Pūrṇamaitrāyaṇīputra.(富樓那彌多羅尼子)、富樓那ハ滿ト譯ス、コレ名ナリ、彌多羅尼子ハ慈ト譯ス、コレ母ノ姓ナリ、佛弟子ノ名、雄辯家ニシテ、說法第一ト稱セラレシ人〕樂ニスグレテ其辯ナルモノノ稱トス。法華經、授記品「佛告諸比丘、汝等見是富樓那彌多羅尼子不、我常稱其於說法人中最爲第一」增鏡、第十二、老の波「讚ノコトバ、メデタウイミジ、今ノ世ニハ、富樓那尊者ノゴトク云ハルルモノナレバ、心トドメテ人人聞キ給フ」太平記、三十六、天王寺造營事「講問朝夕ニ座ヲ替テ、學海ニ水ヲ拾ヘル證義論談ヲ決擇シテ、詞ノ林ニ花開ク、富樓那ノ辯舌、文殊ノ智慧モ、カクヤト覺ルバカリナリ」

ふる-なじみ (名) 古馴染 昔カラ懇意ニスル人。熟交ノ人。イニシヘビト。

ふる-にふだう (名) 古入道 齡タケタル入道。又、老イタル僧、老僧 盛衰記、六、內大臣召、兵事「弓ヲ取ルモ取ラサルモ、出家遁世ノ古入道ニ至迄、馳參ケレバ」

ふる-ね (名) 古根 草木ナドノ古キ根。舊根 宿根 拾遺集、十八、雜、賀「君トハデ、幾夜ヘヌラン、色カヘヌ、竹ノふるねノ、生ヒカハルマデ」新古今集、一、春「アラヲ田ノ、去年ノ古根ノ、古

蓬、今ハ春ベト、ヒコバエニケリ」

ふる-ば・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) ふるまふ(振舞)ニ同ジ。名義抄「動、フルバフ」

ふるひ (名) 震 (一)フルフコト。ユルグコト。(二)ワナナクコト。ヲノノクコト。(寒サニ、恐レニ) 戰栗 顫 好色五人女、(貞享、西鶴)四「客殿ヲ忍ビ出デケルニ、身ニふるひ出デテ、足元モ定メカネ」(三)瘧ノ發ルコト。冷戰 寒噤「ふるひ病」

ふるひ (名) 篩 「前條ノ語意」穀ノ米ト糠ト、又ハ、粉ノ粗ト細ト、或ハ、土、又ハ、沙、砂利ナドヲ振ヒテ漉シ分クル具。捲物ノ底ニ、竹、又ハ、絲ヲ以テ目ヲ粗ク編ミ作ル。或ハ、銅線、藤葛ニテ編メルモアリ。其甚ダ細カキモノハ、馬尾、布、ナドニテ作ル。又、絹篩モアリ。羅斗 倭名抄、十六、竹器類「篩、布流比、除、施去麁細之竹器也」靈異記、下、第一緣、訓釋「篩、フルヒ」天治字鏡、七、三十四「篩、不留比也」東雅、十一、器用「篩、フルヒ、云云、ふるひトハ振也、其動キテ用ヲナスヲイフ也」和漢三才圖會、三十五、農具類「篩、和名、布流比、今祖者曰、止乎之、密者曰、布流比、云云、一種細密者、織二馬尾二爲レ底、今云布流比是也」

ふるび (名) 古 年舊リタル狀。

ふるひ-つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 震付 (一)寒クシテ、身甚シク震フ。(二)甚シク愛デテ取リツク。浮世風呂(文化、三馬)三編、下「脊恰好ハスラリトシテ、故人米三ヲ中年增ニ作ッタトイフ風ダッタガ、女デサヘふるひつくモノヲネ、マシテヤ男ハ尤モナ事サナウ」

ふる-びと (名) 古人 (一)昔ノ人。コジン。(二)前ヨリ居タル人。古參ノ人。源、廿二、玉鬘「右近ハ何ノ人數ナラネド、ナホソノ形見ト見テ、ヒテ、ラウタキ者ニ オボシタレバ、ふる人ノ數ニツカウマツリナレタリ」同、五、若紫

「四十「イトカタハラ痛ク、ウチトケテ、アヤシトふる人ドモノ侍ルニト聞エサス」(三)年老イタル人。オイビト。老人。源、十三、明石廿七「聲モココロスゴク聞ユ、ふる人ハ涙モトドメアヘズ」(四)舊クヨリ交ハリタル人。フルナジミ。古今集、十四、戀、四「カゲロフノ、ソレカアラヌカ、春雨ノ、ふる人ナレバ、袖ゾヌレヌル」

ふるひ-ふで (名) 震筆 〔わななき震ヘタル筆蹟ノ意〕小野道風ノ書ニ云フ語。わななきて(戰慄手)ノ條ヲ見ヨ。寬永發句帳「道風ニ、肖クヤふるひ、手ツバナ」

ふるひ-やまひ (名) 震病 おこり(瘧)ニ同ジ。フルヒヤミ。

ふるひ-やみ (名) 震病 前條ニ同ジ。

ふる・びる (動) 舊 ふるぶ(舊)ノ口語。

ふるひ-わなな・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 戰慄戰栗 寒サ、又ハ、恐レナドノタメニ、身體ノ細カクユレ動ク。フルヒワナナク。敏達紀、十四年八月「弓削守屋大連、手脚搖震而汗」皇極紀、四年六月「倉山田麻呂臣、恐唱表文將盡而子麻呂等不來、流汗浹身、亂聲動手、鞍作臣怪而問曰、何故掉戰」

ふるひ-をの・の・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 戰慄戰栗 前條ノ語ニ同ジ 綏靖卽位前紀「神八井耳命、則手脚戰慄不能放矢」

ふる・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 震 「震るノ延」(一)ユルギウゴク。方丈記「地震ひ、家ノヤブルル音、雷ニ異ナラズ」「家震ふ、身震ふ」(二)ワナナク。ヲノノク。フルヘル。(恐レニ、寒サニ) 戰栗 顫 源、五、若紫「四、イカニスルコトナラント、ふるはレ給ヘド、サスガニ聲立テテモ、エ泣キ給ハズ」枕草子、十二、第百五十六段「モノノケニ、云云、久シクモアラデ、ふるひ出デヌレバ、モトノ心ウシナヒテ」(三)瘧、

發ル。冷戰 寒噤

ふる・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 振 舊 イサミタツ。イキゴミタツ。イキホヒコム。奮起ス。鄭谷詩「儒術復振時」

ふる・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 振 〔振るノ延〕(一)振ル。振リ動カス。禮記、曲禮、下篇「振、書端、書」注「振去、塵也」(二)用ヰ動カス。アツカフ 揮 著聞集、十一、書圖「御所ニ、金岡筆ヲふるひテ繪カキケル中ニ、殊ニスグレタル馬形ナン侍ルナル」「筆ヲ揮ふ」(三)街フ。ヒカラカス 「威ヲ振ふ」

ふる・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 篩 〔前條ノ語意〕篩ニテ、物ヲ振ヒ漉ス。振リワク。宇津保物語、貴宮三「伏ニハシロイモノふるひテ入レ」徒然草、第百八十一段「降レ降レ粉雪、たんばノ粉雪ト云フ事、ヨネ搗キふるひタルニ似タレバ、粉雪ト云フ」

ふる・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ(自動、上二) 古 〔古帶ぶノ義〕古クナル。フルメク。源、十四、蓬生八「心バセナドノ、ふるびタルカタコソアレ、イトウシロヤスキウシロミナラント思テ」

ふる-ふで (名) 故筆 使ヒ古シタル筆。敗筆。退筆。禿筆。禿毫。書言字考節用集、七、器財門「敗筆、フルフデ、退筆、禿筆、故筆」

ふるふ-ふるふ (副) 震震 フルヒナガラ。ブルブルシナガラ。ワナナキナガラ。源、七、紅葉賀廿「心アワタダシキニモ、コノ君ヲイカニシナシキコエヌルニカト、ワビシサニ、ふるふふるふ、ツトヒカヘタリ」宇治拾遺物語、廿一、第八話「臨事ハ極テ恐リ思ヒケレドモ、篩篩、然然ノ仰セ候フト大臣ニ申ケレバ」

ふる-ふんべい (名) 略シテ、ふる。ふりづんばいノ訛。其條、及、づんばい(飄石)ノ條ヲ見ヨ。

ぶるぶる (副) 寒ク、或ハ、恐レテ、身ノ震フ時ニ云フ語。ワナワナ。ビリビリ。[illegible] ドダニ老衰ヘタル君ノ、此事ヲ聞クトヒトシク、足[illegible]

ふるぶる・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 舊舊 イタクフルシ。フルメキタルサマナリ。至ッテフルビテアリ。 枕草子、[illegible] ドモ我ニハアラネバヤ、所所ワナナキチリボヒテ」

ふるへ (名) 故家古家 〔ふるいへノ略〕 (一)モトノスミカ。 萬葉集、三八十「我ガセコガ古家ノ里ノ、アスカニハ、千鳥ナクナリ、君待チカネテ」 (二)住ミ捨テタル空屋。フルヤ 萬葉集、十一四十二「人言ヲ、繁ミト君ヲ、鶉ナク、人ノ古家ニ、語ラヒテヤリツ」(古義ノ訓)

ふるへ・る (動) 震 〔ふるふ(震)ノ延〕 ユルギウゴク。ワナナク。ヲノノク。

ふる・べる・ベル・ベレ・ベ・ベ・ベヨ(他動、下一) 舊 古メクヤウニナス。ソルクナス。フルビサス。[illegible] 云、前ノ地ニ埋ミ置キテ、新シキヲ、ふるべるタメカ、又ハ、油氣ヲ拔ク事ナルベシ」

ふるほぐ (名) 古反故 ほぐ(反故)ノ條ノ(一)ニ同ジ。 十六夜日記「歌ノふるほぐドモノ、イカナル緣ニカアリケン、預リモタル」

ふる・ほ・ける (動) 舊 ふるぶ(舊)ノ口語。古ク、キタナクナル。

ふるほん (名) 古本 (一)用ヰ舊シタル書籍ナド、賣買スルニツキテ云フ稱。讀ミ古シタル本。コホン。故册子。 (二)昔ノ書物。古キ書籍。古書。古典。

ふるまひ (名) 振舞 (一)〔フルマフコト。シワザ。オコナヒ。身持チ。行狀。[illegible] 安康即位[illegible] 天武紀、下、八年九月「進止不便、淨地亦穢」古今集、序「ワガセコガ、來ベキヨヒナリ、ササガニノ、蜘蛛ノふるまひ、カネテシルシモ」 (二)人ノタメニ[illegible]馳走 饗應 狂言記、菊花「酒ハモテナシ[illegible]クレズ、振舞ハ食ハセズト存ジ、ソレヨリツット立ッテ歸リマシタレバ」甲陽軍鑑、十一、下、品第三十八「於二酒中一貴賤共、振舞一切可レ停二止之一」 醉醒笑[illegible] 元和、安樂[illegible] 近松作[illegible]

ふるまひ・ざけ (名) 振舞酒 馳走セラル酒。接待ノタメニ飲マシムル酒。

ふるまひ・みづ (名) 振舞水 暑中ナド、道路ニ置キ、往來ノ人ニ、隨意ニ飲マシムル水。又、ソノ事ヲ云フ。接待水。施行水 [illegible] 出シテオク、振舞水ノ、コロサシ、[illegible] 飲メ[illegible] 山伏町ノ小屋敷ニテ、[illegible] 年、ふるまひ水ヲシタルニ」

ふるまひ・れうり (名) 振舞料理 ふるまふ料理。饗應ニ用ヰル料理。 甲陽軍鑑、十、上、品第三十二「[illegible]、サルガク、歌ノ會、茶湯カカリ、扨ハ、振舞料理ヨキ懇シキノ[illegible]ヨケレバ」

ふるま・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 振舞 〔態ニ[illegible]ふ意カ。又、威儀ヲ振ル意ト云フ〕 擧動ヲナス。オコナフ。ナス。立舞フ。フルパフ。行爲 名義抄「進退、フルマフ」字類抄「翔、フルマフ」 源、十二、須磨十二「月日ノカゲヲダニ[illegible] ふるまふコトモ、イト罪オモカンナリ」 今昔物語、十二、第三十五語「心ニ任セテ[illegible]」

ふるま・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 振舞 〔下ニ[illegible]〕 [illegible] モテナス。[illegible] 宮仕[illegible] 古今集、十八、[illegible]、ふるまはル度毎ニ振まひマスル」

ふるみち (名) 古道古路 フルキミチ。昔ノ道路。舊道。故道。故路。 拾遺集、七、物名「ふる道ニ、ワレヤマドハン、古ヘノ、野中ノ草ハ、茂リアヒニケリ」 謠曲、遊行柳「御下向ノ時モ、ふる道トテ、昔ノ街道ヲ御通リ候ヒシナリ」

ふるみや (名) 古宮 (一)フルキミヤ。多クノ年數ヲ經タル宮。 源、四十六、[illegible]「空ヲノミナガメ給フニ、コノふる宮ノコズヱハ、イトコトニオモシロク」 (二)年老イテ、世ニ顧ミラレヌ親王。 源、四十四、橋姬二「ソノコロ、世ニカズマヘラレ給ハヌ古宮オハシケリ、母方ナドモ、ヤムゴトナクモノシ給ヒテ」

ふるめ (名) 古妻 ソルヅマ。以前ヨリノ、ツレソヒタレ妻。又、カツテ連レソヒタリシ妻。 蜻蛉記、二、清愼息女事「花ノ山、高キ梢ト、聞キシカト、[illegible]ノ子カ ヨ、ふるめ拾フ[illegible]」 [illegible] 元和、安樂庵策傳)六「ワカメ得ニ、古めヲ內ニ、置クナラバ、二妻狂ト、人ヤイハマシ」

ふるめか・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 古 古キヤウニ見ユルナリ。フルブルシ。フルクサシ。珍シカラズ。 落窪物語、二「オモテウチ赤メテ、ふるめかしき心ナレバニヤアラン、今メカシク好モシキ事モホシカラズ」 後拾遺集、十六、雜、二「春雨ノ、古めかしくモ、告グルカナ、ハヤ柏木ノ、モリニシモノヲ」 源、六、末摘花廿八「イタウ恥ラヒテ、口オホヒシ給ヘルサヘ、ヒナビふるめかしう、ことごとしく」

ふるめきびと (名) 古人 フルメカシキ人。フルクサキ人。 源、十五、蓬生二「京ニ出給フ時ハ、サシノゾキ給ヘド、ソレモ世ニナキふる[illegible] 一、ふるびと)ニコソアレ」

ふるめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 古 フルク見ユ。フルビタルサマナリ。フル[illegible] 「カヘシ、イトふるめきタリ」

ふるもち [illegible]

ふるものがたり (名) 古物語 ムカシノモノガタリ。[illegible] タリ。 源、四十五、椎本廿「サルハ、聞エナキ御ふるものがたりキキシヨリ、イトド世ノ中ニ、アトトメントモオボエズナリニタリ」

ふるや (名) 古家古屋 古キイヘ。フルイヘ。フルヘ。 古今集、十五、戀、五「ヒトリノミ、眺メふるやノ、ツマナレバ、人ヲ忍ブノ、草ゾ生ヒケル」 [illegible] シカ、タカふるやトゾ、[illegible]セトマラス」

ふるゆきの (枕) 降雪 降ル雪ノ白キヨリ、いちしろし、きゆ、け(消)ナドニ冠ラスル枕詞。 萬葉集、十六十「梅ノ花、ソレトモ見エズ、[illegible] 同、四十五「道ニアヒテ、ヱミセシカラニ、[illegible]」

ふるわた (名) 古綿 フルキワタ。用ヰ舊シタル綿。敗絮。[illegible] 集、六、服食門「縕、フルワタ、禮記註、縕絮也」

ふるゐ (名) 古井 ツブレヰ。フルヰド。古ク荒レテ使用セザル井。廢井。眢井。 [illegible] 「イタヅラニ、[illegible]ハ、デ古井ノ、淺カラズ、思フ心ヲ、汲ム人ソナキ」

ぶるゐ（名）［部類］類ニ因リテ部ニ分ルルコト。又、ソノモノ。ブツケノ種類。　狂言記、文藏「何ヤラウマイモノヲタベテゴザル、云云、ソンナラバ、其ノぶるゐデアラウ」

ふるをんな（名）古女　フルキ女。年老イタル婦人。老女。　源、四十八、寄生「昔ヤカナルハ、皆アタラシキ心チシテ、見給ヒナレタル人トテハ、カノ山里ノふる女バラナリ」

ふれ（名）［觸］（一）徇ルルコト。官ヨリ遍ク世ニ告グルコト。布告。御示。命令。　御觸書、五「橋町之外ニテハ、古鐵、古道具之店出シ候儀不相成、見世ヨリ段段相觸候處、云云」　天保撰要類集、九十五「文化九申年九月、町觸、云云」　千鰯屋仲間定書「定、一、問屋衆ヨリ市觸有レ之候ハバ、早速罷出買可レ申候」（二）殿中ニテ能ノ催シナドアル時、老中ヨリ參上スベキ旨ヲ達スル觸折紙ト云フモノ。　丹州書札式「觸折紙、從二主人一卿ヲ巻テ書出狀也」　道照愚草「殿中ヨリ觸折紙備二上覽一、右觸ニハ、殿文字不レ書、書之、云云」（三）相撲ニテ、前行司ノ稱。ヨビダシヤ、コ、トモ云フ。　相撲今昔物語、七「行司家來ニ前行司トいふ事、前行司トイフ事アリ、是モ由來ノアル事ト見エタリ、昔時ハ是ヲ觸れト云ヒ、アルヒハ名乘揚ト云フ」

フレ（名）村　〔韓ノ古語、ふるノ轉〕參朝鮮語、ぼる。あれ（村）ノ條ヲモ見ヨ」村ノ古言。石村、イハフレ、轉ジテ、イハレ（大和國、十市郡ノ地名）トナル。　景行紀、四十年七月「村之無レ長、邑之勿レ首、各貪レ封堺、並相盜略」（註ニ、村ハ、村ノ訓ナラムト云フ）

ふれい（名）［不例］例ナラヌコト。病ムコト。ヤマヒ。不快。病氣。異例。（貴人ニ）　運歩色葉集「不例、フレイ」　書言字考節用集、五、肢體門「不例、フレイ、貴例、貴全」　明月記、寛喜九年四月廿七日「傳聞、宅上御不例、或云瘧病」　平家女護島、享保、近松作、四「御不例ノ御様體」

傳」和漢名物考、二百十七、病痾部、二「不例、フレイ、思フニ、コノ詞、古ヘハ、貴賤上下ノワカチナクイヘリ、今ハ大貴人ナラデハ申サヌコトトナレリ」

ふれい（名）府令　府知事ガ、職權ヲ以テ其管轄區內ニ發スル行政命令。

ふれい（名）布令　官署ナドノ命令ノ布達。又、其命令。フレ。

ぶれい（名）無禮　又、なめい。禮儀ヲ失フコト。禮儀ノナキコト。ブシツケ。失禮。　詩經、鄘風、相鼠篇「相鼠有レ體、人而無レ禮、人而無レ禮、胡不二遄死一」　論語、泰伯篇「恭而無レ禮則勞、愼而無レ禮則葸、勇而無レ禮則亂、直而無レ禮則絞」　盛衰記、十九、宇治合戰事「一來進テ合戰セン、云云、行綱ノ上ニ、チト平ミタル處ヲ、無禮ニ候トテ、一來法師、飛バネニゾ越タリケル」

ぶれいかう（名）［無禮講］［不禮講］むらいこう（無禮講）ノ條ヲ見ヨ。　太平記、一、無禮講事「猶モ能ク能ク其ノ心ヲ窺ヒ見ン爲ニ、無禮講ト云フ事ヲゾ始メラレケル」　好色一代男（天和、西鶴）二「誰オソルルモナク、或時ハ裸相撲、牛鞭ノ聲、絹ヲサセテ、云云、不禮講ノアリサマ、是ナルベシ」

ぶれう（名）［無聊］〔聊ハ、頼ナリ〕頼ミナキコト。又、徒然ナルコト。ショザイナキコト。タイクツ。　李陵、答二蘇武一書「嗟乎子卿、陵獨何心、能不二悲哉、與レ子別後、益復無聊」　陳後主、獨酌謠「酌酒不レ醉、四酌情無聊」

ふれうけん（名）［不料簡］［不了簡］〔ハカリ選バヌ義〕正シカラヌ料簡。ワルキ考ヘ。不心得。　日本武尊吾妻鑑（享保、近松作）一「大身ニ似合ハヌ不了簡」

ふれがき（名）［觸書］徇示ノ文書。公衆ニ觸レ知ラスル文書。布告ノ文書。　文格例書、觸書之部、二「千石以下知行所高手當物、追而此觸書、早早相廻、宿村承知之旨、別紙受書相添、宿村送ヲ以、下野役所江可二相返一候」　御觸書集覽、一「天

保十二年丑年九月廿二日、町觸「右名主共、云云」

ふれがしら（名）觸頭　（一）觸書ヲ傳フル役目。（二）能樂者ノ仲間ニ、文書ヲ觸レ知ラスル役。　續能樂傳記、下「松井喜左衞門ハ、モト大藏流ノ狂言師也、云云、後年、御用ニ付、役者ノ觸頭ノ命尾某、相果タル故、觀世方ヨリ山田藤右衞門、金春方ヨリ松井喜左衞門ヲ差出シ、兩人觸頭ト定ム」（三）江戸時代ニ、寺院ニテ、上下ノ命令進達ヲ掌ル役寺。各宗ニアリ。即チ、寺社奉行ノ命令ヲ、其配下ノ寺院ニ達セシメ、又、配下ノ寺院ノ訴訟ナドヲ取次ギテ、寺社奉行ニ進達スルモノ。

ふれこみ（名）觸込　フレコムコト。

ふれこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［觸込］イヒフラス。マヘブレス。

ふれした（名）［觸下］觸頭（同條ヲ參見セヨ）ノ傳ヘヲ受クル者共。

ふれじやう（名）［觸狀］くわいじやう（廻狀）ニ同ジ。　簡禮記、五「觸狀ノ事、折紙ニテ可レ調レ之、主人、貴人ノ仰セヲ受ケテ書出ス」　和簡禮經、五「觸狀ニ我同名ヲ調ナラバ、諸人數ノ跡ニ可レ書、名字官途如レ常、從二御前一フレ候時ハ、殿文字不レ可レ有レ之、私ヨリフレ候時ハ、殿文字可レ加也」

ふれだいこ（名）［觸太鼓］相撲ニテ、興行ノ前日、又ハ、翌日ノ取組番組ナドヲ報ズルタメニ、太鼓ヲ敲キテ、市中ヲ觸レ廻ルコト。又、其太鼓。　大江俊光記、元祿十二年六月十七日「鳴物所以也、在所ノ相撲觸太鼓、昨夜半過時分之由、助大夫被レ申、今日相撲有」

ふれちらか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［觸散］物事ヲ、アチコチト觸レ散ラス。

ふれちら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［觸散］前條ノ語ニ同ジ。

ぶれつ（名）［武烈］武事ニ就キテノ功烈。軍事上ノ功勲。戰場ノ武功、武勲。　後漢書、馮衍傳「衍上書、云云」　詩、大雅、文王有聲（？）

ふれながし（名）［觸流］（一）命令、觸書ナドヲ遍ク傳フルコト。フレマハスコト。（二）能樂者ノ役名。　天保十二年武鑑「御觸流、二百石、北ずきや丁、山田藤右衞門」

ふれなが・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［觸流］命令、觸書ナドヲ、フレマハス。　常憲院殿御實記（元祿）二「獄中ヲ殘リナク、一一次第ニ觸流セバ」

ふればは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）［觸］フレバフヤウニナス。觸ルルヤウニナス。接近セシム。　源、三十四、上、若菜、上「マコトニ少シモ、世ヅキテアラセント思ハン女子モタラバ、同ジクハ彼ノ人ノアタリニコソハ、ふればはせマホシケレ」　同、廿九、行幸「彼ノ御アタリニふればはせンニ、ナドカ覺エノ劣ラン」

ふればふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［觸］ふる（觸）ニ同ジ。アタル。サハル。　源、廿八、野分「香ノ香リニふればひ給ヘル御ケハヒニヤ」　山家集、上「コノ春ハ、賤ガ垣根ニ、ふればひテ、梅ガ香トムル、人シタシマン」

ふれふ（名）［不獵］獵ノ獲物ノナキコト。

ふれふ（名）［不漁］〔漁、此音ぎよ、又、訓、誤リテ、れふトス〕スナドリノ少キコト。シケ。

プレミアム（名）〔英語、Premium.〕（一）株式、又ハ、社債ヲ、額面以上ニテ引受ケタル時ノ額面超過額。（二）權利金トモ云フ。（三）勞働者ナドガ、規定ノ賃銀以外ニ、其出來具合ニヨリテ受クル割增手當金。

ふれん (名) [不廉] 値段ノ安カラヌコト。[illegible]値ナルコト。高直。

ふれん (名) [illegible] [illegible]ナルコト。[illegible]

ふれる (動) [illegible] 觸ル、又ハ、狂フ、等ノ口語。

ふれなりがみ (名) [illegible] 昔、觸狀ハ折紙ニ書キ、[illegible]室町時代ニ、觸狀ノ稱。略シテ、觸。くゎいじゃう(廻狀)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]ハラウゼギナリ、我ガ名ノ下ニ、奉ト可レ書レ之、云云」

ふろ (名) 風爐 〔音ノ唐音、[illegible]〕「風爐子、以レ周繞通レ風也」一說、形像名、唐ノ火爐子ハ、風ヲ通ハシテ火ヲ熾スモノ」又、ふうろ。席上ニ置キテ、茶ノ湯ノ湯ヲ沸カス爐。製、圓ク、開キテ、[illegible]一方ヲ缺キテ、風ヲ通ゼシム。土風爐、鐵風爐、等、種種アリ。茶爐。土風爐ハ、大和國、奈良ノ産ヲ原トシ、コレヲ奈良火鉢ト云ヘリ。茶經(唐、陸羽)「風爐、以[illegible]鑄レ之、如[illegible]古鼎形」 延寶色葉集「風爐、フロ」 山槐記(中山忠親)[illegible]年十一月廿八日[illegible]出居[illegible]燒」[illegible]代[illegible]正[illegible]、風爐ノ茶ノ灰モタクミナクシテ」

ふろ (名) 風呂 風爐 〔湯室ノ略轉、又、一說ニ、むろノ轉、土窟、石窟ノ義ト(新村出ノ說)〕(一)浴スル湯ヲ沸カス槽。ユブネ。浴槽 (二)湯殿。風呂場。今[illegible]云、風呂ノ前ニ脇戶ノアリケルニ、風呂ト心得テ」

[illegible]風呂ニ時ヲ、[illegible]戶ニ三度[illegible]也、於ニ湯屋[illegible]、不可[illegible]下[illegible]作[illegible]」[illegible]ニ(寬[illegible])文[illegible]十[illegible]年[illegible]月廿[illegible]日[illegible]一條殿ニ入ニ風呂ニ」守武千句(寬安)「風呂ニ入、イリテハ垢ヲ、カキツバタ」 (三)湯屋。風呂屋。(四)塗師ノ、漆器ヲ乾カスタメニ、入レオク穴藏。卽チ、窨ノ內ニテ、箱ノ內ニ水ヲ注グ、其狀、風呂ノ如クナレバふろト云ヘド、實ハむろノ轉ナルベシ。今、箱ノ中ニ納レテ乾カス。コレ塗師ノ[illegible]ナリ。(五)室町時代ニハ、[illegible]下ノ出典ヲ見ヨ) [illegible](世ニ[illegible]代記[illegible]云フ)、[illegible]風呂屋[illegible]ノ日記事、年年アリ、云云、案ニ、此ゴロハ、風俗ニ、人ヲマネキ[illegible]稱[illegible]タルモノナリ、又、東國紀行ニ、湯風呂、石風呂ヨナド、ネンゴロニ人ヲモテナス、云云、十[illegible]モ皆[illegible]ジ、コハ、湯ニイレテノチニ、酒宴ナドスル業ヨリイヘルナルベシ」

ふろう (名) [角豆] ささげ(大角豆)ノ異稱。[illegible]九州、及、上[illegible]、信州、總州ニテ、ふらう、云」倭訓栞「ささげ、倭名[illegible]ハ大角豆トミユ、九州、及、下州、信州ニ、ふろうト云フ」

ブロオカア (名) 〔英語、Broker.〕人ト人トノ閒ニ於ケル商取引ノ媒介ヲ業トスルモノ。卽チ、仲立人。

ふろおほひ (名) 風爐覆 茶風爐ノ蓋。雪洞。本製ハ前面ニ口アリ。

ふろく (名) [不陸] 準ニアラヌコト。フソロヒ。不齊

ふろく (名) 附錄 (一)本文ニ附ケ加ヘテ記セル文。(二)新聞、雜誌ニ附加セル紙面、又ハ、册子。(三)ツケタリ。ソヘ物。

ふろく (名) 不祿 [illegible]注「不祿、不レ終ニ其祿ニ」不祿ノ用法ニ種[illegible]スルヲ見ヨ」(一)支那ニテ、士ノ死ヲ云フ。[illegible]大夫曰レ卒、士曰ニ不祿、庶人曰レ死」(二)支那ニテ、德行アルモ仕官セズシテ、ワカジニシタルモノ、稱。[illegible]卒、[illegible]」[illegible]小君不祿ハ云云、大夫訃ニ於同國適者ハ曰ニ某不祿ハ訃ニ於[illegible]」

ぶろく (名) 部勒 〔勒ハ、ヲサメマトムル義〕部分シテ、マトムルコト。史記、項羽紀[illegible]摠械[illegible]」

プログラム (名) 〔英語、Program.〕次第書。番附。筋書。番組書。

ふろさきびゃうぶ (名) 風爐先屏風 茶室ノ風爐ノ背ニ立ツル小屏風。多クハ二曲ニテ、高サ一尺ホドナリ。[illegible]點、下「風爐先屏風、兩面ニ枚屏風ナリ、長サニ尺バカリ、[illegible]イロイロ有リ、紙張、又ハ、[illegible]、流儀ニヨリテ品多シ」[illegible]風爐先屏風、利休形、[illegible]」

ふろしき (名) [風呂敷] 〔モト風呂場ニ敷キテ、足ヲ拭ヘル布ナリト云フ、一說ニ、拂敷ノ轉、打敷ノ意ト云フ〕古言、さろもづつみ。布帛ヲ大、小、方形ニ縫ヒ作リテ、物ヲ包ムニ用キルモノ。ヒラヅツミ。ノクサノツミ。フルシキ。袱 包袱 [illegible]

[illegible]、一[illegible]ニ入玉フ事也、[illegible]入タル節ニテ、[illegible]モふろしきニツツミヲク、アガリテふろしきヲヒラキ、其ウヘニナヲリ、衣ニ衣服ヲ着ス、足ヨリ物ヲ包ムモノヲ、總テふろしきトイフヤウニ成タリ、只ふくさ包トイフベシ、ふろしき包トハイヤシキ名也、[illegible]トハ、風呂ニ入ル時、湯殿ニ敷キテ、湯ヨリアガリタル時、足ヲノゴフ物也、物ヲ包ムニ、布ヲ縫ヒツヅケタル形、カノ風呂ノ敷物ニ似タル故、風呂敷トイヒ[illegible]」

ふろしきづつみ (名) 風呂敷包 風呂敷ニテ包ミタル物。[illegible](文化、一九)四編、上「チットバカリノ風呂敷包ヤ紙[illegible]」

フロックコオト (名) 〔英語、Frock-coat.〕洋服ノ上衣ノ一。男子通常禮服トシテ用ヰラル。普通、黑羅紗ニテ作リ、[illegible]、丈、長クシテ、膝[illegible]デ及ブ。

プロテスタント (名) [illegible]語、Protestant. 反抗、又ハ、抗議スル人ノ意〕耶蘇教ノ一派。西暦一千五百二十九年、[illegible]羅馬教ニ反抗シ、[illegible]路得(Luther)ノ首唱セルモノ。舊教ニ對シテ、單ニ、新教トモ云フ。

ふろば (名) 風呂場 [illegible]湯殿 同ジ。略シテ、ふろ。浴室

フロパガンダ (名) 〔英語、Propagan-

da.〕一般ニ觸レ知ラスルコト。宣傳吹聽、又、宣傳運動

ふろ-ふき (名) 風呂吹 〔風呂吹ノ、ニ起ル、ソノ條ヲ參見セヨ〕次條ノ語ノ略。又、胡蘿蔔（ニンジン）ニモ云フ。傾城反魂香(寶永、近松作)中「尾張大根ハル樣ナヲ、刻ミモセズ丸ケチ、人參ノふろふきヲ一鍋ノ早始メ」

ふろ-ふき-だいこん (名) 風呂吹大根 大根ヲ輪切ニシテ、柔湯ニテ茹デテ、胡麻味噌、又ハ、唐辛味噌ナドヲツケテ、熱キヲ食フモノ。略シテ、風呂吹。

ふろ-ふく (連體) 風呂吹 風呂ニ入リ、體ノ熱潤シタルニ、息ヲ吹キカケテ、垢ヲ掻クコト。甲陽軍鑑、九、下、品第三十五、天文十四年「伊勢風呂ト申子細ハ、伊勢ノ國衆ホド熱風呂ヲ好テ、能吹申サルルニ付テ、云云、夫荒仕子（ブアラシコ）マデモ、風呂ふくスベヲ存候ハ、あつき風呂好ク故カト見エ申候」卜養狂歌集「名ヲ右衛門ト云フ若キ人、風呂吹くコト上手ナレバ、云云、或人、風呂ヲ新シク立テ、入ゾメシケルニ、云云、ア、風呂ヲ、祝フテ、[illegible]、長息ニ、フトクトクトク、ふくとく吹く」(風呂吹大根、此ニ起ル) タダ、ふくトノミモ云ヘリ。望一后廢千句「吹ケバ熱風呂、ふくハ傾城」汲ミカヘテ、持ツ水桶ノ、若ザカリ」(湯女ノコト) 紫花咄(元祿、西鶴)五「姉カ小路ノ和泉風呂ヘ、ア、相ノ比ヨリ行キテ、吹テ吹カレテ、ザツトアガリ場ニ坐シテ」

ふろ-ふどし (名) 風呂犢鼻褌 又、ふろふんどし。昔、男子、湯浴スルニ用ヰシ下帶。別ニ設ケテアリキ。昔ハ蒸風呂ナリキ、女子ニハ湯具ト云ヒキ。(寶永ノ頃マデ然リト) 武邊咄聞書、前田慶次(最勝ノ臣)、錢湯ノ風呂ニ入リ、下帶ニ一尺許ノ脇差ヲサシテ入ル」御前獨狂言(寶永)五「或人酒ニ醉ヒ、風呂犢鼻褌ヲトキテ、風呂入セシヲ、アルマジキコトトテ笑ヒタルト」備前老人物語、渡邊水庵の施行の風呂「風爐屋ノ竿ニ、湯帷子、割下帶（ワリシタオビ）アマタカケオキ、云云」

プロペラア (名) 〔英語、Propeller.〕推進器。すゐしんらせんき(推進螺旋機)ノ條ヲ見ヨ。

ふろ-や (名) 風呂屋 (一)ゆや(湯屋)ニ同ジ。(二)慶長、元祿ノ頃、風呂屋女トテ、娼妓同樣ノ女ヲ抱ヘオキタル湯屋。江戸時代、風呂屋者ヲ抱ヘタル湯屋。淀鯉出世瀧德(寶永、近松作)上「京ノ島原、奈良、伏見、茶屋、風呂屋ヘモ身ヲ賣リテ」本領曾我(寶永、近松作)二「感シテ熊野ヲ奪ハントヤ、カナハヌ心ノ碎カンヨリ、同ジカ熊野ヨリ風呂屋ニセヨ」(三)次條ノ語ノ略。織留(元祿、西鶴)六「アルヒハ風呂屋ノ人ヲ忍ビツレテ」(四)虚無僧ノ居處。續紀伊風土記、廿六、臨濟宗興國寺ノ條ニ、宋ヨリ四人ノ虚無僧來リ、浴室（フロ）ニ住セシヨリ、今ニ虚無僧ノ居所ヲ風呂（ロヤ）地ト云フト見エタリ。

ふろ-や-もの (名) 風呂屋者 茶屋女ノ類。湯女（ユナ）。呂州（ロシウ）。(足利時代ノ中期以後、各地ノ市街ニアリシ風呂屋ノ抱ヘ私娼ヲ云ヘリ 江戸ニテハ、慶長、寛永ノ頃、最モ流行シ極メタリ)略シテ、ふろや。好色一代女(貞享、西鶴)五「風呂屋ものヲ、猿ト云フナルベシ、コノ女ノ心ザシ、風俗、諸國トモニ大方變ル事ナシ」本朝若風俗(貞享、西鶴)一「風呂屋者ト知ざスルト、三十日切ノ若衆忍ブト、云云」

プロレタリア (名) 〔羅甸語、Proletarius. ヨリ轉ジタル佛蘭西語、Proletariat.〕職工、勞働者等、財産ナク、社會ノ下層ヲ形成スル階級。無産階級。

ふ-わ (名) 不和 (一)ヤハラガヌコト。(二)仲惡シキコト。ナカタガヒ。不和合。書經、多方篇「自作ニ不和、爾惟和哉、爾室不レ睦、爾惟和哉」「家内不和」

ふ-わ (名) 附和 ふくわ(附和)ニ同ジ。

ふ-わく (名) 不惑 〔マドハザル義〕四十歳ノ稱。論語、爲政篇「子曰、吾十有五而志ニ於學ニ云云、四十而不レ惑」應璩、答ニ韓文憲ニ書「足下之年、甫在ニ不惑ニ、加以ニ學藝ニ、何晩之有」陶潛詩「行行向ニ不惑ニ、淹留遂無レ成」

ふ-わけ (名) 腑分 醫術ノ上ニ、死骸ヲ割キテ、臟、腑、其他、體中一切ノ物ノ位置ヲ見分クルコト。古ク、解體。解剖。蘭學事始、上「彼奴ハ若キヨリ、腑分ケハ度々手ニカケ、數人ヲ解タリ、云云、某所ヲ指シテ肺ナリト教ヘ、コレハ腎ナリト切リ分ケ示セリ」

ふ-わたり (名) 不渡 手形ノ支拂ヲコトワラレタルコト。「不渡手形」

ぶ-わり (名) 分割 分ケテ、割リツクルコト。歩合（ブアヒ）。

ぶ-ゐ (名) 無爲 (一)爲（ス）ルコトナキコト。自然ノママニテ、作爲セザルコト。むゐ。論語、衞靈公篇「無爲而治者、其舜也歟、夫何爲哉、恭レ己正南面而已矣」老子、第四十三章「不言之教、無爲之益、天下希レ及レ之」莊子、庚桑楚篇「出レ怒不レ怒、則怒出ニ於不怒ニ、出レ爲無爲、則爲出ニ於無爲ニ」「無爲而天下治」(二)事ナクシテ平穩ナルコト。無事。太平記、九、主上上皇御沈落事「路次ハ定メテ無爲ニゾ候ハンズラン」

ぶ-ゐ (名) 武威 勇武ノ威勢。タケダケシキ威光。盛衰記、十八、文覺頼朝勸進謀叛事「彼山ハ大衆多キ所ニテ、武威ニモ不レ恐ケレバ、左右ナク押入ニ搦取ニモ不レ能」太平記、十、新田義貞謀叛事「于レ今至マデ武威盛ニ振テ、云云」

フヰフヰ (名) 回回 〔西域地方ノ種族、うゐぐるゑ(Uigurus.)即チ、回回族ヲ、支那ニテ訛リテ唱ヘシニ起ル〕支那人、蒙古人ノ、波斯（ペルシヤ）、ゑるきゑたん邊ノ麥哈默（マホメット）教徒ヲ呼ブ語。回回（クワイクワイ）。

フヰフヰ-けう (名) 回回教 まほめとけう(麥哈默教)ニ同ジ。又、ふいふいけう(回回教)ノ條ヲモ見ヨ。

ぶ-ゑい (名) 武衞 ひやうゑふ(兵衞府)ノ唐名。易林本節用集(慶長)下、官位門「武衞、ブエイ、兵衞」[illegible]中原、七「兵衞、佐(武衞大將軍)」

ふ-ゑつ (名) 鈇鉞 斧鉞 〔左傳、昭公十五年、疏「鉞大而斧小」〕(一)をの(鈇)ト、まさかり(鉞)ト。中庸、第三十三章「君子不賞而民勸、不怒而民威ニ於鈇鉞ニ」國語、魯語「大刑用ニ甲兵ニ、其次用ニ斧鉞ニ、中刑用ニ刀鋸ニ、云云」(二)轉ジテ、昔、征伐ニ赴ク大將ニ、賜ハル武器。禮記、王制篇「諸侯賜ニ弓矢ニ而後征、賜ニ鈇鉞ニ而後殺」唐書、百官志「凡將出征、告レ廟授ニ鈇鉞ニ」百合若大臣野守鏡(寶永、近松作)一「今日ヨリ氏ヲ百合若ト改メ、假ニ大臣ノ官ニナゾラヘ、夷退治ノ節鉞ヲ賜ハル條」

ぶ-ゑんりよ (名) 無遠慮 遠慮セザルコト。憚（ハバカ）ラザルコト。無作法。丹波與作(寶永、近松作)上「片肌メイデ、サバキ髮、御前近クモ無遠慮ニ、高股ニアゲ足シテ」

ぶ-をとこ (名) 夫男 ヤトヒヲトコ。人夫。盛衰記、廿七、矢矧川軍事「京ト[illegible]ノ夫ニ作リ立テ、云云、夫男ヲ召籠メ問ケルハ」

ぶ-をとこ (名) 醜漢 無男 顏面ノミニクキ男。容色ノ惡キ男。醜夫。好色二代男(貞享、西鶴)四「シカモぶ男ニ、物マデ取ラシテ遊ハルル太夫アリ」浮世風呂(文化)三、下「女郎モ好イ男ヲステテ、ぶをとこヲ見エニスルサウダ」

ふ-をん (名) 不穩 オダヤカナラヌコト。危險ヲ帶ビテ居ルコト。物騷ナルコト。「不穩ノ言動」「不穩文書」「形勢不穩」

へ ベ ペ

へ 五十音圖、波行第三ノ假名。(はノ條ヲモ見ヨ)此音ハ、他ノ音ノ下ニアルトキハ、其發聲ヲ失ヒテ、詞ノ尾ニ呼ブコトアリ、まへ(前)、かへる(蛙)ノ如シ。又、下ニ、うヲ受クレバ、ひょノ如ク呼ブコトアリ、へう(豹)、へう(瓢)ノ如シ。

べ へノ濁音ノ假名。(ばノ條ヲモ見ヨ)此音ハ、うニ連ルトキ、びょノ如ク呼ブコトアリ、べう(可)、べう(廟)ノ如シ。

ぺ へノ半濁音ノ假名(ぱノ條ヲモ見ヨ)此音ハ、うニ連リテ、ぴょノ如クヒビクコトアリ、いっぺう(一俵)ノ如シ。

へ(エ) (名) 上 〔うへノ略〕 うへ(上)ニ同ジ。 續紀、[illegible]年十月「岩ノ上ニ、小猿米燒ク、米ダニモ、喫ゲテ通ラセ、カマシシノ老翁」 萬葉集、九十[illegible]「[illegible]ヤナギ、カヅラニ折リシ、梅ノ花、誰カ浮ベシ、酒杯ノ上ニ」 同、十四「伊香保嶺ニ、雷ナ鳴リソネ、吾ガ倍ニハ、故ハ無ケドモ、兒等ニ因リテゾ」

へ (名) 隔 〔重、へだつ、へなるナド云フ語ノ本ナリ〕 物ノ界ヲ立テ分ツコト。 萬葉集、四三十八「タユトイヘバ、ワビシミセムト、燒太刀ノ、隔ヅカフコトハ、ヨシヤワガ君」

へ (名) 邊 〔端方ノ意ト云フ〕 (一)ハシ。ハタ。ヘリ。ハナ。 萬葉集、十八廿長歌「海イカバ、ミヅク屍、山行カバ、草ムス屍、大君ノ、邊ニコソ死ナメ、顧ミハセジ」「端邊」 或ハ、連濁シテ「海べ」「濱べ」「磯べ」「岸べ」「枕べ」「床べ」 (二)専ラ、海邊。ホトリ。 神代紀、下「沖ツ藻ハ、邊ニハ寄レドモ」 萬葉集、二廿[illegible]長歌「[illegible]津櫂、イタクナハネソ、邊津櫂、イタクナハネソ」 同、四二十「與ヘ往キ、邊ニ行キイマヤ、妹ガタメ、ワガスナドレル、モブシツカブナ」 同、五二十長歌「海[illegible]ノ、[illegible]」 [illegible]時タチ」 同、七四十「ワガココロ、ユタニタユタニ、ウキヌナハ、邊ニモ沖ニモ、ヨリカツマシヲ」

へ (名) 屁 〔放屁ノ音ヲ名トス。古語ニテ、ひ(い)〕 (一)腸、胃ニ積レル瓦斯等ノ瓦斯ノ生ジテ、肛門ヨリ洩ルルモノ。轉矢氣。其條ヲ見ヨ。 倭名抄、二、三 [illegible] 「放屁、倍比流、下部出氣也」 天治字鏡、三十「屁、[illegible]出也、戸、放屁、戸比留」 八笑人、文政、鯉丈、初編「木ノ中デ屁ヲヒッタラ、ブクブクト[illegible]」 古川柳「屁ノ論ニ、泣クノモ、サスガ女ナリ」 放屁[illegible]メニナリテ云ヒケレバ、新五左衛門アキレタ顔」 (二)直打ナキモノ。ツマラヌモノ。 八笑人(文政、鯉丈)初編「ウヌラガ二人ヤ三人來タトッテ、屁トモ思フモノカ」 和合人(鯉丈)「敵ニ對シテハ屁ニモナラネエ事ダ」「屁理窟」「ヘトモ思ハヌ」

へ(エ) (名) 家 〔いへノ略〕 いへ(家)ニ同ジ。 萬葉集、十四「[illegible]マトホクノ、雲井ニ見ユル、妹ガ敝ニ、イツカ到ラム、歩メアガ駒」

へ(エ) (名) 重 〔古ヘ禁裏ニ、外重、中重、内重アリテ、コレヲ三門ト云ヘリ、門ノ重レバ云フト〕 門ノ異稱。 萬葉集、三五十長歌「[illegible]七ト、イハエシ人ハ、皇祖ノ、神ノ御門ニ、外重ニ、立チサモラヒ、内重ニ、仕ヘ奉リ」 古今集、十九、長歌「テルヒカリ、近キ守リノ、身ナリシヲ、誰カハ秋ノ、來ルカタニ、アザムキ出デテ、ミカキヨリ、とのへ守身ノ、ミカキ守、ヲサヲサシクモ、オモホエズ」

へ (名) 戸 〔隔ノ義、戸戸ノ區別ノ意〕 (一)竈ヲ以テ、民ノ家ヲ稱スル語、今モ民戸ヲ數フルニ、幾竈、幾煙(火ノ轉)ト云フ。(支那ニテ民ノ家ヲ、戸ト云フ[illegible]) [illegible] 「百濟百姓投化紀、貫三四世者、謂ニ百濟ノ戸、貫也」 欽明紀、元年八月「召ニ集秦人漢人等諸蕃投化者ニ安ニ置國郡ニ編ニ貫戸籍ニ」

へ (名) 竈 〔竈つ神ノ、ヘナリ〕 かまど(竈)ノ一稱。其條ヲ見ヨ。 古事記、上四十「大戸比賣神、此者諸人以拜竈神者也」 神代紀、上六十「[illegible]泉之竈、此云ニ譽母都俳遇比ニ」

へ (名) 綜 引キ延ヘタル[illegible]ノ[illegible]クルモノ。綜ルモノ。關東ニ、カケイト。關西ニ、カサリ。 倭名抄、十四五十織機具「綜、[illegible]」 字鏡「綜、機縷也、[illegible]」

へ (名) 舳 〔先方ノ意カ、經先ノ意カ〕 艫ノ條ヲモ見ヨ) 船ノ前頭。ヘサキ。ミヨシ。船首 倭名抄、十一舟具「舳、[illegible]船前頭、謂ニ之舳、[illegible]水處也、和名云、閉」 萬葉集、十四「大船ヲ、倍ユモ、艫ユモ、固メテシ、コゾノサトビト、アラハサメカモ」 同、廿四三十長歌「朝凪ニ、倍向ケ漕ガムト、サモラフト、ワガヲルトキニ」

へ (名) 瓮 〔隔ツル意(水火ノ間ニ)〕 瓶。モタヒ。 名義抄「瓮、ヘ」 仁賢紀、四年五月「瓮、此云ニ倍」 貞觀儀式、大嘗用度「淡路國瓮廿口(各容ニ斗九升[illegible])」

へ (動) 歴經 歴(經)ノ變化 其條ヲ見ヨ。 萬葉集、十九廿「藤ナミノ、花ノサカリニ、カクシコソ、浦コギ廻ツツ、トシニシノバメ」

へ (動) 綜 綜ノ變化。其條ヲ見ヨ。

へ(エ) (辭) 〔方ノ意ト通フナラム〕 第一類ノ天爾波、方向ヲ示スモノ。(地位ヲ云フにト別ツ) 欽明紀、廿三年七月「韓國ノ、城ノ上ニ、立チテ、大葉子ハ、領巾振ラスモ、日本ヘ向キテ」 [illegible]「[illegible]大君イマス」 同、廿四十「大君ノ、ミコトカシコミ、[illegible]」

へ (感) (一)應答ノ語。(二)侮ルトキニ發スル聲。ヘヘ。ヘン。 狂言記、八尾「スレバ又五郎ガタメニハ小舅カ、左様デ罷座ル、へ、又五郎ガ女房モ知レタ、惡女デアラウ」

へ(エ) (接尾) 重 〔綜ノ義〕 カサネ。カサナリ。タタミ。折 倭名抄、[illegible] 神代紀、[illegible] 武烈紀、位前紀「臣ノ子ノ、耶陛(八重)ノカラカキ、ユルセトヤ、ミコ」 萬葉集、[illegible] 同、六廿長歌「ワガ戀ノ、千重ノ一重モ、ナグサモル、心モアリヤト」 同、[illegible]長歌「千重ノ一隔モ、ナグサマナクニ」「一重」「二重」「十重」「二十重」「幾重」

へ(エ) (接尾) 方 カタ。ソノムキ。 萬葉集、十八廿「イニシヘ[illegible]思ホス[illegible]」 [illegible]「[illegible]へ」「後へ」 或ハ、連濁シテ「上べ」「後べ」「夕べ」

べ (名) 邊 清音ノへ(邊)ノ條ヲ見ヨ。 萬葉集、廿[illegible]「[illegible]カラマル君ヲ、別レカ行カム」 同、七廿「卷向ノ、山邊トヨミテ、往ク水ノ、ミナワノ如シ、世ノ人吾レハ」

べ (接尾) 方 清音ノへ(方)ノ條ヲ見ヨ。 萬葉集、[illegible]長歌「春べニハ、花咲キヲヲリ、秋べニハ、霧立チワタリ、ソノ山ノ」

べ (接尾) 部 〔群ノ約轉ト云フ〕 ムレ。トモ。クミ。部。(職掌ニ因リテ、團體ヲナシタルモノヲ部ト云フ) 萬葉集、六廿五長歌「筑紫ニイタリ、山ノソキ、野ノソキ見ヨト、伴部ヲ、ワカチツカハシ、山彦ノ、[illegible]」「織部」「[illegible]部」「[illegible]部」「卜部」

へあが・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 歴上

卑シキヨリ尊キニ上ル。ナリイヅ。ナリアガル。累進 平家物語、一、鵜川合戰事「檢非違使、五位ノ尉マデ昇あがり了、云云」

へあ・む・ム・メ・マ・・メ（他動、四）重綰 重ヲアム。ヘダテアム。萬葉集、十二廿七「逢フヨシノ、出デ來ムマデハ、タタミコモ、重編ヘアみシバシバ、夢ニシ見ムト」（萬葉集、十一四十「疊薦タタミコモ、隔編數ヘダテアムカズ」トアルト、同語ナリ）

へい（名）丙 十干ノ一。ひのえ。又、十干ノ第三位ノモノ。えと（干支）ノ條ヲ見ヨ。爾雅、釋天「太歲在丙曰柔兆」史記、匡衡傳「射策不中、至九乃中丙科」

へい（名）平 （一）タヒラカナルコト。平坦。漢書、張釋之傳「廷尉、天下之平也、壹傾天下用法、皆爲之輕重、民安所錯其手足」管子、宙合篇「大繩扶撥以爲正、准壞險以爲平、鉤入枉而出直、此言聖君賢佐之制舉也」（二）オダヤカナルコト。平穩。春秋左傳、昭、二十「……其心平、其志平、其氣和、其事易、其行道、故能平易和理而無非也」人物志、材理「剛毅似平而尚勇、……也」

へい（名）獘 斃 （一）ツヒエ。ツカレ。戰國策、秦「馮章謂秦王曰、不拔宜陽、韓楚乘吾弊、國必危矣」太平記、廿二、義助朝臣病死事「是レ司馬仲達カ孔明カ死セル弊ニ乘テ、蜀ヲ亡セシ謀ナリトテ」（二）アシキナラハシ。弊害。三國志、魏志、蔣濟傳「上失其制、下受其弊」

へい（名）幣 （一）ヌサ。ミテグラ。ニギテ。詞花集、九、雜、上「春日ノ冬ノ祭ニ、へいタテマツリ侍リケルニ、思ヒケルコトヲ、ミテグラニ書キツケ」（二）贈リモノ。ツカヒモノ。進物。幣物 史記、秦紀「知其賢、於是、繆公使人厚幣迎蹇叔、以爲上大夫」莊子、則陽篇「申徒……奉御而進、所持幣而扶翼、其侵若彼之甚也」

へい（名）兵 （一）ツハモノ。武器。武具。史記、主父偃傳「夫怒者逆德也、兵者凶器也」世本「蚩尤以金作兵、兵有五、一弓、二殳、三矛、四戈、五戟」「兵ヲ執ル」（二）イクサビト。軍人。軍兵。兵士。史記、孫子傳「……而吾多阻無可伐兵」盛衰記、廿、源氏鶻田河原取陣事「隅田川原ニ陣ヲ取テ、國國ノ兵ヲ被召ケリ」「兵ヲキル」（三）軍イクサ。戰ヒ。左傳、襄公廿七年「兵、民之殘也、財用之蠹、小國之大菑也」孫子、虛實「兵無常勢、水無常形、能因敵變化而取勝者、謂之神」續紀、廿五、天平寶字八年九月、敕「惡事胡自押勝、幷子孫起兵作逆」

へい（名）屛 〔和俗字ニ、塀、爾雅、釋宮「屛謂之樹」疏「屛、蔽也、樹、立也、立牆當門、以自蔽メカクシ也」〕（一）門ノ内、又ハ、外ニ、目隱ニ建テタル垣。ヒロク、牆。垣。倭名抄、十「屛……屛、音餅、小墻當門中也」下學集、上、家屋門「塀、へイ」源、三十七、鈴蟲「西ノ渡殿ノ前ノナカノへいノヒンガシノ際ヲ、押シナベテ野ニツクラセタマヘリ」榮花物語、三十四、晩待星「一ノ所ナレバ、サスガニ晴ルクル方ナク、塀ノ廻リテアリシニイトヲカシ」太平記、十七、山門攻事「塀、……櫓ノ上ニ塀ヲ塗、……密シクシテ」（二）專ラ、板塀（土塀、練塀ニ對ス）落穗集追加、五、留守居役始の事「今夜中ノ風ニテ、此方ノ屋敷、虎ノ御門ノ方へ向キシ表向キノ屛ノ四十三間、惡ク吹倒レ候」假名世說、下「家ノ上棟ノ日、梁ノ上ヨリ踏ミハヅシテ大地ニ落チタリ、人人驚キサワギテ、急ギ引オコシ見レバ、隣家ノ庭ノ塀ノ上ナル、シノビガヘシト云フモノ折レテ、云云」

へい（名）椑 〔正韻「椑、親身棺ハダツキノヒツギ也」〕死骸ヲ直接ニ納ムル棺。禮記、檀弓、上篇「君卽位而爲椑、歲壹漆之、藏焉」大江俊矩記、寬政十二年四月十一日「先帝崩御、妙門御命、奉移御棺（是稱御衣御舟歟、所謂御椑也、有白生絹覆、尤厚御疊有之、西面也）云云」

へい（接頭）弊 敝 〔やぶるノ義〕己レ一關係スル事柄ニ、冠ラスル謙稱。「弊國」「弊邑」「弊社」「弊店」「弊舖」「弊家」「弊屋」

へい（感）應イラフル聲 ハイ。

ベイ（名）米 米利堅メリケン（亞米利加アメリカ）ノ略。「米國」「米人」「米杉」「米材」「米領」

べい（助動）可 （一）可べし、又ハ、可べきノ音便。源、廿、朝顔「御心ナドウツリナバ、ハシタナクモアるべいカナ」同、廿四、胡蝶「思ヘバウラメシカるべい事ゾカシ」紫式部日記「オノカ心ヲ用ヰンコトハ難カ（る）べいワザヲ」史記抄（文明）五「陵王ノ出ヅべい方へ、サシムケテ置タゾ」孟子抄、文明「悦べキ事ニ悦ヒ、怒べい二怒ル、和ゾ」南留別志（元文、徂徠）「アンべいヤウモナイトト云ハ、田舍詞也トテ、今ノ人ハワラフナレド、源氏物語ニアルナリ」（二）べい、べい、いさゝば（可可可）ノ略。奴ヤッコ詞。東國ノ卑語ニ存ズ。くゎんとうべい（關東兵）ノ條ヲ見ヨ。（兵ハ、可ノ當字）卜養狂歌集、春「關東ノ、雁ヤ越路ニ、カヘルべい、サラバサラバノ、イトマゴヒシテ」關東べい「べいべい詞ガ、ヤムべいナラバ、借リテモ三百、ツンダスべい」

へいあん（名）平安 タヒラケク、ヤスラケキコト。無事。安穩。岑參、送……京使詩「馬上相逢無紙筆、憑君傳語報平安」酉陽雜俎（唐、段成式）「李衞公言、北都惟童子寺、有竹一窠、纔長數尺、相傳、其寺綱維、每日報竹平安」

へいあんじゃう（名）平安城 又、平安京。タヒラノミヤコ。略シテ、ミヤコ。桓武天皇ノ、延暦十三年、山背ヤマシロ國、葛野郡、宇多村ヲトシテ、都トセラレタル地。卽チ、今ノ京都市ナリ。南北、千七百五十三丈、東西一千五百八丈、北部ノ中央ニ大内裏アリ、南ノ正面ニ羅城門アリ、東西ニ九條ノ大路ト、廿六ノ小路トヲ設ケ、中央大内裏ヨリ羅城門ニ至ルヲ朱雀大路ト云ヒ、コレヨリ東ヲ左京トシ、西ヲ右京トス。此左右京ニ、各四條ノ大路ト、十一ノ小路トヲ造リ、方四十丈ヲ町トシ、四町ヲ保トシ、四保ヲ坊トシ、四坊ヲ條トス、坊ニ坊令アリテ治メ、左京ニ左京職、右京ニ右京職ヲ置キ、京都一切ノ事ヲ掌リ、東西市司アリテ、賣買ノ事ヲ司ル。東ヲ洛陽ト云ヒ、西ヲ長安ト云ヒ、又、西の京トモ稱ス。後、西の京亡ビテ、洛陽ノミトナリ、華洛、又、洛中ナドト呼ビシナリ。左右京式、京程「南北一千七百五十三丈、東西一千五百八丈（……）」帝王編年記、十二、（桓武）「延暦十三年正月十九日、始造平安城……」盛衰記、十六、遷都事「同延暦十三年二、長岡京ヨリ此平安城へ遷都アリテ以來、都ヲ他所へ不被遷」

へいあんてう（名）平安朝 桓武天皇ノ、延暦十三年、山城ノ京都（平安京）ヲ建テタマヒシヨリ、建久三年、源頼朝ノ、相模國、鎌倉ニ幕府ヲ開始セシマデノ世ノ稱。凡ソ、三百九十八年間ナリ。

へいい（名）平易 タヤスキコト。ヤスラカナルコト。ヤサシキコト。史記、魯周公世家「夫政不簡不易、民不有近、平易近民、民必歸之」淮南子、道應訓「破鼓折枹、弛弓絕絃、去舍露宿、以示平易、解劍帶笏、以示無仇、於此天下歌謠而樂之」

へいい（名）平夷 〔正韻「夷、平也、易也」〕タヒラカナルコト。又、平カニスルコト。枚乘、七發「……丘陵、平夷西畔」

へいい（名）敝衣 ヤブレタルコロモ。ヤブレゴロモ。敗衣。弊衣 史記、范睢傳「魏聞秦且東伐韓魏、魏使須賈於秦、范睢聞之、爲微行、敝衣閒步之邸、見須賈」

へいいう（名）併有 合併シテ所有スルコト。アハセモツコト。史記、李斯傳「今陛下、幷有天下、辨白黑而定一尊」

へいいふ（名）弊邑 敝邑 （一）疲弊シ

[illegible] 鄕村。(二)己レガ邑里ヲ云フ謙稱。敝村。 左傳、隱公四年「[illegible]」[illegible]

へいいん (名) [丙寅] ヒノエトラ。えと(干支)ノ條ヲ見ヨ。 漢書、文帝紀「四年夏四月[illegible]」

へいえい (名) [兵營] 兵士ノ屯(タムロ)スル所。[illegible]

へいえき (名) [兵役] (一)兵事ニ召シ使ハルルコト。[illegible]「[illegible]附將軍樹義浮上、云云、當國人民悉赴、他國不ㇾ從ニ」(二)我ガ國ニテ、男子ノ一定ノ年齡(滿十七歲ヨリ四十歲マデ)ニ達シ、軍籍ニ編入セラレ、其義務ニ服從スルコト。コレニ常備兵役、豫備兵役、後備兵役、國民兵役、ノ區別アリ。

へいえん (副) [炳焉] 〔玉篇「炳、著明也」〕アキラカニ。イヤチコニ。炳然。 易林節用集(慶長)上、言語門「炳焉、ヘイエン」

べいえん (名) [米鹽] こめト、しほ(オ)ト。 史記、酷吏傳、減宣「宣爲ニ左內史、其治ニ米鹽、事大小[illegible]」[illegible] イヤシキ民ニ、米鹽ナドヲ給フナリ、云云、米鹽ノ勸[illegible]

へいおく (名) [弊屋] (一)壞レ損ジタル家。アバラヤ。弊宅。[illegible] 大[illegible]記、二十七、[illegible]定テ此弊屋へ御入ゾ候ハンズラン、一獻ヲ進メ申セト」(二)せったく(拙宅)ニ同ジ。

へいか (名) [陛下] 〔陛ハ堂ニ昇ル階(キザハシ)、陛下ニアル[illegible]〕[illegible] 太皇太后、皇太后、皇后ノ敬稱。又、皇帝ノ[illegible]閣ヘ奉リテ[illegible]、或ハ、對稱ノ代名詞ノ如クニモ用ヰ來ル。[illegible]

へいか (名) [平價] (一)平均ノ價値。 史記、[illegible] (二)[illegible]直段[illegible]

へいか (名) [兵家] (一)兵學ヲ修ムル人。[illegible] 又、其學派。兵學家。兵法家。[illegible]文ニ「兵家出古司馬之職」」(二)軍事ニタヅサハル人。軍人。 後漢書、[illegible]「[illegible]師、兵家所ㇾ忌」[illegible]、云云、[illegible]兵家常勢」

へいか (名) [弊家] へいおく(弊屋)ニ同ジ。

べいか (名) [米價] 米ノ價(アタヒ)。コメノネダン。 [illegible] 劉子[illegible]「市頭米價新發[illegible]」[illegible] 以ㇾ詩謁ニ顧著作、顧觀ニ姓名ニ曰ニ米價方貴ニ」

べいか (名) [犬] ベカ。ベカイヌ。又、べかいぬノ條ヲモ見ヨ。 私可多咄(寬永、中川喜雲)ニ「サル所ニ矮狗(ベイカ)ヲ飼ヒテ置、ソノ名ヲ白妙トツケタリ、云云、べいかヲノガ名ヲヨク覺ヘ[illegible]、アイ[illegible]いかノ、大ザクラ」(落花ハ、[illegible]ヲ含メリ)

へいかい (名) [炳誡] アキラカナル誡メ。[illegible]

へいがい (名) [弊害] ソコナヒ。[illegible]

へいかう(イコウ) (名) [并行 並行] (一)相並ビテ行クコト。[illegible] (二)[illegible]

へいかう(イコウ) (名) [平行] 又、平行直線。數學ノ語。二直線ガ同一平面上ニアリテ、何程延長スルモ相交ハラザルコト。

へいかう(イコウ) (名) 平衡 〔衡ハ、秤ノさを、漢書、律曆志[illegible]〕(一)ハカリノ衡ヲ平ニナルコト。ツリアヒノトレルコト。 禮記、曲禮下「執天子之器則上衡、國君則平衡、大夫則綏之、士則提之」[illegible] (二)タヒラカニ、ナラスコト。平均。(三)人ヲ拜スル法ノ一。頭ヲ首ニ曲ゲ、頭ト腰ト衡ノ如ク平カニスルコト。 荀子、大略篇「平衡曰ㇾ拜、下衡曰ㇾ稽首、至ㇾ地曰ㇾ稽顙」

へいかう(イコウ) (名) [嬖幸 嬖倖] 君王ナドニ、寵愛セラルルコト。寵幸。又、ソノ人。[illegible]

へいかう(イコウ) (名) 閉校 學校ノ授業ヲ休止スルコト。又、學校ヲ廢止スルコト。

へいかく (名) [兵革] 〔古ヘハ、革ヲ以テ兵ヲ作ルコト云フ」(一)兵器ト甲冑ト。武器。兵甲。 [illegible] 孟子、公孫丑、[illegible]「[illegible]」(二)[illegible] ニ兵革起ッテ、所所ニ烽火ヲ擧ゲタリケレバ」

へいかく (名) [illegible] [illegible]二邊ガ頂點ノ兩側ニアリテ、同一ノ直線上ニアル[illegible]、[illegible]百八十度ノ角。二直角。

へいがく (名) [兵學] 兵法ノ學問。軍學。

へいがくしゃ (名) [兵學者] [illegible](軍學者)ニ同ジ。兵法ノ學問ヲナスモノ。又、ソノ學ニ長ジタル人。

へいかふ (名) [兵甲] (一)武器ト、甲冑ト。[illegible] (二)[illegible]モノノ兵士。[illegible]

へいがふ(イゴウ) (名) [併合 并合] ヒトツニアハセルコト。[illegible] 依ニ地理、稱名一[illegible]、小者并合、大者分[illegible]」

へいかん (名) [病閑] びゃうかん(病閑)ニ同ジ。

へいかん (名) [兵艦] イクサブネ。軍艦。兵船。戰艦。[illegible]

へいかん (名) [平杆] 機械體操ニ用キル具。[illegible]二本ノ柱[illegible]、其間ニ、横ニ二本ノ棒ヲ亙シタルモノ。

へいき（名）平氣 （一）氣ノ平カナルコト。心ノオチツキタルコト。莊子、庚桑楚篇「欲靜則平氣、欲神則順心」中鑑、雜言「君子食和羹以平其氣、聽和聲以平其志」「虛心平氣」（二）喜怒、哀樂ニ動ゼヌコト。事ニ出會ヒ、何トモ思ハヌコト。從容自若。平氣の平左衞門（略シテ、平氣の平左）ナド云フハ、鴉勘左衞門、やけのやんぱち ナドノ類ニテ、語路ニ因リテ、平氣ト云フコトヲ擬人セルモノナリ。

へいき（名）兵氣 軍兵ノ意氣。兵士ノ氣慨。士氣。又、戰爭ノ風氣。常建、塞下曲「天涯靜處無征戰、兵氣銷爲日月光」

へいき（名）兵機 イクサノシホ。戰爭ノ機會。又、戰爭ノ機略。杜甫詩「干名楚將、妙略擁兵機」「兵機ハ迅速ヲ貴ブ」

へいき（名）兵器 イクサダウグ。兵具。武器。軍器。史記、平準書「邊兵不足、乃發武庫工官兵器以贍之」六韜、龍韜、王翼「兵法九人、主講論異同、行事、成敗、簡練兵器、刺舉非法」職員令「兵部省、云云、兵器、儀仗（謂、用之征伐曰兵器、用之禮容曰儀仗也）」

へいきん（名）平均 （一）タヒラカニヒトシキコト。平等。詩經、曹風、鳲鳩篇、毛傳「鳲鳩之養其子、朝從上下、暮從下上、平均如一」杜甫詩「豐儉宜深臼、萬役但平均」盛衰記、三十、木曾山門牒狀事「惟城寺塔、傾、地形平均、不能禦敵」（二）數、又ハ、嵩ヲ、若干ノ高ニ、不同ナク割リ分ツコト。ナラシ。均一。

ベイキン（名）親雲上 〔堂上官ト言ハムガ如シト云フ〕琉球ノ舊藩時代ノ官名。大やくもいノ俗稱。親方ノ次、里之子ノ上ニ居ル。正三品ヨリ從七品ニ至ル。或ハ、牌金。ベクミ。ベイチン。南島志（享保、新井白石）下「親雲上、親、近也、雲上、殿上也、猶言堂上官也、俗稱爲親雲上、曰牌古米、或曰、牌金、共義不詳」

べいぎん（名）餅銀 古ヘ、支那ニテ、銀ヲ餅ノ如キ形ニシタル貨幣。だいまい（大枚）ノ條ヲ見ヨ。水經注「王歆、始興記曰、林水源裏有石室、室前盤石上、列銀餅十餘、中 [illegible]、采伐過之、不得取、取必迷悶」

へいきょ（名）閉居 戸ヲ閉チテ、家ニコモリ居ルコト。籠居。蟄居。

へいきょ（名）屛居 〔屛ハ、退クナリ〕世ヲ退キテ、家ニコモリ居ルコト。史記、魏其傳「魏其謝病、屛居藍田南山之下數月」蘇軾、答濠州陳章書「罪廢屛居、交游皆斷絕」

べいぎょ（名）米魚 魚ノ名。ムツ。（上海）

へいきょく（名）平曲 （一）平調ノ曲。（二）平家琵琶ノ音曲。

へいぐ（名）兵具 へいき（兵器）ニ同ジ。武家嚴制錄、二「兵具之外、不入道具ヲ好ミ、私之奢イタスベカラズ」

へいぐし（名）幣串 いぐし（齋串）ニ同ジ。江家次第、十一、十二月「內侍所御神樂事、每月一日獻幣例供廿合、云云、幣串八節、黑漆平文也」弘徽殿鵜羽產家（正德、近松作）一「道滿、幣串サカ手ニ取、瀬見ノ小川ヲ一文字、横ニアテテ切ケレバ、川水二ツニサット別レ」

へいくゎ（名）兵火 戰爭ニヨリテ起ル火災。兵災。兵燹。宋史、吳玠傳「時兵火之餘、玠勞來安集、民賴以生」蘇軾、杜陽詩「鶴林兵火眞一夢、不歸閬苑歸西湖」

へいくゎ（名）兵戈 （一）はものト、ほこト。又、イクサダウグ。兵戟。盧從原詩「祗席知無戰、兵戈示不忘」（二）轉ジテ、戰ヒ。戰爭。干戈。晉書、樂志、下「慕容儁平冉閔、兵戈之際、而鄴下樂人、亦頗有來者」

へいくゎ（名）瓶花 花ガメニ插シタル花。花イケノイケバナ。

へいくゎ（名）兵科 兵士ノ種類ノ分科。「步兵科、騎兵科」

へいくゎ（名）苹果平果 〔歐米ヨリ渡來セルモノノ果實ハ、形、扁平ナル故ニ、苹、又ハ、平ノ字ヲ用ヰル〕西洋林檎ノ果實。りんご（林檎）ノ條ヲ見ヨ。

へいぐゎ（名）平臥 （一）横ニ臥スコト。横臥。（二）病ノ床ニ就クコト。臥病。易林節用集（慶長）上、言辭門「平臥、ヘイグヮ」盛衰記、廿、佐殿大場勢汰事「折節所勞アリテ、平臥シタリケルガ、佐殿ノ御使ト聞キテ、悅ビ起キテ」

へいくゎい（名）閉會 （一）會ヲ終ヘ閉ヅルコト。（二）議會ナドノ議事ノ、能力ヲ失ハシムルコト。「帝國議會ノ閉會」

へいくゎい（名）平懷 平生ノ考ヘ。又、平常ノ懷ヒヲ述ブルコト。後撰集正義（嘉元）さくさめのとじ「姑平懷ノ事ナラバ、詞ニアウガタリノ心ヲ取リテ書クベシトモオボエズ」

へいぐゎい（名）平懷 禮儀ニ、カマハヌコト。無遠慮。易林節用集（慶長）上、言辭門「平懷、ヘイグヮイ」博多小女郎波枕（享保、近松作）上「トナタモ船中、平ぐゎい御免、ヨイ御忘ツキ求メシト、禮儀シマヘバ、睦崩レ」

へいくゎつ（名）平滑 平カニシテ、ナメラカナルコト。平坦ニシテ、潤滑ナルコト。白居易、池上詩「平滑青盤石、低密綠陰樹」

へいくゎつ（名）平闊 平カニシテ、ヒロキコト。平坦ニシテ、廣闊ナルコト。

へいけ（名）平家 へいけものがたり（平家物語）ノ略。琵琶法師ノ語ルニ就キテ云フ。太平記、廿一、「[illegible]」看聞御記、應永廿七年六月九日「[illegible]檢校、專一檢校退出後ニ來、云云、當世名人也、云云、於客殿兩人語、（高倉院紅葉御賞翫事、康賴入道鬼界島祝事、後鳥羽院御位、文德天皇御位御讓事、三句語之）」蔭涼軒日錄（文明）十三「平家ナトヲ語ラ令聞セテ」二水記、永正十四年五月七日「福一建業語平家」長祿二年以來申次記「正月十四日於御會所一獻在之、云云、檢校ドモ參リテ、平家ヲ申也」

へいげい（名）俾倪睥睨 ニラミ見ルコト。流シ目ニ見ルコト。史記、信陵君傳「侯生[illegible]見其客朱亥、俾倪故久立」宋史、李[illegible]傳「當[illegible]生下卒開、如不[illegible]、睥睨而起、蓄爭如飛騰」

へいげい（名）埤堄睥睨 〔集韻「埤堄、女牆也」水經注「城上女牆、名睥睨」〕ヒメガキ。王筠、巡城口號「睥睨分曉色、睥睨生秋[illegible]」[illegible]詩「城烏埤堄晚、宮井轆轤[illegible]」平家物語、七、聖主臨幸事「[illegible]ヘテ、咸陽宮ノ烟、埤堄ヲ隱シケンモ、カクヤトゾ覺エケル」

へいけがに（名）平家蟹 〔平家ノ一門ノ海ニ沒シタル怨靈ノ化セルモノト云ヒテ名アリ〕蟹ノ一種。西國ノ海ニ產ズ。大、小、一ナラズ、脚、細ク、長、短、不同、甲ノ文、眉目鼻口ノ狀ヲナシ、勇士ノ怒レル顏ノ如シ。讚岐ニ多シ。武文蟹。島村蟹。鬼面蟹。物品稱呼、二、動物「鬼蟹、ヲニカニ、攝津ニテ、嶋むらがにト云、兵庫及播州ニテ、武文がにト云、讚州ニテ平家蟹ト云」

へいげき（名）兵戟 （一）へいくゎ（兵戈）ニ同ジ。史記、刺客傳、聶政「韓相俠累方坐府上、持兵戟而衞侍者甚衆」（二）古ヘ、宮殿ノ階下ニ、ほこヲ持チテ護衞ヲ勤メタル人。

へいけびは（名）平家琵琶 平家物語ノ

[illegible]ヲ附ケ、琵琶ニ合ハセテ語ル[illegible]ノ作者、[illegible]佛、琵琶ニ合ハセ節ヲツケテ語リ始ムト云フ[illegible]。へいけものがたり[illegible]見ヨ。[illegible]びはほふし(琵琶法師)[illegible]治六月廿一日「依ニ召参ニ院、比巴法師参入、語ニ平家[illegible]」[illegible]十一月六日「夜中、平家琵琶ヲ聞シ召ル」

へいけほたる (名) 平家螢 [illegible]源氏螢ニ對スルほたる(螢)ノ條ヲ見ヨ。

へいけん (名) 兵權 兵馬ヲ統ベテ、戰ヲ起シ得ル權力。武事ヲ統ブル權力。又、軍隊、又ハ、艦隊ヲ指揮スル職權。[illegible]

へいけん (名) 平絹 ヒラギヌ。文(アヤ)無キ絹布ノ稱。[illegible]

へいげん (名) 平原 平カニシテ、廣キ野原。[illegible]漢書、鼂錯傳「土山丘陵、曼衍相屬、平原廣野、此車騎之地」

へいけものがたり (名) 平家物語 平家物語ト云フ本ノ文句ニ、節ヲ附ケ、琵琶ヲ彈キナガラ語ルコト。略シテ、平家。平語。びはほふし(琵琶法師)ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]「[illegible]法師ノ平家物語ハ、大台ノ聲明ノフシヲウツシテ、生佛トイフ目クラ法師、オノレガ生レツキノ聲ニテ、語リハジメタリト云フ」 群書一覽、一、雜史「平家物語、引句(ヒキク)、語句(カタリク)ノ事、[illegible]句ハ琵琶ヲ下ニサシ置、フシモナク書物ノ素讀ナドノヤウニ、其事實ヲ語ニテカタルヲ、語句ト云フ」

へいこ (名) 兵庫 又、[illegible]。兵器ヲ納ムル藏。武器庫。武庫。[illegible]

へいこ (名) 鞞鼓 [illegible]鼓名、鞞、陳也、[illegible]騎鼓也[illegible]テ用ヰル鼓。セメノツヾミ。セメヅヽミ。イクサノツヾミ。白居易、長恨歌「漁陽鞞鼓動地來、驚破霓裳羽衣曲」

へいご (名) 丙午 ヒノエウマ。えと(干支)ノ條ヲ見ヨ。春秋、桓公十年「冬十有二月丙午、齊侯、衛侯、鄭伯來、戰于郎」[illegible]丙午、丁未、中國遇之、輒有變故」

へいご (名) 平語 (一)平常ノ言語。普通ノコトバ。(二)平家物語(ヘイケモノガタリ)ノ略。近古史談、題言、[illegible]「了伯[illegible]平語」

へいご (名) 屏語 〔禮記、曲禮、上篇、注「屏、猶ㇾ退也、隱也」〕人ヲ屏ケテ語ルコト。サヽヤクコト。漢書、[illegible]傳「王起[illegible]」[illegible]「此屏語」[illegible]

べイコ (名) 牛 〔蝦夷語、Peko.ノ轉訛〕うし(牛)ノ異名。(東北地方ノ方言ニテハ、べこ)

へいこう (名) 閉口 (一)口ヲ閉ヂテ發言セヌコト。史記、張儀傳「[illegible]閉口、無ニ復言ニ」 (二)負ケテ服從スルコト。屈服。屈從。字類抄「閉口、ヘイコウ」浮世床(文化、三馬)初編、中「コリャアヤマッタ、閉口、閉口」

へいこうたい (名) 平江帶 ひごたい(平江帶)ノ一稱。其條ヲ見ヨ。

へいこく (名) 弊國 (一)疲弊シタル國。(二)己レガ國ノ謙稱。弊邦。

べいこく (名) 米穀 (一)米ヲ云フ稱。[illegible]停止事「諸國ノ米穀ヲ運漕シテ、云云、直ヲ定テ賣セラル」(二)米類ヲハジメトシテ、一切ノ穀物ノ稱。

べいこくとりひきじょ (名) 米穀取引所 [illegible]主トシテ、米穀ヲ、大量ニ[illegible]取引シ、且、其公定相場ヲ作ル市場。

へいこせんせい (名) 閉戸先生 學問ナドニ勵ミテ、家ニ閉ヂ籠リ居ル人。下ノ出典ヲ見ヨ。[illegible]「[illegible]市人見之皆曰、閉戸先生來也」

へいさ (名) 平沙 又、へいさ。平坦ナル沙原。何遜詩「[illegible]」[illegible]

へいさ (名) 閉鎖 トヅルコト。又、トザスコト。杜牧詩「重門閉鎖[illegible]」[illegible]白日長」

へいざ (名) 平座 タヒラカニ坐スルコト。足座(アグラ)ヲカクコト。安坐。[illegible]

へいさい (名) 兵災 へいくゎ(兵火)ニ同ジ。

へいさう (名) 兵曹 海軍ノ准士官、及、下士官ナル武官。上等兵曹、(今、兵曹長)、一等兵曹、二等兵曹、三等兵曹ナドニ分ル。

へいさうちゃう (名) 兵曹長 [illegible]海軍兵曹ノ長官ニシテ、准士官。

へいさき (名) 閉鎖機 火砲砲膛ノ後端[illegible]

へいさく (名) 平作 農作物ニ云フ語。通常(ツネナミ)ノ年ノ作高。平年ノ作柄。(豐作、凶作ナドニ對ス)

べいさく (名) 米作 米ノ作付[illegible]、稻ノさくがら。イナサク。

へいさん (名) 平産 安ラカニ出産スルコト。安産。玉海、仁安二年十一月六日「[illegible]」

ヘイサラバサラ (名) 鮓荅 〔葡萄牙語、Pedra Iezoar.(獸類ノ胃腸内ノ結石ノ意)ヨリ出ヅ〕うまのたま(馬玉)ノ條ヲ見ヨ。和漢三才圖會、三十七、畜類「鮓荅、へいさらばさら、へいたらばさる、[illegible]」

へいし (名) 丙子 ヒノエネ。えと(干支)ノ條ヲ見ヨ。春秋、桓公十七年「夏四月丙子、公薨ニ于齊ニ」淮南子、天文訓「淮南元年、冬、太一在丙子、[illegible]」

へいし (名) 平視 タヒラカニ顔面ヲ上ゲテ視ルコト。[illegible]「時[illegible]」

へいし (名) 斃死 斃レ死ヌルコト。

へいし (名) 幣紙 御幣ヲツクルニ用ヰル紙。御幣ノ紙。[illegible]

へいし (名) 兵士 イクサビト。ツハモノ。[illegible]

へい-し（名）平氏　タヒラノ氏。又、平家ト云フ。げんぺいとうきつ（源平藤橘）ノ條ヲ見ヨ。

へい-し（名）平士　ヒラザムラヒ。ツネナミノサムラヒ。

へい-じ（名）平時　（一）ツネノ時。フダン。平素。平常。常時。居常。（二）平和ナル時。太平ノ時。（戰時ニ對ス）

へい-じ（名）兵事　軍隊、又ハ、戰爭ニ關スル事柄。武事。周禮、春官、司服「凡兵事、韋弁服」史記、高祖紀「□□□□□其父曾□□兵事」續紀、廿五、天平寶字八年九月「從四位下、云云、播磨守□□、習□兵事□」

へい-じ（名）瓶子　（一）形、細ク長ク、口ノ狹キ瓶。倭名抄、十六「瓦器「瓶子、賀米」字類抄「瓶子、ヘイシ」（二）酒ヲ盛リテ注グ器。後ノ徳利ノ如キモノ。上脹レ、下狹ク、腰窄シ、其上ノ口小サシ。金丹大要序「今之所□□□、皆兵瑞□子、行也打□、坐也跌□」源、四十五、梭本「へいじトル人モキタナケナクス、サルカタニフルメキテ」落窪物語、一「御トシミ、云云、カタハラナル瓶子ヲアケテ、云云」平家物語、一、鹿谷事「御前ニタテラレタリケル瓶子ヲ、狩衣ノ袖ニカケテ引タフサレタリケルヲ、云云」

へい-しき（名）兵式　（一）兵學上ノ法式。（二）次條ノ語ノ略。

へいしき-たいさう（名）兵式體操　歩兵ノ操練ニ傚ヘル體操。たいさう（體操）ノ條ヲモ見ヨ。略シテ、へいしき。

へい-じつ（名）平日　（一）ツネノヒ。フツウノ日。「平日ノ服」（二）平生。フダンノトキ。ツネヅネ。平常。朱熹、中朋章句序「推本堯舜以來相傳之意、質以平日所聞父師之言、更互演繹、作爲此書」後漢書、鄧皇后

肃宗□日、僧□悪□今反□此、不合人情」

へい-しふ（名）弊習　ヨカラヌナラハシ。惡シキ風習。弊風。惡風。

へい-しん（名）丙辰　ヒノエタツ。えと（干支）ノ條ヲ見ヨ。春秋、桓公十七年「春正月丙辰、公會齊侯、紀侯、盟于黄」

へい-しん（名）丙申　ヒノエサル。えと（干支）ノ條ヲ見ヨ。左傳、昭公廿六年「冬十月丙申、王起師于滑」

へい-しん（名）平心　穩カナル心。オチツキタル心。禮記、孫□□「下齊如□□□、以安□□□平心也」管子、版法解「□□□、禮義設、法、斷事以理、虛氣平心、乃去怒喜」

へい-しん（名）平信　無事ノ音信。カハリタル事ナキタヨリ。又、急報、密書、吉凶報ナドニ對シテ、普通ノ手紙。

へい-しん（名）併進竝進　ナラビススムコト。齊シク進ムコト。戰國策、齊策「天下之□、仁者皆來役□、辯知竝進、莫□不□來語」漢書、賈誼傳「諸侯之君、不□敢有□異心、輻湊竝進、而歸□命天子□」東方朔、答客難「今□天地之大、士民之衆、竭精馳說、竝進輻湊者、不□可□勝數□」

へい-しん（名）柄臣　〔漢書、朱雲傳、注「柄臣、執權之臣也」〕權柄ノ臣下。政權ヲツカサドル臣。漢書、朱雲傳「傳曰、下輕□其上爵□、賤人圖□柄臣□、則國家搖動、而民不□靜矣」

へい-しん（名）嬖臣　氣ニ入リノ臣。寵臣。史記、封禪書「上有□嬖臣李延年□、以□好□音見」漢書、項籍傳「張耳嬖臣也」

へい-じん（名）嬖人　氣ニ入リノ人。寵人。孟子、梁惠王、下篇「魯平公將□出、嬖人臧倉者、請曰、云云」史記、封禪書「因□嬖人□奏□之」

へい-じん（名）平人　タダノ人。普通ノ人。常人。ヘイニン。後漢書、鄧皇后紀「□

□□鎗□所□□□□□、皆□□之□□中人□」

へい-じん（名）兵刃　ヤイバ。又、武器ノ刃物。劍刀。孟子、梁惠王、上篇「□□□□□、兵刃既接、棄□甲曳□兵而走」淮南子、氾論訓「□□□□□□高猛獸□之害□、□而無□以□禦□也、而作□爲之鑄金鍛鐵□以爲□兵刃□、猛獸不□能□爲□害」

へいしん-ていとう（句）平身低頭　ヒレフシテ頭ヲ下ゲ、恐レ入ル狀ニ云フ語。

へい-しゃ（名）兵舍　兵士ノ宿ル家。

へい-しゃ（名）弊舍　（一）ヤブレイヘ。アバラヤ。弊屋。（二）己レノ家ノ謙稱。

へい-しゃ（名）弊社　己レノ會社ナドノ謙稱。

へい-しゃ（名）兵車　戰事ニ用キル車。戎車。周禮、冬官考工記「兵車之輪、六尺有六寸、田車之輪、六尺有三寸、乘車之輪、六尺有六寸」史記、夏侯嬰傳「□□□□□□、以□兵車□趣攻戰疾」杜甫、兵車行「車轔轔、馬蕭蕭」

へい-しやう（名）屏障　ヘダテ支フルコト。又、ソノ物。（屏風、障子ナド）シキリ。晉書、阮籍傳「□府舍屏障□、使□內外相望□」唐書、魏徵傳「帝以□所□上疏□、列□諸屏障□、朝夕見□之」白居易、詩「何用□施□屏障□、竹樓□床□」

へい-じやう（名）平常　ツネ。フダンノトキ。ヒゴロ。居常。平生。平素。韓愈、張中丞傳後敍「巡就□戮時、顏色不□亂、陽陽如□平常□」指月錄（明、瞿汝稷）「趙州參□南泉□、問曰、如何是道、泉曰、平常心是道」

へい-じやう（名）平城　〔倭訓栞「奈良ヲ日本紀ニ平ト見ユナリ、ヨリテ平城トモイヘル也」〕なら（奈良）ニ同ジ。續紀、四、和銅三年九月「戊午、車駕□自□平城□」

べい-しやう（名）米商　コメヤ。米ヲ賣買スル商。又、米ヲ商フ人。

へい-しゆ（名）兵種　兵士ノ種類。

べい-じゆ（名）米壽　（一）八十歳ノ稱。（八十八人ノ意）（二）米ノ字ヲ析ケバ、八十八ノ字トナル。米年。因リテ八十八歳ノ賀ノ祝ヒ。ヨネノイハヒ、よねいはひ（賀祝）ノ條ヲ見ヨ。米字賀、□□色葉集「米年、日□八十八歳□」年□□式「八十八ニ年滿レバ、米ノ祝ト申テ、俗是ヲ祝、□ノ字ノ□ハ八十八ト書故成ベシ」□□□□目抄「八十八歳、□□、祝ト云、俗ニ□□、是ハ八十八ノ二字ヲ□□□□□□、米ト云字ニナル故也、東鑑ニ米ノコトヲ八木トイヘリ、云云、八十八ノ□□、□□□二所□ナシ」

へい-しゆう（名）兵衆　ぐんぜい（軍勢）ノ條ノ（二）ニ同ジ。

べい-じゆう（名）陪從　管絃ノ事ニ從ノ地下ノ樂人ノ稱。臨時ニ之ニ召シ加ヘラルルヲ、加陪從ト云フ。□□□□□、□□、浦別「歌ウタヒ、折フシノ陪從ナドニ召サルルアリ」兼盛集「舞ヒ、へいじうナトニ、中將、カ、□□取リテ、物カツク」源、三十四、下、若菜、下「べいじうモ、イハシ水、カモノリンジノ祭ナドニメス人人ノ」枕草子、七、第六十八段「べいじうモ其日ハ御前ニ出イルゾカシ」

へい-しゆつ（名）平出　文中ニ敬フベキ字アル時ニ、次ノ行ヘ上ゲ出シテ、其字ヲ他ノ行ノ頭ト平等ニ書キ、更ニ敬フ時ハ、一字上ゲテ、書クコト。唐六典、注「昊天、后土等之稱、皆平出、社稷、太社、朝廷之稱、皆闕字、平出即後世所□云□擡頭□也」公式令「太皇太后、太后、皇太后、皇后、右皆平出（謂平頭抄出）」

へい-じゆつ（名）丙戌　ヒノエイヌ。えと（干支）ノ條ヲ見ヨ。一代要記、堀河「嘉承元年丙戌四月九日改元、依□彗星□也」

へい-じゆつ（名）兵術　イクサノワザ。兵事上ノ技術。戰爭ノ方法　戰術。北

[illegible]

へい-じゅん (名) 平準 〔準ハ、水準器ノ略、水平ヲ測ル器〕 (一)水準器ニテ測リ、水平ニスルコト。平均。 (二)物價ノ均[illegible]、公平ヲ保ツコト。又、其法。[illegible]

へい-じゅん-しょ (名) 平準署 諸國ニ、常平倉ヲ置キ、糴シ、糶シテ、人民ノ飢饉ヲ救ヒ、兼ネテ京中ノ穀價ヲ、平準ナラシムルコトヲ掌リシ官衙。左右ノ二署アリ。淳仁天皇ノ朝ニ建テ、光仁天皇ノ朝ニ停メラル。[illegible]

へい-しょ (名) 兵書 兵學ノ書。戰術ヲ記シタル書。軍書。孫子、呉子、司馬法、六韜、三略、尉繚子、李衛公問對ナドノ類。[illegible]

へい-しょう (名) 併稱 併ハセテ、稱フルコト。ナラベテ、稱スルコト。

へい-しょく (名) 秉燭 (一)燭火ヲ秉ルコト。魏文帝、與呉質書「年一過往、何可攀援、古人思秉燭夜遊、良有以也」 (二)轉ジテ、暮ガタトナルコト。又、其時刻。ヒトモシゴロ。[illegible]

[illegible]

べい-しょく (名) 米色 舂米ノ所用ノ數量。白米ノ入用ノ數目。[illegible]

へい-す スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 斃 [illegible]

へい-す スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 聘 禮記、曲禮、下篇「諸侯使大夫問於諸侯曰聘」 (一)禮ヲ以テ時ニ訪フ。[illegible] (二)禮ヲ備ヘテ迎フ。[illegible]

へい-すい (名) 瓶水 瓶ノ中ノ水。びやうすいノ條、參見セヨ。[illegible]

へい-せい (名) 平靜 タヒラケク、シヅカナルコト。オチツキテ、靜カナルコト。平安。安穩。[illegible]

へい-せい (名) 弊政 弊害多キ政治。アシキマツリゴト。秕政。惡政。

へい-せい (名) 弊制 弊害ノアル制度。アシキオキテ。

へい-せい (名) 幣制 貨幣ニ關スル制度。

へい-せい (名) 兵制 兵事ニ關スル制度。兵備ノ制。「兵制改革」

へい-ぜい (名) 平生 ツネ。ツネヅネ。ナミノトキ。フダンノトキ。平素。史記、淮陰侯傳「吾平生知韓信爲人易與耳」漢書、[illegible]

[illegible]

へい-せき (名) 兵籍 (一)ぐんせき(軍籍)ニ同ジ。[illegible] (二)軍人ノ身分。

へい-せふ (名) 嬖妾 [illegible]

へい-せん (名) 兵燹 〔燹ハ野火ナリ〕 へいくゎ(兵火)ニ同ジ。宋史、神宗紀「丁酉[illegible]」

へい-せん (名) 兵船 イクサブネ。ヒャウセン。軍艦。[illegible]「[illegible]十艘之兵船ニ參加矣」

へい-ぜん (副) 平然 物事ニアヒテ、動ゼザル狀ニ云フ語。平氣ナルサマ。自若。自如。泰然。

へい-ぜん (副) 炳然 火ヲ見ル如ク、アキラカナル狀ニ云フ語。炳乎。漢書、劉向傳「是非炳然可知、則白黑分[illegible]」

べい-せん (名) 米錢 こめト、ぜにト。米穀ト、金錢ト。[illegible]

へい-そ (名) 平素 〔素ハ常ナリ〕 (一)へいぜい(平生)ニ同ジ。諸葛亮、與人書「[illegible]平素之志」 (二)過去。往事。[illegible]

へい-そ (名) 斃鼠 斃レテ死セル鼠。

へい-そく (名) 幣束 (一)神ニササグル物。ニギテ。ヌサ。 (二)ゴヘイ。麻ヲ裂キ、又、紙ヲタタミテ、切リ垂ラシ、細[illegible]其大ナルモノヲ、はらひぬさ(祓幣)ト云フ。みてぐら(幣)ノ條ヲモ見ヨ。

へい-そく (名) 屛息 〔屛ハ斂むノ意〕 氣ヲヲサメ、息ヲツツシムヤウニスルコト。惶ジテ、オソレ入リテ、チヂコマリ居ルコト。[illegible]

へい-そく (名) 閉塞 [illegible]ト。[illegible]

へい-そつ (名) 兵卒 (一)ツハモノ。軍卒。軍兵。[illegible]考節用集、四、人倫門「兵卒、ヘイソツ」 (二)陸軍ニテ、下士官以下ノ兵士ノ稱。

へい-そん (名) 弊村 敝村 へいいふ(弊邑)ニ同ジ。

へい-た (名) 舳板 和船ノ舳、又ハ、艫ニ[illegible]

へい-たい (名) 兵隊 [illegible]タルモノ。軍隊。軍勢。俗ニ、兵士、兵卒[illegible]

へい-だい (名) 屛代 屛風ヲ立テ、又ハ、幕ヲ張リテ、目隱ノ代トナスモノ。[illegible]廿六日「天子昇壇即位日也、云云、西方立ニ同屛風ニ[illegible]

鋪ニ簾子ニ」 仁安三年御位御裝束次第「南北廂中央、額間去立布障子、按前代ニ」

へいとう（名）〔揺搖 屛當〕〔康熙字典「揺 揺、亦作屛當ニ」〕(一)モノヲ取リハラフコト。モノヲ取リノケルコト。一切經音義「唐、玄應」「除物曰揺搖ニ」 天治字鏡、七十四「揺搖、波良不」(二)カタヅケルコト。オホヒカクスコト。 晉書、阮孚傳「祖約性好財、云云、正料財物、客至、屛當不盡、餘兩小簏、以著背後、傾身障之、意未能平」

へいたく（名）〔弊宅〕(一)ヤブレタルイヘ。弊屋。王維詩「老夫何足似、弊宅偏因之」(二)己レガ家ノ謙稱。弊屋。字類抄「弊宅」

へいたん（名）〔平旦〕寅ノ時。曉七ツ時。今ノ午前四時頃。ヨアケ。平明。 孟子、告子、上篇「其日夜之所息、平旦之氣、其好惡與人相近也者幾希」 白居易詩「平旦起視事、亭午臥掩關」 天武紀、下、七年四月「取平旦時、警蹕既動」

へいたん（名）〔平坦〕地ノタヒラカナルコト。又、ソノ地。平地。 韓愈、遊青龍寺詩「惟君與我同懷抱、鋤去陵谷置平坦」 吳壹叢笑（宋、朱輔）「凡平地曰平坦」

へいたん（名）〔兵端〕戰爭ノイトグチ。戰端。「兵端ヲ開ク」

へいだん（名）〔兵團〕兵卒ヲ一團ニ組織シタルモノ。 會要、隋、皇兒七富團練使制「兵團之制、以訓練爲事」

べいだん（名）〔餅餤 餅餤〕小麥粉ト米粉トニ、鴨卵、雜菜、鹽ナドヲ雜ゼテ煎テ、方形ニ切リタルモノ。 杜陽雜編（唐、蘇鶚）「上賜酒一百斛、餅餤三十駱駝」 徐寅詩「莫歎老缺一醆牙齒、餅噉紅綾餅餤來」 倭名抄、十六、飲食部、餅餤類「餅餤、餅中納鴨卵等子若雜菜而方截」 枕草子、七、六十四段「頭ノ辨ノ御モトヨリ、云云、取イレテ見レバ、へいだん一ツヲ、二ツナラベテ、ツツミタル成ケリ、添ヘタル立文ニ、云云、進上へいだん一ツツミ、例ニヨリテ進上如件」 江家次第、五、二月十一日列見事「五六巡之後、居餅餤ニ」 厨事類記「餅餤」

へいたんぶ（名）〔兵站部〕(一)戰地ニアル軍隊ノ後方ニアリテ、軍需品ノ輸送、收容、等ヲ取扱フ所。(二)轉ジテ、スベテ必要品ナドヲ支出スル所ノ俗稱。

へいたらうまゐり（名）〔平太郎參〕陰暦十二月節分ノ夜、一向宗ノ寺ニテ行フ法談ニ參リテ聽クコト。コレ親鸞ニ歸依セシ常陸國ノ百姓、牧平太郎（出家シテ眞佛ト稱ス）ノ事蹟ヲ說クモノト云フ。（平太郎、又、ひらたらうトモ云フ）

へいち（名）〔平地〕タヒラカナル地。ヒラチ。 左傳、隱公八年「平地尺爲大雪ニ」 史記、河渠書「於是禹以爲、河所從來者、高水湍悍、難以行平地ニ」 平地に波瀾を起すトハ、故ナクシテ、事ヲ起ス意。 劉禹錫、竹枝詞「瞿塘嘈嘈十二灘、此中道路古來難、長恨人心不如水、等閑平地起波瀾ニ」 謠曲、九世戶「奇特ヲ見セン一、平地に波瀾を起しツツ、海山虛空ニ飛ビ翔リテ」

へいち（名）〔平治〕タヒラカニ、ヲサマルコト。又、タヒラカニ、治ムルコト。 孟子、公孫丑、下篇「夫天未欲平治天下也、如欲平治天下、當今之世、舍我其誰也」 同、離婁、下篇「堯舜之道、不以仁政、不能平治天下ニ」

へいぢのらん（名）〔平治之亂〕平治元年、藤原信頼、源義朝反シテ、後白河上皇ノ三條殿ヲ攻メ、上皇ヲ幽シ奉リシヲ、平清盛、敕ヲ奉ジテ、コレヲ破リテ平ゲシ戰亂。

へいぢもん（名）〔屛中門 屛重門〕へいぢゅうもん（屛重門）ノ略。 皇神式遷宮、七、本社寺の戰「屛重門ヨリ御座ノ間ノ大庭ニ亂レ入リ、云云」 武家名目抄稿、居處、十「屛ニ設タル中門ナル故、屛中門ト云フ、屛重門トモ書ク、上ノ屛トイフニ引カレテ、中ハオノヅカラ濁ルルナ故ナリ、又、中ヲツメテ、平地門トモイフナリ」

へいぢゃう（名）〔平定〕又、へいてい。事ノタヒラギサダマルコト。

へいぢゃう（名）〔兵仗 兵杖〕(一)又、ひゃうぢゃう。兵器。武器。 書言故事、四（宋、胡繼宗）神仙類「阿修羅天雨兵仗ニ」注「兵仗、兵甲隊仗也」 左衞門府式「凡大嘗衞士、兵仗或其隨身領送、不得勘收本府ニ」 盛衰記、三、成親流罪事「兵ゾ究竟ノ所ナリトテ、城墎ヲ構ヘ、兵杖ヲ用意ス」(二)武器ヲ携フル隨身。又、ソノ武士。コノ隨身ヲ從フルコトヲ聽サルルヲ、兵仗宣下ト云フ。 保元物語、二、左府御最後事「ヤヲレ後成ヨ、思ウテモ見ヨ、氏長者タル程ノ者ノ、兵仗ノ先ニ懸ルコトヤアル」 光豐公記、慶長八年二月十二日「將軍宣下（徳川家康）、云云、砂金一裹給、兵仗宣旨、官務砂金給」(三)兵器ノ危害ニカカルコト。又、兵亂ニカカルコト。 盛衰記、三十四、信西相明雲事「兵杖（定イ）ノ相アリヤノ御詞、怪ク侍リテ、是卽チ兵死ノ御相ナラント申シタリケルガ、ハタシテ角成給ヒケルコソ哀ナレ」

へいぢゅうもん（名）〔屛重門〕略シテ、へいぢもん。中門ノ條ヲ見ヨ。 林逸節用集、天地門「屛重門、へイヂウモン」（易林本、同） 貞丈雜記、十四、家作「中門ト云ハ、主殿ノ前ノ塀重門ノ事也、大門ト主殿トノ間ノ門ナル故、中門ト云也」 新編武家雛形「むかいへいちうもんノ事」

へいちょう（名）〔嬖寵〕〔說文「嬖、便辟也、愛也」說文「寵、尊居也、一曰、愛也」〕寵愛スルコト。カハユガルコト。 左傳、僖公廿四年「鄭有平惠之勳、又有厲宣之親、棄嬖寵而用三良、於諸姬爲近」 同、昭公三年「今嬖寵之喪、不敢擇位、而數於守適ニ」

へいつくばる（動）はひつくばふ（這蹲）ノ口語。

へいてい（名）〔丙丁〕(一)ひのえト、ひのとト。えと（干支）ノ條ヲ見ヨ。 禮記、月令篇「孟夏之月、日在畢、昏翼中、旦婺女中、其日丙丁、云云、仲夏之月、日在東井、昏亢中、旦危中、其日丙丁、云云、季夏之月、日在柳、昏火中、旦奎中、其日丙丁」(二)又、ひゃうぢゃう。火ノ異稱。ひゃうぢゃうどうじ（丙丁童子）ノ條ヲ參見セヨ。 淮南子、天文訓「甲乙寅卯、木也、丙丁巳午、火也、戊己四季、土也、庚辛申酉、金也、壬癸亥子、水也」 碧巖錄、第七則「丙丁童子來求火」 丙丁童子に與ふべしトハ、火ニテ燒クベシトノ意。八人童子。丙丁に附くトハ、燒キスツルノ意。 王守仁、復童克剛書「有同志諸友、共付丙丁ニ」(三)火事。火災。

へいてい（名）〔平定〕へいぢゃう（平定）ニ同ジ。 史記、殷本紀「湯乃踐天子位、平定海內ニ」 漢書、高帝紀「行成偃武、不責不立有功、平定海內ニ」

へいてい（名）〔兵丁〕兵役ニ服スル壯丁。 北齊書、元孝友傳「省三人師、以出兵丁、立倉儲、以豐穀食ニ」

へいてい（名）〔閉廷〕法廷ヲ閉ヅルコト。裁判ノ審理ヲ休止スルコト。

へいてん（名）〔閉店〕店ヲ閉ヅルコト。又、商賣ヲ止ムルコト。ミセジマヒ。

へいてん（名）〔弊店〕己レガ店ノ謙稱。

弊鋪。拙店。小店。小鋪。

へいでん（名）〔幣田〕幣帛ヲ進ズル料ニ供フル田。 吾妻鏡、十一、建久二年八月七日「但任皇相承御領神御幣田之處、云云」

へいでん（名）〔幣殿〕神社ト拜殿トノ間ニアル稍小サキ殿。參拜人ノ幣束ヲ奉ルトコロ。 皇太神宮儀式帳「大宮、云云、幣殿一

[illegible]中右記、元永二年十一月二日「[illegible]炎火[illegible]」

べいてん (名) 衣[illegible] 南[illegible]ニテ、[illegible]ナド[illegible]打チテ、描キ[illegible]ハスコト。又、ソノ描キタルモノ。 芥子園畫傳「二米石法[illegible]」

へいとう (名) 平等 びやうどう(平等)ニ同ジ。 [illegible]

へいとう (名) 弊竇 [禮記、禮運篇、注「竇孔穴也」] 弊害ノ存スル箇所。

へいどん (名) 幷吞 併吞 アハセノムコト。一ツニ從ヘ合ハスルコト。 漢書、賈山傳「[illegible]」 [illegible]四海之意、幷吞八荒之心」

べいのうくわ (名) 米囊花 「本草、罌子粟、一名御米、一名米囊」 芥子ノ花ノ異名。 [illegible] 方岳詩「夜讀自生書帶草、朝饑合對米囊花」

べいのう (名) 米納 租稅、又ハ、年貢ナドヲ、米ニテ納ムルコト。(金納ニ對ス) 地方落穂集、十、「諸納米金何之儀ニ付[illegible]」

へいにん (名) 平人 ヒラビト。ナミノヒト。へいぢん(平人)ノ條ヲ見ヨ。平民。又、無位無官ノ、タダノ人。 書言字考節用集、四、人倫門「平人、ヘイニン」 後漢書、鄧皇后紀「所被禁錮者、皆復之爲平人」

へいねつ (名) 平熱 平常ノ體熱。普通ノ體温。

へいねん (名) 平年 (一)三百六十五日ニテ一年トナル年。(閏年ニ對ス) (二)穀物ノ收穫ノ通常ナル年。平作ノ年。(豐年、凶年ナドニ對ス)

べいねん (名) 米年 八十八歲ノ異稱。べいぢゆ(米壽)ノ條ヲ見ヨ。 夜航詩話(文[illegible])「[illegible]亦未ダ典ナラズト爲サザルナリ」

へいば (名) 兵馬 (一)武器ト、軍馬ト。(二)戰陣ニ用ヰル馬。軍馬。 職員令「兵馬司、正一人(掌公私馬牛及兵馬[illegible])」 職員令集解、四「古記云[illegible]」 (三)軍隊。軍備。 (四)軍。戰ヒ。戰爭。干戈。「兵馬ノ事」

へいはう (名) 弊邦 へいこく(弊國)ニ同ジ。

へいはう (名) 平方 (一)平面ノ方形。卽チ、正方形ノ面積(立方ナドニ對ス) (二)數學ノ語。自乘ニ同ジ。(三)乘ヲ立方トモ云フニ對ス) かいへいはう(開平方)ノ條ヲモ見ヨ。

へいはうけい (名) 平方形 各角直角ニテ、各邊相等シキ四邊形。マシカク。方形。又、正方形トモ云フ。

へいはうこん (名) 平方根 數學ノ語。或數ヲ自乘シタル積ニ對シテ、其數ヲ云フ。かいへいはう(開平方)ノ條ヲモ見ヨ。

へいはく (名) 幣帛 (一)神ニササグルモノ。ミテグラ。ニギテ。ヌサ。 神祇令「凡供祭祀幣帛、飮食及菓實之屬」 皇太神宮儀式帳、供幣帛本記事「春宮坊幷皇后宮幣帛、幷[illegible]」 (二)[illegible]ニテ、贈遺スル物品。[illegible]

へいばし (名) 兵馬司 ひやうまし(兵馬司)ニ同ジ。

へいはつ (名) 倂發 (一)ナラビオコルコト。(病ナドノ) (二)ナラベテ發スルコト。同時ニ發スルコト。

へいはふ (名) 兵法 又、ひやうはふ。イクサノシカタ。軍陣一切ノ法則。兵學。軍法。軍學。 史記、[illegible] 辭門「兵法、ヘイハフ」 [illegible]六日「大藏卿、云云、謀云、秦經雖不知兵法、推量之處[illegible]」

へいはん (名) 平反 公平ニ再審スルコト。 漢書、[illegible]

へいはん (名) 弊藩 己レノ藩ノ謙稱。

へいばん (名) 平盤 (一)平タキ盤。ヒラサラ。(二)平カナル盤面。

へいばん (名) 平板 (一)平タキ板。(二)種ヲ蒔ク時、地ヲ均ス農具。(三)詩文ナドノ、變化乏シクシテ、無趣味ナルコト。一本調子。單調。

べいはん (名) 米飯 おめのめし(米飯)ニ同ジ。(麥飯ニ對ス)

へいび (名) 兵備 兵事上ノ防備。イクサノソナヘ。軍備。武備。 汲冢周書「年儉則兵備不制、民則不淫」

へいぶ (名) 平蕪 雜草ノ生ヒ茂リタル平野。 [illegible]

へいぶ (名) 兵部 (一)支那、唐官制ニテ六部ノ一。[illegible] (二)ひやうぶしやう(兵部省)ノ唐名。又、ひやうぶ。へいほう。

へいふう (名) 弊風 惡シキナラハシ。ヨカラヌ風習。弊習。弊俗。

へいふう (名) 屛風 びやうぶ(屛風)ニ同ジ。 唐書、房玄齡傳「乃錄古今家誡書屛風[illegible]」 [illegible]七尺ノ屛風ハ、躍ラバ越エツベシ」

へいふく (名) 平伏 ヒレフスコト。首ヲ地ニシテ拜スルコト。 書言字考節用集、八、[illegible]「平伏、ヘイフク」 [illegible]「折烏帽子ヲ引立テ、弓ヲ平メ跪キテ、將軍ノ前ニ平伏セリ」 [illegible]

へいふく (名) 平復 病ノナホルコト。本復。全癒。平癒。 [illegible]

へいふく (名) 平服 (一)平日、常用ノ衣服。ツネギ。[illegible] 常服。(禮服、制服ナドニ對ス) [illegible] (二)江戸時代、繼上下ノ稱。[illegible] 「自上召ス時ハ、イツテモ麻上下ニテ出ヅル事ナリ、平服ナレバ平服デ可出ト申來ルナリ、[illegible]」

金紗、袴トノ時ハ、平服ニテ出ルナリ」

へいぶつ (名) 幣物 又、へいもつ。オクリモノ。進物。聘物。 史記、平準書「吏卒奉幣物」漢書、司馬相如傳「以幣物、西南夷」續日本紀、承安四年一月四日「史官掌幣物」

へいぶん (名) 平分 タヒラカニワカツコト。不同ナク分クルコト。又、不同ナク分カルルコト。 宋玉、九辯篇「皇天平分四時兮、竊獨悲此廩秋」杜甫詩「野人尋陰、秋ハ永竹窗平分」「晝夜平分」

へいへい (名) (一)頭ヲ下グルコト。又、負クルコト。(二)へツラフコト。「おへいへいナムブ」「へいへいスル」

へいへい (副) 平平 (一)平カナル狀ニ云フ語。 平家物語、八、水島合戰事「歩ノ板ヲ引キ渡シ引キ渡シ渡イタレバ、船ノ中ハ平平タリ」謡曲、和布刈「海底ノ砂ハ平平タリ」 (二)公平ナル狀ニ云フ語。 書經、洪範篇「無偏無黨、王道平平」詩經、小雅、采菽篇「平平左右、亦是率從」 (三)平凡ナル狀ニ云フ語。 後漢書、孫超傳「我以此君當自爲衆人所平平耳」 平平坦坦トハ、平坦ト云フヲ強メタルモノ。平平凡凡トハ、平凡ト云フヲ強メタルモノ。

ぺいぺい (名) 平平 地位ノ卑シキ人、又ハ、技術ノ拙キ人ヲ、罵リテ云フ語。 「ヘノボコ、ぺいぺい役者」

べいべいことば (名) 可可詞 くゎんとうべい(關東兵)ノ條ヲ見ヨ。

ぺいぺいやくしゃ (名) 平平役者 役者ノ下級ナルモノ。馬ノ脚ナド。大根。

へいほう (名) 兵鋒 (一)ハモノノキノサキ。(二)敵ニ進ミカカル勢、進撃スル軍隊ノホコサキ。

へいほう (名) 兵部 普通ハ、ひゃうぶ。又、ひゃうぶしゃう(兵部省)ノ唐名。 易林本節用集(慶長)上、官位門「兵部、ヘイホウ、兵部ノ唐名」

へいぼん (名) 平凡 尋常ニテ、他ニ勝レタル所ナキコト。凡庸。 宋書、齊居深興詩序「顧以思致平凡、筆力寡弱、竟不能就」

へいまん (名) 屏幔 幕ノ類。 倭名抄、十四、幃障具「帳、小帳曰斗、俗云、斗帳、一云、屏幔」大藏省式、中門及披門、屏幔一 榮花物語、廿、御賀「所所ノアケバリ、へいまんナドノ色ケザヤカニ」

へいみん (名) 平民 (一)りゃうみん(良民)ニ同ジ。 後紀、廿二、弘仁四年二月「…之年、土民俘囚、威…其…而…之曰、不及俘囚…云云、自今以後、宜準平民、預…俘囚ハ、新附ノ…ノ王化ニ浴スルニ至レルモノ」 (二)ナミノタミ。身分ナキ民。平人。 書經、呂刑篇「蚩尤惟始作亂、延及于平民」後漢書、循吏傳「流民稍還、…同之平民」 (三)族稱ノ一。華族、士族ニ對ス。(今、士族、平民ノ間ニ、階級的差別ナシ)

へいみんぶんがく (名) 平民文學 社會中流以下ノ人人ノ趣味、好尚ヲ、代表セル文學。專ラ江戸時代ノ文學ノ汎稱。就中、謠曲、連歌、詩歌文ニ對シテ、俳諧、發句、浮世草紙、草雙紙(洒落本、黄表紙ノ類ヲモ)、讀本、人情本、川柳、狂歌、淨瑠璃ナドヲ云フ。

へいみゃく (名) 平脈 通常ノ健康體ノ脈搏。普通ノ脈搏。 史記、倉公傳「脈法曰、不平不鼓」注「冬、腎水王、其脈沈而滑、名平脈也」

へいめい (名) 平明 (一)ヨアケ。アケガタ。 史記、叔孫通傳「漢七年、長樂宮成、諸侯群臣皆朝十月儀、先平明謁者治禮」白樂天詩「平明出送…」 (二)公平ニシテ正明ナルコト。公平正明 偏頗ナキコト。 「宜付有司論其刑賞以昭陛下平明之治」

へいめん (名) 平面 (一)平坦ナル面。平カナル表面。(二)數學ノ語。表面上ニアル任意ノ二點ヲ、通過スル直線ガ、常ニ全ク其上ニアルモノ。「平面幾何學」

へいもつ (名) 幣物 へいぶつ(幣物)ニ同ジ。

へいもつ (名) 聘物 贈進ノモノ。贈物。進物。 大職冠(正保、近松作)二「…ノ聘物、花原磬、泗濱石、面向不背ノ玉、汝ニ持セ遣スベシ」

へいもん (名) 聘問 禮記、曲禮、下「諸侯使大夫問於諸侯曰聘」 幣物ヲ持チテ、訪問スルコト。 白虎通(漢、班固)「聘以徵召、聘以聘問」

へいもん (名) 平文平紋 ひゃうもん(平文)ノ條ヲ見ヨ。

へいもん (名) 閉門 (一)門ヲ閉ヅルコト。杜門。 漢書、王莽傳「…法…不得、…不足以給…閉門自守」 (二)門ヲ閉チテ、内ニ籠ルコト。(謹慎ノ意ヲ表スルタメニ) 吾妻鏡、廿三、建保五年五月十一日「…之行儀…本寺閉門」 (三)徳川幕府ノ制ニ、士族ノ閉刑ノ名。逼塞ヨリ重ク、蟄居ヨリ輕シ。輕重ニ從ヒテ、五十日、或ハ、百日間、外ヨリ門ヲ閉ヂテ、奴婢タリトモ、出入スルヲ許サズ。門誅。 御定書百箇條、御仕置仕形「閉門、門ヲ閉、窓ヲ塞、釘メニ不及」

へいや (名) 丙夜 かう(更)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 唐書、…「…天下事、丙夜不安枕」

へいや (名) 平野 廣クシテ、平坦ナル野原。…

へいやく (名) 兵厄 戰亂ノ災難。戰爭ノ災厄。 …「吾所弗如也、奈何不免兵厄」

へいゆ (名) 平癒 病ノ癒ユルコト。本復。全快。平復。全癒。 續日本紀「陛下春秋…平癒」古事談、六、亭宅諸道「御頭風永平癒」

へいよう (名) 併用 併ハセ用ヰルコト。

へいらい (名) 平禮 貞丈雜記、三、冠帽ノ條ニ、ひれト讀ムベシト見エタリ」 (一)又、へいれい、烏帽子ノ頂ヲ折リテ冠ルコト。(梨子打ニ對シ) 後世ハ、ひれ(平禮)トモ云フ。サムラヒエボシ。 松竹問答「…ルル如ク也、但、…へいれいトモ稱セシニヤ」北山院…「…ノ長、下野ノ…云云、キンランノ袖ヒトへ、白ノナビヲサミ…ハ、へいれい」明徳…年室町殿春日詣記「日野中納言、指貫如…烏帽子平禮」用明天皇職人鑑(寶永、近松作)「…折烏帽子、折折ハ、…二心ヲ、揉烏帽子、平禮、小結、梨子打ヤ」 (二)雜色ノ一種。如木ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

へいらん (名) 兵亂 戰爭起リテ、世亂ルルコト。イクサノミダレ。戰亂。 左傳、襄公八年「子展曰、小所以事大信也、小國無信、兵亂日至、亡無日矣」國語、楚語「…足以…火災ハ則讀之、…兵亂ハ則讀之」

へいり (名) 敝履 ヤブレタル草履。フル草履。敝屣。 何遜詩「…敝履…」 敝履を棄つるが如しトハ、少シモ惜シム所ナキ譬ニ云フ。

べいりふ (名) 米粒 コメツブ。イナツ

[illegible]不レ見[illegible]

ぺいりん (名) 米廩 コメグラ。米ヲ貯ヘオク庫。ヨネグラ。禮記、明堂位篇「米廩、[illegible]

へいりゃく (名) 兵略 軍事ノ謀。[illegible]

へいりょく (名) 兵力 軍勢ノイキホヒ。又、軍隊ノ力。[illegible]兵力[illegible]

へいれい (名) 聘禮 (一)婚約ノ印トスル贈物。結納。沈約、奏彈王源之文「[illegible]」 (二)[illegible]招ク[illegible]禮ヲ備フルコト。又、ソノ禮物。(三)昔、支那ニテ、[illegible]使セシムルノ禮法。禮記、聘義篇「聘禮、上公七介、侯伯五介、[illegible]」

へいれい (名) 幣禮 幣物ヲ贈リテ、禮ヲ厚クスルコト。太平記、三十九、神木入洛事「[illegible]」

へいれい (名) 平禮 へいらい(平禮)ノ條ノ(一)ニ同ジ。最明寺殿百人上臈(元祿、近松作)女郎揃「長袴、切袴、へいれい、白張、退紅丁、袖ヲツラネシ、ヨソホヒハ、云云」

へいれつ (名) 竝列 ナラブコト。又、ナラベツラヌルコト。[illegible]

へいろ (名) 敝廬弊廬 (一)ヤブレタル

[illegible]

ベイロシャ (名) 毘盧遮 〔べいろしゃ〕ふ(毘盧遮那、又、吠盧遮那)ノ略。又、[illegible]

ぺイロン (名) 白龍劉龍 〔字ノ支那音、わあろんヲ、はいろんト訛リ、更ニ、べいろんト轉ジタルモノト云フ〕支那傳來ノ競漕用ノ端艇。五月五日、六日ノ兩日、長崎、或ハ、ココ一近キ海濱ノ浦浦ヨリ、コレヲ出シ、長崎ノ遠近ヲ競フ[illegible]。モト漢土ノ風俗ニシテ、昔ヨリ汨羅ニ渡リヲ競ヒ、屈原ヲ弔スル故事アリ、コレガ遺風、長崎ニ及ビタルナリ。船ノ體、内外、狹ク、窄ク、凡ソ長サ三拾四五尋ヨリ、三十餘尋ニ至ル。一隻一四五十人、或ハ、六七十人、皆裸體ニテ船内ニ倚坐シ、左右ニ排列シ、又、艫工アリテ、艫ニ立ツ。雙方、銅鑼、太鼓ヲ鳴ラシ、各、幟ヲ揚ゲテ、打櫂ヲ入レ、水ヲ撥ク、其形、百足ノ如ク、行ク事、矢ヨリモ駛シ。[illegible]、浦印アリ、又競船ニ艘毎ニ、兩艚船ヲ泛ベ、飢渇ニ備ノト。ぱいろん(競渡)ノ條ヲモ參見セヨ。(長崎名勝圖會、卷五、上)

へいわ (名) 平和 タヒラカニ、ヤハラグコト。穩ニシテ、變ナキコト。和平。[illegible]

平和條約」

へいわ [illegible]

へいわう (名) 丙王 〔丙ハひのえニテ、火ノ義〕火ノ異稱。

へゐ (名) 兵威 軍勢ノイキホヒ。兵馬ノ威力。[illegible]

へゐん (名) 兵員 兵士ノ員數。

へゑん (名) 平遠 平カニシテ、眺望ノ遠ク打開ケタルコト。[illegible]

へをん (名) 平溫 平日ノ溫度。普通ノ溫度。

へをん (名) 平穩 タヒラカニ、オダヤカナルコト。[illegible]平穩不レ生レ風」

へう (名) 雹 ひょう(雹)ニ同ジ。

へう (名) 表 〔[illegible]〕(一)臣民ヨリ、事ヲ具シテ、天子ニ奉ル文書。又、官ヘ奉ル文書。[illegible]

[illegible]テ、致仕ノへう奉リ給ヲ」「賀表、謝表」ト表」(二)[illegible]ノ線ナド引キテ、整へ作レルモノ。[illegible]「統計表、高低表、年表」(三)[illegible]

へう (名) 俵 〔[illegible]〕[illegible]ケテ、一俵トシ、官人ナドニ分與スルヨリ、名詞トナリタルナリ、五斗トセシハ、重量ノ運搬ニ適スルガ故ナルベシ」[illegible]ドヲ[illegible]フ語。古ヘハ五斗入ナリ。(仙臺ナドニテモ[illegible])[illegible]三斗[illegible]ヲ普通トセリ。後世、四斗入トナル。[illegible]

へう (名) 票 (一)フダ。札。「傳票、投票」(二)[illegible]「今人以二官牌一曰レ票、券約亦曰レ票」

へう (名) 標 (一)シルシ。メジルシ。

儀式、八、五月六日儀「當ニ第三ノ的南ニ建ニ標ニ」「標識」
二)王朝時代、朝廷ノ公事ノ時、百官ノ列次ヲ定ムル爲ノシルシノ白木。長サ五寸、幅四寸許リ。 内裏式、中、七月八日相撲式「相撲司等參入、及立レ標、如ニ七日儀ニ」 建武年中行事、元日節會「外辨ノ公卿、門ノ左ノ戸ビラヨリ入テ、次第ニ標ニツク、云云、列サダマリテ内辨仰云」

へう（名）瓢 （一）へうたん（瓢簞）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。ヒサゴ。ナリヒサゴ。フクベ。 玉篇「瓢、瓠也」 （二）へうたんヲ、縱ニ半分ニ剖キテ、水ナドヲ汲ムニ用ヰルモノ。 倭名抄、十六「木器類、瓢、奈利比佐古、瓠也、瓠、匏也、匏可ニ爲ニ飮器ニ者也」 （三）へうたんヲソノママ、中味ヲ出シテ干シ、酒、飮料水ナドヲ容ルルニ用ヰルモノ。

～へう（名）豹 ナカツカミ。猛獸ノ名。亞細亞洲ノ東南、亞弗利加洲ノ内地等ニ産ズ。形、虎ニ似テ、體長、三四尺、睛、常ニ動キ、飛走殊ニ速シ。性、猛クシテ、他獸ヲ捕リ食フ。背ハ、黃赤ニシテ、腹白ク、背脇一面ニ、環ノ如キ黑斑アリテ、甚ダ美シ。皮ヲ褥トシテ、珍トス。 五代史、死節傳、王彥章「彥章武人不レ知レ書、常爲ニ俚語ニ謂レ人曰、豹死留レ皮、人死留レ名、其於ニ忠義ニ蓋天性也」 字類抄「豹、ヘウ」 倭名抄、十八、毛群名「豹、奈加豆可三、似レ虎而圓文者也」 推古紀、十九年五月「着ニ髻華ニ云云、大仁、小仁用ニ豹尾(ナカツカミノヲ)ニ」

べう（名）秒 時、又、度ノ分チノ名目。卽チ、分ヲ六十分セル一ツ。セコンド

べう（名）眇 〔說文「眇、一目小也」正韻「眇、偏盲也」〕 スガメ。カタメ。ガンチ。獨眼。隻眼。 瞎 瞎目 穀梁傳、成公元年「冬十月、季孫行父禿、晉郤克眇、衛孫良夫跛、曹公子手僂、同時而聘ニ於齊ニ、齊使ニ禿者御ニ禿者ニ、使ニ眇者御ニ眇者ニ、使ニ跛者御ニ跛者ニ、使ニ僂者御ニ僂者ニ、蕭同姪子處ニ臺上ニ而笑レ之、聞ニ於客ニ、客不レ說而去」

べう（名）廟 〔古今注「廟者、貌也、所ニ以彷ニ彿先人之形容ニ也」〕 （一）〔タマヤ。マツリヤ。靈屋。 詩經、周頌、清廟之什、清廟「於穆清廟、肅雝顯相」 崇神紀、元年十二月「立ニ己祖廟(ヤノヤシロ)於葛城高宮ニ」 （二）〔社ヲ崇敬シテ、廟ノ字ヲ文飾シタルモノ。ヤシロ。神社。 續紀、廿四、天平寶字六年十一月「奉ニ幣于香椎廟ニ」 神祇式、神名「豐前國、大帶姫廟神社」 （三）人君ノ宮殿。又、王宮ノ前殿ニテ、政治ヲ行フ所。 元稹詩「努力廟謨休レ用レ兵」「廟堂」

～べう（助動）可く、ノ音便。べし（可）ノ條ヲ見ヨ。 源、一、桐壺「楊貴妃ノタメシモヒキイデツべうナリユクニ」 平家物語、二、少將請受事「タダ一所デ、イカニモナルヤウニ申シテタバセ給フべうモヤ候ラン」

へうい（名）表衣 最モ上ニ着ル衣服。ウハギ。上衣。

べうえい（名）苗裔 〔裔ハ衣ノすそ、卽チ、末ノ意〕 後胤。末孫。 屈原、離騷「帝高陽之苗裔兮」王注「苗、胤也、裔、末也」 史記、司馬穰苴傳「司馬穰苴者、田完之苗裔也」

へうえう（名）飄颻 飄搖 ヒルガヘリ、アガルコト。ヒルガヘリ、ウゴクコト。 潛夫論（漢、王符）「翳鳳凰ニ翔ニ萬仞之上ニ、徘ニ徊太清之中ニ、隨ニ景風ニ而飄颻、時抑揚以從容」 曹植、七啓「然後姣人、乃被ニ文縠之華袿ニ、振ニ輕綃之飄颻ニ」

へうかう（名）標高 海水準面（普通、東京灣ノ中等潮位トス）、或ハ、此面ニ平行スルトコロノ諸面ヨリ、地表面ノ某點ニ至ル距離ノ稱。ソノ某二點ノ標高ノ差ヲ、標高差ト云フ。

へうかく（名）嫖客 〔康熙字典「俗謂ニ邪淫ニ曰レ嫖」〕 遊女買ヒスル男。ウカレヲ。遊冶郎。

へうかん（名）慓悍 剽悍 〔漢書、地理志、注「剽、急也、輕也」慓ハ剽ニ通ズ〕 スバヤク、タケキコト。 史記、高祖紀「項羽爲レ人、慓悍猾賊」 漢書、地理志「自ニ全晉時ニ已患ニ其剽悍ニ」 蘇軾詩「要知ニ[illegible]」

へうき（名）標記 目ジルシトシテ記スコト。又、目標(メジルシ)トシタル記號。

へうき（名）表記 （一）表面ニ書キ記スコト。「表記ノ金額」 （二）アラハシ書クコト。「價額表記」

べうぎ（名）廟議 （一）廟ヲ建ツルニ就キテノ議論。 唐書、朱子奢傳「[illegible]議、奏立ニ五廟ニ、劉歆議ニ宜ニ七、鄭玄本ニ玄成王肅宗ニ歆ニ、於レ是歷代廟議不レ能レ一」 朱熹、答ニ蔡季通ニ書「廟議亦不ニ盡記ニ」 （二）廟堂ニ於テノ評議。又、廟堂ニテノ議論。朝議。

⁂へうきん（名）瓢輕 慓氣 剽輕 〔瓢ノ輕クシテ、水ニ浮ブ貌、浮瓢(ウカリヒョン)ノ意〕 氣輕ニ戲ルルコト。又、ソノ氣象。オドケ。ダウケ。ウカレモノ。トンキャウ。（靜岡縣）―テ、ヒョンキン） 滑稽 書言字考節用集、八、言辭門「剽輕、ヘウキン」 物類稱呼、五、言語「物事輕率ニ騷シキ事ヲ、東國ニテひゃうきんト云、西國ニテハ、ヲドケタル事ヲ、ひゃうきんト云」 東海道名所記（萬治）一「遊女ドモノ舞ヒケルニ、瓢金ノ飛ビアガリドモ、コレニ心ヲトラカサレ」

べうきん（名）描金 金粉ニテ、金蒔繪(キンマキエ)ヲスルコト。又、ソノモノ。 清異錄（宋、陶穀）「後唐宮人、或網ニ獲蜻蜓ニ、愛ニ其翠薄ニ、遂以ニ描金筆ニ、塗ニ翅、作ニ小折枝花子ニ、金線籠貯、養之」

へうぐ（名）裱具 表具 紙、布ヲ、糊ニテ貼リ、細工スルコト。卽チ、軸物、帖、折本、掛物、襖(フスマ)、ナド作ル業。表裝 裝潢 裝背 背褙 背帖 [illegible]「[illegible]掛物[illegible]、表具仕度候」 [illegible]志、七、土倉門、下「表具、凡[illegible]裝潢、其卷ト者、謂ニ卷本ニ者、字軸ハ卷ト之、其卷上之端ニ結レ之、是謂ニ表具ニ」

へうぐし（名）表具師 表具ヲ業トスル人。經師屋。 裝潢匠 古今夷曲集、九、雜「表具師ハ、ヂク軸シクゾ、嬌シガル、ノリノ道シル、人ノお歎ヲ」 人倫訓蒙圖彙、五、表具師「唐書ニ所謂、裝潢匠是ナリ、屛風張付等、トモニコレヲナス」

へうぐや（名）表具屋 表具ヲ業トスル家。又、ソノ人。經師屋。 裱店 織留（元祿、西鶴）三「表具屋ノ綿ナル細工人ト口、エテ、定木、竹ベラ、刷し、硯マデヲ持ナテ、御座敷ノ腰張」

べうぐゎ（名）描畫 エガクコト。畫ヲ描キ寫スコト。 鄭玉詩「丹青花草看描畫、[illegible]林泉秋[illegible]成」

へうけい（名）表慶 ヨロコビヲ、アラハスコト。慶賀ノ意ヲ表スルコト。 晉書、元帝紀、論「[illegible]」 梁簡文帝、菩提樹頌「[illegible]表慶」

へうけい（名）剽輕 ケイソツナルコト。カロガロシキコト。へうきん。 漢書、淮南衡山傳「[illegible]剽輕、好作亂、自古記之矣」 後漢書、寇恂傳「[illegible]剽輕、[illegible]阻險[illegible]」

へうけつ（名）表決 可否ノ意見ヲ發表シテ決スルコト。

へうげん（名）表現 （一）アラハスコト。シメスコト。（二）〔英語、Expression.ノ譯語〕 心理學上ニテハ、表情ト同ジ意ニ用ヰ、美學上ニテハ、主觀的ナルモノヲ、客觀化スルコト。又、精神的、内

面的ナルモノヲ、外面的ニ具象化スル[illegible]」

へうげん‐しゅぎ（名）［表現主義］〔英語、Expressionism. ノ譯語〕藝術上、形式的、客觀的描寫ヲ主トセズ、事ノ、事象ノ內面的、主觀的表現ニ重キヲ置ク主義。

へうげんは（名）［表現派］ 前條ノ主義ニ基ヅキテ、主ニ主觀的作品ヲ描寫シ表現セムトスル藝術上ノ一派。

‡‡へう・げる・ゲル・ゲレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（自動、下一）［標[illegible]］[illegible]ナルオドケル。フザケル。ダウケル。滑稽

へうさう（名）［表裝］ へうぐ（褾具）ニ同ジ。[illegible]「[illegible]褾補褙トイヘル、ほゑハ褙ノ音ナリ、スベテ是ヲ表補トイフ」

べうさく（名）［廟[illegible]］ 廟堂ノ[illegible]略。朝廷ノ[illegible]。廟[illegible]、廟[illegible]。

へうさつ（名）［表札、標札］ 門、戶口、ナドニ、戶主ノ姓名ヲ記シテ掛ケ置ク木札。カドフダ。門標。門牌　門榜

べうさん（名）［廟算］「古ヘ、謀ハ祖廟ニテ定ムル故ニ云フ」 廟堂ノ計書。朝廷ノ計謀。[illegible]「[illegible]兵未[illegible]戰而廟算勝者、得ㇾ算多也、未ㇾ戰而廟算不ㇾ勝者、得ㇾ算少也」

べうさん（名）［廟參］ オタマヤニ參拜スルコト。墓參。曾我扇八景（寶永、近松作）上「此間ニ廟参ト身ヲヒソメ、ゾット入ル、口惜シヤ、諸大名ノ[illegible]」

へうし（名）［表示］（一）表面ニ示スコト。

外部ニアラハスコト。「意志表示」（二）[illegible]シテ見ハシテ示スコト。

へうし（名）［表紙］ 書籍帳冊ナドノ、表裏ニ[illegible]ル[illegible]、厚キ紙[illegible]。[illegible]

へうし（名）［拍子］〔子ハ助辭〕（一）[illegible]

へうし（名）［標識、標識］「[illegible]」

べうしゃ（名）［描寫］ エガキウツスコト。形ノミナラズ、[illegible]情[illegible]、內容マデモ洞察シテ描クコト。[illegible]

へうしょう（名）［標章］ シルシトスル記號。シルシ。

へうしゃう（名）［表彰］ 善行ナドヲ世ニアラハシ[illegible]スルコト。[illegible]表旌。旌表。[illegible]

へうしゃう（名）［表象］（一）アラハレタル姿。又、アラハレタルシルシ。後漢書、[illegible]（二）〔獨逸語、Vorstellung. 英語、Pres-

entation. ノ譯語〕心理學ノ語。外界ノ事物ナドノ、[illegible]

へうじゃう（名）［表情］（一）心情ヲ顏貌ニ表ハスコト。[illegible]（二）Emotional expression. ノ譯語〕心理學ノ語。[illegible]、心ノ喜怒、哀樂ナドヲ、[illegible]ハシ示スコト。表現。

へうじゅん（名）［標準］〔標ハ、木表、準ハ、ミヅバカリ〕（一）メジルシ。メアテ。又、目ジルシトシテ傚フコト。「標準語」「標準時」（二）ノリ。カタ。テホン。模範。[illegible]「[illegible]聖人、乃爲世之標準也」

へうじゅんご（名）［標準語］ 其國民ガ使用スル規範、標準タルベキ言語。方言ニ對スル我ガ邦ニテハ、公式ノ制定ハ無ケレド、東京、中流社會ノ言語ヲ以テ、標準トス。

へうじゅんじ（名）［標準時］ 地球上、一定ノ區域內ニ於ケル時刻ノ標準トシテ、太陽ノ特定ノ子午線上ヲ通過スル時ヲ以テ定メラレタル時刻。我ガ邦ニテハ、東經百三十五度ノ子午線ノ時ヲ、中央標準時ト名ヅケ、東ハ千島ヨリ、西ハ琉球、朝鮮ニ[illegible]デ之ヲ用ヰ、又、東經百二十度ノ子午線ノ時ヲ、西部標準時ト名ヅケ、臺灣、澎湖島、八重山、及、宮古列島ナドニ於テ之ヲ用ヰル。

へうしょ（名）［表書、標書］ 表面ニ書クコ

ト。又、[illegible]

べうしょ（名）［廟[illegible]］ [illegible]又、直ニ廟ノ稱。謠曲、松山天狗「松山ノ[illegible]所ヲ教ヘテ賜ハリ候ヘ」（二）ハカバ。墓所。曾我扇八景（寶永、近松作）上「父ノ墓所ノ[illegible]」

べうしょく（名）［[illegible]］ [illegible]供セラルルコト。[illegible]

へう・す[illegible]

へうせい（名）［表[illegible]］〔[illegible]〕ノ[illegible]、說文[illegible]「[illegible]」「戴ニ旌於竿頭、如ニ今之幢、亦有ㇾ旒」此旌ハ、特ニ士卒ヲシテ、精勵セシムルトコロヨリ、表示ノ意ニ云フ[illegible]アラハシ示スコト。善行ヲ褒メアラハスコト。旌表。表彰。高士傳（晉、皇甫謐）「中[illegible]」[illegible]

へうせき（名）［標石］（一）目標トスル石。[illegible]（二）[illegible]標ノ爲ニ立テタル石。

へうせつ（名）［剽竊］ 掠メ盜ムコト。他人ノ說ヤ、文ナドヲ）唐國史補（唐、李肇）「[illegible]」

文、又人數ヲ弟ヲ爲シ、倚ル親族貴勢ニ凌ゲ人」

へうぜん（副）［飄然］タダヨヒ定マラヌ狀ニ云フ語。又、何氣ナクふらりト立チ出デ、又、出デ來ル狀ニ云フ語。蘇軾、與二李方叔一書「某白侯、不レ以二一身ノ窮通一、於[illegible]朋友ノ如キ方叔、飄然一布衣、亦[illegible]不レ免」

べうぜん（副）渺然（一）廣ク遙カニシテ、目ノ及バヌ狀ニ云フ語。杜甫詩「舟楫渺然從レ此去」（二）物ノ數ニ足ラヌ狀ニ云フ語。小サキサマ。何景明、秋日雜興詩「雨花風[illegible]、渺滄江爲レ各渺然」

へうそ（名）［瘭疽］［熛疽］指ニ發スル病。化膿シテ炎症ヲ起スモノ。一指頭、遂レテ、次第ニ他ノ四支、胸背ニ及ブ。倭名抄「瘭疽、俗云、倍宇音、血氣否澁内所レ生也」名義抄「瘭疽、ヘウソ」病源論「瘭疽、瘭、熛也」（熛ハ火ノ飛ブ貌、スミヤカニ病ム意）外科祕法「瘭疽在二手足心一不レ可レ療」

べうぞく（名）苗族　支那、湖南省、雲南省、貴州省ナドニ住スル人種。體軀ハ短矮ナレドモ、性、剽悍ヲ以テ名アリ。古ヘハ國ヲ三苗ト稱シテ、江南ノ荊州、揚州地方ニ居リ、險ヲ恃ミテ、亂ヲナセリ。故ニ、舜帝、之ヲ西裔ノ三危ニ竄セリ。苗民。

へうだ（名）［豹駝］〔色彩、斑文、豹ニ似、體軀、駱駝ニ似タレバ名トストス云フ〕麒麟ノ異名。ぢらふノ條ヲ見ヨ。

へうだい（名）［表題］［標題］（一）書籍ノ名ヲ、特ニ表記スルモノ。外題　題號　題簽　王禹偁詩「年號標題二武宗一」（二）演說、談話ナドノ題目。

へうたう（名）［漂泊］タダヨフコト。又、サマヨフコト。陸游詩「此身漂蕩等二流槎一、又向二江村一過二殘年一」

へうたう（名）［漂蕩］ウカレ、サマヨフコト。雜見二同[illegible]（門、黄允文）不レ圖レ好「革退史曹、發二本官帖私一漂蕩後、打二漣[illegible]落二」

へうたう（名）［剽盜］オヒハギ。オビヤカシテ、ウバヒトルコト。又、ソノモノ。新書（漢、賈誼）「剽盜攻[illegible]者、相隨而起」韓愈詩「搜二春摘一花卉一沿襲傷二剽盜一」

べうだう（名）［廟堂］（一）祖先ノ靈ヲ祀レル殿堂。オタマヤ。宗廟。禮記、禮器「廟堂之上、罍尊在レ阼、犧尊在レ西、廟堂之下、縣鼓在レ西、應鼓在レ東」中右記、寬治八年八月八日「攝政也、云云、上卿以下起座、後[illegible]廟堂二」（二）宗廟ト、明堂ト。古ヘ支那ニテ、人君、政治ヲ議シ、事ヲ行フ前ニ、先ヅ宗廟ニテ祖先ノ靈ニ告ゲ、後、明堂ニテ群臣ニ諮リシヨリ轉ジテ、朝廷ト云フ意ニ用ヰル。後漢書、班固傳「將軍、養二志和一神、優二游廟堂一、光明宣二於當時一、遺二烈著於無窮一」呂氏春秋（秦、呂不韋）「夫修二之於廟堂之上一、而折二衝乎千里外一」

へうたくれ（名）［愚者］〔瓢たくれノ意、呑だくれモ同趣、又、ひゃうたくれトモ云フ。（膝栗毛、二編上、洒落本辰巳之園）〕バカモノ。（東京、安房地方ノ、へうたくれモ、是レナルベシ、靜岡縣ニテ、ひょうたくれト云ヘリ）

へうたん（名）［瓢簞］〔簞ハ、竹ノ組籠ナリ、簞ニアラズ、一簞食一瓢飲ヲ、朗詠集ニ、瓢簞屢空ト熟語ニ用ヰタルヨリ、一物ニ誤用ス〕（一）貧者ノ飲食物ノ意。一杯ノ水ト、一椀ノ飯トニ。論語、雍也「賢哉、回也、一簞食、一瓢飲、在二陋巷一、人不レ堪二其憂一、回也、不レ改二其樂一」曹植、入司馬曹休書「好[illegible]

瓢樀ハ甘ニ此瓢簞二」（二）夕顏ノ一種。一年生ノ蔓草ニシテ、莖ニ卷鬚アリテ他物ニ纏ヒ、葉ハ心臟形ニシテ尖リ、花ハ白クシテ五瓣、其實ノ形、圓ク長ク、中ニ括リアルモノ。肉、苦クシテ、食フベカラズ、成熟シタルモノヲ、乾シテ中ヲ空ニシテ、酒ヲ盛ル器トス。フクベ。ヒサゴ。へウ。葫蘆　壺蘆　百成瓢簞ト云フハ、甚ダ小サクシテ、二三寸ナルモノ。千成瓢簞トモ云フ。長サ四五寸ナルモノ。蒲盧　倭名、後漢、瓢簞、簞ノ訓）、瓢ト簞トハ別物ニテ、一物ニアラズ、一簞ノ食、一瓢ノ飲トイフハ、竹ニテ組ミタル器ニ、飯ヲ入レタルヲ一簞ノ食トイヒ、フクベニ入レタル酒ヲ、一瓢ノ飲トイヘルニテ、瓢ト簞トハ、似ヨリタルモノニアラズ、サルヲ、瓢ノミヲへうたんトイヘルハ、イミジキ誤ナリ」易林節用集（慶長）上、草木門「瓢簞、ヘウタン、或作二瓢箪一」

へうち（名）標致　（一）旨趣ヲ表示スルコト。魏書、文苑傳、序「自二昔聖達之作、賢哲之書、莫レ不下統二理成一章、蘊上氣標致上」（二）人ノ美麗ナルモノ。（支那、吳國ノ語）

へうちゃく（名）［漂着］漂流シテ岸ニ寄付クコト。天武紀、廿九、六年五月「戊辰、新羅人阿飡朴刺破從人三口、僧三人、漂二着於血鹿島一」後紀、廿四、弘仁五年十月「庚午、太宰府言、新羅人辛波古知等二十六人、漂二着筑前國博多津一」

へうちゅう（名）［標註］［標注］本文ノ上ノ方ニ注スルコト。又、ソノ注釋文。カシラガキ。頭注。鼇頭。宋史、藝文志「王鍘漢書標注六卷」「標注仁習錄二卷（三輪執齋撰）」

へうてう（名）［漂鳥］渡鳥ノ一種。餌ヲ求メテ、短距離間、隨時、棲ム處ヲ換フル鳥ノ稱。卽チ、鶯、鴨、啄木鳥ノ類。

へうてん（名）［標點］目標ノ點。又、目

標ノ箇所。宋史、何基傳「凡所レ讀書、無二不二標點一、義顯意明、有レ不レ待二論說一而自見者」

へうとく（名）［表德］（一）德ヲ表ハスコト。彰德。顏氏家訓、北齊、顏之推「古者、名以正レ體、字以表レ德」（二）德ヲ表ハス號。表德號。雜書（唐、李義山）「不二自量一、下賤人、呼二人表德一」同、卽、宋、王楙、野客叢書「北人呼二名號一曰表德」（三）演藝、技藝ナドニ就キテ、別ニ設ケタル名。號。

へうのやま（名）標山　略シテ、標トノミモ云フ。古ヘ、大嘗會、悠紀、主基ノ兩國司ノ列立スベキ所ノ標ノ木。山ノ形ヲ作リ、木綿、榊、日月ノ象、或ハ、種種ノ作物ニテ飾レル標ヲ載セ、卯ノ日ニ、齋場ヨリ大嘗宮ニ曳ク。又、ひをのやま。字類抄「標山、ヘウノヤマ、大嘗會之時引レ之」台記、久壽二年十一月廿三日「引二標山一之間、悠紀山引、悠紀拘中、其山破摧」續後紀、二、天長十年十一月「卯、曳二標院一、終日宴樂、悠紀主基共立二標、其標、悠紀則山上栽二梧桐一、兩鳳集二其上一、從二其樹中一起二五色雲一、雲上懸二悠紀近江四字一云云」

へうはい（名）［標牌］カケフダ。カンバン。

へうはい（名）［褾褙］〔品字箋「褾表、褙背也」〕凡糊レ物者、必兩層以上、有レ表有レ裏、以下繒二者上向レ外、謂二之褾一、以二無染素紙一托二其背一、爲二之褙一也〕表具。表裝。

べうはい（名）［廟拜］廟ニテ、孔子ノ廟ヲ拜スルコト。吉記、承安四年二月十日「今日釋奠也、云云、無二廟拜一、不レ着二廟座一」建武年中行事、上ノ丁ノ日（二月）、大學寮ニテ尺奠アリ、云云、上卿ノ外モマヰリテ、べうはいニ立チ、宣德ノ座ニツク、文章博士、題ヲイダス」

へうばう（名）［標榜］［摽榜］〔標ハしるし、榜ハ立札ノ義〕（一）人ノ善行ヲ揚言シテ、其事實ヲ札ニ記シ、門戶ニ揭ゲテ、

大衆ニ示ス[illegible]

義、主張ナドヲ、公然トアラハスコト。[illegible]

べうばう (副) [渺茫] べうべう(渺渺)ニ同ジ。[illegible]

へうはく (名) [漂泊] (一)水上ニタダヨフコト。漂流。(二)彼方此方ニサマヨヒテ、住所ノ定マラヌコト。サスラフコト。流浪。杜甫詩「即今漂泊干戈際」

へうはく (名) [表白] (一)アラハニ、マウスコト。[illegible] (二)へうびゃく(表白)ニ同ジ。

へうはく (名) [標白] 物ヲ晒シテ、色ヲ白クスルコト。[illegible]

へうひ (名) [表皮] (一)外部ノ皮。ウハカハ。(二)動物ノ皮膚ノ外層。(眞皮ニ對ス) (三)植物ノ表面ノ皮。

へうび (名) 豹尾 八將神ノ一。[illegible] ノ精。黄幡ト向ヒ合フ(黄幡、辰ノ方ニアレバ、豹尾、戌ノ方ニアリ)。曆ノ上ニ、其年ノ此方角ニ向ヒテ、[illegible]ヲ求メズ、又、大小便セズトス。[illegible]「豹尾」[illegible]在ニ辰方ハ亥卯未歳在ニ丑方ハ向ニ此方ニ大小便、不レ爲[illegible]「ヘウビ」曆林問答集、上、釋ニ豹尾ニ「或問、豹尾者何也[illegible]

へうびゃく (名) [表白] 佛教ノ語。法事ノ趣旨ヲ表ハシテ、三寶、及、大衆ニ告ゲマウスコト。又、其文。ヘウハク。[illegible]家仁王講ニ表白」 續本朝文粹、十二、表白「[illegible]」

へうふう (名) [飄風] [飃風] 俄カニ烈シク吹ク風。ハヤテ。ツムジ。ハヤチ。詩經、小雅、小旻之什、[illegible]老子、第廿三章「飄風不レ終レ朝、驟雨不レ終レ日」

へうへう (副) [飄飄] (一)ヒルガヘル狀ニ云フ語。[illegible] 又、輕クアガル狀ニ云フ語。[illegible] (二)[illegible]狀ニ云フ語。[illegible]

へうべう (副) [縹渺] [縹緲] [縹眇] カスカニシテ、明瞭ナラザル狀ニ云フ語。又、ハルカナル狀ニ云フ語。木華、海賦[illegible]

べうべう (副) [渺渺] 闊ク遠クシテ、見限リナキ狀ニ云フ語。渺茫。[illegible]

べうべう (副) [眇眇] イササカナルコト。區區タルコト。ツマラヌコト。[illegible]

べうべう (副) [淼淼] 水ノ、ハテシナク、廣キ狀ニ云フ語。淼漫。[illegible]

べうべう (副) 犬ノ鳴聲ヲ云フ語。[illegible]「(犬)べうべうべう、(茶屋)ハア、[illegible]」[illegible]

へうへん (名) [豹變] 豹ノ[illegible] ナル如ク、[illegible]變化ノ著シキ意、[illegible]惡ヲ改メテ善ニ[illegible]ドモ、今ハ、其反對ノ義ニ用ヰラル」品性、行爲、ナドノ、急ニ變ルコト。易經、革卦「上六、君子豹變、小人革面」[illegible]

へうぼ (名) [漂母] 〔廣韻「漂、水中擊レ絮也」〕 洗濯スル老婆。センタクババ。史記、淮陰侯傳[illegible]「金千箇[illegible]」

べうぼ (名) 廟謨 〔說文「謨、謀也」〕 廟堂ノ謀。朝廷ノ計略。廟謀。[illegible]斷」陳元、除子號客卿啓「謂ニ色廟謨ニ寅ニ飾聖世ニ」

へウホイ (名) [表背] 〔字ノ宋音〕 又、へうほゑ。掛物ノ表具ヲスルコト。又、ソノ表具。表裝 裝潢 下學集、下、器財門「表褙、ヘウホイ」書言字考節用集、七、器財門[illegible]

べうぼう (名) [廟謀] べうぼ(廟謨)ニ同ジ。杜甫詩[illegible]

へうぼく (名) [標木] 目標トスル木。シルシノ木。

へうほん (名) [標本] 實物ニ似セテ作リタルモノ。ミホン。カタ。「博物標本」

へうほゑ (名) [表補繪] 〔ほゑハ、當字ナリ〕 へうほい(表背)ニ同ジ。下學集、下、[illegible]ノヘリノ錦ヲ考候ヘバ、りんほへ、とうほへト都ニ[illegible]

べうまん (副) [渺漫] [illegible]狀ニ云フ語。[illegible]

べうまん (副) [淼漫] べうべう(淼淼)ニ同ジ。[illegible]

へうめい (名) [表明] 表ハシ明カニスルコト。黃庭經「光華所レ生以表明」

へうめん (名) [表面] 〔裏面ニ對ス〕 オモテ。ウハツラ。ウハベ。又、外面。

へうもく (名) [標目] [illegible]

べうもく (名) [渺目] スガメ。カタメ。[illegible]

へうもく [illegible]之、天下耳目微レ之」(二)モクロク。目次。

へうもん (名) 豹文 豹ノ[皮]ノ斑紋。[illegible]

へうやう (名) [飄颺] 飄ヘリ、アガルコト。空ニマヒアガルコト。 法書要録(唐、張彦遠)「衛夫人筆陣圖、結構圓備、如二篆法一、飄颺灑落、如二章草一」 張華、鷦鷯賦「飛不二飄颺一、翔不二翕習一」

へうり (名) [表裏] (急就篇(漢、史游)「外曰レ表、内曰レ裏」) (一)おもてト、うらト。表面ト、裏面ト。 大學章句「右傳之五章、云云、則衆物之表裏精粗、無レ不レ到」 揚子法言「或問二聖人表裏一曰、威儀文辭、表也、德行忠信、裏也」 (二)外ト、内ト。内外。 左傳、僖公廿八年「戰也、戰而捷、必得二諸侯一、若其不レ捷、表裏山河、必無レ害也」 (三)内ト外ト呼應シテ援ケ合フコト。(物ニ表裏アルガ如ク) 漢書、蕭望之傳「明二習文法一、亦與二車騎將軍高(史高)一爲二表裏一」 (四)言葉ノ表ト裏トノ、一致セヌコト。 可笑記(寛永、如儡子)一「輕薄表裏ニタラサレテ、恩賞與ヘテ悔ユベシ」 同、同「表裏フカマヘ、佞心ヲツクロヒ」 五十年忌歌念佛(寶永、近松作)下「廻り金ノナイ時ハ、氣轉ヲ利カセ、表裡フツカヒ、主人ノ金ヲ手前ヘ加ヘ」 國性爺後日合戰(享保、近松作)三「民ヲ僞リ世ヲアザムキ、稚キ孫メニ僞リ表裏ヲ稽古サセ、畔ツキニ仕立ルカ」

へうり-あげ (名) [表裏上] 表ニハ褒メテ、裏ニハ謗ルコト。へうる(表裏)ノ條ノ出典ヲ見ヨ。

へうりう (名) [漂流] 又、へうる。船ノ、風ニ吹カレテ、大海中ニ流レタダヨフコト。又、サスラフコト。 蘇軾、詩「漂流二十年、始悟萬緣虛」 釋天荊朝鮮渡海記、天正七年六月十六日「迷見、移二釜山一則幸甚、此舡雖二漂流一、於レ義如何、況於二使舡一乎」

へうり-もの (名) [表裏者] 裏切ナドヲスルモノ。 賀古教信七墓廻(元祿、近松作)二「小腕取テ、コレ腰拔ノ表裡者、己ヲ誠ノ武士ト思ヒ、身ノ孝心ニ引當テ、親ヲ助ケシ義理ヲ忘レ、云云」

べうりやく (名) [廟略] べうさん(廟算)ニ同ジ。 晉書、羊祜傳「祜受二任南夏一、思二靜其難一、外揚二王化一、内經二廟略一、當二德推讓一、誠一…」 李相公ニ詩「偏勝高謀見二廟略當時司二不疑一」

へうる (名) [漂流] へうりう(漂流)ニ同ジ。

へう・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [表裏] へうり(表裏)ノ活用。 可笑記(寛永、如儡子)一「ヨロヅ我ヨリ上メナル人ヲハ、嫉ムル體ニテひやうりヲ上ケ、ヨロヅ我ヨリ下メナル者ヲバイヤシミ」

へうろく (名) [表六] (藏六ニ對ス) 愚者ノ稱。又、へうろくだま。 運歩色葉集「表六、(利鋤鐵)六、鈍器表六、嘲二之人一」

へうろく-だま (名) [表六玉] 前條ノ語ニ同ジ。

ペエジ (名) [頁] (英語、Page. 韻會「頁、胡結切、額」) (一)書籍、帳簿ノ紙ノ一枚ノ半面。(二)洋風ノ書物ニテ、一枚ノ半面ヲ數フル語。頁。 福惠全書、脚色式、注「面頁寫二一吊字一」

ベエス-ボオル (名) [野球] (英語、Baseball.) やきう(野球)ノ條ヲ見ヨ。 松蘿玉液(明治、正岡子規)「戶外遊戲、べーすぼーるハ、素ト亞米利加合衆國ノ國技トモ稱スベキ者ニシテ、云云、此技ノ我邦ニ傳ハリシ來歷ハ、詳カニ之ヲ知ラネトモ、或ハ云フ、元、新橋鐵道局技師、米國ヨリ歸リテ、之ヲ新橋鐵道局ノ職員ニ傳ヘタルヲ始トストカヤ(明治十四五年ノ頃ニモヤアラン)、ソレヨリシテ、元東京大學(豫備門)ヘ傳ハリシト聞ケド、如何ヤ、云云、べーすぼーるニ要スルモノハ、凡ソ千坪許リノ平坦ナル地面(芝生ナラバ猶ヨシ)、皮ニテ包ミタル小球(直徑二寸許リニシテ、中ハ、護謨、絲ノ類ニテ充實シタルモノ)、投者カ投ゲタル球ヲ打ツベキ木ノ棒、(長サ四尺許リニシテ、先ノ方、稍稍太ク、云云)」

ペエパア (名) [英語、Paper.] (一)紙。紙片。西洋紙。(二)(英語、News-paper. ノ略) 新聞紙。(三)品物ノ名ヲ記シタル紙。(四)商品ニ、商標、店名ナドヲ記シテ、貼附スル紙。れってる。(五)さんどぺえぱあ(英語、Sandpaper.)ノ略。硝子ノ粉末、又ハ、金剛沙ヲ糊ヅケニシタル紙。鑢ヲ磨ギ落スニ用ヰル。ヤスリガミ。カミヤスリ。

ベエル (名) [英語、Veil.] 女ノ洋裝ニ覆面ノ紗。又、顏ヲ覆フ薄キ帛。面紗。

べか (名) べかかうノ略。其條ヲ見ヨ。

べか (名) [犬] べいかノ略。其條、及、べかいぬノ條ヲ見ヨ。 嬉遊笑覽、十二、禽蟲「中井竹山カ草茅危言ニ、狗ノ子ヲべかト云フ、云ヘリ、子狗ニハ限ルベカラズ」

べか (名) 犂ノ名ドコロ。からすきノ鐴。へら(犂壁)ノ條ヲ見ヨ。犂壁

べか-いぬ (名) べカカウシタル如ク、目ノ赤キ犬。或ハ、犬ノ子。又、べいか。 嬉遊笑覽、十二、禽蟲「べか犬トハ、メカカウシタルヤウノ犬ノ面ナレバ云フニヤ、云云、因果物語ニ、べか犬ヲツレテ來レリ、又べいかトモイヘリ、是ヲオモヘバ、吠狗ノ訛レルモ知ルヘカラズ」

べかかう (名) [めかかうノ轉、赤目、あかべノ類] 指ニテ、目ノ下ノ皮ヲ引キテ、目ノ内ノ、赤キ所ヲ出スコト。他ノ、物ヲ乞フニ、侮リ否ムニスルワザ。略シテ、べか。ベイ。ベカコ。ベッカッカウ。 類聚名物考、三百三十一、雜部、六「べかかう、今小兒ナド、タハフレニ目ヲ張ケテオドスヲ、べかかうスルトイフハ、大鏡ニ、めかかうト見エシ事ナルベシ」 牛井ト貪吉讀千句「クレモセヌ、花ノ枝ヲ、所望シテ、覗イテ見レバ、べいか紅梅」 後撰夷曲集、十一、春「所望スル、一枝ヲクレヌ、ノミナラズ、コノ目ムキツツ、あかべいか紅梅」

べか-ぐるま (名) [輪車] 輪ヲ板ニテ圓ク作リタル小車。少シノ物ヲ乘セテ挽キアルクトゾ。其後ヨリ進退スル故ニ、後ヲ押ト云フ。 草茅危言、別錄中之卷上國ニ、平地任載ノ小車アリ、京師ニテ地車ト稱ス、是ハ花稱ニテ、的切ナラズ、大坂ニテハ、べか車ト呼ブ、何ノ義タルヲ知ラズ、云云、愚意ヲ以テコレヲ推スニ、コノ車、手ヲ放セバ、前後軒輊シテ、平ニナリ居ズ、可杯ノ義ニテ、下ニオカレヌト云ヨリ、べかト呼タルカ、一轉シテ、べかトナリシカ、又ハ、狗ノ子ヲべかト云フ和訓アリ、世ニ形狀ノ似テ然ラザルモノヲ狗トヨブ、云云、コノ車ハ任載ノ牛車、大八車ナドニ似タル故、狗車ト云フベキヲ、ヒネリテべかト呼ブニヤ、愚ハ新タニ意ヲ以テ別駕トスルノミ、通用ノ文ニハアラズ」 街酒噺、一「江戸ノ大八車ヨリ人部カヘラズ、ソシテ荷ヲ積トコロカ長板トキテ居ル、云云、跡カラ掩木ノヤウナモノデ押ノハ面白イ、憶此車ヲべか車トイフトカ」

べかお (名) 前前條ノ語ヲ見ヨ。 俳諧類船集、前編「べかお、兒戲ニ、瞼ヲ反シテ、カク云フハ、目赤子ノ義成ベシ」 長町女腹切(正德、近松作)中「千兩道具ノ姐ヲ、廿兩ノ目腐リ金デ女房ニ持タウヤ、べかお、マアナルマイ、ドコデ盜ンデウセタヤラ、後ノ詮議ヤカマシイ」

へが・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [剝] [はぐノ他動] はがす(剝)ニ同ジ。ヘグ。

へか-ぶね (名) [へかへかスル意] 薄板ニテ造レル小舟。モト武藏國、荏原郡、羽根田(今、東京市、蒲田區、羽田町)ノ海邊ニテ漁舟トス。 嬉遊笑覽、二、下、器用「へか舟、羽根田ノ海邊ノ漁舟ニ、へか舟ト呼モノアリ、薄板ノ小舟ナリ、按ルニ、難波ニへかト云フ小車アリ、へかハへかトイフト同ク、輕細ノ義ト聞ユ」

へか-へか (副) 薄キ物ノ、撓ミヤスキ狀ニ云フ語。ヘコヘコ。

へかん・めり（助動）可く、ある、めり、ノ音便約。更ニ約メテ、べかめり。[illegible]

べかめり（[illegible]）[illegible]ニ同ジ。[illegible]木「[illegible]アヘレシラルバカリ、ナサケナサケシクノ給ヒツクスべかめれド」

べかり（助動）可く、あり、ノ約。古今集、[illegible]「[illegible]ヲタヅネテゾ、知ルべかりケル」神代紀、上「此[illegible]」

へか・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）【耗】少クナル。ヘル。字類抄「耗、ヘカル、ヘク」

へが・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）【剝】はがる（剝）ニ同ジ。源、十三、明石「[illegible]トコロセカリ[illegible]、[illegible]へかれタルシモ」[illegible]「スコシ髮ノウスラギタル也」

へき（名）僻[illegible] 正字通「僻、辟、通」(一)心ノカタヨルコト。ヒガミ。書經、洪範[illegible] (二)一方ニカタヨルコト。又、ソノ所。田舍。史記、孔子世家[illegible]

へき（名）【癖】クセ。心ノ、事ニカタヨルコト。又、ソノ嗜好。晉書、杜預傳「武帝、云云、[illegible]」白居易詩「人皆有二一癖一、我癖有二章句一」

へぎ（名）【折】(一)折グコト。又、へギイタ。ソギ。片木。(二)折板ニテ作レル折敷。貞丈雜記、七、膳部「へぎト云ハ、板ヲウスクヘギタル儀、ケヅラズニ作タル折敷ヲ云」好色一代男[illegible]へぎニ切[illegible]」

へぎ（名）【剝】ヘグコト。又、ヘギタルモノ。はぐ（剝、他動）ノ條ヲ見ヨ。「生[illegible]三剝」

べき（名）【冪】數學ノ語。等數ノ相乘積[illegible]。a^2ヲaノ二乘冪、a^3ヲaノ三乘冪ナド云フ。[illegible]

へぎいた（名）【折板】杉、又ハ、檜ノ材ヲ一尺餘ニ伐リ、刀ニテ甚ダ薄ク折ギテ割リタル板。[illegible]ニテ削ラズ、屋ヲ掩フニ用ヰルヲ葺板、木羽板、柿ナド云フ。略シテ、へぎ。ソギ。クレ。

へき-いふ（名）【僻邑】(一)カタヰナカ。都會ヨリ遠ク離レタル村落。僻村。(二)己レガ居邑ノ謙稱。弊邑。

へき-えき（名）【辟易】〔辟ハ避、易ハ變易ノ意、漢書、項籍傳、注「辟易、謂二開張而易一其本處一」通鑑[illegible]「辟易、驚却貌」〕(一)驚キテ、立チ退クコト。史記、項羽紀「人馬倶驚、辟易數里」[illegible] (二)轉ジテ、他ノ勢ニケオサレテ、タジログコト。[illegible]

へき-かい（名）【碧海】アヲキウミ。アヲウナバラ。滄海。滄溟。[illegible]

へき-かい（名）【劈開】(一)サキヒラクコト。(二)鑛物ノ、或結晶面ニ並行シテ、割ガレ易キ[illegible]

へき-かん（名）【壁間】カベノアヒダ。カベノホトリ。「壁間ニ掲グ」

へき-がん（名）【碧眼】(一)アヲキマナコ。ミドリイロナル眼球。[illegible] (二)西洋人ノ、[illegible]稱。[illegible]

べき-かむり（名）【冖冠】〔冖ハべきトヨム、冪（オホフ）ノ意〕漢字ノ冠ノ一。字形、片假名ノワノ字ニ似タレバ、わかんむり、又、ひらかんむりトモ云フ。コレヲ用ヰルハ、冠、冢、冡、冤、冥、冨、冪ノ類ナリ。

へき-きやう（名）【僻鄕・僻境】カタヰナカ。都會ヨリ遠ク離レタル地。邊鄙ノ地。

へき-ぎよく（名）【碧玉】(一)ミドリ色ノ玉。[illegible] 清キヲ譬ヘテ云フ語。[illegible] (二)空ノ清クシテ碧色ナルヲ譬ヘテ云フ語。[illegible]

へき-ぎよく（名）【璧玉】〔說文「璧、瑞玉圜器也」白虎通[illegible]外圓象レ天、内方象レ地〕タマ。ギク。[illegible]

へき-くう（名）【碧空】アヲゾラ。靑天。靑空。碧天。碧虛。蒼穹。[illegible]

へき-ぐう（名）僻陬 都市ニ遠キ土地[illegible]カタスミ。カタホトリ。[illegible]

へき-ぐ（名）[illegible] 世ニ名高キ大和國法隆寺金堂ノ壁畫ノ佛畫ハ、曇徵ノ筆ト云フ。[illegible]

へき-けん（名）【僻見】ヒガミタル見解。[illegible] 偏見。

へき-こ（名）【壁虎】やもり（守宮）ノ異名。[illegible]

へき-ざい（名）僻[illegible] 又、僻遠ノ地ニ居ルコト。史記[illegible]

へき-じ（名）【僻事】ヒガゴト。ヨコシマナル事。曲事。[illegible]

へき-しう（名）【僻陬】へきそう（僻陬）ノ條ヲ見ヨ。

へき-しよ（名）【壁書】(一)モト、吏員ノ執務上、守ルべキ事。又ハ、[illegible]べキ事柄[illegible]「奉行所ヨリ事始リタル儀式、諸人ニ知ラセン事ヲかべニ押付[illegible]」[illegible] 戰國時代ノ大名[illegible]

事第一也、云云」喫茶養生記、下「遠州宗甫居士壁書」

∴∴へきしよ（名）［避暑］避暑ノ百姓讀。ひしょノ條ヲ見ヨ。

へきしやうよみ（百姓讀）ノ條ヲ見ヨ。

へき・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）［僻］ヒガム。ユガム。カタヨル。偏ス。杜甫詩「長臨眺僻、天寒橘柚垂」「好ム所ニ僻ス」

へきそう（名）［僻陬］〔陬ハ子侯切、音、そう、又、そ、側鳩切、音、しう〕カタヰナカ。邊鄙ナル土地。カタスミニヨリタル土地。僻地。

へきせつ（名）［辟說僻說］ヒガミタル說。偏固ナル說。又、道理ニ違ヒタル說。ヒガセツ。僻論。漢書、馬宮傳「誼、經辟說、以惑二衆上一」注「辟、讀曰僻」

へきそん（名）［僻村］へきいふ（僻邑）ニ同ジ。

へきたん（名）［碧潭］ミドリ色ナル深キ淵。新語、高、劉向「[illegible]、横波洞涌、魚游之所、安也、人入而畏」王勃、北亭宴序「清代ニ碧潭之前[illegible]水」朗詠集、下「山復山、何工削成青巖之形、水復水、誰家染出碧潭之色」太平記、五、大塔宮熊野落事「向上ゲレバ萬仞ノ青壁刀ニ削リ、直下セバ千丈ノ碧潭藍ニ染メリ」

へきち（名）［僻地］繁華ニ遠キ地。カタヰナカ。僻陬。張說、馮君墓志銘「遠居僻地、代爲右族」張祜詩「僻地人行罷、荒林虎跡稠」

へきてん（名）［碧天］へきくう（碧空）ニ同ジ。王羲之、蘭亭集詩「仰視碧天際、俯瞰綠水濱」唐彥謙、中秋夜翫月詩「一夜高樓萬景奇、碧天無際水無涯」

へきとう（名）［劈頭］〔劈ハ語勢ヲ強ムル字、頭ノ眞上ノ意〕眞先。ノ、ケ一。カハキリ。佛鑑禪師語錄（宋、師範）二、懸水劈頭澆」禪林句集、乾「劈頭劈面」「劈頭第一」

へぎもち（名）［片餅］かきもち（缺餅）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

へきら（名）［碧羅］ミドリ色ノウスモノ。中華古今注（五代宋、馬縞）「秦始皇令三妃九嬪、當暑戴二芙蓉冠一、以二碧羅一爲之」朗詠集、上、野草「芳菲紅錦地、遊絲碧羅天」

へきら（名）［碧蘿］ミドリ色ノカヅラ。綠色ノつた。青蘿。綠蘿。新語（漢、劉陸）「碧蘿附二于青松一、以茂二遠枝之葉一」杜甫詩「碧蘿長似レ帶、錦石小如レ錢」

へきらうかん（名）［碧琅玕］らうかん（琅玕）ノ條ヲ見ヨ。

へきらく（名）［碧落］〔碧ハ青、落ハ居ノ意、聚落ノ落ノ如シ、度人經、注「東方第一天、有二碧霞偏滿一、是云二碧落一」〕（一）大空ノ異名。アマヅラ。（モト道家ノ語）易林節用集（慶長）上、乾坤門「碧落、ヘキラク、天也」書言字考節用集、一、乾坤門「碧落、ヘキラク（弓角、天也）」白居易、長恨歌「上窮二碧落一下黃泉、兩處茫茫皆不見」柳宗元、陪永州崔使君遊讌南池序「連山倒垂、萬象在下、浮空泛景、蕩若無外、横碧落以中貫、陵太虛而徑度」朗詠集、上、雁「飛碧落書青紙」（二）碧雲ノ墓居。

へきりう（名）［日置流］弓術ノ一派。明應年中、大和國ノ人、日置彈正正次ノ創メタルモノ。武術流祖錄、射術「日置流始祖、日置彈正正次」弓術要覽、一「逸見流トハ、鹿島四郎彌宜ヨリ、逸見ノ家へ傳フルナリ、日置流ハ、彈正正次、逸見ノ家ヨリ傳授ス」

へきれき（名）［霹靂］〔爾雅、釋天篇「疾雷爲霆霓」注「雷之急擊者、爲二霹靂一」〕（一）カミトケ。ハタタガミ。カミナリ。イカヅチ。史記、天官書「天雷電、蝦虹、辟歷、夜明者、陽氣之動者也」（辟歷、同二霹靂一）晉書、怒甫賦「震平今成[illegible]、迅雷兮霹靂」「靑天ノ霹靂」（二）烈シキ音響ニ云フ語。太平記、三十九、自大元一攻二日本一事「鐵炮トテ、云云、鐵丸ノ迸ル事、下坂東輪ノ如ク、霹靂スル事、閃電ノ如ク」

へきれきぼく（名）［霹靂木］雷ノ擊ツトコロノ木。又、雷ノフメル木。字鏡、上五「[illegible]、霹、同、雷乃不女留木、[illegible]」推古紀、廿六年「是年遣二河邊臣（闕名）於安藝國一、令レ造レ舶、至レ山覓二舶材一、便得二好材一、以名將レ伐、時有レ人曰、霹靂木也、不可レ伐、河邊臣曰、其雖二雷神一、豈逆二皇命一耶、多祭二幣帛一、遣二人夫一令レ伐、則大雨雷電之、爰河邊臣案レ劍曰、雷神無レ犯二人夫一、當傷二我身一、而仰待之、雖二十餘霹靂一、不レ得レ犯二河邊臣一、即化二少魚一、以挾二樹枝一、即取二魚一焚之、遂修二理其舶一」日本書紀通證、撰、霹靂木、木草綱目所載、雷所レ擊之木也、古事談、長谷寺觀音像、自二近江國一所二流出一木也、道明造二十一面觀音一體一高二丈六尺、雷公所レ霹、破作二方八尺一、令レ移二其像一、此像所謂雷所レ擊木也、如二此木一、雷公所レ擊之木、與二霹靂木一異」

へきろう（名）［僻陋］僻地ニテ、風俗ノイヤシキコト。戰國策、齊策「齊僻陋隱居、託二於東海之上一」歐陽修、與自信諸公書「某居僻陋、雖然余、閉戶絕二賓客一多」

へきろん（名）［僻論］へきせつ（僻說）ニ同ジ。

へきゑん（名）［僻遠］カタヨリテ遠ク隔リタルコト。又、ソノ地。史記、蘇秦傳「燕王曰、寡人不敏、僻遠守、海、僻遠中境之國也、未嘗得聞、淮南子、脩務訓「絕國殊俗、僻遠幽閒之處、不能二被德承澤一、故立二諸侯一、以教誨之」

〜へ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（他動、四）［折剝耗減］〔剝ぐ、ヲ約メテ活用ス、剝ぐ、及、剝う、ノ條ヲ見ヨ〕少シ取ル。薄ク削リ取ル。殺ギ取ル。ホソビク。ハガス。ハツル。ヘガス。ヘツル。ヘヅル。ムク。欽明紀、二年七月「拔二取新羅所レ折之國、南加羅、喙己呑等一」（一本、喙己若ニ作ル）遊二闘本貫一、還二實任那一」持統紀、六年閏五月「然稻三其二、絳紫拾伍斤ハ

へ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（自動、下二）［剝］はぐ（剝、自動）ニ同ジ

へグ（名）琵牛伯牛　緬甸ノ地名、[illegible]ぐ町アリ。是レナラム。次條ト照合セヨ。

二千五百四十里、還遷ヨリ三日路有レ之、云云、則南天竺之内也、左國ニアリテ仕富ス、云云、十有、云云、（増補華夷通商考、四）二八、べぐうトシ、琵牛ノ字ヲアテ、采覽異言、三ニハ、べぐう、和呼ニべいくうトシ、琵牛ノ字ヲアテタリ）

ベクうるし（名）［可漆］〔モト緬甸ノ琵牛（Pegu）國ノ産ト云フ、可ハ當字、べくハ Pegu. ノ訛〕漆ノ上品ナルモノノ稱。又、べぐうるし。前條ヲモ見ヨ

べくさかづき（名）［可杯可盃］〔可ノ字ハ、書簡文ニテ、上ニノミアリテ、下ニ置カザレバ、下ニ置カレザル謎ニ云フト〕底ニ小サキ穴アル杯。下ノ出典ヲ見ヨ。醒睡笑（元和、安樂庵策傳）五「人はそだち「客ニ對シべく盃ヲ出ダセリ、云云、べく杯ヲ、戲レニ覺句ト名ケテコソ候へ、其故ハ、あもに置かれねバナリ」雅筵醉狂集、四「盃ノ底ニ細キ穴ヲアケ、指ヲ以テソノ穴ヲフサギテ、酒ヲ盛ラシム、仍テ飲盡サネバ、下に置かれぬナリ、可ノ字ハ、文章ノ上ニ有テ、下ニ置カザル字故、俗ニ可盃ト名付ケ用ユ」

へくそかづら（名）［女青］〔臭氣ニ因リテ名アリ〕古名、カバネグサ。茜科ノ多年生蔓草ノ名。竹木ニ絡フ。葉ハ、略、ががいも（蘿藦）ニ似テ薄ク、對生シ、少シ毛アリ、切レバ臭氣甚シ、大、小、長、圓、種種ナリ。夏、葉ノ間ニ、花ヲ開ク、形、牽牛花ニ似テ、大キサ三分許リ、白クシテ、中心、紫ナリ、灸ノ痂ノ

蕾チタル貌ノ如シ、散一、やいと花ノ名モアリ。實ノ大キサ二分許リ、コレヲすずめのたご(雀擔桶)ト云フ。秋、冬、熟シテ、黃褐ニ光ル。牛皮凍(くそかづら)(本草綱目啓蒙)ノ條ヲモ參見セヨ。本草綱目啓蒙、[illegible]「牛皮凍、[illegible]、ヘクソカヅラ、大和本草、八、蔓草類、女青、云云、[illegible]ヘクソカヅラ、[illegible]百部ト云ハ非ナリ」

べくあい (名) 可內 〔可盃(ベクサカヅキ)ノ可ト同ジク、可デナク、可ニアラズ、卽チ、下ニ附ク者ト云フ意ノ反語〕 奴、折助ナドノ異名。下僕。

〜へぐひ (名) 竈食 竈(カマド)ニテ炊(カシ)ギタルモノヲ食フコト。古事記、上「吾者爲黃泉戶喫(ヨモツヘグヒ)」 神代紀、上「[illegible]泉之竈、此云[illegible]」

〜へげ (名) 變化 へんげ(變化)ニ同ジ。宇津保物語、樓上、上「御カタチモ、へげノモノノヤウニ、ナリマサリタマフ」

✤ペケ (名) 〔馬來語、Pergi ヨリ出ヅト云ノ說ト、支那語、プコ(不可)ノ轉訛ナリト云フ說トノ二アリ、サレド、前說ヲ是トスベシ(新村出ノ說)〕 ワルシ、キライ、イラヌ、カヘレ、ナドノ意ヲ表ハス語。[illegible]街道中膝栗毛(文久)十、カンツンノ勝(マ)ニアハネヘジャ、ぺけダトイフダラウシ」(元治元年刊、[illegible]みやげ、[illegible]ニ、キニイラヌ、モノヲステル、人ヲカイス、ジャマニナル、ウリカヒハタン(商談破裂)等ニ、ぺけノ語ヲアテタリ)

へげたれ (名) へこたれニ同ジ。浮世風呂(文化、[illegible])[illegible]、江戸ッ子ハ、へげたれ云フワイナ、へげたれアヒイノサ、云云」

へげねコ (名) 〔へげハ、はひげ(灰毛)ノ約〕 灰毛ナル猫。[illegible]雜記(天保、山崎美成)二「手足顏ナト、アカツキヨゴレタルヲ、俗ニ、へげ猫ノヤウナリトイフ諺アリ、今昔物語ニ、灰毛斑ナル猫トイフ詞アルニヨレバ、肌ノアカツキヨゴレタルガ、灰毛ノ猫ノゴトクナリト云意ナルベシ、マタ[illegible]ハ、[illegible]ノ中ニテ、坂ニマブレ、毛ノヨゴレタルニタトヘシカ」

へこ (名) 兵兒 十五歲以上、二十五歲以下ノ靑年。若者。(薩摩ノ方言) 山崎[illegible]兵兒[illegible]

✤へこ (名) 褌 ふどし(褌)ニ同ジ。博多ニテハ、褌(フンドシ)カカヌヲ、無(ム)へこト云フ。物類稱呼、四、衣食「ふどし、中國ニテ、ふんこしトイフ、西國、及、中國ニテ、へこトイフ」東海道中膝栗毛(文化、一九)三編、上「棒組、主ノへこヲハヅセ」

へゴ (名) 杪欏 杪欏 〔琉球語、ひぐノ轉〕 (一)羊齒ノ一種。多ク熱帶ニ產ズ。幹ハ無數ノ綠ヲ束ネタルガ如ク、褐色ヲナシ、葉ハわらび(蕨)ノ如シ。桃洞遺筆「草花ヲ植ルへごナリ」(伊呂波語類) (二)草ノ名 薩摩ニテ、オホシダ。しだ(齒朶)ノ條ヲ見ヨ。(三)又、樹ノ名。おにへごノ略。其條ヲ見ヨ。さら。

ベコ (名) 〔蝦夷語、Peko.ノ訛〕 うし(牛)ノ異名。(東北地方ノ方言。出雲ニテハ、牝牛ヲはこト云フ) 物類稱呼、二、動物「牛、云云、中國、東國トモニ、べこト云フ」

✤へこおび (名) 兵兒帶 〔薩摩ノ兵兒(ヘコ)ノ用ヰシヨリ云フ、角帶(カクオビ)ニ對ス〕 しごきノ帶。(男子ノ) 三尺帶。書生帶。

へこおびぐみ (名) 兵兒帶組 兵兒帶ヲスル位ノモノノ組合。靑年ノ組合。次條ノ語ヲ見ヨ。

へこきむし (名) 屁放蟲 へひりむし(屁放蟲)ニ同ジ。

へこぐみ (名) 兵兒組 〔へこおびぐみノ略〕 往時、薩摩ノ島津氏ノ士分ノ少年ノ、一種ノ組合ヲ成セルモノ。常ニ兵兒帶ヲシムルト云フ、

へこたこ (名) 道理ニ合ハヌコト。[illegible]「[illegible]皆へこたこヂャ、ヂャニヨッテ、江戸ッ子ハヘコタレヂャ」

へこたらす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) ヘコタレルヤウニナス。ヘコタレシム。東海道中膝栗毛(享和、一九)二編、下「ヤイホイ、アントシタ、ソイツ、へこたらし[illegible]、コレハ、へこませるトイフガ如シ)」

へこたる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 〔凹(ヘコ)み垂(タ)るノ意〕 (一)力衰フ。ヨワル。ヒルム。勢滅ズ。ヘコタレル。(二)スワル。坐ス。物類稱呼、五、言語「居ルトイフ事ヲ、云云、但馬ニテ、へこたれるト云フ」

へこたれ (名) ヘコタレルコト。力衰フルコト。ヒルムコト。ヘタレ。

✤へこたれる (動) 前前條ノ語ノ口語。

✤へこへこ (副) (一)物ノ撓ム狀、又ハ、凹ム狀ニ云フ語。(二)頭ヲ頻ニ下ゲテ、ヘツラフ狀ニ云フ語。ペコペコ。

ぺこぺこ (副) (一)前條ノ語ノ(二)ニ同ジ。(二)撥ヤ三味線ヲ彈ク音ニ云フ語。ペンペン。(三)空腹ニナリタル狀ニ云フ語。「腹がぺこぺこニナッタ」

へこます・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔へこむノ語原ヲ見ヨ〕 (一)ヘコムヤウニナス。クボムヤウニナス。クボマス。ヘコマセル。(二)他ノ勢ヲ滅ズル。又、力ヲ衰ヘシムル。屈伏セシム。ヘコマセル。へこたらすノ條ヲモ見ヨ。

✤へこませる (動) 前條ノ語ノ口語。

✤へこむ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 〔[illegible]略〕 (一)くぼむ(凹)ニ同ジ。陷 (二)[illegible]屈伏ス。

へご (名) [illegible] 王朝時代、[illegible]官、[illegible]

べざいてん (名) 辯才天 べんざいてん(辯才天)ノ略。其條ヲ見ヨ。

へさき (名) 舳先 [illegible]ニ對ス、其條ヲ見ヨ。[illegible]

べし・キ・ケレ・ク・ク (助動) 可 心ニ推シ量リテ、定ムル意ノ助動詞。又、強ク指シ定メテ、命令スル意ナルモアリ。尙、篇尾ノ語法指南ヲ見ヨ。因ニ云フ、漢字ニ、べし、ト訓ジタルモノニ、可ノ字ハ、可能ノ意、當ノ字ハ、當然ノ意、應ノ字ハ、相應ノ意、宜ノ字ハ、是非トモ然スベキ意、須ノ字ハ、必ズ然スベキ意、合ノ字ハ、爲スコトノ、事情ニ合フ意、容ノ字ハ、爲スコトノ、容サル意ナリ。[illegible] 物語、十五、疑「三昧ノ燈火ヲ消タズ繼グベクバ、コノ火トク出ヅベシト宣ハセテ、打タセ給ヒシニ、云云」[illegible] 神代紀、上「計二其可一竊之方一」 同、同「如何樂[illegible]」 [illegible]

地ハ宜ニ汝往循之」風雅集、八、冬「一年ニ、二度ニホフ、梅ノ花、春ノ心ニ、アカヌナルべし」

へしあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［壓合］互ニオシアフ。…門松（享保、近松作）下「金ハ喧嘩ニ色カヘタリ、揚屋ノ男女別チナク、押シ合ヒ、へし合ひ、拾ヒ取ル」

へしい・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（他動、下二）［壓入］オシツケテ入ル。オシ入ル。ヘシコム。著聞集、廿、魚蟲禽獸「此ノ中ニへし入れシ錢、イカガナリヌラント、云云」

へしぐち（名）［壓口］次條ノ語ニ同ジ。

べしくち（名）［壓口］不興ニテ、強ヒテ口ヲヘノ字ニ噤ミテ居ルコト。又、ソノロツキ。ヘシグチ。盛衰記、三、澄憲祈雨事「初ヨリべしロシテ、エモ笑ハズ」同、十、中宮御産事「花ヤカニ裝束シタル者カ髮放チテ、サバカリノ御前ヘ、壓口ニ氣色シテ出デタリケル事、云云」

べしげ・ま（副）［可氣］尤モラシク。ウベウベシク。無名抄（長明）「カクモトリナシテント、べしげ繕メルトコソ見エタレ」

へしこ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［壓込］押ヘテ入レ込ム。無理ニ入レ込ム。著聞集、廿、魚蟲禽獸「白鷺、云云、腰刀ヲ拔キテ、杜ヲ少シ削リカケ（枝木、カケニ字ナシ）テ、其中ニへしこめテ、働カヌヤウニヲシオホヒテゲリ」

へしす・う・ウル・ウレ・ヱ・ヱ・ヱヨ（他動、下二）［壓据］オシツケテ、伏サス。オサヘツケル。著聞集、十、相撲強力「長居（大力ノ相撲ノ名）ヲ尻居ニへしすゑテゲリ」

へしつ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［壓附］オサヘツク。オシツケル。ヘシツケル。…門松（享保、近松作）上「金銀ト云フ強者ニハ、又シテモへしつけラレ」

❖**へしつ・ける**（動）［壓附］前條ノ語ノ口語。

へしつ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［壓詰］オシツケテ、詰メ入ル。ヘシツメル。著聞集、廿、魚蟲禽獸「是ハ去年ヨリへしつめラレテ過ゴシタル思ヒ通リテ、カク侍ケルニヤ」

へしめん（名）［壓面］次條ノ語ニ同ジ。

べしめん（名）［壓面］又、へしめん。壓口シタル假面。能樂ニ用ヰル鬼畜面ノ一。又、癋見。コレニ三種アリ、大癋見ハ、鞍馬天狗、善界ナドニ用ヰ、小癋見ハ、皇帝、昭君ナドニ用ヰ、長靈癋見ハ、熊坂、第六天ナドニ用ヰル。

へしを・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［壓折］力ニ任セテ、壓シ折ル。オッペス。オ、ペショル。好色一代男（天和、西鶴）二「男達、云云、北野ニ詣デ梅ヲチラシ、大谷ニ行テ藤ヲへし折り」

へ・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）［謙］謙ニ同ジ。字類抄「謙、ヘル、ヘス」字鏡集「謙、ヘス」

へ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［減］〔へらす（減）ノ略〕少クス。ヘラス。字類抄「減、ヘス」名義抄「減、ヘス、ヘク」狂言記、文相撲「野山ニオイテ、拳公ハイタ　マセメ、ソレナラクットヘさウ」經殿寶式、染法「深紫、淺紫、深滅紫、淺滅紫」

へ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［壓］押ス。押シツク。オッペス。字類抄「壓、ヘス、オス」[illegible]記、下、第二十六段「擠釘」[illegible]「擠、押、聲押」義經記、七、平泉寺御見物事「左右ノカイナニ取付テ、押セドモへせトモ、少シモハタラカズ」枕草子、二、第十九段「サイデノ押シへさレテ、册子ノ中ニアリケルヲ見ツケタル」散木集、十、雜、下、隱題、をみなへし「散ル花ヲ、ミナヘしモチテ、行ク秋ノ、戀ヒシキ時ノ、カタミトヤセン」

ペスト（名）［百斯杜・百斯篤］（英語、Pest.）烈シキ一種ノ傳染病ニシテ、其菌ハ卵圓形ノ桿狀ヲナシ、人體ニ感染スル時ハ、其菌ノ種類ニヨリテ症狀ヲ異ニスレドモ、多ク高熱、頭痛、嘔吐、嗜眠ナドヲ來シ、重キハ五六時間、又ハ、二三日間ニシテ死ス。患者ノ排泄物ヨリ傳染シ、又、鼠ハ最モ烈シク傳染ノ媒介ヲナス。之ヲ腺ぺすと、皮膚ぺすと、敗血ぺすと、肺ぺすと、腸ぺすと、等ノ種類ニ分ツ。黑死病。鼠疫。溫疫。[illegible]世ノ一方、病性「百斯杜ハ惡性ニシテ、甚危險ナル疾也、毎毎疾速ニ死亡ニ傾キ、云云、此疾、元來亞細亞洲ヨリ由來シ、歐羅巴洲ニ擴充シ、當今、東方ニ傳染ス、其疾ヲ他ノ百斯杜質ノ疾ト分別スル爲ニ、東國百斯杜、又、列反杜百斯杜ト稱ス」

へすみ（名）［竈炭］カマドノスス。スス。字鏡集「煤、ヘスミ、スス、カマドノアカ」

へす・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［經住］〔日數ヲ經テ、留リ住む意〕逗留ス。滯在ス。淹留ス。皇極紀、二年十一月「山背大兄王等、四五日間淹ニ留於山ニ不レ得ニ喫飲ニ」

へそ（名）［臍］〔倭訓栞「俗ニ臍ヲへそトイフハ、ほその轉ゼル也」〕（一）〔ほぞ（臍）ニ同ジ。倭名抄、二、身體類「臍、保曾、俗云、倍曾」字類抄「臍、セイ、ヘソ、亦、ホソ」名義抄「臍、ヘソ、ホゾ」今昔物語、十六、第五語「弓ヲ強ク引テ、云云、臍ノ上ノ方ヲ背ニ箭尻ヲ射出シツ」（二）いなのへそ（鯔臍）、其條ヲ見ヨ。（三）いしうすのへそ（石臼臍）。いしうす（石臼）ノ條ヲ見ヨ。

へそ（名）［卷子］〔綜タル麻ヲ卷クノ義、其卷キタル形、又、臍ニ似タル故ニ名トス〕績ミタル綜ヲ、球ノ如ク綰ヒツケタルモノ。外、圓ク、內、虛ニテ、環ノ如シ。ヲダマキ。倭名抄、十四、織機具「卷子、閇蘇、績麻圓卷名也」天治字鏡、十二「絭子、戶曾」古事記、中（崇神）「以二閇蘇紡麻一貫レ針、刺二其衣襴一」崇神卽位前紀、大綜麻杵（人名）萬葉集、二十「綜麻形ノ、林ノ卿ノ、サヌハリノ、衣ニツクナス、目ニツクワガセ」（古ハ[illegible]）

❖**べそ**（名）「べし（壓）ノ轉カ」小兒ノ泣顏ニナルコト。壓口ヲ作ルコト、泣カムトスル顏。俚言集覽「へしロトハ、ロヲ壓ヘツクル也、能ノ面ニ大壓アリ、ロヲ結ビタルヲ云、小兒泣カントスル時ノ面ツキヲ、べそヲ作ルト云フモ是也」べそをかくトハ、泣カムトスルヲ云フ。又、べそをつくる。

へそかはらけ（名）［臍土器］土器ノ小サキモノ。又、小重トモ云フ。宗吾大雙紙「へそかはらけ、コヂュウトモイフ」貞丈雜記、七、土器品品の事「小サキヲ小重、へそかはらけノ事ナリ、小重ヨリ大ナルヲ三ド入ト云フ、三ド入ヨリ大ナルヲ大重ト云フ、小重ニ對シタル名也、云云、へそかはらけノ事ヲ小重ト云フハ、三度入ノ內ニ重ル小サキ土器ナル故ナリ」

❖**へそくり**（名）［臍繰］〔へそくるみ（臍包）ノ約〕次條ノ語ノ略。老人物語（正德、有賀長隨）「胴卷ト云フ物ヲ仕出シ、人人、錢ヲソレニ入レテ腹ニ結付ケ置キ、所用アル時ハ、懷ヨリ數ヘ出シテ使ヘバ、へそくりノ名ヲサヘ帶フシメテ」犬子集（寬永）春「サホ姬ノ、へそくりモノカ、絲柳」

❖**へそくりがね**（名）［臍繰金］〔へそくり（臍包）ノ約。一說ニ、綜ヘ麻ヲ繰リテタメタル金ノ意ト〕婦人ナドガ、私ニ貯ヘタル金。略シテ、へそくり。ホマチゼニ。日本永代藏（元祿、西鶴）一「往年溜ミテ、二十餘年ニ臍くり金、十二貫五百目ニナシヌ」（流布本、ほぞくり金）

へそくるみ（名）［臍包］胴卷ナドヲ、腹ニ結ヒ付クルコト。

へそぐろ（名）［臍黑］腹ノ黑キコト。意地ノ惡キコト。心ダテ善カラヌコト。又、腹黑トモ云フ。はらぐろし（腹黑）ノ條ヲモ見ヨ。和訓栞、中「へそぐろ、東國ノ

俗語ナリ、[illegible]ノ義、製茶シト意同ジ」

へそ-ちゃ (名) 臍茶 臍ニテ茶ヲ沸ス[illegible]。「ハハハ、コリャ、臍が茶を沸すワイ」

へそ-の-を (名) 臍緒 ほぞのを(臍緒)ニ同ジ。用明天皇職人鑑(寶永、近松作)五「昨日今日生レ出デ、マダ臍ノ緒モ[illegible]」臍緒切テ以來[illegible]、生レテ始メテノ意。

へそ-ぶんこ (名) 臍文庫 ヘソノ下。シタハラ。丹田。山路の露「老イテモ杖ヲ、腰ニサス川」ヲカシサノ、ヲサマル所、臍文庫」

へそ-へそ (副) 腹ナドノ、ヘル狀ニ云フ語。ペコペコ。光廣卿職人[illegible]「大原ノ出テ[illegible]シテ、出デヌル時ハ、大原モ、ハヤへそへそト、ヤセワタルカナ」

べそ-べそ (副) メソメソト泣ク狀ニ云フ語。ベソベソ。ベソリベソリ。八笑人[illegible]「[illegible]べそべそ泣イタア」

ぺそ-ぺそ (副) 前條ノ語ニ同ジ。

へた (名) 邊 〔邊處ノ轉カ、はたり ニ通ズ〕ハタ。ヘリ。ハシ。アタリ。ペタ。ヘチ。又、ナミウチギハ。神代紀、下「[illegible]」萬葉集、十[illegible]「[illegible]」古今集、十三、戀、三「オホカタハ、知ル人モナシ」[illegible]「吾ガ名モ浚、漕出ナン、世ヲ海へたニ、見ル目スクナシ」後撰集、十五、雜、一「行センニ、へたノ見ル目ヲ、思ヒケン、沖ツ玉藻ヲ、カヅク身ニシテ」

へた (名) 蔕 〔端ノ義〕(一)茄子、瓜ナドノ蔕。ホゾ。易林節用集(慶長)上、草木門「蔕、へタ」[illegible](二)柿ナドノホゾ。醒睡笑[illegible]「コレハ柿ノ蔕デ御座アル」(三)鏡ニハ、鈕ヲ云フ。鈕ノツクベキ所。

へた (名) [illegible] 貝類動物中ノ腹足類ノ體ニ對シテ生ゼル圓形、橢圓形、半月形ナドヲナセル扁平ナル角質、又ハ、石灰質ノモノ。コノ動物ノ介殼内ニ收縮スル際、殼口ヲ閉チテ蓋トシ、外患ヲ避クル用ヲナス。ヘナタリ。フタ。甲香。[illegible]色ニシテ紋理アリ」

へた (名) 下手 〔邊ノ義、瀬ノ深キニ對シテ、淺キ意ト云フ、物ノ奧深キヲ、瀬ヲ越エタリト云ヒ、淺キヲ、磯ト云フト云フ〕巧ナラヌコト。拙キコト。(上手ノ反) 拙手 袖中抄、二「ワロキ身ヲバ、へたト云フナリ」古今打聽、みをうみべた[illegible]「へたトハ、ホトリ、ヌサナリ、ソレ[illegible]、ワロキ身ヲモ、へたト云ヘリ」(俗語考) 落書露顯序(應永)「カケタル所アリテ、へた[illegible]」史記抄(文明)十一[illegible]「拙トハ、へたナゾ」孟子抄(文明)六[illegible]已前ハ、へたカト思フタレバ、上手デ候ト云フゾ」宗祇が新菟玖波集を撰せし時、櫻井基祐が連歌、らざりしかば、落書[illegible]「[illegible]上手與ニ下手」浮世風呂(文化)三、四、初編、下「サアサア早クシネヘカ、へたノ考ヘ休ムニ似タリダ」「へたノ長談義」(諺)「へたノ横好」(諺)

べた (副) 〔ひたノ轉、直、へた、鐚、べたト同趣〕一統ニ。一面ニ。スキマナク。全體ニ。「べた組ミ」昨日ノ風デ、稻ガべたコロンダ(靜岡縣方言)」べた一面ニ」

ぺた (名) へた(邊)ニ同ジ。「尻べた」「頰べた」

べたう (名) 別當 べったう(別當)ニ同ジ。源、廿六、常夏「[illegible]法寺ノべたう大徳ノ、[illegible]ニ侍リケル」蜻蛉日記、中、中五「此ノ寺ノべたうト[illegible]法師、[illegible]」

べたう-だい (名) 別當代 べったうだい(別當代)ニ同ジ。宇津保物語、初秋廿「御紅ゾメハ、[illegible]ト、クラ人ヨリ下仕ナドアリ」

へた-くされ (名) 蔕腐 [illegible] (俗語考)

へた-くそ (名) 下手糞 ヘタナルコト。拙キコト。[illegible]上「コッチノ方ヘクルト、奴ハへたくそダ」[illegible]唐ノ反古ニ縛ラレ」

へたくたに (副) ヤタラニ。ムチャクチャニ。[illegible]タクタニ。ヘタコタニ。

へたへたに (副) 前條ノ語ニ同ジ[illegible]ニテハ、澤山、多クノ意ニ用キル)

へだし (名) 床ノ下敷。萬葉集、十四、廿八「ミナトノヤ、葦ガ中ナル、玉小菅、刈リ來ワガセコ、床乃敝太思ニ」(契沖云ク、床ノ隔ナリト) 俗語考(橘守部)床のへだし「邊土ノ田舍ニテ、床ノ下敷ヲへだしト云フ」

べた-せん (名) 鐚錢 びたせん(鐚錢)ノ條ヲ見ヨ。

へだたり (名) 隔 ヘダタルコト。相離ルル間。ヘダチ。距離。源、廿五、螢[illegible]「[illegible]ムネニアタリテ、菩提ト煩惱トノへだたりナン、コノ人ノヨキアシキバカリノコトハ、カハリケル」

へだた・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 隔 隔ツヤウニナル。相距ル。トホザカル。ヘダタル。萬葉集、四[illegible]「[illegible]山モ、隔ナクニ、何シカモ、メゴトヲダニモ、ココタモシキ」源、十、榊「隔束ナクテ、月日モへだたりヌルニ」同、同「[illegible]ハ、レモサメツツ、カク御仰セヘだたりヌルヲ」「道隔たる」年隔たる」

へだち (名) 隔 へだたり(隔)ニ同ジ。

へだ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 隔 〔重ノ立つ意〕[illegible]キ、天ノ河、敝太而[illegible]バカモ、アマタスベナシ」

へだ・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 隔 〔[illegible]立つる意〕(一)間ニ物ヲ[illegible]テ塞ク。間ヲ塞ギ絶ツ。サヘギル。[illegible]萬葉集、十八、[illegible]レバ、[illegible]ソハ、君ガアタリヲ、敝太豆タリケレ」(二)時日ヲ[illegible]破ニ懸本(類聚頭)萬葉集、十一、廿七「若草ノ、ニヒ手枕ヲ、[illegible]」源、九、葵四十「ニヒ手枕ノ、心苦シクテ、夜ヲヤへだてント、思シワヅラハルレバ」(三)ウトミ遠ザク。[illegible]「カネテヨリ、隔てヌ中ト、ナラハネド、別レハ惜シキ、物ニゾアリケル」

べた・つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) (一)ベタベタス。[illegible]ト粘リツク。(二)ミダリガハシク、異性ニヨリソフ。男女ヨリアヒテ、痴話ヲナス。

へだて (名) 隔 ヘダツルコト。又、ソノ物。[illegible]源、[illegible]「[illegible]ノカサナルニソヘテ、御心ノへだてモマサルヲ、イトクルシク、云云」狹衣、四、下[illegible]「[illegible]ノへだてモタトターシトハ、中中イトトコヒシキ事オホク」

へだて-がほ (名) 隔顏 親シマザル顏色。心ノ打解ケザル顏ツキ。源、四十八、寄生八十「恥ヅカシケレド、何カハへだてがほニモアランノ」狹衣、四、下[illegible]「猶ハカナキ事ニツケテモ、へだて顏ナル御心ハアマリナルヲ」

へだて-がま・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 隔 親シマザルヤウナリ。心ニ隔テアルヤウスナリ。ウトウトシ。

〜へだて-ごころ (名) 隔心 親シマザル心。打解ケザル心。隔心。隔意。 源、三十七、鈴蟲「へだて心アル蟲ニナンアリケル」

⁂へだ-てる (動) 隔 へだつ(隔、下二段)ノ口語。

べた-に (名) 總煮 味噌汁ニテ、種種ノ物ヲ共ニ煮込ムコト。又、ソノ物。

⁂べた-に (副) アマネク。一統ニ。一面ニ。スキマナク。「活字ヲべたニ組ム」

べた-ぬり (名) 汎塗 ベタニヌルコト。全面ニ塗ルコト。一面ニ塗ルコト。

べた-ばり (名) 平貼 ベタニハルコト。紙ナドヲ、一面ニ直ト糊ニテ貼ルコト。

へた-ば-る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 平張(ハル) 〔地べたへ開張ノ意〕 (一)身ヲ前へ、平タク伏ス。ヘバル。 (二)困憊(コンパイ)スル。ヨワル。ヘコム。 (三)スワル。坐ス。 物類稱呼、五、言語「居(スワ)ルトイフ事、云云、關東、又ハ、泉州堺邊ニテ、へたばるト云フ」

⁂べた-べた (副) (一)ネバル狀ニ云フ語。ベトベトニ。 (二)ネバル物ヲ塗リツケ、又、貼リツクル狀ニ云フ語。べ、タリト。 浮世風呂(文化、三馬)三編、上「アノ貌(カホ)へ、べたべたトナスリマスカラ、生傑ハ白粉ニ染マッテ、地ガワカリマセンハナ」 (三)甚シクナマメカシキ狀ニ云フ語。

ぺた-ぺた (副) 前條ノ語ニ同ジ。

べたべた-の-かちん (名) 女房詞。赤小豆(アヅキ)ニテ煮タル餅。 女房日記「御誕生日ノ御祝、云云、べたべたのかちんニテ御一獻」

へ-だま (名) 屁玉 へ(屁)ト云フニ同ジ。 浮世風呂(文化、三馬)四編、下「寧丸ハ、ミガイタトテモ、ヒカリナシ、コンニャク玉ー、屁玉人ダマ」 柳樽「[…]風呂ノ、屁玉ヲ中ヲ、カケアガリ」

〜へ-たむろ (名) 部隊 ぶたい(部隊)ニ同ジ。 崇峻紀、四年十一月「[…]氏氏臣連、爲裨將部隊、領二萬餘軍、出居筑紫」

へた-やたら-に (副) メタヤタラニ。

べたり (副) (一)モノノ粘着スル狀ニ云フ語。べッタリ。ペタリ。 蕪村句集「カキツバタ、べたりノ鷺ノ、垂レテケル」 一茶句集「カラカサニ、べたりトツキシ、櫻カナ」 (二)平タク坐ル狀、又、平タクツブレタル狀ニ云フ語。べッタリ。ペッタリ。ペタリ。ペタンコ。ペチャンコ。ペチャリ。

ぺたり (副) 前條ノ語ニ同ジ。

へだれ-ゆき (名) 斑雪 〔はだれゆき(斑雪)ノ轉〕 (一)はだれゆき(斑雪)ニ同ジ。 (二)綿帽子ノ如キ、大キナル雪ノ稱。 物類稱呼、一、天地「雪、東武ニテ、綿帽子雪トイフヲ、西國ニテ、花ビラ雪ト云、中國ニテ、へだれゆきト云フ、越路ニテ、ボタ雪トイフ」

へ-ち (名) 邊 へた(邊)ニ同ジ。 字類抄「岐、ヘチ、邊、ヘチ」 木工權頭爲忠百首「[…]カクル、へちニ散リシク、花ノ上ヲ、心シテ踏メ、春ノ山ブシ」

へ-ち (名) 絲瓜 〔へちま(絲瓜)ノ略、へちまノ皮ハ、食ハレザルヨリ、出デタル語〕 何ノコトナキコト。又、用ヲナサヌモノ。ツマラヌモノ。ヘチマノカハ。「人ヲへちトモオモハヌ」「へちヲマク」「へちヲマクル」

へ-ぢ (名) 邊路 〔海ノ邊ノ路〕 磯際ノ路。イソベノミチ。 木工權頭爲忠百首、磯邊櫻「散ル花ヤ、磯ノへぢ踏ム、山伏ノ、苔ノ衣ハ、ウハギナルラン」

〜べ-ち (名) 別 べつ(別)ニ同ジ。 源、三十六、橫笛「黄金百兩ヲナン、べちニセサセ給ヒケル」 枕草子、五、第四十五段「べちニヰシ家ノ子公達ヲモ」 宇治拾遺、一、第六條「南仲、甲ミヤウ、べちノ事ニ候ハズ、新ニツキテ候ナリ」 別儀。別義」

べち-ぎ (名) 別儀 別義 (一)べつぎ(別儀)ニ同ジ。 狂言記、[…]「[…]ハ別ノデナイ」 (二)別儀擂(ギズリ)(茶シヲ少クセルモノ)ノ略。薄茶ノ上品ナルモノ。又、べつぎぞろへ。 古今夷曲集、春「クレバ、色モ花香モ、べちぎニテ、ヤトノ大ブク、ヨツカス、カナ」

へちくわん-りう (名) ノ貫流 一ノ貫ハ紹鷗ノ弟子ノ別號ト」 滑稽ナル茶會ノ流儀。下ノ出典ヲ見ヨ。 老人雜話「[…]下、茶ノ湯ニノ貫流ト云フアリ、是ハ上京ニ、坂本屋トテ、茶ノ湯ヲ好ム者アリ、ヲドケタル茶ノ湯ヲナス、初メハ貫ヲ切リシ觀ト云、後ニ改メテノ貫ト云、一[…]ノ名也、ノノ字、人ノ字ノ半バカリ也、人ニ及バヌト云意トゾ、宗易ヨリ少シ淺也」 油糟(寛永、貞德)「ニガニガシクモ、フカ、カリケリ、へちくわん貫ノ、茶ノ湯ニワルキ、茶ヲ立テテ」

べちじ-の-しょうみょう (名) 別時稱名 べつじねんぶつ(別時念佛)ニ同ジ。 謠曲、實盛「イザヤ別時の稱名ニテ、カノ幽靈ヲ弔ハン」

べち-なふ (名) 別納 〔別ノ納殿ノ意カ〕 (一)寢殿、對屋ナドヨリ離レテ、物ナド納メ置ク家ナリト云フ。 源、四、夕顏「べちなふノ方ニゾ、曹司ナドシテ、人住ムベカメレド、コナタハ離レタリ」(湖月抄「別ニ離テタル局ナリ」) 別納ニテ大饗行ハレタルコト多シ、小寢殿ナリ」 榮花物語、九、岩蔭「帥宮ハ故院ノ一條院ニ坐シシ折ニコソ、べちなふノ御住ヒモツキヅキシカリシカ」 (二)次條ノ語ノ略。 西宮記、臨時、五、院宮事「上皇院[…]之後、云云、供膳同(在行儀、或女供候)、別納供御飯(敕旨田地子)御菜(御封物)」

べちなふ-しょ (名) 別納所 又、べつなふしょ。略シテ、べちなふ。古へ、朝廷ニテハ、敕旨田ヨリ收納シタル地子(チシ)ノ中ヨリ、供御ニ奉ラムトスルモノヲ、別ニ納メ置ク所。又、院宮ニテハ、庄園ニ[…]ル物ドモヲ、別ニ納メ置ク所。 […]

へチマ (名) 絲瓜 〔轉語ナリト云フ、詳ナラズ、或ハ云フ、絲瓜ヲ絲瓜(イトウリ)ト云ヒ、又、とうりトモ云フ、とハ伊呂波歌ニテ、へトちトノ間ナレバ云フト、本草[…]「はなあふし」〕 (一)瓜ノ類。葉ノ大キサ、[…]ノ如クニシテ、尖リ多ク、細毛刺アリ、莖ニ稜アリ、夏秋ノ交、五瓣ノ黄花ヲ開ク、胡瓜ノ花ニ似テ、蔓モ黄ナリ。實圓クシテ甚ダ長ク、若キ時ハ、食フベシ、熟後、皮肉ヲ去リテ、筋ヲ存スレバ、狀、海綿ノ如シ、故ニ、絲瓜ノ名モアリ、又、乾シテ纖維ノミトシタルハ、浴場ニテ、人體ノ垢ヲスリ洗フ用トス。イトウリ。莖ヲ切リテ、液ヲ滴ラシ取ルヲ、へちまのみづト云フ、清白ナリ、假粧、其他、種種ノ用ヲナス。絲瓜水 俳諧[…]雜、七、[…]門「[…]瓜、へチマ、布瓜、[…]瓜、[…]瓜、[…]」 農業全書、三、菜「絲瓜、ワカキ時ハ料理ニシテ食ス、[…]物ニシテ極メテヨキ物ナリ、[…]皮ヲクリ、上皮ノキテ、其筋アラキ布ノゴトク成リ、云云」 物類稱呼、三、生植「絲瓜(イトウリ)、へチマ、信濃ニテ、トウリト云、云云、トウリハ、絲瓜ノ上略ナルベシ、或人曰、へちまト云フ名ハ、トウリヨリ出タリ、其故ハ、トウリノとノ字ハ、イロハノへノ字トちノ字ノ間ナレバ、へちノ間トイフ意ニテ、へちまト名ヅクルトゾ」 (二)無用ナルモノ、ツマラヌモノ、又、取ルニ足ラザルモノヲ、罵ルニ用ヰル語。 […]の狂歌「世ノ中ハ、何ノへちまト、思ヘドモ、ブラリトシテハ、暮サレモセズ」「絲瓜野郎」

へチマ-うり (名) 絲瓜瓜 イトウリ。

略シテ、トウリ。前條ノ語ノ(一)ニ同ジ。

へちまのかは (名) 絲瓜皮 (一)絲瓜ノ果實ノ熟シタルヲ水ニ漬ケテ、外皮・種子ナドヲ取去リテ、日ニサラシタルモノ。(二)[illegible]皮ノ語ノ本意ヲ失ヒテ、後ニ用キラルルヤウニナリ、即チ、ウソノかは、[illegible]ノかは、バケノかは、ダメノかは、ナドノ如キ類ナリ。絲瓜ノ皮モテ縫合ハセタル袋ハ、物モ入レラレズ、破レテ用ナケレバ、打捨テテ、カマハヌ譬ニ云フ。即チ、直打ナキモノ、ツマラヌモノ。 似我蜂物語、中「オレトソナタノ中ダニヨクバ、二人ノ親ハへちまのかはノダンブクロ」 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)一「へちまのかはトモ思ハヌトハ、紀ノ國ノ山家ニ、大ヘチ小ヘチトテ、[illegible]ケハシク、ツヅラヲリナル、云云、切所アリ、彼アタリニ使フ馬ハ、云云、實ニ骨許リナル様ナリ、云云、行ノヤクニモ立タヌモノヲ、へちまの皮[illegible]云云」[illegible]「何[illegible]、[illegible]ナカラニ、今日ノ世ノ、へちまの皮ノ、[illegible]フクロカナ」[illegible]云、[illegible]ハ、へちまのかはノダンブクロトイフ事有、是ハ、此へちまニハアラズ、へちくゎんガ馬ノ革一駄袋トイフ事ナリ、へちくゎんハ茶人ニテ、茶器ヲ革袋ニ入、馬ニツケテ遊行セシトナリ」

へちまのみづ (名) 絲瓜水 絲瓜ノ莖ヨリ取レル水。皮膚ニ塗レバ、美トナル。秋、絲瓜ノ成長ノ盛ナル頃、蔓ヲ地上二三尺殘シテ切リ、其蔓ヲ徳利ナドニ入レ置ケバ、二日程ニテ一杯ニナル。美人水ノ名アリ。 重修本草綱目啓蒙、廿、蔬菜類「絲瓜、云云、へちまの水ハ、蔓ノ本地ヨリ一二尺ニ切リ、瓶中ニ插ミ入置バ、多ク水出、甚清白ナリ、俗ニ美人水ト云、附方ニ絲瓜汁ト云」

べちゃくちゃ (副) 能クカレコレト物言フ狀、又、シャベル狀ニ云フ語。ベチャベチャ。[illegible]くちゃトシャベリ侍リテ」

べちゃべちゃ (副) 前條ノ語ニ同ジ。

ぺちゃぺちゃ (副) (一)モノヲ食フ音ニ云フ語。(二)水ノ流ルル音ニ云フ語。

ぺちゃん (副) (一)水ナドノ、ハネル音ニ云フ語。[illegible] (二)モノノ平カナル狀ニ云フ語。ペチャンコ。

へちゃむくれ (名) [illegible]ノ意) 直打ナキ人ヲ罵ル語。

べつ (名) 別 (一)ワカチ。區別。差別。 禮記、昏義「男女有レ別、而后夫婦有レ義、夫婦有レ義、而后父子有レ親、父子有レ親、而后君臣有レ正」 小學、明倫「右明夫婦之別」 史記、商君傳「父子無レ別、同室而居、今我更制二其教一、而爲二其男女之別一」 (二)異ナルコト。外ナルコト。 南史、劉[illegible]傳「[illegible]別[illegible]」[illegible]「別ノ物」「別事」「別室」「別宅」 (三)常ニ異ナリタルコト。 滄浪詩話(宋、嚴羽)「詩有二別材一、非レ關レ書也、詩有二別趣一、非レ關レ理也」 盛衰記、六、内大臣召二兵事一「オボロゲニテハ騒給ハヌ人ノ、カカル仰ノ下ルハ、實ニ別ノ子細ノ有ニコソトテ」 謠曲、兼平「出家ノ事ニテ候ヘバ、別ノ御利益ニ、舟ヲ渡シテタビ給ヘ」 (四)ワカレ。イトマゴヒ。離別。別離。 [illegible]

べつあつらへ (名) 別誂 物品ノ、特別ニ製造ヲ誂ノルコト。又、ソノ物品。

べつい (名) 別意 (一)ワカレノココロ。離別ノ情。別情。 杜甫、[illegible] 高適、酬二陸少府一詩「別意在二山阿一、征途背二原隰一」 (二)別ノカンガヘ。他ノ意味。他意。

べつい (名) 別異 (一)差異ヲ辨別スルコト。辨異。 史記、樂書「樂也者、情之不レ可レ變者也、禮也者、理之不レ可レ易者也、樂統レ同、禮別レ異、[illegible]入レ瀨、衆人不レ能二別異一、其實ハ[illegible]自知[illegible]著僧二也」 (二)カハリタルコト。別條。

べつえん (名) 別宴 ワカレノ酒宴。送別ノ宴。

べっか (名) 別家 べっけ(別家)ニ同ジ。[illegible]

べつが (名) 別駕 (一)支那ニテ、古ヘ、刺史ノ諸州巡察ニ隨フ官ニテ、別ニ一乘ノ車ヲ駕スル故ニ云フ。[illegible]「從刺史[illegible]、別乘[illegible]也」[illegible](宋、高承)[illegible]「別駕、歴代皆有レ之」 (二)諸國ノ介ノ唐名。二中歷、[illegible]「[illegible]介、別駕、長史」

へつかい (名) 邊津櫂 おきつかい(沖津櫂)ノ條ヲ見ヨ。 萬葉集、二[illegible]「[illegible]伊、イタクナハネソ、若草ノ、ツマノ(ミコトノ)、念[illegible]」

べつかう (名) 別項 別ノ箇條。ホカノクダリ。又、他ノ事項。

べつがう (名) 別號 本來ノ名ノ外ニ、別ニツケタル名號。別稱。異名。別字。 史記、[illegible]「號ハ人君ノ成徳ヲ表シ、イサヲシヲアラハシ、臣庶ニ[illegible]、云云、[illegible]兄弟ニ明道、伊川等ノ號アレドモ、敢テソノ名ヲ指サズシテ、居所ヲ以、號スルモ、或ハ、死後ニ門人ソノ師ヲ尊ヒテ設ケタル號モアリ、ミナ自分ヨリ名ヅクル所ノ號ニアラズ、宋末ニ至リ、別號ノ稱スタレリ」

べっかく (名) 別格 常ノ格ノ外ナルコト。常ノ格式ノ以外ナルコト。 陳書、[illegible]刑法同[illegible]「別格官幣社」

べっかくくゎんぺいしゃ (名) 別格官幣社 [illegible]其格式ノ國幣社ノ上位ニアルモノ。國家ノ元勳ヲ祀ル。「別格官幣社湊川神社」

へつかぜ (名) 邊津風 おきつかぜ(沖津風)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

べっかかう (名) めかかうノ訛。其條ヲ見ヨ。

べっかふ (名) (一)鼈甲 [illegible]ノ甲。古ヘハ、[illegible] 書、地理志、嶺南道、廣州、南海郡、中都督府土貢云云、[illegible]ヲ鼈甲ニ借リテ用キタリ。甲ヲ剝離シテ[illegible]合ハセ、或ハ、重ネ合ハセテ、櫛、笄、其他ノ裝飾品ヲ製ス。享保、元文ノ頃、玳瑁ノ、黒斑ナキ照リノヨキ所ノミ切リテ、露ホドノ濁ヲ、繼合ハスル所ニ含マセ[illegible]、此ヲ斑ナシト云フ。黒斑ノアルママ櫛ナドニ作ルヲ引拔ト云フ。又、[illegible]鼈甲アリ、其[illegible]ヲ見ヨ。後ニハ、我國産ノ牛ノ角ヲモ用キル、コレヲ地拔ト云フ。又、[illegible]ナル路ニ使用スル馬ノ爪ヲ用キ、此ヲ馬爪ト云フ。然レドモ、二十年程スレバ、照リナクナルトゾ。近頃ハ、玉子ノ白身ニテ作ル、コレヲ卵甲ト云フ。今ハ、又、せるろいどニテモ摸造ス。 好色一代[illegible]

松作ノ上「テリノコイ當中百斤　風世女裝考、二「琥珀ノ櫛、俗ニイフベッかふ」　(三)サツマイモヲ、油ニテアゲタルモノ。

へ-つか・ふ（ヘツコウ）・フ・へ・ハ・ヒ・へ(他動、四)〔邊付〕　へつく(邊付)ノ延。　萬葉集、四三十八「絶ユトイハバ、ワビシミセムト、燒大刀ノ、隔付經コトハ、ヨシヤ吾ガ君」(代匠記訓)　同、十四七「殊サカバ、沖ヨサカナム、湊ヨリ、邊著經時ニ、サクベキモノカ」(古義訓)

べっかふがみ（ベツコウガミ）(名)〔鼈甲紙〕　紙ニ蠟ヲ引キ、漆ニテ鼈甲ノ如キ斑ヲ入レタルモノ。煙草入ナドニ製シタリキ。

べっカン(名)〔鼈羹〕〔かんハ、羹ノ字ノ唐音、羊羹ノ條ヲ見ヨ〕　擂立ノ山の芋一升、砂糖一斤、赤小豆ノ漉粉一升、小麥ノ粉五勺ヲ煉合ハセ、蒸シテ鼈甲ノ形ニ切リタルモノ。(禪家ノ點心ナドニ用キル)　庭訓往來、十月「點心者、云云、鼈羹」　尺素往來「[illegible]鼈羹ニ中ニ桑ノ實ヲ加ヘタルモノ」

べっき(名)〔別記〕　別ニ記スコト。又、ソノ記シタルモノ。　全履詳、通鑑前編序「史官既以一年紀事、至於大事、則又採合而別記之」「台記別記(書名)」

べつぎ(名)〔別儀〕　又、べちぎ。外ノ事。餘ノ事。他事　易林本節用集(慶長)上、言辭門「別儀、ヘツギ」　太平記、二、長崎新左衞門尉意見事「俊基、資朝以下ノ亂臣ヲ、一一ニ誅セラルルヨリ外ハ、別儀アルヘシトハ存ジ候ハズ」　醒睡笑(元和、安樂庵策傳)五「大バヲバ、茶ニサヘキラフ、物ナレド、心碎ケバ、別儀アラジナ」

ペッキ(名)〔番瀝青〕　ぺんき(番瀝青)ノ條ヲ見ヨ。

べつぎぞろへ（ベツギソロエ）(名)〔別儀揃〕　又、べちぎぞろへ。薄茶ノ上品ナルモノノ銘ニ云フ語。ごくぞろへ(極揃)ノ條ヲモ見ヨ。　茶道筌蹄、一、茶名「別儀揃、一斤ニ付十三匁」

べっきふ（ベツキフ）(名)〔別給〕〔別敕年給ノ略〕　(一)古ヘ、親王ニ給フ年給ノ稱。別敕ニヨリ、毎年二合(其條ヲ見ヨ)シテ、掾ヲ申シ任ズルナリ。后腹第一ノ親王タル方、コノ恩惠ニ預ル。后腹ニ、皇子二人以上アル時ハ、男女ノ親王ヲ論ゼズ、別敕ニヨリ、巡ヲナシテ其巡年ニ二合ヲ申シ任ズ。　除目抄、親王巡給事「別巡給、第一親王、毎年二合、依別敕也、云云、別巡給トハ、當帝后腹親王不論男女、可預別巡給之由被宣下ヌレバ、一人御座ノ時ハ、毎年任之、二人之時ハ、隔年任之、云云」　長秋記、天承元年正月廿日「除目始也、云云、巡給是當親王作大巡二合任三分也、別給毎年任二分也、云云」　(二)皇后ノ所生ニアラザル親王ノ、別巡給ニ預ルコト。ぢゅんきふ(巡給)ノ條ヲモ見ヨ。　除目抄、親王巡給事「別給、依勅定、懸親王巡也、又、非后腹、當時親王給之貴也」

べつぎもくろく(名)〔別儀目錄〕　昔、進物ノ目錄ニ、太刀、馬ニ、魚、樽ナドヲ書キ加ヘタルモノ。　貞丈雜記、九、書札之部「今時ノ進物ニ、一色目錄、別儀目錄ト云名有リ、云云、別儀トハ、太刀、馬ニ、餘物(何ノ肴也)、樽ナトヲ書加ヘタルヲ云フ」

べつぎゃう（ベツギヤウ）(名)〔別行〕　(一)ホカノクダリ。他ノ行。(二)特別ニ執行スルコト。　謠曲、葵上「此ノ間ハ別行ノ子細アッテ、何方ヘモ罷リ出デズ候ヘドモ」　(三)佛教ノ語。別ニ作リテ、世ニ流行セシムルコト。　「別行疏(觀音經ノ義疏)」

べっきょ(名)〔別居〕　分レテ居ルコト。別ノ家ニ住居スルコト。又、其居宅。　晉書、律曆志「魏明帝、云云、欲使學者別居一坊、歌詠講習」

へ-つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四)〔邊付〕　(一)岸ニ寄リテ、舟ヲヤル。へつかふ。(二)人ノ傍ニツキテ居ル。近ク寄ル。

べつぐう(名)　別宮〔本宮ニ對ス〕　神社ノ本宮ニ附屬シテ、別ニ、他ノ場所ニ設ケタル宮殿。例ヘバ、皇大神宮ニ屬スル荒祭宮、月讀宮、瀧原宮ノ類。　百練抄、五、永久五年正月十二日「祇園別宮少將井炎上」

へ-つくり(名)〔料理人〕〔罪作ノ約ト云フ〕　膾ナドニ與フル肉ヲ、細カニ料理スルモノ。又、膾飼トモ云フ。　好忠集「へつくりノ、垣根ノ雪ヲ、ヨソ人ハ、鶴ノ上毛ト、思フランヤゾ」　同「へつくりニ、知ラセズモガナ、難波江ノ、蘆間ヲワケテ、遊ブ鶴ノ子」

べっくゎ（ベツカ）(名)〔別火〕〔同火ニ對ス〕　(一)古へ、支那、漢代、監獄ノ役人。改火(四季ニ燧ノ木ヲ取替フルコト)ヲ掌ルモノ。　漢書、百官公卿表、注「別火、獄令官、主治改火之事」　(二)炊爨ノ火ヲ、別ニスルコトナリ。齋戒ノ人、月經ノ女、ナドノスルコトナリ。ベッビ。　宇治葬祭次第「入棺ノ後、臥蓐ヲ取退サセ、野送ノアトニテ、云云、淸火ニテモ炊カズ、別火ニスルナリ」

べっくゎ（ベツカ）(名)〔別科〕　本科ノ外ニ、別ニ設ケタル學科。

べっくゎん（ベツカン）(名)〔別館〕　本館以外ニ設ケタル館。　史記、司馬相如傳「於是乎離宮別館、彌山跨谷、高廊四注、重座曲閣」

べっけ(名)〔別家〕　ぶんけ(分家)ニ同ジ。新家。別宅。支家　易林本節用集(慶長)上、言辭門「別家、ベツケ」

べつげふ（ベツギヨウ）(名)〔別業〕〔業ハ莊、同ジ、田園ノ義〕　べっさう(別莊)ニ同ジ。別墅。　石崇、思歸引序「[illegible]河陽別業」　[illegible]「[illegible]別業[illegible]」　[illegible]上、天地門「別業、ヘツケウ、山莊[illegible]」　[illegible]下「池邊別業是何人、聞道陸張昔卜隣」

べっけん(名)　瞥見〔說文「瞥、過目也」〕　チラリト見ルコト。チラット見ルコト。一瞥。瞥觀。　品字箋(淸、虞德升)「目[illegible]瞥[illegible]」

べっこ(名)〔別戶〕　別ニ戶籍ヲ立テテ、家ヲ成スコト。　[illegible]、五十九、文苑雜事「卽於法廳別戶、而不聽別」

べつご(名)〔別後〕　別レテ以後。分袂以來。　歐陽修、與薛少卿公期書「[illegible]」　蘇軾、與程公密書「別後[illegible]、且審起居佳勝、感慰深矣」

べつこさく(名)〔別小作〕　質、又ハ、抵當ニ取リタル田地ヲ、其地主ニ非ザル他人ニ、小作セシムルコト。　增補田園類說(天保、山內茶正)小作永作の事「永小作、直小作、別小作等ノ譯有事知ルベシ」

へっ・お・む(動)　へおむノ音便。

べっこん(名)〔別懇〕　ワケテ、ネンゴロナルコト。殊ニ親シキコト。入魂。昵懇。　「別懇ノアヒダガラ」

べっさい(名)〔別才〕〔別材〕　特殊ノ才能。特別ノ才智。　滄浪詩話(宋、嚴羽)「詩有別材、非關書也、詩有別趣、非關理也、然非多讀書、多窮理、則不能極其至」

べっさう（ベツソウ）(名)〔別莊〕　離レタル地ニ、別ニ設ケテ置ク屋敷。時時行キテ遊樂スルニ供フ。別業。別墅。　市中取締類集、在町家作、二、町人共別莊、其外、家作之儀ニ付、取調伺書付「書面之通取計可申旨被仰渡、奉承知候」

べっさつ(名)〔別册〕　外ノ册子。他ノ卷。

べつ-ぷ (名) 別紙 本書ノ外ニ添ヘタル書付。 [illegible]

べっ-ぷ (名) 蔑視 アナドリ見ルコト。見下グルコト。サゲスムコト。輕視。

べつ-ぷ (名) 別時 (一)別ルル時。離別ノ時。 杜牧、[illegible]呉中馮秀才詩「唯有二別時一今不[illegible]」 (二)他ノ時。他時。

へつ-ぷ (名) 別事 (一)ホカノコト。[illegible] (二)カハリタル事。別條。 平治物語、三、經宗惟方遠流せらるる事「サレドモ二人共ニ、別事ナク召帰リ、御前ノ內ニ引キ居エタリ」

べっ-しう (名) 別愁 ワカレノカナシミ。離別ノウレヒ。離愁。離恨。 崔顥詩「不[illegible] 作[illegible]分明散別愁」

べっ-しつ (名) 別室 他ノヘヤ。ホカノ室。 [illegible]別室」

べっ-して (副) 別 ワケテ。特ニ。殊ニ。 [illegible]記、六、内大臣召兵事 重盛「コソ別して天下ノ大事ヲ闘出シタレ」 同、四十二、與一射レ的事「日本國中大小神祇、別して八下野國日光」

べつじ-ねんブツ (名) 別時念佛 又、如法念佛。淨土宗ナドノ信者ノ僧俗、一道場ニ會シ、二七日、三七日、九十日ナドノ一定ノ日ヲ限リ、稱名念佛ヲ修スルコト。又、べつじのねんぶつ。別時の稱名 沙石集、四、下、第六條「中比、小原ニ上人有ケリ、云云、都ノ名僧ドモアマタ請ジテ、七日ノ別時念佛ヲ始ム」 世[illegible]、近松作)「[illegible]マシ、越後町ノ扇ガモトニテ、一夜別時の念佛申候」

べつ-じん (名) 別人 ホカノ人。他ノ人。他人。佗人。 [illegible]廊、下第[illegible]「氣味如ニ中酒一情懷[illegible]別人ニ」

べつ-じやう (名) 別狀 コトナルサマ。別ノ狀態。異狀。「別狀ナシ」

べっ-しゅ (名) 別手 他ノ人ノ手。又、ソノ手腕。「別手ニ出ヅルガ如シ」

べっ-しゅ (名) 別種 他ノ種類。又、別ノ種。 [illegible]

べつ-じゅんきふ (名) 別巡給 べきふ(別給)ニ同ジ。

べっ-しょ (名) 別墅 〔正韻「墅、田廬也」〕 べっさう(別莊)ニ同ジ。 晉書、謝安傳[illegible]別墅[illegible] 代實錄、四十九、仁和二年十一月十四日[illegible]別墅」

べつ-じょ (名) 蔑如 ナイガシロニスルコト。サゲスムコト。見サグルコト。 漢書、東方朔傳、贊「揚雄亦以爲、朔言不純師、行不純德、其流風遺書蔑如也」 平治物語、一、信賴信西不快事「人ヲ成ヲ蔑如シ、民ヲ猛クシテ野心ヲ挾ム、能ク用意スヘシ」

べっ-しょう (名) 別稱 他ノ稱呼。別ニ呼ブ名。別名。一名。

べっ-せい (名) 別製 特別ニ製造スルコト。又、ソノ物。特別製。特製。

べっ-せかい (名) 別世界 (一)地球ノ外ノ世界。(二)一般ノ世間ト異ナル境界。別天地。別乾坤。壺中天地。

べっ-せき (名) 別席 外ノ座敷。他ノ室。 [illegible]別席[illegible]

べっ-そく (名) 別足 料理ノ語。雉子ナドノ股。 運歩色葉集「別足、ベッソク、〈雉別足事也〉」[illegible] 古事談、二、臣節「[illegible]大寺大臣[illegible]云云、如法合之」[illegible]ノクヒヤウ)、云云」 厨事類記「別足ハ、ツツミタル所ヲトリテ、切リ口ヨリ食ヒキリテメスベキ也」[illegible]

べつ-たう (名) 別當 〔本官ノ外、更別ニ專當スル意〕 (一)又、べたう。昔ヘ、特異ナル職ノ長官ノ稱。檢非違使、藏人所、淳和院、奬學院、大政所、[illegible]武家ニテハ、政所、侍所、[illegible] 門跡式[illegible] 記[illegible] 職人所別當二 三代實錄、元慶五年十二月十一日「淳和院[illegible]公卿[illegible]之人稱之[illegible]」 [illegible]鏡、十一、建久二年正月十五日「政所別當[illegible]平朝臣廣元」 同、一、治承四年十一月十七日「和田小太郎義盛、補ニ侍所別當一」 (二)僧職ノ一。興福寺、東大寺、法隆寺、四天王寺ナドノ大寺ニアリテ、一山ノ寺務ヲ綜理スル長官。座主、長吏、長者ノ類。又、神宮寺ノ僧官 檢校ノ[illegible]ヲ見ヨ)ニ次グモノ。 [illegible] 榮花物語、三十一、殿上花見「ヤハタノ別當元命トイフ者、御クダモノスヱテ參ラセタリ」 (三)院ノ御廐ノ預。 名目抄、院中部「[illegible]別當[illegible]」 [illegible]補之、云云」 (四)國司ノ廐ヲ預ル職。 盛衰記、廿四、南都合戰[illegible] 元年七月廿日[illegible]事、云云」 (五)院ノ廐ノ別當ヨリ轉シテ、俗ニ、馬飼。乘馬ノ口取。馬丁。 (六)重ナドノ、神ニ奉リタル供物ノ菓子ヲ、取リオロシテ食フコト。「おべったうヲスル」 (七)我物顏ニ、物ヲホシイママニ扱フコト。 (八)遊女ノ別當。即チ、遊女ヲ取締ルモノ。 吾妻鏡、十三、建久四年五月十五日「遊女[illegible]」 [illegible] スル敕任官。

べったう-せん (名) 別當宣 檢非違使別當ノ[illegible]

べったう-だい (名) 別當代 又、べたうだい。別當(其條ノ(二)ヲ見ヨ)ノ代理ヲナスモノ。 [illegible] 鶴岡社務職次第、覺寶「云云、別當代慈月坊」

べったう-ばう (名) 別當坊 別當ノ[illegible]

べっ-たく (名) 別宅 [illegible]本宅ノ外ニ設ケ置ク家。外宅。 晉書、裴楷傳「楷性寬厚、與[illegible]」 [illegible](別家)ニ同[illegible]

へったくれ (名) ネウチナキ人ヲ罵ル語。又、取ルニタラヌコト。へちゃむくれニ同ジ。 浮世床(文化、三篇)二編、下「ソレヨ[illegible]カ、何[illegible]ウガ、へったくれダラウガ、オ医匠ノ御身分ノ[illegible]」

べつ-だん（副）別段　他ト異ニシテ。別ケテ。格別　特別　易林節用集、言辭門、別段、ベツダン」平家物語、一、二代后事「ソレハ異朝ノ先規タル上、別段ノ事ナリ」

べったら-いち（名）くされいち（腐市）ニ同ジ。同日賣ル淺漬大根ヲ、關西地方ニテハ、べったらづけナド云フ。

❖べったり（副）（一）直ト、ネバリツク狀ニ云フ語。艶隱、重井筒子（享保、近松作）上「トレ汗拭ウテ進ゼウト、顏ニベたり手拭ノ、濡ミト緩トモミ草ノ」云云」（二）糊、泥ナドノ、平タク一面ニツキタル狀ニ云フ語。ベットリ。又、一面ニ書キタル狀ニ云フ語。ベタ一面。浮世風呂（文化、三馬）四編、下「寶珠ヲベたりト書イテ、性根玉ノ歌ガゴゼエヤシタ」

❖ぺったり（副）前條ノ語ニ同ジ。

ベッチン（名）別珍〔英語、Velveteen.ノ略、別珍ハ當字〕綿絲ヲ用ヰテ、平地ニ天鵞絨ノヤウニ織リタル布。平地綿天鵞絨トモ云フ。足袋ニ作リ、又、下駄、足駄ノ鼻緒ナドニ用ヰル。

べっ-ちょく（名）別敕　特別ノ敕命。又、太政官ヲ經ズシテ施行スル敕旨。續後紀、九、承和七年八月「辛亥、云云、是日參議中務（源定）卿依、請許之、但別敕令、食、封百戶」」公式令「凡彈正、別敕令、檢、校官、者、不、得、仍知、彈正事」」彈正臺式「凡臨時別敕、莫、承　拜史傳宣」」

へつひ（名）竈神　へつひノ音便。かまど（竈）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。運歩色葉集「竈、ヘッツイ」守貞漫稿、二、家宅「竈ヲ俗ニ、へつい卜云、又訛テ、へ　つい卜云也」

べっ-て（名）別手　本隊ノ外ニ、立テタル隊、他ノ組。別隊。書言字考節用集、八、言辭門「別隊、ベ、テ（人數部伍）」

べっ-てい（名）別邸　別第　本邸ヨリ離レタル地ニ設ケ置ク邸宅。別莊。別業。別墅。唐書、裴度傳「於、東都集賢里、…立第…」別業中山鶴巢谷ハ帝臨幸」

べつ-でう（名）別條　常ニ變ハレル事柄。コトヤウ。異狀　書言字考節用集、八、言辭門「別條、ベツデウ」浮世風呂（文化、三馬）初編、上「手傷ヲ持チ、長湯ヲ見タカ、別條モナシ」

べつ-でん（名）別傳　（一）禪宗ニテ、其極意ハ、敎外ニ於テ、別ニ以心傳心スレバ云フ。悟性論「直指人心、見性成佛、敎外別傳、不立文字」」梁僧傳、…（二）特別ノ傳授。運歩色葉集「別傳、ベツデン」

べってんち（名）別天地（李白、山中問答詩「別有天地非人間」）べ　せかい（別世界）ノ條ノ（二）ニ同ジ。

ヘット（名）〔英語、Fat.　獨逸語、Fett.〕料理ニ使フ獸ノ脂。今、主ニ牛ノ脂）

べっ-と（名）別途　（一）用途ノ別ナルコト。他ノ用途。（二）單ニ、別ナルコト。又、主義ナドノ異ナルコト。法華文句記、三之一「文雖、麤略、事無、別途」」（三）他ノ途。他方ノ道。徐陵詩「別途登三千仞、臨川懸三百條」」

ベッド（名）〔英語、Bed.〕訛シテ、べっと。フシド。寢床。臥床　特ニ、西洋風ノ寢臺ノ稱。鶯紅漫（嘉永、露財）臥單、「ベット」

べつぞう-たい（名）別働隊　本隊ヨリ離レテ、獨立ニテ活動スル部隊。

べっとり（副）べったりノ條ノ（二）ニ同ジ。

べつ-なふ（名）別納　（一）鎌倉時代、名主ガ地頭ノ手ヲカラズ、年貢ヲ取立テ、幕府ニ納ムルコト。吾妻鏡、二、寶治元年五月廿二日「不、論、公別納之地、今明日内、可、召、進工匠、之旨、被、仰、遣安房國在廳等之中」（二）別ニシテ納ムルコト。（別ニ別納所）

べつなふ-しょ（名）別納所　べちなふしょ（別納所）ニ同ジ。

〔へつ-なみ（名）邊津波〔邊之浪ノ義〕おきつなみ（沖津波）ノ條ヲ見ヨ。古事記、上、四「紫都摺美、ソニヌギウテ」萬葉集、六、五長歌「イサナトリ、濱邊ヲ清ミ、云云、イホへ波ヨル、邊津浪ノ、イヤシクシクニ」

べっ-ぱ（名）別派　異ナリタル派。別ノ流派　…商隱詩「別派…湘澤、他…老莊」」賈島、太阿如、秋水賦「…臨、挾刀之徒、疑、闇、別派」」

べっ-ぱい（名）別杯　別盃　旅立ノ別レノサカヅキ。離杯。

べつ-ばら（名）別腹　べっぷく（別腹）ニ同ジ。

〔へつ-ひ（名）竈神〔本名、ヘナリ、竈之靈ノ轉、海之靈ノ海トナリシガ如シ」（一）かまどのかみ（竈神）、即チ、竈ヲ守ルト云フ神ヲ云フ。我ガ國ノ俗ニ、火産靈神ト稱スル荒暴ノ火ト、奧津比古神、奧津比賣神トヲ合ハセ祀レルヲ、三寶荒神ト混ジテ竈ノ神トナス。カマノカミ。讀俗佛事編、一「古來ノ口說ニ、荒神ハ最モ不淨ヲ忌ム、故ニ其祭、尚ホニシテ、他モ不淨ヲ除クモノナレバ、家ニ在テハ竈ヲ棲居トス、依テ俗ニ荒神ヲ竈神トス」字鏡抄「竈神、ヘツイ」神樂歌、竈殿「四方ノ川比、神樂スラシ」枕草子、五、第四十五段、內膳、御へつひワタシ奉リナドシタル」木工權頭爲忠百首、神祭「ナラガシハ、ソノヤヒラデヲ、供へッツ宿ノへついニ、タムケツルカナ」大膳職式「竈神四座、（竈神四座（春秋二御祭アリキ）」歷林揚要抄、四、第八條「竈神事、へついヲ祭ル、ムフハ、竈ノ神賦」（二）轉ジテ、直ニ竈。カマド。（其條ヲ見ヨ）又、音便ニ、へっひ。易林節用集（慶長）上、乾坤門「竈、ヘッツヒ」

べつ-び（名）別火　べっくゎ（別火）ニ同ジ。

へつひの-まつり（名）竈神祭　へっひ、即チ、カマドノ神ヲ祭ルコト。首前ニ…ヲモ見ヨ。梅園日記、四「…竈神、云云、…鍋、竈神ノ條ニ、へついニ祭ルト云フ、八、竈ノ神賦、…客ノ神賦、此國ニ客ヲバ過リカミ器トス、八國ニ…飯ヲスル器ナリ、是據ニ、客ノ神ヲ竈神トス、此國ニハ、釜飯ヲスル事八、オボロゲニハ無ケレドモ、其神ヲバ祭ヲ、へつい祭ルト云フニヤ、ナドアルヲ見テ、へつひハ竈神ナルヲ知ルヘシ」

べっ-ぴん（名）別品　（一）別ケテ好キ品物。（二）美シキ女。美人。美女。別嬪

へっ-ぴり（名）放屁　へひり（放屁）ノ音便。風來六六部集、下「…放屁論」後編「放屁ハ、囃方卜供ニ、小高キ所ニ座ス」

へっぴり-ごし（名）放屁腰　屁ヲ放ル時ノヤウナル腰ツキ。サルマヒゴシ。

へっぴり-じゅしゃ（名）放屁儒者　くされじゅしゃ（腐儒者）ニ同ジ。浮世床（文化、三馬）初編、上「ムム、放屁儒者カ、彼奴ガ何ヲ知テ云云」蜀山人の狂歌「世ノ人ヲ、屎ノ如クニ、見クダシテ、屁びり儒者ト、身ハナリニケリ」

べっ-ぷ（名）別府　〔國府ニ對シテ、小府ト云フガ如シ〕古ヘ、郡衙ノアル地、即チ郡家ナリ。（諸國ノ地名ニアリ）支廳

べっ-ぷう（名）別封　手紙ニ添ヘテ、別ニ封ジ送ル手紙。別ニ添フル封書。

べっ-ぷく（名）別腹　（一）父ヲ同ジクシテ、母ノ異ナルコト。又、ソノモノ。ハラガハリ。ベツバラ。異腹　（二）正妻以外ノ腹ニ生ルルコト。又、ソノモノ。メカケバラ。ワキバラ。ベツバラ。妾腹　甲陽軍鑑、四、品第十一「信州諏訪頼茂息女ノ腹ナレバ、別腹ト有テ、サタモナサレズ」

〜へつべ (名) 邊津方 陸ニ近キカタ。岸ノ[illegible]。[illegible]ヒ、邊津ガニ、アヂ群騷ギ」(古今ノ詞)

べべ (…) [illegible]、唾ナドヲ、吐キ出ス[illegible]云フ語。ぴっぴょ。又、否ガル状、嫌ノ状、又、[illegible]ナドニ云フ語。[illegible]

べつべつ (副) 別別 ワカレワカレ。オノオノ。ソレゾレ。狂言記、樋酒「此度ハ酒ヲ飲マヌヤウニ、別別ニ致シテオイタ」

べっべ (名) 前[illegible]ノ語ニ同ジ。

へっぽこ (名) 伎倆ノ拙キモノ、又ハ、役ニ立タヌモノナドヲ、罵リ云フ語。[illegible]ト、ウンニヤ、アノ[illegible]ハ、ほこメエ、大方ソンナ事ヲヌカスダラウ」嬉遊笑覽、九、下「季吟獨吟百韻、ヤセ馬オヒノ、アヤナ腕ダテ、オモキ木ヲ、オホハラ山ヘ、ヘコタフレ」へっぽこ侍トイフハ、コノヤウノ賤キサマヲイフニヤ」

へつほつ (副) ノ乀 「ノ、廣韻「普蔑反」(へつ)、乀「敷勿反」(ほつ)、說文「ノ、右戾也、乀、左戾也」」左右ニ戾ルコト。船ナドノ搖レ動ク狀ニ云フ語。翠雨軒詩話[illegible]

べっぽん (名) 別本 (一)他ノ書物。同種ニテ、別ノ本。異本。[illegible] (二)ヒカヘ本。副本。(正本ニ對ス) 南史[illegible]

〜へつみや (名) 邊津宮 海邊ニアル宮。古事記[illegible]田寸津比賣命者、坐[illegible]邊津宮」

べつみゃう (名) 別名 本名ノ外ニアル名。別ノ名。べつめいノ別稱。異名。[illegible]コレハ名二ツ有ルヲイフ、タトヘバ、同人異名有ル人有リ、マタハ、名ヲカヘシ人ヲ、物ヲシルシタルニ[illegible]

べつめい (名) 別名 前[illegible]ノ語ニ同ジ。史記、五帝紀、注「天子賜姓命氏、諸侯命族、族者、氏之別名也」

〜へつも (名) 邊津藻 海邊ニ生フル藻。萬葉集、七、「沖ツ波、[illegible]へつもマキ持チ、寄リクトモ、君ニマサレル、玉寄ラムヤモ」

べつもう (名) 蟞蝥 「蟞、蝥」[illegible] カハムシ。スカガ。[illegible]各條ヲ見ヨ。[illegible]

〜へつもは (名) 邊津藻菜 「藻菜ハ、藻葉ノ義」前條ノ語ニ同ジ。新年祭祝詞[illegible]ニ至ルマデニ」

へつらひ (名) 諂諛 ヘツラフコト。媚ビ。ツヰシャウ。阿諛。諂諛[illegible]

〜へつらふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 諂諛 [諂りつらふノ略、つらふ(琴)ノ條ヲ見ヨ、ホトリヘツクヤウノ意、トカクニ君ノ方ヘニヨリソヒテ、心ヲ取ラムトスル形容ヨリ云フ] 利ノ爲ニ、他ノ心ヲ喜バセ敬ノ。オモネル。媚ブ。佞スッ。ツヰショウスル。字鏡[illegible] 欽明紀、五年三月「足臣賢、移那斯、佐魯麻都、[illegible]」

べつり (名) 別離 人ト別ルルコト。[illegible]ノ家ニ宿フ草、移ニ別離ノ悲シミアリ」

〜へつる ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 折 [illegible] 露添撰義鈔、五、第十四條「折ノ字ヲへつるト讀ム也、へぐモ、へつるモ、心ハ同事也」欽明紀、二年七月[illegible]

へづる ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 折 「前條ノ語ノ轉」(一)削リ取ル。ヘグ。ハツル。[illegible] (二)[illegible] 新選、秋「アタタメテ、モラヘバ酒ヲ、へづりケリ」

べつるゐ (名) 別涙 人ト別ルル時ノ[illegible]

べつろ (名) 別路 本道ヨリ外ノ道路。ワキミチ。別途。北史[illegible]

べつゐん (名) 別院 本院ノ外ニ、別ニ構ヘ設ケタル寺院。又、本山ニ屬スル支院。三代實錄[illegible]「以二禪院寺一爲二元興寺別院一、禪院寺者、云云、壬戌年三月、創[illegible]於本元興寺東南隅」

ペテン (名) 〔支那語、騙子(Peng-tzu.)ノ訛カ〕 イッハリ、ダマスコト。アザムクコト。詐僞。

〜へど (名) 反吐 嘔吐 「反吐ノ(音)」 古ク、タマヒ、タグリ、エヅキ、オウト。胃中ノ飲食物ヲ吐キ戾スコト。吐クヲ[illegible]く ト云フ。ヘドツキ。[illegible]神代紀、上[illegible]

へどつき (名) [illegible] 前條ノ語ニ同ジ。

〜へどつく ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 嘔吐 [illegible] トヲ中スゾト、アヲへどヲ吐キテ、ノタマフ」

べとつち (名) 粘土 ネバリタルツチ。ヘナツチ。ネバッチ。ネンド。へな(粘土)ノ條ヲ參見セヨ。

へどへど [illegible] 身體ノ甚ダシク疲勞セル[illegible]状ニ云フ語。

べどべど [illegible] 物ノ粘着スル状ニ云フ。

ベトン (名) 〔羅甸語、Bitumen. ヨリ轉ジタル佛蘭西語、Béton. 獨逸語、Beton. 英語、Beton.〕 こんくりいと(泥凝土)ニ同ジ。

へどもど (副) モノニ狼狽スル状ニ云フ語。マゴマゴ。

〜へな (名) 粘土 [illegible] 埴、粘土也[illegible] クシテ粘アル泥土。荒壁ヲ塗ルナドニ用ヰル。ヘナツチ。ネバツチ。[illegible]

へないも (名) みづばうさう(水疱瘡)ニ同ジ。[illegible]もノ義、疱ニ近キ意也」

へなたり (名) [illegible] 〔隔ノ意ニテ、隔リ

ト通ズルカ。辛螺ノ蓋ノ異名。甲香、貝香トモ云フ　書言字考節用集、五、介甲門「海螺、甲螺、ヘナタリ、蟨、ヘタ（一名、甲香）」同、同「海螺、流螺、甲螺、ハイ」同、同「蟨、カイノフタ、甲香、カイガウ」徒然草、第三十四段「甲香ハ、ホラガヒノヤウナルガ、小サクテ、口ノ程ノ、細長ニシテ出デタル貝ノ蓋ナリ、武藏ノ國金澤トイフ浦ニアリシヲ、所ノ者ハ、へなたりト申シ侍ルトゾイヒシ」

へな-ちょこ (名) 埴猪口 明治十四五年ノ頃、山田風外、野崎左文等四五人、神田明神ノ境内ナル開花樓ニテ酒宴ス、其席ニテ使用セシ杯ハ、内部ニ於多福、外部ニ鬼面ノ樂燒ニテ、面白キモノナリキ。コレニ酒ヲ入ルレバ、ジウジウト音シテ、酒ヲ吸ヒ、ブクブク泡立ツ土製ノ猪口ナリ、衆呼ビテへな猪口ト云ヒシトゾ。今、未熟者ナドヲ、揶揄、又ハ、罵詈スルニ、へなちょこ、或ハ、へなちょこ野郎ナドト云フ。

へな-つち (名) 粘土 へな(粘土)ニ同ジ。

へな-ぶり (名) ひなぶり(夷曲)ノモヂリナラム。明治三十七八年ノ頃、盛ニ流行セシ一種ノ狂歌。流行語ナドヲ用ヰテ、新趣味ヲ詠ゼリ。

へな-へな (副) 〔へへやかなるノ義ニ〕織弱、織弱ナル狀、卽チ、シナヒ撓ム狀ニ云フ語　出雲風土記、意宇郡「霜黑葛閇閇耶耶爾」（一本、「閇那閇那」ニ作ル）

へ-なみ (名) 邊波 海邊、又ハ、舟ノ緣ニ打チカカル波（沖津浪ニ對ス）萬葉集、三、廿四「沖津浪、邊波立ツトモ、ワカセコガ、三船ノトマリ、瀾立タメヤモ」續古今集、七、神祇「熊野川、瀬切ニ渡ス、杉舟ノ、邊波ニ袖ノ、濡レニケル哉」

へな-も (名) はうさう(疱瘡)ノ俗名。イモガサ。マメガサ。モガサ。　玉海、三十五、治承四年八月廿一日「召主税頭定長女、醫博士經基等令見之、共申疱瘡之由、注、疱瘡、俗云へなもこ」

へ-な・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）隔 〔隔ノ成ル意〕へだたる(隔)ニ同ジ。　萬葉集、八、廿二「春霞、棚引ク山ノ、隔レバ、妹ニ逢ハズテ、月ゾ經ニケル」（古義ノ訓）同、廿、十三「初尾花、花ニ見ムトシ、天ノ川、隔奈里ニケラシ、年ノ緒長ク」同、十七、廿 長歌「山河ノ、隔奈里テアレバ、戀シケク」

へ-に (名) 經粉 〔頰丹ノ轉カ〕又、べに。臙脂ヲ白粉ニ和シタルモノ。頰ニ着ケテ粧フ。江戸時代ニハ、桃色オシロイ。漢土ニ、天子、諸侯ノ賤妾ノ月事アル時、丹ヲ面ニ注ケテ標トス、コレヲ的ト云フ、後ニハ月事ニモ因ラズ、面粧トス。（輟耕錄）(次條ノ語ヲモ參見セヨ)　倭名抄、十四、容飾具「經粉、閉邇、經粉、赤也、染(粉)使赤、所以着頰也」名義抄「經、ヘニ、經粉、ヘニ」榮花物語、十九、御裳着「齒黑メ黑ラカニ着ケテ、へに赤ウ假粧セサセテ」下學集、下、彩色門「經粉、べニ、又云臙脂也」源、廿六、常夏「べにト云フモノ、イト赤ラカニカイツケテ、髮梳リツクロヒタマヘル、サル方ニ賑ハハシウ、愛敬ヅキタリ」廻國雜記(文明、道興准后)「文明十八年、云云、べにガ谷トヲリテ、化ハヒ坂ヲ越トテ、俳諧、當ニ當ル、べにガ谷ヨリ、ウツリ來テ、早クモ越ル、ケハイ坂哉」

べに (名) 紅 〔前條ノ語ノ轉〕紅花ノ瓣ヲ搾リテ、製煉シタルモノ。水ニ溶ケバ、色甚ダ鮮ニ、クレナヰナリ。畫料、染料、婦人ノ假粧等ニ用ヰル。(紅花ノ條、見合ハスベシ) 臙脂 繪具ニ用ヰル紅ハ、彩色紅ト云ヒテ、製、稍、異ナリ。口紅ハ、脣ノ假粧ニ用ヰル。京都ノ製ニテ小町紅ナド云フ。女重寶記(元祿)「紅ナドモ、頰サキ、口ビル、爪サキニ塗ルコト、薄薄トアルベシ、濃ク赤キハ賤シ」

ぺニイ (名) 片 〔英語、Penny.〕又、べに。英國ノ銅貨ノ名、志ノ十二分ノ一。我ガ約四錢ニ當ル。二以上ナラバ、ぺんス(Pence.)ト唱フ。

べに-かづら (名) 紅葛 あかね(茜)ノ一稱　重修本草綱目啓蒙、十五、蔓草類、茜草「アカネ(根赤キ故ニ名ク)、アカネカヅラ(常州)、べにかづら(駿州)、云云」

べに-がに (名) 紅蟹 あさひがに(朝日蟹)ニ同ジ。

べに-かのこ (名) 紅鹿子 紅色ノ鹿子シボリ。本朝若風俗(貞享、西鶴)八「竹中ハ、淺黃カヘシ下着ニ、中ハ紅鹿子、上ニ鼠シュスノ紋付」井筒業平河内通(享保、近松作)二「シタ紅鹿子、中ハ丈、コノ縫入レノ染小袖」

べに-かは (名) 紅革 紅色ノナメシガハ。元ハ和蘭人ノ舶來セシ品ナリ。

べに-がひ (名) 紅貝 櫻貝ノ一種。一方、長ク尖リテ、色、深紅ニシテ、極メテ美麗ナリ。大ナルハ一寸。イロガヒ。

べに-がへし (名) 紅返 衣服ノ紅色ノ裏ノカヘシ。モミガヘシ。好色一代女(天和、西鶴)一「紅がへし(一本、もみがへしニ作ル)ノ下着ニ、鶯形ノ白小袖ヲカサネ、黑キソキエリヲ掛ケテ」

べニガラ (名) 紅殼 べんがらノ條ヲ見ヨ。

べに-ぐま (名) 紅隈 くまどり(隈取)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ

べに-こぶし (名) 紅辛夷 樹ノ名。こぶし(辛夷)ノ條ヲ見ヨ。

べに-ざけ (名) 紅鮭 鮭ノ一種。べにますトモ云フ。多ク千島、かむさつか、及、亞米利加西海岸ナドニ產ズ。又、各地ノ湖ニテモ養殖セラル。形、鮭ニ似テ、背ハ美シキ青色ヲ呈シ、側面ハ銀白色ナリ。肉ノ色、甚ダ紅ニシテ、美味ナリ、罐詰ナドニ製セラル。

べに-ざこ (名) 紅雜魚 いとよりうを(絲撚鯛)ノ一名　其條ヲ見ヨ

べに-さしゆび (名) 紅差指 古名、名無指。手ノ指ノ、中指ト小指トノ間ニアルモノ。皿ニ、紅、又ハ、藥ナドヲ研リ溶クニ用ヰレバ名トス　第四指　一名、べにつけゆび。クスリユビ。鬼姆指。無名指　書言字考節用集、五、肢體門「無名指、べにつけゆび、ナナシユビ、クスリユビ」雜字類編(寶曆)「べにさしゆび、鬼姆指」大奴佐(貞享)一、「三味線習やう心得の事、絃ヲナサユル指ハ、人サシ指ナリ、紅さし指、中指ニテモナサユル」

べに-ざら (名) 紅皿 假粧ノ紅ヲ溶カシツクル小皿。隆信集、物名、べにざら「タビタビニ、アフハ嬉シキ、ケフサヘに、さらニモ迷フ、ワガ心カナ」井筒業平河内通(享保、近松作)二「鏡臺、紅皿、白粉筥」「紅皿缺皿」

べに-しぼり (名) 紅絞 紅色ノシボリ。赤色ノ絞染。又、ソノ布帛。

べに-しゃうが (名) 紅生姜 梅酢ニ漬ケテ、紅色ニシタル生姜　其製法ハ、新生姜ヲ熱湯ニ入レ、酢ト鹽トヲ合ハセタル中ニ入レテ、暫ク置ケバ、紅色出ヅ。今ハ、多ク食用紅ニテ紅ニ染ム

べに-すげ (名) 紅菅 菅草ノ一種。葉、細小ニシテ、花、紅色ナルモノ。紅菅　和漢三才圖會、九十四、末、濕草類、莎條兒「キスゲ、黃菅草、紅菅草、共俗稱、云云、紅菅草、莖與黃菅

草ノ同、油[illegible]開ノ花、濃紅色、似ニ萱草花ニ」

べにすずめ (名) [illegible] 小鳥ノ名。形、雀ノ雀ヨリ小サク、全身、及、觜、脚、共ニ[illegible]、頭、頸、腹ト、黒キ處アリ、翅、黒クシテ白點アリ、尾モ黒シ。モトハ、舶來スルヲ籠ニ養ヘリ。朱砂鳥 [illegible]

べにすゐしやう (名) [紅水晶] 紅色ヲ帶ビタル水晶。紅石英。[illegible]

べにぞめ (名) [紅染] 紅色ニ染ムルコト。又、ソノ染メタルモノ。又、クレナヰゾメ。管見記(元亨、藤原公衡)追錄、正和四年四月廿五日[illegible]、クシ臙子ヤ紅染ハ、都デナケレバナラヌ」[illegible]

べにそめづき (名) [紅染月] [此月、黎木ミナ紅葉スル故ニ云フト] 陰暦、八月ノ異名。藏玉集、紅染月「シグレツツ、ハジノ立枝モ、紅葉シテ、紅染ノ月ノ、深キ紅」古今要覽稿、十六、時令部、はつき、八月、云云、此月ノ異名ヲ、ササハナサ月(藏玉集)トイヒ、木染月、草津月(本朝俳諧)トイヒ、秋風月、月見月、紅染月(藏玉集)トイヘルモ、和歌ヨリ出デシ名目ナリ」

べにたけ (名) [紅茸] 茸ノ一種。形、略、初茸ニ似テ、蓋ノ色赤ク、背、白ク、莖、淡紅ナリ。秋生ズ。毒アリ。紅菌。春生ズルヲ、うぐひすだけ(鶯茸)ト云フ。毛吹草(寛永)三「紅粉茸」書言字考節用集、六、生植門「紅菌、ベニタケ」[illegible] 俳)「緋茸」 松風村雨束帶鑑(元祿、近松作)四、つかさのまへ道行「アラシヲキケバ、昔ノ秋ノ、タケガリニ、シメヂ、ハツタケ、べにたけヤ」

べにつけゆび (名) [紅付指] べにさし

ゆび(紅差指)ニ同ジ。和爾雅、三、身體門「無名指、[illegible]、ベニツケユビ」書言字考節用集、五、肢體門「無名指、ベニツケユビ」身體和名集 [illegible]

べにつばき (名) 紅椿 [illegible] ノ花咲ク椿。又、紅ノ色ノ椿ノ花。嫗山姥(正德、近松作)二、[illegible] ノべにつばき、手マリ、山ブキ、カキツバタ」

べにのはな (名) [紅花] 次條ノ語ヲ見ヨ。

べにばな (名) [紅花] 古名、クレノアヰ。菊科ノ草ノ名。早春ニ種ヲ蒔ク、莖、高サ二三尺、莖葉、刺アルコト薊ノ如シ、葉、互生シ、細長クシテ二寸乃至四五寸、黄綠色、邊ニ刺アリ。仲夏、枝ノ末毎ニ花ヲ生ズ、毬、成シテ、刺多ク、細瓣、毬上ニ出デ、薊ノ花ニ似テ、紅黄ナリ、瓣ヲ摘ミテ、紅ヲ製ス、故ニ、紅ノ花、末摘花ノ名モアリ、漢方醫、藥用トモス。[illegible]

べにひは (名) [紅鶸] 眞鶸ヨリ、稍、小サクシテ、頭、深紅ニ、胸、淡紅ニシテ、脚黒キモノ。大和本草、十五、小鳥類「ヒハ、云云、べにひはハ、カラヒハト大サ同シ、形モ同シ、頭ノ上、眞紅、ムネハ淡紅、脚黑シ」

べにふで (名) [紅筆] クチベニヲ、付クルニ用キル筆。井筒業平河内通(享保、近松作)二「思ヒヲソムル紅粉筆ヤ、千千ノ心ヲ三十一字」

べにべに (名) 紅紅 [紅ヲ重ヌ] 小兒ノ語。衣服ノ稱。ベンベ。べべ。

べにぼたん (名) [紅牡丹] 紅色ノ花ノ牡丹。(白牡丹ニ對ス) 牡丹道まるべ、乾、一、牡丹ト題ニ書テハ、紅牡丹ノ事ニ成ベキカ、丹ノ字アカシ[illegible]

べにます (名) 紅鱒 [illegible] ニ同ジ。

べにまめ (名) [紅豆] [花、淺紫色ナレバ云フ] のまめ(野豆)ノ一稱。

べにもち (名) 紅餅 [illegible] 粉ヲ、水ニテ圓クコネ、紅ヲ加ヘテ、餅ニ搗キ、[illegible] ノ形ニ切リタルモノ。

べにりんご (名) 紅林檎 古名、カラナシ。又、[illegible] 林檎ノ屬、寒國ニ生ズ、形、林檎ニ似テ、葉、細長ク、花ハ林檎ニ似テ、更ニ紅ナリ、實、林檎ヨリ大キク、熟スレバ、內、外、共ニ紅ニシテ、ヤハラカナリ、切リ乾シテ菓トス。アカリンゴ。[illegible] ンキン、アカリンゴ、べにりんご、云云、林檎ノ中ニシテ、[illegible] 國ニ生ズ、云云、實ノ形、林檎ト同キアリ、又小サクシテ微長ナルモアリ、皆熟シテ全ク鮮紅ナリ、林檎ノ熟シテ半紅ナルニ異ナリ」

べにゑ (名) [紅繪] 丹繪ノ、一歩進ミタル一枚摺ノ繪 紅殼、丹、黄汁ナドヲ用キテ、二三度摺ニシタル浮世繪、役者繪ヲ、紅彩色ニシタルモノ 江戸ニテ出版セリ 享保ノ初ニ起リ、京、大坂ヘモ渡ル 後、錦繪ト變ズ。又、江戸繪たんゑ(丹繪)ノ條ヲモ參見セヨ。近代世事談(享保、菊岡沾涼)四、繪、云云、コレ又江戸ノ一ツノ産ト成テ、江戸繪ト云」

へめし (名) [戸主] 一戸ノ家ノ主人。ヤヌシ。コシュ (戸人ニ對ス) 孝德紀、白雉三年四月「凡戸主皆以家長、[illegible]凡戸皆五家相保」

へのこ (名) [陰核] (一)陰莖ノ中ノ核、[illegible] 和名抄「陰核、[illegible]、ヘノコ、フグリ」[illegible]、陰核、ヘノコ、「同」[illegible]ハ[illegible]ナリ、[illegible] へのこ」 (二)俗ニ、誤リテ、陰莖。男子ノ根、[illegible] 男根 [illegible] ハラズ、古代ヨリノ名也、云云、倭名抄ニハ、陰囊ノ中ノクリクリ也、ソノクリクリヲ、古ハヘのこト云ヒシ也、然レバまらノ事ヲへのこト云ハ誤也」

へのこなり (名) [へ字形] への字ノ如ク曲レルコト。又、への字ノ如ク曲レル形。平家女護島(享保、近松作)三「娘立汁ニムシツク兒モ、スクベイノ、への字なりカナセシロイ「ロヲへの字なりニ結ブ」

へのふだ (名) [戸帳戸籍] 上古、良民ノ戸籍 [illegible] 人別帳。[illegible]

へのへのもへの (名) へへののもへじノ條ヲ見ヨ。

へばりつく ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [粘着] (一)側ヲ離レズ、ツク。(二)ネバリツク。コビリツク。續猿蓑集(元祿)秋「マツ茸ヤ、シラヌ木ノ葉ノ、へばりつく」

へばる ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) (一)側ヲ離

レズ。(二)ネバル。貼ル。(三)疲レハテル。ヘタバル。

へ-び (名) 【蛇・虵】 〔へみノ轉、其條ノ語原ヲ見ヨ〕ヘミ。クチナハ。ヤトノカミ。タルナム異名、ナガムシ。タルラムシ。タルナムシ。蟲ノ名。身細クシテ長キコト繩ノ如ク、尾、次第ニ細シ。全身、細カキ鱗ニテ被ハレ、脚、耳、顯ハレズ。秋、蟄スル前ニ、皮ヲ蛻(モ)ク、白クシテ薄紙ノ如ク、首尾損セズ。大小、種類、甚ダ多シ。其他、にしきへび(錦蛇)、からすへび(烏蛇)、うみへび(海蛇)、やまかがし(赤楝蛇)、あをだいしやう(青大將)、等、各條ニ註ス　倭名抄、十九「蟲豸類、蛇、一名、反鼻、俗或呼、蛇移」(反鼻、其音、片尾」(反鼻ハ蝮土ノ蟲ノ一名ニテ、其鼻反リタレバ云フ、其音ヲ我國ノ蛇ニアツルハ、牽強ナリ、然レドモ此文、蛇ヲへびト云ヒシ證トハナルナリ)　三代實錄、廿一、貞觀十四年五月二十日「以、纒結二蛇尾、倒懸二樹上一云云、蛇落、地牛死」　今昔物語、十三、第四十三語「木ノ下ニ、小サキ蛇ノ一尺許ナル有リ、只有ル蛇ナメリト、思フ程ニ、明ル年ノ春、此ノ木ノ下ニ去年ノ蛇出來ヌ」

へび-いちご (名) 【蛇莓】 古名、へみいちご　草本ニシテ、原野ニ多シ。秋生ジテ蔓ヲ長ジ、冬枯レズ。葉ハ五生シ、三葉、一蒂ニ集リ、形、長ク、鋸齒粗シ。春ノ初、葉ノ間ニ、五瓣ノ黄花ヲ開ク、一莖、一花、大キサ四五分、實、赤ク、くさいちご(草莓)ノ如シ、毒アリ。一名、クチナハイチゴ。本草和名、上、卅十「蛇莓汁、倍美以知古」字類抄「蛇莓汁、ヘミノイチコ」　書言字考節用集、六、生植門「蛇莓、蛇苺、ヘビイチゴ」　蔵石雜志、文化、四、十一「苦葉草、蛇莓ナトイフ草ハ、人ソノ毒アランカ　オソレテ、手ニダモ、ラズ」　立峯集(寛延)夏「蛇いちご、虫弓提ケテ、上背ヅレ」　鶉鳳浚栞(寛永)三「ハイマトフ、ツルハくちなは、いちご哉」

へび-がみ (名) 【蛇神】 又、へびもち。蛇ノ靈。又、其靈ヲ使フ妖術　犬神(イヌガミ)ノ類。日向國ニアリ。(中國ニモアリト)。蛇神アル家ノ者ハ、人、婚ヲ通ゼズト云フ。(名言通、上)　大和本草、十四、蟲類「蛇、クチナハ、云云、日本ニ中國ノ小蛇トテ、安藝ニ蛇神アリ、又、タウベウト云、人家ニヨリテ、蛇神ヲツカフ者アリ、其家ニ小蛇多クアツマリ居テ、他人ニツキテ災ヲナス事、四國ノ犬神、備前ノ兒島ノ狐ノ如シ」　嬉遊笑覽、八、忌諱「犬神、蛇神、醍醐隨筆云、中國、西國ノアタリニ、虵神ヲモチテ、人ニツケナヤマストヤラム、又、犬神トオナジカルベシ」

へび-くち (名) 【蛇口】 〔形、蛇ノ口ニ似ル故ニ云フ〕紐、綱ナドノ端ヲ縮ネテ、環(ワナ)ヲナセルモノ。

へび-ぐみ (名) 【蛇茱萸】 灌木ノ名。うぐひすのき(鶯木)ノ條ヲ見ヨ。

へび-ぜめ (名) 【蛇責】 昔、拷問ノ一種。罪人、又ハ、嫌疑者ヲ縛リ、數多ノ蛇ヲ纏ハシメテ、責ムルコト。　微妙公御夜話「天徳院樣御局、其時分、金澤中ノ沙汰ニ、御局ヲ蛇責ニ仰付ケラレ候ト申譯リ、取沙汰有之候」(微妙公ハ、加賀藩主前田利常、天徳院ハ利常ノ室、秀忠將軍ノ女、珠姫)

へび-たけ (名) 【蛇茸】 初茸ニ似テ、蓋ノ裏、靭ミナキモノ、毒アリ。紅菰　和漢三才圖會、百一、芝栭類「蛇茸、ヘビタケ、似二初茸一而裏無二皺、初茸名ニ赤茸ハ有、毒不可食」

へび-だま (名) 【蛇玉】 山松露ニ似タルモノ。毒物ナリト云フ。

へび-つかひ (名) 【蛇遣】(ヘビツカイ) (一)乞食ナドノ、黄頷蛇(アヲダイシヤウ)、眼鏡蛇(メガネ)(印度ナドニテ)等ヲ弄ビ、戲レテ錢ヲ乞フモノ　弄蛇兒　嬉遊笑覽、十二、蛇づかひ「蛇づかひノ始、ハジメ捕ヘタル時、木綿ギレニテトラヘ、逆シマニシゴケバ、鱗ノ縁ニイト細カナル刺アルガ、皆木綿ニ着テ落ル、又、口ヲアケテ、木綿ギレヲ含マセ、堅クツメテ引出セバ、細ナル齒殘リナクトレテ、蛇ハカナクヨワルヲツカヘバ、自由ニナルナリ」　尤雙紙(寛永)上、十、うるさき物のしなじな「へびつかひ、犬ノツルミタル」　(二)ヌラクラモノノ異稱。嬉遊笑覽、十二、蛇づかひ「葛藤(カヅラ)、下、闘札リント眞葦ノ聟アヤツリニ、尾花曲球打蛇づかひ、又不角ガ選集ニ、放下ニナラヌ輕薄ノ蛇、トイフ句アリ、是ハ世ニぬらくら者ヲ蛇づかひトイフ、是ナリ」

へび-と (名) 【戸口・封戸】 (一)一戸ノ家内ニ屬スル人、家族(戸主ニ對ス)戸人。戸口　皇太神宮儀式帳「戸口二人、戸口夾一人」　(二)〔ふご(封戸)ノ古語〕大化二年正月ニ、世襲ノ土地、人民ヲ、スベテ廢シテ食封ヲ賜フコト。(封ハ賜、寄戸ト云ヒテ、民戸ヲ賜フナルヲ、ソハ其戸ノ内人ノ出ス租庸調ヲ賜ハルコトナリ)　孝德即位紀「以二大錦冠一授二中臣鎌子連一(爲二内臣一)、增二封若干戸(ヘヒト)一」　天武紀、下、五年四月、勅「諸王諸臣被給封戸(ヘヒト)之稅、云云」

へび-の-きぬ (名) 【蛇衣】 蛇ノ抜殼。略シテ、きぬ。　一茶發句帳(嘉永板)「古婆婆ガ、屑ニカケケリ、蛇のきぬ」

へび-のぼらず (名) 小蘗(メギ)科ノ小灌木。高サ二三尺、多クノ枝ヲ分チ、針狀、又ハ、三裂セル刺ヲ有ス。葉ハ長倒卵形ニシテ縁ニ刺アリ、五六月頃、一寸許リノ總狀花序ヲナシテ花ヲ綴ル、色、黄ニシテ小サク、後、橢圓形ノ赤キ漿果ヲ結ブ。一名、オホトリトマラズ　伏牛花　重修本草綱目啓蒙、廿五、灌木類「伏牛花、へびのぼらず」

へび-もち (名) 【蛇持】 〔蛇持ノ義、犬神(イヌガミ)、飯綱ノ類〕　へびがみ　又、ソレヲ使フ邪術者　へびがみ(蛇神)ノ條ヲモ見ヨ。　嬉遊笑覽、十二、蛇づかひ、蛇持「四國ニ蛇持ヲツカフ者アリ、是ヲへびもちト云フ、石見ナドニテ是ヲ土瓶トイフ、蓋フル器ナモ名ヅクルナルベシ」

へ-ひり (名) 【放屁】 屁ヲ放ルコト。へひ。音便ニ、へっぴり。　古今著聞集、十六、興言利口「同院ニ、へひりノ判官代ト云フモノアリケリ、云云、屁ヲひるヨリ外ノ事ナカリケリ」　風來六部集(平賀源内)放屁論「サイツ頃ヨリ、兩國橋ノホトリニ、屁ヒリ出デタリトテ、評判トリドリ」

へひり-むし (名) 【放屁蟲】 蟲ノ名。長サ八分許リ、上ハ狹ク、下ハ廣ク、和ノ斑猫(ハンメウ)ニ似タリ。背ニ堅甲アリテ、飛バズ、色、黑クシテ黄赤ノ斑アリ、脚モ黄赤ナリ。夏秋ノ間、陰天晩間ニ出デテ、地上ヲ行クコト速シ、手ニテ按ズレバ、黄色ノ氣出ヅルコト煙ノ如ク、聲アリ、臭アリ。又、ヘコキムシ。氣蟹　行夜　名義抄「蟲、(一本、□)へヒリムシ」　字鏡「□、戸比利虫」　書言字考節用集、五、氣形門「氣蟹、行夜蟲、へヒリムシ」　七番日記(文化、一茶)「屁ひり蟲、笥ガ垣根ト、シラレケリ」　俳諧勧進牒(元祿、路通)上、秋「此秋モ、鳴キソコナフテ、屁たきむし」

ペプシン (名) 【百布聖】 〔英語、Pepsin (e).〕 胃液中ニアル一種ノ酵素　蛋白質ヲぺぷとん(次次條ノ語ヲ見ヨ)ニ變化セシメテ、消化ヲ助クルモノ。

へ-ふだ (名) 【戸籍】 へノフダ。戸籍(コセキ)。人別帳。ヘフミダ。ヘフンダ。

ペプトン (名) 【百布頓・百弗頓】 〔英語、Peptone.〕 食物中ノ蛋白質ヨリ、胃液、及、膵液(スキ)ノ作用ニヨリテ生ジタル消化生産物ノ一。不溶解性ヨリ溶解性ニ變ジタルモノ、水、酸、あるかりナドニ溶解シ、熱ニヨリテ凝結セズ。

へ-ふみだ (名) 【戸籍】 次條ノ語ニ同ジ。

へふんだ（名）〔戸籍〕〔戸札ノ意〕へ、ふみた（戸籍）ノ音便。へノノダ。ニ云ヘキ（戸籍）ニ同ジ。神功皇后攝政前紀「新羅王、云云、[illegible]」天智紀、九年二月「造戸籍、斷盜賊與浮浪」

へへ（名）[illegible]ノ陰門。[illegible]今ノ[illegible]ニ云フ陰門。ホト。ツビ。クボ。玉門。べべ。ソソ。女陰。（コノ語、地方ニヨリテ異稱多ク、又[illegible]少カラズ、今二三ヲ擧グ）書言字考節用集、五、肢體門「女陰、へへ、[illegible]」倭名抄[illegible]「陰、へへ、ツビ、奥羽及越路、又尾張邊ニテ、べべトイフ」きのふはけふの物語「水戸ノ追儺ノ夜ニ、トナヘハヤス詞ニ云、云云、鬼ノオバパノおべべ」

へへ（感）セセ、笑フ聲ニ云フ語。浮世[illegible]「へ、へへ、コレハ奴ガ四文チャゴザリマセヌ」

べべ（名）（一）[illegible]ヲ略シテ、[illegible]語。衣服。（畿内、東海道ノ小兒語）小兒ハ視覺敏ナレバ、單純ナル赤色ナドヲ好ミテ、[illegible]喜バズ、足利時代中期ノ福富草紙、[illegible]小袖ジバ、ト見エタリ。又、べんべ[illegible]物類稱呼、一、人倫「關西、關東トモニ、べべトイフハ、小兒ノ衣服ノ事ナリ」福富草[illegible]小袖ヲウチ着テ歸リ給フヨト思ヘバ、云云、赤トべべカト見シハ、ツブリニアヘセシ血ナリケリ」俳諧發句帳（寛永）冬「山賤ニ、皆べべ着スル、木ノ葉カナ」（鶏姦雜著、一）正章千句（慶安）「物ヲホシガル、心ムササヨ」綠兒ガ、べべヌラシテハ、片キサリ」（[illegible]雜著、[illegible]松の葉（元祿）一、さんやをどり「二ツ紋ノチンチリメンノべんべヲ着セテ」（二）[illegible]ノ語ニ同ジ。

べべのお（名）牛ノ子。コウシ。（中國、四國地方ノ方言）犢　物類稱呼、二、動物「牛、[illegible]云云、犢[illegible]四國ニ、[illegible]、べべのおトイフ、中國、東國[illegible]モニ、べべ[illegible]トイフ」

へのもへじ（名）文字遊戲ノ一種。平假名ニテ、へヘ（眉）のの（目）も（鼻）へ（口）じノ七字ヲモッテ、書キタル人ノ顔[illegible]ノ形ノモノ。又、[illegible]

へへやかま（副）〔荏苒〕（一）空シク時日ヲ經過スル狀ニ云フ語。ジンゼン。名義抄「荏苒、ツツハヘタリ、ヘヘヤカニシテ、シシヤカニシテ」（二）ヤハラカナル狀。又、ノンビリシタル狀ニ云フ語。ホッキナド[illegible]

へべれけ（副）甚ダシク酒ニ醉ヒテ、本心ヲ取亂シタル狀ニ云フ語。

へぼ（名）〔平凡ノ略〕（一）ツタナキコト。ヘタ。へボコ。平凡。浮世風呂[illegible]化、三馬）初編、下「マタへぼ將棊ドモガ、蠅ノタカッタヤウニ、初メタノ」（二）轉ジテ、果物ナドノ出來損ジタルモノ。俚俗、[illegible]ドヲへぼト云、云云、瓜ノウラ生ヲへぼ瓜トイフ」

へぼい（形）弱シ。カヨワシ。虛弱ナリ。「此ノ兒ハへぼい兒ダ」[illegible]

へぼくた（名）へボニシテ、取ルニ足ラザルコト。又、ソノモノ。へボクソ。

へま（名）（一）マノヌケテアルコト。氣ノ利カザルコト。マヌケ。「へまヲヤル」（二）マノワルキコト。物事ノ、クヒチガフコト。「へまヲ見ル」

へまき（名）[illegible]　弋射ノ繳ヲ卷キ收ムル具。いづる（弋射）ノ條ヲモ見ヨ。倭名[illegible]「[illegible]、[illegible]、弋射收繳具也」

へまさる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔經優〕[illegible]、時日ヲ經ル[illegible]ニ[illegible]。顯宗紀[illegible]「世ノ人ノ、トアルカカルケヂメモ、[illegible]」サルレバ、云云

へまむしよにふたつ（名）文字遊戲[illegible]ノ一種。へ、ノ字、目ハ、[illegible]ノ字、鼻[illegible]、口ハ[illegible]、ムシノ二字、耳ハヨノ字（以上片假名）、體ハ入道ノ二字（草書文字）ヲ書キタルモノ。[illegible]山の[illegible]「[illegible]月ノ[illegible]ヲ、[illegible]似タル[illegible]、[illegible]ハ、へまむし[illegible]、[illegible]集、葉室大納言殿白畫自讚、世ノ中ヲ、ラクニへまむし、よ入道、アレバアルママ、ナケリャソノブン」[illegible]筑波集（寛永）[illegible]道ノ、[illegible]小刀ヤ、[illegible]ヲシテヤ、イクよへまむし、よ[illegible]、[illegible]へまむし、よ入道」

へみ（名）〔蛇〕〔延蟲ノ約、白蟲ノ略、其ノ名、おろち、[illegible]〕へみノ類）、轉ジテ、へびトナル。（黍、きび、夷、えびすト同趣）長蟲ノ名モアリ」蟲ノ名。今、へび（蛇）ト云フ。其條ヲ見ヨ。[illegible]クチナハ。略シテ、[illegible]倭名抄、十九[illegible]、[illegible]信美、一云、久知奈波[illegible]下總[illegible]、[illegible]形門、蛇、へミ、蛇、クチナハ」佛足石歌「四ツノ閉美、五ツノ鬼ノ、アツマレル、キタナキ身ヲバ、イトヒ[illegible]ツベシ、離レ棄ツベシ」

へみ（名）〔椐〕〔節、蛇ニ似タレバ云フカト云フ〕樹ノ名。今、丹波ニテ、へみのきト云フアリ、山でまり、又、やぶでまり、おねづ、トモ云フ。忍冬科ノ落葉灌木、高サ十尺許リ、葉ハ繡毬ノ葉ニ似テ、花ハ白ク、赤キ實ヲ結ブ。木ニ節アリ、皮ノ色、紫赤ニシテ皺アリ、古人、牛ノ鼻木トシ、又、杖トスルハ、是レナリト云フ。倭名抄[illegible]、[illegible]、[illegible]木[illegible]中[illegible]杖」字[illegible]椐、へミノ木、木ノ名也」

べみ（辭）べクアル故ニ。べキニヨリテ。[illegible]允恭紀、廿四年六月「イタ泣ケバ、人知リヌ[illegible]、云云[illegible]クモアレニモ、散リヌ倍美、[illegible]ニコキ入ツ、[illegible]葉、散リヌべみ、夜サヘ見ヨト、照ラス月影」

へん（名）[illegible]古ヘ、[illegible]ニ[illegible]官ノ[illegible]ヲ定ムルニ[illegible]大キナ方ヒキ、[illegible]位ヲ[illegible]キ[illegible]ヨリテ定ムル位次。中務省式「[illegible]」[illegible]

へん（名）〔變〕（一）常ニ變リタルコト。不時ノ出來事。[illegible]聽ニ東方之變」古詩、焦仲卿妻「府吏聞此變、因求[illegible]假[illegible]」[illegible]ズシテ、不意ナルコト。奇行。[illegible]臨機ノ手段。方便。權。又[illegible]（四）音樂ニテ、一音ノ調子ヲ、半音ダケ下グルモノ。又、其下グル時、其音符ノ右側ニ記スル符號。[illegible]

へん（名）〔篇〕〔編〕（一）詩文ノ首尾完結シタル詞章。文ノ章ヲ成シタルモノノ稱。又、ソレヲ數フル[illegible]ニ云フ。[illegible]書中ノ部分[illegible]「初篇」「二篇」「前篇」「中篇」「後篇」「上篇」「下篇」（三）へんもく（篇目）ノ略。其條ヲ見ヨ。（四）一綴リニナリタル書物。[illegible]孔氏之遺書、初學入德之門也、於今可見古人爲學次第者、獨賴此篇之存」

へん（名）〔偏〕〔邊〕（一）片寄ルコト。書經、[illegible]中庸[illegible]

日、不偏之謂中、不易之謂庸。沙石集、八、上、第七條「イヅレモ偏也、信心ノアマネクトモ、行モ名モ一ツモ、バフスベシ」 (二)漢字ノ體ノ左方ニ從フモノ。(其右ノ方ニアルヲ作ト云フ。傍、右旁、右文) 譬ヘバ、紙、硯ノ字ニテ、糸、石ハ偏ニテ、氏、見ハ作ナルガ如シ。 庶言(五代、王保定)「未識偏旁、高談稷契」 許誠詩「強奪中華推敲盡」 宋明帝多忌諱、改騧馬字、爲馬瓜、以騧字似禍故也」 太平記、一、「偏ニツケテモ、作ニツケテモ、モクトコソ讀ムベカリケルト、掌ヲ拍ッテゾ笑ハレケル」

へん (名) [返遍] 度數ヲ云フ語。カヘリ。タビ。度。回。 兵庫寶式「拝号、云云、遍」、淺三遍、毎遍、一日」「退ヲ重メ」十返」幾返」

へん (名) [邊] (一)〔ホトリ。アタリ。白居易、遊悟眞寺詩「一息幡竿下、再休石龕邊」竹取物語「難波ノへんニオハシマシテ」源、四十九、東屋「イカデ、カノへんノコト、ツタヘツベカラン人モガナ」「コノ邊」「ソノ邊」 (二)クニザカヒ。國境。 國語、吳語「親委重罪、頓顙於邊」 (三)クニザカヒノ守備。國境ノ防備。 漢書、卜式傳「式上書、願輸家財半助邊」 (四)數學ノ語。幾何學ニテハ、多角形ヲ圍ム各ノ線。代數學ニテハ、等號、又ハ、不等號ノ左右ニアル式、又ハ、數ヲ、ソレゾレ左邊、又ハ、右邊ト云フ。

へん (感) 多少輕侮ノ意ヲ含ミ、不同意ヲ表スル應答ノ語。 浮世風呂(文化、三馬)二編、下「へん、ドウモナリヤセン、ソ、チカオ嬢サンノ御乳母ナラ、コッチハ惡太郎サンノオ守ダヨ」

べん (名) [便] 〔吳音、びん、正韻「便、利也、宜也」〕 (一)タヨリ。都合。又、タヨリヨキコト。都合ヨキコト。 後漢書、廉范傳「范乃毀削先令、但嚴使儲水而已、百姓爲便」 荀子、議兵篇「女所謂便者、不便之便也、吾所謂仁義者、大便之便也」 (二)大小便。特ニ大便。屎。 漢書、張安世傳「安世嘗小便殿上、主事白行法、安世曰、何以知其不反水漿耶」

べん (名) [辨辯] (一)ワキマヘ。差別。區別。 中庸、第十九章「序爵所以辨貴賤也、序事所以辨賢也」 (二)〔古ヘノ官名。太政官ニ屬ス。左右ニ分レテ、各、大、中、少アリ、八省ヲ分管シ、官中ノ庶政ヲ執行ス。辨官。 源、一、桐壺「右大辨ノ子ノヤウニ、云云、辨モイトザエカシコキ博士ニテ」 榮花物語、十、日蔭鬘「小一條ノ大將某ノ朝臣、贈太政大臣ニナシテ、彼ノ墓ニ宣命讀ムベシトノタマハスレバ、辨ウケ給ヒヌ」 職原抄、上、辨、左大辨、云云、右大辨、左中辨、右中辨、左少辨、右少辨、云云」 (三)モノイヒヲ巧ニスルコト。口舌。 孟子、滕文公、下篇「予豈好辯哉、予不得已也」 史記、春申君傳「頃襄王以歇(春申君ノ名)爲辯、使於秦」 莊子、齊物論「古之存身者、不以辯飾知」 (四)漢文體ノ一。事ノ理ヲ言ヒ解クモノ。 文體明辨「明、徐師曾」「按、字書云、辨、判別也、其字從言、或從リ、蓋執其言行之是非眞僞、而以大義斷之也、云云、漢以前無作者、云云、至唐韓柳乃始作焉、然其原實出於孟莊」 (五)モノノイヒブリ。コトバヅカヒ。「東北辯」「九州辯」

べん (名) [瓣] (一)ハナビラ。花片。 楊維楨、月下歌「飛出瓣破蓮花瓣」 (二)瓜ノナカゴ。 說文、瓜部「瓣、瓜中實也」 (三)蜜柑ナドノ果實ノ肉ノ一片。 仙仁指遺、蟹公退取柑嗅之、後明日取食、千餘枚皆缺二瓣」 (四)ポンプ、蒸氣機關等ノ兩室ノ間ニ在リテ、一方ニノミ排シ開カルル扉ノ如キモノ。シタ。 (五)心臟ノ內壁、及、血管內ニアリテ、血液ノ逆流ヲ阻止スル膜。

べん (名) [冕] 支那ニテ、士以上ノモノノ、儀式、祭禮ナドノ時ニ用ヰシ冠。玉ノカウブリ。方形ノ板ニ玉琉ヲ以テ飾リ、頂ニ飾物立チタルモノ。 禮記、禮器篇「天子之冕、朱綠藻十有二旒、諸侯九、上大夫七、下大夫五、士三、此以文爲貴也」 周禮、夏官、弁師「掌王之五冕」(註、同上)、「長一尺七寸、廣八寸、前圓後方、以玉瑱之也」

ペン (名) [洋筆] 〔英語、Pen.〕 西洋風ノ筆。鋼、又ハ、鵝鳥ノ羽莖(コレヲ鵝ペンと云フ)ナドニテ作ル。端、殺ゲテ、刻ミアリ、墨汁(インキ)ヲ含マシメテ記ス。

へん-あい (名) [偏愛] 偏(カタヨ)リテ愛スルコト。カタビイキ。 杜荀鶴、登山寺詩「就中偏愛石、獨上最高層」 李中吉、太原詩「竹裏往偏和、麻步、高聲鳴、花間」

へん-あつ-き (名) [變壓器] 電氣ヲ、高キ交流ヨリ低キモノトシ、又、低キ交流ヨリ高キモノニ調節スル機械。長方形、又ハ、環狀ノ鐵心(薄キ鐵板ヲ多ク重ネ合ハセタルモノ)ニ、高壓線(多ク)ト低壓線(少ク)トヲ卷附ケタルモノ。

へん-あつ-しょ (名) [變壓所] 發電所、又ハ、配電所ヨリ來ル交流電氣ヲ、變壓器ニテ、電壓ヲ使用ニ適スル度合ニ變ジテ、各所ニ配分スル所。

へん-い (名) [變異] いへん(異變)ニ同ジ。 漢書、元帝紀「詔曰、迺者火災降於孝武園館、朕戰栗恐懼、不燭變異、咎在朕躬」

へん-い (名) [偏倚][遍倚] カタヨルコト。カタヅムコト。 吳融、秋夕樓居詩「危欄遍倚都無寐、祇恐星河墮入樓」

へん-い (名) [邊夷] 邊境ニアルエビス。國ノハテニ居ル蠻夷。 書言字考節用集、一、乾坤門「邊夷、ヘンヰ」

べん-い (名) [便衣] 〔漢書、李陵傳、註「師古曰、便衣謂着短衣小袖也」〕 古ヘハ、短衣ヲ云ヒシガ、今ハ、フダンギ。ツネギ。常服。 漢書、陳平傳「平、丈夫一取、步出、止、右、母、置、我、丈夫一取、單于、日」

へん-いふ (名) [邊邑] (一)カタヰナカ。邊鄙ナル村。僻邑。 禮記、玉藻「諸侯之於天子、云云、其在邊邑、曰某屏之臣某」 (二)クニザカヒニアル村。 吳越春秋(漢、趙曄)「楚之邊邑胛梁之女、與吳邊邑處女、爭界上之桑、二家相攻、吳國不勝、遂更相伐、滅吳之邊邑」

へん-うん (名) [片雲] 一ノ斷片ノ雲。一キレノ雲。ワヅカノ雲。 熊孺登、贈二侯山人一詩「東時巨女春服、雨破湖山飛片雲」 紫式部日記、廿八、仙遊寺「…ノ夜ヲ相待居ニ、雨師トシテ雲、片雲、雨蔵、而天ニ通ズル時、云云」

へん-えい (名) [片影] カタカゲ。少シノ影。ワヅカノカゲ。 梁簡文帝、侶檻惡詩「片光片影皆麗、一聲一轉煎心」

へん-えう (名) [邊要] 國境ノ要害。邊境ノ要害。 隋書、煬帝紀「詔南華人之勇力絕倫者、剛之勇夫、以備邊要」 晉書、南京謝玄表「以備儲而辭將符、以親姚內遷邊要」

へん-えき (名) [變易] カハルコト。又、カフルコト。變改。 易經、程頤、傳序「易、變易也、隨時變易、以從道也」 李白、古風「變易萬事良悠悠」

べん-えき (名) [便益] 便宜ニテ、利益ナルコト。都合ヨクシテ、爲ニナルコト。 後漢書、謝承、敦陳便益、詔判時政、以補闕失」

べん-えつ (名) [抃悅] 〔楚辭、天問篇、注「手拍曰抃」〕 手ヲウチテ悅ブコト。 鮑照、征北世子誕育上表「凡在含氣、莫不抃悅」 盧摯漢書「孝宣人、傾焦提擧、不日不月、吁乎抃悅」 字類抄「抃悅、ヘンエッ」 運歩色葉集「抃悅、ヘンエッ」 易林節用集、陰長、上、言辭門「抃悅、ベンエッ」

べん-えん (副) [俛焉] 〔俛ハ勉ニ同ジ〕

イツノミ、ホネアヲル以ニ云ソ[illegible]

[illegible]」

へんか　(名)　〔返歌〕　かへしうた(返歌)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]上、[illegible]〈ヘンカ〉」古事談、一、王道后宮「此御歌メデタクテ、[illegible]ハズ」狂[illegible]、ソコデ、ソレガシ[illegible]致シタ」

へんかい　(名)　〔遍界徧界〕　遍キ世界。即チ、三千世界。[illegible]

へんかい　(名)　〔邊界〕　へんきやう(邊境)ニ同ジ。[illegible]

へんかい　(名)　〔邊海〕　(一)近邊ノ海。(二)邊土ノ海。[illegible]後贊、人、關[illegible]」(三)國境ノ海。

へんかい　(名)　〔邊戒〕　邊境ニ於ケル警戒。邊警。國境ノ防備。

へんかい　(名)　〔變改〕　又、へんがい。カヘアラタムルコト。變更。變替ノ條參見セヨ。史記、[illegible]宮室官名、少所變改」宋史、[illegible]

へんがい　(名)　〔變改〕　(一)へんかい(變改)ニ同ジ。[illegible]改、〈ヘンガイ〉」今宮心中(寶永、近松作)上「隱居樣へ任セテ、在所ハへんがいシタガヨイ」(二)心變リ。破約スルコト。心中萬年草(寶永、近松作)中「オ内樣ノ御耳ニ、マダ入ナサレヌサキ、アチラヲへんがいナサレテ、久米樣へ進ゼラレマイカ」

へんがい　(名)　邊涯[illegible]カタホトリ。又、トホキハテ。邊際。謠曲、歌占「夫レ今度ノ所勞ヲ尋ヌルニ、邊涯一片ノ風ヨリ起ッテ、云云」

べんかい　(名)　〔辯解辨解〕　言ヒ解クコト。イヒヒラクコト。イヒヒラキ。辯疏。[illegible]

へんかう　(名)　〔變更〕　カヘアラタムルコト。變改。史記、[illegible]

べんかう　(名)　〔瓣香〕　〔瓣ハ瓜ノなかご、形、相似タル故ニ名ヅク〕香ノ一種。又、香ノ瓣ノ形シタルヲ、法談ノ了レル時、檀ニ焚キテ、信ヲ表スルモノ。轉ジテ、香ホニテ人ノ学ニ擬シタル物ヲ作リテ用ヰルト云フ。(モト禪僧ノ、人ヲ祝福スル時、又ハ、人ヲ尊敬、私淑スル時ナドニ焼キシモノ)　祖庭事苑「古今尊宿、[illegible]」

べんがき　(名)　〔辯書〕　イヒブリヲカクコト。辯舌ヲ記スコト。易林本節用集[illegible]〈ヘンカウ〉」

へんかく　(名)　〔變革〕　カハリアラタマルコト。禮記、大傳篇「立權度量、考文章、改正朔、易服色、殊徽號、異器械、別衣服、此其所得與民變革者也、其不可得變革者則有矣、親親也、尊尊也、長長也、男女有別、此其不可得與民變革者也」

へんかく　(名)　〔變格〕　正格ニ外レテ、別ニ一ツノ格ヲナスコト。李嗣眞、書論「右軍書[illegible]不同、以變格[illegible]」「變格活用」

へんがく　(名)　〔扁額〕　〔説文「扁、署也、从戸冊、戸冊者、署門戸之文也」〕室内、門戸ナドニ揭グル額。額面。横額。程史(宋、岳珂)「吳山有伍員祠、[illegible]閣、都人敬事

之、[illegible]」

べんがく　(名)　〔勉學〕　學問ヲ勉メハゲムコト。勤學。荀子、賦篇「弟子勉學、天不忘也」

へんかくくつよう　(名)　[illegible]格活用ニ對ス」、[illegible]ノ活用、規則的ナラザルモノ。加行、左行、奈行、良行ノ四種アリ(サシツ[illegible]ハ、[illegible]尾ノ語法指南ノ動詞ノ條ヲ見ヨ)

へんがへ　(名)　〔變替〕　[illegible]ヘアラタムルコト。狂言記[illegible]調合ッタ、モハヤ變がヘスル事ハナラヌ」好色二代男(貞享、西鶴)「八[illegible]ノ案内マデシテ、[illegible]ニカクノ仕合ト、へんがへシテ西國へトモ申シ」

へんかん　(名)　〔返簡返翰〕　〔爾雅、釋器篇「簡謂之畢」疏「簡、竹簡也、古未有紙、載文於簡、謂之簡札、一名畢」正韻「凡稱書翰者、[illegible]以羽翰爲筆、故以書[illegible]」後漢書、揚雄傳、注[illegible]翰、筆也[illegible]〕(返書)ニ同ジ。書言字考節用集、七、器財門「返翰、〈ヘンカン〉」

ベンガラ　(名)　〔印度ノ地名、榜葛刺(今ノ、Bengal.)ニ起ル〕(一)朱、又、辰砂ニ次ギテ、畫料、染料トスル色赤キモノ。綠礬(硫酸第一鐵)ヲ燒キテ作ル。礬紅　今、鐵ノせんくづヲ燒キテ、水飛シテモ作ル。俗ニ、紅殼。學名ハ、酸化第二鐵　鐵丹　華夷通商考、元祿、西川忠英)「へンカラ、土屑、丹土ノ[illegible]白石)「榜葛刺、[illegible]云云、赭石」重修本草綱目啓蒙、[illegible]土、云云、今世俗ニ、赤土ト云ハ[illegible]土ナリ、[illegible]キタルヲ丹土ト云ヒ、壁ニ用ユ、榜葛刺ヨリ來タルヲ、俗ニべんがらにつちト云、略シテ、べんがらト云フ、此レハ、綠礬ヲヤキテ赤クシタルモノニシテ、卽チ礬紅ナリ、今大坂近邊ニテ、鐵ノせんくづヲ燒テ水飛シタルヲ、べんがらト云フ、此レハ偽物ナ

リ」(二)べんがら縞ト云フハ、經ハ、絹[illegible]度ノ榜葛刺地方ヨリ舶來シタルモノ。[illegible]ス竹カバ色等、島モヤウ、千スヂ、棒スヂ、タカノ羽、トカケ島ナド有、但タツ島バカリノ物也」

へんき　(名)　〔偏諱〕　支那ニテ、貴人ナドノ名、二字以上ノ中、其一字ヲ取リテ名ヅクルヲ忌ムコト。[illegible]姓氏部、選諱、至尊ノ御名ヲサクル事、[illegible]リ、凡漢ニハ其字ヲサケ、和ニハ其ノ訓ヲサクルハ、[illegible]セザルト云ニ據テ、二字ノ御名ヲ、一字宛、除事ハ有マ敷事ナリ、[illegible]ラレシ御書ニ、御諱一字ヲ記サセ玉ヒ、又、臣下、至尊ノ御名ヲ犯ス時モ、亦一字ヲ書シテ一字ヲ略ス、云云、[illegible]ザルモ、皆是レ偏諱セザル證ナリ」

べんき　(名)　〔便器〕　大小便ヲ取ル器。おまる、しびんはナドノ稱。[illegible]虎子[illegible]書、[illegible]

ペンキ　(名)　〔蘭語、Pik.ノ訛、英語、Paint.〕(一)西洋形ノ船ナドニ塗ル瀝青。ちやん(瀝青)ノ條ヲ見ヨ。又、[illegible]今、一種、洋風ノ塗料、[illegible]ノ油、又ハ、[illegible]ノ油ナドト合ハセ、煮テ、種種ノ色ヲ加ヘ、家屋、門、屏ナドノ材

ヲ塗ルニ用キル。油漆

べんぎ (名) 便宜 びんぎ(便宜)ノ條ノ(一)ニ同ジ。史記、藺相國傳「卽不㆑及㆓奏上㆒、輒以㆓便宜㆒施行、上寛以聞」漢書、韓敞傳「見㆓軍人㆒虜將軍㆒曰、臣願見㆑上、言㆓便宜㆒」雜纂二「宋、蘇軾」改不㆑得、口吃人、多㆓疑語㆒、食肉人、愛㆓便宜㆒」

へんきふ (名) 偏急 褊急 度量狹クシテ、性質急ナルコト。詩序、魏、葛屨篇、小序「葛屨、刺㆑褊也、魏地陿隘、其民機巧趨㆑利、其君儉嗇褊急、而無㆓德以將㆒㆑之」運步色葉集「偏急、ヘンキフ」

へんきん (名) 返金 借リタル金ヲ返スコト。借金ノ返却。又、ソノ金。

ペンギンてう (名) 〔英語、Penguin.〕水鳥ノ名。南極地方、氷海ノ極寒冷ナル地ニ棲息ス。大ナルハ、數尺ニ至ル。翼ハ小サクシテ鰭ノ如ク、脚ニ蹼(ミヅカキ)アリ、短クシテ、直立シテ步ム。背黑ク、胸白ク、水ニ潛レバ、游泳極メテ敏捷ナリ。

へんきやう (名) 邊鄕 カタホトリノ鄕土。カタヰナカ 邊土 邊地 邊陬

へんきやう (名) 邊境 邊疆 クニノハテ。クニザカヒ。邊界。邊陲 禮記、月令篇「孟冬之月、云云、固㆓封疆㆒、備㆓邊竟㆒」(竟ハ境ニ通ズ) 左傳、成公十三年「欲㆑闕㆓翦我公室㆒、傾㆓覆我社稷㆒、帥㆓我蝥賊㆒以來、蕩㆓搖我邊疆㆒」國語、楚語「夫邊境者、國之尾也、譬之如㆓牛馬㆒、處暑之既至、𧎾𧍯之既多、而不㆑能㆑掉㆓其尾㆒、臣亦懼㆑之」杜甫詩「念我荷戈士、窮年守㆓邊疆㆒」書言字考節用集、一、乾坤門「邊境、ヘンキヤウ」

べんきやう (名) 勉強 (一)骨折リテ勉ムルコト。精出スコト。出精。中庸、第廿章「或利而行㆑之、或勉強而行㆑之」歐陽修、與㆓郭刑部㆒書「衰病化官、比㆓其役役得㆒、如㆓其志㆒不㆑老則病矣、雖㆑有㆓餘暇㆒、[illegible]勉強而爲㆑之已、不㆑得㆓其當㆒

也」(二)學問スルコト。(三)俗ニ、商品ヲ安ク賣ルコトヲ云フ。

へんきやく (名) 返却 (一)カヘラシムルコト。歸還。兵部省式「卽令㆔帶仗、分㆓配二府、匹弱之輩、返㆓却本國㆒」(二)物ヲカヘスコト。モドスコト。返還。

へんきゆう (名) 變宮 音樂ノ調子ニテ、七聲ノ一ツ、宮ノ變聲ナルモノ。しちせい(七聲)ノ條ヲモ見ヨ。著聞集、六、管絃歌舞「管絃ノオコリ、云云、宮、商、角、徵、羽ノ五音アリ、云云、又、變宮、變徵ノ二聲アリ」

へんきよ (名) 返擧 王朝時代、國司ガ既ニ貸出シタル稻穀ヲ、當年收納セズシテ、更ニ明年度ノ分トシテ貸スコト。三代實錄、六、貞觀四年三月廿六日「詔、貢賦通懸、公私闕乏、返擧出剝、何國不㆑然」菅家文草、九、請令㆓議者返㆒讀撿稅使可否㆑狀「臣伏惟、假令、或國有㆓百萬之正稅㆒、其見所㆓勘收㆒者五十萬、其遺五十萬、是返擧也、收納之日、其返擧之物、唯出㆓利稻㆒、不㆑出㆓本稻㆒、使㆓留在民身㆒、是又明年爲㆓返擧㆒者也」

へんぐう (名) 邊隅 へきぐう(僻隅)ニ同ジ。蘇軾、詩「談笑安㆓邊隅㆒」朱松詩「更起爭㆑甚誇得、萬不㆑應居守邊隅㆒」

へんくつ (名) 偏窟 心ノ片寄リテ、カタクナナルコト。カタヅムコト。偏固。書言字考節用集、八、言辭門「偏窟、ヘンクツ」

へんくわ (名) 變化 〔陸氏易解「自㆑有而無、謂㆓之變㆒、自㆑無而有、謂㆓之化㆒」〕(一)カハルコト。形ノ異ニナルコト。易經、繫辭、上傳「在㆑天成㆑象、在㆑地成㆑形、變化見矣」荀子、儒效篇「君臣易㆑位、而非㆓不順㆒也、因㆓天下之和㆒、遂㆓文武之業㆒、明㆓枝主之義㆒、抑亦變化矣、天下厭然猶㆑一也」(二)語學ノ語ニ、動詞、形容詞ナドノ語尾ノ、形ヲ變フルコト。よむ(讀)ノ、よま、よみ、よめ、トナリ、

よし(好)ノ、よき、よく、よけれ、トナルガ如シ。活用(ハタラキ)、語尾(ゴビ)ノ條、見合ハスベシ)

へんくわん (名) 變換 カフルコト。又、カハルコト。變更。白居易詩「世移㆓新徑路㆒、變換舊村隣」

へんくわん (名) 返還 物ヲカヘスコト。モドスコト。返却。

べんくわん (名) 冕冠 大禮ノ時ナド、天皇、又ハ、皇太子ノ、着用セサセ給フ冠。ぎよくくわん(玉冠)、及、べん(冕)ノ條、參見セヨ。西宮記「十一下、人人裝束、冠、冕冠、天皇卽位、朝拜、朝堂儀用㆑之、女帝着㆓寶冠㆒、童帝着㆓日形冠㆒、太子着㆓九章冕冠㆒也」

べんぐわん (名) 辨官 べん(辨)ノ條ヲ見ヨ。太政官式「凡辨官申㆑政時刻」源、十二、須磨「ヤンゴトナキカンダチメ、辨官(ベングワン)ナドノ中ニモオホカリ、ソレヨリシリハカズシラズ」

へんぐゑ (名) 變化 次條ノ語ニ同ジ。

へんげ (名) 變化 (一)舊形ヲ轉換スルヲ變ト云ヒ、無ヨリ有ナルヲ化ト云フ。卽チ、佛、菩薩ノ通力ニヨリ、有情無情一切ノ變化スルコト。法華經「神通變化、不可思議」源、十五、蓬生「佛、菩薩ノへんげノ身ニコソ、物シタマフメレ」(二)動物ノ、形ヲ怪シク異形ニ變フルコト。モノノケ。バケモノ。又、へんぐゑ、約メテ、へげ。妖怪 源、四、夕顏「昔アリケン物ノ、へんぐゑ(ヘンゲ)メキテ」同、五十二、手習「狐ノ、人ニ變化スルトハ、昔ヨリ聞ケド、マダミヌ物ナリトテ、云云」宇津保物語、樓上、上「御形モ、へげノ物ノヤウニナリマサリ給フ」

へんけい (名) 邊警 邊境ニ於ケル警備。又、邊境ニ於ケル警報。邊戒。陳

書、武帝紀「世道初開、云云、公以[illegible]邊警、不[illegible]」宋史、[illegible]邊警ハ賓見ニ亂色[illegible]以[illegible]伏ニ不道之誅ニ」

へんけい (名) 變形 物ノ形ヲ變化スルコト。又、變化シタル形。南史、[illegible]仙化以㆓變形㆒爲㆑上、泥洹以㆓陶神㆒爲㆑先」

へんけい (名) 片敬 一方ノミヲ尊敬スルコト。りやうけい(兩敬)ノ條ヲ見ヨ。

べんけい (名) 辨慶 (一)強力ナルモノニ譬ヘ云フ語。物類稱呼、二、生植「[illegible]、云云、ツヨキト云フ意ニテ辨慶草ト名ヅクルカ、云云、又關西ニテ、なんだ(淚)辨慶、又ハ泣辨慶ナドイフハ、人ニ負クル事キラヒニテ、泣(ナキ)勝トイフ意ナルベシ」(二)竹筒ニ數箇ノ孔ヲアケ、臺所道具ナドヲ、插スニ用キル具。又、藁筒ニテ作リ、雜魚(ザコ)串ナドヲ插スニ用キルモノヲモ云フ。其狀、武藏坊辨慶ノ、七ツ道具ヲ負フニ似タル故ニ云フ。物類稱呼、三、生植「關東ニテ、藁ヲ尺餘リニ割リ、藁ヲ以テ中ヲニサケテ、炙(アブ)リタル魚ノ串ト共ニ貫キ置ク物有リ、名ヅケテ辨慶トヨブ、是ハ、彼ノ辨慶ガ七ツ道具トイフ者ニ似タリトテ名ヅクル歟」(三)昔、大坂ノ遊里ニテ幇間ヲ云ヘリ。大盡客ヲ、當時、はうぐゎんト呼ビ、九郎判官ニハ附物ナリトテナリ。

べんけいがに (名) 辨慶蟹 やまがに(山蟹)ノ一名。其條ヲ見ヨ。

べんけいさう (名) 辨慶草 (一)草ノ名。春、舊根ヨリ生ズ。莖、圓クシテ叢生シ、高サ二三尺、葉、厚ク綠ニシテ、白粉アリ、形、ヒノ頭ノ如ク、邊ニ鋸齒アリ、互生ス。秋、梢ニ、五瓣ノ小白花、枝ヲ分チテ、集リ開ク、色、淡紅、又、綠色ヲ帶ビタルアリ、地ヲ去リテモ、數日能ク活ク、故ニ強シトテ此名アリ。古名、

活草。一名、チドメグサ。イチヤクサウ。イチヤグサ。[illegible]天 和田雅、七、草木「[illegible]天、チトメ、ベンケイサウ」和漢三才圖會、九十八、「石草類、景天、ベンケイサウ、和名、以岐久佐、俗云、[illegible]」[illegible]うト云、頁紫ニテ、チドメトイフ、江戸ニテ、イチヤクサウト云」(二)又、すずさいこ(鈴柴胡)ノ一名。其[illegible]ヲ見ヨ。

べんけい-志ま (名) [辨慶縞] 織物ノ縞(シマ)ニ、いしだたみノ紋ヲ、濃ク淡ク、縦横ニ、打違ヘニ、織リナセルモノ。カウシジマ。ゴバンジマ。又、ソノ織物。[illegible]「[illegible]辨慶縞トモ云フ」

へん-げつ (名) [片月] カタハレヅキ。カタワレヅキ。弓張月。弦月。彎弓。[illegible]

へん-けふ (名) [褊狹] (一)セマクルシキコト。北史、齊高祖紀「洛陽久經二喪亂一王氣衰盡、雖レ有二山河之固一、土地褊狹、不レ如二鄴一、請遷都」(二)性急ニシテ、度量セマキコト。史記、[illegible]「[illegible]可レ不二勉與一」

へん-けん (名) [偏見] 偏頗(ヘンパ)ナル意見。公平ナラザル見カタ。隋書、[illegible]「[illegible]除二内典之偏見一[illegible]」宋[illegible]「[illegible]外道之邪執一」[illegible]偏見ハ不レ通二物情一」

へん-げん (名) [片言] タダノ一言。片語。論語、顔淵篇「片言可三以折二獄者、其由也與」[illegible]

へん-げん (名) [變幻] 變化ノ速カニシテ、測リ得ベカラザルコト。[illegible]

へん-げ-る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [變化] バケル。異形ノ物ニ變ズ。怪物トナル。

へん-こ (名) [illegible] 戸籍ニアル[illegible]。[illegible]北闕ノ婁子滿ノ獄」後漢書、鄧禹傳「夫盜賊羣居、無二[illegible]」[illegible]

へん-こ (名) [編戸] 戸籍ニ編入スルコト。[illegible]百九十、[illegible]「[illegible]列二次名籍一也」字類抄「編戸、ヘンコ」類聚國史、[illegible]

へん-こ (名) [偏固] (一)片ヨリタルコト。[illegible]

へん-ご (名) [片語] へんげん(片言)ニ同ジ。

べん-こ (名) [便壺] べんき(便器)ニ同ジ。

べん-ご (名) [辯護辨護] 言ヒ開キテ回護(カバ)フコト。又、人ノ利益トナルヤウニ、言ヒテ助クルコト。漢書、黄霸傳「今復云、少夫以二丘命一辯[illegible]」人物志、[illegible]「[illegible]」

へん-こう (名) [邊功] 邊地ニテ立テタル功。國境ニ於テ立テタル功績。唐書、姚崇、宋璟傳「[illegible]」

へん-こう (名) [邊寇] 邊境ニ於ケル外寇。敵ガ邊地ニ寇(アダ)ナスコト。漢書、匈奴傳[illegible]

べん-こう [illegible] クチベンコウモノイフコト。又、巧[illegible]クチ[illegible]「[illegible]」

へん-こく (名) [偏國] カタヨリタル地。偏土。偏地。[illegible]

へん-こく (名) [邊國] 邊鄙ノ國。國境近クノ地。邊土。邊地。[illegible]「都ノ中ノ大小ノ神祇ハ申ニヲヨバズ、邊地、邊國マデモキキ及ニシタカヒテ」[illegible]作)一「ソノホカ邊國、島島ノ賓、庭上ニ並ベサセ」

べんご-し (名) [辯護士] 規定ノ資格アリテ、訴訟當事者ノ委任ヲ受ケ、又ハ、裁判所ノ命令ニヨリテ、裁判所ニ於テ、法律ニ規定セル業務ヲ行フモノ。古クハ代言人ト云ヘリ。

べんご-にん (名) [辯護人] 辯護士ノ俗稱。又、刑事被告人ノ辯護ヲナスタメニ、特ニ選バレタル人。

へん-さい (名) [邊際] カギリ。ハテ。キハミ。際涯。[illegible]「[illegible]宮殿[illegible]、更ニ邊際モナク」

へん-さい (名) [邊塞] [集韻「塞、音賽、邊界也」] 邊境ニアル要塞。遠キ國境ニアルトリデ。邊壘。轉ジテ、廣ク邊境ノ地ヲ云フ。史記、[illegible]「出レ自二東陬一擅二雄邊塞一」

へん-さい (名) [變災] ワザハヒ。又、變事。

へん-さい (名) [返濟] 借リタル物ヲ、返[illegible]

へん-ざい (名) [偏在] カタヨリテ存在スルコト。

へん-ざい (名) [illegible]ノ白色ヲ帯ビタル部分。又、シラタ。あかみ(赤身)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

べん-さい (名) [辨濟] へんさい(返濟)ニ同ジ。運歩色葉集「辨濟、ヘンサイ」

べん-さい (名) [辯才] 辯舌ノハタラキ。[illegible]林偏用集(慶長)上、言辭門「辯才、ベンサイ」

べん-ざい-てん (名) [辯才天辨才天辨財天] [illegible]語) 略シテ、べざいてん。又、略シテ、辯天。梵天王ノ妃。(一説ニハ、男ノ神トモス) 辯舌、智慧ノ神。福德、音樂ノ利益ヲモ授ク、因リテ辨財天ノ字ヲ用ヰテ、福ノ神トシ、(七福神ノ一) 妙音天トモ稱シテ、[illegible]。女像ニ畫ク。サレバ美人ノ代表トス。大日經疏、五「次北置二薩囉薩伐底一譯云二妙音樂天一[illegible]」

へん-さう (名) [變相] (一)[illegible]佛教ノ語。極樂、又ハ、地獄ニテ、種種ノ變リ

タル相。 圖畫見聞志「宋、郭若虚、高滿、[illegible]、[illegible]六祖工二年畫、[illegible]宮北廊壁、[illegible]、變相、乃[illegible]之筆」 瑞應傳「見西方變相」 谷[illegible]集、[illegible]「[illegible]變相」云淨土變相八變畫云何、答、變[illegible]也、[illegible]動、畫者[illegible]、或[illegible]獄神相八[illegible]云變[illegible]也」 同「畫地獄變相」[illegible]吳道子畫[illegible]地獄變相八後成都人來觀、[illegible]、修[illegible]田」

へんざう（名）［變造］ 在來ノモノノ形ヲ變ヘテ造ルコト。ツクリカヘルコト。

ペンさき（名）［洋筆先］ ペン軸ノ先キニツケテ、文字ヲ書クモノ。コレニ、白金、金、銀、鐵、ナドノモノアリ。

べんさく（名）［鞭策］ (一)ムチ。鞭箠。(二)ムチウツコト。鞭笞。鞭撻。 禮記、曲禮、上篇「大夫士下二公門一式二路馬一、乘二路馬一必朝服、載二鞭策一不二敢授一レ綏」（路馬八君主ノ乘馬）

へんさつ（名）［返札］ へんしよ（返書）ニ同ジ。 運歩色葉集「返札、ヘンサツ」 盛衰記、二六「上皇臨幸六波羅事「[illegible]日返札ト覺シクテ、跟劫不思議ノ事ナレバ、不レ及レ陳ニトゾ書タリケル」 甲陽軍鑑、十、上、品第廿九「景虎ー晴信ー弓箭ハナキ物ヲト、イカニモユルヤカ成御返札ナレバ」

へんさん（名）［編纂］ へんしふ（編輯）ニ同ジ。 白居易、河南元公墓銘「[illegible]其[illegible]作[illegible]之[illegible]、[illegible]止於文章刀筆、[illegible]、[illegible]有心在於安人治國、致君堯舜、致身伊皐耳」 [illegible]、[illegible]、[illegible]山集、[illegible]卷、云云、升陽陳[illegible]之、[illegible]本於金陵[illegible]、[illegible]今[illegible]」

へんさん（名）［褊衫偏衫］ 又、へんざん。法衣ノ一。掩腋衣ト覆肩衣トヲ、合シテ制スルモノナリ。卽チ、左肩ヨリ右腋ニ懸ク。天竺ノ禮ニ、右ノ片肌ヲ脱グコトアリ、コレニ象ルト云フ。 僧史略「後魏宮人、見二僧自恣一[illegible]右肩一、乃一施二肩衣一、號曰二偏衫一、全二其兩肩兩袖一、失二祇支之儀一、自二魏始也」 下學集、下、絹布門「偏衫、ヘンザン」 林逸節用集、財寶「偏衫、ヘンサン」 釋氏要覽、上、法衣「偏衫、古僧伕二律制一、只有二僧祇支一、此名二覆膊一、亦名二掩腋衣一、此長覆二左膊一、及掩二右腋一、蓋[illegible]、衣故、卽天竺之儀也」 太平記、三二、[illegible]事「[illegible]カノ律僧ノ有ケルカ、偏衫ノ袖ヲ結ンデ、引キ違ヘ」云云」

へんざん（名）［貶竄］ 〔竄、廣韻「放也」〕 集韻「入レ穴也」〕 官位ヲ貶シテ、島流ニスルコト。貶流。貶謫。

へんじ（名）［片時］ 又、へんし。カタトキ。シバシ。暫時。霎時。 運歩色葉集「片時、ヘンシ」 易林節用集（慶長）上、時候門「片時、ヘンシ」 平家物語、七、[illegible]平[illegible]事「槐棘ノ座、エンランノスミカ、[illegible]日ノ[illegible]ヲ空シウシテ、へんしノ灰燼トナリハテヌ」 曾我物語、七、三井寺智興大師事「一日へんしモ見奉ラヌダニ、心モトナクテ」

へんし（名）［片紙］ 少シノ紙切。紙ノキレハシ。紙片。 宋史、汪若海傳「高宗嘗以二片紙一書二若海名一」 千寶表「臣前聊欲[illegible]記古今怪異非常之事、博訪二知者一、片紙殘行、事事各異」

へんし（名）［返詞］ 返事ノコトバ。返辭。答辭。

へんし（名）［偏私］ カタヨルコト。エコヒイキ。偏頗。 諸葛亮、前出師表「若有二作レ奸犯レ科、及爲二忠善一者上、宜下付二有司一、論二其刑賞一、以昭二陛下平明之治一、不レ宜下偏私使二內外異一レ法也」

へんし（名）［變死］ 常ナラヌ死狀。災、又、傷ナドニテ死ヌルコト。ヨコサマノ死。非命ノ死。横死。 御定書百箇條、變死之[illegible]、內證ニ而葬候寺院御仕置之事」 記事條例、六「江戸宿ニ罷在候內、變死致候節、撿使被レ遣方、並ニ立合ヒ之有無、朱書ニ認付通」

へんし（名）［返事返辭］ カヘリゴト。コタヘ。アイサツ。返答。答辭。 字類抄「返事、ヘンジ」 源、四十三、竹川廿二「侍從ノ君ハ、コノ御返事セントテ、上ニマヰリタマフヲ見ルニ」 保元物語、一、左大臣上洛事「卽チ內裏ヨリ御返事アリ」

へんし（名）［變事］ 常ニ異ナリ變レル事。非常ノ事。變災。事變。 史記、太史公自序「守二經事一而不レ知二其宜一、遭二變事一而不レ知二其權一」

へんし（名）［編次篇次］ (一)順次ニ編ムコト。順序ヲ遂ヒテ編纂スルコト。 史記、孔子世家「上紀二唐虞之際一、下至二秦繆一、編二次其事一」 (二)一部ノ書物中ノ各篇ノ順序。 朱熹、答二廖子晦一書「大序之文、亦有レ可レ疑處、而小雅[illegible]次、尤多不レ可レ曉者、此未レ易レ攷[illegible]」

へんし（名）［片時］ へんし（片時）ニ同ジ。 [illegible]「枕上片時春夢中、行盡江南數千里」

べんし（名）［辨士辯士］ (一)辯舌ノ巧ナル人。能辯ナル人。辯者。 史記、范雎蔡澤傳、贊「范雎蔡澤、世所謂一切辯士、然游二說諸侯一至二白首一無レ所二遇者一、非二計策之拙一、所レ爲二說力少一也」 荀子、儒效篇「是聰耳之所レ不レ能レ聽也、明目之所レ不レ能レ見也、辯士之所レ不レ能レ言也」 隋書、記、廿、[illegible]大揚[illegible]事「夫辯士ハ國之良藥、智者ハ朝之明鏡也トイヘリ」 (二)演說、又ハ、講話スル人。

へんしう（名）［編修］ (一)書物ナドヲ編ミ修ムルコト。 後漢書、祭祀志、注「百禮[illegible]編修、而不レ習」 (二)諸官衙ニテ、修史ノ事ヲ掌ル職。又、其官。 [illegible]、[illegible]編修、俗呼爲二史院一」

へんしう（名）［扁舟］ 〔廣韻「扁、小舟也」〕 コブネ。小サキ舟。小舟。 史記、貨殖傳「乘二扁舟一浮二於江湖一」 [illegible]倫、江上別二張勳一詩「今日扁舟別、俱[illegible][illegible]人」[illegible]扁舟二棹シテ」

べんしき（名）［辨識辯識］ ワキマヘ、シルコト。 晉書、帝紀傳「[illegible]温化ニ荊州一、辟爲二從事一、以レ辯二識[illegible]理一深重レ之」

へんしつ（名）［變質］ 他ト變リタル質。又、質ヲ變ズルコト。 雲笈七籤（宋、張君房）「質、[illegible]日久、變質同レ神、煉レ神入レ微、與レ道冥」

へんしふ（名）［偏執］ 〔偏ニ一邊ニ固執スル意〕 (一)僻見ヲ固持シテ、他ニ通ゼザルコト。 [illegible]「[illegible]百[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]四、上、[illegible]、[illegible]ゴトニ、[illegible]、[illegible]レタリ、[illegible]リ、我宗[illegible]ハカリソ。其ノ偏執ナキトイヘリ」 (二)カタイヂナルコト。偏固。偏屈。偏狹。 [illegible] 女院厳島御幸事「太政大臣八極メタル大偏執ノ人ニテ」 (三)其說ニ同ズルコト。 太平記、十七、山門攻事「闘人見人、何レモ偏執ノ思ヲ成ニケリ」

へんしふ（名）［編輯編緝］ 諸書ノ事柄ヲ書キ集メテ、一書ニ編ミ作ルコト。編纂。 南史、劉[illegible]傳「少好レ學、能屬レ文、家貧、傭書、[illegible]」

へんじふ（名）［篇什］ 〔什ハ十ナリ、詩經ノ雅ト頌トハ十篇ヲ一卷トスル故ニ云フ〕 詩經朱熹集傳「雅頌無二諸國別一故、以二十篇一爲二一卷一、而謂二之什一、猶二軍法以二十人一爲レ什也」〕 詩ヲ集メタルモノ。詩篇。又、詩。 晉書、樂志、上「[illegible]紹[illegible]、[illegible]工[illegible]什[illegible]、有[illegible]益[illegible]在[illegible]」 文帝[illegible] 陳後雅頌、[illegible]非[illegible]、[illegible]篇什、[illegible]」

へんしん（名）［遍身］ カラダヂュウ。ソウミ。全身。滿身。渾身。 [illegible]詩「昨日到二城郭一、歸來淚滿レ巾、遍身羅綺者、不二是養蠶人一」 盛衰記、廿六、平家可亡夢事「痛夢ノ心地セリ、偏（遍ニ通ズ）身ニ熱キ汗流レテ、ウツツ心ナシ」

へんしん（名）［偏身］ カタヘナル身體。身體ノイヅレカ一方。半身。

へんしん（名）［變身］ 身ノ容子ヲ變ズルコト。又、ソノ變リタル身。 謠曲、鵺「矢先ニ中タレバ、變身失セテ、落落磊磊ト地ニ倒レテ、タチマチニ滅セシ事、云云」

へんしん（名）［變心］ ココロガハリ。ココロウツリ。意思ノカハルコト。 史記、張儀傳「乃且願レ變レ心易レ慮、割レ地謝二前過一以事レ秦」 荀子、君道篇「百姓易レ俗、小人變レ心、姦怪之屬、莫

「[illegible]……敢教之[illegible]」

へんしん (名) [偏信] 一方ノミヲ信ズルコト。又、片寄レル信用。[illegible]……光、白日空設ニ施敬ハ(公家武家偏信、迷雲遂不レ開レ隔)」

へんしん (名) [返信] へんしょ(返書)ニ同ジ。「[illegible]用切手」

へんしん (名) [返進] カヘシ、タテマツルコト。返上スルコト。[illegible]「ソノ[illegible]ケルヲ、云云」太平記、一、御告文事「教答ヲ中テ、告文ヲ返進セラル」

へんじん (名) [偏人][變人] 心ノ片寄リタル人。尋常ニ外レタル性質ノ人。[illegible] カハリタル人。カハリモノ。畸人

へんしゃ (名) [編者] 書ヲ編ミ作ル人。文書ヲ編輯スルモノ。編輯者。

べんしゃ (名) [辯者] 口ガシコキ人。又、辯舌ノ巧ナル人。能辯家 雄辯者

へんしょう (名) [返章] へんしょ(返書)ニ同ジ。

へんしょう (名) [邊將] 邊土ノ將帥 國境守備ノ大將。カタホトリニ居ル將軍。 邊帥 [illegible]……雄ニ於北州ニ」 蘇洵、上ニ韓樞密ニ書「彼狄公者、知ニ御外之衞ニ而不知治ノ内之道ハ此邊將材也」

へんしょう (名) [變症] 病症ノ變ルコト。又、變リタル病症。

へんしょう (名) [返上] 返シタテマツルコト。返進スルコト [illegible]……三十一、[illegible]……空シク旅ノ空……返上仕フ……

「[illegible]……ソレ[illegible]フセコトテ、云云」

へんじょう (名) [illegible] 平常ト變リタル容子。又、以前ト異ナル有樣。

へんじょう (名) [變生] 生來、男子ナリシモノガ、變ジテ女子ニナリ、又、女子ナリシモノガ、變ジテ男子ニナルコト。[illegible]……門ノふち、フクレ[illegible]……迄モ乳大キク候處、追追小サク相成、此節、相形ト成リ、言舌筋骨共、男ノ如ク相變ジ、全ク變生男子ト申ニモ有之由ニ御座候」

へんじょう (名) [返状] へんしょ(返書)ニ同ジ。[illegible] 返状、ヘンジャウ [illegible]

へんじょう (名) [邊城] 邊境ヲ警備スル城。國境守備ノ城郭。[illegible]……之外」[illegible]……安也」

べんしょう (名) [辨償] ワキマヘ、ツクノフコト。ツクノヒ返スコト。新編追加、侍所、盗賊贓物事「假令、[illegible]百文、若ニ百文已下[illegible]以ニ一倍令辨償[illegible]……可レ依ニ此法ニ焉」

へんじょうなんし (名) [變成男子] 佛力ニ因リテ、女子ヲ男子トスルコトト云フ。(女子ニハ、五障アル故、男子トナシテ成佛セシムルタメトゾ) [illegible]……

舞ノ衣裳ヲ着シ、サナガラ夫ノ姿ナリ、云云、妙ナル法ノ受持ニ逢ハバ、變成男子ノ姿トハ、ナゾヤ御覧ジ給ハヌゾ」 天神記(近松作)四「女ノ身ハ天[illegible]」

へんしゅ (名) [騙取] タクミニ、アザムキトルコト。カタリ取ルコト

へんしゅ (名) [篇首] 〔篇尾ニ對ス〕篇ノ首。又、書物ノハジメ。卷首。

へんしゅ (名) [變種] (一)種類ノカハルコト。又、ソノモノ。(二)種子ノ原種ヨリカハリタルモノ。カハリダネ。

へんじゅ (名) [邊戍] 邊土ノマモリ。國境ノ守備。[illegible]

へんしょ (名) [返書] 答ヘノ手紙。返答ノ書狀。返信 返章 返札 返狀 返簡。答信 復書 返牘。答書 回書

べんじょ (名) [便所] 大便、小便スル所。カハヤ。セツイン。セッチン。コウカ。テウヅバ。ハバカリ。隱所。ヒドノ。 饅頭屋本節用集、天地門「小便所、セウベンジョ」 北山抄、七、[illegible]……小便所[illegible]……候所、西浄、[illegible]……治使ニ探清ハ云云、三好義長朝臣亭御成の記トイフ物ニ、御西浄(廁ノ別稱ナリ)新造ニ御小便所ニ」

へんしょう (名) [汎稱][泛稱] 又、はんしょう。汎ク指シテ云フ稱。總稱。總名。

へんしょう (名) [變蒸] 小兒ノ智慧ヅカムトスル頃、不意ニ熱ノ出ヅルコト。又、ちゑねつ [illegible] 「變蒸、俗ニ云フ、小兒ノちゑぼとりナリ、生レテ三十二日メニ一變シ、六十四日ニ二變シ、ソノ時ニ蒸シテ熱氣カアルナリ、一變シテ後、智慧カ前ニ倍スルト云ヘリ」

べんしょう (名) [辨證][辯證] (一)辯論ニヨリテ或事件ヲ論證スルコト。又、辯[illegible]

べんしょうほう [illegible] ヲ研究スルコト。略シテ、辯證。

へんしょく (名) [變色] 色ノ變ズルコト。又、[illegible]「雨晴僧、變色」

へんしれいろく (名) [駢四儷六][騈四騈儷] 四字ト六字トヨリ成ル對句ヲ用ヰテ作ル[illegible]

へんす・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) [偏] [illegible]

へんす [illegible] 其人ノ官職等ヲ下ゲ落ス。シリゾク。 孟子、告子、下篇「一不レ朝則貶ニ其爵ニ再不レ朝則削ニ其地[illegible]」

へんず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (自動、左變) [變] カハル。アラタマル。[illegible]

へんず・スル・スレ・セ・シ・セヨ [illegible]

也而作」 孟子、梁惠王、下「[illegible]曰、寡人非ニ能好ニ先王之樂ニ也、直好ニ世俗之樂ヲ耳」

べん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(自動、左變) 辨 ワカル。濟ム。成ル。 史記、武安侯傳「丞相[illegible]言ニ御史大夫青翟、[illegible]事不ニ能辨究」 張[illegible]詩「綿野萬頃分、水色千里辨ず」「用事辨ず」

べん・ず・ズル・ズレ・セ・シ・ゼヨ(他動、左變) 辨 (一)ワキマフ。解キワク。 易經、繫辭、上傳「齊ニ小大ヲ者、存ニ乎封ニ、辨ニ吉凶ヲ者、存ニ乎辭ニ」「是非ヲ辨ず」 (二)行ヒ成ス。扱ヒテ濟マス。 晉書、石[illegible]傳「[illegible]客作[illegible]、[illegible]使辨」「用ヲ辨ず」

べん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(他動、左變) 辯 言ヒ分ク。語ル。述ブ。辯解ス。 禮記、曲禮、上篇「主人未ダ辯ゼ、客不ニ虛口ニ」

ペンス (名) 片 〔英語、Pence.〕 ぺんにい(邊尼)ノ條ヲ見ヨ。

へんそう (名) 邊陬 〔陬、廣韻、側鳩切、集韻、遵須切、並音鄒(漢音、ス、吳音、シュ、慣用音、スウ)、玉篇「隅也」〕 邊土ノ隅。國ノカタホトリ。邊陲。邊陲。 柳[illegible]「得結實中華、[illegible]邊陬」

へんすゐ (名) 邊陲邊垂 〔增韻「陲、疆也」〕 前條ノ語ニ同ジ。 左傳、成公十三年「利ニ吾有ニ狄難ニ、入ニ我河縣ニ、焚ニ我箕郜ニ、芟ニ夷我農功ヲ、虔ニ劉我邊垂ヲ、我是以有ニ輔氏之聚ニ」 國語、吳語「[illegible]之人、敢忘ニ天王之大德ヲ、而思ニ邊垂之小怨ヲ」 薛道衡詩「上將家ニ[illegible]宇ヲ、威略振ニ邊陲ニ」

へんすゐ (名) 邊帥 へんしやう(邊將)ニ同ジ。

べんすゐ (名) 鞭箠 〔韻會「箠、擊ニ馬策也」〕 ムチ。鞭策。 說苑、說叢篇「騏驥日驅千里、鞭箠不ル去ニ其背ニ」

へんせい (名) 編制 箇箇ノモノヲ集メテ團體ヲ組ミ立ツルコト。「軍隊ノ編制」

へんせい (名) 編成 編ミ作ルコト。

べんせい (名) 鞭聲 ムチノオト。ムチウツ音。 陸游詩「何時夜出ニ五原塞ニ、不ニ聞ニ人語ヲ聞ニ鞭聲ヲ」

へんせう (名) 反照返照 (一)日沒ノ光ノ、東方ニ照リ返スモノ。ユフヒノカゲ。夕照。 宋書、武帝紀「[illegible]儀[illegible]滿、[illegible]光返照」 杜甫詩「返照入ニ江翻ニ石壁ニ、歸雲擁ニ樹失ニ山村ニ」 馬戴詩「返照開ニ巖影ニ、[illegible]湖[illegible]浦沙ニ」 (二)轉ジテ、佛教ニテハ、往古ノ事ニ鑑ミ、又、自己ノ本[illegible]ヲ窮明スルコトニ譬ヘテ云フ。 止觀、二「以ニ無住著智、反照觀身也」 臨濟禪師語錄「儞祇有ニ一箇父母ニ、更求ニ何物ヲ、儞自反照看」

へんせう (名) 返抄 古ヘ、官府ヨリ命令ヲ受ケタル下僚ノ、其命ヲ奉行シ終リタル時、其完了ヲ官府ニ報告スル文書。後ニハ轉ジテ、諸國ヨリノ納稅ナドニ對シ、政府ヨリ出ス受領書ノ如キモノトナル。 民部省式、下「凡諸國大帳、正稅帳、[illegible]、主計、主稅勘定畢、即可ニ給ニ返抄ニ之狀申ニ省、省修ニ[illegible]進ス官、但調帳者、待ニ收物訖ニ乃[illegible]」 主計寮式、下「凡去年勘出調庸物、令ニ當年使ノ歲皆填納ニ、即收ニ返抄ニ」 安齋隨筆、四「返抄、今世、俗ニ云フ受取證文ナリ、返抄ハ役目ノ證據ニナル物ナル故、轉用傍通シテ、受取ニアラザレドモ、後證文ニナルベキ書キ物ヲ、返抄ト云フ事モアリ」

へんせう (名) 褊小 〔康熙字典「褊、狹也」增韻「褊、小陿陋也」〕 セマキコト。狹ク小サキコト。褊狹。 孟子、梁惠王、上「王曰、然、誠有ニ百姓者ニ、齊國雖ニ褊小ナリト、吾何愛ニ一牛ヲ」 荀子、脩身篇「齊給便利、則節スルニ之以ニ動止ヲ、狹隘褊小、則廓スルニ之以ニ廣大ヲ」

へんせう (名) 遍照徧照 (一)又、へんぜう。アマネク照スコト。 三國志、魏志、杜恕傳「天下至大、萬機至衆、誠非ニ一明所ニ能徧照ニ、故君爲ニ元首ニ、臣爲ニ股肱ニ、明ニ其一體、相待而成也」 (二)佛教ニテハ、法身佛ノ光明、遍ク世界ヲ照スヨリ、大日如來ノ密號トス。 瑜祇經「薄伽梵金剛界遍照如來」

へんぜうこんがう (名) 遍照金剛 〔遍照ハ前條ノ(二)ヲ見ヨ、金剛ハ堅剛ノ意〕 佛教ノ語。毘盧遮那大日如來ノ密號。法身佛ノ光明遍照金剛不壞ノ體ナルヲ顯ハス。我ガ國ノ密教ニテハ、祖師弘法大師ヲ尊稱シテ、コレヲ念ズルニ此語ヲ以テシ、南無大師遍照金剛ト呼ブ。 盛衰記、三十二「維高維仁位論事 弘法大師ハ、云云、今遍照金剛トシテハ、日本ニ住シテ、金輪聖王ノ福ヲ增シ」

へんぜうしやなぶつ (名) 遍照遮那佛 〔遍照ハ此佛ノ譯語、又、略シテ遮那ト云フ、即チ、此二語ヲ合ハセテ一佛ヲ表ハス〕 毘盧遮那大日如來ノ別稱。

へんせき (名) 貶斥 官位ヲオトシテ、シリゾクルコト。貶黜。 柳宗元、對ニ賀者ニ「吾之罪大、會主上方以ニ寬理ニ人、用和ニ天下ニ、故吾得ニ在ニ此、凡吾之貶斥、亦幸矣」

へんせき (名) 編石 はうきやう(方磬)ノ異稱。 [illegible]抄、四「方磬、或方響、一名、編石」

へんせき (名) 篇籍 書籍。典籍。冊子。書物。 蔡邕、文烈侯楊公碑「兼通ニ五典ニ、周ニ覽篇籍ニ」 左思詩「四賢豈不ル偉、遺烈光ニ篇籍ニ」

へんせつ (名) 變說 持說ヲ變ズルコト。在來ノ意見ヲ、途中ヨリ變更スルコト。「變說改論」

へんせつ (名) 變節 (一)季節ノ變ハルコト。時節ノ變化スルコト。 宋之問詩「露荷新變節、風柳夕鳴梢」 (二)節義ヲ變ズルコト。 [illegible] (三)[illegible]ルコト。從來ノ過ヲ改ムルコト。 漢書、朱雲傳「年四十乃變節、從ニ博士白子友ニ受ニ易ヲ、又事ニ前將軍蕭望之ニ受ニ論語ヲ」

べんぜつ (名) 辯舌 物言フコト。又、言ヒ方ノ巧ナルコト。辯口。辯才。 書言字考節用集、八、言辭門「辯舌、ベンゼツ」 [illegible]「宏才利口者、辯舌[illegible]」 甲陽軍鑑、十七、品第廿九「分別アリテ才覺有、辯舌タラフテ弓矢ニ功者」

へんせん (名) 變遷 ウツリカハリ。變轉。變移。 張栻、初夏偶書詩「江[illegible]四月[illegible]、[illegible]陰晴屢變遷」「世ノ變遷」

へんせん (名) 貶遷 官位ヲオトシテ、遠國ニ遷スコト。左遷スルコト。

へんせん (副) 蹁躚 (一)ヨロメク狀、又ハ、舞ノ狀ニ云フ語。 [illegible] 周必大、[illegible]「枝頭[illegible]蝶[illegible]」 (二)足ナミノ整ハヌ歩ミ方、又ハ、メグリ行ク狀ニ云フ語。 張衡、南都賦「翔[illegible]蹁躚、[illegible]九秋之[illegible]」

べんそ (名) 辯疏 言ヒ開クコト。イヒワケ。辯解。辯明。

へんそう (名) 返送 オクリカヘスコト。 主計寮式、下「[illegible]、送[illegible]、[illegible]官人[illegible]」

へんそく (名) 變則 (一)正シク規則ニ從ハザルコト。規則ニヨラザルコト。常規ニソムクコト。(正則ニ對ス) (二)洋學教授ニ就キテ云フ語。せいそく(正則)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

へんたい (名) 變態 (一)カタチヲ變ズルコト。又、カハリタルカタチ。 史記、司馬相如傳「覽ニ乎陰林ニ、觀ニ壯士之暴怒與ニ猛獸之恐

[illegible]

リ發生シテ、完全ナル狀態トナルマデニ、時期ニヨリテ其狀態ヲ變ズルコト。(三)病的ニテ、正常ニカハレルコト。

へんだい (名) [片題] ばうだい(傍題)ノ條ヲ見ヨ。

へんたいがな (名) [變體假名] 一般ニ使用セラルル平假名ト變リタル假名。即チ、てヲゐ、いヲい、わヲわト記ス類。

へんたう (名) [扁桃] あめんどう(巴旦杏)ニ同ジ。[illegible]

べんたう (名) [辨當] (面桶ノ轉、面桶ニ同ジ、漢其旨ノ別ナリ) 破子ナドニ、飯菜ヲ盛リテ、行クニ攜ノルモノ。行廚 [illegible]

へんたうせん (名) [扁桃腺] 人ノ口中、即チ、前後口蓋弓ノ間ノ三角形凹窩ニアル扁桃ノ形ヲナセル一種ノ淋巴腺ニシテ、左右ニ各一箇アリ。「扁桃腺炎」

へんたく (名) [貶謫] 官ヲ貶シテ、遠地ニ謫スルコト。貶流。[illegible]

べんたつ (名) [鞭韃・鞭撻] (一)ムチウツコト。鞭笞。[illegible] (二)轉ジテ、ハゲマスコト。激勵スルコト。

へんたふ (名) [返答] [illegible] カヘリゴト。コタヘ。ヘンジ。アイサツ。答辭 [illegible]

へんたん (名) [偏袒] (儀禮、鄕射禮篇、注「袒、左免レ衣也」) 片肌ヲ脫グコト。又、身ヲ入ルルコト。又、比丘ガ袈裟ノ右肩ヲ袒グコト。印度ニテ恭敬ヲ表スル相トス。[illegible]

ぺんたらふ (名) [搗ク音ヨリ云フ語] 餠ヲ搗クコト。モチツキ (小兒ノ語)

へんち (名) [邊地] へんごく(邊國)ニ同ジ。[illegible]

へんち (名) [偏地] へんごく(偏國)ニ同ジ。

へんち (名) [胼胝] (胝、集韻「張尼切、音䟡ト、又、博雅「丁計切、音帝」トアレバ、ちトていトノ音アリ」) (一)摩擦ニヨリ、手足ナドノ皮ノ、固リ厚クナリタルモノ。タコ。[illegible] (二)ヒビ。アカギレ。[illegible]

へんち (名) [變徵] 七聲ノ一。悲壯ナル音ヲ云フ。[illegible] 元稹、小胡笳引「流宮變徵漸幽咽、別鶴欲飛猿欲絕」

べんち (名) [鞭笞] (一)ムチ。[illegible]

ベンチ (名) [英語、Bench] 長キコシカケ。長椅子。[illegible]

ペンチ (名) [英語、Pinc(h)ers.] 針金細工ナドニ用ヰル鐵ノ具。ヤットコバサミ。

へんちき (名) [變痴氣] (字ハ當字) へんてこ(變梃子)ニ同ジ。和合人(文政、瀧亭鯉丈)上「コリャア、ドウダ、ナンテモヘンチキダ」

へんちきりん (名) 前條ノ語ニ同ジ。[illegible] 多ニテ、一風變リタルモノヲ、とうへん[illegible]

べんちく (名) [便竹] 江戸時代、將軍出行ノ時、公人朝夕人ノ、持チテ扈從セシ筒狀ノ銅具。便器。シトヅツ。[illegible] (文化、[illegible]) 靈人ニテ子孫ニ傳フ、君邊ニ侍シテ、御裝束ノ節、御腰ノ筒ニ、御筒ヲ持也、便竹ト云フ、君、御用道具ノ第一ナリ、俗ニ裝束筒ト云フ」

ペンぢく (名) [洋筆軸] ペン先ヲ、差シ込ミ用ヰル軸。

へんちぞくさん (名) [邊地粟散] ぞくさんへんち(粟散邊地)ニ同ジ。保元物語、一、[illegible] モ、神國タルニ依ッテ、云云」

へんちつ (名) [篇帙・編帙] (一)書物ト、帙ト。卷帙。[illegible] (二)轉ジテ、書籍。[illegible]

べんちゃら (名) 辯舌ニテ、チャラクラ、ゴマカスコト。ベチャクチャ。オベッカ。

へんちゅつ (名) [貶黜] へんせき(貶斥)ニ同ジ。[illegible]

へんづ (名) [扁豆] ふぢまめ(藤豆)ノ條ヲ見ヨ。[illegible] マメ、ヒラマメ」

へんつう (名) [變通] [illegible] 「化而裁レ之謂二之變一、推而行レ之謂二之通一」[illegible] 臨機ニ應ズルコト。[illegible] 通配二四時一」[illegible]

べんつう (名) [便通] 大小便ノ通ズルコト。[illegible]

へんつぎ (名) [偏繼] 詩句ナドノ中ノ字ノ、偏ヲ隱シテ、旁ノミニシテ、偏ヲ當テサセ、推シ中テシムルコト。掩韻ノ如キ遊ビナルベシ。[illegible] 第四十三段「火近ク取寄セテ、差シツドヒテ、へんヲゾつぐ」榮花物語、一、月宴「御前ニ召シ出デテ、[illegible]」

へんつ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) [偏繼] へんつぎ(偏繼)ヲナス。前條ノ語ヲモ見ヨ。[illegible] 六、へんつがせ給フナド、諸共ニセサセ給フ」

へんづつう (名) [偏頭痛] かたづつう(偏頭痛)ニ同ジ。

へんてい (名) [胼胝] へんち(胼胝)ニ同ジ。

へんてう (名) [變調] (一)調子ノ變ズル[illegible]

コト。又、調子ヲ變フルコト。司馬相如、長門賦「援雅琴以變調兮、奏愁思之不可長」[illegible]瓦」(二)容子ノ常態ト變リタルコト。

べん-てき (名) [抃躍・忭躍] べんやく(忭躍)ニ同ジ。運歩色葉集「抃躍、ベンテキ」

へん-てこ (名) [變梃子] 〔字ハ當字〕ヘンナルコト。不思議ナルコト。奇妙ナルコト。ヘンチキ。ヘンチキリン。

へん-てつ (名) [編綴・編裰] へんとつ(編綴)ノ俗訛。其條ヲ見ヨ。萬金産業袋、五、衣服「[illegible]ノ如クシテ、袖長ク、四ヌソヲ五寸計ヅツ綻セタルヲ、編綴ト云フ」

へん-てつ-も-ない (句) [無偏綴・無變哲] 〔字ハ當字〕取立テテ言フベキコトナシ。平凡ナリ。天神記(正德、近松作)三「花モ柳モへんてつもない」八笑人(文政、瀧亭鯉丈)三、[illegible]上「前面ノ枕バカリ長クテ、へんてつもないコトバカリ申シマス」「何ノへんてつもないカタコト」

へん-てふ (名) [返牒] へんぢよう(返牒)ニ同ジ。返答ノ牒狀。盛衰記、十四、南都山門牒狀ノ事「山門ノ衆徒、不及返牒ケレトモ、先同心能加ノ由、[illegible]シク申タリ」太平記、十四、依山門嗷訴公卿僉議事「山門既ニ南都ニ牒送スト聞エシカバ、返牒未送以前ニトテ、云云」

へん-てん (名) [變轉] ウツリカハルコト。轉變。易經、繫辭、上傳「生生之謂易」疏「陰陽變轉、後生次於前生」[illegible]「[illegible]變轉、[illegible]成、文於合節」

へん-でん (名) [返電] 返答ノ電報。

べん-てん (名) [辯天] べんざいてん(辯才天)ノ略。其條ヲ見ヨ。

べん-でん (名) [便殿] 〔便ハ、やすらかノ義〕休息ノ御殿。(天皇、皇后等ノ御休ミ所) 漢書、武帝紀「高園便殿火」師古註「便殿、云云、所以就便安也、云云、[illegible]休息閑宴之處耳」唐書、柳公權傳「常與三六學士對二便殿一」

へん-ど (名) [邊土] (一)へんごく(邊國)ニ同ジ。[illegible]「[illegible]」[illegible] 易林本節用集「邊土、ヘンド」平家物語、六、入道院參企事「坂上田村丸ハ、云云、東夷ノ邊土ヲ平ゲシ忠ニ依ッテ、左近ノ大將ヲ兼ネタリ」花營三代記、應安四年十一月二日「諸國守護、洛中邊土、土藏別三十貫」狂言記、柑子俵「罷出テタル者ハ、邊土ニ住居致ス者デゴザル」(二)遠國ノ靈地ヲ、巡禮スルコト。遍路。(四國邊土、三十三所觀音、巡禮ナドノ條ヲモ見ヨ)

へん-ど (名) [偏土] へんごく(偏國)ニ同ジ。

へん-ど (名) [反吐] へど(嘔吐)ニ同ジ。運歩色葉集「反吐、ヘンド」

へん-とう (名) [籩豆] 〔籩ハ竹製、豆ハ木製ノ器〕何レモ祭祀ノ器具。儒家ニテ、神ヲ祀ル時、供物ヲ盛ル禮器。轉ジテ、禮儀。又ハ、禮節ヲ云フ。ほうきへんとう(簠簋籩豆)ノ條ヲモ見ヨ。詩經、小雅、[illegible]「[illegible]」[illegible]「籩豆有踐」大嘗祭式[illegible]

へん-どう (名) [變動] カハリ、ウゴクコト。又、カヘ、ウゴカスコト。異動。易經、繫辭、下傳「變動不居、周流六虛、上下无常、剛柔相易」荀子、議兵篇「上得天時、下得地利、觀敵之變動、後之發、先之至、此用兵之要術也」

べん-どく (名) [便毒] 黴毒ノ、鼠蹊ニ發シテ、腫レ潰ユルモノ。ヨコネ。[illegible]「[illegible]、よこねナリ、[illegible]、サレバよこねトイヘルコト[illegible]、[illegible]アルヲ魚口トシ、右ニアルヲ便毒トス、左右ニ生ズルヲ騎馬癰ト云、云云、其便利セザル處ニ生ズル故名ケリ」[illegible]、云云」

へん-とつ (名) [編綴・編裰] 〔編衫ト直綴トヨリ起リシ名〕法衣ノ一。編ハ禪家ノ編衫、綴ハ台家(天台宗)ノ直綴ニテ、コノ二者ヲ折衷シテ、十德ニ似セテ製シタルモノト云フ。主ニ空也宗ノ鉢叩ノ法衣トシ、黑縮緬、或ハ、黑八丈、絽ナドヲ用キテ作ル。訛シテ、へんてつ。運歩色葉集「編綴、ヘントツ」

へん-なう (名) [片腦] 藥品ノ名。りゅうなう(龍腦)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]「[illegible]、生腦ハ楠ノ脂也、夫ヲ燒タルモノ也、龍腦ハ、生腦ヲ七度燒ニシタルヲ片腦トイフ、[illegible]也、[illegible]、天目ヲ蓋ニシテ燒、其湯氣、上ノ天目ニ付タルハ片腦也」本草[illegible]、四、木、[illegible]、云云、十書ニ片腦トアルヲ、樟腦ト心得ル人アリ、大ニ誤リナリ、梅花片氷片トテ、極品ノ龍腦アリ、ソレヲ略シテ片腦トモ書ク、[illegible]不知之シテ、別ニ片腦ト云者アリト心得テ、藥家ニ求之、藥家又不知シテ、樟腦ノ煉込ヲ假リ名テ、片腦トナシテ賣之」

へん-なう (名) [反腦] 藥品ノ名。りゅうなう(龍腦)ノ條ヲ見ヨ。

へん-なう-ゆ (名) [片腦油] 粗製ノ樟腦ヲ片腦ニ精製スルトキ、殘留スル淡黃色ノ油。防臭劑、驅蟲劑ナドニ用キル。

へん-な・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) [無偏] ドチラニモ、カタヨラヌナリ。書經、洪範「無偏無黨、王道蕩蕩、無黨無偏、王道平平」閑吟集(永正)「待ツト吹ケドモ恨ミツツ、吹ケドモへんない物ハ尺八ぢや」[illegible]二「偏ノ高刀[illegible]門、[illegible]門)、トチへんなしノ[illegible]、[illegible]行)

へん-なし-ぶくろ (名) [緣無袋] 〔へり(緣)なし袋ノ意〕ヘリノナキ袋。又、役ニ立タヌ[illegible]、[illegible]長教)一、太田道灌辭世「昨日マデ、まくまうざうヲ、入レオキシ、へんなし袋、今破ルナリ」(まくまうざうハ、莫妄想ナリ)

へん-なふ (名) [返納] カヘシ、ヲサムルコト。返上。運歩色葉集「返納、ヘンナフ」

べん-なん (名) [辯難] イヒアラソフコト。又、辯ジ立テ非難スルコト。後漢書、[illegible]「[illegible]」[illegible]

へん-に (名) [版位] 〔位ヲにト訓ムハ連聲〕へんゐ(版位)ニ同ジ。

へん-ゐ (副) [變] 平常ニカハリテ。不思議ニ。妙ニ。

ペンニイ (名) [邊尼片] 〔英語、Penny.〕英國ノ青銅貨幣ノ稱。志るりんぐノ十二分ノ一、我ガ約四錢ニ當ル。二片以上ヲ數フルニハ、べんす(Pence.)ト云フ。(其紙無シ、勘定ノ上ノミニ云フ)べにい(片)ノ條ヲモ見ヨ。

へん-にふ (名) [編入] 編ミ入ルルコト。組ミ込ムコト。「編入試驗」

べん-ねい (名) [便佞] 人ノ氣ニ入ルヤウニ立チマハリテ、心ノネヂケタルコト。又、辯才アリテ、實意ナキモノ。論語、季氏篇「友直、友諒、友多聞、益矣、友便辟、友善柔、友便佞、損矣」[illegible]「便、辯也、[illegible]」[illegible]

へん-ねん-たい (名) [編年體] 歷史編輯ノ一體。年立(年月ノ順序)ヲ旨トシ、事柄ヲ分チテ、年ニ係ケテ記スモノ。(記

傳燈ナドニ對ス） [illegible]

へんぱ（名）［偏頗］カタヨルコト。カタチハヒ。カタテオチ。エコヒイキ。エコ[illegible] 宋史、呂陶傳「民間、[illegible]無﹂偏[illegible]之失﹂」

へんぱい（名）［反閇反閉］（一）陰陽家ニテ、地ノ靈ヲ鎭ムル呪法。禹歩ト云フモ是レカ。（行幸ノ時ナドニ、陰陽師ノ御先ニ立チ行フハ、此故ナリ）[illegible]「反閇ト云フハ神拜ノ時スル事ナリ、陰陽師ノ法ナリ、[illegible]テアリ、[illegible]行フ事ヲ、反閇ヲフムト云フナルベキカ、將軍家ナド出行ノ前ニハ、必反閇ヲ行フ事ハ、惡キ方角ヲフミ破ル[illegible]ナルベキニヤ」[illegible] 致[illegible] 云、晴明[illegible]反閇」[illegible]師ナド云フハ、反倍トテ、足ヲモアダニ踏マズトコソウケタマハレ」（二）軍法家ニ、遍唄、又ハ、反敗ナド云ヒテ、九字ニ合ハセテ足踏ミノシヤウノ稱。出陣、歸後ニ、何レモ法アリト云フ。（三）能ノ翁舞ノ三番叟ハ、コレナリト云フ。三番叟を踏むト云フハ、反閇ノ遺カ。さんばそう（三番叟）ノ條ヲモ見ヨ。

へんぱい（名）［返杯］差サレタル杯ニテ飲ミテ、再ビコレヲ其人へ差スコト。[illegible] カイナ」

へんぱう（名）［邊防］國境ノ警備。邊地ノ守、邊備。[illegible]

へんぱう（名）［偏旁偏傍］漢文字ノ偏ト旁ト。へん（偏）、及、つくり（字旁）ノ條ヲモ見ヨ。[illegible] 文教溫故、下、文字「文字ノ偏旁ニ俗稱アリ、亻ヲレングヮ、禾ヲノギ、リヲリタウ、西ヲヒヨミノトリ、ナドイヘルガ如シ、云云、唐土ニモ[illegible]草頭、木斸、立人、雛土ナドノ類、[illegible]少カラズ」

へんぱう（名）［返報］（一）人ノ行ヒニ對シテ、報ユルコト。報酬 報復 謠曲、七騎落「以前某ニ心ヲ盡サセラレ候フ[illegible]、今マデハカクトモ申サヌナリ」（二）讎ヲカヘシムクユルコト。ヘンパウガヘシ。シカヘシ。復讎 報讎 狂言記、六人僧「サテサテ腹ノ立ツコトデゴザル、此ノ返報ヲ致シタイ」（三）カヘシ。コタヘ。返答。返事。吾妻鏡、一、治承四年九月三十日「武衛雖﹂[illegible]御書﹂、不﹂能﹂[illegible]引﹂籠上野國寺尾城﹂聚﹂軍兵﹂」

へんぱうがへし（名）［返報返］前條ノ語ノ（二）ニ同ジ。

へんぱく（名）［扁柏］ひ（檜）ノ條ヲ見ヨ。

べんばく（名）［辯駁辨駮］押シ返シテ言ヒ破ルコト。他ノ說ナドヲ、詰リ攻擊スルコト。反駁。唐書、王世充傳「大業初爲﹂民部侍郎﹂、善﹂占對﹂、習﹂法、敢辯、文上下、人或辨駁、世充以﹂口占﹂緣飾、衆知﹂其非﹂、亦不﹂能﹂屈也」

べんぱつ（名）［辮髮］頭髮ヲ組ミ合ハスルコト。又、ソノ髮形。特ニ、支那、清朝時代ニ、男子ノ頭髮ノ風。頂ノ周ヲ剃リ、中央ノ髮ヲ存シ、其末ヲ組ミテ、

長ク後ヘ垂ル。（コレ元ト西方[illegible]

べんぱふ（名）［便法］便利ナル方法。タヨリノヨキテダテ。

へんび（名）［邊備］へんぱう（邊防）ニ同ジ。[illegible]

へんび（名）［篇尾］（篇首ニ對ス）書籍ナドノ篇ノ末。篇ノヲハリ。篇末。又、卷末。卷尾。

へんぴ（名）［反鼻］まむし（蝮）、又、へび（蛇）ノ一名。箋注倭名抄、八、蟲名「蝮、一名、反鼻、[illegible]」[illegible]文、鼻上有﹂針、大者百餘斤、一名、反鼻」

へんぴ（名）［邊鄙］（一）都ニ比シテ、文化ノ程度ノ低キトコロ。カタヰナカ。邊土。邊地。邊境。[illegible]「邊鄙」[illegible]「邊鄙、ヘンピ」太平記、二十、[illegible]門ノ從トナッテ、邊鄙ニ幽居ヲトメント思フ」（二）邊鄙ニ在ル人。ブヅマヅ。ブヅマビト。[illegible]

へんぴ（名）［扁皮反尾反鼻］樂器ノ一。木ニテ作リ、如意ノ如キ形シタルモノ。垣代ノトキ、舞人、トリテ[illegible]ル、へんびトイフハ、木シテツクリタルトモエニ、バ

チヲ具シタリ、カイシロニテ、ソレヲ拍子ニウツナ[illegible]

べんぴ（名）［便祕］醫ノ語。大便ノ祕結スルコト。久シク便通ナキコト。腸ノ[illegible]

へんぴぞくさん（名）［邊鄙粟散］ぞくさんへんち（粟散邊地）ニ同ジ。盛衰記、六、小松殿教訓父ニ事「流石我朝ハ邊地粟散ノ境ト申シナガラ、天照大神ノ御子孫國ノ主トシテ、云云」

へんぷ（名）［返付返附］カヘシワタスコト。モドスコト。還附。

べんぶ（名）［抃舞］[illegible]手ヲ打チテ喜ビ舞フコト。列子、湯問篇「[illegible]」

へんぷく（名）［邊幅］布帛ノ緣。轉ジテ、ミエ。ウハベ。外貌。外觀。南史、[illegible] 馬援傳「天下雌雄未﹂定、公孫不﹂吐﹂哺走迎﹂國士﹂與圖﹂成敗﹂、反修﹂飾邊幅﹂如﹂偶人形﹂」

へんぷく（名）［蝙蝠］動物ノ名。カハホリ。カクヒドリ。服翼。飛鼠。老鼠。僊鼠。かうもりノ條ノ一ヲ見ヨ。爾雅、[illegible] 天鼠、一名、仙鼠、一名、蝙蝠、一名、飛鼠、加波保利」

べんぷく（名）［俛伏］ふふく（俯伏）ニ同ジ。[illegible]

べん-ぷく (名) [便腹] コエフトリタル腹。デブデブシタル腹。ホテイバラ。蘇軾詩「七尺頑驅走世塵、十圍便腹貯天真」 楊倶詩「便腹便腹待痴黠、晬見芳羅日漏」

べんべん(便便)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

べん-ぷく (名) [冕服] 儀式ニ貴人ノ着用スル冠ト服ト。禮冠ト、禮服ト。書經、太甲、中「惟三祀、十有二月朔、伊尹以冕服奉嗣王歸于亳」 張昱、石鏡詩「臨安山中古石鏡、曾照錢王冕服來」 内裏式、上、元正受群臣朝賀式「皇帝服冕服就高座」

べん-ぷく (名) [便服] 常ニ着用スル衣服。フダンギ。ケゴロモ。褻衣。便衣。唐庚詩「西郊老矣惟心在、便服依然但處稀」

へん-ぷつ (名) [偏物] 偏固ナル人。偏窟ナル人物。カタクナナル人。偏性

へん-ぶつ (名) [變物] 風變リノ人物。變人。又、異様ナル物。

べん-べ (名) べべノ條ノ(一)ニ同ジ。

へん-ぺい (名) [扁平] ヒラタキコト。凹凸、高低ノナキコト。「扁平足」

べん-ぺい (名) [便嬖] [說文「嬖、便辟也、愛也」] 君ノ側近ニアリテ、寵幸セラルルコト。又、ソノ人。オキニイリ。漢書、佞倖傳、贊「一朝帝崩、姦臣擅命、董賢縊死、丁傅流放、辜及母后、奪位幽廢、咎在親便嬖所任非其仁賢」 荀子、君道篇「案唯便嬖親比己者之用也、豈不過甚矣哉」

へんぺい-そく (名) [扁平足] 人ノ蹠ノつちふまず扁キコト。又、ソノ足。

へん-ぺき (名) [反璧返璧] [鬱岡齋筆塵(明、王肯堂)「今子ニ人所ニ餽遺、有ニ不レ受者、怕曰ニ返璧、蓋用ニ左傳、晉公子重耳事、僖公廿三年、僖負羈乃饋ニ盤飧、置レ璧焉、公子受レ飧返レ璧、是也、而昧者誤以爲ニ藺相如事、乃釋ニ其詞ニ曰、完璧ハ甚レ至、曰ニ歸趙、不ニ亦悖ニ哉」] 贈物ヲ、ソノママ受ケズニカヘスコト。返却。

べん-ぺき (名) [便辟便僻] [集韻「便、順也」集韻「避、回也」或省作レ辟] 即チ、便ハ人ノ欲スル所ニ順ヒ、辟ハ人ノ惡ム所ヲ避クル意] 人ノ意志ヲ迎ヘテ、媚ブルコト。書經、冏命「僕臣諂、乃僕ハ無ニ以巧言令色、便辟側媚、其惟吉士」 論語、季氏篇「友ニ直、友ニ諒、友ニ多聞ニ益矣、友ニ便辟、友ニ善柔、友ニ便佞ニ損矣」 注「馬融曰、便辟、巧辟ニ人之所レ忌、以求レ容媚也」

べん-べつ (名) [辨別] ワカツコト。見ワクルコト。ワキマヘ。差別。識別。元稹詩「鴻能辨ニ別東西位、未ニ解分明管帶身」

へん-べん (名) [返辨] へんさい(返濟)ニ同ジ。運歩色葉集「返辨、ヘンベン」 易林本節用集(慶長)上、言辭門「返辨、ヘンベン」 甲陽軍鑑、十八、品第四十八「少シヅツハ、年年ニ返辨致ス」 日本新永代藏(正德、北條團水)一「兩信ノ返辨、律義ナルヲモテ、人ノシタ手ニツカズ」

へん-ぺん (副) [片片] (一)斷レ斷レナル狀ニ云フ語。(二)カルク、ヒルガヘル狀。又、立上ル狀ニ云フ語。ヒラヒラ。韓偓、惜花詩「眼隨片片沿流去、恨滿枝枝被雨淋」 字類抄「片片、ヘンペン」 朗詠集、下、遊宮之煙片片」 謠曲、熊野「柳上ニ鶯飛ブ、片片タル金」

へん-ぺん (副) [翩翩] (一)輕ク飛ビアガル狀ニ云フ語。詩經、小雅、白華之什、南有嘉魚篇「翩翩者鵻、烝然來思、君子有酒、嘉賓式燕又思」 張衡、西京賦「翩翩閭閻、叢獸駭騰」 字類抄「翩翩、ヘンペン」 (二)才智ノ美シク優ヲ抜キタル狀ニ云フ語。史記、平原君傳、論「平原君、翩翩濁世之佳公子也」 (三)落着ナク、輕輕シキ狀ニ云フ語。ソハソハ。易經、上經、泰卦「六四、翩翩不レ富、以ニ其隣ニ不レ戒以孚」

べん-べん (副) [便便] (一)腹ノ肥滿セル狀ニ云フ語。デブデブ。後漢書、邊韶傳「韶口辯、曾晝日假臥、弟子私嘲之曰、邊孝先腹便便、懶讀書、但欲眠」 林逸節用集、雜用「便便、ヘンヘン」 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)、「自院落、アマリニ吾タクヒ過シテ、腹便便、歸ルサニ」 (二)閑雅ナル狀ニ云フ語。詩經、小雅、采菽之什、采菽篇「平平左右、亦是率從」注「韓文云、下、婢延反、辯治也」作「便便ハ云閑雅之貌」 (三)巧ニモノ云フ狀、又、口辯アル狀ニ云フ語。論語、鄉黨篇「其在ニ宗廟朝廷ニ便便言」朱注「便便、辯也」

ぺん-ぺん (名) さみせん(三味線)ノ稱。(小兒ノ、三味線ノ音ヲ眞似テ云フ語)

ぺんぺん-ぐさ (名) [薺ノ形、三味線ノ撥ニ似タル故ニ云フ」なづな(薺)ノ條ヲ見ヨ。重修本草綱目啓蒙、十九、菜部「薺、ナヅナ、云云、ぺんぺんぐさ(江戸)、ピンピングサ(讃州)、ムシツリグサ(仙臺)」

べんべん-だらり (副) 次條ノ語ニ同ジ。十二段(元祿、近松作)一「茶ヲノム人モナイ所ニ、べんべんだらりト長居シテ、口ノタケタノガ見エヌカト、聲ハシタナクイヒケレバ」

べん-べん-と (副) [便便] 時ノ長タラシク延ビユク狀ニ云フ語。又、無用ノ說話ナドシテ、時ヲ移スニモ云フ。ベンベンダラリ。好色二代男(貞享、西鶴)六「京屋ノ端居シテ、祇園ノ山鉾ノ噺へんべんと」 浮世風呂(文化、三馬)三編、上「好キニ味ヲヌカシテノ、夜中マデべんべんと飲ンデラァナ」「便便と待タレズ」

へん-ぽん-と (副) [翩翻翩飜] 又、へんはんと。ヒラヒラト。鳥、蟲、又ハ、旗ナドノ、風ニ飄ヘル狀ニ云フ語。李君虞、海人獻ニ文錦ニ賦「蝶翩翻而暫起、烏呀咔以徘徊」 朗詠集、上、鶯「林鶯嬰遏、翩翩飜於一月之花ニ」 平家物語、七、木曾願書事「雲ノ中ヨリ山鳩三ツ飛ビ來ッテ、源氏ノ白旗ノ上ニ翩翻ス」

べん-まう (名) [辯妄] 他ノ論說ナドノ、妄ナルコトヲ辯駁スルコト。

へん-まつ (名) [篇末] へんび(篇尾)ニ同ジ。

へん-まん (名) [遍滿徧滿] アマネク、滿チヒロガルコト。王安石、詩「天下之言、足以明、亦同一文、附于篇末」

へん-まん (名) 斑幔 又、はんまん。幕ノ一種。まだらまく(斑幕)ニ同ジ。字類抄「斑幔、ヘンマン」

へん-まん (名) [屏幔] 又、へいまん。幕ノ一種。とばり(帳)ニ同ジ。字類抄「屏幔、ヘンマン」 紫式部日記「五節ハ二十日ニ參ル、云云、屏幔ヒキ渡シテヤルトスレド」 榮花物語、廿、御賀「所所ノアケバリ、屏幔ナドノ色ケサヤカニ」 枕草子、十一、第百三十三段「内ニ入ヌレバ、イロイロノ錦ノアゲバリニ、ミスイトアヲクテカケワタシ、へいまんナドヒキタルホド、ナベテタダニ此世トオボエズ」 大鏡、五、大臣(太政)殿「東南隅、設ニ皇太子及大臣幄、又門懸ニ屏幔ニ」 西宮記、正月、上「元日朝觀、云云、所司裝束、入ニ門内ニ鋪ニ御道ニ立ニ屏幔ニ」

へん-みん (名) [邊民] 邊鄙ノ土民。カタヰナカノタミ。史記、匈奴傳「願寢兵、休士卒、養馬、除前事、復故約、以安邊民」

へん-みゃう (名) [變名] へんめい(變名)ニ同ジ。

へん-みりう (名) [逸見流] 射術ノ一派。逸見清光ノ創メタルモノ。弓術要覽、一「逸見流トハ鹿島四郎祠宜ヨリ逸見ノ家ヘ傳フルナリ」

へん-めい (名) [變名] 又、へんみゃう。名

ヲ變ヘテ、假リノ名ヲ用キルコト。又、ソノ[illegible]名。[illegible]

べんめい（名）［辯明］［辨明］（一）辯ジテ事ヲ明ニスルコト。[illegible]（二）辯解スルコト。[illegible]已不能辯明[illegible]」

へんめう（名）［變妙］他トカハリテ、妙ナルコト。

へんめん（名）［片面］片方ノ面。面ノ方。カタカハ。カタツラ。半面

べんめん（名）［便面］〔漢書、張敞傳、注「[illegible]」〕[illegible]不欲見人、以此自障面、則得其便、故曰便面[illegible]」[illegible]

べんもう（名）［便蒙］〔蒙ハ童蒙、即チ蒙昧ナル者ノ意〕童蒙闇昧ナル者ニ便利ニスルコト。又、其タメニ作レル書物

へんもく（名）［篇目］（一）書籍ナドノ篇ノ篇目、又ハ題。[illegible]（二）篇目。題目。[illegible]（三）[illegible]シテ、篇トモ云ヒ、又ハ、掟ナドノ意

へんやく（名）［變易］又、へんにゃく。又、へんえき（變易）ニ同ジ。[illegible]

へんやく（名）［變約］約束ヲ變ズルコト。又、約束ヲ守ラスコト。違約。[illegible]

べんやく（名）［忭躍］［抃躍］〔忭、抃、同義〕又、べんゆ。べんてき。コヲドリシテ、喜ブコト。又、手ヲウチテ、躍リ喜ブコト。[illegible]

べんよ（名）［便輿］[illegible]又、よつでかご（四手駕籠）ニ同ジ。[illegible]

へんらん（名）［變亂］（一）事變ニヨリテ、世上ノ亂ルルコト。兵亂。（二）法ヲ變ヘ亂スコト。[illegible]乃訓之、變亂先王之正刑、至于小大」

べんらん（名）［便覽］見ルニ便利ナルヤウ、簡明ニ作リタル書物

べんり（名）［辨理］辨別シテ處理スルコト。[illegible]

べんり（名）［便利］（一）事ヲ行フニ便好キコト。史記、夏紀「相地宜所有以貢、及山川之便利」[illegible]

へんりう（名）［貶流］又、へんる。へんたく（貶謫）ニ同ジ。

へんりうき（名）[illegible]

へんりふ（名）［片粒］（一）一片一粒ノカタハシ。（二）轉ジテ、僅少ナルコト。[illegible]

へんりん（名）［片鱗］龍、又ハ、魚ノ、ヒトヒラノウロコ。又、轉ジテ、極メテ小ナル部分。「片鱗ヲ現ハス」

ヘンルウダ（名）[illegible]ノ說、阿蘭陀人、往ヲ[illegible]名トス」うんかう（芸香）ニ同ジ。クサノカウ。芸香科ノ多年生草本ノ名。庭園ナドニ栽培セラル。高サ[illegible]、葉ハ羽狀複葉ニシテ、淡綠色ヲ呈シ、六七月頃、枝梢上ニ綠黄色ノ花ヲ[illegible]序ニ排列ス。強キ香氣アリテ、藥ニ用キラル。[illegible]

へんるい（名）［邊壘］へんさい（邊塞）ニ同ジ。[illegible]詩「結陣弓刀邊壘去、挂鞍狐兎獵場歸」

へんれい（名）［[illegible]例］[illegible]異例。[illegible]

へんれい（名）[illegible]

へんれい（名）［返禮］（一）返シ報エルコト。[illegible]「身共モ今ノ返禮ニ、[illegible]エルナラ、語ッテ聞カセタイナ」（二）怨ミ報エルコト。[illegible]コレ又[illegible]レバ、是程ノ返禮ヲバ致サンズル也トテ」[illegible]六人[illegible]「ヤレ、[illegible]カマヤッソ」（三）返禮ノ[illegible]松作）二「富樫ノ左衞門ニメアハサレヨ、返禮ニハ金ノ采配、家ニ傳ハルヤウニ、御前ハ某ガ取リ申ス」

へんれい（名）［駢儷］［駢驪］〔駢、說文「[illegible]」〕[illegible]二馬也、又、朋比也」廣雅「[illegible]」[illegible]儷[illegible]也[illegible]略。まろくぶん（四六文）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]之四六」

べんれい（名）［勉勵］[illegible]コト。又、ツトメハゲマスコト。勉強。國語、吳語[illegible]

へんれき（名）［遍歷］［徧歷］諸處ヲヘメグルコト。[illegible]、ヘンレキ」

へんろ（名）［遍路］又、へんど（邊土）。ゑこくへんど（四國邊土）ノ條ヲ見ヨ。

べんろん（名）［辯論］［辨論］イヒワケシ、アゲツラフコト。辯明シ、論ズルコト

史記、公孫弘傳「於是天子察其行敦厚、辯論有餘、習文法吏事、又緣飾以儒術、上大說之」漢書、嚴助傳「上令助等與大臣辯論、中外相應以義理之文、大臣數詘」字類抄「辯論」

〜**へんゐ**（ヘン・ヰ）（名）［版位］〔連聲ニテ、へんにトモ訓ム〕又、へん。はんゐ。シルシノキ。古ヘ、朝賀、祭祀等ノ時ニ、羣臣、百官ノ列位ヲ定ムルタメニ、目標ニ立テ置ク版（木ニテ作ル）ノ席。皇太子以下、各、方、七寸、厚サ、五寸。（唐制ニハ、一寸有半ナリ） 倭名抄、十二、[illegible]具「版位、俗云、[illegible]二寸、百官一品以下、及各方七寸、厚一寸半」字類抄「版位、ヘンヰ」內裏式、上、元正受羣臣朝賀式「中務輔率皇太子版位、中階南十丈、又南去二丈置一參議版位、自參議位東去二丈、置皇太子謁者版位」

へめぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［歷廻］旅シテ諸國ヲ巡ル。處處ヲ歷テ來ル。遍歷　太平記、十一、佐介貞俊事「五月ノ初ニ、千葉屋ヨリ降參シテ、京都ニゾ歷回リケル」

〜**へや**（名）［部屋］〔隔屋ノ義〕家ノ內ニ、某ノ用ニトテ、分チテアル室。曹司。曲房　字類抄「亭子、戸屋、ヘヤ」林逸節用集、天地「部屋、ヘヤ」易林節用集（慶長）上、乾坤門「部屋、ヘヤ、隔屋、ヘヤ」宇津保物語、祭使「ヒカリヲ閉チツルユフベハ、草ムラノ螢ヲアツメ、冬ハ雪ヲツドヘテ、へやニツドヘタルコト、年カサナリヌ」落窪物語、一「コノ北ノ部屋ニ籠メテ」同、同「檻戸ノ廂ニ、二間アル部屋」散木集、十、雜、下、連歌「堀河院ノ御時、出納カ腹立チテ、へやノシウトイフモノヲ、御倉ノ下ニ籠ムナルヲ聞キテ」「部屋住」「部屋持」

へやおや（名）［部屋親］〔部屋子ニ對ス〕江戸時代、部屋子ヲ使役スル奧女中。浮世風呂（文化）三編、上「ソレニ部屋親サマカ、イ、ソ、オ氣ニタテノヨイおカデ」

へやかた（名）［艫屋形］船ノ艫先ニ設ケタル屋形。ヘサキノ屋形。盛衰記、四十三、源平侍遠矢事「遠矢ノ舟ハイヅレゾト問、艫屋形ノ前ニ扇披ツカヒテ、鎧武者ノ立タル船ト教フ」

へやこ（名）［部屋子］（一）江戸時代、奧女中ニ召使ハルル少女。（部屋親ニ對ス）（二）昔、武家屋敷ノ輕キ奉公人ノ部屋ナドニ居ル食客。御觸書集成、綜錄、廿九、寬延二年四月「武士屋敷、輕キ奉公人、部屋子ト申シ、傍輩ニ無之者ヲ置キ申間敷候」

へやしゅう（名）［部屋衆］室町時代、將軍ノ一族ノ者ニテ、毎夜、順次ニ將軍ノ寢所ニ宿直スル役。（平安朝時代ニハ藏人所ノシモベヲ、へやのしゅうト云ヘリ、散木集ニ見エタリ、部屋ノ條ノ引例ヲ見ヨ）相京職鈔、二「御部屋衆二人、普光院殿（義政公）初而置ニ此職一、元重職ナルガ故ニ、御紋拜領之衆補ニ此職一」宗五大雙紙、下、殿中さまざまの事「公方樣御寢所ニハ、云云、夏冬共ニ御部や衆一人ヅツ、毎夜御ソバニ祗候」

へやずみ（名）［部屋住］嫡子ノ、未ダ家督ヲ相續セズシテアル間ノ稱。遊倅。十二段（元祿、近松作）四「ココニ矢矧ノ藤太トテ、母ノ長ジャノヲ井ワラハ、今年八十九ヂ、マダへやずみニテクラセシガ」的例問答、部屋住故名之事」諸例集、五、天保十二年六月十九日「初鹿野美濃守答、父子勤仕罷在、右惣部屋住ニ而妻ヲ持、出生之子供有之、云云」

ヘヤ・ピン（名）〔英語、Hair-pin.〕婦人ノ洋髮ニサス針。主トシテU字形ヲナシ、鐵、若シクハ金、銀ナドニテ製ス。

へやもち（名）［部屋持］〔部屋持女郎ノ略、自己、專用ノ部屋ヲ有スル故ニ云フ〕吉原ニテ振袖新造ノ稱。新造女郎ノ進級シタルモノ。又、座敷持。明和の川柳「留袖カ、スムトアキ部屋、授ケラレ」（振袖新造ガ留袖ニ變リテ、部屋持女郎ニナル）文化の川柳「部屋持ノ、床ノ間イツモ、花屋流」（大夫ノ如キ活花ノ手技ナキヲ云フ」

〜**へら**（名）［犂壁鐴］〔平ノ轉カ、尖薄ク平ミタリ〕犂ノ名ドコロ。即チ、からすきノ鑱ト箭トノ間ニアリテ、起シタル土ヲ覆スモノ。今、ミカ。倭名抄、十五四農耕具「鐴、閉良」字鏡「鐴、戸良」內膳司式「凡作園所、須、云云、犂鐴、閉良、枚」和漢三才圖會、三十五、農具類「耒耜、云云、犁名云、犁、利也、鑱、土起二草根一也、治金而鑄之、曰ニ犁鑱一、云云、鐴、和名閉良、以覆壞者也」

へら（名）［篦］〔へハ鎞ノ約カト云フ〕（一）竹片ヲ細長ク平タク削レルモノ。物ヲ練リ、又ハ盛リ、其他、種種ノ用トス。タケミラ。又、木、象牙、金屬ニテモ作ル。古ヘハ、臍の緒ヲ切ル竹製ノ小刀ヲモ篦ト云ヘリ。易林節用集（慶長）上、食服門「篦、ヘラ、竹篦」好色一代男（天和、西鶴）四「腎ニ懸タル物トテハ、云云、粘[illegible]」伊勢家秘書誕生之記「第六篦（貞丈云、へらト云ハ俗語也、本名ハ、あやひえト云）篦ノ長サ一尺二寸、幅一寸二分、竹刀半分ニ切、刃ヲ作也、竹ノ皮ノ方ニ切刃ヲ付ル、切刃ノ留所ニ圓有、云云、臍の緒ト一所ニ納置物也」（二）杓子（仙臺、伊豆）（三）年長ノ妻。（陸中）

へらさぎ（名）［篦鷺］鳥ノ名。形、常ノ鷺ニ同ジクシテ、冠毛ナク、羽毛ハ淡灰白色ナリ。嘴、扁クシテ篦ノ如ク、長サ五寸許リ、端、廣サ一寸許リ、杓子ノ如シ。漫畫　和漢三才圖會、四十一、水禽類「篦鷺、狀似ニ白鷺一而無ニ冠毛一、不ニ純白一、帶ニ微灰色一、長喙其本黃、末黑而、圓如レ匙如レ篦、故名」

へら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［減］〔減るノ他動〕少クス。省ク。ヘス。減ズル。

へらずぐち（名）［不減口］［不謙口］憚ラズ云フコト。マケヲシミナドニ云フコト。ニクマレグチ。日本武尊吾妻鑑（享保、近松作）三「ムツカシイ都ヨリ、親モタヌ嶋ガマシト、ヒルマヌ顏ノへらずロ」「へらずロヲタタク」

〜**べらな・り・ル・レ**（助動）〔可うなり、可らなりノ約ト云フ、古今集ヨリ多ク見エテ、貫之、伊勢ナド好ミテ詠ミ、天暦以後、稀ニナリシ語ナリ〕可キヤウナリ。古今集、二、春、下「山タカミ、見ツワガ來シ、サクラ花、風ハ心ニ、マカスべらなり」同、十八、雜、下「久方ノ、中ニオヒタル、里ナレバ、ヒカリヲノミゾ、頼ムべらなる」同、同「イヅクニカ、世ヲバイハハン、心コソ、野ニモ山ニモ、マドフべらなれ」

べらぼう（名）〔薄弱萎軟、堅立セヌヲ、へらへらトモ、べらべらトモ云フ、其意カ、延寶ノ頃、大坂ニ、可坊ト云ヘル異相ノ男アリキト云フ、或ハ、箆棒ノ義、穀潰ノ意ナリト云フハイカガ〕人ノ痴呆ナルヲ、罵リ呼ブ語。オロカ。バカ。タハケ。燕石雜志（文化、馬琴）四、一、關東方言「江戸ノ俗、白物ヲ罵リテべら坊トイフ、コノべらモ可ナリ」日本永代藏（貞享、西鶴）四「其隣ニ勝レテ利發ナル男アリテ、云云、又、或ル年ハ、形ノフカシケナルヲ便儀坊ト名付ケ」卜養狂歌集（寬文）「コノ竹ヲ、ケヅリテ穀ヲ、押シツブス、コレゾマコトノ、そくいべらぼう」（穀潰シノ意）東海道中膝栗毛（文化、一九）四編、下「婚禮ガアルヲ羨シガリヤガッテ、云云、トウトウ褌ヲブッコカシャアカッタ、大笑ヒノべらぼうトモダ」又、物ノ甚ダシキ狀ナドニ云フ語。べらぼうネトハ、甚シキ狀ノ意。ハナハダ。非常ニ。「べらぼうネ大キイ」「べらぼうニ重イ」「べらぼうニ遠イ」

べらぼうめ（感）人ヲ罵リ、又ハ、サゲスミナドスル時ニ云フ語。又、べらんめえ。べらぼうめえ。

へらへいとう（名）［平等平等］〔文選讀〕一樣ナルコト。平凡。夏山雜談（寬保、小野高尚）一「イヤシキ詞ニ、へらへいとうト云フ、文選讀ノ如ク、平等平等ナルベシ」

へらへら (副) (一)薄キモノノ燃ユル状[illegible]ニ云フ語。「へらへらト燃エル」(二)[illegible]ナドノ容易ク燃ユル状ニ云フ語。メラメラ。ペラペラ。(三)舌ノヨク滑カニ動ク状ニ云フ語。ペラペラ。ベラベラ。

べらべら (副) (一)前條ノ語ノ(一)ニ同ジ。(二)前條ノ語ノ(二)ニ同ジ。又、ベラベラ。[illegible]ベリ。浮世風呂(文化)二編、上「口ハ達者ニ、べらべら、ホべらべら[illegible]シャベッテ、人ガ一言イヘバ、十言ホドヅツ口答ヲスルガ、ホンニホンニ、肝ノ煎レタ事ヨ」

ぺらぺら (副) 前前條ノ語ニ同シ。浮世床(文化)、[illegible]下「べらべら、ぺらぺら、アブラ[illegible]何トカヤラダ」

〜へらま (名) 倍羅摩 ほろば(保呂羽)ノ[illegible]。[illegible]十八[illegible]倍羅摩、鳥乃相岐乃之多乃介乎、爲ニ倍羅摩ニ也、底訓ニ眞實ニ也、青鳥[illegible]也、云云、今俗[illegible]保呂羽ハ訛也」

べらん-めえ (感) (べらぼうめノ略轉) べらぼうめノ條ヲ見ヨ。

へり (名) 緣 (一)端。ハナ。ハタ。フチ。名義抄「緣、へり、緣、へり、ハタ、ホトリ」榮花物語、三十七、[illegible]へりモ[illegible]ナリ」「衣ノへり」「鳥帽子ノへり」「へり取」「へり刺席」(二)[疊ノ]、疊ノ兩邊ヲ包ミ綴ル布。繧繝緣、高麗緣、布緣ナド、アリ。各條ヲ見ヨ。[illegible]枕草子、十、第百三十三段「又、高麗べりノ疊ノムシロ青ウコマカニ、へりノ紋アザヤカニ黑ウ白ウ見エタル、云云」[illegible]十[illegible]ノ[illegible]へりナト、世ノ常ナラズメデタクセサセ給ヘリ」

へり (名) 減耗 ヘルコト。スクナクナルコト。又、ソノ量。メリ。「損耗」

ペリカン (名) 〔英語、Pelican.〕 がらんてう(伽藍鳥)ノ異名。鵜鶘トモ云フ。

[illegible]享保年間ニ、此鳥、我國ニテ捕ヘラレタルコト、享保世話、巻三ニ見エタリ)

〜へりくだ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 謙 [illegible]又、[illegible]、他ヲ敬ヒ、己レヲ卑クス。身ヲ卑下ス。謙遜ス。天治字鏡、三十四「謙、ヘリクダル」日本釋名、中、人事「謙、ヘリクダル、へりハ減也、身ノタウトキト、カシコキトヲ、ヘラシテ、人ニクダル也」允恭卽位前紀[illegible]天皇[illegible]

へりくつ (名) 屁理窟 取ルニ足ラザル小理窟。又、僻ニ立タス議論。

へりさし (名) 緣刺 (一)ヘリヲ刺スコト。ヘリヲツクルコト。又、ヘリヲ刺シタルモノ。「緣刺席」(二)緣ヲ刺ス人。

へりさし-むしろ (名) 緣刺席 ヘリヲツケタル席 下學集、下、器財門「緣刺席、ヘリサシムシロ、[illegible]也」易林本節用集(慶長)上、食服門「緣刺席、ヘリサシムシロ」

へりつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) (邊付ク)ノ義〕アタリニ寄リツク。ホトリバム。

へりど・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 緣取 ヘリヲ綴ヂ作ル。ヘリヲトル。

べりべり (副) べらべらノ條ノ(一)ニ同ジ。長町女腹切(正德、近松作)中「今ノ詞ハ誰ガヲシヘタ、半七ノ掏兒メニ習フタカ、べりべりシャベル煩ゲタ、竄放イテシマハント」

ぺりぺり (名) 病ノ名。よいよいニ同ジ。半日閑話(安永、蜀山人)十「世俗ニよいよいト云フ病アリ、俄ニ中風ノ樣ニナルヲ云フ、是モ蘭書ニ有リ、東方百年來アル病也、ぺりぺりト云フヨシ、玄白ノ說(原注、内科選餘原病部)」

ぺりぺり (副) ブラブラシク、物ヲ剝ギ取ル狀ニ云フ語。メリメリ。

へりみち (名) 緣道 本道ヲヨケユクコ

ト。又、ソノ道。[illegible]

ヘル (名) 〔英語、Mohair.(あんごら山羊ノ毛織、意)ノ略〕毛織物ノ名。[illegible]綿ニ精質ノ梳毛絲ヲ用ヰ、細絲ニ於テ[illegible]ノ純毛、又ハ、綿毛ノ混合セルモノヲ用ヰテ、織リタルモノ。多ク、學生ノ服地ナドニ用キラル。

〜へ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 謙 (減るノ意) 己レヲ卑下ス。謙遜ス。[illegible]

へ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 減 (一)數量少クナル。乏シクナル。メル。減ズ。(二)用キテ少クナル。耗。(三)物ニ怯レテ、心ノ常ヲ失フ。へらず、へらぬト、ハ、臆セズ。ヒルミヲ見セズ。メゲズノ意。盛衰記、五、澄憲賜ニ血脈ニ事「サレドモ祐慶ハ少モへらず、鎧ノ胸板キラメカシ」同、十八、文覺[illegible]「文覺ハ[illegible]少モ[illegible]ハへらず」保元物語、中、井本)二、白河殿[illegible]心[illegible]シ、へらぬ由ニモテナシ[illegible]記、六、入道院參企[illegible]入道ハへらぬ體ニテ」

∴へる (動) 經 ふ(經)ノ口語。字類抄「經、ヘタリ、ヘル」

∴へる (動) 綜 ふ(綜)ノ口語。[illegible]「綜、機」和歌初學抄(藤原清輔)「糸、へル、綜」

ベル (名) 〔英語、Bell.〕 スズ。リン。電氣ノ鈴。呼リン。又、鐘。

ペルシャ-うま (名) 波斯馬 はるしゃうま(波斯馬)ノ略。

ヘルト (名) 次條ノ語ノ略。

ヘルトアン (名) 次次條ノ語ノ略。

ペルペチュアン (名) 嗶[illegible]〔西班牙語、Perpetuan.[illegible]、Perpetuana[illegible]〕[illegible]ト[illegible]ノ名。又、ヘルペトアン。ヘルトアン。略シテ、[illegible]

ヘルペトアン (名) 〔西班牙語、Perpetuan.〕 前條ノ語ニ同ジ。

ヘルメット (名) 〔英語、Helmet.〕 西洋風ノ兜形ノ帽子。

ベルモット (名) 〔佛蘭西語、Vermout. 英語、Vermouth.〕 西洋酒ノ一種。白葡萄酒ニ、苦艾ト砂糖トヲ、混和シタルモノ、味[illegible]ニ似テ、稍、苦味アリ。

ヘルレンス (名) 次條ノ語ニ同ジ。

ベレンス (名) 洋靑 べろりん(洋青)ニ同ジ。ヘルレンス。

〜へろ (名) 方 「ろハ[illegible]」(方ト云フニ同シ。[illegible]

∴べろ (名) 〔動カス形容ヨリ云フ〕 まった(舌)ノ異名。其條ヲ見ヨ。

へろ-へろ (副) 萎エテ、[illegible]ト[illegible]狀ニ云フ語。保元物語、一、[illegible]テ淸盛ナドガへろへろ矢、何程ノ事カ候フベキ」持統天皇[illegible]へろへろ[illegible]

∴べろ-べろ (副) 〔べろヲ、重ネタル語〕(一)舌舐スル狀ニ云フ語。べろべろ。

べろりべろり。(二)泥醉シタル狀ニ云フ語。グデングデン。へベレケ。

ぺろぺろ (副) (一)舌ヲ續ケテ出ス狀ニ云フ語。(二)舌ニテ、續ケテ舐ムル狀ニ云フ語。ベロベロ。ぺロりぺロり。

べろべろのかみ (名) 小兒ノ戲。其事ハ誰ガシタルカト疑フ時、占ヒ中ツルワザニテ、紙捻ノ尖ヲ少シ折リ曲ゲテ、兩ノ掌ニ挾ミ、揉ミテ、其指ノ差シタル者ヲ、ソレナリト定ム。嬉遊笑覽、六、下、兒遊「れろれろ、轉ジテべろべろトモイフ、べろべろの神ハ正直がみヨナドイフ、何ノ故事、何ノ義トイフ事ノ有ベキ、べろトハ舌ノ形容ヲイフナリ」

べろんこ (名) 小兒ノ顏ヲ拭フコト。又、顏ヲ拭フコトノ小兒ノ語。

べろり (副) 舌ヲ出ス狀ニ云フ語、ベロリ。浮世風呂(文化、三馬)三編、上「おべかト顏ヲ見合ハセ、舌ヲべろり」

ぺろり (副) (一)前條ノ語ニ同ジ。(二)モノヲ嘗メ盡ス狀、又ハ、食ヒ盡ス狀ニ云フ語。「ぺろりト食ッテシマフ」

ベロリン (名)【洋青】〔英語、Berlin blue.(伯林青)ノ略訛〕一種ノ濃キ紺色ノ畫料染料ノ名。モト西洋舶來ノ品ナリ。略シテ、べろ。訛シテ、ベレンス。ヘルレンス。ベルリン、ブリュウ。

へを (名)【攣】〔綜緒ノ義、麻ヲ綜ル如キヲ云フ〕古名、あしを。鷹ノ具、鷹ノ脚ニ結ヒ係クル紐。箋注倭名抄、五、七十四「鷹犬具、攣、一字兩訓、在鷹阿之乎、在犬岐豆奈、云云、今呼開乎」字類抄「綜、ヘ、足組、ヘヲ」夫木抄、廿七、鷹「へを放チ、手カヒニ輕キ、鷹ノ子ハ、モタリヤスクモ、カヘリヌルカナ」

へをさ (名)【戶長】令ノ制ニ、五十戶ヲ里トシテ、里每ニ戶長ヲ置カレタリキ。サトヲサ。里長。鄕長。

ほ　ぼ　ぽ

ほ 五十音圖、波行第五ノ假名。はノ條ヲ見ヨ。此音ハ、他ノ音ノ下ニアルトキ、其發聲ヲ失ヒテ、韻ノおニ呼ブコトアリ、志ほ(鹽)、おほり(氷)ナドノ如シ。

ぼ ほノ濁音ノ假名。ばノ條ヲ見ヨ。

ぽ ほノ半濁音ノ假名。ぱノ條ヲ見ヨ。

ほ (名)【秀】ヒイデタルコト。ヌキンデタルコト。古事記、中(應神)廿「チバノ、葛野ヲ見レバ、モモチタル、ヤニハモ見ユ、國ノ富モ見ユ」秀ヌ出ヅトハ、顯ハルル意。萬葉集、三廿九「見渡セバ、明石ノ浦ニ、燒ク火ノ、保爾曾出流、妹ニ戀フラク」同、九廿「石上、振ノ早稻田ノ、穗爾波不出、心ノ中ニ、戀フル此頃」浪ノ秀ト云フハ、浪ノ高クアラハルル意。古事記、上四十「因幡波挂ニ乘、天之羅摩船、而、內剝ニ鵝皮ニ剝、爲衣服」神武卽位前紀「…浪秀…」「奈美乃保」萬葉集、十四三十「オシテイナト、稻ハツカネド、奈美乃保ノ、甚振シモヨ、昨夜ヒトリ寢テ」

ほ (名)【火】ひ(火)ニ同ジ。古事記、中(景行)九十「サネサシ、相摸ノヲヌニ、燃ユル火ノ、本ナカニ立チテ、トヒシ君ハモ」神代紀、上廿「以手端而火燒燧…」「火影」火口」火筒」火屋」

ほ (名)【帆】〔風ヲ含ム意ト云フ〕帆柱ニ張リ揚ゲテ、風ヲ受ケシメ、船ヲ進ムル具。布、又ハ、席ニテ製ス。倭名抄、十一舟具「帆、保、船上掛檣上張風進船幔也」肥前國土記、神崎郡、船帆鄕「諸船皆下帆、皆、集於三根川津」土佐日記、正月廿六日「楫取イタクホコリテ、舟ニほアゲナド喜ブ」

ほ (名)【穗】〔秀ノ義、分明ニアラハルルヨリ云フ〕(一)草木ノ抽キ出デテ實ヲ結ビ、又ハ、花ヲ開ク莖ノ尖。穎。特ニ稻穗。又、穀類ノ子ノナル莖ノ尖。箋注倭名抄、九廿「穎、穗、保、禾末也」神代紀、下十四「齋庭之穗」萬葉集、二八「秋ノ田ノ、穗ノ上ニ霧フ、朝霞、イツベノ方ニ、我ガ戀止マム」(二)槍ノ刃ノ尖。槍鋩 渡邊幸庵對話「鑓、云云、大方ハ穗ノ短キカヨシ」(三)【穎】餘光 萬葉集、七十九「紅ニ、衣染メマク、欲シケドモ、着ナバ丹ノ穗ヤ、人ノ知ルベキ」(着丹穗哉、古義ノ訓)廣瀨大忌祭祝詞「皇御孫命ノ長御膳ノ遠御膳ト、赤丹ノ穗ニ聞食」(長、遠ハ、祝ヒ云フ、赤土ノ顏ノ赤キヲ、御顏ノ赤キニ譬フ)(四)思ヒノ外ニアラハルルコト。古今集、序「花薄、ほニ出スベキ事ニモアラズナリニケリ」玉葉集、十二、戀、四「秋風ノ、稻葉モソヨト、吹クナヘニ、ほニ出テテ人ゾ、戀シカリケル」新千載集、十二、戀、二「ワタノ原、浪路ニ遠ク、行ク舟ノ、ほニアラハレテ、戀ヒヤワタラン」

ほ (名)【洞】〔洞ノほモ、コレニ基ヅク〕ホホマリ、コモレル所。古事記、上五十「鼠來云、內者富良富良、外者須夫須夫」應神紀、十三年九月「三栗ノ、ナカツ枝ノ、保保コモリ、アカレルヲトメ、イザ榮バエナ」

ほ (名)【蔀】支那、古代ノ曆ニ云フ語。七十六歲ノ稱。詩經、大雅、文王之什、文王篇「文王受命」疏「三統曆、七十六歲爲一蔀、二十蔀爲一紀、紀積一千五百二十歲」

ほ (名)【保】(一)はう(保)ノ條ノ(一)ニ同ジ。類聚三代格、十六、貞觀四年、月十五日、太政官符「應令結保、督察奸猾及視守道橋事」(二)はう(保)ノ條ノ(二)ニ同ジ。戶令義解、九「凡戶皆五家相保、云云、及保內之人、有所行詣、並語同保知」(三)臺灣ノ地方團體ノ一、其地ノ安寧ヲ維持セシムル爲メ、オヨソ十甲(甲ノ條ヲ見ヨ)ヲ以テ一保ヲ組織シ、住民ヲシテ、各、連坐ノ責ヲ負ハシムルモノ。

ほ (名)【步】(一)アユミ。孟子、梁惠王、上篇「棄甲曳兵而走、或百步而後止、或五十步而後止、以五十步笑百步則如何」「十步、廿步」(二)ヒトアユミノ距離ニテ、地ヲ計ルニ云フ稱。卽チ、大尺五尺(曲尺六尺)。其三百步ヲ里トス。雜令「凡度地、五尺爲步、三百步爲里」和漢三才圖會、五十六、山類、里數、按「里、古者五十町、其一町六十步也、其一步六尺五寸、云云、中古以來、用三十六町、其一步用六尺三寸、爲華之六里」(三)古ヘ、田地ニ、六尺四方ノ稱。中古、六尺五寸、京間ナリ、天正年中、再ビ六尺トナル。步、坪。拾芥抄、中「凡田以方六尺、爲一步(四面各六尺也)、三十六步爲一段頭」

ほ (名)【畝】(一)ウネ。アゼ。詩經、小雅、北山之什、信南山篇「我疆我理、南東其畝」(二)支那ニテ、段別ノ稱。古クハ百步(縱橫各五尺ヲ步トス)後ニハ、二百四十步ヲ云フ。禮記、儒行篇「儒有一畝之宮、環堵之室、篳門圭窬、蓬戶甕牖」

ほ (名)【圃】〔說文「種菜曰圃」周禮、天官冢宰篇、大宰、注「樹果蓏曰圃」〕(一)ハタケ。ハタ。ソノ。田園。王禹偁詩「偶營菜圃爲生涯…」余靖、新定…「…前水北村」(二)ハタケヲ作ル人。ハタケツクリ。論語、子路篇「樊遲請學稼、云云、子曰、吾不如老圃」

ほ (名)【哺】食物ヲ口ニ含ムコト。又、ソノ食物。史記、魯周公世家「我一沐三捉髮、一飯三吐哺、起以待士」莊子、馬蹄篇「夫赫胥氏之時、民居不知所爲、行不知所之、含哺而熙、鼓腹而遊」太平記、十三、龍馬進奏事「天下未安」

ハ[illegible]人ノ[illegible]

ほ (名) 〔晡〕 〔晡ハ餔ニ同ジ、ゆふげニテ、申ノ時ヲ云フ〕 ほじ(晡時)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

ほ (名) 〔補〕 (一)ソヘヤク。助役。副役。(二)見習ヒ [illegible]

ほ (數) 〔百〕 〔百ト通ズ〕 百ノ古言。モモ。 [illegible] 百、コヽノホ [illegible]

ほ [illegible] 秀　物ノ秀デタルニ云フ語 [illegible] 段ハ、チリ過ギニケリ」

ぼあ (名) 〔暮鴉〕 ばんあ(晩鴉)ニ同ジ。 [illegible]

ぼあい (名) 〔暮靄〕 ばんあい(晩靄)ニ同ジ。 [illegible]

ほあし (名) 〔帆脚〕 帆足　船ノ帆ノ下部ノふちノ稈。 和漢船用集、十一、用具、帆小名「云云、[illegible]帆足、云云」

ほあてづきん (名) 〔頰當頭巾〕 〔ほあてハ、ほほあてノ約〕 ふくめんづきん(覆面頭巾)ノ條ヲ見ヨ。

ほあん (名) 〔保安〕 はうあん(保安)ニ同ジ。「警視廳保安部」保安林」

ほい (名) 〔本意〕 〔ほんいノ略〕 マコトノココロ。本來ノカンガヘ。ホンイ。本懷。本心。 伊勢物語、第四段「ソレヲ、ほいニハアラデ、志深カリケル人、行キトブラヒケルヲ」[illegible]段、三十八、夕霧「[illegible]モシ猶ほいナラヌ事ニテ」 榮花物語、廿三、駒競「カカルコトノ結縷シ中サネバ、ほいノ[illegible]ニテ」 [illegible]ハ、[illegible]ネンゴロニイヒテ、ツヒニ、ほい遂ゲテケリ」

ほい (名) 〔補遺〕 〔正音、ほゐノ誤用〕 アトヲオギヒツギ、ツケクハヘ、追加、拾遺　ほゐ(補遺)ノ條ヲモ見ヨ。

ほい (名) 〔布衣〕 〔古クハ布製〕 (一)狩衣ノ無文ノモノ。六位以下ノ人ノ着ルモノ。又、ソレヲ着ル身分ノモノ。延ベテ、ほうい(狩衣ノ條ヲ見ヨ) 字類抄「布衣、ホイ、ホウイ」 宇津保物語、祭使「[illegible]元則、シバシほいニナリテ、ソノ裝束、コノ學生ニトラセヨ」 平家物語、一、殿上闇討事「[illegible]布衣ノ者ノ候フハ何者ゾ」(忠盛ノ從者家貞ノ事) (二)江戸幕府ノ制ニテハ、大紋ニ次ギテ、武士ノ第四級ノ禮服。[illegible]役人着ス(直垂ノ條ヲ見ヨ) [illegible] 裝束抄ニ、布衣ト云フハ狩衣ノ事也、云云、今武家ニ布衣之御役人ハ、必精好ヲ用ヒ、陪臣ニハ只ノ[illegible]、用、云云 貞丈雜記、五、裝束之部「今ハ織文アルヲ狩衣ト云、織文ナキヲ布衣ト云習セリ、云云、古ヘハほういト云、今ハほいト云、是レ今世、江戸武家ノ詞ナリ」 (三)轉ジテ、其身分ノ名。六位ヲ云フ。 [illegible]「千石以上ノ御旗本ニテモ、代代布衣ニナラザレバ、其ノ子、[illegible]ニ入ナラヌ事ナリ、故ニ大御番ニ入ナリ」 柳營秘鑑、一「布衣被仰付面面、小普請支配、御番頭、云云」 [illegible]無位ノ御役人、着シ玉フ布衣トイフハ、衣服ノ名ナルヲ、官名ノ樣ニナレリ、布衣ハ六位ニ比セラルル、[illegible]エタリ」

ほい (感) (一)物ヲ擔ギ、又ハ、押シナドスル時ノカケ聲。ホイホイ。(二)驚キタル時ニ發スル歎聲。「ほい、シマッタ」

ぽい (接尾) 〔形容詞ノ語尾、多シノ略轉〕 ソノ趣ナル意ヲ示ス語。「忘レッぽい」白ッぽい」ムセッぽい」

ほいう (名) 〔保有〕 タモツコト。モチツヅケルコト。[illegible]

ほいかご (名) 〔ほいハ、掛聲ナリ〕 (一)江戸時代、驛路ヲ往來セシ[illegible]籠。卽チ、問屋駕籠、宿駕籠ノ類。(二)江戸時代、路上ニ客ヲ待チテ乘セタル[illegible]。卽チ、辻駕籠[illegible]

ほいく (名) 〔輔育〕 輔佐シ、教育スルコト。ウシロミ、育ツルコト。[illegible]

ほいく (名) 〔保育〕 保護シ、撫育スルコト。「保育所　幼兒保育」

ぽいあぐ・る ル・レ・ラ・リ・レ(四段) オヒヤル。追ヒ出ス。オッパラフ。

ボイコット (名) 〔英語、Boycott.(人名)〕 英國、愛蘭土ノ大地主 Erne 卿ノ差配人 Charles Cunnigham Boycott. ガ、千八百八十年、耕作人ト不和ヲナス、小作人等ハ、土地同盟ヲ組織シ、商人等ハ、又、此人トノ賣買ヲ拒絕シタリ、コレヨリコノ名起ルト云フ」言ヒ合ハセテ、他ト交ヲ絕チ、又ハ、賣買取引ヲ拒絕シテ、社會的制裁ヲ加フルコト。非買同盟。同盟非買。取引拒絕　排貨

ほいさう (名) 〔倍作〕 算術ノ語。數ヲ二倍ニスルコト。九九ノ呼聲ニ、「二五三倍作ノ六」ト云フ。

ほいしん (名) 〔背心〕 僧侶ノ服ノ一。袖ノナキモノ。

ホイタウ (名) 〔陪堂〕 〔字ノ宋音、禪林ニテ、客僧ナドガ僧堂ノ外堂ニ陪シテ、[illegible]〕 [illegible] (二)轉ジテ、[illegible] 頭集、上、[illegible]、ホイタウ」 [illegible]集、二「ヒダルサ故ニ、ヤセワタル藉」[illegible]「ほいたう」 [illegible] 子折「山代八十人ニアマッテサウゾ、今夜一夜ノほいたうヲタベヤットヨバハッテ」 (三)モノモラヒ(物貰)ノ稱。ホイト。乞食。 [illegible] 八、四國遍路陪堂シテ、[illegible]ヲ祈ル、[illegible]

ぽいだ・す [illegible] 追ヒ出ス。[illegible]「イヤ、[illegible]」 [illegible] 一九)發端「田舍モンデゴザルカラ、義者バッテムケチナク、ほい出シマシタ、云云」

ホイチャウ (名) 唐人[illegible]ノ役人ノ名 [illegible]

ホイト (名) [illegible]「ほいたう」ノ[illegible] 又、ヘイタウ。 蒸雞の記、前集、上「乞食ヲほいとト云フ、[illegible] コレヲほいとトイフ、ほいとトハ布衣徒ノ義ナリトイヘリ」

ぽい-と (副) (一)急ニ立チ去ル狀ニ云フ語。フイトツイト。浮世床(文化、十年)二編、下「人ニロヲキカセズニ、ウヌヒトリロヲキイテ、ぽいと歸ッタゼ」(二)物ヲ投ゲ棄ツル狀ニ云フ語。

〔**ほい-な・し・キ・ケレ・ク・ク**(形、一) [無本意] 不本意ナリ。殘念ナリ。源、十七、繪合四十「タダカクオモシロキ紙繪ヲトトノフル事ヲ、天ノ下イトナミタリ、今アラタメカカン事ハ、本意なき事ナリ」落窪物語、四「ハヤハヤトイソガシ給ヘド、本意なきコトナレバ、イ・ウヌ・物ウク覺エテ」

✤**ぽい-の・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ**(他動、下二) ホヒ乘ス(手數ヲカケズ乘ス。) 東海道中膝栗毛(文化、一九)二編、下「梅ノ木ノ立場カノ、トウトウ、ウラヲぽいのせテ、江尻ヘ來ルト」

ホイホイ (名) [囘囘] ふゐふゐ(囘囘)ニ同ジ。

ほい-ほい (感) 〔ほいヲ重ネタル語〕(一)ほいノ條ノ(一)ニ同ジ。東海道名所記(萬治三)「ヨク數ツボニ取リツキ給ヘト、男ニカヲツヘテ、歩意歩意(ホイホイ)トイウテ渡ルウチニ」(二)人ヲ呼ブニ發スル聲。狂言記、狐塚「呼バハ、ツテ見ヨウ、ほいほい太郎冠者ヤイ、何處ニ居ルゾ」

ぽい-ぽい (副) ツブヤク狀ニ云フ語。浮世床(文化、三編)初編、中「懸意バカリぽいぽいボヤキクサッテ、性根ガナイワイノ」

ぼ-いん (名) [戊寅] ツチノエノトラ。えと(干支)ノ條ヲ見ヨ。唐書、暦志「唐終始二百九十餘年而暦八改、初曰、戊寅元暦、云云」

ぼ-いん (名) [母音] ぼゐん(母韻)ノ條ヲ見ヨ。

ぼ-いん (名) [拇印] 拇指ノ先(サキ)ニ墨、又ハ、朱肉ヲツケ、實印ノ代リニ押シタルモノ。ツメイン。ツメバン。

ポイント (名) 〔英語、Point.〕(一)點。ホシ。(二)轉ジテ、場所。(三)鐵道ニテ、車輛ヲ一ノ線路ヨリ他ノ線路ニ移ス分岐點ニ添ヘ置ク裝置。轉轍器。(四)活字ノ大キサヲ示ス名目。一ぽいんとハ、一吋(インチ)ノ七十二分ノ一ナリ。又、肉ボソノ活字ノ稱。「六ぽいんと活字」

ポイント-マン (名) 〔英語、Points-man.〕 鐵道ノぽいんとノ開閉ヲ取扱フ人。轉轍手。

ほい-やり (副) ホホト笑ミヲ含ミタル狀ニ云フ語。心中宵庚申(享保、近松作)下「母、ほいやりト笑顔シテ、ムム、思ヒアウタ夫婦合」

ほ-いろ (名) [焙] 〔火炙(ホイツ)ノ轉ト云フ、次條ヲモ參見セヨ〕焙ズルコト。火ニ當テテ乾カスコト。「ほいろ取ル」「ほいろカケル」

ホイロ (名) [焙爐] 〔禪家ノ語ニテ、字ノ宋音〕火上ニ被ヒテ、茶、藥品ナド乾カス具。木匡(ワク)ニ紙ヲ貼リ、中ニ匣ノ棚アリ、其底ヲ紙ニテ張ル。ホイロウ。焙籠。烘廚。紙焙。饅頭屋本節用集「焙爐、ホイロ」易林節用集(慶長)上、器財門「焙爐、ホイロ、茶用」醒睡笑(元和、安樂庵策傳)八「茶、云云、わ焙爐ノ紙ニツツミ納メ置キ候ママ、云云」

ホイ-ロウ (名) [焙籠] 前條ノ語ニ同ジ。和漢三才圖會、三十一、庖廚具「焙籠、俗云、保以呂宇、焙籠焙、藥種及茶之籠」

〔**ほう** (名) [頰] ほほ(頰)ノ音便。枕草子、十二、第百五十七段、みぐるしきもの「晝寢シテ、云云、ヨウセズバ、ほうユガミモシツベシ」

ほう (名) [法] 此字、吳音ニテハほふニテ、漢音ニテハはふナリ、法師(ホフシ)、法樂(ホフラク)、法服(ホフフク)ナド、古クハ、音便ニ、ほうトモセリ。各條ヲ見ルベシ。

ほう (名) [俸] 扶持米。給料。俸米。俸祿。漢書、宣帝紀「詔曰、吏不廉平、則治道衰、今小吏皆勤事、而奉祿薄、欲其毋侵漁百姓難矣、益吏百石以下奉十五」後漢書、[illegible] 字彙補「俸、俸祿、月俸」

ほう (名) [封] 〔周禮、春官篇、大宗伯「王大封則先告后土」疏「封、是土地之事」〕 大名ノ領地。知行所。采邑。食邑。書經、蔡仲之命序「蔡叔既沒、王命蔡仲、踐諸侯位、作蔡仲之命」史記、酈生傳「戰勝而不得其賞、拔城而不得其封、非項氏莫得用事」「萬石ノ封」「封內」

ほう (名) [烽] ノロシ。トブヒ。烽火。史記、司馬相如傳「夫邊郡之士、聞烽擧燧燔、皆攝弓而馳、荷兵而走、流汗相屬、唯恐居後」[illegible]

ほう (名) [鋒] ホコ。ホコサキ。キッサキ。晉書、潘尼傳「抽鋒擢穎、倜乎勢利之交、以華馳騁乎富貴之場」莊子、說劍篇「天子之劍、以燕谿石城爲鋒、齊岱爲鍔、晉魏爲脊、周宋爲鐔、韓魏爲夾、包以四夷」「利鋒」「鋒ヲ爭フ」「鋒ヲ交フ」

ほう (名) [鳳] 〔說文「鳳、神鳥也」爾雅、釋鳥篇「鶠鳳、其雌皇」〕 ほうわう(鳳凰)ニ同ジ。論語、微子篇「楚狂接輿歌而過孔子曰、鳳兮鳳兮、何德之衰、往者不可諫、來者猶可追、云云」唐書、韓瑗傳「御史李善感、始上疏極言、時人喜之、謂爲鳳鳴朝陽」「鳳鳴朝陽」

ほう (名) [鵬] オホトリ。支那ニテ、想像ノ大鳥ノ名。鯤(コン)ト云フ大魚ノ化シテ成ルモノト云ヒ、其背幾千里ナルヲ知ラズト。莊子、逍遙遊篇「北冥有魚、其名爲鯤、鯤之大不知其幾千里也、化而爲鳥、其名爲鵬、鵬之背、不知其幾千里也、怒而飛、其翼若垂天之雲」

ほう (感) 感歎シ、又ハ、驚キテ發スル聲。

ぼう (名) [謀] (一)ハカリゴト。計略。易經、繫辭、下傳「知小而謀大、力小而任重、鮮不及」(二)二人以上ニテ、陰謀ヲ企ツルコト。タクラミ。淮南子、人間訓「[illegible]」法曹至要抄[illegible]「謀、謂二人以上」[illegible]雖三一人同二二人之法」

ぼう (名) [棒] (一)木、竹ノ幹ノ枝葉ヲ去リ、切リテ手ニ持ツベク作レルモノ。杖トシ、朸(アフコ)トシ、又、防禦ノ具トス。或ハ鐵ナルヲモ云ヒ、其他、大小、細太、又ベテ、細長キモノノ稱。魏書、爾朱榮傳「又以人馬逼戰、刀不如棒、密勒軍士、馬上各齎神棒一枚、置於馬側」[illegible]「把、棒、拘」(二)棒術(其條ヲ見ヨ)ノ略。武藝ニ、四五尺許リノ堅木ノ棒ヲ用ヰテ、敵ニ當ル技。棍手。狂言記、棒縛「汝ハ、棒ヲ使フト聞イタ、イツノ間ニ稽古シタ、云云、棒ヲツカフコトハ存ジマセヌ」俳草(正保)下「我ナドハ、ヤハラ取手ヤ棒ナドヲアラマホシ」(三)墨、朱ナドニテ引キタル線(フチ)。「棒ヲカケル」「棒ヲ引ク」(四)曲節ノナキコト。棒ヲ振るトハ、全ク費シ盡ス意。浮世物語(明暦、淺井了意)二「家ヲ棒ヲふり、云云」東海道中膝栗毛(享和、一九)初編「二朱一ツ棒ヲふッテ、大キニフサギキル」

ぼ-う (名) [暮雨] 夕暮ニ降ル雨。夕雨。晩雨。岑參詩「山曉秋雲冷、江帆暮雨低」李端、聽夜雨寄盧綸詩「暮雨蕭條過鳳城、霏霏颯颯重還輕」徐鉉詩「那堪暮雨瀟瀟下、獨散空亭客上船」

ぼう (代) [某] (一)自稱ノ代名詞。我。ソレガシ。歐陽修、與參省劄「某輒首、公私忽忽、久闕致誠」(二)不定稱ノ代名詞。ナニガシ。ソレガシ。論語、衞靈公篇「師冕見、云云、皆坐、子告之曰、某在斯、某在斯」左傳、宣公十年「凡諸侯之大夫違、告於諸侯曰、某氏之守臣某、失守宗廟、敢告」

〔**ほう-い** (名) [布衣] ほい(布衣)ノ延。其條ヲ見ヨ。「布衣始」

ほうい [illegible]ルニ云フ聲。ホウイホイ。オオイ。オ[illegible]居リマスル、呼ビマセウズ、ほうい」

ほう-いう（名）[朋友] [illegible]同行、同門、同[illegible]友人。[illegible]詩經、大雅、文王之什、[illegible]兌、君子以朋友講習」[illegible]

ほうい-はじめ（名）[布衣始] 太上天皇ニ[illegible]後、始メテ御[illegible]着セシメ給ノ式。[illegible]

ほう-いふ（名）[封邑] 〔封トセラレタル領地〕封ゼラレタル領地。封地。[illegible]

ほうい-ほい（感）〔ほうい（呼ビ掛クル聲）ヲ重ネ略シタル語〕 ほういニ同ジ。

ほう-えう（名）[蜂腰] （一）蜂ノ如クニ括レタル腰。ヤナギゴシ。細腰。（二）さしをれうた（腰折歌）ノ一稱。其條ノ（一）ヲ見ヨ。（三）[illegible]

[illegible]云云、下句[illegible]、是不可避之病也」

ほうえう-びやう（名）[蜂腰病] [illegible]ノ沈約ノ詩格八病ノ一。作詩上忌ムベキコトトス。卽チ、一句ノ中、第二、第四ノ字、聲（平、上、去、入）ヲ同ジクスルモノ。[illegible]二四不同トモ云フ。又、一句ノ中、第二字、第五字（七言ハ第七字）ノ聲ヲ同ジクスルモノトモ云フ。但ジ何レモ平聲ハ病ト爲サズ。[illegible]

ほう-えき（名）[縫掖][縫腋][縫腋] マツハシノウヘノキヌ。ほう（袍）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]名抄ニハ、腋ヲ、掖、又、[illegible]トカケリ）、縫腋ハ、ワキヲヌフト云フ義ニテ、袖ノ下ヨリ兩ワキヲヌヒフサゲ、今用ル袍也、是ヲ、マツハシノウヘノキヌト稱ス」

ぼう-えき（名）[貿易] （一）かうえき（交易）ニ同ジ。[illegible]（二）特ニ外國トノ交易ノ稱。外國トノ通商。

ぼうえき-かう（名）[貿易港] 商港ノ一。輸出、輸入トモニ許可セラレタル門港。卽チ、武藏國横濱、攝津國神戸、肥前國長崎、越後國新潟ナドノ類ナリ。

ぼうえき-ぎん（名）[貿易銀] （一）特ニ、[illegible]

[illegible]シ、銀貨ノ鑄造ヲ欲スルモノニハ、一圓銀ヲ造テ之[illegible]

ぼうえき-ふう（名）[貿易風] 〔航海通商上ニ便利ナルガ故ニ名ヅク〕赤道ノ南北三十度以内ノ海上ニ生ズル恆風。卽チ、赤道地方ハ溫度最モ高ク、兩極ニテ最モ低ク、之ニ反シテ高緯度地方ハ、漸次、溫度低ク、[illegible]高キ故、空氣ハ、[illegible]ノ平衡ヲ得ムトシテ、高緯度地方ノ空氣ハ、地面ニ沿ヒテ、赤道ニ向ヒテ流動ス。是レ所謂、貿易風ナリ。又、赤道地方ニテ上昇シタル空氣ハ、空中ノ上層ヲ高緯度地方ニ向ヒテ流動ス。是レ所謂、反對貿易風（一ニ逆貿易風）ナリ。貿易風ハ、地球自轉ノタメ、北半球ニテハ右ニ偏シテ、北東風トナリ、南半球ニテハ左ニ偏シテ、南東風トナル。又、道貿易風ハ、北半球ニテハ南西風トナリ、南半球ニテハ北西風トナル。

ほう-えん（名）[烽烟][烽煙] ノロシノケムリ。又、ノロシ。烽火。狼烟。[illegible]

ほう-おく（名）[蓬屋] 屋根ヲ、ヨモギニテ葺キタル家。轉シテ、貧家ニ云フ語。又、己レガ家ヲ謙遜シテ云フ語。蓬盧。蓬舍。盛衰記、八、讚岐院事「日晨岳ヲ出レバ、鶴樓竹園ノ甚シキ興ヲ忘レズ、早ク民煙、蓬屋ノ悲涙ヲ止テ、必ズ三佛菩提ノ妙位ニ昇ラントアソバシテ」

ほう-おん（名）[illegible]云[illegible]」敎訓抄、八、十二調子名「三月[illegible]（律）」

ほうおん-こう（名）[報恩講] [illegible]

ほう-か（名）[鳳駕] 天子ノ召サル車[illegible]

ほう-か（名）[奉加] 〔供物ヲ加ヘ奉ル意〕神佛、寺院[illegible]リテ、加ヘタテマツルコト。古クハ知[illegible]ノ大宮司ガモトヘ行テ、奉加セヨト云ヒケルニ」

ほう-が（名）[奉賀] イハヒ奉ルコト。又、賀狀ヲ奉呈スルコト。

ほう-がい（名）[寳蓋] てんがい（天蓋）ノ條ノ（一）ニ同ジ。通雅、宋起「逃于佛蓋之下」[illegible]タセ給ヒテ、御ほうがいヲトリ奉ラセ給フ」

ほうかい-ぶし（名）〔法界節トモ書ク〕俗謠ノ一種。[illegible]ほうかいト云フ語ヲ入レテ謠フヨリ云フ。明治廿四五年頃ヨリ、廿七八年ニカケテ流行セシ[illegible]

ノ着物ニ、帽子ノ帶、ほうかい、似合マスカヘ、コチノ人、素人ジ。タデナイカイナ、ササほうかい」

ほうかう（名）［奉行］又、ぶぎやう。旨ヲ奉ジテ執行スルコト。蘇軾、與王定國書「[illegible]」朗詠集、上、書[illegible]「有[illegible]相收拾、詞紙無[illegible]文未奉行」

ほうかう（名）［蓬蒿］（蓬モ蒿モよもぎ）よもぎ（艾）ニ同ジ。又、よもぎナドノ雜草ノシゲミ。漢書、郊祀志「[illegible]」[illegible]「[illegible]身不仕、所居蓬蒿沒人[illegible]以布衣[illegible]於蓬蒿之下」

ほうかく（名）［鳳閣］（一）美麗ナル樓閣ノ稱。法書要錄（唐、張[illegible]）「[illegible]」[illegible]「[illegible]鳳閣起于[illegible]」（二）なかつかさしやう（中務省）ノ唐名。其條ヲ見ヨ。職原抄、「上中、省[illegible]唐中書省、又號鳳閣」

ほうがきん（名）［奉加金］社寺ニ奉加スル金錢。又、奉加錢。

ぼうがしら（名）［棒頭］駕籠舁ノ頭。

ほうがせん（名）［奉加錢］ほうがきん（奉加金）ニ同ジ。藤原軒日錄、長祿二年八月十六日「[illegible]」

ほうがちやう（名）［奉加帳］寄進奉加ノ目錄ヲ記ス帳。勸進簿　緣簿　[illegible]記、應永三十二年十一月十六日「或人云云、相國寺奉加帳、日野入道一位儀同三司ト書キテ加判」親長卿記、文明十年八月二日「泉涌寺奉加帳被下之、[illegible]奉加[illegible]之由、被仰下」

ほうかん（名）［幇間］たいこもち（太鼓持）ニ同ジ。雜[illegible]「[illegible]」

ほうき（名）［蠭起蜂起］蜂ヲツツケバ、蜂ノ一時ニ飛立ツ如ク、羣リ起ルコト。史記、項羽紀「今君起江東、楚蠭起之將、皆爭附君者、以君世世楚將、為能復立楚之後也」[illegible]集、一、神祇「山門コノ事ヲキキテ蜂起シ、云云、[illegible]兩御輿、蜂起ノ張本ナリトテ、敕勘[illegible]リニケリ」

ぼうぎ（名）［謀議］ハカリゴトニ就キテノ評議。計畫ノ相談。漢書、韓延壽傳「延壽[illegible]」[illegible]「[illegible]」

ほうきふ（名）［俸給］（一）祿ヲ扶持米ニテ、與ヘラルルコト。俸祿。扶持方。宋史、[illegible]「[illegible]」（二）仕官ニ就イテ給セラルル金。職務ヲ執ル人ニ與フル報酬。給料。給金。

ほうきやう（名）［封疆］諸侯ノ領分境。領土ノサカヒ。禮記、月令篇「[illegible]封疆、備邊[illegible]」荀子、子道篇「[illegible]」

ほうぎやうづくり（名）［寶形造］四阿ノ屋ニテ、頂ニ寶珠ノ形ヲ設ケタルモノ。今唯、四方ニ軒ノ垂レタル屋ヲ云ヒ、方桁ノ字ヲ記ス。（切妻ニ對ス）はうきやう（方桁）ノ條ヲ見ヨ。盛衰記、十一、育王山送レ金事「檜ノ材木ヲ以テ、寶形作ノ御堂ヲ建テテ、五百町ノ供米田ヲ、彼育王山ヘゾ寄ラレケル」

ぼうぎやく（名）［謀逆］ムホンヲ、ハカルコト。謀反ヲ企ツルコト。

ほうぎよ（名）［崩御］〔釋名、八「天子曰レ崩、崩壞之形也」〕カンサルコト。天皇、皇后、上皇、法皇、皇太后ノ、カクレサセタマフコト。晏駕。登遐。登仙。硯落　下學集、下、[illegible]門「崩御、ホウキョ、指天子之辭世」[illegible]「[illegible]」[illegible]「[illegible]」

ほうきよう（名）［豐凶］農作ニ云フ語、豐作ト、凶作ト。豐年ト、凶年ト。

ほうきよく（名）［鳳曲］鳳管ニテ吹奏スル曲。盛衰記、三十二、[illegible]「[illegible]」

ほうぎらう（名）［奉議郎］從六位上ノ唐名。職原抄、後附「從六位上、下」注「唐名、上、奉議郎、下、通直郎」

ほう・く（動）［惚］惚く、ノ延　其條ヲ見ヨ。宇治拾遺、一、第十六條「博打ノ、ウチほうけテヰタルガ」「病ミほうく」

ほうぐ（名）［反故］ほぐ（反故）ノ條ヲ見ヨ。狹衣、二、上卅「其ノシルシト見ユルほうぐノハシダニ、落チチラヌハ、云云」右京大夫集「サスガ積モリニケルほうぐナレバ、多クテ」

ぼうぐひ（名）［棒杙］圓キ木材ノ杙。棒狀ノ杙。

ぼうぐみ（名）［棒組］（一）荷ヲ棒ニテ共ニ擔ブ仲間ノモノ。又、駕籠ヲ共ニ舁ク相手。アヒボウ。東海道中膝栗毛（享和、一九）四編、上「ママヨ、棒組マケテヤラアズ」（二）ナカマ。同一ノ事ヲ行フモノ。徒黨。（三）活版ノ組方ニテ、框ニ入レズニ、横ニ長ク續ケテ組ムコト。又、ソノモノ。

ほうくわ（名）［烽火］ノロシ。トブヒ。烽。史記、周紀「[illegible]」[illegible]「[illegible]」[illegible]「[illegible]」[illegible]十五年九月「[illegible]」[illegible]火ト書テ、カガリトモ、トブ火トモヨメリ」

ほうくわ（名）［蜂窩］（[illegible]）ハチノス。蜂房。[illegible]「[illegible]」

ほうくわい（名）［崩潰 崩壞］クヅレ、ツヒユルコト。クヅレ、ヤブルルコト。

ほうくわん（名）［奉還］カヘシ、タテマツルコト。返上スルコト。「大政奉還」

ほうくわん（名）［寶冠］又、はうくゎん。寶玉ニテ裝飾シタル冠。[illegible]「[illegible]」

ほうくわん（名）［鳳管］〔鳳ノ翼ニ象リ作レルモノト云フ、又、一説ニ、支那ノ黃帝ガ伶倫ヲシテ、崑崙山ノ竹ヲ伐リ、鳳凰ノ鳴キ聲ヲ學バシメテ作リタル笛ノ故事ニ起ルト〕せう（簫）ノ異名。[illegible]「[illegible]」朗詠集、下「[illegible]」

ほうけ（名）［惚］（ほけ（惚）ノ延）ホウクルコト。ボケルコト。又、其人。

ほうけ (名) [illegible] 佛[illegible]ノ[illegible]。[illegible]
[illegible]行時、寶華承足」十訓抄、上、第一、第七條「天人雲ニ列リテ、微妙ノ音樂ヲ發ス、如來寶華ニ座シテ、其[illegible]

ほうけい (名) 寶髻 [illegible]衣服令ニ、內親王[illegible]內命婦[illegible]デ、禮服ニ寶髻アリ、[illegible]ニ、以金玉[illegible]、故云寶髻[illegible]ト見エタリ」中古、貴婦人ノ髻ノ飾物[illegible]
[illegible]

ほうげい (名) 奉迎 貴人ニ云フ語。迎ヘ[illegible]ルコト[illegible]ヘスルコト。

ぼうけい (名) [illegible] ハカリゴト。謀略。計略。戰國策、趙策「臣[illegible]以爲計[illegible]必出於[illegible]」[illegible]

ぼうげき (名) 矛戟 〔矛ハ、柄ノ長キホコ[illegible]〕武器ノ[illegible]ほこ。詩經、秦風、無衣篇「王于興師、修我矛戟」[illegible]
[illegible]劍ニ習、扶ニ擧於路ニ」

ぼうけし (名) 棒消 (一)文字ノ上ニ、墨ナドニテ棒ヲ引キテ消スコト。(二)轉シテ、或事件ヲ、切取消スコト。

ほうけつ (名) 鳳闕 〔門上ニ銅ノ鳳凰ヲ棲マシムル故ノ稱ト云フ〕(一)きんもん(禁門)ニ同ジ。漢書、郊祀志「其東則鳳闕[illegible]」[illegible]
[illegible]「[illegible]鳳闕、ホウケツ、指ニ禁裏ニ」

ほうけつ (名) [illegible] 前ノ[illegible]、ハケ」
[illegible] 又、物ノ[illegible]

ほうけ[illegible] [illegible]

ほう-け-づ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自[illegible]) 〔ほうハほふノ音便〕 佛法メク。[illegible]佛臭クナル。又、[illegible]見ユ。略シテ、ほけづく[illegible]
[illegible]ヒカケントスレバ、ほうけづきクスシカランコソ、[illegible]松中納言物語、二「色色ニ裝ゾキタランヨリモ、ナマメカシキサマカハリ、ほうけづき尊ゲニナリテ」

ほうけふ (名) 豐頰 美シク肥エ太リタル頰。轉ジテ、美人。[illegible]
序「曲眉豐頰、清聲而便體、秀外而惠中」

ほうけふいんたふ (名) 寶篋印塔 はうけふいんたふ(寶篋印塔)ノ條ヲ見ヨ。

ほうけ-ほうけ (副) 惚惚耄耄 〔ほけほけ惚惚〕ノ延〕 イタク惚ケタル狀ニ云フ語。甚ダシク、ボケテ見ユ。宇治拾遺、十四、第十一條「入道ノ君トテ、ほうけほうけトシテ、サセル事ナキモノニテ、俊平(信平イ)入道ガ許ト、山寺ナドニ通ヒテゾアリケル」

ほうけん (名) 奉獻 [illegible]ミテ奉上グルコト[illegible]獻納シ奉ルコト。史記、呂不韋傳「[illegible]」
[illegible]

ほうけん (名) 封建 〔地ヲ分チ、國ヲ建テテ、其主ヲ封ズル義〕支那、三代ノ世ニ、天子ノ都、四方、千里ヲ畿內ト云ヒ、コレヲ天子ノ公領トシ、其他ハ、諸侯ヲ封シテ、各、其地ヲ私領セシム、コレヲ、封建の制ト云フ。秦ノ世ニ及ビテ、全國ヲ一統シ、國內ヲ三十六郡ニ分チ、郡中ニ若干ノ縣ニ分チ、各、吏ヲ置キテ治メシメ、全國、皆、公領ニシテ、諸侯ノ國ヲ立テズ、コレヲ郡縣の制ト云フ。其後、[illegible]ニ異[illegible]レド、[illegible]內、皆、公領ナリキ。我ガ邦ニテモ、上古ハ封建の制ノ如クナリシガ、孝德天皇ノ大化ヨリ郡縣の制トナリ、鎌倉ノ世ヨリ亦、封建ノ[illegible]、室町、江戶ノ世ハ、全ク封建ノ制度トナリ、明治ニ至リテ郡縣ノ制トナレリ。[illegible]
[illegible]

ほうけん (名) 寶劍 はうけん(寶劍)ニ同ジ。[illegible]
[illegible]

ほう・ける (動) 惚耄 ほうく(惚)ノ口語。

ほうこ (名) 蓬壺 蓬萊ト、方壺ト、共ニ神仙ノ居處。又、蓬萊。[illegible]
[illegible]

ほうこ (名) 封戶 ふこ(封戶)ノ條ヲ見ヨ。

ほうこ (名) 蓬戶 〔蓬ニテ作レル戶ノ義〕マヅシキ家。蓬屋。蓬舍。[illegible]
[illegible]

ほうこ (名) 布袴 〔古ヘハ、指貫ヲ、布ニテ製シタレバ、此名アリ〕裝束ニ云フ語。ほうニ袍ニ下襲ヲ着テ、指貫ヲハクコト。直衣ナルヲ、なほしほうこトモ云フ。[illegible](狩衣)ノ條ヲ見ヨ。字類抄「布袴、ホウコ、[illegible]」[illegible]
[illegible]時、布袴[illegible]ニ」(袴ハ袴ニ通ズ)

ほうご (名) 反故 [illegible]
[illegible]反古ノ色紙ハ、世ニハジマリケル」

ほうご (名) [illegible] 死[illegible]
[illegible]

ほうとう (名) 封侯 諸侯ニ封ズルコト。又、諸侯ニ封ゼラレタルコト。[illegible]
[illegible]

ほうこう (名) 烽候 烽火ノ斥候。ノロシノ見張。[illegible]
[illegible]

ほうこう (名) 奉公 [illegible]
奉ル義〕(一)天皇御一人ニ仕ヘ奉ルコト。公ニ仕ヘタテマツルコト。君國ノタメニ忠[illegible]
「奉公如法則上下平、上下平則國強」[illegible]
「雖志在奉公孤立而涉難、知以御人」[illegible]
[illegible] (二)陪臣ノ大名ニ仕フルコト。又、番頭、小僧ナドノ主人ニ事フルコト。主人ヘノ仕ヘ[illegible]
[illegible]

用草子、正徳二、女房ハ御所方ニ奉公セントテ、今ニソノウツリアッテ、シホラシク」「奉公住ミ」奉公人」

ほうこうにん (名) |奉公人| 奉公ヲスル人。メシツカヒ。ヤトヒニン。甲陽軍鑑、九、上、品第廿四「恥ヲ知ラネバ形氣アシクシテ、後グラキ奉公人ノ多キハ、大將ノ明ラカニナキ故也」 用明天皇職人鑑(寶永、近松作)四「上中下ノ奉公人、何萬アルトモ知レガタシ」

ぼう-ふえ (名) 棒肥 棒杙ニテ、果樹ナドノ周圍ノ諸所ニ穴ヲ穿チ、其中ニ肥料ヲ施シテ、上ヲ掩ヒカクルコト。

ほう-とく (名) 奉告 告ゲ奉ルコト。申シ上グルコト。(神祇ニ)

ほうご-ぶきぶ (名) 反古色紙 又、ほぐぶきぶ。詩文ナドヲ書キタル草稿、又ハ、其反古ヲ、漉キ返シテ作レル色紙。十訓抄、中、第五、第十六條「センカタナキママニ、朝夕通ヒシ御文トモフ、云云、色紙ニ漉カセテ、多クノ大小乘經ヲ書キ、供養セラレケリ、云云、是レヨリゾ、反古ノ色紙ハ、世ニハ始マリケル」

ホウゴロウ (名) |鳳五郎| [蘭語、Struis vogel. ノ上略、Struis ハ、駝鳥、vogel. ハ鳥ト云フ] だてう(駝鳥)ニ同ジ。鳳五郎鳥。本朝食鑑、六、鳳五郎、比鳥雷書曰、保字與二宇一云云、是則本草謂、駝鳥歟」

ほう-ざい (名) |奉財| 神佛ニ財物ヲ奉納スルコト。謠曲、安宅「一紙、半錢ノ奉財ハ、此世ニテハ無比ノ樂ニ誇リ」

ほう-さう (名) |蓬窓| トマブキノ船ノ小窓。蘇軾詩「蓬窓高枕雨如縄」 杜範、偶題詩「有レ人支レ枕蓬窓底、臥看半牛溪上野渡」

ぼう-さき (名) 棒先 (一)棒ノ先端。(二)駕籠ナドノ棒ノ先端。ボウバナ。日本武將吾妻鏡、享保、近松作)二「鎖ノ棒先シッカト摑ミ」 (三)大名ニ召使ハルル陸尺ナドガ、駕籠屋ヨリ取ル賄賂。棒先をはね ろトハ、買物ナドノ代價ノ上マヘヲ取ル意。又、棒先を切る。足駄をはく。

ほう-さく (名) |豐作| 作物ノ豐カニ實ルコト。滿作。豐穰。豐熟。豐稔。(凶作、平作ナドニ對ス) 牧民金鑑、五、寶曆九年七月朔日、御觸書、諸國作方之儀、何年ニモ無レ之程豐作之聞コエ有レ之候條、各當ニ檢見坪刈ニ

ぼう-さく (名) |謀策| ハカリゴト。謀略。

ぼう-さく (名) |謀作| ハカリゴトヲ運スコト。策略ヲ弄スルコト。太平記、三十六、淸氏叛逆事「相模守殿忽ニ身ヲ可レ被レ失、其上斯ル事ニハ、謀作、謀計ナンドモ有ゾカシ、云云」

ぼう-ざたう (名) |棒砂糖| 舶來ノ砂糖。ざらめ砂糖ノ如キヲ、圓ク長ク、甚ダ固ク製セルモノ。

ぼう-さつ (名) |謀殺| 法律ノ語。豫メ十分ニ心ニ思ヒ謀リテ、行ヘル人殺シ。(故殺、誤殺ナドニ對ス) 賊盜律「凡謀レ殺人一者、徒二年」 法曹至要抄、上、罪科「謀殺事、案レ之、謀殺者、謀二其身一然而罪法所レ指者重」

ほう-さん (名) |寶算| はうさん(寶算)ニ同ジ。書言字考節用集、二、時候門「寶算、ホウサン、寶壽、寶算、貢金、聖壽萬歲」

ほう-ぶ (名) |奉仕| 又、ぶぶ。君主、國家、又ハ、社會ナドニ仕ヘマツルコト。

〜ほう-ぶ (名) |法師| ほふぶ(法師)ノ音便。倭名抄、五、官名、玄蕃寮、保字之萬良比止乃豆加佐」催馬樂、老鼠「保字之ニ申サム、師ニ申セ」 源、五、若紫「人、後ノ世ノツトメモイトヨクシテ、中中ほうぶマサリシタル人ニナン侍リケル」

ほう-ぶ (名) |鋒矢| 陣法ノ一。ほうぶがた(鋒矢形)ノ略。其條ヲ見ヨ。應仁記、三、但州合戰事「味方ハ小勢也、如何ト思惟スル處ナ、太田垣新兵衞、行木山城守、ツヅケヤ者トモトテ、鋒矢マアラハシ、切ソロヘテ、打テカカリケレバ」 大友興廢記、八、宗麟公御出馬の事「二手ニワケテ、山田親陣ハ、日什寺ニ、一手ニナリ、ナラベテ、鋒矢ノ陣ヲトリ、味方ヨリ手ヲ出サズ、敵ノ行ヲ見ヨ、ト下知セラル」

ほう-ぶ (名) 蓬矢 [蓬ニテ作リタル矢ノ義] ヨモギノ矢。さうこほうぶ(桑弧蓬矢)ノ條ヲ見ヨ。禮記、內則篇「國君世子生告二于君一、射人以二桑弧蓬矢六一、射二天地四方一」 同、射儀篇「男子生、桑弧蓬矢六、以射二天地四方二」

ほう-ぶ (名) |封事| ふうぶ(封事)ニ同ジ。

ほう-ぶ (名) |法事| ほふぶ(法事)ノ音便。拾遺集、廿、哀傷「朱雀院ノ御四十九日ノほうぶニ」

ほう-ぶ (名) |奉事| 長上ニ事フルコト。奉仕。魏文帝、樂府、約「身奉二事君一、禮節不レ可レ虧」

ぼう-ぶ (名) |眸子| 眼ノ玉ノ黑キ處。クロメ。ヒトミ。睛。瞳子。孟子、離婁、上篇「眸子不レ能レ掩二其惡一、胸中正、則眸子瞭焉」 淮南子、說山訓「夫照レ鏡見二眸子一、微察二秋毫一、明照二晦冥二」

ほうし-つくつく (名) |蛁蟟| 蟬ノ一種。つくつくぼうし(蛁蟟)ノ條ヲ見ヨ。

ほう-ぶがた (名) |鋒矢形| 陣法ノ一。小勢ニテ多勢ニ向ヒ、打破ラムトスル備ナリ。卽チ、足輕ヲ、への如クニ立テ、射立打立シテ、後ニ武者ヲ、一ノ如クニ立テテ、足輕ノ、汐合ヲ見テ、兩方ヘサット開ク時、武者、急ニ突キカカリ、或ハ、馬ヲ乘入ルルナリ。急ニ進ム勢ヲ顯ハサムタメニ、|此ノ如クニ圖シタルモノ(鈴錄、九、陣法)略シテ、鋒矢。鋒箭大草紙、應永廿二年十月四日「未明ヨリ佐介ノ口口ヘ御勢ヲ被二差向一云云、一千餘騎、鳥居ノ前ヨリ東ニ向、鋒矢形ニ張レ陣」

ほうぶ-ちやうだ (句) |封豕長蛇| [封ハ大ナリ、左傳、昭公廿八年「生二伯封一、實有二豕心一、貪惏無レ饜、忿纇無レ期、謂二之封豕一」] 大ナル豕ト、長キ蛇ト。慾深クシテ飽クナキモノニ譬ヘ云フ語。左傳、定公四年「吳爲二封豕長蛇一、以荐二食上國一」

ぼう-ぶばり (名) 棒縛 體ニ棒ヲアテテ、伸縮ノ出來ヌヤウニシバルコト。狂言記、棒縛「棒ヲ使ハシテ見サセフレ、御ナ見テ、棒縛ニナサレマシタラ、好ウゴザリマショ」

ぼう-ぶま (名) |棒縞| 黑ノ太キ條ノ、縱ニ入リタル縞。又、ソノ織物。守貞漫稿、十七、織染「棒縞、白紺、茶紺、紺淺木、紺茶、又、太小不同ナレドモ、千筋等ヨリ太キ故ニ棒ト云フ」

〜ほうぶ-まらびと-の-つかさ (名) [法師賓客の司ノ義] 又、ほふぶまらびとのつかさ。げんばれう(玄蕃寮)ニ同ジ。倭名抄、五、官名「玄蕃寮、保宇之萬良比止乃豆加佐」

ほう-ぶん (名) |豐稔| ほうねん(豐年)ニ同ジ。杜光紀、歐陽詢記「其年果豐稔」、字類抄「豐稔、ホウシン」 後紀、廿四、弘仁五年九月「寄二中賀於百神一、欣二彼豐稔一」 類聚國史、十一、神祇、弘仁七年七月「今聞、今茲苗稼茂、宜下歡二神道一大致中豐稔上」

ほう-ぶん (名) |鋒刃| 刀ノきっさきト、はト。書經、費誓「備二乃弓矢一、鍛二乃戈矛一、礪二乃鋒刃一、無二敢不一レ善」 王粲、羽獵賦「旌旗雲擾、鋒刃林錯」 論衡(後漢、王充)「諸有二鋒刃一之器」

ぼう-ぶん (名) |謀臣| ハカリゴトヲ運ス家來。謀計ヲ立ツル臣。戰國策、秦策、范雎「謀臣之名可、成也、云云、而謀臣不レ爲、引二軍而退一」 國語、越語「謀臣與二爪牙之士一、不レ可レ不二養而擇一也」

ぼう-ぶや (名) |硼沙| [英語、Borax. 又、西藏語、Batsa. カ] 又、はうぶや。ナンバンズナ。鑛物ノ名。西藏、波斯等ノ、湖ニ生ズ。大、小、塊ヲナス。透明ナルヲ、すき硼沙ト云ヒ、靑ク潤ヘルヲ、あ

[illegible]ヲ見ヨ。和漢三才圖會、六十一、雜石類「蓬砂、鵬砂、盆砂、硼砂、ホウシャ、本綱、蓬砂生二西南番一云云、[illegible]

ほうしやう (名) 歩障 [illegible] ほしやう(歩障)ノ[illegible]「ソレモスコシタメリ、[illegible]ほうせふ」

ほうしやう (名) 鳳笙 〔音ノ鳳鳴ニ似タル故ニ云フト〕しやう(笙)ニ同ジ。[illegible]

ほうしやう (名) 膏壤 地味ノ肥エタル土地。沃土。沃地。[illegible]

ほうじやう (名) 豐穰 ほうさく(豐作)ニ同ジ。[illegible]

ほうじやう (名) 奉上 アゲ、タフマツルコト。又、書狀ノ名宛ニ副フル敬稱。[illegible]

ほうじやう (名) 鳳城 〔漢ノ宮城ノ門ニ、銅鳳ヲ飾リシ故ニ云フ〕(一)宮城。皇居。禁裏。鳳闕。王維、早朝詩「柳暗百花明、春深五鳳城」(二)都。都城。京都。帝京。[illegible]

ほうしやうにょらい (名) 佛教ノ語。五智如來ノ一。寶生如來。又、ほうしやうにょらい。[illegible]大日如來ノ平等性智ヨリ出デタル如來。南方月輪ノ中尊ニテ、一切ノ財寶ヲ司リ、金色ニテ左手ハ拳、右手外方ニ開クト云フ。守護經「復於二南方一面向レ北[illegible]」

ほうしやうりう (名) 寶生流 又、保生トモ記ス、外山氏ナリ」又、ほうしようりう 能樂ノ一派。五流ノ一。觀世觀阿彌ノ長兄ニ寶生太夫アレド、詳カナラズ。蓮阿彌ヲ流祖トス。大和猿樂四座ノ一ニシテ、磯城郡外山ニ住セシヨリ、外山座トモ云ヒ、蓮阿彌ノ同阿彌ノ弟トモセドモ(系圖)、異ナルハシ代代、足利家、及、小田原北條氏ニ仕ヘ、五代、號寶山重勝、名アリ。後孫、業ヲ繼ギ、德川幕府ニ仕ヘ、能役者ノ一家ヲナセリ。のう(能)ノ條ヲモ見ヨ。明良帶錄、世職、四座猿樂「室町將軍家、是ヲ好ミ玉フ、此時、觀世音阿彌、寶生等、北面ヲ仰ヘテ、賞美ヲ得タリ」猿樂傳記、上、四座「金春、金剛ハ奈良ニ住居シテ、京都ノ御用ニハ觀世リ相勤、觀世、寶生ハ京住シテ、居ナガラ[illegible]相勤ル、是レヨリ觀世、寶生ヲ上掛リト云、金春、金剛ヲ下掛リト呼ブ」

ほうしゆ (名) 烽戍 ほうこう(烽候)ニ同ジ。白居易詩「烽戍[illegible]代、關河遠控レ夷」

ほうしゆ (名) 寶珠 〔梵語、Mani.(摩尼)ノ譯語〕佛教ノ語。寶トナスベキ珠。之ヨリ意ノ欲スルモノヲ出シ得ルトテ、如意珠、如意寶珠トモ云フ。[illegible]廿三「末尼、亦云二摩尼一此云二寶珠一謂二珠之總名一也」維摩經[illegible]不下[illegible]得[illegible]寶珠上」

ぼうしゆ (名) 謀首 謀逆ノ首魁。謀叛ノ張本人。[illegible]ヲバ助ラルベキ由ヲゾ申入ケル」

ぼうしゆ (名) 謀主 主トシテ謀ヲメグラス人。謀計ノ主タル人。師長。左傳、[illegible]

ほうしゆがしら (名) 寶珠頭 又、はうしゆがしら。ぎぼうし(擬寶珠)ニ同ジ。其條ノ(一)ヲ見ヨ。

ほうじゆく (名) 豐熟 ほうさく(豐作)ニ同ジ。史記、趙世家「年穀豐熟、民不二疾疫一」[illegible]

ほうしゆつ (名) 棒術 武藝ノ一。棒ノ手トモ云フ。其法ハ、木ヲ八角ニ作リ、長サ八尺ニシテ、筋金ヲ入ル、鐵ノ疣ヲ末四尺ノ間ニ打ツトイ、コレヲ、金さい棒ト云フ。後世ハ、樫ノ木ニテ、長サ六尺ニ作ル、其半ニ三尺ナルヲ半棒ト稱ス、護身ニ功アリト。略シテ、ばう。北條九代記、九、[illegible]義意)ハ廿一歲、器量コツガラ人ニスグレ、云云、オトシ立タル甲冑ハ、鐵ヲキタヒ、アツサ二分三ノベ、[illegible]八角、ケヅリ、筋カネヲワタシ、[illegible]門外ヘヨルギ出タル有樣、ヤシャ、ラセツノ如シ、オメキサケブコヱ、大山モクヅレ、海ニ入、コンヂクモオレテ、忽ニ沈カ如シ[illegible]「大高、土佐國ヲ出テ上洛ノ時、[illegible]其帆柱ヲ[illegible]アリキ、常ノ者ノ棒ヲツカフカ如クナリ」

ほうじゆもやう (名) 寶珠模樣 又、はうじゆもやう。染模樣ノ一。でんくらうぞ[illegible]

ほうしよ (名) 奉書 (一)[illegible]公方ノ命ヲ奉リテ、執事奉行ヨリ下ス文書ノ稱。己レガ名ノ下ニ、奉ノ一字ヲ書ス。(直書ニ對ス) [illegible]四、御下知之法式[illegible]ナリ、奉書多クハ折紙ナルベシ」(二)德川幕府ニ、任官ノ辭令書ノ稱。御奉書トモ云フ。奉行人ノ、將軍ノ意ヲ得テ、其趣ヲ書キ、己レガ名判ヲ居エテ、支配下ノモノニ出ス文書。[illegible]

ほうじよ (名) 幇助 幇ハ扶ノ俗字、資助ノ意〕傍ヨリ力ヲ添フルコト。タスクルコト。テツダフコト。小說字彙(天明、秋水園)「幇助、テツタフコト」

ぼうしよ (名) 謀書 他ノ文書ニ僞セテ作ルコト。文書ノ僞造。僞書。[illegible]

ほうしよう (名) 奉承 謹ミテ、承ルコト。[illegible]

ほうしよう (名) 奉書 [illegible]ほうしよ(奉書)ノ(一)ニ同ジ。[illegible]ほうしよつむぎ(奉書紬)ニ同ジ。

ほうしよがみ (名) 奉書紙 檀紙ノ、肌、美ニシテ、皺ナキモノ。楮皮ノ精製ナ[illegible]

ルニ、米粉ヲ加ヘ、のりのき(又、ねりのき)トモ云フ。山地ニ多キゆきのしたノ科ノ落葉灌木)ノ液ヲ糊トシテ、厚ク製ス。純白ナリ。多ク奉書ニ用ヰタレバ、コノ名アリ。大奉書紙、中奉書紙、小奉書紙、アリ、越前ノ丹生郡ノ産ヲ上品トス。略シテ、ほうしょ。又、略延シテ、ほうしょう。 書言字考節用集、七、器財門「奉書、ホウシヨ、云云、越前所產紙、[illegible]、只堪充書用」 (奉書ヲサス)、故謂之奉書紙」 日本山海名物圖會、三「越前奉書紙、奉書、諸國ヨリモ出レドモ、越前ニ及ブ物ナシ、越前奉書、其品多シ」

ほうしょく (名)［奉職］ 其職ニ從事スルコト。役目ニ就クコト。 史記、酷吏傳、郅都「常因臨日、已倍親而仕、身固當奉職、死節官下、終不顧妻子矣」 漢書、宣帝紀「五日一聽事、自丞相以下、各奉職奏事、以傳奏其言」

ほうしょたび (名)［奉書足袋］ 奉書紙ニテ作リタル足袋(元祿頃) 柳亭記、下「寛政ノ頃、七十歲バカリノ老人ノ話シニ、ワガ父ノ若キ頃、吉原ヘ通フ者ハ、奉書足袋ト云フヲハキタリ、雪ナドノ降ル頃、路ノ泥ヲ避ケンガタメノ設ケニテ、夕ダ一夜ギリニテ取リ捨ツル事ナリ、是レハ足袋屋ニテハ賣ラズ、吉原ヘノミ賣來タリシト語レリ」

ほうしょつむぎ (名) 奉書紬 (奉書紙ノ如ク純白ナレバ云フカ) 紬ノ精品ナルモノ。殆ド羽二重ニ近シ。越前ノ福井、大野ノ邊ヨリ産ズ。延ベテ、ほうしょうつむぎ。又、略延シテ、ほうしょう。

ほうしょれんばん (名)［奉書連判］ (奉書(任官ノ辭令書)ニ連判スル故ニ云フ) 江戸幕府ノ老中ノ稱。又、加判。 職掌錄「老中、當職ヲ奉書連判、又、加判の列ト云フ」 柳營秘鑑、一、老中奉書連判之次第 有司勤仕錄「老中、此職ヲ奉書連判ト稱ス、又加判ト云、若之役被仰付時ハ、加判之列ト云ナリ」

ほうしょれんばんしゅう (名)［奉書連判衆］ ほうしょれんばん(老中)ニ同ジ 前條ノ語ヲモ見ヨ。(江戸幕府ノ初ノ稱)

ほうじろ (名) 頰白 小鳥ノ名 ほほじろ(頰白)ノ音便。其條ヲ見ヨ。

ほうず ずル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(自動、左變)［崩］ 釋名、八「天子曰崩、崩壞之形也」禮記、曲禮、下篇「天子死曰崩、諸侯曰薨、大夫曰卒、士曰不祿、庶人曰死」 天皇、皇后、太上皇、皇太后ノ、カクレサセタマフニ云フ。 禮記、曲禮、下篇「崩、[illegible]」 史記、[illegible]「始皇崩於沙丘平臺」 倭爾雅、三、身體「死、シヌル、天子死曰崩」 神武紀、七十六年三月、甲辰、天皇崩于橿原宮」 續紀、廿一、天平寶字四年六月「皇太后崩」

ほうず ずル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(他動、左變)［奉］ (一)ツカヘマツル。奉事ス。(二)マカナフ。アテガフ。生活ニ充ツ。 六韜、文韜「[illegible]、其自奉也甚薄、其賦役也甚寡、故萬民富樂、而無饑寒之色」

ほうず ずル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(他動、左變)［奉］ (一)タテマツル。獻ズ。「君ニ奉ず」親ニ奉ず」(二)イタダク。オシイタダク。ウケタマハル。 諸葛亮、出師表「受任於敗軍之際、奉命於危難之間」 「勅ヲ奉ず」(三)ササグ。捧シ持ツ。捧 禮記、曲禮、上「長者與之提攜、則兩手奉長者之手」 史記、藺相如傳「臣下於是遂遣相如奉璧西入秦」

ほうず ずル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(他動、左變)［封］ (一)土ヲ堆ク積ム。(二)領地ヲ與ヘテ諸侯トス。大名ニ取立ツ。 史記、孔子世家「公欲封以尼谿之田」

ほうすけ (名)［綏］ ほほすけ(綏)ノ音便。 おいかけ(老懸)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ほうすゐ (名)［烽燧］ [illegible] 一說シテ、[illegible] ほう(烽)ノ條ヲ見ヨ」ノロシ。トブヒ。 字類抄「烽燧、ホウスイ、トブヒ」 史記、[illegible]

ほうせう (名) 鳳詔 書言故事(宋、胡繼宗)「天子詔書、謂之鳳詔」下ノ出典ヲ見ヨ」 ミコトノリ。詔敕。 鄴中記(晉、陸翽)「石季龍與皇后在觀上、[illegible]」 易林本節用集、[illegible]、言辭門 鳳詔、ホウセウ、綸言」

ほうぜう (名)［豐饒］ 又、ほうねう。ぶねう。 土地肥エテ、作物ノ豐富ナルコト。 晉書、[illegible] 又、[illegible]

ほうセツ (名)［寶刹］ 〔刹ハ、梵語、Ksetra. ノ略、土田ト譯ス〕 寺院ノ敬稱。 [illegible]

ほうぜん (名)［寶前］ 神佛ノ御前。ヒロマヘ。御寶前 書言字考節用集、[illegible]、神祇門「寶前、ホウセン」 [illegible]

ほうぜん (名)［奉膳］ ぶぜん(奉膳)ニ同ジ [illegible] 式部省式、上 [illegible]

ほうせんくわ (名)［鳳仙花］ 又、ツマクレナキ。ツマネバナ。春、苗ヲ生ズ。莖圓ク、太ク、葉ハ、桃ノ葉ニ似テ、密ニ互生シ、莖、葉、共ニ淡綠色ナリ、夏、葉ノ間毎ニ、花ヲ開ク、一重ハ二瓣、八重ハ多瓣、色ハ、紅、又、紫等、種種ナリ。 書言字考節用集、六、生植門「鳳仙花、ホウセンクワ、ツマクレナヰ」 大和本草、七、花草類「鳳仙花、一名金鳳花、又名[illegible]」

ほうせんし (名)［奉遷使］ 伊勢ノ神宮ノ遷宮ノ時、朝廷ヨリ神座奉遷ノ事ヲ掌ラシメラル勅使。 大神宮司神事供奉記、三「寛元四年十二月廿七日「外宮假殿遷宮、奉遷使神祇權大副[illegible]」

ほうそ (名)［寶祚］ 天子ノ御位。 はうそ(寶祚)ニ同ジ 易林本節用集、[illegible]上、言辭門「寶祚、ホウソ、天子位」

ほうそく (名)［鳳足］ 硯ノ石ノ一種。又、硯ノ名。 天朝鼎談、五「古硯名物ニハ、イカバカリヨキ硯モアルベケレド、得ラルベキニモアラネバ、[illegible]」

ぼうぞく (名)［凡俗］ 〔ぼんぞく(凡俗)ノ音便、ばうぞくノ條ヲモ見ヨ〕 平凡ナルコト。

ほうたい (名)［奉戴］ 上トシテ、敬ヒイタダクコト。推戴スルコト。 [illegible]

ほうたい (名)［奉體］ 謹ミテ心ニ體スルコト。恭シク身ニ行フコト。

ほうたい (名)［繃帶］ マキモメン。 はうたい(繃帶)ノ條ヲ見ヨ。

ぼうだいぎゃく (名)［謀大逆］ 律ニ、八虐ノ第二。罪ヲ獲テ、逆心ヲ起シ、山陵宮闕ヲ毀タムト謀ルコト。 百練抄、五、寛平元年二月十七日「前節孝仲、[illegible]」

[illegible]」

ほうたう （[illegible]） [illegible] 同志[illegible]外ノモノヲ排斥スル一種ノ團體。同士ノ團結。又、政治上ノ黨派。[illegible]
[illegible]則爭競、爭競則朋黨、朋黨則詭謂、詭謂則誠信失、[illegible]
[illegible]
自古有之、惟幸人君辨其君子小人而已

ぼうだち （名） 棒裁 裁縫ノ語。布帛ヲ一直線ニ裁ツコト

ぼうだち （名） [棒立] 棒ノ如ク、直立スルコト（馬ナドノ）サヲダチ。

ほうだて （名） 傾立柱 （[illegible]、ほうだて）門ノ兩旁ノ木。丸柱ニ副ノ小サキ角柱ヤウノモノ。はうだて（方立）ノ[illegible]モ見ヨ [illegible]
[illegible]門柱[illegible]、門[illegible]
[illegible]
南ノハシハ、西ノ妻切ノツマドノキハノほうだてヨリハ、イマ二尺バカリスグシテ、云云」

ほうたふ （名） [奉答] （一）答へ奉ルコト。お答スルコト。（二）承ケ答フルコト。
[illegible]

ほうたふ （名） 寶塔 珍寶モテ裝飾シタル塔。
法華經、寶塔品[illegible]
[illegible]

ぼうたん （名） 牡丹 （一）ぼたん（牡丹）ノ[illegible]
[illegible]ほったん[illegible]
「ソノ下[illegible]ぼうたんハ、カフナデ[illegible]コ、蘭、[illegible]ノ花ドモ、ウツサセ給ヘリ」（二）襲ノ色目ノ名。表ハ白ニシテ、裏ハ紅梅[illegible]モノ。又ハ、表ハ薄蘇方ニシテ、裏ハ濃キ赤色、或ハ白色ナルモノ。（三）練貫ニ箔繪、縫物ナドシテ、赤キ裏ヲ付ケタル袷。古へ、婦人用ノ衣トセリ。

ほうだら （名） 樹ノ名。ほほだらノ訛。はりぎり（針桐）ニ同ジ。

ぼうだら （名） 棒鱈 （一）く、はうだら。鱈ヲ三枚ニオロシ、乾シ固メタルモノ。
[illegible]（二）愚物。ほうだらノ條ヲ見ヨ。（三）酒ニ醉ヒタル人。ナマヨヒ（棒鱈ノ腹ニ酒ヲ入ル、酒ニ寄セテ云フト云フ） 牛馬問（寶
[illegible]
斯甲也、云云、先醫鱈ヲほうだら、酒ノ醉ヲほうだらトイフ事、江戸ノ方言ニシテ、日本ノ通語ニアラズ」

ほうち （名） [鳳池] （鳳凰池ノ略）（一）禁中ノ池ノ[illegible]
[illegible]
下、禁中「鳳池後面新秋月、龍闕前頭薄暮山」（二）支那ニテ、鳳凰池ハ、中書省ノ在ル所ニアレバ、中書省ノ異名。又、宰相ノ異名。（三）[琴體ノ一部ノ名。一名、鳳沼。下ノ竪長ノ孔。倭名抄、四十琴瑟類「琴、俗說、[illegible]八、上、中[illegible]池、[illegible]舌、云云[illegible]鳳池、玉女腰、云云」

ほうぢ （名） [捧持] ササゲ持ツコト。杜牧、[illegible]大人親捧持」[illegible]九月十日
「[illegible]御衣今在此、捧持每日拜[illegible]香」

ぼうちぎり （名） [棒乳切] 又、ぼうちぎりき、ちぎりき（乳切木）ノ條ヲ見ヨ。

ぼうちぎりき （名） [illegible]
[illegible]
[illegible]十三「棒ちぎり木ヲツカフニハ、左右ノ手、[illegible]
[illegible]

ほうちゃく （名） [illegible] [illegible]ノコト。[illegible]
「洞房涇宵欲冬華、出寺吟行日已斜」 杜牧詩「日暮[illegible]

ほうちゃく （名） 寶鐸 〔說文「鐸、大鈴也」〕又、はうたく。ほうちゃく。はうちゃく（寶鐸）ノ條ヲ見ヨ。字類抄「寶鐸、大鈴也」運歩色葉集（刈谷本）「寶鐸」（一本、寶鐸） 榮花物語[illegible]十七、[illegible]モロモロノ[illegible]
上下四方ニ光明[illegible]

ほうちょく （名） 奉勅 奉勅 救命ヲ奉ズルコト。ミコトノリヲ承クルコト。
[illegible]字類抄（[illegible]川本）「奉勅、ホウチョク」

ほうづ （名） 法度 （ほふど（法度）ノ[illegible]便轉）カギリ サイゲン、「ほっづかナイ」

ぼうつかひ （名） 棒遣 武術ノ一。棒ヲ使用スル術ヲ修ムルコト。棒術。又、其術ニ長ジタル人。

ほうづき （名） 酸漿 ほほづき（酸漿）ノ音便。其條ヲ見ヨ 下學集、下、草木門「山漿、ホウヅキ、又云、鬼燈、其實赤如灯也」 百姓傳記、十一、ほうづきヲ作ル事、云云

ぼうつき （名） [棒突] 棒ヲ突キテ警戒スル人。[illegible]
五車反古（天明[illegible]棒突[illegible]

ほうつち （名） [illegible]
[illegible]
テ、云云、引ズゴキヤツ捻ヲ落シ、オトシタル捻ヲ[illegible]
[illegible]

ほうと （[illegible]） （二）[illegible]
[illegible]
スル」 （三）[illegible]ホンノリト。「山ガ霞ンデ、ほうッと見エル」

ほうてい （名） 鵬程 〔鵬（其條ヲ見ヨ）[illegible]
[illegible]

ほうてい （[illegible]） [illegible]
[illegible]ト。[illegible]
[illegible]也」「[illegible]」

ほうてう （名） [鳳鳥] （ほう（鳳）ノ條ヲ見ヨ） 鳳ノ鳥 神鳥 [illegible]
「鳳鳥不至、河不出圖、吾已矣夫」 新序（漢、劉向）
[illegible]
四雪ノ袖ヲ飜セバ、百獸モ率舞シ、鳳鳥モ來儀スルバカリナリ」 （二）貴人ノ御理髮ニ奉仕スルモノ。（三）支那、古代ノ官名。歷數ヲ掌ル。天時ヲ正スコトヲ掌ル官[illegible]
[illegible]紀於鳥、爲鳥師、而鳥名、鳳鳥氏、歷正也」注「鳳鳥[illegible]

ほうてき （名） [鋒鏑鋒鏃] ほさきト、やじりト。[illegible]
[illegible]

ほうてふ（名）〔鳳蝶〕 あげはのてふ（揚羽蝶）ノ異名。 古今注、下、魚蟲「蛺蝶、大如蝙蝠、或黃黑色、或靑斑、名曰鳳子」云云 倭名抄、十九、蟲豸類「蛺蝶、保保天布」字類抄「……ホウテフ」（黑川本、ホホテフ）

ぼうてふり（名）〔棒手振〕 又、ぼてふり。ボテイフリ。ボテエフリ。魚、青物ナド、天秤棒ニテ擔ヒテ、振賣スルコト。行商。 書言字考節用集、四、人倫門「棒手振、今世賣魚鹽者……」 嬉遊笑覽、十一、乞士「ぼていふり、ぼてえふりト云……今天秤棒ヲカツギテ商ヒスルモノヲ、ぼていふりト云モ、棒手振ナリ」

ほうてん（名）〔鳳天〕 寶石ノ名。鶴頂紅。 萬寶全書、寶石「……宅也、……鳳天（昆物）、地餡色ニテ、兩方ニ紅ノ圓キ照アリ、見事ナルモノ也」昆陽漫錄（寶暦、青木敦書）「鶴頂紅、今ノ紹シメニナス鳳てんハ、瀛涯勝覽ニ見エタリ、其文、左ノ如シ、阿番大海中有鶴魚、云云、名曰鶴頂紅」

ほうてん（名）〔鳳巔〕〔誤リテ、鳳ノ頂ナリトシテ名ヅク〕 交趾、九眞（今ノ安南ノ河内ノ地）等ニ産ズル水鳥ニ、鸏鵝ト云フアリ、大キサ孔雀ノ如ク、喙、黃ニシテ尺餘アリ、其頂骨ヲ杯トセルモノト云フ 黃ニシテ、瑪瑙ノ如シ。 畫舫……（寛政、津村正恭）二「鳳巓ト云フモノ、寶物ニテ、海鶴ノ腦骨也トゾ、云云、色ハウスキ黃ニシテ、朱ニテ一點マロキ痕有、此マロキ點、至テ赤ク見事也、其餘ハメダツ色ニアラズ、コハクヨリハ色淺ク、少シ黑色ヲ帶タリ」

ほうでん（名）〔寶殿〕（一）寶物ナドヲ納メオク殿。 山槐記、永暦二年四月十八日「神寶、納二東寶殿一」 （二）神ノマシマス殿。神ノ社。神殿。 百錬抄、四、永延元年「今年改造二北野寶殿一」 中右記、元永二年十一月朔日「賀茂下御社、此夜刻挿、廻廊亡了、火出、從庫中、及二寶殿一之由、只今鬮宮惟長、祝惟助、馳參所、奏也」

ほうと（副）（一）急ナル意ヲ、ホスニ云フ語。 宇治拾遺、十四、第二條「尻ヲほうとケタレバ、ウセヌルナリ」 （二）ホトンド。トント。ホトホト。 狂言記、胸つき「其ノ方ノ二三日ニ二日モ、ほうと開キアイタ」

ほうど（名）〔封土〕（一）ほう（封）ト云フニ同ジ 領地。知行所。 漢書、……「……侯宏去二封土一」 （二）土ヲモルコト モリツチ ツカ。壇。 禮記、祭法篇「王立二七廟、一壇一墠」注「封レ土曰レ壇、除レ地曰レ墠」

ほうど（副）（一）ほうとノ（一）ヲ強メタル語。 枕草子、二、第十四段「クルマヤドリニ入テ、轅ほうどウチオロスヲ」 （二）ほうとノ（二）ヲ強メタル語。 國性爺合戰、正德、近松作「千里竹、利藪內ほうどピクハヲヌカシ」

ほうとう（名）〔奉燈〕 神佛ノ前ニタテマツル燈火。奉納ノ燈明。獻燈。

ほうとう（名）〔蓬頭〕〔蓬ノ如ク亂レタル頭髮ノ義〕毛髮ノ亂レタル頭。蓬首亂頭。 晉書、存生載記「百僚大懼、無レ不レ引……」庾信、小園賦「蓬頭王霸之妻」字類抄「蓬頭、ヲホトレカミ」

ほうどう（名）〔寶幢〕（一）寶珠ニテ飾リタル幢竿。ハタボコ。 大日經疏、五「上……」觀無量壽經、上「……」 榮花物語、十七、音樂「寶幢、寶幡、寶瓔珞、上下四方ニ光明照ラシ輝ケリ」 （二）音樂ヲ掌ル天竺ノ神ノ名。 彌勒上生經、上「兜率天宮有二五大神一、第一大師名曰二寶幢一、身雨二七寶一、散二宮牆內一、一一寶珠化成二樂器一、懸二處虛空一、不レ鼓自鳴」

ほうどく（名）〔奉讀〕 次條ノ語ニ同ジ。

ほうどく（名）〔捧讀〕 ウヤウヤシク、ササゲ讀ムコト。奉讀。 ……書「特賜二記憶一、……存間、捧讀……涕流」

ほうとんちゃうだ（句）封豕長蛇 ほうしちゃうだ（封豕長蛇）ノ誤讀、其條ヲ見ヨ。

ボウトル（名）〔蘭語、Boter.〕 又、ぼおとろ ばた（乳酪）ニ同ジ。 ……「……べんがら、土器、ぼうとる……」……牛ノ乳汁ヲ煉リ……血氣ヲ益ス……」

ほうなふ（名）〔奉納〕 ヲサメタテマツルコト。神佛ヘノ獻上。 ……記、十六「……大般若……法華ノ千部ヲ奉納セリ」

ほうなふてぬぐひ（名）〔奉納手拭〕 神社佛閣ノ手水鉢ノ處ニ奉納シテ吊シ置ク手拭。多ク奉納者ノ名ナドヲ染ム。

ほうにく（名）〔豐肉〕 肉ツキノヨキコト、ユタカナル肉ヅキ。

ぼうね（名）〔棒根〕 たつね（竪根）ニ同ジ。

ほうねう（名）〔豐饒〕（饒、漢音、ゼウ、呉音、ネウ） ほうぜう（豐饒）ニ同ジ。

ほうねん（名）〔豐年〕 五穀ノ豐作ノ年。トヨトシ。稔歳。豐稔。富歳。（凶年、平年ナドニ對ス） 詩經、周頌、臣工之什、豐年「豐年多レ黍、多レ稌、亦有二高廩一、萬億及秭」 元結、豐年歌「猗大帝兮、其巧如レ天、均二四時一兮、成二我豐年一」 字類抄「豐年」 謠曲、難波「雪ハ豐年ノ御調物」

ほうのき（名）〔朴木〕 ほほのき（朴木）ノ音便。ほほ（朴）ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、廿、木類「厚朴、保保加之波乃木」 林逸節用集、草木「朴木」 字類抄「朴、ホヲ」

ほうばい（名）〔朋輩〕 トモダチ。又、トモダチナカマ。はうばい（傍輩）ノ條ノ（二）ニ同ジ 同輩。同儕。等儕。儕輩。 世說（宋、劉義慶）「不可……朋輩」

ほうばう（名）〔鋒鋩〕〔鋒芒〕〔說文「芒、艸耑也」段玉裁注「說文、無二鋩字一、此卽鋒鋩字也」〕（一）刃物ナドノ、キッサキ。ホサキ。 ……「……鋒芒……」 （二）轉ジテ、鋭キ氣象ニ言ヘテ云ノ語。 ……

ほうばう（名）〔蜂房〕 ハチノス。蜂巢。蜂窩。 淮南子、……「……不レ能……」 色葉集「蜂房」字類抄「露蜂房、ハチノス」

ほうはつ（名）〔蓬髮〕 ヨモギノ如ク、ソソケ亂レタル頭髮。オホドレガミ。亂髮。蓬頭。 ……郭璞、西王母贊「天帝之女、蓬髮虎顏」

ぼうばな（名）棒端 （一）棒ノ先端。ボウサキ。 （二）轉ジテ、宿驛ノハヅレ。又、驛路ノ榜示杙ノ端。 ……和、一九）三編「（出カケルト、程ナク掛川ノ宿ニイタル）棒ばなノ茶屋ヲンナ」

ほうはん（名）〔剖判〕 別レ開クルコト。かいびゃく（開闢）ニ同ジ。 史記、孟子傳「稱二引天地剖判以來、五德轉移、治各有レ宜、而符應若レ茲」 ……「天地之消散也、不レ死不レ衰者謂レ常」 欽明紀、十六年二月「天地剖判之代」 古語拾遺、上「天地剖判之初、天中所生之神名、云云」

ぼうはん（名）〔謀判〕 他人ノ印形ヲ僞セテ用ヰルコト。ニセハン。僞判。 ……「謀判、ボウハン」 ……「上ニ手形ヲ書イテ判ヲスヘ、オレヲネダッテ銀トラフトハ、謀判ヨリ大罪人」

ぼうはん（名）〔謀叛〕（一）八虐ノ一。むほん（謀叛）ニ同ジ （二）君國ニ叛キテアダ……

スルコト。史記、高祖紀「六年十二月、人有上書[illegible]」(二)〔律ニ、八虐ノ第一。〕至尊ニ逆節ヲ圖ラムトスルコト。謀叛ト異ナリ。[illegible]

ほうびき (名) 〔寶引〕 はうびき(寳引)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]正月[illegible]、引之[illegible]道師)下、一「今世ニ、正月ニ俗ニスルほうびきハ、賦びき[illegible]ト名付トアリ、又寶引トモ云ヒケルニヤ」

ぼうびき (名) 〔棒引〕 債ニ[illegible]ナド附ケテ、棒ヲ引クコト。帳簿ヲ消スコト。

ほうびさう ホウビ・ソウ (名) 〔鳳尾草〕 〔葉ノ分裂セル狀、鳳鳥ノ尾ニ似ル故ニ云フ〕 おにわらび(鬼蕨)ニ同ジ。[illegible]六、牛膝門[illegible]草、ホ[illegible]クサ、俗ニ云、[illegible]」同、同「鳳尾草、ウラジロ、ヤマワラビ、キジノヲサウ、[illegible]朶、本名、鳳尾草」

ほうびせを ホウビ・ショウ (名) 〔鳳尾蕉〕 〔葉ノ分裂セル狀、鳳鳥ノ尾ニ似ル故ニ云フ〕 蘇鐵ノ漢名。〔其條ヲ見ヨ〕 鳳尾松 鐵蕉 鐵樹。[illegible]尻(元祿、天野信景)十六「鳳尾蕉、ソテツ也、皇朝世法錄ノ八十、琉球國ノ條下ニ見エタリ」

ほうびちく (名) 〔鳳尾竹〕 ほうわうちく(鳳凰竹)ノ條ヲ見ヨ。 竹譜(淸、陳鼎)「鳳尾竹、[illegible]、鳳[illegible]、和漢[illegible]八十九、苞木竹之類[illegible]鳳尾竹、ホウビチク[illegible]竹俗、[illegible]竹(俗)、按、此俗云鳳凰竹也」

ぼうびや (名) 〔棒火箭 棒火矢〕 昔、鐵製ノ長キ筒ニ、火藥ヲ込メテ、砲ニテ發セシモノ。飛火槍 [illegible]、兵ニ火[illegible]、火箭[illegible]、[illegible]云、寛永年中、[illegible]、[illegible]作[illegible]、[illegible]今、棒火[illegible]、[illegible]、[illegible]、或ハ、[illegible]

ほうびやう ホウ・ビョウ (名) 〔賁瓶〕 〔瓶ハ、梵語、Kundika. (軍持)ノ譯語〕 佛教ノ語。スベテノ瓶器ノ美稱。特ニ[illegible]宗ニテ、灌頂ノ水ヲ容ルル器ヲ云フ。[illegible]ノ花開ケ給ヘリ」

ほうふ (名) 〔豐富〕 ユタカニ富メルコト。貧弱ナラザルコト。三國志、魏志、倉慈傳、注[illegible]、[illegible]、[illegible]世」

ほうふく (名) 〔捧腹〕 〔俗ニ、抱腹ニ作ルハ誤ニテ、抱腹ハ、支那ニテハ腹巻ノコトナリ〕 極メテ笑ニ堪ヘカヌルコト。大イニ笑フコト。腹ヲカカヘテ笑フコト。 史記、日者傳「司馬季主、捧腹大笑」(大笑ノ形容ナリ) 蘇軾、[illegible]詩「[illegible]、[illegible]先生一捧腹」「捧腹絶倒」「捧腹ノ至」

ほうふく (名) 〔法服〕 〔ほふふく(法服)ノ音便〕 ほふえ(法衣)ニ同ジ。 佛敎ノ語〕 源、[illegible]十四、上、若菜、上「[illegible]御忌[illegible]ノアザリ、三人サブラヒテ、ほうふくナド奉ル程」

ほうぶつ (名) 〔寶物〕 ほうもつ(寶物)ニ同ジ。 字類抄(黑川本)「寶物、ホウフツ」

ぼうふら (名) 〔孑孑 孑孓〕 ぼうふりむし(棒振蟲)ノ略轉。其條ヲ見ヨ。

ボウブラ (名) 〔南瓜〕 〔葡萄牙語、Abobora. ノ略轉、葡人ノ、柬埔寨ヨリ、永祿年中、持チ來レリト云フ故、一ニかぼちゃトモ云フ、其條ヲモ見ヨ〕 蔓草ノ一種。[illegible]ノ末、[illegible]、一蔓、[illegible]、地ニ着ク[illegible]、ふひ(蕓薹)ニ似テ、[illegible]ク、秋、黄花ヲ開ク、をゐくヮ(西瓜)ノ花ニ似タリ。瓜ノ形、圓ク扁クシテ、大キサをゐくヮノ如ク、竪ニひだアリ、初、深綠ニシテ、熟スレバ、黄赤[illegible]ベシ。[illegible]ウナ[illegible]、京ニテハ、[illegible]ぼうぶら[illegible]、大阪ニテ、[illegible]ぼちゃトモ云ヒ[illegible]、[illegible]門 南瓜、ボウブラ[illegible]、[illegible]うふらん、ナルマデ酒ヲ、シヒラレテ、垣根垣根ヲ、[illegible]フテコソユケ」 東海道吟拔落集(元祿)「ぼうぶらや、夜分ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]斷た[illegible]、[illegible]代[illegible]、[illegible]下[illegible]、[illegible]イフ、[illegible]也」

ぼうふり (名) 〔棒振〕 (一)棒ヲ振リ回スコト。(二)德川幕府ノ[illegible]、兩番、又、大番ヨリ、加役ニ勤ムル江戸府内ノ巡邏夜廻リ、辻番改メ、書院組、小性組勤ム。白張提燈ニ棒一本ヲ持タセテ巡ル。棒振ト云フ。(三)次條ノ語ノ略。 新花摘 安[illegible]「ほうふりノ、[illegible]」

ぼうふりむし (名) 〔棒振蟲〕 蚊ノ卵ノ、溜水ノ中ニテカヘレルモノ、卽チ、蚊ノ幼蟲ナリ。形、小釘ノ如クニシテ、尾ノ末ニ岐アリ、身ニ細キ毛アリ、靜ナルトキハ、水面ニ浮ビ、驚クトキハ沈ム。其泳グトキ、體ヲ屈折スルコト、棒ヲ振ルガ如シ。小米粒ノ形ヲナシ、又、化シテ蚊トナリテ飛ブ。略シテ、ぼうふり。又、略轉シテ、ぼうふら。ケッケツ。孑孑 孑孓 [illegible]字彙[illegible]集、[illegible]門「孑孑、[illegible]、[illegible]」 [illegible](文政、[illegible]三ケフノ日モ、棒ふり蟲ヨ、アスモ又」

ほうへい (名) 〔奉幣〕 神ニ幣ヲ奉ルコト。[illegible]類社「奉幣」 續日本後紀、上「寶治三年十二月、二十七日ハ、七社ノほうへいナリ」「奉幣使」

ほうへいし (名) 〔奉幣使〕 命ヲ受ケテ、奉幣[illegible]二、神事「於三神祇官一發、立二奉幣使一」(儀、云云」月「乙酉、發二遣奉幣使於伊勢太神宮二」江家次第、十

ほうほ (名) [illegible] 小兒ノ[illegible]ナルコト[illegible]ハ、云云、美ナルモノヲほうほト云フハ、褒貶ニテ、[illegible]ルナリ」

ほうほう (一) [illegible] (二)草木ノ[illegible]、[illegible]茂レ狀ニ云ノ[illegible]、[illegible]鄙ニ」 (二)風ノ[illegible]狀ニ云フ語[illegible]、(三)亂ル狀ニ云ノ語[illegible]「娘ガ沈ム火ノ難ヲ、何卒救ウテ給ハレト、ほうほうトハ知リナガラ、[illegible]」

ほうほう (副) 〔彭彭〕 〔ほうハ、慣用音、正音ハ、ばう〕 [illegible]ニ云ノ語[illegible]、[illegible]「程ナク天滿宮ノ御社ニイタルニ、マコトヤ、神德ノ彭彭たるハ、參詣ノ人ドヨミニアラハレ」

ぼうぼう (副) (一)草ノ生ヒ茂レル狀ニ云フ語。 莽莽 又、まうまう。 [illegible]、(二)[illegible]、[illegible]ドノ、[illegible]、[illegible]ほ[illegible]」

ほうほうどり (名) かっこうどり(郭公)

ニ同ジ。古クハ、ほほどり。

ぼうぼう-まゆ (名) 眉ノ生ヒ立チ亂レタルモノ。前前條ノ語ノ(二)ヲ見ヨ。

ほうほけきよ (感) [法法華經] 鶯ノ鳴聲。なきあはせ(啼合)ノ條ヲモ見ヨ。 俳諧の發句(稽巴)「法華經ゾ、鶯ハヨキ、聲デ候」

ほう-ぼつ (副) [蓬勃] 香氣、雲ナドノ盛ンニ起リ立ツ狀、又、氣ノ出ヅル狀ニ云フ語 潘岳、笙賦「[illegible]以放濫、[illegible]蓬勃以氣出」 香譜「宋、洪芻、[illegible]沈香見[illegible]、香氣蓬勃」

ほう-まい (名) [俸米] 俸祿トシテ賜ハル米。扶持米 給米 有德院殿御實紀附錄、三「享保八年六月十八日、諸職ノ有司、俸米ノ定額ヲ定ラル、コレヲ足高トイフ」

ぼう-まゆ (名) [棒眉] 古ヘ、公卿ナドノ女子ガ、十六歳未滿ニテ、元服シヌルトキ、コメカミノ下ニ、棒ノ如ク横ニ黑ク作リタル眉。 光臺一覽、二「御幼少ニシテ元服アレバ、十六歳迄ハ、眉ヲ剃、棒眉トテ、米カミ動脈ノ下ニ、一如ニ此墨ノ作リ眉ナリ、十六歳ヨリ棒眉ヲ止テ、本眉ノ所ニハ、生サレバ、茅(マコモ)ナドノ作リ眉シタマヒ、大人ノ形ニナリ給フナリ」 千代鏡鑑、童女鐵漿付初之事「ほうまゆノ事、第一ニ、ケシャウシテ、次ニ、スミギハ、又、次ニ、白ギハタルベシ」

ぼ-うん (名) [暮雲] 夕暮ノ頃ノ雲。ユフベノクモ。ユフグモ。夕雲。 許渾、洛陽城詩「鴉噪暮雲歸古堞、鴈迷寒雨下空濠」 韓琮、暮春滻水送別詩「綠暗紅稀出鳳城、暮雲(ユフベノクモ)樓閣古今情」 朗詠集、下、餞別「前途程遠、馳思於鴈山之暮雲、後會期遙、霑纓於鴻臚之曉涙」

ほう-めい (名) [奉命] 命令ヲ奉ズルコト。命ヲウケタマハルコト。

ほう-めい (名) [豐明] トヨノアカリ。昔、陰暦、十一月中ノ丑ノ日ヨリ辰ノ日マデ四日間ノ儀式 辰ノ日(新嘗祭ノ翌日)ニ五節の舞アリ。とよのあかり(豐明)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ、「豐明節會」

ほうめい-せちゑ(ホウメイ-セチエ) (名) [豐明節會] とよのあかり(豐明)ノ條ノ(二)、及、ごせち(五節)ノ條ヲ見ヨ。

ほうめい-でん (名) [豐明殿] 宮殿ノ名。トヨノアカリセサセラルル御殿。又、豐明ノ饗宴ヲ賜ハルトコロ。

ほう-もち (名) [捧物] 又、ほうもつ。ささげもの(捧物)ノ條ヲモ見ヨ。金銀ノ打枝(ウチエダ)ニ、種種ノササゲ物ヲ着クト云フ。 拾遺集、廿、哀傷「女院ノ御八講ノ捧物ニ、カネシテ鶴ノ形ヲ作リテ」 源、上、[illegible]「コタチモ樣樣ノほうもち捧ゲ廻リ給フニ」 榮花物語、廿七、衣珠「世ノツネノナリヲイソゲ、御ほうもちノイソギセサセ給フ」 同、三十七、煙後「女院ノ御捧物、[illegible](ウトゲ)ヲ造リタリ、二條院ノ中將持チテメグル」 増鏡、第十、飛鳥川(アスカガハ)「内ノ御捧物ハ、紙ヤ紙ニカネヲツツミテ、柳筥(ヤナイバコ)ニスヘテ、頭辨ゾ持タル」

ほう-もつ (名) [捧物 俸物] 又、ほうもち。ササゲモノ。(前條ノ語ヲ見ヨ) 又、中昔ニハ、佛事ノトキ、佛ニ奉ル物ヲ云フ。 易林本節用集(慶長)上、言辭門「俸物、ホウモツ」

ほう-もつ (名) [寶物] 又、ほうぶつ。タカラモノ。タカラ。 法華經、寶塔品「寶物莊嚴、安穩第一」 晉書、成宣傳「事小大皆關其手、自部署條名曹寶物」 書言字考節用集、七、器財門「寶物、ホウモツ」 平治物語、一、主上六波羅行幸事「同ジク御寶物共ヲ渡シ奉ラントテ、內侍所ノ御唐櫃モ、大床マデ出シタリケルヲ、云云」

ほう-もん (名) [法文] ほふもん(法文)ノ音便。其條ヲ見ヨ。 狹衣、一、上「四十、師ニハ從ヘト云フほうもんヲ、例ノアタリニ、トシ經ハヘリヌルシルシニキキナラヒテ、走ラセ侍リツルナリ」

ほう-やう(ホウ-ヨウ) (名) [奉養] 長上ニ仕ヘヤシナフコト。目上ノモノヲ養フコト。

ほう-よ (名) [鳳輿] ほうれん(鳳輦)ニ同ジ。てぐるま(輦)ノ條ヲモ見ヨ。 杜甫詩「通籍微班忝、周行獨坐榮、[illegible]鳳輿」 新儀式、天皇遷御「自二舊宮一御二本宮一、駐二鳳輿一」

ぼう-よみ (名) [棒讀] 漢文ヲ、返點(カヘリテン)ニ從ハズ、音讀シテ、眞直ニ讀ミ下スコト。例ヘバ、不レ可二思議一ヲ不可思議ト讀ムガ如シ。

ほう-らい (名) [蓬萊] (一)蓬萊山ノ略。神山ノ名。さんしんざん(三神山)、及、ほうこ(蓬壺)ノ條ヲモ見ヨ。 楚辭、九思、傷時篇「從二安期一兮蓬萊一」注「蓬萊、海中山名也」 呂防、題二[illegible]仙壇一詩「當時不レ[illegible]蓬萊客、[illegible]」 (二)祝ヒノ具ニ、松竹梅、鶴龜、尉姥、ナド飾リテ、其蓬萊トス。 紫式部日記「御前ニ扇ドモ數多サブラフ中ニ、蓬萊ツクリタルヲシモ選(エ)リタル、心バヘアルベシ」 (三)次條ノ語ノ略。春鑑、四[illegible]「元日ノ朝ヨリ十四日マデ賀客ニススメ、十五日朝、米小豆粥ニ煮ル、謂蓬萊ヤウノ物ニ、まだ、ゆづりは敷キ、其上ニ米ヲモリ、其上ニ松竹ナト、オノヅカラ生ヒタルヤウ作リ、鶴龜ナド作リテスヱ、栗、榧、ホタハラ、エビ、柿、柑子ナド盛ル、コレヲ蓬萊、又ハ喰積ト云フ」 守貞漫稿、廿三、春時「蓬萊、古ハ正月ノミノ用ニ非ズ、式正ノ具ト云ニモ非ズ、貴人ノ宴ニハ、唯、臨時風流ニ製レ之、云云、今世ハ三都トモ蓬萊同制ナレドモ、京坂ニテハ蓬萊ト云、或ハ俗ニ嘗米ノ字ヲ用ルモ有、江戸ニテハ蓬萊ト云ズ、喰積ト云、云云」 (四)熊野山ノ異稱 本宮、新宮、那智ヲ、三ツの御山ト云フ。蓬萊、方丈、瀛洲ニ比ス。徐福ノ祠アリト云フヨリ起ルト。(五)尾張國ノ熱田ノ異稱、明神ノ楊貴妃ニナリタマヘリト云フコト、明ノ宗景濂ガ日東詩ニ見ユト云フ。

ほうらい-かざり (名) [蓬萊飾] (一)三峰臺(サンボウゼン)[illegible]トテ、中ニ[illegible]、[illegible]ニ[illegible]ヲ臺ニテ作ルコトアリ、ソレヨリ起レル名ト云フ。[illegible]鮑(アハビ)、勝栗、昆布(ヒロメ)、野老(トコロ)、馬尾藻(ホンダハラ)ナドヲ盛リタルモノ。取肴ナレド、多クハ、飾物ノ如クセリ。クヒツミ。蓬萊臺。(古ヘノ齒固メト、支那ノ春盤トヲ混ズ) 浪花草、一、正月「蓬萊飾、喰積、云云」 續山の井、春「蓬萊ノ、かざりハカグノ、コノミ哉」

ほうらい-さん (名) [蓬萊山] 前前條ノ(一)ニ同ジ。 盛衰記、十七、祇王祇女佛前の事「[illegible]山ニハ、千年ヲ經ル、萬歳千秋重ナレリ」 謠曲、鶴龜「池ノ汀ノ鶴龜ハ、蓬萊山モヨソナラズ」

ほうらい-まめ (名) [蓬萊豆] 菓子ノ一種。豆ニ砂糖ノ衣(コロモ)ヲカケ、紅色、又ハ、白色ニシタルモノ。紅、白アル故、源氏豆トモ云フ。

ほう-らく (名) [崩落] (一)クヅレテ、オツルコト。又、崩ルル如ク落ツルコト。崩墜。(二)相場ナドノ、俄カニ甚シク下落スルコト。暴落

ほうらく-づきん(ホウラク-ズキン) (名) まるづきん(丸頭巾)ノ條ヲ見ヨ。 嬉遊笑覽、二、上、服飾「古キ繪草子ヲ見ルニ、圓頭巾、大方丸頭巾トミユ、コレヲほうらく頭巾トモイフ、云云、ほうらくハ豐樂ニヤ」

ほう-らん (名) [峰巒] 山ノみね。又、山。 [illegible]論詩「野花迎レ[illegible]、峰巒入レ海高」 [illegible]野望詩「[illegible]峰巒[illegible]近圖」

ぼう-らん (名) [棒蘭] 葉、棒狀ナル故ニ云フ。一名、海松蘭。寄生ノ植物。莖、綠ニシテ圓ク、葉ナク、珊瑚樹ニ似タリ。夏、枝叉ノ間ニ花ヲ生ズ、蘭花ニ似テ小サク、微香アリ。 釵子股 重修本草綱目啓蒙、八、山草類「釵子股、ボウラン、ミルラン、初メ

[illegible]ヨリ來ル、今ハ四國、九州、其他暖地ニ皆アリ」

ほうり (名) [illegible] ノ條ヲ見ヨ。(弘化二年、蘭癖、將來スト)

ぼうりん志 (名) [illegible] 綸旨ヲ僞リ作ルコト。又、ソノ綸旨。[illegible]

ほうりやう (名) 寶鈴 ほうれい(寶鈴)ニ同ジ。

ぼうりやく (名) 謀略 ハカリゴト。計[illegible]

ほう・る [illegible] 抛 はふる(抛)ノ訛

ボウル (名) (西班牙語、葡萄牙語、[illegible]) 菓子ノ名 [illegible] ノ類ニテ圓シ。今ハ凡テ球狀ノ洋菓子ヲ云フ。太閤記、一、或問「下戸ニハ、かすていら、ぼうる、かるめいら、あるへい、糖、こんぺい糖ナド[illegible]」[illegible] 中古傳ヘ製於蠻人ハ保宇留、波留天伊等之名[illegible] ほうろノ類ナルベシ」

ほうれい (名) 寶鈴 又、ほうりやう。佛前ニ供フル鈴ノ美稱 [illegible] 珍寶ノ風鈴ノ[illegible]

ほうれい・やまぶし (名) 紫衣ヲ許サレヌ山伏 [illegible]

ほうれい・わた (名) 穂入綿 ほいれわたノ延」 昔、蒲ノ穂ヲ、夜具、蒲團ナドニ入レタルヨリ始マリ、綿ノ渡來シテヨリ、古綿ヲ打直シツツパナカシタルモノヲ、[illegible]れいわたト云ヒキ。はいれわた [illegible] ノ條ヲ見ヨ。

ほうれき (名) 寶曆 [illegible] 年、[illegible]

ほうれん (名) 鳳輦 てぐるま(輦)ノ條ヲ見ヨ。[illegible] 子御輿、朝覲、還幸等ノ晴ノ時乘御、凡行幸ノ時ハ、大[illegible] ノ行幸ニモ葱花ヲ用ヒラルレドモ、春日、日吉ノ行幸ニハ鳳輦[illegible]

ほうれんげ (名) 寶蓮華 れんげ(蓮華)ノ美稱 [illegible] 蓮華降リテ現ニアリ」

ホウレンソウ (名) 菠薐草 〔福州ニテ、ぼありんつぁお、廣東ニテ、ぼりんつぁおト云フ〕 はうれんさう(菠薐草)ノ條ヲ見ヨ。

ほうろう (名) 寶樓 樓ノ美稱 榮花物語、十七、音樂「此ノ御堂ヲ御覽ズレバ、七寶所成ノ宮殿ナリ、寶樓、[illegible]」

ぼうろう (名) 崩漏 病ノ名。おしけ(腰氣)ノ條ヲ見ヨ。[illegible] 十三歲)、崩漏、大下氣欲レ絕、身冷脈伏」 內科秘錄、[illegible] 云云、治法ハ、賀川家ニ過法ノ術アリ」

ほうろく [illegible]

ほうわう (名) 鳳凰 [illegible] 九「鳳、於加良登里、凰、乎加良登里」 (一)〔支那ニテ、想像ノ瑞鳥ノ名。[illegible] ノ長[illegible] 高サ五六尺、[illegible] ノ色文ヲ具ス。天下道アレバ見ハルト云フ。[illegible] デン、御代ノカシコサ」 (二)新吉原ノ花魁ノ異名 [illegible] 羽ナラビ」(二人ノ禿)

ほうわう (名) 蜂王 蜂ノ[illegible] 蜂中ノ[illegible] 雌蜂ナリ、常ニ巣ニアリテ産卵ニ從フ

ほうわうちく (名) 鳳凰竹 竹ノ一種。多ク人家ニ植ウ [illegible] 尺ト左七尺、葉ノ長サ一寸許リ、[illegible] テ、梗、又ハ、琉球蘇鐵ノ葉ノ如シ、冬、枯ル。夏ノ土用ニ筍ヲ生ズ。故ニ土用竹ノ名モアリ。鳳尾竹 [illegible] 鳳凰竹也、云云、[illegible]

[illegible] 竹ト云、一名土用だケ、云云」

ほうゐ [illegible]

ほえ (名) (一)木ノ枝ヲ云フ。[illegible] ほえ、「木枝、ホエ」 (二)柴ヲ云フ。[illegible] 近江ニテ、柴ノ[illegible]キヲイヘリ、北國ニハ、凡テ柴ノ事ニ云ヘリ」

ほえ [illegible]

ほえう [illegible] 動搖スル故ニ云フ)

ほえう (名) 蜂腰 ほうえう(蜂腰)ノ條ノ(三)ニ同ジ。

ほえき [illegible]

ほえづら (名) 吠面 ナキガホ。ナキツラ。[illegible] 近松作)一「モタレカカルヲ突飛シ、イヤサ、泣面見タウモナイ」 浮世床(文化、三馬)初編、上「此中、ほえづらヲシテ頼ムカラノ、云云」

ほえん [illegible]

ほえんそ [illegible] 社寺、道路、橋梁ナドノ建設、又ハ、修復ヲナスタメニ、一般ヨリ、資金ノ寄附ヲ募ルコト [illegible]

條ノ(五)ヲモ參見セヨ。文明本節用集「吠、徐詐會」(五)ヲ吠名、鷹求 晏刀之詞也。狂言名物ほえる、廿八、佛教部、六「募縁ハ勸化スルヲ云フ、古ヘハ知識トモイヘリ、募縁疏ト云フハ勸化帳ノ事ナリ」

ほ・える (動) 吠 (一)ほゆ(吠)ノ口語。(二)人ノ泣クヲ賤シメテ云フ語。浮世風呂(文化、二馬)二、下「おべそカワアワアほえる」

ボオイ (名) 〔英語、Boy.〕 (一)男ノ子。(二)轉ジテ、コドモ。(三)コモノ。コツカヒ。又、給仕人。ウェイタア。

ホオク (名) 〔英語、Fork.〕 ふぉおくニ同ジ。にくさし(肉叉)ノ條ヲ見ヨ。

ボオト (名) 端艇 〔英語、Boat.〕 又、ぼうと。西洋形ノ小船。バッテイラ。

ボオトル (名) 〔蘭語、Boter.〕 ばた(牛酪)ニ同ジ。其條、及、ばうとるノ條ヲモ見ヨ。

ボオト-レエス (名) 端艇競漕 〔英語、Boat-race.〕 又、ぼうとれいす。端艇ニテ競漕スルコト。フナカケ。

ボオナス (名) 〔英語、Bonus.〕 (一)特別配當金。(二)手當金。(三)賞與金

ホオム-シック (名) 〔英語、Home-sick.〕 旅先ナドニテ、故郷ヲ思ヒコガルル病。懷鄕病。

ホオル (名) 〔英語、Hall.〕 (一)集會スルタメニ用ヰル家。公會堂。會館。(二)大廣間。又、玄關 行廊。(三)飲食セシムルヲ業トスル家 又、食堂

ボオル (名) 〔英語、Ball.〕 タマ 球。(庭球用、蹴球用、野球用スベテニ云フ)

ボオル-がみ (名) 〔英語、Paste board.

ノ略〕 ぱふんさ(馬糞紙)ニ同ジ。學校ナドニテ、教授上ニ使用スル塗板。黑板。

ホオヰッツル (名) 忽微 〔蘭語、Houwitser. 英語、Howitzer.〕 大砲ノ、砲身、加農砲ヨリ短ク、臼砲ヨリ稍長キ形ノモノ。榴彈砲。

ほか (名) 外 〔遙方ノ意〕 (一)〔外〕。ソト。オモテ。萬葉集、十一 八「荒磯越エ、外往ク波ノ、外心、吾ハオモハジ、戀ヒテ死ヌトモ」 同、十七「アシガキノ、保加ニモ君カ、ヨリ立タシ、戀ヒケレコソハ、ユメニ見エケレ」 古今集、一、春、上「見ル人モ、ナキ山里ノ、サクラ花、ほかノ散リナン、ノチゾ咲カマシ」 (二)ヨソ。ホカホカ。(三)異ナルコト。別ナルコト。他 「外ノ事」「外ノ人」「外ノ用」 (四)ソレヨリ別ナルコト。又、他ニ理由ノナキコト。長町女腹切(正德、近松作)下「知ッテ居ナガラ、此伯母ガ、ヲシゴトシタル其咎メ、因果トほかハ思ハレヌ」

ほか (接尾) 外 副詞ヲ形作ル接尾語。コノ外ニハ。ソレ以外。「旅ニ出デテハ、妻子ノほか思ハレズ」

ぼ-か (名) 暮夏 ばんか(晚夏)ニ同ジ。

ぼ-か (名) 暮霞 ばんか(晚霞)ニ同ジ。江淹、秋夕納涼詩「虚堂起淸氣、暗壁生暮霞」

ほ-かう (名) 步行 アユムコト。アルクコト。カチアルキ。カチ 徒步 徒行。史記、項羽紀「令騎皆下馬步行、持短兵接戰」 鹽鐵論(漢、桓寬)「乘堅驅良列騎成行者、不知負擔步行者之勞也」 菅闇集、廿、角觝之上「十番町バカリハ、オノオノ馬ヨリオリ、步行セラレケリ」

ぼ-かう (名) 母校 自分ノ學ビタル學校 「レノ出身セル學校 出身校

ほ-かけ (名) 穗掛 稻ヲ刈リ、穗ヲ組合ハセ、門戶ニ掛ケテ神ニ奉ルコト。夫木抄、三十六、言語「初雁ノ、ニヘノ盡ゲノ、ツカナリト、ほかけゾスベキ、イカガ返サン」

ほ-かげ (名) 火影 火ノ影 燈火ノ光。ヒカゲ。又、燈火ナドノ光ニ、ウツリタル影。源、六、末摘花「ほかげノミダレタルサマハ、マタサヤウニテモ見マホシクオボス」 紫式部日記「ほかげニキラキラト見エワタル中ニモ、云云」

ほ-かげ (名) 帆影 帆ノ、目ニ見ユルコト。船ノ帆ノ形。帆ノ姿。太平記、十六、兵庫海陸寄手事「帆影ニ續クル海面、十四五里ガ程ニ漕ギ連ネテ、舷ヲ轄リ、艫舳ヲ雙ベタレバ、海上俄ニ陸地ニ成ッテ、帆影ニ見ユル山モナシ」

ほかけ-ぶね (名) 帆掛舟 帆ヲ揚ゲテ走リ行ク船。ホブネ。帆前船。帆船。伯耆之卷、元弘二年三月「御舟ニハ、醍醐天皇 白帆懸ニ教ヘテ、帆懸船ヲ書カセ給ヒ下ケリ」

ほか-ごころ (名) 外心 他ニ移ル心。アダゴコロ。アダシゴコロ。榮花物語、十、日蔭蔓「大納言殿ハ、云云、ほか心モオハセネバ、タダコノ姫君ヲイミジキモノニ思ヒ聞エサセ給ヘルニ、云云」 拾玉集、九「君ニナレテ、外心ナキ、ツマナレバ、ウラガヘリタル、ネタサナルラン」

ほか-ざま (名) 外方 ソトノカタ。ヨソノ方。竹取物語、「射ントスレドモ、ほかざまへイキケレバ」 源、四十九、東屋「賢ク思ヒ企ラレタレド、モハラホイナシトテ、外ざまへ思ヒナリ給ヒヌベカナレバ、オナジクハト思ヒテナン」

ぼかし (名) 暈 くまどり(隈取)ノ條ノ(一)ニ同ジ。浮世風呂(文化、三馬)二編、上「上方スヂノ女、ズングリトシタ風俗、色白ニテ、好厚ク、目ノフチハ紅ノほかし、口紅黑光リ」

ほか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 放下 〔ほかすノ約〕 棄ツ 打捨テ置ク。捨ツ。放置 浮世風呂(文化、三馬)二、下「私ヲ搔抓メ

ヘテ、放下し込ンダト思ヒネエ」

ぼか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 暈 くまどる(隈取)ニ同ジ。淡抹 暈抹

ほか-ずみ (名) 外住 ヨソニスムコト 異ナル所ニ住ムコト 宇津保物語、藏開、上「ココバクノ御女、何モ其具シテマヘル、サフニほかずみセサセ奉リ給ハズ」

ほ-かぜ (名) 帆風 (一)おひて(追風)ニ同ジ。(二)トキメク勢。ハブリ。勢力。菅闇集、六、三賀茂詣「ト部氏コソ本宮ニ、侍リシニ、近代、大神氏ニほかぜヲトラレテ」

ほ-か-ソウ (名) 放下僧 又、はうかそう〔其條ヲモ見ヨ〕 田樂ノ類、羯鼓、編木ナドニテ、唱歌ヲ謡ヒツツ舞フ遊藝ノ僧 放下師

ほか-と (副) (一)大口アキテ、物ヲ食フ狀ニ云ノ語。醒睡笑、元和、安樂庵策傳 一「人クラヒ犬、云云、何ノセンモナク、ほかとクウタリ」 (二)汁、又ハ、酒ナドヲ、急ニコボシ、或ハ、捨ツル狀ニ云フ語。醒睡笑、九「酌ヲスル者、酒ノほかとコボシタレバ、云云」

ほか-ばら (名) 外腹 本妻ナラザルモノノ、腹ニ生ルルコト。又、ソノモノ。ワキバラ。庶腹。源、廿六、常夏「オトドノほかばらノ娘、尋ネ出デテカシヅキ給フト、マネブ人ナンアリシ」 榮花物語、一、様様悅「ほか腹ノ男君達、ナカナカイーサマザマ ナリイデテオハシケリ」

ほ-かひ (名) 帆貝 ほたてがひ(帆立貝)ノ異名。名言通(天保、服部宜)下「ほかひ、貝名、帆貝ナリ」

ほがひ (名) 壽 ホガフコト。祝グコト。イハヒ 宮門管式「大殿祭、此云、保加比」 古事記、中、仲哀 「酒樂之歌也 神功紀、十三年二月「皇太后擧觴、以壽 于太子」

ほがひ-びと (名) 乞兒 〔壽詞言ヒツツ、人家ニ立チテ物ヲ乞フヨリ云フ〕 こつ[illegible] 兒、保加比比止」 [illegible]記、上、第四條、訓釋「乞匂、保加比止」 萬葉集、十六、廿「乞食者詠二首」(古義ノ訓)

ほが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 壽 〔祝ぐ、ノ延、願ぐノねがふ、番ぐノつがふノ如シ〕 コトホグ。コトブク。イハフ。祝[illegible] [illegible]フ、マツル、イノル」 字鏡「祠、春祭也、保加不」

ほか-ほか (名) 外外 〔ほか(外)ヲ重ネタル語〕 ほか(外)ノ條ノ(二)ニ同ジ。 [illegible]、四十六、總角「オナジ所ニ、オホトノゴモレルヲ、ウシロメタシト思ヘド、常ノ事ナレバ、ほかほかニ[illegible]イカガ聞エン[illegible] [illegible]クワウナリ、マダ火モ[illegible]モサス[illegible]ニ、外外ヨリ人ノ來集リタル」

ぽか-ぽか (副) 身體ニ暖ミヲ感ズル狀ニ云ノ語。ボカボカ。ホカホカ。

ぽか-ぽか (副) (一)前條ノ語ニ同ジ。(二)木魚、頭、ナドヲ叩ク狀ニ云フ語。

ほがみ (名) 小腹 〔陰上ノ略〕 志たはら(下腹)ノ條ノ(一)ニ同ジ。 字類抄「小腹、ホカミ」 [illegible]、ホカミ [illegible] 陰上云[illegible]」 古事記、中、[illegible] 五 小[illegible]ハ[illegible]カ」 [illegible]、廿「[illegible](太小腹)、アシケヒトナリ、アタユマヒ、吾スルトキニ、サキモリニサス」

ぼかん (名) 母艦 〔英語、Mother ship.ノ譯語〕 (一)母ノ子ニ對スルガ如キ役目ヲナスヨリ云フ〕 自己ガ主體トナリテ、ソレヨリ小ナルモノノ賴リドコロトナル軍艦ノ稱。「航空母艦」「水雷母艦」 (二)海底電線ヲ敷設スルニ用ヰル船。

ぽかん-と (副) (一)物ノ水ニ落入ル音ニ云フ語。[illegible] (二)[illegible] ポンヤリト。(三)頭ナドヲ、[illegible]ニ云フ語。ポカリト。

ほかめ (名) 外目 他ニ目ヲウツスコト。[illegible] 教ノ講師ハ、云云、顏ヲマモラヘタルコソ、ソノトク事ノタフトサモ覺ユレ、外目シツレバ、フト忘ラルルニ」 春曙抄「外目、ヨソ目スルト同ジ」

ほがら-か-み (副) 朗 〔彷明ノ約カ〕 (一)打開ケテ明カニ。名義抄「晃、ホガラカナリ」 [illegible] ほがらかなるコソ、啼キワタルナレ」 後拾遺集、序「發、秋ノ月ノほがらかなる、詞、春ノ花ノ匂ヒアルヲ」 (二)晴レヤカニ。[illegible] 如[illegible]也」 蜻蛉日記、下、下「イトほがらかなるウチ笑フ」 源、三十四、上、若菜、上「限リナキ人ト聞ユレド、今ノ世ノヤウトテハ、ミナほがらかなるアルベカシク」 (三)分明ニハレバレシク。[illegible]カニ」 撰集抄、四、第六條「外ノ[illegible]ほがらか[illegible]花[illegible]備リ[illegible]ヘリシカ」

ほがら-ほがら-と (副) 朗朗 〔光ニ通ズ〕 東天ニ、日ノ光、明ラムトスル狀ニ云フ語。又、ホガラカニ。 古今集、十三、戀、三「[illegible]ノ、ほがらほがらと、明ケユケバ、オノガキヌギヌ、ナルゾ悲シキ」 袖中抄、十五「ほがらほがらとトハ、ホガラカニ夜ノアケユク心ナリ」

ぽかり-と (副) ぽかんとノ(一)ニ同ジ。

ほかゐ (名) 外居 行器 〔外付ニ居ウル義〕 食物ヲ盛リテ、持チ運ブニ用ヰル器。食籠ノ大ナルモノナリ。形、圓クシテ高ク、蓋アリ、三脚アリテ、脚、外ヘ反ル。 下學集、下、器財門「外居、ホカヰ、或作行器」 [illegible]集「コノ[illegible]ハ、何ゾノ[illegible]ゾ、オホツカナ、カタネノ[illegible]ノ、ほかゐナリケリ」 古[illegible]、一、[illegible]「[illegible]二[illegible]一、外居[illegible]一、折[illegible]二[illegible]一杯[illegible]之テ」 吾妻鏡、二十四、仁治二年十二月一日「酒宴[illegible]之

[illegible]

ほき (名) 崖 山腹ナドノケハシキ所。山岸。ソコニブル路ヲ、ほきぢト云フ。 [illegible] 「危サニ、人目ゾ常ニ、ヨガレケル、岩ノ陰路ム、ほきノ[illegible]」

ほき (名) [illegible] 古ヘ、支那ニテ、祭ニ用ヰシ器具。ほきへんとう(簠簋邊豆)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible] 出ニ其[illegible]ハ陳ニ其器皿ハ爵ニ其巾冪ニ」

ほ-き (名) 蒲葵 棕櫚科ノ樹ノ名。びらう(蒲葵)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

ほぎ (名) 壽 ホグコト。[illegible] 又、新室ノ祝宴ニ用ヰル壽辭。 顯宗即位前紀[illegible]也」

ぼき (名) 簿記 帳面ニ書キ記スコト。特ニ、専ラ西洋風ノ簿記法ニヨリテ、金錢ノ勘定、財產ノ收支、增減、出納、取引ナドヲ、帳簿ニ記入シテ、コレヲ整理スルコト。單式簿記ト複式簿記トアリ。

ぼぎ (名) 母儀 〔人ノ母タルモノノ手本ノ義〕 (一)母道ノ模範。母範。[illegible]之德ニ」 盛詢祖詩「母儀掩ニ隣國ニ」 (二)母御。ははごぜん(母御前)ニ同ジ。 [illegible]

ホギイ-車 (名) 〔英語、Bogie-truck. 轉向車ナドト譯ス〕 鐵道ノ車輛ノ車臺ニ固定セシメズシテ、其四箇、又ハ、六箇ヲ一ノ框ニテ連結シ、中央ノ樞軸ノ

[illegible]

ほぎ-うた (名) 祝歌 壽歌 ホギテ、ウタフ歌。祝ヒテ、詠ジタル歌。コトホグ歌。 [illegible] 古事記傳、三十七「本岐歌ハ祝ノ歌ナリ」

ほぎ-くるほ・す (他動、四) 壽廻 種種ニイハフ。イロイロト祝フ。ホギモトホス。 古事記、中[illegible]

ほぎ-ごと (名) 祝詞 ホギノブルコトバ。[illegible]

ほぎ-ごと (名) 壽言 緣起ヲイハフ言葉。祝福スル詞。萬壽ノ賀詞。

ほき-せん (名) [illegible]ヲ見ヨ。[illegible]

ほきだ・す (他動) 吐出 吐き出すノ轉。

ほき-ぢ (名) 崖路 ほき(崖)ノ條ヲ見ヨ。 加茂保憲女集「ヒヂヲリテ、ユカレンモノカ、春山ノ、ほきぢノ櫻、今盛リナリ」 堀河百首「ツタヒユク、コシノほきぢ(一本、ほけぢ)ノ、ケハシキニ、カケリテ過グル、ホトトギスカナ」 山家集、上「吉野山、ほき[illegible]」

ほき-へんとう (名) 簠簋邊豆 [illegible] 古ヘ、支那ノ祭ニ、供物ヲ盛リシ器。高坏ノ如クニシテ、上ハ盆ノ如キモノ。へんとう(籩豆)ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]

ぽきぽき (副) 木ノ枝ナドノ脆ク折ルル音ニ云フ語。ボキボキ。ボキンボキン。

ぽきぽき (副) 前條ノ語ニ同ジ。

ぽきんぽきん (副) 前前條ノ語ニ同ジ。

ほぎもとほ・す ホギモトオ・ス・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [祝廻] ほきもとほす(祝廻)ニ同ジ。

ほぎ (名) [脯魚] 魚ノ乾物。ヒウヲ。 本朝[illegible]、九[illegible]乾魚、[illegible]脯[illegible]之名、[illegible]字、[illegible]乾魚[illegible] 說文「脯、肉乾也」

ぽきり (副) モノノ脆ク折レ、又ハ、切ルル狀ニ云フ語。次條ノ語ヲ參見セヨ。

ぽきりぽきり (副) 前條ノ語ヲ重ネテ強メタル語。ボキンボキン。 浮世風呂(文化、三馬)四編、上「小便ヲヒョグルウチ、モウ尖頭(サキ)ノ方ハ氷リヤス、云云、硝子ヲハサムヤウニ、小便ノ尖頭ヲ、ほきりほきりト斷リナガラ、小便シヤス」

ほ・く ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [惚] 次次條ノ語ヲ見ヨ。

ほ・く ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [祝壽] 〔褒(ホ)むニ通ズ、濁リテ、ほぐ〕イハフ。ホザク。ホガフ。メデタキ結果ノ來ルヤウ、言葉ニテ祈ル。豫起ヲ祝ソ、祝福ス。 神代紀、下「天照大神手持寶鏡、授天忍穗耳尊、而祝之曰、吾兒視此寶鏡、當猶視吾」 私記「祝之、保岐氏」 萬葉集、十九「青柳ノ、上枝攀チ取リ、カヅラクハ、君ガ宿ニシ、千年保久トゾ」

ほ・く クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) [惚耄] 〔化く、通ズ〕知覺、變ジテ、鈍クナル。延ベテ、ほうく。又、惚る。訛シテ、ボケル。又、ホウケル。 落窪物語、一「老イほけテ」 源、四十三、竹川「年ノ數積リ、ほけタル人ノ」 榮花物語、廿九、玉飾「ムケニほけ[illegible]、[illegible]ヘ[illegible]カナニ」 宇治拾遺、十四、第十一條「イ、シウほうけテ、物ヒ覺エヌヤウニテ」 (源、廿六、常夏十二「此、今ノ御娘ノ事ノ、殿ノ人モユルサズ、[illegible]ヒ、世ニモ、ほきタル事ト譏リ言フ」トアルモ同ジト云フ、サラバ、四段活用ノ語尾變化モアルニヤ)

ほぐ (名) 反故 〔反故、反古〕 (一)〔又、ほうぐ。〕ホゴ。ホウゴ。ホンゴ。文字ナド書キタル紙ノ、用ナクナレルモノ。ホグガミ。ホゴガミ。フルホグ。 倭名抄、五 文書具「反故、齊春秋云、沈麟士守貧、少[illegible]無紙、以[illegible]古[illegible]書[illegible]」 字類抄「反古、ホク、ホンコ」 源、五十、浮舟六「ムツカシキほぐナド破リテ」 大鏡、上、三條院「古ほぐトオボシテ、打捨テサセタマハデ」 夫木抄、十二、秋「秋ノ田ノ、ほぐ[illegible]モ膳ノ、見ユルカナ、誰レ[illegible]ニ、書キ散ラス、フン」 右京大夫集「ほぐエリ出シテ、料紙ニスカセテ、云云、サスガニ積リニケルほうぐナレバ、多クテ、云云」 狹衣、二、上「ほうぐノ端ダニ落チ散ラヌハ」 拾玉集、四「ほお燒ク灰ノ、風ニ吹カレテ」 徒然草、第廿[illegible]段「文ノ詞ナドゾ、昔ノほうおドモハ、イミジキ」 紫式部日記「古キほんお引キサカシ」 (二)用ナキモノ。ムダ。不用。「人ノ言葉ヲほぐニスル」

ほ・ぐ グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (他動、四) [祝壽] 〔ほくノ濁音〕稱(タタ)ヘ祝フ。ホガフ。コトホグ。コトブク。「壽賀」 萬葉集、六「[illegible]酒ニ、吾醉ヒニケリ」 大殿祭祝詞、註「[illegible]、古語云、許止保企」 出雲國造神賀詞「神賀」

ぼく (名) [僕] 〔禮記、禮運篇「仕ニ於公ー曰レ臣、在ニ於家ー曰レ僕」〕 (一)シモベ。シモヲトコ。下男。 詩經、周南、卷耳篇「陟ニ彼砠ー矣、我馬瘏矣、我僕痡矣、云何吁矣」 左傳、僖公廿四年「[illegible]、千人、實紀綱之僕」 (二)馬車ノ御者。 論語、子路篇「子適衞、冉有僕」

ぼく (名) [卜] 〔禮記、曲禮、上篇「龜爲レト、筴爲レ筮」〕 龜ノ甲ヲ燒キ、其裂目ニヨリテ、事ノ吉凶ヲ判斷スルコト。ウラナヒ。 書經、[illegible]、卜[illegible] 不能[illegible]以[illegible]ト稽、曰、其如レ台」 左傳、桓公十一年「莫敖曰、卜之、對曰、卜以決レ疑、不レ疑何卜」

ぼく (名) [木] (一)木。樹木。(二)木ノ根、幹ナドノ、曝(サ)ラサレテ凹凸(タカヒク)ヲナセルモノ。築山ナドニ用ヰル。火山石ヲくろぼくト云フモ、此名ニ因ル。(三)八音ノ一。木ニテ作リタル支那古代ノ樂器。又、ソノ音。 周禮、春官、宗伯、大師「播之以八音金石土革絲木匏竹」 註「木、柷敔也」

ぼく (代) [僕] 〔漢書、韋玄成傳、註「自稱爲レ僕、卑辭也」〕 (一)自稱ノ代名詞。ヤツガレ。拙者。 [illegible] 漢書、韋玄成傳「僕[illegible]高而僕爲ニ小人ー也」 (二)書生ノ語。今ハ唯、われ、われらノ意ニ用ヰル。

ほ・く クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) [惚耄] ほく(惚)ニ同ジ。

ほくいうまつり ホクユウマツリ (名) [北遊祭] 陰陽家ノ行フ祭ノ一種。 吾妻鏡、四十四、建長六年四月四日「[illegible]行[illegible]不可[illegible]之由[illegible]北遊御祭[illegible]良光朝臣奉仕之[illegible]行之」

ぼくか ボツカ (名) [牧歌] (一)牧童ノ歌フ歌。 元結、[illegible]「[illegible]牧兒[illegible]」 (二)〔英語、佛蘭西語、Pastoral. ノ譯語〕田園ノ風物ヲ背景トシ、牧者、農夫ノ男女ノ生活ヲ骨子トセル歌謠、又ハ、小說、戲曲ノ通稱。

ほくかい ホツカイ (名) [北海] 北方ノウミ。キタノウミ。北洋。 孟子、梁惠王、上篇「挾ニ太山ー以超ニ北海ー、語人曰、我不能、是誠不能也」 [illegible]

ほくかいだう ホツカイダウ (名) [北海道] 我ガ國、八道ノ一。東ハ太平洋、西ハ日本海ニ面シ、南ハ津輕海峽ヲ隔テテ、東山道陸奧國ニ對シ、北ハ宗谷海峽ヲ隔テテ、樺太島ニ對スルモノ。渡島、後志、胆振、石狩、天鹽、北見、日高、十勝、釧路、根室、千島ノ十一國ヲ總稱、面積五千七百五十五方里。モト蝦夷島、又ハ、蝦夷地ト稱シ、あいぬ人ノ根據地ナリキ。明治二年八月、今ノ名ニ改ム。

ぼくかく ボツカク (名) [墨客] 書畫ヲ書ク人。又、文墨ヲ能クスル人。 [illegible]「文人墨客」「騷人墨客」

ほぐがみ (名) 反故紙 ほぐ(反故)ノ條ノ(一)ニ同ジ。字紙。惜字紙。 北史、[illegible]傳[illegible]

ぼくぎう ボクギウ (名) [牧牛] 牛ヲ牧場ニ放チ飼スルコト。又、ソノ牛。 晉書、蔡謨傳「全無[illegible]」

ほくきがひ ホツキガヒ (名) [北寄貝] 略シテ、ほくき。うばがひ(姥貝)ニ同ジ。

ぼくきやう ボツキヤウ (名) [木強] 心ノ木石ノ如クナルコト。キスグ。キゴハ。ブコツ。 漢書、周昌傳「[illegible]」 同、周勃傳「[illegible]人、木彊敦厚」「木強漢」

ぼくきよ ボツキヨ (名) [卜居] 〔モト占ヒテ、定メシ故ニ云フ〕善キ地ヲ求メテ、住ムコト。 史記、周紀、[illegible]「卜居」[illegible]宅北山阿、卜居[illegible]外」

ぼくぎよ (名) [鱟魚] 〔腹中ニ墨汁ヲ有

[illegible]故ニ云フ」いか(烏賊)ノ異名。[illegible]六、羅貨門「烏賊、烏鯛、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、

ほくきょく(名)［北極］(一)地球ノ中心ニ[illegible]其北[illegible]ヲ北極ト云ヒ、其南[illegible]ヲ南極ト云フ。又、[illegible]球ニモ[illegible]南極ノ[illegible]、北極[illegible]、又、[illegible]ノ北ニ向ヘル方向ヲモ云フ。(二)ほくきょくせいノ略。[illegible]ヲ見ヨ。

ほくきょくしゅつち(名)［北極出地］古キ天文地理ノ學ニテ、地球ノ緯度ヲ測ルニ云ヘル語。北極星ノ地平上ニ出ヅル高サヲ、象限儀ニテ測ルニ、赤道ニテハ北極星、地平ニアリ、北ヘ向ヒテ一度進メバ、星、地平ヨリ上ルコト一度、漸ク進ミテ、終ニ九十度ニ至レバ、星、頂上ニアルベキナリ。コレニヨリテ、地球ノ緯度ヲ定ム。北極出地幾度ト云フハ、是レナリ。「[illegible]北極出地[illegible]云云」

ほくきょくせい(名)［北極星］〔爾雅、釋天篇「北極謂之北辰」注「北極、天之中、以正四時」疏「極、中也、北、時也、居天之中、人望之在北、因名ニ北極」〕天球ノ北極ニ接近シテアル恆星ノ名。小熊星座ニ屬シ、常ニ其處ニ居テ、他ニ移ラズ、北極ヨリ約一度十四分ノ距離ニアリ、故ニ天文學者ハ、二等星トシテ、常ニ北極ヲ定ムル標準トス。略シテ、北極。子ノ星。北ノヒトツボシ。北[illegible] [illegible]

物屋及左衞門ハ、天文ノ心得モ有ル人ニテ、北極星ヲ取リ見ルニ、府中ノ人、町ニテ測ルト、富士山ノ八合目ニテ測ルトハ、凡三度半ヲ差トナリ、富士山ニテハ、三十九度ニ及ベリト語リケルト、如意道人物語リキ」

ぼくぐう(名)［木偶］デク。キボリノ人形。[illegible]君傳「今見代從ニ外來、見ニ木偶人與ニ土偶人ニ相與語」[illegible]

[illegible]

ほくぐゎ(名)［北畫］(南畫ニ對ス)北宗畫ノ略。又、北宗。なんしゅうぐゎ(南宗畫)ノ條ヲ見ヨ。

ぼくくゎ(名)［木瓜］落葉灌木ノ名。ぼけ(木瓜)ノ條ヲ見ヨ。

ほくくゎく(名)［北郭］東京ニテ、新吉原遊郭ノ稱。(市ノ北方ニアル故ニ云フ)

ぼくけい(名)［墨刑］五刑ノ一。イレズミノ刑。いれずみ(入墨)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。[illegible]

ほくけつ(名)［北闕］(一)支那ニテ、天子ノ宮殿ノ北方ノ正門。上奏、謁見ノ徒、ココヨリ出入ス。[illegible](二)轉シテ、きんり(禁裏)ニ同ジ。皇居。宮中。吾妻鏡、十一、建久三年三月二日「竊以ニ累祖ニ立レ身、[illegible]北闕之月ニ[illegible]」

ほっけん(名)［黄絹北絹］ほっけん(黄絹)ニ同ジ。撮壤集、下、衣服門「北絹、ホッケン」下學集、下、絹布門「織物類、北絹、ホクケン」

ぼくけん(名)［木劒］きだち(木太刀)ニ同ジ。[illegible]史、刑法志「又有ニ木劒大[illegible]」[illegible]「[illegible]以進」

ほくこく(名)［北國］(一)北ノ方ノ國。[illegible]平家物語、六、飛脚到來事「鎮西ノ者共、云云、一向平家ヲソムキテ、源氏ニ同心ノ由申タリケレバ、平家ノ人人、東國、北國ノソムクダニアル、云云」(二)江戸ニテ、新吉原。(市ノ北方ニアル故ニ云フ)北郭。

ほっこくぶね(名)［北國船］又、[illegible]下ノ出典ヲ見ヨ。[illegible]ヲ北前舟、北國舟ト云フ、俗呼テ、どんぐり舟ト云フハ、其形ノ似タルヲ以テイフナルベシ、是ヲをも き造リト云フ、凡千石以上ノ大船ナリ」

ぼくこん(名)［墨痕］スミノアト。筆ノアト。又、筆蹟。手跡。[illegible](元、夏文彦)[illegible]

ぼくさい(名)［牧宰］こくしゅ(國守)ノ唐名。[illegible]

ほくさいりう(名)［北齋流］葛飾北齋ノ創メタル浮世繪ノ流派。北齋派。[illegible]ヲ以テ開祖トス」

ほくさう(名)［北窗北牖］北カタニアル窓。北ニ向ヘル窓。[illegible]

[illegible]

ほくさう(名)[illegible]トスル草。[illegible]

ぼくさつ[illegible]

ほくざん(名)［北山］南山ニ對シテ、北方ニアル山。キタヤマ。詩經、小雅、白華之什[illegible]

ほぐし(名)［火串］(一)[illegible]しノ松ヲ、シルベニテ、イルサノ山ニ、トモシヲゾスル」[illegible]山(享保、近松作)二「照射スル火串ノ[illegible]」(二)[illegible]「[illegible]、ホグシ」

ぼくし(名)[illegible](一)古ヘ、支那ニテ、牧人ノ司。[illegible]

ほぐ[illegible](名)[illegible]

ぼくしつ(名)［朴質樸質］しつぼく(質[illegible]

〔...〕卜世ニ頁、下世交...

ぼく-じつ（名）樸實 前條ノ語ニ同ジ。宋史、李燔傳「交友有ㇾ益、而進ㇾ學可ㇾ畏、且直諒樸實、處ㇾ事不ㇾ苟」

ぼく-じふ（名）|墨汁|（一）スミノシル。スミシル。墨水。〔...〕（二）寫字用トシテ製造セル黑色ノ液。（三）インキ。

ほく-しん（名）|北辰| ほくきょくせい（北極星）ニ同ジ。論語、爲政篇「子曰、爲ㇾ政以ㇾ德、譬如ㇾ北辰居ㇾ其所ㇾ而衆星共ㇾ之」〔...〕

ほくしん-いったうりう（名）|北辰一刀流| 〔...〕ノ條ヲ見ヨ。

ぼく-しゅ（名）|墨守| 「墨翟之守」ノ略。支那、戰國ノ代ニ、宋ノ人墨翟、能ク城ヲ守リ、楚ノ軍ヲ卻ケタル故事ヨリ、善ク城ヲ守ル義トナル」固ク自說ヲ執リテ變ゼサルコト。墨翟ノ守〔...〕

ぼく-しゅ（名）|木主| ゐはい（位牌）ノ稱。史記、周紀〔...〕神主〔...〕

ほく-しゅう（名）|北宗|〔又、ほくしゅう、〕（一）支那、禪宗ノ一派、五祖弘忍禪師ノ弟子神秀ヲ祖トスルモノ。專ラ支那ノ北方ニ行ハル。ふんしゅう（南宗）ノ條ノ（一）ヲモ見ヨ。

（二）〔南宗ニ對ス〕北宗畫ノ略。又、北畫。ふんしゅうぐわ（南宗畫）ノ條ヲ見ヨ。

ぼく-じゅう（名）|僕從| メシツカヒ。シモベ。下男。書經、冏命「昔在文武、聰明齊聖、小大之臣、咸懷忠良、其侍御僕從、罔ㇾ匪正人」

ほくしゅう-ぐわ（名）北宗畫〔南宗畫ニ對ス〕北宗派ノ繪畫家ノエガケル畫。略シテ、北畫。ふんしゅうぐわ（南宗畫）ノ條ヲ參見セヨ。〔...〕

ほくしゅう-は（名）|北宗派| 東洋畫法ノ一派。大小斧劈ノ皴法ヲ好ミ、折〔...〕描類ノ描法ヲ用ヰ、遒勁奇拔ノ趣キアルモノ。支那ニテハ唐ノ李思訓ヲ祖トシ、宋代ニ傳ヘタリ。我ガ國ヘハ鎌倉時代ニ渡來シ、來朝僧、寧一山禪師コレヲ始メ、爾後、漸次發達シヌ。周文、雪舟、狩野正信ノ輩ハ、コレヲ唱道シ、元祿ノ時マデハ畫ノ正宗ト稱シタリ。ふんしゅうぐわ（南宗畫）ノ條ヲモ參見セヨ。〔...〕

ぼく-しょく（名）|墨色| スミノイロツヤ。墨ツキノ色。〔...〕

ほぐ-す・す・セ・サ・シ・セ（他動、四）|解|〔ほぐる（解）ノ他動〕解ク。ホゴス。ホドク。ホツス。清少納言集「サバカリノハカナキ事ヲ、ほぐすべキニモアラズ、又トヲクキタラン人ノ、サ〔...〕」

ぼく-す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）|卜| ウラナフ。又、ウラナヒ定ム。（占ノ條ヲモ參見セヨ）〔...〕

ほぐせ（名）|掘串| 土ヲ掘ル棒。古ク、ふぐし、今、又、ふぐせ。

ぼく-ぜい（名）卜筮〔卜ハ、龜甲ヲ燒キテウラナフモノ、筮ハ、メドギヲ以テウラナフモノ〕ウラナヒ。うらなひ（占）ノ條ヲ見ヨ。又、えき（易）ノ條ヲ見ヨ。〔...〕

ぼく-せう（名）|朴消| ばうせう（芒硝）ノ條ヲ見ヨ。

ぼく-せう（名）|乏少|〔ばふせうノ轉〕トボシク、スクナキコト。北條五代記、七、兵法勝負事「小熊ハ鼠色ノ木綿袷ニ淺黄木綿袴ヲ着、足半ヲハキ、乏少ナル姿ニテ常ノ木刀ヲ持出ル」津國女夫池（享保、近松作）一「近頃ぼく少輕微ナカラ、是今晩ノ進上ト、鼯ノ〔...〕ニカ パト投捨テ」

ぼく-せき（名）墨蹟 墨跡 墨迹 しゅせき（手跡）ニ同ジ。〔...〕

ぼく-せき（名）|木石|（一）木ト、石ト。イハキ。又、非情ノモノ。孟子、盡心、上篇「舜之居ㇾ深山之中ㇾ、與ㇾ木石ㇾ居、與ㇾ鹿豕ㇾ遊」（二）轉ジテ、人ノ性質ノ強クシテ、情ナキニ云フ語。宋書、吳喜傳「人非ㇾ木石、何能不ㇾ感」遊仙窟「鳥獸無ㇾ情、由知ㇾ怨ㇾ別、心非ㇾ木石、豈忘ㇾ深恩」〔...〕

ほく-そ（名）|熸|〔火糞ノ義、又、ほそくづハ火糞屑ノ意カ〕（一）燼燭ノモエガラ。又、ホソクヅ。ホスヒ。〔...〕（二）〔...〕ドノほくそヲ、火打ノ火口トスルモノ。火引 新六帖、一「打出ス、火打ノ石ノ、ほくそ燃ミ、何ニモツカヌ、我ガ身ナリケリ」散忠集「イハニカネノ火打ヲ、ほくそニ燃シテ、云云」

ほくそ（名）|黑子|〔ははくそ（黑子）ノ訛〕ほくろ（黑子）ノ條ヲ見ヨ。

ぼく-そ（名）朴素 そぼく（素朴）ニ同ジ。〔...〕

ぼく-そく（名）|樸樕|〔詩經、野有死麕篇、毛傳「樸樕、小木也」〕（一）小サキ木。柴ノ類。詩經、召南、野有死麕篇「林有ㇾ樸樕、野有ㇾ死鹿」〔...〕（二）轉ジテ、ツマラヌ人物ナドヲ云フ。

ほくそ-づきん（名）|苧屑頭巾|〔ほくそハ、をくそノ轉〕からむしづきん（苧頭巾）ニ同ジ。正章千句（正保）「槇ノ葉ノ、露ヤ猿師ノ、袖ノ上」ほくそ頭巾ニ、カヨフ松風」本朝若風俗（貞享、西鶴）五「其サマヲカシケニ剃貌ナ、ほくそ頭巾ニ山刀サシテ」吉原呼子鳥（寬文）序「ワレモ昔ハサザナミヤ、云云、ほくそ頭巾ヲ引込テ、土手ヲテテメカ出スナトイハバ、云云」

ほくそ-わら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）|北叟笑|「塞翁ノ故事ニ起ル、翁ヲ北叟ト歌ニ詠メリ」癡笑ヲナス。ニコニコ笑フ。ホクソエム。盛衰記、十四、三位入道〔...〕

[illegible]モ少シ笑ヒ、可ハ賞事ニモ少シ咲フ、云云」

ほくそゑむ ・ム・メ・マ・・・メ(自動、四) [北叟] 笑ム、前條ノ語ニ同ジ。 [illegible]「[illegible]文選ニ…[illegible]…そゑみて」

ぼくだい (名) [墨臺] 机ノ上ニテ、磨リタル墨ヲ載セ置ク具。墨牀

ほくだう (名) [北堂] (一)(女ハ陰ナレバ北トス、北堂ハ主婦ノ居所)家ノ北ノ方ニアル堂。主婦ノ居ル所 「儀禮、士昏禮、[illegible]在北堂」 [illegible] (二)主婦ハ一家ノ主母。轉ジテ、母ノ稱トナル。(三)他人ノ母ノ敬稱。母件 母御。母堂 [illegible] 人母ハ曰ニ萱堂、合堂、北堂ハ自稱ハ母曰ニ家母、老母、家[illegible] [illegible]古へ、大學寮ノ[illegible] [illegible]「北堂文選竟[illegible]」

ぼくたう (名) [木刀] キダチ。全身、木ニテ作レル刀。 [illegible]「[illegible]ノ恥辱ヲ逃レンガタメニ、刀ヲ帶スル由アラハス[illegible]、木刀ヲ帶シケル用意ノ程コソ神妙ナレ」

ぼくたく (名) [木鐸] (一)木ノ舌ノアル大キナル鈴。古へ、支那ニテ、政教ヲ施ス時、振リテ衆ヲ警ムルモノ。 [illegible]、文教用之[illegible]天子之政也[illegible] (二)轉シテ、[illegible]ヲ得テ、[illegible]手、天下之無道也久矣、天將以夫子爲木鐸」

ほくち (名) [火口] [illegible]トヲ打付ケテ、火ヲ移シ取ルモノ。蒲ノ穂ヲ焼キテ消炭トシテ用キル。又、茅花、又ハ[illegible]花ニ、[illegible]トヲ加ヘ、煮テ[illegible]、黒、赤、等ノ色ニ染ムルモアリ。引火奴 火線 つけたけ(附竹)ノ條ヲモ見ヨ。 [illegible]「移火」心中刃氷朔日(寶永、近松作)上「有ル火ハオイテ懐中ヨリ、火打ニ火口打出ダシ」

ぼくち (名) [墨池] (一)スズリノ、水ヲタタヘル處。スズリノウミ。硯池。硯海 [illegible]中山兎」 (二)スミツボ。

ぼくちく (名) [墨竹] 墨繪ノ竹。色彩ヲ施サズ、墨ノミニテ描キタル竹。又、ソノ繪。 [illegible]

ぼくちく (名) [牧畜] オモニ牧草ヲ飼料トシ、放シ飼スルコトヲ得ル家畜ヲ、飼育繁殖セシムルコト。

ぼくぢやう (名) [卜定] 又、ぼくてい。モノノ事ノ吉凶ヲ、トヒテ定ムルコト。 太平記、廿五、[illegible]下サル」

ぼくぢやう (名) [墨場] 文墨ノ場所。翰墨ノ場。書家、畫家ナドノ會スル場所。 宋之問、[illegible]、文[illegible]詞伯雄」

ぼくちやう [illegible]

ぼくちよく [illegible] [朴直] 質樸ニシテ正直ナルコト。[illegible]

ぼくちよく (名) [墨敕] [illegible]ヲ推サヌ故ニ云フ」宸筆ノ敕書。 [illegible]

ぼくてい (名) [卜定] ぼくぢやう(卜定)ニ同ジ。

ほくてう (名) [北朝] なんぼくてう(南朝)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

ほくてき (名) [北狄] 北方ノ蠻族。北ノ方ノエビス。 [illegible]「東夷、南蠻、北狄、西戎」

ぼくてき (名) [牧笛] 牧童ノ吹ク笛。 [illegible]

ぼくてきのまもり (名) [墨翟之守] 支那、周代ニ、宋ノ人墨翟、嘗テ宋ノ城ヲ守リテ、楚ノ軍ヲ卻ケタル故事ヨリ、能ク守ル義トナス。墨守。 史記、[illegible]也」

ぼくでふ (名) [墨帖] 石摺ノ折手本。墨本 法帖[illegible]

[illegible]「[illegible]」

ほくてんりう [illegible] ノ一派。室町時代ノ末、塚原卜傳ノ創メタルモノ。 [illegible]卜傳」

ほくと [illegible] [北斗] (一)北斗星[illegible]、七星アリ、[illegible]ニ似テ、其第七ヲ搖光ト云フ、一晝夜ニ、十二方ヲ指ス、コレヲ斗柄ト云フ。イクサボシ。破軍星。 [illegible]文公十四年「秋七月乙卯夜、云云、有星孛入于北斗」 [illegible]字、從南北而背眾也」 和漢三才圖會、一、天部「北斗、ホクト、シサウノホシ、第一ヨリ至四、名魁[illegible]ナルヲハ南斗トヨム(斗ハ杓ノ略ニテ、之庾反、ナリ、ひさごノ義)、北ノハ北斗也、北斗ハ、米ノ器ニ似タル[illegible]ク、大國ノ斗ニ柄アリ、斗ノ柄ニ似タル也、南斗ハ、ヒサゴニ似タルカ」 謠曲、熊野「噫モ霞ノヨコタハル、北斗ノ星ノ光ナキ」 七十一番職人歌合、下、六十九番、俱舎まう「行人ノ、クルヤクルヤト、オモフマニ、北斗ノ星ヲ、マボリアカシツ」 (二)誤リテ、[illegible]星ノ稱トス。

ぼくと (名) [墨斗] (一)スミツボ。 [illegible] (二)ヤタテ。

ぼくとう (名) [illegible] 頭ニ[illegible]、[illegible]號[illegible]、襄[illegible]、周[illegible]此得名之始也」

頭巾ノ類。かうぶり(冠)ニ同ジ。又、本邦ニテハ、古ヘ、朝服ニ被リシ一種ノ冠トス。倭名抄、十二「冠帽類、幞頭、加宇布利、臨時祭式、羅城御贖料「幞頭、八條巾子八口」彈正臺式「凡除禮服幷朝會已上坐儲、五位以上幞頭之外、不得著羅」續紀、七、靈龜二年十月「重制、內外諸司薄絲朝服、六位以下羅幞頭、其六位官人者、朝服之袋、隨巾冠、著及幞頭後脚、莫過二寸」

ぼく-どう (名) 【牧童】 ウシカヒワラハ。牛ナドヲ飼養スル童。范成大、長沙王墓詩「落晚芝花似、牛、牧童吹、笛上高邱」杜牧詩「借問酒家何處有、牧童遙指杏花村」朗詠集、下、漁父晚船分浦釣、牧童寒笛倚牛吹」

ほく-と-しち-せい (名) 【北斗七星】 北斗星ニテ、大ナル七ツノ星。卽チ、樞、璇、璣、權、玉衡、開陽、搖光ノ稱。又、陰陽家ニテ、貪狼、巨門、祿存、文曲、廉貞、破軍、武曲ノ七星ヲ云フ。ほくと(北斗)ノ條ヲモ見ヨ。漢書、息夫躬傳「躬邑人河內掾賈惠、往過躬、敎以祝盜方、以桑東南指枝爲匕、畫北斗七星其上、躬夜自被髮立中庭、向北斗、持匕、招指祝盜」和漢三才圖會、一、天部「北斗七星、在紫微宮西垣外、大微宮之北、七政之樞機、陰陽之本元也、故運乎天中、而臨制四方、以建四時、而均五行也、一曰樞、云云、二曰璇、云云、三曰璣、云云、四曰權、云云、五曰玉衡、云云、六曰開陽、云云、七曰搖光、云云」擲塡集、上、天象門「北斗七星、貪狼星、巨門星、祿存星、文曲星、廉貞星、破軍星、武曲星」心日說記、延慶四年正月廿一日「諱啓、北斗七星者、七政之樞機、萬物之精命也」

ほく-と-せい (名) 【北斗星】 前條ノ語、又、ほくと(北斗)、及、いくさぼし(軍星)ノ條ヲモ見ヨ。劉元叔妾、薄命詩「北斗星前橫旅雁、南樓月下擣寒衣」

ぼく-とつ (名) 【木訥】 質撲ニシテ無口ナルコト。無骨ニテ口數ヲキカヌコト。性質、擧動ニ飾ナキコト。論語、子路篇「子日、剛毅木訥、近仁」晉書、葛洪傳「洪爲人木訥、不好榮利、閉門却掃、未嘗交遊」

ぼく-ねん-じん (名) 【撲仁人】 無口ニシテ、無愛想ナル人。妙妙奇談、序「道風ノ花之字モ、ヒカ無イトハ、蚯蚓ヲノタクラシ、鐵釘ヲ並テ、錢金ヲモウケタル撲仁人ノ名言」

ぼく-ば (名) 【牧馬】 牡場ニテ飼養スル馬。棠陰比事、宋、桂萬榮「留、書進、付、舍人牧馬奴」廐牧令「凡牧馬應、堪乘用者、皆付軍團」

ぼく-はい (名) 【撲盃】 大嘗會ノ時、脂燭ヲサス土器。後松日記、天保、松岡行義「十、夜ハ撲盃ヲマヰラスベシ、燈籠モ供ヘシ、モシ脂燭サズ時ハ、先ヲ土器ニウクベシ、コハ常ニハセヌ事ナレド、火ノ事ヲコトニツツシム處ナレバ、大嘗會ノ撲盃ニ通ハシテ、難ナキナルベシ」

ほく-ばう (名) 【北邙】【北芒】 支那、洛陽(今ノ河南省、洛陽縣)ノ北ニ邙山アリ、故ニ北邙ト云フ。漢以來ノ墳墓ノ地トシテ名高シ。東漢ノ諸陵、唐宋名臣ノ墳、多ク此處ニアリト。轉ジテ、墓地。埋葬場。張孟陽詩「北芒何壘壘、高陵有四五」沈佺期詩「北邙山上列墳塋、萬古千秋對洛城」太平記、十八、一宮御息所事「東岱前後ノ烟ト立チ登リ、北邙新丘ノ露トモ消エナバヤト、云云」

ほつ-ぱう (名) 【北方】 (南方ニ對ス) キタノカタ。北ノ方面。中庸、第十章「子路問強、子曰、南方之強與、北方之強與、抑而強與」蘇軾詩「北方苦寒今未已、雪底波稜如鐵甲」

ぼく-ひ (名) 【僕婢】 下男ト、下女ト。メシツカヒノ男女。奴婢。

ぼく-ひ (名) 【木皮】 木ノカハ。樹皮。草根木皮ノ條ヲ參見セヨ。漢書、鼂錯傳「夫胡貉之地、積陰之處也、木皮三寸、冰厚六尺、食肉而飲酪」元結、春陵行「朝餐是草根、暮食仍木皮」

ほく-ぶ (名) 【北部】 (南部ニ對ス) 北ノ方ノ處。キタノ部分。後漢書、南匈奴傳「北部薁鞬日逐王比、與右部都侯、率衆三萬餘人來降」北邊備對、宋、程大昌「隋唐間、突厥阿史那氏、得古匈奴北部之地、居金山之陽」

ほく-ふう (名) 北風 「南風ニ對ス」 キタカゼ。北ヨリ吹キ來ル風。詩經、邶風、北風篇「北風其喈、雨雪其霏」馬戴詩、送友人邊回「朔雨話蓋北風起、秋色蕭條胡雁來」

ほく-ほく (副) (一)暖キ狀ニ云フ語。ホカホカ。(二)喜ブ狀ニ云フ語。信州川中島合戰、享保、近松作「三、サシモノ猛虎、理ニ服シ、ほくほく頷キ」(三)徐ニ步ム狀ニ云フ語。俳諧古選、春「一僕ト、ほくほくアリク、花見カナ」

ぽく-ぽく (副) 駒下駄ノ音ニ云フ語。

ぼく-ほん (名) 【墨本】 石摺ノ折本。墨帖。墨客揮犀、宋、彭乘「范文正公守饒、有書生、上謁、云云、時盛稱歐陽率更字、薦福寺碑墨本直千金、文正欲爲打千本、使售于京師、紙墨已具、一夕雷擊其碑」學問源流、寬政、那波師曾「墨本ハ一向ニ乏シク、享化、維寶、寶曆ノ頃、云云ノ字數多キハ、見タル人サヘ少ナル程ニテ」

ほ-ぐみ (名) 【穗組】 稻穗ヲ組ミテ積置クコトト云フ。新六帖、三「秋ノ田ノ、刈穗ノほぐみ、イタヅラニ、積ミアマルマデ、賑ヒニケリ」萬代集、秋、下「露結ブ、早稻田ノほぐみ、打解ケテ、カリホノ床ニ、イヤハネラルル」方丈記「アルハスソワノ田井ニ至リテ、落穗ヲ拾ヒテ、ほぐみヲ造ル」

ぼく-みん (名) 【牧民】 (民ヲ養フ義) 人民ヲ治ムルコト。(古ヘハ、國君ヲ牧民官ト云ヒ、後世ハ、地方長官ヲ牧民官ト云フ) 史記、管晏傳、贊「吾讀管氏牧民、山高、乘馬、輕重九府、及晏子春秋、詳哉其言之也」管子、牧民篇「凡有地牧民者、務在四時、守在倉廩」

ぼく-めつ (名) 【撲滅】 (一)ウチホロボスコト。タヤスコト。書經、盤庚、上篇「汝曷弗告朕、而胥動以浮言、恐沈于衆、若火之燎于原、不可嚮邇、其猶可撲滅」歐陽修、與蘇子容書「昔、某云、此、已數月、呑聲歛息、民亦嗟怨、得尋不多、隨時撲滅」(二)ウチ消スコト。

ほく-めん (名) 【北面】 (一)北向キ。禮記、郊特牲篇「君南鄕、答陽也、臣北面、答君也」朗詠集、上「寶橋北面、二封宮」(二)北面ノ武士ノ略。院ノ御所ノ守護人ノ稱。禁中ノ瀧口、東宮ノ帶刀ノ如シ。白河院ノ御時ニ始マル。上下アリ。上北面ト云フハ、諸大夫ニテ、殿上ノ北面ニ間ヲ其處トス。下北面ト云フハ、侍ニテ、北ノ築地ニ沿ヘル五間屋ヲ其處トス。又、後鳥羽院ノ御時、西面ト云フヲ召置カレタルコトアリト云フ。名目抄「上北面、諸大夫、下北面、在六位、皆帶代侍、帳中浸涉、秋齋間語曰、院ノ御所ヲ北面ノ御所ト云フ、天子ハ南面ト云フ、是ニ對シテ一等下リテ、院ヲ北面ト云フ、其院ニ仕フル武士ヲ北面の武士ト云フ、後白河院ニ、此人ヲ誤リタマヒ、東面、西面ナト云フ號ヲ置カセタマフ、難ズル人アリテ、止メラレタマヒヌ」

ほくめん-の-ぶし (名) 【北面武士】 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

ほくめん-はじめ (名) 【北面始】 天皇ノ院トナリテ、始メテ北面の武士ヲ設置セラルルコト。前前條ノ語ヲ參見セヨ。

ほく-もん (名) 【北門】 キタノ方ノ門。又、北向キノ門。詩經、邶風、北門篇「出自北門、憂心殷殷、終窶且貧、莫知我艱」左傳、僖公三十二年「杞子自鄭使告于秦、曰、鄭人使我掌其北門之管、若潛師以來、國可得也」

ぼく-や (名) 【僕射】 (韻會「射音夜」) 僕射、秦官名」支那ニテ、執政大臣ノ稱號。秦ノ時ニ始メテ置ク。我ガ朝ニテ、左大臣、右大臣ノ唐名ヲ、左僕射、右僕射ト云フ。事物紀原(宋、高承)「僕射、秦官、史記始

[illegible]

ほくやう (名) [北洋] キタノ方ノ[illegible]。タノナダ。又、北ノ[illegible]、北[illegible]、北[illegible]。「[illegible]北洋」「宣由二北洋一、水神啟聰」

ぼくやう (名) [牧養] 牧場ニテ、牛馬ナドヲ飼養スルコト。[illegible]「[illegible]、有牧養五人」」

ほくら (名) [神庫] 寶倉 [秀倉ノ義、其構造、高ケレバ云フ] (一)神寶ヲ收メ置ク庫。倭名抄、十「[illegible]」 [illegible] (二)轉ジテ、小サキ神社。ほこら。神祠 叢祠 倭名抄、[illegible] 續詞花集、廿、戲咲「熊野ノ大島ノ王子ノほくらニ書キツケタリケル歌」

ほくり (名) [春蘭] 又、ほくろ。きゅんらん(春蘭)ニ同ジ。和漢三才圖會、九十三、芳草類「春蘭、ホクリ、俗云、保久利」

ぼくり (名) 木履 (一)木ニテ造リタル履。キグツ。天治字鏡、十二「[illegible]木履、[illegible]」 (二)あしだ(足駄)ニ同ジ。(京都) [illegible]木履說「足高キモノヲ、木履足駄ト號シ、タケ低キヲ下駄ト云ヘルハ、イヅレ一體分身ニシテ」 蜷打追加「[illegible]ノ爪ト云フぼくりノ、今ハ馬下駄ト云フ」 物類稱呼、四、器用「アシダ、關西及四國ニテ、ぼくり、又、ブクリト云フ、中國ニテ、ぼくり、又、ブクリト云物ハ、江戶ニテ云フげたノ事也」

ぽくり (副) ぽっくりニ同ジ。

ほぐ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [解] 解クル。ホツル。ホゴレル。ホドクル。ホグレル。(縫絲、織布、ナド)

ほくれい (名) [北嶺] 近江ノ比叡山ノ異稱。又、天台山トモ、山トモ云フ。南都ノ[illegible]、[illegible]ト云ヒ、[illegible]延暦寺ヲサスコト多シ。[illegible]二、乾坤門「比叡山、天台山、叡岳、台岳、北嶺、並同」

ぼくれい (名) [僕隷] シモベ。シモオトコ。シモ下男。[illegible]

ほぐ・れる (動) [解] ほぐる(解)ノ口語。

ほくろ (名) [黑子] [愚管抄ニ、ははくろトアリ、はは[illegible]ノ轉、其再轉訛ナリ] 古クハ、ハハクソ。今、又、ホクソ。人ノ皮膚ニ生ジテ、小サク黑ク點ヲナセルモノ。塡補下學集、上、二、支體門「黑子、ハクソ、ホクロ、黶子、アンシ、同上」 瘍科總錄、十「黶子ハ俗ニほくろト云フ、多ク面部ニ發スルモノ也、相書ノ方ニ、黑子ノ出タル位置ニテ、吉凶ヲトスル法アリ」 好色一代女(貞享、西鶴)一「身ニ瘤子一ツモ無キヲ望ミ」

ほくろ (名) [春蘭] 又、ほくり。きゅんらん(春蘭)ニ同ジ。

ほくろく (名) [北鹿] となかい(馴鹿)ノ異名。

ほくろくじゅ (名) [福祿壽] ふくろくじゅ(福祿壽)ノ轉。

ほくろくだう (名) [北陸道] 又、ほくりくだう。キタノミチ。クニガノミチ。クヌガノミチ。クルガノミチ。コシノミチ。我ガ國八道ノ一。卽チ、若狹、越前、加賀、能登、越中、越後、佐渡ノ七箇國ノ稱。くにがのみち(北陸道)ノ條[illegible] [illegible]ルガノミチ、又、キタノミチ、又ヤマノミチ(西宮記) [illegible]二對シ、北陸道トイフ(扶桑紀勝)」

ほくわく (名) [捕獲] (一)イケドルコト。[illegible] (二)[illegible]

ほくわん (名) [保管] 其物ヲ占有シテ、保護、管理スルコト。[illegible]

ほくゐ (名) [北緯] 緯度ノ、赤道ヨリ北ナルモノ。又、赤道ヨリ北ノ緯線。緯度ノ條ヲ見ヨ。

ほくゑつ (名) [北越] 越中、越後地方ノ稱。日本書紀神代[illegible]、九日、勢州山田旅宿ニシテ、北越ノ山本(鹽足)謹書」

ほけ (名) [本家] [ほんけノ約、ほんい(本意)、ほい、ノ類] 親里。家許。宇津保物語、[illegible]「[illegible]、女ノ裝ヒ、[illegible]、ほけノ御方ヨリ召シナラベテ給フ」 同(流布本)初秋廿「人ノ婿ト云フ物ハ、若キ人ナドヲバ、ほけノイタハリナドシテ、タツルヲコソハ、面白キ事ニハスレ」

ほけ (動) [惚耄] ほく(惚)ノ條ヲ見ヨ。

ぼけ (名) [木瓜] [字ノ音ノ轉、實ノ形、小瓜ノ如シ] 又、モククヮ。古クハ、モケ。薔薇科ノ落葉灌木ノ名。幹ノ高サ四五尺、枝葉ハ、海棠ニ似テ、幹ニ刺アリ、春ノ半ニ、葉ニ先ダチテ、五瓣ノ花ヲ開ク、一重アリ、八重アリ、色、紅ナレバ、他名ニ對シテ、緋木瓜(貼梗海棠)ノ名[illegible] ルヲ、さらさ木瓜ト云フ。まさみノ白花ノモノナリ。まこり木瓜ハ、[illegible] 和漢三才圖會、[illegible]

ほけい (名) [捕鯨] 鯨ヲ捕ルコト。[illegible]ヲ弓ニテ射テ取ルコトナリシガ、人皇百七代正親町院ノ御宇、[illegible]初テ銛ニテ突取リ、其後、丹後、但馬ノ邊ニモ、三河ノ者行テ取リシカドモ、利無シテ止ム、又文祿ノ初、[illegible]テ初テ取リシヨリ、寬永年中ニ至リテハ、鯨組トテ、[illegible]ルコトニナリ、明暦、萬治ノ頃、イヨイヨ盛ニシテ、七十三組マデ組ヲ立テ取リシナリ」「捕鯨船」

ぼけい (名) [母兄] [公羊傳、隱公七年、註「母弟、同母弟、母兄、同母兄」] 同母ノ兄。同腹ノ兄。同ジ腹ヨリ生レタル兄。[illegible]

ぼけい (名) [模形] もけい(模形)ニ同ジ。

ぼけい (名) [模型] もけい(模型)ニ同ジ。

ぼけい (名) [牡荊] 灌木ノ名。にんじん[illegible]

ほけきやう (名) [法華經] 又、ほふけきやう。妙法蓮華經(梵語、Saddarmapuṇḍarika)ノ略。大乘經典ノ一。[illegible]八卷二十八品トス。[illegible]所說中[illegible]

最モ高尙ナル敎理ヲ說キタルモノトシテ、諸經ノ王ナドト唱フ。天台宗、華嚴宗、法相宗、特ニ法華宗ニテ、コレヲ奉ズ。此經、漢譯セラレタルコト五回、中、三本ハ今ニ猶存シ、二本ハ亡ブ。法華經、安樂行品「此法華經、諸佛如來秘密之藏、於諸經中、最在其上」榮花物語、二、花山「イミジウ道心オハシテ、法華經ヲアケクレ讀ミ奉リ給ヒテ」讀岐典侍日記「宮ノ御方ニ三十講ヲ行ハセ給フ見テ、法華經ヲ日ニ一品ヅツ講ゼサセ給フ」謠曲、身延「妙法蓮華經ノ功德、不思議ナルカナ、妙ナルカナ」

〜ほけ・ホ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）|惚痴| 惚ケテ愚ニナル。源、三十一、眞木柱三十「モトノ北方ハ、云云、アサマシト物ヲ思ヒシヅミ、イヨイヨほけほれテモノシ給フ」

〜ほけた（名）|帆桁| 帆柱ノ上ニ、横ニ亙ス桁ニテ、帆ヲ懸ケテ張ルモノ。帆架。長桁 倭名抄、十一、舟具「帆竿、保偈多」和漢船用集、十一、用具「帆竿、ホケタ、本邦ノ帆柱ハ、皆角柱也、竿トイフベカラズ、桁ハ丸ク作リテ、誠ノ竿ノゴトシ、帆ヲカクル帆桁也」

ほけつ（名）|補闕|補缺| カケタルヲ、オギナフコト。不足ヲタスコト。アナウメ。史記、蕭相國世家「漢王數失軍遁去、何常興關中卒、輒補缺」漢書、司馬遷傳「次之又不能拾遺補闕、招賢進能、顯巖穴之士」

ぼけつ（名）|墓穴| ハカノアナ。ツカアナ。壙穴 自ら墓穴を掘るトハ、自ラ破滅ノ道ヲ選ビタドル意

ぼけつ（名）|墓碣| （後漢書、竇憲傳、注「方者謂之碑、員（圓）者謂之碣」）ハカジルシノ石。ハカイシ。墓石。司馬光、答劉蒙書「王公大人、廟碑墓碣、辭不副稱」

ほけ・づ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）|法氣附| ほうけづく（法氣附）ニ同ジ。藩松中納言物語、二「後ノ世ノ罪ナドモ思シヤラレズ、カクナガラモ、淺カラヌ御ケシキニテダニアラバトオボシテ、ほけづきモテナシテ、裂裂ウチカケ、云云」

ポケット（名）〔英語、Pocket.〕又、ぽっけノとも。洋服ノカクシ。衣囊

〜ほけ・びと（名）|耄人| ホケタル人。耄六シタル人。源、三十四、上、若菜、上七十「カノ大尼君モ、今ハコヨナキほけ人ニテゾアリケンカシ」

ほけ・ほけ（副）|惚惚|耄耄| 又、ほうけほうけ 甚ダシク惚ケタル狀ニ云フ語イタク、ホケタルサマナリ。沙石集、一、上、第四條「コノ尼、柱ニタチソヒテ、足ヲヨリテ、ほけほけト物思フ姿ニテ、云云」

〜ほけ・ほけ・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）|惚惚|耄耄| 甚ダ惚ケテ見ユ。イタク、ボケタル狀ナリ。源、廿二、玉葛十七「ヒキタガヘ侍ラバ、ツラク思ハレンヲ、ナヲほけほけしき人ノ、カミカケテ聞エヒガメ給フナメリヤト、トキキカス」同、九、葵十九「アヤシク、ほけほけしうテ、ツクヅクト伏シナヤミ給フ」

ほけん（名）|逋懸| （逋ハ缺、懸ハ停ノ義、租稅ヲ缺キ停滯スル意）年貢ノ未納 逋租 北史、辛雄傳「一言、逋懸很調、宜悉不徵」舊唐書、睿宗紀、景雲元年已前、逋懸欠負、竝放免」續日本紀、八、養老四年三月「出擧稅、貸與百姓、云云、令當年納足、不得延引數（原作」敷）有逋懸」

ほけん（名）|保險| 〔英語、Insurance.ノ譯語、險ハ危キ義〕險難ノ損亡ヲ償ハムコトヲ、豫メ請負フコト。即チ、被保險者ハ、保險者（多クハ會社）ニ、一定ノ料金ヲ支拂ヒ、若シ被保險者ガ不時ノ災難ニ遭遇シタル場合、保險者ハ、被保險者ニ、規定ノ賠償金ヲ支拂フコト。「生命保險」火災保險」海上保險」傷害保險」

ほけん（名）|保健| 健康ヲ保持スルコト。

＊ほ・げる（動）|穿| 穴ガ明ク。穿チ掘ラル。物類稱呼、五、言語「穴ノアイタトイフ事ヲ、九州ニテ、ほげた、云フ」

＊ほ・げる（動）|解| ほぐ（解）ノ口語。

＊ぼ・ける（動）|惚老| ほく（惚）ノ口語。

ほこ（名）|鉾|矛|戈|戟|鋒| 〔穗木ノ義ト云フ、桙ノ字アルハ、木矛ノ合字ナリ〕（一）古ヘノ兵器ノ名。將軍、杖ニ突キテ征伐ス、全木ニテ、棒ノ如キモノナリシナラム。長大ナルニハ、杠谷樹ノ八尋桙ナドアリ、小ナルニ手鉾アリ、頭ニ鐵刃ノ鋒ヲツケテ用ヰタルモアリ、又、儀仗ニモ用ヰル。說文「鋒、兵耑也、本作」鏠」首作」鋒」字林「鋒、古文矛」說文「矛、酋矛也、建ニ於兵車ニ長二丈、象形」徐注「刺兵也」說文「戈、平頭戟也」徐注「戟小支上向則爲」戟、平之則爲」戈、一曰、戟〔illegible〕距爲」戈」集韻「戟、有」枝兵也」倭名抄、十三、征戰具「戟、保古」神代紀、上四「天之瓊矛」私記「安萬乃瓊保古」同、下九「大己貴神、云云、乃以」平」國時所」杖之廣矛、授二二神一曰、吾以」此矛一卒有」治」功、天孫若用」此矛」治」國者、必當」平安」」古事記、中「景行」一四十「給」比比羅木之八尋矛」」景行紀、二十、四月「以」杠谷樹八尋桙根」」舒明即位前紀「興」兵、此云、伊簡之保虛」」（軍將ノ稜威ヲ示スヘキ兵器ナレバ云フ）台記、別記、中臣壽詞「茂」桙乃中執持弖」大神宮式「神寶、梓、二十四竿、長各一丈二寸、鋒金八寸五分、廣一寸五分」（二）弓ノ長、太平記、十七、山門攻事本間孫四郎強弓事「白木ノ弓ノほこ短ニハ見エケレ共、尋常ノ弓ニ立雙ベタリケレバ、今二尺餘ほこ長ニテ曲高ナルヲ一木、モニ神輿〔illegible〕」（三）やまぼこ（山鉾）ノ略 祇園祭ノ條ヲ見合ハスベシ。〔illegible〕祇園御會、云云、山崎之定鉾、大舍人之鵲鉾、處處之跳鉾」

ほこ（名）|保辜| 古ヘ、人ヲ毆傷シタルモノアルトキハ、或一定ノ期限ヲ設ケ、滿

期ノ日ヲ待チテ、其罪ヲ決定セシコト。〔illegible〕狀輕重、以日數保之、限內死則坐殺」法〔illegible〕抄、下、一、保辜事「鬪訟律云、保辜者（以手足毆傷人限二十日、以他物毆傷者廿日、以刃及湯火傷者卅日、折跌支體、及破骨者五十日、限內死者、各依殺人論、其在限外、及雖在限內、以他故死者、各依本毆傷法」

ほこ（名）|布袴| ほうこ（布袴）ニ同ジ。字類抄「布袴、ホコ、ホウコ」

ほご（名）|保護| 又、はうご、氣ヲ付ケテ守ルコト、タモチマモルコト。カバフコト。書經、畢命篇、序、注「分別民之居里、異其善惡、成定東周郊境、使有保護」三國志、蜀志、趙雲傳「雲身抱弱子、即後主也、保護甘夫人、即後主母也、皆得免難」

ほご（名）|布護| はやと（隼人）ノ唐名。〔illegible〕布護、ホコ、隼人之唐名」

ほご（名）反故|反古| ほぐ（反故）ニ同ジ。又、ほんご。庭訓往來、七月「薄（白イ）紙鋪紙之間、所用反古也」盛衰記、四十九、女院御徙移事「先帝ノ御手習サセ給ケル御具足共アリ、御手習ノ反古、枚木、ホンゴ〔illegible〕ノ御手箱ノ底ニアリ」

ぼこ（名）|女兒| 〔坊子ノ約ト云フハ、イカガ、おぼこ（幼稚）ノ條ヲモ見ヨ〕幼キ女子ノ稱。イトサン。ヂャウサン。

ぼご（名）|戊午| ツチノエウマ。えと（干支）ノ條ヲ見ヨ。書紀、名義抄「戊午」〔illegible〕乃爲于新邑、牛一、羊一、豕一」

ぼご（名）|母語| 〔英語、Mother tongue.ノ譯語〕（一）母國ノ語。己レノ本國ノ言葉。自國語。本國語。（二）他ノ國語ノ本ヲナス國語。

ぼ・こう（名）|母后| ハハギサキ。天皇ノ御母。后ニシテ母タル御方。三國志、魏

ほこう-えい (名) [illegible] 八隊ニ同ジ。

ほこ-かみ (名) 反旗 [illegible] 反旗ノ意、[illegible]

ほこ-ぎ (名) 桙木架木 鷹ノトマリ木。[illegible] 上、器財門「架、ホコ、鷹架、橫、杙、寓橫」

〔ほこ-ぎ (名) 矛木 勾欄ノ柱ノ、矛ノ如ク立テルモノト云ノ [illegible]「早抜ヲサヘ殺ヒナクシ給ヒケレバ、反リカヘリタル鋒ハ、ホテ、勾欄ノほこぎノ [illegible]」

ぼ-とく (名) 母國 (一)分レ出デタル一國ヨリ、其本國ヲ指シテ云フ語。(二)本國。祖國。己レガ所屬セル國(他國ナドニ在リテ云フ語)

ほこ-けづり (名) 桙削 ほこつくり(桙削)ニ同ジ。

ほご-こく (名) 保護國 はうごこく(保護國)ニ同ジ。

ほこ-さき (名) 鋒先 鉾先 (一)鋒ノ刃ノ尖、ヤノサキ。[illegible] (二)轉シテ、武力。勢力。鋒先ヲ爭フト八、兵刃ヲ交ヘテ、勢力ヲ爭フ意。國性爺合戰[illegible]、近松作)「[illegible]、鋒先ヲ[illegible]」(三)鋭ク[illegible]ヒカカルコト。鋭[illegible]ノ鋒先。

ほご-しゃ (名) 保護者 獨立シ得ザル力弱キモノヲ、保護スル人。「保護[illegible]」

ほご-しゃうぐん (名) 布護將軍 隼人正(隼人ノ條ヲ見ヨ)ノ唐名。拾芥抄、中、本[illegible]

ほご-しょ (名) 布護署 はやひとのつかさ [illegible] ノ唐名 [illegible]

ほご-しょく (名) 保護色 はうごしょく(保護色)ニ同ジ。

ほこ-す (名) [illegible] ほこすぎ(桙杉)ニ同ジ。

〔ほこ-すぎ (名) 桙杉 桙ノ如ク直立シタル杉ノ、杉ノ若木ノ枝ノ形シタルモノト云ノ。[illegible]「イツノ間モ、神サビケルカ、[illegible]ノ、[illegible]ノ杉ノ若木ノ少キヲ云フカト云フ」

ほご-ぜい (名) 保護税 はうごぜい(保護稅)ニ同ジ。

〔ほこ-だち (名) 桙 桙ノ如ク立テバ云フ、扶桑略記ニ、桙立ト見ユ一門、出入口ナド、雨等ノ木、又ハ、小柱ヲ、後ニ、訛シテ、ほうだて、ほほだて、ハウダテ 倭名抄、十、門戶具「[illegible]、門 [illegible]」

ほこ-つくり (名) 桙削 桙ヲツクルヲ職トスル者。ホコケヅリ。[illegible]、十八、天平勝寶四年六月、京職諸國、云云、弓削、矢作、桙削、鞍作、鞆張等之雜戶」

ほご-てう (名) 保護鳥 はうごてう(保護鳥)ニ同ジ。

ほこ-とん (名) 矛盾 矛楯 むじゅん(矛盾)ノ誤讀。其條ヲ見ヨ。

ほこ-とり (名) 弄槍 「鉾取ノ義」(一)又、ほこゆけ。武技ニ、槍ヲシゴクコト。[illegible] [illegible]「散樂ノ技。倭名抄、四、雜藝類「弄槍、保古斗利」[illegible]紀、十六、天平七年五月「[illegible]、[illegible]、拍槍、

ボコペン (名) 不殺本 不殺本兒 〔支那語、Pu kon pen.ノ訛。辭源「物數足、[illegible]」(一)賣リテ、原價ニ足ラザルコト。[illegible] 容言「不殺本、本是[illegible]的名頭」(二)轉ジテ、イケナイ。ダメ。滿洲出軍ノ兵隊ノ語。(明治廿七八年戰役ノ際)

ぽこ-ぽこ (副) (一)中ノ空洞ニシテ、[illegible]ノ、[illegible]ルモノヲ、[illegible]音ニ云フ語。(壁、木ノ洞、太鼓ナドニ云フ)又、ボコボコ。(二)道ノ柔軟ナルトコロニ、足ヲ踏ミ入ルル狀ニ云フ語。

ぽこ-ぽこ (副) 前條ノ語ノ(一)ニ同ジ。(稍、高キ音ニ云フ)

ほこ-ほし (名) 桙星戈星 桙ノ形シタル彗星。紀略、後篇、三、天曆元年正月廿七日「突丑、[illegible]、[illegible]」[illegible]

ぼこん-ぼこん (副) (一)水ナドノ、穴アル所ニ落チ入ル音ニ云フ語。(二)金屬板ヲ踏ム音ニ云フ語。[illegible]

ほこ-ほこ (名) 帆薦 薦ニテ帆トナシタルモノ。薦ニテ作レル帆。[illegible]、フ、ヲ(ホコフネノほこも、イタヅラニ、フキタテフレテ、世ハ(ニィ)過ギヌベシ」

ほこ-もち (名) 桙持 賀茂祭ノ行列ニ、木ノ桙ヲ持ツモノ。[illegible]、賀茂祭「撿非違使、一條ノ大路ヲ渡ル、桙もち、イロイロノ物ツケサセタリ」

〔ほこ-ゆけ (名) 弄槍 [illegible] ほこどり(弄槍ノ[illegible])遣ス[illegible]モ此意ナリ」

〔[illegible] (一) [illegible] (二)

〔ほ-こら (名) 叢祠 〔神庫ノ轉、其條ノ(二)[illegible]〕小サキモノニ云フ。垂仁紀、八十八年七月「其島人謂、神[illegible]刀子[illegible]、[illegible]、是於今所[illegible]」[illegible]紀、[illegible]二見エ

ほこらか-す (自動、四) 誇 ホコリカナル容子ヲナス。自慢ス。[illegible] [illegible]

ほこらか-み (副) 誇 ふくらかみ(脹)ニ同ジ。[illegible]、「御伽草ほこらかみ、愛敬ヅキテ」[illegible] ク、指ほこらかしタリケルガ」

〔ほこら・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 可誇 誇ルベクアリ。得意然トシテ侍ル。[illegible] [illegible]、[illegible] クミワタリテ、漁リスル海人ドモ、ほこらしゲナリ、[illegible] ツココロゾ、ほこらしき」

ほこり (名) 誇 ホコルコト。自慢。ミヅカラ名譽ト感ズルコト。

ほこり (名) 埃 [illegible]、[illegible]ル ノ條ヲ見ヨ」(一)塵ノ細カク飛ビ散ルモノ。[illegible]、[illegible]、[illegible]ルモノ。[illegible] カリ [illegible] 埃ノ物ニ [illegible] [illegible] 京 [illegible] [illegible] タテテ、鎧ノほこりウチハラヒ」(二)殘餘。アマリ。心中萬年草(寶永、近松作)中「二千貫目足ラズノ商ヒニ、九貫目ノほこりヲ取リ」

ほこり (名) 煉 火中ヨリ [illegible]

レル灰塵ノ意ト云フ(東雅)」前條ノ語ニ同ジ。

ほおりかづき(名)〔埃被〕赤小豆ノ一種ニ、粒、小サク、淡黒色ニ紫ヲ帶ビテ、外面、麗ハシカラザレドモ、味美ナリ、藥用トモス。畿内ニ、ヲハリアヅキ。ダイナゴンアヅキ。

〜**ほおりかヽ**(副)〔誇〕誇ル狀シテ。自慢ブリテ。得意サウニ。誇ラシゲニ。〔傲然〕源、十五、蓬生「好キ車ニ乘リテ、面持、氣色、ほおりかヽ、物思ヒナゲナルサマシテ」狹衣、一、上「八ナヤカニ、今メカシウモテナイ給ヒテ、我ハトほおりかヽオシタチタル御心オキテニゾ、オハシケル」

ほおりがほ(名)〔誇顏〕自慢氣ナル顏ツキ。傲慢ナル顏色。

ほおりせん(名)〔埃錢〕殘餘ノ金。ほおり(埃ノ條ノ(二))ヲ見ヨ。陰德太平記、正德、香河止宗ニ六十四、鳥取丸山拔籌錢トテ、賊ヲ明ケ渡シ候者ハ、一人銀五分宛出タスヘキ也」

ほおりだけ(名)〔埃茸〕菌ノ名。夏ノ半、路旁ノ陰地、或ハ、林中ニ生ズ。僅カニ柄ヲ有シ、紫褐色、初ハ小圓形ニシテ馬糞ノ如ク、漸ク大塊トナリテ、西瓜ノ如シ、甚ダ輕虛ニシテ、破レバ綿ノ如キモノ多ク重ル。コレヲ打テバ埃トナリテ飛ビ去ル。オニフスベ。ヤブダマ。キツネノヘダマ。馬勃(ばぼつ)〔馬勃〕ノ條ヲモ見ヨ。重修本草綱目啓蒙、十六、菩類「馬勃、オニフスベ(古名)、云云、ホコリタチ(大和本草)、ほおりだけ、チホコリ、云云」

ほおりどり(名)〔埃取〕ウハッパリノ類。埃ヲ避クルタメニ、着物ノ上ニ着ルモノ。好色二代男(貞享、西鶴)四「正月ニハ上着二ツ、下着一ツ、ほおりどりノ木綿着物一ツ」

ほおりはらひ(名)〔埃拂〕物ニ積リタル埃ヲ拂フ具。羽、又ハ、裂キタル紙、帛ナドヲ、竿ノ端ニ束ヌ。チリハラヒ。ハタキ。サイハイ。〔拂塵帚〕

〜**ほおる**・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)〔誇矜伐〕〔驕ノ大おるノ上略ト云フ、廣おるナド同意ト云フ、或ハ云フ、秀起るノ約カト」得意ヲ衒フ。自慢シテ示ス。鼻ヲ高クス。ホコロフ。名義抄「傲、倨、侈、夸、ホコル、オゴル」字鏡廿「誇、怒ル言也、伊比保己留、太介留」萬葉集、九廿長歌「浦島ノ子ガ、鰹釣リ、鯛釣リ矜(ホコ)リ、七日マデ、家ニモ來ズテ」(古義ノ訓)土佐日記、正月廿一日「風好ケレバ、楫取イタクほおりテ」

ほおろばかす・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)〔綻〕次條ノ語ニ同ジ。盛衰記、六、入道院參企事「頰ニ衣ノ頸ヲ引違引違シ給ケレバ、引綻ばかしテ、イトドキラメキテ見エケリ」

〜**ほおろばす**・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)〔綻〕ホコロブルヤウニナス。ホコロバカス。山家集、秋「大方ノ、秋ヲバ月ニ、ツツマセテ、吹キほおろばす、風ノ音カナ」源、三十四、下、若菜、下七「エビ染ノ袖ヲ、俄ニヒキほおろばしタルニ」

〜**ほおろび**(名)〔綻〕ホコロブルコト。又、ホコロビタル處。字鏡廿「紓、緩也、解也、保己呂比」同九「綻、保己呂比」枕草子、五、第四十六段「キチャウドモノほおろび結ヒツツ、コボレ出デタリ」讃岐典侍日記「戶口ニ御几帳立テテ、ほおろびヨリ見レバ、云云」今昔物語、廿四、第五十六語「紙ヲバ不縫シテ、陸奧紙ノ破ノ簡シキニ文ヲ書テ、綻ノ許ニ結付テ有リ」

⁂**ほおろびる**(動)〔綻〕ほおろぶ(綻)ノ口語。

〜**ほおろふ**・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四)〔誇〕〔誇るノ延〕ほおる(誇)ニ同ジ。萬葉集、五廿九長歌「我ヲオキテ、人ハアラジト、富己呂倍ト」

ほおろぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ(自動、四)〔綻〕〔此語、終止形、連體形トナル、然レバ四段活用モアリシカ、未ダ他ノ活用形ヲ見ズ、恐ラクハ、終止形ヲ連體形ニ用ヰタルカ、おふし(啞)ノ類ナルベシ〕次條ノ語ニ同ジ。源順集 千種ニモ、ほおろぶ花ノ、錦カナ、イヅラ青柳、ヌヒシ縫スヂ」

〜**ほおろぶ**・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ(自動、上二)〔綻〕〔ほぐるト通ズ〕(一)閉チタルガ解クル。縫目、解クル。ホグル。ホドクル。宇津保物語、藤原君四上「狩ヒシヲモ、ほおろぶ(び)マデニ、忘ルレバ、結バンコトモ、イカガトゾ思フ」「衣綻ぶ」縫目綻ぶ」(二)口ヲ開ク。源、廿一、少女八「人人、ミナほおろび笑ヒヌレバ」同、三十二、梅枝九「霞ダニ、月ト花トヲ、ヘダテズバ、ネグラノ鳥モ、ほおろびナマシ」(三)轉ジテ、顯ハレ出ヅ。露顯ス。源、三十四、上、若菜、上六「イカナラン折ニカ、ソノ御心バヘほおろぶヘカラント、世人モオモムケ疑ヒケルヲ」湖月抄「ウラミ、イツカモレ出ント思ヒシト也」(四)花開ク。咲ク。古今集、一、春、上「青柳ノ、糸ヨリカクル、春シモゾ、ミダレテ花ノ、ほおろびニケル」拾遺集、一、春「吹ク風ニ、アラソヒカネテ、アシビキノ、山ノ櫻ハ、ほおろびニケリ」

ほさ(名)〔輔佐〕(一)君ヲ助ケテ政ヲ執ル職。ウシロミ。(幼君、女主、ナドニ)輔弼。輔翼。左傳、昭公十二年「穆相、衞姬之子也、有龍於僖、有龍於鮑牧、寵於僖無、輔、以爲輔佐」淮南子、脩務訓「法令明而不闇、輔佐公而不阿」太平記、十一、金剛山寄手等被誅事「出羽入道道蘊ハ、朝敵ノ最一、武家ノ輔佐タリシカ共」(二)德川幕府ノトキ、將軍幼沖ナルカ、又ハ、政務ノ多事ナルトキ、臨時ニ設ケテ、將軍ヲ輔ケ、事務ヲ統治セシムル職。親藩ノ大名ヲ以テ之レニ宛テ、老中ノ上ニ位セシム。四代將軍ノトキノ松平正之、十一代將軍ノトキノ松平定信ナドノ類ナリ。樂翁侯一代略記「侍之上、於御座之間、御直ニ御補佐之儀ヲ仰付」

ぼさ(名)笹、茅ナドノ茂リタルコト。(相州、三浦半島ナド)

ほさい(名)〔逋債〕〔逋ハ、亡竄、逃也、欠也、凡欠ニ負官物、亡竄不還、皆謂之逋〕ふさい(負債)ニ同ジ。

ぼさい(名)〔暮歲〕さいぼ(歲暮)ニ同ジ。謝靈運、撰征賦「屆暮歲於半生、申遠期於暮歲」

ぼさい(名)〔募債〕公債、又ハ、社債ナドヲ募集スルコト。

ぼさい(名)〔墓祭〕はかまつり(墓祭)ニ同ジ。史記、樂書「代以前、未有墓祭」王建詩「將門有後無世世、墓祭無所係年年」唐書、文集、四十八、八「墓祭議、戊午年春上旬、依例行墓祭、其依守墳墓也」讀礼通考、四「凡ソ墓祭ト云コトハ、三代ノ古ヘハ無カリシコトナリシニ、秦ニ至リテ、始テ山陵ニ閣殿ヲ設ケ建テシヨリ、陵寢ノ祠リ起レリ、漢亦秦ノ制ニ因リテ、云云、衆庶民間マデモ、自カラ墓祭ト云事ヲスルコトニナリ來レリ」

ぼさう(名)〔墓相〕墓ノ地位ノ吉凶ニ就キテ、禍福ヲ說クコト。相墓術。隋書、經籍志「五姓墓圖一卷、云云、雜相墓書四十五卷」赤りうさご、梅人大田正小山田與淸を問す「先年、墓相ノ說ヲ主張シテ、支那ノ陰陽五行家ノ書ヨリ抄錄シテ、門人トモニ墓相小言ヲ作ラセ、云云、唐土ノ墓相家說ニ、シカシカノ相ノ墓ハ、子孫カナラズ公卿ヲ出ダシ、封侯ヲ出ダスナドトアレドモ、吾朝ノ人ニ其ママ示ス事ハ、禁ヲ犯スニチカシトイフベシ」

ぼさうにち(名)〔母倉日〕〔天ノ慜ミ給フコト、母ノ子ヲ育ツル如キ日ノ義〕曆ノ語。上吉日。卽チ、春ハ亥、子ノ日、夏ハ寅、卯ノ日、秋ハ辰、戌、丑、未ノ日、四季ノ土用ニハ、巳、午ノ日ナリ。

ほさき (名) 〔穂先〕 (一)穂ノ端。芒。夫木 [illegible] ク [illegible] 八、[illegible] (二)リノ [illegible] 又、[illegible] ノ端。笠 狂言記、道顕「流レン者ニハ茶筅ヲ持タセ、互ニカヲ合ハスベシト、云云、ほさきヲ揃ヘテ、公ヲ最後トタテカケタリ」「槍ノ穂先」

ほざ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 〔祝〕 祝ギ言フ。ホグ。 神代紀、上十三「神祝祝之」

ほざ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) (一)情ヲ [illegible] サズ、[illegible] (二) [illegible] ノコトヨ、[illegible] スッス [illegible] 餓鬼モ人数、シホラシイコトほざいタリ」

ボサチ (名) 菩薩 [illegible] 八、漢音、サツ、呉音、サチ」 [illegible] 〔菩薩〕ニ同ジ。[illegible] 紀、廿五、天平 [illegible] 字八、九月 [illegible] 乃称般乎受與止」 枕草子、十一、第百三十三段「佾都ノ [illegible] ヤウニテ、女房ニマジリアリキ給フモイトオカシ」

ボサチかい (名) 菩薩戒、[illegible] 〔菩薩戒〕ニ同ジ。前條ノ語ヲモ見ヨ)

ボ・サツ (名) 菩薩 [illegible] 也、薩 [illegible] 也、[illegible] 生、又、覺衆生)ノ略、開士、大士ナドト [illegible] (二)又、ほささ、大慈悲心ヲ以テ、菩提ノ道ヲ求メ、衆生ヲ化シ、自行、化他ノ行ヒヲスル人ノ義ニテ、佛ノ次ニ位スル號。或ハ、薩埵トノミモ云フ。[illegible] 一「菩提名ニ無上道ハ薩埵名ニ大心ハ謂無上道大心、此 [illegible] 佛ヨリハジメ奉リテ、菩薩 [illegible]

ボサツ・いばら (名) 〔菩薩薔薇〕 灌木ノ名。[illegible] ふ志まい(十姉妹)ニ同ジ。

ボサツ・かい (名) 菩薩戒 又、[illegible] かい。佛敎ノ語。大乘菩薩僧(菩薩ノ道ニ精進スル僧)ノ護持スベキ戒法。即チ、菩薩ノ [illegible] 自利、利他ノタメニ、諸ノ善法ヲ攝シ、一切ノ衆生ヲ饒益スル僧ノ保ツベキ大戒。菩薩大戒トモ云フ [illegible] 戒ニ參ラセ給ヒテ、御帳ヨリハジメ、萬ノ佛具メデタクセサセ給ヒテ、別當法師ニ喜ビセサセ給フ」

ボサツ・ぢよう (名) 〔菩薩乘〕 佛敎ノ語。五乘ノ一。六波羅密(六度)ノ行ヲ修シテ、佛果ニ至ル敎法。ぶつぢよう(佛乘)、及、ごぢよう(五乘)ノ條ヲモ參見セヨ。

ぼさ・ぼさ (副) 物ノ濡レ垂ルル狀ニ云フ

[illegible] リト云フ) 竹類稱呼、三、生植「米、遠江國天龍ノ川上ニテ、ほさつト稱ス」 東雅、十三、穀「民間ノ語ニ、穀ヲ呼ビテ菩薩トイフ事アリ、此語ハ、モト畿地方 [illegible] トイヒ、穀ヲ田菩薩トイフトシルセリ」(菩薩ノ字ノ發音、ボサル、今、米ヲさるト云フ) 文化の川柳「イ [illegible] 銘酒ノ名)

ぼ・さん (名) 〔暮山〕 夕暮ドキノ山。[illegible]

ぼ・さん (名) 〔墓參〕 はかまゐり(墓參)ニ同ジ。[illegible]

ほし (名) 〔星〕 〔火白ノ意カト云フ〕 (一) [illegible] 晴レタル闇夜ニ、極メテ高ク、天ニ滿チテ、圓ク小サク白ク輝キ見ユルモノ。恆星、行星(遊星、惑星)、隕星(流星)、彗星等アリ。(各條ヲ見ヨ) 星辰。星斗。爾雅、釋天篇「祭レ星曰レ布」 倭名抄、一、景宿類「星、保之」 神代紀、下五「星神香香背男」 萬葉集、二十五「北山ノ、タナビク雲ノ、青雲ノ、星ワカレユキ、月モワカレテ」 (二)星月夜ノ光 [illegible] (三)〔神樂歌ノ名。拾玉集、二「雲ノ上ノ、小忌ノ衣ニ霜サエテ、星歌フナリ、明方ノ空」 (四)スベテ、白キ、黑キ、點點アルモノノ稱。點「的ノ星」「星ヲ畫ク」 (五)鐵兜ノ鉢ニ列リテ着ケル鋲ノ如キモノ。[illegible] 兜ノ星、七八カラリト射散シテ」 太平記、二十一、武 [illegible] ラレタリ」「星兜」 (六)病ニ因リテ、眼球ニ生ズル小サク白キ點。瞖 (七)布帛ノ、黑染、紺染ナドニ生ズル黴ノ斑。(八)アテ。メアテ。見込ム所。ツボシ。「思フ星ニアタル」 星を頂くトハ、朝ノ暗キヨリ夜遲クマデ勤ムル意。 詞花集、十、雜、下「年ヲヘテ、星をいただく、黑髮ノ、人ヨリシモニ、ナリニケル哉」 星を唱ふトハ、帝王、元旦ノ四方

拜ニ、[illegible]

ほ・し [illegible]

ほ・じ [illegible] ゆふげ、玉篇「晡、申時也」 ほ(晡)ノ條 [illegible] チ、夕七ツ時ノ異名。今ノ午後四時頃。ユフサリ。ヒグレドキ。 月令廣義(明、馮應 [illegible]

ぼ・し (名) 〔戊子〕 ツチノエネ。えと(干支)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

ぼ・し (名) 〔拇指〕 オヤユビ。オホユビ。又、拇 [illegible] 指 [illegible] 大拇指ヲイフ、孟子ノ巨擘モ同ジ」

ぼ・し (名) 〔母子〕 (一)母ト、子ト。オヤコ。[illegible] (二)元金ト、利息ト。元利。本息。

ぼ・し [illegible] 死者ノ姓名、官位、行狀、生死年月日等ヲ石ニ刻シテ、槨ト共ニ埋ムルモノ。又、壙誌 [illegible] 墓誌」 過庭紀談、四廿七「誌石ト云コト、三代ノ古ヘハ [illegible] 後ハ必ズ是ニ倣ヒテ、文ヲ石ニ誌シ、蓋ヲ加ヘ、壙前三尺ノ地ニ埋ム事ニナリ來リテ、是レヲ墓誌ト云フ、墓誌ニモ色色アリテ、アノ方ノ諸家ノ集中ノ名

題ニモ色色アリ、唯、誌文計リナルヲ墓誌ト云フ、誌文ニ銘ノソヒシヲ墓誌銘ト云フ、其上ニ又序アレバ、墓誌銘并序ト云フ、未ダ葬シテ寄所ニ擽リ置クヲ、權厝誌ト云フ、或ハ誌ヲ其擴ト云フ、其後、営ヨリ葬リテ再ビ誌スヲ、續誌トモ、後誌トモ云フ、他所ニテ殁シタル婦人ヲ歸シ葬リテ、夫婦合葬セシニ誌セシヲ、歸祔誌ト云フ、一旦他所ニ葬リシ婦人ノ、後ニ遷シテ夫婦合葬セシニ、誌ルセシヲ、遷祔誌ト云フ、磚ニ刻シテ埋ムヲ、墓甎記ト云フ、木板ニ書シテ埋ムヲ、壙板文トモ、墓板文トモ云フ、其外、墓誌ト云ヒ、誌文ト云ヒ、壙記ト云ヒ、壙誌ト云ヒ、壙銘ト云ヒ、埋銘ト云フ、皆何レモ壙前ノ土中へ埋ム誌銘ノコトナリ、碑文、碣文ノコトニハ非ズ」

ほし-あかり (名) 星明 ホシノヒカリ。星ノアカリ。星光 平家物語、九、三草勢揃事「星明りニ鎧ノ毛サダカナラズ」

ほし-あ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ケヨ (他動、下二) 乾上 (一)日光、或ハ、火熱ニテ、物ノ水氣ヲ全ク除キ去ル。平家物語、八、水島合戰事「源氏ノ方ノ兵共、云云、干しあげタリケル五百余艘ノ船共ヲ、皆我先ニ我先ニトゾ下シケル」 (二)食物ヲ與ヘズシテ、餓エシム。盛衰記、三十四、木曾内裏守護事「洛中、所ニセトラザリケレバ、京中ノ貴賤、上下、小魚ノ池ニイキツクガ如ク、干し上げラレテ、今日歟明日歟ノ命ナリトゾ歎悲ケル」

ほし-あはび (名) 干鮑 乾鮑 鮑ノ肉ヲ素乾ニシタルモノ。天明集成緑綸、四十五、寶暦十四年三月「於長崎唐船江、相渡候煎海鼠、干鮑之儀、從前之諸國、浦浦ニ而相稼、云云」

ほし-あひ (名) 星合 七夕ニ、牽牛、織女ノ二星ノ相會スルコト。源、四十、幻「七月七日モ、云云、ナガメ暮ラシ給ヒテ、星合見ル人モナシ」辨内侍日記、下「コゾノ七月、星合ノホドニ參リ給タリシナド申出テ」玉葉集、十二、戀、四「天ノ川、ナヌカヲ契ル、心アラバ、ほしあひバカリ、影ヲ見ヨーヤ」同、十六、雜、上「初秋ハ、マダ長カラヌ、夜半ナレバ、明クルヤ惜シキ、星合ノ空」七夕七十首(藤原爲理)「ほしあひノ、影ヲバイカデ、ウツサマシ、サノミシヅメル、水ノ鏡ニ」

ほし-あ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 乾敢 水氣ヲ全ク除キ去ル。水氣ヲ殘リナク乾カス。新古今集、十一、戀、一「ウツ蟬ノ、ナクネヤヨソニ、モリノ露、ほしあへヌ袖ヲ、人ノトフマデ」

ほし-アン (名) 乾餡 さらしあん(晒餡)ニ同ジ。

ほし-いし (名) 星石 流星ノ如キモノノ、地ニ落チテ塊ヲナセルモノ。鐵、にッける、及、其他ノ鑛物ヨリ成ル。他ノ小惑星ノ缺片ナリト云フ。又、ホシクソ。隕石 ソノ、主トシテ、鐵、及、にッけるヨリ成ルヲ、隕鐵ト云フ。

ほし-いひ (名) 糒 〔干飯ノ義〕 ほしひ(糒)ノ條ヲ見ヨ。史記、大宛傳「戟 糒給二貳師、轉車人徒相連屬至敦煌」 倭名抄、十六、飯餅類「糒、保之以比、乾飯也」 榮花物語、十八、玉臺「持テ續キ參ラセタレバ、云云、干飯ナドイフ物ヲ召シ出デテ、池掘リ木トモヒク者ニ賜フ」

ほしい-まま (副) 恣 擅 縱 〔欲しき儘ニノ音便〕 思フニ任セテ。心ノママニ專ラニシテ。史記、孔子世家「管仲公族、六卿擅權」 名義抄「任、ホシイママ、恣、ホシイママ、縱、ホシキママニ、擅、ホシイママ、恣、ホシイママニ」 神代紀、上「素戔嗚尊白、諸神逐我、云云、擅自得去歟」 續紀、廿五、天平寶字八年九月、宣命「寶龍ノ事ヲ、ヒタブルニ己ガ欲末仁末仁行ハムト念テ」

ほし-いを (名) 乾魚 又、ほしうを。ヒモノ。魚ヲ日ニ乾シタルモノ。倭名抄、十六、魚鳥類「鱐、保之以乎、乾魚也」 主計寮式、上、「久恵鱐、鰒腊、各三十斤五兩」

ほ-しう (名) 補修 オギナヒ、ツクロフコト。補ヒ修ムルコト。

ぼ-しう (名) 暮秋 陰暦、九月ノ異稱。又、秋ノ末。ばんしう(晩秋)ノ條ヲモ見ヨ。梁元帝、纂要「九月曰暮秋、亦曰季秋、亦曰杪秋」 白居易詩、洛下閑「新晴、江東 暮秋」

ほし-うどん (名) 乾饂飩 乾溫飩 乾シカワカシタル饂飩。ヒウドン。本朝食鑑、一、溫飩「有乾溫飩者、搗而後細切曝乾、用時煮熟而食、又如紐帶而乾、此稱經帶麪、形狀華、之紐帶麪之類也乎」

ほし-うを (名) 乾魚 ほしいを(乾魚)ニ同ジ。

ほし-か (名) 干鰯 〔乾臭ノ義カ〕 生鰯ヲ、沙上、又ハ、芝生ニ散布シ、日ニ乾シ固メタルモノ。肥料ニ用キル。甚ダ臭シ。大和本草、十三、魚類「鰯、云云、ホシタルヲ、ほしかト云ヒ、田圃ノ糞トス、木棉ノ糞トシテ、尤佳シ」 農稼肥培論、中「干鰯、先、干鰯ヲ產スル國國ニハ、上總ノ九十九里、房州下總ノ浦方、常陸ノ鹿島、奧州南部、松前、遠州、紀州ノ沿ヅツキ、伊豫ノ宇和島、豐後ノ佐伯邊ヨリ出ル干鰯コトニ夥シ」

ほし-がき (名) 乾柿 澁柿ノ皮ヲ剝キテ、乾シタルモノ。コロガキ。ツルシガキ。アマボシ。烏柿 重修本草綱目啓蒙、廿一、山果類「柿、云云、皮ヲ去リテ乾柿トナスヲ、コロガキト呼ブ、甲州宰治ノ名産ナリ」 和漢三才圖會、八十七、山果類「凡乾柿乃脾肺血分之果也、能收故有健脾、澀腸、治嗽、止血之功」

ほし-かげ (名) 星鹿毛 馬ノ毛色ニ、鹿毛ニ白キ點アルモノ。

ほし-かぶと (名) 星兜 白星ノ兜。ほし(星)ノ條ノ(五)ヲ見ヨ。類聚名物考、百三十四、甲冑部、二「星兜、云云、星甲ハ細板ト地板トヲ重ネテ、其所ヲ鋲ニテシメタル、ソノ釘ノ頭ヲ外へ出シタルヲイフ也」甲陽軍鑑、十五、品第四十二、四郎右衛門、左衛門ノ兵衛ニ、シルシニ、右衛門ハ甲ヲキリワル、然レドモ、明珍ノ星甲ナル故、甲ハ損ジテ身ニ當ラズ、終ニ四郎右衛門ニ弱リトル」

ほし-が・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 欲 欲シク思フ。欲ル。ノゾム。欲ス。寶物集、上「マトシキモノハ、萬ノ物ヲモトメ、人ノ物ヲほしがり、我物ヲナシムナリ」

ほし-がれひ (名) 星鰈 鰈ノ一種。裏ノ白皮ニ黑點アルモノ。小サキハ五六寸、大ナルハ尺餘アリ。アマガレヒ。重修本草綱目啓蒙、三十、無鱗魚類「一種ほしがれひハ、大ナル者ハ一二尺、小ナル者ハ五六寸、白皮ニ黑點アリ」 和漢三才圖會、五十一、魚類「星鰈、一名廿鰈、裏白皮有二黑點一者、其大者尺許、小者五六寸」

ほし-がれひ (名) 乾鰈 鰈ノ内臟ヲ除キテ乾シタルモノ。本朝食鑑、八、鰈「乾鰈者、乾鮞也、出泉、紀之川、其長尚香美可愛」

ほしき-まま (副) 恣 擅 縱 ほしいまま(恣)ニ同ジ。天治字鏡、一「恣、保志支万々」 宇治拾遺、十五、第十二條「心ノほしきままニ、惡シキ事ヲノミ、コトトスルハ、當時ハ心ニ叶フ様ナレトモ、終リ惡シキモノナリ」

ほし-く (名) 星供 災難ヲ除カムタメ、其人ノ生年相當ノ、本命星ナドヲ祀ルコト。ホシマツリ。阿娑縛抄、百四十、星供「第一可修事、云云、爲息災、修之、先蹤、大師依宇治殿、於平等院、修星供 日時 被勸修之」 同、百五、明星供「本尊供事、近來人、多不知之、可秘藏事也」

ほし-くそ (名) 星屎 (一)ほしいし(星石)ニ同ジ。隕石 和漢三才圖會、一、天文類「日明成石、隕星出羽中、曼月晴夜有隕星、云云、隕石物、云云、名星屎」 和訓栞、下「ほしくそ、石也、ほし石トモイフ、信濃岐岨ノ山中ニ多シ、云云、星落テ石トナルトイヒ傳フ」 (二)流星。(安房)

ほし-くだり (名) 星降 (一)流星ノ下ニ

走ルコト。(二)打チ揚ゲタル烟花ノ火ノ玉ノ、ソノママ下ダルモノ。

ほしぐり (名) [乾栗] 栗ノ實ヲ乾シ固メタルモノ。[illegible]チグ[illegible]

ほじくる (動) [穿] ほじる(穿)ニ同ジ。

ほしけ・し・[illegible]・ケレ・ク・ク (形、二) [illegible] [illegible]か、さやけし、ほしづか、ほしづけし ノ類) ホシキ容子ナリ。欲シキサマナリ。萬葉集、四「タクナハノ、永キ命ヲ、欲シケク、苦ハ、タエズテ人ヲ、見マクホリコソ」

ほしけんざん (名) [星建盞] 茶碗ニ、天目ノ一種。けんざん(建盞)ノ條ヲ見ヨ。

ほしこ (名) [干海鼠] いりこ(煎海鼠)ニ同ジ。又、たはらこ。

ほしころ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [乾殺] 餓エシメテ殺ス。餓死セシム。

ほしごゐ (名) 星五位 [illegible] 鳥ノ名、形、ごゐさぎ(五位鷺)ニ似テ、頂ニ黑毛アリテ[illegible]ノ如シ、目、深ク、旁ノ毛、長クシテ旋レリ、背、青白ク、翅、黑クシテ、共ニ小白圓紋アリ。旋目 本朝[illegible]、九、水[illegible]「星五位、狀似五位鷺、云云、背翅倶白、翎羽星、倶有小白圓紋 如星、故俗曰星五位」 重修本草綱目啓蒙、三十六、水禽「旋目ハ、ほしごゐナリ」

ほしざめ (名) [星鮫] 鮫ノ一種。長サ八九尺ニ及ブモアリ、[illegible]、淡灰色ニ白色ノ斑點アリ、腹部ハ白シ。シロザメニさめ(鮫)ノ條ヲモ見ヨ。 重修本草綱目啓蒙、三十[illegible]、[illegible]「鮫、云云、[illegible]ハ一名鱗九郎、背ニ細白點アリ、味佳ナリ」

ほしし [illegible] 脯 [illegible] [乾肉ノ約] 鳥獸ナドノ肉ヲ切リテ、乾シタルモノ。ほしぢし。きたひ(腊)ノ條ヲモ見ヨ。 漢書、東[illegible]

[illegible]

ほしほし (名) [illegible] 前條ノ語ニ同ジ。[illegible]

ほしだいこん (名) [乾大根] 乾シカワカシタル大根。ダイコンボシ。[illegible]

ほしつきのうま (名) [落星馬] 星月馬 つきびたひ(月額)ノ條ノ(二)ニ同ジ。[illegible] 類抄「落星馬、ホシツキノムマ、ホシマダラ」 書言字考節用集、五、氣形門「騙、ホシツキノウマ、落星馬」

ほしづきよ (名) 星月夜 [illegible] (月夜ノ條ヲ見ヨ) 晴夜ニ、星明ニテ、月夜ノ如クニ明ルク見ユルコト。[illegible] 月夜コソ、ウレシカリケレ」 今昔物語、廿七、第五語「翁、和ラ立返リテ行クヲ、星月夜ニ見遣リケレバ、[illegible]ノ行ニ行キテ、掻消ツ樣ニ失セニケリ」

ほしづきよ (枕) [星月夜] (やみノ暗ヲ倉ニ言ヒ掛ク) 鎌倉山ニ冠ラスル枕詞。 謠曲、調伏曾我「箱根[illegible]デノ御詣メニ、明クルヲ待ツヤ星月夜、かまくら山ヲ、朝タチテ」

ほしどり (名) [千鳥] 鳥肉ノ腊。鳥肉ヲ[illegible]セズシテ乾シ、削リテ食フモノ。腒 鳥腊 きたひ(腊)ノ條ヲモ見ヨ。 倭名抄、十六、魚鳥[illegible]、[illegible]ニ宇律保物語、藤原君[illegible]ノほし鳥、コレラヲイケテ、ヲトリニテトラバ、多クノ鳥出デ來ヌベシト、思ヒホレテ居給ヘリ」 廚事類記「千鳥、雉ヲ鹽ツケズシ、ホシ[illegible]供之」

ほしのいりおち (名) [陰曆九月ノ節ヨリ一月ノ節ノ中程マデハ、昴星ノ出入ニ因リテ天候ヲ[illegible]ト云フ」 陰

[illegible]、十月ノ風ノ[illegible] 物類稱呼、一、天地「風、云云、畿内及中國ノ船人ノコトバニ、十月ノ風ヲ、[illegible] 伊勢國鳥羽、或ハ伊豆國ノ船詞ニ、云云、十月中旬ニ吹ク北東ノ風ヲ、星の出入トイフ、夜明ニ、スバル星、西ニ入ル時吹ク也」 俚言集覽「十月ノ風ヲ、星の入ほしのいりおち一云」

ほしのくらゐ (名) [星位] 禁中ニ列ナル公卿、殿上人ノ稱。ひゃくくゎん(百官)ノ異稱トモス。 新古今集、序「ほしの位、マツリゴトヲタスケシ契リヲ忘レズシテ」 玉葉集、一、春、上「春クレバ、星の位ニ、[illegible]エ、[illegible]ノハ[illegible]ニ、出ヅルタヲヤメ」 新後撰集、十、神祇「天クダル、神ノ惠ミノ、シルシアラバ、星の位ニ、猶ノボリナン」 [illegible] 下 ほしの[illegible]

ほしのふね (名) [星舟] 七夕ノ天河ノ舟。[illegible]下 ほしのふね、[illegible]タノ舟ヲイフナリ」 ルヲ、衆星ノ天ニ位スルニ喩フルナリ」

ほしのもの (名) 星物 昔、酒宴ノ時、洲濱ノ臺ニ、花鳥ナドノ造リ物ヲ置カズ、大ナル盃ヲ、[illegible]三ツ、又ハ、五ツ程ヲ竝ベタルモノ。 貞丈雜記、七、酒盃之部「三ツ星、五ツ星ノ盃ト云フハ、洲濱ノ臺ニ、花鳥等ノ作リ物ヲクケ、盃バカリ[illegible]如[illegible]大中小竝ベ置クヲ、三星ト云ヒ、如此オキタルヲ、五ツ[illegible]ト云フ、此五ツモ、[illegible]ニ大ナルヲ置ク也、[illegible]星、五星ナドノ事ヲ、星の物トイフ」

ほしのり (名) [乾海苔干海苔] 海苔ヲ紙ノ如ク漉キテ、乾シタルモノ。 篠尾琴(元祿、[illegible]) 雨雲ヤ、[illegible]千海苔ノ、[illegible] [illegible]詩、初[illegible]、[illegible]十[illegible] 如紙、年年貢出早春風、白魚吸物豆腐汁、織有二一枚一味不同」 守貞漫稿、五、生業、下「乾海苔賣、大略、中冬以後、春ニ至リ賣之、乾海苔ハ今世、大森村ヲ[illegible]、[illegible]レトモ、[illegible]

ほしはじかみ (名) [乾薑] 生薑ヲ乾シタルモノ。カンキャウ。はじかみ(薑)ノ

[illegible] 云云、今、餞[illegible]中、[illegible]ト呼モノハ、三河、遠江ワタリヨリ出ス、外白、内[illegible]ニ、[illegible]モノナリ」

ほしはら (名) [星原] 星ノ簇リタルトコロ。[illegible] ほしはらヤ、空ニミダルル、ホタルナリケリ」

ほしひ (名) [糒] [illegible] (乾飯ノ約) 飯ヲ日ニ乾シタルモノ。今、特ニ、善ク精ゲタル糯米ヲ洗ヒテ[illegible]、乾シテ、[illegible]キタルモノヲ云フ。水ニ潤ホサセテ食フ、貯ヘテ、軍中、又ハ、夏月ノ用トシ、又、菓子製造ノ原料トス。ほしいひ。カレイヒ。カレヒ。 倭名抄、[illegible]、[illegible]人、注「行[illegible] [illegible] 中之糒ニ」

ほしびたひ (名) [星額] つきびたひ(月額)ノ條ノ(二)ニ同ジ。ほしつきのうま(落星馬)ノ條ヲモ見ヨ。

ほしふ (名) [illegible] 前ニ擧ゲ[illegible] ノノ、不足ヲ補ヒナ[illegible]

ぼしふ (名) [募集] ツノリ、アツムルコト。

ほしべり (名) [乾減] 乾シタルタメニ減ルコト。乾没「ほしべりガタツ」

ほしほし (副) (一)夜眠ラズシテ、寂シク明カス状ニ云フ語。[illegible]「[illegible]たたど、[illegible]ほしほしハ、夜ヲイネズシテ、サビシウ明シタル心歟」 (二)徐徐ニ。ソット。ヤヲラ。 物類稱呼、五、言語「ヤヲラ、ソットイフ心、又少シノココロモアルコトナレバナリ、云云、伊豫ニテ、ほしほしト云」

ほしボトケ [illegible] 星佛 [illegible] 日曜 月曜 木

曜、水曜、火曜、羅睺(ラゴ)、計都(ケイト)ナドノ星ヲ、佛像ノ如クニ刻メルモノ。

ほし-ボトケ-うり (名) [星佛賣] 古ヘ、京都ニテ、星佛ヲ賣リシコト。又、ソノ人。 類聚名物考、廿五、佛教部、三「星佛、京都ノ風俗ニ、正月元日ニハ、天子、四方拜トテ數ノ神ヲ拜シ給ヒ、年災ヲハラヒ、明年ノ本星ヲ唱ヘ給フ御事有ルニ習ヒテ、都ノ庶人モ星ヲ祭ル事有ルニヨリテ、ソノ人ノ姓ニヨリ、ソノ本命星ノ名、オヨビ守本尊ノ佛名、不動、觀音ノ類ノ佛名ヲ書アツメテ、晦日ノ夜ヨリ元日カケテ賣アリキシ事有リ、是ヲ俗ニ星佛賣トイヘリシカ、今ハ絶テナシトゾ」

ほし-ボトケ-まつり (名) [星佛祭] 昔、陰暦、十二月十三日、星佛ヲ買ヒ、歸依ノ僧ヲ請ジテ、コレヲ祭ルコト。

ほし-マダラ (名) [星斑] (一)星ノ如ク斑點ノアルモノ。 安法法師集「大空ニ、コメタル菊ノ、籬(マガキ)カモ、ほしまだらニテ、花ノ見ユルハ」 (二)牛ノ毛色ニ、星ノ如キ斑アルモノ。料牛 倭名抄、十一、牛馬毛「特牛、保之萬太良、牛色駁如星也」 名義抄「特、ホシマダラ」

ほし-まつり (名) [星祭] (一)ほしく(星供)ニ同ジ。 (二)眞言宗ニテ、七曜星ノ中ニテ、其年ニ當レル星ヲ、當年星トテ祭ルコト。尊星供。 俚言集覽「星祭、冬至ノ夜、北辰明星ヲ祭ル、佛家ノコト也」 (三)たなばたまつり(棚機祭)ニ同ジ。

ほし-まはり (名) [星廻] 人ノ運命ヲツカサドルト云フ本命星ノ、メグリアハセ。

ほし-み (名) [星見] 人ノ運命ヲツカサドルト云フ本命星ヲ見テ、其吉凶ヲ占フコト。又、ソノ人。星相。星命者。

ほし-みぐさ (名) [星見草] 菊ノ異名。 藻塩玉集、秋「庭モセニ、咲クテフ色ヤ、ほしみ草、マガハヌ色ヲ、籬ニゾ見ル」 古今集、五、秋、下「久方ノ、雲ノ上ニテ、見ル菊ハ、天ツ星トゾ、誤タレケル」

ほし-みせ (名) [干見世] 路傍ニ、屋ナキ店ヲ出シテ、物ヲ列ネテ賣ルコト。又、ソノ店舖。大道見世。露店。テンタウボシ。星鋪。星貨鋪。

ほし・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [欲] ホシト、オモフ。ホシガル。欲ス。 神功攝政前紀「貪財多欲(モノホシム)、欲懷私、必爲敵所虜」

ほし・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [欲] ホシト、オモハス。ホシガラス。 齊明紀、六年、三月「阿倍臣乃積綵帛兵鐵等於海畔、而令貪嗜(シム)、肅愼乃陳船師、繫羽於木、擧而爲旗」

ぼ-しん (名) [戊辰] ツチノエタツ。えと(干支)ノ條ヲ見ヨ。 書經、洛誥篇「戊辰、王在新邑」

ぼ-しん (名) [戊申] ツチノエサル。えと(干支)ノ條ヲ見ヨ。 書經、召誥篇「越三日戊申、太保朝至于洛、卜宅」

ぼしん-の-えき (名) [戊辰之役] 明治元年、戊辰ノ事變ノ稱。卽チ、官軍ト德川舊幕臣トノ戰ヲ云フ。

ぼし-めい (名) [墓誌銘] ぼし(墓誌)ノ條ヲ見ヨ。 文體明辨「按、誌者、記也、銘者、名也、古之人有德善功烈可名於世、歿則後人爲之鑄器以銘、而俾傳於無窮云云、至其題、則有曰墓誌銘、有誌有銘者是也、曰墓誌銘并序、有誌有銘、而又先有序者是也」 韓愈「柳子厚墓誌銘」

ほし-めがね (名) [星眼鏡] 天文學ニ用ヰル遠眼鏡。天體觀測用ノ望遠鏡。天體望遠鏡。觀星鏡。

ほし-もの (名) [干物] 日ニ乾ス物。布帛ヲ洗ヒ、又ハ染メテ、日ニ晒スコト。 和訓栞、下「ほしもの、今乾物ヲ音ヲモテヨベリ、云云、凡テ日乾ノ雜色ヲモイヘリ」 俳諧新選、冬「干物ニ、母ハ年當ル、時雨カナ」

ほ-しゃ (名) [輔車] 「呂氏春秋、車、牙也、輔、頰也」 つらがまち(輔車)ニ同ジ。 左傳、僖公五年「宮之奇諫曰、虢虞之表也、虢亡虞必從之、云云、諺所謂輔車相依、脣亡齒寒者、其虞虢之謂也」 疏「輔、頰、車、牙、外表、車是內骨」 和漢三才圖會、十二、支體部、輔車「和名保加木知、止曲頰端也」 塵袋、六「九傳ニ云云、射手ノ頰中類ナト云ヘリ、云云、ツラカマチ、タダオナジ事ヲトオボユル也、輔車トカキテ、カマチトヨメル事モアリ、文集ニハ、幸有輔車、非無脣齒、云云」

ほ-しゃ (名) [歩射] カチダチノ射術。五尺五寸ノ的ヲ串ニカケオキ、三十三杖(一杖ハ約一丈)ヘダテテ射ルモノ。 紀略、後篇、二、天慶九年正月廿四日「内宴停止、歩射已上、東宮帶刀等ノ有賭射事」 貞丈雜記、十二、武藝之部「歩射ト云ハ、騎射ニ對シテ云也、スヘテかちだちニテ射ル、大的、小的、草鹿、圓物ナト總名也」

ほ-しゃう (名) [輔相] 天子ヲ輔ケテ、政ヲ行フコト。又、其人。宰相。 南史、王曇首傳「武帝謂文帝曰、曇首輔相才也、汝可任事之」 宋史、畢士安傳「眞宗曰、朕倚卿以輔相、豈特今日、然時方多事、求與卿同進者、其誰可」

ほ-しゃう (名) [補償] オギナヒ、ツグナフコト。オギナヒ。ツクノヒ。

ほ-しゃう (名) [歩障] (ほうしゃうハ延語) (一)宋、竹ナドヲ立テテ、幕ヲ張リテ圍(カコヒ)トスルモノ。 晉書、石崇傳「愷作紫絲布歩障四十里、崇作錦歩障五十里以敵之」 宇津保物語、樓上、下「いぬ宮御クシスマサセ奉リ給トテ、云云、人モ見エヌ方ナレト、ほふせう引カセタマヘリ」 (二)昔、婦人ノ、外出スル時ナドニ、身ヲ蔽ヒ隱セシモノ。木ノ框(ワク)ニ布帛ヲ張リテ、自ラ手ニ持チシモノト云フ。 倭名抄、十四、葬送具「歩障、白布帷以障婦人、今案、葬時障之」 (三)葬式ノ時、棺ノ左右ヲ、歩行シナガラ、布帛ヲ以テ障ルコト。又、ソノモノ。 字類抄「歩障、葬具以布用之」 名目抄「歩障(ホシャウ)、天子大行之時用之」

ほ-しゃう (名) [保障] (一)をぐろ(小城)ト、とりでト。城寨。堡壘。 左傳、定公十二年「且成、孟氏之保障也、無成是無孟氏也」 唐書、張巡傳「睢陽、江淮之保障也、若棄之、賊乘勝鼓而南、江淮必亡」 (二)ササヘ、フセグトコロ。 (三)障害セラレザル保證。「憲法ノ保障」

ほ-しゃく (名) [保釋] 又、ほうしゃく。豫審判事、又ハ、裁判所ガ、拘留セラレタル刑事被告人ノ請求ニヨリ、檢事ノ意見ヲ聽キ、金錢、又ハ、其他ノ保證ヲ立テシメ、又、何時ニテモ呼出ニ應ズベキコトヲ約セシメテ、一時コレヲ自由ノ身タラシムル處分。

ほ-しゅ (名) [保守] [進取ノ反] (一)タモチ、マモルコト。 戰國策、齊策「初燕將攻下聊城、人或讒之、燕將懼誅、遂保守聊城、不敢歸」 三國志、魏志、王昶傳「既富且貴、無復他望、但欲終其天年、保守祿祚而已」 (二)舊來ノ習慣ヲ、保チマモルコト。

ほ-しゅ (名) [鋪首] 門ノ戸ノ乳ノ如キ釘カクシ。俗ニ饅頭金物トモ云フ。鐶甲。

ほ-しゅう (名) [補充] (一)オギナヒ、ミタスコト。 (二)陸海軍ノ士官、准士官、下士卒ヲ任用、又ハ、採用スルコト。 (三)補充兵ノ略。現役兵ノ補缺ニ充テテ召集スル兵。

ぼ-しゅつ (名) [戊戌] ツチノエイヌ。えと(干支)ノ條ヲ見ヨ。 淮南子、天文訓「戊戌、己亥韓也」

ぼしゆん（名）[晩春] 春ノ末。又、春ノ末。ばんしゆん（晩春）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

ほ-しよ（名）[補助][輔助] オギナヒ、タスクルコト。テツダヒ。[illegible]

ぼ-しよ（名）[墓所] はかどころ（墓所）ニ同ジ。[illegible]

ぼ-しよ（名）[簿書] [illegible] 帳簿ニ同ジ。[illegible]

ほ-しよう（名）[保證]〔古クハ、證、廣韻、集韻、並ニ諸應切、漢呉トモ、シヨウ、証、唐韻、集韻、之盛切、音政、漢、セイ、呉、シヤウトアリテ、音異ナレドモ、明ノ頃ニハ正字通ニ、證、中定切、音正、驗也、証、中定切、音正、諫也、訛與レ證通、漢、セイ、呉、シヤウ）トアリ〕 ヒキウクルコト。保証 [illegible]

ほ-しよう-にん（名）[保證人]〔前條ノ語ヲ參見セヨ〕 保證ニ立ツ人。ウケニン。ヒキウケニン。保證人。保人

ほ-しよく（名）[補色] 或量ヲ混合シテ、無色、又ハ、灰色トナル二色ヲ、互ニ他ノ補色ト云フ。赤ト青緑、黄ト藍トノ類ナリ。（餘色）

ほ-しよく（名）[補職] 官吏ニ、職務ノ擔當ヲ命ズルコト。[illegible]

ぼ-しよく（名）[暮色] 夕暮ノ景色。タノ闇キ色。[illegible]

ほ-じよ-くわへい（名）[補助貨幣]〔英語、Token money. ノ譯語〕 貨幣ノ一。本位貨幣ノ補助トシテ、小額ノ取引ニ用キラレ、通用ニ一定ノ制限アルモノ。即チ、我ガ國ノ銀貨幣（十圓マデ通用）、白銅貨幣（一圓マデ）、銅貨（[illegible]マデ）ナドノ類。略シテ、補助貨。

ほじ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）[穿] 掘リセセル。ホジクル。ホゼル。セセル。セセクル。剔抉

ほしわ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（他動、上二）[乾侘] ホシナヤム。ホシワヅラフ。[illegible]びテ、マモルカリイホニ、イクヨヘヌラン」

ほ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[干][乾]〔火ヲ活用ス〕（一）[日、又ハ、火ノ熱氣ニ當テテ、水氣ヲ去ル。ヒルヤウニス。カワカス。[illegible]（二）浚ヘ涸ス。「池ノ水ヲほす」（三）飲ミ盡ス [illegible]

ほ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變） 欲りす、又ハ、ほす（欲）ノ略。各條ヲ見ヨ。名義抄「欒、ネカフ、ホス」

ほ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）[歩]（一）アユム。アルク。アリク。歩行ス。[illegible]

（二）[illegible] 作法ニテ、[illegible]

ほ・す・ス・セ・サ・シ・セ [illegible]（一）オギナフ。[illegible] 蕩之什、烝民篇「袞職有レ闕、維仲山甫補レ之」（二）官吏ニ職務ヲ[illegible]

ほ-そう（名）[歩趨]〔釋名「徐行曰レ歩、疾行曰レ趨」〕 歩、捕也、疾行曰趨、趨、速也〕 あゆみはしること。オホマタニテ歩ムト、走ルト、小股ニテ歩ムト。又、アユミユクコト。

ほすすき（名）[穂芒] 穂ノ出デタルスススキ。又、穂ノ秀デタルススキ。

ポスト（名）〔英語、Post.〕 郵便。又、いうびんばこ（郵便函）ニ同ジ。

ほ-すひ（名）[郵] ほくそ（郵）ノ條ヲ見ヨ。

ホスホル（名）[燐]〔英語、Phosphor.〕 非金屬元素ノ一。動物ノ骨中ニ存在ス。黄色、半透明ニシテ、純鐵ノ如シ。尋常ノ氣中ニテ、甚シキ速度ニテ燃エ、酸素瓦斯中ニテハ、非常猛烈ニ燃ユ。鬼火、狐火、ナド云フモ、是レ[illegible]。有毒物質ナレドモ、まつちノ製造ナドニ用キラル。

ボスメンス（名）〔蘭語、Bosch-mensch.（森林の人ノ意）〕 そまとら島、ぼるねお島ナドノ熱地ニ産ズル大ナル猿。體長四尺許リ、全身、赤褐色ニシテ毛長シ。能ク人ニ似ル故、類人猿トモ稱ス。猩猩 英語ニテ、Orang-outang.

ほ-すゑ（名）[穂末] 穂ノサキ。穂ノ先端。[illegible] 下、秋、[illegible] 小山田ノ、[illegible] オシナミ、吹ク風ニ、ほすゑヲ傳フ、秋ノ白露」

ほぜい（名）[illegible]〔[illegible] 道、穴也、凡[illegible]〕[illegible]

ほ-せう（名）[歩哨]〔[illegible]〕 兵營、[illegible] 地ニテ、警戒、又ハ、監視スルコト。兵卒ノ[illegible]

ぼ-せき（名）[墓石] はか（墓）、及、はかいし（墓石）ノ條ヲ見ヨ。

ほせ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ [illegible] ニ同ジ。[illegible] 年十月「將防北河之冦」欽明紀、二年七月「[illegible]」[illegible] 十具以應[illegible]防二[illegible]」

ほぜく・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）[穿] 又、ほじくる。ほじる（穿）ニ同ジ。

ぼ-せつ（名）[暮節] 夕暮、暮年 [illegible]

ほ-せん（名）[illegible] 木紙ニ、オギナヒ足シタル紙片。

ほ-せん（名）[保線] 軌道ナドノ線路ヲ、保全スルコト。

ほ-ぜん（名）[保全] ほうぜん（保全）ニ同ジ。

ぼ-せん（名）[拇戰]（一）拳ヲ打ツコト。（二）ゆびずまふ（指相撲）ニ同ジ。

ぼ-せん（名）[母錢]〔類書纂要「母錢、債本」〕（一）モトキン。元金。[illegible]

「[illegible]母[illegible]出、官幣、助之」(二)昔、將軍家ナドノ誕生、又ハ、元服等ノ時、祝儀ノタメニ鑄造セシ錢。父錢ト母錢トアリキ。鳴弦平藏由緒書「寛永十八辛巳年三月、御上胎舎之御祝儀、御日出度相濟候以後、御誕生之御用意、金錢銀錢之御調度被レ爲二仰付一候、但員數并祕法之御儀ニ御座候、天海大僧正ヨリ御傳授被二成下一候、如レ左、一、父錢金錢二十八文、一、母錢銀錢三十六文」

ぼ-ぜん (名) 墓前 墳墓ノ前。ハカノマヘ。錢謙益、送二劉[illegible]修使二朝鮮一詩「箕子墓對二檀[illegible]、[illegible]山色滿二城隣一」

ほせ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 臨睨 おせる(望)ニ同ジ。神武即位前紀「望二見皇師之威一」私記「望見、保世利美留」同、九「翔二行太虛一也、睨二是鄕一」私記「睨、保世利三」

ほぜ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 人ノ隱スコトヲ、探リアラハス。強ヒテ物ヲ見出サムトス。ホジクル。セセル。

ほそ (名) 細 〔ほそし(細)ノ語根ニテ、熟語ニ用ヰル語〕細小ナルコト。又、狹キコト。萬葉集、十四、五「トホツアフミ、イナサ保曾江ノ、ミヲツクシ、吾ヲタノメテ、アサマシモノヲ」「細身、細帶」細指」細太刀、細路、細殿」

ほそ (名) 臍 次條ノ語ニ同ジ。枕草子、十二、第百五十七段、見ぐるしき物「ノシ單衣モ、同ジクスキタレド、ソレハカタハニモ見エズ、ほそノトホリタレバニヤアラン」

ほぞ (名) 臍 〔清音ニ、ほそ。轉ジテ、へそ。沖縄ニテ、ふす〕(一)〔腹ノ中央ニアル窪ミタル處。即チ、臍帶ノ落チタル痕ナリ。倭名抄、三、形體類「臍、保曾、腹孔也」神代紀、下、十「天鈿女乃露二其胸乳一、抑二裳帶於臍下一、而咲噱向立」(二)工匠ノ語ニ、材ヲ接グトキ、材ノ面ニ、突キ出デタルモノヲ作リ、臍穴トテ、他ノ材ニアル穴ニ塡ムルモノ。筍 柄 戸ノ樞ニモ云フ。ほぞ(戸臍)ノ條ヲ見ヨ。鶴林玉露(宋、羅大經)「朱文公語錄、以レ木作[illegible]、[illegible]之、以[illegible]相入」天治字鏡、十二、廿六「戸樞、保曾」臍ヲ噬ムトハ、臍ハ噬マムトスルモ、口ノ及バザルヨリ起リ、事物ノ及バズシテ後悔スル意。左傳、莊公六年「亡二鄧國一者、必此人也、若不二早圖一、後君噬レ臍」文德實錄、四、仁壽二年二月「忘レ恥貪レ財爲二聚斂之吏一云云、若如レ此不レ變、恐噬レ臍不レ及」

ほぞ (名) 蔕 〔臍ニ似タル意〕瓜、果ノ蔕。ヘタ。古詩、孤兒行「瓜車反覆、助レ我者少、啗レ瓜者多、願還二我蔕一」倭名抄、十七、果蓏具「蔕、保曾、今按、蔕、帶、相通」「蔕落」

ほそ-うで (名) 細腕 (一)ホソキウデ。ヤセウデ。井筒業平河內通(享保、近松作)三「腰ニ付ケタル股立紐、ほそ腕、後ニ用捨モナク、云云、若櫻ノ下枝ニシ、カト縛リツケ」(二)力ノ乏シキコト。微力ナルコト。「女ノ細腕ニテ」

ほそ-え (名) 細江 細小ナル入江。狹キ入江。ほそ(細)ノ條ヲモ見ヨ。詞花集、九、雜、上「住吉ノ、ほそえニサセル、ミヲツクシ、深キニマケヌ、人ハアラジナ」

ほそ-えい (名) 細纓 又、さいえい。えい(纓)ノ條ヲ見ヨ。對抄、冠「細纓、六位武官ノ纓也、竹ニテ細クシタル物也」

ほそ-えぼし (名) 細烏帽子 頂キノ細長キ烏帽子。(武士ノ冠ルモノ) 西三條裝束抄、烏帽子「凡烏帽子ヲ細烏帽子、引立烏帽子、平禮ナドノ替リアルト見エ侍レド、近代ハ着用スル人ヲ見エ作ラザル也」太平記、十三、藤房卿遁世事「藤房モ時ノ大理ニテ坐スル上、今ハ是ヲ限ノ供奉ト被レ思ケレバ、御供ノ官人、悉目ヲ驚ス程ニ出立レタリ、云云、走リ下部八人、細烏帽子ニ、上下一色ノ家ノ紋ノ水干着テ、二行ニ歩ツヅキタリ」

ほぞ-おち (名) 臍落 (一)産兒ノ、胞衣ヲ斷リテ後、臍緒ノ落ツルコト 言忌ニ、ほぞのをヲサマル、ほぞのをスベル、ナドト云フ。(二)了解スルコト。納得スルコト。合點スルコト。臍ニ落ツルコト。一往理ヲ聞キタレド、未ダヨク徹底セヌヲ、ほぞおちセヌト云フ。

ほぞ-おち (名) 蔕落 ほぞお(熟瓜)ニ同ジ。書言字考節用集、六、生植門「蔕、ホゾヲチ、本草、瓜蔕曰レ蔕」狂言記、瓜盜人「イツモ畑ヘ出カツイテ瓜ヲ荒ス、人形ヲ作リ置カウ、一段ヨイ、アス見舞ウテ、ほぞおちヲ取ラウ」

ほそ-おび (名) 細帶 帶ノ、幅、狹ク、短キモノ。下着ナドニ用ヰル。七十一番職人盡歌合、上、十四番、帶うり「人妻ニ、カケシ衣ノ、細帶ノ、クケ地モアラバ、嬉シカラマシ」守貞漫稿、十六、女服「京坂婦人ハ、美服、綿服トモニ、丈長シ、細帶ヲ以テ腰周リニ、コレヲカカグル也」

ほそ-おもて (名) 細面 ホソヤカナル顏。ツキ、オモナガナル顏。ウリザネガホ。

ほそ-がね (名) 細金 金銀ノ箔ヲ、ホソク切リテ、彫刻セル物ナドニ埋メテ、模様ヲナスコト。又、ソノモノ。(佛畫、木佛ナドニ) 人倫訓蒙圖彙、五、細工人部「細金師、繪ノ彩色ニ、昔事ナレトモ、專ラ佛像ノ繪ニ、コレヲ用ユ、金銀ノ薄ヲ細ニ刻ミテ、衣紋ヲナシ、花ノ筋ヲ分ツ、細金師ハ繪師ニ從フ也」

ほそ-かは (名) 細川 細小ナル川。又、狹キ川。萬葉集、九、十七「ウチタヲリ、多武ノ山霧、シゲミカモ、細川ノ瀨ニ、波ノサワゲル」

ほそかは-がみ (名) 細川紙 帳簿ナドニ用ヰル大判ノ生紙。武藏國、北多摩郡、小川(今ノ小平村ノ大字)ヨリ產ズルモノ。ハシキラズ。

ほそ-き (名) 蔓椒 〔細木ノ叢生マルヲ云フカ〕いたちはじかみ(秦椒)ニ同ジ。倭名抄、廿、木類「[illegible]、保曾木」本草和名、下、[illegible]」[illegible]「[illegible]保曾[illegible](本[illegible]本、[illegible]作レ)」注「[illegible]、此云二[illegible]一」

ほそ-きんだち (名) 細公達 ヤサシキキンダチ。又、ナマナカノ公達。狹衣、一、下「サヤウノほそきんだちニ、カケメニテすハセンヨリハ、タダ心見タマヘ」

ほ-そく (名) 補足 不足ヲオギナフコト。オギナヒタスコト。補充。

ほ-そく (名) 補則 本令ヲオギナフタメニ、設ケタル規則。

ほ-そく (名) 捕捉 トラフルコト。ツカマヘルコト。唐德宗、登二寶位一赦書「或在二貧窮一、無レ可二徵納一、[illegible]捕捉未レ獲[illegible]」[illegible]

ほそ-くづ (名) 熄 ほくそ(熄)ニ同ジ。倭名抄、十二、燈火具「熄、[illegible]燭餘灰也、保久曾、[illegible]」太平記、廿一、法勝寺塔炎上事「[illegible]ナル細熄一ツ、遙ニ十餘町ヲ飛去テ、法勝寺ノ塔ノ五重ノ上ニ落留ル、云云、サル程ニ、此細熄、乾タル檜皮ニ燒付テ、黑煙、天ヲ焦テ燒ケ上ル」

ほそ-くび (名) 細頸 細小ナル頸。ヤセコケタル頸。又、頸ヲイヤシメテ云フ語。太平記、廿六、四條畷合戰事「是ゾ師直ト思ハン敵ヲ、馬ノ諸膝薙テ切居エ、落ル處ニテ、細頸打落シ討死セント思フハ如何ニト」謠曲、烏帽子折「兄弟ノ者ノ細首ヲ、唯一打ニ打チ落シ」

ほそ-くみ (名) 半夏 〔細組ノ義カ、細波ノ義カ、花形ニ因リテ云フナルベシ、今、烏柄杓ノ名モアリ〕草ノ名。半夏ノ古名。其條ヲ見ヨ。倭名抄、廿、草類「半夏、保曾久美」本草和名、上、四十「半夏、保曾久美」

ほ-そけ (名) 火退逆焼 〔火退ノ義〕野火

ナドノ[illegible]ヲ[illegible]ヒテ、[illegible]モ火ヲ燃チテ[illegible]トヲ[illegible]、[illegible]火、[illegible]

ほそおし (名) [細押] [illegible] ニ、[illegible]リカナ」

ほそおとば (名) [細詞] ホソク小サキコトバ。又、ヤサシキコトバ。[illegible]代記、一、大也入道弓馬ニ達者事、古ヘハ智者ニ睦ンデ、其名ヲ雲上ニ揚ゲント欲ス、今ハ情アル人ノほそ言葉ヲ慕ヒヨリ、朝夕ノ世路ヲ渡ラントネガフ」

ほそごゑ (名) [細聲] ホソク小サキ聲。カスカナル聲。ホソキ音聲。枕草子、三、第十七段、にくき物「ネブタシト思ヒテ、フシタルニ、蚊ノほそごゑニ名ノリテ、顔ノモトニトビアリク」

ほそざを (名) [細棹] (太棹ノ對) 三味線ノ棹ノ、ささ(棹)ノ條ヲ見ヨ。

ほそ・し キ・ケレ・ク・シ 形、二 [細] (一)[細] ミノ甚少シ。太カラズ。痩セタリ。小サシ。(太しノ反) 萬葉集、十九廿二長歌「クレナヰ色ニ、匂ヒタル、オモワノ内ニ、青柳ノ、細眉根ヲ、エミマガリ」 蜻蛉日記、中、中「月ハイト細くテ、カゲハ海ノオモテニウツリテ」 (二)[狹] 狹シ。狹 枕草子、一、第十三段「戸ロノ前ナルほそき板ジキニ居給ヒテ」「路細し」 (三)[低] 低クシテ清シ。低 宇津保物語、樓上、上七十「四人ノワラハベ、ほそく柔カナル聲ノ面白キ出ダシテ」「聲細し」 (四)スクナシ。乏シ。僅ナリ。乏 後拾遺集、廿、誹諧「メノトセントテ、マウデ來タリケル女ノ、乳ノ細く侍リケレバ」「身代細し」「資本細し」

ほそぶき (名) [細敷] 靴ノ底ノ幅狹キモノ。[illegible]河[illegible]ハバ、センガイノ、保[illegible]ワカハ、サシハキテ、上袋トリキテ、宮路カヨハン」

ほそだち (名) 細太刀細劒 裝束ニ佩ブル螺鈿、蒔繪ノ刀ノ稱ト云フ。近衞ノ次將已下、四五位ノ人ノ、節會ナドノ儀式ニ用ヰル。[illegible] 刀ノ手貫ツケテ、キヨゲナルタノコノ持チ渡シモ、イトナマメカシ」 白石紳書、五「細太刀トハ微細ノ心ナリ、ホソキトノ心ニハアラザルカ、足ハ革也」[illegible] マガネニ作リタルニテ候」

ほそたにがは (名) [細谷川] 細小ナル谷川。狹キ谷川。ホソキ溪流。古今集、廿、神遊歌「マガネフク、キビノ中山、帶ニセル、細谷川ノ、音ノサヤケサ」 金葉集、九、雜、上「カクテシモ、エゾ住ムマジキ、山里ノ、細谷川ノ、心ボソサニ」

ほそぢ (名) [細路] 細小ナル路。又、セマキ小路。ホソミチ。狹路。

ほぞち (名) [熟瓜] 〔蔕落ノ約、善ク熟シテ、自ラ蔕ヨリ絶エ落チタルヲ云フ〕 又、ほぞおち。熟シタル甜瓜。(臍落ノ條ヲ參見セヨ) 倭名抄、十七、菓類「熟瓜、保曾知、俗用二熟瓜二字、或說、核熟蔕落之義也」 本草和名、下三十四「熟瓜、保曾知」 天治字鏡、四廿「瓤(和字)、保曾知」 古事記、中(景行)四十八「如二熟瓜一振拆而殺也」 內膳司式、供奉雜菜、熟瓜、八顆(六七八月)」 清慎公集、女御殿ゟのたに、ほぞちを長櫃に入れておかせ給へるを、刀立のされば、みかうしおろしたる紛れに、失せたれば「盜人ハ、ほぞちヲ見テモ、雨フレバ、干瓜トテヤ、取リカヘスラン」 著聞集、十八、飲食「山シロノ、ほぞちト人ヤ、思フラン、ミヅクミタルハ、ヒサゴナリケリ」

ほそつ (名) [歩卒] カチダチノ兵士。アシガル。徒士。歩兵。史記、黥布傳「陛下發二歩卒五萬人、騎兵五千、以取二淮南、乎」 漢書、李陵傳「[illegible]歩卒、不滿二五千二」 羅騎要略、五、總論「歩

[illegible]

ほそづくり [illegible] 細作 [illegible] ノ鱠酒ヲカケ、今一ヘンアヘ候ヘバ、サラリト成ル、ワサビ、花ガツヲヲ上置ニイタシ候」 狂言記、鱸八「此ノ鯉ハ刺身ニ成スニ依ッテ、切目殊更ニ細作リニシテクレサシメ」 (二)人ノ體ノ、ホソクヤサシキコト。ヤサガタ。ヤセガタ。

ほそつづみ (名) [細鼓] さしつづみ(腰鼓)ノ一名。つづみ(腰鼓)ノ條ヲ見ヨ。腰鼓、七三十七「拍子ニハほそつづみヲ用フ、ほそつづみトハ腰鼓ト云フモノ也、くれつづみトモ云フ」

ほそどの (名) [細殿] 宮殿ナドノ周ニ、人ノ通ルタメニ設ケタル細長キ屋。廊下。廊 倭名抄、十、居宅類[illegible]屋也 江家次第、十、[illegible]上卿以下[illegible]西細殿[illegible] 源、八、花宴「弘徽殿ノほそどのニ立ヨリ給ヘレバ」

ほそなが (名) [細長] (一)古ヘ、女子ノ褻ノ服ニテ、袿ニ似テ、大領ナキモノ。服飾漫語「細長モ、其ノモノハ二ツアリ、女ノ裝束ノ細長ハ、小袿ノ上ニ着ルモノニテ、小袿ノ如クニテ、オホクビノナキモノナリ」 源、廿四、胡蝶十四「撫子ノ細長ニ、此ノ頃ノ花ノ色ナル御小袿、アハヒケヂカウ今メキテ」同、三十二、梅枝五「紅梅ガサネノ、カラノほそなが添ヘタル女ノ裝束カヅケ給フ」 (二)古ヘ、官邊ノ童形ノ服。製、水干ノ如ク、後ニ襞襀アリ、頸閣ヨリ垂ルル菊綴アリ、男女兒童ノ用ヰルモノト云フ。後松日記、廿一、[illegible]細ニ說明見ユ」 宇津保物語、樓上、下五十「イヌミヤ白イ薄物ノ細長ニ、云云、タケハ三尺ノ几丁ニ足ラヌホトナリ」 源、廿[illegible]四十四「櫻ノほそ長ニ、ツヤヤカナル搔練取リソヘテハ、姬君ノ御料ナリ」 西宮記、臨時、[illegible]

ほそなか・し [illegible] 形、[illegible] 細長 細小ニシテ長シ。狹クシテ長シ。[illegible]

ほそなみ (名) [細波] 又、さざは。ささなみ。細波[illegible]

ほそぬの (名) [細布] 幅ノセマキ布。ケフノホソヌノ。けふ(狹布)ノ條ヲ見ヨ。基俊集、川上ニ、サラス細布、ケフダニモ、政アフバカリ[illegible]

ほそねだいこん (名) [細根大根] (一)[illegible]根ノ[illegible]指ノ如ク、長サ尺[illegible]細根。(二)もりぐちだいこん(守口大根)ノ一名。物類稱呼、三、生植「萊菔、ダイコン、ハダノ大根、相州波多野名產也、云云、京ニテ、ナガネ大根ト云、大坂天滿ニテ、ほそね大根トイフ、又宮ノ前ノ大根ト云、河內守口ニ[illegible]

ほそのを (名) [臍緖] 又、[illegible] 兒ノ胎ニアル時、臍ヨリ生ジテ胞ニ通ズル細長キ管、[illegible]母體ヨリ通ズ。コレヲ切ルヲ、「續ぐ」ト云ソ、忌ミテ[illegible] 臍帶 [illegible]

ほそびき (名) [細引] 細引繩ノ略。麻ニテ綯ヒ作レル細繩。[illegible]

ほそ-び・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 顰細引 ホソク肉ナドヲ、ウスクホソク切ル。ホソク引キキザム。ヒウ。(料理ニ、菜肉ナドニ云フ) 浮世風呂(文化、三馬)三編、上、「精進日ガ、荒和布ニ油揚ノ細引いタノガ二切レサ」

ほそ-びつ (名) 細櫃 細長キ櫃カト云フ。 枕草子、十、第三段「青朽葉、二藍ナドノ物トモオシ巻キツツ、ほそびつノ蓋ニ入レ」

ほそ-ぼそ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 細 至ッテホソシ。甚ダホソキ状ナリ。

ほそ-ぼそ-と (副) 細細 (ほそヲ重ネタル語) キハメテ細小ナル状ニ云フ語。 宇治拾遺、十二、第廿二條「釣殿ニ番ノモノ寝タリケレバ、夜中バカリニ、細細とアル手ニテ、コノ男ガ顔ヲ、ソトソトナデケリ」

ほそ-まゆ (名) 細眉 ホソキ眉。又、三日月狀ナル眉。ヤナギノマユ。柳眉 蛾眉 好色二代男(貞享、西鶴)三「振袖ヲ着テ細眉」

ほそ-み (名) 細刃 細身 刀ナドノ身ノホソキコト。又、ソノモノ。ホソキ刀身。 盛衰記、廿六、祇園女御事「忠盛ハ、云云、細身造ノ太刀帶テ、葦毛ノ馬ニゾ乗タリケル」

ほそ-みち (名) 細道 細小ナル道。又、セマキ道路。ホソヂ。狹路 夫木抄、廿一、路「フミワケテ、更ニヤコエン、ウツノ山、ウツロフ蔦ノ、岩ノほそみち」 堀河百首「山里ノ、マレノほそ道、アトタエテ、マサキノカヅラ、クル人モナシ」

ほそ-みづ (名) 細水 細小ナル流レ水。チヒサキ川。細流 夫木抄、廿六、水「下クグル、谷ノほそ水、ムスビアゲテ、岩ウツヨリモ、君ハツレナシ」 月詣集、七「フク風ニ、小萩ガ露ノ、散ルママニ、イデソヒニケル、谷ノ細みづ」

ほそ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 細 ホソクス。ホソメニス。ホソメル。 爲尹千首、戀「シノビツツ、車ヲヨスル、ツマ戸ロ、シバシほそめヨ、人モコソ見レ」

ほ-ぞん (名) 本尊 ほんぞん(本尊)ニ同ジ。 謠曲、鞍馬天狗「浮世ニ遠キ鞍馬寺、本尊ハ大悲多聞天」 賀古教信七墓廻(元祿、近松作)三「閻浮提金ト云フ金デ造、タ觀音、ほぞんノ内ニコメテ有」

ほ-ぞん (名) 保存 又、はうぞん。失ハヌヤウニ保ツコト。永ク保持スルコト。

ほぞんかけたか (感) 杜鵑ノ鳴ク聲ノ調ニ云フ語。(上方)テッペンカケタカ。(關東)不如歸去。 和漢三才圖會、四十三、林禽類「杜鵑、云云、季春鳴、聲、如曰本尊掛軸」 俳諧の發句(紹巴)「佛壇ニ、本尊かけたか、郭公」 吉野都女楠(正德、近松作)一「ヲヲ、ほぞんかけたる時鳥」

ほそ-め (名) 細海布 め(海布)ノ一種。細小ナル海布。 重修本草綱目啓蒙、十六、水草類「海帶、ホソメ、云云、奥州ニ産ズ、闊サ六七分、或ハ一寸許リ、厚クシテ昆布ノ如ク、味モ似タリ」 宇津保物語、藏開、下、三十九「納殿ヨリほそめ、サトメ、ムラサイノリナド出ダス」

ほそ-め (名) 細目 (一)目ヲホソク開キテ見ルコト。又、ソノ目。 狹衣、三、上、廿「細目明ケテ、首筋引キタテテ」 (二)狹ク。隙、少ク。(ほそみえノ約) 源、四十九、東屋、十「障子ノ、細目ニ開キタル」 古事談、六、亭宅諸道「歸參之時、障子ヲ細目ニアケテ、喚返シテ云」

ほそ-もの (名) 細物 さうめん(索麪)ノ女房詞。 禁裏女房詞「索麪ハ、ほそもの」 海人藻芥、下「内裏、仙洞ニハ、一切ノ食物ニ異名ヲ付テ被召事也、云云、索麪ハ、ほそもの」

ほそ-やか-な (副) 細 ほっそりシタル狀ニ云フ語。ホソキサマナリ。ほそらかな。 名義抄「細、ホソヤカナリ、ササヤカナリ」 落窪物語、二「火ノホノグラキニ、容體ほそやかなアテナリケレバ」 枕草子、五、第四十六段、なまめかしきもの「ほそやかなる清ゲナルキンダチノ直衣姿」

ほそ-や・く・ク・ケ・カ・キ・ク (自動、四) 細 ホソヤカニナル。ヤセテ、ホッソリスル。 源、四十八、寄生、四十六「ムカシヨリハ少シほそやきテ、アテニラウタゲナリ」 同、同、五十一「マロニウツクシク肥エ給ヘリシ人ノ、少シほそやきタルニ」

ほそ-らか-な (副) 細 ほそやかな(細)ニ同ジ。 枕草子、一、第廿八段、にげなきもの「ほそらかなるヲノコ、隨身ナド見エヌベキガ」

ほそり (名) 寛文年中ノ頃、流布セシ小唄ノ節。 吾妻めぐり、下「ワレラゴトキセンドウハ、オキニテウタフナウタノ、クガニハほそり、カタバチヲ、ウタハヌ人モナカリケリ」 小唄總まくり、寛文ノ小唄ほそり盡シ「ほそりノヤレデ、所ハ大和ノ壺坂、ソノフシナホスナ、ミノノタニグミ、オシャレバ、マ事ニナフ、扨ミノノタニグミ」

ほそ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 細 ホソクナル。痩ス。 榮花物語、四、不見果夢「水ヲノミ聞召シテ、イミジウほそらせ給ヘリ」 源、廿三、初音、「髪ノスソ、少シほそりテ」「食事、日ニほそる」

ほそろく-せり (名) 保曾路久勢利 (保曾路久樂ト勢利樂トノ併稱) 雅樂ノ曲ノ名。長保樂ノ、破拍子ノモノ。 口遊「保曾呂久世利(有舞)」 源、七、紅葉賀、十「ほそろくせりト云フモノハ、名ハニクケレド、面白ウ吹キスマシタマヘルニ、拍子アハセ、云云」 細流抄「長保樂ノ破也」 龍鳴抄、下「長保樂、破ヒャウシ十八、コレヲほそろせりト云フ」 樂家錄、廿八、樂曲調訓法「高麗曲、長保樂、千也字保曾呂久世利、云云、舊記曰、當曲破樂、鉄木別曲也、破謂保曾呂久世利、急謂加利夜須也、然長保樂中、以一曲稱之一曲、以云組號、各一曲名、云云」

ほそ-わた (名) 細腸 はらわた(腸)ノ條ヲ見ヨ。小腸

ほそ-ゐ (名) 細藺 藺ノ一種。高サ四五尺ニ及ブ、水田ニ植ヱ作リ、刈リテ疊表ヲ織ル。莖ハ絲狀ニシテ、葉、綠ニシテ黄ヲ帶ビ、稍、脆クシテ、さひげ(小髭)ニ及バズ、又、髓ヲ採リテ燈心トス、因リテ、とうしんぐさノ名モアリ、北國ニテハ、ゐがら(藺柄)ト云ヒ、細トシ、又、常ニ細ム。燈心草 東北院職人歌合、七番「刈リスカス、隅田ノほそゐ(一本、え)ノ、ウキヌナハ、クルシキモノヲ、下ノオモヒハ」

ほそ-をとこ (名) 細男 (才男ノ轉ジテ、宛テタル字ノ訓) 又、セイナウ。大和ノ春日若宮、山城ノ男山八幡宮、離宮八幡宮ノ祭禮、又ハ、京都ノ御靈會ナドニ出デテ、笛、鼓ノ藝能ヲスルモノ。舞フモノハ、覆面ヲ垂ル。 榮花物語、廿四、若枝「誰トモ知ラレタテマツラネバ、御靈會ノほそをとこノ手拭シテ、顔カクシタル心地スルニ」 春日大宮若宮御祭禮圖、下、セイナウ「細男六人、神樂舞巻ノ注、立烏帽子白張、二人坐シテ笛ヲ吹キ、二人覆面ヲ垂レ、腰ニ鼓ヲ付ケ、片手ニテ打チナカラ立出デテ、跡サマニ退キ坐ス、又、二人覆面ヲ垂レ、右ノ袖ヲ掩ヒテ立替リ、跡サマニ退ク」

ほ-た (名) 榾柮 (火立ノ意ニテ、焼ク故ノ名カト云フ、又、火枝ノ略カト云フ) 木ノ切端。薪トス。ホタグヒ。ソダ。 萬代集(寛文)十一、戀、三「大原ヤ、ほたタク賤ガ、爐炙、ウラヤマシクモ、濡レヌ袖カナ」 右京大夫集「ウラヤマシ、ほた切リクベテ、イカバカリ、御榻リカスラン、秋ノ山里」 永久四年百首、冬「伐リツミシ、ほたモカリセバ、冬深キ、片山里ニ、イカデ住ママシ」

ほ-だ (名) 穗田 稲ノ穗ノ、出揃ヒタル田。秋ノ稲穗ノ出デタル田。 萬葉集、八、三十六「秋ノ田ノ、穗田ヲ雁ガネ、クラヤミニ、夜ノホドロニモ、ナキワタルカモ」

ほだ (名) 絆 (ほだし(絆)ノ略) 刑具ノ名。足械ニ同ジ。かし(枷)ノ條ヲ見ヨ。 字鏡、十六「㭰、久佐利、又、止良布、又、保太」 牢獄秘錄、牢屋敷見廻「牢内名主非道ニシテ、云云、名主不法ニ究マル時ハ、牢内ニテ手錠、兩ほだニテ、

外ノ平ヘ本營ヘ申付ル也」

ほだ (名) 【捕拿】 〔だくゞく(拿獲)、及、だほ(拿捕)ノ條ヲ見ヨ。

ほだ (名) 【譽田】 〔ほむだ(譽田)ノ略〕 [illegible] とも(鞆)ノ古名。(下ノ出典ヲ見ヨ) [illegible] 古事記傳、三十「此ハ謂二大鞆別[illegible]トノ譯リタル傳ナリ、云云、上代ヨリ鞆ハ譽田トノミコソ云レ、サラニ褒武多ト云シコトハ無キヲヤ」

ほたあし (名) 病ニテ、足ノ太ク、ボタボタトナレルモノ。

ホタイ (名) 【海】 〔百濟語、今、朝鮮語、ぱたこ〕うみ(海)ニ同ジ。 [illegible] ヲわたト云フハ、韓地ノ方言ト見エケリ、日本紀ニ海ヲほたいト云フハ、百濟ノ方言ナリ、今モ朝鮮ノ俗、ぱたひト云フナリ」

ボダイ (名) 【菩提】 〔梵語、Bodhi. 正シクハ、菩提ナリ、舊ニ道、新ニ智、又ハ、覺ト譯ス〕 煩惱ヲ斷シテ、涅槃ヲ證スルコト。佛道ニ覺リ入ルコト。佛果ヲ得テ、淨土ニ往生スルコト。止觀、一「菩提者、天竺音也、此方稱道」 [illegible] 之名也」 [illegible] 斯ク見許スカモアラメ、ナホ京ヘ出デ給ヘ、カカルモノニ害セラレヌル人ハ、菩提モ取リガタキモノナリ」 蜻蛉日記、中、中「心ユルミナクウシト思ヒツルヲ、カク遂マシクナリヌ、トク死ナサセ給ヒテ、ほだいカナヘ給ヘ」 [illegible] 菩提を弔ふトハ、死後ノ冥福ヲ祈ルヲ云フ。

ボダイこう (名) 【菩提講】 佛教ノ語。極樂淨土ニ往生セムコトヲ求ムレタメニ、法華經ヲ講シ讀ク法會。 [illegible]

ボダイごゑ (名) 【菩提聲】 念佛スル聲。 [illegible] 「[illegible]ノ菩提聲モ、アヤニクナルマデキコエタリ」

ボダイし (名) 【菩提子】 〔西藏語、Bodhi(ci)〕 菩提樹ノ實ト云フハ非ナリ。菩提樹ノ實ハ、無花果ノ實ノ如クニシテ、數珠ヲ作ルベカラズ。實ハ、おだだま(川穀)ノ實ナリ、主トシテ數珠ニ作ル故ニ名トスト。ボダイズ。 [illegible] 世俗ノ菩提子ト稱スル物多シ、モクレンジモほだいしト云、無患子、薏苡モ同ジ、何レモ菩提樹ニハアラズ、云云、 [illegible] 「ほだいしノ數珠」 太平記、[illegible] 子ヲ[illegible]、菩提子ノ念珠爪繰リテ申シケルハ」

ボダイじ (名) 【菩提寺】 代代、菩提所トスル寺。檀那寺。香花院。 [illegible]

ボダイしん (名) 【菩提心】 佛教ノ語。佛道ニ入リテ、菩提ヲ求ムル心。即チ、正覺ヲ求ムル心。 [illegible] 信二因果二」 大智度論、四十一「菩薩初發心、緣二無上道、我當作佛、是名二菩提心二」 [illegible] 發起、菩提心ナルベシ」

ボダイじゅ (名) 【菩提樹】 〔梵語、Bodhidruma. 又、Bodhivṛkṣa. ト云フ、道樹、又ハ、覺樹トモ譯ス〕 (一)佛經ニ、[illegible]天竺ナル大樹ノ名。[illegible] 正覺ヲ成ジス、故ニ名トス。[illegible]ナルニ、涅槃ノ日、葉、皆凋ミ、暫クシテ、[illegible]セリト云フ。今ノ[illegible]ハ、菩提樹ヲ分チテ二トナス。一ハ、桑科ノ喬木ニシテ東印度ノ産、[illegible] 高サ十丈許ノ、葉ハ平滑、鮮緑色、稍、卵圓形ヲナシ、枝上ニ互生ス。花ハ單性ニシテ隱頭花序ヲナシ、果實ハ球形ニシテ、無花果ノ實ニ似ル。是レ所謂、佛經ノ菩提樹ナリ。其二ハ、田麻科ノ落葉喬木ニシテ、庭園ナドニ栽培セラル。莖ハ直立シ、高サ五丈ニ及ブ。葉ハ心臟形、又ハ、廣三角形ニシテ、桑ノ葉ニ似、上面ハ平滑緑色ニシテ、下面ニハ灰白色ノ細毛アリ、六七月頃、花ヲ開ク。花ハ黄褐色ヲ帶ビ、總狀花序ニ排列シ、球形ノ堅果ヲ結ブ。是レ即チ榮西ノ將來セシ菩提樹ナリト。ボダイズ。 [illegible] 之最初也」 (二)ぼなのき(科木)ニ同ジ。

ボダイしょ (名) 【菩提所】 代代、歸依シテ、一族ノ死者ヲ葬リ、無上菩提ヲ得シムルヲ託スル寺ノ稱。元ト[illegible]手ニテ建立シタルヲ云ヘリ[illegible] 香花院。 [illegible] 院、慈照院ナド云事アリ、何レモ其人ノ存生ノ時、位高官ノ人ノスル事也、後世ニ及テハ、菩提所ヲモ建立セズシテ、院號ヲ付ル事ニナリタリ」

ボダイぞ [illegible] (一)[illegible](菩提樹)ニ同ジ。(二)ぼだいし(菩提子)ニ同ジ。 落窪物語、三「黄金ノ數珠ニ、ほだいぞノみヲナン入レサセ給ヒ、云云」 元輔集 筑紫ニテ、大貳ノ、菩提ぞ奉リアゲラルルニ」

ボダイもん (名) 【菩提門】 (一)佛教ノ語。菩提ニ入ル門。 [illegible] 作)三「夕月ニ、門ノ戸サット押開キ、作フ[illegible] [illegible] (二)葬場ノ四門ノ一。其西方ノ門ヲ云フ。

ほたう (名) 【逋逃】 ノガレ、ニゲルコト。ニゲ、カクルルコト。逋逃スルコト。又、ソノモノ。 [illegible]

ほたう (名) 【歩道】 [illegible](人道)ノ(三)ニ同ジ。

ほだう (名) 【輔導】 タスケ、ミチビクコト。又、ソノ役ノ人。 漢書、敍傳「武陽殷勤、輔導副君、(既忠且誠)」 南史、孔奐傳「選二敦重之士一[illegible]」

ほだう (名) 【母堂】 母ノ敬稱。母君。母御。母御前。萱堂 北堂

ほた・える (動) [illegible] フザケ戯ハムル。アマエル。(童子ナド) 和訓栞「ザレタハムルヲ、上方ニテほたえるト云フ」 [illegible]

跡ヘオ千代ヲ呼ビ入レ、留守ノ間デ、ほたえサス事ハ、ナリマセヌ」

ほたき（名）〔火焚〕古ヘ、陰曆、十一月ノ祭事。陽氣ヲ迎フルタメトテ、火ヲ焚キテ行フ。 基佐集「過ギガテニ、道ユク臨ノ、辻ヤシロ、ほたきイサムル、森ノ木枯」

ほたく・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）〔嘷嘐〕ホコリカニモノ云フ。自慢ラシク語ル。 名義抄「嫯、ホタク、ムサボル」 天治字鏡、十一五「嘐、高語也、伊豆波留、又、阿生乎久、又、保太支太云」 孝德紀、大化三年十二月「新羅、遣ニ上臣大阿飡金春秋等ニ、云云、春秋美ニ姿顏ニ、善ニ談ホタキコトス咲ニ」

ほたぐひ（名）〔爐〕もえぐひ（燃杙）ノ條ヲ見ヨ。 字鏡六「爐、火作木也、保太久比」 神代紀、下九「自ニ火爐中ニ出來、就而稱之曰、云云」

ほださ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（受身相、動）〔被絆〕（一）ツナガルル。束縛セラル。 類聚三代格、五、安藝前解由事「去、任之日、爲ニ絆ニ前事ニ、云云」（二）ツキマトハル。又、人情ニカラマル。 伊勢物語、第六十五段「カカル君ニ仕ウマツラデ、宿世ツタナク悲シキコト、コノ男ニほだされテトテナン、泣キケル」 夫木抄、二十八、[illegible]「子ヲ思フ、心バカリニ、ほだされテ、ウキヨヲナホゾ、出デガテニスル」

ほだし（名）〔絆〕〔ふもだしノ約ト云フ〕（一）ホダスモノ。馬ノ足ニ縛ヒテ、歩ムコト能ハザラシムル綱ナド。 倭名抄、十五、鞍馬具「絆、保太之」 名義抄「絆、ホタシ」 字鏡二十「絆、保太之」 同七十九「羈、保太之」 天治字鏡、十二「絆、馬前足波志利、保太之」（二）物事ニ繋ガレテ、身ノ自由ナラヌコト。アシテマトヒ。キヅナ。 古今集、十八、雜、下「世ノ憂メ、見エヌ山路ヘ、入ランニハ、思フ人コソ、ほだしナリケレ」 同、同「哀レテフ、コトコソウタテ、世ノ中ヲ、思ヒハナレヌ、ほだしナリケレ」「妻子ノほだし」

ほたおり（名）〔保多織〕縞織ノ綿布ノ一種。讃岐國ノ産。綿絲ヲ用キテ市松、風ニ織リ、夏ノ衣服用トス。元祿年間、高松藩主松平賴重、京都ヨリ北川伊兵衛常吉ト云フモノヲ呼ビ寄セ、初メテ織ラシメシモノト云フ。一名、保多織。

ほだ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔絆〕足ヲ繋ギテ止ム。引キ止ム。 名義抄「絆、ホダス、繫、ホダス」 字鏡八十「瑣、鏁、保太（須）」 天治字鏡、六十「瑣、鏁、保太須」 下學集、上、形門「果下、小馬之異名也、云云、宋人荊公句云、呼ニ童ホダサム我果下騮ニ」

ほたずみ（名）〔榾炭　榾柮炭〕かっくひずみ（刈杙炭）ニ同ジ。

ほだち（名）〔穗立〕稻ノ穗ノ出方。 萬葉集、八四十「雲ガクリ、ナクナル雁ノ、ユキテ居ム、秋田ノ穗立、シゲクシ思ホユ」

ほだつ（名）〔逋脫〕（一）ノガレ、マヌカルルコト。（二）租稅ヲ納メズニアルコト。脫稅。逋稅

ほたで（名）〔穗蓼〕蓼ノ穗ノ出デタルモノ。 萬葉集、十一三十九「吾ガ宿ノ、穗蓼フルカラ、ツミオホシ、實ニナルマデニ、君ヲシ待タム」

ほたてがひ（名）〔帆立貝〕介ノ名。北海ニ産ズ。殼ノ表ニ、堅ニ廣キ溝アリ、表ハ黃白ニシテ、內ハ白シ、殼ノ一片ハ窪ミ、一片ハ平タクシテ、蓋ノ如シ。水ニ浮ビテ行ク時、窪キ殼ヲ舟ノ如クシ、平タキ殼ヲ帆ノ如ク立テテ、風ニ乘ジテ走ル。肉、食フベシ。殼ノ大ナルハ、鍋ニ代ヘ、小サキハ、杓ノ頭トス。ホカヒ。海扇 易林節用集（慶長）上、氣形門「帆立貝」 本朝食鑑、十、介「帆立蛤、訓如ニ字、或稱ニ伊多良加比ニ、云云、帆立者、海中之大蛤也、大者長五六寸至ニ一二尺ニ、闊、三寸至ニ尺許ニ、厚二三分至ニ一二寸ニ、云云」 東雅、十九、鱗介「海蛤、云云、イタヤガヒト云フモノハ、云云、又俗ニほたてがひトモ、シャクシガヒトモイフナリ、云云、スベテ其形ノ摺扇ヲ開キシニ似タレバ、海扇トハイヒシナルヘシ」

ほだ・てる・テル・テレ・テ・テ・テヨ（他動、下一）〔撥〕〔秀ニ立ツノ義カ〕搔キマズ。 [illegible]「[illegible]ノ池ノ澱ヲ、ほだてる、塵ヲ、ほだてる」

ほたのかりば（句）穗ニ出デタルヲ刈ル庭ニ云フ語。 萬葉集、四十七「秋ノ田ノ、穗田ノ刈婆、カヨリアハバ、ソコモカ人ノ、吾ヲコトナサム」

ほたはたき（名）掏摸ノ、人ノ袂ノ內ノ物ヲ、スリトルコト。

ほだはら（名）〔穗俵〕〔實ノ形ニ因リテ名アリ〕古名、ナノリソ。ナナリソ。海藻ノ名。長サ三四尺、莖、ホソク、枝、多クシテ、細小ナル葉、互生ス。一分餘ノ圓キ實着ケリ、中、空シクシテ、魚胞ノ如シ。莖、葉、生ナルハ黑クシテ、煮レバ綠ナリ、食フベシ。冬、コレヲ採リ、乾シテ、わらさべニテ、一握許リニ折リ卷キテ束ネ、米俵ノ形ニ作リ、春盤ノ祝具トス。音便ニ、ホンダハラ。一名、神馬藻。〔馬尾藻〕 宜禁本草、乾、五十「馬尾藻、[illegible]、黑如ニ亂髮ニ、[illegible]小都似ニ薄葉ニ、生ニ淺水ニ」 本朝食鑑、[illegible]「[illegible]、莫、病藻、今訓ニ保年多和羅ニ、云云、或稱ニ保多和良ニ、或作ニ穗俵ニ、又作ニ本俵ニ、云云、以供ニ年始之祝膳ニ、稱ニ蓬萊飾之具ニ也、云云」 好色一代男（貞享、西鶴）一「藻シダ、ほだはらト飾リシモ、云云」

ほたび（名）〔榾柮火〕ホタヲ焚キタル火。 俳諧新選、冬「佛トモ、下駄トモナラデ、榾火カナ」

ほた・へる（動）ほたえるノ誤。大坂ノ方言。 心中天網島（享保、近松作）上「才前ハ、何處ゾ他デ遊ンデ下サンセト、イヘドモほたへタ爲付ニテ」

ほたほた（副）柔軟ナル重キ物ノ、續續ト落チテ發スル音ニ云フ語。 俳諧新選、春「ほたほたト、[illegible]、椿カナ」

ぼたぼた（副）（一）水ナドノ滴ル狀ニ云フ語。ボタボタ。（二）體ノ肥エタル狀ニ云フ語。デブデブ。ボッテリ。

ぽたぽた（副）前條ノ語ノ（一）ニ同ジ。

ほたん（名）〔補綻〕破レタルヲ縫ヒ綴ルコト。 杜甫、詩「牀前兩少女、補綻才過膝」 [illegible]「敝衣還補綻、[illegible]」

ぼたん（名）〔牡丹〕（一）〔灌木ノ名。本草ニ云ヘルハ、古名、ヤマタチバナ。フカミグサ。卽チ、今ノ、ヤブカウジ。園西ニ、ヤブタチバナ。（此草、深ク林叢中ニ生ジ、葉、實、冬ヲ凌グ、故ニ、深ミ草、山橘ノ名アリ。次ナル木芍藥ヲ、專ラふかみぐさト云フハ、誤レリ）〔百兩金〕 倭名抄、十、草類「本草云、牡丹、一名鼠姑、云云、本草和名云、一名、也末多知波奈、百兩金、云云、苗似ニ羊桃ニ、夏生ニ白花ニ、秋實圓綠、冬實赤色、凌ニ冬不ニ凋、根似ニ芍藥ニ、肉白皮丹、出ニ[illegible]南ニ、土人謂ニ之牡丹ニ、亦名ニ百兩金ニ、云云、京師、[illegible]俗、所ニ呼牡丹[illegible]、所ニ呼爲ニ紅子ニ也」（二）又、毛莨科ノ灌木ノ名。高サ二三尺、春、葉ヲ生ジ、夏ノ初、花ヲ開ク、花ノ徑、六七寸ニ至ル、重瓣、單瓣、紅、白、紫等、形、色、種類、甚ダ多シ。人家ニ培養シテ、花ヲ賞ス。花中ノ最モ艷ナルモノナレバ、花王ノ稱アリ。（支那ニハ、胡國ヨリ傳ヘシモノカ、日本ニハ、支那ヨリ渡來セシモノナリ）音便ニ延ベテ、ボウタン。又、ハツカグサ。ナトリグサ。富貴草。富貴花。木芍藥。 劉禹錫、牡丹詩「唯有ニ牡丹眞國色ニ、花開時節動ニ京城ニ」 舒元輿、牡丹賦、序「天后之鄉西河也、精舍下有ニ牡丹ニ、其花特異、天后歎ニ上苑之有ニ闕、因命移植焉、由ニ此京國牡丹、日日寢盛、云云」 倭名抄、十、草類「牡丹、云云、蘇頌本草圖經曰、牡丹、花

[illegible]、牡丹ノ[illegible]二十八段、[illegible]……字類抄「牡丹、ボタン」枕草子、七、第六十八段「露臺ニ植エラレタリケルぼうたんノ、唐メキヲカシキ事ナド」……[illegible]中ニ、ぼったん草、云云、花散リハテテ立テルヲ」今鏡、六、藤波、下「菊ヤ牡丹ナド、メデタク大キニ作リタテテ好ミモチ、云云」(三)襖ノ色目ノ名。表ハ白、裏ハ紅梅。又、表ハ薄蘇芳、裏ハ白。(女房ノ衣ニ)(四)猪肉ノ隱語。(江戸ニテ、獸肉ヲ食フヲ忌ミシ頃ノ語)　文化の川柳「冬牡丹、……カノ、……分ケナリ」……じやノ……猪肉、云云、是ヲ食フコトヲ屑シトセズ、然レトモ、嗜モノ牡丹ト呼ビテ之ヲ喫ス」

ボタン (名) 紐釦 釦鈕　〔葡萄牙語、Botão. 西班牙語、Boton. こうちう(釦鈕)ノ語原ヲモ見ヨ〕(一)ちよつ、洋服、其他、衣ノ緣ナドニ着クル小サキ珠ナドノ稱。他ノ緣ノ穴ニ繫ケトドム。金屬、貝、骨、角、ナドニテ造ル。(二)こはぜ[illegible]ノ異稱。其條ヲ見ヨ。[illegible]……ナドノ端ニ、ぼたんト云フ物アリ[illegible]……語(明懸)二「歐剌ノ瑠皮ニ、ぼたんヲ入レ」(此頃ノ足袋ハ[illegible]……ぼたんニハ、鞣ヲ用ヰル、袖頭巾」「ぼたんガケ」

ボタン-がけ (名) 紐釦掛　紐ナドニ、一方ニ附ケタルこはぜニ、一方ノわなヲ作リテ、ハメテ止ムルモノ。(羽織ノ紐ノ左右ノ端ナド)　俚言集覽「ぼたんがけ、釦掛、モモ引ナトニツクル器」[illegible]……代男、大和、西鶴)四「足袋ハ白綸子ニ紅ヲツケ、ぼたん懸ニシテ」

ぼたん-きやう (名) 牡丹杏　あめんどう(巴旦杏)ノ一種。果實ノ大ナルモノ。

ぼたん-ざくら (名) 牡丹櫻　櫻ノ一種。花瓣ノ、牡丹ノ如ク、數枚重レルモノ。ヤヘザクラ　[illegible]……有、大リン、八重、ククリサガル」

ぼたん-づる (名) 牡丹蔓　毛茛科ノ多年生蔓草ノ名。原野ニアリ、春、舊根ヨリ生ズ。[illegible]ハ、略、牡丹ノ葉ニ似テ、夏秋ノ間、穗ヲ成シ、四瓣ノ花ヲ開ク、色、白シ。或ハ、淡紫碧色ナルモアリ、花、莟、重ル。一名、ツリガネサウ。ツリガネニンジン。女萎　重修本草綱目啓蒙、十五、蔓草類、女萎、ぼたんづる、云云、夏秋ノ間、花ヲ開キ穗ヲ成ス、白色、ノ[illegible]ナルモノアリ、皆四出ニシテ下垂ス、俗ニ、ツリカネサウト呼ブ、集解、……白頭翁トスト云爲是ナリ」……宗啓蒙四十二冊、云云、女萎四斤」

ぼたん-な (名) 牡丹菜　はぼたん(葉牡丹)ニ同ジ。

ぼたん-にんじん (名) 牡丹人參　古言、ヤマナスビ。繖形科ノ多年生草本ノ名。葉ハ牡丹ノ葉ニ似テ小サク、白粉ヲカケタルガ如シ。初ハ數簡叢生ス。三年ノモノハ、[illegible]ヲ出スコト三四尺、葉互生シ、葉間ニ枝ヲ生シ、夏、枝梢毎ニ小白花ヲ開キ、傘狀ヲナス。實ハ大葉川芎ノ如シ。昔ハ官許ヲ得テ、嫩根ヲ以テ藥ニ製シ、和人參ニ充テテ賣レリ、故ニ、御免人參ノ名モアリ。ボタンパウフウ。防葵

ぼたん-ばう (名) 牡丹芳　(一)舞樂ノ曲ノ名。　謠曲、石橋「獅子團亂旋ノ舞樂ノ砌、云云、牡丹芳、牡丹芳」(二)牡丹ノ花。白居易、新樂府、牡丹芳、牡丹芳、黃金蕊綻紅玉房、千片赤英霞爛爛、百枝絳艷燈煌煌」(艷、神田本、作焰)

ぼたん-ばうふう (名) 牡丹防風　ぼたんにんじん(牡丹人參)ニ同ジ。

ぼたん-ゆき (名) 牡丹雪　[illegible]降ルモノ、[illegible]テ綿ノ如ク、牡丹ノ花瓣ノ如クナリテ、[illegible]ニテ、[illegible]、又、はたもちゆきト云フ。ワタバウシユキ。

ぼた-もち (名) 牡丹餅　〔赤小豆ヲマブシテ、マロメタル[illegible]、牡丹ノ花ニ[illegible]名ナリ〕(一)粳米ト糯米トヲ交ヘテ炊ギ、粗ク搗キタル飯ヲマロメテ、餡、又ハ、きなこヲマブシタルモノ。春ナルヲ牡丹餅(糯ヲ主トス)ト云ヒ、秋ナルヲ萩の餅(粳ヲ主トス)ト云フ。　本朝世事談綺、一、飲食「ぼたもちハ、ムカシハ、ハナハダ賤ナルモノナレドモ、云云、牡丹ノ形ニ似タルヨリ、牡丹餅ト名付、又、萩の花、かいもち　モイフ、物類稱呼、四、衣食「牡丹餅、ぼたもち、又、ハギノハナ、又、オハギト云フハ、女ノ詞ナリ、云云、ぼた餅トハ牡丹ニ似タルノ名ニシテ、中略ナリトゾ」　當流太平記(元祿)二、「牡丹餅ノヤウナル顏ヲ、又、カトモチノ如キカオイ事ヲマゼ」(二)女ノ顏ノ、圓クシテ大キク、醜キコト。　明和の川柳「ぼたもちト、ヌカシタト下女、イキドホリ」文化の川柳「ぼたもちニ、出來タデ親ノ、[illegible]ナリ」……ぼたもち面

ぼたもち-あふひ (名) 牡丹餅葵　德川氏ノ葵ノ紋ヲ、染メタル服ノ紋ノ、形ノ大ナルモノノ稱。是レ通常、賜ハル紋服ナリ。其紋ノ形、小サキヲ、御召御紋ト云ヒ、老中、其他ノ近臣ニ賜ハル。コレヲ賜ハリシモノハ、其孫マデ、三代、用キルヲ許サルル制ナリキ。

ほた・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(自動、下二)　フザケル。タハムル。オドケル。ザレル。

[illegible]アマエル。　新撰字鏡「はたゆ、俗語ナリ、はたえる[illegible]……リヤンはたゆるナト、又、引ッカツイテ投ゲタガノ」女殺油地獄(享保、近松作)中「アンダメラニハ、鉢一ツ借テズはたえサセ、此事ニ邪魔ガ億身ノ仇」

ぼた-ゆき (名) 又、ぼたんゆき。大片ノ雪ノ稱。(綿雪)　[illegible]……

ほ-だり (名) 秀樽　〔秀ハ大キナル義、樽ハ垂ニテ、酒ノ垂リ出ヅル意ナリト云ノ〕、倭名抄ニ樽ト云ヒ、後世、酒ノ瓶ヘヲ入ル器ノ、[illegible]、此器ノ樽ナリト云ノ」[illegible]ヲ入レテ、杯ニ注グニ用ヰシ器ナリ。[illegible]說文、注、酒器トモ見え、[illegible]銚子ノ如キモノ。　古事記、下　[illegible]ソソグ、オミノ少女、[illegible]カタクトラセ、[illegible]ヤカタクトラセ、[illegible]斗良須古、コハ字鼓試也」

ぽたり (副)　ぽたりニ同ジ。

ほ-たる (名) 螢　〔火垂ノ轉、或ハ云フ、火照ノ轉ト〕翅鞘類ノ蟲ノ名。水邊ニ生ズ、體、長サ三分許、頭ト背トハ赤クシテ、中央ハ黑ク、其大ナルヲ宇治螢、源氏螢ナドト云ヒ、小ナルヲ螢、平家螢ナドト云ノ、[illegible]生後、[illegible]程ヲ産卵シテ死シ、卵ハ水邊ノ地上ニ産ミツケラレ、[illegible]テ幼蟲トナリ、蛹、[illegible]地中ニヒソミ、來年ノ初夏ニ至リ、成蟲トナリテ飛ブ。尾節ニ灰黃色ノ發光器アリ、黃ナル芥子粒ノ如キモノアリテ、呼吸ノ空氣ヲレニ觸ルレバ、空氣酸化シテ青色ノ燐光ヲ放ツ。[illegible]、ほたる、ナツムシ。　倭名抄、十九、蟲豸部、蟲、保太流」本草和名、下廿「螢火、保多留」字鏡「瑩、燿、保

太留」同六十「蛍、螢、保太留」大同類聚方、十一「保多利、一名比[illegible]、云云、五月、河、[illegible]、夜中有光」神代[illegible]ニ、ド[illegible]火光[illegible]（ホタルビノカガヤクカミ）[illegible]「[illegible]ス、[illegible]聞キテ」竹取物語「光ヤアルトミルニ、螢バカリノ光ダニナシ」源、[illegible]、[illegible]シゲク[illegible]ヒテマガヒテ、[illegible]ガシキ程ナリ」[illegible]夜[illegible]ラス、[illegible]ノ[illegible]、アツメ、モ、見ヌヨノ書[illegible]、[illegible]

ほたる-いか（名）[illegible]、烏賊ノ類。越中國、富山、魚津、及、滑川沿海ニ多シ。形、常ノ烏賊ノ如ク、長サ二寸許リ、全身[illegible]、[illegible]行シテ、[illegible]光ヲ放ツ、[illegible]ニ卵ヲモテル雌ハ、全身ヨリ強烈ナル光ヲ發ス。捕リテ食料トシ、又、肥料トス。近年、學者ノ唱道ニテ、[illegible]沖ニモアレド、時ト場所ト一定セズト。一名、マツイカ。

ほたる-いし（名）螢石　鑛物ノ名　成分ハ弗化カルシウム、結晶ハ六面體、又ハ、八面體ニシテ、或ハ塊ヲナシ、或ハ粉トナリ、瑠璃トシテ、緑色、紫[illegible]、淡紅等、種種ナリ。火ニ入ルレバ、燐ヲ現ハス、故ニ名トス。[illegible]ノ[illegible]トシテ必要ナリ。又、弗酸ヲ作ルニ用ヰラル。[illegible]「[illegible]石、[illegible]、火中ニ投スレバ、[illegible]」

ほたる-かご（名）螢籠　木[illegible]、或ハ、両物ニ紗ヲ張レルモノ。螢ヲ畜ヒテ玩トス。

ほたる-がせん（名）螢合戰　多クノ螢ノ、芒種ノ頃ヨリ小暑ノ頃マデ、空ニ舞ヒアガリ、水ノ上ニ落チ散ジナドスルコト。宇治ノ螢合戰、名アリ。狂[illegible]、[illegible]合戰、卯月ノ[illegible]ツカタ、ココ（宇治）ハ螢ノ集リ、エナラ[illegible]、[illegible]、世ニ云フ、[illegible]ニテ、今モ聚スル有サマトテ、夜ニ入ヌレバ、數十萬ノホタル、川面ニムラカリ、云云　[illegible]ニマヒアガリ、トバカリ有テ、水ノ上ニハタト落テ、ハラハラトトケテナカレ行コト、[illegible]ムラトモ限リナシ」

ほたる-がひ（名）螢貝　螺ノ類。形ハ紡[illegible]形ニテ、長サ六分許リ、外ハ黒クシテ粗ク、内ニ光アルコト、鮑ノ如シ。大イサ四五分、本邦ノ太平洋沿岸ニ産ズ。

ほたる-がり（名）螢狩　水邊ナドニ出デテ、螢ヲ尋ネテ捕ルコト。[illegible]日記（天保、近[illegible]）宿屋、一トセ宇治ノ[illegible]ニ」

ほたる-ぐさ（名）螢草　つゆくさ（露草）ノ一名。物類稱呼、三、生植「鴨跖艸、アヲバナ、ツキクサ、[illegible]クサ、ウツ[illegible]バナ、[illegible]ニ、アヲバナ、又、ツユクサト云、江戸ニテ、ツユクサ、云云、土佐ニテ、カマヅカ、又、ほたるぐさトイフ」

ほたる-さう（名）螢草　[illegible]形科ノ多年生草本　柴胡ノ一種、大葉ノモノ、葉ノ形、ぎばうしゅニ似テ小サク、背、白粉ヲ帶ブルガ如シ、秋、莖ヲ立ツルコト、五六尺、梢ニ花ヲ開ク。花、實、共ニ柴胡ニ同ジ。南柴胡　重修本草綱目啓蒙、八、山草[illegible]、云云、[illegible]、白川山、[illegible]葉ナルモノ、[illegible]アリ、大柴胡ト呼、又ほたるさう（同名アリ）トモ云フ、云云、[illegible]六七尺、枝ノ[illegible]コトニ花ヲ開ク」

ほたる-たで（名）螢蓼　いぬたで（犬蓼）ノ一名。おほけたで（大毛蓼）ノ條ヲ見ヨ。重修本草綱目啓蒙、十二、隰草類「葒草、オホケタデ、イヌタデ、ほたるたで」

ほたる-び（名）螢火　（一）けいくわ（螢火）ノ文字讀。字類抄「螢火」四季物語「ほたる火ノ、カカヤク影ニ」[illegible]、ウツレル[illegible]ト、ほたる火ト、イヅレワケエ[illegible]ト見エケリ」今物語「御局ノヤリ水ニ、螢ノオホクスダキケルヲ見テ、サキニタチタル女房ノ、螢火（ホタルビ）ミダレトビテト、ウチナ[illegible]メタルニ、[illegible]レハ、[illegible]ノ[illegible]螢火（ホタルビ）」（二）消エ殘リタル小サキ埋火。

ほたる-ぶくろ（名）山小菜　つりがねさう（鐘草）ニ同ジ。其條ノ（一）ヲ見ヨ。

ほだれ（名）つらら（氷柱）ノ稱。（近江、攻、西國）物類稱呼、一、天[illegible]、氷柱、ツララ、又ルヒ、云云、西國及近江ニテ、ほだれト云フ、[illegible]「ほだれ、北近江ニハ、ツララヲほたれトイフ、穂垂ノ義ニヤ、西國モ同ジ」

ほだれ-くび（名）穂垂首　〔切口ヨリ滴ル血ノ[illegible]〕穂ノ如ク肉ナド垂レタル首ノ意カ〕戰場ニテ、討取リタル敵ノ首ノ切口ヨリ、肉ナドノ出デテ見苦シキモノ、大將ノ首實檢ニ供ヘズト云フ。[illegible]雜[illegible]、二「ほだれ首トハ、首ノキリクチヨリ鵬ナドノ出テ見グルシキヲ云フ、カカ[illegible]ハ、實ノ實[illegible]ニモ備ヘザル[illegible]ナリ、[illegible]ノ[illegible]ノ如クワタノサカリタル[illegible]ニ、[illegible]首ト云ニヤ、[illegible]記、[illegible]首ヲ[illegible]、[illegible]ル故ニほだれ首ト[illegible]」

ほだれ-ぼし（名）穂垂星　[illegible]年ノ[illegible]祥トシテ現ハルル星。慧星ノ一種ナルベシ。[illegible]記、廿[illegible]、天慶四年[illegible]月[illegible]、其光如[illegible]、木[illegible]、云云、其[illegible]、其[illegible]十六、天下[illegible]」

ほたろ（名）螢　〔かへる、かはづ、ノ類〕ほたる（螢）ノ訛。重修本草綱目啓蒙、廿八、化生蟲「[illegible]火、ホタロ（京）、ホウタロ、[illegible]、ホウタレ（越前）」[illegible]、八、[illegible]、時[illegible]、[illegible]一種トスルモノハ、云云、今ホタルヘ　ほたろト呼ナリ、むしほたろハ[illegible]ノ頭ナリ、うしほたろハ土ニ生ル[illegible]ノ類ニシテ、物各異リ」千載集、三、夏「アハレニモ、[illegible]ニ見ユル、ほたろカナ、[illegible]、コノヨト思フニ」

ほち（名）發意　ほっち（發意）ノ略。ほつい（發意）ノ條ヲ見ヨ。

ほち（名）保持　はうぢ（保持）ニ同ジ。

ほち（名）ぞくり（徳利）ノ稱。（下總）物類稱呼、四、[illegible]、[illegible]ニテ、ほちトイフ、コノ國ニテ、[illegible]ほちトト云フ」

ぼち（名）墓地　はかどころ（墓所）ニ同ジ。周禮、春官篇、墓大夫「凡[illegible]墓地ノ[illegible]、[illegible]、其[illegible]、[illegible]、[illegible]、二月丁巳[illegible]、[illegible]町[illegible]」

ぽち（名）點　又、ぼっち。小サキ點。チョボ、ホシ、テン。

ぽち（名）[illegible]、又ハ、[illegible]女ナドニ與フル祝儀。ハナ。チップ。纏頭「ぽち袋」

ぽち-ぽち（副）（一）少シヅツ行ク状ニ云フ語。徐徐。（二）ちょぼちょぼニ同ジ。浮世風呂（文化、三馬）二編、下「コレハ鼈甲サ、ココノ所ニ、ぽちぽちほちト、斑ガアルノサ」

ぽちぽち（副）[illegible]ニ、細ク[illegible]ル状ニ云フ語。（二）水滴ナドノ垂ルル状ニ云フ語。ポツポツ。ポツリポツリ。點點。

ほちやう（名）保長　古ヘ、五家（五人組）ノ長。戸令「凡戸皆五家相保、一人爲長」類[illegible]代格、十六、貞觀四年[illegible]月十九日「[illegible]位已上、以[illegible]同[illegible]保長[illegible]」

ほちや-ほちやと（副）フクヤカニ、ムックリシタル状ニ云フ語　[illegible]ほちゃほちゃと、雪ニクルマル、在所カナ」

ぽちや-ぽちや（副）（一）水ヲカキマゼル状ニ云フ語　サブサブ、ザンブザンブ、ジャブジャブ、ボチャボチャ　浮世風呂（文化、三馬）三編、下「ジットシテ、這入ッテお出デヨ、ぽちゃぽちゃヲスルト、ダブダブガハネマス」（二）愛嬌ニ人ヲモテナス状ニ云フ語。耳底記（慶長、烏丸光廣）「[illegible]、[illegible]ヲウレシク思ヒ侍テマカレバ、イカニモぽちゃぽちゃトアヒシラハレシナリ、[illegible]也、[illegible]也」

ぽち-ぽち（副）前條ノ（一）ニ同ジ。

ほちん-と (副) 物ナドノ水ニ落ツ[illegible]云フ語。(稍リ強ク、高カラヌニ)

ほ-づ (名) 〔火噴ノ義カト云フ、火ハ血ノ[illegible]〕[illegible]

ほ-づ (名) 〔秀出づノ略〕 ひづ(秀)ニ同ジ。

ぼつ [illegible] 同ノ[illegible] 堂宇ノ上ニ[illegible]

ほつ-い (名) 發意 〔ほつハ呉音〕 (一)思ヒ起スコト。思ヒ出スコト。案ジ出スコト。[illegible] (二)佛教ノ語。ほっしん(發心)ニ同ジ。無量壽經、[illegible]

ほつえ (名) [illegible] 樹ノ梢ノ枝。下ナル枝[illegible]。上ノ枝ハ[illegible]エ。[illegible] 延ハ、臨ヲオヘリ」 萬葉集十九「吾が袖ノ、保都枝[illegible] 同、十[illegible]如ナ紛、オ枝ノ梢ヲ、手折ルトハ、下枝ノ露ニ、濡レニケルカモ」

ほつ-が [illegible] ナドニ乘リテ旅ニ立ツコト。貴人ノ門出。ハツガ。曾我會稽山(享保、近松作)四「明[illegible]」

ぼつ-かうせふ (名) 沒交涉 又、もつかうせふ。もつけうせふ。關係ノナキコト。カカリアヒノナキコト。無關係。[illegible]

ほっ-か-ける・ケル・ケレ・ケ・ケレ(他動、下一) 追懸 おひかける(追懸)ノ訛。おひかく(追懸)ノ條ヲ見ヨ。(追ふノ條ヲモ參見セヨ) 生玉心中(正德、近松作)上「スネル男ヲ[illegible]」

ぼっ-かへ-す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 追返 おひかへすノ訛。かへす(返)ヲ強メテ云フ語。(追ふノ條ヲモ參見セヨ) 天神記(正德、近松作)二「キャツメヲ早クぼっかへし」

ほ-かむり (名) [illegible] ほほかぶり(頰被)ノ音便。其條ヲ見ヨ。又、ほっかぶり。

ほっ-き (名) 發起 〔ほつハ呉音〕 (一)[illegible]ス[illegible]コト。思ヒ立チテ事ヲ始ムルコト。案出スルコト。ハッキ。「發起スル」發起人」 (二)佛教ノ語。菩提ノ心ヲ起シテ、佛道ニ入ルコト。發心。[illegible] 心中刃[illegible] 作)上「佛神ニ虛ハナイ、其方モ發起シテ」

ほつ-ぎ (名) [illegible] 〔ほつハ呉音〕 はつ[illegible]ニ同ジ。

ぼっ-き (名) 勃起 急ニ、力強ク起キ上ルコト。盛ニ起リ立ツコト。フレヒ起レコト。勃興。[illegible]

ほつき-あ-ぐ・グレ・グレ・[illegible] [illegible]ナドニ、或事ニ悪ク[illegible]ギ込ム [illegible]イ、ホテテンゴウノ貧乏神、何モカモほつきあげ」

ほつき-まは-る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 諸所ヲウロツク。又、ウロツキマハル。[illegible]「[illegible]はつき廻」

ほっ-く (名) [illegible] 〔詩歌ノ第一ノ句。起句。文[illegible]明[illegible]、十四[illegible] [illegible] 初ノ五文字ヲイヒテ、サテ二句、三句、四句、五句ト、[illegible]三十一字、[illegible] 發句ニ」 同、十二五「ウツツニモ、今モ見テシカ、夢ニノミ、タモトマキヌト、見レバ苦シモ、或本歌發句、云吾妹兒乎ニ」 (二)連歌ノ初ノ、五、七、五、ノ三句ノ[illegible] 俳[illegible]ト[illegible]ド、規則ニ拘ラ[illegible] 混同セリ。八雲御抄、一、正義、連歌、一、發句ハ、於當座可然人得之、無何人スベカラズ、或又時、[illegible] 字五文字ナルヲ、頭ノ句トイハデ、發句トイフハ、イカナルコトニヤ[illegible] イデキテ後ノ名目也、[illegible]モアレ、[illegible]アレ、ソノハジメノ句ナレバ、發句トハ云フ也、イハバ百韻ノ[illegible]イフ也 [illegible]ジテ、發句ノ俳諧。即チ、連歌ノ初句ノ十七字ヨリ轉ジテ、詩ノ一體ヲナセルモノ。故ニ、俳諧ノ發句トモ云フ[illegible]ナルベシ。元和、寛永ノ頃ノ書ニ、俳諧發句帳ト云フモノアル[illegible]。又ハ專ラ俳句ト云フ。守武千句、跋「宗鑑ヨリ、タビタビ發句ナド下シ侍リ」 二弟準縄、發句案じ方の傳「芭蕉翁曰、發句ハ、無念相ノウチニ、一念ヲ起ス、是ヲ起トイフ、無念相トハ、胸中ニ一物モナク[illegible]カフ時、[illegible] 云云、和歌ニハ扇序題曲流トイヒ、詩ニハ起承轉合ノ格アリトカヤ、吾俳諧ニモ、十七字ノ中ニ、序題曲

ノ[illegible]ヲ[illegible]ザレバ、發句トハイフベカラズ」

ほつ-く・[illegible] (二)[illegible] ム。ツギコム。ツカヒ果タス。心中重井筒(寶永、近松作)上「[illegible]ノ[illegible]ニほついテハ、ヤンガテ[illegible] (三)[illegible]ロツク。諸方ヲ、ウロウロスル。

ほっく-あはせ [illegible] ヲ合ハセテ、判者ノ批評スルモノ。發句ノ[illegible] 連中會合シテ、[illegible]批判スルヲ云フナリ」 伊丹發句合、跋「伊丹ノ發句合ト云フモノヲ、只發ガ後ヨリ出シテ、予ニ跋ヲ乞フ、見レバ、カノ黑ノ好士等ノ句ニ對シテ、[illegible]四七ノ數ヲ[illegible]ヒタルナリ」

ぼっ-くだ-す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 追下 [illegible] 勢ヲ左右ニ受ケ、ぼっくだし追ヒノボシ」

ほ-くり (名) 木[illegible] [illegible]ハ云フ、穿キ往ケバ、音ガぼくぼくトスルヨリ云フト」 一木ヲ刳リテ作レル圓キ下駄。又、ボックリ。ボクリ。コッポリ。

ぽっ-くり (名) 木履 前條ノ語ニ同ジ。

ぽっくり (副) 又、ぽくり。モロク折ルル[illegible]

ほつ-ぐゎん (名) 發願 〔ほつハ呉音〕 神佛ニ[illegible]

ほっけ (名) 【法華】 (一)ほけきやう(法華經)ノ略。法華經、法師品「我所說經、而於此經中、法華最第一」 (二)ほっけしゅう(法華宗)ノ略。元亨釋書、二、榮西傳「雲曰、汝於支那、織揚台教、亦我國之法華也」 類聚國史、百四十七、撰書、延暦廿二年三月己未、大僧都傳燈大法師位行賀卒、云云、法師生年廿五、被充入唐留學、學唯識法華兩宗、住唐三十一年、云云」

ほっけう (名) 【法橋】 (一)ほふけう(法橋)ニ同ジ。(二)僧位ノ名。法眼ニ次ギ、律師ノ官ニ相當シ、五位ニ准ゼラル。具ニハ法橋上人位ト云フ。清和天皇、貞觀六年ノ制定。又、上人。字類抄「法橋」 三代實錄、八、貞觀六年二月十六日、詔「彼三階(滿位、法師位、大法師位)之外、更制法橋上人位、法眼和上位(僧綱補任、作法眼和尚位)、法印大和尚位等三階、以爲律師以上之位、宜云云、法橋上人位爲律師階」 (三)昔、醫師、畫師ナドノ位。ほふいん(法印)ノ條ヲ見ヨ。土佐住吉繪所系譜「光吉孫、廣通男、廣澄、初廣純、通稱内記、法名具慶、云云、延寶二年六月四日敍法橋」 和漢三才圖會、自敍「法橋寺島良安、書於浪華杏林堂」

ほっけさう (名) 【法華草】 げんのしょうこニ同ジ。重修本草綱目啓蒙、十一、下、濕草類「牛扁、古ヨリ、牛扁ヲ、ゲンノシャウコニ充ツルハ非ナリ、ゲンノシャウコハ、一名ほっけさう、ホッケバナ(木曾)、レンゲサウ、云云」

ほっけサンマイ (名) 【法華三昧】 又、ほふけさんまい。ほけさんまい。三諦圓融(空、假、中ノ三諦ヲ觀ジテ、圓融ノ眞理ニ達スルコト)シテ、一實ニ歸スル妙理ヲ悟ルコト。又、法華三昧ヲ證得セムトテ、別ニ道場ヲ設ケテ、法華經ヲ讀誦スルコト。法華經文句記、二「實道所證一切名法華三昧」 佛祖統紀、慧思傳「將於身倚壁、豁然大悟法華三昧」 源、五、若紫十八「法華三昧行フ堂ノ懺法ノ聲、山オロシニツキテ聞エクル、イトタウトク、云云」 撰集抄、一、第七條「貝鐘ノ聲モセズ、法花三昧ツトムル僧一人モナキ所ニ」

ほっけしゅう (名) 法華宗 〔法華經ヲ以テ本經トスル故ニ云フ〕 (一)天台宗ノ一名。其條ヲ見ヨ。延暦廿五年ニ、僧最澄、奏シテ、三論宗、法相宗、華嚴宗、律宗ニ、新天台法華宗ヲ加ヘテ五宗トス。(本朝高僧傳) 元亨釋書、一、最澄傳「延暦廿有五年、奏加新天台法華宗、時大乘四家、華嚴、法相、三論、律也、及此爲五宗」 類聚三代格、四、太政官符「應試業年分度者事、云云、天台法花宗、年分度者二人、於比叡山、每年三月、先帝國忌日、依法花經制、令得度受戒」 類聚名物考、廿二、佛教部、一「天台宗、テンダイシウ、一名法華宗」 (二)今、專ラ日蓮宗ノ一稱トス。其條ヲ見ヨ。類聚名物考、廿三、佛教部、一「日蓮宗、ニチレンシウ、又云、法華宗、題目宗、人皇八十八代後深草御宇、日蓮上人、七字ノ題目唱ヘテ、諸國ニヒロメタリ」

ほっけセンぽふ (名) 【法華懺法】 又、ほふけせんぽふ。天台宗ニテ、六根ノ罪ヲ懺悔スルタメニ、法華經ヲ讀誦スルコト。忠定卿記、應永十三年正月廿九日「自今日、於禁裏、七箇日被行法花懺法、奉爲後光嚴院三十三回御佛事也」

ほっけだう (名) 【法華堂】 法華三昧堂ノ略。法華三昧ヲ行フ堂。モトハ普賢菩薩ヲ本尊トシテ行ヒ、後ニハ、專ラ貴人ノ遺骨ヲ收ムル所トス。約メテ、ほけだう。源、四、夕顏四十九「カノ人ノ四十九日、忍ビテヒエノ法華堂ニテ、云云、サルベキモノドモ、コマカニ、誦經ナドセサセ給フ」 吾妻鏡、十八、建仁四年九月十三日「法華堂御佛事訖」

ポケット (名) 〔英語、Pocket.〕 又、ぽけっと。かくし(隱)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

ほっけはっこうゑ (名) 【法華八講會】 天台ノ學匠、法華經八卷ヲ、八座ニ分チテ講ズル法會。古ヘハ四箇ノ大寺ニテ修行ス。東大寺、興福寺、延暦寺、園城寺ナリ。其第三日ハ法華經ノ第五卷ヲ講ズル日ニテ、中日ト云フ。朝儀ニモ行ハル。一日ニ、朝座、夕座ノ二度ニテ、一度ニ一卷ヅツ修シ、四日ニ全部八卷ヲ終フ。略シテ、八講。約メテ、ハッコウ。八講會。法華會。御八講。たきぎこる(薪樵)ノ條ノ(二)、及、たきぎのぎやうだう(薪行道)ノ條ヲモ見ヨ。元亨釋書、二、勤操傳「我等八人、分法華八卷、遂爲忌(各講一卷爲追薦、公等許不、七人皆諾、便設四日之座講席修之、名曰法華八講會、于時延暦十五年也」 源、十、榊二十九「十二月十四日バカリ、中宮ノ御はかうナリ、イミジウタウトシ、云云、初ノ日ハ、先帝ノ御レウ、次ノ日ハ、母君ノ御タメ、又ノ日ハ、院ノ御レウ、五卷ノ日ナレバ、云云」

ほっけん (名) 【法眷】 ほふけん(法眷)ノ音便。其條ヲ見ヨ。太平記、廿六、妙吉侍者事「和尚宣ヒケルハ、云云、今ヨリ後ハ、コレニ妙吉侍者ト申ス法眷ノ僧ノ候ヲ、參ラセ候ベシ」

ホッケン (名) 【黃絹】 〔字ノ唐音、或ハ云フ、福建ヨリ出ヅル名ナリト、或ハ、北絹トモ記ス〕 モト東京ヨリ渡ル絹布ノ名。黃繭ニテ織ルト云ヒ、色、黃ナリ。改機ニ似テ薄シ。下學集、下、絹布門「北絹、ホッケン」 書言字考節用集、七、服食門「福建、ホッケン、黃絲絹也、島絹、同」 和漢三才圖會、廿七、絹布類「黃絹、俗云、保豆介牟、按、黃絹出於東京、色有品、絲性似加伊岐而薄、爲單襦、或襦裏」 御供古實「北絹ノ事申候得バ、總別、唐織物御禁制ノ事候間、ほっけんモ召候マジク候」

ほっけゑ (名) 【法華會】 ほっけはっこうゑ(法華八講會)ノ略。其條ヲ見ヨ。百錬抄、十四、嘉禎二年十月六日「被法華會停止、依南都訴也」 中右記、天仁元年十二月廿五日「依今日圓宗寺法華會所被行也」

ほつご (名) 【發語】 〔ほつハ吳音、はつご(發語)ノ條ノ(三)ヲモ見ヨ〕 (一)先ヅ言ヒ發ス語。「扨テ」「夫レ」「抑モ」「凡ソ」ノ類。(二)諸語ニ、接頭語ノ如ク添ヒテ、親愛ノ意アル語、(美稱)又、意義無キ語モアリ。(公望ノ日本紀私記ニハ、今、所謂、枕詞ト見エタリ)「さ夜」「み山」「を田」「さ迷フ」「け劣ル」「た比ブ」「た易シ」「か弱シ」ナドノ如シ。

ぼっこ (名) 【襤褸衣】 〔ぼろこノ約カ〕 ツヅレ。ボロ。ボロギモノ。(伊豆、富戸)

ぼつご (名) 【歿後】 ミマカリタル後。ナキアト。死後。

ぼっこう (名) 【勃興】【敦興】 ニハカニオコルコト。盛ンニ、オコリ起ツコト。勃起。後漢書、馮衍傳「苗裔紛其條暢兮、至湯武而勃興」 同、竇融傳「漢祖杖劍、武夫勃興」

ぼっこむ (他動、四) 【打込】 (一)うちこむ(打込)ノ訛。其條ヲ見ヨ。(二)刀ナドヲ無造作ニ帶ブ。心中天網島(享保、近松作)上「ツヒニ差サヌ大小ぼっこみ」

ほつごん (名) 【發言】 〔ほつハ吳音〕 はつげん(發言)ニ同ジ。運歩色葉集「發言、ホツゴン」

ほっこり (副) (一)暖カナル狀ニ云フ語。(二)疲レタル狀ニ云フ語。がっかりニ同ジ。(京都)「働イテほっこりシタ」

ほっさ (名) 【發作】 〔ほつハ吳音〕 (一)起ルコト。史記、樂書「四暢交於中、而發作於外」 (二)病氣ナドノ俄ニ發スルコト。

ほっさう (名) [法曹] ほふさう(法曹)ニ同ジ。(法曹境界、書名)

ほっさう (名) [法相] 「諸法、性ヲ一ニシ、相ヲ異ニスル意」次條ノ語ノ略。

ほっさう-しゅう (名) [法相宗] (一)[illegible]解深密經ノ一切法相品ノ名ニ本ヅク。佛教、八宗ノ一。宇宙萬法ノ性相ヲ究明スルヲ主トス。經ハ解深密經、論ハ瑜伽論、唯識論等ヲ以テ所依トス。又、唯識論ニヨリテ、萬法唯識ノ理ヲ明カニスル故、唯識宗トモ名ヅク。唐ノ初、僧玄奘、渡天シテ之ヲ支那ニ傳フ。我ガ國ニハ四傳アリ。第一ハ道昭、第二ハ智通、智達、第三ハ智鳳、智鸞、智雄、第四ハ元正天皇ノ時、僧玄昉、入唐シ、濮州ノ智周大師ヨリ傳ヘ、弘ムト。今ハ、大和ノ法隆寺ヲ大本山トス。(外ニ、興福寺、藥師寺モ、亦、大本山ナリ)略シテ、法相。八宗綱要、下、法相宗[illegible]諸法性相ノ故、名ニ法相宗ニ也、汎言ニ此宗ハ總有ニ四名ハ、一名ハ唯識宗[illegible]一切法門、皆顯理趣[illegible]故、四名法相宗、其義如上[illegible]院大僧都[illegible]月九日[illegible]一日、大僧都ニ轉ズ」

ほっし (名) [法師] ほふし(法師)ノ音便。

ほっし (名) [法嗣] 〔禪家ニテハ、はっそ〕師ノ法ヲ傳ヘテ、其法系ヲ嗣グモノ。即チ、嗣法ノ弟子。嗣法。敕修百丈清規[illegible]法嗣香、住持[illegible]正法眼藏[illegible](常總)ハ黄龍[illegible]師ノ法嗣ナリ」

ぼっしう (名) [沒收] (一)上ニ取リアグルコト。所有物ヲ取上グルコト。收沒。(二)罰ノ名。もっしゅ(沒收)ノ條ヲ見ヨ。

ぼっじかん (名) [沒字漢] アキメクラ。目ニ一丁字ナキモノ。文盲。少シモ文字ヲ知ラザルモノヲ、嘲リテ云フ語。沒字碑。無字碑。

ぼつじひ (名) [沒字碑] 〔字ヲ刻セザル碑ノ意〕前條ノ語ニ同ジ。五代史、任圜傳[illegible]不識文字[illegible]沒字碑」

ほっしん (名) [發心] 〔ほつハ呉音〕菩提ノ心ヲ發起スルコト。發意。維摩經[illegible]太平記、十三、藤房卿遁世事「此ノ人、一人ノ發心ニ依ッテ、七世ノ父母諸共ニ、成佛得道セン」謠曲、惡逆塚「サテ何故ノ御發心ニテ候ゾ」

ほっしん (名) [法身] 〔梵語、Dharmakāya ノ譯語〕又、はふしん。(一)佛ノ眞身。維摩經、方便品「佛身即法身」[illegible](二)三身(法身、報身、應身)ノ一。即チ、法界遍滿ノ理智性。さんしん(三身)ノ條ヲ見ヨ。大乘義章、十八「言ニ法身ニ者、解有ニ兩義ニ、一顯ニ本法性ニ以成ニ其身ニ、名爲ニ法身ニ、二以ニ一切諸功德法ニ成ニ身、故名爲ニ法身ニ」謠曲、放下僧「カルガ故ニ、草木モ法身ノ姿ヲ現ハシ」(三)法體トナレル身。僧ノ身。榮花物語、十五、疑[illegible]ヲモテ、法身ノ御頂ニ灑カルト思召ス」

ほっしんたふ (名) [法身塔] 〔法身ノ舍利ヲ安置スル塔ノ意〕舍利ヲ安置スル圓形ノ塔(密教ニテハ、梵字鑁(ばん)ヲ以テ法身塔トナス。法界ノ種子ニテ、形、圓塔ニ似タレバナリ)金剛頂[illegible]字法界[illegible]相形如[illegible]是名ニ法身塔ニ」寂照堂谷響集、二[illegible]

[illegible]

ほつしもん (名) [illegible]

ほっしゃう (名) [法性] 〔諸法ノ本性ノ意〕佛教ノ語。宇宙ノ實相。眞如。[illegible]

ぼつじゃうしき (名) [沒常識] ひじゃうしき(非常識)ニ同ジ。

ほっしゅ (名) [法主] ほふしゅ(法主)ノ條ノ(三)ニ同ジ。

ぼっしゅみ (名) [沒趣味] 趣味ノナキコト。興味ノナキコト。無趣味。

ぼっしょ (名) [沒書] 寄書ナドヲ、揭ゲ載セザルコト。又、ソノ文書。

ぼつじょ (副) [勃如] 顏色ヲ變ヘテ、特ニ謹愼ナル態度ナル狀ニ云フ語。勃然。論語、鄕黨篇「君召使擯、色勃如也、足躩如也」同、同「上如揖、下如授、勃如戰色」

ほっす (名) [法主] ほふしゅ(法主)ノ條ノ(三)ニ同ジ。

ホッス (名) [拂子] 〔字ノ唐音〕ハヘハラヒ。佛具トス。白旄、馬尾、牛尾ナドノ毛ヲ束ネテ、柄ヲ附ス。又、身上ノ惡障難ヲ拂ヒ除クモノ。塵尾。シュミ。和漢三才圖會、十九、佛供器「拂子、ホッス、ハヘハラヒ、云云、禪僧之所ニ重、如ニ有ニ得ニ道者ニ、師授ニ與之拂子ニ、以爲ニ法門之規模ニ[illegible]」釋氏要覽、中、道具「律云、比丘患ニ草蟲ニ、佛聽レ作ニ拂子ニ」謠曲、車僧「拂子ヲ上ゲテ虚空ヲ打テバ」

ほつ・す ・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [解] はつす(解)ノ轉。ホドク。ホグス。ホゴス。[illegible]

ほっ・す ・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) [欲] [illegible]得ント思フ。手ニ入レタク思フ。希望スル情、切ナリ。望ミ願フ。ホシガル。モトム。又、ほす。ほりす。論語、雍也篇「夫仁者己欲立[illegible]」[illegible]

ぼっ・す ・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) [沒] (一)入ル。ハマル。沈ム。埋マル。[illegible]「山ニ沒す」「水ニ沒す」(二)關所ニナル。「官ニ沒す」(三)死ス。果ツ。[illegible]

ぼ・す ・スル・スレ・セ・[illegible] (一)埋ム。ウムル。李華、弔古戰場文「積雪沒脛、堅氷在鬚」(二)取リアグ。沒收ス。

ホッスがひ (名) [拂子貝] 海綿動物ノ一。體、棒狀ヲナシ、上部ハ[illegible]下部ヨリ線ヲ出ス、線ハ甚ダ長ク、白クシテ、透明ナリ、數十條ヲナシテ、束ネタルガ如ク、長サ尺許、全體、拂子ノ頭ノ如シ。[illegible]白線ノ如クナレドモ、植蟲ナリ」

ぼっせき (名) [沒籍] [illegible]沒收シテ、平民トスルコト。

ぼつぜん (副) [勃然] (一)物事ノ發リタ

…狀ニ云フ語。淮南子、兵略訓「倉卒之人、勃然天下ハ渤人行動、首事、其間ハ其ニ人勃卒ニ起ル」(二)顏色ヲ變ズル狀ニ云フ語。勃如。孟子、萬章、下篇「君有大過則諫、反覆之而不聽則易位」「王勃然變乎色」(三)唐突ナル狀ニ云フ語。太平記、一、「…事逸走歩ヲ失ウテ、頭ヲ回ラス處ニ、イヅクヨリ來レルトモナク、僧兵勃然トシテ傍ニアリ」

ほっそく (名) [發足] 〔ほつハ呉音〕又、はっそく。シュッタツスルコト。カドデ。發途。出發。首途。發程。

ほっそつ (名) [勃窣教窣] 〔玉篇「勃窣、穴中出也」〕(一)歩行ノハカバカシカラヌコト。文選、子虛賦「相與獠於蕙圃、媻姍勃窣上乎金隄」(二)言論ノ急切ナラザルコト。晉書、張憑傳「歎曰、張憑、勃窣爲理窟」

ほっそり (副) [細] ホソヤカナル狀ニ云フ語。浮世風呂(文化、三編)二編、上「ソレデモすらりと、ほっそりスウワリ、柳腰トサヘイフヂャネエカ」

ポッタアス (名) [剝篤亞斯] 〔英語、Potash. 譯シテ加里〕(一)ぽったしうむノ異名。(二)特ニ、炭酸かりうむノ俗稱。ぽったしうむノ條ヲモ參見セヨ。(三)植物ノ灰ヲ製煉シテ取レルモノ。藥用、其他、種種ノ用トス。炭酸加里。

ほったい (名) [法體] (一)〔諸法ノ體相ノ義〕又、ほふたい。佛經ノ語。萬有ノ本體。八宗綱要、上「三世實有、法體恒有」(二)〔法師ノ體相ノ義〕僧ト爲リテ、佛法ノ體裝ヲナシテ居ルコト。僧形トナルコト。謡曲、實政「法體ノ身ニテ、甲冑ヲ帶シ」太平記、十三、藤房卿遁世事「不二房トイフ僧ヲ戒師ニ請ジテ、遂ニ多年拜趨ノ儒冠ヲ解イテ、十戒持律ノ法體ニ成リ給ヒケリ」同、四、俊明極參內事「法體ノ御事ハ暫クアルマジキ由ヲ、強ヒテ仰セ出サレケリ」

ぼッたう (名) [沒倒] 強ヒテ沒收スルコト。盛衰記、六、西光父子亡事「人ヲモ人トモセザリシ餘リニ、白山妙理權現ノ神田、講田沒倒シ」

ほつたか (名) [秀鷹] 逸物ノ鷹。最モスグレタル鷹。萬葉集、十七、長歌「少女ラガ、イメニツグラク、ナガ戀フル、其ノ保追多加ハ」

ホッタシウム (名) 〔英語、Potassium〕かりうむ(羅甸語、Kalium.)ノ英國名。金屬元素ノ一、銀白色、蠟狀ニシテ、他ノ物質ト化合シ易ク、水ニ觸ルレバ、直ニ反應シテ水素ヲ發生シ、水酸化かりうむトナル。故ニ、普通ニ石油中ニ貯フ。其化合物ニ、炭酸かりうむ、鹽化かりうむ等アリ。

ほったて (名) [掘建] 柱ヲ建ツルニ、礎ヲ用ヰズ、根ヲ地ニ埋メテ建ツルコト。上代ノ家、皆、此ノ如クナリキ。埋込(イケコミ)。甲子夜話、四十八「年年修理セルトキ、掘柱ノ地ニ入リタルヲ、掘立ナルベシトテ、穿チケレバ」

ほったてごや (名) [掘建小屋] 柱ノ根ヲ地中ニ掘リ埋メテ、建テタル粗末ナル小屋。掘リ建テタル小屋。

ぼったてる・テル・テレ・テ・テ・テヨ(他動、下一) [追立] おひたてる(追立)ノ訛。追(ボ)ふノ條ヲモ參見セヨ。出世景清(貞享、近松作)一「動トモ虎トカ成勝ヲ爭ヒ、百千萬ノ隙ヲ、ぼ、たてぼったて、クルリクルリト、膝ニ追上ケ追下シ」國性爺合戰(正德、近松作)二「揃フタ揃フタ供廻リ、名モ日本ニ改メテ、云云、二行ニ立テテぼったてロ」

ほったん (名) [發端] 〔ほつハ呉音〕端緒(イトグチ)ヲ始ムルコト。又、モトヅクトコロ。ハジマリ。オコリ。起原。(記事、狂言、ナドニ)運歩色葉集「發端、ホッタン」

ぽったらか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔ほっちらかすノ轉〕ステオク。ナゲヤリニシテオク。ホカス。スボカス。

ぽったり (副) 物ノ落ツル音、又ハ、雫ナドノ滴リ落ツル音ニ云フ語。ポッタリ。ボタリ。ボッツリ。狂言記、釣狐「下ノ錢杖ヲ、ず、取ッテ、カイヌクウテほったり、ヒスクウテほったり」

ぽったり (副) 前條ノ語ニ同ジ。

ほっち (名) [發意] 〔發意ノ音便、ほつハ呉音〕ほつい(發意)ニ同ジ。略シテ、ほち。

ぽっち (名) [法師] 〔ほふし(法師)ノ音便轉〕ほふし(法師)ノ條ノ(三)ヲ參見セヨ。ボチ。ボシ。

ぼっち (名) [坊稚] 〔ほふし(法師)ノ轉〕ぼんち(坊稚)、及、ほふし(法師)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ぽっち (名) [點] ぽち(點)ノ音便。

ぼっちゃん (名) [坊樣] 〔ちゃんハ、さん(樣)ノ訛〕(一)身分アル家ノ男兒ヲ呼ブ語。坊サマ。(二)世事ニ通ゼザルモノヲ、嘲リ云フ語。〔ぼっちゃん育チ〕

ぽっちらか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔はふりちらかすノ略轉〕ステオク。ナゲチラカス。ナゲヤリニシテオク。

ぽっちり (副) (一)物ノ僅少ナルニ云フ語。スコシ。イササカ。(二)ヒトリキテ、サビシキ狀ニ云フ語。(俳諧…「ぽっちり、鋏サミシキニイフ、又、ほっちりトモネヌナド云、又、ホッシリトモイフ、物ヲツブス聲ナリ」)

ほづつ (名) [帆筒] 帆柱ノ端ニ添ヘ、帆綱ヲ通シテ帆ヲ上下スル部分。堀河百首「藻刈リ舟、ほづつシメナハ、心セヨ、川添ヒ柳、風ニ波寄ル」

ほづつ (名) [火筒] 銃砲ノ總稱。

ぼっつ・む・ム・ム・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) [追詰] おひつむ(追詰)ノ訛。追(ボ)ふノ條ヲモ參見セヨ。日本振袖始(享保、近松作)一「切リカケ切リカケほ、ぼっつめラレテ、通力ノ電光石火モ氷ノ月、前ニ籠レル消エ」

ぽっつり (副) 穴ナドノ、一點アキタル狀ニ云フ語。

ほって (名) [最手] (一)ほて(最手)ノ音便。(二)〔スグレタル技〕萬葉集、十五、長歌「イマダニモ、モナク行カムト、ユキノアマノ、保都手ノウラヘヲ、カタ灼キテ、ユカムトスルニ」

ほってい (名) [發程] 〔ほつハ呉音〕ほっと(發途)ニ同ジ。

ぼってき (名) [沒溺] (一)できぼつ(溺沒)ニ同ジ。後漢書、鄧禹傳「前後沒溺、死者不可勝算」(二)耽ルコト。ハマルコト。オボルルコト。耽溺。唐書、禮樂志「舉召由此系感沒溺」

ぼってり (副) 體ノ太リ肥エタル狀ニ云フ語。ボタボタ。デップリ。

ほっと (名) [發途] 〔ほつハ呉音〕又、はっと。タビダチ。カドデ。イデタチ。發足。發程。首途。

ほっと (副) (一)溜息(タメイキ)ツック狀ニ云フ語。(二)辛ウジテ、安心スル狀ニ云フ語。

ほっと (副) 氣ガウトウトスル狀ニ云フ語。ボンヤリト。ボウ、ト。

ぽっと (副) (一)燈火ノトモル狀ニ云フ語。(二)酒ノ醉ノ顏ニ出ヅル狀ニ云フ語。(三)俄ニ飛出ス狀ニ云フ語。

ほ[illegible]う (名) [illegible] 正法。[illegible] 佛前ノ[illegible]
(二)佛法。正法。又、法ノ燈火。佛前ノトニ[illegible]
[illegible] ト、唯、此ノ門主ノ御時ナルベシ」千載集、十九、釋敎「夢サメン、其曉ヲ、待ツホドノ、闇ヲモ照ラセ、法のともしび[illegible]
ナレバ、佛[illegible] 又、佛[illegible]
テ、多ク、學[illegible] 長ケタ[illegible]
[illegible] ハレタリケレドモ、世ヲ制ク思ヒタル曲者ニテ」

ほッ-とう (名) 發頭 「ほつ」ハ、呉音 [illegible] とうにん(發頭人)ノ略。其條ヲ見ヨ。

ほ、とう (名) [illegible] 小豆ニテ煮タル モノ [illegible]

ぼ、[illegible]う (名) 沒頭 其事ニノミ熱中スルコト。ハマリコムコト。

ほ、とうにん (名) 發頭人 「ほつ」ハ呉音 [illegible] 發起シ企テタルモノ。主謀者。張本人。[illegible] ほ[illegible]ドイフハ、發頭人ナリ」

ほ、どり (副) シナヤカナル状ニ云フ語 [illegible]
[illegible] 見セヨ」[illegible]
[illegible] ヤハノカニ、イトホッそり形カ」

ほ、どりもの (名) ぼ、とシタル状ノ女。又、アドケナク、シナヤカニ、美シキ女。好色二代男(貞享、西鶴)四「若女形トナリ、帶ノ結ビハ古風ニ、ぼとりものトイヒシハ、我レニ初マリ」[illegible]
ウ・ホメニケル [illegible] 正[illegible]

ぼッとりもの [illegible] 世間ニスレヌモノ。シナモ[illegible]
淺黄トヤラニ、女夫人トイフぼッとりものノ、シナモ[illegible]

ポット-ロオド (名) 鉛筆〔蘭語、Pot-lood. 英語ニテ、Pot-lead. 黑鉛、又、鉛筆ノ義〕筆ノ用ヲナス具。西洋製ノモノナリ。細ソク圓キ木管ニ黑鉛ヲ籠メテ、其[illegible] 削リテ用[illegible] 今ノ鉛筆ノ類。
和訓栞「ほつとろうど、石筆ノ蕃名ナリ」

ほ、づな (名) 帆綱 帆ヲ帆柱ニ上下セシムル綱。又、繫ギ止ムレタメノ綱。ホナハ。
帆索 [illegible] 帆綱 [illegible] 云云」

ほつにち (名) 沒日 陰陽家ニテ、事業ニ凶ナリトスル日。卽チ、正月、二月ノ辰、三月、亥、三月、四月ノ未、五月ノ辰、六月、七月、八月、九月ノ寅、十月ノ巳、十一月、十二月ノ丑ノ日ナリ。[illegible]
之由、[illegible] 日次[illegible] 之
聞、云云 北條九代記、九、時宗執權[illegible]
[illegible] 四月(建長[illegible] 十二月[illegible]
[illegible] メシニ、[illegible] 其日ハ、
沒日ナリ [illegible] 申ス、
云云、建長六年四月廿四日ハ、丙寅沒日ニテ候ヒシニ、[illegible] 二入リ給フ、云云」

ぼつにふ (名) 沒入 (一)沈ミ入ルコト。オチイルコト。(二)官府ニ取リ上ゲラルルコト。沒收。[illegible] 私 [illegible]
[illegible] 對、沒、其物[illegible] 同、同 [illegible] 不自
[illegible] 以 [illegible] 所[illegible] 取」

ほつねつ (名) 發熱 「ほつ」ハ呉音」病ニ因リテ熱ノ發ルコト。ネッパソ。ハッネツ、[illegible] ホツボツ」

ぼつねん (副) 獨居シテ、サビシキ状ニ [illegible]

ほつねん [illegible]

ほ、はい (副) [illegible]
[illegible] ノ、ホッヒャリホッヒャリ、ほッぱい、ヒャロノヒッ」

ほッぱい (名) 發唄 「能ク背ニ覺エレ故ニ云フ、ほつハ呉音、[illegible]
也、[illegible] 云云、[illegible] 也」

ぼ、ぱつ (名) 勃發 [illegible] 勃トシテ出デル[illegible] コト。

ぼ、ぱめ (名) [illegible] は
め[illegible] 云フノ[illegible] イ [illegible]
ト。打込ムコト。追フ[illegible]
コ[illegible]
トヲよ [illegible]
[illegible] たぶれ、[illegible] り、
[illegible] ほりナ[illegible]」

ほ、ひや (名) 狂言、又、[illegible] 囃子ノ語。
狂言記、[illegible] 打ツ
トナ [illegible] レマセイ、ほ ひ[illegible] ウロ ヒャロ、トウロ、ロウロ、ヤット、打チマシテゴザル」

ほつびゃう (名) 發病 「ほつ」ハ呉音 [illegible] 病ノオコルコト。ほつびゃう[illegible] ニ同ジ。[illegible] ホッ[illegible]ャウ」

ほ、ひやり (名) 狂言、又、[illegible] 囃子ノ語。ほ、はいノ條ヲ見ヨ。

ホップ (名) 忽布 「英語、Hop.」草ノ名。せいやうからはなさう。桑科ニ屬スル多年生草本[illegible]
[illegible] 判[illegible]

(み)たさう(唐花草)ヨリ大キク、苦味アリ[illegible]

ほッぺた (名) 頬邊 ほほぺた(頬邊)ノ[illegible]

ぼッぽ (名) 〔懐ノほヲ重ネタル語〕小
[illegible]
[illegible] 千代ノ[illegible]

ほつほつ (副) [illegible]

ぼつぼつ (副) ぽつぽつニ同ジ。狂言記、[illegible]

ぼつぼつ (副) [illegible]
[illegible]

ぽつぽつ (副) [illegible]
(二)[illegible]
[illegible] ぽつりぽつり、

ぽッぽッと (副) (一)火ノ燃エ上ル状ニ云フ語。(二)[illegible]
[illegible] 男、頂カラ、ぽッぽッと湯氣ヲタテテ」

ほつま (名) 秀眞 神代文字ト稱スルモノノ一體ノ名。

〜**ほつむ** (名) 帆舶 〔舶ハ、物ヲ積運ブヲ以テ名トス〕帆ヲ懸ケタル船舶。ホカケブネ。ホブネ。 神功皇后紀「大風順吹、帆舶隨」波、不」勞二楫櫓一、便到二新羅一」

ぼつめつ (名) 没滅 ホロビ、ナクナルコト。又、ホロボスコト。滅没。

ぼつらく (名) 没落 (一)城地ナド敵ニ攻メ取ラルルコト。城陥。 太平記、十、三浦大多和合戦意見事「斯カル處ニ、六波羅没落シテ、近江ノ番馬ニテ、悉ク自害ノ由告ゲ來リケレバ」 (二)戦ニ負ケ家、國、滅ビテ流離スルコト 唐律釋文「没落、謂ヲ中華人没二落蕃中一」 太平記、十、主上笠置御没落事」 (三)家運ノ傾クコト。

ぽつりぽつり (副) ぽつぽつ ニ同ジ。 狂言記、いろは「ソノヤウニ、破板ニ水ヲ流スヤウニ、仰セラレテハ、得覺エマセヌ、祖父ノ坂ヲ登ルヤウニ、ほつりぽつりト教ヘテクダサレイ」(和泉流、ほくりほくり、大藏流、ほッくりほッくり、ニ作ル)

ほつ・る・ルル・ルレ・レ・レヨ (自動、下二) 解 〔はつる(解)ノ轉〕 織リ編ミ束ネタル物、端ヨリ解クル。ハツルル。ホドクル。ホグル。ホゴレル。ホツレル。 續 長町女腹切(正徳、近松作)上「シメタ心ノ諸捻リ、其ノ柄絲ノほつれソメ」

ほつれ (名) ホツルルコト。ホゴルルコト。又、ホツレタルモノ。 鬮取千兩幟(明和、近松半二等合作)二「傍ニ直レバ女房モ、押シテハ言ハヌモツレ髪、鬢ノほつれヲ撫デツケル」

⁂**ほつ・れる** (動) 解 ほつる(解)ノ口語。

ほつろ (名) 發露 〔ほつハ呉音〕 (一)又、はつろ。犯シタル罪ナドノ、アラハルルコト。露顯。 (二)カクストコロナク、アラハスコト。 四教儀「一切隱レ意發露、更不二覆藏一」 (三)アラハナルコト。 書言字考節用集、八、言辭門「發露啼泣、ホロトナク」 平家物語、十、高野巻事「觀賢深ク愁涙シテ、云云トテ、五體ヲ地ニ投ゲ、發露啼泣シ給ヘバ」

ほつをつ (名) 發越 〔ほつハ呉音〕 發散スルコト。 盛衰記、廿四、南都燒失事「天人天降リツツ、花ヲ佛前ニ散シ奉ル、其香、發越トシテ法會ノ庭ニ匂、九重ノ中ニ薫ジケリ」

〜**ほて** (名) 最手 〔秀手ノ義〕 又、ほって。上手。テダレ。古ヘノ相撲人ノ長。今ノ大關。次ナルヲ最手脇ト云フ。今ノ關脇。 倭名抄、四、雜藝類「相撲、云云、本朝相撲記、有二占手、垂髮、總角、最手、助手等之名一」 江家次第、八、七月、相撲召仰「内取御装束、云云、一番、最手與二助手一取レ之」 事書「助手、又曰、腋也、最手、腕手、皆近衛府各補二其人一也」 一代要記、四十九、仁和二年五月廿八日「膂力之士左近衛阿刀根繼、右近衛伴氏長蔵、相撲最手、天下無雙」 宇津保物語、俊蔭七十「スマヒ出デテ、五ツ手六手バカリトリテ、ほて出デキテ、布引キナドスルニ」 新猿樂記「六君夫、高名相撲人也、云云、最手、占手」 古今著聞集、十、相撲強力「相撲ハ、最手、占手、云云」 西宮記、七月、相撲召、大臣「垂髮、總角、廿番、最手出二中庭一」

⁂**ほて** (名) 腹ノ異稱。 物類稱呼、一、人倫「腹、畿内近國及中國四國ニテ、ほてト云フ、東國ニテハ、腹トノミ唱ヘテ、ほてトハイハズ、然ドモ、ほてくろし、又ハ、ほてッぱらナト云フ詞有、ほてくろしト云ハ、枕草子ニ、腹黒トアルニオナジ、又東國ニテ、臍黒トイフ詞モ、同ジ心ベエナリ」「ほて立ツ」

ほで (名) 腕ノ卑語。即チ、手ナリ。 賀古教信七墓廻(元祿、近松作)一「郎等共兩方ヨリ懐ヘ手ヲ入ルル、聡シカリナント振放シ、男タル身ノイキ懐ヘ、ほでヲサストハ何事ト、言捨テ逃グル」

〜**ほで** (名) 帆手 帆ノ横ニツケ、帆ヲ左右ヘ引キ止ムルタメノ綱。一說ニ、悦ブ時ナドニ、手ヲ打ツコトナリト。 土佐日記、正月廿六日「追風ノ、吹キヌル時ハ、行ク船ノ、ほで打チテコソ、ウレシカリケレ」

〜**ほてい** (名) 拂底 ふってい(拂底)ニ同ジ。 宇津保物語、嵯峨院七十「マカリウカビタルヨロコビヲスレバ、チソウセムト思ヒ侍ツレド、トカクノコト、ほていシ侍ツル程ニ」

ほてい (名) 補綴 (一)オギナヒ、トヂツヅルコト。 禮記、内則篇「衣裳綻裂、紉レ箴請二補綴一」 新語(梁、劉勰)「燕之望幸、衛、泥補綴、獨能召二發紋一、雖二陶匠選妙一、不能、措之、可レ謂二閑矣一」 (二)先輩ノ文章ナドヲ觀テ、其字句ヲ綴リ合ハセテ、詩、文ヲ作ルコト。 朱見容叢談(宋、陳唯室)「太史公有二俠氣一、故於二遊俠一云云、等八作、傳更得手、以来員學督門下、故五帝、三王、孔子、孟子傳記、雖二補二綴事迹一、亦未二盡善一」

ほてい (名) 布袋 支那、梁ノ頃ノ散聖ノ名。彌勒ノ化身ナリト云フ。畫ニハ、僧體ニテ、甚ダ肥滿セル像ヲ圖ス、杖ニテ一大布袋ヲ荷ヒ、所要ノ具ヲ皆之ニ納レ、市ヲ遊化シ、十六ノ羣兒、コレニ追隨ス。時人、長汀子、又ハ、布袋和尚(明州、奉化縣ノ人、名ハ契此、後梁、貞明三年寂)ト號ス。俗間、七福神ノ一トス。 十訓抄、第十、第七十三條「布袋和尚ノ十無益ヲカキ給ヘル中ニ、文武不備、心高無益トアリ、和尚ハ彌勒ノ化作ナリ」 禪林口實混名集、上、五代、布袋和尚「釋契此者、不詳二氏族一、形裁腲脮、蹙額皤腹、常以二杖荷二布囊一入レ鄽、時號二長汀子、布袋和尚一、江新聞書二其像一焉」 日本七福神傳、凡例「閭俗、以二吉祥天、辨才、多聞、大黒、布袋和尚、南極老人一、及、吾國蛭子神一、稱二七福神一祭レ之」

ほていちく (名) 布袋竹 竹ノ一種。幹、短ク、節、繁キモノ。多ク杖トス。琉球ヨリ渡ル、又、琉球竹トモ云フ。節間近キハ五六分、遠キハ五六寸、一本ノ中ニ遠近アリ、故ニ五六竹トモ云フトゾ。人面竹。佛面竹。 古今要覽稿、三百六十四、草木部、下「布袋竹、一名琉球竹、一名虎攢竹ハ、漢名ヲ多般竹トイフ、云云、葉ハ、ハチクニ似テ、ヤヤ長大ニシテ繁シ、ソノ先ニ二葉相對シ、一葉ハ、ソノ下ニ付テ、スベテ三葉ヲ一朶トス」

ほていばら (名) 布袋腹 又、ほてッぱら。布袋ノ如クニ肥エフトリタル腹。

ぼていふり (名) 棒手振 〔ぼうてふりノ訛〕 (一)ふりうり(振賣)ニ同ジ。略シテ、ぼてふり。 嬉遊笑覽、十一、商賈「大路ヲ何ニテモ持アリキテ賣ヲ、ふり賣トイフ、見聞集ニ、カイ道ヲナカメ居シニ、ふり賣トテ、萬ノ物ヲ賣ムト呼ハル、云云、後ニ、コレヲぼていふりト云フハ訛レリ、西鶴織物ニ、棒手振トイヘル、是ナリ」 (二)魚市場ト、料理屋トノ間ニ介在シテ、魚ノ賣買ヲナスモノ。 守貞漫稿、五、生業、下「江戸ニテハ、魚ノ擔賣ノミヲ、ぼてト云」

ほてう (名) 歩調 (一)アシドリノ調子。アシナミ。アルキツキ。 (二)多人數ノ行動ノ調子。「歩調ヲ合ハス」

ほてっぱら (名) 布袋腹 〔ほていばらノ音便〕 (一)布袋ノ如クニ肥エフトリタル腹。又、ソノ人ヲ罵ル語。どてッぱら(横腹)ノ條ヲモ見ヨ。 室町殿日記、九、鹿苑院殿へ打手をつかはす事「エイト云フテヒク間ニ、ほて腹ノタダ中ヲ、アナタヘトホレト突ヌキケレバ」 (二)馬子ノ、馬ヲ罵リ叱ルニ云フ語。 丹波與作(寶永、近松作)道中雙六「アノ世ヘ歸ル戻リ馬ヤロイ、ほてッぱらメ」

ほてっぱら (副) 腹一杯ニ。十分ニ。タラフク。「飯ヲほてッぱら食フタ」

ほててんがう (名) 惡作 〔ほてハ強メタル語、てんがう(惡作)ノ條ヲ見ヨ〕 イタク戯レタハムルルコト。惡戯ヲスルコト。 丹波與作(寶永、近松作)道中雙六「馴染ノオレヲ、スポンヌキニ違ハセタ、ソレモ云フタラ止ムニセセイ、ほててんがうノ貧乏神、何モカモホツキアゲ、今一—

ハカナキ、樓[illegible]タ、タニ故ノ四角ヲサテ[illegible]テ」

ぼてふり (名) [棒手振] (ぼうてふりノ約) 又、ぼていふり。ふりうり(振賣)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]「[illegible]ノ下男、[illegible]職人ノ弟子、又ハ、ヒトリ過ギノ棒手振、云云」孕常盤(寶永、近松作)二「氣色ヲ損ジハッタトニラミ、ぼてふりノ賤人メ、弓取ノ法ハ知ルマジイ」

ほてん (名) [補塡] オギナヒ、ウヅムルコト。[illegible]

ほてん [illegible] 夕暮ノ天空ニ、ユフガタノソラ。[illegible]

ほでり (名) [火照ノ義] (一)〔怒り、又ハ、恥チテ、顔ノ赤クナルコト。神代紀、下「[illegible]作色」(二)風ノ吹カムトスル時、海ノ面、西ノ方、クヮックヮット光ルコト。[illegible]トモ云フトゾ。晩霞 [illegible] (三)夕燒ケノ赤ク立ツコト。新六帖、三、浦「山ノ端ニ、ほてりセル夜ハ、室ノ浦ニ、明日ハ日和ト、出ヅル舟人」

ホテル (名) 英語、Hotel. 旅館。オモニ西洋風ノ大ナル旅館ニ云フ。

ほて・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [熱] 〔火照ノ義カ〕ほとる(熱)ニ同ジ。天治字鏡 [illegible]

ほてれん [illegible] 孕ミテ、腹ノフクルルコト。心中萬年草(寶永、近松作)上「一昨日ノオ日待ニ、法印樣ノ相伴デ、善哉餅ヲ十三杯、ソレカラ身持ニナッタヤラ、ほてれんヂャト腹摩リ」

ほて・わき (名) [最手脇] ほて(最手)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]デ二最手ノ器ヲユルサレヌ」

ほ・と (名) [陰] 〔含所ノ義ト云フ〕女ノ陰部。崇メテ、みほと。又、ホトドコロ。[illegible]

ほど (名) [程] 〔歷處ノ轉カ〕(一)〔空間ノ或限界、物事ノ分限ヲ云フ語〕尊卑、遠近、多少、長短、皆云フ。ホドラヒ。ホドアヒ。クラヰ。ホドロ。源、四十九、東屋「[illegible]人ノ御ほどノ、只今世ニアリガタケナルヲモ、[illegible]云云」枕草子、一、第四段「ナドテカ、其門セバクツクリテ住ミ給ヒケルゾトイヘバ、笑ヒテ、家ノほど、身ノほどニアハセテ侍ルナリトイフ」同、六、第五十段「ノボラセ給フ道ノほどモ」「程ニツケテ」程ヲ隔ツ」程ナク」酒ノ程」時ノ程」程ヲ歷テ」(二)時間ノ或限界。頃。ヲリ。時分。時期。更級日記「ヒガンノほどニテ、イミジウサワガシウ」「此ノ程」宵ノ程」(三)俗ニ、身持ノ容子、又、調子ナド。「程ガヨイ」

ほど (名) [塊] 〔物ノ中ニ含マレテアルモノノ意、茯苓ナドモコレナリ〕(一)ほどつらノ根。ひゃくぶ(百部)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]「百部根、[illegible]」(二)荳科ノ多年生蔓草ノ名。山野ニ生ズ。葉ハ、三葉、或ハ、五葉、互生シ、莖ト共ニ紫黑ヲ帶ブ、夏、葉ノ間ニ花ヲ開ク、[illegible]穗ヲ成スコト一寸餘、形、豆ノ花ニ似テ、淡黄ニ紫ヲ帶ブ、後ニ二寸許リノ莢ヲ結ブ、根、[illegible]ニ連リテ、彈丸ノ如シ。ホドイモ。土圞兒 (三)竈ノ下ノ灰ノ中ニ、火ヲ[illegible]モノ。

ほど (接尾) [程] (一)物事ノ分限ヲ云フ [illegible] 言ウテモ」(二)頃ニ。ヲリニ。「今鳴ク程[illegible]タリ」後程」今程」(三)イヨイヨ。マスマス。「老ユル程壯ナリ」思フ程逢フ」

ほど・あひ (名) [程合] 程ノグアヒ。ホド。ホドラヒ。コロアヒ。程度。

ほど・いも (名) [塊芋] ほど(塊)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

ぼ・とう (名) [暮冬] [illegible] 月日、暮冬。[illegible]

ほとうど (副) [殆] ほとんど(殆)ノ音便。其條ヲ見ヨ。[illegible]トヨマセウトテ、庶幾ト云フ」

ほとぎ (名) [缶] 〔古坏ノ約轉カ、或ハ云フ、ほとハふとニテ、又、女陰ノほとノ義、きハ笥ノ意ト云フ〕(一)瓦器ノ名。腹大キクシテ、口ノスボマリタルモノ。或ハ、支那ノ古ヘ、宴會ナドニ之ヲ叩キテ、樂器トモス。說文「缶、瓦器、所以盛酒漿、秦人鼓之、以節歌」倭名抄、十六 [illegible] 缶、保止岐 [illegible] (二)古ヘ、御湯殿ニテ、産湯ニ用ヰシ瓮。[illegible] 湯ヲ入レ、ソレヲ桶ニ移ス [illegible] 六ニアマレバワル」榮花物語、八、初花「御湯殿、酉ノ時トゾアル、ソノ儀式、云云、御湯マヰル、云云、ミヅシ二人、ウルハシク裝束キテ取リイレツツ、ウメテ、[illegible]ほとぎニ入ル、十六ノ御ほとぎナリ」

ほど・く [illegible] [解] 〔ほどさる(播)ト通ズ〕結ヒタルモノノ、自ラ分カレ解クル。ホグルル。ホツルル。ハツルル。ホドケル。女殺油地獄(享保、近松作)中「鎬ノ簪坏モ立ル程ニト、アガイテモ、足ノほどけタ錢サシ、[illegible]ク、錢カラ拔ケ」「[illegible]」縫目ほどく」

ほど・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [解] 〔綻解〕 [illegible] (一) [illegible] (二)滿タシテ止ム。義經記、三、熊野別當亂行事「王子、王子ノ御前ニテ、宿願ヲほどき成ベシト祈ラレケレバ、ホドナク平癒シタマヒヌ」

ホ・トケ (名) [佛] [illegible]〔又、浮圖、浮屠〕ノ[illegible]、略シ[illegible] [illegible]義、けハ迦耶(身ノ意)ノ轉略、或ハ、浮圖家(浮居木)ノ轉ト云フ〕(一)〔天竺ノ釋迦ノ[illegible]ニ云フ[illegible]。[illegible]「伏以、佛者夷狄之一法耳、自後漢時流入中國」佛足石歌「釋迦ノ御跡、イハニウツシオキ、ウヤマヒテ、ノチノ保止氣ニ、ユヅリマツラム、ササゲマウサム」源、七、紅葉賀「御オコナヒニモ祈リキコエ給[illegible] [illegible]ラズバ、水タマル、池田ノ朝臣ガ、鼻ノウヘヲ掘レ」著聞集、七、能書「フルキ佛ニモ、眉ヲバオスゾカシ」[illegible] (三)釋迦[illegible]

年尼ノ稱。[illegible]ノ[illegible]ヲモ見ユ。[illegible]佛ハ[illegible]給フ、[illegible]ヨリゾ出テ給フ」（四）温厚ナル人ノ稱。邪氣ノナキ好人物。岩瀨夜話別集、二「其[illegible]ノ取扱ニ、佛ノ高力（高松ノ奉行、高力與左衞門）鬼作左（本多作左衞門重次）[illegible]用ニ元[illegible]、[illegible]御內證ハ存セネーモ、コレノ御內[illegible]樣ハ、ほとけ、ほとけ」（五）俗ニ、佛葬シタル死者ノ靈、又ハ、死體。薩摩歌（寶永、近松作）中「コナ樣ヘノ孝行ハ、佛ヘノ奉公」　ほとけに作るトハ、死顏ニナル、又、死ス意。

ホトケ-くさ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）［佛臭］　ホトケメキテアリ。坊主クサシ。又、佛敎クサシ。抹香臭シ。　[illegible]太平記（元祿、都の錦）六「佛くさくテ」

ホトケ-の-ざ（名）［佛座］（地ニツキテ、初生ノ圓葉ヲ出スコト、佛ノ蓮華座ノ如キ[illegible]ユフカ」鷄腸草(カハラケナ)ヲ春ノ七種(ナナクサ)ニ用キル時ノ稱。タビラコ。　公事根源、一、正月、供若菜「若菜ハ七種ノ物ナリ、云云、佛の座」

ホトケ-の-つめ（名）［佛爪］［佛甲草(ブッカフサウ)］ノ[illegible]、まんねんぐさ（萬年草）、及、いはれんげ（岩蓮華）ノ條ヲ見ヨ。

✣ほど・ける（動）［解］　ほどく（解、自動）ノ口語。

ほどこし（名）［施］　ホドコスコト。惠ミ與フルコト。布施。施行。嚫。喜捨。　管子[illegible]玉、座右銘「施人愼勿念、受施愼勿忘」　博多小女郎波枕（享保、近松作）上「今日ハ太夫サンノ志シノ日ニ當リ、施しノ[illegible]錢ト[illegible]出シナガラ」

ほどこ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［施］（一）［播(ホドコ)ル］ヤウニナス。遍クモノス[illegible]。延キ布ク。　名義抄「播、ホトコス」[illegible]、ホトコ[illegible]　[illegible]異記、下、第三十四緣、訓釋「播、保止[illegible]」　夫木抄、三十五、民「スベラギノ、昔遍キ、惠ミヲヤ、コノミナ月ノ、民ニほどこす」　神代紀、上「四十八木種、皆[illegible]播(ホドコシクウ)[illegible]」　[illegible]宮[illegible]二[illegible]ほどこし[illegible]」　[illegible]集、序「[illegible]ノ中ノ[illegible]ほどこして」　新古今集、十九、草木「[illegible]ほどこさしテ花奉リケルニ」「政ヲほどこす」謀ヲほどこす」（二）延ベ着ク。［着色］　[illegible]面目ヲほどこす」　新[illegible]集、十九、草木「長櫃ニ丹青ヲほどこして、作花ヲモテ飾リタリ」（三）惠ミ與フ。布施ス。施行ス。嚫。喜捨。　字鏡、九「施、保止己須」「貧ニ施す」「米錢ヲ施す」（四）行フ。傳ス。　聞光大師[illegible]、九[illegible]、上二[illegible]シテ、延年、稱種ノ藝ヲほどこす」　[illegible]日記、寬永廿一年二月十日「[illegible]院御所、丹波日吉施一[illegible]」

〜ほどこ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［播延］［被］（一）延ビヒロガル。行キワタル。ハビコル。　臨[illegible]（弘安）十[illegible]「[illegible]ツネニ遊ノ字ヲほどこるト讀ム、散ズル心ナリ」　欽明紀、五年三月「蓮(ホドコル)延村邑」　[illegible]宗紀、二年十月「[illegible]被(ホドコレリ)野」　雄略紀、廿三年七月「酷毒流(ホドコリテ)民庶」　天武紀、下、朱鳥元年七月「忍壁皇子宮失火、延(ホドコリテ)[illegible]民部省」（二）ホトブ。[illegible]字ノヤクル　字鏡「脝、脹也、云云、保止太」　[illegible]字鏡、[illegible]「[illegible]（[illegible]）、張也、脹也、又、分眼也、波留、又、布止留、又、久佐留、又、保止太留」

ほどころ（名）［懷］　ふところ（懷）ノ訛。

〜ほ-どころ（名）［火處］　神祭ノ場所ニテ燒ク火。ハビ。庭燎。　神代紀、上「[illegible]火處(ホドコロ)[illegible]」　[illegible]、[illegible]神明之[illegible]」

ほど-しぎ（名）鷸ノ一種。古言[illegible]、ヤヤクキ、やましぎ（山鷸）ノ條ヲ見ヨ。

〜ほど-せ（名）［程瀨］（瀨ハ、時、又ハ、節ノ意）バカリノトキ。グラキノヲリ。

〜ほど-つら（名）［百部］（根塊相連レバ名アリ、塊ノ條ヲ見ヨ）草ノ名。ひゃくぶ（百部）ノ條ヲ見ヨ。　倭名抄、廿[illegible]類「百部、保止豆良、一種以有百部、故以名之」　本草和名、上「[illegible]百部根、布止都良」　字鏡[illegible]「百部根、[illegible]」

ほととぎす（名）［[illegible]］[illegible]ノ字ヲ用ヰレド、コハ、[illegible]ナリ、啼ク聲ヲ名トス、歌ニ[illegible]「[illegible]ト詠メル多シ」（一）［[illegible]］鳥ノ名。山中ノ樹ニ棲ミ、夏ノ初ヨリ、晝夜ヲ分カズ啼キテ、秋ニ至リテ止ム。其聲、叫ブガ如シ。形、ひよどり（鵯）ヨリ瘦セテ長ク、頭ハ、黑褐ニ淡褐[illegible]斑アリ、背ハ、淡青ニシテ、背後、肩、翅、背、黑褐ナリ、喉ハ淡青ニシテ、黃褐ノ橫斑アリ、胸、腹、色、淡クシテ、黑キ橫斑アリ、尾、黑クシテ白斑アリ、是レ雄ナリ。雌ハ、頭、頷、深黑褐ニシテ、青ヲ帶ビ、黑キ橫斑アリ、肩、翼、黑ク、喉、胸、淡褐ニシテ、腹、白ク、胸ヨリ腹マデ、黑キ橫斑アリ、卵ヲ鶯ノ巢ノ中ニ生ミテ、鶯ヲシテ養ハシムト云フ。異名、クキラ。クツテドリ。シヅコドリ。シヅトリ。シデタヲサ。シデノタヲサ。タウタドリ。タソガレドリ。タナカドリ。タマサカドリ。タマムカヘドリ。タヲサ。タヲサドリ。トキツトリ。ヌバタマドリ。モモコエドリ。ヤマホトトギス。ユフカゲドリ。ヨタダドリ。ヨブコドリ。杜鵑。子規。杜宇。蜀魂。[illegible]。不如歸。[illegible]　倭名抄、十八、羽族「[illegible]、保止止木須、[illegible]」　萬葉集、十八「[illegible]」　字鏡、六「[illegible]郭公鳥、保止止支須」「アカトキニ、名ノリナクナル、保登等藝須、イヤメヅラシク、思ホユルカモ」　同、九「[illegible]鶯ノ、カヒコノ中ニ、[illegible]公、ヒトリ生レテ」　枕草子、三、第廿[illegible]段「夕暮ノ程ニ、ほととぎすノ名ノリ渡ルモ」　[illegible]、[illegible]郭公ト[illegible]事、云云、樹[illegible]造[illegible]生長、云云、ほととぎす鳴去了」　今鏡、第十、打聞「子ノヤウヤウオトナシクナリテ、ほととぎすト啼キケレバ、云云、或人ヨメル、親ノオヤゾ、今ハユカシキ、ほととぎす、ハヤ鶯ノ、コハネナリケリ」（二）百合科、[illegible]、[illegible]百合[illegible]似[illegible]、[illegible]似タリ、[illegible]如ク、秋、[illegible]、淡紫色ニシテ、六出アリ、中ヨリ一蘂出デテ、又、花ノ形ヲナス、[illegible]小紫斑多ク、杜鵑ノ羽ノ斑ニ似テ、ほととぎす染ノ如シ。杜鵑草。油點草。　大和本草、七、[illegible]「ほととぎす、葉ハ紫[illegible]ニ似テ短小ナリ、[illegible]多シ」

〜ほど-どころ（名）［陰所］　ほと（陰）ニ同ジ。　武烈紀、八年三月「[illegible]女不[illegible]陰[illegible]」

〜ほど-な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）［程無］（一）セマシ。距離少シ。　源、四、夕顏九十「程なき庭ニ」　同、五、若紫「程なき所ナレバ、君モヤガテキキ給フ」（二）時近シ。間少シ。マモナシ。　源、四十六、總角五十「ワリナクテオハシマシテハ、ほどなく歸リ給フガ、アカズ苦シキニ」

ほど-ばし・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［迸］（一）［ホトホトトシテ走ル。］アワテフタメクノふた、是レナリ、足音ノはたはた、ほどこる（播）ノほど、同趣[illegible]モ、[illegible]ルモ、心ノアワテサワグヲ云フ。心悸。　字類抄「[illegible]、跳、ホトハシル」　[illegible]「悸、心[illegible]也、心不安也、[illegible]」　[illegible]天治字鏡、十[illegible]「[illegible]、己己[illegible]保止波志留」　[illegible]紀「[illegible]」（二）飛ビ散ル。　[illegible]物語、二、伯西宿所[illegible]「[illegible]ラレテ、灰ほどばしりケレバ、如何ナル苔カ助カルベキ」「水迸る」

✣ほど-び・る（動）［潤］　次條ノ語ノ口語。

〜ほど・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（自動、上二）［潤］［太(フト)ぶ、ノ轉カ］　ホドコル。潤ヒテ脹(フク)ル。フヤケル　伊勢物語、第九段「乾飯(カレイヒ)ノ上ニ涙落シテ、ほどびニケリ」

ほどほ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）潤 ホトブルヤウニナス。ウルホフヤウニナス。ヒタス [illegible]

ほどほど（副）殆幾〔邊邊ノ意ト云フ〕ソノ近キ邊マデ至リテ。今少シニテ。スンデノコトニ。音便ニ、ホトンド。ホトホト。[illegible] 失、人哉」萬葉集、八四「吾ガ宿ノ、一村萩ヲ、思フ兒ニ、[illegible] ニ逢ハズ來ニケリ」同、十五廿一「歸リケル、人來レリト、イヒシカバ、保等保等死ニキ、君カト思ヒテ」

ほどほど（副）（一）訪問者ナドノ、戸ヲ輕ク敲ク音。云ノ語 [illegible] 平家物語 [illegible] 妓王事「竹ノ編戸ヲほどほどト打叩ク」[illegible]「門ヲほどほどト叩ケバ」（二）斧ニテ木ナドヲ伐ル音。[illegible] 丁丁 [illegible] カル、日ヲモ見シ哉」（次次條ノ語ニ言掛ケタリ）

ほどほど（名）程程〔ほどヲ重ネタル語〕分限ニ應ジテナスコト。ソレサウオウ。源、二、帚木「オシナベタル大方ノハ、數ナラネドモ、ほどほどニツケテ、書キカハ、ツツモ見侍リナン」[illegible]「ほどほどニツケテハ、カタミニイタシナド思フベカメリ」

ほどほど・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）殆 殆ド迫レリ。イマスコシナリ。幾殆 土佐日記「二月九日、ユクリナク風吹キテ、漕ゲドモ漕ゲドモ、シリヘシゾキニシゾキテ、ほどほどしく、打チハメツベシ」宇津保物語 [illegible]「恐ロシキ病ツ（フ）キテ、ほどほどしく、イマズカル」後撰集、一、[illegible] シウ心地ワヅラヒテ、ほどほどしく ナンアリツル」

ほどほど・し・シキ・シケレ・シク・ク（形、二）

[illegible] 契濶 拾遺集、十四、戀、四「ナゲキコル、人イル山ノ、斧ノ柄ノ、ほどほどしくモ、ナリニケル哉」

ほどほど・み（副）殆 ほどほど（殆）ニ同ジ。[illegible] ヨ、奈良ノ都ヲ、見ズカナリナム」

ほどぼり（名）熱〔ほとほり [illegible]〕ヲ見ヨ」ホトホルコト。火ノ熱サ。訛シテ、ホトリ。ホトボリ。神代紀、下十一「火熱時、躍誥出兒、亦言、云云」熱田皇大神宮 [illegible]

ほどぼり（名）熱 前條ノ語ノ訛。

ほどぼ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）熱〔火通る、ノ義カ〕（一）熱氣立ツ。ホトル。ホテル。[illegible] ホトボル。[illegible] 名義抄「熱、ホトホル、アツシ」沙石集、五上、第八條「胸苦シクほどほりテ、堪へ忍ガタシ」（二）イキドホル。[illegible] ノイミジウ、マメダチテ [illegible] 給フ、云云、サルベキ事モナキヲ、ほどぼり出デ給フサマコソアフメ」

ほどぼ・る（動）熱 前條ノ語ノ訛。

ほどんど（副）殆幾 ほどほど（殆）ノ音便。今少シニテ。オホカタ。音便ニ、ほとうど。孟子、告子、上篇「平旦之氣、其好惡與人相近也者幾希」[illegible] 後撰集、九、戀 [illegible] サレドモ [illegible] ハ、ほどんど神ニ通ジタル人ナリケリ」

ほどむら（名）程村 日本紙ノ名。モト常陸國、水戸領、程村ノ產。楮皮ニテ製シ、質、西ノ內ニ [illegible] シテ、精シ、シテ厚シ。近時、歐米ニ輸出シ、書畫ノ印刷用トス。今ハ、[illegible]、高知ノ兩縣ヨリ產ズ。萬金產業袋、一、紙類一色「東國、仙臺筋、會津邊、マタハ [illegible]「程村、西ノウチ」[illegible] 諸口類「程村、紙厚シ、常陸水戸ヨリ出ヅ、⑫一尺四分、一 [illegible] 東ノ西ノ內、程村、[illegible]」

ほどめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）ホトホト [illegible] スアハレナリ、云云、オモヒカケズクラキ所ナドニほどめきタル、聞ツケタルコソヲカシケレ」

ほどよ・し・キ・ケレ・ク・ク [illegible] 程好 [illegible] 合ヨシ。[illegible] 君、吹キカヘテ、程よく野火ノ、スサリケリ」

ほどらひ（名）〔程合 [illegible]〕[illegible] ニ同ジ。[illegible] マヘノアルベキヤウ、引出物ノ程らひナド定メテ、サラバ各陣口ヘイザタマヘトテ、云云」

ほどり（名）邊〔端ト通ズルカ〕程近キ處。アタリ。[illegible] オマシノほどりニ、サルベキ人必ズ候ヒ給ヘバ」

ほどり（名）熱 ホトルコト。アツサ。

ほどりば（名）雄柱 橋ノ兩側ノ [illegible] 稱。をはしら（雄柱）ノ條ヲ見ヨ。神代紀、上 [illegible]

ほどりば・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）邊側〔ほどりめくノ意〕ホトリニ寄 [illegible] ハシヂカナリ。又、アサハカナリ。[illegible] 四十九、東屋十「年足ラヌ程ニオハストモ、云云、サヤウノ、ほどりばみタランフルマヒ、スベキニモアラズ」同、同 [illegible] 奉ランモ [illegible]

ほど・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）熱〔ほとほる（熱）ノ約、其條ヲ見ヨ〕アツクナル。ホトボル。ホテル。

ほどろ（名）程〔ろハ助語〕ほど（程）ニ同ジ。萬葉集、八三十一「秋ノ田ノ、穗田ヲ雁ガ音、闇ナルニ、夜ノほどろニモ、鳴キワタル [illegible]

ほどろ [illegible] 延ビテ、荊棘ニナレルモノ。散木集、一、春 [illegible] ナラントスラン」山家集、上、早蕨「ナホザリニ、焼キ捨テシ野ノ、早蕨ハ、折ル人ナクテ、ほどろトヤナル」

ほどろ・み（副）斑 はだらみ（斑）ニ同ジ。[illegible]

ほどろほどろみ [illegible] 萬葉集、八四十「沫雪ノ、保杼呂保杼呂爾、降リシケバ、[illegible] ラビヲリシ、更待ノ小野ヲ、キテ見レバ、雪フリニケリ [illegible]

ほなか（名）[illegible] 火ノ中。古事記、中（景行）五十「サネサシ、相模ノ小野ニ、モユル火ノ、火中ニ [illegible]

ほなが（名）穗長（一）槍ノ穗先ノ長キモノ。[illegible] 七「穗長ノ槍ニテ、障子越ニ突キタレバ」（二）〔瑞穗ノ長キ意カト云フ〕[illegible] 八穗ナラズ、シダハ大小二株アリ、單ニ、シダト云フ時ハ、オホシダニシテ、ほなが、一名ウラジロト云フ、歳首ニ飾ニ掛ル者、コレナリ」夕霧阿波鳴渡（近松）[illegible]

ほなしあかり [illegible] 火ナシ [illegible] 古ヘ、天皇ノ [illegible] 九年、二月、丁未 [illegible] 子甕浦宮 [illegible] 元火殯歛、元火殯歛、此云褒那之阿餓

利ニ」書紀通證、十三「無火殯斂、謂、殯斂不レ夜ニ燈燎一ハ、令ニ人不一レ知也」

ほ-なは（ホナワ） (名) 【帆繩】 ほづな(帆綱)ニ同ジ。夫木抄、三十三、船「年經トモ、シラジナ心、アマ小舟、ガマノほなはノ、タエズ絶フカナ」

ほ-なみ (名) 【穗竝】 稻ナドノ穗ノ、出揃ヒタルサマ。又、ソノ穗。新古今集、四、秋、上「風ワタル、山田ノ庵ヲ、漏ル月ヤ、ほなみニムスブ、氷ナルラン」六帖、二「秋ノ田ノ、ほなみオシ分ケ、置ク露ノ、消エモシナナン、戀ヒテ逢ハズバ」

ほ-なみ (名) 【穗波】 稻ナドノ穗ノ、風ニ搖ク狀ヲ、波ニ譬ヘタル語。夫木抄、十二、秋田「タサレバ、アシヤノ沖ニ、風過ギテ、イクタノ小田モ、ほなみタチケリ」

ほ-に (副) マコトニ。ホンニ。ゲニ。ホンマニ。ホンタウニ。宇津保物語、藤原君三十九「ほに此ノ頃、マウデントシツレド、雨ノカク降レバ、頭モサシ出デデナン侍リツル」

ボ-ニ (名) 【盆】 〔字ノ音、盆ナルヲ、ぼにト轉ジテ云フナリ、蘭ナラにト云フガ如シ〕(一)【盂蘭盆ノ略。ぼん(盆)ニ、及、うらぼんゑ(盂蘭盆會)ノ條ヲ見ヨ。蜻蛉日記、上、上廿五「十五六日ニナリヌレバ、ぼにナドスル程ニナリニケリ」同、下、中五「七月十餘日ニナリテ、云云、ぼにノコト、ミ封ナド、サマザマニナケク」枕草子、十二、第百四十八段「七月十五日、盆ヲ奉ルトテ、イソグヲ見給ヒテ、道命阿闍梨、海ニ、親ヲシイレテ、子ノヌシノ、ぼんスル見ルゾ、アハレナリケル」(二)盆ノ供養ノ布施物。源順集「十五日、ぼん持タセテ、山寺ニ詣ヅル人」明月記、天福元年七月十四日「二代之御盆(一本、瓮)、存、例送ニ嵯峨ニ」

ほ-に-いづ（ホニイズ） (句) 〔秀(穗)ニ出ヅノ意〕表ニアラハル。(言語ナドニモ、顏色ナドニモ) 神功攝政前紀「幡荻、穗出吾也」(ハタススキ、ホニデシアレヤ) 萬葉集、八四十七「メヅラシキ、君ガ家ナル、ハナススキ、

ほにいづル、秋ノ、過グラク惜シモ」萬葉集、三廿九「見ワタセバ、明石ノ浦ニ、トモス火ノ、保爾ゾ出ヌル、妹ニ戀フラク」同、九廿六「石上、布留ノ早稻田ノ、穗爾ハ不出、心ノ内ニ、戀フルコノゴロ」

ほ-にう（ホニュウ） (名) 【哺乳】 乳ヲ、フクマスルコト。又、幼兒ニ乳ヲ含マセテ育ツルコト。又、ヤシナヒトナルモノ。後漢書、袁紹傳「譬如嬰兒在股掌之上、絶其哺乳、立可餓殺」稽康、難自然好學論「立六經以爲準、仰仁義以爲主、以規矩爲軒駕、以講論爲哺乳」

ほにほろ (名) 江戸時代、騎馬ノ飴賣商人ノ、唐人笛ヲ吹キツツウタヒタル語。

ほ-にん (名) 【補任】 ふにん(補任)ニ同ジ。後漢書、章帝紀「詔曰、云云、又曰、察試臣以職、不ㇾ直以言語筆札、今外官多曠、並可以補任」平家物語、十一、腰越事「アマッサヘ、義經五位ノ尉ニ補任ノ條、當家ノ重職、何事カコレニ如カン」

ほ-ね (名) 【骨】 〔秀根ノ義カ、蝦夷語、Pone. 英語、Bone. 朝鮮語、びょ〕(一)動物ノ體中ニアリテ、全體ヲ張リ支フル堅キモノ。長短、細太、一ナラズ、處處、關節ニテ組合フ。コツ。說文「骨、肉之覈也」段注「肉中骨曰覈」倭名抄、三五身體類「骨、保禰、肉之核也」(二)諸器ノ體ヲ張ルニ用ヰル細長キ竹木ナド。又、衾障子、明障子、屏風ナドノ格子。(扇、几帳、傘、壁、行燈、提燈、紙鳶、ナド)。方材。枕草子、五、第五十段「御扇、奉ラセ給フニ、隆家コソ、イミジキ骨ヲ得テ侍レ、ソレヲハラセテ參ラセン」榮花物語、十九、御裳着「御几帳、御屏風ノ骨ナトニモ、皆螺鈿、蒔繪ヲセサセ給ヘリ」(三)ホネヲリノ意。勞苦。「ナカナカ骨ダ」骨を折るトハ、勉ム。勵ミ爲ス。勞 勤勉 夫木抄、三十二、笠「サリトテモ、サセルコトナキ、破レガサ、ほねをりテゾ、君ニツカヘシ」骨を惜むトハ、勞

力ヲ厭フ。骨惜ミスル。懶ㇾ骨に染むトハ、骨ニコタフ。身ニ深ク感ズ。

ほね-うづき（ホネウズキ） (名) 次條ノ語ニ同ジ。

ほね-がらみ (名) 又、ほねうづき。俗ニ、黴毒ノ、全身ニ蔓延シテ、痼疾トナレルモノノ稱。黴毒性骨炎。

ほね-きり (名) 骨切 料理ノ語。鱧ノ肉細カクニ、皮ノ切レハナレヌヤウニ、庖丁目ヲ入レテ、小骨ヲ切リタルモノ。照燒ニシ、汁ニモス。

ほね-ぐみ (名) 【骨組】 (一)骨ノ關節ノ組合セ。骨格 (二)轉ジテ、身體ノ組織。「骨組カヨイ」(三)家屋ヲ支持スル柱、梁、桁ナドノ組立テ。

ほね-ざけ (名) 【骨酒】 脊魚ノ、頭、尾トナク、鰭、骨トナク、盤ニ入レ、酒ヲ熱セシメテ、ソレニ注ギテ飲ムモノ。一名、頭腦酒ト云フ。(燕居雜話、五)

ほね-しごと (名) 【骨仕事】 骨ノヲルル仕事。體ノツカルル仕事。骨折仕事。松風村雨束帶鑑、元祿、近松作「今樣うばぞろハ、春日ノ禰宜ノ妻ナルガ、夫ハ社ノ宮奴ノ、其スキズキノ骨仕事、家ハ五人ノ朝タヤ、勸進能ノ地謠ニ」

ほね-しば (名) 【骨柴】 枝葉ヲ取リ去リタル柴。續養集(元祿)四「骨柴ノ、刈ラレナガラモ、木ノ芽カナ」

ほね-しばり (名) 【骨縛】 衾障子、屏風ナドヲ貼リ作ルニ、第一ニ格ニ、糊ニテ紙ヲ貼ルコト。ソレニ、紙ヲ蓑ノ如ク、オメラセ重ネテ貼ルヲ、蓑貼ト云ヒ、又、ソレヲ被ヒテ張ルヲ、蓑押ヘト云ヒ、更ニ、袋貼ヲシ、上貼ヲシテ、表ノ紙ヲ貼

ル。からかみしやうじ(唐紙障子)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ほね-ちがひ（ホネチガイ） (名) 【骨違】 骨ノ關節ノ、ハヅレタガフコト。脫臼

ほね-つぎ (名) 【骨繼】 骨ノ折レ、又ハ、關節ノ外レタルナドヲ治スル術。又、ソレヲ業トスルモノ。接骨 整骨科

ほね-なし (名) 【骨無】 (一)不具ノ名。脊髓、堅立セズシテ、身起ツコトヲ得ヌモノ。骨軟化症。ナイラ。內科祕錄(文久、本間救)十三「小兒、五軟「五軟ハ、頭軟、項軟、手軟、脚軟、口軟ナリ、香川太仲之ヲ稱シテ僂軟トイフ、身體軟弱ニシテ、之ヲ抱クニ頭傾キ、或ハ垂レテ、正シキコトヲ得ズ、骨ノ無キヤウニ見ユルユヱ、俗ニ、ほねなしト云フ」(二)臆病者ノ稱。

ほね-ぬき (名) 【骨拔】 (一)うなぎ、どぢやうナドノ類ヲ、脊ヨリ割キ、膓、及、中骨ヲ除キタルモノ。かばやき、又ハ、やながはなべナドニ用ヰル。(二)轉ジテ、主要ノ處ヲ無クシテ、タダ其形ノミヲ殘シタルモノ。「骨拔ニシタル決議案」

ほねぬき-どぢやう（ホネヌキドジョウ） (名) 【骨拔泥鰌】 (一)骨拔ニシタル泥鰌。(文政頃、始マルト云フ) (二)氣骨ナキ人ヲ云フ語。

ほね-の-なづき（ホネノナズキ） (名) 【髓】 骨ノ心中ニアル脂狀ノ物質。骨髓。天治字鏡、二十五「髓、骨中脂也、保禰乃奈豆支」

ほね-ばなれ (名) 【骨離】 (一)骨ト肉ト離ルルコト。又、ソノ工合。(二)滋養分ヲ食ハヌニ云フ語。

ほね-ば・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【骨張】 (一)骨多クアリ。(二)意地強クカドダ

ツ。情ヲコハクスル。こっちゃう(骨張)ノ(…)ヲモ見ヨ。[illegible] 一條「オナジ人、常ニ教ヘテイハク、云云、人コソモチヒズトモ、心バカリハ思フトコロアリテ、身ヲタテン [illegible]」[illegible]十八、[illegible]九年六月八日「就」中光村、萬事有二骨張之氣一歟」

ほねみ (名) [骨身] (一)骨ト、身ト。(二)轉ジテ、[illegible]、全身。[illegible]「ほねみヲ惜マズ働ク」

ほねん (名) [甫年] [玉篇、甫、始也] 年ノハジメノコト。新年。[illegible]上、時候門「甫年、ホネン、正月」

ぼねん (名) 暮年 年老イタル時。晩年。[古ク、莫ハ暮ノ通ハシ用ヰル] 宋書、[illegible]「[illegible]莫年二」[illegible]「[illegible]暮年二」[illegible]

ほねやすめ (名) [骨休] 又、ほねやすみ。休息スルコト。イコフコト。休憩。

ほねをしみ (名) [骨惜] 骨折ルヲ厭フコト。苦勞ヲイヤガルコト。ブシャウ。ナマケ。[illegible]浮世風呂(文化)[illegible]「[illegible]レタ事ニ世話ヲヤカセテ、嗤イテモ笑ッテモ、セネバナラヌコトヲ、骨惜しみヲシタ物サネ」

ほねをり (名) [骨折] 略シテ、ほね。ホネヲルコト。勉メテ事ヲスルコト。精ヲ出シテ働クコト。イソシムコト。努力。粉骨。勤勞。[illegible]太平記、廿九、[illegible]「[illegible]今宵力[illegible]日カ、心落ニ落チンズル城ヲ、骨折ニ攻メテハ、何カスベキトテ」

ほねをりぞん (名) [骨折損] 益ノナキ勞リ。ムダボネヲリ。イヌボネヲリ。徒勞「ほねをりぞんハノ草臥儲」

ほねを・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [骨折] 勉メテ事ヲ爲ス。[illegible]精ヲ出シテ働ク。イソシム。努力。粉骨。勤勞。

ほの (接頭) [illegible]「ナ立チソト、イサムルヲトメ、彌聲キキテ、我ニゾ來タル」源、二、帚木二十九「火ハほの暗キニ見給ヘバ」同、四、夕顔六十「顔ヲモほの見せ給ハズ」同、十一、花散里[illegible]「[illegible]ナヲシタニハ、ほのスキタルスヂノ心ヲ、云云」同、五十二、手習八十「宮ノトハセ給ヒシモ、カカルコトヲ、ほのオボシヨリテナリケリ」

ほのかに (副) [仄風側彷彿] [おほのかにノ略、聞クニ風、聞見ニ仄ノ義] オボホカニ見エテ分明ナラヌ状ニ云フ語。ホノニ。ホノカニ。シク。カスカニ。ホンノリト。ホノニ。字鏡八「彷彿、保乃加爾」天治字鏡[illegible]萬葉集[illegible]「[illegible]」宇津保物語、[illegible]「[illegible]佐保姫ノ、ほのかにスキテ見ユ」源、四、夕顔三十八「[illegible]ヨヒサシソムル、フチゾ戀シキ」

ほのき (名) [風記] 心オボエニ、カスカニ書キ記スコト。簡略ニ、ホノボノト記スコト(小折紙ナドニ) 字類抄「風記、ホノキ、又風記(風ハ風ノ誤カ)」江家次第、四、除目執筆事、注「見付事、依二前例一是風記也、以二略記一先、云云」同、同、[illegible]「[illegible]風記」

ぼのくぼ (名) [盆窪] ぼんのくぼ(盆窪)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]リテ、ほのくぼニテ組ムナリ」

ほのぐら・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) [仄暗] ホノカニクラシ。ウスグラシ。[illegible]大化元年八月「其收數者、[illegible]」欽明紀、十四年十月「[illegible]」源、六、末摘花廿「マタほのぐらけれド、雪[illegible]」

ホノグラフ (名) [英語、Phonograph. (phono. ハ音聲、graph. ハ記ス意)] ちくおんき(蓄音器)ニ同ジ。

ほのけ (名) [火ノ氣] ヒノケ。[illegible]ケブリ。ケムリ。神樂歌、弓立「伊勢島ヤ、海人ノ刀禰等ガ、焚ク保乃介」

ほのを (名) [illegible]熖レタリト云フほノ字ノ[illegible]用ヰル[illegible]ほの字[illegible]ナリケン」平家女護島(享保、近松作)三「ソレハソレハ美シイ君、ソモジニタントほの字ヂャト」

ほのす (名) [illegible]風、栖ノ義、[illegible]ハ、風ノ栖ニ似ルト云フ」祇園[illegible]社ノ神輿、神器、太刀ノ鍔ナド[illegible]紋ヲツケタルヲ呼ブ稱。

ほのかに (副) [仄] ほのかに(仄)ニ同ジ。

ほのほ (名) [炎焔] [火の穗ノ義] (一)火ノ燃エアガル尖。火先。火焔。[illegible]名義抄「焔、ホノホ、[illegible]、ホノホ」天治字鏡、十一二十「焱、保乃保」最勝王經音註「焔、保乃保」神代紀、下十「避火[illegible]時[illegible]保乃保」雄略紀、十三年八月「時自火炎中[illegible]出」遂[illegible]其[illegible]如[illegible]」續運紀、十一年十月[illegible]一[illegible]時、日羅身光、有如火焔、[illegible]不殺」萬葉集、二十九「[illegible]火ノ、保[illegible]ニゾ出デヌル、妹ニ戀フラク」(二)心中ニ燃エタツ情。ホムラ。情火 源、三十一、槇柱十[illegible]「モクノ君、御タキ物シツツ聞ユ、ヒトリ居テ、焦カルル胸ノ、苦シキニ、思ヒ餘レル、ほのほトゾ見シ」

ほのほかに (副) [仄微] ほのかに(仄)ニ同ジ。天治字鏡、三十五[illegible]、保乃保加爾

ほのぼの (副) [仄仄] 甚ダ仄ニ。微明 伊勢物語、第四段「夜ノほのぼのト明クル[illegible]」[illegible]四、

ほのぼの・し [illegible] [仄仄微微] ホノカニアリ。アキラカナ[illegible]「[illegible]、日之力精也、日保乃保乃志」

ほのぼのと (副) [仄仄微微] ホンノリト。ホノカニ。ウスウスト。ウスボンヤリト。[illegible]

ほのみ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ [微見] ホノカニ見エ[illegible]

ほのめか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) (一)髣髴クヤウニナス。夫木抄、廿五、浦「ほのめかす、カヒコソナケレ、逢フコトヲ、イナミノ浦ノ、海人ノ漁リ火」(二)チラチラ氣振ニ示ス。[illegible]「[illegible]ほのめかさバヤ、思フ心ヲ」[illegible]「[illegible]ほのめかし出テナリ[illegible]」

ほのめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [髣髴] ホノカニ見エ[illegible]。[illegible]字類抄[illegible]「[illegible]ほのめく聲ヲ、何方ト、聞キマドハシツ、アケボノノ空」源、三十一、槇柱卅「打チほのめきテ、參リ來ナントテ出デ給フ」「月ほのめく」光ほのめく」

ほばう (名) [捕亡] [史記、[illegible]傳[illegible]「[illegible]捕二亡人一」トアリ] (一)亡グル者ヲトラフルコト。メシトリ。追手。逮捕。(二)罪人ヲ捕フルコト。

ほばく (名) [捕縛] (一)トラヘテ、シバルコト。(二)武術ノ一。敵、又ハ、罪人ナドヲ捕フル術。やはらとりノ類。取

手。小具足。コシマハリ。 [illegible]

ほばしら (名) 〔帆柱〕 船ニ立テテ、帆ヲ、卷キ、又ハ、張リアグル柱。 倭名抄、十一「舟具、帆柱、檣、保波之良」 [illegible] 「梔、保波之良」 續紀、三十五、寶龜九年十一月十一日 [illegible]

ほばら (名) 〔鰾腹〕 (一)魚ノ腹ノ名所。今、はらか。 其條ヲ見ヨ。 倭名抄、十九、龍魚部 [illegible]、保波良 [illegible] (二)魚ノツキブクロ。ふえ(鰾)ノ條ヲ見ヨ。 名義抄、十「鰾、ホハラ、魚鰾」

ほばらみ (名) 〔穗孕〕 稻ナドノ、穗ヲ孕ムコト。穗ノ間ムトシテ、脹ムコト。又、ソノモノ。シュツボ。出穗。

ぼひ (名) 〔墓碑〕 死者ノ姓名、法名、官等、事蹟、歿年月日ナドヲ彫刻シテ、墓上ニ建ツル石。墓標トシタル碑。 [illegible]

ほびこ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔蔓延〕 〔秀ヲ活用セシカ〕 はびこる(蔓延)ノ古言。 [illegible]

ほひつ (名) 〔輔弼〕 〔伏羲書、伏犧傳、註「左曰レ輔、右曰レ弼」〕 ほさ(輔佐)ニ同ジ。 [illegible] 何以相救哉、事不レ師レ古、而能長久者、非レ所レ聞也」

ほひつ (名) 〔補筆〕 筆ヲ加ヘテ、オギナフコト。カキクハフルコト。加筆。

ほひろ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 勢ヒ逸ル。ハビコル。 字鏡集「逸、ホヒロク、スサビタリ、イブリニ」

ほふ (名) 〔法〕 〔法ハ呉音、はふ、音便ニ、ほう、漢音、はふナリ、熟語ナルハ、用法ニ因リテ、三所ニアリ、就キテ索ムベシ〕 (一)佛教ニテ法トハ、梵語、Dharma(達磨)ヲ云フ。即チ、一切萬有一通ズルモノヲ、皆、法ト云フ。 [illegible] (二)ノリ。サダメ。定規。 (三)掟。法度。法律。 (四)仕方。テダテ。術。手段。 (五)算術ノ、除數。

ほぶ (名) 〔步武〕 〔國語、周語、韋註「六尺爲レ步、賈君、以二半步一爲レ武」〕 (一)步ヲ六尺、又ハ、六尺四寸トナシ、半步ヲ武トナス。即チ、咫尺ノ意ニテ、僅カノ距離ヲ云フ。 國語、周語 [illegible] (二)アシドリ。アユミ。 蘇軾詩「穿竹鷄聲步武二」「步武ヲ進ム」

ぼ・ふ (動) 〔追〕 おふ(追)ノ訛。 女殺油地獄(享保、近松作)中「分別モ何モイラヌ、ぼひ出シテノクサ、シャレ、ヂタイ親父ぼカラヌルイ」 [illegible] (正德、近松作)上「スネル耶ノぼ、カケテ、ソコフソコシャ、ズンズト呑マシャル」

ぼ・ふ (形) 〔ぶノ延言〕 物ノ狀態ヲ云フ語、よろさぶノよろさぼふ、さらぶノさらぼふノ如シ。

ほふいん (名) 〔法印〕 (一)第一等ノ僧位。僧正ノ官ニ相當ス。大和尚。 倭名抄 [illegible] 初例抄、上、法印始 [illegible] 男、自二少僧都一法印初例也、天喜三年十二月廿八日 [illegible] (二)俗ニ、山伏ノ稱。 女殺油地獄(享保、近松作)中 [illegible] ニモ入ラセ給ハデ、法印ノ物シ給フ小野ノ、イトヲカシカナルモ、御覽ゼマホシク」 (三)鎌倉時代ヨリ江戶時代ニカケテ、僧位ノ僧綱ニ准ジテ、儒者、佛師、連歌師、醫師、及、畫師ナドニ授ケシ地位ノ稱。 本朝畫史、二「[illegible]」 基擾卿記、貞享二年五月十八日「產後醫師良安、敍二法印一[illegible]」

ほふう (名) 〔法雨〕 佛教ノ語。佛法ノ衆生ヲ教化スルヲ、雨ノ萬物ヲウルホスニ譬ヘテ云フ語。ノリノアメ。 法華經、普門品「[illegible]」

ほふう (名) 〔法宇〕 〔のりノいへノ義〕 テラ。寺院。 [illegible]

ほふえ (名) 〔法衣〕 〔[illegible]〕 故ニ法衣ト云フ。三衣(共條ヲ見ヨ)ノ通稱。僧法ノ衣。僧ノ服。コロモ。法服。納衣 禪林ニテハ、殊、傳法ノ信ヲ表スル金襴衣ヲ稱シテ、法衣ト名ヅク。說法ノ時、此衣ヲ着ル故ニ云フ。 [illegible]

ほふえう (名) 〔法要〕 (一)教法ノ肝要。法義ノ樞要。 [illegible] (二)ほふゑ(法會)ニ同ジ。 [illegible]

ほふえつ (名) 〔法悅〕 (一)佛法ヲ聽聞シ、又ハ、思惟シテ悅ブコト。又、ソノ悅ビ。法喜。 (二)轉ジテ、忘我ノ歡喜。

ほふえん (名) 〔法緣〕 佛教ノ語。人我ノ相ヲ離レタル一味平等ノ法理ヲ思惟スルコト。佛緣。 涅槃經、十四「法緣者、不レ見二父母妻子親屬一、見二一切法皆從因緣生一、是名二法緣一」

ほふおん (名) 〔法音〕 佛教ノ語。說法、又、讀經ノ聲。 [illegible]

ほふかい (名) 〔法海〕 佛法ノ弘大ナルヲ、海ニ譬ヘテ云フ語。 [illegible]

ほふかい (名) 〔法界〕 〔梵語、Dharma-dhātu.(達磨駄都)ノ譯語〕 (一)萬有ヲ總諸シテ、一ノ法界トモ云フ。即チ、事物ノ千差萬別ナル境界。 [illegible] (二)廣大無邊ナル境界。 [illegible]

[illegible]（二）[illegible]ノ[illegible]

ほふかいりんき（名）〔法界悋氣〕己レニ直接關係ナキ事ニ嫉妬スルコト。ヲカヤキ。浮世三風呂子（享保、近松作）上「法界悋氣、[illegible]」

[illegible]

云心ニテ、我ニアツカラヌ事ニハラ立ト云詞ナリ」

ほふがう（名）〔法號〕ほふみやう（法名）[illegible]

[illegible]喚、於二高倉御所一御位君御逝去有レ之、云云、卽御法[illegible]名[illegible]尼ト稱シ奉リス」

ほふき（名）〔法[illegible]〕[illegible]同ジ。法[illegible]

[illegible]

ほふく（[illegible]）〔[illegible]〕（一）[illegible]コト。ハフハフコト。孟子、滕文公、上篇「赤子匍匐將レ入[illegible]」（二）〔[illegible]〕古代、[illegible]禮。天武紀、下、十一年九月「敕、自レ今以後、跪禮、[illegible]」

ほふぐわい（名）〔法外〕（一）法ノ外。佛法ノ外。（二）又、はふぐわい。度ニ過グルコト。分限ノ外ナルコト。[illegible]

ほふけう（名）〔法[illegible]〕（一）「大法、說ク人ヲシテ、生死ノ大河ヲ渡ラシムル故ニ、[illegible]法ノ[illegible]。[illegible]

[illegible]人不[illegible]」[illegible]

ほふけん（名）〔法眷〕（法中ノ眷屬ノ意）[illegible]ニ同ジ。[illegible]同一ノ法門[illegible]音便ニ、ほうけん。[illegible]

ほふげん（名）〔法驗〕又、ほふけん。佛敎ノ[illegible]佛法[illegible]ハ[illegible]

[illegible]孔[illegible]法驗ニコタヘテ[illegible]ラントスルニ、[illegible]シ」著聞集、十七、變化「末代トイヒナガラ、信力ニコタヘテ、法驗ノ空シカラザルコト、カクノ如シ」

ほふげん（名）〔法眼〕（一）佛敎ノ五眼ノ一。分明ニ緣生ノ差別ノ法ヲ觀察スル眼。ごげん（五眼）ノ條ヲ見ヨ。無量壽[illegible]

[illegible]法眼[illegible]（二）僧位ノ名[illegible]

[illegible]人、八幡法印[illegible]以下法眼[illegible]人、云云」（三）中古以降、醫師ノ位第二トス。卽チ法印、法眼、法橋ト次第ス。（畫工、連歌師等ニモ授ケラル）字類抄「法眼、[illegible]」[illegible]ホフゲン」[illegible]記、二、鬼一法眼事「陰陽師ノ法師ニ鬼一法眼トテ」

ほふご（名）〔法語〕佛敎ノ正法ヲ說ケル語。佛法ノ談話。又、禪林ニテハ、師家ガ學人ニ對スル策[illegible]語[illegible]

[illegible]利根人[illegible]法[illegible]說不[illegible]時、名[illegible]法語、[illegible]上人云云」「假名法語」

ほふざ（名）〔法座〕（一）佛敎ノ語。說法[illegible]ニ[illegible]禪林[illegible]ハ、演法ノ座、卽チ須[illegible]

ほふざう（名）[illegible]ノ說ク所ノ敎法。[illegible]

はうざう（寶藏）ニ同ジ。

ほふざうビク（名）[illegible]比丘[illegible]ハ[illegible]、[illegible]出家修行中[illegible]ラザル時ノ名稱ナリ、佛法ヲ蘊蓄セル[illegible]

[illegible]埠梁ノ敎主法藏比丘ハ、卿子ノ太子ヲ悲シミ、鹿野苑ニ迷ハセ給フトコソ承リテ候ヘトヨ」

ほふし（名）〔法師〕（一）又、ほうし。ほっし。法ノ師。佛敎ノ[illegible]能ク佛法ニ通ジテ、人ノ師タルモノ。僧ノ通稱。

[illegible]法師[illegible]

[illegible]師ニ申セ」著聞集、十六、興言利口、妙音院入道殿ノ[illegible]

法師ハシナバヤト仰セラレタリケル」義經記、二、鬼一法[illegible]トテ、文武二道ノ達者アリ」（二）昔、男ノ兒ハ、スベテ頭髮ヲ剃レリ、故ニ、一ニ法師ト稱ス。男ノ子。[illegible]疑身三上記（永正）「小法師、廿九日夜半バカリニ誕生候」守武千句（天文）「イツカ法師ノ、浮ビ出デマシ（男子出生）、マウクルモ、又モウクルモあま小舟（女子）[illegible]ノ義トシテ、種種ノ語ニ添ヘテ、名詞ヲ作ル語。瘦法師、影法師、一寸法師、ナドノ如シ。

ほふし（名）〔法事〕（音便ニ、ほうじ）[illegible]

[illegible]不可[illegible]ト、ホドホトニ聞ヒテシ給ヒケレバ、イト程ニ、キラキラシキ法事ニナンアリケル」（二）佛法ノ修[illegible]

ほふしうた（名）〔法師歌〕[illegible]ド[illegible]法師ニ因[illegible]傳ヘ[illegible]セテ唄フ唱歌ノ稱。コレニ用ヰル三味[illegible]分ノ[illegible]

[illegible]うた（長唄）ノ條ヲモ見ヨ。

ほふしがへり（名）〔法師還〕げんぞく（還俗）ニ同ジ。

ほふしがみ（名）〔法師[illegible]〕[illegible]テ、法師姿ニナシタルモノ。今昔物語、廿八、[illegible]

ほふしき（名）〔法式〕[illegible]切[illegible]法式[illegible]又、はふしき[illegible]ナドニ定レル則。字類抄「法式」書言字考[illegible]

ほふしご（名）〔法師子〕法師トナシタル子。枕草子、八、第七十二段、いやしげなるもの「人ノ子ニ、ほうしごノフトリタル」

ほふしのいね（名）[illegible]法師[illegible]ぜいね（坊主稻）ニ同ジ。散木集、十、雜、下

「ほうしの、いねトミシマニ、モチヌレバ、ミソウヅマテモ、ナリニケルカナ」同、二、秋、すゑツカナ、誰カ知ノ子ニ稻ノ名ニ、引キカサネ、ほうしのいね、カヘシソメケン」

ほふし-すがた（名）〔法師姿〕次條ニ同ジ。

ほふし-なり（名）〔法師形〕又、はふしすがた。僧侶ノスガタ。僧形　榮花物語、廿九、「下飾〔御法師なりノトキダニ、イミジカリシニ、アサマシウカナシトモ、世ノツネナリ」

ほふし-まさり（名）〔法師勝〕法師ヨリ勝リタル コト。源、五、若紫、六「後ノ世ノツトメモイトヨクシテ、中中ほうしまさりシタル人ニナン侍リケル」

ほふし-まらびと-の-つかさ（名）〔法師賓客の司ノ義〕又、ほうしまらびとのつかさ。げんばれう（玄蕃寮）ニ同ジ。

ほふし-みこ（名）〔法師神子〕法師ニテ、神子（巫）ヲ兼ネタル人。著聞集、五、和歌「ココヲバ何ト云フゾト尋ケレバ、ヤシロ堂ト申トコタヘケルヲ聞テ、其後ナニトナクチズサミニ、童ニムカヒテ、コノ堂ハ、神カ佛カ、オボツカナ、ト云ヒタリケレバ、此ワラハウチ聞テ、トリモアヘズ、ほうしみこニゾ、トフベカリケル、ト云ヒケリ」

ほふし-ん（名）〔法身〕ほ、しん（法身）ニ同ジ。曾我物語、六、於曾我虎借名殘事「世ニアリトモ夢幻ノ如ク、ほふしんヲ殘スベキニアラズ」

ほふし-むしや（名）〔法師武者〕法師ナル武者。法體ノ武士。平家物語、八、法住寺合戰事「河内ノ日下黨ニ、加賀坊ト云フ法師武者アリ、月毛ナル馬ノロノコハキニゾ騎ッタリケル」

ほふし-んわう（名）〔法親王〕昔ハ、親王ノ飾ヲオロシタマヘルヲ、入道親王ト申シ、僧ニナリタマヒテ後ニ、親王ニナノタマヘルヲ、法親王ト申シタリ。法親王ハ覺行法親王ヲ初トスル由、續世繼（今鏡）ニ見ユ。しんわう（親王）ノ條ヲモ見ヨ　北山抄、御佛名、裏書、天暦九年十二月廿一日、「入道親王依召參候、云云、法親王依仰彈和琴」」今鏡、第八、はらばらの御子、仁和寺ニ覺行法親王ト聞エタマヒシハ、白河院ノ御子ニオハミ、御姿ナロサセタマヒテ、云云、更ニ親王ノ宣旨カブリタマフトゾキコエ侍リシ、云云、出家ノ後ハ例ナキ由侍リケレドモ、白河院、内親王トイフコトモアレバ、法親王モナドカナカラントテ、ハジメテ法師ノ後、親王トキコエ給ヒシナリ」

ほふし-や（名）〔法車〕のりのくるま（法車）ノ條ヲ見ヨ。

ほふしやうじ-がさ（名）〔法性寺笠〕京都ノ大和大路、藤森法性寺ノ舊跡ノ邊ヨリ出ヅル竹ノ皮ニテ製セル笠。形、菅笠ニ似テ大ナリ。多クハ、茶人ノ路次笠ナドニ用キル。

ほふ-しゆ（名）〔法主〕（一）佛ノ異稱。（諸法ヲ有スル故ニ云フ）　勝鬘寶窟、中、本、「法主者、佛有諸法、故名法主」（二）支那ニテハ、僧官。　僧史略、中、「至孝武郎位、敕道猷住新安寺、爲鎭寺法主、又敕法瑗、爲湘宮寺法主」（三）又、ほ、しゆ。ほ、そ。佛法一宗派ノ長。特ニ眞宗各派ノ管長。

ほふし-ゐ（名）〔法師位〕僧侶ノ位ノ名。桓武天皇、延暦七年ニ制定セラレ、四位ニ相當スルモノ。略シテ、法師。　續後紀、八、承和六年七月「讀經訖、云云、後施大法師僧度者各一人、法師位以下僧各授一階」」東寶記、七、東寺別當二綱、法師位當四位、斗五十七、臨二十三〕」

ほふ-すゐ（名）〔法水〕佛教ノ語。佛法ノ能ク衆生ノ煩惱ヲ洗除シテ、清淨ナラシムルヲ、水ニ譬ヘテ云フ語。音便ニ、ほ、そゐ。　中無物者、以智慧火、燒諸障碍、亦以法水、潤諸群萌」往生要集、下、末「若人有信心自高、則法水不入」」太平記、一、儲王御事「時ニ護院二品親王ノ御付弟ニテヲハセシカバ、法水ヲ三井ノ流レニ汲ミ、記莂ヲ慈尊ノ曉ニ期シ給フ」

ほふ-せ（名）〔法施〕（一）法ヲ說キテ、人ニ聽カシムル コト。法供養。　無量壽經、上、「演法施、常以法音、覺諸世間」」大智度論、十一、「以諸佛語妙善之法、爲人演說、是爲法施」」（二）神佛ニ向ヒテ、經ヲ讀ミ、法文ヲ唱フル コト。又、法事ヲイトナム コト。音便ニ、ほ、せ。　沙石集、一、上、第二條「御社ヘマキリテ、法施奉ルトゾ見給ケル」　撰集抄、二、第一條「シバシバ法施ナト奉侍リケルニ、云云」

ほふ-せき（名）〔法席〕法師ノ座席。又、說法ノ座席。法座。　太平記、廿四、依山門嗷訴公卿僉議事「陛下ハ北面ニシテ、階下ニ冠纓ヲ低ル、法席既ニ定テ、僧正ハ草木成佛ノ義ヲ宣給ヘバ、仲算ハ五性各別ノ理ヲ立テ、云云」

ほふ-せん（名）〔法船〕のりのふね（法船）ノ條ヲ見ヨ。　涅槃經、一「無上法船、於斯沈沒」」付法藏傳、六「欲出三界生死大海、必假法船方得度脫」」

ほふ-たい（名）〔法體〕ほ、たい（法體）ニ同ジ。

ほふ-だん（名）〔法談〕法義ノ談話。殊ニ、一向宗ニテ、信徒一、其宗旨ノ趣意ヲ說キ聽カスル コト。淨土宗ニテ、談義ト云ヒ、日蓮宗ニテ、說法ト云フ、皆同ジ。法話　易林節用集（慶長）上、言辭門「法談、ホフダン」」庭訓往來、九月「御法談之後、宿可合每任言上之旨、云云」　太平記、二十、阿新殿事「コノ程常ニ法談ナンドシ給ヒケル僧來リテ、葬禮形ノ如ク取營ミ」

ほふつ（名）〔黼黻〕說文、黼、白與黑相次文、黻、黑與青相次文」爾雅、釋言「黼、彰也」袞龍ノ御衣ノ模樣、十二章ノ中、黼ト、黻ト、即チ、黼ハ斧ノ形、黻ハ亞ノ形ナリ。ふんべいほふつ（粉米黼黻）ノ條ヲ見ヨ。　書經、益稷「黼黻絺繡」」左傳、桓公二年「火龍黼黻、昭其文也」

ほふ-てき（名）〔法敵〕宗教ノ上ノ敵。佛法ノ怨敵。佛敵。　運歩色葉集「法敵」謠曲、善界「ホモ鬼畜ノ身ヲカリテ、イトド佛敵法敵トナレル悲シサヨ」

ほふ-でふ（名）〔法帖〕でふ（帖）、及、はふでふ（法帖）ノ條ヲ見ヨ。

ほふ-ど（名）〔法度〕又、はふど。ほうど（法度）ニ同ジ。

ほふ-とう（名）〔法統〕佛法ノ系統。又、佛法ノ傳統。法流。

ほふ-とう（名）〔法燈〕ほ、とう（法燈）ニ同ジ。

ほ-ぶね（名）〔帆船〕又、帆掛船。ほまへせん（帆前船）ニ同ジ。　獨忠百首、上「柴舟ハ、はぶねノアトヲ、追フモノヲ、迷ヒヤスラン、霞隔テテ」

ほふねん-き（名）〔法然忌〕淨土宗ノ開祖、法然上人（圓光大師）ノ忌日ニ行フ法會。每年正月十九日ヨリ廿五日マデ、七日間、京都ノ知恩院ニテ修ス。ソノ中、廿五日ハ正忌ニシテ、此派ニテハ御忌（其條ヲ見ヨ）トモ云フ。

ほふ-ふく（名）〔法服〕（法ハ、漢音、ハフ、吳音ホフ、法ノ如ク製スレバ名トス）

(二)〔又、ほうえく、ほふえ(法衣)ノ [illegible] 袈裟、法衣、法服」 [illegible] 三十四、上、若〓、上品、阿闍梨 [illegible] レ給フ御作法、イミジク悲シ」 (二)又、はふふ [illegible] ノ [illegible] 制定セラレタル服 [illegible] トカ [illegible] 之法服、不 [illegible] 」 (三)法官 [illegible] 判事ナドノ、裁判所ニテ着用スル服

ほふべん(名) 〔法便〕 〔又、放免トモ書ス〕 はうめん(放免)ノ條ノ(二)ニ同ジ。 字類抄「放免、ハウベン」 平家物語、五、文覺被〻流事「伊豆國ヘ(壁)テマカルニ、法便(一本、放免)兩三人ヲゾツケラレタル」

ほふまん(名) 〔法慢〕 佛教ノ語。 教法上ニツキテノ自慢。 盛衰記、八、法皇三井灌頂事「中比、我朝ニ柿本ノ紀僧正ト聞エシハ、云云、大法 [illegible] シテ、日本第一ノ [illegible] 候キ」

ほふみ(名) 〔法味〕 佛教ノ妙法ヲ咀嚼シテ、心ニ感ズル快樂味。 佛法ノ妙味。 [illegible] 廿 [illegible] 法 [illegible] 滿足 [illegible] 太子 [illegible] 「已 [illegible] 法 [illegible] 太平記、廿 [illegible] 七事「其ノ一ハ、日吉大宮ニアリシヲ、法味ニ替ヘテ申シ賜ハリヌ」

ほふみゃう(名) 〔法名〕 佛門ニ入リテ僧トナレル人ニ、其宗門ニテ、別ニ授クル名（俗名ニ對ス） 在俗ニテモ、其宗門ニ歸依ノ人ナレバ、生前、死後、其ニ授ク。 又、戒名。 法號。 法諱。 又、法名ノ外ニ、所得ノ道ヲ表ハス字トシテ、道號ヲ附スルコトアリ、禪宗ニテ、中世後ノ式ナリ。 [illegible] 傳、[illegible] 「道號、卽 [illegible] 法名也」 [illegible] 法名 [illegible] 右大臣 [illegible] 實 [illegible] 正月廿八日、出家 [illegible] 法名 [illegible] 」

ほふみゃう(名) 法命 〔法身ノ慧命ノ義〕 (一)佛法ノ命脈。 法壽命。 法流。 [illegible] (二)信仰 [illegible]

ほふむ(名) 〔法務〕 (一)佛教ニ關スル事務。 [illegible] 」 (二)古ヘ、諸大寺ニテ、庶務ヲ總理スル僧職。 字類抄「法務」 注「貞觀十四年三月十四日、以 [illegible] 」 [illegible] 雜宣旨「法務」注「可〻賜〻官符治部省〻」 山槐記、保元元年正月十一日、以 [illegible] 法印 [illegible] 」

ほふめつ(名) 〔法滅〕 佛法ノ滅ブルコト。 佛法ハ、普通ニハ、正法五百年、像法一千年、末法一萬年ノ三時ヲ過グレバ、悉ク滅盡スト云フ。 [illegible] 廿四、佛法破滅事 [illegible] コソ悲シケレ、サレバ弘慈僧正ハ、落ル涙ニ墨染ノ [illegible] 袖ヲ [illegible] 、法滅ノ記ヲゾ書給ヘル」

ほふもん(名) 〔法文〕 音便ニ、ほうもん。 佛法ノ事ヲ釋明スル文章。 卽チ、經、論ナドナリ。 字類抄「法文」 源、五十二、手習 [illegible] 「法華經八軸ナリ、異法文ナドモ、イト多ク讀ミタマフ」

ほふもん(名) 〔法門〕 〔法ハ佛法、門ハ衆聖ノ由リテ道ニ入ル處ノ義〕 衆生ノ、悟リニ入ル門。 卽チ、佛法ヲ云フ。 佛門。 增一阿含經、十「如來開〻法門〻、聞者得〻篤信〻」 [illegible] 一切佛法、[illegible] 八萬門千法門〻 [illegible] 心 [illegible] 法門 [illegible] 字類抄 法門 [illegible] 佛〻心ノ所證ナリ、天台祕密ノ法門ナリトテ」

ほふよう(名) 〔法用〕 (一)ほふゑ(法會)ニ同ジ。 [illegible] 」 (二)佛法上ノ用 [illegible]

ほふらく(名) 〔法樂〕 (一) [illegible] 行ヒ德ヲ積ムナド、佛法上ニ於ケル樂ミ。 [illegible] 」 (二)スベテ神佛ノ手向ニナス業。 又、神ヲ祭ルタメニスル音樂。 詩歌、連歌ナド興行シテ、心ヲ慰ミ、[illegible] ヲ信仰スルコト。(祭儀ニ興行ス) 尺素往來 [illegible] 講七座、井、詩歌連歌一千首、和漢聯句十百韻、云云」「法樂ノ和歌」「法樂ノ能」 (三)轉ジテ、アソビ。 ナグサミ。 放樂。 娛樂。「見ルハ法樂」

ほふらふ(名) 法臘 法﨟 〔臘ハ歲末ニ祭ル神ノ名、轉ジテ、歲末ノ稱トス。 﨟ハ臘ノ俗字〕 法ノ上ノ年齡。 卽チ、僧侶ノ佛門ニ入リシ時ヨリノ年數。 例ヘバ、十三歲ニテ得度スレバ、六十三歲ニ至リテ、法臘五十ニ達スルノ類ナリ 僧侶ハ法臘ノ多少ニヨリテ座位ヲ定ム。 之ヲ臘次ト云フ。 僧臘。 座臘。 夏臘。 戒臘。 年臘。 又、單ニ臘トノミモ云フ。 らふ(﨟)ノ條ヲモ見ヨ。 法華經科 [illegible] 法 [illegible] 以 [illegible] 晩學以〻我 [illegible] 」

ほふりう(名) 法流 ほふみゃう(法命)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

ほふりき(名) 法力 佛法ノ威力。 正法 [illegible] ノ [illegible] 代 [illegible] 」

ほふりん(名) 〔法輪〕 佛ノ教法、[illegible] 衆生ノ惡ヲ摧破スルコト、輪王ノ輪寶、能ク山岳岩石ヲ摧破スルガ如キニ譬ヘテ云フト、又、佛法ノ教化、[illegible] 、[illegible] ナル所ナキヲ、[illegible] ヒニ [illegible] 」 [illegible] 法 [illegible] 「[illegible] 佛 [illegible] 如 [illegible] 法輪、云云、佛 [illegible] 法 [illegible] 一、第四 [illegible] 「我レ當 [illegible] 不〻得、又法輪ヲ不〻轉バ、返 [illegible] 」

ほふ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 〔屠〕 〔切リ放る意〕 (一)切リ割キ分クル。 ハフル。 (禽獸ノ體ナド) 倭名抄、二十四、微撰類「屠、保布 [illegible] 」 (二)惡ヲ [illegible] シ [illegible] 年 [illegible] 」

ほふゐ(名) 法位 [illegible] 同 [illegible] 宗旨ノ僧侶ノ、互ニ呼ブ稱。 〔法華上ノ [illegible] 〕 以 [illegible] 「[illegible] 」

ほふろミソ(名) 法論味噌 〔又、はふろ [illegible] 〕 んみそ。 ほろみそ(法論味噌)ニ同ジ。 [illegible] デハ、蝋出デザリシ、ほうろみそ、ソレサヘ月ノ、秋ヲ知ルカナ」

ほふわ(名) 〔法話〕 ほふだん(法談)ニ同ジ。

ほふわう(名) 〔法皇〕 太上天皇ノ、落飾シテ、佛門ニ入ラセ給ヘル稱 寛平法

皇ニ始マル。又、太上法皇。のりのすべらぎノ條ヲモ見ヨ。紀略、前篇、廿、寛平九年「昌泰二年十月廿四日、太上皇落飾入道、云云、延喜十年十一月廿一日、太上法皇御ニ東大寺ニ云云、延喜十年九(イ、ナシ)月日、法皇登ニ天(イ、ナシ)台山ニ」同、後篇、一、延喜四年「閏三月廿一日、法皇於ニ仁和寺圓堂ニ、安ニ置舍利ニ十九箇、設外院大等ニ」

ほふわう（ホウ・オウ） (名) 〔法王〕〔諸法ノ王ノ意、又、法師ノ棟梁ノ意ト〕(一)佛ノ一稱。如來。法華經、譬喩品「我爲ニ法王ニ、於ニ法自在ニ」維摩經、遠跡「佛於ニ諸法ニ得ニ勝自在ニ、故名ニ法王ニ」(二)僧位ノ名。稱德天皇ノ、僧道鏡ニ授ケ給ヒシ位。月料、供御ニ准ズ。續紀、廿七、天平神護二年十月、詔、太政大臣、朕大師爾、法王乃位授末都良久止敕」(太政大臣ハ弓削道鏡ナリ)同、乙巳、詔「法王月料、准ニ供御ニ」靈異記、下、第三十八縁「道鏡法師以爲ニ法皇ニ」(皇ハ王ノ誤寫ナリ)(三)親王ノ唐名。運歩色葉集「法王」注、親王之御唐名」(四)〔希臘語、παππας. 羅甸語、Papa. 英語、Pope.（父ノ意）ノ譯語〕天主教ノ總首領ノ號。即チ、羅馬教會ノ教權ヲ代表シテ之ヲ施行シ、伊太利ノ羅馬ニ居ル。パッパ。ボウプ。

ほふゑ（ホウ・エ） (名) 〔法會〕佛法ノ祭。即チ、法ヲ説キ、又ハ、供養ヲ行フコト。又、ソノ集合。法事。佛事。法要。法用。法華經、隨喜功德品「若人於ニ法會ニ得ニ聞ニ是經典ニ」云云、觀普賢經「聞ニ諸菩薩皆人ニ云時、同住如是等法會ニ」運歩色葉集「法會」後紀、廿二、弘仁三年四月、敕「法會之時、僧侶之日、男女混雜、彼此無ㇾ別、非禮之行、不ㇾ可ニ勝論ニ」拾芥抄、下、本、諸寺「大法會、導師、呪願、唄師、散花、引頭、堂達、衲衆、梵音、錫杖」注、已上、人數多少隨ㇾ時」

ほべ (名) 〔燎火〕〔火瓮（ホベ）ノ義〕瓮（カメ）ノ内ニテ燒ク火ノ光。上代ニハ、油火モ燈モアリシナレド、別ニ家家ニハ火瓶（ホベ）ト云フモノヲ置キテ、火ヲ燎カセテ、家ノ内ノ明キヲ旨トセリ。火燒（ヒタキ）ト云フ者アリテ、火ヲタクコト竈ノ如シ。神代紀、下「夜者若ニ熛火（ホベ）ニ而喧響之」注「熛火、此云ニ倍信」」出雲國造神賀詞「夜波如ニ火瓮ニ光、神在利」常陸風土記、香島郡、注「夜者火光明國」顯宗即位前紀「燒火少子二口、居ニ竈傍ニ」(竈ハ火瓮ナリ)

ほへい (名) 〔歩兵〕徒立（カチダチ）ノ兵卒。徒歩ニテ戰ニ從事スル兵士。(騎兵、砲兵ナドニ對ス) 六韜、犬韜、戰步第「太公曰、步兵與ニ車騎ニ戰者、必依ニ丘陵險阻ニ」唐六典(唐、玄宗皇帝)諸衛府「凡衛士三百人爲ニ一團、以ニ校尉ニ領ㇾ之、以ニ便習ニ騎射ニ者ヲ爲ニ騎兵、餘爲ニ步兵」今昔物語、廿五、第五語「馬ノ員ヲ計フレバ、馬ノ兵七十餘人、步兵三十餘人、合テ百餘人ゾ集レル」

ぼへう（ボ・ヒョウ） (名) 〔墓表〕(一)墓石ノ裏面ナドニ、死者ノ俗名、生死、年月日、履歷、又ハ、建立年月日、建立者ナドヲ記シテ、刻メル文。過庭紀談、四「世上ノ墓表ヲ見ルニ、孝子某建ト書クベキ所ヲ、孝子ノ二字ヲ憚リテ、嗣子某建ト書キシ墓、イクラモ有リ、是レ大ナル非禮ナリ、ヤハリ孝子某建ト書クベシ、云云」(二)はかぢるし(墓標)ニ同ジ。文體明辯(明、徐師曾)「按、墓表自ニ東漢ニ始、安帝元初元年、立ニ謁者景君墓表ニ、厥後因ㇾ之、其文體與ニ碑碣ニ同、有ㇾ官無ㇾ官皆可ㇾ用、非ㇾ若ニ碑碣之有ニ等級限制ニ也」墳墓考(天保、中山信名)「卒塔婆ハ、モト亡者ノ追福ノ爲ニ建ツルモノニシテ、墓表ノ義ニハアラザリケレト、オノヅカラ墳墓ノ標ニ建立セルモノノサマニナレリ」

ぼへう（ボ・ヒョウ） (名) 〔墓標〕はかぢるし(墓標)ニ同ジ。垂加流神道葬禮式「今京都ニ、七月、六道參リトテ、諸人、槙（マキ）ヲ持チ行キテ立ツル、是レ等ガ墓標ニ槙ヲ植ヱタル遺風歟」

ほほ（ホオ） (名) 〔頰〕〔物ヲ含（ホホ）む意、説文「頰、面旁也」〕ホホマリタル所。ツラ。顏ノ一部ニテ、目ノ下、鼻口ノ傍。ホホペタ。訛シテ、ホッペタ。轉ジテ、ほう。倭名抄、三、頭面類「頰、豆良、一云、保保、面旁目下也」字類抄「頰、ホホ、亦、ツラ」字鏡、廿「頰、豆良」

ほほ（ホオ） (名) 〔朴〕又、ほほがしはのき。略シテ、ほほがしは。今、又、ほほのき。木蘭科ノ喬木ノ名。深山ニ多シ。葉ハ、かしは(柏)ノ如クニシテ、鋸齒ナク、長サ一尺餘、枝梢ニ簇リテ、互生ス。夏、上ニ一花ヲ開ク、白木蓮ニ似テ、大キサ尺ニ近ク、香氣多シ。花中ニ紫心アリ、亦白木蓮ニ似テ大ナリ。花落チテ、心中ニ紅子ヲ吐ク、おもと(萬年青)ノ子ニ似タリ。樹皮ヲ藥トシ、材ハ印版、器具用トナリ、葉ハ物ヲ包ムニ用ヰル。商州厚朴 倭名抄、廿、木類「朴、厚木、保保加之波乃木」字類抄「朴、淳木、ホヲ、厚朴、ホヲカシハ」字鏡、五十「厚朴、保保加志波」名義抄「朴、ホホノキ」厚朴、ホホカシハノキ」

ほほ（ホオ） (名) 〔重皮〕朴木ノ皮ヨリ製シタル藥。風邪ヲ醫スルニ效アリト云フ。榮花物語、四、見はてぬ夢「御風ニヤナドオボシテ、ほほナドマヰラスレド、サラニオコタラセタマハズ」同、十六、玉村菊「大將殿、日比御ココチナイト惱シク思サル、御風ナドニヤトテ、御ユユデサセ給ヒ、ほほキコシメシ、御湯殿ノ間トモ、カカズ仕ウマツル」

ほほ (副) 輕ク笑フ聲ニ云フ語。宇津保物語、藏開、上、三十「ハハ、ヒヒ、ヒトタビニほほト笑フ」落窪物語、一、上「ほほト笑フナカニモ、嫗人ノ少將ハ、ハナバナト物笑ヒスル人ニテ」

ほぼ (名) 〔保姆〕〔説文「保、養也 姆、女師也」(姆、娒ニ同ジ)〕幼稚園ニテ、幼兒ヲ教ヘ導ク女教師。

ほぼ (副) 〔粗略〕事ヲ大凡ニ定メ云フ語。アラアラ。アラマシ。オホカタ。大抵。字類抄「粗、ホホ、略、略、已上、同」名義抄「粗、ホホ、略、ホホ、アラアラ」字鏡、三「粗、略也、保保」今昔物語、廿、上、第一條「保良、粗、將キテ、カノトノ木陰ニ立チ隱レテ見ケレバ」「ほぼ似タリ」「ほぼ同ジ」

ほほあて（ホオ・アテ） (名) 〔頰當〕武具ノ一。めんぼほ(面頰)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。太平記、三十八、細川相模守討死事「相從フ兵三十六騎モ、續ク八頰ヲ當テ、未ダ鬼ヲ不ㇾ着ズ」

ほほあてづきん（ホオアテ・ズキン） (名) 〔頰當頭巾〕又、ほほづきん。ふくめんづきん(覆面頭巾)ノ條ヲモ見ヨ。筠庭雜考(天保、喜多村信節)「是ヲ頰當頭巾トイフ、室町殿日記ニ頰かくし頭巾トイヘルモ、是ニヤ」(圖ノ説明)賀茂(?)頭巾「世ヲ忍ブ路ノほほあて頭巾」

ほほがしは（ホオ・ガシワ） (名) 〔柏〕〔大葉（オホバ）かしはノ約ト云フ〕ほほ(朴)ニ同ジ。萬葉集、十九、廿四「吾背子ガ、捧ゲテモタル、保寶我之婆、安多可毛似ルカ、青キ衣笠（カサ）」同、同、廿四「スメロギノ、遠キ御代御代ハ、イ敷キ折リ、酒飲ムト云フゾ、コノ保寶葉波」

ほほがしはのき（ホオ・ガシワ・ノ・キ） (名) 〔厚朴〕ほほ(朴)ニ同ジ。略シテ、ほほがしは。倭名抄、廿、木類「厚朴、保保加之波乃木」本草和名、上、九「厚朴、保保加之波」字鏡、五十「厚朴、保保加志波」

ほほか・す（ホオカ・ス） ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔放置〕今、約メテ、ほかす。ホホケサス。棄ツ。打遣リテ置ク。落窪物語、一「常ニ寄セ奉レド、ほほかし(一本、はふらかし)給フニヤ」物類稱呼、五、言語「すてるト云事ヲ、東國ニテ ウチャルト云、關西ニテほかすトイフ」

ほほかぶり（ホオ・カブリ） (名) 〔頰被〕又、ほっかぶり。ほっかむり。ほほかむり。衣服、又ハ、布帛ニテ、頭ヨリ頰ヘカケテ被ルコト。今、常ニ、手拭ニテスルニ云フ。盛衰記、三十四、明雲八條宮人人被ㇾ討、我名タリケル……

[illegible]ノ衣ノ、[illegible]ナルヲ脱テ、打懸タリ、三位是ヲ空ニ[illegible]、[illegible]返シ給タリケレバ、衣短フシテ、頰マヘリヲ隱ズ」太平記、廿三、[illegible]下車事「一度ニサット弓[illegible]タリケル」[illegible]、二、上、夜面「古ク笠ノ下ニふくめんシタル、是ヲほほかぶりトイヘルニヤ、太平記、[illegible]セラルル處ニ、云云、又、今イフほほかぶりシテ、云云」

ほほがへし（名）頰返 （一）口ニホホバリタル食物ヲ、齒ニテ嚙ミコナスコト。（二）手ニ餘リタル事ノ、ナスベキ手段。「頰返ガツカヌ」

ほほがまち（名）頰輔 ほほぼね（頰骨）ニ同ジ。

ほほかみ（名）頰髮 ほほひげ（頰髭）ニ同ジ。[illegible]抄、[illegible]、頰毛、ヒゲ也、シモツヒゲ、ホホカミ」

ほほきどり（名）法吉鳥 鳴ク聲ヲ名トス、今、ほうほけきょト聞キナス」うぐひす（鶯）ノ古名。春鳥子。鷽 出雲風土記、[illegible]、法吉鳥、化而飛度、[illegible]、故云法吉」

ほほ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）惚 ボンヤリト、何モセズニ居ルヲ云フ。「音便」、ほうく。宇治拾遺、六、第十六條「博[illegible]打チほうけテ居タルカ見テ、尼公ハ寒キニ何事シ給フゾトイヘバ」

ほほ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）吹 [illegible]通ズ、亂レツツクル、ケムクダツ。フブク。ソソク。「ほほけダチタル皮」

ぼぼく（名）草木 墳墓ノ上ニ植エタル樹木。[illegible]、五行志、[illegible]、云云、太原人殺[illegible]、[illegible]、[illegible]婦人、[illegible]不[illegible]也、[illegible]

ほほげた（名）頰桁 ほほぼね（頰骨）ノ一稱。音便ニ、ほうげた。宗因千句（延寶、西山宗因）「ほほげたニ、毛拔ヲヒトツ、取ラサバヤ」好色一代女（貞享、西鶴）六「[illegible]ラレデサヘ、イトシ[illegible]」油地獄（享保、近松作）中「イキ女郎メ、吐スマイト、[illegible]」兵衞トイフ生類ノ苦シミ」

ほほけだ・つ・ツ・タ・チ・テ（自動、四）蓬起 フクダム。ケバダツ。蓬起。

ほほじろ（名）頰白 音便ニ、ほうじろ。燕雀類ノ小鳥ノ名。あをじ（巫鳥）ノ類。原野ノ地上ニ棲ム。鶯ヨリ大キク、灰赤色ニテ、背ニ黑斑アリ、眉ト頰ト白ク、翅、尾、粗、黑ク、尾ノ兩端ニ白羽アリ、腹、微赤黃ナリ、胸下ニ赤斑アリ、脚、赤黃ナリ。春ヨリ聲アリ、圓滑ニシテ、多ク囀ルコト、小鈴ノ音ノ如シ。飼ヒテ聲ヲ玩ブ。黃道眉 和漢[illegible]、四十一、林禽類「黃眉鳥、ほうぢろ、筱、黃眉、俗云、頰白鳥也、[illegible]、[illegible]赤色、眉白如[illegible]、頰赤白、云云」

ほほすけ（名）綏 〔頰助ノ義ト云フ〕おいかけ（老懸）ニ同ジ。其條、（二）ヲ見ヨ。カムリノヲ。訛シテ、ほほすげ。倭名抄、十二、[illegible]具「綏、[illegible]、老懸、冠乃乎、一云、保保須介、又云、於以加[illegible]」

ほほすげ（名）綏 〔頰助ノ義、又、一說、一、頰、すげるノ意ト云フ〕前條ノ語ノ訛。音便ニ、ほうすげ。

ほほだすき（名）頰襷 遊戲ノ一種。耳ニ紐ナドヲ引キ懸ケテ、引キ合フモノ。

ほほだて（名）頰立 ほおだち（棖）ノ訛。

[illegible]ニ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]

[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]

[illegible]、[illegible]柱[illegible]ク、[illegible]ニ[illegible]

傍ニ扁柱ヲ立、是ヲ根トイフ、口旁ノ橘東ニ似タリ、故ニ俗、是ヲ頰[illegible]云フ」

ほほだら（名）はりぎり（針桐）ニ同ジ。

ほほつき（名）頰[illegible] 〔頰附ノ義〕かほばせ（顏）ニ同ジ。[illegible]キ。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]

ほほづき（名）酸漿 〔頰笑ノ義〕音便ニ、ほうづき。古ク、又、アカカガチ。ヌカヅキ。茄科ノ多年生草本ノ名。春、宿根ヨリ苗ヲ生ズ、莖ノ高サ[illegible]、葉、橢圓形ニシテ粗キ刻ミアリ。夏、葉ノ間ニ花ヲ生ズ。牽牛子ノ花ノ如ク五尖アリ、盞形ナリ、花ノ後、萼ヲ結ビテ垂ル。外皮、熟スレバ赤ク、內ニ實アリ、圓クシテむくろじ（無患子）ノ大キサニテ、熟シタルハ鮮紅ナリ。女兒、其瓤ヲ去リ、蔕ノ孔ヲ存シテ、虛殼トシ、頰ノ中ニ含ミ、氣ヲ引キテ脹ノメツ縮シツシテ、鳴ラシテ玩トス。又、千成酸漿、犬酸漿、海酸漿アリ。各條ヲ見ヨ。倭名抄、廿、草類「酸漿、保保[illegible]、[illegible]」本草和名、上[illegible]「酸漿、保保[illegible]、[illegible]、[illegible]」枕草子、九、第百十一段、おほきにてよき物「又カナマリノヤウナランハオソロシ、火桶、ほほづき」榮花物語、八、初花（上東門院御事）「御色白ク麗シウ、ほほづきナドヲ吹キフクラメテ、スヱタランヤウニゾ見エサセタマフ」

ほほづき-ぢゃうちん（名）酸漿挑燈 鬼燈 挑燈ノ、甚ダ小サク、正圓ニシテ、紙ヲ赤ク染メタルモノ、小兒ノ玩ナリ。

[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]

二、遊女七月ノ盆リ物ヲイフ處ニ、箱ノ[illegible]十本、[illegible]

[illegible]、[illegible]、[illegible]

[illegible]、[illegible]、[illegible]

[illegible]、[illegible]、[illegible]

ほほづ[illegible]、[illegible]、[illegible]クカ」

ほほづつみ（名）頰包 綿帽子ノ一種。[illegible]わ[illegible]、[illegible]ニ同[illegible]。

ほほづゑ（名）頰杖 [illegible]ノエ。肘ヲ立テ、[illegible]ニ頰ヲ支ヘ持タスルコト。打守リ、思案スル時ナドニ、スルコトナリ。[illegible]、[illegible]、[illegible]カ、チト談合アリ、日ヲサマセト、ほほづゑシテゾ[illegible]隅ビケル」

ほほてふ（名）[illegible] 〔字ノ音ノ[illegible]ト云フ〕あげはのてふ（揚羽蝶）ノ條ノ（一）ニ同ジ。[illegible]、十九、[illegible]、[illegible]、[illegible]

ほほどり（名）布穀鳥 フフドリ。よぶこどり（呼子鳥）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]「[illegible]、布穀鳥、ホホトリ」

ほほのき（名）朴木 [illegible]、[illegible]き。ほほ（朴）ニ同ジ。名義抄「朴、ホホノキ」和[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]木」夫木抄、三十二、杣「陸奧ノ、クリコマ山ノ、ほうの木ノ、枕ハアレド、君ガ手枕」

ほほば・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）頰張 [illegible]、[illegible]ノ內ニ滿[illegible]、[illegible]抄「嗛、ホウハル、啖、同」[illegible]重帷子（享保、近松作）上「若シ人カ起アフテモ女小著、口ヘ砂デモほうばらセ、息ボネヲ揚ゲサスナ」（二）食フ。又、食[illegible]、[illegible]、[illegible]テ、[illegible]、[illegible]

ほほ-ひげ（ホオ-ヒゲ）名 【頰髭】頰ニ生フル髭。耳ノ下ノ髭。又、ほほかみ 鬢。[illegible]、下、おみ第九級「有ル人、[illegible]頰、[illegible]、七八十年已上げの頰髭「大首寺友山（[illegible]）ニ云フ、[illegible]前、其時代ニハ、モミアゲノ頰髭ト申義ハヤリ、[illegible]ノ内ニモ有之候ヘドモ、先ハ很、若輩、小者、[illegible]ノ類、アマタ有之候、云云、コレ寛永、正保、慶安ノ頃ヲ云フナリ」

ほほ-ぺた（ホオ-ペタ）（名）【頰直頰邊】（京都ニテ、ほほべたト云フ。音便ニ、ほっぺた）ほほ（頰）ト云フニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

ほほ-べに（ホオ-ベニ）（名）【頰紅】化粧ニ、紅ヲ薄ク頰ニサスコト。又、ソノサス紅。女重寶記（元祿）「紅ナドモ、頰サキニ塗ルコト薄薄トアルベシ」守貞漫稿、九、女扮、上「享保頃迄モ、頰紅トテ、紅ト白粉トヲ和テ、頰ニヌリシ由、安齋隨筆ニ云リ、近來ハ紅ヲ濃クシテ、脣ヲ高ク光ラス、云云、元文ノ初頃ヨリ、賤トモニ頰紅ヲ止テ、白粉バカリヌリ、或ハ、ヌラヌモアリ、是ハ、遊女ノ粧ヲ學ビタルナリ、云云」守武千句（慶安）「イトドダニ、顔ノ赤カル、人ナレヤ、ほほサキノミカ、べにサヘモウシ」

ほほ-ほね（ホオ-ホネ）（名）【頰骨顴】古名、ツラボネ。頰ノ上部、眦ノ下ニ高マル骨。ホホゲタ。ホホガマチ。顴骨。箋注倭名抄、二、四「頭面類、頰、[illegible]、俗字耳、今俗呼-保保保[illegible]、頰骨也」

ほほま-る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【含】ふふまる、ふくまる（含）ニ同ジ。萬葉集、廿三十「千葉ノ野ノ、兒手柏ノ、保保麻例ド、アヤニカナシミ、オキテ吾カ來ヌ」

ほほ-む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）【含】ふふむ、ふくむ（含）ニ同ジ。天治字鏡、七、三十二「蕾、花初將開也、保保牟」

ほほ-む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）【含】含ムヤウニナス。フクムル。散木集、二、夏「郭公、ナカヌナゲキノ、杜ニ來テ、イトドモ聲ヲ、ほほめツル哉」

ほほ-ゆがみ（ホオ-ユガミ）（名）【頰喎】又、ほうゆがみ。ホホノユガムコト。頰ノ、一方ヘ、ユガミ寄ルコト。枕草子、十二、第百五十七段、見ぐるしきもの「夏晝寐シテ起キタル、イトヨキ人コソ、今スコシヲカシケレ、エセカタチハ、ツヤメキ寐腫レテ、ヨウセズバ、ほほゆがみモシツベシ」

ほほ-ゆが-む（ホオ-ユガ-ム）・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）【頰喎】〔方曲トモ字ヲ當ツ〕實ニ違ヒテ語ル。源、廿、朝顔「いがナキ事モ、ツキヅキシウ、マネビナスニハ、ほほゆがむ事モアメレバコソ」同、二十四、上、若菜、上三十「僻事聞エナドセン、人ノコト聞キ入レタマフナ、云云、ヲノヅカラ人ノ中ラヒナド、ウチほほゆがみ、思ハズナルコト出デクルモノナメルヲ」（不快ナルコトニ、會ヒテスルワザ）

ほほ-ゆが-む（ホオ-ユガ-ム）・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）【頰喎】實ヲ違ヘテ語ル。源、二、帚木三十六「式部卿宮ノ姫君ニ、朝顔タテマツリ給ヒシ歌ナドヲ、スコシ、ほほゆがめテ語ルモ聞ユ」

ほほ-わた（ホオ-ワタ）（名）【頰綿】ふなわたばうし（船綿帽子）ニ同ジ。ふなわた（船綿）ノ條ヲ見ヨ。

ほほゑ-む（ホオエ-ム）・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）【微笑忍笑】〔含ミ笑む意ナラム、或ハ云フ、頰笑むノ義、頰ニ其氣色ノ顯ハルル意ト〕（一）忍ビテ少シ笑フ。ニッコリ笑フ。宇津保物語、藏開、下「オモテハ赤ミテ、打チほほゑみ給テ、ノタマフ事モナキヲ」（文化版、ほをえみニ作ル）大鏡、中、公季「ミナほほゑみタマヒニケレ」（二）花、少シ開ク。サキソム。ホコロブ。【微開】源、六、末摘花三十六「梅ハ、ケシキバミ、ほほゑみワタレル、取リワキテ見ユ」同、廿四、胡蝶三十「ホカハ盛リ過ギタル櫻モ、今盛リニほほゑみ」

ほまち（名）〔外持（ホカモチ）ノ約ナリト云フ〕給料ナド、定リテ得ル高ノ外ニ、別ニ私ニ得ル金錢品物、臨時ノ所得。私得。[illegible]菜句集「[illegible]門番ガ、ほまちナルベシ、芥子ノ花」

ほまち-ぜに（名）〔前條ヲ參見セヨ〕多ク、私ニ貯ヘテオク意ニ云フ語。ヘソクリガネ。役得餘祿。

ほまへ-せん（ホ-マエ-セン）（名）【帆前船】帆ヲ以テ航行スル船。ホカケブネ。ホブネ。帆船（ハンセン）。風帆船。（蒸氣船ナドニ對ス）

ほまれ（名）【譽】〔譽（ホ）められ、ノ約〕人ニ譽メラレテ、世ノ聞エ、映（ハエ）アルコト。好キ面目。名譽。下[illegible]、[illegible]無、毀無「譽」[illegible]若無、毀、於[illegible]、ホム、ホマレ、[illegible]後拾遺集、序「事ヲエラブ道、ミヘラギノ畏キ（ワザ）トテモサラズ、ほまれヲトル時、山ガツノ賤シキコトトテモ捨ツルコトナシ」著聞集、七、能書「ワヅカニ一字ノ跡ヲ殘シテ、遙ニ萬代ノほまれヲイタヽ」

ほ-む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）【譽褒】〔秀（ホ）ヲ活用ス〕（一）〔善シト言ヒハヤス。善キ評ヲ與フ。稱（タタ）フ。アグル。讚美〕公羊傳、隱公元年「與、公盟者衆矣、[illegible]乎此」因其可、褒而褒之」莊子、[illegible]「[illegible]不ニ自知ニ恥、且吾聞ニ之、好面譽ニ人者、亦好背而毀之」[illegible]記、上、序、[illegible]、保[illegible]」枕草子、[illegible]、第十七段「メッラカニ嬉シト思ヒテ、ほむるコトゾイミジキ」萬葉集、四五八「黑木取リ、草モ刈リツツ、仕ヘメド、勤シキワケト（古義ノ[illegible]）、[illegible]トモアラジ」（二）〔壽ぐ〕。祝ノ。祝福 萬葉集、廿廿「眞木柱、讚（ホ）メテ造レル、殿ノゴト、座マセ母刀自、面カハリセズ」（三）口ニ出シテ、勤勞ヲ賞ス。

ほ-む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）【瑫】ふむ（瑫）ノ轉。神代紀、上「[illegible]、[illegible]命」仲哀紀、八年九月「穴門直踐（ホム）立所[illegible]之水田名大田」景行紀、十二年十月「因[illegible]之、時如ニ柏葉ニ上ニ於太虛ニ、故號ニ其石ニ曰ニ蹈石ニ也」（ほむいしノ約）

ほん（名）【品】（一）〔梵語、Varga（跋渠）ノ譯語、品類ノ意〕類同ジキモノヲ集メテ、一段トナシタルモノ。法華文句、一「品者、中阿含云、[illegible]、品者、[illegible]」[illegible]一段ヲ、[illegible]品也」法華經、[illegible]品（二）〔漢音、ひん、呉音、ほん〕親王ノ敍スル位ノ稱。諸臣ノ位ト分ツ。一品、二品、三品、四品ノ四等アリ。親王ニシテ、[illegible]ゐナキヲ、無品ト云フ。現今ハ、此制ナシ。倭名抄、五ニ職名「位階、一品、二品、三品、四品、已上、爲ニ親王位階ニ」官位令「親王、一品」義解「品、位也、言王者品位、別於諸王ニ」[illegible]、[illegible]、[illegible]二、云云、世俗ニ二位ヲモ二品[illegible]品四品ナド云ス事ハ、唐名ノ僕ニ申ナラハシケルヲシヲノ給ヒシ也」

ほん（名）【本】（一）〔書、書ヲ寫シ、又學ブ本トシ法トスルモノ。原本。手本、[illegible]高僧法[illegible]（[illegible]、[illegible]）北人[illegible]語同、[illegible]、無本可[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、人[illegible]書、[illegible]、[illegible]相對。[illegible]源、五、若紫「ヤガテほんニトモ思スニヤ、手習ヒ繪ナド、サマザマニカキツツ」同、七、紅葉賀十七「ほん書キテ、習ハセナトシツツ」紫式部日記「御草子作リイトナマセタマフトテ、云云、物語ノ本トモソヘツツ、所所ニ文カキクバル」（二）〔轉シテ、書物。書籍。書冊。〕源、三十六、梅枝十七「サマザマノ繼紙（ツギガミ）ノ本ドモ、エリイダサセタマヘルツイデニ」（三）〔手本ノ意ヨリ轉ジテ、他ノ志操、行狀ノ、法トシ傚ノベキコト。カガミ。龜鑑〕源、三十、藤袴十七「此君ヲナン、ほんニスベキ」同、五十、浮舟五十一「コトサラニモ、ツクリタランヤウニ、アテナル男ノほんニシツベク物シタマフ」（四）モト。異樣（コトヤウ）ナラヌコト。女鑑（慶安）「[illegible]ノ書キヤウ、若キ内ハアマリ細カニシタルハ、批判多キコト也、[illegible]キヲほんトス」

ほん（接頭）【本】（一）モトノ。オホネノ。（末ニ對ス）後漢書、梁節[illegible]傳「臣[illegible]小[illegible]二十七

人[illegible]」（二）マコトノ。ホンタウノ。ホン[illegible]（三）外ナラヌ其ノ[illegible]本月」

ほん (接尾) 本 書物、又ハ、長キ物ヲ數フル語。[illegible]百本、散與ㇾ人」蘇軾詩「雅杉[illegible]千本」「書物、五本」杜、三本」筆、二本」等、一本」

ぼん (名) 凡 ツネナミ。他ニ勝レヌコト。ナミナミナルコト。三國志、魏志、[illegible][illegible]凡、不[illegible]后[illegible]氏父殺、常謂ㇾ主曰、此女有ㇾ奇相、且識ㇾ不ㇾ凡」

ぼん (名) 坊 〔ばう(坊)ノ音便轉〕小兒ノ稱。（畿内ニテ、京ニテ、坊ヲぼんト云）物類稱呼、三、生植「冬瓜、云云、京ニテ、坊ヲぼん」新內、千日寺名殘鐘「ハアアア坊メガ、又人形シテヤラウデノ、オゾイ奴ヂャト打笑フ」

ぼん (名) 盆 〔[illegible]器名〕盆中之[illegible]〔[illegible]也、[illegible]可以盛水盛酒、即今之瓦盆也」〕（一）〔ヒラカ。瓦器ノ平形ノモノ。鉢。倭名抄、十六、瓦器類「盆、瓦器也、字亦作ㇾ瓮、比良加」司馬遷、報任安書「[illegible]以[illegible]盆何以望ㇾ天」（二）今、專ラ、木製、方圓ノ扁平ナル器。緣、淺シ。物ヲ載スル用トス。承盤 頭書訓蒙圖彙（山口幸充）三「ハネダ盆ト云ハ、黑塗ノ四角也、七寸四方ホド也、フチノハバ廣キ盆也 甲子夜話（文政、松浦靜山）四「古近江[illegible]ハ、云云、[illegible]付ニシ、[illegible]ニンタルヲ、[illegible]名ヅケ、云云」

ボン (名) 梵 〔梵語、Brahmā（勃嚂摩、没囉憾摩、梵摩ナド）ノ訛略〕[illegible]經音義[illegible]此云ㇾ清淨」（一）梵天ノ略。其條ヲ見ヨ。[illegible]玄[illegible]或淨

ボン (名) 盆 （一）うらぼん(盂蘭盆會)ノ略。其條ヲ見ヨ。盆踊ト云フハ、[illegible]（二）天竺、佛道ノ物事ニ[illegible]スル語。[illegible]

[illegible]歡、[illegible]ノ遺ニシテ、陽氣ナルモノナレバ、生靈、方ナルヲ、盆祭ニ混ジテ盆踊ト呼ビ、又、生靈ヲ生盆ト讀ミ、生盆ト稱シテ、精靈ニ混ジ、中元ノ燈ヲ精靈ノ供燈トシ、入リ雜リタル行事多シ。又、一年ノ半トテ、商家ノ賣掛金ノ大勘定、親族、知人ノ間ノ贈物ナド行ハル。（二）しゃうりゃうまつり（精靈祭）ノ條ヲ尚、見ヨ。[illegible]

ほん-アミ (名) 本阿彌 （一）鑑定家ノ通稱。刀劍ノ新古、及、眞贋ノ鑑定、幷、刀研ノ家ノ名ヲ觀ル人。足利尊氏ノ時、鎌倉ノ妙本阿彌ト云フモノ、京都ニ住ス、コレヲ祖トス。後、氏トナル。（下ノ出典ヲ見ヨ）[illegible]本阿彌ニ稱號ハ自ㇾ玆後一家中爲ニ嫡子ニ者、亦稱ニ[illegible]云、凡搜ニ刀刃之新舊眞贋ハ、則嫡流本阿彌某宅聚ニ一

[illegible]

ほん-あん (名) 翻案 他人ノ作品ノ仕組ヲ仕易ヘテ、作リナホスコト。又、ソノモノ。[illegible]事「如何ナル者カ詠タリケン、一首ノ古歌ヲ翻案シテ、大將ノ陣ノ前ニゾ立テタリケル」

ほん-い (名) 本意 〔略シテ、ほい〕（一）マコトノココロ。本懷。後漢書、[illegible]「又、京[illegible]」「一官知ㇾ所ㇾ做、本意在ㇾ[illegible]」字類抄「本意」宇津保物語、樓上、下ㇾ「ほんいノゴト靜カナルベイ事ノカタカベイヲナン、イカサマニセマシト思ヒ侍ル」[illegible]物語[illegible]スエ奉ランノ御本意ナルベシ」（二）モトヨリノココロ。根本ノツンガヘ。本來ノ意志。後漢書[illegible]孔子[illegible]道、法律、原[illegible]十九、[illegible]祈ル、籠リノ甲斐アリテ、本意ヲトゲヌル嬉シサヨ」

ボン-いち (名) 盆市 くさいち（草市）ニ同ジ。

ほん-いつ (名) 奔逸 （一）カケハシルコト。疾ク走ルコト。逸走。[illegible]「顔淵問ㇾ於仲尼曰、夫子步亦步、夫子趨亦趨、[illegible]」（二）逸レハシルコト。奔リニグルコト。居ラサルコト。[illegible]

ほんいん-はう (名) 本因坊 〔ホンインボウ〕音便ニ、ほんにんばう。碁所ノ家ノ名。慶長ノ頃、[illegible]天下ノ巧手トス、代代本因坊ト稱ス、[illegible]本因坊

ほん-こい (名) [illegible]

ほん-えい (名) 本穎 〔本ハ稻ノ本ヨリ〕[illegible]ノ」古ヘ、正税、公廨、雜稻、出擧ナド、[illegible]稻云云、九穎云、穎ㇾ示謂ㇾ之稻ㇾ切、[illegible]之稻」

ほん-えん (名) 本緣 アリシ事ノ由來。由來[illegible]徒然草、第二百廿五段「禪師ガムスメ、云云、コノ藝ヲツゲリ、コレ白拍子ノ根源ナリ、佛神ノ本緣ヲウタフ」

ボン-おん (名) 梵音 〔大梵天王ノ發スル音聲ノ意〕（一）佛ノ音聲。五種清淨ノ[illegible]ト云フ。[illegible]ぼんばい（梵唄）ニ同[illegible]（二）讀經ノ聲ノ稱。[illegible]

ほん-か (名) 本歌 （一）狂歌、俳諧、ナドニ對シテ、正シキ三十一字ノ和歌ノ稱。後撰夷曲集、夷歌式目錄「本歌トリオホセタル夷歌、前集此集ニモアマタ加ヘ侍ル」（二）作侍ナドシタル歌[illegible]

馬、本歌ニモ、逢坂ノ、關ノ淸水ニ、影見エテ、今ヤ引クラン、望月ノ駒、トコソアレ、牛トハゴザルマイ」

ほんかいだう (名) 本海道 〔本街道ノ義〕 江戸時代、東海道、中仙道、日光道中、奥羽道中、甲州道中、水戸佐倉海道、伊勢路、中國路等ノ公道ノ稱。本道。 伊賀越道中雙六(天明、近松半二等合作)六「本海道ガ廻リ道、二枚繪ノ濟仕ヒ、勝手覺エシ拔ケ道ヲ」

ほんがう (名) 本鄕 (一)一郡中ノ郡司ノ廳ノアル所。其鄕ヲ本ツ鄕ト呼ベルナルベシ。諸國ノ地名ニ、本鄕ト云フ多シ。(二)其人ノ生レタル本土。故鄕。 續紀、十三、天平十二年六月「其流人、云云、女等五人召令入京、大原采女、勝部鳥女、還本鄕」

ほんかく (名) 本格 (一)根本ノ格式。(二)モトヨリノ法則。本則。 魏書、高陽王雍傳「年老妾媵、今試以本格、自其如初、自非於先退階級、此從賓以不爽、理未通也」

ほんがく (名) 本覺 佛敎ノ語。衆生、本來具有スル所ノ覺體。又、佛果ヲ悟リ得ルコト。 起信論「心體離念、離念相者、等虛空界、無所不遍、法界一相、即是如來平等法身、依此法身、說名本覺」 盛衰記、十九、[illegible]「衆生、本覺ノ心蓮ハ、八葉ノ貌ナリ、[illegible]妙法ノ首題モ、八葉ノ蓮ナリ」 謠曲、御裳濯「是レ正ニ本覺ノ、和光ニ交ジル塵ノ世ヲ、守ラン爲メノ御誓」

ボンかく (名) 梵閣 テラ。寺院。梵宇。梵刹。 白居易詩「洛陽秋霽後、梵閣暮燈時」 盛衰記、廿四、南都燒失事「東大寺ト申スハ、[illegible]閻浮提、無二無三ノ梵閣」

ほんかどり (名) 本歌取 或文章中ニ、先人ノ作爲シタル歌ヲ、取リ入ルルコト。又、和歌ヲ作ルニ、先人ノ詠ミタル歌ヲ、素材ニ取入ルルコト 〔又、連歌ニモ云フ〕 今來風體抄「本歌ヲトル事、昔ハ稀ナリ、後鳥羽院ノ比ホヒヨリ、殊人ゴトニ本歌ヲトリ侍ルニヤ、云云」 悉門[illegible]抄「本歌ヲトル事、云云、ツネニトルヤウハ、本歌ノコトバヲ、アラヌモノニトリナシテ、上下ニオケリ、新古、チル花ノ、ワスレガタミノ、峯ノ雲、ソヲダニノコセ、春ノ山風、本歌、アカデコソ、オモハン中ハ、ハナレナメ、ソヲダニ後ノ、ワスレガタミニ」

ぼんがん (名) 凡眼 尋常ノ眼識。見識ノ平凡ナル眼。 字類抄「凡眼」

〔**ほむき** (名) 穗向 ほなむき(穗向)ニ同ジ。 萬葉集、二十四「秋ノ田ノ、穗向ノヨレル、カタヨリニ、君ニヨリナナ、言痛カリトモ」(古義ノ訓) 同、十七「秋ノ田ノ、穗牟伎見ガテリ、吾ガ夫子ガ、フサ手折リケル、女郎花カモ」

ほんき (名) 本氣 戯レナラヌ心。浮キタル心ナラヌコト。正氣。平心。本心。

ほむぎ (名) 穗麥 穗ノ出テタル麥。 蕪村句集、夏「[illegible]アシキ、京ヲカクシテ、穗麥カナ」

ほんぎ (名) 本義 (一)眞ノ意義。ホンタウノ意味。(二)根本ノ意義。 唐書、藝文志「薛仁貴周易新注本義、十四卷」 宋史、藝文志「朱熹本義、十二卷」 書言字考節用集、八、言辭門「本義、ホンギ」

ほんぎ (名) 本紀 き(紀)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 史記、太史公自序「略推三代、錄秦漢、上記軒轅、下至于茲、著十二本紀」

ぼんぎ (名) 棒木 〔ぼうき(棒木)ノ音便〕 江戸ノ川口ノ澪杙。 慶長見聞集、一、江戸河口野地ぼんきの事「天正十九卯ノ年事也シニ、洲崎ニ澪シルシヲ立ル、是ヲ俗ニほんぎト云フ」

ほんきん (名) 本金 (一)眞ノ黃金。マジリケノナキ金。純金。(二)資本金ノ略。モトデキン。(三)元金。モトキン。

ほんきんと (名) 翻筋斗 〔筋斗ヲ翻スノ義、筋斗ハ斤斗ニ同ジ、木ヲ伐ル具、頭重ク柄輕シ、此技、之ヲ轉ズルガ如シ〕 とんぼがへり(翻筋斗)ノ條ヲ見ヨ。

ほんぎやう (名) 本行 (一)本來、修スルトコロノ行法。又、成佛ノ原因トナル根本ノ行法。 [illegible]「同、[illegible]品[illegible]本[illegible]成就」 (二)淨瑠璃節ノ五行本。又、ソレヲ記セル文句。本文。

ほんぎやく (名) 叛逆 はんぎやく(反逆)ニ同ジ。 林逸節用集、雜「反逆、ホンギヤク」 易林節用集、(慶長)上、言辭門「叛逆、ホンギヤク」

ほんきよ (名) 本據 オモナルヨリドコロ。根據。 後漢書、[illegible]「[illegible]本據」

ほんご (名) 反故 ほうご(反古)ノ音便。 還歩色葉集「反古、ホング」

ほんぐう (名) 本宮 〔別宮ニ對ス〕 神社ノ主タル宮。モトノ宮。 長寬勘文「熊野本宮者、伊勢內宮也、新宮者、同外宮也、云云」

ぼんくら (名) 盆暗 博奕ノ語。賽ヲ伏セタル盆ノ中ニ、眼光トホラズ、負ケノミ賭ケル氣ノ利カヌコト。又、ソノモノ。ボンヤリモノ。 東海道中膝栗毛(文化、一九)五編、上「二人トモほんくらナレバ、[illegible]思ヒ」 八笑人(文化、鯉丈)二編、上「カ樣申シタバカリデハ、ほんくら樣方ニハ分リカネマスガ」

ボンくれ (名) 盆暮 盂蘭盆ト、歳暮ト。盆ノ季ト、歳末ト。

ぼんぐわ (名) 盆畫 彩沙ニテ、盆ノ上ニ、山水、花鳥ナドヲ畫キタルモノ。沙畫。 筠庭雜錄、八、盆山「安永年間ヨリ、偏食ノ白砂ヲ極細末トシ、大夫ニ染ナシテ、盆畫ト稱シテ、百花、百鳥、人物、[illegible]打事始リヌ」

ほんくわい (名) 本懷 ほんい(本意)ニ同ジ。 [illegible] 易林節用集(慶長)上、言辭門「本懷、ホンクワイ」 [illegible]「內ニハ佛法ノ破滅ヲ助ケ、外ニハ惡逆ノ類ヲ退ケバ、同心ノ[illegible]」

ほんくわん (名) 本貫 〔康熙字典「本貫、鄕籍也」〕 ほんせき(本籍)ニ同ジ。 [illegible]「人、使還本貫」 類聚三代格、八、天平勝寶四年十一月十六日、太政官符「[illegible]本貫」 兵部省式「[illegible]本貫」

ほんくわん (名) 本官 (一)普通ノ官職。(雇ナドニ對ス) (二)兼官ニ對シテ、主タル官職。

ほんくわん (代) 本官 官吏ガ、職務上ニ於ケル場合ノ自稱。

ほんぐわん (名) 本願 (一)本來ノ願望。 [illegible] 白居易、書「[illegible]」 易林節用集(慶長)上、言辭門「本願、ホングワン」 (二)佛敎ノ語。佛、菩薩ノ、衆生ヲ濟度セムト誓ヒシ大願。例ヘバ、阿彌陀佛ノ四十八願、藥師如來ノ十二願ノ類。 無量壽經、下「其佛本願力、[illegible]」 謠曲、土車「凡ソ彌陀ノ悲願ニハ、云云、一念十念ノ[illegible]」 (三)轉ジテ、寺院、塔像ナドノ創立者。施主。 南都七大寺巡禮記、法隆寺「當寺本願、聖德太子也」 今昔物語、三十一、第廿一語「[illegible]ノ峰ヲ、云云、葬送ヲバ彼ノ山ノ本願トハ云ナル」

〔**ほむけ** (名) 穗向 稻、薄、ナドノ穗ノ靡キ向フコト。又、ほむき。 新後撰集、五、秋、下「小山田ノ、稻葉ガタヨリ、月サエテ、ほむけノ風ニ、露亂ルナリ」 夫木抄、十一、薄「岡ノヘヤ、靡クカ

[illegible]

ほんけ (名) 本家 (一)本タル家筋。イヘモト。[illegible] (二)又、ほけ。[illegible](竈殿)上、言葉門、本家、ホンケ」[illegible]ノ夜ハ、后ノ宮ヨリト、サマザマイミジキオンウブヤシナヒナリ」(本家ハ雅信ノ所ヲ云フ、雅信ノ女倫子[illegible])[illegible]、初秋世「人ノムコト云フモノハ、若キ人ナドヲバ、本けノイタヘリナドシテ、タツルヲコソハ、オモシロキコトニハスレ、イタヘリ所モナクテ、本けノハノカ[illegible]ク、モノセノルルナンモノシキ」

ぼんげ (名) 凡下 (一)オトリタルコト。下凡ナルコト。[illegible] (二)ナミナミナル人。普通ノ人。凡人。又、身分ナキ人。平民。[illegible]凡下也[illegible]「[illegible]凡下ノ輩クベキニハアラネドモ」

ほんけい (名) 盆景 (一)鉢ニ草木ナドヲ、風情ヨク植エタル置物。[illegible]エタルナリ」(二)盆石ニ同ジ。近來、盆石ト云フハ、盆石ト盆畫トヲ、ツニシテ、盆景ト云ノヲ作ルナリ。[illegible]

ほんけがへり (名) 本卦回 人ノ六十一歳ニナレルヲ稱スル語。本命、卽チ、己レガ生年ノ干支ト同ジ干支ノ年ニ、再ビ返リテ廻リ合フヲ云フ。還暦。華甲。[illegible]ノ白髭」浮世風呂(文化、三篇)二編、上「取ッテ六十[illegible]コト見ツベシト、同ジク播洲語ナリ」

ほんげつ (名) 本月 コノツキ。イマノツキ。當月。今月。

ほんげふ (名) 本業 主ナル職業。本職。[illegible]

ほんけん (名) 本間 (一)尺度ノ一種ノ稱。曲尺ノ六尺。(二)轉ジテ、屛風、又ハ、和琴ナドノ長サ六尺ナルモノノ稱。

ほんけん (名) 本拳 けん(拳)ノ條ヲ見ヨ。

ほんげん (名) 本源 本原 モト。ミナモト。オコリ。根源。[illegible]

ほんご (名) 反故 ほぐ(反故)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

ボンご (名) 梵語 〔梵天ヨリ、稟承セシ言語ノ意ト云フ〕天竺、古代印度ノ言語。卽チ、さんすくりっとノ稱。多ク雅語トシテ用ヰラレ、梵字ヲ以テ書寫セラル。[illegible]世間、出世間ノ一切ノ事ヲ成就スレバナリ」

ほんこく (名) 本石 [illegible] 東京ニテ、備後米ノ稱。[illegible]東京へ來ル[illegible]コト最モ多シ。故ニ本場ノ米ノ名ヲ古ム。(米商ノ語)

ほんこく (名) 翻刻 板木ヲ再ビ版木ニ刻ルコト。覆刻。重板。[illegible]加點セルモノアリ、竝ニ坊刻ナリ」

ほんごく (名) 本國 (一)モトノクニ。己レガ生レタル國。祖國。列子、[illegible](ムイ)ベシ」(二)フルサト。故郷。

ぼんこつ (名) 凡骨 ツネナミノ器量ノモノ。平凡ノ風骨。[illegible]非ニ詩人、已發蛻ニ凡骨ニ矣」

ぼんさつ (名) 拳 げんさつ(拳固)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

ほんざ (名) 本座 (一)古ヘ、納言、又ハ、參議ナド、辭任後、猶、前官ノ禮遇ヲ賜ヒ、其座ニ就ッシメラルルコト。[illegible]セサセケル」中興武鑑(天文、世話盛)田樂ハ、云云、一忠以前、道蓮、花夜叉ナドトテ名人アリケルナリ、何レモ本座ノ名ナリ、花夜叉、藤夜叉ハ新座ノ名ナリ」

ほんさい (名) 本妻 [illegible] メ。コナミ。正シキ妻。正妻。(妾ニ對ス)[illegible]侍ナル、本妻ドモ、皆忘レ侍テト奏シタマヘバ」

ほんざい (名) 本才 [illegible]

ぼんさい (名) 凡才 平凡ナル才能。凡[illegible]

ぼんさい (名) 盆栽 ハチウエ。鉢ノ木。草木育種後編、上、盆栽之事「盆中ハ賞ニ土力薄クシ[illegible]一架ニ置テ愛玩スル故ニ、肥水時ヲ得、乾濕其性ニ[illegible]

ボンさい (名) 梵妻 僧ノ妻。ダイコク。梵嫂 だいこく(大黑)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。

ほんさう (名) 本葬 假葬、密葬ナドニ對ス。本體ノ葬式。本式ノ葬儀。[illegible]記、天保十四年八月十四日「若王子前大僧正盤源、昨[illegible]急ニ難ニ遂行一、依ニ之今晩密葬」

ほんざう (名) 本草 (一)木ト、草ト。(二)支那ニテ、藥ニ供スル植物、其他ノ物ノ

稱。 大和本草、一、論本草書「前漢平帝紀、及ビ樓護傳ニ、本草ノ名、初メテ見ユ」 藥性ヲ錯雜シ、四、植物は本草と同じからざる事「唐山ニハ、本草トイフハ、凡ソ採テ藥用トスベキ者、水火土砂ヨリ、草木金石ハ勿論、牛溲、馬勃、敗鼓ノ皮ニ至マデ、載セスコトナク、云云」 (三)支那ノ古キ藥物學ノ書。神農氏ノ著ト云フ。藥ハ草ヲ本トスレバ名ヅク。而シテ、動物、鑛物、コレニ附セリ。 漢書、平帝紀「徵天下通知逸經古記、天文曆算、鍾律小學史篇、方術、本草、及以五經論語孝經爾雅教授者、在所爲駕一封軺傳、遣詣京師、至者數千人」 續後撰集、十七、雜、中、本草をひらきみてよめる「ヲシヘオク、ソノ言ノ葉ノ、シルヘニテ、四方ノ草木ノ、心ヲゾワク」「本草學」「本草家」

ほんざうか(ホンゾウカ) (名) |本草家| 本草學ニ長ケタル人。博物學者。

ほんざうがく(ホンゾウガク) (名) |本草學| 昔、動物、植物、鑛物ヲ研究シ、兼ネテ藥用ニ供スルコトナドヲ修ムル學問。博物學。 海外事蹟雜纂、四、植物學論「西洋ニモ、あほてーけゐまんもとトテ、藥品ノミ論ジテ、唐山ノ本草學ニアタル學問ノアル事、云云」 皇國名醫傳、後編、中、阿部將翁傳「阿部照任、通稱友之進、號將翁、南部人、云云、嘗到清國、止於福建十八年、得本草學歸」

ほんざうくゎい(ホンゾウカイ) (名) |本草會| 本草、卽チ動植鑛物ノ、珍トスベキモノノ陳列會。寶曆七年、田村元雄ノ江戸湯島ニ開キシヲ初トス。次ギテ平賀源内ナド、度度、江戸ニ開キケリトソ。 平賀鳩溪實記、(天明)二「江戸ニ中橋邊ニ兒島□江ト云ヘル本道醫師アリ、源内ガ本草會ヲ開テ、珍敷會也、今マデ所所本草ノ會有トイヘドモ、會論等ニテ書籍ノ沙汰計也、然ルニ此度、平賀源内トイヘル者、藥草會取立シハ幸ナル哉、我等モ何卒藥草ニ出シ、出品シテ器械ノ程ヲ試ント、云云」

ボン-サツ (名) |梵刹| ぼんせつ(梵刹)ニ同ジ。

ぼん-さま (名) |坊樣| (ばうさま(坊樣)ノ音便) (一)男子ノ小兒ヲ呼ブ稱。(二)僧侶ノ敬稱。ボンサン。 狂言記、不立腹「ドレカラドレヘゴザルぼんさまデゴザル」

ほん-ざん (名) |本山| (寺ハ山ヲ開キテ建立スルヲ以テ名トス) 諸地ノ末寺ヲ統轄スル一宗、一派ノ長タル寺ヲ、其末寺ヨリ云フ稱。又、一宗、一派ノ根本道場タル本寺。コレニハ、格式ニヨリテ、總本山、大本山ナドノ別アリ。本寺。 廣弘明集、十六、蕭遠萬佛影銘「共立此臺、擬像本山」 今昔物語、三十一、第廿三語「比叡ノ山ニ尊睿律師ト云フ人有ケリ、云云、道心ヲ發シテ、本山ヲ去テ多武ノ峰ニ籠居テ、云云、此レヲ我ガ本山ノ末寺ト寄セ成テム」 平家物語、一、御輿振事「本寺、本山ノ三寶、年來所持ノ本尊タチ、云云」

ほん-ざん (名) |奔竄| ニゲカクルルコト。 三國志、蜀志、張嶷傳、注「蘇祁邑君冬逢、偶罷已下、悉恐怖失所、或迎軍出降、或奔竄山谷」 潘岳、西征賦「或開關以延敵、竟遁逃以奔竄」

ボン-さん (名) |梵讚| わさん(和讚)ノ條ヲ見ヨ。

ぼん-ざん (名) |盆山| (一)石ヲ疊メル山。花壇ノ如キモノナルベシ。 易林本節用集、上、器財門「盆山、ボンサン」 狂言記、盆山「アノ小サイ盆山ノ外ヘ隱レタトアッテ」(庭石ヲ盆ミニ來レル者、石ノ蔭ニ隱ルル狂言ナリ) 寬文四句帳、盆山ニ、ソダテテ見バヤ、石ノ竹」 (二)石菖鉢(セキシヤウバチ)ノ一名。石菖蒲ヲ植エタル平タキ鉢。好色一代女(貞享、西鶴)五「盆山ニ那智石ヲ時テ、石菖蒲ノ根カラミ青青トシタル、葉末ヲ詠メ」 (三)置物ノ石。又、盆石。 雲林石譜(宋、杜綰)「江州石以細碎石、雕其枯硬、取巧、爲盆山」 高野雜筆 山秘言(大明、陸樹聲山樂)盆山盆石分ち有の事「盆山トハ、山ノ形ナセルヲ云ナリ、盆石トハ、岩ノカタチナセルヲ云ナリ」

ほん-さんゐ(ホンサンイ) (名) |本三位| (新三位ニ對ス) 同時ニ三位二人アルトキ、古參ノ三位ノ稱。 平家物語、十、內裏女房事「本三位ノ中將重衡ハ(中將ノ相當、四位ナリ、三位ニ任ジテ中將二人アルトキ、上臈ヲ本位、下臈ヲ新位ト稱ス)」

ほん-し (名) |本支| (一)モトト、ワカレト。 (二)本家ト、支家ト。宗家ト、分家ト。 詩經、大雅、文王之什、文王篇「陳錫哉周、侯文王孫子、文王孫子、本支百世」 註「毛傳、云、本、本宗也、支、支子也」 李白、詩「七葉運皇化、千齡光本支」

ほん-し (名) |本旨| 本來ノ趣旨。根本ノムネ。又、ホンムウノ趣旨。 禮記、問傳「喪服之□、合於本旨」

ほん-し (名) |本志| マコトノココロザシ。本意。本懷。 後漢書、班超傳、贊、本志。 韓愈、上宰相書「懷本志之變化、中夜涕泗交頤」

ほん-し (名) |本子| ぐゎんり(元利)ニ同ジ。

ほん-じ (名) |本字| 假字ニ對シテ、漢字ノ稱。マナ。マンナ。ヲトコモジ。

ほん-じ (名) |本寺| (一)ほんざん(本山)ニ同ジ。 今昔物語、三十一、第廿三語「コノ所、カク佛法ノ地トハ、成シツト云ヘドモ、指ル本寺ナシ、同クハ、コレヲ我ガ本山ノ末寺ト寄セ成テム」 日本略記、一、諸宗之本寺之事「法相宗本寺者、興福寺也、三論宗本寺者、元興寺、律宗本寺者、西大寺也」 (二)コノ寺。當寺。當山。 普門品、作ノ曼陀羅ハ、本寺ノ重寶ニテアルベキヲ、云云」

ボン-じ (名) |梵字| 悉曇(シッタン)。又、悉曇章(シッタンシャウ)。(其條ヲ見ヨ) 梵天王ノ作リシ文字。卽チ、天竺ノ梵語ヲ書キ表ハス文字。其中、母字、卽チ、母韻ヲ表ハス十二字ヲ摩多(マタ)ト云ヒ、子韻ヲ表ハス三十五字ヲ體文(タイモン)ト云ヒ、合シテ四十七字アリ。又、金剛頂經、文殊問經ニ據ルトキハ、摩多ヲ十六字、體文ヲ三十四字、合シテ五十字トナス。其他、摩多ヲ十二字、體文ヲ三十四字トスルアリ、又、摩多ヲ十四字、體文ヲ三十五字トスルナドモアリ。 西域記、二「詳其文字、梵天所製、原始垂則、四十七言也」 云云、續紀式詩「□了四□、□□」 下學集、下、態藝門「悉曇、梵字、ボンジ」 類聚名義抄、代指、六、年分度者事、太政官符「□明業一人、讀□書□□□、大佛頂、及隨求等陀羅尼」 和字正濫鈔、一、梵字ノ母ヲ摩多トイフ、云云、其字母四十七字アリ、初二十二字アリ、摩多ノ字トイフ、此ニハ母ト譯ス、又、體文トモ韻トモイフトイヘリ、和語ノタメニハ、其要ヲトレバ、あ、い、う、え、おノ五字ナリ、次ニ三十五字アリ、體文トイフ、云云」 同文通考、三、梵字「吾國ニ傳フル所ハ、梵音ヲ以テ梵字ヲ傳ヘ得タリ、其書ヲ悉曇トイヒ、又、悉曇章トモ名ヅク、漢ニシテハ、是ヲ成就吉祥章ト譯シタリ」

ほん-しき (名) |本式| 法(カタ)ノ如ク、省略ナドセズ行フ式。正當ナル式。正式。 書言字考節用集、上、言辭門「本式、ホンシキ」 浮世子(享保、近松作)上「ドレゾ仲人賴ミテ、本式ノ皆入レハお前カラ、是ハ先ヅソレマデノ心賴ミ」

ほん-しつ (名) |本質| 本來ノ性質。又、根本ノ性質。本體。 本質ハ鏤彫改ニ質形ニ」

ほん-じつ (名) |本日| ケフ。此日。今日。

ほん-しん (名) |本心| 眞(マコト)ノ心。本來ノ心。正氣。本氣。(迷ヒタル、又ハ、狂ヒタル心ニ對ス) 孟子、告子、上篇「鄉爲身死而不受、今爲所識窮乏者得我而爲之、是亦不可以已乎、此之謂失其本心」 三國志、魏志、管寧傳「寧日、每省己身、□□□之、而遂忘本心哉」 字類抄「本心」「本心ニ立返ル」

ぼん-じん (名) |凡人| ぼんにん(凡人)ニ

[illegible]又、ハンジン。[illegible]凡人」

ほん-しゃ (名) 本社 (一)社地ノ内ニ、[illegible]ノ社ノ[illegible]本社[illegible] ソノ主タル社。(四)コノ會社。當社。

ほん-しゃう (名) 本性 (一)[ウマレツキ]。天然ノ性。[illegible]「本性、ホンシャウ」源、二、帚木「アダメキ、目ナレタルウチツケノ、スキズキシサナドハ、好マシカラヌ、御本しゃうニテ」 (二)本心。正氣。(狂氣、前後ナドニ對ス) 本心[illegible]ノ内ヨリ狂ヒ覺メテ、又、本性ニゾナリニケル」

ほん-しゃう (名) 本省 (一)管下ノ官廳ニ對シテ、コレヲ管轄スル省ノ稱。(二)コノ省。當省。

ほん-じゃう (名) 本城 (一)ネジロ。又、本丸。[illegible]本丸ヲサシテモイヒ、又、出城、端城ニムカヘテ、根城ヲサシテモイフナリ」義殘後覺、氣オクレシテ、本城ヘ歸陣セントシ」 (二)コノ城。當城。

ぼん-しゃう (名) 凡聖 凡人ト、聖人ト。凡夫ト、聖者ト。[illegible]二、一切圓滿」[illegible]

ほん-じゃく (名) 本迹 「本地ト垂迹」[illegible]

ヲ見ヨ、垂迹トハ、佛菩薩ガ、[illegible]ノタメニ、本地ヨリ迹ヲ此地ニ垂ル[illegible]コト[illegible]本地ト、垂迹ト[illegible]時、本迹二門ニ、稽習、管習ノ一心三觀ヲ彼レ演」

ほん-しゅ (名) 本主 (一)己レノ事フル主人。[illegible]本主」 (二)モトヨリノ所有主。太平記、十五、園城寺[illegible]寺ノ本主、大政大臣大友皇子ノ後亂、大友皇子[illegible]」(三)庄園ノ所有主。太平記、十一、公家一統政道事[illegible]ニテ本主給ニ安堵ニ」

ぼん-しゅ (名) 凡手 凡庸ナルウデマヘ。平凡ナル伎倆。又、ソノ人。

ほん-しょ (名) 本書 (一)主タル文書。(二)正式ノ文書。(三)原本。正本。複本ニ對ス。(四)此文書。又、此書籍。

ほん-じょ (名) 本所 (一)ソノトコロ。當所。又、コノ役所。(二)武家ニ對シテ、公家ヲ云フ語。[illegible]內口決「本所トハ、諸家堂上之衆、皆一同ニ本所ト稱候」太平記、廿六、執事兄弟奢侈事「四條大納言隆蔭卿ノ青侍、云云、此垣ヲ通リケルカ、云云、何者ニテ候ヤラン、此ヲ通ル本所ノ侍カ、カカリケル事ヲ申テ過候ツル、云云」(三)特ニ、武者所ノ稱。[illegible]記、三十七、平家開城戶口「中山ト名乘ハ、本所ニ仕タル名アル侍」同、三十九、時頼撥笛事「タトヒ、ワガモトヘコソカヨハズトモ、本所ノ奉ニ侍ルニ」 (四)處處ノ地名ニアルハ、其國ノ守ノ取分ノ所ナリトイフ。(廣龍工隨筆)

ボン-しょう (名) 梵鐘 〔梵ハ清淨ノ意〕寺ノツリガネ。寺院ノ大鐘。[illegible]樹殘葉(梵鐘)」[illegible]功ニ十倍ノ[illegible]アリ、中ニモ妙ナルハ、一ツノ梵鐘ナリ、其ノ聲タヘニシテ、聞ク人菩提ニ至ルトイヘリ」

ほん-しょく (名) 本色 (一)[illegible] (二)[illegible]本色官ハ若委ニ職役ハ名分不正」後山詩話(宋、陳師道)[illegible]ノ色[illegible]復、鑑、語ニ本色ハ不レ能ニ復化ニ」

ほん-しょく (名) 本職 (一)モチマヘノ職業。(內職ニ對ス) [illegible] (二)[illegible]ル職務[illegible]

ほん-しょく (代) 本職 官吏ガ、職務上ニ於ケル場合ノ自稱。

ポンス (名) 〔蘭語、Pons. 又ハ、Punch.〕ぶらんでい等ニ、水ト[レモン]檸檬汁ト、砂糖トヲ加ヘ、コレニ香料ナドヲ和シテ、製セル飲物。今日ニテハ、製法、材料、種種[illegible]名)ト云酒ノ製造ハ、橙ノ酢ヲ絞リテ、ヨクコシ、砂糖ヲ茶碗ニ一杯入レ、水モ同ク一杯、燒酒モ同ク一杯、橙ノ酢ハ分目、コレニ[illegible]ウマシトイヘリ」

ほ-むすび (名) 火産靈 又、ほのむすび。カグツチ。火ノ神。[illegible]

ほん-せい (名) 本姓 己レガ本家ノ姓。其人ノ生家ノ苗字。又、實ノ姓。[illegible]

ほん-せい (名) 本性 又、ほんしゃう。ウマレツキ。本來ノ性質。天性。天資。性。[illegible]

ほん-ぜい (名) 本誓 [illegible]アラハレ給ヘト、觀音ノ本誓ヲ念ジ奉ルニ」榮花物語、廿二、鳥舞「六觀音ハ、六道ノタメニトオボシメシタリ、本誓ヲ思フニ、イトアハレナリ」

ほん-せき (名) 本籍 其人ノ身分上ニ關スル地ノ戶籍。[illegible]

ぼん-せき (名) 盆石 雅致アル石ヲ、盆ノ上ニ立テテ、其自然ナル狀態ヲ賞翫スルコト。又、ソ[illegible]ニ還キ、海ゾエナラヌ」[illegible]上、盆石之事山殿御歌、盆石ノ、前ニハフタツ、當ヒサシ、ウシロ[illegible]見管ニ致シタルモノ也、大ユニ、心ノ石ノ小キハ、廣座敷ニテハ見ヘ箭候、眼下ニ見ルヨリ還ク引離レ[illegible]ク、蒔也、昔ノハ甚細密ナルモノニテ、云云」

ほん-せつ (名) 本說 根本トナル[illegible]又、根據[illegible]

ボン-セツ (名) 梵刹 〔梵ハ梵語、Brahma.(梵摩)ノ訛略、刹ハ Ksetra.(差多羅)ノ略、[illegible]伽藍ノ[illegible]又、ほんさつ。[illegible]同[illegible]せつ(刹)、及、せつ(櫒)ノ條ヲモ見ヨ」[illegible]云、[illegible]云等、即幡柱也」

ほん-ぜん (名) 本膳 [illegible]

ル膳ノ稱。諸膳ヲ具シタル獻立ノ別ニ、雜肴ヲ載セテ、更ニ左右ニ供フル膳ニ、二の膳、三の膳、ナドアリ。(盛饌ニハ、七ノ膳マデアリ) 宗五大雙紙、上「公方樣御成「本膳ニ打マヘリセクゴスハル、二ノ膳ニ御マハリ五ツ、御汁二ツ、云云」 四條流包丁書「一獻立事「本膳ノ中ニハ、必不レ紛定事ニハ、ナマス用處ニ、近代無二其義一不レ可レ然」

ほん-ぜん (名) [本然] 本來自然ノママナルコト。人工ナドヲ加ヘズニ、天然ノママナルコト。 中庸章句「蓋欲下學者於レ此反求二諸身一而自得上之、以去二夫外誘之私一而充中其本然之善上」 朱子語類「天地之間、則太極本然之妙、萬殊而一本也」 書言字考節用集、八、言辭門「本然、ホンゼン」「本然ノ性」

ほん-ぜん (副) [翻然][飜然] ヒルガヘル狀、又、ヒルガヘス狀ニ云フ語。

~ほん-ぞ (名) [本所] 又、ほんじょ。ソノトコロ。又、ソノ役所。 源、四十八、寄生九上「女房三十人、童、下仕八人ヅツ侍フニ、又迎ヘノ出シ車十二、ほんぞノ人人乘セテナンアリケル」

ほん-そう (名) [奔走] (一)ハシルコト。馳セマハルコト。 書經、酒誥篇「妹土、嗣二爾股肱一、純其藝二黍稷一、奔走事二厥考厥長一」 (二) 馳走、饗應。 庭訓往來、上、五「一種一瓶者、衆中課役、賭引丁物者、亭主奔走歟」 (三) 馳走スルノ意ヨリ轉ジテ、大事ニ取扱フコト。又、小兒ナドヲ愛デイツクシムコト。寵愛。 文治五年大內裡修造の命に賴朝の奉答せし書「器力ノ及候ハン程ハ、奔走仕ルベク候」 昨日は今日の物語(寬永)「色色サマザマノ古筆集メテ、ほんそうスル、中ニモ近衞殿ノ御手跡稀見事ナルハ、有ルマイト沙汰スル」 和訓栞「奔走ハ馳走ノ意也、彼是ト心クバリヲスルヲ、親ノ奔走子ナドイフ」

ほん-そく (名) [本則] 根本ノ規則。又、根本ノ法則。原則。

ほん-そく (名) [本束] 紙ノ名。いっそく いっぽん(一束一本)ノ條ヲ見ヨ。

ぼん-ぞく (名) [凡俗] 平凡ニシテ、何ノ勝レル所ナキコト。又、無智無學ナル常ノ人。凡夫。 [illegible]「因俊凡俗嗤、此中玄」 書言字考節用集、四、人倫門「凡俗、ホンゾク、タダフト」 太平記、三十、持明院殿吉野遷幸事「毎日ノ御神拜、云云、二十餘年ニナリヌレバ、神靈モナドカ無カルベキニ、餘リニ無二恐凡俗ノ器物ニ被レ成ケル事、如何アルベカラント、申ス族モ多カリケリ」

ほん-ぞなへ (名) [本備] ほんぢん(本陣)ノ條ノ(一)ニ同ジ。 籾井家日記、一、攝州青野合戰事「宗長公ノ御本備ヘノ宗徒ノ人人、穗田刑部老衆、讚名帶刀ニ衞門、高副、云云」

ほん-そん (名) [本村] (一)分レタル村、又ハ、字ナドヨリ、其主タル村ヲ指シテ云フ語。(二)此村。當村。

ほん-ぞん (名) [本尊] (諸尊中ニ於テ、最モ本トシテ尊崇スル故ニ云フ」) (一) [又、ほぞん。寺院ニテ、主トシテ崇ムル佛像。 大日經疏、廿「本尊者、持眞言也、提婆多若但云二提婆一者、直所レ尊之者也、尊亦云二自尊一、自所持之尊也」 宇津保物語、俊蔭「二七歲ヨリ俊蔭ガ、ツカウマツル本尊アラハレ給ヘト、觀音ノ本誓ヲ念ジタテマツルニ」 謠曲、望月「持佛堂ニ參リテ、兄ノ一萬、香ヲタキ、花ヲ佛ニ供ズレバ、弟ノ箱王ハ、本尊ヲツクヅクトマモリテ」 (二)三幅對ノ掛物ノウチ、其中央ナルモノ。中尊トモ云フ。さんぷくつゐ(三幅對)ノ條ヲモ見ヨ。

~ほむだ (名) 鞆 (含手ノ義、弦ノ當ル聲) 略シテ、ほた。とも(鞆)、及、ほた(鞆)ノ條ヲ見ヨ。 應神即位前紀「既産之、宍生二腕上一、其形如レ鞆」注「上古時俗、號レ鞆謂二褒武多一焉」

ほん-だ (名) [本多] ほんだまげ(本多髷)ノ略。其條ヲ見ヨ。

ほん-たい (名) [本體] (一)マコトノカタチ。眞ノ身。 [illegible]「ハ、[illegible]、此ノ人ノ御ほんたいニハレト云フナト、知ル人ニカリケレバ」 西川本字類抄「本體、ホンタイ」 (二)(英語、Substance.ノ譯語) 哲學上ニテハ、現象ノ根本タル形而上ノ物。即チ、自ラ成リ自ラ存在シテ、唯一絶對ノ實體。之ヲ研究スル學問ヲ、本體論ト云フ。眞實體。體性。實性。眞如。實相。

ほん-たう (名) [本稻] (雜稻(正稅ナドノ外ニ出擧シテ、用ニ供スル官稻)ニ對ス) 王朝時代、不動倉ニ貯ヘ置キテ、國用ニ備フル稻。

ほん-たう (名) [本當] マコトナルコト。僞リナラヌコト。ホンマ。眞實。眞實。

ほん-だう (名) [本道] (一)正シキ路。(間道、徑路、ナドニ對ス) ホンミチ。(二) 漢方醫術ノ語。ないくゎ(內科)ニ同ジ。 太平記、二十六、[illegible]「四月廿日、賀氏卿ノ背ニ癰瘡出テ、心地不レ例御座シケレバ、本道、外科ノ醫師、數ヲ盡クシテ參リ集マル」

ほん-だう (名) [本堂] 院ノ中心タル佛堂。伽藍ノ中心タル佛殿。又、寺院ニテ、普通ニハ本堂。法相宗、眞言宗ナドニテ金堂。天台宗ニテ中堂。禪宗ニテ佛殿。 本朝世紀、長和二年六月廿八日「上達部、殿上人饗設二北堂一、即見二法興院木堂一」 [illegible] 太平記、廿七、[illegible]「愛宕山」、本堂ノ後、座主ノ坊トオボシキ所ヘ行キタレバ、コレ又所勝ノ靈地ナリ」 謠曲、六浦「又、コレナル本堂ノ庭ニ、楓ノ候ガ」

ほん-だうり (名) [本田瓜] (梵天瓜ノ誤リト云フ」 まくはうり(甜瓜)ノ異名。

[illegible] ハ一般ニ、シカ呼ナリ、一種皮ノ白メナルアリ、[illegible] 江戸鹿子、[illegible]ラズ、本田瓜トイフ、[illegible] ク、イフ、云云、靑山井、類ヒナキ、[illegible] ナモフニ、本田瓜、[illegible]瓜ナルヲ、本田ト書テ、ほんだト誤レルナリ」

ほん-たく (名) [本宅] (別宅、別邸ナドニ對ス) 常ニ居住スル宅。又、元ノ家ノ稱。 [illegible]「[illegible]本宅[illegible]」 [illegible]トノ官人トナリテ、本宅ニ歸リケリヤ、云云」

ほん-だち (名) [本裁] 並幅一反ノ布帛ニテ、衣服ヲ仕立ツルコト。即チ、大人ノ衣服ノ仕立。又、ソノ仕立ノ衣服。

ほん-だな (名) [本店] ほんてん(本店)ニ同ジ。 浮世風呂(文化、二篇)二編、上「私トモノ二番目モ、人中ガ藥ダト申シテ、本店へ遣ハシテ置キマシタ」

ほん-だな (名) [本棚] ほんだな(書棚)ニ同ジ。

ボン-だな (名) [盆棚] ぼんしゃうりゃうまつり(精靈祭)ノ條ヲ見ヨ。

ほん-だはら (名) [穗俵] ほだはら(穗俵)ノ音便。 浮世鏡(貞享)三「ほんだはら、神馬藻」

ほん-だまげ (名) [本多髷] (一)昔、男子ノ髮ノ結ヒヤウノ名。本多中務大輔忠勝ガ、家中ノ者ニ命シテ、定メタルモノト云フ。髮ヲ前ヘ七分、後ヘ三分ト厚サヲ定メテ、紙絲ニテ七ツヅツ卷キテ、髻ヲ結ソナリ。後ニハ、大イニ變ジタリ。(雨窓閑話) 略シテ、本多。其一種ニ、ぞへほんだト云フアリ。(二)安永ノ頃ノ、男子ノ髮風ノ名。中剃ヲ大キ

クシ、髷ヲ高ク結ヒ、鬢ハ下鬢トテ油ヲツケズ、櫛ノ齒ヲ入レ、毛筋ヲ通シ、後ノ方ニ[illegible]ケタルモノ、(十日[illegible]) [illegible]

ほんたん (名) [奔湍] ハヤセ。急流。飛湍。[illegible]

ボンタン (名) [文旦] (ぶんたんノ轉) ざぼん(香欒)ニ同ジ。

ぼんたらう (名) (擬人語) ボンツク。ボンクラ。ボンヤリ。マヌケ。アハウ。闇愚ナル人ヲ嘲リ云フ語。

ほんち (名) [本土] (一)本ノ地。本國。本土。(二)コノ土地。當地。

ほんち (名) [本知] 本領ノ知行所。又、當[illegible]地、[illegible] 甲陽軍鑑、九、ト、品第廿四、「[illegible]ノ人[illegible]、[illegible]出シ、カカハ、本知ヲ[illegible]ケ一モ、半分モ、或ハ皆ナリ共、下サレ、後ハ譜代召ト[illegible]ヲ組ナド致セバ、少モアヤウキコトナク」

ほんぢ (名) [本地] (佛教ニテハ、所現ノ化身ニ對シテ、能現ノ本身、即チ、佛菩薩ノ本體ヲ本地ト云フ。演密鈔、二「本地法身者、即實相法身也、一眞實相、爲ニ萬化之本、猶如於地爲萬物之依、故曰本地」) 佛氏ノ說ニ、日本ノ神モ、天竺ナル本地ノ某佛ノ、迹ヲ此地ニ垂レテ出デ給ヘルモノトシ、本地、垂迹、トイフコトヲ稱ヘテ、天照大神ヲ、本地、大日如來ノ垂迹トシ、八幡太神ヲ、觀世音ナドトス。兩部神道ノ說、此ニ起ル。法華文句、九「[illegible]本地[illegible]佛功德」[illegible] [illegible]、[illegible]ジテ八百萬ノ神ト申ハ、悉ク本地ハ佛ニテマシマス也」保元物語、一、[illegible]「[illegible]武天皇、[illegible]テ、大神宮ノ御本地ヲ[illegible]ハシ

ニ、[illegible]ヲ[illegible]、[illegible]ニ[illegible]、ソノ御本地、救世觀音ニテ、マシマサズヤ」

ぼんち (名) [盆地] 盆ノ如ク周圍高ク平ラカナル地。山嶺ナドニ圍マレタル平地。[illegible]

ぼんち (名) [盆池] (一)水ヲ盛リタル鉢。金魚、ソノ他、愛玩用ノ小魚ナドヲ入レテ、飼フ時ナドノ稱。(二)小ナル池。[illegible]

ぼんち (名) [坊稚] (法師ノぼっちノ轉) ほふし(法師)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ポンチ (名) (英語、Punch. ぽんちハ、モト其人形芝居ニ出演スル主要人物タル男ノ名) 正シクハ、ぱんち。西洋ニテ、人形芝居[illegible]、戲謔ヲナス者。轉ジテ、又、寓意アリテ、世ヲ諷スル戲畫ヲモ云フ。鳥羽繪ノ類。

ほんぢすいじゃく (名) [本地垂迹] (ほんぢ(本地)、及、ほんぢ(本地)ノ條ヲモ見ヨ) 奈良朝ノ頃、佛徒ノ神佛習合ヲ唱ヘ出シ、平安朝ノ初ニ本地垂迹說トナル。コレハ、天竺ノ本地ノ諸佛ガ、時勢ニ應ジ、衆生ヲ濟度セムガタメニ、迹ヲ此地日本ニ垂レテ、種種ノ神トナリテ出現セリト唱ヘキ。即チ、天照大神ハ本地ノ大日如來ナリト云フガ如シ。元來、我ガ國人ノ敬神ノ念堅キニ因リテ、佛法ヲ弘ムニハ、神佛ノ調和ヲ謀ラズハアルベカラズトノ心ヨリ、此說ヲ生ジタルナリ。石清水八幡宮司田中氏藏文書、承平七年十月四日太宰府牒、筥崎神宮寺[illegible]、「[illegible]此宮[illegible]、其地[illegible]權現[illegible]垂迹[illegible]同」諸社根元記、下、本地垂跡事「佛教ニハ佛ヲ本地トシ、神ヲ垂跡トス、神道ニハ本地即垂跡、垂跡本地

也、天照大神ヲ本地トシ、伊勢大神宮ヲ垂跡トス、伊[illegible]、[illegible]垂跡、無、跡無、國、本、云云」安倍晴明、七「[illegible]ヲ本[illegible]云云」

ほんぢん (名) [本陣] (一)陣中ニテ、大將ノ居ル所。本營。中軍。[illegible]「[illegible]、一、官軍勢汰事「義朝、本陣ニ歸リ、物ノ具ス」謡曲、橋弁[illegible]ヘ[illegible]ト[illegible]」 (二)江戸時代、宿驛ニテ、貴人、[illegible]ナド宿ス大ナル旅舍。[illegible] [illegible]、近[illegible]中 本陣ノレ下[illegible]ナク、下宿ノ[illegible]町、[illegible]ノ[illegible]屋トモ、[illegible]付」[illegible]中[illegible]、一九)[illegible]、[illegible]ニ、ナ大名ノオ着キト見エ、騎手ハ今、膳ノ出ル最中」

ほんちゃ (名) [本茶] 「非茶ニ對ス」山城國、栂ノ尾ノ産ナル茶。又、ほんいちゃ。さうちゃ(叢茶)ノ條ヲ參見セヨ。

ボンヂャウチン (名) [盆提燈] 盂蘭盆ノ供養ノタメニ揭グル提燈。白張提燈、岐阜提燈、切子燈籠ナドアリ。もとの水「夕風ヤ、盆提燈モ、闇離レ」

ほんちゅう (名) [本中] 相撲ニテ、番附ノ二段目ノ第一番目、即チ、貧乏神ヨリ十五番目マデノ稱。現今ハ、番附ニ入ラヌ力士ヲ云フ。コレハ、他ノモノニ勝越シテ、後、序ノ口(番附ノ最下段)ニ入ル。之ヲ出世ト云フ。相撲今昔物語、七、「素人相撲之[illegible]、[illegible]ノ外ヲ前トイフトナリ、前相撲ノ中ノ上席ニ居ルヲ中トイフ、是幕ノウチト前相撲ノ中央トイヘル事ナリトアリ、當流ハ中相撲ノ頭ヲ、俗ニ溜切トイフコトアリ、是モ一理アリ、幕ト外トノサカヒナレバ、カクイフト見エタリ、マタ溜切ヨリ十五枚迄、通稱、本中ト云フトアリ」

ぼんつく (名) 圓ノ[illegible]。ボンヤリナルコト。又、其人。ボンタラウ。

ほんて (名) [本手] (一)[illegible] (二)[illegible]道。(三)三味線ノ唄ニ合ハセテノ彈キ方。初ニ成レルマジメナルモノ。新奇[illegible]ト云フ。[illegible]「本手、破手ト云フコトヲ定メテ、人ニ是レヲ傳フ」[illegible]

ほんてい (名) [本邸] [illegible]

ほんてう (名) [本朝] (一)我ガ國ノ朝廷。(異朝ニ對ス) 轉ジテ、泛ク自國ノ稱。[illegible]名ニモ扶桑ノ國ヲ引ケバ」「本朝文粹」「本朝月令」 (二)單ニ、朝廷、又ハ、朝廷。[illegible] 望之僞「望之雅志在ニ本朝ニ、遠爲ニ郡守ハ內不ニ自得ニ」(三)正シキ朝廷。(僞朝ニ對ス)

ほんてうし (名) [本調子] 三味線ノ調子ノ名。宮ト徵トノ和合音ヲ得ルモノ。[illegible] 二律高クシテ商ニ上グルヲ「二あがり」ト云ヒ、[illegible]「三さがり」ト云フ。[illegible] 此調子ナ

ルヲ、筑紫箏ニテ平調子(ヒヤウデウシ)ト云フ。雲居調子ニ對シテ平常ナル意ナリ。

ほん-てん (名) |本店| 〔支店、分店ナドニ對ス〕商人ノ主タル營業ヲナス店。

ほん-でん (名) |本田| 秧田(なはしろ)ニ對シテ、稻ヲ植ウル田ノ稱。

ほん-でん (名) |品田| 〔ほん(品)ノ條ヲ見ヨ〕王朝時代、親王ノ品位ニヨリテ賜ハリタル田。又、品位田。民部省式、上「凡授二品田一者、親王、內親王、其數一同」

ほん-でん (名) |本殿| (一)正殿。神社ノ神體ノ座ス殿。(拜殿ナドニ對ス) (二)清涼殿ノ異稱。增鏡、第十八、むら時雨「人人モマカデ、君モ本殿ニ、シバシウチ休マセ給ヘルニ」

ボン-てん (名) |梵天| 〔梵語、Brahma-deva.(婆羅賀磨天)ノ略。梵ハ清淨ノ意、コノ天、欲界ノ婬欲ヲ離レ、寂靜清淨ナレバ梵天ト云フ〕(一)佛敎ニテ、欲界ノ上ニアル天ナリト云フ。卽チ、色界ノ初禪天ノ稱。コノ中ニ、梵衆天、梵輔天、大梵天ノ三天アリ。普通ニ梵天トハ、大梵天王ヲ指ス。大梵天王ハ名ヲ尸棄ト云ヒ、深ク正法ヲ信ジ、佛ノ出世每ニ、必ズ最初ニ來リテ、轉法輪ヲ請ヒ、又、常ニ佛ノ右邊ニ在リテ、手ニ白拂ヲ持ツト云フ。雲笈七籤(宋、張君房)「佛卽西方得レ道之聖人也、在三清之中、別有二梵天一居レ之、于上帝則如二世之九卿卒天子一也」平家物語、一、御輿振事「衆徒多ク傷ヲ被テ、ヲメキサケブ聲ハ、梵天マデモ聞エ」(二)修驗道ニテ、祈禱ニ用キル幣束ノ稱。(梵天ニ奉ル意) 松の葉、五、三福川「比ハ卯月トユフシデノ、ぼんてんスコク立チナラブ」

ボン-でん (名) 〔前條ノ語ノ(二)ノ轉ジテ、幣束ヲ以テ風神、惡魔、又、蟲ナドヲ追ヒ拂フ義〕(一)藁束ヲ竿ノ先ニ結ビ、幣束ヲ其頂上ニ結ビ、コレヲ村中ヲ擔ギ廻リシ後、村境ニ建ツルモノ。(二)昔、江戸市中ニテ、端午ニ、町町ノ若者共ノ作リ設ケテ、幣束ヲ棒ノ先ニ多ク刺シタルモノ。山伏ヲ多ク雇ヒテ、ホラ貝ヲ吹カセ、ソレヲ持チアルキ、家每ニ幣ヲ配リテ、軒ニ刺シ錢ヲ集ムト。(魔除ニナス)

ボンてん-うり (名) |梵天瓜| 〔慈覺大師、病中、夢ニ梵天王ヨリ藥ヲ賜ハリ、其ニ片ヲ地ニ蒔キテ、此瓜ヲ得タルヨリ名ヅクト(醍醐寺)〕まくはうり(甜瓜)ノ異名。其條、及、ほんだうり(本田瓜)ノ條ヲ見ヨ。新撰類聚往來、上、菓子「菓子頭瓜、溫地、梵天、瓠、云云」

ボンてん-こく (名) |梵天國| 〔貞享、元祿ノ頃、淨瑠璃ヲ語レル終ニハ、必ズ此外題ノモノヲ、語ルヨリ起ル〕物事ノ終トナルコト。何事ニモアレ、ハヤコレギリト云フ意ニ用キル。轉ジテ、失敗(シクジ)リテ驅落スルコト。古鄉歸江戸咄(貞享)六「主從フタフシ、一跡(イツセキ)ヲタタキアケテ、云云、主ノカタヘ歸リ得ズ、スグニぼんてんこくヲウタフ」浪花鉦(延寶)六「くぜつト云フモノハ、をゐナドノスルコトデハ、ゴザンセズ、皆皆ぼんてんこくノ下地ぢや」松の葉(元祿)三、一夜かがみ「此身ハぼんてんこくニナルトモ、物日物日ハ無ニセマイ」浮世床(文化、三馬)二編、上「ソレダモノヲ、ヤキモチノヤノ字モアルト、タチマチぼんてんこくサ」

ボンてん-だけ (名) |梵天竹| 〔竹ノ先端ニ、梵天ノ如ク紙ヲ附クル故ニ云フ〕又、ぼんてんちく。檢地ノ具。四本ノ竹竿ノ頭ニ剪紙ヲツケ、各細見竹ノ間ニ建テ、前後ニ竿ヲ見通シ、內外指數ノ取捨、及、縱橫十字ニ綱ヲ張ル目標ニ用キルモノ。地方凡例錄、二、廻リ檢地之事「廻リ檢地トイフハ、云云、總廻リヲ繪圖ニ寫シ、反別ヲ改ムルヲ云フ、總廻リノ曲ガリメ、曲ガリメニ、間盤ヲ建テ、先ノ廻リメニ梵天竹(長竹ノ先ニ紙ノ采配ヲ付ケテ、目當トスルモノナリ)ヲ建テ、手前ノ廻リ目ヨリ間盤ニテ方角ヲ見込ミ、午ノ何分トカ、未ノ何分トカ、十二支ノ當ル所ヲ、野帳ニ記シ、其ノ間ヨリ先ノ梵天竹マデ間數ヲ打チテ、野帳ニ書付ヲ致シ、肝要ノ處ヘハ、杭ヲ打テ書付ヲナシ、順順ニ見廻ル」

ボンてん-まい (名) |梵天米| 稻ノ一種。のぎね(野稻)ニ同ジ。

ボンてん-わう (名) |梵天王| 印度ノ天地創造ノ主神。又、佛法擁護ノ神。佛敎ニ、色界(此界ヲ四ツニ分ケテ、初禪、二禪、三禪、四禪ノ四天アリト)ノ初禪天ノ主。卽チ、娑婆世界ノ主ナリト云フ。ぼんてん(梵天)ノ條ヲモ見ヨ。

ほん-ど (名) |本當| ほんたう(本當)ノ訛。

ほん-ど (名) |本土| (一)ほんごく(本國)ニ同ジ。[illegible]ニテ、我ガ本土、寂光淨土ヘ必ズマイレ、迎フヘキゾ」(二)屬國、又ハ、離島ニ對シテ、本ノ國土ノ稱。(三)コノ土地。

ぽん-と (副) 呆然トシタル狀ニ云フ語。

ボンド (名) |封度磅| 〔蘭語、Pond. 英語、Pound. 又、ぽうんど〕(一)西洋、秤目ノ名。斤(キン)ト譯ス。和蘭ナルハ、我ガ百三十三匁九分五厘。英、米、ナルハ、百二十匁九分六。(十六兮) 封度。(二)英ノ金銀、寶石、藥材ナドノ量ナルハ、十二兮、我ガ九十九匁五分三厘二五。(三)英國ノ金貨ノ單位ノ名。二十志るりんぐ。我ガ九圓七十六錢三厘餘。磅

ほん-とう (名) |奔騰| ハシリアガルコト。又、相場ナドノ勢ヒヨク騰貴スルコト。[illegible]

ボン-どうろう (名) |盆燈籠| 盂蘭盆ニ、精靈ニ供フルタメニ點ズル燈籠。每年七月十四、十五、十六日ノ夜、點ズ。種種ノ作リモノアリ、後ニハ六月晦ヨリ七月中、燃ス。江戸ニテハ、吉原ノ燈籠盛ナリキ。正德年中、遊女玉菊ノ追善ノタメニ供ストゾ。(北女閭起原、四)キリコドウロウ。

ぼん-なう (名) |煩惱| 〔梵語、Klesa.(吉隸舍)ノ譯語、大智度論、七「煩惱者、能令二心煩一能作レ惱、故名爲二煩惱一」〕佛敎ノ語。一切衆生ノ慾情、願望、苦慮等ニテ、心ヲ煩ハシ身ヲ惱マスコト。コレヲ解脫スレバ菩提トナルト云フ。(菩提ノ正覺ニ對ス) 唯識述記、一「煩是擾義、惱是亂義、擾亂有情、故名二煩惱一」源、廿九、螢「ヒーツ胸ニアタリテ、菩提ト煩惱トノ隔リナン」枕草子、三、第三十八段「ミソカニト思ヒテイフラメド、アナワビシ、ぼんなう苦惱カナ」謠曲、富士太鼓「ゲニヤ女人ノ惡心ハ、煩惱ノ雲晴レテ、五常樂ヲ打チ給ヘ」

ぼんなう-さぎ (名) |煩惱鷺| 鷺ニ似テ小サキモノ。ヨシゴヰ。重修本草綱目啓蒙、三十六、水禽、鵁鶄「云云、灰白ハ、ホシゴイナリ、云云、又、一種ぼんのうさぎ、一名ヨシゴイ(同名アリ)」

ぼんなう-ま (名) |煩惱魔| 煩惱能ク身心ヲ惱亂シテ、菩提ノ障礙トナル故、魔ト云フ。しま(四魔)ノ條ヲ見ヨ。

ほんなほし (名) 本直 [illegible]
[illegible]ハ、味眞酒ノゴトク、造米麴米共ニテ造リ、水ハ諸白ヲ用ル也、云云」

ぼんみ (副) 本 マコトニ。ジツニ。ゲ[illegible]「[illegible]ノ子ハ、ほんみほんみ、生レルカラ死ヌマデ厄介サ」

ほんにん (名) 本人 (一)其人。當人。(二)張本人。[illegible]「[illegible]ダ若キ人ナリ、而モ此度ノ本人ニテモアラズ」

ぼんにん (名) 凡人 又、ぼんぢん。ヨノツネノ生レノ人。タダビト。[illegible]バ、能ク斬レトテ、睨マレタル眼ザシ、實ニ凡人トハ見エザリケリ」[illegible]凡人ニ於テヲヤ」

ぼんにん (名) 犯人 又、はんにん。罪ヲ犯シタルモノ。犯罪人。[illegible]十、第七十六條「火既ニ獄舎ニ移リナントシケル時、搦手[illegible]ノ囚人ヲ出タスヘキノ由申シケレバ」

ほんにんばう (名) 本因坊 ほんいんばう本因坊ノ條ヲ見ヨ。

ほんね (名) 本音 (一)マコトノネイロ。モチマヘノ音。(二)マコトノコトバ。本心ヲ云ヒ出シタル言。「ほんねヲ吐ク」

ボンネット (名) 〔英語、Bonnet〕 婦人ノ洋裝時ニ用キル緣ナキ帽子。

ほんねん (名) 本年 此年。今年。當年。

ほん-ネル (名) 〔ねるハ、英語、Flannel.ノ略、ふらんねるノ條ヲモ見ヨ[illegible]

ほんの (副) 本 マコトノ。全クノ。[illegible]夜ハ寢ナシニ、ほんの女夫トイツノ世ニ、云ハレツ云ハン[illegible]」「ほんの[illegible]バカリ」

ほんのう (名) 本能 〔英語、Instinct.ノ譯語〕[illegible]本來有アル性能。自然ノ要求ニ對シテ、自然ニ行動スル性能。(鳥類ノ巣ヲ作リ、獸類ノ其子ヲ愛育スルガ如シ)又、人ノ心身ノ[illegible]、又ハ、教育ナドニヨラズシテ、自然ノ要求ニ基ヅキテ起ル動作。

ぼんのくど (名) 盆窪 次條ノ語ノ訛。

ぼんのくぼ (名) 盆窪 〔盆穴ノ一、缺盆ノ名アリ、[illegible]〕[illegible]

ほんのちゃ (名) 本茶 ほんちゃ(本茶)ニ同ジ。

ほんのり (副) 〔ほのノ延〕 ホノカニ。ホノボノ。カスカニ。聖德太子繪傳記(元祿、近松作)二「恥シゲニ赤ラム顏ノほんのりハ、霞ニ虹ノ如クナリ」「ほんのりト東ガ白ム」

ほんば (名) 本場 (一)其物ノ眞ノ產地。(二)取引所ノ語。午前ノ賣買立會ノ稱。前場。但シ、東京ノ米取引所ニテハ、[illegible]

ボンバイ (名) 梵唄 [illegible] Brahma.唄ハ、Pathaka.(唄匿)ノ略、歌[illegible]偈、又ハ、頌ヲ、一種ノ節ニ合ハセテウタフモノ。佛事法會ニ行フ讚頌ノ聲樂[illegible]廿九、音樂志、七「[illegible]明者、印土之名、五明之一也、[illegible]」

ほんばう (名) 本坊 (一)一寺ニテ住職ノ住ム處。(塔頭ニ對ス)[illegible](二)己レノ住メル坊。自坊。

ほんぱう (名) 奔放 (一)拘束ヲ受ケズ、己レガ自由ノ儘ナルコト。[illegible](二)勢ヨク走ルコト。[illegible]

ほんぱう (名) 本邦 此國。又、我ガ國。

ほんぱう (名) 本方 漢方醫術ニテ、古ヘヨリ定マリタル調劑ノ方。庭訓往來、十一月「[illegible]」

ほんばこ (名) 本箱 書籍ヲ納メオク箱。多クハ數冊入ルルヤウニ、竪ニ長ク板ニテ作リ、前面ニ板蓋ヲケンドンニシタルモノ。又、戸ヲ取リ附ケ、開閉スルヤウニシタルモノ。書箱 書筒 毛利家記、[illegible]セナサレ、其中ヨリ證ノ本ヲ取出サセラレ」

ほんばしょ (名) 本場所 (一)ほんば(本場)ニ同ジ。(二)相撲ニ云フ語。すまふ(相撲)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ぼんばら (名) [illegible]ルコト。又、其生マレタル人。ホンサ[illegible]

ほんびき (名) [illegible]欺キ、宿ニ引入レ、金錢ナドヲ奪フコト。又、ソノ者。

ぼんびん (名) [illegible]

ぼんぴゃく (名) 凡百 はんぴゃく(凡百)ニ同ジ。[illegible]

ほんぶ (名) 本部 〔支部ニ對ス〕 部類ノ本ナルモノ。主タル部類。

ほんぷ (名) 品封 古ヘ、親王、内親王、[illegible]

ほんぷ (名) 本夫 正當ノをっと。(姦夫ナドニ對ス)

ぼんぷ (名) 凡夫 [illegible]凡人。[illegible]ザル人。イマダ佛道ニ覺リ入ラヌ人。[illegible]梵網經、上「我已百阿僧祇劫、修二行心地一、以レ之爲レ因、初捨二凡夫一、[illegible]」[illegible]夫ナリ、ワレラモ遂ニハ佛ナリ」

ポムプ (名) 〔英語、Pump.〕ミヅハジキ。機ニテ水ナドヲ揚ゲ、又ハ、他方ヘ送リ遣ル器。吸揚ほなふ、押揚ほなふ、又、空氣ほむぷナドアリ。水出。喞筒

ほんぶぎやう (名) 本奉行 〔合奉行ニ對ス〕鎌倉時代、主トシテ訴訟ノ事務ニアタリタル奉行。又、政所寄人ノ中ヨリ選ビ、本奉行ノ副トスルアリ、コレヲ合奉行ト云フ、人數ニ定メナシ。新御式目、[illegible]中[illegible]先[illegible]本奉行ハ[illegible]日可[illegible]御沙汰、御成敗式目追加[illegible]兵庫頭[illegible]法師、越前守[illegible]、太宰少[illegible]法師、可[illegible]合奉行」

ほんぷく (名) 本復 病ノナホルコト。平癒。全治。全快。全癒。平治物語、一、「[illegible]入道出家事[illegible]出家ノ故ニヤ、宿病次第ニ本復シテ」

ほんぶし (名) 本節 〔龜節ニ對ス〕鰹節ノ一種。鰹ノ背肉ニテ製リタルモノ。かめぶし(龜節)ノ條ヲ見ヨ。

ほんぶたい (名) 本舞臺 芝居ニ云フ語。歌舞伎劇場ノ舞臺ニテ、花道ナド區別シテ、左右ノ大臣柱ノ間、三間ヲ限リテ云フ稱。ぶたい(舞臺)ノ條ヲモ見ヨ。

ほんぶん (名) 本分 其人ノ必ズ盡スベキ分際、又ハ、義務。卽チ、道德上ノ義務 荀子、非相篇「君子必辯、小辯不如見端、見端不如見本分」注「分、上下貴賤之分」白居易詩「忽從郎後鳴[illegible]、未得心中本分官」

ボムベン (名) 〔蘭語、Bombeen.〕破裂彈。爆裂彈。

ほんぽ (名) 本鋪 〔韻會「鋪、賈肆也」〕ホンテン。ホンダナ。

ほんぽう (名) 本俸 主ニ定マレル俸給。(加俸ナドニ對ス)

ぽんぽちごめ (名) 久シク貯ヘ置キタルタメ、陳ケテ赤黄色トナレル米。コンポチゴメ。陳倉米

ボンボン (名) 〔蘭語、Bonbon 英語、同ジ〕(一)洋菓子ノ名。(二)植物性エッきそヲ主劑トシ、痰咳、氣管支加答兒ノ藥用トナスモノ。美味、菓子ノ如シ。

ぽんぽん (名) 腹ノ小兒語 浮世風呂、文化、三馬)四編、下「オヨシ、オヨシ、オ腹ガクダッテノ、ぽんぽんガ痛クナルヨ」

ぽんぽん (副) (一)花火、又ハ、鐵砲ノ音ナドニ云フ語。(二)怒リテ、モノ言フ狀ニ云フ語。(三)腰鼓ノ音ニ云フ語。

ぼんぼん-どけい (名) 柱時計ノ大ナルモノ。其音ノぼんぼんト聞ユルヨリ云フ。

ぼんぼり (名) 〔ほんのりノ轉〕(一)影ノ仄カニ透キテ、サダカナラヌモノ 續山の井(寛文)秋「薄雲ハ、ぼんぼり綿カ、月ノ貌」(二)燈火ノ、覆ヒ小サキ行燈。續五元集(晋[illegible])「[illegible]ノ、等ぼんぼりハ、月ト花」

ぼんぼり (名) 「放ケタル意ヨリ云ヘルカ」(一)中啓ノ扇子ノ、半バ開キタル如キモノ。扇之記「文月ノ御祝ヒノ節、御宮仕ヘノ方方ヘ給ハリ候扇ハ、ぼんぼりトテ、十本骨ニテ、扇ノ[illegible]ヲ丸ウナシテ作ル」 硯[illegible]草、六、扇之記「ぼんぼりハ高位ノ公卿ノ持給フモノニテ、云云」(二)ホホケタルモノ。耳ノ垢ヲ掃フ小サキ具。頭ヲ羽ニテ作リテ、柄アリ。ミミハラヒ。丁子棒。消息子 續山の井(寛文)春「ホウケテハ、ぼんぼり筆カ、卽ナ消息子カ、ツクツクシ」(三)鯛、鱈、ナドノ生肉ヲ湯ニテ煮テ、肉ヲホグシ、更ニ固メテ、煮出汁ヲ注ギタルモノ。吸物ノ種トス。庖丁聞書「ぼんぼりトハ、干鯛、干鱈ヲフクメ、高立ノ中ヘツマミ盛事也」(四)手燭、茶爐、ナドニ用キル紙張ノ蓋 雪洞[illegible]、[illegible]、火[illegible]「今小サキ行燈ヲぼんぼりト云フ」

ぼんぼり-わた (名) 〔此品ノ薄キガ、雪洞ノ如ク光ノ透キトホルヲ、云ヒシモノカト云フ〕丸綿帽子ノ一種。ホホケタルモノナルベシ。續山の井(寛文)秋「薄雲ハ、ぼんぼり綿カ、月ノ貌」 傳授[illegible]曲[illegible]、[illegible]、四、遠山ノ、頂ニアレバ、面白ク、ぼんぼりト見タ、雪ノ綿カナ」「コレラハ、前前修ノほのかナル意ニカケテ、透キトホリタルヲ云ヘルカ、稱ラハシ」 大和[illegible]集、八、不忍新道名所物語「御所女中ハ、云云、ぼんぼり丸綿ヲクカブリ、云云」

ほんま (名) 本馬 江戸時代ニ、宿場ノ駄馬ニ、一駄ノ定メ、卽チ、三十六貫目ヲ負ハスルモノ。(輕尻、乘掛ニ對ス)公裁日記、[illegible]御定賃錢、本馬一疋二百文、云云、平常之夜通シ[illegible]ギハ、本馬壹疋二百文、輕尻壹疋百文」

ほんま (名) 本眞 マコト。イツハラヌコト。ウソナラヌコト。ホンタウ。眞實 眞實 [illegible]下記[illegible]、都の錦、九「ナジミヲ重ヌルニツケテハ、ほんまノ心中ヲ立テ」

ほんまう (名) 本望 本來ノ希望。本心ノ望ミ。素志 素懷 宋書、劉[illegible]傳「[illegible]以法御[illegible]下、深思自[illegible]、以副本望[illegible]」 平家物語、一、鹿谷事「イカニシテモ平家ヲ亡ボシ、本望ヲ遂ゲン」

ほんまつ (名) 本末 もとト、すゑト。始終。易經、上經、[illegible]卦、象[illegible]、大[illegible]、[illegible]也、棟撓、本末弱也」 [illegible]有本末、事有終始、知所先後、則近道矣」書、故事、宋、胡[illegible]「張公藝九世同居、唐[illegible]宗[illegible]其居、問本末、書忍字百餘以對」 神代紀、下卅「對以二事之本末」

ほんまつり (名) 本祭 〔蔭祭ナドニ對ス〕本式ニ行フ神社ノ祭典。隔年、或ハ、數年每ニ行フ大祭。

ボン-まつり (名) 盆祭 〔盆ハ、うらぼんゑ(盂蘭盆會)ノ略〕ぼうりやうまつり(精靈祭)ニ同ジ 市中[illegible]、[illegible]リト唱ヘ、七月十四日、十五日[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]町、南横町[illegible]、[illegible]、[illegible]ハヤシ、ギ歩行キ」 [illegible]、享和、馬[illegible]中 京ニテモ[illegible]リト云フコトアレドモ、江戸ノ如クニハアラズ」

ほんまる (名) 本丸 城ノ內郭ノ、主將ノ居ル處。本城。(丸ノ條、見合ハスベシ) 牙城 常山紀談(明和)、[illegible]虎[illegible]市城を攻られし事「本丸ヲ、外ヨリ見ユルヤウニ、築キタリケルヲ、云云、本丸ヲ打破ラレタルト思ヒ、或ハ、自害シ、或ハ降人トナル」 奧羽永慶軍記、一、朝川合戰事「三方四方ノロロ、一度ニ破レケレバ、早町郭モ放火セラレ、本丸計ニ成リテケリ」

ほん-みち (名) 本道 ほんだう(本道)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

ほん-みやう (名) 本名 又、ほんめい。實ノ名。ジツミヤウ。(號、諢名、ナドニ對ス) [illegible]、[illegible]先生[illegible]子[illegible]、姓張氏、本名[illegible]、事[illegible]人」 [illegible]色革集「本名 甲陽軍鑑、九、上、品第廿四「被官ヲ主ニ致シ、本命命ハ名ノ意)ヲ捨、被官ノ名字ニ成」 類聚名物考、百十二、姓氏部、七「本名、今按ニ、本名トイフ事、西土ニモ有リ、然トモ、俗ニ云フトハ、ソノ意異ナリ、俗ノ意ハ、今假名有ニ依テ、ソノ本體ノ名ヲサシテ、本名ト云フ、本ハ假ノ反對ナリ、西土ノハ、モトノ名ニテ、今改メテ稱フル時ノ前ニムカヘテ、本名ト云フ」

ほん-みやう (名) 本命 又、ほんめい。己レガ生レタル年ノ干支ノ稱。元命 白居易詩「學得[illegible]知命、[illegible]本命年」 [illegible]、[illegible]、四 范成大、丙午新正二、[illegible]甲子、[illegible]人[illegible]、[illegible]西ト、丙午ハ石湖本命ノ歲ナリ」 續後紀、十三、承和十年七月「伏按、朝[illegible]ハ至、行ニ凶事、三宮本命之日、猶且急避、而況重[illegible]上御本命、乎」

ほん-みやう-しやう (名) 本命星 佛經ニ、

北斗ノ七星ニ、金輪星、妙見星ヲ併セタル稱。人ノ影ヲ司ル。[illegible]

ほんむ (名) 本務 [illegible] 務メ。(兼務、副務ニ對ス) [illegible]

ほんめい (名) 奔命 [illegible] 走スルコト。轉ジテ、忙シク奔走スルコト。左傳、成公七年「[illegible]」莊子、[illegible]

ほんもの (名) 本物 (一)贋物ニアラザルコト。(二)モトキン。元金。[illegible]「[illegible]」(三)技藝ナドノ專門ノ人。

ほんもん (名) 本文 (一)文書ノ中ノ本ノ文句。(註解ナドノ文ニ對ス) 後漢書、[illegible] (二)古書ナドニアル典故トスベキ文句。典語。[illegible]

ほんもん (名) 本紋 替紋ニ對ス。家家ニテ、主トシテ用サル紋。[illegible]

ほんもん (名) 本門 佛經ノ語。法華經二十八品ノ中、後半ノ從地涌出品ヨリ、普賢菩薩勸發品ニ至ル十四品ノ稱。佛身ノ本地、及、本地ノ法身ノ衆德ヲ明カニシタルモノナレバ云フ。其前半ノ十四品ヲ迹門ト云フ。

ほんや (名) 本屋 殿ノ内ノ母屋。モヤ。[illegible]

ほんや (名) 本屋 書籍ヲ賣ル商家。書肆。[illegible]

ぼんや (名) 盆屋 〔烟草盆、茶盆ナドヲ出スノミナレバ云フ〕京阪ニテ、男女密會ノ出合茶屋。[illegible](白湯文字)ノ條ヲモ參見セヨ。

ほんやがくもん (名) 「本屋學問」〔本屋ノ如キ學問ノ義〕 げだいがくもん(外題學問)ニ同ジ。

ほんやく (名) 翻譯 外國ノ言語、文章ノ義ヲ取リテ、自國ノ言語、文章ニ變ヘテ記スコト。クチヤハラゲ。ヤハラゲ。[illegible]

ボンやま (名) 盆山 おほやまもうで(大山參)ノ條ヲ見ヨ。江戶[illegible]新增大全「相州大山石尊ニ參ル輩、云云、七月十四日ヨリ、十七日ノ朝ニ至ルヲ、盆山ト云フ」俳諧歲時記栞草「[illegible]、六日廿八日[illegible]、江戶及近國ノ[illegible]俗、相州大山石尊[illegible]初山ト云、又七月盆中ニ登山スルヲ、盆山ト云」

ぼんやり (副) 〔ほの、ほんのり、ノ轉訛カ〕(一)曇リテ分明ナラヌ狀、又ハ、オボオボシキ狀ニ云フ語。ホノホノニ。ホノカニ。ホノボノ。(燈光、眼力、ナドニ)朦朧 髣髴 (二)茫漠トシテ、トリトメナキ狀ニ云フ語。又、俗ニ、氣轉ノ鈍キ狀ニ云フ語。茫然 惘然 漠然

ぼんよう (名) 凡庸 〔[illegible]凡、常也〕[illegible]雅、釋詁篇「庸、常也」〕へいぼん(平凡)ニ同ジ。[illegible]

ほんよみ (名) 本讀 (一)書物ヲ讀ムコト。[illegible] (二)[illegible]コト。(興行ノ初ニ) 戲場訓用集(享和、好文[illegible]) [illegible]ニ讀ムナリ、云云、狂言ヨミシマヒテ、一幕一幕ニ、[illegible]

ほむら (名) 焰 〔火群ノ義カト云フ〕(一)〔ホノホ。火焰。[illegible]時私記、保乃保[illegible]ムラ 宇津保物語、[illegible]ほむらノツキ、云云」(二)怒リ、又ハ、思ヒ〔[illegible]〕ナドノ念ヲ燃ユルコト。[illegible]ツ事アッテ、氣色ヲカヘ、ワレトほむらヲ燃ヤス」

ほんらい (副) 本來 モトヨリ。初メヨリ。元來。[illegible]

ほんらいくう (句) 本來空 佛教ノ語。一切ノ事象ハ、元來、假有、卽チ、空ニシテ、實有ナラズト云フ。[illegible]「本來空ノ都路ニ、皆立歸ル友ダチゾヤ」

ほんらいむいちぶつ (句) 本來無一物 萬象ハ、本來皆空虛ニシテ、實有ナラズト云フ意。禪宗ニテハ、之ヲ悟道ノ極致トス。六祖壇經 [illegible]「ケニ本來一物無キ時ハ、佛モ衆生モ[illegible]」

ほんりう (名) 奔流 ハヤセ。勢、疾ク流ルルコト。又、ソノ流レ。急流。[illegible]

ほんりう (名) 本流 〔支流ニ對ス〕(一)枝川ニアラザルモノ。川ノ幹タル流レ。(二)[illegible]流儀。(三)コノ流義。當流。

ほんりやう (名) 本領 (一)代代古ク傳ヘ來ル領地。[illegible]タルヲ新領ト云フ。[illegible]太平記、十七、山門攻事「一足モ退タラン者ハ、永ク本領ヲ沒收[illegible]」(二)本來ノ特質。モトヨリノモチマヘ。

ぼんりよ (名) 凡慮 凡人ノ考ヘ。平家物語、六、[illegible]モ難義シ給ハズ、況ンヤ凡慮ニ於テヲヤ」

ほんれき (名) 本曆 [illegible]準トナルベキコヨミ。

ほんろう (名) 翻弄 思フ儘ニ、自由自在ニ、手ダマニトルコト。

ほんろん (名) 本論 主タル議論。根本ノ論。(緒論ニ對ス)

ボンわう (名) 梵王 ぼんてんわう(梵天王)ニ同ジ。法華經、方便品「諸梵王及諸天帝釋[illegible]」[illegible]ス、梵王ハ鷺ト云フ鳥ニ乘ラセ給ヘリ」

ほんゐ (名) 本位 (一)モトノクラヰ。[illegible]

(二)基本トスル標準。〔[illegible]〕

ほんゐ-でん(名) 〔品位田〕 ほんでん(品田)ニ同ジ。民部省式、上「凡乘田可₂充₁品位田₁一町、以₂全町₁給₂之」 同、同「凡[illegible]上品位田、移₂[illegible]院合₁、収₂其地子₁」

ほんゐん(名) 〔本院〕 〔ゐんヲにんト讀ムヲ故實トス〕 (一)ゐん(院)ノ條ヲ見ヨ。(二)分院ナドニ對シテ其主タル院。

ぼんゑ(名) 〔盆繪〕 盆石ヨリ分レ出デタル技、沙ヲ五色ニ染メテ用ヰル。象牙ノ丸キ匙、又、霞板トテ、笏ノ形シテ、先ヲ三絃ノ撥ノ如ク薄ク作リ、大小二ツニテ行フ。畫ヲ源氏物語ノ卷ノ名ニテ呼ブ。盆ハ桐ノ白木ヲ用ヰル。沙ニ糊ヲ少シ入レ、乾シテ盆ニ畫キ、湯氣ニテ蒸ス、乾ク時ハ盆ニ付テ落チズ、壁ナドニ掛ク。コレヲ留盆ト云フ。

ボン-をどり(名) 〔盆踊〕 盂蘭盆ノ頃、行フ懸踊ナリ。各地、様様ナレド、大抵ハ廣場ノ中央ニ櫓ヲカキ、音頭取、其上ニテ音頭ヲ取ル。幾十ノ少男女、櫓ヲ廻リテ、音頭ニ調子ヲ合ハセ、手振、身振、腰付、足並、面白ク、時計マハリニ、ユルユルトメグルナリ。コレ古代ノ生御靈ノ祝ニ作ヒテ行フ歌垣、嬥歌ノ遺ナリ。(歌垣ノ條、參見セヨ) 春日權神主師[illegible]記、明應六年七月十五日「南都中近年[illegible]のなど、異類異形一興、當年又作走、云云、不[illegible]院辻ニ踊リ、夜不空院ノ辻ニテ踊」 古今夷曲集 天明 序「孟蘭盆ニナレバ、男[illegible]童ハ、云云、友ドチ來ヨトテ小手招ク、云云、處女フハ、云云、イザ踊ロトテフヨリ、手拍子取リ足ドリスル、十五夜ノ月ノ輪ノ如クニコソハヲドレ」 德和歌後萬載集、秋、盆踊「手ヲ出シテ、立ッタリ居タリ、忙ガシク、スルハ給仕ノ、盆踊カモ」古大[illegible] [illegible]レネハ、[illegible]、盆踊」一[illegible]、此ノ世ニアラハ、[illegible]一

ほめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 〔轟〕 トドロク。鳴ル。サメク。 字鏡五「轟、風聲、加是保女久」 [illegible]、保止止呂久」 天治字[illegible]、[illegible]、佐女久、[illegible]、保女久、止止呂久、瀧、水流勢、佐女久、又、保女久」

ほめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 〔熱〕 〔火めくノ意〕 ホトボル。ホテル。赤クナル。熱ス。 [illegible]五人兄弟[illegible]、近松作[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ヤ[illegible]ル湯化粧ニ、マダ[illegible]上リノ[illegible]ほめ[illegible]、汗ノ[illegible]ク、云云」 [illegible]二、[illegible]夏草ニ、身ヲほめかレテ、旅ノ空」 北窻瑣言(文政、播春暉)四「伊勢國、八知村、太郎生村邊ノ山中ニ、ほめきトイフ草アリ、人モシ足ヲ[illegible]ヘバ、身[illegible]ほめきテ、堪カタシ」

ほめ-ことば(名) 〔褒詞〕 (一)ホメテ云フコトバ。讚言 讚辭 (二)芝居ニ云フ語。見物人ノ代表者、主ニ女藝者、太鼓持ノ類、花道ニ立並ビテ、芝居ガカリノ口上ニテ、役者ノ讚辭ヲ呈スルコト。 色[illegible][illegible]狂言ニ引込ム、[illegible]トノほめ詞、[illegible]ニ見エ侍ル」 古今役者大全、一「ほめことばノ[illegible]、役者ヲ見物場ヨリ立チテ、ツラネ[illegible]ニテ褒ムルコトハ、江戸ヨリ始マル由、西鶴モ書キ置レタリ、京ハソノムカシ、トントホメヌ所ニテ、云云、ほめことばハ上手ノホムル程カ、長クテキノトク、云云、出バヲ褒メテモラヒタシ」

ほめ-すぎ(名) 〔賞過〕 度ニスギテホムルコト。過賞。過稱。過褒。

ほめ-そや・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔稱揚〕 盛ンニ褒ム。ホメタツ。モテハヤス。ホメ稱フ。賞揚。 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)一「天然ト器用アリケレバ、人ミナほめそやすニヨリ」

ほめ-た・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 〔譽立〕 前條ノ語ニ同ジ。 源、二、帚木「[illegible]心深シヤナドほめたてラレテ」

ほめ-ののし・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 〔譽[illegible]〕 ホメサワグ。ヤカマシク、ホメ立ツ。 著聞集、[illegible]、[illegible] [illegible]左大臣、云云、[illegible]頭ナド云フコトナ、云云、ヨ[illegible]給ヒケルヲ、云云、ヨノ人人モほめののしりケル程ニ」

ほ-もめん(名) 〔帆木綿〕 帆ニ用ヰル一種ノ綿布。極メテ厚ク織レリ。 [illegible]ニ「今ノ帆木綿トイヘル織帆ハ、此松右衞門ノ工夫ヨリ始マリシ由、故ニ是ヲ松右衞門帆トイフ」 和漢船用集、十一、帆ノ部[illegible]帆、多ク用所、風ニ遇テ破レサルヤウニ、絲ヲモテアツクサシテ用」

ほや(名) 〔寄生〕 又、ほよ。 [illegible]やどりぎ(寄木)ニ同ジ。 倭名抄、廿[illegible]木類「寄生、[illegible]、夜止里木、一云、保夜」 本草和名、上[illegible]「桑上寄生、[illegible]、保也」 名[illegible]抄「寄生、ホヤ」 散木集、九、雜「[illegible]ンシバニ、ヤドレルほやノ、オノレノミ、トキハカキハニ、モノヲコソオモヘ」

ほや(名) 〔保夜老海鼠〕 〔寄生ノ根ヲ託スル所、其體、相似タレバ名トスト云フ〕 海產ノ動物ノ一。狀、皮ノ囊ノ如ク、大イサ、拳ノ如シ。一端ヲ他物ニ附着シ、他端ニ二孔アリ、水ヲ一孔ヨリ入レ、他孔ヨリ出ス。殼、堅ク、淡赤クシテ、疣多キコト海鼠ノ如ク、目、口、無シ。肉ハ、あかがひ(赤貝)ニ似テ、このわた(海鼠腸)ノ氣アリ、多ク鹽トシテ食用トス。種類多シ。石勃卒 石蛙 海蛸 相馬百官ニ梅干アリ、うめぼしノ、コノ保夜ニ似タルヲ以テ、訓ジタルカト云フ。 倭名抄、十九、鱗貝類「老海鼠、保夜」 內膳司式「參河國、保夜一斛」 主計司式、上「北陸道、若狹國、貽貝保夜[illegible]鮨」 土佐日記、正月十三日「ほやノツマノ貽鮨」 大和本草、十四、蟲類「ほや、海參ニ似テ、色赤黒、形圓シ、冬アリ、夏稀ナリ」

ほ-や(名) 〔穗屋〕 薄ノ穗ナガラ葺ケル家。[illegible]、十四、[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]ムヲ、ニ、[illegible]テアレ、[illegible]ノ[illegible]、屋「薄葺ク、ほやノ軒端ノ、一方ニ、靡カバ神ノ、シルシトゾ[illegible]」

ほ-や(名) 〔火屋〕 (一)香爐、手焙ナドノ上ニ被ノ蓋。金屬製ナリ、透間アリ。又、ナド。 [illegible]火舍 [illegible]抄、[illegible]、[illegible]火[illegible]、[illegible]ノ[illegible]化[illegible]、[illegible]、如[illegible]、[illegible] 倍[illegible]保夜[illegible]、[illegible]」 (二)洋燈ノ上ニ被ヒテ、火ヲ圍ム硝子製ノ筒。 (三)火葬場。 賀古[illegible]信七[illegible]三(元祿、近松作)四「夏野の[illegible]ひ[illegible]移[illegible]、雨[illegible]ク死ニ[illegible]レシト過レ共、云云、火屋ノ[illegible]ニモ我我ハ、立ヨル陰モ有ゾカシ」

ぼ-や(名) 〔ボヤボヤト燃エアガル義カ、ぼやぼやノ條、參見セヨ〕 火災ノ、大事ニ至ラズシテ消エタルモノ。小火。

ぼ-や(名) 〔暮夜〕 ゆふぐれト、よるト。轉ジテ、よる。夜中。 後漢書、楊[illegible]「[illegible]邑[illegible]、[illegible]夜、懷[illegible]十斤以遺[illegible]、[illegible]曰、故人知₂君、君不₂知₁故人₁何也、密曰、暮夜無₂知者₁」

ぼ-や(名) 〔戊夜〕 〔戊ハ十干ノ第五、正音ハぼう、ぼハ慣用音〕 古へ、支那ニテ、一夜ヲ五ツニ分チタル其一。一名、五更。今ノ午前四時、五時ニ相當ス。詳シクハ、かう(更)ノ條ヲ見ヨ。 南史、梁武帝紀「帝少而篤學、云云、雖₂萬機多₁務、猶卷不₂輟手₁、燃₂燭側₁光、常至₂戊夜₁」

ほ-やう(名) 〔保養〕 (一)養ヒ育ツルコト。 後漢[illegible]、[illegible]、安[illegible]王[illegible]、[illegible]ノ保養之[illegible]、[illegible]思放[illegible]」 (二)身ノ健康ヲ保チ養フコト。養生。 字類抄「保養」 津國女夫池(享保、近松作)一「御保養疎略アルベカラズ」 (三)氣ノ保養ニトテ遊ブコト。ハウヤウ。

ほ-やく(名) 〔補藥〕 おぎなひぐすり(補藥)ニ同ジ。 庭訓往來、十一月「補藥、[illegible]、[illegible]、任[illegible]

[illegible]定信)二「補築トテモ、杉板、木皮モテ、天受ノカケタルハ更ナリ、ウチノヤブレシヲモイカデ補フベキ」

ほやく (名) [帆役] 武家時代ニ、帆ノ石[illegible]役、并出入之役、構手立使共免除畢」

ほや・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 〔つぶやくノ略轉〕ブツブツ云フ。グヅグヅ云フ。小言ヲ云フ(畿内)。叱ル(靜岡)。浮世床(文化、三馬)初編、中「鹽玉ノ小サイ鍵、何デ腹ガアラウゾイ、受態バカリ、ボイボイほやきクサッテ」

ほやけ (名) [失火] 〔火燒ノ義〕火事。火ノ燒ケタルコト。火災。天智紀、六年三月「日日夜夜失火處多」

ほやけ (名) 火傷肌。火傷ノ如ク生ズル赤黑キ疵。

ほや・ける (自) ほほくるニ通ズ。ボンヤリトス。「[illegible]ほやけた」

ほや・ほや (副) (一)物ノデキタテニ云ヒ、又、出來テ、程經ザル狀ニ云フ語。浮世床(文化、三馬)二編、下「タッタ今、出來タテノほやほやダカフ、早イガ徳」(二)笑フ狀ニ云フ語。國性爺合戰(正德、近松作)二「口開テ、ほやほや笑フ赤貝ニ、心ヨセ貝、アアイタラ貝」

ほや・ほや (副) 火氣、又ハ、熱氣ナドノ、立チ上ル狀ニ云フ語。ホヤホヤ。モヤモヤ。伊[illegible]「ほやほや、[illegible]、火災ノ小ナルヲ云」

ほやり・と (副) 笑顏作ル狀ニ云フ語。ニヤリト。ニコリト。ニッコリト。平家女護島(享保、近松作)「ジロリト見タ目ニ、ほやりと笑ヒ」

ほ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) [吼・吠] 獸ノ鳴ク聲、含ミ呼ブ音ト云フ、說文「吠、犬吠鳴也」「吼、牛鳴也」(一)〔犬、高ク聲ヲ出ス。烈シク鳴ク。又、牛、[illegible]、獅子、ナドニモ云フ。[illegible] (二)卑語 聲ヲ上ゲテ泣キ、又、小兒ノ泣クニ云フ。ホザク。狂言記、二千石「只今、討ッテ捨テウトイフノニほゆるハ、國本ニ[illegible]イカ」[illegible] (三)轉ジテ、ドナル。ノノシル。[illegible]常ノ妻柳氏ノ、其夫ヲ罵ルヲ云フ」心中天網島(享保、近松作)上「何吐スヤラ黠頭合、拜ム囁ク哮るザマ、胸ノ搾ヘ擦ッテモ、堪ヘラレヌ[illegible]ナラメ」

ほよ (名) [寄生] ほや(寄生)ニ同ジ。天治字鏡、七[illegible]「蔦、寄生、保與」[illegible]鏡五十「蔦、寄生、保與」[illegible]足引ノ、山ノ木末ノ、保與取リテ、插頭シツラクハ、千年壽トゾ」

ほよく (名) [輔翼] ほさ(輔佐)ニ同ジ。史記、周公世家「及二武王卽レ位、旦常輔二翼武王一用レ事居多」淮南子、脩務訓「爲二一人聰明、而不レ足以遍一照海内、故立二三公九卿、以輔二翼之一」

ほら (名) [洞] 〔含ミテ開ケタル意、窄キニ對シテ、廣ク、コモリカナルヲ云フ〕又、ほらあな。崖、又ハ、巖ナド明キテ、空虛ナル穴。又、外ハ取リメグラシテ、內ノ廣ク、コモリカナルコト。中ノ空虛ニシテ廣キコト。ウツホ。ウツロ。ハラ。倭名抄、一三山谷類「洞、保良」字鏡[illegible]「洞、[illegible]保良」古事記、上「[illegible]內者富良富良、外者須夫須夫」

ほら (名) [法螺・寶螺] 〔字ノ音ノ約、或ハ、中ノ洞ナル意カ、又ハ、聲ノホガラカナル意カトモ云フ〕(一)[ほらがひ]ノ略。介ノ名。形、ばい(海螺)ニ似テ甚ダ大キク、[illegible]肉、食フ[illegible]紡錘ノ大ナルモノハ、長サ二尺ニ至ル。[illegible]孔ヲ作リテ吹ク[illegible]高クホガラカナリ。ほらのかひ。カヒ。軍陣ニ用ヰテ、進退ヲ示ス[illegible]陣貝トモ云フ。[illegible]山ニ入リ、同行ノ導トシ、又猛獸ヲ畏レシム。梵貝 略シテ、貝。倭名抄、十三[illegible]四「介類「梵貝、云云、俗ニ、ほらノ貝ト云、大蠑ナリ、佛書ニ、法螺ト云、[illegible]用テ吹レ之、云云、又本邦ノ山伏コレヲフク」(二)俗ニ、[illegible]法螺ヲ吹ク[illegible](空洞ノ意カ)

ぼら (名) [母良] ものいみ(物忌)ノ條ヲ見ヨ。

ぼら (名) [鯔] 〔腹太き意〕又、なよし。名吉。硬鰭類ノ魚ノ名。早春ヨリ、溝渠等ノ淡水ニ遡シ、後、川ニ出デテ、海ニ入ル。成長ニ隨ヒテ、諸國、方言、種種ナリ。東京ニテハ、夏ノ初、一寸許リナルヲ、おぼこト云ヒ、二寸許リナルヲ、洲走ト云ヒ、頗ル長ジタルヲ、いなト云ヒ、河海ニ出デ、秋ヲ經テ大ナルハ、ぼらナリ。ソノ更ニ大ナルヲ、とどト云フ、身圓ク、頭、平タクシテ、色黑ク、腹白シ、水中ヲ連行シ、能ク跳リテ、水ノ上ニ出ヅ。成長ニ隨ヒテ名ヲ變ルガ故ニ、出世魚ト俗ニ云ハル [illegible]四十九、江[illegible]「鯔、ぼら、ナヨシ、[illegible]」

ほら・あな (名) [洞穴] ほら(洞)ニ同ジ。[illegible]

ほらう (名) [illegible] (一)[illegible] 瓦石、又ハ、こんくりいとヲ用ヰル。[illegible] (二)[illegible](Platform.)ノ譯語。其條ヲ見ヨ。

ほら・がたうげ (名) [洞嶺] 〔天正十年、羽柴秀吉ト明智光秀トノ山崎ノ戰[illegible]、河內國、[illegible]山城、河內二國ノ境ナル山ニ[illegible]觀望セシヨリ起ル〕向背ヲ決セムタメ、形勢ヲ觀望スルコト。ヒヨリミ。

ほら・がひ (名) [法螺貝] ほら(法螺)ニ同ジ。[illegible]保良[illegible]のかい、法蠃、梵貝、海螺、[illegible]十四段「甲香ハ、ほらがひノヤウナルガ、チヒサクテ、ロノホドノ、細長ニシテ出デタル貝ノ蓋ナリ」南留別志(荻生徂徠)「軍陣ニ螺ヲフクハ角ナリ、角[illegible]」

ほら・ふき (名) [法螺吹] (一)法螺貝ヲ吹クコト。又、其人。[illegible] (二)[illegible]

ほり (名) [堀] (一)掘ルコト。(二)地ヲ長ク掘リ割リテ、[illegible]スル所。人ノ掘リ作レル川。舟渠 落窪物語、二「イト深キ堀ニテ、頓ニエ引キ上ゲデ」徒然草、第四十九段[illegible]切杭ナタリケレ

バ、ソノ跡、大キナル堀ニテアリケレバ、堀池ノ僧正トゾイヒケル」(二)古言、掘柵ノ略。防禦ノ爲ニ、城ノ周圍ヲ掘リテ水ヲ湛フル所。塹 壕 濠 書言字考節用集、一、乾坤門「塹、ホリキ、ホリケ、又作壍、濠、城水也、壕、同、城下水」

ほり (名) [彫] (一)彫ルコト。(二)彫リ上リノ出來バエ。又、ソノモノ。彫物。

ほり (名) [捕吏] とりて(捕手)ノ條ノ(一)ニ同ジ。 名物六帖、二、人品箋「捕吏、トリテノヤクニン、明道行狀、捕吏及門」

ほりあげ (名) [刻上] 彫刻ノ名。刻物ノ模樣ヲ、家ヲ高ク、地ヲ低ク刻ルコト。オキアゲボリ。ウキボリ。陽識 コレト反對ニ刻ルヲ、ほりこみ(刻込)ト云フ。陰識 欵識

ほりう (名) [保留] 〔英語、Reserre.ノ譯語〕又、はうりう。アヅカリ事ヲ即決セズ、後廻シニスルコト。決定ヲ、後日ニ、トドメ置クコト。

ほりう (名) [蒲柳] 〔書言故事(宋、胡繼宗)自言衰弱曰、蒲柳之姿〕水楊ノ一名。此樹折レ易キヲ以テ、人ノ身體ノ弱キニ譬ヘテ云フ語。 世說(南朝宋、劉義慶)言語篇「顧悅與簡文同年、而髮蚤白、簡文曰、卿何以先白、對曰、蒲柳之姿、望秋而落、松柏之質、經霜彌茂」 白居易、自題寫眞詩「蒲柳質易朽、麋鹿心難馴」「蒲柳ノ體」

〜**ほりえ** (名) [堀江] 川ヲ掘リヌキテ、海ニ通ズルヤウニシタル處。河水、溜水ヲ疏ルタメニ、掘リタル川。疏水 萬葉集、十八「保里江ヨリ、水乎妣キシツツ、御船サス、賤男ノ徒ハ、河ノ瀨マウセ」 同、廿、長歌「難波ノ宮ハ、聞シ食ス、四方ノ國ヨリ、獻ル、貢ノ船ハ、保理江ヨリ、美乎妣キシツツ」 難波ノほりえ)

ほりかは (名) [堀川] 土地ヲ掘リ穿チテ作レル川。 詞花集、十、雜、下「水上ノ、サダメテケレバ、君ガ代ニ、フタタビスメル、堀川ノ水」 千載集、十八、雜、下、長歌「ほりかはノ、流レヲクミテ、サザナミノ、寄セクル人ニ」

ほりかはがくは (名) [堀河學派] 〔地名ヨリ云フ稱〕江戶時代、漢學ノ一派。京都ノ儒、伊藤仁齋、朱子學ヲ排シテ、古學ヲ唱ヘ、其子東涯、コレヲ承ケテ、大イニ弘メキ。伊藤氏ノ居、京都堀河ニ在リ、故ニ其名アリ。

〜**ほりき** (名) [塹] 〔掘柵ノ義〕今、略シテ、ほり。城ノ周圍ノ廣キ溝。 倭名抄、一九河海類「塹、遷、城長水坑也、保利木」 名義抄「隍、ホリキ」 天治字鏡、六十八「塹、保利支也」

ほりきり (名) [堀切] 土地ヲ掘リ通シタルトコロ。 太平記、十七、山門攻事「水飲ノ木陰ニ陣ヲトリ、堀切ヲ境テ、搔楯ヲ搔」

ほりくび (名) [堀頸] 生キタルママ地中ニ埋メ置キテ、首ヲ斬ル刑。 平家物語、十一、重衡被斬事「佛敵、法敵ノ逆臣ナレバ、スヘカラク東大寺興福寺兩寺ノ大垣ヲメグラシテ、ほりくびニヤスベキ、又、鋸ニテヤ切ルベキト僉議ス」

ほりこみ (名) [刻込] 彫刻ノ名。ほりあげ(刻上)ノ條ヲ見ヨ。

〜**ほり・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ** (他動、左變) [欲] 〔欲ヲする義〕欲ル。望ム。欲ス 略シテ、ほす。 萬葉集、六、卅「斯クシツツ、在ラクヲ好ミゾ、タマキハル、短キ命ヲ、長ク欲流」 同、三、三十「古ヘノ、七ノ賢シキ、人タチモ、欲爲物ハ、酒ニシアルラシ」「言ハマクほりす」見マクほりす」

ポリス (名) 〔英語、Policeman.ノ略〕 じゅんさ(巡査)ニ同ジ。

ほりだし (名) [掘出] ホリダスコト。又、眞ノ價格ヨリ安キ値ニテ買フコト。又、其物。掘出物。 響又設集(寬文)「掘出ハ、賞イモノコノ、菜、カナ」 好色一代女(貞享、西鶴)六「アレコレ目利ヲシテ、定リノ十文ニテ、格別ノ掘出シアリト云フ」 渡世肝要對話(寶永)「菜具モ所所買請申候、若其内ニ掘出しも候哉ト色色改メ」

ほりだしもの (名) [掘出物] 多數ナル古道具ナドノ中ニ、高價ナルモノアルヲ見拔キテ、廉價ニ買取リタルモノ。略シテ、ほりだし。ねぬけ(根拔)ノ條ヲ見合ハスベシ。 俚言集覽「掘出し物、骨董品ニイフ掘出しトイフコト、ムカシハ、取當トイフトイヘリ」 傾城島原蛙合戰(享保、近松作)一、「斧サラヘテ、黃金ノ釜ノ掘出し物」

ほりだ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [掘出] (一)掘リテ、地中ノモノヲ探リ出ス。 百合若大臣野守鏡(寶永、近松作)一「親ノ看病孝行顏、雪ノ中ニ竹ノ子出、黃金ノ釜ヲ掘出しゝ孟宗、郭巨ニ優ッテモ」 (二)世人ノ知ラザリシ貴キ物ヲ搜シ出シテ、廉價ニテ買取ル。 狂言記、栗田口「オノレハオ錢ナ奴ヂャ、上作ヲ掘り出シタ」 小町踊(寬文)「正眞力量カ、ほりだす池ノ月」

ほりだ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [放出] 〔はふりだす(放出)ノ略轉〕 はふりテ外へ出ス。投ゲ出ス。 博多小女郎波枕(享保、近松作)上「綿ノ代ノ相場ヘテ、投ゲ出ス、ほり出スイタダクニ」 井筒業平河內通(享保、近松作)五「土俵ノ中ヲ持テ廻リ、ドウトほりだす其ノ響キ」

ほりどめ (名) [堀留] 堀、溝ナドノ、掘リ行キテ、止メタル處。

ほりぬき (名) [掘拔] (一)ホリヌクコト。ホリトホスコト。ホリアグルコト。(二)次條ノ語ノ略。 好色二代男(貞享、西鶴)二「アル夏ノ朝、ほりぬきノ水汲ムトテ、誤リテ井戶ヘ落チテ、沈ミ行ク事幾何トイフコトヲ知ラズ」

ほりぬきゐど (名) [掘拔井戶] 地下數丈ノ地盤ヲ、鐵梃(鐵竿)ニテ掘リ貫キテ、自然水ヲ取レル井。(古クモアリシガ、工力ヲ費スコト多カリキ。天明、寬政ノ頃、大坂ノ井夫、江戶ニ來リテ、あおりト云フ機械ヲ以テ、容易ニ掘リ貫ク、コレヲ上方掘ト云フ) 曾我會稽山(享保、近松作)一「掘りぬき井戶ノ如ク、廿バカリノ」 黑雜組、丈、田宮仲宣「田圃ノ掘拔、ソレ掘拔の井ハ、地中ノ水脈マデ掘リトホセバ、云云」

ほりぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [掘拔] (一)土ヲ穿チテ貫ク。ホリトホス。(二)物ヲ刻ミテ貫ク。刻ミテ穴ヲアク。

ほりばた (名) [堀端] ホリノ邊。堀ノキシ。 用明天皇職人鑑(寶永、近松作)五「檢非違使、勝舟、堀端ニ進ンデ大音アゲ」

ぼりぼり (副) (一)骨ナドヲ嚙ム音ニ云フ語。ぼりぼり。(二)爪ニテ物ヲ引キ搔ク音ニ云フ語。ガリガリ。

ぽりぽり (副) 前條ノ語ノ(一)ニ同ジ。

ほりもの (名) [刻物] (一)木、竹、金、石、ナドニ、種種ノ形象、模樣ナドヲ刻リツクルコト。又、ソノ技。彫刻 榮花物語、二十二、歌合「カネノ花籠ヲ、雕物ニシタル、カネノ枝ニスヱタリ」 大鏡、中、伊井「或ハシロガネ、コガネ、沈、紫檀ノ骨ニナン、スヂヲイレ、ほりものヲシ」 (二)身ニ、モドロクルコト。人ノ膚ニ、針ニテ、人物、花鳥ナド、種種ノ象ヲ刺シ作リ、墨、朱、ナド差シ入ルルコト。イレボクロ。イレズミ。 劄靑 雕靑 文身 天保集成絲綸錄、八十一、文化八年八月「近來、輕キモノドモ、ほり物ト唱ヘ、總身江繪抔之儀、又ハ、文字ナドヲホリ、墨ヲ入レ、或ハ、色入等ニ致シ候類有之由、云云」

ほりものし (名) [刻物師] 刻物ヲ業トス

ルノ人、[illegible]（大[illegible]職歌）一、烏丸亞相惣人歌仙「左、彫物師、大ヤケノ、御用ヲキケバ、彫物モ、ホリメニナリテ、イソグカウガイ」[illegible]、云云」

ほりや（名）[illegible]〔ほりハ（貪ノ上略）〕不當ニ金錢ヲ貪ル屋。又、其人。

ほり。（名）[illegible]ケド[illegible]

ほりわり（名）**掘割**　地ヲ掘リ割リテ、水ヲ通ズル處。ホリ。渠　[illegible]書北ハ以御[illegible]先苦、云云、捕虜二十七人、賜[illegible]」[illegible]五里、[illegible]引、云云、[illegible]治ノ頃、江戸川堀割ニ成、云云」

ほりゐど（名）**堀井戸**　地ヲ掘リテ水ヲ取ル井ニ[illegible]テ、水道ノ水ヲ引ケル井ニ對ス）

ほ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）**恍惚**（一）感覺ヲ失フ。心ヲ勞シタルブマリ放心ス。惚ク。名義抄「恍、惚、ホレタリ」[illegible]「恍、ホレテ」落窪物語、一「思ヒ歎キテ、ツラ杖ヲツキテ、ほれテ居タルヲ」榮花物語、廿七、衣珠「御心モほれ惑ヒテ、イトド物數エ給ハズ」（二）心ヲ失フマデ[illegible]、思ヒヲ掛ク。戀ニ落ツ。心醉[illegible]、正[illegible]モナウ迷ヒほれタヨ、イツノ世ニカハ[illegible]忘レン」[illegible]昨日は今日の物語、下「高野聖、若衆ニほれテ、色色クドキケレドモ」[illegible]〔老イテボケルコ、ホク。老。白氏文集、七十「年雖老未及耄」字類抄「耄、ホレタリ、老耄」[illegible]九月[illegible]老[illegible]」

ほ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）**掘**　土地ノ、自ヅノ、穿タレ凹マルコ。又、植木ナドノ根ノ露出スル。當流小栗判官（元祿、近松作）[illegible]根掘レテ[illegible]レテ、柳ノ[illegible]

ほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）**掘**（一）〔地ヲ穿ツ〕。内ヲ[illegible]スル。[illegible]〔（二）〕〔キザム〕。切リテ形ヲ作ル。ヱル。刻　萬葉集、[illegible]臣ガ、鼻ノ上ヲ穿鑿」（三）彫物ヲナス。彫鐫　[illegible]井ノ、石井ノ水ハ、飲メド飽カヌカモ」[illegible]レコゴロ」（現ハ掘、鑿ハ世ニ[illegible]）

ほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）**欲**　欲シク思フ。得ムト願フ。爲ムト思フ。ホシガル　[illegible]萬葉集、十八三十「我ガ保里シ、雨ハ降リキヌ、斯クシアラバ、言擧セズトモ、年ハ榮エム」同、十三六長歌「[illegible]リゾ我カ[illegible]」

ほる（接尾）　物ノ狀態ヲ云フ語。卽チ、さほる（凍）、[illegible]ほる（蓑類）、よさほる（横）、とどさほる（滯）、いきどほる（憤）、たもとほる（徘徊）ナドノ如シ。

ぼ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）**貪**〔むさぼる（貪）ノ上略〕モノヲ強ヒテ取ル。格外ナル代價、又ハ、賃錢ナドヲ請求ス。日本所々代蠶（正保、北條團水）六、江戸ノ大坂屋ノほらレシ分、此ヲ見テ[illegible]ニセント云フ」

ホルトガル（名）　橄欖油〔葡萄牙語、Portuguez. 英語、Portugal.〕（一）橄欖ト云フ樹ノ實ヨリ採ル油ノ名。初、蘭人、葡萄牙ノ産ヲ渡セルガ故、名トス。略シテ、ほるとのあぶら。又、オレエブ油。カンランユ。又、和産ナルハ、次ノ膽八樹ヨリ採ル。[illegible]ハ[illegible]モ[illegible]色白シ。[illegible]ノ名ナリ、紅毛人コノ地ヨリ采リ來ル、故ニほるとおるの油ト云」[illegible]ノモノト云フ[illegible]葉ハ[illegible]三寸許リ、端圓[illegible]シテ、互生ス。葉、四時ニ代リテ、落ツルトキハ色赤シ、故ニ、終歳[illegible]相雜ハル。[illegible]枝叉ヨリ出シ、花ヲ開ク、黃白[illegible]如ク、なぎ（竹柏）ノ花ニ似タリ。實、長サ六七分、兩端尖リテ、かや（榧）ヨリハ狹小ナリ、熟スレバ綠ニシテ、内ニ[illegible]、其仁ヲ搾リテ、前條ノ油ヲ採ル、故ニ名アリ。膽八樹　洋産ナルハ、實、大ナリ。
橄欖（三）ふつろうき（佛狼機）ニ同ジ。和漢三才圖會、廿一、兵器「佛狼機、其銃以銅鑄之、長五六尺、[illegible]長孔、云云、案、佛[illegible]、布良年、一云、保留止賀留」

ホルトさう（名）**續隨子**〔ほるとハ、前條ヲ見ヨ〕大戟科ノ草ノ名。苗、秋ニ生ズ。初出ノ葉ハ、なでしこ（撫子）ニ似テ、厚ク、黑ミアリテ、背ハ莖ト共ニ白シ。[illegible]、節[illegible]對生シ、節毎ニ、互ニ四方ニ出デテ、十字ノ如シ。莖、太ク圓ク、冬ニ至リ、高サ一二尺アリ、春生ズル葉ハ廣シ。梢ニ至リ、五葉對生シ、其上ニ、五方ニ小枝ヲ出シ、上ニ兩葉對生シ、其中ニ一花ヲ生ズ、四瓣ニシテ、黃紫ナリ、旁ニ又、一莖ヲ斜出シ、上ニ兩葉アリ、其中ニ又、一花ヲ生ズ、此ノ如ク、一節ヅツ增シテ、枝葉[illegible]ヒロガル。實、大キサ[illegible]、内ニ[illegible]子アリ、たうおま（唐胡麻）ニ似テ小サク、褐色ナリ。子ニテ、ほるとの油ヲ僞製ス、故ニ名アリ、[illegible]名、ほるとさう、コクドサウ、チヤウセンヤナギ」古今要覽稿、三百四十三、草木部「ほるとさう、コクドサウ、[illegible]

ホルトのあぶら（名）**橄欖油**　前前條ノ語ヲ見ヨ。

ぼれい（名）**[illegible]**　老イ[illegible]ク、年老イタルトキ。老後。晩年。晩歲。[illegible]暮年。[illegible]

ぼれい（名）**牡蠣**　かき（牡蠣）ニ同ジ。[illegible]

ほれ・こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）**惚込**（惚ウチコム。戀ヒ入ル。戀着ス。ほる（惚）ノ條ヲ參見セヨ。「人物氣性ニほれこむ」

ほれぼれ（副）**恍惚恍惚**（一）[illegible]シタル狀ヲ云ノ語。[illegible]中、第七、第二條「サマザマアツカヒケレバ、命バカリハ生キタリケレドモ、ほれほれトシテ、イフカヒナカリケレバ、行德施スニモ及バズ」（二）モノニ心醉シタル狀ニ云フ語。ウットリ。

ほれ・ほれ・し・シキ・シケレ・シク・シク・[illegible]（二）**恍惚恍惚**（一）恍レタル狀ナリ。心ヲ失ヒテ見ユ。[illegible]テ、イトド、ほれほれしきサマニゾナリテ侍レド」宇治拾物語、[illegible]上、下[illegible]、[illegible]ノ事ハ、[illegible]シウモ[illegible]知リ

給ハズ、オホセゴトハイカガモノシ侍ラン、今ハほれぼれしうナリテ」(二)耄ケタルサマナリ。ほけほけし。宇津保物語、藤原君四「我カクヤモメニテアレバ、ほれぼれしきヲ」

ほ・れる (動) 惚耄 惚る、耄るノ口語。

ほろ (名) 保侶 母衣 綵幌 (調布ニテ作レル狀ノ、ヤハラカニ、ほろろゲタルヨリノ名ト云フ」 (一)鎧ノ背ニ負ヒテ、矢ヲ防グ具。竹ヲ骨トシテ、大イニ張リ、上ニ布ヲ被ヒ、紐ニテ、肩、腰ニ括リ締ム。三代實錄、十七、貞觀十二年三月十六日「眾旅之儲、資在介冑、介冑雖薄、助以保侶、切請、縫造調布保侶衣千領、以備不虞」 扶桑略記、廿二、寬平六年九月五日「對馬島司言、新羅賊徒船四十五艘到着之由云云、所取雜物、云云、胡籙、宛夾、保呂、各一具」 外記日記、久安三年七月、法皇、武士御覽ノ時、源重成郎從ノ保呂ヲ着ケタルヲ、珍ラシク人人思ヒタルヤウヤウ」 (二)又、馬車、人力車ナドノ屋トスル被ヒナド、其製ノ相似タルモノ。「幌馬車」「母衣蚊屋」

ほろ (副) 散散ナル狀ニ云フ語。萬葉集、十九、十一「大雪ヲ、富呂ニ踏ミアタシ、鳴ル神モ、今日ニマサリテ、畏ケメヤモ」

ボろ (名) 梵論 暮露 乞食僧ノ一種。被髮、破衣ニテ、刀ヲ帶シ、諸方ヲ廻リアルキテ、殺伐ナル振舞ヲナスモノ。又、ぼろぼろ。梵論師。梵志 後ノ虛無僧、コレナリト云フ。(薦僧ノ條ヲ併セ見ヨ) ぼろぼろの草子(明惠上人作ト傳フ)「虛空坊ト云フ者、身ノ丈七尺八寸、力強クシテ、畫キタル紙衣ニ、三尺五寸ノ太刀ヲハキ、蛭卷ノ八角棒ヲ横タヘ、一尺五寸ノ高足駄ヲハキ、髮長ク、色黑シ、ぼろト云フ者ニナリ、一人ノ美女ヲ妻トシ、同行三十人、諸國ヲアリクト云ヘリ」 七十一番職人盡歌合、四十六番、暮露、法ノ月、隈ク磨マシテ、武藏野ニ、起居ル暮露ノ、草ノ床カナ」(圖ニハ、袴着テ坐シ、一刀ヲ帶シテ、被髮ニ鉢卷セリ) 徒然草、第百十五段「モシコノ中ニ、いろをし坊ト申ス、ぼろヤオハシマス、云云、オノレガ師ナニガシト申ス人、東國ニテいろをしト申スぼろニ殺サレケリト承リシカバ、云云、尋ネ申スナリ、云云」 沙石集、八、下、第十四條「或ル入道法師ノ物語ニ、云云、所領得替ノ後ハ、ヒタスラ暮露ノ如クニテ、帷ニ紙衣着テ暖ルニ、云云」

ぼろ (名) 襤褸 (一)ぼろきれノ略。浮世風呂(文化、三馬)二編、上「髮頭バッカリ作リ立ッテ、亭主ニハぼろヲサゲサセル」 (二)ツギハギノ着物。ヤブレ衣 ツヅレ 敝衣 (三)拙キ所。短所。缺點。「ぼろヲ出ス」

ほろあへ (名) 欵冬ノ葉ニ、味噌ヲ塗リテ作レルモノ。(九藻雜考(文化、喜多村信節)下「今、欵冬ノ葉ニテ造ルほろあへトイフ物ハ、法論味噌ヨリ轉リタル名ナリ」

ぼろ・い (形) 貪 (貪るノ轉) 商ヒニ不當ノマウケヲナスサマナリ。甚シク貪ル狀ナリ。「ぼろい儲ケ」

ぼろおん (感) 山伏ノ祈禱スルニ、吹キ鳴ラス法螺貝ノ聲(能狂言ニテ) ボロボン。狂言記、禰宜山伏「一祈リ祈ルナラ、ナトカ奇特ノナカルベキ、ぼろおん、ぼろおん」 同、梟山伏「[illegible]ノ家ニテ祈ルナラ、ナドカ奇特ノナカルベキ、ぼろおん、ぼろおん」

ほろがや (名) 母衣蚊屋 蚊屋ノ、小サクシテ、竹ヲ撓メテ骨トシ、製ノ母衣ノ如キモノ。今ハ蝙蝠傘ノ如ク、細キ鐵ヲ骨トシテ作ル。皇都午睡(西澤一鳳)三、中、四季の賣物「四月ノ初、蚊屋ヤ萌黃ノ蚊帳トテ、大小母衣蚊屋ノ竹ドモ賣步行ク」 守貞漫稿、十六、雜服「母衣蚊屋、ほろがや、京坂ニテハ、芋蟲ト云シカト覺ユ、竹骨ノ上ニ麻織ノ蚊帳ヲ覆フ也、云云、此ほろがや、大ナルハ大人晝寐ニ用ヒ、小形ナルハ幼稚ニ用フ」

ぼろきれ (名) 襤褸 布帛ノ、用キフルシテ、ボロボロシタルモノ。ランル。ツヅレ。略シテ、ぼろ。

ほろく (副) クハシク。ツマビラカ一。ツブサニ。今昔物語、廿五、第五語「露ハ、彼ガ心バヘヲほろく知リタレバ、申スナリ」

ぼろくそ (名) 襤褸糞 粗雜ナルモノヲ、罵リ云フ語。ぼろかす。クソミソ。

ほろ志 (名) 瘭子 癰膨 (瘭子ノ音轉、通雅「觸レ熱、膚生ニ細疹、曰ニ瘭子ニ」) 今、ほろせ。チチハクル。チチホム。皮膚ニ生ズル赤色、又ハ、白色ノ大小不同ノ浮腫。能ク蕁麻トイハル植物ニ觸ルル時、生ズル故、一名、蕁麻疹トモ云フ。發斑。かざほろ志(風瘭)ノ條ヲモ見ヨ。倭名抄、三、十四瘡類「癰膨、知知保無、一云、知知波久留、皮外小起也」 同「風癰膨、加佐保路之」 名義抄「癰膨、チチホム、チチハクル」 醫心方、十七、七「病源論云、癰病之狀、皮肉上隱隱如錢、文漸漸增長」

ほろし (名) 碓ノ具。今、ほろろぎ(碓桯)ト云フ。倭名抄、十六、木器類「碓桯、俗云ニ保呂之一歟」 名義抄「碓、カラウス、ウス、桯、ホロシ」

ほろし (名) 白英 草ノ名。又、ツグミノイヒネ。まるばのほろし(白英)ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、廿、草類「白英、一名、鬼目草、保曾(呂ノ誤)之」 本草和名、上、八十「白英、保呂之」 字鏡五十八「白英、保呂志草、又、豆具彌乃伊比禰」

ほろせ (名) 瘭子 ほろ志(瘭子)ノ訛。

ほろば (名) 保呂羽 (含ミタル羽ノ意ト云フ) 鳥ノ兩翼ノ下ニアル羽。隙ヲ補フモノノ如シ。ヘラマ。倭名抄、十八、九十羽族體「倍羅歷、鳥乃和岐乃之多乃介乎、稱ニ倍羅歷一也、云云、今俗謂ニ保呂羽、訛也」

ホロバ (名) (奧州ニ、母衣波、法量、法龍ト云フ神アリ、ほろばト訓ズ、蝦夷語ニ緣アルベシ、或ハ、蝦夷語、Poro-pa (大酋長ノ意)ノ訛ニテモアルカ) 蝦夷語ニテ、酋長ノ居所ト云フ。

ほろひき (名) 母衣引 幌引 馬上ニテ、母衣ヲ長ク後方ニ靡カセ、之ヲ地ニ曳カザルヤウニ疾走スルコト。(母衣ハ、行ニ市絹製ニテ、長サ一丈餘ナリト)

ほろ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) 亡 滅 (火ろ、消用スルカ、ろハ助辭、物ヲ亡スニハ、火最モ猛ケレバ云フ」 形無クナル。散ニナル。絶ユ。滅亡ス。消エ失ス。ナクナル。中庸、第廿四章「國家將亡、必有妖孽」 戰國策、趙策「趙之於齊楚也、猶ニ齒之有ニ脣也、脣亡則齒寒、今日亡趙、明日及齊楚」 神代紀、下「時、汝兄稱ニ貧綿滅」 伊勢物語、第六十五段「身モイタヅラニナリヌベケレバ、ツヰニほろびヌベシトテ」 發心集、七、第一條「平家ほろびテ、世ノ中、目ノ前ニアトカタナク」「國亡ぶ」「身滅ぶ」「罪滅ぶ」

ほろぼ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 亡 滅 「ほろぶヲ他動ニス」 (一)形ヲ無クス。散ニス。絶ヤス。消ス。ナクス。周禮、夏官篇、大司馬「九伐之灋、云云、外內亂、鳥獸行則滅之」 萬葉集、十五廿「君ガ行ク、道ノ長テヲ、繰リ疊ネ、燒キ保呂煩散牟、天ノ火モガモ」「國ヲ亡ぼす」「家ヲ滅ぼす」「身代ヲ滅ぼす」「罪ヲ滅ぼす」 (二)敵ヲ討チ、勝チテコレヲ無クス 景行紀、十二年十月「賊得、誅ニ土蜘蛛者、將滅ニ其石八如、柏葉、而舉焉」 平家物語、十、首渡事「父ノ恥ヲ雪メンガ爲ニ、命ヲ棄テテ朝敵ヲ滅す」

ぼろぼん (感) (ぼろおんノ轉) ぼろおんニ同ジ。狂言記、蟹山伏「貴キ山伏ガ一祈リ祈ルモノナラバ、ナドカ奇特ノナカルベキ、ぼろぼん、ぼろぼん、ぼろぼん、イロハニホヘド、ぼろぼん」

ほろほろ (副) (一)物ノ散キ亂ルル狀ニ云フ語 ハラハラ。バラバラ。源、四十

四、総統ニ「ほろほろト落チ亂ルル木ノ葉ノ、云云」[illegible]「裂裂衣、ほろほろト敗ギ放テテ」 (二)物ノ脆ク[illegible]、又ハ、[illegible]ニ云フ語。パラパラ。ボロボロ。源、七、紅葉賀「引キシロフ程ニ、綻ビハほろほろト絶エヌ」同、四十八、寄生「栗ナドヤウノ物ニヤ、ほろほろト食フ」發心集、七、第十二條「ほろほろトアル布小袖ナド、昔、假リニダニ見ザリシ姿ナレバ」 (三)涙ノコボル[illegible]、ボロボロ。[illegible]ほろほろトコボレ[illegible]ル、都思ヘバ」轉ジテハ、泣ク聲ニモ云フ。源、三十一、眞木柱「鋏フ人人モ、ほろほろト泣キアヘリ」蜻蛉日記、上、上「又、ほろほろト打泣キテ」 (四)雉子、山鳥ナドノ羽音ニモ、鳴キ聲ニモ云フ。[illegible]略シテ、ほろろ。[illegible]サレバ、野ニ鳴ク雉子ノ、ほろほろト、涙コボルル、クマゲレ[illegible]ト鳴ノ、ほろほろト[illegible]ト[illegible]フ」

ほろ-ほろ [襤褸] [illegible]物ノ散散ナルコト。ホロロゲタルコト。古衣ノ破レテ、ハララギタルコト。又、ソノモノ。今物語「法師、云云、紙衣ノほろほろトアル打着タルガ」

ボろ-ボろ (名) [梵論梵論、暮露暮露] ほろ(梵論)ノ條ヲ見ヨ。徒然草、第百十五段「宿河原トイフ所ニ、ほろほろ多ク集リテ、九品ノ念佛ノ申シケルニ、外ヨリ入リクルほろほろノ、云云」

ほろ-ぼろ (副) 前前條ノ語ノ訛。物ノ脆ク裂ケ、又ハ、崩ルル狀ニ云フ語。[illegible]ほろほろ切ルル」「土ほろほろ崩ル」

ほろほろ-てう (名) [珠鷄] 鷄ノ一種。頭[illegible]ノ色ノ冠ヲ[illegible]ノ上方ハ裸出

ほろ-み (名) [襤褸箕] ちりとり(塵取)ノ[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]今ほろ箕トイフ馬糞ヲトル物、昔ノ塵取ナリ」

シ、下方ハ[illegible]、頸ハ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ナレドモ、[illegible]白斑ヲ交フルモノ多シ、[illegible]テ[illegible]、[illegible]、共ニ美味ナリ。

ほろ-ミソ (名) [法論味噌] 又、論義味噌。乾シタル燒味噌ニ、胡麻、麻ノ實、胡桃、山椒ナドヲ切リテ交ヘタルモノ。[illegible]ほろみそ。ほろんみそ。護命味噌。飛鳥味噌ノ條ヲ見ヨ。下學集、下、飲食門「法論味噌、ホロミソ、本朝南都法論時用之、故云[illegible]」[illegible]雍州府志、六、土產門「法論味噌、[illegible]云云、[illegible]法論味[illegible]ト云フハ、[illegible]ニツブ胡麻ヲ入レ、胡桃ヲ入レタルナリ、胡桃ハ割テ入ルルナリ」犬子集(寛永)十七「白キモノコソ、黑クナリケレ」夕立ヤ、法論味噌桶ニ、入リヌラン」

ほろミソ-の-ゆふだち (句) [法論味噌夕立] 母衣武者ノ夕立ト同趣ニテ、其役ニタタヌノ意。又、ほろみそうりのゆふだち。世話叢、法論味噌の夕立」吾吟我集、七、世話「落武者ヤ、ウシロニ負ヘル、ほろみその、夕立ニアフ、[illegible]ナルラン」

ボ-ろん-じ (名) [梵論師] 梵論字 (一)印度、婆羅門ノ、人ノ師タル者。說敎者。[illegible]、六、婆羅門、云云、[illegible]梵天口[illegible]云、其中[illegible]名[illegible]帝王師[illegible]」 (二)ほろ(梵論)ノ異稱。其條ヲ見ヨ。

ほろむしや-の-ゆふだち (句) [母衣武者夕立] [illegible]ハ、ダイナシト云フ意] 意ハ、前前條ノ語ニ同ジ。

ほろ-よひ (名) [微醉] ほろゑひ(微醉)ニ同[illegible]、少シほろ醉ひト云フ顔色ニ見エル」薄赤クナッテ、少シほろ醉ひト云フ顔色ニ見エル」

ほろり-と (副) (一)涙ノ一滴落ツル狀ニ云フ語。狂言記、宗論「アラ甘ヤト思ヒテ、泪ガほろりとコボルル」「涙ヲほろりと落ス」 (二)深ク[illegible]感ジテ、ウットリ[illegible]ル狀ニ云フ語。

ほろろ (副) [ほろほろノ略] 雉子ノ鳴ク聲ニ云フ語。ほろほろ。古今集、十九、誹諧「春ノ野ノ、繁キ草葉ノ、妻戀ニ、飛立ツ雉ノ、ほろろトゾ鳴ク」[illegible]、雉子鳴ク、春ノ[illegible]セバ、早蕨アサリ、ほろろ打ツナリ」(康頼本草、下[illegible])「[illegible]」

ほろろぎ [illegible]雉ノ[illegible]ノ杵[illegible]倭名抄、十六十七[illegible]、保呂之[illegible]、[illegible]、四[illegible]保呂岐[illegible]

ほろろ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ケ・ゲヨ(他動、下二) [散壞] 塊物ヲ崩シワクル。ハララカス。バラバラニナス。源、三十七、鈴蟲「名香、蜜ヲカクシ、ほろろげテ焚キ匂ハシタル」

ぼろ-わた (名) [襤褸綿] [illegible]ヒ古シタルムサクルシキ綿。日本武尊吾妻鑑(享保、近松作)三「ほろわたムシラセ、賃仕事ガナサセラレウ」

ほろ-ゑひ (名) [微醉] [ほのゑひノ轉、ツナ、ツラ、ツヌカ、ツルカト同趣] 酒ニ少シ醉ヒタルコト。一杯キゲン。ホロヨヒ。ビスヰ。微醺

ほ-わう (名) [蒲黄] カマノハナ。倭名抄、[illegible]云云、蒲黄、[illegible]蒲花上黃粉也

ほ-わた (名) [穗綿] 芦花、蘆、ナドノ穗ヲ[illegible]

ほゐ [illegible]ほい[illegible]全書總明目錄、十七「存信等傳、一卷、補遺、一卷」

ぼゐん [illegible]ノ振動ニヨリテ發シ、口腔、咽喉ニ於テ何等ノ[illegible]ル聲音。我ガ國ニテハ、あ、い、う、え、お、[illegible]

ほゑ (名) [補繪] [補ノ字音、又、ほい、ほえトモ云フ] [illegible]ほゑ[illegible]、[illegible]ハ、補ノ音ナリ、スベテ畳ヲ裂[illegible]ト云フ、三十二[illegible]ヘるほゑ[illegible]繪、裂背衣トアルナド、皆後ノ稱ナルベシ」

ま

ま 五十音圖、末行第一ノ假名。此一行ノ假名、ま、み、む、め、も、ノ五音ハ、其發聲[illegible]、此音ハ、下[illegible]、う、又ハ、[illegible]ト呼ブモノ)ヲ受クレバ、ものノ如ク響クコトアリ、まうく(設)、まふ(舞)ノ如シ。

ま [illegible]眞[illegible]ト。ホ[illegible]イツハ

リナラヌコト。眞實、「眞ニ承ケテ」

〜**ま** (名) 目・眼 目ノ轉。多ク熟語ノ上ニ云フ語。 仲哀紀、八年九月「眼炎之金銀彩色、多在二其國一」 萬葉集、五八長歌「麻奈迦比ニ、モトナカカリテ、ヤスイシナサヌ」「目ノ邊(アタリ)目ナジリ」

ま (名) 閒 (一)〔アヒ。アヒダ。アハヒ。ヒマ。イトマ。 貫之集「モミヂ葉ノ、まナク散リヌル、木ノ下ハ、秋ノ蔭コソ、殘ラザリケレ」 源、五十三、夢浮橋「人閒カヌまニ、呼寄セ給ヒテ」 (二)コロアヒ。ヲリ。機會 心中重井筒、元祿、近松作、上「側ニアノ、タノ辛ヒニ、此子ニ着セテまヲ渡シタモ、仏カ智慧デハアルマイカ」「閒ヲ見テ言フ」「閒ニ合フ」「閒ニ合ハス」「閒ガワルイ」 閒に逢はずトハ、其場ノ用ニ立タザルヲ云フ。 小右記、寬和元年四月廿八日「降誕女子、不逢産閒、雖二趨向一、產已遂了」 (三)音樂、舞曲ノ調子、拍子ノ、移リ變ハル機(マリ)。「閒ヲ取ル」「閒拍子」 (四)〔家ノ柱ト柱トノ中閒(アヒダ)。 竹取物語「內(ウチウチ)ノシツラヒニハ、云フベクモアラヌ綾織物ニ繪ヲカキテ、閒ゴトニ貼リタリ」 源、廿、朝顏「格子、云云、一閒(ヒトマ)、二閒(フタマ)ハ下(オロ)サズ」 同、三十四、上、若菜、上「西ノ二ノ閒ノ東ノソバ」 武家名目抄、稱、居處、四「凡殿舍ニ、幾閒ノ所トイフハ、其所ノ柱ト柱ノ閒ヲカゾヘテイフ、一區ヲサシテ云フトハ自ラ別也」 (五)坪(ツボ)(六尺四方)ノ稱。室町時代ノ記錄ニ、三閒(ミマ)又ハ、四閒(ヨマ)、或ハ九閒(ココノマ)、十閒(トマ)ノ御座敷ナドアルハ、三坪、四坪、九坪、十坪ナリ。 (六)轉ジテ、屛風ナドニテ仕切リタル內ノ圍(カコヒ)ヲ閒(マ)ト云ヒ、又、轉ジテ、家ノ內ヲ分ケテ、敷居、鴨居ヲ入レテ、障子ナドニテ隔ヲ作リテ、全ク一室ヲナセルヲモ閒ト云フ。座敷。部屋。又、家。つま(端)ノ條ヲモ見ヨ。室 增鏡、第十八、村時雨「寢殿ノ階ノまニ御シトネマヰリテ、內ノウヘオハシマス、第二ノ閒ニ后ノ宮、云云」 吾妻鏡、二、元曆元年十月廿日「就二御亭東面廂二箇閒一修二其所一、號二問注所一」 紙上書…之閒、…之閒、居閒、又云、座閒」 家屋雜考、…、閒「後世、柱ニカカハラズ、一閒ノ所ヲサシテ御座ノ閒、御次ノ閒ナド云フ事トナレリ」 (七)疊(タタミ)ノ寸法ニ云フ語。京閒(キャウ)、田舍閒(ヰナカ)、ノ別アリ。閒(ケン)ノ條ヲ見ヨ。(八)船ノ泊ル所。フナガカリ。ミナト。舟泊

〜**ま** (名) 馬 〔越後國ノ西頸城ニテま、下總國ニテまあ〕うま(馬)ノ約。 倭名抄、十一、九牛馬類「牝馬、米萬、牡馬、乎萬」 萬葉集、五廿五「ヒトミナノ、ウラブレヲルニ、立田山、美麻近ツカバ、ワスラシナムカ」(古義ノ訓) 同、十七四十九「ウサカ川、渡ル瀨多ミ、此ノ吾カ馬(マ)ノ、アガキノミヅニ、衣ヌレニケリ」 催馬樂、…「…ノ駒放レバ、取リ繫ゲ、…ノ駒放レバ、取リ繫ゲ」「野馬、繪馬、馬屋、馬草」まゴヤシ」

マ (名) 魔 〔梵語、Mara.(摩羅)ノ略。舊譯(クヤク)ノ經論ハ、モト磨ニ作ル、梁ノ武帝ヨリ、魔ノ字ニ改メシト云フ、弘決外典抄(寶永、光榮)「魔字從レ石、自二梁武帝一來、謂、魔能惱レ人、字宜レ從レ鬼」〕(一)人命ヲ害ヒ、人ノ善事ヲ障礙スルモノ。まら(摩羅)ノ條ヲモ見ヨ。 大毘婆沙論、四十二「問、何故名レ魔、答曰、斷二慧命一故名レ魔、復次常行二放逸一、害二自身一故名レ魔」 大智度論、六十八「魔、秦言二能奪命者一、云云」 (二)轉ジテ、心ヲ亂ス靈(クマ)。惡シキ神。惡魔。天魔。邪神。邪祟。 法華經、譬喩品「非二是魔作佛一、我墮二疑網一故、謂二是魔所一レ爲」 箋注倭名抄、一、四十神靈類「魔、此間音、麻」 名義抄「魔、オニ、ココメ」 魔がさすトハ、惡魔ノ、人ノ心中ニ入リテ、惡念ヲ起サシムル意。

ま (助動) 未來ノ意ヲ云フ助動詞ナルむ(將)ノ變化ナルベシ。 拾遺集、二、夏「行キヤラデ、山路クラシツ、ホトトギス、今一聲ノ、聞カまホシサニ」 同、十六、雜、春、一「モロトモニ、折リシ春ノミ、コヒシクテ、ヒトリ見ま憂キ、花ザカリカナ」 新千載集、九、羇旅「ハカナクゾ、ウスヅク日ヲ、惜シミケル、サコソハ西ヘ、行カまホシケレ」

ま (副) 今 〔いま(今)ノ約〕まあ。更ニ加ヘテ。モ。モウ。 狂言記、あかがり「ヤイ冠者、コノ川中デ、ま一句、聞キタウオヂャル」 同、拔殼「ま一度、ト、クリト見マセウ」「ま少シ まヒトツ」

ま (接頭) 眞 〔御、又、實ニ通ズ〕(一)〔マコトノ。僞ナラヌ。 萬葉集、十四、二十「麻カナシミ、サネニワハ行ク、鎌倉ノ、ミナノ瀨河ヨ、潮滿ツナムカ」 狂言記、佛師「眞佛師ハ、某デオリヤル」「眞心、眞事」 (二)〔正シキ。片寄ラヌ。正。 古事記、中(景行)五十「ヤマトハ、國ノ麻ホロバ、タタナヅク、青垣山コモレル、ヤマトシウルハシ」 齊明紀、六年十二月、童謠「摩比邏(マヒラク)都能俱例豆例…」「眞向キ」 (三)雜ナキ。純。「眞白 眞黑」

〜**ま** (發語) 眞 〔前條ノ語ノ轉〕美ムル意ノ發語ト云フ。ミ。 古事記、上四十「麻玉手、玉手サシマキ、モモ長ニ、イハナサムヲ、アヤニ、ナコヒキコシ」「眞砂 眞弓」眞菅」眞菰 眞熊野」

〜**ま** (接尾) モノノ狀態ヲ云フトキニ、添フル語。 萬葉集、十五三十六「ヌバタマノ、ヨル見シ君ヲ、明クルアシタ、アハズ麻ニシテ、今ゾクヤシキ」 古今集、十三、戀、三「コリズまニ、又モナキ名ハ、立チヌベシ、人ニクカラヌ、世ニシ住マヘバ」

まあ (副) 今 〔いまノ略音便〕ま(今)ニ同ジ。 心中二枚繪草紙(寶永、近松作)上「コレお島、云云、迚モ所望シカカルカラハ、まあ、一所望致ソウ、お島トお身トカ連節デ、戀ノ籠ッタ淨るりヲ」

まあ (感) 驚愕、或ハ、意外ノ時ニ發スル聲。「まあ、ビックリシタ」

ま-あか (名) 眞赤 まっか。全クノ赤色。濃キ赤色。カラクレナヰ。眞紅。深紅。

マアク (名) 〔英語、Mark.〕(一)記號。符號。標號。記章。(二)點。點數。

マアジャン (名) 麻雀 〔字ノ支那音〕近時、支那ヨリ傳ハセル一種ノ室內遊戲。四箇ヅツ一組ヲナス百四十八箇ノ駒ト、二箇ノ骰(サイ)(骰子)トヲ用ヰ、原則トシテハ、四人一組トナリテ行フ。駒(牌)ハ象牙ニ竹ノ裏打ヲシタル縱一寸、幅八分、厚サ四分許リノ長方形ノモノニテ、附屬品ニハ計算札(籌馬)、親標(チャンパン)(莊子)ナドアリ。マアチャン。マアジョン。

マアチ (名) 〔英語、March.〕行進。進行。又、進軍曲。行進曲。即チ、行列進行ノ時ニ奏スル樂曲。

ま-あぢ (名) 眞鰺 室鰺(ムロアヂ)ニ對シテ、普通ノあぢ(鰺)ノ稱。其條ヲ見ヨ。

ま-あひ (名) 閒合 時ノ閒ノ程。アヒマ。スキ。時閒

ま-あひ (名) 眉閒 眉閒(ミケン)。又ハ、顏。 字鏡、上一「顏、眉閒也、云云、萬安比」 伊呂波集「…萬安比」眉閒ノ和名也、まあひトハ目閒ノ義ナルベシ」

マアブル (名) 〔英語、Marble.〕大理石。

まい (名) 繭 まゆ(繭)ノ訛。

〜**まい** (名) 烏牛 毛色ノ黑キ牛。 倭名抄、十一、五牛馬毛「烏牛、麻伊、黑牛也」 字類抄「烏牛、マイ、黑牛也」 名義抄「烏牛、マイ、クルアヒ」

ま-い (名) 麻衣 (一)アサノコロモ。アサギヌ。アサゴロモ。 詩經、曹風、蜉蝣篇「蜉蝣掘閱、麻衣如レ雪、心之憂矣」 丁…「麻衣皎皎光如レ雪、一一重賭親疏別」 (二)喪中ノ衣服。モフク。 禮記、雜記、上「大夫卜二宅與一レ葬日、有司麻衣布衰布帶、因二喪屨一、緇布冠不レ蕤」

⁂**まい** (助動) 〔まじノ口語〕推量ノ否定ノ助動詞。 狂言記、拔殼「鬼ニ番ヲサセタラバ、人

出入モアルまい」同、二千石、[illegible]ト申シタリトモ、下サレまいト存ジ」

まい [illegible] 物ゴトニ、事ゴトニ、アル[illegible]ノ[illegible] [illegible]

まい [illegible] 枚 (一)[ヒラタキ][illegible] キモノヲ數フル[illegible] [illegible] 十六、須磨「白キカラノ紙四五まいバカリヲ巻キツヅケテ、スミツキナドミドコロアリ」「板、五枚」「戸、二枚」 (二)鵜籠昇クモノヲ數フル[illegible]ノ語。四[illegible]枚[illegible] [illegible]ノ如シ [illegible] [illegible]ノ語 [illegible] 鉄印投笠打チカサシ、云云」 (三)田ヲ數フルニ云フ語。即チ、[illegible] カナ」 (四)昔、大判金、銀貨ナドヲ數フルニ云フ語。即チ、古貨幣[illegible]、金一枚ト云ノハ、[illegible]ノ[illegible]。銀一枚ハ、銀四十三匁ノ稱。 品物台数[illegible] 金一枚二枚者、大判ナリ、一兩二兩ト云フハ、小判ナリ、小判ハ一枚二枚ト稱セズ、銀ハ一枚ト云フ」 (五)俳優ヲ數フルニ云フ語。 八笑人(文化、輕文)「[illegible]、津[illegible]郎、枚テハ、狂言ガ出来ネエヤウナモノデ」 (六)取引所ノ語。賣買ノ單位[illegible]テ、株券ハ一株、綿絲ハ十梱、米穀ハ十石ヲ以テ一枚ト云フ。

まい-あさ (名) |毎朝| アサゴト。アサナアサナ。アサゴト。マイテウ。毎旦。

まい-か (名) |眞烏賊| 烏賊ニ對シテ、普通ノいか(烏賊)ノ稱。[illegible]見ヨ。

まい-きやう (名) |埋經| 長ク後世ニ傳ヘン、末代ノ人人ニ利益ヲ與ヘムガタメ、佛教ノ經文ヲ書寫シテ地中ニ埋ムルコト。又、ソノ埋メタル經文。 [illegible]名物考、廿四、佛教部、二 埋經、今ノ世ニ、古キ墓、山陵ナト

ノホトリヨリ、[illegible]ノ[illegible]ヲホリ出スコトアリ、云云、ソレハ、コノ經ヲ埋メシヲ入タル器ナリ」 玉海、[illegible] [illegible]

まい-きよ (名) |枚擧| 〔枚ハ數ノ義〕一一數ヘアグルコト。 [illegible] 而枚擧之辭也」(佩文韻府)「枚擧スルニ遑アラズ」

まい-くわい (名) |每回| ソノタビゴト。ソノツド。マイマイ。毎度。

まい-くわい (名) |玫瑰| (一) 鑛物ノ名。支那ニテハ、雲母ノ類ナリト云フ。火齊珠 [illegible] 注 玫瑰[illegible] [illegible] 母同、云云、火齊珠也」 (二)草ノ名。はまなす(玫瑰)ニ同ジ。

まい-くわえ (名) |玫瑰| 前條ノ語ニ同ジ。 字類抄「玫瑰、マイクヱ」

まいげ (名) |眉毛| まゆげ(眉毛)ノ訛。

まい-げつ (名) |毎月| まいつき(毎月)ニ同ジ。 北魏書、范紹傳「[illegible]、毎月入見」

まい-こ (名) |毎戸| 家ゴト。軒別。毎家。

まいさい (名) |毎歳| まいねん(毎年)ニ同ジ。 [illegible]

まい-さう (名) |昧爽| 〔說文「昧爽、且明也」、「且、闇也」同、「爽、明也」 昧ノ正音ハばい、まいハ慣用音〕 アケガタ。アカツキ。アケボノ。ヨアケ。拂曉。昧旦。 書經、牧誓 [illegible] 甲子昧爽 [illegible]

まい-さう (名) [illegible] ウムルコト。 [illegible] 當レバ一日ヲ延シ、或ハ踰ム」(羽前國、[illegible])

まい-さう (名) |埋葬| [illegible]ル[illegible] [illegible] 藏窖中[illegible]積シ、[illegible]ヲ加ヘテ、草ノ間ノ空氣ヲ排除シタルモノ。

まい-ざう (名) |埋藏| 地中ニ、ウヅメ、ヲサムルコト。 [illegible]

まいさご (名) |眞沙子| [illegible] なさご(沙子)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

まい-し (名) |昧死| 〔「昧ハ冒ナリ」ノ義〕 上奏スルニ、死ヲ以テスルコト。支那ニテ、秦ノ時ヨリ、上書文ニ用ヰ來レリ、 [illegible]

まい-じ (名) |毎事| コトゴト。事事。 太平記、三十七 [illegible] 閣昧ニシテ、死罪ニ逢フベシト云フ心デアラウゾ」

まい-しう (名) |毎週| 週ゴト。ドノ週モ。ヒトメグリゴト。各週。 クシテ、毎事叶ハザリケル間、云云」

まい-しん (名) |邁進| 「邁ハ、與[illegible]、ばい」 恐ルルトコロナク進ムコト。勇ヲ鼓シテ進ムコト。 [illegible]

マイス (名) |賣僧| 〔字ノ宋音、商賣ヲナス僧ノ意〕 (一)佛家ノ語。佛道ニ入レル者ハ、利欲ヲ離ルベキナルニ、佛ヲ賣リ法ヲ商ヒテ、不淨ノ說法ヲツツトムル濫行ノ僧ヲ指シテ云フ語。不德ノ身 [illegible] [illegible] 言葉、四、第廿一條、アキナヒスルヲバ、賣僧[illegible] [illegible] 狂言記、六地藏「まいすドモガ、憎イヤツノ」

まい-せき (名) [illegible] [illegible] まいせき(毎夕)ニ同ジ。 [illegible] 、佛門、毎夕、マイセキ」

まい-たい (名) [illegible] [illegible]、[illegible] まいだけ(舞竹)ニ同ジ。 [illegible] 詩

まい-だま (名) |瑇玉| まゆだま(繭玉)ノ訛。 [illegible]

まい-たん (名) |昧旦| 〔詩經、鄭風、女曰雞鳴[illegible]、朱[illegible]集傳「昧、晦、旦、明也、昧旦、天欲旦、昧晦未[illegible]之際也」〕 まいさう(昧爽)ニ同ジ。 [illegible]

まい-たん [illegible] まいあさ[illegible]

まい-ちど (副) |今一度| 〔いまいちどノ略〕 モウイチド。今一回。 [illegible] 一度起ルハ定ノモノト」「まいちど試ミヨ」

まい-もんじ (名) |眞一文字| 一ノ字ノ如ク眞直ナルコト。直線。 [illegible] 懸ケ通リテ、鎧着中ヘ亂レ入ル」常山紀談、三、信長 [illegible]

眞一文字ニススマレシガ」武將感狀記、[illegible]文字ニ染入テ、人ノ胃首ヲ捻タリ」

まい-つき (名) [每月] ツキヅキ。ツキゴト。マイゲツ。

〜まいて (副) [況判] まして(況)ノ音便。源、四十九、東屋「カク心ヨリホカニナガラフレバ、まいて、イトアルマジキ御事ナリ」枕草子、一、第三段「ムツキツイタチハ、まいて空ノケシキウラウラト、メヅラシク霞ミコメタルニ、世ニアリトアル人ハ、スガタカタチ、心コトニツクロヒ」

まい-てう(マイ-チョウ) (名) [每朝] 每朝(マイアサ)ニ同ジ。易林節用集(慶長)下、乾坤門「每朝、マイテウ」

まい-ど (副) [每度] タビゴトニ。タビタビ。ツネヅネ。イツモイツモ。每每(マイマイ)。菅家蒸、門下[illegible]從、而却田文 後、每度聞[illegible]來上說、疑」運步色葉集「每度」

マイナス (名) (一)〔英語、Minus sign.ノ略〕數學ノ語 減法ノ記號 即チ、一ニテ表ハスモノ。負號。(二)俗ニ、負債、借財、借金。

まい-にち (名) [每日] ヒゴト。ニチニチ。ヒビ。日別(ニチベツ)。劉長卿、酬[illegible]「[illegible]年別、衷朔每日同」書言故事(宋、胡繼宗)六、齊名類「無物、副王謝年ニ宗族、每日[illegible]」

まい-ねん (名) [每年] トシゴト。トシドシ。年年。歲歲。每歲。易林節用集(慶長)下、乾坤門、每年、マイネン」運步色葉集「每年」

まいば (名) [舞羽] まひば(舞羽)ノ條ヲ見ヨ。書言字考節用集、七、器財門「蠕車、マイバ」倭訓栞「まいば、絲ヲ籰ニ移スマデニ卷テ置物ヲイフ、舞羽ノ義ナルベシ、撥事也トイヘリ」

まい-はけ (名) [眉刷毛] まゆはき(眉掃)ノ訛 其條ノ(一)ヲ見ヨ。

まい-はだ (名) [槇皮] 〔眞木皮(マキハダ)ノ音便、眞木ハ檜ナリ〕檜ノ內皮(アマカハ)ヲ碎キタルモノ。舟、又ハ、井戶側ナドノ材ノ接目ニ打込ミテ、水ノ漏リ入ルヲ塞グ、古クハ、舟ノのめ。中古ニ、のみ。今モ、コレヲ以テ塞グヲ、のめサスト云フトゾ。船鮐 船𥿻 [illegible] まいはだ、眞木皮ヲイフ也、武備志ニイフ捻木草、是也トイヘリ、船鮐モ同ジ」

まい-ばん (名) [每晚] バンゴト。夕暮ゴト。每夕。又、夜ゴト。每夜。

まい-ふく (名) [埋伏] カクレヒソムコト。マチブセスルコト。[illegible]六帖、四、人事部、埋伏、フセゼイヲナク、[illegible]、日本[illegible]兵書、埋伏」

まい-ふみ (名) [卷文] 「まきふみノ音便、枚文。對ス」卷紙ニ記シテ、卷キタル文。江家次第、十八、外記政「取文抒之、不與狀者、[illegible]文者、或不[illegible]之、只抒卷文、如見左肩、見史立定本所小[illegible]」

まい-ぼつ (名) [埋沒] (一)埋(ウモ)レテ見エズナルコト。溫庭筠、陳琳墓詩「石麟埋沒藏春草、銅雀淒涼起暮雲」太平記、八、二月十一日合戰事「其道二十町カ間ニハ、捨タル物具、地ニ滿テ、馬路ノ[illegible]ニ埋沒ス」(二)世ニ知ラレザルコト。南史、鄭灼傳「貪苛者、云云、[illegible]口利辭、[illegible]相推薦、而貞守[illegible]、坐見埋沒、爲深恥[illegible]、禄賞未均」

まい-まい (副) [每每] イツモイツモ。タビタビ。シバシバ。ツネヅネ。每度。莊子、[illegible]、天下每每大亂、罪在於好知 林希逸注「每每、常常也」柳宗元、與韓愈論史官書「從信ニ入口語、每每異辭、日以滋久」

〜まい-み (名) [眞忌] あらいみ(荒忌)ノ條ヲ見ヨ。致齋。和泉式部集「契リシヲ、逢フベシヤハ、イツクシキ、荒忌まいみ、滿マハルトモ」

まい-や (名) [每夜] 夜ゴト。ヨゴト。ヨルヨル。マイバン。ヨナヨナ 夜夜 易林節用集(慶長)下、乾坤門「每夜、マイヤ」

まい-ゆふ(マイ-ユウ) (名) [每夕] ユフゴト。日暮ゴト。ユフベユフベ。マイセキ。每晚。

マイル (名) [英里] 〔英語、Mile.〕英國ノ距離ノ單位。一まいるハ八十ちぇえん、我ガ十四町四十五間七寸餘。

まいろ-をどし(マイロ-オドシ) (名) [間色縅] 鎧ノ縅ノ一種。何色ニテモ間色ニテ縅セルモノ。

まう(モウ) (名) [毛] 〔まうハ、毛ノ漢音、ばうノ轉、唐韻「莫袍切」集韻「謨袍切」、吳音、もう〕數ノ名。秤目ニテハ、貫ノ百萬分ノ一。物差目ニテハ、尺ノ一萬分ノ一。錢ノ單位ニテハ、厘ノ十分ノ一。がう(毫)ノ條ヲモ見ヨ。

〜まう(モウ) (名) [猛] タケキコト。ツヨキコト。アラキコト。禮記、郊特牲篇「虎豹之皮、示服猛也」左傳、宣公二年「公嗾夫獒焉、明搏而殺之、盾曰、棄人用犬、雖猛何爲」竹取物語「勢猛ノ者ニナリニケリ」宇治拾遺、十五、第一條「大友皇子ハ時ノ政事ナシ、世ノ[illegible]エモ、威勢モまうナリ」

まう(モウ) (名) [妄] 〔漢音、ばう、吳音、まう〕(一)ミダリナルコト。又、イツハリ。ウソ。デタラメ。[illegible]妄[illegible]眞、雖眞亦妄」王維詩「色聲非[illegible]妄、浮幻即吾眞」(二)愼マザルコト。又、不法ナルコト。

まう(モウ) (名) [盲] 〔說文「盲、目無牟子」〕明ヲ失ヒタルコト。又、其人。メシヒ。メクラ。老子、第十二章「五色令人目盲」淮南子、[illegible]「盲者目形存、而無能見也」

まう-あ(モウ-ア) (名) [盲啞] めくらト、おしト。盲人ト、啞者ト。「盲啞學校」

まう-あく(モウ-アク) (名) [猛惡] 猛(タケ)ク苛(カラ)キコト。勇猛一ニシテ苛酷ナルコト。[illegible]

まう-う(モウ-ウ) (名) [猛雨] 烈シク降ル雨。[illegible]ク雨、車軸ノ雨、豪雨。杜牧詩「[illegible]」[illegible]

まう-えい(モウ-エイ) (名) [毛穎] 「穎ハ、ほさき、毛ノ先ノ意」ふで(筆)ノ異名。毛筆。毛錐。毛錐子。韓愈、毛穎傳「毛穎者、中山人也、云云」下學集、下、器財門「毛穎、モウエイ」

まう-か(モウ-カ) (名) [孟夏] 夏ニ三箇月ノ初ノ月。陰曆、四月ノ異稱。禮記、月令篇「孟夏之月、日在畢、昏翼中、旦婺女中」淮南子、時則訓「孟夏之月、招搖指巳、昏翼中、旦婺女中」

まう-か-の-えん(モウカ-ノ-エン) (名) [孟夏宴] 「孟冬宴ニ對ス」王朝時代、四月朔日ニ行ハレタル賜宴。まうしゅん(旬)ノ條ノ(一)、及、次條ノ語ヲモ見ヨ。三代實錄、三十九、元慶五年四月「孟夏朔、停孟夏之宴、諒闇也」

まう-か-の-しゅん(モウカ-ノ-シュン) (名) [孟夏旬] 王朝時代、四月朔日ニ行ハレタル公事。まうしゅん(旬)ノ條ノ(一)、及、前條ノ語ヲモ見ヨ。

まう-かり(モウ-カリ) (名) 魚ノ名。さっぱノ一名。

まう-か・る(モウ-カ・ル)・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [儲] 商賣(アキナヒ)ナドノ利益トナル。マウケニナル。

まう-き(モウ-キ) (名) [盲龜] (一)メクラノカメ。謠曲、實盛「コノ稱名ノ時節ニアフコト、盲龜ノ浮木、優曇華ノ、花待チ得タル心地シテ」同、蟬丸「浮木ノ龜ノ年ヲ經テ、盲龜ノ闇路タトリユク」(二)盲龜ノ浮木。遇ヒ難キ意ヨリ、人身ノ受ケ難キ、又ハ、佛法ノ値ヒ難キ喩ヘニ云フ語。うきき(浮木)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

[illegible]百年一遇出頭、復有ニ浮木ハ正有ニ一孔ハ漂ニ流海浪ハ[illegible]、[illegible]、凡夫[illegible]。謠曲、弱法師「ゲニヤ盲龜ノ我等マデ、見ル心地スル樹ノ陰ノ、云云、何カハ法ニヨモ洩レジ」

まうきん（モウキン）（名）〔盲金〕貸金ノ一種、ざとうがね（座頭貸金）ノ條ヲ見ヨ。

まうきん（モウキン）（名）〔猛禽〕勢ヒ猛キ鳥。鷹ノ類ハ頗大ニシテ、嘴、爪ハ鋭ク、[illegible]、小獸、小鳥ナドヲ捕ヘ食フ。鷲、鷹、鷂ナドノ類。[illegible]

まうきょ（モウキョ）（名）〔毛擧〕（毛ハ筆ノ意）（一）些細ナルコトマデ、數ヘ擧グルコト。[illegible]急忙之間、不ㇾ遑ニ毛擧ニ」

まうく（モウク）（名）〔毛孔〕けあな（毛孔）ニ同ジ。太平記、十八、[illegible]、人ノ毛孔ノ中カラシム」

〔まうく・クル・クレ・コ・キ・コヨ（自動、加變）〔參來〕〔まゐくノ音便〕（一）參リ來。神代紀、下[illegible]神功紀、五十年五月「[illegible]」（二）參リ行ク。

まうく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）〔設〕〔まくノ延〕（一）〔設ク。ツクル。シツラフ。イトナム。豫メ用意シ備ヘ、待受ク。設[illegible]ク、供、マウク、タテマツル、ソナフ、儲、マウク」神代紀、下「[illegible]」[illegible]守リ、舟モ既字氣ズ、舩ダニモ、渡シテアラバ」源、[illegible]、夕顏三十「此ノ頃ノ御ヤツレニ、まうけ給ヘルカリノ御裝束、キカヘナドシテ」（二）〔作リ備フ。コシラフ。ソナヘヲナス。供。源、二、帚木四十「フツカナルウシロミまうけテ」保元物[illegible]（三）貨物ノ利益ヲ得。儲[illegible]得。[illegible]生産ニ事「正直ニテハ、能馬ハまふくマジカリケリト狂ヒシア」子ヲまうくトハ、子ヲ生ムノ意。利子を儲くトハ、金利ヲ得ルノ意。

まうくゎ（モウクヮ）（名）〔猛火〕勢ハゲシク燃ユル火。烈火。ミヤウクヮ。書紀、[illegible]「[illegible]」參同契（漢、魏伯陽）「金入ニ于猛火ハ色不ニ奪ニ精光ニ」

まうくゎん（モウクヮン）（名）〔盲官〕盲人ノ官。昔、盲人ノ、琵琶、管絃ノ歌曲、及、鍼治、導引、按摩等ヲ業トスル者ヲ統ベテ、官ヲ定ム。而シテ、盲人ニ二派アリ、當道派、盲僧派ト云ヒ、其制度ヲ座法ト云フ、何レモ僧行ナリ。盲僧派ハ中國、西國邊ニアリテ微微タリ、（明治以後、天台宗ニ屬セリ）當道派ハ盛大トナリテ、二組ニ分レ、一ヲ城方（以ニ筑紫城一爲ㇾ祖）ト云ヒ、一ヲ一方（以ニ坂東如一爲ㇾ祖）ト云フ。城方ノ中、二派ニ分レ、大山、妙聞（又、妙文）ト云ヒ、一方ノ中、四派ニ分レ、師堂（又、志道）、妙觀、戸島、源照（玄正）ト云フ。其官ニ、檢校（初、建業）、別當、勾當、四度、紫分、座頭、初心（時代ニヨリテ、名目ニ變遷アリキ。初心ハ無官ノ稱ニテ、ソノ内、半の打掛、丸打掛、化粧打掛ノ三アリテ、之ヲ凡テ打掛、又ハ、[illegible]打掛ト云ヒ[illegible]稱スルヲ得ズ）ナド、種種ノ階級アリ。其長官ヲ[illegible]檢校[illegible]法ヲ[illegible]者ヲ[illegible]人ハ、總テ座法ノ支配ニ入ルトゾ。又、盲人ノ、金ヲ積ミテ[illegible]トキハ、檢校ハ千兩、勾當ハ[illegible]兩[illegible]檢校ニ於イテ、人員ヲ引キ去リ、其條金ヲ全國ノ座中ニ分チ、[illegible]小物成ト云ヒ、又、配當金ト云フ。貴賤ノ家ニ吉凶ノ事アレバ、行キテ金錢ノ施行ヲ乞フヲ、小物成ノ中トシテ、官[illegible]、故ニ強請スルコトアリキ。配當ノタメニ乞フ意ヨリ、乞食ヲほいどト云フハ、是レナリト云フ。又、貸金、催促、歩キシ盲人ヲ、催促座頭ト云ヘリ。[illegible]四、[illegible]以妙觀[illegible]、大山[illegible]戸島[illegible]、六[illegible]記ニ、當道ノ官途、四階、十六官、七十[illegible]ノ小刻ト云コトアリ、四階トハ、檢校、別當、勾當、座頭ナリ、十六官トハ、座頭ニ[illegible]、四度、勾當ニ[illegible]物、掛、[illegible]、立、寄、[illegible]ノ物、[illegible]ノ大座、[illegible]別當、正別當、[illegible]別當、[illegible]檢校、正檢校、[illegible]云云」

まうけ（モウケ）（名）〔設儲〕（一）〔マウクルコト。ソナヘ。マチウケ。設。宇津保物語、俊蔭七十「コノ度ノ事、云云、心コトニ、まうけノモノナド、イタハリテシ給ヘ」源、十三、明石十「此ノ世ノまうけニ、秋ノ田ノ實ヲ刈リヲサメ」更級日記「トコロドコロニまうけナドシテ、行キモヤラズ」（饗應ノ設備）（二）貨物ノ利益。得。儲。

まうけ（名）〔眞受〕眞受クルコト。眞ナリト信ズルコト。心中萬年草（寶永、近松作）上「ジャレ[illegible]」

〔まうけうま（モウケ・ウマ）[illegible]フタツ、ヒトツハカザリ、ヒトツハまうけ[illegible]ニテ」

〔まうげつ（名）〔孟月〕〔玉篇「孟、始也」四時之首月、即チ、孟春（正月）、孟夏（四月）、孟秋（七月）、孟冬（十月）ノ稱。[illegible]路ニ殿上侍從四人、奏事者二人云云」天武紀、下、十[illegible]

まうげつのえん（モウゲツ・ノ・エン）（名）〔孟月宴〕孟夏ト孟冬トノ宴ノ稱。まうじゅん（旬）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。三代實錄、四十、[illegible]也」

まうけどの（モウケ・ドノ）（名）〔儲殿〕古ヘ、伊勢大神宮ノ遷宮ニ、假殿ノ代リニ儲ケタリシ殿。兩宮遷宮假殿次第、明應六年丁巳「内宮儲殿[illegible]如ㇾ例、公文所分配、儲殿例不ㇾ可ㇾ搭ㇾ例、其故者、儲殿私ノ遷宮、今度ハ假殿儀式」

〔まうけのきみ（名）〔儲君〕（儲君ノ文字讀ニ[illegible]）まうけのこ（儲子）ニ同ジ。マウケノミヤ。[illegible]天智紀、十年十月[illegible]「[illegible]」[illegible]きみニ、此翠ヲヒトツヅツ奉ル」源、一、桐壺「疑ヒナキまうけのきみト、世ニモテカシヅキ[illegible]云云」

〔まうけのみや（モウケ・ノ・ミヤ）（名）〔儲宮〕まうけのきみ（儲君）ニ同ジ。[illegible]十、[illegible]開別皇子、年十六、立爲之」

まうけぶね（名）〔儲船〕豫メ用意シオク船。盛衰記、四十二、屋島合戰事「猛火内裏ニ燃、[illegible]

[illegible]「一時ニ開ニ焼亡ス、云云、畿内ノ軍兵ハ儲ケニ[illegible]」

まうけ-もの（モウケ・モノ）（名）［儲物・設物］（一）設備セルモノ、支度セルモノ。盛衰記、四、[illegible]「在地ノ人人モ、家家壊、儲物共シタタメ置クベキゾト云」（二）ヒロヒモノ、儲リタル物。

まうけり（モウケリ）（句）まゐきたり（参来）ノ音便轉略。けり（來）ノ條ヲ見ヨ。

⁂**まう・ける**（モウ・ケル）（動）［設］まうく（設）ノ口語。

まうこ（モウコ）（名）［猛虎］タケキとら。[illegible]「猛虎[illegible]深山[illegible]」謡曲、[illegible]、猛虎深山ニ嘯ケ起ス」

まうご（モウゴ）（名）［妄語］佛教ノ五戒、又ハ、十惡ノ一。ばうご（妄語）、及、ばうげん（妄言）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]十四、妄語者、不淨心[illegible]妄語ニ」謡曲、刈萱「持戒ノ身ナレドモ、妄語ヲ出ダシ、此ノ者ヲ返サバヤ」

まうこう（モウコウ）（名）［毛孔］けあな（毛孔）ニ同ジ。[illegible]毛孔[illegible]」

まうごん（モウゴン）（名）［毛莨］きんぽうげ（金鳳花）ニ同ジ。

まうさ（モウサ）（名）［猛者］又、まうざ。もさ。タケキモノ。又、富豪ナル人。勢德アル人。東大寺造立供養記「奥州猛者[illegible]真人」

まうさいくゎん（モウサイカン）（名）［毛細管］けっくゎん（血管）ノ條ヲ見ヨ。

まうざう（モウザウ）（名）［妄想］〔妄ニ分別シテ、種種ノ想ヲナス意〕佛經ノ語。妄ナル想[illegible]〔以下是因緣、起ハ[illegible]〕」[illegible]不知常住眞心性淨明體、用諸妄想[illegible]故有輪轉」徒然草、第二百四十一段「如幻ノ生ノ中ニ、何事ヲカナサン、スベテ所願、皆妄想ナリ」

⁓**まう-さく**（モウサク）（副）［申白］〔申す、ノ延〕申スニハ。申スヤウ。神代記、下「[illegible]復命而告之曰」[illegible]白久」萬葉集、十八「寺寺ノ、女餓鬼申サク、大神ノ、男餓鬼タバリテ、ソノ子ハラマム」

まうさむ（モウサム）（副）［申］言ウテミヨウナラバ。ココロミニ言フナラバ。

まうさんや（モウサンヤ）（副）［申］言フマデモナク。論ズルニ及バズ。勿論。盛衰記、十八、文覺[illegible]「申さんや、御房ハ貴キ人ニテ御座上」

まうし（モウシ）（名）［申］申シ請フコト。ネガヒ。謡曲、[illegible]「イヤ、若宮別當ノ申シニヨリ、四人七人ノ免状ナリ」

まうし（モウシ）（名）［猛士］タケキ士。勇猛ナル兵士。史記、高祖紀「大風起兮雲飛揚、威加海內兮歸故鄉、安得猛士兮守四方」張方平、題[illegible]「[illegible]他猛士[illegible]」

まうし（モウシ）（感）［申］人ヲ呼ビカクルニ發スル聲。約メテ、もし。モシモシ。マウシマウシ。狂言記、宗論「申し、コナタノ事デゴザルカ」國性爺合戰（正德、近松作）千里竹「アア申し[illegible]」

まうし-あ・ぐ（モウシ・ア・グ）・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）［申上］言ヒ上グル。上申スル。言上スル。マウシアゲル。書言字考節用集、九、言辭門「言上、マウシアグル、啓上、同」狂言記、七騎落「味方ノ勢ハ如何ホドアルゾト仰セケレバ、ソノ時、眞平、サン候フ、タタ七騎ト申し上ぐる」

⁂**まうし-あ・げる**（モウシ・ア・ゲル）（動）［申上］前條ノ語ノ口語。

まうし-あは・す（モウシ・アワ・ス）・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）［申合］いひあはす（言合）ニ同ジ。狂言記、かくすい「今カラハ申し合せマセウ」

まうし-あはせ（モウシ・アワセ）（名）［申合］いひあはせ（言合）ニ同ジ。（相撲ナド[illegible]眞劍勝負[illegible]對ス）

まうし-あ・ふ（モウシ・ア・ウ）・フ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［申合］言ヒアフ。カタラヒアフ。沙石集、二、下、第八條「他宗ノ利益ノホメテ、我宗ノ佛法ヲツギニセラルル事、シカルヘカラズト、申あひケレバ」

まうし-い・る（モウシ・イ・ル）・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（他動、下二）［申入］言ヒイル。マウシコム。マウシイレル。太平記、七、先帝船上臨幸事「申入る可キ便モナクテ、案ジ煩ヒケル處ニ」[illegible]、[illegible]ニ大將ニ事「寄テ角ト申入れサルベケントテ」

⁂**まうし-い・れる**（モウシ・イ・レル）（動）［申入］前條ノ語ノ口語。

まうしう（モウシュウ）（名）［孟秋］秋ニ箇月ノ初ノ月。卽チ、陰暦、七月ノ異稱。禮記、月令篇「孟秋之月、日在翼、昏建星中、旦畢中」淮南子、時則訓「孟秋之月、招搖指申、昏斗中、旦畢中」

まうしう（モウシュウ）（名）［猛獸］タケキケダモノ。史記、貨殖傳「[illegible]」淮南子、[illegible]「[illegible]」

まうし-う・く（モウシ・ウ・ク）・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［申受］（一）申シ請フ。平家物語、[illegible]「申請くる所詮ハ、只重盛ガ首ヲ召サレ候ヘ」（二）申シ請ヒテ受ク。謡曲、元服曾我「弟ニテ候箱王ヲ申しうけ、元服セサセン爲ニ參リテ候」

⁂**まうし-う・ける**（モウシ・ウ・ケル）（動）［申受］前條ノ語ノ口語。

まうし-くだ・す（モウシ・クダ・ス）・スル・スレ・セ・サ・シ・セ（他動、四）［申下］まうしうく（申受）ノ敬語。請フ。イタダク。頂戴ス。

まうしご（モウシゴ）（名）［申子］神佛ノ通力ニ請ヒ、申シ出ダシテ、生マレタリト云フ、兒。[illegible]

まうし-こ・す（モウシ・コ・ス）・スル・スレ・セ・サ・シ・セ（他動、四）［申越］（まうしおこす（申遣來）ノ略）申シ來ラシム。言ヒテ、ヨコス。

まうしごと（モウシゴト）（名）［申事］言ヒゴト。言ヒデ[illegible]イヒブミ。宇治拾遺、九、第一[illegible]「カタハライタキ申し事ナレドモ」平家物語、二、教訓事「カタガタ恐レアル申事ニ候ヘドモ」

まうし-こみ（モウシコミ）（名）［申込］（一）申シコムコト。申シ入ルルコト。（二）法律ノ語。相手方ノ承諾ヲ得テ、契約ヲ成リ立タシメムトスル意思ヲ表ハスコト。

まうし-こ・む（モウシ・コ・ム）・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［申込］（一）イヒコム。イヒイル。申シ入ルル。（二）約束ヲナス。

まうしさた（モウシサタ）（名）［申沙汰］（一）言ヒツウハサ。評判。[illegible]記、[illegible]「[illegible]將事[illegible]沙汰シケル程ニ、大納言ヲ辭申テ、引籠ラセ給ケリ」（二）言ヒ行フコト。看聞御記、應永廿三年二月[illegible]「[illegible]之間、世事申沙汰[illegible]的」[illegible]記、文明十年四月廿六日「於二[illegible]所一[illegible]申沙汰有」

まうしづむ ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二） 申沈 言ヒ立テテ、官職ナドヲ沈メ、浮バヌヤウニスル。 平治物語、一、信頼[illegible]、大納言ト成リ、[illegible]ノ人人ヲバ申し沈めントスルナドコソ承レ」

まうしじゃう (名) 申状 (一)言ヒブン。イヒゴト。イヒグサ。辭柄 盛衰記、廿、[illegible]申状[illegible] (二)官府ヘ上申スル文書。（年號ヲ記ス） [illegible]

まうしたがふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四） 參從 マヰリシタガフ。ツキシタガフ。降伏ス。歸服ス。歸順ス 欽明紀、七年二月「百濟之國、[illegible]伏」

まうしたつ ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（他動、下二） 申立 言ヒ立ツ。言上ス。マウシタテル。 沙石集、六、上、第四條「今生ハ一旦ノ榮耀、後生ノ御ツトメナクバ、ナニノタノミカアルベキ、ト云フコトワリヲ、申たてラレタリケルニ」

まうしたっす スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變） 申達 上ノ官衙ヨリ、下ノ官衙ニ言ヒオクル。

まうしたて (名) 申立 (一)言ヒ立ツルコト。(二)官衙ニ一定ノ意見ヲ提出スルコト。又、ソノ意見。

まうしたてる (動) 申立 まうしたつ（申立）ノ口語。

まうしつぎ (名) 申次 次條ノ語ノ略。

武家時代、執事ナド主君ニ申シ次グ役、[illegible]ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。[illegible]

まうしつぎしゅう (名) 申次衆 前條ノ語ヲ見ヨ。

まうしつく クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二） 申付 上ヨリ下ニ言ヒワタス。マウシツケル。 新[illegible]集、六、冬「長月ノ頃、侍子ニ申しつけテ、色色ニ營ミイソギ侍リケル事」

まうしつぐ グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（他動、四） 申次 取次ギテ言フ。取次ギテ申ス。 [illegible]記、三十九、[illegible]「[illegible]位中將ノ前ニ跪テ申サントシケレバ、何條申[illegible]トヤ思ハレケン」

まうしつける (動) 申付 前前條ノ語ノ口語。

まうしづま (名) 申妻 神佛ニ祈請シテ得タル妻。 狂言記、伊文字「清水ノ觀世音ニ申しづまヲシテアルガ、案ノ如ク妻ヲ下サレタ」

まうしどく (名) 申得 前ニイヒイデタルモノノ、利得トナルコト。 狂言記、すねはじかみ「トチラカラナリトモ、出タカカラ申しどくデ御ザル」

まうしどの (名) 申殿 神社ニテ、祝詞ヲ申シ上グル所。

まうしとる ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四） 申取 モラヒ受ク。請ヒテ我ガ物トナス。モラフ。 狹衣、一、下「此御アフギモ給ヘリツルヲ、アタラシキヨリハトテ、申しとりタル」

まうしひらき (名) 申開 言ヒヒラクコト。辯解。辯明。

まうしひらく ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四） 申開 いひひらく（言開）ニ同ジ。 太平記、[illegible]

まうしふ (名) 妄執 [illegible]ノ執念。 著聞集、八、好色「ソレニトリテ、生涯ノ[illegible]」

まうしぶみ (名) 申文 (一)古ヘ、公家ナドガ、叙任、若シクハ、官位ノ昇進ヲ、朝廷ニ申請スル文書。 枕草子、一、第三段「除目ノホドナド、云云、まうしぶみモテアリク四位、五位」[illegible] (二)上ヘ申ス文書。[illegible]

まうしぶん (名) 申分 不滿ヲ云フベキ點。非難スベキコト。イヒブン。 狂言記、二千石「鎺モト、キッサキニ申し分ガアルカ申セ」

まうしまうし (感) 申申 まうし（申）ヲ重ネタル語。 狂言記、[illegible]「申し申し、ゴザルカ」同、同「申し申し、[illegible]出マシタ」

まうしん (名) 妄信 ばうしん（妄信）ニ同ジ。

まうしん (名) 妄心 妄ニ分別スル心。迷妄ノ心。煩惱心。妄念。 菩提心論「妄心若起、知而勿隨」[illegible]「一切衆生、以自妄心、念念分別」 徒然草、第二百四十一段「所願心ニキタラバ、妄心迷亂スト知リテ、一事ヲモナスベカラズ」 方丈記「ハタマタ、妄心ノ至リテ狂ヘセルカ」

まうじん (名) 盲人 [illegible]「土手一ト云フ盲目數キ盲人ノアリケルニ」

まうじん (名) 毛人 毛深キ人。即チ、[illegible]。エミシ。エビス。[illegible]「毛人、エビス」[illegible]

まうじゃ (名) 盲者 [illegible]

まうじゃ (名) 亡者 (一)佛教ニテ、死シタル人。又、其魂ノ、尚、人ノ體ヲナシテ、冥土ニアルモノノ稱。 楞嚴經、八「亡者[illegible]」[illegible]「亡者、マウジャ」 榮花物語、廿六、楚王夢「[illegible]心ニ念佛セサセ給ハバ、我ガ御爲ノ善知識トモナリ、亡者ノ御[illegible]」[illegible] 垂仁紀、廿八年十一月「以生所愛、令殉亡者」 (二)[illegible]

まうしゃう (名) 猛將 [illegible]タケキ大將。勇[illegible]

まうじゅう (名) 盲從 是非善惡ニ拘ハラズ、盲目的ニ、[illegible]ガフコト。

まうしゅん (名) 孟春 春三箇月ノ初ノ月。即チ、陰暦、正月ノ異稱。 書經、胤征「毎歲孟春、遒人以木鐸徇于路」 禮記、月令[illegible]

「孟春之月、日在營室、昏參中、旦尾中　字類抄(寛川本)孟春、正月名、マウシン」

まうし-わ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) [申分] いひわく(言分)ノ敬語。

まうしわけ (名) [申分] いひわけ(言分)ニ同ジ。 狂言記、鱸庖丁「面白フカシウ申しわけナ仕フウ」

まうしわたし (名) [申渡] (一)イヒワタスコト。申シ渡スコト、(二)江戸時代、裁判決定シテ、原被兩造、又ハ、罪人ニ宣告スルコト。宣告。 公裁職録、四「戦訴申渡リ之事、申渡、土州土出村戸倉村村役人并代、訴訟方、伯耆、倉右衞門、云云、右申渡趣、證文申付ル」

まうし-わた・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [申渡] (一)イヒワタス。(二)前條ノ語ノ(二)ヲ見ヨ。宣告ス。 三節雜録、四「評定所ニテ遠島申渡候モノ、其日ハ町奉行證文ニ有在牢致居候得共、云云」

マウ-ス (名) [帽子] [まうハ帽ノ呉音、をハ子ノ唐音] 僧ノ被フル頭巾ノ稱。[主トシテ、我ガ國ノ臨濟派ニテ云フ] ばうし(帽子)ニ同ジ。 撮壤集、上、器用「帽子、モウス」運歩色葉集「帽子、マウス」

まう・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [申] まをす(申、第二語)ニ同ジ。 萬葉集、廿、三十八「家人ノ、イハ(ヒ)齋ヘニカアラム、平ケク、船出ハシヌト、親ニ麻宇佐ネ」催馬樂、都知「アメツチノ、神モ、神モ、ソウシタベ、ワレハ、マウヨコシ、まうさズ」

まうす (助動) [申] [まをす(申)ノ音便] まをす(申、助動)ノ條ヲ見ヨ。 萬葉集、廿ハ「長歌、住吉ノ、我皇神ニ、幣奉リ、祈リ麻宇之テ」

まう-すゐ (名) [毛錐] 次條ノ語ニ同ジ。

易林節用集(慶長)下、器財門「毛錐、モウスイ、毛穎、モウエイ、二筆」

まう-すゐ-し (名) [毛錐子] [毛ノ錐ノ意、其形ヨリ云フ] 筆ノ異名。毛錐。毛穎。 五代史、漢臣、史弘肇傳「弘肇曰、安ニ朝廷ヲ定メ禍亂ヲ直須ク長槍大劍ナルベシ、若ニ毛錐子ハ安足用哉、三司使王章曰、無ク毛錐子ハ軍賦何從集乎、毛錐子、蓋言、筆也、弘肇默然」下學集、下、器財門「毛錐子、モウスイシ、筆異名也」

まう-せい (名) [猛省] [猛ハ正音ばう、まうハ慣用音] 深ク反省スルコト 猛然ト自ラ省ミルコト。

まう-ぜい (名) [猛勢] 又、まうせい。サカンナル、イキホヒ。又、タケキ軍勢。 林逸節用集「猛勢、マウゼイ」保元物語、一、新院御所各門固事「父子六人シテ固メタリ、其勢百騎許ニハ過ギザリケリ、是レコソ猛勢ナルヘキカ」謠曲、放下僧「敵ハ猛勢、我等ハ只二人ニテ候ゾ」

まう-せつ (名) [妄說] [まうハ呉音] ばうせつ(妄說)ニ同ジ。 入阿毘達磨論、上「出妄説圖、得、解脫、尼二」

まう-ぜつ (名) [妄舌] [まうハ呉音] 佛教ノ語。ミダリニ虚言ヲ吐クコト。妄言。妄語。 謠曲、江口「愛執ノ心イト深キ、心ニ思ヒロニ言フ、妄舌ノ緣トナルモノヲ」

まう-せん (名) [毛氈] 又、かも、オリカモ。毛ト綿トヲ雜ヘテ、蒸シテ粗ニ厚ク壓搾シテ製シ、敷物トスルモノ。織物ニアラズ。種種ノ色ニ染メ、或ハ、一面ニ花紋ヲ染メタルヲ、花毛氈ト云フ。モト支那産ニテ、舶來ス。[毯] 和漢三才圖會、三十二、寶飾具「氈、セン、和名賀毛、云云、今云毛氈也」成氏年中行事「管領之鞍覆ハ、毛氈滑、同ジク毛氈」宗五大雙紙「アカキもうせんノ鞍オホヒハ、公方樣ノ御物ノ外ハ、大名國分ノ案計、云云」

まう-ぜん (名) [妄染] [妄ハ虚妄不實ノ義、染ハ染汚不淨ノ意] 佛教ノ語。一切衆生ノ惑ヒニヨリテ招ク生死ヲ云フ。 盛衰記、四十五、盛人人道斬罪事「山抜、逆緣共ニ生死ノ妄染ナレバ、自身他身、皆火宅ノ炎ニ咽ブ」

まう-ぜん (副) [猛然] 勢タケキ狀ニ云フ語。

まうそう-ちく (名) [孟宗竹] 竹ノ一種。正德ノ頃、支那ヨリ琉球ニ移セシヲ、元文元年、薩摩藩主、其種ヲ琉球ヨリ取リテ、鹿兒島ノ移植シ、遂ニ全國ニ擴ガリタリ。(鹿兒島磯庭碑、江南竹記) 莖、最モ太ク、徑、尺餘ニ至ル。筍、正月ヨリ出ヅ、ヤハラカニシテ、筍中ノ第一ト云フ。江南竹。 林逸節用集、草木「孟宗竹、マウソウチク」書言字考節用集、六、生植門「孟宗竹、マウソウチク、本名奮、寒冬生筍、故云、爾、蓋孟宗事實、出二孟宗傳」古今要覽稿、三百六十四、草木部、竹、二「寒竹、一名孟宗竹ハ、漢名ヲ、マタ紫竹トイフ」

まう-そう-は (名) [盲僧派] まうくゎん(盲官)ノ條ヲ見ヨ。

まう-ぞく (名) 毛族 獸類ノ稱。ケモノ。 毛族 馬融、廣成頌「散毛族、梏羽族」

まう-たん (名) [妄誕] [まうハ呉音] ばうたん(妄誕)ニ同ジ。

まうちぎみ (名) [公卿] まへつぎみ(公卿)ノ音便。略シテ、まちぎみ。 春日祭祝詞「王等、卿等」(九條家本ノ訓)

まう-ちゃう (名) [盲腸] 大腸ノ起部ニテ、小腸ト結腸トノ中間部。著シク膨隆セリ。はらわた(腸)ノ條ヲモ見ヨ。

まうちゃう-えん (名) 盲腸炎、蟲様垂炎ヲ起シ、其炎症、盲腸一般ニ波及セバ、盲腸周圍炎トナリ、其周圍ニ擴大スレバ、盲腸周圍炎トナル。此病、始メ、右側下腹部ニ俄カニ疼痛ヲ起シ、次ギテ惡寒、發熱、嘔吐、便秘、口渴、腹部膨滿ナドアリ、盲腸部ヲ壓抑セバ痛ミアリ。故ニ平臥安靜ヲ守リ、液性ノ食物ヲ取ルヲ要ス。

まう・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ(自動、下二) [詣] [まゐいづ、ノ音便約] (一)參リ出ヅ。來ル、ノ敬語 名義抄「詣、マウヅ、マイル、イタル」來、マウヅ、キタレリ、ク」 催馬樂、酒飲「酒ヲ飲ミヘテ、云云、末字天來ル、ナヨロボヒソ」 神代紀、下「詣到、詣至」同、同、「必試、詣來」 源、廿二、少女「出ヅまうでこ來タルヲ」 (二)神佛ヲ拜ミニ行ク。マヰル。參詣ス。マウデル。 枕草子、十二、「宮百五十五段、ふづきなきもの、詣へモユキ、寺へモまうづる日ノ雨」 天武紀、下、大化四年二月「參赴於伊勢神宮」

まうで・く・クル・クレ・コ・キ・コヨ(自動、加變) [詣來] マヰリクル。參上ス。 古今集、十四、戀、四「フミツカハセリケルコトバニ、イマまうでく、雨ノ降リケルヲナン見ワヅラヒ侍ル」 源、廿二、玉鬘「子トモニモ引ワカレナン、カヘリテコトモ迎ヘニ、ヒクラスキテ、二匹クシテまうできトイヘ」 古今集、十七、雜、上「貫之カ和泉國ニ侍りケル時ニ、大和ヨリコエまうできテ」 宇治拾遺、一、第十八條「明日ノ巳ノ時ニ、高島ノ邊ニ、ヲノシラヌヨノココチスル、京ニまうでよシ」

まう・でる (動) [詣] まうづ(詣)ノ口語。

まうど (名) [客] [參人ノ音便略轉ナラム、或ハ云フ、まらうどノ略ト] 參リ來ル人。マレビト。マラウド。客人。 神

[illegible]ク、ケメキサランニ、[illegible]ンヤハ」

まうど（名）[illegible]人ノ[illegible]ノ仕ツル人。

まうど（名）［眞人］（一）姓ノ名。眞人ノ[illegible]。又、まうと。（二）［人］[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]ヲ貴ビテ呼ブ語。眞人ハ上稱。[illegible]テ、天皇ノ御名ニサヘ申シ奉レルアリ。[illegible]「[illegible]君ヤ、まうどノ[illegible]、サミン侍レト申ス」[illegible]「[illegible]何シニココニハ[illegible]イレゾト問フ」榮花物語[illegible]物ヨウリケルまうどカナ、イミジウ多ク物ヲタマハリタル」

まうとう（名）［孟冬］冬三箇月ノ初ノ月。卽チ、陰暦、十月ノ異稱。禮記、月令篇「孟冬之月、日在尾、昏危中、旦七星中」淮南子、時則訓「孟冬之月、招搖指亥、昏危中、旦七星中」太神宮式「凡太神宮年限滿修造、[illegible]、使[illegible]始作之」

まうとう（副）［毛頭］兎ノ毛ノ頭ホドモ。スコシモ。イササカモ。（下ニ打消ノ語ヲ用ヰル）[illegible]（元和、安樂[illegible]）八「[illegible]人イフ、ソレナラバ宿カシ給ヘ、毛頭クルシカラズ、云云」「毛頭覺エズ」「毛頭コレナシ」

まうとうのえん（名）［孟冬宴］〔孟夏宴ニ對ス〕王朝時代、十月朔日ニ行ハレタル賜宴。まうとうのしゅん（旬）ノ條ノ（一）、及、次條ノ語ヲモ見ヨ。

まうとうのしゅん（名）［孟冬旬］古へ、十月朔日ニ行ハレタル公事。[illegible]臣ニ酒ヲ賜ヒ、政ヲキコシメサレタリ。しゅん（旬）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。公事根源、十月「十月一日ハ、[illegible]御衣更アリ、[illegible]ノ御裝束ヲ撤シテ、冬ノニアラタメ申ス、天皇、南殿ニ出御アリテ[illegible]アリ、是ヲ孟冬ノ旬トハ申ナリ、[illegible]」

まうちう（名）［毛囊蟲］人[illegible]ノ毛囊、卽チ、毛根ノ孔ニ寄生スル一種ノ蟲。體ハ小サクシテ、長形ヲナシ、頭、[illegible]ノ三部ヨリ成ル。[illegible]ニハ[illegible]着器アリ[illegible]内ナドニ[illegible]故、一名、にきびのむしトモ云フ。又、犬、豚、猫ナドニ寄生スルモアリ。

まうに（副）［猛］タケク。ハゲシク。落窪物語、二「[illegible]日[illegible]ノ中ニ、今日ナン、イトまうニ[illegible]リタラント見エケル」榮花物語、廿六、[illegible]「[illegible]世ノ中ヲ、昔見タル女、翁、又、カカルまうなる事見ズ、ナドゾ泣ク泣ク申シ思ヘル」

まうねん（名）［妄念］〔まうハ呉音、虚妄ノ心念ノ意ニテ、凡夫ノ六塵ノ境界ニ貪着スル心ヲ云フ〕佛經ノ語。妄ナル念願。迷ヒノ執念。平家物語、十、維盛入水「[illegible]忽チニ妄念ヲヒルガヘシ、西方ニ向ヒ手ヲ合ハセ」太平記、十一、[illegible]「[illegible]其亡魂[illegible]、猶モ此地ニ留ッテ、夫婦執着ノ妄念ヲ遺シケルニヤ」

まうのぼ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［參上］〔まゐのぼるノ音便〕參リ上ル。サンジャウス。竹取物語「小野房守マウデ來テ、まうのぼると云フ事ヲ聞キテ」[illegible]「[illegible]上之侍ニ于門下ニ」源、六、末摘花「[illegible]キ時モ、[illegible]聞ユヘキ事アル折ハ、まうのぼりケリ」

まうはち（名）［亡八忘八］〔まうハ呉音〕ばうはち（亡八）ニ同ジ。其條、及、くつわ（轡、忘八）ノ條ヲモ見ヨ。

まうはつ（名）［毛髮］身體ニ於ケル手掌、足蹠、爪ナドヲ除キ、全身ニ發生スル角質纖狀ノ保護機、其硬粗ナルモノヲ硬毛ト云ヒ、[illegible]毛ト云フ。[illegible]毛根、毛幹、[illegible]ニ區別シ、[illegible]毛ハ上皮、[illegible]ヨリ成ル。[illegible]不[illegible]、此亦關内之病也」三國志、魏志、陳羣傳「[illegible]」

まうひつ（名）［毛筆］[illegible]獸[illegible]ノ毛ニテ[illegible]ツクリタルふで。

まうひゃう（名）［妄評］〔まうハ呉音〕ばうひゃう（妄評）ニ同ジ。

まうふ（名）［毛布］毛織物ノ[illegible]。ケット。ケットン。五代史、[illegible]「[illegible]嚴無所得而還、惟得金二百兩、地衣毛布之類」

まうふく（名）［蟒服］モト支那ノ朝廷ヨリ、高位高官ノ臣下ニ賜ヒシ四爪ノ龍ヲ畫キタル服。龍ヲ蟒ト異リ認メテノ名ナルベシ。蟒衣。野獲編（明、沈德符）「[illegible]之服、[illegible]不[illegible]所[illegible]、正統初、始以[illegible]、弘治中、[illegible]等、俱[illegible]大紅蟒衣之賜、[illegible]得、蟒衣自此始」

まうぼ・る（動）まぼるノ延。其條ヲ見ヨ。宇津保物語、藤原君「カタニ臥シタマヘルホトニ、まうぼる物、日ニタチバナ[illegible]」[illegible]月「四五日閑處[illegible]留於山、不得[illegible]」

まうまうと（副）［莽莽］〔まうハ呉音〕髮、又ハ、草ノ生ヒ茂レル狀ニ云フ語。パウパウト。楚辭、天問篇「[illegible]陶陶孟夏兮、草木莽莽」[illegible]「[illegible]蒼蒼[illegible]山是[illegible]」

まうまく（名）［網膜］眼球ノ最モ內部ニ在リテ、視神經ノ分布スル白キ薄キ膜。

まうむ（名）［妄夢］〔まうハ呉音〕實際有リ得ベカラザル夢。又、取止メナキ夢。

もうもく（名）［盲目］[illegible]人[illegible]上人事「[illegible]眼ヲ穿ッテ、盲目ノ身ト成ッテ」

まうゆう（名）［猛勇］タケク、イサマシキコト。[illegible]

まうよ・す・セ・サ・シ・セ（他動）[illegible]言ヒテ謗ス。辯ジテ謗言ス。[illegible]ニテフコスト、謗レカ謗レカ、此事ヲ、[illegible]

まうら（名）［網羅］[illegible]。恐ク引キ包ムコト。又、恐ク收メ入ルルコト。[illegible]

まうらう（名）［孟浪］まんらん（孟浪）ノ條ヲ見ヨ。

まうらがな・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）〔まハ發語、うらハ心〕うらがなし（心悲）ニ同ジ。萬葉集、二十「朝日照ル、島ノ御門ニ、オボホシク、人音モセネバ、まうらがなしモ」

まうりゃう（名）［魍魎］ミヅハ。水ノ神。或ハ、山川ノ精物。人ニ害ヲナスト云フ。字類抄「魍魎、マウリャウ」說文「蛧蜽、山川之精物也、[illegible]」[illegible]淮南子、覽冥訓「浮游不知所求、魍魎不知所往」謠曲、鐵輪「[illegible]魍魎鬼神ハ[illegible]出デヨ出デヨト責メ給フ」

まうれつ（名）［猛烈］甚ダハゲシキコト。[illegible]

雷雨帰、迷」疏「陰陽和、風雨時、無二此猛烈之風一」蘇軾、聞二秋聲賦一詩「新」蒔聞二猛烈之提一御相之伴樂一」

まう-ろく (名) [耄六] 〔六ハ、宿六ナドト同趣ニテ、擬人シテノ語〕 (一)老イ惚ケタルモノ。オイボレ。老碌。(二)昔、大坂ノ城代、東西ノ町奉行ナドノ從僕ノ、町家ニ到リテ押借シ、又ハ、芝居ヲ荒シナドスル者ノ稱。(草茅危言、五) 浮世風呂(文化、十一年)四編、上「江戸デでんぼふ、上方デまうろくナドト云フアバズレガアレド」 (三)ヲリスケ(折介)。東海道中膝栗毛(文化、一九)七編、上「上方デまうろくト云フハ、折介ノコトダガ」

まうろく-づきん (名) [耄六頭巾] まるづきん(丸頭巾)ニ同ジ。

まう-ゐ (名) [猛威] 猛烈ナル威勢。タケキ勢ヒ。謡曲、田村「タトヒ猛威ヲ振フトモ、ヤハカ討チ損ズル事ノ候ベキ」

マ-えん (名) [魔緣] (一)魔ノ近ヅク緣。(二)魔ノ属。修道ノ妨ゲヲナスモノ。保元物語、一、新院御経沈事「筆跡ヲダニ、都ニ置カザル程ノ儀ニ至リテハカナシ、此経ヲ魔道ニ廻向シテ、魔緣ト成テ、遺恨ヲ散ゼン」 平家物語、一、妓王事「アハレコレハ、イヒガヒナキ我等ガ念佛シテ居タルヲ妨ゲントテ、魔緣ノ來タルニテゾアラン」

マカ (名) [摩訶] 〔梵語、Mahā. 大智度論、三「摩訶、秦言大、或多、或勝」〕 常ニ、大ノ義。榮花物語、一、月宴「聲ヲアゲテ讀ムモノハ、佛說ノ中ノ摩訶ノ般若ノ心經ナリケリ」

まが (名) [禍] 〔枉ノ義、直ノ反〕 凶シキコト。凶惡キコト。邪ナルコト。直カラズ曲リテ邪ナルコト。マガゴト。ワザハヒ。古事記、上十五「初於中瀨一墮迦豆伎而滌時、所成坐神名、八十禍津日神、次大禍津日神、云云、次爲直其禍而、所成神名、神直毘神」注「訓禍云摩賀」續紀、三十、即位前紀「芭凶醜心圖害三弟」景行紀、廿八年二月「所以、禍害之藪、故悪殺二其悪神一」

まが (接頭) [禍] 〔前條ノ語ヲ見ヨ〕 惡キ。凶シキ。ヨコシマナル。マガリタル。御門祭祝詞「天能麻我都比登云神、乃、武惡事」注「古語、麻我許登、〔枉言〕」

まかい (名) [眞櫂] 〔まハ全手、兩下ノまト同趣〕 舟ノ櫂ノ、左右備ハリタルモノ。萬葉集、十九 廿長歌「フセノ海ニ、小舟ツラナメ、眞可伊カケ、イ漕ギメグレバ」同、廿 八十長歌「大船ニ、末加伊繁貫キ、朝ナギニ、カコトトノヘユ」

マ-かい (名) [魔界] 惡魔ノ世界。アクマノ居ル所。魔道。止觀、五「言魔羅云、魔界如、佛界如、一如無二如」同、八「魔界即佛界、而衆生不知、迷於佛界横起魔界」十訓抄、中、第七、第二條「コノ人ハ、カク行德アルヤウナレドモ、無智ノ間、終ニハ魔界ノタメニ、タブラカサルベシ」

まがい (名) [麻鞋] 又、まあい。ヲグツ。麻ニテ作レルクツ。途上ニ用キルモノ。古今注、上「麻鞋起自伊尹、以草爲之、周文王以麻爲之、名曰麻鞋」倭名抄、十二 履類「麻鞋、乎久豆、麻鞋、以麻爲之」彈正臺式「凡諸衞府生以上、除衞仗日之外、皆著靴、但著布帶時、須用麻鞋」

ま-かう (名) [末額] まっかう(抹額)ノ略。はちまき(鉢卷)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。字類抄「末額、マカフ、絡頭、冒頭、額巾」名義抄「抹額、マカウ、冠頭、額巾、マカウ」江家次第、三、射禮「射手、注、位服、踏皺、末額」

まが-かみ (名) [禍神] ワザハヒヲナス神。マガツビ。惡神。邪神。

マカカラ-てん (名) [摩訶迦羅天] 又、まかきゃらてん。其條ヲ見ヨ。

まがき (名) [籬] 〔間垣ノ義、間間ヲ隔ツル意〕 (一)〔又、ませ。マセガキ〕 柴、竹、ナドニテ粗ク作レル籬。倭名抄、十 類「籬、末加岐、一云、末世、以柴作之」 年十二月「百濟、新羅、云云、於御門 … 宮之籬」 萬葉集、四 五十九「… ヘニ、… ノスガタ、見マクホリ、行カム、イヘヤ、君ヲ見ニコソ」 同、十九 五十「奈良山ノ、… コソ、… マガキノシタノ、雪ハ消ズケレ」(古義ノ訓) (二)江戸、新吉原ノ妓樓ニテ、鄽ト落間トノ間ニ立ツル格子戸。長唄、松の緑「一ツ圍ヒノまがきニモルル、廓ハ根引ノ別世界」

まがき-の-みかど (名) [蕃垣御門] みづがきのみかど(瑞垣御門)ノ條ヲ見ヨ。

まがき-ぶし (名) [籬節] 萬治ノ頃、大坂新町ノ遊女、まがきト云フモノノ、唄ヒ出シタル小唄節ニ。 … 籬節、一曲、萬治年中、大坂新町まがきト云ヘル女郎、一風流ノウタヒモノヲ作リ、自ラ節ヲ附ケ、コレヲ行フ、此女郎、生得妙ナル音聲ニテ、一曲ナシケレバ、… ノ興ヲ拂ヒケルトナン、云云、コレヲ世ニ新町ノ籬節ト云フ」

マカキャラ-てん (名) [摩訶迦羅天] 〔梵語、Mahākāla. まかハ大、きゃらハ黑ノ義、てん(天)ノ條ヲモ見ヨ〕 又、まかからてん。だいこくてん(大黑天)ニ同ジ。

まかげ (名) [目蔭] 遠クヲ見遣ル時、日光ヲ遮ラムガタメ、手ヲ、目ノ上ニカザスコト。(遠クヲ望ムニスルコトナリ、看ノ字ハ、手ノ下ニ目ノ字アリ、因リテ知ルベシ) 字類抄「看、マカゲサス」林逸節用集「看常、マカゲサス」 源、四十九、東屋 … 謎ノ侍ランヤウナル心地ノシハベレバ、云云、ウシロメタゲニ、ケシキバミタル御まかげコソワヅラハシケレ、トテ笑ヒタマヘルカ、云云」 盛衰記、十三、鳥羽殿謎沙汰事「大ナル謎ノ、云云、御前ニ參リ、云云、躍上リ躍上リ、まかげナンドシテ、失セニケリ」同、廿二、土肥燒亡舞臺「高キ峯ニ上リ、まかげヲサシテ見渡セバ」 源、五十二、手習 四十一「此君ノ臥シタマヘルヲ、アヤシガリテ、… ナリ … サルワザスル、額ニ手ヲアテテアヤシ、コレハ誰ソト、シウネケナル聲ニテ、見オコセタリ」

まかげ (名) [眞鹿毛] 〔まハ、接頭語、馬ノ毛色ノ名。かげ(鹿毛)ト云フ、同ジ〕 今昔物語、廿八、第三十七語「眞鹿毛ナル馬ノ、法師長二、長五ツキ許ナルガ」

まか-ご (名) [薇] 〔卷子ノ轉、芽ノ卷キテアルヨリ名アルカ〕 ぜんまい(薇)ニ同ジ。天治字鏡、七「薇、萬加古」

まが-ごと (名) [禍事] 〔枉事ノ義、吉事ニ對ス〕 萬ノ凶惡シキ事。ワザハヒ。災難。禍害。名義抄「禍事、マカコト」古事記、下(雄略)六十「雖凶惡事而一言、雖吉事而一言」景行紀、廿八年二月「… 禍害之藪、故欲殺其悪神」御門祭祝詞「天能麻我都比登云神乃言惡事」

まかご-や (名) [眞鹿兒矢] 〔まハ發語、鹿兒ト云ヒテ鹿ノ義〕 又、あまのまかごや。かごや。獵ニ鹿ナドヲ射ルベキ矢。弓ナルヲ眞鹿兒弓(又、あまのまかごゆみ)ト云フ。古事記、上四十九「故爾以天之麻迦古弓、天之波波矢、賜天若日子」同、同六十「手挾天之眞鹿兒矢、立御前」萬葉集、廿 二十五「波自由美ヲ、タニギリモタシ、麻可胡也ヲ、タバサミソヘテ」

まかご-ゆみ (名) [眞鹿兒弓] 前條ノ語ヲ見ヨ。神代紀、下「取天鹿兒弓、及天眞鹿兒矢、遣之」

まがしら (名) [目頭] 又、めがしら。目ノ端ノ、鼻ニ向ヘル方。内眥(まなじりニ對ス) 倭訓栞「まがしら、目眥ヲイヘリ」用明天皇職人鑑、寶永、近松作、一「色有ルカンバセ怒チニ、マジリ、まがしら肉落チテ、涙ハ瀧ノ如クナリ」

まか-す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [負] 〔負けさすノ轉訛〕 負ケシム。

まか-す ・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) [任]

〔任ト通ズ〕（一）他ノ爲ルママニナス。古今集、廿、[illegible]モ、千年ノ後ハ、知ラナクニ、アカヌ心ニ、まかせハテテン」「風ニ任す」[illegible]

任他 隨 [illegible]〔他〕事ヲ[illegible]ニ任ス。委任 [illegible]

七、第六十八段「ソノコトバヲキカン、イカニナトトフ。[illegible]まかせテモノノ給ハ、[illegible]

ウハアラジトイフ」（三）アルガママニナス。「アルニまかせテ使フ」

まか・す ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔卷〕まく（卷）ノ敬語。卷キタマフ。[illegible]「アシガリノ、ママノ小菅ノ、スガマクラ、アゼカ麻可左ム、ココセ手枕」同、[illegible]ニ麻可志、ヨチコラト、テタヅサハリテ」

まか・す スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）〔引〕水ナドヲ引ク。導ル。[illegible]本）「飯水、引水、マカス」辨内侍集「小山田ニ、まかする水ノ、アサミコソ、袖ハヒヅラメ、サナヘトルトテ」神功攝政前紀「時、引二儺河水一、欲レ潤二神田一、掘レ溝、及二于迹驚岡一」[illegible]テ」（溝ヲ通ク）徒然草、第五十一段「龜山殿ノ御池ニ、大堰川ノ水ヲまかせラレントテ、大井ノ土民ニ仰セテ、水車ヲ作ラセラレケリ」

マ-かぜ（名）〔魔風〕又、まふう。惡魔ノ誘ノ風。又、モノオソロシキ風。

まか・せる（動）〔任〕まかす（任）ノ口語。

まか-たち（名）〔侍婢〕〔前子等ノ略轉、前ハ君前ヲ云フ、古言ニ、女子ヲ子等ト云フ〕君ノ御前ニ侍リ仕フル女。コシモト。名義抄「媵 マカタチ」[illegible]侍婢 古事記、上「[illegible]神代紀、下[illegible]欽明紀 廿[illegible]女、香田子」

まが-たま [illegible]曲玉 勾玉 まがり玉ノ義、[illegible]施ス[illegible]環ノ端ナキガ如キ意、[illegible]モ此意ナリ」（一）多クノ玉ヲ緒ニ貫キ、[illegible]シテ[illegible]トモ云ノ。[illegible]モノ、[illegible]八尺瓊[illegible]古事記、上[illegible]神代紀、上[illegible]垂仁紀、八十七年二月「八尺瓊勾玉[illegible]利古麻」（二）[illegible]ノ名。上古、[illegible]ルモノ、[illegible]長クシテ、[illegible]頭太ク、穴アリ、尾細ソシ、大小均シカラズ、常ナルハ長サ一寸、太キ所、徑三四分アリ。又、管玉ト云フアリ、筆ノ軸ヲ輪切ニシタル如ク、常ナルハ長サ七八分、竪ニ穴アリ、口徑二分許リ、音、白、赤、青ナドノ石類ニテ造レリ。多ク共ニ緒ニ貫キテ、御統ナドニシタリ。臨時祭式、出雲國造ノ、獻物ノ中ノ玉、赤水精、白水精、青石ナド見エタリ。仲哀紀、八年正月「大白銅、八尺瓊之勾、以曲妙、御[illegible]提二豐十握劍一平二天下一矣」

まか-ぢ（名）〔眞檝〕「まかい（眞櫂）ノ條ヲ見ヨ」舟ノ檝ノ、左右ニ備ハリタルモノ。萬葉集、八廿長歌「大船ニ、二梶繁貫キ、白浪ノ、高キ荒海ヲ」同、十五「眞可治ヌキ、舟シ行カズバ、見レドアカヌ、マリフノ浦ニ、宿リセマシヲ」

まか・つ ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）〔目勝〕人ニ對シテ怖レズ。神代紀、下「時有二八十萬神一、皆不レ得二目勝相問一、故特勅二天鈿女一曰、汝是目二勝於人一者、宜二往問一之」古事記傳、十五「目勝ト面勝トハ、同意ナルウヘニ、麻ト母ト通音ナレバ、言モ相近シ、今ノ世ノ俗言ニ、人ニ押勝者ヲ、麻年賀知ト云モ、此ヨリ出タルベシ」

まか・づ ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ（自動、下二）〔罷出〕〔罷リ出ヅノ略〕（一）退出マル。源、四、夕顔「[illegible]ナカラ、まかづれバ」宇津保物語、俊蔭「[illegible]ノ仲忠[illegible]門モ、春宮モ、[illegible]まかで[illegible]サセズ、

召シ使ハセタマフ」[illegible]「まかでナントシ給フヲ、イトマ、更ニ許サセ給ハズ」紫式部日記「ア[illegible]此方[illegible]上[illegible]「コナタハ、まかでシヤ、ト宣ヒテ」

まか-つ-きゅう [illegible]摩竭宮 [illegible]ふにき、う（十二宮）ノ條ヲ見ヨ。

まが-つ-び（名）〔禍津日〕次條ノ語ノ略。

まが-つ-び-の-かみ（名）〔禍津日神〕〔びハ靈、義〕禍事ノ神。凶事ノ神。伊弉諾尊ノ[illegible]シタマヒシ汚垢ニ因リテ成リシ神。まがつび。（善ノ神トスル直毘神ニ對ス）古事記、上[illegible]所成坐神名、八十禍津日神、次大禍津日神[illegible]神代紀、上[illegible]御門祭祝詞「[illegible]神」

まかで-おんじゃう（名）退出音聲 古ヘ、節會ノ日、式終リテ、伶人退出スル時、奏スル音樂。（參音聲ニ對ス）紫式部日記「長慶子ヲまかでおんじゃうニアソビテ、山ノサキノ道ヲマフ」西宮記、臨時、八「[illegible]殿上侍[illegible]樂、云云、[illegible]退出音聲[illegible]」

まか・でる（動）〔罷出〕まかづ（罷出）ノ口語。

まか-な（名）〔眞鉋〕〔まハ讃辭〕かんな（鉋）ニ同ジ。[illegible]眞鉋[illegible]モナ、ユゲノ河原ノ、埋木ノ、アラハルマシキ、事トアラナクニ」

まか-な（名）〔眞假名〕眞假字 萬葉假字ノ稱。まな（眞名）ノ條ヲ見ヨ。俚言集覽「眞假字トハ、今イフ[illegible]假字ニテ、[illegible]ルノイフナリ」文教溫故、下、文字「萬葉集ノ頃ニハ、音訓ヲマジヘ用フ、タトヘバ、鰥（ウツセミ）、アルハ布本（フモト）（麓）トカケル類、コレヲ世ニ[illegible]トイヘリ、[illegible]ニムカヘ[illegible]ケルヲ、片假名[illegible]トイヘリ」

ま-がな・し シキ・シケレ・シク・シク（形、二）〔眞悲〕マコトニ悲シ。萬葉集、十四廿「オキテイ[illegible]カニモガモ」同、廿八「マクラタチ、腰ニトリ佩キ、[illegible]」

まが-な-すき-がな（副）スコシノ隙サヘアレバ。キリナシニ。タエズ。[illegible]きがな入リ浸ッテ居ル、畢見シテ下サレト」

まかなひ（名）（一）〔マカナフコト。擬〕取リ調ヘテ供フルコト。源、手習、五十二「昔シ思ヒ出デタル御まかなひノ少將ノ尼ナド」枕草子、六、第五十段「藏人トモ、まかなひノ髮上ゲテ參ラスル程ニ」とりかへばや、八「中納言、御膳參ラスル御まかなひニ、中ツカサノ乳母候ヒテ」（二）〔轉ジテ〕用度ノ物ヲ給グコト。施行。[illegible]ヲ食事[illegible]モ云フ。[illegible]〔常〕[illegible]ガ、[illegible]ノ御まかなひ[illegible]ひニハ、承香殿ノ女御、ヨサリノ御まかなひニハ、式部卿ノ女御、更衣十人色ユルサレ給ヘル限リ、色ヲ盡シテ奉レリ」「[illegible]」（三）次條ノ語ノ略。

まかなひ-かた（名）〔賄方〕（一）食事ノまかなひヲ擔當スル人。（二）江戸幕府ノ職頭、[illegible]、賄所ヘ食料品ヲ供給スル役、[illegible]組頭ノ[illegible]下、御目見以下「御賄方百廿人、二十俵二人扶持」

まか・なふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）〔擬〕〔設ケ行ふ意カ〕（一）〔取リ調ヘテ供フ。設ケ待ツ。[illegible]取リ[illegible]モチナル。[illegible]「[illegible]設、設況也、[illegible]也、[illegible]比也[illegible]」古事記、上[illegible]設也」[illegible]

内伏ニ河側ハ践射中レ膝」 欽明紀、十五年十二月「雷弓占賓射落」 字津保物語、藤原君、中「イカデ弓、選合ニ催ス」 カ御文ナクテハトテ、御硯紙ナド取リまかなひたり給ヘバ」 (二)轉ジテ、用度ノ物ヲ給グ。宛行フ。專ラ、食事ニモ云フ。(常、賄ノ字ヲ記ス) 支給 供給 「衣類ヲ賄ふ」小遣錢ヲ賄ふ」食事ヲ賄ふ」 (三)〔饗ス〕 馳走ス。源、三十四、上、若菜、上七十四「御加持ハテテマカデヌルニ、御クダモノナド、近クまかなひナシ」

まかなもち (枕) 〔眞鉋持〕 「鉋ヲ以テ木ヲ削ルト云フヨリ、弓削ニ掛ク」 弓削(河内ノ地名)ニ冠ラスル枕詞。萬葉集、七三十八「眞鉋持、弓削ノ河原ノ、ウモレ木ノ、アラハルマジキ、コトトアラナクニ」

まがね (名) 〔眞金〕 「鑛鐵ニ對シテ云フ語ト」 クロガネ。鐵。和泉式部續集「ヘダテテハ、イトド疎クゾ、ナリヌベキ、まがね吹クナル、吉備ノ中山」 永久四年百首、夏、兵衛「時トイヘバ、まがねモ融クル、夏ナレヤ、ナヲチギレカシ、蟬ノ羽衣」

まがねふく (枕) 〔眞金吹〕 〔まがねハ鐵ナリ、其地ニテ、鞴ニテ鐵ヲ、吹キワカチシナラム、備前ニハ、名アル刀工アリキ〕 丹生、皮、吉備ナドニ冠ラスル枕詞。萬葉集、十四三十三「麻可禰布久、丹生ノ眞朱ノ、色ニ出テ、言ハナクノミゾ、我ガ戀フラクハ」 古今集、廿、大歌「まがねふく、吉備ノ中山、帶ニセル、細谷川ノ、音ノサヤケサ」 金葉集、一、春「霞ノ、ナクニツケテヤ、まがねふく、キビノ山人、春ヲシルラン」

まがは (名) 〔目皮〕 マブタ。目ヲオホフ皮。源、七、紅葉賀廿「エナラズエカキタルヲ、ミカヘリタルマミ、イタウ見ノベタレド、まがはハイタク黑ミ、オチイリテ、イミジクハヅレソケタリ」

まがはし (名) 〔紛〕 マガフヤウニナスモノ。マギルルヤウニナスモノ。元眞集「ニホヒヲゾ、ワクベカリケル、梅ガ枝ニ、花まがはしゾ、フレル白雪」

まがは・し シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 〔紛〕 まぎらはし(紛)ニ同ジ。續護集、春「まがはしヤ、花吸フ蜂ノ、往キ返リ」

まがは・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔紛〕 マガフヤウニナス。マギルルヤウニナス。

マカハドマぢごく (名) 〔摩訶鉢特摩地獄〕 〔梵語、Mahāpadma. 大紅蓮華ト譯ス〕 八寒地獄ノ第八。嚴寒逼迫ノタメニ、墮獄ノ身、變ジテ折裂スルコト、恰モ大紅蓮華ノ如ケレバ云フト。俱舎光記、十一「摩訶鉢特摩、此云大紅蓮華、嚴寒逼切、身變折裂、如大紅蓮華」

まがひ (名) 〔紛〕 (一)〔マガフコト。マザリミダルルコト。萬葉集、十五廿七「足曳ノ、山下響ル、モミヂ葉ノ、散リノ麻河比ハ、今日ニモアルカモ」 古今集、二、春、下「コノ里ニ、旅ネシヌベシ、サクラ花、チリノまがひニ、家路ワスレテ」 (二)ヨク似セテアルコト。贋造 (三)其物ノ贋物。「名畫ノまがひ」寶石ノまがひ」 (三)相撲ノ手ノ名。四十八手(投十二、掛十二、捻十二、捩十二)ノ外ニテ、十二種アリ。古今相撲大全、下、末「十二之紛、鴨ノ入首、向附、逆附、鴨ノ羽返、[illegible]、大車、大逆、[illegible]、前後、[illegible]、枕、立眼居眼、猿一飛、夢枕」

まがひ (名) 〔蹟〕 アヤマチ。シクジリ。ツマヅキ。過失。大殿祭祝詞「襁褓クル伴緒ヲ、手ノ蹟、足ノ蹟(古語云二麻我比二)、爲サシメズシテ」(御膳物ヲ、取リハヅシ、アヤマツ如キコト)

まがひもの (名) 〔擬物〕 ニセモノ。擬製セル品物。贋物。略シテ、まがひ。

マカビルサナ (名) 〔摩訶毗盧遮那〕 次條ノ語ニ同ジ。[illegible]、まかびるさな、[illegible]ニミエ、摩訶毗盧遮那トカケリ、大日ノ梵語ナリ。又カノ昭ノ数ヲトレリ」 源、十四、下、[illegible] オハシマス御寺ニモ、まかびるさなノ」

マカビルシャナ (名) 〔摩訶毗盧遮那〕 〔摩訶ハ、梵語、Mahā. 大ト譯ス、毗盧遮那ハ、梵語、Vairocana. 遍一切處ト譯ス、通シテ廣大、遍滿ナル處ノ意〕 佛教ノ語。天台家ニテハ、横ニ十方(東、西、南、北、四維、上下)、縱ニ三世(過去、現在、未來)ニ徹シテ、遍滿セザル處ナキ佛ノ覺體ヲ云フ。コレ佛ノ法身ニ就キテ云ヘルモノナリ。又、其理體ノ常住遍滿ナルヲ指ストゾ。密教派ニテハ大日如來トナス。びるしゃな(毗盧遮那)ノ條ヲモ參見セヨ。法華文句、九「法身如來、名毗盧遮那、此云遍一切處」 大日經疏、一「梵音毗盧遮那者、是日別名、即除暗遍明之義也、云云、世間之日、不可爲喩、但取其少分相似、故加以大名、日摩訶毗盧遮那也」 榮花物語、十八、玉臺「庭ヲワタリテ大御堂ニ參レバ、中臺高クイカメシウオハシマス、摩訶毗盧遮那ト、コレヲナン申ストゾ」

まが・ふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 〔紛混〕 〔目交ふノ義カ〕 (一)分ケ難ク混リ亂ル。入リマジル。字類抄「紛、マカフ、紛、同」 萬葉集、五廿七「梅ノ花、散リ麻我比タル、岡傍ニハ、鶯鳴クモ、春片設ケテ」 (二)或物ガ他ノ物ト見紛フ程ニ似ル。後撰集、十七、雜「菅原ヤ、フシミノクレニ、見渡セバ、霞ニまがふ、ヲハツセノ山」 土佐日記、正月廿二日「浪トノミ、ヒトヘニ聞ケド、色見レバ、雪ト花トニ、まがひヌルカナ」

まが・ふ フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 〔紛〕 (一)混ゼ亂ス。混合シテ、分明ナラザラシム。榮花物語、十六、本雫「花ハ雪、雪ハ花ニゾ、まがヘツル、鶯ダニモ、鳴カヌ谷ニテ」 (二)似ス。摸擬 拾遺集、二、夏「卯ノ花ヲ、散リニシ梅ニ、まがへテヤ、[illegible]」

マカフンダリけ (名) 〔摩訶芬陀利花〕 〔摩訶ハ、梵語、Mahā. 大ト譯ス、芬陀利花ハ、梵語、Puṇḍarīka. 白蓮華ト譯ス〕 蓮華ノ一種。大イナル白蓮華。コノ花、天竺ノ阿耨達池ニ生ジテ、普通ノハナキ故、彼地ニテハ、希有ノ花トナス。[illegible] ニホヒフンフン、分陀利花、まかふんだりけ、[illegible] シナダレテ品品ト、シナヨク鎮ヘ」

まかぶら (名) 〔瞼〕 マナカブラ。マブタ。字類抄「瞼、マカブラ」 倭名抄、二「耳目類 瞼、萬奈加布良」 宇治拾遺、十一、第一條「まかぶら黑ク、鼻ノアザヤカニ高ク赤シ」

まがへ (名) 〔紛〕 (一)マガフルコト。 (二)似スルコト。摸擬

まが・へる (動) 〔紛混〕 まがふ(紛、混、下二段)ノ口語。

まがほ (名) 〔眞顏〕 眞面目ナル顏。マコトラシキ顏ツキ。眞面目 好色、代男、[illegible]「ナルホド、江戸、[illegible]、然ラバ命延ブルト申シタシト、眞顏ニナル」

まがまが・し シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 〔禍事ラシ〕 忌ハシ。忌忌シ。サガナシ。不祥 落窪物語、四「アナまがまがし、ナデフ尼ニカ成リ給フヘキ」 源、二十一、[illegible]「イヨイヨ腹立チテ、まがまがしき事ナードフ[illegible]散ラシ給フ」

マカマンジュシャげ (名) 〔摩訶曼殊沙華〕 〔摩訶ハ、梵語、Mahā. 大ト譯ス、曼殊沙華ハ、梵語、Mañjūṣaka. 赤色の團華ト譯ス、翻譯名義集、三、百華篇「曼殊沙、此云柔軟、又云赤華」〕 四華ノ隨一ニテ、大ナル赤色ノ曼殊沙華。まんぢゅしゃげ(曼殊沙華)ノ條、及、次ノ條ヲ

[illegible]

マカ-マンダラげ (名) 摩訶曼陀羅華 [illegible] Mandārava [illegible] 天ナル白蓮華 [illegible] 見聞スルモノヲシテ、身神ヲ爽快ナラシムト。[illegible] 前條ヲモ參見セヨ [illegible]

まかみ (名) 眞神 狼ノ異名。古ヘハ、狼ノこナッス、虎、[illegible] 云ヘリ。萬葉集、八「大口ノ、眞神ノ原ニ、零ル雪ハ、[illegible]」[illegible]「大口ノ、眞神ノ原ユ、思ヒツツ」

まがみ-ふる (枕) 眞髪觸 〔髮ハ、くし(櫛)ニ觸ルルモノナレバナリ〕 くしト云フ語ニ冠ラスル枕詞。[illegible]

まかん・づ ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ(自動、下二) 罷出 〔まかりいづ(罷出)ノ音便略〕 まかりいづ(罷出)ニ同ジ。

まかん-で (名) 罷出 まかりで(罷出)ノ[illegible] 其條ヲ見ヨ。

まかんむり (名) [illegible] 漢字ノ冠ノ名 [illegible] まだれ(麻垂)ニ同ジ。

まがめ (名) 眞龜 すっぽん(鼈)ノ異稱。[illegible]

まがも (名) 眞鴨 かも(鴨)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

まかやき (名) 陵苕 のうぜんかづら(陵霄花)ノ古名。其條ヲ見ヨ。本草和名、上 [illegible]

まかよ・ふ ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 目耀 目ニカガヤク。ヒカリ目ニウツル。ヒカガヤク。[illegible]集、上、秋「マセナクハ、何ヲシルシニ、思ハマシ、月モまかよふ、白菊ノ花」

まか・らく [illegible] まかる(罷)ノ延 [illegible] 仁紀、五年十月、[illegible] 死 [illegible]

まかり (名) 眼離 〔まゐ(眼居)ニ對ス〕 又、めかれ。眼ヨリ遠ザカルコト。人目ヲハナルルコト。又、眼ヲハナスコト。

まがり (名) 曲 (一)マガルコト。又、折レタル角。(二)手綱ノ眞中。貞丈雜記、十三、馬具之部「手綱ノまがりト云フハ、手綱ノマン中ノ事ナリ、馬ニ手綱ヲエリワクレバ、手綱ノマン中、タワミテマガル故ナリ」太平記、三十一、鎌倉合戰事「手綱ノまがりヲヅント切フレテ」

まがり (名) 糫餅 まがりもちひ(糫餅)ノ略。其條ヲ見ヨ。

まがり (名) 鋺 〔[illegible]漢語抄、四、器[illegible]「鋺、[illegible]」[illegible] 梵語、其音相近、云云、[illegible] 亦似 [illegible]〕 [illegible]

[illegible] ヲ召シケルニ、主殿司、土器ヲタテマツリケレバ、まがりイダシマヰラセ候ハント云フ也」[illegible] 思圓師百首「奥山ノ、荒木ノまがり、ソノママニ、ツケネバ、ハゲイロモナシ」

まかり-あか・る ・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [illegible] 退キ去リテ [illegible] 源、二、帚木「リンジノ祭ノ調楽ニ、夜フケテイミジウミゾレフル夜、コレカレまかりあかるる[illegible]」[illegible] ノカヘリアルジシ侍リケル日、中將ニテマカリテ事終リテ、コレカレまかりあかれけるニ [illegible]

まかり-い・づ ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ(自動、下二) 罷出 (一)退出ス。マカンヅ。萬葉集、七「百磯城ノ、大宮人ノ、退出テ、遊ブ今夜ノ、月ノ清ケサ」竹取物語「オノオノ仰セ承リテ、罷り出ヌ」(二)誤リテ、參上スノ意ニ用ヰル。

まかり-い・る ・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 罷入 〔まかりハ接頭語〕 いる(入)ト云フニ同ジ。源、二十、[illegible]「[illegible] スミテ、ムライナレバ、まかり入りヌトイヒステテ、入リ給ヒヌ」枕草子、一、第四段「タマタマ、コノ道ニまかりいりニケレバ、カウダニワキマヘラレ侍ル」

まかり-い・る ・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(他動、下二) 罷入 前條ノ語ニ同ジ。竹取物語「ハヤキ風フキ、世界クラガリテ、舟ヲフキモテアリク、イヅレノ方トモシラズ、舟ヲ海中ニまかりいれぬベク」

まがり-え (名) 曲江 マガリタル入江。キョクカウ。[illegible] 曲リ江ニ、鵜ノ見エヌ、鵜舟哉」

まがり-がね (名) 曲尺 矩 〔曲鐵ノ義、[illegible]〕 [illegible] ヲ作ルニ用ヰル具、元ハ、方形ノ板ノ [illegible] 常ノ物差ニ枝アルガ如シ、故ニ名 [illegible] 其使用ヲ大匠(ト云フ)算法ノ勾股弦ヲウツシテ盛ル。略シテ、かね。カネジャク。キョクシャク。倭名抄、十五、工匠具「曲尺、麻可利加禰」天治字鏡、十二「(曲)尺、萬加利[illegible]」[illegible] かねト云フベキヲ、略語ニ、かねト云フ也」

まかり-かへ・る ・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 罷歸 退キカヘル。去リカヘル。マカル。[illegible] ボリマカリアリキテ、アシタニマカリイデテ、クラ [illegible] バ」[illegible] ノ日ノツトメテ、まかりかへるトテ」

まかり-こ・す ・ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) 罷越 〔まかりハ接頭語〕 [illegible] 垂仁紀、二年 [illegible]

まがり-ざし (名) 曲尺 まがりがね(曲尺)ニ同ジ。

まがり-ぢゃく (名) 曲尺 まがりがね(曲尺)ニ同ジ。

まかり-ぢ (名) 罷道 〔身まかり道ノ義〕 死ニテ往ク道。冥途ノ道。ヨミヂ。萬葉集、[illegible]「[illegible]」(略解ノ訓) 續紀、三 [illegible] 川瀨ノ道ヲ、見レバサブシモ」

十一、寶龜二年二月「己酉、左大臣正一位藤原朝臣永手[illegible]マカリチ[illegible]」

まかりで（名）[罷出] 音便ニ、まかんで。マカリイヅルコト。マカンヅルコト。退出。まかりいづ（罷出）ノ條ヲモ見ヨ。

まかりとほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[罷通]（まかりハ接頭語）トホル[illegible]トホリ[illegible]

マカリトモ（名）[illegible]マカリトモ[illegible]」

まかりな・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[罷成]（まかりハ接頭語）なる（成）ト云フニ同ジ。宇治拾遺、十二、第十二條「後生ヲダニイ[illegible]ナガカトオホエテ、法師ニまかりならントヒ侍レ[illegible]」

まかりの・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）[罷退]（まかりハ退ク意）のく（退）ト云フニ同ジ。[illegible]スダレヲモチアグルニ、ココロエガタクテ、ナニ物ゾビンナシ、まかりのけトノタマフニ」

まかりのぼ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[罷上]（まかりハ接頭語）のぼる（上）ト云フニ同ジ。[illegible]宮ワタリヨリ、まかりのぼりテ侍リケル人ニ」

まがりのみづ（名）[曲水]（字ノ文字讀）又、めぐりみづ。[illegible]宴）ノ條ヲ見ヨ。吉野詣記（天文、三條西公條）「二月三十日、云云、川ノまがり、曲水ノ興ヲ催スベキ所ノサマ[illegible]花、川ハまがりの、水ニウカヘテ」

まかりはな・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）[illegible]（離）ト云フニ同ジ。

まかりばん（名）[illegible]供御ノ[illegible]具ヲ載セテ下グル盤。

まかりまうし（名）[罷申] 古ヘ、地方官ノ任地ニ赴ク時、參內シテ、御暇ヲ申シ上グルコト。後ニハ、一般ニ、イトマゴヒヲ云フ。字類抄「[illegible]マカリマウシ」[illegible]「サスガニ罷り申し、ハタ聞エ給フ」神皇正統記、六、後醍醐天皇「古キ例ヲタヅネテ、罷マカリマヲシ申ノ儀アリ」

まかりまう・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）[罷申] [illegible]罷申シ請ソ、暇請ヲナス。[illegible]新千載集、七、別[illegible]物ノ使ニ筑紫ヘ行ク、まかりまうさンドテ」[illegible]「御社ノ方ヲ拜ミ給フトテ、神ニまかりまうし給フ」

まかりまちが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）[罷間違]（まかりハ意味ヲ強ムル接頭語）まちがふ（間違）ト云フニ同ジ。

まがりもちひ（名）[糫餅][環餅] 略シテ、[illegible]米、麥粉ナドヲ和シテ固メ、[illegible]ハル如ク、捩チ曲ゲテ、油ニ[illegible]揚ゲタルモノト云フ。字類抄「餲、[illegible]マガリモチヒノ[illegible]五合」[illegible]「[illegible]把、煎、餌、油一合八勺」[illegible]糫餅[illegible]「[illegible]也、加利」[illegible]まがり[illegible]モカハラザリケリ」

まかりよ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[罷寄]（まかりハ接頭語）よる（寄）ト云フニ

同ジ。

まかりわた・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[罷渡]（まかりハ接頭語）わたる（渡）ト云フニ同ジ。古事談、三、亭宅諸道「猶所ㇾ被ㇾ御[illegible]北ヘ[illegible]ケレバ」

まか・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）（負けらるノ約）價ヲ減ラスコト得。減價

まか・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[罷退]（間離る、或ハ、眼離るノ轉カト云フ）（一）[illegible]出ヅ。[illegible]辭 名義抄「退、シリゾク、マカル、辭、マカリマウス」古事記、上、[illegible]萬葉集、三十六長歌「大宮人ノ、退マカリテ出テ、遊ブ船ニハ」同、十八、三十長歌「吾ガ待ツ君ガ、事終ハリ、還リ[illegible]」京ヨリ[illegible]京ヲまかる」（二）轉ジテ、マヰル。ユク。[illegible]往來スノ[illegible]履中紀、五年十月「車持君行ニ於筑紫國ニ而悉校ニ車持部ニ」古今集、十八、雜、下[illegible]集、[illegible]大井川ニ人人まかり[illegible]「秋ノ野ヲ過ギまかりケルニ」（三）ミマカル、死ヌ[illegible]記、上[illegible]（四）[illegible]シテ、意味ナク、敬語トシ、[illegible]ルニ用ヰル。[illegible]竹取物語、下「[illegible]かり宿リテ」ヌベク」「罷り成ラズ」罷り向フ」罷り在ル」

まが・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[曲]（禍マガノ活用）（一）屈ミ撓ム。眞直ナラズ。字類抄「曲、勾、マカル」字鏡、十八「剞、屈曲也、萬加留」[illegible]雜、二「直キ木ニ、曲レル[illegible]ノヲ、毛ヲ吹キ疵ヲ、言フガワリナサ」（二）折ル。[屈折]「路曲る」（三）ユガム。カタムク。[傾斜]「柱曲る」（四）理ニ外ル。ネヂ

ク。[邪] 拾石集、六、下、第九條「人ノ心ノまがれ[illegible]」

まき（名）[任]（まけノ轉）まけ（任）ノ古語。萬葉集、十八、四十長歌「大君ノ、末任ノマニマニ、執トリモチテ持ツカフル國ノ、年ノ内ノ、事結カタネモチ持」

まき（名）[牧]（むまき（牧）ノ約）古ク[illegible]ハ、ムマキ。[illegible]馬、牛、羊[illegible]ヲ放シ飼ヒニスル處。マキバ。ボクヂャウ。夫木抄、三十二、笛「牛ニノリ、牧ノウナヰガ、吹ク笛ハ、深キサトリノ、シルベトゾ聞ク」

まき（[illegible]）[illegible]（一）[illegible]日本[illegible]一ヒトツ」持統御位前紀「語在ニ天命開別天皇紀ニ」（二）[illegible]條「津ノ國ナル下人ノ鰯ノ苞アラマキ苴三ツ、ケサ持テマウ[illegible]一まきなべ[illegible]」

まき（名）[槇][illegible]中女房[illegible]十一日「長橋ヨリあめ粽マイル、云云、大御乳人オキ御ミヤトテ、まき一フタマイル」

まき（名）[illegible]爪木ノ轉」カマギ[illegible]キギ[illegible]モノ。ワリヤ（古ヘ、江戸ニテ、[illegible]ルノ、[illegible]）[illegible]木ナル[illegible]下、[illegible]正月「[illegible]」

まき（名）[illegible]檜ヒノキ[illegible]貞メ[illegible]建[illegible]ノ[illegible]檜ノ異名[illegible]長歌「コモリクノ、[illegible]山ハ、眞木立ツ、荒山道ヲ」同、三四十八長歌「ココトハ聞ケド、眞木ノ葉ヤ、シゲミタルラム」同、六四十長歌「長柄ノ宮ニ、眞木柱、太高敷キテ、食國ヲ、ヲサメタマヘバ」

まき（名）[眞木][槙] [illegible]木ノ約、[illegible]ハ良木ノ合字、[illegible]ノママ[illegible]用ヰル意ナラム、或ハ埋木ノ約轉ト云フハ、イカガ、一說ニ、槙ハ杉ノ一名ト、古書ノ

[illegible]

ノ材トスルニ云フ）和漢三才圖會、八十二、香木類「[illegible]、良板、和名末木、俗云、久佐末木、別有二二種一[illegible]」

ナル。ラカンマキ。イヌマキ。クサマ

[illegible]

まぎ（名）【間木】上長押ノ上ナドニ設ケタル棚ノ如キモノ。宇治拾遺、二、第五條「二[illegible]」

[illegible]、一、王道后宮「ソノまきナルモノヲトレトミテ、[illegible]」

[illegible]

[illegible]

夜寝多ク出デ來ケルヲ、云云、折櫃一合ニ入レテ、前[illegible]

三年正月一日「[illegible]小兒[illegible]合ニ[illegible]餅ハ云云、取ニ[illegible]」下[illegible]

[illegible]

ま・ぎ（動）【覓】まぐ（覓）ノ條ヲ見ヨ。

まぎあ・ぐ・ゲル・グレ・[illegible]（下二）【捲上】（一）捲キテ上グ。玉葉集、廿、神祇[illegible]

[illegible]

✣まきあ・げる（動）【捲上】前條ノ口語。

まきあみ（名）【捲網】ちびき（地引）ニ同

[illegible]

まきいし（名）[illegible]

ノ[illegible]

[illegible]ズ、ココニ[illegible]」

まきいた（名）[illegible]巻キテ展ブル板。字類抄「[illegible]、マキイタ、[illegible]」

まきえ（名）【[illegible]】（一）[illegible]ノ義〕マブシキコト。マバユキコト。

まきえい（名）【[illegible]】[illegible]えい（[illegible]）ノ條ヲ見

[illegible]

まきおとし（名）【[illegible]】相撲ノ[illegible]、相手ノ[illegible]込ミ、[illegible]テ、押ト見セテ、相手ノ押シ返ス[illegible]、巻キ[illegible]落スコト。

[illegible]

まきかは（名）【[illegible]】堤防ノ具。石[illegible]殘ラズ蛇籠ニテ包ミタルモノ。（石出トハ、石川ノ荒川ニ仕立ツル水刎ニテ、大石[illegible]）

[illegible]

不レ殘包ムモアリ、大石無レ之所ハ、[illegible]出シニ致ス」

まきがみ（名）【巻髪】（一）頭髪ヲ束ネテ、グルグルト巻クコト。又、ソノ巻キタ[illegible]（二）[illegible]結ブコト。

[illegible]

まきがみ[illegible]

[illegible]

まきがり（名）【[illegible]】[illegible]ヲ中ニ圍ミテ狩リ捕ルコト。[illegible]

[illegible]

まきぎぬ（名）[illegible]反物。コレヲ賜ハリタルモノ、腰ニ指挾ムヨリ[illegible]トモ云フ。

[illegible]

色紙）二「[illegible]トハ、巻絹ノコトナリ」

まき-くさ（名）【地膚】はうきぐさ（帚草）ノ古名。[illegible]

ヲモ見ヨ。[illegible]

[illegible]

まきぐるま（名）【[illegible]】[illegible]ち（車地）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。慶長見聞集（慶長、三浦茂信）一「[illegible]久、海底ニアル貝ヲトラント[illegible]ヘナロシ、[illegible]ニまき[illegible]モロモロノ貝[illegible]」

まきけん（名）[illegible]

まき-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動）[illegible]（一）マキテ中ニ入ル。好色五人女（貞享、西[illegible]）[illegible]共仲間ニ引キ入ル。誘ヒ入ル。

[illegible]

まきごめ（名）【[illegible]】[illegible]「イヨイヨ出家衆ト示シ合ハセ、[illegible]ノ兵[illegible]、蒔米ヲ[illegible]」

まき[illegible]（[illegible]巻物）ニ同ジ。

まきさく（名）【眞木柝】（眞木ハ檜ナリ、村取リスルコト」ひ（檜）ト云フ語ニ冠[illegible]

[illegible]

シ、イキヅキノ宮、眞木佐久、檜ノ御門」[illegible]年六月「[illegible]佐久、檜ノ板戸ヲ、押開キ」

まきざし（名）[illegible]盛リタルモノ。地ノ測量ナドニ用ヰ、引[illegible]

まき-じた（名）【巻舌】（一）舌ヲ巻クヤウニシテ、モノヲ言フコト。又、其言ヒブリ。[illegible]ニナルダラウ、商人ニハ巻舌デムカズ」（二）きりこうじやう（切口上）ニ同ジ。[illegible]羽子板（寶永、近松作）上「[illegible]御所ニテノ御祝儀ハ、

[illegible]

まきじゃく（名）[illegible]

まき-するめ（名）【巻鯣】鯣ヲ巻キテ輪切リニシ、渦ノ如クシタルモノ。好色二代男（貞享、西鶴）一「巻するめ、カラスミナドヤウノモノ」

まきせん（名）[illegible]

[illegible]リ。多クハ鳩ノ目錢ヲ用ヰタリ。

まき-ぞへ（名）【巻添】（一）他ノ罪ニ連レアヒ。連坐。連累。「まきぞへヲ喰フ」（二）[illegible]

品ノ不足分。質種ノタシマヘ。傾城反魂香[illegible]「ナイトシヤ[illegible]シテ下サンセ、まきぞヘガ入ルナラバ、私ガ繻子ノ帶モアル、八丈ノ袷モゴザンスト」

まき-ぞめ（名）〔卷染〕 しぼりぞめノ類。[illegible]布帛ヲ卷キテ染メタルモノ[illegible]第三段「スソゴ、ハラゴ、まきぞめナド、ツキコリモフカシウ見ユ」[illegible]レバ、紫ノ、まきぞめ[illegible]ル、[illegible]ソ見レ」

まき-た（名）〔眞北〕 ホンノキタ。マコトノキタ。子ノ方。正北。

まき-た（名）〔蒔田〕 籾種ヲ苗代ニ蒔ク[illegible]ク、直チニ田ニ蒔キ作ルコト。又、其田。ミマキノ田。ツブマキノ田。地方凡例[illegible]蒔田[illegible]田之[illegible]ニモ非ス、[illegible]云、植田ハ、苗代ニ仕立タル苗ヲ植ル田ニ而、通例ナリ、蒔田ハ苗ニ而ハ不植、籾種ヲ苗代ニ蒔如ク、植田ニ直ニ蒔付レ田ヲ云」

まき-だち（名）〔蒔太刀〕 〔蒔繪太刀ノ中略〕蒔繪ヲ施シタル太刀。マキケン。

まき-タバコ（名）〔卷烟草〕 烟草ノ乾葉ヲ、細長ク卷キ固メタルモノ。一端ニ火ヲ[illegible]、一端ヨリ吸フ。刻烟[illegible]、又、刻メル烟草ヲ、細長ク紙ニ卷キテ用ヰルヲ、紙卷烟草、又、單ニ卷烟草ト云フ。

まき-だる（名）〔卷樽〕 繩ニテ卷キタル樽。松屋筆記、九十四、第五十五條「卷樽、[illegible]世ノ鏡卷樽ハ古代ノ卷樽也、室町殿日記、三卷（二丁ウ）、義詮公被任征夷將軍、條ニ、若州武田殿ヨリ五種ノ御肴、卷樽一荷、三好筑前守ヨリモ右ノ如ク、云云、又（五丁オ）、義昭公若君御誕生ノ條、云云、御祝[illegible]、[illegible]ノ[illegible]上候、云云」

まき-ちく（名）〔卷軸〕 まきもの（卷物）ニ同ジ。其條ノ（一）ヲ見ヨ。

まき-ちら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔撒散〕 撒キテ散ラス。ヤチコチト投ゲ散ラス。[illegible]

まき-つ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）〔蒔付〕 田畠ナドニ、[illegible]ヲ蒔キツク。[illegible]ヲ打チケルニ、對手ノクセ者、石ヲまきちらす」

まき-づけ（名）〔卷漬〕 漬物ノ一種。下ノ[illegible]出典[illegible]四[illegible]ヨリ[illegible]、生姜ヲホソ引キ、キリキリトマキ、輪トウガラシヲ[illegible]二[illegible]」

まき-なほ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔蒔直〕（一）種ナドヲ、更ニ蒔ク。改メテ蒔ク。（二）ヤリナホス。改メテスル。

まき-ぬ・ぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ（自動、下二）〔纏寢〕 手ヲ互[illegible]纏ヒテ寢ル。[illegible]四ノ「現ニハ、更ニモイハズ、夢谷、妹ガ袂ヲ、纏宿トシ見バ」

まきの-たつ（枕）〔眞木立〕 （眞木ハ檜ナリ）荒山ト云フ語ノ枕詞。又、まきた[illegible]ノ[illegible]八、神ニシマセバ、眞木之立、荒山中ニモ[illegible]同、一[illegible]ロノ、泊瀬ノ山ハ、眞木立、荒山道ヲ、石ガ根ノ、シモト押シナベ、坂鳥ノ、朝越エマシテ」

まき-ば（名）〔卷葉〕 芭蕉、蓮ナドノ葉ノ初生ノ、卷キテ未ダ開カヌモノ、捲荷[illegible]まき葉ヨリ、風ヲアマシテ、ハセヲ哉」

まき-ば（名）〔牧場〕 牛、馬、羊ナドノ家畜ヲ、放シ飼ニスル場所。マキ。牧場。

まき-ば（名）〔眞際〕 正ニ其事ニ臨ム際。サシセマリタルキハ。

まき-ばしら（名）〔眞木柱〕 〔まき（眞木）ノ條ヲ見ヨ〕 眞木ノハシラ。檜ノ柱。又、一說ニ、杉ノ柱。訛シテ、まけばしら[illegible]メニ、借屋ノタメト、造リケメヤモ」

まき-ばしら（名）〔卷柱〕 柱ニ珍寶ヲ卷キタルモノ。[illegible]柱ハ、[illegible]卷柱ト云ヒ[illegible]蒔繪ヲハメ、其間、三段ニハ、[illegible]ニ一體ヅツ合ハセテ十二體ノ、胎藏界ノ大日如來ノ像ヲ、[illegible]ニテエガケリ、[illegible]像一ハ、皆金銅[illegible]

まき-ばしら（枕）〔眞木柱〕 眞木柱[illegible]意ニテ、太トイフ語[illegible]枕詞[illegible]「眞木柱、太キ心ハ、アリシカド、此吾ガ心、鎭メカネツモ」

まき-はだ（名）〔槇皮〕 まいはだ（槇皮）ニ同ジ。

まき-びん（名）〔卷鬢〕 昔、男子ノ髮風。文金ナドニ、[illegible]鬢ノ毛ヲ上ニ、[illegible]、月代ノ際ニテ卷キコミテ、結ヒタルモノ。[illegible]

まき-ふう（名）〔卷封〕 書狀ノ紙ヲ卷キテ、紙ノ端ヲ裏ヘ折返シ、[illegible]テ封ズルモノ。封筒ヲ用ヰズ。

まき-ぶえ（名）〔牧笛〕 又、ぼくてき。うまかひぶえ（牛飼笛）ノ條ヲ見ヨ。

まき-ぶみ（名）〔卷文〕 まきもの（卷物）ノ條ノ（二）ニ同ジ。

まき-ほぐ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔卷解〕 城ヲ取リマキテ攻ムルニ、落チザルトキ、其軍ヲ解キ退ク。甲陽軍鑑、十二、品第三十九「信長ハ、マキタル城ヲまきほぐし、味方ヲ捨、退口アラキ事數度有」

まき-ほん（名）〔卷本〕 [illegible]

まき-め（名）〔卷目〕 モノノ卷キヲハリタル[illegible]

まき-もの（名）〔卷物〕（一）紙ニ、文字、又ハ、[illegible]、[illegible]枚モ[illegible]合ハセ、[illegible]、卷キ收ムルヤウニシタルモノ。マキヂク。マキブミ。横卷。卷軸[illegible]「横卷、マキフミ、マキモノ」平治物語、一、信頼信西不快事「[illegible]ニ書イテ、卷物三卷ヲ作リテ、院ヘ進ラセケレドモ」（二）段物ヲ[illegible]、輻ニ卷キタルモノ[illegible]也

まき-もめん（名）〔卷木綿〕 [illegible]布ヲ、傷處ニ卷キックルニ用ヰルニ云フ語。

ま-ぎゃう（名）〔末行〕 五十音圖ノ第七ノ行〔卷〕ノ、ま、み、む、め、も、ノ五音ノ稱。

ま-ぎ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ（自動、下二）〔眩〕 〔目消ゆノ義〕 目クルメク。マバユク感ズ。[illegible]「乃[illegible]」[illegible]

まぎら（名）〔紛〕 〔まぎらかし（紛）ノ下略〕 次條ノ語ニ同ジ。

まぎらかし（名）〔紛〕 紛ラシテ、まぎら。マギラカスコト。ゴマカスコト。

まぎらか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔紛〕 又、まぎらす。まぎらはす（紛）ニ同ジ。中[illegible]（文明）四「呂不韋カ我ガ罪ヲ まぎらかさウ

[illegible]ルヲ、取リ出デタルトテ、云云」

まぎら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［紛］ まぎ[illegible]

まぎらはし（名）［紛］ マギラハスコト。[illegible]

マギルルヤウニナスコト。源、四十一、幻「[例]ノまぎらはしニハ、御手水メシテ行ヒ給フ」同、五十三、夢浮橋「涙ノ落ツルヲ、ハヅカシト思ヒテ、まぎらはしニ、ヲヲトアララカニ聞エ居タリ」

まぎらは・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）

着明［目霧しノ義］ マパユシ。光ニ[illegible]

[illegible]波之モナ、在リツツ見レバ」

まぎらは・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）

［紛］ マギルベクアリ。マガヒヤスシ。

[illegible]ノ、常ニマウデ来レバ、物入レツツ参ラスルヲ、ケフ[illegible]

（多忙ニテ、まぎらはしきナリ）

まぎらは・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［紛］ マギルルヤウニナス。マギラカス。マギラス。マガハス。源、四十一、幻[illegible]セメテ、まぎらはしクマヘリシ程ノヨウイナドヲ」枕草子、四、第四十三段「臺盤ノ上ニ、アヤシキメノアリシヲ、タダ取リニトリテ、食ヒまぎらはしシカバ」

マキリ（名）［蝦夷語］ 短刀ノ如キ形シタル小刀。

まぎり（名）［間切］ モト琉球ニテ、土地ノ區別ノ稱。內地ノ郷ノ如ク、數村ヲ[illegible]ナゴガヒハウ 中頭方、[illegible]

まぎりガハラ（名）［間切骨］ 「かはら」ハ骨、膝骨ノ如シ） 大船ノ底ノ[illegible]

[illegible]

ハ關ナリ、支體ニ法ル、觜トモ云、云云、かはらト云コト、和語ニテ呼來ルコト久シ、平家物語ニ、フタツかはら三ツ棟ツクリタル舟ニノリ、トアルハ、[illegible]かはら、舳かはらノ二ツかはらナルベシ、明律考、龍[illegible]

まぎ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［間切］（一）又、舟子ノ語。波間ヲ切リテ行ク。（二）側面ヨリ吹キ來ル風ヲ、斜ニ帆ニ受ケ[illegible]

まぎ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［紛］ [illegible]「見分ケ難[illegible]クアリ。マガフ。マグル。源、廿三、初音「[illegible]ヤカナル」[illegible]二」（二）マサル。混ズ。[illegible]色「藏人、餘リノ嬉シサニ、夢ウツツトモ覺エズ、アヤシマレジト思ヒテ、人ニ紛れテ見ケレバ」「夜ニまぎるる」（三）[illegible]一、[illegible]少シウチまぎるる事モヤ[illegible]チスグス月日ニソヘテ」「心、遊ビニ紛る」

まぎれ（名）［紛］（一）マギルルコト。[illegible]ドシゲナルまぎれニ、香ガ車ニテキテ挙ル」（二）混雜スルコト。繁忙ナルコト。[illegible]

まぎれあたり（名）［紛中］ [illegible]（紛中）ニ同ジ。

まぎれ・あり・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［紛］[illegible]

[illegible]ヲ、モノ怨ジヲ、イタクシ侍シカバ」

まぎれ・ざいはひ（名）［紛幸］ まぐれざい[illegible]

まぎれ・どころ（名）［紛所］ マギルルヤウナルトコロ。源、七、紅葉賀「アサマシキマデ、[illegible]」

まぎ・れる（動）［紛］ まぎる（紛）ノ口語。

まき・わら（名）[illegible]

把[illegible]

黄、マキワラ（俗字）」弓術要覽、二「古流ニイヘルツクラノ法ハ、今世ニ所謂卷藁ノ事也、編案ニハ、是[illegible]キハメ、曲直推挽ノ法ヲ正シ、トクト射前ヲ定ル、是ヲ常流ニテハ、內數ト號シ、卷藁前トモイフナリ」

まき・わり（名）［薪割］ 薪ヲ割ルコト。又、ソレニ用キル刃物。劈柴

まき・ゑ（名）［蒔繪］ [illegible]トモ見エ[illegible]リ」 [illegible]ル技。又、ソノ繪。器ノ面ニ、先ヅ漆ニテ畫ヲカキ、其漆ノ乾カヌ間ニ、金銀ノ粉ヲ蒔キツケ、後[illegible]テ光ヲ生ゼシム[illegible]ヒ[illegible]又、[illegible]作ルヲ、たか蒔繪トイヒ、器[illegible]ド、種種ノ稱アリ。各條ニ註ス。竹取物語「ウルハシキ屋ヲツクリテ、漆ヲ塗リ、まきゑシ給ヒテ、屋ノ上ニハ、イトヲソメテ、云云」（類從本）

[illegible]

[illegible]御太刀ノ鞘ノ、[illegible]ヲ塗リテ、研ギダシニスルモノナリ」

まき・ゑ（名）［撒餌］ 鳥、又ハ、魚ナドヲ集[illegible]

まく（名）［膜］ 古名、タナシシ。今、又、ウスカハ。動植物ノ體中ニアル皮ノ如ク薄クシテ、[illegible]

まく（名）［幕］（一）［軍營ナドニテ、傍ニ張リワタシテ、屏障トスルモノ。布ヲ縫ヒ合ハセテ作ル。左傳、莊公廿八年「楚師夜遁、鄭人將奔桐丘、諜告曰、楚幕有烏、乃止」[illegible]

[illegible]致」 蜻蛉日記、中、中ニ走井ニテワリゴナドモノストテ、まく引キマハシテ」（二）芝居ナドノ舞臺[illegible]引キ[illegible]（三）[illegible]テ、演戲ノ一段落ノ稱。轉ジテ、場面、又ハ、場所。「自分ノ出ル幕デナイ」

ま・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［罷］ マカリ來[illegible]

ま・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［卷］［圓ク轉ハキ、マガナシキ、セロガ馬從コム、ツクノ知ラナク」[illegible]

[illegible]作日記「頼ノレヒノ御[illegible]アゲテ」「[illegible]ヲ巻く」[illegible]物ヲ巻ク」(二)「マトノ[illegible]カラミツクル。絡。纏。萬葉集、十七三十長歌「アリソノサキニ、オキツナミ、ヨセ[illegible]、カヅラニ作リ、[illegible]ダメ、手ニ[illegible]モチテ」(三)[illegible]ヲ巻キテ引キ上グ。「[illegible]ヲ巻く」「[illegible]ヲ巻く」

〔ま・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四)〔枕〕〔纏く意、まくらト云フ語モ、頭ヲ纏ク物ナレバ云フナラム〕(一)枕トス。マクラス。マクラク。古事記、中(應神)七十「[illegible]」萬[illegible]三「[illegible]ナラバ、妹ガ手[illegible]、草枕、旅ニコヤセル、コノ旅人アハレ」同、十二九「世ノ中ニ、戀シゲケムト、思ハネバ、君ガ袂ヲ、不レ枕夜モアリキ」同、七廿「兒等ガ手ヲ、巻向山ハ、常ナレド、過ギニシ人ニ、行キ[illegible]ヤモ」古[illegible]、上[illegible]「玉手[illegible]、[illegible]長ニ、寢ハ[illegible]サムヲ」萬葉集、二四十「沖津浪、來[illegible]磯ヲ、敷妙ノ、枕ト巻テ、寢セル君カモ」(二)轉ジテ、同衾セシム。添寢ス。犯ス。(手ヲ巻ク、袖ヲ巻クヨリ、言くノミニテ纏キ寢トナリ、娶ノコトニナリ、遂ニ交合トナル)宇治拾遺、九、[illegible]法師[illegible]、云云、[illegible]怒ラシテ、人ノ妻まく者アリ、云云、佛師ハ必ズ人ノ妻ヤまきケル」[illegible]集、廿、長歌「若草ノ、[illegible]ヲモ[illegible]可ズ」同、九四長歌[illegible]ノ、[illegible]ヲ巻カムト」

〔ま・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四)〔任〕任命ス。任ズ。萬葉集、十八廿九長歌「大君ノ、遠ノミカドト、末伎タマフ、官ノマニマ、ミ雪フル、越ニクダリキ」

ま・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四)〔蒔〕(一)散ラシ植ウ。種ヲオロシスル。播種。古事記、下(仁徳)四「山カタニ、麻都ル菁菜モ、キビ人ト、共ニシ摘メバ、タヌシクモアルカ」古今集、十七、雜、上「梓弓、イソベノ小松、タガ世ニカ、萬代カネテ、種ヲまきケン」(二)散ラシ掛ク。振リ注グ。ハララカス。撒。「水ヲ蒔く」「砂ヲ蒔く」(三)蒔繪ヲナス。[illegible]御抄、上、朝[illegible]「凡御調度等、近代蒔繪[illegible]」榮花物語、廿七、衣珠「御厨子ドモノ蒔繪ニハ、ミナホフモンヲまかせ給ヘリ」小右記

「[illegible]一雙、硯筥等蒔了」(四)道遠ノ人ヲ、ハグルルヤウニス。撒。色道大鑑(延寶、箕山)四、態藝門「まく、イヤナル者ヲ、ソレト言ハズニ其座ヲ立タセ、又、來ベキ者ヲ、來ヌヤウニシカケ[illegible]ヲイフ一[illegible](近松作)上「下下ノ奴、[illegible]メラカ見付ケウカト、馬ニ乘ル心モセズ」「附馬ヲまく」

ま・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二)〔負〕(閉ヲ讓ル意)(一)〔力、敵セズ。敗ル。勝ノ[illegible]。敗北ス。土佐日記、正月四日「ニギハハシキヤウナレド、まくる心チス」源、十、榊四十「ツヰニ、右まけニケリ」(前フタギ)蜻蛉日記、中、上廿「アリシ流ベヲ思ヒ出ヅル心地ノ、シノヒガタキニまけテ」(二)カノ[illegible]「[illegible]ニ負く」

ま・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二)〔負ケサスル意カ〕商ニ、價ヲ減ラス。直段ヲ引ク。[illegible]カス。マケサス。減價。[illegible]一文[illegible]ニテ、カネノ[illegible]メント[illegible]スルニ、代銀三十目ニ少シ輕シ、まけマジキ由云ヘレバ[illegible]、近松作[illegible]「[illegible]子カ御用ニ候ハバ、オまけ申サン、召シマセイ」

〔ま・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二)〔罷〕マカリ去ラシム。神代紀、下[illegible]、不[illegible]御而罷」

〔ま・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二)〔罷らす、ノ約ト云フ〕(一)鄙ノ官ニ任ジテ往カシム。萬葉集、[illegible]長歌「マツロハヌ、國ヲ治メト、皇子ナガラ、任賜、マケタマヘバ」[illegible](鮮ノ訓、古義ハ、マキタマヘバ)大御身ニ、大刀取帶バシ」續紀、[illegible](文[illegible])元年八月、詔「四方食國乎治奉止、任賜[illegible]國司等」(二)マカス。ユダヌ。命ジテ受持タシム。萬葉集、十九四十長歌「[illegible]シ賜久、心[illegible]ズ、高橋氏文「子孫等ヲバ、云云、[illegible]長トモ定メテ、餘氏ハ萬介タマハデ、治メタマハム」

〔ま・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二)〔設〕(一)豫メ用意ス。先キダチテ設ケオキテ待ツ。今、延ベテ、まうく。古事記、上

〔まく(助動)〕未來ノ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、むノ延、萬葉集、十七[illegible]長歌「[illegible]」同、十[illegible]長[illegible]「[illegible]ノ長月ノ[illegible]」又、其副詞形ノ如クモ用ヰル。まト云フニ同ジ。(或ハ、ましノ副詞形カトモ云ツ)萬葉集、二十[illegible]「[illegible]ヒレノ、カケ[illegible]」名ヲ、此ノ[illegible]ノ山[illegible]、[illegible]バイクニアラム」古[illegible]十三、戀、三「イタヅラニ、行キテハキヌル、物故ニ、見まくホシサニ、イザナハレツツ」同、十[illegible]「思フドチ、マトヰセル夜ハ、唐錦、斷タまく惜シキ、物ニゾアリケル」續後撰集、二、春、中「住ム人モ、アハレ[illegible]、[illegible]ノ、[illegible]ノ色カナ」

〔ま・ぐ・ゲ・ケ・カ・ギ・ゲ(他動、四)〔覓求〕〔目ノ活用、香ぐ、[illegible]ト同趣〕モトム。タヅヌ。神代紀、下[illegible]「[illegible]」古事記、上[illegible]「[illegible]」同、中十「更求下將二大后二之美人上」神代紀、下[illegible]「覓[illegible]國行去」[illegible]

〔ま・ぐ・ゲ・ケ・カ・ギ・ケ(他動、四)[illegible]〔女ニ遇合フ。婚ス。クナグ。クナガヒス。マグハヒス。ツママギス。ツマドヒス。サコバヒス。ヨバフ。字鏡[illegible]「婚、メマク」名義抄[illegible]「婚、メマグ、マグ」字[illegible]「婚[illegible]、[illegible]、マグ」[illegible]廿五[illegible]「[illegible]」

ま・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下二)〔曲〕〔巻くニ通ズ〕(一)マガルヤウニナス。折リ屈ム。撓ムル。マゲル。(二)理ヲ非ニス。枉。(三)〔抑ヘツク[illegible]〕源、一、桐壺四十「世ニイササカモ、人ノ心ヲまげタルコトハ、アラジト思フヲ、タダコノ人ユヘニテ」

まく-あき(名)〔幕開〕(一)[illegible]、演戲ノ始マルコト。(二)事ヲ、ナシ始ムルコト。[illegible](寛[illegible])[illegible]あきニ出ヅルモノハ、三十アマリノ男」

まく-あひ(名)〔幕間〕芝居ニテ、一狂言ノ終ハリテ、次ノ狂言ニ移ルマデノ間ノ稱。前ノ幕ト次ノ幕トノ間。

まく-うち(名)〔幕内〕〔幕下ニ對ス〕又、まくのうち。すまふ(相撲)ノ條ヲ見ヨ。

〔まく-かた(名)〕潮ヲ撤ク干潟。齋宮女御集「[illegible]かたニ、海人ノカトツム、[illegible]草、[illegible]ハイカニ、立ツヤ立タズヤ」(倭訓栞)

まく-ぎは(名)〔幕際〕(一)[illegible]ノ[illegible]際ニテ、[illegible]ム[illegible]ノ[illegible]、即チ、[illegible]間ノ[illegible]ノ[illegible]、[illegible]五尺[illegible]、[illegible]キ上[illegible]ホ[illegible]ツ[illegible](二)[illegible]シテ、[illegible](寛[illegible])ノ[illegible]、[illegible]八、[illegible]門、[illegible]大夫[illegible]之[illegible]、[illegible]

まく-ぎれ(名)〔幕切〕芝居ノ演戲ノ終ハリテ、幕トナルコト。マクギリ。

〔まく-ぐし(名)〕〔幕串〕幕ヲ張ルタメニ立ツル棒。略シテ、くし(串)。應仁私記「於[illegible]武具、[illegible]幕串」[illegible]百四十一[illegible]あげば、り「幕串ノ長サ一丈五寸、サキハキリコ、ヒヂハ一尺サゲテ打ツ、地ヘハ一尺計、數一條ニ六本」堀河波鼓(寶永、近松作)中[illegible]ヨト物シリモ、知ラヌモナヘ[illegible]行列ニ、[illegible]、幕串、挾箱」

〔まく-おとば(名)〕〔幕詞〕古ヘ、幕ヲ張ルトキ、種種ノ場合ニ因リテ、言ヒ別クル詞。卽チ、味方ノハ打つ、敵ノハ引く、船ニハ走らかす、座敷ナドニハ圍ふ、葬

[illegible]ト云ヒ、[illegible]ノ[illegible]ニ [illegible]

まくさ (名) 眞草 〔專ラ屋ヲ葺クニ用[illegible]〕[illegible]

まぐさ (名) 楣 〔兩刻ノ轉、屋ノ前後ノ限ノ意ト云フ、楣ハ、人ノ眉ノ所ニアタル〕家ノ入口、又ハ、門戶ノ上ノ横ノ梁。今モ、工匠ノ語ニ、入口ナルニ云フ。[illegible]

まぐさ (名) 秣 [illegible] 馬、牛、ノ食トスル枯草[illegible] [illegible]

まぐさか・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 〔秣飼〕 〔秣養ふノ意〕 秣ヲ食マシメ養フ。字鏡[illegible]上、下[illegible]云云、アヅカリドモイテ、まぐさかはス」雄略紀、九年七月「伯孫得駿、其歓、躁而入廄、解鞍秣」馬、云云」

まぐさむし (名) [illegible] 蚊蟲ノ異名。まひまひむし (舞舞蟲) ノ條ヲ見ヨ。字[illegible]、マグサムシ、マクサムシ、マクナキ」

まくす (名) [illegible] 蝶子ニ同ジ。重修本草綱目啓蒙、廿八、化生蟲類「蝶子ハ、ぶと、[illegible]

まぐし (名) 眞櫛 〔まハ發語〕 くし (櫛) ニ同ジ。[illegible]

まくしあ・げる (動) 捲上 カカゲル。上ノ方ヘ引キアゲル。カキアゲル。

まくした [illegible] [illegible] ヲ見ヨ。

まくしだ・す [illegible] 作)上「春ハ早早、まくし出しヤ、アノヤウナ婿ナラ、[illegible] テ退ケタガ」

まくした・てる (動) [illegible] 烈シク竝ベ立テル。又、續ケサマニ言ヒ立テル。

まくず (名) 眞葛 〔まハ發語〕 くず (葛) ニ同ジ。[illegible]

まくずはら (名) [illegible] [illegible] ユキハバカル、麻柜儒搖稚、何ノツテゴト、タダニシ [illegible] トニ、アダノ大野ノ、ハギガ花チル」

まくそ (名) 眵 〔目屎ノ義〕 又、めあか。メクソ。めやに (眵) ノ條ヲ見ヨ。[illegible]眵、マクソ、メクソ、クヌレメ[illegible]

まぐそ (名) 馬糞 ウマノクソ。バフン。[illegible]

まぐそがみ (名) 馬糞紙 ばふんし (馬糞紙) ニ同ジ。

まぐそだか (名) [illegible] 鷹ノ一種。古名、クソトビ。今、又、マグソトビ。チャウゲンボウ[illegible]

まぐそこび [illegible]ジ。

まくだり (名) 眞下 (一) 京都ニテ、[illegible] (二) 高キ所ヨリ、眞直ニ下[illegible]タリケル」[illegible]モコハ言葉カハラザリケリトテ、長刀ウチフリ、まくだりニヲメイテカカル」

まぐち (名) 間口 家、地面ナドノ前面ノ[illegible]間口千金ノ、通リ町」

マ・くつ (名) 魔窟 (一) 惡魔ノ住ムト云ノ[illegible]

まくなぎ (名) 瞬 〔目搖ノ義〕 くなぐ (搖) ノ條ヲ見ヨ〕 (一) マタタキ。メバタキ。メクバセ。源、十三、明石「アイナク、人知レヌ物思ヒサメヌル心チシテ、まくなぎ作ラセテ、[illegible]」 (二) [illegible] 蚋ノ異名。まひまひむし (舞舞蟲) ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

まくなし (名) [illegible] ヲ見ヨ」 絕間ナキコト。ヒッキリナキコト。「ノベツ幕無し」

マグネシア (名) [illegible] 苦土。酸化まぐねしうむ。

マグネシウム (名) 〔英語、[illegible]〕 金屬元素ノ一。[illegible]

マグネット (名) 〔英語、Magnet.〕 [illegible] ヲ見ヨ。

[illegible]スルナド二用ヰラル。

まくのうち (名) 幕內 [illegible] 二控フルヨリ起ル。相撲ノ座席ノ上段[illegible]モノ。以下ナルヲ幕下ト云フ。但シ、二[illegible]ノハ、幕內ニ進ミ入ル。すまふ (相撲) ノ條ヲモ見ヨ。(二) [illegible] ルト。一說ニ、小サキ握飯ニテ、小結ハ相撲ニテ幕ノ內ナレバ云フト、イカガ)

まくのみ (辭) 言辭ノ終リニ云フ語。字類抄「耳、マクノミ」 名義抄「而已、耳、マクノミ、ナラクノミ」

まぐは (名) 馬鍬 古ク、うまぐは。水田ノ[illegible] 尺、廣サ四尺許リ、上ニ柄アリ、下ニ齒アリ、牛馬ニ牽カシメテ用ヰル。馬杷 [illegible] 名義抄「馬杷、ウマクハ」 [illegible]七、器財門「方杷、マグハ (農具)」

まくはうり (名) [illegible]

郡、眞桑村ノ產ヲ賞セシヨリ名トス、彼ニ、京都、東寺ノ邊ニ移植セ[illegible]、本名アマウリ、又、アヂウリ。[illegible]ノ名。春、種ヲ下ス。葉ノ大キサ數寸、夏、黃花ヲ開ク。瓜ハ秋ニ熟ス、長サ四五寸、徑三寸許ノ、[illegible]、稍、細ソシ。熟スレバ、黃ニシテ細ソキ綠道アリテ、光澤アリ、味甘シ。[illegible]、又、[illegible] ミヤコウリ。甜瓜 御湯殿の上の日記、天正[illegible]年六月廿九日「信長ヨリ[illegible]まくはト申ス名所ノうりトテ[illegible]進上」俳家奇人談「眞桑瓜、サレバ思ヘバ、年一夜」

まぐは・し・シキ・シク・シケレ・シク・シク(形、二) 【眼妙】【目微】〔旨細し、ノ約、或ハ、目ニ細し、ノ意カ〕 ウツクシ。ウルハシ。見ルコト美シ。キラビヤカナリ。【美妙】 神代紀、下「從ニ天降ニ者、[illegible]」 萬葉集、十三長歌「朝日如ス、日細モ、夕日如ス、心細モ」同、十四「[illegible]、シモツクス、ミカモノ山ノ、コナラノス、[illegible]思兒呂ハ、誰ガ笥カ持タム」

まぐはひ (名) 【目合】〔目交合ノ約ト云フ〕(一)愛デテ目ヲ見合ハスルコト。男女互ニ思フコトヲ交スコト。メビキ。メクバセ。 古事記、上三十五「須佐能男命、云云、須勢理毘賣、出見、爲ニ目合ニ而相婚」同、同六十七「豐玉毘賣命、思ニ奇出見、乃見感目合[illegible]、白其父、曰、云云」(二)轉シテ、遘合(次條ノ語意ヲ見ヨ)。 古事記、上六十「[illegible]、吾欲ニ目ニ合汝ニ」

まぐはひ (名) 【遘合】〔まぐハ妻覓ノまぎノ轉、(月夜、つくよ)はひハ業はひ、過はひノはひニテ、行フ意、美交合ノ約ト云フ、或ハ云フ、前條ノ語意ヨリ轉ズト〕男女相交ルコト。交媾スルコト。クナグコト。クナガヒ。房事交接。 垂

仁紀、二十[illegible]年[illegible]月「天皇之[illegible]合[illegible]、云云」[illegible]此語、みとのまぐはひヲナサントスレバ、云云」此語、みとのまぐはひトモ用キラル。(みとハ御床ニテ、御寢所ナリ) 古事記、上[illegible] 神代紀、上「天之御柱[illegible]」「婚遘 合爲ニ夫婦ニ」(婚ノ條、見合ハスベシ)

まぐはる・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 【目合】 マグハヒヲスル。メクバセヲナス。 應神紀、十三年九月「天皇宴ニ于後宮ニ之日、云云、大鷦鷯尊[illegible]髮長媛、既得[illegible]夫ニ交ニ」

まぐひ (名) 【眞杙】〔まハ發語〕くひ(杙)ニ同ジ。 古事記、下(允恭)「初瀨ノ川ノ、上ツ瀨ニ、イグヒヲ打チ、下ツ瀨ニ、麻久比ヲウチ、イグヒニハ、鏡ヲカケ、麻久比ニハ、眞玉ヲカケ」

まぐん (名) 【魔軍】 惡魔ノ軍勢。又、佛道ヲ妨グル一切ノ惡事。 法華經、化城喩品「[illegible]」 盛衰記、十四「[illegible]」 謠曲、[illegible]「火生三昧ニ入リ給ヒテ、一切ノ魔軍ヲ焚燒セリ」

マクモ (名) 【莫牟莫目】 古代、高麗樂ノ樂器。吹物ノ一種。但シ、其形、詳ナラズ。 倭名抄、四二竽篇類「莫牟、牟或作ニ目、俗云、萬久毛」 字鏡「[illegible]、マクモ[illegible]」 續紀、十一、[illegible]「丙午、授ニ莫牟師、正六位上、村上造大寶、外從五位下」 後紀、十七、大同四年三月廿一日「[illegible]高麗樂師四人、[illegible]、莫目、舞等師也」

まくや (名) 【幕屋】 (一)幕ヲ引キメグラシタル小屋。(二)能樂、芝居ナドノ幕ノ内。 奉公覺悟記「御前ノ次ノ間ヨリ、庭上ヘ御[illegible]、まく屋ヘ[illegible]、云云」

まくら (名) 【枕】〔間座ノ義、頭ノスキマヲ支フルナリ〕(一)寐ル時ニ頭ノ承ケトスル具。括枕、木枕、アリ。 倭名抄、

十四[illegible]「枕、[illegible]」[illegible]「[illegible]」[illegible]ハタヲトメヲ、雷ノゴト、聞エシカド、[illegible]」 神代紀、上[illegible]テ、寐セル君カモ」 (二)寐ルコト。宿ルコト。 伊勢物語、第廿四段「新玉ノ、年ノ三年ヲ、待チワビテ、タダコヨヒコソ、新枕スレ」「旅枕」「草枕」 (三)[illegible] 古今集、十九、[illegible]歌「枕ヨリ、跡ヨリ戀ノ、セメクレバ、セン方ナミゾ、床ナカニヲル」 (四)事ノ種子トシ據處トスルコト。 枕草子、十二、第百五十七段「コレニ何ヲ書カマシ、上ノ御前ニハ、史記トイフ文ヲナン書セ給ヘル、[illegible]枕ニコソハシ侍ラメ、[illegible]事ゾ多カルヤ」 枕言、歌枕、枕草子、ナド云フモ、此意ナリトゾ。枕を高くすトハ、安ク寐ヌ、同衾ス。枕をかはすトハ、安心ス。城を枕とすトハ、城ヲ守リテ討死スル意。 [illegible]「[illegible]木戶を枕にして討死ヲセヨ」 枕を割るト云フハ、思ヒヲ凝ラス、又、肝膽ヲ碎クノ意。コレ郭ノ枕ニ寄セタル隱語[illegible] 前置ノ語。[illegible]

まくらかけ (名) 【枕掛】 (一)枕ニ掛ケテ、屑ノ[illegible]掩フモノ。 [illegible] (二)割前ヲ出ダシテナス一種ノ郭遊。 傾城色三味線[illegible]一人ヅツ買ウテ寢ミケル、是レヨリシテ、アタマ掛ケヲ、世間ニ枕掛けト申スハ、此ノ因緣ト承ル」

まくらがたな (名) 【枕刀】 枕上ニ置キテ、不慮ノ備ニナス太刀。マクラダチ。

[illegible]「[illegible]」[illegible]ハ此還チヤト[illegible]

まくらがね (名) 【枕金】 まくらきん(枕金)ニ同ジ。

まくらがへし (名) 【枕返】 (一)死人ナドノ枕ヲ[illegible] (二)木枕ヲ手ニシテ、種種ノ曲ヲスル[illegible]見て「腕ヲマゲ、枕がへしヲ、スル人ノ、樂シミハ其腕ニアリナン」 傾城反魂香(寶永、近松作)上「團八ガ弟、大上三八、二八計リノ小人、枕がへしノ曲枕、ヲッ取リヲッ取リ、ハラリハラリ、云云」

まくらがみ (名) 【枕上】 寐ネタル枕ノ邊。マクラモト。マクラベ。[illegible]

まくらがみ (名) 【枕神】 夢枕ニ立チタル神。

まくらがみ (名) 【枕紙】 木枕ニテ、小枕ノ上ヲ包メル紙。

まくらがや (名) 【枕蚊帳】 小兒ナドノ、枕邊ヲ掩フ小サキ蚊帳。 [illegible]「[illegible]子ノ嬉シサヨ、枕蚊帳」

まくらぎ (名) 【枕木】 枕ノ如ク、物ノ下ニカヒテ支フル木。「鐵道ノ枕木」

まくらきん (名) 【枕金】 (一)遊女ヲ身請スル時ニ出ス手附金。(二)藝妓ノ肌ヲ許ス時ニ、客ヨリ受取ル契約金。

まくらぎやう (名) 【枕經】 死者ノ枕頭ニテ、終夜讀經スルコト。又、人死セシ時、屍ヲ室内ニ安臥セシメ、僧ヲ請ジ

テ、床ノ間ニ佛像ヲ掛ケナドシテ、讀經セシムルコト。又、ソノ經。

まくら・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［枕］〔枕ヲ活用ス、くハ蘰く、ナドノくノ如シ〕枕ヲ頭ニ着ク。枕ク。萬葉集、五「イカニアラム、日ノ[illegible]ノ[illegible]、人ノ[illegible]ノト、吾ガ[illegible]」同、十九「妹ガ袖、我レ枕可來、河ノ瀬久良可武」[illegible]

まくら‐ごと（名）［枕言］（[illegible]）（一）ツネヅネ口ニ云フ言。常ノモテアツカヒグサニスルヲ、まくらト云フカ。（二）故事ナドノ、言ノ種子トナリ、據處トナルモノ。ヒキゴト。典故　源、一、桐壺「[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ヲ[illegible]まくらごとニセサセ給フ」（帝ノ、長恨歌ヲ據トシテ、御自ラノ悲ニ準ヘ語リ給フヲ云フ）

まくら‐ことば（名）［枕詞］[illegible]ノ語ヲ言ヒ出ダムトスル時ニ、其上ニ[illegible]シメテ用ホル一種ノ語。歌ノ調ベノ足ラハヌヲ調ヘ、且ハ詞ヲ飾ルモノナリト云フ。「あしびきの山」ちはやぶる神」あづさゆみ引ク」ぬばたまの黑キ」ナドナリ。從來、枕詞ト稱スルモノノ中ニ、何何のト、のニテ終ハルモノハ、の如くト解セバ平話ナルガ如シ。（[illegible]尾ノ[illegible]法指南ノ枕詞ノ條ヲ見ヨ）[illegible]下[illegible]八、枕詞「天、又、月日ナドイハムトテ、マヅひさかたのトイヒ、山トイハムトテ、マヅあしびきのトイフタグヒノ詞ヲ、ヨニ枕詞トイフ」

まくら‐ざうし（名）［枕草紙］〔枕言ヲ記シノケタルモノノ意カ、或ハ、枕邊ノ座ビニ書キツケタルモノノ意カ〕（一）[何トナキ明ケ暮レノ事種ヲ記シツケ]タ[illegible]草紙、[illegible]草子。[illegible]ヒ得タル事ヲ、忘レヌ中ニ、書キツケオ[illegible]テ[illegible]。[illegible]ノツマ、カサナリテ、打チ出シタルハ、色色ノ錦ヲ、[illegible]草子、十二、第百五十七段「宮ノオマヘニ內ノオトド[illegible]、コレニ何ヲ[illegible]、上ノ[illegible]エヨトテタマハセタリシヲ」新六帖、五、枕「綴ヂオケル、枕草紙ノ、上ニコソ、昔ガタリノ、夢ハ見エケレ」[illegible]子ヲシテ、內記ヲタスケトシタマヘトモ云」

まくら‐さがし（名）［枕探］旅客ナドノ寐ネタル間ニ、其[illegible]入ナドヲ盜ムコト。又、其盜人。カンタンシ。

まくら‐そひ（名）［枕添］枕元ニ添フコト。又、添寢スルコト。又、ソノ人。（夫、又ハ、妻）[illegible]

まくら‐だち（名）［枕太刀］まくらがたな（枕刀）同ジ。萬葉集、廿六「[illegible]久良多知、腰ニ取リ佩キ、マカナシキ、セロガマキコム、ツクノシラナク」

まくら‐つき（名）［枕附］〔歌妓ガ、客ノ望ミニ應ズベク、枕ニ附物トシテ居ル義〕[illegible]ノ一稱。[illegible]

まくら‐づく（[illegible]）［枕附］枕ヲ[illegible]

まくら‐づくゑ（名）［枕机］死者ノ枕上ニ[illegible]

まくら‐つどへ（名）［枕集］枕元ニツドフ[illegible]百首、[illegible]「オモフコト、ナグサムバカリ、カタラバヤ、寢ザメノ床ノ、まくらつどへニ」

まくら‐なほし（名）［枕直］[illegible]平常ノ起居ニ復スルコト。又、其祝。

まくら‐ばこ（名）［枕箱］底ヲ箱ノ如クニ[illegible]法師ニナラントテ、イヒムロニマカリテ、京ノ家ニ[illegible]

まくら‐び（名）［枕火］死者ノ枕元ニ置ク燈火。

まくら‐びき（名）［枕引］木枕ノ端ヲ、兩人共ニ指先ニテ持チテ引キアヒテ、勝負ヲ爭フ遊戲。[illegible]夜明ケテ、笑ヒケリ」松屋筆記、七十七、第六條「今ノ世、帶引、枕引、手拭引ナドイフ戲アリ」

まくら‐びゃうぶ（名）［枕屛風］低キ小サキ屛風。[illegible]用ヰル。高サ一尺數寸。昔、貴婦人、垂髮ニテ寐ル時、枕元ニ置キテ、髮ノ末ヲ[illegible]ト云フ。[illegible]ケテアリタリケル」女中心得之書（文明）「髮ヲサゲテ、[illegible]

まくら‐べ（[illegible]）[illegible]方。マクラモト。コレニ對シテ、足ノ方ヲ後方ト云ヒ、合ハセテ、あとまくら（後枕）ト云フ。神代紀、上「[illegible]ドモハ、足ノ方ニ」あとまくらハ、又、後先、[illegible]らモ知ラズ據キ伏シ、イカニセン、イカニセント[illegible]ト[illegible]侍ル」平家物語、八、猫間事「[illegible]八五六尺、あと[illegible]

まくら‐ぼん（名）［枕本］半紙二ツ切ノ大イサナル橫綴ノ本。御伽名代紙衣「隠ミニ、太平記ノ枕本ヲソロソロト讀ンデ」

まくら‐ま・く（動）まく（枕）ト云フニ同ジ。

まくら‐もじ（名）［枕文字］[illegible]左ニ[illegible]字。[illegible]ソリヌル[illegible]ノ、行方見ン、天ギル雪ノ、[illegible]シヤマナン、云云、心ハサモト聞ユレドモ、まくらもじニ、せずト讀ミ、腰ノ五文字ニ、みんト讀ミ、云云」

まくら‐もと（名）［枕許枕元］寐テ居ル枕ノアタリ。[illegible]枕頭

✣まくら‐ゑ（名）［枕繪］春畫。ワラヒエ。マクラザウシ。ワラヒボン。春宵秘戲圖　油糟（貞德）「貴クモアリ、貴クモナシ」枕繪ヲ、[illegible]ニ、フルキ上手ドモノカキテ候おそくづの繪ナドヲ御覽モ候ヘ云云トアルハ、今ノ俗ニ枕繪トイフ物ノ[illegible]

コト申[illegible]リ、ヒロフシニハ春日トイ、[illegible]」

まくり (名) [捲] (一)巻キテ明クルコト。[illegible]クルコト [illegible]、[illegible]、住マス、[illegible]ニ、ハフムツマ、片表[illegible]リテ、[illegible]ノタ[illegible]、[illegible]除ケヤラフコト。(三)屏風ナドニ貼リタル書[illegible]ノ、ハガシテソノママナルモノ。

まくり (名) [海仁草] 本名、毒掠(ドクマクリ)ノ略。海中ニ生ズル[illegible]藻類ノ一種。長サ三四寸、珊瑚珠ノ如ク、枝ヲ張リ、色青ク柔カク、[illegible]ハタチ[illegible]。産婦、出産後、煎ジテ飲ム。又、胎児、初生ノ時、コレニ黄連、大黄、紅花、ナドヲ甘草ニ合ハセテ、湯ニ浸シテ飲マシメ、下[illegible]ノ薬トス、因リテ名アリ。ヒヂモ。鷓鴣菜 古[illegible]本、[illegible]正前、[illegible]トクマクリ、[illegible]、大和本草、六、海草類[illegible]マクリ、[illegible]生海石上、微碎色[illegible]、小児[illegible]中[illegible]病ハ、小[illegible]、甘草ト同ジ用ユレバ、小児腹中ノ[illegible]ヲ殺ス、初生ニモ用ユ」

まくり-あ・ぐ グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下二) [捲上] (一)上ニ巻キアグル。寂蓮集「箱根ト云フ山、云云、風ハ木ノ葉ヲまくりあげテ」(二)人ナドヲ追ヒアグル。太平記、九、越後守仲時已下自害[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]メタル野伏五百[illegible]人、[illegible]ノ[illegible]へまくり揚ゲレテ、一[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]」

まくり-お・つ ツル・ツレ・チ・チ・チヨ(自動、上二) [捲落] 除ケヤラハレテ落ツ。太平記、廿九、越後守自ニ石見ニ引返事「敵一タマリモタマラズ、谷底へまくり落テ、[illegible]レニケリ」

まくり-た・つ ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) [捲立] 盛ンニ追ヒ立ツル。源氏烏帽子折(元禄、近松作)四「又三人ガ引返シ、捲り立て捲り立て、息ヲモ継セズ追ヒ立ツレバ、云云」

まくり-つ・く クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) [捲付] 除ケヤラハレテ、去ル。追ヒ退ク。太平記、廿九、[illegible]五十[illegible]ノ[illegible]ニテ、石堂[illegible]ニまくり付ケ[illegible]、[illegible]ツ[illegible]ニ、云云」

まくり-で (名) [捲手] ソデマクリ。ウデマクリ。[illegible]、四、秋、上「神[illegible]レバ、[illegible]レケリ、秋ノ野ハ、まくりでニテゾ、行クベカリケル」源仲正集「人知レズ、下葉ノ葛ノ、まくりでニ、イザ取リツカン、姫百合ノ花」十訓抄、上、四、第十三條「良暹ガ歌ニ、まくり手ト云フ事ヲ詠メリケル、[illegible]、[illegible]手ト云フ事ヤハアルト[illegible]ケレバ、ヤシホノ衣、まくり手ニシテトアリ、如何、[illegible]イハク、云云、良暹、云云、古歌ニ、[illegible]ノ、[illegible]リスルル、[illegible]ノ男カ、[illegible]ノ[illegible]衣、まくり手ニシテ」

まく・る ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [捲] [巻き轉(マキアク)ノ略カト云フ] (一)巻キテ明クル、揭ゲ剝グ。メクル 字[illegible]「[illegible]、衣出臂、[illegible]萬久留」[illegible]忠百首、下「霊リオキシ、トリノハカヒノ、カラシュエ、カラクモまくる、君カカサカナ」枕草子、二、第十七段「狩衣ノ前下ザマニ、まくり入レテモキルカシ」(二)除ケ遣フ。追ヒ退クル「追ヒまくる」[illegible]ヒまくる」

まく・る ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [捲] ハナレテ、アガル。ヒルガヘル。好色二代[illegible]、[illegible]四「[illegible]一尺[illegible]捲れテ」

まく・る ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [眩] 眼、回ルガ如ク感ズ。目クラム。目クルメク。眩暈 兼澄集「イニシヘヲ、コフル心ニ、まくれシテ、君ニアヒテハ、惑ハルルカナ」

まぐ・る ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [紛] まぎる(紛)ニ同ジ。

まぐれ (名) [眩] [目暗(マグレ)ニテ、目クレフタガリテ、物ノ見エヌ頃ナレバ云フカ] マグルルコト。目クラムコト。眩暈 名義抄「眩、メクル、メメクル、カガヤク、マグレ」

まぐれ (名) [紛] マグルルコト。マギルルコト。マギレ。

まぐれ-あたり (名) [紛中] [illegible] 圖ラザルニ中ルコト。偶然ニ中ルコト。[illegible] トモ逢ハヌ、我ガ中ハ、まぐれあたりノ、ヘタノウラナヒ[illegible]」

まぐれ-さいはひ (名) [紛幸] [illegible]いはひノ訛] 圖ラザルニ過フシアハセ。コボレザイハヒ。僥倖

∴**まぐ・れる** (動) [紛] まぎる(紛)るノ訛。略シテ、ぐれる。

ま-くろ (名) [眞黒] [まハ接頭語] 純粋ノ黒。雑(マジリ)ナキ黒。マックロ。宇治拾遺、五、第八條「御烏帽子ノまくろニ見エサセオハシマシシガ、息ヒ出デラレ」

まぐろ (名) [鮪] [眼黒ノ義、或ハ云フ、眞黒ナルト] 海産ノ魚ノ名。大ナルハ八九尺許ノ、全身、青黒色ニシテ、鱗ナク、腹ハ白クシテ雲母ノ如ク、頸ノ下ニ青キ斑アリ、頭、大キク、背、尖リ、鼻、長ク、口ハ頷下ニアリ、背ニ刺鬣アリ。死スレバ、眼ヨリ血出ヅ、肉ノ色赤シ。其極小ナルヲ平鮪(ヒラメジ)、稍長ジタルヲ小鮪(コメジ)ト云フ。畿内ニテハ、はつ。仙臺ニテハ、春ナルヲまぐろ、冬ナルヲしび、ト云フ。黒鮪魚 金槍魚 [illegible]、二、[illegible]、シビ、畿内ニテはつト稱ス、江戸ニテ、まぐろトヨブ、云云、又江都ノ[illegible]店ニテ、シビ、まぐろ、ビンナガ等ノ品有トイヘドモ、京阪ノ俗、皆まぐろト云、云云、又二尺以下ノ小ナルヲ、江戸ニテめぢかト云、一名ソウダト云、ヒラソウダ、丸ソウダナト二種アリ、京都、難波ノ俗、目ぐろト云フ是ナリ、云云、[illegible]ニ、めぢかトハ其眼ノ近キナリ、まぐろト云フモノノ小シキナルヲイフ、まぐろトハ其眼ノ黒キ也」

まぐろ-ぶし (名) [鮪節] 鮪ノ肉ヲ以テ、鰹節ノ如ク製シタルモノ。シビブシ。

まけ (名) [任] [illegible]任[illegible]、[illegible]ハ召(任ナリ)マカスルコト。ソレガヤガテ命ヲ受クルコト。萬葉集、十七 長歌「[illegible]ノ、[illegible]ノマニマニ、シ[illegible]、[illegible]、[illegible]、出デテ来シ」同、三十五「モノノフノ、臣ノ壮士ハ、大君ノ、任(マケ)ノ[illegible]ト云フモノゾ」(古[illegible]ノ[illegible])

まけ (名) [負] (一)負クルコト。勝タヌコト。(勝、對ス) [illegible]、ワラハ遊ビヲ、シツルカナ、シルキ負ケトヤ、人ノ見ルラン」(二)價ヲ減ラスコト。「オマケ」

まけ (名) [族] ヤカラ。タグヒ。スヂ。系 「[illegible]ニまけ[illegible]ノまけ」

まけ (名) [料] 設(マウ)クルコト。マウケ。

まけ (名) [瞀] [目氣ノ義、脚(キャク)の氣ト同趣] 又、ひ。眼ノ病。ソコヒ。外障眼(ウハヒ)。[illegible]字[illegible]、[illegible]、目病也」「瞀、目[illegible]也、[illegible]、同、[illegible]介、又、目[illegible]」

ま・け (動) [設] まく(設)ノ條ヲ見ヨ。倭訓栞「まけ、設ノ字ヲヨムハ、まうけノ急語ナリ」

まげ (名) [曲] 曲グルコト。

まげ (名) [髷] 又、わげ。髪ヲ頂ニ束ネテ、[illegible]ヲ結ヒタル上部ヲ、後方ヘ折リテ、又、曲ゲテ前ヘ折ル、其曲ゲタル所ノ名。前ノ髪ヲ、男子ナルハ、刷毛ト云ヒ、刷毛ト髷トノ間ヲ、いちトス、平ラカニ一ノ字ノ形ヲ成セバナリ。又、此髷以上ヲ種種ノ形ニ作リ變ヘテ、其形ヲ何髷、何髷ト云フ。婦人ナルニハ、殊ニ異様ナルガ多シ。[illegible] 結髪事「元結二寸ホド巻キタテ、まけハ針打、云云」

まけ-いくさ (名) [負軍] 軍ノ敗ルルコ

[illegible]ヒケレドモ、平安貴族ニナリクレバ、引イテ落ツ」

まけ-いほ [illegible] 屋。フセヤ。萬葉集、五、長歌「伏廬ノ、曲廬ノ内ニ、ヒタツチニ、ワラトキシキテ」

まけ-いろ（名）［負色］ 負ケムトスル兆。敗色 平家物語、七、篠原合戰事「源氏ノ方ハイヨイヨ[illegible]」

まけ-がた（名）［負方］ 負ケタル方。後拾[illegible]ヲ、篠草ニモ、ミセテケルカナ」

まけ-ぎらひ（名）［負嫌］ まけじだましひ（不負魂）ニ同ジ。

ま-ゲサ（名）［眞袈裟］ 山伏ノ着クル結袈裟ノ[illegible]キニ、まけさトイフモノヲ着テ、ウチサノ[illegible]ル、答、略ナリ、但沙彌ノ尼ハ、ま袈裟ヲ着ベシ」

まけじ-ごころ（名）［不負心］ 次條ノ語ニ同ジ。蜻蛉日記、上、上「トイヘバ、云云、カクイフ、云云、まけじ心ニテ」源、四十三、竹川「イデヤナゾ、カズナラヌ身ニ、カナハヌハ、人ニ負けじノ、こころナリケリ」

まけじ-だましひ（名）［不負魂］ 他ニ負ケジト挑ム心。[illegible]

まけ-ず-おとらず（副）［不負不劣］ 互ニ[illegible]

まけ-ず-ぎらひ（名）［不負嫌］ 性質ノ、負クルコトヲ嫌フモノ。

まげ-て（副）［枉］ 心ナラヌニ強ヒテ。無[illegible]

[illegible]ヲ、カタガタ[illegible]、枉げて今度ノ大將ヲバ、人ニ仰セ附ケラレ候ヘ、トゾ申サレケル」

まけ-どころ（名）［任所］ [illegible]テ、赴クトコロ。任地。孝德紀、大化二年三月「國司之任、六人奉法、二人違令」

まけ-ながく（副）[illegible] キノナガク。ヒニチノナガク。萬葉集、十[illegible]テ、年ノ經ヌレバ」同、同「眞氣永、夢ニモ見エズ、絶ユレドモ、吾ガ片戀ハ、ヤムトキモナシ」

まけなが・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）［[illegible]語］けながしニ同ジ。

まけ-のき（名）［負退］ 勝負ニ、敗レテ、退クコト。敗退

まけ-ばしら（名）［眞木柱］ ［[illegible]ノ語］ まきばしら（眞木柱）ノ訛語。其條ヲ見ヨ。[illegible]ノゴト、イマセ母刀自、オメカハリセズ」

まけ-ばら（名）［負腹］ 負ケテ、腹立ツコト。太平記、六、[illegible]前ニ[illegible]ヒケルハ、[illegible]ノ合戰ニ負腹ヲ立テ、京ヨリ宇都宮ヲ向ケ候ナル」

まげ-ぶし（名）髮ノ髷ノ稱。えび（蝦）ノ條ノ（三）ニ同ジ。

まけ-ぼし（名）［負星］ かちぼし（勝星）ノ條ノ見ヨ。

まけ-みぞ（名）［儲溝］ 掘リ儲ケタル溝。（水ヲ他ニヤラムタメ）萬葉集、十[illegible]鶴ノ、スダク池水、マサル（ハフル、古義ノ訓）トモ、儲溝カヘ（ノヘ、古義ノ訓）ニ、吾越エメヤモ」

まげ-もの（名）［曲物］ わげもの（綰物）ニ同ジ。[illegible]

[illegible]云云、[illegible]木[illegible]之トイフハ、今俗ニまけものトイフ[illegible]ニシテ、[illegible]ナドイフモノノ[illegible]」

まけ-[illegible]（名）[illegible] 浮世風呂（文化、三四）二編、上「片ハヅシナドノアネ[illegible]」

まけ-ゆひ（名）［擶結］ 又、まけゆはひ。[illegible]

ま・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）[illegible]（一）勝負ニ敗ル。狂言記、内沙汰「エイ、ココナ人ハ、理ヲ持チナガラ、まけるト云フコトハナイヨノ」（二）物品ノ直段ヲ減ラス。直段ヲまけるトハ、直段ハ十圓ナレド、何程[illegible]ケテオク[illegible] 直[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]ケルト云ヘド、他動ニハアラズ。（門ヲ過グ、境ヲ出ヅノ類）[illegible]かるト云フ語アリ、「直段ハ、ソレ限まからぬ」ナド云フ、コノまかるハ、負けらる（得負）ノ約マリタルナリ、止めらる（得止）、約めらる（得約）[illegible]、つまるトナルガ如シ。（自動ニ變ズ）

ま・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［蒔］［蒔く、ノ轉カ］ クツガヘス。又、殘ラズ出ス。[illegible]

まげる（動）［曲］（一）まぐ（曲）ノ口語。（二）[illegible] リタルヨリ云フト」質ニオク。好色旅日記（貞享）一「當ブンイラヌ夏縮羅、七テ七十兩、云云」八中天網島（享保、近松作）中「[illegible]曲げテハ、[illegible]」

まけ-わざ（名）[illegible] 相撲ナドニ、負ケタル方ヨリ[illegible]セテ、勝[illegible]

方ニ饗應セサスルコト。[illegible] 明月記、[illegible]程、上、[illegible]ノまけわざセサセ給ヒケル時」[illegible]

まけ-をしみ（名）［負惜］ 負ケタルニ、負ケズト言張ルコト。又、負ケタルニ、トヤカクト辯解スルコト。各改過 浮世風[illegible]上ヘアガル」

まご（名）［眞子］ ヨキ子。我ガ子ヲ愛シ[illegible]

まこ（名）［麻姑］［爪ノ、イト長キ仙人ノ名、[illegible]］[illegible]人也、學仙道、手爪長四寸、[illegible]

まご（名）［孫］［うまごノ略］ 子ノ子。[illegible]コ」爾雅、[illegible]子之子爲孫」和名抄、三、人物門「孫、[illegible]」

まご（名）［馬子］[illegible] 付。又、駄馬ヲ牽キテ、荷ヲ送ルヲ業トスル者。ウマカタ。ウマオヒ。ウマゴ。馬夫 馬奴 馱夫 冥途の飛脚（正德、近松作）上「サア拍子ガ直ノタ、來弁モ仕合成、[illegible]」

草ヨト、云云」後撰夷曲集、[illegible]文、六、[illegible]ノ宿ニテ、馬子ドモノ喧嘩スルヲ見テ、云云、ドコサ藪ノ宿ノ馬かた」(やノおさごぼノ條ヲ見合ハセヨ)

まご-うた (名) 馬子歌 〔能ク馬方ガ歌フ故ニ云フ〕 おひわけぶし(追分節)ニ同ジ。

まご-こ (名) 孫子 (一)孫ト、子ト。又、孫ヤ子。[illegible]十九、[illegible]心事「[illegible]ノ母死シテ後ハ、孤子ナレバ、孫子ヲ思フ樣ニ、イトホシウシ奉ル、父トモ母トモ憑ミ給フベシ」 (二)子孫。後裔。 狂言記、暇袋「主命ヂャ、參ラズバナルマイ、識ニ孫子ニ傳ヘテ、サスマイ物ハ宮仕ヂャ」

まご-ころ (名) 眞心 (一)眞實ノ心。僞ラヌ心。赤心。丹心。 源、三十四、上、若菜、上「上ヲオキ奉リテ、又まごころニ思ヒ聞コエ給フベキ人モナケレバ」狹衣、一、下廿七「曉ニ車ノ音シテ、門タタクナレバ、イデ、アハレ人ノ爲ニ、眞心ナリケル駿河殿ノ舞カナ、云云」 (二)ヨクモアシクモ、生レツキタルママノ心。

まご-さく (名) 孫作 〔擬人語、小作ヲ子トシ、其子作ノ子タル孫作ノ義〕 小作人ヨリ又借リシテ、田畑ヲ耕作スルコト。こさく(小作)ノ條ヲモ見ヨ。

まご-しゃくし (名) 孫杓子 菌(キノコ)ノ一種。れいし(靈芝)ノ異名。 名[illegible]、服部[illegible] 上廿四「まごじゃくしハ孫杓子ナリ、孫ハ孫ノ手ナドノ孫ト同ジ、ソノ及バヌ意ヲ云フ、コノ物、西土ニテハ[illegible]トシ、之ヲ貴ブ、[illegible]ヨリ[illegible]ルナランニ」[illegible]、云云、[illegible]ハ、カドイテダケ(丹波)、カドデダケ(長州)、レイシ(京、[illegible])、云云、まごじゃくし(奥州)、[illegible]名[illegible]、云云」

まご-じらう (名) 孫次郎 (一)能面ノ一種。若キ女ノ容姿ニ用ヰルモノ。 (二)きぬた(砧)ノ異名。 [illegible]、砧[illegible]卷、其盤ヲウッテ砧トイヘリ、云云、此槌ノ子ヨ、猶シモ年越ノタニコソ、孫次郎ト改名セラレテ、寶舟ノ御座ノ間ニ、天下ノ[illegible]ノ心ヲ[illegible]サマシメテ」

まこそみ (副) 眞實 〔[illegible]ノ轉、[illegible]ニ、まこそニテ、[illegible]ノ意ト云フ〕 僞ナラヌ狀ニ云フ語。ホンタウニ。ホンマニ。眞ニ。 古事記、下(仁徳)[illegible]「[illegible]ウベシコソ問ヒ給ヘ、[illegible]」

まごたらう-むし (名) 孫太郎蟲 磐城國、刈田郡、齋川村ノ溪水中ニ產ズル一種ノ蟲 乾シテ、小兒ノ疳ノ藥トス。又、釣ノ餌トモス。又、山溪ノ小石ノ下ニ棲ム褐色ノ蟲 體[illegible]長ク、長サ一寸五分許リ、腹部ニ二脚アリ、二ツノ尾毛アリ、[illegible]ハ云フ、[illegible]へびとんぼト云フ蜻蛉ノ類ノ幼蟲ナルベシト。乾シテ用ヰ、或ハ、粉トシ、甘味ヲ加ヘ、丸藥トス、信州、天龍川ノ上流ナドニモアリ。其他ニモ源五郎蟲ノ幼蟲ニ、同名ノモノアリ。

まご-ち (名) 眞東風 東風(コチ)ノ、眞東ヨリ吹クモノ。正東ヨリ吹ク風。(北東風(キタゴチ)ニ對ス) 永久四年百首、春「まごち吹ク、花ノアタリノ、風下ハ、時ゾトモナキ、雪ゾフリケル」

まごつ-く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) マゴマゴス。マドヒテ、ウロウロス。アワツ。ウロタヘル。トチメク。トッチル。

まご-でし (名) 孫弟子 弟子ノ弟子。 七上、寺[illegible](七)「[illegible]師[illegible]、云云、[illegible]弟子」

まこと (名) 眞實 〔眞事(マコト)ノ義〕 (一)僞ナラヌコト。ホンタウ。ホンマ。 正銘。 名[illegible]「眞、[illegible]」天治字鏡、二[illegible]「[illegible]眞實[illegible]也、[illegible]」「マコト」[illegible]廿五、[illegible]まことノ[illegible]ヲバ、[illegible]クシモモテ騷ギ給ハジ、ウタテアル御心ナリケリ」 (二)人ニ對シテ、深切ニシテ欺カヌコト。信。誠。 欽明紀、元年九月、[illegible]「久嗟一忠誠」古今集、十四、戀、四「イツハリト、思莫(モ)レ[illegible]フモノカラ、今更ニ、誰ガまことヲカ、我ハ頼マン」

まこと (副) 眞 ホンタウニ。眞實ニ。 [illegible]集、[illegible]「[illegible]キショト、[illegible]フトク、アヤシクモ、神サビ居ルカ、コレノ水島」同、十五[illegible]「オモハズモ、[illegible]アリ得ムヤ、サヌル夜ノ、夢ニモ妹ガ、[illegible]エナクニ」

まこと (感) 眞實 物語ル間ニ、始メテ心ヅキタル、又ハ、事ノ端ヲ語リ出ムル時ナドニ發スル語。 宇津保物語、[illegible]「まことまこと、[illegible]ノ物ノ[illegible]、イササウ聞カセ給へ」宇治拾遺、八、第[illegible]「コハ何ナルコトゾ、ト怪シガリ[illegible]、まことまこと、アリツル[illegible]忘レニ、云云」宇[illegible]物語、[illegible]八、[illegible]ムヤ[illegible] 源、十一、[illegible]「まことヤ、騷ガシカリシ程ノマギレニ、漏ラシテケリ」

まこと-がほ (名) 眞顏 僞ナラヌ顏ツキ。マコトシガホ。 盛[illegible]十[illegible]、[illegible]平家[illegible]事「[illegible]呼ノ[illegible]共カ、[illegible]ニ[illegible]力同心シテ」

まこと-し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 實 マコトラシ。正シ。マコトシヤカナリ。 [illegible]草、第一段「アリタキ事ハ、まことしき文ノ[illegible]、小[illegible]、まことしく清ゲナル人ノ」狹衣、三、上廿八「イカデまことしく人ノ聞セ給フバカリモトコソ、思ヒ侍レ」水鏡、序「まことしく思ヒ立タヌコソ、恩ニ侍ルメレ」同、[illegible]「まことしく、佛[illegible]ヲ心ニ[illegible]ケ給フラン」

まことし-がほ (名) 實顏 〔しハ助辭〕 まことがほ(實顏)ニ同ジ。 [illegible]記、十六、五[illegible]院右衛門[illegible]相撲[illegible]、[illegible]何クマテモ尋求ル事モ候ハ、[illegible]存ジ候[illegible]バ申マニク候ト、誠シ顏ニ成テ云ケレバ、云云」

まことし-やか-に (副) 實 マコトナルカ如ク。マコトラシク。近眞

まこと-と-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 眞事問 こととふ(言問)ト云ソ[illegible]同ジ モノイフ。クチキク。 天智紀、七年二月「[illegible]皇子[illegible]」

まこと-に (副) 實眞誠 僞リ無ク。ホンタウニ。實ニ。 [illegible]

まご-の-て (名) 孫手 一二尺ノ竹片ノ端ヲ、指爪ノ形ニ作レルモノ、背ノ痒キニ、手ノ屆キ難キ處ヲ、自ラ搔クニ用ヰル。麻姑手 爪杖 [illegible]財門「麻姑手、爪杖、マゴノテ」類聚名物考、二百五十一、調度部、九「爪杖、まごのて、今案ニ、如意杖、一名ハ爪杖ナレバ、[illegible]云フ孫の手ト云フ物、[illegible]背中ナドノカユキ時ニ、搔ベキ爲ニ作リシ人ノ小手ノ如キ物ナリ」[illegible]

まごひ (名) 眞鯉 緋鯉ニ對シテ、黑鯉ノ稱 [illegible]

まご-ひき (名) 孫引 本書ニ依ラズシテ、他ノ書ニ引用シタル文句ヲ、其ママニ引キ用ヰルコト。

まご-ひきでもの (名) 孫引出物 孫ハ祖父ヨリ[illegible]スル引出物 [illegible]、孫引出物トテ、太刀一振ヲゾ給ヒタリケル」

まご-びさし (名) 孫庇 孫廂 母屋(モヤ)ノ庇ニ、更ニ外ヘ差出シタル小庇ヲ云フ。又、[illegible]名、又、庇トモ云フ。又、寢殿造ニテハ、廂ノ外ヘ、更ニ屋ヲ出シ、格子部ナドアルモアリ、又、簀子(スノコ)ヲ孫廂ト書

ヶ[illegible]モアリ、干ノ上ニ隔[illegible]
フ、[illegible]
上旅ニ三ケ事ニ者、不限ニ此歳ニ、何歳ニ可ニ有ニ此構[illegible]
採筋トテ、常ノ筋ノ外ヘ、屋ヲ出シ、格子空ナドアル
モアリ、シカレドモ、簀子ヲサシテ採筋ト書ル事ド
モ多ク[illegible]
ノ筋オロシテ、コボレ出デタル衣ノ袖ドモ、シタリ
顔ニ思ヘル樣ドモヨリハ、見所マサリテ」

〔**まゴフ**（名）〔萬劫〕 まんごふ（萬劫）ノ略。[illegible]
リテ、まごふノ石ト、ナラン世マデニ」

まざまざ [illegible] シゾンク狀ニ云フ語

まおも（名）眞菰〔まハ發語ト云フ〕 一〔本名、コモ。古名、或ハ、カツミ。〕ハナカツミ。禾本科ノ水草ノ名。池澤ニ多シ。春、舊根ヨリ生ズ、葉ハ菖ノ如シ。莖、高サ三四尺、葉ハ五生シテ二三尺、[illegible]菖蒲ニ似テ薄ク、邊ニ刃アリ。秋、莖ノ上ニ、二尺許リノ穗ヲ生シ、小花多ク綴ル、實ヲ結バズ。秋、根ノ上ニ、おもづの（菰角）ト云フモノヲ生ズ、（其條ヲ見ヨ）。葉ヲ、席ニ編ミ、おもむしろ（菰席）ト云ヒ、又、ハシジバ[illegible]菰[illegible]「眞菰刈ル[illegible]トク我ハ」 六帖、六「春駒ノ、アサル澤邊ノ、まおもぐさ、マコトニ我ヲ、ワフヤハ君」 二、其、根ノ、苗、莖、最モ長大ナル者アリ。花後實ヲ結ブ、長六分ノ皮ニテ包ム、内ニ[illegible]分ノ細長子アリ。黄黒クシテ、内白シ、はなかつみ（菰米）ト云フ、飯トシ、又、團子トシテ食フベシ。

まおもずみ（名）〔眞菰墨〕 一名、ハタチカヅラ。おもづの（菰角）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]名ハタチカヅラ、コモクラ、まおもずみ、婦人首ノ禿[illegible]

まおやし（名）[illegible] 草ノ名、[illegible]し（馬肥）ニ同ジ。モクシュク。

〔**まおろも**（名）眞衣[illegible]布 昔、堂上ノ入道ナドノ着用スル服。

まさ（名）正 （一）正目ノ略。 易林節用集（[illegible]）下、[illegible]（二）正目紙ノ略

まさ（名）[illegible]「元ト支那、福建省ノ地名」（一）書籍ヲ出板スルコト。（二）轉ジテ、書籍ノ稱。[illegible]（出來、支那ニハ、刻本ニ精粗アリテ、杭州本ヲ上トシ、[illegible]本ヲ中トシ、福建本ヲ[illegible]ヲ下トセリ） 呂東萊、與朱侍講書「近麻沙印[illegible]

〔**まざい**（名）〔萬歲〕 まんざい（萬歲）ノ略。[illegible]ニハ火モカクシメリタルニ、ナホまざいまざいト、樓葉ヲ取リカヘシツツ、祝ヒキコユル」「萬歲樂」

まさいた（名）〔正板〕 正目ノ通リタル板。 易林節用集（[illegible]下）「[illegible]、マサイタ」

まざいらく（名）萬歲樂 まんざいらく（萬歲樂）ノ略。其條ヲ見ヨ。

〔**まさか**（名）〔目前〕〔目前ノ轉カ〕 マノアタリ。メノマヘ。今差當ル時。當座。[illegible]十二[illegible]木ハシ知ラズ、[illegible]レーモ、[illegible]ハ君ニ、縁リニシモノヲ」 同、十三[illegible]時ナラヌゴト、ヒマオチズ、吾レハゾ戀フル、妹ガ[illegible]思ヘコソ、今ノ[illegible]可モ、ウルハシミスレ」 今、俗ド云フモ、コレナリ。「まさかソンナ事ハアルマイ」ナド云フハ、反語ノ前提ニ用ヰテ、[illegible]豐夫（[illegible]）

〔**まさか**（名）〔寢所〕〔人ノ住宅ニ取リテ、正シキ住所ナルニ因リテ云フ〕 マサシ[illegible]まさかト[illegible]也）

〔**まさかき**（名）〔眞榊〕〔まハ發語〕 さかき（榊）ニ同ジ。 神代紀、上「掘ニ天香山之五百[illegible]

〔**まさかづら**（名） まさきのかづら（眞拆葛）ニ同ジ。[illegible]代ハ、千千ノ[illegible]ケナ、まさかづら、神ノ宮人、[illegible]」

まさかみ（名）〔まさか（目前）ノ[illegible]同ジ〕（一）マノアタリニ。差シツケテ。（面ヲ向ケテハ、見ニクキヤウナル意ニ云フ）「まさかみ[illegible]」（二）轉ジテ、コモヤ。

まさかり（名）〔眞盛〕〔まハ接頭語〕 マコトノサカリ。マノサカリ。

〔**まさかり**（名）〔鉞〕〔眼前割ニテ、眞正面ニ振リカブリ、打チオロス意カト云フ、或ハ云フ、眞割切ノ意カト〕 斧ニ似テ大ナルモノ。中古ハ、兵器ニモ用ヰタリ。多クハ、木ヲ伐ルニ用ヰル。 倭名抄、十三征戰具「鉞、[illegible]、萬[illegible]

[illegible]

〔**まさかりみ**（副）〔方〕[illegible] 今、正ニ、差當リテ。眞最中ニ。又、ミサカリニ。 古事記、上[illegible]「其火盛[illegible]時」 神代紀、上[illegible]之時、此云ニ[illegible]」同、下[illegible]

まさき（名）〔眞先〕 マッサキ。最モ前ナル[illegible]モナク、眞先カケテ、命ヲ惜ランコソ、[illegible]シカ」

まさき（名）[illegible]（眞拆葛）ニ同ジ。 後撰集、十五、雜、一「照ル月[illegible]ガン」 新續古今集、十一、戀、一「[illegible]まさきノ[illegible]

まさき（名）柾 [illegible]合字」 古名、ハヒマユミ。衞矛科ノ常綠灌木[illegible]、高サ[illegible]ニシテ、鋸齒アリ、互生シ、厚クシテ光[illegible]ヲ分チテ、綠白色ノ花ヲ開ク、にまきき（衞矛）ノ花ニ似タリ。實、圓ク、大イサ南天[illegible]ナリ。[illegible]

まさきく（副）[illegible] く（幸）ト云フニ同ジ。 萬葉集、三[illegible]「我命シ、[illegible]ト、十七[illegible]ヒデシモノヲ、[illegible]チタナヒクト、開ケバカナシモ」

〔まさき-づら (名) 次條ノ語ニ同ジ。[illegible]紀、七年九月「フヂヲバ、妹ニマカシメ、[illegible]通[illegible]、まさきづら[illegible]、[illegible]メロセノ、[illegible]ノ宮人、[illegible]、[illegible]十二、香カカヘリ、ム一」

〜まさき-の-かづら マサキノカズラ (名) [illegible]拆[illegible] 〔眞幸ノ義、常綠ナルヲ云フト云フ、或ハ云フ、蔓ヲ直拆ニ拆キテ鬘トスル義ト〕 又、まさき。マサキヅラ。今、ツルマサキ。マサカヅラ。蔓ノ一種。常葉ニテ、夏ノ初メト冬ノ初メトニ紅葉スルモノ、夏、白キ花ヲ開キ、小サキ大和豆ノ如キ子ヲ結ブ、其蔓ヲ碎キテ曇ケバ、白紐ヲ束ネタルガ如シ、上代、神事ニ鬘トス、山藤葛ト同ジキト。扶芳藤 本草拾遺 古ひかげかづら(日陰葛)ノ條ヲモ見ヨ。 古事記、上廿「手次繫天香山之天之日影而、爲鬘天之眞拆」 神代紀、上「[illegible]以眞拆爲鬘」 古[illegible]、[illegible] [illegible]式、[illegible] 神大嘗祭供神料「眞前葛、日蔭山採組各三擔」 高橋氏文[illegible] 古[illegible]、[illegible]まさきのかづら[illegible]、[illegible]ノ散リ失セズシテ、まさきのかづら長ク傳ハリ」 今モ、丹波ノ國ヨリ吉田川ニ流リテ、役結フ料トスルまさきト云フモノアリ。

まさき-りう マサキリユウ (名) 正木流 薙刀術、及、短槍鎖術ノ一流 信田重次ノ門人、正木彈之進俊光ノ創メタルモノ。 [illegible]「先之流 正木流、薙刀、正木彈之進俊光、濃州大垣戸田家ノ臣也、始號二太郎大夫、[illegible]信田一[illegible]重次、[illegible]先[illegible]薙刀ハ作[illegible]妙[illegible]、云云、[illegible]妙旨、稱曰 正木流」

〜まさぐり-もの (名) 弄物 モテアソビモノ。玩弄物。 源、十五、蓬生「古メキタル御厨子アケテ、云云、カクヤ姫ノ物[illegible]ニカキタルヲ、時時ノまさぐり物ニシタマフ」

〜まさぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 弄 〔間探ルノ義カト云フ、或ハ、まハ發語カ〕 モテアソブ。イロフ。テウス。イジル。セセル。 字類抄「弄、マサグル」 名義抄「拼、マサグル、テウツ、弄、マサクル、ヒキシロフ、タハフル、ナフル、ナヤマス」 欽行紀、廿七年十二月「川上梟帥[illegible]弄」 垂仁紀、廿三年十一月[illegible] 源、四十、幻[illegible]「[illegible]ノ袖ヲ引キまさぐり[illegible]」 同、八、花宴[illegible]「[illegible]まさぐりテ、云云、ト歌ヒ給フ」

まさご (名) 眞沙 〔眞沙子ノ約、まハ發語〕 イサゴ。マナゴ。マサゴ。スナゴ。スナ。沙ノ細カキモノ。織沙 すなご(沙子)ノ條ノ(一)ヲモ見ヨ。 [illegible]昭郎位[illegible]「[illegible]沙」私記「木左已」 狹衣、四、中「蔵人所ナ一ニヒサセ給ヘルナルベシ、庭ノまさごノシロガネカト見エタルニ、云云」 古今集、序「山下水ノタエズ、濱ノまさごノ數多ク積リヌレバ」「庭ノ眞沙」濱ノ眞沙」

まさご-ぢ マサゴシ (名) 眞沙路 眞沙ヨリ成レル道路。又、沙ヲ散布シタル路。 萬代集、十六、雜、三「ウツ浪ノ、タカシノ濱ノ、まさごぢニ、老イタル松ノ、ネコソアダナレ」

〜まさ-ざま (名) 勝樣 正樣 マサリタル樣。スグレタルサマ。又、正シキ樣。マコトノ樣。 榮花物語、八、初花「三日、五日、七日夜ノ一ノ御作法、ナカナカまさざまニコソ見ユレ、コノ度ハ、事ナレヌト、事ソカセ給フ事ナシ」

〜まさ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 正 タダシ。マコトナリ。タシカナリ。 名義抄「正、マサシ」 天治字鏡、三十「諶、眞實辭也、萬佐之支已止」 萬葉集、二十二十「大舟ノ、ツモリノウラニ、ツケムトハ、まさしニシリテ、ワガフタリネシ」 古今集、十四、戀、四「斯ク戀ヒン、物トハ我モ、思ヒニキ、心ノウラゾ、まさしカリケル」

まさしげ-りう マサシゲリユウ (名) 正成流 兵法ノ一流。 集義外書、[illegible](隆湖答問)九、記[illegible]六、[illegible]正成ト云フハ、[illegible]名將ノ上手ナセシ[illegible]ト云ヘリ、今ノ人ノ位ニハカナハズ」

まさつ (名) 摩擦 相擦ルコト。コスルコト。又、スレ合フコト。

〜まさづ-こ マサヅコ (名) 眞兒 ウツクシキ女ノ稱。 古事記、下、仁徳[illegible]「[illegible]ヘアゴソノ[illegible]ヌカ。」「船出 浮 海、以歌曰、沖ベニハ、小舟ツララク、クロザキノ、摩佐豆古ワギモ、國ヘ下ラス」

まさ-つち (名) 正土 床ノ間ノ壁ナドヲ塗ルニ用キル上等ノ土。床土。

〜まさで-に (副) 〔まさでハ、眞實ノ轉ト云フ〕 正シク。タシカニ。 萬葉集、十四[illegible]「[illegible]野ニ、古ヘ[illegible]キ、麻左伝爾モ、[illegible]名、占ニデニケリ」 同、十四[illegible]「[illegible]鶏トフ、大懺鳥ノ、麻左低爾モ、來マサヌ君ヲ、コロクトゾ鳴ク」

〜まさ-な (名) 邪 〔まさなしノ語根〕 マサナキコト。ヨロシカラヌコト。 枕草子、八、第七十五段「アナタコナタニスム人ノ子ドモノ、云云、すヅカラ引キサカシ出デテ見ルコソ、イトまさなケレ、ソレヲまさなトバカリ打チ言ヒテ、トリ隱サデ」 榮花物語、[illegible]「[illegible]ノ[illegible]ノカタゾバヨリサシ出サセ給ヒテ、ヤ、オトドコソト申サセ給ヘバ、攝政殿、アナまさなト申サセ給ヒテ」

〜まさ-な-ごと (名) 無正事 マサナキ事。小兒ノ戲レヤウノ事。兒戲 徒然草、[illegible]、七十六段「小松御門、云云、昔タダ人ニオハシマシシ時、まさなごとセサセ給ヒシヲ忘レ給ハデ」

〜まさ-な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 邪 〔正無シノ意〕 宜シカラズ。ヨロシカラズ。 竹取物語「[illegible]ニナ宜ヒソ、屋ノ上ニ居ル人ドモノ聞クニ、イトまさなし」 宇津保物語、[illegible]、上、「[illegible]テ、ツカミコロシ給ヘバ、[illegible]、イトまさなけれ、[illegible]ワザハ、たハ[illegible]ノヤ[illegible]」 [illegible]、一「酢、酒、魚ナド、まさなくシタル部屋ニ」 大鏡、中、道兼「幼キ人ハ、サノミコソハト思ヘド、イトアサマシク、まさなく[illegible]ゾすハセ[illegible]カホラン、ママメ[illegible]」

〜まさ-に (副) 正 (一)タダシク。マサシク。 [illegible]漢[illegible]、[illegible]ト云フモ、コレナラム。 名義抄「將、マサニ、云云トス」 神代紀、上九「當早送于天、而授以天上之事」 萬[illegible]、十一[illegible]「コトタマノ、八十ノ[illegible]、夕占問フ、占正謂イヘ、妹ニアヒヨラム」 (二)マサカリニ。ミサカリニ。差當リテ。方ニ。 漢籍讀ニ、將ニ云云ト云フハ、行末ナドニ對シテ、今ヤ然セムトスル意ノ言ナリ、コレまさに[illegible]ミテ、云云セムトスト、再ビ[illegible]ミツクルヲ例トス。 神代紀、上[illegible]「[illegible]天時」 竹[illegible]「[illegible]、まさに世ニ住ミタマハン人ノ、承ケタマハリタマハデハ、アリナンヤ」 源、六、末摘花「まさにサテハ過シタマヒテンヤ」 榮花物語、[illegible]「[illegible]、まさに[illegible]ハシマサンヤハ」 (三)物語文ニ、豈。イカデ。(下ニ反語ヲ用キル) 竹取物語「我ガ子ヲ、何人カ迎ヘ聞エン、まさに許サンヤ」 [illegible]「[illegible]ト思ヘストモ、人ハ、まさに[illegible]ヤ」 [illegible]「[illegible]カクセサワカレ給ナル人ハ、[illegible]アヤシキ山賤ヲ、心留メ給ヒテンヤトイフ」

〜まさ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 坐 ます(坐)ノ延。 [illegible]、八、貞觀六年十二月十六日、[illegible]ニ依リテ」 [illegible]賀「ケフソクヲ、オサヘテまさへ、萬世ニ、花ノ盛リヲ、心シヅカニ」 續紀、三十一、寶龜二年二月、宣命「果ヘ世而仕奉麻佐部流事」 同、廿八、神護景雲元年八月、宣命[illegible]如[illegible]見ク[illegible]比、

まさ-ぶき (名) 柾葺 柿板ノ厚キカタヲ下

[illegible]マスプキ。コケラブキ。

まさ-まさ (副) (一)眼前ニアル如キ狀、[illegible] かたたほし「まさまさト、イ[illegible]テ居ル」(二)ウマウマト。巧ミニ。首尾[illegible]

まざまざ・し シク・シ・シキ・シケレ (形、二) 眼前ニ揮ル事ナキ狀ナリ。シラジラシ。[illegible]事ハ、鼻ノ下ノ長イ紫イオ客ニオッシヤッタカ」 [illegible]モ思ハス其間ニ、まざまざしい夢ヲ見マシタ」

マサン [illegible]

あだむ、いぶノ話ノ場合ニ用ヰラル) 破提宇子(元和、ハビアン)「茲ニオイテ、デウス、又、[illegible]食スルト云トモ、まさんト云フ菓實ヲバ、食スベカラズト」 契利斯督記(寛文)「デイウス、イマシメタマフハ、まさんト中、木ノ實ニテ候」 西洋紀聞(寶永、白石)下「デウス、アダン、ヱワニ戒ムルニ、ツツ[illegible]まさんノ實ノ[illegible]」

まさむね (名) 正宗 (一)相州鎌倉ノ住人、[illegible]正宗ト云フ者ノ[illegible]タル刀ノ名。其作品ヲ相州物ト云フ。[illegible]

(元文、竹田出雲)十五「田中兵部大輔吉政、石田ヲ生[illegible]與ヘケリ」(二)善ク切ルルコト。又、巧[illegible]飲味好シトノ意カ)(四)物ノキレヤス[illegible]モ云フ

まさ-め (名) 正眼 マノアタリ。萬葉集、十三 九長歌「マソカガミ、正目ニ君ヲ、相見テバコソ、吾ガ戀ヤマメ」 佛足石歌「善キ人ノ、マサ米ニ見ケム、佛足スラヲ、我ハエ見ズテ、石ニヱリツク、玉ニ[illegible]」

まさ-め (名) 正目 略シテ、まさ。木理ノ、眞直ニ揃ヒテ通リタルモノ。(板目ニ對ス)

まさ-め [illegible] (一)ふらうを[illegible]ノ[illegible] (二)さごし[illegible]ノ一名 [illegible]「鰆、マサメ」

まさ-め (名) やへなり(八重生)ノ一名。[illegible](交豆) [illegible]節用集、六、生植門「綠豆、ヤエナリ、ブンドウ」

まさめ-がみ (名) 正目紙 〔漉目ノ正シキ意ノ名カ〕杉原紙ノ一類ニシテ、厚ク白ク精ナルモノ。奉書紙ニ次グ。多ク[illegible]ヲ[illegible]ニ用ヰシ。略シテ、正[illegible]

まさ-ゆめ (名) 正夢 夢ノ實事ト合ヒタ[illegible] 夢ハ夢ニテ、夢ノ中ニ、ハコスルト見シ、夢ハ正夢」

まさり (名) 優 [illegible](劣)ニ對ス」

マサ[illegible]ルコト。竹取物語「人ノ心ザシ均シカラムナリ、イ[illegible]

まさり-がほ (名) 勝顏 マサレリト思フ[illegible] 蜻蛉日記、中、中十七「人目ゾ、イトまさり顏ナクハヅカシケレバ、[illegible]」

まさり-がほ-な・し キ・ケレ・ク・ク (形、二) 無勝顏 マサリタル容子ナシ。字類抄「無[illegible]」

まさり-ぐさ (名) [illegible]

まさり-ざま (名) 勝樣 又、[illegible]サリタルサマ。スグレタル有樣。源、十三、明石 二十「スマヰケルサマナド、ゲニ都ノヤンゴトナキトコロトコロニコトナラズ、エンニマバユキサマハ、まさりざまニゾミユル」

まさり-みづ (名) 增水 又、ましみづ。雨降リテ水嵩ノ增スコト。又、其水。[illegible]「[illegible]五月ノ、まさり水」

まさる (名) [illegible]

まさ・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 增 〔增す(ノ自動)〕 數、多クナル。增ス。殖ユ。加ハル。字類抄「增、マサル」 萬葉集、八 四十「神奈[illegible]」 同、同 廿四「何シカモ、幾許戀フル、ホトトギス、鳴ク[illegible]」

まさ・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [illegible] マサル。萬葉集、五 八「銀モ、金モ玉モ、何セムニ、[illegible]」 [illegible]二、戀、二「花ノ色ニ、オク露ヨリモ、ヒトリヌル、ワガ衣手ゾ、サエまさりケル」

まざ・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 雜混 〔まぜノ自動〕 入リ亂ル。マジル。混合ス。

まさを (名) 眞青 マコトニ青キコト。マッサヲ。今昔物語、廿七、第三十三「[illegible]色まさをニナリテ、オソレタル氣色ナリ」

まし (名) 增 (一)[illegible]ト。萬葉集、十七 三十長歌「夕風ニ、滿チクル潮ノ、イヤ增之ニ、絕ユルコトナク」 (二)加フルコト。殖ヤスコト。(三)勝ルルコト。マサルコト。勝。優 史記抄(文明)十八 十三「商賈ノ樣ニハナイホドニ、利モアリサウモナケレドモ、[illegible]しヂャゾ」 ト寶狂歌集、夏「御所望ニ、アヒテ(二十)扇ヲ、書キヨゴス、元ノ白地ガ、ヤアましヂャモノ」

マシ (名) 猿 まさら(猿)ノ略。サル。猿 字類抄「猿、マシ」 八雲御抄、三、下、獸「猿、マシ[illegible]人ノ、賢カハセ、我レ越シワブル(一本、越エワブル、[illegible] 借サ巾ヲ」、七卷ニ「猿結ハ巾ヲ」ナドノ類ナリ)

まし (名) [illegible]

まお (名) [眞風] 西南ノ方ヨリ吹ク強キ海風。ヒツタ。[illegible]（[illegible]）[illegible]年）、土風三伏カカリ候時、[illegible]、ましーテ、荷[illegible]ノキラセ、ウチトセ、[illegible]ハ[illegible]」

まし (代) [汝] 〔坐ノ義、いまし(汝)、及、みまし(汝)ノ條ヲモ見ヨ〕たむけ、[illegible]。[illegible]同等、或ハ、己レヨリ以下、親シミ呼プ語。[illegible]「[illegible]モ[illegible]ソテ、[illegible]べし」[illegible]集、[illegible]「コノ川ニ、アサ[illegible]フ[illegible]、[illegible]（一本[illegible]、千代ノゾ[illegible]レ、イデ[illegible]ニ」宇津保[illegible]、[illegible]ヒニ、ましハ、エ[illegible]ラジ、君ニ對面セムト宮ヘバ、サナムト母ニカタレバ」内宮年中行事、鶏名子の歌「山川ニ住ムヤ、鶏鴒ノ雌鳥、[illegible]ヤコノ夜ニ、七[illegible]ヒヤスル」

ま・し (動) [申] ます(申)ノ條ヲ見ヨ。

まし・マシ・マシカ (助動) 〔将ヨリ轉ズ〕動作ヲ未然ニ計リテ云フ助動詞。[illegible]、願ヒ思フ意ヲ含メテ用ヰルモアリ。古[illegible]、中(景行)四十長歌「一ツ松、人ニアリセバ、太刀ハケ[illegible]、キヌキセ[illegible]ヲ」[illegible]「[illegible]アハレ[illegible]ハセましハ、イカニ[illegible]カナシビ賞ヒタマハまし卜思フモ悲シ」山家集、上、秋「花薄、月ノ光ニ、マガハまし、深キマスホノ、色ニ染メズバ」「[illegible]行カまし」[illegible]まし」[illegible]アラまし」

まじ (名) [蠱] まじもの(蠱物)ニ同ジ。「まじワザ」まじコル」まじクル」まじナフ」

ま・じ・ジキ・ジケレ・ジク・ジク (助動) 動作ヲ推シ量リテ打消ス語。マイ。[illegible]紀、四年十月「山コエテ、海ワタルトモ、面白キ、イマキノ内ハ、忘ラユ麻旨ニ」仁徳紀、三十年十一月、長歌「依ル麻志枳、川ノ隈隈、ヨロボヒ行クカモ、ウラグハノ木」「行クまじ」[illegible]まじ」[illegible]クまじ」カナフまじ」[illegible]まじきモノ」アルまじきワザ」[illegible]フまじくナム」

まおか (名) [白魚] みおひ(白魚)ノ一種。下ノ出典ヲ見ヨ。重修本草[illegible]、廿九、魚類「白魚、ミゴヒ(和名鈔)、ニゴヒ、サイノウヲ、云云、[illegible]六、[illegible]ニ早春、[illegible]、[illegible]ニ似、[illegible]ン、色[illegible]クシ、[illegible]ノ[illegible]色[illegible]ナレニ[illegible]、云云、[illegible]ノ[illegible]ナラザルヲまおかト云」

まじく・な・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 〔まじくりヲ行ふ意カ〕マギラカシ、取リツクロフ。オホヨソ、カリソメニ物ス。糊塗

ましくらま (副) [驀地] まっしくらま(驀地)ニ同ジ。[illegible]記、九、[illegible]成、東寺ノ東門ノ脇ヨリ、[illegible]ノ雨ヲ帶テ暮山ヲ出タルガ如、ましくらニ打出タリ」

まじ・く・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 〔まじおるヨリ轉ズ、其條ヲ參見セヨ〕(一)[illegible]シク呪フ。災ニ引キ入ル。(二)マギラカス。「目まじくり」口まじくり」

マシ・お (名) [猿] 「[illegible]、土佐[illegible]ニ猿子村アリ」ましら(猿)ニ同ジ。[illegible]、[illegible]、増子、マシコ、[illegible]、ド、[illegible]、マシラ、マシコ」藻鹽草、十一、獸「猿、マシコ」古今集([illegible]、十九、[illegible]ワビシラニ、ま[illegible]ナナキソ、アシビキノ、ヤマノカヒアル、ケフニヤハアラヌ」

マシ・お (名) [猿子鳥] 次條ノ語ノ略。夫木抄、廿七、猿子鳥「ましお居ル、井ノクヅ[illegible]、ウチ拂ヒ、ミキハカヘテシ、[illegible]ヒシモ」

マシおどり (名) [猿子鳥][増子鳥] 略シテ、ましお。小鳥ノ名。おとど(巫鳥)ノ類、大キサ雀ノ如ク、全身、灰黒ニシテ、翅ニ黒キ斑アリ、尾ノ兩端ニ白キ羽アリ。胸、腹、淡紅ニシテ、頭ヨリ胸ニ至ルマデ、白圏アリ、千葉氏ノ菊花ノ紋ノ如シ。嘴、短クシテ赤黒シ。性、黠悧ニシテ、聲モ喧シケレバ名ヅクト云フ。[illegible]本草[illegible]、六、林禽「猿子鳥、[illegible]之古[illegible]名、鳥[illegible]利、[illegible]、[illegible]故名、云云」

まじ・お・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔蠱凝る〕[illegible]（まじおられノ約カ）

まし・じ (助動) 〔行カましナドノましニ、行カじノじノ附キタルモノ〕まじニ同ジ。萬葉集、十四四「アラタマノ、城柵ノ林ニ、[illegible]テ、行キカツ[illegible]、[illegible]先立タニ」

まして (副) [況] 「増シテノ義」元ヨリアルニ超エテ。ナホサラ。音便ニ、まいて。萬葉集、五八長歌「瓜食メバ、子ドモオモホユ、栗食メバ、[illegible]、[illegible]コレ[illegible]キテ、ましてカクヤ姫ヲ[illegible]クベクモアラズ」源、一、桐壺「ソレヨリ下臈ノ更衣タチハ、まして安カラズ」

まじなひ (名) [禁厭] (一)〔マジナフコト〕神佛ニ祈リテ、其通力ニテ、禍ナドヲ禳ハムコトヲ請フ術。呪禁 厭勝 源、十、榊五十「ワラハヤミニ、ヒサシウナヤミ給テ、まじなひナドモ、心ヤスクセントテナリケリ」徒然草、第六十一段「御産ノ時、甑オトス事ハ、云云、御胞衣トドコホル時ノまじなひナリ」(二)醫術ノ一方法。職員令、典藥寮「呪禁師二人(掌二呪禁一)、呪禁博士一人(掌レ教二呪禁生一)」

まじ・な・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [禁厭] 〔まじハ蠱ニテ、彼方ノ體ニ、此方ノ靈ノ交ル意、なふハ、卜なふ、商なふノなふト同趣、蠱ヲ行フ義〕(一)蠱物ヲ構ヘテ、人ヲシテソレニ交リ、アヤカラシメムト詛フ。(詛フハ凶シカラシムルノミナレド、まじなふハ吉カラシムルニモ云フ)蠱物ス。字類抄「蠱、禁、マジナフ」名[illegible]ナンドセサセ給ヘド、シルシナクテ」落窪中納言[illegible]スカタナケレド」(三)物ヲ構ヘテ疾苦ヲ止メ直ス。人ノタメニモ、己レガタメニモ、[illegible]ルデリ)」神代紀、上四十「爲レ攘二鳥獸昆蟲之災異一[illegible]」

まおば (名) [眞柴] 〔まハ美稱〕 おば(柴)ト云フニ同ジ。千載集、十六、雜、上「[illegible]ノ眞柴、折リシキテ、天ノ川セノ、月ヲミルカナ」

まおはま (副) 〔まハ發語、眞之ノ義卜云フ〕各ク、ヲシム狀ニ云フ語。萬葉集、十四廿四「オフ楉、コノモト山ノ、眞柴ニモ、告ラヌ妹ガ名、兆ニ出デムカモ」同、同廿四「足引ノ、山カヅラカゲ、[illegible]モ、[illegible]サム」

まじはり (名) [交] (一)マジハルコト。マジラヒ、キアヒ、交際 [illegible] (二)男女ノ媾合 交接 房事

まじ・は・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [參交錯] 〔まじふノ自動〕入リ合フ。マザル。又、マジラフ。タヅサハル。マジル。字類抄「交、マジハル、雑、[illegible]、接雜、云云、雜、已上、同」名義抄「衒、マジハル、[illegible]、マジハル、[illegible]、マジハル、接、マジハル、渉、マジハル、糅、マジハル、交、マジハル、錯、マジハル、雑、マジハル」

まじは・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔交〕(一)前條ノ語ニ同ジ。(二)人ト好ヲ通ズ。友トナル。マジラフ。ツキアフ。[illegible]「[illegible]」[illegible]交接ム、[illegible]「[illegible]二柱ノ神、云云、鶺鴒飛ビ來リテ、其首尾ヲウゴカシ[illegible]まじはる[illegible]得タリ」

まじ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）〔交〕(一)〔まずノ轉〕(一)間ヲ接ス。入レ雜ハス。マズ。名義抄「和、マジフ、較、マジフ」[illegible]八、長歌「アヤメ草、花橘ニ、ヌキ[illegible]、カヅラニセヨト、包ミテヤラム」(二)交ス。「枝ヲまじふ」「[illegible]ヲまじふ」(三)交叉スルヤウニナス。「綜ト綜トヲまじふ」

まじへ・る（動）〔交〕前條ノ語ノ口語。

ましほ（名）〔眞潮〕〔「ま」ハ發語〕(一)まほ（潮）ト云フニ同ジ。夫木抄、廿五、[illegible]「ま[illegible]」(二)逆潮ニ對シテ、大潮流ノ稱。さかまほ（逆潮）ノ條ヲ見ヨ。

まじ・まじ・と（副）〔交睫〕(一)タビタビ目バタキシテ、ナガムル狀ニ云フ語。[illegible]「[illegible]マジマジ」[illegible]「[illegible]まじまじとシテ、船バタニヨリカカリ居ル」(二)轉ジテ、無遠慮ナル狀ニ云フ語。圖圖。浮世風呂、文化、三編、下「[illegible]ハ役ニ立タネエ男ダヨ、云云、ソノ上ニ、イケまじまじと、お[illegible]ヘ行ッテ、居候ニナッテ居ルワサ」

まじま・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）〔在〕〔「まし」ハ坐ノ義アリ、下ノ「ます」ハ敬語〕坐すヲ更ニ敬シテ云フ語。オハシマス。[illegible]「[illegible]マシマス」[illegible]

ましみづ（名）〔眞清水〕〔「ま」ハ發語〕しみづ（清水）ト云フニ同ジ。萬葉集、一、長歌「アメシルヤ、日ノ御影ノ、水コソハ、トキハニアラメ、御井ノ眞清水」[illegible]「[illegible]ヲ[illegible]ル、音聞ケバ、掬バヌ先ニ、涼シカリケリ」

ましみづ（名）〔増水〕水嵩ノマサルコト。デミヅ。又、マサリミヅ。ゾウスヰ。六帖、五「我ガカドノ、イササ小川ノ、増水ノ、増シテゾオモフ、君ヒトリヲバ」

ましん（名）〔麻疹〕はしか（麻疹）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

まじめ（名）〔眞面目〕〔「正シキ目」ノ義〕本氣ノ顏色。戯レナラヌコト。シンメンモク。眞顏。率直。老實。實直。眞實。八笑人（文政）、四編、上「マゼ[illegible]、まじめナ顏ダケ」浮世風呂、文化、三編、下「サウダガノ、亭主ハアンナ老實者ガイイヨ」

まじめ・くさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔眞面目臭〕マジメナル狀ヲ、ヨソホフ。眞面目ナル容子ヲナス。

まじもの（名）〔蠱物〕〔交物ノ意ト云フ、沖縄ニテハ、今モ云フ〕(一)マジヘモノ。壓シ交リ、混ズルモノ。(二)妖シキ術ニテ、人ヲ呪ヒ詛ヒテ害ヲ加フルコト。蠱ヒテ敵方ヲ病マシメ、苦シメ、又ハ、死セシムルコト。マジ。蠱惑。字鏡廿「蠱、マジモノ」字鏡六十「蠱、萬自物」[illegible]神護景雲[illegible]年五月、丙申、[illegible]女等、[illegible]配流、詔曰、云云、[illegible]

マシャウ（名）〔魔障〕佛家ノ語。惡魔ノ[illegible]下、盲鍼門「魔障、マシャウ」太平記、十二、[illegible]上人[illegible]

ましゃうもの（名）〔眞情者〕正シキ風情ノモノ。正直モノ。夕霧阿波鳴渡（正德、近松作）中「人ノ氣ニ入リ離ハレテ、ましゃうものト言ハレタユヱ、片町ノフリヲ内ヘ呼ビ入レ」

ましゃく（名）〔間尺〕工匠ノ語。作事ノ寸法。常ニ「間尺ニ合はぬ」ナド云ヒテ、算當割合ノ外レテ損ナル意ニ云フ。[illegible]浮世風呂（文化）、[illegible]、下「[illegible]八半 半尺デ、云云、アンナヤサシイ事ヲシテ居ル、アレデ間尺ノ合フモノカネエ」

まじ・ゆ（動）交 交ふノ口語。

マシュツ（名）〔魔術〕魔力ヲ以テ行フ不思議ナル術。アヤシキ術。妖術。魔法。謡曲、大會「帝釋アラハレ、數千ノ魔術ヲアサマニナセバ、有リツル大會チリヂリニナッテ」「魔術師」

マショ（名）〔魔所〕妖魔ノ棲ム所。魔境。即チ山ノ氣、山ノ精、魑魅魍魎ナドノ棲息シテ居ル所ニテ、時代ノ人ヲ恐怖セシメタルモノ。其有名ナル場所ハ、山城國愛宕山、同鞍馬僧正谷、大和國大峰、和泉國[illegible]明神、遠江國秋葉山[illegible]院、相模國[illegible]、同大山寺奥院、上野國妙義山、下野國日光山[illegible]、同新湯殿山、陸奥國[illegible]、同燒山、越中國立山、讃岐國金毘羅、伊豫國[illegible]山、同石槌山、[illegible]

ましゃく（名）〔間尺〕ましゃく（間尺）ノ[illegible]

マシラ（名）〔猿〕〔梵語、摩斯吒（Mar-[illegible]）[illegible]〕さる（猿）ノ異名。マシコ。マシ。[illegible]「[illegible]」まし、まし、今[illegible]ニテモ、まし[illegible]ト云、梵言、摩斯吒ノ音ナリ」東雅、十八、猿「猿、サル、倭名抄ニ說字又作猨、云云、古語、ましらトイヒシハ、梵ニ摩斯吒トイヒシ語ノ轉ジ呼ビシト見エタリ」八雲御抄、三、[illegible]アル、ケフニヤハアラヌ」

まじらが（名）〔眞白髮〕マコトノ白髮。[illegible]世ニ、トモニアラムト」（古義ノ訓）

ましらげのよね（名）〔眞精米〕[illegible]キアゲタル米。精白米。[illegible]

まじらひ（名）〔交〕(一)マジラフコト。(二)マジハルコト。ツキアヒ。交際。宇津保物語、藏開、下「人ハアマタアレド、カカルまじらひハ、アヂキナキモノナリ」源氏、帚木「カカルキズサヘツキヌレバ、イヨイヨまじらひモ[illegible]」

ましらふ（名）〔眞白斑〕鷹ノ羽ノ、白キモノト云フ。[illegible]「[illegible]ヘテゾ我ガ飼フ、眞白斑ノ鷹」夫木抄、十八、鷹狩「降ル雪ニ、友[illegible]鳥、シルベシテ、ヲケドモ見エズ、ましらふノ鷹」

まじら・ふ・フ・へ・ハ・ヒ・へ（自動、四）　交　〔まじるノ延〕（一）マジル。マザル。マジハル。名義抄「粗、マジラフ」（二）友トナル。マジハル　ツキアフ。交際スル。源、十二、須磨四十八「昔ノカシコキ人ダニ、ハカバカシウ世ニ、又まじらふコト難ク侍リケレバ」　蜻蛉日記、中、上四十九「何センニカハ、世ニモまじらはントテ、イミジウヨヨト泣ケバ」

ま-じり　（名）　眦　〔目後（[illegible]）〕マナジリ。メジリ。外眥　字類抄「眼尾、マナシリ、亦、マシリ」源、三十七、横笛八十「まじりノトヂメ、オカシウカホレルケシキナド、イトヨクオボエ給ヘリ」　栄花、四、中四十「恥ツカシゲニ、ラウラウシゲナル御まじりニ、心ヨカラズ見オコセ給ヘバ」

まじり　（名）　雜　マジルコト。又、マジリタルモノ。マザリ。宗良親王千首、春「ナツカシナ、思ヘバ誰レガ、里ナラン、草まじりノ、野ベノ若草」「[illegible]まじりノ天候」白髪まじり」

まじり-もの　（名）　雜物　マザリタルモノ。一種類ノミニアラザルモノ。混合物　源、廿六、常夏三「中將ァイトど給フコソ、オトドハ本意ナケレ、まじりものナク、キラキラシカメル中ニ、大君ナツ筋ニテ、カタクナナリト一ヤ」

まじ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）　交　雜　錯　（一）入リ合フ。マザル。マジハル。マジラフ　萬葉集、五十九「殘リタル、雪ニ[illegible]、梅ノ花、ハヤクナ散リソ、雪ハ消ヌトモ」　同、同廿九長歌「風雜、雨ノ降ル夜ノ、雨雜、雪ノ降ル夜ハ」（二）分ケ入ル。竹取物語「今ハ昔、竹取ノ翁トイフモノアリケリ、野山ニまじりテ竹ヲ取リツツ、萬ノ事ニツカヒケリ」　古今集、二、春、下「イサ今日ハ、春ノ山邊ニ、まじりナン、暮レナバ無ケノ、花ノ蔭カハ」　宇津保物語、菊宴五十三「山林ニまじりテ、山山寺寺ニ、不斷ノ修法行ハセツツ聞エ給ヘド」

ま-しろ　（名）　眞白　全ク白キコト。マッシロ。純白　萬葉集、十九二十「ヤカタヲノ、麻之路ノ鷹ヲ、宿ニスヱ、カキ撫デ見ツツ、飼ハクシヨシモ」

ま-じろ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）　瞬　〔目退くノ義〕メバタキヲナス。メタタク。マタタク。名義抄「瞬、瞚、マタタク、マジロク、瞤、メメクル、マシロク、瞎、マジロク、眴、マシロク」字鏡[illegible]「[illegible]、開閉目數搖也、萬志呂久、又、目太太久」　遊仙窟（醍醐寺本）「見復何曾眼　引」　沙石集、七、上、第四條「眼ノまじろき、息ノ通フホドコソ、云云」

まじろ・ふ・フ・へ・ハ・ヒ・へ（自動、四）　交　まじらふ（交）ノ轉。　木下長嘯子[illegible]百首「櫻ハ、松ノシゲ枝ニ、まじろへド、アダナルクセハ、直ラザリケリ」　枕草子、五、第四十五段「ナリ惡シク、物ノ色（前田家本ニハ、ワロクネタキモノカナ、トノ文アリ）ヨロシウテまじろはンハ、イフカヒナキモノナリ」

まじ-わざ　（名）　蠱事　蠱物ノ術。詛フ事。　字類抄「蠱、マジナフ、マジワザ、マシモノ」　名義抄「厭、蠱、マジワザ」　續紀、廿九、神護景雲三年五月、詔「穢久謀ヲ爲留厭魅事、皆悉發覺」　宇治拾遺、十、第九條「陰陽師ニ、死ヌベキワザドモヲ、セサセケレバ、ソノまじわざスル陰陽師ノ曰ク、云云」

ます　（名）　枡　升　〔增ノ義、合ヲ積ミ積ミ升ヲ積ミ相增ス意ト云フ〕（一）木造ノ小方ナル匣、桶狀ノモアリ。穀物、酒、油ノ類ノ分量ヲ量ルニ用キル。一合枡、一升枡、一斗枡等、其製、大小種種ナリ。量　升　字類抄「升、マス」　看聞御記、應永廿三年七月廿六日「男一人來テ米ヲ買ベシトテ、器物升ト云物ヲ預置」　狂言記、餓鬼道心「ハヤ此經ヲ讀メトオシャル、何經トヤラ云ハレタ、枡ノ底ノ樣ナ字ガ、幾ツモアルワ」（二）〔一升枡。倭名抄、十四稱量具「升、[illegible]、十合器也」　字類抄「升、マス、十合器也」　名義抄「升、十合、マス」　今モ、一升、二升、ナド云フハ一升ナリ。（三）水道ノ樋ノ相接スル處ニ入ルル大ナル匣。（四）東京ノ芝居ニ、平土間、高土間ノ一仕切ノ稱。どま（土間）ノ條ヲ見ヨ。（五）風呂屋ニテ、湯船、水船ヨリ、湯、水ナドヲ汲ムニ用キル方形ノ器　浮世風呂（文化）、三編、四編、上「右ノ桶ニカガミテ、升カラ直ニ水ヲウチカケテ」（六）ますがた（枡形）ノ略。

ます　（名）　鱒　魚ノ名。東北國ノ産、河海ノ間ニ居テ、夏、子ヲ生マムトテ河ニ溯ル。性、強健ナリ。形、鮭ニ似テ、稍小サク、鱗更ニ細カク、脊、青クシテ、赤キ斑アリ、腹、白シ、眼中、赤條、睛ヲ貫ク。肉ノ赤キコト鮭ニ似テ、味、更ニ勝ル。海鱒ト云フハ、肉ノ色白シ。ナナコ。　本草和名、下十五「鱒、[illegible]、一名、赤目魚、万須」　倭名抄、八四廿「鱒、[illegible]」　字鏡[illegible]「鱒、萬須」　亞槐集、九、雜、上、魚の名、十「山ヲコシ、アメニますヒヲ、イルカトテ、振リサケ歩ム、旅ノツラサハ」

ま・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）　座　坐　（一）在り、居る、ノ敬語。イマス。オハス。ゴザル。　六帖、四「君まさデ、荒レタル宿ノ、板間ヨリ、月ノ洩ルニモ、袖ハヌレケリ」（二）〔有リ〕ノ敬語。　字類抄「坐、マス、在、同、御知、在」　齊明紀、五年七月、注「天子相見、問訊之、日本國天皇、平安以不」　雄略紀、四年二月「是時、百姓、咸言、有德天皇也」　萬葉集、二十四廿「神樂浪ノ、大山守ハ、誰ガ爲カ、山ニ標結フ、君モ不有ナクニ」（三）〔出デマス。　萬葉集、十九四十「御ムカ延フ、賤シキ宿モ、大君ノ、座ムト知ラバ、玉敷カマシヲ」（四）〔行く〕ノ敬語。　萬葉集、十七三十八「吾ガ大子ガ、國ヘ罷之ナバ、ホトトギス、鳴カム五月ハ、サブシケムカモ」（五）〔又、他ノ動詞ニ添ヘテ、意ナキ敬語トス。　萬葉集、四二十七「我ガ衣、形見ニマツル、敷妙ノ、枕離サズ、纏キテサ宿座」（古義ノ訓）　同、十九廿長歌「[illegible]ノ間モ、惜シキ命ヲ、露霜ノ、過ギ麻之ニケレ」[illegible]ルヲ云フ）　同、同六十一長歌「コギハテム、泊ニ、荒キ風、浪ニ遇ハセズ、平ケク、率テ歸リ麻世、モトノ國家ニ」「出テます」オハシます」坐シます」高知リます」　今ノ口語ニハ、人ノ上、己レガ上、共ニ用キル、[illegible]ノ方カトモ云フ）「召シます」頂キます」遊バシます」[illegible]」　[illegible]ぬ、未來ニ、[illegible]、接續法ニ、ますれど、ナド用キテ、語尾、下二段活用ト混ジタルガ如シ。

ま・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）　增　益　（一）數、加ハル。多クナル。[illegible]　[illegible]人求」猶增、伯樂一顧、價增三倍」　金葉集、一、春「ヌルルサヘ、嬉シカリケリ、春雨ニ、色ます藤ノ、雫ト思ヘバ」　萬葉集、十七長歌「[illegible]ヒ代シ、何ケクノ、日ニケニ麻世バ、カナシケク」（二）勝ル。マサル。超　絕　萬葉集、十五三十六「旅ト云ヘバ、言ニゾ易キ、術モナク、苦シキ旅モ、子ラニ麻左メヤモ」「思フニまして」聞キシニまして」

ま・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）　增　益　（一）數ヲ加フ。足ラス。多クナス。ノヤス。[illegible]（二）〔マサルヤウニナス。　枕草子、一、第十二段「家ハ、ツギニハキンノ御琴ヲ、イカデ人ニ勝キまさント思セ」

ま・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）　申　まをすノ音便ナルまうすノ約。　大鏡、中、伊尹「入道殿ハ、イトフビナル事ヲモまさルルカナト仰セラレナガラ、イトイミジウ笑ハセ給ヒケリ」　景行紀、十二年十月「[illegible]」　天智紀、十年十月「[illegible]」　榮花物語、一、月宴「世ノ末ニ、由ナキ事ノ出來テ、人ノソシリヲオヒ給フコトト、歎カシゲニまし給フ」　清輔集「オホヤケニ　ヨキコト奏シ　申ストキク人ノ許ヘ、喜ビニタヘカネテましケル」　後葉集、十、物名「くらげヲ海ノ月ト云フ由、人ノましケルヲ聞キテ」

ま・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（自動、下二）　老成　夙慧　〔まさるノ轉カ〕年齡、程ヨリハ

大人ビテ見ユ。ネブ。オヨヅク。マセル。六帖、四「山賤ノ、垣ホニカコフ、マセ垣ノ、ませタリシトモ、見エヌ君哉」

〔ま・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）〔請〕〔令レ坐ノ義、一ニ申シ請フ意〕請ズル。[illegible]

ま・す・[illegible]・レ・セ・シ・セヨ[illegible]（一）[illegible]（二）セマル。[illegible]同、陰記[illegible]「相殺而錯之謂」[illegible]氣下降、陰陽相摩、天地相蕩」

ま・ず・ズル・ズレ・ゼ・ゼ・ゼヨ（他動、下二）〔交雜〕（一）入レ合ハス。加ヘ合ハス。マジノ[illegible]「[illegible]ツギソ[illegible]中ニ白キませタルモ、スベテ、シザマヲカシキノミゾ」[illegible]二、[illegible]刈リケン、モ[illegible]ハ、[illegible]（二）加ヘテ[illegible]

ますおとし（名）[illegible]古ハ、[illegible]ト云ヘリ、拾遺集、物ノ名ニ、ハシ鷹ノ、[illegible]鼠[illegible]結）ガスナ、鼠取ルベク。アユガスハ、動カスナリ、是ハ、鼠ヲ取ラム料ノ押機ナリ。倭名抄、十五[四]畋獵具「漢語抄云、鼠弩、一云、鼠弓、於之」トアリ、今世ニモ、弓張リタル鼠オトシアリ」〔上〕鼠ヲ取ル[illegible]一種[illegible]ニナスモノ。本朝若風俗（良菴、西鶴）四「[illegible]

[illegible]レル鼠ハウルサクヤ」

ますおり（名）〔枡織〕布ノ表面ト裏面ト[illegible]

ますかがみ（名）〔十寸鏡〕ますみのかがみ[illegible]門「十寸鏡、マスカカミ」古今集、六、冬「行ク年ノ、惜シクモアルカナ、ますかがみ[illegible]ヘニ、クレヌト聞ヘバ」[illegible]サノ、ますかがみ、ミズベ我身ノ、ウサモシラレジ」

ますかがみ（枕）〔十寸鏡〕ますかがみ[illegible]十寸鏡[illegible]同ジ。新千載集、九、釋教「ます鏡、磨キテウツル、影モ猶、思ヘバ假ノ、色ニゾアリケル」[illegible]ます[illegible]ラデモ花ノ、カゲゾウツロフ」六帖、二「ます鏡、照ル月影ヲ、白妙ノ、雲ノカクセル、天ツ霧カモ」

ますがき（名）枡掻　さかきニ[illegible]ノ條ヲ見ヨ。槩　斗格（俗書正譌註）書言字考節用集、七[illegible]門「[illegible]」日本一代[illegible]「[illegible]ハカレハ十八ノ升掻」同[illegible]ノ升かきニテ[illegible]分ケテ、三人ノ子供ニ渡シケルトナリ」

ますがた（名）〔枡形〕（一）宮殿、社寺ナドノ建築ニ、柱ノ上ニ置ク方形ノ木（ますトノミモ云フ）其大ナルヲ、大斗ト云フ。古言、タタリガタ。欂櫨　又、其上ニ置キテ小ナルヲ、卷斗ト云フ。又、トガタ。枓栱　其下ニ、肘木アリ。（其條ヲ見ヨ）（二）城ノ一二ノ門ノ間ニ、郭ノ狹ク方形ヲナセル處。前ニ小門[illegible]、[illegible]大門[illegible]上ニ[illegible]テ、[illegible]上グ。小大二門[illegible]テ、枡形ヲ作ル[illegible]五八ノ枡形ト云フ。一坪ニ鎧武者六人ヲ置ク、二百四十人入ル、馬上ハ一坪一人

ニテ、四十人ナリト。武者溜。曲壁　武用辨略、二、城郭「升形、城門二ノ門ノ内ノ武者溜[illegible]之城後攻之事「天ノアクルヲマタバ、通路ナリガタカルベシ、[illegible]早ク升形ノ[illegible]ヨシ、[illegible]昌下知ス」

マスク（名）〔英語、Mask〕[illegible]圏ニテハ、主トシテ、[illegible]捕手ノ用ヰル面、又[illegible]等ヲ防グニ用ヰル面、或ハ、口ノ覆ヒ、[illegible]

ますぐ（名）〔眞直〕少シモ曲リノナキコト。又、正直ナルコト。マッスグ。

ますぐみ（名）〔枡組〕障子、[illegible]ド、骨ヲ方形ニ組ムコト。又、ソノ組ミタルモノ。

ますげ（名）〔眞菅〕〔まハ發語〕すげ（菅）ト云フニ同ジ。千載集、十六、雜、上「ますげ生フル、山下水ニ、宿ル夜ハ、月サヘ草ノ、イホリヲゾサス」續古今集、十、羇旅「千鳥鳴ク、ソガノ河風、身ニシミテ、眞[illegible]カタシキ、明ス夜半カナ」

〔ますげよし（枕）〔眞菅吉〕（すげノすがノ音ニ似通ヒタルヨリ）そが（蘇我）ニ冠ラスル枕詞。（校本萬葉集ハ、ますげよきトヨメリ、此ニテハ代匠記精選本ノ說ニ從ヒテ、ますげよしト讀ミタリ）[illegible]集、十二「眞菅吉、宗我ノ河原ニ、[illegible]ナシ吾ガセコ、吾ガ戀フラクハ」

ますざ（名）〔枡座〕德川氏ノ時、別段ノ免許ヲ得テ、枡ヲ製造、專賣シ、且、ソノ檢査ヲ掌リシ所。江戸ト京[illegible]ニ。（座ノ條ヲ見ヨ。[illegible]門、東國ノ枡ヲ掌ルヲ初トス）三河後風土記、廿八[illegible]之事「天正十八

[illegible]配仰付ラレ、神田玉川ノ水道、樋口小日向、金杉三ケ[illegible]スル樽枡ノ外ヲ、堅ク禁ゼラレタリ」

マスト（名）〔英語、Mast〕帆柱[illegible]

ますとり（名）〔枡取〕枡ニテ物ヲハカルコト、又、其人[illegible]上「[illegible]下[illegible]之[illegible]ナラバ、我等之スギアイ程之儀ニ御座候可、有、別ノ儀モ御座無ト申上ケレバ」

ますはな（名）[illegible]他ニ[illegible]ノノアルコト。轉ジテ、他ニマサル人ノアルニ喩フル語。晉時我集（慶安）六、夏「カタヘニモ、ます花アリテ、ウグヒスノ、飛ビノク如シ、ウツリ氣ノ人」

〔ますひと（名）〔益人〕あめのますひと（天益人）ノ條ヲ見ヨ。

〔ますほ（名）[illegible]ますほ[illegible]見ヨ。徒然草、第百八十八段「アル者、ますほノ薄、まそほノ薄ナドイフ事アリ、云云、ト語リケルヲ」

ますほがひ[illegible]ハ、黃色ノ放射狀線アリ。裏ハ白色ニテ、[illegible]マスホノカヒ。山家集、下「汐染ムル、ますほノ小貝、拾フトテ、色ノ濱トハ、云フニヤアルラン」

〔ますます（副）〔益增倍〕[illegible]之」柳宗元、謝[illegible]「[illegible]」字類抄「[illegible]、マスマス」[illegible]

伏ニ拜謝臣ハ倍 復足レ知ニ百姓ニ」 萬葉集、五「世ノ中ハ、空シキモノト、知ルトキシ、イヨヨ益々、カナシカリケリ」 堀河百首「カゲロフノ、アルカナキカノ、身トキケバ、イトドますます、アダシ世ノ中」

ますみ (名) [眞澄] 又、ますてひ。清フカ一澄ミタルコト。又、清ラカナルコト。 永久四年百首、夏、扇「手ナルレド、扇ゾツラキ、我セコガ、ますみノ色ヲ、カクスト思ヘバ」

ますみのかがみ (名) [眞澄鏡] 殊ニ善ク澄ミテ、明ナル鏡。マソミノカガミ。マソヒノカガミ。マスカガミ。マソカガミ。テルカガミ。 易林節用集(慶長)下、器財門「眞角鏡、マスミノカカミ、十寸鏡、マスカカミ」 神代紀、上「白銅鏡」私記「萬須美乃加加見」 萬葉集、十六 長歌「吾カ目ラハ、眞墨乃鏡、吾カ爪ハ」 後拾遺集、十九、雜、五「ヒカゲ草、カガヤクカゲヤ、マカヒケン、ますみのかがみ、クモラヌモノヲ」

ますめ (名) [枡目] (一)枡ニテ量ル石、斗、升、合、ナドノ嵩。量 (二)水邊ニ柱ヲ立テテ、一合ヨリ一升マデノ刻目ヲツケテ、增水ノ高サヲ計ルモノ。

ますら (名) [益荒] ますらを(丈夫)ノ略。其條ヲ見ヨ。 萬葉集、十七 長歌「出デテ來シ、麻須良ワレスラ、ヨノナカノ、常シナケレバ」

ますら (名) [正占] かめのますら(龜正占)ノ條ヲ見ヨ。 袖中抄、七「思ヒカネ、龜ノますらニ、事トヘバ、タメアヒタリト、聞クゾ嬉シキ」

ますらがみ (名) [益荒神] 猛ク雄雄シキ神。 出雲風土記「島根郡、加賀神埼」注「吾御子麻須羅神御子坐者」

ますらたけを (名) [勇士] (男子ヲ剛キニ就キテ云フ語) 武勇ノ男。略シテ、ますらを。 萬葉集、十九「唐國ニ、行キタラハシテ、歸リ來ム、麻須良多家乎ニ、御酒タテマツル」

ますらを (名) [丈夫] (まさりをノ轉、健カナル男、又、武健キ行ヒノ人ニ勝リタル男ノ義、たわやめ(手弱女)ニ對ス) (一)立派ニ成リ立チタル男。後ニ、女ニ對シテ、男ノ通稱。ますらをとこ。略シテ、ますら。ますらをのこ。 倭名抄、二 男女類「公羊傳云、丈夫、一云、萬葉集云、麻須良乎、大人之稱也」 神代紀、上「吾是男子、理當ニ先唱ー如何」 萬葉集、十七 長歌「天ザカル、鄙モ治ムル、麻須良男ヤ、何カ物思フ」 佛足石歌「麻須良乎ノ、スミサキダチ、蹈メル跡ヲ、見ツツシノバム、云云」 (二)前條ノ語ノ略。 萬葉集、六 天皇賜酒節度使卿等御歌 云云、適値ニ勇士ニ生而見獲、云云「大夫ガ、高圓山ニ、迫メタレバ、里ニ降リ來ル、ムササビゾコレ」

ますらをとこ (名) [丈夫] 前條ノ語ニ同ジ。ますらをのこ。 萬葉集、九 長歌「古ヘノ、益荒男ノ、アヒ競ヒ、ツマドヒシケム」(菟原ノ處)

ますらをの (枕) [丈夫] (丈夫ハ常ニ手結(鞆ノ類)ヲシタル故ニ云フ) たゆひト云フ語ノ枕詞。 萬葉集、三 長歌「丈夫乃、タユヒガ浦ニ、アマヲトメ、シホ燒クケブリ」

ますらをのこ (名) [丈夫] 前前條ノ語ニ同ジ。 萬葉集、二「歎キツツ、丈夫ノ、戀フレコソ、吾カモトユヒノ、ヒヂテヌレケレ」

ますゐ (名) [麻醉] 麻藥ヲ用ヰ、又ハ、中毒ヲ起シテ、人身ノ、全ク知覺ヲ失フコト。時ヲ期シテ醒ム。「麻醉劑」

ますゑ (名) [眞末] 最モ末ナルコト。

ますを (名) [眞緒] まそほ(眞緒)ノ條ヲ見ヨ。「ますをノ薄」

ませ (名) [老成] 大人ビテ見ユルコト。年齡ヨリハ、熟スルコト。早熟。 丹波與作(寶永、近松作)道中雙六「盜ミカハクハ何奴ジャイ、ヤアませノジネンジョメカ」 孕常盤(寶永、近松作)二「顔ヲませませ、ませノ小倅ノ」

ませ (名) [籬] 〔門塞ノ義ト云フ、或ハ云フ、馬塞ノ義、尚、まがき(籬)ノ條ヲ見ヨ〕竹、木ニテ作レル垣。但シ、低キモノニ言ヘルガ如シ。又、マセガキ。マガキ。 倭名抄、十 居處類「籬、末勢、一云、末世」 字鏡「柵、萬世」 萬葉集、十二「師ガ飼ヒシ、ませ越シニ、麥食ム駒ノ、ノラユレド、猶モ戀ヒシク、オモヒカテヌヲ」(字ハ、互木、宕木ノ合字) 宇津保物語、吹上、上「笆ノ縱木ニハ紫檀、横木ニハ沈、結緒ニハ絲ノ組シテ結ヒテ」 枕草子、二、第十七段「御マヘハツボナレバ、前栽ナド植ヱ、ませ結ヒテ」 榮花物語、廿七、衣珠「御格子ハ、白金ノ籬ノ上ニ、ませ結ヒテ」 三十一、雜「色カヘヌ、まがきノ竹ノ、ませノ内ニ、千代ユヒソフル、松蟲ノ聲」 六帖、四「山賤ノ、垣ホニ匂フ、ませ垣ノ、マセタリシトモ、見エシ君カナ」

ま・せ (動) [請] ます(請)ノ條ヲ見ヨ。

ま・せ (動) 坐させ、ノ約。(坐すヲ使役ニ用ヰタル語) 清寧紀、二年十一月「是ニ紫宮ヲ播磨ニ、安置ニ乘 驛馳使」 孝德紀、四年二月「迎ニ佛像四躯、使ニ坐ニ子塔内ニ」 貫之集「チハヤフル、神々ナマせヨ、君カタメ、ツム春日野ノ、若菜ナリケリ」

ませがき (名) [籬垣][閒狹垣] ませ(籬)ニ同ジ。 名義抄「柵、マセガキ」 相撲集「トコナツノ、花生ヒシゲル、ませがきモ、結ヒカタメテハ、露モモラサジ」 平家物語、灌頂卷、小原御幸「都ノカタノオトヅレハ、マドホニユヘルませがきヤ」

まぜかへし (名) [雜返] マゼカヘスコト。マゼッカヘシ。

まぜかへ・す ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [雜返] (一)攪、雜ズ。カキマズ。攪 攪拌 俚言集覽「まぜかへす、マゼルトモイフ、イソガシク取コミタルヲイフ」 (二)俗ニ、他ノ話ニ、差口シテ戲ル。チャチャヲ入レル。

まぜくりかへ・す ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [雜繰返] 前條ノ語ニ同ジ。

まぜく・る ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [雜繰] 前前條ノ語ニ同ジ。

まぜけん (名) [交拳] 拳ノ一種。下ノ出典ヲ見ヨ。 拳會角力圖會、下、交拳「此ノ拳ハ、マヅ初ハ、互ヒニ常ノ如ク一拳コヱヲ發シ、二拳メハ蟲拳ニテ、互ヒニ指ヲ出スベシ、又、三拳メハ常ノ拳ナリ、四拳メ又ムシ拳、五拳メ常ノ拳ト、段段ニ、常ノ拳ト蟲拳ヲ交ヘニ打ツナリ、右ノ如ク打合フ間ニ、入リマギレテ、蟲拳ノ場ニテ常ノ拳ヲ出ストキ、則チ負ケナリ、又、ツネノ拳ノ所ニテ蟲拳ノ指ヲ出ストキハ、是レモマタ負ケナリ」

まぜまぜ (名) 古ク、まぜこまぜ。種種、入リマジリテ居ルコト。混合。混亂。

まぜざかな (名) [交魚] 進物ナドニ、種種ノ魚ヲ、マゼテ贈ルモノ。カウギ。

まぜずし (名) [交鮨] 品物ノ異ナリタルモノヲ、種種、入リ交ゼタル鮨。 主計寮式「貽貝、富耶、交鮨各四十六斤」

まぜっかへし (名) [雜返] まぜかへし(雜返)ノ急呼。其條ヲ見ヨ。

まぜっかへ・す ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [雜返] まぜかへす(雜返)ノ急呼。其條ヲ見ヨ。

ませ・ば (助動) 推量スル助動詞ノましノ變化ニテ、ませば、ましかばト相對シテ、接續法ノ已然ト將然トヲ云フ語ナラム。 拾遺集、八、雜、上「飛鳥川、シガラミ渡シ、塞カませば、流ルル水モ、ノドケカラマシ」 風雅集、十、戀、一「斯クバカリ、戀ヒントカネテ、知ラませば、妹ヲバ見ズモ、アルベカリケル」

まぜはぎ (名) [交矧] 矢羽ヲ、異ナリタル鳥ノ羽ニテ矧グコト。 高忠聞書、二「まぜはぎニ、鷹ノ羽ト、鵠ノ羽ト、二、色ニテハグコトアルマジキ也、頃 本タル間、眞羽一マゼテナラザヘ、ハ

グマジキナリ」

まぜはり (名) [雜張] はりまぜ(張雜)ニ同ジ。

まぜまぜ-み (副) [雜雜] 種種ト取リ雜ゼタル狀ニ云フ語。 宇津保物語、樓上、下「[illegible]クレハシハ、イロイロノ木ヲまぜまぜみツクリテ、下ヨリナガルル水ハ、スズシク[illegible]ベクツクル」

まぜ-まつ-る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [奉座] 〔まさせまつるノ略〕置キタテマツル。 [illegible]三年五月「大臣跪而忻悅、安二置小墾田家一」

まぜり (名) オダヤカナルコト。平穩ナルコト。安穩 肥前風土記、神埼郡、三根鄉「御宿此村、天皇敕、曰夜裏御寢、甚有安穩」

まぜ-る (動) [老成] ます(老成)ノ條ヲ見ヨ。 雙生隅田川(享保、近松作)三「まぜタ餓鬼メト、拳三ツ四ツ喰ラハセ、睨ミ付ケタル有樣ハ」

⁂**ま・ぜる** (動) [交] まず(交)ノ口語。

まそ (名) [眞麻] 〔まハ發語〕そ(麻)ノ條ヲ見ヨ 萬葉集、十四 二十六「上ツ毛ヌ、安蘇ノ眞麻ムラ、カキムダキ、ヌレドアカヌヲ、アドカアガセム」

まそう (名) [眞緒] まそほ(眞緒)ノ訛。 夫木抄、一本、十一、薄「秋フカキ、霜ヨリ後ノ、萩ノ色ヲ、カネテまそうノ、尾花ニゾ見ル」

まそ-かがみ (枕) [眞十鏡] 〔ますみのかがみ(眞澄鏡)ノ約轉〕轉ジテ、ますかがみ。見る、照る、研ぐ、懸く、清き、向ふ、蓋、面、影、ナドノ枕詞。 萬葉集、二 十九 長歌「久堅ノ天見ルコトク、眞十鏡、仰ギテ見レド」 同、七 四「眞十鏡、照ルベキ月ヲ、白妙ノ、雲カ隱セル、天ツ霧カモ」 同、十五 [illegible]、カケテシヌベト、マツリダス、カタミノ物ヲ、人ニ見スナ」 同、十九 長歌「ヲトメ等ガ、手ニトリモタル、眞鏡、フタガミ山ニ、コノクレノ、繁キ谷ヘヲ」

まそっと (副) モソット。今少シク。モ少シ。 [illegible]「[illegible]ク人ノ、氣氣ニヨッテ變ルト云フ、まそっとノ所ヘ心付カズ、殿ノ御前諸人ノ中デ言込メラレ」

まそで (名) [眞袖] 左右ノ袖。兩袖。 萬葉集、七 廿六 旋頭歌「タチノシリ、鞘ニ納野ニ、クズ引クワギモ、眞袖モテ、キセテムトカモ、夏草苅ルモ」 同、廿 四十 長歌「麻蘇[illegible]モチ、涙ヲノゴヒ、ムセヒツツ」 山家集、上「白妙ノ、衣カサヌル、月カゲノ、サユルまそでニ、カカル白露」

まそひ (名) [眞澄] 〔ますみ(眞澄)ノ轉〕マコトニ澄ミテアルコト。マソミ。 出雲國造神賀詞「麻蘇比乃大御鏡乃面乎、意志[illegible]」 [illegible]「まそひノ鏡」

まそひ-の-かがみ (名) [眞澄鏡] ますみのかがみ(眞澄鏡)ノ條ヲ見ヨ。

まそほ (名) [眞緒] 〔まハ發語〕(一)そほ(緒)ニ同ジ。赤キ土。ソホニ。 萬葉集、十四 [illegible]「眞金吹ク、丹生ノ眞朱ノ、色ニ出テ、言ハナクノミゾ、吾ガ戀フラクハ」 同、十六 廿「イツクニゾ、眞朱ホル岳、コモダタミ、ヘグリノマソガ、鼻ノ上ヲホレ」 (二)夫レヨリシテ、色赤キコト。轉ジテ、マスホ。訛シテ、マソヲ。マスヲ。マソウ。マスウ。(十寸穗、眞麻緒、眞蘇芳ノ義ナド云ヘド、スベテ據ナシト云フ) 夫木抄、十一、薄「スガルフス、クルスノ小野ノ、絲薄、まそほノ色ニ、露ヤ染ムラン」 山家集、上「花薄、月ノ光ニ、マガハマシ、深キますほノ、色ニ染メズバ」 (三)轉ジテ、直ニ、薄ノ穗ニ云ヒ、ソレヲ絲ニ比シテ云フ。 散木集、一、秋「花薄、まそほノ絲ヲ、クリカケテ、絕エズモ人ヲ、マネキツルカナ」 貫之集「秋ノ野ニ、[illegible]ノ、聲スナリ、ますほノ絲ヲ、風ニヨラセテ」

まそみ (名) [眞澄] まそひ(眞澄)ニ同ジ。

まそみ-かがみ (名) [眞澄鏡] ますみのかがみ(十寸鏡)ニ同ジ。

まそみ-の-かがみ (名) [眞澄鏡] ますみのかがみ(眞澄鏡)ニ同ジ。

まそ-むら (名) [眞麻群] 麻ノ叢生セル所。まそ(眞麻)ノ出典ヲ見ヨ。

まそ-ゆふ (名) [眞麻木綿] 〔[illegible]ノ意、そハ、モト、麻ト木綿ト、[illegible]ノ名ナリ〕麻ニテ作リタルゆふ。そ(麻)、及、ゆふ(木綿)ノ條ヲ見ヨ。 太神宮儀式帳「眞麻木綿」 萬葉集、三 [illegible]「[illegible]山ノ、[illegible]木綿、カクノミ故ニ、長クト思ヒキ」

まそを (名) [眞緒] まそほ(眞緒)ノ訛。 夫木抄、十一、薄「花薄、まそをノ絲ヲ、クリカケテ、タエズモ人ヲ、招キツルカナ」(一本、まそほ)

また (名) [杈叉] 〔間處ノ轉カ、叉、間立ノ略カトモ云フ〕 本ハ一ツニテ、末ノ二ツニ分レ開キタルモノ。叉、ソノ處。 字鏡 [illegible]「椏、江南言樹枝、[illegible]杈椏、木乃支[illegible]」 神代紀、上 [illegible]「一兒最惡、不[illegible]敎養、自指間漏落」 [illegible]必彼芙」「水ノ派」

また (名) [胯股] 〔脚ノ叉ノ義〕 股ト股トノ間。マタグラ。 倭名抄、三 五 身體類「胯、萬太、兩股間也」 史記、淮陰侯傳「信能死、刺我、不能死、出我胯下」

また (名) 猨ノ屬。詳ナラズ。(後世、ねこまたト云フモノ是レカトモ云ノ) 倭名抄、十八 廿 毛群名「猨[illegible]、萬太、猨屬也、漢字ハ未詳[illegible]ラズ、[illegible]國ニナキ獸名ナリ」 和漢三才圖會、四十、寓類怪類 猨、和名萬太、本綱、猨生西[illegible]山南川峽深山中、狀大小類猨、云云、[illegible]」

マタ (名) [摩多摩哆] 〔梵語、Mata. 母ノ義ト云フ、轉ジテ、母音ノ稱〕まんだ(梵字)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible] 摩多北云二[illegible]」

また (副) [亦] 〔叉ノ義ニテ、二ツニ涉ル義カ〕 モマタ。カレモ同ジク。ヒトシク。 [illegible] 古今集、十三、戀、三「コレモまた、長キワカレニ、ナリヤセン、暮レヲ待ツベキ、イノチナラネバ」「是レ亦[illegible]」

また (副) [復還] [illegible] カサネテ。[illegible] 孝德紀、大化五年三月「[illegible]、花ハ咲ケドモ、何トカモ、[illegible]」 萬葉集、一 十九「見レド飽カヌ、吉野ノ川ノ、常滑ノ、絕ユル事ナク、復カヘリ見ム」[illegible]ヌ、明日復行カム」

また (接) [又] 〔[illegible]ノ意〕 ソノウヘニ。ソノホカニ。イマヒトツ。ナラビニ。 史記、孔子世家 [illegible] 神代紀、上 [illegible]「春日[illegible]」 [illegible] 廿二、玉葛 七「[illegible]餓ニマドヒ出給シササハギニ、皆ヲクラカシテケレバ、又、人モナシ」 [illegible]ホドノ有樣思ヒヤラル、メノト、又、人ヒトリバカリゾ、シリニ乘リヌル」「山又川」「飲ヒテ又飲ム」 又ノ世ト云フハ、次ノ世。來世。 佛足石歌「アチノ世ノタメ、麻多乃與ノタメ」

まだ (副) [未] いまだ(未)ノ上略。 [illegible] 廿七年十二月「日本武尊[illegible]」 [illegible]之[illegible]死、川上梟帥[illegible]」 [illegible]物語、一「我ガ世ニモ、まだ知ラザリシ、曉ノ、カカル別レニ、惑ヒヌルカナ」 古今集、[illegible]「夏ノ夜ハ、まだ宵ナガラ、アケヌルヲ、雲ノ何處ニ、月宿ルラン」

また-あど (名) 能ノ狂言ニテ、連ニ伴フモノ。あど(和伎者)ノ條ヲモ見ヨ。

また-い (形) [全] またし(全)ノ音便。 長町女腹切(正德、近松作)下「ワシガサモシイ心カラ、一

律義またい牛七ニ、寢樋作ガ付キソメ」

〔またいたんな (名) 〔全膽〕 膽不敵ノ大力ノ童。 保元物語、爲朝「未ダ伊太シ語ノ大氣(キ)ノ童(ワラハ)ノ、サヲコガヒコナル、サイロンコ」

〔またいとこ (名) 〔又從弟〕 (一)族父(曾祖父ノ兄弟ノ孫)ノ子。族昆弟。即チ、我レト曾祖父ヲ同ジウスルモノ。三從兄弟 倭名抄、二「從兄弟、萬太伊止古」 簔注倭名抄、一「從兄弟、族昆弟、今稱三從兄弟」云云、今俗謂呼再從兄弟」 字類抄「三從兄弟、マタイトコ」 (二)今ハ、再從兄弟ト取違ヘテ、コレヲまたいとこト云ヒ、三從兄弟ヲ、いやいとこト云フ。 書言字考節用集、四、人倫門「再從弟、マタイトコ」

マだう (名) 〔魔道〕 (一)佛教ニテハ、邪鬼、天魔ノ世界ヲ云フ。 楞嚴經、六「縦有多智禪定現前、如不斷婬、必落魔道」 (二)魔ノミチ。惡シキ方。惡魔ノ邪道。 易林本節用集(慶長)下、言辭門「魔道、マタウ」 保元物語、三、新院御經沈事附崩御事「此ノ經(華嚴經、大集經、般若經、法華經、大般涅槃經ナト)ヲ魔道ニ廻向シテ、魔縁ト成、テ遺恨ヲ散ゼント仰セケレバ」

またうけ (名) 〔又請〕 請人ノ請人ニ立ツコト。保證人ノ保證人ニナルコト。再保證。又、ソノ人。「又請人」

またうつし (名) 〔又寫〕 寫シタルヲ更ニ寫スコト。轉寫。傳寫。

〔またうど (名) 〔全人〕 (まったきひとノ音便略) マタキ人。眞正直ナル人。少シモ僞リノナキ人。人格ノ完全ナル人。 幸若、烏帽子折「唯、佛ノヤウナルまたうどナリ」

またがし (名) 〔又貸〕 一方ヨリ借リテ、更ニ他方ヘ貸スコト。轉貸。 長曾我部元親百箇條「借物并預ケ物、云云、又がし堅停止之事」

またがり (名) 〔又借〕 人ノ借リタルモノヲ、更ニ又借ルコト。轉借

またがる・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 〔跨〕 〔股(マタ)ヲ活用ス〕 (一)跨ギテアリ。股ヲヒロゲテ乘ル。 史記、司馬相如傳「跨野馬」 名義抄「跨、マタガル」 仁賢紀、即位前紀「解髮跨鞍、以三呼曰、我弟出立」 (二)此處ヨリ彼處ヘ互ル。互渉 史記、李斯傳「此非所以跨海內、制諸侯之術也」「兩國ニ跨る」兩岸ニ跨る」

またき (形) 〔全〕 またし(全)ノ條ヲ見ヨ。

〔またぎ (名) 〔叉木〕 マタニナリタル木。 古事記、中、上道后ニ「……方櫓ナシテ石ヲ括リテサケテ、ナモシニテ……ニ懸ケテ」

〔まだき (副) 〔豫夙〕 ソノ時期ヨリモ急ギテ早ク。夙(ハヤ)クヨリ。早クモ。 景行紀、四十年七月「汝不欲矣、豈強遣耶、何未對賊、以豫(マタキ)憫甚焉」 古今集、十三、戀、三「アヤナクテ、まだき無キ名ノ、立田川、渡ラデ止マン、モノナラナクニ」 後撰集、五、秋、上「露カケシ、袂ホスヒモ、ナキモノヲ、ナド秋風ノ、まだき吹クラン」 源、四十九、東屋「まだきニ、此事聞カセ奉ランモ、心恥カシク」 中々集「時雨ノバ、待チモツケデヤ、山ノ端ノ、己レまだきニ、モミヂソメケン」

まだぎき (名) 〔又聞〕 聞キタル人ヨリ更ニ聞クコト。

〔またく・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 〔急速〕 〔待チ擊ツ、待チ取ル、ナドノ待チ受クル意ノ待ツ、ノ延カ〕 期(トキ)ヲ待チワビテ急グ。イラツ。アセル。モドカシガル。ハヤル。セク。 古今集、十九、誹諧、一「イツシカト、またく心ヲ、脛ニアゲテ、天ノ川原ヲ、今日ヤ渡ラン」 家持集「我ガ宿ノ、エノ木ツキノ木、月ゴトニ、使ハ遣フン、心またくナ」 春秋左氏傳集解(圖書寮藏、文治寫本)「疰(莊)公速(マタケリ)也」

〔またく (副) 〔全〕 〔形容詞、全しノ副詞形〕 まったく(全)ニ同ジ。 宇津保物語、藏開、中廿七「コレヲイトまたく返シ奉ルハ、アシタニモ、イトトク給ハラントテ、云云」

またぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(他動、四) 〔跨〕 〔股ヲ活用ス〕 兩脚ヲ張リテ、物ノ間ヲ股ノ間ニス。 左傳、昭公十三年「使五人齊而長、拜、康王跨之」 蕉村句集、春「暮人ノ、またいで過ギヌ、凪ノ物」

またぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下二) 〔跨〕 前條ノ語ニ同ジ。 宇治拾遺、一、羅門縁ノ……國ニテ……見ルヤウ、西大寺ト東大寺トヲ、またげテ立チタリト見テ」

またぐら (名) 〔股間〕 「股座(コクラ)」ノ義、兩股ノ間。股間。 俳諧新選「……またぐらヲ……」

まだけ (名) 〔眞竹〕 常ノ竹ヲ、他名ニ對シテ云ノ稱。大ナルハ、高サ六七丈、周、一尺五六寸、色、青ク、節間、長シ。筍、後レテ生ジ、大キクシテ、籜、紫ノ斑アリ、薮ケレバ、湯ガキテ食フ。(淡竹ト反ス)一名、ヲダケ。カハタケ。カラタケ。苦竹 多識編、三、竹部「苦竹、麻加多計、今案、末多計」 大和本草、九、竹類「苦竹、國俗呉竹ト云、又眞竹ト云、筍ノ味微苦、ハチクニオトレリ」

まだげらい (名) 〔又家來〕 家來ノ家來。マタモノ。陪臣。

〔またこゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(他動、下二) 〔跨越〕 跨ギ開キテ物ヲ越ス。マタグ。 景行紀、四十年十月「使者遣見、求乎、因跨(マタコエテ)牝鹿行」

またし・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 〔全〕 〔眞足ノ意ト云フ〕 (一)〔今、音便ニ、まったし。〕 缺ケタル所ナシ。又、其形ノママ、カハラヌナリ。モトノママニテアリ。 字類抄「全、完、マタシ」 名義抄「侻、マタシ、完、マタシ、全、マタシ、牢、マタシ」 字鏡「侻、堅、固、萬太志」 萬葉集、十五 三十四「命ヲシ、麻多久シアラバ、アリキヌノ、アリテ後ニモ、アハザラメヤモ」 宇治拾遺、十二、第十九條「我ガ身ヲまたく……」 欽明紀、廿一年八月「社稷存亡、於是乎在」 萬葉集、十二 三十六「荒玉ノ、年ノ緒長ク、カク戀ヒバ、マコト吾ガ命、全(マタカラ)有メヤモ」 枕草子、八、第九十一段「女ノヒトリ住ム家ナドハ、タダイタウ荒レテ、築地ナドモまたからズ」 古事記、中、景行五「命ノ、全(マタ)ケム人ハ、タタミコモ、平群ノ山ノ」 (二)完全ニテアリ。具備シテアリ。圓滿ナリ。

〔またし・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 〔急速〕 急ナリ。セマリテアリ。 欽明紀、五年三月「爲新羅……云云、百濟路迥、不能救急(マタシ)」

〔まだし・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 〔未〕 〔いまだし(未)ノ上略、待たしきノ義〕 (一)未ダ其期ニ達セズ。モノノ途中ナリ。 古今集、三、夏「五月來バ、鳴キモ舊リナン、ホトトギス、まだしきホドノ、聲ヲ聞カバヤ」 堀河百首、雜「……千木ノ數ハ、立テテシフヲ、ナド逢フコトノ、未だしき」 拾玉集、七「秋ナラバ、身ニシム色ヤ、コカラマシ、まだしき萩ノ、野ベノユフ風」 (二)轉ジテ、未ダ整ハズ。足ラズアリ。不十分ナリ。 宇津保物語、藏開、下三十四「イトヨキコトナリ、コトドモハ皆具シニタンメルヲ、タダカヅケ物、法服トモノコトナンまだしき」

またしても (副) 一再ナラズ、マタ重ネテ。マタマタ。フタタビ。再度。マタゾロ。 狂言記、……「アノ樣ニ、前實ニ云ウテ、這クモノヲ、又しても、ムザトシタ事ヲ云フカ」

まだしも (副) マダソレデモ。 浮世風呂(文化)、二、下「まだしも無事ナ仕合セ、稲鹿カ目ヘハイ、ナラ、……ナラウ」

〔またす・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔待〕 待つノ敬語。マチタマフ。 萬葉集、五 廿九「出デテ行キシ、日ヲ數ヘツツ、今日今日ト、吾ヲ麻多周ラム、父母等ハモ」 同、十八 廿六長歌「イツシカモ、使ノ來ムト、またすラム、心サブシク」 同、廿八 十長歌「ツツミナク、妻ハ麻多世ト、スミノエノ、アガスメガミニ、幣

マツリ、イノリマウシテ」

また・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［遣、獻遣］ [illegible]ノ略カト云フ。[illegible]十五 [illegible]マツながを、[illegible]テシヌ、[illegible] [illegible]タ [illegible]須、形見ノ物ヲ、人ニ見スナ [illegible]テマツル。サシアグル。尊キ所へ使ヲ奉リ物ヲ獻ズ。名義抄「遣、マタス、ヤル、ツカハス、差使、タテマタス」萬葉集、四[illegible]「我ガ衣、形見ニ奉、シキタヘノ、枕カラサズ、マキテサネマセ」[illegible]何ヲカモ、[illegible]ハデ [illegible]ヒシト、吾ガ竊マハム」皇極紀、元年正月「天皇崩、[illegible]使、[illegible]代紀、上、[illegible]中臣[illegible]使白[illegible]正月「[illegible]使[illegible]遣」大臣大連等所ニ以泰ヒ迎本意」皇代紀「泰ニ遣使ニ具遣」高光集「タダキヨノ衛門督、五節たてまだしタマフニ、贈物カウバシウアハストテ、云云、ソレニ入レテたてまだすトテ」

また・ざさ（名）［又從者］陪臣ノ意ナルベシ。[illegible]記、十八、[illegible]大將金[illegible]「八十[illegible]ノ沓[illegible]ノ又從者ノ又從者」

またぞろ（副）［又候］マタミテモ。ノタタビ。カサネテ。マタモ。[illegible]年代[illegible]元[illegible]作）四 仙術外道ヲ行ヒ、[illegible]ト云ヒシ者、云云、[illegible]シト思ヒシニ、又候ヤ[illegible]トテ、[illegible]ニ[illegible]リ、最後ノ一念」

またダイクワン　**またたいくゎん**（名）［又代官］古ヘ、守護代ニ代リテ、其事ヲ執リ行フ者。若狹國守護職次第、代官先章上[illegible]介、又代官安富」

またたき（名）［瞬］［目叩ノ義］古言、マクナギ。マタタクコト。メバタキ。書言字考[illegible]用集、五、[illegible]門、瞬、マタタキ、文選[illegible]之[illegible]也[illegible]猫ノ面」

また・く・ク・ケ・カ・ト・ケ（自動、四）［瞬］［目叩クノ義］（一）瞼、屢、開合ス。マジロク。メタタク。メバタキヲナス。名義抄「瞬、眇、マタタク」字鏡[illegible]「瞬、[illegible]目[illegible]」（二）[illegible]ズ。[illegible]ラウ[illegible]マナ[illegible]ハン[illegible]ノホダシ[illegible]コエミナン、またたきテ[illegible]シ」[illegible]ヤノ假殿ノ、唯ヒト夜、風ニまたたく、宵ノ燈火」狹衣、三、中[illegible]「大殿油、消エガテニまたたきテ」（四）燈明ノ滅セムトスルコト。[illegible]ニソムケル燈ノ、またたき殘ル夜ハスガラ、[illegible]打ツ雨ノ音聞ケバ、イトドサヘ寐ラレヌ」

ただのみ（名）［又頼］仲ニ人ヲ立テテ頼ムコト。人ヅテニ頼ムコト。

またたび（名）［木天蓼］［わたたびノ轉］古名、ワタタビ。[illegible]科ノ蔓生ノ落葉灌木、[illegible]山ニ生ズ、葉ノ形、[illegible]一シテ尖リ、細鋸齒アリ、互生ス。春ノ若葉、食フヘシ、味、辛シ（故ニ[illegible]ノ名アリ）。仲夏ニ、梢ノ葉ノミ、面ヲ白ク變ズ。同時ニ、葉ノ間毎ニ、一花ヲ生ズ、五瓣白色ニシテ、蕊、綠ナリ、皆下へ向ヒテ開ク、形、梅花ニ似タレバ、夏梅、夏椿、ノ名モアリ。實、細長クシテ、榧ノ如ク、内ニ細子アリ、食フベシ、味辛ク、藥用トモス。莖、葉、果實トモ、猫ノ大イニ好ム所、故ニ實ヲ世ニ猫ノ藥トス。又、花、落チズ、化シテ實ノ如クナルアリ、蟲ノ巢ナリ、椎ノ實ニ似テ、小サシ。[illegible]本草、上[illegible]「木天蓼、マタタビ」[illegible]五月採[illegible]子、木多多比一[illegible]用集、草木「木天蓼、マタタビ」本朝[illegible]六「木天蓼[illegible]醋味噌ニ木天蓼、アマノリニ梅干ノ吸物」

まだち（名）［眞刀］マコトノタチ。ホンタウノ太刀。[illegible]紀、六十年七月「兄[illegible]作ニ木刀[illegible]」

またと（副）［又］（一）コノ外ニ。二ツト。（二）カサネテ。フタタビ。二度ト。犬子集（寛永）二、春、下「又と見ヌ、人ハ一花、心カナ」「此花ハまたとアルマイ」

また・な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［又無］二ツトナシ。ナ[illegible]ノ上ナシ。[illegible]ラフ[illegible]ハ、仲[illegible]ノ[illegible]（古本[illegible]）ノ、又なき[illegible]ニ、[illegible]ヒ給[illegible]侍ルメリシカバナン」

またね（名）［又寢］一度[illegible]メテ[illegible]コト。（多ク[illegible]）[illegible]「キヌギヌヲ、イソグワカレハ、夜フカクテ、又ねヒサシキ、[illegible]ノトコ」[illegible]ノ、フタタビツラキ、別レ哉、又寐ノ夢ノ、覺ムル名殘ニ」夫木抄、三十六、[illegible]「シバシナル、今朝ノまたねニ、見ツルカナ、心カハリノ、行末ノ夢」

また・の・とし（名）［又年］アクルトシ。[illegible]ギノトシ。ヨクトシ。翌年。古今集、十五、戀、五「又の年ノ春、梅ノ花ザカリニ、云云」

また・の・ひ（名）［又日］アクル日。ツギノ日。翌日。源、五十一、蜻蛉[illegible]「御使、ソノ又の日、マダツトメテ參リタリ」枕草子、九、第九十八段「野分ノまたのひコソ、イミジウ哀ニオボユレ」

また・の・な（名）［又名］一名ノ外ニアル名。イチミャウ。あざな（字、第一語）ノ條ヲ見ヨ。神代紀、上[illegible]「一書曰、大國主神、亦名大物主神、亦號ニ國作大己貴命ニ」

また・の・や（名）［股野矢］かりまた（雁股）ノ一名。吾妻鏡、十、建久元年九月十八日「佐佐木[illegible]、保野箭一[illegible]上、御[illegible]也」

またばえ（名）［又生］ひこばえ（蘖）ニ同ジ。中[illegible]集「櫻ノまたばえ[illegible]ノアリキニツケテ、云云」夫木抄、廿[illegible]ノ、またばえニ、ミジカクタマル、冬ノ白雪」

またはた［又[illegible]］コノウヘニモマタ。ヵツマタ。蜻蛉日記、中、下[illegible]「コタミダニ[illegible]人モ思ハン、またはた、世ニモノシ給ハジ」

またび（名）［眞旅］マコトノタビ。ホンモノノ旅行。萬葉集、廿[illegible]「旅トヘド、眞旅ニナリヌ、家ノ妹ガ、着セシ衣ニ、アカツキニケリ」

まダイ　**まだひ**（名）［眞鯛］（一）鯛ノ一種。體ハ[illegible]下[illegible]方ハ[illegible]小[illegible]普通ノモノナレド、北海道、琉球、臺灣ノ南部ニハ少シ。（二）きだひ（黃鯛）ノ一名。體長、一尺許リ、色、赤ケレドモ、[illegible]

また・びさし（名）［又庇］まおびさし（孫庇）ニ同ジ。[illegible]シニ、御木丁タテテ、またびさしニ女房ハサブラフ」

マタ・ウ　**また・ふ**・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［待］［まつ（待）ノ延］待チツヅクル。[illegible]紀、三十六、天[illegible]

また・ふり（名）［杈椏］又、またほり。樹ノ枝ノ又ヲナセルモノ。股椏。サンマタ[illegible]タル枝ニ、まだふりヌ、物ニハアレド、君ガタメ、フルキ心ニ、マツトシラナン」

またぶりぐさ（名）紫陽花ノ異名ト云ヘリ。詳カナラズ。一說ニ、[illegible]

またま（名）［眞玉］[illegible]（玉）ト云フ。同[illegible]ナス、ソノ石ヲ、[illegible]ノ人ニ、[illegible]」

またまた (副) [又又] ナホマタ。マタシテモ。カサネテ。 垂仁紀、八十八年七月「天皇… 欽明紀、十三年十月「此法、云云、…佛之、且更勿(マタマタ)危」 … 源、廿一、少女「「昔ハテテ、マカヅル博士才人ドモ召シテ、又又フミ作ラセ給フ」 同、四十四、総角「「猶またまたヨクケシキ見給ヘト、人ヲススメ給ヒテ」

まだまだ (副) (一)マダルキ狀ニ云フ語。ダラダラ。グヅグヅ。空シク。 曾我會稽山(享保、近松作)三「ロテまだまだ申サンヨリ、…ノタメ、只今御前デ金ウタウ」 (二)まだヲ重ネタル語。イマダシキ狀ニ云フニ同。

またまつく (枕) [眞玉付] 玉ハ緒ニ付クレバ、をト云フ語ノ枕詞。 萬葉集、七、三十「眞珠付、遠(ヲチ)ノ菅原、我レ刈ラズ、人ノ刈ラマク、惜シキ菅原」 同、十二、十五「眞玉就、ヲチコチ兼テ、結ビツル、我ガ下紐ノ、解クル日有ラメヤ」

またまで (名) [眞玉手] 〔まハ接頭語、玉ハ敬稱〕て(手)ト云フニ同ジ。 古事記、上、四十一「「…多岐、タタキマナガリ、麻多麻傳、タマデサシマキ、モモナガニ、イハナサムヲ」

またみる (名) [俣海松] 其莖ニ、俣ノアル海松。 萬葉集、十三、廿一長歌「朝ナギニ、來ヨル深海松、暮ナギニ、來ヨル俣海松、深海松ノ、深メシ吾レヲ、俣海松ノ、マタユキカヘリ」

またもの (名) [又者] ばいしん(陪臣)ニ同ジ。 丹波與作(寶永、近松作)上「中老下ラウノ供乘物、またもの駕ハイロハ付」

マダラ (名) [曼陀羅 曼荼羅] 〔梵語、Mandala.ノ略〕淨土實相ノ圖。まんだら(曼荼羅)ノ條ヲ見ヨ。 源、三十七、鈴蟲ニ「法花ノまだら掛ケ奉リテ」

まだら (名) [斑] 〔間(マ)はだら(離)ノ略、間(マバラ)ヲオキテ、散(ハララ)ナル義〕種種ノ色ノ疎ニ入リマジリタルモノ。(月草、榛(ハリ)、ナドノ汁ニテ染メタルモノ)。ブチ。 字類抄「斑、マダラ」 名義抄「斑、マダラ」 字鏡、十二「…、阿女萬太良」 倭名抄、十一、五「牛馬毛「特牛、保之末太良」 同、十四、七「障隔具、斑幔、萬太良萬久」 萬葉集、七、廿九「今造ル、斑ノ衣、眼ニツキテ、我ニ思ホユ、未ダ着ネドモ」 枕草子、九、第九十一段「唐衣ニ、白イモノ移リテ、まだらニナランカシ」 同、二、第廿段「馬ハ紫ノまだらツキタル」

まだらうし (名) [斑牛] 毛ニマダラアル牛。 字類抄「犢、マダラウシ」 用明天皇職人鑑(寶永、近松作)山路玉世姫道行「心ニクサトユカシサト、都ノソラノ…シサト、シドロモトロノまだら牛、引綱トッテ引キノバシ」

まだらうり (名) [斑瓜] 黃ナル斑アル瓜。(今、銀まくはト云フモノカト云フ) 倭名抄、十七、八果蓏類「斑瓜、末太良宇利、黃斑文瓜也」

まだらかみ (副) [斑] まだらノ明カナル狀ニ云フ語。略シテ、まだらみ。 名義抄「斑、マダラカ、蛢、マダラナリ、マダラカニ、郁…、マダラカナリ、絢、マダラカニ、…、マダラナリ」

まだらぐも (名) [斑蜘蛛] ぢょろうぐも(女郎蜘蛛)ニ同ジ。

マタラ-ぼん (名) [摩多羅神] 〔梵語、Mātara.〕佛經ニ、外法ノ神トス。此神、阿彌陀ノ敎令轉身ニシテ、常行三昧ノ時ノ守護神タリ。祕密ノ神トス。其圖スル所ノ像ハ、狩衣ノ如キモノヲ着、幞頭(ボクトウ)ヲ被リ、腰ヲカケテ、左手ニ鼓ヲ取リ、右手ニテ之ヲ打ツ。下ニ二童子並ビ立チテ、右手ニ篠ヲ取リ、左手ニ蘘荷(メウガ)ヲ持テ舞フ、下襲、半臂、風折烏帽子ニシテ、上ニ北斗七星ヲ畫ク。多ク天台宗ニテ祭ル。 溪嵐拾葉集、九「慈覺大師自二大唐一引聲念佛御相傳、歸朝之時、於二船中一有二虛空聲一告曰、我名二摩多羅神一、即障礙神也、我不二崇敬一者、不可遂二往生之素懷一云、依之常行堂被二勸請一云云」

まだらだけ (名) [斑竹] 竹ノ一種。皮、黃白色ニシテ、黑キ虎斑アリ。旋文(ウヅ)アルヲ上トス。(越後、北海道ノ產、然リ) 諸器ニ作リ、烟管ナドニ用ヰル。トラフダケ。はんちく(斑竹)ノ條、參見セヨ。

まだらみ (副) [斑] まだらかみ(斑)ニ同ジ。 字鏡、十「駁、色雜不純也、萬太良爾」 天治字鏡、二十六「駁、色雜不純、同、萬太良爾」

まだらぶすま (名) [斑衾] 斑ノ紋柄アル衾。 萬葉集、十四、四「キベヒトノ、萬太良夫須麻ニ、綿(ワタサハダ)多、入リナマシモノ、妹ガ小床ニ」

まだらまく (名) [斑幕] 幅每ニ、各色ノ布ヲ用ヰタル幕。今ノだんだら筋ノ幕。斑幔(マンマク)。 倭名抄、十四、十障隔具「斑幔、萬太良萬久」 儀式、二、踐祚大嘗祭儀「其門內外所竪、斑幔八云云、其幔…、廣…五十丈、…」 延喜式「斑幔」… 寸五丈、斑幕一、字八中置一…」 主殿寮式「斑幔」 同式、行具「斑幔九條、…四條、高各五尺、七條、高各八尺」

まだらむし (名) [斑蟲] あをはんめう(靑斑猫)ニ同ジ。 本草和名、下四十「芫靑、末太良无之」 同、同四十「葛上亭長、末太良无之」

まだるし・キ・ケレ・ク・ク(形、一) [閒怠] 〔閒(マ)怠(ダル)しノ意〕手閒取リテ遲シ。マヌルシ。モドカシ。マダルッコシ。緩漫。 鑑留(享保、西鶴)三「人モ名ヲシル程ノ買手ニナレバ、ハヤ天神ナトまだるくナッテ、太夫職ニナジミ」

まだるっこし (形) 前條ノ語ノ急呼。

まだれ (名) [麻垂] 〔特ニ麻ノ字ヨリ取リテ云フ、鴈垂(ガンダレ)ナドニ對ス〕漢字ノ上ニアル广ノ字ノ稱。床、庇、序、麻、ノ如シ。又、マカンムリ。广頭

またろく-が-かど (名) [又六門] 酒屋ノ異名。…休和尙、頃ノ酒屋 … 「極樂ハ、イヅクノハテト、思ヒシニ、杉ノ葉立テル、又六ガ門」 發句「又六が、門デマタヤム、寒念佛」(松屋筆記、八十五) 本朝武鑑(享保)七「又六が、門ノ酒帘(サカバヤシ)ニハ、往來ノ人ノ、津ヲヒクラン」 俳諧糸世男(延寶) 杉葉サツ、又六がかカ、…」

マタロス (名) 〔蘭語、Matroos.〕今、まどろす。舟子。水夫。船頭。又、水兵。

またをひ (名) [又甥] 甥ノ子。姪孫(マタヲヒ)。 名物六帖、二、人品箋「姪孫、マタヲイ、明律、姪孫謂二兄弟之孫二」 雜字類編「姪孫、マタヲイ、兄弟ノ孫」

まち (名) [町] 〔間路(マヂ)ノ義ニテ、田間ノ路ノ意ト云フ〕(一)〔畏別ノ名、町(チャウ)、古稱〕田ノ中ノ區域。 倭名抄、一、田園類「町、…田區也」 字鏡「町、田區…堺也」 孝德紀、大化二年正月「凡田長、三十步、廣、十二步爲段、十段爲町」 催馬樂、…「…町田ヲ、…作レル、…見テ…來ムヤ」 …下「…知ズ、田子ノ多ケモ、見ユル哉、千町ノ早苗、トレバナリケリ」 (二)〔家ノ內ノ區劃〕又、其相連ナルモノ。坊。別房(春坊、僧坊ノ類モ是レナリ) 倭名抄、十、居宅類「坊、…知、別屋也」 「…居町」「…女町」「局町」 (三)〔郭內ナドノ、人居密接シ、路ヲ以テ分チタル一區域ノ地ノ稱〕區。桃華坊、銅駝坊ノ類。市坊。 孝德紀、大化二年正月「京每坊、置長一人」 宇津保物語、藤原君「…四町ノ所ヲ四ツニ分チテ、町一ツニ、云云ナド、イト多ク建テタル」 源、廿一、少女五十「中宮ノ古キ宮ノ邊リヲ、四まちヲ占メテ作ラセ給フ」 (四)〔近ク、只、商家ノ軒ヲ並ブル地〕(村ニ對ス) 市街。 運步色葉集、上「市町、人皇廿代持統天皇之時、諸國市町始也」 (五)〔物ヲ賣ル店〕坐商ノ居ル所。 倭名抄、十三、居宅類「店、…俗云東西町、是也、坐賣物舍也」 (六)ちゃう(町)ノ條ノ(四)ニ同ジ。

まち (名) [襠] 〔區(マチ)ノ義〕(一)衣服ナドノ某處ノ、布帛ノ幅ノ足ラヌ所ナドニ、

出ニ布帛ノ端ヒテ纏ヒ頭フレモノニ充[illegible]義經記(元祿、都の錦)三「[illegible]ノ內衣、襦ニ鉛[illegible]ノ[illegible]」(二)馬乘袴ノ內股ノ處[illegible]ワリ腰ニ、袴ノ襠ノ高ケレバ、サゾ紅ノ下紐ノ」

まち (名) [待] (一)まちき(待木)ノ略。(二)まちき(鹿木)ノ條ヲ見ヨ。今昔物語、廿七、[illegible]待ト云フ事ヲ[illegible]ノケル」(三)商品ノ、カネテ誂ヘラレタルニ非ズシテ、仕込ミオキタルモノ。出來合ノ商品。松屋筆記、百十五、第九十六條「商人ガ兼テ貯置テ賣物ヲ、仕込物トイヘリ、古クハ待トイヘリ、[illegible]待ヨシ也」「まち商事」

マチ (名) [燐寸] まっち(燐寸)ノ訛。

まぢ (名) [貧] マヅシキコト。貧窮。[illegible]代紀、下[illegible]、[illegible]時、[illegible]貧窮之本、飢饉之始、困窮之根、衰後[illegible]之」

まちあか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [待明] 人ノ來ルヲ待チテ夜ヲ明カス。待チテ、ナカクテ待ツ。枕草子、五、第四十九段、あさましきもの「カナラズ來ナント思フ人ヲ、まちあかして、アカツキガタニ、タダイササカワスレテネイリタルニ」[illegible]集、十九、雜、五、御幸セシ、[illegible]ノ川波、歸ルサニ、タチヤヨルトテ、待ちあかしツル」

まちあぐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 人ノ來訪ヲ待チテ倦ム。マチナヤム。

まちあしだ (名) [待足駄] 出來合ノ賣物ノ足駄。拾玉集、四、雜、「ナヒ持ツ、サウキノ人レコ、まちあしだ、世ヲ行ク道ノ、物トコソ見レ」

まちあは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) 待合ス。人ノ來ルヲ、互ニ待チウク。狂言記、[illegible]「マヅ此[illegible]、待合せ、[illegible]ハシイ[illegible]モ通ヘバ、[illegible]ヲ懸ケ、抱ヘヨウト存ズル」

まちあひ (名) 待合 (一)約束シテ、人人互ニ待受クルコト。又、ソノ家。「茶

合ノまちあひ」市中ノまちあひ」(二)まちあひぢゃや(待合茶屋)ノ略。

まちあひぢゃや (名) [待合茶屋] モト待合ノタメニ、席ヲ貸スヲ業トセシ茶屋。今ハ專ラ、藝妓ト客ト會合シテ、遊興スル茶屋。略シテ、まちあひ。

まちあぶら (名) [待宵待油] 饗宴ノ始マル前ニ行フ內內ノ小宴。名義抄「待宵、マチアブラ」[illegible]時待[illegible]之間、且[illegible]酒盃[illegible]待宵二」江家次第、二、大臣家大饗「於二辨少納言座一小代[illegible]之待宵二」

まちあみ (名) [待網] 網ヲ水中ニ張リテ、魚ノ入ルヲ待ツコト。又、ソノ網。底ヲ囊狀ニシ、多クハ、上端ニ三角形ノ綫ヲツケタルモノ。置網。

まちいくさ (名) [待軍] 敵ノ攻擊ヲ待チテ、邀擊スルコト。太平記、十三、足利殿東國下向事「[illegible]シテ、敵ニ[illegible]レテハ不叶、先ズル時ハ人ヲ制スルニ利有リトテ、云云」

まちいしゃ (名) [町醫者] 武家時代ノ頃ニ、坊間ニ住メル平民ノ醫師ノ稱。今モ俗ニ、町ナドニテ開業セル醫師ヲ云フ。市醫。名物六帖、二、人品箋「市醫、マチイシャ」老[illegible]筆記、北方市醫、皆稱[illegible]不知何謂」

まちい・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ(他動、下二) [待出] 出ヅルヲ待ツ。待チオホスル。待チツケテ過ノ。略シテ、まちづ。古今集、十四、戀、四「今來ント、イヒシバカリニ、長月ノ、有明ノ月ヲ、まちいづるカナ」源、二、帚木四十「サルベキ方ノツイデ、待ちいでテ」

まちいりのう (名) [町入能] 江戸幕府ニテ、將軍代替リ、幼君誕生、元服、婚禮、養君ナドノ儀式アル時、又ハ、東照權現法要ナドノ時、江戸城內ニテ、數日ニ涉

リテ、能ヲ催シ、[illegible]日[illegible]、町人[illegible]キテ見セタル能。又、町入[illegible]寬永中、江戶町數三百八十[illegible]町[illegible]シタルヲ除キ)ヲ古町ト云ヒ、古町ノ町人ニ限リテ、[illegible]千百[illegible]人ヲ、[illegible]組ニ分チ、[illegible]許サレタリ[illegible]ウレ、[illegible]九月九日[illegible]ヲ給フ、雨フリケレバ、市人ヘ傘ヲ授ラル」

まちい・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [待入] 人ノ來ルヲ待チウク。又、待チウケテ內ヘ入ル。

まち・いる・イル・イレ・イ・イ・イヨ(他動、上一) [待射] 敵ノ來ルヲ待チテ、迎ヘ射ル。雄略紀、五年二月「[illegible]人[illegible]、[illegible]待射[illegible]」

まちう・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) [待受] 迎ヘ待ツ。マチマウクル。マチウケル。迎接。源、[illegible]十五、柏木[illegible]大臣ハ、[illegible]キ行ヒ人、葛城山ヨリサウジ出デタル、待ちうけ給ヒテ、加持マヰラセントシ給フ」平家物語、[illegible]、少將[illegible]受事「少將待ち受け奉リテ」

✣✣まちう・ける (動) [待受] 前條ノ語ノ口語。

まちう・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(他動、四) [待擊] 敵ノ襲フヲ、待チウケテ擊ツ。[illegible]紀、三年四月「生駒宿禰、進レ軍逆擊、[illegible](朧カ)氣益壯」

まちうり (名) [町賣] 遊女ノ、郭以外ノ町ニ行キテ、客ニ接スルコト。[illegible]語圖(享保)補遺「慶長年中マデハ、傾城ノ町賣トテ、先樣ヨリ雇ヒ來レバ、何方マデモ遣ハシケレトモ、元和年中ニ、傾城町一ケ所ニ仰付ラレ候ヨリ、町賣停止也、云云」

まぢか (名) [間近] マヂカキコト。ホド近キコト。八笑人(文政、鯉丈)初編、下「ヤレ巡

邏、間近ニ、ナジカ切リ付ケヌ」

まちか・く・[illegible](他動、下二) [待[illegible]] 待チ[illegible]。[illegible]「コシラヘ置テ、アスカヘリコント、クエズサ[illegible]」[illegible]ノ君シテキコエ給フ」

まちかけがほ (名) [待懸顏] 待チカケテ[illegible]。[illegible]ツゴロモ[illegible]ホトトギス[illegible]」

まちかご (名) [町駕籠] 又、かくれかご。元祿、正德ノ頃ヨリ、江戶市中ノ辻ナドニ、客ヲ待受ケテ乘セシ駕籠。辻駕籠トモ云フ。[illegible]云云」

まぢか・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) [間近] 間近シ。[illegible]ヅ[illegible]接近。[illegible]「[illegible]セミノ、人目ヲシゲミ、岩橋ノ、[illegible]近君ニ、戀ヒワタルカモ」後撰集、[illegible]見ルハ、遠ケレドモ、戀キハ物カハ、戀シキヨリハ」

まちがた (名) [町形] 古ヘ、鹿ノ肩骨、又ハ、龜ノ甲ニ刻ム線、即チ、田字形ノ稱。かめのうら(龜卜)、及、とほかみゑみため(登保加美惠美多米)ノ條ヲモ見ヨ。

まちがた (名) [待難] マチカヌルコト。マチガテ。古事記、中(景行)五十二「阿良多麻ノ、ツキハトヘユク、ウヘナウヘナ、キ[illegible]カケセル、オスヒノスソニ、ツキタタナムヨ」

まちかたな (名) [町形] 鷹ノ尾ノ、斑アルニ云フ語。横ニ數直線ノ黑斑アルモノ。矢ノ羽、モ云フ。さかたな(坂形尾)ノ條ヲ見ヨ。

まちがて (名) [待難] まちがた(待難)ニ同ジ。萬葉集、五 廿「ウグヒスノ、麻知遠(?)ニセシ、梅ガ花、散ラズアリコソ、思フ子ガタメ」

まちか・ぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ (他動、下二) 待ナワブ。マチカネル。待兼 來ルヲ遲シト、堪ヘ難ク思フ。萬葉集、十一 七「サササ波ノ、志賀ノ辛崎、サキクアレド、大宮人ノ、船麻知兼ツ」同、十一 三十「待不得テ、内ニハ入ラジ、シロタヘノ、吾ガコロモ手ニ、露ハ置キヌトモ」

まちかね (名) (不來かノ意ナレバ、待ち兼ねノ謎) 小糠ノ女房詞。(あらひ粉ハ、元和頃ヨリ、澡豆ニ代ヘテ小糠ニ移ルト) サクヂ。サクヅ。醒睡笑(元和、安樂庵策傳)二「ナベテ上臈方ニハ、さくちト云フヲ、禁中ニハ、まちかねトカヤモテアツカヒタマフコト、おぬかト云フ言葉ノ縁ニヤ」女重寶記(元祿)一「小糠ハまちかね」

まちか・ねる (動) [待兼] 前前條ノ語ノ口語。

まちがひ (名) [間違] (一)マチガフコト。タガヒ。チガヒ。乖違 八笑人(文政、鯉丈)初編、二「全ク是レハ間違ひデ、アナタ樣方ノ御氣ニ觸リマシタノデ御座リマス」(二)アヤマリ。シクジリ。錯誤。失錯 (三)ケンクヮ。アラソヒ。(四)若キ男女ノ間ニ生ズル正シカラザル關係。

まちが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [間違] (一)タガフ。チガフ。乖違 (二)アヤマル。シクジル。失錯

まちが・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) [間違] (一)タガフル。チガフル。乖違 (二)アヤマツ。シソコナフ。マチガヘル。失錯

まちかぶと (名) 待兜 「まち(待)ノ條、參見」出來合ノ賣物ノ兜。七十一番職人盡歌合、廿九、よろひさいノ「此頃ノ、ナラヒナリケリ、まちかぶと、星見エヌマデ、スメル月カゲ」

まちが・へる (動) [間違] まちがふ(間違、下二段)ノ口語

まちがほ (名) 待顏 マツラシキ顏ツキ。萬葉集、十、廿一「待がほニ、人ニハ見エジ、トバカリニ、嵐ノ床ニ、シホレテゾヌル」平家物語、灌頂卷、小原御幸事「八重タツ雲ノ絶エ間ヨリ、山ホトトギスノ一聲モ、君ノ御幸ヲ待ちがほナリ」

まちかま・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) [待構] 構ヘテ待ツ。支度シテ待ツ。マチーウク。マチカマヘル。

まちかま・へる (動) [待構] 前條ノ語ノ口語。

まちぎ (名) [待木] まかぎ(鹿木)ノ條ヲ見ヨ。木工權頭爲忠百首「マスラ男ノ、まちぎノ下ニ、立ツ鹿ヲ、マダラニ見スル、夜半ノ月カナ」

まちぎみ (名) [羣卿|公卿] まうちぎみ(公卿)ノ略。まへつぎみ(公卿)ノ條ヲ見ヨ。景行紀、十二年十二月「時有二一臣一進曰、云云」仲哀紀、九年二月「命二四大夫一百寮ニ令ニ守ニ宮中一」顯宗即位前紀「再拜諸卿位曰、云云」

まちぎみ (名) [町君] (町ニ立チ居ル遊君ノ意ナラム) 辻君ニ同ジ。やほち(夜發)ノ條ヲ見ヨ。盛衰記、三十四、東國兵馬汰事「陸奥國三戶立ノ馬、云云、此馬、鼻強シテ人ヲ釣ケレバ、異名ニハ町君ト被レ付タリ」

まちきんだち (名) [羣卿] まへつぎみ(公卿)ノ條ヲ見ヨ。名義抄「卿等、マチキムタチ」崇神紀、四年十月「羣卿百僚」(校定本) 垂仁紀、廿五年二月「詔二阿倍臣遠祖武渟川別、云云、吾大

夫一曰、云云」[illegible]

まちぐそく (名) [待具足] (まち(待)ノ條、參見) 出來合ノ賣物ノ具足。

まちぐち (名) [町口] 町ノ出入口。大鏡、上、六十五代「其ノ家ハ、土御門まちぐちナレバ、御道ナリケリ」

まちくら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [待暮] 人ノ來ルヲ待チテ日ヲ暮ス。後撰集、十二、戀、四「待くらす、日ハ菅ノネニ、思ホエテ、逢フヨシモナド、玉ノ緒ナラン」忠見集「春ノ宮メテ、人モ見ニ來ヌ、梅ノ花、待暮らしツツ、獨リノルカナ」

まちぐわいしよ (名) [町會所] (一)昔、町役人ナドノ、町内ノ務メナドノタメニ寄合フ所。萬年帳、二番、府內名主共「町會所借請居候モノ、云云」(二)江戶ノ町町ノ、備荒積立金ナドヲ取扱ヒタル所。諸色調類集、十ノ七十「天保十四卯年四月、町會所積立金之儀ニ付、取調申上候書付、云云」

まちげいしや (名) [町藝者] 郭内ノ藝者ニ對シテ、町ニ住ム藝者ノ稱。げいしや(藝者)ノ條ヲ見ヨ。蜘蛛の糸卷(弘化、岩瀨京山)「天明ノ頃ハ、世ノ中賑ハシク、武家ニテモ少シ酒盛メク折ハ、町藝者トテ、酌取女ヲ招クハ、何レノ家ニモアル事ナリ」浮世風呂(文化、三馬)三編、上「スベテ女中湯ノ朝ノ間ハ、町藝舍カ料理家ノ娘、アルヒハ踊懸ナドノ多ク入湯スル故」

まちさいはひ (名) [待幸] 待チ設ケタル幸。豫期シタル幸福。續古事談、一、王道后宮「隆方ノ質政ヲノル詞ニ、サマデモナキまちさいはひノ、同ジ樣カナ、ト云ヒテケリ」

まちざけ (名) [待酒] 來ル人ニ飮マシメムタメニ、釀シ設ケテ待ツ酒。古事記、中(仲哀)六十「長帶日賣命、釀ニ待酒一以獻」萬葉集、四 廿九「君ガタメ、釀ミシ待酒、安ノ野ニ、ヒトリヤ飮マム、友ナシニシテ」

まちざけ (名) [[illegible]] あさぢざけ(淺茅酒)ニ同ジ。

まちさけび (名) [待叫] 遠方ニテ叫ブコトナタニテ、待チ迎ヘ、[illegible]コト[illegible]。今昔物語、廿八、第三十八語、[illegible]、云云、底ヘ可レ下キ樣モ無ケレバ、何セント爲ルナド、ロロニ半リメク程ニ、遙ノ底ニ叫ブ音ホノカニ聞ユ、守ノ殿ハ御マシケリナド云テ、待叫びスルニ、守ノ叫デ物云フ音、遙ニ遠ク聞ユレバ」

まちすぐ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [待過] 待チテ、日月ノ過グルヲ待ツ。マチスゴス。萬葉集、十一、[illegible]「ホドヘバ、スコシウチマギルルコトモヤト、まちすぐす月日ニソヘテ、イトシノビガタキハ、ワリナキワザニナン」

まちだい (名) [町代] (一)江戶時代、京都ノ町役人ノ一。所管ノ町町ノ年寄ヲ率ヰテ、專ラ町ノ取締ニ從フモノ。京都御役所向大概覺書、二六、公事方所、[illegible]町代、[illegible]之[illegible]雜人宛相勤、其外ハ前前之通、町ニ用所無之筈ニ、毎朝可罷出候」(二)江戶時代、町年寄ニ代ハリテ、町ノ事務ヲ取扱ハシメタル町役人。大成令、七十四、享保六丑年九月「町町ニ有之町代之儀、自今相止可レ申候、云云、公役ハ勿論、町内之用事共ニ、名主月行事取ハカラヒ、云云」

まちだうぢやう (名) 町道場 (一)市中ニアル武藝ノ道場。(二)市中ニアル小サキ佛堂。

まちだかばかま (名) [襠高袴] 袴ノ内股ノ襠ヲ高ク製シタルモノ。多ク馬ニ乘ルニ用キル。ウマノリバカマ。

まぢち (名) [貧鉤] (まづしち(貧鉤)ノ略轉) 鉤ヲ禁厭ヒテ、貧シクナレト詛ヒタル語。神代紀、下 廿四「以二此鉤一與二汝兄一時、則陰呼二此鉤一曰二貧鉤一然後與之」

まちぢらう [illegible] 松作)ニ「御祝言ノマナビシタケレドモ、我我ハ男騎[illegible]ズ、待ト云フ何ナカモ、[illegible]」

まち・づ ヅ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ [illegible] 待出 [illegible]〔まちいづノ略〕まちいづ(待出)ニ同ジ。[illegible] 古今[illegible]

まちつ・く クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）待付 待チテ遇フコトヲ得。待受ク。[illegible] まちつけテ、キコエサセンコトノマヽユケレバ」讃岐典侍日記「待ちつけテ、泉ノ有様、ウチウチニ聞ヒナドシテ」

まちつ・ぐ グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（他動、四）[待續] 月日ヲ續ケテ待ツ。マチツヅクル。萬[illegible]四、[illegible]日コソ、人モ待チ告、長ヤケヲ、カク待ルレバ、アリガテナクモ」（略解ノ訓、但、古義ハ、告ヲ[illegible]ノ字ノ誤トシ、人をもまちしトよめり）

まちづくし（名）[町盡] いろはノ假名手本、[illegible]、京都ノ[illegible]條ヨリ九條マデノ町小路ノ名ヲ列擧シタルコト。古キ寳用集ニモ見ユ。

まちっと（副）今少シ。モスコシ。マチット。狂言記、福渡「餘りセハシナウゴザリマスル、まちっと靜カニ受取ラッシャレマセイ」

まちどうしん（名）[町同心] 町奉行ニ從屬シタル同心、どうしん（同心）ノ條ノ[illegible]モ見ヨ。東徴、下「町同心二百四十人、[illegible]百廿人ニ捨扶持人扶持ニ[illegible]五ノ十四、町年寄「天和二壬戌年十一月十一日、覺、町與力同心、[illegible]仕法[illegible]宜候ヨシ、[illegible]及[illegible]」

まちどしより（名）[町年寄] 江戸時代ニ、市人ノ長。町奉行ノ下ニ屬シ、名主[illegible]ノ上ニ居リテ、[illegible]名主ヲ管セリ。江戸、[illegible]大坂、長崎、ナドニアリキ。江戸町年寄ニハ、[illegible]ノ三人[illegible]、町年寄[illegible]。[illegible]

まちどほ・し シキ・シケレ・シク・シク（形、二）待遠 待ツコト久シ。待チクタビル。

まちどほみ（副）[待遠] 待チ佗ビテ。[illegible]「ウエン[illegible]」後撰集、一、春「宿近ク、移シテ植エシ、カヒモナク、待遠ニノミ、匂フ花カナ」

まちとりがほ（名）[待取顏] 待チウケテ居ルヤウナル顏ツキ。待チ設ケタル如キ容子。玉葉集、十四、雜、一「花ユエハ、イトフナラヒノ、[illegible]、待ちとりがほニ、ナビク[illegible]」

まちと・る ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）[待取] 待チ受ク。待チ付クル。拾玉集、七「夕立ノ、雲ヨリ出ヅル、夏ノ日ヲ、待取るモノハ、蟬ノ諸聲」源、三十二、梅枝「[illegible]御直衣奉リ、御シトネ參リ[illegible]ヘサセ給ヒテ、ヤカテ待ちとり入レ奉リ給フ」

まちなみ（名）[町竝] 町家ノ竝ビタル狀。又、ソノモノ。拌腐論卯月紅葉、讀本、近松作[illegible]北久太郎町心齋橋、長[illegible]、裏行町竝二十間[illegible]フズ、云云ニ[illegible]」

まちにょうばう（名）[illegible] 嫁ヲ待チ迎ヘテ、何クレトナクセワスル婦人。嫁入記「ヨメムカヘノシャクハ、まちにょうばうメシツレ給ヒ候」嫁迎の吾「御まちにょうばう[illegible]」

まちね（名）待寢 待チツツ寢ルコト。[illegible]

まちはづれ（名）[町外] 町ノハヅレ。[illegible] シバシ、マドロメバ、サシオドロカス、山ノ端ノ月」[illegible]（萬治）ニ「千賀井戸ハ町はづれ、右ノ方ニアリ」好色[illegible]町はづれ[illegible]シノ小家ガチナル、モノノ寂シク」

まちばり（名）[待針] 針仕事ニ、縫ヒ止ムベキ處ニ、ウチテ標シ付クル針。[illegible]井（寛文）「立ナクヤ、千代ノまちばり、門ノ松」

まちびきゃく（名）[町飛脚] 江戸時代、人ニ頼マレテ、書信、金、物品ナドヲ遞送スルモノ。又、便屋。[illegible] 來呼ズシテ衆人ニ報告ス、是ヲ以テ、下ニモ云如ク、チリンチリンノ町飛脚等ト異名ス」

まちびけし（名）[町火消]「幕府ノ定火消ニ對シテ云フ」江戸市中ニテ、火消ノ役ニ出ヅル消防組。ソノ夫ヲ火消人夫ト云ヘリ。江戸ノ町火消ハ、享保四年四月、江戸町奉行大岡越前守忠相、コレヲ定ム、一町毎ニ、若キ者二人ヨリ四五人マデヲ出サシメ、いろはヲ標トシテ、四十七組ニ分ツ。但シ、組ノ名ニ、へ、ひ、らノ三ヲ除キ、別ニ百、千、萬ヲ加フ。本所、深川ハ、一ノ組ヨリ十六組ニ[illegible]、及、印半纏ニ組ノ字ヲ記サシ[illegible] 足相談の吾「文政元年ノ秋八月、町火消人足、[illegible]」

まちびたれ（名）[待直垂]「まち（待）ノ條、參見」出來合ノ賣物ノ直垂。七十一番職人[illegible]「ひたたれノ、スキカゲノ、サシテ曝ラヌ、月ノ袖笠」

まちびと（名）待人 待ツ人。[illegible] アルコト。又、其待タルル人。類材付集[illegible]

まちぶぎゃう（名）[町奉行] [illegible] 府等ニテ、市中ノ租稅、戸籍、訴訟ナド、一切ノ事ヲ司リシ職。江戸ナルヲ、單ニ町奉行ト稱シテ、日本橋ヲ以テ、南北ニ分チ、[illegible] 町奉行[illegible]

まちぶせ（名）待伏 隱レテ、人ヲ待チ伏スコト。[illegible]

まちぶれ（名）町觸 昔、[illegible] 江戸ノ町町ニ出シタル布告。[illegible] 白洲ニ而、町人拜見被仰付候間、云云」

まちぼうけ（名）[illegible] 待惚 [illegible] 反 [illegible] 甚ナク待チ

クタビレテ、呆然トスルコト。スッポカシ　心中重井筒(寶永、近松作)中「何事モ打合セント、イママデ待ちぼうけニナッタレドモ、一目逢ヘバ、コレ本望」

まちぼけ (名) [待惚] 前條ノ語ニ同ジ。

まち-まう・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) [待設] カネテ待ツ。用意シテ待ツ。待受ク。迎接。期待。天神記(正德、近松作)二「衣冠更メ參內アリ、待ちもうけタル撿非違使、大判事」

まち-まち-ニ (副) [區區] 各、異ナリテ。サマザマニ。ベツベツニ。クク。名義抄「區區、マチマチ」盛衰記、十九、聞性撿ニ八員ニ事「就中、諸經ノ說時不同ニシテ、卷軸區ミ分レタレトモ、法華ハ、八箇年ニ說テ」平家物語、十、戒門事「ソレ出離ノ道ノまちまちなりトハ申セドモ」

まちめ (名) [町女] 物賣ル女ノ、ヒサギメ。榮花物語、五、浦浦別「カカル事ハ、エビス、まちめナドコソイヘ、アサマシウ心憂キ事ヲイヒ出デテ」

マ-チン (名) [馬錢] (字ノ支那音、又、まちゅんト云フ、松屋筆記、八十八、第四十六條「まちんハ番木鼈也、異名馬伐子ト云ヘリ、馬伐子、唐音まちゅん也ト、鹽尻十五ニ說アリ」) 馬錢科ニ屬スル常綠喬木ノ名。東印度ノ原產ニシテ、外皮ハ灰色ヲ帶ビ、高サ十五六尺ニ達シ、葉ハ卵圓形ニシテ滑澤革質、對生ス。花ハ小サクシテ白ク、繖總花序ヲナシテ、枝端ニ簇リ咲ク。ソノ漿果ハ、黃金色ニ熟シテ、橙ノ實ノ如ク、所謂、馬錢子(番木鼈)ト稱シテ、瓜哇島ヨリ舶來ス、大イサ五六分、圓ク平タクシテ、白色、毛茸アリ、犬ヲ毒スト云フ。又、麻痺劑、健胃劑ナドニ用キラル。番木鼈　和漢三才圖會、九十六、蔓草類「馬錢子、マチン、馬錢之唐音也、番木鼈、本綱、馬錢子、狀似ニ馬之連錢ニ、故

名之、生ニ回回國ニ今邪國諸處皆有ニ之、蔓生、夏開ニ黃花ニ七八月結實、如ニ栝樓ニ生青、熟赤、亦如ニ木鼈ニ其核小ニ於木鼈ニ而色白、能毒ニ狗至ニ死」浮世床(文化、三馬)二編、上「ぶちヨぶちヨト此ノ頃マデ、手飼ニシテ愛シタ物ヲ、番木鼈ヲ食ハセテ殺ストハ」

まちや (名) [町家] (一)町ニアル家。チャウカ。(二)町ノ商家アル地。市肆 市坊 狂言記、長光「町やヘイテ土產物ヲ買ハウト存ズル」

まちやかた (名) [町屋形] 船ノ一種。總矢倉ニテ、日覆ノアル遊山船。マチゴザフネ。カシゴザフネ。和漢船用集、五「町御座船、本名町屋形、船賃ヲ取テ借ユヘ、借御座船ト云」

まちやくば (名) [町役場] (村役場ニ對ス) 地方自治團體タル町ノ行政事務ヲ取扱フ役場。町長ノ事務ヲ取扱フ所。チャウヤクバ。

まちやっこ (名) [町奴] (山の手奴(一名、旗本奴)ニ對シテ、下町奴トモ云フ) 江戸時代、明暦、寛文ノ頃ニ起リシ市中ノ男達ノモノ。當時、旗本奴ノ暴行跳梁ノ甚シキニ激シテ、其横暴ヲ挫カムト、俠氣アル江戸兒ノ起チシモノ。幡隨院長兵衞、唐犬權兵衞ナドハ、其代表者ナリ。(其組ニ、唐犬組、鶺鴒組、鐵棒組、笊組ナドアリ) 其服裝、容姿、擧動ナドハ、スベテ山の手奴ヲ眞似テ、奴髮、立髮、額髮ヲ大額ニ拔キアゲ、頰髭ヲ畜ヘ、裄、裾ノ短キ服ヲ着、無反ノ刀ヲ閂ニ差シ、熊谷笠ナド被リ、イカメシキ伊達姿ニテ、奴詞ヲツカヒ、路ヲ行クニ六法ヲ振ル故ニ、六法者ノ稱アリ。此服裝、擧動ヲ寛闊ト云ヒ、因リテ、又、寛闊者、寛闊姿ノ稱アリ。專ラ男達ヲ旨トシ、人ニ負クルヲ嫌ヒ、賴マルル

コトハ、生命ヲ捨テテモ請合フ。然レドモ道ニ鞘當、鐺咎ナド仕掛ケテ口論喧嘩シ、又、吉原ニ入込ミテ、浮世狂ヒ、跋折羅、狼藉ナドス。コレラノモノ、貞享三年ニ誅セラレ、町人ノ帶刀ヲ嚴禁セラル。然レドモ其徒、尙存シテ、元祿ニ至リテ、全ク絕エタリ。八十翁昔語(享保、新見正朝)「浪人、或ハ町人ニモ、若キ器量アルモノ浦山シク思ヒ、町奴ナドトテ有レ之歟」

まちよりき (名) [町與力] 町奉行ニ從屬スル與力。役所內ニテハ、米金ノ出納、戸籍ノ整理、及、關所、過料ナドニ關スルコトニ從ヒ、外ニテハ、市中ヲ巡邏シ、非常ヲ警戒シ、不良ヲ逮捕シ、世上ノ風說ヲ內偵シテ、奉行ニ報ズルモノ。市尹要覽、一、町奉行組與力知行所、同心御切米井御取立之次第「町奉行組與力之儀ハ、天正十八年庚寅秋、御入國之前ヨリ、慶長年中、板倉四郎左衞門勝重、三州ヨリ組頭、樹木庄左衞門、辻半九郎、云云、右拾人召連、直ニ四郎左衞門組ニテ、町與力相勤候之處、云云」也徵、下「町奉行組與力、給知二百石、本勤並御手當金、拾兩、云云」

まちよろひ (名) [待鎧] (まち(待)ノ條、參見) 出來合ノ賣物ノ鎧。

まちれい (名) [町禮] 江戸時代、家屋敷ノ賣買アリタルトキ、其町內ヘ謝禮トシテ出シタル金錢、或ハ、物品。享保集成絲綸錄、三十九、寶永三年正月「町中家屋敷賣買之節、名主屋鋪ニ而、町禮之金銀大分出サセ、云云」

まちわたる・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [待渡] 月日ニ渡リテ待ツ。古今集、四、秋、上「今日ヨリハ、今來ム年ノ、昨日ヲゾ、イツシカトノミ、待ちわたるベキ」蜻蛉日記、上、下九「イツシカモ、イツシカモトゾ、まちわたる、森ノヒマヨリ、光見ンマヲ」

まちわぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ(他動、上二)

[待侘] 來ルコトノ遲キヲ、待チクタビル。伊勢物語、第廿四段「アラタマノ、年ノ三トセヲ、待ちわびテ、タダ今宵コソ、ニヒマクラスレ」後撰集、十九、離別「待ちわびテ、コヒシクナラバ、タヅヌベク、跡ナキ水ノ、上ナラデ行ケ」

まちわり (名) [町割] 町ノ地割。町ヲ設クルタメニ、空地ヲ仕切ルコト。慶長年間江戸圖考「江戸町割八十二年(慶長)以前ノ事ナリト、是モ八年ノ事也、慶長日記ニ、十六年六月二日、江戸新開ノ町、町割ノ事有ベシト、云云」

まつ (名) [末] (一)細末。粉。コナ。畵書、[illegible]「乃以ニ五色繪ニ作ニ花精ニ之、燒後成ニ末ニ」(二)支那芝居ニテ、老生ニ扮スルモノ。我ガ荒事師。(脚色ノ條ヲ見ヨ)

まつ (名) [松] (一)〔松杉科ノ常綠ノ喬木。幹ニ節多ク、皮ハ鱗甲ノ狀ヲナス。葉ハ針ノ如クニシテ、二針ニ一帶ヲナシテ、深綠ナリ。春、黃花ヲ開ク、粉ノ如シ、別ニ實ヲ結ブ、まつふぐり(松毬)ト云フ(其條ヲ見ヨ)。材、用多シ。但シ、脂多シ。くろまつ(黑松)、又ハ、をまつ(雄松)ト云フハ、皮ノ色、黑ク、葉、粗ク長ク太ク、枝堅シ。黑松　あかまつ(赤松)、又ハ、めまつ(雌松)ト云フハ、皮、赤ク、葉、細ソク短ク、枝ヤハラカナリ。赤松　又、葉ニ、五針、三針、一針、ノモノモアリ、葉ノ色ノ黃ナルアリ、又、白キモアリ、五葉松、蝦夷松、富士松、椴松、ナド、各條ニ註ス。古事記、中(景行)四五十「尾張ニ、直ニ向ヘル、尾津ノ埼ナル、一ツ麻都、アセヲ、一ツ麻都、人ニアリセバ」神代紀、上五十「果有ニ大蛇ニ頭尾各有ニ八岐ニ眼如ニ赤酸醤ニ松栢生ニ於背上ニ而蔓ニ延於八丘八谷之間ニ」(二)〔たいまつ、松明。(松ノ脂、多キ所ヲ用キレバ、云フ) 源、四、夕顏「御先ノ松ホノカニテ、イト忍ビテ出デ給フ」

枕草子、四、第三十九段「主殿ノ官人ナドノ、長キ松ヲ[illegible]テタル、まつノ火ノ、烟ハシキ、野路ノアケボノ」（三）まつ[illegible] はらまつ（瓦松）ノ略。其條ヲ見ヨ。松の言の葉ト云フハ、和歌ノ異名。（古今集ノ序「[illegible]ノ散リ失セズシテ、マサキノカヅラ長ク傳ハリ」）新千載集、十、神祇[illegible]敷島ノ道」 松の位ト云フハ、大夫ノ官。（秦ノ始皇ノ故事。五大夫ノ條ヲ見ヨ）松ノ烟ト云フハ、松明ノ烟、又、松ヲ燒ク烟。松ノ葉ト云フハ、仙人ノ境涯。（仙人、松葉ヲ食トスト云フヨリ）蜻蛉日記、中、中「松の葉バカリニ思ヒナリニタル身ノ[illegible]」寸志。「志ハ松」 松のかどトハ、（一）松飾ノアル門。（二）山中ノスマヒ[illegible] 千生集、下「トハレント、サシテハ住マズ、まつのかどニ見ハテンタメノ、秋ノ夕暮」

まつ [illegible] 末 本筒ナラザルコト。又、スエノ。（本ニ對ス）「末枝」「末裔」「末席」「末節」

まつ ツ・テ・タ・チ・テ（他動、四） 待俟竢 〔間〕（一）留リテ物事ノ來ムコトヲ望ミ居ル。早ク來ムコトヲ欲ス 古事記、中（神武）「我ガ[illegible]ヤ、鴫ハサヤラズ」 同、下「[illegible]君ガ行キ、ケ長クナリヌ、山タヅノ、迎ヘヲ行カム、待ツニハ待タジ」 萬葉集、十九「吾ガココダ、[illegible]ホトトギス、獨リ聞キツツ、告ゲヌ君カモ」 同、十八「月[illegible]知ラ、家ニハ行カム、我ガサセル、アカラタチバナ、影ニ見エツツ」（二）來ベキ物事ヲ迎ヘ受ク。待チ受ク。古事記、上[illegible] 萬葉集、十七、長歌「玉ヅサノ、使ノ來レバ、ウレシミト、我ガ[illegible]知問フニ」「待ち戰フ」「待ち取ル」（三）取置キテ、後ノモトメニソナフ。儲 [illegible]「儲、マツ」

まづ（副） 先 〔前ニ通ズ〕（一）サキニ。早ク。[illegible] マヅ」 神代紀、上「請先殺枝蛇、然後辛吾宜也」 [illegible]ベ、未豆我ガ宿ニ、鶯ハ鳴ケ」 古今集、十五、戀、五「シデノ山、麓ヲ見テゾ、歸リニシ、ツラキ人ヨリ、まづ越エジトテ」 續千載集、五、秋、下「人ヨリモ、まづ[illegible]、九重ノ、[illegible]メル、ヨヒノ月影」（二）シバラク。マア。且 姑 枕草子、四、第四十三段「物語ナドシテ居タル程ニ、まづト召シタレバ、參リタルニ」 狂言記、七騎落「腰ノ刀ニ手ヲ掛ケ、[illegible]シ迎ヘントセシ所ニ、云云、まづ止マ[illegible]中シケレバ」「まづ[illegible]」

まづい（形） 不味 〔まづし（不味）ノ口語〕 アヂナシ。味ヒ旨クナシ。（[illegible]） 物類稱呼、五、言語「アヂナシ、食物ノ味ヒウスキ也、云云、[illegible]ニテ、まづいト云」

まつえい（名） 末裔 ばつえふ（末葉）ノ條ノ（一）ニ同ジ。[illegible]「末裔」[illegible]

まつえふ（名） 末葉 （一）書籍ノ末ノ枚。（二）スベテ、物ノ末。人ニテハ子孫。すゑは。時代ニテハ末頃。末期。ばつえふ（末葉）ノ條ヲモ見ヨ 保元物語、二、白河殿攻落事「左ノマナコヲ甲ノハチ付ノ板ニイ付ケラレ、タウノ矢ヲイカヘシテ、其カタキヲ取リシ鎌倉ノ權五郎景政ガまつえう、大庭ノ平太カゲチカ、トゾナノッタル」「十九世紀ノ末葉」

まっか（名） 眞赤 （一）マコトニアカキコト。眞紅。純赤。 史記抄（文明）十二、四三十「櫻桃ト云ハ、ウツクシウ、まっかニナルヲ云ゾ」 俳諧新選、夏「眞赤ニ、内ノ醫サヨ、土用干」（二）全然。マルッキリ。「眞赤ナうそ」

まっかう（名） 抹額 〔字ノ音、まつがく

ノ音便〕（一）古クハ、まかう。はちまき[illegible]花形ノ如キモノアリ） 字類抄「末額、マカフ、[illegible]」（二）[illegible]ト云フ[illegible]

まっかう（名） 抹香 末香 モト、沈香ト栴檀トヲ搗キテ、粉末トシタルモノ。今ハ、志きみ（樒）ノ葉ト皮トヲ乾シテ、細末トシタルモノ。濁色ナリ。佛前ノ香トス。 法華經[illegible] 運歩色葉集「抹香」 日本書紀[illegible]團水）二「ノチハ十人シテ、ハタキ抹香ヲコシラヘ」

まっかうくさし キ・ケレ・ク・ク（形、二） 抹香臭 抹香ノカヲリス。佛クサシ。佛教クサシ。 俚言集覽「末香臭、佛メキタルヲ云」 ものあか（文政、蜀山人）下「富士山[illegible]、五山ノ[illegible]抹香臭キモ、北山カ白鷗ニアフギフセノレス」

まっかうくぢら（名） 抹香鯨 〔身ノ色、抹香ニ似タレバ云フト云フ、或ハ、眞甲トモ記ス〕 鯨ノ類。南海ニ多シ。長サ三丈五六尺ヨリ、大ナルハ七丈ニ至ル。全身、灰黑ニシテ赤ミアリ、頭圓ク平タク、上褶、甚ダ大キクシテ、下褶、小サシ。齒アルコト、常ノ鯨ト異ニシテ、齒ノ大キサ、小牛ノ角ノ如シ。其腹中ヨリ[illegible]

まっかうぶち（名） [illegible]タル處ノ上部ノ線。鉢卷シタルガ如シ。[illegible]ヌハ、カマドノ緣ヲ、まっかうぶちト云フ、思フニ、まっかうハ抹額ナリ、ソノ緣ハ鉢卷シタルガ如クナレ[illegible]」

まつがえ（名） [illegible] 松江（今ハ松江ト記ス）ヲ文字讀ニシタル語。 夫木抄、廿三、江「ヨバヘドモ、都ハイデヌ、まつがえノ、秋ノ[illegible]ニ、心トメツツ」

まつがえ（名） 松枝 松ノ樹ノエダ。[illegible] 萬葉集、六、四十「タマキハル、イノチハ知ラズ、松之枝ヲ、結ブココロハ、ナガクトゾ思フ」 [illegible]雑、賀「松が枝ノ、カヨヘル枝ヲ、トグラニテ、巣ダテ[illegible]」

まつがく（名） 末學 （一）枝葉ノ學問。[illegible]學問 [illegible]集（慶長）下「言辭門、末學、マツガク」（二）ばつがく（末學）ニ同ジ。（三）學者ノ卑下シテ云フ自稱。[illegible]

まつかげ（名） 松蔭 松樹ノ掩ヒタルトコロ。萬葉集、十一、四十八「馬ノ音ノ、トドトモスレバ、松[illegible]」

まつかげ（名） 松影 池ナドニ映リタル松ノスガタ。 玉葉集、七、賀「松かげノ、ウツレル宿ノ、池ナレバ、水ノミドリモ、千世ヤスムベキ」

まつかさ（名） 松毬 まつふぐり（松毬）ニ同ジ。[illegible]カサ、マツフグリ」 拾遺集、七、物名、いなみの「スミヨシノ、岡ノまつかさ、サシツレバ、雨ハ降ルトモ、イナ[illegible]」[illegible]サノ、サカリ[illegible]」

まつ-がさね (名) 〔松襲〕 襲ノ色目ノ名。表ハもえぎニテ、裏ハ紫色ナルモノト云フ。 増鏡、中、第九、北野「殿上人ニハ、[illegible]具氏、忠秀、コノ人人ハ、松重ノ下襲、藤ノ上ノ袴」 吾妻鏡、五、文治元年十月廿四日「五衣、[illegible]松重、[illegible]自簾中被押出之」

まつ-かざり (名) 〔松飾〕 正月ノ門松ノカザリ。 狂言記、米市「ヤイヤイ、平常山ヘ還ハス合カ米ハヤッタカ、何ト藏ヲシメ、松飾リヲシタ」 改正月令博物筌、正月「門松、立松、カザリ松、カザリ竹、ナドハ、云云、松ハ千歳ノ契リ、云云」

まっ-かせ (感) 〔任〕 〔まかせ(任)ノ音便〕 人ニ對シテ、心得タト云フ狀ニ云フ語。合點ダ。 曾我會稽山(享保、近松作)一「朝比奈、チャット來テ、アガケアガケ、許ス許ス、オオま、かせ、ト跳リ出テ、母ノ御免ヂャ忝ナシト、ツ、ト寄リ」

まつ-かぜ (名) 〔松風〕 (一)〔松ノ木ヲ吹ク風。 源、十、榊「秋ノ花、ミナオトロヘツツ、淺茅ガ原モ、枯レ枯レナル蟲ノネニ、松風スゴク吹キアハセテ」 拾遺集、十六、雜、春「松風ノ、吹カン限リハ、打チハヘテ、タユベクモアラズ、咲ケル藤ナミ」 (二)〔前ニみどりト云フ菓子アリ、此菓子、其上ヲ行ク、因リテ名トス、或ハ云フ、裏ハ何モナシ、故ニ裏(浦)淋シトテ名ヅクト云フ〕 干菓子ノ名。麪粉ヲ白砂糖ノ煎汁ニテ煉リ、平銅鍋ヘ流シ込ミ、上ニ罌粟ノ子ヲマキ、上下ヨリ燒キテ、長方形ニ切ル。(表ヲ焦シ、罌粟ヲマキ、裏ハヌメリトシテ、何モナシ) 橘庵漫筆、四「干菓子ノ松風ハ、初京都ヨリ製シ出シ、或御方ヘ銘ヲ乞奉リシニ、御[illegible]有テ、まつ風ト銘給フ、其心ハ、表ニ火ノ剛焦シ跡、泡立シ跡、ケシヲフリナドシ、イロイロノ文アレド、ウラハ統リトシテ[illegible]ナシ、ウラ寂敷ト、[illegible]ニヨリテ松風トハナヅケ給ヘリトカヤ」

まつかぜ-つき (名) 〔松風月〕 〔風ヲ待つ(松ニカク)月ノ義〕 陰曆、六月ノ異稱。 草傳抄「六タカミ、アメフリ山ノ、ケフヨリハ、まつかぜ月ノ、夕暮ゾフル」

まつ-が-ね (名) 〔松根〕 松ノ樹ノ根。 萬葉集、廿「住吉ノ、濱松ガ根ノ、下バヘテ、我ガ見ルヲノノ、草ナ刈リソネ」

まつがね-の (枕) 〔松根〕 〔松原ハ次條ノ語意ニ同ジ〕 絶ゆることなくニ冠ラスル語。 萬葉集、廿、長歌「松ガ根ノ、絶ユルコトナク、アヲニヨシ、奈良ノ都ニ」

まつがね-や (枕) 〔松根〕 〔松ノ根ハ遠クマデ延ビテ行クモノナレバ、遠クニカク〕 とほく(遠)ニ冠ラスル語。 萬葉集、三、長歌「眞間之手兒名ガ、奥槨ヲ、ココトハキケド、眞木葉ヤ、茂ミタルラム、松之根也、遠久寸、言ノミモ、名ノミモ吾レハ、ワスラエナクニ」

まつかは-がた (名) 〔松皮形〕 (一)鱗形ニ近キモノ。(二)紺屋ノ染形ノ文。

まつかは-がみ (名) 〔松皮紙〕 (一)おほたかだんし(大高檀紙)ノ異名。だんし(檀紙)ノ條ヲ見ヨ。(二)まつばがみ(松葉紙)ニ同ジ。 紙譜(享保、木村青竹)雜紙「松皮紙、出羽國、山形ヨリ出ヅ(松皮紙)」 羽州府志、七、土産門、下、紙、補遺「所出自羽州(奥州ノ誤カ)相馬郡、之松皮紙、實以松内皮而雜而漉之」

まつかは-ばうさう (名) 〔松皮疱瘡〕 〔痂、松ノ樹皮ノ如ク重ナレバ云フ〕 疱瘡ノ惡性ナルモノノ稱。

まつかは-びし (名) 〔松皮菱〕 〔松ノ樹皮ノ如ク重ナレバ云フ〕 (一)紋所ノ名。花菱ヲ八重ニ作レルモノ。 [illegible]、近松作[illegible]ノ主ソ、[illegible]白河ハ[illegible]身ノ槍、鞍鞴ノ紋ハ松皮菱」 (二)模様ノ名。花菱ヲ八重ニ描キタルモノ。

まつかは-ぶき (名) 〔松皮葺〕 一種ノ瓦葺。平瓦ヲ本瓦葺ノ如クナラベ、其接際ニ、漆喰ヲ小高ク塗リテ、恰モ丸瓦ヲ伏セタルガ如クスル葺方。

ま-づかひ (名) 〔間使〕 時時、消息スルコト。 萬葉集、六、九長歌「ナノリソノ、己ガ名惜ミ、間使モ、遣ラズテ我ハ、生ケリトモナシ」 同、十七、五「立チキスル、ワザモシラエズ、すモヘトモ、妹ニツゲネバ、間使モコズ」

まっ-かふ (名) 〔眞甲〕 〔或ハ、眞向、眞額〕 額ノ中央。まっかう(抹額)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

まっ-かへさま (名) 〔眞反樣〕 まっさかさま(眞逆樣)ニ同ジ。 曾我會稽山(享保、近松作)二「三日前カラ仕過シノ、僧上ハま、かへさま、中盲振ヒ底ヲ叩イテ、是レテ御免ト詫ビルモ有リ」 同、二「某先ヘ驅ケ拔ケテ、まノかへさまニ言上シ」

まつ-がみ (名) 〔松紙〕 松葉色ニ染メタル紙。 宇津保物語、あて宮「紙、筆、机ニツミテ、色色ノシキシツミテ十、タカツキ、スワウノ机ニ、マユミノカミ、アヲカミ、まつがみ、フデナドツミテ」

まつ-ぎ (名) 〔末技〕 (一)枝葉ノ技。主要ナラザル技藝。物ノ用ニ立ツコトノ少キワザ。「文章ハ雕蟲ノ末技」 (二)未熟ナル技。ツマラヌワザ。末技(バツギ)。末藝。

ま-づき (名) 〔眞搗〕 麥ヲ水ニ浸シテ、先ヅ搗キタルモノヲ、日ニ乾シ、又、水ヲ注ギテ、再ビ搗クコト。又、ソノモノ。 甲陽軍鑑、十、下、品第三十二「麥、云云、コナシテ、ホシテ、搗キテ、又、ホシテ、其後まづきト云フヲ仕リ」 本朝二十不孝(貞享、西鶴)四、善悪の二つ車「買ヒシ物ヲヒトツニ炊ケバ、搗カヌ米アリ、新米アリ、赤米、眞搗、小豆ニ限ラズ、樣樣ノ色ナシテ」

まつ-ぎみ (名) 〔公卿〕 まへつぎみ(公卿)ノ條ヲ見ヨ。

まつくひ-づる (名) 〔松喰鶴〕 織物、蒔繪ナドノ模樣ニ、鶴ノ、松ノ枝ヲ咋ヘテ居ル狀ノモノ。

まつ-ぐみ (名) 〔松茱萸〕 槲寄生科ノ小灌木。多ク松、又ハ、杉ニ寄生ス。葉ハ長橢圓狀披針形ニシテ、深綠色ヲ呈シ、盛夏ニ赤キ花ヲ開キ、漿果ヲ結ブ。果實ハ成熟スレバ紅色ヲ呈ス、味甘クシテ、食フベシ。

まっ-くら (名) 〔眞暗〕 眞ニ暗キコト。マノクラヤミ。闇黑。暗黑。 史記抄(文明)十七、廿八「白鼓ヂャガ、まっくらニナリタゾ」

まっ-くらがり (名) 〔眞暗〕 前條ノ語ニ同ジ。 伊賀越道中雙六(天明、近松半二)六「平作モビックリシ、起キ上ッテモ眞暗がり」

まっ-くらやみ (名) 〔眞暗闇〕 前前條ノ語ニ同ジ。 傾城島原蛙合戰(享保、近松作)二「煙火殘ラズ一度ニバット消エ、前後モ見エヌ眞黑闇、虛空ハ人馬ノ馳セ散ル音」

まっ-くろ (名) 〔眞黑〕 (一)又、まくろ。眞ニ黑キコト。純黑。 書言字考節用集、六、服食門「純黑、マックロ」 犬子集「暮ルモ皆、ま黑方ニ、打チケブリ」 附句「夜籠月ニ、タバコヲヤ飲ム」 (黑坊ニカク) 矢島草子「丈七寸バカリニテ、ま黑ナル馬」 狂言記、鬘山伏「此兜巾ハ布切七八寸、ま黑ニ染メ、襞ヲ折リテ、頭ニ戴クニ依テ兜巾也」 (二)ワキ目モ振ラズニ、熱中スルコト。夢中ニナルコト。 日本武尊吾妻鑑(享保、近松作)五「日本武ノ尊、まっくろニ成テカケ付ケ」 浮世親仁形氣(元文、其碩、自笑合作)一「まっ黑ニナッテ、女夫ノ叱レバ」

まつ-げ (名) 〔睫〕 〔眼之毛ノ義〕 眼瞼ノ緣ニ生ヒタル毛。 倭名抄、三、[illegible]「睫、[illegible]

[illegible]、[illegible]毛也」[illegible]

まつ-げい (名) [末藝] ばつげい(末藝)ニ同ジ。末技。

まつ-ご (名) [末期] イマハノキハ。人ノシニギハ。[illegible] 川「前世ノ事ニテモヤ候ヒケン、タンダ弱リニ弱リ、[illegible]」

まっ-さと (感) [實] まさと(實)ノ音便。

まつ-ざ (名) [末座] ばつざ(末座)ニ同ジ。末席。[illegible] 門[illegible]「時直膝行頓首シテ、敢テ平視セズ、遙カノ末座ニ殺ッテ、[illegible]ニ平伏シタル[illegible]ヲ見給ヒテ」

マッ-サアジ (名) 「英語、Massage.」 西洋風ノ按摩。西洋按摩。

まっ-さいちゅう (名) [眞最中] 今、方ニ盛リナル時。モナカ。サナカ。マサカリ。史記抄(文明)十一九四十「酣ハ、酒ノまっ最中ヲ云ゾ」用明天皇職人鑑(寶永、近松作)職人づくし「奧ノテイヲウカガヘバ、酒宴亂舞ノまっさい中」

まっ-さかさま (名) [眞逆樣] [あまさかさま(眞倒)ノ轉] サカシマニ落ツル状ニ云フ語。[illegible] 保元物語、二、白河殿[illegible]「[illegible]ナ弓手ノ方ヘ眞逆樣ニ落ツレバ」史記抄(文明)十六[illegible]「まっさかさまナ事」

まっ-さかり (名) [眞盛] [まさかりノ音便] まさかり(眞盛)ニ同ジ。

まっ-さき (名) [眞先] [まさきノ音便] 最モ先ナルコト。最先。保元物語、二、白河殿[illegible]正兩馬ニ打乘テ、眞先ニコソ進ミケレ」平家物語、九、一二のかけの事「西ノ手ヘ寄セテ、一ノ谷ノまっさきカケウト言ヒケレバ」

まつ-ざくら (名) [松櫻] 襲(カサネ)ノ色目ノ名。表ハ紫、裏ハ薄紫ナルモノ。

まっ-さつ (名) [抹殺] ナスリ消スコト。[illegible] 抹消。[illegible]

まっ-さを (名) [眞青] [まハ發語、あをヲさをトモ云フ、或ハ、正青ノ約] 全ク青キコト。[illegible]

ま-ご (名) [末子] ばつし(末子)ニ同ジ。

まつ-じ (名) [末寺] 本山ノ支配下ノ寺。又、末寺、屬スル寺院。子院。[illegible]「末寺一[illegible]、本寺、マツジ[illegible]」[illegible]「[illegible]寺ハ興福寺ノ末寺タレニヨテ」[illegible]宅寺」

まづ-し (形、一) [不味] 「[illegible]」ノ語ト通ズルカ」 (一)味、淡シ。旨カラズ。(二)ツタナシ。下手ナリ。拙。

まづ-し (形、二) [貧] 金錢、財産、乏シク、生活ノ道、物足ラズシテアリ。貧乏ナリ。貧窮ナリ。字類[illegible]「貧、マヅシ、[illegible]」[illegible] 人ノ父母ハ、[illegible]「アツキ壊ナレバ、まづしき人ノタメニハ[illegible]」

まっ-しくら-み (副) [驀地] [或ハ、ましくら、眞時雨ノ轉カト云フ、或ハ云フ、眞押鞍(マシクラ)、又ハ、馬足踏(マアシクタ)ノ約轉カト、專ラ馬上ナルニ云フト] 急ニ烈シク進ミ掛カル状ニ云フ語。[illegible] 保元物語、二、[illegible]「[illegible]」[illegible]

ガ中ヘ、まっしくらニ[illegible]入リケル[illegible]」

まっ-しゃ (名) [末社] [illegible] 小[illegible] (二)俗ニ、遊里ノ客ヲ取持ツモノ。[illegible] (三)[illegible] [illegible]二、云云、又同書ニ、太鼓持ノ異名ヲ、云云、惟光、ブンセキ、末社ナドトモ云ヒタル由ナリ」

まっ-しゃ-づきん (名) [末社頭巾] [illegible]

ま-しゃ (名) [末者] [illegible]、末社ノ神體、現(ハ)ハルル時ナドニ用キルモノ。

まっ-しょ (名) [末書] [illegible] 錄)五「四書ノ末書、和板ニ行ハレシ內」

まっ-しろ (名) [眞白] 又、[illegible]。全ク白キコト。純白。[illegible]「純白、マッシロ」狂言記、入間川「ヤイ太郎冠者(クワンジャ)、向ウニまっしろニ見ユルハ、富士山デアラウナア」

まっ-すぐ (名) [眞直] 又、ますぐ。全ク直キコト。曲リナキコト。眞ニ文字。一直線。史記抄(文明)[illegible]、ますぐナ[illegible]ガアルゾ」曾我會稽山(享保、近松作)二「世ニ有[illegible]ノ[illegible]、[illegible]まっすぐニハ云フマイ」

まっ-せ (名) [末世] 又、まっせい。佛教ノ語。末法ノ時ヲ云フ。即チ、釋迦ノ入滅後五百年ヲ正法ノ時トシ、次ノ一千年ヲ像法ノ時トシ、後ノ一萬年ヲ末法ノ時トス。スエノヨ。世ノ降リテ、衰ヘタルコト。字類抄「末世」[illegible]

「末世、マッセ」[illegible]、三十九、[illegible]「下品下生ノ五逆ノ人ト爲シテ、ステニ[illegible]往生ス、末代末世ノ[illegible]モ、[illegible]」

まっ-せう [illegible] ([illegible]) ニ同ジ。

ま-せき [illegible] ニ同ジ。

ま-せつ (名) [illegible]

まっ-そん (名) [末孫] ばっそん(末孫)ニ同ジ。

また (接) [illegible]

まっ-た (感) [待] 相撲、圍棊ナドヲスルトキ、相手方ヲ待タシムルニ發スル聲。

まつ-だい (名) [末代] (一)降リタル時代。末世。字類抄「末代」林逸節用集、[illegible] (二)死後ノ世世。[illegible]世、時ハ[illegible]世、末代也」太平記、廿七、[illegible]「[illegible]末代[illegible]」「且ハ末代ノ物語」「名ヲ末代ニ殘ス」

まっ-たく (副) [全] (一)又、またく。悉ク。[illegible] (二)サマコトニ。實ニ。[illegible]シ」全ク知ラズ」

まつ-だけ (名) [松茸] (一)菌(キノコ)ノ名。山中、赤松(アカマツ)[illegible] トス。低キハ一二寸、高キハ八尺ニ至ル。[illegible] ミアリ、莖ノ皮ハ淡褐ナリ。全體脆ク

シテ、肉白ク、裂ケ易ク、香氣最モ高シ。炙リ、又、煮テ食フ　菌ノ中ノ最トス。松蕈　まつたけ。(關西ニテ)　運歩色葉集「松茸」林逸節用集、草木「松茸、マツタケ」　(二)陰莖ノ異名。　宇治拾遺、一、第六條「モノ中ヨリ松茸ノ大キヤカナルモノノ、フラフラト出デ來テ」

まつ-たけ-うめ　(名)　[松竹梅]　此三種ノ植物ヲ歳寒ノ三友トモ云ヒ、能ク歳寒ノ霜雪ニ耐ヘ凌グヲ以テ、支那ニテハ、其節操ヲ賞シ、我ガ邦ニテモ、繪ニカキ、染物、織物、彫物ノ模樣ナドニシテ、メデタキモノトス。松竹梅。三友。　月令廣義「松竹梅爲ニ歳寒三友ニ」　李邕、題、書詩「醉裏呼レ童展レ畫、笑題ニ松竹梅花ニ」

まつた・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二)　[全完]　またし(全)ノ音便。缺クルコト無シ。十分ナリ。完全ナリ。　字類抄「全、完、良、マタシ」　林逸節用集、雜用「全、マツタシ」　雲笈七籤(宋、張君房)「君臣倶具、父子固全」　晉書、劉頌傳「守レ貧者必節レ欲、節レ欲然後操全」

まつ-ただなか　(名)　[眞直中]　眞中ヲ強メテ云フ語。眞ノ中央。マナカ。中央。　平家物語、十一、弓流事「ヨノピイテ、ヒョウト放ツ、舞ヒスマシタル男ノま、ただ中ヲ、ヒョウツバト射テ」

まつ-ち　(名)　[眞土]　眞ノ土壤。耕作ナドニ適スル良好ナルツチ。

マッチ　(名)　〔英語、Match.〕技藝ノ勝負ヲ競フコト。試合。競技。「對校マッチ」

マッチ　(名)　[燐寸]　〔英語、Match.〕めっちニ同ジ。スリツケギ。ハヤツケギ。火柴　すりつけぎ(擦付木)、及、あんぜんまっち(安全燐寸)ノ條ヲモ見ヨ。

まっ-ちゃ　(名)　[抹茶末茶]　(一)團茶ヲ細末ニシタルモノナルベシ。(二)ひきちゃ(碾茶)ノ條ヲ見ヨ。　運歩色葉集「抹茶」　嬉遊笑覽、十、上、挽茶條下「榮西(葉上僧正)ガ傳ヘシ法ハ、抹茶ナリ、其時、漢土末々葉茶ヲ用ヒズ」

まっ-て　(名)　[待手]　碁、將棋ニ、敵ノ手ヲ待タセテ、己レガ既ニ下シタル手ヲ改ムルコト。

まっ-と　(名)　[眞人]　まひと(眞人)ノ音便。其條ヲ見ヨ。　名義抄「眞人、マット」

まっ-と　(副)　今少シ。モ少シ。イマチト。モチト。モット。　狂言記、宗論「是是、ハア、嬉シヤ、戴カシタ、まっと戴カセウ」

まつ-な　(名)　[松菜]　藜科ノ一年生草本。延寶ノ頃、明ノ僧將來ス。今、園圃ニ栽培ス。莖ノ高サ三尺許リ、蔓ナクシテ地ヲ這フ。葉ハ女松ニ似、又、杉菜ニモ似タリ。夏日、穗狀ヲナシテ、小サキ綠黃色ノ花ヲ着ク。莖、葉共ニ食フベシ。又、マツバ。　本朝若風俗(貞享、西鶴)八「桂川ノ榊魚ニ、松菜ヲアシラヒテ」

まつ-ふん　(名)　[末男]　ばつふん(末男)ニ同ジ。

まつ-ねん　(名)　[末年]　(一)スヱノトシ。晩年　(二)スヱノ世。末世

まつ-の-うち　(名)　[松內]　元日ヨリ七日マデ、松飾アル間ノ稱。モトハ元日ヨリ十五日マデ。後世ハ七日ニテ拂ヒ、門松ノ梢バカリヲ元ノ穴ニ殘シテ、十五日マデオク。コレ昔ノ遺ナリ。

まつ-の-くらゐ　(名)　[松位]　(一)大夫ノ異稱。(秦始皇、松ヲ大夫ニ封ゼシ故事ヨリ出ヅ、五大夫ノ條ヲ見ヨ)　鹽塚物語(天文)六「松樹、大夫官之事、付、江帥放言事」　甲子夜話(文政、松浦靜山)六十一「老松ノ謠ヒニ、秦ノ始皇ノ御狩ノ時、云云、帝、大夫ト云爵ヲ贈リ賜ヒショリ、松ヲ大夫ト申ストナリトアリ、史記ノ始皇本紀ニハ、乃遂上ニ泰山ニ立レ石封祠祀、下風雨暴至、休ニ於樹下ニ因封ニ其樹一爲ニ五大夫ニト、是ヲ見レバ、云云、松樹トハナシ、云云、コノ松樹トセシコト、漢人モ何ニ由リテ云出セシニヤ」　(二)三位ノ異名。　八雲御抄、三、下、異名部「三位、まつのくらゐ」　(三)上等ノ遊女ノ稱。大夫ト云ヘバナリ。　傾城歌三味線、一、上手をいふて「三國ノ出村ニテ名高キ小女郎トイヘル太夫職ハ、云云、自然ト松の位ニ備ハリテ、衣裳好ク着コナシ、云云」

まつ-の-おけ　(名)　[松蘿]　さるをがせ(猿麻棇)ニ同ジ。　倭名抄、廿、苔類「松蘿、蔦豆乃古介、一云、佐流乎加世」　本草和名、上、九「松蘿、一名、女蘿、一名、蔦蘿、末都乃古介」　拾遺集、十八、雜、賀「松の苔、千年ヲカケテ、オヒ茂レ、鶴ノカヒコノ、巢トモ見ルベク」

まつ-の-は　(名)　[松葉]　〔又、まつば〕(一)松ノ樹ノ葉。　萬葉集、四、五十「松之葉ニ、月ハユツリヌ、黃葉ノ、過ギヌヤ君ガ、アハヌ夜多ミ」　古今集、序「靑柳ノ絲絕エズ、松の葉ノ散リウセズシテ」　(二)轉ジテ、進物ナドニ、寸志ノ意ヲ表スル語。物ハ麁ナレド、呈スル志ハ掛ミ給ヘノ意。　曾丹集「ウバソクガ、アザナニキザム、松の葉ハ、山ノ雪ニヤ、ウヅモレヌラン」　俚言集覽「ココロザシハ、松の葉ト云俗語アリ」　俗語考「ことわざ、云云、月庵ノ醉醒記、中卷ニ、宗祇法師カ信濃國ヨリ記シテ贈リタリトテ載タルアリ、其ママアグ、云云、心ザシハ松のはニツツム」

まつ-の-ま　(名)　[松間]　徳川幕府ノ江戶城中ノ大名詰所ノ稱。第一級大廊下ニ次グ。其間ノ衝立ニ松ノ繪アリ、廊下ヲ松の廊下ト呼ブ、白書院ニ通ズ。此間ニ詰ムルモノハ、島津、伊達、細川、淺野、佐竹、山內、藤堂、黑田、鍋島、毛利、池田、等ノ十八國主、及、十萬石以上、竝ニ四品以上ノ外樣大名トス。

まつ-の-ゆき　(名)　[松雪]　襲ノ色目ノ名、やなぎ(柳)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

まつ-の-らうか　(名)　[松廊下]　前前條ノ語ヲ見ヨ。

まつ-ば　(名)　[松葉]　(一)まつのは(松葉)ニ同ジ。　六帖詠草拾遺、秋「木ノ間モル、月ウケ滿シ、袖ニウツル、松葉ノ數モ、カゾフバカリニ」　(二)まつな(松菜)ニ同ジ。(三)はり(針)ノ異名。其條ノ(一)ヲ見ヨ。

まっ-ぱ　(名)　[末派]　(一)末末ノワカレ。エダナガレ。末流。　唐書、天文志「長安富ニ九河末派ニ」　羅隱、寄ニ酬鄴王羅令公ニ詩「正鬱ニ末派ニ流ニ滄海ニ」　運歩色葉集「末派」　書言字考節用集、九、言辭門「末派、マッハ」「末派ノ寺」　(二)下ノモノ。スヱズヱノモノ。イヤシキモノ。伎倆ノ劣レルモノ。末輩、

まっ-ぱい　(名)　[末輩]　下ノモノ。スヱズヱノヤカラ。ツマラヌ人人。末派

まつば-がき　(名)　[松葉搔]　おまざらひ(竹杷)ノ條ヲ見ヨ。

まつば-がみ　(名)　[松葉紙]　松葉ノ如キ形ノ、細カキ塵ヲ、漉キ出シタル紙。一名、松皮紙。　紙譜(享保、木村靑竹)雜紙類「松葉紙」注「出羽國、山形ヨリ出ヅ、一名松皮紙」

まつば-かんざし　(名)　[松葉簪]　二股ニテ松葉ノ形ニ作レル簪。簪ナ形物　作レル初ニテ、寶曆ノ頃ノ事ナリキト云フ。(歷世女裝考、二)　長唄、吾妻八景「松葉かんざし二筋ノ、道ノイシブミ、露フミワケテ」

ま-つばき　(名)　[眞椿]　〔まハ接頭語〕つばき(椿)ト云フニ同ジ。　古事記、下(仁德)六「サシブノキ、シカシタニ、生ヒダテル、ハビロ、ユツ麻都婆岐、シガ花ノ、テリイマシ」

まつば-きり (名) 【松葉切】 遊戯ノ一種。[illegible]五ニ引キ[illegible]引キ、切レタル方ヲ負ケトスルモノ。

まつはし-の-うへ-の-きぬ (名) 【[illegible]】 纒シ、ノ袍、ノ義、縫ヒテ完ウセル袍ノ意ニ[illegible] 同ジ。はう(袍)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

まつは・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 【纒】 (一) まとはす(纒)ニ同ジ。絡ヒツクル。源、十三、明石「御夢ニモ、タダ、同ジ狀ナル物ノミ、窘ツツまつはし聞ユ、ト見給フ」 (二) 附キマトハシム。綿纒 綢繆 源、四十四、紅梅十「まつはさせ給ヘリシコソ、苦シカリシカ」 同、五、若紫二五十「今ハ只、此後ノ親ヲ、イミジウ睦ビまつはし聞エ給フ」 同、四十五、竹川八廿「源侍従ノ君ヲバ、明ケ暮レ、御前ニ召シまつはしツツ」

まっぱだか (名) 【眞裸】 (まはだかノ音便) 眞ノハダカ。スッパダカ。赤裸

まつば-づゑ (名) 【松葉杖】 足ノ不具ナルモノノ用ヰル松葉ノ形ヲナシタル杖。

まつば-ぼたん (名) 【松葉牡丹】 馬齒莧科ノ一年生草本ノ名。莖ハ長サ四五寸、枝多ク、葉ハ肉厚ク、圓クシテ長シ。花ハ牡丹ニ似テ、徑一寸許リ、普通ハ單瓣ナレド、重瓣ナルモアリ。イハボタン。(ぶらぢる國ノ原産ナリ、和名、ハナマツナ、ト植物渡來考ニ見エタリ)

まっぱん (名) 【末班】 順位ノ末ナルコト。末ノ位次。末ノ位。潘岳、西征賦「[illegible]」 [illegible]「末班ニ列ス」

まつばやし (名) 【松囃子】 [illegible] 行ハレシ囃子。笛、鼓、太鼓ニテ囃シ、裝束[illegible] [illegible]三日マデ、府中ノ町ヨリ松囃奉ル、松囃トハ、[illegible] [illegible]鼓ニ拍子アリ」 狂言記、松の精「コレハ此邊ノ者デ[illegible] [illegible]松拍子ノ[illegible] [illegible]ヲ呼寄セ、今日ノ松拍子ノ稽古致サウト存ズル」

まつば-ゆり (名) 【松葉百合】 あまな(山慈姑)ノ一名。さうらうにた(燈籠花)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。[illegible]八、山草類「山慈姑、アマナ、トウロウバナ、トウロン、云云、マツバユリ(江州)」

まつばら (名) 【松原】 松ノ木立ヲナセル平地。[illegible] 仁徳紀、五十八年五月「[illegible]」

まつば-らん (名) 【松葉蘭】 羊齒類ノ植物。暖地ノ岩石、樹幹ナドニ着生ス。高サ四五寸ヨリ一尺餘ニ至リ、細長ク、叢生シテ、松ノ葉ノ如ク、又、海松ノ如シ。葉ナシ、粟狀ノ黄花、即チ、嚢子胞ハ、莖ノ處處ニツキテ、玉帯ノ如シ。形狀、種類、多シ。鉢植トシテ玩トス。又、竹蘭。別名、チクラン。草木六部耕種法、十、幣花「松葉蘭ハ琉球國ヨリ多ク舶來ス、又、薩摩、大隅、伊豆、安房等ノ海濱ニモ稀ニハ有リ、八丈島等ニハ殊ニ多シ、凡ソ此種類ハ、甚ダ寒氣ニ傷ム者ナレトモ、日光ヲ忌ミ、北風ヲ好ム、云云」

まつは・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 【纒】 (まつふノ自動) (一) まとはる(纒)ニ同ジ。絡ヒツク。カラマル。字類抄「纒、マツハル、絹、綢、綴、已上同」 同「綢繆、マツハル、繚繞、同」 名義抄「繚、メグル、マツハル、結、マツハル、結、マツハル、[illegible]、マツハル、約、マツ[illegible] [illegible] (二) 附キマトフ。懐キテ離レズ。[illegible] 枕草子、十二、心づきなきもの「まつはれ追従シ、トリモチテマドフ」(延寶版)

まっぴつ (名) 【末筆】 ニ、エニ[illegible]文句。末尾[illegible]書ク文言(書狀ナドニ)

まっ-ぴら (副) 【眞平】 (専ノ[illegible]) 平ニ。ヒトヘニ。ヒタスラ。林逸節用集、雜用「眞平、マッピラ」 史記抄(文明)十一八十「[illegible]ンドニ、自歸ス(ト)云ハ、延頸テマイル、まっ平ニ還入ト云心ゾ」 幸若舞、志だ「コマヨリモトンデオリ、まっぴらコノ[illegible]スケアレト」 狂言記、針立雷「アア[illegible]シヤ、眞平御免サレマセ」

まっ-ぴる (名) 【眞晝】 (まひるノ音便) ヒルナカ。マッピルマ。白日。白晝 中記抄(文明)十一四十「日中、まっぴるニナレバ」

まつ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 【纒】 (一[illegible]ノ活用) まとふ(纒)ニ同ジ。字類抄「纒、マツフ、絡」 名義抄「絡、マツフ、マトフ、マツ[illegible]、マツフ、モトホル」 字鏡「[illegible]」 神代紀、上廿「乃結[illegible]」 [illegible]百箇之御統、纒其髻鬘及腕」

まっぷく (名) 【末伏】 極暑ノ候ノ名。立秋ノ後ノ初庚ヲ云フ。後伏。(三中暦、五) さんぷく(三伏)ノ條ヲモ見ヨ。

まつ-ふぐり (名) 【松毬】 (松陰嚢ノ義) 松ノ毬果ヲ云フ。松ノ實、形、小卵ノ如ク、黒褐ナル堅キ細鱗、重疊シテ包メリ。長ズレバ、鱗裂ク、鱗隙ニ子アリ、大イサ柏子ノ如シ。熟シテ、ふぐり。又、マツカサ。マツボックリ。畿内ニテチヂリ。東國ニテ、マツボクリ。[illegible]「松毬、マツカサ、マツフグリ」 [illegible]

まつぶさ-に (副) 【委曲】 (まハ發語) つぶさニ[illegible] 天神之御命」 同、同廿「ヌバタマノ、黒キミケシヲ、[illegible]、トリヨソヒ」

ま-ふたつ (名) 【眞二】 (まふたつ[illegible]) 勢ヒ鋭ク、二ツニ切リ割ル狀ニ云フ語。[illegible] 第まっ二つト、刀ニ手ヲ掛ケ詰メカクル」

まつ-ほ (名) 【松秀】 (一) 松ノ心ノ多ク咲アルモノ。マツノヒデ。(二) たいまつ(松明)ノ異稱。其條ヲ見ヨ。

まつぼ (名) めくぼ(目凹)ニ同ジ。名義抄「目匡、マツホ」

まつぼ (名) 【眞壺】 [illegible]

まつ-ほくり (名) まつかさ(松毬)ノ訛(東國) 其條ヲ見ヨ。

まつ-ほど (名) 【松塊ノ意、ほど(塊)ノ條ヲ見ヨ】 [illegible]

まっぽふ (名) 【末法】 佛法ノ語。正、像、末ノ三時ノ一。即チ、像法ノ時過ギテ

後、凡ソ一萬年ノ間ノ稱。[illegible]ノミブリテ、行證ナキ時代ト云フ（正法ノ條ヲ見ヨ） 末法燈明記「於末法中但有言教而無行證」 太平記、三十六、[illegible]御作事「是ゾ末法ノ世ニ成リヌル驗ヨト、アサマシカリシ事共ナリ」

まつみぐさ (名) |松見草| 藤ノ異名 續千載、春、松見草、藤、ソコヤケニ、オリアフ春モ、暮レニケリ、まつみぐさニモ、花ハ咲キケリ」

〜**まつむし** (名) |松蟲| （其聲、松吹ク風ノ音ノ如クナレバ云フカ）蟲ノ名。（古ヘハ、黒キヲ云フ、今ノハ、柿ノ核ノ如シ）古歌ニ云ヘリ。即チ、今ノすずむしニテ、其聲、りんりんト聞ユルモノ、次條、及、すずむし(鈴蟲)ノ條ヲ見ヨ。（まつむし、すずむし、ノ名、古、今、全ク、相反セリ） 金琵琶 古今集、四、秋、上「君シノブ、草ニヤツルル、故郷ハ、まつむしノ音ゾ、悲シカリケル」 狂歌百首「琴ノ音ニ、カヨフハ松ノ、松風ヲ、ナホ松蟲ノ、聲ヤソフラン」 謠曲、野宮「誰まつ蟲ノ音ハ、リンリントシテ」

まつむし (名) |松蟲| 古名、スズムシ。蟲ノ名。野草、或ハ、松、杉ノ[illegible]ニ多シ。こほろぎノ屬。褐色ニシテ、鬚、長ク、腹、黄ナリ。秋ノ夜、羽ヲ振ヒテ鳴ク。籠ニ養ヒテ聲ヲ賞ス。ちんちろりんト聞ユ。金鐘兒 前條、及、すずむし(鈴蟲)ノ條ヲモ見ヨ。 大筑波集(永正)「花ノ下ニモ、松むしノ聲」口髭ヲ、ちんちりりんト、ヒネリタテ」 東海道名所記(萬治)一「上髭ヲ、松蟲ノ聲ニ、ヒネリアゲテ」髭ニ、松蟲ト[illegible]トヲ和シテツケ、空ザマニ、松蟲ノ聲ノ如ク、りんトヒネリアゲタルヲ、詞ヲアヤナシテ云ヘルニテ、永正頃ニハ、既ニ、松蟲ノ名ハ、今ノ如クニナリ居タルヲ知ル）

まつむしさう (名) |山羅蔔| 山羅蔔科ノ越年生草本ノ名。山野、[illegible]野ナドニ多シ。葉ハ羽狀ニ分裂シテ、大根ノ葉ニ似、莖ノ高サ二三尺、九月頃、花ヲ開ク。花ハ大形ニテ、外部ハ淡紫色ヲ呈シ、内部ハ淡色ナリ。ノダイコン。輪鋒菊。

まつも (名) |松藻| (一)海藻ノ名。海中ノ石上ニ生ズ。狀、松、杉ノ葉ニ似タリ。綠色ニシテ、柔脆、香滑ナリ。生、熟、共ニ食フベシ。 大和本草、八、海草類「松藻、松杉ノ葉ニ似テ若シ、石上ニ生ス、生ニテモ、乾テモ可レ食」 (二)きんぎょも(金魚藻)ノ一名。

まづもって (副) |先以| （もってハ添ヘタル語） まづ(先)ト云フニ同ジ。 狂言記、[illegible]「[illegible]私ニ[illegible]下ルル、ナカナカ、先以テ忝ウハ存ジマスルガ」

まつもと (名) |松本| （松本仙翁花ノ下略、初、信濃國ノ松本ニ出ヅル故ニ云フ）草ノ名。せんおうげ(仙翁花)ノ條ヲ見ヨ。 剪春羅 重修本草綱目啓蒙、十一、隰草「剪春羅、マツモト、云云、マツモトセンノウゲ、略シテ、まつもとト云フ、云云」

まつもどき (名) |松擬| （元ハ松葉ナリシナルベシ、子ノ日ノ松ヲ、若菜ノ羹トセシナド思フベシ、古ヘ、松葉ヲ煮テ羹トシテ食ヒタルニヤ、ソレニ擬シテ、云フナルベシト云フ、一説ニ、松茸ニ似セテ切リタルヨリ云フト）茄子ヲ細カク切リテ、油ヲ加ヘテ煮タル羹。 浮世風呂(文化、三篇)四編、中「椎茸、云云、茄子ヲ松もどきニシテ、ソノ殘ッタ汁ヘ入レテ吸物ニシ」 嬉遊笑覽、十、上、飲食「洛陽集ニ、切形ヤ、青海水ニ、茄子浮(元好)、鼠餘、茄子ノ浪ニ、害ニケリ(友吉)、今まつもどきトイフヤウニ切タルナルベシ、松もどきハ、松茸ニ似セテ切タルナリ」

まつもとせんおうげ (名) |松本仙翁花| 略シテ、まつもと、前前條、及、せんおうげ(仙翁花)ノ條ヲ見ヨ。

まつもとりう (名) |松本流| 弓術ノ流派ノ一。吉田流ノ祖ニテ、吉田上野介重賢ノ季子、民部ノ[illegible]メタルモノ。 弓術要[illegible]「[illegible]松本流ハ、吉田上野介ガ季子民部ガ流儀」

〜**まつやに** (名) |松脂| (一)松樹ニ生ズル脂。丁列蕃油、瀝青ナドヲ採リ、又、製紙上、インキノ滲止メニ用ヰル。 倭名抄、廿[illegible]「[illegible]松脂、[illegible]」 本草和名、上、五十「松脂、乎加末都乃也爾」 [illegible]式「[illegible]松脂、石流黄、各六斤」 狂言記、[illegible]「イカウ松脂臭ウナッタ」 (二)次條ノ語ノ略。

まつやにらふそく (名) |松脂蠟燭| 古ヘ、奥羽地方ニテ用ヰシト云フ一種ノ蠟燭。長サ八九寸ノ棒狀ノ松脂ヲ、笹ノ葉ニテ包ミタルモノ。略シテ、まつやに。 骨董集、中「羽州松脂蠟燭圖、長曲尺八寸五分餘、形、粽ニ似タリ、云云、籠挑灯ノ竹ノ筒ニ立テ、火ヲトモスナリ」

まつよひ (名) |待宵| (一)來ベキ人ヲ待ツ宵。 新古今集、十三、戀、三「待つ宵ニ、更ケ行クカネノ、聲聞ケバ、飽カヌワカレノ、鳥ハモノカハ」（平家物語、五、月見ノ條ニ、此歌ノ物語見ユ） (二)陰曆、十四日ノ夜ノ稱。翌夜ノ月ヲ待ツ意。（多ク八月ニ云フ） 山家集、秋「待つ宵ノ、月ニ床シヤ、定[illegible]」

まつよひぐさ (名) |待宵花| つきみぐさ(月見草)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

〜**まつら・す・ス・セ・サ・シ・セ** (他動、四) |令奉| たてまつる(奉)ノ敬語。 古事記、下「[illegible]たてまつらセル、日ノ御子ニ、[illegible]」(命令形)

まつらにくけい (名) 樹ノ名。いぬがし（犬樫）ニ同ジ。

〜**まつら・ふ** (動) |服歸順| まつろふ(服、四段)ニ同ジ。 雄略紀、四年八月「這フ蟲モ、大君ニ[illegible]、汝ガ形ハ、置カム、[illegible]日本」

〜**まつらふね** (名) |松浦船| 肥前、松浦ニテ造ル[illegible]船。 萬葉集、七[illegible]「小[illegible]、堀江漕グナル、松浦船、梶音タカシ、ミヲハヤミカモ」 同、十二、三十七「松浦船、ミダル堀江ノ、ミヲハヤミ、カヂ取ル間ナク、オモホユルカモ」

〜**まつり** (名) |祭| (一)神ヲ祭ルコト。神ヲ祭ルワザ。 字類抄「祭、マツリ」 神代紀、[illegible] [illegible]「其邦ニ、惡ロシキ病ツキテ、ホトホトシクイマスカリ、市女まつりハラヘセサセントスル時ニ、ノタマフ」 (二)專ラ、山城國ノ賀茂ノ神社ノ葵祭ノ稱。 [illegible]、九、[illegible]「今日ハ、[illegible]ニハナレオハシテ、まつり見ニ出デ給フ」 枕草子、一、第三段「祭近クナリテ、云云」

まつり (名) |茉莉| 熱地ニ生ズル木犀科ノ灌木。印度ノ原産。觀賞ス。寒ヲ畏ル。葉、圓クシテ對生シ、夏秋ノ交、枝ノ端毎ニ、五瓣ノ花アリ、晩ニ開キ、朝ニ落ツ、單瓣、又ハ、重瓣ニシテ、くちなし(梔子)ノ花ニ似テ、大イサ錢ノ如ク、香氣高シ、初、白ク、後ニ黄ニ變ズ。 杜甫詩「庭中紅茉莉、冬月始花發」 冷齋夜話(宋、[illegible])「[illegible]」

まつりあ・げる・ゲル・ゲレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下一) こ[illegible] カツグ。アガメテオソ、オダテ上ゲル。

まつりう (名) |末流| ばつりう(末流)ニ同ジ。

まつりごつ・ツ・テ・タ・チ・テ(他動、四) [illegible] 〔政ヲ活用ス〕 政ヲ行フ。政ヲ[illegible]ナス。[illegible]「[illegible]」 宇津保物語、[illegible]院七十「左大臣ノオトド、世中ノまつりごち、[illegible]カ、モまつりご[illegible]アソケタマヘルヤウニテ」 源、二、帚木九「カシコシトテモ、一人二人、世ノ中ヲまつりごち知ルベキナラネバ」 榮花物語、四、みはてぬ夢「大殿ゴモラデ、政ヲまつりごち給フモ、哀ニイミジキ御志ヲ」 同、三十、鶴林「今行末ニ世ヲまつりごち直サセ給ハン」

まつりごと (名) 政 〔奉事ノ義、君命ヲ受ケテ、其職ニ仕ヘ奉ル意ヲ元トス、延ベテ、まつろふ(服從)ト云フモ、是レナリ、祭事ヲ元トスト云フハ非ナリ、祭モ神ヲ齋ヒ奉ル意ナリ〕 君主、又ハ、政府ノ、其國土ト國民トヲ治メ、百般ノ公事ヲ取リサバカルルコト。天下ノ臣、連、八十伴緒ナドノ、天皇ノ大命ヲ奉リテ、各其職ニ仕ヘ奉ルコト。國家ノ主權者ノ、其領土、臣民ヲ統ベ治ムルコト。政事。政道。 古事記、中(景行)[illegible]「[illegible]」 [illegible] 孝德紀、大化元年七月「蘇我石川麻呂大臣奏曰、先以祭ニ鎮神祇、然後應ニ議政事ニ」 政事要略、廿六、多米宿禰本系帳「[illegible]政以ニ」(大嘗ノ職ニ任ズ)

まつりごとどの (名) 廳 〔政殿ノ義〕 政ヲ聽ク殿。又、政治ヲ執リ行フ官廳。政所。役所。政廳。 倭名抄、十一、居宅類「廳、[illegible]」 欽明紀、十五年十二月「[illegible]」 [illegible](古訓)階下ハ名ニ此廳ニ曰ニ都堂ニ」 (やはとの ト云フニ同ジ)

まつりごとびと (名) 判官 〔政人ノ義〕 はうぐわん(判官)ニ同ジ。其條、及、かみ(長官)ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、五、職名「判[illegible]」

官、[illegible]「[illegible]」 [illegible] 後撰集、十五、雜、一「淡路ノまつりごと人ノ、任果テテ」(國司ノ掾ナリ) 山槐記、保元四年正月十八日「其詞云、將監藤原季遠、云云」

まつりこむ・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) 祭込 〔奉込むノ義、滑稽ニ敬語ヲ用キルナリ〕 (一)愚者ヲ官衙ナドニ推薦ス。又、僞物ヲ富者ナドニ賣込ム。(二)老朽者ナドヲ、閑散ナル地位ニ据エル。

まつりだす・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 奉出 〔奉り致すノ約〕 又、たてまだす。略シテ、まだす。人ヲシテ奉ラシム。 萬葉集、[illegible]「[illegible]」 [illegible] 三代實錄、廿八、貞觀十八年五月[illegible]」

まつりづき (名) 祭月 〔山城國ノ賀茂祭ハ、陰曆、四月ナレバ云フカ〕 四月、即チ、うづき(卯月)ノ異稱。

まつりはらへ (名) 祭祓 病ノ祈リナドニ、陰陽家ノスルワザ。 源、四、夕顏四十「御イノリ、カタガタニヒマナクノノシル、まつりはらへ、修法ナド、云ヒツクスベクモアラズ」

まつりや (名) 祭屋 神靈ヲ祭ル家。オタマヤ。廟。 皇極紀、元年十二月「是歲、蘇我大臣蝦夷、立ニ己祖廟於葛城高宮、而爲ニ八佾之儛ニ」

まつる・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 奉 キコシ召ス。 續紀、十五、天平十五年五月「ヤスミシシ、吾大君ハ、平ラケク、長ク在シテ、豐御酒獻都流」

まつる・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 奉 〔待ツ意カ〕 (一)〔マヰラス〕 奉ス。タテマツル。 萬葉集、一、十長歌「山神ノ、奉御調ト」 古事記、中(仲哀)「[illegible]」 (二)[illegible] 「齋ヒ奉る」仕ヘ奉る」立テ奉る」

まつる・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 祭祀 〔獻ル意〕 (一)〔獻リ致ス〕 供物、[illegible]ナドシテ、[illegible] 萬葉集、[illegible] (二)神トシテ崇メ崇ム。奉祀ス。[illegible]ヘアラズ、マスラヲニ、トメタル神ゾ、ヨク祀ベキ」

まつろ (名) 末路 (一)路ノ末。[illegible] (二)人ノ行末。人生ノ終。晩年。 [illegible]

まつろふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 服從 順 〔奉る、ノ延〕 又、まつらふ。從ヒ屬ク。服從ス。 [illegible] 萬葉集、十八長歌「大君ニ、麻都呂布モノト、言ヒツゲル」 古事記、中(景行)[illegible] 萬葉集、二十長歌「千磐破、人ヲ和セト、不奉仕、國ヲ治メト」(古義ノ訓)

まつろふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 服 〔奉る、ノ延〕 服從ハシムルニナス。從フル。 萬葉集、廿長歌「[illegible]、人ノモ和シ、掃キ清メ」(略解ノ訓) 同、十八長歌「物部ノ、八十伴雄ヲ、[illegible]ノ、向ケノマニマニ」

まつをりう (名) 松尾流 茶道ノ流派ノ一。千宗佐(原叟ト號ス)ノ門人、松尾宗二ノ創メタルモノ。 [illegible]「松尾流、[illegible]宗佐門、[illegible]」 [illegible]

まて (名) 蟶 〔兩口アリ、兩手ノ義カト云フ〕 [illegible]刀ヲ引ケレバ、其音カトモ云ヘド、[illegible] [illegible]、又、[illegible] [illegible]。肉ハ蝸ニ似テ細長シ。大阪ニ、カミソリガヒ。 [illegible] (貞享、西鶴)三「主留メテ、まての吸物出ダセド」 又、[illegible]、又ハ、まてばかまト云フ。

まて (名) 眞手 〔まハ、眞、意〕 左右ノ手、[illegible]、云フ語。左右ノ手。兩手。二手。諸手。全手。 [illegible]

まて (副) 丁寧 [illegible] 〔[illegible]〕 [illegible]

まて [illegible]

まで (辭) 迄 第一類ノ天爾波(一)〔至リ及ぶ意ノモノハ〕 雄略紀、十二年十月「サカエヲ、イホフルカケテ、シガ蒔クル麻泥ニ、大君ニ、カタク仕ヘマツラムト」 萬葉集、二十、[illegible]「在リツツモ、[illegible]」 古今集、七、賀「我君ハ、千代ニ八千代ニ、サザレ石ノ、イハホトナリテ、苔ノムスまで」 (二)〔又、ばかり、程ヨ、[illegible]〕 [illegible] 歌「トトノフル、鼓ノ音ハ、雷ノ、聲ト聞ク麻低」 古今集、六、冬「[illegible]モリ、思ヒカケスヲ、木ノ間ヨリ、

花ト見ルまで、雪ゾ降リケル」同、同、是則「在明ノ月ト、見ルまでニ、吉野ノ里ニ、降レル白雪」（二）さへ、ノ意ナルハ、新勅撰集、六、冬「明ケワタル、雲間ノ星ノ、光まで、山ノ端寒シ、峯ノ白雪」

まて-がた（名）〔兩手肩〕〔まて（眞手）ノ條ヲ見ヨ〕あまのまてがた（海人兩手肩）ノ條ヲ見ヨ。齋宮女御集「まてがたニ、カキツム藻ノ、藻シホ草、ケムリハイカニ、タツゾトヤ問ク」（[illegible]）

まて-がひ（名）〔蟶貝〕まて（蟶）ニ同ジ。

まてが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）〔眞手番〕まてつがひヲナス。まてつがひ（眞手番）ノ條參見セヨ。月詣集、四「御垣守、まてがふ程ハ、時鳥、シバシ雲井ニ、ナノリシテユク（ケイ）」

まで・く・クル・クレ・コ・キ・コヨ（他動、加變）〔詣來〕〔まうでくノ略〕マヰリクル。マウデ來ル。後撰集、四、夏「友達ノ、トブラヒまで來ヌコトヲ、恨ミツカハストテ」

まて-しばし（名）〔待須臾〕シバラク待ツコト。又、暫ク待テト命ズル語。法華經、提婆品「善男子且待須臾」新勅撰集、十九、雜、四「伊勢ノ海ノ、蜑ノマテカタ、待てしばし、恨ニ浪ノ、ヒマハナクトモ」「思立ッタラ、まてしばしハナイ」

まて-だけ（名）まてばしひノ條ヲ見ヨ。

まて-つがひ（名）〔眞手番〕〔番ハ、乘手ト射手トヲ合ハセ番ふ意〕古ヘ五月五日ノ競馬、騎射ニ、近衞ノ射手ノ、其當日ノ立合ノ稱。其前ニ試ミニ立合フヲ、荒手番ト云フ。ひをりのひノ條參見セヨ。

まて-の-かひ（名）〔馬刀〕〔まてハ字ノ音カ、同ジ名ノ蟶ハ海產ニテ、馬刀ハ淡水產ナリ、因リテ、同ジモノニアラズ〕介ノ名。キャラガヒ　今ノからすがひト云フモノナラムカ。馬刀ハ湖水中ニ生ズ、形、蚌ニ似テ狹細、一頭ハ尖リテ小、刀ノ狀ノ如ク、一頭ハ闊サ五分許リ、長サ二三寸、殼ノ外ハ黑ク、裏面ハ蚌ノ色ニ同ジ。ササノハガヒ。江州ニテ、ナガガヒ。本草和名、下廿四「馬刀、末天乃加比」重修本草綱目啓蒙、三十一、介類「馬刀、云云、馬刀ヲ古來、まてト訓ズルハ非ナリ、まてハ竹蟶ニシテ、海產ナリ、又、ミゾガヒト訓ズルモ、穩ナラズ」

まてば-がし（名）〔全手葉樫〕次次條ノ語ニ同ジ。

まてば-かま（名）〔蟶袴ノ義カ〕介ノ名。まて（蟶）ノ條ヲ見ヨ。

まてば-しひ（名）〔全手葉椎ノ義ト云フ〕又、まてばがし。樫ノ一種、常綠ノ喬木ニシテ、幹ノ高サ二三丈ニ達シ、葉ハ倒卵形、又ハ、楕圓形ニシテ先端尖リ、全緣ニシテ其質厚ク、滑カニシテ光ル。五六月頃、黃褐色ノ小花ヲ著ケテ、椎ニ似タル實ヲ結ブ、其長サ一寸許リ、淺キ椀形ノモノヲ有ス。實ハ炒リテ食フベシ。此樹ニ生ズル茸ヲ、まてだけト云フ、初茸ニ似テ、美味ナリ。

まと（名）〔的〕〔圓ノ意、形ニ因リテ云フト云フ、或ハ云フ、目處ノ義ト〕古言、イクハ。弓ヲ射習フ時、矢ヲ射中ツベキ當トシテ立テ置ク具。板、厚紙、革、布、等ニテ作ル。形、方、圓、種種ニシテ、中央ニ圓點（射侯）ヲ記スヲ常トス。倭名抄、四十八射藝具「的、泉、萬斗、俗用的字、云云、射的也」天治字鏡、十二廿「褋的、萬止」左右近衞府式「步射三十六步十箭、中的四巳上者、爲ニ及第ニ」和泉式部續集、上、祭の日、あるきんだちの、的のかたを車の輪に造りたるを見て「トヲツラノ、馬ナラネドモ、君ガノル、車モまとニ、ミユルナリケリ」

ま-と（名）〔砥〕〔眞砥ノ意、磨メテ云フノ〕砥ノ一種。質、緻密ナルモノ。刀ヲ磨グニ、最後ノ仕上ゲニ用ヰル。（礪ニ對ス）倭名抄、十五八鍛冶具「砥、末度、細礪石也」

ま・と（他動）東國ノ語。まつ（待）ノ訛語。萬葉集、十四二十「カナトダヲ、荒搔（アラガキ）眞弓、日ガトレバ、雨ヲ萬刀ノス、キミヲト麻刀モ」（古義ノ訓）

ま-ど（名）〔窗、窻、窓、牖〕〔間戶ノ義〕屋根、又ハ、壁ニ穿チ設ケタル孔。日光ヲ引キ、風ヲ通ズル用トス。倭名抄、十[illegible]具「牖、窓、末度」[illegible]記、上、第十四段、[illegible]「[illegible]、マド」萬葉集、十一十三「窓ゴシニ、月オシ照リテ、アシヒキノ、嵐吹ク夜ハ、君ヲシゾ思フ」大殿祭祝詞「牖乃錯比動鳴事無久」新古今集、廿、釋教「深キ夜ノ、窓ウツ雨ニ、音セヌハ、ウキ世ヲ軒ノ、忍ブナリケリ」

まと-い（名）〔的射〕的ヲカケテ矢ヲ射中ツルコト。（數射ナドニ對ス）御子左中納言（藤原爲家）騎射「まといスル、早月ノ今日ノ、梓弓、アヤメノ根ニヤ、添ヘテ引クラン」

まと-いを（名）〔的魚〕かがみだひ（鏡鯛）ニ同ジ。

まど-かけ（名）〔窓掛〕窓ニ掛ケテ光ヲ障フル布帛。かあてん。

まど-か-な（副）〔圓〕〔全ト通ズト云フ〕圓ク。マルク。マロラカニ。マンマロク。ツブラニ。マトニ。名義抄「丸、マドカニ、圓、マドカニ」伊勢集「ヒサカタノ、月ノまどかな、ナルコロハ、紅葉ソムトモ、シグレザラナン」新勅撰集、十、釋教「クモリナク、ミガキアラハス、サトリコソ、まどかな澄メル、カガミナリケレ」

まと-がは（名）〔的皮〕ヤマガタ。射場ノ的ノ後ニ張リテ、矢ヲ禦グ布、又ハ、皮。

兵部省式「凡大射、五位已上[illegible]」[illegible]「[illegible]正月廿四日[illegible]射[illegible]立[illegible]的於中門[illegible]」[illegible]「[illegible]的皮[illegible]」

まと-ぐし（名）〔的串〕射術ニテ、的ヲ懸ケ、又ハ、挾ムニ用ヰル杙。クヒ。著聞集、九、弓箭「矢ヲ一手給ヘカシ、其ノ的串ノ前後ノ射ン、アタリタランカタヲ勝ニシ給ヘ」

ま-どこ（名）〔眞床〕〔まハ發語〕（床）ト云フニ同ジ。神代紀、下廿七「高皇產靈尊、以眞床追衾（マドコオフフスマ）覆於天津國光[illegible]杵尊」

ま-どころ（名）〔政所〕〔まんどころノ約〕家ノ内ニテ、家政ヲ執ルトコロ。宇津保物語、藤原君廿「まどころノヲノコドモヤリテ」源、二十八、夕霧三「モト、勸メザリケル家司ナド、打付ケニ參リテ、まどころナドイフ方ニ候ヒテ、イトナミケリ」蜻蛉日記、中、中二「盛ノ事、年頃ハ、まどころニモノシツルモ、離レヤシヌラント、哀レナル人モ、悲シウ思ボスランカシ」

ま-どころ（名）〔間所〕家中ノ間（ヘヤ）。孕常磐（寶永、近松作）四「旅人ノ宿、借合セン、風情ニテ、間所モ多ケレバ、ユルユル休息遊バセヤ」

まど・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）〔貧〕まづし（貧）ニ同ジ。徒然草、第三十八段「財多ケレバ、身ヲ守ルニまどし」寶物集、上廿九「まどしきモノハ、萬ノ物ヲモトメ」公事根源、六月、祇園御靈會「兄弟ニテアリシガ、兄ハまどしく」

まと-たて（名）〔的立〕射術ノ語。的ヲ立ツル職。吾妻鏡、七、文治三年八月四日「的立役者非下職云云」同、三十五、寬元元年八月十六日「信濃大夫判官、小笠原六郞、云云、以下爲流鏑馬射手、同的立、能登前司、但馬前司、云云、以下立之」流鏑馬次第「的たてハ、武藏ノ黨ノ者ドモノ役也、一、私ニ射ル時ハ的立雜色六人シテ立ル也」

まと-だひ（名）〔的鯛〕かがみだひ（鏡鯛）ニ同ジ。

まど-ゐ (副) 〔圓〕 〔まろ(圓)ニ通ズ〕 マドカニ。マルク。字鏡七十「圓、萬止比阿利」字津保物語、祭議、下十「マイリニゲツルゾヤトテ、コレカレツクシトリヤカヘシ、まどゐキナミ給ヘリ」

まど-の-つき (名) 〔窓月〕 (一)窓ニサシ入ル月。又、窓ヨリ眺ムル月。續拾遺集、十九、釋教「窓ノ月、軒バノ花ノ、ヲリヲリハ、心ニカケテ、身ヲヤタノマン」 (二)菓子ノ名。もなか[illegible]、皮、方形ニシテ、中ニ月影ノ形ノ作ルモノ。

まと-ば (名) 〔的場〕 (一)的ヲ立テテ、弓ヲ射習フトコロ。矢場。射場。弓場 [illegible]的[illegible]、草鹿、笠懸ナーニモ、あづちト云フベキナリ、まとばト云フ事アルマジキ也、但、大的[illegible]ナーノ日ハ、的場ト云フテモ苦シカラズ」 (二)小銃ノ射撃ヲ練習スルトコロ。

まどはか-す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔惑〕 (まどはす(惑)ニ同ジ。字津保物語、俊蔭六十「年頃知ラデ、まどはかしツルモ、我ガ罪ニアラズ」

まと-はし (名) 〔纏腋 [illegible]〕 次條ノ[illegible]、略。後照念院殿裝束抄、縫腋事「衣笠内大臣命云、普賢寺殿ハ、まとはし[illegible]、裝束雜[illegible]、腋[illegible]の袍事「まとはしモ[illegible]、[illegible]、口傳[illegible]、後代[illegible]抄ニアリ」

まとはし-の-うへのきぬ (名) 〔纏腋袍[illegible]〕 略シテ、まとはし。又、まつはし袍〕。同ジ。はう(袍)ノ條ヲ見ヨ。のうへのきぬ。ほうえきのはう(縫腋袍) 裝束雜事抄、臣下袍事「まとはしの袍ハ、タツ時、身ノ前後ノ引キ[illegible]へ[illegible]、中ヲ折リテ、ソノ折目ノキハ、前ノ方ニ[illegible]形ヲアケテ、後ニハコエノワナヲ縫ヒテ、胸ノ折目ヲトリテ疊メバ、前後同ジタケニ成ルナリ」

まと-はじめ (名) 〔的始〕 新年ニ始メテ的ヲ射タメスコト。又、ユミハジメ。イバハジメ。ユバハジメ。長禄二年以來申次記、正月十七日「[illegible]」[illegible]

まとは-す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔纏〕 (一)マトヒツクル。カラム。卷キツクル。 (二)〔懷ケテ附キマトハシマツハス。〕 [illegible]、[illegible] 宇津保物語、[illegible]、樓上、下九「若君ノ、此ノ[illegible]、[illegible]ゾトテ、時マジウまとはし給ヒ給」源、四十二、紅梅四「此若君ヲ、ウチニテナドミツケ給トキハ、[illegible]まとはし、[illegible]」

まどは-す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔惑〕 他ノ考ヘヲ亂ス。迷ハス。マドハカス。古今集、五、秋、下「心アテニ、折ラバヤ折ラン、ハツ霜ノ、置キまどはせル、シラ菊ノ花」源、十二、須磨三十五「友まとはしテハ、イカニ侍ラマシトイフ」

まどは-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 〔迷〕 〔惑ふ、ノ延〕 まどふ(惑)ノ(二)ニ同ジ。萬葉集、九[illegible]長歌「思ヒまどはひ、所射十六乃、ココロヲ痛ミ、アシガキノ、思ヒミダレテ」(古義ノ訓)

まとは-る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 〔纏〕 ツキテ離レズ。カラマル。沙石集、二、下、第十條「蛇、池ノ中ヨリイデテ、佛ノ法ヲ、[illegible]キ給ヲ、草ノ根ニまとはり[illegible]時ニ」

まとは-る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 〔纏〕 マトフ。カラマル。繚リツク。マツハル。モトホル。[illegible]、マトハル」醒睡笑(元和、安樂庵策傳)二「ネダレテ物ヲ取ル者、云云、[illegible]ヲ百貫ト云フヤ、思ヒモヨラズ、セメテ二百セヨトゾ、まとはれケル」

まとひ (名) 〔纏〕 (一)マトフコト。(二)〔士卒ヲまとひ集ムル意〕 馬標ノ一種。一軍ノ陣所ノ標トシテ立ツル具。竿ノ頭ニ、種種ノ飾物ヲ付ケ、多クハ、其下ニ[illegible]ル[illegible]。[illegible]「[illegible]、マトヒ、兵家所用」奥羽永慶軍記、八、[illegible]大[illegible]

まどひ (名) 〔惑〕 マドフコト。マヨヒ。[illegible]、[illegible] 徒然草、第九段「タダ彼ノ、まどひノヒトツ、ヤメガタキノミ、ゾ、云云」

まどひ-もの (名) 〔惑者〕 [illegible]メズサスラフモノ。[illegible]「[illegible]」[illegible]、[illegible]ヰ[illegible]ンズ」[illegible]、[illegible]ントテ、[illegible]ワレまどひ者ニナセトテ、[illegible]ヤ[illegible]ノベキ」

まどひ-もの (名) 〔贖物〕 アガナフモノ。ツクノフモノ。アガナヒ。ツクノヒ。

まと-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 〔纏絡〕 マツフ。メグル。卷キツク。カラマル。マツハル。拾玉集、五「身ニ[illegible]ふ[illegible]ノ[illegible]、トク晴レヨ、晴レテハツベキ、我ガ御法ゾハ」

まと-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 〔纏絡〕 〔まつふノ轉〕 卷キツクル。カラム。マツフ。名義抄「纏、マトフ、ツツム」

まど-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 〔惑〕 (一)目ニ分明ニ見エズ。萬葉集、十一[illegible]「[illegible]ニ、ナニカモ見エヌ、見ユレドモ、我レカモ迷、[illegible]ノシゲキニ」 (二)迷フ。途方ニクレル。ミコミツカズ。何事、何方ト思ヒ分ケカネテアリ。當惑ス。マドハフ。萬葉集、二六十三「ハニヤスノ、池ノ堤ノ、コモリヌノ、ユクヘヲシラニ、舍人ハ迷惑」竹取物語「カクヤ姫ヲ、[illegible]テシカナ、見テシガナト、音ニキキメデテまどふ」[illegible]、十、[illegible]「足ヲ空ニ思ヒまどふ人多カリ」

まど-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 〔[illegible]〕 [illegible] マドカニス。ツクノフ。ウメアハセヲスル。[illegible]レバ、夫レヲモまどひ買ハント言ヒケリ」

ま-どほ-し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 〔間遠〕 マドホナリ。マヂカカラズ。ココトカシコト、間遠シ。萬葉集、三[illegible]「兒等ノイヘ路、ヤヤ間遠[illegible]、[illegible]カモ」[illegible]、[illegible]ノ上ユ、鳴キ行ク鶴ノ、間遠保久オモホユ」

ま-どほ-み (副) 〔間遠〕 (一)間、遠ク。又、時、間[illegible]テ、[illegible]キフシシゲキ竹バシラ、都ノカノオトヅレハ、間遠み結ヘルマセ垣ヤ」信卅集「ウトマネド、誰モ汗コヤ、[illegible]ナレバ、[illegible]心ヘ[illegible]ン」[illegible]十二、[illegible]、まどほみ[illegible]草ニ、[illegible]日、粗[illegible]ノ、[illegible]、アレバ、[illegible]五、[illegible]、五、[illegible]ノ[illegible]人ノ、[illegible]遠みアレヤ、君ガ來マサヌ」

まと-まうし (名) 〔的申〕 射術ヲ行フ際、矢ノ的ニ中リタルトキ、おおト聲ヲ擧ゲテ、[illegible]ヲ知ラスルモノ。又、射[illegible]ノ的ノ傍ニ居テ、射中レバ、[illegible]其由ヲ申ス職。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、的中、矢[illegible]、[illegible]取、[illegible]二人」江次第[illegible]、正月[illegible]的申也」

まと-まへ (名) 〔的前〕 的カケテ、弓射ルコト。[illegible]ノ[illegible]テ[illegible]、[illegible]、松[illegible]「イ[illegible]レ[illegible]日、的[illegible]成ルル[illegible]」

まとまり (名) 〔纏〕 マトマルコト。

まとま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［纏］（一）一ツニ統バル。聚結［團結］（二）キマリツク。トトノフ。圓滑ニ終結ス。

まと・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［纏］［圓（マドカ）ニスル意］一ツニ統ブ。アツムル。マトメル。聚收。

まと・める（動）［纏］前條ノ語ノ口語。

まとも（名）［正面］［眞之面（マノモ）ノ轉］（一）正シク向フコト。シヤウメン。マッシャウメン。（二）マジメ。ホンタウ。

まとも（名）［眞艫］船ノ後方ニ向フ側ノ稱。好色五人女（貞享、西鶴）一「オノオノオ仕合セ、此ノ風、眞艫デ御座ルト、帆ヲ八合モタセテ」

まと-や（名）［的矢］（一）射場ニテ、的ヲ射ルコト。又、ソノ矢。平家物語、四、鏡事「鷹ノ羽デハイダリケル的矢、一手サシ添ヘタル」庭訓往來、正月、但的矢、蟇目等、無沙汰候」（二）的ト、矢ト。大石寺本、曾我物語、六「吾等兄弟、的矢ノ如クアリツルニ」蜷川親元記、文明十三年十一月十九日「庚寅、馬（月毛印三引兩丸）御返事的矢（十川作被進之）」

まと-やま（名）［的山］あづち（垜）ニ同ジ。太平記、三十一、笛吹峠軍事「馬ノ上ヨリノビアガリ見ケレバ、相隔テタルコト、草鹿ノ的山（アヅチ）計リニ成リニケリ」

まと-ゆみ（名）［的弓］的ヲ射ルニ用ヰル弓。又、的ニ向ヒテ矢ヲ射アツルコト。著聞集、九、弓箭「或所ニ、的弓射ケルニ、晩ニ及ヒケレバ、明日ヤ勝負スベキナド人人イヒケル」

～まと-り（名）［眞鳥］鷲ノ異稱。又、鷹、雉、鶏ナドニモ云フト。萬葉集、七二十「眞鳥（マトリ）住、卯名手ノ神社（モリ）ノ、菅ノ根ヲ、衣ニカキツケ、着セム兒モカモ」（古義ノ訓、眞鳥ハ、仙覺注ニ鷲ナリト見ユ）

ま-どり（名）［間取］家作ニテ、部屋ノ取リ方。又、家作ノ室（マ）ト室（マ）トノ位置。

～まとり-すむ（枕）［眞鳥住］〔眞鳥ハ鷲カト云フ、神社ノ森ニ住ムト云ヘナラム、萬葉集抄ニ、エビスハ、鷲ノ羽ヲ眞鳥ノ羽ト云フ、東國ノ語ナリ〕〕大和ノ雲梯（ウナテ）ノ森ノ枕詞。萬葉集、七二十「眞鳥住（マトリスム）、卯名手ノ神社（モリ）ノ、菅ノ根ヲ、衣（キヌ）ニカキツケ、着セム兒モカモ」（古義ノ訓）同、十二、廿八「思ハメヲ、思フト云ハバ、眞鳥（マトリスム）住、卯名手ノ森ノ、神シ知ラサム」（古義ノ訓）

マトロス（名）［水夫］〔蘭語、Matroos.〕又、またろす。舟子。カコ。船夫。船頭。又、水兵。

まどろっこ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）マダルシ。マタルッコシ。マノロッコイ。

まどろみ（名）［微睡］マドロムコト。暫シ、トロトロ睡ルコト。太平記、三、主上御夢事「主上暫（シバラ）ク召シ煩ハセ給ヒテ、少シ御まどろみアリケル御夢ニ、云云」

～まどろ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［微睡］〔目蕩（マトロ）むノ義カト云フ〕ウトウトネムル。シバシネムル。トロリトスル。［交睫］遊仙窟「少時坐（マトロンデ）睡」源、一、桐壺八「御ムネノミ、ツトフタガレテ、ツユまどろまレズ、アカシカネサセ給フ」蜻蛉日記、中、中「泣キアカシテ、曉ガニまどろみタル、」更級日記「山鳴オソロシウ覺エテ、行ヒサシテ、ウチまどろみタル夢ニ」

～まとゐ（マトイ）（名）［團居］〔連聲（レンジャウ）ニ、まどゐ〕（一）（一）マトヰルコト。集リ居ルコト。衆人、輪ノ如ク居ナラブコト。車座（クルマザ）。團欒。神樂歌、榊「榊葉ノ、香ヲカグハシミ、求メクレバ、八十氏人ゾ、萬止為セリケル」宇津保物語、祭使十六「まどゐスル、千年ノ陰ノ、ウレシサハ、モルトモナゲノ、松ノカゲカハ」（二）轉ジテ、一家睦シク居ナラビ、一トコロニ會スルコト。

～まとゐ・る（マトイル）・ヰル・ヰレ・ヰ・ヰ・ヰヨ（自動、上一）［團居］〔纏居（マトヰル）ニテ、纏（マツハ）リ居ル意、連聲（レンジャウ）ニ、まどゐる〕集リ居ル。團欒スル。名義抄「局、マトヰル、ツボネ、タムロ」問、ウチホラ、マトヰル」宇津保物語、梅花笠ニ「氏人ノ、まとゐる今日ハ、春日野ノ、松ニモ藤ノ、花ゾ咲クラシ」同、吹上、下ニ「春ナガラ、年ハ暮レツ、ヨロヅ代ヲ、君ト志とゐバ、モノモ思ハジ」中務集「思フドチ、まとひテ居レバ、梅ノ花、心ニクヤ、深ク見ユラン」

ま-な（名）［眞魚］〔なトハ、魚ヲモ菜ヲモ云フ、分ツベキタメニ、魚ヲまなト云フ、まハ發語ニテ、味最モ美ナル意り〕魚ト云フニ同ジ。食膳ニ用ヰル魚ヲ稱シテ云フ語。後水尾院當時年中行事、正、元日「鳥トウ云フ、即まなヲ、白キ土器ニ、レテ」貞丈雜記、六、飲食之部「女ノ詞ニ、魚ヲまなト云、鯉ノ也、またトハさいノ事也、菜ニ對シテ眞ト云也、今モ京ノ詞ニ、鮓（マナ）魚ヲすしなト云、又魚屋ヲなやト云フモ、なハ魚ノ事也、さい類ノさいナ眞菜ト云フ」「まな箸」まな板」まなノ說」まなハジメ」

～ま-な（名）［眞名眞字］〔假名（カンナ）ニ對シテ、眞（マコト）ノ字ノ義、なハ字ナリ、（字（ナ）ノ條ヲ見ヨ）〕まんなトモ云フハ、かんなニ引カレテ成レル語ナリ、ひんがし（東）ニ引カレテ、みなみ（南）ヲみんなみナド云ヒ、是レナリ、（あいたどころ、あいたんどころ、侍（ハベ）り、はんべり）此語、又、或ハ草名（サウナ）（草書ノ字）ニ對シテ、眞字（シンジ）（楷書ノ字、眞書（シンショ））ノ訓讀ノ語カトモ思ハルルハ、イリホガナルカ」かんぢ（漢字）ニ同ジ。源、九、葵四十「カラノモ、ヤマトノモ書キケガシツツ、草（サウ）ニモまたニモ、サマサマメヅラシキサマニ、書キマゼタマヘリ」枕草子、五、第五十段「またもかんたモ讀シウ書クヲ、人モ笑ヒナドスレバ」榮花物語、三十一、殿上花見「內大臣殿ノ御何殿モ、手カキ、歌ヨミ、眞字ヲサヘカカセ給フ」

ま-な（名）［眞名］ま（一）（眞名）ニ同ジ。な（名）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。運歩色葉集「眞名、マナ」

～ま-な（名）［眞汝］〔まハ接頭語〕人ニ對シ、親愛シテ云フ語。萬葉集、十四、三十「足柄ノ、山サハ人ノ、人サハニ、麻奈ト云フ子ガ、アヤニカナシサ」東火齊催馬樂「麻奈弟子ニ、我ハ」

ま-な（名）あぶらな（油菜）、又、たうな（唐菜）ノ異名。ナ（菜）。

～ま-な（副）爲ス勿レト、禁止スルニ云フ語。名義抄「莫、マナ」字鏡「勿、マナ」天智紀、三十月「莫干兄弟、和如示弟（マナアラガフコト）」

～まな-いた（名）［爼］〔眞魚板（マナイタ）ノ義〕魚肉ニ用ヰル板。厚シテ兩脚アリ。又、魚肉ヲキル櫝版。菜盤（サイバン）（安房）。切盤（キリバン）（伊豆）。略シテ、いた。倭名抄、十四、「爼、末奈以太」下ニ、机ノ類「末那板、マナイタ、梵云三末那板ハ此云三魚料ハ爼板」、爼、長二尺八寸、高四寸五分」宇津保物語、藤原君四十「まないたドモ立テテ、魚ツクル」狂言記、鱸包丁「切目尋常ナル爼ニ、備前庖丁、眞木ノ箸」

まないた-おび（名）［爼帶］昔、傾城ノ結ビシ前帶。

ま-なか（名）［眞中］（一）ミナカ。モナカ。マンナカ。タダナカ。眞ノ中央。正中。著聞集、九、弓箭「シバシ引キタモチテ、ま中ニアテテ放チケルニ、右ノ腋下ヲ、又五寸サバカリノキテ、外レヌ」（二）香合ノ、七種ノ香ノ一。（蠻地ノ名ナルベシ）かうあはせ（香合）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

～ま-なか（名）［眞名鹿］〔ま、な、共ニ親愛ノ語〕か（鹿）ト云フニ同ジ。シカ。神代紀、上六「全剝眞名鹿之皮、以作天羽鞴」

ま-な-がき（名）［眞名書］假名（カンナ）（平假名、片

假名ニ對シテ、其假名ノ元ノ眞名ニ[illegible]字ニテ書キタルモノヲ云フ[illegible]。いろ(色)ヲ以呂、かは(川)ヲ加波ト書ク[illegible]ノ名[illegible]見ヨ。[illegible]ニ、[illegible]記セル[illegible]字、多クコノ如クナレバ、コレヲ萬葉假名[illegible]トモ云フ。

まながつを（名）【眞魚鰹】〔まなハ親愛ノ語、眞名鰹ニテ、味美ナルヨリ名アルカ〕[illegible]魚ノ名。[illegible]、[illegible]ニナシ。形、[illegible]、小サク、項、縮ミ、身、闊ク、平タクシテ、大イサ尺餘、鱗、最モ細ク、色、白クシテ青ミアリ、肉、白ク、骨、ヤハラカナリ。脂、多ク、味、濃美ナリ。或ハ、鹽ニシテ乾シテ、遠キニ送ル。[illegible]用集、[illegible]類「[illegible]、マナガツヲ」[illegible]用集[illegible]、下、[illegible]門「[illegible]、マナガツヲ」[illegible]記、[illegible]五年十月十五日「[illegible]御魚味ニ[illegible]一、[illegible]三、またかつを二[illegible]下」

まながな（名）【眞名假名】眞名ト、假名ト。漢字ト、假字ト。また(眞名)ノ條ヲモ見ヨ。

まなかひ（名）【目交】〔眼(マナコ)間ノ約〕目ト目トノ間。眉間ノ下、鼻柱ノ上ノ凹ヤトコロ。轉ジテ、眼ノ前。メサキ。目前。[illegible]萬葉集、五[illegible]長歌「イヅクヨリ、來リシモノゾ、麻奈迦比ニ、モトナカカリテ、ヤスイシナサヌ」

まなかぶら（名）【眶】〔目之被(ノカブリ)ノ轉〕目ノ上下ノ縁。瞼ノ緣。マカブラ。マナブタ。マブチ。[illegible]倭名抄、三[illegible]耳目類「眶、[illegible]加[illegible]、マナカブラ」

まながる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）兩手ヲ差交ハシテ抱ク。タンダク。ウデグム。まぬく(拱)ニ同ジ。古事記、上[illegible]「ワカヤル胸ヲ、ソダタキ、タタキ麻那賀理」

まなぐひ（名）【眞魚咋】〔魚類ノ料理ノ[illegible]〕[illegible]ヲ[illegible]ト云ヒ、[illegible]ニツケテ[illegible]シタル食物。[illegible]記、[illegible]、[illegible]口[illegible]、[illegible]爲[illegible]之[illegible]也」

まなくりや（名）【[illegible]】魚ナドヲ、料理スル[illegible]。[illegible]「[illegible]、[illegible]、[illegible]久[illegible]也」

まなこ（名）【眼】〔目之子ノ轉〕(一)黑(クロ)眼ノ稱。倭名抄、三[illegible]耳目類「眼、萬奈古、目子也、[illegible]、[illegible]同上」字鏡「[illegible]、[illegible]、萬奈古」[illegible]心方、一[illegible]「[illegible](マナコ)子」(二)目ノ白(シロ)眼、黑(クロ)眼ノ總稱。マナコダマ。メダマ。眼球。[illegible]略記、七年七月「[illegible]、天[illegible]、[illegible]目不見」(三)後ニ、泛ク、目。又、望ミ見ルコト。宇津保物語、俊蔭五「またこヲ見レバ、カナマリノゴトクキラメキ」[illegible]花物語、三[illegible]、樣樣の悅「有國、[illegible]中ヲ(サ)ペ、左右ノ御またこト仰セラレケル」曾丹集、序「[illegible]ノ根ノ、長シト思フ春ノ日スガラ、またこヲバ、[illegible]山邊ニキハメツクシ」六百番歌合「月ノ住ム、空ハヨソニモ、[illegible]ラジヲ、またこニ餘ル、廣澤ノ池」

まなこ（名）【織沙、織砂、眞砂】〔眞沙子(マナゴ)ノ略カト云フ、眞ハ、細カキヲ云フ〕沙ノ細カキモノ。マサゴ。倭名抄、一[illegible]巖石類「[illegible]、[illegible]、萬奈古」[illegible]郎[illegible]「織砂」私記「末奈古」萬葉集、十四[illegible]「相模路ノ、[illegible]ノ濱ノ、麻奈胡ナス、兒ラシカナシク、思ハルルカモ」

まなこ（名）【眞名子】〔眞之子ノ轉〕マコトノ子。眞ノ愛シム子。愛シ視ム子。メヅコ。最愛子。女子ナルヲ、眞名娘(マナムスメ)ト云フ。萬葉集、六[illegible]長歌「父君ニ、吾ハ眞名子ゾ、母刀自ニ、吾ハ愛兒(メヅコ)ゾ」同、七[illegible]「人ナラバ、母ノ最(マナゴ)愛子ゾ、アサモヨシ、紀ノ川ノ邊ノ、妹ト兄ノ山」(古義ノ訓)出雲風土記、意宇郡、出雲神戶「云云、イザナギノ、麻奈子ニ坐ス熊野加武呂乃命」

まなこざし（名）【眼差】〔ざしハ、枝ざし、根ざしナドト同趣〕目ノ物ヲ差シテ見ルサマ。メツキ。マナザシ。

まなこだま（名）【眼玉】めだま(目玉)ニ同ジ。[illegible]、[illegible]、[illegible]戶ヲ、ヒトノミニ袋中ニタタミコミ、[illegible]ヲヒ、クリカヘシ、[illegible]。

まなこぢ（名）【織沙地、織砂地、眞砂地】マナゴノアル土地。[illegible]、[illegible]、[illegible]。ナゴツチ。マサゴヂ。萬葉集、七[illegible]「[illegible]ノ、[illegible]ノ浪邊ノ、愛子(マナゴ)地ノ、マナホニシアラバ、ナニカナゲカム」

まなこつち（名）【織沙地、織砂[illegible]】、前條ノ語ニ同ジ。[illegible]、[illegible]、「コロ[illegible]ノ、マワカノ浦ノ、愛子地(マナゴツチ)、マナク時ナシ、我ガコフラクハ」(古義ノ訓)

まなこゐ（名）【眼色】〔眼居ノ義カ、或ハ、云フ、眼子(マナコキ)ノ義、眼引(マビキ)モ同シト、眼皮(瞼)ヲ訓ジタルモノハ當ラズ〕又、まびき。目ノ物ヲ見ル狀。メツキ。マナザシ。目色。倭名抄、三[illegible]耳目類「[illegible]、[illegible]、[illegible]比[illegible]、一說、萬奈古井」眼皮ハまぶち。名義抄「[illegible]、[illegible]皮、マナコヰ、マビキ」枕草子、[illegible]、[illegible]段「[illegible]ハ、云云、まなこゐナドモ、ウタテ、[illegible]ニナツカシカラネド」

まなさき（名）【眥】まなぶり(眥)ニ同ジ。名義抄「眥、マナジリ、マナサキ」

まなざし（名）【目差】目ノサマ。目ツキ。又、眼光。太平記、廿六、[illegible]「[illegible]切[illegible]、[illegible]ヲ切破テ、返ス刀ニ喉ヲ切フント、[illegible]ニ見[illegible]、切、タル眼ざし事ガラ、敢ヘテ可[illegible]、樣モ無カリケリ」

まな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）【無間】(一)〔ヒマナシ。タエマナシ。萬葉集、十八[illegible]「波タテバ、ナゴノ浦ミニ、寄ル貝ノ、末奈伎戀ニゾ、年ハ經ニケル」同、十七[illegible]長歌「カホドリノ、麻奈久シバナク、春ノ野ニ」(二)ヒダモナシ。ホドナシ。好色一代男(天和、西鶴)ニ「薄衣ノ荒ク裂キ給フコソ、サリトハ惜キ御仕方、まなく元ノ如クニト申ス」

まなしかたま（名）【無目堅間】〔かたま(堅間)ノ語原ヲ見ヨ〕堅ク密ニ編ミテ[illegible]。[illegible]

まなじり（名）【眥眦】〔目之後、ノ轉〕目ノ[illegible]、耳ノ向ヒタル方。マナジリ。[illegible]。倭名抄、[illegible]、[illegible]類「[illegible]、[illegible]同上」字鏡「[illegible]、萬奈志利」[illegible]記、一、[illegible]、「[illegible]ル」

まなたり（名）【[illegible]】〔[illegible]〕マノアタリ。メノマヘ。ガンゼン。目前。[illegible]、[illegible]十[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ヒ、[illegible]、[illegible]。

まなづる（名）【眞名鶴】〔[illegible]語〕(一)尋常ノ白鶴ノ稱。まなづる[illegible]、[illegible](白[illegible])ヲ[illegible]見ヨ。(藻鹽草ニ、まなづるハ、一說、白鶴ナリトアリ)新千載集、十六、雜、上、[illegible]、[illegible]、「[illegible]づるノ、立テル川邊ヲ、人ヤ見ルラン」(二)今、又、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、黑シテ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]白ク、背ハ[illegible]、尾ハ灰[illegible]ナリ、嘴、脚、黑ク、[illegible]ナレバ、此名アリト云フ)鶴鷄

まなのいはひ（名）【眞魚祝】まなはじめ[illegible]ニ同ジ。[illegible]、[illegible]、[illegible]「[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]方ニ向カハセ申シテ、[illegible]ヲスヱ初ムルナリ」

まなばし（名）【眞魚箸】魚ヲ割ク時ニ用

キル箸。元來、木箸ナノ、後ニ、鐵製、長サ六寸許リノモノニシテ、四寸許リノ木ノ柄ヲ附ケタルモノ。下學集、下、器財門「生魚箸、マナバシ、俎箸、同、上、八寸五分」今昔物語、廿八、第三十語「今日ノ庖丁、茂經仕ラント云テ、マナバシ魚箸削リ、鋭ナル庖丁ヲ取出シ」太平記、廿、結城入道墮地獄事「ヨクヨクアブリ乾テ後、又、俎ノ上ニ推シヒラメテ、鋼刀ニ鐵ノ魚箸ヲ取リ副ヘテ」

まな-はじめ (名) 眞魚始 又、まなのいはひ。生兒ニ、始メテ魚肉ヲ食ハシムル式。鯛ヲ用キルト云フ。古ヘハ、通常三歳ノ時ナリキ。室町時代ニハ、誕生後百一日目ニ膳ヲ据エ、江戸時代ニハ、百廿日目ニ行ヒ、箸ヲツクルノミトゾ。魚味。クヒゾメ。ハシゾロヘ。ハシタテ。平家物語、四、嚴島御幸事「春宮御袴着、並ニ御まなはじめトテ、メデタキコトドモアリシカドモ」

まな-ばしら (名) 學柱 〔諸冊ノ二神、天ノ御柱ヲメグリ、鶺鴒ノ交尾セルヲ學ビテ、媾合シ給ヒシニ起ル名ト〕とつぎをしへどり(嫁教鳥)ニ同ジ。

マナバン (名) 眞名盤 〔蠻語ナラム〕香合ニ用キル七種ノ香ノ一。

まなび (名) 學 マナブコト。習フコト。學問。「學ノ窓」學ノ友」學ノ師」

まなび-や (名) 學舍 フンヤ。フヤ。學問スル所。ガクシャ。學校。

まな・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (他動、四) 學 〔まねぶノ轉〕 (一)倣ヒテ行フ。習フ。名義抄「學、マナブ」源、二、帚木、十「ワザト、倣ラヒまなぼネドモ」神代紀、上、十「二神見而學之」私記「奈良比天」千載集、序「コレヲまなびタヅサハラザルハ、面ヲ墻ニシテ立テランカ如シ」 (二)物事ノ理ヲ知ルコトヲ求ム。學問ス。

まな・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (他動、上二) 學 前條ノ語意ニ同ジ。續紀、元年五月、宣命「汝若不學之於、誰能曉解」千載集、序「此歌ノ道ヲまなぶる事ヲイフニ、云云、文ノ道ヲまなびズ」萬代集、八、釋教「千タビマデ、詣デテ祈ル、シルシアラバ、學ぶる道ニ、冥加アラセタマヘ」假名論語(鎌倉時代ノ)季氏篇「クルシンデ、またぶるハ、又、ソノツギナリ」(論語、季氏篇「困而學之、其次也」)

まな-ぶた (名) 瞼 〔目之蓋ノ轉〕まぶた(瞼)ニ同ジ。倭名抄、二、耳目類「瞼、末奈不太」名義抄「瞼、マナフタ」天治字鏡、二七「瞼、目裏皮也、萬奈不太」萬葉集、廿六「殘門ノ、作ンル小田ヲ、食ム鳥、瞼腫レテ、幡嶢ニ居リ」

まな-ぶち (名) 眼緣 〔まのふちノ轉〕まぶち(目緣)ニ同ジ。

まな-ほ (名) 眞直 眞ニスグナルコト。正直ナルコト。マッスグ。萬葉集、七、三十九「豐國ノ、聞(聞ノ誤)ノ濱邊ノ、マナゴヂノ、眞直ニシアラバ、ナニカナゲカム」

まな-まなと (副) 〔まハ親愛ノ語〕まなヲ重ネテ云フ語。爲ス勿レ、爲ス勿レ。落窪物語、二「死ヌベカナリト言ヘド、責ムレバ、息音モセズ、君、またまなとソラ制止ヲシ給フ」

まな-むすめ (名) 眞名娘 愛女。まなご(眞名子)ノ條ヲ見ヨ。催馬樂、我門「ミソノフノ、アヤメノコホリノ、大領ノ末名年須女トイヘ、オトムスメトコソイハメ」宇津保物語、藤原君、四十八「豐後ノスケノまなむすめ、ワウタウニトテ、クレタリシヲ、コノ春、子一人生シテ、カクレマシニキ」

まな-ゐ (名) 眞名井 〔まなハ親愛ノ語〕ゐ(井)ト云フニ同ジ。神代紀、上、廿「十握劍打折爲三段、濯於天眞名井」

マニ (名) 摩尼 〔梵語、Mani. 如意ノ義〕佛經ノ語、まにはうぢゅ(摩尼寶珠)ノ略。龍王ノ腦中ヨリ出デ、所求ノ寶ヲ出スコト意ノ如シト云フ寶珠。如意珠。仁王經、良賁疏、下、三「梵云摩尼、此翻爲寶、賓順無調、云云、會意翻云如意寶珠、隨意所求、皆滿足故」榮花物語、十七、音樂「大寶蓮華ノ座アリ、云云、百寶ノ色相葉ニ具セリ、云云、葉葉毎ニ、百億ノ大法摩尼ヲカザレリ」

ま-に (副) 儘隨任 〔まにまノ下略〕まにま(儘)ニ同ジ。まにまに(儘)ノ條ヲ見ヨ。萬葉集、四、二十長歌「大皇ノ、行幸ノ隨意、物部ノ、八十伴雄ト、イデユキシ」(古義ノ訓) 同、六、三十九「大皇ノ、行幸ノ隨、吾妹子カ、手枕マカズ、月ゾヘニケル」(古義ノ訓)

ま-に-あはせ (名) 間合 急ノ間ニ當ツルコト。強ヒテ其場合ヲ、取リツクロヒオクコト。副急。

ま-に-あひ (名) 間合 (一)間ニ合ハスルコト。浮世床(文化、三馬)初編、中「文ノ手本ヲ書ク人カ、古學ノ間ニ合ひヲスルカラサ」 (二)間合紙ノ略。紙ノ名。常ノ鳥子紙ハ、長サ三尺ニ二枚ナルヲ、別ニ長ク漉キテ、半間ノ間ニ合フヤウニ作レルモノ。屏風、襖ナド張ル。ソノ多ク土ヲ雜ゼタルヲ、どろまにあひト云フ。貞徳文集、下「屏風、襖、障子用ニ間似合二」

ま-に-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 間合 當座ノ役ニ立ツ。急用ニ役立ツ。

ま-に-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 間逢 其時ニオクレヌ。又、其場ニ居逢フ。小右記、寬和元年四月廿八日「寅時降誕女子、不逢齊關、雖馳向、事已遂了」

ま-にし (名) 眞西 眞ノ西。正西。

マニ-はうぢゅ (名) 摩尼寶珠 にょいはうぢゅ(如意寶珠)ニ同ジ。略シテ、まに。

ま-に-ま (副) 儘隨任 〔まノ一音ニ、任ノ意アリ、任ナド云フ、疊ミテ、まにまトモ云フ、下ノまハ、逢はずま、懸りずまノまニ同ジ〕まにま(儘)ニ同ジ。次條ヲ見ヨ。萬葉集、廿、十八長歌「大君ノ、命ノ隨爾」同、十八、九長歌「大君ノ、遠ノ御門ト、マキタマフ、官ノ末隨爾、ミ雪フル、越ニクダリキ」同、十七、八長歌「花ノサカリニ、カモカクモ、君ガ隨爾ト、カクシコソ、ミモアキラメメ、タユルヒアラメヤ」

ま-に-ま-に (副) 儘隨任 〔儘ま儘ま、ノ約〕 (一)大レニ打任スル意ニ云フ語。ママニ。マニ。マニマ。靈異記、下、第三十九縁、訓釋「隨、滿爾滿爾」神代紀、上、九「隨、此云磨彌磨彌」萬葉集、五、十長歌「カクニ、ホシキ隨隨」貫之集、六「山蔭ノ、磐ノまにまに、尋ネユカバ(一本、トメユカバ)、イヅコトモナク、我ヤマドハン」 (二)爲ルコト、成ルコトニ、シタガヒテ。萬葉集、二、十五「物部ノ、臣ノヲトコハ、大君ノ、任ノ隨意、聞クトイフモノゾ」(古義ノ訓) 同、十一、三十「カニカクニ、物ハ思ハズ、朝露ノ、我身ヒトツハ、君ガ隨意」續紀、九、神龜元年二月、詔「吾孫將知食國天下止、與佐斯奉志麻爾麻爾、高天原爾事波自米而」

ま・ぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ (他動、下二) 眞似 他ニ似セテ爲ス。マネス。マネル。摸倣。摸擬。貫之集、三「コノ松ノ、名ヲまねタレバ、玉梓ノ、道ワカルトモ、我ハタノマン」

まぬか・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (他動、下二) 免 〔眼逃る、又、間逃る、ノ轉ト云フ、或ハ、間脫る、ノ義カ〕逃ル。中ラズヤウ。避ク。マノガル。天治字鏡、十一、四十「免、マヌカル」萬葉集、三、五十四長歌「生ケル人、死ヌトイフコトニ、免ヌ、モノニシアレバ」

ま-ぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 間拔 間ノモノヲ拔キ取ル。マビク。徒然草、第百三十七段「マタマタ數フレバ、カレコレまぬき行ク程ニ、イヅレモ、ノガレザルニ似タリ」

まぬけ (名) [間抜] [illegible]程ニ外ルルヲ嘲ル俗語。又、ソノ程ニ外ルルモノ。ウツケモノ。シレモノ。アハウ。バカ。[illegible]シテヤリナセエ、皆コッチガ、間抜ダカラヨ」

まぬら・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(他動、下二) [罵] 眞ニ[illegible]ノノシツル。[illegible]「ハシダテノ、[illegible]眞奴良留、奴ワシ、サスヒタテ、率テ來ナマシヲ、眞奴良留、奴ワシ」(古義ノ訓)

まぬる・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) [間緩] [illegible]ル事[illegible]、又、手間ドリ、オソシ。マノロシ。マダルシ。マダルッコシ。

まね (名) [眞似] (まねぶノ語根) マスルコト。人ノナスコトヲ、見ナラヒ聞キナラヒテ、似スルコト。倣ヒテ爲ルコト。[摸倣 摸擬] 靈異記、中、第五縁「切レ膾搗[illegible]」[illegible]九年四月[illegible]其まね人[illegible]云云、時人[illegible]似[illegible]死之、以[illegible] 宇津保物語、藤原君[illegible]「嵯峨ノ院ノ牛飼(板本、家司)、云云、乞食スルまねヲスル」 紫式部日記「心深キ人まねノヤウ[illegible]侍レ」 榮花物語、廿七、衣珠「[illegible]センゼラレ恭リ侍リヌレバ、今ハニノ舞ニテ、人ノ御まねヲスルニナリヌベキガ、イトロヲシキナリ」

まねき (名) [招] (一)マネクコト。「[illegible]」 (二)見物人ナドヲ招キ寄スル用トスルモノ。(招牌ナド)

まねき (名) [機躡] (機ノ上ニアリテ、一端一低ス、其狀、手ヲ以テ人ヲ招クガ如シ)[illegible]具、左右ノ足指ヲ以テ之ヲ躡ミテ、綜(即チ經絲)ヲ上下セシムルモノ。[illegible] 天治字鏡、十一[illegible]」

まねき (名) [旌] (一)のぼり(幟)ノ一種。其[illegible]見ヨ。[illegible]小ナルヲ、俗ニまねきト云、長大ナルヲ吹流ト云、云云、まねきト云ハ、[illegible]「コソヲまねき[illegible]」[illegible]ノまねきユヘニ、其事ヲまねきト付ケ也」[illegible] (二)立烏帽子ノ名所。其前ノ上ノ部分。古[illegible]立烏帽子、云云、[illegible]サマ長ク[illegible]トイフ、ソノ[illegible]クシテ、前ノ方ヲまねきトイヒテ、少シ低シ」

まねきねこ (名) [招猫] (猫ノ人ヲ招クガ如シ) 猫ノ、チョッカイヲ揚ゲテ居ルコト。又、其形ニ造リタル猫ノ像。

まね・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) [招] (前祈(マヘネ)くノ略カ、又ハ、迎ヘ願ぐノ義カ) (一)手ヲ、俯仰セシメテ、人ヲ呼ブ。枕草子、一、第三段「前ニ居タル人ハ心得テワラフヲ、アナカマトまねきセイスレド」 讃岐典侍日記「尾花ウス白ク[illegible]、まねき立チテ見ユルガ」 (二)[illegible]シテ、使シテ、書狀シテ誘ヒ呼ビ寄ス。招請 (三)ヒキオコス。誘致ス。徒然草、第[illegible]段「名利ニ役ハレテ、云云、財多ケレバ、身ヲ護ルニマドシ、害ヲカヒ、累ヲまねく媒ナリ」

まね・く (形) 數多 數多く、ノ古言 次條ヲ見ヨ。

まね・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) [數多] (一)月日ノ打チ續キタルヲ云フ語 タビカサナル。シゲシ。萬葉集、一[illegible]「ウラサブル、[illegible]、天ノ時雨ノ、流ラフ見レバ」[illegible] 同、[illegible]長歌「[illegible]日月ノ、數多成リヌレ、ソコモ[illegible]」(古義ノ[illegible]) 同、同[illegible]長歌「ヤマズ行カバ、人目ヲ多ミ、眞根久行カバ、人知リヌベミ」 同、四[illegible]「夢ノゴト、思ホユルカモ、ヨシエヤシ、[illegible]使ノ、[illegible]久通ヘバ」[illegible]

[illegible]シテ、多シ。[illegible]「ヤ[illegible]ケル」[illegible]紀、三十六、天慈元年四月、宣命「氏門乎毛[illegible]」 (二)[illegible]タリテヲル。アマネシ。[illegible]祝詞「一[illegible]」

まねび (名) [學] マネブコト。マナビ。[illegible] 一、源氏物語[illegible]「召シテ御簾所ニ書カセ給ヒケルガ、[illegible]まねびノ[illegible]ハズ申シケレナ[illegible]」

まね・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ(他動、四) [學] (眞似ヲ活用ス、或ハ云フ、ぶハ履行ノ約轉ト) (一)まなぶ(學)ニ同ジ。眞似テ習フ。[illegible] (二)[illegible]シテ、其有[illegible]人ニ告グ。彼方ノコトヲ、此方ヘ云ヒ[illegible]ス。[illegible]日記、上、上廿「ミドリ子ノ、タヘズまねぶヲ、聞クゴトニ」 源、五、若紫十三「此夢アフマデ、マタ人ニまねぶナ、トノ給テ」 同、二、帚木十「目ニモ耳ニモ止マルアリサマ、[illegible]人ニ、ワザトまねはンヤ」 同、廿[illegible]初音三「御カタガタノアリサマ、まねびタテンモ、言ノ葉タルマジクナン」

ま・ねる (動) [眞似] まぬ(眞似)ノ口語。[illegible]「色ノ道ニハ發明ナ、町ノ小娘、若嫁ノ、眞ねる芝居ノ女形」

まのあたり (副) [面眼] (眼ニ當ル義) (一)眼ニ見ル邊ニテ。メノマヘニ。目前ニ。[illegible]「面、マノアタリ」 字鏡抄「親、マノアタリ」 顯宗紀、廿三年三月「因レ斯、難ニ以面(マノアタリニタマヒ)賜ニ却二遐大島二」 續紀、十、神龜六年八月、宣命「今日今時眼當(イマノマアタリモロモロ)衆乎喚賜而」 方丈記「まのあたりイ[illegible]ラカニ、悲シカリシコト[illegible]病ニテ、死ニタル者多シ」 (二)ウチツケニ。親シク。直接ニ。源、[illegible]「イト[illegible]ニヨリナン、エタイメン給ハラズ、まのあたり[illegible]ズトモ、サルベカラン雑事フハ、ウケ給ハラン」

まのが・る (動) [免] まぬかる(免)ニ同ジ。

まのし (名) [illegible] マノスコト。眼ヲ伸シテ見[illegible]

まの・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [illegible] 第五條「山代ガ[illegible]ヲミレバ、スコシモ事ト思ヒタルケシキモセズ、スコシまのしタル樣ニテ」

まのまへ (名) [眼前] マノアタリ。メノマヘ。[illegible]ト心疎シ、只死給ヒネ、云云」

まのろ・し (形) [間緩] まぬるし(間緩)ニ同ジ。

まば (名) [眞羽] 矢ノ羽ニ云フ語。[illegible]

まはか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [廻] まはす(廻)ニ同ジ。[illegible]ニ日ヲまはかすナリデ、公事ハナリマスマイゾヤ、オヲシャレイ」[illegible]マシテ、其ノ廻ニ同錦ノ幕ヲ引まはかしタリ」

まはぎ (名) [眞萩] [illegible]まはぎオシナミ、マロネシテ、カタミヲスレル、旅ゴロモカナ」 夫木抄、十一、萩「下葉コソ、花ヨリ先ニ、落チニケレ、ウツルまはぎノ、國ノユフ暮」

まはし (名) [廻] (一)マハスコト。メグラスコト。[illegible] (二)[illegible]

(天明)九、米屋「下帯ノ、サガリシ米ヲ、買フ人ハ、肌ヘルサズニ、まはしヨクセヨ」[illegible]四、[illegible]ノ頭[illegible]モ、角力[illegible]テ、白、或ハ茜染ヲ、三重、又ハ二重ニモ結ベリトゾ、云云、サテ[illegible]好ミシカ、[illegible]まはし[illegible]シヨリ後、土俵入ニ用フルコトトシテ、取ニ用フルトハ別物トナレリ、云云、まはしト云コトハ、幾重モマハス故ノ名ナルベシ」 (三)次條ノ語ノ略。(四)[illegible]ニ行ノコト　又、其當番[illegible]元和、安永[illegible])六「老[illegible]、小[illegible]、兒、若衆、イヒ合ハセテ、隨意講ノまはしハジマレリ」(五)遊女一人ニテ、輪番ニ客ヲ取ルモノ　コレヲ、まはしヲ取ルト云フ。

まはし-ガッパ（マワシ-ガッパ）（名）〔廻合羽〕合羽ノ、袖ナク、身ヲ絡フベク作レルモノ。坊主合羽。かっぱ(合羽)ノ條ヲモ見ヨ。

まはし-ぎり（マワシ-ギリ）（名）〔廻錐〕(一)ろくろがなノ條ノ(一)ニ同ジ。(二)まひぎり(舞錐)[illegible]ニ同ジ。

まはし-もの（マワシ-モノ）（名）〔廻者〕竊ニ送リ遣リテ、敵ノ容子ナドヲ探リ窺ハシムル者。シノビノモノ。イヌ。間者。〔間諜〕〔探偵〕五十年忌歌念佛(寶永、近松作)上「トウヤモコレハ廻し者、近頃[illegible]イ仕方トイヘバ、ヤア何チャ廻し者、ナナ男ジャモノ、廻シヲセイデヨイモノカ」

まはし-もり（マワシ-モリ）（名）〔廻盛〕飯ナドヲ、堆ク圓ク盛ルコト。又、ソノ盛リタルモノ。

まばしら（名）〔間柱〕大柱ト大柱トノ間ニ立ツル小柱。

まは・す（マワ・ス）ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)〔廻〕〔廻はるノ他動〕(一)圓ク、輪ノヤウニ動カス。メグラス。回轉　名義抄「轉、マハス」宇治拾遺、一、第七條「鹿アリケリトテ、オシまはしオシまはしスルニ、タシカニ目ヲ合ハセタリ」(松明ヲ廻スナリ)　金をまはすトハ、運用スル意。(二)送リメグラス。遍ク行キワタラス。今昔物語、十九、第十一語「夜明ケテ後、普ク其ノ里ノ人ニ、此ノ事ヲ告ゲまはし[illegible]「[illegible]ヲ廻す」人ヲ廻す」間者ヲ廻す」氣ヲ廻す」(三)コヽロモ、カシコヲモスル。コレヲモ、カレヲモスル。クリカヘシテスル。「[illegible]デまはす　搔キまはす」思ヒまはす」言ヒまはす」

まはだか（名）〔眞裸〕眞ノハダカ。身ニ一衣ヲモ纏ハザルコト。アカハダカ。マッパダカ。赤裸　宇治拾遺、十二、第八條「賀茂祭ノ日、眞裸ニテタフサギバカリヲシテ、云云」

まばたき（名）〔瞬〕マタタキ。メバタキ。

〔まはに（名）〔眞赤土眞埴〕〔まハ發語〕アカツチ。はに(埴)ト云フニ同ジ。萬葉集、七[illegible]「大和ノ、ウダノ眞赤土ノ、サニツカバ、ソコモカ人ノ、アヲコトナサム」(古義ノ訓)

〔まばゆ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二)〔眩〕〔目羞(マハユ)しノ義〕(一)光、烈シク目ヲ刺シテ、正シク見難シ。又、見ルニ堪ヘズ。マボシ。マブシ。羞明　宇津保物語、俊蔭[illegible]「十二三ニナル年、容貌更ニイフ限リナシ、アタリ光リカガヤキテ、見ル人、まばゆきマデ見ユ」紫式部日記、朝日ノヒカリアヒテ、まばゆきマデ恥シゲナル御マヘナリ」源、二、帚木[illegible]「逢フコトノ、夜ヲシヘダテヌ、中ナラバ、ヒルマモ何カ、まばゆからマシ」(二)盛ナルニ對シテハ、恥カハシク、荒涼ナルニ對シテハ、メザマシク、目、ソバメラル。源、一、桐壺[illegible]「カンダチメ、ウヘ人ナンドモ、アヒナクメヲソバメツツ、イトまばゆき人ノ御オボエナリ」榮花物語、廿八、若水「ウヒウヒシキ心地シテ、まばゆく思ヘナタヌニ」(三)厭ハシクテ、目ヲソバム。　夫木抄、十三、秋「[illegible]ナキ、鏡ニ向フ、心チシテ、老ノ後ニゾ、月ハまばゆき」源、二、帚木[illegible]シバシバマカリ絡リシママニ、少シまばゆく、エンニ好マシキコトハ、目ニツカヌ所アルニ」

まばら（名）〔[illegible]〕[illegible]間(マアラ)[illegible]間ノスキテ、アラキコト[illegible]千載集、八、[illegible]ヤ、[illegible]ノ[illegible]、月[illegible]レ[illegible]ヤ、まばら[illegible]頂卷、小原御幸[illegible]「杉ノ葺キ目モまばらニテ」

まばら-み（副）〔疎〕〔前條ノ語原ヲ見ヨ〕間スキテ、アラク。　詞花集、八、[illegible]、下「[illegible]フコトハ、まばらみ編メル、伊豫スダレ、イヨイヨ人ヲ、ワビサスルカナ」新古今集、六、冬「時シモアレ、冬ハ葉モリノ、神無月、まばらみナリヌ、杜ノ柏木」

まはり（マワリ）（名）〔廻〕(一)マハルコト、メグルコト。回轉　(二)周圍。四方ノアタリ。ヘリ。周邊　太平記、七、千劔破城軍事「サレドモ高サ二町計リニテ、廻り一里ニ足ラヌ小城ナレバ」(三)路ヲ巡リテ、警固スル兵。巡邏

まはり（マワリ）（名）飯ノ菜。おめぐり(御回)ノ條ヲ見ヨ。大神宮年中行事「御[illegible]」

〔まはり（名）〔眞榛〕〔まハ發語〕はり(榛)ニ同ジ。萬葉集、七[illegible]「住吉ノ、ヲリノ小野ノ、眞榛モチ、スレル衣ノ、盛リスギヌル」(古義ノ訓)

まはり（マワリ）（接尾）〔週〕〔七日廻(ナノカマハリ)ト云フベキ略カ〕七日ノ一期ノ稱。(服[illegible]ニ、新[illegible]ニ、入湯ニ)週七日「ヒト週　フタ週」、週」

まはり-あはせ（マワリ-アワセ）（名）〔廻合〕歷廻リ來テ出デ合フコト。人ノ運命ニ、吉、凶、共ニ、其機ニ巡リ逢フコト。メグリアハセ。　生玉心中(正德、近松作)下、道行「さがカ死ヌルト大キナタヲレ、年ノ廻り合せデ、損スルモアルコト」

まはり-えん（マワリ-エン）（名）〔廻緣〕室ヲメグラシテ附ケタル緣側

まはり-きど（マワリ-キド）（名）〔廻木戸〕觀覽場ノ入口ナドニ、出入ノ人數ヲ計算スルタメニ、設ケタル十字形ノ腕木。一人通ル每ニ

[illegible]回轉ス[illegible]

まはり-くど・し（マワリ-クド・シ）キ・ケレ・ク・ク(形、二)〔迂遠〕[illegible]遠クシテ、煩ハシ。[illegible]三馬)三編、下「オヤ、廻りくどい事ヲオイヒダナウ」

まはり-しやうぎ（マワリ-シヨウギ）（名）〔廻將棊〕將棊ノ駒ヲ盤ノ上ニ用キテスル戯。兩人各駒ヲ[illegible]、[illegible]、端ニ置キ、別ニ、駒[illegible]トシテ振ルニ、駒ノ竪ニ立テルヲ十ノ數トシ、横ニ立テルヲ[illegible]トシ、其[illegible]ド、駒ヲ盤ノ緣ノ目ヲ廻リテ進メ、追越シタルヲ勝トス。(嬉遊笑覽、四)

まはり-ざかづき（マワリ-ザカヅキ）（名）〔巡酌〕古ヘ流行シタル酒席ノ[illegible]ノ法、[illegible]ケ、初ニ[illegible]杯[illegible]、其杯[illegible]、酒ヲ注ギ[illegible]、次ノ人ヘ勸ムルモノ。伊勢家禮式雜書「まはり酌ト云フコトハ、我レ飮ミテ則チ我レ酌ヲスルヲ云フナリ」宗五大雙紙「まはり酌ノコト、殊ナル事ナシ、人ニ[illegible]サシテ物ヲ取ルベシ」

まはり-ぜりふ（マワリ-ゼリフ）（名）〔廻臺詞〕俳優ノ掛合ヒ述ブル臺詞。

まはり-どうろう（マワリ-ドウロウ）（名）〔廻燈籠〕又、かげどうろう。紙ヲ貼リテ作リタル燈籠ノ中ニ、紙ニテ人馬ナドノ形ヲ作リ、[illegible]機[illegible]リテ、燈火ノ氣ニテ運ラシ、影ヲ映シ見ル玩具。[illegible]走馬燈　[illegible]紙[illegible]シコキ[illegible]ノ、廻[illegible]人モ、廻り灯籠ニ、廻リケリ」毛吹草「見物モ、オサレテまはり、燈籠哉」

まはり-どほ・し（マワリ-ドオ・シ）キ・ケレ・ク・ク(形、二)〔廻遠〕廻リテ行クニ時ヲ費ヤスベク遠シ。又、爲ルニ暇取ルベクアリ。迂遠　信州川中島[illegible](享保、近松作)二「オオ、サウヨサウヨ、本道ハ廻り

[illegible]シ、直ニ打テバ一聖餘リ、數ヲ柔テテハ詮ナイ事」

まはりばしご（名）［廻梯子］階段ノ、旋リツツ登ルベク作レルモノ。まはり階[illegible]

まはりばな（名）［廻花］茶ノ會ナドニ、[illegible]モノノ花ノ插シ方ナドヲ、[illegible]ルコト。[illegible]ロキ物、スキタル題、まはり花」[illegible]設樂（寬永）五「廻リ花ニ、サスヤ名ニ負フ、ウズ櫻」[illegible]まはり花、[illegible]ノ後ノ、[illegible]ニ」

まはりばん（名）［廻番］順ニ隨ヒテ勤メ[illegible]ルコト。[illegible]マハリモチ。[illegible]

まはりぶたい（名）［廻舞臺］又、ぶんまはしトモ云フ。芝居ノ舞臺ノ中央ヲ、[illegible]ク圓ク切リ拔キ、床下ニ機アリテ、廻ルベク造レルモノ。更ニ、其外側ニ[illegible]切リ拔キ廻ハスヲ、蛇ノ目ト云ヒ、蛇の目がへしナドト云フ。

まはりみち（名）［廻路］遠キ路ヲ取リテ行クコト。又、トホマハリノ路。トホミチ。迂路

まはりもち（名）廻持｝順番ニ受持ツコト。マハリバン。又、廻リ廻リテ、己レガ所有トナルコト。[illegible]武家[illegible]物語[illegible]（貞享、西鶴）一「三貫文ハ世ニトドマリテ、人ノまはり持ちト、下人ニ語リテ通リケル」

まは・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［廻］（一）輪ノ如ク圓ク動ク。メグル。回轉（二）繞リ行ク。アチコチト歩ム。巡廻　宇治[illegible]、[illegible]ソレサ上ニ[illegible]歌キテ、アリキまはり[illegible]ハ、[illegible]行キテ」（三）遠キ路ヲ取ル[illegible]記、[illegible]ナカナカ徒退

リニナル河デハオリナイ、ソレナラバ上ヘナリ下ヘナリト、因リマセウ」（四）遍ク行キワタル。[illegible]（五）利得ニナル。利益ヲ得ル。好色一代男（天和、西鶴）七「人ノ若イ者ラシキヲ近付ケ、[illegible]ニ[illegible]ソト云フ」

まはろ-まはろ（名）〔廻る廻るノ訛〕散歩。出行。（横濱外國人ノ語）

まはゐ（名）［[illegible]］落胤ノ[illegible]トナルベシ。[illegible]胤、マハヰタネ」

まひ（名）［舞儛］（一）〔舞フコト。音樂、又ハ、歌ノ調ニ合ハセテ、身ヲマハシ、手足ヲ動カシ、面白ク種種ノ姿態ヲナスコト。字類抄「舞、マヒ、マフ、亦作儛」古事記、下、雄略[illegible]「[illegible]ノ、御手持ナ、[illegible]ニ、[illegible]比スルヲミナ、トコ世ニモガモ」源、六、末摘花廿四段「歌ハウタフヤ、まひナドスルヤト、問ヒモハテヌニ」（二）幸若舞ノ略。其條ヲ見ヨ。信長公記、下「幸若八郎九郎大夫ニ、舞ツマハセ、云云、初之舞者、大職冠、二番、田歌、舞ヨク出來候」（三）烟草ニ、舞葉ノ略。其條ヲ見ヨ。

まひ（名）［幣］〔舞ヲ奏シテ、供フル意ト云フ〕禮代トシテ奉ル物。オクリ物。垂仁紀、廿七年八月「令三祠官一ト二兵器爲ヒ神、幣ニ」仁德紀、十一年十月「河神祟之以二吾爲レ幣」萬葉集、六 八「天ニ坐ス、月讀壯子、幣ハ爲ム、今夜ノ長サ、五百夜繼ギコソ」同、十七 四「玉鉾ノ、道ノ神タチ、賄ハセム、吾ガ思フ君ヲ、ナツカシミセヨ」（賄、賂ノまひ、コレナリ）

まひ（名）［眞日］〔まハ發語〕ひ（日）ト云フニ同ジ。古事記、中（應神[illegible]）「[illegible]底下ハ、[illegible]キ故、[illegible]ノ、ソノ中ツ[illegible]、頭[illegible]ク、[illegible]肥ニハ當テズ」萬葉集、十四「何トイヘカ、直ニアハナクニ、眞日暮レテ、夜ナハ來ナニ、明ケヌ時來ル」

まひ（名）［麻痺］シビルルコト、身體ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]シビレ。「小兒麻痺」[illegible]

まび（名）［間日］[illegible]ヒマ[illegible]ノ[illegible]日[illegible]子、一夜ノ[illegible]」（二）はっせん（八專）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]師昔語（正德、近松作）下、さよみ歌「思ヘバ天一天上ノ五衰、八センま日モナシ、只何事モ坎日ト、罪モ淺ニカキクルル」（三）瘧ノ熱ノ醒ムル日。

まひあふぎ（名）［舞扇］[illegible]用ヰル扇[illegible]

まひうど（名）［舞人］まひびと（舞人）ノ音便。[illegible]「リンジノマツリノ舞人、[illegible]メカ」

まひがし（名）眞東　眞ノ東。正東。卯。

まびき（名）［間引］まびき（[illegible]）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]八、好色[illegible]夜ニハ、手[illegible]リタリケルニ、云云、女房トモモ、ミナ御[illegible]ノまびきニシタガヒテ、サシ出ル人モナカリケレバ」

まひぎぬ（名）［舞衣］（一）舞ノ時ニ着用スル衣服。マヒノ衣。[illegible]（二）能裝束ノ一種。長絹ニ似テ裾ノツヅキタルモノ。子夜話、續篇（文政、松浦靜山）八十六「コノ舞衣ハ、予モ、云云、立寄リテ[illegible]タリ」

まひぎね（名）［舞杵］農具ノ一、からさを（連枷）ニ同ジ。[illegible]、四、[illegible]連枷、カラザホ（數ヲウツノ具也）京ニテ、まひぎねト云、東國ニテ、クルリト云」

まひぎり（名）［舞錐］（一）錐ノ一種。三又一シテ、戟ノ如シ。酒樽、醬油樽ナドニ、呑口ノ孔ヲ明クルナドニ用キル。

[illegible]（二）[illegible]セシムル錐。ロクロギリ。[illegible]（享保、西鶴）六「[illegible]ノセハシク、耳穴ノアケクレ分切ノ仕舞ニ、年中イトマナク」

まび・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［間引］（一）[illegible]引拔[illegible]ク。ウロヌク。（二）昔、片田舍ナドノ[illegible]ス。（多子ヲ疎ニスル意）洗兒

まひこ（名）［舞子］[illegible]ズ、今ハ小妓ノ振袖着ス者ノ稱名ヲ、舞子ト云也」

まひご（名）［迷兒迷子］まよひご（迷兒）ノ略。其條ヲ見ヨ。諸藝太平記（元祿）二「ウ[illegible]ナ」奈良曝（山口宰充）四「新町通へ入姉小路[illegible]」

まひこだけ（名）［舞子茸］まひたけ（舞茸）ノ條ノ（二）ニ同ジ。

まひごふだ（名）迷子[illegible]小兒ノ迷子トナリシ時ノタメニ、帶ニツケオク札。普通、眞鍮ニテ小判形ナドニ作リ、姓名、住所ナドヲ刻ル。

まひこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［舞込］（一）舞ヒツツ入リ來ル。（二）何處ヨリ

トモナク入リ來ル。

まびさし (名) [目庇] 兜ノ額ヨリ庇ノ如ク出デテ目ヲ被フモノ。眉庇 今、洋製ノ帽子ニモ云フ。 書言字考節用集、六、服食門「眉庇、マビサシ、首鎧額也」 曾我物語、四、於川合戰散攻ニ福田被ㇾ討事「改宗ノ甲ノ眉目さしヨリ、膝ガシラ殺ノ前輪カケ、切先ハヅレニ切付」

まびさく (名) [馬柄杓] 馬ニ水ヲ飼フニ用ヰル柄杓。 冥常盤(寶永、近松作)三「スグニ門出ノ馬追ヒ冠者、腰ニ馬柄杓、竹ノ鞭」

まひ-すま・す ・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [舞澄] 靜カニ舞フ。 盛衰記、廿四、胡徳樂河南浦樂等「興福寺ニ御入堂アリ、伶人舞樂ヲ奏シケルニ、胡徳樂ト云樂ニ、河南浦ノ庖丁ヲ舞澄シタリケリ」

まひ-たけ (名) [舞茸] (一)わらひだけ(笑茸)ニ同ジ。 今昔物語、廿八、第廿八語「コノ茸、乞テ食ムト思ヒテ、乞テ食ケル、云云、不ㇾ心ズ被ㇾ舞ケリ、云云、互ニ舞ヒツヅケテ咲ケル、然テ暫ク有ケレバ、醉ノ悟タルガ如クシテ、云云、此ノ茸ヲバ舞茸ト云フ也ケリ」 (二)又、菌ノ一種。長大ニシテ、其蓋、黄黒ク、莖、白ク、肯府相重ナルコト舞フガ如キモノ。味、淡ク、美ナラズ。マヒコダケ。雜説 易林節用集(慶長)下、草木門「舞茸、マヒタケ」 重修本草綱目啓蒙、廿、芝栭類「鷄樅ハまいたけト訓ズベシ、一名、クモタケ、秋初、深山中ニアリ、雜木ノ朽株ニ生ズ、十百ナリ、莖ハ短シテ甚ダフトク、白色、蓋ハ銀杏葉ノ形ノ如クシテ、多ク重疊シ、闊サ一尺許、色微黒ヲ帯ブ、生ニテ煮食ヘバ、微臭アリ、鹽藏シテ煮食ヘバ、味佳ナリ、又栗木ニ生ズル者ハ、小ニシテ黒色ヲ帯ブ、クリタケト呼ブ、北國ニ多シ」

まひ-づる (名) [舞鶴] (一)舞ヒ遊ブ鶴。 松風村雨束帶鑑(寶永、近松作)五「鶴君ガ代ハ萬年ノ、龜ニ契リシ神鳥ノ、千歳ノ舞鶴ノ、舞ヒ悦ブヤ松竹ノ」 (二)紋所ニ、鶴ノ翼ヲ圓ク張リタル圖。 曾我扇八景(寶永、近松作)上「今日ヨリハ、舞鶴ヲ家ノ紋ニ許スナリ」

まひ-と (名) [眞人] 〔うまひとノ略、天皇ヲ現人神ト申スニ對ス〕 八色ノ姓ノ一。第一等ニシテ、皇族ニ賜ハルモノ。マウト。マット。 天武紀、下、十三年十月、詔「更改ニ諸氏之族姓ニ作ニ八色之姓ニ以混ニ天下萬姓ニ一曰眞人、二曰朝臣、云云、是日、云云、十三氏賜ㇾ姓、曰ニ眞人ニ」 新撰姓氏錄、序「眞人、是皇別之上氏也」

まひ-ど (名) [舞戸] ひらきど(開戸)ニ同ジ。其條ノ(一)ヲ見ヨ。

まひ-どうろう (名) [舞燈籠] まはりどうろう(廻燈籠)ニ同ジ。 夏衣(支考)「待人ハ、ソレカコレカト、舞燈籠」

まひ-とまと (名) [眞人言] 〔まハ接頭語〕 他ノ人ノ言葉。ヒトノ噂。人ノコトノハ。 萬葉集、十四、三十「マツガウラニ、サワエウラタチ、麻比等其等、思スナモロ、吾ガモホノスモ」

まひ-どの (名) [舞殿] かぐらだう(神樂堂)ニ同ジ。又、神樂殿。 小右記、寛仁四年七月廿八日「於ニ賀茂上下御社ニ被ㇾ供ニ寶仁王經ニ十部、下社者於ニ舞殿ニ被ニ供養ニ」 百練抄、五、長治二年十一月二日「凡ソ八幡神民奉ㇾ舁ニ出神輿於舞殿ニ」

まひなか (名) [眞日中] まひる(眞晝)ニ同ジ。 今昔物語、廿七、第廿八語「然様ノ物ノ靈ナドハ、夜ナドコソ現ズル事ニテ有レ、眞日中ニ音ヲ擧ケテ詠メケン、實ニ可ㇾ怖キ事ナリカシ」

まひ-なひ (名) [幣賂] (一)マヒナフコト。幣。禮ニ奉ル物。贈物。音物。(幣ノ條ヲ見ヨ) 字類抄「賂、マヒナヒ、遺ㇾ賂也、賄、マヒナヒ」 景行紀、十二年十二月「宜ニ示ニ重幣ニ以撝ニ納麾下ニ」 推古紀、三十一年十一月「多得ニ新羅幣物ニ」 天武紀、下、十年五月「或捧ニ幣ニ以媚ニ其家ニ」 (二)今、專ラ、上ニ媚ビ、又ハ、非理ノ執成シヲ請ハム爲ニ、竊ニ金錢、貨物ヲ贈ルコト。又、ソノ正シカラヌ贈物。ソデノシタ。ワイロ。贓賄 賄賂 孝徳紀、大化元年八月「判官以下、取ニ他貨賂ニ倍徴之」

まひな・ふ ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [賄] 幣ヲ行フ。賄賂ヲナス。 字類抄「賂、マイナフ」 仲哀紀、八年九月「以ニ云云、是等物ニ賂ㇾ幣也」

まひ-のかぶら (名) [舞冠] 〔舞ノ頭ノ義〕 とりかぶと(鳥兜)ノ類カト云フ。其條ノ(一)ヲ見ヨ。 倭名抄、十二、冠「舞冠、俗云、萬比乃加之良」 名義抄「舞冠、マヒノカシラ」

まひは (名) [眞鶸] 〔他ノ鶸ニ對シテ、普通ノ鶸ノ稱〕 ひは(鶸)ノ條ヲ見ヨ。

まひ-ば (名) [舞羽] 〔或ハ云フ、まいばニテ、卷羽ノ音便ト〕 古ヘ、反轉ト云ヘル、之カト云フ。絲ヲ絡フ具。臺ニ短キ竿ヲ立テ、其上ニ十字形ノ木匡ヲ插メ、木匡ノ四端ニ竹ヲ插シテ、之ニ絲ヲ掛ケ、木匡ヲ廻ラシナガラ絲ヲ絡フモノ。蟠車 書言字考節用集、七、器財門「擬樹、マイバ、マキソク、卷ㇾ絲具也、蟠車、同」 和漢三才圖會、三十六、女工具「蟠車、まいのは、俗云、木以乃波、云云、按、今所ㇾ用木絡蟠車、以ㇾ絡ニ絲於籆ニ者也、其車如ニ十字、兩端穿ㇾ穴、竹四枝插ㇾ之、使ニ不ㇾ亂、其竹名日ニ止字土ニ」 俳諧炭俵(元祿)上「ナイ袖ヲ、振テミスルモ、物オモヒ」舞羽ノ絲モ、手ニツカス篠」

まひ-ば (名) [舞葉] 烟草ノ葉ノ莖ニアリテ、自ラ熟シテ赤ミタルモノ。品、稍劣ル。略シテ、まひ。又、アカマヒ。 煙草百首、煙草名所國府ニ、云云、國府ニ出キタル名葉ニテ、美キ味、云云、近木、云云、上ヲ舞葉ト云(テキツシ)、中ヲ舞葉ト云、下ヲ藁葉ト云、上土地ニ産スレバ、葉ニカナクトモ藕有、畠地ヘ産スルヲ上品トシテ、俗ニ舞ト云」

まひびと (名) [舞人] マヒヲ行フ人。マヒウド。 源、三十四、下、若菜、下、五十「まひ人ハエフノスケ共ノ、カタチキヨゲニ、タケダチヒトシキカギリヲエラセ給」

まひ-びめ (名) [舞姫] (一)〔マヒヲ行フ女〕 又、五節ノ舞ニ出ヅル少女。マヒトメ。ブキ。 源、廿一、少女、三十「舞びめカシヅキナロシテ、ツマドノマニ、屏風ナド立テ」 枕草子、五、第四十六段「清涼殿ノ東ノスノコヨリ、舞姫ヲサキニテ、ウヘノ御局ヘマヰリシホド、ヲカシカリキ」 (二)男舞、白拍子ナドノ稱。

まひ-まひ (名) [廻廻] つむじ(旋毛)ノ小兒語。

まひまひ (名) [舞舞] (一)〔幸若舞ノ略〕 かうわかまひ(幸若舞)ノ條ヲ見ヨ。 運歩色葉集「舞舞、マヒマヒ」 幸若文書、乍ㇾ恐以ニ口上書ニ申上候事「舞舞ノ儀ハ、大がしらト申シ候而、舞舞ノ座ヲ立、上方ニ罷在候、御當地ニ而ハ、芝ノ神明ニ罷在舞申、古ヘヨリ舞舞頭樂ハ、世間ヨリ配斗ヲ取、舞舞ニ可ㇾ仕候事」 御當家令條、三十一、「一、舞舞頭樂、云云、但役相勤候時分ハ、裏斗目不ㇾ苦事」 (二)舞ヲ業トスルモノ。 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)一「大頭ノ左衛門ト、幸若ノ黑助ト、云云、中ヲ違ヒタル時、まひまひノ、師弟ノ中モ、コクスレバ、大夫モ今ハ、ナイ頭ナリ」 世間胸算用(元祿、西鶴)一「東隣ニハ舞舞住ミケルガ、元日ヨリ大中舞ニ商賣ヲ替ヘケレバ」

まひまひ-つぶり (名) [舞舞螺] 〔角ヲ振ル、舞フト見テ名トス、つぶりハ圓ノ義〕 かたつぶり(蝸牛)ニ同ジ。 書言字考節用集、五、氣形門「蝸牛、マヒマヒ、土牛兒、同」 夫木抄、廿七、蝸牛「家ヲ出ズ、心ハオナジ、かたつぶり、立チまふベクモ、アラヌ世ナレト」 大筑波集(永正)「まへヤまへヤト、江口ニゾ云フ」世ノ中ヲ、厭フマデコソ、かたつぶり」

まひ・まひ・むし (名) 【舞舞蟲】 昆蟲ノ一。水澄ノ畿内邊ノ稱。川、又ハ、池ノ淵ニ生ズ。形、黑豆ノ如ク、背ニ甲アリ、甲ニ洸アリ、常ニ水底ニ伏シ、時ニ水面ニ浮ビテ、旋ルコト、草書ヲ書クガ如シ。晴シテ、まひまひ。一名、ちやうせ。[illegible]

まひ・もど・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 【舞戾】 [illegible] 再ビ顯然ト戾リ來ル。[illegible] ヲ異レマスルガ、今日ハ異レズニ遣レバ、まひもどり、まひもどり致ス、飲マシテヤリマセウ」

まひ・ら・ど (名) 【舞子戶】 [閂半戶ノ義カ] ト云フ、イカガ、舞戶ノ轉ナラム、或ハ、玄關ノ川ヰルモノニテ、[illegible]戶ノ意ト云ソ、[illegible] 細ソキ棧ノ横ニ密ニアルモノ [illegible] 歌舞伎(元祿)上、[illegible]「シノノメヤ、まいら戶ハヅス、カザリ松」[illegible] マノ[illegible]ニナカフ、[illegible]ノまいら戶ハ、[illegible]ニテ、ピカピカ光ル故、フット心ヅキ」

まひら・み (副) 【眞平】 (一)ヒラニ。マッピラニ。マノタヒラニ。 宇治拾遺、十一、第三條「ソノ草ノ葉ノ、蛙ノ上ニカカリケレバ、蛙まひらみヒシゲテ、死ニタリケリ」 (二)ヒタスラニ。是非ニ。 盛衰記、三十四、東國兵[illegible]事「此ノ馬ナバ、大名、小名、八簡國ノ者共、內外ニツケテ所望アリキ、就中、大將軍ニ差シ遣ス[illegible]、眞平み罷リ預カラント云ヒキ」

まひり・ぐさ (名) くららのき(苦參)ニ同ジ。 [illegible]、苦參、久良良、一云、末比里久佐」[illegible]、一名末比利久佐」

まひる (名) 【眞晝】 日ノ天ニ中シタル時。[illegible] マヒナカ。ヒルナカ。正午 亭午

まひろ・ぐ・グル・グレ・ガ・ゲ・ゲヨ(他動、下二) [眞廣ぐ、ノ意カ、開廣く、カ] 披來ナゲ一廣グル。帶ヒロハダッニナル。取リ亂シタル姿ヲナス。 字類抄「披、[illegible]、マヒロク、褐、衣披不レ帶也、マヒロク」名義抄「披、マヒログ、ヒラク」 [illegible]「マヒロゲタリ」 宇津保物語、藏開、上「[illegible]ヲ引キサゲテ、まひろげ[illegible]、[illegible]レ[illegible]、イミジウ笑ヒ給フ」 江談抄、四「コケゴロモ、着タルイハホハ、まひろげン、衣着ヌ山ノ、帶スルハナゾ」

まひろげ・すがた (名) [前條ノ語原ヲ見ヨ] マヒロゲナルスガタ。シドケナキ姿。披來ナゲニ廣ガリタル姿。 枕草子、十二、第百五十六段「硯トリヨセ、墨コマヤカニオシスリテ、コトナシビニ、マカセテナドハアラズ、心トトメテカク、まひろげすがたもカシウ見ユ」

まびろ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 【眞廣】 [ま八接頭語] ひろし(廣)ト云フニ同ジ。 神樂歌、酒殿「サカドノハ、ヒロシ萬比呂志、ミカゴシニ、ワカテナトリソ、シカハアラヌワザ」

まひ・をさ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 舞納 舞ヲナシ果タス。舞ヲ爲シヲホス。 太祇全集「萬歲ヤ、舞ひ納めタル、シタリ顏」

まひをさめ・きゃうげん (名) 【舞納狂言】 舞ヒ納ムル狂言。終リノ狂言。

ま・ふ (名) 【麻布】 あさぬの(麻布)ニ同ジ。 後漢書、東夷傳[illegible]、云云、人形似夫[illegible]、有五穀麻布」[illegible]「[illegible]、一日、[illegible]、云云、地少ニ桑蠶、[illegible]麻布」

ま・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 【舞】 (一)[廻ハル][illegible] 里ノ、[illegible]ケレバ、山ベニ登ノ、セヌモコトワリ」仁德記[illegible] [illegible] (二)[illegible] 記、中(仲哀)六「コノ御酒ヲ、カミケム人ハ、ソノツヅミ、[illegible]ニタテテ、[illegible]、カミケレカモ」 宇津保物語、藏開、下、三十六「アコ君ハ落蹲ヲまひ給ハンナン、ヨカンメル」 源、七、紅葉賀「源氏ノ中將ハ、靑海波ヲゾ、まひ給ヒケル」 (三)[翔ル] [illegible]ノ作物[illegible] [illegible]篋傳)七「[illegible]、茄子ノかるるヲバ、百姓ミナまふト云フナリ」 [illegible](寬永)下、まふ[illegible] まふハ、ナスビノ木、[illegible]、[illegible]ツブト、花前ニ蝶まふフンフンタリ」 犬子集(寬永)三、夏「日ニまふヤ、駒ノワタリノ、瓜茄子」

ま・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 【眩】 目マハル。目マヒス。目クラム。 [illegible] 平家物語、五、[illegible]付[illegible] モまひ[illegible]フルフ[illegible]ノアル[illegible]ナレバ、サモ有ベシトテ、云云、五人ナガラ皆目舞ひ膝フルヒテ、水ハサカサマニ流ルルヤウニ覺エケル」

まぶ (名) 【鑛坑】 [金銀ナド、皆石中ニマジレルガ、其石ヲ碎キスリテ、金銀ヲ取ル、其石ヲ採ル穴ヲまぶト云フ] 鑛夫ノ語。鑛山ニテ、掘リ入ル穴。横穴。トンネル。クヮウカウ。(篠崎維章云フ、金山ノ上ニ、穴ノ間ヤテ、光ヲ取ルヲまぶト云フ」 [illegible] ヲまぶトイヒマス」 [illegible]「カナ山ノ、まぶト申カ、ホレ心、人ノナサケヤ、穴ニアルラン」

※まぶ (名) 【間夫】 (一)ミソカヲ。カクシヲトコ。マヲトコ。情夫。 [illegible](元祿、西[illegible]) 五「ソノ女郎ト我等間夫ヲイタスト、件ノ誓紙人ニ見セラレテハ」 (二)古クハ、金ニナル客ノ稱。轉ジテ、遊女ノ情人。 大[illegible](享和、山東京傳)[illegible]、ゾメキ、円ニ云、遊女ノ私夫ヲ

まぶト云フモ、[illegible] 山ノ、まぶト申カ、ホレ心、ト云フ句アリ」(前條ヲ參[illegible]) [illegible] ノ男ト金比ナシテ、外ノ客ニハアハヌトイヤル」 (三)手管ノ異名。 [illegible] けいせい三[illegible]「まぶト云ッペ、手クダノ異名」

マ・ふう (名) 【魔風】 魔緣ヲイザナフ風。 [illegible] 平家[illegible]「平等院ノアタリヲ、一宇モ殘サズ燒拂ケル[illegible] [illegible] ニ燒ケケル事コソ淺猿ケレ」

まぶか・み [illegible] 【眞深】 [illegible]
[illegible] ヲ眼深ミ被ル」頭巾、眼深ミ被リテ」

まふくだ (名) やまぶし(山伏)ノ一名ト云ノ。 大木抄、三十三、[illegible]、まふくだ[illegible] デシ、片袴、ワレコソヌヒシカ、ソノカタハカマ」

まぶし (名) 【眶】 [目部ノ意カ] メツキ。メイロ。メザシ。マナザシ。 源、三十五、柏木「[illegible]、まぶしツベタマシクヽ、荒ラカニ、オドロオドロシク陀羅尼讀ムヲ」

まぶし (名) 【射翳】 [目臥ノ義] 獵夫ノ隱レテ鳥獸ヲ射ル時、柴ナド折リカケテ身ヲ被ソモノ。 [illegible] [illegible]「まぶし、所以[illegible]射[illegible]也」八雲[illegible]抄、四「[illegible]」 [illegible]ニ、カリスルニ、木ナドヲ折リサシテ、カクレヰタル也、シカウカガフ折ノ事也」 夫木抄、十二、[illegible]「まぶし[illegible]ス、[illegible]夫ノ笛ノ、[illegible]ゾトモ、知ラデヤ[illegible]ノ、[illegible]」

まぶし (名) 【蠶簿】 [前條ノ語意] 古名、エビラ。蠶具ノ一。[illegible]、又ハ、[illegible]、或ハ、萩ノ枯枝ナドヲ、束ネテ作ル。使用スル際ハ、之ヲ蠶箔ノ上ニ擴ゲ、蠶ノ十分ニ成長シタルヲ、コレニ移シテ、繭ヲ

作ラシム。カヒコノスダレ 簇」

まぶし (名) (一)まむし(鰻)ノ轉。其條ヲ見ヨ。(二)〔鰻ヲ飯ニ塗ス意〕 又、まぶし。うなぎめし(鰻飯)ノ異稱。 守貞漫稿、四、生業、上「鰻飯、京坂ニテまぶし、江戸ニテどんぶりト云、鰻丼飯ノ略也」

✣**まぶ・し** (形) 眩 〔まぼしノ轉(東京)〕 (一)マバユシ。光ノタメニ見ニクシ。(光、眼ニ映リテ) 怕明。羞明。 (二)マバユキホド美シ。 浮世床(文化、三馬)初編、上「第一座敷ガ上手ダニ、藝ガイイトキテヰルニ、面ガまぶいト云フモンダカラ、鬼ニ鐵棒、佛ニ蓮華ダ」

まぶ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 塗 〔まみるノ他動〕 塗レサス。 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)一「薪ヲクベ、ヒタモノ火ヲフキケレバ、坊主ノ頭ヨリ着タル物ニ至リ、悉ク灰ニまぶせり」 東海道名所記(萬治)二「新坂ハ蕨餅名物ナリ、葛ノ粉ニテツクリ、豆ノ粉ヲまぶしテ旅人ニススムルニ」

まぶた (名) 瞼 〔目蓋ノ義〕 又、まなぶた。まぶち。眼ノ上ヲ被フ皮。眼瞼。 書言字考節用集、五、肢體門「瞼、マブタ、眼、同」 東海道名所記(萬治)三「君ガ來ヌ夜ハ、まぶたモアハヌ、ナミダノ淵へ、枕ヲツ、パメタ」 國性爺合戰(正徳、近松作)一「小劍、云云、弓手ノ眼ニグ ト突立テ、まぶたヲカケテ、クルリクルリト割出ダシ」

まふたつ (名) 眞二 タダシク二ツナルコト。マンナカヨリ二ツ。音便ニ、まっぷたつ。 本朝櫻陰比事(元祿、西鶴)一「然ラバ諸事、眞二ツニ分ケ取ラスベシ」

まぶち (名) 瞼 〔目縁ノ義〕 まなぶたノ俗稱。まぶた(瞼)ニ同ジ。 倭訓栞後編、二十耳目類「瞼、末奈布太(今俗呼云末不知二)」

まブッ忠 (名) 眞佛師 正シキ佛師。(系圖ナドノ) 狂言記、六地藏「身ドモガ眞佛師デアリヤル、云云、運慶、湛慶、安阿彌ト云ウテ、佛師ガ三

流アル、中ニモ安阿彌ノ流ヂャニヨッテ、眞佛師ヂャト云フ事デオリヤル」

〔**まふつ-の-かがみ** (名) 眞經津鏡 〔まハ發語、ふつハふとニ通ヒテ、稱辭ナリ〕 かがみ(鏡)ト云フニ同ジ。又、八咫鏡ノ一稱。 神代紀、上八「八咫鏡」注「一云、眞經津鏡」 播磨風土記、賀古郡「御佩刀之八咫劔之上結爾八咫勾、下結爾麻布都鏡繫」

まぶな (名) 眞鮒 〔まハ發語、他ノ鮒ニ對シテ云フ語〕 ふな(鮒)ト云フニ同ジ。 重修本草綱目啓蒙、廿九、魚類「鯽魚、云云、源五郎ぶなハ、江州ニテ單ニふなト云、又、まぶな、ホンフナ、ヒラフナ、山田フナト云フ」

まぶね (名) 馬槽 かひばをけ(飼葉桶)ニ同ジ。

まぶり (名) 守護衛 〔まもり(守)ノ轉〕 (一)まもり(守)ニ同ジ。 和語燈錄(文永、信源空)六「人ノまぶりヲ得テ候ハンハ、供養シ候フベキ歟」 (二)マモリブクロ。オマモリノ袋。 太平記、廿、義貞自害事「コレゾ其死人ノ肌ニ懸ケ候ツル護リニテ候トテ、血ヲモ未ダ洗ハヌ首ニ、土ノ着タル金襴ノ守ヲ副ヘテゾ出シタリケル」

まふりで (名) 眞振出 〔まハ發語〕 紅ヲ振リ出シテ、染メタルモノ。 長方集「クレナヰノ、ヤシホノ岡ノ、イハツツジ、コヤ山姫ノ、まふりでノ袖」

まぶ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 塗 まみる(塗)ノ訛。 俳諧新選、春「菜ノ花ニ、まぶれテ犬ノ、出テニケリ」「血まぶれ」「泥まぶれ」

まぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 守 まぼる(守)ノ訛。 壽門松(享保、近松作)上「七十二餘ル母迄、各ニ顏まぶらせ、無念ニゴザル」(見守ラス) [illegible](正徳、近松作)上「女房ヒトリまぶッテ居ル男トテハナケレドモ」(守ル)

✣**まぶ・れる** (動) 塗 前前條ノ語ノ口語。

まへ (名) 前 〔目方ノ義、後方、對ス〕 (一)物ノ目ノアタリニ、見ユルトコロ。メヂ。メドホリ。 古事記、中(崇神)九「後ツ戸ヨ、イ行キ違ヒ、前ツ戸ヨ、イ行キ違ヒ」 萬葉集、十八、五「針袋、トリアゲ前ニ置キカヘサヘバ、オノトモオノヤ、裏モ繼キタリ」 蜻蛉日記、中、上三「山風ノ、まへヨリ吹ケバ、コノ春ノ、柳ノ絲ハ、シリヘニゾヨル」 (二)〔神ノ御座マ、直ニ指サズ、其前ヲ以テ稱スル語。尊ビテハ、おほまへ、みまへ、おまへ、ふとまへ、ひろまへナドト云フ。 古事記、上五十「[illegible]神前、取持前事所政」 祈年祭祝詞「御年皇神等能前爾白久」 (三)〔轉ジテ、直ニ其御座ニマシマス神。 古事記、上五十「天照大御神[illegible]此之鏡者、專爲我御魂而如拜吾前、伊都岐奉」 同、中(崇神)「大物主神夢告「令祭我御前者、神氣不起、國安平」(牛の御前ト云フ神アリ) (四)神ヲ數へ奉ル語。 古事記傳、十二「前ト云ルハ、二座以上ノ神社ノ中ニ、主タル神一座ヲ除キテ、其餘ヲ相殿ニテモ前トシテ、前若干座ト云ナリ」 神名式、上「天神地祇總三千一百三十二座、社二千八百六十一處、前二百七十一座」 (五)〔轉ジテ、貴人ヲ稱スル語。 孝德紀、大化二年正月「神名[illegible]、自心之所歸、妄付前前、猶謂人人也」 貴人ヲ指シテおまへト云ヒ、貴婦人ノ名ニ、某前、某御前ト云フモ、コレヨリ移レリ。物ヲ人ニ配リ充ツルニ、一人前、二人前ト云フ、是レナルベシト云フ。分前、當前モ同ジ。次條ノ語ノ(二)ヲ見ヨ。 (六)〔過ギ去レル方。既往。マヘカタ。 宇津保物語、俊蔭「其故ハイカニト云ヘバ、まへノ世ニ、〱惡ノ罪ハカリナシ」 實方集「タメスケ、カウブリウベキまへノ年ノ八月ニ」 (七)マダ來ヌ時。「盆前」大晦日前」 (八)まへのものノ略。陰部。 宇治拾遺、九、第一條「男ノまへノ痒キヤウナリケレバ、探リテ見ルニ物ナシ」

まへ (接尾) 前 (一)人目ニ關ルコト。「人前」世間前」腕前」技前」 (二)物ノ前毎ニ物ヲ割リ充ツルコト。宛。分。 狂言記、連歌盜人「杉楊枝ナドガ入ラウカト存ジテ、七八十人前モ用意致イテ御座ル」 貞徳文集(寛文)「梅折敷二十人前、新ニ用意仕置候」「一人前」二軒前」

まへ-あし (名) 前脚 〔後脚ニ對ス〕 獸類ノ、前ノ方ノ兩脚。マヘズネ。

まへ-いた (名) 前板 (一)車ノ前面ノ横木。車ノ軾。トジキミ。 榮花物語、廿六、楚王夢「御車ノ前板トイフモノニオシカカリテ、何事ニカアラン打泣キテ」 徒然草、第百十四段「今出川、御牛ヲオヒタリケレバ、アガキノ水、前板マデ、ササトカカリケルヲ、云云」 (二)鎧ノ前腰ニアル草摺ノ稱。 本朝軍器考、九、甲冑「凡草摺ハ、前ト後ト相向ト二合ハセテ、一枚アルベシ、前ヲバ前板ト云ヒ、後ヲバ引敷の板ト云フ」

まへ-いはひ (名) 前祝 或事件ノ成功ヲ期待シテ、豫メ祝フコト。

まへ-おき (名) 前置 文章ニ、話ニ、其本分ノ趣意ノ前ニ、其起原ナドヲ言ソコト。マクラ。冒頭。 雪女五枚羽子板(寶永、近松作)上「和殿ガ今ノ言分ハ、其ノ身ノ過リ、人ニ言ハセヌ前置ニ」 八笑人(文政、鯉丈)三編、上「前置ノ枕バカリ長クテ、ヘンテツモナイ事許リ申シマス、一

まへ-おび (名) 前帶 女ノ帶ヲ腹ノ上ニテ結ブコト。昔ハ老若ニ關ハラズナシ、明治以前マデハ、老女ニ存セリ。今ハ悉ク背ニ結ブ。 嬉遊笑覽、二、服飾「古ハ帶組ミナ前ニテ結ビシナリ、是白フ處ニシテ、本末ナルベシ、猿樂狂言ノ女、ミナ前帶ナルニテモ知ルベシ」

まへ-がき (名) 前書 文書ノ初ニ、其趣意、起原、等ノ大略ナドヲ記スコト。冒頭。 書言字考節用集、九、言辭門「前書、マヘカキ」

[illegible]まへ出シテ、歌詠ミテクレト云フ」

まへがき（名）［前搔］（一）かぶらゑりニ[illegible]。[illegible]物アリ、圓形ノ物ヲ造ルヲリノ具也、云云、かぶらゑりハ[illegible]（二）[illegible]前陂ニテ地ヲ搔クコト。[illegible]作）二「名ニシ珍ウタル鬼鹿毛ヤ、鬼一口ト悦ビテ、まへがきシテ[illegible]キ、天ニモヒビク許リナリ」

まへかけ（名）［前掛］[illegible]ニ同ジ。[illegible]、六、[illegible]、マヘカケ、マヘダレ、[illegible]

まへがし（名）［前貸］［後拂ニ對ス］後日ニ支拂フベキ代金、賃錢ナドヲ、前以テ借スコト。サキガシ。サキバラヒ。

まへがしら（名）［前頭］相撲ニテ、小結ノ次ニアルモノ。おほぜき（大關）ノ條ヲ見ヨ。古今相撲大全、下、末、相撲人名目「角力人ノ毀首タルモノヲ關ト稱ス、云云、關脇、是ニ次タル號ナリ、小結ハ役ズマフ取ノ小口ノ結ナレバ、ユヱニカクイフ、ソレヨリ以下ヲ前頭トイフ、此稱號ノモノ大勢アリ、此部ニ列スルモノヲ、俗ニ、幕ノ内トイフ、幕ノ外ヲ、通稱、前トイフヨリ、其頭タル取人ナレバ、カク號ス」角力舊記「小結ト云フハ、天正ノ頃ヨリ加入ス、前頭ハ、元祿年中ヨリノ名也」

まへかた（名）［前肩］［後肩ニ對ス］さきかた（先肩）ニ同ジ。

まへかた（副）［前方］（一）サキダチテ。以前ニ。マヘカド。後前[illegible]字[illegible]用集、九、言辭門「前方、マヘカタ」狂言記、比丘貞「前方拜[illegible]ゴザル」（二）前以テ[illegible]、[illegible]存ズル[illegible]、前方ヨリ參レト申付ケウト存ズル」

まへがたり（名）［前語］[illegible]ナドニテ、[illegible]、其[illegible]、主ト[illegible]ルコト。又、ソノモノ。

まへかど（副）［前廉］前前條ノ（一）ニ同ジ。[illegible]「前廉、マヘカド」好色一代男（天和、西鶴）六「宿ヨリハ前廉ノ寄出シ、親方ヨリヘセカルル」

まへがみ（名）［前髮］（一）古ク、ヌカガミ。ヒタヒガミ。昔、童子、又ハ、婦人ノ、額上ノ前方ニ一部ノ髮ヲ別ニ束ヌルモノ。ムカフガミ。[illegible]通（享保、近松作）二「問ヘンモ祖母ノ前髮ノ、ワケテカク共イフニイハレヌ」（二）俗ニ、直ニ、童子ノ稱。本朝若風俗（貞享、西鶴）二「アルタ纔、[illegible]二[illegible]髮アマタ召寄セラレ、云云」

まへがみたて（名）［前髮立］（一）昔、女、若衆ナドノ、前髮ノ中ニ入レテ、高ク立ツルタメニ、鯨骨ニテ造リタルモノ。ふきまへがみ（吹前髮）ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]（貞享）三「[illegible]ヨリ上バカリニ入ル物、云云、[illegible]、前髮立」（二）[illegible]、男ノ前髮ヲ立テテ居ルコト。（元服セザルモノ）又、ソノ人。本朝若風俗（貞享、西鶴）二「子細ハ前髮立ノ時、五十トセ餘リノ念比」

まへかん（名）［前勘］（前勘定ノ略）前以テ勘定シ支拂フコト。マヘバラヒ。

まへがらまき（名）機ノ具。絹ヲ卷キツクルニ用キルモノ。古ク、キノアシ。（關東）キノツメ。キヌマキ。（關西）物類稱呼、四、器用「キヌマキ、キヌヲマク物也、關西ニテ、キヌマキ、[illegible]、チマキ、東國ニテ、まへがらまき、下野ニテ、マヘザラミ」

まへがり（名）［前借］代物ヲ渡サズ、或ハ、仕事ヲ[illegible]前ニ、モノ[illegible]代金、若シクハ、賃錢ナドヲ借ルコト。又、ソノ[illegible]。

まへきん（名）［前金］まへばらひ（前拂）ニ同ジ。マヘギン。サキガネ。[illegible]

まへぎん（名）［前銀］前條ノ語ニ同ジ。

まへきんちやく（名）［前巾着］[illegible]

まへきやうげん（名）［前狂言］昔、芝居ニテ、二番目ノ終ハリタル後、大切ニ始マル迄ニ演ジタル狂言。[illegible]マル、是レヲスミテ、[illegible]ナリ、故ニ前狂言ト云フ、カネ、大鼓ニテ囃スナリ」

まへぎやうじ（名）［前行事］よびだしやつこ（呼出奴）ニ同ジ。古今相撲大全、下、末、前行事の格式「近世、[illegible]ナリテハ、番組ノ前ヲ[illegible]マラズ、ヨッテ行事ノ前役人ヲ拵ヘ、左右（今ハ東西）ノ角力人ノ名乘リヲフレ流ス、勝負決スル前ノ行ヒハ、[illegible]ノ職ヨリ勤ムル故ニ、前行事ト號ス、近來ハ俗ニふれト云フ」

まへく（名）［前句］（一）連歌ニテ、つけあひ（附合）ニ云フ語。其條ヲ見ヨ。[illegible]ひとりおと（享保、鬼貫）「前句ニ心ヲモハコバズ、寢ネテコシラヘ置キタル句ヲモテ、ツケハメタルハ、古キ鞘ニ刀ヲ入ルルガゴトシ」（二）俳諧ナドノ三句十七字ノ稱。（脇句ニ對ス）ひとりおと「先[illegible]江ノ[illegible]テ、[illegible]ト[illegible]、近キモ[illegible]フクベヲ、サゲテブラブラ、ト付侍リケレバ」

まへくづけ（名）［前句附］[illegible]二句十七字ノ[illegible]ニ前ニ句ヲ附ケサスルコト。元祿ノ初ヨリ行ハル。又、初句ヲ出シテ、次ノ二[illegible]レゾレニ心ニカナフ句ヲ己レガ句ト定[illegible]一マデノ數字ヲ封ジテ、入札シテ中テ[illegible]フコト起レリ」我衣（文化、曳尾庵）一「貞享比ヨリ、[illegible]ヨリ題ヲ出シテツケサセ、宜シキニハ褒美ツカハシ「高下ヲシテ、次第ニ甲乙有テ出ス」前句附、成ラ[illegible]作リ」ヤスイ事哉、ヤスイ事哉」一文デ、思ヒノママニ「辛カラセ」（箱館）冠附、トナリカラ」薩フ紅梅ノ、垣根越シ」早イコト」御弓町カラ、矢ノ使ヒ」

まへこうじやう（名）［前口上］[illegible]（口上）ノ條ノ（二）ニ同ジ。

まへごし（名）[illegible]

まへさがり（名）［前下］物ノ、前ノ方ノサガルコト。又、ソノサマ。

まへ-ざし (名) 〔前刺前插〕 又、前刺簪。簪ノ、前髪ト髷トノ間ニサスモノ。多ク鼈甲ヲ用キル。(後刺ニ對ス) 守貞漫稿、十一、女扮「江戸モ、文政以前ハ、云云、兩天釵、ビラビラ簪、前刺、背口刺(前後左ハ、ヘノカウ)、櫛等ヲ挾ミ、紹丈長等ヲ用フ、云云」

まへ-しりへ (名) 〔前後〕 前方ト、後方ト。ゼンゴ。 源、三十四、下、若菜、下「召シイデテ居サセ給ヒ上人共モ、ツキツキシキカキリハ、ミナまへしりへノ心コマドリニ方ワキテ」

まへ-すだれ (名) 前簾　牛車、又ハ、輿ノ前面ニ懸クル簾。ソノ後方ニ懸クルヲ、後簾ト云フ。 餝抄、下「賀茂祭使車、云云、前簾注、貫、下棧、御簾、云云」

まへ-ずね (名) 〔前臑〕 (一)スネノ前ノ方。ムカウズネ。ムカハギ。(二)獸類ノ前方ノ兩足。まへあし。 槍櫂二重帷子(享保、近松作)上「美男草、女菩薩ニ、ツノ國草ヲ、飼ヒニカウタル月毛ノ駒、前ずねト、テ、肌強ク」

まへ-ずまふ (名) 〔前相撲〕 相撲ニテ、幕ノ内ヨリ以下ノ地位ノ稱。又、其地位ニ居ル相撲人。 相撲今昔物語、七、素人相撲之臆見「前頭ノ分、大勢アリ、此部ニ列スル者ヲ、幕ノ内トイフナリ、幕ノ外ヲ前トイフトナリ、前相撲ノ上席ニ居ルヲ中ト云フ、是レ、幕ノ内ト前相撲ノ中央ト云ヘル事ナリ」

まへ-そで (名) 〔前袖〕 牛車ノ車箱、又ハ、輿ナドノ名所。そで(袖)ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。 餝抄、下「賀茂祭使車、云云、前袖」注「左方彫透、云云、右方彫透」

まへ-ぞなへ (名) 〔前備〕 さきぞなへ(先備)ニ同ジ。 甲陽軍鑑、九、上、品第廿三「ハタモト原加賀守、まへぞなへナルガ、御ハタモト、メテノ方ヨリ廻リカカリ、敵ヲクヅス」

まへ-だけ (名) 〔前竹〕 弓ノ名所。射ルトキ、我ガ身ヘ向フ方。 今川大雙紙、ハツシ弓、白木ヲバ、前竹ヲ下ニシテ、後竹ヲ上ニシテ、本筈ノ方ヲ參ラセベキ也」

まへ-だて (名) 〔前立〕 (一)まへだてもの(前立物)ノ略。 甲陽軍鑑、九、下、品第廿八「甲ノ前立ハ、其ノ備ヘ毎ニテ見知リ」 (二)軍人ノ正裝ニ、帽子ノ前頭ニ立ツル裝飾。

まへ-だてもの (名) 〔前立物〕 略シテ、まへだて。兜ノ飾。たてもの(立物)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 甲陽軍鑑、九、下、品第廿八「ミツマキヲ能クシテ、甲ノ前立物ヲ見テ」 老談一言記「冑ノ前立物ニ、シカミト申物ヲスルハ、何ニト尋ネ問奉リシニ、其ハ醜女也ト存ズル、人ヲ食スル神ナル故ニ、武人ノ頭ニ戴クカト仰アリ」

まへ-たり (名) 〔前垂〕 次條ノ語ニ同ジ。 名義抄「袜、韐、マヘタリ」

まへ-だれ (名) 〔前垂〕 膝ノ前ニ垂レテ、衣ノ汚ルルヲ防グ布帛。マヘタリ。マヘカケ。ヒザカケ。蔽膝。 蔽膝 字類抄「袜韐、マヘタレ、韐袜、蔽膝也」 遊仙窟「緑袜」 長町女腹切(正德、近松作)中「悪シヤオレハ三百ヂャ、エエ儘ヨ、前垂、質ニ置カフ迄」

まへ-つぎみ (名) 〔公卿侍臣〕 〔前就君ノ略、つくハ、いつく(齋)、かしづく(傅)ノつくニ同ジ、天皇ノ御前ニ候フ公ノ意〕 天皇ノ御前ニ候フ人ヲ、傍ヨリ崇メテ云フ語。卽チ、朝廷ニ仕ヘ奉ル高キ臣等ノ泛稱。其大政ニ與ルヲ、おほまへつきみ、又ハ、おほまちぎみト云フ。又、三位以上ハ茱卿、四位五位ハ茱大夫ト書シテ、共ニまへつぎみト云フ。音便ニ、マウチギミ。約メテ、マチギミ。マツギミ。又、マチキンダチ。

ウヘビト。景行紀、十八年七月「熊県ノ、ミケノサヲ橋、(マヘツギミ)侍臣讃イ謂フスモ、ミケノサヲ橋」孝德紀、大化二年三月「上(タカキマヘツキミ)臣之惡」神武紀「前(オホマヘツギミ)ニ是時叔、以蒐獲供嫂」、(オホマヘツキミ)鄧侍臣天押子命ニ」孝徳紀三年正月「以左大臣大(オホマヘツギミ)臣ニ」

まへ-づけ (名) 〔前付〕 (一)相撲ノ手。づひねり(頭捻)ノ類ナルベシ。其條ヲ見ヨ。(二)本文ノ前ニ文句ヲ付クルコト。又、ソノ文句。(尻付ニ對ス)

まへ-つと (名) 〔前髱〕 婦人ノ結髪ニ、前髪ヲ前ヘ張出スモノ。

まへ-つぼ (名) 〔前壺ノ義〕 はなを(鼻緒)ノ條ヲ見ヨ。

まへ-つわ (名) 〔前輪〕 又、まへわ。くらぼね(鞍橋)ノ條ヲ見ヨ。 著聞集、九、武勇「打刀ヲ拔キテ、鞍ノまへつわヲ、セメテツキタリ」

まへ-の-もの (名) 〔前物〕 略シテ、まへ。男子ノ陰部。カクシドコロ。 宇治拾遺、九、第一條「イカニト問ヘバ、カウカウト云ヒケレバ、まへのものウシナヒ給事ハ、エ習ヒ給ハズナリメ」

まへ-の-よ (名) 〔前世〕 ゼンセ。さんぜ(三世)ノ條ヲ見ヨ。

まへ-ば (名) 〔前齒〕 齒ノ、前面ニ竝ビタルモノ。薄クシテ廣シ、上下、各、四枚アリ。ヌカバ。ムカバ。ムカフバ。門齒。板齒。當門齒。 箋注倭名抄、二、牛鼻口類 板齒、奴可波(今俗呼二萬倍岐一、又、不加不婆一)」 書言字考節用集、五、肢體門、板齒、マヘバ」

まへ-はば (名) 〔前幅〕 〔後幅ニ對ス〕 衣ノ裰ノ、前ノ方ノ幅。左右兩方ヅリ。

まへ-ばらひ (名) 〔前拂〕 〔後拂ニ對ス〕 賣買、雇傭ヲ約シテ、前ニ代金、若シクハ賃金ヲ拂ヒ渡スコト。サキバラヒ、サキワタシ、サキガネ。マヘキン。マヘギン。ゼンキンバラヒ。前金。前銀。後ニ支拂フヲ、後拂ト云フ。

まへ-ばり (名) 〔前張〕 おほまへかま(大口袴)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 嬉遊笑覽「蝶ノ時、舞人ハまへばりト云フ物着スル也、ソレハ、背ヲ細ク、前ヲ廣クシ、云云」

まへ-び (名) 〔前日〕 一日マヘノ日。

まへ-びき (名) 〔前引〕 客ノ前ニ引出物ヲ置クコト。又、ソノ引出物。 太平記、二十三、公家武家榮枯易地事「飯後ニ旨酒ニ獻爲テ、菜ノ醬物ニ百折百ノ外、一、又前引ノ置物ヲシケルニ」(コハ客ヨリ出シタル前引ナリ)

まへ-びき (名) 〔前彈〕 三味線ナドヲ、歌ヨリ前ニ彈クコト。

まへ-びろに (副) 〔前廣〕 アラカジメ。カネテヨリ。前以ッテ。 長町女腹切(正德、近松作)中「前廣ニ、手形シヤウ爲ニ呼ビニヤッタト語リケル」 關八州繋馬(享保、近松作)三「サルニヨッテ晴ヲ待タズ、前廣ニ參上致ス」 ひどりむど(享保、忠臣藏、「來ル幾日ノ與行ナリト、前廣ニ定置キ」」

まへ-ぶれ (名) 〔前觸〕 事件ノ前ニ告ゲ知ラスルコト。又、豫メ告知スルコト。

まへ-ほろ (名) 〔前幌〕 犢鼻褌ノ前ノ方。 信長物語、一、星野村抜群「右ノカヒナヲツ、トノベ、マタノガまへほろヲツカンデサシノケ」

まへ-まうし (名) 〔前申〕 君ノ前ニテ物申スコト。 源、四十三、竹川二「此ノ前申モ、餘リ、戲レニクシ、イトホシト思ヒテ」

まへ-むき (名) 〔前向〕 〔後向ニ對ス〕 前方ヘ向クコト。マムキ。

まへもって (副) 前以 アラカジメ。マヘカドニ。カネガネ。カネテ。

まへやく (名) 前厄 厄年ノ前年。又、厄年ノ前年ニ罹ル災厄。官中露策、廿二、[illegible]

まへゆみ (名) 前弓 番ヒテ[illegible]射ルニ、初ノ番ニ當レル人。今川大雙紙「前弓ノ人ハ、ツガヒタル矢ヲハヅシテ、肩ヲ入ルベシ」

まへわ (名) 前[illegible] 又、まへ、つわ、のらば[illegible]シタル」

まへわたり (名) 前渡 前ヲ過ギ行クコト。[illegible]まへわたりニ、人ノミココロヲツクシ給フモ、ゲニコトワリト見エタリ」 同、四、夕顔ハ「今日モ此ノ蔀ノまへわたりシ給フ」

まへわたり (名) 前亙 相撲ノ手ノ一。[illegible]

まほ (名) 眞面 (眞面ノ約轉、眞秀ノ義カトモ云フ) (一)ヨクトトノヘタル狀ヲ云フコト。全キコト。十分ナルコト。(眞帆ニ掛ケテ歌ナドニ詠ム) 千載集、十三、戀、三「ソナレ木ノ、ソナレソナレテ、靡ス苔ノ、まほナラズトモ、相見テシガナ」 小馬命婦集「人シレズ、カケトヤ[illegible]ノ、今日ハまほ[illegible]モ、出デニケルカナ」 (二)[轉ジテ、正シキコト。[illegible]シジメ。ホ[illegible]。眞實。(偏・對ス) 源、十七、繪合九「草ノ手ニ、假名ノ所所ニ書キマゼテ、まほノ委シキ日記ニハアラズ」 同、四、夕顔五「偏ナルヲダニ、乳母ヤウノ思フベキ人ハ、アサマシウ[illegible]」 [illegible]タヘライタキ事ナレバ、まほニモエ宣ハデ」 (三)[ウチツケ。ヂカ。直接。源、三十一、槇柱十五「侍ニ人人餘シテ、雪スコシヒマアリ、夜ハ深ケヌランカシナド、サスガニまほニハアラデ、ソソノカシ聞エテ、顔ヅクリアヘリ」

まほ (名) 眞帆 順風ニ正シク掛ケタル帆。十分ニ[illegible]。(片帆ニ對ス) 新千載集、十二、戀、二「大舟ノ、まほノ手縄ノ、風ヲイタミ、引ク方繁キ、人ニ戀ヒツツ」

まぼし (名) 眞星 (一)的ノ眞中ノ星。(二)物事ノタダ中。マタダナカ。

まぼ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [illegible] 目映シノ轉ナリ。マブシ。[illegible] マボシイ。[illegible] 中國ニテ、まぼそしト云、江戸ニテ、まぼしいト云」

マほふ (名) 魔法 魔ノ通力ヲ用ヰテ、幻ニ怪シキ事ヲシテ、人ヲ惑ハスト云フ術。魔術。異術。外術。妖術。幻術。[illegible]

マほふつかひ (名) 魔法使 魔法ヲツカフ人。魔術ヲ行フモノ。幻伎者。

マホメットけう (名) 麥哈默教 英語、Mahometanism. 又ハ、Mohammedanism, Muhammadanism. 或ハ、Islâm.] 西暦第七世紀ノ初、亞刺伯亞ニ起リテ、亞細亞洲ノ西部、亞非利加洲、等ニ行ハルル宗教。其祖ヲ麥哈默(Muhammad)ト云ヒ、其經文ヲ可蘭(Koran.)ト云フ。唯一最大ノ全智全能ノ神あらアふ(Allah)ノ存在ヲ信ジ、且、來世ノ存在ヲ信ズ。其布教ニハ、劍ヲ以テストゾ云フ。支那ニテハ、清眞教、天方教、回回教、回

まほら (名) [illegible] 意、景行天皇ノ御歌ニ、「國ノ宮」トアル[illegible]地。[illegible]シ聞ヘバ」(萬三、筑波山ノ歌) 同、十八、長歌「國ノ麻保良ニ、山ヲシモ、サハニ多ミト」 景行紀、十七年三[illegible]中(景行)五十「倭ハ、國ノ麻本呂婆」

まほらば (名) 前條ノ語ヲ見ヨ。

まぼら・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 守 「まぼる(守)ノ延」 まもる(守)ノ[illegible]らへ、シレキヒシナ[illegible]」

まほらま (名) [illegible] 其[illegible]、及、くにのほ(陝匾)ノ條ヲ見ヨ。

まぼり (名) 守 まもり(守)ノ轉。[illegible]

まほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [まハ發語カ、或ハ旨欲ル、ノ意カ、又、おさはる、ノ約ト云フ] [illegible] 土佐日記、正月九日「[illegible]」 [illegible]まうほる物、日ニ橘一ツ、柚三ツ、まうほらズ」

まぼ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 守 (一)[まもる(守)ニ同ジ。 名義抄「護、マボル、モル」 [illegible] 舟トシテ、トモヘノカガリヲまぼれトテ」 (二)見

[illegible]「ツクヅクト、外ヘモ出デヤラレズ、まほらルルニ」

まぼろし (名) 幻 [目惑ル意カ] (一)現在セヌ姿ノ、現在セルガ如クニ見ユルモノ。[illegible]ルヤウニ見エテ、間モナク消エ失スルモノ。又、夢ウツツ、マボロシト云ヒ[illegible]空ヲ、カヨフまぼろし、夢ニダニ、見エコヌ魂ノ、行クヘタヅネヨ」 千載集、十五、戀、五「思ヒアマリ、打[illegible]モガナ、ツテニテモ、魂ノアリカヲ、ソコト知ルベク」 拾遺集、八、雜、上「[illegible]ヘリ、踏ミ通ハサン、まぼろしモガナ」

まほろば (名) まほら[illegible]ニ同ジ。其[illegible]、及、くにのほ(陝匾)ノ條ヲ見ヨ。

まま (名) 乳母 [illegible] 御乳ノ人。源、十五、蓬生廿「コままノ宣ヒ置キシコトモアリシカバ、云云、ままノ遺言ハ更ニモ聞エサセズ」 同、五十、浮舟卅「ままガ心ヒトツニハ、アヤシク[illegible]

まま [illegible] (天保、足代弘訓)下、小兒語、嬰兒ノ語ニ、云云、飯ヲままトイフハ、うまうまノ[illegible] 乳母[illegible] り米三石賜ひたる返事に「日本サへ、及ヒナキ身ニ、

一ゴクフ、まゝニセヨトノ、御ハゾウレシキ」 儲立侍侍の狂哉「一度タク、米サヘ強シ、ヤハラカシ、思フまゝニハ、ナラヌ世ノ中」(二、壬戌、二二) 伽羅先代萩(天明、松貫四等合作)政岡ノ詞「ヤイ政岡、オレハチットモ空腹ニハナイゾヨ、大名トイフ者ハ、飢モ付ゼタヘズニ、斯スワ テ居ルモノジャ」

まゝ (名) 【閒閒】 アヒダゴトニ。アヒダアヒダ。アハヒアハヒ。スキマスキマ。萬葉集、十五 廿「イハバシノ、閒閒ニ生ヒタル、カホ花ノ、花ニシアリケリ、アリツツ見レバ」

まゝ (名) 【儘任隨】 (一)〔其有形(アリカタ)ノ打任セ從フ意ノ語。字類抄「任、ママ」 源、四、夕顏 五「心ノまゝニ、トブラヒマウヅルコトハナケレド」 同、同、同四十六「我ガ心ノまゝニトリナホシ見ンニ」 榮花物語、十六、本雫「御隨身バラ、涙ヲ流シテ、堀ノまゝニ伏シマロビ」 「有ルカまゝニ用ヰル」 其まゝニ窮ス」 (二)思フトホリ。隨意 狂言記、笠の下「家ノ内ノ物ハ、皆身共ガまゝデオヂャル」

まゝ (副) 【儘隨】 ナガラ。ソレヨリスグニ。 更級日記「初瀬、云云、出テシまゝニ、稲荷ニ詣デタラマシカバ、カカラズヤアラマシ」 狂言記、若市「物物シヤト云フまゝニ、上人トムズト組ンデ」

まゝ (副) 【閒】 閒ニ閒ニ。ヲリフシ。ヲリヲリ。トキドキ。字類抄「閒、ママ」

まゝ (接頭) 【繼】 〔閒閒ノ義ニテ、隔テアル意カト云フ、又、まゝはは(繼母)ノ條ヲモ見ヨ〕 父母子女ノ、生サヌ中ナルヲ假ニ定メタルモノ。又、兄弟姉妹ノ、異腹ナルモノニ被ラセテ云フ語。(嫡庶ヲ論ゼズ) 倭名抄、二 六十「父母類「繼父、萬萬知知、繼母、萬萬波波」 天治字鏡、二「嫡母、萬萬波波」 同、二二「庶兄、萬萬兄、町、萬萬妹」 源、十一、極杜 止「マシテカク末ニ、神ナル繼子(ママコ)カシヅキナシテ」 榮花物語、二、花山「イトオトナオトナシキ御繼(ママム)メ 女程ナドヲ、世人、内内ニハ聞ユベカンメレド」

まゝいも (名) 【繼妹庶妹】 ハラガハリノ妹。異腹ノ妹。天治字鏡、二二「町、萬萬妹」 古事記、中、廿九「庶妹ハ、麻麻伊毛(ママイモ)ト訓スヘシ」

まゝおや (名) 【繼親】 〔沖繩ニテ、まゝまうやト云フ〕 生サヌ中ナル父母ヲ、假ニ吾ガ父母ト定メタルモノ。即チ、繼父、又、繼母。前前條ノ語ヲ參見セヨ。

まゝき (名) 【細射】 一種ノ製ノ弓、又ハ、矢ニ云フ語。次次條ノ語ヲ見ヨ。千載集、十八、物名「まゝきノ矢立」 宇治拾遺、十五、第四條「身ハ貧シクテゾアリケルニ、まゝきヲ好ミテ射ケリ」

まゝきや (名) 【眞卷矢】 次條ノ語ヲ見ヨ。

まゝきゆみ (名) 【眞卷弓】 〔繼木弓(ママキユミ)ノ意ト、又、眞纏弓ノ義トモ云フ、園太暦、文和五年三月廿七日「眞卷弓、眞弓卷ニ籐攻權ハ號ニ眞卷ニ歟」 琉球古歌、おもろニ「三日月ハ、御神ノ金眞弓(カナマユミ)、明星ハ、御神ノ金まゝき」〕 眞弓、即チ、丸木ノ弓ニ、樺ノ皮ナド卷キタルモノ。其他、異説多シ。此弓ニテ射ル矢ヲ、まゝき矢ト云フ、木製ニテ、漆等ニテ塗リ、鏃ハ平題(イタ)ナリ。征戰ノ用ニ非ズ、的射、遊戲ノ具ニシテ、楊弓ノ大ナルモノノ如シ。略シテ、主トシテ、賭弓等ニ用ヰラル。略シテ、まゝき。 倭名抄、四 射藝具「細射弓箭、萬萬岐由美」 兵庫寮式「凡御杵弓一張、箭四具、云云(一具廉廉伎、云云)、鐵十二兩二分、鉄錫三分 已上廉廉伎鐵料」」 次將裝束抄、射禮、賭射、弓場始、束帶、相ニ具弓矢ハ(眞卷弓矢也)」 木工權頭爲忠朝臣家百首、射場始「まゝき射ル、大宮人ハ、今日ヤサハ、冬ノ弓場ニ、立チハジムラン」

まゝこ (名) 【繼粉】 粉ノ水ニテ捏(コ)ネタル中ニ、マダ粒トナリテコナレザルモノ。

まゝこ (名) 【繼子】 生(ナ)サヌ中ノ子ヲ、假ニ吾ガ子ト定メタルモノ。まゝ(繼)、及、まゝおや(繼父)ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄(二本二)、夫妻類「前妻之子、後妻所稱、前夫之子、後夫所稱、並、世俗、繼子ニ」 弓林(口用集(慶長))下、人倫門「繼子、ママコ」 宇津保物語、國讓、上 八十三「まゝこナリシ人ノタメニ、親ノ寶トスル帶ヲ取リカクシテ、コレヲトラストイヒ、云云」

まゝこかしづき(ママコカシズキ) (名) 繼子ノ如ク、疎外スルヤウニ養ヒ育ツルコト。 源、三十一、槇柱 廿二「マシテカクスエニ、スズロナルまゝこかしづきヲシテ、ヲノレフルシ給ヘル、イトオシミニ」

まゝこだて (名) 【繼子立】 雙六ノ白黑ノ石ヲ、一●一○三●五○二●二○四●一○一●三○一●二○三●一○ト並ベ置キテ、數ヘテ十ニ當ルヲ取リ行キ、最後ニ唯一ツ殘ル遊戲。下ノ出典ヲ見ヨ。 新編塵劫記、三、第一 まゝこだての事「子三十人有、内十五人ハ先腹ノ子也、十五人ハ當腹ノ子也、カクノ如ク、圖略、立テ並ヘテ、十ニ當ルヲノケ、又廿ニ當ルヲノケ、廿九マデノケテ、殘ル一人ニ跡ヲ讓リ候ハント云フ時ニ、繼母、カクノ如ク立タル也、扨カゾヘ候ヘバ、先腹ノ子十四人迄ノキ候時ニ、今一タビ數フレバ、先腹ノ子皆ノキ候ユヘ、一人殘リタルまゝ子ノ云ヤウハ、アマリカタ一雙ニノキ申候閒、今ヨリハ、我カフ數ヘ給ヘト云ヘハ、是非ニ及バスシテ、一人殘リタル先腹ノ子ヨリ數ヘ候ヘバ、當腹ノ子、ミナノキテ、先腹ノ子一人殘リテ、アトヲトルナリ」 徒然草、第百三十七段「まゝこだてト云フモノヲ、雙六ノ石ニテ作リテ」 異制庭訓往來、正月、碁石遊「繼子立」 賀古教信七墓廻(元祿、近松作)一「碁石ノ繼子立、カゾヘ殺サン喰ヒ殺セ」

まゝごと (名) 【飯事】 女兒ノ、玩物ヲ以テ、飯炊(メシタキ)、料理ノ事ナドヲシテ遊ブコト。又、飯炊キ、種種ノ食物ヲ料理スル學ビゴト。アネサマゴト。 好色一代男(貞享、西鶴)二「手ツカラ江拾フ業シテ、飯事ノ昔ヲ今ニ、ハジキト云フナトシテ遊ビヌ」 柳樽、初編「まゝごとノ、世帶クヅシカ、アマエテ來」

まゝ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【繼】 繼母、繼子、又ハ、はらちがひニテアリ。生サヌ中ニアリ。又、疎外スル狀ニモ云フ。 謠曲、正儀世守「月日ノ如ク育テシニ、カクまゝしき中ゾトハ、イマダ知レル人モナシ」 儀碩(貞享、西鶴)二、九歳ノ時、母ニ後レ、五年立タサルウチヨリ、まゝしきニカカリヌ」

まゝせ (名) 【繼兄庶兄】 〔まゝえ(繼兄)ノ條〕 ハラガハリノ兄。異腹ノ兄。異母兄。 字鏡「庶兄、萬萬兄」 天治字鏡、二二「庶兄、萬萬兄」 古事記傳、三十「庶兄ハ、字鏡ニ、庶兄、萬萬兄トアリ、如、此訓ズベシ」

まゝちち (名) 【繼父】 〔まゝ(繼)ノ條ヲ見ヨ〕 母ノ配偶者ニテ、血緣上ノ關係ナキモ、假ニ父ト定メタルモノ。母ノ後夫(ケイフ)。繼父(ケイフ)。 倭名抄、二 六「父母類「繼父、萬萬知知」 字類抄「繼父、ママチチ」 字鏡「繼父、萬萬父」 大和物語、上、殷式部卿宮ノ、宮ノ御ニ、まゝちちノ少將ノスミケルヲ、云云」

まゝなき (名) 【吃】 〔閒啼(ママナキ)ノ意ニテモアルカ、今モ奥州、越後ナドニテ云フ〕 ども(吃)ノ條ヲ見ヨ。 名義抄「吃、コトトモリ、ママナキ」 字鏡 四十「吃、言難也、重言也、已止止毛、又、万万奈支」

まゝみ (副) 【儘隨任】 〔まゝまゝノ略〕 (一)〔まゝまゝ(儘)ニ同ジ。萬葉集、十三 九十長歌「スメロギノ、マケノ萬萬爾(一本)、ヒナサカル、國治メニト」 後拾遺集、六、冬「サ夜フクル、まゝみ汀ヤ、凍ルラン、遠ザカリ行ク、志賀ノ浦波」 (二)云云ノアマリニ。「オモシロサノまゝみ」

まゝばえ (名) 【閒生(ママハエ)カ、繼生(ママハエ)カ】 ひつち(稻孫)ノ條ヲ見ヨ。稻孫。 物類稱呼、三、生植「稻、ヒツチ、云云、佐渡ニテ、まゝばえトイフ、伊勢白子ニテ、二バンゴト云、越前ニテ、ヒトテトイフ」

まゝはは (名) 【繼母】 〔乳母(ママ)ニ起リ、乳付(チツケ)ヨリ繼子(ママコ)ヲ呼ビシガ元トナリ、延イテ、

父、兄ナドニ及ビシ語ナラム」 先妻ノ子ノ[illegible] 繼母ト定メタルモノ。父ノ後妻。繼母[illegible]見ヨ。 字類抄「繼母、ママハハ」名義抄「繼母、ママハハ」 宇津保物語、國讓、上[illegible]「親ヲモ見ステテ、マカリ出デニシ、ソノ人、ままはは二侍リシ人ナリ」源、二、帚木[illegible]「コノまま母ノアリサマヲ、アタラシキ物ニ思ヒテ、追從シ寄ル心ナレバ」

ままびと (名) ［繼人］ (一)ママシキ人。 [illegible] 生[illegible]中ノ人、[illegible] [illegible] マミエントハ思ハネドモ、云云」

ままま [illegible] 繼子孫 [illegible] 記、廿二、衣笠合戰事「大介ハ、哀レ聞クハ、畠山ニ見合ヒテ斬ラレバヤ、繼子孫也、其ノユカリムツマシト思ヒケレドモ」

ままむすこ (名) ［繼息子］ 生ミノ子ニアヌ息子。男ノママ子。

ままむすめ (名) ［繼娘］ 生ミノ子ニアラヌ娘。女ノママ子。 榮花物語、二、花山「イトオトナオトナシキ御まま女ノ程ナドヲ、世人、内内ニハ聞ユベカメレド」

ままよ (感) 何トデモナレ。如何ナルトモ構ハヌ。 狂言記、宗論「五日十日暇ノイル事[illegible]ロト、ままよ、待合セ[illegible]道[illegible]サウゾ」

ままよ [illegible] 放任スル状ニ云フ語。如何トモアレト。ドウナラウトモ。サモアラバアレ。 史記抄(文明)十六[illegible]「ナントアラウトモままよトアノ」 四河入海[illegible]世間ハナントムツカシカラウト、ナニトアラウトままよ」

ままよめ [illegible] 繼嫁[illegible] 古敦信七墓廻(元祿、近松作)一「殘ル繼嫁、二人ノ孫ヲ喰ヒ殺シ、四海ヲ神ノ御供トナシ」

まみ (名) ［目見］ 目ヲアゲテ見ル目色。 [illegible] 子、九、第百六段「髮振リカケタルまみナドハ、恐ロシケレド」今昔物語、廿二、第八語「尻目ニ見ヤリ給[illegible]」

まみ (名) ［眉］ まみあひ(眉相)ノ略。 [illegible] 源、五、若紫[illegible]ニ、まみノホド、髮ノウツクシゲニ、ソガレタル」

まみ [illegible] 名、[illegible] 今、又、[illegible] [illegible]ノ屬[illegible] 肥エテ、豚ノ如ク、黄黒クシテ、淡褐毛ヲ雜ヘ、背ニ、頭ヨリ尾ニ互リテ、一條ノ黑キ線アリ。首、痩セテ長ク、喙、尖リ、四足ノ指、五ツニ分レテ長シ。山野ニ穴居シ、走レコト遲ク、善ク睡ル。肉ノ味、[illegible] [illegible] 本草[illegible]ミ、ミダヌキ、京ニいず、貍類也」 (二)又、あなぐま、あなほり、ノ一名。(木曾)

マみ (名) 魔魅 人ヲ騙カス妖魔。魔物又、邪惡ナル人ニ[illegible]ヘ云フ語。 [illegible] 杜光庭[illegible] [illegible] 太平記、廿[illegible] 下皆魔魅ノ掌握ニ落ツル世ニナランズラン」

まみあひ (名) ［眉］ 「眉相ノ義カ」 まみ(眉)ニ同ジ。(伊豆) 物類稱呼、一、人倫「眉、マユ、關西ニテ、マユゲトイフ、東國ニテ、まみあいト云フ、奧州ニテ、コウノケトイフ」

まみえ (名) ［眉］ まゆ(眉)ノ訛。(東京) 浮世床(文化、三馬)二編、上「女ガイイノ、美シイノト云テモ、まみえヲ落ス時分ニ、落サネエ奴タカラ」

まみえ (名) ［目見］ (一)マミユルコト。 [illegible] ホッキ。 [illegible] (一本)、一、第一條「まみえ、有様、[illegible]二露クヤンゴトナキ[illegible]」

まみ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) ［塗］ [illegible]

まみだぬき (名) ［猯狸］ 訛シテ、まめだぬき[illegible] 同ジ。

まみづ (名) ［眞水］ [illegible] マジリモノ[illegible]ノ水。

まみなみ (名) ［眞南］ タダシキミナミ。正南。午。

まみ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(自動、下二) ［見］ [illegible] 見エ[illegible] 見モシ見ラレモスル意、めみえト云フモ、是レナリ、みゆ(見)ノ條ヲ見ヨ」會ふ、ノ敬語。貴人ノ目通リニ出デテ、見知ラル。目見ユ。御目ニカカル。謁 字類抄「見、マミユ」名義抄「謁、マミユ」 [illegible]

まみ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) ［塗］ [illegible] 濡レ汚ル。マブル。マミレル。 [illegible]「淪、マミル」「塗、マミル、ヨダハル」 遊仙窟「淪滑、マミレタリ」 大和物語、下「血ニまみれタル男、[illegible] [illegible] ノマツハ(ハツミイ)ニ、まみれツツ、秋ノタノミモ、長カラヌカナ(ヨニイ)」「一敗地ニ塗る」泥ニ塗る」

＊まみ・れる (動) ［塗］ 前條ノ語ノ口語

まん (名) ［間］ 〔まノ音便〕 ま(間)ノ條ヲ見ヨ。ソヲ直スコトヲ、まんナホシト云ノ [illegible] [illegible]「まんカワルイ」

まん (名) ［滿］ (一)ミツルコト。一杯ニナルコト。充滿スルコト。(二)オゴリ、[illegible] 十分ニ引キテ、ソノママ放タズ居ルヲ云フ。 [illegible]「持滿、[illegible]」 (二)極度ニ達シタルトコロ。 [illegible]

まん (名) ［卍］ まんじ(卍)ノ條ヲ見ヨ。

まん [illegible] ブル幕。上端ノ乳ニ綱ナドヲ通シテ張ル幕[illegible] [illegible]「立毛丈嶋[illegible]一字、[illegible]」 古今要覽稿、百四十六、[illegible]

まん (數) ［萬、万］ 〔正字通「萬、俗省作万」〕 [illegible] 十倍

まん (接頭) ［滿］ 其數ニ滿チタル意ヲ表ハス語。 [illegible]

まんいう (名) 漫遊 [illegible] 歩キアソブコト。 [illegible]

まんいち (副) 萬一 萬ノ中ニヒトツ。絶エテ無カルベキニ、若シアラバ。マンガイチ [illegible]

まんいつ (名) 萬一 萬分ノ一。[illegible]

まんえつ (名) 滿悅 滿足シテ喜ブコト。[illegible]

まんえふ (名) 萬葉 [illegible] 萬世 萬代 [illegible] 也。 顏延之、三月三日曲水詩序「拓世貽統、固萬葉」 後紀、五、延曆十六年二月十三日「彰善[illegible]」

まんえふがき (名) 萬葉書 まなかき(眞字書)ノ條ヲ見ヨ。

まんえふがな (名) 萬葉假名 まなかき(眞字書)ノ條ヲ見ヨ。(萬葉集ハ、假名ヲ眞字ニテ記セレバ云フ) [illegible] 云云、コレヲ世ニ萬葉假名トイヘリ

まんえん (名) 蔓延 蔓衍 ハビコルコト。ノビ、ヒロガルコト。[illegible]

まんが (名) 〔馬鍬ノ轉〕 (一)まぐは(馬鍬)ニ同ジ。(二)馬鍬ノ用ニシテ、人ノツカフモノ。形、熊手ノ如シ

まんかい (名) 滿開 花ノ十分ニ開キタルコト。花ノマサカリナルコト。

まんがいち (副) 萬一 又、まんいち。モシモ。ヒョットシテ。

まんかう (名) 滿腔 〔集韻「骨體曰レ腔」〕 まんしん(滿身)ニ同ジ。[illegible]

まんがち (副) 〔目勝ノ音便カ〕 甚ダ短氣ナル狀、又ハ、甚ダ急ナル狀ニ云フ語。 吉野都女楠(正德、近松作)四「ヤア傳五平、ソレハまんがち、[illegible]」 [illegible](享保、近松作)一「出拔イテ、まんがちニ乘リ出スナ」

まむかひ (名) 眞向 眞ノムカヒ。正シク正面。

まむか・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 眞向 正シクムカフ。又、正面ニ向キ合フ。

まんかん (名) 滿干 かんまん(干滿)ニ同ジ。

マンカン (名) 饅羹 晚羹 〔字ノ宋音〕 [illegible] マンカン」 後訓栞、下「朝ニ點心ト云ヒ、晝ニまんかんト云フト、[illegible]ハ、饅頭ノ書ニヤ」

マンガン (名) 滿俺 [illegible] Manganese.〕 (一)金屬元素ノ一。鐵ニ似タル帶赤灰色ノ光澤ヲ有シ、酸ニハ甚ダ能ク溶解シ、合金ノ材料トシテ重要ナルモノ。二酸化滿俺トシテ天然ニ多ク產ズ。(二)常ニハ、過酸化滿俺(二酸化滿俺トモ云フ)ノ稱。形、圓ク、大ナルハ一分許リ、小サキハ黍粟ノ如ク、鐵黑色ニシテ光ル。酸素、鹽素、又ハ、漂白粉ノ製造等ニ供ス。無名異

まんかんしょく (名) 滿艦飾 (一)祝ノ時ナドニ、在泊中ノ軍艦ガ、其全部ニ飾ヲ施スコト (二)身ナリヲ花ヤカニ飾リ立ツルコトニ譬ヘテ云フ語。

まむき (名) 眞向 正シク前ヘ向キタルコト 正面

まんき (名) 慢氣 まんしん(慢心)ニ同ジ。 易林節用集(慶長)下、言辭門「慢氣、マンキ」 甲陽軍鑑、[illegible]

まんき (名) 滿期 期限ノ滿チタルコト。又、[illegible]コト。

まむぎ [illegible] 「古ヘ、大麥ヨリハ、小麥ヲ賞シ[illegible]」 [illegible]ぎ(小麥)ノ古名。むぎ(麥)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

まんきん (名) 萬金 [illegible] 千金 [illegible]

まんぎん (名) 漫吟 [illegible] ルコト。詩歌ヲ、漫ニクチズサムコト。[illegible]

まんぎゃう (名) 萬行 佛教徒、又ハ、修驗者ナドノ修ムル種種ノ行。一切ノ行法。 [illegible]

マングウス (名) 〔英語、Mongoose.〕 食肉類、[illegible]ノ名。形、[illegible]ハ[illegible]、長大ナル尾アリ。小動物ヲ捕ヘ食ス。印度、亞弗利加洲ナドニ產ズ。コレニ、かにくひまんぐうす(一名、臺灣まんぐうす)トテ、好ミテ蟹ヲ食スルモノアリ。

まんぐゎ (名) 漫畫 イタヅラガキノ畫。形式ニ拘ラズ、滑稽、或ハ、諷刺ノ意ヲモフクメテ[illegible]

まんぐゎい (名) 滿會 [illegible]講ナドノ終期トナルコト。

まんぐゎつ (名) 滿月 まんげつ(滿月)[illegible] レ給シまんぐゎつノ御容モ」(覺一本)

まんぐゎん (名) 滿願 神佛ニ、日數ヲ定メテ祈願[illegible]、其日數[illegible]コト。[illegible]

まんぐゎん (名) 萬卷 多クノ卷物。又、[illegible]

まんけい (名) 蔓荊 灌木ノ名。はまばひ(蔓荊)ニ同ジ。

まんげつ (名) 滿月 (一)又、まんぐゎつ。月ノ滿面カガヤキテ、マンマルク見ユル時ノ稱。モチヅキ。十五夜ノ月。[illegible] (二)〔琵琶〕[illegible] 長ナル圓キ孔[illegible] 撥手ノ下ニアリ、見エザル故、[illegible]月トモ云フ [illegible]

まんげん (名) 萬言 數多ノ言葉。[illegible]

まんげん (名) 漫言 深ク考ヘズニ云フコトバ。ソゾロゴト。ヨシナシゴト。又、トリトメモナキ言。漫語。

まんげゑ (名) 萬花會 佛教ノ語。數多ノ花ヲ盛リテ、供養スル法會 [illegible] 吾妻鏡、五、[illegible]「六月十四日[illegible]」

まんゐ (名) 〔陰門〕〔眞處ノ音便〕女兒ノ陰部。

まんご (名) 〔漫語設語〕 まんげん(漫言) [illegible] 後語(宋、邵博)「予見司馬公親書一帖、光年五六歳、作一古詩胡桃、女兒欲ニ得熟ヲ 其皮ハ不レ得、女兒去、一婢 [illegible] 公 [illegible] 之曰、小子何得ニ漫語、光自レ是不ニ敢漫語ニ」

まんご (名) [illegible] まうげん(妄言) 同。

〜**まんごうがしや** (名) 〔萬恒河沙〕〔萬ハ其數ノ多キヲ云フ〕 [illegible] (恒河沙) ニ同ジ。宇津保物語、俊蔭「ソノトキニ此仙人、[illegible] 陀羅尼ヲ經等三昧ニヲコナヒツトメテ」

まんごくどほし (名) 〔萬石通〕 せんごくどほし(千石通)ノ條ヲ見ヨ。

〜**まんゴフ** (名) 〔萬劫〕〔こふ(劫)ノ條ヲ見ヨ〕 世界ノ成壞(成立ト壞滅ト)ヲ經ルコト一萬年ノ稱。轉ジテ、極メテ長キ年月ノ稱。[illegible] 宇津保物語 [illegible]「イハンヤ、ソコハクノ年月、ナンオホシタツクル [illegible] 深ケレバ」「萬劫ノ代」

まんゴフまつだい (名) 〔萬劫末代〕 [illegible] 萬劫ノ後ノ見ヨ、萬億年ノ後、ナド云フノ意ノ語。萬劫ノ後ノ世。[illegible] 萬劫末代、家ノ氏ヲケガスト知ラヌ家老殿」

まんざ (名) 〔滿座〕 座中全體。座ニアル [illegible]

まんさい (名) [illegible] (一)イッパイニ、ソ [illegible] (二) [illegible] 事件ニ關スル [illegible]

まんざい (名) 〔萬歲〕 (一)ばんぜい(萬歲)ニ同ジ。ヨロヅトセ。大邦、奈良朝以前ニハ、よろづとせ、平安朝時代ニハ、ばんぜい、まんざい、略シテ、まざい、よろおぶナド訓ジ來レルハ、書紀、三代實錄、榮花物語、源氏物語等ニ [illegible] 萬歲考(布利幡雄)ニ云ヘリ。神樂歌ノ前張ノ終リノ祝言ノ曲ノ千歲ニ「千トセノ千歲ヤ、ヨロヅヨノ萬歲ヤ」トアリ。史記、高祖紀「齊王信 [illegible]」平安朝ニ至リ、仁明紀ニ見エ、弘仁內裏式、元正受朝賀式、貞觀儀式等ノ元正受朝賀ニ群臣朝賀ノ儀ニ「武官俱立、振レ旗稱ニ萬歲ニ」トアリ、又、延喜式 [illegible] 呪ニ「請延ニ帝祚ヲ、呪曰、東至扶桑、西至虞淵、南至炎光、北至弱水、千城百國精治、萬歲、萬歲、萬歲」トアリ。又、公事根源、正月元日、朝賀「武官萬歲ノ旗ヲ振ル也」トモアリ。以上、萬歲ヲ唱フルハ、皆君王ニ對スル敬稱ナリ。明治廿二年二月、憲法發布式擧行ノ際、外山正一ノ首唱ニテ、萬歲ヲ唱ヘ出セリ。 (二)元ト、正月五日、宮家ノ公事ナル千秋萬歲(せんずまんざい)ヲ [illegible] 次ニ、千秋萬歲(其條ヲ見ヨ)ト [illegible] 者ノ稱。關東ヘ來ルハ、三河國ヨリ出デ(三河萬歲ハ、江戶開府ニ [illegible] テ、[illegible] 務メタリ。其萬歲ノ太夫ノ [illegible] ナル [illegible] ノ訛ナルベシ)京都ヘハ、大和國ヨリ出ヅ。(大和萬歲ハ、大和國 [illegible] 村ヨリ出ヅ) 看聞御記、應永廿五年正月四日「千秋萬歲 [illegible]」[illegible] 萬歲ヤウノモノヲ稱ス」芭蕉句集、春「山里ハ、萬歲オソシ、梅ノ花」

まんざいばた (名) 〔萬歲旗〕 ばんぜいはた [illegible] 同 [illegible]「[illegible] 二テ萬歲ノ二字ヲ篆字ニ書ケリ」

まんざいらく (名) 〔萬歲樂〕 (一)〔又、ばんざいらく。まざいらく。〕舞樂ノ曲ノ名。唐ノ則天武后ノ作ト云フ。[illegible] 語、藤間、上「中納言、まむざいらく、ヲレカヘリヲ [illegible] 舞ヒ給フ」 (二)たふか(踏歌)ノ末ニ唱フル [illegible] 見ヨ [illegible] 也」 (三)俗ニ、地震スル時、災害ヲ免ルルタメニ唱フル呪詞。

まんさう (名) 〔蔓草〕 [illegible] トナリテ、生ヒ出ヅル草ノ稱。[illegible] 秋色

まんさく (名) 〔滿作〕 ほうさく(豐作)ニ同ジ。[illegible]「今年 [illegible] 滿作」

まんさく (名) [illegible] 葉ハ橢圓形、又ハ、倒卵形ヲナシ、葉質厚クシテ少シ縮ミ、互生ス。花ハ黃色 [illegible]

まんさん [illegible]「今日ハハヤ、滿參ニテ [illegible]」

まんさん (名) [illegible] テ、歩クコト。[illegible] 蘇軾詩「[illegible]」

まんさん (名) 〔滿散〕 [illegible] 又、まんさん。[illegible] 終ルコト [illegible] 集、八、宮商門「滿散、マンザン、今世謂ニ法會結願ニ」

まんざん (名) 〔滿山〕 (一)山一杯。全山。[illegible] 山ヂュウ。[illegible] 比叡山全體 [illegible] ノ大衆、殘リ止マル者モナク、皆東坂本ヘ降ドル」

まんざら (副) 〔まざまざノ轉カ〕 (一)マサシク。ヒタスラ。正ニ。[illegible] (二)一向ニ夬レト決ムベカラザル [illegible]

意ニ云フ語。（下ニ打消ノ語ヲ用キル）好色二代男（西鶴）五「後ニハ血文ノ取交シ、まんざら世ノ勤メモ外ナシ」[illegible]要毛（文化、一九）二編、上「一ト夜サデモ、まんざらデナイト思フ客ハ」「まんざら棄テタモノデモナイ」まんざらウソデモナイ」まんざらサウデモナイ」まんざら惡クモナイ」

まむし（名）〔眞蒸飯ノ略轉カ、鰻ヲ飯ニまぶすモノ故、正シクハ、うなぎまぶしめしノ意ナラムカ〕ウナギメシ。（京阪）又、まぶしトモ云フ。守貞漫稿」

まむし（名）蝮蛇　蝮　〔眞蟲ノ略轉、（はたら、またら、かはち、かまち、ト同趣）眞蟲ノ義、眞ハ害ヲナスコト甚シキ故ニ、狼ヲ眞神ト云フガ如シト云フ〕古名、ハミ。又、ハメ。ハビ。ハブ。ヌヅチ。ノヅチ。タヂ。タヂヒ。クチバミ。タチバミ。蛇ノ屬。濕地ニ棲ム。長サ一尺餘、灰色ニシテ黑キ斑アリ。又、小サキ朱點アルアリ。尾ニ刺アリ、動モスレバ人ヲ嚙ム、齒ノ毒、最モ人ニ甚シ。肉、味美ナリト云フ。轉ジテ、まぶし。反鼻（ヘンピ）。　易林節用集（慶長）上、氣形門「蝮、ハミ」同、下、氣形門「蝮、マムシ、虮、同」下[illegible]年正月十四日「眞蟲、蛇眞蟲」狂言記、六地藏「身ドモハ幼少ヨリ、蝮蛇（マムシ）ハ嫌ヒデオリヤル」

まんじ（名）〔滿紙〕紙イッパイ。紙面全體。　陸游詩「掃レ壁拾得殘詩稿、滿紙風雅字半斜」

まんじ（名）〔滿字〕滿洲語ヲ記スニ用キラルル一種ノ文字。字體ハ梵字ニ似ル。蒙古字ハ回鶻（ウイグル）字ニ出デ、滿字ハ、此蒙古字ニ因リテ、清朝ノ太宗ノ時代ニ、學者達海（ダハイ）ガ帝ノ命ニヨリテ、改メ作レルモノト云フ　滿洲文字。滿文。

まんじ（名）〔卍〕〔卍字〕〔萬字ノ義、卍ヲ萬ト音讀ス、モト印度ニ相傳セル吉祥ノ標相ニテ、梵語、室利靺蹉洛刹曩（Śrīvatsalakṣaṇa）、吉祥海雲相ノ義、即チ、功德圓滿ノ意ナリ、鳩摩羅什、玄奘等ハ德字ト譯シ、菩提流支ハ萬字ト譯セリ。（一）菩薩ノ胸前ニアル相。吉祥萬德ノ集マル所ト。コレニ文字ト標相トノ二說アリ。德字トスルハ標相說ニシテ、萬字トスルハ文字說ナリ。又、其形ノ左旋ナルヲ卍（みぎまんじ）トシ、右旋ナルヲ卐（ひだりまんじ）トス。　唐譯華嚴經、四十八「如來胸臆有大人相、形如卍字、名吉祥海雲」華嚴音義、上「卍字之形、今勘ニ梵本、卍字乃是德者之相、元非字也、云云、音之爲萬、謂、吉祥萬德之所集也」（二）卍ノ如キ象（カタチ）。　俳諧新選、夏「牡若、卍ホロリト、ヒラケタリ」「卍巴ト入亂ル」（三）紋所ノ名。カドタテまんじ、ヒダリまんじ、マルまんじ、ミギまんじナドアリ。

まんじうらく（マンジユウラク）（名）〔萬秋樂〕又、まんたらく。雅樂ノ曲ノ名。婆羅門僧正、佛哲ヨリ傳來セルモノト云フ。　倭名抄、四「曲調類[illegible]萬秋樂」盛衰記、十五、高倉[illegible]「抑萬秋樂ト云曲ハ、本ハ都卒天上ノ樂也」樂家錄、廿八、樂曲調法「中華曲、盤渉調、萬秋樂、[illegible]」宇直具、秋字獨、此曲雖有三十五異名、略之」

まんじともゑ（マンジトモエ）（副）〔卍巴〕入リ交リテ、相追フガ如キ狀ニ云フ語。「雪ハ、まんじ巴ト降リシキル」

まんじん（名）〔慢心〕又、まんしん。自ラ好シトシテ、誇リ驕ルコト。しちまん（七慢）ノ條ヲモ見ヨ。　慢氣、增上慢　華嚴經「起ニ慢心一、自高陵ニ彼」國語、晉語「[illegible]」[illegible]林逸節用集、雜用「慢心、マンシン」徒然草、第百六十七段「ヲコニモ見エ、人ニモ言ヒケタレ、禍ヒヲモ招クハ、只此ノ慢心ナリ」謠曲、善界「少シモ慢心ノ事アラバ、皆ワガ道ニ誘引セズトイフ事ナシ」

まんじん（名）〔滿身〕ナラダヂュウ。全身。總身。渾身。遍身。　陸[illegible]、春夕[illegible]詩「醉後不知斜月上、滿身花影倚人扶」鄭谷、行路難詩「天明始覺滿身霜、[illegible]」

まんじゅ（名）〔滿珠〕しほみつに（潮滿瓊）ノ條ヲ見ヨ。

マン-ジュ（名）〔曼殊〕〔曼ハ文ト通ズル、梵語、Mañjuśrī ノ新稱ノ下略〕もんじゅ（文殊）ニ同ジ。　西域記、四「曼殊室利、唐言妙吉祥、舊曰濡首、又曰文殊師利、或曰曼殊室利、譯曰妙德」[illegible]上「文殊室利、正云曼殊室利、曼殊云妙也、室利云德也」

マンジュシャゲ（名）〔曼珠沙華〕〔梵語、Mañjusaka. 天上ノ華ノ義、又、曼珠沙、赤華ト譯ス〕石蒜科ノ多年生草本ノ名。原野、又ハ、墓地ナドニ多シ。一根ヨリ數葉ヲ生ズ、水仙ヨリ狹クシテ、一尺許リ、綠黑ニシテ、厚ク固ク光ル、夏枯レテ、秋ニ至リ、圓キ莖ヲ出スコト、一尺餘、彼岸ノ頃、頂ニ數花簇リ開ク、深紅六瓣ニシテ細ソク、反リ卷ク、實、熟スレバ、莖、腐リ、新葉ヲ生シ、冬ヲ經テ枯レズ、根モ水仙ニ似テ、茶褐ナリ、有毒植物ノ一ナリ。此草、諸國、方言甚ダ多シ。マカマンジュシャゲ。テンガイバナ。トウロウバナ。ヒガンバナ。カミソリバナ。キツネノカミソリ。シビトバナ。イウレイバナ。ステゴバナ。ステゴグサ　石蒜　法華經、序品「是時天雨曼陀羅華、摩訶曼陀羅華、曼殊沙華、摩訶曼殊沙華、而散佛上」[illegible]名義集、三、百華篇「曼殊沙、此云柔軟華、又云赤華」法華玄贊、二「曼殊沙者、此云赤華、[illegible]亦令見者[illegible]」[illegible]節用集、草木門「曼珠沙華、マンジュシャゲ」平治物語、一、[illegible]「カノ堂ノ下ニハ、摩訶曼陀羅華、摩訶曼殊沙華ノ四種ノ天華開ケタリ」

まむしゆび（名）〔蝮指〕先ノ節ノ、蝮ノ頭ノ如ク曲レル指。又、ソノ如ク、自由ニ曲ゲ得ル指ヲモ云フ。

まんじり（副）少シモ眠ラザル狀ニ云フ語。　傾城反魂香（享保、近松作）中「年寄ッテモ女ノ習ヒ、寢テモ夜ノ目ヲまんじりトモ、明六ツ五ツ四ツニ過グレバ」「まんじりトモセズ」

まん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（自動、左變）〔慢〕慢心ス。自慢ス。　慢ス、[illegible]狂言記、盤山伏「汝、行力ヲまんずるニ依テ、コレマテ顯ハレ出テアルゾトヨ」

まん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（自動、左變）〔滿〕期日ニ至ル。期日ニトドク。期限ガ到來スル。　盛衰記、四十三、宗盛取替子事「二位殿不ニ佛神ニ祈申、月滿じテ生タレバ女子也」

まんすぢ（マンスジ）（名）〔萬筋〕〔萬筋縞ノ略〕千筋ヨリ細カキ縱縞。下ノ出典ヲ見ヨ。　守貞漫稿、十七、織染「萬筋縞、萬筋ニハ、白ニ紺、白ニ茶、茶ト紺、紺ト淺木柿ニアリ、云云、萬筋ハ、二タヲ一ト羽ト云、一ト羽毎ニ隔ツヲ萬筋ト云、二タ羽隔ヲ千筋ト云、木綿ニモ、絹紬、縮等ニモ有レ之」

まむすび（名）〔眞結〕紐ヲ、打違ヘテ結ビ、再ビ打返ヘシテ、又結ブコト。コマムスビ。死結。　蕪村句集、拾遺「眞結ノ、足袋ハシタナキ、給仕カナ」

まんぞらく（名）〔萬秋樂〕まんじうらく（萬秋樂）ニ同ジ。

まんすい（マンスイ）（名）〔滿水〕水ノ十分ニミツルコト。河水ナドノミナギルコト。

まんせい（名）〔慢性〕醫ノ語。病症ノ漸（ザン）

[illegible]ヲ[illegible]ムモノ[illegible]ニ對シ）

まんせい (名) [illegible]

まんせい-しきん-えん (名) 慢性齒齦炎 病ノ名。口中ノ不潔、齒石（齒根ニ固着スル固形物）ノ堆積、又ハ齒牙發生困難ナドノ局部的刺戟、或ハ水銀中毒、鉛中毒、壞血病ナドヨリ[illegible]、齒齦ニ炎症ヲ來シ、紅潮腫脹シテ出血シ易ク、口氣ニ惡臭ヲ帶ブルニ至ル。一名、ハクサ。

まんせい-びカタル (名) 慢性鼻加答兒 病ノ名。鼻加答兒（其條ヲ見ヨ）ノ慢性ナルモノ。概シテ鼻加答兒ヨリ轉ジ、鼻ハ紅色ヲ帶ビテツマリ、嗅覺ヲ失ヒ、頭痛ヲ催シテ、不眠症トナル。多クハ、絶エズ洟ヲ出スヲ特徴トス。舊ク、[illegible]トモ云フ。

まんぜん (名) 萬善 イロイロノヨキコト。アラユル善事。北史、貴元傳「伏惟陛下、[illegible]萬善而化八紘」

まんぜん (副) 漫然 (一)ミダリニ。トリトメナク。(二)深ク考ヘヌ狀ニ云フ語ノ「漫然トシテ云フ」

まんソウ-くやう (名) 萬僧供養 數多ノ僧侶ヲ請シテ行フ供養。又、萬僧會。萬僧供 [illegible]「萬僧供養」[illegible]養、同（應和元年）十一月七日修之」

まんぞく (名) 滿足 (一)ミチタレルコト。全キコト。南齊書、張敬兒傳「自稱三公、[illegible]滿足」(二)心滿足ルコト。思ヒ通リニナレルニ感ジテ、甘ンジテアルコト。望ミノ十分ニ適ヒテ、些ノ不足ヲ感ゼヌコト。[illegible]「ソレハ役ニ立チマシテ、滿足ニ存ジマス」(三)數學ニテ、方程式ノ術語。或方程式ヲ成立セシムル未知數ノ値ハ、ソノ方程式ニ滿足スト云フ。

まんた (名) 轉進 〔轉んで進める義、天神ノ文字ニ同音ヲ利カシタルナリ、まんたハ、もしあなたノ轉略ト、或ハ云フ、賣女ノ音便ト〕天神職（京坂ニテ、大夫ノ次位ノ者、大夫ノ條ノ(七)ヲ見ヨ）ノ遊女ノ一稱。（文化ノ頃、天神ト云ヘル神號ハ憚リアルヲ以テ、改稱シテ轉進ト云フ） 守貞漫稿、十九、娼妓「上方天神ヲ指テ、揚屋及ビ茶屋ノ徒、又、元ナドヨリ呼ブニハ、まんたト云也、或ハまやんたトモ云也、もしあなたノ略、若彼方也、もしハ今俗人ヲ呼ノ發語、彼方ハ他ヲ指ノ[illegible]也、もしあなた、傳略シテまんたトナリ、遂ニ天神ノ[illegible]如ク、或ハ妓品ノ如クニモ、今俗ノ云ハ、江戸ノおいらんト同論也、又、天神茶屋ノ妻ヲモ、奴婢ヨリ指シ之テ、まんたト稱スル也」

まんだう (名) 滿堂 堂ニ杯ツ、堂ノ中ニアルモノ殘ラズ。說苑（漢、劉向）貴德篇「今有滿堂飮酒者、有一人獨索然向隅而泣、則一堂之人皆不樂矣」楚辭、九歌、少司命「滿堂兮美人、忽獨與余兮目成」字類抄「滿堂」

マンダラ (名) 曼陀羅 曼荼羅 〔又、まだら。梵語、Maṇḍala. 舊譯ハ壇、又ハ、道場、新譯ハ輪圓具足、又ハ、聚集トナス〕(一)方圓ノ土壇ヲ築キテ、諸尊ヲ安置シテ祭ルコト。 [illegible]「曼荼羅[illegible]道場也、[illegible]壇也」(二)佛所ヲ始メ、十方世界ノ狀ヲ畫キ集メタルモノ[illegible]實相[illegible]ノ稱。即チ、觀經（觀無量壽經）一部ヲ[illegible]ニ寫シ[illegible]ト云フ[illegible]觀經曼陀羅トナリ。又、密教ノ金剛界[illegible]、九會曼陀羅トモ云ヒ、東方ヲ正面トシ、第一會ヲ中央ニ置キ、其周圍ニ八會ヲ置キ、合ハセテ九會トナス。第一會ハ、大日如來ガ五相ヲ以テ現[illegible]等正覺ヲ成シ、金剛[illegible]摩地ヨリ三十七尊、乃至、外部ノ諸衆ヲ現出シ、衆生ヲ攝化セル狀ヲ說キタルモノ、故ニ之ヲ成身會ト名ヅク。第二會ハ、成身會ノ諸尊、其本誓ヲ示シタルモノ、之ヲ羯磨會ト名ヅク。第三會ハ、諸尊、各々智等ノ微細ノ德ヲ標シタルモノ、故ニ之ヲ微細會（又ハ、三昧耶[illegible]）ト名ヅク。第四會ハ、諸尊、各寶冠、華鬘等ヲ以テ、大日尊ヲ供養スル作業ヲ述ヘタルモノ、之ヲ大供養會ト名ヅク。第五會ハ、以上ノ四會ヲ一會ニ合集シタルモノナレバ、四印會ト名ヅク。第六會ハ、大日如來ノ獨一法界ヲ示シタルモノナレバ、一印會ト名ヅク。第七會ハ、金剛薩埵ヲ中臺トシテ、欲觸愛慢ノ四煩惱ヲ轉ジテ、欲觸愛慢ノ四菩薩トナス如キ深密ノ理趣ヲ示シタルモノナレバ、之ヲ理趣會（[illegible]）ト名ヅク。第八會ハ、大日如來ガ[illegible]ノ衆生ヲ折伏セムガ爲ニ、金剛[illegible]ヨリ更ニ降三世明王ノ忿怒身ヲ現ジタル[illegible]

[illegible]置シ、即チ、中臺八葉院ヲ第一重トシ、[illegible]胎兩部曼陀羅ト云フ。大日經疏、四「漫荼羅[illegible]」[illegible]ノ金堂ニ、曼陀羅ヲ書カレケルガ」

マンダラ-く (名) 曼陀羅供 曼荼羅供 佛教ノ語[illegible]供養[illegible]

マンダラ-げ (名) 曼陀羅華 曼荼羅華 〔曼陀羅華ハ梵語、Mandārava 圓華、白團華、適意華、悅意華ナドト譯ス〕(一)小サクシテ圓キ美シキ華ト云フ。法華經[illegible] 曾我五人兄弟（元祿、近松作）四「例ヘバ、優曇華[illegible]見エヌゾトヨ」(二)草ノ名。春、莖ヲ生ズ、形狀、[illegible]ニ似テ、高サ二三尺、葉ニ刺

ナク、緑色ニシテ互生ス。夏秋ノ間、梢葉ノ間ニ、白花ヲ開ク、形、あさがほ(朝顔)ニ似テ長大ナリ、故ニ、朝鮮朝顔ノ名モアリ。實、圓ク、大イサ一寸許リ、疣アリ、故ニ、針茄子(ハリナスビ)ノ名モアリ、此花葉ヲ食ヘバ狂亂ス、故ニ狂茄(キチガヒナスビ)ノ名モアリ。然レドモ、毒氣盡クレバ、自然ニ癒ユ、故ニ痲藥ニ用キル。(近代世事談「[illegible]享年中渡來スト見エタリ」)又、天笠茄子(テンヂクナスビ)。(三)白蓮花。マカマンダラゲ。

まんち (名) 滿地 地面一杯。地上一面。[illegible]

まんぢやう (名) 滿場 場所一杯。場內ニアルスベテノモノ。場內ノコラズ。

まんちやく (名) 瞞着 〔瞞ハあざむく意、着ハ助辭〕目ヲクラマスコト。ゴマカスコト。紛ラカシ欺クコト。

マンヂュウ (名) 饅頭 〔字ノ元代ノ音、曆應四年、元人、林淨因、建仁寺第三十五世、德見龍山禪師ニ從ヒテ歸化シ、南都ニテ作リ始ムト〕(一)餅菓子ノ名。麪粉(ムギコ)ニ精好ナル甘酒ヲ絞リ入レ、捏(コ)ネテ、中ニ餡ヲ包ミテ、蒸シ作ル。形、圓ク平タシ。書言故事(宋、胡繼宗)十二、[illegible]」下學集、下、飲食門「饅頭、マンヂウ」七十一番職人盡歌合、七十八番、まむぢう賣「ウリツクス、タイタウ餅ヤ、まんぢうノ、聲ホノカナル、夕月夜カナ」同、五十七番、調菜「イカニセン、コシキニ蒸セル、饅頭ノ、思ヒフクレテ、人ノ戀シキ」(二)袂時計ノ一名。(盜人ノ語)

マンヂュウ-いも (名) 饅頭芋 いしいも(石芋)ニ同ジ。

マンヂュウ-がさ (名) 饅頭笠 圓ク饅頭ノ形シタル被リ笠、菅ナドニテ作ル。

まんてい (名) 滿廷 朝廷、又ハ、法廷ナドニ居ル殘ラズノ人。廷ヂュウノ人。

まんてい (名) 滿庭 庭一杯。庭全體。ニハヂュウ。羅隱、[illegible]詩「滿庭[illegible]紅藥[illegible]」

マンテイカ (名) 豬膏 〔葡萄牙語、Manteiga.〕(一)猪、豕ナドヨリ煮テ取レル脂。膏藥ニ加ヘ、器械ニ塗ルナド、用多シ。本朝食鑑、十一「豬、ブタ、[illegible]俗加、本邦[illegible]亦言之」新[illegible](享保ノ[illegible])[illegible]製法「まんていかト胡麻ノ油加減シテ、ヨク煎ジツメ、絹袋ニテ漉シ、云云」(二)牛酪(バタ)。

まんてう (名) 滿潮 ミチシホ。うしほ(潮)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

まんてん (名) 滿天 天ニミツルコト。ソラヂュウ。天一杯。許渾、[illegible]「日暮[illegible]滿天風雨下西樓」[illegible]曲、[illegible]北辰ノ拱ズル數數ノ滿天ニ廻ル星ノ如ク」

まんてん (名) 滿點 規定ノ最高點ニ達スルコト。

まんてん (名) 萬天 ばんてん(萬天)ニ同ジ。

まんてんか (名) 滿天下 天下全體。全天下、又、全世界 普天ノ下。

マンテル (名) 〔蘭語、Mantel.〕西洋服ノ上衣(ウハギ)。マントル。マント 外套

マント (名) 〔佛蘭西語、Manteau.〕前條ノ語ニ同ジ。

まん-ど (名) 萬度 (一)萬度(マンタビ)。一萬度。ヨロヅタビ (二)萬度祓ノ略。一萬度ノ數祓ヲシタル祓串(ハヘグシ)ヲ、白紙張ノ祓箱ニ入レ、人家ニ分配スルモノ、かずはらひ(數祓)ノ條ヲモ見ヨ。(三)祭禮ノトキ、擔ヒ出スモノ。下ノ出典ヲ見ヨ。[illegible](弘化、岩[illegible]京山)追加、[illegible]ニハ、萬度ト唱ヘテ、七八寸ノ角柱ノ、是凡尺ナルヲ眞トシ、上ニハ横板アリテ、是レニサマザマノ飾リ物ヲナス、正面ニハ扇ノ形ノ額ヲウチ、山王ト大書シ、町名ヲ書タシ、或ハ氏子中ナド書クモアリ、是ヲ手ダメシニ持チアリク、其力量ニホコルヲ俠トス、此小ナルヲ小萬度トテ、子供ナドニ持タシム、[illegible]近ナル夜中、角柱ニ提燈ヲ結付ケ、カリニ萬度トシタルヲ、カノ俠客トモ、萬度ノ稽古トテ持チアリク、云云、見ル者堵集ヲナシテ、賑ヒアリク」

まん-どう (名) 萬燈 (一)多クノトモシビ。阿闍世王受決經「貧女一燈、長者萬燈」[illegible]設萬燈萬華之會」(二)萬度ノ[illegible]富字シタルモノ」祭禮ナドニ、木匡(ワク)ニ紙張シテ、萬度ノ祓箱(ハラヒバコ)ノ如ク作リ、內ニ火ヲ燈シ、竿ニ揭グルモノ。いちまんどのはらひばこ(一萬度祓箱)ノ條ヲ見ヨ。

まんどう-ゑ (名) 萬燈會 萬燈ヲ點ジテ佛ヲ供養スル法會。[illegible]「萬燈會」續後紀、十三、承和十年五月、敕「六月十五日萬花會、十月十五日萬燈會、以此兩日[illegible]」榮花物語、十九、御裳着「四月十日、御堂ニ萬燈會セサセ給ハント思召シテ、云云、殿原ニ、火トモスベキ燈臺一ツ賜ヘト申サセ給ヘバ、云云」

まん-とく (名) 萬德 數多ノ德行。多クノ善キ行。榮花物語、十八、玉の臺「光明五ニ照ラシ給ヘリ、コレ即チ無量萬德ノ成就シ給ヘル所ナリ」

まん-どころ (名) 政所 (一)政ヲ執リ行フ所。政廳。(二)特ニ、撿非違使ノ廳。(三)親王、攝政、關白、大臣ノ家ニアリテ、知行所ノ事務ヲ拔ヒ、家政ヲモ掌リタル所、長ヲ別當ト云ヒ、令、知家事ナドアリ。まどころ。玉海、仁安二年十二月十日「今日[illegible]政所始也」(四)鎌倉將軍ノ世ニ、政令ノ出ヅル所、初、公文所ト云ヒシヲ、賴朝、近衞大將ニ任ジテ後(建久二年正月)ニ改ム。其長ヲ別當ト稱シ、其下ニ、令、寄人ナドアリ。吾妻鏡、十一、建久二年正月十五日「被行政所吉書始」(五)室町將軍ノ時ニ至リテモ、殿中大小ノ政事ヲ統ブル所ノ稱。(六)北ノ政所ハ、攝關ノ妻、大政所ハ、攝關ノ母ノ尊稱。何レモ宣旨ヲ以テ稱セラル。秀吉任官記「任內大臣、[illegible]其後立勅使、以[illegible]任北政所、以[illegible]任大政所」(七)社寺ノ事務所。盛衰記、四、白山神輿登山事「[illegible]衆徒ノ返牒狀云、白山中宮大衆政所返牒」

まんど-ばらひ (名) 萬度祓 まんど(萬度)ノ條ノ(二)、及、いちまんどのはらひばこ(一萬度祓箱)ノ條ヲ見ヨ。

マンドリン (名) 〔英語、Mandolin.〕西洋舶來ノ絃樂器ノ名。南瓜(カボチャ)ヲ半截セルガ如キ形ニテ、胴ハ木製ノウツロナルモノ。同ジク木製ノ棹ヲ附シ、勘所(カンドコロ)ニハ鋼鐵製ノ線ヲ多ク横ニハメ、八本ノ絃ハ鋼鐵ニテ、二絃ヅツ同音ノ調子ヲトリ、龜甲ノ爪ヲ用キテ彈ズ、可憐ナル細ソキ震フガ如キ音ヲ發ス、伊太利ニテ殊ニ愛用セラルト。

マントル (名) 〔英語、Mantle.〕(一)外套。まんてるニ同ジ。(二)瓦斯まんとるノ略。とりうむ、せりうむナドト稱スル元素ノ化合物ヲ、纖維ニツケテ燒キタルモノ。瓦斯燈ノ光ヲ發セシムルニ用キル。是等ノ化合物ハ、高溫度

[illegible]セ[illegible]ンバ、特ニ[illegible]

まんな (名) 眞名眞字 〔かんな(假名)ニ引カレテ、成レル語ナリ、ひんがし[illegible]ニ引[illegible]、みなみ(南)[illegible]みト云ツガ如シ〕 [illegible]眞字[illegible]。其[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]眞字、マンナ、文字、[illegible]ニ、[illegible]「まんな[illegible]ノ、女ブミニ牛バ過ギテ書キスクメタル」 同、三十ニ、[illegible]「まんなノススミタルホドニ、カンナハシドケナキモジコソマジルメレトテ、云云」

まんなか (名) 眞中 〔[illegible]ノ音便〕 正ニ中ナル所。[illegible] 正中。[illegible]「浮衣許リニテ上ラン處ヲ、眞中ニ取縮メテ一度ニ[illegible]ソイシ」 [illegible]、九、弓[illegible]、シバシ引キ保チテ、眞中ニアテテ放チケルニ」

まんにんこう (名) 萬人講 多人數ノ組合ヲ立テテ、神社、佛閣ニ參詣スル講中。又、[illegible]、或ハ、修[illegible]ナドノタメ、[illegible] [illegible]「[illegible]有ニ勸進ニ敗、撰擇意見也」

まんねん (名) 萬年 又、ばんねん。ヨロツノ年。多クノ年月。萬歳。書經、洛誥篇「王伻ア殷乃承敍萬年、其永觀ニ朕子ハ懷ニ徳」 謠曲、鶴龜「龜ハ萬年ノ齡ヲ經、鶴モ千代ヲヤ重ヌラン」

まんねんぐさ (名) 萬年草 〔根引キシテ、時過ギテ植ウルニ、生クレバ名アリト云フ〕 (一)石松。松科ノ多年生常綠草[illegible]物。高山ノ[illegible]谷ニ生ズ。[illegible]直上シ、高サ五七寸、上ニ枝ヲ多ク分チ、葉[illegible]、鱗片狀ニ小[illegible]密生シ、梢モ杉[illegible]、[illegible]、穗狀ヲナシテ胞子囊[illegible]、散[illegible]柏、萬年松ノ名アリ。一名、マンネンスギ。ビロオドグサ。タマガシハ。玉柏[illegible]、[illegible]ノ一種、[illegible]まんねん[illegible]スルモノアリ、苔ノ類ニテ、根ハ蔓ヲナシテ、長ク地上ニ延ノ、[illegible]ニシテ[illegible]リ貯ヘ、久シクシテ乾キタルモノヲ水[illegible]セバ、[illegible]ノ如シ[illegible]「[illegible]給フト中故」 (二)いはれんげ(岩蓮華)ニ同ジ。

まんねんさう (名) 萬年草 壁ナドニ生ズル草ト云フ。イツマデグサ。[illegible]名、まんねんぐさ、ツルレンゲ、イツマデグサ、ステゲサ、イハマキ、ノビキヤシ、ネナシグサ、云云」

まんねんず (名) 萬年酢 萬年醋 酒ト酢トヲ合ハセ、密封シテ、數十日ニシテ成レル酢。一盞ヲ取リ用キレバ、又、酒一盞ヲ加ヘ置ク、常ニ盡キズトテ、此名アリ。長年醋 (事林廣記)

まんねんすぎ (名) 萬年杉 まんねんぐさ(萬年草)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

まんねんせい (名) 萬年青 おもと(萬年青)ニ同ジ。

まんねんだけ (名) 萬年茸 茸ノ一種。れいし(靈芝)ニ同ジ。支那ニテ、靈アルモノトシテ貴ベリ、神仙服餌家ノ說ト云フ。(名言通、上) 芝草 重修本草綱目[illegible]「[illegible]、云云、紫芝ハ、カトイテナケ[illegible]、レイシ(京)、云云、まんねんだけ[illegible]、云云、ネコシ[illegible](江戸)、云云」

まんねんのり (名) 萬年糊 [illegible]ニ角ノ[illegible]シ、中ニ糊ヲ入レ、一方ニ小穴ヲ[illegible]、使ノモ[illegible]内、名ヅケテ、おすとでえる、ト云ヒテ賣リ出サス。蘭語流行ノ頃ナレバ云ヘリト。

まんねんひつ [illegible] 〔[illegible]tain pen.(泉筆ノ意)ノ譯語〕 いんきヲ[illegible]中ニ入レ置キ[illegible]流レ出ル[illegible] 又、マンネンフデ。

まんのう (名) 萬能 (一)[illegible]能ハザル所ナキ[illegible]。又、[illegible]う。 狂言記、文相撲「サテモサテモ萬能ノ人ヂヤ」 一谷嫩軍記(寶曆、並木宗輔等合作)二「アア慮外ナガラ[illegible]」 (二)農具ノ一、[illegible]刃先ノ三齒ノ、鐵櫛ノ如キモノ。柄ノ長サ五尺程ナリ。[illegible] 扨萬能「萬のうトイヘルハ、草ヲケヅルニ、萬自由ナルヲモテ、イヒナラハセシモノナルベシ」

まんばう (名) [illegible] [illegible]ノ略 うきき(浮木、[illegible])ノ條ヲ見ヨ。[illegible]圖會、五十一、魚類「橘魚、ウキキ、マンボウ、滿方魚(正字未詳)、俗云、宇木木、[illegible]、云云」

まんばうざめ (名) 〔[illegible]圓坊鮫ノ訛モアルカ〕 うきき(浮木、第二語)ニ同ジ。略シテ、まんばう。翻車魚

⁂**まんぱち** (名) 萬八 〔萬ノ中、眞實ハ、タダ八ツナルノミノ意、又、江戸、兩國ノ萬屋八郎兵衛ノ略字ニ起ルト〕 (一)イツハリ。又、ウソツキ。(東京)せんみつ「[illegible]」ノ條ノ(二)ヲ[illegible]、次條ノ語ヲモ參見セヨ。 (二)〔滿鉢ノ義、まんハ滿ヲ引クノまん、はちハ鉢[illegible]〕 [illegible]ト云フ。さけ(酒)ノ異名。[illegible]種彥)二、奴おとぼ「シコミヌル、酒ノカハルハ、ウイコン[illegible]」[illegible]タル百韵ノ本ノ詞書ニ、吉田ノナニガシ、云云、酒鉢トレバ、まんはちヲマクラフベキ事ヲナン思フ、云云、トアルニ合セ見ルベシ」

まんぱちらう (名) 孟八郎 〔又、まんぱ[illegible]〕 [illegible]ヤブリ。亂暴者。わんぱ(忘八)ノ條ヲ[illegible] [illegible]東山[illegible]「孟八郎當時勇士、不依道理作事者云」[illegible]ナラデハ信ナシトテ、千言ツト八皆ヨリ云出ス語也、然ルニ近來、右ノコトヲ孟八ト云、但、是ハ千言ツトチガヒ、孟ノ何某ニ孟八郎ト云者アリ、ソノ詞ニ、方語ニ云、不出道理作事ト見エタリト、此名ヨリ出シ歟、マタ自然ニ云アテタル歟」

まんぱらう (名) [illegible] 同ジ。

まんび (名) [illegible]

まんび (名) 滿尾 [illegible]トナルコト。 東海道中膝栗毛(文化、一九)[illegible]如クコトナシト、猶ク滿尾シコジツケタレド」

まんび (名) 萬眉 能面ノ一種。女ニ用キルモノ。 書言字考節用集、七、器財門「萬眉、マンビ(假面所ノ刊)」

まんびき (名) [illegible] [illegible]ニ、商店ニ至リ、物買フ狀ヲシテ、人目ヲ掠メ、其物ヲ盜ムコト。又、ソノモノ。[illegible]

まんぴつ (名) 漫筆 ナニクレト無ク、思ヒ[illegible]、漫ニ記シタル書。フデズサビ 漫[illegible]」

まん-びゃう (名) 萬病 イロイロノヤマヒ。アラユル病氣。四百四病。

まん-ぴゃう (名) 漫評 ソゾロニ批評スルコト。又、ミダリナル批評。

まん-ぷく (名) 萬福 ばんぷく(萬福)ニ同ジ「萬福長者」

まん-ぷく (名) 滿腹 飲食、腹ニ滿チテ、飽キ足レルコト。腹イッパイ。飽食 莊子、逍遙遊「鷦鷯巣ニ於深林ニ、不ㇾ過ニ一枝ニ、偃鼠飲ㇾ河、不ㇾ過ニ滿腹ニ、歸休乎君」

まん-ぷく (名) 滿幅 幅ノイッパイナルコト 又、全幅ノヒロサ。 白居易、紫毫筆詩「閒蛾眉映曉霞色、滿幅風生秋水文」

まんぷくちゃうぢゃ (名) 萬福長者 だいふくちゃうぢゃ(大福長者)ニ同ジ。

まん-べん-な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 滿遍甚シ、ノ意、平均ノ義」アマネシ。行キワタラヌ所無シ。物ノムラナシ。手落ナク行キ渡ル。遍 下學集、下、言辭門「滿遍、マンベン」書言字考節用集、九、言辭門 無ニ滿偏一、マンベンナシ」浮世風呂(文化)二馬、初編、上「薪ハ波サマカ出テ、まんべんなく盛リワタス」

まん-ほ (名) 漫歩 スズロアリキ 何處ト云フ目標モナク歩クコト。

マン-ボウ (名) 萬棒〔竹ノ馬來語、Bambu. ノ訛、新嘉坡邊ヨリ傳ハルト〕竹ノ棒ノ數取〔横濱〕

まん-ぽふ (名) 萬法〔萬ハ萬有、法ハほふ(法)ノ條ヲ見ヨ〕佛經ノ語。萬有ノ事理ハ、イチイチ軌則ヲ有スル故ニ、萬有ノ事理ヲ總括シテ萬法ト云フ。萬物、萬事ト云ハムヨリモ、一層汎シ 淨名經「萬法皆如、由ニ不覺一故、[illegible]萬法、[illegible]」秘藏寶鑰、九、波斯匿王問、何カ有リテ、那ト王ニ正トモ陽テン、萬法一如ニシテ、阿字本不生ノ顯ヲ成シ給ヘ」「萬法唯心」萬法皆空」

まん-ま (名) 飯 まま(飯)ノ音便。其條ヲ見ヨ。浮世風呂(文化、三馬)三編、下「墨ノ付イタノナラオ飯粒デ、オットヨカロ」

まん-まく (名) 幔幕 まく(幕)ニ同ジ。運歩色葉集「幔幕ト八内幕ノ事也、幔長五尺也、上ノ布一幅可ㇾ通、竪幅數十二也、乳ノ數亦十二也、横ノ幅二家ノ紋五ツ書也」盛衰記、廿三、平氏清見關下事「閑ニ幔幕引テ居タリナドスル程ニ」

まん-ま-と (副) 〔旨旨と、ノ音便〕又、まんまんと。甚ダ旨ク。巧ニ。首尾好ク。狂言記、武悪「積ウダ人ヘハ、武惡ヲまんまと手ニカケマシタト申上ゲウ」「まんまと仕遂ゲテ」

まんまん-いち (副) 萬萬一 萬一ヲ強メテ云フ語。バンバンイチ。

まん-まん-と (副) 漫漫 海ナドノ廣ク涯ナキ狀ニ云フ語。左思、吳都賦「廓ニ廣庭之漫漫ニ」字鏡抄「漫漫、マンマン」易林節用集(慶長)下、言辭門「漫漫、マンマン、水廣也」平家物語、十、海道下「南ニハ海漫漫トシテ」

まん-まん-と (副) 滿滿 ミチミチタル狀ニ云フ語。ナミナミ。「悄氣滿滿タリ」

まんまん-と (副) まんまとニ同ジ。狂言記、拔殼「コレニ鬼ノ面カ御座ル程ニ、着セテ置キマセウ、まんまんと着セマシタ」

まん-まる (名) 眞圓 又、まんまろ。正シク圓キコト。又、ソノ形。正圓。書言字考節用集、九、言辭門「眞圓、マンマル」義經記、五、吉野法師判官を追つ掛け奉る事「敵ハ矢頃ニ近付ケドモ、眞圓ニ立チ並ビテ、シヅシヅトゾ語ラセテ聞キ給フ」

まん-まろ (名) 眞圓 前條ノ語ニ同ジ。史記抄(文明)十五、吉「秦ノ法令ノカドカマシキヲ、まんまろニナシ、キリキザウタ樣ナル苛法ヲ除テ」

まん-めん (名) 滿面 [illegible]ツホチュウ。[illegible]今更有ㇾ詩」令狐楚、[illegible]生、頭未ㇾ白、醉」「滿面キヲ注ク」[illegible]」

まん-もく (名) 滿目 眼ノ杯ニナルコト。目ニ見ユル限リ。見ワタス限リ。滿眸。李嶠、汾陰行「山川滿目淚沾ㇾ衣、富貴榮華能幾時」[illegible]「滿目山陽笛裏人」「滿目是レ花」

マンモス (名) 〔英語、Mammoth. 舊家ナドト譯ス〕前世界ニ棲息セシ巨大ナル動物、形、略、象ニ類シ、長大ナル牙アリ。西比利亞ノ氷層中ヨリハ、完全ナル形體ヲ具ヘタル遺骸發見セラレ、骨、牙、等ハ、各地ノ土中ヨリモ發見セラル。まんもこ象。

まん-も-と (副) 〔まんまとノ轉〕ウマウマト。タクミニ。首尾ヨク。

まん-もん (名) 幔門 幔幕ヲ張リタル門。又、屏幔ニ設ケタル門戸。西宮記、七、七月十六日相撲式「長元七年七月廿七日、於ニ仁壽殿ニ有ニ相撲内取ニ云云、南北各有ニ幔門ニ」平家物語、四、嚴島御幸事「院司ノ公卿參リ向テ、幔門ヲ開キ」

まん-らん (名) 孟浪〔莊子音義(唐、陸德明)ニ「孟、如ㇾ字、徐、武黨反、或、武葬反、浪、如ㇾ字、徐、力蕩反、向云、孟浪、音漫瀾、無ニ所趣舍一也、李云、猶ニ較略一也、崔云、不ニ精要一也」トアリ、故ニ、向(音、向秀)ノ讀、まんらん、徐(音、徐邈)ノ讀、まうらうナリ〕ミダリナルコト。トリトメナキコト。精要ナラザルコト。莊子、齊物論篇「夫子以爲ニ孟浪之言ニ、而我以爲ニ妙道之行ニ也」左思、吳都賦「若ニ吾子之所ㇾ傳、孟浪之遺言、略ニ擧其梗概ニ、而未ㇾ得ニ其要妙ニ也」

まん-り (名) 鰻鱺 うなぎ(鰻)ニ同ジ。[illegible]

まん-りき (名) 萬力〔萬人ノ力、力ノ意〕(一)種種ノ器械ニ、[illegible]力ヲ[illegible]ルモノノ稱。特ニ、車地ニ云フ。しゃち(車地)ノ條ヲ參見セヨ 小[illegible]竹田出雲[illegible]コ、ヲ[illegible]掛ケタ此[illegible]ヘ取、アカウ留メタレバ、[illegible]ナル氣[illegible]ヒ微塵モナイ」[illegible]土藏、云云、万力(大ナル木ノ中ニ鐵ノ[illegible]アリ、[illegible]ヲ廻セバ鐵脊出テ、家屋ヲモ押擧ケル也、(二)古製ノ釘拔ノ異名(きぬき、釘拔)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。千斤。和漢三才圖會、廿四、百工具「千斤、クギヌキ、俗云、萬力、云云、千斤萬力之名、兵取ニ強[illegible]」(三)刑ノ具。書言字考節用集、七、器財門「萬力、マンリキ 刑具」(四)農具ノ一。籾ヲコナスモノ。農術鑑正記、凡例「萬力、[illegible]ハ[illegible]、又、竹ヲワリ、[illegible]キカタメ付ル、籾ヲコナス道具也」

まん-りゃう (名) 萬兩 紫金牛科ノ常綠小灌木ノ名。山中ノ陰地ニ生シ、莖、高サ一尺許リ、葉ハ革質ニテ、厚ク光リ、百兩金ニ似テ短ク、邊ニ尖ラヌ鋸齒アリ、莖ノ端ニ簇リテ互生スルコト、傘ノ如シ。夏月、花梗ヲ抽キ、小白花ヲ繖狀ニ排列シ、多クノ圓キ實ヲ、葉下ニ垂レシム。冬、春、紅熟シテ觀ルニ堪フ。紺メテ、まんりョウ。硃砂根 重修本草綱目啓蒙、八、山草類「硃砂根、マンリョウ、云云、高サ一尺以來」

まん-れう (名) 滿了 ミチヲハルコト。期ニ達シテ終ルコト。「任期滿了」

まん-ろく (名) 〔まんハ眞ノ音便、ろく(陸)ノ條ヲ見ヨ〕(一)準(陸)ノ正シキコト。平ラカナルコト。 排[illegible]紅葉

[illegible]ろノ[illegible]時ニ[illegible]イツ[illegible]。[illegible]

[illegible]陀ノ六字ノ名號ヲ、マママママンマン まんろく ニ、トトトトトナヘテ死ニタイト」

まんろく (名) 【漫錄】 まんぴつ(漫筆)ニ [illegible]

まんゐん (名) 【滿員】 定員ニ滿チ達スルコト。[illegible]「滿員電車」「滿員札」

まめ (名) 〔一〕【眞心ナルコト】 マコト。マジメ。眞實ノ轉カト云フ」 信實。深切。 字鏡「𧦅、マメナリ」[illegible]マメヤカ[illegible] 「忠、マメ」 繼體紀、元年正月「傾ク心委ヌ命、盡ス誠ニ」 宇津保物語、國讓、下三十九「まめナル心」 伊勢物語、第五十九段「昔、男アリケリ、宮仕ヘイソガハシク、心モまめナラザリケレバ」 源、二、帚木十「[illegible]事ニモまめ[illegible]」 [illegible]「まめナレド、アシタマヒツツ」 後撰集、十五、雜、一「まめナレド[illegible]」 「まめゴコロ」「まめビト」「まめワザ」 〔二〕轉ジテ、懶カラズ深切ニ働クコト。勤勉。 宇治拾遺、七、第二條「サシタル事ハナケレドモ、まめニ使ハレテ、年頃ニナリニケレバ、云云」 〔三〕又、轉ジテ、身體、手足、健カナルコト。ヂャウブ。健全。 好色五人女(貞享、西鶴)四「イヨイヨオハツ樣ハ、親子トモ御まめカト言ヘバ」

まめ (名) 【肉刺】 ノイズミ。手足ニ、豆ノ如ク、小サク水嚢ヲ𤸎スモノ。勞作シ、又ハ、旅行ノ時ノ草鞋ずれナドヨリ生ズ。 [illegible]

まめ (名) 【豆】 〔圓實ノ約轉ト云フ、沖繩[illegible]〕 [illegible]實健全ノ意ニ取ル」 〔一〕荳科ノ植物ノ[illegible]中ニ[illegible]多ク、蔓生ノモノ多シ。だいづ(おほまめ)、あづき、[illegible]豆、なた豆、そら豆、いんげん豆、ゑんどう豆等、各條ニ注ス。 [illegible] 〔二〕【專ラ、大豆ノ稱。其條ヲ見ヨ。 [illegible]於保末女」 〔三〕又、專ラ、白豆ノ稱。[illegible]五條「布ノ袋ニ大豆ヲ入テ、𤼵ニトラセツ」 〔四〕俗ニ、スベテ、小サキモノノ稱。其條々ヲ見ヨ。「豆人形」 〔五〕女ノ陰部。又、ソノ陰核。ヒナサキ。

まめ-あめ (名) 【豆飴】 すはま(洲濱)ノ條ノ(四)ニ同ジ。 書言字考節用集、六、下、服食門「洲濱、スハマ、又、云豆飴」 [illegible]

まめ-いた (名) 【豆板】 次條ノ語ノ略。 [illegible]

まめ-いたぎん (名) 【豆板銀】 (形、豆ノ如ク圓ク小サキヨリ云フ) 江戸時代ニ通用セラレタル銀粒樣ノ貨幣ノ一種。輕重、大小アリ。略シテ、まめいた。まただ まぎん(小玉銀)ノ條ヲモ見ヨ。 [illegible]鑑(貞享、西鶴)一「小判ヲ大豆板ニ替ヘ、秤ニ隙無クカケ出シ」 心中重井筒(寶永、近松作)上「コレハ上物上メキキト、まめいた一ツブハットハヅミ」

まめ-いり (名) 【豆炒】 又、いりまめ。多[illegible]クハ、三月ノ雛祭ニ供フル菓子。[illegible] テ、冷マシタルモノ。イリモノ。

まめ-うち (名) 【豆打】 おにやらひ(鬼遣)ノ條ヲ見ヨ。マメマキ。 改正月令博物筌、十二月「豆打」注「煎ル豆、撒ク豆、福ハ內、鬼ハ外」

まめ-うまし (名) 【豆廿】 鳥ノ名。次條ノ語ノ略。 [illegible]メドリ、マメウマシ、イカルガ、[illegible] [illegible]「イカル[illegible]」 [illegible]コ(一本、ウ)キトハ、何ヲ鳴クラン」

まめうまし-どり (名) 【豆廿鳥】 [illegible]し(豆廻)[illegible] 下學集、上、氣形門「[illegible]豆廿鳥也、或作[illegible]」

まめ-がき (名) 【豆柿】 〔果實、小サキ故ニ云フ〕 ぶなのかき(信濃柿)ニ同ジ。

まめ-かす (名) 【豆粕】 だいづかす(大豆粕)ニ同ジ。

まめ-がに (名) 【豆蟹】 蟹ノ類ノ、極メテ小サキモノ。海邊ノ泥中ニ棲ム。一名、イソイソガニ。蟛蜞 蟊蟹

まめ-がら (名) 【䕺萁】 大豆ノ、豆ヲ採レル往ノ莖。豆幹。豆莖。 [illegible] 「萁、豆莖也、豆加良」 曹植、七步詩[illegible]

まめ-ぎん (名) 【豆銀】 マメイタギン。ま[illegible]

[illegible]

まめ-おと (名) 【忠實事】 「あだおと(徒事)ニ對ス」 マメヤカナルコト。眞實ナルコト。 枕草子、七、第六十四段「まめおとナドイヒアハセテ居給ヘルニ」 源、二、帚木「すりフシニシイ[illegible]」 [illegible]ト思ヒウルコトナク、フカキイタリナカランハ、イトクチオシク」

まめ-ざう [illegible] 〔一〕[illegible] クハ、新切頭ナリシト。放下師。 [illegible]談、三「貞享、元祿ノ頃、攝津國ニ一人ノ乞土アリ、名ヲ[illegible] 四、雜佐「放下師ヲ今豆藏トイフ」 〔二〕〔口まめニ饒舌ル、又、眞似藏ノ轉カ〕 轉ジテ、饒舌ナル人ヲ卑シメテ云フ語。 〔三〕 りあひにんぎゃう(釣合人形)ノ異名。

まめ-ざき (名) [illegible] 豆、蝶、ナドノ類ノ花[illegible]

まめ-ざま (名) 【忠實樣】 眞心アル[illegible] 信實ナルサマ。 源、三十八、夕霧「コノ女房[illegible]

まめ-ざる (名) 【豆猿】 まこくざる(四國[illegible]) [illegible] 猴類、獼猴、云云、紫猴ハ一名石猴、コノハザル、一名[illegible]モノ一種アリ、一種四國ざるハ常猴ヨリ小ニシテ、[illegible]

まめ-しぼり (名) 【豆絞】 絞染ノ一種。豆[illegible]

粒程ノ小サキ圓ヲ、染メ出シタルモノ。

まめ-ぞめ（名）［豆染］（一）染色ノ名。青黒キ色。（二）襲ノ色目ノ名。表ハ白ク、裏ノ青黒キモノ。

まめ-だいこ（名）［豆太鼓］（一）小サキ太鼓。ぜ・ダイコ。〔嬉遊笑覧、六、下、兒戯「[illegible]云云、今豆太鼓トイフモ同様ナリ」「[illegible]ノ御神樂ノ豆太鼓ノ拍子」〕（二）振鼓ノ遺カ。ブリブリ太鼓。竹ノ皮ヲ去リ、肉ヲ曲ゲテ輪トシ、是ニ色模樣ノ膠ヲヒキタル紙ヲハリ、籆ノ兩方ニ茜ノ木綿絲ヲ以テ、白大豆ヲツケ、兩掌ヲ合ハセ、柄ヲ挾ミテ廻セバ、豆、太鼓ノ面ヲ打チテ鳴ルモノ。又、一種、太鼓ノ中ニ豆ヲ入レタルモノ。柄ヲ振リテ鳴ラス。

まめ-たたき（名）［豆敲］鳥ノ名。又、まめうまし。まめまはし（豆廻）ニ同ジ。

まめ-だ・つ ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）［實立］〔あけだつ（明立）ノ語原ヲ見ヨ〕（一）眞顔ニナル。マジメニナル。ヒラキナホル。［斂色］遊仙窟「斂子把レ酒奠レ醽」源、二、帚木「イトイタク世ノ憚リ、まめだち給ヒケル程ニ、ナヨビカニ、オカシキ事ハナクテ」枕草子、八、第八十一段「イミジウまめだちテ恨ミ給フ」遊仙窟「十娘斂レ色」（二）マメマメシク、フルマフ。勤勉ニ振舞フ。

まめ-だぬき（名）貒狸 まみだぬき。貒狸ノ訛。重修本草綱目啓蒙、三十四、獸類「貒狸ハ箱館ニシテ、狸ノ如ク、肉ニ臭氣アリ、食ヘツラズ、俗ニまみだぬきト呼ブ、轉ジテ、まめだぬき（讃州）ト云、貒ヲマミト訓ズルト八別ナリ」

まめつ（名）［磨滅］擦レテツブル、ツブルルコト。〔[illegible]「古者、富貴而名磨滅、不可勝記、唯俶儻非常之人稱焉」書言字考節用集、九、言辭門「磨滅、マメツ」〕

マ-めつ（名）［魔滅］惡魔ノタメニ滅ブルコト。又、惡魔ノ如キ行爲ニテ滅スコト。〔盛衰記、廿九、一宮馬場願書事「日域守護ノ棟梁[illegible]已ニ山門ヲ作リ[illegible]亦燒二拂堂舎僧坊、併非法滅之怨敵哉」〕

まめ-つき（名）［大豆搗］〔豆搗ノ義ト云フ〕きなこ（黄粉）ノ古名。マメノコ。〔倭名抄、十六、飯餅類「大豆搗、末女豆木[illegible]、マメツキ」〕

まめ-でっぱう（名）［豆鐵砲］豆ヲ彈丸トシテ打ツ玩具ノ鐵砲。〔嬉遊笑覧、六、下、兒戯「豆でっぽうハ江戸二色（書名）ニ出ヅ、今アルトハ作リ異ナリ、狂歌、光陰ハ、矢ヨリモ早ク、豆でっぽうノ、丸ノ如クニ、除夜ノ豆ウツ」小町踊（寛文、立圃）冬、節分「ウツ音ハ、豆鐵砲カ、鬼ヤラヒ」〕

まめ-どり（名）［豆鳥］又、まめうましどり。まめまはし（豆廻）ニ同ジ。

まめ-ぶっとう（名）［豆納豆］ぶっとう（納豆）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

まめ-に（副）忠實ニ。忠誠ニ。マジメニ。〔伊勢物語、第百三段「昔男アリケリ、イトまめニジチヨウニテ」宇津保物語、藏開、下四十八「御タメニハ、カクまめニコソ、アダナレトヤ覺ス」〕

まめ-にんぎゃう（名）［豆人形］けしにんぎゃう（芥子人形）ニ同ジ。

まめ-のこ（名）豆粉 又、まめつき。きなこ（黄粉）ニ同ジ。〔曾我會稽山（享保、近松作）二「イヅレモ芥子ハオキラヒニテ、砂糖、大豆の粉、ノッコ此ノ」〕

まめ-のご（名）［豆汁］單ニ、ご。延ベテ、ごう。又、まめのごぶ。黄大豆ヲ水ニ浸シ、爽カニシテ石臼ニテ碾キ、生ニテ綿布ニテ搾レル汁。乳白色ニシテ蛋白質ヲ含ミ、豆腐ノ製造ニ用ヰ、又、染物ノ止トシ、或ハ油畫ノ彩料トス。又、コレニ少量ノ消石灰ヲ加フレバ、永ク使用ニ適スト云フ。［豆汁］〔似我蜂物語（寛永）「豆ヲ水ニ入レ、スリクダキタルヲ、ごト云フ」〕

まめ-はんめう（名）［豆斑猫］翅類ノ蟲ノ名。形、あをはんめう（青斑猫）ヨリ小サクシテ、甲ニ、黑ニ、二三ノ褐條アリ、首、黄ニシテ、全體ハ黒色ナリ。多ク豆畠ニ害ヲナス。赤毒アリ。葛上亭長〔重修本草綱目啓蒙、廿七、卵生蟲類「葛上亭長、マメハンメウ、ヲンニャウジ（江州）、云云、江州ノ地、豆ニ食シ、故ニ豆田多シ、云云、[illegible]此時ハ、此蟲[illegible]ト云」〕

まめ-びと（名）［忠實人］マメヤカナル人。マジメナル人。マコトシキ人。忠實ナル人。〔字類抄「辰季、マメヒト、賢人也」源、二、帚木三十二「まめ人ニハ、タノマレヌベケレトオボス物カラ、云云」同、四、夕顔十六「カカルスヂハ、まめびとノミダルルオリモアルヲ、云云」枕草子、四、第三十九段「イカナルまめ人ニカアラン、スクズクシウサシアユミテイヌルモアレバ、云云」〕

まめ-ふ（名）［豆田］「豆生ノ義」豆ノ畠。〔倭名抄、一、田園類「豆田、萬女不」名義抄「豆田、マメフ」神代紀、下卅「因見ニ粟田豆田、則留而不レ返」〕

まめ-ふぢ（名）［豆藤］旌節花科ノ落葉灌木。山地ニ多シ。高サ丈餘、葉ハ楕圓形ニシテ尖リ、鋸齒アリ、二三寸ノ軸ヲ出シ、早春、葉ニ先立チテ黄花ヲ開ク。果實ハ球形ナリ。キフヂ。旌節花

まめ-ぶみ（名）［忠實文］マメヤカナルふみ。眞心アル書面。〔蜻蛉日記、上、上四「まめぶみ通ヒ、イナルアシタニカアリケン、云云」〕

まめ-ほん（名）［豆本］至ッテ小サキ本。

まめ-ほんだ（名）［豆本多］本多髷（其條ヲ見ヨ）ノ一種。昔、男子ノ、髮ヲ少クシテ、甚シク髱ヲツメテ、髷ヲ小サク豆粒ノ如クニ結ヒタルモノ。〔賤のをだ卷（享和、森山孝盛）「豆本多ト云ハ、[illegible]少クシテ、ワゲヲイカニモ小サク豆粒ノ如ク結フタルナリ」浮世風呂（文化、一馬）四編、中「[illegible]ニテ、髮ハ本田、[illegible]タル男」〕

まめ-まき（名）［豆蒔］おにやらひ（鬼遣）ノ條ヲモ見ヨ。今、俗間ニハ、節分ノ夜、大豆ヲ炒リテ、鬼打豆ト呼ビ、年男、袴ヲ着テ、三方ノ枡ノ中ニ豆ヲ入レ、左手ニ持チ、右手ニテ歳徳神ニ奉リ、後、室内、或ハ外ノ空ニ向ヒ、福は内、鬼は外ト喚ビテ打チ撒ク。コレヲ、まめうち、又ハ、まめまきナドトモ云フ。其豆ヲ、己レガ年數丈拾ヒテ、年豆ト云フ、ヲ、一粒加ヘテ食ヒ、又、同ジ數ノ豆ヲ、紙ニ包ミテ身體ヲ撫デ廻シ、厄ヲ移シタルモノトシテ捨テ、或ハ、若干ノ錢ヲ添ヘテ、厄拂ニ與フルナリ。（秋苑日抄）又、家ノ外ニハ、柊ノ枝ニ鰯ノ頭ヲ刺シテ、門戸ニハサミテ、厄除トス。〔四季物語、十二月「追儺ノ夜、云云、鰯ノハサミモノ、ヒヒラギノ枠、ナヤラフ家ニハ、百數ナラデモ、アルコトナレーモ、云云、[illegible]今日ハ京ニノミゾ思ヒヤラルル、九重ノ門ノシリクメノ縄ノ、ナヨシノ頭、ヒヒラギラ、イカニトゾ言ヒアヘル」（群書類從本）臥雲日件錄、文安四年十二月廿二日「明日立春故、[illegible]因問ニ鬼外福内四字、[illegible]也」[illegible]節分、コレハ蓬萊ノ[illegible]タル鬼、[illegible]コザル、今夜、日本[illegible]ハ、[illegible]分ジャト[illegible]ヲハヤス、イソ[illegible]リ、豆ヲ拾ウテカマウト存ジ候、云云、女、ヤア、ヨイ時分デゴザル、豆ヲハヤシマセウ、福ハうち、福ハうち、鬼ハそと、鬼ハそと」〕

まめ-まはし（名）［豆廻］古名、イカルガ。

鳥ノ名。深山ニ棲ミ、[illegible]、ヒエナ、[illegible]頭ハ深黒ナリ、翅ノ端、黒クシテ黄褐ヲ帶ビ、尾[illegible]クシテ[illegible]豆ヲ[illegible]メバ、[illegible]嘴ハ[illegible]ト云ヲ[illegible]鳥、名モ[illegible]、又、マメドリ[illegible]メウマシ。マメウマシドリ。マメタタ[illegible]「桑鳫、マメドリ、マメウマシ、イカルガ、云云、好食三[illegible]ウトモ云フ、云云、大キサひよ鳥ニ小サク、頭クロク、總身ウスネズミイロ、尾羽クロシ、ハシ黄イロニ[illegible]ナリ、[illegible]ソル」

まめ まめ・し・シキ・シケレ・シク・シク（[illegible]）[illegible]カ基ラン、まめまめしき物ハマサナカリナン、ユカシクシタ[illegible]ナル[illegible]ヲフントテ、[illegible]氏ノ五十[illegible]卷、膝ニ入リナガラ」（二）深切ニ働ク。勤

まめ-むし (名) はんめう（斑猫）ニ同ジ。[illegible]下[illegible]、[illegible]之、云云、[illegible]上、長五六分、黄黑斑也、生ニ大豆上ニ」

まめ-めいげつ (名) 豆明月 いもめいげつ（芋明月）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]、四、[illegible]九月十三夜、[illegible]八月十五夜、[illegible]芋名月ハ今夜煮ニ莢豆ニ食、稱ニ豆名月ニ」

まめ-やか-み (副) 忠實 （一）忠實ナル狀。[illegible]。眞實。實儀[illegible]ト　字類抄「眞成、實爲、マメヤカ」落窪物語、一「御[illegible]ツレ[illegible]、まめやか[illegible]シケル[illegible]

シキニナンし[illegible]、四十、幻「雪イタウ降リテ、まめや[illegible]まめやかニ降レバ」宇治拾遺、十一、第一條「飯レテ[illegible]ベ[illegible]付ケテ働キテ。カヒガヒシク。孜孜

まめやか-もの (名) いんきやう（陰莖）ノ異稱。宇治拾遺、一、第六條「まめやかものヲ下ノ袋ヘヒネリ入レテ、續飯ニテモヲ取リツケテ」

まめ-やっこ (名) 豆奴 小兒ノ玩具ノ一。[illegible]丸竹ノ眞中[illegible]ニ立チタル槍持奴ノ、[illegible]絲ヲ[illegible]クル[illegible]ヨリテ、左右ニ廻ルシカケノモノ[illegible]モノノ作ト云フ、西行東下リ、昭降町ノ段、カカル處ヘ、向フヨリ深アミガサニテ、評判ノ豆奴、アタマモ豆ナラ、オヰドモ豆、評判ノ豆奴トアリ」

まめ-わざ (名) 忠實事 深切ニ働クワザ。[illegible]ヒガヒシク[illegible]。[illegible]コノ[illegible]、御マヘノまめわざ[illegible]ニ奉リナトシテナンサブラヒケル」

まめ-をとこ (名) 忠實男 （一）マメヤカナル男。忠實ナル男　伊勢物語、[illegible]（二）轉ジテ、好色ナル男。沙石集、七、下、第六條「アル男、[illegible]、マオトコモテル[illegible]テ、カクレタル所ニ、牛ヲカキテケリ、サルホドニ、まめ中ノ[illegible]ニ、カカル事ナンアリト語ケレバ」

まめ-をとこ (名) 豆男 〔鬼遣ノ、豆ヲ撒ク役ノ男ナレバ云フ〕としをとこ（年男）ニ同ジ。[illegible]近松作[illegible]「御國ノ御用新玉ノ、此處ニ年取ル豆男」

まも-なく (副) 間無 （一）間斷ナク。タエマナク。大和物語、下「サザラナミ、まもなく[illegible]ヨクバ、君トマレトカ」（二）ホドナク。ヤガテ。ヂキニ。

まもの (名) 眞物 實物ニアラザルコト。[illegible]

マもの (名) 魔物 化ケナドシテ、[illegible]ヲ[illegible]

まもら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）守 次條ノ語ニ同ジ。古事記、中（神武）「イナサノ山ノ、木ノマヨモ、イユキ麻毛良比、タタカヘバ」

まもら・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）守 [illegible]講師ハ、顔ヨキ講師ノ顔ヲ、まもらヘタルコソ、其トク事ノ尊サモ覺ユレ、外目シツレバ、云云」

まもり (名) 守護衞 （一）又、まぶり。[illegible]（二）守神ノ略。大鏡、中、伊尹「惡靈、云云、まもりノコハクヤオハシケン、[illegible]云云」（三）守袋ノ略。後撰集、十一、戀、三「まもりオキテ侍リケル男ノ、心カハリニケレバ、ソノまもりヲ返[illegible]」

まもり-あ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（自動、下二）守上 上方ヲ仰ギ見ル。[illegible]上方ヲ見ル。宇治拾遺、四、第五條「クチナハハ、板敷ノ下ニ、柱ノモトニ蟠リテアリ、目ヲツケテミレバ、此女ヲ守りあげテ、此クチナハハヰタリ」

まもり-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）守合 互ニ見合ハス。見交ス。宇治拾遺、[illegible]、八條「若キ僧達イカニト顔ヲまもりあひ侍リケルニ」

まもり-がたな (名) 守刀 身ノ守リニ携[illegible]、貞和二年八月十三日「若公御[illegible]之間、[illegible]代代[illegible]第一條「守刀ヨリカウガイ拔キ取リテ」

まもり-がみ (名) 守神 略シテ、まぶり。[illegible]

まもり-づけ (名) 守付 姓名ヲ記シタル小札。昔、討死ヲ期シタル者ガ、兜等ニ結付ケオクモノニテ、コノ首[illegible]桶ニ入レ、討取リタル人ノ姓名ヲ桶ノ[illegible]直垂之下、着ニ腹卷ニ「守付」札、安房國、故長佐六郎[illegible]中[illegible]、注之」

まもり-ぶくろ (名) 守袋 略シテ、まもり。守札ヲ入レテ携フル袋。[illegible]ヲ殺シテ、金ヲ五十兩入レテ假ヒシ守袋ヲ忘レタリト、アリノママニカタリケレバ」

まもり ふだ [illegible]ベキ旨ノ文字ナドヲ記シタル札。フダ[illegible]

まもり ボトケ (名) 守佛 次條ノ[illegible]同ジ。

まもり-ほんぞん (名) [守本尊] 又、まもりぼとけ。生レ年ニヨリテ、其人人ヲ守護スト云フ佛。子ノ年ノ生レノ人ハ、千手觀音、丑、寅ノ年ノ人ハ、虛空藏菩薩ナドノ類。又、其身ノ守リトシテ信仰スル佛。好色一代男(天和、西鶴)四「慈覺大師ノ作ノ、一寸八分ノ十一面守本尊ヲ盜リケルガ」

まもり-め (名) [守目] 守ル役。目付。源、三十四、上、若菜、上廿「ハグクミ聞ユル御まもりめ侍ルナン、ウシロヤスカルベキコトニ」同、五十一、蜻蛉四十五「まもりめソヘナド、コトゴトシクシ給ケルホドニ」宇治拾遺、四、第四條「十一二バカリナル男子女子二人ノ子ヲ、舟ノまもりめニ乘セ置キテ」

まもり-わきざし (名) [守脇差] 護身用ノ脇差。本朝若風俗(貞享、西鶴)二「開キ見ルニ、貞宗ノ守脇差ニ、一通筆ヲ盡シ、云云」

まも・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [守] (目守ル、ノ義カ) (一)候ヒ窺フ。雄略紀、十八年八月「下ニ致ニ進擊、相持一日一夜」萬葉集、七九十「淡海ノ海、浪恐ミト、風守、年ハヤ經ナム、漕グトハナシニ」(二)目ヲハナタズシテ見ル。見詰ムル。凝視　大和物語、下「下離ノハザマノ明キタルヨリ、此男まもれバ、我カ妻ニ似タリ」源、五、若紫十六「目止マリ給フ、云云、イト善ク似奉レルガ、守らルルナリケリ」(三)害アラセジト防ギヲナス。番ヲナス。護衛　萬葉集、廿廿八長歌「筑紫ノ國ハ、アダ守ル、オサヘノ城ゾト」催馬樂、河口「川口ノ、關ノ荒垣、關ノ荒垣、萬毛禮ドモ」伊勢物語、第五段「其ノ通ヒ路ニ、夜每ニ人ヲスエテ、まもらセケレバ」

ま-や (名) [馬屋] (一)[廐] 馬ヲ飼ヒオク小屋。萬葉集、十五廿「ケフモカモ、都ナリセバ、見マクホリ、西ノ御馬屋ノ、外ニタテラマシ」(二)うまや(驛)ニ同ジ。字類抄「驛家、マヤ」

まや (名) 兩下 [眞屋ノ義、眞手ノ眞ノ、物二ツ備ハリタル意ヲ云フニ同ジ] 家ノ前後ニ軒(屋根)ヲ作リ、雨水ノ前後ニ下ルヤウニシタルモノ。卽チ、切妻造ノ屋根ヲ云フ。切棟 (四阿ノ作リニ對ス) 倭名抄、十、居宅類「兩下、萬夜」天治字鏡、十二廿「兩下、萬屋」梁塵愚案抄「兩下ハ、甍屋(對屋)作リノ兩方ニ、雨水ノ落ツルヲ云フ」千載集、十六、雜、上「山風ニ、まやノ葺賞、アレニケリ、枕ニ宿ル、夜半ノ月影」月淸集、三「板間モル、月ハヨナヨナ、影消エテ、まやノ軒端ニ、木ノ葉ヲゾ聞ク」

まや (名) 眞屋 イミキヨメタル屋。出雲國造神賀詞「天乃美賀秘冠利天、伊豆能眞屋爾、麁草乎、伊豆能席苦苅敷伎天」

まやか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 紛カシ欺ク。ゴマカス。瞞

ま-やく (名) [痲藥・麻藥] 痲醉ヲ發サシムルタメニ用ヰル藥。コカイン、クロロホルム、モルヒネ、ナドノ類。痲醉藥。

まや・ふ・ウ (動) ツクノフ。マドフ。

ま-ゆ (名) [眉] [目上ノ約轉カト云フ] (一)[又、まよ。マミエ。カウノケ。マユネ。マヨネ。マユゲ。額ノ下、目ノ上ノ左右ニ、横ニ連リテ生フル毛。倭名抄、三、四、形體類「眉、萬由、目上毛也」枕草子、四、第四十四段「物のあはれしらせがほなる物『眉ヌク』」とりかへばや物語、三「まゆ拔キ、かねツケナド、女ビサセタレバ」堤中納言物語、蟲めづる姫君「人ハスベテ、ツクロフ所アルハワロシトテ、まゆ更ニヌキ給ハズ」(二)まゆずみ(黛)ノ略。眉を開くトハ、憂ヒ晴レテ悅ブ意。夫木抄、三、柳「ウキ身ニハ、柳ヲアメル、カヒモナシ、サラヌ人ダニ、眉をひらくニ」眉ヲ睡すトハ、視力ヲ明カニスル意、又、他ニ欺カレザル用心ノ意。

まゆ (名) [繭・璽] [璽ハ繭ノ俗字ト] 又、まよ　訛シテ、まい　昆蟲ノ幼蟲ノ成熟シテ蛹トナルトキ、休眠セムガタメニ營ム家。口ヨリ絲ヲ吐キテ作ル。形多クハ楕圓形ニシテ、大小種種ナリ。蠶ナルニハ、圓キト中ノ縊レタルトアリ。形、卵ニ似テ、大抵、長サ七八分、色、黄ナルアリ、白キアリ、煮テ絹絲ヲ繰リ取ル。倭名抄、十四六「蠶絲具「繭、萬由」催馬樂(古寫本)走井「ハシリ井ノ、小ガヤ刈リヲサメカケ、ソレニコソ、末由ツクラセテ、絲ヒキナサメ」

まゆ-あひ (名) [眉合] 又、まよあひ　眉ト眉トノ間。眉間。用明天皇職人鑑(寶永、近松作)職人づくし「アラソフ内ニ異形ハ手ヲノベ、百嶋ガまゆあひヲ、ワレテノケト、ハッタト打ツ」

まゆ-がき (名) 眉書　又、まよがき。マユヲエガクコト。又、眉墨ヲエガクニ用ヰル筆。まゆずみ(眉墨)ノ條ヲモ見ヨ。藻鹽草、十七、調度部「まゆがき、此ハ見レハ眉ツクル筆也」

まゆかく-つき (名) [眉畫月] げんげつ(弦月)ノ異稱。

まゆ-げ (名) 眉毛 [他語ニ冠シテ熟語トナル時ハ、多クまよト云フ] 眉ノ毛。訛シテ、まいげ。マミエ。(中古ノ女ハ眉毛ヲ拔キシガ、後世、夫アル女ハ悉ク剃リタリ、明治以後、止ミヌ) 狂言記、狐塚「アレハ次郎冠者カ聲ヂヤ、ヨウ似セタ、オノレ、バカサルル事テハナイゾ、先ヅまゆけヲ濡ラサウ」

まゆ-ごもり (名) [繭籠・繭隱] 又、まよごもり。蠶、繭ヲ作リテ、其內ニ籠リ居ルコト。轉ジテ、少女ナドノ、深窓ニ籠リ居ルニモ云フ。萬葉集、十一「タラチネノ、母ノ飼フ蠶ノ、繭隱、コモレル妹ヲ、見ムヨシモカモ」同、十二廿六「タラチネノ、母ガカフ蠶ノ、眉隱、イブセクモアルカ、妹ニアハズテ」

まゆ-じり (名) 眉後 眉尻 マユゲノ末。眉稜　和爾雅、三、身體門「眉稍、マユジリ」

まゆ-ずみ (名) 黛 [眉墨ノ義、釋名(漢、劉熙)「黛、代也、滅ニ去眉毛ニ、以代ニ其處ニ也」] 眉毛ノ薄ク、又ハ、形アシキモノアレバ、剃リテ、其上ニ墨ニテ形ヨク畫キ作ルコト。又、其畫キタル眉。又ハ、其レヲ畫クニ用ヰルすみ。(古ヘハ、毛ヲ拔キ、後世ハ、剃ル。後一ハ、額ノ上ニ畫ク(上古ハかく、中古ハつくる、後世ハひく) 此墨ハ、種油ノ油煙十匁ニ、生紅二匁、水銀三滴、椿油ヲ加ヘテ煉リタルモノナリ。略シテ、まゆ　倭名抄、下四十容飾具「黛、萬由須美、畫眉墨也」名義抄「黛、マユズミ、マユカキ」金葉集、九、雜、上「サリトモト、カクもゆずみノ、徒ニ、心ボソクモ、老ニケルカナ」吾妻鏡、四十九、正元二年三月廿八日「御眉[illegible]、卽眉造」[illegible] 婦人技 其眉[illegible] 又、髮際(ハエギハ)ニ、薄ク黛ヲ塗リタルヲ、際墨トモ、又、置墨トモ云フ　女重寶記[illegible]ノ作リヤウ、云云、きはずみハ、成ルホド薄薄ト、云云、小鬢ヨリ上ニテ引拔テ、消スベシ」

ま-ゆすび (名) まむすび(眞結)ノ轉。東國ノ訛語。萬葉集、廿四十上「イハノ妹ロ、ワヲ偲ブラシ、眞由須比ニ、ユヒシ紐ノ、解クラクモヘバ」

まゆ-だま (名) 繭玉　訛シテ、まいだま　正月ノ飾物ノ一。繭ノ收穫ノ多カラムコトヲ、祝スル意ナルベシ　其方法ハ、土地ニヨリテ、多少異ナリ、東京地方ニテハ、柳ノ枝ニ、繭ノ大イサ程ノ餅ヲ、數多付ケ、コレニ小判、稻穗、大福帳ナドノ緣起物ヲ結ビ付ケタルモノ。年ノ初ニ、東京、神田神社、龜戶、妙義神社、等ノ社前ニテ賣ル。又、東北地方ニテハ、長キ細ノ所所ニ、稭(ワラベ)ヲ十數本宛垂ラシ、コレニ繭ノ形シタル餅ヲ附ケタ

[illegible]モノヲ云ヒ、又、武藏、相模、[illegible]正月十五日、繭玉トナヅケテ、米團子ヲ梅枝ニサシ[illegible]花ナドノサマ[illegible]一切[illegible]ナリ[illegible]。(松屋筆記、二)越後ニテハ、十五日ニ作リテ上、[illegible]宮、[illegible]ノ枝ナ[illegible]ノ[illegible]形[illegible]作リテ[illegible]ク[illegible]、十ト又、伊豆ノ風俗ニテハ、[illegible]又ハ、繭[illegible]モ[illegible]シ、[illegible]、又ハ、白[illegible]ニテ、犬、魚ナド[illegible]作[illegible]。又ハ、梅ノ枝ヲ切リタルニ插シ、神棚ニ供ル。一月十四日ヨリ十五日マデ行フト[illegible]記[illegible]、正月[illegible]日[illegible]、大ナ[illegible]ル柳ニツケ、繭玉ト號ケ傳フ」

まゆ-づき（名）〔眉月〕（びげつ(眉月)ノ文字[illegible]）女ノ眉ニ似タル月。新月

まゆ-づくり（名）〔眉作〕女ノ眉ヲ拔キ、其跡ニ眉墨ヲ描クコト。又、其引眉。下ノ出典ヲ見ヨ。（黛ノ條ヲモ參見セヨ）女重寶記[illegible]凡ソ眉ニ色色ノ名アリ[illegible]、[illegible]ニ日月[illegible]、忘レ眉、大ウタ眉、[illegible]眉、[illegible]、見ハ鉤キ人ニ付クル眉ナリ、座眉、コレハ年タケタル人ノ作ル眉ナリ、イヅレモ眉ハ左ヨリ作リ始ムルモノナリ」又、額ノ左右ニ圓ク大キク、中ヲ濃ク、周ヲ薄クボカシタルヲ、ぼうぼうまゆ、ほけたる眉、ぼうぼう眉ナドト稱ス。女重寶記(元祿)「眉ニまん(心)ヲ入ルルコト、[illegible]中ニ[illegible]月ノほのほのトシテ[illegible]タレリ如ク、引キタマフ[illegible]マルウヲ[illegible]付「ウツクシナ、タダ丸鏡ニ、ぼぼほまゆ」

まゆ-つば（名）〔眉唾〕〔眉ニ唾ヲツクレバ、狐狸ニ魅セラレズト云フ[illegible]〕眉ニ唾ヲツクルコト。他ニ欺カレヌ用

まゆ-とじめ（名）[illegible]〔[illegible]〕眉[illegible]シテ、其儘ニ生シオケル女。[illegible]眉止[illegible]「[illegible]ハ、まゆとじめノ[illegible]」[illegible]（モイ）、アラネドモ、君ハミマ草、トリテ飼フトカ」

まゆ-ね（名）[illegible]　眉根[illegible]、眉ト云フニ同ジ。[illegible]ヤ[illegible]、君ヲ見ムト[illegible]タ[illegible]ノ、[illegible]ト云フ）[illegible]集後集、上「雨降ルト、イカデカ人ヲ、[illegible]ラン[illegible]カケル[illegible]まゆねゾ」

まゆ-はき（名）〔眉掃〕（一）長サ二寸、徑一寸[illegible]ノ竹管ノ頭ニ、白鳥毛ヲ植エツケタルモノ。白粉ヲ顏ニ施ケタル後ノ眉ヲ、掃フニ用ヰル。訛シテ、まいはけ。眉掃[illegible]浮世[illegible]文化[illegible]下「眉掃きモ三本イルトサ、云云、私ラハ眉掃きサヘ遣ハネエモノダ」（二）花ノ形、前項ノモノニ似ル故ニ云ノ[illegible]まゆはきぐさノ略[illegible]草ノ名。はなあざみ(花薊)ノ一名。あざみ[illegible]ノ條ヲ見ヨ

まゆ-はらひ（名）〔眉掃〕昔、童女ノ眉毛ヲ拔キ、又ハ、剃ルコト。即チ、少女ノ成人トナル儀、又ハ、元服スルコト。（古ヘノかみあげナリ）コレニハ、毛拔親(ケヌキオヤ)[illegible]親）ト云フアリテ、其眉ノ毛ヲ拔キ、又ハ、剃ル役ヲツトム。恰モ男子ノ烏帽子親ノ類ノ如シ。女子の元服ナリ。

まゆ-びき（名）〔眉引〕まよびき(眉引)ニ同ジ

まゆ-ふ（名）〔眞木綿〕〔[illegible]ハ[illegible]ニ[illegible]ふ〕(木綿)ト云フニ同ジ。[illegible]「母ハシラレバ、ウベナウベナ、父ハシラレズ、ミナ[illegible]」

まゆみ（名）〔騎射〕うまゆみ(騎射)ニ同ジ。[illegible]、マユミ[illegible]「騎手人ノ、アヤメノカヅラ、長キ根ニ、ケフノまゆみヲ、引キヤ添ヘマシ」

[illegible]ノワタ、カ黑キ髮ニ、眞木綿モテ、アササ結ヒ垂レ、日本ノ、黃楊ノ小櫛ヲ、抑ヘ刺ス」（古義ノ說）

まゆみ（名）[illegible]　[illegible]弓[illegible]ト云フ[illegible][illegible]ミコモカル[illegible]ウマビトサビテ、否トイハムカモ」同、七二十「陸奧ノ、[illegible]、[illegible]弓、[illegible]ハケテ、引カバカ人ノ、[illegible]ム[illegible]

まゆみ（名）〔檀弓〕檀ノ木ニテ作レル弓。古制ハ丸木ナリ[illegible]弓の[illegible]「[illegible]弓ハ[illegible]弓の大ニテ削リタルモノ[illegible]、[illegible]スラズシテ、白木ノママニテ用ヰルヲ[illegible]白[illegible]弓ト[illegible]モ同ジ物也」[illegible]中[illegible][illegible]ニ、[illegible]弓[illegible]、[illegible]原由彌、射切ラムト、心ハ思ヘド」神樂歌「弓「梓弓、萬由美、槻弓」盛衰記、十五、宇治合戰事「眞弓ノシ[illegible]ニ[illegible]ル[illegible]中ノ[illegible]其材[illegible]白ケレバ、白檀トモ云フ[illegible]ノ[illegible]、フリサケミレバ、白[illegible]、張リテ[illegible]ケタリ、夜[illegible]ハコケム[illegible]十[illegible]「天ノ原、ユキテヤ射ルト、白[illegible]、引キテカクセル、月人壯士(ヲトコ)」

まゆみ（名）〔檀〕〔眞弓ノ義、弓ニ作ルニ良シ、因リテ檀弓ナドトモ記ス、眞弓(マユミ)ノ木ノ略ナラム〕又、まゆみのき[illegible]木ノ名。山地ニ自生シ、[illegible]科ノ落葉亞喬木ノ名[illegible]高サ二十尺餘ニ達シ、樹皮、黃色[illegible]シテ縱ニ裂目アリ、葉ハ長橢圓形ニシテ[illegible]對生ス[illegible]、五六月頃、花梗[illegible]小形淡綠色ノ花ヲ聚繖花序ニ着ケテ[illegible]、[illegible]果ヲ結ブ。其材、[illegible]シテ、古ヘ眞弓ヲ作レリト云フ。或ハ云フ、此樹、[illegible]、[illegible]似テ[illegible]、[illegible]モ王椿ニ似タリ、皮ヲ剝ゲ[illegible]、内、白キアマ皮アリテ紙ノ如シ。[illegible]花ノ[illegible]

[illegible]黃[illegible]ト云フ[illegible]又[illegible]、[illegible]シテ最モ良木ナリ。葉ハ肝木(カンボク)ノ如シ、小[illegible]丈、二丈ニモ及ブト云フ。（松屋筆記、九十六[illegible]又[illegible]木[illegible]ト。倭名抄、廿[illegible]木類「檀、萬由三」兵庫寮式、[illegible]進[illegible]古今集[illegible]、七二十「陸奧ノ、[illegible]川山ニ、立ツ檀、[illegible]末マクマデ、人ニ知ラユナ」古事記傳、三十三「[illegible]眞弓の木トハ云ナリ、色白キ故ニ、白檀トモ云リ」

まゆみ（名）[illegible]　[illegible]科、[illegible]木[illegible]一丈許リ、枝葉對生ス。葉ノ長サ一寸許リ[illegible]シテ尖リ[illegible]。小枝ヲ分チ、四瓣ノ淡綠花ヲ開ク、大イサ三分許リ、實、平タクシテ[illegible]二分餘、秋、熟シテ[illegible]紅ナリ、[illegible]テ、紅肉ヲ現ハス。肉中ニ一白子アリ。冬ノ初ニ、葉、紅、又ハ、紫ニ染ミテ美シ、因リテ、東國ニテハ錦木(ニシキギ)ノ名アリ。又[illegible]ト[illegible]、[illegible]、しきぎト云フ。ソバノキ。鬼箭　又、葉、[illegible]似テ、實、大キク、[illegible]アリ、やまにしきぎト云フ。桃葉衞矛

まゆみ-の-かみ（名）〔檀紙〕又、まゆみがみ[illegible]六帖、六「引フセテ、見レドアカヌハ、紅ニ、塗レルまゆみノ、モミヂナリケリ」

まよ[illegible]眉[illegible]、眉[illegible]同[illegible]古[illegible]

ミナ。仲哀紀、八年九月「[illegible]」[illegible]まよ[illegible]

まよ（名）[蠒] まゆ（蠒）ニ同ジ。萬葉集、十四「[illegible]ノ、[illegible]ノ、[illegible]ハ、アレ[illegible]、[illegible]カミケシシ、アヤニキホシモ」「まよゴモリ」

まよ-あひ（名）眉間　まゆあひ（眉間）ニ同ジ　天治字鏡、二「[illegible]、眉間也、[illegible]也、[illegible]也、萬與安比也」

まよ-がき（名）眉書　「眉書ノ義」マユズミヲ畫クコト。まゆずみ（眉墨）ノ條ヲ見ヨ　古事記、中[illegible]「[illegible]眉[illegible]畫キ[illegible]、カキ[illegible]レ、[illegible]ハ、シシノミナニ」天治字鏡、[illegible]「[illegible]、[illegible]色也、[illegible]、[illegible]色也、萬與加支」

マ-よけ（名）魔除　神符ナドノ魔ヲ除クルモノ。魔ヲ除クルタヨリトナルモノ。

まよ-ごもり（名）蠒籠・蠒隱　まゆごもり（蠒籠）ニ同ジ。萬葉集、十一「タラチネノ、母ガ[illegible]ノ、[illegible]、コモレル妹ヲ、見ムヨシモガモ」（古義ノ訓）

まよ-なか（名）眞夜中　眞ノ夜中。

まよ-ね（名）眉根　「まゆね（眉根）ノ條ヲ見ヨ」まゆ（眉）ニ同ジ。萬葉集、十九「[illegible]、[illegible]眉根ヲ、笑ミマガリ[illegible]」（古義ノ訓）

まよね-かき（名詞形）眉根搔　（一）眉ガ痒クテ、搔キタクナルコト（人ニ會フ前兆ト云フ）萬葉集、十一「眉根搔、シタイフカシミ、思ヘルニ、古ヘ人ヲ、相見ツルカモ」（古義ノ訓）（二）人ニ會ヒタキ時ノ、マジナヒニ、眉ヲ搔キテ待ツコト　萬葉集、六「[illegible]月立チテ、[illegible]日月ノ、眉根搔キ、日長ク戀ヒシ、[illegible]ニアヘルカモ」（古義ノ訓）

まよは-かし-がみ（名）迷神　又、まよはしがみ。人ヲ迷ハスト云フ神。宇治拾遺、十一、第[illegible]條「同シ所ヲ夜[illegible]、夜廻リ歩キケルハ、[illegible]まよはかし神ノ[illegible]、[illegible]ニ[illegible]レケリ」

まよは-か・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）迷　まよはす（迷）ニ同ジ。

まよはし-がみ（名）迷神　前前條ノ語ニ同ジ　今昔物語、廿七、第四十二語「其ノ行ケルホドニ、人共有リテ、此ノ邊ニハ、迷はし神有ナルゾカシ、ト云ヒツツ渡ケルホドニ」

まよはし-どり（名）迷鳥　きつね（狐）ノ異名　[illegible]「ヨルヒルヲ、カケテアダチウ、[illegible]カニ、まよはしどりノ、ツリノマヲ見ヨ」燕石雜志、一、怪刀禰「きつねノ異名ヲ、まよはし鳥トイフハ、人ヲ魅スルモノナレバ也」

まよは・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）迷　（一）〔亂サル。枕草子、九、第九十八段「髮ハ風ニ吹キまよはさレテ、少シウチフクダミタルガ」（二）迷フヤウニナス。惑ハス。マヨハセル。

まよは・せる（動）迷　前條ノ語ノ口語。

まよひ（名）迷　（一）迷フコト。マドヒ。[illegible]「[illegible]」[illegible]後撰集、九、釋教「暗キ夜ノ、迷ひノ雲ノ、晴レヌレバ、靜カニ澄メル、月ヲ見ルカナ」（二）〔マガフ　マギレ〕紛亂　源、廿一、少女「[illegible]ノ人ノまよひニ、對面セサセ給ヘリ」狹衣、二、下「風ノまよひニ、ヤヲラ押シ明ケテ」（三）〔布帛ノ經緯ノ、亂レテ片寄ルコト。又、皺ヨルコト〕紕　萬葉集、七「今年行ク、[illegible]守ガ、麻衣、[illegible]ノ紕ハ、誰カ取リ見ム」（四）葦ナドノ、風ニ吹キ亂サルルコト。

まよ-びき（名）眉引　又、まゆびき。眉墨ヲ畫キ引キタルコト　仲哀紀、八年九月「美女之睩、注、睩、此云[illegible]」萬葉集、五、長歌「[illegible]ナリシ、エマヒ[illegible]」同、六「振リサケテ、三日月見レバ、一目見シ、人ノ眉引、オモホユルカモ」同、十九、長歌「沖ツ波、撓ム[illegible]比佐、大船ノ、ユクラユクラニ」

まよびき-の（枕）眉引　「眉引ハ横ニ引クモノナレバ」よこ（横）ニ冠ラスル枕詞　[illegible]「[illegible]コソ、アヒ見[illegible]、[illegible]、[illegible]欲得吉能、ヨコヤマヘロノ、シシナスオモヘル」

まよひ-ご（名）迷兒・迷子　兒童ノ、家路ニ迷ヒテ[illegible]モノ。マヒゴ。迷ヒ子[illegible]「[illegible]、トモカクモ、[illegible]人ハ、イトド心ノ迷ひ子ニ、親ト名乘ランハ、ヨソノ人目モイカナラン」

まよひ-ぼし（名）惑星・迷星　惑星ヲ訓讀シタル語。いうせい（遊星）ノ條ヲ見ヨ。

まよ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）迷　「[illegible]ふ、ノ轉カト云フ」（一）思ヒ亂ル。惑フ。後撰集、十七、雜、三「歸リ來ル、道ニゾ今朝ハ、迷ふラン、コレニナズラフ、[illegible]キモノヲ」（二）〔マガフ　マギル〕紛亂　源、廿八、野分「[illegible]ニ、[illegible]キ、村雲まよふ、夕ニモ、忘ルル[illegible]ナク、忘ラレヌ君」新古今集、五、秋、下「霜ヲ待ツ、籬ノ菊ノ、宵ノ間ニ、置キまよふ色ハ、山ノ端ノ月」[illegible]「[illegible]まよふ」（三）〔布帛ノ經緯、片寄リ亂フ　又、皺ヨル〕紕　[illegible]「[illegible]」[illegible]「白妙ノ、袖ハ間結ヌ、我妹子ガ、家ノ邊ヲ、止マズ振リシニ」同、十四「[illegible]ノ、[illegible]比ニケリ」源、三十四、下、若菜、下「御[illegible]ノ少シまよひタル端ヨリ」狹衣、[illegible]六、[illegible]「髮ハ、ケヅレコトモシ給ハデ、程經ヌレト、まよふ[illegible]ナク引ナヤブレテ」

まよわ（名）石炭　[illegible]　[illegible]ナラズ　[illegible]日本紀作[illegible]「[illegible]」[illegible]

マラ（名）魔羅摩羅　一梵語、Mara. 智慧ノ命ヲ奪フ因緣トナル故ニ、能奪命[illegible]、破壞善者トモ譯ス、下略シテ、魔トモ[illegible]、モト[illegible]作リシ[illegible]（一）天竺ノ[illegible]帝、魔ノ字[illegible]作ルト[illegible]ノ神。[illegible]道行ヲ妨グル神。又、[illegible]魔[illegible]（二）[illegible]陽[illegible]、[illegible]ノ陰語。起レルナラム。陰莖ノ[illegible]レバナリ）下略シテ、[illegible]字[illegible]良、[illegible]選「閉俗、閉正」」字類抄「閉、マラ、[illegible]破前、一云、萬良、[illegible]十一[illegible]、訓釋「閉、萬良」醫心方（永觀）一「白馬莖」[illegible]ジャウノ名ヲエタレドモ」同、同「口舌ノタヘヌモ、コレユヘニコソトテ、刀ヲヌイテ、ヲノレガまらヲ切ヨシヲシテ」同、同「ワヅカナル小まらノ」

まらうど（名）賓客　〔稀人ノ音便轉、常ニ家ニ居ラヌ人ノ意　他ヨリ訪ヒ來レル人ノ稱　即チ客　又、マラビト　マラト。マフト。マレウド。仁德紀、十二年八月「[illegible]」欽明紀、廿二年「[illegible]」土佐日記、十二月廿六日「ヤマト歌、主モまらうどモイヒアヘリケリ」宇津保物語、藏開、下「南ノ庇ニ、まらうど、ゴタチ、簀子ニ仲頼、行政」源、五、若紫「ウトキまらうどナドノ參ルヲリフシノ方ナリケレバ、男ドモゾ御簾ノ外ニアリケル」

まらうど-がみ（名）客神　とこよのかみ（常世神）ノ條ノ（一）ニ同ジ。

まらうど-ざね（名）客實　客ノ中ノ主タル人。主賓。正客。さね（實、第二語）ノ條ノ（三）ヲ見ヨ。伊勢物語、第百一段「ソノ人ノ家ニ、ヨキ酒アリト聞キテ、殿上ニアリケル左中辨藤原良近ト云フヲナン、まらうどざねニテ、其日

[illegible]

まらうどゐ [illegible] 客人ノ[illegible]カ。マラビトヰ。源、四十六、總角「[illegible]まらうどゐノ最初ナル方ニ出シハナチ給ヘレバ」同、四十七、早蕨「西ノまらうどゐノ方ニオハスルニツケテモ、今ハヤウヤウモノナレテ」

マラ さや (名) 〔陰脹〕 牡馬ノ陰部。倭[illegible]

まら・す [illegible]

マラソン きやうさう (名) 〔競走〕 Marathon race 西紀前四百九十年、希臘、雅典ノ兵士ガ、まらそんノ戦[illegible]二十六哩[illegible]走リテ、首都雅典ニ波斯軍ヲ破リシ捷報ヲ齎シタル事蹟ニ因ミテ名トスト」長距離ノ徒歩競爭。一般ニハ、二十六哩三八五碼ノ競走ヲ云フ。

マラ たけりぐさ (名) 〔仙靈脾草〕 〔陰[illegible]ノ[illegible]トスル故ニ云フ、まら(魔羅ノ條ノ(二)、及、たけり(陰)ノ條ヲモ見ヨ)〕 いかりさう(碇草)ノ古名。倭名抄、廿、草類「仙靈脾草、和名多介里久佐」

まらど (名) 〔客〕 客人ノ略。推古紀、十六年六月「以[illegible]客」

まらびと (名) 賓客 〔稀人ノ轉、常ニ在ラヌ意〕 略シテ、まらと。まらうど(賓)ノ條ヲ見ヨ。箋注倭名抄、一、九十男女類「賓客、[illegible]」[illegible]マラヒト、キヤク[illegible]佛足石歌「藥師ハ、常ノモアレド、賓客ノ、今ノ藥師、貴[illegible]」

[illegible]カリケリ、メダシカリケリ」續紀、元年六月「朔日[illegible]」

まらひとゐ (名) 〔[illegible]〕 まらうどゐ(賓居)ニ同ジ。字類抄「亭、マラヒトヰ」

マラリア (名) 〔麻剌利亞〕 〔英語、Malaria〕 [illegible]

マラリア ねつ (名) 〔麻剌利亞熱〕 風土病ノ一種、[illegible](Plasmodium)ト云フ寄生蟲ノ寄生スルニヨリテ起ル。コレヲ寄生シ繁殖セシムル蚊ハ、あのふれれ(Anopheles)屬ノモノニ限ル。症狀ハ、突然、惡寒戰慄ヲ發シ、體溫四十度乃至四十一度ヲ示シ、二三時間ノ後、皮膚ハ紅潮、灼熱シ、三四時間ノ後、強キ發汗ト共ニ、急ニ下熱シテ平溫トナリ、更ニ日ヲ經テ、此發作ヲ反復ス。故ニ其發作ニヨリテ、毎日熱、隔日熱、三日熱、四日熱、ナドノ別アリ。[illegible]間歇熱、瘧疾。

まり (名) 〔鋺・椀〕 〔圓ノ轉〕 又、モヒ。古ヘノ瓦器。形圓キモノノ如シ。水、酒、ナド盛ル器。倭名抄、十六九、金器類「[illegible]」[illegible]

まり (名) 〔鞠・毬〕 〔圓ノ轉〕 遊戲ニ用ヰル圓キ球。種類多シ。蹴鞠、及、手毬等ノ條ヲモ見ヨ。倭名抄、四、十九雜藝具「鞠、毬[illegible]萬利」[illegible]人人アマタシテ、まりモテ遊バシ[illegible]見タマフ」

まり [illegible]

まりあし (名) 〔鞠足〕 鞠ヲ蹴ル技ノ上手。[illegible]從大納言成通、云云、まりあしニオハスルコトモ、昔[illegible]

まりうち (名) 〔打毬〕 數人、馬上ニテ、曲杖ヲ以テ毬ヲ打ツ戲。[illegible]

まりかかり (名) [illegible] 又、[illegible]り。けまり(蹴鞠)ノ條ヲ見ヨ。

マ-りき (名) 〔魔力〕 まりよく(魔力)ニ同ジ。

まりくくり (名) 〔鞠括〕 鞠ヲ作ル工人。七十一番職人盡歌合、廿九番、まりくくり「難波殿ハ、大形ヲ御コノミアル」

まりくわい (名) 〔鞠會〕 けまり(蹴鞠)ノ會。其條ヲ見ヨ。山槐記、治承[illegible]年[illegible]月[illegible]日「行[illegible]院御所、今日御遊鞠、[illegible]」

まりこゆ (名) 蹴鞠ヲ蹴ルコト。倭名抄、四[illegible]「蹴鞠、末利古由」[illegible]

マリシてん (名) 〔摩利支天〕 〔摩利支ハ、梵語、Marici. 其形、見ルベカラズ、取ルベカラザルヲ以テ、陽炎ト譯ス〕 佛教ノ神。護國ノ神。天女ノ形相ニシテ、常ニ日ノ前ニ在リテ、自在ノ通力ヲ有シ、兵戈ヲ救フモノト云フ。故ニ武士[illegible]

まりづきん (名) 〔鞠頭巾〕 [illegible]

まりつほ (名) [illegible]

まりのかかり (名) [illegible]

まりのには (名) 〔鞠庭〕 前條ノ語ニ同ジ。[illegible]大木抄、三十二「鞠の庭ニ、櫻ヲ、ウヱ(ツイ)シ置キテ、春ハ錦ニ、立ヤマシラン」

まりば (名) 〔鞠場〕 同[illegible]ラヌ、若クル人ノ、まりばナリケリ」時慶卿記、文祿二年八月四日「鞠場、砂土ヲ被置候」

まりはじめ (名) 〔鞠始〕 新年始メテ蹴鞠ヲナスコト。日次紀事、一、正月「四日、蹴鞠初」注「飛鳥井家、并難波家修之」吾妻鏡、十七、建仁二年正月[illegible]

まりや (名) 〔目在矢ノ約ト云フ(日本紀歌解槻乃落葉)〕 ひきめ(蟇目)、かぶらや(鏑矢)[illegible]鏑ヲタグヘ、ウマヒトハ、ウマヒトドチヤ」

マリヤ (名) 〔[illegible]〕 Maria [illegible]同

ジ」耶蘇基督ノ母、聖母。又、歐米ニテハ、多ク女性ノ名ニ用キル。

マ-りょく (名) |魔力| 又、まりき、不思議ナル力。

まりりか-ま (副) |圓| まろらかま(圓)ニ同ジ。字類抄「圓、マリリカ、長、マリリカ、マロカス、纖、マリリカナリ」名義抄「圓、マリリカ」字鏡三「臁、奈太良加爾、又、曾比也加爾、又、萬利利加爾」

まり-すけ (名) 〔大小便ヲ放る桶ノ義〕おかは(清器)ニ同ジ。

まり-おけ (名) |鞠桶| 鞠ヲ入ルル桶。持統天皇蹴鞠法(正德、近松作)二「今ノ世マデモ首桶ニ鞠桶ヲ用ルコト、此因緣ト承ル」

まる (名) |丸| (一)四面ニ角ナキ形。圓キ形。圓 團 圈「丸ヲカク」「日ノ丸」 (二)全キコト。缺ケヌコト。全體。總體。全(三)城ノ郭ノ内。「丸ノ内」主將ノ居ル郭ヲ、本丸ト云フ。内郭 牙城 其外ヲ圍ム郭ヲ、二の丸ト云フ。外城 羅城 更ニ其外ナルヲ、三の丸ト云フ。月城 城ヲ離レテ築ケルヲ、出丸ト云フ。別壘 書言字考節用集、一、「乾坤門、本丸、ホンマル」注「築、城之法、以二長方一爲二不利一以二小圓一爲二要害一故用二丸字一」武家名目抄、居處、廿三「丸、按、城郭ノ體タル、一樣ナラズト雖モ、オホヨソニイハバ、皆圓ナルニ出ズ、故ニ丸ト云ヒ、又、曲輪トモ云フ也」應仁略記、多武峰合戰「四村ノ出雲以下、丸丸ノ手々レ共出合ヒ、散散ニ防ギ戰フ」 (四)畿内ニ、鍛錬ノ異名。(身、圓長ナレバ云フカ)うぢまる(宇治丸)ノ條ヲ見ヨ。 (五)金錢ノ隱語。まろ(圓)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 (六)往古、商家ノ屋號ヲ云フ語。今ノ屋ノ如シ。(養軒隨筆、五) (七)射術ノ的ニ用キルモノノ稱。 庭訓往來、四月「浦浦閤丸」

まる (名) |虎子|清器| 〔大小便ヲ放る器〕ゆばり、又ハ、くそナドヲセサスル器小兒、又ハ、病者ノ用トス。ヒ。シノハコ。オカハ。オマル。便器。褻器 書言字考節用集、七、器財門「褻器、マル、(字彙、褻器也、出 遠由二、虎子、同上」

まる (名) |丸| 〔圓龜ノ略、其甲、石龜ノ六角ナルニ對シテ圓ケレバ云フ〕すっぽん(鼈)ノ畿内ノ方言。浮世風呂(文化、三編)二編、上「丸トハ何ダエ、御當地デ云フ鼈ヂャガナ、云云、甲ガ丸イサカイ、丸ヂャワイナ」皇都午睡、三編、中、言葉の變「大坂ニテ泥龜ヲ丸ト計イヘバ」好色二代男(貞享、西鶴)二「世渡リトテ丸魚(一本、泥龜)突ニナッテ、天滿ニオハシケル」

ま・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) |放| 〔張るニ通ズ、信濃、土佐、筑前、沖縄ニテまる〕大小便ヲナス。ヒル。パル。字類抄「弼、ユハリマル、ユハリマリカク」名義抄「旋、ユバリマル」神代紀、上三十「送糞、此云二倶蘇摩屢二」同、同三十二、第一條「小路ニヱドヲまる」古事記、上廿「屎麻理散」竹取物語「燕ノまり置ケル古屎ヲ、握り給ヘルナリケリ」萬葉集、十六廿八「カラタチノ、ウマラ苅リソケ、倉立テム、屎遠ク麻禮、櫛造ル刀自」

まる (接頭) |丸| 全キコト、缺ケザルコトナドノ意ヲ表ハス語。心中天網島(享保、近松作)名殘橋盡「マメデ添ハント契リシニ、丸三年モ馴染イデ」「まるマウケ」まるヤケ」

まる (接尾) |丸| 〔麿ノ轉〕人ノ名、名作ノ刀劍器物ノ名、船ノ名、ナドニ添フル語。(麻呂ノ條、參見セヨ)「牛若丸」五郎丸」小烏丸」膝丸」鬼丸」安宅丸」日本丸」和泉丸」獅子丸」

まる (接尾) |丸| 紙(日本紙)ヲ數フル語。半紙ナドハ六締、美濃紙、天貝帖紙ナドハ四締、程村、半切、奉書ナドハ十束、杉原ハ八束、傘紙、元結紙ナドハ五束、小菊紙ハ九締ヲ一丸ト云フ。

まる-あはび (名) |丸鮑| 熨斗鮑ニ對シテ、丸ノママ、乾シタル鮑ノ稱。庭訓往來、五月「削物者、干鯉、圓鮑、干鯛」

まる-アンドン (名) |丸行燈| 又、まるあんど。角行燈ヲ、圓筒形ニ作リ直シタルモノ。蜘手ヲ中ニックリツケ、油皿ヲ置ク。延享ノ頃ヨリ行ハレ、上流ニテハ皆コレナリキ。又、遠州あんどんトモ云フ。(翁草) 物類稱呼、四、器用「行灯、云云、江戶ニテイフ丸あんどんヲ、加賀ニテ、マハシアンドント云、津國ニテ、エンチャンドント云、是ハエンシウアンドンノ誤也、小堀遠州侯ノ物數寄ニテ、製リハジメ給ヒシト也」寶曆・寶文・三、あんど「三四五十年以前、天ガ下ノ數奇人ノ御作意ニ、丸あんどト云フモノ好ミ給ヒテヨリ、今ハマロキモ世ニヒロマリツ、物ズキモ、新月ヤ、丸あんど」

まるいもの-づくし (名) |丸物盡| まるづくし(丸盡)ニ同ジ。

まる-うち (名) |丸打| 紐ノ作リ方ニ、丸ク打ツコト。又、其打方ノ紐 (ひらうちニ對ス) 紃

まる-えり (名) |圓襟| 〔角襟ニ對ス〕ばんりゃう(盤領)ノ條ヲ見ヨ。

まる-えり (名) |丸襟| 丸幅(一幅ソノママ)ニテ仕立テタル羽織ノ襟。

まる-おび (名) |全帶|丸帶| (一)婦人ノ幅廣キ帶ニ、全一枚ノ帛ヲ折返シテ、表裏ヲ縫ヒ成セルモノ。各色ノ帛ヲ縫ヒ合ハスルヲ腹合帶ト云フ。諸家奥女中袖鏡、御制禁品の事「一、丸帶ハ御側御次以下禁ズ、一、腹合せ帶、赤地、總女中トモ、二十歲已上、禁ズル事」(二)ククリオビ。圓ク縫ヒ括リタル帶

まる-かがみ (名) |圓鏡| マルガタノ鏡。エンキャウ。東大寺獻物帳「圓鏡一面」井筒業平河内通(享保、近松作)澁響振分髮「朝夕向フ丸鏡」

まる-がち (名) |丸勝| 全ク勝ツコト。十分ニ勝ツコト。全勝 (丸負ニ對ス)

まる-ガッパ (名) |丸合羽| 〔袖合羽ニ對ス〕袖ナク、まんとノ如ク、裾廣ク製リタル合羽。かっぱ(合羽)ノ條ヲモ見ヨ。

まる-ガハラ (名) |圓瓦|丸瓦| 瓦ノ一種。竹ノ筒ヲ二ッニ割リタルガ如キ、半圓ノ長キ瓦。ツツガハラ。ヲガハラ。かはら(瓦)ノ條ヲモ見ヨ。

まる-がんな (名) |圓鉋| 鉋ノ一種。二種アリ。刃ノ中高ニ圓キヲ、そとまるト云ヒ、圓キ溝ナド削ルニ用ヰ、中窪ニ圓キヲ、うちまるト云ヒ、圓キ柱、又ハ、棒ナドヲ削ルニ用キル。

まる-き (名) |丸木| 山ヨリ伐採シタルママノ木。(削リ、又ハ、磨キナドセザルモノ)轉ジテ、まろき。アラキ。樸 俊成卿五社百首「山ガツノ、丸木サシアハセ、ウツム火ノ、世ニアルモノト、誰カ知ルベキ」

まるき-ばし (名) |丸木橋| マロキバシ、マルバシ。マロバシ。一本ノ樹ノ幹ニテ渡セル橋。一ッ橋。一本橋。獨木橋 千載集、十八、誹諧「恐ロシヤ、木曾ノ懸路ノ、丸木橋、フミ見ルタビニ、落チヌベキカナ」盛衰記、三十八、小宰相局、付愼夫人事「女院御自御硯引寄セ御座テ、タダ懸メ、細谷川ノ、丸木橋、フミ返テハ、落ル習ゾ、谷水ノ、下ニ流テ、丸木橋、フミ見テ後ゾ、悔シカリケル、ト遊シテ、女院御媒ニテ渡フセ給ヘバ」

まるき-ぶね (名) |丸木舟| マロキブネ。ウツホブネ。丸木ヲ二ツニ割リ、中ヲ

[illegible]作レル丹[illegible](上古ハ、一[illegible]材ヲ雕リ穿チテ造レリ)クリヌキブネ。[illegible]四「丸木船、防州安芸郡山刀村ニ、船越大明神ト云社アリ、云云、神前ニサゲタル古代ノ丸木船二艘ア[illegible]一丈六尺、[illegible]九[illegible]ルガ、何トイフ木ナルヤ知者ナシ」

まるさり [illegible] 丸切 マタク。マルノキ[illegible]マルデ。全然。

まるぎり (名) [圓錐] 圓キ孔ヲ穿ツニ用ヰル錐。刃ハ半圓形ヲナス。

マルク (名) [馬克] [獨逸語、Mark] 又、まァく。獨逸國ノ貨幣價格ノ單位。[illegible]

まるぐけ (名) 丸絎 帶、紐ナド、圓ク長キ心ヲ、堅ニ布帛ニテ包ミ、其兩端ヲクケタルモノ。其平カナルヲ平[illegible]けト云フ。[illegible]「丸[illegible]」

まるぐも (名) [圓蜘蛛] [腹、圓ク大キナ[illegible]

まる・ける (動) [丸] [まろぐ(丸)ノ口語] [illegible]

まるこ (名) 丸子 らんちう[illegible]

まるこし (名) [丸腰] 腰ニ刀ヲ帶ブベキモノノ、帶ビヌコト。ムコシ。無刀。[illegible]「[illegible]」隠八州繋馬(享保、近松作)二「今コソ太刀刀ヲモガレ、丸腰無刀ノ囚人トナッテ」

まるさや [illegible] 丸[illegible]丸ハ[illegible]圓[illegible]

るめノ義」太刀ノ拵ニ云フ語。柄、[illegible]タルコト。又、ソノモノ。貞丈雜記、十二、刀劔之部「丸ざやトハ、サヤヲ丸クシタルニハアラズ、丸トハ一圓ノ事ニテ、金作ノ太刀ノ精マデモ金ニテ包ミタルナリ、古書ニ、金作の丸精の太刀トアリ、只丸ざやの太刀ト云フ事モアリ、同ジ事ナリ(丸トハ一圓ナリ、俗ニ總體ノ事ヲ、ヒトマルメト云フ事モ同ジ事ナリ)」太平記、九、[illegible]代ノ重寶ニ鬼丸ト云ケル金作ノ圓精ノ太刀二」同、廿一、[illegible]判官讒死事「イデ引出物セントテ、金作ノ圓[illegible]シテ」

まる・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [圓] [まろしノ轉] マロシ。マドカナリ。

まるせん (名) [丸錢] (角錢ニ對ス、其條ヲ見ヨ) 仙臺ニテ、くゎんえいせん(寛永錢ノ轉)[illegible]錢ハ[illegible]「丸[illegible]」

まるそで (名) [丸袖] (一)鎧ノ袖ノ丸ミアルモノ。(二)袖ノ外側ノ下部ニ、丸ミヲツケタルモノ。即チ、袖先ニ丸ミヲツケタルモノ。(三)袖ノ裏ト表ト同一ノ布帛ノモノ。長襦袢ノ袖ノ類。

まるそなへ (名) [圓備] 圓形ニ陣ヲ構フルコト。甲陽軍鑑、九、下、品第廿八「七千ノ人數ヲ丸備ニ作リ、[illegible]ニオシカカテ」川中島五度合戰次第、天文二十二年十一月廿七日「七手ニテ四拾九備ヲ[illegible]、丸備ニ作リ」

まるた (名) [丸太] (一)材木ノ圓ク長キモノ。[illegible]五「[illegible]木ノ便リナキ丸太ヲ、二ツ三ツ四ツナラベテ、渡ケ渡シ」(二)丸太魚ノ略。魚ノ名。[illegible]、白魚ノ屬、淡水ニ生ズ。形、圓ク長ク、大ナルハ八尺許リ、味美ナラズ、利根川丸太、多摩川丸太ナド稱ス。又、ミゾゴヒ。サ[illegible]

イ。其子ヲ、東京ニテハ、はやト云フ。[illegible]ダ、讃岐ニテ、ガウラ、京阪ニテ、サイ、スまるたト云、[illegible]ヨリ村ヲ山川ニウカベ、流ニ任セテ下ルニタトヘタリ、今按ニ、サイトハ材ナルベシ、丸太トイヘルモオナジ心也、其魚ノ圓キニヨルノ名ナリ」(三)賣淫ノ[illegible]三「出ル舟アレバ入舟町、石場ニ佃ケコロバシ、踊邊シタル丸太ノ名物、立ウトフセウト鏡次第」

まるだし (名) [丸出] スベテヲアラハスコト。ムキダシ。露骨。

まるッきし (副) まるッきり(丸切)ニ同ジ。

まるづきん (名) [丸頭巾] 僧徒ノ頭巾頂圓シ。平人ニ移リテ、鞠頭巾ト云フ。[illegible]人ノ被ル[illegible]頭巾ナド、大抵、其製同ジ[illegible]ノ、黑髪山ガ、丸頭巾」日本永代藏(元祿、西鶴)一「目那様ト、呼バレテ翼頭巾」好色一代女(貞享、西鶴)五「此親仁、[illegible]シノほうらく頭巾、撮リ口ヨリ下ヘオリルニ」

まるッきり (副) [丸切] まるきり(丸切)ノ音便。其條ヲ見ヨ。

まるづくし (名) [丸盡] 又、まるいものづくし。模様ニ、圓形ヲ多ク連ネテ、中ニいろは假名、一二三、又ハ、十二支ノ文字ナドヲ表ハシタルモノ。(慶安ヨリ元祿マデノ女ノ衣服ニ)[illegible]「秋ノ野ノ、錦ノ露ヤ、丸づくし」新撰大筑波集(寛治)「影ウツル、田毎ノ月ヤ、丸づくし」風俗文選(寶永、許六)序「一ツノ趣意ヲタツルトコロナクテハ、

[illegible]トナセル、其文無ドノコトナルベシ」

まるづくり (名) [丸作圓作] [まるざや[illegible]] [illegible]トモ、悉ク金作ナルコト。平治物語、三、[illegible]云云、[illegible]切ハ柄、精、丸作ナリ」

まるづけ (名) [丸漬] 切ラズニ、其儘、漬[illegible]

まるづけうり (名) [illegible]るづけ。瓜ノ一種。夏秋ノ交、實ヲ結ブ。形、まくはうり(眞桑瓜)ニ似テ大[illegible]類稱呼、三、生植「越瓜、シロウリ、云云、菜瓜、ナウリ、京ニテ、アヲウリ、大坂ニテ、ナウリ、大和ニテ、[illegible]トイフ、(東國ニアヲ瓜ト稱スルハ、別種也)」

まるッこ・し (形) [圓] まろッこし(圓)ニ同ジ。

まるつぶれ (名) [全潰] マッタクツブル[illegible]

まるで (副) [丸] 全ク。ノコラズ。スベ[illegible]

まるどし (名) [丸年] 滿ノ年。滿一年。一年全部。百日曾我(元祿、近松作)[illegible]「丸[illegible]」

まるども [illegible] 丸[illegible]ノ形ノモノナリシガ、圓ク作リテモ、其名ヲ存スル[illegible]革帶、皮、[illegible]

ノ條ヲモ見ヨ。　槐記、寛弘二年六月廿七日「參衙右中辨初參、用二丸鞆帶一入内」

まる-どり　(名)　丸取　スベテヲトルコト。全部トルコト　好色二代男(貞享、西鶴)四「世居ノ愛ノ貴イ所ヘ殘リヤル、其ノ餘ヲ丸取リニシ」

まる-ね　(名)　[丸寐]　(一)まろね(丸寐)ニ同ジ。假寐。　名物六帖、人事箋、四、「假寐　マルネ・假寐、不脫衣服而寢也」　(二)獨リ寢ルコト　萬葉集、廿、「草枕、旅行ク夫ガ、丸寐セバ、家ナル吾ハ、紐解カズ寢ム」

まる-ね　(名)　丸根　鏃ノ角ナクシテ、鎬(シノギ)ノ所ヲ、稍、丸クシタルモノ。　四季草、春草、射藝、丸根の事「丸根ト云ハ、鋼尻ノ如クニテ、眞中ニシノキヲ付ズ、シノギノ所ヲ丸クシタルヲ云也」　五十三體誌(保元物語)「丸根ト云ハ、柳葉、ケンジリノ類ノ根ノ、中通リノシノギノ角ヲ取テ、丸ミアルヲ云ナリ、是膽ニサス矢ナリ」　保元物語、一、白河殿夜討被寄事「七寸五分ノ丸根ノ、眞中過ギテ篦代ノアルヲ打チクハセ、暫シ保ッテ兵ト射ル」

まる-の-うち　(名)　[丸内]　城郭ナドノ、本丸ノウチ。クルワウチ。まる(丸)ノ條ノ(三)ヲ參見セヨ。

まる-の-ひ　(名)　[丸日]　もんび(紋日)ニ同ジ。　俚本用所語闕、上「紋日、云云、揚屋ニ丸の日ト云フ事、正月八朔日ヨリ七日迄、同十四日、十五日、廿日、合ワ十日アリ、云云、正月一ケ月ニ十日アレバ、丸ノ字ニ一點ヲ加ヘ、丸の日ト云フ、古來ハ正月ニ限リシナレドモ、今ハ五節句、紋日ハ、イツレモ丸の日ト云フ」

まる-のみ　(名)　[全吞]　(一)噛ミ碎カズシテ、呑ミ込ムコト。ウノミ。(二)全體ヲソノママ併吞スルコト。スベテヲ乘取ルコト。雙生隅田川(享保、近松作)三「吉田ノ家ヲ丸吞ニ仕度イトテ、サセウカ」　(三)全體ヲ理解スルコト。　(四)意義ヲ理解セズ、タダ語句ナドヲ其ママ記憶スルコト。

まる-のみ　(名)　[圓鑿]　鑿ノ刃ノ、圓キモノ。圓キ穴ヲ穿ツナドニ用ヰル。　和爾雅、五、器用門「圓鑿、マルノミ」

まる-ば　(名)　丸刃　又、まるば。刀ニ刃ノ研ギツケテナキモノ。又、刀ノ刃ノツブレタルモノ。ハマグリバ。

まる-はぎ　(名)　[丸剝]　スベテヲ剝ギトルコト。マルハダカニスルコト。　狂言記、手負山賊「何者デモ通レカシ、丸剝ニシテクレウト存ズル、先ヅコレニ忍ンデヰヨ」

まる-ば-ぐみ　(名)　[丸葉茱萸]　胡頽子科ノ落葉灌木ノ名。山野ニ自生シ、高サ丈餘。葉ハ長卵形ニシテ、銀色ノ毛ヲ有シ、互生ス。花ハ淡褐色ニテ、橢圓形ノ實ヲ結ブ、熟スレバ紅クナリ、食フベシ。オホバグミ。トラグミ。ナツグミ。[木半夏]

まる-はだか　(名)　[丸裸]　衣ヲ脫ギテ體ノアラハナルコト。アカハダカ。スハダカ。轉ジテ、身體ノ外ニ、何物ヲモ有セヌコト。　後撰夷曲集(寛文)九「丸はだか、百貫ステフ、ヲノコ子モ、死ヌレバタッタ、五輪ニゾナル」

まる-はなだ　(名)　[圓縹]　襲(カサネ)ノ色目ノ名。表裏共ニ縹ナルモノ。ハナダアヲ。

まる-ば-の-ほろし　(名)　[白英]　茄子科ノ多年生蔓草ノ名。古名、ホロシ。ツグミノイヒネ。蜀羊泉(ヒヨドリジヤウゴ)ノ葉ニ刻缺ナキモノ。幽谷、江邊ニ生ズ。春苗ヲ出シ、蔓延ス、蔓葉共ニ毛ナシ、葉ハ圓クシテ長ク、尖リテ互生ス。夏、穗ヲナシテ花ヲ開ク、蜀羊泉ノ花ニ同ジク、邊ハ淡紫ニテ、内ハ深紫ナリ。實モ蜀羊泉ニ似テ、秋熟シテ深紅色ナリ、番椒(タウガラシ)ニ似タルアリ。有毒植物ナリ。マルバノヒヨドリジヤウゴ。　倭名抄、廿、草類「白英、保呂之、一云、豆久美乃伊比禰」　本草和名、上「白英(其ノ實ヲ)、保呂之、一名都久美乃以比禰」　字鏡「白英、保呂之草、又、豆具美乃伊比禰」

まる-はば　(名)　[丸幅]　又、おほはば。布帛ノ織地ノママナル幅。

まる-びたひ　(名)　[丸額]　(一)髮ノ生際(ハエギハ)ノマルキ額。　本朝若風俗(貞享、西鶴)四「此人ハ、角ヲ入レタル由モナク、生レ付ノ丸額、是ゾカシ」　(二)昔、額ノ邊ヲ剃リ上ゲテ、丸ク作リタルモノ。(少女、多シ)　正親町公通)「ウタチヨリ、心ナン猶、丸びたひ、年モ三五ノ、ツキヌ思ヒニ」

まる-ぶ・ブ・ベ・ベ・ビ・ベ　(自動、四)　[轉]　まろぶ(轉)ニ同ジ。　運歩色葉集、「轉、マルブ」

まる-ブシュかん　(名)　[圓佛手柑]　古名、カフチ。樹、葉、共ニ佛手柑ニ異ナラズ。實ノ形ハ、柚子ニ似テ、稍、長ク、肌、細カナリ。其他ノ狀、佛手柑ニ異ナラズ。肉ヲ薄ク切リテ、砂糖ニ漬ケタルヲ、佛手柑漬ト云フ。枸櫞。香櫞。　重修本草綱目啓蒙、廿一、山果類「枸櫞、マルブシュカン、和名ナシ、蕃舶ヨリ傳ヘ、盆種ト云云」　草木性譜、人「枸櫞、マルブシュカン、夏、花ヲ開キ果ヲ結ビ、秋後熟シ、黄色香氣アリ、果中核ナシ、コレヲ截ル、蘿蔔(ダイコン)ノ如シ」

まる-ぶな　(名)　[圓鮒]　鮒ノ一種。身圓クシテ鯉ノ如キモノ。

まる-ぼし　(名)　[丸星]　マルキ點。圈點。

まる-ほん　(名)　[丸本]　(闕本、抄本ニ對ス)　(一)全部揃ヒタル書物。完本。　(二)淨瑠璃ノ全篇揃ヒタル本。　八笑人(天保、鯉丈)四編、追加、上「本箱ニ忠臣藏ノ丸本カアル、云云、拔キ本デハネエ、丸本ダト云フニ」

まる-ぼん　(名)　[丸盆][圓盆]　マルキ盆。マルガタノ盆。　「丸盆、マルボン」　好色二代男(貞享、西鶴)二「三人ノ女郎、丸盆ヲ持チテ、出口ノ茶屋マデ行ク道」

まる-まうけ　(名)　[丸儲]　スベテヲマウクルコト。全部ヲ利益トスルコト。　浮世風呂(文化、三馬)初編、上「サウ云ハズト、オクンネエ、丸儲けだア」

まる-まき　(名)　[丸卷]　刀劍ノ鞘ノ全部ヲ、革ニテ卷クコト。又、ソノ卷キタルモノ。　「パ廿人ニ、赤地ノ錦ノ直垂ヲ着セ、まるまきノ太刀ヲカツガセテ」

まる-まけ　(名)　[丸負]　全ク負クルコト。全敗。(丸勝(マルガチ)ニ對ス)

まる-まげ　(名)　[丸髷]　又、まるわげ。婦人ノ髮ノ風ニテ、頂ニ大キク橢扁ナル髷ヲ作ルモノ。嫁シタル女ノ結フモノトス。ホンダ。　歷世女裝考(弘化、岩瀨京山)四「丸髷(マルマゲ)、云云、今世ニ行レルハ、カタハズシ、まるまげ、シマダノ三樣ナリ」　女重寶記(元祿)一「髮ノ結ヒヤウ、兵庫、フキアゲ、角グリ、グルグル、丸わげ」

まる-まっ-ち・い　(形)　マンマルナリ。

まる-まど　(名)　[丸窓][圓窓]　圓形ナル窓。

まる-まんぢ　(名)　[丸卍]　紋所ノ名。卍ヲ圓形ニシタルモノ。

まる-まる　(名)　[丸丸]　(一)二重ノ圈點。　(二)國子ノ女房詞。　(三)錢ノ隱語。　(四)缺字、符號。

まるまる-と　(副)　[丸丸]　ヨク肥エフトリタル狀ニ云フ語

まる-み　(名)　[圓味]　マルキ氣味。マルキ容子。又、圓キ度合。

まる-みえ　(名)　[丸見]　スベテ見ユルコト。

殘リナク見ユルコト。

まる・む・ムル・ムレ・メ・メヨ（他動、下二）〔丸〕まろむ（丸）ニ同ジ。マルメル。[illegible]レ程、人ノ乞ハウズルニ、常ムベキ様ヤアル」（淡布[illegible]ソナフル、[illegible]コノ[illegible]ハ[illegible]」

まる・むね・づくり（名）〔圓棟造〕〔立棟造ニ對ス〕屋根ノ搏風ヲ圓ク造レルモノ。又、唐門ナドノ、屋根ノ勾配ヲ中高[illegible]

まるめ・こ・む・ムル・ムレ・メ・メヨ（他動、下二）〔丸込〕（一）マルメテ中ニ入ルル。（二）人ノ[illegible]、己レガ習俗ノ中ニクルメコム。籠絡ス。[illegible]

マルメル（名）〔榲桲〕次次條ノ語ノ轉。[illegible]米ニ出見也」

まる・める（動）〔丸〕まるむ（丸）ノ口語。

マルメロ（名）〔榲桲〕〔葡萄牙語、Marmelo.（榠樝ノ義）、蘭語、Marmelade.（果ノ砂糖漬ノ義）ノ轉、此實ノ砂糖漬ヲ渡セルヨリ起ル〕又、まるめる。まるめいら。薔薇科ノ落葉樹ノ名。莖ノ高サ七八尺、林檎ニ似テ、枝、多クヒロガリ、節ニ瘤アリ、葉モ、林檎ニ似テ廣ク、白毛アリ、互生ス。春、五瓣水紅色ノ花ヲ開ク、大キサ一寸許リ、又、白花ナルモアリ。實、秋熟ス、榠樝ニ似テ圓ク、黄ニシテ綠ヲ帶ビテ、香アリ、味、酸[illegible]、[illegible]砂糖漬トス。香圓 近代世事[illegible]、[illegible]

まる・もち（名）〔丸持〕一丸ハ[illegible]。[illegible]

まる・もち（名）〔圓餅〕圓形ナル餅。狂言[illegible]テ上ルワ、イザ同道致サウカ」

マルモット（名）〔土撥鼠〕〔[illegible]、Marmot.〕（一）獸ノ名。歐羅巴ノあるぷ花山中ニ棲ム。大キサ南京兎ノ如シ。訛シテ、もるもっと。モロモット。（二）誤リテ、天竺鼠ノ稱。其[illegible]モ見ヨ。

まる・もの（名）〔圓物〕弓ノ的ノ一種。徑五寸乃至八寸、形太鼓ニ似タリト云フ。[illegible]庭[illegible]往來、正月[illegible]、物之遊[illegible]圓物ハ皮ヲ以テ[illegible]張也、[illegible]的也、何レモ布皮ヲ[illegible]トシテ、云云、的ノ裏ニ圓相ヲ図シ、裡ニ鬼ノ字ヲ書也」

まる・もの（名）〔丸物〕（一）端物ニ對シテ、全部揃ヒ調ヒタル意〕おそで（小袖）ノ異稱。[illegible]、小袖[illegible]「小袖ヲ丸[illegible]ト云フ事ハ、端物ニ對シテ云フナリ、小袖ハ表裏ヲ具シ着ラルル様ニ調ヘタレバ、丸物ト云フ也」（二）〔其形、圓キヨリ云フ〕金銭ノ隱語。[illegible]太平記（元禄）[illegible]「[illegible]白ヲ酔ノ程合マセ、[illegible]ルル程[illegible]込ンデ、剰ヘ其ノ上ニ丸物[illegible]シ[illegible]クル」

まる・やき（名）〔全燒〕全ク燒クコト。悉ク燒クコト。又、切リ、割キナドセズニ、其ママ燒クコト。又、ソノモノ。新[illegible]、七[illegible]、[illegible]女也、所[illegible]好何物、云云、[illegible]丸燒」[illegible]、丸やき、[illegible]、丸やき」

まる・やけ（名）〔全燒〕家屋、家財、悉ク火災ニ燒クルコト。ゼンセウ。

まるや・せん（名）〔丸屋錢〕〔丸屋氏ノ鑄造セシヨリ云フ〕江戸、龜井戸ニテ、鑄造セシ寛永銅錢ノ稱（寛永五年ヨリ正[illegible]

[illegible]

まるやま・けう（名）〔丸山教〕[illegible]、伊藤六郎兵衛[illegible]、武藏國、稻田登戸ノ人、伊藤六郎兵衛ノ唱ヘタルモノ。[illegible]、[illegible]ト稱シテ、其[illegible]圖リ、神國ノ眞髓ヲ發揮シテ、神皇ノ二恩ニ報ユルヲ教旨トストイフ。又、教祖、六郎兵衛、少時、病ヲ得タリ、シカ、富士山ニ登リテ平癒ヲ禱リ、叶ヒタルニヨリ、富士山ヲ貴ブコト厚シ。明治廿三年、其信徒ハ、丸山教會ヲ創始セリ。

まるやま・は（名）〔圓山派〕日本畫ノ一派。京都ノ畫工、圓山應擧（寛政七年歿ス）ノ創メタルモノ。山水花鳥ノ寫生ヲ旨トス。一時、京坂地方ヲ風靡セシガ、應擧ノ歿後、四條派ニ名ヲ奪ハル。

まるやま・ふう（名）〔圓山風〕圓山派ノ畫風。[illegible]ノ門ニ不[illegible]、[illegible]モ、亦オノヅカラ[illegible]、[illegible]、云、此ノ風ヲ畫クモノヲ、世上、圓山風ト稱[illegible]」

まる・ゆき（名）〔丸雪〕〔語原ハ出典ノ萬葉集ヨリ起ル〕あられ（霰）ノ異名。藻鹽草、一、天象「まる雪（あられノ事也）」萬葉集、七、廿八旋頭歌「丸雪降リ、遠江ノ、阿渡川楊、苅レドモ、マタモ生フチフ、阿渡川楊」（古義ノ[illegible]）

まる・りょう（名）〔丸[illegible]〕模様ノ名、[illegible]ノ圓クワダカマリタル象ニ圖スルモノ。グヮンリョウ。

まる・わげ（名）〔丸髷〕まるまげ（丸髷）ニ

まる・わた（名）〔[illegible]〕[illegible]

まる・を（名）〔丸緒〕ひらやなぐひ（平胡籙）ニ附ケタル上帶（其條ヲ見ヨ）ノ異[illegible]「[illegible]」

まるたか・ぎぬ（名）〔[illegible]〕[illegible]、丸[illegible]「丸打絹ト云フアリ、カガ絹ノ次也、目[illegible]シ」

まれ（名）〔稀稀〕〔[illegible]ノ約〕[illegible]タマサカニアルコト。源、二、帚木「ウチツケノスキズキシサナドハ、好マシカラヌ御本ジャウニテ、[illegible]ハ、アヤニクニ[illegible]ヘ、[illegible]、ヒキタガヘ[illegible]ジキ御フルマヒモ、ウチ交リケル」同、五、若紫「見テモマタ、逢夜まれナル、夢ノウチニ、ヤガテマギルル、ワガ身トモガナ」六帖、五「ハルバルト、千里ノホドヲ、ヘダテテハ、まれノ使モ、ウレシカリケリ」堀河百首、雜「ヤマ里ハ、まれノホソ路、アト絶エテ、マサキノカヅラ、クル人モナシ」

まれ（辭）〔もあれノ約〕ニテモアレ。古今集、十四、[illegible]トイヘバ、[illegible]、[illegible]一、蜻蛉、六「人ニまれ、鬼ニまれ、カヘシ參レ」

まれい（名）〔磨礪〕ミガクコト。トグコト。[illegible]

まれうど（名）〔賓客〕まらうど（賓）ニ同ジ。[illegible]リ」同、同「人ノ家ニまれうどアマタ來テ」

まれ・み（副）〔稀稀〕[illegible]タマサカニ。珍ラシク。マレラニ。字類抄「稀、マレナリ」萬葉集、十三「本ツ人、ホトトギスヲヤ、稀[illegible]ム、今ヤ[illegible]、[illegible]ツレバ」古今集、

十二、(?)、「コヒコヒテ、稀ニ今宵ゾ、逢坂ノ、タツケ鳥ハ、鳴カズモアラナン」 源、十五、蓬生「まれまれモ京ニ出デタマフ時ハ、サシノゾキタマヘド」

まれ-びと (名) 賓客 まらうど(賓)ノ條ヲ見ヨ。 徒然草、第二百三十一段「まれびとノ饗應ナドモ、ツイデヲカシキ樣ニトリナシタルモ、マコトニヨケレド」 謠曲、枕慈童「イデイデ、舞樂ヲ奏シツツ、コノまれ人ヲ慰メント」

まれ-まれ (名) 稀稀 〔まれヲ重ネタル語〕タマサカナルコト。イトタマサカ。

まれ-まれ (副) 稀稀 タマサカニ。メヅラシク。 宇治拾遺、一、第十七條「行クベキ方モナケレバ、アサマシト思ヒテ居タル程ニ、まれまれ馬ニ乘リタル人共ノ、人數多具シテ出デ來タリ」

まれ-もの (名) 希物 タグヒ少キ物。タマサカナル物。メヅラシキ物。チンブツ。珍品。

まれ-もの (名) 稀者 其道ニ於テ、タグヒマレナル人。 好色一代男(天和、西鶴)六「五人ナガラ、今ノ世ノキキ男、云云、色道まれもの、寄ッタコソ幸ヒ、萬ヅ浮シヅクナシ」

まれ-ら-み (副) 稀 まれみ(稀)ニ同ジ。 字鏡六十、「稀、罕也、萬禮良爾」 名義抄「希、スクナシ、マレラナリ」 雄略紀、七年八月「曠世罕(タグヒマレナム)儔、當時獨秀者也」 中務集「山里ニ、まれらなりケル、ホトトギス、マタトモ鳴カヌ、聲ヲ聞クカナ」

まれ-をとこ (名) 稀男 稀ナル好男子。 檜垣ニ重帷子(享保、近松作)上「ワガ身ガツレソフ心ニテ、吟味ニギンミ、思ヒコフダまれ男」

まろ (名) 麻呂麿 〔麿ハ麻呂ノ合字、生(ウマレ)ノ約轉カト云フ、我(アレ)ト云フモ生(アレ)ナルベク、(稗田阿禮ナド名トセシモアリ)生子(ムスコ)、生女(ムスメ)ナド、生レタル子ノ稱アリ、親ヨリ子ヲ生(アレ)ト云ヒ、子自(オノヅカ)ラモ呼ブヤウニナリ、生レ繼グ男子ノ稱トナリシナルベシ」(一)〔親ヨリ子ヲ親シミテ呼ブ語(後世、子ヲ呼ビテ、坊(バウ)ト云フガ如シ)吾子(アコ)。 續紀、七年十二月 詔「(?)麻呂古、(?)心於八方(?)」 同、八年正月、詔「(?)賜子麻呂古、(?)詞、深稱ニ於理乙」(二)〔男子ノ名トスル語。後、美稱トナリ、高貴ノ兒童ノ名ニ加フ 景行紀、十二年十月「(?)於(?)、(?)野(?)有ニ三土蜘蛛、云云、三曰ニ國摩侶一」 雄略紀、廿年(?)月「第三、中臣宮地連烏摩侶、(?)三大臣之辭乙」 其他、高市麻呂、高向麻呂、巨勢麻呂ナドアリ (三)父母愛シテ、吾ガ身ノ如ク思フ由ニテ名付ク。轉ジテ、僕從、侍童ノ名トス。又、轉ジテ、丸(マル)トモ書ク 年年隨筆、一「イニシヘノ人ハ、某麻呂トイフ名多シ、自稱シテまろトイフモ、まろハモトヨリ自稱ナルニ、云云、今ハサシモアラヌニヤ、牛飼ハ、後後マデモ、丸トイフ名ツクウヘニ、天平勝寶ノ東大寺ノ奴婢籍ニモ、某丸トイフ名多カリ」 (四)〔スベテニ親シム語トナル。又、丸(マル)。笙ニ菊麻呂、笛ニ內裏丸、筆(?)ニ海賊丸、護身用トスル刀ニ鬚切丸、小烏丸、友斬丸、馬ニ節丸、猿ニ猿丸、鎌ニ鎌丸(鎌麻呂)、船ニ安宅丸、川一丸、日本丸、天地丸ナドアリ。 枕草子、一、第四段「コノ翁まろウチテウジテ、犬島ニツカハセ」(犬ノ名) 狹衣、二、上「イタチ笛吹ク、猿カナヅ、云云、いなおまろハ拍子ウツ」 戊子入明記(室町時代)「門司ノ和泉丸、公方ノ船、二千五百石」

まろ (名) 圓 (一)〔マルキ形。球形、又、圓形。マル。 枕草子、十、第百十六段「ツヤツヤト、まろニ美シゲニケヅリタル木」 散木集、七、戀、上「まろナラヌ、矢立ノ竹モ、節ゴトニ、クセゲセシクテ、世ヲバ過ギケリ」 (二)ぜに(錢)ノ異稱。マル。 塵添壒囊鈔、十、第三十八條「又、錢ヲまろトモ云也、常ニハ其形以、圓云也ト思ヘ共、其由有テ云フ也、漢書ニ、太公爲ニ周立ニ九府圜法一云云、圜法トハ錢ノ事也、又、李奇曰、圜ハ刑錢也、サレバ、其形ニ依テ云フ耳ナラズ、本說侍ル也」

まろ (代) 麻呂麿 自稱ノ代名詞。ワレ。オノレ。私。拙者。 (?)紀、十九、十月、(?)「(?)」 土佐日記、正月七日「或人ノ子童ナル、密ニ言フ、まろ、此歌ノ返シセムト言フ」 源、三、空蟬十「アレハ誰ゾト、オドロオドロシクトフ、(?)ハシクテ、まろゾトイラフ」 枕草子、八、第八十(?)段「(?)侍リヤ、まろモ(?)思フハイカガ」 打チトケタル時ハ、(?)キタリ。 枕草子、五、第四十六段「まろガ許ニ、イトヲカシゲナル笙ノ笛コソアレ」(女ノ詞ナリ)

まろ (接尾) 麻呂麿 前條ノ語ヨリ、轉ジテ、人名ノ下ニ用ヰル。「清麿」「人麿」後ニ、牛若丸、五郎丸ナド云フモ、是レナリ。

まろ-がしら (名) 圓頭 髮ヲ剃リタル頭。バウズ。バウズアタマ。又、僧法師 圓頂 圓顱 狹衣、一、上「物見(?)ニ(?)キタルヨリ、まろがしらノフト見ユルハ」

まろが-す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 轉圜 マロバス。コロガス。マロバカス。 華嚴經私記音義「圜、麻呂加須」 名義抄「搏、圜、マロカス、丸、マロカス、圷、マロカス、ナタラカニス」 平家物語、三、公卿揃事「次ニ后御所ノ時、御殿ノ棟ヨリ甑(コシキ)ヲまろがす事アリ」 源、四十九、東屋「アヅマギヌドモヲ押シまろがして、投ゲ出デッ」

まろ-かせ (名) 塊 カタマリ。團塊。 倭訓栞「まろかせ、俗ニ金鐵ノまろかせトイヘリ、塊ヲイヘリ、まろかれト同義ニヤ」 唐船噺今國性爺(享保、近松作)上「アレアレ、水底ニ金鐵ノまろかせキラキラト、泥ニモソマズカガヤク光」

まろ-かなへ (名) 釜 釜(カマ)ノ古名。又、底ノマロキ鼎。かなへ(鼎)ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、十六、金器類「釜、賀奈閉、一云、末路加奈閉」 東雅、十一、器用「まろがなへトハ、其腹下ノ圓カナルヲイフナリ」

まろ-がへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 轉圜 マロブ。クツガヘル。 (?)「(?)」

まろが・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 渾圓 〔圓(マロ)くあるノ約〕(一)圓ク凝リ圓マル。未ダ別レズシテ、渾リテ一塊トナリ。 神代紀、上「古、天地未ㇾ剖、陰陽不ㇾ分、渾沌如ニ(?)子一」 (?)「(?)ニまろがれテ」 (二)マロクナル。カタマリ合フ。 榮花物語、廿六、楚王の夢「上ノ御前ハ、タダコモチノ御身ニ、一ツニまろがれテ臥サセ給ヘリ」

まろがれ-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 圓合 マドカニナリアフ。圓ク一所ニ集リ合フ。 狹衣、一、下「我モ我モ、キヌヲ引カヅキツツ、ヒトツニまろがれあひゐたるホトニ」

まろ-き (名) 丸木 まるき(丸木)ノ轉。

まろき-ばし (名) 丸木橋 まるきばし(丸木橋)ニ同ジ。 (?)「(?)丸木ノ、まろきばし、コレモヤ琴ノ、音ニ通フラン」 平家物語、九、小宰相身投「我ガ戀ハ、細谷川ノ、まろきばし、フミカヘサレテ、ヌルル袖カナ」

まろき-ぶね (名) 丸木舟 まるきぶね(丸木舟)ニ同ジ

まろ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) 圓丸 マロクス。マトム。一ツニ統ブ。マロゲル。 宇治拾遺、(?)、第四條「(?)ニ打ツニ、七八千枚ニ打チツ、コレヲまろげテ待賢ハン人モガナ」

まろ-くら (名) 丸倉 コメグラ。ヨナグラ。イナグラ。 倭名抄、十、居宅類「倉廩、倉圓曰ㇾ(?)、云云、(?)、一云、萬呂久良、一云、伊奈久良」

まろ・げる (動) 圓丸 前前條ノ語ノ口語。

まろ-ゐすげ (名) 丸小菅 草ノ名。みくり(三稜草)ノコトト云ヘド、詳カナラズ。 枕草子、三、第三十二段、草は「まろゐすげ、(?)」

キクサ、アサヂ、アヲツヅラ、トクサトイフ物ハ、世ニフカレタラン吾コソイカナラント、オモヒヤラレ[illegible]ル、まろ、雅、マロカマロネヨ、渡夜ヘ[illegible]」

まろ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）圓（まろ（圓）ヲ活用ス）（一）四面ニ稜無シ。輪、又ハ、玉ノ形セリ。マルシ。マドカナリ。マロッコシ。マルッコシ。（二）ツドツドシカラズ。圓滿。「心まろし」まろく治マル」

まろぞぞ（名）丸數珠。粒ノマロキ數珠。讃岐典、下「思フコト、下ニモマルル、まろぞぞノ、ツユバカリダニ、カナハマシカバ」

まろっぽ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）圓　前前條ノ語ニ同ジ。

まろどの（名）丸殿　きのまろどの（木丸殿）ノ略。夫木抄、廿、山「心ザシ、アサクラ山ノ、まろどのハ、タヅネヌ人モ、アラシトゾ思フ」

まろみ（副）圓　圓ク　マロカニ。マロラカニ。字類抄「圓、マロナリ、丸、マロナリ」源、四十八、寄生五十「まろみウツクシク肥エ給ヘリシ人ノ」枕草子、十、第百十六段「ツヤツヤトまろみ美シゲニケヅリタル木ノ二尺バカリ有ルヲ」

まろね（名）丸寢（まろハ全ノ義、着タルママノコト）（一）帶ヲモ解カズ、着ノママニテ寢ルコト。マルネ。マロブシ。コロビネ。ゴロネ。萬葉集、十八「旅ニスラ、ヒモ解クモノヲ、事シゲミ、丸宿吾スル、ナガキ此ノ夜ヲ」同、十八九長歌「シキタヘノ、手枕マカズ、ヒモ解カズ、末呂宿ヲスレバ」今昔物語、廿五、第十二「イマダ裝束モ不解ズ、丸寢ニテ有ケレバ」（二）帶、紐、解カヌコトヨリ轉ジテ、獨リ寢ルコト。萬葉集、十二ノ四十「吾妹兒ガ、我ヲシヌブラシ、クサ枕、旅ノ丸寢ニ、シタヒモ解ケヌ」千載集、十二、戀、二「思ヒキヤ、榻ノハシガキ、カキツメテ、モモ夜モオナジ、まろねセントハ」

まろば（名）圓刃、丸刃　まるば（丸刃）ニ同ジ。[illegible]ル、小刀ノ、世ニツカハレズ、ミトゾナリニシ」

まろば・か・す[illegible]（他動、四）[illegible]まろばかす、同ジ。[illegible]宇治拾遺、[illegible]狐ノ[illegible]射テ[illegible]ケリ、鏡、物まろばかさレテ」[illegible]引キまろばかさレテ、馬ヲ捨テテケリ」

まろばし（名）丸橋　まるきばし（丸木橋）ニ同ジ。後拾遺集、十四、戀、四「まろばシト、ミユルトダエノ、まろ橋ノ、マロナド斯ル、物思フランニ」風雅集、十六、雜、中「マスラヲカ、山ガタツキテ、スム庵ノ、ソトモニワタス、杉ノまろばし」

まろばし（名）轉圜　マロバスコト。次條ノ出典ヲ見ヨ。

まろば・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）轉圜　マロブヤウニナス。マロガス。マロバカス。マロマカス。コロバス。コロガス。源、廿、朝顏廿「ワラハベオロシテ、雪まろばしセサセ給、云云、イト多ウまろばさントフクツケガレド」枕草子、八、第七十八段、むづかしげなるもの「縫物ノウラ、猫ノミミノウチ、鼠ノイマダ毛モオヒヌヲ、巣ノ内ヨリ數多まろばし出デタル」

まろはた（名）幢　はたぼこ（幢）ニ同ジ。名義抄「幢、ハタホコ、マロハタ」

まろびあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）轉合　圓ク廻リ行キ合フ。互ニコロガリアフ。コロビアフ。拾遺集、十二、戀、二「竹ノ葉ニ、すキヰル露ノ、まろびあひテ、ヌルトハナシニ、タツ我名カナ」夫木集、九、瓜「柴カコフ、園ノウリフノ、一ツラニ、ナルトシナラバ、まろびあへカシ」

まろびい・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）轉入　圓ク廻リ入ル。コロガリ入ル。コロビ入ル。源、五十一、蜻蛉廿「コノ水ノ音ケハヒヲキクニ、ワレモまろびいりヌベクカナシク」

まろびお・つ・ツル・ツレ・チ・チ・チヨ（自動、上二）轉落　圓クマハリ落ツ。コロガリオツ。[illegible]ハ、マシテ路ニマドフ心チシテ、本ヨリモまろびおちヌベキヲゾ、モテアツカヒケル」

まろびね（名）[illegible]ケノ袖ニ、カハルナリ、ナラス扇ノ、秋ノ初風」

まろびよ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[illegible]圓クマハリ寄ル。コロガリヨル。狹衣、一四、中五「人ヅテニ聞エ給ハンモ、イトカタジケナキ心チシ給ヘバ、云云、[illegible]まろびより[illegible]」

まろ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ（自動、四）轉　〔圓ヲ活用ス〕圓ク廻リ行ク。コロガル。コロブ。字類抄「[illegible]、マロブ、[illegible]」[illegible]萬葉集、九ノ長歌「立チ走リ、叫ビ袖振リ、反側、足ズリシツツ」催馬樂、總角「タウタウ、放リテネタレドモ、萬呂比逢ヒニケリ」

まろぶし（名）丸臥　まろね（丸寢）ニ同ジ。[illegible]「コヨヒハ、サラニマロムロ[illegible]ダニナカリツル草ノ枕ノまろぶしナレバ、云云」

まろほや（名）寄生ノ状ナ、丸[illegible]シタルモノ。平家物語、十一、那須與一事「御前ノマカリ立チ、黑キ馬ノ太ウタクマシキニ、まろほや摺リタル金覆輪ノ鞍ヲ置キテ乘リタリケル」

まろまか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）轉圜　まろばす（轉）ニ同ジ。[illegible]、近松作）四「松ノ木ハダヲソロリト撫テ、ソノ手デ團子ヲまろまかす、まろまかす」

まろ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）丸　マロクナル。榮花物語、廿四、若枝「[illegible]ロシウ、袖口ハまろみ出デタル程」

まろ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）丸　圓（一）丸メテ圓クナス。マロ[illegible]グ。マルム。マロメル。（二）頭ヲ剃ル。坊主トナス。狂言記、鹿狩「ヤイ坊主、頭ハまろめタレドモ、物ハ[illegible]、殺生シテ苦シウ[illegible]イ文ガアル」（三）圓キ形ニツクル。[illegible]、八、初花、御前ニ雨多ク候中ニ、蓬萊ツクリタルヲ、箱ノ蓋ニ敷ケテ、日カゲ（日陰蔓）ヲメグリテまろめすヱテ」（四）或モノニテ造リ固ム。[illegible]

まろむし（名）[illegible]

まる・める[illegible]（他動）[illegible]ノ口語。

まろや（名）[illegible]假初ニ[illegible]田家ノ[illegible]稻番小屋ヲ作リ、秋、刈リ乾シタル稻ノ番ヲスルナリ。枕草子、十一、第百四十五段、屋ハ「まろ屋、アヅマヤ」拾遺集、十四、戀、四「旅人ノ、茅刈リ蓋ヒ、作ルテフ、まろやハ人ヲ、思ヒ忘ルル」

まろやか・み（副）圓　次條ノ語ニ同ジ。

まろらか・み（副）圓　圓キ狀ニテ。マリ[illegible]ヲサシ出デタルガ、まろらかみオカシゲナル程モ」

まわう（名）[illegible]　古名、あまな。いぬ[illegible]下、草木門「麻黄、マワウ」

マわう（名）魔王　天魔ノ王。欲界ノ第六天ノ主ニシテ、多クノ眷屬ヲ率キ、人界[illegible]

まわし (名) [眞鷲] 〔まハ發語〕わし(鷲)ト云フニ同ジ。名義抄「鷲、マワシ、ワシ」

まわた (名) [眞綿] 〔まハ發語、木綿ニ對シテ云フ〕繭ヲ引キ延バシタルモノ。多クハ、生絲ノ原料トナラザル屑繭、又ハ、二ツ繭ナドヲ用ヰル。純白ニシテ光リ、極メテヤハラカシ。衣ニ入レ、其他、種種ノ用ヲナス。眞綿 [illegible](貞享、西鶴)一「眞綿引キサシテ、御枕ナド參ラセ」

まわたし (名) [間度] 壁下地ノ中ノ處處ニ、縦横ニ取付ケ渡ス竹、又ハ木。かべえたぢ(壁下地)ノ條ヲ見ヨ。壁帶。壁[illegible]。倭名抄、十、五「居處具」「壁帶、末和多之、間度、[illegible]」「壁中之横帶也」 木工寮式「間[illegible]度村工一人」

まわ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [眞逢] 〔まハ接頭語〕あふ(會)ト云フニ同ジ。續後紀、十五、承和十二年正月、尾張濱主歌「七代ノ、ミヨニ萬和倍ル、モモチマリ、トヲノ翁ノ、舞ヒタテマツル」 魚山蠆芥集、[illegible]「遇ヒカタキ御法ニ末和比テ、徒ニ暇レンゾ惜シキ」

まゐ (名) [眼居] マノアタリニ居ルコト。目前ニ居ルコト。(眼離ニ對ス)

まゐ (動) [參] 貴キ所ヘ行キ向フ意ヲ云フ敬語。常ニ他ノ動詞ニ冠ラセテ、接頭語ノ如ク用ヰル。罷る、ノ反ナリ。音便ニ、まう。古事記、下(仁德)「來入リ[illegible]來レ」 萬葉集、四、四十六「斯クシテヤ、ナホヤ退ラム、近カラヌ、道ノ間ヲ、ナヅミ參來テ」同、十八、七十二長歌「山越エ野行キ、都方ニ、末[illegible]シ我ガ兄ヲ」

まゐいた・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [參到] マヰル。參上スル。マヰリツク。略シテ、まゐたる。垂仁紀、七年七月「於是野見宿禰、自出雲至」應神紀、十三年九月「髮長媛至[illegible]自日向、便安[illegible]於桑津邑二」

まゐ・く・クル・クレ・コ・キ・コヨ(自動、加變) [參來] 音便ニ、まうく。仁德紀、三十年十一月「來入[illegible]」 萬葉集、廿「霜ノ上ニ、霰タバシリ、イヤ增シニ、吾ハ麻爲許ム、年ノ緒長ク」

まゐ・したが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [參從] 參リテ服從ス。歸服ス。崇神紀、七年二月「亦有海外之國、自當歸伏」

まゐた・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [參到] 〔まゐいたるノ略、奉致すヲ、まつりたすノ例〕マヰリツク。マヰリイタル。佛足石歌「[illegible]ヒノ、アツキトモガラ、麻爲多利テ、マサ目ニ見ケム、ヒトノトモシサヲ、ウレシクモアルカ」

まゐ・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ(自動、下二) [參出] 音便ニ、まうづ。其條ヲ見ヨ。字類抄「詣、マイル、マウヅ、至也」 神代紀、上「[illegible]天、具奏其狀」(通釋ノ訓) 顯宗卽位前紀「[illegible]京都、求迎三王」(通釋ノ訓) 佛足石歌「此ノ御跡ヲ、尋ネモトメテ、善キ人ノ、坐ス國ニハ、我モ參出ム、モロモロヲ率テ」

まゐで・く・クル・クレ・コ・キ・コヨ(自動、加變) [參出來] マヰリクル。マウデクル。マヰノボル。萬葉集、十八、長歌「[illegible]ニワタリ、ヤホコモチ、[illegible]トキ」同、廿「大君ノ、ミコトニサレバ、チチ母ヲ、イハヒベトオキテ、[illegible]シヲ」(古義ノ訓)

まゐのぼ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [參上] 音便ニ、まうのぼる。マヰル。サンジャウスル。古事記、上「[illegible]上天時、山川悉動、國土皆震」 萬葉集、六、長歌「參昇、八十氏人ノ、手向スル、恐ノ坂ニ」(古義ノ訓)

まゐら・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) [令參] 〔參進〕〔參らす、ノ義〕(一)タテマツル。獻ズ。進上ス。略シテ、まらす。枕草子、九、第九十一段「御クダモノマヰリナドシテ、御前ニモまゐらせタマフ」[illegible]「[illegible]參せよト宣ヘバ、[illegible]ヲ洗ヒテ參せタリ」(發一本)
(二)轉ジテ、他ノ動詞ニ附キ、熟語トシテ意ナキ敬語トス。枕草子、六、第五十段「職人ドモ、マカナヒノ[illegible]アゲテ參らする[illegible]ニ」 [illegible]作日記「ソノ兄捕ヘまゐらせ給ヒタリ」[illegible]、八、[illegible]「[illegible]捕ヘまゐらせ給ハ[illegible]トアレバ、[illegible]五月ヨリ、カヒナキ[illegible]助ケラレ參らせテ候ヘバ、誰ヲタノミ[illegible]レトカ思ヒ參らせ候ヘキ」「[illegible]まゐらす」

まゐらせじり (名) [參尻] 女子ノ日用文ニ用ヰル參らせ候ノ草體りノ如ク、人ノ俯伏シタル尻ツキノ、似タルヲ以テ云フ語。堀川狂歌集「堀頭殿ノ、才手作ノ田ヲ、マヅ植エテ、まゐらせ尻ニ、竝ブサ少女」

まゐらせそろ (句) [爲參候] 女ノ日用文ニ、多ク用ヰル敬語ノ句。助動詞ノ如シ。ます、ございますナドノ意ニ用ヰル。[illegible](大坂ノ[illegible])「雨ノ降ルノニ、[illegible]ズトモ、[illegible]ニシテオキャレ」[illegible]「カヤウノ御事、オハセアレ候、[illegible]シナミ[illegible]、キドクト思ヒ[illegible]」 松屋筆記、八十五、第廿九條「[illegible]、カシク、又云、[illegible]ハ、小野お通ガ書始タリ、小野お通ハ、信長卿ノ右筆ニテ有シガ、云云」 諺ニ、[illegible]にして濟ますトハ、物ヲタイガイニシテ置クノ意。

まゐり (名) [參] (一)マヰルコト。參上。狹衣、四、下、三十一「カウノミ、此ノ御參りノ、スガスガシカラズ、ワヅラハシカリツルニ、ハバカラセ給ヒテ」(二)神社、佛閣ニ參詣スルコト。マウデ。玉勝間、三「伊勢ノ御蔭まゐり」

まゐりおんじやう (名) [參音聲] 古ヘ、[illegible]會ナドノ日ニ、伶人、庭上ニ進ミ來ル時ニ奏スル音樂。(まかでおんじやうニ對ス) 新儀式、四、臨時、[illegible]聲三度、[illegible]參入音聲二」 西宮記、臨時、八、下、臨時[illegible] 榮花物語、[illegible]云云、まかで音聲、ヤスガハ」 海錄、二、第五十八條「榮花物語ニ、まいり音聲、まかで音聲トアルハ、後世ノノボリ樂、オリ樂ナリ」

まゐり・く・クル・クレ・コ・キ・コヨ(自動、加變) [參來] まうでく(參來)ニ同ジ。源、五、若紫二十「參りくべキヲ、内ヨリメシアレバナン、云云」同、五十、浮舟五十一「心チノアシク侍ルニモ、見奉ラヌガ、イト[illegible]ナクオボエ侍ルヲ、シバシモ參りこマホシクコソトシタフ」 伊勢物語、第百十八段「昔男ヒサシク音モセデ、ワスルル心モナシ、參りこントイヘリケレバ」 源、五、若紫五十一「タチカヘリ參りきナントテ出給ヘバ、サブラフ人人モ知ラザリケリ」

まゐりざかな (名) [參肴] 平常ノ食用ノ肴。(式三獻ノ肴ニ對ス) 殿中以下年中行事、正月[illegible]「朝ノ御祝、參肴ニテ御酒三獻」

まゐりつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [參着] 到着ス。參リテ行キツク。マヰイタル。

まゐりもの (名) [參物] 食物ノ敬稱。メシアガリモノ。榮花物語、十六、本の雫「[illegible]臨ニハ、女房ノ居所、サルベウモ[illegible]シキ上[illegible]トヨバン、ソノ日ノまゐりもの、御簾子所ワザニスベシ、女房ノ[illegible]物、[illegible]物ナトスベシ」

まゐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [參] 〔參入る、ノ約〕行く、ノ敬語。(一)參上ス。アガル。字類抄「參、マイル、入、進、詣、已上同、マウヅ、至也」 名義抄「參、マイル」 舒明紀、八年七月「[illegible]百[illegible]、自今以後、卯始朝之、巳後退之」 萬葉集、二十「一日ニハ、千タビ參入シ、ヒムカシノ、大寸御門ヲ、入リカテヌカモ」 枕草子、六、第五十段「シゲイサ、春宮ニまゐり給フホドノ事ナド、イカガハ、メデタカラヌコトナシ」(二)詣

ツ[illegible]（三）降ル。降參ス。降服　（四）劍術ノ手[illegible]ト云フハ、[illegible]太刀、又ハ、竹刀ノ鋒ノ中リタルニテ、[illegible]ト）　狂言記、文相撲「ヤアヤアヤア、御手ッ、參ックノ」同、大藏流本「（シテ）是ハ何トスルゾ、（取手、打コカシテ、參ックノト云ウテ引込ム）」

まゐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［參］（一）〔食フ、飲ム、着ル、用ヰル、勸ムル、等ノ敬語〕[illegible]上、上「シナジナニイカメシクテ、饗シタリ、上ヨリハジメテ、御饗クダリ、御土器[illegible]物語[illegible]ナト少シまゐりテ[illegible]給ヒヌ、云云、コヨヒ餅イカデまゐるワザモガナト思フ[illegible]ナル蟹ノ船ニ躍リ入リタリケルヲ、先達甲ケルハ、是レハ權現ノ御利生ナリ、イソギまゐるベシ」　源、六、末摘花「サラバ諸共ニトテ、御粥、強飯メシテ、[illegible]ウ[illegible]まゐりタマヒ[illegible]」[illegible]上、下五[illegible]ハ粥ナドまゐりテトアル程ニ、並ニナリヌ」　櫻[illegible]テ供御ハまいりケルニ」　大鏡、中、兼通「サマザマノ樂ヲオキナラベテまゐりタマフ」（二）〔マヰルヤウニナス。マヰラス。其事ニ奉仕ス。〕　枕草子、六、第五十段「ツトメテイトトク、御格子まゐりワタシテ、アカツキ、[illegible]ウ[illegible]ヒトツ御車ニテ參リ給ヒニケリ」（三）ナス、イタス、ノ、敬語[illegible]狂言記、文相撲、相撲、云云、一番參らウ」

まを　（名）［苧麻（眞麻）（眞苧）］（一）からむし（苧）ノ一名。　和漢三才圖會、九十四、濕草類「苧麻[illegible]」（二）[illegible]「むタニ、まをノニヒ緒、ヒキカケテ、クルコト絕エ[illegible]」[illegible]トテ、名物ノ眞苧、イカガシクハ候ヘドモ、御留主ノ間、オタネ樣、眞苧ヲ御績ミナサルルト、道中スガラ家中ノ[illegible]」

まなか　（名）［[illegible]］[illegible]ノ語ノ略。

まなかもめん　（名）［[illegible]］[illegible]下[illegible]、芳[illegible]ノ地[illegible]シテ、まをか。　木曾路名所圖會、五、眞岡「眞岡テフ所ハ、[illegible]イフ」

まなおも　（名）［眞小[illegible]眞小[illegible]］〔まハ發語、をハ接頭語〕　おも（[illegible]）ト云フニ同ジ。[illegible]ハナヘバ、沖ツ眞鴨ノ、數ゾ吾ガスル」

まを・さく　（副）［申白］〔まをすノ延、音便ニ、まうさく〕　まうさく（申）ニ同ジ。

まなおか　（名）［眞男鹿］〔まハ發語〕　をお[illegible]鹿ト云フニ同ジ。　古事記、上[illegible]「[illegible]」云云」

まなし・つぎ　（名）［申次］　音便ニ、まうしつぎ。其條ヲ見ヨ。

まなし・ぶみ　（名）［申文］　音便ニ、まうしぶみ。其條ヲ見ヨ。

まを・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔閒（雨）食スノ義、閒ハ、上ニ向ヒテハ、奏ノ意、下ニ向ヒテハ、命ノ意、[illegible]、申、奏ト記ス〕（一）食すト云フニ同ジ。天下ノ公民ノ[illegible]執リテ、政申スナリ。治ゝタマフ　貴人ノタメニ行ヒ奉ル。取リマカナヒ奉ル。化ヘ奉ル。音便ニ、まうす　古事記、中[illegible]以白[illegible]」[illegible]

成矣」　萬葉集、五「[illegible]眞代ニ、坐シタマヒテ、天ノ下、麻乎志タマヘネ、朝廷去ラズテ」（二）命スル意[illegible]賓「乞三已汝之地」（上ニ向ヒテ奏スル意）

まを・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［申］〔前條ノ語ノ（二）ヲ、告ゲ求スナドト用ヰタルヲ、略シタルヨリ移レル語カ〕[illegible]ノ敬語。告ゲタテマツル。音便ニ、[illegible]記、下[illegible]ガセノ君ハ、漁グマシモ」[illegible]吾レ物申、夏瘦ニ、良シトイフ物ゾ、鰻漁リ食セ」

まを・す　（助動）［申］〔前前條ノ語ノ（二）[illegible]〕[illegible]ト云フ。[illegible]祇」萬葉集、五廿「天飛ブヤ、鳥ニモガモヤ、京マデ、送リ麻遠志テ、飛ビカヘルモノ」　同、同三十長歌「諸ノ、大御神タチ、船ノ舳ニ、導キ麻遠志」

まを・とこ　（名）［閒男］〔まハ雨手ノとこノ意〕　有夫ノ女ガ、他ノ男ト密ニ通ズルコト。又、其密通セル男。ミソカヲ。閒夫。まをとこ。マヲトコ。密夫。情人[illegible]下、人倫門[illegible]六、第廿二語「此家ニハ、若キ女主ノ、法師ノ閒男ゾ持タリケル[illegible]物[illegible]、下「吾カ[illegible]カンヤリテ殺サセントノタクミナ[illegible]」

マ・をん　（名）［魔怨］　[illegible]魔ノ[illegible]、佛法ノ怨敵ナレバ云フ。[illegible]

み

み　五十音圖、末行第二ノ假名、（[illegible]見ヨ）

み　（名）［[illegible]］「[illegible]」[illegible]二十「シラヌヒノ、筑紫ノ綿ハ、身ニツケテ、イマダハ[illegible]」（二）[illegible]自ォ[illegible]シ、コレハ身ノタメニモ、人ノ爲ニモ、サテイミジキ悅ビニハ侍ラズヤ」「身ヲ思フ」身ニ取リテ」身ニ代ヘテ」身ヲ委ヌ」（三）眞ノ心。信實。眞心　後撰集、十三、戀、五「[illegible]ヒヌレバ、今ハタ同ジ、難波[illegible]身ヲ入ル」身ヲ盡クス」（四）〔ミノウヘ。身分[illegible]ツクリテ住ミ給ヒケルゾ、トイヘバ、ワラヒテ、家ノ[illegible]身[illegible]ハズ」（五）〔肉　魚ノ肉[illegible]〕（六）[illegible]（七）[illegible]内ノ刃。刃　刀身　長門本、平家物語、八、長兵衛尉信連事「衛府ノ太刀ナレドモ、みヲバ少シ心得テツクラセタレドモ、アマリニ打タレテユガミケレバ」「刀ノ身」（八）[illegible]物ヲ入ルル方。（蓋ニ對ス）　盒　台記、久安六年、印[illegible]「身深一寸七分、蓋深三分」　詞花集、七、[illegible]スレドモ、アフカゾナキ」　身を投ぐトハ、入水[illegible]涙ノコト。　伊勢物語、第百七段「カズカズニ、思

ヒ思ハズ、トヒガタミ、身をまる雨ハ、降リゾマサレル」身をあまるトハ、分際ニ超ユルコト。過分ノ意 源、一、桐壺「タダカノ道言ヲタガヘシトバカリニ、イダシ立テ侍シヲ、身をあまるマデノ御心ザシノ、ヨロヅニカタジケナキニ」身を粉にすトハ、非常ニホネヲル意。骨ヲシミセズニ働ク。粉骨

み (名) 實子 〔持ノ約、身ニ通ズ〕（一）花ノ後ニ結ビ成リテ、再ビ芽ヲ生ズベキ種トナルモノ。サネ。果實 古事記、中 神武「タチソバノ、微ノナケクヲ、云云、イチサカキ、微ノ多ケクヲ」萬葉集、六 二十「橘花ハ、實サヘ花サヘ、ソノ葉サヘ、枝ニ霜フレド、イヤ常葉ノ樹」（古義ノ訓）（二）汁ノ中ニ加フル肉、又ハ、菜。「汁ノ實」（三）内容。ナカミ。（四）酒、醬油ノ滓。モロミ。カスゴメ。

み (名) 靈 〔靈ノ轉〕ち、(靈)ノ條ヲ見ヨ。「海之靈（海神）」「大山之靈（大山祇見）」月夜靈（月夜見）」

み (名) 巳 〔蛇ノ略〕（一）干支ノ名。其條ヲ見ヨ。拾遺集、七、物名、ね、うし、とら、う、たつ、み「ヒト夜ネテ、ウシトラコソハ、思ヒケメ、ウ名タツみゾ、ワビシカリケル」（二）〔時ノ名。其條ノ（二）ヲ見ヨ。舒明紀、八年七月「自今以後、卯始朝之、巳後退之、因以鍾爲節」枕草子、八、第八十一段「坂ノナカラバカリ歩ミシカバ、巳ノ時バカリニナリニケリ」（三）方角ノ名。えと(干支)ノ條ヲ見ヨ。古今集、十八、雜、下「ワガ庵ハ、ミヤコノタツみ、鹿ゾスム、世ヲウヂ山ト、人ハ云フナリ」

み (名) 水 水ノ略。（熟語ニ）古事記、下 雄略「ニハスズメ、ウズスマリヰテ、ケフモカモ、サカ美ヅクラシ、高光ル」「水際」水岬」水鴨」水葱」

み (名) 海 海ノ約。神功攝政前紀「近江ノ海、セタノ渡リニ、カヅク鳥、目ニシ見エネバ、イキドホロシモ」萬葉集、七 卅五「大舟ヲ、荒海ニ漕出、八船タケ、アガ見シ兒ガ、マミハ知之モ」「淡海ノ海」

み (名) 曲廻 〔わご、べ（邊）ト同趣〕山、川、海ノ入リマガレル所 萬葉集、五、八 廿 長歌「タマボコノ、道ノク、麻尼ニ（古義ノ訓）、草タヲリ、柴トリシキテ」「浦み」島み」

み (名) 見 見ルコト。萬葉集、十七 六十 長歌「ココバクモ、見ノサヤケキカ」同、廿 五 長歌「川見レバ、見ノサヤケク、云云」「見ニ行ク」見ノオモシロク」見ガ欲シ」

み (名) 箕 〔みハひト通ズ、簸る意ト云フ〕穀類ヲ簸テ、穀、塵、ナドヲ分ケ去ツル具。楮ノ皮ヲ經トシ、小竹ヲ緯トシテ、織リ作ル。廣ク淺クシテ、三方ニ緣アリ、前ハ平ナリ、其端ヲ舌ト云フ。倭名抄、十六 十 竹器類「箕、美、除、糞穢、米之器也」天治字鏡、八 四「簸、揚ニ米棄ニ糠也、美、箕、上字與同」字鏡 六十「簸、穲」著聞集、十六、興言利口「近江法眼寬快、云云、宿シタル所ノ軒ニ、箕ヲカケテ置キタリ」

み (名) 鰚 魚ノ名。みおひ(白魚)ニ同ジ。倭名抄、十九 龍魚類「鰚、美、鯉屬也」本朝食鑑、七、河湖有鱗「鰚、訓美、或曰、美古比」

み (名) 貒猯 獸ノ名。今、まみ。ミダヌキ まみ(猯)ノ條ヲモ見ヨ。倭名抄、十八 廿 毛羣名「猯、美、似豕而肥者也」本草和名、下 十「猯脂、一名、貒豘、美」字鏡 六十「貉、貒」

み (代) 身 自稱ノ代名詞。我レ。予 余 繼體紀、元年二月「普告天下、令識朕懷」

み (數) 三 〔六ニ對ス〕一ト二トヲ合ハセタル數。ミツ。ミッツ。萬葉集、九 八十 長歌「家出デテ、三歳ノ程ニ」舊事紀、七、神武天皇元年十一月「令三云十寶、謂一二三四五六七八九十、云云」（舊紀ノ訓）「三度」三年」

み (動) 試 試ルト云フ動詞ノ變化ヲ重ネ用ヰテ、副詞ノ意ヲナサシムル語 萬葉集、三 十六 長歌「腋ハサム、兒ノ泣クゴトニ、雖シモノ、負ヒ見ツキ見、胡鳥ノ、啼ノミナキツツ」同、四十八、四十五、[illegible]本上「泣キみ、笑ヒみ」同、四十八、[illegible]キみ、聞エ給フ」後撰集、八、冬「神無月、降リみ降ラズみ、定メナキ、時雨ゾ冬ノ、ハジメナリケル」新葉集、十八、雜、五「雲ガクレ、サヤカニ見エヌ、月カゲニ、待チみ待タズみ、人ゾコヒシキ」

み (辭) 〔む(ん)ノ轉〕名詞ヲ形造ル語ノ尾ニ、む(ん)ト云フベキヲ、轉ジテみトナスモノ。「正身」調半」目籠」文」社[illegible]」

み (接頭) 御 〔眞ト通ズ、敬稱〕物事ニ被ラセテ尊ビ云フ語。お。おほん。ごん。ご。古事記、下、顯宗 四十「オキメモヤ、近江ノオキメ、明日ヨリハ、美山カクリテ、見エズカモアラム」推古紀、廿年正月「ワガ大君ノ、云云、出テタタス、御空ヲ見レバ」萬葉集、十三 十六 長歌「云袖持チ、床ウチハラヒ」動詞ニ被ラセタルハ、古事記、上「所御佩之十拳劍」神代紀、上 卅「裘品物悉備、貯之百机、而饗之」名詞ニ被ラセタルハ、「御門」御髮」御身」御神」

み (接尾) 形容詞ノ語根ニ添ヒテ、[illegible]故ノ意ヲナス語。（語尾ノ語法指南ノ形容詞ノ條ヲ見ヨ）古事記、中（應神）七十 長歌「和邇坂ノ土ヲ、初土ハ、膚赤ラケ美、シハ土ハ、ニグロキ由惠」萬葉集、十四 八「埼玉ノ、津ニヲル舟ノ、風ヲイタ美、綱ハ絶ユトモ、言ナ絶エソネ」後撰集、十四、戀、六「瀨ヲ早み、タエズ流ルル、水ヨリモ、絕エセヌモノハ、戀ニゾアリケル」又、下ニ、變格左行ノ動詞ノ爲ノ接續シテ、「重みす」輕みす」親みす」トナリ、其語ノみノ音便トナリ、普通ニ、んト呼ビテ用ヰラル。「重んず」輕んず」ノ類。

み (接尾) （一）狀。程。「赤み」高み」（二）トコロ。萬葉集、八 廿九「夏ノ野ノ、繁見ニ咲ケル、姫百合ノ、知ラエヌ戀ハ、苦シキモノヲ」源、九、葵 十七「遠みニヤ、人ハ下リタツ、我方ハ、身モソホヅマデ、深キコヒヂヲ」新古今集、三、夏「我宿ノ、ソトモニ立テル、楢ノ葉ノ、シゲみニ涼ム、夏ハ來ニケリ」六[illegible]ノ、闇ノ、[illegible]リ、[illegible]ケル」後撰集、[illegible]みヲ、行ク月ノ、影オボロナル、夏ノ夜ノ空」「惡み」

み (接尾) 味 飲食、又ハ、調劑ノ程ナドヲ數フル語 [illegible]

み (發語) 三深 〔眞ト通ズト云フ〕親シミ、又、美ムル意ノ發語ト云フ。「三吉野」三熊野」深山」み空」深雪」

みあかし (名) 御明 〔みハ接頭語〕佛前ニ供ノル燈明 倭名抄、十二 燈火具「燈明、[illegible]」孝德紀、白雉二年十二月「是夕、燃二千七百餘燈於朝庭内、使讀安宅土側等經」源、四、夕顏「[illegible]みあかしノ光、ホノカニスキテミユ」枕草子、六、第五十八段「みあかし、[illegible]ラテ、云云」今昔物語、十四、[illegible]「御明ヲ奉リテ、云云」

みあかしぶみ (名) 御明文 神佛ノ前ニ燈明ヲ奉リ、種種ノ願ヒ事ヲ書キテ、神佛ニ奉ル文。アカシブミ。願文。源、廿二、玉鬘「[illegible]ニ、下[illegible]カルツイデニ、ノドカニ聞エントテ論ルベキヨシ、[illegible]ヨビテ云フ、御あかしぶみナド書キタル心バヘナド、云云」

みあがた (名) 御縣 縣ノ條ノ（一）ヲ見ヨ、御直料ナルニ因リテ、特ニ御ト云フ」天皇ノ御饌ニ供フル蔬菜ヲ栽培スル御料地ノ稱。大和國、高市郡、葛城郡、十市郡、磯城郡、山邊郡、添郡ナドニアリキ。祈年祭祝詞「御縣ニ坐ス皇神等ノ前ニ白サク、高市、葛木、十市、志貴、山邊、曾布ト、御名ハ白シテ（六神ノ御名）、此ノ六御縣ニ生ヒ出ヅル甘菜辛菜ヲ持チ參來テ、皇御孫命ノ長御膳ノ遠御膳ト聞シ食スガ故ニ、皇御孫命ノ宇豆ノ幣帛ヲ稱辭竟ヘ奉ラクト宣ル」（延喜式、神名帳ニ、六郡、共ニ、御縣坐神社アリ）

みあがもの (名) [御贖物] 〔みハ敬稱〕 あがもの(贖物)ノ條ヲ見ヨ。

みあがり (名) [身一身揚] 娼妓ナドガ、[illegible]ノ身ニテ[illegible]ヲ拂ヒテ休ムコト。寛門松(享保、近松作)上「此ノ吾妻ハイカナイカナ、一生身上り仕舞シテモ、ソナタノヤウナ盗地獄リニ、小判ノ揺デモ動ク女郎ジャナイゾヤ」

みあがりのほど (名) 身邊ノタ[illegible]。神去ルトキ。カクリマストキ。[illegible]

みあさら・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 見[illegible] ミテ[illegible]、ミテ思ヒ切ル。[illegible]十九、長歌「すさフトチ、大夫ノ、コノクレニ、繁キ思ヒヲ、見明良米、情ヤラムト、布勢ノ海ニ」

みあ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下二) [見上] 仰ギテ見ル。上方ヲ見ル。源、五、若紫「マダヨウハカカズトテ、みあげタマヘルガ、ナニ心ナクウツクシゲナレバ」

みあさ (名) [寶麻] 寶ヲ結ブ麻。メアサ。[illegible]ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

みあしまゐり (名) [御足參] 又、あしまゐり。御足ヲサスルコト。即チ、足ノ按摩ノ敬語。源、廿二、玉蔓「大殿ゴモルトテ、右近ノ、御あしまゐりニ召ス」、細流抄「御足サスリナドサセ給フ也」 同、九、葵「中將ノ君ト云フニ、御足ナトまゐりくサセテ、大殿ゴモリメ」

みあた・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [見中] [illegible]ル。メツカル。ミトム。

みあつ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) [見集] コレカレト多ク見ル。廣ク見ル。源、廿二、玉蔓「多クノ人ヲナン見集むれド、殿ノ上ノ御形ニ似ル人、オハセジトナン、年ゴロ見奉ルヲ」

みあて (名) 見當 ネラヒ。ケンタウ。目的。めあて(目當)ノ條ヲモ見ヨ。

みあなすゑ (名) [御後裔] 〔みハ敬稱、あなすゑ(後裔)ノ條ヲ見ヨ〕 御子孫。[illegible]

みあは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) (一)[互ニ見ル] 相見ル。相見 參見 源、九、葵「アサマシキ心ナリケレト、クヤシウノミオボシテ、サヤカニモ見合せ奉リ給ハズ」 宇治拾遺、四、第[illegible]條「コノ男、フト寄テ、守ニ目ヲ見合せタリケレバ」「顏ヲ見合はす」 (二)[コレカレ引キ合ハセ見テ、異同ヲ知ル] 見クラブ。對照 參照 源、[illegible]「[illegible]キズキシキ心ノスサビニテ、人ノアリサマヲ、アマタ見あはせンノ好ミナラネド」「書物ヲ見合はす」 (三)容子ヲ見テ、暫シ控ヘテ居ル。控 「當分見合はす」 (四)[結婚セシム] [illegible]年三月、[illegible]合ス[illegible]

みあはせ (名) 見合 (一)ミアハスルコト。互ニ見ルコト。相見 (二)引キ比ベテ、異同ヲ知ルコト。對照 (三)容子ヲ見テ、暫シ控ヘテ居ルコト。控

みあひ (名) [見合] 互ニ見ルコト。俗禮ニ、結婚ノ前ニ、男、女、先ヅ相會フコト。然ル後ニ、互ニ諾否ヲ云フ。

みあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [御合] 〔みハ敬稱〕 結婚ス。又、嫁ス。欽明紀、五年一月「其一日ニ道[illegible]皇女、[illegible]於東宮聖德」

みあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) [見合] (一)互ニ見ル。相見ル。落窪物語、二「イトツツマシウテ、ウツブシツツ見あひタリ」 (二)出逢ヒテ見ル。出會ス。又、見ツケル。萬葉集、八、孝行思歌「[illegible]十比ナリケレバ、官人見あ

みあへ (名) [御饗] 〔みハ敬稱、あへ(饗)[illegible]〕 [illegible]ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]

みあみ (名) [illegible]

みあやま・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [見誤] 見カタヲアヤマル。見マチガフ。

みあらか (名) [御舍御殿御正殿] 〔御在處ノ轉カト云フ、みハ敬稱〕 大キナル家ノ敬語。古[illegible] 萬葉集、二、廿八長歌「御在香ヲ、高知り座シテ」 六月月次祝詞[illegible]

みあれ (名) [御阿禮] 〔阿禮ハ[illegible]、其[illegible]、あれつく[illegible]見エ、[illegible]幣ノ祭ノ意ナリ、みハ敬稱、或ハ御生ニテ、祭神、別雷命ノ生レマシシ日ノ義ナリト云フ説アレド、據ル所ナシ〕 (一)例年四月ノ賀茂ノ祭ノ異稱。此祭ニ、大イナル榊ニ、綵帛ヲ垂レ、綱ニ注連ヲツケタルヲ、人人、手ニ取リテ引ク。コレ[illegible]着ケタル鈴ノ鳴ルヲ、新シキ事ノ成ル兆トス。此榊ヲ、みあれ木ト云ヒ、略シテ、みあれトノミモ云フ。[illegible]之集、[illegible]「[illegible]賀茂に[illegible]シテ、千早振、神ノみあれニ、アフヒナリケリ」 源、三十三、藤裏葉「對ノ上、みあれニ詣デ給フトテ、例ノ御方方、イザナヒ聞エタマヘド」花鳥餘情「みあれハ、玉依姫ノ別雷神ヲウミ給ヒシ所ヲ云フニヤ、サテ御生トモ書ク、スナハチ、形ヲアラハシ給ヘル故ニ、御形トモ書ケリ」 [illegible]云云、御阿禮、[illegible]賀茂[illegible] [illegible]「賀茂ノ御戸代、引植ヘテ、今ハトシノミ、祈ルバカリ[illegible]カシ、みあれニツケテ、祈ルコト、鳴ルナル鈴モ、マヅ聞ユナリ」 (二)賀茂祭ニ就キテノ宣旨ヲ、齋宮ノ方ニ持チテ參ル御使ノ女官[illegible] 公任ノ歌ノ返歌ノ讀人ニ、御形宣旨トアリ、職名ヲ呼名トセシナルベシ。枕草子、八、第九十一段「みあれのせんじノ、五寸バカリナル、殿上ワラハノイトヲカシゲナルヲ作リテ」

みあれ (名) [御生] 〔みハ敬稱、生るノ條ヲ見ヨ〕 生レタマヘルコト。御誕生

みあれ[illegible] [illegible]「[illegible]驚ケシ、神山ノ、榊野ノ炎、イツカ忘レン」 貞觀儀式[illegible]

みあれのせんじ (名) [御阿禮宣旨] みあれ(御阿禮)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

みいくさ (名) [皇師御軍] 〔みハ敬稱〕 [illegible]

みいくさまつり (名) [御軍祭] 〔鹿島[illegible]〕 [illegible]書、群集テ、高竹ノ梢ニ、火トモシタル小挑燈ヲ、[illegible]ハヒ、イトオソマシキマデ也、大宮司、大禰宜ハ、大小ノ神劍ヲヌキテ捧グ、ハタ神官ヨリ里人ニ至ルマデ、男ハ大刀劍ヲヌキ、女ハ鎗長刀ノ類ヲハヅシテ、篝ノ火影ニ打カザスナリ」

みいだ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [illegible] 見出

（一）〔見ヤル。ナガメヤル。源、四、夕顔「御キチナ、ウ引キヤリタレバ、御クシモタゲテ、みいだし給ヘリ」更級日記「イ…ク泣キクラシテ、見いだしタレバ、夕日ノイトハナヤカニサシタルニ」（二）ミダス。ミツクル。メツケル。發見ス。宇治拾遺、五、第一條「地體納メテ置キ奉リタリケルヲ、思ヒ出シテ、見出シタリケリ」

みいつ（名）〔御稜威〕〔みハ敬稱〕いつ（稜威）ノ條ヲ見ヨ。「天皇ノみいつ」

〔一〕みい・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ（他動、下二）〔見出〕見ダス。見出ダス。枕草子、十、第百三十三段「うれしきもの、物語、云云、一ツヲ見テ、イミジウユカシトノミ思フガ、殘リ見いでタル」

みいはひ（名）〔身祝〕ソノ人ノ、身ニ就キテノ祝。一身上ノ祝儀。薩摩歌、四、近キ作ノ源五兵衛おまん夢分身「娘一人ヲ貰ウネ、長持一ツ送フメト、外聞思イ沙汰モ無、第一役ノ子ガ身祝ひ、此度仕立テテ送リマセウ」

ミイラ（名）〔木乃伊〕〔元ト、セむ族（Semitic.）ノ語、起原シ、亞剌比亞語、Mumiya.希伯來語、Mor.トナリ、波斯ニ入リテ、Mor.（又ハ Mum.）トナリ、羅甸語トナリテ、Myrrha.（又ハ Mumia.）トナリ、葡萄牙語、Momia.（又ハ Mumia.）トナリ、葡萄牙語ガ更ニ本邦ニ傳ハリテ、みいらトナレル也。元來、防腐劑、香料ヲ意味スル語ナリシガ、防腐ヲ施シテ固マリタル人、及、動物ヲモ云フニ至レリ。木乃伊ハ英語、Mummy.ノ漢譯語ナリ〕（一）防腐藥。南蠻和蘭語彙ニ、沒藥ヲエヲ）ノ漢字、支那ニテハ、蜜香ノ蜜ノ字ヲ當ツト、共ニ波斯語、Mor.ヨリ出デ、みいらト同語原ナリ。亞剌比亞、又ハ、ぬびあ邊ニ生ズル一種ノ矮木。ソ

ノ液ヲ取リテ製シタル藥。防腐、興奮ニ效アリ。質汗。本草綱目、三十四「質汗、蕃語也」同、五十二「木乃伊、質汗同名也」類聚名物考、寛永、麗野忠庵「夜ノ泪ノ內ニテ、セス、キリストヲ見付ケ、みいら（ト云ヘル藥也）、乳香、金ヲ捧ゲ、ヲガマレケル也」八十翁疇昔語（寛延、新見正明）「六七十年已前、みいらト云フ藥、大ニハヤリ、阿蘭陀語大名モ吞ム」通航一覽（寛永、林韑）二百四十「慶安三年三月七日、兩上將ハ阿蘭陀屋形ヨリ始テ以上、作事」進物、云云、みいら百目」（二）屍體ノ乾固シタルモノ。亞剌比亞、埃及邊ヨリ出ヅ。木乃伊ト稱スル防腐劑ヲ屍體ニ塗リ、布ニテ卷キテ函ニ入レ、更ニ防腐劑ヲ施シテ、棺ニ納メタルモノト云フ。木乃伊、蠻人。本草綱目啓蒙（明、陶宗儀）一「回回田地、有年七十八歲老人、自願捨身濟衆者、絕不飮食、惟澡身、啖蜜、經月便溺皆蜜、旣死、國人以石棺、仍滿用蜜浸、鐫誌歲月于棺蓋、瘞之、俟百年後、啓封則蜜劑也、云云、俗曰蜜人、番言木乃伊」多識編、五、人部「木乃伊、美知比奈（蜜人）、南蠻人、今云三美伊羅」大矢數（延寶、西鶴）「砂ノ岑、木乃伊ニ月ノ、照添テ」俳諧國袋（元祿、國水）「誓ヒシテ、二度ト行クマジ、戀ノ町、モラフ小指ノ、身冒羅トモナレ」鶉尾冠（享保）「木乃伊取リニ、行クトヒトツカ、忍ブ事」本朝廿四孝、明和、半二、四「みいら取カみいらニナル樣ナ都ト住」（此ノ言ハ、人ノ神ヲフムトシテ出向キタル者ガ、却ッテ、トリコトナリ、或ハ障礙ニ會ヒテ、歸リ得ザルニ至ルヲ云フ）

みいり（名）〔實入〕（一）穀類ナドノ實ノ成ルコト。熟スルコト。俳諧新選、冬、根ノ、コントナッタル、實入哉」（二）收入。トリコミ。浮世床（文化、三馬）二編、下「サウスリャア、地主モ嬉シガルカラ、法事法事ノ寸布施モ快ク納メテ、和尚ノ實入リモ澤山ニナル理屈タ」

みい・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔見入〕執念カケテ憑ル。心ニ憑ク。トリツク。トッツク。託ル。魅「天狗カ見入れる」

〔一〕みい・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）〔見

入〕前條ノ語ニ同ジ。源、四、夕顔「ワレニ見入レケンタヨリニ、ウクナリヌル事トオボシ出ヅルニモ、ユユシクナン」

みい・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）〔見入〕氣ヲツケテ見ル。注目ス。賤女記、十七、祇王祇女佛事「入道ハ始メヨリ目モセズ、打頷許、打頷許、延トロトロ垂ラシテ、見いり給ヘリ」

〔一〕みい・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（他動、下二）〔見入〕（一）瞳ヲ凝ラシテ見ル。內ヲ見透ス。奧マデ見ル。宇津保物語、藏開、下「簾ノ風ニツガヒ、マザマヨリ御簾ノウチヲ見いるれバ、云云」源、十五、蓬生「行來ノ道ニ見入るれド、人住ミゲモナキモノヲ」（二）執念ヲ掛ク。魅ス。源、十二、須磨「海中ノ龍王ノ、イトイタウ物メデスルモノニテ、見入れタルナリケリ」（三）篤ト見ル。氣ヲツケテ見ル。注視ス。源、四十八、寄生「若君ノ五十日、云云、ソノ餅ノイソギヲ心ニ入レテ、コ物、檜破籠ナドマデ、見入れ給ヒツツ」今昔物語、廿九、第廿八語「小舍人童返來テ云ク、慥ニ見入れ候ヒヌ、京ニハ不候ザリケリ」

みいれ（名）〔見入〕（一）〔見入ルルコト〕奧マデ見トホスコト。源、四、夕顔「門ハ蔀ノヤウナルヲ押シアケタル、みいれノ程ナク、物ハカナキ住ヒヲ」（二）思ヒ込ミテ、ハナレヌコト。本朝若風俗（貞享、西鶴）一「面向不背ノ髮ノ結ヒブリ、龍宮ヨリノ見入れモアルベシ」

みいろぐみ（名）〔三色組〕赤、白、青ノ三色ヲ交ヘ組ミタル紐。烏帽子ノ頂頭掛ニ用ヰル。謠曲、烏帽子折「烏帽子折リ立テテ、花ヤカニ、三色組ノ烏帽子懸緒取リ出シ」

みう・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）〔見受〕見テトル。ミトム。ミウケル。狂言、八幡川「見マスレバ、御人體ト見うけマシタ、ツツマズト御名ヲ仰イ」

みうけ（名）〔身請〕客ヨリ價ヲ亭主ニ渡シテ、妓ヲ贖フコト。又、年季奉公ナド

ニ身ヲ賣リタルヲ、贖ヒ戻スコト。又、客ヨリ價ヲ妓ノ親ニ渡シテ、親ヨリ亭主ヘ渡シテ引取ルヲ、身請ケト云フ。當世…身請門出身請ケ定マリ、門出ノ日、揚屋、茶屋、親方ノ親類、知音ノ銘銘ヘ、禮物、或ヒハ、錦繡物等相應ヘ祝儀トナス、云云、コノ儀式ハ、大略ノ式…ニテ、華美ヲ…ギリナシ」…、…中「イヤ身請ノ…ハ、…カヘンテカラ宿…物ノ清シ、目行事カラ取ラネバ、大門カ出ラレマセヌ」

みう・ける（動）〔見受〕前前條ノ語ノ口語

みうぶき（名）〔身動〕カラダヲ動カスコト。ミジロキ。轉身。「みうぶきカ出來ヌ」

みうしな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）〔見失〕見ツツアル中ニ、其所在ヲウシナフ。見エナクナス。榮花物語、十九、御裳着「我身ニアラズ、ノドカニ見ル事ナラネバ、一ツニ目ヲ留ムト思ヘバ、又カタヘハ見失ひツ」

〔一〕みう・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（自動、下二）〔身失すノ義〕死亡ス。ミマカル。還却祟神祝詞「高ツ島ノ殃ニ依リテ、立處ニテ身亡キ」仁德紀、二十五年六月、「圖書寮本…」皇極紀、白雉五年十月、「高向玄理死於大唐」

みうた（名）〔御歌〕おほみうた（大御歌）ノ條ヲ見ヨ。

みうち（名）〔身內〕（一）體ノ內。カラダヂュウ。遍身。俳諧古選、附錄「身內カラ、泪ヲコボス、暑サ哉」「身內痛ミテ」（二）ウカラ。ミヨリ。親類。親族。謠曲、飛梁川「此在所ノ主ニテ御座候、我ラモ其みうちノ者ニテ候」（三）俠客、博徒ナドノ語。同一ノ親分ニ附屬スル子分。

みうち（名）〔御內〕（一）將軍ノ旗下ニ屬スル士。太平記、五、大塔宮熊野落事「御內伺候

ノ人、御手ノ人ヲ討タラン者ニハ五百貫」史記抄[illegible]セテ」(二)譜代ノ士。太平記、六、楠出ニ張天王寺ニ事「南六波羅ヲ始トシテ、御内、外様ノ諸侍勢ニ[illegible]」(三)[illegible]ノ子[illegible]」

―みうちぎ (名) [御袿] 〔みハ敬稱、袿ウチギハ其[illegible]〕(一)[illegible]見ヨ」(二)[illegible]上グ[illegible]御[illegible]上グ[illegible]ルコト[illegible]六、[illegible]御井ノ[illegible]」(一)[illegible]ノ御[illegible]上グルモノ。ミウチギノ人、主上[illegible]

みくしあげ(御髮上)ノ條ヲモ見ヨ。源、七、[illegible]人[illegible]之人供、云云、[illegible]御モトドリ御ビンニマイル人ハ、紫ノキヌノ直衣ヲ着テ[illegible]スルヲ、うちぎノ人ト云フ也」

みうら (名) [御卜][御占] 〔みハ接頭語〕うら(卜)ト云フニ同ジ。

みうり (名) [身賣] 身代金 代ヘテ、身ヲ年季奉公ナドニ賣ルコト。

みえ (名) [見] (一)見エル狀。外目ノ飾。ミバ[illegible]ウハベヲ飾ルコト。ミバエ。ミバ。虛榮 外見 外觀 源、廿五、螢「まま母ノハラギタナキ昔物語モ多カルヲ、心みえニ心ヅキナシトオボセバ」[illegible]下「ナンナ[illegible]自慢トイフコトハ、コノ人ヨリゾ始マリケルデ、平生カみえタノブリ」(二)芝居ノ演戲ノ仕打ニ、役者ガニラミナドスルコト。見得。又、歌舞伎役者ガ舞臺ニテ、動作、又ハ、感情ノ頂點ニ達セルヲ示スタメニ、殊更ニ目立ツ態度、姿勢ナドヲナスコト。コレヲきまる(極)トモ云フ。コレニハ、最モ誇張シタル道勢ヲナスヲ大見得オホミエト云ヒ、元祿時代ノ暫シバラクノ如ク、片足ヲ踏出シ[illegible]片足ヲ[illegible]ト云フ。

―み・え (動) [見] 〔見られノ意〕みゆ(見)ノ[illegible]」

みえあた・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [見當] ミアタル。メツカル。狂言記、盜人連歌「誰[illegible]別ノ事モゴザルマイ」

みえあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [見逢] デアフ。出會スル。宇治拾遺、九、第四條「見えあはバ、又頭ワラントモコソイヘ」

みえい (名) [御影] 繪像ノ尊稱。ゴエイ。[illegible]ニハ、[illegible]御えいヲカ[illegible]右ニ善[illegible]ヲカケ」

みえいぐ (名) [御影供] えいぐ(影供)ノ敬語 其像ヲ見ヨ。特ニ眞言宗ニテハ、毎年三月廿一日、弘法大師ノ眞影ヲ供養スル法會ヲ云ヒ、日蓮宗ニテハ、十月ノ會式ヲ云フ。訛シテ、おめいこう(御命講)ト云フ。東寶記、六「御影供(廿一日)、延暦二年[illegible]三月廿一日、[illegible]於二北面一始行之」東寺長者補任、四、正慶二年十二月廿日「去三月廿一日御影供[illegible]引之仁、今月廿一日被レ行之」

みえいだう (名) [御影堂] (一)御影ヲ祀ル堂。[illegible]玉海、承安二年六月廿八日「[illegible]御[illegible]堂、已[illegible]了」[illegible]九[illegible]、四「第一、阿彌陀堂ヨリ御影堂、殿大ナル寺、云云」(二)京都、五條橋西ノ新善光寺(彌陀ノ御影ヲ安ズ)ノ僧尼ノ製シ出ス扇子ノ稱。コレヲ御影堂折ト云ヒ、巧手ナリトス。雍州府志、四、寺院門「新善光寺、在二五條橋西一、所レ謂御影堂也、云云、中世以来[illegible]尼、常製二扇賣一四方一、是謂二御影堂折一」

みえがくれ (名) [見隱] [illegible]見エタリ、隱レタリスルコト。隱見 古今集、十九、誹諧「秋霧ノ、晴レテ曇レバ、女郎花、花ノ姿ゾ、見え隱れスル」

みえかは・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [見交] タガヒニミル。雙方ミカハス。榮花物語、二十九、[illegible]中ニ物[illegible]ナドシテ、[illegible]はさテゾアリケル」

―みえかへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [見返] [illegible]モ見エ[illegible]萬葉集、十[illegible]ナガミカモ、吾セコガ、夢ニ夢ニシ、所見還ラム」

―みえぐる・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [見苦] 見ラルルコト苦シ。源、四十九、[illegible]屋「スズロニ見えぐるしう[illegible]カシクテ」

―みえしらが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 〔見[illegible]〕(見え知り合フノ約)見エ知ル[illegible]ル。履、出デ會フ。源、四十六、總角[四十八]「コトサラニ、見えしらがふ人モアリ」枕草子、四、第四十四段「[illegible]ニ見えしらおひテアリク」

みえす・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [見透] (一)底マデ透リテ見ユ。内部マデ見エル。續猿蓑集、冬「見え透くヤ、子持比目魚ノ、薄氷」長唄、越後獅子「見え透く國ノナラヒニヤ」(二)偽リタバカル事ナドガ、ソレゾトナク見知ラル。[illegible]ノ山、サナガラ見え透きテ、人皆恐レ」

―みえにく・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) [見難] ミニクシ。ミグルシ。ミエグルシ。源、三十三、藤裏葉「シタノ心バヘ、ヲヲシカラズ、クセアリテ、人見えにくきトコロ、ツキ繪ヘル人ナリ」同、三十四、下、若菜、下[四十九]「人見えにくく、苦シカリシサマニナンアリシ」

みえばう (名) [見坊] (一)言行ヲ飾リブルモノ。(二)見エヲ張ルコト。又、ソノ[illegible]「[illegible]イヤ、見え坊モ[illegible]モ出來ナバコソ」

みえば・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) ミエヲハル。外見ヲ飾ル。浮世風呂(文化、一九)四編、下「ブタ公大分見えばるノ、大[illegible]トイフハアルガ、[illegible]」

みえまが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [見紛] [illegible]見エ[illegible]久四年百首、秋「[illegible]ヤ、三笠ノ山ノ、コグレニモ、見えまがはヌハ、アケノ玉垣」

⁂み・える (動) [見] みゆ(見)ノ口語。

―みえわか・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [見分] [illegible]ノノトハ、[illegible]マコト[illegible]みえわ[illegible]」

みえわ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [見分] [illegible]見エ、見ア、ハ[illegible]リスル[illegible]遺集、一、春、上「ミナカミハ、雲ノイヅクモ、見えわかズ、[illegible]ル、[illegible]」

みえわた・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [見渡] 一面ニ見エ[illegible]集、六、秋、中「アキギリノ、立チヌルトキハ、クラブ山、オボツカナクゾ、見えわたりケル」

み・お・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) [見置] (一)[illegible]イカニモイカニモ、ワガア[illegible]コトモガナト、臥シ起キ思ヒ歎キ」源、十五、蓬生八「彼ノ家アルジ、大貳ニナリヌ、娘ドモ、アルベキサマニ見おき[illegible]下リナントス」(二)[illegible]ク。續後拾遺集、九、羇旅「草枕、タビネノ程モ、イカナラン、宿ニ(一本、ヲ)見置きシ、トコナツノ花」

―み・おくり (名) [見送] ミオクルコト。送別 土佐日記、正月九日「ソトメ[illegible]境ノ泊ヲオハントテ漕ギ出デケリ、コレカレ互ニ國ノ境ノ内ハトテ、見おくりニ來ル人アマタガ中ニ」

みおく・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [見後] 見テ、オクレヲトル　見テ、オソル　源氏烏帽子折(元祿、近松作)烏帽子折名識「見おくれ給ノカ府司殿、フミコンテ一打ニアソバセ」

みおく・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [見送] (一)〔遠ク去ルマデ、目ヲツケテ眺ム。目送　萬葉集、廿八「松ノキ(古義、ケ)ノ、ナミタル見レバ、イハ人ノ、吾レヲ美於久流ト、立タリシモコロ」源、六、末摘花「夢カトゾ思フト、打誦シテ出デ給ノヲ見おくりテ、ソヒフシ給ヘリ」(二)〔人ノ門出ヲ送ル。ミタツル　送別　土佐日記、正月九日「コレヨリ、今ハ漕キハナレ行ク、コレヲ見おくらントテ、コノ人ドモハ、追ヒキケル」(三)〔屍ヲ葬所マデ送リ行ク。葬送　(四)人ノ死スルマデ世話ス。「兩親ヲ見送ル」(五)取引所ノ語。相場ノ見込ミガ立タヌタメ、其容子ヲ見テ居ルノミニテ、賣買ヲ差控フルコト。

みおこ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) [見致] 此方ヲ見ル　ナガメヤル。源、五、若紫「後目ニ見おこせ給ヘルマミ、イトハヅカシゲニ、ケタカウ美シゲナル御カタチナリ」枕草子、四、第四十二段「袖ヲフタギテ、ツユ見おこせズ」

みおし (名) [船首] 〔水押・舳・みよし〕(船首)ノ條ヲ見ヨ。　和漢船用集、十、船處名「水押、今呼處ミヨシ、みおしト云、古ハ、ニヨシトイヘリ、子丑ト書、又舟法の卷ニ、女首ト書、各利アリ」

みおとし (名) [見落] ミオトスコト　見モラスコト。　織留(元祿、西鶴)三「作者モ俳道ノワキマヘアッテ、スコシノ差合、同字、見おとしノ吟味ヲトゲテ、タガヒノ執行ニナシヌ」

みおと・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [見貶] 劣レルモノト見ル。見クダス　見サグ　アナドル　蔑視　源、三十四、下、若菜、下「彼ノ人ノ心ヲサヘ見おとし給ヒツ」同、廿九、行幸「若キ御心チニハ、見おとし給ヒテゲリ」

みおと・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [見落] 見テ心付カズニ泄ラス。見モラス。看過ス。「[illegible]ヲ見落す」

みおとり (名) [見劣] 〔見優ニ對ス〕 見劣ルコト　見詰ムレバ、次第ニ劣リテ見ユルコト。　源、二、帚木「マコトカト見モテ行ニ、見おとりセヌヤウハ、ナクナンアルベキト、ウメキタルケシキモ、ハヅカシゲナレバ」

みおと・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [見劣] 〔見優ルニ對ス〕(一)接見シテ、豫想ヨリ惡シク感ズ。(二)二ツノ物ヲ見比ブルトキ、一方ノ、他ヨリ劣リテ見ユ。　本朝若風俗(貞享、西鶴)六「念モナイ椿ナドハ見劣リテ、昔ニアラヌ思ヒトナレリ」

みおぼえ (名) [見覺] 嘗テ見テ心ニ覺エテアルコト。カネテ見知リ居ルコト。

みおほ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) [見果] ミハタス。ミヲハル。見キハメル　源、十三、明石四十七「手ナド、コヨナクマサリニケリト、見おほせ給ヒテツカハス」

みおぼ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(他動、下二) [見覺] カネテヨリ見テ、記憶シ居ル。既ニ見知リテアリ。　狂言記、太刀奪「汝ハ其者ノ顔ヲ見覺えテ居ルカ、ナカナカ、見覺えテヲリマスル」　浮世風呂(文化、三馬)三編、上「コレ、姉サンヲ見覺えテヰテ、尻モヤノ用心シヤ」

みおも (名) [身重] ハラミタルコト。ミモチ　姙娠　懷姙　懷胎　有身(通雅)

みおもひ (名) [御思] 〔御喪の思ノ略〕 [illegible]即位前紀　りやうあん(諒闇)ニ同ジ。「以諒闇之際、威福自由、苞藏禍心、圖害二弟」

みおもわ (名) [御面][御面輪] 〔みハ接頭語〕 顔ノ狀　面體。カホツキ。オモザシ。又、オモ。オモワ。顔、面貌　萬葉集、十九、長歌「[illegible]珠ノ、見ガホシ御面(注、御面、言ニ之美於毛和ニ)、タダ向ヒ、見ムトキマデハ」

みおや (名) [御祖][御母] 〔祖母、母、スベテおやト云フ〕 おや(親)ノ敬稱　其條ノ(一)、及、(二)ヲ見ヨ。　古事記、中(應神)「愁白其母之時、御祖答曰、云云」　神武即位前紀「天祖彥火瓊瓊杵尊」　續紀、九、神龜元年二月「皇祖母坐志志掛畏岐我皇天皇」

みおろ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [見下] (一)〔俯シテ見ル。下ニ見ル。下方ヲ見ル。俯臨　下瞰　字類抄「直下、ミヲロス」　源、五、若紫「タカキ所ニテ、云云、アラハニ見おろさルル」(二)見サグ　見クダス　見オトス。アナドル。蔑視　太平記、八、山徒寄京都「爭、此ノ勢ニテハ輙クコソト、六波羅ヲ瞰下ケル山法師ノ心ノ程ヲ思ヘバ、大樣ナガラモ理ナリ」

みか (名) [甕] 〔みハ發語、甕ノ條ヲ見ヨ、或ハ、水甕カ〕 瓶ノ類、古ヘ、其大キクシテ、專ラ酒ヲ醸スニ用ヰルモノヲ云フ。モタヒ。　倭名抄、十六、瓦器類「甕、美加、大甕、毛太非」　字鏡「甕、彌加」　祈年祭祝詞「甕ノ上高知、甕ノ腹滿雙テ」　神代紀、下「武甕槌神」

みか (名) [三日] (一)日數三ツ。ミッカ。(二)月ノ第三ノ日。ミノカ。　萬葉集、六「月タチテ、タダ三日ヅキノ、眉ネカキ、ケ長ク戀ヒシ、君ニアヘルカモ」　狹衣、三、中廿九「三日ノ夜ノ事、例ノ事ナレバ思ヒヤルベシ」「三日月」

みかい (名) [未開] (一)未ダ開化セザルコト。人智ノ未ダ開ケザルコト。野蠻　(二)土地ノ、未ダ開拓セラレザルコト。「未開地處分法」(三)未ダ開花セザルコト。蕾ノ未ダ綻ビザルコト　元稹詩「丁香[illegible]芳保領、猶未開蕾」　楊中陳、春寒詩「春寒[illegible]竟無多日、桃李何須惜未開」　運歩色葉集「未開花」

みかうし (名) [御格子] かうし(格子)ノ敬稱　皇宮ニテ、就寢ノ時ニ、[illegible]スト云フハ、御格子ヲまゐる(下ス)ト云フ語ノ略ニテ、時刻ヲ云フナリ。約メテ、みこト。　枕草子、五、第四十六段「[illegible]ホド、マダ御格子ハマヰラヌニ、オホトナブラヲサシ出デタレバ」　太平記、十八、一宮[illegible]「御格子[illegible]マヰラスル音シテ、ハヤ、人定リヌレバ」　禁中舊記「御かうしノ鑑金ハ、朝疾ク御外シ候テ、夜御かうしマイラセ候ヘバ、御掛ケ候」

みがうしや (名) [見巧者] 演劇ナドノ、巧拙ヲヨク見分クル人。物ノ見方ノ上手ナルモノ。

みかうのこ (名) [御巫] 〔御神の子ノ音便〕 みかむのこ(御巫)ニ同ジ。　宇津保物語、藏開、下三十「みかうの子舞ヒハテテ」

みかき (名) [御垣] 〔みハ敬稱〕 皇居ノ垣。　仁德紀、七年四月「宮垣壞而不修」　雄略紀、六年三月「蜾蠃即賚嬰兒於宮墻下」「御垣守」

みがき (名) 磨 ミガクコト。トグコト。ツヤヲダスコト。ヒカリヲアラハスコト。　新敕撰集、七、賀「常磐ナル、玉松ガ枝モ、春クレバ、千代ノヒカリヤ、みがき添フラン」

みがき (名) 身缺 身缺鰊ノ略。にしん(鯡)ノ條ヲ見ヨ。

みがきずな (名) [磨沙][研沙] 白堊ノ精ナキモノ。銅鐵ノ器ヲ磨キ、或ハ、齒磨ナドトス。ミガキコ。粳土　世事[illegible]「白雪ヤ、山ノ端際ノ、みがき沙」鶏枝ニツラク、貝タル谷口」　好色一代男(貞享、西鶴)三「思紙半紙思ヒ切リテ折込ミ、道行鑑シノ淨瑠璃本、皮付ノ大楊枝、喜三郎ガ琢砂ヲタシナミ」

みがきた・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) [磨立] (一)ツヤヲイダシタツ。ヒカリ

ヲアラハシタツ。徒然草、第十段「多クノ工匠ノ、心ヲ盡シテ磨きたて」(二)身ナリヲツクロフ。[illegible]。榮花物語、廿九、玉の飾「オノオノ我ガママニみがきたてテ、只ノ時バカリニコソ、御前ニイヅメレ」

みがきにしん (名) [illegible] 略シテ、身缺。にしん(鯡)ノ條ヲ見ヨ。

みかきもり (名) [御垣守] 禁中ノ御門ノ衛士。詞花集、七、戀、上「みかきもり、衞士ノタク火ノ、ヨルハ燃エ、晝ハ消エツツ、物ヲコソ思へ」

みかぎり (名) 見限 見カギルコト。見キリ。

みかぎる・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [見限] 是レマデナリト見棄ツ。ミキル。見ステル。斷念ス。宇治物語、二、六[illegible]レ程ニ[illegible]好色一代女(西鶴)六「諸佛ニモ見限られ」

みかく (名) [味覺] 味ヲ感ジ知ル感覺。みかく[illegible]

みかく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) [見掛] (一)見始ム。ミトメ始ム。ミカケル。(二)ミトム。[illegible]十四、[illegible]十九[illegible]ノウチノ人、[illegible]行ケドモ、露月見係る人无シ」

みがく・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) [磨] 磨研琢研[illegible]水ヲ注ギ拭ノ義[illegible]クシ光ラス。枕草子、五、第[illegible]十九段、あさましきもの「サシ櫛スリテみがくホド、物ニサヘテ折リタル」宇治拾遺、十、第六條「イラナキ太刀ヲみがきテ刀ヲトギ」「鏡ヲ磨く」「玉ヲ磨く」「齒ヲ磨く」(二)作リ飾ル。淨ム。裝飾。榮花物語、廿四、若枝[illegible]源、九、[illegible]「[illegible]」[illegible]榮花物語、[illegible]内裏ノヤウニ作リナシ」(三)愈、光ヲ増ス。カガヤ

みかくさ (名) [illegible]知切知磋、如琢如磨」(道存貉)「心ヲ研く」

みかくさ (名) [illegible]採ル藥ノ名。下痢ヲトムルニ用ヰルモノ[illegible]

みかくし (名) [見隱] めかくし(目隱)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

みかくしべい (名) [見隱塀] 内ヨリ外ヲ、又ハ、外ヨリ内ヲ見ルコトヲ防グタメニ、設ケタル板塀。風ノ通ズルヤウニ、[illegible]シナドヲ[illegible]

みかくす・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [見隱] 見ス[illegible]見テ見ヌ風ヲス[illegible]四[illegible]テ、[illegible]ウナルヲ、セメテ見かくし給フ御目後コソ」同、廿一、少女六「ホノボノ知レルモアリケレド、何カハ、斯クコソト誰ニモ聞エム、見かくしツツアルベシ」

みかぐり (名) [甕栗] 〔みかハ嚴ト通ズ、大ノ義〕大キナル栗。[illegible]

みがくる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [illegible] 見隱 ニエガクレニナル。隱見ス。木集、九、雜、上「訪ヘカシナ、玉串ノ葉ニ、見がくれ[illegible]ノクサゲキ、日路ナラズトモ」

みがくる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 身隱 身、物ノ蔭ニナル。[illegible]人ニ隱レン人ノ身ノ、みがくれテ、而アラハナル心チナンシケル[illegible]山モ、みがくれテ、常盤ノ名ヲヤ、ケサハ折ルラン」

みがくる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ [水隱] 水ノ中ニコモル。水ニ入リテ見エズ[illegible]ニ、ナビク下藻ノ、みがくれテ、人ニ知ラレヌ、[illegible]スルカナ」[illegible]十一、[illegible]「池水ノ、底ノ下藻ノ、みが[illegible]」

みがくれ (名) [水隱] ミガクルコト。[illegible]ニ入リテ見エナクナルコト。ミゴモルコト。六帖、三「ネニタテテ、ヨルハワブテフ、ウキガモノ、[illegible]」

みかけ (名) [見掛] ミカクルコト。ミエ。ミバ。ミツキ。外見。[illegible]根サウナ奴ヂャ、サリナガラ、見かけトチガウテ[illegible]ナヤツガアル」浮世風呂(文化、三馬)二編、下「器量サマバカリハ、見かけニヨラヌモノヨ」

みかげ (名) [靈] 〔御影ノ義〕(一)〔神靈〕ノ尊稱。倭名抄、二十神靈類「靈、美太萬、美加介」名義抄「靈、ミカケ、ミタマ」敏達紀、十年二月「[illegible]臣種ニ矣」(二)亡キ人ノ佛、又ハ、繪像ナドノ尊稱。御影。榮花物語、四十、紫野「御堂ニハ、故院ノ御影ヲカキ奉リタリ」

みかげ (名) [御蔭] 頭ニ插ス蘰ヲ敬ヒテ云フ語。ひかげかづら(日蔭蘰)ノ條見合ハスベシ。[illegible]宮、此日三御蔭二(縵ハ無文帽ニテ作レル蛉頭ナリ)[illegible]

みかげ [illegible]ナンシ」[illegible]ル、山背ノ、ヤマズモ荒ノ、[illegible]」

みかげいし (名) [御影石] 〔攝津國[illegible]〕[illegible]ナル御影町ニ石工アリテ、此ヨリ四方ヘ出スニ因リテ、名ヲ專ニス〕石英、長石、雲母[illegible]佛像、墓石、庭石、水鉢、橋梁、ナドニ最モ[illegible]白川石、讃岐地方ニテハ、小豆島石ト云フ[illegible]作)上「我革ノ念力ヤ徹シケン、叩サ尺餘ノ御影石[illegible]」

みかけだふし (名) [見掛倒] 外觀[illegible]クシテ、實ハ用ヲナサヌコト。羊質虎皮。松屋筆記、百九、第廿七條「俗ニ見かけだほしトモ、胡麻ドウラントモイフハ、容貌美麗ニシテ、何[illegible]」

みかげまつり (名) [御蔭祭] [illegible]中ノ午ノ日[illegible]下賀茂ノ神輿ニ供奉シ、愛宕郡、[illegible]村[illegible]

みかける (動) [見掛] みかく(見掛)ノ口語。

みかさ [illegible] 大嵩[illegible]つみかさ、つかさ。

例」 ミツカサ、水ノ嵩。 「[illegible]、一、[illegible]五月雨ニ、みかさ増リテ、[illegible]レバ、サシテゾ渡ル、サノノ舟橋」 [illegible]集、十四、雜、[illegible]、可[illegible]八、岸ニ及ビテ、五月雨ノ、みかさニ舟ノ、[illegible]ソ、カキ」

みかさづけ (名) [笠附] まへ、づけ(前句附)ノ條ヲ見ヨ。 我衣(文化、曳尾庵)「元祿ノ頃ヨリ、右ノ冠付ニナゾラヘテ、笠附ト名付、不レ宜事ハヤリタリ、前前ハ始ナレバ、諸人ノ合點仕安キヨウニ、冠付ノ題一ツヘ、句廿一句カキツケテ、其廿一句ノ內ニテ、イヅレノ句ニカ、三句組テ出スト云コトヲアテサセ、云云、諸人欲ニフケリ、晝夜勤ヘ、是ノミヲ業トス、次第次第ニ流行テ、後ニハ冠付ノ句ヲ、點者ヨリモ出サズ、懷紙ト名付、懷紙ノ內ニ和歌三神ヲ書、一、十一、十五ナドト、數計書テ封ジ、正面ニカケオキ、付ル者ハ帳面ニ、右ノ一ヨリ廿一迄、數計三宛組合セテ一句トナシ、右一句ノ內、三ツトモニアタレバ、一番ナリ、二句アタレバ、二勝トテ錢ヲツカハス、云云、段段巧者ニナリ、金カケノ博奕ニナリ、[illegible]ク御停止被二仰付一、難レ有御事ナリ」

みかさやま (名) [三笠山] 〔三笠ハ御蓋ニテ、天子ノ御蓋トナリテ、近キ衞リヲナス義〕 近衞ノ大將、中將、少將ノ異名。(歌ニ) 八雲御抄、三、下、異名部「近衞大將、みかさ山、中少將、同レ之、チカキマモリト云、次將ハ常事也、大將ヲモ可レ謂也、近守ナリ」 右京大夫集、「同じおなじの大臣の大將にて悦び申給しに、弟の右大將どもしたまへりし勢ひ、ゆゆしく見えしかば「イトドシク、咲ソフ花ノ、梢カナ、三笠の山ニ、枝ヲ連ネテ」 蜻蛉日記、下、下廿「實方ノ兵衞佐ニアハスベシト聞キ給ヒテ、少將ニゾオハシケル程ノ事ナルベシ、カシハ木ノ、森タニ茂ク、聞クモノヲ、ナドカ三笠の、山ノカヒナキ、返シ、カシハ木モ、三笠の山モ、夏ナレバ、茂レドアヤナ、人ノ知ラナク」

みか‧し‧キ‧ケレ‧ク‧ク (形、二) [嚴] 〔みかハ、いかノ轉〕 いかし(嚴)ニ同ジ。

みが‧し‧キ‧ケレ‧ク‧ク (形、二) [苦] 〔轉ジテ、にがし。みがな(苦菜)、にがなノ例〕ニ

ガシ〕 苦キ味アリ。 字鏡三「[illegible]、[illegible]、[illegible]加[illegible]阿[illegible]比、又、加[illegible]志」

みかしほ (名) [三日潮] 陰暦ノ十三日ト廿八日トノ、潮ノ滿干ノ稱。差引極メテ急ナル速潮ナリ。おほしほ(大潮)ノ條ヲモ見ヨ。

みかしほ (名) [嚴潮] イカレル潮。怒レル潮。 播磨風土記、飾磨郡、伊和里「[illegible]、[illegible]返遲[illegible]波、[illegible]太辛苦[illegible]哉、所以號二其處一曰二瞋鹽一」

みかしほ (枕) [嚴潮] 〔みかハいか(嚴)ノ轉〕 潮ト云フ語ノ枕詞。 仁德紀、十六年七月「播磨國造祖速待獨進之[illegible]日、[illegible]始報、播磨速待、岩クヤス、カシコクトモ、アレ養ハム」

みかた (名) [像] 〔御形ノ義〕 御カタチ。御スガタ。 欽明紀、六年九月「百濟造二丈六佛像一、製レ願[illegible]、云云」

みかた (名) [御方、身方、味方] 他ニ對シテ、己レガ方ザマ。我ガ方人。同人。又、官軍。 古事記、中(仲哀)六十「太子御方者、以二丸邇臣之祖難波根子建振熊命一爲二將軍一」 紀略、[illegible]、天慶[illegible]年十二月十九日「土佐國言、八多部[illegible]海賊ニ燒亡、合戰之間、御方人、井[illegible]、頗多[illegible]中[illegible]箭死[illegible]」 大鏡、下、第四十八代「大臣(藤原伊周)、其後逃ゲテ、近江ノ國へ行キシニ、みかたノ軍、外ノ道ヨリ先キニ立チテ」 增鏡、第二、新島守「アヅマノ代官ニテ、伊賀判官光季ト云フモノアリ、カツカツカレノ御カウジノ由、仰セラルレバ、みかたニマヰル兵ドモ、押シヨセタルニ」 後ニハ我ガ軍ヲ味方ナドト書ス。 曾我物語、九、[illegible]經に止め刺す事「一念ノ願志ニヨリ、敵味方トハ隔タルナリ」

みかた (名) [見方] (一)見ル仕方。見ル方法。見樣。(二)ミコミ。見解。見地。

みかたうち (名) [味方討] ナカマヲ討ツコト。同士討。 甲陽軍鑑、五、品第十三「年來

事ヲ仕付タル衆モ、自身備ヲシテ、何ノ手柄モナラザル子[illegible]八、味方[illegible]ヲ仕ツル[illegible]也」

みかため (名) [身固] (一)身ヲ固ムルコト。身ノ支度ヲスルコト。(二)身體ノ健康ナルヤウ、加持スルコト。又、護身ノ法。 吾妻鏡、廿七、安貞二年二月三日「將軍家御[illegible]八[illegible]宮[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]御身固[illegible]」 宇治拾遺、二、第八條「晴明、少將ヲツト抱キテ、身がためヲシ」

みがたり (名) [身語] 身ノ上ノ物語。身ノ上バナシ。 宇津保物語、吹上「ハヤ渡リマスベキ心ヅカヒセシメ給ヘバ、イツシカ、マノアタリニテ、ツブサナルみがたりモ申シ給ハン」

みがち (名) [身勝] 身勝手ナルコト。自身ノ氣儘ナルコト。 天鼓(元祿、近松作)一「時員モトヨリ身がち者、北ノ方ニサシコマレ」

みかづき (名) [三日月] (一)〔朔ヨリ三日ニ至ル夜ノ月。又、陰暦[illegible]テ、月ノ第三日ニ出ヅル月影。新月 眉月 [illegible] 萬葉集、六、廿九「フリサケテ、若月見レバ、一目見シ、人ノマヨビキ、オモホユルカモ」 [illegible]、五、秋「ユフ暮ノ、雲ニホノメク、三日月ノ、ハツカナルヨリ、秋ゾカナシキ」 (二)次條ノ語ノ略。

みかづきなり (名) [三日月形] 略シテ、みかづき。ミカヅキノ如キカタチ。ミカヅキガタ。新月形。 曾我虎磨(寶永、近松作)上「遂ニナラハヌ東帶ノ、冠横ニカタブキテ、月代ノ際、三日月形ニ、見ユルゾ[illegible]上人ナル」

みかづきぼね (名) [三日月骨] 馬ノ腭骨ノ、眼下ニ半圓形ニ高ク出デタル所。 大坪流[illegible]書「馬ノ三日月ヲツンサス事」

みかづきまゆ (名) [三日月眉] (一)黛ノ一種。三日月ノ如キ形ニ書クモノ。まゆずみ(黛)ノ條ヲモ見ヨ。(二)眉毛ノ、

三日月ヲ横ニシタル如キモノ。

みかづち (名) [雷] 〔いかづちノ轉、いかハ嚴ニ通ズ、大ノ義〕 いかづち(雷)ニ同ジ。(萬葉集、三[illegible] 雷(雷岳)ノ上ニ、[illegible]スルカモ」六帖、一「みかづちガ上ニ、イホリスラシモ」)

みがって (名) [身勝手] 自分ノ都合ノミヲ計ルコト。己レノ勝手。我儘。自分勝手。 [illegible]手習鑑(延享、竹田出雲等合作)二「郡役ヲ勤メル身デ、身勝手ナ事申スモ如何」

みがてら (副) [見乍] 〔がてら(乍)ノ條ヲ見ヨ〕 ミナガラ。ミツツ。見カタガタ。ミガテリ。

みがてり (副) [見乍] 〔みがてらノ轉、がてら(乍)ノ條ヲ見ヨ〕 前條ノ語ニ同ジ。 萬葉集、十七、廿「秋ノ田ノ、穗ムキ見我底利、ワガセコガ、フサタ折リケル、女郎花カモ」

みかど (名) [御門] (一)皇居ノ門ノ敬稱。宮門 禁門 禁闕 鳳闕 古事記、下(雄略)三十「[illegible]「マキサク、ヒノ[illegible]加良」 萬葉集、二、廿「東ノ、多[illegible]ノ御門ニ、サモラヘド、昨日モ今日モ、召スコトモナシ」「御門守リ」「御門祭」 (二)轉ジテ、皇居。朝廷 闕下 朝廷 神功紀、六十二年、注「沙至比跪[illegible]天皇怒[illegible]不レ敢公還[illegible]乃自[illegible]代、其妹有レ幸二於皇宮一、[illegible]比[illegible]遣二使人一、[illegible]天皇怒解不レ已」「御門參リ」「御門服」 (三)又、轉ジテ、帝ノ御家筋。更ニ、汎ク、其知シ召ス大御國。朝家 家國 源[illegible]、十二、須磨「唐土ニモ、我カみかどニモ」 同、十七、繪合二十「人ノみかどニモ、我ガ國ニモ、有リ難キオノ程ヲヒロメ」

みかど (名) [帝] 〔御門ノ義、支那ニ陛下ナド云フ、同意ナリ〕 天皇ノ御身ヲ、憚リテ、其御居所ニ就キテ申シ奉ル尊稱。 仁德即位前紀「先皇謂、皇位者一日之不レ可レ空、云

云、長曆[illegible]之、[illegible]千代トコトハ、[illegible]ヒテ[illegible]」古今集、[illegible]ノみかど、皇子ニオハシマシケル時、云云」

みかど-おろも (名) [朝服] 朝廷ニ參内スル時ニ着用スル服。朝衣。[illegible]紀、[illegible]十[illegible]四年十二月、[illegible]九十九人、[illegible]具ニ」

みかど-つかひ (名) [帝使] ちよくし(敕使)ニ同ジ。ミツカヒ。ミコトツカヒ。

みかど-まつり (名) [御門祭] 古ヘ行ハレタル内裏ノ内外ノ諸御門ノ祭。六月ト十二月トニアリ、御門守ノ櫛磐間戸、豐磐間戸ニ柱ノ神ヲ祭リテ、禍津比ノ神ヲ入レジト、シタマフナリ。四時祭式、上「四面御門祭」「御門祭祝詞」

みかど-まゐり (名) [朝參] 〔文字讀ノ語ナルガ如シ〕朝廷ヘマヰルコト。テウサン。參朝。參内。[illegible]紀、八年七月「群卿及百寮、[illegible]」天[illegible]紀、下、十二年十二月「諸文武官人、及畿內有位人等、四孟月、必朝參」

みかど-もり (名) [御門守] 皇居ノ御門ヲ守ルコト。又、ソノモノ。ミカキモリ。御門番。闇人。倭名抄、二[illegible]「闇人、美加止毛利、守門者也」宇津保物語、樓上、下「御門守、夜半タニタシカニ候ハセ給ベキ由、確カニノ給フ」源、廿、朝顔「御門守、寒ゲナルケハヒ、ウススキ出デ來テ、トミニモエ開ケヤラズ」

みかど-わざ (名) [帝業] 天皇ノ國家ヲ統治シ給ノ政務。テイゲフ。帝緒。用明紀、元年正月「位居東宮、總[illegible]萬機、行天皇事」

みかど-をがみ (名) [朝拜] てうはい(朝拜)ノ條ヲ見ヨ。孝德紀、大化二年正月「賀正禮畢、即宣改新之詔」[illegible]、白雉[illegible]年正月 元日[illegible]、車駕幸[illegible]宮[illegible]」

みが-な (名) [苦菜] 〔にな(蜷)、みなノ例〕にがな(苦菜)ニ同ジ。りんだう(龍膽)ノ[illegible]見ヨ。[illegible]

みか-ぬ・メル・ミレ・ネ・ネ・ネヨ (自動、下二) [見] 見ルコトヲ能ハズ。見ラレズ。萬葉集、九[illegible]ワガ[illegible]レド、家[illegible]」

みか-ぬ・メル・メレ・ネ・ネ・ネヨ (他動、下二) [見] 見ルニコラヘラレヌ。見ルニシノビズ。見ルニ耐ヘズ。ミカネル。萬葉集、十四[illegible]ツルギタチ、身ニソフ妹ヲ、トリ見我ネ、哭ヲゾ泣キツル、手兒ニアラナクニ」

みか-ねる (動) [見兼] 前條ノ語ノ口語。

みか-の-へ (名) [甕上/瓱上] 〔甕の上ノ略〕カメノ上。春日祭祝詞「甕上高知リ、甕腹滿テ雙ベテ」

みか-の-もちひ (名) [三日餅] 婚禮後、三日目ノ餅ノ御祝。ミカノヨノモチヒ。婚禮法式、上、婚迎之部「三日メ、[illegible]日メモ、初日ノゴトク、式三獻以下、御祝アリ、云云、又、三日の餅ノ御祝アリ、餅ヲカハラケニ盛リ、三方ニスヱテ、いざなぎのみこと、いざなみのみことニソナヘ奉ル」

みか-の-よ-の-もちひ (名) [三日夜餅] 略シテ、みかのよ。前條ノ語ニ同ジ。後拾遺集、廿、誹諧「みかの夜の、餅ひハ食ハジ、ワヅラハシ、聞ケバヨ野ニ、母子草摘ムナリ」河海抄、五、葵「亥子餅ハ色色也、三日夜餅ハ白一色ナレバ、カズカズニハアラデト云也」

みか-は (名) [御溝] みかはみづ(御溝水)ノ略。徒然草、第二百段「御溝ニ近キハかは竹、仁壽殿ノ方ニヨリテ植ヱラレタルハ吳竹ナリ」

みかは-しま-な (名) [三河島菜] 〔モト東京ノ郊外、三河島村ノ產、最モ名アリシ[illegible]

みかは-す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [見交] 互ニ見ル。見合ハス。[illegible]

みかは-たけ (名) [御溝竹] 大內ノ御溝[illegible]ノ、御溝水ノ近クニアルかは竹、又ハ、くれ竹。弘長百首、雜「モモシキヤ、玉ノ砌ノ、みかは竹、君ガヨ長ク、植ヱヤソメケン」

みかばち (名) [木蜂] 〔みかハ嚴[illegible]、大ノ義、いかづち、みかづちノ例〕土蜂ニ似テ小サク、樹ノ上ニ、巢ヲ作ルモノト云フ。倭名抄、十九、蟲[illegible]「[illegible]」字類抄「木蜂、[illegible]」[illegible]

みかはち-やき (名) [三河內燒] 〔肥前國、三河內ノ地ヨリ產ズル故ニ云フ〕ひらどやき(平戶燒)ノ條ヲ見ヨ。

みかは-まんざい (名) [三河萬歲] 〔大和萬歲ニ對ス、三河國ヨリ出ヅル故ニ云フ〕まんざい(萬歲)ノ條ヲ見ヨ。(若竹、十五[illegible]「唱歌ハ、博學ノ聞エアリシ三河守大江定基ノ作ト云ヒ、又ハ、無住法師(梶原景時ノ孫)ノ作トモ云フ」)

みかは-みづ (名) [御溝水] 大內ノ御殿ノ周ノ溝。芥ヲ流ス溝ノ水。特ニ清涼殿ノ御溝ハ名高ク、上古ハ野澤ノ水ヲ、自然ニ流ルル如クシ、頗ル風流ノ趣アリキト。略シテ、みかは。字類抄「御溝、ミカハミヅ、在二內裏一」古今集、二、春、下「東宮ノ雅院ニテ、櫻ノ花ノ、みかは水ニ散リテ流レケルヲ見テヨメル」貫之集「みかは水ノツラニ[illegible]ムルニ、[illegible]」

みか-はやうご (名) [illegible] 〔[illegible]ひさノ音便〕ひすまし(樋洗)ニ同ジ。[illegible]カハラトイフマデ、云云」[illegible]はやうごニ、山吹ノ花折々セテ、云云」

みか-はり (名) [身代] (一)[illegible]リカハルコト。宇津保物語、藏開[illegible]「[illegible]」(二)取引所ノ[illegible]

みか-ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) [見] (一)見テ他ニ移ル。ミカヘル。[illegible]臣ヲ佞人ニみかふ」(二)變リタルモノニ見ル。「見かへタル行狀」

みかへし (名) [見返] (一)ミカヘスコト。[illegible]シ」(二)書籍ノ表紙ノ裏[illegible]。(三)陶器ノ[illegible]外面ニ[illegible]出セシメタルモノ。其指ヲ以テ押出シタルヲ、ごねりかへし(捻返)ト云フ。

みかへ-す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [見返] (一)後ヲ振リ向キテ見ル。カヘリミル。今昔物語、廿六、第十七語「狐、數二見返見返、前ニ走テ行ト見程ニ失ヌ」(二)人ノ見タルニ對シテ、此方ヨリモ亦先方ヲ見ル。(三)一度、見棄テタル人ヲ、[illegible]ヘテ、故ノ如ク見直ス。(四)立身榮達シテ、先

…ニ傳リタルモノ、誇示ス。

みかへり (名) 見返 ミカヘルコト。カヘリミルコト。 宇治拾遺、四、第七話「後ニ立チテ行クニ、コノ女、時時見返りナドスレドモ」

みがへり (名) 身返 ネテ居テ身ノ向キヲカフルコト。ネガヘルコト。輾轉

みかへりたんぽ (名) 見返擔保 〔根抵當ノ對ス〕中央銀行(我ガ國ニテハ日本銀行)ガ、取引銀行ニ對シ、特定ノ有價證券類ヲ擔保トシテ、手形ノ割引ヲナスコト 其有價證券類ヲ見返品ト云ヒ、日本銀行ニテハ、保證品ト云フ。

みかへりひん (名) 見返品 前條ノ語ヲ見ヨ。

みかへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 見返 後ノ方ヲ、フリ向キ見ル。カヘリミスル。 源、四、夕顔「見かへり給ヒテ、スミノ間ノ勾欄ニ、シバシ引キスヱ給ヘリ」 枕草子、五、第五十段「一條ヨリ笠ヲモテ來ルヲ、ササゲテ、ウチ見かへり、コノ度ハユルユルト物ウゲニテ」

みか・へる (動) 見變 みかふ(見變)ノ口語 津國女夫池、浄瑠璃、近松作「如何ニ見かへらるるトテ、聰ミニ人殺ストハ、餘リムゴイ」

みがほ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 欲見 見・みまほし(欲見)ニ同ジ。 仁徳紀、三十年九月「我ガ瀰餓朋辭國ハ、葛城高宮、我家ノアタリ」 顯宗卽位前紀「日本邊ニ、謂我保指モノハ、忍海(地名)ノ、此高木ナル、角刺ノ宮」 萬葉集、十一、廿四「味酒ノ、ミモロノ山ニ、立ツ月ノ、見我欲君ガ、馬ノ足音ゾスル」 同、十八、廿八長歌「橘ノ、ナレルソノ實ハ、ヒタテリニ、イヤ見我保之久」

みがほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 欲見 見タク思フ。見ムト欲ス。 萬葉集、十二十長歌「欲見バ、雲居ニ見ユル、ハシトヤシ、トバノ松原」(略解ノ訓)

みかまぎ (名) 御薪 〔御竈木ノ義〕(一)王朝時代、毎年、正月十五日ニ、百官ノ宮中ニ奉ル薪ノ稱。 天武紀、下、四年正月「十五日、百寮諸人、初位以上、進薪」 ミカマギ、私記云」 皇太神宮儀式帳、年中行事「十五日、御竈木六十荷ヲ進」 年中行事歌合「八番、左、御薪、百敷ノ、百ノツカサノ、みかま木ニ、民ノ烟モ、賑ハヒニケリ」 (二)江戸時代、正月十五日ニ、武家ニテ割リタル薪ニ、墨モテ線十二ヲヒキ、其屋敷ノ門ノ兩柱ニ寄セカケテ、建テタルモノ。今モ信濃、三河地方ニテハ、年木、或ハ、にふ木ト云フ同類ノモノヲ建ツ。 守貞漫稿、廿一、春時、正月十五日「又同日、江戸武家門ノ兩柱ニ、割薪二圍ノ如ク、横ニ等間ニ十二本線ヲ引ク、墨ヲヒキ雖ル也、名號ヲみかま木ト云、御竈木也、閏月アル年ハ、墨ヲ十三引ク也、江戸モ御竈木ハ武家ノミ」

みがまへ (名) 身構 敵ニ向フ支度ヲナスコト。又、敵ニ對スル時ノ身ノ構ヘ方。 古今著聞集、五、品第十二「年來身ヲ化付タル染モ、白身構ヲシテ、何ノ手柄モナラザル手綱ハ、叶ガ身ノ作ル故也」

みが・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 苦嚬 〔轉ジテ、にがむ、にほどり、みほどりノ例〕にがむ(苦)ニ同ジ。

みかん (名) 味感 舌ニ飲食物ノ刺戟ヲ受クル時、味神經ニヨリテ感ズル感覺。

みかん (名) 未刊 書籍、雜誌ナドノ、未ダ刊行セラレザルコト。又、ソノモノ。

みかん (名) 蜜柑 柑子ノ類。芸香科ノ常綠樹。葉、高サ二三丈餘。通名トスルモノハ、樹ノ形狀、花、葉、共ニ橘ニ異ナラズシテ、但、實ノ皮、厚ク、肌、粗ナル

コト、柑子ニ似タリ、平タク圓クシテ、徑二寸許リ、瓤ニ小核アリ、味、甘酸ニシテ、美ナルモノアリ、上品ナルニハ核ナキアリ。諸地ニ生ゼガタシ。紀伊國、有田郡ノ産、名高シ。乳柑 看聞御記、應永廿七年十一月九日「蜜柑室町殿好物、云云、諸人進上之、云云」 本草綱目啓蒙、廿一、山果類「柑、みかん、云云、柑ハみかん類ノ總名也、品類多シ」

みかんこ (名) 御巫御神子 次條ノ語ニ同ジ。

みかんのこ (名) 御巫 〔御神の子ノ轉〕又、みかんこ。みかうのこ。神ニ仕ヘ奉ル少女。かみなぎ(巫)ノ條ヲモ見ヨ。 臨時祭式、御巫「取未嫁女ト事充之」 「座摩ノ御巫ノ稱辭竟ヘマツル」

みかも (名) 水鴨 水上ニ居ル鴨。又、單ニ、鴨ヲ云フ。 萬葉集、二十、九「…ヨシエヤシ、妹ガアリセバ、水鴨成、二人ナラビ居」

みかもなす (枕) 水鴨如 鴨ハ番ハナレズ、二ツナラブモノ」二人ト云フ語ニ冠ラスル枕詞。(前條ノ語ヲ見ヨ)

みかよ (名) 三日夜 (一)又、みのかよ。月ノ第三日ノ夜。(二)みかのよのもちひ(三日夜餅)ノ略。其條ヲ見ヨ。

みから (名) 蠐 詳カナラズ。或ハ云フ、ぼうふりむし(棒振蟲)ナルベシト。 倭名抄、十九、蟲豸名「、美加良、井水中小蟲也」

みがら (名) 身軀 〔身幹ノ義ト〕ミ。カラ。カラダ。體軀。 平家物語、十、横笛「去程ニ小松三位中將維盛卿ハ、身がらハ屋島ニアリナガラ、心ハ都ヘ通ハレケリ」

みがら (名) 身柄 身分ノ程。人ノ身ノ分際。(柄ノ條ヲ見ヨ)

みがら (名) [illegible] 「[illegible]ト名乘テハ、親モナイ、子モナイ、身から一心」

みかり (名) 獵 [illegible]

みがる (名) 身輕 (一)身ノ輕キコト。持ツベキ荷物ノナキコト。ミガロ。(二)懷孕シタル婦人ノ、出産シタルコト。

みがる・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 身輕 (一)身ノ扱ノ輕キナリ。又、輕捷ナリ。ミガロシ。(二)自身ニ眷屬ナシ。

みかわ (名) 甕 〔わハ甕、鍋瓮ノ總稱ト、又、わハ同ノ意ニテ、ほどりナリト云フ〕酒ヲ醸スニ用キル大キナルかめ。ミカ。ミワ。 出雲國造神賀詞「天能甕和[illegible]」

みき (名) 御酒 〔沖縄ニテみち〕酒、卽チ、酒ヲ敬ヒテ云フ語。又、ミワ。オホミキ。神酒。き(酒)ノ條ヲモ見ヨ。 崇神紀、八年十二月「此神酒ハ、吾ガ神酒ナラズ、大和ナス、大物主ノ、醸ミシ神酒」 [illegible] 萬葉集、十九「[illegible]」

みき (名) 御棺 〔みハ接頭語〕ミヒツギ。き(棺)ノ條ヲ見ヨ。 景行紀、四十年十月「[illegible]」

みき (名) 幹 〔身木ノ義ト云フ〕樹ノ、地上ニ出デテ其體ヲナス部。旁、枝ヲ分チ、下ニ根アリ。草ニハ、莖ナリ。 書言字考節用集、六、生植門「幹、ミキ、正字詁、木秀生曰幹枝、正出者為幹」 俳諧新選、春、見オボエノ、幹ヨリ知ルル、木ノ芽カナ」

みぎ (名) [右] [illegible] 二擬フ意] (一)人ノ身ノ、南へ向ヒテ西ノ方 [illegible]、十 [illegible] 家敬合「右ニハ、荒レタル宿ノカタヲ縄墻ニ作リ」(二)[illegible] 勝レル方。[illegible] 〃 [illegible] ニテ、座席ヲ右ヲ貴シトシタルニ基ヅ [illegible] 直仁殿、通於兵事、今無出於鹿火右」「其右ニ居ル」「此右ニ出デズ」(三)文書ナドノ前ノ方 [illegible] 右ノゴトク、強ミナル大將故、云云」「右ノ通リ」

みぎいと (名) [右絲] ミギヒネリノイト。ミギヨリノ絲。[illegible] ルクケ針ニ、縹ノ絲ヲ添ヘタリ、絆みぎいとニヨリア、[illegible]スケタルヲ、云云」

みきき (名) [見聞] 見、又、聞クコト。見タリ、聞イタリスルコト。[illegible] ケンモン。[illegible] ココログルシキコトハ、みききスグサレヌワザニ侍ルヲ」

みき・く ・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [見聞] 見、又、聞ク。見モシ、聞キモス。見タリ聞イタリス。源、三十九、夕霧七十五「明ヌレバ、人ノみきかンモ、ワカワカシキ [illegible]「イササカ見ききツルコト、サラニ忘レズ」

みきぐさ (名) [御酒草] 桃ノ花ノ稱。三月三日ニ、酒ニ浸シテ用ヰルヨリ云フ。

みきこ・ゆ ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (他動、下二) [見聞] 御見舞マウス。御機嫌伺フ。又、見タテマツル。住吉物語、中「[illegible]、トモスレバ見きこえ(一本、えに)渡リテ歸リ給ヘバ」

みぎそなへ (名) [右備] [illegible] 中軍ノ右ノ方ノ備ヘ。右翼軍。其右ナルヲ、[illegible]

みぎて (名) [右手] (左手ニ對ス)(一)右方ノ手。めて(馬手)ニ同ジ。(二)右ノ方向。右ノカタ。右方。て(手)ノ條ノ(十三)ヲ參見セヨ。「右手ニ見ユル川」

みぎどもゑ (名) [右巴] [illegible] 右ニ [illegible] 小山氏ノ定紋。[illegible] 宇都宮ノ [illegible] ノ判官」國尻(元祿、天野信景)三十一「稿藻ハ(當ノ古文字也)[illegible]タルモノ、[illegible]、左ともゑノミ、宇都宮家說ニ曰、頼朝卿ノ時、小山、宇都宮、同地ニ陣セシ時、小山ハ右ニアリ、宇都宮ハ左ニアリ、是故、小山、右ともゑヲ以テ幕ニ書テ、其 [illegible] ケルヨリ、右ともゑ [illegible] マルト、云云」(漢文)

みきのつかさ (名) [造酒司] サケノツカサ。古ヘ、宮室、供御、[illegible] 宴用ノ酒ヲ釀造スル官司。宮內省ノ被管 [illegible]

みぎは (名) [汀] (水際ノ義) ミナギハ。ミギハ。陸地ノ、水ニ沿ノ際。[illegible] 沙也」字類抄「汀、ミギハ」名義抄「汀、ミキハ、渚、ミキハ」字鏡十二「瀆、水涯也、ミキハ、沚、ミキハ、濱、ミキハ」[illegible] 正月七日「[illegible] 歌、行ク人モ、トマルモ袖ノ、涙川、みぎはノミコソ、[illegible] 後撰集、十六、雜二 [illegible]、みぎはノアシノ、老ガヨニ、恨ミテゾ經ル、人ノ心ヲ」

みぎは・まさり (名) [汀優] キハダチテマサルコト。ミギハ [illegible] コト。[illegible] 二みぎはまさりノ [illegible]」[illegible]「イノ [illegible] ハゲン介ーみぎはまさりノ [illegible]」

みきは・む ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [見極] (一)ソレト慥ニ認ム。見トドク。[illegible] (二)[illegible]

みきはめ (名) [見極] ミキハムルコト。見屆クルコト。又、見サダムルコト。

みきは・める (他) [見極] [illegible] 口語。

みぎん (名) [砌] みぎり(砌)ノ音便。謠曲、[illegible] 子 [illegible] ノみぎん」

みぎもじ (名) [右文字] [illegible] ひだり [illegible] 左文字ノ條ヲ見ヨ。

みぎやう (名) [右様] (一)右ノ [illegible] 子。右ノ有様。(二)右ノ文句、右ノ文章。

みきり (名) [見切] (一)見終ハルコト。(二)見捨ツルコト。(三)狀勢ヲ見キハムルコト。[illegible] (四)みきりもの(見切物)ノ略。

みぎり (名) [右] [illegible] みぎノ [illegible] ひだり [illegible] ニ引カレテ云ヒシ語 [illegible] 云フニ引カレテ、[illegible] ト云フニ同ジ)[illegible] みぎりニ、皆引レテ侍フヒトマフ」

みぎり (名) [御務] (みハ發語) きり(務) [illegible] ト云フ。同ジ。[illegible] 朝ノ御務、夕ノ [illegible]

みぎり (名) [砌] [水限ノ義ニテ、天水落ツル所ヲ限レバ云フカ] (一)軒ノ下、又ハ、階ノ下ナドノ甃ノ處。倭名抄、十五 [illegible] 太政官式「凡太政 [illegible] シミミニ、露負ヒテ、靡ケル萩ヲ」[illegible] 段「七みぎりノ石ヲ傳ヒテ、[illegible] ニ踏ヲツケズ」(二)[illegible] 給ヒ」(三)トコロ。場所。[illegible]

みぎり (名) [illegible] 時 [illegible]

みきりもの (名) [見切物] 見切ヲツケタル品物。見切リテ賣拂フ商品。次條ノ(四)ヲ見ヨ。略シテ、みきり。

みき・る ・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [見切] (一)[illegible] 見果ツ [illegible] (二)[illegible] 子ヲ見トドク。狀勢ヲ見キハメル。[illegible] ニ、價ヲ甚シク滅ジテ賣ル。

みくさ (名) [皇軍][御軍] (みいくさノ略) いくさ(軍)ノ敬稱。特ニ、天子ノ軍勢ノ稱。萬葉集、廿「アラレ降リ、鹿島ノ神ヲ、イノリツツ、[illegible]」

みくさ (名) [水草] 又、みづくさ。水中ニ生ル草ノ總稱。[illegible] 舊キ堤ハ、年深ミ、池ノ渚ニ、水草生ヒニケリ」(略解ノ訓) 古今集、廿、神遊「我ガ門ノ、板井ノ淸水、里遠ミ、人シ汲マネバ、み草生ヒニケリ」源、四、夕顏廿四「秋ノ野ラニテ、池モみくさニウヅモレタレバ」

みくさ (名) [illegible] 又、[illegible] ト云フ。同 [illegible] キ、宿レリシ、兎道ノ宮處ノ、假廬シ思ホユ」

みぐさ (名) [三種] 煉香ノ名。えひから(衰衣香)ノ條ヲ見ヨ。

みくさのたからもの (名) [三種寶物] さんしゅのじんぎ(三種神器)ニ同ジ。神代紀、下「故天照大神、乃賜二天津彦火瓊瓊杵尊、八坂瓊曲玉、及八咫鏡、草薙劒、三種寶物一」

みくじ (名) [御鬮] 神佛ニ祈リテ、事ノ吉凶ヲ占ヒ決スルタメニ探ル鬮。吉凶ノ由ヲ記シタル若干ノ串ヲ、匣、又ハ、筒ニ盛リテ、其小孔ヨリ振リ出シテ、取ル。神籤 滿濟准后日記、應永三十五年正月十七日「御兄弟四人、御名字ヲ、於二八幡神前一御鬮ヲメサレ可レ被二定敷由、申入處、然バ御鬮タルベキ由被二仰出一了、但御存命中ハ、此御鬮非不可叶也」

みぐし (名) [御髪] (みハ發語、くしハ櫛ノ義、髪ヲ解ク器ヲ取リテ稱ス、盥ノ水、筒ノ食トナリタルト同趣) 貴人ノ髪ノ尊稱。神代紀、上廿「結二髪爲一髻」私記「美久志[illegible]」 [illegible] 宇津保物語、藏開、中「みぐしハ長シヤ」

みぐし (名) [首] (前條ノ語義ノ轉) 頭ノ尊稱。カウベ。神代紀、上「[illegible]間、則有二化神一」 源、四、夕顔三十「御ぐしモ痛ク、身モアツキ心チシテ、イトクルシク」

みぐしあけ (名) [御髪上] (一)髪ヲ結フコトノ敬語。又、ソレヲ勤ムル人。源、一、桐壺十五「御ぐしあけノ調度メク物ソヘ給フ」 枕草子、六、第五十段「みぐしあけマヰリテ、藏人ドモ、マカナヒノ髪アゲテ參ヲスルホトニ」 榮花物語、十九、御裳著「みぐしあけノ典侍」 (二)王朝時代、十二月下ノ午ノ日ニ、天皇、東宮ナドノ、一年中ノ御髪ノ屑ヲ、主殿寮ニテ燒ク儀式 年中行事秘抄、十二月「下午日御髪上事、藏人給二御髪等一、向二主殿寮一燒レ之」 東宮年中行事、十二月「シモノ午ノ日、みぐしあげノ事」

みくしげどの (名) [御匣殿] (御櫛笥殿ノ義) 一、禁中、貞觀殿ノ本名、又、ソノ中、后町ノ北、御裝束ノ所ヲモ云フ。大臣家ニテモ云ヘルトゾ。ソノ上臈女房ヲ御匣殿ノ別當、略シテ、みくしげどのトモ云フ。倭名抄、十、居宅類「貞觀殿、在二常寧殿北一、謂二之御匣殿一」 西宮記、臨時、四、下、所所事「御櫛笥殿(在二貞觀殿中一、以二上臈女房一爲二別當一)」 拾芥抄、中、末、宮城部「御匣殿、貞觀殿、后町北」 枕草子、九、第百十三段「若キ人人、御匣殿ナド藥玉シテ、姫宮、若宮ツケサセ奉ラセ給フ」 同、十二、第四十八段「御匣殿ノ御局一 榮花物語、八、初花「故關白殿ノ[illegible]ノ四ノ御方ハ、みくしげどのトコソハ聞ユルヲ」

みくだ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [見下] (一)みおろす(見下)ノ(一)ニ同ジ。萬葉集、六、長歌「芳野ノ眞木立ツ山ユ、見降セバ」 (二)みおろす(見下)ノ(二)ニ同ジ。源、廿二、下蕨廿八「日一日、昔物語念誦ナドシツツ、參リ集フ人ノアリサマドモ、みくださるル方ナリ」

みくだりはん (名) [三行半] (七去(其條ヲ見ヨ)ノ半分ハ三半ノ意) 俗ニ、妻ヘノ離縁狀ノ異名。其文、俗制アリテ、三行半ニ書キ了ル。サリジャウ。 他我身の上、明暦、山鳴ニ隣ニ「遂ニソノ女房モ、みくだり半デ埒アケ」 倩我會稽山(享保、近松作)二「夫ノ安消カ暇ノ狀、行半分消ム日モ闇ク」

みくづ (名) [水屑] 河海ノ底ニアル塵芥。水中ノゴミアクタ。狹衣、四、下四十七「人ハ底ノみくづトノミコソハ聞キナシ給ハメ」 拾遺集、八、雜、上「水底ニ、宿ル月サヘ、ウカベルヲ、深キヤ何ノ、みくづナルラン」

みくづれ (名) [見崩] 戰イマダ始マラザル前ニ、敵ノ容子ヲ見テ、畏レ崩ルルコト。關八州古戰錄、十七、秀吉公湯本着陣事「搾口ノ寄合勢、臆病神ニヤ引レケン、或ハ見崩シ開崩シテ、片端ヨリ城ヲ開テ、云云」

みくに (名) [御國] 又、おくに。我ガ國ヲ尊ビテ云フ語。皇國。拾玉集、七、「[illegible]セ、七マス神ノ、十ノ色、御國ノワザヲ、手向ツルカナ」

みくにぶみ (名) [御國文] (一)御國ノ書籍。我ガ國ノ書。國書。國典。皇典。(二)御國ノ文章。我ガ國ノ文。國文。

みくにぶり (名) [御國風] (一)御國ノ風儀。(二)我ガ國ノ文體。[illegible]あづまのた[illegible]、下野、加藤枝直、六、[illegible]「[illegible]ノ代ノ、ママナラン、クダラノ和邇ヲ、メサゲザリセバ」

みくにまなび (名) 御國學。[illegible]御國ノ學問。又、國典ノ學問。皇學。國學。

みくにゆづり (名) [御國讓] 帝位ヲ太子ニ讓リ給フコト。讓位。宇津保物語、[illegible]「[illegible]カクテ御國ゆづり[illegible]事モ申サセ給ハズ」 源、十四、澪標四「同ジ月ノ二十日アマリ、御くにゆづりノコト俄カナレバ」

みくび・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [見下] 見下ス。見貶ス。ミケナス。サゲスム。ミコナス。[蔑視] [輕視] 浮世風呂、文化、三ノ上「出シエエモシネエ癖ニ、出テ行ケト云フ、片片ドノハ見くびッテ、フテルノ」

みくま (名) [水隈] 水ノ岸ニ曲リ入リタル處。萬葉集、十一 四十八「ミヨシヌノ、水具隈ガ菅ヲ、編ナクニ、刈リノミ刈リテ、亂リナムトヤ」

みくま (名) [稍] (みハ接頭語、くまハくまねノ略) 又、おくま。くまね(稍)ヲ敬ヒテ云フ語。神ニ供フル精米。康富記、文安六年六月廿一日「於[illegible]、拾二取[illegible]白米裹紙切物一了(御くまト云フ樣也)」

みくまり (名) [水分] (水配ノ意、くまる(分)ノ條ヲ見ヨ) 瀧川ノ落チテ、カタカタヘ分レ流ルル處。續紀、一(文武)二年四月[illegible] 名帳「大和國、吉野郡、吉野水分神社」

みくら・ぶ・ブル・ブレ・ヘ・ベ・ベヨ (他動、下二) [見較] 彼ト此トヲ、見テクラブ。見比ベル。源、三十六、柏木「ヨノツネノ人シキゴトモト見エ給フニ、コノ君ハイトアテナル物カラ、サマコトニオカシゲナルヲ、みくらべ奉リツツ」

みくり (名) [御厨] (一)御供ノ所、御供所。ミクリヤ。(多ク伊勢ノ神宮ナ[illegible]) [illegible] (二)又、[illegible]

みくり (名) [三稜草] 又、みくりぐさ。黑三稜科ノ多年生草本。水澤ノ地ニ多シ。春、苗ヲ叢生ス。葉、高サ三四尺、莖ノ末、高キ莖ヲ出シ、端ニ數莖ヲ生シ、細花ヲ開ク、穗ヲ成シテ白色ナリ、中ニ細子アリ。莖、葉、花、實共ニ三稜アリ、葉光滑ニシテ三稜ナルコト、棕櫚ノ葉、菅ノ如シ。中ニ白瓤アリ、剖キテ物ヲ織ル、莚ニ藺ノ如シ。荊三稜 黑三稜 倭名抄、廿、草類「三稜草、美久利」 本草和名、上五十「荊草、一名三稜草、美久利、一名、佐久」 字鏡五十「[illegible]、彌久利」 林逸節用集、草木「蒋中、ミクリ」 源、廿二、玉鬘二十四「シラズトモ、尋テシラン、ミシマ江ニ、オフルみくりノ、スヂハタエシヲ」 枕草子、五、第五十段「アジロビヤウブ、みくりノスダレナド」

みくりなは (名) [三稜草繩] 三稜草ノ池

[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]ノ如ク[illegible]テ見ユルモノ。新後拾遺集、十四、[illegible]、四「今ハ早、十市ノ池ノ、みくり縄、來ル夜モ知ラヌ、人ニ[illegible]ヒツツ」

みくりや (名) 御厨 みくり(御厨)ニ同[illegible]。[illegible]、丹波國桑原ノ御[illegible]供御[illegible]ノタメニ下リケル[illegible]ノみくりや[illegible]

みぐる・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 見[illegible]見ルシキ[illegible]見ル[illegible]見ルニ[illegible]シ。ミニクシ。拙シ。醜陋 字類抄「醜、ミクルシ[illegible]「御ウラメシウ覺サルル御クセノ、みぐるしきゾカシ」

みくるべか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 見廻 ミマハス。目ヲクルクルトマハス。[illegible]ノ如クみくるべかしテ」

みくゎん (名) 味官 五官ノ一、味ヲ[illegible]ル器官。卽チ、舌。

みくゎん (名) 未完 イマダ完結セザル[illegible]未完成 未[illegible]未結

みけ (名) 膍 [膍胵 牛百葉也]
(一)牛、鹿、羊、ナドノ胃。ミノ。にけがむ(齝)、かのにけくさ(人參)ノ條ヲモ併ハセ見ヨ。字[illegible]「[illegible]、胘也、牛百葉、[illegible]、又、[illegible]
(二)後ニハ、牛、鹿、羊、等ノ糞ノ名トナ[illegible]

みけ (名) 御食 御饌 [みけつものノ義、[illegible]

みけ (名) 三毛 猫ノ毛ノ、白、黑、[illegible]、ノ雜レルモノ。三毛猫 金花猫 [illegible]三毛ヲカハユガラルル人」[illegible]

みげうしよ (名) 御教書 下文(其[illegible])ノ敬稱。院ヨリ下サルルニ云ヒ、又、關白ナルニモ云フ。又、室町將軍ノ下文ニモ云フ。將軍、執權(管領)、奉行人等、議合シテ下與スル文書。將軍ヨリ出スニ、外ニ、奉書、內書アリ。又、御教書ノ上下ヲ折リテ、[illegible]ノ[illegible]

みけが・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) 膍嚙 轉ジテ、にけがむ。牛、鹿、羊ナド、食物ヲ嚙ミテ呑ミ込ミ、又、吐キ出シテ嚙ミ食フ。ニレガム。ネリガム。反芻ス。

みけし (名) 御衣 [着ルヲ、古言ニ、けると云ヒ、ソヲ敬語ニ、けす、けせる、ナド云フ、其名詞形ナリ] 衣ノ敬語。オンゾ。御衣。古事記、上「ヌバタマノ、黑キ御衣ヲ、マツブサニ」[illegible]「皇太子視之、與之飲食、卽脫之衣裳之覆之飢者之」[illegible]

みけつ (名) 未決 (一)事ノ、イマダ決定セザルコト。[illegible]
(二)刑事被告人ノ、有罪トモ無罪トモイマダ決定セザルコト。[illegible]

みけつかん (名) 未決監 未決囚ヲ入レ置ク[illegible](今ハ刑務所內ニアル室)

みけつくに (名) 御食國 [illegible]國[illegible]、[illegible]ナラシ、[illegible]野ノ、小島ニ[illegible]」

みけつしう (名) 未決囚 罪ノイマダ決定ヲ見サル囚人。卽チ、未決監ニ拘禁セラルル刑事被告人。未決囚徒。

みけつのかみ (名) 御食津神 [illegible] [借字ニ、三狐トモ記ス] (一)食物ヲ掌リタマフ女神。(二)宇賀御魂ノ神ノ一名。卽チ、稻荷ノ神。三狐神。神祇官ノ御巫ノ祭神八座ノ中ニ、御食津神[illegible]狐神ト云フ神、見エタリ。[illegible]神四十四[illegible]保食神也」新年祭祝[illegible]

みけつもの (名) 御食物 神ヘノ供物、又ハ、供御トスル食物。雄略紀、十二年十月「時々[illegible]女、云云、[illegible]

みけびと (名) 御食人 殯ノ間、死者ニ供フル供物ヲ調フル人。古事記、上「[illegible]ハ、殯ノ間、供ニ供ル饌ヲ執行フ人ナリ」

みけん (名) 眉間 額ノ中央、眉ト眉トノ間。眉心 [illegible]「[illegible]ミケン」[illegible]

みけん (名) 未見 イマダ見ザルコト。[illegible]

みけむかふ (枕) 御食向 御食ノ時ノき(酒)、あはび(鮑)、あぢ(味)、ナドニ冠スル枕詞。萬葉集、二[illegible]「御食向、木[illegible]ノ宮[illegible]」[illegible]

みけんじやく (名) 眉間尺 [顏面三尺ニ[illegible]ト云フ] [illegible]名。一說ニ、干將、又ハ、鏌鋣ノ子ノ一名。一說ニ、干將、又ハ、鏌鋣ノ子トモ云フ。[illegible]ンデ、父ノ怨ヲ報ゼントシケルニ、云云」太平記、十[illegible]人、其名ヲ眉間尺トゾ名付ケル」

みけんびやくがうさう (名) 眉間白毫相 佛(釋迦如來)ノ三十二相ノ一。眉間ニ白毫アル相。白毫、右ニ旋リテ宛轉シ、恰モ日ノ正中スルガ如ク、光リヲ放ツ。[illegible]得佛、ト謡シタル、イミジウ妹ク面白シ」

みこ (名) 【御子・皇子・王】 天皇ノ御子ノ[illegible]特ニ、女[illegible]マシマスヲ、[illegible]トモ申ス。又、其御子孫ニモ云フ。上代ニハ、皇子ヨリ諸王マデ、某王ト御名ノ下ニアル[illegible]ハ、皆みこト唱ヘ來リシヲ、大寶令ノ頃、親王ト云フ號ノ出デ來テヨリ、[illegible]ノ、みこト唱ヘテ、[illegible]ナラヌ王ヲ、おほきみト唱ヘ分クルコトトナレリ。[illegible]「[illegible]ミコ」[illegible]前ノ世ニモ、御契リヤ深カリケン、世ニナク清ラナル玉ノヲノコみこサヘ生マレ給ヒヌ(皇子ナリ) [illegible]リニケルスヂナレバ、今マデ此ノ君ヲ、みこニモナサセ給ハザリケルヲ」(親王ナリ)

みこ (名) 神子 〔かみこノ略ト云フ、或ハ、神の御子ノ意ト〕 巫女。(アガタミコ、アヅサミコ、イチコ、ナドアリ) 今、專ラ、神社ニ仕ヘテ、舞ヒ、又、湯立ナド行フモノヲ云フ。 巫女 [illegible]セメテモ[illegible]梓ノ弓ニカク」

みこ (名) 【美籠】 〔みハ接頭語〕 こ(籠)ト云フニ同ジ。 萬葉集、一長歌「籠モヨ、美籠持チ、掘串モヨ、美掘串持チ、此岳ニ、菜ツマス兒」

みこ (名) 【稈心】 〔身子ノ義カ〕 ワラミゴ。ワラシベ。藁ノ皮ヲ去リタル上部ノ莖、即チ、穗ヲ着クル莖ヲ云フ。強靭ニシテ、種種ノ用ニ供セラル 「みご箒」

みこう (名) 【獼猴】 びこう(獼猴)ニ同ジ。 太平記、六、正成天王寺未來記披見事「金韜ノ書、巻ヲ取出セリ、云云、其文ニ、云云、如獼猴者、掠天下三十餘年、大凶變歸一元ニ」

みこき (名) 【御國忌】 〔みハ接頭語〕 こき(國忌)ノ條ヲ見ヨ。古今集、十六、哀傷「[illegible]ノミカドノ御國忌ノ日ヨメル」

みこころを (枕) 【御心】 御心廣くヨリ、廣ニ、又ハ、よしト見テ御心[illegible]ヨリ、吉ト云フ語ニ冠ラスル枕詞。[illegible] 萬葉集、一 八十長歌「山川ノ、清キ河内ト、御心乎、吉野ノ國ノ、花散ラフ、秋津ノ野ベニ」

みこし (名) 【見越】 (一)物ノ上ヲ高ク越シテ、前ヲ俯シ見ルガ如キ姿。(塀、屛風ナドノ上ニ) 富士越、山越[illegible]ナドモ、コレナルガ如シ。 好色一代男(天和、西鶴)[illegible]「みこしノ[illegible]」 (二)先ヲ見トホスコト。先見。

みこし (名) 【御輿】 輿ノ尊稱。 續紀、即位前紀[illegible]同、元年正月[illegible] 枕草子、七、第六十四段「女院、御サジキノアナタニ、御こしヲ止メ[illegible]云云」 今、專ラ、神輿ヲ云フ。 神輿

みこし (名) 【御格子】 みかうし(御格子)ノ[illegible]其條ヲ見ヨ。

みこしぐさ (名) 【神輿草】 〔形、神輿ノわらびで(蕨手)ニ似ル故ニ云フ〕 げんのしようこ[illegible]ヲ見ヨ。 重修本草綱目啓蒙、十三、下、濕草類「牛扁、云云、ゲンノシャウコ、云云、レンゲサウ、みこしぐさ(長州)」

みこしぢ (名) 【三越路】 越前、越中、越後ノ三國ノ稱。又、其三國ヘ行ク路。コシヂ。 萬葉集、十五 三十「カシコミト、ノラズアリシヲ、美故之路ノ、手向ニ立チテ、妹ガ名告リツ」

みこしにふだう (名) 【見越入道】 化物ノ名。大ナル法師ノ、鐵棒ヲ杖ニシタル

像。屛風ナドノ上ニ、見越ニアラハルト云フ。[illegible]ヤ、みこし入道、山ノ月」本領曾我(寶永、近松作)二「[illegible]」

みこしぶり (名) [illegible] 古ヘ、比叡山ノ僧徒、朝廷ニ[illegible]ノ時、大衆ガ日吉神社ノ神輿ヲ擔ヒテ、[illegible]ニ迫リ入ルコト。八王子權現ノ御輿(朝廷ニ對シ、十禪師權現、[illegible]ノ子孫藤原[illegible]) [illegible]「山門御輿振事」 (二)祭禮ノトキ、神輿ヲ振リ立テ、カツギアルクコト。

みこしやどり (名) 神輿宿 【御輿舍】 (一)御輿ノ倉ノ稱。ミコシヤドリヤ。ミコシグラ。 (二)〔おたびしよ(御旅所)ニ同ジ〕。 枕草子、十一、第百四十三段「神ハ、云云、平野ハ、イタヅラナル屋アリシヲ、ココハ何スル所ゾト問ヒシカバ、みこしやどりトイヒシモメデタシ」

みこしらへ (名) 【身拵】 衣服ヲ改メ裝フコト。ミジタク。結裝。 狂言記、薩摩守「身拵ヘヲサッシャレイ、頓テ船ハ着キマスルゾ」

みこしろ (名) 【御子代】 古ヘ、天皇、皇后、皇子等、御子オハセザレバ、其御名ヲ負ハセテ、某部ト云フ民ヲ立テ置キ、後ノ世マデ、遺シ傳ヘシメ給ハムガ爲ナリ。又、御名代。 古事記、下(仁徳)[illegible]同、同(仁徳)「[illegible]大后石之日賣命之御名代[illegible]部ニ」

みこ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 【見越】 (一)[illegible] (二)[illegible]先見。

みこたい [illegible]上代[illegible]・みこだいト訓メリ、きんわうだいト云フ。古ヘ、大[illegible]ニ、親王ニ代リテ、勤メシムル人ヲ選ミ[illegible]

みこづくり (名) 【土木造】 神社建築法ノ一。ながれづくり(流造)ノ條ヲ見ヨ。

みこと (名) 〔御事ノ義〕 [illegible] 上世、神、人ノ稱呼ニ添ヘテ、尊ビ云フ語。[illegible]御事ナト云フト同意カト云フ、命ハ、御言ノ意ヲ借字ス」[illegible]上麻呂ヲ右[illegible]、石上[illegible]、藤原[illegible]不比等ヲ[illegible]尊トセリ。コレ書紀ノ成レルヨリ九年前ナリ。 今昔物語、十六、第十八語「守ノ云ク、我[illegible]」

みこと (名) 【御言命】 言ノ敬語。オホセ。 古事記、上[illegible] 萬葉集、十四「大君ノ、美己等カシコミ、愛シ妹カ、手枕離レ、ヨダチ來ヌカモ」

みおど（名）見事［illegible］見物［illegible］見［illegible］人、［illegible］巧［illegible］見［illegible］
［illegible］寺ニ名ガゴザッテ、録前ニタテマシタレバ、抜モ見事ナ花デャト云ウテ、ミナ見物デゴザッタ」正［illegible］千句［illegible］ノ［illegible］（元禄）［illegible］マデハ、見事アユミヌ、花盛」

みおどつかひ（名）［敕使］ちょくし（敕使）
［illegible］

みおどま［illegible］見事ナ事　見アウルハ［illegible］又ハ、巧、好キ状ニ云フ語。［illegible］
［illegible］師走カナ」

みおどのり（名）［詔敕］（御言宣ノ義）
［illegible］告ゲ知ラセタマフコト。すホ［illegible］ト、敕語、敕旨、敕諭、敕諭、文書［illegible］臨時ノ大事［illegible］常ノ小事ニ敕ト書ス。詔書、敕書（詔［illegible］ノ文體［illegible］漢文體トアリ、明治［illegible］至リテ、詔ハ弘ク大事ヲ宣スル文書ノ名トナレリ）外ニ、宣命、宣旨、口宣、綸旨ナドアリ。各條ニ註ス。［illegible］
［illegible］法令、常事詔葭不［illegible］」

みおどもち（名）［宰司］（天皇ノ御言ヲ承ケ持チ行キテ、其國ノ政ヲ執行フ意）古へ、出デテ地方ヲ治ムル官ノ稱。國司。宰吏。古事記、下（清寧）四十「山部連小楯、任［illegible］
［illegible］神功攝政前紀「留［illegible］人［illegible］
［illegible］仁徳紀、六十二年五月［illegible］國司［illegible］云云」

みおどり（名）［illegible］おさどこ（雁鳥）ナラ

ムカト云フ。枕草子、二、第廿五段、鳥ハ「郭公、クヒナ、［illegible］、ヒミヤ」

みおなし（名）［身熟］（一）身ヲ思フママニ、動カスコト。身體ノ動作。所作。（二）體ヲ健康ニセムタメニ、運動スルコト。［illegible］ツレ合ヒ、徒歩オヒロヒモ、御身おなし」

みおのくち（名）［巫口］くちよせ（口寄）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

みおのみおど（名）［皇子尊］皇太子ノ尊稱。ミコノミヤ。東宮。［illegible］一（文武）丁酉年八月「日並知皇子尊之第二子也」

みおのみや（名）［東宮］（御子の宮ノ義）とうぐう（東宮）ニ同ジ。［illegible］
「東宮書［illegible］用明紀、元年正月「位居東宮」［illegible］

みおのみやのうまのつかさ（名）［主馬署］しゅめしょ（主馬署）ニ同ジ。倭名抄、五［illegible］官名「主馬署、美古乃美夜乃牟萬乃豆加佐」

みおのみやのかしはでのつかさ（名）［主膳監］しゅぜんかん（主膳監）ニ同ジ。倭名抄、五［illegible］官名「主膳監、美古乃美夜乃加之波天乃豆加佐」

みおのみやのつかさ（名）［春宮坊］とうぐう（春宮坊）ニ同ジ。倭名抄、五官名、職員令云、春宮坊、美古乃美夜乃豆加佐」東宮職員［illegible］坊、太子宮司也」

みおのみやのとのもりのつかさ（名）［主殿署］古へ、春宮坊ニ屬シテ、東宮ノ湯沐、燈燭、灑掃、其他ノ雜事ヲ掌リタルつかさ。首、令史、殿掃部、使部、直丁、駈使丁、等ノ職員アリ。シュデンシ。倭名抄、九官名「職員令云、主殿署、美古乃美夜乃止乃毛里乃豆加佐」

みおはな（名）［御花］［みおハ御子、はなハ［illegible］おはな。御子孫。御血統。ミアナスエ。［illegible］親二（左傍書、ミアナスヱ）

みおばら（名）［illegible］
［illegible］ヒニ［illegible］
［illegible］コリモ罰ケシキアルヲ思シ嘆フ」

みおひ（名）［illegible］白魚［illegible］古名、［illegible］今、又、訛シテ、にごひ。魚ノ名、淡水ニ産ズ、形、鯉ニ似テ、色、白ク、背、圓ク、頭、稍小サク、鱗、細カク、鰭ハ黄赤ヲ帶ビ、大ナルモノモ尺ニ過ギズ。肉、白ク、ヤハラカニシテ、味、鯉ヨリ劣ル。小骨多シ。多クハ、蒲鉾トナス。一名、マジカ。［illegible］

みおまひ（名）［巫舞］神社ノ神樂ニテ、巫女ノスル舞。右ニ鈴ヲ取リ、左ニ榊、又ハ、竹ノ葉ヲ持チテ舞フ。神代ニ、天鈿女命ノ、石屋戸ノ前ニテ、竹葉ヲ手ニ取リテ、古語拾遺［illegible］歌舞セシヲ學ブ［illegible］
［illegible］ゴビ」

みおみ（名）見込（一）ミカタ。見處。見地。（二）ミコムコト。オモヒコミ。意見。リンガヘ。オモハク。所存。思量。（三）見タル容子。ミバ。ミエ。外觀。好色五人女［illegible］十五六七ニ八歳ルマジキ娘、云云、衣類ノ着コナシ、云云、見込ノヤサシサ」（四）メアテ。目的。又、ノゾミ。

みおむ・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）見込（一）善ク見テ、ソレト定ム。深ク考ヘニク。（二）思量。（二）望アリト思フ。有望ナリト

考フ。［illegible］門松（享保、近松作）上「［illegible］ヒ、オチメト見ケバ見捨ラレヌ、［illegible］ヲ見込んデ［illegible］ムトハ、イトシラシイ［illegible］サン」（三）メアテト［illegible］

みおも（名）［水薀］水中ニ生ジタル藻。千載集、十八、誹名「夜ノホドニ、カリソメ人ヤ、ギタリケン、夜ノみおもノ、ケサミダレタル」

みおもり（名）［水籠］（一）ミゴモルコト。水ノ中ニ［illegible］ト［illegible］
［illegible］ムアシヲ、ハム駒ノ、カゲサカサマニ、ナレルコノ世カ」（二）轉ジテ、心ニ深ク留メオクコト。［illegible］千載集、十一、戀、一「みおもりニ、イハデフルヤノ、シノブグサ、忍ブトダニモ、シラセテシガナ」［illegible］ノ、みおもりニノミ、戀ヒヤワタラン」

みおも・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［水籠］水ノ中ニコモリカクル。［illegible］
［illegible］泡ヲ、みおもりテコソ、アルベカリケレ」

みおも・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［身籠］［illegible］ヲヒソメテ、カクレコモル。

みおやどり（名）［御子宿］大内裏ノ日華門ノ東ニアル［illegible］（東宮ノ御住［illegible］
［illegible］

みおら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［見懲］見テ懲ルルヤウニスル。

みおり（名）［見懲］見テ懲ルルコト。甲陽軍鑑、十七、品第四十七「所詮みおりノタメニ、カミノ［illegible］アケコトテ、云云」

みゐ・る・ルル・ルレ・リ・リ・リヨ(自動、上二)　見[illegible]　見テ[illegible]ル。見テ[illegible]リ[illegible]ソシム　[illegible]物語、二「イトイミ[illegible]フミ伏セテ、[illegible]ニウケテ引キヤレ[illegible]リテ、[illegible]ナ[illegible]テ」

みゐろ (名) 見頃　見ルニ最モ良キ頃、ミドキ。

みゐろ (名) [illegible]　[身衣(ミゴロモ)ノ略カ、字モ其合字[illegible]ハ[illegible]ノ、[illegible]ノ[illegible]ト[illegible]衣服ノ袖、[illegible]、[illegible]ヲ除キテ、[illegible]ノ[illegible]ノ全部ヲ被フ所ノ布帛ノ稱。衣ノ袖ナキモノ。長[illegible]、[illegible]ノ[illegible]一[illegible]二、法[illegible]門「袖ハ外ヘ成リ、みゐろハ内ヘナルヤウニカケテ持ツベシ」浮世風呂(文化、[illegible])二編、下「[illegible]紅絹ノ八ツ過ギカト云フ身頃ガアッタガ」

みゐろし (名) 見殺　他ノ死ヌルヲ見ナガラ、救ヒ得ヌコト。見ス見ス殺スコト　[illegible]七[illegible]元[illegible]、近[illegible]作　[illegible]たき「見殺しニ致セシガ、アアイトシイ事ヲシマシタ」

みさい (名) [illegible]　事ノイマダ濟(ス)マザルコト。又、イマダ納メ得ザルコト。又、[illegible]ンテハラザルコト。[illegible]　[illegible]

みさい (句) 見サッシャイ。見ナサイ。狂[illegible]「[illegible]ガナイ、アノ山見さい、コノ山見さい」同、金津地藏「金津ノ地藏ノ踊ラシマシタ、見さいナ見さいナ」

みさいみ (副) 微細　びさいみ(微細)ニ同ジ。

みさいゑ(ミ・サイ・エ) (名) 御[illegible]　禁中ノ公事ノ一。ごさいゑ(御齋會)ニ同ジ。

みさか (名) 御坂　[みハ接頭語]　さか(坂)ト云フニ同ジ。萬葉集、廿[illegible]「チハヤフル、[illegible]ノ[illegible]ニ、[illegible]マツリ、イハフ命ハ、[illegible]、[illegible]ノ、トヨリ見ユル、足[illegible]メ[illegible]九、[illegible]ノ、山ノ高嶺ヤ、みさかナルラン」

みさかひ(ミ・サカイ) (名) 見界見境　物事ノ見分ケ。ワキマヘワカツコト。辨別。識別。

みさかり (名) 眞盛　眞最中。正ニサカリナルコト。マサカリ。マッサカリ。

みさかりみ (副) 方　まさかりみ方)ニ同ジ。[illegible]方、ミサカリニ」神代紀、下「[illegible]下[illegible]方[illegible]」同、[illegible]急」同、通釋「美佐加利トハ、眞盛ト云義」

みさき (名) 碕岬　[みハ發語]　山、又、陸ノ、前ヘ突キ出デタルトコロ。崎(サキ)。鼻。岬角。(多クハ海岸ニ云フ)　[illegible]名抄、一四山谷類「岬、山側也、三左木」名義抄「岬、ミサキ」神代紀、上「[illegible]」仁德紀、十年九月[illegible]「[illegible]」[illegible]中[illegible]曲碕[illegible]也、俗云、美佐[illegible]」「[illegible]岬」

みさき (名) 汀　ミギハ。ナギサ。水際。[illegible]抄、一[illegible]汀、三左木」

みさきおひ(ミサキ・オイ) (名) 警蹕　[御前追(ミサキオヒ)ノ義]　さきおひ(前追)ノ敬語。行幸、神幸(シンカウ)ナドニ就キテ申ス。さきおひ(前追)、及、けいひつ(警蹕)ノ條ヲモ見ヨ。　名義抄「前駈、オホムサキオヒ」天武紀、下、七年四月「取ニ下日時[illegible]、[illegible]、百[illegible]、列」[illegible]紀、元年正月「兵仗[illegible]、[illegible]」

みさきみ (名) 岬廻　[みハ入リ曲レル處、み(廻)ノ條ヲ見ヨ]　ミサキノマハリ。萬葉集、四[illegible]「三埼廻ノ、荒磯ニヨスル、五百重浪、立モ居モ、[illegible]カモヘル[illegible]」

みさ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二)　見放　ノゾム。遠ク見遣ル。フリサケミル　ミハルカス。オセル。古事記、下(仁[illegible]「[illegible]」萬葉集、一[illegible]長歌「シバシバモ、見放武山ヲ、情ナキ、雲ノ隠サフベシヤ」

みさ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下二)　見下　見クダス。[illegible]ンジ侮ル。ミサゲル。[illegible]蔑ス。蔑視　[illegible]、[illegible]、法[illegible]、法[illegible]ヲ[illegible]中ニテ、[illegible]、[illegible]人ノ[illegible]カ、すノレカ[illegible]カ、ヨク[illegible]キ[illegible]ヘセ」

みさけび (名) 三叫　[白樂天、舟夜贈レ内詩「三聲猿後垂[illegible]、[illegible]」]　身[illegible]ナドヨリ出ヅルカ」ミタビサケブコト。(専ラ猿ニ)　月清集、一「[illegible]夜ノ雨ノ、ウナモネラレヌ、奥山ニ、ココロ知ラルル、猿ノ三さけび」

みさ・げる (動) 見下　前前條ノ語ノ口語。

みさご (名) [illegible]　[水探(ミサグリ)ノ義カト云フ]　[illegible]ノ類。形、鷹ニ似テ大キク、目[illegible]ク、[illegible]ノ[illegible]ノ骨高シ、高ク翔ル、聲モ、[illegible]似タリ、水邊ノ山中[illegible]棲ミ、[illegible]水邊ニ出デテ魚ヲ捕リ食フ[illegible]名、[illegible]。又、スドリ。此鳥、其捕リタル魚ヲ、海上ノ巖ノ間、又ハ、深山ノ巖陰ニ貯ヘ、宿ヲ[illegible]シメテ食トス、みさご鮓トイヒ、[illegible]、[illegible]ハ、[illegible]シテ食フベク、[illegible]人ノ作レル鮓ノ如シト。みっきう(雎鳩)ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]名抄、十八[illegible]名、[illegible]、美佐古」天治字[illegible]八「[illegible]也、[illegible]古、又、[illegible]、[illegible](上同)」萬葉集、三[illegible]「美沙居[illegible]、石ワニ[illegible]フル、[illegible]ノリソノ、名ハノラシテヨ、親ハ知ルトモ」

みさごずし (名) 鶚鮓　前條、及、すしノ[illegible]ヲ見ヨ。

みさごゐる(ミサゴ・イル) (枕) 雎鳩集　礒、洲ナド二冠ラスル枕詞。萬葉集、十一[illegible]「水沙兒居ル、沖ノ荒礒ニ、寄ル浪ノ、ユクヘモ知ラズ、吾[illegible]フラクハ」同、同[illegible]「水沙兒居、洲ニ座ル船ノ、タシホヲ、待ツラムヨリハ、吾コソマサメ」(代匠記ノ訓)

みさゝぎ (名) 陵山陵　[御狭狭城ノ古義ニテ、小陵(コヤマ)ノ意ナルベシ、さゝき(狭[illegible])[illegible]モ見ヨ]　帝王、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]キテ、陵[illegible]、[illegible]名抄、十[illegible]、[illegible]、[illegible]佐[illegible]」[illegible]代紀、下「[illegible]」

みさゝぎのつかさ (名) 諸陵寮　[illegible]ノ條ヲ見ヨ。　[illegible]名抄、五[illegible]「[illegible]、[illegible]佐[illegible]」

みさゝぎべ (名) 陵戸　古ヘ、御陵ニ附[illegible]シテ、ソレヲ守護セシ民戸。[illegible]、五年十月[illegible]、[illegible]五[illegible]上ニ」[illegible]式、凡山[illegible]、[illegible]守[illegible]」

みさ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)　見止　見果テズシテ止ム。[illegible]ケテ中途ニテ止ム。　夫木抄、三十五、楊貴妃「ウタタネノ、サメテノ後ノ、クヤシキハ、夢ニモ人ヲ、みさすナリケリ」

みさだ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二)　見定　ソレト、[illegible]シカニ見キハム。ミサダメル。源、八、花宴「マダ人ノアリサマ、ヨク[illegible]ハ、ワヅラハシカルヘシ」[illegible]集、十七、雜、下「イツヲ夢、イツヲウツツノ、ホドゾトモ、見定めガタキ、アダシ世ノ中」

みさだめ (名) 見定　見テ、サダムルコト。

みさだ・める (動) 見定　前前條ノ語ノ口語。

みさっさい (句) 見ナサイ。見サセラレ。

みさと (名) 京京都　[御里ノ義カ、或ハ、みやさとノ訓モアリ、其中略カ]　宮城ニ關ハラズ、唯、京ノ内ト云フ語、ミヤコ。キャウト。仁德紀、十四年十一月「作ニ大道[illegible]京中(ミサトノ)」孝德紀、大化二年正月「凡京(ミサトニハ)」

[illegible]

みさごづかさ (名) [illegible] 多利乃美佐止豆加佐、右京職、美岐乃美佐止豆加佐」萬葉集、十六廿「此ノ頃ノ、吾ガ戀力、給バラズバ、京兆ニ、出デテ訴ヘム」(古義ノ訓) 天武紀、下、十四 [illegible]

みさゝ (副) [極] 多ク。サハニ。 [illegible]

みさのえだ [illegible] 枝ナリト云ノ [illegible] ツエ。カミツエダ。ハツエ。ホツエ。 [illegible] バ、サハル小笠ニ、シヅレオツナリ」

みさび (名) [水銹] ミサブルコト。水ノ上ニ浮ク銹ノ如キモノ。ミシブ。風雅集、[illegible] 池ノみさびニ、蛙鳴クナリ」千載集、三、夏「アサリセシ、水ノみさびニ、[illegible] 鳴クナリ」

みさびえ (名) 水銹ノ浮キ漂ヒ居ル入江。月清集、二「みさび江ノ、菱ノ浮葉ニ、カクロハテ、[illegible] 鳴クナリ、夕立ノ空」

みざま (名) 身様 身體ノ様子。體ノ容態。身ノアリサマ。 源、三十四、下、若菜、下九十「二ノ宮ノ御イキホヒコトニテ參リ給ヒケルヲ、フルメカシキ御身ざまニテ、云云」

みさみさと (副) イタク水ニ濡レタル狀 [illegible] 第四條「紅ノ綵單衣ヲ、水ニヌラシテキセタルヤウニ、みさみさとナリテアリケルヲ」

みざめ [illegible] 見醒 見ル目ノ [illegible] 醒ムル コト。ミオトリ。 枕草子、十二、第百五十三 [illegible]

ユユシク見ざめノ帹、コレヲヨシト思ヒ帹ケルコソ [illegible]

みさを (名) [操] [illegible] ノ常 [illegible] ノ色 [illegible] 志ヲ守リテ變ヘヌコト。崩レヌヤウニ心ヲツクルコト。タシナムコト。又、嚴格ナル行儀。[illegible] 後拾遺集、十五、雜、一「アルガ上ニ、マタヌギカクル、唐衣、みさをモイカガ、ツモリアフベキ」 松ノ、松ノ葉ノ、常盤ナドニ [illegible] 其色ノカハラヌコト。

みさを [illegible] 水棹 水サス棹。水底ヲ突キテ、船ナドヲヤル棹。ミナレザヲ。 [illegible] ケリ、ナニニコロモヲ、ヌギテカクラン」

みさをみ (副) [操] 心ヲ變ヘズニ。ツレナク。 宇津保物語、藏開、上六十「心ノ、イトみさをみカシコカリシカバ」 源、[illegible] 新朝 [illegible] 集、上「[illegible] モセテ、みさをみ燃ユル、螢コソ、啼ク蟲ヨリモ、アハレナリケレ」

みじかうた (名) 短歌 たんか(短歌)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible] 「ナガウタトイヘルハ、ナガククサリツヅケテ、ヨミナガセルニツキテ、ナガウタトハイフナリ、コトバノミジカキユヱニ、みじかうたトハイフナリ」

みじかさ (名) 短 ミシカキサマ。ミジカキ度合 神代紀、下「[illegible] 各其長短定」 [illegible] 雄略紀、八年二月「[illegible] 短、大所不計」

みじか・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) [illegible] (一)[長、ノ] 對ス」 [illegible] 萬葉集、五 [illegible] キルト、云ヘルガ如ク」(二)

[illegible] 卑 [illegible] 地、云云」 源、四十九、東屋三十「高キモ、みじかきモ、女トイフモノハ、云云」 同、二、帚木二十「元ノ品 [illegible] 令「位 卑」 大祓祝詞「國津神波高山之末、短 山之末爾上坐氐」(四)[鈍シ。カシコカラズ。 伊 [illegible] ルハ、イ [illegible] みじかき、心 [illegible] 歌序「我ラみじかき心ノ、コノモカノモニマドヒ」(五)急シ。性急ナリ。「心短し」氣短し」

みじかで (名) [短手] 打ツ拍手 [illegible] 凹チ、短ク [illegible] 打ツ拍手 [illegible] 神宮式、六月月次 [illegible] 八開手、次短手 [illegible] 解、十一「短手ノ短ハ、高山、短山ノ短ト同ジク、拍手ノ低キヲイフ也、短手ハ志乃毘天トヨムナリトイヘト、[illegible] トアルハ、美自加久氐乎宇都トモヨムベキ也、云云、ソノ音ノヒビキニ、短ノ字ハ用ユベシ、志乃毘ニハ用ユベカラズ、然レバ、志乃毘天トイフハ、[illegible] 也」

みじか・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [短] 短クナス。ツヅメル。(長むニ對ス)

みじかやかみ (副) [短] 又、みじからかみ。短キ狀 [illegible] 後ニハ、御格子ヲ、みじかやかみシワタシテ」

みじかやま (名) [短山] 低キ山。ヒキヤマ。みじかし(短)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

みじかよ (名) 短夜 夏ノ短キ夜 [illegible] ヤ [illegible] 萬葉集、十「ホトトギス、夜鳴クサツキノ、短夜モ、ヒトリシヌレバ、明カシカネツモ」 [illegible] 四「[illegible] 夜ノ、更ケユクママニ、[illegible] ノマツ風、吹クカトゾ聞ク」

みじからかみ (副) [短] みじかやかみ(短)ニ同ジ。 平家物語 [illegible]

女ノ百らかなるニ、白キ大口踏ミククミ」

みしく・る [illegible]

みしたく [illegible] スルコト。ミゴシラヘ。

みしと (副) [illegible] 云フ語。ヒシト。シカト。ミシミシト。 [illegible]

みしね [illegible] いね(稻)[illegible]

みしは (名) [illegible] ク、女ノヨササヤ」 夫木抄、七、早苗「限リナキ、君ガみ [illegible] ベキ」 [illegible] 江ノ [illegible] アカヌ君カナ、みしはトハ、笠ヌフ菅ヲ云フナリ」

ミシハセ (名) [illegible] ニコレバ [illegible] ハ、Addi-boaca.(大島、又ハ、大洲ノ義)ハ、あしはせノ原音ニテ、あしはせノ「[illegible]」形 [illegible] トナリシモノト」又、みしむせ。あしは [illegible]

みしぶ (名) 水渋 [illegible] ミサビ [illegible] 上ニ、刀ノサビノ如クナルモノノ、浮ビテ見ユルモノ [illegible] 萬葉集、八 [illegible] クマデ、植エシ田ヲ、引板我レハヘ、守レル苦シ」

みしほ (名) 御修法 [みしほふノ音便 [illegible]

[illegible]修法。古ヘハ、正月、大內裏ノ眞言院ニテ行ハルル佛事。（元日ヨリ七日マデ、神事多シ）八日ヨリ、七日間、行ハル。コレヲ、後七日の御修法ト云フ。眞言宗ノ僧、金剛界、[illegible]ヲ隔年ニ修ス。又、ミシュホフ。ミスホフ。[illegible]リ七日オコナハル、今年、金剛界ナレバ、明年ハ胎藏界、年年ニ替ル替ル修セラル、後七日ノ御修法トハ、[illegible]ナテ、[illegible]宮中ニ[illegible]フレテ、承和元年ヨリ、大師朝此法ヲハジメ行ルㇾ」

みしまをぢょらう (名) [三島小女郎] 魚ノ名。駿河國ノ河江ニ產ズ。形、はぜ（沙魚）ニ似テ、大キク、河豚ニ似テ、滑皮ナラズ、全身紋アリ、毒ナシ、

みしまごよみ (名) [三島曆] 伊豆國、三島ヨリ出シタル曆。三島神社ノ下社家川合氏、應安年中ヨリハ、毎年製出シ、德川幕府ノ頃ハ、其許可ヲ得テ、初ハ伊豆、相模ノ二國ニ行ヒシト云フ。（貞享以後ハ、幕府ヨリ原稿ヲ下シタリトゾ）字ハ平假名ニテ、細カク記セリ。明治維新マデ行ハル。[illegible]

みしますげ (名) [三島菅] 又、みしますげ。攝津國、島下郡（今ノ三島郡）三島江ノ、水澤ニ產ズル菅。笠ニ作ル。萬葉集、十一 四十八「三島菅、未ダ苗ナリ、時待タバ、着ズヤナリナム、三島菅笠」

みしまで (名) [三島手] 高麗燒ノ上品ナ

[illegible]地、[illegible]、其模樣ヲ、[illegible]擬シタル文ヲ染付ケニシタルモノ。（初ハ[illegible]頃ヲ云ヒ、又、三島曆ノ假名ニ似タリトテ、名アリ。）又、コヨミデ。

みしまひ (名) [illegible] 身支度ヲスルコト。又、女ノ假粧裝束。心中重井筒（寶永、[illegible]中「サア身仕舞シテ、早フ往キヤ」

みしまゆふ (名) [三島木綿] 伊豆國、三島ヨリ產ズル木綿。[illegible]不、肩ニトリカケ、肩ニトリカケ、ワレカラ碎ノ、カラヲギセンヤ、カラヲギ、カラヲギセンヤ」

みしまをこぜ (名) [三島[illegible]] をこぜノ類、形相似テ、腹、腐カラズ、頭面モ稍小サク、怪カラズ、尖ラズ、[illegible]ノ鰭ヲ被リ、背、灰白ニシテ、白キ斑アリ、眼ノ拉ミル狀、眼鏡ヲ掛ケタルガ如シ。又、メガネウヲ。ムシマヲコゼ

みしみしと (副) 〔みしヲ重ネタル擬聲語〕引キ締メ、又ハ、壓シ潰ス音ニ云フ語。又、緊シク壓サレテ、鳴ル音ニ云フ語。ビシビシト。ミチミチト。[illegible]中、下「引キタル[illegible]ナトモ故ナ、タグリタル物ドモ、みしみしと取拂フ」大鏡、上、忠平「小一條ノミナミ、勘解由ノ小路ニハ、云云、今ハアヤシノ者モ、馬、車ニ乘リツツ、み、みしとアリキハベレバ」

みしん (名) [未進] 年貢ナドヲ、イマダ進ラセズシテアルコト。未濟 逋租 後紀、十七、大同三年五月十九日「[illegible]、云云、[illegible]未進、其數不少」日本紀略[illegible]十月「一年之貢米悉收納謂ニ皆濟ハ俗每ニ物償之無[illegible]不[illegible]曰ニ未進ニ」

ミシン (名) [縫機] 〔英語、Sewing machine ノ略訛〕洋服ナドヲ縫ヒツクル機械ノ名。コレニハ、手ニテ廻ハスモ

ノ[illegible]ト、足踏ノモノ（足踏みしん）ト、電氣ニテ廻ハスモノ（電氣みしん）トアリ。裁縫機械。

ミシムセ (名) [肅愼] 又、みしはせ。[illegible]

みしんまく (名) [身愼莫] 〔しんまく（愼莫）ノ條ヲ見ヨ〕身ノ用意。ミジマヒ。浮世[illegible]（文化、三編）二[illegible]んまくヲヨクスレバ、ジジムサクモナク、小ザッパリト、洗濯モノガ、着ラレルノダワナ」

みじめ (名) [悲慘] 〔不見目ノ義、見じハ見ルニ及バズ、見マイノ意[illegible]辛キ目、ナドノ目ニテ、出遇ヒタル境遇ノ意ニ見ルニ忍ビ難キコト[illegible]〕イタイタシキコト。浮世[illegible]文化、[illegible]上「[illegible]エ、子ガ出來ナ、アみじめダゼ」

みしやう (名) [實生] みはえ（實生）ニ同ジ。[illegible]佐（曾根、源內ニ此ノ人、先祖之系カ、實生ニハアラガネノ土ノ中ヨリ、掘出シタル分根ナルガ」

みしやう (名) [未生] イマダ生レザルコト。又、イマダ生ゼザルコト。西域記、九「[illegible]未生怨、[illegible]」止法眼藏[illegible]「父母未生以前ニアタリテ」

みしやう (名) [未詳] イマダ詳カナラザルコト。イマダ明カナラザルコト。

みしやう (名) [身性] （一）ウマレツキ。性分 生得 天性。（二）身ノ上。身分。（三）オコナヒ。身持 品行 行狀。

みしやり (名) （一）骨ノ曝ルルコト。（骨ハしやりトナッテモ）（二）轉ジテ、[illegible]ノ

[illegible]モアラムトノ意）。みしやれトモ云フ。[illegible]ミ、見しやり、云云」[illegible]太平記（元祿）四、[illegible]の色は好もないもの「[illegible]、身朽ト云フ詞、此里ノクセナリシガ、今ニ至リテオウハヤリマス」

みしやれかつたゐ (名) [illegible]

みじゆく (名) [未熟] （一）イマダ熟セヌコト。（二）イマダミノラヌコト。[illegible]（二）準ビテ、イマダシキコト。爲馴レヌコト。

みしゆほふ (名) [御修法] みしほ（御修法）ニ同ジ。

みしらず (名) [illegible]身ノ分際ヲ知ラザルコト

みしらずがほ (名) [不見知顏] 見テ知ラヌ顏スルコト。[illegible]枕草子、一、第三段「前ニ居タル人ハ心得テ笑フヲ、云云、君見知らずがほニテ、オホドカニテ居給ヘリ」

みしり (名) [見知] （一）見知ルコト。見知リ居ルコト。[illegible]アル、[illegible]シタコトコソ道理ナレ、此レハ身共ノ花盛ノ花ヂャ」「見知ノ品」（二）交リテ其人ヲ知リ居ルコト。シリアヒ。相識

みしりがほ (名) [見知顏] 見知リテ居ル顏ツキ。又、見知リテ居ル樣子。宇津保物語、[illegible]中「オトド、抱キ取リテ見給ヘバ、[illegible]マロナシタル[illegible]ニ肥エテ、見しりがほニ物語リス」

みしりごし (名) [見知越] カネガネ見知リ居ルコト。又、以前ヨリ見知リテ居

ルアヒバガラ。松風村雨束帶鑑(元祿、近松作)三「コレ業平殿、見知越トナ思サレソ」

みしりみしり (副) 板屋根ナドヲ、蹈行ク音ニ云フ語。ミシミシ。ミチミチ。

み・志・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [見知] (一) [illegible] 源、四十八、宿生六十「ケセウニハシタナキサマニハ、エモテナシ給ハヌモ、見志り給ヘルニコソハト、思フ心トキメキニ」 (二)交リテ其人ヲ知リ居ル。知リ合フ。相識 中將宗盛、四、品第十二「[illegible]ニシテ、ソレゾレニ人ヲみ志りテ使ヒ給ヘバ、一人トシテ恨ミ申スベキ樣ナシ」

み志るし (名) 御璽 [illegible]神祇令義解[illegible]璽、[illegible]明[illegible]徵信[illegible]志んき(三種神器)ノ條ヲ見ヨ。允恭卽位[illegible]前[illegible]吉日[illegible]上[illegible]寶劍鏡(シルシ)元年[illegible]月「大伴金村大連、乃跪上天子鏡劍璽符再拜」

み志つぎ (名) 身動 身シロクスト 身動[illegible] ミジロキ」 落窪物語、二「六人マデ乘リタレバ、イト[illegible]ナ[illegible]

み志ろ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [身動] [身退く、ノ約、ま志ろく、た志ろくト同義[illegible]身ヲ動ツス[illegible]キタルモノノ姬君ノヤウニ、シスヘラレテ、ウチみ志ろき給フコトモカタク」 同、同九、三十「サスガニムツカ[illegible]ろき[illegible]シ給ヘリ」

み志ろのいね (名) [illegible] 集韻「穢、稲不レ粘者」說文「穢、稲不レ粘」[illegible]正字通「穢、[illegible]粘ナキモノナルベシ。倭名抄、十七「稻類「穢、美之呂[illegible]シロノイネ」

みす (名) 御[illegible] 發語。[illegible]ノ義

ナルベシ」 (一)[簾(スダレ)ノ敬語。又、其精巧[illegible]タルモノヲ云フ。ヲス。コス。スダレ。[illegible]シク、アマタ小半蔀ノみすヨリ押シ出デタル」 源仲正集「北東國ニ、褻居ノ床マデ、トホリツル、小雪ハみすノ[illegible]リケリ」[illegible] (二)[illegible]也」 (三)みすがみ(御簾紙)ノ略。其條ヲ見ヨ 見た京[illegible]寬政、一「錦帶半[illegible]女郎[illegible]紙ニみすヲ用ヒズ、皆ノベナリ」

ミス (名) 「英語、Miss.」 英語ニテ、少女、又ハ、未婚ノ女ノ名ヲ呼ブニ添フル敬稱。孃。

み・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 看見 「立つ、ノ「立タス」トナリ、聞く、ノ「聞コス」トナル類」 (一)見る、ノ敬語。 繼體紀、七年九月「御諸カ上ニ、登リ立チ、吾カ[illegible]バ、ツスサハフ、[illegible]ノ池ノ」 萬葉集、一[illegible]長歌[illegible]ノ上ニ、在リ立タシ、見之賜ヘレバ」 同、六[illegible]大君ノ、見給フ、芳野ノ宮ハ」[illegible] (二)看守リテ治メ有ツ、ノ敬語。 萬葉集、二十四長歌「吾ガ大君ノ、所聞見爲、背友(ソトモ)ノ國ノ」(代匠記、キカシミス) 轉ジテ、めすトモ云フ、「知ロシめす」ナド、是レナリ。

み・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ 他動、下二) [見] 一 [見ルヤウニナス 現ハシ示ス。 天武紀、下、十四年九月[illegible]「[illegible]」 [illegible]サセ給ヒテ、妻子ヲモ見せサセ給ヘトゾ祈リケル」 (二)當ツ。被ラス。「恥ヲ見す」苦ミヲ見す」

み・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) [魅] 不思議ナル魔力ニテ、人ヲ迷ハス。

み・す・う・ウル・ウレ・エ・エ・エヨ(他動、下二) [見[illegible]] [illegible] (二)見定ム。見込ム。 心中重井筒(寶永、近松作)[illegible]するタラ、ナゼ付キ張ッテモ居モセイデ」

み・すか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [illegible] 見トホス。見ヌク。 太平記、八、四月三日合戰事「山門ノ衆議心心ニ成テ、云云、今ハ僅ニ一萬騎ニ足ラザリケリ、去レド武家ノ軍立(イクサダテ)、京都ノ形勢(アリサマ)、恐ルルニ不足ト見透シテケレバ」

みすがみ (名) [御簾紙] [簾中ニテ用ヰル紙ノ意ナルベシト云フ] 大和國、吉野ニ産ズル上等ノ鼻紙ト云ノ。又、一說ニ、薄ク透間アルヤウニ、漉キナセル紙トモ云フ。小菊ト共ニ上品ノモノ、美濃產ヲ良シトスト。モト遊女ナド鼻紙ニ用ヰル。略シテ、みす 嘻[illegible](寶曆)「みす紙ニ、包ム小判ヤ、オボロ月」

みすがら (名) [すがらハ直從ノ略] 身ソレナガラ。身ソレナリ。身ソノママ。又、係累ナキ身。 心中天網島(享保、近松作)上「十貫目ノ金出シテ、[illegible]ノトハ、[illegible]ガ[illegible]デコザル、我ラ女房子ナケレバ、媒ナシ親モナシ、伯父持ズ、身すがらノ太兵衞ト名ヲトッタ男」

みすぎ (名) [身過] (一)スギハヒ。クチスギ。ナリハヒ。生業 常盤友後集、八島落官女の業「イカニ身すぎジャ世過ギジャトテモ、オマナ賤ル身ハ、ハスハナモノジャエ」 (二)場合。境遇。 長町女腹切(正德、近松作)上「今デハ大名ノ御隱ノ物、宋ノ轍ノ此ノ[illegible]、主人ノ[illegible]デサスル、其ノ時時ノ身過程、悲シイモノハナキゾトヨ」

み・ずきやう (名) [御誦經] ずきやう(誦經)ノ敬稱。

みずきやうもの (名) 御誦經物 ずきやう[illegible]

もの(誦經物)ノ敬稱。其條ヲ見ヨ。[illegible]

み・すぐ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [見過] (一)見ナガラソノママニ過ス。見ノガ[illegible]ラネド、エみすぐし給ハデ、カシヅキ給フ」 (二)見[illegible]ノ心[illegible] 看過

み・す志・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [illegible]

みず志らずみ [illegible] ノ關係ナキ狀ニ云フ語。又、一面識モナキニモ云フ。 心中宵庚申(享保、近松作)下「血ヲ分ケタ親子デモ、中ノ惡イガ有ル物、袖合引ノ[illegible]」

みすず (名) [illegible]

みすずかる (枕) [illegible] 信濃(科野)ノ枕詞[illegible]ガ引カバ、ウマ人[illegible]

ミスタア (名) [英語、Mister.] 略シテ、Mr. 英語ニテ、男ノ名ヲ呼ブニ添フル敬稱。[illegible]樣、殿、君ノ如シ。

み・すぢ (名) [三筋] [illegible] 嶋原蛙合戰(享保、近松作)二「押ヤレ、ドッコイ、露ハ嵐ニチリツテトン、三筋ノ絲ノ音ニ引カレ」

み・す・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) [見]

賓、見限ル。棄テテ拘ハラズ。ミステル。　宇津保物語、俊蔭「タチ去ルベキモアラズ、みすてテ行カンモ、アハレニウシロメタク」源、五、若紫「タダ今、オノレみすてタテマツラバ、イカデ世ニオハセントスラントテ、云云」

∴みす・てる（他）見[illegible]前[illegible]ノ語ノ口語。

みずてん（名）［不見轉］（花骨牌ノ法ニ、[illegible]ヲ[illegible]ヲ得ル[illegible]目トシテ、其手札ノ良否、勝負ノ如何ヲ見ズ、[illegible]スルヨリ出ヅ、又ハ、天[illegible]ト云フ轉ニ變ヘテ書シタルナリ」[illegible]ノ一稱。コレ客[illegible]ヲ選バズ、何人ノ要求ニモ應ジテ、轉ベバナリ。　新川柳「不見轉ノ、手ダケ淨メク、問不[illegible]」

～み・ずほふ（名）［御修法］「みハ發語。ほふハ異[illegible]」みずほふニ御修法ニ同ジ。ごだいみやうわう（五大明王）ノ條ヲモ見ヨ。　紫式部日記「後夜ノ鉦ウチオトロカシ、五壇ノ御修法トキハジメツ」枕草子、十一、第百四十六段、きらきら[illegible]孔雀經、御修法ハ五[illegible]」

みすぼら・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）又、みそぼらし。容飾、弊レテ、人中ノ交ラヒニ、身窄リテ思ハル。身ナリ惡シ。外見、貧弱ナリ。　俳諧新選、雜「雪ノ日ヤ、變ニ行ク鳥、身すぼらし」

みすま・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［見澄］心ヲ付ケテ善ク見ル。狙ヒ窺フ。見キハム。熟視。　[illegible]記、十六、[illegible]「[illegible]ガ歳、長ケ、[illegible]シキ女ニ人ニ、[illegible]ヲ具シテ、人目ヲ[illegible]、同ジ重ニナリ、[illegible]出ヌリ」堪佐集「ハルカナル、ヲバステ山ノ、月カゲヲ、麓ノ里ニ、みすましゾスル」

～みすまる（名）［御統］（すまるハ、統ル、ノ轉）多クノ勾玉、管玉ナ、[illegible]貫キ

統ベ括リテ、輪ニシタルモノ。上古ハ頸ニ懸ケ、腕ニモ[illegible]、或ハ、腕ニ卷キテ飾トセリ。　古事記、上「於二御髻一亦於二左右御手一[illegible]之五百[illegible]之珠一」神代[illegible]八尺[illegible]五百[illegible]、云云、[illegible]五百[illegible]五百[illegible]、[illegible]八尺[illegible]ノ、御[illegible]ノ五百[illegible]御統ノ玉ニ、云云」

～みす・みす（副）［見見］「見す見す、ノ義」現ニ見ナガラ。ミル、ミル。又、知リテ居ナガラ。ムザムザ。　宇津保物語、梅花笠「白妙ノ、衣ニ[illegible]、梅ノ花、目ニみすみすモ、[illegible]フルカナ」源、五十二、手習「メニみすみすイケル人ヲ、カカル雨ニウチウシナハセンハ、イミジキコトナレバナド、心心ニイフ」「見す見す尋ハル見す見す取逃ス」

みすも・ぐさ（名）ひし（菱）ノ異名。　秘藏抄、下「コヤノ池ノ、岸吹ク風ノ、タマグレ、波ニ[illegible]ヨル、みすもぐサ、みすもぐ草トハ、[illegible]ナ云フ也、池、沼ナンドニ、水ノ上ニ浮草ノ樣ニテ在也」

みすや（名）［御簾屋翠簾屋］御簾ヲ、製造、又ハ、販賣スル家。又、ソノ人。　七十一番職人歌合、廿三番、[illegible]」

みすやばり（名）［[illegible]簾屋針］京都ノみすや[illegible]ニテ製造スル[illegible]針。　雍州府志、七、土産門、[illegible]、云云、[illegible]、[illegible]、[illegible]是皆堪用、[illegible]共、求之」浦島年代記[illegible]近松作）、四、[illegible]、唐土モ及バシ、京[illegible]ノ[illegible]、みすやばり、手[illegible]」

～みすり（名）［みハ發語］色ヲ衣ニ摺リツクルコト。　夫木抄、十八、雪「雪ソソグ、花ノみすりノ、狩衣、打拂ヘドモ、ムラガヘリツツ」

み・ぞゐ（名）［未遂］イマダ爲シ遂ゲザルコト。（既遂ニ對ス）「殺人未遂」

み・ぞゐぢん（名）［御隨身］上皇ノ隨身ノ稱。院の御隨身トモ云フ。近衞ノ官人

ヲ以テ充ツ。即チ、近衞將曹二人、府生二人、番長二人、近衞八人、合ハセテ十四人ア[illegible]院中ヲ守護ス。御幸ノ時ハ、前後ヲ[illegible]衞スルヲ職トス。其詰所ヲ御隨身所ト云フ。御隨身ヲ置カレシ[illegible]、御隨身所ト[illegible]、御隨身ヲ召シテ、[illegible]ヲ給フ。　[illegible]院中[illegible]身、上[illegible]六人（左右將曹、左右府生）[illegible]」

みぞゐぢんどころ（名）［御隨身所］前[illegible]ノ[illegible]ヲ見ヨ。　[illegible]、中、[illegible]御隨身所、將曹（左右）、府生（左右）、番長（左右）、近衞」

みぞゐぢん・どころはじめ（名）［御隨身所始］[illegible]ヲ見ヨ。　[illegible]年二月十三日「今夜院御隨身所始也、左右將曹以下、[illegible]中門、[illegible]、[illegible]、云云」

みすゑ（名）［見据］動カヌ見込ノコト。ミサダメ。ミキハメ。見當。「みすゑガツク」「みすゑガ立タヌ」

みせ（名）［見世］みせだな（見世棚）ノ略。其條ヲ見ヨ。　[illegible]、[illegible]「[illegible]賣ニ[illegible]ラフト存ジマス、云云、ココモトニ店ヲ出シマセウ」

みせい（名）［未成］事物ノイマダ出來上ラザルコト。（既成ニ對ス）「未成品」

みせいねん（名）［未成年］イマダ成年ニ達セザルコト。大人ニナラザルコト。滿廿歲ニ達セザルコト。又、ソノモノ。

み・せう（名）［微笑］びせう（微笑）ニ同ジ。　聯燈會要、[illegible]、世尊在二靈山會上一、拈[illegible]、[illegible]、唯迦葉破顏微笑」[illegible]記、廿四、[illegible]燒失事「舟中ニ梵僧一人アリ、座ニ上リタリケレバ、行者[illegible]テ、手ヲ取クミ、微咲シテ[illegible]ヲ唱テ云」

みせか・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）

［僞見掛］外見ヲツクロヒテ、眞ト見ス。[illegible]、[illegible]」

みせかけ（名）［僞見掛］ミセカクルコト。上ベヲ眞ト見スルコト。外見、[illegible]

みせがね（名）［僞見金］信用ヲ[illegible]、人ニ見スル金。ミセキン。ミセギン。　[illegible]ニハ、[illegible]三歩計リモ所持セザレバ、關所ヲ入レズ」

みせ・がほ（名）見顏　ミセツケラシキ顏。又、見セツケル如キ容子。　[illegible]「オボロナル、[illegible]、[illegible]月ナク」

みせがり（名）見世借　[illegible]茶屋ニ身ヲ寄セテ、自前ヲ賣ルモノ。（くせものかたり）（二）商店ヨリ品物ノ代金ヲ借ルコト。又、ソノ金錢。

みせぎぬ（名）僞見衣　人ニ見スル爲メニ、衣服ヲ[illegible]、又ハ、座敷ナド[illegible]コトト云フ。　[illegible]付て法式の[illegible]、[illegible]ル事、若ル物ノ面ノ方ヲ旅ヘ付ベシ、袖ノ裏ヲ面ヘ出スヘシ、[illegible]ヘキ也」

みせきん（名）僞見金　みせがね（僞見金）ニ同ジ。

みせぎん（名）［僞見銀］みせがね（僞見金）ニ同ジ。　[illegible]ハ、何時ナリトモ借出シテ遣スベシ」

みせ・さき（名）［店先］ミセノマヘ。店頭。又、ミセノマヘガハ。　丹波與作（寶永、近松作）中「人ハソレトモ白子屋ノ店先ニ、馬引付」

みせざや（名）見[illegible]　長キ鞘ニ見セカクル意トシ、短キ脇刀ニ[illegible]クル長キ鞘ナリ。　貞丈雜記、十二、刀劍之部「みせざやト云ハ、短キ脇

刀ニ長キ鞘袋ヲカケテ、長キ刀ト見セル心ナルベシ、サレドモ脇刀短キ故、鞘ノ先折ルルナリ(光大日、見せざやハ鑓ニテ作ル、紅網ヲ裏ニシテ、鞘尻ヲさんぼ鎗ニ切テ、二枚ニシテ下ル也)」夫木抄、三十二、「辻祭、今日ヲ晴レトモ、みせざやノ、サキ折リカケテ、練ルヤ誰ガ子ゾ」

みせざらし (名) 店晒 [illegible] オクコト。又、ソノモノ。タナザラシ。丹波與作(寶永、近松作)中「明ノ夜カラみせざらし」

みせしめ (名) (示衆見ノ義) 他ヲ見セ[illegible]ノ後ノ[illegible] 懲戒 [illegible] 軍談、二十、品第八「北城ガ勢ノ荒尾甚六ト云セガレノ首ヲ切テ軍門ニサラシ、近邊ノみせしめニ仕ル」

みせすががき (名) 見世清掻 すががき(清掻)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。拍子舞、數草吉原雀「昔ソメキハムク鳥ノ、[illegible]レツツ[illegible]子ザキ、タタククイナノロマメドリニ、孔雀ゾメキテメ[illegible]みせすががきノテンテツトン」

みせぜい (名) 見勢 見セカケノ軍勢。敵ヲ誑ル爲ノ虚勢。疑兵 太平記、廿六、四條畷合戦事「小旗一揆ノ衆ハ、始ヨリ、四條中納言隆資ノ[illegible]ガタル見世勢ニテ、飯盛山ニ打上テ」

みせせり (名) 身ヲセセクルコト。身ヲツツキホルコト。又、身ヲフルヒスルコト。[illegible]外聞ニツナゲ、[illegible]エニ、身せせりシツル、鷹ノフルマヒ」

みせだな (名) 見世棚 見世店 店棚 (爲見棚ノ義) 商家ノ前ノ部分ニ、棚ナドヲ設ケテ、人ニ見セムガ爲ニ、貨物ヲ列ネ置ク處。常ニ、下略シテ、見世トモ云ヒ、又、上略シテ、店トモ云フ。現代、店ト云ヘバ、商家ノ前ノ部分ニテ、貨物ヲ並ベ、又ハ、店員ナドノ居ル所ノ稱トシ、貨物ヲ列ネ置ク店棚ト區別ス。店 廛 鋪 下學集、上、家屋門「見世棚、[illegible]セタナ」[illegible]

みせつ (名) 未設 イマダ設ケザルコト。[illegible]

みぜに (名) 身錢 己レガ所有ノ錢。ジバラ。「みぜにヲ遣ッテスル」「みぜにヲキル」

みせびらか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) (見セ光ノ意) 見セホシテ誇ル。誇リホス。[illegible]テラフ。衒示 誇示

みせびらき (名) 見世開 始メテ見世ヲ開キ、商賣ヲ始ムルコト。開店。開舖。

みせまうし・キ・ケレ・ク・ク (形、一) (みせまくほしノ略音便) 欲爲見 見セタクアリ。夫木抄、九、蚊遣火「蚊火立ツル、垣根向ヒノ、細道ハ、都ノ人ニ、みせまほしきカナ」

みせん (名) 味煎 未煎 蜜煎 あまづら(甘葛)ニ同ジ。あまづら(甘葛)ノ條ヲ見ヨ。字類抄「未煎、ミセン(甘葛)」今昔物語、廿六、第十七語「[illegible]ヲ入テ持來テ、此ノ若共ニ入ル、云云、此ホト見ハ、味煎也ケリ」(芋粥弱)

みぜん (名) 未然 イマダシカラザルコト。イマダ到來セザルコト。事ノイマダ起ラザルコト。(已然ナドニ對ス) 漢書、[illegible]「未然」太平記、二十、北山殿謀叛事「今ノ朝家ニハ、只藤房一人ノミニテ候ツルガ、未然ニ凶ヲ鑑テ、隱遁ノ身ト成候事、朝廷ノ大凶、云云、トコソ覺テ候ヘ」

みぜんげん (名) 未然言 語學ノ語。しやうぜんげん(將然言)ノ條ヲ見ヨ。

みせもの (名) 見世物 場ヲ構ヘテ、珍奇ナル物ヲ列ネ、或ハ、遊戲ノ業ナドヲナシテ、錢ヲ受ケテ衆ニ見スルモノ。觀場 傾城島原蛙合戰(享保、近松作)一「是レハ是レ、[illegible]」

み・せる (他) 見 [illegible]ヲ見ヨ)ノ口語。

ミソ (名) 味噌 未醬 [illegible]「宋ノ[illegible]」トアリ、今モ然リ、倭名抄ニ、高麗醬ノ[illegible]トスベシ、同書[illegible]未醬トモ誤レリトノ說、或ハ、唐僧[illegible]未醬有ト稱シタルヨリ起ルナド云フ、「皆附會ナリ」(一)【ムシ。エンソ。】味噌豆ヲ煮テ、搗キタダラウシ、麴ト鹽トニ和シテ、桶ニ藏シテ、日ヲ經テ釀シ成スモノ。擂リテ汁トシ、又、物ニ味ヲ添フルニ用ヰル。古ク、又、香トモ云ヘリ、「臭高ケレバナリ」「香の物」ナド云フコレナリ。[illegible]製[illegible]因リテ、赤味噌、白味噌、玉味噌、等アリ。各條ニ注ス。倭名抄、十六[illegible]字」名義抄「味噌、ミソ」三代實錄、四十九、仁和二年六月七日「唐僧湛合供奉、[illegible]升[illegible]合、味噌[illegible]」延喜式[illegible]五勺」[illegible]云云、味噌一升五合」和泉式部續集[illegible]月ばかりみそか人[illegible]「花ニアヘバ、みそツユバなり、惜シカラヌ、アカテ谷ニモ、カハリニシノバに」(二)諺語、[illegible]面目ヲ失フコト。「味噌をつける」ナド云フ。(味噌ノ味噌臭キハ下品ナリトテ云フニ起レリト云フ)(三)蟹ノ殼ノ中ニアル黃ニシテ髓腦ノ如キモノ。蟹黃 蝦醬(齊民要術)

みそ (數) 三十 十ノ三倍ニシタル數。サンジフ。ミソヂ。「三十一文字」三十文字餘一文字」三十日」

みぞ (名) 溝渠 (水處ノ轉カ、或ハ云フ、水注ノ略轉カト) (一)【地ヲ、細長ク[illegible]】[illegible]ニ云ヒ、田間ナドニ云ヒ、人家ノ間ナルニモ云フ。セセナギ。ドブ。倭名抄、一八[illegible]「[illegible]ノ、スダク池水、溢ルトモ、溝ノガニ、吾ゾ越エメヤモ」(古義ノ訓) (二) 器ニ、細ソク長ク[illegible]。[illegible]「敷居ノみぞに」

みぞ (名) 針孔 [illegible] 其端ニ穴アリ[illegible]孔。ミゾ。メド。尿蘇工醫筆(安永、小栗百萬)「針ノみぞハ、穴ヲ云フニハアラズ、みぞハ糸ヲ通ヲツケテ、其ハヅレニ穴ヲモミタリ」

みぞ (名) 御衣 (そハ身ニ添フ意カト云フ、そ(衣)ノ條ヲ見ヨ) おろも(衣)ノ敬語。[illegible]ミソ。ミョロモ。[illegible]服、ミソ」祈年祭祝詞「御服ハ明妙、照妙、和妙、荒妙ニ、云云」神代紀、上廿「又見ト天照大神、方織神衣居ト齋服殿上」同、同[illegible]神之御服也

ミソウ (名) 味噌 みそ(味噌)ノ[illegible]

みぞう (副) 未曾有 (一)[illegible]

ミソうづ (名) 味噌水 粥ヲ味噌ニテ煮タルモノ。ザフスヰ。[illegible]

物ニテモ、是シクテハアラン、云云。[illegible]集、十八、飲食、キノフ見シ、法師ナノ稲、夜ノホ[illegible]ニ、みそうヅマデニ、成リニケルカナ」(俗都ニカケタリ) 散木集、十、雑、ト「法師ナノ、稲ト見シ間ニ、モナヌレバ、みそうヅマデモ、ナリニケルカナ」

みそ-おち (名) [晦尾] みづおち(鳩尾)ノ[illegible]。其條ヲ見ヨ。又、キウビ。[illegible]、[illegible]作[illegible]、[illegible]流布本、きうび[illegible]) サレテ[illegible]マテ、[illegible]サマニ[illegible]

みそか (名) [三十日] 月ノ[illegible]三十ノ日。陰暦ニテ、[illegible]モリ、[illegible]日[illegible]陰曆、小ノ月ノ、二十九日[illegible]終ルモノヲ、九日みそかト云フ。小[illegible]十二月ナルヲ、おほみそか(大晦日)、おほつごもり(大晦)ト云ノ。[illegible]、四、[illegible]ありける年「タナバタハ、天ノ河原ヲ、ナヽカヘリ、後ノみそかヲ、ミソギニハセヨ」「三十日蒔装」

みそか (接頭) 密 [ひそかト通ズ、ひそかノ條ヲ見ヨ] 竊ナル。隱レテ爲ル。内證ナル。「みそか盜人」「みそか心」「みそかごと」「みそか法師」「みそか男」「みそか人」

みそ-かけ (名) [御衣懸] いかう(衣桁)ニ同ジ。(俗語) 衣架 [illegible]、十四、[illegible] 衣架、[illegible]、[illegible]介、[illegible]衣架也」[illegible]、[illegible]、[illegible] ミテノ、[illegible]介ニセム、[illegible]」[illegible] 身ニモ[illegible]レ給ハ、ぇ御衣ナ、[illegible]サネノ、みそ[illegible]ニイロイロニ縫ヒカケ」 源、九、葵五十「みそかけノ御サウゾクナド、例ノヤウニシカケラレタルニ」

みそか-おもひ (名) 密心 (一)ヒソカゴコロ。人ニ、カクシダテスル心。(二)「イロケヅキタル心」 源、廿五、[illegible] [illegible]、御前ニテ、コノ世ナレタル物語ナド、[illegible]給ソ、みそか心ツキタル物ノムスメナドハ、云云」

みそか-ごと (名) 密事 (一)人ニ[illegible]隱シテスル事。[illegible]、[illegible]五月、云云、[illegible]朝臣ノ御モトヘ、みそかごと傳ヘネトテナン、御ハナムケセビシニ、云云[illegible]多クハ男[illegible]シヵラヌ交通ニ云フ。密通[illegible]

みそか-そば (名) [三十日蕎麥] [三十日蕎麥] 「蕎麥ハ長ク延ビタルモノナレバ、其[illegible]テ、金銭ノ殖エルヲ伸ブト云ヒテ、祝トナス」月ノ末日ニ、祝シテ食フ蕎麥切。(家移ナドノ祝ヒニスルモ同意ナリ)

みそか-み (名) 密 [ひそかみノ[illegible]] [illegible]シノビヤ[illegible]クレテ。内[illegible]ニテ[illegible]、[illegible]、ホノカニ、ヒソカ[illegible]、「ミソカニ」[illegible]ド人ノふてメ、おおいなそ[illegible]ラヒテケリ」[illegible] [illegible]、[illegible]「みそかみオハシマシテ、垣間見ヲシ給へバ」

みそか-ぬすびと (名) [密盜人、竊盜] [illegible]コソドロバウ。セコマスビト。[illegible]、[illegible]一云、不良人也」[illegible]、竊盜、ミソカヌスヒト」枕草子、六、第六十二段、はづかしきもの「みそかぬす人ノ、サルベキクマニウクレヰテ、見ルランヲ、云云」

みぞ-がは (名) [溝川] ミゾヲ流ルル河。永久四年百首、晩立「夕立ニ、ヲチノみぞかは、マサリツツ、[illegible]マテ、ナカレヤニケリ」

みぞ-がひ (名) [溝貝] [illegible](溝貝)ニ同ジ。[illegible]、三十七、[illegible]ニ、溝貝給フ、ウナヰコカ、タハブレニタニ、問フ人モナシ」

みそか-びと (名) [密人] 人ニ隱レテ事ヲスル人。又、密通ヲスル人。ミソカヲ。[illegible]、[illegible]、上、[illegible]ミソカニテ、トキトキモノナ[illegible]給ヘト、夢ニ人ニハ[illegible]フレ給ハズ、みそかびとノヤウニテゾ、キコエ給フ」

みそか-ほふし (名) [密法師] 密通ヲナス[illegible]、法師ニテミソ[illegible]男ナルモノ。[illegible]口「アル[illegible]ノ女房、みそか法師ヲモチテ、夜ナ夜ナ、ツボネヘ入レケリ」

みそか-め (名) 密[illegible] [illegible]、密[illegible]、[illegible]ニ通ソ男。ミソカオトコ。密夫。

みそか-をとこ (名) 密男 [illegible]ノ[illegible]ニ同ジ。宇津保物語、國讓、中、廿二「宮ノ君見給テ、サ云ヘドモ、ハタみそかをとこトイフ、トブラハレタメ[illegible]ケシ」[illegible]、十八、[illegible]、[illegible]ノツイタチ、女ノみそかをとこシタリケルヲ、云云」

みそ-ぎ (名) 御衣木 又、みそぎき。[illegible]ヲ造ル村ノ稱。[illegible]御衣木、ミソギ」[illegible]下[illegible]、下、[illegible]門[illegible]衣木、ミソキ、[illegible]」

みそ-ぎ [illegible] [illegible]コト。身ニ[illegible]、又ハ、穢レアルトキ、河原ニ出デテ、水ニテ身ヲ淨ク祓フコト。ミソギバラヘ。はらへ(祓)ノ條、(二)ヲモ見ヨ。[illegible]「[illegible]、ハラヘ、ミソギ」(二)[多クハ、三月三日ニ行フヲ云フ] 字[illegible]「[illegible]、上巳祭也、云云、所[illegible]乃波良比」[illegible]鏡、十一、[illegible]、上巳祭也、又云、三月三日[illegible]、上巳所[illegible]乃美良[illegible]乃波良[illegible]ノ[illegible]、[illegible] [illegible]、ヤヨヒノツイタチニ出テ來タル巳ノ日、ケフナンカク思スコトアル人ハ、みそぎシ給フベキト、ナマザカシキ人ノ聞ユレバ、ドニ、[illegible]シテ、はらへセサセ、[illegible]二人[illegible]コトト、見エタリ」(三)天皇ノ[illegible]御[illegible]ト、云フ。文[illegible]、[illegible]二、[illegible]元年十月[illegible]装束[illegible]、云[illegible]式、二、[illegible]、[illegible]日時[illegible]

みそぎ-がは (名) [御禊川] ミソギヲスル河。又、夏越ノ神事ニ、川岸ニ幣束ヲ立テテ、祭ヲ行フ河。源、九、[illegible]「みそぎ河ノ[illegible]カリシ[illegible]ニ、イトドヨロヅ、イトハクナホシイノフレタリ」 濱松中納言物語、一「みそぎ川、河瀬ノ神ニ、コトフレテ、マタコソ知ラネ、[illegible]ノ心ヲ」

みそぎ-けう (名) [禊教] [illegible]禊祓ヲ主トスレバ云フ」[illegible]神道教派ノ一。天保中、井上正鐵ノ創唱セシモノ。國常立神、大國主[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]延命ナドヲ祈ル。[illegible]

みそぎ-ばらへ (名) [illegible] [illegible]同ジ。

みそ-ぐ・ゲ・ガ・ギ・グ・ゲ [illegible]、[illegible]) [illegible] [illegible]ノ[illegible]テムトテ[illegible]ヒシ[illegible]フ身[illegible]「[illegible]ヒシサヲ、みそぎト神ノ、受クネバヤ、心ノウチニ[illegible]ノ、[illegible]シゲモナキ[illegible]十日[illegible] [illegible]二、出デ立チテ、禊身而マシヲ」 同、六、長歌「ソノ佐保川ニ、石ニ生フ[illegible]、[illegible]ヒテマシヲ、[illegible]ニ、[illegible]マシヲ」

みそ-ぐ・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) [illegible] [illegible]みそぐ[illegible]、十四[illegible]、[illegible]

みぞぐち-りう (名) 溝口[illegible] [illegible]流)ノ一派。美濃ノ人、溝口莊司千谷ノ創メタルモノ。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]八月二日[illegible]、門人三千六百[illegible]人」

ミソ-こし (名) [味噌漉] 棬物(ワゲモノ)ノ底ニ竹ヲ以テ目ヲ粗ク張レル篩(フルヒ)ノ如キモノ。味噌汁ノ滓ヲ漉スニ用キル。又、底深キ篩ナルアリ、味噌漉笊ト云ノ。[illegible]、[illegible]門、味噌[illegible]、ミソコシ」[illegible]代用(大和、西[illegible]、[illegible]ヨリ外ニハ、味噌漉モアラ

ズ、云云、サリトテハ、アサマシキ世ノ様シ」

みそかなひ（名）〔見損〕ミソコナフコト。見ソンズルコト。[illegible]

みそかな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）〔見損〕ミアヤマル。ミソンズ。錯認　用明天皇紀 [illegible]「[illegible]たるコンシャウカナ」

みぞかひ（名）〔溝鯉ノ義カ〕魚ノ名。[illegible]ノ（二）ニ同ジ。

みぞごゐ（名）[illegible] 古名、ヲズメドリ。ウズメドリ。ウズメ。鷺ノ類ニシテ、形、五位鷺ニ似テ小サク、蒼黒色ニシテ、頭ニ白肉冠ノ如キモノアリ。脚、黄赤ナリ。性、人ヲ畏レズ。又、ヒノクチマモリ。方目。箋注倭名抄、七、鳥名「鵁鶄鳥、云云、[illegible]也、常在二澤中一、形似二鳧鷺一、蒼黒色、頭有二白肉冠一、赤足、云云、今俗呼二溝五位一、又呼二樋口守一者、是也」

みそさざい（名）〔溝鷦鷯〕〔さざいハ、さざきノ音便、水ニ居レバ、溝ノ稱アリ〕古名、サザキ。鳥ノ名。[illegible] 樹枝ニ懸ケ、[illegible] 巧緻ナリ。故ニ、巧婦鳥ノ名モアリ。形、雀ニ似テ小サク、喙尖リテ錐ノ如シ。身ハ、灰色ニ、黒ト褐トノ細斑アリ。[illegible] 冬來リ、[illegible] 日本紀）、タクミドリ（和名抄）、ミソサンザイ、ミソサザイ（京）、云云、サザイ（同上）」日本釋名、中、鳥類「鷦鷯、ミソサンザイ、ミソニスム小鳥ナリ、さざいトハ、ささやかナル意、小サキ也」

ミソすり [illegible] 味噌擂 味噌擂 （一）味噌ヲ擂ルコト。[illegible]（二）ごますり（胡麻擂）ニ同ジ。

ミソすりばうず（名）〔味噌擂坊主〕（一）[illegible] 炊事ナドヲナス僧。略シテ、みそすり。（二）轉シテ、僧ヲ罵リ云フ語。ナッショバウズ。

みそぢ（數）〔三十〕みそ（三十）ニ同ジ。[illegible]「[illegible] アマリ、二ツノ [illegible] 八十ト [illegible] 其足人ノ、[illegible] トコロ、香ニモアルカモ」後拾遺集、序「大納言公任卿、みそぢアマリ六ツノ歌人ヲヌキ出デテ」「みそぢヒトモジ」

みそぢ・ひともじ（名）〔三十一文字〕みそひともじ（三十一文字）ニ同ジ。謠曲、[illegible] 三十一文字 [illegible] 云云」

ミソッぱ（名）〔味噌齒〕〔みそばノ音便〕（一）生兒六七箇月ノ頃ヨリ生エ始メ、二歳ニテ生エソロヒ、六歳ニテ完成スル齒。其後、コレ等ノ齒ハ拔ケ落チテ、永久齒、發生ス。チノミバ。にゅうし（乳齒）ニ同ジ。（二）轉ジテ、小兒ナドノ、齒ノ薄黒ク腐蝕シタルモノ。ミソバ。

みそつもの（名）〔御服物〕御衣服ナドノモノ。ミゾナドノモノ。神代紀、下十五「以二天 [illegible] 且服御之物 [illegible]」

みそで（名）〔袖〕〔みハ接頭語〕そで（袖）ト云フニ同ジ。[illegible]

みそなは・す・ス・セ・サ・シ・セ（[illegible]、四）〔見行〕〔見し（敬語）行はす（敬語）ノ約略〕[illegible] 持テ、床ウチ拂ヒ、ウツツニハ、君ニハアハズ」

みそな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）〔見〕前條ノ [illegible] ニ同ジ。[illegible]「[illegible] みそなへ」

ミソに（名）〔味噌煮〕味噌ヲ入レテ煮ルコト。又、ソノモノ。

みその（名）〔御園〕（一）神領ノ御苑。神宮雜例集、一、[illegible] 御園 [illegible]「[illegible] 六云」（二）次條ノ語ニ同ジ。

みそのふ（名）〔御園生〕（一）園生ノ敬語。御苑ノ稱。御園。[illegible] 野ノ原ノ、みそのふノ、[illegible] ニモアルカナ」（二）〔みヲ發語ノ意ナキモノト見テ、園生ト云フニ同ジ。催馬樂、我門爾「美 [illegible]」萬葉集、十九四十「御苑布ノ、竹ノ林ニ、鶯ハ、蜒鳴キニシヲ、雪ハ降リツツ」

みそのや（名）〔三十輻〕數、三十アル車ノ輻。サンジップク。易林節用集（慶長）下、器財門「輻、ミソノヤ」注「車輪之中有レ之、數有二三十一[illegible]」共二一轂一、當二其无一有二車之用一、是ヲ註スルニ、古ニハ車ニ三十輻アリ、一月ニ法ル、一轂ヲ共ニストハ、衆輻共ニ湊ルト云ヘリ」太平記、廿三、土岐頼遠 [illegible] 落サレ、三十輻モ少少折レニケレバ、云云」

ミソば（名）〔味噌齒〕みそつぱ（味噌齒）[illegible]

ノ條ヲ見ヨ。

みそはぎ（名）[illegible] テ小ナリ、溝ハ當字、倭名抄、廿、草類ニ [illegible] ルハ誤ナリ」又、みぞはぎ。田野ニ生ズ [illegible] 四尺、葉、[illegible] 葉ハ柳ノ如ク、[illegible] 對生ス、[illegible] ノ交、葉腋ニ [illegible] 枝ヲ出シ、[illegible] 精靈祭ニ用ヰテ供ヘ [illegible] 水掛草ノ名モアリ。千屈菜 重修本草綱目啓蒙、十二、濕草類「鼠尾草、タムラ草、云云、古來、[illegible] テ、みそはぎ [illegible] 鼠尾草トアルハ、秋ノタムラサウヲ用ユベシ、みそはぎハ救荒本草ノ千屈菜ナリ」心中刃は氷の朔日（寶永、近松作）下、平兵衞小かん夜の紙幟「盆ニハ、[illegible] モ新精靈、親子ノ杯、露ノ手向ト引カヘテ」

みそひともじ（名）〔三十一文字〕[illegible] 和歌ハ字數三十一文字ナレバ云フ〕短歌。和歌。ミソヂヒトモジ。ミソモジアマリヒトモジ。源、廿九、行幸廿「三十一字ノ中ニ、コトモジハ少ナク、ソヘタル事ノ、カタキナリト、シノビテワラヒ給フ」

みぞびめ（名）〔御衣稲穗〕衣ニツケタルひめのり。枕草子、七、第六十七段、とりどころ [illegible] みぞびめノヌレタル」

みそへ（名）〔身添〕〔身近ニ添フル義〕[illegible]（調度）ニ同ジ。[illegible]

みそぼら・し（形）みすぼらしノ轉。

ミソまめ（名）[illegible] 味噌 [illegible] 初編、上、猫ノ鑑イリ、ソノ中ヘ田舎カラ貰ッタ味噌豆ヲ入レタ所」太平記、三十五、南方蜂起事「何程

ノ、ハヲ蒔テカ、畠山、日本國ヲハ、[illegible]ニナスラン」

みそみそと (副) [illegible]レタル状。[illegible]ノ語。メチャメチャ。[illegible]ヒ、ト、第九[illegible]見テアラェル蛇、一口ヅツ[illegible]ミテ、みそみそと[illegible]ナシテ、山ノおヘ皆カクレテ[illegible]、云云」

みそ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) [見初] (一) 始メテ見ル。[illegible]「サテモ、見そめ奉リシ頃ト此ノヒトハ、ココナクコソオヨズケサセ給ヒニケレ」 (二) 始メテ見テ戀フ。ミソメル。 源、二、帚木九「カナラズシモ我ガ思ノニ叶ハネー、[illegible]ツル契ハカリヲ、捨テ難ク思ヒトマル人ハ、物マメヤカナリト見エ」

みそむぐら (名) [溝葎] 草ノ名。やへむぐら(八重葎)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

みそん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(他動、ノ變) [見損] ミソコナフ。見アヤマル。見マチガヘル。 [illegible]笑(元和、安樂庵策傳)一「ヤヤモスレバ、未ダ三十ノ営ナバ、四十トヨそんじ」

みそ・める (動) [見初] 前前條ノ口語。

みそもじあまりひともじ (名) [三十文字餘一文字] みそひともじ(三十一文字)ニ同ジ。古今集、序「スサノヲノ尊ヨリゾ、みそもじ餘り一もじハ詠ミケル」

みそやかに (副) [密] ヒソカニ。シノビヤカニ。ヒソヤカニ。コッソリト。

みそら (名) [御空] 〔みハ接頭語〕 そら(空)ト云フニ同ジ。 萬葉集、五、[illegible]長歌「久堅ノ、天ノ見虚ニ、天翔リ、見渡シタマヒ」 同、七「三空行ク、月讀男、夕サラズ、目ニハ見レドモ、ヨルヨシモナシ」 同、十二「久方ノ、天ノ水虚ニ、照レル日ノ、ウセナム日コソ、吾ガ戀ヤマメ」 同、十四「美蘇良行ク、雲ニモガモナ、今日ユキテ、妹ニ言ーヒ、明日カヘリコム」

みそら (名) [身空] 〔空ハ上ノ意〕 身ノ上。又、身體。 浮世床(文化、一九)二、編、下「ソレモイイケレドナ、若イ身そらデ數珠ヲ出シャアガッテ、[illegible]」

みそ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(他動、下二) [見逸] 嘗テ見タル人ヲ忘ル。見忘ル。ミソレル。

みぞ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [霙] 霙、降ル。 千載集、二、春、下「春雨ニ、散ル花見レバ、カキクラシ、みぞれシ空ノ、心チコソスレ」

みぞれ (名) [霙] 〔水霰ノ約ト云フ〕 (一) 冬降ル霰ノ、暖クシテ、雨ト共ニ降ルモノ。 倭名抄、一、風雪類「霙、雨雪相雜也、三倉禮」 字鏡五「霙、霰也、ミ久禮、霰、氷雪雜下也、美倉禮」 皇極紀、二年三月「風雷雨氷」(雹ノ誤) (二) 今、京都ニテ、氷水ヲ云フ。

みぞれざけ (名) [霙酒] あられざけ(霰酒)ニ同ジ。 筑前續風土記、廿七、土産「霙酒、此酒、本ハ南都ヨリ[illegible]シ出セリ、然レ共、其味辛シ、近世、福岡ノ酒屋[illegible]屋トイフ者、始テ甘[illegible]ヲ[illegible]シ出セリ、是ハ酒ノ中ニ粕交リテ、霙ニ似タルヲ以テ其名トス、味甚甜美ナリ」

みそ・れる (動) [見逸] みそる(見逸)ノ口語。

みぞろ (名) [泥濘] 〔みどろノ轉カ〕 ぬかりみ(泥濘)ニ同ジ。

みた (名) [御田] 〔みハ敬語〕 供御ノ料トセラルル田。 神代紀、上廿七「天照大神以天狹田長田爲御田」 天武紀、上、元年六月「屯田司舍人土師連馬手、供從駕者食」

ミダ (名) [彌陀] あみだ(阿彌陀)ノ略。其條ヲ見ヨ。 般舟讃「利劍即是彌陀號、一聲稱念罪皆除」 梁塵秘抄、二、法文歌「彌陀ノ誓ゾタノモシキ、十惡五逆ノ人ナレド、一タビ御名ヲトナフレバ、佛ニナルトゾ說イタマフ」 新拾遺集、十七、釋教「夏衣、ヒトヘニ西ヲ、思フカナ、ウラナク彌陀ヲ、タノム身ナレバ」

みたあふぎ (名) [御田扇] 伊勢ノ神宮ノ、御田植ノ神事ニ、持出ヅル扇。大サ[illegible]六七尺、檜ノ骨六本、[illegible]、[illegible]、烏帽子、[illegible]ノ繪ヲカク。扇持六人、素袍、烏帽子、何レモ老人ナリ。コレニテ田ヲ扇ゲバ、稻ニ蟲ツカズト云フ。田樂ニ高扇トテ、大ナル扇ヲ用ヰルモ、是レナリト云フ。(田樂ハ田ヲ祭ル[illegible]ナリ、[illegible]「捧ニ九尺高扇」ト見エタリ)

みだい (名) [御臺] 〔御臺盤ノ略〕 (一) 御食ヲ載スル臺。 宇津保物語、[illegible]「コハ北ノ方トト、宮、御臺立テテ物[illegible]キル」 源、六、末摘花「みだい、[illegible]秘色ヤウノ唐土ノ物ナレド」 (二) 〔轉シテ、飯ノ敬語〕 女房詞ナルベシ。御飯、後ニおだい。(御臺盤、即チ膳ニ居ウルハ、飯ヲ第一トスレバ云フ) 源、三十八、夕霧「大殿油ナド急ギ參ラセテ、御臺ナド、コナタニテ參ラセタマフ」 同、同「[illegible]モ御だい參リナドシテ、長閑ニナリヌル[illegible]ツ方、云云」 (三) 御臺所ノ略。次條ヲ見ヨ。 太平記、廿一、鹽冶判官讒死事「御臺御供申候ツル人人ハ、播磨ノ蔭山トテ中[illegible]テ、云云」 [illegible]、應永廿七年九月十四日「室町殿、云云、昨日[illegible]御方、[illegible]騎者[illegible]加持[illegible]」 [illegible]、正月[illegible]日「御[illegible]、御臺樣、云云、ミナミナ御所ハ御[illegible]アリ」 (四) 高坏ノ稱。 後松日記、十「御マヘノモノハ、コトニウルハシク物ニ[illegible]テ、[illegible]ハバ、みだい二本バカリモテキテ、[illegible]、高坏ヲ云フ、[illegible]中口傳ニ、公卿四本、殿上人二本」

みだいどころ (名) [御臺所] 〔御臺盤所ノ略〕 大臣、大將、將軍家、ナドノ妻ノ尊稱。北ノ方。御簾中。更ニ、略シテ、御臺。(臺盤所ノ條ヲモ見ヨ) 吾妻鏡、一、治承四年九月二日「御臺所自伊豆山渡秋戶郷給」

みたいな (副) 見タルヤウナル、ノ意ヨリ轉ジテ、ノ如キ。ノヤウニ。

みだいばん (名) [illegible]

みだいばんどころ (名) [御臺盤所] [illegible] みだいどころ(御臺所)ニ[illegible]

みだう (名) [御堂] 寺院、又ハ、佛堂ノ尊稱。 關白藤原道長(萬壽四年薨)ノ建テタル京都ノ法成寺、又、木幡ノ淨妙寺ナド名アルヨリ、御堂關白、御堂殿ノ稱アリ。[illegible]

みだうばうし (名) [御堂帽子] 〔一向宗ノ門徒、御講ナドノ時、御堂ニテ被ル〕 すみかくし(角隱)ニ同ジ。御堂綿。

みだうわた (名) [御堂綿] 〔御堂ノ綿帽子ノ略〕 前條ノ語ニ同ジ。

みだえ (名) [水絕] 水絕ユルコト。 曾丹集、九月はて「小山田ノ、みだえセシヨリ、人ニマ、[illegible]岩ハノ神ノ、[illegible]ガヌ日ゾナキ」 六帖、一「天ノ川、みだえモセナン、鵲ノ、橋モワタサデ、タダワタリナン」

みたから (名) [人民] おほみたから(人民)ニ同ジ。 武烈卽位前紀「今億計天皇子、唯有二陛下、億兆攸歸」 顯宗紀、元年二月「厥百姓豐手萬族、[illegible]」

みたくも・な・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) [無見度] ミニクシ。ミットモナシ。見ムコトヲ欲セズ。略シテ、みたむなし。

みたけ (名) [嶽岳] 〔みハ發語〕 たけ

[illegible]云フ、[illegible]、タケ、ミタケ」

みたけ (名) [身丈] (一)ミノタケ。セタケ。セ。セイ。身長。(二)着物ノ襟ヲ[illegible]

みたけけう (名) [illegible] [illegible]名ノケ」[illegible]ら。神道教派ノ一。下野國、足利ノ下[illegible]リ、御嶽大神三社(國常立尊、大國主命、少彦名命)ヲ崇拜シ、[illegible]實行、[illegible]ノ長久安全ヲ祈ル。[illegible]年認可セラレ、同十五年、獨立ノ教派トナル。本部ハ東京ニアリ。

みたけさうじ (名) [御嶽精進] [古へ、從ノ行者、此山ニテ、一千日ノ精進ヲ行ヒシ故事[illegible]、[illegible]人、みたけさうじ[illegible]、吉野ノ金峯山ニ詣デムトスル人、其前、五十日、乃至、百日ガ程、[illegible]所ニ籠リ居テ、精進シ、[illegible]ナドシテ居ルコト。詣ヅルヲ、御嶽まうで、御嶽まゐりナド云フ。源、四、夕顏「[illegible]ノ聲ナドハ聞エデ、みたけさうじ[illegible]、[illegible]ル」[illegible]、六、[illegible]十八段、あはれなるもの[illegible]」

みたけしかうじん (名) [illegible] [illegible]ノ[illegible]同ジ。[illegible]八、[illegible]日ニナリテ、[illegible]、みたけしやうじん始メサセ給ハントスルニ」

みだけぜに (名) [亂錢] [みだしぜにノ通音] 緡ニツラヌカデ、取リ亂シタル錢。[illegible]、みだけ

みたけまうで (名) [illegible]

宴ロ十「宰相ノヌシ、ハセヨリみたけまうでトオモホシタチテ、出デ給フニ」宇治拾遺、二、第四條「今ハ[illegible]、みたけまうでシケ」

みたけまゐり (名) [御嶽參] [illegible]ニ同ジ。

みだし (名) [見出] (一)見テ求メ得ルコト。(二)書物ノ目錄ナド、書中ノ事ヲ見出スニ便ニスルモノ。目次。[illegible]目錄。[illegible]

みだしがき (名) [亂書] ミダラニカクコト。[illegible]、散ラシ書クコト。[illegible]十一、有[illegible]ト、嚢帋端書ニ淡ク薄クみだし書ニゾシタリケル」

みだしぜに (名) [亂錢] みだけぜに(亂錢)ニ同ジ。狂言記、さし縄「イヤ、何カハ知ラズ、座敷ハみだし錢デ、山ノ如クヂヤ」

みだしなみ (名) [身嗜] 髮容ヲ整へ、顏ヲ化粧シ、衣服ヲ正シク着ルコト。又、身ノ作法。[illegible]「イツモノヤウニ、[illegible]シクシテゴザラズトモ、上[illegible]モ、身だしなみヲ肝要デオジャル」

みたしろ (名) [御田代] [みとしろ(御戸代)ノ轉] みとしろ(御戸代)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]、[illegible]、[illegible]代、タノモシナ、御手洗川ヲセキカケテ、ミシメハヘタル、みたしろノ[illegible]」

みた・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) [illegible] 到ノス。往キタマフ。往[illegible]、[illegible]十[illegible]九月、[illegible]」[illegible]「遂言ニ來意ニ時流神迎拜延入、慇懃奉レ慰」同、同六「此邪有レ國、請任意遊之」

みた・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) [illegible]

みた・す・ス・セ・ム・シ・セ [illegible] ヤウニナス。一杯ニナス。萬葉集、三[illegible]長歌「タサレバ、シホヲ合滿メ、アケサレバ、シホヲヒシム」(古義ノ訓)

みだ・す・ス・セ・ム・シ・セ [illegible] ノ反] 整ヒタルヲ、亂ルルヤウニナス。ラチモナクス。ミダレシム。カキマズ。ミダル。[illegible]、何トナク、[illegible]、ホルレ、ヤナギノイトヲ、[illegible]」[illegible]十[illegible]、椎本「子ノ道ノ闇ヲ思ヒヤルモ、ヲノコハ、イトシモ[illegible]ノ心ヲみだサズヤアラン」

みだ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [見出] (一)みいだす(見出)ニ同ジ。甲陽軍鑑、九、下、品第廿七「マタ御法度ソムク輩コレアラバ、見出し[illegible]申上ル」 (二)多クノ中ヨリ、拔キ擇ス。エリヌク。コリヌク。[illegible]拔ス。

みたち (名) [御館] みたて(御館)ノ條ノ(二)ニ同ジ。[illegible]八、[illegible]様、みたちノ御子ト生レサセ給フモ」

みた・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) [見立] (一)人ノ首途ニ、見ツツ旅立タシム。見送ル。[illegible]「[illegible]ガ、門出ヲシツツ、出デガテニ、セ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ハモ」 (二)多クノ物ノ中ヨリキテ、[illegible]レガ心ニ適ヒタルモノヲ見出シ取リテ[illegible]ル。見テ擇ビ定ム。[illegible] 夫木[illegible]、十九、[illegible]「アヒガタキ、御法ノ[illegible]ニ、埋レテ、みたつる人ノ、ナキゾ[illegible]キ」「人物ヲ見立つ」(三)[illegible]症ヲ[illegible]。[illegible]、[illegible]、先ヅドナタノ[illegible]モ、

[illegible]物狂ヂャト仰セラレマス」 (四)世話ヲナス。後見ヲナス。生玉心中(正德、近松作)中「セメ[illegible]ノ諸役ニハモットモダテ」「花ニ見立つ」

みたて [illegible] [illegible] ナリテ防グ意] 皇軍トナリテ、敵ヲ防グコト。守護。干城 [illegible]「[illegible]大[illegible]」「今日ヨリハ、カヘリミナクテ、大君ノ、醜ノ御楯ト、[illegible]ハ、[illegible]人ノ[illegible]」

みたて (名) [illegible] [illegible] [illegible] 見ヨ」(一)領主ノ居所。ヤカタ。(二)又、ソノ[illegible]。

みたて (名) [見立] [illegible] (一)[illegible] ルコト。送別「見立ブルマヒ」(二)見テ擇ビ定ムルコト。[illegible]、[illegible]、何卜聞ハレテ[illegible]「人物ノ見立」(三)病症ヲ診ルコト。診斷。みたつ(見立)ノ(三)ノ[illegible]見ヨ。

みだて (名) [illegible] [illegible] 源、廿、[illegible]、[illegible]ク思サルルニヤトテ、トダエ置クヲ、云云」夫木抄、四、花「シホ風ニ、小島ノサクラ、花咲カセテ、ナミノみだてモ、ナクテ散リヌル」「見立ガ無イ」

みたてきゃうげん (名) [見立狂言] [illegible] ニハ[illegible]

みたてなほし (名) [見立直] 見立つ[illegible]ノ[illegible]ルコト。[illegible] (文化、三馬)三編、下「常住、取り替へ引ツ替へ、見立て直しノ女房ヲ持ツ人ハ、氣ガネエノウ」

みた・てる [illegible] [illegible] みたつ(見立)ニ同ジ。[illegible]口語。浮世床(文化、三馬)初編、中「今ノト是レトハ、ドチラヲ見立てる」

みたに (名) 深谷　フカキ谷。古事記、上「[illegible]フタ渡ラス、アヂシキ、高日子根ノ、神ゾヤ」散木集、一、春「ココロザシ、深キみたにニ、ツミタメテ、イシミユスリテ、アラフ根芹ゾ」

みだぬき (名) 猯狸　まみ(猯)ノ條ヲ見ヨ。料理物語、[illegible]「みだぬきハ[illegible]コシ(一本、ハツキコシ)[illegible]」

みたびぐり (名) 三度栗　さんどぐり(三度栗)ニ同ジ。書言字考、用[illegible]、六、植物門「三度栗、上總、山邊郡所出、栗子」

みたふし (名) 見倒　ミタフスコト。フミタフスコト。[illegible]「[illegible]」初篇「踏メルモノハ、見倒屋ヘサヅケテ[illegible]ニカヘ」

みたふ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 見倒　(一)貶シ見ル。見下グ。(二)商品ナドヲ、見ルノミニテ、買ハヌ。又、フミタフス。日本新永代藏、正德、北條團水、四「タダハブリノヨイ方ニノミ付從ヒ、下リ坂ト見ユル大商人ヲ、見たふすヤウニスルモノアリ」

ミダブツ (名) 彌陀佛　あみだぶつ(阿彌陀佛)ノ略。あみだ(阿彌陀)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]、北四、佛教部、[illegible]ノ主。歌林拾葉、四、秋、光俊「ワガタノム、西ノアルジト、契リケル、ケフノコヨヒゾ、月ノサヤケキ、西ノアルジハ教主阿彌陀佛ナリ、月トイヘルハ彌陀佛ノ右ノ脇、勢至菩薩也」

みたへぐさ (名) 水堪草　はす(蓮)ノ異名。蠶玉集、夏「水堪草、蓮、花咲カバ、波トヤ見エン、水堪草、庭モサミミニ、見ユルコノゴロ」

みたま (名) 御靈　(一)神、人ノ靈ヲ敬ヒ云フ語。[illegible]、神代紀、上「土俗祭二此神加介、又、用二魂魄二字二」神代紀、上「我幸魂奇魂也」[illegible]、景行紀、四十年七月[illegible]。(二)ミカゲ。オカゲ。ミココロイレ。御恩。[illegible]萬葉集、五「吾ガ主ノ、美多麻多麻ヒテ、春サラバ、奈良ノ都ニ、メサゲタマハネ」

みたまうつし (名) 御靈遷　御靈代ヲ他ニ遷シタテマツルコト。又、ソノ儀式。

みたましづめ (名) 鎭魂　〔みハ敬語〕身心安穩ノ祈禱。たましづめのまつり(鎭魂祭)ノ條ヲ見ヨ。

みたましろ (名) 御靈代　〔みハ敬語〕御靈トシテマツルかたしろ。御靈代ハ、[illegible]ニモアレ、其神靈ヲ託着ケタルモノ。[illegible]タマシロ。御神體[illegible]代代二[illegible]御靈代、[illegible]ニ用ヰフレタルニテ、其使、[illegible]書キ用ヰル也」

みたまのふゆ (名) 恩頼　御靈ノ殖ノ義、即チ、御靈ノ幸ヲ蒙ルコト、萬世ニ押渡リテ、イヤ末殖トナリマサリ來ル也」神威ノ幸ハヘ給フ惠ミヲ、恭ナク思ヒテ、稱ヘテ云フ語。天神、天皇ノ御稜威御恩。名義抄「頼、ミタマノフユ(一本、エ)」[illegible]神代紀、上[illegible]、日本紀[illegible]、續日本紀[illegible]、ウレシキ[illegible]、ソグカナ、みたまのふゆト、宜モ言ヒケリ」(此歌ハ、歳末ノ魂ヲ祭ルトヲカケテ詠メリ)

みたまふり (名) 御靈振　招魂　〔みハ敬語〕たましづめのまつり(鎭魂祭)ニ同ジ。四時祭式、下「鎭魂祭」(出デマサセ奉ルヲふるト云フ、御神事ト云フ語アリ)鎭魂祭ヲ、一ニはみたまふりトモ云フ。みたまふりハ、鎭ムル方ニ付キテ云ヒ、たまふりハ、振動カシテ、勢アラシムルニ云フ。(遊離セヌヤウニ、力ヲツクルナリ)天皇紀、下、十四年十一月、是日、[illegible](人ノ魂ハ、[illegible]ト信ゼラレテ[illegible])萬葉集、十五「タマシヒハ、アシタユフベニ、多麻布禮ド、我ガムネイタシ、戀ノシゲキニ」

みたまや (名) 御靈舍　御靈屋　〔みハ敬語〕たまや(靈屋)ニ同ジ。

みたみ (名) 御民　天子ニ對シ奉リテ、人民自ラ稱スル語。天下ノ蒼生ハ皇朝ノ大御田子等(大御寶)ナレバ、尊ビテ云フ。萬葉集、一廿長歌「檜ノツマデヲ、モノノフノ、八十氏河ニ、玉藻ナス、浮ベ流セレ、ソヲ取ルト、サワグ御民モ」同、六「御民吾レ、生ケル驗アリ、天地ノ、榮ユル時ニ、會ヘラク思ヘバ」(古義ノ訓)

みたむなし・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 無見度　〔みたうなしノ轉〕(一)見タクモナシ。(二)ミニクシ。ミグルシ。ミトムナシ。狂言記、八尾地藏「ソレナラバ、又九郎カ女房モ[illegible]シタ、汝ニ似タラバ、みたむなカロ」

みため (名) 御爲　おほんため(御爲)ノ條ヲ見ヨ。

みたもなし・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 無見度　〔みたくもなしノ略〕ミニクシ。ミグルシ。ミットモナシ。ミトムナシ。

みたや (名) 御田屋　神領ノ田ヲ守ル小屋。萬葉集、十、二長歌「九月ノ、時雨ノフレバ、雁ガネモ、イマダ來鳴カズ、神南備ノ、淸キ三田屋ノ」

みたやもり (名) 御田屋守　神領ノ田ノ番人。後拾遺集、三、夏「みたやもり、今日ハサツキニ、ナリニケリ、イソゲヤサ苗、老イモコソスレ」

みだ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) 水絕　水、絕ユ。公任集「白川ノ、流レテ今日ゾ、忘レメヤ、みだえテ淺キ、瀨トハナルトモ」

みだら (名) 淫　男女間ニテ淫行ヲナスコト。又、淫猥ヲ行フコト。

みたらし (名) 御手洗　〔たらしハ手洗ヒ〕[illegible]神前ノ、淸キ流レ水ナド[illegible]漱グモノ。山城ノ賀茂ノ神社ノ前ナル[illegible]ヲ河トシテ[illegible]タラヒ。堀河百首「カミ山ノ、フモトヲトムル、みたらしノ、イハウツナミヤ、ヨロヅヨノカズ」

みたらし (名) 御執　〔みとらし(御執)〕[illegible]ノ轉[illegible]、弓ノ敬語。御弓。[illegible]ムタラシ」雄略紀、五年二月「天皇用二弓刺止、擧[illegible]」[illegible]みたらしナリト[illegible]」

みたらしがは (名) 御手洗川　神社ノ前ニアリテ、參詣人ノ手ヲ洗ヒ、口ヲ漱グベキ川。[illegible]ツレナキニ、身ノウキホドゾ、イトド知ラルル」古今集、十一、戀、一「戀セジト、みたらし川ニ、セシミソギ、神ハ受ケズゾ、ナリニケラシモ」

みたらしだんご (名) 御手洗團子　竹串ニ數箇ノ團子ヲ貫キタルモノ。御手洗詣ノ時、山城國、糺ノ森ノ林間ニテ賣ル名物ノ團子。[illegible]

みたらしまうで (名) 御手洗詣　每年、六月十九日ヨリ晦日マデ、山城國、下賀茂ノ社ニ參詣シ、御手洗川ノ邊ニテ、納涼ノ遊ヲナスコト。(前條ノ出典ヲ見ヨ)

✣みだらみ (副) 妄猥　みだりみ(妄)ノ訛。

みだらはし・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 濫慢　みだりがはし(濫)ニ同ジ。

みたらひ (名) [illegible] みたらし [illegible] 洗)ニ同ジ。

みだらをのうま (名) 【驪馬】 〔みだらを [illegible] 也〕〕馬ノ毛色ノ名。青馬ニ、白毛ノ差シ [illegible] 倭名抄、十一「驪馬、美多良乎乃宇末」 雄略紀 [illegible]」

みたり (名) 【三人】 人ノ數ノ三ツアルコト。サンニン。たり(人)ノ條ヲモ見ヨ。 [illegible] 撥古記、廿四年三月「撥致人三口歸化」

みだりあし [illegible] 亂足 [illegible] 同ジ。 [illegible]「[illegible]ノメ、イーマメヤカニ[illegible]、みだりあしコソ[illegible]」

みだりあしのけ (名) 【亂足氣】 かくけ(脚氣)ニ同ジ。又、みだり脚[illegible]、略シテ、みだりあし。ミダレブシ。 宇津保物語、嵯峨院ニ「みだりあしのけニヤ侍ラン、更ニ蹈ミ立テラレ侍ラズ、立チ動キモシ侍ラヌヲ」

みだりかくびやう (名) 亂脚病 [illegible] 同ジ。 源、[illegible]四、[illegible]侍ノ[illegible]ヒヨリ、例モ煩ヒ侍みだりかくびやうトイフモノ、所狹クオコリワヅラヒ」

みだりかぜ (名) 亂風ノ義ッ 風病ナル [illegible] 源、[illegible] 榮花物語、二、花山「内ヨリメシアレド、みだり風ナド、サマザマノ御サハリドモヲ申サセ給ヒツ、[illegible]」

みだりがはし・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [illegible] 狀ナリ。嚴ナラズ見ユ。亂雜ナリ。ミダラハシ。ミタリガマシ。ミダレガハシ。名義抄「叨、ミタリカハシ」濫、ミタリカハシ」監、ミタリカハシ」漫、ミタリカハシ」慢、ミタリカハシ」取次、ミタリカハシ」 天治字鏡、十二「濫、亂語也、[illegible]」 [illegible] きコトヲモ聞エ給ヒツツ」 雄略紀、十三年九月「何[illegible]」

みだりがまし・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 濫猥 前條ノ語ニ同ジ。

みだりおほち (名) 亂心地 又、みだれおほち。病メル心地。ワヅラヒ。 宇津保物語、上、一、藤開ニ「みだりおほちイトアシウ侍ル」 源、[illegible]「[illegible]みだり[illegible]ノイトウ[illegible]ナル[illegible]シモ」 [illegible]「[illegible]ノオコリ侍リニケルニヤ、みだり[illegible]ナラテ、エ[illegible]ヤ上リ侍ラデ」

みだりおと (名) 漫言・亂言 ミダラナルコトバ。ミダリガハシキ言語。ミダレゴト。タハレゴト。 天治字鏡、十二「諂、[illegible]」

みだりに (副) 妄・漫・猥 〔亂りに、ノ義、亂る(四段活用)ノ未然形ニテ、みだらに(連用)トナル〕順ヲ亂シテ。禮ヲ外レテ。ワイダメナク。取締リナク。ヤタラニ。ムヤミニ。ムチャクチャニ。訛シテ、みだらに。 後撰集、十五、雜、一「白川ノ、瀧ノイト[illegible]、ポンケレー、みだりに人ヲ、[illegible]センモノトヤ」

みだりむね (名) 亂胸 何トナク苦シキ胸ノ病。胸痛。 とりかへばや物語、二「みだりむね、イトフカクニオコリテ侍ルホドナレバトテ」

みだりを (名) 亂尾 ミダレテアル尾。 萬葉集、七「庭ツ鳥、可鶏ノ垂尾ノ、亂尾ノ、ナガキ心モ、オモホエヌカモ」(古義ノ訓)

みだる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 亂 〔次條ノ[illegible]ニ同ジ〕 (一)入リマザル。 (二)[illegible] みだりニ [illegible] みだりがはし [illegible] みだり心チシナドスソ、是レナリ」 萬葉集、十二[illegible]「松浦舟、亂堀江ノ、水脈早ミ、楫トルマナク、思ホユ[illegible]」

みだる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 亂 (一)順序、違フ。入リマザル。混雜ス。古事記、下(允恭)「刈薦ノ、美陀禮婆美陀禮、[illegible]」 [illegible] (二)思ヒ惑フ。心ナヤム。 [illegible] 二、河津八騷グ」 (三)心變ハル。古今集、十四、戀、四「ミチノクノ、シノブモヂズリ、誰ユヱニ、亂れント思フ、我ナラナクニ」 (四)サワグ。騷亂[illegible]。 [illegible]」

みだる・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 亂 みだす(亂)ニ同ジ。 [illegible] 伊勢物語、第八十七段「貫キみだる、人コソアルラシ、白玉ノ、間ナクモ散ルカ、袖ノ狹キニ」 平家物語、[illegible]「[illegible]みだらントスル、ムホンノ人アリ」 後撰集、十七、雜、[illegible]玉ヲ、みだりケン、拾フトセシニ、袖ハヒヂニキ」

みだれ (名) 亂 (一)ミダルルコト。 萬葉集、十一、四十二「玉ノ緒ノ、絶エタル戀ノ、亂ニハ、死ナマクノミゾ、又モアハズシテ」(古義ノ訓) 古今集、十一、戀、一「アハレテフ、コトダニナクバ、何ヲカハ、戀ノみだれノ、ツカネヲニセン」 (二)サワギ。戰爭ノ騷動。 [illegible] 無闕、若急不計、投有亂乎」 (三)雨風ナド[illegible] 源、十[illegible] [illegible]ラヌ空ノみだれニ、イデ立チマキル人モナシ」

みだれあし (名) 亂足 (一)足ナミノ亂ルルコト。 [illegible] ミダリアシ。ミダリアシノケ。 宇津保物語 [illegible]」

みだれあし (名) 亂蘆 打チミダレタル蘆。 [illegible]

みだれがさ (名) 亂笠 ミダレテアル笠。 [illegible] 笠キ、亂れ笠ノ、イカナルフシニ、[illegible]初メマシ」

みだれがはし・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [illegible] イミジカラン、云云」

みだれかみ [illegible] 振懸ケ」 盛衰記、廿一、小坪合戰事「甲ノテヘンニ手ヲ入レ、亂髮ヲ引仰テ、頸ヲ搔落ス」

みだれぐさ (名) 亂草 すすき(薄)ノ異[illegible] [illegible] みだれぐさ(古名)、ソデナミグサ、云云」

みだれぐら (名) 亂[illegible] [illegible]

みだれおほち (名) 亂心地 みだりおほち(亂心地)ニ同ジ。 顯輔集「コノ非常ヨリモ[illegible]みだれおほちマサリテ、サシイヅベクモオボエザリシカバ、官人シテオリニヤリテ見ルニツケテ」

みだれおほろ [illegible]「[illegible]」

みだれおと [illegible] みだりおと [illegible]

[illegible]漫[illegible]同ジ。[illegible]十[illegible]、[illegible]テサブソヒ[illegible]ヘバ、エ[illegible]マナル[illegible]モ、ウチイデサセ給ハデ」

〘みだれ-ごと〙(名)［亂事］イリミダレテ騷ガシキコト。[illegible]ノ[illegible]十[illegible]、[illegible]ソ[illegible]マ[illegible]ク、シゾカナラズみだれごとナメレド、所ガラ人ガラナリケリ」

〘みだれ-ごひ〙(名)［亂戀］[illegible]シテ思ヒ亂レタル戀。[illegible]十一「[illegible]ノ[illegible]セナセツソ[illegible]ハ[illegible]八[illegible]ニツ」

みだれ-ばこ(名)［亂箱］［打亂(箱)ノ略］[illegible]うちみだりのはこ(打亂箱)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

みだれ-ぼし(名)［亂星］模樣ニ、大小ノ黑圓ヲ、散亂シタルモノ。

みだれ-やき(名)［亂燒］刀ノ燒ニ、肌ニ現ハルル燒ノ、亂レウネリタル如キモノ。漫[illegible]。[illegible]

✧みだ-れる(動)［亂］みだる(亂)ノ口語。

みだれ-を(名)［亂緖］(一)亂レモツレタル緖。(二)亂緖ノ略。[illegible]ノ一種。爪サキノ編ミ餘リヲ、バラバラニシタルモノ。古ヘ、衞府ノ官人、是レヲハク。ミダレヲノワラグツ。[illegible]十一月廿六日「今日詣ニ春日ニ云云、[illegible]」注「亂緖」太平記、十[illegible]、[illegible]イチヒハバキニ、亂れ緖ヲハイテ、列ヲヒク」

〘み-ち〙(名)［道路］[illegible]、[illegible]ハ道路ナリ。古事記、上[illegible]「味御路」神代紀、下[illegible]「可怜御路」ト見ユ」(一)又、路。地上

ニ往來スベク拓キ設ケタル所。人ノ行來スル[illegible]道。[illegible]「コハ[illegible]ニ[illegible]」古ヘ、京ヨリ東西北ノ國國ニ往[illegible]國ノ[illegible]ヲ[illegible]テ、其[illegible]ヲ[illegible]メニ行ク者ノ、道ノ[illegible] 其入ル所ヲ口ト云ヒ、奥ノ方ヲ後ト云フ。西海道ノ極ナル日向ヲ道の後ト云ヒ、(古事記、中、應神[illegible])、東山道ノ極ナルヲ、陸奧ト云フナド、是レナリ。[illegible]制[illegible]、[illegible]前、[illegible]中、[illegible]後、山陽道ノ吉備國ヲ備前、備中、備後、西海道ノ筑紫ヲ筑前、筑後、肥國ヲ肥前、肥後、豐國ヲ豐前、豐後ト云フ、是レナリ。(倭名抄、[illegible])[illegible]十年九月「北陸、東海、[illegible]云云、西道」又、國ノ行政(朝廷ヨリ其國ヲ治メニ、人ヲ遣ハスニ就キテ名起ル) 古事記、中[illegible]「[illegible]」(越ノ國)、其子[illegible]二道ニ(卽チ[illegible])[illegible]二國ニテ、[illegible]カト云フ)[illegible]三月「[illegible]」[illegible]使[illegible]令」(二)事ノ理ノ、人ノ行ヒモテ行クベキ所ノワザ。敎ヘノ旨。人ノ道。道。神代紀、下「朋友之道」[illegible]理」萬葉集、五[illegible]「[illegible]カクバカリ、スベナキモノカ、世ノ中ノ道」同、六[illegible]「丈夫ノ、行クト云フ道ゾ、オホロカニ、思ヒテ行クナ、丈夫ノ作」「人倫ノ道」(三)百般ノ學問、藝術ナドノ方法。術。[illegible]道。方法。神代紀、上[illegible]「[illegible]」(本正本、[illegible]) 萬葉集、三[illegible]「世ノ中ノ、遊ビノ道ニ、[illegible]クバ、醉泣キスルニ、アリヌベカラシ」(略解ノ訓、遊樂スルコト

ニテ、あそびのみちナリ)(四)朝廷ヨリ平ニ任[illegible](其條ヲ見ヨ) 崇神紀、六十五年七月「去ニ筑紫國ニ千餘里」「牛道」「小道」

〘みち〙(名)［滿］ミツルコト。一杯ニナルコト。萬葉集、九[illegible]長歌「夕汐ノ、滿ノトドミニ、ミフナ子ヲ、アトモヒ[illegible]テ[illegible]」

〘みち〙(名)［[illegible]］「[illegible]」[illegible]海産ノ動物。今ノあしか(葦鹿)カト云フ。[illegible]其上[illegible]三十六[illegible]ヤシヌ、[illegible]ナリナガラ、[illegible]ヤハテナン」

〘ミチ〙(名)［蜜］みつ(蜜)ニ同ジ。又、[illegible]上[illegible]「一斗バカリノ[illegible]ツニ、[illegible]ニハ[illegible]、[illegible]ツニハアマヅ[illegible]レテ」源、[illegible]十七[illegible]「[illegible]ヲ[illegible]ホロロ[illegible]ハシタル」「[illegible]」

みち-あへ-の-まつり(名)［道饗祭］又、ちあへのまつり。古ヘ、[illegible]六月[illegible]ノ祭事、十二月モ之ニ準シテ行フ。卽チ、八衢比古、八衢比賣、久那斗ノ三神ヲ祀リテ、鬼魅ヲ京城ニ入レジトシテ、道ニテ饗シ止ムル祭ト云フ。ソノ京城ノ外郭ノ外ノ四隅ニテ祭ルヲ、四角[illegible]祭ト云ヒ、卜部、京城ノ四方、和邇、會坂、大枝、山崎、ノ四道ノ境ヘ行キ向ヒテ、行フ。又、國ニ疫病ナド起ル時ハ、山城ノ四方ノ國境ニテ祭ル、コレヲ四境ノ祭ト云フ。神祇令、[illegible]「道饗祭」[illegible]、卜部等、

[illegible]部ノ人、京職ノ四角ノ路ニテ、鬼魅ノ他方ヨリキタルヲ、京路ニ入ザラシメン爲ニ、路上ニ供物ヲソナヘ[illegible]祭トモ申也」

みち-うち(名)［道打］乘馬ニテ、道ヲ行クコト。宗中竹馬記「道打ノ時、馬ノムスブ事アリ、ホドキテモ可[illegible]、ホトカズモクルシカラズ」

みち-うら(名)［道占］つじうら(辻占)ノ(一)ニ同ジ。[illegible]九[illegible]「[illegible]ナク[illegible]テ、道占ナサントテ」

〘ミチ-うり〙(名)［蜜瓜］成熟シタル瓜。ホゾチ。熟瓜。大槐秘抄「村上ノ御日記ニ、[illegible]イゴメ、生海松、水、茨ナド奉レ給ヘリ」

みち-がく(名)［道樂］雅樂ニ云フ語。行幸、[illegible]ナド、道ニ就キテ、[illegible]ナガラ奏スルコト。又、ソノ樂。御大葬ニハ盤渉調ノ萬秋樂ナリト云フ。歌儛品目、五、上「道樂」注「天子行幸、又ハ神幸ノトキ、其ノ道スガラ音樂ヲ作スノ稱ナリ」

〘みち-かけ〙(名)［滿缺］ミツルコトト、カクルコト。萬葉集、[illegible]「世ノ中ハ、空シキモノト、有ラムトゾ、此ノ照月ハ、滿闕シケル」

〘み-ぢか・し〙キ・ケレ・ク・ク(形、一)［身近］身邊ニ近シ。手近シ。源、三、空蟬[illegible]「身ぢかくナラシツツ、[illegible]」[illegible]十六段、いひにくきもの「コドネリワラハノ、ツキヅキシキヲ、身ぢかくヨビセテ、云云」

〘みち-かひ〙(名)［道交］途中ニテ行交フコト。ユキチガヒ。源、十三、明石[illegible]「アヤシキ

…奕ニテ、ソホヂ多レル、道かひニテダニ、人カ何ゾトダニ、御覽ジワクベクモアラズ」

みちか・ふ・ル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) [illegible]

ガヘ [illegible] テヲリケル」

✧✧みちが・へる(動) [見違] 前條ノ語ノ口語。

みちくさ(名) [道草] (一)[illegible]生ヒタル草。[illegible]

馬カナ」(二)馬ノ、路草ヲ食ヒテ、行クコトノ遲クナルコト。轉ジテ、俗ニ、人ノ路ヲ行キナガラ、遊ビ戲レナドシテ、暇ヲ費ヤスコト。[illegible] 俳家奇人談「行ク人ノ、道草トナル、花野カナ」(三)草ノ名。アブラガヤ。アブラシバ。

みちくさ(名) [三千草] 桃ノ異名。みち[illegible](三千年桃)ノ條ヲ見ヨ。

〰みちくらべ(名) [道競] 諸道ノ競技。即チ雙六ノ勝敗、カケクラナドノ類ナリ。[illegible]

みちさまたけ(名) [道妨] (一)道路ノ妨害トナルコト。又、ソノモノ。六帖、一「オトニキク、花ミニクレバ、秋霧ノ、みちさまたけニ、[illegible]」(二)[illegible] クイミジト思ヒマドフニ、ナカナカ道さまたけニモ[illegible]」

みちしき(名) 路敷 路ノ占ムル信ノ敷地。[illegible]

みちしば(名) [illegible] (一)[路傍][illegible]

六、秋、下「トフ人モ、アラシフキソフ、秋ハ來テ、木ノ葉ニウヅム、ヤドノ道芝」 (二)又、芝ニ似テ[illegible]モノ。小[illegible]草

みちしほ(名) [滿潮] 潮ノサシテ、一日ノ中ニテ、最モ高クナリタルトキノ稱。マンテウ。うしほ(潮)ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]オシ照ル海山モ、皆成佛ノ姿ナリ」

みちしらず(名) [道不知] 義理、人情ヲ亂シ、又ハ、辨ヘザルコト。又、ソノモノ。[illegible] ノ臣、腰ヌケヨ、道しらずト、一天下ノ譽リヲウケ」

みちしるべ(名) [路導] (一)路ノ方向ナド[illegible]シタル木石ノ札。路標。(二)ミチビキ。行ク路ノ案内。[illegible]、十一、懸、一「サキニタツ、涙トナラバ、人シレズ、戀路ニマドフ、みちしるべセヨ」(三)蟲ノ名。みちを しへ(路敎)ニ同ジ。

〰みちすがら(副) [途次] 〔すがら(直從)〕 ノ條ヲ見ヨ〕 路ヲ過ギナガラ。アルキナガラ。步ミ行ク間ニ。ミチミチ。途上。途中。源、五十一、蜻蛉「道すがら、疾ク迎ヘトリ給ハズナリニケルコト悔シウ、云云」

みちすぢ(名) [道筋] (一)往來ノ通リスヂ。道ノスヂ。通路。俳諧新選、冬「人行クハ、道筋ナルカ、原ノ雪」 (二)物事ノコトワリ。スヂミチ。道理。條理。

〰みちた・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) [途立] 出立ツ。發足ス。出發ス。リドデス。菅[illegible]、十年十月「[illegible]路」

〰みちた・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 途[illegible] 派遣ス。出張セシム。[illegible] 紀「先導ニ國王ニ而後發遣、亦不レ遲也」

みちづくり(名) [illegible] (一)[illegible] (道普請)ニ同ジ。(二)轉ジテ、正道ヲ起スコト。夫木抄、廿六、[illegible] ノ、みちづくり、クボメル身ヲモ、アハレトハ見ヨ」

〰みちづら(名) [道列] 道ニツキ[illegible] 途上。宇治拾遺、五、第一條「山科ノみちづらニ、四ノ宮河原トイフ所ニテ、云云、商人集マル所アリ」

みちづれ(名) [道連] 連レ立チテ行ク人。同[illegible] 同行 一行 [illegible] アレヘ、ヨササウナル道連ガユカルル」

みちとせ(名) [三千年] 次條ノ語ノ略。

みちとせのもも(名) [三千年桃] [illegible]、漢武故事「西王母降、出レ桃、白ナル二枚、五枚與レ帝、帝留レ核欲レ種、母曰、此桃三千年一開レ花、三千年一結レ子」 又、みちくさ、みちよぐさ [illegible] 三千年ニ一度實ヲ結ブトイフ桃。略シテ、みちとせ[illegible]集、五、賀「みちとせニ、ナルテフ桃ノ、コトシヨリ、花サク春ニ、アヒニケルカナ」

みちなか(名) [道中] ミチノナカラ。道ノ中途。途中。狹衣、三、上三十八「近ウダニ寄ラズ、道なかヨリモノケタマハル」

〰みちぬし(名) [道主] (道ハ國ノ義、即チ、國ノ主ノ意) 上古、君主ノ命ヲ蒙リテ、地方ニ遣ハサレ、其國ヲ治メテ大人トナリシモノ。神代紀、上[illegible]北道中、號日道主貴[illegible]也」

みちのうら(名) [道占] ゆふけ(夕占)ニ同ジ。散木集、二、夏「[illegible]、ゆふけ問フ、みちのうらニモ、コトヨキモノヲ」

〰みちのおく(名) [陸奧] 〔東ノ海ノ道ノ奧ノ意〕 みちのく(陸奧)ニ同ジ。倭名抄、五[illegible] 陸奧[illegible]乃於久」

みちのかみ(名) [道神] さへのかみ(道祖)ニ同ジ。夫木抄、三十二、祇 「ソメタナテ、イノレル幣ノ、オモヒトハ、手向ケノ道の、神ヤ知ルラン」

みちのき(名) [illegible] [illegible]日記。ミチユキブリ。紀行。「奧羽[illegible]記、元祿、[illegible]」

〰みちのく(名) [陸奧] 「[illegible]」 陸前、陸中、陸奧、[illegible]ノ古稱。ミチノオク。ムツ。オク。萬葉集、十[illegible] [illegible] 最行記、四十年十月「[illegible]」 カトリヲトメノ、ユヒシヒモトク」

〰みちのくがみ(名) [陸奧紙] 又、みちのくにがみ。だんし(檀紙)ニ同ジ。古へ、陸奧ニ產ズト云フ。ひきあはせ(引合)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。宇津保物語、藤原君四十七「陸奧ノ守ノ奉レルみちのく紙アリ」

〰みちのくち(名) [道口] (一)古へ、京都ヨリ、諸次ノ、[illegible]ノ方ナル國ノ稱、即チ、京都ヨリ行ク道ニ口、中、奧ト云フ稱アリ、其京ニ近キ國ヲロト云フ。倭名抄、[illegible] 越前ヲ古之乃[illegible]乃久知、越中ヲ古之乃[illegible]乃[illegible]知乃之利ト見エタリ。[illegible] ル國ハ、皆此定メナリシナルベシ。みち(道)ノ條ノ(一)ヲモ見ヨ。[illegible] (武生ハ越前ニアリ) 萬葉集、十七「越中國歌「美知乃奈加、國都御神ハ、旅行キモ、シ知ラヌ君ヲ、惠ミタマハナ」同、十一[illegible]路」後、深津島山、[illegible]

〰みちのくに(名) [陸奧] みちのく(陸奧)[illegible]

同ジ。伊勢物語、第十四段「ムカシ男、陸奥ニ、スズロニ行キイタリニケリ」

みちのくにがみ (名) 【陸奥紙】 又、みちのくがみ。たんし(檀紙)ニ同ジ。古ヘ、陸奥ノ産ナルニ云フ。 源、十五、蓬生「ウルハシキカンヤ紙、みちのくに紙ナドノフクダメタルニ」

みちのし (名) 【道師】 〔諸道の師ノ義カ〕姓ノ名。天武天皇ノ御宇、定メラレタル八色ノ姓ノ第五等ノモノ、技藝ノ諸道ニ傳ヘテ、師トスベキモノ。難波ノ藥師、河内ノ書師ノ如シト云フ。

みちのしり (名) 【道後】 古ヘ、京都ヨリ、路次ノ、後ノ方ナル國ノ稱。みち(道)ノ條ノ(二)、及、みちのくち(道口)ノ條ヲモ見ヨ。

みちのそら (名) 【道空】 道ノナカバ。半途。中途。 源、四、夕顔「カカルみちの空ニテハ、フレヌベキニヤアラン」

みちのなか (名) 【道中】 古ヘ、京都ヨリ、路次ノ、中ノ方ナル國ノ稱。みち(道)ノ條ノ(二)、及、みちのくち(道口)ノ條ヲモ見ヨ。

みちのべ (名) 【道邊】 みちばた(路端)ニ同ジ。 萬葉集、廿「美知乃倍ノ、ウマラノウレニ、ハホ豆ノ、カラマル君ヲ、別レカ行カム」 永久四年百首「みちのべノ、木ノ下水ヲ、結ビツツ、タカゲマツゾ、久シカリケル」

みちのもの (名) 【道者】 (一)其道ニ秀デタルモノ。一藝ヲ究メテ、ソレヲ業トスルモノ。斯道ノ達人。(二)〔古昔ノ遊女ハ、道中宿舍ノ無聊ヲ慰ムベキモノナレバ云フ〕遊女ノ異稱。 屠龍工隨筆「遊女ヲ道の者ト云フ事、曾我物語ニ出」

みちのり (名) 【道法】 路ノ長短ノ距離。

サウテイ。ギャウテイ。里程。里數。 [illegible]字鏡集、一、乾坤門「[illegible]、ミチノリ[illegible]、法也」

みちはか (名) 【道果】 行歩ノハカドリ。歩行ノススミ。 東[illegible]二「道中沙地ニテ、風ノタツトキハ、云云、砂原ハ三里ユケバ、二里モドルトカヤ、道はかノユカヌモノナリ」

みちばた (名) 【路端】【道傍】 ミチノホトリ。ミチノベ。ミチホトリ。路頭。路傍。 [illegible]十六、[illegible]「何[illegible]ノリザナリケルニヤ、東寺ノ門ノ道ばたニ、札ヲ立テタリ」

ミチばち (名) 【蜜蜂】 みつばち(蜜蜂)ニ同ジ。 倭名抄、十九、[illegible]「蜜[illegible]」 皇極紀、二年十一月「百濟太子餘豐、以蜜蜂房四枚、放養於三輪山」

みちはづれ (名) 【道外】 (一)道ノ筋ヨリ外ヘソルルコト。(二)事物ノ道理ニ外ルルコト。

みちばらひ (名) 【路拂】 さきおひ(前追)ノ條ヲ見ヨ。 籾井家日記、攝州青野合戰事「路拂ひ致シ、[illegible]リ屆クヘク候」

みちはり (名) 【路墾】【道治】 新ニ道路ヲ開クコト。 字鏡集「治道、ミチハリ」

みちひ (名) 【滿干】 潮ノ滿ツルト、干ルト。滿潮ト、干潮ト。マンカン。干滿。 倭[illegible]「しほのみちひ、潮ノ滿乾也」「滿干ノ珠」

みちび (名) 【道火】 〔道火繩ノ略〕 線ニ火藥ヲ込メタルモノ。銃砲ニ火ヲ通ズルニ用ヰル。引信。

みちびき (名) 【導】 ミチビクコト。テビキ。郷導。道案内ヲスルコト。 神代紀、下「經津主神、以岐神、爲鄕導」 神武即位前紀「是時、勅譽[illegible]曰、汝忠而且勇、加能有導之功、是以改汝名、爲道臣」 萬葉集、五、長歌「モ

ロモロノ、オホミ神タチ、フナノヘニ、導キマヲシ」

みちびきびと (名) 【導人】 ミチビク人。道案内スル人。案内者。ミチヒト。 推古紀、十六年八月「[illegible]二人、[illegible]之導者也」

みちび・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 〔道ニ引く、ノ義〕(一)路ノ行ク手ヲ教ヘ誘フ。路ノ案内ヲナス。 源、[illegible]「[illegible]みちびく[illegible]」「手引キ」 (二)誘ヒ致ス。指導ス。 [illegible]「[illegible]ハササジ、海士小舟、みちびく汐ノ、波ニマカセテ」

みちひと (名) 【道人】 道案内ノ人。導引ク人。 舒明紀、四年十月「[illegible]」

みちびと (名) 【道人】 道ヲ歩行スル人。ミチユク人。行人。 建長三年九月十三夜影供歌合、百五十三番「道人ノ、時雨ヲスグス、ホドトテモ、紅葉ノカゲシ、ヨソニヤハ見ル」

みちひのたま (名) 【滿干珠】 潮ノ滿干ヲ自由ニナシ得ルト云フ珠。 [illegible]「[illegible]」

みちびら・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔道ノ先ヲ開ク意〕先驅スル。啓行。道開。 神代紀、下「天鈿女、[illegible]、汝將先[illegible]行乎、[illegible]」

みちブシン (名) 【道普請】 「普請ノ條、參見セヨ」 道路ノ修繕。ミチヅクリ。

みちぶり (名) 【道觸】 みちゆきぶり(道行觸)ノ略。 赤染衛門集「みちぶりノ、タヨリバカリハ、待チモセン、トケテハ見エジ、雪ノ下草」

みちべ (名) 【道邊】 みちばた(路端)ニ同

ジ。 [illegible]「[illegible]、ミ、見エツルハ、人モユルサヌ、道べナリケリ」

みちほとり (名) [illegible] ニ同ジ。 輔親集「玉鉾ノ、道ほとりナル、アラ田ヲバ、フミスキガタキ、モノニゾアリケル」

みちまどひ (名) 【道惑】 道路ヲマヨフコト。 [illegible]「[illegible]ヌレテ化ビツル、[illegible]」

みちみち (名) 【道道】 (一)アノ道、コノ道。種種ノ道。ソレゾレノ道。 源、八、花宴「みちみちノモノノ上手ドモ、多カル頃ホヒ」 (二)[illegible]諸道。 [illegible]「[illegible]ダメテ、イヨイヨみちみちノザエヲ習ハサセ給フ」

みちみち (副) 【道道】 路ヲ過ギナガラ。歩ミ行ク間ニ。ミチスガラ。 [illegible]「[illegible]ガノ。[illegible]、みちみち[illegible]」

みちみち・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【道道】 道理ニ係リテアリ。 源、二、帚木「[illegible]」「[illegible]ノみちみちしきカタヲ」

みちみちと (副) みしみしとニ同ジ。

みぢん (名) 【微塵】 (一)極メテ細カキ塵。 [illegible]「[illegible]過二東方千國土、乃下二一點一大如二微塵一」 (二)極メテ細カキコト。スコシナルコト。イササカナルコト。 曾我物語、八、富士の狩場への事「馬人諸共ニ、微塵ニ成ルトゾ見エタリケル」

みぢんあをがひ (名) 【微塵青貝】 あをがひ(青貝)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

みぢんし (名) 【微塵子】 甲殼類ノ小蟲ノ名。微形ハ蚤ニ似テ、甲殼ヲ被リ、少シ

[illegible]ニシテ、[illegible]シ[illegible]如ク細カシ。金魚ナドノ餌トス。水蚤

みぢんこ [illegible] ニシテ炒リタルモノ。落雁ナドノ菓子[illegible]

みぢんこばい [illegible] 語ノ音便訛。聖徳太子傳記(享保、近松作)一「此ノ髮ヲ見ヨ、ウヌガ頭、爪先マデ、微塵骨ばひニ引キ裂キ、云云」

みぢん-こはひ (名) [微塵粉灰] コナミヂン。こはひ(粉灰)ノ條ノ(一)ヲモ見ヨ。

みちむら-りう (名) 通村流 和風書道ノ一派。中院通村(承應二年薨)ヲ祖トス[illegible]

みち-も-せ-に (副) [路狹] 路モセマクナルマデニ。千載集、二、春、下「吹ク風ヲ、勿來ノ關ト思ヘドモ、[illegible]」

みちもり (名) 道守 街路、驛路ヲ守ル[illegible]。[illegible]トハ、千度思ヘド、手弱女ノ、吾身ニシアレバ、道守ノ、問ハム答ヲ、言ヒヤラム、スベヲ知ラズト」

みちやう (名) [御帳] 帳臺ナドノ上ニ垂ルル帳ノ敬稱。ちやうだい(帳臺)ノ條ヲモ見ヨ。枕草子、九、四十五段「コマイヌ、云云、御ちやうノ前ニシツラヒスヱ」

みちやう (名) 未定 イマダサダマラヌコト。[illegible]未定、ミヂャウ」

みちやく (名) [未着] イマダ到着セヌコト。イマダトドカザルコト。

みちゆき (名) [道行] (一)[illegible]行クコト。萬葉集、五、四「若ケレバ、道行知ラジ、マヒハセム、[illegible]」[illegible]ニ、見レドモ飽カス、紅葉葉、宜コソ人モ、家居セリケレ」(二)みちゆきぶり(道行觸)ノ略。(三)[illegible]語リ物ナドノ節ノ名。卽チ、タドリ行ク[illegible](四)[illegible]ヲ道[illegible]コト[illegible]多ク情死ナド[illegible]「道行長シ」(五)婦女ノ服。一種ノ道服ニテ、被風ニ似テ、襟襟ナキヲ特徵トス。雨衣ノ類ナリ。

みちゆき-うら (名) [道行占] つじうら(辻占)ノ條ノ(一)ニ同ジ。萬葉集、十一、三十四「玉桙ノ、路往占ニ、占ナヘバ、妹ニ逢ハムト、我ニノリツル」(略解ノ訓)

みちゆき-ごろも (名) [道行衣] 旅行ニ用ヰル衣。タビノコロモ。タビゴロモ。征衣 夫木抄、三十三、衣「春雨ハ、イタクナ降リソ、旅人ノ、道行き衣、ヌレモコソスレ」

みちゆき-ずり (名) [道行摺] 野原ヲ分ケ行ク時、草木ニ摺ラレテ、衣ノ染マルコト。新六帖、二「霜ニユル、鴫ノカハラニ、駒ナベテ、道ゆきずりノ、山アヰノソデ」

みちゆき-づと (名) [道行苞苴] 家ヅトノ類ナルミシ。旅行ノミヤゲ。萬葉集、八、[illegible]「ヲミナヘシ、秋萩タヲレ、玉桙ノ、道去裹ト、乞ハム子ノタメ」

みちゆき-びと (名) [道行人] 道ヲ行ク人。旅スル人。萬葉集、十二、二十九「タラチネノ、母ノ召ス名ヲ、マウサメド、路行人ヲ、誰ト知リテカ」

みちゆき-ぶり (名) [道行觸] (一)[道ニテ行キ合ヒ觸ルルコト。途中ノスレチガヒ。ソデスリアヒ。萬葉集、十一、[illegible](二)みちのき(道記)ニ同ジ。「伊かほノ道ゆきぶり」

みちよ-ぐさ (名) [三千代草] もも(桃)ノ異名。[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]ノ事ナリ)ケフ毎ニ、酒ニ浮カベテ、飲ム人ヤ、三千代ノ[illegible]ヲ祝フラン」

みちより (名) 道寄 途中ニテ、ツイデニ立チ寄ルコト。[illegible]

みちわけ-の-いし (名) [追分石] 道シルベノタメニ、路傍ナドニ建ツル標識ノ石。吉野忠信(近松作)三「コナタヘコナタヘト、打チ連レ立テ追フテ行ク、道分けの石、第ノ跡」

みちをしへ (名) [路敎] 又、みちしるべ、[illegible]翅類ノ昆蟲ノ名。形、はんめうニ似テ[illegible]ヨリ小サク、長サ七八分、前、狹ク、後、廣ク、甲、黑ク、[illegible]シテ光リ、黃紅ノ斑アリ、腹、黑シ。亦、毒アリ。路上ニアリテ、人ヲ見レバ、飛ブコト一二歩ニシテ、地ニ下リ、人ニ向フ。[illegible]内スルガ如キ狀ヲナスヨリ此名アリ。和ノはんめう。かいだうこはり

みつ (名) [才] 「[illegible]」コト。[illegible](後ハナナリ)允恭紀、四年九月[illegible]頭分以來、多歷萬歲」

みつ (名) [褌三] 相撲ニ云フ語。ふんどしノ横ニ腰部ヲ纏フ部分ト、縱ニ股下ヲ蔽フ部分トノ、背面ニテ交叉スルトコロ。たてみつトモ、みつひ(三緒)ノ[illegible]

みつ [illegible] 密 (一)[illegible]ヒラカナルコト。緻密ナルコト。(疎ノ[illegible])[illegible]

ミツ (名) 蜜 [梵語、Madhu.ノ轉カ] (一)[illegible](二)みつざたう(蜜砂糖)ノ略。

みつ (名) [御津] [みハ敬語、つ(津)ノ條ヲ見ヨ] [illegible]

みつ (數) [illegible]ノ中ツニヲ」神代紀、下、[illegible]

み-つ ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) [滿充盈實] 十分ニナル。一杯ニナル。[illegible]同、七、二十九「霧滿ヌ、入リヌル磯ノ、草ナレヤ、見ラク少ナク、戀フラクノ多キ」

み-つ ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 十分ニナス。一杯ニナス。ミタス。[illegible]

二集、中「植エみつる、田ノ面ノ早苗、水盈ミテ、濁ナキ世ノ、[illegible]ソヘエケレ」[illegible]ル、[illegible]ヒヲ堂ニ、み[illegible]

み・つ ツル・ツレ・チ・テ・チコ(自動、上二) [illegible]前ニ條ノ語ノ混化。[illegible]經油黄島ヘ流さるる事「耳ニ滿つるモノトテハ」

みづ (名) 水 (一)此[illegible]淸湧[illegible]ナレバ、[illegible]ノ義カ、終止形ノ名詞形ハ、粟生ノ類、水ノ神ノ罔象、[illegible]上[illegible]リ」(一)流動物。所在ノ地ヨリ沸キ出ヅ。空氣ト共ニ、最モ人ニ要アリ、熱ニ遇ヘバ、[illegible]ト成リ、[illegible]ト成リ、[illegible]遇ヘバ、氷ト成ル。[illegible]サヘ盛リ」齊明紀、四年五月「飛鳥川、漲ラヒツツ、行ク水ノ、間モ無クモ、思ホユルカモ」倭名抄、五十北陸郡「射水、伊三豆」同、八六十備中國「水田、美都多」[illegible](二)酒ノ稱。(酒ハ米ノ水ナレバ、云フ)[illegible]六十三「味飯ヲ、水ニ釀ミ成シ、吾ガ待チシ、代リハソナキ、[illegible]アラネバ、[illegible]」水[illegible]ハ、流ス、無クスルコト。又、休マスルコト。(相撲ニ)水にゐがくトハ、映リ、[illegible]消ユノ意。[illegible]分[illegible]歌「縱殺ニ淸心ニ猶ニ盡ニ水ニ」水に流すトハ、拭ヒ、白紙トスル意。又、忘レ去ルコト。水を汲むトハ、風ニ云フ語。[illegible]ノ狀ヲ云フ。水の泡トハ、極メテ消エヤスク、ハカナキコト。水も漏らさずトハ、少シノ間隙モナキニ云ヒ、又、交リ極メテ親シ。情密　伊勢物語、第廿八段「ナドテカク、逢フコガタミニ、ナリニケン、水もらさじト、結ビシモノヲ」水を差すトハ、人ノ濃キ中ニ、水ヲ加ヘテ薄クスル意ニテ、中違セシム。水の垂るトハ、極メテ麗ハシキ意。

みづ (名) 瑞 (艶艶シク美麗ノ意、神代紀、上六「瑞、此云二彌圖一」)(一)ウルハシキヲ、ホメテ云フ語。神代紀、上[illegible]可以[illegible]瑞[illegible]「宮二之材一」大祓祝詞「美頭乃御 舍仕奉氐」(二)祥瑞ノコト。瑞。祥。神武卽位[illegible]「及[illegible]瑞也」仁德紀、元年正月「有[illegible]是大[illegible]」皇[illegible]紀、三年六月[illegible]也[illegible]白雉元年二月、天[illegible]其[illegible]」

みづ (名) 針孔　針眼 (鍼孔、[illegible]ノみづ[illegible]同シク、穴ノ義)針ノ端ノ絲ヲ通ス穴。ミゾ。ミミ。轉ジテ、メド。又、ミミツ。

みづ (名) 桑 桑ノ實。くは(桑)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]ツ、クハノミ」

みづあか (名) 水垢 水中ニ存スル或物質ノ、物ニ着キ、又ハ、水面ニ浮ブモノ。ミアカ。ミシブ。ミサビ。　俳[illegible]夏「水垢ノ、口ケテヘゲル、暑サカナ」

みづあげ (名) 水揚 (一)生花ノ、善ク瓶中ノ水ヲ吸ヒテ、生ヲ保ツコト。又、ソレヲ保タシムル方法。正風遠州水揚傳授[illegible]ヒノ秘[illegible]、云云」(二)船積ミノ荷ヲ、始メテ問屋ヘ運ビアグルコト。陸揚。又、商人ノ、船荷ヲ陸ニ揚ゲテ、始メテ店頭ニ出スコト。又、其所。日本永代[illegible]「西國米水揚ノ折フシ、コボレタル筒落米ヲ拾キ集メテ」(三)轉ジテ、娼女ノ、始メテ寢ヲ客ニススムルコト。之ヲはつどこト云フ。又、少女ナドノ初メテ男子ニ接スルコト。新造ノ舟ニ喩フ。(破瓜ノ條ヲ見ヨ) 上頭。[illegible]十四、上頭ハ月[illegible]女、初[illegible]於人、亦曰二上頭一」[illegible]花咄(貞享)「大坂ノ新町ニ木村屋ト云ヘルヨリ、御大夫ヲ仕出シ、云云、堀江ノ水揚ヨリ一日モ隙ナク」

みづあさぎ (名) 水淺葱 あさぎ色ノ薄キモノ。ミヅイロ。水[illegible]

みつあし (名) 三足 (一)[illegible]テ、三[illegible]ノモノノ稱。サンソク。(二)かなわ(鐵輪)ノ稱。(女房詞)ミツカナワ。大上臈御[illegible]「[illegible]かなわ[illegible]あし」

みづあたり (名) 水中 旅行、又ハ、渴シタル時、飲ミツケヌ水ヲ飮ミタルヨリ起ル病。嘔吐ヲ催シ、腹痛ミ、胸苦シク、食慾ナクナリ、熱ヲ起シ、下痢ヲ來ス。一種ノ急性胃腸加答兒。敵泉

みづあひ (名) 水ノ彎曲シタルコト。又、ソノ[illegible]、みなあひ[illegible]ツアヒ、ミナアヒ」鐵、ミナアヒ、ミツアヒ」

みづあび (名) 水浴 (一)水ニ浴スルコト。(二)水[illegible]。[illegible]

みづあびせ (名) 水浴 [火止リヲ祝スル意ト云フ] みづいはひ(水祝)ノ條ヲ見ヨ。享保[illegible]四十九、享保三十十二月「町中ニ而水あびせ、[illegible]鋏、[illegible]剪タリトモ、一切無用タルベキ事」

みつあふぎ (名) 三扇 紋所ノ名。開キタル三枚ノ扇子ヲ、各、要ヲ中ニシテ、三方ヘ向ケ竝ベタル象。

みづあふひ (名) 水葵 雨久花科ノ一年生水草。池澤中ニ生ズ。莖ノ端ノ一葉ハ、からほね(骨蓬)ニ似テ小サシ。又、莖ヲ出シ、小葉ヲ出ス、ひめゆり(姫百合)ノ葉ニ似タリ。花ハ桔梗ニ似テ、深紫色、數朶、美シ、又、白花ナルモアリ。高サ二尺ニ過グ。雨久花　浮薔

みづあぶら (名) 水油 (一)ともし油、菜種油、[illegible]油ノ稱。(凝リタル膏ニ對ス) 油 (二)又、[illegible]、トボシ[illegible]「水あぶら、ナクテ寢ル夜ヤ、窗ノ月」

みづあへ (名) 水[illegible] [illegible]下[illegible]出典ヲ見ヨ。料理物語(寬永)十「水あへハ、イリ酒ニ酢ヲ加ヘヨシ、ゴンギリ、田ツクリ、スルメ、イリコ、小鳥(燒キテ入)、カラザケ、青ウリ、メウガノコ、[illegible]、牛[illegible]、[illegible]ンセウノ葉、キザミ入テヨシ」

みづあめ (名) 水飴 又、ゐるあめ(汁飴)トモ云フ。あめ(飴)ノ條ヲ見ヨ。

みづあやつり (名) 水操 みづからくり(水機)ノ條ヲ見ヨ。

みづあを (名) 水[illegible] 馬ノ毛色ニテ、青毛ノ色淡キモノ。淡青色。[illegible]

みづいはひ (名) 水[illegible] [illegible]青[illegible]シ、昔[illegible]ノ友人等、其[illegible]水[illegible]カケシコト。今モ或地方ニテ[illegible]ナリ。水浴。ひどまり(火止)ノ條ヲモ參見セヨ。[illegible]正月[illegible]、云云、有[illegible]其人[illegible]也」[illegible]ノ祝[illegible]ノ、去年[illegible]トテ、水ヲ浴スルコトアリ、是ヲ水いはひ、水カケナド云フ、往昔ハナキ事也、[illegible]ノ比、[illegible]氏可[illegible]、[illegible]此タハブレナミ初シトカヤ、[illegible]タルニ任セテ、此[illegible]ナシ、身ヲソコナヒ、或ハ口[illegible]ル、云云、近世ハ心有世風ニ慣テ、水懸ノコトブキトテ、金銀ニ譲(染カ)タル手桶ニ、[illegible]テ、新ニ娶タル男ノ許ヘ相送リ、[illegible]ノタメ招請シテ酒飯ヲ喫ハセ、[illegible]ト稱ス」

みづいも (名) 水芋 みづはうさう(水

[illegible]五、肢體門「水疱、ミヅイモ、ヤブモ」

みづいも（名）［水薯］〔栗芋ニ對ス〕薩[illegible]ノ[illegible]ノ。皮ノ色ニ青ミアリ。

みづいらず（名）［不入］[illegible]ノ中[illegible]モノノ[illegible]リタル如シト云フ譬ヨリ出ヅ」内輪ノモノノミニテ、他人ヲマジヘザルコト。信州川中島合戰（享保、近松作）一「若イ女子、若イ男、水入らずノ二人連レ」

みづいれ（名）［水入］硯ニサス水ヲ貯フル小サキ器。スミスリガメ。スズリガメ。水滴 硯滴 運歩色葉集「水滴、ミヅイレ」[illegible]七月十六日[illegible]九硯、土瓶水入、筆二管」

みづいろ（名）［水色］[illegible]色ノ極メテ薄キモノ。アサミドリ。ウスミドリ。アサギイロ。ミハナダ。ミヅアサギ。水藍色 [illegible]十九、[illegible]月清ミワタル、夏ノ夜ハ、濁ラザリケリ、水いろノ空」

みづうす（名）水碓 水磑 水車ニテ[illegible]、用ヰルスリウス。水磑。又、水車ニテ穀ヲ搗ク臼。水碓 [illegible]九年九月「是歲造二水碓一而冶レ鐵」

みづうち（名）［水打］（一）水ヲ地上ナドニ撒クコト。ミヅマキ。撒水 （二）水[illegible]打チ[illegible]クコト[illegible]（三）はやし（白雌子）ノ條ヲ見ヨ。

みづうちは（名）［水團扇］[illegible]

ヲ生ゼシムルモノ。岐阜ノ產、名アリ、[illegible]岐阜[illegible]トモ云フ。

みづうまや（名）［水驛］（一）水路ノ[illegible]ノ[illegible]二、[illegible]モ」[illegible]今切ノ渡シノ如シ）（二）又、今ノ街道ノ[illegible]ノ類。皆シ立[illegible]テ、人、馬、水ヲ飲ミ、或ハ、飯粥ヲ食フ所ヲモ云フト云フ。（三）〔轉シテ、男踏歌ニテ、人ヲ[illegible]スルニ、事ソギテ、酒、湯漬ナドヲ用ヰルヲ、水驛ト云ヒ、引キソクロヒテ[illegible]ヲ用ヰルヲ、飯驛、鸑驛ト云フ〕踏歌ノ人ノ所所ヲ巡ルヲ、驛路ニ譬ヘテ云フトナリ。源、廿三、初音「今年ハ男踏歌アリ、云云、みづむまやニテ、事ソガセ給フベキヲ、云云、事加ヘテ、イミジクモテハヤサセ給フ」[illegible]、初音、踏歌の心を、風流士ガ、夜モ深ケヌル、竹川（催馬樂）ノ、水うまやニハ、影モトマラジ」（四）〔又、轉ジテ、何ノモテナシ、何ノ曲モナキコト。源、四十三、竹川「[illegible]みづむまやニテ、夜更ケニケリトテ、逃ゲニケリ」

みづうみ（名）［水膿］膿ノ、水ノ如クニテ淡[illegible]モノ。淡キ膿汁。[illegible]用集、五、肢體門「水膿、ミヅウミ、胸ノ所[illegible]、今按、[illegible]似、俗云、序狄[illegible]、俗云、出搗、[illegible]、俗云、大膿、[illegible]俗云、水膿也、疥中之[illegible]日二[illegible]」

みづうみ（名）［湖］〔淡水海ノ義、潮海ニ對ス〕四面、陸ニテ圍マレテ、中ニ淡水ヲ湛ヘタル所。海ヨリ小サク、沼、池ヨリ大ナルニ云フ。稀ニハ、水ニ鹽氣アルモアリ。アハウミ。アフミ。シホナラヌウミ。コ。[illegible]湖、大池也[illegible]

[illegible]ヲ、ウツシテハ、ハタバリヒロキ、ニシキトゾ見ル」

みつうん（名）［密雲］[illegible]

みづうるし（名）［水漆］羊[illegible]ノ一。いはがねさう（岩根草）ノ一名。

みつうろこ（名）［三鱗］紋所ノ名、三箇ノ三角ノ中、二箇ヲ下ニ並べ、一箇ヲ其上ニ重ネタル紋。太平記、五、[illegible]時政[illegible]テ、[illegible]ノ紋ニゾ押タリケル、今ノ[illegible]形ノ紋[illegible]也」

みづえ（名）［瑞枝 水枝］ミヅミヅシキ若枝。萬葉集、六[illegible]ノ上ノ、三[illegible]ノ山ニ、木枝サシ、シジニ生ヒタル、トガノ木ノ」

みつえり（名）［三襟］三ツノ小袖ヲ、一ツニ合ハセテ着ルコト。宗五大雙紙、上、衣裝事「三つ襟ニ[illegible]兒[illegible]ナド、えりヲイロヘテ、[illegible]シク見ヒ候ハンタメニ[illegible]候」

みづおち（名）［鳩尾］〔水落ノ義カ〕胸骨ノ下ノ中央、五分、推セバ窪ム所。今、又、ムナモト。ミゾオチ。キウビ。心窩 和爾雅、三、身體門「鳩尾、ミヅヲチ」

みづおと（名）［水音］水ノ落ツル音。又、水ノ流ルル音。水聲 [illegible]、枕[illegible]シキ、月ヲ見ルカナ」

みっか（名）［三日］みか（三日）ノ音便。俳[illegible]ヲシテ、三日サキ見ツ、[illegible]ノ[illegible]」

みっかう（名）［密航］禁ヲ犯シテ、ヒソカニ渡航、又ハ、航海スルコト。

みっかう（名）［密行］（一）人知レズ、ヒソ[illegible]

ヒソ[illegible]コト。

みづかがみ（名）［水鏡］靜ニ澄ミタル水[illegible]ルコト。夫木抄、十一、女郎花「池ノ面ニ、影ヲサヤカニ、ウツシモテ、みづかがみミル、女郎花カナ」

みづがかり（名）［水掛］（一）古へ、消火スル人夫ノ、水ヲ世話スル掛リノモノ。（二）小兒ノ水ヲ弄ブコト。

みづかき（名）［水搔］[illegible]禽類、及、[illegible]脚類、ナドニ屬スル動物ノ、足ノ指ノ[illegible]

みづがき（名）［瑞垣］〔瑞籬ノ義〕（一）神[illegible]ノ意、又、瑞枝ノ垣ト[illegible]生垣ノ意」（二）〔又、イガキ。カミガキ〕神社、[illegible]居ナドノ周圍ニ設ケタル垣ノ稱。其外構ヘニ設クルヲ玉垣トストス[illegible]三年九月「遷二都於磯城一是謂二瑞籬宮一」（三）[illegible]キ御[illegible]ヒモロギ。

みづがきの（枕）［瑞垣］〔生垣ノ[illegible]シキ[illegible]ノ[illegible]

みづかきのみかど（名）［瑞籬朝］[illegible]

御垣苑ル、其外ノ第二重ナルヲ、蕃垣(マガキ)御門ト云フ、屋ナク、垣ハ正面ノミ。第三重ナルヲ、玉串(タマグシ)御門ト云フ、諸人ノ拜シ奉ル所ナリ、[illegible]、御垣[illegible]、第四重ナルヲ、玉垣(タマガキ)御門ト云ヒ、第五重ナルヲ、板垣(イタガキ)御門ト云フ。

みづかけ (名) [水掛] みづいはひ(水祝)ノ條ヲ見ヨ。

みづかげ (名) [水影] 水ニ映(ウツ)リタル物ノ影。 源、四十五、椎本五「河ゾヒ柳ノ、オキフシナビク水かげナド、オロカナラズオカシキヲ」

みづかけぐさ (名) [水掛草] みそはぎ(溝萩)ノ異名。其條ヲ見ヨ。一説ニ、萩ノ異名トモ云フ 藻鹽草、八、萩「水かけ草、(タレモタダ、ケフヤオルラン、年コトニ、たかけ草ノ、露ノマニマニ、コレハ、みそはぎノ異名也、七月十五日ノ忘木ノ儀也、[illegible]ニアリ、仍テ水かけ草ト云フ、但歌ニモヨルヘキカ」

みづかげぐさ (名) [水陰草] (一)水陰ニ生ヒタル草。又、云フ、水ノ分派スルトコロニ生ヒタル草ト。 (二)[illegible]ニテ、稻ノ異稱。 萬葉集、十「天ノ河、水陰草ノ、秋風ニ、靡クヲ見レバ、時ハ來ヌラシ」 新撰六帖、一、秋、上「天ノ川、水かげ草ニ、オク露ヤ、アカヌ別レノ、涙ナルラン」

みづかけろん (名) [水掛論] 論據(オサヘドコロ)モ無ク、空シク爭ヒテ果テヌ議論。 雙生隅田川(享保、近松作)三「詞ヲオサヘ、ヒッシヒッシト、生木ニ釘打ツカナ槌議、相手モ負ケジト燒石ニ水掛論」

みっかころり (名) [發病シテ、三日バカリニテ、ころりト斃レ死スル故ニ云フ] これら(虎列剌)ニ同ジ。 時還讀我書、上、文政五年(五年)ノ秋末冬初、浪華ニ三日ころりト稱スル病、流行セリ、云云、急ナルハ日ヲ出ズ、緩ナルハ三日ニシテ斃レ[illegible]ハ[illegible]シト」[illegible]上[illegible]、[illegible]レコト三十七八[illegible]又[illegible]中)、三日ころり[illegible]、[illegible]ヨ[illegible]京[illegible]ノ[illegible]ニ流行ストト云、江戸ハ未ダ[illegible]ハレレ[illegible]聞カズ」

みづかさ (名) [水嵩] 又、みかさ。水ノタタフル分量。又、河水ナドノ分量。 散木集、六、雨「降リソメシ、日ヲ數フレバ、みづかさノ、久シクナリヌ、五月雨ノ空」

みづがさ (名) [水瘡] 又、みづぼ。水膿(ミヅウミ)ヲモツ小サキ腫物。

みづかしのき (名) 核。すもも(李)ノ類ナルベシ。 字鏡、十三「核、[illegible]、水加之乃木」

みつがしは (名) [三柏] 紋所ノ名。三枚ノ柏ノ葉ヲ、莖ヲ中ニシテ、三方ヘ向ケ竝ベタル紋。 奥州葛西實記「鳳凰ヨリ三ツ葉ノ柏吹下リ、清重手ニ捧ヘル盃ニウツリ、爲ニ當ナ、滿重太郎盃ノ[illegible]ニシテ、[illegible]ヲ祝シ、日出度シトテ、家ノ紋ニナセリ、葛西ノ三つ柏ノ紋、是也」

みづがしは (名) [水柏] [葉、柏ニ似タリ] 龍膽科ノ多年生水草ノ名。宿根ヨリ一葉ニ叢生ス、一莖三葉ニシテ、半夏ノ葉ニ似テ大ナリ。故ニ一名、ミヅハンゲトモ云フ。春ノ末、二尺許リノ莖ヲ出シテ、白花ヲ開ク、五瓣、又ハ、六瓣ニシテ、五分許リアリ。葉ヲ藥用ニ供ス。 睡菜 重修本草綱目啓蒙、廿、水草類「睡菜、ミツガシハ、ミヅハンゲ、ミツガシハ、ミヅゴボウ、云云」

みつがしら (名) [三頭] きっさき(切先)ニ同ジ。 謡曲、烏帽子折「[illegible]坂モ、太刀當ヒノ曲者ナレバ、サソクヲツカッテ十方斬、云云、三つ頭ヨリ火ヲ出シテ、シノギヲ削テ戰ヒシカ、云云」

みつがしら (名) [三頭] 紋所ノ名。みつどもゑ(三巴)ニ同ジ。ひとつがしら(一頭)ノ條ヲ見ヨ。

みつかど (名) [三角] (一)物ニ角ノ三ツアルコト。又、ソノ角。三稜 (二)[illegible]三方ヘ分ルル辻。 (三)莎草(カヤツリグサ)科ニ屬スル[illegible]ナルモノノ總稱。藺、三稜草、ナドノ類

みつかなわ [illegible] (一)[illegible]ノ作ノ(二)ヲ見ヨ。 (二)三人、若ガ立チ合フコトヲ[illegible]ヘテ云フ ミツドモエ、ミツガナヘ、[illegible]作)上「オノレヒトリガ智恵テナイ、サア[illegible]力物ヲ言フ、みつかなわニ[illegible]ンデ見ヨ」 (三)紋所ノ名。かなわヲ三ツ組合ハセタルモノ。

みづかね (名) 水銀 [「水ノ如ク流動スル故ニ云フ」] スヰギン。鑛物ノ名。尋常ノ氣溫ニテ、融ケテ流ル、色、銀ニ似テ殊ニ輝ク、水ヨリ重キコト、十三倍半アリ。藥用トシ、治金ニ用ヰ、鏡ノ裏ニ塗リ、寒暖計、及、晴雨計ニ[illegible]、或ハ、燒キテ朱トシ、輕粉ナドトス。 倭名抄、十一、九金類「水銀、一名、汞、[illegible]、美豆加禰」[illegible] 明[illegible]六年五月[illegible]「[illegible]銀、云云」 宇津保物語、國讓、中「[illegible]かね[illegible]」 七十一番職人盡歌合、五十六番「みづかねノ、草ニ置カト、ミユルカナ、露ニヤドレル、月ノ光ヲ」(汞ほりノ圖アリ)

みっかばうず (名) [三日坊主] [三日ニシテ厭ク意] 何事ヲナシテモ、三日トハ續カヌ程ニ、物事ニ倦キ易キ人ヲ、嘲リテ云フ語。略シテ、三日坊。 露心集(寛文)「降リトゲモ、セヌタ立ヤ、三日坊」

みっかはしか (名) [三日麻疹] 三日間カカル麻疹。風疹。オ世話カゼ。ハシカ風。 保嬰須知、附錄、安永己亥年(八年)秋末、至三

みかはご [illegible] 俗ニ三日[illegible]」

[illegible]

みつかひ (名) [御使] [みハ敬語] [illegible] [illegible]ハクノ小袖ヲ着ル、所謂三日法度也」

みづがひ (名) [水貝] 鮑ノ肉ヲ薄ク切リテ、[illegible]ニ漬シ、少シ[illegible]ヲ加ヘタルモノ。夏ノ肴ナリ。ナマガヒ。

みつがひとつ (名) [三一] ミツイチ。三分ノ一。 源、九、葵四十七「ネノコハイクツカ仕ウ奉ラスベウ侍ラント、マメダチテ申セハ、みつがひとつニテモアランカシト宣ヘハ」

みづか・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [水飼ふノ義] (一)[水ヲ飮マシメテ養フ。(牛馬ナドニ)かふ(養)ノ條ヲ見ヨ。 雄略紀、九年五月「大磐宿禰、飮馬於河」 (二)誤リテ、花ニモ云フ、水ヲ與ヘテ養フ

みつかふつみ (名) [illegible] [illegible]ニ同ジ。 [illegible]

みづがみ (名) [水髪] 油ヲツケズ、水ノミニテ梳キテ結ヘル髪。 浮世床(文化、三馬)初編、下「今日ハチット、油ヲツケテモラハウゼ、水髪ニハカリ結フト、毛ガ切レルト云フカラ」

みづがみしも (名) [水上下] [水裃] 水色ノ裃。昔、切腹ノ時ナドニ着タルモノ。

〰みづがめ (名) [水瓶] 飲水ナドヲ貯ノ［illegible］ 瓶。[illegible] 豆加术」 字鏡「瓶、水加女」 著聞集、十一、[illegible]

みづがめ (名) [水亀] かめ(亀)ノ條ヲ見ヨ。

みづから (名) [大辛] 菓子ノ名。昆布ヲ山椒ヲ包ミタルモノ。又、昆布ヲ結ビ、砂糖ヲツケタルモノ。今ハ結昆布ヲ云ノ。[illegible] ハ、皆ハレザリケリ」みづからノ、昆布ノ鹽染ム、爪バラミ」思ヒ出ル、人松前ニ、数寄心」ムセブモ嬉シ、昆布ニ山椒」[illegible] みづからト云フ物アリ、元ト山椒ヲ入レテ製セシ故ノ名也、[illegible] 名ナリ、[illegible] みづからト云フハ[illegible]」

〰みづから (代) [自] 女ノ自稱ノ代名詞。(貴女ニ) ワラハ。源、三十一、槇柱「みづからハ、カク心憂キ宿世、今ハ見果テツレバ、此世ニ跡トムベキニモアラズ」(北方ノ詞)

みづから (副) [自躬] (身之自ノ義) 其身親シク。己レ自身ニ。自分ニテ。名義抄「躬、ミツカラ」自、ミツカラ」神代紀、上「後則伊弉冉尊、亦[illegible]」源、五、若紫「みづから[illegible]エサセヌコト、ノタマハスルコトノスヂ、云云」

みづからくり (名) [水轉水絡繰] 水ヲ用ヰテ、物ヲ操ルモノ。又、ミヅアヤツリ(水操)。[illegible] 心中(正徳、近松作)上「心太屋ノ[illegible]」 [illegible]

みつか・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [見付] 目ニトマル。目ニ入ル。見出ス。

みつき (名) [見付] 物ノ外ヨリ見タル所。[illegible]

みつき (名) [密記] [illegible] 密ノ[illegible] 秘法ヲ[illegible]スルニ據フル[illegible]

〰みつぎ [illegible] [貢、御調、調] (つぎハつぐ(給)ノ名詞形、供給ノ義、上ノ者ノ用ニ、下ヨリ供給スルナリ) (一)租、庸、調ナド、スベテ、人民ヨリ朝廷へ奉ル物。ツキ。[illegible] 萬葉集、十八、長歌「四方ノ國ニハ、山河ヲ、廣ミ淳ミト、奉ル、御調寶ハ、數へ得ズ」 [illegible] 云云、顯宗天皇御世、[illegible]織獻ニ絹絹之樣ヘ仍賜ニ調首[illegible] (二)專ノ、租ノ外ノ調、庸ヲ云フ、古[illegible]

みつぎ (名) [見繼] 見繼グコト。財物ヲ供給スルコト。シオクリ。給資。心中刃[illegible] 上「[illegible]ケレバ、コナサマ達へみつぎノ筈」

みつぎ [illegible] [密議] 内内ノ評議。ヒソカ[illegible] 太平記、三十六、[illegible] 給ハズシテ、密議ナンドヲ被レ知事モ無カリケレバ」

〰みづき (名) [承鞚] 轡ノ名所。又、七寸。みづつき(承鞚)ノ條ヲ見ヨ。天治字鏡、十二廿九「七寸、美豆支」

〰みづき (名) [水城] (水ヲ湛ヘタル城ノ意) 古ヘ、筑前國、太宰府ノ近地ニ築キタル城郭ノ稱。堀ヲ構ヘ、水ヲ湛ヘテ、外敵ヲ防禦セシモノ。天智天皇ノ三年ニ、[illegible]

みづき (名) 山茱萸[illegible] 山野ニ多シ。幹ノ高サ一二三十尺、乃至、五六十尺。葉ハ廣橢圓形ニシテ互生シ、先端ハ尖リ、其面、滑カニシテ、緣邊ハ波狀ヲナス。初夏ノ頃、梢上ニ傘狀ヲナセル小白花ヲ開キ、後、小球果ヲ結ブ。材ハ[illegible] 其他[illegible] 供セラル。みづのき。

みづき (名) [稚木] ミヅミヅシキ若木。

みづき (名) [水衣] (一)[illegible] (二)水泳ノ時ニ用ヰル衣、衣)ニ同ジ。

みづぎう (名) [水灸] 紙ヲ折リカサネテ水ニ浸シ、肌ニ當テテ、其上ニ艾ヲスヱテ灸スルコト。又、ソノ灸。

みづぎは (名) [水際] (一)海、川ノ邊。ミナギハ。ミギハ。イソ。ハマ。水邊。ミ水涯 水畔 [illegible] 二テ、下ノ方ハみづぎはニ車立テタリ」 (二)〰水面ニ接スル處 [illegible] 二乘リテ、云云、物ヲイト多ク積ミ入レタレバ、水ぎはハ、タダ一尺ハカリダニナキニ、云云」

みづぎはた・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) [水際立] ハエバエシクアリ。アザヤカニ、キハダツ。目立チテ勝ル。賀古敎信七墓廻 [illegible] オフ流レトハ、水際立ちテ知ラレタリ」

〰みつきもの (名) [御膳] (御坏物ノ義カ) [illegible] ミケツモノ。オモノ。雄略紀、十七年三月[illegible]

〰みつぎもの (名) [貢物] みつぎトシテ奉[illegible]

みっく (名) [密供] 又、みつぐ。佛教ノ[illegible]

みつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) [見付] 見[illegible]

〰みつ・く・[illegible](自動、[illegible]) 見[illegible] 發見 枕草子、一、第四段「サリトモ、ツヒニ見つく[illegible]

みつ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(他動、四) 見[illegible] 御調貢 (一)他ヲ助クルタメニ錢物ヲ贈ル。合力ス。仕送ル。給資。[illegible] 殘留女房、少將共ノ心苦キニ、彼ノ人人ニ付キテ、[illegible]

〰みづ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 水[illegible] 十八廿長歌「海行カバ、美都久屍、山行カバ、草ムス屍[illegible]」

みづぐき [illegible] 水莖 (古へ、使ヲ遣ル[illegible]

梓[illegible]ケテ持タズ、[illegible]文ヲ[illegible]梓ト云ヒ、又其梓ヲ、ミソ[illegible]ト」云ヘルニ起ルト云フ、或ハ[illegible]ト」(一)消息ノ文。[illegible]アリテ消息シテ侍リケルニ、云云、今日水莖ノ跡見レバ」躬恒集「みづぐきノ、書キモ盡サヌ、思ヒヲバ、セメ[illegible]」(二)[illegible]文字書キタルモノ。手跡。狹衣、一、上「[illegible]稀レ[illegible]クダリモ書キナガシ[illegible]」[illegible]

みづぐきの (枕) [水莖] 〔みづみづしき莖ニテ、岡ハ稚ト通ハセタルナリト云フ〕神樂歌、[illegible]天[illegible]、[illegible]岡[illegible]、廿一、少女、天ニマス、トヨ[illegible](青表紙本ノ傍ナリ)」岡、水城ト云フ[illegible]代[illegible]。[illegible]ニ[illegible]古今集、廿、[illegible]みづぐき[illegible]ノ[illegible]ケリ」[illegible]トアレト、ネテノ朝ケノ、霜ノフリハモ」(岡の屋緊ハ、山城國、宇治郡ノ地名、又、水莖の岡ハ、近江國、[illegible]六[illegible]ル語レヤ、水莖之、水城ノ上ニ、ナミダ拭ハム」

みづぐきぶり (名) [水莖振] 〔ふりハ、曲節ノ意〕樂府[illegible]ノ稱。其歌ノ初ノ詞ヲ取リテ名ヅク。ふりノ一種ナリ。ふり(風)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。古今集、廿、大歌所御歌「みづぐきぶり」

みづくさ (名) [水草] 水中ニ生[illegible]ル草ノ總稱。[illegible]草清シ、事シゲキ、アメノ下ニハ、スマヌマサレリ」

みづくさ (名) [水瘡] 〔水瘡ノ義ナラム〕ましんみさう(浸淫瘡)ニ同ジ。[illegible]心方、[illegible]

[illegible]」[illegible]用集、五、[illegible]、ミツクサ」

みづくさ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [水臭] 〔[illegible]ノ淡淡シクナル意カ〕(一)厨人ノ[illegible]ノ内ノ[illegible]シ」[illegible]郡ニテモ云フ)又、水多クシテ、味アハシ。沙石集、六、上、第六條「日來ハチト水くさき酒ニテコソ候ヒツルニ」(二)隔テ心アリ。ヨソヨソシ。他人ラシ。(骨肉、夫婦ノ間ナドニ云フ)[illegible]、オレモ、其ノヤウニみづくさう思ハレテカラハ、イラヌボドニ」

みつぐし (名) [三櫛] 解櫛、梳櫛、[illegible]櫛ノ一具ノ稱。くし(櫛)ノ條ヲ見ヨ。用明天皇職人鑑(寶永、近松作)一、職人づくし「人ハヨモ[illegible]ニ、タガ云ヘつ櫛ニ名ヲ立テ、包メド飾所ニ錐ハトホス」

みづぐし (名) [水櫛] 櫛ノ一種。水ニ浸シテ梳クモノ。和漢三才圖會、廿九、容飾具「水櫛、[illegible]久之、[illegible]凡七十四[illegible]タト、[illegible]ヲ見レバ、[illegible]ノ木[illegible]ヲシテケリ」

みつく・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [見盡] [illegible]ハル。末マデ見ル。全部見ル。[illegible]十三、明石上「ゲニカク、イノチヲキハメ、世ニマタナキメノカギリヲ、見つくしツ」

みづぐすり (名) [水藥] 冷水ニ和シタル藥。スヰヤク。(煎藥、[illegible]ナドニ對ス)

みつぐそく (名) [三具足] 香爐、花瓶、燭臺ヲ、一對トシテ云フ語。(佛前ナドノ)[illegible]用屑志、七、[illegible]、下、佛具「凡所[illegible]供佛之花瓶、香爐、[illegible]、[illegible]三具足[illegible]也」世[illegible]用(元[illegible]、西鶴)一「定メテ佛具モ人手ニ渡ルヘシ、中ニモ[illegible]カネノ三つ具足、代代持ナ傳ヘテ惜シケレバ、云云」

みつくち (名) [兎缺] 〔三口ノ義〕いくち(兎缺)ノ條ヲ見ヨ。名物六帖、四、人事箋

[illegible]」

みづくち (名) [水口] (一)水ノ出ヅル口。又、水ヲ取リ入ルル口。ミナクチ。狂言記、[illegible]ヲヨウ仕掛ケテオイミガ、[illegible]口ヲ[illegible]イデ、鄰リヘ水ヲトル」(二)臺所ノ、水ヲ汲ミ入ルル口。

みつくはがた (名) [三鍬形] 冑ノ、山字形ノ前立。二本ノ鍬形ノ中央ニ、一本ノ劒形ヲ立テタルモノ。[illegible]合戰事「因播國ノ住人ニ福間三郎トテ、云云、伏毗目ノ[illegible]ニ[illegible]タル冑ヲ猪[illegible]ニ著ナシ」

みづぐひ (名) [水杙] (一)川水ノ勢ヲ防ガムタメニ、岸ニ打チ列ネ[illegible]杙。(二)みづぼやく(水尺)ニ同ジ。

みつぐみ (名) [三組] 三ツ組入トナリタルモノ。四ツナルヲ四組ナド云フ。引入合子ナドモ是レナリ。

みづくみ (名) [水汲] 水ヲ汲ミトルコト。又、ソノ人。宇津保物語、[illegible]ツツシミテ、カノ仙人ニナヅミ、水くみセシ功德ノ故ニ」

みづくみ (名) [水汁] なげつる、[illegible]瓶[illegible]同[illegible]五、[illegible]」

みづぐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 水含[illegible]ミヅケヲ含ム。又、熱シ過グ。ウレズク。著聞集、十八、飲食「[illegible]行法印、人ノ許ヘマカリタリケルニ、瓜ヲトリイデタリケルガ、ワロクナリテ、みづぐみタリケレバヨメル、山城ノ、ホゾチト人ヤ、思フラン、水くみタルハ、ヒサゴナリケリ」

みづぐも (名) [水蜘蛛] みづすまし(水澄)ノ一名。其條ノ(一)ヲ見ヨ。

みつぐり (名) [三栗] 一ツノ栗ノ毬ノ中ニ、子三ツアルモノ。其二ツアルヲ、二

[illegible]云フ。

みづぐり (名) [illegible] [illegible]ツ巴ノ形ニ、ムキタルモノ。重キ慶賀ノ時ニ、茶請ノ盛リアハセトスト云フ。

みつぐりの (枕) [三栗] 〔栗ノ一毬ノ中ニ、子三ツアルモノノ、其中ナルモノノ意〕中ト云フ[illegible]。[illegible]二[illegible]ハ、[illegible]」

みづぐるま (名) [水車] 〔河水ヲ汲ミアゲ、田ニ引クヲ元トス〕(一)流水ノ力ニテ車ヲ廻ラシムルモノ。機ヲ添ヘテ米ナド搗カス。スヰシャ。舂車 機碓(代[illegible]下、[illegible]リ」金葉集、九、雜、上「早キ瀬ニ、絕エヌバカリゾ、水車、我モ憂世ニ、メグルトヲ知レ」(傾ノ正行ノ意ナリ)徒然草、第五十一段「龜山殿ノ御池ニ、大井川ノ水ヲマカセラレントテ、大井ノ土民ニ仰セテ、水車ヲ作ラセラレケリ」(二)武士ノ器具ヲ[illegible]シク[illegible]、[illegible]ニ抗スル[illegible]、云云[illegible]太刀ノ[illegible]數ハ[illegible]、十文字、[illegible]車、八方スカサズ切ッタリケリ」

みつくろひ (名) [見繕] ミツクロフコト。見ハカラフコト。

みづくろひ (名) [身繕] ミゴシラヘ。ミジマヘ。ミジタク。盛衰記、十五、宇治合戰事「[illegible]ニアテヨ、水ノ上ニテ[illegible]、ナ」

みつくろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [見繕] (一)みはからふ(見計)ニ同ジ。(二)みさだむ(見定)ニ同ジ。平治物語、二、[illegible]朝敗

北斗「我取ラントヒシメキケレバ、數ア敵ノ[illegible]」[illegible]ハザリケル」

みつぐ (名) [illegible] [illegible]カキタル盤。

みつかい (名) [illegible]

みつくわい (名) 密懐 人知レズ懐柔ケテ、手下ニ入ルルコト。通歩色談集「密懐」

みづく[illegible] (名) [illegible]子ニ對ス」食用ニ供スルクダモノ。ミヅモノ、果實 コダネ。コノミ、くだもの。[illegible]八五六寸位ノ皿ヘ盛、盛ヘ載セ、云云」

みつけ (名) 見付 (一)ミツクルコト。(二)[illegible]渡スノ間、見付ノ盤ヘ、信玄、旗ヲ立ラル」(三)轉ジテ、城門。(四)直ニ向ヒニ見ユルコト。狂言記、富士松「アノ見付けノ松デゴザル」

みづけ (名) 水氣 物ニ含ム水分。スヰキ。スヰブン。

みつけい (名) 密計 竊ニ謀ヲメグラスコト。又、ソノ謀。密謀。密策。晉書、部超傳「門生依旨呈之、則恐與温往反密計」 唐書、張説傳[illegible]」

みっけい (名) 密契 人ニ知ラサズ、互ニチギルコト。[illegible]契、ミッケイ」 庭訓往來、十二月「不頂音信候條、[illegible]」

みっけう (名) 密教 「大日如來所説ノ金胎兩部ノ教法ハ、是レ法身佛内證ノ境界[illegible]シテ、[illegible]へり、性霊集ニミヘタリ」

みつけばしら (名) [illegible] だいぢや[illegible]しら(柱)ノ[illegible]ヲ見ヨ。

みづけぶり (名) 水煙 [illegible]ノ語ニ同ジ。[illegible]入江ノ水煙、山ノ端白クホノボノト」

みづけむり (名) 水煙 (一)又、みづけぶり。海、川ナドノ面ニ立ツ霧。水氣。(二)水ヲ打上ゲテ迸ノスルコト。シブキ。[illegible]」

❖みつける (動) 見付 見付く(下二段)ノ口語。

みつご (名) 三子 (一)[illegible]三子ヲ生ムコト。又、ソノ子。品胎 品體(竈北[illegible]) 神代紀、上「[illegible]」古事記、上「次[illegible]五二、天之島、自之島、知夫島ノ三島ヨリ成ルヲ云フト云へり) (二)三歳ノ小兒。又、幼兒。浮世風呂(文化、三馬)二編、下「みつごノ魂、百マデト、譬ヘノ通り、小サナ時分カラ、[illegible]八百ニ育テタ物ダカラ、云云」

みつご (名) 密語 (一)佛教ニテ、密意ヲ以テ説ク語。[illegible]」(二)密教ノ陀羅尼ノ稱。(秘密語ナレバ云フ) 秘藏記、本「密語者、凡夫二乘不能知、故曰密語眞言者、如來言眞實、無虛妄、故曰眞言」 (三)竊カニ、ササヤクコト。又、ヒソヒソバナシ。私語。[illegible]

みづこ (名) [illegible]

みつこく (名) 密告 ヒソカニ告グルコト。又、ヒソカニ告發スルコト。

みづごけ (名) 水苔 [illegible]コク水ヲ含ム[illegible]ムルノタメまじなひト云フ。スヰタイ。倭名抄、十七水菜類「水苔、水苔一名河苔、加波奈」 (二)物ニ附着シタル水垢。ミシブ。ミソシブ。

みづごころ (名) 水心 (一)[illegible](魚心)ノ條ヲ見ヨ。(二)水泳ギノタシナミ。游泳ノ心得。發心集、四、第八條、武州[illegible]ヒトリ、[illegible]アル[illegible]、僅ニ命イキテゾ、アクル日タヅネキタリケル」

みづこし (名) 水漉 (一)すゐふう(水嚢)ニ同ジ。[illegible]ロクス イナウ、ミツコシ」 (二)水ノ垢[illegible]去リテ、飲水[illegible]。桶ノ底ニ、棕櫚ノ毛、布ナド敷キ、上ニ小砂利、木炭、砂ナドヲ盛リテ、水ヲ注ゲバ、桶ノ下ニ孔アリテ、清メル水、孔ヨリ出ヅ。コノ法ヲ砂漉ト云フ。好色一代[illegible]「水おしノ詮義アリ、サテハ三ノ間ノ水ヲ没ミニ遣ラレシト一入嬉シク」

みづこひどり (名) 水乞鳥 鳥ノ名。溪流ニ翠リ下リテ、好ミテ水ヲ飲ムモノ。[illegible]鴨ノ如キ形ナレドモ、尾羽ナク、嘴長シ[illegible] 伊勢集「夏ノ日ノ、モユル思ヒノ、ワビシサニ、みづこひ鳥ノ、ネヲノミゾナク」 狭衣、一、上「[illegible]サノワコガレ給フヲ、知ル人モナシ」 山家集「山里ハ、谷ノカケヒノ、タエダエニ、みづこひ鳥ノ、聲キコユナリ」

みつこふ (名) [illegible]ノ條ヲ見ヨ。地方凡例錄、一「一、物成等之事、[illegible]」

みづこぼし (名) [illegible]さぼし。建水。建盞 受汚(茶道筌蹄) 好色一代男(天和、西鶴)七「茶菓子ハ盆ノ行器ニ入レ、天目、みづこぼしモ橘ノ紋附ケ」

みづごり (名) 水垢離 [illegible]ヲ見ヨ。

みづごろも (名) 水衣 (一)水ヲ没ミ、又ハ、水仕事ナドスル時ニ着ル衣。ミヅギ。(二)[illegible]ノ一、[illegible]、縷水衣、綴水衣ナドアリ。仕手ニ用[illegible]

みっさう (名) 密葬 [illegible]

みつさかづき (名) 三杯 三ツ組ノ杯。[illegible]

みづさかづき (名) [水杯] 杯ノヤリトリニ、酒ニ代ヘテ水ヲ飲ムコト。別レノ時ナドニスルコトナリ。[illegible]

みづさき (名) [水先] (一)水ノ流レ向フ方。又、水ノ流レテ、衝キアタル處。[illegible] 水衝。藻塩集「大井川、クダスイカダノ、水さきハ、落モクダケテ、玉ト散リケル」 (二)船ノ進ミ行クベキ水路。「水先案内」「水先人」

みづさきあんない (名) 水先案内 大船ノ、港灣、海峡ナドヲ通航スル時、船ニ乘リテ、其安全ナル進路ノ向フ方ヲ案内シ、指圖シ、暗礁、洲、ナドヲ示スコト。又、ソノ業ノ役。按針役。

みづさし (名) [水差] (一)鐵瓶、花瓶ナドニ加フベキ水ヲ盛ル器。注口アリ。水注子。[illegible] (二)茶家ニ、釜ニ注ス水ヲ貯フル器。[illegible]

ミツザたう (名) 蜜砂糖 砂糖ノ未ダ精製セズシテ、黑色ノ半流動體ヲナスモノ。略シテ、みつ。

みッし (名) [密旨] 祕密ノムネ。他人ニハ知ラセヌ意思。内密ノオボシメシ。内内ノ命令。密指。[illegible]

みッし (名) [密使] 内密ノ使者。[illegible]

[illegible]

みつじ (名) 密事 祕密ノ事。内内ノ事情。[illegible]

みづし (名) [御廚子] (一)廚子、又ハ、廚子棚(御廚子棚)ノ條ヲ見ヨ。[illegible] 十五、蓮生「古メキタルみづしアケテ、カラモリ、ハコヤノトジ、カクヤ姫ノ物語ノ繪ニカキタルヲゾ、時時ノマサグリ物ニシタマフ」 (二)御廚子所ノ[illegible] ミヅシメ。[illegible] カデマヰラント思ヒテ、みづしニヤ語ラハマシト思ヘド、大カタニモオハシマサネバ、云云」

みづしごと (名) 水仕事 水ヲ使用スル仕事。又、臺所ノ仕事ナド。

みづしごと (名) [御廚子事] 臺所ノ仕事。臺所ノ[illegible]

みづしだな (名) [御廚子棚] 多クハ、御廚子所ニアル棚ヲ云フ。食物ヲ納メ置ク棚。後ニハ、座敷ニモ用ヰキ。づし(廚子)ノ條ヲ見ヨ。貞丈雜記、八、調度之部「御廚子棚ト云ハ、本ハ、御廚子所ニテ、食物ヲ納メ置ク棚也、云云」[illegible] 大内ノ御廚所ノ棚ヲ表シ作リタル故ノ名ナリ、大サ、長サ三尺三寸ニ、總高サ二尺八寸、廣サ一尺三寸、[illegible]チラシ、[illegible]ヲ最上トシ、云云」

みッしつ (名) [密室] 密閉シテ、妄ニ人ノ出入ヲ許サザル部屋。又、祕密ニシテ、人ニ知ラセザル室。晉書、天文志「張牛子[illegible]作[illegible]天儀於密室中、以漏水轉之」

みづしどころ (名) [御廚子所] 「み」ハ、敬語」古ヘ、禁中ニテ、諸儀式、饗宴ノ供御、又ハ、朝夕ノ供御ノ物ヲトトノフル所。拾芥抄、中、末「御廚子所、四位殿上人[illegible]別當[illegible]

[illegible] ナドアルベカシキ事ドモヲ、斯ル邊ニハ急グモノナリケレバ、云云」(食事ノ設)

みッしふ (名) [密集] シゲク集マルコト。各箇ノ間隔ヲ少クシテ集マルコト。

みづしめ (名) [水仕女] 「御廚子所ノ女ノ義」水仕事ヲスル女。又、臺所ノ仕事ヲスル女。ハシタメ。下女。婢

みづしも (名) [水霜] 秋、深ケテ、露ノ、半バ霜トナレルモノ。ツユジモ。物類稱呼、一、天地「[illegible]ザルヲイフ)トイフヲ、關東ニテ、水霜トイフ」

みづしやう (名) [水性] (一)水ノタチ。水ノ性質。水質。[illegible] (二)五行ノ一ナル水ノ性ヲ稟ケテ、生レタリト云フ人ノ性。[illegible]記、上「陰陽ノ博士ニ占ナハセラレケルニ、云云、奥州(山名陸奥守)ハ水姓(性)、當氣ハ則冬也、去レバ水ハ土ニシテ、[illegible]アラバ、[illegible]甲ケル」 (三)婦女ノウツリ氣ナル性質。

みづしやうばい (名) [水商賣] [illegible]流水ノ如ク、收入ナドノ不確定ナル商賣ノ意カ」料理茶屋、待合茶屋、藝者屋ナドヲ稱ス。ミヅカセギ。ミヅカゲフ。

みづしやく (名) [水尺] 尺度ヲ盛リテ、川岸、水中ナドニ立テ置ク杙。出水ノ高サヲ測ル設ケトス。ミヅグヒ。水則。

みッしやくこんがう (名) [密迹金剛] 〔梵語、Vajrapāṇi [illegible] 達トハ、常ニ佛ニ侍ニ[illegible]意」又、密迹力士。[illegible] 金剛密迹、こんがうりきし[illegible]

みッしゆう (名) [密宗] 「大日如來ノ身、口、意ノ三祕密ヲ說ク故ニ云フ」 しんごんしゆう(眞言宗)ニ同ジ。[illegible]

みッしよ (名) 密書 密事ノ文書。[illegible] 祕書。又、祕密ノ書面。密翰。

ミッション-スクウル (名) 〔英語、Mission school.〕 布教學校。又ハ、傳道學校ノ意」 教育ト傳道(耶蘇教ノ)トヲ兼ネタル[illegible] 生徒ヲ教育スル宗教學校

みッしり [illegible] [滿] 〔みっちりノ轉〕 みっちり(滿)ノ條ヲ見ヨ。

みつしろ (名) [三白] 「みつしろぐさノ略」かたしろぐさ(片白草)ニ同ジ。[illegible] グサ(和名鈔)、カタシロ(大和本草)、ミツジロ」

みつしろぐさ (名) [三白草] 〔莖ノ梢三葉、白ケレバ云ノト〕 かたしろぐさ(片白草)ニ同ジ。略シテ、みつしろ。

みづすまし (名) [水澄] (一)有吻類ノ水蟲ノ名、畿内ノ語、身ノ長サ、五六分、

[illegible]楯ニ一分位ノ黒點ヲ有シテ、小白點アリ、翅アリ、[illegible]ノ間、甚ダ長クシテ、[illegible]後翅ノ[illegible]、最モ長シ。[illegible]水面ニ上下シテ、小蟲ヲ[illegible]ルレバ、[illegible]ノ名アリ。又、チ・ウマ。カハグモ。ミノクモ。カソヲムシ。シホウリ。[illegible] 重修本草綱目啓蒙、廿八、[illegible]「ミヅクモ(江戸)、カハグモ、アメンボウ[illegible]、ノフマ(共同上、江戸)、ミツスマシ[illegible]、センデンボウ[illegible]、シホウリ(西國、若州)」(二)まひまひむし(舞舞蟲)ノ一名。(東京)チヤウセン。マグサムシ。鼓蟲 重修本草綱目啓蒙、廿八、[illegible]、ミヅスマシ(江戸、防州)云云、マヒマヒムシ(京)」

みつせう (名) 密詔 [illegible]密ノ詔。内敕。[illegible]、月十五日[illegible]」

みづせがき (名) [水施餓鬼] ながれくわんちやう(流灌頂)ニ同ジ。 [illegible](寶永、近松作)[illegible]一夜ハカリハ[illegible]ツレド、末ノ逆瀬ハ一筋ニ、流レ寄ル邊ノ水施餓鬼」

みつせがは (名) [三瀬川] 一渡ルベキ瀬、三ツアリト云フ故ニ云フ」さんづのかは(三途河)ニ同ジ。 蜻蛉日記、下、下「みつせ川、ワレヨリ先ニ、渡リナバ、汀ニ侘ブル、身トヤナリナン」 拾遺集、九、雜、下「三瀬河、渡ルミサヲモ、ナカリケリ、何ニ衣ヲ、脱キテ掛クラン」

みつせつ (名) 密接 (一)ヒタト着クコト。クッツクコト。密着。(二)互ニ、離レガタキ深キ關係アルコト

みづぜめ (名) [水攻] (一)城ヲ圍ミテ、四圍ニ堤ヲ築キ続ノシ、川水ヲ塞キ入レテ、城ヲ水浸シニシテ攻ムルコト。[illegible]

[illegible]城ニ[illegible]、城外ニアル敵ノ[illegible]ヲ切[illegible]チテ、籠リタル兵ヲ渇セシムルコト。水ノ手ヲ[illegible]ツコト。[illegible]セシムルガ如ク、水ニ[illegible]セシムルヲ云フ」

みづぜめ (名) [水責] 拷問ノ一法。囚人ヲ仰向ケ、梯子ニ縛シ、水ヲ顔ニ注ク、口ニ入リ腹ニ滿ツ、足ヲアゲテ、口鼻ヨリ吐カセ苦シメ、又、再ビ初ノ如クスルコト。水問。 [illegible]、近松作[illegible]、サリナガラ、水責、火責ノ拷問ニ逢ノーテモ、存セヌ事ハ、存セズト申スヨリ外ハ御座ナシ」

みつそう (名) [密奏] ヒソカニ上奏スルコト。又、ソノ上奏。 資治通鑑、五代紀「晉李[illegible]」年中行事[illegible]、四十六ノ「凡ソ密奏ヲバ、外聞ナキヤウニテアレバ、カタク封ジテ、執柄ノ内覽ナドアルヨリ外ハ、左右ナク披露ナケレバ、密奏トハ申侍ルニヤ」

みつソウ (名) [密僧] 密教ノ法ヲ行フ僧。密教ノ僧侶。眞言派ノ僧侶。

ミツダ (名) [密陀] みつだそう(密陀僧)ノ略。「[illegible]」

みづた (名) [水田] 地ヲ窪クシテ水ヲ湛フル田。即チ、常ノ田。コナタ。スヰデン。(畠、陸田ニ對シテ云フ) [illegible]、みづたノ穗立、蹈ミシダクラシ」

みつたう (名) 密[illegible] あんたう[illegible]ノ男色ノ異稱 松屋筆記、六十六、第九十四條 男色ノ[illegible]

[illegible]ニ之茶道、扶桑[illegible]之茶道、通ニ用テ三[illegible]」

みつだうぐ (名) [三ツ道具] (一)[illegible]、[illegible]、ノ三ツ。[illegible]ヲ見ヨ)(二)小刀、鋏、錐、ヲ揃ヘタル稱。(懷中道具ナドニ)(三)俗ニ、鯛ノ頭部ヨリ出ヅル三箇ノ小サキ骨ノ、[illegible]、[illegible]、[illegible]、ニ似タルモノ。(圖) [illegible]ニテ、[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ三ツノ稱」

みづだし (名) [水出] (一)ぽんぷ(喞筒)ノ異稱。(二)にだしざる(煮出汁)ニ同ジ。 [illegible]隨筆[illegible]、イツヨリアリツルトモシラズ、古ヘニハ、沙汰モナキコトナリケリ、[illegible]式、[illegible]式ニ、[illegible]ノ汁ト云フコト見エ、宇治拾遺物語ニ、ミセント云フモノ見エタルハ、文字ヲイカニ書トモ知レザレドモ、事ノサマ、今云フ水出しノ樣ニ、オモハレタリ」

ミツダソウ (名) [密陀僧] (波斯語、Mirdasang. 又ハ、Murdāsang. ノ音譯、[illegible]多僧トモ書ス(唐代ノ本草書ニ見エ[illegible]ト云ノ)」黄色酸化鉛。銀ノ[illegible]ヲ空氣中ニテ徐徐ニ熱シテ得ル粉末狀ノモノ。重クシテ灰黄色ナリ。みつだのあぶら(密陀油)ナドニ用ヰル、コレヲ銀密陀ト云フ。又、金密陀ハ、和產ナシ、[illegible]、色、黄赤ニシテ、東鐵紋アリ、甚ダ重シ。略シテ、みつだ。硝子ノ製造、鉛化合物ナドノ原料ニ供セラル 和漢三才圖會、五十九、[illegible]、ミツダソウ、[illegible]」

みづたで (名) [水蓼] (一)たで(蓼)ニ同ジ。(二)蓼ノ一種、水邊ニ生ズ、高サ

二三尺、莖ハ[illegible]、葉ハ[illegible]、[illegible]ヲ、ナラヨリ出デテ、水蓼ノ、穗ツミニイタリ」

みづだな (名) [水棚] (閼伽ノ水ヲ[illegible]スル[illegible]

ミツダのあぶら (名) [密陀油] 密陀僧ヲ、荏ノ油ニ[illegible]、又ハ、[illegible]のつち(唐土)ヲ荏ノ油ニ溶シテモ用ヰル。油繪、其他ノ塗料ナドニ用ヰル。

みづタバコ (名) [水煙草] 苦苣苔科ノ多年生草本ノ名。山地ノ水濕アル岩上ナドニ生ズ。葉ハ平滑ニシテ、厚ク軟クシテ、煙草ノ葉ニ似、根ヨリ生ズ、夏日、花莖ヲ抽クコト數寸、上端ニ分岐シテ、數箇ノ淡紫色ノ花ヲ開ク、花冠ハ輻狀ニ五裂ス。葉ハ食用ニ供セラル。一名、イハタバコ。苦苣苔

みづたま (名) [水玉] (一)水ノ碎ケテ飛散リタルモノ。[illegible]ニ「サット亂レテ、散ルハ水玉、水ノ泡」(二)荷葉ノ上ナドニ、[illegible]、球ノ形ヲナセルモノ。ツマリ。露珠 (三)硝子ニテ、玉ヲ吹キ作リ、中ニ水ヲ含マシメタルモノ、[illegible]女ノ簪ナドトス。(四)染模樣ナドニ、小圓圈ノ、數多散ラシタル如キモノ。

みづたまうき (名) [瑞玉盃] (釋紀、十、[illegible]的邑[illegible]、[illegible]) 古事記、下(雄略)ニ「三重ノ子ガ、捧セル、瑞玉盞ニ、ウキシアブラ」(脂ハ酒)

みづたまり (名) [水溜] 雨水ナドノ、地上ニタマリテアルモノ。又、ソノ處。ニハタヅミ。[illegible]「[illegible]ル、タノキノサキノ、水たまり、アリハツマジキ、世ヲヤ恨マン」

みつたん (名) 密談 ヒソカニカタラフコト。又、ソノ話。密事ノ話。内内ノ相談。[illegible]

みづため (名) [水溜] 火ノ用心ノ水ナドヲ貯ヘオク桶。又、水ヲ溜メオク處。

ミツダゑ (名) [密陀繪] 一種ノ油繪。漆ニテ塗リタル面ニ、朱丹、黄土、緑青等ノ顔料ニ、油ト密陀僧トヲ混シタルモノモテ、描キタル繪。此法ハ、夙ク支那ヨリ傳ハリ、推古天皇ノ頃ニ出來タル大和ノ法隆寺ニナル玉蟲厨子ノ扉、後壁、及、臺座ノ四面ニ描ケル菩[illegible]、金剛[illegible]、及、金光明經、[illegible]ノ因ム傳ノ本生談ノ繪ナドハ、此類ナリ。

みつぢ (名) [三地] 小鼓ヲ打ツ手ノ[illegible] [illegible]マル、云云、つ鳩、五ツ鳩、一セイノ、[illegible]ヒ路ヤ、忍ビ男ノ忍ビ風、頭ノ上ハ橋懸リ」

みづち (名) [水神] 〔ちハ靈ノ條ヲ見ヨ〕 みづは(罔象)ノ條ヲ見ヨ。

みづち (名) [蛟虬] 〔みハ蛇ニテ、つハ之ナリ、或ハ、云フ、合シテ水ナリト、ちハ靈ノ異稱〕 想像ノ動物、龍ノ屬、蛇ニ似テ、四脚ノモノ、水ニ棲ムト云フ。又、龍ノ角ナキモノヲ虬ト云フ。 倭名抄、十九 龍魚類「蛟、美豆知、龍屬也」 天治字鏡、八ニ「蛟、美止知(止ハ豆カ)」 仁徳紀、六十七年[illegible] 萬葉集、十六「虎ニ乘リ、古屋ヲコエテ、青淵ニ、蛟[illegible]取リテム、[illegible]」

みっちゃ (名) [痘痕] イモ。アバタ。ジャンコ(仙臺)。[illegible] ソ、ウタテケレ、ヘナモ交リノ、みっちゃノミシテ」

みづちゃう (名) [水帳] 〔御圖帳ノ義、つちゃう(圖帳)ノ條ヲ見ヨ〕 (一)古ヘノづちゃウ(圖帳)ノ敬稱。其條ヲ見ヨ。(二)轉ジテ、江戸時代ニ、村村ニ備ヘシテ、土地段別ノ圖ニ、所持主ノ名、年貢高ナドヲ記セルモノ。[illegible]其村村、田畑上中下ノ位ヲ付、高石盛ヲ付、[illegible]ヲ記シ、反歩ヲ書キ、地主ノ名ヲ[illegible]帳トモ[illegible]帳トモ申候」 [illegible] (三)人別帳ノ異稱。守貞漫稿、三、人事「京坂トモ戸籍(俗ニ水帳ト云、御圖帳ノ假字也、或ハ人別帳ト云)」

みっちゃく (名) 密着 ヒタト着クコト。

みづちゃや (名) [水茶屋] 昔[illegible]ニテ、路傍ニ、水、煎シ茶ナド賣リテ、往來ノ人ノ息ハスル所。チャミセ。茶坊 心中二枚繪草紙(寶永、近松作)中「道頓堀ノ水茶屋ノ」 浮世風呂(文化、三馬)四編、下「矢場ノ姉ヤ、水茶屋ノ小女」

みっちょく (名) [密敕] 内密ノミコトノリ。秘密ノ敕命。密詔。[illegible]

みっちり (副) [滿] モノノ充滿シタル狀ニ云フ語。十分。轉ジテ、みっちり。

みっつう (名) [密通] 男女ヒソカニ情ヲ通ズルコト。ミソカゴト。ミソカヲ。

[illegible]

みづつき (名) [illegible]一孔[illegible] [illegible]七寸 倭名抄、十五 [illegible] 俗云、三都都岐、一云、七寸」 平治物語、二、六波羅合戰事「[illegible]」 [illegible]ルハ、云云」 甲陽軍鑑、十六、品第四十四「[illegible]ノ事、左ノ方ヲ水つきト云、右ノ方ヲひつてト云也」 貞丈雜記、十三、馬具之部「舊記ニ馬ノ事記シタル所ニ、七寸トアルハ、みづつきトヨム也、クツワノみづつき也、みづつきハ、ひっ手ノ事、手綱付ル[illegible]カナル故ニ七寸ト書テ[illegible]、[illegible]ハ片方長サ三寸五分ヅツ、兩方ニテ七寸也、依テ七寸ト書テ、みづつきト云フ也」 (二)轉ジテ、今、手綱ノ兩端ノ稱。

みつつぐ (名) [光次] (一)小判ノ[illegible]ニアル字、京[illegible]ノ大判座、後藤四郎兵衛[illegible]ノ名乘ナリ。江戸ニテ金座ヲ立テ、小判ヲ始メテ吹ク時、光次ニ命アリ、其名代、後藤庄三郎、江戸ニ來リテ吹キ、光次ノ字ヲ極印ニ用ヰル。(八水隨筆)或ハ云フ、光次ハ庄三郎ノ名乘ナリト。(貨幣秘録) (二)轉シテ、金貨ノ異稱。 文化の川柳「みつつぐハ、業平ヨリモ、色男」光次ハ、ドコテモモテル、男ナリ」

みづづく・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [水漬] 水ニヒタル。水ヲ含ム。ミヅク。浸潤 土佐日記、二月十六日「池メイテ、クボマリ、みづづけル所アリ、ホトリニ松モアリキ」

みつつけ [illegible] 物ヲメスベキナリト申シケリ」

みつご (名) [illegible] 〔[illegible]〕 づご(稚子)ノ條ヲ見ヨ。

みつたふ (他) [傳] [illegible] ジ、モクサク道ヲ、又見ナムカモ」(古義ノ訓)

みづっぽ・い (形) 水氣ノ味アリ。ミヅミヅシキサマナリ。ミヅクサイ。

みづで (名) [水手] 〔水様ノ義、水ノ形ノ[illegible]〕 [illegible]手ノ、[illegible]文字ノ尾ヲ、長ク引キナシテ、水ノ流レタル狀ニ書キナシタルモノナリト云フ。行ク水ノ[illegible]クナリ。 著聞集、五、和歌「洲濱ノ心葉ニ、みづでニテ、云云、七夕マツリシタリケルカタアリ、洲濱ノサキニ、みづでニテ」(次ニ歌アリ)

みつでうし (名) [水調子] 三味線ノ調子ノ、甚ダ低ク取レルモノ。

みづでっぽう (名) [水鐵砲] 一種ノ玩具。竹筒ノ一端ニ、節ヲ殘シ、コレニ小孔ヲ穿チ、別ニ細長キ棒ノ先ニ、布ナドヲ卷キテ、筒ニサシ入レ、コレヲ手許ヘ引キテ、水ヲ小孔ヨリ筒中ニ吸ヒ入レ、後、押シテ、小孔ヨリ水ヲ迸出セシムルモノ。水彈。 曾我會稽山(享保、近松作)二「顔ヲ目當ニ、シュット突出ス胡椒[illegible]ノ水鐵砲、[illegible]ノ石火矢」

ミット (名) 〔英語、Mitt. 又ハ、Mitten.〕 野球用手袋。ぐらぶノ條ヲ見ヨ。

みづごけい（名）[illegible] [illegible]

[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

みっともな・い（形）[illegible]ノ音便 [illegible]

みっともな・し（形）（みたうもなし、ノ音便）（一）見タクモナシ。ミトモナシ。ミトムナシ。（二）見グルシ。見ニクシ。

みつどもゑ（名）[三巴]（一）紋所ノ名、三ツノ巴ノ、相旋レル形ヲ描ケルモノ。ミツガシラ、[illegible]方ノ[illegible]ニヨリテ、左三巴、右三巴ナドアリ。（二）三人相對坐スルコト。ミツカナワ。ミツガナヘ。

みづとり（名）[水取]（一）水ヲ取ルモノ。即チ、手拭ノ女房詞。（二）普通、御水取ト云ノ、奈良、東大寺、二月堂ノ行事。昔ハ陰暦二月七日ト十二日、今ハ三月十三日ニ行フ。午前二時頃、堂ノ傍ナル閼伽井屋ニ入リ、若狹、遠敷明神ニ[illegible]シテ、閼伽井ノ水ヲ汲ミ、[illegible]シテ、堂[illegible]ニ進ル。二月堂ノ御始者實忠ニ閼伽井ヲ供奠セリトノ傳說ニ本ヅク。「[illegible]（元禄[illegible]）[illegible]トリヤ、[illegible]ノ[illegible]ノ、音ノ[illegible]」

みづとり（名）[水鳥] 水禽 水上ニ游泳スル鳥ノ總稱。[illegible]、多ク舟形ニシテ、脚ニ蹼アリ、巧ニ水中ヲ泳ゲドモ、歩ムコト拙シ。魚類ヲ食トス。雁、鴨、鸊鷉、鴛鴦ナドノ類。スヰキン。遊禽。次條ノ[illegible]見セヨ。[illegible]、池ノホニ、[illegible]ハみづとりトモノ、ツガヒヲ[illegible]」

みづとりの（枕）[水鳥ノ] 鴨、浮、うく、たつ、ナド、[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ數巴ノ、[illegible]、[illegible]

[illegible]

みづとるたま（名）[水取玉] ひとるたま（火取玉）ノ條ヲ見ヨ。

みづな（名）[水菜] 菜ノ一種、葉ハ、[illegible]ニ似テ[illegible]ソク、[illegible]ミ深ク、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]。千筋菜トモ云フ。肥シヲ用キズ、水ノミニテ植ウレバ、水入菜ト云フ。冬春ノ頃、多ク出ヅ。京ニテ、京菜ト云フ。[illegible]、[illegible]、東ニテ、みづなト、又ハ、ハタケナトイフヲ、近江ニテ、ウキナ、又、ヒヤウズナト云、[illegible]ニ、京菜ト云フ、江戸ニテモ、[illegible]イフアリ、（[illegible]ノ水菜ヨリハ[illegible]ズミテ、厚ク[illegible]シ、京ノ水菜ニ及バズ）」

みつながしは（名）[御綱柏] みつのがしは（三角柏）ノ條ヲ見ヨ。仁德紀、三十年九月「[illegible]行紀伊國、到熊野岬、取其處之御綱葉」

みづながれ（名）[出火失火] （水流レ、ノ義、倒語ナリ、火ニ焼クルヲ、忌ミテ云フ）火災。火難。天智紀、六年三月「日日夜夜、失火處多」天武紀、下、九年四月「橘寺尼房、失火、以焚十房」

みつな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）[不才][不佞] みつ（才）ノ條ヲ見ヨ。

みづなし（名）[水梨] 梨ノ一種。實ニ水氣多キモノ。香水梨 消梨 [illegible]字書[illegible]用集、六、[illegible]門、消梨、ミヅナシ、本草所[illegible]香水梨也」

みつなのすけ（名）[御綱助] 行幸ノ乘輿ノ御綱ヲ、[illegible]行スル官人。多クハ近衞少將ナリ。[illegible]、九、[illegible]ニナスラフル[illegible]、何カアラン、云云、御綱のすけ中[illegible]ナトイトヲ[illegible]

[illegible]

みづなは（名）[水繩]（一）みづなは（[illegible]）[illegible]ノ[illegible]ヲ見ヨ。（二）[illegible]、[illegible]。[illegible]本[illegible]、下、[illegible]地仕様之事「水繩ハ、[illegible]三ツグリニ[illegible]ノ[illegible]ニムキサワ[illegible]、[illegible]ヲ引キ[illegible]、シメリニヌレマズ、[illegible]ニ付、[illegible]ニナイサ[illegible]、[illegible]ラマレ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]」

みづなぶり（名）[水嬲] 水ヲモテアソブコト。[illegible]（[illegible]）[illegible]馬）三編、下「ナヤオヤ、ドウ致シマシテ、デゴザイマセウ、水なぶりヲナスノテ、[illegible]ミカル[illegible]ガ」

みづにら（名）[水韮] にら（韮）ノ條ヲ見ヨ。

みづぬき（名）[水拔] 溜水ナドヲ流シ遣ルコト。又、ソノ處。水ノオトシ口。竇 本朝[illegible]志（京保、[illegible]作）二、「[illegible]みづぬきノツギ樋」

みつのあわ（名）[浮石] （水泡ノ[illegible]、み[illegible]ルイシ）ウキイハ。フセキ。[illegible]本草、下[illegible]桃花石、荒川乃安和、又云[illegible]」

みつのえ（名）[illegible]吉野ノ[illegible]、みつのえト[illegible]ル[illegible]。[illegible]後[illegible]集、一、春、上、[illegible]、立テルヲ見レバ、みつのえノ、吉野ノ宮ニ、春ハ[illegible]ニケリ」新後撰集、五、秋、下、[illegible]神代ヨリ、クモラヌ[illegible]ヤ、みつのえノ、吉野ノ宮ノ、秋ノ夜ノ月」

みづのえ（名）[壬]（水の兄ノ義、えと（干支）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]井集、みづのえユク水の、えニゾニアラバ、フヂ川ノ、ナガレノ人ニ、マサザラメヤ」

みつのがしは（名）[三角柏] [illegible]ノ葉ハ、三岐ニテ、角ニ似タレバ、三角、[illegible]、（[illegible]ハ、[illegible]ニテ、[illegible]、[illegible]、[illegible]、大キクシテ、其尖、三岐ヲナセルモノ。[illegible]、[illegible]、[illegible]ルベシト云ヘリ、云云、今[illegible]、[illegible]

みつのかは（名）[三河] さんづのかは（三途河）ニ同ジ。

みつのくるま（名）[三車] さんしや（三車）[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]、[illegible]月詣集、十、[illegible]ノ[illegible]バ、[illegible]ケツレバ、みつのくるま[illegible]

みつのたから（名）[三寶]（一）[illegible]。[illegible]、[illegible]、[illegible]。[illegible]ツノ[illegible]、[illegible]ル、[illegible]ノ、[illegible]ゾ[illegible]ノル[illegible]。三寶、佛、法、僧。[illegible]、[illegible]ヲ見ヨ。

みづのて（名）[水手]（一）[illegible]、[illegible]、[illegible]ナド[illegible]、[illegible]ル[illegible]、[illegible]。（二）水[illegible]ニ用ヰル水、[illegible]

(三)田ヘ水ヲ引キ入ルル口。ミナクチ。物類稱呼、一、天地「水口、ミナクチ、苗代ヘヒク水ノクチ也、上總ニテ、水の手ト云フ」云云

みづのと (名) 【癸】〔水の弟ノ義〕えと(干支)ノ條ヲ見ヨ。曾丹集「みづのと、近江ナル、みつのとマリヲ、打チ過ギテ、フナデテイナン、コトヲシゾ思フ」

みづのとのまつり (名) 【癸祭】 古ヘ、禁中ノ陰陽寮ニテ、毎月癸ノ日ニ、行ハレシ祭。 月鏡、第六、澤の木末「年野ト云ヒケル御釜ハ、陰陽寮ニスエテ、みづのとの祭ト云ノ事ニ用井ラレケレド、中頃ヨリ後ノタメハ聞エヌ」

みつのとも (名) 【三友】 琴ト、詩ト、酒トノ三ツノ稱。さんいう(三友)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。 源、六、末摘花「琴ヲゾナツカシキカタラヒ人トオモヘルト聞ユレバ、みつのともニテ、イマ一クサヤ、ウタテアラントテ、云云」

みつのともしび (名) 【三光三燈】 山城國ノ稲荷ノ神ノ三社(上社猿田彦命、中社宇賀魂神、下社大宮女命)ノ燈 轉ジテ、稲荷社ノ異稱 續古今集、七、神祇「我レ頼ム、人ノ願ヲ、照ラストテ、浮世ニ殘ル、みつの燈火」

みつのはじめ (名) 【三始】 〔年ノ始、月ノ始、日ノ始ナレバ云フ〕 さんげん(三元)、及、さんし(三始)ノ條ヲモ見ヨ。

みづのみ (名) 〔一〕水ヲ呑ムニ用ヰル器 千載集、十八、物名、みづのみ「稲荷山、シルシノ杉ノ、年フリテ、みつのみヤシロ、神サビニケリ」 (二)みづのみびゃくしゃう(水呑百姓)ノ略 其條ヲ見ヨ。

みづのみのを (名) 【水呑緒】 鎧ノ袖ニ着キテ、胴ノ總角ニ結ヒツクル緒。よろひノ條ヲ見ヨ 運歩色葉集「水呑ノ緒」 貞丈雜記、十一、武具之部「鎧ノ後ニ、アゲマキヲムスビ付テ、袖ノ水呑の緒ヲ、アゲマキニユヒ付ク、云云、袖ノ緒ヲみづのみの緒ト云フ事ハ、トンボウ(アゲマキノ事也)結ニユヒ付ル緒ナル故也、トンボウハ水ノ上ニ遊ビテ、尾ニテ水ヲノム物ナル故也」

みづのみびゃくしゃう (名) 水呑百姓 俗ニ、極メテ貧シキ農民ノ稱 多クハ、他處ヨリ移住シテ、所有ノ田地ノ高ナキモノヲ云ヒシガ如シ。又、地方ニ因リテハ、平人ヨリ一段卑族トスル所アリ。略シテ、みづのみ。 農業往談「大門、利根川近邊ノ水呑百姓ハ、田畑ヲ持ズ、下作ヲ作リ、或ハ陽ヲ汲ギ、渡邊ニハ綱ノ手ヲ引、山中ニテハ木ヲ伐リ、其村里村里ノ水ヲ呑ヲ云フナリ」

みづのりう (名) 【水野流】 居合術ノ一派。安藝國、廣島ノ住人、水野新五左衛門重治ノ創メタルモノ。 中興武術系譜、下「水野流居合、水野新五左衛門重治 法名不知、萬治元戊戌年七月十八日死ス、水野重治者、生國安藝國廣島ノ人(紅山日、福島左衛門大夫正則家中ナランカ)、後、江戸住居、云云、淺草下屋敷 堀田正盛ノヘ、大君(德川家光)渡御之砌、重治居合、奉備台覽、云云」

みつのを (名) 【三緒】 〔緒ハ絃ノ意〕 さみせん(三線)ノ異名。 和訓栞、さみせん「寛永ノ比、風流ノ歌ニみつのをヲヒケバト云フ」

みつのをごと (名) 【三味線・三緒琴】 〔琵琶ヲ、よつのをごとト云フニ傚ヒテ、造レル語〕 さみせん(三線)ニ同ジ。

みつば (名) 【三葉】 みつばぜり(三葉芹)ノ略 其條ヲ見ヨ。 續猿蓑集「味噌部屋ノ、匂ヒニ肥エル、三葉カナ」

みづは (名) 【罔象】 〔みづはハ水走ニテ、水ヲ涌出シ走ラシムル義、故ニ、水神トナスト〕 又、みづち。水ノ神。 神代紀、上「水神、罔象女、云云、罔象、此云美都波」 倭名抄、二、鬼神類「罔象、美都波、水神也」

みづは (名) 【[illegible]】 〔瑞鮮キ齒〕 (一)若若シキ齒 古事記、下(反正)「[illegible]云、御齒長一寸、廣二分、上下等齊、既如貫珠」 反正天皇ノ[illegible]云云、[illegible]」 (二)[illegible]大[illegible]落[illegible]、更生[illegible]細者、如小兒齒也[illegible]云、壽也」」 老人ノ齒落チテ、再ビ生ズル齒。長壽ノ象ナリトテ、メデタキコトニス 此齒ノ生ズルヲ、みつはぐむ、又、みづはさすナド云フ。 【齵齒】 (三)みつはぐむ、ノ略。腰ノ屈マリタル老人。 夫木抄、七、早苗「[illegible]守ル、みづわノ翁、[illegible]ヨリ、這出ノ小田ノ、早苗取ル見ヨ」

みつばい (名) 密賣 禁制ヲ犯シテ、ヒソカニ物ヲ賣ルコト [illegible]

みづばうさう (名) 【水疱瘡】 小兒ノ流行病、感染シテ二週間ノ後、少シク熱發シ、全身所所ニ紅斑ノ發疹ヲ生シ、終ニ水泡ヲ成ス。形、大豆、又ハ、小豆大ニシテ、内ニ水液ヲ容ル、三日許リ後ニ痂皮ヲ結ビ、二週ニテ治スト。ミヅイモ。ヘナイモ。スキトウ。スキハウ。

みづばうず (名) 【水坊主】 みつぼ(水泡)ノ訛。其條ヲ見ヨ

みづばかり (名) 【準】 〔水計ノ義〕 高低ヲ知ル器 又、工匠ノ、物ノ平面ノ、準、不準ヲ見ル時、水ヲ流シテ、測ルコト。今、常ニ、溝アル長平ナル材ニ水ヲ湛ヘテ、物ノ水平ナルカ否カヲ試ミルヲ、水盛、水縄、ナド云フ、是レナリ。 倭名抄、十五、造作具「準繩、美豆波加利」 天治字鏡、十二 準、[illegible]

[illegible] みづはハ、カタサガリニモ、落ツル瀧カナ」

みづはき (名) 【放水】 溜水ヲ流シ遣ルコト [illegible]

みづはぐむ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 【齵】 [illegible]モ同趣」 (一)老人ノ齒、脱ケテ、復タ小サキ齒ヲ生ズ。ミヅハサス。(長壽ノ象トス) (二)[illegible]シテ、甚シク老ユ。老イテ腰ノカガム。老イカガマル。ミヅハサス。略シテ、みつはトモ云ヒ、[illegible] みつわくむトハ、オイヌルヲ云フナリ」 又、多クハ、水ノ波ナドト云ヒ掛ク。 [illegible]みづはぐむマデ、老ゾシニケル」 此語、往往、[illegible]わぐむト訛セルハ、誤ナリ。

みづはこべ (名) 【水繁縷】 水馬齒科ノ水草、水田、池澤ノ中ニ生ズ、根ハ水底ニアリ、莖細ソクシテ絲ノ如ク、叢生ス。葉ハ橢圓形ニシテ對生シ、極メテ小サク、水面ニ浮ビテ、浮草ノ如ク見ユ、四時アレドモ、冬、春、繁茂ス。冬日、梢葉ノ腋毎ニ、白キ一花ヲ着ク。水馬齒

みづはさす・さ・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 〔さすハ芽さす、根さすト同趣〕 みづはぐむ(齵)ニ同ジ。甚シク老ユ。老イカガマル。 名義抄「支離、ミツワサス」(莊子、支離、注、身體殘缺ニ取擔之貌) 能因歌枕「[illegible]みつはさすトハ、老

[illegible]十二[illegible]豆渡左須、八十アマリノ、老ノ波、海月ノ骨ニ、逢フゾウレシキ」倭名抄、下「九十許リニナリテ、云云、[illegible]タブケッツ、他事ナクミエケルケシキナド」今義、[illegible]しタル女ノ、[illegible]云云

みづ-はしか (名) 〔水痲疹〕 ふうしん(風疹)ニ同ジ。

みづ-はじき (名) 〔水彈〕 水ヲ高キヘ彈キアグル器械。筒ノ中ニ機アリテ、棒ヲ拔キ差シシテ、空氣ヲ入レ、其壓ス力ニテ水ヲ上グ。火消ニ、又ハ、水マキノ用トス。ミヅデッパウ。リュウドスヰ。ポンプ。唧筒 水銃 保元物語、二「新院方ノ[illegible]流ス矢、[illegible]テ、左大臣殿ノ御首ノ骨ニ立ツ、成隆之ヲ拔イテ捨テタリケレドモ、血ノ走ルコト、水彈ヲ以テ水ヲ彈クニ異ナラズ」

みつば-ぜり (名) 〔三葉芹〕 常ニ略シテ、みつば。繖形科 芹ノ一種。水濕ノ地ニ生ジ、又、田圃ニ培養ス。苗、春ノ半[illegible]叢生シ、高サ尺ニ至ル、莖圓シ、枝ヲ分チテ、枝毎ニ三葉アリ、青クシテ光ル、莖ヲ合ハセテ食用トス、香氣アリ。夏ノ初、細白花、又ハ、淡紅花ヲ開ク、子ノ大キサ、豆ノ如シ。京都ニ、ウシノヒタヒ。鴨兒芹 倭頭屋本節用集、生植「[illegible]」[illegible]、草木、[illegible]、ミツバゼリ」

ミツ-ばち (名) 〔蜜蜂〕 又、みちばち。蜂ノ一種。蜜ヲ釀スモノ。形、はなあぶ(花虻)ニ似テ痩セ、やまはち(山蜂)ノ形シテ小サク、長サ四五分、微黄色、毛アリ。背ハ薄黑ク、羽ハ灰色ナリ、他ヲ螫ストキハ、針拔ケテ死ス、群リテ一團トナリテ巢ヲ營ム。其中ニ大ナルモノアリ、蜂ノ王ト呼ブ。(はちみつノ條ヲ

[illegible]

みつ-バチ [illegible] ミチバチ、ミツバツ、ヘボ(信州)、云云」

みづ-ばち (名) 〔水蓋〕 やまめ(水蓋)ニ同ジ。[illegible]ト云ヘリ、云云」

みづ-はな (名) 〔水端〕 〔水ノ出デ、ノ端〕 サマムトスル初。水ノデバナ。萬葉集、十九「卯ノ花ヲ、クタス霖雨ノ、始水ニ、寄ル木積ナス、寄ラム兒モガモ」(二)デハジメ。ハジマリ。最初。難太平記「先ンズル敵ニハ、水はなニ少シ退キテ、亦味方タテ直シテ」

みづ-ばな (名) 〔水洟〕 寒サニ侵サレタル人、或ハ、老人ナドニ、水ノ如キ鼻汁ノ滴ルモノ。寒洟 清洟 堀川狂言集「みづばなニ、風ノ吹キシク、秋ノ夜ハ、[illegible]ニモ[illegible]ノ、玉ゾ散リケル」芭蕉句集、冬「[illegible]セケリ、御取越」

みづ-ばなれ (名) 〔水放〕 (一)水ヨリハナルルコト。又、水ヨリハナスコト。狂言記、[illegible]「鯉ハ水離れガ大事ヂャト存ジテ」(二)親ノ手許ヲハナルルコト。[illegible]近松作ト「古道具屋ノ古格ナ、堅地ノ父ノ親ノ手ヲ、水離れセヌお嶋トハ、云云」

みづは-の-め (名) 〔罔象女〕 〔みづはハ水走ニテ、水ヲ涌出シ走ラス義ト、又、一說ニ、水葉ノ義、藻ヲもはト云フ類ト、〕 白澤圖「水之精、名ニ罔象ニ」 水ノ神ノ名。ミヅチ。オカミ。倭名抄、二、神靈類「[illegible]」古事記、上「[illegible]」神代紀、上「陽生土神埴山姫、及水神罔象女」[illegible]即位前紀「[illegible]」注「罔象女、此云[illegible]」

みづ-はんげ (名) 〔[illegible]〕 [illegible] づがしは(水柏)ニ同ジ。

みつば-よつば-み (名) [illegible] 序「此ノ殿ハ、宜モ富ミケリ、サキクサノ、みつばよつばノ中ニ[illegible]」[illegible]四十七、早蕨「日モカガヤク心地スル殿ヅクリノ、みつばよつばノ中ニヒキ入レテ」

みづ-ばり (名) 〔水張〕 布帛ナドヲ、糊セズシテ、水ノミニテ張リ乾スコト。又、ソノ張リタルモノ。

みづ-ひき (名) 〔水引〕 〔其狀、水ヲ引廻シタルガ如キヨリ云フカト云フ〕 (一)水引幕ノ略。幕ノ類。下ニ張ルヲ云ヒ、上ニ張ル帽額ニ對スト云フ。今、專ラ、芝居ナドニテ、舞臺ノ上ノ方ナドニ張ル横ニ細長キ幕ヲ云フ。幔 帳帷 御伽草子、[illegible]出草紙「舞臺ノ上ニ[illegible]ヲ敷キ、みづひきニ錦ヲサゲメレバ、浦吹ク風ニ[illegible]シテ」(二)紙絲ノ糊水ヲ引キテ、乾シ固メタルモノ。白キママヲ用ヰ、或ハ、其半ヲ紅ニ染ム、之ヲ紅白ト云フ。祝物ナドノ贈答品ヲ包ミ、コレヲカク、結ビ方ニ、種種ノ式アリ。長サ五寸、一尺、一尺五寸ヨリ、五寸チガヒニテ、八尺マデモアリト。儀式用ニハ、吉ニ紅白、金銀、赤白、赤金、凶ニ黑(青)白(青水引トモ云フ)ト染分ク。左ヲ上位ニ、右ヲ下位ニ、深白ナルヲ左ニス。紅白ナルハ、白ヲ左ニ、紅ヲ右ニ

[illegible]ルヤウニ、花結ビナドニス。但シ婚禮[illegible]シニシテ、端ヲ、ビントハヌルヤウニスルナリ。凶ニハ、黑(青)ヲ右ニ結ビ切リ[illegible](倒)ニシテ、香奠、佛前ナドト書ケバ、[illegible](水引ノ紙縒、元結ニモシタリ、コレヲ紅白ニ[illegible]結ヤウニナリテ、大引ノ名ヲ專ラニス。〔金大引 銀大引 青水引 [illegible]〕 リ、ヨリノモドラヌヤウニ水ヲ引キテ、ヨリ合セタ[illegible]之水引鬧前[illegible]」堀河百首「水引ノ、アハセノ絲ノ、ヒトスヂニ、ワケズヨ君ヲ、思フ心ハ」(二)麻ノ絲ノ異名。[illegible]水ニ浸シテ、皮ヲ剝ゲバ[illegible]云フ。後撰集、十九、羇旅「[illegible]ノ、白絲ハ[illegible]ルハタハ、旅ノ衣ニ、タチヤカサネン」(三)堂社ノ上ニ引ク帳。[illegible]云フ。[illegible]御廚子引[illegible]ハ、御廚子引ノ略語ナルベシ、俗ニ佛龕ヲ廚子ト云フ、廚子ノ前ニ引クユヱ、御廚引ト云フナルベシ」[illegible]ト云フ物アルハ、云云」(四)鎧ノ假粧ノ板ノ下ニ、白ト赤トノ二色ノ綾ヲ打チタルモノ。本朝軍器考(白石)九、假粧ノ板、云云、其板ノ下ニ、[illegible]

みづ-ひき (名) 〔水引〕 水引草ノ略。蓼科ノ草本ノ名、春、宿根ヨリ生ズ、苗、高サ一尺許リ、葉ハ、倒卵形ニシテ、互生ス。秋ニ至リ、莖頭、及、葉間ニ、一尺餘ノ細紅莖ヲ出シ、極小ナル深紅花ヲ、稀

ニ綴リ開ク、狀、紅ノ水引ノ紙縒ノ如シ。金線草。其白花ナルヲ、銀水引ト云ヒ、紅白雜レルヲ、御所水引ト云フ。別ニ、金水引アリ、其條ニ註ス。

みつひきりゃう (名) [三引兩] 紋所ノ名。丸ノ中ニ、三筋ノ横線ヲ劃シタルモノ。ひきりゃう(引兩)ノ條ヲ見ヨ。太平記、三十二、神南合戰事「爰ニ鎧ウタル武者一騎、三引兩ノ笠符着ケ、誇リケルヲ、云云」

みっぷ (名) [密夫] ミソカヲ。ヒソカニ人ノ妻ノ許ニ通フ男。マヲトコ。情夫。其女ヲ密婦ト云フ。[illegible]「密夫」

みっぷ (名) [密婦] 前條ノ語ヲ見ヨ。ミソカヲンナ。カクシヅマ。情婦。

みっぷう (名) [密封] 固ク緊シク封ズルコト。王建詩「密封計策非時發」陰陽寮式「凡天文博士、常守觀候、毎レ有二變異一、日記進レ寮、寮頭即共勘知、密封奏聞」

みづぶき (名) [茨] みづふぶき(茨)ノ略。其條ヲ見ヨ。枕草子、七、第六十九段、おそろしげなるもの「水ぶき」

みづぶくれ (名) [水脹] 火傷ナドニテ、皮ノ脹レテ水膿ヲ醸セルモノ。水疱。

みづぶくろ (名) [水袋] (一)水ヲ入ルル袋。(二)ふえ(鰾)ニ同ジ。

みつぶせ (名) [三伏] 矢ノ長サニ云フ語。そく(束)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

みつぶとん (名) [三蒲團] 敷蒲團ヲ三枚重ネタルモノ。又、昔、遊女屋ニテ、客ニ無心シテ買ハセタル敷蒲團三枚ヲ重ネタルモノ。甚六平記、日右衛門(次郎)新吉原の段「おのぶハツヒニ見ナレヌ蠟燭、錦ノ夜具ニ三つ蒲團」古川柳「三つぶとん、ウントイ、テガ、ソレッキリ」

みづぶね (名) [水船] (一)飲水ヲ運送スル船。水取舟。水傳馬。(二)水ヲ貯ヘオク大キナル匣。水槽。太平記、七、千劒破城軍事「大ナル木ヲ以テ、水舟ヲ二三百打タセテ、水ヲ湛ヘ置キタリ」(三)いけぶね(生槽)ニ同ジ。夫木抄、廿七、鯉「水舟ニ、浮キテヒレフル、イケ鯉ノ、命待ツ間モ、セハシナノ世ヤ」(四)くゎん(棺)ノ異名。大江俊矩記、寛政十二年四月十二日「聖、移ニ御棺、尼稱ニ御水舟一歟」

みづふぶき (名) 茨 〔水中ニ生ジ、葉ハ欵冬(蕗)ニ似タリ〕おにばす(鬼蓮)ニ同ジ。略シテ、みづぶき。倭名抄、十七水菜類「茨、三ツ布布木」本草和名、下九「茨、美都布布岐乃美」字鏡五十五「芰(茨ノ誤リ)、水不支」字類抄「茨人、ミツフフキ、天門虫、ミツフフキ、見二本草一」字津保物語、國讓、上六「みづふぶきナ一奉レ給へり」

みづぶるひ (名) [漉水囊] 布ニテ作レルミヅコシ。スヰナフ。倭名抄、十三僧坊具「漉水囊、美以布流比」名義抄「[illegible]、シタミ、ミヅフルヒ、漉水囊、ミヅフルヒ」字鏡廿「漉、漏豆不留比」

みづぶろ (名) [水風呂] 水ヲ入レタル風呂。又、ソレニ浴スルコト。好色二代男(貞享、西鶴)六「三人入リノ水風呂、所所ニ並べ」

みっぺい (名) [密閉] 透ナキヤウニ、固ク閉ヅルコト。

みづへん (名) [水篇] さんずゐ(三水)ニ同ジ。

みつぼ (名) [水泡泡沫] 〔水粒ノ義ト云フ〕水ノ泡ノ粒立テルモノ。又、雨降ル時、水上ニ浮キ出ヅル泡ノ玉。ウタカタ。ミヅバウズ。ミナツボ。名義抄「泡、ミツホ、ミナツホ」萬葉集、廿「美都保奈須、假レル身ゾトハ、知レレドモ、ナホシ願ヒツ、千歳ノ命ヲ」

みづほ (名) [瑞穗] 〔みづハ、美ムル語〕稻穗ノミヅミヅシク榮ユルモノ。神代紀、上九「豐葦原千五百秋瑞穗之地」

みづぼ (名) [水疱] みづがさ(水疱)ニ同ジ。犬子集(寛永)四、秋、上「朝顏ニ、デクル水疱ヤ、露ノ玉」

みづぼうこう (名) [水奉公] 水仕事ニ奉公スルコト。臺所奉公。炊事奉公。紅梅千句(明暦)「武家ノ内ヲシ、見ルモヒヤヤカ」ノ句ニ「町方ニ、馬ツカン秋ノ、水奉公」

みつぼし (名) [三星] 〔三ッ横ニ、直線ニ並ブ故ニ云フ〕(一)カラスキ星。參宿。物類稱呼、一、天地「參、シン(カラスキボシト云フ、二十八宿ノ内也)中、星ノ横ニツラナリタルヲ、江戸ニテ、三光ト云ヒ、又三つ星トイフ」(二)紋所ノ名。三ッノ圓ヲ、三角形(品字形)ニ重ネテ描キタルモノ。太平記、十七、山門攻事「渡邊、三星、云云、家家ノ紋畫タルガ、三百餘流」

みづぼたる (名) [水螢] つちぼたる(地螢)ニ同ジ。(筑前)

みづほのくに (名) [瑞穗國] 〔みづハ、ウルハシキヲ美メテ云フ語、穗ハ稻穗ナリ、御國ノ稻ハ、スグレタレバ稱ス〕大日本國ノ別稱。天神ノ、皇孫ニ、齋庭ノ穗ヲ、任セ奉ラセタマヒテ、御食津國トシテ、天日嗣ノ御榮エヲ、祝ヒ名ヅケタマヘルナリト云フ。更ニ、美稱ヲ重ネテ、豐葦原瑞穗國トモ云フ。大殿祭祝詞「大八洲、豐葦原瑞穗之國」神代紀、上五「一書曰、天神謂伊弉諾尊、伊弉冊尊曰、有豐葦原千五百秋瑞穗之地、[illegible]」萬葉集、十八、長歌「葦原ノ、水穗之國ヲ、天地ノ、依リ合ヒノ極」同、十八、長歌「葦原ノ、美豆保國ヲ、天降リ、シラシメシケル、スメロギノ、神ノミコトノ、御代カサネ」

みづまき (名) [水撒] 地面ニ水ヲ撒クコト。沙塵ナドノ立タザルヤウニ、ナスコト。撒水。又、ソノ人。「みづまき車」

みづまく (名) [水幕] 古ヘ、船イクサノ時、水ニ浸シテ、矢石ヲ防グニ用ヰタル幕。木綿ニテ、蓆、又ハ、編入ニ作リ、縦横十文字ニサシカガリタルモノ。

みづまさぐも (名) [水增雲] 〔水增雲ノ意カ〕夏、秋ノ夕、魚鱗ノ如キ狀ノ白雲ノ、タナビケルモノ。又、夕立ノ後ナドニ、青空ニ、白クササラ波ノ、打寄スル如キ狀ニ立ツ雲。此雲顯ハルル時ハ、三四日ノ内ニ、必ズ大雨降ルト云フ。イワシグモ。ウロコグモ。夫木抄、十九、雲「木晴レス、水まさ雲ニ、照ル月ノ、ムナシク向ノ、夜ハヤ思ハン」鶴井千首、雲「白山ノ、水まさ雲ノ、ハヤスミテ、涼シク浮ブ、三日ノ月影」

みづます (名) [水枡] 液體ヲハカル枡。いっしょうます(一升枡)ノ條ヲ見ヨ。

みつまた (名) [三叉] 物ノ三筋ニ支レタル所。(木ノ枝、道路、川筋、ナドニ)

みつまた (名) [三叉三椏] 瑞香科ノ落葉灌木ノ名。高サ、七八尺、木幹、枝叉、皆三椏ヲナス。葉ハ廣披針形ニシテ質厚ク、全邊ナリ。秋ノ末、葉落ツレバ、枝ノ端毎ニ、數十ノ小花、一朶ヅツ簇リテ垂リ、春ノ半ニ至リ、葉ニ先ダチテ開ク。花ハ筒咲ニテ、末ハ四瓣ニ分ル、外白ク、内黄ナリ。花終リテ、新葉ヲ生ズ、長サ七八寸アリ。駿河、甲斐ノ山ニテハ、此樹ヲ植エ、皮ヲ採リテ、紙ヲ製

ス、駿河半紙ト云フ、又糊入ヲモ製ス。[illegible]

みつまたぎり (名) [illegible] みつめぎり [illegible]（三目錐）ニ同ジ。[illegible] 人、云云、錐十柄、中錐八柄、[illegible]錐八柄」

みつまのみづ (名) 三間水 さんげんみづ(三間水)ノ條ヲ見ヨ。

みづまり (名) 水鞠 みづたま(水玉)ノ條ノ(一)ニ同ジ。盛衰記、三十八、平家公達最後事「太刀ノ鼓、[illegible]ニアテ、鳴ケト蹴ケルヲ、[illegible]受ケテ、トビ立テズ、水鞠サト蹴サセツツ、云云」

みつみ (名) 三身 [illegible]ノ身ふろヲ、三ツニ裁ツ故ニ云フ」衣服ノ仕立方ノ名。布帛凡ソ半反ヲ用ヰ、袖ト襟トヲ取リ、身ゴロヲ、三ツ折ニシテ、仕立ツル仕立方。又、ソノ仕立方ノ衣服。多ク小兒ノ着物ノ仕立ニ云フ。(ひとつみ、よつみ、及、ほんたちナドニ對ス)

みつみつ (副) 密密 (一)祕密ナル狀ニ云フ語 [illegible] ヒソカニ。内密ニ。古事談、二、臣節「攝[illegible]密密京上」(二)コマヤカナル狀ニ云フ語。[illegible]郎詩、[illegible]行密密[illegible]」庭訓往來、六月「此間者依二神事物忌、五[illegible]密密雜談、甚不[illegible]之至也」(三)草木ナドノ、シゲレル狀ニ云フ語。[illegible]詩、[illegible]「高高下下天成景、密密疎疎自在花」

みつみつし (枕) (御稜威御稜威しノ約トヲフ、(草御軍ノ例、勇武ナル意)) 久米ニ冠ラスル枕詞。(大伴ノみつニ同ジ) 久米部ハ上代ノ軍隊ノ稱ニくめへ(來目部)ノ條ヲモ見ヨ。古事記、中、神武[illegible]美都美都[illegible]、久米ノ子等ガ」[illegible]神武[illegible]紀「[illegible]、久米ノ子等ガ」[illegible] 久米ノ若子ガ イ[illegible]リケム、[illegible]ノ、[illegible]レマク惜シモ」(古今ノ[illegible])

みづみづし [illegible]・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [illegible] テ光澤アリ。(容貌ナドニ)

みつむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 見詰 久シク其物ヲノミ見ル。[illegible]ハナサズニ見テ居ル。ミツメル。凝視 宇治拾遺、二、第十三條「中ニ懸レテ出デ立チテ、イタク制スルガアリケルヲ、業村ハ見つめテケリ」

みづむけ (名) 水向 佛ノ靈前ニ、閼伽ノ水ヲ手向クルコト。本朝[illegible]、[illegible]、[illegible]西鶴)三「水ユエ命ヲトラレケレバ、云云、其井戸ヲ水向けニシテ、跡弔ラヘト仰セ付ケラレ」水寄向くるトハ、話ヲ引出ス意、即チ、市子ノ口寄ニ、水向ケテ云フ類ナリ。

みづむし (名) 水蟲 (一)水中ニ生ジテ、棲息スル蟲。(二)やまめ(水蟲)ニ同ジ。(三)水仕事ナドスル人ノ、手足ノ指間ナドニ生ズル小サキ瘡。後ニ、表皮、剝ケ去ル。鵝掌風

みづむすび (名) 水結 結ビ方ノ一種。詳ナラズ。後世ノつゆむすびナラムト云ノ。[illegible]、裝束雜事抄「結狩衣(紐ヲ染テ、鮑、若ハ水ニモ結テ裏ニ付色、人人ノ有所意)、あはび結、水結、當時モ[illegible]ハリ候、追テ雛形可[illegible]御覽[illegible]候」

みつむねづくり (名) 三棟作 船屋形ノ[illegible]、上段、次之間ノ三棟ヨリ成ル屋形ト云フ。下ノ出典ヲ見ヨ。平家物語、二、新大納言被流事「二ツ瓦、三つ棟ニ造リタル船ニ乘リ、云云」和漢船用集、十、船舵名「[illegible]、云云、平家物語ニ、三つ棟作りタル舟トイヘルハ、今、川舟ノ將凡、上段、次之間ノ、[illegible]棟ナルベシ」

みつめ (名) 三目 (一)目三ツアルコト。又、ソノモノ。「三目小僧」(二)婚禮、又

ハ、誕生ニ、ソノ三日目ニ當ルコト。又、ソノ祝事。三朝 いつつめ(五日)ノ條[illegible] ヲ中合セ、道筋ヲ不[illegible]遠様ニ雙方ヘ遣ス」

みつめぎり (名) 三目錐 錐ノ[illegible]、三稜アルモノ。ミツマタギリ。三稜錐(四目錐、丸錐、ナドニ對ス) [illegible] 下、[illegible]、目錐、ミツメギリ [illegible] ミツメキリ、[illegible] 之、中[illegible] 高、[illegible]、[illegible] ノ方ヲ[illegible]人持タレバ、異名ニハ[illegible]錐ト申ケリ、云云、三[illegible]錐コソ[illegible]合ナレ」

みつめこぞう (名) 三目小僧 額ニ目三ツアリト云フ怪物。

みづめし (名) 水飯 みづづけ(水漬)ニ同ジ。

みつめにふだう (名) 三目入道 額ニ目三ツアリト云フ入道ノ怪物。

みつめゆひ (名) 三目結 (一)括リ染ノ一種。[illegible]ツヅツ寄セ括リテ、染メタルモノ。[illegible]、[illegible]記、二十五、[illegible] 目結ノ直垂ニ、小櫻ヲ黄ニ返シタル鎧ノ、云云」(二)紋所ノ名。目結ヒ、即チ、[illegible]ノ如キ形ノモノヲ、三ツ竝ベ描キタル象。

みつめる (動) 見詰 みつむ(見詰)ノ口語。

みつもとさう (名) 三本草 狼牙 おまつなぎ(狼牙)ノ條ヲ見ヨ。ノダイコン。

みつもの (名) 三物 (一)胴、袖、兜ヲ、鎧ノ三物ト云フ。[illegible]記、十、[illegible]村[illegible]成[illegible]

[illegible]テ、アタリヲ[illegible]テ[illegible]向ヒケレバ」(二)流鏑馬、[illegible] 又、流鏑馬ノ代リニ、歩射ヲ加ヘテモ云フ [illegible] (三)[illegible] 云フ[illegible]、目[illegible] 燒肴ノ三ツヲ云フ。(四)[illegible] 當日ノ三ツ物トハ、天、地、人ナリ [illegible] ハ、イ[illegible] ヨシ[illegible] イフハ、三ノ數、火ノ形、即チ陽ヲ貯ル祈禱アリ」(五)連歌ニ云フ語。其第一句(發句)ト、第二句(脇)ト、第三句トノ稱。[illegible] 近ナレ」[illegible]物[illegible]」

みづもの (名) 水物 (一)水、酒、醬油ナド流ルル物ノ稱。流動物。(二)くだもの(果)ニ同ジ。[illegible]、水菓子。俗つれづれ(元祿、西鶴)四「水物ハ當山ノ柿、四[illegible]ノ[illegible]」(三)[illegible]一定セヌモノ。又、流動シテ定マラヌモノ。

みつもん (名) 三紋 (一)紋、五紋、ナドニ對スニ着衣ノ背ト兩袖ノ後ト、[illegible]ヅツ紋ヲ附クルコト。ミトコロモン。

みつもり (名) 見積 ミツモルコト。大凡ソ測ルコト。[illegible] 目算

みづもり (名) 水盛 ミヅバカリ。ミヅナハ。長方ノ材ノ線槽ヲ穿テルモノニ、水ヲ盛リテ、其平面[illegible]物ノ水平ヲ測ルコト[illegible]、[illegible]管ヲ[illegible]、[illegible]管ヲ嵌メ、他方ヲ水槽ニ接續セシメタ

ルモノヲ利用ス。[illegible]　水平[illegible]

みつも・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) ［見積］ 目ニ見量シテ大略ヲ測ル。目算。又、大概ヲ計算ス。概算。

みつ‐や（ミズヤ） (名) ［水屋］ (一)神社ノ前ナドニ、水ヲ供ヘテ、詣ヅル人ニ、手、顔ヲ洗ハスル所。手水ノ屋。(二)茶室ノ片隅ニ、器ヲ洗ノ所。[illegible]「[illegible]水屋トテ、持直ス水屋アリ、水遣リトモイフ」(三)日日ノ飲水ヲ人家ヘ運ビテ賣ルモノ。(四)夏日、路傍ニテ、冷水ヲ賣ルモノ。(五)水屋の神ノ略。其條ヲ見ヨ。謡曲、春日龍神「神ノ代ヨリノ末ウケテ、[illegible]ノ御影マテ、[illegible]ニ交ハル神心」

みつ‐やく (名) ［密約］ ヒソカニ約束スルコト。又、秘密ノ約束。[illegible]

みづ‐やぐら（ミズヤグラ） (名) 水櫓　水上ニ築キタル櫓。[illegible]

みづ‐や‐の‐かみ (名) ［水屋神］ 飲料水ヲ司ドルト云フ神。略シテ、水屋。[illegible]

みづ‐やま（ミズヤマ） (名) ［瑞山］ ミヅミヅシク麗ハシキ山。萬葉集、一「長歌」[illegible]

みつ‐ゆしゅつ (名) ［密輸出］ (輸ハ正音シュ、慣用音ユ)禁令ヲ犯シテ、窃ニ貨物ヲ輸出スルコト。密輸入ニ對ス。

みつ‐ゆにふ（ミツユニュウ） (名) ［密輸入］ (前條ヲ見ヨ)禁令ヲ犯シテ、窃ニ貨物ヲ輸入スルコト。(密輸出ニ對ス)

みつ‐ゆび (名) ［三指］ 三ツノ指。又、大指、人差指、中指ヲツクコト。[illegible]「三ツ指ツキテ申シケルハ」京童跡追、四、元日「ツク指モ、三ツノハジメノ、禮儀カナ」

み‐づら（ミズラ） (名) ［[illegible]］「耳鬘ノ約、或ハ両鬘ノ轉カ」上代ニ、男子十七八歳以上ノ髪風、[illegible]頭上ノ中央ヨリ左右ニ分ケ、各一束シテ、両耳邊ニ垂レテ、縮ネタルモノ。又、頭上ニテ両輪ヲ作リテ、前サマニ押垂シ、[illegible]ヲみづらニスルアリ、揚ゲテ巻ケバ、あげまきトモ云フ。両輪、雙角ノ如クナレバ、總角、角髪、角子ノ字ヲモ書ス。後ニハ、少年ノ髪風トナリ、(平安朝ニ至リテ、十四五歳ノ童子ノ髪風トナル)音便ニ、びんづらト云フ、後世ノからわ(唐輪)わげモ、其遺ナリ。(靜岡縣ニテ、大角豆ニみづらノ名ヲ云フモ、其狀ニ似タルベシ)倭名抄、三「毛髪類「鬟、美豆良、屈髪也」古事記、上「刺ニ[illegible]」[illegible]萬葉集、七「青角髪、依網ノ原ニ、人モ逢ハヌカモ、石走ル、[illegible]」[illegible]

み‐づら (名) ［見面］ 見タル容子。ミカケ。ミバ。ミエ。ミテクレ。外見。外観。

みづ‐らう（ミズロウ） (名) ［水牢］ (一)人ヲ囚ヘテ、水中ニ立タシオクコト。又、ソノ牢獄。[illegible]

［[illegible]］[illegible]、[illegible]、至ラズト云フコトナシ」(二)牢内ヘ水ヲ入レテ、罪人ヲシテ、晝夜共ニ、平臥セシメズ、苦マシムルコト。又、ソノ刑罰。[illegible]、水牢ト云フコトノアリシ、[illegible]

みづら‐ささげ (名) 豇豆ノ一種。莢、角髪ノ如ク、二叉ヲナシテ、空ヘ向フモノ。[illegible]、みづらト呼、西國ニテハ、フタナリトイフ」

み‐づら・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 見ルニ困難ナリ。ミニクシ。又、ミグルシ。狂言記、二千石「スハ亂舞也ナリマスルト、下座ヘ下ラシャリマスルノガ、見づらう存ジテ、致ヘマセウト存ジテ」

ミツ‐らふ（ミツロウ） (名) ［蜜蠟］ 蠟ノ一種。蜜蜂ノ巣ヨリ採ルモノ。蜜ヲシボリタル後ノ巣ヲ、沸湯ニ煮レバ、融ケテ油ノ如キモノ浮ク、コレヲスクヒトリテ、冷水中ニ入ルレバ、凝リテ成ル。再ビ煮テ固マラセタルモノハ、色、黄ヲ帶ブ、コレヲ黄[illegible]ト云ノ。又、煮テ日ニ晒セバ、色白シ、コレヲ白蠟ト云ノ。[illegible]和本草、十四[illegible]面ニ浮ブ査ナリ、黄蠟ト云」

みつ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) ［羸］ ［身やつる、ノ約］ カジク。病ミツカル。ヤツレツカル。羸痩　萬葉集、四「[illegible]」[illegible]

みつ‐れふ（ミツリョウ） (名) ［密獵］ 禁ヲ犯シテ、ヒソカニ漁獵スルコト。「[illegible]」

みつ‐わ [illegible]

みつ‐わ (名) ［密話］ 秘密ノ話。内證話。[illegible]「密話」

みづ‐わぐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ[illegible] みづはぐむ(瑞)ノ誤。其條ヲ見ヨ。

みつわさ・す・ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) みづはさすノ誤。みづはぐむ(瑞)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]さすナドノさすノ義、老人ノ腰ノカガマリ、膝マデ折レ屈シタルガ、三勾トモ云フベキ様ヲナセバ云フト見エタリ。

みづ‐わた（ミズワタ） (名) ［水綿］ かいめん(海綿)ニ同ジ。[illegible]

みつ‐わり (名) ［三割］ (一)酒樽ノ、凡ソ一斗ヲ容ルルモノ。四斗樽(今、三斗餘ヲ容ル)ヲ三分シタル意。其五升許リヲ容ルルヲ、六割トモ云フ。(二)三ツニ割ルコト。物ノ三分ノ一。「三つ割一ツ」

みつ‐ゑ（ミツエ） (名) ［御杖］ 次條ノ語ノ略。

みつゑ‐しろ (名) ［御杖代］ (大神ノ御旅行ノ御杖ノ代ノ意、大和ヨリ伊勢ニ移リマヒシ時ノ稱ヲ、後マデモ、内親王タルナリ」大神、天皇ナドノ御杖トナリテ、扶ケ奉ルモノ。轉ジテ、大神宮ノ齋王ヲ稱シ奉ル語。略シテ御杖。[illegible]「一云、天皇以二倭姫命一爲二御杖一貢二奉於天照大神一」齋内親王參入時祝詞「齋内親王波、依二恒例一氏、三

[illegible]云云」[illegible]一代[illegible]位井ト定額内親王ニ告文曰、云云、又今侍栝子内親王[illegible]祭料」明野裝束、十二、内記、賀茂齋王ト定ル「某内親王[illegible]代仕奉侍女之[illegible]」

みづを（ミズ・オ）(名) [illegible]ニ孔アル[illegible]、針孔モ是レナリト云フ」鞍ノ腹ヨリ垂リテ、鐙ヲ釣ル革ノ紐。其端ニ、孔アリテ、鐙ノ鉸具（カコ）ノ舌ヲ受ク。俗ニ、力革（チカラガハ）。倭名抄、十五[illegible]ト、逆[illegible]ト実豆緒ヲ、ヒトツニ見ル事モ、今ノ逆鞆ノ上ニハ鐙ハネドモ、古ハ一物ニアラズ、[illegible]逆鞆ニナルベシ、然ラバ力革ト云名ハ、鐙鞆ノカトスル意ナルベシ」

みづをがね（ミズ・オ・ガネ）(名) 鐙靼[illegible] かこ[illegible]鉸具ニ同ジ。ピヂョガネ。小笠原家記大雙紙「水尾金ノ下ヲバ、かくト云フナリ、又高頭トモ云フ、今ハびぢゃうがね[illegible]云云」白河[illegible]、云云、鐙ノみづをがね、馬ノオリボネ五六枚サットキレテ、矢ハ後ヘ洞リテ大地ニ立」（京師本平[illegible]）貞丈雜記、十三、馬具之部「鐙ノ、チカラガネヲ、ヒジョガネトモ、ヒドウガネトモ云ハ、アヤマリ也、本名ハ、みづをがねト云也、云云、又イヒ違タル也」

みづをくむ（ミズ・オ・クム）(句) 汲水 たゐ(甁)ニ云フ[illegible]。其條ヲ見ヨ。

みづをさ（ミズ・オサ）(名) 水長 船頭。水夫。フナ[illegible]。夫木抄、二十三、船[illegible]、巾ハフリキヌ、みづをさガ、足早小船、トマヤ葺クラン」

みて (名) 見手 〔て(人)ノ條ヲ見ヨ〕見物スル人。見ルモノ。見物人。

みて (名) 三手 (一)稻ナドヲ刈ルニ、一握ヲ一手トシ、三手ヲ以テ一把トス[illegible]ル、其掌ノ中ノ一握ナルモノ三ツ合セテ一把ト稱セリ、云云、越中ノ人ノ語リケルハ、稻一把ハ三手ヲ用ユ、云云」(二)[illegible]付、[illegible]定奉行ノ三役ノ稱。

みてい (名) 未定 イマダ定マラザルコト。又、イマダ定メザルコト。ミヂャウ。[illegible]

みていかう (名) 未定稿 イマダ十分ニ推敲ヲ[illegible]ザル草稿。

みていねん (名) 未丁年 みせいねん(未成年)ニ同ジ。

みてぐら (名) 幣 〔御手座ノ義、置座（ヤキクラ）ニ手向クル意、或ハ云フ、御持座ノ義、或ハ云フ、充座ノ義ト、イカガ〕何物ニテモ、神ニ奉ル物ノ總名。後ニ、絹帛ナドヲ、串ニ挾ミテ奉ルヲ云フ。後ニハ、紙ニモ代フ、木綿（ユフ）ノ布ノ遺ナルベシ。今ハ、紙ヲ長ク段段ニ切リタルヲ、みてぐら、又、幣帛（ヘイハク）ト云ヒ、紙ヲタタミテ、木竹ニ挾ミタルヲ、幣束（ヘイソク）、又、御幣（ゴヘイ）トモ云フ。切リタルハ、御衣ニ裁チタル意、切ラヌハ、裁タズ、タタミナガラ獻ズル意トス。ヌサ。御幣。幣束。幣帛。にぎて(幣)ノ條ヲモ見ヨ。倭名抄、十二[illegible]上、第[illegible]祝詞[illegible]色物[illegible]孫命ノ宇豆ノ幣帛（ミテグラ）ヲ稱辭竟ヘ奉ラクト宣ル」天智紀、九年、三月[illegible]云云、班幣帛（ミテグラ）中臣[illegible]」

みてぐらしろ (名) 幣代 〔御手座代。ノ義、前條ヲモ見ヨ〕みてしろ(御手代)ニ同ジ。廣田社歌合、廿五番「フル雪ノ、ユフシデカケレ[illegible]」

みてくれ (名) 見呉 [illegible]

みてけんぶん (名) 三手見分 江戸時代[illegible]三手(寺社奉行、町奉行、勘定奉行)ノ役)ノ、立會見分スルコト。

みてしろ (名) 御手代 〔御手代（ミテシロ）ノ義、御手ハ手ノ、置座ニテ、座ヲ代フル物ノ意〕代リテ、御幣ヲ手ニ取持ツコト。又、みてぐらトイフ物。ミテグラシロ。神代紀、下、四十「使太玉命以弱肩[illegible]」[illegible]ノ御幣ヲ云フ)

みてとる ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 見取 物ヲ見テ、心ニウケトル。サトル。

みてのいと (名) 御手絲 ぜんのつな(善綱)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

みてる (動) 滿 滿つ(下二)ノ口語。

みと (名) 水門 水戸 〔水ノ門ノ略〕(一)海水ノ出デ入ル戸口。又、大河ノ海ニ入ル所。其入口ヨリノ通リスヂ。ミナト。瀨戸。古事記、上、六「次生二水戸神、云云」神代紀、上[illegible]水門、[illegible]速秋津日命 土佐日記、正月、十日、夜中バカリニ、舟ヲ出シテ、阿波ノみとヲ渡ル」(二)堰（ヰゼキ）。水門（スヰモン）。倭名抄、十、門戸類「水門、美止」

みと (名) 御床 〔みハ敬語、とハ所ノ略〕御寢所。ネド。ネドコ。古事記、上[illegible]伊邪那岐命[illegible]美斗能麻具波比」同、同、[illegible]「故其八十比[illegible]」

みとあけ (名) 御戸開 〔みハ敬語〕 かいちゃう(開帳)ニ同ジ。

みとあたはす（ミト・アタワ・ス）ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) 婚 [illegible]

みとがむ ム・ムレ・ムル・メ・メ・メヨ(他動、下二) 見咎 (一)見テ咎メダテス。ミトガメ[illegible]ルワザハ、エシ給ハズ」狹衣、三、上廿「ウチウチノ[illegible]」(二)見[illegible]所アルニヤ、父モ見咎め侍レバコソ、重代ノ中ニモ、取リ分キ祕藏ノ物具ナド與ヘケメ、云云」

みとがめる (動) 見咎 前條ノ語ノ口語。

みとき (名) 見時 見ル二最モ宜シキ時。みごろ(見頃)ノ條ヲ見ヨ。

みときよく (副) 御時好 時好（ヨ）く、ノ敬語ニテ、[illegible]ノ意[illegible]上五十五「御消息、斯クナン、ト奏シ侍ベレバ、御時よく[illegible]」

みとく ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 見得 見テ了解ス。見テサトル。狹衣、三、上廿「マダハカバカシウモツヅカヌモジドモノ、イト幼ク、アサマシキサマナルハ、何トみとくべウモアラヌヲ」

みどころ (名) 見處 好シト認ムル所。[illegible]見所ガアルテ、此ノ塗顔ハタノモシイ」

みところぜめ (名) [illegible]所攻 [illegible]四十八手ノ一、[illegible]敵ノ腕[illegible]打付ケ、片手ニテ[illegible]押シ、片手ヲ足ニ掛ケ、我ガ足ヲ

敵ノ足ニ搦ミテ、押シテ行クコト。

みとおろ-ぞう (名) 三所籐 弓ヲ、三所ヅツ、籐ニテ寄セテ巻クコト。又、ソノ弓。[illegible]二染羽ノ矢負、三所籐ノ弓持」(半井本)

みとおろ-もの (名) 三所物 刀ノ目貫ト笄ト小柄トノ、三品揃ヒタルモノ。後藤ノ家彫ナドニツキテ云ノ。[illegible]刀一具之飾、而是謂三所物、不可三一物缺ス之者也」

みとおろ-もん (名) 三所紋 みつもん(三紋)ニ同ジ。

みと-さぎ (名) 〔緑鷺ノ略カ、上野國、緑野郡(今、多野郡)ナドアリ〕あをさぎ(青鷺)ナルベシ。倭名抄、十八[illegible]羽族名「蒼鷺、[illegible]風俗歌、[illegible]一、ヤレナ、[illegible]降レリ、云云、見止佐支ゾ、京ヨリ来テ、サ云フ」夫木抄、十七、水鳥「霜ムスブ、入江ノマコモ、スヱワケテ、タツみとさぎノ、コヱモサムケシ」

みとし-の-かみ (名) 御年神 〔みハ敬語、年ノ條ノ(五)ヲ見ヨ〕穀ノ神。としがみ(年神)ノ條ヲ見ヨ。

みと-ぢろ (名) 御戸代 御刀代 〔御稲代ノ約、とし(年)ノ條ノ(五)ヲ見ヨ、或ハ云フ、民戸、即チ、神戸ノ義〕神ノ御稲ヲ作ル料ノ田。轉ジテ、みたぢろ。神田[illegible]神田、ミトシロ」[illegible]能御刀代乎始氏」[illegible]之」持統紀、四年正月「増二神戸田地一」續紀、十七、天下勝實元年四月、宣命「[illegible]御戸代奉利」風雅集、十五、雜、上「タカケテ、今日コソ急ゲ、早苗トル、みとぢろ小田ノ、神ノ宮人」

み-とど・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 見屆 憶ニ見認ム。終ルマデ確ト見ル。行末マデ見極ム。検視 [illegible]

品第十三「上杉家ノ大事也ト見届、又聞クコトアリ」[illegible]

みとどけ (名) 見屆 ミトドクルコト。

みとど・ける (動) 見屆 前前條ノ語ノ口語。

みと-の-まぐはひ (名) 〔みとハ御床、其條ヲ見ヨ〕まぐはひ(遘合)ノ條ヲ見ヨ。

みと-びらき (名) 御戸開 〔みハ敬語〕神佛ノ御前ノ御扉ヲ開クコト。御開帳。夫木抄、七、菖蒲「ミヅガキヤ、五月ノ今日ノ、みとびらき、[illegible]ヘナツカシ」

みと-ほし (名) 見通 [illegible]ミトホスコト。[illegible]ミスカスコト。透見 洞見 [illegible]八、[illegible]中門ノワタリ、ヒンガシノ[illegible]ツマトナドノ、みとほしニ、サルベキ隨身ナドノ見ヤラルルニ(二)未然ヲ察スルコト。先見 洞察 狂言記、[illegible]イヤ其儀ナラバ、[illegible]持タズ、神佛ハ見透シ、コレカラ下向致ゾ」

み-とほ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 見通 (一)〔先マデ一目ニ見ル。クマナク見ワタス。洞見 源、三、空蟬「ヒマミユルニヨリテ、西ザマニみ通し給へバ」(二)豫メ未然ヲ察ス。先見 最明寺殿百人上臈(元祿、近松作)上[illegible]御疑ヒモ晴レ中サント、見通す如ク述ベラルレバ」

みと-ぼり (名) 水戸彫 元ト、常陸國、水戸ノ彫金工、明石與太夫ノ彫刻法。又、ソノ彫刻物。古今金工便覽、下「水戸彫」注「水戸彫ハ、古キハ掘[illegible]彫モ、パラユム、今ハ斜子ヲマキ、江戸彫ヲウツシ出ス」

み-と・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 認 〔見尋む、ノ義〕(一)見テ尋ネ得。憶ニ見定ム。見キハム。ミトメル。好色一代

女[illegible]ハ一めシニ、皆皆逢ヒ馴レシ人ノ姿ニ、思ヒ當ラヌハ一人モナシ」(二)見テヨシトス。ユルス。

みとむ-な・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) みとむなし[illegible]狂[illegible]見ごむない奴メカ行キ居ル事ナ」

みとめ (名) 認 (一)ミトムルコト。憶ニ見定ムルコト。(二)次條ノ語ノ略。

みとめ-いん (名) 認印 苗字ナドヲ彫リテ、[illegible]ナラザル事項ニ使用スル印形。又、書類ヲ閲シタル時ナド、シルシニ押ス印。(實印ナドニ對ス)略シテ、みとめ。検印。

みと・める (動) 認 みとむ(認)ノ口語。好色一代女[illegible]中ヲ目[illegible]立上リヌル[illegible]ナク」

みども (代) 身共 自稱ノ代名詞。シク下輩ニ用ヰル。ワレラ。狂言記、[illegible]「イヤ、身共ハ[illegible]コトテオリヤル」同、武惡「夫ハ身共ガヨキヤウニ申上ル」

み-ども-な・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 〔見たうも無し、ノ約〕(一)見ルヲ欲セズ。ミトムナシ。見タクモナシ。生玉心中(正德、近松作)上「取テ[illegible]退ケ、コレどもない、ずか、シャレ」(二)人目ニ恥ヅベシ。外聞惡シ。ミットモナシ。[illegible]近松作[illegible]「ドウヤラ犬ノ様デ、見ともない、ドリャ放シテ取ラセフ」

み-とらし (名) 御執 〔手ニ執らす(敬語)ノ意〕弓ノ敬語。即チ、天皇ノ大御手ニ取リタマフ弓。大御執。オホミタラシ。オンタラシ。轉ジテ、ミタラシ。(御執ノ條、參見セヨ) 御弓 萬葉集、一、長歌「御執ノ、梓ノ弓ノ、中弭ノ、音スナリ」

み-とり (名) 見取 (一)見テ知ルコト。

[illegible]「見どり[illegible]」(三)父母ノ機嫌ヲ伺フコト。[illegible]上、[illegible]定ムルコト[illegible]下[illegible]

みどり (名) [illegible]ヒトへ衣ノ異稱、[illegible]キル、ミトリ」[illegible]ヒトへ衣、ミトリ」

みどり (名) 緑翠 〔翠鳥色ノ略轉カト云フ、或ハ、水色ノ略轉カ〕(一)〔青ト黄トノ間色〕[illegible]モエギ。ミドリイロ。萬葉集、十四「春ハモエ、[illegible]ハ緑ニ[illegible]ル[illegible]ヲワケテ、[illegible]鳴クナリ」(二)又、[illegible]ノ如キ藍色 碧 (三)松ノ嫩葉[illegible]緑色ノ殊ニ鮮ナレバ云フ。(四)黒クツヤヤシキコト。翡翠「翠ノ黒髪」

みどり-お (名) 緑兒 [illegible]萬葉集[illegible]緑ナト書リ、稚弱ニテ松ノ嫩ナドノ如キヲ云フナルベシト嫩葉ノ擬語」小兒ノ、四五歳マデノ者ノ稱 倭名抄、二[illegible]孩兒、[illegible]止利子」[illegible]上、第九[illegible]但馬國、七歳[illegible]山里人家、有ニ[illegible]女ニ[illegible]同、[illegible]葉集、三、五十「若子ノ、[illegible]モトホリ、朝タニ、ネニゾ吾カナク、君ナシニシテ」同、十六、長歌「緑子ノ、若子カ身ニハ、タラチシ、母ニ抱カエ」大寶二年御野(美濃)國戸籍「嫡子八十隣呂、年二、[illegible]」拾遺集、十一、戀、一「逢フ事ハ、片居ザリスル、みどりお

ノ、立タン月ニモ、逢ハジトヤスル」

みどりぬ [illegible]スマ夫木抄、廿四、沼「みどりぬニ、ウキタルハチス、クレナヰニ、水ニゴルナリ、設立ツナユメ」

みどりのころも (名) [illegible] 綠衣 みどり色ノ衣。[illegible] 昔、六位ノ人ノ着ル袍ノ異名。(色、綠ナレバ云フ)みどりのそでト云ノモ同ジ。[illegible] 六位、[illegible] 五凡六位以下、[illegible] 仕ノ江ノ、松ハムナシク、老ヌレド、綠の衣、脱更ヘン」

みどりのそで [illegible] 綠袖 [illegible] みどり色ノ衣ノ袖。[illegible] 前條ノ語ニ同ジ。八雲御抄、三、下、異名「六位、みどりのそで、アヲキコロモ」[illegible] 撰集、十五、雜、上「メヅフシキ、みどりの袖モ、雲ノ上ノ、花ニ色ヲフ、春ノ、シホ」

みどりのはやし (名) 綠林 〔漢書、王莽傳 [illegible] 江夏羊牧王匡等、起雲杜綠林〕トアル、其綠林ノ文字讀〕 盗人ノ異稱。りょくりん(綠林)ノ條ヲ見ヨ。海道記(源光行)「燈田山ヲトホル、此山ハ、云云、綠林ノ人ヲシキル所トモ聞ユレバ、云云、ハヤ過ギヨ、人ノ心ノヨコタ山、綠の林、カゲニカクレテ」

みどりのほら (名) 綠洞 碧洞 (一)せんとう(仙洞)ノ條ノ(一)ニ同ジ。風雅集、十五、雜、上「[illegible]深キ、みどりの洞ニ、スム月ノ、ウキ世ノ中ニ、[illegible]ハタヒニキ」 新六帖、一「[illegible]深キ、みどりの洞ハ、紅ノ、臨ノ外ナル、スミカナリケリ」 (二)せんとう(仙洞)ノ條ノ(二)ニ同ジ。 [illegible] [illegible] みどりのほら、仙洞也」 [illegible]古今集、序「みどりのほら花カウバシキ朝、玉ノミギリ風涼シキタベ」

みど・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 見取 (一)〔傍ヨリ見テ、心ニ知リ取ル。源、四、夕顔三十「[illegible]イマ見ハ、イトヨク案内みどリテ申ス」 (二)病人ヲ介抱スル。看病ス。看護ス。(三)見テ寫シ取ル。

みど・れる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 見[illegible] [illegible] 恍惚トス。ミトレル。 好色二代男 [illegible]

みど・ろ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 見蕩 前條ノ語ノ口語。[illegible]マドロシ。トロシ。ノロシ。マダルッコシ [illegible] 八、[illegible]下、コヒ[illegible]、サシ荷ニ積メル、舟ナレバ、櫓モみどろし、心セヨ波」

みどろみ [illegible] 〔水泥ノ義カ〕 塗レニ。マミレニ。「血みどろ」「汗みどろ」

みな (名) 蜷 〔水鳴ノ義、水中ニテ鳴クト云フ〕 今、にな(蜷)ト云フ。其條ヲ見ヨ。 倭名抄、十九「[illegible]河貝子、美奈」 [illegible]治字[illegible]字 [illegible] 本草和名、下「[illegible]、美奈」 [illegible] 信用ニ見、八「[illegible]奈」 萬葉集、五[illegible] 美奈ノワタ、カ黑キ髮ニ、伊都ノマカ、シモノフリケム」

みな (副) 皆成 [illegible] 〔見竝ノ略カ、又、滿竝ノ略カ〕 アル限リ殘ラズ。コトゴトク。スベテ。ミンナ。 書經、堯典篇「僉曰、[illegible]」 宋史、王安石傳「人皆謂、[illegible]」 萬葉集、廿[illegible]「アシ刈リニ、堀江漕グナル、梶ノ音ハ、大宮人ノ、未奈聞クマテニ」「皆取ル」「皆好シ」「衆皆笑フ」

みなあひ (名) 水合 〔水之會ノ轉〕 水ノ合スル處。ミヅアヒ。オチアヒ。合流 名義抄「[illegible]、ミナアヒ、アツム[illegible]、ミヅアヒ、ミナアヒ」

みなうら (名) 水占 〔水之占ノ轉〕 水ニテ吉凶ヲウラナフコト。 萬葉集、十七[illegible]「妹ニ逢ハズ、久シクナリヌ、ニギシ川、淸キ瀨ゴトニ、美奈宇良ハヘテナ」 [illegible]古、[illegible]「水占ハ石占、足占ノ類ナルベシ、[illegible]天皇ノ[illegible]ニ、天皇[illegible]ノ[illegible]ノママニ、云云、[illegible]ヲ以テ、丹生ノ川ニ沈メテ、占ヒマシシコトアリ、サル類ノ占方、古ヨリアリシナラム」トアリ)

みなか (名) 眞中 まなか(眞中)ニ同ジ。

[illegible]、[illegible]ノタカ嶺ハ」同、十四「マドホクノ、野ニモアハナム、心ナク、里ノ美奈可ニ、逢ヘル夫カモ」

みなかみ (名) [illegible] 水之神 [illegible] ヲツカサドル神。水ノ神。スヰジン。水伯 元輔集「みなかみニ、イノリカクトモ、今サラニ、タチカヘラメヤ、沖ツ白ナミ」

みなかみ (名) 水上 〔水之上ノ略轉、水下ニ對ス〕 水ノ流レノ上ノ方。カハカミ。上流 古今集、十七、雜、上「落チタギツ、瀧ノみなかみ、年ツモリ、老イニケラシナ、黑キ筋ナシ」

みながら (副) 皆 〔皆ながらノ約、ものながら、ものからト同趣〕 [illegible]限リ殘ラズ。コトゴトク。ナベテ。スベテ。又、ミナガミナ。 古今集、十七、雜、上「紫ノ、一本ユエニ、[illegible]野ノ、草ハみながら、アハレトゾ見ル」 新千載集、四、秋、上「武藏野ヤ、草ハみながら、オク露ニ、末ハルカナル、月ヲミルカナ」

みなぎは (名) 水際 〔水之際ノ轉〕 水ノホトリ。ミヅギハ。ミギハ。ナギサ。 萬葉集、廿[illegible]「[illegible]ノ川ノ、[illegible]」

みなぎら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 漲 〔みなぎるノ延〕 (一)水煙立ツ。萬葉集、七[illegible]「水霧相、沖津小島ニ、風ヲイタミ、船寄セカネツ、心ハ思ヘド」(水煙立チテ、アタリガ曇ル) (二)水勢盛ンナリ。水ノ流レハゲシク、シブキガ立ツ。[illegible]「[illegible]、行ク水ノ、アヒダモナクモ、思ホユルカモ」

みなぎ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 漲 〔水激ルノ轉カ〕 水勢盛ンニ[illegible]滿チ溢ルルバカリニナル。ミナギラフ。宇治拾遺、十四、第三條「アナタノ岸ハ、六七段バカリハ退キタルラント見ユルニ、水ノみなぎりテ、此方ザマニ來ケレハ」[illegible]

[illegible]

みなぐ [illegible] 和 [illegible] 見テ心和ラグ。見テ心ナゴム。[illegible]

みなぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 水潛 水中ニクグル。水ニモグル。カヅク。[illegible]三、沖「シタニノミ、ニホノカヨヒノ、みなくぐり、入リヌル[illegible]ハ、見ラクスクナシ」

みなくち (名) 水口 〔水之口ノ轉〕 又、みづくち。川ヲ塞キトメテ、田ヘ水ヲ引入ルル口。 物類稱呼、一、天地「水口、みなくち、(古代ヘヒク水クチ也)上總ニテ、水ノ手トイフ、越中國ニテハ、イノクチト呼、東國ニテ、水ロト稱ス」 [illegible]、廿七[illegible]ン、蛙サヘ、水ノ下ニテ、モロ聲ニ鳴ク」

みなくちがさ (名) 水口笠 水口細工ノ笠。つづらがさ(葛笠)ニ同ジ。次次條[illegible]

みなくちぎせる (名) 水口煙管 [illegible] 國ノ水口ヨリ製出スル烟管。桐ノ紋ト[illegible] 圖彙、五、幾世留張「近比、水口、坂本、團子や、コレ名物ナリ」[illegible] 云云、火皿ニ、水口ト、ホリ付ルハイカガ」

みなくちざいく (名) 水口細工 [illegible] 葛、籐ヲ、[illegible]ニ織リ作ルモノ。近江國、水口ノ產ニテ、ふぢがうり(葛行李)ト云フ。

みなくちまつり (名) 水口祭 古へ、陰暦二月、[illegible] 苗代ヲ作リ、其[illegible] 苗代水

ヲ引キ、水口ニ御幣ヲ立テ…ドシテ、…フ祭　大和…七、早苗「苗代ノ、水口まつり、イグシタテ、イソゲヤ田子ノ、テマハナクトモ」

みなくれなゐ（名）皆紅　〔端紅ナドニ對ス〕全面、紅色ナルコト。又、ソノモノ。　榮花物語、三十六、根合「皆紅ノ打ナタル擣ノ襲物ノウハギ」平家物語、十一、那須與一事「皆紅ノ扇ノ日出シタルヲ、船ノセガイニ挾ミ立テ」

みなげ（名）身投　自ラ水ニ入リテ、死スルコト。入水。投身。　宇治拾遺、…十一、第九條「桂川ニ身投ゲセンズル聖」

みなごむすび（名）蜷子結　紐ナドノ結ビ方ノ一。みなむすび（蜷結）ト同ジモノナラム。其條ヲ見ヨ。メナゴムスビ。メノコムスビ。

みなごもち（名）皆子餅　江戸時代、婚禮ノ三箇日ニ、聟、舅ノ雙方ニテ、共ニ餅ヲ搗ツセ、五百八十二五百八十ノ條、參見セヨ）ニ丸メテ、…マス…納メ、使ニ持タセヤリテ祝ヒシモノ。　…貞丈雜記「三ツ日ノ餅搗テ、聟ノ方ヨリ女房ノ里エ使者ヲ遣ベシ、…五百八十ノ小餅ヲ行器エ入、樽肴ヲ添遣也、云云、嫁ノ里ヨリモ、聟ノ方エ五百八十ノ餅、樽肴ヲ贈ル也、コレ近代ノ風俗也、…ニテ餅持參ノ使者ニ合ヤウニ遣モノ也」

みなごろし（名）鏖　〔皆殺ノ義〕一人モ餘サズ殺シ盡スコト。鏖殺（アウサツ）。　易林節用集（慶長）下「鏖ミナゴロシ、アウ」

みなし（名）看做　ミナスコト。ソレト見ルコト。見テ、ソレト假定スルコト。　源…十八、…「御指貫ノ裾マデ、…ナマメキシウ、…ノコボレ出ヅルゾ、アナガチナルみなしナルベキ」和泉式部續集「手折レドモ、ナニ…ヒ…ナグサマシ、花ハ心ノ、みなしナリケリ」

みなしがは（名）水無川　〔一〕みなせがは（一）ニ同ジ。〔二〕天ノ川。銀河。　萬葉集、十六「久方ノ、アマツシルシト、水無川、隔テテオキシ、神代シウラメシ」（古義ノ訓）

みなしがひ（名）身無貝　うつせがひ（虛貝）ノ條ノ（一）ニ同ジ。

みなしぐさ（名）紫草　むらさき（紫草）ノ異名。其條ノ（一）ヲ見ヨ。　字類抄「紫草、ミナシグサ」

みなしご（名）孤　〔身無子ノ義、身ハ親族、即チ、身寄ノ意ト云フ〕幼クテ親無キ兒。　…「孤…」名義抄「孤、ミナシコ」戶令義解「十六以下而無父曰孤也」…代集、十九、雜六「…フナ…ノ、…ニワカレシ、みなし子ノ、ウキハ我ガ身ニ、限リケル哉」

みなしごぐさ（名）白薇　〔皆白ノ義、莖葉共ニ白毛アリ、本草和名ノ之古ハ、之呂ノ訛、他書ハ、コレヲ襲フ〕ふなはら（白薇）ノ古名。其條ヲ見ヨ。　本草和名、上「白薇…之古久佐、一名…」倭名抄、廿…典藥寮式…拾遺集、九、雜、下、長歌「アサ霧ニ、心モ空ニ、マドヒソメ、みなしご草ニ、ナリシヨリ、モノ思フコトノ、葉ヲシゲミ」

みなしたふ（枕）水下經　水底ヲ經通ル魚（ウヲ）ヨリ、な（魚）ト云フ語ノ枕詞。　續紀…七年九月「美濃矢…川…モ、上ニ出テナゲク」

みなしも（名）水下　〔水之下ノ略轉、水上ニ對ス〕水ノ流レノ下ノ方。カハシモ。下流。　拾遺集、九、雜、下、長歌「山川ノ、みなしもナリシ、諸人モ、動カヌ岸ニ、マモリアゲテ」

みなしろ（名）御名代　〔みハ敬語〕なしろ（名代）ノ條ヲ見ヨ。

みなしろ（名）皆白　みのしろ…ニ同ジ。…ノ條ヲ見ヨ。

みな・す・さ・セ・サ・シ・セ（他動、四）看做　…作、做共ニ、…佐ナリ〕見テ、夫レト心得。假ニ、ソレト見ル。　萬葉集、四「…ヲ…レル日ヲ…ニ日…、…ラシツ、干ス人ナシニ」「花ヲ雪ト看做す」

みなすゐしやう（名）皆水晶　悉ク水晶ナルコト。全部水晶ナルコト。　平家物語、三、御產事「皆水晶ノ御數珠ヲ…マセ給ヘバ、…平安ノ…ナラズ、…ニ…ソ…シケレ」

みなせがは（名）水無瀨川　〔水無川ノ轉、又、上部ニ水ナク、沙ノ下ヲ水ノ流レ通ノ川〕…水無川ノ…ヲ見セヨ）　萬葉集、十一〔五十四〕「ウラブレテ、物ハ思ハジ、水無瀨川、アリテモ水ハ、行クチフモノヲ」（古義ノ訓）同、同〔三十四〕「コトトクハ、中ハヨドマセ、水無河、タユトフコトヲ、アリコスナユメ」…古今集、十五、戀、五「みなせ川、アリテ行ク水、ナクバコソ、ツヒニ我身ヲ、絶エヌト思ハメ」

みなせがは（枕）水無瀨川　〔語意、前條ノ語ノ如シ〕下ト云フ語ニ冠ラスル枕詞。　萬葉集、四「…ヒニモゾ、人ハ死ニスル、水無瀨河、下ユ吾痩ス、月ニ日ニケニ」古今集、十二、戀、二「コトニ出デテ、言ハヌバカリゾ、みなせ川、下ニカヨヒテ、コヒシキモノヲ」

みなそこ（名）水底　〔水之底ノ轉〕水ノ底。ミヅソコ。　萬葉集、廿「…、…奈曾己深ク、思ヒツツ、裳ヒキナラシシ、菅原ノ里」催馬樂、…己霧リテ、ハレ、其…エズ」

みなそこふ（枕）水底經　水底ヲ經通フ魚（ウヲ）ノ…ト云フ語ニ冠ラスル枕詞。　仁德紀、十六年七月「桑田玖賀媛、云云、何彼…其歌曰、…臣ノ少女ヲ、…ハム」

みなそそぐ（枕）水注　水灑　なニ（魚）、又、…ハ、…

みなづき（名）六月　〔田水ノ月ノ意ト、…〕（睦月）ノ條ヲ見ヨ〕陰曆、六月ノ一稱。　字類抄「六月、ミナヅキ」萬葉集、…六月ノ、…ヘサケ…

みなづきばらへ（名）六月祓　なごし（夏越）ノ條ヲ見ヨ。　小右記、寬弘二、六月廿八日…六月祓…　徒然草、第十九段「六月ノ頃、云云、六月祓マタヲカシ」

みなづきゑ（名）六月會　…六月四日、比叡山延暦寺ニテ行フ…法會…

みなつほ（名）泡　〔水之粒ノ轉〕水ノ泡。ミナワ。ミツボ。泡沫。　名義抄「泡、…ナツホ、…ナツホ、ミツホ」

みなと（名）水門　水戶　〔水之門ノ轉〕河海ノ水ノ流ルル戶口。水門。瀨戶。潮瀨。又、海上ノ船ノ通路。　齊明紀、四年十月「潮瀨（ミナト）ノ、潮ノ下リ、海下リ、ウシロモクレニ、オキテカユカム」古今集、五、秋、下「モミヂ葉ノ、流レテトマル、みなとニハ、クレナヰ深キ、波ヤ立ツラム」（立田川ノ歌）「速吸門」「岡水門」

みなと（名）湊　港　〔字彙「湊、水會也」〕說文「湊、水上人所會也」前條ノ語意ニ同ジ、船、多クハ河、海ノ交ニ泊ツレバ、名ヲ專ラニス〕河水ノ海ニ入リ、船ノ泊ル處。又、海ノ、陸ニ入リ込ミテ、船ノ、風浪ヲ避ケ碇泊スベキ處。又、船ノ

行キハツル處。[illegible]抄、一「湊[illegible]、水上人所」會也、三奈止」 神功紀[illegible]ケバ、近江ノ海、八十ノ湊ニ、鶴多ニ鳴ク」

みなといで [illegible] 港出 「港入ニ對ス」 船舶ノ港ヲ出ヅルコト。[illegible] 新古今集 [illegible] メグリアフ、月ノ、[illegible]ニ、オヒテモ涼シ、天ノ川風」

みなといり (名) 港入 「港出ニ對ス」 船舶ノ港ニ入ルコト。入津。入港。進港。 萬葉集、十一 廿七「湊入ノ、葦ワケ小舟、サハリオホミ、吾ガオモフ君ニ、アハヌコロカモ」

みなとかぜ (名) 港風 港ニ吹キ來ル風。 萬葉集、十七 廿「[illegible]吹クラシ、奈呉ノ江ニ、妻呼ビカハシ、鶴サハニナク」

みなとがみ (名) 湊紙 モト、和泉國、湊ノ地ニ產ズル宿紙。紙譜、雜紙[illegible]

みなとだ (名) 湊田 湊ニアル田。 神樂歌、湊田「湊田ニ、鵠(クグセ)八ツ居リヤ、トロチナヤ」

みながら (副) 皆乍 みなから(皆)ニ同ジ。 源、五十一、蜻蛉 九「ケ近ウツカヒ給ヒシ御テウドドモ、みなながら、云云」

みなぬか (名) 三七日 人ノ死後、二十一日ノ稱。サンシチニチ。 [illegible]九、哀傷「モノ申シケルヲンナ身マカリテ、三七日許リニナリケルニ、カノ家ニツカハシケル」

みなのしゅ (名) 皆衆 人、みなのしゅう。 [illegible] 近松

みなのわた (枕) 蜷腸 「蜷ノ腸ハ、黑ケレバ云フト云フ」か黑しト云フ語ノ枕

[illegible]

みなは (名) 水[illegible] [illegible]ケテ、[illegible]ヲ上ゲ下ゲスル繩。綜纜 綜母

みなひと (名) 皆人 スベテノ人。アラユル人。萬人 衆 萬葉集、二十「我ハモヤ、安見兒エタリ、皆人ノ、得ガテニストフ、安見兒得タリ」 源、一、桐壺 七「御ゾタテマツリカヘテ、オリテ拜シ奉リ給フサマニ、みな人ナミダオトシ給フ」

みのふ (名) 未納 イマダ納メヌコト。

みなほす (自動、四) 見直 病氣、又ハ、景氣ナド、少シ好クナル。ヨキ方ニ向フ。「病見直す」「景氣ガ多少見直す」

みなほす (他動、四) 見直 見テ改ヘナホス。改メテ見ル。見テ正ス。 源、二、帚木 廿二「アルマジキ我タノミニテ、みなほし給フノチセモヤト、思ヒ給ヘナグサメマシヲ」

みなまた (名) 水派 「水之又ノ轉」 水ノ分レテ流ルル處。水流ノ分岐スル處 名義抄「派、ミナマタ」 字鏡[illegible]

みなみ (名) 南 [illegible]皆見[illegible]テ、日光明カナル意ト云ヒ、北ハ暗黑ノ意ナラム、易經、說卦「離也者明也、萬物皆相見、南方之卦也」北方ヲ玄武ト云フ、黑龜ノ義、冬ヲ玄冬ト云フモ、色ニ配スレバ、北ハ黑ナリ、倭名抄、十六[illegible]「人ハカル、心ノ隈ハ、きたなくテ、清キ渚ヲ、イカデ過ギケン」トモアリ、又、北[illegible]日本海ヲ[illegible]

[illegible]

みなみおもて (名) 南面 ミナミ、南ヘ向ヘル方。又、ミナミムキノ正殿。 榮花物語、一、月宴「ヤガテヨビ入レ奉ラセ給ヒテ、南面ノ日ノ御座ノ方ニ、カシヅキスヱ奉ラセ給フ」

みなみかぜ (名) 南風 略シテ、みなみ。南方ヨリ吹キ來ル風。ナンプウ。 [illegible]日記「[illegible]ニサシ渡シタルヒタ柄ノ[illegible]、みなみ風フケバ北ニナビキ、北風フケバ南ニナビキ」

みなみかた (名) 南方 (一)南ノ方角。(二)[illegible]ナンパウ。(三)南朝ノ稱(南北朝ノ頃)ナンパウ。あんぼくてう(南北朝)ノ條ヲ見ヨ。 南部文書、正平十七年正月十八日「みなみかたノ[illegible]ヒ候程ニ」

みなみどの (名) 南殿 (一)〔ミナミムキノ殿舍。ミナミノオトド。ミナミオモテ。ナンデン、 榮花物語、廿二、鳥舞「御堂[illegible]セ給ヒテ、年頃ツクリ・ガカセ給ヒツル御佛、南殿ヨリワタシ奉ラセ給フ」(二)南六波羅探題ノ敬稱 南方(鎌倉時代)是レニ對シテ、北六波羅探題ヲ北殿ト云フ。ろくはらたんだい(六波羅探題)ノ條ヲモ見ヨ。

みなみのおとど (名) 南大殿 前條ノ語ノ(一)ニ同ジ。 宇津保物語、田鶴村鳥 廿「南のおとど、元ノゴト女御ノ君ノ御方ナリ」

みなみまつり (名) 南祭 「北祭ニ對ス」 陰曆三月午ノ日(午ノ日ニツアル年ハ、中ノ午ノ日、三ツアル年ハ、下ノ午ノ日)ニ、山城國、石淸水八幡宮ニテ行ハ

ルル[illegible]

みなみむき (名) 南向 (一)南方ニ向クコト。又、ソノ向キタルモノ。南面。又、南ノ方向。南ノ方位。(二)俗ノ隱語。魚ヲ食フコト。之レニ對シテ、女犯ヲ北向ト云フ。(新吉原ハ、北ニアレバ云フ) 甲子夜話(文政、松浦清)八「大岡越前守ハ名奉ノ町奉行ナリ、云云、町ヨリ[illegible]ヲ、其最寄寺院ノ女犯ノ僧スルトテ訴ヘ出シアリ、是モ白洲ニテ、其方ハ南向カ北向カト尋ケルニ、南向ニ候ト答ケレバ、[illegible]ヤレゾ、北向[illegible]ゾ、[illegible]捨テ、起テ入リケル、後ニ與力、何事ナリヤト問シカバ、[illegible]コトナリ、北向トハ、女犯ノコトナリトゾ」

みなむしろ (名) 水筵 [illegible]水底、[illegible]テ、浪ノ織リシク、谷川ノ、みなむしろニモ、月ゾスミケル」

みなむすび (名) 蜷結 [illegible]紐ノ花結ノ名。蜷結ノ如クシテ、長ク小サク結ブモノ。 徒然草、第百五十九段「みなむすびト云フハ、[illegible]結ビ重ネタルガ、蜷ト云フ貝ニ似タレバ云フ」

みなもと (名) 源 「水之本ノ轉」 (一)川水ノ流レ出ヅルモト。水源 [illegible] (二)物事ノ起リ始マル本 [illegible] モ、みなもとハ田舍ヲコソ親メルニ」

みならす [illegible] 見馴 常ニ目ニ觸レシメテ馴ラス。履見ラス。 源、廿、朝顏 廿「クハシキオンアリサマヲ、みならし奉リシコトハ、ナカリシカド」

みならひ (名) [見習] (一)[ミナラフコト。見取リテ學ブコト。[illegible]十七段「見ならひスルモノ、アクビ、チゴドモ、ナマケシカラヌエセモノ」 (二)業務ナドノ、實地ヲ練習スルコト。又、ソノモノ。譜代家督[illegible]、安政二卯年九月、家督[illegible]見習[illegible]上ニ向、[illegible]云云」

みなら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) [見習] (一)傍ヨリ見テナラフ。見取リテオボム。[illegible]十五、[illegible]主ノ御作ニ自宮スレ、[illegible]」 (二)[みなれる(見馴)ノ延。見ナレル。源、四、夕顏「みならひ給ハヌスマヰノサマモ、メヅラシキニ」

みなり (名) [身形] (一)[衣服ヲ着ケタル姿。ヨソホヒ。又、スガタ。源、五十一、蜻蛉「女ノ御身なりノ、メデタカリシニモ劣ラズ、白ク清ラニテ」 (二)[illegible]シテ、衣類ノ稱。

みな・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [見馴] 屢見テ目ニ馴ル。ミナレル。メナル。延シテ、みならふ。宇津保物語、[illegible]「カクテ近ク見なるるママニ、[illegible]ルベキモアラズ」 源、二、帚木「[illegible]憚リ時チテミサヲニモテツケテ、みなるるママニ、心モケシウハアラズ侍リシカド」 同、六、末摘花「我ガカウ見なれケルハ」

みな・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [水馴] 水ニ浸リ馴ル。ミナレル。和泉式部集「鳴鳥ノ、下ノ心ハ、イカナレヤ、みなるる水ノ、上ゾツレナキ」 月[illegible]集、十一「鳴海潟、岩根ニ寄スル、浪ノ音ニ、みなれナガラモ、立ツ千鳥カナ」

みな・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [身馴] カラダニ馴ル。身ニ着馴ル。ミナレル。「身馴れシ衣」

みなる・かね (名) [巳成金] [辨天ノ使ヲ蛇トス] 辨天ノ社ヨリ、一月初巳ノ日ニ出ス守札。同時ニ、黄布ニテ作レル財布ヲモ出ス。其日、巳成金ハ、寶成ル金ノ義ニテ、其日、金銀、錢ホヤ、寶ニ包ミテ封ジナケバ、富ミ榮ユルトテ、ナスコトナリト云フ。[illegible]本ニ、巳成金トカサナレル日ニ、金銀、寶貨ヲ、紙ニ包ミ封ジナケバ、富レトテスル事也、巳ノ日ニ、[illegible]段ナルコトアル日ハ、金ノ事ナリ」

みなれ・がほ (名) [見馴顏] 見馴レタルラシキカホツキ。又、見馴レタル容子ヲスルコト。[illegible]「ムカシワガ、アツメシモノヲ、思ヒ出テ、みなれ顏ニモ、來ルホタルカナ」

みなれ・ぎ (名) [水馴木] 水ニ浸リ馴レタル木。[illegible]二、シホヤク[illegible]ノ[illegible]コリハ、[illegible]ノ[illegible]、モノヲコソ思ヘ」

みなれ・ごろも (名) [身馴衣] 身ニ着馴レタル衣。又、身ニ觸レタル衣。源、十五、蓬生「カスミニソヘタマフベキみなれごろもモ、シホナレタレバ、トシ經ヌルシルシ見せ給ヘ、キモノナクテ、我御グシノオチタリケルヲ、云云」

みなれ・ざを (名) [水馴棹] 水ニ馴レタル棹。ミサヲ。拾遺集、十一、戀、一「大井川、下ス筏ノ、水馴棹、ミナレヌ人モ、コヒシカリケリ」

みな・れる (動) みなる(見馴、水馴、身馴)ノ口語。

みな・わ (名) [水泡] [水之泡ノ略轉] ミヅノアワ。ミツボ。アブク。又、ハカナキコトニ喩ヘテ云フ語。泡沫。萬葉集、五「水沫ナス、モロキ命モ、タクナハノ、千尋ニモガト、ネガヒクラシツ」 同、十一「此ノ川ニ、水阿和逆巻キ、行ク水ノ、コトカヘサズゾ、思ヒソメテシ」(古語ノ訓) 新年祭祝詞「手肱ニ水沫カキタリ」

みな・わた (名) [脊腸 背腸] [身之腸ノ義カト云フ] せわた(脊腸)ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、十六、魚鳥類「背腸、美奈和太」 內膳司式「越後國、鮭兒、氷頭、脊腸、各四壺[illegible]別一斗」

みにお・ふ (動) [身ニ負] (一)[illegible]はぬ、ナゲキコリ積ミ、山人ノ、アフコヲイツト、ナクナクゾフル」 (二)身ニ相應ス。フサフ。[illegible]身ニおはぬ、[illegible]、ヌケガラノ、蟬ノヲリハヘ、アリトヤハ見ル」

みにく (名) [見惡] [みにくしノ語根] ミニクキコト。[illegible] 萬葉集、三「アナ醜、賢ラヲスト、酒飮マヌ、人ヲヨク見バ、猿ニカモ似ム」(古事ノ訓)

みにく・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) [見惡] (一)[目ニ見テ嫌ハシ。容貌惡シ。醜。[illegible] (二)[illegible]見分ケ難シ。見ルニ[illegible]ナラズ。明カニ見ルヲ得ズ。

みにく・やか・さ (副) [醜] 見ニクキ狀ニ。[illegible]ミニククミメワロク。源、五十、[illegible]親モイトコヒシク、例ハコトニ思ヒ出デヌハラカラノ、みにくやかなるモコヒシ」

みにへ (名) [御贄] [みハ敬語、にへハ(贄)ノ條ヲ見ヨ] 昔、國國ヨリ奉ル種種ノ土産ノ貢物。又、大苞苴。供御ノ御饌ニモ云フ。內膳司式「諸國貢進御贄」 允恭紀、廿四年六月「御膳羹汁、凝以作」氷」

みぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) [見拔] (一)[奧底マデ、ミトホス。ミスカス。洞見。洞察。[illegible]物語、十六、本生「アサマシウ、目モ及バズコソ、見ぬき給ヒツレ」(古寫本) (二)委シク善ク見取ル。覽。

みぬぐひ (名) [身拭] (一)身體ヲ拭ヒ清ムルコト。(二)釋迦ノ像ヲ拭フコト。(三月十九日ニ) コレ山城國、嵯峨ノ清涼寺ノ釋迦像ナルハ、後高倉院ノ姫宮、安嘉門院ノ、御母ノタメニ行ハレタルヨリ云フト。オミヌグヒ。二水記、永正元年三月十九日「今日、於嵯峨釋迦御身拭参詣」

みぬけ (名) [身拔] (一)[illegible] (二)一身ノ[illegible]

みぬま (名) [水沼] 水ノ湛ヘタル沼。水[illegible]萬葉集、十[illegible]八、[illegible]ニシマセバ、ミヅ鳥ノ、スダク水沼ヲ、都トナシツ」

みね (名) [峯] [みハ發語、ねハ嶺ナリ] (一)[嶺、頂チ、山ノ高ク尖レル處。[illegible]年ニハヒタル、玉カヅラ、タエムノ心、吾ガモハナクニ」 (二)[物ノ高マリタル部分。[illegible]物語、[illegible]「コノ中イヌヅシナル所ハ、耳ノハタ、鼻ノみねナリケリ」 (三)刀ノ刃ノ背。ムネ。刀背。[illegible]、十八、[illegible]「太刀ノみねニテ、左ノ肩ヲ[illegible]テ、シタタカニ打タリ」 (四)[illegible]ノ背。

みね (名) [哀] [觀哭ノ義] 殯葬ノ狀ヲ視テ泣クコト。又、御葬事ノ時ニ、聲立テテ泣キマヰラスルコト。又、ソノ式。孝德紀、大化五年三月「諸公卿悉隨哀哭」 舒明紀、四年五月「天皇時時唱而悲哭」 天武紀、下、七年四月「天皇臨之、降恩以發哀」(十市皇女ノ御葬ニ)

みね (名) [哭] 哀シキ聲ヲ立テテ泣クコト。允恭紀、四十二年正月「泊於對馬而大哭」

みね・いり (名) [峯入] おほみねいり(大峯入)ノ條ヲ見ヨ。謡曲、谷行「ゲニゲニ峯入トヤランハ、大事ノ行トコソ承リテ候ヘ」

みねうち (名) 【鎬打】 又、むねうち。相手ヲ刀ノ鎬ニテ打ツコト。

みねうつり (名) 【峯移】 峯ヨリ峯ニ傳ハルコト。[illegible]大木抄、九、夕立「イツノマニ、峯うつりシテ、過ギヌラン、ヒトムラ雨ノ、ユフダチノ雲」

みねおえ (名) 【峯越】 又、みねおし。峯ノ彼方ヨリ此方ヘ越ルコト。

みねおし (名) 峯越ニ同ジ。[illegible]六[illegible]みねおしノ、[illegible]ノ、ツナヨワミ、アガラデステシ、名コソヲシケレ」

みねたてまつ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【擧哀】〔みハ親ナリ、ねハ哭ニ泣クナドノねナリ〕哀ミ泣キ奉ル。みね(哀)ノ條、参見セヨ。欽明紀、三十二年八月「擧哀(ミネタテマツル)」[illegible]云、[illegible]喪服ニ三[illegible]哀、向東稽首」

みねばり (名) 樹ノ名。をのをれ(斧折)ニ同ジ。

みねべ (名) 【峯邊】 ミネノホトリ。又、ミネノアタリ。[illegible]萬葉集、十[illegible]延ヘル、玉葛、ハヘテシアフバ、ーシニヂズトモ」

みねま・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 【御寐座】 ぬ(寐)ノ敬語、ネタマフ。[illegible]「何其熟睡云云」古事記、中(神武)「一宿御寐坐也」同、中(垂仁)[illegible]也」

みの (名) 【眩】 みけ(眩)ノ條ヲ見ヨ。

みの (名) 【簑】〔身擔ノ轉ナリト云フ、簑ハ借字〕茅、菅、ナドノ莖葉ヲ製キテ、雨雪ヲ禦グ為ニ作レルモノ。葉ノ末、亂髪ノ如ク垂ル。故ニ、表ヘ細絲ノ網ヲ張リ、風吹ニハ着テ、簑ノ毛ノ吹キ散ラヌヤウニナスモアリ。又、蓑、又ハ、みおニテモ作ル。倭名抄、十四[illegible]萬葉集、十二「久方ノ、雨ノ降ル日ヲ、吾ガカドニ、簑笠キズテ、來ル人ヤ誰レ」(略解ノ訓)

みの (名) 【[illegible]】〔其己ニ似タレバ云フカト云フ〕禾本科ノ一年生草本ノ名。廢田ナドニ生ズ。苗、麥ニ似テ小サク、高サ一二尺許リ、葉ハ叢生ス。夏ノ初、葉間ニ穗ヲ抽キ、米ヲ結ブ、稗トシ、又、飯トスベシ。又、ミノゴメ。倭名抄、十七[illegible]美乃」[illegible]豆、小豆、[illegible]斗」

みの (名) 【三幅】 (一) 並幅ノ布帛ヲ三枚縫ヒ合ハセタルモノ(二幅、四幅、五幅ナドニ對ス) みのぶろ(三幅白)ノ條、参見セヨ。(二) 三幅布團ノ略。並幅ノ布帛ヲ三枚縫ヒ合ハセテ作リタル布團。芭蕉句集、秋「行ク秋ヤ、身ニ引キマトフ、みの布團」

みのいち (名) 【簑市】 モト、江戸ノ淺草觀音境内ニ、十二月十九日(年ノ市ノ翌日)ニ、簑、笠等ノ農具ヲ賣リシ市。[illegible]云云、淺草觀化、[illegible]簑ハ古來ヨリ有ナリ、云云、淺草寺、十二月十七八日市有、川向牛島ニ簑市、古來ヨリ有コトナリ」[illegible]冬、十二月十九日、淺草寺[illegible]門前簑市」同、春、三月十九日、淺草寺[illegible]簑市[illegible]近郷ヨリ、みのヲ多ク持出デ、此所ニテ商フ、[illegible]ハザル外ハ、十八日ニ市立ツ」

みのうへ (名) 【身上】 (一) 己レガ身ニ係ハリタルコト。萬葉集、五、長歌「老イニテアル、我ガ身上ニ、病ヲラ、加ヘテアレバ」(略解ノ訓、身上ヲ見ヨ」 (二) 人ノ此世ニアル間ノ運命。「身上ヲ占フ」

みのがし (名) 【見逃】 見ナガラ免スコト。

[illegible]ナレバ、見逃シニハ成リ中サヌト、武帝ニイヘバ」

みのが・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 【見逃】 見ナガラ其ママ棄テ置ク。見テ咎メズ。[illegible]

みのかは (名) 【身皮】 身ニ着タル衣裳。[illegible]池邊ニ浪(年イ)人シテ、アル程ノ身の皮ヲ、日算用スマシヌ」心中刃[illegible]二兩二分ハ、みのかは剝イテモ請ヘマシ」

みのがひ (名) 【簑貝】〔殼ノ形、簑ニ似ルガ故ニ云フ〕貝ノ一種。殼ハ長サ三寸七八分、略、三角形、覆瓦狀ノ如キ放射肋アリ、肋上ニ鱗ノ如キ突起[illegible]突起シ、殼ノ表裏共、白シ。安房、相模、紀伊、九州ナドノ海ニ産ズ。

みのがみ (名) 【美濃紙】 本名、[illegible]又、直紙。武儀紙、[illegible]武儀郡ノ諸村ヨリ出スモノ、最モ佳ナレバ名アリ。厚ク強ク、蟲喰ノ害無ク、文書ヲ寫シ、書狀ヲ包ミ、障子ヲ張ルナド、用多シ。今昔物語、十四、第四十四語「持チ集メタル物ハ、云云、美濃紙[illegible]」[illegible]日録、長享二年[illegible]月十七日「次[illegible]上物、美濃紙三十帖」

みのがめ (名) 【[illegible]】 常ノ龜ノ、年老イテ、甲ニ毛ノ如キ綠苔ノ着キテ、水中ヲ行ケバ、後ニ靡キテ簑ノ狀ヲナスモノ。常ニ畫キテ、祝賀ノ象トス。綠毛龜 和漢三才圖會、四十六、龜類「綠毛龜、ミノカメ」

みのがらか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 【見逃】 みのがす(見逃)ニ同ジ。史記抄(文明)十五「大ナル罪ヲモ、小小みのがらかし、闕ノガラカスゾ」

みのぐさ (名) 【簑草】〔簑ニ作ル草ノ意カ〕(一) ささめ(細小妻)ノ一名。名義抄「露草、ササメ、ミノグサ」[illegible]ものへいきし道に雨のふりしかば、みのを借りてかへすとてコロ[illegible]

みのけ (名) [illegible] 又、[illegible]身ノ毛ヨダツトハ、[illegible]恐怖、くハ、非常ニ精神ノ感動シタル時ナドニ、[illegible]白山神輿登山事「一味ノ起請ヲ書、灰ニ燒テ神水ニ[illegible]」

みのけ (名) 【簑毛】 (一) 簑ノ垂レ毛。太平記、[illegible]六、人見本間抜懸事「雨ノ降ガ如クニ射ケル矢、二人ノ者共ガ鎧ニ、簑毛ノ如ニゾ立タリケル」[illegible]ノ如キ毛[illegible]ノ、河風ニ、みのけ亂レテ、鷺立テルメリ」(三) 稚ノ穗ニ用キル毛。馬ノ當歳、若クハ、二歳ノ毛ヲ用キルトゾ。

みのけだ・つ・ツ・テ・タ・チ・ツ (自動、四) 【身毛立】 全身ノ毛イヨダツ。身ノサツケダツ。トリハダタツ。アハダツ。みのけ(身毛)ノ條ヲモ見ヨ。好色一代男(天和)[illegible]ルケシキ見ルニ、身のけだ[illegible]」

みのとく (名) 【巳刻巳剋】 (一) 古ヘノ時刻ノ稱。こく(刻)、及、とき(時)ノ條ヲ見ヨ。(二) みのとき(巳時)ニ同ジ。太平記、七、[illegible]鑓ノ、マダ巳の剋ナルヲ、透間モナク召サレ」

みのおひ (名) 【身拭】 ゆかたびら(湯[illegible]

子ニ同シ [illegible]湯カタビラト申スハ上リ候」

みの-おめ (名) [蓑草] みの(蓑子)ニ同ジ。[illegible]ノゴメ、ニノゴメ [illegible]、みの、[illegible]ニ[illegible]ヨメ[illegible]毛ノ質ニ似タル故ベシ、今みのおめトモイヘリ」

みの-しろ (名) [身代] (一)人身賣買ノ代金。ミノシロキン。身價。[illegible]人ノ[illegible]レ候ハ、[illegible]ノ代[illegible]候」(二)シンダイ。家督。資財。財産。

みの-しろ (名) [蓑代] 次ニ條ノ語ノ略。[illegible]ト、思ヒナワビソ、天ノ羽衣」

みの-しろ (名) [三幅白] 白布三幅ニテ作リタル幕。轉ジテ、白布ノ幕。又、みなしろトモ云フハ、皆白ノ意ニテ、全部、白布ニテ作レル幕ヲ云フ。[illegible]九十六、[illegible]ヲみのしろトモ[illegible]アレ、白幕ニイフ事トオモヘルハ、イミジキヒガ事也、云云、みなしろノ大マクヲナゲアゲテ云云ナド見エテ、皆白ノ義也」唐錦草紙(室町時代)「白鞘巻ヲサシナガラ、みなしろノ大幕ヲ投ゲアゲテ」

みの-しろ-ころも (名) [蓑代衣] (蓑ノ代リノ衣ノ義)何ニテモ、雨雪ヲ凌ガムタメニ着ル上衣。雨衣ナリ。合羽ノ類。略シテ、蓑代。[illegible]のしろ衣、打ちきツツ、春来ニケリト、[illegible]カレヌル」

み-の-たけ (名) [身長] 又、みたけ。人ノ身ノ高サ。脊。セタケ。シンチャウ。古事記、中(景行)[illegible]「[illegible]身[illegible]」景行紀、二年三月「身長一丈」私記「美太介」

みの-て-なり (名) [蓑手形] 蓑ノ手ノ如ク、左右ニ出デハリタル形。狂言記、[illegible]「[illegible]モ、[illegible]ノ市ハ、蓑の手形ニ立ツト申スガ、

云云、サテモサテモ好イ場デゴザル」

み-の-とき (名) [巳時] (一)[又、みのこく。昔ノ時刻ニテ、[illegible]時[illegible]、今ノ午前十時ノコト。[illegible]、廿二、[illegible]四巳トイフ巳の時バカリニ、イケル心地モセデ」(二)轉ジテ、物ノ盛ニナルコト。[illegible]、五、[illegible]第十三「ヤウガマシキ人ノ、分別ヲ[illegible]へ出スハ、無分別ノみの時ナリ」(三)又、みのこく。物ノ新シキコト。(時ノ中央ナル午ノ時ヨリモ早キ意ナリト云フ)[illegible]記、十五、宇治合戰[illegible]ニ、[illegible]打、末巳の時トゾ見エシ[illegible]ノ甲、[illegible]ニ着ナシ」コレニ對シテ、古ビタル衣服ヲ、七ツさがりナドト云フ。

みの-は (名) [美濃派] 又、美濃流。俳諧ノ一派ニテ、[illegible]尾芭蕉ノ門人、美濃ノ人、各務支考ヲ祖トスルモノ。

み-の-は (名) [齊芭] つりがねさう(鐘草)ノ古名。其條ノ(一)ヲ見ヨ。本草和名、九、草類[illegible]

みの-ばこ (名) [蓑箱] 蓑ヲ納ルル具。大名ノ行列ナドニ、持タス挾箱ノ横長キモノ。我衣(文化、曳尾庵)蓑「大名ニ蓑箱アリ、然バ陣中ハ、蓑ヲ用フト見エタリ」

みの-ばり (名) [蓑貼] はねおはり(骨縛)ノ條ヲ見ヨ。

みの-ひ-の-せちゑ (名) [巳日節會] 古ヘ、大嘗祭ニテ、巳ノ日ニ行フ主基ノ節會。辰ノ日ニ悠紀ニテ行フヲ、辰日節會ト云フ。[illegible]記、嘉永元年十一月廿三日「今日巳日節會也、酉終刻、於南殿御[illegible]出御」續紀、十七、天平勝寶元年十一月「乙卯、於南藥園新宮大嘗、丙辰、宴五位巳上、丁巳宴五位巳上」

みの-ひ-の-はらへ (名) [巳日祓] 又、みのひはらひ。昔、三月上巳ノ日ニ行ハ

[illegible]

みの・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ (他動、下二) [見[illegible]] [illegible]ヤル。[illegible]、七、紅葉賀「ミカヘリタルマミ、イタウみのベタレド、目皮ハイタククロミオチイリテ」

みの-フトン (名) [三幅布團] みの(三幅)ノ條ヲ見ヨ。

みの-ぼし (名) [美濃干] [illegible]大根ノ一種ノモノヲ乾シタルモノ。美濃、[illegible]ヨリ産ズ。

み-の-むし (名) [蓑蟲] [illegible]ノ形、蓑ノ如クレバ名トス。[illegible]蟲、諸木ノ若葉、漸ク[illegible]ル時、[illegible]ノ卷ケルモノアリ、其中ニ棲ム[illegible]ヲ食ヒ、絲ヲ吐キ[illegible]作ル、[illegible]、長サ一寸許リ、捻リタル艾炷ノ如クニテ、枝ニ垂ル。蟲ハ、赤黒クシテ、[illegible]アリ、首尖リ、時ニ巣ヨリ首ヲ出シテ、若[illegible]フ、首ヲ動カス状、蓑ヲ着タル翁ノ如シトテ名アリ。成蟲ハ暗小形ノ蛾ナリ。一名、[illegible]ミムシ。木螺。結草蟲。[illegible]ミノムシ[illegible]ムシ。[illegible]、みのむし、イトアハレナリ、鬼ノ生ミケレバ、親ニ似テ、コレモオソロシキ心地ゾアラントテ、云云」[illegible]みのむしノツケル枝ニツケテ人、ウツロハヌ、花ノアタリヲ、尋ネツツ、イヲレル蟲ヲ、アハレトゾ思フ」

み-の-も (名) [水面] 又、みづのおも。水ノオモテ。[illegible]、三、[illegible]濁リナキ、みのもニ月ノ、宿ラズバ、イカテアサヂノ、數ヲシラマシ」

みのり (名) [實] ミノルコト。結實。

み-のり (名) [御法] (一)佛法ヲ敬ヒテ云フ語。又、修法ヲスルコト。[illegible]「天皇不信佛法而愛文史」紫式部日記[illegible]ナリ

[illegible]法モ」(二)のり(法)ノ敬稱。其條ノ[illegible]ヲ見ヨ[illegible]名、[illegible]、品太天皇於此山二[illegible]大[illegible]

みの-りう (名) [illegible]

[illegible]同ジ。[illegible]

[illegible]ル、今世俗、美濃流ト稱ス」

み-の・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [實] [實成ル、ノ轉ト云フ] 實、成ル。實ヲ結ブ。結實。名義抄「稔、ミノル、實、ミノル、ナル」反正紀、元年十月「[illegible]、[illegible]熟」[illegible]

み-の-わた (名) [三[illegible]] [illegible]トモ云フ。さんせう(三膲)ニ同ジ。倭名抄、三、[illegible]府[illegible]ミノワタ」

み-は (名) [枇杷] [びは(枇杷)ノ音便] びは(枇杷)ノ條ヲ見ヨ。

み-ば (名) [見場] 外目ニ見ユル状。ミエ。ミコミ。外見。外觀。「見場ガヨイ」

み-ばうおん (名) [未亡人] びばうおん(未亡人)ニ同ジ。

み-ばえ (名) [見映] 見テ映アルコト。ミバノヨキコト。ミダテアルコト。

み-ばえ (名) [實生] 訛シテ、めばえ。草木ノ、實ヨリ生エタルモノ。實生(宿根ニ生ジ、或ハ、接木セシナドニ對ス)津國女夫池(享保、近松作)四、千[illegible]オレトソナタハみはえノ菊ヨ、中ノ色香ハ、トコイ人知ラヌ」

み-はか (名) [御墓] 天皇ノ御墓。ミササギ。山陵。崇神紀、十年九月[illegible]、云云、

[illegible]御陵ツカフル、山科ノ、鏡ノ山ニ」(古言ノ訓)

みはかし (名) 御佩刀 御佩 御刀 〔みハ敬語、はかしハはかすノ名詞形、其條、及、はかし(佩刀)ノ條ヲ見ヨ〕 刀劍ノ敬語。佩キタマフ刀劍。景行紀、十二年五月「[illegible]」

みはかしを (枕) 御佩刀 〔をハの二同ジ〕 [illegible]劍ト[illegible]スル枕詞。萬葉集、十三ノ長歌「御佩乎、ツルギノ池ノ、蓮葉ニ」

みはからひ (名) 見計 ミハカラフコト。ミツクロフコト。斟酌

みはから・ふ・ハ・ヒ・ヘ・ヘ (他動、四) 見計 見テ[illegible]ル。見テ適當ニナス。ミツクロフ。斟酌 [illegible]

みはか・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 見計 タクラム。計畫ス。落窪物語、二「ソコタチノ見はかりテ[illegible]」

みはぐ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (他動、下二) 見逸 ミウシナフ。ミハグレル。はぐる(逸)ノ條ヲモ見ヨ。

みはけ (名) 不思議ナル行ヒ。奇怪ナルワザ。[illegible]

みはこう (名) 御八講 [illegible] 「法華八講會」ノ條ヲ見ヨ。

みはし (名) 御階 きざはし(階)ノ尊稱。神社、禁中ナドニ特ニ、紫宸殿ノ南階。[illegible]みはしノモトニ、ミコタチ、カンダチメツラネテ、云云」

みはつ [illegible] ザルコト。(其スデニ發シタル既發ニ對ス) [illegible]

みは・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 見果 [illegible]マデ見ル。殘ラズ見ル。ミハテル。古今集、十二、戀、二「イノチニモ、マサリテ惜シク、アルモノハ、みはてヌ夢ノ、サムルナリケリ」榮花物語、四「見はてヌ夢」

みはづ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 見外 ミオトス。ミモラス。又、ミアヤマル。ミソコナフ。太平記、三十五、北野通夜物語事「長者、五百ノ阿羅漢ニ飯ヲ引ケルガ、如何シテ見はづしタリケン、梨軍支一人ニハ不レ引ケリ」

みは・てる (動) 見果 前前條ノ語ノ口語。

みはな・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 見放 見捨ツ。從來ノ關係ヲ絶ツ。目ヲカケズ。ミハナツ。好色一代女(貞享、西鶴)一「ツトメケルウチニ、イツトナク、人我ヲ見はなし、明暮ヒマニナリテ、云云」

みはなだ (名) 水縹 みづいろ(水色)ニ同ジ。萬葉集、十六ノ長歌「水縹ノ、絹ノ帶ヲ、引帶ナス、韓帶ニトラシ」(略解ノ訓)

みはな・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (他動、四) 見放 前前條ノ語ニ同ジ。源、十、榊「親ソヒテクダリ給例モコトニナケレド、イトみはなちガタキ御アリサマナルニコトツケテ、云云」

みはば (名) 身幅 (一)身ノ横幅。「身幅廣シ」 (二)衣ノみぬろノ横幅。後(ウシロ)、前(マヘ)、共ニ四幅ナルヲ、人ノ肥瘠ニ因リテ、廣狭ヲ計リテ縫ヒ作ル。(三)轉ジテ、他人ニ對スル面目。肩身 薩摩歌(寶永、近松作)中「ゲニコトワリヤ、トテモカクモ身バカリガ、ウカウカト存命ヘ果ツル身[illegible]ナシ」

みはや・す・ス・セ・サ・シ・セ [illegible] みはやす人モナキヲ」

みはらし (名) 見晴 ナガメ、ミヤルコト。[illegible]

みはら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 見晴 晴レヤカニ廣ク四方ヲ眺ム。遠ク眺メヤル。見ハルカス。[illegible](享保、近松作)四「[illegible]セテ、見晴らしノ[illegible]モ、云云」

みはり (名) 見張 ミハルコト。見張シテ守ルコト。又、ソノ役ノモノ。[illegible]

みはる (名) 三春 [illegible] 睦月(正月)、如月(二月)、彌生(三月)ノ稱。[illegible]

みは・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 見張 (一)目ヲ開キテ見ル。目ヲ瞠ル。瞠 字類抄「[illegible]」 (二)遠ク見渡シテ守ル。見守リテ番ヲスル。ハリバンヲスル。監視

みはるか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 見霽 遙ニ見ワタス。遠ク見ヤル。見ハラス。極目 名義抄「見霽、ミハルカシ」 欽明紀、十四年十月「[illegible]」 新年[illegible]「[illegible]四方國吾」

みばれ (名) 身晴 罪ガ晴レテ、晴天白日ノ身トナルコト。國性爺合戰(正德、近松作)三「[illegible]」

みびいき (名) 身贔屓 自分ニ關係アル人ニ、特別ニ贔屓スルコト。

みひしろ (名) 御樋代 〔みハ敬語、ひし[illegible]〕 [illegible]器ニ。伊勢内宮ナルハ、御正體ヲ袋ニ包ミ[illegible]納メ[illegible]テ作ル。又、御樋代ヲ納メ奉ルモノヲ、御船代(ミフナシロ)トモ云フ。

みひたき (名) 御火焼 [illegible] 王朝ノ代、[illegible]

みひらき (名) 身開 [illegible]身ノアカリヲ立ツルコト。身ニアカリヲ立ツルコト。身ノ言ヒヒラキ。傾城五枚羽子板(寶永、近松作)中「[illegible]」

みひらき (名) 見開 [illegible] 次第ノ[illegible]

みひら・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 見開 (一)開キテ見ル。瞠 聖德太子繪傳記(享保、近松作)四「夢殿ノ外ヲモ夢ト御ラウジテ、夢モ現モ[illegible]」 (二)[illegible] 發見 (三)書ヲ見テ、奧義ナドヲ考ヘ出ス。(四)見ヤブル。見通ス。看破

みぶ (名) 御封 封戸ノ[illegible]、敬語ニ云フ語。ふご(封戸)ノ條ヲモ見ヨ。源、[illegible]

みぶ (名) 乳部 [illegible]壬生部)ノ條ヲ見ヨ。皇極紀、元年十二月「[illegible]後、勿レ使レ勞レ人、更悉聚ニ上宮乳部之民、役ニ使塋兆所ニ」(乳部、云[illegible])

みぶきやうげん (名) 壬生狂言 京都、[illegible]

[illegible]年、陰暦三月[illegible]、大念佛ヲ執行セラル[illegible]金鼓、此堂[illegible]太鼓、笛ナドノ囃子アリ、狂言師ハ面ヲ[illegible]物[illegible]ハズ)ナリ、初日ニハ、先ヅ必ズ猿の綱[illegible]化テ[illegible]見レバ、厄病ニカカラズト云ヒ傳フ。今ハ四月廿日ヨリ[illegible]十日マデ行ハレ[illegible]

[illegible]ルナリ、其中、猿ノ綱ヲ渡ル事アリ、狂言アマタアル中ニ、コレヲ最上トス」

み-ふぐし (名) 〔みハ接頭語〕 ふぐしニ同ジ。

み-ぶた (名) [illegible] 身ノフシダラ、身ノ[illegible]

み-ぶし (名) [illegible] 身體ノ關節。身ノフシブシ [illegible]心中刀[illegible]トモ心ノ[illegible]ニカ、身ぶしニフタヘ染ミワタリ、痛イ、云云」

み-ふ-す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) 見伏 見トドク、見キハム [illegible]宇治拾遺、一、第一條[illegible]事ニモアラズト、カヘスガヘス思ヒみふせテ」

み-ふだ (名) 御簡 〔みハ敬語〕 にっきふ(日給簡)ニ同ジ。常ニふだト云フ。古ヘ、侍臣ガ、殿上ニ出仕スル者ノ姓名ヲ記シタル簡 姓名ノ下ニ、當番ノ日數ヲ紙ニ書キテ貼ル。朔日毎ニ奏

スルモノ。[illegible]、十二、須磨「ツキニみふだ削ラレテ、ツカサモ取ラレテ、ハシタナケレバ[illegible]立、殿上人ノ名ヲ三段ニ註タリ、上ハ四位、中ハ五位、下ハ[illegible]紙ト云、夜ハ袋ニ入、晝ハ袋ヲ疊ミテ机ノ下ニ置」

みブツ-みャう (名) 御佛名 〔みハ敬語〕 又、おぶつみゃう。ぶつみゃう(佛名)ノ條ノ[illegible]ヲ見ヨ。名目抄[illegible]御佛名、ヲブツミャウ」

みぶ-な (名) 壬生菜 〔モト山城國、壬生ノ産、名[illegible]云フ〕 菜ノ[illegible]みづな(水菜)ニ似タレドモ、葉ハ缺刻ナクシテ、圓ツヤ[illegible]ヲナス、京阪地方ニテ、多ク栽培セラル。[illegible]「壬生菜、京ミ菲ガリ、京女房、内裡ト寺ト、細工染物、此レハ京都ノ諸國ニスグレタル物ヲ云フ」

み-ふなしろ (名) 御船代 みひしろ(御樋代)、及、ふなしろ(船代)ノ條ヲ見ヨ。

みぶ-べ (名) 壬生部 〔御産部ノ意〕 古ヘ、皇子、生レタマフ時、産殿ニ仕ヘマツル部曲ノ名。後ニ、皇族領ノ土地ノ人民トナル。壬生。乳部。ミブノタミ。[illegible]七年八月[illegible]十五年[illegible]

み-ふみ-どころ (名) 御書所 おふみどころ(御書所)ノ條ヲ見ヨ。

み-ふみ-はじめ (名) 御書始 又、御書始。ふみはじめ(書始)ノ條ヲ見ヨ。江談抄、一、公事、幼主御書始 是待三十一月[illegible]也、無三作日一年者、不被行」 榮花物語、十二、玉の村菊「今年、春宮(後一條院)七ツニナラセタマフ、長和二年トゾ云フ、御文始めノ事アリ[illegible]おどろの下「文治二年十二月一日、御ふみはじめセサセ給フ、御年七ツナリ」

み-ぶん (名) 身分 ミガラ。人ノ身ノ分際。貴賤[illegible]

み-ふゆ (名) [illegible] [illegible]月(十一月)、極月(十二月)ノ稱。サントリ。[illegible]

み-ふゆ (名) 眞冬 〔みハ接頭語〕 ふゆ(冬)ト云フニ同ジ。萬葉集、十七「民布由ツ[illegible]モナシ」新敕撰集、一、春、上「み冬ツキ、春シ來ヌレバ[illegible]カツラキ山ニ[illegible]」

みふゆ-づき (名) 三冬月 陰暦、十二月ノ異稱。[illegible]ゾト見エテ、三冬月、イソカニ積ル、雪ノノドケサ」

み-ぶり (名) 身振 身ヲ動カス[illegible]ヨ[illegible]代男[illegible]六[illegible]り、小サキ姿シテ、ソレゾレノ賢サ」

み-ぶるひ (名) 身振顫 (一)〔身ヲ打振ルコト〕身體ヲ振リ動カスコト[illegible]草子、二、第十七段「酒、云云、又飲メナド云フナルべシ、みぶるひヲシ[illegible]ラルル」 (二)恐レ、或ハ、寒サニ感ジテ、身ヲ震フコト。ワナナクコト。戰慄

み-へ (名) 三重 ミタビ重ナリタルコト。又、其モノ。[illegible]

み-へ-いつへ (名) 三重五重 古代織物ノ一種。[illegible]ノ類 女裝束ナドニ用ヰキ。[illegible]重結ブベク、吾カ身ハナリヌ[illegible]

み-へ-がさね (名) 三重襲〔三重襲〕 三重重の扇ノ略 檜扇ノ兩方ノ端ノ板ヲ、三枚重ネテ、薄様ニテ包ミタルモノ。ミヘノアフギ。枕草子、五、第四十六段「みへがさねの扇、五重ハ餘リ厚クナリテ、モトナドニクゲナリ」 [illegible]八、花宴ハ「カノシルシノ扇ハ、サクラノみへがさね[illegible]ノ兩方ノウヘ、三枚ヅツヲ、ウスヤウニテツツミテ、色色ノイトニテトヂテ、スヱヲアハビムスビニ結ビ

み-へ-だすき [illegible] 三條ノ、斜線[illegible]

み-ほ-どり (名) 鳰鳥 〔みほハ水含ノ意カ、にほハ、みな、にな、みら、にら、みぶ、にぶト同趣〕 かいつぶり(鳰)ニ同[illegible]

み-ほん [illegible]見セテ、他ハコレニ同ジト示スモノ。

み-ぼめ (名) 身褒自讃 ミヅカラホコルコト。自分デ自分ヲホムルコト。ジサン。[illegible]自讃[illegible]

み-ほ-る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 見惚 ホレボレトシテ見ル。見ホレル。ミトル。ミトレル。恍惚 [illegible]アマリナル[illegible]諾新選、春「見ほれテヤ、花ノ下ナル、忘レ杖」

み-ま [illegible]

み-ま (名) 御孫 〔みハ敬語、まハまごノ略〕 貴人ノ孫ノ尊稱。[illegible]神代紀、下[illegible]神麥[illegible]山祇神所生兒也、皇孫[illegible]

み-ま (名) 御馬 〔みハ發語〕 うま(馬)ト云フニ同ジ。古事記、上[illegible]「繫二御馬之鞍一」萬葉集、五[illegible]「人ミナノ、ウラブレヲルニ、立田山、美

[illegible]ヲバ[illegible]ノシナム[illegible]

みまう・し・キ・ケレ・ク・ク[illegible] [illegible]見[illegible]ム[illegible]見ムコト[illegible]ハシ[illegible]アダ[illegible]コソ、[illegible]ノシモマジレ、[illegible]みまうノ[illegible]シ捨テンモ、コトワリナレド、云云」

みまかせ (名) 身任 白身ノ心マカセニ[illegible]身[illegible]スルコト。自由[illegible]門松(享保、近松作)下、與次兵衛吾妻道行「勘右衛門頸捻リ、來ニ月ニ八年モ明キ、身任セニナル吾妻、[illegible]ハ、人ノ思ハク[illegible]」

みまが・ふ・ソ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 見紛 ミテ、トリチガフ。ミアヤマル。見マギレル。ミマガフル。諸藝太平記(元祿)一「横堀ニ流ルル臨柳ヲバ、西鶴ノ日ニ錦ト見まがひ」

みまが・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 見紛 前條ノ語ニ同ジ。枕草子、[illegible]、第廿四段「ちらかしナドイフモノ、云云、イヅクトモナク、雪ノ降リタルニ見まがへラレテ」

みまか・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 死 〔現世ヨリあの世ヘ身罷ル意〕死ヌ。物故ス。景行紀、五十五年二月「到春日穴咋邑、臥病而薨之」天智紀、下、十年五月「[illegible]臣卒」

みまき (名) 御牧 〔みハ敬語〕王朝時代、朝廷御用ノ牧。左右馬寮ノ所轄ナリキ。甲斐、武藏、信濃、上野ナドニ、三十二箇所モアリタリト云フ。(左右馬寮式)コレニ對シテ、諸國ノ牧(十八箇國、三十九箇所牛馬牧)ハ、兵部省ノ所轄ナリキ。(兵部省式)

みまくさ (名) 〔みハ接頭語、まくさハ眞草ノ義〕[illegible]草ノ[illegible]ハ[illegible]、異稱[illegible]化物品、十[illegible]ルリ、[illegible]モ知フレズ、[illegible]」

みまぐさ (名) 御秣 [illegible]ジ。催馬樂、飛鳥井「アスカヰニ、宿リハスベシ、オケ、[illegible]ヒモサムシ、[illegible]コシ、[illegible]ソネ、アリツツモ、君ガ來マサム、御馬草ニセム」

みまく・ほ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 欲見 見ムコトヲ欲スル[illegible]ナリ。ミガホシ。萬葉集、十一 廿八「昨日見テ、今日コソアヒダ、[illegible]ココダク[illegible]キ[illegible]カモ」

みまくほりす (句) 欲見 見ムコトヲ欲ス。[illegible]雄略紀、二十三年十月[illegible]」

みまさか (名) 美作 (一)山陽道ノ國ノ名。[illegible] (二)催馬樂ノ歌曲ノ名。催馬樂、[illegible]美作[illegible]ヤ、[illegible]ノ佐良山、サラサラニ、我ガ名ハ絶エジ、萬代マデニ」

みまさり (名) 見優 〔見劣ニ對ス〕(一)前ヨリ優リテ見ユルコト。源、九、葵 五三十「何事ニツケテモ、みまさりハカタキ世ナメルヲ」同、五十、東屋「ココナクみまさりシタルココチシ給ノニ」(二)實際見テ、想像ヨリ優リテ感ズルコト。

みまさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 見優 前ヨリ優リテ見ユ。又、見タル狀、想像ヨリスグル。[illegible]本朝[illegible]西鶴、四「[illegible]ニテ、ハジメニ見まさる美君ヲ招キ」

みまし (名) 御席 御座 貴人ナドノ坐スル處。又、其坐スルニ敷ク物。オマシ。神代紀、上「於新宮御席之下云云、日神不知、徑坐[illegible]」[illegible]ラニ[illegible]大宮人ニ、みまし[illegible]セン」

みまし (代) 汝 〔御坐ノ義、直ニ、其人ヲ指シテ云フヲ憚リテ、其居所ヲ指シテ云フナリ〕なんぢ(汝)ノ敬語。稍下シテ、いまし。次ニ、ましトモ云フ。[illegible]

みます (名) 三枡 〔枡ヲ三ツ組ミタル意〕[illegible]外[illegible]三ツ[illegible]タルモノ。卽チ、回ナリ。又、三角。俳優市川團十郎ノ紋所ナドナリ。

みまそか・り (動) 坐 いまそかり(在)ニ同ジ。オハシマス。參考伊勢物語、第七十七段「女御、タカキ子ト申ス、みまそかりケリ」(拾穗抄本、いまぞかりケリ)

みまた [illegible] 水派 又、みなまた[illegible]水ノ派ノ分[illegible]流ルル[illegible]

みまち (名) 巳待 〔巳祭ノ約ト云フ〕巳ノ日ノ夜ニ、辨財天ヲ祭ルコト。一貫[illegible]記、四、[illegible]巳待[illegible]巳ニ祭ルヲ、巳待ト云ヒ云云」[illegible]

みまな (名) 任那 〔崇神天皇ノ御宇ニ、韓國ヨリ來朝セシ使者、蘇那曷叱知ニ賜ヒシ大御名ナリ、コレ、天皇ノ御名、御間城入彥ヲ取リテ、名ヅケサセ玉ヒシナリ、みまハ任ノ音轉ニ用ヰシト〕國名。伽羅。大伽羅。又、意富加羅國。[illegible]伽羅[illegible]方ニアリシモノ。神功皇后、征討後、日本府[illegible]代(二十三年)ニ新羅ニ滅セラレテ、三韓ト共ニツニナレリ。崇神紀、六十五年七月「任[illegible]」

みまね [illegible]

みまのみこと (名) 御孫命 〔みまハ[illegible]〕[illegible]メミマノミコト。多ク祝詞ナドニ、皇祖神[illegible]

みまは・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 見廻 [illegible]四十八、[illegible]まはさル」同、十、總角「イト、モノ哀レナルケシキニ、打見まはし給ヒテ、トミニモノモ給ハズ」

みまはり (名) 見廻 [illegible]

みまは・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 見廻 見ナガラ廻ハリ歩ク。廻ハリテ警ム。[illegible]

みまひ [illegible] 見舞 [illegible]

プラフコトっ　サトナヒ　訪問　狂言[illegible]、鬢子「久シウ參ラヌ程ニ、ケフコノ子ヲ抱イテ、見舞ニマヰリマセウ[illegible]」[illegible]ノ使者トハ、今日神託ノ見舞ナラメ」(二)見廻ハルコト。巡視スルコト。狂言記、瓜盗人「其ト、最早骨ヲ[illegible]テ廻ハル程ニ、[illegible]ひハ致スマイ」(三)病狀ヲ赴キタヅヌルコト。

みま・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四)［見舞］(見廻ハル意、[illegible]ふハ、[illegible]、かまふ、たちまふ、ふるまふナドト同趣)(一)トブラフ。オトヅル。訪問　存問　(二)ミマハル。巡視スル。狂言記、花子「山ノ神ハ、見舞はナンダカ」

みまへ　(名)［御前］ごぜん(御前)ニ同ジ。ミマヘ(前)ノ條ヲモ見ヨ　續紀、四十年十月、山神[illegible]王、以化ニ白鹿、[illegible]王前ハ下翼之、將字、後ニ通持本、補)　古今集、廿、神[illegible]「[illegible]カミ垣ノ、ミムロノ山ノ、サカキ葉ハ、神ノみまへニ、茂リアヒニケリ」

みまほ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二)［欲見］みまくほし(欲見)ニ同ジ。

みまま　(名)［身儘］身ヲ思ヒノママニスルヲ得ルコト。ミマカセ。身勝手。

みまん　(名)［未滿］其數ニ滿タヌコト。定數ニ足ラヌコト。不足。「七歲未滿」

みまや　(名)　御馬屋　廐ノ敬語一　馬ヲ繋ギオク屋。廐。馬寮ノナラム　萬葉集、十五「今日モカモ、都ナリセバ、見マク欲リ、西ノ御馬屋ノ、外ニ立テラマシ」　宇津保物語、初秋「ソノみまやノ御馬ノ中ニ、仲忠ノヒトモトカナルベキ御馬、ウツシナカセテ賜ヘ」

みみ　(名)［耳］(似似ノ轉、兩耳相似ノ義)(一)頭ノ兩旁ニ出デテ、孔アリ、聽クコトヲ主ル官。倭名抄、三、耳目類「耳、美美」[illegible]、六十七年十月[illegible]、六六、百[illegible]耳[illegible]ニ、[illegible]ナド、耳ノ形シタルモノ。「鼎ノ耳」(三)針ノみづ。メド。蘊蒙抄「ハリノミミ」宇津保物語、俊蔭、上「針ノ耳、イト細カナルニ、[illegible]ノハツリヲ、イト好キ程ニスゲテ」幸若舞曲、和田酒盛「糸大ヨリモ針ヲナオロシ、大海ノ底ナル針ノ耳ヲトホスヨリモウケガタウテ」(四)織物ノ兩ノ際ノ織止メノ處　又、細工物ノ緣ヲモ云フ　字[illegible]「[illegible]、緣邊也、[illegible]耳和太利」[illegible]紗ノ耳」(五)物打聞クコト。「耳聞ル」耳ノ[illegible]「[illegible]耳[illegible]リテ」耳ニ障レ　耳ニ逆フ　辭耳」「早耳」(六)幟ナドノ乳。(草鞋ナドニモ)　耳　耳を止む、耳を立つ、耳を傾く、耳を澄ますトハ、心ヲ付ケテ聽ク。傾聽　耳に立つ、耳につく、耳に止まる、耳に入るトハ、聞ユ。　石清水物語上「耳にとまりて、見マホシクハ思ヒ聞ユレド」　小島の口すさみ「御覽ナトノ耳に立つモ多カリシカド」　耳が遠いトハ、善ク聞エズ。耳が近いトハ、敏ク聞キック。聰　耳長しトハ、聽耳ナリ。耳をそばだつトハ、氣ヲツケテ聞ク。傾聽　耳を借るトハ、耳ニ近寄リテ、ササヤク。耳を藉さずトハ、聞カズノ意。耳を揃へてトハ、金額ヲ揃ヘテ。耳が痛いトハ、聞キヅライ苦言ヲ聞ク。耳にするトハ、聞クノ意。

みみ　(名)［身身］(身ト身トニナル意)(一)分娩シテ子ヲ生ムコト。身フタツニナルコト。　盛衰記、三十八、小宰相局事「御身身トナラセ給ヒテ後、御サマヲモ替ヘ、後世ヲモ弔ヒ進セサセ給ヘ」同、同「タダ平カニ身身トナラセ給ヒテ」(二)其身其身。各人ノ身。延慶本、平家物語、一、末、成親卿北方立忍給事「逆ノ者共モ、身身ノ難ヲ捨ケレバ、各隱中テ、歸リニケリ」

みみあか　(名)［耳垢］又、みみくそ、みみかす。耳ノ孔ノ中ニ[illegible]成ル垢[illegible]カ、テイネイ、耳垢」

みみあたら・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二)［耳新］耳ニ聞クコトノアタラシ。初メテ聞ク。ハツミミナリ。

みみいと　(名)［耳絲］織物ノ耳ヲ織ルニ、[illegible]絲トシテ用ヰル絲

みみうち　(名)［耳打］耳ニ口寄セテ、低聲ニ打聞カセオクコト。耳ニツキテササヤクコト。ミミコスリ。ミミゴト。耳語

みみかき　(名)［耳掻］耳ノ孔ノ痒キヲ掻キ、或ハ、耳垢ナド抉リ取ル小サキ具。箸ノ如クニテ細ク、頭ハ杓子形ニテ圓ク前ニ反リタルモノ。([illegible]ナドニモ作リツク)ミミクジリ　消息子　耳爬子　名物六帖、三、[illegible]「耳爬、ミミカキ(鄉談)」「乞耳、ミミカキ(正音)」「耳爬仔、ミミカキ[illegible]乞耳的、ミミカキ(正音)」　[illegible]色葉集「耳[illegible]、耳[illegible]」

みみがくもん　(名)［耳學問］聞キ覺エノ學問　聞キカジリノ知識　自ラ研究シタルニアラズシテ、人ノ言フヲ聞キテ、物ヲ識ルコト。耳學　耳食　[illegible]、五十二、[illegible]耳學問、西洋人[illegible]云云、此文中ニ、耳學問ノ事アリ、渇如望ハ明ノ天啓中ニ、西洋ヨリ來レル人也」

みみかざり　(名)［耳飾］耳墜ニ裝飾品ヲツクルコト　又、其品物。

みみかしがま・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二)［耳囂］耳ニ、カシガマシ　耳ニ、カマビスシ。　源、四十四、橋姫「アジロノケハヒチカク、みみかしがましき川ノワタリニテ」

みみかしこ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一)［耳賢］[illegible]へバ、耳かしこき人、只ナラヌ唄ナリ、ソレヲト攘子[illegible]」

みみがた・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一)［耳固］聞クコト[illegible]。[illegible]「みみがたからヌ人ノタメニハ、身ニシム風モ吹キソフカシトテ、ヲシヤリ給フ」

みみがね　(名)　耳金　[illegible]ノ裝飾トシテ[illegible]ル金屬製ノ[illegible]。みみた[illegible]、耳[illegible]見[illegible]「ミミガネ」[illegible]

みみかは　(名)［耳側］耳ノ輪廓。耳廓

みみぎき　(名)［耳聞］(一)耳ニ聞込ムコト。聞クコト。(二)世間ノ噂ナドヲ聞キ探ルコト。探偵　盛衰記[illegible]ノヲコソ心得ネ、[illegible]京中ノ耳聞ノ[illegible]モ、只普通ノ道ニテアレカシ、必シモ次ヘラルル事ヨ」

みみき・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四)［耳聞］耳ニ聽ク[illegible]、十九、[illegible]「耳聞かずモノハ、エトカネドモ、元ヲタヅネテマヰリテ、凡ア聞ラカナル限リ聞キ」古今著聞集、六、[illegible]、斯ル所ニ、耳聞く者モ侍ルゾヤトテ、云云」

みみきり　(名)［刵］又、みみきる。古ヘノ刑罰ノ一。耳ヲ切ルコト。書經、康誥傳「刵ニ刵人ニ注「刵截ニ耳、刑之輕者、亦言ニ所ニ得行一」名義抄「刵、ミミキル、五刑之一也」

みみくさり　(名)［耳鏁］支那ニテ、婦人ノ耳ニ懸ケテ、飾トスル金ナドノ鏁。我ガ國ニテハ用ヰルコトナシ。倭名抄十四、服玩具「璫、釋名云、穿ニ耳施ニ珠曰ニ璫、美美久佐利」　字類抄「璫、ミミクサリ、穿ニ耳穴ニ施曰ニ璫」　字鏡集「璫、ミミクサリ」

みみくじり　(名)［耳抉］ミミカキ。茶杓ノ形シテ、頭ノ反リタルモノ。銀ニテ

作レリトオボシ。又、ミミカキ。字類抄「[illegible]ミミクシリ」字鏡[illegible]ミミクジリ」

みみくせ (名) 耳癖 聞キナレタル癖。[illegible]聞キワクベウモナク、ヒトリゴチタマフフ[illegible]ノ仕ノみみくせニ、云云」

〔**みみくそ** (名) 耳屎 みみあか(耳垢)ニ同ジ。倭名抄[illegible]耳垢[illegible]

みみぐみ (名) 耳組 織物、又ハ、筵、畳ナドノ、耳ヲ組合ハスルコト。又、ソノモノ。[illegible]代[illegible]夜[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ニ、[illegible]火ノ扶リニ、[illegible]ノ[illegible]モアリ、耳[illegible]ノ[illegible]モアリ、云云」

みみぐる・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 耳苦 聞キグルシ。聞キ、クシ。聞クニ堪ヘズ。小島の口ずさみ「當座ノイタヅラゴトハ、ナカナカみみぐるしうテ」(一本、みぐるし)

みみこすり (名) 耳擦 (一)みみうち(耳打)ニ同ジ。噺遊笑覧、九、言語「今、小聲シテササヤクヲ、耳こすりト云ヘドモ、昔ハサニアラズ」(二)アテコスリ。アテツケ。世間娘[illegible]女ノ[illegible]ハ言合ハサネ共、イヅクモ同ジコトト、内儀へみみこすりヱウテ、云云」

みみこと (名) 耳言 みみうち(耳打)ニ同ジ。壁白集、六、さがな「耳ごとスルハナゾ、イトモ心得ヌワザナンメリカシ」

みみさうだん (名) 耳相談 ミミウチシテ、談ルコト。耳談合。好色一代男、[illegible]、西鶴)一「何ノ子細モナキ事ヲ、耳相談ナドシカケ、トヤカク隙入レ立退ク」(一本、雑談ニ作ル)

みみざはり (名) 耳障 聞キテ、不快ノ感アルコト。聞クモ、イトハシキコト。

みみしひ (名) 聾 耳癡ノ義〕不具ノ名。耳官、癡ヒテ、聲ヲ聞キ得ヌコト。又、ソノ人。ツンボ。ツンパウ。ミミ

シヘ。倭名抄[illegible]ミミシヒ」字鏡六「聾聵、耳志比」

みみしへ (名) 聾 前條ノ語ニ同ジ。天治字鏡[illegible]

みみしろ (名) 耳白 (一)耳白錢ノ略、耳ノ廣キ意カ〕(一)くゎんえいせん(寛永錢)ノ條ヲ見ヨ。貨幣通考[illegible]十二年六月朔日[illegible]錢[illegible]云云、其ノ錢ハ、今所謂耳白ノ中、背ニ文字ナキモノナリ」(二)正徳四年ヨリ享保三年マデ、江戸、龜井戸ニテ鑄造セシ銅錢ノ俗稱。新[illegible]耳白錢「銅質黃色、製作精好、其背面ニ文字[illegible]但無ニ[illegible]文ハ徑八分強、重[illegible]匁、俗曰ニ耳白錢ニ」

〔**みみず** (名) 蚯蚓 〔みみハ鳴ク聲、すハきぎす、きりぎりす、もず、ナドノすト同趣〕環蟲類ノ蟲ノ名。體、圓ク細長クシテ、圓紐ノ如ク、多クノ環節ヨリ成リ、行クトキハ、身ヲ引キ屈メツ伸ベツシテ進ム。色多クハ赤シ、或ハ青白キモアリ、小サキハ分寸、大イナルハ尺ニ至ル。濕地ノ中ニ棲ミ、夜出デテ、土ヲ食ヒ、聲清ク鳴ク。(晴レタルトキニ、鳴ク聲長ク引ク。蚓笛 或ハ云フ、コレみみずニアラズ、螻ナリト)曉ニ土中ニ入ル、採リテ釣餌トス。訛シテ、めめず。歌女 赤龍 倭名抄、十九、蟲豸類「蚯蚓、美美須」本草和名、下[illegible]「白頸、蚯蚓、美美須」字鏡[illegible]蚯蚓、耳受」催馬樂、無力蝦「骨ナキ美美須」續博物志、十「蚯蚓長吟ニ地中ニ江東謂ニ之歌女ニ」菅菰抄小文庫(元祿)、「蚓ナク、明日ハ日和ゾ、蕎ノ花」

みみずがき (名) 蚯蚓書 蚯蚓ノ這ヒ蜒ルガ如ク文字書クコトニ(描書ニ云フ)童ノ手習初ニ、見ワケガタキ文字ヲカクコト。字體ノトトノハザルモノ。又、ヒジキノギャウレツ。カナクギリウ。

[illegible]ニセヤマヘル」[illegible]ハ幼子ノ名、蚓ハ別ニ蟲ノ一種ナルカ」

みみずばれ (名) 蚯蚓腫 皮膚ノ、キズアトナドノ、蚯蚓ノ如キ形ニハレテ、赤ラムコト。訛シテ、めめずばれ。

〔**みみせせのほね** (名) 完骨 〔せせハ脊脊カ、宍ノ轉カ〕耳ノ後ノ高キ骨。其髮際ニ入ルコト四分ヲ、完穴トス。倭名抄、三、耳目類「完骨、美美[illegible]乃保禰」

みみたけ (名) 茸 〔説文「茸、木耳也」きくらげ(木耳)ニ同ジ。字鏡[illegible]天治字鏡、七[illegible]茸、木耳、[illegible]太介」

みみだた・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 耳立 ミミダチタリ。耳ヤスカラズ。耳ザハリナリ。

〔**みみだ・つ**・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) 耳立 聽ニ觸ル。耳ヲケツルニ足ル。注意シテキク。(言葉ニ圭角アルナド二云フ)源[illegible]十五、[illegible]「ナゲノ御スサビニテモ、オシナベタルヨノツネノ人ヲバ、目トドメ、耳だてタマハズ」

〔**みみたび** (名) 耳埵 みみたぶ(耳埵)ノ古言。次條ノ語ヲ見ヨ。倭名抄、三、耳目類「耳埵、美美太比」名義抄「耳埵、ミミタヒ」

みみたぶ (名) 耳埵 耳朶 〔たぶハ、たふやかナル意〕古クハ、みみたび。耳ノ下ニ垂リタル肉。ミミノビク。訛シテ、みみたぼ。 珥珠 [illegible]字[illegible]用集、五、肢体門「耳垂珠、ミミタブ」日本永代藏、(西鶴)二「汝ガ仕合セト、耳朶ニヨセラレ、小語キ給フ」「福アルモノハ、耳たぶニ因ル」

みみだま (名) 耳玉 婦人ノ耳ニ懸ケテ飾トスル玉。[illegible]、ミミタマ、ミミガネ」天治字鏡、六[illegible]「珥、珠在耳、彌彌玉」[illegible]字同、[illegible]、耳下也」

みみたんがふ [illegible] 耳[illegible] [illegible]事ナキコトヲ深ク密談シ、耳談合ナドヲシテ、云云」

みみたもち (名) 耳[illegible] 〔耳[illegible]〕[illegible]聞キ[illegible]コト[illegible]たもちナカリケル身ノクチヲシサハ、皆忘レ」

みみだらひ (名) 耳盥 其柄、耳[illegible]ル盥[illegible]つのだらひ(角盥)ニ同ジ。今、角ナキモノニモ云フ。[illegible]上、[illegible]立テノ耳盥ノ中へ、[illegible]

〔**みみだり** (名) 聤耳 「耳垂ノ義」又、みみだれ。耳ノ病。孔ヨリ膿汁滴リ出ヅ。又、ソノ膿汁。倭名抄、三、病類「聤耳、美美太利、[illegible]耳生ニ膿汁ニ也」

みみだれ (名) 聤耳 前條ノ語ニ同ジ。運歩色葉集「聤耳、ミミダレ」

みみぢか・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 耳近 〔耳遠しニ對ス〕(一)耳ノ近クニアリ。好色五人女、[illegible]、西鶴)[illegible]「[illegible]ク、命ノ終ルヲ待チ居ル時、耳ちかく寄セテ」(二)聞キナレテ解シ易シ。[illegible]

みみづか (名) 耳塚 〔切耳ノ條ヲ參照セヨ〕敵ノ首ノ耳ヲ切取リタルヲ埋メタル塚。源義家ノ奥州ノ戰[illegible]、河内國ニ塚ヲ築キ、耳納寺ヲ建テ、豐臣秀吉ノ征韓ノ[illegible]、京都ノ大佛ノ前ニ耳塚ヲ作リ、コレ、神功皇后ノ征韓ノ役ノ[illegible]モ耳塚アリトモノ[illegible]。又、筑前國、宮男ノ地ノ近ク[illegible]、閑田次筆、[illegible]春下[illegible]、[illegible]埋[illegible]「同ジ佛ノ御敎ヘヲモ、耳近き譬ヒニヒキマゼ」

殘、近松作)中「翌鶴ヨ翌鶴ヨト呼バレドモ、無イカ聞ケメヲ耳塞ノ、西ニ四郎ノ名ノミニテ、云云」

みみづから (副) 身自躬自　みづから(自、躬)ニ同ジ。

みみつき (名) 耳付 (一)疾ク聞キタク思フコト。又、ソノ事柄。耳寄リ。狹衣、一、下「ミヅカラハキキイレヌニ、コノメノトハ、イトみみつきニオボエケレド、云云」 (二)耳ノ恰好。耳ノ容子。(三)耳ノ付キタルコト。又、ソノモノ。「耳付ノ甕」

みみづく (名) 「木菟、角鴟」「木名、木兎、毛角アレバ、更ニ耳ト呼ブ」鷙鳥ノ名。大キサ兒鶏ノ如ク、全身、黒褐ニシテ白キ斑アリ、嘴、廣ク短ク曲リ、頭ト眼ト圓ク大ナリ、兩耳ノ上ニ角ノ如キ毛アリテ立チ、兩角ヲナス、兎ノ如ク猫ノ頭ノ如シ。晝ハ見ルコト能ハズ、山林ニ棲ミ、夜ハ眼甚ダ明リニシテ、能ク鳥、鼠ヲ捕リ食フ。聲、呼ブガ如シ。木菟 鵂鶹 倭名抄、十八、羽族名「木兎、都久、或云、美美都久」 [illegible]「寫サス、片田舎ノ、耳づくモ、イカナ聞キナス、峠ノ松風」

みみっちい (形) ヤブサカナリ。吝嗇シ。

みみとし キ・ケレ・ク・ク(形、一) 聰 「耳疾シノ義」物ヲ聞キ取ルコト、鋭ク疾シ。聽クニ鋭シ。名義抄「聰、ミミトシ」字鏡十「聆、耳止之」天治字鏡、二十「聆、聽也、聰也、止弭弭、又、彌弭止志」枕草子、九、第百十二段「大藏卿バカリ、みみとき人ナシ、マコトニ蚊ノマツゲノ落ツルホドモ、聞キ付ケ給ヒツベウコソアリシカ」

みみどほし キ・ケレ・ク・ク(形、一) 耳遠 〔耳近シニ對ス〕(一)聞クニ馴レズ。疎スニ迂遠シ。(二)耳ガ能クキコエズ。

みみな (名) 耳菜 次條ノ語ニ同ジ。

みみなぐさ (名) 耳菜草 (葉ノ形、鼠ノ耳ニ似タル故ニ云フ)石竹科ノ草、多ク原野、路傍ニ叢生ス。莖、地ニ就キテ延ブ、葉ノ形、長卵形ニシテ對生ス。莖、葉ニシテ、葉ト共ニ微毛アリ、春ノ末ニ莖ヲ出ス、高サ五六寸、白花ヲ開ク、はこべ(繁縷)ノ花ニ似タリ。嫩葉ハ食用トナル。略シテ、みみな。卷耳 枕草子、七、第六十四段「ツメドナホ、みみなぐさコソ、ツレナケレ、アマタシアレバ、菊モマジレリ」古今要覽稿、五百八十、草蔬部「みみなぐさ、一名ミミナシ、一名ネズミノミミ、一名ネコノミミ、一名ホトケノミミハ、漢名ヲ卷耳、一名苓耳、一名葹、一名爵耳菜トイフ」

みみなり (名) 耳鳴 逆上ナドシテ、耳ノ内ノ鳴ルガ如ク感ゼラルルコト。聵 醫心方、五、四「耳鳴如流水聲、不治久成聾」

みみなる ルル・ルレ・レ・レヨ(自動、下二) 耳馴 常常聞キテ、馴ル。キキナル。耳熟ス 源、十二、明石「ヨヨマタ耳なれ給ハヌ手ナド、心ヤマシキ程ニ、彈キサシツツ、云云」枕草子、二、第廿段「ナニカハ常ニ聞クコトナレバ、みみなれタメ、ラシウ覺エメニコソハアラメ」

みみなれ (名) 耳馴 耳ナルルコト。キキナルルコト。又、ソノモノ。源、五、若紫「耳なれ侍リニケリヤト、キコエタマフ」

みみのあかとり (名) 耳垢取 貞享ヨリ正徳ノ頃マデ、京、江戸ノ辻辻ニ立チテ、明服ノ装シテ、往來ノ人ノ求メニ應シテ、耳ノ垢ヲ取ルヲ、業トシタルモノ。ミミホリ。京羽二重(貞享)「耳垢取、唐人越九兵衞」初音草噺大鑑(元祿)五「京ト江戸、往來ニアナル道町辻辻ヲ見レバ、或ハ齒ヌキ、耳ノ療治、云云」

みみのびく (名) 耳埵耳朶 みみたぶ(耳埵)ニ同ジ。ぴくノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

みみのわ (名) 耳輪 (一)耳ノ輪郭。ミミカハ。耳廓 (二)婦人ノ耳ニ懸クル飾ノ輪、耳朶ヲ穿チテ懸クル。ミミワ。

みみはさみ (名) 耳挾 古ヘ、婦人、額髮ノさがりば(下端)ノ、顏ニカカレルヲ、左右ニ掻キヤリテ、耳ノ間ニ挾ムコト。額髮ハ顏ヲ隱スヲ要トスルモノナレバ、耳挾ミスルヲ卑シキコトトス。又、カヒガヒシク立働ク時ナドニスルコト。源、三十六、横笛「耳はさみシテ、ソソクリツクロヒテ、抱キテ居給ヘリ」同、二、帚木「耳はさみガチニ、非常シキ刀自ノ、云云」又、耳ノ上ヲ越シテ挾ムコト。宇治拾遺物語、[illegible]上「女ノ君ニ、宮、カカリシテサロギ給ノ、云云、耳はさみヲシテ、マトヒオハス、」

みみばさむ ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) 耳挾 耳ニ入ル。チラト聞ク。キキコム。

みみはゆし キ・ケレ・ク・ク(形、一) 耳映 聞キテカタハライタシ。聞クニ堪ヘズ。[illegible]「十善帝王ニ向進テ惡口吐、舌ハイカガアルベキ、就中、汝ガ罵リダテ耳はゆし」

みみはらひ (名) 耳拂 耳ノ孔ノ垢ナドヲ拂フ小サキ具、頭ヲ羽ナドニテ作リ、柄アリ。ボンボリ。丁子棒。消息子 書言字考節用集、七、器財門「梵天子、ミミハラヒ、ボンボル、稍息子、ミミハラヒ」

みみひき (名) 耳引 勝負事ニ負ケタル人ノ耳ヲ引クコト。色道大鏡、延寶二四「カルタヲウタンニ、勝ヲ定メズシテハ不興ナリ、但シ定ムル共、耳引カケ錢、竹ハカケヲヨロシトスヘシ」

みみふし (名) 附子五倍子 ふし(附子)ノ條ヲ見ヨ。

みみふたぎ (名) 耳塞 耳ノ傍ニ懸ケテ、飾トスルモノ。支那ノ古キ風俗ニテ、[illegible]

みみふる ルル・ルレ・リ・リヨ(自動、上二) 耳舊 聞キナレテ、メヅラシカラズ。ミミナル。キキフル。[illegible]下十三「トキドキニツケテコソ、興アル朝タノアソビニ、みみふり[illegible]」

みみへん (名) 耳偏 漢字ノ偏ニアル耳ノ字ノ稱。即チ、耽、聊、聘、聾、聰、ナドノ偏ノ類。雙生隅田川(享保、近松作)狂女[illegible]

みみほり (名) 耳掘 みみのあかとり(耳垢取)ニ同ジ。[illegible]タル爪ハ、指ノ耳掘ノ、[illegible]似セ渡リ」

みみめどり (名) 耳目鳥 うぐひす(鶯)ノ異稱。[illegible]

みみもと (名) 耳元 耳ノ根元。又、耳ノソバ。落窪物語、一「イトモイトモ嬉シ、イイジト思ヒテ、目ハ耳もとマデ、ヱミマケテ居タリ」

みみやすし キ・ケレ・ク・ク(形、一) 耳易 聞キ入ルルニ容易シ。〔許ス意〕源、三十四、上、若菜、上「耳やすキモノカラ、サスカニ哀ク思フコトコソアレ、云云」宇津保物語、[illegible]「聞レバ、耳やすく[illegible]」

みみゆ ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(自動、下二) 見見 見エニ見エル。見モシ見エモス。謡曲、松風「夜ヌガラ、妄執ノ夢ニ、見見ゆるナリ」同、檜風「夜ニカキクモリ、夢みみえメ程ト子ノ、云云」

みみより (名) 耳寄 〔耳寄ノ義カ〕聞カマ欲シキコト。願フコトヲ聞キツケタルコト

[illegible]リニ、トハズ諸モ試ク稱耳璫ナリ」

みみわ (名) [耳環] 外國ノ婦人ノ、耳璫ヲ穿チテ下ゲタル[illegible]小サキ環。金銀ナドニテ作リ、又、寶石ナドニテ飾ル。

ミン (名) [明] (一)支那ノ朱明ノ朝。我ガ後龜山天皇ノ正平二十三年ニ、朱元璋ノ建テタルモノ。十八世、二百九十[illegible]年[illegible]清[illegible]宋書(清朝ニ對ス) (二) みんてう(明朝)ノ條ヲ見ヨ。

みんい (名) [民意] 人民ノオモハク。國民ノ意思。[illegible]

みんいう (名) [民有] 人民ノ所有。(官有ナドニ對ス) [illegible]「民有地」

みんおく (名) [民屋] タミノイヘ。人民ノ家屋。又、百姓家。[illegible]集、一、乾坤門「民屋、ミンヲク」平治物語、一、信西[illegible]ニ、民屋多ク亡ビシカバ」

みんか (名) 民家。前條ノ語ニ同ジ。史[illegible]書[illegible]集、一、乾坤門「民家、ミンカ」

ミンがく (名) [明樂] 支那、明朝ノ音樂。唐、宋ノ系統ヲ承クルモ、其樂器、樂譜ハ大イニ異ナリ、樂器ハ、笙、月琴、[illegible]笛ナド十[illegible]種アリ。寬永年中、明人、魏之琰、肥前ノ長崎ニ來リテ之ヲ傳ヘ、寶曆、明和ノ頃、長崎ノ亘鹿氏、京都ニ上リテ之ヲ弘ク、大イニ行ハル。文化ノ初、廢レタリト云フ。

みむかひめ (名) [正妃] (みハ敬語) きさき(后)ノ條ヲ見ヨ。神武[illegible]位前紀[illegible]「天皇[illegible]」

みんかん (名) [民間] 人民ノ間。人民ノ社會。政府ニ對ス。[illegible]

みむき (名) [見向] ミムクコト。其方ヘ向クコト。[illegible]

みむ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [見向] 其方ヘ向ヒテ見ル。フリムク。カヘリミル。[illegible]五、[illegible]、情正ヲヤヤト呼ビ申シケレバ、恐ロシナガラ見むきタリケレバ」

みんげふ (名) [民業] 民間ニテ營ム業務。又、個人ノ事業。(官業ニ對ス)

みんけん (名) [民權] 人民ノ身體、財産、等ヲ保ツ權利。又、人民ノ政治ニ參與スル權利。政府ノ權ニ對ス)

みんおと (名) [見事] みおと(見事)ノ音便。[illegible]モ當ラズ、父叟夷ノ大臣某マデ日本ニ威ヲ振フ」

みんじ (名) [民事] (一)民ニ關スル事。又、民ノ生産ニ係ル事。孟子、滕文公、上篇「滕文公問レ爲レ國、孟子曰、民事不レ可レ緩也」 (二)私法上ニ關スル事件。又、人民相互ノ訴訟。(刑事ニ對ス)「民事訴訟法」

みんじやう (名) [民狀] 民ノ生活ノアリサマ。人民ノ狀態。

みんじやう (名) [民情] タミノ心。人民ノ情態。人民ノ心情。[illegible]「天[illegible]、[illegible]不レ可レ見、小人難レ保」禮記、緇衣篇「有ニ國[illegible]」

みんしゆ (名) [民主] (一)人民ノ君主。[illegible] (二)[illegible]ガ人民ニアリトスルコト。「民主政治」

みんしゆう (名) [民衆] モロモロノ民。タミ。タミクサ。人民。民庶。庶民。

みんしゆこく (名) [民主國] 民主政治ヲ採ル國。次次條ノ語ヲ參見セヨ。

みんしゆしゆぎ (名) [民主主義] でもくらしいニ同ジ。

みんしゆせいぢ (名) [民主政治] 其國ノ主權ガ人民ニアリトスル政體ノ政治。即チ、民主制度ニヨリテ行ハルル政治。

みんしゆせいど (名) [民主制度] 民主政治ヲ採リ行フ國ノ制度。即チ、一國ノ主權ガ、民[illegible]制度。

みんしよ (名) [民庶] みんしゆう(民衆)ニ同ジ。[illegible]

みんしよく (名) [民食] (一)民ノ食フコト。[illegible] (二)轉ジテ、日日ノ起居。[illegible]少好レ學、博覽無レ所レ不レ知、行坐臥食、手不レ釋レ卷」

みんせい (名) [民政] 人民ノ安寧幸福ヲ目的トスル政務。(軍政ニ對ス) 宋史、[illegible]宗紀「禁内侍出使、擾民政」「民政黨」

みんせき (名) [民籍] 人民ノ戸口ヲ調ベ記シタル帳簿。[illegible]

みんせん (名) [民選] 人民ノ自ラ選ムコト。人民ノ選擧。(代議士ナドヲ)又、ソノモノ。(官選ニ對ス)「民選議員」

みんぞく (名) [民族] [illegible]ナラハシ。[illegible]

みんぞく (名) [民族] 人民。[illegible]成セル人民ノ言語、民俗、精神感情、歷史、[illegible]異人種、合シテ成ルモアリ、一人種中ニ分立スルモアリ。

みんそん (名) [民村] 人民ノ[illegible]村[illegible]ニ、八重ノ森ニ埋レ給ヘル事、云云」

ミンタア (名) [明太] (韓語、明太、李成桂ノ代ニ、[illegible]) [illegible]明[illegible]、明[illegible]メンタイ。明[illegible]北魚。

みんだん (名) [民團] [illegible]外務大臣ノ必要ト認ムルトキ、其許可ヲ得テ、領事裁判權ノ行ハルル外國ノ領土ノ、[illegible]民ノ[illegible]下ニ[illegible]、[illegible]リテ、其事務ヲ[illegible]

みんち (名) [民地] 民有ノ土地。人民ノ土地。民有地。(官地ニ對ス)

みんぢ (名) [民治] 人民ヲヲサムルマツリゴト。[illegible]

みんちく (名) 【閩竹】 竹ノ一種。支那、閩(今ノ福建省)ノ地ノ産ヲ渡セルモノ。莖ヾ小サシ、盆栽ナドトス。

みんづり-と (副) [illegible]シキ狀ニ云フ語。[illegible]

ミン-てう (名) 【明朝】 (一)支那ノ明ノ世。みん(明)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。(二)楷書ノ一體。殊ニ方正ニシテ、横畫ヲ細ク、竪畫ヲ太ク書クモノ。多ク刻版ニ用ヰル。宋朝ニ起レリ、明朝ノ時ニ我ガ國ニ傳ハリシヨリ名アルカ。宋書 (三)明朝活字ノ略。前項ノ書體ノ活字。即チ、明朝體ノ活字。

ミン-てう-くわつ-じ (名) 【明朝活字】 前條ノ語ノ(三)ヲ見ヨ。

ミン-てき (名) 【明笛】 明樂ニ用ヰル横笛ノ一種。長サ一尺二寸餘ノ竹管ニ、歌口ト指孔六箇トヲ穿チ、ナホ、間端近クニ、調律ノタメノ二孔アリ。其調子ハ、指孔ノ第一孔ヨリ第六孔マデヲ、一一明ケテ吹ク時ノ音ハ、凡、工、尺、上、乙、四ノ順序トナリ、全孔ヲ閉ヂテ發スル音ヲ、合ト云フ。又、歌口ト第一指孔トノ間ニ、響孔(籠膜ト云フ)アリテ、之ニ竹紙ノ類ヲ張リテ吹ク。

みん-ざ (名) 【民貲】 〔玉篇「貲、金布所レ藏之府」〕 人民ノ財産。國民ノ資財。

みんな (副) 【皆】 みな(皆)ノ音便。

みんなみ (名) 【南】 〔みなみノ訛、ひんがし(東)ニ引カレテナリ、かんな、まんなノ類〕 みなみ(南)ニ同ジ。孟子抄(文明)九十五「南ヲヨミ付テ、みんなみトヨムゾ」

みん-ばう (名) 【民望】 (一)人民ノ希望。民ノ願望。輿望。[illegible] (二)世間ノ人望。世上ノ人望。[illegible] (三)人民ノ手本。民ノ儀表。孟子、[illegible]

みん-ぱふ (名) 【民法】 人民ノ權利義務ノ上ノ法律。

ミン-ぱん (名) 【明板】 支那、明代ノ板本。明朝時代ノ出版、係ル書籍。

みん-ぴ (名) 【民費】 人民ノ出ス費用。(官費ニ對ス)

みん-ぷく (名) 【民福】 國民全體ノ幸福。人民ノ幸福。「國利民福」

みん-ぶ-しゃう (名) 【民部省】 タミノツカサ。古ヘノ八省ノ一。邦國、土地ノ圖、戸口ノ數、及、租稅ナドノ事ヲ掌ル。コレニ、卿、輔、丞、錄、史生、省掌、使部、直丁ナドノ職員アリ。戸部。又、にんぶしゃう(仁部省)ト云ヒシコトアリ、其條ヲ見ヨ。[illegible]

みん-ぶ-の-たいふ (名) 【民部大夫】 〔大夫ハ五位ノ通稱ナリ〕 民部省ノ丞(六位相當官)ヲヤメテ、受領トナリタル五位ノ人ノ稱。即チ、民部丞ノ、五位ニ敍セラレタルモノヲ云フ。

みん-ぺい (名) 【民兵】 民間ニテ、自ラ備ヘ置ク兵隊。(政府ノ常備兵ニ對ス) 雜[illegible] 民兵[illegible]

みんぺい-やき (名) 【珉平燒】 あはぢやき(淡路燒)ニ同ジ。

みん-ぽん (名) 【民本】 人民ヲ本位トスルコト。「民本主義」

みんぽん-しゅぎ (名) 【民本主義】 でもくらしいニ同ジ。

みん-みん-ぜみ (名) 【蛁蟟】 蟬ノ一種。形、大キク、體黑クシテ綠色ノ斑アリテ、熊蟬ノ如ク、羽、透キトホル。秋ノ末、盛ニ鳴キテ、其聲、みんみんト云フガ如シ。セウレウ。テウレウ。[illegible] 綱目啓蒙、廿八、化生蟲類「蛁蟟ハみんみん、ミイミイ(作州)、メンメン(加州)、云云、ビイドロ(勢州)」

みん-りょく (名) 【民力】 人民ノ財力。又、人民ノ勞力。孟子、[illegible]上篇「文王以民力」

みむろ (名) 【御室】 (一)神ノ杜。みもろ(御諸)ノ條ヲ見ヨ。古今集、五、秋、下「龍田川、モミヂ葉流ル、神名備ノ、みむろ(龍田ノ社)ノ山ニ、時雨降ルラシ」 同、廿、神遊歌「神垣ノ、みむろノ山ノ、榊葉ハ、神ノ御前ニ、繁リアヒニケリ」(神樂歌、[illegible]) [illegible]千載集、九、神「千早振ル、神ノみむろノ、眞澄鏡、懸ケテ幾世ノ、影ヲコフラン」 (二)住所ノ敬語。御室。伊勢物語、第八十三段「惟喬親王例ノ、云云、御室ニ詣デテ拜ミ奉ル」

みめ (名) 【妃】 〔御妻ノ義〕 きさき(妃)ニ同ジ。神代紀、上八「稻田媛、云云、[illegible]妃」 神武即位前紀「娶吾平津媛一爲レ妃」

みめ (名) 【容貌眉目】 〔見目ノ義〕 (一)女ノ顏ノ美キモノ。又、人ノ顏貌ノ、目ニ見ユル所。キリャウ。マミ。ビモク。容姿。枕草子、九、第九十七段「みめ清ゲナルニツケテモ」 榮花物語、廿四、若枝「みめノオドロオドロシウ」「みめ好シ人ハみめヨリ、タダ心」 (二)面目。名譽。書言字考節用集、九、言辭門「眉目、[illegible]」

ミメ、[illegible] 心中天[illegible] 二人ノ子ノ義、結構ナバカリみめデハナイ」

み-めい (名) 【未明】 又、びめい。夜ノマダ明ケヌ時。[illegible]

み-めう (名) 【微妙】 [illegible] (微妙)ニ同ジ [illegible] 「[illegible]テ、微妙ノ音樂ヲ奏ス」

みめ-かたち (名) 見目[illegible] 容貌ト、風姿[illegible]

みめぐら-す・す・セ・サ・シ・セ (他動、四) 【見廻】 ミマハス。ミメグラハス。アタリヲ見ル。[illegible] めぐらして、母君ノミエヌヲモトメテ」

みめぐらは-す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 【見廻】 前條ノ語ニ同ジ。夫木抄、十八、雪「イツクゾト、見めぐらはせド、天ノハラ、木ノ枝ダニモ、見エズモアルカナ」

みめぐ-る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 【見廻】 巡視。見守リツツ步キマハル。ミマハル。[illegible] 著聞集、五、和歌「殿下、云云、女房ヲトモナハセ給ヒテ、[illegible]中ヲ見めぐらせ給ヒケルニ」

みめよ-し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 【容貌佳】【眉目佳】 (一)容貌ヨシ。容姿ウルハシ。[illegible]五 ヲゴリ[illegible]ムル、下ダレノ内ニみめよきニ、ホレタル國ハ、傾キテ」 (二)醜ノマカゲサス狀ナリ。(みめ惡しヲよしト反語ニ云フカト云フ) 犬子集(寛正)十五「雁ヨリ、みめよき貌ナ、サシ出シテ、いたちバカリヤ、住メル古宮」 吾吟我集(慶安、石田未得)六、[illegible]、醜[illegible]、情知ラヌ、人ヲタグヘベ、滿醜、只みめよしト、云フバカリナリ」 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)八「醜眉目よし、マ一度來イ、顏見ウ、ト世話ニ云フ」

みめより（名）餅菓子ノ一種。どらやき[illegible]ノ形ヲ見テ[illegible]「同ジ物（金鍔）ナレドモ、四方ヲ焼タルヲ、餡ヲ常ノヨリ[illegible]みめよりト[illegible]ノ[illegible]ニヤ[illegible]」

みも（名）［御裳］〔みハ接頭語〕も（裳）ト云フ[illegible]七年十月[illegible]」

みも（名）［御喪］〔みハ接頭語〕も（喪）[illegible]ノ[illegible]同ジ[illegible]神代紀、上[illegible]」

みもがり（名）［御殯］〔みハ接頭語〕もがり（殯）ノ條ヲ見ヨ[illegible]七[illegible]五年七月[illegible]」

みもぎ（名）［御裳着］〔みハ接頭語〕も着（裳着）ノ條ヲ見ヨ。

みもじ（名）［味文字］〔味噌ノ首音ニ、文字ト云フ語ヲ添ヘテ云フナリ、母ヲはもじ、鮨ヲすもじナド云フト同趣〕みそ、味噌ノ稱。婦人ノ[illegible]九、[illegible]上人御書、聖人一ヅツ、味もじ一ヲケ、トアルハ、酒一筒、味噌一桶ナリ」

みもだえ（名）［身悶］身モダユルコト。好色二代男（貞享、西鶴）一「此ヤサシサ、言葉デハ云ハズ、身もだへシテ宿ニ歸リテ」

みもだ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ（自動、下二）［身悶］苦シミテ、身ヲ動カス、苦シサニ、身ヲイラダツ。嫗山姥（享保、近松作）一「ジット抱カレテ、シメラレテ、シメ殺シテモラヒタイト、身悶え、ソソル折カラ」

みもち（名）［身持］（一）身ヲ保ツ行ヒ。オコナヒ。フルマヒ。行跡。品行　本朝[illegible]（貞享、西鶴）六「不斷ノ身持ヲ更ニカタメテ、[illegible]ノ外、夜ノ道[illegible]ヲフマズ」（二）婦人ノ懐妊シタルコト。ミモチ。妊娠。懐妊　[illegible]（享保、西鶴）二「トカウスル中ニ、身持ニナレバム

みもと（名）［御許］〔みハ接頭語〕[illegible]神代[illegible]仁[illegible]八十八[illegible]月[illegible]毛比ノすなチ、セウソコシ、トブラヒニクレヤ、サキンダチヤ」ヅカシ、子ナイ時ニ、餘ノ男ヲ持チカヘタガヨイ」

みもと（名）［身許・身元］身ノ生レ出デ[illegible]ヒ立チタル所。又、身上ノ關係。素姓。

みもときん（名）［身許金］奉公人、[illegible]人ナドノ、萬一、他ニ損失ヲ掛ケタラム時ノ償ニトテ、差シ出シ置ク金。身許保證金。

みもとびと（名）［御許人］美シキ婦人ノ[illegible]美人。佳人　天治字鏡、三「[illegible]妓、美婦也、巧艶也、[illegible]止比比止」（止ノ誤）

みもの（名）［見物］（一）〔觀テ目ザマシク覺ユル物〕見ルベキ映アルモノ。觀。壯觀　名義抄「觀、ミモノ」源、七、紅葉賀「秋風樂マヒタマヘルナン、サシツギノ見物ナリケル」（二）傍ヨリ見ルコト。見物。宇治拾遺、十一、第九條「行ク道ニ立チ並ミタル見ものノ者ドモ」

みもの（名）［御食］〔御物ノ義〕主上ノ召上リモノ。おもの（御飯）ノ條、見合ハスベシ。景行紀、四十年十月「天皇聞之、寢不安席、食不甘味、晝夜喉咽、泣悲摽擗」

みものおもひ（名）［諒闇］〔御物思ノ義、又、御喪ヲおもひト云フ〕物思ひノ敬語。即チ、天子ノ喪。略シテ、みおもひ。ミアガリノホド。（喪、并ニ、諒闇ノ條ヲ見ヨ）　繼體即位前紀「[illegible]遂以諒闇之際、[illegible]自由私記「諒闇、美毛乃於毛比」

みものこと（名）［御喪事］喪ノ事ノ敬語。喪儀。喪。　允恭紀、四十二年十一月「新羅弔使等、喪[illegible]闘[illegible]之」

みもひ（名）［御水］〔みハ[illegible]、もひハ[illegible]〕もひ（水）ノ[illegible]ヲ盛ル器ヨリ轉ジタル語〕[illegible]其[illegible]ヲ見ヨ[illegible]キニ、[illegible]ハベシ[illegible]シ、ミ[illegible]モヨシ」（流布本）景行紀、十八年四月「[illegible]

みもん（名）［未聞］イマダ聞カザルコト。イマダ嘗テ聞キタルコトナキコト。[illegible]「[illegible]ミモン」「前代未聞」

みもり（名）［見守］[illegible]見テ居ルコト。番ヲシテ居ルコト。又、其人。又、其役。看守。　加茂保憲女集「ホノメキシ、光ハカリニ、秋ノ田ノ、みもりワビシキ、頃ノ色ゾナ」

みもり（名）［水守］〔みづもりノ略〕又、みづもり。田ノ水番人。水ノ番人。

みもろ（名）［御諸］〔ひもろぎノ略轉、ひそか、みそかノ類、大和ノ三輪ヲ云ヒ、又、飛鳥、龍田ヲモ云ヘリ、かんなびノみもろハ、神ノ杜ノ御杜ナリ、御杜木ハひもろぎヲ云フ、此ひもろガ、後ニみむろト轉ジタルナリ、カカレバ後世、建物出來テ、神社ノ奥殿ヲ室トモ云フモ、是レナリ〕（一）神籬ト同ジ。神ノ坐ス處ト祀ル森。或ハ榊ナド立テテ祀ル。後ニ御室トシテ神社トス。古事記、上、四十「此者坐御諸山上神也」同、下（雄略）三十三「美母呂ニ、築クヤ玉垣」萬葉集、[illegible]「[illegible]誰ガ世ニカ、神ノ御室ト、祝ヒソメケム」（二）家ニテ神ヲ祭ル地ニ、小柴ヲ立テナドシタルモノ。萬葉集、廿、廿二「庭中ノ、阿須波ノ神ニ、小柴刺シ、我ハ齋ハム、歸リ來マデニ」

みもろ-づく（枕）［三諸就］〔づくハ、秋づく、老づくナドノづくト同趣〕か（鹿）、

みや（名）［宮］（一）〔[illegible]〕[illegible]至尊ノオハシマス所ヲ、廣ク指ス語。[illegible]（二）[illegible]（三）[illegible]皇子、皇女、[illegible]孫、ノ御幼名ニ下シ賜ハル御稱號。古ハ、皇子、皇女、[illegible]中頃ヨリハ、皇后、[illegible]皇子、御子ヲモ申シ、又、[illegible]王ノ御裔（皇族方）ヲモ代代申ス。（四）［侯宜］朝廷。御所。[illegible]「[illegible]」（ミヤ、オモホスラシヒ、[illegible]）「宮人」宮仕ヘ」宮方、將軍方」

みやいち（名）宮市　王朝時代ニ、仁明[illegible]皇御宇ノ頃ニ、遣唐使、[illegible]ノ前ニ、彼ノ國ヨリ齎シシ貨物ヲ置キ、官人ナドニ交易セシメタル市ノ稱。[illegible]

みやう（名）［名］〔みやうでん（名田）ノ略〕諸國ノ村里ノ名ニ、某名ト[illegible]ト苗字掛ノ地ノ名ナリ。即チ、[illegible]名ノ類ナリ。初、[illegible]ノ地ヲ[illegible]田トス、故ニ多クハ、其[illegible]ヲ名トス。後ノ某新田、其宰ヲ名主ト云フ、概ネ[illegible]其地ノ[illegible]大名ト稱シ、少キヲ小名ト稱ス、即チ、大名主小名主ナリ。漸漸、侯伯ノ稱トナル（村名主ト、ハ全ク別ナリ）[illegible]

[illegible]年五月一日、[illegible]、云云、[illegible]良圧、仮光名、律師在家、被レ停ニ止萬雜事一畢」

みやう（名）［冥］（一）佛教ニテハ、無知ノ異名。倶舍論、一「以二諸無知能覆二實義一及障二眞見一故[illegible]」（二）[illegible]人ノ目ニ見エサル神明[illegible]冥冥ノ裡ニアル神佛。[illegible]物語、一、[illegible]冥ノ[illegible]且ハ冥ノ照覽ヲモ如何カ御憚リナカルベキト、讀メ申サレケレドモ」

みやう（名）［見樣］物ヲ見ル仕方。見方。

みやうあさ（名）［明朝］（[illegible]訓ナリ）みやうてう（明朝）ニ同ジ。

みやうあん（名）［明闇］コノ世ト、アノ世ト。幽明。[illegible]曲、泰山府君「ソモソモ是ハ、五道ノ冥官泰山府君ナリ、我人間ノ定相ヲ守リ、明闇二ツヲ守護スル[illegible]二、云云」

みやうえ（名）［明衣］齋服。みぞ。めいい（明衣）ノ條ヲ見ヨ。

みやうえつ（名）［名謁］又、めいえつ、なだいめん（名對面）ニ同ジ。玉[illegible]、治承五年六月十日、於二八條亭一有二名謁一、見皆九[illegible]也」

みやうおう（名）［冥應］（應ハ佛菩薩ノ利益ヲ垂ルルコト）冥冥ノ裡ニ神佛ノ感應シテ、利益ヲ垂ルルコト。冥感。法華玄義、六、上「衆生根性百千、諸佛巧應無量、云云、今略書有四、一者冥機冥應、二者冥機顯應、四者顯機冥應」太平記、五、大塔宮熊野落事「是レ偏ニ摩利支天ノ冥應、又ハ十六善神ノ擁護ニヨル命ナリト、信心肝ニ銘ジ、云云」

みやうおん（名）［冥恩］冥冥ノ裡ニ神佛ノ大衆ニ下シ給フ恩徳。盛衰記、四十、唐皮小烏抜丸事「是レ天照太神ノ冥恩ナリト思ケレバ」

みやうが（名）［茗荷］めうが（蘘荷）ノ誤。

みやうが（名）［冥加］（自他トモニ知ラザルヲ冥ト云フ）（一）神佛ノ通力ニテ、冥冥ノ裡ニ人ヲ加護スルコト。又、人知レズ神佛ヨリ加被セラルル利益[illegible]尻、二「孝德[illegible]、加護有ニ[illegible]、冥加、[illegible]現ニ身語[illegible]即其所作ニ[illegible]冥加[illegible]潜垂ニ覆擁一不レ現ニ身語一云云」トアリ）冥助。法華[illegible]七、[illegible]冥加、設不レ知[illegible]古今集、廿、[illegible]阿[illegible]、佛々[illegible]立ツ[illegible]ニ、みやうがアラセ給ヘ」平[illegible]四、宮御最後[illegible]モ失モ冥加ノ[illegible]モ、平家ノ御上ニコソ止マリ候ハメ」（二）冥加金（其條ヲ見ヨ）ノ略。冥利。「冥加ノ爲ニ奉納ス」

みやうかい（名）［冥界］佛教ノ語。地獄、餓鬼、畜生ノ三界、特ニ地獄ノ稱。冥道。盛[illegible]記、廿六、慈心坊得[illegible]冥界[illegible]、其[illegible]界ニ[illegible]、其[illegible]罪[illegible]ヲ洗ヒヌベシ」

みやうがう（名）［名香］世ニ勝レタル香。源、五、若紫二十「ソラダキモノ、心ニクク薰リ出デ、みやうがうノ香ナト、句ヒミチタルニ」同、三十七、鈴蟲、名[illegible]香ニハ、唐ノ百歩ノ香ヲタキ給ヘリ」

みやうがう（名）［名號］（大乘義章、廿、末「[illegible]體爲レ名、樹レ德爲レ稱、名稱外彰號ニ令天下一[illegible]之爲レ號」又、法華嘉祥疏、三「通四稱號、號令ニ天下一顯ニ化他之[illegible]別即稱レ名、名以定レ體、即是自行」）阿彌陀佛ノ名、即チ、南無阿彌陀佛ヲ唱フルコト。コレヲ六字ノ名號、又、念佛ト云フ。平家物語、一、祇王事「年比、積ミタル彌陀ノ本願ヲ強ク信ジテ、ヒマナク名號ヲ唱ヘ奉ルベシ」

みやうがえい（名）［冥加永］冥加金トシテ納ムル永樂錢。地方凡例錄、五「其品ニ應ジ、運上又ハ冥加永相納メ、云云、運上ト云モ、冥加永ト申モ同樣ナリト雖モ、急度締リタルモノハ運上[illegible]モ、一體ハ同樣ニテ、何レニ唱テモ不レ苦事ナリ」

みやうがきん（名）［冥加金］（一）冥加ノ利益ヲ得ムトテ、又ハ、冥加ヲ謝スル爲[illegible]、佛、[illegible]トシテ、寺社、[illegible]、又ハ、施與ナドニスル金錢。冥加錢。（二）江戶時代、實業家ガ、或ル業ヲ營ム認可ヲ得タル時、其利益ヲ得ル冥加トシテ、上ニ納ムル金、又、[illegible]時、[illegible]ナドニモ[illegible]ルヲ、[illegible]冥加トシテ、[illegible]家ナドニ獻金セシムルモノ。淺草米[illegible]冥[illegible]ヨリ出ス冥加金、一金百六拾兩」

みやうがな・し・キ・ケレ・ク・ク（[illegible]、[illegible]一）［無冥加］（一）神佛ノ冥加ヲ蒙ルコトナシ。冥加ヲ[illegible]、[illegible]ザルサマナリ。保元物語、[illegible]、[illegible]事「[illegible]ニ向テ弓引サンコト、[illegible]みやうがなさ二[illegible]ズヤ」（二）（なしハ甚しノ意）冥加ヲ蒙ルコト甚シ。冥加ニ餘ルサマナリ。カタジケナシ。勿體ナシ。みやうがなし[illegible]多小女[illegible]、[illegible]作[illegible]中「[illegible]ナサケノ[illegible]ノ手ツキヲ見テ、ハアアみやうがない、有ガタイト、夫婦ワ[illegible]」

みやうがなみだ（名）［冥加淚］冥加ノア[illegible]リガタサ[illegible]出ヅル[illegible]、日本[illegible]事保、近松作）四「二人モアット勿體淚、冥加淚ヲ引替ヘテ、悦ビ淚止マラズ」

みやうかん（名）［冥感］人知レズ神佛ノ靈ニ感應スルコト。冥應。メイカン。保元物語、二、朝敵宿所燒拂事「佛神ノ擁護ヲ忘ンデ、諸寺諸社ニ仰セテ、冥[illegible]ノ政ヲゾ仰ガレケル」謠曲、[illegible]「惡逆無道ノ其ノ積リ、神明佛陀ノ冥感ニ背キ、天命ニ沈ミシ平氏ノ一類」

みやうかん（名）［冥鑑］冥冥ノ裡ニ神佛ノ大衆ヲ照鑑シタマフコト。冥見。太[illegible]

みやうぎち（名）［伊勢］ぼら（鯔）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]名吉ノ音讀、即チ、鯔。長享二年十月十五日夜[illegible]二連歌（中御門大納言宣胤書）「思ヒ[illegible]」

みやうきやう（名）［[illegible]］[illegible]、[illegible]法力ノ[illegible]アラバ、冥神ノ明鏡アラハシテ、我ニ奇特ヲ見セ給ヘヤ

みやうきやう（名）［[illegible]］だいかくれう[illegible]ノ條ヲ見ヨ。式[illegible]式、[illegible]

みやうぎやうだう（名）［明經道］[illegible]

みやうぎやうはかせ（名）［明經博士］（職原鈔辨講、十、式部ニ「博士一人、博士ト計ハ明經博士ノ[illegible]也、令ニハ、文章博士ナキナリ、[illegible]也、[illegible]成ハ、文章博士ト[illegible]ルトナ、大古ヘ、大學寮ニテ、經學ヲ掌リ、六経ノ說ヲ改メ、學生ニ相傳スル職。大博士。[illegible]台記、天養[illegible]九日「明經博士[illegible]人、依ニ[illegible]宴、云云、使[illegible]外記大大[illegible]明經道人）訪レ之」

みやうくわ（名）［猛火］まうくわ（猛火）ニ同ジ。平家物語、五、奈良炎上事「猛火ハ正ウ押懸ケリ」太平記、十二[illegible]御事「[illegible]猛火トナッテ婆戶ニ燃エ付キケルヲ」

みやうくゎ（名）［冥火］冥界ノ火。地獄ノ火。平家女護島（享保、近松作）四「牛ノ面、馬ノ面ナル鬼共ガ、冥火ノ燃エ立ツ車一輛、御所ノ内ヘヤリ入ルル」（冥、一本、猛ニ作ル）

みやうくゎん（名）［冥官］[illegible] 閻魔ノ廳ノ官人、[illegible] 八部、冥官冥衆モ、驚キ給フラントゾ見エシ」

みやうけん（名）［冥見］みやうが（冥加）ニ同ジ。[illegible] テ、直ニ告ゲ文ヲ下サレタルコト、云云、然ルヲ等閑ニ [illegible] ノレン事 [illegible] ノ恐レアリ」

みやうけん（名）［冥顯］冥ハ、幽冥、顯ハ、明顯。冥界ト、顯界ト。死後ノ世界ト、現世界ト。平家物語、五、[illegible] 冥顯ノ二寶、孝行ノ志ヲ憐ミ給フ事ナレバ、云云」

みやうごにち（名）［明後日］あさって。明後日）ニ同ジ。

みやうごねん（名）［明後年］さらいねん（再來年）ニ同ジ。

みやうこん（名）［命根、命魂］（命ハ壽ノ意、こん（根）ノ條ヲモ見ヨ）佛語ノ語。イノチ。生命。又、生命ト、魂ト。唯識述記、三、本「命謂色心不斷、是命之根也」謡曲、土蜘蛛「イカナル天魔鬼神ナリトモ、命魂斷タン、此塚ヲ崩セヤ崩セ、人人ト、云云」

みやうじ（名）［名字］（中世ノ名田ノ字ヲ以テ稱セシニ起ルト云フ」（一）（或ハ、苗字。うぢ（姓）ノ條ヲ見ヨ。貞丈雜記、二、人名之部「苗字ト云フハ、うぢ也、タトヘバ伊勢、[illegible] 山ナトノ類也、云云、名字ト云フハ別ノ義也、是ハ氏ノ事バカリニ限ラズ、スベテ人ノ氏モ、[illegible] [illegible] 名字ニ因 [illegible] 由述来こ」

（二）[illegible] 字 [illegible] 條ノ（二）ヲモ見ヨ。あざな（字）ノ條ノ（二）ヲモ見ヨ。

[illegible] 波、早尾、荒川、疫目ナド稱スルハ、後世ニイフ苗字ナリ、苗字ノ字ハ、則字ノ義ナルコト、思ヒアハシツ」台記、別記、三、婚記、一、久安四年八月七日、[illegible]

みやうじあそみ（名）［名字朝臣］[illegible] ギテ [illegible] 朝臣ヲ昔クコト。[illegible] 朝臣ノ類ナリ。[illegible]

みやうじん（名）［名神明神］（明神ハ、名通ノ字）（一）數多ノ神社ノ中ニ、名ダタル神ヲ祀レルモノ。[illegible] 名神大ト云フハ、名神大社ノ略ニテ、名神ニシテ大社ノ社格アリ、且、神祇名神祭ニ [illegible] 八十五座ノ内ニテ、[illegible] 年、月次、新嘗、等ノ御祭ニ、案上官幣ニテ奉幣アル [illegible] 神ノ稱。[illegible] 承和十五年三月、[illegible] 九月十五日、[illegible] 御戸代田二町こ」又、大ヲ加ヘテ大明神トモアリ。三代實錄、四十九、仁和二年八月七日、宣命「掛畏キ松尾大明神ノ廣前申賜ヘト申」（二）後ニハ、唯、神ノ尊稱。某明神、何明神ナド云フ。（稲荷ノ小祠ニモ）（三）アキツカミ。又、アラミカミ。（明神ト云フハ、天皇ノ明神ヨリ移レルカ）續紀、三十六、天應元年、四月、詔「明神止大八洲所知天皇詔旨」[illegible] 詔 [illegible] 御命止」

みやうじんだい（名）［名神大］前條ノ語ノ（一）ヲ見ヨ。

みやうしやう（名）［明匠］スグレタル工

みやうじやう（名）［明星］（一）アカボシ。和名類聚抄、一、[illegible] きんせい（金星）ノ條ヲ見ヨ。[illegible] 明星こ」李白詩「遥望見二明星二」（二）神樂歌ノ [illegible] 八、クハヤココナリヤ」

[illegible] 飛香舍ニシテ琵琶ノ明石八人ヲメシケル中ニ」

みやうしゆ（名）［冥衆］（冥冥ノ裡ニアル諸衆ノ義）人ノ目ニ見エヌ諸天諸神。[illegible] イヌス、云云、[illegible] セバ、[illegible] 官、冥衆、皆閻魔法王ノ御前ニ畏マル」

みやうしゆ（名）［名主］古ヘ、領主ニ代リテ名田ヲ支配スルモノ。みやうでん（名田）ノ條ヲ見ヨ。（今モ阿波ノ祖谷山ノ幽谷ニハ、村ヲ名ト云ヒ、其地ノ然ルベキ者ヲ名主ト云ヒ、下ノ民ヲ名子ト云フト、関田耕筆ニ見エタリ）[illegible] 名主）ノ條ヲモ見ヨ。又、名字ヲ有スル者ノ持チタル地ヲ、名主方ト云フ。[illegible] 七、文治三年十月五日「於武藏國河越庄者、賜後家尼 [illegible] 名主、百姓等、不 [illegible] 所 [illegible] 云云」

みやうしゆしよく（名）［名主職］名田ノ支配スル職。通ジテ地主。名田ノ支ヨ）後ノ名主ハ、コレヨリ移レルナリ。[illegible] 二年六月）貞永式目、[illegible] 中ニ付 [illegible] 書「名主又寄事ノ名ハ不 [illegible] 後、西云名主職也」[illegible] 九日、[illegible] 田庄内、米満村 [illegible]」

みやうしゆん（名）［明春］アクル年ノ春。

[illegible]

[illegible] 附子息泰立事「氏忠ハ、云云、佐野家ノ名跡ヲ受テ後ハ、野州ニ退レリ」

みやうせんじしやう（句）［名詮自性］（成 [illegible] レバ自然ト其物アリ、故ニ名ハ自性ヲ [illegible] 名ハ、[illegible] 名ヲ忌ムナリ）世諺問答（一條兼良）六月「問フテイワク、嘉定ト申ス事ハ何ノユヘゾヤ、答、云云、其ノ路ニ、かちやう通寶ト侍レバ、勝ト云フみやうせんヲ [illegible]

みやうだい（名）［名代］他ノ名ニカハルコト。人ノカハリニ立ツコト。代理。又、ソノ人。名代人。吾妻鏡、二、治承五年閏二月廿八日「宗政雖朝政名代、相二率一族及合 [illegible]」

みやうだう（名）［冥道］（道ハ餓鬼道、六道ノ道ト同ジ）（一）閻羅王ノ住處。即チ、冥界。幽界。幽冥界。特ニ、地獄。[illegible] 十七百九十 [illegible]

みやうたん（名）［明旦］みやうてう（明朝）[illegible] 餘社ノ、大小ノ神祇冥道ノ中ニハ、無雙也」

ニ同ジ。

みやうちびと (名) [宮內人] 禁裏內ニ奉仕スル人人。クモノウヘビト。オホミヤビト。 〔金槐集、[illegible]ウチヒサス、宮內人ゾ、トノヰセリケル」(一本)〕

みやうちやう (名) [名帳] (一)名ヲ列記シタル帳簿。名簿。 〔臨時祭式、[illegible]記、六、[illegible]ハ、云云、其ノ名帳ノ中ニ〕 (二)轉ジテ、檀家帳、門徒帳。 〔著聞集、[illegible]人、云云、[illegible]名帳ヲ見テ、忽チニカクレヌ」〕 (三)融通念佛宗ニテ、大念佛ニ加入シタル人名ヲ記セル帳簿。

みやうちやう (名) [冥帳] (一)冥利ヲ祈ルタメニ、金錢ナドヲ喜捨シタル人名ヲ記セル帳簿。 〔[illegible]記、七、平泉寺御見物ノ[illegible]思ヒニ[illegible]ニ入リ、總シテ冥帳ニツク百五十人、〕 (二)くわこちやう(過去帳)ニ同ジ。 〔義經記、八、[illegible]兄弟御弔[illegible]四[illegible]ニテ討死シタル者共、云云、[illegible]ナレバ、[illegible]帳ニ[illegible]レテ弔へ」〕

みやうつし (名) [宮遷] せんぐう(遷宮)ニ同ジ 〔金槐集、雜「[illegible]ヤ、朝日ノ宮ノ、みやうつし、影ノドカナル、世ニコソアリケレ」〕

みやうてう (名) [明朝] アスノアサ。アクルアサ。明旦。 〔劉禹錫、酔下揚八副使赴ニ湖南ニ見ト寄詩「明朝若上ニ君山ニ望、一道巴江自ト此來」 朗詠集、上、鷓鴣「[illegible]昨夜[illegible]明朝[illegible]不[illegible]」〕

みやうでん (名) [名田] 〔草分ト云フガ如ク、其處ニ住シテ、其地名ヲ名字ニ名乘ルガ故ナリ〕 私田ノ一種。荒蕪ノ地ヲ拓キタル田、或ハ、買入レタル田ニ、其所有者ノ氏、又ハ、名ヲ冠セシメテ呼プモノ。己レガ名ニテ相傳セシ田。みやう(名)ノ條ヲモ參見セヨ。 〔吾妻鏡、七、文治[illegible]〕 名田ヲ多ク領スルヲ大名トシ、少キヲ小名トシ、領主ニ代リテコレヲ支配スル職ヲ名主職トス。 〔東寺文書、[illegible]元應二年四月廿日[illegible]九條[illegible]名田[illegible]私領ナリ」 同、四十八弘安十年十二月廿八日券文「右件田者、[illegible]相傳ノ名田ナリ」〕

みやうにち (名) [明日] あす(明日)ニ同ジ。 〔[illegible]明日池[illegible]是綠陰」〕

みやうねん (名) [明年] アクルトシ。翌年。來年。次年。 〔左傳、昭公七年「明年、壬寅、余又將[illegible]也」 [illegible]上、[illegible]イヅミノ[illegible]、竹生島ナトニゾ、今年明年ハ、サブラフヘキ」〕

みやうばつ (名) 冥罰 神佛ノ通力ニテ、冥冥ノ裡ニ降ス罰。 〔平家物語、二、西光被斬事「山王大師ノ神罰、冥罰ヲ立處ニ蒙テ、斯ル憂キ目ニ逢ヘリケリ」〕

みやうばん (名) [明礬] 硫酸鹽鑛物ノ一。本名、礬石(明礬石)ナリ。普通ハ、無色透明ニシテ、八面體ノ結晶ヲナシ、熱スル時ハ、結晶水ヲ失ヒテ、白色無定形ノ粉末トナル。コレヲ燒明礬(又ハ、枯礬)ト云フ。明礬ハ、其上品、透明ナルモノノ稱ナルヲ、今、通名トス。人造多シ、硫黃山ノ燒ケタル所ノ、鑛土ヲ製煉シテ作ル、色白ク固マル。藥料、染料等、用多シ 白礬 其黃ナルヲ、黃明礬ト云フ、亦染料トス。黃礬 〔本草綱目、十一、石之五、鹵石類「礬石、集解、時珍曰、白礬、云云、光明者[illegible]明礬[illegible]」 [illegible]本草、下、六「礬石、味酸(酸[illegible])寒无毒、[illegible]須支太字佐」〕

みやうばん (名) [明晚] 明日ノ晚 明夕。

みやうぶ (名) [命婦] (一)ヒメトネ[illegible] 宮女官ニシテ、四位、又ハ、五位ノ位階ヲ有スルモノ。[illegible]內命婦ト云ヒ、又、五位以上ノ官人ノ妻ヲ、外命婦(時[illegible])、參內スル故ニ)ト云フ。又、天皇ノ御前近ク仕ヘマツルヲ、上の命婦ト云フ。 〔[illegible]式、上、元正受[illegible]臣朝賀ニ式「[illegible]命婦[illegible]人、云云、[illegible]命婦四人、[illegible]正[illegible]式、車馬[illegible]、云云、內命婦[illegible]十八人、云云、外命婦[illegible]、[illegible]十[illegible]月「[illegible]新嘗之[illegible]以[illegible]宴[illegible]內外命婦等ニ」〕 (二)又、內侍司ノ下級ノ女官。 〔[illegible]〕 (三)稻荷ノ神ノ使ナリトスル狐ノ異名。名婦。 〔[illegible]廿一[illegible]ヲ祝フ社、女神ニテマシマサバ、女官ニ准ジテ命婦ト云フ、異名ニみやうぶト申セルニヤ」 太平記、[illegible]十九、自[illegible]元[illegible]日本[illegible]事「[illegible]稻荷山ノ命婦、比叡山ノ猿、社ノ仕[illegible]」〕

みやうぶ (名) [名簿名符] 〔名札ノ意〕 又、ナヅキ。名刺 物ニ己レガ姓名ヲ書キツケタルモノ。 古へ、貴人ニ見エ、又ハ、師ニ入門シ、或ハ、他ニ屈從スル時ナドニ、證トシテ送ルモノナリ。コレヲ「名簿を捧ぐ」又ハ「二字を奉る」ナド云フ 〔榮花物語、[illegible]、樣樣ノ[illegible]世ノ中ノ人、みやうぶシ、サテ司召ノ折ハ、唯コノ局ニ集マル」 今昔物語、廿四、第十六語「今ヨリ後ニ御弟子ニテ候ハムト云ヒテ、忽チニ名符ヲ書キテナン取ラセタリケル」〕

みやうふく (名) [冥福] めいふく(冥福)ニ同ジ。

みやうぼふ (名) [明法] だいがくれう(大學寮)ノ條ヲ見ヨ。

みやうぼふだう (名) [明法道] 古へ、大學寮ニテ、律令、格式ヲ講ズル學問。 〔職原抄、上、大學寮「明法博士二人(相當正七位下、唐名律[illegible]」〕

みやうみまね (名) [見樣見眞似] [illegible]有樣ヲ、ソノ如ク眞似ルコト。見ルトモナク見テ、イツカ眞似ルコト。

みやうみやう (副) [冥冥] めいめい(冥冥)ニ同ジ。 〔平家物語、二、一行阿闍梨事「月日ノ光モ見エズ、[illegible]所ナリ、[illegible]冥[illegible]トシテ[illegible]、云云」〕

みやうみやうごにち (名) [明明後日] 明後日ノ次ノ日。ヤノアサテ。シアサツテ。

みやうみやうごねん (名) [明明後年] 明後年ノ次ノ年。

みやうみやうてう (名) [命命鳥] めいめいてう(命命鳥)ニ同ジ。

みやうもく (名) [名目] (一)物事ノ稱。名。名義。名稱 〔晉書、曹毗傳「以二[illegible]之辭[illegible]」 [illegible]名目之[illegible]ト[illegible]〕 [illegible]トヘ。 〔めのとの草紙「名目ニモ初キラメキト申ス事ニテ候」〕 (二)ヨミクセ。習慣ナドヨリ來ル一種ノ讀ミ方。讀例。 〔名目抄、序「於ニ我朝ニ稱ニ名目ハ多不レ當ニ音訓ハ又、相ニ交清濁ハ云云、[illegible]必失[illegible]法、[illegible]世、そうけいト云名目出來ル、更不レ知ニ故實ハ云云) 還[illegible](本音ハ[illegible]うナリ、[illegible]名目ハ[illegible]又濁也)」〕

みやうもん (名) [名聞] 名ノ世上ニ聞ユルコト 譽レ。(多ク、自ラ飾リ衒フニ云フ) 〔[illegible]記、廿、八牧[illegible]事、[illegible]弓矢、[illegible]テ名聞ニセヨト呼ッテ、內ヘ入ヌ」〕

みやうらん (名) [冥覽] 冥冥ノ裡ニ、神佛ノ御覽アルコト。 〔盛衰記、廿八、經正竹生島詣事「垂跡ノ效驗ヲ訪ヘバ、一陰陽ノ明神也、祈祈心ニ滿、冥覽[illegible]ニ[illegible]ト、心[illegible]ニ[illegible]ヒ、云云」〕

みやうり (名) [名利] 名聞ト、利欲ト。名

寺、利生ト[illegible]
名利ニ無欲」盛衰記、廿八、經正竹生島詣事「我四十餘年ノ[illegible]ナク[illegible]ノ爲ニ[illegible]ズ」

みやうり (名) 冥利 神佛ノ冥加ノ利益。[illegible] (二)[illegible] 野守鏡(寶永、近松作)二「獵師昇冥利ニ叶フタ、末代ノ語リ句ニ、名香デ棄セマセフ」「冥利ガヨイ」冥利ノ[illegible]ガ盡キル」

みやうりよ (名) 冥慮 〔冥冥ノ思慮ノ意〕神佛ノオボシメシ。[illegible] 太平記、十九、[illegible]「[illegible]只右ニ[illegible]神ノ[illegible]エタリ」

みやうわう (名) 明王 〔明ハ光明、智慧ノ光明ヲ以テ、一切ノ魔障ヲ摧破スル威德アル王ノ意〕(一)明王部ノ諸尊。眞言宗ニテハ、大日如來ノ敎令ヲ受ケテ、忿怒ノ身ヲ現ジ、諸ノ惡魔ヲ降伏シテ、佛法ヲ守護スト云フ神。[illegible] (二)專ラ五大明王ノ稱。卽チ、不動明王(中央)、降三世明王(東方)、軍荼利夜叉明王(南方)、大威德明王(西方)、金剛夜叉明王(北方)等ナリ。又、大元明王、愛染明王ナドモアリ。(三)專ラ、不動明王ノ稱。ふどう(不動)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

みやうゐ (名) 冥威 神佛ノ威德 太平記、十七、山門[illegible]「[illegible]千一揆、[illegible]身命」扶二義兵一、老少同心、代二冥威一伏二冥賊一」

みやがう (名) 宮號 宮ノ稱號。今、一家ヲ創立セラルル皇族ニ、特ニ賜ハル。[illegible]

みやがた (名) 宮方 宮家ノ稱。吉野朝ノ頃、吉野朝ニ勤王スル軍勢ノ稱。〔將軍方ニ對ス〕太平記、三十五、[illegible]二八湯河庄司、將軍方ニ成テ、云云、宮方ノ、鶴頭ニナリシ、湯川ハ、都ニ入テ、何ノ香モセズ」(湯河庄司ハ、モト宮方ナリ、鶴頭ハ香頭ノ條ヲ見ヨ)

みやがはいし (名) 宮川石 若狹國、遠敷郡、宮川[illegible]産ズル石。赤、又ハ、碧色ニシテもくアルモノ。主ニ硯石トナス。

みやぎ (名) 宮木 (一)〔宮殿ヲ造ルベキ材木〕萬葉集、十一、廿「宮材ヒク、泉ノ杣ニ、タツ民ノ、ヤム時モナク、戀ヒワタルカモ」古今集、廿、雲滅歌「杣人ハ、宮木引クラシ、足引ノ、山ノ山彥、呼ビトヨムナリ」(二)御園ノ樹木。又、宮庭ノ立木。新葉集、五、秋、下「荒レニケル、志賀ノ都ノ、秋風ニ、ヒトリヤ月ノ、宮木モルラン」

みやぎもり (名) 宮木守 前條ノ材木、又ハ、御園ノ樹木ヲ守ル人。拾遺集、八、雜、上「ササナミヤ、近江ノ宮ハ、名ノミシテ、霞タナビキ、宮木もりナシ」新後拾遺集、二、春、下「[illegible]キヌル花ノ、宮木守、心ユルスナ、宿ノ櫻ヲ」

みやく (名) 脈 脉 〔說文「脈、血理分衺行體者」玉篇「脈、血理也」正字通「脉、俗脈字」〕(一)古名、チノミチ。動物體中ニ、血液ノ運グル管。脈絡、脈管トモ云フ。心ノ臟ヨリ體中ノ諸部ニ通ズ、心ヨリ出ヅル幹枝ヲ、動脈ト云ヒ、再ビ還リ來ルヲ、靜脈ト云フ。體ノ表ニ浮ビテ、按ジテ其動クヲ知ルベキ所アリ、手頸、足頸、最モ著シ、コレヲ脈所ト云フ。醫師、手ノ脈所(寸口)ヲ按ジテ、身ノ容體ヲ診ス。大抵、成人ニテ、一分時ニ七十乃至七十五動スルヲ常トス、コレヲ「脈を搏つ」ト云フ。脈搏 史記、扁鵲傳「乃割皮解肌[illegible]」太平記、廿五、[illegible]

「一代ノ名醫數十人ヲ招請シテ、脈ヲ取セラルルニ、云云 (二)[illegible]スベテ、物ノ[illegible]シテ[illegible]ナスモノノ稱。「[illegible]ノ脈」(三)みやくはく(脈搏)ノ略。脈を取る(とるハ試るノ義)、又ハ、脈ヲ見ルトハ、脈搏ヲ按[illegible]病状ヲ[illegible]「三醫者アリ、脈を取りテ後、病者ニ問フ」

みやくくわん (名) 脈管 動物ノ體中ニ在リテ、血液ノ通行スル管。脈道

みやくだう (名) 脈道 前條ノ語ニ同ジ。[illegible] 太平記、四十四、香川[illegible]事「[illegible]刀ニテ、云云、脈道ヲ[illegible]切テ死シケレ」

みやくどころ (名) 脈所 みやく(脈)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

みやくはく (名) 脈搏 略シテ、みやく。みやく(脈)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

みやくみやく (副) 脈脈 絶エズ物ノツヅク状ニ云フ語。[illegible]

みやくらく (名) 脈絡 (一)みやく(脈)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。(二)スヂミチ。ツヅキ。條理。朱熹、中庸章句、序「支分節解、脈絡貫通」陸游詩「論文有二脈絡一千古著不レ誣」

みやけ (名) 屯倉 屯家 〔官家ノ義、官舍ナリ、諸國ノ地名ニ、三宅ト云フアルハ、是レナリ〕古ヘ、諸國諸處ニ朝廷ノ御料ノ御田(屯田)アリテ、田部ト云フ者ニ、役立セテ、耕作セシメ、其穀ヲ藏ムル御倉(屯倉)、及、官舍(屯家)ヲ合ハセテ云ヘル稱。又、其御田ヲモ合ハセテ云フ。御田ヲ掌ル人ヲ、田令(欽明紀)、又ハ、屯田司(仁德紀)ト云ヘリ。又、神功皇后ノ韓國ヲ征服セラレシ後、ソレヲ官家國(欽明紀)ト云ヒ、ソレニ內官家ヲ置カセラレシ事アレドモ、コ[illegible]

みやけ (名) 官家 [illegible]

みやけ (名) 宮家 親王、法親王、諸王、及、門跡ナドノ御家。今ハ、皇族ニシテ、特ニ宮號ヲ賜ハリタル御家ヲ云フ。

みやけ (名) 御家 御宅 〔みハ敬語、いへ(家)ノ條、及、やけ(宅)ノ條ヲ見ヨ〕

みやげ (名) 土產 〔屯倉ノ義、官倉ヨリ都ヘ持テ上レル由ニテ、云ヘルニカト云フ〕其土地ニ産スル物ノ、[illegible]。又、他人ヲ訪フ[illegible]持ツル[illegible]テ、家人ニ贈ルモノ。イヘヅト。[illegible]

みやこ (名) 都 京都 〔宮處ノ義〕(一)帝王ノ住マセノル地ノ稱。京都。[illegible]上タマハネ」(二)ミサト。京。都。[illegible]宮。(諸國ニ、天子駐蹕ノ地アリ、コレヲ宮所ト云フ、卽チ、行宮ヲ申スナリ) [illegible]

[illegible]月[illegible]日[illegible]京也[illegible]集、[illegible]ノ野ノ、クサ[illegible]レリシ、兎道ノ宮子ノ、カリイホシ思ホユ」 肥前風土記、神埼郡[illegible]行)行幸之時、於此村[illegible]」

みやこ-いで (名) [illegible] 京都ヲ出立スルコト。 謠曲、船辨慶「ヒトトセ平安[illegible]ノ都出ニハ引キカヘテ、云云」

みやこ-いり (名) 都入 〔都出ニ對ス〕 京都ニ入ルコト。入京。入洛。(貴人ニ) 謠曲、千手「重衡ガ千手ニ渡リ、[illegible]ノ外ノ都入」

みやこ-うつし (名) 遷都 京都ヲ他所ニ遷スコト。セント。 [illegible]記、廿門[illegible]上「遷御事「心ノハヤル儘ニ、都遷トテ下給タレ共」

みやこ-うつり (名) 都移 京都ノ他所ニ移ルコト。 千載集、十七、雜、中「みやこうつりナド聞コエケル又ノ年ノ春」 平家物語、五、都うつりの事「此日頃、都うつりアルベシト聞エシカドモ」

みやこ-うり (名) 都瓜 まくはうり(眞桑瓜)ノ一名。 御堂關白集「いとちひさき瓜まゐらすとて「山城ノ、ウチニシナレバ、立チ出テ(モ、イアリ)、都瓜トテ、マヰフスルナリ」

みやこ-おち (名) 都落 都ヲ出デテ落人トナルコト。(戰ニ負ケテ) 平家物語、七「忠度の都おちの事、經正の都おちの事」

みやこ-おほぢ (名) 都大路 都ノ大道。

みやこ-かた-びと (名) 都方人 都ニ住メル人。京都方ノ人。ミヤコビト。 萬葉集、十八「コゾノ秋、アヒミシマヽニ、今日見レバ、オモヤメヅラシ、美夜古可多比等」

みやこ-がひ (名) 都貝 にしきがひ(錦貝)ノ一名。 夫木抄、廿七、貝「トモスレバ、戀シキ方ニ(ノイ)、名ニオヘル、都がひヲゾ、マヅ拾ヒツル」

みやこ-がへり (名) 都返 舊ノ都ニカヘ

[illegible]、山門ノ[illegible]

みやこ-ぐさ (名) (一)[illegible]松ノ異稱。 拾目抄「キナカトモ、イカデカイハン、武藏野ノ、千ニマシル、みやこぐさカモ」[illegible] (二)荳科ノ草。路傍ナドニ生ズ。莖ハ[illegible]ヨリ成リ、羽狀複葉、小葉ハ橢圓形ナリ、五月頃、豌豆ノ花ニ似タル黄色ノ蝶形花ヲ開キ、一寸許ノ莢ヲ結ブ。牧草トス。一名、キレハ[illegible]、コガネバナ、ミヤコバナ。百脈根。[illegible]「百脈根、ミヤコグサ、ミヤコバナ、コガネグサ(加州)、コガネバナ、云云」

みやこ-ごころ (名) 都心 都ヲ戀フル心。 [illegible]十六、[illegible]ゴトニ、色マスモミヂ、ナカリセバ、ナグサメマシヤ、みやこ心ヲ」

みやこ-ずし (名) 都鮨 おしずし(壓鮨)ニ同ジ。すし(鮨)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

みやこ-だうしや (名) 都道者 都ヨリ神佛參詣ノタメニ來レル人。又、殊ニ、京都ヨリ、吉野ノ御嶽ナドヘ參詣スル道者。 謠曲、吉野靜「是ハ都道者ニテ候カ、云云」

みやこ-ぢ (名) 都路 (一)都ノミチ。又、都ヘ行ク路。 萬葉集、四、六五「都路ヲ、遠クヤ妹ガ、コノゴロハ、ウケヒテヌレド、夢ニミエコヌ」 (二)都ノ街。

みやこぢ-ぶう (名) 都古路風 〔淨瑠璃語リ都古路豐後椽ノ結ヒ初メシ故ニ云フ〕 男子ノ髮形ノ一。ぶんきんふう(文金風)ニ同ジ。 我衣(文化、曳尾庵)明和の始時變る事「元文元年ヨリ上方淨瑠璃太夫ノ髮ノ風ヲ學テ、油ニテ堅メ、毛筋ワレメナシ、元結少シ卷、入ガミ少シ入、都古路風トモ、文金風トモ云」

みやこぢ-ぶし [illegible]同ジ。

みやこ-どり (名) 都鳥 [illegible]秋冬ニ多ク來メリ、海ニ近キ河水ニ棲ム。[illegible]二三寸、全身白ク、嘴ト脚トハ赤シ。[illegible]ト云フ。或ハ云フ、けりかもめ(鳬鷗)ノ一名ナリト。或ハ云フ、[illegible]ノ異名ナリト。又、江鷗ヲモ此名ニ[illegible]ト云フ。ウハチドリ。 萬葉集、廿、四十九「フナギホフ、堀江ノ川ノ、ミナギハニ、來ヰツツ鳴クハ、美夜故杼里カモ」 伊勢物語、九段「[illegible]白キ鳥ノ、嘴ト脚ト赤キ、鴫ノ大サナル、水ノ上ニアソビツツ、魚ヲ食フ、云云、コレナン都鳥ト云フヲ聞キテ、名ニシオハバ、イザコト問ハン、都鳥、ワガ思フ人ハ、アリヤナシヤト」

みやこ-のぼり (名) 都上 京都ヘ上ルコト。キャウノボリ。上洛。(貴人ニ) [illegible]代男(西鶴)三「此人、ハジメテノ都のぼりニ」

みやこ-ばな (名) 都花 みやこぐさ(都草)ノ(二)ニ同ジ。

みやこ-びと (名) 都人 都ニ住メル人。ミヤコカタビト。トジン。都人士。 拾遺集、十六、雜、春「ハルガスミ、春日ノ野ベニ、立チワタリ、ミチテモ見ユル、都びとカナ」

みやこ-ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ(自動、下二) 都振 〔都帶ぶノ約、おきなぶ、おとなぶ、ゐなかぶナド同趣〕 都ノ風ヲナス。都ラシクナル。 萬葉集、三、廿六「昔コソ、難波ヰナカト、言ハレケメ、今ハ京引、都備ニケリ」(古義ノ訓)

みやこ-べ (名) 都方 都ノ方。又、都。 萬葉集、十七、三九「美夜故敝ニ、タツ日近ツク、アクマデニ、アヒ見テユカナ、[illegible]フル日オホケム」

みやこ-ぼこり (名) 都誇 都ニ近ヅキシ[illegible]

[illegible]二月七日「みやこぼこりニモヤアラン、カラクシテ、アヤシキ歌ヒネリイダセリ」

みやこ-ほとり (名) [illegible] 又、[illegible]近キ處ニ住[illegible]ルコト。[illegible]下露ナレドモ、都ほとりトイフ事侍レバ」 發心集、六、第十一條「アルヒジリ、みやこほとりヲ厭フ心深クテ、住ミヌベキ處ヤアルト、尋ネアリキケル程ニ」

みやこ-まひ (名) 都舞 雅樂ノ一。やまとまひ(大和舞)ニ同ジ。

みや-こもり (名) 宮籠 祈願ナドノタメニ、神社ニ參籠スルコト。又、其人。 盛衰記、四、殿下御母立願事「宮籠ニ相交テ、麻峰ヨリ[illegible]セント也」

みや-[illegible] (名) [illegible]

みや-じ (名) 宮仕 古ヘ、下級ノ社僧、[illegible]、常社ノ灑掃ナドノ雜役ニ從事シ[illegible]モ、[illegible]八、[illegible]四月十三日、神人宮仕等、同中、矢」

みや-しき・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 宮敷 宮地ヲ數キシムル。又、地ヲ占メテ宮ヲ建ツ。

みやしげ-だいこん (名) 宮重大根 〔尾張國、宮重村ノ産、名アル故ニ云フ〕 をはりだいこん(尾張大根)ノ條ヲ見ヨ。

みや-しばゐ (名) 宮芝居 〔みやちしばゐ(宮地芝居)ノ略〕 神社ノ祭禮ノ時ナド、其境内ニテ演ズル芝居。又、神社ノ地ナドニアル小芝居。モト、江戸ニテ、

南ノ谷八町、芝[illegible]町、[illegible]ナドノ上地ニ、定小屋ヲ[illegible]、[illegible]行セリ、コレヲ三座ノ宮芝居ト云ヒキ。[illegible]事、宮芝居ノ分ハ、一切停止アルベキモノナリ」

みやす・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) [見易] (一) 見ルニ、タヤスキナリ。見ルニ、容易ナ[illegible] (二) [illegible] 第廿八段、人ト(一本、人)アマタキテ、アリクモノドモ、みやすからズ[illegible]

みやすずめ (名) [宮雀] (一) 神ノ宮ニ棲ム雀 [illegible] (二) 神社ノ事ニタヅサハリ居ル人。又、下級ナル神官[illegible]「宮雀ト人シテ、小宮[illegible]六ツモ[illegible]」[illegible]宮目台(元祿)八「鹿島ノ事觸、神官ノ役也、然レバ末世ニハ、是ヲ以テ宮雀ノスギハヒトナシテ、云云」 (三) 神社ノ邊ニ居リテ、[illegible]モノ、ヒ、又ハ、商人 そのはまゆふ[illegible]

みやすどころ (名) [御息所] (御やすみ所ノ音便ナル御やすん所ノ略) (一) 又、みやすんどころ。天子ノ御休息所。(二) [illegible]侍シテ、天子ノ御寢ニ侍スル人、平安朝時代ニハ、女御、更衣、其他ノ宮女ノ、別ニ職名ナクシテ、天皇ニ寵セラルルモノヲ稱シタリ。[illegible] (三) 皇子、皇女ヲ生ミマヰラセタル女御、更衣ノ尊稱 [illegible] 古今集、十、物名「二條后(清和天皇ノ中宮、陽成天皇ノ御母)ノ[illegible]みやす所[illegible]御息所ノ[illegible]ナラム」 (四) [illegible]皇太子妃ト稱セラレ[illegible]

みやすまく (名) [御休幕] [illegible]御休幕ヘ入ラセ給ヒヌ」

みやずまふ (名) [宮相撲] [illegible]リト、人ノナル樹ヤ、宮相撲」

みやすみどころ (名) [御休所] [illegible]「[illegible]みやすみ所ニマカデ給ヘ[illegible]」

みやすんどころ (名) [御息所] みやすどころ(御息所)ノ[illegible]見ヨ。「在中將、宮[illegible]ニサブラフニ、みやすん所ノ[illegible]ヨリ、ワスレ草ヲ、云云、賜ヘリケレバ」

みやぞのぶし (名) [宮薗節] そのはちぶし(薗八節)ニ同ジ。

みやぢ (名) 宮道 宮路 (一) [宮ニカヨフミチ。宮殿ニカヨフ路。萬葉集、十一、旋頭歌「[illegible]刺ス、宮道ヲ[illegible]、人[illegible]」 (二) [illegible]ノ、念ヒミダレテ、ヌル夜シゾオホキ」(古義ノ訓) 神樂歌、劍「イソノカミ、布留ヤヲトコノ、太刀モガナ、組ノ緒垂デテ、美也知通ハム」 (三) 神社ニ參詣スル道、參詣道[illegible] 謠曲、伏見「名ニオフ宮路正シクテ、移リ行クナリ雲ノ上」

みやちしばゐ (名) 宮地芝居 [illegible]ゐ(宮芝居)ノ條ヲ見ヨ [illegible]地芝居ノ初リハ、團島右衞門、竹本[illegible]大夫、享保年中、北野ニオキテ是ヲナス」

みやづかさ (名) [宮司] (一) [又、なかのみやのつかさ ちゅうぐうしき(中宮職)ニ同ジ] 源、三十五、柏木「宮づかさ[illegible]大ヨリ始メテ、[illegible]ノ殿上人、ミナ參レリ」 [illegible]十四段「みやづかさナドマヰリ[illegible]、云ム」 (二) 宮司[illegible]

云、老イタル宮司ノ禰ギシヲ、呼ビトドメテ」

みやづかひ (名) [宮仕] みやづかへ(宮仕)ニ同ジ。宇治拾遺、一、第二條「此法師原ハ、[illegible]」

みやづか・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(自動、下二) [宮仕] (一) [illegible] (二) 宮ヅカヘヲスル。萬葉集、六[illegible]「タギ川ノ、タギヲ淸ミカ、昔ヨリ、宮仕ケム、タギノ野ノ上ニ」 [illegible]「下大友正ト云フ魔身、ヲサナクヨリ宮づかへケリ」

みやづか・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) [宮仕] 宮仕ヘヲセサ[illegible] [illegible]宮仕はセン」

みやづかへ (名) [宮仕] (一) [宮中ニ仕ヘ[illegible] 宮、ミヤツカヘ [illegible] 義抄「官、ミヤツカヘ」 天武紀、下、二年五月「夫初出身者、先令仕二大舍人一」 萬葉集、一四「藤原ノ、大[illegible]」伊勢物語、第七十八段「みやづかへノ初ニ、タダナホヤハアルベキ」 (二) 轉ジテ、貴キ人ノ家ニ仕フルコト。仕官。奉公。又、直人ニ仕フルニモ云フ。[illegible] 集、十六、與言利口「世ニウハノソラナルヤウニ候ヘドモ、宮仕ツカウマツラントテ、參リ候ナリ」 (三) [illegible]ノ御[illegible] 「上サマノ御女房衆ハ、ウチマカセテハ、御所サマヘハ、御宮仕候ハヌ事ニ候」 (四) 宮殿ヲ造リ奉ルコト。(五) 又、給仕。謠曲、朝長「誰カアル、[illegible]テ、御[illegible]ニ宮仕ヘ申シ候ヘ」

みやづくり (名) [宮作] 宮殿ヲ造ルコト。宮ヲ建造スルコト。太平記、廿五、自二伊勢[illegible] [illegible]「[illegible]づくり、國家ヲ守ル神心」

みやつこ (名) [illegible] [illegible]ハ、周禮、春官篇、大祝「一日ニ顏、二日[illegible]トアリ、我ガ國、大化ノ革政ヨリ、くにのみやつこハ、祭祀專務ノ職トナレリ[illegible]ルコトトナリ、さものみやつこモ同語ナレバ、[illegible] 伴造、及、君、別(國造ノ上ニ)アリ、下ニ縣主、村主、稻置ナドアレド、上ノ五ツハ、諸國ノ事ニアヅカル國造ノ中ナリ。(大宮ニ仕ヘマツル伴男ヲ、スベテ伴造ト云ヒ、[illegible]トモ云フ、[illegible]キテ云ヒ、造ハ祭ニツキテ云フ義ナリ、猶、かばね(可婆禰)ノ條ヲモ見ヨ。又、伴の造、國の造[illegible]見[illegible]

みやつこ (名) [御奴] [illegible]

みやつこ (名) [宮子] (宮(神社)ニ仕フル子[illegible]ノ拍子ヲ揃ヘテ、スズシメ給ヘ、みやつこタチ」

みやつこぎ (名) [[illegible]木] ([illegible]ノ奴加木ノ略轉、蜷、みな、鴉、みほ、ノ類、轉ジテ、にはさこトナル、うこぎト共ニ、生垣トセラル) にはさこ(接骨木)ノ古名 其條ヲ見ヨ。タヅノキ。ヤマタヅ。キタヅ。 倭名抄、廿木類「接骨木、[illegible]」 [illegible]「接骨木、[illegible]、ニハトコ」 散木集、七、戀、上「春立テバ、メグム垣根ノ、みやつこぎ、我コソサキニ、思ヒソメシカ」 萬葉集、二、左云「山多豆者、是今造木者也」

みやつこのつかさ (名) [宮奴司] 古ヘ、宮内省管轄ノ司 官戸、及、官ニ屬スル奴婢ヲ支配シ、口分田ノ事ヲ掌ル。大寶元年ニ置カレ、大同三年ニ主殿寮(クワンスン)ニ併ハセラル。ヤツコノツカサ。官奴司。

みやデラ (名) [宮寺] 神佛混合ノヤシロ 兩部習合ノ社。 著聞集、十六、興言利口「宮寺ニテ、左大臣私ニ修繕セサセ給ヒテ」

みやどころ (名) [宮處] 皇宮ノアルトコロ。ミヤヰ。ココノヘ。御所。皇居。 萬葉集、十三ノ四「月モ日モ、カハリユケドモ、久ニフル、ミモロノ山ノ、トツ宮地(ミヤドコロ)」(略解ノ訓)

みやぬし (名) [宮主] 神祇官ノ官。今訛シテ、みやぢ。 其條ヲモ見ヨ。

みやのうちのつかさ (名) [宮内省] くないしやう(宮内省)ニ同ジ。 倭名抄、五三「官名、宮内省、美夜乃宇知乃都加佐」

みやのせんじ (名) [宮宣旨] [モト、中宮ノ宣旨ヲ扱ヒ傳ヘタルヨリ云フ] 中宮ノ中ノオモナル女房。 榮花物語、三、様様の悦「殿ノ御心地ニモ、サモヤトオボシケル人參リ給ヒテ、宮の宣旨ニナリ給ヒヌ」

みやのだいぶ (名) [宮大夫] 中宮職ノ大夫(カミ)ノ異稱。中宮大夫。 榮花物語、一、月宴「宮の大夫(ミヤ)ト聞ユル人」

みやのめ (名) [宮女] カンナギ。ミコ。 枕草子、十、第百廿九段「コトバナメゲナルモノ、みやのめノサイモンヨム人」

みやはじめ (名) [宮始] (一)社ヲ始メテ造ルコト。 謡曲、伏見「イニシヘノ宮はじめ、伏見ノ夢ヲオボスナコ、夢ノ伏見ノ宮はじめ、ソノ代ヲ今ニ顯ハシテ、云云」 (二)始メテ后ニ立チ給フコト 立后。 枕草子、九、第四十五段「宮始めノ作法、獅子、狛犬、大床子ナドモテ參リテ、御帳ノ前ニシツラヒスヱ、云云」

みやばしら (名) [宮柱] 皇宮ノハシラ。 萬葉集、廿五長歌「橿原ノ、畝傍ノ宮ニ、美也婆之良、太知り立テテ」

みやはなる (連體) 雅(ミヤビ)ナル。風流ナル。 古今集、十、物名「秋クレド、月ノ桂ノ、實やはなる(雅ナルニカクス)、光ヲ花ト、散ラスバカリヲ」

みやばら (名) [宮腹] 皇女ノ御子ヲ生ミ給ヘルコト。又、ソノ御子 源、二、帚木ニ「宮ばらノ中將ハ、中ニ親シクナレキコエ給ヒテ」

みやばら (名) [宮價] 宮方ト云ハムガ如シト云フ。 伊勢物語、第五十八段「ソコノ隣ナリケル宮ばらニ、事モナキ女ドモノ、云云」

みやび (名) [都雅] [閑雅] 風流ナルコト。上品ナルコト。ミヤビタルコト。風流。風雅。優美。 綏靖卽位前紀「天皇、風姿岐嶷(ミヤビイコヨカナリ)」 繼體紀、七年九月「斐然之藻(フミツクルミヤビ)」(作文ノ才藻ナリ) 持統紀、三年正月「麻呂等少而閑雅(ミヤビ)、欲」 伊勢物語、第一段「昔人ハ、カクイチハヤキ、みやびヲナンシケル」

みやびかに (副) [都雅] [閑雅] みやびやかに(都雅)ニ同ジ。 名義抄「嫺、ミヤヒカナリ」都、ミヤヒカナリ」閑、ミヤヒカナリ、ミヤヒカニ」雅、ミヤヒカナリ」 源、四十八、寄生九十五「京人ハ、ナホイトコソ、みやびかに、今メカシケレ」

みやびことば (名) [雅言] 雅(ミヤ)ビタル言(コトバ)。都人ノ正シキ言、(俚言ニ對ス)

みやびと (名) [宮人] (一)宮仕ヘスル人。宮中ノ人。又、宮中ノ官女。ヒメトネ。官人 [illegible] 仁德紀、十六年七月「宮人[illegible]」 後宮職員令集解「宮人[illegible]」 (二)神社ニ仕フル人。神ニ仕フル人。神主。 古事記、下(雄略)「[illegible]ニカモ依ラム、神ノ宮人」 萬葉集、七「[illegible]神ノ宮人、トコロヅラ、イヤトコシクニ、吾カヘリミム」(古義ノ訓)

みやびめ (名) [宮姬] 宮中ニ仕フル官女 ノ稱。女官。 催馬樂[illegible]、上「宮人トハ、其宮ニ仕ル人ヲ云、宮中ノ官女ヲ宮姬ト云ヒ、神ノ宮ニ仕ル人ヲ、神ノ宮人ト云類也」

みやびやかに (副) [都雅] [閑雅] 又、みやびかに。ミヤビナル狀ニテ。品好ク。風流ニ。上品ニ。 字類抄「嫺、ミヤヒヤカナリ」 字鏡集「閑、ミヤビヤカ」 雄略紀、二年十月「天皇以采女面貌端麗、形容溫雅(ミヤビヤカナルヲ)、云云」

みやびを (名) [遊士] [風流人] [雅男] 雅(ミヤ)ビタル人。風雅ナル男。風流人。風流士。 萬葉集、二「遊士ト、吾ハ聞ケルヲ、宿借サズ、吾ヲ還セリ、オソノ風流士」(古義ノ訓)

みや・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) [閑雅] [都(ミヤコ)ぶノ義、鄙(ヒナ)ぶ、俚(サト)ぶニ對ス] 都人ノ優ニ貴(アテ)ナル風ヲナス。風雅ナル振ヲナス。 神代紀、下九「顏色甚美、容貌且閑(ミヤビ)、殆非常之人者也」 萬葉集、五十九「梅ノ花、夢ニ語ラク、美也備タル、花ト吾レ思フ、酒ニ浮ベコソ」

みやぶぎやう (名) [宮奉行] 又、御宮奉行。江戸時代、老中ノ支配下ニアリテ、駿河國、久能山東照宮ヲ護衛スル職。榊原家ノ世職ニテ、千八百石高、役扶持武百人扶持トス。初、久能城代、又ハ、[illegible]

みやぶる・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [illegible] 隱レタルヲ探リテ見アラハス。又、祕密ナドヲサトリ知ル。看破(カンパ)ス。

みやま (名) [深山] [みハ發語] (一)山(ヤマ)ト云フニ同ジ。 古事記、下(顯宗)「オキメモヤ、近江ノオキメ、明日ヨリハ、みやまガクリテ、見エズカモアラム」 (二)奧深キ山。深山。 古今集、廿、神遊歌「みやまニハ、アラレ降ルラシ、外山ナル、マサキノカヅラ、色ヅキニケリ」 深山木。深山櫻。深山颪。深山隱。深山鴉。

みやま (名) [御山] (一)山ノ敬稱。 (二)[ミサザギ、又ハ、墓ノ敬稱] 源、十二、須磨「[illegible]ノ御墓拜ミ奉リ給フトテ、北山ヘマウデ給フ、[illegible]云云、御山ニマウデ給ヒテ、オハシマシシ御有リサマ、昨日ノ事ノヤウニオボシ出ラル」

みやまおくり (名) [御山送] 野邊送リ 御送葬 榮花物語、廿九、[illegible]「烟セヌ、み山送りノ、カナシサニ、雲ノ林ハ、タチヤソヒケン」

みやまおろし (名) [深山颪] ミヤマヨリ吹キオロスコト。又、ソノ風。ミヤマカゼ。 源、五、若紫十二「吹キマヨフ、み山おろしニ、夢サメテ、涙モヨホス、瀧ノ音カナ」

みやまがくれ (名) [深山隱] 山ノ奧ニ隱レ居ルコト。又、深山ノ奧フカキ處。 古今集、二、春、下「吹ク風ト、谷ノ水トシ、ナカリセバ、深山がくれノ、花ヲ見マシヤ」

みやまがらす (名) [深山鴉] 又、岳鳥(タケガラス)。鴉ノ一種。深山ニ穴居スルモノ。大キサ鳩ノ如クニシテ肥エ、全身、黑クシテ青ミアリ、頭大キクシテ青白ク、目ノ邊ト背ト赤シ。 [山鳥] 夫木抄、廿七、鳥「雪降レバ、み山鳥ノ、羽ガヘシテ、榛ノ梢ニ、寢ゾ寧レ居ル」

みやまぎ (名) [深山木] 深山ニ茂生セル木。[illegible]ノ[illegible]ガシクモ[illegible]ノ[illegible]八人ニ、ソケナシモノヲ」

みやまざくら (名) [深山櫻] (一)深山ニ[illegible]櫻。續千載集、十、[illegible]「[illegible]深山櫻ニ、サキ立チテ、ミヤコノ花ハ、マヅゾ開ケシ」(二)櫻ノ一種、[illegible]木ノ高サ二三丈[illegible]、葉ハ櫻ノ葉ニ似テ[illegible]、春、葉腋ニ長キ花梗ヲ抽キ、白色五瓣ノ花ヲ開キ、[illegible]ノ實ヲ結ブ。北海道ノ中部[illegible]山櫻。

みやまそび (名) [深山魚狗] 山翡翠ニ同ジ。かはせみ(魚狗)ノ條ヲ見ヨ。

みやまぢ (名) [深山路] 深山ノ道路。深キ山ノ道。大納言經信卿集、冬「深山路ヲ、ケサヤ出ツル、旅人ノ、笠白妙ニ、雪ハフリツツ」

みやまどり (名) [深山鳥] (一)深山ノ樹ニ棲ム鳥。新古今集、六、冬「寒カラバ、夜ハ來テ棲ヨ、みやまどり、今ハ木ノ葉ニ、アラシ吹クナリ」(二)燕雀類ノ鳥。形、雀ヨリ小サク、頭、黑ク、目、黄ニシテ、目ノ前後、黑キ筋アリ。頸、黄白ニシテ、胸ニ黑文アリ。背、翅、赤黑クシテ斑アリ、羽、尾、皆、黑シ。能ク囀ル。

みやまのさくら (名) [深山櫻] (一)深山ニアル櫻樹。(二)轉ジテ、隱者ノ異稱。[illegible]「[illegible]ノ[illegible]ト、深山の櫻、盛リニャ行カレズ、[illegible](咲)故[illegible]」

みやまべ (名) [深山邊] ミヤマノホトリ。深山ノ邊。金葉集、二、夏「郭公、心モ空ニ、アクガレテ、ヨガレガチナル、深山邊ノ里」

みやまゐり (名) [宮參] (一)又、うぶすなまゐり。[illegible]子共ニ詣ヅ。昔ハ、生レテ百日後ナリシガ、今ハ三十一日(男)、三十三日(女)目ニ詣ヅ。サレド、地方ニテ、日數同ジカラズ。[illegible]「[illegible]うぶや以下の次第[illegible]まいり、[illegible]ヨリ百日[illegible]ナラハセ候トテ、百廿日ヨリノビ候事、多ク御ザ候」(二)七五三ノ祝ニ、產土神マヰリスルコト。東京ニテハ、十一月十五日ナリ。

みやめぐり (名) [宮巡] 諸方ノ神ヲ巡リテ拜スルコト。[illegible]「[illegible]トケヨト祈ル、宮めぐり、マヅ[illegible]合ヒノ、契カモセン」

みやもんぜき (名) [宮門跡] [宮ハ、法親王ノ宮ナリ、攝家門跡ナドニ對ス] [illegible]んぜき(門跡)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]「[illegible]之次第、宮方御[illegible]ノ時ハ、宮門跡ト申」

みやもり (名) [宮守] 宮ノ番ヲスルコト。又、ソノ人。謠曲、蟻通「神ハ宜禰ガ習ハシトコソ申スニ、宮守一人モ無キ事ヨ、云云、アラ無沙汰ノ宮守ドモヤ」

みやらび (名) [宮童] [みやわらべノ略轉カ、[illegible]二、琉球語、巫女ト] (一)宮仕スル少女。(二)田舍ノ遊女。

みやり (名) [見遣] ミヤルコト。遠クミワタスコト。ミワタシ。蜻蛉日記、中、上十「浪蔭ノ、みやりニ立テル、小松原、心ヲヨスル、コトゾアルラシ(ベシィ)」

みやる・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [見遣] 遠ク見ル。望ム。眺ム。見渡ス。萬葉集、十三「春サレバ、伯勞鳥ノ草グキ、見エズトモ、吾ハ見將遣、君ガアタリハ」源、二十四、下、若菜、下八十二「御粥ナドマイル方ニ、目モみやらズ」

みやゐ (名) [宮居] [ゐハ田居、もとゐナドノ類] 神ノ宮ノアル處。又、皇居。風雅集、十九、神祇「思ソメシ、一夜ノ松ノ、種シアレバ、神ノ宮居モ、千世ヤ重ネン」「宮居ヲ遷ス」

みやをみな (名) [宮女] きゅうぢょ(宮女)ニ同ジ。萬葉集、十六、[illegible]、二八、[illegible]「[illegible]利ス、宮居見名、利ス竹ノ、舍人ヲトコモ」

みゆ (名) [御湯] (一)湯ヲ美ムル語。イデユ。溫泉。忠見集「此ノ山ヤ、道ノ限リト、思ヘドモ、カツマタノみゆ、遠キナリケリ」(二)神社ノ探湯。湯立。[illegible]「[illegible]みゆタテ笹ノ、ソヨソヨニ、靡キオキフシ、ヨシヤ世ノ中」

み・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) [見] (一)物ノ影、眼ニ映リテ知ラル。見エル。古事記、下、仁徳[illegible]「[illegible]ノ[illegible]モ[illegible]」萬葉集、十九、[illegible]「[illegible]ヒッツ、ヌレバカモトナ、烏玉ノ、一夜モオチズ、夢ニシ見由ル」顯宗紀、二年九月「オキメもヨ、[illegible]ノオキメ、明日ヨリハ、深山ガクリテ、磁見ズカモアラム」(二)他ニ見ラル。マミユ。(コノ用法ノゆるハ、「被る」ノ古言ナル「被る」ナラムカ。(詞ハゆる、アラゆる、ノ類)「見」ノ變化ヨリ、みらるトモ接シ、又、ゆるト接スルモ、見ト云フ動詞ノ一格ナラムカ。被見 源、三十四、上、若菜、上「女ハ、男ニみゆるニツケテコソ、悔シケナル事モ、目ヤマシキ思ヒモ、ヲノヅカラ打チマジルモノナメレド」云云」萬葉集、四、三十「物思フト、人ニ見えジト、ナマジヒニ、常ニ思ヘド、アリゾカネツル」(古義ノ訓) 竹取物語「アナガチニ志ヲみえ歩ク」古今集、十、物名「イササメニ、時待ツ間ニゾ、日ハ經ヌル、心バセヲバ、人ニみえツツ」後撰集、十六、雜、二「破レバ惜シ、破ラネバ人ニ、みえぬベシ、泣ク泣クモ猶、ヘスマサレリ」(三)オボユ。オモホユ。思ハル。「賢者ラシク見ゆ」

みゆかつひ (名) [御床邊] ミユカノホトリ。御床ノ邊。大殿祭祝詞「[illegible]御床都比能佐夜伎、夜女能伊須受伎伊都都志伎許登無久、平氣久安久[illegible]」

みゆき (名) [深雪] [みハ發語] ゆき(雪)ト云フニ同ジ。萬葉集、[illegible]「[illegible]降ル、冬ノ林ニ」同、十七、四十長歌「美雪フル、越ト名ニオヘル」[illegible]

みゆき (名) [行幸] [御行ノ義、行ハ、萬[illegible]] [illegible]見ユ、[illegible]ハ、支那ニテ、[illegible]天子ノ[illegible]所ハ[illegible]トイフ[illegible] 天子ノ出デ行キ給フコト。主上、御出行アルコト。行幸。臨幸。臨御。還リ給フヲ、還幸、又ハ、還御ト申ス。又、上皇、法皇、女院ナルモみゆきナレド、後ニ、文字ニテ書キ分ケテ、[illegible]、皇太后、皇后、東宮ニハ、行啓ト云ヒ、其還リマスヲ、還啓ト云フ。名義抄「行、ミユキ、イデマシ」[illegible] 拾遺集、十七、雜、秋「小倉山、峯ノ紅葉、心アラバ、今一度ノ、みゆき待タナン」

みゆき (名) [御行役] [身行ノ義] エダチ 人民ヲ役スル、官ノ使ノコト。天武紀、下、朱鳥元年七月「庚午、勅、天下之調、[illegible]」[illegible]

みゆきどり (名) [illegible] 雉ノ異稱。藻鹽草、十「雉、御幸鳥、狩ニスル歟」

みゆきのつら (名) 鹵簿 [行幸ノ列ノ義] [illegible]

みゆづる・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [見讓] 見比ベテ、他ニ讓ル。[illegible]

みゆづる人ナクテ、エサブラハズ侍リツル」 源、十五、蓬生「ウチ棄テラルルモ、コトワリナレド、誰ニみゆづりナサ[illegible]トリメシウナン」

〔みゆる・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四） 見赦 [illegible]チユルス。ミノガス。見テ其ママニナシオク。 看過 源、四十五、橋本「人キキロオシカルマジウ見ゆるされヌベキキハノ人ノ」

みよ （名） 御世 御治世。又、其御年數。 仁德帝位前紀「[illegible]」 續拾遺集、十、賀「數數ニ、ガクテ萬ノ、アフハレテ、御世ヲカナル[illegible]ノ浦波」 [illegible]集、七、賀「[illegible]ノ、磯ノイサゴヲ、ツツミモテ、御代ノ數トゾ、思ノヘラナル」

みよ （名） 三世 過去、現在、未來ノ稱。（三世ノ條ヲ見ヨ） 大和物語、下「折リツレバ、手ブサニ汚ル、立テナガラ、みよノ佛ニ、花奉ル」 三世ノ師トハ、過現未三世ノ師[illegible]、法師。 夫木抄、十八、佛名「三世の師ノ、御名トナヘツル、シルシニハ、罪モヤ今宵、殘ラザルラン」

みよ （名） 澪 みを（澪）ノ訛。

みようゑ （名） 虹 にぢ（虹）ノ方言。（伊豆國、賀茂郡西岸、及、若狹、越前、出雲ナドノ國ニテ）又、ヌジ

みよかしがほ （名） コレ見よかしト云ハヌバカリノ顔ツキ。 謠曲、三山「見よかし顔ニ、櫻子ノ、花ノヨソ目モネタマシヤ」

みよぐひ （名） 澪杙 みをぐひ（澪杙）ニ同ジ。

みよし （名） 船首 〔みおしトモ云ヒ、水押ノ義、おおす、よおすノ類〕へ。（ヘサキ。和船ノ舳先ニ出デテ、波ヲ切ル木。舳先ノ材。轉ジテ、船首。 書言字考節用集、七、器財門「港板、ミヨシ、舟制所ㇾ言」 和漢船用集、十、水押「今呼處ニヨシ、ミオシト云、古ハ、ニヨシトイヘリ、子丑ト書、又舟法ノ卷ニ、女首ト書」

みよのな （名） 御世名 年號ノコト。 續紀、四、和銅元年正月、宣命「[illegible]」 同、九、神龜元年二月、宣命「今將嗣座御世名乎記而、云云、今神龜二字御世乃年名止定氐、改二養老八年一爲二神龜元年一而」

みより （名） 身寄 （一）ウカラ。ミウチ。親族。近親。（二）隣ノ有方ノ稱。隣ノ左手ニ居ウル時、我身ノ方ヘ寄ルガナレバ云フ） 續古今集、六、冬「ハシ鷹ノ、みよりノ翅、身ニソヘテ、ナホ[illegible]ハラフ、宇多ノ御狩場」

〔みら （名） 韭韮 〔かみらノ略カ、芽平ノ約カ〕 にら（韭）ノ古名。おほみらハ、今ノらっきやう（薤）ナリ。こみらハ、今、訛シテ、にらト云フ。 本草和名、十八「韮、[illegible]」 字鏡「[illegible]保太良、古美良」 倭名抄「同字 同訓」「[illegible]、大太弥良」

みらい （名） 未來 （一）未ダ來ラヌ時。後ノ時。當來。將來。（三世ノ條ヲ併セ見ヨ） 書言字考節用集、一、時候門「未來、ミライ、當來、將來、並同」 （二）〔未來世ノ略〕後ノ世。來世。後世。 宇津保物語、俊蔭「みらいノ罪ニハアタルトモ、コノ事ハマネビツカウマツラジト申テ、マカリ出デヌ」 榮花物語、廿八、[illegible]「今生ノ禍福、未來ノ昇沈、其人ノ信否ニムクユ」

みらいき （名） 未來記 預メ、未來ノ世ノ沿革ヲ記セル書。讖書 太平記、六、正成天下守未來記披見事「上宮太子、云云、日本一州ノ未來記ヲ書置セ給テ、云云」

みらいざい （名） 未來際 〔未來世ノ邊際ノ意〕未來ノキハ。世ノアラムカギリ。永世。 吾妻鏡、一、養和二年四月廿日「然ニ往年之功ハ且彼ハ[illegible]時誓析ハ以ニ田五町寄田五丁ハ限ニ未來際ニ寄ニ附彼寺一給」

〔みらく （名） 見 〔見るノ延〕見ルコト。 萬葉集、七「[illegible]シホミテバ、イリヌル磯ノ草ナレヤ、見良久少ク、戀フラクノ多キ」

みらねぐさ （名） よろひぐさ（白芷）ノ異名。びゃくし（白芷）ノ條ヲ見ヨ。 延喜式「[illegible]」

〔みらのねぐさ （名） 細辛 〔韮根草ノ義、本草綱目[illegible]〕 さいしん（細辛）ノ古名。ソノ條ヲ見ヨ。 本草和名「[illegible]」 倭名抄「[illegible]」

ミリ （名） 粍 みりめえとる（粍）ノ略。

ミリグラム （名） 瓱 「佛蘭西語、Milligramme. 瓱ハ、瓦ト毛トノ合字」 一ぐらむ（瓦）ノ千分ノ一。（我ガ二分六厘七毛弱）

みりみり （感） 又、みりみり。物ノ裂ケ、又ハ、ヒシゲル時ニ發スル聲。

みりん （名） 味醂 又、美淋酒。燒酒十石、白糯飯七石二斗、麹二石八斗ノ割合ニテ雜ゼ合セ、時時攪キマゼテ、二十五日許リ釀シ成シテ、其滓ヲシボリ去レルモノ。味、甚ダ甘美ナリ、多ク、物ヲ煮テ味ヲ添フルニ用ヰル。美淋酎

みりんしゅ （名） 美淋酒 前條ヲ見ヨ。

みりんちう （名） 味淋酎 前前條ノ語ニ同ジ。 書言字考節用集、六、服食門「味淋酎、ミリンチウ、酒之一種」 太閤記、一、凡例「上戸ニハ、チンタ、ブダウ酒、ロウケ、ガネブ、みりんちう、下戸ニハ、カステイラ、ボウル、云云、ナドヲモテナシ」

ミリメエトル （名） 粍 「佛蘭西語、Millimètre. 粍ハ、米ト毛トノ合字」 一めえとるノ千分ノ一ノ稱。我ガ三厘三毛ニ當ル。略シテ、みり。

みりょく （名） 魅力 人ヲミイッシムル不思議ナル力。美貌、妖術ナドニテ、人心ヲ惑ハセ、ミトレサスル一種ノ力。

みる （名） [illegible] （一）〔[illegible]〕 [illegible]中ノ石上ニ生ズ、[illegible]ノ如ク、[illegible]六七寸、食用トス。ミルメ。ウミマツ。 [illegible] （二）〔衣[illegible]〕 [illegible]褸ナドノ破レタル狀ヲ譬ヘ云フ語。 萬葉集、[illegible]「[illegible]ノイト、ワケサガレル、可可[illegible]ノミ」 （三）[illegible]

みる・ミル・ミレ・ミ・ミ・ミヨ（他動、上一） 見看視 〔目射ル義[illegible]〕 （一）目ニテ[illegible]。 [illegible]「[illegible]」 （二）〔映〕映シ[illegible]ル。見[illegible] 古事記、上「[illegible]」 （三）〔其事ヲ身ニ受ケテ、己レガ任トシテ行フ〕 附キ添ヒテ取扱フ。省 [illegible] 源、五、若紫「[illegible]イト切ニみるベキ事ノ侍ルヲ思ヒ給ヒ出テナン」 古事記、上「於ニ其嶋ニ天降坐而、見ニ立天之御柱ハ見ニ立八尋殿ニ」「先途ヲ見屆ク」「見送ル」「看病」 （四）讀ミテ心ニ知リ分ク。 覽 「書ヲ看る」 （五）見テ占フ。 相 「人相ヲ觀る」「家相ヲ觀る」「手筋ヲ觀る」 （六）身ニ受ク。被ル。 遭遇 「恥ヲ見る」「憂キ目ヲ見る」 （七）心ヲトメテミル。注意シテ見ル。 視 （八）支配ス。行フ。取扱フ。「マツリゴトヲ見る」 （九）マモル。ミマモル。 名義抄「守、マモル、モル、ミル」

みる・ミル・ミレ・ミ・ミ・ミヨ（他動、上一） 試 （一）〔知リ得ムトテ爲ス。タメス。ココロミル。 土佐日記、十二月廿一日「男モスナル日記ト[illegible]

云ノモノヲ、女モシテみントテスルナリ」宇津保物[illegible]「[illegible]」

テ考ヘ分ク。諺「[illegible]ヲみる」

みるいし (名) 見石 〔硯ノ字ヲ、偏旁ヲ分ケテ、文字[illegible]シタル語〕[illegible]るイノ、西ニ物ハ、カカザリキ、竹ノ砌枝モ、使ハザリシニ[illegible]ハツケズ」

みるいろ (名) 海松色 (一)[illegible]ノ名。萌葱ノ黒バミタルモノ。トクサイロ。[illegible]松色ノ水干著タル調度懸六人」 (二)襲ノ色目ノ色。表ハ萌葱ニテ、裏ノ青ナルモノ。

みるがひ (名) 海松貝 みるくひ(海松食)ノ異名。夫木抄、廿八、海松「打チヨスル、みるがひ有リ[illegible]ヘメヘシ」

ミルク (名) 〔英語、Milk.〕 (一)牛乳。 (二)こんでんえみるく(煉乳)ノ略。

みるくひ (名) 海松食 又、みるがひ。介ノ名。中國、九州ナドノ淺海ニ産ジ、形、はまぐりニ似テ、大キク長ク、徑五六寸、殼ノ表ハ晴褐色ニシテ、裏ノ色、ごふがひ(蛤貝)ノ如シ。殼ノ口ニ、海松多ク生ジテ、食ヒ居ルニ似タル故ニ名ヅク。肉ノ味、淡ク脆ク美ナリ。[illegible] 施汁 [illegible]「人ホ螺ノ、誰ヲ待テトヤ人ノみるくい、忘レ貝」

みるのまる (名) 海松丸 古代模樣ノ名。海松ヲ圓クシタル形ノモノ。

みるぶさ (名) 海松房 海松ノ枝ノ、房ノナシタルモノ。[illegible]源、九、葵 ニ「ハカリナキ、千ヒロノソコノ、みるぶさノ、オヒユク[illegible]」

みるみる (副) 見ル見ル 見ツツアルウチニ。[illegible]ヨリオドロオドロシクトリナシケルガ、云云」

みるめ (名) 海松藻 〔藻ハ海藻ニ通ズ〕 海松ト云フニ同ジ。[illegible]ノ人ノ、[illegible]飽ク由モガナ」(歌ニ多ク「見る目」ニ言ヒ掛ク)

みるめかぐはな (名) 見目嗅鼻 (一)俗ニ、閻魔ノ廳ニアル人頭幢ノ稱。[illegible]童、惡部童トテ、人頭ヲ幢上ニ立ツ、能ク千里ノ事ヲ視察シテ、亡者ノ善惡ヲ分ツト云フ。(人頭幢ハ梵語、Daṇḍa.ノ譯語ニテ、閻魔王廳ノ標幟ノ棒ナリ、コレニ人頭ヲ[illegible]タル故ニ名ヅク) [illegible] (二)世人ノ、注意深ク他人ノ行動ナドヲ視察スルニ云フ語。

みるらん (名) 海松蘭 ぼうらん(棒蘭)ノ一名 [illegible]

みれう (名) 未了 イマダ、ヲハラザルコト。又、イマダ、ツキザルコト。貫休、[illegible]

みれん (名) 未練 (一)イマダ事ニ慣レヌコト。イマダ鍛錬セヌコト。功ノ足ラヌコト。未熟。[illegible]事「坂東ノ者共ハ、馬上ニテコソロハ聞候ヘドモ、船軍ハ未練ナルベシ」徒然草、第二百三十段「五條内裏ニハ、妖物アリケリ、云云、未練ノ狐、化ケ損ジケルニコソ」 (二)思ヒ切ルベキニ、尙、心ノ殘ルコト。アキラメ得ザルコト。遺念 「未練ニ思フ」未練ガ殘ル」

ミロク (名) 彌勒 〔梵語、Maitreya.慈氏、又ハ、慈尊ト譯ス〕菩薩ノ姓。名ハ[illegible]ノ内院ニ生ジ、彼ノ四千年、卽チ、人中ノ五十六億七千萬年ヲ經テ、人間ニ下生シ、[illegible]ノ人ヲ敎化スト云フ。[illegible]

ミロクゑ (名) 彌勒會 彌勒菩薩ヲ勸請シテ修スル法會。[illegible]

みろみろと (副) 凄グマシキ狀、又ハ、[illegible]ゲム狀ニ云フ語。[illegible]シテ、みろみろと、カイヲ造給ヘソ、イトヲシキ」

みわ (名) 神 「大和國、三輪山ノ神ハ、列聖ノ崇敬シ給ヒシ所故、單ニ三輪ト云ヘバ、神ノ事トナル、山ト云ヘバ、比叡山ノ事トシ、祭ト云ヘバ、賀茂祭トスルガ如シト云フ」かみ(神)ト云フニ同ジ。[illegible]

みわ (名) 酒甕 〔甕輪ノ中略ナラム、(出雲國造神壽詞「天能甕和」トアリ) 形ニ因ル名ニモアルカト云フ〕 酒ヲ釀ス瓶。甕 古ヘハ釀セル酒ヲ、瓶ノママ、地ニ掘リスヱテ、[illegible]ハ、高日シラシヌ」同、十三「[illegible]、ウズノ玉蘰、見レバトモシモ」

みわ (名) 神酒 〔甕ニ盛ルヨリ名トス、瓮ノ水トナレルガ如シ〕 神ニ奉ル酒。[illegible]

みわき (名) [illegible]

みわく ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 見分 次條ノ語意ニ同ジ。源、廿二、玉鬘「トシヘタ[illegible]」

みわくる [illegible]

みわけ (名) 見分 ミワクルコト。又、[illegible]

みわする ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(他動、下二) 見忘 嘗テ見タルヲ忘ル。ミワスレル。萬葉集、十一「ハシキヤシ、誰ガサフレカモ、玉ホコノ、ミチ見忘テ、君ガキマサヌ」(古義ノ訓)

みわすれ (名) 見忘 ミワスルルコト。謠曲、大原御幸「ゲニゲニ、御見忘れハ御コトワリ、[illegible]」

みわた (名) 水曲 川ノ流レノマガレル處。又、水ノ卷ク處。ウヅマク處。玉葉集、六、冬「ヤマ川ノ、みわたニ淀ム、ウタカタノ、泡ニムスベル、ウスゴホリカナ」

みわたし (名) 見渡 ミワタシ得ル處。萬葉集、十三[illegible]

みわたす ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 見渡 遠ク廣ク見遣ル。ウチワタス。周覽 萬葉集[illegible]

み-わたど-のり（名）【御海處乘】〔海上ヲ乘リ渡ル散ニ云フ〕ふね（船）ノ異名。

みわ-どりゐ（名）三輪鳥居　鳥居ノ一種。大和國、三輪神社ニアル鳥居。即チ、中央ニ、木鳥居アリテ、其左右ノ二柱ノ側ニ、一段低キ鳥居アリテ、二ツトモ屏アルモノ。本朝俗諺志、二、「鳥井、和州三輪ノ鳥井ハ、云云、是ヲ三光の鳥井トモイフ也」

みわ-もり（名）【酒盛】〔みわ（神酒）ノ條ヲ見ヨ〕さかもり（酒盛）ニ同ジ。散木集、二、夏「流レツル、ケコノみわもり、數ソヒテ、サヤダノサナヘ、トリモヤラレズ」

〰み-を（名）【澪】〔水緒ニテ、流レノ筋ノ意カ、或ハ云フ、水尾ノ義、尾ハ、引キ延ヘタルヲ云フ、山ノ尾ノ如シ、澪ハ水零ノ合字ト〕海川ノ中ニテ、水ノ深ク、船ノ通ヒユクベキ所ノ筋。水脈。水尾。今、訛シテ、みよ。水脈　萬葉集、十七、長歌「鳴鳥ノ川ノ、水尾早ミ」同、十五、長歌「潮待チテ、美乎引キ行ケバ、沖ニハ」延喜式、祝詞「難波の宮に幸りし時、國使宣、攝津國守等開石氏、大臣付奉、屬大寮宣」

〰み-を（名）【道緒】ミチノ筋。ミチスヂ。古事記、上「汝庶兄弟者、追伏坂之御尾ニ」

み-をかみ（名）さいゑ（齋會）スルコト。ヲロガムコト。名義抄「齋會、ミヲカミ」

み-をぎ（名）【澪木】みをノ標ニ水中ニ立ツル木。ミヲツクシ。又、神事ノ時、僧尼ノ入ルヲ禁ズル標ニ立ツル木。書言字考節用集、二、乾坤門「澪標、ミヲツクシ、ミヲキ」

み-をぐひ（名）【澪杙】又、みよぐひ。みをつくし（澪標）ニ同ジ。

み-をざさ（名）【澪笹】水路案内ノタメニ、水中ニ立テ置ク笹。

み-をさめ（名）【見收】コレヲ限リト見ルコト。見ルコトノ最後ナルコト。好色五人女（貞享、西鶴）四、世に見をさめの櫻「手向花トテ、咲キ後レシ櫻ヲ一本持タセケルニ、打詠メテ」

〰み-をし（名）【食物】〔みハ敬語、をす（食）ノ條ヲ見ヨ〕飲食シタマフコト。又、飲食物ノ敬語。神代紀、上「凡百飲食」景行紀、四十年十月「[illegible]酒折宮、時擧燭而進食」

み-をすゝし（名）【澪標】みをつくし（澪標）ニ同ジ。夫木抄、八、五月雨「[illegible]、渡リノセキノ、澪ゑゝし、ミヲソフラシ、五月雨ノ比」

〰み-を-つくし（名）【澪標】〔水脈之杙ノ義、澪ノ字ハ、字鏡ニ、落ナリトアリ、落潮ノ尺度ヲ知ラシメムノ標ナリ〕水脈一杙ヲ竝ベ立テテ、往來ノ舟ノ、ソレヲ目アテニスルモノ。ミヲジルシ。ミヲグヒ。ミヲ木。ミヨグヒ。萬葉集、十四、五「遠江、引佐細江ノ、水乎都久思、我ヲタノメテ、アサマシモノヲ」土佐日記、二月六日「みをつくしノモトヨリ出デテ、難波津來テ河尻ニ入ル」古今集、十二、戀、二「君戀フル、涙ノ床ニ、滿チヌレバ、みをつくしトゾ、我ハナリヌル」（歌ニ多ク「身を盡し」ニ言ヒ掛ク）延喜雜式「凡難波津頭海中立澪標、若有舊標朽折者、損求換立」

〰み-を-びき（名）【澪引】【水脈引】ミヲヲ導クコト。水先案内ヲナスコト。萬葉集、十八「堀江ヨリ、水乎妣吉シツツ、御船サス、賤男ノ伴ハ、川ノ瀨申セ」

〰み-を-びき-の-ふね（名）【澪引舟】大船ヲ導キテ、水脈ヲ示シツツ行ク引舟。水脈ヲ案内スル船。水先案内ノ舟。倭名抄、十一、船類「水脈船、美乎比岐能布禰」

〰み-を-ひ-く・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）【澪引】

む

ん

む　五十音圖、末行第三ノ假名。（まノ條ヲ見ヨ）むノ音ハ、他ノ音ノ下ニアルトキ、其發聲ヲ失ヒテ、韻ノうトナルコトアリ。たむけノたうげ（峠）トナリ、さむけたつノさうけたつ（寒氣立）トナリ、せむさとノせうさと（將爲事）トナルガ如シ。

ん　五十音ノ外ノ一種ノ假名。コノ假名ノ聲ハ、他ノ音ノ下ニツキテ、鼻ニ觸レテ撥ヌルガ如クシテ出ヅ。あんどん（行燈）、てんびん（天平）ノ如シ。又、他ノ音ノ下ニ加ハリテ出ヅルコトアリ。またた（眞字）ノまんなトナリ、ゆゑ（故）ノゆゑんトナルガ如シ。又、他ノ音ヲ變ジテ出ヅルコトアリ。かほばせ（顏）ノかんばせトナリ、いかに（如何）ノいかんトナリ、ぬきいづ（抽）ノぬきんづトナルガ如シ。

む（名）【無】ナキコト。又、空シキコト。[illegible]「[illegible]」折ッタモ、無ニナル事ヂャ」「人ノ功ヲ無ニスル」

〰む（名）【務】天武天皇ノ大寶元年三月ニ、制定セラレタル諸臣ノ位ノ六階級ニ、直、勤、務、追、進ノ[illegible]天武天皇ノ御宇ノ十四年正月ニモ定メラレキ）務位。[illegible]天武紀、下、十四年正月「更改爵位之號、仍增加階級、明位二階、淨位四階、毎階有大廣、并十二階、以前諸王已上之位、正位四階、直位四階、勤位四階、務位四階、追位四階、進位四階、毎階有大廣、并四十八階、以前諸臣之位」

〰む（名）【身】み（身）ノ轉。此音ハ、多クハ熟語ニ用ヰル、即チ、身實、身屋、身根（胸）、身代（質）ナドノ如キナリ。欽明紀、二年九月「於田身嶺冠以周垣」注「田身、山名、此云太務」

〰む（數）【六】三ト三トヲ合ハセタル數。むつ。むゆ。ロク。景行紀、十二年十月「野有石、長六尺、廣三尺、厚一尺五寸」「六人」「六言」

〰む・ム・メ（助動）【將】動作ノ未來ニ云フ助動詞。即チ、行カむ、落チむ、受ケめ、見め、ナドノ如キナリ。コノむヲ多クハ音便ニんト記シ、古ク、又、東國方言ニテハ、もト用ヰキ。萬葉集、一、廿九「見レドアカヌ、吉野ノ川ノ、常滑ノ、絕ユルコトナク、又カヘリ見む」同、十二「春日野ニ、淺茅シメ結ヒ、斷ルヤト、

[illegible]ノ人ハ、イ[illegible]ニ[illegible]ウテ、至怒りんゾヤ」 [illegible]集、廿[illegible]「吾ガ面ノ、忘レ[illegible]ハ、笑波ヲ、フリサケミツツ、妹ハシヌバネ」

む (感) 〔を、うノ轉〕 應フル聲。今、うんト云ソ。 [illegible]八[illegible]ナル聲ニテ、むーイフへ[illegible]云云、むト申シテ、サマ[illegible]マニ[illegible]タシ、云云」[illegible]六、[illegible]「タダむむト打笑ヒテ」(笑ヒツツ、イラヘタルナラム)

む (感) 〔牟〕 〔馬聲ヲい、蜂音ヲふト云フ類、牛ノ鳴ク聲。ムトモ[illegible]ユ。 字類抄[illegible]「[illegible]、ム、牛[illegible]也」[illegible]「[illegible]カクシテヤ、猶ヤヤミナ牛鳴、大荒キノ、浮田ノ杜ノ、標ナラナクニ」

む (接頭) 〔無〕 ナキ。空シキ。「無怒悲」無分別」[illegible]

むあい-ゐ (副) 〔無愛〕 又、ぶあいさうゐ。愛想ナク。 [illegible]記、廿八、[illegible]中[illegible]事、[illegible]「[illegible]スル樣ハ、云云」

むあく-ふざう (名) 〔無惡不造〕 〔惡造ラザルナシ、ノ意〕 惡事ヲ專橫ニ行ヒテ至ラザルナキコト。 太平記、三十四、[illegible]勢[illegible]事[illegible]ガ石河河原ニ陣ヲ取ケ、楠ヲ攻テ居タリシ[illegible]ノ兵共ガ、[illegible]ノ九[illegible]ドテ、[illegible]子ニ[illegible]タリシ事コソ、[illegible]代ノ[illegible]トハ聞シニ」

むあん (名) 〔無安〕 ヤスキコトナキコト。 又、一切世間、安穩ノ法ナキコト。 法華經、譬喩品「三界無安、猶如火宅」

むあんない (名) 〔無案內〕 案內ヲ知ラヌコト。其地理ニ暗キコト。不案內。 太平記、二[illegible]武士ハ皆無案內ナレバ、[illegible]トモ云ズ、馬ヲ馳倒シテ、引カネケル間、云云」

むい (名) 〔無意〕 (一)佛敎ニテハ、虛妄ノ意思ナキコト。 [illegible]無[illegible]無念、萬事自[illegible]、萬有無[illegible]念、萬事皆失」 (二)意思ナキコト。 又、故[illegible]スコト。 [illegible]、[illegible]日[illegible]也、[illegible]所[illegible]無[illegible]也、[illegible]何所[illegible]」[illegible]白[illegible]、人[illegible]本[illegible]、[illegible]白[illegible]」

むいうじゆ (名) 〔無憂樹〕 むうじゆ(無憂樹)ニ同ジ。

むい-か (名) 〔六日〕 〔六日ヲむうかトシタルノ轉〕 (一)又、むゆか。むよか。月ノ第六ノ日。(二)日數、六ツ。

むいか-どしこし (名) 〔六日年越〕 昔、正月七日ハ式日ナレバ、其前日ノ六日ヲ年越トシテ祝フコト。 後[illegible]時[illegible]中行事、上、正月、六日夕方、[illegible]ノ御サカヅキ、常ノ御所ニテ一獻參ル」 光[illegible]一覽、一「六日(正月)年越ノ御儀式」[illegible]記、慶長九年正月六日「丁巳、歲[illegible]」[illegible]

むいか-の-あやめ (名) 〔六日菖蒲〕 時過ギテ用ヲナサヌコト。五月五日ノ端午ノ節ニハ、菖蒲ヲ用キル、翌六日ニハ、ソノ用ナケレバ云フ。むゆかのあやめ。又、九月九日ハ重陽ニテ、翌十日ハ菊ノ宴ヲ過ギタル後ナレバ、同趣ナリ。アトノマツリ。 永久四年百首、秋、九月九日「長月ノ、九日マデニ、フクミタル、とをかの菊ノ、花開ケナン」 ...どをかのきく(十日菊)ト云フモ、

むいき (名) 〔無意氣〕 ブイキナルコト。無骨ナルコト。カタクナナルコト。頑固。 持統天皇[illegible]法、正德、近松作)三「アマリ無意氣ナ御勘當、ツフイ親御ノ心ヤト、云云」

むいぎ (名) 〔無意義〕 意義ナキコト。意味ノ立タザルコト。無意味。

むいしき (名) 〔無意識〕 (一)意識ヲ失ヒタルコト。人事不省。(二)〔英語、Unconsciousness ノ譯語〕 心理學ノ語。心的現象ノ自覺ナキコト。心ノオボエノナキ狀態。自覺力ナキコト。

むいちぶつ (名) 〔無一物〕 次條ニ同ジ。

むいちもつ (名) 〔無一物〕 又、むいちぶ

つ。何[illegible]モ[illegible]ト。一[illegible]モナキコト。貧乏ナル狀ナドニ云フ。 六[illegible]

むいみ (名) 〔無意味〕 むいぎ(無意義)ニ同ジ。

むう (名) 〔無有〕 無ト、有ト。ナキコト、アルコト。有無。 狂言記、布施ない「カノ十疋ノ布施物ヲ二ツニ押シ切リ、大海へサラリサラリト投ゲ、無有モ無モナウシテイヌルニ、何ノイナレヌ事カアラウ」

むう (感) 口ヲツグミテ、發スル聲。 狂言記、不腹立「ソチガ名ハ、ハラハラノ障子母カ、むうトナ人、出家ノ名ニ、ハラハラノ障子母ト云フ名ガアルモノカ」

むう-じゆ (名) 無憂樹。 〔梵語、阿輸迦(Asóka.)ノ譯語〕 佛敎ノ語。釋迦ガ、天竺、嵐毘尼園ノ此樹ノ下ニテ誕生セシトキ、母子トモニ憂ヒナカリシ故ニ、名ヅケラレシ樹。むいうじゆトモ云フ。 [illegible]生[illegible](元祿、近松作)一「此ノ花ノ色[illegible]レテ咲キタルハ、無憂樹ト云フ木ニテ、文字ニハ、憂へ無シト書ク、一枝折テ、王子ノ無憂ヲ祈ラン」

むえき (名) 〔無射〕 ぶえき(無射)ノ條ヲ見ヨ。

むえき (名) 〔無益〕 〔有益ニ對ス〕 利益ナキコト。ヤクニ立タヌコト。ムダ。 ムヤク 書經、旅獒[illegible]「志以[illegible]、言以道接、不作無益害有益、功乃成」 狂言記、[illegible]比[illegible]門「御雜言ハ無益、云云」

むえん (名) 〔夢魘〕 恐ルベキ夢ヲ見テウナサルルコト。惡夢ニ襲ハルルコト。

むえん (名) 〔無緣〕 〔佛敎ニテハ、有緣ニ對スル語〕 (一)緣ノナキコト。又、葉

[illegible]ナキコト[illegible]、「[illegible]ニ後[illegible]テ、或ハ有[illegible]ノ衆生ヲ[illegible]キ、或ハ無緣ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]法門ニテ錢、一夜ノ宿ヲ御借シ候へ」 (二)緣者ノ弔フベキ人ノナキコト。寺院ニテ、位牌[illegible]ナキヲ稱スル語。不血食 [illegible](寶永、近松作)中「今日ハ大事ノ年忌、弔フ者ハ私バカリ、本[illegible]ノ[illegible]ノ日[illegible]ノ一人モ供養セズ、云云」

むえん (名) 〔無鹽〕 (一)モト、支那ノ地名、齊ノ婦人、鍾離春ノ出デタル處ナルヨリ、此婦人ノ別稱トス。婦人ハ極メテ見惡キ容貌ナリシガ、齊ノ宣王、召シテ其說ヲ聞キ、大イニ敬服シテ、遂ニ王后トナセリト云フ。コレヨリ醜キ婦人ノ形容ニ云フ。(劉向、新序、雜事篇) (二)ぶえん(無鹽)ニ同ジ。

むえん-くわやく (名) 〔無煙火藥〕 殆ド煙ト燼滓トヲ生ズルコトナクシテ燃燒シ、強烈ナル爆發力ヲ有スル火藥。

むえん-たん (名) 〔無煙炭〕 石炭ノ一種。百分中ニ九十以上ノ炭素ヲ含ムモノ、帯白色ノ[illegible]アリテ[illegible]、[illegible]ナル熱ヲ發シ、臭氣、及、煙ヲ發セズ、石炭中、最モ優良トセラル。

むえん-づか (名) 〔無緣塚〕 無緣ノ亡者ノ供養ニトテ建テタル墓。[illegible]人塚。[illegible]

むか (名) 〔無價〕 價ノ定メラレヌ程ニ貴キコト。[illegible]無價[illegible]ノ條[illegible]見ヨ。 [illegible]文字[illegible]、[illegible]只[illegible]也[illegible]」[illegible]

むが (名) 無我 (一)我意ノナキコト。了簡ナキコト。思フコトナキコト。無邪氣 吾妻鏡、三十八、寶治五年六月廿九日「親衛遂令レ受二其無我一給」 (二)轉ジテ、一事一心ヲ取ラレテ、他ヲ思ハスコト 我レヲ忘ルルコト。何モ分ラヌコト。「無我夢中」 (三)〔梵語、Anātman.ノ譯語〕佛教ノ語 我ガ身ヲ執シ念フコトヨ脱スルコト。又、常一ノ我體アルコトナキコト。金剛經「通二達無我法一者、如來說名二眞是菩薩一」 大乘義章、二「法無二性實、故曰二無我一」「無我無念」

むがい (名) 無蓋 (一)オホヒノナキコト。フタノナキコト。又、かさノナキコト 「無蓋貨車」 (二)轉ジテ、處トシテ蓋ザルコトナキコト。廣大ノ意。無量壽經、上「如來以二無蓋大悲一矜二哀三界一」

むがい (名) 無涯 カギリノナキコト。ハテシノナキコト。司馬相如、上林賦「視レ之無レ端、察レ之無レ涯、日出二東沼一入二乎西陂一」

むがい-くわしや (名) 無蓋貨車 〔有蓋貨車ニ對ス〕鐵道ノ貨車ニ、屋根ナキモノ。

むかう (名) 向 〔むかひノ音便〕 (一)正面ノ方。前面。「向う側」「向う疵」 (二)此方ヘ向キ合ヒタル彼方ノ側。「向うノ山」 (三)向後。將來。「向う十日間」「向う三箇年間」 (四)先方 相手。對手。 (五)むかうさぢき(向桟敷)ノ略。其條ヲ見ヨ。

むかう (名) 無效 效力ナキコト。役ニ立タヌコト 隋書、經籍志「金丹玉液長生之事、歷代糜費不レ可二勝紀一、竟無二效驗一」

むかう (名) 無何有 「無何有郷ノ略、何物モアルコトナキ郷ノ意」莊子ニ云ヘル語。何物モ悉皆アルコトナキ國。

無爲ニシテ自然ノママナル國。

むかう-がみ (名) 向髮 むかふがみ(向髮)ニ同ジ。[illegible] 額髮ヲむかうがみナドトモ云ヒシコトアレバ」

むかう-きず (名) 向疵 むかふきず(向疵)ノ條ヲ見ヨ。

むかう-さじき (名) 向桟敷 芝居ニテ、舞臺ノ正面ノ桟敷ノ稱。又、むかふさじき、略シテ、むかう。

むかう-ざま (副) 向様 〔むかひざまノ音便〕むかひざま(向様)ニ同ジ。

むかう-しやうめん (名) 向正面 むかふしやうめん(向正面)ノ條ヲ見ヨ。

むかう-ずね (名) 向臑向髓 むかふずね(向臑)ノ條ヲ見ヨ。狂言記、萩大名「太郎冠者ガむかうずねニ、某ガ鼻ノ先」

むかう-の-さと (名) 無何有鄉 〔莊子、逍遙遊篇「何不レ植二之無何有之鄉、廣莫之野一」林希逸注「造化自然、至道之中、自可レ樂地也」トアルヨリ出ヅ〕虛無ノ地ノ名 無爲自然ノママナル國ノ意 無爲ニシテ廣漠ナル仙境ナドニ喩フル語。略シテ、無何有 萬葉集、十六、卅二「心ヲシ、無何有乃鄉ニ、置キタラバ、藐孤射ノ山ヲ、見マク近ケム」

むかう-ば (名) 向齒 むかふば(板齒)ノ條ヲ見ヨ。最明寺殿百人上臈(元祿、近松作)上「中秋中ノ誕生、敵ヲ征スル刑官、向かう齒反テ[illegible]眼、鬢ノ髮ノ縮ミシトヤ」

むかう-はちまき (名) 向鉢卷 はちまき(鉢卷)ノ條ヲ見ヨ。むかふはちまき。

むかう-みず (名) 向不見 むかふみず

(向不見)ノ條ヲ見ヨ。

むかう-め (名) 向目 はかりざをニ[illegible]ル時、ソノ向側ニ盛レル目。又、ソレヲ宛ニテ稱ルコト。(上目ナドニ對ス)はかりざを(秤棹)ノ條ヲ見ヨ。むかふめ。

むがく (名) 無學 (一)學問ヲ知ラザルコト。學問上ノ知識ナキコト。北史、[illegible]上[illegible]白、人不レ可二無學一、但[illegible]不レ宜二博士一耳」 (二)佛教ノ語 聲聞乘ノ四果ノ中、第四ノ阿羅漢果ノ稱 學道圓滿ニシテ、更ニ修學スル必要ナキコト。[illegible]

むかご (名) 零餘子 古クハ、ぬかご。今モ地方ニヨリテ、シカ云フ。[illegible]い(山芋)、つくねいも(佛掌薯)ナドノ子 其蔓ノ葉ノ間ニ生ズ。形、大ナルハ鷄卵ノ如ク、小サキハ鉛丸ノ如シ。皮、青黄褐、[illegible]シテ、斑アリ、肉白シ、食用トシ、又、ソノ種トス。重修本草綱目啓蒙、十九、[illegible]「零餘子、ヌカゴ(古名)、[illegible]、ムカゴ」蕪村句集、秋「ウレシサノ、箕ニ餘リタル、むかご哉」

むかさり (名) 新婦 〔むかへ(迎)さり(去)ノ中略ニテ、新婦ノ實家ヲ去リテ、夫ノ家ヘ迎ヘラルル意ト云フ〕 嫁入リ。又、嫁シタル婦人 ヨメ 音便ニ、むかつさり。(山形、仙臺、安房ナドノ方言)

むかされ (名) 〔前條ノ語原ヲ見ヨ〕 又、むかさり。ヨメニユクコト 嫁スルコト。嫁入。物類稱呼、五、言語「嫁ト云フ事ヲ、出羽及信濃ニテ、むかされト云フ」

むかし (名) 昔 〔むかし(向)、(昔)ノ條ヲ見ヨ〕 (一)年久シク過ギタル時。過

ギ[illegible]

子ニ過二於匡一」 萬葉集、十五、廿「[illegible]可之ヨリ、イヒケルコトノ、[illegible]カモ」 (二)十年一期ノ稱。或ハ云フ、十二年ト [illegible]

むかし (副) 昔 年久シキ前ニ。カツテ。伊勢物語[illegible]昔、男アリケリ」[illegible]むかし、オホツウナリシ世ニ、云云

むか・し シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 向ハマ欲シ 懐フ 昔向ヘ、ト云フノ反[illegible] 萬葉集、十八、廿「白玉ノ、五百集ヲ、手ニ結ビ、オコセム海人ハ、むかしくモアルカ」

むかし-いま (名) 昔今 むかしト、いまト[illegible] 四十三段「ヨロヅノ人ノウヘ、むかしいまト語リテ、イヒシツイデニ、云云」

むかし-えん (名) 昔縁 [illegible]ノ、えん(宿縁)ニ同ジ [illegible]ナクベ、スコシ心モトナクナンアラム、オトコ女ノ御中ハ、むかしえんノママナリキト聞ユ」

むかし-かたぎ (名) 昔氣質 昔風ナル氣質 老人ナドノ頑ニ律義ナルコト 昔風ニシテ、律義ナルコト 昔伝

むかし-がたり (名) 昔話 ムカシバナシ 昔ノ物語。昔物語 源、十一、花散里「昔がたりモ、カキクヅスヘキ人スクナウナリ行クヲ、云云」新古今集、十六、雜、上「アヤシクゾ、カヘサハ月ノ、クモリニシ、昔がたりニ、夜ヤフケニケン」

むかし-ぐさ (名) 昔草 [illegible] 橘ノ異名 [illegible]集、夏「昔草、[illegible]、代代ヲ經テ、宿ハ荒レユキ、昔草、香ヲナツカシミ、袖マツリスル」

むかし-ざま (名) 昔様 昔ノアリサマ。

昔ノサマ。ムカシヤウ。ムカシフウ。[illegible]

むかし-なじみ (名) [昔馴染] ムカシノナジミ。以前ノ知リアヒ。昔ノ親友。

むかし-ばなし (名) [昔話] (一)昔ノ物語。[illegible] ムカシガタリ。[illegible] (二)小兒ニ聞カスル傳說。チヂババノモノガタリ。桃太郎、花咲爺、舌切雀、猿蟹合戰、かちかち山ナドノ類。野猿、猿救、ちる花ノ、[illegible]むかし、ばなし哉」

むかし-び (名) [懐] ムカシブコト。心ニカナヒテ、ヨロコバシキコト。[illegible] 第三[illegible]之意、合、生、子」[illegible]「懐、本加之比」

〔むかし-びと (名) [昔人] (一)古昔ノ人。ムカシヘヒト。古人。伊勢物語、初段「昔人ハ、カクイチ早キミヤビヲナンシケル」(二)年齡ノ老イタル人。ムカシヘヒト。トシヨリ。老人。宇津保物語、國譲、中「ココノニむかし人ハ、志賀ノ山モト、ヒエツジノワタリニ」(三)身マカリタル人。ナキヒト。故人。源、廿二、玉鬘「ホノカニキコエ給フコエゾ、昔人ニイトヨクオボエテ、ワカビタリケリ」

むかし-びる・ビル・ビレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上一) 昔むかしミ昔ノ此 太平記、二十五、北野通夜物語事「此御所ノ御樣、昔びれテ」

むかし-ぶ・ブ・ベ・ベ・ビ・ベ (自動、四) [懐] 〔良キコトニハ、飽カズ向ハマホシキ意〕心ニカナヒテ、ヨロコバシク思フ。ナツカシク思フ。オムカシク思フ。

〔むかし-ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) 昔 昔ノサマナリ。フルメカシクアリ。[illegible]八、[illegible]院ノ御樣ハ、云云、深クむかしびタラン方ハ、イミジキタメシト申スベシ」

むかし-ふう (名) [昔風] 昔ノアリサマ。古ヘノ容子。ムカシザマ。古風。

むかし-ぶみ (名) [illegible] (一)[illegible] (二)[illegible]「ハテハヌ、シミノスミカノ、むかしぶみ、ヘラヘバチリト、見ルゾカナシキ」

〔むかし-へ (名) [昔] 〔向ひし方ノ義、往にし方(古)ト同意、古ヘヲ今ニ對フル意ト云フ〕又、むかし[illegible]過ギ[illegible]シ方。以前。ソノカミ。古今集、三、夏「むかしへヤ、今モ[illegible]シキ、時鳥、古里ニシモ、鳴キテ[illegible]ン」

〔むかしへ-びと (名) [昔人] むかしびと(昔人)ニ同ジ。土佐日記、定家自筆本「[illegible]月九日むかしへ(羣書類從本、つニ作ル)人ノ母、ヒトヒカタ時モワスレネバヨメル」

むかし-め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) ムカシフウニ見ユル。古風ナリ。芭蕉句集、秋「蔦ノ葉ハ、むかしめきタル、紅葉カナ」

〔むかし-ものがたり (名) 昔物語 むかしがたり(昔語)ニ同ジ。源、十二、須磨、六十「昔物語ナドシ給シ御サマノ、云云」

〔むかし-やう (名) [昔樣] むかしざま(昔樣)ニ同ジ。源、十五、蓬生「御[illegible]ウド共モ、云云、昔やうニテウルハシキヲ、云云」猿衣、[illegible]上「是ハツヨキ文字ヅカヒ、昔やうニハベル」

⁂むか-つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [逆] (一)ムカムカスル。吐氣ヲ催ス。胸惡。惡心。字類抄「噦、ムカツク」[illegible]心方、一「乾嘔、ムカツク」同、同、[illegible]「噦、ムカツク」 (二)癪ニサハル。(京阪ニテ)

むかっ-ぱら (名) [向腹] 〔むかばら(向腹)ノ音便〕むかばら(向腹)ノ條ヲ見ヨ。

〔むか-つ-を (名) [向峯向岡] 〔を(峯)ノ條ヲ見ヨ〕向ヒノ峯。向ヒノ山。又、向ヒノ岡[illegible]「[illegible]」

〔むかつを-の-へ (名) [向峯上] 向ヒノ峯ノ[illegible]花ニホヒ、照リテ立テルハ、ハシキ誰ガツマ」

〔むかで (名) [百足、蜈蚣] [illegible] 八[illegible]義ト云ノ〕多足類ノ蟲、[illegible]節足[illegible]處ナドニ生ズ。[illegible]リ出ヅ。大ナルハ五六寸、身ハ扁平ニシテ細長ク、多クノ環節アリ、背ハ黑クシテ光ル。或ハ青キモアリ。腹ハ黃ナリ。節毎ニ一對ノ赤キ脚出デテ、左右相對シ、其數凡十脚アリ、[illegible]尾ニ岐アリ。口ヨリ毒液ヲ分泌シ、人コレニ嚙マルレバ、疼痛ヲ感ズ。倭名抄、十九、蟲豸類「蜈蚣、一名、百足、無加天」本草和名、下[illegible]、字類抄[illegible]「百足」[illegible]蚣、ムカデ」古事記、上[illegible]、亦其ノ日夜[illegible]、[illegible]枕草子、八、第八十[illegible]「フルキ所ナレバ、むかでト云フモノ、ロヒトヒオチカカリ、蜂ノスノ大キニテ、ツキアツマリタルナド」

むかで-ぶね (名) 蜈蚣舟 [illegible]ヲ多ク兩側ニ列ネタル舟[illegible]其形、蜈蚣ニ似タルヨリ云フ〕常山紀談、十五、[illegible]北の[illegible]、[illegible]なぶひ[illegible]られし[illegible]口ニテ、蜈蚣舟[illegible]ギクラベヲサセテケリ」合武三島流舟戰要法(寛政[illegible])[illegible]舟ノ形、蜈蚣ノ如シ[illegible]東南ノ夷ヨリ始ル」

〔むかば (名) 〔枚齒〕 〔向齒ノ義〕上ノ前齒。ヌカバ。ムカフバ。ムカウバ。名義抄「[illegible]」[illegible]「枚齒、ムカバ」[illegible]むか齒ハ、コトニ大キク生ヒテゾ生マレケル」

〔むか-はぎ (名) [向脛] 〔向ハ[illegible]相向ノ[illegible]〕ナリ、向股ノ如シ〕脛ト云フニ同ジ。[illegible]

〔むか-ばき (名) [行縢] [illegible] 〔向股ノ義、向ハ向股、向脛ノ如シ〕鹿、熊、[illegible]ノ皮ヲ用ヰ、長サ三尺[illegible]、一片[illegible]シテ、[illegible]ニ着ケ、雨ノ[illegible]、[illegible]ノ前面[illegible]ノモノ。昔、[illegible] 衣服令義解「[illegible]」[illegible]所[illegible]「スゴ[illegible]」[illegible]ばきヲ解キテ、苔ノ上ニ敷キ、云云」

むか-ばら (名) [向腹] 〔音便ニ、むかっぱら〕[illegible]ヒ腹立ツコト。[illegible]モナク、腹立ツコト。

〔む-かはり (名) [贄] 〔身代ノ意、むハ、み(身)ノ古語〕ヒトジチ。質子。神功紀[illegible]

むかはり (名) 周[illegible] [illegible]年、又ハ、[illegible]月ノ周リ來ル[illegible]コト。[illegible]周忌、[illegible]周年[illegible]ノ中ニ自害シテ、來月ノむかはりハ、未來デ一所ニ[illegible]むかはり月[illegible]

むかはり-づき (名) [illegible]ヲ見ヨ〕ムカハリニナル月。滿一年ニ當ル月。太神宮服忌令「父母ノイマレ、むかはり月マデ」

〔むか-は・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [illegible] 〔向[illegible]ノ略カ、向ふ[illegible]〕 廻 [illegible]

キ來ル。報イ來ル。流轉輪廻ス。源、三十五、柏木「恐ロシト思ヒシ事ノ報イナメリ、此ノ世ニテ、斯ク思ヒカケヌ事ニむかはりメシハ、後ノ世ノ罪モ、少シ輕ミナンヤ」[illegible]衣、中「其罪イハ、必ズ其身ニアリナン－思ヒツ、タダ、今[illegible]ノウチニ、むかはりヌル心チシ給フ」

〔むかひ〕(名)〔向〕(一)向フコト。相對スルコト。神[illegible]御位[illegible]記[illegible]ヒタリ、モモナヒト、人ハイヘドモ、夕左伽毘モセズ」(二)此方ヘ向キ合ヒタル彼方ノ側。ムカフ。對面萬葉集、十、[illegible]出デ見ル向ノ[illegible]岡ノ、本シゲク、咲キタル花ノ、ナラズバヤマジ」「家ノ向ひ」向ひノ岸」

むかひ(名)〔迎〕むかへ(迎)ノ訛。狂言記、烏帽子折「急イデ、己レハむかひニユケ」

むかひ-あは-す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二)〔向合〕ムキアフヤウニナス。

むかひ-あはせ(名)〔向合〕向キアフコト。相對シ相面スルコト。著聞集、十六、[illegible]利口「[illegible]山殿ノ宿所、むかひあはせニテアリケレバ」

むかひ-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四)〔向合〕ムキアフ。相對ス。

むかひ-かぜ(名)〔逆風〕風ノ、進ム方向ヨリ吹キ來ルモノ。音便ニ、むかうかぜ。平家物語、十一、逆櫓事「向風ニ渡ギャクフウランド云ハバコソ、義經ガ僻事ナラメ、云云」

むかひ-ざけ(名)〔迎酒〕むかへざけ(迎酒)ノ訛。浮世風呂(文化、三馬)四編、序「明朝迄トノ[illegible]サヘ、[illegible]ン方案ニむかひ酒、一杯[illegible]ニ筆ヲ採リテ、云云」

むかひ-ざま(名)〔向樣〕音便ニ、むかうざま。サシムカフコト。相對スル風。

むかひ-ざま-に(副)〔向樣〕メノアタリニ。メノマヘニ。テキメンニ。盛衰記、一、[illegible]

むかひ-ざろ(名)〔向城〕敵ノ城ニ向ヒテ、相對スルヤウニ構ヘタル城寨。太平記、[illegible]、[illegible]中事「[illegible]向ヒニ[illegible]、ふ[illegible]開モ咎メズシテ、サテ立ケル事ノ口惜サヨ」

むかひ-ぢん(名)〔向陣〕敵陣ニ向ヒテ、相對スルヤウニ構ヘタル陣。太平記、七、千[illegible]十三、京[illegible]「千[illegible]ヲ一處ニ集メ、向城ノ如クニテ[illegible]セタレバ、云云」

むかひ-づち(名)〔向鎚〕あひづち(相鎚)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

むかひ-つぶて(名)〔向礫〕礫ヲ打合フコト。小兒ノ戯ニ」新六帖、二、ウナヰ子ガ、打垂レ髪ヲ、振分ケテ、向ひ礫ノ、袖カザスナリ」盛衰記、廿二、[illegible]合戰事「若者共カ軍ノ樣コソヲカシケレ、云云、京童部ノ向つぶて、河原印地ノ樣也」

むかひ-のぼり(名)〔向幟〕軍旗ノ幟ニ、竿ノ右ニ幟ノ布ヲ付ケタルモノ。左ニ付クルヲ追幟ト云フ。

〔むかひ-ばら〕(名)〔嫡妻腹ナルヨリ移レルカト云フ〕先妻ニ對シテ、今ノ妻ノ生メルコト。又、ソノ子。當腹。(先妻ノト別チテ云フ)源、三十一、槙柱廿八「ワラハナル八郎君ハ、むかひばらニテ、イミジウカシヅキ給フガ、云云」住吉物語「むかひばらナレバ、中ノ君ニハ、兵衛ノスケナル人アハセテケリ」

〔むかひ-び〕(名)〔向火〕(一)草莽ノ中ニ埋伏スル時、敵、風上ヨリ、火ヲ放チテ燒討ニセムトセバ、燃エ來ル方ノ草ヲ薙ギ拂ヒテ、其火先ヲ留メ、サテ別ニ、我ガ後方ノ草ニ火ヲツケテ、後方ニ廻リテ攻メ來ム敵ニ、コナタヨリ放チタル火ヲ向ケシムルヲ云フト云フ。ホソケ。逆燒[illegible]古事記、中(景行)廿「倭建命、云云、其國造、火著其野、故知見[illegible]、云云、著向火[illegible]出」景行紀、四十年十月(日本武尊、駿河の[illegible]に)「[illegible]野中而[illegible]、[illegible]有[illegible]王之[illegible]、故[illegible]火[illegible]其野[illegible]王知[illegible]、則以[illegible]出[illegible]火之[illegible]向[illegible]得[illegible]」(通釋ノ訓)(二)轉ジテ、人ノ怒レルニ、此方ヨリモ怒リ向ヒテ、其勢ヲ[illegible]スルコト。源、二十一、槙柱「[illegible]氣ニテ[illegible]ヘ[illegible]ミナドシ給ハバ、ナカナカ、事ソケテ、我モむかひ火ツクリテアルベキヲ、云云」

〔むかひ-め〕(名)〔正妃嫡妻〕(正シク夫ニ對配フ意)正シキ妃。又、妻。モトツメ。本妻。正妻。(妾ニ對ス)字鏡[illegible]「嫡、牟加比女、又、毛止豆女」名義抄「嫡、モトツメ、ムカヒメ」宣化紀、元年三月「立前正妃[illegible]仲[illegible]女[illegible]爲皇后」

むかひ-やぐら(名)〔向櫓〕敵ノ城ニ向ヒテ、相對スルヤウニ構ヘタルやぐら。太平記、十七、野中八郎事「逆木引、向櫓ヲ掻テ」

むかふ(名)〔向〕(むかひノ誤用、閏ヲうるふ、病ヲやまふト云フガ如シ)一ムクコト。又、ムケルコト。むかふを張るトハ、博奕ノ語。相手ガ調ニ賭ケルナラバ、反對ニ、半ニ賭ケルコト。むかふへ廻はす、むかふへ廻はるトハ、相手トナス、相手トナル意。

むかふ(連體)〔向〕むかう(向)ニ同ジ。「向ふ十日間」向ふ三箇年間」

むか・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四)〔向對〕(身交ふノ義)(一)〔面ヲ其方ニナス。向ク。萬葉集、十五、三十五「年可比キテ、一日モオチズ、見シカドモ、イトハヌイモヲ、月ワタルマデ」(二)〔趣ク。近寄ル。ナリナムトス。向[illegible]源、五十二、[illegible]ニ、云云[illegible]ハ、[illegible]む[illegible]ニ[illegible]向ふ[illegible]」(三)〔[illegible]ル。竝ブ。肩ヲ比ブ。相手ニナル。匹敵ス。[illegible]萬葉集、[illegible]「[illegible]ニアヒテ、[illegible]ノミコソ、ミママキハ、[illegible]ニ向ふ、ワガ[illegible]」(四)逆フ。ハムカフ。敵對ス。抗敵ス。[illegible]ニ向ふ」〔一人、十人ニ對ふ」[illegible]「[illegible]、御前ニ向ケリ」「敵ニ向ふ」立チ向ふ」犬、怒リテ、人ニ向ふ」

〔むか・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二)〔對〕向ハシム。竝べ、比ブ。源、三十四、上、若菜上六十八「母屋ノ御座ニむかへテ、大臣ノ御座アリ」

むか・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二)〔迎〕〔前條ノ語意〕(一)〔立出デテ、來ルヲ待チ受ク。ムカヘル。古事記、下(允恭)廿「君ガユキ、ケナガクナリヌ、山タヅノ、[illegible]ムカヘヲユカム、待ツニハ待タジ」後拾遺集、六、冬「都ヘハ、年トトモニゾ、歸ルヘキ、ヤガテ春ヲモ、むかへガテラニ」(二)居ナガラ待チ受ク。月清集、上、新[illegible]ノ、年ヲ[illegible]ニ、むかふトテ、今日モロ人ニ、御酒ゴヒフナリ」(三)待チ受ケテ防グ。逆「敵ヲ逆ふ」逆ヘ撃ツ」(四)〔呼ビ取ル。招ク。聘。枕草子、二、第十四段「女ナドむかふる男、マシテイカナラン」「妻ヲ迎ふ」[illegible]ヲ迎ふ」

むかふ-がみ(名)〔向髮〕又、むかうがみ、まへがみ(前髮)ノ條ノ(一)ニ同ジ。[illegible]川[illegible]「[illegible]野參河ガ嫡子吉左衛門、マダ向髮有レ之候ガ、御[illegible]木方ヘ[illegible]候」

むかふ-きず(名)〔向疵〕又、むかうきず。敵ニ立向ヒテ、鬪ヒテ、面部ナドニ受ケタル傷。(逃ゲナガラ背ニ受ケタル後疵ヲ、怯、又ハ、恥辱トナスニ對シテ、之ヲ、勇、又ハ、名譽ト云フ)面傷。百合若大臣野守鏡(寶永、近松作)二「御カホバセハカハレドモ、矢

グルマノ家ノ紋、清見ガ關ノ向窪ガ中ゾヤ」

むかふさじき (名) [illegible]

ノむかふさじきト云フ」

むかふざまみ [illegible] 平治物語、[illegible] ノ誤用) 本氣ニ。眼前ニ。

むかふしやうめん (名) 向正面 又、むかうしやうめん。向ヒテ正面ナルコト。前面。芝居ニテ[illegible]トモ云フ。

むかぶ・す (自動、四) 向伏 遥ニ遠ク見ヤレバ、蒼天ノ大地ニ向ヒテ伏シタル如ク見ユ。萬葉集、[illegible]「天雲ノ、向伏國ノ」同、五七長歌「此ノ照ラス、日月ノ下ハ、天雲ノ、向伏ス極ミ」新年祭祝詞「四方國ハ、天ノ壁立ツ極ミ」云云、白雲能墜居向伏限

むかふずね (名) 向脛 又、むかうずね。ムカハギ。脛ノ前面。[illegible]「脛骨、ムカフズネ」

むかふづけ (名) 向附 膳部ノ向ニ、菜ヲ附クルコト。又、其物。

むかふば (名) 板歯 又、むかうば。まへば(前歯)ニ同ジ。書言字考節用集、五、肢體門「板歯、ムカバ、ムカフバ」

むかふ・ハチまき (名) 向鉢巻 又、むかうはちまき。はちまき(鉢巻)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

むかふぶち (名) 向扶持 雇人ナドノ食料ヲ、主人側ニテ負擔スルコト。ムカ

むかふまかなひ (名) [illegible] 同ジ。

むかふみず (名) 向不見 (一)さきみず(先不見)ノ條ヲ見ヨ。(二)相手ノ強弱、事ノ難易ヲモ計ラズ、[illegible]向ヒカカルコト。ムテッパウ。ガムシャラ。猪突。

むかふめ (名) 向目 むかうめ(向目)ニ同ジ。

むかへ (名) 迎 ムカフルコト。又、ソノタメニ來ル人。此シテ、おかへ。萬葉集、十五[三十六]「アヂマヌニ、宿レル君ガ、カヘリコム、時ノ迎ヲ、イツトカ待タム」伊勢物語、第九十六段「サリケレバ、此ノ女ノセウト、ニハカニ迎ヘニ來タリ」[illegible]

むかへがね (名) 迎鐘 精靈祭ノ際、靈ヲ迎フル爲ニトテ、打チ鳴ラス鐘。[illegible]月令博物筌、七月九日、六道參[illegible]建仁寺ノ南ニアル六道ノ珍皇寺トイヘル寺ヘ參ルヲ云ナリ、今日明日、諸人[illegible]ルトイフテ、此寺ノ鐘ヲツク、是ヲ迎鐘トイヘリ」[illegible]鳴リニケリ」

むかへこう (名) 迎講 阿彌陀佛ノ來迎ノ儀ヲ催シ行フ法會。慧心僧都、始メテ之ヲ華臺院ニテ行ヘリ。迎講トモ云フ。榮花物語、十五、疑「六波羅蜜寺[illegible]ノ菩提講ナドノ折リフシ、迎講ナドニモすぼシイソカセ給フ」古事談、三、僧行「迎講者、惠心僧都始給事也」

むかへこそで (名) 迎小袖 昔、嫁入ノ當夜、婿ヨリ嫁ノ方ヘ、又ハ、輿使ノ使者ヘ遣ハス小袖。禮容筆粹、五「迎小袖之事、[illegible]婚ノ夜、婿ノ方ヨリ[illegible]小袖[illegible]小袖、[illegible]スモノ也、此時ノ小袖ハ、エリトエリトヲ合セテ、絲ニテトヂ付[illegible]也」

むかへざけ (名) 迎酒 宿醉ヲ發散セシ[illegible]

むかへと・る [illegible] 迎ヘテ引キ[illegible]迎[illegible]源、十四、宿木「縁ニフレテ迎ヘ取リテアラスレド」

むかへび (名) 迎火 しやうりやうまつり(精靈祭)ノ條[illegible]ヲ見ヨ。一茶句集、秋「迎火ハ、草ノハヅレノ、ハヅレ哉」

むかへびと (名) 迎人 ムカヘノ人。迎ノタメニ來ル人。又、歡迎スル人。[illegible]垣娟集「カカル雨ニハ、イカデカナド云フニ、むかへ人、蓑、笠ナドアリ、タダトクトクトイソガセバ」

むかへぶね (名) 迎船 人ヲ待チ迎フル船。又、歡迎スル船。[illegible]沖ニ離ルナ、向舟、片待ガテラ、浦ニコギアハム」

むかへゆ (名) 迎湯 對湯「生見ヲ迎ヘテ、ユアミセシムル意カ、二人相對シテ、ユアミセシムル意トモ云フ」うぶゆ(産湯)ヲツカハスルコト。又、ソレヲツカハスル相手。[illegible]相ノ君、御迎湯、大納言ノ君」[illegible]「ヒーツニ喜ビテ、殿ウヘ御[illegible]、大將殿ノウヘ、むかへ湯ナド、モテサワガルニ、云云」

むか・へる (動) 迎 むかふ(迎)ノ口語。

むかむか (副) (逆フ意) (一)吐氣ヲ催ス狀、又、ムカツク狀ニ云フ語。惡心煩逆「胸カむかむかスル」(二)腹立タシキ狀ニ云フ語。百日曾我(元祿、近松作)[illegible]何レモノ我ガママ、ハラワタガ燃エ返リ、胸ノ蟲ガむかむかト、[illegible]ヘカネテ候ヘトモ、云云」

むがむが (副) (一)物言ハムトスル狀ニ云フ語。(二)物ヲ口ニホホバリテ、言[illegible]

[illegible]

むがむちゅう (名) 無我夢中 或事ナドニ熱心ノ餘リ、一切他ヲ顧ミザルコト。[illegible]

むかもも (名) 向股 兩股ノ、左右正シ[illegible]「堅庭者、於向股蹈脱立天」

むかゐりう (名) [illegible] ルモノ。

むき (名) 向 (一)向クコト。又、面ノ向ノ方、方向。[illegible]「其向ノ人」「役所向」「奥向」「勝手向」「住居向」[illegible]「向ニナ[illegible]」

むき (名) 無木 むき[illegible]共條ヲ見ヨ。遊學往來(玄惠)上、遊學「少性之[illegible]「無木ト云フハ、聖覽ノ事ナルベシ、東海道ニテハ、むぎト云[illegible]云云、[illegible]むきト云フ、むトめトもト、音相通ナリ」

むき (名) 無期 期限ノナキコト。又、期限ノ[illegible]新女之什、[illegible]勉二爾道思二」

むぎ (名) 麥 [他ノ穀ハ、一度、殻ヲ去レバ可キニ、麥ハ幾度モ皮ヲ搗キ剝ク、故ニ[illegible]ノ意、或ハ、麥、其難ノ名ナリ、或ハ云フ、[illegible]ノ約、[illegible]中ニ萌エ[illegible]

云ノ、或ハ、[illegible]芒ノ[illegible]ニ云フ、イ[illegible]ガ[illegible]
（二）〔禾本科ノ植物ノ一。又、ソノ穀ヲモ云フ。ふとむぎ、又、[illegible]むぎハ稻ニ次ギテ糧食トス。秋、又ハ冬、種ヲ下シ（春蒔モアリ）、春、長シテ、夏、實ル亦、わせ、たかて、おくて、アリ。苗、穗、小麥ヨリ大キクシテ、多クハ芒アリ、子ハ專ラ飯ニ炊ギ、又ハおほむぎトス、品類多シ。又、もき　大麥　おほむぎ（古名、まむぎ）ハ、苗、穗、凡テ小サクシテ、穗ニ、四稜、六稜、ノ別アリ、穗ニ、多クハ芒ナシ、因リテ、ばうずむぎ（坊主麥）ノ名モアリ、芒アルヲ髭長ト云フ、亦、品類多シ、子ヲ碾キテ、こむぎこ（小麥粉）トス。小麥　又、からすむぎ（燕麥）アリ、ちゃひきぐさ（茶碾草）ノ條ヲ見ヨ。其他、くろむぎ（黑麥）、はだかむぎ（裸麥）、こうぼふむぎ（弘法麥）ナド、各條ニ註ス。倭名抄、十七　麥、[illegible]岐、今按、[illegible]小麥[illegible]種名也、大麥、布土[illegible]岐、小麥、古[illegible]岐」名[illegible]　麥、ムキ、大麥、フトムキ、小麥、コムキ、マムキ」神代紀、上　以[illegible]麥ハ[illegible]陸田種子[illegible]」（二）麵類、むぎたは（索餅）ノ略。天治字鏡、十二[illegible]「煮麵、麥由ヅ」

むぎ　（名）　無愧　「梵語、Anaratrata. ノ譯語」佛教ノ語。世間ヲ顧ミズシテ、惡ニ惡逆ヲ働クコト。又、其人。唯識論[illegible]、六「云何無愧、不顧世間、[illegible]重[illegible]暴惡[illegible]性、能障[illegible]、愧ハ生[illegible]惡行[illegible]業」盛衰記、十八、文覺清水狀天神金事「六不當ノ僧ノ事樣ヤ、無慚ナリ、無愧ナリ」

むぎあき　（名）　麥秋　〔ばくしう（麥秋）ヲ文字讀シタル語〕　麥ノトリイレドキ。ムギノアキ。轉ジテ、陰曆、五月ノ異稱。麥秋（其條ヲ見ヨ）　假名手本忠臣藏（寬延、竹田出雲等合作）六「在所ハドコモカモ、麥[illegible]

[illegible]ト[illegible]ノ[illegible]ソカシイ[illegible]付ニナ[illegible]ドロク、屋根ノ鷄」

むきあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）　向合　相對シテ向カフ。互ニ向カフ。

むぎいひ　（名）　麥飯　むぎめし（麥飯）ニ同ジ。著聞集、十六、興言利口「麥飯ニ鶉アハセテ[illegible]テ、タダ今、[illegible]ヘキヨシ[illegible]セアレケレバ」

むぎいりこ　（名）　麥炒粉　むぎこがし（麥焦）ニ同ジ。[illegible]

むぎうた　（名）　麥唄　麥歌　むぎつきうた（麥搗唄）ノ略。俳[illegible]新[illegible]、[illegible]麥歌ヤ、[illegible]ト明カシテ、ネブタ[illegible]」

むきうち　（名）　無木打　ねぎ（根木）、及、むきさい（無木鑿）ノ條ヲ見ヨ。

むぎうち　（名）　麥打　（一）麥ノ穗ヲ打チテ、種子ヲ落スコト。又、ソノ具。又ハ、からさを（連枷）ナド[illegible]、麥ノ穗ヲ打ツコト。又、ソノ仕事。六紙全集「麥打ニ、[illegible]女夫ヲ[illegible]フ、葉エカナ」（二）麵類ヲ作ルコト。又、ソノ職人。[illegible]工

むぎうるし　（名）　麥漆　漆工ノ木地ノ下塗ナドニ、[illegible]用キルモノ。木漆[illegible]饂飩粉ヲ入レテ練リ、木ノ挽屑ヲ入レテ練ル。木地ノ割レタルヲ塡ムトゾ。

むぎおし　（名）　麥押　又、むぎおすき。めんぼう（麵棒）ニ同ジ。

むぎおすき　（名）　麥押木　又、むぎおし。めんぼう（麵棒）ニ同ジ。倭名抄、十六[illegible]木器類「[illegible]麵杖、牟岐於[illegible]」

むぎかす　（名）　麥滓　小麥粉ノふすま。ふすま（麩）ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、十七[illegible]麥類「麩、古無岐乃加須、小麥皮屑也」（[illegible]本、[illegible]岐加須ニ作ル）　名義抄「麩、コムキノカス、ムギノカス」

むぎかた　[illegible]麥[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]食物ノ名。小麥[illegible]ニ[illegible]リタルモノ。油ニテ煎リタルモノノ如シ。勾餅ノ類。捻頭　倭名抄、十六[illegible]「[illegible]如[illegible]六[illegible]云[illegible]子」天治字鏡、十二[illegible]「[illegible]」

むぎから　（名）　麥稈　むぎわら（麥藁）ニ同ジ。麥稈　倭名抄、十七[illegible]麥[illegible]也　[illegible]（元祿[illegible]）[illegible]シ[illegible]キヤ、麥からクベ[illegible]」

むぎきり　（名）　麥切　大麥ノ粉ヲ、切麥ノ如ク製シテ、短ク切リタルモノ。下ノ出典ヲ見ヨ。[illegible]麥切ハ[illegible]ノ粉也、ウチヤウハ、切リ麥ノ如クウチテ、短クキリテ、[illegible]ウハ[illegible]ハ、そばきりノ如ク[illegible]」

むきくゎがく　（名）　無機化學　化學ノ一分科。炭素以外ノ、總ベテノ元素、及、其化合物ニ就キテ研究スル學問」之ニ對シテ、主トシテ、炭素化合物ニ就キテ研究スルヲ、有機化學ト云フ。

むきくゎがふぶつ　（名）　無機化合物　化學ノ[illegible]　有機化合物（主トシテ炭素化合物）以外ノ化合物ノ總稱。前條、及、むきぶつ（無機物）ノ條ヲ見ヨ。

むきけい　（名）　無期刑　むきぢいうけい（無期自由刑）ノ略。其條ヲ見ヨ。

むぎこ　（名）　麥粉　コムギノコ。ウドンコ。メリケン粉。麵　麪　倭名抄、十六[illegible]麥類[illegible]麵、[illegible]岐古[illegible]麥末也」字鏡[illegible]、[illegible]岐古」[illegible]内[illegible]式[illegible]八合[illegible]麥粉一升」

むきこうさい　（名）　無期公債　〔有期公債ニ對ス〕債還期限ノ不定ナル公債。

むぎこがし　（名）　麥焦　大麥ヲ炒リ焦シテ、碾キテ粉トセルモノ。砂糖ヲ和シ[illegible]

むぎこき　（名）　麥扱　麥ノ穗ヲ扱キ取ルコト。又、ソノ具。鐵、又ハ、竹[illegible]

[illegible]

鐵具便利爲、中「麥こきハ、細コキヨリハルカ後ニ、畿内ニテ作リ出セシ物トミヘ、云云」

むぎさい　（名）　無木鑿　代鑿[illegible]ねっき（根木）ト同ジカルベシ。其條ヲ見ヨ。[illegible]中、[illegible]七、[illegible]ツアフヌケルヲ、月夜ト云フナリ」

むぎさす　（名）　食物ノ一種。青麥ヲ煎リ、臼ニテ挽キテ絲ノ如ク細ソクヨリタルモノト云フ。宇津保物語、藤原君[illegible]「コノケフバカリ、アリシハタタ（一本、タ、ナシ）ケウチハキテ、むぎさすバカリ、キノフナンチギリアツメテ侍ル」

むきぢいうけい　（名）　無期自由刑　〔有期自由刑ニ對ス〕自由刑ノ一。犯罪人ヲ、終身、刑務所ニ拘禁スルコト。即チ無期懲役、無期禁錮ナドノ類ナリ。[illegible]刑法、[illegible]刑、無期[illegible]、[illegible]刑法、

むぎず　（名）　無疵　きずナキコト。又、ソノモノ。浮世風呂（文化、三馬）四編、上「[illegible]割レタトヨ、エルカ[illegible]ナイラカ[illegible]上人ノ目ニハ、サッパリ無疵」

むぎすくひ　（名）　〔麪條抄取ノ義ト云フ〕麪條ヲ煮テ、抄ヒアゲル笊籬　アゲザル。イカキ。倭名抄、十六[illegible]竹器類「笊籬、[illegible]久比、[illegible]也、以竹爲之」[illegible]下、[illegible]笊籬、イカキ」ムギスクヒ」下學集、下、[illegible]

むきたい (名) [illegible]〔[illegible]〕ノ作リ其[illegible]

むぎたう（ムギ-ドウ） (名) [illegible] [illegible]道)ノ條ヲ見ヨ。

むきだし (名) 剝出 (一)ムキダスコト。アラハニ出スコト。七偏人(梅亭金鵞)二編、中「むき出しヂャア、歩行ケメエゼ」 (二)アラハ。アカラサマ。露骨。「むきだしニ言フ」

むきだ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 剝出 アノ[illegible]シ出ス。隱サズニ出ス。露出ス。

むぎつきうた (名) 麥搗唄 又、むぎう[illegible]。麥ヲツク時ナドニウタフ唄。相撲麥搗唄 [illegible]、麥ノ搗イテ、オ手ニ豆ガ九ツ、ソノ[illegible]レバ、トンナ親デモ涙出ス」 伊[illegible]麥[illegible]、夜麥搗ヲ、オ手ニ豆ガ九ツ、九ツノ豆ヲ見レバ、親ノ在所ガ戀シヤ」 持統天皇歌軍法(正徳[illegible]) [illegible]、麥搗歌ノ[illegible]へ

むぎとろ (名) 麥薯蕷 麥飯[illegible]薯蕷汁ノ略。麥飯ニとろろ汁ヲカケタルモノ。

むきな (名) 向名 昔ヘ、上臈女房ノ故稱。 女房[illegible]、[illegible]、中納言ニ御成リ候御家ハ、羽林、名家ト申シ候、此ノ上サマタチハ、大略向名ドモ御付ケ候、東向、西向ナドト申シ候」

むぎなは（ムギ-ナワ） (名) 索餅〔麥繩ノ義〕又、サクベイ。麥粉（ムギコ）ト米ノ粉（コ）トヲ煉リテ、繩ノ如クニネヂタルモノ。長サ一二三寸。昔、陰暦、七月七日ニ、內膳司ヨリ禁中ニ奉ル。一年ノ瘧ヲ除クトス。索麪（サウメン）モコレヨリ起ル[illegible]。[illegible]箋注倭名抄、四「[illegible]」 天治字鏡、十二[illegible]、[illegible]、[illegible] [illegible]、四[illegible]、[illegible]支奈波」

むきみなる (句) 向爲 此ヨ[illegible]タル事柄ニア[illegible]、本氣ニナリテ、腹立ツ。憤然

むぎのあき (名) 〔[illegible]ヲ[illegible]字[illegible]シメル[illegible]〕[illegible]麥秋[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]、夏、[illegible]フ、鶯ノハツ夏、[illegible]クヨリモ、今ハト麥の、秋ヲ知リヌル」 林葉集、二、夏「ハタケフハ、麥のあき風、吹キタチヌ、ハヤウチトケヌ、山ホトトギス」

むぎのくろみ (名) 麥奴 〔麥の黑みノ義〕 麥ノ穗ニ生ズル黴菌。くろみ[illegible]ニ黑穗)ニ同ジ。 倭名抄、十七ニ麥類「麥奴、和岐乃久呂美」 名義抄「麥奴、ムキノクロミ」

むぎびより (名) 麥日和 麥ノ蒔附け、刈込ミニヨキ日和。 芭蕉句集、夏 秋ヤ[illegible]、[illegible]ヤ知ル、麥日和」

むぎぶえ (名) 麥笛 麥ノ莖ニテ作リ、笛ノ如ク吹キ鳴ラスモノ。 夫木抄、三十五、[illegible]子「ウナヰコガ、スサミニ鳴ラス、むぎぶえノ、聲ニオトロク、夏ノヒルブシ」

むきぶつ (名) 無機物 〔有機物ニ對ス〕 化學ノ語。昔ハ、生活機能ヲ有セザル物、卽チ、鑛物界ヨリ得タル物質ヲ云ヒシガ、今ハ、有機物(主トシテ炭素、酸素、水素ナドノ化合物)以外ノ物質ヲ總ベテ稱ス。其種類、極メテ多シ。

むぎまき (名) 麥蒔 麥ノ種ヲ蒔クコト。又、其季節。 俳諧古選、冬 麥蒔ヤ、妹ガ[illegible]ヲマツ、[illegible]ブリ」

むきみ (名) 剝身 蛤、淺蜊、ナドノ殼ヨリ剝キ出シタル肉。 浮世風呂(文化、[illegible])三編、下「田作カ[illegible]入ルト臭クテナラネエカラ、沓(ゴマメ)テ、蕪類ノむきみヲ入レヤシタ」

むきむき (名) 向向 各自ノ好ムトコロニヨリテ、其向ヲコトニスルコト。オモヒオモヒ。 萬葉集、九 三十四 長歌「黃泉ノ界ニ、ハフ蔦ノ、各各（サハ）向向、天雲ノ、別レシ往ケバ」

むきめい (名) 無記名 姓名ヲ記サザル

コト。證券所有者、又ハ、選擧人ナドノ[illegible]

むぎめし (名) 麥飯 (一)米ニ大麥ヲ加ヘテ炊ギタルモノ。ムギイヒ。バクハ[illegible]。 浮世風呂(文化[illegible])[illegible] ヒナハルカラ、麥飯カト思ッタラ、スッポンカエ」 (二)[illegible]ノ頃、[illegible]、吉原ノ娼妓[illegible]、或ハ云フ、茶屋ハ小料理店ニテ、麥飯ノ招牌ヲ掲ゲシニ基ヅキタリト。前說ヲ可トスベケム)

むきやう（ム-キヤウ） (名) 無疆 〔說文「疆、界也」(疆、畺同)〕 カギリナキコト。無窮。 [illegible]、[illegible]下、[illegible]、[illegible]

むぎやう（ム-ギヤウ） (名) 無行 修行ヲナサザルコト。 [illegible]、十八、[illegible]、無智モ無行モ、僧ハ國ノ盜ト、佛ノ仰ニテ有ケルゾ」

むぎゆ (名) 麥湯 大麥ノ子ヲ炒リテ、煎ジタルモノ。茶の湯ト云フニ同ジ。

むきゆう (名) 無窮 〔正字通「窮、俗窮字」〕 キハマリナキコト。カギリナキコト。無限。永遠。永久。 易經、上象傳「君子以教思无窮、容保民无疆」 中庸、第廿六章「天斯昭昭之多、及其無窮也、日月星辰繫焉」「天壤無窮」

むきよう (名) 無興 (一)興味ノナキコト。興ノサムルコト。非興。 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)六 其ノヲリ、其ノ時ニ合ノヤウニトコソ、指南シタリシヲ、カリソメ坐リタル一膳ノ始、中、終ニ盡サレシ、無興、無[illegible]」 (二)人ノ機嫌ヲ損ズルコト。不興。

むきよく (名) 無極 〔正字通「[illegible]」

[illegible]

(二)宇宙ノイマダ存立セザリシ原始ノ[illegible]。 [illegible] 根源ノ究ニ[illegible]始、其[illegible]、[illegible]、[illegible]

むきりよく (名) 無[illegible] [illegible]リ[illegible]ト。根氣ノナキコト。

むぎわら (名) 麥藁 古ク、むぎから。[illegible]、又ハ、小[illegible]、[illegible]ノ中ニ[illegible]、白ク光ル。屋根ヲ葺クベク、又、夏帽子ノ材料トシ、麥稈細工トス。麥稈 [illegible] 麥[illegible] (元祿)夏「麥藁ノ、家シテヤラン、雨蛙」

むぎわらざいく (名) 麥藁細工 麥藁ヲ[illegible]、染メテ、[illegible]、[illegible]、帽子、ナドニ編ミ作リ、又ハ、裂キテ器ノ面ニ貼リ作ル、甚ダ美シ。モト武藏國、大森村(今ノ東京市大森區)ノ產、名アリ。 東海道中膝栗毛(享和、一九)初編、中「大森ト云ヘルハ、麥わら[illegible]ノ名物ニテ、[illegible]、[illegible]、[illegible]わら[illegible]く、買ヒ給へ、コレハ子供ヲ、スカシ屁ノタメ」

むぎわらすぢ（ム-[illegible]） (名) 麥[illegible] [illegible]ノ[illegible] [illegible]、[illegible]、[illegible]ノ小サキ[illegible]ノ[illegible]ノ光ルノ[illegible]

むぎわらぜみ (名) 麥藁蟬 なつぜみ(夏蟬)ニ同ジ。

むぎわらだひ（ムギワラ-ダイ） (名) 麥藁鯛 [illegible] 麥ノ[illegible]、[illegible]セノ[illegible] [illegible]

むぎわらとんぼ (名) 麥藁蜻蛉 [illegible]、[illegible]ト異ナリ

黃色ヲ帶ビ、麥藁ノ色ニ似タレバ云フ。

むく (名) [尨] (一)むくげ(尨)ニ同ジ。(二)むくいぬ(尨犬)ノ略。其條ヲ見ヨ。

むく (名) [椋] (一)〔楡科ノ喬木ノ名。高サ五六丈ニ達シ、樹皮ハけやき(欅)ニ似テ微白ナリ。葉ハ、かし(樫)ニ似テ薄ク圓ク、鋸齒アリ、互生ス。實、圓ク黑ク、甘クシテ肉ノ皮ヲ去レルガ如シ、食フベシ。材、堅重ニシテ用アリ、葉ハ、枯ルレドモ堅ク、角、木、等ノ器ヲ磨クニ用ヰテ、木賊ニ勝ル。ムクノキ。ムクエノキ。訛シテ、むく。樸樹。糙葉樹。椋 倭名抄、十七「椋、牟久」同、廿 木類「[illegible]」 倭名抄、五 工具「椋葉、无久乃波」 榮花物語、十五、疑「板敷ヲ見レバ、トクサ、むくノハナドシテ、四五十人、手ゴトニ並ミ居テ、ミガキノゴフ」 平家物語、一、殿上闇討事「ハリマヨネハ、トクサカ、椋ノ葉カ、人ノキラヲミガクハトゾ、ハヤサレケル」(二)むくどり(椋鳥)ノ略。其條ヲ見ヨ。 太祇全集「椋鳥百羽、命ヒロヒシ、羽音カナ」

むく (名) [無患子] むくろじ(無患子)ノ略。(東京) 其條ヲ見ヨ。

むく (名) [無垢] (一)雜ナキコト。服ナドノ、裏ヨリ襲衣マデ、表、裏、共ニ、無地ノ同色ノ帛ニテ作レルモノ。多クハ白キニ云フ 書言字考節用集、六、服食門「白無垢、シロムク」 (二)金銀ナド一、混合ナキモノ。全體、金銀ナドノミニテ成レルモノ。(鍍金、きせ、ナドニ對ス) 純銀「金無垢、銀無垢」 (三)佛教ノ語。煩惱ノ汚レナク、清淨ナルコト。 太平記、十八 [illegible] 一向煩惱ヲ離レテ、清淨ナル境界ニ住スルコト。 楞伽經、四「離ニ无常、[illegible] 於我說ニ自性無垢、畢竟清淨」

む・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [向] 「身ノ活用」 (一)〔面ヲ其方ニナス。ムカフ。 源、五十一、浮舟「[illegible]フミニ心イレテ、トミニモむき給ハヌ、云云」 (二)オモムク。ワタムク。 風雅集、十三、戀、四「我ガ心、ウラミニむきテ、恨ミハテヨ、アハレニナレバ、シノビガタキヲ」「心、善ニ向く」「世、末ニ向く」 (三)ニアフ。フサフ。適ス [illegible] 近松作、廿二、[illegible]「髮、云云、曲輪ヤウ、今ハむかヌト鍵箔ノ、ソレニハアラヌ白ノ風」「女ニ向く」「子供ニ向く」

む・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [向] (一)向クヤウニナス。向ハシム。ムケル 萬葉集、十九「鵜川タチ、トラサム鮎ノ、シカハタハ、フレニウキ無[illegible]、思ヒシモハバ」 (二)手向ク。捧グ。 萬葉集、一 廿六「アリネヨシ、對馬ノワタリ、ワタ中ニ、幣取向けテ、早カヘリコネ」

む・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) [剝] 皮離レテ脫ケ出ヅ。ハガル。ムクル。ムケル。 狂言記、蛸「ノガレモヤラズ引上ラレテ、甲皮モむけヨむけヨト洗ハレテ」

む・く・ク・ケ・ウ・キ・ケ (他動、四) 剝 被ヲ放チ取ル。殺取ル。ハグ。ハガス。ヘグ。 宇治拾遺、一、第十八條「コノ芋ヲむきツツ、キキリニキレバ」 平家物語、[illegible]節、栗子山マデ、シブリ取テ、イカ物具ヲ、むきゾ取ラルル」「皮ヲむく」「瓜ヲむく」

む・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [平] 〔此方ヘ從ヒ向くノ意〕 タヒラグ。シタガフ。平伏ス。服從ス。 神武即位前紀「[illegible]代」

む・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [平] 〔此方ヘ從ヘ向くるノ意〕 向キ從フヤウニス。平定ス。服從セシム。 神代紀、上 四十「汝何能平ニ此國ニ乎」 同、下 二「以ニ天穗日命ニ往平之」 萬葉集、五 長歌「韓國ヲ、武ケ平ラケテ」

むくい (名) [報酬] (一)ムクユルコト。コタフルコト。又、ソノモノ。返禮。返報 字類抄 [illegible] 土佐日記、正月廿一日「海賊、むくいセント云フナルコトヲ思フ上ニ、海ノ又オソロシケレバ」 (二)果報。 源、三十五、柏木「サテモアヤシヤ、我ガ世トトモニ、オソロシト思ヒシコトノ、むくいナメリ」「善ノ報」「惡ノ報」

むく-いぬ (名) 尨犬 〔むくハ、毛ノ茂ク生ヒタル意〕 犬ノ一種、尨毛ナルモノ。又、一身ニ毛多ク長ク盛リナルモノ。ムクゲイヌ。略シテ、むく。 字類抄「尨、ムクイヌ」 徒然草、第百五十二段「後日ニむくいぬノ、アサマシク老イサラボヒテ、云云」

むく・いる (動) 報 むくゆ(報)ノ口語。

むく-うち (名) [木患打][木槵打] 穴一ノ、錢ノ代リニ、木槵子ヲ用ヰルモノ。ムクロンゲ。あないち(穴一)ノ條ヲ見ヨ。 嬉遊笑覽、四、雜伎、穴一、云云、江戸ニテモ木槵子ヲ用ヒシ也、故ニむく打トモ、むくろんげトモ云リ」

むく-え (名) 無垢衣 一煩惱ノ垢染ナキ衣ノ意一けさ(袈裟)ノ異稱。 釋氏要覽、上、法衣「如幻三昧經云ニ無垢衣ニ、又名ニ忍辱鎧ニ、又名ニ蓮華衣ニ、謂不ニ爲ニ欲泥ニ染ニ故」

むく-えのき (名) 椋樹 〔椋榎ノ義〕 むく(椋)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

むく-おき (名) ムックリト起クルコト。 好色一代男(天和、西鶴)三「昔ヲ思ヒ出シ、ウソ腹立ッテ、むく起ニシテ罷リ歸ル」

むく-げ (名) [尨] 〔むくハ、茂ク生フル意〕 獸ノ毛ノ、殊ニ長ク生ヒテ、ふさふさト垂リ下ルモノ。略シテ、むく。 字鏡集「毿、ムクゲ、カモ」

むく-げ (名) [毳] 生ヒ初メタル細小ナル毛。長キ毛ノ本ニ生ズル柔キ毛。フクダゲ。ニコゲ。「鳥ノむくげ」

むくげ (名) 木槿 [illegible] 灌木、[illegible] 枝、繁茂シ、[illegible] 葉ハ、ふよう(芙蓉)ニ似テ[illegible] 互生ス。夏秋ノ間、枝ノ梢ニ五瓣ノ花ヲ開ク、[illegible] 似テ小サク、[illegible] 單瓣[illegible]ナルモアリ、或ハ、白、紫碧、深紅、等ナルモアリ、皆、[illegible] 深紅ナリ。花後、蒴果ヲ結ブ。又、もくげ。ハチス。 [illegible]「[illegible] ムクゲ」 [illegible] 五、第十四條「西海枝ノ葉トむくげノ葉トヲ、灰ニ燒キテ付侍テ」 俳諧古選、秋「道バタノ、木槿ハ馬ニ、喰レケリ」

むくげ-いぬ (名) [尨犬] むくいぬ(尨犬)ニ同ジ。 倭名抄、十八 毛羣名「尨、無久介以沼、深毛犬也」

むく-さかゆ (副) 〔茂く盛りゆノ轉ト云フ〕 繁昌ニ。メデタク賑賑シク。 靈異記、下、第一縁「莬然」訓釋「ムクサカニ」 [illegible] 續紀、九、神龜元年二月、宣命「四方乃食國乃年實豐爾、年俱佐加爾得在止見賜而」

むく-さく (名) [繁] 〔茂く盛るノ義〕 茂リサカユルコト。大イニ繁茂スルコト。

む-くち (名) [無口] 甚ダ物言ハヌコト。コトバ數ノ極メテ少キコト。寡言

むく-つけ (名) 〔むくつけしノ語根〕 次條ノ語ヲ見ヨ。 宇津保物語、藏開、上 廿「アテ宮ニ奉リ給ヘバ、アナむくつけ、ナデフサル物ヲカ、モテオハスルトテ、ヒキヤリテ、ステタマヒツ」

むくつけ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔尨つけしノ義、むくつかヲ形容詞トシタル語、

あはつか、あはつけし、あたたか、あたたけしノ類」(一)畏ルベシ。恐ロシ。ムクツケナシ。ムツケシ。可畏 伊勢物語、第九十六段「彼ノ男ハ、天ノサカ手ヲ打チテナン、詛ヒヲル、むくつけき事、人ノ詛ヒゴトハ負フモノニヤアラン」源、五十二、手習六「目モ鼻モナカリケル、めたにニヤアラント、むくつけきヲ」同、廿二、玉葛[illegible]「[illegible]むくつけヤ[illegible]」(二)轉ジテ、恐ロシク、ムサクルシ。キミワルシ。源、三十五、柏木廿「イトむくつけう、ナラハヌコトノオソロシウオボサレケルニ」

むくつけな・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一)〔うしろめたし、うしろめたなしノ類、なし(甚)ノ條、參見セヨ〕前條ノ語ニ同ジ。發心集、八、第三條「アヤシクテ、寐入リタルヤウニテ、ヨク見タマヘバ、盜人ナルベシ、云云、イトむくつけなくオボサレテ、イトド息音モシタマハズ」

むくつけやッこ (名) 顏貌ノ恐ロシゲナル男。又、無骨ナルモノ。木強漢。大磯虎稚物語(元祿、近松作)一「重忠ヲハジメ心ナキむくつけ奴、下下マデ、秋ヲ殺ラヌ人ハナシ」

むくつけをんな (名) 顏貌ノ恐ロシゲナル女。又、心サマノ惡シキ女。住吉物語「むくつけ女トササメキ合ハセテ」

むぐッてう (名) 鴝 〔鷸鳥ノ音便〕水鳥ノ名。かいつぶり(鴝)ニ同ジ。物類稱呼、二、動物「鸊鷉、カイツブリ、云云、東國ニテ、むぐッ鳥、武ノ神奈川ニテ、でッてう、むぐッてうトイフ」

むく・と (副) 俄ニ起キアガル狀ニ云フ語。ムックト。ムクリト。醒睡笑(元和、安樂庵策傳)五「昔物ノ咄ヨリ、云云、坊主むくと起キ」

むく・どり (名) 椋鳥 〔むくノミタル鳥ノ義カ、又、椋來鳥ノ略轉カ〕(一)燕雀類ノ鳥ノ名。原野ニ多ク、樹上ニ棲クフ。形、小鳩ノ如クニシテ、頂、白ク、背、灰黑ニシテ、背ノ下、黑、白、[illegible]ナリ、眉、蒼黃ニシテ、頷ヨリ腹ニ至ルマデ白シ、翅、黑白ノ斑アリ、嘴、脚、黃ナリ、群飛シテ、鳴クコト喧シク、好ミテ、椋、せんだん(楝)ノ子ヲ食フ。又、害蟲ヲ捕食ス。白頭翁 (二)田舍ヨリ都ニ上リ來ルモノヲ嘲リテ云フ語。文政の川柳「[illegible]モ、[illegible]來ルト、江戸雀ニ[illegible]ノ江戸出稼人」

むく・の・かう (名) 木工頭 次條ノ語ノ音便。今鏡、第七、むらかみの源氏、七、にひまくら「後鏡ノ君ノ陪從ニテオハシケルニ、むくのかうノ殿、コレハ[illegible]ヤト侍リケレバ、云云」

むく・の・かみ (名) 木工頭 又、もくのかみ。むくのかう。古へ、宮内省ニ屬セル木工寮ノ長官。下學集、上、官位門「木工頭、工部尚書」今鏡、第七、むらかみの源氏、七、ありすがは「むくのかみトシヨリモ、ムシロニツラナリテ」

むく・の・き (名) 椋木 むく(椋)ノ條ノ(一)ニ同ジ。本草和名、上五十八「椋子木、牟久乃岐」字鏡六十八「椋、牟久乃木」同十二「椋、牟久乃木」古事記、上、廿六「於是其妻、以牟久木實與赤土、授其夫」

むく・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 報 〔此語、むくゆノむくふニ轉ジタルハ、いばゆノいばふニ轉ジタル類ナリ〕報イトナリテ來ル。ムクハル。平家物語、二、小松教訓事「保元ニ申シ行ヒシ事ノ、イク程モナクテ、ハヤ身ノ上ニ、むくはレニキト思ヘバ、云云」

むく・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 報 〔前條ノ語原ヲ見ヨ〕むくゆ(報)ニ同ジ。平家物語、七、福原落事「怪シノ鳥ケダモノモ恩ヲ報ジ、徳ヲむくふ心ハ候也」[illegible]彰考館本、[illegible]うニ作ル)ベキカナケレバ、人ノ恩モ顧ハシカラズ」著聞集、二、釋教「イツノ頃ノコトニカ、書寫ノ上人、云云、衆生ノ業ヲむくは(一本、むくい)ンガ爲ニ」

むくみ (名) 浮腫 水腫ナドニテ腫レ上ガルコト。ムクムコト。フシ。[illegible]腫滿、ムクミ、[illegible]也

むく・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 浮腫 水腫ナドニテ腫レ上ガル。腫滿。

むく・むく・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 甚ダ可畏シ。恐ルベクアリ。オソロシ。キミワルシ。源、四十九、宿木二「斷ル人ノ供[illegible]コソ、心ハウタテアレ、ナド言ヒアヘルモ、むくむくしく聞キナラハヌ心チシ給フ」

むく・むく・と (副) 〔茂く、ノ轉ヲ重ネタル語、又、もくもくと〕(一)多ク重ナリアヒタル狀ニ云フ語。ムクリ。彩 著聞集、十七、變化「毛、むくむくと生ヒタル細キ腕ヲ差シ入レテ」(二)[illegible]ウゴメク狀ニ云フ語。蠕動「蛇、むくむくと起キ」蠢、むくむくと動ク」(三)肥エテ、ムックリシタル狀ニ云フ語。ムクリ。豐肥「むくむくと太リテ」(四)茶ヲ泡立ツル狀ニ云フ語。ブクブク。尤之雙子(寬永)上、廿九、あなき物の品品「[illegible]茶むくむくとタテテ出ダスヲ飲ミナガラ」

むく・め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 蠢動 うごめく(蠢動)ニ同ジ。倭名抄、十九、蟲豸類「蠢動、無久女久、蟲動搖貌也」成務紀、四年二月「夙夜兢惕、[illegible]」宇津保物語、樓上、下六十八「ミノムシノヤウニテヤ、むくめきマキラントイフ程ニ、内ヨリフト、云云」

むく・ゆ・ユル・ユレ・イ・イ・イヨ(他動、上二) 報酬 〔向くる、ノ通ズ〕應ヘテ仕向クルヲ返報ス。報復ス ムクイル。字鏡「償、復也、報也、牟久伊、又、豆久乃布」名義抄「報、ムクユ」[illegible]「酬、ムクユ、コタフ」舒明紀、七年五月、注「時人稱曰、大[illegible]之近」拾遺集[illegible]「今ハマタ、關ノ藤波、タエズトモ、國ニ報いン、タメヲコソ思ヘ」「恩ニ報ゆ」讎ニ報ゆ」

むぐら (名) 葎 [illegible]又、[illegible]ぐら。やへむぐら(八重葎)、かなむぐら(金葎)[illegible]「[illegible]」宇津保物語、俊蔭廿「イデ入リツクロフ人ナキ所ナレバ、ヨモギむぐらハ[illegible]」

むぐら (名) 土[illegible] [illegible]又、ソノ[illegible]

むぐら・ふ (名) 葎生 葎ノ生ヒ茂ルトコロ。[illegible]「[illegible]、イヤシキ宿ニ[illegible]マセナム」(古義ノ訓)

むぐら・もち (名) 土龍 田鼠 〔古言、うごろもち(鼹鼠)、又ハ、むぐろもち(田鼠)ノ轉、墳チ持チ、ノ意ト云フ、羅甸語ニ Talpa vogora. 又ハ、Mogera wogera. ト云フモ似タリ〕古名、ウゴロモチ、ウゴロモチ。ムグロモチ。今、又、ウグロモチ、ウゴロモチ。モグラモチ。略シテ、むぐら。モグラ。食蟲類ノ小動物。形、鼠ニ似テ肥エテ平タシ。長サ六七寸、毛、細ソク柔ニシテ薄黒シ。眼、小サク、頂、[illegible]セ、喙、尖ルコト五分許リ、淡紅ナリ、脚モ淡紅ニシテ甚ダ短ク、後脚ハ小サク、前脚ハ甚ダ大キクシテ左右ニ開キ、コレニテ土ヲ撥キ行ク、力強シ。尾、小サク短シ。人家ニ近キ園圃ノ土中ニ棲ミ、蚯蚓ヲ食フ、其行路、土ヲ墳シ、草木ノ根ヲ害ス。日ヲ見レバ、動クコト能ハズ。鼹鼠 和名抄、十八、毛群類「[illegible]」[illegible]集(元祿)下、冬「霜柱、已ガアゲシヤ、むぐらもち」

むくり (副) むくむくとノ(一)ニ同ジ。

むぐり (名) 潛 (一)ムグルコト。モグ[illegible]

ルコト。(二)にほ(鳰)ノ一名。(水ニむぐる故ニ云フ)カイツブリ。

ムクリ-コクリ (名) 〔蒙古高句麗〕 (一)恐ロシキ物ニ譬フル語。もくりこくり(蒙古高句麗)ノ條ヲ見ヨ。[illegible](元和、安樂策傳)五「大名ノモトニ能アリ、云云、天人ノ下チテハナイ、むくりこくりガ玉子ニテアラウズ、カヒヲワラヌ先ニ殺セ」 (二)非理、非道ナルサマニ云フ語。日本[illegible](享保、近松作)五「神國ニ生マレテ、神沙汰ヲ停止トハ、正[illegible]ノむくりこくり、オ[illegible]上十[illegible]ノ作法」

むく・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 〔身窪くるノ義〕 剝く(四段)ニ同ジ。太平記、三十五、京勢重南方發向事「猛惡ノ下部共、辻辻ニ打散テ、[illegible]ハギ取リ、[illegible]むくりケレバ」

むぐ・る (動) 潛 〔濡潛るノ義〕 もぐる(潛)ノ訛。其條ヲ見ヨ。

むくれに-ぢ (名) 木欒子 〔字ノ音〕 又、むくれぢ。もくげんぢ(欒樹)ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、廿、木類「欒、木欒子、無久[illegible]之乃木、其子堪[illegible]珠、音也」 本草和名、下「[illegible]、牟久[illegible]之」 [illegible]本草、上五、四「[illegible]荊、マメフシ、又云、ムクレンシ、[illegible]、モクレンシ、又云、布之支、牟久[illegible]之牟久[illegible]之乃波奈」

むく・れる (動) 剝 むく(剝、自動、下二)ノ口語。

むくろ (名) 〔身中軀〕 〔說文「軀、體也」身ノ胴ノ轉ト云フ、體ノからト同趣〕 (一)身ノ胴。カラダ。體。身體。字類抄「身、質、躰、ムクロ」名義抄「身、ムクロ、ミ」神代紀、上十七「身中」私記「牟久呂」 神武卽位前紀、上十六「其爲人也、身長[illegible]手足長、與[illegible]」 [illegible]四十年七月「身體長大、容姿端正」落窪集、十二、[illegible]むくろニ手バシ負ヒタリケルカ」 (二)ナキガラ。死骸。死體。太平記、二、阿新殿事「切手、後ヘ回ルトゾ見エシ、御首ハ敷皮ノ上ニ落チテ、[illegible]ハナホ[illegible]セルガ如シ」 (三)心ノ朽チタル樹ノ幹。

むくろ-おめ (名) [illegible] カラダト共ナルコト。カラダグルミナルコト。枕草子、六、第五十一段「むくろおめニ寄り給ヘトイフヲ、五體ゴメニトナン云ヒツルト云ヒテ、又笑フ」

むくろ-ぢ (名) 〔無患子〕 〔木欒子ノ音ヲ訛リテ、更ニ誤用セル語〕 木槵樹ノ實、圓クシテ、大イサ六七分、外皮、黄ナリ。ぢゃぼんト呼ビテ、油ニ汚レタル衣ナドヲ洗フニ用キル。内ニ圓子アリ、深黑ニシテ、甚ダ堅シ、種種ノ用ヲナス、中ニ白キ仁アリ。略シテ、むく。もくげんぢ(木患子)。此樹ハ、無患子科ニ屬スル落葉喬木ニシテ、我ガ國ノ山野ニ多シ。樹、大キク、高サ二十尺餘ニ達シ、[illegible]、葉ハ橢圓形ノ小葉ヨリ成リ、[illegible]ニ似テ長大ニシテ、薄ク固ク互生ス。夏、長キ穗ヲナシ、枝ヲ分チテ、黄白色ノ小花ヲ開キ、球果ヲ結ブ。むくのき。木槵樹 [illegible]門松(享保、近松作)上「九段ノ町ノ羽ガハス、北[illegible]ノ羽子板、むくろぢモ、研キ入テハ色ニ成ル」

むくろん-げ (名) 〔木槵打〔木患打〕〕 むくうち(木槵打)ノ條ヲ見ヨ。明和の川柳「むくろんげ、オブノテスルガ、上手ナリ」

むぐろ-もち (名) 〔田鼠〕 〔うごろもち(鼴鼠)ノ轉、うじなノ轉ジテむじな(狢)ト(ナル類)〕 今、むぐらもち(土龍)ト云フ。其條ヲ見ヨ。字鏡六十「[illegible]、鼴鼠也、牟久呂一知」 康賴本草、下廿「鼴鼠、ムクロモチ、云云、宇古呂モチ」

むぐゎい-りう (名) 〔無外流〕 劍道ノ一派。近江國、甲賀郡ノ人、都治月丹資持ノ創メタルモノ。武術流祖錄、括運、刀術「無外流、都治月丹資持」

むくゎ-くゎ (名) 〔無花果〕 いちぢく(無花果)ニ同ジ。

むくゎん (名) 無官 官職ナキコト。平[illegible]ノ王、無官[illegible]ヒス」

むくゎん-の-たいふ (名) 〔無官大夫〕 四位、五位ノ位ニアリテ、官職ナキ人ノ稱。又、公卿ノ子ノ、イマダ元服セズシテ五位ニ敍セラレタルモノ。[illegible]十八、[illegible]無官ナレバ、無官大夫[illegible]トテ、生[illegible]十六[illegible]也」

むけ (名) 〔平征〕 〔平く(他動)ノ條ヲ見ヨ〕 平クルコト。討チ平グルコト。萬葉集、十八「[illegible]、八十伴緒ノ、[illegible]ノ、[illegible]ノマニマニ、老人モ、女ノ童兒モ」

むけ (名) 〔向〕 〔言趣ノむけト同趣〕 ムクルコト、趣キ從ハシムルコト。服從セシムルコト。

むけ (名) 無卦 無卦無暇無氣 うけむけ(有暇無暇)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]、中、有卦無卦ハ、十二運ヲ以テ、吉凶ヲ分ツナリ、卽、有卦ハ胎ノ運ヨリテ、帝ノ運[illegible]、此ノ七ケ年ノ[illegible]ハ、萬事ニヨシ、又、無卦ハ、衰ノ運ニ[illegible]テ、絶ノ運[illegible]也、此ノ五ケ年ノ間ハ、萬事ニ不吉也」

むげ (名) 〔無價〕 (一)又、むか。價ヲ以テ、云フベカラザル程ノ貴重ナルコト。無量[illegible]經、下「無價衣供[illegible]」 榮花物語、廿二、鳥舞「モロモロノ寶ノ香爐ニハ、無價ノ香ヲタキテ、モロモロノ世帶ニ供養シ奉ル」 (二)轉ジテ、莫大、至大ノ意。

むげ (名) 〔無礙無碍〕 〔正字通「碍、俗礙字」〕 ササハル所ナキコト。自在ニ通達シテ障リナキコト。揚子法言(漢、揚雄)君子篇「君子之[illegible]無礙乎如何、曰往也」往生要集、

むげ (名) 〔無下〕 〔ソレヨリ下ハ無し、ト[illegible]、一向、ノ意ト、サラバ、けハ清音ナリ〕 一向ナルコト。一概。コレヨリ下ノナキコト。ワルキコト。イト、ワリナキコト。[illegible]九、[illegible]ハむげノ[illegible] 徒然草、第五十八段「サバカリナラバ、ナジカハ捨テシ、ナンド言ハンハ、無下ノ事ナリ」

むけい (名) [illegible] [illegible]ナキコト。[illegible]

むけい (名) 〔無形〕 カタチナキコト。又、其モノ。〔有形〕 [illegible]

むけい (名) 無藝 [illegible]ナキコト。北史、[illegible]

むげい (名) 〔武藝〕 ぶげい(武藝)ニ同ジ。[illegible]

むげちな・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 〔無无礙智〕 〔无礙智ハ、涅槃經、八ニ「如來[illegible]無礙[illegible]悪知ニ自地及以他地、是故如來名ニ无礙智」ト見エタリ〕 [illegible]キザマナリ。ナサケナシ。〔東國ノ俗言〕 イゲチナイ〔大阪、播磨〕 東海道中膝栗毛(享和、一九)初[illegible]「[illegible]ハ、テ、むげちなくホイダシマシタカ」

むけつ (名) 無缺 カケタル所ノナキコト。完全ナルコト。保文館附「金甌無缺、南史朱异傳、武帝言、我國家猶若金甌無一傷缺」

むげつ (名) 〔無月〕 月ノ出デザルコト。月ノ見エザルコト。(雨、又ハ、霧ナドノ

タメ。(二)(中止體用)」

むげな・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二)　無下　ナサケナシ。一向ナリ。一概ナリ。慘酷ナリ。〔音便ニ、むげないト云フ〕淀鯉出世瀧德(寶永、近松作)上「吾妻ワット泣出シ、顔ヲモ上ゲズ居タリシガ、むげない言分シテ下ンス。[illegible]讀ム」云云

むげゐ [illegible] 無下　一向ナル狀、思ヒノ外ナル狀、ヒタブル狀、甚シキ狀、ムヤミナル狀、ナド云フ語。[illegible]ケナリ」源、二、帚木「むげゐ思ヒシホレテ、心ボソカリケレバ」拾遺集、七、物名「忘レニシ、人ノサフニモ、[illegible]、むげ[illegible]コシトハ、思フモノカラ」[illegible]記、廿六、[illegible]何事モ昔ヤ世ノ[illegible]ハシキ、今様ハむげゐイヤシクコソナリユクメレ」

ム・ギヨウ
むげふ (名)　無業　一定ノ職業ノナキコト。無職。[illegible]

ムケ・ミヅ
むけみづ (名)　向水　亡キ人ノ墓、又ハ、位牌ニ、少シ水ヲ掛ケ、樒ノ葉ヲ用ヰテ、水灌ギ手向クルコト。[illegible]云云以[illegible]之[illegible]向水」

むげん (名)　夢幻　ゆめト、まぼろしト。身、但、卽チ、一切ノ諸法ノ、虛僞不實ニシテ、儚ナク定メナキニ譬ヘテ云フ語。金剛經「一切有爲法、如夢幻泡影、如露亦如電、應作如是觀」謠曲、邯鄲「實ニヤ、云云、老少共ニ前後不同、夢幻泡影イヅレナラン」

むげん (名)　無間　〔梵語、阿鼻旨(Avici)ノ譯ナル無間地獄ノ略〕佛經ニ、八熱地獄ノ第八、一劫ノ間、苦ヲ受クルコト間斷無シト云フ。コレニハ五種ノ地獄アリ、趣果無間、受苦無間、時無間、命無間、身形無間ナリ。[illegible]

むげん (名)　無限　[illegible]限ナキコト。[illegible]

むげんせきにん (名)　無限責任　[illegible]責任ニ對スル合名、合資會社ノ社員、又ハ、組合ノ會員ガ、其會社、又ハ、組合ノ全財產以外ニ、各自ノ財產ヲモ擧ゲテ、會社、又ハ、組合ノ債務辨濟ニ充ツベキ連帶責任ヲ負フモノ。「有限責任」[illegible]

ムゲン・ジゴク
むげんぢごく (名)　無間地獄　むげん(無間)、及、あびぢごく(阿鼻地獄)ノ條ヲ見ヨ。又、無間奈落。太平記、廿、結城[illegible]、道[illegible]地獄[illegible]見テ、アナオソロシ、是ハ無間地獄ニテゾアルラント恐怖シテ、云云

ムケンチヨウ・ソウ
むけんちやうさう (名)　無見頂相　佛教ノ語。佛ノ三十二相ノ一。佛ノ頂上ニ肉塊アリ、高起シテ髻ノ如キ形ヲナセルモノ。(一切ノ人天、見ルコト能ハザレバ、無見ト云フ)楞嚴經、七、如來無見頂相無爲心佛從頂發輝」

むげん・ナラク (名)　無間奈落　〔ならく(奈落)ノ條ヲモ見ヨ〕前前條ノ語ニ同ジ。[illegible]近松作[illegible]むげんならくニ[illegible]逆サマニ落ツルコト、云云」

ムゲン・ホウ・ヨウ
むげんはうえう (句)　夢幻泡影　ゆめト、まぼろしト、水ノあわト、物ノかげトノ如シノ意ニテ、人生ノハカナキニ譬ヘ云フ。むげん(夢幻)ノ條ヲモ見ヨ。

❖**む・ける** (動)　向く(下二)、剝く(下二)ナドノ口語。

むこ (名)　[illegible]〔向子ノ略、向股、向脛ノ類、かヲ略スルハ、かかのむ、かのむ(可可吞)、わたかまる、わたまる(蟠)ノ例ニテ、匹敵子(嫡妻ノ語モアリ)ノ意ナリ〕天治字鏡、二「聟、[illegible]」[illegible]倭名抄、二[illegible]婚姻類[illegible]作聟壻、無古」ト見ユ、コレニ對シテよめ(娵)ト云フアリ、コレハ呼女ノ略、ゆみげ、ゆげ(弓削)ノ例ニテ、今モ[illegible]ノルヲ呼ブト云ノ、倭名抄、二婚姻類「婦、子之妻爲婦、與女」トアリ」又、もさ[illegible]我ガ娘ノ夫ヲ云ノ、女壻[illegible]ムコ[illegible]ソノカミ、むこ、も、シウトモ、心ヲヒトツニテ、云云」古事記、中(應神)七十七「千早振、宇治ノワタリニ、棹取ニ、ハヤケム人シ、ワガ毛古ニ來ム」

むこ (名)　無辜　(說文「辜、罪也」)(一)罪ナキコト。詩經、新父之什、正月篇「憂心惸惸、念我無祿、民之無辜、并其臣僕」[illegible](二)罪ナキ民。[illegible]無辜」周禮、夏官篇、司馬「救無辜、伐有罪」

〜**むご** (名)　無期　期限ナキコト。むき(無期)ノ條ヲ見ヨ。宇津保物語、初秋三十八「コタミノ相撲ノ勝ナ負ケノ定マラン事、イトむごナリ」枕草子、九、第百十段「イカニゾ、事成リヌヤ、ナド[illegible]ヘバ、マダむご、ナドイラヘテ」今鏡、第四、藤波の上、三、伏見の雪のあした「門ヲ叩キケレド、むご[illegible]條むご[illegible]聞エザリケレバ」宇治拾遺、十一[illegible]リケレバ、イカニ斯ウハ遲キニカト」

むこいり (名)　壻入　聟入　婿入　(一)壻トナリテ嫁ノ家ニ入ルコト。入壻スルコト。又[illegible]

[illegible]ヲスル事ニナリヌ」狂言記、吟壻「タビタビ壻入ヲセイトアッテ、既ニ使ガ立チマスル」

むこう (名)　[illegible]

ムコ・カシヅキ
むこかしづき (名)　[illegible]八、當生八十三「ナゾ時ノミカドノ、カクオドロオドロ[illegible]

むこがね (名)　[illegible]

むこぎ (名)　五加木　[illegible]ノ五葉一帶ナルニ云フカ〕うこぎ(五加木)ノ古名。[illegible]

むこく (名)　無告　己レノ苦シミヲ、告グルニ所ナキコト。タヨリナキコト。[illegible]

むこし (名)　無腰　まるごし(丸腰)ニ同ジ。

むごし・キ・ケレ・ク・ク(形、二)　[illegible]めぐし(愍然)ノ轉〕(一)憐ムベシ。ムゴラシ。ムゴタラシ。他ノ憂目ヲアハレニ思ヒテ、[illegible]保、近松作)中「縁物語モセウ物ト、樂シム甲斐モナク、ホンニむごいツレナイ」(二)[illegible]

ナリ」 殘酷 [illegible]ニ人殺ストハ、アンマリむゐい、情ナイ」

むゐたら・し (形) 【怪外】 前條ノ語ニ同ジ。

む-こつ (名) 【無骨】 (一)骨ナキコト。骨ナシ。 北史、淮南王仁傳「西河王仁鏡、生而無レ骨、不ニ自支持ニ」 (二)ぶこつ(無骨)ニ同ジ。

むゐとり (名) 【壻取・聟取・婿取】 壻ヲ迎フルコト。娘ニ夫ヲ貰フコト 宇津保物語、國讓、下「二タダ今むゐとりモシツベキ娘ノヤウニテ、イトメデタシ」 後松日記(天保、松岡行義)十四「婚禮ノ式ハ、古事記ニ、大山津見神ノ女ニ、百取ノ机代物ヲ持シメテ獻トミエタリ、(諸事紀、百机ノ飲食ニツクル)是ヲヤ始メトスベカラン、今ニモ其法ヲ立テ、嚴ニ和合好通ヲ禁ゼラレ、西土ノ六禮ニカヨヘル處モアレド、中世ノむゐとりハ、密儀ニシタガヘバ、自ラ婚風ノ樣ニ見エタリ、足利ノ世ヨリ今ノ婚儀ノ整タルハ、カヘリテ中世ノ手ブリヨリハ、マサレル事ナリトスベシ」

むゐばなゐ (副) 【壻花】 壻ノ花ヲ添フル樣ニ (嫁ノ美シキニ云フ) 異本曾我物語十「サモむゐばなゐイツクシカリシ姿モ、今ハイツシカ黑ミヤツレ」

むゐひきでもの (名) 【壻引出物】 婚姻ノ時ニ、舅ヨリ新郎ヘ贈ル引出物 參考源平盛衰記、劍卷「天ヨリ一ノ鏡降レリ、其內一ハ、聟引出物ノ鏡ナリ、云云、聟引出物ノ鏡ハ、內侍所ナリ」 十訓抄、中、第六、第二十四條「醍醐天皇ノ御時、云云、公任卿、此ノ殿ヲ壻ニ取リテ、始メテコシ入リサレケル時、朗詠上下ノ卷ヲエラビテ、ナキ物ノ肆子ニオカレタリケル、ユユシキむゐ引出物ニコソ」

むゐみやうせき (名) 【壻名跡】 娘ニ夫ヲ迎ヘテ、我ガ家ノ名跡ヲ繼ガスルコト 矢島十二頭記「由理十二頭ハ、云云、扨十二頭ト申ハ、仁賀保殿、八郎殿、子吉ノ家ヨリ聟名跡入ル」

む-こん (名) 【夢魂】 夢ノ中ノ魂 夢ノ中ノ精靈。 劉希夷詩「[illegible]」

む-こん (名) 【無根】 根モ葉モナキコト。アトカタナキコト。事實ナキコト。 蘇軾、分氏山房藏書記「後世科擧之士、皆束書不觀、游談無根」「無根ノ風評」「事實無根」

む-こん (名) 【無痕】 こんせき(痕跡)ヲ止メザルコト。アトカタヲ殘サヌコト。 宋之問、江亭晩望詩「鳥歸沙有跡、帆過浪無痕」

む-ごん (名) 【無言】 (一)物言ハヌコト。口キカヌコト。 杜牧、題桃花夫人廟詩「細腰宮裏露桃新、脈脈無言度幾春」 (二)無言ノ行。 沙石集、四、上、第一條「或山寺ニ四人ノ上人アリケリ、云云、道場ニ入リ、四人燈ヲ前ヘ七日ノ無言ヲ始ム」 方丈記「コトサラニ無言ヲセザレドモ、一人ヲレバ、口業ヲヲサメツベシ」

むゐやうし (名) 【壻養子・聟養子】 息女ニメアハセテ養子トナスモノ。又、壻養子縁組ニヨリテ、其家ノ養子トナリタル人。 關八州古戰錄、五、北條氏康隱居事「氏照ヲ聟養子トシ、武州高麗郡瀧山ノ城ヲ讓リ」 矢島十二頭記「仁賀保殿御娘子ヘ、子吉殿御子息八郎殿ヲ、聟養子被成候テ、御名跡御相續被成候」

むゐやうしえんぐみ (名) 【壻養子縁組】 養子トナリテ養家ニ入ルト同時ニ、養親ノ家ノ娘ト結婚スルコト。

むごら・し シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 【慘然】 慘キ狀ナリ。憐ムベシ。カハユサウナリ。ムゴタラシ。 用明天皇職人鑑(寶永、近松作)二「マ一度、詞モカハサセヌ夫ノ心ノむごらしヤト、ワットナキ入リヰタリシガ」

む-さ (名) 【無作】 佛經ノ語。身口意ノ動作ヲ假ラズシテ、自然ニ相續スルコト。自然ニシテ作爲ナキコト 分別造作ノナキコト。又、因縁ノ造作ノナキコト。

むゐ(無爲)ニ同ジ。(自然ナラヌコトノ有作ニ對ス) [illegible] 有作無作ノ諸法ノ性(一本、相ニ作ル)ヲ見ザル所」

む-さ (名) 【武者】 むしゃ(武者)ニ同ジ。 字類抄「武者、ムサ」 宇治拾遺、三、第一條「大太郎(盜人ノ名)ガトラレテ、むさノ城ノオソロシキ由ヲカタリケルナリ」

む-さい (名) 【無才】 才智ノナキコト。才ノ足ラヌコト。 管輅別傳「書有ニ數千卷、然而世無ニ名人、皆由ニ無レ才、不レ由ニ無レ書也」 幻住庵記(芭蕉)「終ニ無能無才ニシテ、此一筋ニツナガル」

む-さい (名) 【無妻】 妻ノ居ラザルコト。又、妻ノナキコト。男ノ獨身ナルコト。 白居易、贈王山人詩「[illegible]」

む-ざい (名) 【無罪】 (一)ツミノナキコト。又、ツミナキ民。無辜。 書經、無逸篇「亂罰無罪、殺無辜」 詩經、小雅、小旻之什、巧言「無罪無辜、亂如此憮」 (二)裁判所ノ判決ニヨリテ、犯罪事實ノ存在ヲ認メラレザルコト。

むざい-がき (名) 【無財餓鬼】 財物ノナキ餓鬼 極メテ貧シキ餓鬼 狂言記、宗論「惡皆タダ、ソレハむざいがきト云フモノデオヂャル、イヤイヤ、むざいがきデハオヂャラヌ」

む-さう (名) 【夢相】 (一)夢ノ裡ニ生ズル善惡ノ相。(二)夢判斷ヲスルコト。又、其ヲ業トスル人。ユメハンジ。ユメアハセ。 沙石集、一、下、第九條「梁ノ武帝ノ時、むさう有ケリ、帝是レヲ試ミン爲ニ、ソラ夢ヲ語リ玉ハク、云云、夢相奏シテ云、云云」

む-さう (名) 【夢想】 (一)夢ニ想ヒ見ルコト。 後漢書、王霸傳「夢想賢士、共成功業、豈有二哉」 (二)夢ノ裡ニ、生ジタル想念 楞嚴經、中「彼諸善男子、修三摩地、想蘊盡者、是人平

[illegible]ド、[illegible]ヲ得[illegible] [illegible]年三月十七日「自今日三箇日、參籠常住大原野社、[illegible]」[illegible]ル」「夢想ノ藥方」 (四)神佛ノ夢想ヨリ轉ジテ、物ノ製作ノ不思議ナルモノニ云フ語。むさうの羽織ハ、表裏ヲ同色ノ布帛ニテ作リ、裏カト思ヘバ、又表ノ如キモノ。夢想の引出ハ、此方ヘモ拔ケ、彼方ヘモ拔クルモノ、「夢想の[illegible]」ハ、兩面ニ同ジ製ノ[illegible]アルモノ、無雙[illegible]、其他、夢想枕、夢想窓、夢想標、ナドアリ。各條ニ注ス。

む-さう (名) 【無相】【無想】 佛經ノ語。相ハ其本體空ナルコト。又、一切ノ相ニ執着スルコトナキコト。即チ、諸法ノ寶相ヲ離ルルコト (虚假ノ相アル有相ニ對ス) 維摩經、不二法門品「一相無相、[illegible]」 淨影疏「諸法悉空、名爲無相」 金剛經「一切衆生之類、若有想、若無想、若非有想、非無想」 太平記、廿四、依山門嗷訴公卿僉議事「[illegible]アリ、上機ハ人我無相ナレバ、心ニ懸ル事ナシ、云云」

む-さう (名) 【無雙】【亡雙】 (一)ぶさう(無雙)ニ同ジ。(二)相撲ノ手ノ名。即チ、四番ニ組ミタル手ヲ、敵ノ內股ヘ掛ケ投グルヲ、內無雙ト云ヒ、敵ノ差込ミ來ル手ヲ引キテ、明手ノ都合ニテ、其外股ニ手ヲ掛ケ投グルヲ、外無雙ト云フ

む-ざう (名) 【無慚】 むざん(無慚)ノ音便。 宇治拾遺、三、第四條「むざうノ申シヤウ哉、ユユシキ罪ニモ候フ」 同、十、第十條「泣キ惑フサマ、イトイト、イミジ哀レニ、むざうニ覺エシカトモ」

むさう-がは (名) 【夢想側】【無雙側】 時計ノ

側ノ名。むざう(夢想)ノ條ノ(四)ヲモ見ヨ。

むざうさ (名) [無造作] [illegible]ノ條ヲ見ヨ」(一)ザウサナキコト。タヤスキコト。手輕キコト。簡易 (二)費用ノナキコト。

むさうだんす (名) [夢想簞笥] 他ノ材料[illegible]ハ用ヰズ、[illegible]ノ材ニテ作リタル簞笥。總桐簞笥ノ類。

むさうまくら (名) [夢想枕] いれこまくら、[illegible]ニ同ジ。[illegible]大保、[illegible]ニ、「[illegible]むさうまくら、又、八子枕トモ云フ、是ハ九ツ、或ハ七ツ入子ニシタル箱枕ナリ、云云、一ツカト思ヘバ、[illegible]ナル枕ト云ノ義ナリ」 東海道名所記(萬治)二、小田原より江尻まで「[illegible]二八、小田原足駄、云云、夢想枕」

むさうまど (名) 夢想窓 むさうれんじ、其條ヲ見ヨ。[illegible]ニトリツケタル窓。守貞漫稿、廿九、踏車「夢想窓、ムサウマド、[illegible]、閉ルニハ、各五ニス、將軍殿霊廟中ニ有レ之」

むざう・らし・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 無慙 [むざん(無慙)らしノ音便] カハイサウナリ。ムゴタラシ。不憫ナリ。(肥筑地方) 熊本ニテ、みぞらしか、又、みぞかトモ云ヒ、大分ニテハ、むどらしいト云フ。博多小女郎波枕(享保、近松作)上「今デーヘバ むざうらしケニ、ソガイニセテモ、大事ナカタン」

むさうりう (名) [夢相流] 小具足(即チ、捕手)ノ[illegible]夏原八大夫ト云フモノ[illegible]ノ創メタルモノ。[illegible]九「夏原八大夫「夏原八大夫者、夢相流小具足達人也、云云」

むさうりう (名) 夢想流 [illegible]ノ[illegible]片[illegible]ヲ抜ケバ、髪ジテ、下髪トナルモノ。サゲシタヂ。 天和笑委集、八、不忍新道名所物語「髪ハカウガイ、島田ワゲ、御所ノ女中ノむさうぶ流」

むさうれんじ (名) [夢想櫺子] スキマア[illegible]櫺子ニ、スキマアル引戸ヲ設ケ、其一ヲ引キテ閉ヅレバ、一面ノ板張ノ如ク見ユルヤウニナシタルモノ

むざえ (名) [無才] オナキコト。不才。[illegible]むざえ(才)ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]むざえノ人、ナマワロナフンノルマヒナト見エンニ、ハヅカシクナン見エ侍リシ」 狹衣、一、上廿四「公ニ仕ウマツリ、私ノ身ノタメ、男ノ、ムケニむざえニ侍ルハ、イトロ惜シキコトニ侍レバ、云云」

むさく (名) [無作] 又、ぶさく、ぶこつ(無骨)ナルコト。[illegible] 八子集(寛永)一「花サカメ、[illegible]ノ[illegible]八、無作法」

むさ・くさ (副) (一)ミダレモツレタル狀ニ云フ語。ムシャクシャ。 本朝[illegible]、[illegible]西鶴)七「如何ニシテモ、むさくさトシタオ氣、晴リトナリテ」 (二)順序ナク亂リガハシキ狀ニ云フ語。 毛吹草(正保、維舟)四「七草ヲ、むさくさ多ク、且カナ」 (三)心ノウツブレテ、晴レヤカナラヌ狀ニ云フ語。

むさ・くる・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 汚穢 [穢苦しノ義] 又、むさくろし。穢ク、キタナゲナリ。キタナラシ。

むさ・くろ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 汚穢 前條ノ語ニ同ジ。

むささび (名) [鼯鼠 鼺鼠] 「身細び、ノ意、翅大ニシテ、身小ナレバ」 嚙齒類ノ獸ノ名。深山ノ樹梢ノ穴居シ、夜出デテ、果實ヲ食フ。形、[illegible]ニ似テ[illegible]、[illegible]一[illegible]、[illegible]長シ。[illegible]有リ、其[illegible]、肉翅アリテ[illegible]ニ似テ、翅ヲ開ケバ[illegible]如シ。只、飛ビ下ルノミニテ、飛上ルコト能ハズ。[illegible]、小兒ノ呼ブガ如シ。[illegible]、モモンガ、モモ[illegible]。一名、ノブスマ。バンドリ。 倭名抄、十八[illegible]、[illegible]佐比[illegible]、[illegible]ニ、攻メタレバ、里ニ下リケル、牟射佐比ゾコレ」

むさし (名) [六指] [石、六ツヲ用ヰテ指セバ云フト云フ、八道行成ハ八指樗蒲ナルガ如シ、下學集、下、態藝門「八道[illegible]ハ云ノ、韓語ニ、賊ヲむさしト云フ、[illegible]」 馬城ノ紛轉ナリト、イフガ] 遊戲ノ具ノ、盤ニ數線ヲ劃シ、石、六ヲ以テ行ルニ和泉、尾張、上野、越後、陸奥ニ、六道。大阪ニ、六。又、十六むさし、ト云フハ、盤ニ縱横斜ノ線ヲカキタルヲ用ヰ、其外側ニ三角狀ヲナセル部分アリ、之レヲ雪隱、又ハ、牛部屋ト云フ。盤ノ中央ニ、一力士アリ、周ニ、十六卒アリテ圍ミ、互ニ線ニ隨ヒテ進退ス。力士、二卒ノ間ニ入レバ、挾バサミテ居ル、故ニ、數卒相連リテ、遂ヒ圍ミ攻ム。力士、道窮スレバ斃ル。中國ニ、ムサシ。上總、信濃ニ、サスカリ。下野、武藏[illegible]、十六サスカリ。(やさすかりノ條、見合ハスベシ) 守武千句「切レ切レニ、ナリヌルコトノ、アハレニテ、むさしヲサスト、見ユルナリケリ」 好色一代女(貞享、西鶴)二、「白黒ノ玉ヲ拾ヒテ、子供相手ニ六ツむさし、氣ヲツクスコトニモナリヌ」

むさ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 汚穢 [illegible] [illegible]ノ轉カト云フ」 穢汚ナリ。キタナラシ。[illegible] 徳川殿元、東岡寺百首「[illegible]、心[illegible]ハむさくシテ、イシャウツクロフ、人ハミニクキ」

むさしあぶみ (名) [胸差鐙ノ義カ、又ハ、武藏鐙] [illegible]、古ヘ、驛馬ニ用ヰシ一種ノ鐙。[illegible]ソキ革、或ハ、[illegible]ナドヲ、馬ノ胸ヘマハシテ、其兩端ヲ鞍ニ結ビ、ソレニ鐙組茄ノ短クテ、鞍具、鐙組金ノツキタル[illegible]、[illegible]作[illegible]、ソレヲ鐙トシタルモノ[illegible](比古婆六、上ニ一說[illegible]、古ヘ、武藏國[illegible]、遣レル鐙ナリト云フ、むさしト云フヨリ、武藏國[illegible]造シ、貢物[illegible]裏ヘ納メシモノ、其名[illegible]専ラ[illegible]至リ[illegible]製、木鐙ノ[illegible]シタルモノト云ノ[illegible]ト自然ニ曲レル木ヲ用ヰテ、[illegible]長キモノヲ作リ、コレニ鞍具ヲ作リ付ケニシタルモノ。後世、其曲レル木ノ得ガタキ[illegible]、鐵ノ鈎ナドヲ入レテ造ルニ至リ、其木ニテ造レルヲ、[illegible]ト[illegible]、古ノ[illegible]武藏鐙[illegible]古ヘイフハ、木鐙ノ一轉セシモノニテ、木五六トモイフ、五六トハ[illegible]、[illegible]ナク、タダ鎖ノミアリ、シカルヲコノ木五六ニハ、鞍具ヲ鐙ニ作リ付ケニシタリ、武藏國ニテ作リイダシタレバ、むさしあぶみトイヘルナリ、さすがト鐙ト、ヒトツニツクリ付ニシタレバ、むさしあぶみ、さすがニ[illegible]、[illegible]武藏鐙」 伊勢物語、第十三段「むさしあぶみ、さすがニカケテ[illegible]、[illegible]ハ、問ハヌモツラシ、問フモウルサシ」 六帖、五「サダメナク、アマ

タニ懸クル(驛馬ノ用)、むさしあぶみ、イカニ乘レバカ、ふみ[illegible]ヲ文ニカクハタガフル [illegible]四、河、加古川(播磨)「旅人ノ、駒打渡ス、むさし鐙、タダ名ゾカヘル、加古ノ川波 [illegible]具ノ葦ナルノミ) 同、宮瀨川(東國)「打渡ス、宮ノ瀨川ノ、瀨ヲハヤミ、むさし鐙ハ、さすが踏レッツ」

むさしあぶみ (名) 由鐙 花ノ形、鐙ニ似タル故、名ゾクト云) 天南星科ノ多年生草本ノ名。古名、カキツバナ。山間ノ陰濕ノ地ニ生ジ、高サ尺許リ、春、地下莖ヨリ一莖ヲ抽キテ二葉ニ分チ、各葉ハ三小葉ヨリ成リ、其、葉ハ大ヤク、天南星ノ葉ニ似タリ 春夏ノ交ニ、二葉ノ間ニ一梗ヲ抽キ、頂ニ花ヲ開ク、外、青ク、内、赤黑ク、形、鐙ニ似タリ。秋、梢ニ實ヲ結ブ、ふんてんノ(南天)ノ實ニ似テ、一團ニ簇リテ赤シ。

むさしなは (名) 六指繩 〔胸差繩ノ義〕兵家ノ語。馬ノ當胸ノ絕エタラム時ノ儲ケニスル繩。

むさしの (名) 武藏野 〔野見(飲)盡サレズノ謎ト云ノ〕大ナル盃ノ稱 [illegible]集、全、四、武藏野、ムサシノ、江[illegible]盃十、[illegible]武藏野ハ、[illegible]不、盡之意」[illegible]波集、[illegible]「武藏野ヲ見ケ、[illegible]スナリ」下戶ノ前ヘ、大盃ヤ、出スラン」

むさしばん (名) 武藏判 (一)慶長年間ニ鑄造シタル小判金ノ稱。金座永野家記、「武藏判駿河判由來、武藏判、江[illegible]慶長之初、江戶ニテ初テ小判出來申候、小判之上ニ、墨ニテ先祖後藤庄三郎書付申候、是ヲ武藏判ト申傳候」 (二)正德四年改鑄シタル小判金ナドノ稱。 貨幣秘録「正德四年甲午五月、金銀ノ品悉ク改鑄セラレ、慶長ノ昔規ニ復セラル、[illegible]極印等ナシ、是ヲ正德金銀ト云ヒ、[illegible]ヲ武藏判ト云フ」

むさずみ (名) 武佐墨 昔、近江國ノ武

佐ノ地ヨリ製出セシ墨[illegible]ヲ[illegible]テ、江州云云ノ文字ヲ押シタリ。 大和本草、[illegible]

むざと (副) 〔まざまざノ轉、其條ヲ見ヨ〕(一)眼前ニ憚ラズ惜マズ。タダニ。 狂言記、武惡「思ヘバ家久シイ者ヲバ、むざと[illegible]」 (二)無理ナルコト、又、亂暴ナルコトナドニ云フ語。 狂言記、居杭「コナタハ、むざとシタ事ヲ仰セラルル」 (三)無造作ニ。ムヤミニ。 國性爺合戰(正德、近松作)三「むざと鐵砲放スナ」

むざね (名) 實 〔身實ノ意〕(一)正シキソノモノ。身體。 (二)正身 本人。當人。ソノヒト。 古事記、中[illegible] 化元年八月「驗ニ僧尼奴婢田畝之實ニ」

むさべつ (名) 無差別 又、むさやべつ。差別ノナキコト。差別ヲツケザルコト。平等。

むさぼ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 貪 〔むさと欲る、ノ意ト云フ〕マホル。マウホル。飽クマデ欲ル。欲深ク欲シガル。 源、四、夕顏「何ヲむさぼる身ノ祈リニカト聞キ給フニ」[illegible]二年九月「殘賊貪婪、虐略ニ人民ニ」

むさます (名) 武佐枡 天文十三年、近江ノ領主、佐佐木義實ノ製シタル枡。(好古雜誌)[illegible]「或曰、武佐升ハ京付ノ八合ナリ、四斗俵ハ武佐升ヨリ出ル、近江八十萬石ヲ百萬石トイハン爲ナルト云フ說アリ、或曰、武佐判八合升ハ、柴田勝家ノ制ナリ、陣中兵粮ノ助トス」 善庵隨筆、一「武佐升ト云フハ、方四寸六分五厘、深サ二寸[illegible]分九厘八毛ニテ、斗積、五十[illegible]寸八分六厘餘ニナルナリ、赤松某云、ソノ

カミ佐佐木氏、江州ヲ領スル時、其國八十萬石ヲ以テ、[illegible]

むさん (名) 無產 (一)產業ノナキコト。又、職業ノナキコト。無職。 (二)財產ナキコト。資產ヲ有セヌコト。[illegible]

むさん (名) 無算 (一)數限リナク多クアルコト。無數。[illegible]之地、人畜無算」 (二)むぼう(無謀)ニ同ジ。[illegible]

むざん (名) 無慙 無慚 無懺 [illegible]阿紇里(Ahrikata.)ノ譯語〕 (一)佛經ノ語。慚ヅルコトナキコト。慚ヅベキヲ慚ヂズスコト。 俱舍論、四「於所造罪自觀無恥、名曰無慚」 盛衰記、三十七、熊谷父子寄城戶口事「アナむざんノ人共ヤ、イツマデ命ヲ惜ラン、」 (二)慈悲ノ道ヲ慚ヂズ、情ナキコト。又、イタハシキコト。不憫。慘[illegible] 盛衰記、九、康頼熊野詣事「アナ無慚、イカナル者ノ[illegible]セラレテ、又此島ニ放タルラン」

むさむさ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 穢 又、むさし。ムサムサトシタリ。ケガラハシクアリ。 世俗立要集(寶正元)「モチヒハむさむさし、柘榴ハヤサヤサシ」

むさむさと (副) 又、もさもさと。毛ナドノ繁ク生ヒタル狀ニ云フ語。 東海道名所記、[illegible]モノ如クナル髮、むさむさと[illegible]」

むざむざと (副) 〔みすみすとノ轉カ〕ヲシゲモナク。ワケモナク。無造作ニ。 非情[illegible]河內通(享保、近松作)[illegible]「貞女ヨト云ハレン爲、むざむざと二條ノ后ヲ殺シ」「むざむざと人ヲ殺スコトカ」「むざむざと棄テテシマフ」

むし (名) 蟲 〔蒸ノ義、濕熱ノ氣蒸シテ生ズ、六書精蘊、六、蟲、濕生化生者

也、[illegible]〕 (一)〔人類、禽、獸、魚、介、ノ外ノ動物ノ稱。羽アルニ、蝶、[illegible]等アリ、足アルニ、[illegible]等アリ、多足ナル、[illegible] 裸ニシテ足モナキニ、蚯蚓、水蛭アリ、殼アルニ、蝸牛等アリ、皆、大抵、卵生ナリ [illegible] (二)[illegible]蟲キテ、カクミヤタリハ、蟲ヨクモアラズ」 枕草子、三、第廿七段、むしは「むしハ、スズむし」 (三)[illegible]ルヲ聞キテ」「蟲ノ音」蟲ヲ聞ク」 (三)虹、蟲。[illegible] (五)產ナド催ス痛ミ。又、腹痛陣痛 [illegible]テキニむしガカブル」「蟲氣」 (六)俗ニ、心。[illegible]元來惡イ蟲、押ヘカネテズント出デ」「蟲ガヨイ[illegible]」[illegible]くトハ、ワカキ女ニ情夫ノ出來ル等、スベテ、蟲ノ寄生スル如ク、害ニナル者ノツクヲ云フ。蟲が承知せぬトハ、癪ニサハリテ堪忍出來ヌ意。蟲を殺すトハ、癇癪ヲオサフ。立腹ノ心ヲ抑ヘル。蟲のいきトハ、タエダエノ息、將ニ絕エムトスル呼吸。[illegible]秋ノ病人」サリトモト、思フ心モ、蟲の息」 蟲のいいトハ、自分ノ都合ヨキコト。自分勝手。 東海道中膝栗毛(文化、一九)四編、下「何ダ、イイトカ、只デトメルカ、蟲のいいト、笠ヲ取ッテ入ル」

むし (名) 蒸 (一)蒸スコト。 吉野都女楠(正德、近松作)一「新田殿ハ山門ヨリ押寄セ、正成ハ搦手ヨリ攻メ上リ、[illegible]中ニツツンデ、[illegible]しムス程

ナラベ、朝鮮一國ニヒビン」(二)味噌ノ女房詞。[illegible]女房詞、味噌ヲ、むしト云フ」(三)ちゃわんむし(茶碗蒸)ノ略。其條ヲ見ヨ。

むし (名) 蟲 [illegible] 其條ヲ見ヨ。字類抄「蚊、ムシ」名義抄「蟲、ムシ」新六帖、五「むし垂ルル、アヅマ少女ガ、スキカゲニ、名殘多クテ、行キ別レヌル」

むし (名) 苧 〔朝鮮語、もし」からむし(苧)ノ略。其條ヲ見ヨ。ソレニテ織リタル布ノ衣ヲ、むしのおろもト云フ。[illegible]食服、細、ムシ」(宛ナリ)夫木抄、十七、七夕「タナバタニ、今日ヤ、貸スラン、野邊ゴトニ、ミダレ織ルナル、むしの衣ハ」(促織 蟲ニ寄ス)

むし (名) 夢死 夢ヲ見ル如クニ、徒ニ一生ヲオクルコト。爲スコトナクシテ、空シク死スルコト [illegible]

むし (名) 無私 ワタクシノ心ナキコト。公平ナルコト [illegible]

むし (名) 無視 アレドモ、ナキガ如ク、見アナドルコト。何トモ思ハヌコト。ナイガシロニスルコト。

むし (名) 無始 (一)ハジメナキコト。莊子、知北遊篇「無古無今、無始無終」(二)佛語。ハジメナキ遠キ過去。又、一切ノ衆生、及、諸法モ、皆ハジメアルコトナシ、故ニ無始ト云フ [illegible]「無始ノ罪障」

むしあつ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 蒸暑 蒸スガ如ク暑シ。曇リテ風無キ炎天ナドニ) 浮暑

むしあはせ (名) 蟲合 人人ノ種種ノ蟲ヲ持チ寄リテ、其姿、形状ナドノ優劣ヲ闘ハス遊戯。[illegible]シケルヲリ、白河殿ニテ蟲合セラレケルニ」

むしあを (名) 蟲青 染色ノ名。玉蟲ノ體ノ如キ色。緑ニ紫ヲ帶ビテ、光リアルモノ。タマムシイロ。

むしあを (名) 蟲襖 袍、布衣ナドノ染色ノ名。又、襲ノ色目ノ名。表ハ青黒ニテ、裏ハ二藍、又ハ、薄色ナルモノ。(桃花蘂葉) 吾妻鏡、十、建久元年十一月二十日「[illegible]長、狩衣[illegible]、蟲襖上下紅衣」

むしいひ (名) 蒸飯 おはいひ(強飯)ニ同ジ。易林節用集(慶長)下、食服門「蒸飯、シンハン、ムシイヒ」(蒸ヲむんト讀ムハ、宋音也)

むしう (名) 無臭 クサミナキコト。臭氣ナキコト [illegible]

むしう (名) 霧聚 むしふ(霧集)ニ同ジ。

むしうり (名) 蟲賣 夏ノ頃、松蟲、鈴蟲、其他ノ蟲ナドヲ街上ニ賣リ歩クモノ。[illegible]四方[illegible]「蟲賣ノ、カゴトガマシキ、朝[illegible]」

むしえらみ (名) 選蟲 古ヘ、殿上ノ逍遙トテ、殿上人タチ、暮秋ニ、嵯峨野ナドヘ行キ向ヒテ、蟲籠ニ、蟲ヲ選ミ入レテ奉ルコトト云フ。年中行事歌合、廿八番、[illegible]判「撰蟲ト云ヘル事ハ、強チ式有事ニテハナケレドモ、殿上ノ逍遙トテ、云云、嵯峨野ナドヘ向ヒテ、蟲籠ニ蟲ヲ撰ビ入テ奉リケリ」[illegible]集、廿、角蟲[illegible]保[illegible]年八月十二日、殿上ノヲノコドモ、嵯峨野ニ向ッテ、蟲ヲ取リテ奉ルベキ由、ミコトノリアリテ、云云、野中ニ至リテ、[illegible]ヲチラシテ、蟲ヲバ取ラセケリ、云云、夕ニ及ンデ、蟲ヲ取リテ籠ニ入レテ、[illegible]

むしおくり (名) 蟲送 作物ノ害蟲ヲ驅[illegible]遂ヒハラフコト。黄昏ヨリ一村ノ人集リテ、松明ヲ燃シ、鉦太鼓ヲ鳴ラシ、[illegible]田ノ畦ヲ巡リ、遠キ山野、又ハ、河原ニ松明ヲ捨ツ[illegible]

むしおさへ (名) 蟲抑 (一)〔空腹ノ蟲ヲ抑ヘル意〕空腹ナルニ、少シ物食フコト。點心。[illegible]空心ニ、マヅチトバカリ物クフヲ、點心トイフ、今俗ニ、蟲おさへトイフ類ナリ」(二)小兒ノむしノ氣ヲ癒シ、又ハ、ソノ起ラザルヤウニ服セシムル藥。ムシグスリ。

むしかご (名) 蟲籠 古ク、むしや。松蟲、鈴蟲、螢ナド、聲ヲ愛シ、又ハ、玩トスル蟲ヲ畜フニ用キル小サキ籠。竹ヲ削リテ、精巧ニ造レルモノアリ。ムシコ。春泥發句集、秋「蟲かごノ、總角サメヌ、致仕ノ君」

むしかへし (名) 蒸返 ムシカヘスコト。又、ソノモノ。

むしかへ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 蒸返 (一)一度ムシタルモノヲ、再ビムス。(二)古キモノヲ、再ビ用キル。又、一旦、濟ミタル物事ナドヲ、再ビ問題化ス。

むしかめ (名) 蟲齧 (一)〔むしくひ(蟲喰)ノ條ノ(一)ニ同ジ。催馬樂、大芹「むしかめノドウ、サイカクノサイ」(二)むしかめは(蟲齧齒)ノ略。其條ノ語ヲ見ヨ。

むしかめば (名) [illegible] むしば(齲齒)ニ同ジ。略シテ、むしか[illegible]「齲、ムシカメハ」[illegible]、ムシカメハ」

むしがれひ (名) [illegible] 鰈ノ[illegible]シタルモノ。炙リテ食フ。若狹國ノ産ヲ上トス。

むしき (名) 無識 知識ナキコト。無智。又、[illegible]

むしき [illegible] ヤミニケリ、無食ニテ兩三日經ニケレバ、存命モ殆アブナク覺エケル」

むしきかい [illegible] 無色界、天人無ニ有ニ形色、唯有ニ心故名ニ無色界[illegible]

むしくし (副) 面白クナキ状ニ云フ語。[illegible]波集(寛永)一「フリサヘヨクバ、ソハントゾ思フ」面ニハ、ウスむしくしニ、茶苑[illegible]」

むしぐすり (名) 蒸藥 [illegible]

むしぐすり (名) 蟲藥 むしおさへノ(二)ニ同ジ。

むしくひ (名) 蟲喰 (一)ムシカメ。ムシバミ。蟲ノ喰ヒテ損ズルコト。又、[illegible]

ト云フニ、文字ヲ蟲食ニセリ」 (二)[老鶯ノ異名 枕草子、三、第廿九段「鶯は、云云、夏秋ノ末マデ老イ聲ニ鳴キテ、むしくひナド、ヨウモアラヌモノハ、名ヲツケカヘテ云フ」 (三)燕雀類ノ鳥。大キサ鶯ホドニテ、頭ハ橄欖色ニ灰白色ノ斑アリ、腹ハ白ク、美麗ナリ。候鳥ニシテ、夏來リテ、冬ハ暖地ニ去ル。數種アリテ、せんだいむしくひ、こむしくひ、めぼそナドアリ。(主トシテ蟲ヲ食フ故ニ云フ)

むしくひど (名) [蟲喰砥] つしまど(對馬砥)ニ同ジ。

むしくひば (名) [蟲喰齒] むしば(齲齒)ニ同ジ。 增補下學集、上、支體門「齲齒、ムシカメ、ムシクヒハ」 沙石集、七、上、第五條「南都ニ齒取唐人アリキ、云云、蟲ノ食ヒタル齒ヲ取ラセントテ、東人ガ許ヘユキヌ、齒一ツ取ルニハ、錢二文ニ定メタルヲ、一文ニテトリテタベトイフ」

むしぐわし (名) [蒸菓子] 餅菓子ノ、蒸シテ作ルモノ。卽チ、饅頭ノ類。ムシモノ。 槐記、享保十一年霜月七日「宗因御薄茶立ル、御菓子等出シ」

むしけ (名) [蟲氣] 小兒ノ病、蚘蟲ナドニヨリテ起ルモノ。轉シテ、其他、種種ノ病ニモ云フ。又、小兒ノ癇ノ強キコト。 易林節用集(慶長)上、支體門「蟲氣、ムシケ」 蔭涼軒日錄、寛正二年八月六日「依御蟲氣、無御出也」 油糟(寛永)雜「アハレナハ、蟲氣ナル子ノ、乳母ニテ」

むしけづく・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [蟲氣付] [産氣づくノ意] 産ノ氣ヲ催ス。産氣ニテ陣痛ヲ催ス

むしけん (名) [蟲拳] [拳ノ形ヨリ移ル、其條、幷ニさんすくみ(三竦)ノ條ヲ見ヨ] 三竦ノ拳。二人相對シ、指先ニテ行フ遊戲ノ競技。右手ノ親指ヲ蛙ニ、人差指ヲ蛇ニ、小指ヲ蛞蝓ニ擬ヘ、蛇ハ蛙ニ勝チ、蛙ハ蛞蝓ニ勝チ、蛞蝓ハ蛇ニ勝ツトシテ、互ニ出シテ勝負ヲ決ス。打出シハ、先ヅ右ノ手首ヲ、左ノ袖口ニ隱シ、レ、レ、レ、ト互ニ三度掛聲ヲシ、雙方、呼吸ヲ合ハセテ、突キ出スナリ。是レヨリ轉ジテ、石拳、狐拳、虎拳ナドアリ。 浮世風呂(文化、三馬)初編、下「アラ程、蟲拳ヲシテ、一極メヲシタヂヤアネエカナ」

むしけら (名) 蟲 [けハ、けら、らハ添ヘタル語、卽チ、蒸氣ニテ、化生ノ意、上略、下略シ、むしト云ヒ、けらト云フ、けらつつき(啄木鳥)ハ、蟲突ナリ] むし(蟲)ト云フニ同ジ。 宇津保物語、俊蔭「虎、狼、蟲けらト云ヘド」 物類稱呼、二、動物「蟷螂、けら、云云、諺ニむしけらナド云フハ、けらヲノミ云ヒシ語ノ事ニハアラズ、スベテ蟲類ヲ云フナリ」 俳諧古選、冬「冬ゴモリ、蟲けらマデモ、アナカシコ」

むしこ (名) [蟲籠] (一)むしかご(蟲籠)ニ同ジ。 本朝若風俗(貞享、西鶴)七、「蟲かごノ口開ヨリ、螢二ツ三ツ飛入リ」 (二)次條ノ語ノ略。 俳諧翁卯月(寛永、近松作)中「イツカハ釘ヲ放シケン、むしこヲハヅシ、帶ヲ結ヒサゲ」

むしこがうし (名) [蟲籠格子] 格子ノ一種。蟲籠ノ如ク子ヲ細カク組ミタルモノ。略シテ、むしこ。 和漢三才圖會、八十一、家宅類「篩子、然而如蟲籠者、謂之蟲籠格子」

むしこまど (名) [蟲籠窓] でがうし(出格子)ノ條ヲ見ヨ。 續山の井(寛文)「蛛ノ巣ヤ、二階ツバキノ、蟲籠窓」

むしじるし (名) [蟲印] 丹沙ニテ飼育シタル井守(塩嚢抄ニハ、蜥蜴トス)ノ血ヲ、女ノ臂ニ塗リオクコト。イカニ洗ヒ拭ヒテモ消エ失セザレドモ、若シソノ女、男ニ接スル時ハ、消エ失スト云フ。ゐもりのしるし。(塩嚢抄、五)

むしず (名) [蟲唾] 胃ノ病、消化不良ナドニテ、胃内ヨリ口ニ酸キ唾ノ發スルコト。又、ソノ酸キ液。ムシヅ。中酸。嘈心。

むしそばきり (名) 蒸蕎麥切 そばきり(蕎麥切)ノ條ヲ見ヨ。 かる口男(貞享、彥八)「弓手モ馬手モソバ切屋、すハイリアレヤ旦那様タチ、一杯六文カケ値ナシ、むしそば切ノ根本ト、聲聲ニヨバハレドモ、云云」

むしだしかみなり (名) [蟲出雷、蟲出神鳴] 禮記、月令篇「仲春之月、云云、雷乃發聲、始電、蟄蟲咸動、啓戶始出」 春ノ初雷ノ稱。コレニヨリテ冬眠セル蟲ノ誘ヒ出サルルナリ。驚雷。 本朝二十不孝(貞享、西鶴)三「二月九日、蟲出し神鳴、ヒビキ渡リシト」

むしたれ (名) [蟲垂帔] むしのたれぎぬ(蟲垂衣)ノ略、其條ヲ見ヨ。 仲資王記、元久元年十二月十日「先狩裝束武士十餘騎、次綾藺笠(?)[illegible]一騎、次[illegible]一乘、[illegible]已上、雜仕牛物之[illegible]、次牛童[illegible]十騎」

むしたれいた (名) 帔板 次條ノ語ニ同ジ。 山家集、下「ミクマ野ノ、むなしキコトハ、アラジカシ、むしたれいたノ、ハコブアユミハ」

むしたれがさ (名) [帔笠] 周圍ニ蟲垂衣ヲツケタル笠。ムシタレイタ。

むしづ (名) [蟲唾] むしず(蟲酸)ニ同ジ。「むしヅガ走ル」

むじつ (名) [無實] (一)實ナキコト。 盛衰記、廿四、南都合戰事「今ハ殘ル處ナク拔雜テ、無實ヲ構ヘ、佛法ヲ亡サントヤ」「有名無實」 (二)罪無キニ、罪アリトセラルルコト。ヌレギヌ。寃枉。 平家物語、二、座主流事「無實ノ

[illegible]

むしづくし (名) [蟲盡] 遊戲ノ一種。[illegible]ナドニ、多クノ蟲ノ名ヲ竝ベアグルコト。又、其モノ。[illegible]類、月ノ夜、詩歌管絃、鞠、小弓、扇合、繪合、むしづくし、サマザマ興アリシ事ドモ思ヒ出デ」

むしづけ (名) [蟲付] 小鳥ノほほじろ(頬白)ニ、鈴蟲、松蟲ナドノ音色ヲ、マネバシムルコト。

むじな (名) 貉 [貉ハ茂し穴ニ棲ミ、熊ハ隈ニ棲ムト云フ、共ニ、棲ム所ヨリ云フ] (一)[古ク、又、ウジナ] 犬科ノ獸。狸ノ屬。性、善ク睡ル。頭、尖リ、鼻、出デ、眼、黑シ。毛ハ黃黑褐色ニシテ、深厚、温滑、裘トスベシ。足ハ犬ノ足ニ似、曲穴ヲ作リテ穴居シ、晝ハ睡リ、夜、出デテ、食ヲ竊ム。一說ニ、たぬき(狸)ノ異名トモ云フ。スタランシシ。 倭名抄、十八、毛群名「貉、[illegible]」 垂仁紀、八十七年六月「[illegible]山獸名牟士那而殺之」 (二)あなぐま(穴熊)、及、まみ(猯)ノ異名。

むじなひやうぢやう (名) [貉評定] をだはらひやうぢやう(小田原評定)ニ同ジ。 五元集、冬「行ク年ヤ、貉評定、夜明ケマデ」

むしのす (名) [蟲窩、蟲巢] [細孔多ケレバ名トス] 次條ノ語ノ略。

むしのすだま (名) [蟲窩玉、蟲巢玉] 煉珠ノ名。からふとだま(唐太玉)ニ同ジ。

むしのたれぎぬ (名) [蟲垂衣] [むしハ苧麻ノ略、易林節用集「緡(菜薕也)」、卽チ、苧麻布ヲ用ヰレバ云フカト云フ、或ハ云フ、蟲ヲ防グ意ト] 古ヘ、路行ク

時、笠ノ四檐ニ、薄キ布ヲ長ク垂レテ被リシモノ。被衣ノ意カ、單ニ、むしトノミモ云ヒ、多ク[illegible]ノ字ヲ用ヰル。[illegible]披也、披[illegible]肩背、不及下也」[illegible]ウチカケギヌ。ムシタレ。枕草紙、下「むしのたれぎぬヲ、蟲ヲ除ルタメナリト云フ說ハ、イカガアルベキ、按ズルニ、むしハ、云云、麻ノ類ニテ、云云、サレバ、麻ノタレギヌト云フ程ノ事ナルベシ、厚キ絹ニテハ、向ヒノ見エザル故ニ、ウスキモノヲ用ヒ[illegible]」[illegible]、九、[illegible]「[illegible]、むしのたれぎぬ、結ビ上ゲテ、通リワヅラフ、夏ノ旅人」

むしば [illegible]（蟲喰齒ノ義）古ク、ムシカメバ。齒ノ、病ムコトアリテ、蝕シテ如ク缺ケ朽ツルモノ。字鏡[illegible]「[illegible]、齒乃虫」[illegible]、少シナヤム[illegible]」

むしはつし (名) 畏シキト云フコト。オソロシキコト。塵袋、十七「むしはつしト云フハ、イカナルコトバゾ、畏ト云字ヲ、サハヨム、ヲヅル[illegible]、[illegible]、ナニノむしはつしきニヤアラント云へり」

むしば・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）[蟲食] 蟲、物ヲ食フ。蟲食ヒテ、ソコナハル。ムシクヒニナル（衣、書、又、材ニ）蝕。[illegible] 蛀 [illegible]、十九、雜、[illegible]「埋木ハ、ナカむしばむト、イフメレバ、久米路ノハシハ、心シテユケ」枕草子、十、[illegible]百四十五段「月ニ昔ヲ思ヒ出デテ、むしばみタルカハポリトリ出デテ」

むしばら (名) 蟲腹 蛔蟲ナドノタメ起ル腹痛。[illegible]（[illegible]、西鶴[illegible]）「今年二十八マデ、蟲ばら一度起ラズ、云云」

むしはらひ (名) [蟲拂] むしぼし(蟲干)ニ同ジ。[illegible]、六月、[illegible]月十用中、[illegible]神社[illegible]

むしひ (名) [illegible] ナサケゴコロノナキコト。不仁

むしふ (名) [霧集] 霧ノ如ク、多クアツマルコト。霧聚 史記、淮陰侯傳「天下初發、雄[illegible]」

むしふうじ (名) [蟲封] 小兒ニ、むし氣ノ起ラザルヤウニ、マジナヒヲナスコト。又、ソノ符。

むしぶすま (名) [蒸被] 蒸ノ綿ノ衾ニ（アタタカク、又、ヤハラカシ）又、アタタカナル被衾。古事記、上「[illegible]」

むしぶろ (名) 蒸風呂 又、アツブロ。浴場ノ四方ヲ密閉シテ、湯氣ニヨリテ、全身ヲ蒸シ濕ムルモノ。湯ノナキモノハ、空風呂ト云フ。天正、慶長ノ頃ノ風呂ハ、多ク蒸風呂ナリキ。又、伊勢ノ人ハ、熱湯ヲ好ム癖ナル故、其風呂ヲ伊勢風呂ト云ヒ、其風呂ニ入リテ、垢ヲ掻クコリ、コレヲ伊勢の風呂吹きト云へり。ふろふき(風呂吹)、及、ふろ(風呂)ノ條ヲ參見セヨ。そぞろ物語(寛永)「天正十九年卯年ノ夏ノ比カトヨ、伊勢與市ト云ヒシモノ、錢瓶橋ノホトリニ、錢湯風呂一ツ立ツル、云云、其比ハ、風呂フタンレンノ人アマタ有テ、アラ熱ノ雫ヤ、息ガツマリテ物モ[illegible]ハレズ、煙ニテ目モアカレヌナト云ヒテ、云云」骨董集、上、上「伊勢の風呂吹、伊勢人ノ物語ヲ聞ニ、風呂ヲ吹トイフハ、空風呂ニアルコトナリ、コレヲ伊勢小風呂トイフ、垢ヲ掻者、風呂ニ入者ノ身上ニ息ヲ吹カケテ、垢ヲカクナリ、シカスレバ、息ヲ吹カケタル所ニウルホヒ出テ、垢ヨク落ルナリ、云云、ソノユヱニ、垢ヲカク者ヲ稱ヘテ、風呂吹ト云ノ、今ヤ伊勢ニハ此事アリト[illegible]、[illegible]、甲陽軍鑑ニ、伊勢風呂トアルニヨクアヘリ」

むしへん (名) [illegible] [illegible]ノ字ノ稱。蚊、蛇、蛙、蜂、等ノ如シ。

むしぼし (名) [蟲干] 夏ノ土用中ナドニ、[illegible]、蟲喰、ナドヲ防グコト。ムシハラヒ。[illegible] 土用干 [illegible]

むしまをこぜ (名) 魚ノ名。[illegible]ゼ（三[illegible]）ニ同ジ。

むしん (名) [無心] (一)〔心ナキコト。物ニ[illegible]、考ヘナキコト。[illegible]情、劍無情而人有心也」源、廿二、玉鬘四十「イトむしんニシナシテシワザゾカシトテ」(二)俗ニ、心ナク憚リナク、人ニ物ヲ與ヘヨト請フコト。又、金錢ヲネダルコト。狂言記、[illegible]代[illegible]マシ[illegible]」(三)連歌、[illegible]テ、詞ヲ洗練セズシテ作リ、其下手ナルヲ云フ。(有心ニ對ス) かきのもと、柿本ノ條ヲモ見ヨ。

〔むしん (名) 無心 前條ノ語ニ同ジ。[illegible]コロナキコト。カンガヘナキコト。源、[illegible]、木[illegible]フカヒナキ當世ナリケレバ、むしんニ心ヅキナクテ止ミナント、思ヒハテタクリ」

むじん (名) [無盡] (一)ツクルコトナキコト。[illegible]年改換往來人」(二)〔母子、展轉シテ、盡クルコトナキ意〕次條ノ語ノ略。大乘院寺社雜事記、文明九年十月十[illegible]、云云、是ハ[illegible]也、[illegible]むじんハ、[illegible]

むじんかう (名) 無盡講 略シテ、むじん。又、たのもしむじん。たのもしかう(頼母子講)。たのもし(頼母子)ノ條[illegible]イフモ無盡ヨリ出タル語ナルベシ」

むしんけい [illegible] 感覺ノニブキコト。又、物事ニ感ズルコト鈍クシテ、意トセザルコト。

むじんざい [illegible] 三寶ノ用ニ供スルモノ。[illegible]

むじんさう [illegible] 取リテ、食用ニ供セラルル故ニ云フ」むじんぎく(春菊)ニ同ジ。

むじんざう (名) [無盡藏] 〔何程取ルトモ盡クルコトナキ藏ノ意〕(一)佛教ニ[illegible]

〔むしんたい [illegible] 作法 [illegible]ゴハ無進退ノ人ニテ」

むじんたう (名) [無人島] むにんたう(無人島)ニ同ジ。

むじんとう (名) [無盡燈] (一)佛教ノ語。法門ノ名。一人ノ法ヲ以テ百千人ヲ開導シ、展轉シテ盡クルコトナキヲ、一

燈ヲ以テ百千燈ヲ然ヤスニ譬ヘテ云フノ語[illegible]（二）俗ニ、仕掛アリテ、油皿ノ油減ズレバ、傍ヨリ油ノ自ラ加ハルヤウニ作リタルモノ。

むしめがね（名）｜蟲眼鏡｜（一）けんびきやう（顯微鏡）ニ同ジ。初、多ク小蟲ヲ見タレバ名アリ。（二）凸面鏡。凸れんず。「嵯山の井（寛文）「寄リテコソ、ソレ蚊トモ見メ、蟲目がね[illegible]」

むしもの（名）｜蒸物｜（一）蔬菜魚ナド、蒸シタルモノ。倭名抄、十六[illegible]「蒸、蒸之毛乃、烝也」名義抄「蒸、ムシモノ」烝、ムシモノ」大和物語、下「賤キ庭ニ生ヒタル菜ヲツミテ、むしものト云フ物ニシテ、チ・ウワンニ盛リテ」盛衰記、二、「殿下乘合事（參考源平盛衰記）、乗合説作、[illegible]、今改」之ニ士器ニ葉菜ヲ高杯ニモリテ折敷ニスヘ、云云、其造物コソ、むし物ニアヒテ腰ガラミト云事ヨ」（二）今、饅頭ナド、蒸シ作ル菓子ノ稱。蒸菓子。

むしや（名）｜蟲屋｜（一）むしかご（蟲籠）ニ同ジ。夫木抄、十四、蟲「住ミ馴レシ、元ノ野原ヤ、シノブラン、移ス蟲屋ニ、蟲ノワブルハ」（二）今、松蟲、鈴蟲、螢ナド、人ノ玩トスル蟲類ヲ市ニ賣ル者。ムシウリ。

むしゃ（名）｜無遮｜限リモナキコト。極メテ寛大ニシテ遮ルモノナキコト。圓覺經「不捨無遮大悲」、爲諸菩薩開秘密藏」疑問。[illegible]來、十月「點心料被送進者、可爲無遮之御計也」

むしゃ（名）｜武者｜又、むさ。戰場ニ出デテ、戰フ人。イクサビト。ツハモノ。モノノフ。武士。武人。軍人。｜戰士｜兵士｜林逸節用集、人倫「武者、ムシャ」保元物語、二、白河殿攻落事「坂東ノ名ノ習ヒ、云云」

むしゃあふぎ（名）｜武者扇｜きゅうらあふぎ（[illegible]）ニ同ジ。佐伎中山集（寛文、[illegible]）二[illegible]ノセメニ、我レガ味方ヤ、武者扇」

むしゃう（名）｜無償｜報酬ナキコト。無償契約トハ、一方ノミ利益ヲ受クル契約、例ヘバ、贈與ノ契約ノ類。

むしゃう（名）｜無上・無性｜ムヤミ。ヤタラ。一途。本朝若風俗（貞享、西鶴）八、頂妙寺ノ鐘、無性ニ撞キ鳴ラシ、其數八百八」

むじゃう（名）｜無情｜（一）情ノ心ナキコト。情愛ナキコト。大學「無情者、不得盡其辭」（二）ひじやう（非情）ニ同ジ。（有情ニ對ス）六祖壇經「[illegible]、一切草木、有情無情、悉皆蒙潤」[illegible]、春夕旅懷詩「水流花謝兩無情、送盡東風過楚城」

むじゃう（名）｜無常｜（一）ツネナキコト。定マリナキコト。禮記、禮運篇「[illegible]」則法無常、法無常而禮無別、禮無別、則士不事也」（二）梵語、阿儞怛也（Anitya）ノ譯語。釋氏要覽、中、界趣「生滅輪廻、是曰無常」」佛經ノ語。世上一切ノ物事ノ、絶エズ生滅變遷シテ、常住スルコトナキコト。萬物無クシテ有リ、有リテ無ク、定メナキコト。六祖壇經「[illegible]」「[illegible]（玄覺）曰、生死事大、無常迅速」字類抄「無常」林逸節用集、雜用「無常、ムジャウ」保元物語、二、法皇崩御事「有爲無常ノ習ヒ、生者必滅ノ掟」愚迷發心集（解脫上人）「屠所之羊、今幾歩二無常之道、閻魔之使、何時臨二朽宅之窓二」

むじゃう（名）｜無上｜上ナキコト。最モ勝レタルコト。最上。易林節用集（慶長）上、言辭門「無上、ムシャウ」欽明紀、十三年十月、乃至成辨無上菩提」謠曲、邯鄲「五十年ノ眠リヲ無上正覺ノ月ニ醒シ、云云」荀子、君子篇「天子也者、云云、尊無上矣」

むじゃう（名）｜無常所｜ハカバ。ハカ。墓所。拾遺集、八、哀傷「[illegible]寺ノ邊ニ、無常所マウケテ侍リケルガ、イト面白ク侍リケレバ」

むじゃう（名）｜[illegible]｜[illegible]トシテ、テ云フ[illegible]、佛ニ化ヒナキコト。[illegible]

むじゃうそん（名）｜無上尊｜「人天ノ中、最モ尊キ者」ト云フ、佛經ノ語。佛、又ハ、釋迦ノ敬稱。[illegible]

むじゃうだう（名）｜無上道｜佛教ノ語。如來、又ハ、釋迦所說ノ最上ノ道。法華經、勸持品「我不愛身命、但惜無上道」謠曲、身延「正直捨方便、無上の道ニ至ルベシ」

むじゃうてう（名）｜無常鳥｜幽冥界（冥土）ニアリト云フ鳥。杜鵑ナリト云フ。十王經「[illegible]」[illegible]、一名ニ無常鳥」

むしゃうに（副）｜無上・無性｜コレヨリ上ナシトシテ。分別モセズ急キ込ミテ。ムヤミニ。ムシャウヤミニ。

むしゃうにん（名）｜無生忍｜無生ハ無生無滅ノ義、眞如ノ理ヲ指ス、忍ハ認知、認可ノ義、眞如ノ正理ヲ覺ルヲ云フ」佛教ノ語。不生不滅ノ理ニ安住シテ動カザルコト。又、常住不變ニシテ、生滅ナキ正理ヲ覺知スルコト。大智度論、五十「無生忍法者、於無生滅諸法實相中、信受通達無礙不退、是名無生忍」十訓抄、下、第八、序「證果ヲバ無生忍トモ云ヒ、種智ヲバ能忍トモ名ヅケタル」

むしゃうやみに（副）｜無性闇｜前前條ノ語ニ同ジ。好色一代男（天和、西鶴）五「小闇[illegible]、[illegible]むしゃうやみに[illegible]ルワレシフト、[illegible]」

むしゃおし（名）｜[illegible]｜[illegible]シテ進ミ行クコト。

むしゃがへし（名）｜武者返｜[illegible]、城ノ石垣ノ上、[illegible]、一段トキキ石ナタル石。

むしやき（名）｜蒸燒｜肉ナド、鍋ニ入レ、蓋シテ密閉シテ、其上下ヨリ鍋ヲ熱シテ燒クコト。

むじゃき（名）｜無邪氣｜心ニ邪曲ノナキコト。ワルギノナキコト。邪念ナキコト。又、深キ考モナキコト。

むしゃく（名）｜無爵｜爵位ヲ有セザルコト。[illegible]「不立、此之謂二大人二」

むしゃくしゃ（名）｜無爵者｜爵位ヲ有セザルモノ。前條ノ語ヲ參見セヨ。

むしゃくしゃ（副）（一）揉ミアラシタル如ク、亂レタル狀ニ云フ語。ムチャクチャ。メチャクチャ。モチャクチャ。（二）心ノモダエ亂ルル狀ニ云フ語。煩悶スルヤウ。鬱結スルサマ。一休の達磨の讃「天竺ノ、むしゃくしゃ達磨、コノ坊主、サシタルコトハ、アラジトゾ思フ」曾根崎心中（元祿、近松作）「心ノ内ハむしゃくしゃト、ヤミラミッチャノ皮袋」

むしゃざうり（名）｜武者草履｜小兒ノハク草履。ぢんづ（藁草履）ノ條ヲ見ヨ。ムシャワラヂ。物類稱呼、四、器用、草鞋、ザウリ、江戸ニテ云、ゴンズワラヂヲ、（ゴンゾウトモ云）關西ニテ、アトヅケザウリトイフ、九州ニテムシャワラヂ、又、むしゃざうりトイフ、（小兒ノハク物也）」

むしゃしゅぎゃう (名) 武者修行 武士ノ、[illegible]。又、ソノ武士。[illegible]「[illegible]武者修行ニ出テ、奥州ニイタリヌ」

むしゃぞろへ (名) 武者揃 武者ヲソロフルコト。軍勢ヲソロフルコト。勢ゾロヘ。[illegible](寶永、近松作)下「御吊陣ノ武者揃へ、味方ヲ集ムル觸太鼓ノ、云云」

むしゃだいゑ (名) 無遮大會 一梵語、般闍于瑟(Pañca-parṣad)ノ譯語、無遮ハ一切平等慈悲ノ意」佛教ノ語 貴賤、賢愚、上下、道俗ノ區別ナク、平等ニ財法ヲ施シ行ズル法會。無遮會。 南史、梁武帝紀「又設四部無遮大會、道俗五萬餘人」 [illegible]「[illegible]設無遮大會於[illegible]寺」

むしゃだまり (名) 武者溜 城ノ一二ノ門ノ間ニ、騎卒ノ屯スル所 桝形。 奥羽[illegible]廿、高田野戰[illegible]「[illegible]門内ノ武者溜リニ、[illegible]人、鐵砲弓ノ者百餘人」

むしゃづかひ (名) 武者遣 戰陣ニテ士卒ヲ指揮スルコト。 會津陣物語、延寶、杉原親清ニ、攻取白坂ノ事「先手ノ大將、蒲田治部大輔ハ、若年ナレバ、萬事武者づかひハ、石川豐前守ニ被二申付一ケル處ニ、云云」

むしゃつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 心中何トナク鬱陶シ。胸、ムシャムシャスル。

むしゃどころ (名) 武者所 古ヘ、院ノ御所ノ警衞ノ武士ノ伺候スル所。又、ソノ武士。下北面ノ譜代ノ中、武略アルモノヲ用ヰル。遠藤盛遠、武者所ニ參リタレバ、遠藤武者ト云フナド、コレナリ。御所ニテハ、瀧口ナリ。後醍醐天皇ノ時ニハ、禁中ニモ置カセラレキ。又、[illegible]別當ヲ置クト云フコトアリ。 西宮記、[illegible]

むしゃばしり (名) 武者走 (一)城ノ天守ノ各層ノ入リ側。又、城ノ土手ノ女牆ノ背後ニアル通路。 甲陽軍鑑、十五、品第四十二「武者走 段ハ、ガンギ、アフサカ、カサナリ坂」 (二)芝居ノ舞臺ノ橋掛リ。(三)軍船ノ、胴壁ノ緣ヨリ少シ下ニ張レル幅三尺許リノ板緣 舳ヨリ艫ニ通ズルモノ。 百合若大臣野守鏡(寶永、近松作)二「射手船ニハ、一枚楯突立テ、武者走リヲタカク上ゲ」

むしゃぶり (名) 武者振 武者ノ甲冑ヲ着ケタル姿。又、武者トシテノ振舞。 源氏烏帽子折(元祿、近松作)一「源氏ノ大將今若ガ武者振り御覽候へ」 駿臺雜話、一、阿閉掃部「御望モ默シガタク候ママ、某一生ノ内ニ武者振ノ見事ナル士ヲ、一人見申テ候、其事ヲハナシ申ベシ」

むしゃぶりつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [貪着ヲむさぼりつくト讀メルヨリ轉ズト云フ、イカガ] 一心ニ取リ付ク。猛ケリ立チテカカル。ムサブリカカル。 長町女腹切(正德、近松作)中「熕ゲタ蹴放イテシマハント、むしゃぶりつくヲ」

むしゃぶるひ (名) 武者振 武者顫 戰ニ臨ミタル時ナドニ、意氣興奮シテ、身ノフルフコト。

むしゃべつ (名) 無差別 又、むさべつ。差別ノナキコト。平等。

むしゃまど (名) 武者窓 昔、大名屋敷ノ表長屋ナドニ設ケタル太キ竪格子ツキノ窓。[illegible]

むしゃむしゃ (副) (一)[illegible]フ狀ニ云フ語。ムシャリムシャリ。(二)又、もしゃもしゃ。毛ナドノ、多ク亂レ生エタル狀 [illegible]作)一「此ノ髮毛ノアラレモナイ、腰ノ廻リノむしゃむしゃハ、アアイヤラシト笑ヘバ、云云」

むしゃりむしゃり (副) 前條ノ語ノ(一)ニ同ジ 浮世風呂(文化)二編、下 ヨウカシ屋ノ婆モスサマジイ、大福餅ヤ大ブカシヲ、むしゃりむしゃりデ居ナガラ」

むしゃわらぢ (名) 武者草鞋 むしゃざうり(武者草履)ニ同ジ。 故實拾要(享保)下、草履類「ごんずわらち、云云、古ハ武者モハキタル故、武者わらぢトモ云」

むしゃゑ (名) 武者繪 武者ノスガタ、又ハ、戰場ノ狀ヲ畫キタル繪。 北條五代記、一、犬也入道弓馬に達者事「昔ノ人モ、馬タンレン仕タルニヤ、武者繪ナドニ、馬ヲトバセ走ル間ニ、弓ヲ引、矢ヲハナツト見エタリ」

むしゃゑ (名) 無遮會 むしゃだいゑ(無遮大會)ニ同ジ。 元亨釋書、廿七、會儀志「有二般遮于瑟一、此云二無遮會一、身毒之風俗常設焉」

むしゅう (名) 無終 ヲハリノナキコト。サイゲンノナキコト。 荀子、解蔽篇「無レ欲無レ惡、無レ始無レ終、無レ近無レ遠、無レ博無レ淺、無レ古無レ今、兼陳萬物一而中懸レ衡焉」

むしゅく (名) 無宿 ヤドナシ。住ムベキ家ナキコト。又、人別ニ入ラヌコト。無籍。 牧民金鑑、廿八、安永七年四月「近年御留地井近國共、無宿數多致二徘徊一候故、云云」

むしゅくじま (名) 無宿島 徳川幕府ノ頃、江戸、佃島ノ傍、石川島ノ異稱 此[illegible]ヲ集メテ、就業セシム、コレヲ石川島人足寄場トモ云フ、寬政二年ニ始マルトモ。

むしゅび (名) [illegible]コト。フシュビナルコト。 好色一代女(貞享、西鶴)六「後ニハ訪フ人稀ニ、無首尾次第ニ悲シ」

むしゅみ (名) 無趣味 趣味ノナキコト。[illegible]

むしゅん [illegible] 故事ニ因ル、自語ノ相違、事ノ前ト後ト[illegible]キソロハヌコト。自家撞着。(俗ニ、ほこたてナドト云フ) 韓非子、難勢「楚人有[illegible]」[illegible]「矛楯、ムジュン」 (三)爻ノ中、惡シクナルコト。ナカタガヒ。楯ツクコト 有隙

むしょ (名) 墓所 ハカドコロ。ボシ。[illegible]

むしょく [illegible] 古文無、周易、無皆作レ无」 イロノナキコト。色彩ノナキコト [illegible]

むしょく (名) 無職 一定ノ職業ノナキコト。又、職務ノナキコト。無業。

むしよけ (名) 蟲除 (一)害蟲ナドヲ除クコト。害蟲驅除。又、ソノタメニ用ヰルモノ。(二)神佛ノ符ノ、毒蟲、蝮蛇、

ナドノ害ヲ退クト云フモノ。

むしり-と・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [毟取] モギトル。無理ニトル。 近松作、國性爺合戰、二「二ツノ貝ニ嘴ヲ閉ヂ攻メラレ、むしり取ラルル其ノ鷸ニ等シ、アウツセ貝」

むし・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [毟摘] [毟ノ字ハ毟(挦)也ノ誤カ、或ハ、和字カ] 攫ミテ引キ拔キ取ル。 字類抄「毟、ムシル」 名義抄「摘、トル、ツム、ムシル」揺、ワタヲムシル」 字鏡集「刮、ムシル」 林逸節用集、雜用「挦、ムシル」 宇治拾遺、四、第七條「雉子、云云、イケナガラ毛ヲむしらセケレバ」「綿ヲ毟ル」「草ヲ毟ル」「搔キ毟ル」

むじ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 曲ガル。(奥州ニテハ、スネルコトヲモ云フ)「四ツ角ヲ右ニむじる」

む-しろ (名) [席筵薦] [蓆代ノ轉ニテ、蓆ハ敷蓆ヲ云フカト云フ、或ハ云フ、身代ノ轉カト] (一)[古ク、又、シキヰ。] 藁、藺、蒲、竹、ナドニテ編ミ作レル敷物ノ總名。 倭名抄、十四、坐臥具「筵、無之呂、竹席也、席、訓上同、薦也」 萬葉集、十一、廿六「玉ホコノ、道ユキツカレ、稲ムシロ、敷キテモ君ヲ、見ムヨシモガモ」 竹取物語、上「松原ニ御むしろ敷キテ、オロシ奉ル」 (二)今、專ラ、藁席。(ござト別ツ)

[**むしろ** (副) [寧] [若シノ轉、ろハ助辭、說文、段注「寧、願詞也」] 漢籍讀ノ語。アルガ中ニ、彼ニ比ベテ、是レガ少シ許サルル方アリト、カリソメニサダスル程ノトコロニ用キル語。ドチラカト、云ヘバコチラ。ソレヨリハ。カヘリテ。オナジクハ。ヨシセメテ。ナゾモ。ナンゾ。イッソ。 論語、八佾篇「禮與其奢也寧儉」 易林節用集(慶長)上、言辭門「無乃、ムシロ、寧也」 神代紀、上「寧可以口吐之物敢養我乎」 小馬命婦集「タタミノ中ヨリ、キリギリスノ、五月バカリニ出デ來タレバ、キリギリス、むしろイカニカ、思フラン、タタミノ中ニ、秋ハ來ニケリ」(筵ヲ寧ニカク)「寧ろコレヲ取ラン」

むしろ-うち (名) [席打] 席ヲ織ル人。 七十一番職人歌合、八番「むしろうち、アシマむしろ、カシ(ウィ)マヘ、御ザモ候ゾ」(一本、カヒタマヘニ作ル)

むしろ-だ (名) [席田] (一)催馬樂ノ歌曲ノ名。 催馬樂、席田「むしろ田ノヤ、むしろ田ノ、云云」 (二)元慶元年、大嘗會ノ悠紀ニ、美濃國、席田郡ノ風俗歌ノ名。

むしろ-ばた (名) 筵機 筵ヲ織ルコト。又、ソノ機。 續猿蓑集、[illegible]秋「[illegible]ニ居テ、月見ナガラヤ、筵機」

むしろ-ばた (名) [筵旗] 筵ヲモテ旗トシタルモノ。(百姓一揆ナドノ時ニ) 傾城島原蛙合戰(近松作)四、旗の案足「千千石村ノ惣右衛門ト、席旗ニ書キ記ス」

むしろばり-の-くるま (名) [筵張車] 牛車ノ箱ヲ、筵ニテ張リタルモノ、下輩ノ乘用車トス。 榮花物語、五、浦浦の別「御車ニ、柑子摺ゴキヒトツバカリヲ、御エ女ニ入レテ、筵張の車ニ乘リタマフ」

むしろ-ゐ (名) [蓆萩] あし(葦)ノ異名。 字鏡「萑、[illegible]也、牟志呂井」 天治字鏡、七「萑萩、[illegible]也、牟志呂井、席萩也」

[**む・す**・ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) [生産 成リ出ヅ。芽出ヅ。生フ。生ユ。生ズ。 萬葉集、三、廿一「イツシカモ、神サビケルカ、香山ノ、鉾杉ガ本ニ、苔生マデニ」 同、一、四十二「河上ノ、湯津磐村ニ、草武佐ズ、常ニモガモナ、常少女ニテ」

む・す・ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) [蒸] (一)[氣ヲ吹カセズ。(氣ヲ吹キ出サシムル、ふかすニ對ス)] 倭名抄、十六、[illegible]「蒸、無之乃、蒸也、火氣上行也」 (二)暑氣籠ルガ如ク迫ル。ムシアツクナル。 浮世風呂(文化、三馬)四編、中「今宵モキツウ蒸しマスナアト」

む・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 蒸 (一)[熱[illegible]] 湯氣ノ中ニ籠メテ熟ス。ムレルヤウニナス。フカス。 [illegible]元年五月、[illegible]「[illegible]」 (二)火ヲ揚ゲ、聲ヲ作リテ、急ニ攻メカカラムトスル勢ヲ示ス。 太平記、六、楠出張天王寺事「四五日ヲ經テ後、方方ノ峰ニ篝ヲ焚イテ、一蒸シむす程ナラバ、云云」

[**む・す**・スル・スレ・セ・セ・セヨ(自動、下二) [咽噎] 氣、喉ニ塞ガル。物ノ喉ニ集リテ、息詰ル。ムセプ。ムセル。 倭名抄、三、病類「哽咽、[illegible]、無世布、食塞也」 天治字鏡、[illegible]「[illegible]」 夫木抄、二十、鶯「山深ミ、立チクル霧ニ、むすれバヤ、鳴ク鶯ノ、聲ノマレナル」 萬葉集、四、廿長歌「心ノミ、咽作アルニ」「聲むす」「湯ニむす」「飯ニむす」むせカヘル」

む-ぜう (名) 無數 數ノ限リナキコト。カゾヘキレヌコト。無算。 戰國策、秦策「謂父曰、耕田之利幾倍、曰、十倍、珠玉之贏幾倍、曰、百倍、立國家之主贏幾倍、曰、無數」

むす-こ (名) [息] [産子ノ義] (一)男ノ子。子息。セガレ。(親子ノ間ニ云フ) まろ(麻呂)ノ條ヲモ見ヨ。 寬平菊合「コレモ殿上童チゴ藤原重時、アハノ守ヒロシゲガむすこガ見テ、云云」 (二)[我ガ産シ生ミタル子。] 源、二十六、常夏「御むすこノ君タチ、ただ此ノ御トノヰ所ノ宮ヅカヘヲ勸メタマフ」

むす-こしき (名) [蒸甑] セイロウ。こしき(甑)ニ同ジ。 字鏡、五十四「甑、牟須己志支」

ムスコペア (名) もゑおびあニ同ジ。

むすぢ-ゑもん (名) [六筋右衛門] [右衞門ニ意ナシ、擬人語] 六筋ホドノ髪ノ毛ノ意ニテ、頭髮ノ少キ人ヲ嘲リ云フ語。 さすぢゑもん(十筋右衛門)ノ條ヲモ見ヨ。 [illegible]

むず-つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) ムズムズス。[illegible] 浮世風呂(文化、三馬)二編、上「ドウモ何ントモイヘネエカラ、大キニむずついたノサ」

むず-と (副) 無手 急ニ力ヲ込メテ、勢[illegible] 「木曾、手ガタニ無手と取着テ」(覺一本)

[**むすば・す**・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [結] むすぶ(結)ノ敬語。結ビタマフ。[illegible] 萬葉集、十四、廿五「會津嶺ノ、國ヲサ遠ミ、アハナハバ、偲ニセムト、紐結バ左ネ」

むすぼ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [結] むすぼほる(結)ニ同ジ。又、むすばる。 字鏡、卅八「結、[illegible]也、緊也、伊止牟須波波留」

むすば・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [結] 自ラ結ビタルヤウニナル。

むすび (名) [結] (一)[ムスプコト。] 結フコト。 萬葉集、十二、九「紫ノ、帶ノ結ビモ、トキモ見ズ、モトナヤ妹ニ、戀ヒワタリナム」 (二)事ヲ終フルコト。終結。 (三)語學ノ語。動詞、形容詞、助動詞、等ノ、句、文ノ尾ヲ終フル時、其語尾ノ變化ノ用法。例ヘバ、尋常ニハ「花、落つ」「山、高し」ナド云フ、コレニ、ぞ、や、こそ、ナドノ入ル時ハ「花ぞ落つる」「山や高き」花こそ落つれ」山こそ高けれ」ナド用ヰル。此ノぞ、や、こそ、ナドヲかかりト云ヒ、上下

[illegible]法指南ノ動詞ノ終止形ノ條ヲ見ヨ)

むすび [illegible] 古ク [illegible] ノタルモノ [illegible] メシ [illegible] 段、廿八、食線、粋飯、にぎりめし、古ハトンジキト云、也食也、今俗、或ハむすびト云、本女詞也」

〔**むすび** (名) [產靈] 〔むすハ、うむすノ約、む[illegible]ハ [illegible]、萬物ヲ生產スル靈 [illegible] アリ、びハ神靈ノ意、奇靈ナドノびナリ〕天地、萬物ヲ產ミ成ス [illegible] 靈異ノ [illegible] 又 [illegible] 合鈔解、二「生產靈」同、同「足產靈」」

むすびがみ (名) 結髮 女ノ髮ニ、花髮ナドシテ、髮モ卷モ出サズ、假ニ總髮ヲ [illegible] 束ニテ結ヒオクモノ [illegible] 文化、要尾略)「寶水迄ハ、結び髮トテ、遊女是ヲ專トス」

むすび-カラを [illegible] 結唐尾 唐尾(馬ノ尾ヲ短ク結ビ上ゲタルモノ)ノ如ク結ブコト。(鞍具、五種ノ一ノモノ) 後松日記 [illegible]

むすびがり (名) 結雁 又、むすびかりがね。紋所ノ名。雁ノ兩翼ヲ左右ニ交叉シテ、結ビタルガ如キ形ノモノ。[illegible] 四十六 [illegible] ノ旗ヲ賜ハリタリケルトカヤ」

むすびかりがね (名) 結雁 前條ノ語ニ同ジ。

むすびかりぎぬ (名) [結狩衣] 種種ノ結ビ花ヲ附ケテ [illegible] タル狩衣 又、狩衣 [illegible] ニ、梅、櫻、菊ナドノ花ノ、花結ヲ結ヒツケ [illegible] 十月、宇治御幸「左兵衞佐殿ハ、むすびかりぎぬニ [illegible]」

むすびこ・む ・ム・メ・ム・ム・メ [illegible] 結込 [illegible]「玉ノ緒ハ、絶エンモノカハ、チギリテシ、ナガキ心ニ、むすびこめテキ」

むすびさげ (名) [引下] [illegible] むすびさげおび(提帶)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

むすびじやう (名) 結狀 (一) [illegible] 端ヲ折リ結ビタル書狀。古ヘハ、艷書ニノミ用ヰタリシガ、後ニハ、表向ノ儀禮ニモ用ヰル [illegible] ル也、結狀モ同斷」 (二)むすびぶみ(結文)ニ同ジ。

むすびたすき (名) 結襷 鉢卷帶ヲ襷ニシ、肩ヨリ下ゲタルコト。(鉢卷帶トハ、モト鉢卷ニシタル布帛ヲ、[illegible] ノ帶ニ使用シタルモノト云フ)

〔**むすびた・る** ・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(他動、下二) 結帶 帶ナドヲ、結ビテ端ヲ垂ノス [illegible] 三帶ノシツハタ [illegible] 黎、誰レヤシ人モ、アヒ思ハナクニ」

〔**むすびたれ** (名) [結垂] 帶ナドノ結ビタルモノガ垂ルルコト。[illegible] 紀、七年九月「ワガ大君ノ、オハセル、ササラノミオビノ、武須彌陀例、誰ヤシ人モ、上ニ出テナゲク」

むすびつ・く ・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 結付 結ビア [illegible] ナル [illegible] イトユフニ [illegible]

むすびつ・く ・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) [illegible] ハヒツケル。古今集、五、秋、下「人ノ前栽ニ、菊ニむすびつけテ、植ヱケル歌」

むすびづくゑ (名) [結机] 木ナドヲ結ビ [illegible] シエトノクエ [illegible]

むすびこうたい [illegible]

〔**むすびのかみ** (名) むすび(產靈)、及、むすびのかみノ條ヲ見ヨ。

むすびはた (名) [結旗] 旗ト旗トヲ結ブコト。又、ソノ結ビタル旗。[illegible] 六、本杢「御堂ノむすびはた、錦ノハタ」

むすびばな (名) 結花 (一) [illegible] ノ色絲ニテ結ビ裝ヒタルモノ。(二)はなむすび(花結)ニ同ジ。海人藻芥、下、兒裝 [illegible]

〔**むすびぶくろ** (名) [結袋] 口ヲ結ブヤウニ作リタル袋。[illegible] むすびぶくろニ入レテ、イダシタリ」

〔**むすびぶみ** (名) [結文] 消息ノ書狀ヲ卷キテ、其端ヲ折リ結ビタルモノ。封ニ墨ヲ引ク(竪文ニ對ス) ヒネリブミ。ムスビジャウ。 玉海、建久二年四月十日「御返事、薄樣結文、其上、又ハ一重褁之」 枕草子、二、第十四段「アリツル文ノ結ビタルモ、竪文モ」

〔**むすびまつ** (名) 結松 小枝ヲ結ビタル松。契リヲ [illegible] メニ、スル [illegible] 萬葉集 [illegible] 、心モ解ケズ、古ヘ思ホユ」 [illegible] イヒケルモノヲ、結び松、イカデカ君ニ、トケテ見ユベキ」 [illegible] 萬葉集、廿「八千種ノ、花ハウツロフ、常盤ナル、松ノ小枝ノ、我ハ結バナ」

むすびめ (名) 結目 結ビアハセタル所。ユヒメ。[illegible] 枕草子 [illegible] ノ紙ノナベテナラヌサマシタル、むすびめナドモ、タダ今ノト見ユルヲ、ユカシカリ申シ給ヘバ」

むす・ぶ ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ(自動、四) [結] 〔大言海ノ語原ヲ見ヨ〕 露ナドオク。凝ル。カ [illegible] マダウチトケヌ、クサムラニ、秋ヲカネ(ケイ)テモ [illegible] マニ、朝ボラケ、ヌレテゾ來ツル、手枕ノソテ」

むす・ぶ ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ(他動、四) 結 〔[illegible] ぶ、ノ約轉カト云フ〕 (一)[紐、絲、ナド、細長キモノノ端ト端トヲ、アザナヘツナグ。結ブ。ユハヘル。ユハク。 萬葉集、三「淡路ノ、ノシマノ崎ノ、濱風ニ、妹ガ結びシ、紐フキカヘス」「紐ヲ結ぶ」「緒ヲ結ぶ」「髮ヲ結ぶ」 (二)[言ヒカタム。チギル。トリカハス。[illegible] ジト、コトニ結びテ、別ルレバ、逢ヒ見ンマデハ、思 [illegible] 「末ヲ結ぶ」「約ヲ結ぶ」 [illegible] (四)[彫リ作ル。[illegible] フ)「所謂ノ羅ノツツミニ包ミテ入レタリ」 枕草子 [illegible] テ、ヲカシゲナルモ又ウレシ」 (五)[產ス。生ス。[illegible] 「庵ヲ結ぶ」 (七)語學ノ語。一句、一文ノ末 [illegible] 動詞、助動詞、ノ語尾ノ變 [illegible]

化ヲ、上ノかかりニ打チ合ハセテ用キル。（むすびノ條ノ第三項ヲ見ヨ）飯を結ぶトハ、指ト掌トニテ飯ヲ固ムル意。

〔むす・ぶ〕・ブ・ベ・バ・ビ・ベ（他動、四）［掬］前條ノ語ヨリ出デ、掬結ムル意ナラム」　兩掌ヲ窪メテ、水ナドヲ抄ヒ汲ム。又、兩手ノ指ドモヲ、結ヒ合ハセテスクフ。字鏡「掬、兩手也、四指也、掬字、在氣不一」靈仁集、上、秋、下「望トホミ、人モむすばヌ、牧井ニモ、ミクサヲワケテ、月ハスミケリ」萬葉集、十一　三十「泊瀬川、早ミ早瀬ヲ、結び上ゲテ、飽カズヤ妹ト、問ヒシ君ハモ」古今集、一、春、上「袖ヒチテ、むすびシ水ノ、氷レルヲ、春立ツ今日ノ、風ヤ解クラン」拾遺集、十九、雜、戀「シガノ山ゴエニテ、女ノ、山ノ井ニ、手洗ヒ、むすびテ飲ムヲ見テ」

むすぶ-の-かみ（名）（一）産靈ノ神、ノ訛。名義抄「産靈、ムスブノカミ」拾遺集、十九、雜、戀「君見レバ、むすぶの神ゾ、恨メシキ、ツレナキ人ヲ、何作リケン」（二）［歌ニ、多ク、むすぶヲ「結ぶ」ニ言ヒ掛ケ、隨ヒテ、誤轉シテ、男女ノ契リヲ結ブコトヲ司ル神トス。京都、賀茂河原ノ西、一條ノ北、出雲路ノ道祖神ヲ、男女ノ緣ヲ結ブ神トス。（盛衰記、七、笠島道祖神ノ條ヲ見ヨ）曾我物語、二、「祥隆を堵に取る事、出雲路ノ神ノ誓ヒ、云云」此出雲路ノ神ヲ、出雲國ノ大社ニ混ジテ、大社ノ神ハ、男女ノ緣ヲ結ブト云フコトトナリタリ。月下老人　詞花集、七、戀、上「心サヘ、むすぶの神ヤ、ツクリケン、解クルケシキモ、見エヌ君カナ」宇津保物語、樓上、下　三十一「人知レヌ、むすぶの神ヲ、シルベニテ、イカガスベキト、ナゲク下紐」

むすぼ・ほ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［結］次條ノ語ニ同ジ。名義抄「疣、ムスホホル」拾遺集、十三、戀、三「春クレバ、柳ノ絲モ、トケニケリ、むすぼほれタル、我ガ心カナ」續拾遺集、十五、戀、五「ウツリ行ク、ハナダノ帶ノ、むすぼほれ、イカニナル色ニ、絶エハ果ツラン」

むすぼ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［結］（所結ノ轉）（一）結バレテ解ケ難クナル。ムスボホル。ムスバル。ムスバハル。コグラカル。ムスボレル。拾玉集、五「玉ノ緒ハ、むすぼれテノミ、止ミナマシ、斯クシモ君ガ、思ヒ解カズバ」（二）［思ヒ亂レテ晴レヤラズ。氣ガ塞グ。鬱結　拾玉集、二「何トナク、見ル心コソ、むすぼるれ、柳ノ絲ヲ、亂ス春風」武烈即位前紀「戀、心欲結」云云」萬葉集、十八　十長歌「思ヒ結ボレ、ナゲキツツ、アガ待ツ君ガ」（三）緣ヲツナグ。關係ヲツク。字類抄「媾、ムスボル、嫗（臘）、同」長門本、平家物語、一、禿童事「イカナル人モ、相構ヘテ、此ユカリニ結ほれントゾシケル」（四）露ナドノオク。凝ル。カタマル。凝結ス。山家集、上、秋「折ラヌヨリ、袖ゾ濡レケル、女郎花、露むすぼれテ、立テル氣色ニ」

❖**むすぼ・れる**（動）［結］前條ノ語ノ口語。

むす-むす（副）物ナドヲ殺ギ、又ハ、削ル狀ニ云フ語。古事談、六、亭宅諸道「腰刀ヲ拔、むすむすト削リ直テ、如本嶮、柱退歸了」

むず-むず（副）（一）絶エズ痒キ感ジノ覺ユル狀ニ云フ語。（二）他人ノ行爲ヲ傍觀シテ、モドカシク思フ狀ニ云フ語。（三）不行儀、又ハ、無作法ナル狀ニ云フ語。著聞集、十六、興言利口「北陀御室、云云、稚ノ裝ウヘヲ荒ラカニトリテ、むずむずト腐ゲラレテ、美シキ裝束、サンザンニナリニケリ」（四）勢ツヨク。ムズト。ムンズト。平家物語、二、西光被斬事「緣ノ際ヘ引寄セサセ、物履キナガラ、シャ頰ヲむずむずトゾフマレケル」

むすめ（名）［娘］〔産女ノ義〕（一）〔女ノ子。メノコ子。（親子ノ間ニ云フ）息女　神代紀、上　三十五「以女奉吾耶」同、下　二「顯國玉之女子下照姬」源、二、帚木　三十五「思ヒアガレル氣色ニ、キキ給ヘルむすめナレバ、ユカシクテ、ミミトドメ給ヘルニ」（二）〔ヲトメ。若キ女。娘子　少女　[illegible]名義抄「女、ムスメ、娘、ムスメ」（三）鼠ノ異名（人　物類稱呼、二、動物「鼠、關西ニテ、よめ、又、よめがきみト云フ、上野ニテ、夜ノモノ、又、ヨメ、又、オフク、又、むすめナト云フ、東國ニモ、ヨメトヨブ所多シ」（四）土藏ノ異名。盜人ノ隱語。自ゝ寢レバ云フト。むすめ志（娘師）ノ條ヲ見ヨ。

むすめ-ご（名）［娘子］むすめ（娘）ト云フニ同ジ。狂言記、聟婿「此方ニハ、ヲナ上臈ト云ウテ、むすめ子ガ御座ラウガ」

❖**むすめ-志**（名）［娘師］土藏破リヲ專ラトスル盜賊、ノ隱語。むすめ（娘）ノ條ノ（四）ヲ見ヨ。

むすめ-ばら（名）［娘腹］母ト子トヲ嫁リタル時、其子ノ方ニ生レタル子ヲ云フ。コレニ對シテ、母ノ方ニ生レタル子ヲ、親腹ト云フ。榮花物語、八、初花「古キ日シテ、宣旨クダサセ給フ、親腹ノ御子ヲバ五ノ宮、女腹ノ御子ヲバ六ノ宮トテ、云云、御封トモ賜ラセ給フ」

むず-をれ（名）無造作ニ折ルルコト。小町踊、冬「むず折れノ、心ノ松ヤ、雪ノ枝」

む-せい（名）［無聲］コエノナキコト。コエノキコエザルコト。禮記、曲禮、上篇「聽於無聲、視於無形」詩經、大雅、文王之什、文王篇「上天之載、無聲無臭、儀刑文王、萬邦作孚」

むせい-おん（名）［無聲音］聲帶ノ振動ヲ伴ハズシテ起ル音。加行、左行、多行、波行等、所謂清音ハ、コレニ屬ス。コレニ對シテ、母音、濁音等、聲帶ノ振動ヲ伴ヒテ起ルモノヲ、有聲音ト云フ。

む-せいげん（名）［無制限］制限ノナキコト。定メタル限リノナキコト。

むせい-の-志　[illegible]

[illegible]詩。いうせいのぐッ（有聲之畫）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

むせい-ぶつ（名）［無生物］生活機能ナキモノ。生活力ノナキモノ。

〔むせ-かへ・る〕・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［咽返］甚ク咽ブ。源、[illegible]「ハカバカシウモ、ノタマハセヤラズ、むせかへらせ給ヒツツ、云云」

む-せき（名）［無籍］（一）戶籍ニ、姓名ノ記シテナキコト。何レノ地ニモ本籍ノナキコト。無宿　律例類抄、各處無籍之徒、引[illegible]以假私[illegible]「無籍者」（二）何レノ國ニモ國籍ノナキコト。

む-せきにん（名）［無責任］責任ノナキコト。責任ヲ負ハザルコト。又、責任ヲ重ンゼザルコト。責任感ノナキコト。

むせ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ（自動、四）（一）〔むす（噎）ニ同ジ。喉ニ塞ガル。名義抄「哽、噎、ムセブ、ムス」拾遺集[illegible]「[illegible]ノ、燒クトツマ木ヲ、コリツメテ、煙ニむせぶ、小野ノ里人」垂仁紀、五年十月「一則以懼、一則以悲、俯仰喉咽」「食ニ噎ぶ、水ニ噎ぶ」（二）〔泣ク聲、支ヘ塞ガル。（甚シク歎ク）〕嗚咽　名義抄「咽、ムセブ、ムス」武烈即位前紀「悲鯁而言、苦哉、今日失我愛夫」萬葉集、四　四十二「白妙ノ、袖別ルベキ、日ヲ近ミ、心ニ咽飲、ネノミシ泣カユ」同、廿三十四長歌「眞袖モチ、淚ヲ拭ヒ、むせびツツ、語ラヒスレバ」「涙ニむせぶ」（三）支ヘ滯ル。硬塞　新敕撰集、一、春、上「朝戶アケテ、伏見ノ里ニ、眺ムレバ、霞ニむせぶ、宇治ノ河波」金葉集「石マヨリ、出ル泉ゾ、咽ぶナル、昔ヲ戀フル、聲ニヤアルラン」

む-せん（名）［無錢］金錢ヲ所持シ居ラザルコト。又、金錢ヲ要セザルコト。タダ。雜纂續（宋、王君玉）思算「無錢挾妓、低[illegible]

「[illegible]手下」 浮世風呂(文化、三編)四編、中「コレハキツイ御挨拶ダヤ、無錢デモ買ホト云ヤセマイシ」

むぜん (名) [無前] (一)敵ノナキコト。[illegible]諸将皆引而隨之」 發行紀、四十年七月「所向無前、所攻必勝」 (二)ソレヨリ前ニナキコト。空前。未曾有。[illegible]

むせん・でんしん (名) [無線電信] (英語、Wireless telegraphy.ノ譯語) 電氣ノ火花ヨリ起ルタル電波ヲ、電線ニヨラズニ、發信地ノ無線電信ノ發信機ニテ、遠隔ノ地ニ送リ、受信地ニテハコレヲ受信機ニ受ケ、ソレヲ紙片ニ印シテ通信スルモノ。隔離セル兩地間、其他、燈臺、軍艦、或ハ、潮流ノ急ナル海峡等ニ用ヰノル。俗ニ、略シテ、無電。

むせん・でんわ (名) [無線電話] (英語、Wireless telephony.ノ譯語) 電線ヲ用ヰズ、電波ニヨリテ通話スル仕組ノ電話。其仕組、ホホ前條ニ同ジ。卽チ、發信地ニテ、無線電話ノ送話機ニヨリテ、音聲ノ振動ニ應ズル電波ヲ、離隔セル地ニ送リ、受信地ニテコレヲ受話機ニ受ケ、音聲ニ變ゼシメテ通話ス。

む・せる (動) [噎] むす(噎)ノ口語。

むそ (數) 六十 十ヲ六倍シタル數。ムソヂ。ロクジフ。

むそく (名) 無足 「知行、幾貫文ノ料足ナキ義」(一)鎌倉、室町幕府時代ニ、武士ノ知行、扶持米ヲ賜ハノヌコト。又、ソノモノ。無祿。貞永式目、父母所領配分時、[illegible]子分ハ以ニ五分一ニ可ニ宛ニ給無足之兄ニ也」 (二)江戸時代ニ、田祿ナクシテ、米俸ヲ受クルコト。又、ソノモノ。[illegible]

むそぢ (數) [六十] 六十。今ハ、年齢ニノミ云ヘド、古クハ、廣ク用ヰタリ)

むぞり (名) [無反] 刀ナドノ反ノナキコト。直刀。[illegible]むぞり、ウクツバ、カクナイツレテ、云云」

むた (接尾) 共、與 の、が、ト云フ下ニ附ソヘ、又、二ノ意ヲナシ、名詞ニ接シテ副詞トナル接尾語。古事記、上、五十[illegible]天」神代紀、下十「寶祚之隆、當ニ與ニ天壤無窮者矣」[illegible]「神之共、事ヒカネテ、[illegible]ノ、秋穂ノ國ニ、同、十二「[illegible]之共、[illegible]、君ガ思ヒニ、吾カ思フ人ノ、[illegible]ノ[illegible]」同、十五「[illegible]君ガ在多、行カマシモノヲ、同ジコト、後レテ居レド、良キコトモ無シ」

むだ (名) [徒] (空、默ノ轉) イタヅラナルコト。益ナキコト。シテカヒナキコト。ムナシキコト。アダ。無駄。「徒骨折」「徒遣ヒ」「徒書キ」「徒花」「徒話」「徒言」

むたい (名) [無代][無體] (無ガ代(蔑)ヲ音讀シタル語ナラム、多ク、當字ニ無體ナド書ス) (一)ナイガシロナルコト。無キニ齊シキコト。蔑如。盛衰記、廿四、佛法破滅事「誰カ佛法ヲ無代ニシ、渧并ヲ相招ク」同、南都合戰事「諸卿ノ理政ヲ無代(蔑如イ)ニスレバ、云云」同、廿六、兼遠起請事「起請ニ恐レバ、日比ノ本意、無代ナルベシ」 (二)侮リ強フルコト。暴爲。「無理無體ニ」「無體ノ振舞」

むだい (名) 無代 代料ヲ求メヌコト。又、代價ノナキコト。タダ。無價

むだい・し (名) [無題詩] 題ヲ設ケサル詩。

[illegible]

むだう (名) [無道] 道ニソムク[illegible]。ノ道ニカナハヌコト。又、正道ノ行ハレザルコト。非道。[illegible]「衞門ノ督ノ、むだうナルヤウナレドモ、云云」

むたか (名) [無高] 古ヘ、知行高ノ定マラヌコト。[illegible]

むだがき (名) [徒書] 無益ナルモノヲ書キナグサムコト。イタヅラガキ。又、其ヲ書キタルモノ。

むだか・ふ フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 抱 [illegible]わだく(抱)ノ延。次條ノ語ヲ見ヨ。[illegible]

むだ・く ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 抱 「うだく、ノ轉」又、むだかふ。いだく(抱)ニ同ジ。[illegible]長歌「手抱きテ、我ハイマサム」(略解ノ訓) 同、十四ニ「上野ヌ、安蘇ノ眞麻ムラ、掻キ武太岐、寐レド飽カヌヲ、アドカ吾ガセム」

むだぐち (名) [徒口] 無益ノ辯口。イタヅラグチ。ナンタラグチ。ブンタラグチ。贅辯。浮世風呂(文化、一編)三、上「[illegible]へ出テ、バカリバカリ、無駄口ヲタタイテ居リマス」

むだごと (名) [徒事] 益ノナキワザ。無益ナル事。井筒業平河内通(享保、近松作)三「我、[illegible]神ノ御代多モ何ノむだごと」

むだごと (名) [徒言] 無用ノ言、無益ノ言語。イタヅラゴト。アダクチ。アダコト。空言。傾城反魂香(寶永、近松作)上「むだごとナシノ云ヒ捨テハ、田舍娘トテ笑ハレズ」

むだ・ごま [illegible]「[illegible]ハセルガイイ」

むだ・じに (名) [徒死] 無益ニ死ヌルコト。イタヅラジニ。イヌジニ。狼死。日本[illegible]下サルナト、強ニ突立引留ス」

むだづかひ (名) [徒費] 金錢ナドヲ無益ニツカフコト。イタヅラニ、ツカフコト。[illegible]ワタリスル事ヲ覺エテ、留守事ノ雑費錢ヲ費シミ」

むだばな (名) 徒花 實ヲ結バヌ花。[illegible]

むだばなし (名) [徒話][空話] 無益ナル談話。トリトメノナキハナシ。イタヅラナルハナシ。雜談。雜話。

むだばら (名) 徒腹 無益ノ切腹。イタヅラニ腹ヲ切ルコト。雙生隅田川(享保、近松作)一「ヤイ、スッパノ皮メ、談合ヅクノむだ腹」

むだぼねをり (名) [徒骨折] 無益ナル骨折。イタヅラナル骨折。ホネヲリゾン。イヌボネヲリ。徒勞

むだん (名) [無斷] (一)決斷力ノナキコト。不斷。[illegible] (二)[illegible]ルコト。又、ユルシヲ得ザルコト。

むたむた 副 モノヲヤヤスカスル狀ニ云フ語。ヤスヤス。カルガル。ムザムザ。[illegible]サヤウニむたむたト働クコトナラズ候間、云云」

むだ-むだ（副）〔徒徒〕無益ナル狀ニ云フ語。ムザムザ。源氏冷泉節（寶永、近松作）上「むだむだト南エ死ナンヨリ、云云」

むち（名）〔鞭〕〔揣ノ轉〕神人ヲ貴ビテ云フ語。神代紀、上「大日孁貴」同、同世「號曰二[illegible]」[illegible]

むち（名）鞭策（[illegible]トモ云フ、共ニ打ツ）〔一〕〔馬〕ノ進キヲ打チテ、疾ク進マシムル具。細長キ竹、或ハ、革ナドヲ用ヰル。倭名抄、十五[illegible]「鞭、無知[illegible]策、[illegible]」〔二〕罪人ヲイマシメ打チ、又ハ、人一物ヲ指シ示スタメニ用ヰル竹、又ハ、革製ノ細長キ杖。

むち（名）無智　智慮ナキコト。オロカナルコト。バカ。アハウ。ヲコ。愚。[illegible]宇治拾遺、八、第六條「聖ナレド無智ナレバ、カヤウニバカサレケルナリ」

むち（名）無恥　恥ヲ恥ト思ハヌコト。ハヂシラヌコト。アツカマシキコト。アツカハ。鐵面皮。無慙。[illegible]

むぢ（名）無地〔無文ノ地ノ意カ〕染色ナドニ、スベテ同ジ色ニテ模樣ナキコト。又、ソノモノ。「白ノ無地」赤ノ無地」

むち-あぶみ（名）鞭鐙　むちト、あぶみト。鞭鐙を合はすトハ、馬ヲ馳ケサスルニ、鞭打ツト共ニ、鐙ヲアフルヲ云フ、[illegible]

むち-うち（名）鞭打　馬ノ尻ノ、乘手ニヨリテ鞭ニテ打タルル所。[illegible]「名ヲ得タリ」

むち-う-つ・ツ・テ・タ・ナ・テ（他動、四）〔策〕〔鞭〕〔一〕〔鞭ニテ打ツ〕鞭ホス。鞭答ス。[illegible]〔二〕轉ジテ、勵マシ進ム。激勵ス。鞭答ス。

むち-さし（名）鞭差　廐ノ舍人、鞭ヲ持チテ、主人ニ從ヒ行ク故ニ云ファ。平治物語、二、義朝敗北事「アハレ源氏ハ、鞭さしマデモ、オロカナル者ハナキモノカナ、云云」

むぢ-たる（連體）〔むぢハむぢるノ略轉〕マガル。スヂリモヂリ。〔三陸地方ニテハむぢける、東京ニテハすねる〕おぢるノ條ヲモ見ヨ。

む-ちん（名）無賃　賃金ヲ拂ハザルコト。又、賃金ヲ要セザルコト。「無賃乘車」

むち-め（名）鞭目　鞭ニテ打チタル痕。平治物語、二、義朝敗北事「持チタル鞭ヲ以テ、[illegible]ノ弓手ノ頬サキヲ、シタタカ打タレケリ、[illegible]云、稍リニ鞭目ヲ押撫テ押撫テゾセラレケル」

む-ちゃ（副）無茶〔訛シテ、むっちゃ、めちゃ、ナドト云フ〕〔一〕スヂミチノ立タザル狀、又ハ、不條理ナル狀ナドニ云フ語。〔二〕道理ヲカヘリミザル狀ニ云フ語。亂暴ニ。不法ニ。無法ニ。

むちゃう-こうし（名）〔無腸公子〕かに（蟹）ノ異名　[illegible]

むちゃ-くちゃ（副）〔無茶苦茶〕スヂミチ、秩序ノ立タザル狀ニ云フ語。ムシャクシャ。ムサクサ。メッタクタ。メッチャクチャ。ヤタラ。ヘタヘタ。[illegible]アラバコソ、人ノ割木ハ、我ガ割ル木ナリ、ト云ヒケリ、歌ノ取リナシハヲカシケレドモ、むさくさナリ」

むちゃ-すけ（名）〔無茶助〕〔擬人語〕無茶ナル人ヲ呼ブ稱。浮世風呂（文化、三馬）四[illegible]ツ頃デ、刈時ガイツダト云フ事モ、むちゃ助サ」

むちゅう（名）夢中〔一〕夢ヲ見テ居ルウチ。ユメノウチ。夢裡。[illegible]〔二〕轉ジテ、俗ニ、心ヲ失ヒテ夢ノ中ニアルガ如キコト。我レヲ忘ルルコト。有頂天。喪心

むぢゅう（名）無住〔一〕住着スル所ナキ意。佛教ノ語。萬法ノ本　萬行ノ根源。實相。[illegible]〔二〕寺ニ、住持ナキコト。「無住寺」

むちゅう-さくざゑもん（名）〔夢中作左衞門〕〔作左衞門ハ擬人語ニテ、意味ナシ〕無我夢中ト云フニ同ジ。安永の川柳「夢中作左衞門、下戸ニ引パラレ」

むぢり（名）〔鋑〕〔もぢりノ轉〕もぢり（鋑）ノ條ヲ見ヨ。仙臺ニテ云フ」

むぢ-る（動）〔捩〕〔もぢるノ轉〕もぢる

[illegible]同ジ。

むつ（名）〔鯥〕〔鯥ハ睦魚ノ合字〕硬骨類ノ魚、[illegible]鱸ニ似テ小サク、背、紫黑ニシテ黑キ筋アリ、鱗、細カク、頭、口、大キク、尾ニ岐ナク、鰭、堅シ。長サ七八寸、或ハ、尺餘ニ至ル。脂、多シ、[illegible]テ、下品ナリ[illegible]「石鯥魚、ムツ、云云、マタ海魚ニむつアリ、一名、ロクノイヲ（奧州、國名ヲ避ケテ名ヲ易ルナリ）」

むつ（名）〔牟豆魚〕硬骨類ノ魚ノ名。溪水、池澤ニ多シ。形、はえ（鮠）ニ似テ狹ク長ク、大ナルハ八九寸。鱗、細カク、口、大キク、背、[illegible]色ハ、淡黃褐ニシテ、黑ミアリ、腹ニ一黑條アリ。一名、川むつ。石鯰魚

むつ（名）〔六〕昔ノ時ノ名。今ノ午前、及、午後ノ六時ニ當ル。〔明六つ、暮六つ〕とき（時）ノ條ノ（三）ヲ見ヨ。

むつ（數）〔六箇〕三ト三トヲ合ハセタル數。ロク。ムッツ。萬葉集、十六「一二ノ目ノミニアラズ、五ツ六ツ、三ツ四ツサヘアリ、雙六ノサエ」（古義ノ訓）

むつ-および（名）枝指〔六指ノ義、およびハ、ゆびノ古言〕不具ノ名。手足ノ小指ニ枝アリテ兩出シ、指數、六ツアルモノ。今、ムッユビ。倭名抄、三「病類「駢拇、[illegible]無豆加[illegible]（駢拇ハ、大指ノ根ニ岐アルヲモ云ヒ、大指ニ、第二指、又ハ、諸指ノ連ナルヲモ云フ）

むつか・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 〔憤〕 るヨリ轉ジタル語ト云フ、俗ニ、むづかし」 (一)〔煩ハシク厭ハシ。ムサクルシ。イブセシ。鬱陶シ。面倒ナリ。ウ [illegible] 枕草子、八、第七十八段「むつかしゲナルモノ、縫物ノ [illegible] リ、アタマ轉バシ出デタル」同、十一、第百四十五段「雨ノ降ル時ハ、只むつかしう、今朝マデ晴レ晴レシカリツル空トモ覺エズ」狹衣、二、上「カゴトバカリヲ聞ダニモ、むつかしう、ワヅラハシカリツル御アタリニ」 (二)轉ジテ、煩ハシク入リマザリテ解キ得難シ。覺リ知ルニタヤスカラズ。成就シ難シ。難

むつ-がたり (名) 〔睦語〕 (一)睦マシク語ラフコト。堀河百首、冬、爐火「埋ミ火ノ、アタリニ冬ハ、圓居シテ、むつがたりスル、事ゾ嬉シキ」 (二)ムツゴト ムツモノガタリ 情話

〔**むつ-かむろぎ**〕 (名) 親神漏岐 [illegible] き(神漏岐)ノ條ヲモ見ヨ」ムツマシク親シキ神 [illegible]

む-つかり (名) 〔憤〕 [illegible] 心、む [illegible] かはり。人質ニスルコト。

むつかり (名) 〔憤〕 〔俗ニ、むづかり〕 ム [illegible] ツクルコト [illegible] 次條ノ語ヲ見ヨ [illegible] 作 (寶永、近松作)上「ドウデモイヤヂャト、おむつかり」

〔**むつか・る**〕・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 〔憤〕 〔俗 [illegible] 鬱悶シク思ヒテ憤ル。心ノ中ニイキドホル。ムツク。字 [illegible] ムツカル [illegible] 憤、ムツカル」狹衣、四、上「イトフルメカシキセンジガキハ、又むつからセ給ヒヌベカメリト云フモ、イトシタリ顔ナリ」繼述紀、十四年八月「發 憤 稱 曰」

(二)今、專ラ、小兒、不滿足ニテ、怒レ泣 [illegible] 少女「御イトマモユルサレガタキヲ、打むつかり給テ、云云、シヒテ御ムカヘシ給フ」 (三)避ム。 [illegible] 見ヨ

むつき (名) [illegible] 衣ノ意 [illegible] ト云フ」 (一)〔初生ノ兒ノ用ニ、特ニ製スル衣。赤子ニ着スル衣。産衣。もつき。倭名抄、十二「衣服類「襁褓、無豆岐、小兒衣也」 [illegible] ムツキ、チゴノキメ [illegible] ムツキ、チゴノキヌ」源、四十八、寄生「兒ノ御衣、五重ガサネニテ、御むつきナドゾ、コトゴトシカラズ」狹衣 [illegible] 下「赤子ノ、むつきニ包マレタルヽ心チシテ」 (二)轉ジテ、赤子ノ糞尿ヲ濕シテ取ル布。シメシ。オシメ。オムツ。 (三)ふんどし(犢鼻褌)ノ一稱。其條ヲ見ヨ。盛衰記 [illegible] 島ノ仕人トオボシクテ、木ノ皮ヲハネカツラトシテ額ニ卷、赤裸ニテむつきヲカキ、身ニハ毛太ク長ク生テ、云云」

〔**む-つき**〕 (名) 〔睦月〕〔正月〕 〔寶月ノ義、稻ノ實ヲ始メテ水ニ浸ス月ナリト云フ、十二箇月ノ名ハ、スベテ稻不生熟ノ次第ヲ逐ヒテ、名ヅケシナリ、一說ニ、相睦び月ノ意ト云フハ、イカガ、とし(年)ノ條ヲモ見ヨ、 [illegible] 國志、魏志、東夷、倭人傳、注「魏略曰、其俗不レ知二正歲四時一、但記二春耕秋收一爲二年紀一」 陰暦、正月ノ異稱。ムツビヅキ 字類抄「正月、ムツキ」 [illegible] 白髮天皇 [illegible] 春正月 [illegible] 云云」萬葉集、五「 [illegible] 都 [illegible] 立チ、春ノ來ラバ、カクシコソ、梅ノ折リツツ、樂シキ竟ヘメ」 同、十八 [illegible] 都奈立ツ、春ノ初ニ、カクシツツ、相シ笑ミテバ、時ジケメヤモ」

むつ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) 〔憤〕 〔俗ニ、むづく〕 むつかる(憤)ニ同ジ。夫木抄、三十六、言語「オノヅカラ、手枕ハヅシ、寐ナ

[illegible] 一、王道后宮「召事ナクテヤミニケレバ、人知レズむつけ [illegible]

むっく-と (副) むくとノ音便。又、むっくりと [illegible]

むっくり-と (副) (一)前條ノ語ニ同ジ。 (二) [illegible] 肥エタル狀ニ云フ語 [illegible] クムクト。ムッチリト。浮瑠璃、三重帷子(享保、 [illegible] むっくりト肥エ [illegible]

むつ・け (動) 〔憤〕 〔俗ニ、むづけ〕 むつく(憤)ノ條ヲ見ヨ。

むつけ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 〔毛付〕 〔服付 毛しノ略轉ト〕 むくつけしニ同ジ。

むつ-ごころ (名) 現心 〔むつハ、現ノうつノ轉ナルベシ〕 現ノ心。ウツシゴコロ。正氣。本心。 [illegible] 記、八、法 [illegible] 侯、但、むつ心ニテハ候ハザリツル也」

むつ-ごと (名) 〔睦言〕 (一)睦シク語ラフ語。親シク語ラフ語。 [illegible] 十、天平元年八月、宣命「天皇 [illegible] 、今牧御 [illegible] 法ニ、常事爾良不、有、武都事止思召坐、 [illegible] 夜上 [illegible] 武都事」ハ、親シク語ル言ナリ) (二)〔男女、閨ノ內ニテ語ラフコト。ムツガタリ。情話 古今 [illegible] 十九、誹諧「むつごとモ、マダ盡キナクニ、明ケヌメリ、イヅラハ秋ノ、長シテフ夜ハ」 源、二、帚木「カカルツイデハ、オノオノむつごとモエシノビトドメズナンアリケル」平家物語、七、維盛都落事「サレバ小夜ノ寢覺ノ睦語ハ、皆僞リニナリニケリ」

むっさり-と (副) 繁キ狀、又ハ、繁茂セル狀ニ云フ語 [illegible] 浦島年代記(享保、近松作)二、「又ノ橋立、云云、むっさりと エ [illegible] ホイ」

〔**むつたま-あ・ふ**〕・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 〔睦〕 ムツタマ・アウ 魂合〕 ムツマシキ魂ノ相合フ 御心 [illegible]

[illegible]

むっ-ちゃ (副) 〔無茶〕 むちゃ(無茶)ノ音便。 [illegible] 傾城禁短氣(元祿、安永 [illegible])七、散中ノ [illegible] 後ハ、むっちゃトナラセ給ヒケリト、云云」

む-ちり-と (副) [illegible] 肥エタル狀ニ云フ語 [illegible] 會、近松作)上「前ノヤウニ、むっちりと肥エテカ」

むつ (名) 〔六〕 むつ [illegible] ノ音便

む-つり (副) [illegible] 言バ數少ク、シテ、愛敬 [illegible] ナシキ狀ニ云フ語 [illegible]

む-と (副) (一) [illegible] 狀ニ云フ語 [illegible] テ」 (二)惡臭、又ハ、熱氣ナドノ、一時ニ滿ツル狀ニ云フ語 [illegible] チ寄レバ、むっと鰯ノ屋ノ、臭サカナ」

むつ-どき (名) 〔六時〕 [illegible] 時ノ [illegible] 僧ヲ見ヨ

むつ-の-ちまた (名) 〔六巷〕 〔ろくだう(六道)ノ訓讀〕 ムツノミチ。ムツノサカヒ。佛ニ、地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上ノ六道ノコト。又、六道ニ行ク分レ道 [illegible] 子ヲ思フ闇ニ、迷フラン、むつのちまたノ、道シルベセン」謠曲、天鼓「時ノ鼓、數ハ六つの巷ノ聲ニ」

むつ-の-はな (名) 〔六花〕 ゆき(雪)ノ異名。其形、必ズ六出ナレバナリ。六出花 [illegible] 松山物語(享保 [illegible] むつの花、イツ葉ノ松ニ、咲キソメテ、千代ヲトカヘリノ、色ヤミスラン」

むつ-の-みち (名) 〔六道〕 むつのちまた [illegible] 六つの [illegible] イクメグリシテ、アヒヌラン、十聲一聲、捨テヌ聲ニ」

むつのをごと（名）｜六緒琴｜（六ッノ絃ノ琴）（和琴）ノ異名　六絃ナルモノ、略シテ、むつのを　六帖、五「むつのをノ、ヨリメ毎ニゾ、香ハ匂フ、彈クヲトメ子ガ、袖ヤ觸レツル」

むつび（名）睦　睦昵　ムツブコト　シタシムコト。親昵　親睦　皇極紀、三、年正月「成婚姻之昵」（昵ハ眤ノ誤）　源、三十四、上、若菜、上「エサラヌむつびヨリモ、横サマノナゲノアハレヲモカケ、一言ノ心ヨセアルハ、云云、オボロゲノ事ニモアラズ」（睦ビヲ交ハス）

むつびづき（名）｜睦月｜　むつき（睦月）ニ同ジ。謠曲、常陸帶「今日ヨリハ、人モ我モむつび月ノ、袖フレテ寄リ來ヨ、實ニヤ睦月ノ空ナレヤ」

むつ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（自動、上二）｜睦昵｜〔纏綿る、ト意通ズ〕　睦シクナス。ナカヨクスル。シタシム。ムツム。ムツル。和名抄「睦、ムツフ」　欽明紀、二年七月「始約和親、式協兄弟」　源、四、夕顏「親シク思ヒむつぶる筋ハ、マタ無クナン思ホエシ」　顯宗即位前紀「仰レ饗貧レ嬌、天下親附」　源、四十三、竹川「常ニ見奉リむつびザリシ親ナレド、云云」

むつまかま（副）〔みやびやかまノみやびかまノ類〕むつまやかま（睦）ニ同ジ。神代紀、下「纏綿篤愛、已經三年」

むつま・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）｜睦｜　〔纏綿ル狀ヨリ云フ〕　甚ダ親シ　交リ善シ。ナカヨシ。親昵　雄略即位前紀「吾妹、汝雖親昵」（昵ハ眤ノ誤）　推古紀、廿九年二月「我雖異國、心在斷金」　伊勢物語、第十六段「誠ニむつましき事コソナカリケレ」

むつまし・む・ムル・ムレ・ミ・ミ・ミヨ（自動、上二）　ムツマシクス。シタシクス。ムツム。　神功紀、五十一年三月「朕所交親百濟國者、是天所致」

むつまやかま（副）　睦　又、むつまかま。甚ダムツマシキ狀ニ云フ語。字鏡「纏綿、

纏綿也、牟豆萬也加爾」

むつ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）｜睦昵｜　むつぶ（睦）ニ同ジ。

むつものがたり（名）｜睦物語｜　むつがたり（睦語）ノ（二）ニ同ジ。源、二十四、下、若菜、下「カノ又人モキカザリシ御ナカノむつ物語ニ」

むつゆび（名）｜枝指｜　むつおよび（枝指）ニ同ジ。

むつらぼし（名）｜六連星｜　〔六ッノ星、相連ナル故ニ云フ〕　すばる（昴）ニ同ジ。物類稱呼、一、天地「昴、ボウ（すばる星ト云、二十八宿ノ内也）、東國ニテ九ヨウノ星ト云、江戸ニテハ、むつら星トイフ」

むつ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）｜纏綿｜　〔纏ばる、ト意通ズ〕　親シミ馴レ付ク。仲善ク睦ブ。ナル。ナツク。源、三十四、下、若菜、下「猫、云云、トモスレバ、衣ノ裾ニマツハレ、寄リ伏シむつるるヲ、マメヤカニウツクシト思フ」　同、二、帚木「心ノ中ニ思フ事ヲモ、隱シアヘズナン、むつれ聞エ給ヒケル」

むつれんせん（名）｜六連錢｜　又、六文錢。眞田氏ノ家ノ紋所ノ名、無文ノ錢形三ツヅツ二行ニシルシタルモノ。

むつわり（名）｜六割｜　四斗樽ノ酒ヲ六ツニ分ケタルモノ。又、ソノ酒樽ノ名。みつわり（三割）ノ條ヲモ見ヨ。

むて（名）｜無手｜　（一）手ニ何モ持タヌコト。徒手。素手。空手。空手　諸鹽太平記、一「無手ニ歸ルモ本意ナケレバ、セメテハチラト御目ニカカリ、御容態バカリ見受ケ歸リ申シ度シ」「無手ニテ打掛ル」　（二）手段、思慮ナクテ爲ルコト。（三）ナニノ嗜ミモナキコト。取得ノナキコト。　甲陽軍鑑、五、品第十三「トカクトシテ、むてナルハ、サノミナシ」　（四）けん

（拳）ニ、六ノ稱。其條ヲ見ヨ。

むていけん（名）無定見　一定ノ見識ナキコト。確定セル意見ヲ有セザルコト。

むていたう（名）｜無抵當｜　抵當物ヲ取ラヌコト。ヒキアテノナキコト。無擔保。

むでうけん（名）｜無條件｜　何ノ條件ヲモ附ケザルコト。何等ノ條件ヲモ要セザルコト。

むてかつりう（名）｜無手勝流｜　卜傳流ノ異名。昔、塚原卜傳ガ、近江國、琵琶湖上ノ矢走ノ渡船中ニテ、同船ノ武者修業者ヨリ、眞劍ノ勝負ヲイドマレタル時、欺キテコレヲ唐崎ノ向ナル小洲ニ上ボセ、ソコニオキ捨テ、我ガ無手勝流ハ是レナリト云ヒテ、其血氣ヲ戒メタリト云フニ基ヅク。（武藝小傳）

むてき（名）｜無敵｜　敵スルモノナキコト。相手ニスルモノノナキコト。　孟子、梁惠王、上篇「故曰、仁者無敵、王請勿疑」

むてっぱち（名）｜無手八｜　むてっぽふ（無手法）ニ同ジ。（博多ニテハ、むこんぱちト云ヒテ、無作法ノ意）　柳亭記（柳亭種彦）上、むて、ぼう（ちい）「むて、ぼうトハ、關東下世話ニテ今モイフ者アリ、今樣踊クドキトイフ小歌本ニ載セタル諸國角力ノ名ヨセニ、（中略）むて八ハヨワイヤウデツヨイヘ、トイフ事アリ、卷中ニ、元祿、寶永ノ事見エタリ、云云、コレヨリイデシ詞ナルベク思ヒシガ、サニハアラズ、元祿ヨリハルカ古キ册子ニ、無天罰者ト書タルガアリ、むて、ぼうハ無天罰ノ訛リ、天罰知ラズトイフニ同ジ、ハヤ元祿ノ頃ハ、イヒ誤リ、ソレヲ名ニツキタルナルベシ」

むてっぽふ（名）｜無手法｜　理非ノ分別ナク、無手ニ人ニ襲ヒカカルコト。ムヤ

むてん（名）[illegible]　リ點、捨テ假名、ナドナキコト。最明寺殿百人上﨟（元祿、近松作）上「含ミ状ト申スモノ、云云、むてんノ物ニ候ヘバ、一遍披ヘ參ラン」「無點本」

むとく（名）｜無德｜　[illegible]　ヲ失ヘルコト。見ルカヒナキコト。衰ヘタルコト。力ナキコト。　枕草子、七、第六十三段「むとくナル物、潮干ノ潟ナル大キナル舟、髮短キ人ノ、カヅラ取リオロシテ、髮ケヅル程、云云」　源、廿一、少女「蝶鐵ノ大井ノワタリノ野山、むとくニ、ケオサレタル秋ナリ」　同、三十二、梅枝「何レヲモむとくナラズ定メ給フヲ、心ギタナキ判者ナメリト、嫌ヒ給フ」

むとくしん（名）｜無得心｜　（一）得心セザルコト。納得セザルコト。不得心。（二）無理ナル心。無道ノ心。　五十年忌歌念佛（寶永、近松作）中「情リ一イヘバ親ナガラ、むとくしんナルオ心ヤ、人ノ譏リモ思召シ、云云」

むとどけ（名）｜無屆｜　屆ヲナササザルコト。又、屆ナキコト。無斷。「無屆缺席」

むとべ（名）｜六人部｜　〔身度部ノ義〕　又、身人部。節折ニ、天皇ノ御身ヲ度ル篠ヲ奉ル部民。　姓氏錄、第二帙、右京神別、下「六人部連、火明命之後也」　宮主祕事口傳「六月）節折（謂之節折者、以篠量　五體之四肢二、云云、次文（六人）人部進　篠竹、先一節獻之」

むとんぢゃく（名）｜無貪着｜無頓着｜　物事ニ貪着セヌコト。何事ニモ深ク心配セヌコト。クヨクヨ思ハヌコト。

むな（名）｜胸｜　むね（胸）ニ同ジ。（熟語ニ）　萬葉集、廿「マスラヲノ、呼ビタテシカバ、サヲ鹿ノ、胸分ケユカム、秋ノ萩原」「胸先」「胸騷ギ」

むな（名）｜空｜　〔實無ノ義〕　空シキコト。物ノナキコト。空ナルコト。モダ。ム

[illegible]ヲ一[illegible]。神代紀、下[illegible]

むな (名) [棟] むね(棟)ニ同ジ。(熟語ニ) 棟上、棟木、棟瓦、棟門

むなあて (名) [胸當] むねあて(胸當)ノ(一)(二)ニ同ジ。易林節用集[illegible]「胸當、ムナアテ」

むないた (名) [胸板] (一)胸ノ骨ノ、板ノ如ク平ナルヲ云フ語。[illegible]「パラリズンドキラレテモ」「胸板ヲ叩キ」(二)鎧ノ胴ノ名所。假胄板ノ上ニアリテ、鎧ノ胸ニアタル部分。色色ノ紋アル染革ニテ包ム。一ノ板。[illegible]

むなおち (名) [胸落] むなさき(胸先)ニ同ジ。

むながい (名) [鞅、胸繋] むながき(鞅)ノ音便。其條ヲ見ヨ。字類抄「當胷、ムナカイ、鞅、ムナカイ」易林節用集(慶長)上、器財門「胷繋、ムナガヒ、鞅、ムナカヒ」平家物語、[illegible]「御牛ノ胷繋、[illegible]切リハナチ」

むながいづくし (名) [鞅盡] 鞅ノ端ノ、鞍ノ前輪ノ鞖ニ結ビタル所。平家物語、十一、弓流事「眞先ニ進ダル美尾ノ屋ノ十郎ガ馬ノ、左ノ胷懸づくしヲ、筈ノ隱ル程ゾ射籠ダル」

むながき (名) 鞅 「胸繫き」ノ義。今、むながい。馬具ノ一。(乘車ノ牛ニモ云フ) おしかけ(押掛)ノ條ヲ見ヨ。[新] 倭名抄、十一四 車具「鞅、無奈加岐、頸下繫也」[illegible]「牛ノ[illegible]」同、十五 鞍馬具「當胷、無奈加岐」馬ニ云フ。字類抄「當胷、ムナカイ、靳胷、同、鞅、ムナカイ」天治字鏡、十二「鞅、靳、鞅胷、牟奈加支」同、五「[illegible]、馬胷上靳也、牟奈加支」

むなかなもの (名) [胸金物] 鎧ノ胸板ニ打チタル金物。本朝軍器考(寶永、新井白石)九、[illegible]ノ金物「[illegible]云フモノ、[illegible]ド云フハ、胸金物ト云ヒシ也」

むなガハラ (名) [棟瓦] 屋根ノ棟ヲ葺ク瓦。衾瓦、雁振瓦ナド是レナリ。字類抄「[illegible]、ムナカハラ」[illegible]八枚」(一本、ノキカハラ) 七十一番職人盡歌合、二番「ヒハダブキ、コノむながはらガヲソキ」

むなかんぢやう (名) [胸勘定] むなざんよう(胸算用)ニ同ジ。

むながらみ (名) 「胸搦」 むなぐら(胸座)ニ同ジ。室町殿日記、十九[illegible]「[illegible]ツトサシヨリ、むながらみニヒシトツカミ、云云」

むなぎ (名) [棟木] 棟ニ用ヰル材。ムナ桁。太平記、三十六、天王寺造營事「柱立已ニ訖リ、棟木ヲ揚ゲントシケルニ」

むなぎ (名) [鰻鱺] 〔胸黄ノ義ト云フ、或ハ云フ、胸黄ノ義ト、腹赤ノ類〕うなぎ(鰻)ノ古言。倭名抄、十九 鱗介類「鰻、無奈木」本草和名、下[illegible]「鰻、[illegible]、牟奈支」萬葉集、十六 卅「石麻呂ニ、吾レ物申ス、夏痩ニ、吉シト云フ物ゾ、武奈伎取リ食セ」

むなぐら (名) 胸座 〔胸椙ノ約ト云フ、或ハ胸座ノ義カ〕人ヲ抑フルトキナド、其左右ノ襟ノ、胸ノ邊ノ稱。ムナガラミ。ムナヅクシ。東海道名所記(萬治)五「水口ヨリ石部マデ三里半、云云、むなぐらヲトラヘ、手ドリ足ドリシケル程ニ」心中二枚繪草紙(寶永、近松作)下「[illegible]ガヨササウナ、禮イフ事ガアル、ゴザンセト、むなぐらトッテ引イテユク」

むなぐるし・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 胸苦 胸ノ邊、迫ルガ如ク苦シ。痞

むなぐるま (名) 空車 (一)物ヲ積ム料ノ屋形ナキ車。ムナシグルマ。チカラグルマ。宇津保物語、藤原君 廿「むなぐるま二[illegible]」(二)屋形[illegible]車ノ、人ノ乘ラヌ[illegible]。[illegible]遺集、七、物名、むなぐるま「鴨飼ノ、マダモコナクニ、繋犬ノ、離レテイカむ、たくるまツ程」著聞集、[illegible]「[illegible]むなぐるまニテ、法成寺ヘ送ラセラレケリ」

むなげ (名) [胸毛] (一)胸ノ邊ノ羽毛。[illegible]十七、[illegible]「[illegible]ニ、浮ベル[illegible]ノ、むなげセテ、寒キケシキノ、ナキガアヤシキ」(二)[男子ノ胸ニ生フル毛。むねのけ。むなひげ。神代紀、上[illegible]「又拔散胸毛、是成[illegible]」

むなごと (名) [空言] 空シクシテ、實ナキ言。カリソメノ言。ネナシゴト。ソラゴト。萬葉集、十二 廿四「アサヂ原、小野ニ標結ヒ、空言モ、逢ハムト聞コセ、戀ノ慰ニ」(古事ノ訓)

むなさか (名) [胸坂] 〔人ノ仰ニ臥シタル胸ノ、坂ノ如ク高ケレバ云フ〕胸ノ高キトコロ。神代紀、下[illegible]「其矢落下、則中天稚彦之胸上」(第一、一書訓注ニ、多武[illegible]トヨメリ)

むなさき (名) [胸先] 心窩ノ邊。ムナモト。ムナオチ。心下 增補下學集、上、二、支體門「心前、ムナサキ」書言字考節用集、五、肢體門「心前、ムナサキ」古事記、上 廿七「八拳須至于心前、云云」

むなざん (名) [胸算] 次條ノ語ノ略。

むなざんよう (名) [胸算用] 算盤、又ハ、筆紙ナドヲ取ラズ、心ニテハカルコト。心中ニテ計算スルコト。ムナヅモリ。ムナカンヂャウ。ココロヅモリ。略シテ、むなざん。諳算。暗算。心算。假名手本忠臣藏(寛延、竹田出雲等合作)[illegible]「[illegible]ニ、本藏ガ胸算用、仕テヤッタリト、猶モ手ヲツキ」

むなさわぎ (名) [胸騒] 驚キ、又ハ、リンナキナドニテ、心臓ノ動キヲドルコト。心トキメクコト。ムネハシリ。ココロサワギ。[illegible]記、廿、八枚役討事「頻リニ胸騒ぎノシケレバ」

むなし・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [空、虚] (一)中ニ物無シ。明キテアリ。空ナリ。萬葉集、三 四十「人モナキ、空シキ家ハ、草枕、旅ニマサリテ、苦シカリケリ」(二)事ノ痕、無シ。源、廿一、少女 [illegible]「むなしき事ニテ、人ノ御名ヤケガレントノ給ヘバ」(三)身空シク[illegible]。死 源、四、夕顔 十「此人ヲ空しくシナシテン事ノ、イミジク思サルルニソヘテ」同、四十四、總角 三十九「空しうナリ給ヒシ騒ギニ」「空しき人」「空しき骸」(四)イタヅラナリ。無益ナリ。不用ナリ。[illegible]萬葉集、十九[illegible]「[illegible]無奈之久アルベキ」「空しく待ツ」「空しく骨折ル」(五)カリソメナリ。ハカナシ。萬葉集、五 四「世ノ中ハ、牟奈之伎モノト、知ル時シ、イヨヨマスマス、悲シカリケリ」

むなしきふね (名) [空舟] 仙洞ノ御事ヲ云フ。[illegible]君ハ船、臣ハ水ト云フノ[illegible]、去リセ給ヘル[illegible]ノ其位[illegible]ヲ見ヨ。後拾遺集、十八、雜、四「住吉ノ、神ハアハレト、思フラン、空しき舟ヲ、サシテ來タレバ」

むなしぐるま (名) [空車] むなぐるま(空車)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

むなしだのみ (名) [空頼] そらだのみ(空頼)ニ同ジ。六帖、三「伊勢ノ海ノ、渚ニ寄スル、ウツセ貝、むなしだのみニ、世ノツクシツツ」

むなしで (名) 空手 むなで(空手)ニ同ジ。神代紀、下 三十「俱不得利、空手來歸」

むなしぶね (名) [空船] からふね(空舟)ニ同ジ 古事記、中[illegible]

[illegible]

むなしゃくり (名) 胸噦 胸ノ邊ニテ、泣キジャクリスルコト。今宮心中、[illegible]、近松作)中「蚊ノ聲ナラデ便リナク、むなしゃくりシテ、泣ク聲ノ、内ヘカスカニ聞ユレバ」

むなたかおび (名) 胸高帶 高ク[illegible]ノブタリカケテ結ムル前帶ノ稱。[illegible]、サテ色里ノ遊女タチハ、むな高帶ヲシャントシテ」

むなぢ (名) 胸乳 〔乳ノ胸ニアレバ云フ〕 チブサ。チチ。古事記、上五「掛二出胸乳一」神代紀、下「天鈿女乃[illegible]其胸乳一」

むなづくし (名) 胸盡 むなぐら(胸座)ニ同ジ。甲陽軍鑑、十七、品第四十七「赤口關左衞門カむなづくしヲトリテ、後ノ壁ニオシツクル」吉野忠信(寶永、近松作)「コハ女房カ、イヅクヘト、立ヨル所ヲむなづくしニ[illegible]ミツキ」

むなづもり (名) 胸積 むなざんよう(胸算用)ニ同ジ。

むなで (名) 空手 (一)ムナシデ。素手。カラテ 無手 山家集、上「[illegible]、[illegible]ノ眞菰、刈リカネテ、むなでニスツル、五月田ノコロ」(二)〔兵器ヲ執ラズ空シキ手。徒手。天武紀、上、元年六月「何無二一人兵一、徒手入[illegible]東」

むなひげ (名) 胸鬚 むなげ(胸毛)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

むなひも (名) 胸紐 直垂、羽織ナドノ胸ノアタリニ着クル紐。本朝若風俗(貞享、西鶴)八「白紗ノ羽織ニ小鳥ヅクシノ唐衣ノ裏ヲ付、八所染ノ胸紐解キテ、白拵ノ長柄ヌキ出シ」

むなふだ (名) 棟札 棟上ノ時ニ、建築ノ年月、人名、ナドヲ記シテ、棟木ニ打付ケ置ク木札。むねふだ。上梁銘 書言字考節用集、一、乾坤門「棟札、ムナフダ、謂二之上梁銘一」醒睡笑(元和、安樂庵策傳)三「一字ノ御堂造立スデニ成就シ、棟札ヲ書カント、法印出デテ筆ヲ染メ」

むなべつ (名) 棟別 けんべつ(軒別)ニ同ジ。沙石集、七、上、第九條「カノ寺ニチッヅキ炎上有リ、棟別ナンド云テ、心ナラヌ事ヲ持チテ切(功ノ誤リナラム)ヲヘケル」應仁記、一、亂前[illegible]之事「諸國土民百姓ニ[illegible]役ヲカケ、段錢、田畠ノ段數ニ役錢ヲワリアツルナリ」、棟別、家數ニ[illegible]役ナリ)ヲ色色ノ樣ヲカヘテ[illegible]、レバ、云云」

むなべつせん (名) 棟別錢 足利時代、家數ニヨリテ取リ立ツル税金。又、軒別ニヨリテ集ムル金錢。松屋[illegible]記、百四、第五十條「古ク運上ト云ヘルハ、公物ヲ京都ヘ運上スルニ云フ、吾妻鏡、[illegible]往來、伊呂波字類抄、節用集、運歩色葉集ナトニ見エタル、コレ也、今ノ世ニ云フ運上ハ、古クハ山手、川手、關手、棟別錢ナト云ヘルモノニテ、永祿ノ比ヨリ、運上ト云フ名目ハ、云ヒ出タルナルベシ」鹿島社文書、[illegible]、鹿島大神宮諸神官[illegible]上、右爲[illegible]社御修理[illegible]宿郡棟別錢[illegible]、一社所[illegible]也」

むなぼね (名) 鳩尾骨 〔胸骨ノ義〕 胸部ノ骨。みづおちノ上ノ骨。倭名抄、三、五筋骨類「鳩尾骨、無奈保[illegible]」名義抄「鳩尾骨、ムナボネ」宇治拾遺、十一、第十條「頸ホソク、むなぼねハ殊ニサシ出デイラメキ、云云」

むなもと (名) 胸元 胸骨ノ下、鳩尾ノ邊 ムナサキ。心下 平治物語、二、[illegible]下向事「鎌田ガ妻、云云、夫ノ刀ヲ拔クママニ、心もとニ差シ當テ、俯伏シ樣ニ伏シケレバ、云云」

むなもん (名) 棟門 樓門ニ對シテ、樓ナク、常ノ屋ノ、棟ノ如ク作レル門。即チ、圓柱二本アリテ、屋根ハ切妻破風造リノ門。公家、門跡ナドニ用ヰタリ。ムネモン。ムネカド。增鏡、第十六、秋のみ山「京極オモテノ棟門ニ、御輿ヲオサヘテ、云云」

むなわく (他動、下二) ・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ 胸分 鹿ナドノ、胸ヲ突出シテ、草木ノ繁ミヲ押分ケテ行ク。むな(胸)ノ條ノ[illegible]見ヨ。

むなわけ (名) 胸分 又、むねわけ。鹿ナドノ、胸ニテ萩原ナドヲ押シ分ケ行クコト。萬葉集、八、[illegible]「小壯鹿ノ、胸別ニカモ、秋萩ノ、散リ過ギニケル、盛リカモイヌル」

むなゐ (名) 空居 妻ナドニ離レテ、空シク居ルコト。六百番歌合、寄[illegible]女戀、[illegible]「波ノ上ニ、下ス小舟ノ、むなゐシテ、月ニ歌ヒシ、妹ゾ戀シキ」

むに (名) 無二 〔無レ二ノ音讀〕 フタツトナキコト。並ビナキコト。タグヒナキコト。唯一。無雙 漢書、[illegible]「[illegible]上將ヲ位、云云、[illegible]下之[illegible]、可[illegible]、人臣無二」 太平記、五、大塔宮熊野落事「丹誠無二ノ御勤、感應ナドカアラザラント」「無二ノ交リ」

むにむざんみ (副) 無二無三 法華經、方便品「十方佛土中、唯有二一乘法一、無レ二亦無三一」 (一)タダヒトツノミニテ、他ニ類ノナキ、云フ語。新後拾遺集、十八、[illegible]「春ハタダ、花ノゾ思ヒ、二つなく、三つなきモノハ、心ナリケリ」 (二)脇目モ觸ラズ一向ナル狀、又ハ、イッサンナル狀ニ云フ語。甲陽軍鑑、九、下、品第廿六「無二無三ニ、まカカッテヲシクヅシ」「無二無三ニ切入ル」

むにゃむにゃ (副) 〔うやむや(有耶無耶)ノ訛カ〕 (一)言ハムトシテ、故意ニ言ハヌ狀ニ云フ語。アンニャモンニャ。(二)寐言ヲ云フ狀ニ云フ語。

むね (名) 宗 〔心ノ義〕 專ラトスルコト。又、主トスルモノ。オモダチタルモノ。カナメ。宇津保物語、梅花笠[illegible]「女ハヲシナベテハ、延命息災ヲむねトシテ」今鏡、第六、敷波の下「宗トハ詩作リ給フ事ヲ好ミテ」發心集、八、[illegible]八中ニ[illegible]、云云」

むね (名) 旨 致 〔事ノ宗ノ義、胸、心トモ通ズ〕 [illegible] 事ノ[illegible] 意味。源、廿九、[illegible]「[illegible]むねニ當リテ、菩提ト煩惱トノヘダタリナン、云云」

むね (名) 胸 〔[illegible]身根ノ義、心ヲ原トスル[illegible]ト云フ、或ハ、云フ、身根ノ[illegible]、[illegible]むね(棟)ノ條、參見セヨ、或ハ、[illegible]骨ノ[illegible]トモ云フハ、イカガ〕 (一)〔喉、肩ノ下、腹ノ上ノ廣キ部、即チ、兩乳ノアル邊 むな 倭名抄、二[illegible]身體類「胸、[illegible]」古事記、上、「アワ[illegible]ノ、ワカヤル[illegible]ヲ、ソタタキ、タタキマナガリ」(二)〔心 思ヒ。心 萬葉集、十五、「タマシヒハ、アシタユフベニ、タマフレド、アガ胸イタシ、戀ノシゲキニ」源、二、帚木四十「御文ナドモ、カヨハンコトノイトワリナキヲオボスニ、イトむないたシ」「胸隠ク胸ノ[illegible]」(三)〔衣領ノ[illegible]ニ當ル處〕 エモ。[illegible] 胸襟、胸掛キ合ハセ」[illegible]胸走ルトハ、氣熱ル、[illegible] 源、十九、[illegible]「むねはしりテ、イカデトリテシガナト、云ハ[illegible]」胸潰ルトハ、悲ミニ迫ル。源、二、帚木四十「むねつぶれテオボセド」胸を冷すトハ、畏レ怖ヅ。寒心 胸を焦がす、胸焦がるトハ、胸燃ユ。甚シク思フ。アコガル。焦心 胸燒くるトハ、胃、熱ス。溜飲トナル。胸惡しトハ、嘔氣ヲ催ス。惡心

むね (名) 棟 〔身根ノ義ニテ、元來、身體スベテノ語、其中ニ最モ重シトスル胸ノ稱トナル、古事記、上四十「ワカヤルむね」ト見エタリ、又、筑前ノ宗像郡、宗像大神ハ、神體之形ノ義、因リテ身形郡ト云フ(延佳本、舊事紀頭注)トアリ〕 (一)屋根ノ最モ高キ處ニ互ス長キ材。棟木 むな。(二)〔屋根ノ上ノ最モ高キ

[illegible]「[illegible]」古事記、上「[illegible]其殿屋之頂ニ」同、中(神武)「[illegible]」カヲ爭ヘル、賤キ、イヤシキ人ノスマヒハ」(三)牛車ノ名所。屋形ノ上ニ、前後ヘ互シタル木。多ク兩端ハ上ヘ反ル。[illegible]及左右、各有二格子一」 (四)家ヲ數フル語。「平家二棟」土藏一棟」

むね (名) 鉦 みね(刀背)ニ同ジ。(刃ニ對ス) 刀劍略說「脊、劍脊ヲむねト云、峯ノ轉音ナリ、云云、むトみト通テ、むねト云ヘリ」

むね-あげ (名) 棟上 (一)家ヲ建ツルニ、柱、梁、ナド組立テテ、其上ニ棟木ヲ上グルコト。特ニ祝フ儀式アリ。上棟 上梁 [illegible]八、康安二年[illegible]月[illegible]日、[illegible]春門院新御堂棟上」 (二)むねたてぶし(棟立輿)ニ同ジ。

むね-あて (名) [illegible] (一)又、むなあて。胸ノ部ニ當ツル甲。胸甲 (二)布帛ニテ仕立テ、小兒、又ハ、料理人ナドノ、衣服ノヨゴレヲ防ガム爲ニ、胸以下ニ掛クルモノ。

むね-うち (名) 鉦打 又、みねうち。刀背(ムネ)ニテ人ヲ打チテ威スコト。刀背擊 〔[illegible]古集[illegible]十[illegible]下、品第[illegible]十[illegible]、[illegible]仁モ氏政モ、[illegible]刀ノむねうちニ、打ヅツニモ足ラヌ事也」

むね-がち (名) 胸勝 胸ノ高ク勝(スグ)レテアラハルルコト。 榮花物語、廿一、後悔大將「尼上、ツト抱キ奉リ給ヒテ、フサセ給ヘリ、御胸がちニ乳ナドモ張リテ、イミジウ哀レニ見エサセ給フ」

むね-かど (名) 棟門 むなもん(棟門)ニ同ジ。 平家物語、三、有王島下事「棟(ムネカド)門、平(ヒラカド)門ノ内ニ、四五百人ノ所從ニ圍繞セラレテコソ坐セシカ」(覺一本)

むね-くそ (名) 胸糞 〔糞ハ添ヘタル語〕

(一)むね(胸)ト云フニ同ジ。「むねくそ[illegible]」 (二)[illegible]コト。業腹(ゴフハラ)。音便ニ、むねっくそ。浮世風呂[illegible]ト云フザマデ、オレニトッテカカッタノガ、胸(ムナツクソ)屎ダ」

むね-け (名) 胸氣 胸ノイタムコト。又、其病 宇津保物語、[illegible]ニ[illegible]、コノむねけ(むねせイ)ニトイフ心地ナントテ」

むね-おろ (名) 胸心 〔むねトおろト重ナリタル語〕 おろ(心)ト云フニ同ジ 宇津保物語、國讓、下「[illegible]イザヤ、ソコヲ見ツケタテマツリシニ、むね心モツブレテ、ヨロヅノ事オボエザリシカバ、サラザリツルニヤ」

むね-たたき (名) 胸叩 胸敲 〔手ニテ胸ヲ叩キツツ、せきぞろ、さむらふト云ヒテ、錢ヲ乞フ故ニ云フ〕 せきぞろ(節季候)ノ異稱 其條ヲ見ヨ。 三十二番職人歌合、八番 宿ゴトニ、春マイラントト、契リシハ、花ノタメナル、むねたたきカナ」

むね-たて (名) 棟立 次條ノ語ノ略 成氏年中行事、正月、五日ノ夜、御行始、管領ヘ御出、如例也、公方樣、御直垂、御紋桐、御輿棟立、力者申也」

むねたて-ぶし (名) 棟立輿 屋根ノ棟ヲ高クソラシタル輿。略シテ、むねたて。又、ムネアゲ。 貞丈雜記、七、輿類之部「棟立ノ事、棟あげトモイフ也」

むね-つき (名) 胸突 又、むなつき。高山ナドニ、岩角ノ峙チテ、路ノ極メテ峻ナル所。「胸突八丁」

むね-つつみ (名) 棟包 又、むなつつみ。瓦ヲ重ネテ、高クシタル棟。下學集、上、家屋門「棟樋、ムネツツミ」

むね-と (名) 宗徒 〔とハ天爾波ニテ、宗[illegible]〕 [illegible]ヒビニシカバ」「宗徒ノ[illegible]」

むね-と [illegible] 旨 主トシテ。專ラ。[illegible]第六、[illegible]むねとハ[illegible]ノミテ」 徒然草、第百八十八段「一生ノウチ、むねトアラマホシカランコトノ中ニ」

むね-はしり (名) 胸走 むなさわぎ(胸騷)ニ同ジ。[illegible]ト思ヒツツ、サスガニ、むねはしりスルヲ」

むね-ふだ (名) 棟札 むなふだ(棟札)ニ同ジ

むね-ぼね (名) 胸骨 きょうこつ(胸骨)ニ同ジ。其條、及、蟷尾骨ノ條ヲ見ヨ。 宇治拾遺、十一、[illegible]ハ火ノ如クニアカク、頸ホソク、むね骨ハ殊ニサシ出デイラメキ、腰ノクレ[illegible]

むね-まちぎみ (名) 棟梁臣 國家ノ重任ヲ帶ブル大臣。トウリヤウノ臣。 景行紀、五十一年八月「命二武內宿禰一爲二棟梁(ムネマチギミ)之臣一」

む-ねん (名) 無念 (一)佛敎ノ語。無我ノ境界ニ入リテ、何事ヲモ思ハザルコト。卽チ、正念ノ異稱。 [illegible]、何事爲二能知一萬事皆[illegible]一者謂、無爲無念、萬事自畢、[illegible]有[illegible]萬事皆失」 (二)悔イ恨ムコト。口惜シク思フコト。殘念。 保元物語、二、白河殿夜討[illegible]日來ノ高名モ失セナンコトノ無念ナレバ、云云」

むね-むね・し シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 宗宗 宗トアルベシ。中ニ重立チタリ。タシカニ、ソレトアリ。シカトシタリ。 源、四十四、橋姬「[illegible]むねむねしき人モ無カリケレバ」 同、四、夕顏「イト小家ガチニ、云云、打ヨロボヒテ、むねむねしからぬ軒ノツマナトニ」

むねん-りう (名) 無念流 劍道ノ一派。齋藤彌九郎ノ創メタルモノ。

むね-もん (名) 棟門 むなもん(棟門)ニ同ジ [illegible] リ」 台記、別記、三、久安四年十一月廿六日「退 [illegible]大[illegible]

むね-わけ (名) 胸別 むなわけ(胸別)ニ [illegible]むねわけニ、アダシ[illegible]ノ、花散リニケリ」

むね-わりながや (名) 棟割長屋 [illegible]ノ棟ノ下ニ[illegible]「[illegible]ト仕切リタルモノ。棟合ヒノ長屋。

む-のう (名) 無能 才能ナキコト。ハタラキナキコト [illegible]「不病二人之不二己知一也」

む-のうりょく (名) 無能力 (一)物事ヲ行フ能力ナキコト。(二)法律ノ語 [illegible]權ノ行使能力ノ、制限セラレタルコト。其モノヲ無能力者ト云ヒ、我ガ民法ニテハ、未成年者、禁治産者、準禁治産者、及、妻ナドヲ云フ

むばたま (名) [illegible](射干玉)、及、ひあふぎ(檜扇、第二語)ノ條ヲ見ヨ。

むばたまの (枕) ぬばたまの(射干玉)ニ同ジ。[illegible]むばたまの、夜ノ[illegible]ニハ[illegible]ヤ、[illegible]ナク、[illegible]レバ」

む-はふ (名) 無法 〔非道ノ義〕 法ノナキコト。事ノ理ナキコト。又、亂暴ナルコト 中記、[illegible]法、[illegible]

むば・ふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ハ(他動、四) 奪 掠 うは

ふ(葎)ニ同ジ。字類抄「葎、ムハフ」名義抄「菼、葎、ムバフ、ウバフ、[illegible]」

〔むばら〕(名)［茨］［荊棘］〔うばらノ轉〕 いばら(茨)ニ同ジ 名義抄「茨、荊、棘、ムハラ」 萬葉集、五、一、和歌「モル山ノ、イチゴサカシク、ナリニケリ、大将トリモアヘズ、むばらガイカニ、[illegible]シカルラン」 倭名抄、五「常陸國茨城郡茨城、牟波良岐」天武紀、下、十三年十月「茨城公、丹比公」

〔むばらき〕(名) 茨小木 茨ノ若枝ナリト云フ。 好忠集「むばらき、手ニトリタメテ、春ノ野ノ、フヂノワカバヲ、キリヤツカネン」

むひ(名)［無比］ 比(クラ)ブルモノナキコト。無雙。タグヒナキコト。 無量壽經「普放ニ淨光明、[illegible]小無比身[illegible]」謡曲、安宅「[illegible]」ハ、此ノ世ニテハ無比ノ樂ニホコリ」「無比ノ良法」

むび(名) 夢寐 睡リテ夢ミルコト 又、ネムルコト 又、睡レル間。 後漢書、[illegible]「[illegible]夢寐」 杜甫、[illegible]

むひつ(名)［無筆］ 文字ヲ書クコトヲ知ラヌコト。讀ミ書キノ出來ヌコト。ブキヤウ。文盲 無學

むびやう(名)［無病］ 病(ヤマヒ)ナキコト。スコヤカナルコト マメ [illegible]「(元和、安樂庵策傳)六「無病サウニハアルガ、サ程ニ若シイカヤ」無病息災」

むびやうそくさい(句)［無病息災］ 病氣モナク、身體健康ナルコト。 謡曲、[illegible]「無病息災ノ方便ノ爲、云云」

むひよう(名)［霧氷］ うひよう(雨氷)ノ條ヲ見ヨ。

むぶくのしやう(名)［無服之殤］ 小兒ノ七歳未滿ニテ、死ニシコト。父母、コレガ爲ニ服忌(ブッキ)ナケレバ云フ。さんしやう(三殤)ノ條ヲモ見ヨ。 假寧令義解「凡無服之殤、生自三月至七歳」[illegible]

むぶつせかい(名)［無佛世界］ 佛教ノ語。釋迦ノ涅槃シ彌勒未ダ世ニ出デザル代ノ稱。此代ニ地藏菩薩出現シテ、衆生ヲ教化スト云フ 延命地藏經「[illegible]」云云、沙石集、一、上、第六條「[illegible]無佛世界ノ導師、本師付屬ノ菩薩也」

むふんべつ(名)［無分別］ フンベツノナキコト。考ヘノナキコト。又、佛教ニテハ、諸法實相ノ理ヲ無分別法ト云フ。 狂言記、伊文字「ハテ無分別ナ事ヲオッシャル」 法華經、方便品「[illegible]無分別法」

〔むべ〕(名)［郁子］〔うべ(郁子)ノ條ヲ見ヨ〕 又、うべ。あけび(通草)ノ一種。蔓性ノ木本ニテ、山野ニ自生シ、老大ナルハ、灌木ノ狀ヲナス。葉ハ、あけびニ似テ、大キク固ク厚シ、五七葉竝ビテ一大葉ヲナス、淡綠ニシテ光リ、冬、落チズ、故ニ、常葉通草(トキハアケビ)ノ名モアリ 立夏ノ前ニ花梗ヲ出シ、六瓣ノ花ヲ開ク、形、稍、百合ニ似テ、大キサ五六分、白クシテ淡紫色ヲ帶ブ。實ハ楕圓形ニシテ、からすうり(烏瓜)ヨリ大ナリ、熟スレバ暗紫色ニシテ甘シ。野木瓜 倭名抄、十七、菓類「郁子、布閉」字類抄「郁子、ムヘ」

〔むべ〕(副)［宜］ うべ(宜)ノ條ヲ見ヨ。字類抄「宜、諾、ムヘナリ」名義抄「宜、ムベナリ」應神紀、廿二年三月「於理灼然(ムベナリ)」催馬樂、此殿ハ「牟戸モ富ミケリ」古今集、十七、雜、上「トドメアヘス、むべモトシトハ、イハレケリ、シカモツレナク、過グル齡カ」

むべなふ(ムベナ・ウ)・ふ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) うべなふ(諾)ニ同ジ。名義抄「諾、ムヘナフ、シタカフ」宜、肯、可、ムヘナフ」

むへん(名)［無偏］ カタヨルコトナキコト。又、スベテニ行キ渡ルコト。不偏。 書經、洪範「無偏無黨、王道蕩蕩」[illegible]

むへん(名)［無邊］ カギリナキコト。廣クシテ、ハテシナキコト。 [illegible]

むへんくわう(名)［無邊光］ 佛教ノ語。阿彌陀佛ノ光明ヲ十二種ニ分チタル其一。十方世界ヲ照シテ、際限ナシト云フ 次條ヲモ見ヨ 謡曲、[illegible]光モ[illegible]至ラヌ隈モナケレバ、無邊光トハ名ヅケタリ」

むへんくわうぶつ(名)［無邊光佛］ あみだぶつ(阿彌陀佛)ヲ其光明ノ德用ニヨリテ呼ブ十二種ノ中ノ一種 [illegible]、十八、下の[illegible]南無[illegible]佛、南無清淨光佛ト申シ、[illegible]渡リテ、御堂ニ参レバ、散木集、六、釋教、無邊光佛、我トイヘバ、限リ有ニゾ、似タリケル、ソコトモササヌ、光ナレドモ」

むへんせかい(名)［無邊世界］ 佛教ノ語 虛空世界。又、無數ノ世界ノ邊際ナク存在スルコト [illegible]虛空無邊故、世界無邊、世界無邊故、衆生無邊」

〔むべむべし〕 むべ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二)［宜宜］ うべうべし(宜宜)ニ同ジ。 源、三十二、藤裏葉「物マメヤカニ、むへむへしき御物語」

ハ、スコシバカリニテ」

むへんほふかい(名)［無邊法界］ (一)佛教ノ語。[illegible]法界[illegible]云フ。ほふかい(法界)ノ條ヲモ見ヨ。(二)轉ジテ、めつぽふかい。アテコトモナキコト。ムヤミナルコト。 玉かつま、八、「[illegible]むへんほうかいノ歌ヨミ、トイフコトアリ、今ノ俗言ニ、メッサウカイナドイフハ、此言ノ訛レルナリ、メッサウカイヲ、伊勢ナドニテハ、メッポウカイトイヘリ、又、其意ヲ江戸ナドニテハ、アテコトモナイ、トイヘリ、コレモ無邊法界ノ[illegible]ナカシ」

むぼう(名)［無謀］ 謀(ハカリゴト)ナキコト 考ヘナキコト [illegible]

むほふ(名)［無法］ むはふ(無法)ニ同ジ。

むほふもの(名)［無法者］ むはふもの(無法者)ニ同ジ。

むほん(名) 無品 ほん(品)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

むほん(名)［謀反］ ぼうはん(謀反)ニ同ジ [illegible]

むほん(名)［謀叛］ (一)律ニ八虐ノ第三。本朝ニ叛キ、外國ニ從ハムトスルコト 律疏「[illegible]」[illegible] (二)朝東ヲ違フルコト。太平記、一、資朝俊基關東下向事ノ條ニ「君(後醍醐天皇)ノ御謀叛、次第ニ隱レ無リケレバ」ト記シタルヲ、君ノ臣下ニ對シテ謀叛ト云フ事ヤアル、不埒ナル書法ナリト責ムル者アレ

ド、律ノ八虐ノ[illegible]ス、[illegible]
[illegible]ヲ違ヘタマヒシ意ニテ記シタルナリ。(三)密ニ謀リテ、事ヲ擧グルコト。保元[illegible]ナ召捕ッテ、流罪スベキ由宣下セラル」 平家物語、[illegible]

むま (名) [illegible] 同ジ。[illegible]ノサキニ、チマリ居テ」

むまかひ (名) 馬飼 うまかひ(馬飼)ニ同ジ。[illegible]

むまき (名) 牧 馬牧ノ義、或ハ云フ、馬置ノ約、或ハ云フ、馬飼ノ息呼約ナ」 うまき(牧)ニ同ジ。今、約メテ、まき。 倭名抄、一 林野類「牧、無萬岐」 天智紀、七年七月[illegible]

むまくすし (名) 馬醫 うまいしゃ(馬醫)ニ同ジ。[illegible]ムマクスシ[illegible]

むまご (名) 孫 うまご(孫)ニ同ジ。 倭名抄、二 子孫類「孫、無萬古」 仁徳紀「大鷦鷯天皇、云云、[illegible]

むまごめひ (名) 又、うまごめひ。うまごをひ(離孫)ノ條ヲ見ヨ。

むまごをひ (名) 離孫 うまごをひ(離孫)ニ同ジ。

むま・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 美 うましニ同ジ。[illegible]ムマシ、美、ムマシ」

むまぜみ (名) 馬蟬 うまぜみ(馬蟬)ニ同ジ。

むまびる (名) 馬蛭 うまびる(馬蛭)ニ同ジ。

むまや (名) 厩 うまや(厩)ニ同ジ。

むまや [illegible]

むみ (名) 無味 アヂハヒノナキコト。[illegible]

むみゃう (名) 無明 〔梵語、阿尾儞也、Avidyā ノ譯語、闇鈍ノ心、諸法ノ事理ヲ照ラス明ナキヲ云フ、大藏法數「明ハ照也」 過去世煩惱之惑覆於本性、無所了、故曰無明」〕 佛經ノ語。明ナク暗キコト。又、邪見妄執ノ中ニアリテ、法界ニ出デザルコト。又、過去ニ於ケル一切ノ煩惱。轉ジテ、痴ヲ云フ。 本業經、上「無明者、名不了一切法」 易林節用集(慶長)上、言語門「無明、ムミャウ」 祕藏寶鑰(空海)一「異生羝羊心[illegible]」 新撰[illegible]

むみゃうい (名) 無名異 (一)過酸化滿俺。まんがん(滿俺)ノ條ヲ見ヨ。(二)呉須ノ一名。(鑛物ノ) 重修本草綱目啓蒙、五、石類「無名異、同名多シ、南京燒ノ茶碗ノ靑キ文彩ヲナス藥ヲモ、無名異ト云」 (三)久シク炭ヲ燒キタル地下ニ生ジタル黑色ノ塊、草木膠 (四)和ノ無名異ト云フハ、土様酸化鐵ナリ。銀山ノ石上ニ、褐色ニシテ土ノ如ク着キタルヲ、水飛シテ採ル。血止ノ藥トス。石見銀山、佐渡鑛山、等ヨリ産ズ。チドメイシ。

むみゃうりう (名) 無明流 劍道ノ一派。石田伊豆守ノ創メタルモノ。[illegible] (天保)刀術「無明流、石田伊豆守」

むむ (名) 股 〔沖繩ニテモむむ〕 もも(股)ニ同ジ。天治字鏡、一「股、髀外也、無無」

むむ [illegible] イトロオモゲナルモ」 (二)感心シタル時ナド[illegible]トリ領イテ、むむ、ソレデ聞コエタ、云云」

むむき (名) [illegible]

むんずと (副) 無手 〔むずと(無手)ノ音便〕 むずと(無手)ニ同ジ。[illegible] 曾我「ヤリ過ゴシ、オシナラベむんずと組メバ」

むめ (名) 梅 〔沖繩ニテハ、うゝめト云フ〕 うめ(梅)ニ同ジ。[illegible]也トイヘリ」 萬葉集、五「ワガ宿ニ、サカリニ咲ケル、梅ノ花、散ルベクナリヌ、見ム人モガモ」

むめい (名) 無銘 書畫、刀劍、ナドノ諸器ニ、銘、刻チ、製作者ノ名ノ記シテナキコト。又、ソノ製作物。無款識

むめい (名) 無名 (一)名ノナキコト。 老子、第一章「無名天地之始、有名萬物之母」「無名ノ師」 (二)名ノ記シテナキコト「無名ノ契約」 (三)世間ニ名ノ知レザルコト 莊子、逍遙遊「至人無己、神人無功、聖人無名」

むめいし (名) 無名指 べにさしゆび(紅差指)ニ同ジ 孟子、告子、上篇「今有無名之指屈而不信」

むめいし (名) 無名氏 名ノワカラヌ人。又、氏名ノ記シテナキ人。

むめんもく (名) 無面目 面目ナキコト。[illegible]

むもん (名) [illegible] ナキモノ。無地ナルコト。(有文ニ對ス) 枕草子、五、第四十七段「綾ナドナラバコソ裏ヲ見サラン、云云、むもんノ御ゾナリ」 (二)能ニ云フ語[illegible]トアレド、自ラ演技ノ大法則ニハ戾ラザル[illegible]作法

むも・る (動) 埋 うもる(埋)ニ同ジ。「むもれ木、むもれ井」

むもれぎ (名) 埋木 うもれぎ(埋木)ニ同ジ。

むもれゐ (名) 埋井 うもれゐ(埋井)ニ同ジ。

むや (名) 母屋 [illegible] もや(母屋)ノ古言。

むやく (名) 無役 (一)勤メナクテアルコト。[illegible]

むやく (名) 無益 むえき(無益)ニ同ジ。[illegible] 運歩色葉集「無益、ムヤク」 保元物語、二、白河殿義朝[illegible]ナリト、同僚ドモ制スレドモ」「無益ノ殺生」

むやく・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 無益 〔むやく(無益)ヲ活用ス〕 益ナキサマナリ。ムダナリ。 好色一代女(貞享、西鶴)二「むやくしき事、此ノ外、聞キ覺人リニスルヲ」

むや・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) アキナヒス。

貿易ス。名義抄「貿、アキナフ、ムヤス」

〔むやひ（名）舫　又、もやひ。ムヤフコト。夫木抄、三十五、遊女「波ノ上ニ、下ス小舟ノ、むやひシテ、月ニ歌ヒシ、妹ゾ戀シキ」

〔むや・ふ・フ・へ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）舫　今、もやふ。舟ト舟トヲ繋グ。夫木抄、三十三、舟「水モ狭ニ、紅葉ノ舟ヲ、むやひツツ、錦帆ニカケテ、風ゾ濃ギユク」

むやま（名）無山　鷹狩ニ、鳥ヲトラズシテ、空シク還ルコト。

✣むやみ（副）無闇　理非ヲ分別セズニ。ヤタラニ。ミダリニ。イハレナク。ヤミクモニ。暴

むやむや（副）ワヅラヒ悶ユル心地ニ云フ語。モヤモヤ。

むややむし（名）氣分ノボケタルコト。名義抄「瞢、ムヤヤムシ、オロカ、ホレタリ」

むゆか（名）六日〔六日ノ延轉〕むいか（六日）ニ同ジ。新六帖、一「イカニセン、今ハむゆかノ、アヤメ草、ヒク人モナキ、我身ナリケリ」

むゆかのあやめ（名）六日菖蒲　むいかのあやめ（六日菖蒲）ニ同ジ。平家物語、十一、志度合戰事「六日のあやめ、會ニアハヌ花、イサカヒハテテノチギリ木カナトゾ、笑ハレケル」

むよう（名）無用（一）モチヰナキコト。無要。莊子、人間世篇「人皆知有用之用、而莫知無用之用也」太平記、七、千劍破城軍事「御旗ニテ候ヘバ、御紋付イテ候間、他人ノ爲ニハ無用ニ候」（二）無益ノ意ニ轉ジテ、止メヨ、ト命ズル意ニモ用ヰル。狂言記、昆布布施「私モ髪ヲオロシマセウ、其方ハ無用ヂャガノ」「通行むよう」

むよか（名）六日　むいか（六日）ニ同ジ。

むよく（名）無欲　欲ノナキコト。欲心ノナキコト。老子、第五十七章「我無欲而民自樸」[illegible]不荷、故将貧民[illegible]其官[illegible]太平記、十九、北野通夜物語[illegible]六守一人、無欲ニナランコトヲ思給ハバ、其ニ恥テ、萬人自然ニ欲心薄成ベシ」

〔むら（名）叢　〔當字ニ、多ク、村、ト記ス、羣ノ轉〕ムラガレルコト。むれ。古事記、下（顯中）四十「埴生坂ニ、吾ガ立チ見レバ、カギロヒノ、モユル家羣良、妻ガ家ノアタリ」萬葉集[illegible]むらナカラ、見ユル紅葉ハ、神無月、マタ山風ノ、立タヌナリケリ」「叢雲」「叢[illegible]」[illegible]

むら（名）斑（一）〔ココカシコニ叢ヲナスコト〕物、又ハ、色ノ、厚薄、淡濃等、一樣ナラヌコト。マダラ。源、五十、浮舟三十八「雪むらギエツツ」後拾遺集、五、秋、下「水上ニ、紅葉ナカレテ、大井河、むら濃ニ見ユル、瀧ノ白イト」（二）物事ノ齊シカラヌコト。定メナク狂フコト。不齊「心ノむら」「病體ノむら」

むら（名）村〔羣居ノ意、ふれ（村）ノ條ヲモ見ヨ〕（一）〔田舍ニテ、人家ノムラガレル所。農民ノ居ル所。（市アル町ニ對ス）〕倭名抄、十、居宅類「村、無良、野外居也」（二）郡ノ下ニアル若干ノ廣サノ土地ノ區別。そん（村）ニ同ジ。

〔むら（接尾）匹疋段端〔叢ノ義、ひき（匹、第一語）ノ語原ヲ參見セヨ〕布帛ヲ若干ノ長サニテ、一卷ニシタルヲ數フル語。字鏡抄「匹、ムラ、俗作疋、正字也」神功紀、四十六年、月「以五色綵絹各一疋、云云、賜爾波移」孝德紀、二年正月「田一町、絹一丈、四町成疋」天智紀、元年正月「布一千端」後撰集、十一、戀、三「綾ヲ二むら包ミテ遣ハシケル」

むらあし（名）叢蘆　ムラガリ生ヒタル蘆。謠曲、難波「浦ハ潮ノ波ノ聲、入江ノ松風、村蘆ノ葉音、イツレヲ聞クモ悅ビノ」

むらあづけ（名）村預　江戶時代、罪人ヲ村役人ニ引渡シ、[illegible]定ノ期間、[illegible]セシメタルコト。科條類典、下、寬保元、六月「[illegible]、六月十八日村役中付[illegible]」

〔むらい（名）無禮　禮ナキコト。無禮。源、廿六、常夏「今日ノ[illegible]カハ、[illegible]サカナ、むらいノ罪ハ許サレナンヤトテ、寄リ臥シ給ヘリ」

むらいこう（名）無禮講　又、無禮講。貴賤上下ノ別ナク、禮儀ヲステテナス會合、又ハ、宴會。（慇懃講ニ對ス）太平記、[illegible]遊宴ノ[illegible]、見聞耳目ヲ驚セリ、獻盃ノ次第、上下ヲイハズ、男ハ[illegible]ボシヲ脫デ[illegible]、法師ハ衣ヲ[illegible]白衣ニナリ、年十七八ナル女ノ、貌カタチ優ニ、膚コトニ清ラカナルヲ廿餘人、[illegible]キセテ、酌ヲトラセケレバ、雪ノ膚、スキトホレリ、云云」

むらがしは（名）叢柏　羣葉ノ義カ、又、叢生ノ柏カ。壬二集、中「アラシ吹ク、トホ山モトノ、むらがしは、誰ガ軒端ヨリ、雪ハラフラン」

〔むらが・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）羣　ムラガルヤウニナス。羣ガラシム。孝德紀、大化二年[illegible]月「昔在天皇[illegible]世、混[illegible]天下[illegible]治」

むらがすみ（名）叢霞　ムラガリタツカスミ。夫木抄、二、霞「カツラキヤ、クロチノ谷ノ、むらがすみ、トダエハハシニ、カキラザリケリ」

むらがへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）羣返　羣レテ飛ヒツヘル。夫木抄、十八、[illegible]ソソグ、花ノミスリノ、狩衣、打拂ヘドモ、羣がへりツツ」

むらがらす（名）羣鴉　ムラガリ居ルからす。夫木集、冬「むら鳥、タソガレ時ニ、ウチツレテ、イソグ羽ナミハ、ヲチノ山モト」

〔むらが・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）羣簇〔羣上るノ略〕羣レテ居ル。多ク一處ニアツマル。羣ル。字類抄「羣、ムラカレリ」推古紀、三十五年五月「有蠅聚集」

萬葉集、十三、長歌「行鳥ノ羣テ待チ、アリ待テド」

〔むらが・る・ル・ル・レ・レ・レヨ（自動、下二）[illegible]

むらぎ（名）斑[illegible]　時ニヨリテ情意ノ定セヌコト、喜怒好惡ノ常ナキコト。又、ソノ心。

むらぎえ（名）[illegible]斑消　斑ニ消エルコト。後拾遺集、六、冬「コリツミテ、槇ノ炭ヤク、ケヲヌルミ、大原山ノ、雪ノむらぎえ」

むらぎく（名）叢菊　ムラガリ生ソル菊。[illegible]十六、下の[illegible]ウツロハテ、[illegible]キ、[illegible]、オナシ色ナル、[illegible]ノむらぎく」

むらぎぬ（名）疋絹〔むら（匹）ノ條ヲ見ヨ〕一疋ノ絹。[illegible]サセトハ（ゾイ）、鳴クナレド、むらぎぬモタル、我レハ聞キイレズ」

〔むらぎみ（名）邑君〔むらハ、一羣ノ民ノ意ナル、シ、君トハ、主ノ義、垂仁記、二年十月、注「郡公」〕一羣ノ農民ノ長。農長。神代紀、上「以稻種[illegible]以田、[illegible]大邑君。私記[illegible]此時初定居邑之君也」口訣「農長也」集疏「謂農人之長」

〔むらぎみ（名）漁父　漁夫ノヲサ。倭名抄、[illegible]、[illegible]漁[illegible]、無良岐美、[illegible]語」萬葉集[illegible]上、下[illegible]カセ、むらぎみメシテ、オホアミヒカセナド、云云」山家集[illegible]岩ノネニ、カタオヒムキモ、ナミウキテ、アハビヲカツク、アマノむらぎみ」

〔むらぎも（名）羣肝　〔ムラガリタル肝ノ意、又、腎肝ノ略カト云フ〕心ノ底。肺肝ナド云フニ同ジ。

〔むらぎもの（枕）羣肝　〔ムラガリタル臟腑ノ「凝り」ト續クルナリ、肝向ふ、ト

[illegible]ノ[illegible]ニ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ラ[illegible]
鳥、ウラ數居レバ」同、四十「村肝之、心クダケテ、カクバカリ、吾ガ戀フラクヲ、知ラズカアルラム」

〔むら-ぎ・ゆ〕（…ユ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ 自動（二））斑消〔叢消〕マバラニ消ユ。一方キエ、一方ノコル。 萬、五十、浮舟「庭ノモトニ雪むらぎえツツ、今モカキクモリツツフル」 新敕撰集、一、春、上「ウグヒスノ、鳴キツルナベニ、ワガ宿ノ、垣ネノ雪ハ、むらぎえニケリ」

むら-ぎり（名）斑霧　ムラニ立ツ霧。マダラニ霧フキリ。 謠曲、國栖「漁火ノ、影モホノカ[illegible]」

〔むら-くさ〕（名）叢草　ムラガリ生エタル草。 [illegible]集[illegible]ヤトヤピテ、夏モ人目ハ、カレニケリ、何シゲルラン、庭ノむらくさ」

〔むら-くも〕（名）叢雲　アツマリムレタル雲。ソウウン。 源、廿八、野分「風サワギ、むら[illegible]ノ、クニモ、忘ルルマナク、[illegible]レヌ[illegible]」

〔むら-くも-の-つるぎ〕（名）叢雲劒　天の叢雲の劒ノ略。さんしゅのじんぎ（三種神器）ノ條ヲ見ヨ。 神代紀、上[illegible] 名天叢雲劒、蓋大蛇所居之上常有雲氣、故以名歟」

〔むら-ご〕（名）叢濃　色ノ、ココ、シコ、薄ク濃ク一様ナラヌモノ。紺地ノ處處ニ、特ニ濃キ紺アルヲ、紺村濃ト云フガ如シ。延ミテ、むらごう（次條ノ次次條ノ語ヲモ參見セヨ） 運歩色葉集「村紺、ムラゴ」 宇津保物語、藏開、下九「色色ノ紅葉、薄キ、濃キ、むらごニマジリ」 枕草子、五、第四十六段「ウスヤウノ草紙、むらごノ絲シテ、ヲカシク綴チタル」

むら-ごう（名）叢濃〔叢濃ノ延。或ハ、叢紺ノ音便カ〕前條ノ語ニ同ジ。 出世景清（貞享、近松作）一「むらごうノ大幕ウタセ」

むら-ごう-がき（名）叢紺搔　紺ノ叢濃。

[illegible]
〔むら-ごゑ〕（名）叢聲　ムラガリ居ル多クノモノノ聲。 夫木抄、九、鶉「宿ニナク、稻ノ廣ノ、むらごゑハ、タロノカゲモ、トコロセキマデ」

むら-さき（名）紫〔叢咲ノ義、花ノ群白特ニアレバ云フトイフ。或ハ、[illegible]シテ開ケバ云フトモ。或ハ、又[illegible]ノ約略ト云フ〕（一）〔紫草科ノ宿根草ノ名。山野ニ自生スレドモ、庭園ニモ栽培ス。莖ノ高サ長ジテ二尺許リ、葉、細長ク、互生ス。夏月、枝ノ上、葉ノ間毎ニ、小白花ヲ開ク、五出ニシテ、梅花ニ似テ、大キサ三分許リ、内ニ黄ナク、外ニ蕚アリ、亦五出ニシテ細長シ。蕚每ニ、一二[illegible]實ヲ結ブ、形、圓ク尖リテ、紅花ノ實ニ似テ小サシ。根、直ニシテ、皮、深紫色ナリ、皮ノ汁ヲ搾リテ、紫色ノ染料トス。又、紫根ト云ヒテ、藥用トモス。ミナシグサ。紫草 倭名抄、十四、染色具「紫草、無良散岐、本草和名、上「紫草、无良佐岐」萬葉集、十四廿五「牟良佐伎ハ、根ヲカモ竟フル、人ノ子ノ、ウラ悲シケヲ、ネヲヘナクニ」[illegible]紫草ハ、春、苗葉ヲフケバ苗紫、秋、花ノ時ハ花紫ナリ」（二）〔七色ノ一。紫草ノ根皮ニテ染ム。赤ト青トノ間色。紫（支那ニテ、古ク紫ト云ヘルハ、赤色ノ濃キモノ。今云フ眞紅ナリ。論語、陽貨篇ニ「惡紫之奪朱」ト見エタリ。天武天皇ノ御宇、遣唐使タル粟田眞人ハ、正四位下ニシテ深緋袍ナリシヲ、唐書ニ、紫袍ヲ着タリト記セリ。達磨ノ圖ニ其被リタル衣ノ赤色ナルハ、梁ノ武帝ノ贈レル紫衣ナリ。コレニテ、古ヘノ紫ハ、赤キヲ云フ證トスベシ。後ニハ、黑ミ深[illegible]

[illegible]古代紫[illegible]
ヲゾ吾ガヨル、アシビキノ、山紫ヲ、ヌカムト思ヒ[illegible]
[illegible]（三）[illegible]
[illegible]ト云フ。モト下品ノ食トスル隱語ナルベシ。又、おむら [illegible]むらさき
[illegible]
[illegible]
ハヤサルル、むらさきノ色ハ、鰯（藍ニカク）ニハマシダトモ云フエントヤ」（四）[illegible]
名、其色ニツキテ云フ。紫、[illegible]
詠集、上、早春[illegible]
ルヲ、文字讀ミニシタル語」紫色ニシタル[illegible]
中ノ、シタワラビ、マダウラワカシ、むらさきのちり」
[illegible]
[illegible]

むらさき-がうし（名）紫格子　[illegible]
紫ノ地ニ格子ノ[illegible]
[illegible]
ニ、目モアヤナル滿ラヲ露サレタリ」

むらさき-がひ（名）紫貝　にしきがひ（錦貝）ノ條ヲ見ヨ。 夫木抄、廿七、貝「紫の、貝ヨル浦ノ、フチカタハ、浪ノウクルゾ、花トミエケル」

むらさき-がり（名）紫狩　紫ノ花ヲ尋ネテ採ルコト。古ヘハ、馬ニ乘リテ、武藏野ニ出デ、花ヲ見テ、弓ノ宮ニテ數ヘテ摘ソセシトゾ　[illegible]ハ、紫、紫がり[illegible]ニ、ムラサキヲトルヲ云也、紫ノ花ノサキタルオリニ馬ニノリテ、野ニイデテ、花ヲ見テ、弓ノハズニテヲシヘテトラスルト、云云」

むらさき-ゲサ（名）紫袈裟　紫色ノ袈裟。（高僧ノ着用スルモノ）紫衣。 僧史略、下[illegible]
[illegible]本」

[illegible]
[illegible]

むらさき-けマン（名）[illegible]
けまん。罌粟科ノ草本ノ名。山野ニ自生シ、[illegible]
[illegible]
序ニ排列ス。有毒植物ノ一ナリ。一名、ハタケゼリ。紫菫

むらさき-こぶし（名）紫辛夷　樹ノ名。こぶし（辛夷）ノ條ヲ見ヨ。 重修本草綱目[illegible]
ナル者アリ、むらさきこぶしト云」

むらさき-ごほり（名）[illegible]
ボリ。絞染ノ紫色ナルモノ。 好色一代男[illegible]

むらさき-しらぢ（名）紫白地[illegible]
白地、紫ノ紋アルモノ

〔むらさき-すそご〕（名）紫裾濃　紫色ノ裾濃。すそご（裾濃）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。
[illegible]
[illegible]
[illegible]
ニ、紫すそごノ鎧ニ、菊ノ裾金物打ツタルニ、云云」

むらさき-ずゐしやう（名）紫水晶　紫石英
[illegible]水晶ノ[illegible]見ヨ

むらさき-たび（名）紫足袋　紫色ニ染メタル革ニテ造レル足袋。[illegible]
晴レノ用トス。[illegible]
行シタリ。かはたび（革足袋）ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]
[illegible]
（寛永）二「スネ萩ハ、むらさきたびカ、花ノ紐」

むらさき-にほひ（名）〔紫匂〕〔にほひ（匂）ノ條ノ（七）ヲ見ヨ〕（一）鎧ノ縅毛ニ、上部ヲ紫絲トシ、下部ニ在ルニ隨ヒ、次第ニ薄紫ノ絲ナルモノ。萌黃匂ト云フモ同ジ。高松院殿穴太記「寶物ニハ、紫匂ノ腹卷ノ、ハヤカニ威シタルニ、云云」（二）裝束ノ色目ノ名。表ハ紫ニシテ、裏ノ薄紫ナルモノ。又、むらさきのにほひ。山吹匂ノ山吹色ナルト同ジ。女官飾抄、春冬のきぬの色「紫にほひ、ウヘムラサキニ、ウス紫ヲカサヌ」

むらさき-の（枕）紫〔紫ハ上品ナル色ナルヨリ、たたかしニカケテ云ヒ、又、濃ク染ムルモノナルヨリ、おニカケテ云フ〕なだかし、又ハ、おト云フ語ニ冠ラスル枕詞。萬葉集、七、三十九「紫之、名高ノ浦ノ、愛子地ニ、袖ノミ觸レテ、寐ズカナリナム」同、十六、廿六「紫乃、粉潟ノ海ニ、カヅク鳥、珠カヅキイデバ、ワガ玉ニセム」

むらさき-の-うすやう（名）〔紫薄樣〕（一）襲ノ色目ノ名。表ハ紫ニシテ、裏ノ白ナルモノ。女官飾抄、春冬のきぬの色目「紫のうすやう、上ムラサキニ、白キヲカサヌ」（二）染色ノ配合上ノ名。上ヨリ下ヘ紫色ノ次第ニ淡ク褪セルモノ。雅亮裝束抄、三、女房のさうぞくのいろ「むらさきのうすやう、上ヨリ下ヘウスクテ、白キニ」（三）〔懷紙ナドノ、上ヨリ下ヘ、紫色ヲ次第ニ淡ク匂ハシタルモノ。小野宮右衞門督家歌合、左、アフキウスヤウヒトカサネニ書キテ、松ノ枝ニツケタリ、云云、右ハむらさきのうすやうヒトカサネニ書キテ、アフチノ花ニツケタリ」宇津保物語、藏開、上四十二「オホン文ハ、カウ（唐）ノむらさきの薄やう一カサネニ包ミテ」

むらさき-の-くも（名）〔紫雲〕（一）きさき（后）ノ異稱。八雲御抄、二、下、異名部「后、むらさきの雲、シリヘノミヤ」（二）〔紫色ノ雲。メデタキクモ。慶雲。宇津保物語、俊蔭「、むらさきの雲ニ乘レル天人七人、ツレテ下リ給フ」

むらさき-の-そで（名）〔紫袖〕四位以上ノ人ノ着ル袍ノ稱。八雲御抄、三、下、異名部「四位、シホシバ、むらさきの袖（四位已上三位、臣二）」

むらさき-の-には（名）〔紫苑、紫庭〕大內ノ御苑。紫苑。禁園。千載集、序「モモシキノフルキ跡ヲバ、むらさきのには、タタノウチナ、千年久シカルベキミギリト、ミガキオキ給ヒ」八雲御抄、三、下、異名部「大內山、云云、むらさきの庭」

むらさき-の-にほひ（名）〔紫匂〕（一）むらさきにほひ（紫匂）ノ條ノ（二）ニ同ジ。むら増鏡、第十一、草枕「上﨟ダツ女房、紫のにほひ五ツ、袈バカリ引キカケテ」（二）染色ノ配合上ノ名。上部ヲ濃紫ニシ、下部ニ在ルニ隨ヒ、次第ニ淡クセルモノ。雅亮裝束抄、三、女房のさうぞくのいろ「むらさきのにほひ、ウヘコキムラサキヨリ、下ヘウスクニホヒテ」

むらさき-の-ほし（名）紫星。ほしせい（紫微星）ニ同ジ。伊勢集「、日ノ光リ、カサネテ照レハ、紫の、星モ一ツニ、色ヤナルラン」

むらさき-の-みや（名）〔紫宮〕中宮、皇后ノ異稱。

むらさき-の-ゆかり（名）〔紫緣〕「古今集、十七、雜、上「むらさきノ、一本ユエニ、武藏野ノ、草ハミナガラ、アハレトゾ見ル」ト云フヨリ出ヅ〕一ツノカカハリヨリ、情愛ノ他ニオヨボスコト。又、草のたより、或ハ、草のゆかりトモ云フ。又、草源六、末摘花廿「カノむらさきのゆかり尋ネトリ給ヒテハ、ソノウツクシミニ、心入リ給ヒテ」新葉集、十一、戀「むらさきの、ゆかりノ草ヲ、トヒワビテ、露ワケソムル、武藏野ノ原」

むらさき-のり（名）〔紫菜〕又、むすのり。[illegible]〔紫菜〕ニ同ジ。[illegible]十七ニ「紫草、紫苔、石蓴、ムラサキノリ」天治字鏡、十二[illegible]

むらさき-ばうし（名）〔紫帽子〕（一）紫染ノ綿帽子。好色一代男（天和、西鶴）四「紫ノわた帽子、偏ク若ルコトニゾアリケル」（二）紫、野郎帽子ニ昔、歌舞伎ノ女形役者ノ被リタルモノ、色子帽子。[illegible]原京八景、[illegible]伊達[illegible]役者ハ[illegible]用ヒ[illegible]志ハ、其ノカミ鳥居庄七トイフ女形ハジム、是ヒラリトサゲテキセタルヨシ、云云、其後、[illegible]、[illegible]茂川ノシホ木本辰之助、[illegible]ニシテ、チリメンニ[illegible]流ニコシラヘ、色ハムラサキニ定メタリ」

むら-ざと（名）〔村里〕田舍ニテ、人家ノアツマリタル所。サイシ。村落。村邑。邑里。里落。聚落。[illegible]紀、廿[illegible]年四月、伊吡夫禮智所、[illegible]邑、云云」武同紀、五年二月[illegible]小火[illegible]焚山[illegible]延村邑」

むら-さめ（名）〔叢雨、村雨〕〔叢雨ノ義、又、不等雨ノ義ト〕一叢ヅツ強ク降リ過グル雨。暴降後霽ノ雨。ハヤサメ。シバアメ。白雨。過雨。驟雨。倭名抄、一ニ風雨類「[illegible]雨、白雨、[illegible]ムラサメ」萬葉集、十四「[illegible]草ニ、村雨降リテ、コホロキノ、鳴ク聲聞ケバ、秋ヅキニケリ」（古義ノ訓）

むら-じ（名）〔連〕「群大人ノ約、じハ宮主、刀自ノ類、其族ノ中ノ主ノ意、連ノ字ハ、連ネ率ヰル意ナルベシト云フ、禮記、王制篇「十國以爲レ連、連有レ帥」ト見エタリ」古ヘノ姓ノ名。上古ハ、其家筋ヨリ大連ノ官ニ擧ゲラルル名家ナリ。諸ノ伴ノ長。天武天皇ノ御代ニ、八色ノ姓ヲ制定スルニ至リテ、其第七等ノ姓トナル。かばね（可婆禰）ノ條ヲ[illegible]卯朔、詔曰、更改諸氏之族姓、作八色之姓、以混天下萬姓、云云、七日連」

むら-しぐれ（名）〔村時雨〕一ムラ降リ過グル時雨。[illegible]モアラジ、村時雨、袖アカナクノ、山メグリシテ」

むら-しげどう（名）[illegible]〔重藤〕[illegible]年ノ人ヲ大將ニ、云云、むら重藤ノ弓ヲ持スベシ」

むら-しば（名）〔叢柴〕ムラガリ生ヒタル小サキ雜木。拾玉集、二「ミカリスル、カタ岡山ノ、村柴ニ、降ルベカリケリ、ケフノアラレハ」

むら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔蒸〕〔むれる（蒸）ノ他動〕ムルルヤウニナス。フ[illegible]ムス。

むら-すすき（名）〔叢薄〕ムノガリ生ヒタルすすき。後拾遺集、十一、戀、一「霜枯ノ、冬野ニ、立テルむらすすき、ホノメカサバヤ、思フ心ヲ」

むら-すずめ（名）〔群雀〕ムラガリタル雀。夫木抄、十二、秋田「イロイロニ、門田ノ稻穗、フキ亂ル、風ニコトロク、村雀カナ」

むら-ずり[illegible]〔斑摺〕マダラニ摺ルコト又、ソノ摺リタル物。榮花物語、廿八、若水「內大臣殿、サマザマノキヌトモニ、靑色ニ梅カサネノ唐衣裳ノ有樣、例ノむらずりヨリモ心コトナリ」

むら-だか（名）〔村高〕江戶時代、一村ノ總石高。地方凡例錄、一、石高之事「石高ト云ハ、村高之事ニ而、田畑致檢地、上地ニ應ジ、上中下之位ヲ譯、石盛ヲ極メ、田畑、屋敷、丈夫ノ高ヲ寄セ合セタルヲ石高ト云フ、則村高也」御定書百箇條、御仕置仕形之事「或ハ村高ニ應ジ、員數相定、三日之內、爲納候」

むらたけ (名) [叢竹] ムラムラニ生エタル竹。萬葉集、十九「ワガ宿ノ、イササ村竹、フク風ノ、音ノカソケキ、コノユフベカモ」

むらたじゅう (名) [村田銃] 明治十三年頃、陸軍少將、村田經芳ノ創意シタル後裝ノ小銃。單發銃ト連發銃トアリ、モト常用充テシカ、今多ク獵銃トス。

むらだち (名) [叢立] 一叢ニナリテ立テルコト。[illegible]「[illegible]、むらだち」

むらたづ (名) [群鶴] ムラガリ居ル たづ。[illegible]「[illegible]、ヤドレル枝ハ、見ルマデニ、[illegible]ノミトリモ、ウツムむらたづ」

むらだつ (自動、四) 又、むれだつ。ムラガリテ立ツ。太平記、三十九、芳賀兵衛入道軍事「左馬ノ助ハ、云云、所所ニ村立タル敵ノ勢ヲ、相拂キ、又、敵ノ中へ懸入テ」

むらたまの (枕) [射干玉] ぬばたまの(射干玉)ニ同ジ。(東國ノ訛語) 萬葉集、廿、「[illegible]」「[illegible]」

むらちどり (名) [叢千鳥] ヒトムレノ千鳥。ムレ居ル千鳥。新古今集、六、冬「風サユル、トシマガ磯ノ、村千鳥、立居ハ浪ノ、心ナリケリ」「[illegible]」

むらちる (自動、四) [斑散] マバラニチル。夫木抄、十九、雲「風吹ケバ、空ニむらちる、雲ヨリモ、浮キテ戀スル、人ハマサレリ」

むらてふ (名) [叢蝶] 模様ノ名。蝶ノムラガリ飛ブ状ヲ描キタルモノ。太平記、四十、中殿御會事「伊勢七郎右衛門尉貞行、地白ノ直垂ニ、金ノ薄ヲ以テむらてふヲ押シテ、云云」

むらど (名) [腎] (村處ノ義ニテ、精氣所聚ノ意ト云フ) ぢん(腎)ノ古名。倭名抄、[illegible] 腎、[illegible]

むらど (名) [illegible] むら戸ヲ押シアケテ」

むらども (名) [叢友] ムラガリヌル伴。多クノ伴侶。夫木抄、十六、[illegible]「[illegible]ツカリノ、繁ミヲワケテ、カリクレバ、カクレモアヘズ、鹿ノむらども」

むらどり (名) [叢鳥] ムラガリタル鳥。字鏡抄、[illegible]、ムラトリ。源、四十六、總角「アクカナリユキ、むらどりノタチサマヨフ羽風、近ウキコユ」

むらどりの (枕) [羣鳥] 羣る、立つ、ナド云フ語ノ枕詞。萬葉集、九、挽歌「[illegible]、羣鳥之、[illegible]」同、廿五「[illegible]、朝立チイニシ、[illegible]ハ、サヤカニ聞キツ、思ヒシゴトク」

むらなしぢ (名) 村梨地、村梨子地。なしぢ(梨子地)ノ條ヲ見ヨ。又、

むらなへ (名) [叢苗] ムラガリ生エタル稻ノ苗。萬葉集、十四「[illegible]、トツケヌ、サヌ田ノ苗ノ、武良奈倍ニ、コトハ定メツ、今ハイカニセモ」

むらはぎ (名) [叢萩] ムラガリ生エタル萩。夫木抄、十一、萩「スミヨシノ、濱ノむらはぎ、露モロシ、シバシナ吹キソ、松ノウラカゼ」

むらばらひ (名) [村拂] 江戸時代、其居住ノ村ヨリ放逐スル刑罰。評定所張紙留、「村拂ニ相成候モノ、他村住居イタシ、元居村之者ヲ相手取候、云云」

むらびと (名) [村人] ムラノヒト。ムラノタミ。村ノ住民。落窪集、十、相撲強力「村人共見テ、オトロキアザム事限ナシ」

むらふ (他動、四) [貫] [もらふノ轉] もらふ(貫)ニ同ジ。

むらまつ (名) [叢松] ムラガリ生エタル[illegible]、トヲミ、波ヨスルカヲ、人ハロニキヤハ」

むらむら [illegible]

むらむらし (形) [illegible] 馬内侍集「ツキ草ノ、移シ心ヤ、イカナラン、むらむらしくモ、ナリヌベキカナ」(二) [心ムラ] ニテ、一ツニ定マラズ。源、四十三、竹川「むらむらしサ過ギ給ヘリケル御本性ニテ、云云、誰ニモ、エナツカシウ聞エカヨヒ給ハズ」

むらめかす (他動、四) [illegible] ムレヲナスヤウニナス。[illegible]

むらやくば (名) [村役場] (町役場ニ對ス) 地方自治團體タル村ノ行政事務ヲ取扱フ役場。村長ノ事務ヲ取扱フ所。

むらやま (名) [羣山] [むれやまノ轉、さけ(酒)、さかノ類] ムラガリタル數數ノ山。グンザン。厲嶺。萬葉集、一、長歌「大和ニハ、村山アレド、取リヨロフ、天ノ香具山」

むらをさ (名) [村長] 一村ノ長。サトヲサ。ソンチャウ。續紀、廿、天平寶字元年七月「御南院、追集諸司并京畿内百姓村長以上」

むり (名) [守] まもり(守)ノ東國ノ訛語。萬葉集、廿、[illegible]「[illegible]サキ[illegible]理ニ、タタム騎キニ、家ノ妹カ、ナルベキコトヲ、イハズキヌカモ」

むり (名) [夢裡] ユメノウチ。夢中。劉長卿[illegible]

むり (名) [無理] (一) 道理ナキコト。理由ノナキコト。[illegible] むりナル[illegible]イヤル人ヤ」(二) 強ヒテ行フコト。[illegible] 二人共、トラマヘテ、むりニ供ニ致サウ」

むりあつしゃう (名) [無理壓状] 無理ニ人ヲ抑壓スルコト。ムリヤリニ我ガ意[illegible]

むりさん [illegible]

むりし [illegible]

むりじひ (名) [無理強] 無理ニシフルコト。強ヒテ從ハシムルコト。

むりそく (名) [無利息] 利子ノナキコト。[illegible]

むりむり (副) モノノ裂ケハナルル音。[illegible] マデ、むりむりト咬ミクダイテ見シ」

むりゃう (名) [無量] 多大ニシテ量ルベカラザルコト。ハカリナク限リ知ラレヌコト。[illegible]

むりゃう (名) [六綵緞五綵緞漢府] 支那渡來ノ繻子[illegible]、粗[illegible]、光澤[illegible]レルモノ。和漢三才圖會、二十七、絹布類「六[illegible]」

むりゃうくゎうぶつ (名) [無量光佛] (如來ノ光明ヲ十二種ニ分チテ[illegible]

タル・徳・ツキテ名ノク、阿彌陀佛ノ異名。あみだ(阿彌陀)ノ條ノ(一)、及、むへんくゎうぶつ(無邊光佛)ノ條ヲ見ヨ。「無[illegible]經、上、無量壽佛、號[illegible]光佛、無邊光佛、[illegible]云云、超日月光佛」「[illegible]物語、十八、玉の臺[illegible]十二禮拜ヲ思ヒテ、云云トヲガミ奉リテ、云云、南無无量光佛、南無[illegible]光佛、南無清淨光佛ト申シ」

むりやうじゆぶつ(名)〔無量壽佛〕〔無量壽ハ、梵語、阿彌陀捜斯(Amitâyus)ノ譯語〕阿彌陀佛ノ異名。無量壽經、上「無量壽佛、威神光明最尊第一」

むりやりみ(副)〔無理遣〕無理ニ強ヒテ。「曾我扇八景、[illegible]、近松作」上「其氣ヲ知ッテ、無理遣ニ、押シツケ云ヒシハ、母ガ谷」

むりよ(副)〔無慮〕亡慮〕〔漢書、食貨志、註「師古曰、無慮亦謂大率無小計慮耳」同、趙充國傳、註「亡慮、大計也」〕オホコソ。大概。大抵。唐書、[illegible]傳「[illegible]、云云、洛陽京師、[illegible]、[illegible]、無慮費二十萬緡」

むりよく(名)〔無力〕チカラナキコト。ヨワキコト。又、勢力ナキコト。非力。

むりり(副)なりむりニ同ジ。浮世風呂(文化、三編)初編、上「詭サマハ、彼ノコハダヲむりり、むりりト、アタマカラシテ、ヤリナカフ」

むりわうじやう(名)〔無理往生〕なりあふぢやう(無理壓狀)ニ同ジ。

む・る・ルル・ルレ・レ・レヨ(自動、下二)〔羣〕多ク一處ニアツマル。ムラガル。ムレル。丹後守爲忠百首「急ギッツ、駒打チむるゐ、タソカレニ、雲井ハルカニ、ナノルカリガネ」萬葉集、十九四「新シキ、年ノ初メニ、思フドチ、イ牟禮テ居レバ、ウレシクモアルカ」「[illegible]れ居ル[illegible]れ立ツ」

〔**む・る・ルル・ルレ・レ・レヨ**(自動、下二)〔漏〕〔もるノ轉〕もる(漏)ニ同ジ。

むるゐ(名)〔無類〕タグヒナキコト。最モ勝レタルコト。無比。杜甫、[illegible]詩「[illegible]見客[illegible]不[illegible]、無[illegible]春色到[illegible]亭」

むれ(名)〔部曲〕〔ひとむれ(一羣)ノ意〕ともべ(部曲)ニ同ジ。

むれ(名)〔羣〕(一)羣ルルコト。又、ソノモノ。アツマリ。ムラガリ。集團。(二)ナカマ。友。組。「惡徒ノ羣」

〔**ムレ**(名)山〔百濟語、今、朝鮮ノ地名ニ帶山ト云フアリ〕やま(山)ト云フニ同シ。神功紀、四十九年三月「百濟[illegible]、[illegible]、云云、古沙山」同、五十二年九月「百濟、山鐵」

むれう(名)〔無聊〕ぶれう(無聊)ニ同ジ。

むれう(名)〔無料〕料金ヲ要セザルコト。料金ヲ取ラザルコト。「傍聽無料」

むれ・た・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四)〔羣立〕ムラガリテ飛ビ去ル。萬葉集、九廿九長歌「羣鳥ノ、羣立ち行ケバ」(古義ノ訓)

むれ・だ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四)〔羣立〕又、むらだつ。ムラガリテ立ツ。後撰集、六、秋、中、女郎花「草ムラゴトニ、むれだつハ、タレマツ蟲ノ、聲ニマヨフゾ」古今集、十九、長歌「君ナキ庭ニ、むれ立ちテ、空ヲ招カバ、初雁ノ」

〔**むれらかみ**(副)〔羣〕一ツニアツマリテ。羣ヲナシテ。マトマリテ。宇治拾遺、九、第四條「物ハむれらかみ得タルコソヨケレ」

む・れる・レル・レレ・レ・レヨ(自動、下一)〔蒸〕〔むす(蒸)ノ自動〕氣塞ガリテ熱ヲ生ズ。蒸ス。

⁂**む・れる**(動)〔羣〕むる(羣)ノ口語。

むろ(名)〔室〕〔暖氣ノ蒸ルル所、又、蒸レ[illegible]ヲ保ツ所ノ意〕(一)二〔古ヘ、家ノ内ニテ、別ニ奧ノ方ニアリテ、籠リカナル屋ノ稱〕上ニテ塗リ籠メテ寢處トスルモノト云フ。ムロドコ。倭名抄、十二居宅類「室、無呂[illegible]代記、下云、無戸室」神武即位前紀「大室」顯宗即位前紀「新室」大和物語、中「紀ノ國ノ、むろノ郡ニ、行ク人ハ、風ノサムサモ、思ヒ知ラレジ」(二)一〔又、古ヘ、山腹ナドヲ掘リテ、岩屋ノ如ク構ヘタルヲ元トス。〕(神武紀ニ、大和ノ忍坂ニ、窨ヲ掘リテ敵ヲ誘ヒ、宴シテ鏖殺セシコトアリ)窨 綏靖即位前紀「手研耳命於片丘大窨中獨臥」于大牀」(三)〔後ニ、家。特ニ、僧ノ住家。僧房(庵室ニ就キテ云ヘル語ト云フ)源、五、若紫ニ「老イカガマリテ、むろノ外ニモマカデズ」大和物語、上「大德ノ、早ウ死ニケルガ、むろニ、松ノ木ノ[illegible]レタルヲ見テ」古今集、十八、雜、下「頭オロシテ、小野ト云フ處ニ侍リケルニ、云云、カノむろニ[illegible]リテ」(四)今、冬、寒ヲ畏ルル花木ナドヲ收メ置ク家。土ニテ塗リ籠ム。麹ヲネサスルナドニハ、地ヲ穿チテ作ル。窖 堀河百首「クワヰ生フル、野澤ノ荒田、打チカヘシ、急ゲルシロハ、むろノタネカモ」(五)神社ノ奧殿。(みもろノ條ヲ見ヨ)

むろ(名)〔榁〕むろのき(榁)ノ略。

む・ろ(名)〔無漏〕うろ(有漏)ノ條ヲ見ヨ。法華經、序品「於無漏實相心已得通達」謡曲、江口「實相無漏ノ大海ニ、五塵六欲ノ風ハ吹カネトモ」

むろあぢ(名)〔室鰺〕〔播磨國、室津ニ多ケレバ名アリ、一説ニ、むろハ伊豆ノ地名ト〕鰺ノ類。形小ナレドモ美ナリ、多ク乾魚トス。訛シテ、モロアヂ。魚鑑、下、あぢ「一種むろあぢ、播磨室ノ海ニ多シ、ユヘニシカイフ」物類稱呼、二、動物「鯵、あぢ、云云、此魚、播州室ノ津ニテ多ク捕ル、故ニむろあぢノ名有」

むろぎみ(名)〔室君〕古ヘ、播磨國、室津ノ港ニ居リシ遊女。轉ジテ、遊女ノ異名。[illegible]

むろざき(名)〔室咲〕草木ノ、窨ノ中ニ養ヒテ、花ヲ開カセシモノ。[illegible]きノ、非[illegible]ハ習ヒゾ、窨ノ梅」

〔**むろづみ**(名)館〔[illegible]、[illegible]、天武紀、下、朱鳥元年正月ノ、御窨殿ノ[illegible]、むろみ[illegible]、神留ノつまりノ約、家、宿ノ義ナラム、又、室積ノ文字ハ、借字ナリト云ノ、周防ニ、むろづみノ地名アリ〕周禮、地官司徒篇、遺人「三十里有宿、宿有路室、路室有委、五十里有市、市有候館、候館有積」[illegible]依ルト云ノハ、暗合ナリ、カカル雜典ノ字ヲ拾ヒ合ハセテ、國訓ヲ成スベキニアラズ、周禮ノ「候館有積」ニ因ルト云フハ、迂ナリト云フベシ〕旅ノ宿リ。館。倭名抄、十、居宅類「館、客舍也、[illegible]、[illegible]、[illegible]」[illegible]紀、六年十二月「物部大連、[illegible]、難波[illegible]」

〔**むろのき**(名)〔榁〕〔杜木ノ合字、實[illegible]ノ木カ、「檉ヲ當ツルハ誤レリ」略シテ、むろ。松杉科ノ常緑喬木ノ名。山地ニ自生シ、樹ハ、檜柏ニ似テ直立シ、高キコト三四丈、雄木ト雌木トノ別アリ。葉、甚ダ細密ニシテ、刺、ヤハラカシ。年ヲ歷タルモノ、葉間ニ小花ヲ開キテ、碧子ヲ結ブ、麥門冬ノ子ノ如シ。又、葉、ヤハラカニシテ垂リテ、子無キモノアリ、姫むろト云フ。共ニ材、槇ニ類シテ、水濕ニ堪フ。ネズ。ネズサシ。杜松 倭名抄、廿、木類「檉、無呂乃岐」本草和名、下五「赤檉、牟呂乃岐」字鏡[illegible]「檉、牟呂乃木」萬葉集、三[illegible]

「[illegible]モノ[illegible]ワスラエメヤモ」(古今ノ詞)

むろのやしま (名) [室八島] (一)下野國[illegible]ニ在ル歌枕。其地ノ池[illegible]水[illegible]チ上リテ、煙ノ如シト。和漢三才圖會、六十六、下野「野中有₂清水₁其水氣上如₂煙₁、歌人稱₂之室八島煙₁」詞花集、七、戀、上「イカデカハ、思ヒアリトモ、知ラスベキ、室の八島ノ、煙ナラデ(ズイ)ハ」(二)八島ニ釜[illegible]ナリト[illegible]昔、除夜ニ[illegible]掃ヒ清メ、翌年ノ吉凶ヲ占ヒタリト云フ行事。袖中抄、十八、むろのやしま「師走ノ晦日ノ夜、田舎ノゲスノ、カマドノ灰ヲサラヘテ、オキ[illegible]キノ、[illegible]レガ消エキラス[illegible]サラヌ[illegible]サマニテ、次ノ年、アランズル事ヲ見ル事ノ侍ルトカヤ」散木集、四、冬「サラヒスル、室の八島ノ、コトコヒニ、身ノナリハテン、程ヲ知ルカナ」

むろほぎ (名) [室壽] 新室ヲ開ク祝宴。[illegible]白[illegible]紀ニ白髮[illegible]。[illegible]室[illegible]

むろまち-じだい (名) [室町時代] 我ガ歴史上、元中九年ヨリ天正元年ニ至ル、凡百八十一年間ノ稱。(普通ニハ、延元元年ヨリ天正元年マデ、凡二百三十六年間トス)足利氏、北朝ノ天皇ヲ擁立シテ、幕府ヲ京都ノ室町ニ建ツ、將軍十三代ヲ經テ、織田信長ニ滅セラル。此間ヲ、又、足利時代トモ云フ。

むろまち-ばくふ (名) [室町幕府] 足利氏ガ、京都ノ室町ニ開キタル幕府。永和年中、足利將軍義滿ノ室町ノ花亭ヲ營ミシヨリ、應仁、文明ノ頃、足利義政マデノ時代ナレド、常ニハ延元三年、足利尊氏ガ征夷大將軍トナリ、京都ニ幕府ヲ建テシヨリ、天正元年、十三代將軍足利[illegible]ニ至ルマデ凡二百三十六年間ヲ云フ。前[illegible]ノ[illegible]ヲモ参見セヨ。

むろん (句) [無論] 論ズルマデモナシ。云フマデモナシ。ロナウ。勿論。

むろや (名) [室屋] むろ(室)ニ同ジ。神武卽位前紀「忍坂ノ、於朋務廬夜ニ、人サハニ、イリヲリトモ、人サハニ、來イリヲリトモ」

むゐ (名) [無爲] (一)自然ノママニテ爲スコト無キコト。[illegible]爲。[illegible]十七章[illegible][illegible]自化」(二)[illegible]爲)ノ[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]

むゐ (名) [無位 无位] クラヰノナキコト。位階ノナキコト。易經、文言傳「貴而无位、高而无民、賢人在下位而无輔、是以動而有悔也」盛衰記、四十三、諸神一階事「仁明天皇ノ御宇、嘉祥四年正月ニ、天下諸神、不論有位無位、共叙正六位上ト云官符ヲ下サルル」

むゐ (名) [無畏 无畏] (一)オソルルトコロナキコト。(二)佛敎ノ語。佛ガ大衆ノ中ニテ法ヲ說クニ、泰然自若トシテ畏ルル狀ナキ相。之ニ四種アリテ、四無畏ト云フ。大乘義章、十一、末「化心不怯、名爲無畏」無畏不同、門別四」榮花物語、十八、玉の臺「十力、無畏ノ相ハ、起居スルニアリ」

むゐ-せ (名) [無畏施 无畏施] 佛敎ノ語。三施(財施、法施、無畏施)ノ一。無畏ヲ人ニ施スコト。持戒ノ人ハ、殺害ノ心ナシ、カカレバ死ヲ畏ルル大衆ヲシテ、畏ルルコトナカラシムト云フ。

むゐん (名) [無韻] 詩、又ハ、韻文ニ韻ヲフマヌコト。「無韻詩」

むゐん-し (名) [無韻詩] (無聲ノ詩ノ意)繪畫ノ異稱。無聲詩

め

五十音圖、末行ノ第四ノ[illegible]、[illegible]行、[illegible](み、ヲ見ヨ)此音ハ、下ニうヲ受クレバ、みゃうノ如ク響クコトアリ、めうと(夫婦)、めうが(蘘荷)ナドノ如シ。

め (名) [女] (愛ヅベキ意カ)(一)人類ノ牝。ヲミナ。ヲンナ。女性。古事記、上「吾ハモヨ、女ニシアレバ」神武卽位前紀ハ「又於₂女坂₁置₂女軍₁」[illegible]、[illegible]ル、手力モガモ、手弱キ、女ニシアレバ、スベノシラナク」(古義ノ訓)「女餓」女[illegible]ノ子女ノ意(二)配偶ノ女。ツマ。妻。婦。[illegible]字[illegible]妻、婦、メ。[illegible]堀河百首[illegible]、手[illegible]」雄略紀、七、八月[illegible]備馬梁、夏引[illegible]引ノ、シライト、七ハカリアリ、サゴロモニ、織リテモ着セン、汝め離レヨ」大鏡、中、伊尹「其中將ノ御女ハ、定經メシノ御めニテコソハ、オハスメレ」後撰集、十七、雜、三「定メタルめモ侍ラズ、獨リ臥シヲノミス」

め (名) [牝 雌] を(牡)ノ條ヲ見ヨ。メス。メン。神代紀[illegible]、下[illegible]遷[illegible]雄。枕草子、[illegible]、第百十六段「クチナハノ、同ジヤウナルヲ、是ヲイヅレカ[illegible]トテ、云云、見ハ[illegible]ラカサンヲめト[illegible]レ」

め (名) [目 眼] (見ト通ズ、或ハ、六ノ、見ノ約)(一)動物ノ物ヲ視ルコトヲ主ル官。眼。瞼ノ總稱。眼球 (二)見ルコト。逢フコト。見ユルコト。視。齊明紀、[illegible]年十月、[illegible]ヤ[illegible]ヒムモ、君ガ[illegible]ヲ欲リ[illegible]ハ目ニテ[illegible]、斯[illegible]「目ニ止マル」目ニ觸ル」目ニ餘ル」目ヲクラマス」餘目、外目、[illegible]目[illegible]「[illegible]ノ見ルトヲ[illegible]萬葉集、二三十長歌「天雲ヲ、日ノ目モ見セズ、常闇ニ、

[illegible](二)迷起ク。又、睡氣去ル。メザム。[illegible]目がまはるトハ、イソガシキヲ云フ。目に[illegible]、目[illegible]、[illegible]目に付くトハ、見ユ。落目 目に立つトハ、際立チテ見ユ。目にさはるトハ、(一)目ノ毒ニナル。(二)目ザハリニナル。目につくトハ、幻ニ物ノ見ユルヲ云ノ[illegible]目に物見するトハ、ヒドキ目ニアハス。目もなくトハ、目ヲ細ソクシ[illegible]ノ[illegible]、[illegible]もなく打笑ヒテ」目も合はずトハ、眠ラズ。目を入るトハ、心ヲ向ク、心ヲ寄ス。[illegible]盛ハ、源氏ニ目を入れる侍ナレバ、此度、[illegible]ヲミツギ申サントテ」目を掛く、目に掛くトハ、善クイタハル。眷顧 目をくはすトハ、目クバセス。目をぬすむトハ、人目ニ立[illegible]ナスヤウニナス。目を配るトハ、[illegible]四方ヲ見ル[illegible]目[illegible]トハ、目ヲ見張リテ見ル。目を凝らすトハ、見詰ム。凝眸 目を注ぐトハ、目ヲツケ、注意シテ見ル。目[illegible]トハ、[illegible]目ニ見ル、[illegible]見ル[illegible]物語[illegible]、[illegible]見カヌメニ目[illegible]ト見エタリ」目[illegible]いトハ、見ム[illegible]セズ。目をとほすトハ、全[illegible]ヲ、一通リ見ル。目を空に、目は空にトハ、目[illegible]モリケズ、目な止む、目な[illegible]トハ、善ク見ル。注目 目を抜くトハ、欺ク。眩惑 目を引くトハ、(一)他人ノ目ニ止ルヤウニス。(二)目クバセス。[illegible]曲、[illegible]八[illegible]ノ、[illegible]ヤウテト、目ヲ[illegible]、袖ヲ[illegible]

り」目を塞ぐトハ、死ヌ。目をまはすトハ、氣絶ス。氣息 目ヲ回ハスルトハ、驚キ、又ハ、怪シミテ目ヲ見ハル。

め (名) 目 〔間ノ轉〕 (一)物ノ、縱横ニナリタル間ノ、空ニシテ孔ヲナセル處。「網ノ目ヲ張ル」「荒ノ目」「籠ノ目」「碁盤ノ目」 (二)刻ミテ齒ノ形ヲナシ、又ハ、高キ筋ヲナセルモノ。齒。磨眼 「鋸ノ目」「鑢ノ目」「磑ノ目」 (三)骰ノ面ノ、一、二、三、四、五、六ノ標點。「骰ノ目」「目ガ出ル」 (四)秤竿、物差、寒暖計、ナドニ、盛リツケテアル刻ミ。度 「目ヲ盛ル」「上目」「前目」 (五)秤ニテ、石、貫、匁、分、厘、ナドノ重サ、枡ニテ、斗、升、合、ナドノ量ヲ計ル語。量 「目ヲ量ル」「秤目」「桝目」「斤目」「貫目」 (六)材木ノ肉中ノ筋。木目。木理 「板ノ目」「正目」 (七)物事ノ端ト端トノ相合フ處。際 林葉集、二、夏「タドリユク、イタダノ橋ハ、朽チめ多ミ、數數トモセ、夜半ノ更殿」「折リ目」「縫ヒ目」「綴ミ目」「綴ヂ目」「逢ヒ目」「結ビ目」「番ヒ目」 (八)匁ノ略。金葉集、八、戀、下「カクばかり、[illegible]ノ雨ハ、重ケレド、めニカケサゲテ、逢ハヌ君カナ」「五十目」「百目」

め (名) 目 〔見ノ約、先ヅ目ニ見テ心ニ受クレバ云フ〕 其時、其事、出合ヒタルコト。場合。境遇。 源、十、榊「世ノ戚夫人ノ見ケンめノヤウニコソアラズトモ、必ズ人笑ヘナル事ハアリヌベキ身ニコソアメレ」 同、三十八、夕霧「コレヨリ優ルめヲモ見セツベカリケリ」 枕草子、十二、第百四十八段「カライ目ヲ見サブラヒツル」「憂キ目」「嬉シキ目」「悲シキ目」「ヒドイ目」

め (名) 顏 〔顏ノ中ニテ、目最モ見ヤスク、最モ感情ヲ表ハス、因リテ云フ〕 スガタ。カタチ。容儀。 萬葉集、十三、九長歌「君ガ目ニ、戀ヒヤ明カサム、長キ此夜ヲ」(古義ノ訓)

め (名) 芽 〔萌ト通ズ〕 草木ノ莖、幹、枝、葉、ナドノ、纔ニ出デ初メタルモノ。萌ニ出ヅル芽 古事記、中、神武「カミラ、ヒトモト、ソネガモト、ソネ芽ツナギテ、討チテシヤマム」 萬葉集、十、「アサミドリ、染メカケタリト、見ルマデニ、春ノ柳ハ、目生ニケルカモ」

め (名) 海布 〔芽ノ義カト云フ、或ハ云フ、藻ノ轉、布ノ字ヲ用ヰルコト、就キテハ、昆布ノ條ヲ見ヨ〕 若布、荒布、昆布、ナドノ總名。 字類抄「和布、メ、海藻、メ」 古事記、上 天治字鏡、十二「海藻、女、和布」「[illegible]海布之柄、作燧臼」 萬葉集、三、廿「シカノアマハ、海布刈リ鹽燒キ、イトマナミ、櫛笥ノヲグシ、トリモ見ナクニ」(古義ノ訓) 同、七、廿「イソニ立チ、オキベヲ見レバ、海藻刈舟、アマコギ出ヅラシ、鴨カケルミユ」 古名ノ[illegible] アラめ、ニギめ、ワカめ、ヒロめ、エビスめ、ウチめ、サガラめ」

め (名) 馬 〔うま(馬)ノ約ノまノ轉〕 熟語ニ用ヰル語。即チ、めだう(馬道)、志んめ(神馬)ナドノ如シ。

め (助動) む(將)ノ變化。其條ヲ見ヨ。 古今集、九、羇旅「タヅク夜、オボツカナキヲ、玉クシゲ、二見ノ浦ハ、明ケテコソ見め」

め (接尾) 目 事物、日時、ナドノ次第ヲ云フ語。第 史記抄(文明)七「八人ノ中デ四番めナルハ、中子ト云タガ道理ナリ」「二ツ目」「三人目」「五番目」「六度目」「八日目」「九代目」「十枚目」

め (接尾) 〔見ノ約ト云フ〕 物ノホドアヒヲ云フ語。程。狀。 神代紀、上「以御手、細開磐戸、窺之時」「長めニ切ル」

め (接尾) 〔奴ノ約カト云フ〕 (一)人ノ稱呼ニ添ヘテ罵ル語。奴 平家物語、二、西光切られの事「ニクイ入道めガ、何事ヲカ奏スヘカンナルゾ」 盛衰記、廿九、新八幡願書事「其偏救め、イカニモシテ打殺セヨ」 幸若舞、文覺「文覺分ケ入ッテ、云云、ヱイ龍王めトゾ、怒ラレケル」「其奴め」 (二)鳥ノ稱呼ニ添ヘテ云フ語。即チ、スズめ(雀)、ツバクラめ(燕)、カモめ(鷗)、小ガラめ、ナドノ如シ。

め (接尾) 目 〔女ノ字ヲ用ヰルコトアリ〕 魚ノ稱呼ノ下ニ添フル語。即チ、サめ、ヒラめ、赤め、ナドノ如シ。

めあか (名) 目垢 めやに(眵)ニ同ジ。

めあかう (名) 目赤 めかかうノ條ヲ見ヨ。 書言字考、六、下「目赤 めかかうハ目赤うニヤ、云云、指ニテ目皮ノ下ヲヒキテ、赤キ所ヲ見スワザナレバ、目赤うノ意ナルベケレト云也」

めあかし (名) 目明 〔目證ノ義〕 (一)江戸時代ニ、火附、盗賊、ナドヲ捕ノル、耳目トナル賤シキ者。ヲカツピキ。テサキ。探偵。古ヘノ檢非違使廳ノ放免ナドモ之ニ當ル(多ク曾テ盗ヲセシ者ヲ赦シテ役ス) 警醒[illegible] 長崎港草、一「澤野忠庵ヲ邪宗ノ目明ト名ヅケタル由記セリ」 瀬井廣澤ノ潤甫條辨、一、八「南蠻ノ目付澤野忠庵トアリ」 享保集成絲綸錄、四十八、享保四年六月「火附、盗賊、[illegible]之候、[illegible]所ニセ目明[illegible]之者有之、町中ニ而アバレ、不屆ニ候」 (二)鑑定スルコト。メキキ。 狂言記、牛馬「身共ハ牛ヲ求メタ、ヨイ牛カ惡イ牛カ、共方ニ目明シテ貰ハウト思ウテ參ルワ」

めあかし (名) 鯑 ます(鱒)ノ異名。 名義抄「鱒、マス、メアカシ」

めあき (名) 目明 〔めくらニ對ス〕 (一)目ノ見ユル人。視力ノ完全ナルモノ。 今川大雙紙、[illegible]出す事「サリナガラ、目あき、目クラニヨリテカハルベシ」 (二)文字ヲ解スル人。識者。 (三)事理ヲ解スル人。具眼者。 娥歌加留多(享保、近松作)一「イヤ、一概ニ云ハレヌ、盲千人、めあき千人、トカク織次第」

めあさ (名) 雌麻 實ヲ結ブ麻。あさ(麻)ノ條ヲ見ヨ。 字鏡集「苧、同、メアサ」

めあたら・し (形・シク) 目新 見ル目ニアタラシ。見ルコト稀ナリ。メヅラシ。「目新しき品物」

めあて (名) 目當 (一)眼ヲ當テテ見ル處。ネラヒ。アテド。メド。ミアテ。 [illegible] (二)鳥銃ノ、砲身上ニ火口ノ邊ト銃口ノ上トニ尖リ立テルモノ。コレト目的物トヲ照門(照尺ノ孔)ヨリ相照シテ、狙ヒヲ定ム。銃口ナルヲ前見當(照星トモ云フ)ト云ヒ、手許ナルヲ照門(照尺トモ云フ)ト云フ。 [illegible]

めあは・す ・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 妻女 〔妻合はす、ノ義〕 女子ヲ男ニ、親ノ合ハスル。配セテ妻トス。メアハセル。 倭名抄、二「[illegible]妻、[illegible]」 論語、公冶長篇「子謂公冶長、可妻也、雖在縲紲之中、非其罪也、以其子妻之」

めあは・せる (動) 妻女 前條ノ語ノ口語

めい (名) 命 (一)イノチ。壽命。生命。 史記、高祖紀「命乃在天、雖扁鵲何益」 宇津保物語、祭使三十九「年識ニ侍リシホドニ、ツハモノノタメニ命ヲハリ」「命ヲ絶ツ」 (二)オホセ。イヒツケ。下知。 書經、仲虺之誥「夏王有罪、矯誣上天、以布命于下、帝用不臧、式商受命」 狂言記、七騎落「君ノ仰セ、父カ命ヲ背ク者ナラバ、人手ニハカケマジ」「君ノ命」「命ニ從フ」 (三)メグリアハセ。運命。「天ノ命」 (四)漢文體ノ名。 文體明辯(明、徐師曾)「按、朱子云、命猶令也、字書、大曰命、小曰令、此命令之別也」

めい (名) 明 (一)明カナルコト。明瞭。[illegible] (三)物事ヲ見スクコト。又、其力。[illegible]「其明ニ服ス」「明ヲ失フ」

めい (名) 盟 古ヘ、支那ニテ、神ニ告ゲ、牲ヲ殺シ、其血ヲ啜リテ固ク約束スルコト。チカフコト。チカヒヲタツルコト。チカヒ。約束。[illegible]

めい (名) 名 (一)ナ。ナマヘ。稱呼。[illegible] (二)名分。人倫、身分、職員ナドノ分限。[illegible]名不正、則言不順、言不順、則事不成」

めい [illegible] 茗 [illegible]今呼ニ早采[illegible]茗 (た二茶) 同ジ。白居易詩「或飲一甌茗、或吟兩句詩」

めい (名) 銘 (一)漢文ニ、功ヲ識シ稱スル文ノ一體。金石、器物ナドニ刻ム。多クハ、四字一句ヅツニテ、韻ヲ蹈ム。特ニ、墓誌ノ終リニ記ス四字句ノ文ノ稱 [illegible] (二)製造セル物ニ、格段ニツクル名。[illegible]銘カナウテハ成ルマイ、銘ヲトラセウ」「酒ノ銘」 (三)製作者ノ、其器ニ、己レガ名ヲ刻ミツクルコト (名ノ誤カ) 款識 狂言記、栗田口「ハア、コハイ奴ヂャナ、栗田口ニハ、上作ハ兩銘アルベシト有ルガ、銘ガアルカ、聞ウテ來イ」 (四)自ラ誡メトスル語。本[illegible]

云云ニ「鶉衣集」火ばしの銘、多スギバ、投ゲ棄カレナン、モノ数ニ、君ガ手ニハタ、々觸ルベラナリ」

めい [illegible] 名 [illegible]ル。「名君」「名臣」「名僧」「名醫」「名山」「名花」「名木」「名[illegible]

めい (接尾) 名 人ヲ數フルニ云フ語。[illegible]百名以上[illegible]百名ニ書ニ手方ニ」

めい-あん (名) 名案 スグレタル考案。又、ヨキ思ヒツキ。妙案

めい-あん (名) 明暗明闇 あきらかなることト、くらきことト [illegible]記、[illegible]我レ天子トシテ、天四海ヲ掌ニ握ルトイヘドモ、猶日月ノ明暗ヲ心ニ不任、云云」

めい-あん (名) 冥暗暝暗 クラキコト。クラヤミ。謝承、後漢書「巴祗、字敬祖、爲揚州刺史、[illegible]太平記、四、[illegible]日月ノ光ヲモ見給ハネバ、[illegible]中ニ向テ、歳月ノ遷リ易ルヲモ知リ給ハネバ、云云」

めい-い (名) 名醫 名高キ醫者。技術ノ、スグレタル良キ醫師。上醫。國手。[illegible]書、杜延年傳「[illegible]疾、徵天下名醫」 [illegible]記、十一、[illegible]名醫亦不及ニ及ブベカラズ」

めい-い (名) 明衣 〔みゃうえト讀ムコトアリ、明ハ清淨ノ義〕 (一)古ヘ、主上ノ御入浴ニ奉仕スル時、藏人ノ着用シタル白ノ生絹ノ衣。ユカタビラ [illegible]論語、鄕黨「[illegible]明衣、以布[illegible]沐浴衣也」 西宮記、臨時、四「明衣、古人沐浴之外、不服之」 吾妻鏡、四十九、正元[illegible]年十二月廿八日「御明衣二[illegible]」六月、頭首シハ五位藏人中、是モ出蘊ノ木、御湯殿ニ參ル、上ノ衣脫ギテ、上ニ明衣ヲ着タリ」 (二)神御衣ヲ奉ル時、又ハ、遷宮ノ時ナドニ、[illegible]

宜、内人タチノ着ル衣 [illegible]ノ着ル衣。ちはや(千早)ニ同ジ。(四)[illegible]シメテ、明衣ヲ着スルナルベシ。(日本[illegible]

めい-えつ (名) 名謁 なだいめん(名對面)ニ同ジ [illegible]亭有名[illegible]、ただいめん、北山[illegible]ヨメリ[illegible]

めい-おん (名) 命恩 イノチヲタスケラレタル恩。イノチノ恩。謠曲、合浦「鮫人淚ニ、[illegible]命恩ヲ、[illegible]」

めい-か (名) 名家 (一)世ニ名望アル家筋 [illegible] (二)公卿ノ家格ニテ、羽林家ノ次、諸大夫家ノ上ニ位スルモノニテ、頭ノ辨ヲ兼ネテ大納言ニ任ジ、極藹從一位ニ敍セラルル家柄。卽チ、勸修寺、萬里小路、甘露寺、小川坊城、淸閑寺、葉室、日野、烏丸、中御門、廣橋、竹屋、勘解由小路、柳原、三室戶、日野西、裏松ナドノ諸家ノ等 (光臺一覽、三) [illegible]家之號ニ (三)儒門ノ家筋。名譽ノ家ト云ハムガ如シ。卽チ、日野、南、式、菅

めい-か [illegible]

めい-か (名) 名歌 名高キ歌。スグレタ[illegible]

めい-かい (名) 冥界 めいど(冥土)ニ同ジ。ヨミヂ。黄泉。

めい-かい (名) 迷界 佛敎ノ語。マヨヘ[illegible]流浪スル衆生界ノ稱。

めい-かう (名) 名香 名高キ香。スグレ[illegible]サマノ名香ヲ合ラセ給ヘレバ、イミジウカウバシ」

めい-がう (名) 名號 トナヘ。名稱。又、[illegible]

めい-かく (名) 明確 アキラカニシテ、タシカナルコト。明瞭確實ナルコト。

めい-かん (名) 明鑑 (一)アキラカナル[illegible] (二)[illegible]

めい-かん (名) 冥感 冥冥ノ裡ニ感應スルコト。又、信仰心ノ神佛ニ通ズルコト。[illegible]

めい-かん (名) 銘肝 肝ニエリツケテ忘レヌコト。深ク心ニトメテ忘レヌコト。

めい-がら (名) 銘柄 商店ノ品柄ノ銘。

即チ、商標。

めいき (名) 明記 アキラカニシルスコト。ハッキリト記述スルコト。

めいき (名) 名記 名高キ記錄 [illegible]

めいき (名) 名器 名高キウツハモノ。戰國策、東周策「西周者故天子之國也、多名器重寶」

めいき (名) 銘旗 葬送ノ際ニ用ヰル死者ノ姓名ヲ記シタル旗。銘旌

めいぎ (名) 名義 (一)名トシテ立ツル義。名分 唐書、宋璟傳「名者不可以假人」 (二)名稱。名前。名目。中興書目 [illegible] 「他人ノ名義」

めいぎ (名) 名妓 評判高キ歌妓。陶元天寶遺事 [illegible]

めいきん (名) 鳴禽 サヘヅル鳥。陳與義、春日詩「朝來庭樹有鳴禽、紅綠扶春上遠林」

めいぎん (名) 名吟 〔說文「吟、呻也」增韻「吟、詠也」〕スグレタル詩歌。

めいきやう (名) 冥境 幽冥界ノ境域。ヨミ。コミヂ。黃泉。泉下

めいきやう (名) 迷境 迷妄ノ境界。五塵ノ外境ニ迷ヒテ、五欲ヲ起ス境界。即チ、三界六道。

めいきやう (名) 明鏡 又、みやうきやう。アキラカナルカガミ 淮南子、齊俗訓「夫明鏡便於照形、其於以函食、不如簞」 朗詠集、下「明鏡乍開隨境照、白雲不著下山來」

めいきゆう (名) 迷宮 (一)其内ニ入レバ、出口ヲ失ヒ、迷フヤウニ造リタル宮殿 轉ジテ、犯罪事件ナドノ、甚ダ複雜シテ、容易ニ判定シ難ク、搜索ニ迷フニ云フ (二)不可思議ナル世界

めいく (名) 名區 めいしよ(名所)ニ同ジ 頭陀寺碑「惟此名區、禪慧攸託」

〜めいくさ (名) 女軍 〔男軍ニ對ス〕 女子ニテ組立テタル軍隊。娘子軍 神武卽位前紀「[illegible]其策、乃出女軍」

めいくん (名) 明君 賢明ナル君主。明王 禮記、祭統「古者明君、爵有德而祿有功、必賜爵祿於大廟、示不敢專也」 朗詠集、下、風「[illegible]明君之魂」

めいくん (名) 名君 智德、政治的才能ナドノスグレタル君。名高キ君主。

めいくわ (名) 名花 名高キ花。又、美シキ花。[illegible] 開元天寶遺事〔五代、王仁裕〕「長安士子春時鬪花、[illegible]云云、皆以千金市名花」

めいぐわ (名) 名畫 名高キ畫、名人ノ畫キタル繪。元史、[illegible]傳「當暇日欲觀古名書、[illegible]」

めいくわい (名) 明快 條理アキラカニシテ心地ヨキコト。又、サッパリトシテ氣分ヨキコト。蘇軾詩「[illegible]明快[illegible]」

めいけい (名) 盟兄 〔親交ヲ盟ヒシ兄ノ意〕友人ヲ呼ブ敬語。

めいけう (名) 名教 人倫ノ名分ヲアキラカニ立テタル敎。聖人ノ敎。左傳、序、疏「敎之所存、名敎善惡、義存於此事」

めいげつ (名) 明月 曇リナク澄ミワタレル月。(多クハ十五夜ノ月ニ云フ) 李益、寫情詩「從此無心愛良夜、任他明月下西樓」 杜甫、秋風詩「不知明月爲誰好、早晚孤帆他夜歸」 朗詠集、下「晴月好同三五夜」 日次紀事、八月十五日「今夜、[illegible]明月」

めいげつ (名) 名月 〔明月ニ通ハシテノ名稱〕(一)光、アカルキ月。陰曆、十五夜ノ月。望月。(二)特ニ、陰曆、八月十五夜ノ月。つきみ(月見)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible] 「名月ヤ、池ヲメグリテ、夜モスガラ」

めいけん (名) 明驗 アキラカナル驗。元稹、[illegible]狀「理之明驗也」

めいけん (名) 名劍 名高キ劍。ヨキ劍。吳越春秋、[illegible]「使干將鑄作名劍二枚」

めいげん (名) 名言 (一)名高キ言葉。メイゴン。(二)スグレタル言葉。ヨキ言葉。晉書、山濤傳「[illegible]之曰、天下名言也」

めいげん (名) 明言 アキラカニ言フコト。ロキヨク言フコト。クチギレイ。戰國策、[illegible]「明言章理、兵甲愈起」

めいげん (名) 鳴弦 ツルウチ。ユミヅルウチ。弓弦ヲ引キ鳴ラシテ、物怪ヲ祓フコト。古ヘハ、天皇ノ御入浴、又ハ、御不例ノ時ナドニ行ヒ、今モ、宮中ニテ、御產ノ時ナドニ行フ。其狀ハ、弓ニ矢ヲ番ガズシテ、弦ヲ張リテ放チ、其鳴ル音ニテ、妖魔ヲ驚カシ恐レシムルヲ主トス 禁秘抄、下、雷鳴「近代如藏人、持[illegible]瀧口弓、候御緣、若瀧口少少召、御壺、令鳴弦」

めいご (名) 命期 壽命ノ期限。生キナガラフル限リ。謠曲、歌占「西クレナヰト見エタルハ、命期六爻ノ滅色ナレバ」

めいご (名) 迷悟 〔說文「悟、覺也」〕困知記「無所覺之謂迷、有所覺之謂悟」 まよへるコトト、さとれるコトト 傳法正宗記「迷悟[illegible]」

めいこう (名) 名工 [illegible] 記、輪人「謂之國工」注「國之名工」

めいこつ (名) 明骨 鰶魚、又ハ、鮫類ノ[illegible]

めいこん (名) 迷魂 [illegible]マシヒ。韓愈、李花詩「迷魂亂眼看不得」

めいごん (名) 名言 めいげん(名言)ノ一ニ同ジ。

めいさ (名) 榠樝 くわりん(榠樝)ニ同ジ。

めいさい (名) 明才 賢明ナル才能 スグレタル才 [illegible] 謠曲、藍染川「明才衆ニ越エ、明智世ニ勝レ」

めいさい[illegible] 明細 クハシク、コマゴマト。[illegible] 精密。クハシク、コマカニ。

めいさう (名) 瞑想 冥想 目ヲ閉ヂテ深ク考へ思フコト。現實ノ境界ヲ忘レテ或物事ヲ考へ思フコト [illegible]

めいさう (名) 迷想 マヨヘル思想。

めいさく (名) 名作 スグレタル製作。名高キ作品。[illegible]「常在公筵、歎析名作」

めいさつ (名) 明察 アキラカニ物事ヲ見ヌクコト 孝經、[illegible]「天地明察、神明彰矣」[illegible]

めいさん (名) 名產 名立タル產物。名物。

めいざん (名) 名山 名高キ山 書經、武成「告于皇天后土、所過名山大川」

めいし (名) 名士 スグレタル人。世間ニ能ク名ノ知ラレタル人 禮記、月令[illegible]

めい-し [illegible] 名ト名ニ [illegible] 團紙ニ [illegible] 竹木ヲ以テ [illegible] 名ヲ [illegible] 後以レ紙書、謂ニ之名紙ニ」 なふだ

（名札）ニ同ジ。[illegible]

めい-し (名) [名詞] ナコトバ。語學ノ語。[illegible] 有形、無形ノ物事ノ名稱ヲ云フ語 [illegible] 其中ニ、人、馬、川、山、ナド、普ク通ジテ用ヰル語ヲ、普通名詞ト云ヒ、[illegible] 武藏、富士、ナド、其人、其物ニ限レルヲ、固有名詞ト云フ。又、英語ノ Noun substantive ノ譯シテ、實名詞、又ハ、實體詞トモ云フ。

めい-し (名) [明示] 明カニシメスコト。[illegible]

めい-し (名) [明視] アキラカニ見ラルルコト。[illegible] 明視の距離トハ、眼ヲ勞セズシテ、物ヲ明カニ見得ル距離。普通ハ、眼ヨリ、八寸二分五厘（廿五糎）ノ所トス。

めい-じ (名) [明時] 明カニ治マレル時代。太平ノ世。[illegible] 明時之政化、寧カ無ニ御裁許ニ哉ト申タリケレバ」

めい-じ (名) [名辭] 〔英語、Term. ノ譯語〕論理學ノ語。概念ヲ言語ニテ言ヒアラハシ、命題ヲ構成スル要素トナルモノ。

めい-じつ (名) [名實] 名ト、實ト。となト、[illegible] 名譽ト、功績ト [illegible] 策、秦策「我一舉、而名實兩附」荀子、正名篇「異形離心[illegible]」

めい-しほう (名) [名詞法] 語學ノ語。動詞、形容詞ナドノ、名詞トナル法。例ヘバ、かすむガかすみ（霞）トナリ、かなしむガかなしみ（悲）トナル類。カクナリ [illegible]

めい-しゆう (名) [illegible]

めい-しん (名) [迷津] 津ハ船ヲ泊スルトコロヲ云フ」 船ヲ泊スルトコロニ、マヨフコト。人ノ三界六道ニマヨフサマヲ喩ヘテ云フ語 又、道ニマヨフコト [illegible]

めい-しん (名) [迷信] 迷妄ノ信仰。誤リマヨヒタル信仰。御幣カツギ。

めい-しん (名) [名臣] 名高キ臣。スグレタル臣。[illegible] 今天下名臣」

めい-じん (名) 名人 (一) 名高キ人。沙石集、七、下、第六條「常陸國、或所ノ地頭、京ノ名人、歌道人ニシラレタル女房ヲカタラヒテ」 (二) 藝術ニ勝レテ名立タル人。一藝一能ニ堪ヘタル人。名手。呂覽、四、孟夏紀「聖人生ニ於[illegible]」 (三) 圍碁、將棊ニテ、九段ノ伎倆アルモノノ特稱。又、德川幕府碁所ノ職員ニテ、歷世ノ中ニ就キテ伎倆ノ最上ナル者ノ受クル稱號。（八段ノ上） [illegible] 同時ノ碁打衆評ノ決議ニテ定ム。コレヲ名人成ト云ノ、下ニ上手、巧者ト次第ス [illegible] 將棊奇戰、上「九段（名人）、八段（半名人）ト云」

めい-せき (名) [碩鑑] カタジケナシト [illegible]

めい-せき (名) [illegible]

(元和、安樂庵策傳) 二「日雲者アリ、其ノ身ノ日八家リテ居ナガラ、日藥ハ天下一ナリト自慢シ」

めい-しやう (名) [名將] 名高キ大將。[illegible] ニ、スグレタル大將。[illegible]

めい-しやう (名) [名相] 名高キ宰相。[illegible] ニ、スグレタル宰相。賢相。賢宰。史 [illegible]

めい-しやう (名) [名匠] (一) 學術ニ勝レタルモノ [illegible] (二) 藝術ナドニ秀デタル人。名工。[illegible]

めい-しやう (名) [明匠] 〔聰明ナル師匠ノ意〕 名德アル僧侶ノ稱。高僧 [illegible]

めい-しやう (名) [明詳] アキノカニシテ、キヨノカナルコト [illegible]

めい-じやう (名) [迷情] 凡夫ノ昏迷轉倒セル情念。マヨヒノココロ。[illegible] 一、有王俊寬僧都[illegible] 哉、二空ノ滿月ヲ[illegible] ラ、生死長夜ノ迷情タル事ヲ」

めい-じやう・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) [名狀] 狀、貌、ヲ口ニ言ヒ取ル 其狀ヲ云ヒアラハス。「名狀すべからず」

めい-しゆ (名) 名主 名高キ主君 [illegible] スグレタル君主。

めい-しゆ (名) [明主] 賢明ナル君主。カ [illegible]

めい-しゆ (名) [盟主盟首] 同盟者中ノ牛耳ヲトルモノ。同盟ノ主宰者。左傳 [illegible]

めい-しゆ (名) [名手] スグレタル [illegible] ヘノ人、名人 [illegible]

めい-しゆ (名) [明珠] (一) [illegible] (二) [illegible]

めい-しゆ (名) [銘酒] (一) 格段ナル製法ニテ造リ、格段ナル銘アル酒 [illegible] 保命酒、ナド。(二) 轉ジテ、銘稱ヲツケタル酒。劒菱、正宗、ナド。

めい-しゆ (名) [名儒] 名高キ學者。有名ナル儒者 [illegible]

めい-しよ (名) [名所] ナドコロ。景色ナドニ格段ニ名立タル地。多クハ古人ノ歌ニコメル地ヲ云ノガ如シ。歌ナド、古跡ナリ。名勝。名區。勝地。[illegible] ハ、聞ユル名所ノ月ミントテ、思思ニ被レ出ニケリ」

めい-しよう [illegible] 名將 [illegible]

史ハ返ニ故紙ニ乎」

めい-しょう (名) [名稱] (一)ナ。ヨビナ。トナヘ。稱呼 (二)ホマレ。名聲。漢書、王吉傳「吉坐二[illegible]、世名[illegible]稱」不レ能レ及レ父」

めい-しょう (名) [明證] アキラカナル證據 明徵 書經、胤征篇、孔傳「聖人所レ謨之教訓、爲世明證、所以定國安家」

めい-しょ-づゑ (名) 名所圖會 各地ノ名所、古跡、神社、佛閣ヲ初トシ、其地ノ由來、沿革、物産等ヲ記シ、コレニ圖畫ヲ書キ加ヘタル書。諸國ニアリ。「江戸名所圖會、都名所圖會、大和名所圖會」

めい・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 瞑 (一)目ヲ瞑グ。目ヲツブル。目ヲ閉ヅ (二)眠ル 莊子、德充符篇「今子外乎子之神、勞乎子之精、倚レ樹而吟、據二槁梧一而瞑」 (三)死ス ミマカル 戰國策、[illegible]「有斷二頭決腹、一瞑而萬世不レ視、不レ知レ所レ益、以憂二社稷一者上」

めい・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 銘 (一)金石ニ名前、父、、其功ヲ記ス 韓愈、貞曜先生墓誌銘「[illegible]宗師[illegible]、告二葬期一徵レ銘、愈哭曰、嗚呼、吾尚忍銘二吾友一也夫」 (二)彫リツケタル如ク、シミコマス。深ク心ニトメテ忘レズ 顏氏家訓、北齊、顏之推、序致篇「今悔二昨失一、自憐無レ教、以至二於斯一、追二思平昔之指一、銘レ肌鏤レ骨」 肝に銘すトハ、深ク肝ニエリツケテ、常ニ思フヲ云フ 銘肝

めい・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(他動、左變) 命 (一)オホス。云ヒツク。下知ス。命令ス 書經、舜典篇「重華協二于帝一、濬哲文明、溫恭允塞、玄德升聞、乃命以レ位」 (二)名稱ヲ附ス。命名ス 史記、伍子胥傳「取二子胥尸一、[illegible]云云、浮二之江中一、吳人憐レ之、爲立二祠於江上一、因命曰二胥山一」

めい-すう (名) [命數] (一)イノチノカギリ。[illegible]「[illegible]八十一年、カナシ」 (二)運ノナリユキ 天ヨリ授ケラレタル運命。李頻、送二手生入一レ蜀詩「江山非二久適一、命數未二終奇一」

めい-すう (名) 名數 (一)人別帳 戸籍。漢書、高帝紀「民前或相聚保二山澤一、不レ書二名數一」 (二)數ヲ以テトナヘラルル名稱 卽チ、三公、四恩、五經、七福神ナドノ類。(三)數學ノ語 單位ノ名ヲ添ヘタル數 卽チ、三尺、五升、六斤、十圓ナドノ類

めい-すゐ (名) 明水 昔、支那ニテ、祭祀ニ供フル水 周禮、秋官篇、司烜氏「取二明火於日一、以レ鑒取二明水於月一、以共二祭祀一」

めい-すゐ (名) [名水] (一)名高キ川。名川。(二)聞コエタルヨキ水。名高キ淸水。俗つれづれ(元祿、西鶴)二「七所ノ名水」

めい-せい (名) [名聲] ホマレ。評判。荀子、王制篇「用二萬乘之國一者、威彊之所二以立一也、名聲之所二以美一也、敵人之所二以屈一也」

めい-せい (名) [銘旌] めいき(銘旗)ニ同ジ 杜牧詩「黃壤不レ知新雨露、粉書空換舊銘旌」 和漢三才圖會、葬祭紀略「銘旌、紅絹カ朱紙ニテ作リ、胡粉ニテ姓名之柩ト書ス」

めい-せい (名) [命世][名世] 一世ニ名アルコト。名高キコト。孟子、公孫丑、下篇「五百年必有二王者興一、其間必有二名レ世者一」趙岐、孟子題辭「直而不レ倨、曲而不レ屈、命世亞聖之大才者也」太平記、一「隱所停止事「モシ經巧ニツキテ是ヲ見レバ、命世亞聖ノオトモ稱シツベシ」

めい-せき (名) [明晳] [正韻、會點字晳、本从レ白、論孟史記皆訛从レ日、今不レ可レ改、故收入」五經文字「晳从レ白、相承多从レ日非」正字通、按、从レ白者、爲二白色之晳一、从レ日者、爲二明辨之晳一、二字義各異也」晳ハ、アキラカノ義」アキラカニ、ハッキリセルコト。

めい-せつ (名) [名[illegible]] 名[illegible]、[illegible]。ほまれト、みさをト。[illegible]

めい-せつ (名) [名說] スグレタルヨキ說。名高キ論說。卓說。

めい-せん (名) [名川] 著名ナル川。名高キ川。名水 禮記、月令篇「命二宰、歷二卿大夫至二于庶民一、土田之數、而賦二犧牲一、以共二山林名川之祀一」

めい-せん (名) [茗戰] (めい(茗)ノ條ヲ見ヨ) とうちゃ(鬪茶)ニ同ジ [illegible] (唐、馮贄)「建人謂[illegible]爲二茗戰一」「茗戰、鬪茶ノ遊戲、宋ノ代ノ文人[illegible]ニ抗ヘリ」

めい-せん (名) [銘撰][銘仙] [或ハ、綿綫、綿銑] 上等ノ練染シタル絲ヲ以テ、平織ニシタル絹布。「秩父銘仙」「綿銘仙」

めい-ソウ (名) [名僧] スグレタル僧。名德ノ沙門。南史、[illegible]「[illegible]、四部聽衆、常萬餘人」 延慶本、平家物語、一、本、「[illegible]所所ノ名僧、寺寺ノ別當」

めい-ぞく (名) 名族 名アル家筋 有名ナル家門。名望アル家柄。名門。史記、項羽紀「[illegible]名族[illegible]」 漢書、霍光之傳「石顯本山東名族、有[illegible]也」

めい-た (名) [目板] 板ノツギ目ノ所ニ打チツケタル狹キ板。卽チ、板塀、又ハ、羽目ナドノ、板ト板トノハギメヲ蓋フ細長キ板。天神記(正德、近松作)二「舟ノ屋形ニクモデヲ結ヒ、目板ヲウ、テ釘付ニシ、云云」

めい-たい (名) [雌犬][牝犬] メイヌノ稱。

めい-だい (名) [命題] [英語、Proposition.ノ譯語] 論理學ノ語 判斷ノ結果ヲ言辭ニテアラハシタルモノニシテ、主辭、賓辭、及、繫辭ヨリ成ル。例ヘバ「白馬ハ馬[illegible]」[illegible]ノ「白馬」ハ主辭、「馬」ハ賓辭、「アラズ」ハ繫辭ナリ。

めいたい-ぎょ (名) [明太魚] みんたあ(明太)ノ條ヲ見ヨ。

めい-たう (名) [名刀] スグレテヨキ刀。名高キ刀劍。[illegible]

めい-たう (名) [銘刀] 銘ヲウチタル刀 鍛工ノ名ヲ刻メル刀

めい-たう (名) [明刀] [趙ノ新明邑ニテ鑄造シタル故ニイフ] 支那ノ古代ノ貨幣ノ名。たう(刀)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

めい-だう (名) 明堂 [三禮圖、[illegible]「明堂、天子布政之宮也」] 天子、又ハ、王者ノ布政ヲ行フ宮殿 又、政堂 朝廷 孟子、[illegible]下篇「夫明堂者、王者之堂也」

めいた-がれひ (名) [目板鰈] 鰈ノ一種。形、稍、狹ク長ク、扁薄ニシテ、長サ尺ニ近ク、右片ハ灰黑色ニシテ茶褐ノ斑、稍、粗ク、左片ハ雪白ニシテ横細ノ鱗アリ 口、甚ダ小サク、傍ニ、兩眼、高ク出ヅ 泥沙底ノ海中ニ棲息ス

めい-たつ (名) [明達] アキラカニ物事ノ理ニ通達セルコト。萬事ニ聰キコト。ハツメイ。荀子、賦篇「百姓待レ之而後寧也、天下待レ之而後平也、明達純粹而無レ疵也」

めい-たふ (名) [明答] アキラカニ答フルコト。ハッキリト答フルコト。又、其答。

めい-たん (名) [明旦] 又、みゃうたん。ア

スノ[illegible]

めい・たん (名) [明斷] アキラカニ裁斷スルコト。又、ソノ裁斷。後漢書、孔融傳「[illegible]」

めい・ち (名) [明知] アキラカニ知ルコト。

めい・ち (名) [明智] アキラカナル智慧。[illegible]

めい・ち (名) [名地] 名高キ土地。有名ナル[illegible]。字彙[illegible]名勝ノ名地ゴトニ、歩ミヲ運バズト云フコトナシ」

めい・ちや 名 [銘茶] 格段ノ製法ニテ造リ、格段ノ銘アル茶。

めい・ちやう (名) [明暢] (一)論旨アキラカニ、筋道ノ通レルコト。(二)音聲アキノ[illegible]シテ通ルコト。宋史、[illegible]傳、[illegible]所[illegible]

めい・ちやう 名 [名帳] (一)姓名ヲ記スル帳。[illegible]兵簿」注「兵籍、軍士之名帳」職員令、式部省「卿一人」[illegible]ソノ一二大帳ノ一種。古ヘ、戸主ヨリ官ニ出ス帳簿。即チ、戸内ノ人數、容貌、年齢、及、課不課ナドヲ記シタルモノ。又、手實、主計寮式、[illegible]

めい・ちゆう (名) [螟蟲] ぞゐむし(螟蟲) [illegible]「[illegible]螟蟲、食[illegible]」

めい・ちゆう 名 [命中] [漢書、李陵傳、注「命中者、所レ指名處、即中レ之也」] 狙フ處ニ、矢、彈丸ナドノ、中ルコト。的中。[illegible]

めい・ちん (名) [名珍] [illegible]「[illegible]」

めい・ぢ (名) [名治] [illegible]ルシキコト。アラハレタルコト。著明。

めい・ぢう (名) [明證] [illegible]スルコト。又、ソノ證據。明證。陸機詩「[illegible]」

めい・ぢう (名) [明澄] アキラカニスムコト。スミワタルコト。[illegible]

めい・てい (名) [酩酊] 甚ダシク酒ニ醉ヘルコト。杜牧、九日詩「但將ニ酩酊酬ニ佳節ヲ不レ用[illegible]」[illegible]十一月[illegible]

めい・でう (名) [明定] [illegible]定メラレタル條項。

めい・てき (名) [鳴鏑] かぶら(鏑)、及、かぶらや(鏑矢)ノ條ヲ見ヨ。史記、匈奴傳「[illegible]」

めい・てつ (名) [明哲] 智ノ勝レテ聰キコト。又、其人。書經、説命、上篇「知レ之曰ニ明哲ト」[illegible]

めい・てんし (名) [明天子] 聰明ナル天子。史記、[illegible]

めい・ど (名) [冥土] [冥途] 佛説ニ、亡者ノ魂ノ往ク處ト云フ。地下ニアリト。闇魔ノ廳ノアル處。クラキミチ。ヨミヂ。サクノヨ。アノヨ。冥府。冥界。幽界。地獄。[illegible]

めい・どう (名) [鳴動] ナリウゴクコト。

めい・とく (名) [明德] (一)靈異ナル德。[illegible](二)[illegible]

めい・とく (名) [名德] 名[illegible]德行アルコト。又、ソノ人。又、ソノ僧。

めい・にち [命日] [illegible]ノ略、又、捨命日ノ略トモ云フ) きにち(忌日)ニ同ジ。(追善回向ナドスルニツキテ云フ、古ヘハナシ) 康富記、文安四年四月[illegible]

めい・ば (名) [名馬] スグレタル馬。晉書、[illegible]

めい・はう (名) [名方] 名高キ處方[illegible]有名ナル[illegible]名方、不老不死ノ藥ヲ、ハヤ一廻リ飲ダレバ」

めい・ばう (名) [名望] 他人ヨリノ好キ評判。晉書、[illegible]傳「道德名望、抗不レ及」[illegible]十一、小松殿熊野詣事「今生ノ名望ヲ抛ッテ、來世ノ菩提ヲ求メンニハト、云云」

めい・はく (名) [明白] アキラカニシテ疑ヒナキコト。又、アキラカニスルコト。[illegible]

めい・はふ (名) [明法] (一)アキラカナル法度。又、法律ヲ明ニスルコト。[illegible](二)支那ニテ、古代、官吏登用ノ試驗科目ノ名、法律ヲ主トスルモノ。[illegible]

めい・び (名) [明媚] 風景ノ清ラカニシテ美シキコト。山水ノ清ラカニシテ景色[illegible]

めい・ひつ (名) [名筆] [illegible]

めい・びん (名) [明敏] 事理ニアキラカニ[illegible](貞享、西鶴)二「都ノ名醫集メニ入リタル男」[illegible]公、以ニ德行明敏人ニ[illegible]

めい・ふ (名) [明府] (一)地方ノ長官ノ敬稱。[illegible](二)飲酒ノ時、酌ヲナス人。字類抄「明府、メイフ、[illegible]酒之人也」

めい・ふ (名) [冥府] めいど(冥土)、又ハ、[illegible]四、[illegible]「有レ人入ニ冥府ニ見レ[illegible]云云」

めい・ふく (名) [冥福] 又、みやうふく。亡人ノ冥福。又、人ノ死後ノ功德ノ爲ニ、一佛事ヲ營ムコト。[illegible]

めい・ぶつ (名) [名物] (一)名立タルモノ。有名ナルモノ。[illegible]其土地ニテ[illegible]名高キ品。[illegible]國紀行(天文、宗牧)「日坂トカ云フ茶屋ニ休ミテ、[illegible]

ナル荷物ナド持ホド、此山ノ名物ナリトテ、蔵モチキト云フ物、シスマシテ出シタリ」

めいぶつ-ぎれ (名) 名物切 名物ナル古書畫ノ斷片 雲舟、十一 本阿彌古筆ノ內ニ、名物切レト稱スルモノハ、小野道風ノ書、本アミギレト云フモノ第一ナリ、唐紙地ニ書タルモノナリ」

めい-ぶん (名) [名分] 名義ニヨリテ表ハサレタル人倫上ノ分際 卽チ、人ノ日用常行ニ就キテ、臣ハ臣ノ道ヲ守リテ、君ノ分ヲ犯スコトヲ得ズ、子ハ子ノ道ヲ守リテ、父ノ分ヲ犯スコトヲ得ズ、妻ハ妻ノ道ヲ守リテ、夫ノ分ヲ犯スコトヲ得ズ、ト云フ如ク、カカル名教ヲ維持スル要旨ナリ。 莊子、天下篇「易以道陰陽、春秋以道名分」「大義名分」

めい-ぶん (名) [名文] スグレテ佳キ文章。又、有名ナル文句。

めい-ぶん (名) [明文] (一)文書ニテアキラカニ規定シタル條項 漢書、王莽傳「周爵五等、地四等、有明文」 (二)大イニ明カナル文 寬大ニシテ叡明ナル文章。 蔡邕、[illegible]賦「[illegible]帝之休德、揚[illegible]之明文」

めい-べん (名) [明辯] 明瞭ナル辯舌、又、辯明 「文信明辯(書名、明、徐師曾著)」

めい-ぼ (名) 名簿 (一)みやうぶ(名簿)ニ同ジ。 大學寮式「凡學生入學者、豐錄名簿、每日點檢」 (二)姓名ヲ記ス帳 名帳 唐六典(唐、玄宗皇帝)「凡衞士各立名簿」

めい-ぼう (名) [明眸] アキラカナルヒトミ。又、アザヤカナル目モト。 曹植、洛神賦「丹脣外朗、皓齒內鮮、明眸善睞、靨輔承權」

〔**めい-ぼく** (名) [面目]〕 (面ノめにニ轉ジ、更ニめいニ轉ジタル語) めんぼく(面目)ノ讀癖。 宇津保物語、初秋八十六「カヘリテめいぼく

アリト、昔ヨリキコシメシカケテ」 同、樓上、下五十四「限リナキめいぼくヲヒロメント云ヒ出ダシ」 源、五、若紫「何ノめいぼくニテカ、又、都ニモ歸ラン」

めい-ぼく (名) [名木] (一)由緣アリテ名高キ木 [illegible](宋、[illegible])「[illegible]求異石名木、[illegible]列左右」 [illegible]、元結、[illegible]名木[illegible] 著聞集、十九、草木、貞信公、云云、ソノ木、[illegible]右ナキ名木ニテ、イマダアリ」 (二)伽羅ノ異稱。又、名の木。 淨瑠璃、伽[illegible]代萩」

めい-ぼく (名) [銘木] 唐木類ニテ、床柱、床板、框(カマチ)、ナドニ用ヰル良材。

めい-まう (名) [迷妄] 事理ニ暗ク、虛ヲ實ナリト誤リ思フコト [illegible] 謠曲、[illegible]「[illegible]我等迷妄ノ衆生トシテ、死ヲバイカデノガルベキ」

めい-みゃく (名) [命脈] タマノヲ。生命。又、生命ノツヅクコト [illegible]、與[illegible]太師[illegible]通奉帖跋「護公道如命脈、惜人材如體膚」

めい-む (名) [迷霧] (一)方角モ分ラザル程ノ深キキリ。(二)心ノマヨヒヲキリニ譬ヘテ云フ語。

めい-む (名) [迷夢] ユメノ如クマヨヒテ、定マラザル思慮。「迷夢ヲ醒ス」

めい-めい (名) [命名] 名稱ヲ附スルコト。ナマヘヲツクルコト。「命名式」

めい-めい (名) [明命] 神明、又ハ、君主ノ命令。 書經、咸有一德篇「克享天心、受天明命、以有九有之師、爰革夏正」

めい-めい (名) [明明] アキラカナルコト。又、アキラカナルモノ。 書經、呂刑篇「明明棐常、鰥寡無蓋」

めい-めい (副) [明明] アキラカナル狀ニ云フ語。 盛衰記、四十一、實平自西海飛脚事「夜ノ月明明トシテ、水ニ移ル影、鎧ノ袖ヲ照シケリ」

めい-めい (副) [冥冥] 又、みやうみやう。 (一)アラハナラズシテ、知覺スベカラザル狀ニ云フ語 荀子、[illegible]無冥冥之志者、無昭昭之明[illegible] (二)[illegible]キ狀ニ云フ語 [illegible]物語、[illegible]更ニ冥冥タリ」

めい-めい (副) [銘銘] 〔面面(メンメン)ノ轉、面目(メイボク)ト同趣〕 (一)オノオノ。一人一人。各人。各自 俗つれづれ(元祿、西鶴)[illegible]長旅ノめいめい一度ニ立歸リテ」 (二)ドレモコレモ ソレゾレ [illegible]官を追掛參る事「武藏坊ト申スハ、異朝我ガ朝ノ合戰ノ[illegible]、めいめいニ存ジタル者ニテ」

めいめい-がき (名) [銘銘書] 〔銘銘ノ條、參見セヨ〕 一ツノ書幅、又ハ、額ナドヲ、數人ノ人人ニテ書クコト。ヨセガキ 好色一代男、天和、西鶴 七「是レニヨセテノ[illegible]歌、公家衆八人ノ銘銘書、世間ノ寶物ニモ稀ナリ」

めいめい-がひ (名) [銘銘買] 〔銘銘ノ條、參見セヨ〕 各自ニ買フコト アミテン二買フコト 俗つれづれ、元祿、西鶴、五、每日ノ[illegible]油、銘銘買ニスルモ不便ナレバ、云云」

めいめい-すぎ (名) [銘銘過] 〔銘銘ノ條、參見セヨ〕 各自ガ働キテ世ヲ過スコト。銘銘ニカセグコト。共カセギ 萬の文反古(元祿、西鶴)二「婦夫(メフト)ハ、銘銘過イタセバ」

めいめい-てう (名) [命命鳥] 〔梵語、Jiva-jivaka. 又ハ、Jivamjivaka. (耆婆耆婆、又、耆婆耆婆迦)ノ譯語、耆波耆波ハ、元來、鳴聲ニヨリテ云ヘルモノナレド、耆波ニ生命ノ義アルヲ以テ名トス〕 又、みやうみやうてう。鷓鴣ノ類ナリト云ヒ、

[illegible] 雜寶藏經ニハ共命之鳥ト云ヘリ。 [illegible]

めいめい-ばらひ (名) [銘銘拂] 〔銘銘ノ條、參見セヨ〕 各人別別ニ支拂フコト。 好色五人女(貞享、西鶴)[illegible]ニシテドリケル」

めいめい-ほん (名) 銘銘盆 〔菓子ナドヲ載セテ、各人ニ供スル故ニ云フ、銘銘ノ條、參見セヨ〕 ちゃつ(楪子)ニ同ジ。

めい-めつ (名) [明滅] (一)或ハアカルク、或ハクラクナルコト。又、見エタリ、隱レタリスルコト。 杜甫詩、回首叫虞舜、[illegible]旌旗晚明滅」 (二)燈火ノトボリ、又ハ、キユルコト [illegible]得夜深燭[illegible]一燈明滅[illegible]」

めい-もう (名) [溟濛] クモリテ、クラキコト。又、雨ナドノ降リテ、小暗キコト。 張[illegible]詩「只因[illegible]溟濛[illegible]」 [illegible]元祿、近松作[illegible]

めい-もく (名) [瞑目] (一)目ヲ瞑グコト。目ヲ閉ヅルコト 晉書、楊[illegible]傳「[illegible]奇之士也、造而談經、輒瞑目不答」 (二)死ヌルコト 後漢書、馬援傳「吾受厚恩、年迫餘日、索、常恐不得死國事、今獲所願、甘心瞑目」

めい-もく (名) [名目] みやうもく(名目)ニ同ジ。 隋書、裴矩傳「諸國山川、未有名目」

めい-もん (名) [銘文] 又、めいぶん。(一)銘トシテ記セル文言。多クハ金石、又

ハ[illegible]路ノ[illegible]フ[illegible]路後記、廿六、毛寶放龜事「是ヲ見レバ、毛寶ガ放セシ龜ナリト云フ銘文アリテ、其後、水ニ入ニケリ」(二)心肝ニ深クキザミ付クベキ要文。

めいもん (名) [名門] 名聲アル家ガラ。名族。名家。門閥。[illegible]

めいもん (名) [命門] 漢方醫ノ語。前陰ノ中、精血ノ門、卽チ、經水ノ通ズル孔ト云フ。黃庭經「上有黃庭、下有關元、前有幽闕、後有命門」[illegible]

めいやく (名) [盟約] チカヒテ約束スルコト。契約。史記、[illegible]

めいよ (名) [名譽] (一)ホマレアルコト。身ノ好キ評判。ホマレ。[illegible]「武勇ノ名譽、長ジ給ヘルニ依ッテ」(二)上手ナルコト。[illegible] (三)名高キコト。著名ナルコト。有名。[illegible]ナキ強盜、名譽ノ大剛ノ者ニテ候」

めいよしよく (名) 名譽職　俸給ヲ受ケズ、名譽トシテ従事スル職務

メイ-ロウ
めいらう (名) 明朗　アキラカニ、ホガラカナルコト。又、アキラカニシテ潔キコト。[illegible]何晏[illegible]太傅明朗[illegible]弘毅、可二以託二六尺之孤一國之宗臣二者也」

めいり (名) 名利　又、みやうり　名譽ト、利益ト。[illegible]

メイ-リュウ
めいりう (名) 名流　[illegible]

メイ-リヨウ
めいりやう (名) [明兩] (易經、上象傳「明兩作レ離、大人以繼レ明照二于四方一」疏「明兩作レ離、不レ絕之義也」トアル本ヅク)、皇太子ノ明ヲ、皇太子繼ギテ、又明ナルヲ云フ二くゎうたいし(皇太子)ノ異名。又、明兩[illegible]立二明兩一(寬文本)

メイ-リヨウ
めいりやう (名) [明亮] アキラカニ、ホガラカナルコト。

め-い・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [滅入] (一)滅シ入ル。意氣沈ミテ陰鬱トナル。[illegible]「久シク此[illegible]めいりケルガ、云云」[illegible]入リ込ム。メリコム。武家義理物語、[illegible]四、此大、竹藪ノ下ニホソク流レ込ミ、云云、見シウチニめいりテ、村モユガミ、壁モコボレ」

めいれい (名) [命令] (一)オホセ。イヒツケ。下知。(二)帝國議會ノ協贊ヲ經ズシテ、發セラルル法規。天皇、及、行政官廳、之ヲ發ス。天皇ノ渙發シ給フ命令ヲ、特ニ敕令ト稱ス。官廳ノ發スル命令ニハ、閣令、省令、府縣令、警視廳令ナドアリ。

めいれい (名) [螟蛉] あをむし(青蟲)ニ同ジ。[illegible]「螟蛉有レ子、蜾蠃負レ之」

めいれいけい (名) 命令形　次條ノ語ニ同ジ。

めいれいはふ (名) [illegible]「勤ム」「有リ」ナドヲ、「讀メ」「落チヨ」「勤メヨ」「有レ」ナド用キルガ如シ。下知法、命令形。[illegible]「語法指南」ノ動詞ノ條ヲ見ヨ。

メイ-リヨウ
めいれう (名) [明瞭] アキラカナルコト。明白。明亮。郭熙、山水訓「人物之在二三[illegible]

めいろ (名) [目色] 目ノイロ。[illegible]

めいろ (名) [冥路] めいど(冥途)ニ同ジ。[illegible]

めいろ (名) [迷路] (一)マヨヒノミチ。又、マヨヒヤスキミチ。[illegible] (二)耳ノ最モ内部ニアル前庭ト三半圓管トノ併稱。一ニ内耳トモ云フ。

メイロ (名) [迷盧、迷廬] そめいろ(蘇迷盧)ノ略。其條、及、すみせん(須彌山)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]頂ヨリモ猶高キ父ノ恩、忽ニ忘レントス」

めいろん (名) [名論] スグレテヨキ論。[illegible]

メイ-ワウ
めいわう (名) 名王　名高キ君主。[illegible]

メイ-オウ
めいわう (名) 明王　賢明ナル君主。明君。書經、周官篇「明王立レ政、不二惟其官一、惟其人」[illegible]

めいわく (名) [迷惑] (一)マヨヒマドフ[illegible]

めいゑん (名) [名園] ナダカキ庭園。有名ナル[illegible]平家物語、五、成親宮事「御田舍ノ賤シキニノミ馴レテ、カカル皇居ニ慣レザル故ニ、心迷惑ス」[illegible]

メイ-エン
めいゑん (名) [illegible]

めう (名) [妙] (一)タヘナルコト。甚ダ巧ミナルコト。[illegible]之妙、無二復餘蘊一」(二)フシギナルコト。奇妙。[illegible](元和、安樂院策傳)七「カタノゴトクノ下手大工、云云、妙ナ聞キヤウヤ」(三)めう(針妙)ノ略。其條ノ(一)ヲ見ヨ。

めう (名) [廟] [めうハ呉音] べう(廟)ニ同ジ。字類抄「廟、メウ、亦作レ庿」

ミヨウ-アン
めうあん (名) [illegible]

ミヨウ-オン
めうおん (名) [妙音] タヘナル聲音。又、[illegible]

ミヨウ-オン-テン
めうおんてん (名) [illegible]べんざいてん(辯才天)ノ異稱。其條ヲ見ヨ。[illegible]

ミヨウ-オン-ボサツ
めうおんぼさつ (名) [illegible]天ノ名ハ、各別ナリトハ申セ共、本地一體ニシテ」

ナル音聲ヲ以テ、遍ク十方世界ニ教ヲ弘宣スト云フ菩薩。法華經、妙音菩薩品 [illegible] 「[illegible]」 獅子吼菩薩ニ」 字類抄「妙音菩薩」

めうが (名) 蘘荷 〔めかノ音便、俗、茗荷ハ當字、茗ハ茶ナリ〕 (一)古名、めか。蘘荷科ノ多年生草本ノ名。山谷、或ハ、竹木ノ林中ニ生ジ、常ニ畠ニモ植エテ栽トス。春、宿根ヨリ苗ヲ生ズ、めうがたけト云フ、形、略、生薑ノ苗ニ似タリ。長ジテ高サ二三尺、根ノ旁ニ黄ナル花ヲ生ズ、めうがのこト云フ、形、筍ノ如クニシテ、二三寸、めうがたけト共ニ、採リテ食用トス。 康頼本草、下「白蘘荷、ミヤウカ、女加」 狂言記、鈍根草「めうがト蕣トガ御座リマスル」 (二)俗ニ、ぎゃうえふ(杏葉)ノ異稱。 (三)愚ナル人ノ異稱。(蘘荷ヲ多ク食ヘバ、愚鈍ニナルト云フ俗説ニ因ルカ) 柳樽「大門ヲ、ハイルめうがニ、出ル牛蒡」

めうかう (名) 佛ニ供スル香木。

めうかうせん (名) 妙高山 しゅみせん(須彌山)ニ同ジ。 祕藏記(空海)本「蘇迷盧者、此云妙高也、故曰妙高山」 倶舍論、十一「妙高山王、四寶爲體」

めうかく (名) 妙覺 又、めうがく。佛經ノ語。無上ノ眞ノ覺、究竟ノ悟。佛果ノ無上正覺ヲ云フ。 三藏法數、廿六「自覺他、覺行圓滿、不可思議、故名妙覺性」 保元物語、一、法皇崩御事「無常ノ境界ハ、刹利モ首陀モカハラネバ、妙覺ノ如來、猶因果ノ理ヲ示シ」

めうがざめ (名) ふか(鱶)ノ異名。

めうがだけ (名) 蘘荷茸 めうが(蘘荷)ノ條ヲ見ヨ。

めうぎ (名) 妙技 スグレテ巧ナルワザ。微妙ナル技術。又、其腕前。 [illegible]

めうきゃう (名) 妙境 (一)タヘナルトコロ。不思議ナル境界。佳境。又、至妙ナル體。 杜甫、前出塞詩 [illegible] 「似諸似遷、最是樂府妙境」 (二)音樂ナドノ至極ナルトコロ。

めうきゃう (名) 妙經 〔微妙ノ法ヲ説ケル經文ノ意カ、或ハ、妙法蓮華經ノ略カ〕 法華經ヲ云フ。 謠曲 [illegible] 「[illegible] 叶フコノ妙經ヲ弘メツツ」

めうくゎ (名) 妙果 至妙ノ結果ノ意。佛教ノ語。佛果ヲ得テ如來ノ位置ニ到達シタルコト。 金剛經 [illegible] 「[illegible] 勝因必定妙果」 盛衰記、三、一院女院嚴島御幸事「來世證ニ妙果ヲ佛之土ニ」

めうくゎう (名) 妙光 靈妙ナル光明。不可思議ナル光。 謠曲、舍利「ゲニ目前ノ妙光ノ影、此ノ御舍利ニ如クハナシ」

めうけい (名) 妙計 スグレテ巧ナルハカリゴト。巧妙ナル謀。妙策。妙算。

めうけん (名) 妙見 〔梵語、Sudarśana.ノ譯語〕 佛家ニ祀ルモノ。妙見大士、妙見菩薩ナドト云ヘド、經中、其本地ヲ明カサズ、諸説亦區區タリ。或ハ釋迦トシ、或ハ觀音トシ、或ハ藥師トス。一般ニハ北斗七星ノ名トス。 七佛八菩薩所説大陀羅尼神呪經、二「我北辰菩薩、名曰妙見、今欲説神呪擁護諸國土、所作甚奇特、故名曰妙見」 字類抄「妙見」 同「妙見菩薩」 [illegible] 「[illegible] 一妙見菩薩北斗七星、衆星中最勝、云云」

めうさく (名) 妙策 めうけい(妙計)ニ同ジ。

めうさん (名) 妙算 めうけい(妙計)ニ同ジ。 晉書、石苞傳「漢高祖ニ陳平之計行、而取其六奇之妙算」

めうし (名) 牝牛 メスノ牛。ウナメ。牸 字類抄「牸、メウシ」 [illegible]

めうじ (名) 苗字 苗氏 〔名字、ノ當字、其郷里、本貫ノ名、田ノ字ヲ稱セシニ起ル、名字ノ紛レヤスキニ因リテ、苗裔ノ苗ニ書キカヘタルナラムト云フ〕 字ノ稱號。うぢ(氏)、姓、みゃうじ(名字)ノ條ヲ見ヨ。(中昔ニハ、源、平、藤、橘ハ、同ジ姓ノ人、數知ラズ、サレバ名號ヲ姓ト名トヲツラネテモ、名字ト云ヒキ) レガ子ノ事モ、父ノ事モ同苗ト云フモ、同名ニテ同姓ノ由ナリ。

めうしゃうごん (名) 妙莊嚴 〔過去世ニ出テタル國王ノ名〕 妙莊嚴王ノ略。過去無數劫ニ、雲雷音宿王華如來ト云フモノアリテ、法華經ヲ説ク時、妙莊嚴ト云フ國王、外道婆羅門ノ法ヲ信ジテ、佛法ヲ信ゼズ、然ルニ國王ノ夫人(淨德)、二子(淨藏、淨眼)ト共ニ、深ク王ヲ諫メ、遂ニ佛法ニ歸セシメ、如來ノ許ニ至リテ、法華經ヲ聞カシメシカバ、王、因リテ佛法信者ニナレリト。(法華經、第廿七品、妙莊嚴王本事品) 十訓抄、中、第五、第十八條「妙莊嚴王ノ邪見ナリシ、淨德夫人ノ勸ニヨリテ、惡報ヲヒルガヘシテ、善趣ニイタリ給ヒ」

めうしゅ (名) 妙手 極メテスグレタルウデマヘ。又、ソノ人。名人。上手。

樂府解題「伯牙爲天下妙手」 蔡洪 [illegible] 「[illegible]」 [illegible] 「妙手、メウシュ、又云、上手」

めうしゅ (名) 妙趣 タヘナル趣味。イフニイハレザル興趣。妙味。妙致。 [illegible]

めうじゅつ (名) 妙術 巧妙ナル術。又、靈妙ナル術。 [illegible]

めうしょ (名) 妙所 妙處 靈妙ナルトコロ。イフニイハレヌ趣味ノトコロ。 [illegible] 書言故事(宋、胡繼宗)六 [illegible] 「當ニ是其妙處不可傳耳」 [illegible]

めうしんじは (名) 妙心寺派 臨濟宗ノ一派。關山國師ヲ派祖トシ、山城國、葛野郡、花園村(今ノ京都市、右京區)ニアル正法山妙心寺ヲ本山トスルモノ。

めうせき (名) 妙迹 めうひつ(妙筆)ニ同ジ。 [illegible]

めうぜつ (名) 妙絕 ぜつめう(絕妙)ニ同ジ。 [illegible] 「[illegible] 妙絕、メウゼツ」 (文選註、謂過人也)」

めうそく (名) 妙足 〔足ニテ蹴ル故ニ云フ〕 ケマリニ巧ナル人。蹴鞠ノ名手。 近代世事談(享保、菊岡沾涼)三、蹴鞠「栗本光輔、云云、此ノ人、近世ノ妙足ナリ」

めうだう (名) 馬道 〔めだうノ延〕 めだう(馬道)ニ同ジ。 十訓抄、上、第一、第十五

[illegible]ニ[illegible]ウィ)ニタタズミケルニ、云云」

めうち (名) [目打] 文具ノ一。せんまいどほし(千枚通)ニ同ジ。

めうつし (名) [目移] 見ル目ヲ他ノ上ニ移スコト。目ヲ他ニ移シテ見ルコト。[illegible]源、八、花宴「次ニ頭ノ中将、人ノめうつしモ、タダナラズ覺ユベカメレド、云云」

めうつり [illegible] [目移] 見ル目ノ[illegible]物ニ移リ變ハルコト。他ノ物ヲ見テ心ノ迷フコト。狹衣、三、下「萬ニ口惜シキ目うつりノ、イトドシキナメリシカシ」

めうてき ミヤウ・テキ (名) [妙迪] [illegible]奇妙ナルコト[illegible]

めうてん ミヤウ・テン (名) [妙典] 〔微妙ノ法ヲ説ケル[illegible]〕[illegible]妙ナル意ヲ説ケル[illegible]「妙典、メウデン」教行信證(親鸞)一「如來興世之正[illegible]

めうと ミヤウ・ウト (名) [夫婦] めをと(夫婦)ノ音便。[illegible]人倫[illegible]夫、メウト」狂言記、米市「ソレ程ゴザレバ、ザット年ヲめうとノ若ガトリマス」

めうどうボサツ ミヤウドウ・ボ・サ・ツ (名) [妙幢菩薩] 佛教ノ語。夢ヲ支配スル功徳アリト云フ菩薩。故ニ、此菩薩ヲ念ジテ眠レバ、必ズ戀シキ人ヲ夢ニ見ルト云フ。(此菩薩、夢中ニ於テ、婆羅門ノ妙金鼓ヲ撃ツヲ見、懺悔ノ法ヲ明ツ、[illegible]シタルヲ、世尊ニ[illegible]故事ニ因ル。最勝王經、夢見金鼓懺悔品[illegible]人ノ、

めうどまげ ミヤウト・マゲ (名) [夫婦髷] 又、めをとまげ。女ノ結髪ノ一。江戸時代ニ、二十[illegible]

めうねん (名) [妙年] 〔諸聲品字箋(清、虞德升)「妙年、小年也」〕 めうれい(妙[illegible]杜甫詩「忌」聖登二黄閣」明公獨妙年」

めうひつ (名) [妙筆] 極メテ巧妙ナルノ[illegible]

めうへ メ・ウヘ (名) [目上] 己レヨリ高キ地位、階級ノ親族。(父母、祖父母、伯叔父母、兄姉ナド)[illegible]官位ノ間ニ、身分ノ、己レヨリ尊キ人ノ稱。己レヨリ卑キモノヲ目下トス(子孫、弟、妹、甥、姪、奴婢ナド)卑屬

めうほふ ミヤウ・ホウ (名) [妙法] 〔梵語、薩達磨(Saddharma.)ノ譯語、第一最勝ニシテ不可思議ノ法ノ意〕佛教ノ語。タヘナル法門。極メテスグレタル道。特ニ、妙法蓮華經ノ敬稱[illegible]十八、釋教「妙法ノ、唯一ツノミ、アリケレバ、又ニツナシ、又三ツモナシ」

めうほふれんげきやう ミヤウホウ・レン・ゲ・キヤウ (名) [妙法蓮華經] 略シテ、法華經。其條ヲ見ヨ。又、南無妙法蓮華經ノ七字ノ中ニ、經文全部ノ深義ヲ總括シ、コレヲ唱フレバ、最上ノ修行ナリトス。世ニコレヲ題目ヲ唱ふ

めうま (名) [牝馬] [illegible]名抄、十一牛馬類「牝馬、一名騲馬、米蒿」字類抄[illegible]牝馬孕ニ於己家ニ便使ニ放除ニ浜(?)其馬ニ」

めうみ [illegible]

めうもん ミヤウ・モン [illegible]妙ナル文[illegible]巧妙ナル文[illegible]法華[illegible]妙文、九テウノ御書モ置カレタリ」

めうやく ミヤウ・ヤク (名) [妙藥] キキメノ妙ニ功能アル藥。[illegible]言字考節用集、九、言辭門「妙藥、メウヤク」

めうよう (名) [妙用] タヘナルハタラキ。フシギナル作用。[illegible]

めうり ミヤウ・リ (名) [妙理] 奇妙ナル道理。フカシギナル理。[illegible]衆生之籍根、法本不」然、至人之妙理」

めうれい (名) [妙齡] 〔妙ハ少小ノ意〕年ノ若キコト。若キ程ノ年頃。妙年[illegible]

めうれい ミヤウ・レイ (名) [妙麗] スグレテウツクシキコト。[illegible]

メエトル (名) 米 米突 [illegible]Metre.] (一)めえとる法ニ於ケル長サ

[illegible]ハ殆ンド世界各國ニ採用セラル (二)[illegible]ヲ計ルめえとるノ故障」 めえとるを上げるトハ、コレヨリ轉ジタル語ナラム、卽チ、熱ヲ吹ク、氣焰ヲ吐クナド云フ意、

めおに (名) [目鬼] 目、[illegible]十四、手習「[illegible]ヲ見ントスルニ、昔有リケン目モ鼻モナカリケルめおにニヤアラント、ムクツケキヲ」

めおや (名) [女親] ヲンナオヤ。母親。[illegible]キ子ヲ、ヲキタランココチシテ、云云」

めか (名) [牝鹿] メジカ。メスノ鹿。[illegible]

めか (名) [蘘荷] 〔芽香ノ義カト云フ、或ハ、「女か」ノ説アリ、生薑ノ條ヲ見ヨ〕めうが(蘘荷)ノ古名。倭名抄、十七[illegible]「蘘荷、米加」本草和名、下[illegible]「白蘘荷、女加」

めかい (名) [illegible] 目[illegible]

めかい (名) [目界] 目ノ見ル境界。見得ルカギリ。又、見得ルコト。百合若大臣野守鏡(寶永、近松作)四「目かいノ見エヌ女ノ身」

めかいかご (名) [目細籠] 目ノコマカキ[illegible]

めかかう メ・カコウ (名) [目[illegible]] [illegible]アカメ。メアカウ。下瞼ヲ指ニテ引キ[illegible]小兒[illegible]

テ、めかさ[illegible]訛シテ、[illegible]ハ、かかう[illegible]ベッカッカウ。大鏡、中、伊尹「タカンナノ皮ヲ、男ノオヨビゴトニ入レテ、めかかうンテ兒(チゴ)ヲ威セバ」

めがき (名) 女墻 ひめがき(女墻)ニ同ジ。字類抄「女墻、メカキ、堞、埤堄、已上同」

〜めがき (名) 女餓鬼 〔餓鬼ハ、餓鬼道ニ墮チタル亡者〕女性ノ餓鬼。萬葉集、十六廿「寺寺ノ、女餓鬼マヲサク、大神(オホミワ)ノ、男餓鬼タバリテ、ソノ子ウマハム」(古義ノ訓)

めが・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 目掛 目ヲツケテ求ム。狙ヒ望ム。メガケル。屬目 狂言記、朝比奈「五十嵐ノ小文次ト名乘ッテ、朝比奈ガ鎧ヲカヘサントめがけテカカル」

めかくし (名) 目隱 (一)布帛ナドニテ、目ヲ被ヒテ頂後ニ束ヌルコト。(死刑ノ罪人ナドニスルコトナリ) (二)小兒ノ戲。一人、手拭ニテ目隱シテ、衆ヲ逐ヒ、捕ヘラレタル者、又、目隱シテ、又、捕フ。又、メナシチゴ。メンナイチドリ。メナシドチ。メドチ。メナシオニ。捉迷藏 台記、久安六年四月十日「渡 御宮御方、云云、有掩目戲、人之遊也」 酒食論(室町時代、中左衛門大夫仲成卑樣、云云、相撲、目かくし、チカラモチ、ヒタルクナリテハ、カヒモナシ」 (三)家ノ窓ナドノ前ノ邊ヲ掩ヒテ、内部ノ見エザルヤウニシタルモノ。ミカクシ。(四)相撲ノ手ノ一。相手方ノ顏ヲ、平手ニテ撲チ、眼ヲクラマシムルコト、狂言記、文相撲「ハッシハッシト打ッテ來タレバ、眼ガクラクラトシタ、云云、只今ノ手ハ、坂東方ニハヤルめかくしト申ス手ヂャト仰セラレ」

めかけ (名) 妾 〔目ヲ掛くル意〕正妻ノ外ニ畜フル妻。ヲンナメ。ソバメ。カケメ。テカケ。オモヒモノ。側室。(貴人ニ) 伊達日記、下、九十「秀吉公御在陣ノ内、云云、秀次

公、云云、十六人ノ御目懸ヲ害シ申ス」河物語、大久保彦左衛門、中「[illegible]村ト云ノ[illegible]ニ目懸ヲ置キ」

めかけ (名) 目缺 かため(片目)ノ條ノ(二)ニ同ジ。瞎 名義抄「瞎、カタメシヒ、メカケ、シヒレメ」

めかけばら (名) 妾腹 せうふく(妾腹)ニ同ジ。

✣めが・ける (動) 目掛 めがく(目掛)ノ口語。

めかこ (名) 目赤 めかかう(コ)ノ條ヲ見ヨ。

めかご (名) 目籠 竹籠ノ、笊(ザル)ノ編目ノ疎ナルモノ。オホメアラコ。メカイ。本朝若風俗(貞享、西鶴)七「チカキ里童子四五人、手毎ニ目籠ヲ提ケテ、見エワタリシニ」

めかし (接尾) 其モノノ狀態ヲ云フ語。[illegible]卿家歌合(群書類從本)十七番、判「詞心ヨク、姿歌めかしくシテ、シカモヤサシク」「古めかし」

めがしこく (副) 目賢 目敏ク、メザトク。目早ク。盛衰記、廿二、佐藤太將門中違事「秀郷めがしこく見トガメテ」

めがしら (名) 目頭 又、まがしら 目ノ端ノ、鼻ニ向ヘル方。メモト。内眥

めか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔めくノ他動〕他語ト共ニ熟語トナリテ、「ソレめくヤウニナス」意ヲ云フ語。「時めかす」今めかす」唐めかす」ホノめかす」色めかす」

✣めか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔色めかす、ノ略〕衣飾(イフク)ヲ裝ヒカザル。シャレル。ヤツス(東京) 艷飾

めかた (名) 目方 秤目ニテ知ル物ノ輕重ノ量。オモサ。ハカリメ。掛目。貫目 量目 重量

めがたき (名) 女敵 妻敵 他人ノ妻ヲ盜

ム男。カクシヲトコ。姦夫。三世相(貞享、近松作)二三「シラジラシキ謀、めがたきトイヒ、家來ノカタキ」 槍權三重帷子(享保、近松作)下「ソレ程覺エノアル女敵、ナセ討タヌ」

めがたきうち (名) 女敵討 妻敵討 妻ヲ人ニ盜マレタル者、其姦夫、姦婦ヲ尋ネテ、討果スコト。

めかち (名) めっかちニ同ジ。

めかつら (名) 杜 〔雌桂ノ義ナルカ〕かつら(桂)ノ條ノ(二)、及、やぶにくけい(藪肉桂)ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、廿、木類「杜、[illegible] 女加豆良」

めかづら (名) 目鬘 玩物ノ一。眉目ヨリ以上、及、髮飾ナドノ狀ヲ畫キタル紙ヲ、紐ニテ耳ニ釣リテ、假面ノ如クスルモノ。(東京)

めかど (名) 目角 (一)目ノ端。目ノ角。眼稜 保元物語、一、新院御所各門固の事「高朝ハ七尺バカリナル男ノ、目角二ツ切レタルガ、云云」「目角ヲ立ツ」 (二)眼ノ、鋭ク物ヲ見ル狀ヲナスコト。メクジラ。眼力 眼識 大經師昔暦(正徳、近松作)下「めかどノツヨイ人シャノ、每年ノ事デモ、コチハスキト覺エヌ」

めかど (名) 目廉 物事ノ廉(カド)ヲ確(シカ)ト認ムルコト。又、其目ノ狀。日記「目廉ニ取ル」

〜めがね (名) 妻トカネテ定メタルモノ。宇津保物語、あて宮廿「拙キ身ニハアリトモ、己カめがねヲ、人ニ欲ラセシメテハアリナンヤ」

めがね (名) 〔眼ノ尺度(サシガネ)ノ意ト云フ〕物ノ形狀、性質ナドヲ見テ、ソノ善惡、可否ヲ考ヘ定ムルコト。ミワケ。メキキ。鑒識 本朝櫻陰比事(元祿、西鶴)四「彼ノ法師、オめがねニ違ハズ、身ヲ長羽織ニ成シテ、云云」

めがね (名) 眼鏡 〔眼鑑ノ義カ〕老眼、

近眼、ナドノ、眼力ノ不十分ナル[illegible]掛ケテ、物ヲ分明ニ見ミル具。水晶、又ハ、硝子ニテ[illegible] [illegible]目、廿六、[illegible] 林[illegible]、中、[illegible]ヘ[illegible] [illegible]ヒヌ人交」

めがねうを (名) 眼鏡魚 み[illegible]ニ同ジ

めがねばし (名) 眼鏡橋 橋ノドカ、二ッ、穹窿形ヲナシテ、眼鏡ニ似タルモノ。(二重橋モ、コレナリ) 西遊記(天明、橘南谿)五「目鏡橋ハ、長崎ノ石橋ハ、小サキ石ヲ切リテ、石ガキノ如ク積ミ、兩方ヨリ合セタルナリ、長キ橋ハ、フタ筋ニ水ヲ通ズルナリ、是ヲ目がね橋トイフ」

〜めガハラ (名) 雌瓦 牝瓦 ひらがはら(平瓦)ノ古名。倭名抄、十、居宅具「牝瓦、[illegible]波良、[illegible]」 [illegible]作瓦「工一人日造牝瓦九十枚」

めかぶら (名) 和布蕪 〔海布下體(メカブラ)ノ義〕(一)一種ノ海藻ノ根。(二)神頭ノ矢尻ノ稱。めかぶらノ根ヲ乾シ固メテ造ルヲ、正式トスル故ニ云フ。ぢんどう(神頭)ノ條ヲモ見ヨ。古今要覽稿、百七、器財部、矢ノ二「莊子ノ中ニ嚆矢ト云モノ見エシ、其注ニ、矢ノ鳴モノ、俗ニ饗蕪トイフヨシ見エタリ、云云、我國ニテ、コレヲ加布良トナヅケシ、云云、但、矢頭トイフ物ハ神代ヨリ始レル物ナレバ、凡ハ矢ノ始ニテ、神頭ナトモカク也、其矢頭ヲバ、米加布良トテ、海ニ生ツル藻ノ根ニテ作レルガ、本式ニテハアルナリ」

めかほ (名) 目顏 見ルメ。目。女殺油地獄(享保、近松作)下「是レ此ノ錢ヲ、女房カめかほヲ忍ビ、ツイフトコロヘ入レテ出タ」

〜めがみ (名) 女神 女性ノ神。ヲミナノカミ。ヂ。シン をがみ(男神)ノ條ヲモ見ヨ。神代紀、上「陽神左旋、陰神右旋」

めかみなが (名) [illegible]

めかんなぎ (名) 女巫 [illegible] ヲ見ヨ。

めかり (名) [和布刈] (一) 海草ヲ刈リ取ルコト。(二) 和布刈ノ神事、豐前國、門司ノ早鞆明神ノ神事、毎年十二月晦日ノ夜、行フ神事、此夜ハ、潮ノ干ルヲ待チテ、神主、宮前ノ海際ノ石階ヲ五百段降リテ、庭ノ海布ヲ刈ル、同時ニ、長門國ノ一ノ宮ノ神主モ、松明ヲ執リテ、北ヨリ同ジク五百段ヲ下リテ、海布ヲ刈リ、相對ヒ、丑ノ時ノ下リニ、南北ヨリ相共ル、其刈リタル和布ヲ、各社ノ元日ノ朝饌ニ供フルトゾ。(今、長門國二ノ宮住吉神社ニテハ、陰暦十二月晦日、和布刈神事ヲ行フ) [illegible]「御祭サマザマ御座候中ニモ、十二月晦日ノ御神事ハ、和布刈ノ御神事ト申シ候 [illegible]」

めかり (名) めりかり(乙甲)ノ略。其條ヲ見ヨ。

めかりうつ (名) [瞑眩] 目眩ヲウツコト。メビキヲスルコト ナガシ目ヲスルコト。名義抄「瞬、メカリウツ」[illegible]「睇、メカリウツ」[illegible]「睇之、牡睇之」訓釋「睇、女カリウツ、又云、メミス」

めかりぶね (名) 海布刈舟 あらめ、わかめ、ナドノ海草ヲ刈リ採ル舟。萬葉集、七 [illegible] 海人コギイヅラシ、鳴翔ケル見ユ」古義ノ訓

めかる ル・ルル・ルレ・レ・レヨ (自動、下二) [目離] 見ル目ヲ離ルノ義、目、離ル 見ルコトヲ止ム。伊勢物語、第四十六段「めかるトモ、思ホエナクニ、忘ラルル、時シ無ケレバ、面影ニ [illegible] ノ人間ニ、ウツロヒヌラン」

めかるかはづ (名) [春ハ、蛙ガ、人ノ目ヲ借リルヨリ、眠クナルト云フ俗説ニ因ル] 春ノ、甚ダシク眠リヲ催スコト。[illegible] ニ、めかるかはづノ、心ナキトゾ」醒睡笑(元和、安樂庵策傳)[illegible] 見給ヒ、何ノ仔細ニ、ソレホド眠ルゾ、トアレバ、昔ヨリ、春ハ蛙ガ目ヲ借リルト申シ傳ヘテ候、云云」

めかれ (名) 目離 メカルルコト 目ヲハナスコト。見ル人ノナクナルコト。伊勢物語、第八十五段、オモヘドモ、身ヲシワケネバ、めかれセヌ、雪ノツモルゾ、ワガ心ナル」

めぎ (名) 小蘗 [一葉ハ、目藥トナル故、目木ノ義] 小蘗科ノ落葉灌木ノ名、山地ニ自生シ、高サ五六尺、枝、繁茂シテ刺多シ、葉ハ、小形ノ倒卵形ニテ叢生シ、花ハ、淡黄白色ニシテ、通常、總狀ニテ、新葉ノ間ニ排列ス 花後、長橢圓形ノ漿果ヲ結ブ 樹皮ハ、黄色ノ染料トシ、枝葉ハ、藥用(目ヲ洗フ藥)ニ供セラル、ニッケイイバラ。コトリトマラズ。

めぎ (名) 雌樹 雌蕊ヲ具ヘタル樹 をぎ(雄樹)ノ條ヲ見ヨ。

めきき (名) [目利] 刀劍、書畫、器物ナドノ眞僞、好惡ヲ見別クルコト 又、ソノ人 鑒識 鑒定 又、人ノ善惡、適否ヲ識別スルコトヲモ云フ [illegible] 四「信長、云云、人ノ目利上手ニテマシマスト」

めききだて (名) [目利立] 目利ナルコト [illegible]

めぎみ (名) 妻君 [illegible]

めぎみ (名) 女君 [illegible] ルホドニ、イト若ウオハスレバ、云云」

めきん (名) 鍍金 [illegible] ニ同ジ [illegible]

めきめき (副) (一) 芽ダツ状 [illegible] 成長進歩ノ速カナル状 [illegible] キ。俳諧新選、秋「めきめきト、年ヲヨセタル、芭蕉哉」「めきめき成人スル」「めきめき名ガアガル」めきめき上達スル」 (二) モノノ壊ルル音ニ云フ語 [illegible] テ、めきめきめき、金物チギレテ、サラサラサラ」

めく (名) めくらぶま(盲縞)ノ略

めく ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) (一) 「ソノ如クナル」「ソノ状ニ見ユ」ナド云フ意ヲ云フ語。熟語トシテ用ヰル [illegible]「ヒフめく」「ヒシめく」「サザめく」「ナマめく」 (二) 其催シ見ユ。「時めく」「今めく」「色めく」「春めく」

めくぎ (名) [目釘] 刀ノ柄ト刀心トニ小穴アリ、刀心ヲ柄ニ刺シコミ、上ヨリ其二ツノ穴ヲ刺シ貫キテ止ムル具、竹釘ヲ用ヰル、銅製ナルモアリ。其穴ヲ目釘穴ト云フ 刀限 [illegible] 八「マタハ竹ノ柄ニ、長柄ノミヲ指コミ、目釘ヲウッ [illegible]

めくさりがね [illegible]

めくされ (名) [目腐] (一) 眼ヲ病ミテ、[illegible] (二) 人ヲ罵倒スル語。浮世風呂(文化、[illegible]) [illegible] 隱れメエ、ホンニホンニ、呆レタ子ダナウ」

めくされがね (名) [目腐金] めくさりがね(目腐金)ニ同ジ。

めぐし キ・ケレ・ク・ク (形、一) 愍 [illegible] 目苦シ [illegible] 見ル目、苦シ。ココログシ。(今、慘然シ、ト云フハ、此轉ナリト云フ) 萬葉集、十七 長歌「妹モ吾モ、心ハ同ジ、類ヘレド、イヤ懷カシク、相見レバ、トコハツハナニ、めぐし、眼具之モナシニ」同、十一「人モ無キ、古リニシ里ニ、アル人ヲ、愍久ヤ君ガ、戀ニ死ニセム」(古義ノ訓) (二) [illegible]「今日ノミハ、目串モ見ルナ、咎モ咎ムナ」

めぐし [illegible] 愍ムベクイトホシキ意カ」 カハユラシ。イトホシ。イツクシ。(今モ、仙臺ニテハ、カハユラシキヲめごいト云フ、此轉ナリ) 神代紀、下「特鍾憐愛」私記「於支比 [illegible]

めくじら (名) めかど(目角)ニ同ジ。

めぐすり (名) [目藥] 眼病ヲ醫スルニ用ヰル藥。[illegible]元和[illegible]「[illegible]目藥ハ大ドノナリト[illegible]」[illegible]二極メテ少シバカリナルコト。目藥ヲ小サキ貝殼ナドニ入レテ賣ルヨリ云フ　昔物語[illegible]寶保ノ寛文頃の[illegible]に賣ることにつきて「小サキ目藥貝ホドノ貝ニ入レテ賣ル」

めくそ (名) [目屎] 目ノ垢ノ義。又、まくそ。めやに(脂)ニ同ジ　倭名抄、三「[illegible]目汁凝也」「[illegible]、目垢也、萬久曾」落窪物語、二「ネブタカリケレバ、目くそ閉ヂアヒタル、拂ヒアケテ、云云」

めくぢら (名) [牝鯨] メスノ鯨。くぢら(鯨)ノ條ヲ見ヨ。鯢 字類抄「鯢、メクジラ」

めくは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(自動、下二) [眴][目語] [目ト目トヲ食ヒ合ハスル意ト云フ、或ハ、目交す、ノ轉カ] カナタ、コナタ、目ヲ見合ハス　目ヲ動シテ、心ヲ通ハス。メクバセヲナス。字類抄「眴、メクハス」名義抄「眴旬、マジロク、メクハス、又、同瞬」睚眦、ニラム、メクハス」仙源抄、まくなぎ「瞬、マジログ、メクハス也」　源、三十四、上、若菜、上七十五「アナ、カタハライタト、めくはすれド、聞キモ入レズ」　伊勢物語、第百四段「世ヲウミノ、海人トシ人ヲ、見ルカラニ、めくはせよトモ、頼マルルカナ」

めくはせ (名) [眴] メクハスルコト。目色ニテ知ラスルコト。メマゼ。メハジキ　訛シテ、めくばせ。楚辭、九歌、少司命篇「滿堂兮美人、忽獨與余兮目成」　書言字考節用集、九、言辭門「眴、メグハセ、目成、目加、同」

めくばせ (名) [眴] 前條ノ語ノ訛。　太閤記、十四、「就手可相賛木曾城之御書評議之事」「治部少輔ハ、増田大谷ニ目くばせシテ」

めくばり (名) [目配] 目ヲ八方ニクバリテ見ルコト　方方ヲ注意シテ見ルコト　書言字考節用集、九、言辭門「目配、メクバリ」

めくぼ (名) [目凹] 目クボミタルコト。又、其人。クボメ。マツボ。

めぐま (名) [目隈] 目ノ縁ヲ隈ドルコト。　浮世風呂、文化、二、四編、下「只ノ[illegible]カ、目ノ[illegible]ヘチョイト紅ヲ付ケタモノサ、ソリャア、金魚隈ト云フノダガ、今ヂャア目ぐまヲイレル者ハネエ」

めぐま (名) [牝熊] メスノ熊。　宇津保物語、俊蔭四十「ヨリミルニ、イカメシキめぐまオグマ、子ヲウミツレテ、スムウツボナリケリ」

めぐみ (名) [惠][恩] 惠ムコト。ミタマノフユ。イツクシミ。ナサケ。アハレミ。恩澤　字類抄「恤、メクミ」神武卽位前紀[illegible]「得[illegible]雉、云云、恩 如 母」土佐日記、正月二十日「神佛ノめぐみカウブレルニ似タリ」(定家本)

めぐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [萌] [芽含む、ノ義、つのぐむ、みづはぐむナドト同趣] 芽ヲ生ズ、芽ザス　芽生ヒ出ヅ。　徒然草、第百五十五段「木ノ葉ノ落ツルモ、先ヅ落チテめぐむニハアラズ、下ヨリキザシツハルニタヘズシテ落ツルナリ」

めぐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) [惠][恤] [あはれ、あはれむ、いとほし、いとほしむナドト同趣] (一)[愍キニ就キテ、アハレム　愛シト思ヒテ助ケイタハル。イトホシガル。同情スル。他ノ悲シキヲ見テ、見ル目苦シクナリ、ナサケノカケラルル。字類抄「惠、メクム」恤、メクム」　崇神紀、四年十月「脫奉承大運、愛育黎元」萬葉集、十七五「道ノ中、國津御神ハ、旅行キモ、爲知ラヌ君ヲ、米具美タマハナ」　(二)アハレミテ物ヲ與フ。ホドコス。施與

めくら (名) [盲] [目暗ノ義、めしひ[illegible]ニ對スル[illegible]] 目ノ視力ヲ失ヒテ、物ノ見エヌコト。目ニ見ルコト力ヲ失ヘルコト　又、其人　字鏡「眊、目之力惜也、目保乃保乃志、又、瞽介、又、目鳴」　同「眊、目暗、目久良志」　徒然草、第二百三十二段「めくら法師ノ琵琶、ソノ沙汰ニモオヨバヌコトナリ」　(二)文字ヲ解セザルコト　文字ノ讀メヌコト。又、其人。アキメクラ。文盲　(三)眼識ノナキコト。又、其人。　井筒業平河内通[illegible]保、近松作、五「今ノ相撲ノ[illegible]ナシトハ、めくら行司メ、何ヲ見ル」　世間母親容氣(寶曆、多田南嶺)一「ゲニモ世間ハ、目明千人盲千人ニテ」

めくら-いん (名) [盲印] めくらばん(盲判)ニ同ジ。

めくら-うち (名) [盲打] 見當ヲモ定メズ、又ハ、處嫌ハズ打チ叩クコト　メッタウチ　盲擲　東海道名所記、高治[illegible]、今井より見付まで「座頭モ迷惑シテ、杖トリナホシ、目くらうちニ擲リメクルホトニ、云云」

めくら-うなぎ (名) [盲鰻] [目、皮膚ト隠レテ、明カニ見エザル故、云フ] あからなき(赤鰻)ニ同ジ。

めぐらか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [廻] めぐらす(廻)ニ同ジ。　今昔物語、廿八、第三十六話「[illegible]、馬ノ極ジク痛マフヲ、御[illegible]テ、感ゼサセ給ヒテ、庭ヲ度度引キ廻らかすニ」　同、同、第三語「其ノ廻ニ同ジ錦ノ幕ヲ引廻らかしタリ」

めくら-ごぜ (名) [盲御前] [御前ハ貴婦人ノ敬稱ナレド、濫用セラレタルナリ、南留別志(寶曆、荻生茂卿)三「御前ハ、云云、今ノ世ニ盲女ヲごぜト云フハ、めくらごぜノ上ヲ略シタルナリ」或ハ、瞽女ノ音轉(女衒)ト云フ說モアレド、盲瞽女ニテハ[illegible]] 盲目ナル女ノ、三味線ヲ彈キ、歌ナドヲ唄ヒ[illegible]フヲ業トスル者[illegible]ト云フ。室町時代ニハ鼓ヲ用ヰ[illegible]、物ナドヲ語リタルガ如シ。三味線出デ來テヨリ、[illegible]合ハセテ物語[illegible]、或ハ、小唄ナド、[illegible]、ごぜのばう。　謠曲、望月「今頃コノ宿ニテハヤリ候モノハ、盲御前ニテ候」(近江ノ守山宿)　同、小林「[illegible]ジテごぜタチノ謠ニハ、女御、更衣、帝王ノ御事ヲモ、謠ニ作テウタフハ習ヒ」　松の葉(元祿)三、懸所八景「[illegible]、三[illegible]手ニ、瞽女ヤ、[illegible]、按摩取」

めくら-ごよみ (名) [盲暦] [文盲ノ人ノ見ル暦ノ義] 文字ノ代リニ、凡テ繪ヲ以テ書キアラハシタル暦。昔、奥州ノ南部地方ニ行ハレタルモノ、今モ出ス。繪暦　なんぶごよみ(南部暦)ノ條ヲモ見ヨ　[illegible]東、四、伊呂波[illegible]ノ里ハ、今ノ南部領ナリ、北向ノ[illegible]レシ山陸ノ村民、文字ヲ[illegible]ニ、年年ノ暦日、農ノ爲ニ、村長ヨリ暦ヲ繪ニ圖シテ作ル事ナシ[illegible]、云云、是又盲暦ニ類シテ、[illegible]段オカシク、頭ヲ解ニイタル者ナリ」

めくら-さがし (名) [盲探] アテモツケズニ捜スコト。目的モナク捜索スルコト。

めぐらし-ぶみ (名) [廻文] [廻シ文ノ意] 遍ク傳ヘ示ス文書。今、廻文。廻狀　順達　移文　字類抄「廻文、メクラシフミ」宇津保物語、藏開、下廿六「スベテ三十人ノモノドモコソハ、云云、ソレニ皆めぐらしぶみヲツクリテツカハサン」　平家物語、六、めぐらし文の事「ヤガテ謀叛ヲ企ツ、先ヅめぐらしぶみ候ベシトテ、云云」

めくら-じま (名) [盲縞] [縞ナレド見分ケラレヌ意] 紺ノ織色ノ綿布。卽チ、經、緯、共ニ先ヅ紺ニ染メテ後ニ織レルモノ。メクラヂ。アヲジマ。紺木綿。紺

[illegible]

めぐら・すス・セ・サ・シ・セ [illegible]【メグルヤウニナス。クルクルトマハス。モトホス。メグラカス。回轉 萬葉 [illegible]】(二)【廻】[illegible] (三)働カシ用キル。[illegible]「智慧ヲ運らす」「謀ヲ運らす」

めくら-ソウ (名) 盲僧 [illegible] 人。又ハ、目明ニテ、其職業、凡ソ座頭ニ類スルモノ。江戸時代、其十分ノ四以上ノモノハ、青蓮院宮ノ支配ヲ受ケ、十分ノ六以下ノモノハ、座頭ト同ジク検校ノ支配ヲ受ケタリ。[illegible]

めくら-ばん (名) 盲判 [illegible] 何ヲ能クモ見ズシテ、承認ノ印ヲオスコト。メクライン。

メグラ・ウ
めぐら・ふフ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 廻「めぐるノ延」(一)世ノ中ニ立チマジラフ。人ノ中ニ交ハル。源、四十二、紅梅「ケヂカキ人ノ、後レ奉リテ、ナキめぐらふハ、オボロゲノ命[illegible]」同、十四、上[illegible]「此ノ世ニ、同ジ世ノ中ノ内ニ、めぐらひ侍リツレド、云云」(二)タメノフ。躊躇ス。[illegible]、四年六月「中大兄、見[illegible]、鹿威、[illegible]」

めくら-ぶね (名) 盲船 船ノ上ノ四方ヲ板、又ハ梱ニテ、全ク圍ヒタルモノ。下ノ出典ヲ見ヨ。[illegible]

めくら-べ (名) 目競 [illegible] 睨比 一同ジ [illegible] 二ニラミ給フ、タトヘバ、人ノ目くらべヲスル様ニ、[illegible]ニラマヘテ」異制庭訓往來(虎關)正月「目比、頸引」(二)ニラミ合フコト 太平記、十四、箱根竹下合戰事「如様ニ目くらべシテ、鎌倉ニ集リ居テハ叶マジ」

めくら-へび (名) 盲蛇 (一)メクノノヘビ。目ノ見エヌ蛇。(二)[盲、蛇ヲ怖ぢずノ略] 物ノ道理ヲ辨ヘザルモノハ、危險ノ出テ來ルヲモ恐レザルニ譬フル語。[illegible]マデ、ト壁ヘノ通リ、小サナ時分カラ氣儘八百ニ育テタ物ダカラ、ナニクナ テモ、盲蛇物ニ怖ズダ」

メクラ・ホウシ
めくら-ほふし (名) 盲法師 盲人ノ琵琶法師。びはほふし(琵琶法師)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。徒然草、第二百 十二段「見レバ、爪オフシタリ、[illegible]ナトガクニコソ、めくら法師ノ琵琶、其ノ[illegible]ニモ及バヌコトナリ」

め-くらまし (名) 目眩 まほふ(魔法)ニ同ジ。[illegible]十六、[illegible]幻 [illegible]、俗云、目久良末之、今云 魔法」

めくり (名) 捲 (一)メクルコト。マクルコト。(二)めくりふだノ略。はなあはせ(花合)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

めぐり (名) 廻 (一)メグルコト。マハルコト。[illegible] 同轉 [illegible]「車ノめぐり」(二)【どうどうめぐりノ略】其條ノ(二)ヲ見ヨ。今、[illegible] タイダウメグリ。[illegible]モノめぐりスルトモ見エタリ」(三)行キテ、故[illegible] ト。周運 「一めぐり、二めぐり」「日月ノめぐり」「年月ノめぐり」(四)【物ノ外】圍。カコミ。マハリ。グルリ。周回 周圍 竹取物語「山ノめぐりヲサシメグラシテ、云云」源、十、[illegible]「御殿ノめぐりニモ、人人シゲク並ミ居タレバ」「めぐりノ垣」(五)【アタリ。ホトリ。周邊 [illegible]】[illegible]ンハ、イカデアルゾ」同、祭使[illegible]「文ドモ、めぐりニ山ノ如ク積ミテ」(六)飯ノ菜。オメグリ。オマハリ。オカズ。[illegible]ノ供御ハ、御めぐり七種、御汁二種ナリ」(七)月ノめぐり、ノ略。月經ニ同ジ。(八)すりこぎ(擂小木)ノ異稱。物類稱呼、四、器用「擂粉木、云云、出雲ニテ、めぐり、越後ニテ、めぐり、又、マハシギ、トモ云、出羽ニテめぐりこぎ」

メグリ・アワセ
めぐり-あはせ (名) 運合 吉凶ノ事ニ、思ヒガケズ出デ合フコト。又、ソノ吉凶、運命。マハリアハセ。遭遇

メグリ・アウ
めぐり-あ・ふフ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 廻リテ出合フ。[illegible] 運リ運リテ出デ會ノ。邂逅 遭遇 [illegible]雲居ニ、ナリヌトモ、空ユク月ノ、めぐりあふマデ」

めぐり-くるま (名) 廻車 廻轉スル車。蜻蛉日記、下、[illegible]ナリテ、思ヘバカカル、すぢ(?)モアリケリ」

めくり-ふだ (名) 捲札 【骨牌ヲ積ミテ、一枚ヅツめくるヨリ云フ】花札ヲ云フ略シテ、めくり はなあはせ(花合)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

めぐり-ぼう (名) 轉棒 又、くるりぼう。

めぐり-みつ [illegible] 其[illegible]、ウラサホ、云云、[illegible]、メグリボウ、車棒」

めぐり-みづ [illegible] 又[illegible]ノ[illegible]ノ略。

メグリ・ミズ・ノ・トヨノアカリ
めぐりみづ-の-とよのあかり (名) きょく [illegible] 五、神社佛寺、鳥羽法皇御宇治之時、アツサナゲサメ[illegible]ト、少少利口物語ナド合ノ中之間、云云」

めぐり-ものがたり [illegible] 人ガ、[illegible]

めく・る (動) 捲 まくる(捲)ノ訛。

めぐ・るル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 廻 回旋 [illegible] ト云フ」(一)圓ク動ク。マハル。マフ。モトホル。「車めぐる」(二)環ノ筋ニ隨ヒテ行キテ、[illegible] モドル [illegible]ル。[illegible]十六、[illegible]モ此ノ世ニ、めぐりコバ、オモガハリスナ、山ノハノ月」「地球、太陽ヲめぐる」年、めぐる「めぐり來ル」めぐり合フ」(三)【周圍ヲ圍ミテアリ。繞 圍繞 [illegible]】[illegible]、シゲ、フタガミ山ハ」「水、山ヲめぐる」[illegible] めぐる」(五)【世ノ中ニ立チマジラフ。[illegible]】[illegible] ぎゃうだう(行道)、及、ねうぶつ(繞佛)ノ[illegible]タチモサマザマノホウモチササゲテ、めぐり給ニ」[illegible]

〜めくるめ・く（動）[眩] 眼くるめく如ク感ズ。くるめく(回轉)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

めぐろ（名）[目黒] まぐろ(鮪)ノ一種。日本山海名産圖會、三「鮪、シビ、大ナルヲ王鮪、中ナルヲ叔鮪(俗ニめぐろト云)、小ナルヲ鮥子トイヘ[illegible]ニハまぐろト云[illegible]作中[illegible]ヘ、[illegible]ノコト[illegible]ニ、めぐろ[illegible]ヘテ[illegible]アレタ」

めげ・キセル [illegible]めげハ、毀ル[illegible]意[illegible]ツブレタル煙管[illegible]

〜めけもの（名）[牝ナルけものノ意] 獸類ノ牝ノ異稱。メスノ獸。倭名抄、十八[illegible]牝[illegible]乃[illegible]也」

め・げる・ゲル・ゲレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（自動、下一）[怯] [毀る二通ズ] (一)挫ケ損ズ。[illegible]ハル。書言字考節用集、九、言辭門「塑、メゲル」(二)疲ル。弱ル。[illegible]色[illegible]五[illegible]ノ類、ゴロツキテ[illegible]ハズ[illegible]めげ[illegible]サニめげ[illegible]」

〜め・お（名）[妻子] (一)[illegible]マ、[illegible]子トツ[illegible]マコ[illegible]代紀、下「故[illegible]天皇[illegible]十六、[illegible]ハ、[illegible]バ、思ハズロ、年ノ八歳ヲ、待テド來マサズ」(古義ノ[illegible]十[illegible]明[illegible]愛シキめおノ[illegible]テ、云云」(二)ツマ。宇津保物語、藏開、下四十三「天女降リ給フラン世ニヤ我カめおノ出デ來ン、天ノドニハ、我ガめおニスベキ人ナシトナン思ヘリケル」

め・お（名）[女子] ヲンナノコ。女子。榮花物語、十一、蕾花「スベテ此ノ頃ノ事ニハ、サベキ人ノめお、皆宮仕ニ出デハテヌ」

め・ご（名）[目碁] よつめおろし(四目殺)ニ同ジ。[illegible]五、盤面遊曲集「目碁(尤、白黑共イフ、共ニ四分一ノ片端目ノ内ニテ打ナリ)此打方、白バカリ兩方共ニ、總バ三十目宛手ニ持、先手、後手定オキ、先ノ方ヨリ何レノ處ヘモ一手打、後

[illegible]

めおすりなます（名）[目掻膾] [本邦、北人、小[illegible]ヲトリ、[illegible]ミツノ中ニ投ジ、[illegible]時ハ、ソノミツ、小蝦蟇ノ目ニシミル故、前肢是ヲモテ目ヲ拭フトナリ、是[illegible]土人、目おすり膾ト云フトゾ、[illegible]錄、十八)、支那、山東ノ人ハ、蛙ヲ捕ヘテナシタ[illegible]コト、出典ヲ見ヨ] めすりなます(目掻膾)ニ同ジ。蝦蟇鱠(東[illegible]新語)[illegible]

〜め・おと（名）[illegible] 又、まおと。相見ナ[illegible]ルコト。又、逢ヒ見ルコト。[illegible]集、[illegible]長歌「アヂサハフ、目辭モ絶エヌ、ソコヲシモ、アヤニカナシミ[illegible]古[illegible]同、四[illegible]青山モ、隔ナラナクニ、ナニシカモ、目ヲダニモ、ココダ[illegible]シキ[illegible]同、十一[illegible]目[illegible]ルラメ[illegible]古[illegible]

め・おほし（名）[目溢] トガムベキ事ヲモ、知ラヌ風ニシテ、ユルシ置クコト。見ノガスコト。見許スコト。默許。看過

め・おま（名）たぬき(狸)ノ異名。名義抄「狸、メコマ、タヌキ、タタケ、イタチ」

め・さき（名）[目前] (一)メノマヘ。モクゼン。眼前。浮世風呂、文化、二、四編、中「段段目前ガ見エテ、少シアカルクナッテ參ルト、云云」(二)卽座ノ事ヲ取計フ、氣轉、當座ノ趣向 メハシ[illegible]「めさきカ利ク」「めさきヲカヘル」

めさき（名）[鯨] いれずみ(入墨)ニ同ジ。次條ノ語ヲモ見ヨ。履中紀、五年九月、[illegible]

之[illegible]皆末[illegible]」

〜め・さ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）[鯨] [目ノ邊ヲ裂ク意カト云フ] (一)面ヲ刻ミテ墨ヲ入ル。(罪人ノ) 鯨ノ刑ニ行フ。ヒキヒキサム[illegible]元年四月[illegible]科[illegible]二[illegible]良民ヨリ賤民[illegible]行[illegible]

〜め・さ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）[召し上ぐ、ノ約] 呼ビ寄セタマフ。古事記[illegible]

〜め・ざし（名）[目刺] [illegible] (一)古ヘ、女兒ノ髫髮ノ髮至眉也」) (一)古ヘ、女兒ノ髫髮ノ頃、額髮ヲ前ヘ垂ラシ、目ヲサスバカリニ、眉ノ少シ上ニテ切リソロヘテ、搔キナラシオクモノ。三歲ヨリ十歲ホドマデナリ。名義抄「髫、メザシ」[illegible]「[illegible]、小兒髮、目佐志[illegible]小兒髮、女佐之」(二)轉ジテ、同ジ髮ノ姿ナル年頃ノ少女ヲモ云ヘリ。[illegible]神樂歌、朝倉「朝倉ヤ、オメノ濱ニ、網引セバ、タマノ女佐志ニ、アヒニアヒケリ」催馬樂、竹河「花ゾノニ、我ヲバ放テヤ、我ヲバ放テヤ、女左之作ヘテ」古今集、廿、東歌「小餘綾ノ、磯立チナラシ、[illegible]摘ム、めざし濡ラスナ、沖ニヲレ浪」夫木抄、廿五、[illegible]兒ノ國ノ、[illegible]ノ濱ニ、貝拾フ、髮ノめざしノ、音ナカリセバ」

めざし（名）目差 (一)目色。メツキ。マナコヰ。マナザシ。(二)メザスコト。メアテ。又、目ザス處。目的。

め・ざし（名）[目刺] 鰯、鯷、ナド、數疋ノ目ヲ、竹串ニテ刺シ貫キテ乾シタルモノ。鹹 出世景淸(貞享、近松作)三、道行「ワカメ

マジリノめざしナス、[illegible]カ背ニ竹ミヘテ」

め・ざ・す・[illegible]

め・ざ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[目差] (一)見向ク[illegible]一茶句集「目さす敵ハ、雑頭ヨ、[illegible]時雨」[illegible]狙フ。

〜め・ざと（名）[目聰] [めざとしノ語根] めざとし(目聰)ノ名詞形。次條ヲ見ヨ。[illegible]バカリナル兒ノ、急ギテハヒクル道ニ、イトチイサキ塵ナドノ有リケルヲ、めざとニ見ツケテ」

め・ざと・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）[目聰] (一)見付クルコト早シ。メバヤシ。慧眼 書言字考節用集、九、言辭門「目敏、メサトシ」(二)イザトシ。眠レルヨリ覺ムルコト敏シ。

め・ざはり（名）[目障] 見ルニ障ハルコト。又、ソノ障ハルモノ。

め・ざまし（名）[目覺目醒] (一)眠レル目ヲ醒メサスルコト。盛衰記、廿二、衣笠合戰事「[illegible]共ナバ、死ヌル程ニ打込シテ、[illegible]ニシテ追ヒ行カセヨ、ソレコソ軍ノ目醒しナレ」(二)めざましどけいノ略。一種ノ仕掛アル時計。仕掛ケテ[illegible]置ケバ、目ヲ醒マサムト思フ刻限ニ鳴リ出ヅルモノ。(三)小兒ノ寐起ニ與フル菓子ナド。

〜め・ざま・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）[目覺目醒] 事ノ狀、思ヒノ外ニテ、目モ醒ムルバカリナリ。アサマシ。(善惡、褒貶ニ通ジテ云フ) 瞠若 [illegible]七、成親卿流罪事「カヤウニ業エ給ヒケレバ、越エラレ給フ方ザマノ人人ハ、目醒しく思ヒ嘲リテ、云云」源、四十

八、寄生ト六ニ「急ギ歸リ給ヘルヲ、オホイ殿ノ御カタニハ、イト疾カズ、めざましうト云フ」狹衣中納言物語、二「スベテ、カタリナツカシゲナリ、思ヒノ外ニめざましうモアリケル哉」

めざまし-が・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔目覺〕メザマシク思フ。源、[illegible]「ハシタナカリシニ、コトツケガホナルヲ、ミヤニハ、イミジウめざましがりナゲキ給」

めざまし-ぐさ（名）〔目覺草〕〔目醒草〕（一）〔何[illegible]見テ目ヲナ[illegible]〕[illegible]料、[illegible]（二）松ノ異名。[illegible]山中ノ[illegible]トノ、松カゼヤ、めざましぐさノ、種トナルラン」（三）荻ノ異名。重修本草綱目啓蒙、十、隰草類「[illegible]云云、めざましぐさ」（四）茶ノ異名。和訓栞「めざましぐさ、[illegible]云云、[illegible]茶ノ和名トセリ」（五）烟草ノ異名。雪女五枚羽子板[illegible]近松作[illegible]ニ付セシキセルヅツ[illegible]、めざまし草ハ、云云」

めざまし-どけい（名）〔目覺時計〕〔目醒時計〕めざまし（目覺）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

めざ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（自動、下二）〔目覺〕〔目醒〕（一）睡ヨリウツツニカヘル。又、眠ノ去ル。（二）迷解ク。（三）〔見テアキレ驚クル〕源、十四、上、若菜、上「[illegible]ミダリカハシキ事ノ、サスガニめざめテ、云云」

めざめ（名）〔目覺〕〔目醒〕（一）目ノサムルコト。ネザメ。（二）見テ興味ノサムルコト。ミザメノスルコト。好色一代女（貞享、四刊）二「イカニ書キ續ケシ玉章モ、偽リ計ナルハ、オノヅカラ目覺（見覺）ノシテ、捨リテ聞シマズ」

めざる（名）〔牝猿〕牝ノサル。猿ノ牝。宇治拾遺物語、[illegible]「[illegible]ヒーツヲコエテ、イカメシトめざるハ[illegible]ヒキツレテキテ」

めさ・れる（動）〔被召〕なす（爲）ノ敬語。

（崇敬相動詞ニ用キル）

めし（名）〔召徵〕召スコト。呼ビ招クコト。[illegible]「[illegible]マイリ給フベキめしアレバ、マイリ給フ」

めし（名）〔飯〕〔聞食物ノ略、何ニヨラズ、身ニ受ケ納ルルヲめすト云フ、飯ハ、其第一ナルヲ以テ、人ノ尊ビテ云ヒシ、起ル〕（一）飯。米穀ヲ炊ギタルモノ。ママ。マンマ。ゴゼン。ゴハン。オダイ。ダイバン。ヒメイヒ。狂言記、萩山伏「山人ガ起キテ、飯ヲ食タナドトアレバ、惡ウゴザルホドニ」「米ノ飯」「麥ノ飯」「粟ノ飯」（二）食。日日、時ヲ定メテ、飯ヲ食フコト。食事。饍。拾遺集、八、雜、上「月林寺ニ、云云、昔我ガ、折リシ桂ノ、かひ（詮、匙）モナシ、月ノ林ノ、めし（召、飯）ニ入ラネバ」「飯時」「飯前」「朝飯」「晝飯」「夕飯」（三）又、蒸ノ轉ニテ、強飯ノコト。

めし（接尾）モノノ状態ヲ云フ語。「イカめし」「イカめしキ」「ウラめし」「ウラめしキ」

めぢ（名）魚ノ名。めぢかノ略。其條ノ（二）ヲ見ヨ。

めしあがり-もの（名）〔召上物〕メシアガルモノ。食物ノ敬語。

めしあが・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）〔食上〕〔召上〕食フ、飲ムノ敬語。メシヤガル。略シテ、あがる。狂言記、河原太郎「カロウテ、一口モ召上ラルル酒デハ御坐ラヌ程ニ、云云」

めしあ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）〔召上〕（一）〔呼ビ出ス〕ノ敬語。召シ出ス。メシアゲル。伊勢物語（天福本）第廿九段「春宮ノ女御ノ御方ノ花ノ賀ニ、めしあげラレタリケルニ、云云」（二）官ヘ取ル。其所有物ヲ官府ヘ取リ上グ。「家祿ヲ召上ぐ」

∴**めしあ・げる**（動）〔召上〕前條ノ語ノ口

語。

めしあづ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）召シ寄セテ、其前ニテ[illegible]。伊勢物語[illegible]

めしあは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）〔召合〕召シ出シテ、相對セシム。[illegible]「[illegible]ヘ、供御ヲ奉ケラルベシト定メテ、御前ニテめしあはせラレタリケルニ、云云」

めしあはせ（名）〔召合〕（一）召シ合ハスルコト。（二）古ヘ、毎年、七月廿八日ニ、相撲節會ノ準備トシテ、紫宸殿ニテ行ハレタル相撲ノ手合セ。貞信公記、承平二年七月廿八日「御ニ南殿、御ニ覽相撲召合、御出之時、午二剋也」（三）二枚ノ扉、又ハ、障子ノ相會スル所。太平記、三十五、京勢重南方發向事「中務少輔ハ[illegible]ニ[illegible]テ、[illegible]ハキナラフ、召合セノ内ヘ走リ入ツテ、肝膽、障子ヲ踏ミ破リ」

めしいだ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔召出〕（一）召シテ呼ビ出ス。（二）召シテ、祿、又ハ、職ヲ授ク。メシダス。メシイヅ。微辟。清輔集「[illegible]院御位ニオハシマシケル時、臨時祭ノ、四位ノ陪從ニめしいだされ（めされイ）テ」

めしい・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ（他動、下二）〔召出〕前條ノ語ニ同ジ。源、四、夕顏廿「人ノ思ハン所モエハバカリ給ハデ、右近ヲめしいでテ、隨身ヲメサセ給ヒテ、御車ヒキ入レサセ給フ」

めしい・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（他動、下二）〔召入〕マネキテ内ヘイルル。メシイレル。源、四十三、竹川三十「明クレ御アソビヲセサセ給ヒツツ、侍從モ、ケヂカクめしいれツツ、[illegible]ナドハ聞給」

∴**めしい・れる**（動）〔召入〕前條ノ語ノ口

語。

めしうど（名）[illegible]〔召人〕[illegible]（一）妾ノ類。ソバメ。メカケ。テカケ。仕女。[illegible]「[illegible]ハシマサセバ、御めしうどノ内侍ノスケノ君ヲ、年月ニ添ヘテ、タダ御殿ノ北ノ方ニテ、云云」（二）〔舞樂ニ召シ出サレタル人。宇津保物語、[illegible]「此ノ度ノ舞樂、少シヨロシウセバヤ、めしうどナドエラビテ、[illegible]」（三）籠セラルル人。（異性ニ非ズ）增鏡、第十六、秋のみ山「隱岐守[illegible]トイフモノ、云云、[illegible]ガテ御供仕ウマツリケリ」

めしうど（名）〔囚人〕又、とらへびと。罪アリテ、獄ニ召シ籠メラレテアル人。人牢ノ罪人。囚人。林逸節用集、人倫「囚人メシウト」義國集、九、武勇「當、多年ノ召人ニテ」謠曲、[illegible]

めしお・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）〔召置〕召シ上ゲテ置ク[illegible]

めしおほせ（名）〔召仰〕（一）[illegible]召シ仰スルコト。オホセ。名目抄、召仰[illegible]（二）すまひのめしおほせ（相撲召仰）ノ略。すまひ（相撲）ノ條ヲ見ヨ。名目抄、[illegible]

めぢか（名）〔牝鹿〕古言、めか。鹿ノ牝。謠曲、伏木曾我「[illegible]所ニ、男鹿二ツ、女鹿一ツ、三頭ツレテ踏ナ來ル」

めぢか（名）「目近ノ義、[illegible]似タレバ云フ」トモ云ヒ、或ハ、云フ、眼近ノ義ナリト、サ

ラバ、めぢかカ」(一)魚ノ名。關西ニテハ、鮪ノ小サクシテ、二尺以下ナルモノノ稱。關[illegible]ノ[illegible]うた[illegible]ナリト云フ。物類稱呼、二、動物「下鮪、シビ、畿内ニテハツト[illegible]小ナルヲ、江戸ニテめぢかト云、一名ソウダト云、ヒラソウダ、丸ソウダ、ナド二種アリ」　(二)關東ニテハ、鰹ノ小サクシテ、一二尺ナルモノノ稱。春夏ノ交ニ出ヅ。味、淡クシテ佳ナリ。又、めぢがつを。略シテ、めぢ。其子ヲよぢわトスト云フ。(うづわ[illegible]ノ[illegible]見ユ」　日本山海[illegible]、四「堅魚、云云、東國ニテ、小ナルヲ、めぢかトイフ」

めしかか・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二)　召抱　召シ出シテ、家臣、家人トス。メシカヘル。徵辟

めしかかへ(名)　召抱　メシカカフルコト。又、メシカカヘラレタル人。徵辟

❖めしかか・へる(動)　召抱　前前條ノ語ノ口語。

めぢがつを(名)　魚ノ名　めぢかノ條ノ(二)ニ同ジ。

めしかへ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)　召返　ヨビカヘス。ヨビモドス。　宇治拾遺、三、第四條「汀近クアユミ寄リテ、護法召しかへせ、召しかへさズバ、長ク[illegible]ニ別レ奉ラント叫ビテ」

めしぐ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變)　召具　連レ行ク。伴ヒ行ク。トモナフ。　娥歌加留多(享保、近松作)五「山王ト唐崎へ、七日マウデノ乘物ニ、供人少少召しぐして」

～めしこ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二)　召籠　召シ寄セテ閉ヂ籠ム。抑ヘテ出サズ。　宇津保物語、樓上、下「カカル御ツカヒ

[illegible]めし[illegible]二モ籠ラ[illegible]」

めしこめ(名)　召籠　メシコムルコト。オシコメテ、出サザルコト。　[illegible]、九、[illegible]「[illegible]サリトモ今ハ[illegible]ノ[illegible]ハ、免[illegible]ヒナン」

めしごゑ(名)　召聲　古ヘ、朝廷ニテ、内豎ノ、官人ヲ名シ呼ブ聲。即チ、マソチキンダチ召セ「刀禰召セ」ナド云フ類ナリ。　名目抄、私儀部「召聲、メシゴエ」

めしじやう(名)　召狀　めしぶみ(召文)ニ同ジ。　[illegible]記、四、召狀之事、[illegible]日安、[illegible]、下行對充所、路次ノ遠近ヲ勘へ、何月何日可致到着[illegible]也、若及[illegible]、不論理非、[illegible]可被[illegible]付トモ、可申付トモ書出ス狀也」

めしぢやくし(名)　飯杓子　古ク、イヒカヒ、オダイカヒ。一木ニテ、頭、柄、共ニ作レル杓子ニテ、頭ノ平タクシテ、甚ダ淺シ。專ラ飯ヲ盛リ分クルニ用ヰル。又、シャモジ。飯匙　飯匕

めした(名)　目下　目上ノ條ヲ見ヨ。[illegible]俊(元祿)春「目下ニモ、中ノ詞ヤ、年ノ時宜」

めしたき(名)　飯炊　メシヲ炊クコト。又、ソノ[illegible]ノ男女共ニ云フ。カシギ。爨夫　爨婦　[illegible]留(享保、西鶴)[illegible]、母親、ムスメヲ相手ニシテ、此ノ[illegible]季ハ、飯炊カ[illegible]レアリキ」

めしつかひ(名)　召使　(一)召シテ使ヒ給フ人。禁中ノ卑官。　式部省式、上、太政官召使者、省取[illegible]散位年卅九已下、有容儀[illegible]」　吾妻鏡、十、文治六年四月四日、[illegible]事、召[illegible]使則國入部之[illegible]、菊松、犬丸等公文、[illegible]由、依有[illegible]、被[illegible]下之間、云云」　(二)召シ使フタメノ奉公人。家人。奴婢。　(三)妾。

めしつか・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四)　召使　(一)召シテ身近ク使役ス。　源、五十、浮舟

「[illegible]例ヨリハナツカシウめしつかひテ」　(二)召シ[illegible]、めしつかひタマヒケルホドニ、オノヅカラ生レタマヘリケル女君」

めしつぎ(名)　召次　[illegible]トモ[illegible]コト　取次　[illegible]　宇治拾遺、九、[illegible]ウ召使フ侍、出デ來テ、云云、此ノめしつぎシツル侍、[illegible]ヘト[illegible]ヒテ、[illegible]　(二)[近ク召使ハレテ、中次ナドスル者ニ]取次ノモノ。取次人。　字類抄、召[illegible]、竹取物語「[illegible]人、めしつぎトシテ」[illegible]四十八、[illegible]人ナトノ中ニ、云云」

めしつぎ(名)　飯注飯次　〔飯坏ノ義〕〔しるつぎ(汁注)ニ對ス〕めしびつ(飯櫃)ニ同ジ。　尿繪工[illegible]筆「お鉢ハ、云云、飯ヲ次モノナリ、サレバ飯次ト云フ」　物類稱呼、四、器用「飯櫃、メシビツ、めしつぎ」

～めしつど・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二)　召集　メシアツム。ヨビ出シアツム。召集ス。　萬葉集、三八五十長歌「モノノフノ、ヤソトモノヲヲ、召[illegible]、古[illegible]ノ[illegible]」

めしつぶ(名)　飯粒　飯ノツブ。イヒボ。　狂歌落穗集「飯粒デ、鯛ヲ釣ッタカ、ニコニコト、笑ヒカケタゾ、[illegible]一[illegible]村句集、冬、[illegible]テ、[illegible]ノ[illegible]レ、フタギケリ」

めしつ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(他動、下二)　召連　ヨビテツレユク。召シ具ス。メシツレル。

めしとりにん(名)　召取人　昔、官ノ命ニヨリテ、罪人、惡者ナドヲ捕縛スル役ノモノ。捕手。捕方　捕吏

めしと・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四)　召取　召捕　(一)(二)[召シ寄ス　呼ビ取ル、ノ敬語]　徵　源、十七、繪合「[illegible]、勝レタル上手トモヲめしとり

テ、云云、繪ドモヲ、二無キ紙ドモニ書キ集メサセ」
[illegible]

めしな(名)　召名　古へ、除目ニ、官ニ任セラルベキ人人ノ名ヲ列記シテ、太政官[illegible]
[illegible]　(召名無[illegible]字一)」

めしバチ(名)　飯鉢　めしびつ(飯櫃)ニ同ジ。又、[illegible]鉢、云ノハ、[illegible]、[illegible]飯ノ[illegible]、[illegible]ヘ出スお鉢へ飯ヲ次グモノ。銚子ノ加へノ如シ。[illegible]

めしはな・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)　召放　官ヘ取リ去ル。褫グ。褫奪ス。　吾妻鏡、十八、元久[illegible]月廿七日[illegible]、[illegible]、不可[illegible]、[illegible]行[illegible]」

～めしはな・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(他動、四)　召放　衆中ヨリ引キ放チテ召シ出ス。　[illegible]近ウモ[illegible]、[illegible]ナトシテ、云云」

～めしひ(名)　盲瞽　〔目癈ノ義〕眼ノ、見ル官能ヲ失ヒタルコト。又、其人。メクラ。マウモク。　倭名抄、[illegible]病類「盲、[illegible]之比」　名義抄「瞍、メシヒ、瞽、メシヒ」　字鏡[illegible]「瞶、目[illegible]也、目志比」　同[illegible]「瞽、目志比」　發心集、八、第五條「或智者ノ極樂ヘマウテン事ヲ申ストテ、[illegible]ノ者ノ生マレン事ハ、タトヘバ、めしひノ道ヲ行カンガ如シ」

めしびつ(名)　飯櫃　飯ヲ盛リ貯フル木

[illegible]ノ[illegible]ヲ見ヨ。又、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ヒ[illegible]、イヒビツ[illegible]ヲ[illegible]ハチ、飯[illegible]。

〔めしふ（名）〔召符〕次條ノ語ニ同ジ。庭[illegible]八月[illegible]賦人之時、[illegible]使[illegible]下召符ニ[illegible]四十、[illegible]二年二月五日[illegible]國守[illegible]家人等、背[illegible]召[illegible]、[illegible]後[illegible]如[illegible]之[illegible]、[illegible]之由、[illegible]、云云」

めし-ぶみ（名）〔召文〕官ヨリ人ヲ召ス狀。鎌倉幕府以來、御家人ナドヲ召スニモ、又、訴訟ニ、被告人ヲ召喚スルニモ云ヘリ。メシジャウ。サシガミ。呼出狀。〔徴書〕召符 式目[illegible]、[illegible]、[illegible]所[illegible]の[illegible]右於[illegible]遲國者、被下召文之後、無故至于五月不參對者、就訴人申狀、可有其沙汰也」

め-しべ（名）雌蘂 又、シズヰ。しべノ（一）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

めし-もの（名）〔召物〕（一）貴人ノ用ノ飲食、衣服ナドノ敬稱。宇治拾遺、七、第九條「ヤカテ[illegible]引[illegible]敷キテ、衣[illegible]カンナレト、困ゼサセ給ヒタレバ、めし物ハココニテマヰラスベキナリトテ、云云」（二）今、專ソ、衣服ノ敬稱。

⁂めし-もり（名）飯盛 昔、宿場ノ旅店ニテ、旅人ノ給仕ヲナシ、又ハ、淫ヲヒサグ妓、オヂャレ。飯盛女。宿場女郎。〔[illegible]化の川柳「口ニツ、ナラベ飯[illegible]、ウツクシサ」口、ツハ、品川ナリ」[illegible]九、娼妓、四ツ谷、新宿、云云、千住ハ、ココニ飯盛女ナトハナカリシニヤ」

めしゃが-る（動）〔食上召上〕めしあがる〔召上〕ノ約。其條ヲ見ヨ。

〔めしよ-す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）〕召寄 よびよすニ同ジ。源、五、若紫[illegible]十「參リタレバ、召し寄せテ、有樣問ヒ給フ」

め-じり（名）〔眥〕〔[illegible]〕眼ノ端ノ耳ヘ向ヘル方。外眥マジリ。

め-じる（名）目汁 なみだニ同ジ。[illegible]佳言集[illegible]目汁鼻汁、云云、狂歌、我年ヲ、匿サバヤトハ、[illegible]ヘ[illegible]モ、[illegible]十」

め-じるし（名）〔目標〕見ルニ便リセムトノ標。モクヘウ。狂言記、若市「花盛ノ菊ヲ何者ヤラ荒ラスニ依ッテ、目印ヲ付ケテ置イタ」

めし-れう（名）〔召料〕貴人ノ用ヰルモノ。御用品。召物。大磯虎稚物語（元祿、近松作）[illegible]富士ノ牧狩ニヨ[illegible]テ、[illegible]、[illegible]、小[illegible]失セシ以來、召料ノ名馬ナシ」

〔め-しろ（名）眼代 目代（一）もくだい（目代）ノ條ヲ見ヨ。（二）カントク。ウシロミ。後見。心中刃氷朔日（寶永、近松作）上「此ノ[illegible]門ガ目代ニシテ、弟子、手間取ヲモ引キ廻ハス、[illegible]ニ[illegible]附マイ[illegible]ヨ」

め-じろ（名）眼白 燕雀類ノ小鳥ノ名。大キサみそさざいノ如ク、眶ニ白キ圏アリ、頭、背、翅、尾、淡綠ニシテ、胸、白ク褐色ヲ帶ビ、腹、白シ。性、羣ヲ好ミ、一枝ニ集リテ押シ合フ。繡眼兒 松風村雨束帶鑑（元祿、近松作）四、司の首途行「人ヤカケタル網ノ、繡眼鳥、ホウジロ、鶺鴒、云云」

めじろ-おし（名）目白押 眼白鳥ノ枝ニ並ビ止マリテ押合フコト。其中ナルモノ押出サルレバ、端ニユキテ止リ、又、中ナルモノヲ押スヨリ轉ジテ、小兒、コレヲ學ビテ戲レトス 柳子[illegible]、[illegible]吉原雀「スケンゾメキハムク鳥ノ、云云、タタククイナノロマメドリニ、孔雀ゾメキデ、めじろおし」

めし-わん（名）飯椀 膳部ノ椀ノ、飯ヲ盛ルモノ。主ニ引入合子ノ大椀ナリ。宗五大[illegible]、上「人の相作する[illegible]、[illegible]ハめし[illegible]二人

めし-をんな（名）〔召女〕（一）〔ミヤビト〕（宮人）ヒメトネ。宮女 天[illegible]紀、七年二月[illegible]、[illegible]シ使、[illegible]ル侍女。

め-す（名）雌牝 め-牝トイフノ[illegible]同[illegible]

メス（名）〔蘭語、Mes.〕醫師ノ用ヰル小刀。解剖刀。

〔め・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〕看見（一）〔看す（敬語ノ）ノ轉、き（看）る、けすノ[illegible]〕見るノ敬語 見タマフ。見[illegible]ラル。ミソナハス。萬葉集、廿五長歌「山見レバ、[illegible]ノトモシク、川見レバ、[illegible]ノサヤケク、[illegible]ニ、[illegible]ユレ時ト、畜之給ヒ、アキラメ給ヒ 同、同[illegible]「ハフクズノ、タエズシヌバム、大君ノ、畜之シ野邊ニハ、シメユフベシモ」（二）看守リテ治メ有ツ、ノ敬語。知ロス。聞コス。統御 萬葉集、十八[illegible]、ナヒホスラシモ、[illegible]ゴ大[illegible]ノ宮ヲ、アリガヨヒ賣須」（スペテ、看すノ條、見合ハスベシ）同、一廿二長歌「藤原ガ上ニ、食國ヲ、畜之給ハムト、オホミヤハ」（古義ノ訓）同、六三十二長歌「安ミシシ、我ガ大君ノ、見タマフ、芳野ノ宮ハ」

め・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）食召 前條ノ語ノ、事ヲ身ニ受クル意ヨリ轉ズ。（一）物ヲ身ニ受ケ入ル。即チ、食フ、飲ム、着ル、等ノ敬語。服御 宇治拾遺、九、第四條「マヅ佛ヲ供養シテ後、物ヲめすベキナリトイヒケレバ」右京大夫集「青色ノ御唐衣、蝶ノ色色ニ織リタリシヲめしタリシカバ」、「馬ニめす」ニめす」（二）轉ジテ、只、動詞ノ上ニ、敬語トシテ添フル語トナル。給ふ、ニ同ジ。萬葉集、十五三十「遠クアレバ、一日一夜モ、思ハズテアルラムモノト、思ホシ賣須ナ」續後[illegible]、[illegible]九、[illegible]二年[illegible]月アケ[illegible]へテ、[illegible]リシ[illegible]ハ、ネモコロ[illegible]、キコシ食テム」「思シめす」知ロシめす」

〔め・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〕召徴 前條ノ語ノ轉ニテ、近ヅケ用ヰル意ヨリ移レル語カ」（一）呼ビ寄ス、招ク、取リ寄ス、ナドノ敬語。[illegible]前[illegible]「天皇命[illegible]之」萬葉集、二[illegible]「東ノ、[illegible]ノ御門ニ、侍ヘド、昨日モ今日モ、召すコトモナシ」（[illegible]皇子[illegible]）[illegible]、廿一、少女[illegible]「御前ニ御[illegible]ドモめす」同、四、夕[illegible]「右近ヲめし出デテ、[illegible]ヲめすこと給ヒテ、云云」（二）召シテ官職ニ[illegible]、[illegible]シ[illegible]、[illegible]任ズ[illegible]、[illegible]ニ出[illegible]、[illegible]

めすり-なます（名）〔目擂膾〕〔めさすり〔目擂〕ノ條ヲ見ヨ。又、めたたき〔目叩〕すりなます。支那ノ山東ノ人、蛙ヲ捕ヘテ、熱湯ニ投ジ、皮ヲ剝ギテ芥醋ニ和シテ食フモノ。（本朝食鑑）芭蕉句集、春「蛙子ハ、目すりな[illegible]ウ[illegible]」

め-ぜにう（名）〔メスイシヤウ〕目水晶 目ヲ水晶トシテ、眼識、明ナルコト。日本[illegible]代議（正德、北條團水）六「ヒトヘニ、賣子ニセント見立テシ江戸ノ親父モ目水晶ト、大坂ニテモ一門ノ喜ビ」

め-せき-がさ（名）〔目塞笠〕〔目狹笠ノ意〕又、伊勢編笠 前ノ、編笠ノ、目ノ甚ダ細カク作レルモノ。眼ニ當ル處ニ少シ隙アリ、人目ヲ憚ル者、用ヰル。心中二枚繪草紙[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ク[illegible]ノ、[illegible]セメセ目せき笠（松の染（元祿）二「小紫「浮世ヲシノブめせき[illegible]」

めぜた・い（形）めでたしノ訛。

めそ (名) [めめざう]たこノ訛略カ。[illegible]ノ小サキモノノ稱。(東京) 重修本草綱目啓蒙、[illegible]、ムナキ[illegible]云云、[illegible]めそ[illegible]云云

二、動物、うなぎ、山城國宇治ニテ、ウヂマロト云、此[illegible]ノ小ナルモノ[illegible]、京ニテ、めめぞうなぎト云

めそ (名) [illegible]ノ末ヲ[illegible]モノ。[illegible]東京[illegible]ヲモ參見セヨ。

〔**め-ぞめ** (名) [目染] 〔目結染ノ意〕 志ぼり[illegible]。[illegible]同[illegible]。[illegible]七、[illegible]雲ニ花机ノ饌ヒナド、ヲカシキめぞめモ、ナツカシウ[illegible]ノナル[illegible]、[illegible]メツケラレタル心ハヘ、云云」

めそめそ [illegible] ベソヲカク狀。[illegible]ノ語。又、ヒソカニ泣ク狀ニモ云フ [illegible]永、近松作)露の[illegible]此[illegible]ナ馬子奴ハ、めそめそ吠エテ、シカト馬ヲ追ヒモセズ」

めた (副) [めつたニ(滅多)ノ略] (一)ムヤミニ。ヤタラニ。(靜岡)「めた來ル」めた叩ク」(二)タビタビ。「めた行ク」めた遇フ」

〔**め-だい** (名) [日代][眼代] もくだい(目代)ノ條ヲ見ヨ。

め-たう (名) [女唐] めたうぢん(女唐人)ノ略。其條ヲ見ヨ。

め-だう (名) [馬道] 演繁露(宋、程大昌)[illegible]止[illegible]於馬道[illegible]注、馬道謂[illegible]人上[illegible]馬處也、又、瑯琊代醉編 舊尙書令僕中丞騶唱不[illegible]入[illegible]宮門[illegible]止[illegible]於馬道[illegible]注、馬道許[illegible]人上[illegible]馬處也」トアリ、元來、馬ニ乘ルベキ處ナリ、或ハ馳道ノ抄錄書カト云フ

(一)(古へ、殿中ヲ橫貫シテ、細長ク土間トシテ置ク所 事アル時ハ、宮中、奧ノ間ノ所マデ、馬ヲ引入レテ、乘出テム爲ノ用ナリ。廊ヲ橫切リテ造レルヲ切馬道ト云フ。何レモ常ニハ、[illegible]ニ厚板ヲ敷渡シオキテ通路トス。略シテ、めん[illegible]。[illegible]、めん[illegible]、[illegible]宋[illegible]、同[illegible]

[illegible]、[illegible]馬道、メダウ[illegible]、めだうノ[illegible]シコメ、云云 [illegible]ウチハシ、切馬道ニ[illegible]ヲ打渡シテ通フ道也」枕草子、十、第百廿七段「細殿ノ[illegible]、イト[illegible]ウ掃シ明ケタレバ、[illegible]ノめだうヨリ下リテ來ル殿上人ノ、云云」榮花物語、三十四、[illegible]ノめ[illegible]ハだうヨリ[illegible]テトラセ給ノ」上、第[illegible]、第十五[illegible]宮ニマ井リニ、めうくうだう(二)ニタヽズミケルニ、云云」(二)後ニハ、宮中ニテ緣側ヲ、おめんだうト云フ。

め-たうか (名) [女蹈歌] をんなたうか(女蹈歌)ニ同ジ。たふか 蹈歌ノ條ヲ見ヨ。[illegible]女蹈[illegible]、安[illegible]天平十四年正月十六日、[illegible]女蹈歌[illegible]四季物[illegible]、五月、今ハ、ヤヤ、ソノ[illegible]ソギユキテ、タダめたうか、[illegible]ノマネビ、[illegible]メシノ[illegible]ノオモウケ、云云」

め-たうぢん (名) [女唐人] 西洋婦人ヲ侮リ云フ稱。たうぢん(唐人)ノ條ヲ見ヨ。

め-だか (名) [目高] 小魚ノ名。淡水ニ產ズ。長サ一寸許リ、首、平タク大キク、目、大キクシテ高ク出ヅ。性、好ミテ水面ニ[illegible]遊ス 小兒畜ヒテ玩トス。(東京)諸國、名ヲ異ニス。メメザコ。ウキンヂョ。ウキタ。ウキイヲ。ウキウヲ。ウキンダ。ウキス。丁斑魚 麥魚 物類稱呼、[illegible]、[illegible]物、丁斑魚、めだか、云云」

め-だか・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) [目高] 鑑識タカシ。又、見識高シ。

め-だき (名) [女瀧] [男瀧ニ對ス] 二條ノ瀑布ノウチニテ、水勢ノ緩ク、又、低[illegible]小[illegible]モノ[illegible]

め-た-くた (名) 〔めちゃくちゃ、むちゃくちゃ、もちゃくちゃ、むちゃくちゃ、ナドト同類〕 事物ノ紛亂スルコト。筋道ナキコト。ゴタクサ。ゴタゴタ。[illegible]

め-だけ (名) [雌竹] [雄竹ニ對ス] [illegible]竹ノ類 林野[illegible]多ク自生シ、[illegible]高サ四五尺ヨリ二丈餘ニ達シ、梢上ニ枝ヲ分チ、數回分岐シテ葉ヲ出ス。

めた・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) (一)面目ナリ。名譽ナリ。(二)〔方痛しノ略轉〕 氣ヅカハシク、心ガカリナリ。[illegible]めたし」

め-だし (名) 芽出 草木ノ芽ヲ出スコト。又、芽ノ、出デ初メタルモノ。萌芽 一茶句集、春「芽出しカラ、人刺ス草ハ、ナカリケリ」

〔**め-だ・し**・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 〔めづらしノ約ト云フ〕 愛タシ。愛ラシ。敬愛 佛足石歌[illegible]藥師ハ、常ノモアレド、客人ノ、今ノ[illegible]、[illegible]カリケリ、[illegible]カリケリ」

め-だた・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 目立チテ見ユ。イチジルシ 顯著 萬開集、十[illegible]宇治[illegible]不便ナルモノニ思召シタル事、めだたしきホドノコトナリ」

め-だ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [目爛] 眼疾ノタメ、眼ノ緣タダル。名義抄「瞜、メタダル」

〔**め-だ・つ**・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) [目立] 目ニイチジルシク見ユ。一際、目ニツク。著明 顯著 源、七、紅葉賀「[illegible]人めだつマジク、ナダラカニモテナシ給フ」

〔**め-だ・つ**・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(自動、下二) [目立] 一際、目ヲ注ケル。注意シテ見ル。[illegible]

[illegible]

め-だ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) [萌芽] めざ[illegible]ニ同ジ。[illegible]

め-たて [illegible]

めたと [illegible] 〔めた(滅多)ノ略〕 一意ニ。又、ヤタラト。 史記[illegible]

めたみ (副) [滅多] [illegible]ノ條ヲ見ヨ。メッタニ。メチャニ。ムヤミニ。

め-だま (名) [目玉] 目ノ中ノ白眼ト黑眼トノ總稱。マナコ。マナコダマ。メノタマ。メノクリダマ。眼球 書言字考節用集、五、[illegible]門「[illegible]」[illegible]二、[illegible]、云云」[illegible]おめだま[illegible]ト[illegible]、叱ラルル意。

めた-やたらみ (副) [滅多矢鱈] めたやたらみ(滅多矢鱈)ニ同ジ。

め-だら (名) [雌楤] 〔めたらのき(楤)ノ略訛〕 たらのき(楤)ノ條ヲ見ヨ。

〔**め-だり-がほ** (名) [目垂顏] 間拔面ノ意カ」又、めだれがほ 面伏ナル顏色。氣オクレシタル容子 又、卑怯ナル態度。平家物語、一、御輿振「[illegible]ニ候、聞ケテ入レ奉ル陣ヨリ入ラセタマヒナバ、山門ノ大衆ハ、目だりがほシケリナド、京童ノ申サンコト、後日ノ難ニヤ候ハンズラン」

メタル (名) 次條ノ語ノ訛

メダル (名) 〔英語、Medal.〕 人ノ功績ヲ

賞シ、又ハ、學術、技藝ナドノ優秀ナルヲ表彰シ、或ハ、[illegible]トシ、或ハ、又、事業ノ記念ナドトスル爲ニ、用ヰル金屬製ノ牌。[illegible]

めでた・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）〔目出度し〕[illegible]注意ヌケタル[illegible]御容赦ヲ乞フ意

めだれ-がほ（名）〔目垂顏〕〔めだれハ、てたりノてだれノ類〕（一）めだりがほ（目垂顏）ニ同ジ。謠曲、安宅「賤シキ強力ニ、太刀刀ヌキ給フハ、めだれ顏ノ振舞ヒハ、臆病ノ至リカト」（二）轉シテ、恥ヅベキ顏、見苦シキ顏色。[illegible]ナル役目ハスルトモ、ワレニハカナハジモノヲ」

めぢ（名）眼路　目ノ通フ程ヲ遙カニ見遣ル所。目ニテ見通シタルホド。メサキ。メドホリ。眼界　[illegible]心遣リナル、ムレド、めぢニモ霧ノ、立チヌレバ、[illegible]眼路。

めぢ（名）目地　石積ミ、又ハ、煉瓦積ミナドノ接キ目。[illegible]

めぢか（名）目近〔めぢかしノ語根〕（一）目ニ近キコロ。目前。眼前　狂言、目近大名「千石ノ米ボネ、萬石ノ米ボネ、目近ニ持ッテ參ッタ」（二）めぢかあふぎ（目近扇）ノ略。要ヲ本近ク二打チタル扇　狂言記、目近大名「扇ノ事ナレドモ、ソレハ常ノ持扇、コノ要ヲ目近ウウッタヲ目近トイフ」

めぢか・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）目近〔目近ク〕見ヤ[illegible]見通ズ[illegible]（一）[illegible]云、例ハ[illegible]ノ、目近カラ[illegible]卑近ニテ解シ易ミ　見テ[illegible]

めちがひ（名）〔目違〕（一）見ソコナヒ。見アヤマリ。諸國咄（貞享、西鶴）一「異ナ事ヤ、女ニテアルベシ、各ノ目違ひハナキカ」（二）建築、土木ノ語。木ノ繼手、又ハ、組手ニテ、接際ヨリハ少シク[illegible]起シタル部分。[illegible]ニシテ、易ラカニ目近く」（四書正解ヲ云フ）

めちゃ（名）〔滅茶〕又、めっちゃ（一）メタ。メッタ。無差別。ワケノワカラヌコト。又、其狀ニ云フ語。（二）度外ナルコト。過度ナルコト。又、其狀ニ云フ語。

めちゃ-くちゃ（名）〔滅茶苦茶〕めたくたニ同ジ。

めちゃ-めちゃ（名）〔滅茶滅茶〕〔めちゃヲ重ネタル語〕前前條ノ語ヲ見ヨ。

めちゃ-もの（名）〔妻者〕〔妻であるものノ約略、親愛ノ意ヲ含ム〕ツマト云フノ者。妻ナル者　狂言記、[illegible]なお[illegible]トノ[illegible]ヲ致シタレバ、ツイト出テゴザルガ」

めつ（名）滅　佛教ノ語。無明煩惱ヲ斷ツコト。大乘義[illegible]二、涅槃、無[illegible]名滅」

めづ（名）〔馬頭〕ごづめづ（牛頭馬頭）ノ條ヲ見ヨ。　攝取[illegible]八「牛頭獄卒、馬頭羅刹」

め・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ（他動、下二）〔愛〕〔めぐし、めぐむニ通ズ〕好シト思ヒイツクシム。思ヒ慕ヒテ惚ル。愛ス。カハユガル。源、四十二、紅梅「花ノ香ヲ、匂ハス宿ニ、認メ行カバ、色ニめづとや、人ノ咎メン」　允恭紀、八年二月「天皇の衣通郎姫に[illegible]花グハシ、櫻ノ如ク[illegible]梅[illegible]バ、早クハ、めづベカリシ[illegible]ズニテ[illegible]シヨ、我カ[illegible]ノ、チラフ山ヘユ、[illegible]、ニホヒニ米低「、出テテ來ニケリ」

めっ-かうみ（副）〔眞向〕〔めっかうハ、まっかふ（眞向）ノ轉〕マムキニ。マシャウメン[illegible]フニ[illegible]作）中「金デシタ小判ト云フモノ、近付ニナッテオケト、めっかうみニ[illegible]ケツクル」

めっ-かち（名）〔目偏ノ音便轉カ〕かためノ（片目）ノ[illegible]（二）同ジ[illegible]東京

めづかひ（名）〔目遣〕（一）目ヲツカヒハタラカスコト。又、其サマ。メツキ。好色[illegible]代男[illegible]西鶴[illegible]ゴシノ目づかひ[illegible]セハシクアシラヒ」（二）メクバセ。

めっかりこ（名）〔目附子〕〔めっかりハめつかりノ音便、こハ助辭〕物ノ目ニツクコト。物ノ見ユルコト。見ツカルコト。「ナクシタモノノ、めっかりこナシ」

めつか・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔所目附〕物ノ目ニツク。見ツカル。

めつき（名）目付　古言、マヒキ。マナコキ。眼ノ物ヲ見ル容子。メザシ。メモト。目色　冥途の飛脚（正德、近松作）上「思ヒ内ニアレバ、色外ニ現ルル、目つきヲソチモ見テトタカ」

めっき（名）〔滅金〕〔めっきんノ音便略、貴金屬ヲ燒キッケテ、其色ヲ變ゼシムル故ニ滅金ト云フ〕（一）金類ニ、金、銀、ナドヲ燒キツクルコト。金類ヲ柔カキ藥ニテ研ギテ、梅酢ヲ塗リ、藥ニテ拭ヒ淨メ、水銀ヲ塗リ、上ニ金銀ノ薄ヲ置キテ燒付ク。ヤキツケ。メキン。金ナルヲ金滅金（古言、コガネヌリ）ト云フ。メッキン。トキン。鍍金　銀ナルヲ銀滅金（古言、シラヌリ）ト云フ　メッキ[illegible]鍍銀　又、西洋法ナルニハ、[illegible]、滅金ナド、種種アリ　内匠寮式[illegible]

めっき（名）ねっき（根木）ノ條ヲ見ヨ。

めっき（副）[illegible]

めっきゃくき（名）[illegible]（一）[illegible]

「此ノ[illegible]仕ヌイテコイト、内證デ後家御ノ言ヒツケ、ヂャニヨッテ、めっきゃっきスルガ何ヂャ」

めっきん（名）滅金　めっき（滅金）ニ同ジ

めつ-ぎん（名）〔滅銀〕めっき（滅金）ノ條ヲ見ヨ。内匠寮式「滅銀廿五兩」

めっ-きゃく（名）滅却〔滅ハ、却ハ、[illegible]〕字、意ヲ強ムル爲ニ添フル助辭　ホロブルコト。ツブルルコト。又、ホロボスコト。[illegible]山水ヲ滅却心頭ニ火自涼」　甲陽軍鑑、五、品第十三「北條[illegible]」

めっきり（副）〔目切〕メキト。目ダチテ。俄ニ際立チテ。俄然　冥途の飛脚（正德、近松作）上「八右衞門、コノ中ハ久シイ、云云、めっきり上[illegible]、めっきりト[illegible]イガ」

めつけ（名）〔目附〕〔君主ノ耳目トナル意〕（一）武家ノ役名　諸事ニ立合ヒ、非違ヲ注ケテ糺スコトヲ掌ル。室町時代ニハ、所司代、被官ノ限リナシ如ク、織田信長ノ時ニ至リ、必ズ此職ヲ設ケ、又、横目トモ云ヘリ。德川幕府ハ、元和三年、目附十人ヲ置ク、若年寄

ノ耳目トナリテ、旗本諸士ノ非違ヲ彈劾ス。其下ニ徒目附、小人目附アリ。別ニ、大目附、隱目附アリ。各條ヲ見ヨ。[illegible]ヲバ柴田權六目付ニ云云、諸總ヲバ柴田カタヨリ可ニ[illegible]

[illegible]偵。隱密。[illegible]探偵。密偵。[illegible]

めづけ（名）［芽漬］木ノ芽、主トシテ、あけびノ芽ヲ鹽ニテ漬ケタルモノ。コノメヅケ。キノメヅケ。詞花集、廿、戯咲、「くらまの別當の、またしき人のもとより、めづけといふもの、このほかおほかた見えねば、えたてまつらずといへりけるに[illegible]惜ヤ、鞍馬ノめづけ、イカナレバ、フツト見エズト、イフニヤ有ルランし」

めつけばしら（名）目附柱　だいぶんはしら（大盡柱）ノ條ヲ見ヨ。

めっけもの（名）目付物　發見シタルモノ。見ツケタルモノ。ホリダシモノ。

めつ・ける（動）目付　見付けるノ轉。其條ヲ見ヨ。

めっ・ける（動）目付　前條ノ語ノ訛。浮世風呂、二（文化、二編初卷下）「小歳ヲめっけタラ、搭ヘヨウ搭ヘヨウト思ッタ所、云云」

めつけゑ（名）［目付繪］紙ニ數種ノ繪、又ハ、紋ナドヲ書キテ、他人ニ其中ノ一ツニ目ヲツケサセ、此方ニテ、ソレヲ中ツル戯。文字ナルヲ目付字ト云フ。

めつこ（名）［女兒］（つハ、つ（之）ノ條ヲ見ヨ）めのこ（女子）ニ同ジ。萬葉集、十六[illegible]

めつご（名）［滅後］佛教ノ語。滅亡シタル後。入滅ノ後。死後。多ク、如來ノ死後ニ[illegible]

めづこ（名）［愛子］愛ヅル子。愛子。マナゴ。萬葉集、六三十長歌「父君ニ、我ハマナ子ゾ、母刀自ニ、吾ハ愛兒ゾ」（略解ノ訓）

めつざい（名）［滅罪］佛教ノ語。懺悔、作善ナドノ行爲ニヨリテ、罪業ヲナクスルコト。ツミホロボシ。

めつざい・しやうぜん（句）［滅罪生善］佛教ノ語。佛力ニ依ビテ、罪業ヲホロボシ、善果ヲ生ゼシムルコト。往生要集、中、本[illegible]

めっさう（名）［滅相］〔大乘法數、廿三〕[illegible]四相、生相、老相、病相、死相、細四相、生相、住相、異相、滅相ト見エタリ」佛教ノ語。四相ノ一。業盡キ命終リテ、身體ノ破壞スルコト。しさう（四相）ノ條ヲモ見ヨ。法華經、化城喩品「如來說法一相一味、所謂解脫相、離相、滅相」

めっさう（副）滅相　（一）法外ニ。甚ダシク。タイソウニ。諸藝太平記（元祿）ニ「コチニ覺エノナイコトヲ、只めっさうニモガリ舟、繫ギトムベキヤウモナシ」「めっさうヨイ天氣ダ」（二）トンデモナイナドト云フ意ヲ云フ語。諸藝太平記（元祿）七「コレ滅相ナ道存樣、如何ニ覺ガヨイトテモ、云云」

めっさうかい（名）［滅相界］めっぽふかい（滅法界）ニ同ジ。

めっし（名）［滅紫］ムラサキノ、サメカケタル[illegible]

めっし[illegible]スルコト。謠曲、俊寬「夕ダ暮見ス春ノ花、今ハ何時シカ引カヘテ、五衰滅色ノ秋ナレヤ」

めつじん（名）［滅盡］ホロビツクルコト。全ク消滅スルコト。杜甫、白絲行「美人[illegible]」

めっ・す[illegible]（一）ホロブ。[illegible]滅ト中シテ、此ノ世ニ生マレタ者ハ、必ズ滅する」

めっ・す[illegible]ホロボス。[illegible]（二）消ス。[illegible]

めつぜつ（名）［滅絶］ホロビ、タユルコト。絶滅。[illegible]

めっそり（副）キハダチテ、滅少シタル狀ニ云フ語。ゲッソリ。

めった（副）滅多　（めったト）[illegible]分別ナキ狀ニ[illegible]ムヤミ。メチャメチャ。[illegible]語原ヲ見ヨ」[illegible]ドニソソノカサレ、云云、めったト遣ヒステテ」

めったうち（名）［滅多打］ムヤミニ打ツコト。亂打。國性爺合戰（正德、近松作）五「隙ヲアラセズ滅多打ち、投伏セ投伏セ縛リ付ケ」

めったぎり（名）滅多切　ムヤミニ切ルコト。亂斬。艶狩劍本地（寶永、近松作）二「手向ヒセバ、太刀ノカネノツヅカン程、めった切ノ一軍、ツヅケヤ人人」

めったづき（名）［滅多突］ムヤミニ突ク[illegible]

めたみ[illegible]ニ。メチャニ。ヤタラニ。ムヤミニ。[illegible]太平樂府（明和）[illegible]」[illegible]フト[illegible]ナリ、めったに逢フ程ニ」

めったばら（名）［滅多腹］ムヤミニ立腹スルコト。

めったまと（名）［滅多的］人ノ賑フ場所ニ、野師ナド出デテ、人ニ布ニテ目ヲ掩ヒテ、射シムル的矢ナルベシ。（詳ナラ[illegible]目ヲフサグ」[illegible]二而偽（仕中[illegible]數寄）」

めったむしやうみ（副）［滅多無性］ムヤ[illegible]

めったやたらみ（副）[illegible]語ニ同ジ。又、めったやたら[illegible]奴俳諧「ツッタツ春ノ、四方ノヨソホヒタル」山山ヤ、めったやたらみ、霞ムラン」

メッチ（名）［燐寸］〔英語、Match.ノ訛〕まっち（燐寸）ノ條ヲ見ヨ。

めっちゃ（名）［瘡痕］みっちゃ（瘡痕）ニ同ジ。

めっちゃ（名）滅茶　めちゃ（滅茶）ノ急呼音。其條ヲ見ヨ。

めっちゃくちゃ（名）［滅茶苦茶］めたくた

ニ同ジ。よだれかけ(慶安)一、[illegible]と手工の[illegible]シタルモ、智[illegible]ノ至ラザルガ故ナルベシ」

めつてん (名) [滅點] 悉曇ノ…ノ如キ點ヲ云フ。即チ、まったし(全)、うったふ(訴)ノッノ促聲ナリ。其促聲ヲッット書クモ、此滅點ノ形ヲ借レルニ起ル。

めつど (名) [滅度] 〔梵語、Nirvāna.ノ一譯語〕(一)ねはん(涅槃)ニ同ジ。(二)[illegible] 入[illegible]滅 法華經、序品「佛此夜滅度、如薪火滅」太平記[illegible]

めつにち (名) [滅日] ぼつにち(沒日)、及、めつもん(滅門)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]六十三日四日[illegible]」

めっぱ (名) [目張] 〔めひきはりノ音便略[illegible]〕片目ヲ[illegible]眼ノ縁ノ引キ張リ出テ、惡キコト。浮世床(文化、三馬)二編、下「休ミノ翌日ハ、惡事ガ[illegible]ヲ云フ」

めつばう (名) [滅亡] ホロブルコト。ツブルルコト。[illegible]

めっぱりこ (名) 目張子 互ニ眼ヲ見張リ合フコト。ニラミアフコト。

めつぶし (名) 目潰 沙、灰、ナドヲ敵ノ目ニ打付ケ、目ヲ晴マスコト。又、ソノ物。海録、八、第十八條「目つぶしノ方、云云」

めつぶれ (名) 目潰 [illegible]ニ同ジ。

[illegible]めつぶれイ)此ノ女中ハ丟クモ、ウヌガ小錢デ買フ樣ナ貧物デナイ」

めつぼつ (名) [滅沒] [illegible]消エウスルコト。[illegible]

めつぼふ (名) [滅法] 佛教ノ語。無爲法(因縁ノ造作ヲ離レタル法)ノ異名。[illegible]家(正徳、近松作)、上「めつぼふフタイノ玉(面向不背玉ニカク)ト名ヲ取ッタ女子ヂャ」

めっぼふ (副) [滅法] 〔佛教ニ、欲世界ノ空シキヲ悟リ、苦ヲホロボスヲ滅ト云フ、滅ノ法ヲ悟リ得タル意ヨリ、スグレタル意ニ云フカ〕法外ニ。甚シク。「めっぽふ言イ」

めつぼふかい (名) [滅法界] 〔法界ノ理ヲ斷滅スル意〕定法ヲ外レタルコト。非常ニアテコトモナキコト。無法。明曆二年刻、俳諧世話盡ニ、市之話ノ條ニ、めつそう買トアルハ價ヲ論ゼザルナルベシ、此語ノ轉カトモオボユ。滅相界。轉ジテ、副詞ニ用キラル。タイソウニ。タクサンニ。「魚ガめっぽふかい來ル」(靜岡)

めづま (名) [目褄] 人ノ見ル目サキ。人目。浮世風呂(文化、三馬)二、上「私ノ目づまヲシノンデハ、休ミタガリマス」

めつもん (名) [滅門] 〔滅門日ノ略〕陰曆ノ上ニ、凶日ノ名。大禍日ト、六日ヅツ隔テテ、月毎ニ五日アリ、狼藉日ト共ニ三惡日ト云ヒ、百事ニ凶ナリト云フ。又、滅門日。假名暦略註「大くゎ、らうしゃく、めつもん、[illegible]、滅門、云云、滅門日ハ三鏡ノ惡日ノ一ツニシテ、萬事ニ用ザルノ日ナリ、若是ヲ犯シ用ユル時ハ、必其家門ヲ滅スルノ禍有、愼ベシ」

めづもり (名) [目積] 目ニ見タルノミニテ見積ルコト。[illegible]

めづら [illegible]

めづら (名) [奇珍] 〔めづらしノ語根〕メヅラシキコト。神功皇后攝政前紀「皇后曰、希見物也」[illegible]

めづらか (副) [奇珍] メヅラシキ状ニ云フ語。奇シク。メヅラニ。伊勢物語、第十四段「京ノ人ハ、めづらかにヤオボエケン」

めづらし (形、二) [珍・希覯] 〔愛ヅヲ活用ス、希ナルモノハ、見愛デラルルナリ〕(一)愛ヅラシ。愛シ。愛ヅベクアリ。メヅラカナリ。萬葉集、八[illegible]可愛サ[illegible]クニ」(古義ノ訓) 同、十一「難波人、アシ火タクヤノ、スヽタレド、[illegible]マヒヲ」(古義ノ訓) (二)賞美スル價アリ。萬葉集[illegible]雲、朝ニケニ、常ニ見レドモ、目頰四吾ガ君」 (三)希有ナリ。見ルコト稀ナリ。世ノ常ナラズ。希有ナリ。奇妙ナリ。キタイナリ。名義抄「[illegible]メヅラシ、アヤシ」[illegible]

めづらしがる (自動、四) [illegible]

シク逢ヘザリケル人ナドノ、マウデアヒタル、めづらしがりテ、近ク寄ヨリ寄リシ、云云」

めづらしびと (名) [珍人] メヅラシキ人。マラウド(客)。タマサカニ來リタル人。[illegible]

めづらしむ (他動、四) [奇珍] [illegible]マカリツレバ、人人めづらしみアヘル中ニ」

めづらま [illegible]同ジ。奇シク。六帖、二「[illegible]シテ寢ル、[illegible]めづらなる、君ナレバ、今シモ逢ヘル、心チコソスレ」

めつれつ (名) [滅裂] 破レサケテ、キレギレニナルコト。ハナレバナレ。莊子、[illegible]

めて (名) [illegible]

めで (助) [illegible] 朝滑薩落着事「海道ヲバ馬手ニナシテ踏チ絡ヘバ」

めであひづき (名) [illegible] 即チ、陰曆七月ノ異稱。藻鹽抄「七月、めでてあひ月、七夕ノ、めでてあひ月、マチマチツ、イカニ心ノ、嬉シカルラン」

めてくち (名) 卑怯ナルサマナルコト。[illegible]不詮索ニテ、縦ヘ手ガラアリ共、めてくちナル侍ニモ同然ナリトテ、御内儀ヲ得、扶持ヲハナセバ

めでくつがへる (他動、四) [愛覆] 〔ざれくつがへる、にえかへる、

めでくつがへる、ナド、同趣。(〔[illegible]〕甚シク愛ヅ、大イニ愛デ感ズ、甚シク愛ノ動作ノ甚シキヲ云フ語) 感歎、歎息 源、四十、竹川「打チシホたれ給ヘ、ゾ殘サヘ、トマリタルカウバシサヲ、人人ハめでくつがへる」

めてざし (名) 〔馬手差〕 軍中ニテ、腰ノ右ガニ差ス短刀。ヨロヒドホシ。刺刀。 平治物語、[illegible]「女手指ヲ拔」

〔めで-ほ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(他動、下二)〕 愛痴 甚シク愛デテ痴ル。感極マリテ有頂天ニナル。感激 宇津保物語、俊蔭「仲忠めでほれテ、[illegible]ノカヅケ給ヘル衵(アコメ)ヲ打チカヅキテ、諸共ニ舞ヒ遊ブ」

めでた (名) 〔めでたしノ語根〕 次條ノ語意ニ同ジ。 榮花物語、九、岩蔭「野宮モ野ノ宮ニオハシマスホド、イトめでたナガラ、云云」

めでた・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 〔愛甚し(メデイタシ)、愛ヅベノ義、訛シテ、めぜたし〕 (一)〔愛ヅベクアリ。愛(ウツ)クシ。賞スベシ。可愛 源、五、若紫「此ノ若君、ヲサナ心チニ、めでたき人哉ト見給ヒテ」 伊勢物語、第八十二段「散レバコソ、イトド櫻ハ、めでたけれ、ウキ世ニ何カ、久シカルベキ」 (二)〔盛麗ノ義〕 麗ハシ。殊ニ好シ。結構ナリ。偉麗 字類抄「美、メデタシ」 源、五十、浮舟七「イトめでたき御住ヒノ心深キヲ、猶、フサハシカラズ見奉ル」 名義抄「玩、メテタシ」 (三) 吉キ兆アリテ、悦バシク祝フベシ。喜バシ。コトホグベシ。可慶 可賀 狹衣、三、上「今姫入内「めでたきニツケテモ、世ノ人ノ物言ヒハ聞ニクキモノニテ、此頃ノアツカヒグサニコソ、言ヒノノシリケレ」 阿蘇文書(正平)十月十七日惠良小次郎宛吉野左馬權頭清氏狀「御同心被レ追二罰朝敵一者、公私目出度候」 (四) 俗ニ、死ヌ。(忌ミテ云フ) 中御門宣胤卿記、文龜元年十月、勾當内侍消息「越前ノ御レウ所ノ事、云云、其トシ御子ムグマヘニめでたくナリ候アトニオホセ付ヘハ、何トモ申サセサフラハヌ由ニテ、[illegible]」 (其ノ父ノ死ヲ云フ)

〔めで-の-さかり (名) 〔愛盛〕 其人ノ功德ナド、愛デラレテ、擧ゲ用キラルルコトノ盛ンナルコト。 萬葉集、五 三十五長歌「愛能盛ニ(メデノサカリニ)、云云、[illegible]ヒタマヒテ、[illegible]命、[illegible]キ持チテ、[illegible]ノ、遠キ境ニ、ツカハサレ」(古義ノ訓) 日本逸史、三十五、天長四年詔「御[illegible]乃愛乃盛[illegible]人モ亦在」

め-てふ (名) 〔女蝶〕〔雌蝶〕 (一) 雌ノ蝶。 (二) 蝶花形ニ云フ語 婚禮ニ用キル長柄ノ銚子ノ首ニ飾ルモノ。紅白ナドノ紙ニテ蝶ノ形ヲ折リ折リテ、造花、草葉ナドト共ニツク。銚子二ツヲ用キテ、其一ニ男蝶(ヲテフ)ヲ着ク。 孕常盤、寶永、近松作「模樣ハ蝶結ビ、蝶結ビ、女蝶男蝶ノ翼ヲマナビ、番ヒニ結バレタリ」

めで-まど・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 〔愛惑〕 メデテサワグ。オドロキ惑フ許リ、メヅ。 伊勢物語、第百六段「彼ノアルジナル人、案ヲ書キテカカセテヤリケリ、めでまどひニケリ」

〔めで-や・ぐ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(自動、四) 〔愛〕 メデタク見ユ。メデタク感ズ。 榮花物語、十七、音樂「見ルニめでやぎ(一版本、めかおや)きテ、何モ見ワキガタシ」

〔めで-ゆす・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 〔愛搖〕 世ノ鳴響(ナリトヨ)キテ、感ジ愛ヅ。稱揚 源、廿一、少女「唐土ニモ持テ渡リ傳ヘマホシゲナル世ノ文ドモナリトナン、ソノ頃、世ニめでゆすりケル」

め-ど (名) 〔針孔〕〔針眼〕 〔みづノ轉、其條ヲ見ヨ、目處(メト)ノ義トモ云フ、意同ジ〕 (一) 又、みづ。孔(アナ)。 物類稱呼、一、天地「穴、アナ、東國ニテ、めどト云、云云、轉ジテ、みづト云」 (二) 針ノ一端ニアル小サキ穴、即チ、絲ヲ通ス所。ハリノミミ。メ。ミミヅ。

め-ど (名) 〔目處〕 〔或ハ、針孔ヲ狙フヨリ[illegible]〕 メアテ。目的。標的

め-ど (名) 〔蓍〕 (一) 〔めどはぎ(蓍萩)ニ同ジ。[illegible]女止」 (二) 筮ニ用キルヨリ轉ジテ、ウラナヒノ義。 菅原傳授手習鑑(延享、出雲等合作) 四「机ノ數ヲ改メシモ、我子ハ來タカト心ノ蓍」

め-ざ (名) 〔馬道〕 めだう(馬道)ニ同ジ。 [illegible]十一、[illegible]馬道、メドウ、めど、臨ヲスナハチイフニ似タレド、思フニ臨ノウチノ馬道ナリ、云云」

めどかけ-ばり (名) 〔耳缺針〕 針孔ノ缺ケ損ジタル針。

めど-ぎ (名) 筮 〔目處草ノ義〕 古ヘ用キル具。モトハ蓍ノ莖五十本ヲ以テ作ル。之ヲ以テ占フニハ、五十本ノ中、一本ヲ太極トシテ取リ除キ、四十九本ヲ無心ニ左右ノ手ニテ二分シ、右手ナルヲ下ニ置キ、其中ノ一本ヲ取リテ揲ト云ヒテ、左手ノ小指ト無名指トノ間ニ挾ミ、然ル後ニ、左手ニアルモノヲ、二本宛、春、夏、秋、冬、春、夏、秋、冬、ト八本宛、數ヘテ、其殘リタルモノニ、前ノ揲一本ヲ加ヘテ、二本ナラバ兌トシ、三本ハ離、四本ハ震、五本ハ巽、六本ハ坎、七本ハ艮、八本ハ坤、一本ナラバ乾トシテ、算木ノ象トシ、之ヲ下卦トナシ、更ニ右ト同樣ニシテ、其數ヘ得タル卦ヲ上卦トナス。後ニハ、竹ヲ削リテモ作ル、筮竹(ゼイチク)ト云フ。 名義抄「蓍、メドギ」 風俗文選、四、愛梅說「十露盤ノ粒、蓍木」

めど-ぎ (名) 〔蓍木〕 めどはぎ(蓍萩)ニ同ジ。

めど-ぐさ (名) 〔蓍草〕 めどはぎ(蓍萩)ニ同ジ。 本草和名、上廿「蓍實、女止久佐」

めど-に-けづりばな (句) 〔馬道削花〕 けづりばな(削花)ノ條ヲ見ヨ。

めど-はぎ (名) 〔蓍萩〕 [illegible] 三枚一葉ニシテ、互生ス。梢ニ小枝ヲ分チ、秋、葉ノ間ニ一花ヅツ、蝶形花ヲ開ク、萩ノ花ニ似テ、色白ク[illegible]ブ、採リテ筮トス。メドギ。蓍草。[illegible]

め-どほり (名) 〔目通〕 (一) メノマヘ。メノアタリ。眼界 本朝若風俗(貞享、西鶴) 四「オめどほりニテ丸裸ニナサレ」 (二) 目ノ高サ。 本朝二十不孝(貞享、西鶴) 三「目通リヨリ高ク手ヲアゲサセズ」 (三) 貴人ノ目ノ前ニ出デ見ユルコト。謁 「目通カナフ」 (四) 立木(タチキ)ノ太サヲハカルニ云フ語。(普通ハ、大人ノ地上ニ立チテ、其目ノ高サニ於ケル太サヲ量ル時ニ云フ) 「目通周圍何尺」

〔め-どり (名) 〔雌鳥〕 〔雄鳥ニ對ス〕 メスドリ。鳥ノめす。音便ニ、めんどり。 倭名抄、十八、羽族類「雌、米止利」

めどり-くくり (名) 〔目取括〕 目結ノククリ染。處處ヲ括リタル絞リ染。 大和物語、上「馬ノハナムケ、別ニ、めどりくくりノ狩衣、袿(ウチギ)、襖(スサ)ナド」

めどり-ば (名) 雌鳥羽 雌鳥ハ、左翼ヲ以テ右翼ヲ掩フト云フ、ソノ如ク物ヲ重ヌルニ云フ語。音便ニ、めんどりば。

めどる [illegible] 娶、迎ヘ取ル、妻トシテ迎フ。[illegible]

〜めなう (名) 〔馬腦〕〔瑪瑙〕〔碼碯〕 〔文理交錯シテ、馬ノ腦ノ赤色ナルニ似タレバ云フト云フ〕 寶石ノ名。玉ニ次グモノ。堅クシテ、脆シ。常種ハ赤クシテ光アリ。頗ル透明ナリ。又、白、黒、青、濁赤、等アリテ、文、円リテ、筋瑪瑙、渦瑪瑙、等ノ称アリ。種種ノ飾物トス。[illegible] 天武紀、下、朱鳥元年正月「攝津國人百濟新興、獻白馬瑙」[illegible]

めなを (名) 〔女兒〕 〔めのを(女兒)ノ意〕 又、めを。ヲンナノコ。ムスメ。狂言記、[illegible]

めなしおに (名) 〔目無鬼〕 めかくし(目隠)ノ條ノ(二)ニ同ジ。[illegible]

めなしちを (名) 〔無目兒〕 めかくし(目隠)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

めなしどち 名 無目共ノ義 小兒ノ戲 ノキノスズメ、めかくし(目隠)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。[illegible] 骨董集、上編、下之巻「又、一休和尚ノ水鏡ニ、目なしどちどちコエ一ツイテマシマセ、トイヘル文アリ、水鏡註目無草(上巻)ニ、どちどちトハ、タヅヌルコトバナリ、トイヘリ、[illegible] 寛文七年刻)巻十二、雪ノ中ヤ、めなしどちどち、オニアザミ、云云、コレ萬治寛文ノ頃マデモ、めなしどちト[illegible]

めなしどり (名) 〔目無鳥ノ義カ〕 めかくし(目隠)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。[illegible] (室町中頃)「道スガラ目なしどり、ノキノ雀オフ童モ、手サシ指サシテ笑フ」

めなだ (名) 〔赤目魚〕 河口近クニ棲ム魚ノ名、形、ぼら(鯔)ニ似テ、頭、扁ク、身、狹ク長ク、大ナルハ三尺餘アリ。口、眼、赤ク、背ハ、ぼらヨリ青ク、味極メテ甘ク旨シ。伊勢、志摩ニテ、多ク漁ルヲから すみ(鰡子)トス。別名、アカメ(關東)、シクチ シクチボラ。シュクチ クチメ イセゴヒ (西國) 本朝食鑑、八、江海有鯔、[illegible]、云云、女那多魚、狀全與[illegible]大者也、俗所謂老[illegible]魚、又曰、[illegible]別一種也、云云」

めなみ (名) 〔女浪〕 〔男浪ニ對ス〕 男浪ノ高ク強ク一ツ打ツ先ニ、低ク弱ク二ツ打チ寄スル浪。[illegible] 東海道名所記[illegible]二「濱邊打寄キテ、海士ノシワザトテ、云云、めなみヲナミヲクミワケテ、イサゴヲサラシ」

めなもみ (名) 草ノ名 なもみノ條ヲ見ヨ。徒然草、第九十六段「めなもみト云フ草アリ、クチバミニササレタル人、カノ草ヲモミテツケヌレバ、則ナイユトナン、見知リテオクベシ」

めなら (名) 〔目竝〕 〔鑒ノ目ノ同數ノ井ビ出デタルヨリ云フカ〕 商業者ノ符牒ノ一。五ノ數ノ二ツ竝ビタルニ云フ語。浮世床(文化)、二編、下「元直カ六百ダ、モウ餘リダカラ、五十指ヲシテ、五百五十ニシテヤラウ」

〜めならぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ(自動、四) 〔目竝〕 麗、ヨクミル。熟視ス。(ひならべてノ條ヲ見ヨ)又、目ニ見エ竝ブ 〔見比ブル物トナル意ト云フ〕 六帖、五、花カタミ、めならぶ人ノ、數多アレバ、忘ラレヌラン、數ナラヌ身ハ」萬葉集、七[illegible]西ノ市ニ、タ獨リ出デテ、眼不竝、買[illegible]

めなる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 〔目[illegible]〕 [illegible] メヅラナル」

めぬき (名) 〔目拔〕 (一)著シク抽ンデタルコト。メボシキモノ。眼目 (二)肝要ナル場所。要處。「町ノめぬきノ場所」(三)人目ヲ盜ムコト。[illegible] 雪女五枚羽子板(寶[illegible]、近松作)初日[illegible]、[illegible]めぬき(太刀ノ目貫ニ掛ク)ノヌスミ物」

めぬき (名) 〔目貫〕 〔目ハ穴ノ義、穴ノ貫キテアル意カ〕 (一)鐵柱ヲ穴ヘ貫クコト [illegible] ヲ穴ヘ貫クヲ以テ、目貫トハ云ト云ヘル」(二)刀ノ刀心ノ穴 目釘穴 オサヘ [illegible] 式、[illegible]、[illegible]在[illegible]穴ノ形カ」 (三)轉ジテ、目釘 太刀ノ刀心ノ穴ヲ、柄ノ上ヨリ貫ク釘。今ノ目釘ノ上ニ飾座ヲツケタルガ本義、後ニハ、目釘ノ外ニめぬきアリ。神樂歌、劍、白銀ノ、女奴ガ太刀ヲ、サゲ佩キテ、奈良ノ都ヲ、ネルハ誰ガ子ゾ」(四)目貫ノ穴ノ上ノ飾。目釘ノ釘隱シ。

めぬり (名) 〔目塗〕 (一)合セ目ヲ塗ルコト 又、其モノ。(二)特ニ、土藏ノ戸前ヲ塗リフサグコト。

めねぢ (名) 〔女螺旋〕 〔牝螺旋〕 ねぢ(螺旋)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

〜めのおと (名) 〔妻妹〕 〔妻ノ弟ノ義〕 妻ノ妹 メノオトウト。神代紀、下[illegible]、豐玉姫、兒ヲ生ミテ、海郷ニ歸リ、妹、玉依姫、留リテ侍養スルコトアリ 後世、此語ヲ約メテ、めのとト言ヒ、且、其事ヲ移シテ、專ラ、乳母ノ稱トス [illegible]

めのかたき (名) 〔目敵〕 目前ニ現ハルレバ[illegible] カモ仇敵ノ如キ者。「目の敵ニスル」

⁂めのくりだま (名) 〔目黒玉〕 〔めのくろだま(目黒玉)ノ[illegible]〕 [illegible]

〜めのこ (名) 〔女子〕 〔男の子ニ對ス〕 (一)[illegible] 神代紀、下[illegible] (二)[illegible] 皇極紀、三年十一月「入鹿、家曰谷宮門、[illegible]」

めのこ [illegible] 女子 めのこさん 目子算

めのこかんぢゃう (名) 〔目子勘定〕 次條ノ語ニ同ジ。

めのこざん (名)・〔目子算〕 〔女の子算カ [illegible]〕 [illegible] ナドヲ用ヰズ、品物ヲ目ニ見テ數フルコト。目子勘定 目子算用 [illegible] めのさ。東國紀行(天文、宗牧)「一花モ、コトシヤサカリ、宿ノ梅、云云、此道ニ限ラズ、無作意ノ心ニハ、めのこ[illegible]、ウチヒアメナル[illegible]ホカハ、耳ニ落チヌニヤアラン」

めのこざんよう (名) 目子算用 前條ノ語ニ同ジ。好色一代男(天和、西鶴)七「心覺エニ目の子算用」[illegible]

〜めのこやつこ (名) 〔婢〕 シモヲンナ。メヤツコ。下婢。女奴。孝德紀、大化元年八月「[illegible]良男良女共所生子、配其父、若良男娶婢、所生子、配其母[illegible]」

めのさや (名) [目鞘] 眼ノ上ヲ被フ鞘。卽チ、まぶたヲ云フ。犬子集(寛永)「夕立ヤ、目の鞘ハヅス、イナビカリ」

めのした (名) [目下] (一)眼ノ下ノトコロ。(二)眼ヨリ以下、末尾ニイタルマデノ長サ。(魚ノ大キサナドノ標準ニ用ヰル語)「目の下二尺ノ大鯛」

めのしたのほほあて (名) [目下頰當] はんぼほ(半頰)ニ同ジ。めんぼほ(面頰)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。太平記、十四、将軍御進[illegible]「[illegible]、目の下の頰當シテ、云云」

めのたま (名) [眼球] めだま(目玉)ニ同ジ。

めのと (名) [乳母][嬭] [めのおとノ略、其條ヲ見ヨ] (一)[母ニ代リテ小兒ニ傅キ、乳ヲ飲マセ育ツル女] カシヅキ。チオモ。アコ。オモ。チノヒト。チツケ。[illegible] 保母 倭名抄、[illegible]「[illegible]乳母、[illegible]」字鏡「[illegible]嬭、乳母、又云、女乃止」同[illegible]「嬭、乳母、女乃止」顯宗紀、元年[illegible]月[illegible]乳母[illegible] 宇津保物語、樓上、上「[illegible]サブラヒ給ノ御乳母、内侍、命婦、藏人、下ノシ[illegible]ナノモ」 枕草子、六、第十四段「チコノめのとノ、タダアカラサマトテイヌルヲモトムレバ」 (二)轉ジテ、男子ニテ幼主ヲ守リソダツルモノ。守リ役。傅。後見。保元物語、一、新院御所各門固事「[illegible]、云云、[illegible]ニ居住シ、尾張ノ權守家遠ヲ傅トシ」謠曲、朝長「コレハ朝長ノ御めのと何某ト申ス者ニテ候ヒシガ(淸源寺ノ僧)」

めのとご (名) [乳母子] (一)[我ガ乳母タル者ノ子。] 宇津保物語、樓上、下「[illegible]オホン乳主、めのとご六人、同ジ程ニテ」 源、六、末摘花「[illegible]女君ノ御めのとごジジウトテ、イトハヤリカナル若人」 (二)轉ジテ、男子ノ傅ノ子 守リ

役タルモノノ子。保元物語、一、官軍召集らる[illegible]マシマセバ、[illegible]ナレハ、[illegible]

めのまへ (名) [目前][眼前] (一)目ノ見テアル前。マノアタリ。モクゼン。ガンゼン。古今集、十八、[illegible]ナリナナン、目の前ニ、ツレナキ人ヲ、昔トオモハン」 (二)甚ダ近キトコロ。近所

めのわらは (名) [女童] (一)女ノ童。メノワラハコ。メノワラハベ。メノワラベ。字鏡[illegible]「[illegible]メノワラハ」宇津保物語、[illegible]「[illegible]ニ侍ルめのわらは、[illegible]」 (二)側使ヒノ少女。女孺シヤウハ、云云」 天武紀、上、元年六月「女孺[illegible]」 宇津保物語、藤原君「[illegible]板屋形ノ車ノ、[illegible]ケタルニ、云云、メ牛ヲカケテ、小サキめのわらはヲツケテ、云云」

めのわらはご (名) 女童兒 前條ノ語ノ(一)ニ同ジ。萬葉集、十八廿長歌「八十伴雄ヲ、マツロヘノ、ムケノマニマニ、老人モ、女童兒モ、シガ願フ、心タラヒニ、撫デタマヒ」(古義ノ訓)

めのわらはべ (名) 女童部 前前條ノ語ノ(一)ニ同ジ。榮花物語、八、初花「世ノ中ノ[illegible]、トノバラ、[illegible]ノめのわらはべノ、云云」

めのわらべ (名 女童部) めのわらは(女童)ノ條ノ(一)ニ同ジ。倭名抄、二十三老幼類「童女、女乃和良倍」

めのをんな (名) [妻女] ツマタル女。ツマ。サイヂョ。水鏡、上、欽明天皇「犬ノ子、スコシオトナビテ、コノ妻の女ヲ見ルタビゴトニ吠エシカバ、彼ノ妻の女イミジク恐ヂテ、云云」

めばえ (名) [芽生] (一)芽ノ生エ初メタルコト。又、其芽。メダシ。メザシ。發芽 萌芽 (二)こがみばえ(實生)ノ訛、(三)物事ノ起リ初メノ時。發端

めばかりづきん (名) [目計頭巾] ふくめん[illegible]頭巾[illegible]

[illegible]目ノ[illegible]

皆ニスルヤウニシテカブルモアリ」

めはし (名) [目端] 見ルコトノ氣轉。見テ氣ノツク才智。メサキ。「目端ガ利ク」

めはじき (名) [目彈] (一)めばたき(瞬)ニ同ジ。(二)めくはせ(胸)ニ同ジ。好色一代女(貞享、西鶴)六「シバシアリテ、裏口ヨリ[illegible][illegible]ノ[illegible]エシガ、[illegible]目[illegible]シテ[illegible]、云云」

めはじき (名) [茺蔚] [目彈ノ義、小兒、[illegible]採リテ、瞼ニ張リテ戲ル] (一)[illegible]ノ[illegible]ヲ見ヨ。倭名抄、[illegible][illegible]茺蔚、女[illegible]、[illegible]、云云、[illegible]母」 (二)廣益地錦抄、六ニ「眼目ヲ[illegible]ムツカシキニ、葉ヲハリテヨシ、アキラカニシテ、スズシム」ナドトアルニ因ルカ」はくか(薄荷)ノ異名 又、めぐさ」

めばしら (名) [目柱] 鏑矢ノ目ト目トノ間ノ柱。保元物語、二、白河殿攻落事「[illegible]、云云、目九ツ掘シタル鏑ノ、めばしらニハ角ヲ立テ[illegible]」 [illegible]、十二、嘉禎四年五月十六日「[illegible]」 云、取小刀、削矢引目目柱二三之後、擬之」

めばたき (名) [瞬] 目ヲシバダタクコト。マジロクコト。マタタキ。メハジキ。マクナギ。浮世風呂(文化)二、馬、四編、上「流行ト云フモノハ、瞬きヲスル間ニ後レルカラ、云云」

めばた・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 瞬 目ヲ、シバダタク、マタタク マバタク

めばち (名) [目鱍ノ轉訛カ] (一)魚ノ名。きはだまぐろ(黃肌鮪)ノ條ヲ見ヨ。(二)眼ノ緣ニ出來ル瘡。モノモラヒ。

めはちぶ (名) [目八分] 又、めはちぶん。貴人ヘ配膳スル時ナド、膳ヲ目ノ高線[illegible]ヨリ上、八分[illegible]持[illegible]、[illegible][illegible]、目ヨリ上、目ヨリ[illegible]、[illegible][illegible]

めはな (名) 目[illegible] 目ト[illegible]。又、[illegible]

めはなだち [illegible]

めばや (名) [目早] [めばやしノ語根] [illegible]ニ同ジ。狂言記、三人片輪「片輪[illegible]、目早ナド申スニ[illegible]ト存ル」

めばや・し [illegible] 目早 [illegible]ザトシ。見テ心付クコト敏シ。見ルニ鋭シ、目捷[illegible]眼[illegible]

めばり (名) 目貼 物ノ隙ドヲ、紙、又ハ、板ナドニテ貼リ塞グコト。

めばる (名) [目張] 魚ノ名。形、赤魚ニ似テ、眼大イニ張リ出デ、口、大キカラズ、味モ、略、赤魚ニ同ジ 夏ハ尺ニ至ル味、甘淡ナリ。赤ト黑トノ二種アリ。大和本草、十三、海魚類「目ばる、目大ナル故、名ヅク、黑赤二色アリ、云云、めばるノ子ヲ鳴子ト云」

めひ (名) [姪][女姪] [女生ノ約カト云フ、或ハ云フ、女甥ノ約] 兄弟ノ生メル女ノ子(甥ニ對ス) 姉妹ノ女ヲモ通ジテ云ソ 外姪 倭名抄、二「兄弟類 姪、兄弟之女、

[illegible]ル女ノ[illegible]云云」

めびき (名) [illegible] メクハセスルコト。メクハセ。メクバセ。メハジキ。

めひご (名) 姪御 〔ごハ御前ノ略〕 他人ノめひ(姪)ノ敬稱。

めひをは (名) ひをはノ條ヲ見ヨ。

めひとつばう (名) 目一坊 ひとつめを二[illegible]目小僧[illegible]同ジ。[illegible]「化物類、云云、牛鬼、山彦オトロン、ワイラウワン、目一ツ坊、ぬけ首、ぬつぺらぼう」

めひも (名) 雌紐 〔雄紐ニ對ス〕 いれひも(入紐)ノ條ヲ見ヨ。

めひらぎ (名) 雌柊 〔正シクハ、めひひらぎナルベシ〕 柊ノ葉ニ刺ナキモノ[illegible]邊尖刺ナキモノヲ云フ」

めひる (名) 小蒜 〔女蒜ノ義カ、又、芽蒜カ〕 ひる(蒜)ノ條ヲ見ヨ。

めぶ (名) 馬部 又、ウマベ。馬寮ノ下[illegible]ノ名。馬ノ口取[illegible]

めぶか (名) 目深 眼ノ深ク被ハルルヤウナルコト。[illegible]

めぶし (名) [illegible] 腹[illegible]

めぶんりう (名) [illegible]

めへん (名) 目偏 漢字ノ偏ノ一、目ノ字ノ[illegible]睡ナドノ字ノ左傍ニアル目ノ字ノ稱。

めぼし (名) 目星 (一)[illegible]眼球ニ生ズル白色ノ小[illegible]メンルシ[illegible]八「物クハデ、地主ノ櫻ヲ、ミル人ノ、目ぼしノ花八、チルカ散ラヌカ」

めぼ・し シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔目欲し、ノ義カ、まばゆしノ約轉カ〕 一際、目ニ立チテ[illegible]別ケテ目ニ立ツ。イチジルシ。「めぼしい品」

めま (名) 牝馬 メウマ。[illegible]

めまうけ (名) 妻設 妻ヲマウクルコト。[illegible]まうけノ程、兄君ニコヨナウマサリ給ヒヌメリ」

めまぎら・し シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 目紛 形、色ナド、サマザマナルタメ、目先定マラズシテ、マギルルナリ。メマギラハシ。メマグルシ。浮世床(文化、三)[illegible]

めまぎらは・し シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 目紛 前條ノ語ニ同ジ。

めまぎれ (名) 目紛 目ノ、クラムコト。目ノ、チラチラシテ、正視スル能ハザルコト。[illegible]

めまく (名) 女幕 〔男幕ニ對ス〕 軍陣ニ[illegible]雨端ヲ、共ニ表ヘ折リ返シタルモノ。陰の幕トモ云フ。小笠原入道宗賢記「一條マクノ時ハ、云云、女まくノ方ナリトモ、出入有ベク候」

めま・ぐ グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) [illegible]ノ義〕 婚ス。メトル。妻ヲ覓ム。[illegible]

めまぐる・し シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔目紛らし、ノ訛カ〕 種種ノ形、色、目先ニ障ハリテ煩ハシ。メメグルシ。

めまし (名) 目增 目勝 遊戯ノ一。[illegible]ノ目數ノ、增サリタルヲ勝トシテ、賭物ヲトル[illegible]五月廿三日「將軍家召ニ出[illegible]令ニ[illegible]彼人人中ニ給、[illegible]

めまじろき (名) 瞬 [illegible]同ジ。[illegible]四十九、[illegible]少將、右近、めましろきヲシテ、カタハラ痛ク[illegible]スランドイフモ、云云」

めまぜ (名) 目交 (一)めくはせ(眴)ニ同ジ。[illegible]上、めませヲシ[illegible]ラスレバ、ヤウヤウト心付」 (二)またたき(瞬)ニ同ジ。[illegible]ろする袖の雪「下ヲ覗バ、葉右衞門瞬セハシク[illegible]

めまつ (名) 雌松 〔雄松ニ對ス〕 まつ(松)ノ條ヲ見ヨ。狂言記、萩大名「アノ向ウナ松ハ、女松デオヂャルカ、男松デオヂャルカ」

めまひ (名) 目眩 〔目舞ノ義〕 目眩クコト。又、眼ガ暗クナリ、身體制搖ミ、身ノ周邊ノ物ノ旋ル如キ感ヲナスコト。タチクラミ。瞑眩 謠曲、卒都婆小町「アラ苦[illegible]

めみえ (名) [illegible]コト、まみゆ、みゆノ條ヲ見ヨ」 (一)會[illegible]記、今參、ムカウ側ヘ出テ、目見エヲセイ」 (二)[illegible]色一代女(貞享、西鶴)二「目見えノ間、衣類ナキ人ハ、[illegible]見[illegible]見ヨ

めん (名) 面 (一)カホ。ツラ。オモテ。左傳、襄公三十一年「子産曰、人心之不同、如其面焉、吾豈敢謂子面如吾面乎」「水ノ面」「面ト向フ」 (二)オモテガタ。オモテ。木ニテ、種種ノ顏ノ形ヲ作リタル物。[illegible]用ヰル。[illegible]「[illegible]口之戰、伺用二鐵面一自衞」敎訓抄、一「[illegible]比、[illegible]ガ私宅ヲ探サルル間ニ此面失了」 (三)劍術ノ具。めんぼほ(面頰)ノ略。又、擊劍ニテ、面頰ヲ打ツコト。[illegible]ヘヲ持、立合ケルガ、云云」 (四)木工ノ語。木村ナドノ稜ノ角ヲ、[illegible]取ル[illegible]キテ云フ。「面ヲ取ル」[illegible]

めん (名) 免 [illegible]昔、田、物成ノ年貢ヲ取ルニ、或割合ヲ免除シテ取ルコト。[illegible]附、[illegible]取ルト云心ニテ免トイフ」

めん (名) 麪 麵 〔正字通「麪、俗麵字」〕 (一)コムギコ。ウドンノコ。倭名抄、十六「麺類「麪、莫甸反無岐古」本朝食鑑、一、麥「小麥、[illegible]」 (二)小麥粉ヲ水ニ[illegible]

テ捏ネテ、延ベテ細ソク切レル饂飩、索麪、[illegible]

めん (名) [綿] 木綿ノ絲。綿絲。又、其絲ニテ織リタル布。木綿[illegible]

めん (名) め(雌)ノ音便訛。(關西)メス。

めん (接尾) [面] 平タキ物ヲ數フル語。[illegible]宋、[illegible]廿八、[illegible]心鏡一面」平家物語、七、青山之沙汰事「玄象、獅子丸、青山、[illegible]云云」

めん-い (名) [綿衣] (一)綿ヲ入レタルコロモ。ワタイレ。(二)木綿ノ布ニテ仕立テタル衣服。モメン[illegible]ギモノ。綿服。

めん-いう (名) [面友] 〔心友ニ對ス〕 ウハベノミ相媚ビテ、交リ遊ブ友。マゴコロナキ友。 揚子法言(漢、揚雄)學行篇「朋而不心、面朋也、友而不心、面友也」[illegible]問答、上、本、志ハ違ヒヌレドモ、筋目アルカ、或ハ同郷、隣家、アルヒハ同官、同職ナドニテ、内向[illegible]ハリテ、[illegible]面友ト云フ、一日知ル人モ、面友ノ内ナリ」

めん-うち (名) 面打 假面ヲ製作スルコト。又、其人。 [illegible]雜志、[illegible]、[illegible]八[illegible]メテ面打ノ上手ナリ」四座系圖、面作「赤介、受領シテ大和ト云狂言面打也」

めん-えき (名) [免役] 徵兵ノ役、夫役、又ハ、懲役ヲユルスコト。 唐書、食貨志「新附之戶、春以三月免役、夏以六月免[illegible]」

めん-えき (名) [免疫] 傳染病ノ感染ヲマヌカルルコト。又、ソノ性質。天然痘、痲疹(ハシカ)、百日咳、猩紅熱、腸窒扶斯、ナドヲ、一度病メバ、再ビカカラヌニ云フ。

めん-えつ (名) [面謁] 面會、ノ敬語。マミユルコト。 書言字考節用集、九、言辭門「面謁、メンエツ」盛衰記、四十三、成直降人事「後勘有恐、前降[illegible]早往[illegible]心之思[illegible]必遂面謁之志」

めん-かう (名) [面向] ヒタヒノ眞中。マッカウ。 國性爺合戰(正德、近松作)四「大將始メ五百餘騎、ドタドタドタト落チ重ナリ、面額打割ル天窗ヲ碎ク、泣イツ喚イツ頸ガ上、谷ヲモ埋ムヰナリ」

めんかう-ふはい (句) [面向不背] 前後共[illegible]美ニシテ、表裏ナキ[illegible]六ノ[illegible]代[illegible]云云

めんかうふはい-の-たま (名) [面向不背玉] 何レノ方面ヨリ見ルモ同ジクシテ、表裏ナキ玉。 前條ノ語ヲモ見ヨ。 [illegible]曲、海士「玉中ニ[illegible]ノ像ヲ、マス、イヅカヨリ拜ミ奉レトモ、同ジ面ナルニヨテ、面ノ向ノ二背カズト書イテ、面向不背の玉ト申ス候」

めん-がた (名) [面形] めん(面)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

めん-かっちう (名) [綿甲冑] 綿甲ト、綿冑ト。次條ノ語ヲ見ヨ。 續紀、廿四、天平寶字六年二月「造二綿甲冑一千領一以貯二鎭國衞府一」

めん-かふ (名) [綿甲] 鎧ノ一種。布ニテ造リ、内ニ綿ヲ入レテ、嚴寒、又ハ、矢石ヲ防グタメトシタルモノ。綿冑ノ製、亦同ジ。 續後紀、四、承和二年二月「仰太宰府、[illegible]綿甲一百領、冑一百口、袴四百腰、充二遣唐船不虞之備一」[illegible]八[illegible]綿襖冑、綿甲冑、綿甲、[illegible]物同、云云、全浙兵制、日本風土記云、云云、[illegible]衣有[illegible]背、可以防箭、又、禦矢石、於戰士多用之」

めん-きつ (名) [面詰] マノアタリ責ムルコト。 宋史、王景傳「景起身行伍、素無智略、然臨政不苟、刻削民有訟、必面詰之」

めん-きょ (名) [免許] (一)官ヨリ事ヲ行フヲ許サルルコト。官許。官准。 室町殿日記、六、松永彈正京都之仕置改ル事「永祿八年七月ノ掟ニ、洛中洛外諸商賈人[illegible]座之輩、先規之通上錢[illegible]」

[illegible]。(二)名對面ヲ許サルルコト。 日中行事「貢首アレバめんきょニツキテ、ヒザマヅキテ申スナリ」[illegible]ヲ傳フル名目。ユルシ。(皆傳ノ條ヲ見ヨ)[illegible]後、[illegible]

めん-く (名) [面工] くめん(工面)ノ倒語。 [illegible]時分ハ、めんくガワルクテ、云云」

めん-く-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 又、めんくらふ。たこ(凧)ニ云フ語。其條ヲ見ヨ。 嬉遊笑覽、六、下、翫弄「今小兒、めんくふトイフハ、水没コトナガラ、語ハ舞狂(マヒクルヒ)ノ轉訛ナルベシ」

めん-くら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [面喰] (一)〔とちめんばうヲ食フニ云フ語、其條ヲ見ヨ〕アワツ。ウロタヘル。アワヲクフ。狼狽ス。(二)前條ノ語ニ同ジ。

めん-くゎ (名) [棉花] 木綿ノ果實ノ白毛。ワタ。

めん-くゎい (名) [面會] マノアタリニ相會フコト。對面。對顏。面接。面晤。 [illegible]

めん-くゎん (名) [免官] 官ヲ免ゼラルルコト。 [illegible]太傅、作私書、請託郡縣、發覺免官」

めん-けん (名) [瞑眩] 〔康熙字典「瞑、正韻、莫見切、音麪、瞑眩、劇也、又憒亂也」〕メクルメクコト。メマヒ。 書經、說命、上「[illegible]藥弗瞑眩、厥疾弗瘳」

めん-こ (名) [面子] (一)假面ノ形。(二)小兒ノ玩具。鉛、土、又ハ、ぼおる紙ナドニテ、圓形ニ製リタルモノ。地面ニ[illegible]タルモノヲ取リテ、勝トス。

めん-こ (名) [illegible]

めん-ご (名) [面語] 面會シテ話スコト。 [illegible]委任ハ[illegible]吾兒ハ陳、[illegible]千里外[illegible]對面語」

めん-ご (名) [面晤] 〔詩經、陳風、東門之[illegible]也〕 めんくゎい(面會)ニ同ジ。

めん-さう (名) [面爭] 天子ノ面前ニテ議論スルコト。 歐陽修、上范司諫書「[illegible]色、面爭廷論者、非他人、必范君也」

めん-さう (名) [面相] オモザシ。カホツキ。 [illegible] 書言字考節用集、五、肢體門「面相、メンサウ」

めん-さう (名) [免相] めんつけ(免附)ニ同ジ。

めん-ざう (名) [面像] かほ(顏)ノ條ノ(一)ノ[illegible]ントテ、[illegible]ニ、[illegible]首[illegible]ト云フ面[illegible]アリ」

メン-ざう (名) [眠藏] 〔めんハ宋音、夜眠ル處ノ義〕佛家ニテ寢所ノ稱。(伊豆ノ田方郡、富戶ニテハ、寺院ノ寢室ヲめんさうト云フ)フシド。 下學集、上、家屋門「眠藏、メンサウ」太平記、二十七、新將軍京落事「六間ノ會所ニ客殿ニ八大紋ノ疊、云云、眠藏ニハ、沈ノ枕ニ、緞子ノ宿直物ヲ取リソヘテ置ク」謠曲、鉢木「十休ミアレヤ御僧達、ワレモマドロマンナニバト、眠藏ニ入ルヨト見エツルガ」

めんざんし (名) [綿撒絲] ほつしもめん(解木綿)ノ條ヲ見ヨ。

めんし (名) [綿絲] もめん(木綿)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]「…布、出…絲百貨之類…以…絲百貨」」

めんし (名) [面指] 顔面ヲ表ソ、用ヰル [illegible] 云云、…面臨、[illegible]」

めんしう (名) [免囚] 囚人ノ刑期ヲ終ヘ、出獄セシモノ。[illegible]

めんしき (名) [面識] 面ヲアハセテ相識ルコト。又、其間柄ノ人。シリアヒ。

めんしや (名) [面謝] マノアタリ謝禮ヲ云フコト。會ヒテ禮ヲ述ブルコト。[illegible]

めんしや (名) 免者 古へ、朝廷ノ御慶事、又ハ、凶事ナドノアリタル時、罪人ノ罪ヲユルサレシコト。又、ソノモノ。しや(赦)ノ條ノ(二)ヲモ參見セヨ。[illegible]

めんじやう (名) 免狀 (一)免許ノ旨ヲ記シタル文書。[illegible]云云」(二)赦免ノ旨ヲ記シタル文書 [謠曲、春榮「若宮別當ノ申シニヨリ、囚人七人ノ免狀ナリ」] (三)學校ナドノ修業、又ハ卒業證書。

めんじゆう (名) [面從] マノアタリノミ服從スルコト。ウハベノミ從フコト。[書經、益稷篇「予違汝弼、汝無面從、退有後言」]

めんじゆうふくはい (句) [面從腹背] 表[illegible]

めんじゆつ (名) [面述] マノアタリ述ブルコト。

めんしよ (名) [面署] カホムケ。メンボク。[illegible]「…衞門、人中へ面容ガスマヌ」

めんしよく (名) [面色] カホイロ。顔色。

めんしよく (名) [免職] 職ヲ免ゼラルルコト。[illegible]

めんす (名) [麪子] うどん、さうめんノ類ノ總稱。今川大雙紙「人前ニ而めんすクフ事、云云、めんすヲバ、セヲスゲニシテ、ソ…喰也」

めんず・ズル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) [面] 向ク。ムカフ。對ス。[illegible]

めんず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (他動、左變) [免] (一)ユルス。放ツ。[illegible] (二)官ヲ罷ム。職ヲ解ク。役ヲ止ム。解官 [illegible]

めんぜい (名) [免稅] 稅ノ納附ヲ免ズルコト。課稅ヲユルスコト。[illegible]

めんせき (名) 面積 土地、其外、物ノ表面ノ廣サ。

めんせき (名) [面責] マノアタリ責ムルコト。向ッテ詰リ責ムルコト。

めんせつ (名) [面接] めんくゎい(面會)ニ同ジ。

めんせつ (名) [面折] 面前ニテ其過失ナドヲ責メ折クコト。[史記、…]

めんぜん (名) [面前] メノマヘ。マノアタリ。[illegible]

めんそ (名) [免租] [illegible]

めんそ (名) [免訴] 豫審判事ガ、刑事被告人ニ對シ、其[illegible]ヲ消滅セシムル決定ヲナスコト。

めんそ (名) [面訴] マノアタリ、ウッタフルコト。面前ニテ、ウッタフルコト。

めんそう (名) [面奏] 天子ニ拜謁シテ、奏上スルコト。[illegible]

メンタア (名) 明太 明太魚ノ略。[illegible]同ジ。

めんだう (名) [面倒] [面倒ノ當字ノ音讀カ、又ハ、目…ノ音便訛リ、或ハ、云フ、めだるノ轉カト] 僞ルニ厭ハシキコト。見ルニ厭ハシキコト。目ダルキコト。[illegible] 面倒ヲ見ルトハ、世話ヲナスノ意。[illegible]

めんだう (名) [面道ナドト書ス] めだう(馬道)ノ音便。其條ヲ見ヨ。[榮花物語、三十四、暁待星「一品宮ハ宣耀殿、麗景殿ニ坐セバ、承香殿ノめんだうヨリ通リテ、上ラセ給ノ」]

めんだん (名) 面談 會ヒテ直接ニ話スコト。面話。面陳。[illegible]

めんち (名) [面打] [めんうちノ略] [illegible] メンチャウ。アナイチ。モンウチ。(錢打ニ代フルナリ) [illegible]天保十五年)二月六日、市中[illegible]めんち打[illegible]

めんちう (名) [綿胄] めんかふ(綿甲)ノ條ヲ見ヨ。

めんちん (名) [面陳] めんだん(面談)ニ同ジ。

めんちやう (名) [面打] 小兒ノ遊戲ノ一。[illegible]頃ハ瓦ニテ作レル小キ面ガタ、又ハ紋盡シナドヲ用ユ、めんてう、紋打ナド云ヘリ」

めんちやう (名) [面疔] 顔面ニ發スル疔。

めんちやう (名) [面長] [illegible] 府尹、又ハ、郡守ノ指揮ヲ受ケ、面内ノ行政事務ヲ執[illegible]

めんちやうぎうひ (句) [面張牛皮] [面ニ牛皮ヲ張リタレバ…] [illegible]

めんちゆつ (名) 免黜 官職ヲ解クコト。[illegible]

めんぢよ (名) [免除] ユルシテ義務ヲ負ハシメザルコト。[illegible]

メンツウ (名) [面桶] [字ノ宋音、面扶持ノ意] (一)又、めんつ。飯ヲ盛リテ、

一人ヅツ、面前ニ當テテ配ルニ用ヰル器。(捲物ナリ)卽チ、曲物造リノベンタウバコ。ワリゴ。トンジキ。倭訓栞「めんつう、面桶ノ音、云云、由俗ニ飯器ヲ云ノ」書言字考節用集、七、器財門「面桶、禪林行廚、就一人面而與一器、故名」常山紀談、十八、黑田如水遺事「めんつうト云フ物ハ、飯ヲ盛ル物ヨ」(二)茶湯ニ用ヰル水覆。杉ノ曲物ヲ杉面桶ト云フ。

めん-つけ (名) 【免附】 昔、田租ヲ賦課スルニ、收穫高ニ應ジテ、幾割幾分幾厘ト割リツクルコト。厘附トモ云フ。地方凡例錄、高ニ幾ツ幾分幾厘ト割付ケ候故、厘附ト申候、是ヲ免附トモ、免相トモ申候」

めん-てい (名) 【面體】 カホカタチ。オモザシ。面貌。堀川波鼓(寶永、近松作)下「面體ヲ見知ラヌゾ、人タガヘスルナ」

めん-てん (名) 【面展】 〔面拜ノ義〕 めんぱい(面拜)ニ同ジ。太平記、十四、興福寺返牒事「萬乘之國主、殆致面展之禮」

めん-てん (名) 【綿纏】 てんめん(纏綿)ニ同ジ。

めん-てん (名) 【綿天】 めんびろおど(綿天鵞絨)ノ略シテ音讀シタル語。其條、及、びろおど(天鵞絨)ノ條ヲモ見ヨ。

めん-でん (名) 【免田】 田租ヲ免ゼラルル田。免租ノ田。吾妻鏡、三、元暦元年九月十七日「相摸國大山寺免田五町」

めん-ど (名) 【雌鳥】 めんどり(雌鳥)ノ略其條ヲ見ヨ。狂言記、福渡、鷄ガウタウタラ起シマセイ、めんどデモ大事ゴザリマセヌカ」

めん-どう (名) 【面戸】 「壕戸ノ訛カト云フ」工匠ノ語。物ト物トノ隙、又ハ、椽側ノ庇ノ垂木ト、桁トノ間ナドヲ云フ。ソコヲ塞グ板ヲめんどういたト云フ。

めん-どり (名) 【面取】 〔めん(面)ノ條ノ(四)ヲ見ヨ〕 (一)木材ナドノ面ヲ削リ取ルコト。又、ソノモノ。(二)角ヲトリテ、ナダラカニスルコト。又、ソノモノ。

めん-どり (名) 【雌鳥】 〔めどりノ音便〕 鳥ノ雌ナルモノ。多ク鷄ニ云フ。略シテ、めんど。沙石集、八、上、第四語「燕ノめんどり死セリ」最明寺殿百人上﨟(元祿、近松作)下「サハ申シナガラ、云云、雌鳥ガ時ヲツクルカ」

〔めんどり-ば (名) 【雌鳥羽】 めどりば(雌鳥羽)ニ同ジ。平家物語、十一、弓流事「二白箆人、渚ニ上リ、楯ヲめんどりばニツキナラヘ」

めん-ない-ちどり (名) 〔目無共ノ訛、其條ヲ見ヨ〕 小兒ノ戲。めかくし(目隱)ニ同ジ。(京阪ニテ、めんないちどり、靜岡ニテハ、めんないト云フ)吾吟集、上、下、末、目なしこち軒の雀、今ノ世ノ童遊ビニ、目カクシ、或ハ、めんないちどりト云フ事アリ、云云、めんないちどりト云モ、目ノ無イ千鳥ノ義ナルベシ」冥途の飛脚(正德、近松作)下「腰ノ手拭引キ絞り、めんない千鳥、百千鳥、泣クハ梅川、河千鳥」

めん-ネル (名) 【綿小絨】 めんふらんねるノ略。木綿絲ニテ織レルふらんねる。ふらんねる(小絨)ノ條ヲモ見ヨ。

めん-ば (名) 【面罵】 マノアタリニ、ノノシルコト。向ヒテノノシルコト。

めん-ぱい (名) 【面拜】 オンメニカカルコト。拜顏。面展。庭訓往來、二月「面拜之後、中絕良久、遺恨如山、何時散蒙霧哉」

メンボウ
めん-ばう (名) 【面貌】 カホカタチ。カホツキ。オモザシ。尸子(周、尸佼)「禹長頸鳥喙、面貌亦惡矣、天下從而賢之」

メンボウ
めん-ぱう (名) 【麪包】 ぱん(麪包)ニ同ジ。

めん-ばく (名) 【面縛】 顏ヲ前ヘ出シ兩手ヲ後ニシバルコト。降服スル時ニスル狀ナリ。左傳、僖公六年「許男面縛銜璧、大夫衰經、士輿櫬」神功皇后紀、新羅王「素組以面縛」(ミヅカラトラハル)

めん-ばん (副) 【綿蠻緜蠻】 鳥ノサヘヅル聲ノ形容ニ云フ語。詩經、小雅、都人士之什、綿蠻篇「綿蠻黃鳥、止于丘阿、豈敢憚行、畏不能趨」國語國字試毅 他郷別、幽谷有黃鸝

めん-ばん-しょ (名) 【面番所】 見張ノ番所。

めん-ぴ (名) 【面皮】 (一)世ノ人ニ向フ顏。世人ニ對スル面目。面目「面皮ヲ失フ」(二)つらのかは(面皮)ニ同ジ。庾信詩「向人長疑愧、由來薄面皮」「面皮ヲ剝グ」

めん-ビロオド (名) 【綿天鵞絨】 略シテ、綿天。綿絲ノミ、又ハ、綿絲ニ毛絲、又ハ、絹絲ヲ加ヘテ、織レル天鵞絨。びろおど(天鵞絨)ノ條ヲモ見ヨ。

めん-ぶ (名) 【面部】 カホノウヘ。又、顏面。圓機活鑑(元、虞文道)「面部手足」

めん-ぷ (名) 【綿布】 木綿絲ニテ織リタル織物。モメン。モメンモノ。綿花布。國志、魏志、東夷傳、韓、馬韓在西、其民土著種植、知蠶桑作緜布」

めん-ぷく (名) 【綿服】 綿布ニテ製セル衣服。モメンギモノ。綿衣。

めん-ぶち (名) 【面扶持】 つらぶち(面扶持)ニ同ジ。

めん-フラン (名) 次條ノ語ノ略。

めん-フランネル (名) 【綿小絨】 略シテ、めんふらん。めんねる。ふらんねるニ擬シテ造リタル柔軟ナル綿布。ふらんねる(小絨)ノ條ヲモ見ヨ。

めん-ぺき (名) 【面壁】 〔面壁打坐ノ略〕 壁ニ面ヒテ坐禪スルコト。古ヘ、支那、梁ノ武帝ノ時、達磨、嵩山(今、河南省登封縣ノ北)ノ麓ノ少林寺ニ來テ、(梁武帝ノ大同二年寂スト)此ニ居タリ。嵩山ニ對シテ小室山アリ、壁立千仞ノ斷崖アリ、達磨、其絕壁ニ面シテ坐禪スルコト九年間、今其寺ノ背後ノ五乳峯ニ、面壁ノ故址ト云フ洞窟アリト(だるま(達磨)ノ條ノ(一)ヲモ見ヨ。傳燈錄、達磨章「寓止嵩山少林寺、面壁而坐、終日默然」

めん-ぼう (名) 【麵棒】 古名、ムギオスキ。今、又、ムギオシ。饂飩、索麪、蕎麥切、ナドヲ作ル時、押シ延バスニ用ヰル棒。運歩色葉集「麵棒、メンボウ」

めん-ぼく (名) 【面目】 又、めんもく。(一)カホツキ。カホカタチ。晉子、信公、下篇「無鹽宿、面目美好者」(二)メイボク。メボク。オモダシキ人ニ、面向ケ目ヲ合ハスルコト。世ノ人ニ合ハスル面。面皮。人ノ世ニ立チテ譽レヲ保ツコト。史記、項羽紀「我何面目見之」狹衣、二、上「コレニ過ギタルめんぼく候ベキヤ」「面目ヲ失フ」「面目ニカカハル」(三)オモテオコシ。名譽。面著。平治物語、一、主上六波羅行幸事「當門繁昌、弓箭ノ面目トゾ悅ビ給ヒケル」面目を施すトハ、譽ヲ得ルノ意。

めん-ぼく-な (名) 〔面目無〕 〔次條ノ語ノ語根〕 次條ノ語意ニ同ジ。謡曲、松山鏡「子ナガラモ、コレ程母ニ似ケルヨト、云云、父ハ涙ニカキクレテヤ、我レコソハ曇ラスレ、面目なノ鏡ヤ」

めん-ぼく-な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 〔無面目〕 オモナシ。不面目ナリ。オモハユシ。恥シクシテ、人ニ會ハスル顏ナシ。書言字考節用集、九、言辭門「無面目、メンボクナシ」沙石集、一、下、第七條「房主ニモ追ヒイダサレテ、面目なく覺テ、又無德シテ、云云」

めんぼほ (名) 面頰 (一)兜ニ屬スル具。鐵製ニテ假面ノ如ク、顏一面ニ當テテ、眼ノ所ニ穴アルモノ。顋甲。頰以下ノミナルヲ、目下の頰當、又ハ、半頰ト云ヒ、[illegible]ノミナルヲ[illegible]頰ト云フ。又、額ノ下ニ鏈ノ如キモノヲ附クルヲ、すがトモ、[illegible]かけトモ云ヒ、下ニ穴アルヲ汗[illegible]ト云フ。書言字考節用集、七、器財門「[illegible] メンホウ、正因 面頰同、首鎧具」(二)劒術ノ演習ニ用ヰル具。細ソキ鐵ニテ、格子ノ如ク透キテ見ルベク作レル假面ニ、綿ヲ入レタル布ヲ添ヘタルモノ。頭面ヲ被フ。略シテ、めん

めん-みつ (名) 綿密[緜密] クハシクシテ、コマヤカナルコト。又、ツヅキテキレ、ヌコト。手ヌケスキマノナキコト。緻密。周書、姚僧垣傳「梁武帝歎曰、卿用心綿密」宣和畫譜、宋、[illegible]「[illegible]下筆綿密」易林節用集(慶長)下、言辭門「綿密、メンミツ」太平記、二[illegible]「[illegible]如ニ誡メト雖ア、只綿密ノ工夫ノ外ハ、餘念有リトモ見エ給ハズ」

めんみつ-み (副) 綿密[緜密] クハシクコマヤカ[illegible]緻密ニ。

めん-め (名) 目 (一)小兒ノ語。目ト云フニ同ジ。(二)小兒ノ語。頭髮ト云フニ同ジ。浮世風呂(文化、三馬)三編、下「オ姉サンニオナリダネ、髮ヲ結ッテ、簪ヲサシテ」

めん-めう (名) 面貌 〔めうハ呉音〕 めんばう(面貌)ニ同ジ。曾根崎(寶永、近松作)中「佛飾ヲ呼ウデノ好ミ事、云云、御面めうヲ眞ッ赤イニ、御口ヲクヮット大鋸」

めん-めん (副) 面面 〔面 面ノ文字讀〕 (一)オノオノ。メイメイ。各自。字類抄「面面、メンメン」辨内侍日記「花ノ枝ヲ瓶ニサシテ、[illegible]」(二)各方面。諸方面。[illegible] 朗詠集、上「内家寝羅無二人到一、面面珠簾夜不レ收」[illegible]

めん-めん (副) 緜緜[綿綿] 長クツヅキテ絶エザル狀ニ云フ語。詩經、大雅、緜之什、常武篇「綿綿翼翼、不レ測不レ克」易林節用集(慶長)下、言辭門「綿綿、メンメン」

めんめん-さばき (名) 面面捌 各自、自由ノサバキ。テンデンノ處置。芭蕉句集、春「アチ東風ヤ、面面さばきノ柳髮」

めん-も (名) 面模 メン。假面。盛衰記、四、額打論事「先王ノ舞ヲ舞フナルニハ、面模ノ下ニテ、鼻ヲニガムル事ニ侍ル也」

めん-もく (名) 面目 又、めんぼく。(一)カホカタチ。容子。狀態。「面目ヲ改ム」(二)世ノ人ニ向フ顏。面皮。易林節用集(慶長)下、言辭門「面目、メンモク」盛衰記、廿五、大佛造營奉行勸進事「前世ノ宿緣、今生ノ面目、末世ノ値遇マデモ、悦ブニナホ餘リアリ」(流布本)

めん-モスリン (名) 綿毛斯綸 略シテ、めんもす。もすりんニ擬シテ織リタル薄地ノ綿布。もすりん(毛斯綸)、及、めりんすノ條ヲモ見ヨ。

めん-やう (名) 綿羊[緜羊][緬羊] 〔綿、卽チ毛ヲ採ル故ノ名ヅク〕 又、さいのさまトモ云フ。羊ノ一種。角ノ有無ニヨリテ、有角種ト無角種トニ分ツ。大概、毛、甚ダ長シ、[illegible]リテ、羅紗ナド、種種ノ物ヲ織ルニ用ヰル。故ニ、らしゃめん(羅紗綿)ノ名モアリ。宋史、[illegible]傳「畜有綿羊、山羊、[illegible]牛、水牛、橐駝、馬、驢、象」

めん-ゆ (名) 面諭 マノアタリサトスコト。[illegible]

めんゆ (名) 面諛 [illegible] 「[illegible]得乎」史記、灌夫傳「灌夫使酒、不レ好二面諛一」

めん-よ (名) 名譽 〔めいよノ音便〕 めいよ(名譽)ニ同ジ。めんようトモ云フ。片言(慶安、安原正章)二「[illegible]名譽ヲ、メイシ[illegible]、めん[illegible]」

めん-よう (名) 名譽 〔[illegible]〕 [illegible]本義ヨリ[illegible]シテ、華ヤカ[illegible]ナルコト。美美シクスルコト。浮世床(文化、三馬)二編、上「名[illegible]ト云フモノハ、新フシイ古物カ出來ルト、古イノニハ目モカケネエヨ」

めん-よう (名) 面妖 〔字ハ當字〕 アヤシムベキコト。フシギナルコト。奇怪ナルコト。浮世風呂(文化、三馬)初編、下「タッタ今沒シデ來タガ、ハテめんようナ」

めん-らう (名) 面廊 〔馬道ノ轉化、廊ノ如クナレバ訛レリト〕 母屋ニ通ズル廊下。平家物語、四、信連合戰事「敵ハ案内者ナリ、信連ハ案内者ニテアリケレバ、アッコノ面廊ニ追ッカケテハ、ハタト切リ、ココノツマリニ追ッツメテハ、チャウト切ル」

めん-るゐ (名) 麪類[麵類] めん(麪)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。易林節用集(慶長)下、食服門「麪類、メンルイ」東海道中膝栗毛(文化、一九)四編下「今同村ノ立場ニイタル、コノ處ハ、イモカハトイフ麪類ノ名物、イタッテ風味ヨシト聞キテ」

めん-わ (名) 面話 めんだん(面談)ニ同ジ。晉書、[illegible]「相思[illegible]面[illegible]不[illegible]」

め-め (名) 米 〔めヲ重ネタル語〕 さめ(米)ト云フニ同ジ。狂言記、比丘貞「オアシモめめモ、多ク持チタレバ、[illegible]ルル、唯今ノ引出物、めめ五十石、オアシ[illegible]」

め-めぐる・し (形) 〔めまぐるしノ轉〕 め[illegible]しニ同ジ。

めめざこ [illegible]ノ一名。(京都) 此魚ハ小ナルモノナレバ、[illegible] 「[illegible]京ニテめめざこ[illegible]」[illegible]イ糟ノ路ニ、井ノ内ノめめざこ心」

め-め・し シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔女ヲ重ネテ活用ス、[illegible]〕 [illegible]シ。[illegible]女[illegible]。[illegible]四十、幻「イトウタテ、今一キハノ御心マドヒモ、めめしく、人ワロクナリヌベケレバ、云云」

めめず (名) 蚯蚓 みみず(蚯蚓)ニ同ジ。片言(慶安、安原正章)四「蚯蚓ヲめめず」

め-も-あや-み (副) 見ル[illegible]目モキラキラスルマデニ。マバユク。マバシク。ウツクシク見ユルニ。源、廿二、玉鬘「[illegible]、御サマヨリ始メ、目もあやニ覺エ[illegible]」[illegible]十四、[illegible]「[illegible]目もあや[illegible]」[illegible]シ給ヒシ[illegible]ド、スベテ目もあやニ、面白クセサセ給ヘリ」

め-もじ (名) 目文字 〔めみえ(目見)ノ[illegible]〕 同ジ。會フコト。敬語ニ、おめもじ。(婦人ノ[illegible]) [illegible]ラン、おめもじ[illegible]」

め-も-すま-み (副) 目モヒマナク。目ヲモ離サズシテ。目モ休メズ。[illegible]六「めもすまみ、マモルシナヰ(ヒイ)ノ、ヒマヲナミ、說ケル御法ノ、聞クモイトナシ」

め-もと (名) 目許 (一)目ノ鼻ニ近寄リタル部分。又、眼ノ邊。(二)メザシ。メツキ。目色。吉野都女楠(正德、近松作)三「是ハ人タガヒ、目元、口元、義貞殿ニハ似テモツカズ」

め-も-はる-み (副) 見ル目モハルカニ。目モハルカニ。見リタス。伊勢物語、[illegible]

十一段「紫ノ、色濃キ時ハ、めもはるみ、野ナル草木ゾ、別レザリケル」

めもり (名) [目盛] (一)目分量ニテ盛リツクルコト。(二)物差、秤竿、其他、ナドニ線ヲ盛リツクルコト。又、ソノ線。

めやす (名) [目安] [見易クスル意] (一)古キ文書ニ、事件ナドヲ、箇條書キ、即チ一ツ書キニスルコト。又、其文書。目安書。夫ヨリ移シテ、申狀ノ初ニ書スル語トナレリ。(二)鎌倉、室町時代ニ、要點ノミ箇條書キニシタル訴狀、及、陳狀ノ稱。太田時連記、[illegible]年十二月廿七日「近年使者給ニ寄書ニ進入之條、違ニ物儀ニ歟、今度給ニ此目安、以テ調可奏ー」藤原軒日錄、寛正二年八月廿五日「同攀非從百座訴訟之事、有目安ニ」(三)めやすぼうう(目安狀)ノ略。ソノ條ヲ見ヨ。(四)江戸時代、訴狀ノ一稱。人見私記、寛永十五年九月廿日「野山境相論有之旨、目安差上ル」世間子息氣質(正德、江嶋其磧)四「一筆書クヲ幸ヒニ、目安訴狀ニ氣ヲ盡シ」(五)算術ノ語。算盤ノ上ニ、加減乘除ヲ行フトキ、五玉ト小玉トノ間ニアル位取リノ目印。即チ、丈、尺、寸、分、石、斗、升、合、ナドノ稱。又、乘除等ヲ行フベキ基トシテ立ツル數ノ稱。即チ、五ニ割リ、或ハ、十ニヲ掛クナド云フトキ、其、五、又ハ、十ニ、ノ數ヲ云フ。法 (六)メアテ。アテド。目標。(七)物ヲ數フル時、心覺エノシルシトスルモノ。カズトリ。

めやすがき (名) [目安書] 前條ノ語ノ(一)ヲ見ヨ。

めやすかた (名) [目安方] 江戸時代ニ、評定所ニテ、目安、即チ、民事訴訟ノ告狀ヲ調ブル役目。

〜めやす・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) [目易] [見易キ意] 見にくしノ反。見苦シカラズ。醜カラズ。難ナシ。愛シ。好看。源、四十九、宿木「身[illegible]シカラズめやすき程ノ人ノ」同、十九、薄雲「御心掟ニ、モテタガフ事ナク、イトめやすくゾアリケル」

めやすぼうう (名) [目安狀] [めやす(目安)ノ條ヲ參照セヨ] (一)見易ク箇條書キニシタル文書。大塔物語「村上大文字一揆之人人、悍虎口之訴ハ捧目安狀、注進合戰次第」(二)昔、戰功アリシ者、其由ヲ記シテ、首將ニ致ス文書。首將、其申ス所ニ僞ナキヲ認ムレバ、狀末ニ承了、又ハ、一見了、見知了ナドト手記シ、其下ニ花押ヲ押シテ、其人ニ下付ス、之レヲ證判ト云フ。首將ナラザレバ證判スルヲ得ズ、其人、此狀ヲ祕藏シテ、後證ニ備フ。軍忠狀モ、スベテ之レニ同ジト。集古文書、廿四、中村良行目安、貞治二年十月「武州岩波山御合戰之間、令同道中村安藝守、馳參最前、懸富御手、致戰功之刻、右肘被切之條、所見也、然早賜御證判、爲備向後龜鏡、恐恐目安言上如件」

めやすばこ (名) [目安箱] 又、訴狀箱。戰國時代、既ニアリシガ、江戸時代ニハ、評定所ノ表門ニ出シ置キテ、庶人ノミニ訴狀ヲ入ルルコトヲ許スコトトナレリ。化道筋ノ爲ニ、諸役人ノ私曲、非分、又ハ、役人ノ、吟味ヲモセズ、長ク打捨テ置クコトナドアル時ハ、人民ニ、其趣ヲ目安書ニシテ、直ニ此中ニ投ジテ訴フルコトヲ許ス。享保六年ニ始マリテ、末世マデアリ。(朝出シテ、四ツ時、小人目付、錠ヲ開キ、老中ヘ出ス、無名ノ訴狀ハ燒捨ツルナリ) 甲陽軍鑑、八、品第十七「御陣所表ニハ、御爲ノ前堂、目安ヲ請取、目安箱ニ入置也」

〜めやつこ (名) [女奴] シモヲンナ。下婢。下女。めのやつこ。萬葉集、十六「カウヌレル、塔ニナ寄リソ、川隅ノ、屎鮒ハメル、イタキ女奴」孝德紀、大化二年三月「[illegible]婢之婢」

めやに (名) [眵] [目脂ノ義] 又、めくそ。眼ヨリ出ヅル汁ノ、眼縁ニテ、凝リテ脂ノ如クナレルモノ。メアカ。眼渣。眵䁾 書言字考、用集、五、肢體門「眵、䁾、メヤニ、メアカ」浮世風呂(文化、三篇)四、下「鼻毛ヲチト拔イテ、眼ヲ拭[illegible]レバイイ」

めやみ (名) [目疾] 目ヲ病ムコト。眼病。又、其人。好色二代男(貞享、西鶴)八「物ノ[illegible]マデモ豐カニ、眼病ノ地藏モ、宮カラハ疑ラレマジ」

めゆひ (名) [目結] 目ノ如キ形ノ絞リぞめ(絞染)。又、目染。平家物語、十一、千手事「齡二十バカリナル女房、云云、目ゆひノ帷子ニ染付ケノ湯卷シテ」「目結ノ直垂」

〜めら (名) [目] [らハ添ヘ辭] め(目)ト云フニ同ジ。萬葉集、十六、長歌「吾ガ目良ニ、鹽塗リタマヒ、モチハヤスモ」(古義ノ訓)

めら (接尾) [奴等] [め(奴)ノ複數ニテ、卑シメテ云フ語] バラ。ドモ。ヤツラ。ヤツバラ。盛衰記、十三、高倉宮信連戰事「是ハ強盜めらガ、音ヲ替テ、タバカリ入ニコソ」

⁂めらう (名) [女郎] [女等ノ延] (一)俗ニ、女ヲ賤ミテ呼ブ語。更ニ略轉シテ、めろ。源氏冷泉節(寶永、近松作)上「サアめらうメ、其處立タヌカトネメツケラレ」(二)女の童ノ略訛。易林節用集(慶長)下、人倫門「女童、メラフ」沙石集、二、上、第二條「金燒キニシツル錢ノ形、此ノめらふガ頰ノホトニアタリテ見エケリ」宗長手記「宇津ノ山、云云、名物十ダンゴト云、一杓子ニ十ヅツ、必ズめらうナドニスクハセ與ジテ、云云」

⁂めら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [退] おめらかす(退)ノ略。少クナス。ヘラス。める(減)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。

めらち (名) [雌埒] [illegible] (雄埒)ノ條ヲ見ヨ。

めらは (名) [女童] めわらは(女童)ノ略。めのわらは(女童)ニ同ジ。[illegible]九「[illegible]ナルめらはノ、ツボマリ居テ作ル[illegible]」

〜めらめらと (副) 物ノヒラメキ燃ユル狀ニ云フ語。[illegible]ヘラヘラト。ペラペラト。竹取物語「火ノ中ニウチクベテ、燒カセ給フニ、めらめらとヤケヌ」

めり (名) [減] 減ルコト。ヘルコト。又、掛目ノ分量ノ減耗。「めりガタツ」

めり (名) [罵詈] 又、ばり。惡シクノノシルコト。コキオロスコト。ドクヅクコト。惡口。宇[illegible]「[illegible]リナルベシ」、メリ」太平記、二十九、光[illegible]「[illegible]罵詈誹謗スル人ヲモ不咎」「罵詈口」

め・り・ル・レ・リ (助動) [見えあり、ノ約ト云フ。又、可トありトヨリ成レル語ナリト云フ說アリ] 事物ノ狀態、然見ユト推量シテ云フ意ノ助動詞。古今集、五、秋、下「龍田川、紅葉亂レテ、流ルめり、渡ラバ錦、中ヤ絶エナン」同、十八、雜、下「知リニケン、聞キテモ厭ヘ、世ノ中ハ、波ノサワギニ、風ゾ頻クめる」源、八、花宴「人ノ目移シモ、タダナラズ覺ユベカめれド」

めりかり (名) [乙甲] [乙(下ル)、甲(上ル)ノ義] 又、めかり。音ノ調子ニ云フ語。かん(甲)ノ條ヲ見ヨ。流仲木花傳書(世阿彌)二「聲のちより大、大へ[illegible]ひかけ候調子の事」「太夫ノめりかりヲ聞キ分ケ、ソレ相應尤ニ候」

めりぐち (名) [罵詈口] ノノシル口調。バリスルコトバ。甲陽軍鑑、九、上、品第廿四「武士上中下ノ働モ穿鑿ナク、頸ヲ一ツ取候ヘバ覺ニイタシ、ヲシカカリツヨク、めり口ハヤク」

メリケン-こ (名) 〔米利堅粉〕 〔めりけんハ、American.ノ上略訛〕 モトあめりか合衆國ヨリ輸入セル小麥粉ノ俗稱。

めりこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 〔減込〕 (一) [illegible] 込ム。(二) 賤サレテ下ル。

めりはり (名) [illegible] 聲ノ高低 [illegible] 張ルコト [illegible] 又、[illegible]「甚ヲナス者、せりふヲ張リ突キコミテスル時ハ、見[illegible]めりナリ、[illegible]、[illegible] 人はるナリ、因リテめりはりノ大事ナリ」

メリンス (名) 〔西班牙語、Merinos.ノ訛、Merinos ハ同國産ノ羊ノ種類ニテ、其毛ニテ織レバ云フ〕 薄ク柔キ、種ノ織方ノ毛布 [illegible] メレンス [illegible] モスリン、チリメン [illegible] 唐縮緬

めり-めり (副) 物ノ押ゲ、又ハ、壓シ潰サルル音ニ云フ語。ミリミリ。ミシリミシリ [illegible] 枚屋根ナドノ メリノメリ [illegible] サラバ [illegible] ラウ、めりめりめり、扱モ扱モ、騒シウ鳴ッタコトカナ」

めり-やす (名) 女甲 [illegible] 乙甲ノめり易キ意ニテ、[illegible] 沈ミ勝チノ義ト、或ハ、莫大小ノ義ニテ、狂言ノ題詞ノ間ニアヘシラヘ入レテ、伸縮自在ナル意ト云ノ說ハ、取ノズ) 江戸長唄ノ女句ノ、短ク、且、調子低ク、シンミリト唄フモノ。(元文ノ頃ヨリ起リテ流行シ、天明、終ハル) 安永ノ頃、芝居座ノ唄ウタヒ、[illegible] 友ガ工夫シテ、獨吟トナヘ、三味線撥數少ク、座敷ナドニテ、閑ニ唄ノ [illegible] シ [illegible]、新吉原、[illegible] 屋 [illegible] ヲ唄ヒシ [illegible]、[illegible] キテ、誠ニ氣ガめりいすト云ヒタルニ起リシトゾ。今ハ間ノ延ビテ閑ナル風ヲ、オシナ [illegible]

メリヤス (名) 〔日利安莫大小〕 〔西班牙語 Medias [illegible] 或ハ云ノ [illegible] 葡萄牙語 Meias. ナリト、共ニ、沓足袋ノ義、轉ジテ、[illegible] 易ト記ストゾ、乙甲ヲ誤用セシニハアラスカト、[illegible] 二、上、云ヘ(一)] 綿絲、又ハ、毛絲ニテ、[illegible] 網目ノ如ク、伸縮スルヤウニ編ミ作レル織物。手袋、襦袢、股引、沓下ノ足袋、ナドトス。 嬉遊笑覽(元祿)五「ハキ心ヨキ、めりやすノ足袋」[illegible] めりやす布ノ紋アルモノナルベシ」

めりり-めりり (副) めりめりニ同ジ。狂言記 [illegible] 云ク、トリ [illegible] テ見ヨ、めりめりめりり、扱モイカウ旨イ事カナ」

め・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 〔減〕 (一) 減ル。少クナル。(二) 調子低クナル。メイル。弛ブ。 流布本孔雀書 [illegible] 連ニ立チ [illegible] ヒヤウノ事、[illegible] 調子ノめらセテ [illegible]、附合ヒシテ謡ヒ出ダスヲ聞キ、文字 [illegible] 分ホト遅ク附クナリ」 甲陽軍鑑、十、上、品第三十「過言申ス者ハ、必ス名リ易クめりヤスシ」

め・る (助詞) めりノ條ヲ見ヨ。

メルトン (名) 〔英語、Melton. モト、英國ノ毛織物製造家ノ名〕 紡毛絲ヲ以テ、平織、又ハ、綾織ニシタル柔軟ナル毛織物、主トシテ洋服地ニ用ヰル。

め-れう (名) 馬 [illegible] ウマノツカサ。古ヘ、衛府ニ屬セシ寮。馬ヲ飼ヒ調シ、又ハ、供御ノ乘具ヲ掌ル。左馬寮ト右馬寮ト [illegible]

め-れう (名) 〔馬料〕 又、ばれう。古へ、養馬料ニ供スル [illegible] 、京官ノ [illegible] 司、女官、[illegible] 長上官 [illegible] ニ、錢ヲ賜フコト。又、官職相當ノ位階ニ依リ、或ハ、官名、[illegible] ニ依リテ、[illegible] 差アリ、又、權官ノ女官、員外ノ女官、[illegible] 正員ニ准ジテ給スヲ、[illegible] 料ハ、春秋二季ニ、既往ノ上日ヲ計ヘテ給スルコトニテ、正月ヨリ六月マデヲ春夏ノ分トシ、七月ヨリ十二月マデヲ秋冬ノ分トシ、並ニ上日 [illegible] 以上ニシテ、賜ニ預ル。但シ、兵部、衛府等ノ官人ノミニハ、日夜ノ分ヲ給ス。 [illegible] 十、[illegible] 九 [illegible] 月「物、京官文 [illegible] 事、云云、有官人、[illegible]、春給馬 [illegible]

めれう-の-げん (名) 〔馬寮監〕 又、馬寮御監。古へ、左右ノ馬寮ニ置キ、馬寮ノ頭ノ上位ニアリテ、廐馬ノ事務ヲ總理シ、閑馬ヲ御監スル職 中古以後、近衛大將ノ兼任タリシガ、鎌倉時代、西園寺家ノ世職トナリ、足利義滿以後、征夷大將軍ノ兼職トナル。 [illegible] 四 [illegible] 十一月「以從五位下 [illegible] 補 [illegible]」

めれう-の-ごげん (名) 〔馬寮御監〕 さまれうごげん(左馬寮御監)トうまれうごげん(右馬寮御監)トニ分ツ。前條ノ語ニ同ジ。 西宮記、[illegible] 時、[illegible] 左右馬寮御監事、上卿 [illegible] 下 [illegible] 官人 [illegible]」

メレンス (名) めりんすニ同ジ。

めろ (名) 〔女郎〕 めらう(女郎)ノ約。其條ノ(一)ヲ見ヨ。

メロン (名) [illegible]

めろ-めろ (副) [illegible] ソナタ衆マデめろめろト、イマイマシイ」

め-わらは (名) 〔女童〕 略シテ、めらは。めわらはニ [illegible] 同ジ。

め-ゐ (名) [illegible] 「[illegible]、メヰ」

め-を (名) 〔女男〕 (一) 女ト、男ト。男女。(二) [illegible] ヲット(夫)ト。めをと。夫婦 [illegible] 陰陽、メヲ」

め-をと (名) 夫婦 妻ト、夫ト、イモセ。ツレアヒ。フウフ。めを。今、めうと。夫妻。 鳥林 [illegible] 下、夫 [illegible] 夫、夫婦、メヲト」 發心集、八、第十條「河内ノ國ヨリ [illegible] シテ、[illegible] ヘマヰル者アリケリ」

めをと-あひ (名) 夫婦 [illegible] 合 夫婦 [illegible] アヒ [illegible] 「ヲサナナジミノめをとあひ、此神明ニイノラバヤ」

め-をとこ (名) 女男 女子ト、男子ト、又、婦ト、夫ト。夫婦。夫妻。 宇治拾遺、四、第四條「サリトテアルベキナラネバ [illegible] ナリニケリ、男子女子 [illegible] 設ケテ、又ソレガ妻夫ニナリナリシツツ、云云」

めをと-づか (名) 〔夫婦塚 妻夫塚〕 ひよくづか(比翼塚)ニ同ジ。 [illegible] 祿、近松作)つかさのまへ道行「オチバノ袖サシ下ス、末ハ淀野ヤ、オトコ山、フモトニ立テル、めをとづか、ソノ二道ニヨリカゼノ、云云」

めをと-つがひ（メオト-ツガイ）(名) ［夫婦番］［妻夫番］ 夫婦二人(フタリ)ニテ作スコト。浮世鏡(貞享)三「めうとつがひトイフハ、夫婦二人ナラデ京ノ下宿ノ事也」

めをと-づれ（メオト-ズレ）(名) ［夫婦連］［妻夫連］ 夫婦ツレダツコト。フウフヅレ。心中刃氷朔日(寶永、近松作)上「コナ様ト疾ウカラ、夫婦ニシタトイヒナシ、國ヘヤルニモ夫婦連れ、云云」 ⌒

めをと-ぼし（メオト-ボシ）(名) ［夫婦星］［妻夫星］ 牽牛、織女ノ二星ノ稱。曾根崎心中(元祿、近松作) おはつ徳兵衞道行「ワレトソナタハ夫婦星」

めをと-まけ（メオト-）(名) ［夫婦髷］［妻夫髷］ めうとまげ(夫婦髷)ニ同ジ。

めをと-わかれ（メオト-ワカレ）(名) ［夫婦別］［妻夫別］ ふうふわかれ(夫婦別)ニ同ジ 心中天網島(享保、近松作)中「男ノ性ノ惡イハ、皆女房ノ油斷カラ、身代破リ夫婦(メヲト)別れスル時ハ、男バカリノ恥ジャナイ」

も

も 五十音圖、末行(マギヤウ)第五ノ假名。まノ條ヲ見ヨ。

も (名) ［面］ おも(面)ノ略。熟語ニ用ヰル。「四も八も」「由ノも」「此ノも、彼ノも」

〜も (名) ［妹］ いも(妹)ノ略。東國ノ古語。萬葉集、廿、二十「旅トヘト、マタビニナリヌ、家ノ母(モ)ガ、キセシ衣ニ、垢ツキニカリ」(古義ノ訓)

〜も (名) ［喪］［凶］ 〔思フ意カト云フ、喪ヲものおもひ、又、おもひトモ云フ〕 (一)人死セシ後、其親族、臣下ノ人、若干日ノ間、聲樂ヲ聞カズ、遊戲セズ、酒肉ヲ絶チ、笑語セズ、髮ヲキラズ、家ニ靜坐シテ謹慎ノ状ヲナスコト。支那風、移リテ、喪服ヲ着ルコトトナレリ。而シテ五十日間、葬參ヲ行フモノトス、其父母ノ喪ハ、本服一年ヲ定メトセリ。官人ハ官ヲ解ク、其官ヲ虛ニシテ其服了リテ復任セシメラル。然レドモ樞要ノ官、器量ノ人ナラバ、喪中ニテモ出仕セシム、コレヲ奪情(ダツジヤウ)從公(ジユウコウ)トモ、除服(ヂヨフク)出仕(シユツシ)トモ云フ。又、親族ニ死亡者アレバ、其親等ニ因リテ、定マレル日數ノ間、喪服ヲ着テ、家ニ居テ謹慎スルモノトス。敬語ニみもトモ云ヘリ。忌服令「父母、養父母、并夫、忌五十日、服十三ケ月、祖父母、夫父母、忌三十日、服百五十日、曾祖父母、伯叔父母、妻、子、兄弟姉妹、忌二十日、服九十日(七歲未滿子、父母ニ日遺忌)繼父母、養子、忌十日、服九十日、嫡孫、忌十日、服三十日、從兄弟姉妹、甥姪、忌三日、服七日」 仁德紀、六十七年十月「弔レ死」 (二)ワザハヒ。凶事。萬葉集、五、三十七長歌「事モナク、喪(モ)ナクモアラムヲ」(凶事ヲ云フ) 同、十五、卅九「旅ニテモ、母(モ)ナク早來(ハヤコ)ト、吾妹子ガ、結ビシ紐ハ、褻レニケルカモ」

も (名) ［裳］ 〔纏(マ)ク意カト云フ〕 (一)〔昔、腰ヨリ下ニ着ル衣。(裳ニ褶(ヒラミ)、即チ上裳(ウハモ)、裾、即チ下裳(シタモ)トアリ) 續後紀、九、承和七年三月ノ詔ニ「自今以後、云云、一裳之外、不レ得ニ重着ニ」トアリ。みも。倭名抄、十二九衣服類「上(表)曰レ裙、下(裏)曰レ裳、毛」(二重ニハキテ、上裳、下裳ト云フ) 神代紀、上、廿「天照大神、云云、縛レ裳爲レ袴」 萬葉集、廿、二十六長歌「美母ノ裾、抓ミアゲ」(防人ノ母ニ云フ) (二)〔腰部ヨリ後ノ方ノミニ覆ヒ着ル袴ノ如キモノニテ、襞深ク、種種ノ繡物ナド施ス。五衣(イツツギヌ)、唐衣(カラギヌ)ト共ニ、女房ノ大禮服トス。源、五十一、蜻蛉卅「裳ハ、タダ今、我ヨリ上ナル人ナキニウチタユミテ、色モカヘザリケレバ」 (三)僧侶ノ腰ニ着クルモノ。玄蕃寮式「綱師法服、九條袈裟、云云、裳、腰一」 (四)布團ノ類。スベテ下ニ用ヰルモノ。即チ、衾(フスマ)、臥(フシ)ニ氈(カモ)ハ毛も、筵ハも代、袴ハ穿(ハカ)も ノ類ナリ。

も (名) ［物］ もの(物)ノ略。「作物所(ツクモドコロ)」「鑄物師(イモジ)」

〜も (名) ［藻］ 〔もはノ略、海布ト通ズ〕 水中ニ生ズル植物ノ總稱。淡水産ト海産トノ二樣アリ。淡水ノ産ニ、二種アリ、其一ヲ總藻、又ハ、金魚藻、ト云フ。流水ノ底ニ生ジ、水ニ隨ヒテ靡キ流レ、長サ數尺ニ至ル、葉ハ絲ノ如ク、節毎ニ多ク集ル。春ノ半ニ、水面ニ、五瓣黃蘂ノ白花ヲ開ク、大キサ三四分アリ、［菜藻］其一ヲ、柳藻(ヤナギモ)、又ハ、笹藻、ト云フ、前ト同ジクシテ、葉ノ長サ二三寸、廣サ、二分、對生シ、或ハ互生ス。馬藻。 海産ナルハ、水上ニアルヲ、單ニ藻ト云ヒ、石上ニ着クヲ、海苔(ノリ)トス、種類多シ。モグサ。海藻 かいさう(海藻)、及、め(海布)ノ條ヲモ見ヨ。 倭名抄、十七八藻類「藻、毛、一云、毛波、一本、水中菜也」 名義抄「藻、モ、モハ」

も (副) モハヤ。モウ。 凱陣八島(貞享、近松作)四「彼姫、云云、鶏ガ啼ケバ、も往(イ)ノトオシャル」

〜も (辭) ［亦］ 第二類ノ天爾遠波。物事ノ同ジ狀ナルヲ竝べ合ハスル意ノ語。古事記、下、雄略二十九「今日母カモ、酒ミヅクラシ」 萬葉集、三、廿八「妹母我母、一ツナレカモ、三河ナル、二見ノ道ユ、別レカネツル」(古義ノ訓) 後撰集、十五、雜、一「コレヤコノ、行クも歸ルも、別レツツ、知ルも知ラヌも、逢坂ノ關」「人も去リ、我も去ル」善クもアラズ、惡シクも無シ」又トも思ヒ、師トも思フ」

〜も (感) 泣ク感激ニ發スル聲。(輕ク歎クモノ) マア。言語ノ中閒ニ用キルハ、萬葉集、三、卅一「眞土山、夕越エ行キテ、廬前ノ、角太河原ニ、獨(ヒトリ)カ毛寐ム」 古今集、十五、戀、五「吹キ迷フ、野風ヲ寒ミ、秋萩ノ、移リも行クカ、人ノ心ノ」 拾遺集、九、[illegible]下[illegible]八、[illegible]、[illegible]八トト八、バ、如何言ヘン[illegible]、[illegible]、[illegible]レテモ、行クカタヤ、イヅクトマリト、知ラズもアルカナ」 [illegible]ド[illegible]ブル八、[illegible]作係川ノ、清キ河原ニ、鳴ク千鳥、カハヅト二ツ、忘レカネツも」 同、[illegible]、物ノ部ノ、八十氏河ノ、網代木ニ、イサヨフ波ノ、行方知ラズ毛」

も (接頭) ［最］ 〔眞(マ)ニ通ズ〕 ま(眞)ノ條ヲ見ヨ。「最中(モナカ)」「最合(モアヒ)」

も (接頭) モウ。イマ。ソノ上ニ。マ。 狂言記、寢聟「も一ツ飲ウデ覺エ」「も一度」「もソット」

〜も-あひ（モ-アイ）(名) ［百合］ 數多ノモノノ、デアフコト 倭名抄、九 讚岐國、山田、毛止奈美」、ものあひノ約ニ「讚岐國香川郡百合村」

も-あひ（モ-アイ）(名) ［最合］ 中央(マンナカ)ニ持合(モチア)フコト。

も-あひ-がさ（モアイ-ガサ）(名) ［最合傘］ 相合傘(アヒアヒガサ)ニ同ジ。あひあひ(相合)ノ條ヲ見ヨ。

も-あれ (辭) 〔約シテ、まれ〕 ニテモアレ。まれノ條ヲ見ヨ。

〜も-い (動) 萌 もゆ 萌ノ古語 萬葉集、十八卅七長歌、春サレバ、ヒコエ伊ツツ」

モイ-くわ（モイ-カ）(名) 梅花 〔もいハ、梅ノ支那近代音〕 ウメノ花。模樣。又、其模樣ヲ織リ出シタル絹布。 下學集、下、絹布門「梅花、モイク」 節用集(易林本)絹紋類「梅花也」 易林節用集 慶長)下、食服門「梅花、モイクワ、綾紋」「梅花綾」

モイくわ-のりやう（モイカ-ノリヨウ）(名) 梅花綾 梅花ノ模樣ヲ織リ出シタル綾絹。 古本節用集(饅頭屋本)、九「梅花綾、モイクヮノリ、ウ」

も-いを（モ-イオ）(名) 藻魚 〔藻引ニ得レバ云フト云フ〕 又、もうを。西國ニ、イソメバル。形、めばるニ似テ、眼、大ナラズ、鱗、

[illegible]ナシ。大キサ尺ニ近ク、冬ヲ時トス。[illegible]

もう (名) [illegible]牛[illegible]鳴也[illegible]牛[illegible]牛[illegible]聲也[illegible]十一[illegible]假レルアリ、コレ牛ノ鳴キ聲ナリ。轉ジテ、牛ノ異名トナレリ」小兒ノ語。牛ノ異[illegible]牛[illegible]

もう (名) 〔蒙〕〔次條ノ語原ヲ見ヨ〕(一)クラキコト。無智ナルコト。「蒙ヲ啓ク」(二)コドモ。小兒。「童蒙ノ便ニ供ス」

もう (代) [illegible]學卑小之稱」童蒙幼少ト云フ謙語ナリ」[illegible]

もう (副) (一)スデニ。ハヤ。「今頃ハもう忘レタ[illegible]」(二)モハヤ[illegible]「もう飲マヌカ、アア、モハヤ厭デゴザル」

もう (接頭) (一)イマ。モ。「もう一ツ下サイ」「もう一ツ買ハウ」(二)コノ上ニ。ナホ。一茶句集「もう一ツ、川ヲ越ユトヨ、飛ブ螢」

もう-う (名) 濛雨 モウモウト空ヲ曇リテ、降ル小雨。[illegible]

もう-き (名) 〔朦氣濛氣蒙氣〕(一)モウモウト立チコムル氣。[illegible](二)心氣、鬱シテ、爽快ナラザルコト。庭訓往來、十一月「[illegible]」[illegible]道呼ニ地獄ニ堕ツ常ニ死人ノ首ヲ目ニ見ネバ、心地ノ朦氣[illegible]ルトテ、[illegible]イハズ、云云」

もう-ざう [illegible]ミルコト。(二)夢ニ交接スルコト。[illegible]

モウス [illegible]帽子[illegible]ニ同ジ。下學集、下、絹布門「帽子、モウス」易林本節用集(慶長)下、食服門「帽子、モウス」

もう-せん (名) 〔毛氈〕〔もうハ呉音〕まう[illegible]ニ同ジ。[illegible]食服門[illegible]氈、モウセン」

もう-ぢん (名) 〔蒙塵〕[illegible]天子ノ、[illegible]蒙ラセラレテ、他處ヘ遁レ給フコト。左傳、僖公、廿四年「天子蒙二塵于外一敢不三奔二問官守一」

もう-とう (名) 〔毛頭〕又、まうとう　毛ノ生ヒタル頭[illegible]轉ジテ、稚兒ノ稱。[illegible]

もう-どう (名) 〔艨艟〕イクサブネ。軍艦。[illegible]兵船、軍船[illegible]十一[illegible]以久佐不禰、戰船也」

もう-み (副) 猛[illegible]〔もうハ、まう(猛)ノ訛カ、又、盛ろノ音便カ〕サカン[illegible]ナホ[illegible]ク。[illegible]浮山一[illegible]東海道名所記(萬治)二「サテナ、猛ヨ毛ガ生テオセラシヤ、オセラシヤトイフテ笑ヒケリ」物類稱呼、五、言語「多イト云事ヲ、云云、信州上州共ニ、もうみト云」

もう-ぶ (名) 〔蒙霧〕次次條ノ語ノ(一)ニ同ジ。

もう-まい (名) 〔蒙昧〕心ノクラキコト。又、人智ノ開ケヌコト。易經、上經、蒙卦疏「蒙者、微昧闇弱之名、物皆蒙昧、唯願亨通」

もう-む (名) 〔蒙霧朦霧〕(一)又、もうぶ。モウモウト立チコムル霧。易林本節用集(慶長)下、言辭門「蒙霧、モウブ」(二)胸中ノ晴レザルコト。氣ノフサグコト。庭訓往來、五[illegible]

もう-もう [illegible]ズ、心もうもう、富ノ孫ヲ、[illegible]ルハ、牛ニ似テ」

もう-もう (名) [illegible]

もう-もう (副) [illegible](一)雨、霧、ナドノ深クシテ暗キ狀、又ハ、小雨ナド降リシキリテ、見通シノ明カナラヌ狀ニ云フ語。[illegible](二)精神ノ、ボンヤリトシタル狀ニ云ノ語。[illegible]時」[illegible]出家ノ儀ニ落伏シケレバ」

もう-もう-み (副) 〔朦朦濛濛〕前條ノ(二)ニ同ジ。[illegible]十四、上[illegible]「もうもうみ耳モオボオボシカリケレバ、云云」

モウル (名) 〔毛織〕〔葡萄牙語、Mogol.ノ轉訛ト〕(一)織物ノ名。モト南蠻人ガ印度ノ莫臥爾(Mogul)ノ產ヲ渡セルヨリ名ヅクト。緞子ニ似テ浮織ナリ。回回織金毛織ト云フハ、緯ニ金絲ヲ用ヰ、經ニ絹絲ヲ用ヰテ織ミ織ル。其銀絲ナルヲ銀毛織ト云フ。又、金銀線ヲ用ヰテ、花文アリテ、金襴ノ如キヲ、風通ト云フ。又、毛織革ハ、いんど[illegible]ノ革ノ類ニテ、厚クシテ大紋アリ。[illegible]下「モウル、此國則南天竺ノ內、第一ノ大國也、土產、木綿島、花布、花毛氈、金巾木綿、[illegible]化ニ馬ニ織、玉サウコ、金モ織ノ帶カ押[illegible](二)今、銀ノ細ソキ針ガネノ如キニ、金鍍金シ、種種ニ搦メ用ヰテ、大禮服ノ飾トスルモノヲモ、金もうるト云フ。

もう-ろう (副) 〔朦朧〕(一)オボロニ暗キ[illegible]

もう-ゐ (名) 〔夢遺〕むせい(遺精)ニ同ジ。

もう-ゑ [illegible]

もえ (名) 〔燃〕燃ユルコト。モエカタ。

もえ-いし (名) 〔燃石〕せきたん(石炭)ノ一名。(筑前、黑崎)

もえ-い-づ モエ・イ・ヅ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ(自動、下二)[illegible]〔萌出〕[illegible]ノ下草、下ニノミ、もえ出づる思ヲ、知ル人ゾナキ」

もえ-き (名) 萌木 若葉ノ萌エ出タル木。[illegible]十四、上[illegible]上ニ[illegible]トキワタル[illegible]もえきノカゲニ」夫木抄、七、新樹、生ヒニケル、庭ノもえ木ノ、小暗キニ、ソコハカトナキ、深トマラデ」

もえ-ぎ (名) 萌黃 [illegible]見ヨ)、或ハ、云フ、萌木ノ芽ノ色ノ[illegible](一)黃ト靑トノ間色。淺綠。ウスミドリ[illegible]キ」夫木抄、七、夏「オモカゲハ、シグレシ秋ノ、モミヂニテ、ウスもえぎナル[illegible]ナルモノ。又、表裏トモ萌葱ナルモノ。[illegible]

もえぎにほひ (名) 萌葱匂 〔にほひ(匂)ノ條ノ(七)ヲ見ヨ〕(一)鎧ノ縅毛ノ、上部ハ萌葱色ニシテ、下部ニ至ルニ隨ヒ、次第ニ其色ノ淡クナレルモノ。平家物語、七、維正都落「萌ぎにほひノ鎧着テ、長覆輪ノ太刀ヲ佩キ」(二)女房ノ裝束、又ハ、懷紙ナドノ襲ノ色目ノ名。即チ下ヲ濃キ萌葱色ニシ、次ヲ中色ニシ、上ヲ薄色ニシタルモノ。其下ニ紅ノ單ヲ着ル。雅亮裝束抄、三、女房のさうぞくのいろ「もえぎにほひ、ウヘハウスクテ、シタヘコクニホヒテ、クレナヰノヒトヘ」

もえぎる・ルル・ルレ・レ・レヨ (自動、下二) 燃切 モエツクル。悉クモユ。曙野集、秋「燃え切れテ、紙燭ヲ投グル、薄カナ」

もえぎをどし (名) 萌葱縅 鎧ノ縅方ノ名。鎧ノ小札ヲ、萌葱色ノ絲デ縅シタルモノ。モエギイトヲドシ。線線縅穿 平家物語、十一、殿上闇討事「薄青ノ狩衣ノ下ニ、萌葱縅ノ腹卷ヲ着、云云」

もえくさ (名) 燃種 火ヲモヤス種子トナルモノ。タキレウ。燃料。津國女夫池(享保、近松作)五、火ヲ付ケテ燒キ立テウ、尤モ尤モ、夫レヨ夫レヨ、一同ニ、火ヨ燃草ヨト扇ケバ」

もえくち (名) 燃口 モユル端緒。モユルハジメ。聖德太子繪傳記(享保、近松作)眞の立花「地獄ノ釜ノ割木ニシテ、大佐藏ノ燃口ヨシ、云、途ノナガシ死出ノカチ、生木フシ木ノキラヒナシ」

もえぐひ (名) 燃杙 又、ほたぐひ。火ノモエ殘リノ木。モエサシノクヒ。ヤケボノクヒ。燼 倭名抄、十二、燈火具「燼、毛江久比、火餘木也」名義抄「燼、モエクヒ、ホタクヒ」神代紀、下「吾田鹿葦津姫、自火燼中出來」

もえこがる・ルル・ルレ・レ・レヨ (自動、下二) 燃焦 (一)火ニモエテコゲル。(二)思ヒニ心モダユル。(思ヒノ火ニカク) 宇治拾遺、十一、第十條「ツキセヌ嘆息ノホノホニもえこがれテ、セムカナキ苦ミヲノミ受ケ侍リ」

もえさし (名) 燃差 燃エ果テズシテ殘リタルモノ。モエノコリ。義經記、三、書寫山炎上事「クベタルもえさしヲオッ取リ」

もえたつ・ツ・テ・タ・ナ・チ (自動、四) 燃立 モエニモエ盛ンニモユ。モエアガル。拾遺集、廿、哀傷「トリベ山、タニニ煙ノ、もえたたバ、ハカナク見エシ、我ト知ラナン」

もえのこり (名) 燃殘 もえさし(燃差)ニ同ジ。

✤**も・える** (動) 萌 (一)もゆ(萌)ノ口語。(二)孵化ス。カヘル。(靜岡)

✤**も・える** (動) 燃 もゆ(燃)ノ口語。

もえわたる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 萌渡 草木ナドノ一圓ニ芽グム。又、悉ク芽ザス。宇津保物語、梅花笠ハ「もえわたる、草木モアラヌ、春ベニハ、山邊ニイソグ、鹿ゾフムラシ」

もえわたる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 燃渡 (一)火ナドノ、一圓ニ、燃エテヒロガル。(二)轉ジテ、胸中ノ煩悶タエズ。後撰集、十三、戀、五「我戀ノ、消ルマモナク、クルシキハ、アハヌ歎キヤ、もえ渡るラン」

モオニング・コオト (名) 〔英語、Morning-coat.〕洋服ノ上衣ノ一。前ノぼたんハ單列ニシテ、つまヲ圓ク取リ、後ハ、ふろっくこおとノ如ク割リタルモノ。男子ノ通常禮服トシテ用ヰラル。

も・か (名) 藻冠 〔もかぶりノ略、昔、尾張ノ熱田ヨリ、藻冠ト云ヒテ、鮮魚ニ藻ヲ冠ラセテ貢リタルニ始マルト云フ〕尾張名古屋ニテ、密賣婦ノ稱。物類稱呼、一、人倫「賣女、ウカレメ、云云、尾張ニテ、出女房トイフ、又、同、及ビ熱田ニテ、もか共云」

も・が (感) 〔感動詞ノもニ、同ジがノ添ハリタルモノ〕希ノ意ノ語。も、及、が(欲得)ノ條ヲ見ヨ。萬葉集、五、三十八「水沫ナス、モロキ命モ、栲繩ノ、千尋ニ欲得ト、願ヒ暮シツ」

も・かう (名) 帽額 〔帽ハ、漢音はう、呉音まうノ轉音ノもう、ノ略ナリ、帽額ノ音ノ略音便、人ノ額ニアタルモノ、ひたひかくしノ意、元ト帽子ト抹額トヲシタルヲ借リテ、轉用セル語ト云フ、或ハ、面額トモ記ス、上ニ張ルヲもかう、下ニ張ルヲ水引ト云フ〕(一)御簾ノ上邊ニ添ヘテ、帛ヲ横ニ長ク引キ延フルモノ、後世云フ水引の幕ノ如キモノト云フ。縁ニ窠ノ紋(鳥ハ、軒ニ窠ヲクフ故ニ、紋トス)ヲ、黑ク散ラシテ染ムトゾ。字類抄「帽額、モカウ」宇津保物語、樓上、上「簾ノもかうニハ、大紋ノ錦ヲセサセ給ヒ」枕草子、九、第九十九段「御簾ノもかうノ上ゲタル、鉤ノキハヤカナルモ、ケザヤカニ見ユ」御即位ナドニ、紫宸殿ニカケサセラルルニハ、五彩ノ瑞雲ヲ添ヘタル日像ノ繡アリ、禁中、諒闇ノ時ニハ、鈍色ノ細布ヲ用ヰラレ、コレヲ布のもかうト云フ。年年隨筆、一「もかうハ、御帳ノ帷ヲカケタル桁ノキハニ、横ザマニ引キワタスモノナリ、ヒトヘナルヲ中折ニシテ、ワナヲ下ニシテ引ナリ、云云、常ハ繡纈ニテスルヲ、倚廬ノ御料ハ鈍色ノ布ニテシタリ」(二)轉ジテ、窠ノ紋ノ稱。後ニハ、もハ、かうトモ云ヒ、木瓜ノ字ナド記ス。くゎ。くゎん。くゎのもん。増鏡、第十六、秋のみ山「下襲、御家ノ紋ノもかうヲ、色色ニ織リタリシニヤ」

も・かう (名) 抹額 〔まっかうノ音便轉〕ほそえい(細纓)ノ冠ノ磯ニ、紅帛ヲ鉢卷ニシタルモノ。昔、下級ノ武官ノ公式ノ時、又ハ、衞士、及、[illegible]ナド、騎手コレヲ着クトゾ。まっかう(抹額)ノ條ヲモ見ヨ。新野問答「故圓成寺殿下[illegible]末額、侍云[illegible]之殿際ヲ引マトヒテ、後ニムスブ由ニ候、六府官人、大射ノ騎ノ時、用ヰ之由見エ式候」

もがく・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 踠 〔臥搔ノ刈藻搔くト云フヨリ出デタル語カト云フ〕(一)苦ミ悶エテ、手足ヲ動カス。アガク。ノタウツ。悶躁 (二)心イラル。イラダツ。ジレル。焦燥 平家女護島(享保、近松作)二「エ憎、もがかセテ見ム氣カ」

も・がさ (名) 疱瘡 〔面瘡ノ上略、(母屋、もや、思ふ、もふ) 轉ジテ、いもがさ(いもやみ、いもがほ)トモ云フ、甚シク面ニ發スレバ名トス〕又、リンソウ。今、疱瘡。其條ヲ見ヨ。倭名抄、[illegible]「疱瘡、唐韻云、皰面瘡也、皰瘡此間云裳瘡」續紀、十二、天平七年閏十一月「是歲、云云、自夏至冬、天下患豌豆瘡(俗曰裳瘡)、夭死者多」榮花物語、十六、本の雫「コノ君達、ミナもがさニ煩ヒ給ヘバ」

もがみりう (名) 最上流 和算ノ一流。寬政ノ頃、出羽國、最上ノ人、會田自在亭安明ノ創設シタルモノ。解惑辨誤「鈴木彥助安旨(後改會田算左衞門安明)、改精算法ヲ著ス、云云、皆此等妄說、不可勝述、云云、己ガ無知妄作ヲ以テ、最上流ト號シ、自ラ誇テ自在先生ト稱シ、關關、人ヲ誑ラシムルニ至ル」

も・がり (名) 殯斂 〔もあがりノ略、もハ凶事、あがりハ崩御ノ義、(无火殯斂)ノあがりト同趣〕、あらき(荒城)ノ條ヲモ併セ見ヨ〕天皇崩御アリテ、暫シ靈柩ニ收メ置キ奉ルコト。カリモガリ。ミモガリ。ソノヲ。殯。(葬儀ヲ終ヘ奉ルヲモ、もがりト云フ) 神代紀、下「遺喪[illegible]

國ニ兩殯[illegible]之」允恭紀、五年七月「天皇之殯」又、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]カリノ[illegible]、又ハ、もがりの宮ト云フ。アラキノミヤ。[illegible] 神代紀、上「[illegible]之[illegible]」 乃止古呂」 允恭紀、四十二年正月「自ニ難波ニ至ニ于京、[illegible]」

もがり (名) 虎落 〔挖木、もがれ木ノ義、大木抄、[illegible]ニ[illegible]中ハ[illegible]門、防グ、逆茂木ノ、もがれ果テヌル、身ニコソアリケレ」コレ、枝葉ヲ挖ガレタル竹木ヲワタレド、多ク、竹ナレバ、たかもがりト云フ〕(一)枝ナキ竹ニテ、麁ク作レル垣。家ノカコヒナドトシ、又、物ヲツケテ乾シナドス。[illegible]、矢來、柵。[illegible] 中門虎落、[illegible]、以竹[illegible]、[illegible]也、[illegible]、[illegible]、[illegible]カリ一[illegible]、[illegible]ニ見エタル竹もがりノ内コソ、五郎太夫ト申シテ、烏帽子ノ上手ニテサフラヘ」(二)今、紺搔ナドノ染物ノ乾場ニ作リオクモノ。昔ハ竹もがりノ如クナリキ。今ハ丸木ヲ足場ノヤウニ作ル [illegible]〔元[illegible]〕[illegible]ノ[illegible]、紺屋ガ[illegible]ケテ、もがりガプ コケテ、[illegible]帽子ノ内テ看タ」(三)モノヲネダルコト。ユスルコト。又、ソノ人。もがりもの。胸算用(元[illegible]、[illegible]ソナタノ[illegible]、今時ハ古シ」[illegible]、[illegible]、近[illegible]作ノ中、ウヌ等カもがりト[illegible]エタリ」

もがりおと (名) 強請事 押シテ請ヒ求ムル事。ユスル事。強請スル事。長町女[illegible]、[illegible]、近松作、上、[illegible]ノ[illegible]メガ、作切リ[illegible]シノもがりおと、急急ニセガムト見エタ」

もがりだけ (名) 虎落竹 モガリニ使用スル竹。三十二番職人盡歌合、十二番、たけ賣「手アタリノ、ヨキ枝アレバ、折ルモウシ、花ノ園ヒノ、もがり竹メセ」

もがりのみや (名) 殯宮 もがり(殯)ノ條ヲ見ヨ。

〜もかりぶね (名) 藻刈舟 藻ヲ刈ルニ用サル舟 [illegible]七「[illegible]、[illegible]ギクラシ、[illegible]ガ島、ウタミノ浦ニ、[illegible]ケル見ユ」

もがりもの (名) 虎落者 もがり(虎落)ノ(三)ヲ見ヨ。

もかりをぶね (名) 藻刈小舟 藻ヲ刈ルニ用キル小舟。小サキ藻刈舟 [illegible]六帖、一「ゆふべ「鶴ノナク、タシホサヒ(一本、井)ノ、ミナトスニ、もかりを舟モ、今ヤ入ルラン」

もが・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 強請 言ヒ分ヲコシラヘテユスル。[illegible]門松(享保、近松作)中「情ナイ哀レ知ラズ、七十ニナル淨閑ガ、もがらレタトイフ外聞ワルサ」

もが・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 強請 [illegible]ノ[illegible]ニ同ジ。

もぎ (名) 摸擬 ウツシナゾラフルコト。他ノモノニマヌルコト。眞似。蘇軾詩「[illegible]、[illegible]」

〜もぎ (名) 裳着 (一)古へ、貴婦人ノ、始メテ裳ヲ着ル儀式。髪上ト同時ニ行フモノトス。みもぎ。又、其時、腰結トテ、童女ノ成人トナレル儀アリ、唐衣裳ヲ着用セシメ、腰ノ紐ヲ結フ。(少女ハ、ホソナガ、カザミナリ)皇女ノ御裳着ノ腰結ハ、大臣ナドノ所作ナリ、貴人ハ一族ナドノ宿老ヲ頼ム。男子元服ノ加冠ノ如シト。宇津保物語、[illegible]女ハもぎ、カミアゲ、男ニツキ、宮ヅカヘシトトノヒ給フ」榮花物語、十九、御裳着「一品宮ノ御裳着トテ、云云」

もぎ (名) 挖木 次條ノ語ヲ見ヨ。

〜もぎき (名) 挖木 〔集韻「挖、取レ枝也」〕[illegible]シテ、もぎ 枝葉ヲ挖ギ去レル木。

〜く、[illegible]シテ枝[illegible]、[illegible]、[illegible]川「ヨソニテハ、もぎきナリトヤ、定ムラン、下ニ匂ヘル、梅ノ初花」散木集、九、雜、上「我トイヘバ、愛宕ノ山ニ、栞スル、もぎきノ枝ノ、情ナノ世ヤ」

もぎ (名) 麥 むぎ(麥)ノ轉。

もぎだう (名) 沒義道 〔無義道ノ轉〕邪[illegible]ナルコト。ムゴキコト。非理、無理非道、無法 たはた、さ、[illegible]、云フトキハ、もぎだうナル心ト見ユ、[illegible]而非[illegible]トイヘバ、てんぼナル心」 雙生隅田川(享保、近松作)[illegible]ノ[illegible]、[illegible]十、[illegible]、[illegible]」

もぎた・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 挖立 モギトル。無理ニ[illegible]、[illegible]。[illegible]、一、[illegible]もぎたつる、[illegible]ヲ見レバ、イトトシク、アタリヲ拂フ、八重櫻カナ」

もぎつけ (名) 挖附 〔挖グ首ニテ、附ケハ兜ヲ副フル意〕(一)戰陣ニテ、兜首ヲ取リタルコト。(果ナドノ枝折ニシタル意)又、敵ノ首ト兜ト共ニ取リタルコト。夏山雜談、三「軍中ニテ、冑首ヲトリタルヲ、もぎつけト云フ、云云、果ナドヲ枝折ニシタル[illegible]ナリト云ヘリ」(二)矢ガラノ節ヲ、削リ去ラヌモノ。太平記、十五、正月廿七日合戰事「[illegible]ノ太サハ、尋常ノ人ノ[illegible]目ガラニスル程ナル三年竹ヲ、もぎつけニ押シ削リテ、[illegible]ノ九分[illegible]ナルヲ、[illegible]、中子ヲ打[illegible]ニ[illegible]、云云」

〜もぎぬ (名) 喪衣 さうふく(喪服)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]、三十八、夕[illegible]「キヌノ色イトコクテ、ツルバミノもぎぬヒトカサネ、コウチギ着タリ」

もぎは (名) おくみ(衽)ニ同ジ。字鏡集「衽、モギハ、クヒ、オホクヒ」

もぎはな・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 挖離 挖ギヤウニシテ、引キ[illegible]。[illegible]〔享保、近[illegible]作、四、[illegible]ヨ[illegible]、[illegible]、[illegible]〕

もぎ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 挖捩 挖ぎ

切る、ノ約。もぐ(挖)ニ同ジ。

もく (名) 椋 むく(椋)ノ訛。

もく (名) 藻 もくづ(藻屑)ノ略。

もく (名) 木 (一)ぼく(木)ノ條ノ(一)ニ同ジ。キ。(二)〔もくめ(木目)ノ略〕木理 枕草子、五、第四十五段、めでたきもの「作リ佛ノもく、色アヒヨク」(三)ごぎやう(五行)ノ[illegible]、其[illegible]ヲ見ヨ。

もく (名) 目 (一)[illegible]、[illegible]、[illegible]。五[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]。(二)碁盤ノ目ヲ數フル語。ゴノメ。碁路。(三)種ノ意。「五もく飯」五もく鮨」(四)條項ノ下ノ小別。豫算編制ノ上ニテハ、最下級ノ小別。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]日、克己[illegible]、[illegible]、[illegible]」

もく (名) 木工 〔[illegible]、[illegible]、木工ノ[illegible]〕さだくみ(木工)ニ同ジ。[illegible]、[illegible]、近松作)三「木工、修理ノ番匠ニ命ジ、云云」

〜も・く (形) 茂 もし(茂)ノ條ヲ見ヨ。

も・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (他動、四) [illegible] 挖 [illegible] ノ轉カト云フ〕捩ヂテ引キ放ス。捩ヂ取ル。ハナシトル。もぎる。名義抄「[illegible]、[illegible]、[illegible]」切、セク」[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ナレハトテ、[illegible]ノモ[illegible]、[illegible]ベシ、」

も・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (自動、下二) 挖捩 ハナレテオツル。モゲル。

〜もくいん (名) 木印 木材ニ彫刻シタル印。[illegible]、[illegible]、[illegible]、木印、長一寸、[illegible]二寸五分」持統紀、六年九月「神祇官奏上神寶書四卷、鑰九箇、木印一箇」

もくえう (名) 木曜 えちえう(七曜)ノ一。其條ノ(二)ヲ見ヨ。

もくか (名) 目下 (一)マノアタリ。メ

ノマヘ。モクゼン。ガンゼン。膝下。晉書、明帝紀「[illegible]日下」(二)サシカカリ。タダイマ。イマ。時下。刻下 近思錄、宋、朱熹、呂祖謙ニ「古人屬還、目下雖、似相疎、其實如、此、乃能久相親」

もくかう(モッカウ) (名) 默考 沈默シテ深クカンガフルコト。「沈思默考」

もくかう(モッカウ) (名) 目耕 書物ヲ讀ムコト。讀書(目ヲ働カスハ、恰モ田ヲ耕スニ類ストテ、喩ヘテ云フ) 世說、言語、下篇「王[illegible]少家貧、雨好學、[illegible]日耗、[illegible]卷不輟、家人爲之曰、因爲苦此何不耕、王徐答曰、我常自耕耳、[illegible]自當作目」

もくかう(モッカウ) (名) 木香 (一)薔薇科ノ蔓性植物ノ一。莖ハ長ク、他物ニ絡ヒ附キ、葉ハ羽狀複葉ニシテ、五枚ノ小葉ヨリ成リ、細カキ鋸齒ヲ有ス。春、白キ小花ヲ開キ、香ヲ放ツ。又、花、黃色ニシテ、大ナルモアリ。モクカウイバラ。モクカウバラ。(二)昔、南蠻、卽チ、阿蘭陀國ヨリ渡來セル藥品。木香ノ根ヲ乾シタルモノニシテ、形、枯骨ノ如シト。軸木香、株香、靑木香(シャウ)ナドノ種類アリ 重修本草綱目啓蒙、九、芳草類、木香、云云、藥鋪ニテ渡トイフモノ、實ハ阿蘭陀ノ產ニシテ、上品ナリ、云云」

もくかう(モッカウ) (名) 木瓜 (一)虎耳草(ユキノシタ)科ノ落葉灌木ノ名。高サ六七尺、葉ハ橢圓形ニシテ、春、葉ニ先ダチテ、白色ニ淡紅色ヲ帶ビタル花ヲ開キ、後、橢圓形ノ實ヲ結ブ、香氣アリ、蜜漬トシテ食フベシ。(二)紋所ノ名。もかう(帽額)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

もくきん(モッキン) (名) 木琴 (一)東洋ノ樂器。

長方形ノ木片ノ數ヲ、木函上ニ平行ニ音階順ニ配列シ、二本ノ撥、又ハ、桴ヲ以テ之ヲ打チテ奏ス。德川時代ノ末葉、明淸樂ニ伴ヒテ輸入セラレタリ。嬉遊笑覽、六、上、音曲「木琴、木ノ數十四枚、板ノ長サマザマニ彫テアリ、板狹キホド其音甲(カン)ナリ」(二)〔英語、Xylophone.ノ譯語〕西洋ノ樂器。モト東洋ヨリ傳ヘラレ、改良セラレテ音域モ遙ニ廣クナリ、大型ナルハ木片ノ代リニ金屬片ヲ用キル。

もくきょ(モッキョ) (名) 默許 知ラヌ風ニシテ許シ置クコト。メコボシ。又、默認。

もくぎょ(モクギョ) (名) 木魚 「敕修百丈淸規、法器章、木魚「相傳云、魚、晝夜常醒、刻木象レ形擊レ之、所三以警二昏惰一也」」(一)梆トモ稱シ、木ニテ龍頭魚身ノ形ニ造レルモノ。禪家ニテハ、庫裡ニ吊シ、食事ノ時ニ打鳴ラス。 朱熹詩「粥飯付時共木魚」 書言字考節用集、七、器財門「木魚、モクギョ、禪家具」(二)僧家ニ、讀經ノ時ナド、叩キテ音ヲ發セシムル具。木造、圓クシテ、中空シク、横ニ細長キ孔アリ、表ニ魚鱗ノ象ヲ刻ル。和漢三才圖會、十九、佛供器、木魚「刻レ木爲二魚形一、空二其中一、敲レ之有レ聲、云云」(三)孕婦ノ異名。(四)鰹節ノ漢名。

もくぎょこう (名) 木魚講 一種ノ講中。平素、互ニ金錢ヲ醵出シ置キ、其講中ニ葬儀ノ事アレバ、其費用ニ供ス。葬送ノ時ハ、其講中ノ一人、大ナル木魚ニ紐ヲ付ケテ、頸ヨリ腹ニ掛ケ、之ヲ打鳴ラシテ念佛ヲ唱フレバ、衆、皆コレニ連レテ、大聲ニ念佛ヲ唱ヘテ送ル。 嬉遊笑覽、五、宴會「無常講、近頃、此事大ニ流行リ、木魚講ト稱シ、大ナル木魚ニ紐付テ首ニカケテ、コレヲ打ツツ

念佛ヲトナフレバ、其外コレニツレテ大聲ニ念佛シテ、のべ送リスルナリ」

もくぐう (名) 木偶 ぼくぐう(木偶)ニ同ジ。

もくくゎん(モッカン) (名) 木環 體操用具。木ヲクリテ作リタル環。

もくげ (名) 木槿 〔むくげノ轉〕むくげ(木槿)ノ條ヲ見ヨ。

もくけい(モッケイ) (名) 默契 言ニ發セズシテ、互ニ心ノ相合フコト。言ハズ語ラズノ裡ニ、雙方ノ意思ノ一致スルコト。 名賢集「[illegible]西山、越山新居成、名其齋曰[illegible]帖云、坐看吳越兩山秀、默契伏羲千古心」

もくけい (名) 木契 木ニテ造リタルワリフ。古ヘ、常ニハ半ヲ國ニ付ケ、半ヲ朝廷ニ置キテ、天下事アルトキ、コレヲ使節ニ授ケ、合ハセテ信僞ヲ判ズル用ニ供セシメタルモノナリト。 唐六典、五、兵部、文武官[illegible]則日[illegible]云云、若大使、加旌節以統軍、賚木契以行動」 三代實錄、廿九、貞觀十八年十一月廿八日「內舍人一人賚固近江關云云、各賚敕符木契二時馳赴」

もくげき (名) 目擊 「康熙字典「擊、觸也」品字箋「目擊猶レ言二瞥見一目方往、意已會悟」」マサシク目ニ見取ルコト。 杜甫詩「朝發白帝暮江陵、頃來目擊信有レ徵」

もくけん(モッケン) (名) 木硯 木ニテ造レルスズリ。 硯譜(宋、唐詢)「[illegible]木賢[illegible]其能[illegible]石美、其潤[illegible]劉[illegible]以浮黃[illegible]硯、知古亦有木硯」 雅遊漫錄(大枝流芳)二「木硯ハ懷中ニ携フルニ、輕クテヨシ、カタキ木ニテ作ル」

もくげん (名) 牧監 古ヘ、左右馬寮ニ屬セル牧場ヲ監督スル職。 字類抄「牧監、モクケン、甲斐、信濃」左馬寮式、凡甲斐信濃兩國牧

[illegible]

もくげんじ (名) 木槵子 木患子 むくろじ(無患子)ニ同ジ。 [illegible](ケ)ンジ、可用[illegible]云云 [illegible]ノ神ヲ祝奉タル社アリ、其神ノ前ニ、大ナル木槵子ノ木アリ」

もくげんじ (名) 欒樹 〔前條ノ語ヲ誤用ス〕 無患子(ムクロジ)科ノ落葉喬木ノ名。梅檀葉ノ菩提樹。山地ニ自生シ、高サ丈餘ニ達シ、葉ハ羽狀複葉ニシテ、小葉ハ卵形、棟ニ似テ、稍、大キクシテ毛アリ。夏、枝ノ梢ニ穗ヲ出シ、枝ヲ分チテ小花ヲ開ク、五瓣、下ノ方ニ片寄リテ開キ、色、黃ニシテ、心ハ紅ナリ、藥用トス。欒華 實ハ、ほほづき(酸漿)ノ皮ニ似テ、稍、小サク下タク、秋、熟シテ、皮自ラ開ク、內ニ二三子アリ、大イサ二分餘リ、黑クシテ、極メテ堅シ、穴ヲ穿チテ、數珠ニ作ル。モクランシ。モクレンジ。古名、ムクレニシ。木欒子

もくご (名) 目語 目ヅカヒニテ、互ノ意思ヲ通ハスコト。眼語。 唐書、則天順聖皇后傳「初元舅大臣佛旨、云云、道路目語」

もくこう(モクコウ) (名) 木工 さだくみ(木工)ニ同ジ。

もくこう(モッコウ) (名) 木公 〔松ノ字ヲ析(サ)キテ、木公トシタルモノ〕松ノ異稱。もくぼ(木母)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

もくこう(モッコウ) (名) 沐猴 〔詩經、小雅、角弓篇「毋レ教二猱升一レ木」疏「猱、獼猴也、楚人謂二之沐猴一」〕 猿ノ類。 箋注倭名抄、七、六十一「[illegible]說文九[illegible]則知、古作一[illegible]」

[illegible]して冠ストハ、野人、衣冠ヲ着クルモ、心ハ猿ニ類スト云フ意。 史記、項羽紀「人言、楚人沐猴而冠耳」

もく-こく (名) [木斛] [illegible]

[illegible]花ヲ生ズ、ぢんちやうげ(沈丁花)ニ似タリ[illegible]實[illegible]熟スレバ[illegible]裂ケテ、内ノ子現ハル。四時、常ニ紅葉ヲ雜フ。厚皮香[illegible]

もく-こん (名) [目今] マノアタリ。サシアタリ。タダイマ。目下。方今。現今。

もく-ざ (名) [默坐] 無言ニテ坐スルコト。 [illegible]默坐念語笑[illegible]

も-ぐさ (名) [艾] (燃草ノ略、或ハ云フ、揉草ノ略ト) 灸ニ用ヰルモノ。よもぎ(蓬)ノ葉ヲ乾シテ、揉ミテ葉背ノ白毛ノミヲ採ル、綿ノ如シ、コレヲ晒シテ、極メテ細ソキ條トシ、二分ニ切リテ、灸穴ニスエテ、火ヲ點ズ。ヤイバクサ。 [illegible]

も-ぐさ (名) [藻草] も(藻)ト云フニ同ジ。 夫木抄、廿八、草「沖ツナミ、シキリニ寄スル、渚邊ニハ、もぐさカキ分ケ、貝モ拾ハン」

もく-ざい (名) 木材 木ノ材 材木ヲ種[illegible]

もく-さう [illegible]

もく-ざう (名) [木像] (一)木ニテ作リタル像。木偶。[illegible]利)ニ行ク、云云、左ノ方ノ一間ニハ、野相公(小野篁)ノ木像アリ、云云」 (二)俗ニ、心身ノ活機ナキ人ヲ罵リ呼ブ[illegible]木偶ノ坊

もく-ざう (名) [木造] キヅクリ。木ニテ作リタルコト。又、ソノモノ。木製。

もくざう-がに (名) 木藏蟹 [illegible]人語) ハサミニ、毛ノモクモク生エテアル老大ナル蟹。

もく-さく (名) [茂咲] モクサクコト。又、其所。 夫木抄[illegible]もくさく、活字本、ももさこニ作ル)

もく-さ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [茂咲] シゲク咲ク。[illegible] 萬葉集[illegible]「たツタフ、磯ノ[illegible]ノ、岩ツツジ、木丘[illegible]、又見ナムカモ」 夫木抄、六、躑躅「ミヅツテノ、磯ノ浦ワノ、イハツツジ、[illegible]、又モ見ンカモ」

もく-さん (名) [目算] (一)ミツモルコト。ミツモリ。メブンリャウ。 (二)モクロミ。豫テノ計畫。 東海道中膝栗毛(文化、一九)八編、下「一ノトミノもくさんチガヒ」

もく-し (名) [目眦] 目ノ、耳ノ方ニ寄リタル端。マナジリ。メジリ。 史記、項羽紀「瞋目視項王、頭髮上指、目眦盡裂」

もく-し (名) [默止] 口ヲツグミテ居ルコト。ダマルコト。 [illegible]

もく-し (名) 默示 (一)無[illegible]ニテ[illegible]思ヲ[illegible]

[illegible]ト。(二)基督教ニテ、神ガ人ノ心ヲ啓キテ、眞理ヲ示シ給フコト。即チ、教ヲ[illegible]

もく-し (名) [默視] [illegible]居ルコト。

もく-じ (名) [目次] 題目、又ハ、[illegible]序[illegible]目録

もく-しき (名) [默識] 無言ニテ心ニ記シ[illegible]ミヲムコト。

もく-じき (名) [木食] 果ミ食ヒテ生キテアルコト。又、菜蔬、蕎麥ナドノミヲ食フコト。 [illegible]

もく-しやう (名) 木匠 [illegible](木工)

もく-しやくやく (名) 木芍藥 [illegible]丹)ノ一名。其條ノ(二)ヲ見ヨ。

もく-じゆう (名) [木銃] 木ニテ銃ノ形ニ製リタルモノ。又、木製ノ銃砲。 和漢三才圖會、廿一、兵器、[illegible]木銃二放出者、其玉徑一尺三寸二分四厘」

もく-しゆく (名) [苜蓿] うまおやし(馬肥)ニ同ジ。 史記、大宛傳「馬嗜苜蓿、漢使取二其實[illegible]

もく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) [默] モダス。ダマル。口ヲツグム。 [illegible]辭、上傳「君子之道、或出、或處、或默、或語」

もく・す・スル・スレ・セ・シ・セコ [illegible]

(一)[illegible]

[illegible]一飯、三吐哺」 (二)湯、又ハ水ヲアビテ[illegible]

もく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) [目] (一)目ニテ知ラス。 史記、項羽紀、[illegible]見、[illegible]

もく-せい (名) 木星 太陽系中[illegible]八百[illegible]、其[illegible]凡ソ十二年ニシテ、太陽ヲ一周ス、其光輝アルニ名アリ。陪星、九ツアリ。一名、歳星。太歳。 史記、天官書[illegible] 平治物語、一、信西[illegible]

もく-せい (名) [木製] 木ヲ以テ製作スルコト。又、ソノモノ。木造

もく-せい (名) [木精] (一)こだま(木[illegible])ニ同ジ。(二)[英語、Wood spirit.][illegible]語) 木材ヲ蒸燒キ[illegible]體ヨリ製スル無色透明ナル有毒液體。[illegible]

もく-せい (名) [木犀] 木犀科ノ常緑小喬木。[illegible]生ズ、[illegible]フ。高サ丈[illegible]葉[illegible]長橢圓[illegible]緣[illegible]秋、葉ノ間ニ小花ヲ開ク、白、又ハ、黄赤ナリ、遠ク馨ルコト沈丁花ノ如シ、[illegible]桂花

もく-せう (名) [目笑] 目ニテ笑ヒ[illegible]ノ意ヲアラハスコト。又、目ト目ト見合ハセテ笑フコト。[illegible]

[illegible]王述傳、十九人相與目、笑之、而未[illegible]也」

もくせふ (名) 目睫 (一)めト、まつげト。(二)轉ジテ、極メテ近キ處。甚ダ接近セル處。目前。 司馬光、治安劄子「古語有之、曰、察目睫者、不能見百歩、察百歩、吾、亦不能察目睫」「目睫ノ間ニセマル」

もくせん (名) 目錢 武家時代ニ、商船、酒屋ノ桶、又ハ、田畑ノ反別ナドニ課シタル税。 諸州古文書、攝津國兵庫、渡邊、神崎三ケ津、商船目錢[illegible]停止、云云」

もくせん (名) 目前 メノマヘ。マノアタリ。眼前。 列子、楊朱篇「目前之事、或存、或廢、千不識一」 謠曲、石橋「笙笛琴箜篌、夕日ノ雲ニ聞エ來、目前ノ奇特アラタナリ」

もくせんと (副) 默然 無言ニテ居ル狀ニ云フ語。默默。モクネン。 戰國策、齊策「宣王默然不說」

もくそう (名) 目送 行ク姿ヲ見オクルコト。 史記、留侯世家「上曰、煩公幸卒調護太子、四人爲壽已畢趨去、上目送之」

もくそく (名) 目測 目分量ニテハカルコト。目ニテ測定スルコト。

もくぞく (名) 木賊 とくさ(木賊)ノ條ヲ見ヨ。

もくだい (名) 目代 〔目ハ、見守ル意、後ノ目付ノ如シ、國司ノ目ノ代、ノ意トスルハアラズ〕(一)又、メシロ。古ヘ、國司、任ニ趣カヌ時、代理セシムル者。眼代。目代。 字類抄「目代、モクタイ」 吾妻鏡、三、壽永三年四月廿三日「常陸御目代殿」 (二)佛寺ニテ、寺領、其他ノ雜務ヲ掌ル僧職。 庭訓往來、十月「山目代、大勸進」 (三)伊勢大神宮ノ神職ノ一。 建久九年內宮假殿遷宮記「司廳目代、外宮權神主」

もくたう (名) 默禱 無言ニテ、心ノ中ニ於イテ祈禱スルコト。 韓愈詩「潛心默禱若有應、豈非正直能感通」

もくだく (名) 默諾 無言ニテ承諾スルコト。默許。

もくたん (名) 木炭 (一)すみ(炭)ノ條ノ(二)ニ同ジ。(二)特ニ、下繪ヲ畫クニ用ヰル柔カナル炭。

〓もくづ (名) 藻屑 略シテ、もく。水中ニアル藻ナドノ芥。ゴミ。アクタ。 源、廿九、行幸五十「ヨルベナミ、カカル渚ニ、打チヨセテ、アマモ尋ネヌ、藻屑トゾ見シ」「淸底ノもくづ」

もくつう (名) 木通 あけび(通草)ニ同ジ。あけびかづら(通草)ノ條ヲ見ヨ。

もくづび (名) 藻屑火 モクヅヲ燒キタル火。 千載集、十一、戀、一「藻くづ火ノ、磯マヲ分クル、イサリ舟、ホノカナリシニ、思ヒ初メテキ」

もくてう (名) 木鳥 古ヘノ官名。春宮ノ舍人ニテ、衞門ノ尉ヲ兼ネタルモノ。左衞門ノ尉ヲ兼ネタルヲ左木鳥、右衞門ノ尉ヲ兼ネタルヲ右木鳥ト云フ。さとり([illegible])ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

もくてき (名) 目的 目差ス所。遂行セムトスル標的。メアテ。アテド。

もくと (名) 目途 メアテ。メド。アテド。

もくどく (名) 默讀 聲ヲ出サズシテ讀ムコト。(音讀ニ對ス)

もくあいい (名) 木乃伊 みいら(木乃伊)ニ同ジ。

もくにん (名) 默認 口ニハ言ハズニミトムルコト。默許。

もくねん (名) 默念 無言ニテ考フルコト。[illegible]然トシテ考ヘ思フコト。默思。

もくねんと (副) 默然 もくぜんと(默然)ニ同ジ。 [illegible] 太平記、廿六、[illegible]默然トシテ大ニ恥ケルニ」

もくのかみ (名) 木工頭 又、むくのかみ。古ヘ、宮內省ニ屬セル木工寮ノ長官。コダクミノカミ。 拾芥抄、中、本、官位唐名「木工頭、木工寮、將作監、木作尹、將作大匠」 [illegible]員令「木工寮、頭一人、掌營構木作、採材事」」

もくば (名) 木馬 (一)木ニテ馬ノ形ニ造レルモノ。乘リ習フタメ、又ハ、器械體操ナドニ用ヰル。 從容錄、第三則「木馬游春駿不羈」 (二)くらかけ(鞍掛)ノ條ヲ見ヨ。(三)古ヘノ拷問ノ具。馬ノ背ノ如キモノニ、罪人ヲ跨ガラセテ、兩足ニ石ヲツリ下グルモノ。 十訓抄、中、第七、第廿五條「人ヲアザムキスカスハ、其ノ咎、輕カラヌ事ナリトテ、經色所ヘクダシテ、木馬ニ乘セントス」

もくば (名) 牧馬 名器ノ琵琶ノ名。げんざう(玄象)ノ條ヲ見ヨ。

もくはい (名) 木杯 木盃 木ニテ製リタルさかづき。 唐書、韋堅傳「[illegible]、木杯([illegible]ハ杯ニ同ジ)藤盤數十物」

もくはん (名) 木版 木ノ厚板ニ、文字、繪畫ヲホリテ、印刷ニ供スル版。版木。(石摺、石版、銅版ナドニ對ス、活字版ニ對シテハ、整版) 木手版 (瑯琊代醉編)

もくひ (名) 默祕 祕シテ言ハザルコト。

もくひ (名) 木皮 又、ぼくひ。木ノカハ。樹皮。草根木皮ノ條ヲ參見セヨ。

もくひつ (名) 木筆 (一)箸ノ如キ木ノ端ヲ燒キテ、筆トセルモノ。ヤキフデ。[illegible]宗ノ僧、木筆ニテ[illegible]像ヲ作ルト云フ。 [illegible] (二)こさし(字指)ノ一名。 雅遊漫錄(大枝流芳)ニ「本邦、官家ニ用ヒ給フ木筆ト云フモノアリ、是レこつきナリ」 (三)えんぴつ(鉛筆)ノ一名。(四)樹ノ名。こぶし(辛夷)ニ同ジ。

もくひょう (名) 木氷 寒氣ノタメニ、水氣ノ樹木ニツキテ凝リタルモノ。樹氷。キバナ。霧氷。霧凇。

もくふよう (名) 木芙蓉 常ニ略シテ、芙蓉。錦葵科ノ落葉灌木。一根ニ叢生シ、高キハ五六尺ニ至ル。葉ハ心臟形ニシテ掌狀ニ裂ケ、互生ス、大キサ五七寸、五七尖アリ、鈍キ鋸齒アリ。秋ノ初ヨリ、葉ノ間ニ大形ノ花ヲ開キテ、冬ノ初ニ至ル。花、葉、共ニ木槿ニ似タリ、淺紅アリ、白アリ、白クシテ邊ノ淡紅ナル等、種種アリ。

もくへう (名) 目標 目ジルシ。メアテ。

もくへん (名) 木片 木ノキレハシ。木ノハシ。キギレ。

もくぼ (名) 木母 (一)「梅ノ字ヲ析キテ、木母トシタルモノ」梅ノ異稱。 湖海新聞「北磵山[illegible]致遠、赴召、宋神宗問曰、卿自山路來、上曰、自山路來、木公木母如何、對曰、木公正欣賞、木母正含春、木公松也、木母梅也、[illegible]中書」 吉野拾遺「春來品物皆有春、木母花開香[illegible]正說」(海錄、十五) (二)母ノ木像ノ稱。 資治通鑑、梁紀「始居文太后喪、依丁蘭作木母」

もくほん (名) 木本 植物學ノ語。きだち(木本)ニ同ジ。(草本ニ對ス)

もくめ (名) 木目 標。村木ノ斷面ニア

ノハル丸[illegible]中ノ線ヲ略シテ、[illegible]木理
東海道名所記(萬治)二「木ノ葉ノ跡アル石、山中ヨリ[illegible]ル、[illegible]」

もくもく (副) (一)むくむくニ同ジ。(二)毛ノ茂ク生エタル狀ニ云フ語。

もぐもぐ (副) 口ヲ動カス狀ニ云フ語。ムガムガ。「口ヲもぐもぐサセル」

もくもくと (副) 默默 もくぜんと(默然)ニ同ジ。 [illegible]、默默乎[illegible]伯、女[illegible]、貫賤之門、小大之学

もくもんは (名) 木門派 木下順庵ノ學派。程朱ノ學風ヲ尊信シ、且、十三經注疏ヲ精讀スベキコトヲ唱ヘ、寧ロ古學ニ近シ。門下ニ俊才多ク、榊原篁洲、雨森芳洲、新井白石、室鳩巣、祇園南海ナド、皆、一代ノ碩儒タリ。 先哲叢談、[illegible]、木下順庵傳「新井在中、室師禮、雨森伯陽、祇南伯玉、榊原希翊、世謂之木門五先生」

もくよく (名) 沐浴 〔急就篇、章第十五、顏師古註「灌レ髮曰レ沐、澡レ身曰レ浴」〕髮ヲ灌ヒ、身ヲ浴スルコト。洗沐。 論語、憲問篇「孔子沐浴而朝」 禮記、寛弘六年五月一日「今日朝沐浴、云云、又云、五月一日日出沐浴」

もぐら (名) 土龍 〔もぐらもちノ略〕むぐらもち(土龍)ノ條ヲ見ヨ。

もぐら (名) 葎 〔むぐらノ轉〕かなむぐら(葎草)、及、やへむぐら(八重葎)ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、廿[illegible]草類「葎草、[illegible]久良」本草和名、同ジ」

もくらに (名) 木蘭 〔らには、蘭ノ轉〕(一)もくれん(木蓮)ニ同ジ。 倭名抄、廿廿九[illegible]「木蘭、[illegible]久良[illegible]」 名義抄「木蘭、モクラニ」(二)又、もくらん。染色ノ名。もくらんぢ(木蘭色)ニ同ジ。 [illegible]本草、上[illegible]「木

もくらふ モク-ロウ [illegible]、[illegible]ハ[illegible]色、又、[illegible]、實ヲ[illegible]ノ[illegible]臘ニシテ、之ヲ生蠟ト稱シ、精製スレバ純白トナル、之ヲ晒蠟ト稱ス、[illegible]ノ蠟燭製造ノ原料ナドニ用キラル。

もくらん (名) 木蘭 〔もくらにノ音便〕(一)もくれん(木蓮)ニ同ジ。 字類抄「木蘭、モクラン」(二)もくらんぢ(木蘭色)ノ略、次次條ヲ見ヨ。(三)[illegible]色ノ名[illegible]黑ク、綠黃ナルモノ。又、染色ノ名。黑ク赤バミタル色。黃ノ黑ミアルモノ。

もくらんし (名) 木欒子 もくげんじ(欒樹)ニ同ジ。

もくらんじき (名) 木蘭色 染色ノ名。黃橡トモ云フ。黃、紅、赤ノ雜色ニシテ、古ヘハ、木蘭樹ノ皮ニテ染メ、赤色ニ黑ミヲ帶ブ。黑蔦色。香染。略シテ、木蘭。壞色 行事鈔、下、一之二「余(唐、僧道宣)於ニ蜀都、親見。木蘭樹皮、赤黑色鮮明、可以爲ニ染、微有香氣」云云、袈裟赤色鮮明(注、此木蘭色 也)」

もくらんぢ モクラン-ジ (名) 木蘭地 木爛地 紅梅ノ根ヲ切リテ煎ジタル汁、即チ、うめやしぶ(梅谷澁)ト明礬トヲ混ゼテ、染メタル狩衣、直垂ナドノ地。其色、赤ク黃ヲ帶ブ。 字類抄「木蘭地、モクランチ」 保元物語、二、白河殿攻落事「木蘭地ノ直垂ニ、紫[illegible]ノ腹[illegible]」

もぐらもち (名) 土龍 〔うぐろもちノ轉〕むぐらもち(土龍)ニ同ジ。ソノ條ヲ見ヨ。 字鏡「[illegible]、鼢、鼠也、[illegible]久呂毛知」 名義抄「鼢、ムクロモチ」

もくり (名) 木理 又、ぼくり。もくめ(木目)ニ同ジ。 酉陽雜俎(唐、[illegible]成式)「[illegible]、

[illegible]

もぐり (名) 潛 (一)モグルコト。下ニくぐり入ルコト。(二)法度、制禁ノ網ヲ潛リタルモノ。又、受クベキ官ノ許可ヲ受ケズシテ、ヒソカニ行フモノ。「もぐり代言」もぐり商人」

モクリコクリ (名) 又、むくりこくり。(一)蒙古(元)ト高句麗(高麗)[illegible]高句麗トナリ、[illegible]鮮ノ古國、名トヨ併セ稱スル語 弘安四年、[illegible]、兩國ノ兵、十餘萬、我ガ筑紫[illegible]シテ、[illegible]シタル時ノ事ナリ、今、其死者ノ[illegible]ナド[illegible]云フ。(二)異國人ヲ罵リテ云フ語。(三)恐ロシキモノ[illegible]ヘテ、小兒ノ泣クヲ止ムルニ云フ語。

もぐる・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 潛 (一)水中ニ潛ル。下ニ入リ込ム。ヒソキ入ル。ユムグル。(二)ヒソカニ事ヲナス。ユルシヲ得ズシテ行ノ[illegible]。(三)物ノ隙ヨリ拔ケ通ル。「もぐり込ム」

もくれい (名) 目禮 目色ニテ會釋スルコト [illegible]、[illegible]傳、上、[illegible]以伯[illegible]、[illegible]目[illegible]之」法、師古日、目視而[illegible]之」

もくれい (名) 默禮 無言ニテ敬禮スルコト。默シタルママ敬意ヲ表スルコト。

もくれう モク-リヨウ (名) 木工寮 コダクミノツカサ。古ヘ、宮内省ニ屬セル寮。宮殿ノ造營、修理ナドノ工匠ノ事ヲ掌ル。將作 將作監 字類抄「木工寮、モクレウ」 續紀、九、寶龜六年六月、壬[illegible]、[illegible]木工寮[illegible]」

もくれん (名) 木蓮 モクラニ 木蘭科ノ落葉灌木ノ名。古ク、木蘭。樹、高サ八九尺、叢生ス。葉ノ長サ七八寸、柿ノ葉ノ如ク

[illegible]ヲ生ジ、夏ノ初、枝上ニ一花ヅツ開ク、[illegible]、外ハ、深紫ニテ、内ハ、白クシテ紫ヲ帶ブ、香氣アリ、内ニ、寸許ノ心アリ、筆頭ノ如ク、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、又、白木蓮アリ、其條ニ註ス。

もくれんじ (名) 木槵子 もくげんじ(欒樹)ノ條ヲ見ヨ。 字類抄「欒、モクレンシ、木槵子、[illegible]」[illegible]遺、一、第六條「木槵子ノ念珠ノ大キナル、繰リサゲタル、[illegible]」

もくろく (名) 目錄 (一)書中ノ題目ノミヲ録シ揭ゲタルモノ。目次。[illegible]又、進物ナドノ品品ノ名ヲ竝ベ記セルモノ。カキツケ。文書ヲモ云フ。 揭帖 條狀 [illegible]「先ノ[illegible]所作目錄」[illegible]二年四月十四日「[illegible]文[illegible]、[illegible]、其[illegible]」[illegible]之[illegible]也」 字津保物語、國譲、下「[illegible]ナトト二事シ給フ、云云、もくろくトテ、ソノ文奉リ給フ」(二)贈物ノ金銀ノ目錄[illegible]書キ[illegible]スルコリ、直ニ、其金銀ノ稱。[illegible](三)師ヨリ弟子ニ、[illegible]奧義ヲ傳ノ[illegible]ルニ就キテノ名目。皆傳ノ下ニ註ス。

もくろみ (名) 目論 モクロムコト。クハダテ。計畫。又、[illegible]、心算。 [illegible]作記[illegible]四、[illegible]花の[illegible]もやれおの子な郎ノ所ヘハ、小袖シテヤル目論見」

もくろむ・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) 目論 〔字ノ音ヲ活用ス、企ツ、謀ナドノ類〕目算ナドノ意カ〕心ニ企テ計ル。巧ム。計畫ス。設計ス。心算。 日本西[illegible]代藏(正德、北條團水)一「元手ナケレバ、如何ナル商人ノ才ダテヲもくろむトイヘ共、其ノ[illegible]」

もけ (名) 〔木瓜〕 ぼけ(木瓜)ニ同ジ。倭名抄、廿、木類「木瓜、…和名、下宇木瓜、毛介」

もけい (名) 〔模形〕 又、ぼけい。カタドリタルカタチ。ヒナガタ。

もけい (名) 〔模型〕 又、ぼけい。同ジ形ノモノヲ作ル型。イガタ。

も・げる・ゲル・ゲレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(自動、下一) 〔捥〕 捥ガレタル如ク離レ落ツ。チギレオツ。…「果もげる」葉ガもげる」

もこ (名) 〔埖〕 むこ(埖)ニ同ジ。

もこ (名) 左右。〔まさきノ略、許ノ意〕 モト。ソバ。古事記、中(應神)七十「千早ブル、宇遲ノ渡リニ、棹トリニ、早ケム人シ、ワガ毛古ニ來ム」

もこ (副) 〔模糊模糊〕 〔模ハ模ノ俗字、揩紳ヲ縉紳ト書クト同趣〕 〔霧、烟、ナドニテ、影ノ分明ナラヌ狀ニ云フ語〕 影ノ朧氣ニボンヤリセル狀。…

もこし (名) 〔龕〕 〔もハむノ轉、身屋、母屋ノ類、もこしハ層ノ義。字類抄「層、コシ、塔具、重屋七重」廣韻「龕、塔也、又云、塔下室」〕 棺ヲ納ルル小屋。がん(龕)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。字類抄「龕、モコシ、塔下室」…

もこし (名) 〔裳層〕 塔ナドノ最モ下層ニトリツケタル差掛。…

もこよかす (副) …〔揚雄、甘泉賦ニ「蠖略」ニ作レリ、李善注ニ「龍行之貌」〕

ト見エタリ」…

もこよ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 〔蜿蜒〕 〔もこハ身所ノ義、よふハ狀態ヲ云フ語、さまよふ、ただよふ、つたよふナドト同趣〕 ウネリツツ行ク。ウゴメキユク。ムクメク。ノタクル。名義抄「眩、モコヨフ」…「逃ゲテ、タフレもこよひツツ往ケバ」

もころ (接尾) 如若。〔もハ亦ニテ、相似タル意、ころハ比ノ意ニテ、相比ブル義、等比ふト云フ動詞アリ、懇ト云フ副詞アリ〕 ゴトク。其ガ如ク。オナジヤウニ。又、相比ブル。…

もころも (名) 〔裳衣〕 古ヘ、田植ノ時ナドニ、女ノ腰ニ纏ヒタル衣。榮花物語、十九、御裳着「ワカウキタナゲナキ女ドモ五六十人バカリニ、もころもトイフモノ、イトシロウキセテ」

もころを (名) 〔如己男〕 我ノ如キ男。我ト等シキ男。萬葉集、九三十長歌「土ニ伏シ、牙喫ビテ、如己男ニ、負ケテハアラジト」(古義ノ訓)

もさ (名) 〔もさことばノ條ヲ見ヨ〕 (一) 關東者ヲ嘲リ云フ語。可笑記(寛永)四「武州江戸ノ、云云、肥取もさト云ヘル者、痩セタル馬ニ大キナル桶二ツツケテ、云云」 (二) 轉ジテ、田舍者ノ異稱。…

もさ (名) 〔猛者〕 まうざ(猛者)ノ略轉。

其條ヲ見ヨ。

もさい (名) 茂才。茂材。〔後漢、光武帝ノ諱、秀ヲ避ケテ記セル語〕 しうさい(秀才)ニ同ジ。…

モザイク (名) 〔英語、Mosaic モト亞刺比亞語、Muslik.(裝飾的ナル、ノ意)ニ基ヅク〕 各種ノ色彩ヲ施シタル大理石、又ハ、硝子ナドノ小片ヲ、寄木細工ノ如ク組合ハセテ、圖畫、模樣ナドヲ表ハシタルモノ。切嵌細工。

もざう (名) 〔模造〕 他ノ形ヲ模シテツクルコト。又、ソノモノ。マガヒ。

もさく (名) 摸索。〔摸、正音ハ未各切、ばく〕 手サグリニテ物ヲサガスコト。…

もさことば (名) 言葉ノ末ニ、もさト云フことばヲ添フルコト。又、ソノことば。常陸國ノ方言ナリト云フ。元祿頃ノ奴言葉ニモアリタリ。後はむかし物語(享和)「…今ハ朝比奈ノ出端モ故實ノ通リ、鬼カ、イイヤ、人カ、ウウエヘ、小林ノ朝比奈ダもさト、大隣摩ニテ出ル事モ略シタレバ、曾我兄弟對面ノセリフノミ也」…「お仙ガ來タ、お仙ガ居ナイもさ、死ンダもさ、お仙ノ…八御手ニ持チ」

もさもさ (副) 稗飯ナドノ、粘ナク、呑込ミガタキ狀ニ云フ語。

も・し (動) 〔持〕 〔もちノ活用〕 もち(持)ニ同ジ。…

も・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 〔茂〕 〔盛、森、ナドト通ズト云フ、字ノ音ニハアラズ〕 茂シ。繁茂セリ。…

もし (副) 〔若如〕 〔天爾波ノ、並ブル意ノ亦ト、指シテ云フもトノ、合ヒタル語カ〕 事ヲ設ケ押當テテ云フ意ノ語。アルヒハ。萬一。モシモ。モシカ。モシヤ。ソレモコレモ。ソレトモ。…

もし (感) 〔まうしノ略轉、其條ヲ見ヨ〕 (一) 人ヲ呼ビカクルニ用ヰル語。重ネテ、もしもし。(二) 對話上、詞ノ終ニツケテ云フ語。…のしトモ、ねしトモ、むしトモ、サマザマニ訛ニヨリテイフナリ、…「テ、なもしトイヘリ」「サウダナもし」

もじ (名) 文字 〔もんじ(文字)ノ略〕 (一) 文字、又、字ニ同ジ。宇津保物語、國讓、中四十七「ハナチ書キニ書キテ、同ジもじヲ、樣樣ニカヘテ書ケリ」 (二) 言葉。文言。落窪物語、一「世ニふとハ忘レジト宣ヘバ、帶刀、ふとハ、アヂキナキ文字ナンナリト申セバ」 源、九、…「今ハ、サルもじ忌マセ給ヘ」 (三) 錢ノ面ノ、字ノアル方。(四) 女房詞ニ、一語ノ音ヲ下略シテ、此語ヲ添フルモノ多シ。「髮文字」「鮓文字」…

もじあはせ (名) 〔文字合〕 遊戲ノ一種。…

トノ[illegible]見ユ[illegible]ト云フモノアリ、何人ノ作レルコトヲ知ラズ、云云、歌かるたノ如ク、[illegible]冠ハ中ニ混ネオキ、造リハ悉ク並べ置キ、[illegible]ヘバ、初メニ偏旁出ヅレバ、偏旁ノ文字ヲ思ヒ思ヒニ取リツクシ、云云、ヰ出デタラバ、合トイフ字ヲ拾ふトヨミ、又、寺トイフ字ヲ、持つトヨミテ取ル、イヅレモカクノ如シ、多クトリタルヲ勝ト[illegible]」

もじうつり (名) [文字移] もじぐさり(文字鎖)ノ類ナラムカ。或ハ、後世ノ尻取ナド云ヘルモノナルベシト。 義經記、五、[illegible]「[illegible]事、物ハオボクヤヒ知リタリケレドモ、別シテ白拍子ノ上手ニテアリケレバ、音曲、文字うつり、心モ言モ及バレズ」

もしか (副) [若] [若しニ、疑ノか、ノ添ハリタルモノ] もし(若)ニ同ジ。モシヤ。「もしか、マチガッタラ」もしかシタラ」

もじぐさり (名) [文字鎖] 和歌ノ一體。大歌、長歌ノ[illegible]テ、前ノ句ノ終ノ文字ヲ取リテ、次ノ句ノ首ニ置キテ、綴リ行クモノ。但シ、句毎ニ續クルニアラズ、句ハ重ナリテモ、切ルル所ヨリ續クルナリ。又、ら、り、る、れ、ろノ文字ノ出デテ續ケ難キハ、同ジ韻ノ字ヲ用ヰル。源氏文字鎖、大内文字鎖、以呂波文字鎖ナドアリト云ノ。尻取文句 [illegible]十、下、火爆「文字鎖ノ歌ハ、上ノ句ノ終ノ文字ヲウケテ、次ノ句ノ上ニ、ソノ同文字ヲ置テ、イヒツラヌルナリ、ソレヨリ女童ノ遊ビニ、古歌ヲヨミテ、サノ如ク次第ニイヒツラヌルヲ、文字鎖の遊ビトイフ」 拾遺愚草員外「イロハもじぐさり、同ジ頃ノ事ニヤ」 [illegible]集、九、和歌、弘徽殿ノ女御歌合ニ、花かうた[illegible]らよゆみトイヘル文字ぐさりヲ、歌ノ句ノ上ニスエテ、折句ノ歌ニヨマセラレケル」 月詣集、九、雜、下「ソサノヲノ、三十もじぐさり、スル人ハ、出雲ヂ(五文字ニリク)ヨリヤ、尙キテ来ツラン」

もじくち (名) [文字口] [文字尻口ノ約、もじりづけト云フコトアリ、文字鎖(尻取文句)ノ意ニテ、發ノツヅクヲ云フナ[illegible]ノ[illegible]

もしくえ (接) [若] 又、もしゑ。アルハ。サモナケレバ。[illegible]

もしそれ (接) [若夫] 事ヲ改メテ、他ノ事ヲ說キ起シ、又ハ、發端ニ直ニ用ヰル語ナリ。 [illegible]是與非、則非ニ其中交ニ不ㇾ備」

もじつかひ (名) [文字遣] 文字ノツカヒザマ。又、文字ノカキザマ。 狹衣、三、上廿五「今ヤウノ手ハ、草ガチニ濃ク薄キ、墨ツキ紛ラハシテ、打チコロガヒテ侍リソル、コレハ殊キもじづかひ、昔ヤウニ侍ル」

もじならひ (名) [文字習] 文字ヲ書キ習フコト。 出觀集、慶「祝ヒツツ、ケフカキソムル、言ノ葉ニ、アヤシヤイカデ、もじ習スル」

もしえ (接) [若] もしくえ(若)ニ同ジ。 源、十三、明石五廿「ツレヅレナル夕暮、もしえモノ哀ナル明ボノナドヤウニマギラハシテ、云云」

もじふだ (名) [文字札] 遊戲ノ具。歌骨牌ノ類。紙牌ニ四書、五經ノ語、或ハ、名所、又ハ、常ノ文字、魚鳥ナド、何ニテモ、一二字、三字、書キタル札。コレヲ悉ク席上ニ蒔キ散ラシ、讀手アリテ、字ヲ呼ビテ取ラス。或ハ、貝合ノ如シ、地ト出トヲ作リ、熟字、又ハ、附合ヲ書キワケテ、合ハセ取ラシムルモノモアリ。

もしほ (名) [藻汐] 海藻ノ汐水ヨリ採ル鹽。海藻ヲ搔キ集メ、乾シテ、簀ノ上ニ積ミ、汐水ヲ沃ミカケテ垂レシム。コレ[illegible]る、汐垂る、ナド云フ。其汐ノ染ミ付キ[illegible]ヒ、隨ヒテ、藻汐火、藻汐燒く、藻汐の烟、ナド云ヘリ。 萬葉集、六廿長歌「朝ナギニ、玉藻刈リツツ、タナギニ、藻鹽燒キツツ、海人ヲトメ」

もしほぎ (名) [藻汐木] 前條ノ語ヲ見ヨ。 千載集、三、夏「五月雨ハ、鹽ノもしほ木、朽チニケリ、浦ベニ焚ク、タエテ程ヘヌ」

もしほぐさ (名) [藻汐草] (一)[前前條ノ語ヲ見ヨ] 藻汐草ハ搔キ集ムルヨリシテ、物書ク集ムルコトニ寄セテ云フ。 源、四十、幻廿「カキツメテ、ミルモカヒナシ、[illegible]九、雜、[illegible]ツメテダニ、愍ミヤセン」 (二)あまも(甘藻)ノ一名。 (三)[搔キ集ムヲ、書キ集ム、ニ寄セテ] 隨筆、筆記類ノ稱トスル語。

もしほび (名) [藻汐火] 藻汐ヲ採ルタメニ燒ク火。 新古今集、十七、雜、中「沖ツ風、夜寒ニナレヤ、田子ノ浦ノ、海人ノ藻鹽火、タキ増ルラン」

もしも (副) [若] 萬ガ一。ヒョットシタラ。 萬葉集、十一、八廿「馬ノ音ノ、トドトモスレバ、松陰ニ、出デテゾ見ツル、若(モシヱ)(略解ノ訓)君カト」

もしもし (感) [まうしノ略轉、もしノ重言] 人ヲ呼ビカクルニ用ヰル語

もじや (名) [摸寫] [游宦紀聞ニ宋、張世南]「摹謂下以ニ薄紙ー覆レ上、隨ニ其曲折婉轉ー用ㇾ筆」 又、ぼじや、すきうつし(透寫)ニ同ジ。 後漢書、蔡邕傳「及碑始立、其觀視及摹寫者、車乘日千餘兩、塡ニ塞街陌ニ」

もしや (副) [若] もしか(若)ニ同ジ。平[illegible]

もじやう (名) [喪章] [illegible]中ニアルコトヲ、表ハスシルシ。

もじやもじや [illegible] (一)毛ナドノ、茂ク生エタル狀ニ云フ語。ムクムク。モシャモジャ。 (二)[illegible]ゴタゴタ。 丹波與作(寶永、近松作)中「父樣ノ事ニ[illegible]サス、もじゃもじゃ[illegible]ヘバ[illegible]」

もじよ (名) [illegible]ノ[illegible]ヲ見ヨ。

もじよみ (名) [文字讀] (一)そどく(素讀)ニ同ジ。[illegible] (二)[illegible]國語ノ[illegible]ナルヲ、字ニ就キテ訓ミテ、國語ノ[illegible]セシモノ。即チ、海松(カイショウ)ハ、みる、[illegible]ルヲ、直ニうみまつト訓ミ、龍膽ヲたつのいぐさ、烏扇(ウセン)ヲからすあふぎ、家風(カフウ)ヲいへのかぜ、石竹(セキチク)ヲいしのたけ、森林(シンリン)ヲみどりのはやしト訓ムガ如シ。

もじりづけ (名) [文字尻附] [illegible] 文字鎖(尻取文句)ノ意ナラ[illegible]ノ詠物。又、言葉ヲ換ルヨリ、もぢりづけ[illegible]ノ出典ヲ見ヨ。 我衣(文化、曳尾庵)もじり「享保ト平比、もじりト云コトハヤル、字もじり、本もじりノ兩說アリ、是ハ近所ノ俳諧ナドスル人タノミ、甲乙ヲ分ツ、勝ニハ懷紙ヲツカハス、五人、三人、七人ニテモ、人數カマヒナシ、先ヅ題ヲ出シ、一句ヲ附ル、一句ノ終ヲ、又題ニシテツケル、今ノ段段付也」

モス (名) もすりん(毛斯綸)ノ略。

も・す・す・せ・さ・し・せ (他動、四) [燃] [もゆノ使動] 燃ヤス。モヤス。[illegible]

マツヲもすケムリノスミ、又云、カラスミ」

も・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）摸　摹　マネ　ソノカタチニ似ス。マネヲナス。マネル（游宦紀聞（宋、張世南）「摹搨謂、以紙覆其上、就明窓牖間、映光摹之」

もず（名）百舌　百舌鳥〔もハ鳴ク聲、すハうぐひす、からす、ナドノすト同ジ、百鳥ノ音ヲ眞似ル故ニ、百舌ト云ヒ、又、反舌トモ云フ。くさぐき（草莖）、及、はやにへ（速贄）ノ條ヲ見合ハスベシ〕燕雀類ノ小鳥ノ名、形、つぐみ（鶫）ヨリ小サクシテ、首、大キク、眼、薄黒ク、大キクシテ鋭ク、邊、黒クシテ鷹ニ似タリ、觜、薄黒ク、末、曲リ尖リテ鋭シ　頭ト背トハ赤褐ニシテ、雨翼ハ淡黒青ニテ、黒斑、白點アリ。咽、腹、白ク、胸、赤褐ニシテ、小波文アリ。脚、黒ク、尾、長シ。常ニ、小鳥、又ハ、蟲ヲ捕ヘテ食フ、もずまる。伯勞　鵙　倭名抄、十八羽族名「鵙、伯勞、毛受、百舌鳥」本草和名、下四五「百勞、一名鵙、毛受」仁德紀、六十七年十月「即百舌鳥、自耳出之飛去」萬葉集、十四「秋ノ野ノ、尾花ガ末ニ、鳴ク百舌鳥ノ、聲キクラムカ、片聞クワギモ」（略解ノ説）

もすほし（副）〔もハもうノ略〕イマスコシ。モウスコシ。マスコシ。

モスコビア（名）〔蘭語、Moskovia.〕なめし革ノ名　往時、阿蘭陀人、魯西亞ノ莫斯哥ノ産ヲ渡セル故ニ名トス　今ハ和製モアリ、いんでん革ニ似テ、皺文アリ、色、種種ナリ。袋物ナドニ作ル。又、むをこべあ。むをこびや。

もすそ（名）裳裾　裳ノすそ。又、衣ノすそ。新古今集、三、夏「イカバカリ、タゴノもすそモ、ソボツラン、雲間モ見エヌ、頃ノ五月雨」

もずのはやにへ（名）鵙速贄　はやにへ（速贄）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

もずのはりつけ（名）鵙磔　はやにへ（速贄）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

モスリン（名）毛斯綸〔英語、Muslin. モト亞細亞洲ノめそぽたみあ（Mesopotamia）ニアルもをうる（Mosoul）市ニテ製出シタルニ基ヅク〕略シテ、もを。めりんすニ同ジ。

もせみ（接尾）名詞ニツキテ副詞トスル接尾語　ソコモ狹キバカリ、ノ意ヲナス　萬葉集、八ノ長歌「山毛世爾、咲ケレアシビノ、惡シカラヌ」（古義ノ訓）同、九廿八長歌「ミ船出デナバ、濱毛勢爾、後レ並ミ居テ」（同上）千載集、二、春、下「吹ク風ヲ、ナコソノセキト、思ヘドモ、道もせニチル、山櫻カナ」「野もせみ」「庭もせみ」「宿もせみ」

もそっと（副）〔もハもうノ略〕マット。モト　モチット。モスコシ。狂言記、猿替勾當「サアサア、もそっと酒ヲ飲マウ、注シメ」

もそろ（名）醨　酒ノ類　倭名抄、十六、酒醴類「醨、之流、一云、毛曾呂、酒薄也」名義抄「醨、モソロ、モロミ、ニゴリザケ、カスコメ、ゴク」

もそろもそろ（副）〔もハ眞ノ意、そろハ揃ふノ略〕ソロソロト。シヅシヅト。出雲風土記、意宇郡、國引「河船ノ毛曾呂毛曾呂ニ（後世本、毛曾呂毛曾呂爾、國國來引來縫國者ニ古寫本）（海行ク舟ニ比ベテ、川船ノ徐カニ行クニ云フト）

もだ（名）默　空　無言（一）默スルコト。モノイハヌコト。萬葉集、十五十六「咲キヌトモ、シラズシアラバ、默然モアラム、コノ秋萩ヲ、見セツツモトナ」（二）何事モセズシテ唯アルコト。イタヅラニ居ルコト。物事ヲソノママニサシオクコト。ムダ。タダ。雄略紀、九年五月「大海欲復不能自默」二一本、モダスコト）萬葉集、十廿「默然モアラム、時モ鳴カナム、日晩ノ、物念フ時ニ、鳴キツツモトナ」

もだえ（名）悶　モダユルコト　思ヒイラダツコト。又、ソノ心。苦悶。憂悶。煩悶。易經、文言傳「遯世无悶、不見是而无悶」

もだ・える（動）悶　もだゆ（悶）ノ口語。

もた・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）擡〔持ち上ぐノ約〕持チテ上グル　モチアグ　モテアグ　名義抄「擡、モタグ」枕草子、二、第十七段、憎きもの「遣戸ナド、云云、スコシもたぐるヤウニテ明クルハ、鳴リヤハスル」

もだくだ（副）紛亂、又ハ、混雜スル狀ニ云フ語。源氏十二段長生島（元祿、近松作）三「コレコレ疵ガ上ルハト、自脈トルヤラ、もだくだト、居塞崩レテ譯モナシ」

もた・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（自動、下二）〔令持〕持つノ敬語　モタセタマフ　字類抄「賚、（齎ノ俗字）、モタス」說文「齎、持遺也」古事記、上四十「若草ノ、妻母多勢良米、吾ハモヨ」

もた・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）（一）支ヘシム。保タシム。（二）斜ニ寄セカク。タテカク。靠

もだ・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）默〔空、徒、ニ通ズ〕（一）言フベキヲ言ハズ。ダマル。默ス。字類抄「默、モダス」允恭紀、廿三年三月「畏有罪而默之」萬葉集、十六九「辱ヲシノビ、辱ヲ默テ、コトモナク、物イハヌサキニ、ワレハヨリナム」（二）默過ス。其儘ニシテ措ク　延慶本、平家物語、一、末、以平泉寺被付山門事「イカガ仰計ヒ合ヘキト被申タリケルニハ、ゲニ、默止しガタキ事ナリ」「君命もだし難シ」

もたせ（名）〔其物ノ氣ヲ持タセタルヨリ云フカト云フ〕又、もたし。たけ（茸）ニ同ジ。（笹もたせ、栗の木もたせナド、其物ニ生ズル云フ）

もたせ（名）爲持（一）持チ來タレル物。モタセタル物。狂言、鐘ノ音「是ハコレハ今日ノオ持たせデ御座ル」（二）江戸時代ニ、京坂ノ婦人ノ結ヒシ髪風ノ一ノ形、銀杏髷ニ似タルモノト云フ　守貞漫稿、十、女扮、中「京坂ハ、モタセト云フ、是もたせ笄ト卷也、云云、もたせハ、江戸ノいてう曲ニ形同クス」

もたせか・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）持掛　モノヲ他ニモタセテオク。ヨセカケテ、ササヘシム、タテカケル。

もたせぶり（名）持振　心ニ許スミクシテ、表面ニ許サヌ風スルコト。勿體ブルコト。思ハセブリ。大磯虎稚物語（元祿、近松作）三「播部ハ弱心クレ、サシ俯向イテ居タリシヲ、虎、投ハもたせぶりト、少憎ヤヤ思ヒケン」

もたつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）胸ガワルクナル。嘔吐ヲ催ス。ムカツク。

もたひ（名）瓮〔盛湛瓮ノ略轉〕酒ヲ入ルル瓶。トリベ。倭名抄、十六、瓦器類「瓮、毛太非」字鏡「瓮、缶也、受二斗、母太比」天治字鏡、五「瓮、瓦器也、母太比、又、可多伎」榮花物語、十一、つぼみ花「常磐ノ緣ノ色深ク見エ、もたひノホトリノ竹葉モ、末ノ世遙カニ見エ」

もだふ（名）問答〔もんだふノ略〕もんだふ（問答）ノ條ヲ見ヨ。

もだま（名）鯊魚皮　沙ニ就キテノ名カト云フ　魚ノ名。海産ナリ。鱶ノ屬ニテ、形、なまづ（鯰）ニ似テ大キク、皮ニ細沙アリ、灰色ナリ、又、白斑アルモアリ、長サ、三四尺ヨリ、丈餘ニ至ルアリ。一名、シロブカ。ナハサバ。ノウソウ。鯨鯊　物類稱呼、二、動物「フカノ類多シ、

皮ハ白ブカ、ウバブカ、カセブカ、ワニブカ、もだま、[illegible]サイワ[illegible]

もだま [illegible]藻[illegible]」 [illegible]藻中[illegible]ヨリ、誤リテ藻ノ寶トシテ名アリ、[illegible]物ノ[illegible]、[illegible]ト云フ、古クハ[illegible]、[illegible]往往、海藻ノ地[illegible]海藻[illegible]ニ[illegible]テ[illegible]シテモ來ル、形、圓ク、シテ、少シ平タク、大キサ、一寸、乃至、二寸[illegible]シテ、[illegible]又ハ、赤色ヲ帶ブ、根付ナドトス[illegible] [illegible]十四、藻草類「藻珠子、モダマ、一名藤榼子」

もたま・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［持給］〔もちたまふノ略〕持つノ敬語。亭子院歌合、はしがき、「[illegible]ノソウハ、櫻ノ枝ニツケテ、中務ノ[illegible]もたまへり」

もた・もた・と 副 胸ニツカヘテ、吐氣ヲ催ス狀ナドニ云フ語。

もだ・もだ・と（副）モダエナヤム狀ニ云フ語。[illegible]類悶 [illegible]九人女[illegible]、[illegible]我ヲ忘レテ始メテ[illegible]リケレバ、此ノ人もだもだと[illegible]クミテ」

もだ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ（自動、下二）［悶］〔默シテ艱ム意カ、又ハ、默絶ゆカ〕（一）思ヒワヅラフ。ワヅラヒ苦シム。詩經、[illegible]、[illegible]不安、[illegible]」字類抄「悶、モダユ」發心集、四、第四條「驚キ惑ヒ、オビタダシク手ヲタタキテ、眼ヲイカラカシ、もだえマドヒテ、タエイリヌ」（二）悶絶ス。ヂレル。詞ニハ出サデ、底ニハ絶エ入ラムバカリニ、イキドホル。字類抄「絶、モダユ」饅頭屋本節用集、雜部「悶絶、モタユル」

もたら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［齎］〔正字通「賫、俗齎字」持てあらす、ノ約カ、又、持ち致らす、ノ約轉トモ云フ〕

持ツ。持チ行ク。又、持チテ來ル。晉[illegible]

もたら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［持］次條ノ[illegible]人ノ中ニ、コトモナキ娘、誰レもたらひタラン」

もた・り・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、良變）［持有］持てあり、ノ約。字類抄「持、モタリ」名義抄「持、モタリ」伊勢物語、第四十一段「一人ハ賤シキ男ノ貧シキ、一人ハ貴ナル男もたりケリ、賤シキ男もたる、云云」拾遺集、十八、雜、賀「我レノミヤ、子もたらム[illegible]」[illegible]、アハズアラメヤ」

もた・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）〔被レ持ノ義〕（一）凭リ掛ル。［靠］ 犬筑波集、[illegible]千首、雜[illegible]ダレ、岩ニもたるる、フシ松ノ、コレヨリ後ハ、風騷グトモ」「机ニもたる」（二）食物、胃[illegible]滯リテ消化レズ。停滯ス。[illegible]滯 俳諧新選、秋「新米ノ、もたるる腹ヤ、殺ツブシ」

もたれ（名）はやけ（早氣）ノ條ヲ見ヨ。

もたれ・かか・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［靠掛］（一）寄リカカル。[illegible]八之（安永、松貫四）[illegible]木屋の段「店ヲ預ルに八ガ、もたれかか、タ[illegible]ニ、[illegible]ツケル[illegible]」（二）依頼心ヲオコス。獨立セズシテ他人ニタヨル。

もたれ・こみ（名）［靠込］相撲ノ手ノ一。

そとがけ（外掛）ノ條ヲ見ヨ。

⁂**もた・れる**（動）もたるノ條ノ口語。浮世床（文化、三馬）初編、中「常住、鯛バカリ食ッテ、もたれるトカ云ッテ、サンマノ干物モ、一口イク奴ダワナ」「机ニもたれる」

もち（名）［望］〔持ノ義、月滿チテ、日ト相當ル意ト云フ、望ハ日月相望ム義〕（一）もちづき（望月）ノ條ヲ見ヨ。（二）陰曆ノ、月ノ中旬、十日許リノ程ノ稱。伊勢[illegible]

物語、第九十六段「其頃、ミナ月ノもちバカリナリケ[illegible]五日ニ滑ヌレバ、其夜降リケリ」竹取物語「フミ月もちノ月ニ出デ居テ、切ニ物思ヘルケシキナリ」

もち（名）［糯類］〔もちハ粘ルモノ、黐ニ同ジ〕[illegible]モチ[illegible]、又、[illegible]中手、[illegible]也」下[illegible]

もち（名）［餅］〔もちいひ、又ハ、もちひノ略〕[illegible]テ搗キ潰シタルモノ[illegible]煮、又ハ、乾シテ[illegible]又、諸穀等[illegible]十六[illegible]」[illegible]

もち（名）［黐］〔粘ルヨリ黐ノ義リ〕脂ノ如ク極メテ粘リアルモノ。とりもちのきノ皮ヲ削リ、搗キ碎キ、久シク水ニ漬シテ、湯ニ煮テ製ス。小鳥ナドヲ粘シ捕フルナドニ用キル。一名、トリモチ。倭名抄、十五[illegible]也」字類抄「黐、モチ、取レ鳥具」萬葉集、十三[illegible]長歌「末枝ニモ、毛知引キ懸ケ」

もち（名）［黐］植物ノ名、もちのき（黐木）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

もち（名）［持］神ノ御名ニ云フ語、其物ヲ保チ知シメス義、轉ジテハ貴ト云ヒ、約メテハ、ちト云ヒ、又、轉ジテ、み、び、トモ云フ。卽チ、大名持神、保食神、天御[illegible]

[illegible]

もち（名）持［illegible］（一）持ツコト。支ヘ保ツコト。[illegible]負ナキコト。歌合ノ判ニ、優劣リカチ[illegible]、又、持[illegible]歌ハもちドモニゾシケル」（三）堪ヘ支フルコト。久シク[illegible]ルコト。[illegible]「もちガヨイ」（四）受持。負擔（五）所持。所有

もち（名）［釘］かりも（釘）ニ同ジ。[illegible]

もち [illegible]正字通[illegible]もちハ、[illegible]ンニナルコト。又、人名ニ用キル語。字類抄[illegible]節用集、中、本、[illegible]茂、モチ」南留別志「茂ヲもちトヨメルハ書ナリ」

もち（接尾）事物ノ狀態ヲ云フ語。[illegible]もち」心もち「氣もち」

もぢ（名）屯[illegible]ノ量ニ云フ語。二斤、又ハ、六兩ノ稱。[illegible]

もぢ（名）[illegible]〔[illegible]ノ合字〕麻絲ヲ[illegible]テ、目ヲ粗ク織リタル布。夏衣、又ハ、蚊帳ナドトス。[illegible]林[illegible]集[illegible]戀歌念佛（寶永、近松作）中「怖ゴハフルフ存風モ、人目ヲ忍ブ綟子ノ蚊帳、蚊帳ハオ[illegible]ニ[illegible]」

もぢ（名）［錣］〔もぢりテ孔ヲ穿ツ故ニ名トス〕又、もぢり。もぢきり。木工ノ

具。錐ノ一種ニテ尖リタル鐵ノ頭ニ、木ノ柄ヲ附ケテ、丁字形トナシタルモノ。柄ヲ持チ、ネヂリテ孔ヲ穿ツ。倭名抄、十五六工匠具「鋑、毛遅、鑽也」和漢三才圖會、廿四、百工具「鋑、和名毛遅、按、鋑大鑽也、錐頭、如丁字樣、先以三稜錐[illegible]、入之、以柄[illegible]」

もちあが・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［持上］（一）高クアガル。（二）起ル。起ツ。

もちあ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ケヨ（他動、下二）［持上］（一）持チテ高ク上グ。モタグ。モチアゲル。字類抄「抖、モチアク」延慶本、平家物語、二、末、石橋山合戰事「刀ヲもちあげテ、雲スキニ見レバ、精巻ノ栗形カケテ、精ナガラ抜ケタリ」（二）讚メテ、オダテ上グ。ホメタツル。

もちあ・ぐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）トリアツカヒカヌル。モテアマス。テコズル。

✣**もちあ・げる**（動）持上ニ 前前條ノ語ノ口語。

もちあそび（名）［玩弄］モテアソブコト。又、ソノモノ。モテアソビ。モチャスビ。モノ「グヮンロウ、オモチャ。玩弄物。玩具」雜字類編（寶曆）「玩具、玩器、弄器、モチアソビ」

もちあそび-もの（名）［玩弄物］前條ノ語ニ同ジ。天治字鏡、十二、廿六「撥調、毛知阿曾比物」

もちあそ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ（他動、四）［玩・翫］もてあそぶ（玩）ニ同ジ。字鏡、四「弄、毛知阿曾夫」天治字鏡、十二、八「嘲調、毛知阿曾不」

もちあつかひ（名）［持扱］モチアツカフコト。トリアツカフコト。

もちあつか・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［持扱］（一）トリハカラフ。モテアツカフ。（二）モテアマス。取扱ニ苦シム。盛衰記、四十六、義經始終有樣事「其、豐六隙ナカリケレバ、師匠モ持あつかひテ過シケル」

もちあは（名）糯粟 粟ノ種子ノ粘氣アルモノ。餅ニ搗キ、又、酒ヲ造ルニ用ヰル。秫 あは（粟）ノ條ノ（一）ヲモ見ヨ。書言字考節用集、六、生植門「秫、糯粟、モチアハ」

もちあは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）［持合］時ニ當リテ所持シテアリ。丁度其時ニ所持シテヰル。モチアハセル。狂言記、薩摩守「ナウナウ茶屋殿、錢ハもちあはせマセヌ程ニ、コノ珠數ヲオイテマヰロ」

もちあはせ（名）［持合］持チアハスルコト。又、モチアハセタルモノ。狂言記、[illegible]「不圖、雲雀ヲ[illegible]外イテ、此所ヘ落ナタニヨ、テ、何モ持合セカナイ」

✣**もちあは・せる**（動）［持合］前前條ノ語ノ口語。

もちあひ（名）［持合］（一）互ニ力ヲ合ハセテ持ツコト。アヒモチ。共有。「持合ひ所帶」（二）取引所ノ語。保合ひノ意ニテ、相場ガ一定ノ小範圍ヲ上下スルニ止リ、上放レモ下放レモセザルコト。即チ、相場ノ著シク變動セザルコト。

もちあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［持合］（一）二ツノ力ニテ相持ツ。モチヨル。釣合ニテ保ツ。相持。（二）催合フ。相倶ニ事ヲナス。共同ニナス。

もちあみ（名）［持網］四手網ニ似タル魚網。網ノ四方ニ竹ヲ張リテ造リ、竹ヲ船ノ舷ニカケ、手ニテ支ヘ、水中ノ魚ヲスクヒ捕フルヤウニシタルモノ。坐罾 山家集、雜「見ルモウキハ、鵜繩ニニグル、イロクヅヲ、ノガラカサデモ、シタム持網」和漢三才圖會、廿三、漁獵具「坐罾、毛知阿美」

〜**もちいつ・く**・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［持齋］［もちハ接頭語］いつく（齋）ノ條ヲ見ヨ。古事記、上、廿六「此二柱神者、阿曇連等之祖神以伊都久神也」

もちいひ（名）［餅飯］もち（餅）ニ同ジ。山城風土記「用レ餅爲レ的」（粟田寛ノ註）

〜**もちがゆ**（名）［望粥］アヅキガユ。（古ヘ、正月望ノ日ノ式物タリシヨリ云フ）後世ハ、餅粥ノ意ニトリテ、餅ヲ入レテ煮タル小豆粥ヲ云フニ至レリ。枕草子、一、第三段「十五日ハ、もちがゆノセクマヰル」

もちきび（名）糯黍 黍ノ種子ノ粘氣アルモノ。きび（黍）ノ條ヲ見ヨ。

〜**もちきよまは・る**・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［持清］［もちハ接頭語］きよまる（清）ト云フニ同ジ。大殿祭祝詞「齋玉作等、持齋麻波利、持淨麻波利、造仕禮留、云云」

もちぎり（名）［鋑錐］もぢ（鋑）ニ同ジ。

もちくさ（名）［餅草］（草餅ニ作レバ名トス）よもぎ（艾）ノ若葉ノ稱。

もちぐさらかし（名）［持腐］次條ノ語ニ同ジ。東山殿子日遊（大和、近松作）「御分、ヤウヤウ木馬ノ乘方バカリノ稽古ニテ、此馬ヲ守マルルハ、悉皆寶ノもちぐさらかし」

もちぐされ（名）［持腐］持チテ居ナガラ、遂ニ役ニ立テザルコト。又、其使用スル能ハザルコト。「寶ノもちぐされ」

〜**もちくだち**（名）［望降］（くだち（降）ノ條ヲ見ヨ）望、即チ、十五日以後ノコト。萬葉集、八、廿四「望降、清キツク夜ニ、ワギモコニ、見セムト思ヒシ、宿ノ橘」

もちくち（名）［持口］ウケモチノ方面。

擔任ノ場所。[illegible]ノ藥ヲ渡サントテ、云云」

もちくづ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［持崩］身持ヲワルクス。品行ヲミダラニス。又、財産ヲ蕩盡ス。[illegible]心中（正德、近松作）ト「是トイフモ親ノ恩ヲ忘ルルユヱ、心モミダラニ、身ヲ持崩シ、人ニモ人ト云ハレヌ」

もちぐゎし（名）［餅菓子］くゎし（菓子）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]「天明三年三月、云云、近頃ノ菓子屋共ヘ[illegible]、[illegible]子ノ品品取上ゲ、云云、[illegible]リアフ[illegible]子持テ、[illegible]ノ菓子屋[illegible]ル」

もちこし（名）［持越］（一）モチコスコト。（二）消化セズシテ胃中ニ殘ルコト。又、酒ノ二日醉ナドヲモ云フ。浮世風呂、文化、[illegible]「[illegible]ダノトヌカシテ」

もちこ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［持越］（一）殘シテ次ヘ送ル。又、持チテ他ヘ移ス。（二）消化セズシテ、胃中ニ滯ル。

もちこた・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［持堪］コラヘササフ。堪ヘテツヅクル。モチコタヘル。持續ス。維持。[illegible]二代女、西鶴、二「自ヅト此ノ[illegible]アシク、次第ニ寂シク、勤メ缺ケケレバ、親方持ちこたへズ」

もちこたへ（名）持堪 モチコタフルコト。持續スルコト。又、ソノ力。維持。諸藝太平記（元祿）四「[illegible]ノ陰ウタ朽木ノ松ヲ、根引シテ次カウチノ杜ニセバ、もちこたへナク、家倒レンコト必定ナリ」

✣**もちこた・へる**（動）［持堪］前前條ノ語ノ口語。

もちこみ（名）［持込］モチコムコト。持チテ入リ込ムコト。又、ソノモノ。

もちゐ・む・ム・メ・マ・・メ [illegible] (一)物ヲ竊シテ中ニ入ル。運ビ入ル。携ヘ入ル。(二)事件ナドヲ竊シテ依頼シ、又ハ、[illegible]

もちゐめ (名) [糯米] 又、もちよね。略シテ、[illegible]

もちゐもり (名) 持[illegible] [illegible] ノ身ノ矢先ニカカリ、孩子諸共死シタルハ、もちゐもりモ同ジコト、八寒ノ大海ニ浮沈ム墓キ思ヒ」

もちゐも・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [持籠] 見ツ腹ニ宿ス。[illegible] 子ヲ持ちゐもッテ、死ヌルヲ見捨テ」

もちざを (名) [黐竿] 長キ竹竿ノ端ニ黐ヲ塗リテ、鳥ヲ刺シ捕フルモノ。サイ[illegible]

もちしほ (名) [望潮] 陰暦、十五日ノ潮。最モ高シ。[illegible] ノ、もちしほノ、滿チニケラシナ、難波江ノ浦」

もぢずり (名) [捩摺] (一)しのぶもぢずり(忍捩摺)ノ條ヲ見ヨ。(二)又、もぢずりぐさ。ねぢばな(捩花)ニ同ジ。[illegible] 三、生植「纖摺艸、もぢずりぐさ、一名、ネヂバナ」

もちだし (名) [持出] (一)持チテ出スコト。(二)負擔スルコト。「自分ノ持出しトナル」(三)相撲四十八手ノ一。四手ニ組ミ、敵ノ褌ヲ取リテ、土俵ノ外ニ持出[illegible]

もちだて (名) [持楯] 手ニ持チテ、携ヘ行クニ便利ナルヤウニ作リタル小楯。[illegible]

もちちまき (名) [糯粽] [illegible]

もちつき (名) [餅搗] 餅ヲ搗クコト。又、ソノ人。[illegible]

もちづき (名) [望月] 陰暦ノ月ノ十五日ノ月ノ形、盈チテ全ク圓キ時ノ稱。滿月。もちのつきノ略シテ、もち。[illegible]

もちづきの (枕) [望月] [illegible] 足る、愛らし、ナドノ語ニ冠ラスル枕詞。[illegible] 長歌「望月乃、滿ハシケムト」(古義ノ訓) 同、九四三十長歌 [illegible] 「三五月之、彌愛ラシミ」(同上)

もちづきのこま (名) [望月駒] (望月ハ地名ニテ、信濃國、佐久郡、望月村ナリ、駒ハ馬ノ稱ニテ、其地ノ牧場ノ馬ヲ云フ。左馬寮式ニ「信濃國、云云、望月牧」ト見ユ) 古ヘ、毎年八月、信濃國、望月ノ牧ヨリ貢進シタル馬。初、文武天皇ノ四年、諸國ヲシテ牧地ヲ定メ、牛馬ヲ放タシム。信濃國最モ良シ、其後、毎歳八月、天皇、紫宸殿ニ御シテ、貢馬ヲ閲覽シタマフ。次ギテ貞觀七年、制令ス、信濃國、牧皆ノ牧ノ御馬、從前八月廿九日貢セリ、後、定メテ十五日トス、牧ヲ望月ト云フ、コレニ始マル。其後、朱雀院ノ御國忌ニ依リテ、十六日ニ改メラル。こまひき(駒牽)ノ條ヲモ見ヨ。江[illegible]

もちつつじ (名) [羊躑躅] [もちハ黐ニテ、花枝、葉共、粘アリ、云フ。] 古今注「羊躑躅、花黃、羊食之即死、羊見則躑躅分散、故名」[illegible]「羊躑躅、羊誤食之、躑躅而死」 (一)躑躅ノ類、枝、葉共ニ毛多ク、葉、側披針形ニテ、小枝ノ頂ニ叢生ス、春ノ末、花ニ先ダチテ、淡紅紫色ノ漏斗状ノ花ヲ開ク。イハツツジ。 倭名抄、廿木類「羊躑躅、[illegible] 之、一云、毛知[illegible]之」 (二)[illegible] 色目ノ名。表ハ紫ニシテ、裏ノ紅ナルモノ。 四季色目分、[illegible] 同ジク女房ノ衣ニハ、上ハ[illegible] ツ匂ハセ、下ハ青ノ濃キ淡キヲ重ヌ、單ハ白ナリ。 雅亭[illegible]抄、三、女房ノ裝束ノいろ「もちつつじ、スハウ一ニホヒテ、アヲキコキウスキ、シロヒトヘ」

もちっと (副) [もハまうノ略轉] モウスコシ。モソット。モチト。今少。

もぢてすり (名) [綟手摺] 人形芝居ノ舞臺ニテ、人形遣ヒノ姿ノ見物人ニ見エヌヤウニ作リタル手摺。多ク綟ノ絹ニテ張ル故ニ云フ。 [illegible] 序「綟手摺トイフハ、人形ノ方ノ人ノ姿ヲ見セン料ニ、綟ノ衣ニテ手摺ヲ張リシナリ、昔ハ人形ニ足ヲ着ケズ、裾ヨリ手ヲサシコミ、眼ノウヘニ指シアゲテ弄フユヱ、斯クナサネバ、今ノ出ヅカヒノゴトク、姿ヲ見スルコト難シ」

もちと (副) 前前條ノ語ヲ見ヨ。

もちどりの (枕) [黐鳥之] 黐ニ鳥ノかかるヨリ、かかる(懸)ト云フ語ニ冠ラスル枕詞。萬葉集、五七長歌「我ノ中ハ、カクゾコト[illegible]」

もちなは (名) [黐繩] [illegible] テ、行キ向カハントスルヲ、云云」

もちなほ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [持直] (一)持チアラタム。モチカヘル。モチア[illegible] 醫ヲもち直し」 (二)モトノ狀態トナス。又、回復ス。「身上ヲもちなほす」

もちに (名) 持荷 [illegible] 思ヒコリヌル」

もちにげ (名) [持逃] 他人ノ所有品ヲ持チテ、逃グルコト。持帶。

もちぬし (名) 持主 所有者。ソノモノヲ所有スル人。「此家ノ持主ハ某氏ナリ」

もちのき (名) [黐木] (一)冬青科ノ常綠喬木、高サ五丈ニ[illegible] 全緣、互生シ、ねずみもち(鼠梓木)ノ葉ヨリ濶ク厚ク光アリ、[illegible] ラズ、夏、葉ノ間ニ、淡黃色ノ花ヲ[illegible] 花序[illegible] 其蒂長シ、實、圓ク、熟スレバ赤クシテ、櫻實ノ如シ。一名、フクラシバ。フクラモチ。クロガネモチ。[illegible] (二)又、其一種ニ、山野ニ自生スル喬木アリ[illegible] 又、庭際ニ[illegible] 高サ二三丈[illegible] 葉、狹ク、もくさく(木斛)ノ葉ニ似テ厚ク、冬枯レズ

四五月頃、葉腋ニ數多ノ小花ヲ叢生ス、果實ハ熟スレバ紅色トナリ、時ニ黃色ヲ呈ス。細葉冬青　（二）とりもちの木ハ、一名、やまぐるまト云ヒ、葉、闊ク薄ク、色、淺ク、皮ヲ搗キテ、鳥黐ヲ採ル。もちひのき。ねずみもち、かなめもち、各條ニ注ス。字鏡、十「檍、橿、杼、毛知乃木」易林節用集(慶長)下、草木門「黐、モチノキ」

もちのよね（名）糯米　もちおめ(糯)ニ同ジ。倭名抄、十七、米穀類「糯、毛知乃與禰、黏米之黏也」

もちば（名）持場　（一）己レノ所持スル場所。又、繩張ノ場所。（二）己レノ受持チノ場所。擔任セル方面。

もちはこび（名）持運　モチハコブコト。運搬。

もちはこ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ（他動、四）持運　持チテ他へ移ス。運搬スル。

もちばな（名）餅花　餅ノ小片ヲ、柳ナドノ枝ニ、花ノ如ク幾ツモ附ケタルモノ。正月、室內ノ飾ニ用キル。昔ハ小兒ノ玩具トス。又、竹ヲ割リタル先ニ、餅ヲ付ケタルモノ。モト武藏國、荏原郡、目黑(今ノ東京市目黑區)ノ不動堂ノ門前ニテ賣ル。竹串ヲ割キカケテ、其先每ニ餅ヲ丸クヒラメテツク。（繭玉ノ類ナリ）北越雪譜、二編、二、餅花「餅花ヤ、夜ハ鼠ガ、ヨシ野山、トハ、其角ガレイノハズミナリ、江戸ナドノ餅花ハ、十二月餅搗ノ時、もちばなヲ作リ、云云」

もちひ（名）餅　〔糯飯ノ約〕今、約メテ、餅。其條ヲ見ヨ。粢　倭名抄、十六、飯餅類「餅、毛知比」字鏡、十「粢、毛知比」易林節用集(慶長)下、草木門「糯、モチヒ、粢、同、稻之粘可」爲」酒」

もちひ（名）用　もちゐ(用)ニ同ジ。

もちひかがみ（名）餅鏡　〔餅作リノ鏡ノ意カ、向ッテ見ルヨリ鏡ト云フナルベシ〕圓平ニ作リタル餅。元日ニ此餅ニ向ヒ見ルヲ、齒固(其條ヲ見ヨ)ノ祝トス。後世ハ鏡餅ト云フ。略シテ、かがみ。榮花物語、十一、莟花「もちひかがみ見セ奉ラセタマフトテ、云云」散木集、一、春、齒固の鏡の折敷の敷物に書きつけ侍りける「我ヲノミ、世ニモもちひノ、鏡草、咲キサカエタル、影ゾ浮ベル」

もちひのき（名）もちのき(黐木)ノ異稱　夫木抄、廿九、もちひの木「君ガスム、ヤドノ軒バノ、もちひの木、カハラヌ色ハ、トキハカキハニ」（寛文版、もちゐの木ニ作ル）

もち・ふ・フル・フレ・ヒ・ヒ・ヒヨ（他動、上二）用　〔もちゐるノ轉〕もちゐる(用)ノ條ノ（一）ニ同ジ。猶、篇尾ノ「語法指南」ヲモ參見セヨ。經衡家集、宇治殿にて、もちひ(餅)をおおすとて、肴ニハ、何モアレドモ、此中ニ、心ニツカバ、コレヲもちひ(餅、用)ヨ」夫木抄、三十二、鏡「千代マデモ、影ヲナラベテ、逢ヒ見ント、祝フ鏡ノ、もちゐ(餅、用)ザラメヤ」トアレド、假名遣ノ亂レタル世ノ歌ナルノミナラズ、言掛ケハ、もち以上ニテ、ゐ、いニハカカハラヌナリ。サレド平安朝ノ末ヨリ、波行上二段活用ニ用キタルモ、極メテ稀レニ見エタレバ、兩活用アリトストモ、妨ゲナカラム。今昔物語、十四、第三十語「寺ノ物ヲ用ふるガ故ニ、汝ガ身ヲ碎ケル也」

もちぶ（名）持夫　荷物ナドヲ持チ運ブ人夫。拾玉集、四「奈良ヨリト、キコユル瓜ヲ、大和路ヤ、イカデもち(つぃ)ぶニ、スコシュルサン」狹衣、一、上(古本)「戀ノもちぶヲバ」（俗語考）

もちぶ（名）持分　所持スベキ部分。

もぢ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）捩　〔說文「捩、撫持也」〕又、もぢゆ。モヂル。ヨヂル。スヂル。神代紀、下、二十「其溺苦之狀、初潮漬」足時、則云云、至股時、則走廻、至腰時、則捫」腰」私記「捫、毛尼布」

もちぶん（名）持分　法律ノ語。共有ノ目的タル物件、又ハ、權利ナドニ就キ、共有者タルモノノ個個ノ有スル部分

もちふる・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）持古　モチテフルクス。ツカヒテフルクス。

もちまはり（名）持廻　持チテ順次ニ廻ハルコト。「回章ノもちまはり」

もちまへ（名）持前　〔まへハ分ノ意、まへ(前)ノ條ヲ見ヨ〕（一）身ニ持チテアルコト。又、其身ニ固有セル性。本來ノ性質。ウマレツキ。タチ。本分。本色。本領　浮世風呂(文化、三馬)二編、下「貧乏世帶ヲ持ノ、チャァ、入ラネエ詞ダ、セメテ湯ヘデモ來タ時ハ、持ち前ノ詞ヲツカハネエヂャァ、氣ガ濁キラァナ」「持前ノ聲」「持前ノ癖」（二）所有ニ屬スル部分。又、擔當スル部分

もちまる（名）持丸　〔まる(丸)ノ條ノ（五）ヲ見ヨ〕金錢ヲ多ク有スルコト。又、其人　カネモチ。金滿家　富豪

もちまるちゃうじゃ（名）持丸長者　オホガネモチ。大富豪。分限者。（前條ノ語、參見セヨ）冥途飛脚(正德、近松作)中「ソモヤ廓へ來ル人ノ、タトヘ持丸長者デモ、金ニ詰ルハ、云云」

もちむしろ（名）餅筵　藁筵ノ疎ナルモノ。搗キタル餅ヲ廣ゲテ乾スナドニ用キル。續俳家奇人談「時非風、加ヘテ草ノ、餅筵」

もぢもぢと（副）座ニ堪ヘガタク、尻ヲモヂル狀ニ云フ語。グヅグヅ。ウヂウヂ。長町女腹切(正德、近松作)上「コレ半七、云云シテクレト、おもぢもぢと膝手ヘ出」

もちや（名）餅屋　餅ヲツキ、又ハ、商フ家。又、ソノ人。續猿蓑集、夏「[illegible]二、餅やノ貝ノ、別レ哉」餅屋は餅屋トハ、物ナノオノ專門トスル所アリトノ意。

もちゃくちゃ（副）むちゃくちゃニ同ジ。

もちゃすびもの（名）〔もてあそびものノ約轉〕小兒ノ持チテ遊ブ種種ノ具。オモチャ。もちあそび。玩具

もちゆ（動）用　もちゐる(用)ノ訛。其條ヲ見ヨ。（此語、遊仙窟、井蛙抄ナドニ見ユレド、論ズルニ足ラズ）

もぢ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ（他動、下二）捩　もぢふ(捩)ニ同ジ。

もちゅう（名）喪中　〔字ノ湯桶讀〕喪ニ服スルアヒダ。服喪中。

もちゆき（名）餅雪　ぼたんゆき(牡丹雪)ニ同ジ。俳諧の發句(紹巴)「もち雪ノ、落チツク道ハ、ミルコカナ」

もちゆまは・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）持齋　〔もちハ接頭語〕ゆまはる(齋)ト云フニ同ジ。新年祭祝詞「忌部能弱肩爾、太多須支取掛氐、持由麻波利仕奉留幣帛乎、云云」

もちよね（名）糯米　もちおめ(糯米)ニ同ジ。倭名抄、十七、米穀類「糯、毛知乃與禰、黏米之黏也」字鏡「糯、毛知米」

もちよぼろ（名）持丁　又、もちぶ、荷ナドヲ持チ運ブ人夫。持統紀、六年三月「役丁」

もちよもぎ [illegible]見ヨ。

もちより-べんたう (名) [持寄辨當] 各人[illegible]ノ[illegible]

もの(一種物)ノ條ヲモ見ヨ。

もちよ・る [illegible](二)ノ[illegible]ヲ見ヨ。

もちり [illegible]

もちり (名) [illegible]ノ類ニテ、或ハ[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

他ノ詞ヘもちりテ云フコト。 三養雜記、一、初午稻荷詣「もちりト云フハ、中ノ詞ヲ上下ヘモタセ置スルイヒカケナリ、御祖師樣、アリガタカリ[illegible]ブリ餅、コガシャカトナル(「焦シャカ」ヲ「子ガ釋迦」ニカク)、摩耶夫人、ナドナリ」

もぢり [illegible]筒袖ノ丈短キ着物、男子ノ勞作ノ服トス。(若越地方) 又、むぢり。(仙臺)「もぢりソデ」

もぢり-づけ (名) [捩附] [もぢりづけノ[illegible]] [illegible]ニ同ジ[illegible]字もぢり、本もぢりノ兩說アリ、云云、字も[illegible]

もぢり-ば (名) [捩羽] 鳥ノモヂレタルハネ。 謠曲、大會「羽風ヲタテテ翔ラントスレドモ、兎モアリ、題、兎モアリ、細長イ耳ヲアラレニキル」

もち・ゑ [illegible]ヂリモトラス。ヨヂル。スヂル。ネヂ[illegible]一アルヲ取テツガレテ、ヲシもちりテ、馬ノ三ツジ[illegible]ノ項)ノ條ヲモ參見セヨ。

もちれう (名) [持料] [illegible]

もちろん (副) [勿論] むろん(無論)ニ同[illegible]

もちゐ (名) [用] モチヰルコト。ヤクニ[illegible]ルコト モチヒ

もち・ゐる・ヰル・ヰレ・ヰ・ヰ・ヰヨ(他動、上一) [用] [持ち以るノ義、率ノ引キ以ルニ同ジ] 詳ニクハ、第一卷ノ凡例、卅四ヲ見ヨ」(一)[モテアツカフ。アツカフ。ツカフ。 字類抄「用、モチヰル、庸、碩、以、モテ、云云」[illegible]用、モチヰル、用心、心モチヰ一同「須、モチイル」 孝德紀、大化二年三月「夫君於天地之間、而宰萬民者、不可獨制、要須臣翼」源、二十八、[illegible]ニ心ヰヨウナホストモ、シカもちゐる人ハ、スクナクコソアラメ」散木集、十、雜、下、[illegible]稻と云ふものを、もちゐ(餅)にして、云云、ホウシヂノ、稻ト見シ[illegible]ニ、もちひれ(古本、松屋本記、[illegible]バ、ミソウヅマデモ、ナリニケルリナ[illegible]ニカケタレト、もちふれト云フ語ハナシ、現行本ハもちゐれトアリ、倘、もちふヲ見合ハスベシ) 崇神紀、十年九月ノ條ニ「急居、此云菟岐于」トアレバ、もちゐるヲ和行上二段活用ナリト云フ說モアレド、異ナル語ヲ取

タル異例ニテ、後ノ諸書ニ、皆つきゐる、又ハ、ついゐるトノミアリ。(二)[illegible] (三)[illegible]

もちゐ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) モチアツカヒニ困シム。モテアマス。[illegible]

も・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) [illegible]久シキニ堪フ。タモツ。持久。耐「[illegible]シテもつ」「キガクもつ」

も・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(他動、四) [持] (一)手ニ執ル。[illegible] (二)用ヰル。[illegible]「身ヲ以ちテ國ニ殉ズ」「淸キ心ヲもちテ」(三)所有ス。有。[illegible]「妻ヲ持つ」「子ヲ持つ」[illegible]保チ守ル。維持。保存。 萬葉集、十七、四十二長歌「スメロギノ、ヲス國ナレバ、ミコト母知、タチ別レナバ、オクレタル、云云」[illegible]ヲ持つ」 (五)引受ケテ守ル。受持ッ。負擔。[illegible]

もつ (接尾) 物ノ、動スル狀態ニ云フ語。「ウゴもつ」「ウグもつ」

も・づ・ヅル・ヅレ・ヂ・ヂ・ヂヨ(他動、上二) [捩] もぢる(捩)ノ條ヲ見ヨ。

もつ-が (名) [物我] ぶつが(物我)ニ同ジ。「物我一如」

もっ-から (名) [帽額] [木瓜] [窠] [まうかく

[illegible]

もつ-かう-せふ (名) [illegible]

もかう-むすび [illegible]

もつき (名) [illegible]

もづく (名) [水雲] [illegible] 藻類 水雲(注) 毛都久、云云[illegible]テ、亂絲ノ如ク、枝ブリ。色、靑黑クシ[illegible](毛都久、於期、云云)」

もっ-くゎん (名) [沒官] (一)[illegible] (二)古ヘノ刑ノ名[illegible]官ニ沒收スルコト。[illegible]ハ彼此俱罪(贓職罪ノ如シ)ノ贓、犯禁ノ物、或ハ、盜ミタル物ヲ盜ミタル倍贓(盜ミタル物ハ倍償スベキナリ)等ヲ、官ニ沒收スルコト。[illegible]沒官物ハ、[illegible]又、官[illegible]除名、免官、免所居官ナドノ等級アリ。 [illegible] 平家物語、十二、六代事「服部平六、平家ノ伺候ノ人タリシカバ、沒官セラレタリケル服部、カ

ヘシ給テケリ」（覺一本）

もつけ（名）物怪勿怪〔まうけぬ、ノ此ヲト云フ、漢字ハ、指、當字〕オモヒ設ケヌコト。豫期セヌコト。案外。意外。又、不思議。〔[illegible]、色葉集「勿怪、モツケ」宝言記、……もっけナ事ニ乘リ合ウテ、端ヘ志ノ調ハ皆ニシタヽ」醒睡笑（元和、安樂庵策傳）七「勿怪ナ事ハ、氣ガ短慮」「もっけノ幸」〕

もつげ（名）〔沒下〕もつぢやう（沒上）ノ條ヲ見ヨ。

もつけうせふ（名）〔沒交涉〕（一）ぼつかうせふ（沒交涉）ニ同ジ。（二）轉ジテ、トテモ及バヌ、ヨノテモ着ケヌ、モテノ外、ナドノ意ニ用ヰル。勿交涉〔碧巖錄、第八則、雪竇先白記、過、先自點檢、免得別人點檢、似ル且喜沒交涉」同、第十六則、若見本分事、且得沒交涉、作麼生是本分事、試道看」〕

もつけのさいはひ（名）〔設けぬ幸、ノ音便轉カ〕思ヒ設ケヌニ遇ヘル幸。意外ナル幸福。コボレサイハヒ。マグレザイハヒ。僥倖。〔浮世風呂（文化、三馬）初、上「フトシタ事デ、もっけの幸ひヂャナイ、コリャコレ、フンドシタ事デ、もっさうノ幸ヒトケツカルワイ」〕

もつこ（名）畚〔持籠ノ義、論語、子罕篇「未成一簣」注、包曰、簣、土籠也」正韻「畚、盛土器、以草索爲之」〕莚ノ四隅ニ繩ヲツケテ、土芥ヲ盛リテ擔フモノ。又、繩、又ハ、蔓ナドヲ編ミテモ作ル。アジカ。フゴ。イシミ。〔易林節用集（慶長）下、器財門「持籠、モッコ（持、土）」……富士山ヲ造リ給ヒシニ、一夜ノウチニ築キ給ヘリ、夜既ニアケケレバ、畚カタガタヲ、又ニ括テ給フ、コレ三上山ナリトイフ」〕

もつこ（名）物故〔もつハ、吳音もちノ轉音〕ぶつこ（物故）ニ同ジ。〔史記、匈奴傳「漢士卒、物故亦數萬」色葉集「物故」……曲、……章「新シキ卒都婆、云云、物故年ノ月日ト書カレタリ」〕

もっこ（名）木瓜　もっかう（木瓜）、及、もかう（帽額）ノ條ヲ見ヨ。

もつご（名）〔歿後〕又、ぼつご。死歿ノ後。〔盛衰記、十一、……「且ハ清房ガ沒後ヲモ弔ヒ、且ハ老父ガ心ヲモ慰メントテ」〕

もつこつ（名）〔沒骨〕〔骨ハ線ノ意〕又、ぼっこつ。畫ニ、墨ノフチガキナク、繪ノ具ノミニテ畫クコト。〔夢溪筆談（宋、沈括）十七、黃筌……徐熙之子、乃以……不用墨筆、直以彩色圖之、謂之沒骨圖」〕

もっこふんどし（名）〔畚犢鼻褌〕ふんどし（犢鼻褌）ノ條ノ（三）ヲ見ヨ。

もっさう（名）物相〔盛相〕〔相ハ木ノ形ノ謂、物相ハ、モト佛家ノ語ト云フ、盛相ハ當字ナリ〕（一）飯ヲ盛リ量ル器。或ハ、一合、或ハ、二合、三合ト、人別ニ供ス。下人ノ食ヲ分與スルモノ。メンツウ。分飯器〔下學集、下、器財門「物相、モッサウ、盛飯分量之器也」……門院日記（一本、下ニ略ト云）アリ）一、天文十三年九月九日「齋ヲ行フニ、行者飯ヲもっさうニ盛リテ、數百人ノ鐵鉢ヘ投ゲ入レ候ニ、云云」〕（二）轉ジテ、日分量ノコト。

もっしゅう（名）〔沒收〕又、ぼっしゅう。もっしゅ（沒收）ニ同ジ。〔平家物語、六、新院崩御事「南都ノ僧綱等、闕官セラレテ、云云、所職ヲ沒收セラル」〕

もつじひ（名）〔沒字碑〕ぼつじひ（沒字碑）ニ同ジ。

もつじやう（名）〔沒上〕語ノかなノ上ノ音ヲ、略シタルモノ。即チ、出雲ヲ、いづも、河内ヲ、かはちト云フ類ナリ。コレニ對シテ、下ヲ略シタルモノヲ沒下ト云フ、即チ、文殿ヲふどの、鳥丸ヲからすまト云フ類ナリ。（夏山雜談、三）

もっしゅ（名）〔沒收〕（一）けっしょ（闕所）ニ同ジ。（二）官ニ取リ上グルコト。官沒。〔太平記、二十五、北野通夜物語事「……領セシ地頭ガ所帶ヲ沒收シテ、尼公ガ本領ノ上ニ副ヘ、云云」〕

もっしょ（名）〔沒書〕（一）ぼっしょ（沒書）ニ同ジ。（二）書狀ヲ沒收スルコト。

もっしょくし（名）〔沒食子〕又、ぼっしょくし。主トシテ、かしは（柏）、ぬるで（白膠木）ナドノ葉ニ寄生スル蟲ノ刺傷セシ處ニ生ズル球形ノ癭狀ノ物。藥用トス。

もったい（名）物體勿體（一）又、ぶったい。モノノサマ。物體。〔下學集、下、言辭門「勿躰、モッタイ」國性爺合戰（正德、近松作）三「サマカ五常軍甘輝ト名ニ負フ其勿體、錦祥女出迎ヒ、云云」〕（二）モノモノシキコト。又、ソノ容子。勿體をつけるトハ、タカブル、又ハ、容體ブル意。矜重

もったいなし・き・けれ・く・く（形、二）〔無物體〕〔無勿體〕（一）高貴ノ人、神佛ニ對シ、正理ヲ失ヒ、正體ナシ。以テノ外ナリ。不都合ナリ。フトドキナリ。樣體崩ルルナリ。體面ヲ失ヒシナリ。（京都ニテ、勿體なしト云フハ、正體ナシノ意）〔盛衰記、三十六、通盛卿……小宰相局事「帶紐解廣ケテ、思フ事ナクオハスル事、勿體なし」〕（二）正體ナク滅裂スルヲ惜ム意。アタラシ。〔太平記、三十五、北野通夜物語事「大家ノ一跡、此時、斷亡セン事、無勿體候」〕（三）惜ム意ヨリ轉ジテ、尊シ。（四）更ニ轉ジテ、恐シ。多シ。辱ケナシ。己レガ及バザルコトヲ、又ハ、上ノ己レヲ厚ウスルコトヲ恐懼スルニ云フ。不畏天耶

もったいぶる・る・れ・ら・り・れ（自動、四）〔物體振〕〔勿體振〕勿體ラシク行フ。容子ブル。[illegible]

もったうす・する・すれ・せ・し・せよ（他動、左變）〔沒倒〕（一）滅シ倒スコト。〔太平記、十八、比叡山開闢事「若干ノ所領ヲ……レバ、只一圓ニ九院ヲ沒倒シ、衆徒ヲ追出シ」〕（二）押シテ奪ヒ取ル。橫領ス。〔盛衰記、四、白山神輿登山事「……一寺ヲ沒倒ス、寺社ノ所……之謂」〕

もったり（名）折羽（其條ヲ見ヨ）ノ語。簺ノ目ノ、二ツ共五ツ、揃ヒテ出デタルモノ。〔實政の川柳「……もったりト云フ、御先箱」（加州侯ノ梅鉢ノ紋）〕

もって（接）〔以〕（一）ソレニヨリテ。ソレニテ。〔保元物語、一、左大臣殿上洛事「……以テ……」〕（二）ソノウヘニ。且而。〔易經、繫辭、上「……」[illegible]拜見之處」〕

もってこい（句）持來　物ヲ待チ設クル時ニ云フ語。アツラヘムキ。ウッテツケ。「もってこいノ上天氣」もってこいノ仕事」

もってのほか（副）〔以外〕〔以の外ノ文字讀〕又、もてのほか。思ヒノ外ニ。甚シク。非常ニ。分外。〔平家物語、二、西光被斬事「今度ハ、以ての外ノ過分ニ候」〕

もっと（副）〔もそっとノ約〕其上ニ。更ニ。マット。モチト。モウスコシ。

もっとう（名）〔沒頭〕ぼっとう（沒頭）ニ同ジ。

もっとひ（名）〔元結〕もとゆひ（元結）ノ訛。其條ヲ見ヨ。

もっとも（名）〔尤〕〔最ノ義、理ニ合フヨリ轉ズ〕其理ヲ加ヘテ、說明カス意ニ云

フ語。理アルコト。道理ニ叶フコト。

理[illegible] 保元物語、一、主上三條殿行幸事「先ンズル時ハ人ヲ制ス、後ニスル時ハ人ニ制セラルトイヘバ、今夜ノ發向、尤もナリ」「尤ノ次第」尤ニ思フ」

もっとも (副) 最尤 〔もとものノ音便〕 第一[illegible]名詞ニ用ヰルトキハ、道理ノ意） 林逸節用集[illegible]ナキアタリヲモ多ク相ジケリ、最 冷クゾ在ケル」

もっとも (接) 尤 但シ。将又。(書状文ナド二) 狂言記、目近大名「目近トイフハ、尤もソノ様ナ扇ノコトナレドモ、ソレハ常ノ持扇」

もつにち (名) 沒日 ぼつにち(沒日)ニ同ジ。

もっぱら (副) 專純 〔もはらノ音便〕 ソレヲ宗ト[illegible]總ヘテ全ク[illegible]純一、[illegible] 狂言記、布施ない「捨身ヲもっぱらニセヨト云フハ」

もっぺ (名) 雪袴 もんぺ(雪袴)ノ條ヲ見ヨ。

もつもんかん (名) 沒文字 ぼつもんかん(沒字漢)ニ同ジ。

もつやく (名) 沒藥 舶來ノ藥品 熱地ニ産ズル或種ノ灌木ノ脂ナリト云フ 色、黄黒ニシテ、甚ダ堅ク、塊ヲナシテ、内ニ土砂雜レリ。味、苦クシテ、香、烈シ。外科ノ藥ニ用ヰル。花沒藥ニ對シテ、[illegible]トモ云フ。我ガ國ヘノ渡來ハ古シ。[illegible]

もつりかん (名) 沒理漢 道理ノ[illegible]ヌモノ。ワカラズヤ。沒分曉漢。

もつ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 縺 [illegible]リ亂ル。ムスボホル。コグラカル。モ[illegible]條衝水)三「兄モナク身代もつれケルヨシ、負セカタへ斷リ」「絲もつるゝ事もつる」

もつれ (名) 縺 (一)モツルルコト。(二)[illegible]れ、躑躅ノ商人見ソコナヒテ」「絲ノもつれ」

⁂**もつ・れる** (動) 縺 前前條ノ語ノ口語。

〜**もて** (名) 面 〔おもてノ略〕 おもて(面)[illegible]同ジ。[illegible]廿、「アガ母ガ[illegible]ノ、忘レセシダハ、筑波ネヲ、フリサケ見ツツ、妹ハシヌバネ」

〜**もて** (接頭) 持 〔接頭語ノうち(打)ノ語原ヲ見ヨ〕 動詞ノ意味ヲ強ムルタメニ用ヰル語。[illegible]六、[illegible]、イミジウ心苦シクハ、人ニモもてサハガルバカリヤ」「もてナヤム」もてカクス」もてハヤス」もてアツカフ」

〜**も・て** (句) 以 (一)持たせ、ノ約。萬葉集、十八「片思ヲ、馬ニ太馬ニ、負セ母天、[illegible]ニ遣ラバ、人カタハムカモ」 (二)持ちて、ノ略。字類抄「以、モテ」 萬葉集、十五「吾妹子ガ、形見ノ衣、ナカリセバ、何物母氏カ、命継カマシ」 神樂歌、閑野「シヅヤノ小菅、鎌毛天刈ラバ、生ヒムヤ小菅」

もてあそび (名) 弄玩翫 次條ノ語ノ略。モテアソブコト。又、モテアソブモノ。もちあそび。 和泉式部續集「蛤ノ小サキヲオコセテ、翫ニモシツベケレバト、云ヒタルニ」

〜**もてあそびもの** (名) 玩物玩具 手ニテ玩ブ所ノモノ。オモチャ。玩弄物。玩具略シテ、もてあそび。モチャスビモノ。[illegible] 源、二、帚木 十五「リンジノもてあそびものノ、ソノ物トモ[illegible]タマラヌハ、云云」

もて・あそ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ(他動、四) 弄玩 [illegible]四、上、若菜、上「[illegible]マリもてあそばシテミ給トキコ[illegible]則、云云」 (二)慰ミ物トシ愛デ興ズ。賞[illegible]ニ振舞、既び举ル」 (四)嘲弄ス。ナブル。

もてあつかひぐさ (名) 持扱種 取リアツカフタネ。トリハカラフ事柄。又、愛賞スルモノ。増鏡、序「ツクモガミノ物語モ、人ノもてあつかひぐさニナレルハ、云云」

もて・あつか・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 持扱 (一)あつかふ。扱フ。[illegible]見ヰ取リハカラフ。[illegible]ハ、母ナキ子ドモヲアマタもてあつかふ」 (二)モチアツカフ。モテアマス。取扱苦ム。夫木抄、廿七、山路[illegible]山ガラノ、廻スクルミノ、トニカクニ、もてあつかふハ、心ナリケリ」

もてあまし (名) 持餘 モテアマスコト。又、ソノモノ。「もてあまし者」

もて・あま・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 持餘 力足ラズシテ扱ヒ遂ゲズ。處置ニ困却ス。モチアツカフ。モテアツカフ。手ニアマス。本朝諸國風俗(貞享、西鶴)八 扱物ナガラ、サリトテハ持餘し、迷惑ナル折フシ、云云」

もて・かく・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 持隱 〔もてハ接頭語〕 かくす(隱)ト云フニ同ジ。[illegible]日記「ハカナキ物語[illegible]メシツツ、惱シウオハシマスベカメルヲ、サリゲナク、もてかくさせ給へり」

〜**もて・かしづ・く**・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 寵持傅 〔もてハ接頭語〕 かしづく(寵)ト云フニ同ジ。源、一、桐壺「作法、世ニメヅラシキマデ、もてかしづき聞エ給へり」

〜**もて・そこな・ふ**・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 持損 〔もてハ接頭語〕 そこなふ(損)ト云フニ同ジ。源、五十二、手習「アサマシウもてそこなひタル身ヲ、思モテユケバ」

〜**もて・つ・く**・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 持付 取リ成ス。取リツクロフ。[illegible]ノ情ハ、自ラ、もてつけツベキワザヲヤ」同、三十、[illegible]「ワロキニヨレルカタチヲ、イトイタウもてつけテ、云云、目トドメツベキサマシタリ」

もてつけ (名) 持付 モテナスコト。トリナスコト。モテナシ。トリナシ。榮花物語、[illegible]ニクク[illegible]

もてなし (名) 持成 (一)〔モテナスコト〕トリナシ。タシナミ。修飾。源、五、若紫 廿「心深ウ、恥カシゲナル御もてなしナドノ、ナホ人ニ似サセ給ハヌヲ、云云」 (二)〔取リアツカヒ〕アヘシラヒ。待遇。源、七、[illegible]ダニ、上ノ御[illegible]リテ」 (三)フルマヒ。饗應。馳走。接待ノ饗應ナド[illegible]モテハヤスコト。[illegible]西鶴)七「トフ人モナキ日トテ、井筒、道心ヲもてなしニ、茶[illegible]ノ花餅ナドシテ、云云」

もて・な・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 持成 (一)〔取リ成ス〕取リツクロフ。[illegible]ム。修飾。源、九、葵 廿五「アマリ若クもてなし給ヘバ、カタヘハ、カクテモノシ給フゾ」「何氣ナキ體ニもてなす」座モツカジト、身ヲもてなし」 (二)〔取リアツカフ〕 好意ヲ以テ人ヲアヘシラフ。待遇。款待。源、九、葵[illegible]

オシナベタルサマニもてなすナルガ、イトホシキコト」夫木抄、七、卯花「白妙ノ、垣根ニ咲ケル、卯ノ花ニ、もてなされタル、夕月夜カナ」　(二)饗應ヲモテ、アヘシラフ。アルジマウケス。饗フ。アルジス。フルマフ。饗應ス。馳走ス。今昔集、二、上、第四條「今夜、大事ノ客人ヲエタリ、ヨクヨクもてなせト仰ニテ候」

もてなや・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）[持惱]　（もてハ、接頭語）モテアツカフ。モテアマス。處置ニ苦ム。榮花物語、四、見はてぬ夢「猶御心ナキテ、心ヲサナクテハ、イカガハアベカラント、怖キまでなやみドコエル人人多カルヘシ」

もてなら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[持馴]　持チテ馴ルルヤウニナス。ツカヒナラス。源、八、花宴八「日比ニナレバ、屈シテヤアラント、ラウタクオボシヤル、カノシルシノ扇ハ、云云、コキガニカスメル月ヲカキテ、水ニウツシタル心バヘ、メナレタレド、ユヘナツカシウもてならしタリ」

もてはな・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）[持離]　カケハナル。遠クハナレル。ヘダツ。源、三十、藤袴「カノオトドモ、もてはなれテモオホシタラザンナリ」

もてはや・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）[持映]　(一)映アルヤウニ賞メ上グ。取リ立テテ褒ム。ホメソヤス。賞揚。珍重。榮花物語、一、月宴「殿上人、上達部、ナビキ仕ウマツリテ、もてはやし奉リ給フ程ニ」　(二)互ニ相ウツリアハス。照リハユルヤウニナス。榮花物語、十七、音樂「佛ノ御光ニ、御堂ノ飾もてはやされ、メデタウ御覽ゼラルルニ」

✤**も・てる・テル・テレ・テ・テ・テヨ**（自動、下一）[持]　（持たる(被持)ノ約轉、歴てるノ例）(一)持チ得ル。(二)厚遇セラル。歡待セラル。（花柳界ノ語ナルベク、卑語ナリ）

モデル（名）〔英語、Model〕(一)カタ。模型。手本。ヒナガタ。(二)美術家、小說家ナドノ製作ノ材料、又ハ、標準トナル人物、或ハ、物。

もと（名）[本][元][原][源][基][根][幹]　持處ノ略ト云フ（末ニ對ス）(一)物事ノ起ル所。ハジマリ。ハジメ。オホネ。ミナモト。本源。中心。古事記、下、仁德「本坐（モトマシ）難波宮之時」神代紀、上「此其縁也」　(二)根。根本。萬葉集、十七 四十二 長歌「立テル栂ノ木、毛等モ枝モ、同ジ常盤ニ、愛シキヨシ」（古義ノ訓）「木ノ露、木ノ根」　(三)宗トアル事。主トスル事。ヨリドコロ。本據。源、廿一、少女六「猶ザエヲもとトシテコソ、大和魂ノ、世ニモチヰラルルカタモ、ツヨウ侍ラメ」　(四)木立。（莖ノ意）木ノ生ヒテアルモノ。木ノ數ヲ幾本ト云フハ是レ也。孝德紀、大化五年三月「本毎ゴトニ、花ハサケドモ」催馬樂、本滋「毛止シゲキ、毛止シゲキ、吉備ノ中山、昔ヨリ」　(五)幹。カラ。木。萬葉集、十一 四十七「日本(大和國)ノ、室原ノ毛桃、本繁ク、言ヒテシモノヲ、成ラズハ止マジ」（古義ノ訓）　(六)和歌ノ上ノ句。下ノ句ヲ末ト云フ。枕草子、一、第十三段「歌ドモノもとヲオホセラレテ、コレガすゑハイカニトオホセラルルニ」　(七)酒ヲ釀ス料ノモノ。酛トモ記ス。酴。酒母。さけ(酒)ノ條ヲ見ヨ。(八)資本ノ略。「資ヲカケル」(九)原價ノ略。「原ガキレル」(十)下。根ノ際。古事記、中、神武八「ミツミツシ、久米ノ子等ガ、垣下ニ、植エシ薑」「日ノもと」「灯ノもと」「御階ノもと」「足もと」(十一)アタリ。ホトリ。源、二、帚木四「カキイダキテ、サウジノもとニイデ給ニゾ、云云」「木ノもと」「清水ガもと」「埋火ノもと」(十二)モトキン。元金。（利子ニ對ス）狂言記、胸突「ナウナウ七兵衞、利元共ニ遲サウ程ニ、堪忍ノシテクリャレ」

もと（名）[舊][故]〔本ノ義〕前。サキ。ムカシ。ハジメ(初)。以前。源、一、桐壺三十「内ニハ、もとノ淑景舍ヲ御曹子ニテ、云云」「舊ノ人」「舊ノ家」舊ノ如シ。

もと（名）[許]〔下ノ義〕トコロ。許。源、六、末摘花「父君ノもとヲ……」「國許」「宿許」「ソコ許」「ココ許」「手許」

もと（副）[元][故][舊][素]　前ニ。サキニ。ハジメニ。以前ニ。後撰集、十……「古里ハ、もと來シ駒ニ、マカセテゾ來ル」「舊見シ人」「秀吉ハ、故、尾張ノ人ナリ」

もと（接尾）[本]　(一)長キモノヲ數フルニ用ヰル語。ホン。古事記、上「一本薄」萬葉集、十八、四十「比ガ伊ケノ、撫子植エシ、ソノココロ、タレニ見セムト、思ヒソメケム」(二)鷹ヲ數フルニ用ヰル語。羽。「鷹ヒトもと」

もとあら（名）[本荒]〔本ノ疎ナル意〕（モブラムカ）木立、葉ガ茂ラズ、粗ク生ヒタルコト。「宮城ノ北部、牧アリ、荒牧ノ野ト云フ、今ノ仙臺市、原ノ町邊、元荒牧ノ野ナリ、コレヲ元荒ト云ノナラム」古今集、十四、戀、四「宮城野ノ、もとあらノ小萩（木ノ本ニ、葉ノナキアラアラシキ萩）、露ヲ重ミ、風ヲ待ツゴト、君ヲコソ待テ」

もといれ（名）[元入]　元手トシテ入ルルコト。資本金トシテツギ込ムコト。投資スルコト。又、ソノ金。出資。半記(元祿)三十「其ノ金ヲ本入れ（一本、元入）ニシテ、二十一史ノ、三才圖會ヲ和板ニオコシ、云云」

もとうた（名）[元歌]　ほんか(本歌)ニ同ジ。其條ノ(二)ヲ見ヨ。コレニ對シテ、或歌ヲ元トシ、ソレト同ジ音調、句調ナドヲ用ヰテ、別ノ意味ヲ詠ジタルモノヲ、替歌ト云フ。

もとえ（名）〔元ノ字ノ草假名（卽チえ）ト見テ云フ語、正シクハ、衣ノ草假名ニテ、衣〕ノ字ノ稱。（ゑト區別シテ云フ）キヌエ。モトノエ。初心假名遣「中ノゑト云フハ、ヤマケフコゑノゑナリ、コレヲ假名ニ遣フ時ハ、此ノえニ書クナリ、コレヲバもとえト云フナリ」

もどか・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）[抵牾]（もどかはしノ略）(一)抵牾クベクアリ。非難セマホシ。可批。枕草子、九、第百十三段「ワビシゲナル車ニ、裝束ワロクテ、物見ル人イトもどかし」源、五十一、蜻蛉五十「斯ク、ハカナキ世ノ眞ヘヲ見ルニモ、……もどかしからヌワザニコソナド思ヒツツ」(二)欲戾ノ意ニ移リテ、我ガ心ノママナラヌ物ノ待遠ク心イラレノスル。思フヤウニナラズ、ハカドラズシテ、心、イライラシ。又、シレタシ。ハガユシ。ジレッタシ。焦躁。隔靴掻痒。後拾遺集、十三、戀、三「七夕ヲ、もどかしトノミ、我見シモ、ハテハ逢見ズ、タメシトゾナル」

もとがしは（名）[本柏]　柏ノ舊キ葉ニテ、冬落チズ、枝ニ着キテアルモノ。古ヘ、大嘗祭ノ際、コレニ白酒、黑酒ヲ盛リテ天皇ニ奉リシ。江家次第、十五、大嘗會「最姫取本柏、……天皇受之、……神食上以本柏」

もとがしは（名）[故葉]　(一)去年ノ舊キ葉。古今集、十七、雜、上「イソノカミ、フルカラ小野ノ、もとがしは、モトノ心ハ、忘ラレナクニ」後拾遺集、三、夏「榊取ル、卯月ニナレバ、神山ノ、楢ノハガシハ、もとつ葉モナシ」（もとつ葉ハ故葉ナリ）(二)轉ジテ、舊クシテ本ナルモノ。狹衣、一、上 三十八「大キオトドノ御方ハ、中ノコノカミニテ、もとがしはニオハスレド、云云」

もとかた（名）[本方]　(一)神樂ノ樂ニテ、本末ノ二座ニ分レタル中ノ、先ニ歌フモノノ稱。其次ナルヲ末方ト云フ。か

[illegible] 見ト [illegible] 製造元。(四)事業ナドニテ、其資本ヲ出スモノ。資本家。資本主。出資者。

もとかは・し [illegible] [もどかし(括)ニ同ジ。] 運歩色葉集、[illegible]

もとかはし・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [illegible]

もとき [illegible] 本木 [illegible] 分。(うらきニ對ス) (二)轉ジテ、初ノ [illegible] (三)散リタ [illegible] 花 [illegible] フ。「もときニマサルウラ木ナシ」 夫木抄、四、花「見レバカツ、本木ノ花ヘ、散リハテテ、八重咲キカハル、ツギ櫻カナ」

もどき [illegible] 批 [illegible] 〔モドク [illegible] 譏十「用ナキフルマヒノ積モリテ、人ノもどきヲ負ハントスル事トオボセド」 (二)劣ラジト擬フ [illegible] 似セテ作ル [illegible] ト。マガヒ。比擬 艶狩劒本地(竹本、近松作) [illegible] 「梅もどき」「松もどき」「梅もどき」「雁もどき」

もどき・がほ (名) 〔牴牾顏〕 批判シタルラシキ顏ツキ。非難シタルノシキ顏時 [illegible] 野ベノ、草ノ [illegible] ナ」

もときん (名) 元金 (一)貸シタル金ヲ、利息ニ對シテ云ノ稱。利子ヲ生ズヘキ資金。グヮンキン。グヮン。(二)資本。資本金 [illegible]

もど・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 牴牾 [illegible] セトセニナル子、父ヲもどきテ、コマウドト文ヲ作リカハシケレバ」 源、七、紅葉賀「此君ノ、イタク、[illegible]

もど・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 〔擬〕 欺ク。マガヘル。他物ヲモテ、似セテ作ル。

もと・くだ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) 〔本降〕 〔もとハ根本ノ意、くだつ(降)ノ條ノ(三)ヲモ見ヨ〕 齢老イテ、次第ニ衰フ。[illegible]

もとげん (名) 元 元ト云フ字ノ稱 [illegible] ん(玄)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

もとこ (名) 左右 許處 [illegible] モト [illegible] 床側 [illegible]

もとこ (名) 〔元子〕 元ト、子ト。元金ト、利子ト。元利。[illegible] 甲陽軍鑑 [illegible]

もとこびと (名) 〔左右人〕 カタハラニ侍ル人。ワキニ仕ヘ居ル人。側近者。オソバ。近侍 垂仁紀、七年七月 [illegible] 右舍人、云云

もとこめ (名) 元込 銃砲ノ製造ニ、丸ヲ銃口(筒口)ヨリ込メズ、火門ノ邊ニ機アリテ、ソコヨリ込ムベク作レルモノ。後裝。又、ソノ銃砲。元込銃

もとしげどう (名) 本滋籐本重籐 弓ノ弓束ヨリ下ヲ滋籐ニシテ、上ヲ二所籐 [illegible]

[illegible] 十六筋イタル白羽ノ [illegible] 弓ノ筋中握ッテ、小路ヲ飛シト歩マセタリ」

もとしてがた (名) 〔戻手形〕 戻爲替手形ノ略轉。さいてがた [illegible]

もとすゑの (名) 〔本條〕 蓮ノ末枯ノ、篠 [illegible] モノ。堀河百首「冬サムミ、末ノ枯葉モ、落チハテテ [illegible]

もとすゑめ (名) 〔元締〕 (一)金錢ノ總勘定ナド締メククル役目。又、其人。雙生隅田川(享保、近松作)三「其ノ身ハ庭ニノサバリ臥シ、奥、坂東ノ本締シテ、秋田、坂田、栗表、八丈マデモ、[illegible] (二) [illegible]

もとすゑろ (名) [illegible] 矢羽ノ [illegible] 白 [illegible] キモノ。平家物語、十一、遠矢事「コノ矢ヲ拔カセテ見給ヘバ、白篦ニ鶴ノもとすゑろ、鴻ノ羽ワリア [illegible]

もど・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔戻〕 〔もどるノ他動〕 (一)モドルヤウニナス。故ノ處へ返ス。復還 狂言記、二人大名「汝等ニ戻シタケレドモ、是レヲ戻いタナラバ、又重ネテ [illegible] (二)胃ヨリ反シテ嘔ク。ヘドツク。嘔吐

もとすゑ (名) 〔本末〕 (一)もとト、すゑト 根本ト、枝葉ト [illegible] ガ萬代」 (二)内侍所ノ御神樂ナドニ云フ語。樂人、左右 [illegible] 座、又ハ、左方ト云ヒ、其拍子ヲ取リテ、初ニ歌ノ歌ヲ本歌ト云ヒ、其歌フモノヲ、本方、又ハ、本ト云フ、右ナルヲ右座、又ハ、右方ト云ヒ、其歌フ歌ヲ末歌ト云ヒ、其歌フモノヲ末方、又ハ、末ト云フ [illegible] (神樂入綾、上) もとかた(本方)ノ條ヲ [illegible] (三)〔和歌ノ初ノ三句ヲ本ト云ヒ、後ノ [illegible] 枕草子、一、第十三段、古今ノサウシヲ御前ニ [illegible] ニシアレバ、ト書キテ、末ハナシ」 (四)〔山ノ麓ト峯トノ稱。古事記、下(雄略)「山ノ峡ニ、云云、段立ニハ、イクミ竹生ヒ、笥立ニハ、タシミ竹 [illegible] 今集、十二、戀、二「梓弓、引ケバ本末、我ガ方ニ、寄ルコソマサレ、戀ノ心ハ」 (六)〔木(草、竹ナド [illegible] ト。古事記、下(清寧)四十「見ユレバ五十隱、山ノ三 [illegible] 峡小峡ニ立テル木ヲ、云云、本末ヲ山神ニ祭リテ」

もとだち (名) 〔本立〕 草木ノ [illegible]

もとちやう [illegible] 一口座ヲ分ケテ、ソレゾレ貸借、及、損益ヲ記入スル帳簿。原簿。

もとついへ (名) 〔本家〕 [illegible] 中、第廿七 [illegible] 家也、見 [illegible] 祭使 [illegible] 物 [illegible] 云混也」 (一)本タル家筋。イヘモト [illegible] 宗家 二 [illegible] 數ノ内 [illegible] テ、

專ノ住居ニ用ヰル本宅ノ稱。オモヤ。ホンヤ。(三)妻ノ親ノ家。里方。實家。

もと-づ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）〔本付ノ義〕基トシ起ル。始マル。原ク。字類抄「本、モトツク、基、源、原」名義抄「本、モトツク」

〜もと-つ-くに（名）〔本國〕モトノクニ。ホンゴク。萬葉集、六、長歌「荒キ浪、風ニアハセズ、草ヅツミ、ヤマヒアラセズ、スミヤケク、カヘシタマハネ、本國ベニ」（略解ノ訓）

〜もと-つ-ひと（名）〔古人〕古クヨリ相語ラヒタル人。フルナジミ。イニシヘビト。萬葉集、十二「橡ノ、衣解キ洗ヒ、又打山、古人ニハ、猶如カズケリ」源、五十、浮舟「カバカリナルもとつ人ヲヲキテ、我ガ方ニマサル思ヒハ、イカデカツクベキゾト、ネタウオボサル」

〜もと-つ-め（名）〔本妻〕〔元ツ妻ノ義、うはなり（後妻）ニ對ス〕コナミ。本妻。嫡妻。正妻。字鏡「嫡、本妻、モトメ」字鏡九「嫡、本加比女、又、毛止豆女」新猿樂記「妻三人、云云、第一本妻、齢既六十」

〜もと-つ-め（名）〔前妻〕モトノ妻。前ノ妻。先妻。前妻。倭名抄、二「夫妻類、前妻、毛止豆女」好忠集「もとつめニ、今ハカギリト、ミエシヨリ、タレナラスラン、ワガフシシ床」

もと-で（名）〔元手〕〔本手ノ義〕商工業ノ資本金。又、商品仕入ナドニ用ヰル金錢。モトキン。もとできん。略シテ、もと。資金。資本。狂言記、俄道心「俄ニ出家ヲ落チレバ、もとでハナシ、商ヒモナラズ」

〜もと-どり（名）〔髻〕〔本取ノ義〕髮ヲ頂ニ集メテ束ネタル處。タキブサ。タブサ。髮ノ根。モトユヒ。倭名抄、三「毛髮類、髻、毛止止利」神代紀、上卅六「左髻所纏五百箇統之瓊」

〜もと-な（副）〔基なくノ略〕（一）モトヅクトコロナク。何ノワケモナク。ナニトナク。ヨシナク。萬葉集、八　四十「カキロヒノ、ホノカニ見エテ、別レナバ、もとなヤ戀ヒム、逢フトキマデハ」（古義ノ訓）同、十二　五十五「紫ノ、帶ノ結ビモ、解キモ見ズ、本名ヤ妹ニ、戀ヒワタリナム」（同上）同、二　二十四「如是故ニ、見ジト云フモノヲ、樂浪ノ、舊キ都ヲ、見セツツ本名」（ヨシナイ事）（二）轉ジテ、濫ニ。ヤタラニ。物ノワイダメナク。無差別ニ。萬葉集、四　四十四「小夜中ニ、友呼ブ千鳥、物思フト、ワビヲル時ニ、鳴キツツ本名」（もとな鳴キツツノ意、古義ノ訓）同、同　四十、長歌「カクバカリ、本名シ戀ヒハ、古郷ニ、此月頃モ、アリカテマシヲ」同、五　八、長歌「眼交ニ、母等奈掛リテ、安眠シナサヌ」（子ヲ思ヒテナリ）

もとな-いし（名）〔元名石〕安房國、保田町、字元名ニ產ズル沙質凝灰石。溝、家ノ土臺等ニ用ヰラル。製作ニ便宜ニシテ、能ク火ト水トニ耐フ。

もと-なり（名）〔本成本生〕〔末成ニ對ス〕草木ノ蔓、又ハ、幹ノ元近クニ實ヲ結ブコト。又、ソノ果實。

もと-ね（名）〔元直〕貨物ノ製造、或ハ、仕入レノ價。略シテ、もと。原價。（口錢ヲ掛クル賣直ニ對ス）

もと-の-え（名）〔すゑのゑニ對ス〕もとえニ同ジ。

もと-の-もくアミ（名）〔元木阿彌〕〔下ノ出典ノ故事ニヨル語ト云フ〕一時、發達シタルモノノ、元ニカヘルコト。天正軍記、もとのもくあみ珍名の事「南都ノ市中ニ、盲人、木阿彌アリ、筒井順昭、病篤キニ臨ミ、老臣ヲ枕上ニ召シテ云フヤウ、嗣子ナホ幼シ、我死ナバ敵國ヨリ攻ムベシ、盲人、木阿彌、ソノ音聲甚ダ我ニ似タリ、宜シク喪ヲ延キテ、寢所ノ奥ニ置キ、我ノ如クニ事ヘテ、外樣ノ者ニ見シメヨト、即チ木阿彌ヲ召シ、スベテ遺言ノ如クセシガ、嗣子（後ノ順慶）長ズルニ及ンデ、木阿彌、又モトノ市人トナリヌ」（節文）[illegible]集、下「[illegible]ガ身ハツハ、もとの[illegible]」中江藤樹ノ翁問答ニ、朱塗モ蒔繪モ剝グレバ、本の木碗ト云フコト見エタリ）

〜もと-は（名）〔本葉〕〔うらば、すゑばニ對ス〕草木ノ莖、又ハ、幹ノ本ノ邊ニアル葉。萬葉集、十四　廿「サ夜フケテ、時由ナ降リソ、秋萩ノ、本葉ノモミヂ、散ラマク惜シモ」

もと-はぎ（名）〔本矧〕矢ノ名所。矢羽ノ下ノクキヲ卷キタル所。又、もとまきトモ云フ。羽ノ上ノクキヲ卷キタル所ヲ、末矧、又ハ、うらまきトモ云フ。

もと-はぎ（名）〔本萩〕〔もとあらのをはぎ（本荒木萩）ノ中略、木ノ本ニ葉ナク、アラアラシキ萩ノ意ト〕全體、宮城野ノ萩ハ、小萩、灌木ナリ、木ノ本ニ葉ナク、梢ニ青キ枝生ヒ出デテ、其枝ニ花咲ク。故ニ、コレ等ヲ云フカ。

もと-はず（名）〔本筈本弭〕弓ノ下ノ弭。はず（弭）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。運歩色葉集「本弭、モトハス」盛衰記、十五、宇治合戰事「河ノ中ニテ弓引テ、推流サレテ笑ハルナ、弓ノもとはず互ニスガリニ打チカケヨ、云云」

もと-びゃうし（名）〔本拍子〕神樂ニテ、元方ノ拍子ヲ取ルコト。又、其拍子ヲ取ル人。其末方ニテ取ルヲ、末拍子ト云フ。もとかた（元方）ノ條ヲモ見ヨ。著聞集、十五、宿執「例ナラズオハシマシケルガ、清暑堂ノ御神樂ニ、本拍子ニ催サレケレバ、云云」

もと-ぶね（名）〔本船〕（一）おやぶね（親船）ニ同ジ。（二）小舟ヲ從ヘル大ナル船ヲ、小舟ヨリサシテ云フ語。ホンセン。俳諧新選、六「本船ノ、陰ニ小舟ノ、涼ミケリ」

〜もと-へ（名）〔本方〕〔末方ニ對ス〕本ノ方。モトノ[illegible]人ノ守ル山、本邊ハ、[illegible]、末邊ハ、[illegible]、ウラグハシ山ゾ、泣ク子守ル山」（古義ノ訓）

〜もと-ほし（名）〔回〕（一）モトホスコト。メグラスコト。（二）マガリ。マハリ。縁。周邊。字類抄「緣、縁、モトヲシ」字鏡廿「廻緣、杏乃毛止保之」天治字鏡、四「[illegible]」（三）もとほり（回）ノ條ノ（三）ニ同ジ。新六帖、二「[illegible]ノ、もとほしハ、[illegible]キ世ニメグル、シワザナリケリ」

もと-ほし（名）〔纏〕〔まつはしのうへのきぬ（纏縫）ノ略ナルまつはしノ轉〕ほうえき（縫腋）ニ同ジ。はう（袍）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。増鏡、第十二、老波「鷹司道朝臣、もとほしノ袍ニ袴オヒテ、云云」

〜もと-ほ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔回周匝〕〔もとほるノ他動〕モトホラス。マハス。神功紀、十三年二月「[illegible]彼苦陪之、神酒醴ギ轉シ、祭リ來シ御酒ゾ」

〜もと-ほととぎす（名）〔古時鳥〕〔フルナジミノトリノ意〕去年聞キツル時鳥。又、フルクヨリ來テ鳴ク時鳥。萬葉集、十七　二十一「青丹ヨシ、奈良ノ都ハ、フリヌレド、毛等保登[illegible]、鳴カズアラナクニ」

〜もと-ほり（名）〔回〕（一）モトホルコト。メグルコト。雄略紀、[illegible]年十月「相羊[illegible]」（相羊ハ逍遙ナリ）（二）メグリ。マハリ。縁。周邊。字鏡「[illegible]也、[illegible]也、毛止保利」萬葉集、十九　二十「アリツツモ、見シタマハムゾ、大殿ノ、此ノ母等保里ノ、雪ナフミソネ」（古義ノ訓）同、同「大殿ノ、此ノ廻ノ、雪ナ踏ミソネ」（三）鷹ノ脚ニ着クル紐ノ金具。自在ニ旋廻ルヤウニ作レルモノ。モトホシ。

「[illegible]」

もとほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)　[回]徘徊　(一)〔又、もとほろ・ふ。マツハル。マトハル。メグル。マハル。字類抄「[illegible]、モトヲル、[illegible]」字鏡七十「[illegible]、毛止保留」神武即位前紀「神風ノ、伊勢ノ海ノ、大石ニヤ、[illegible]、[illegible]ノ」(猶ナドノ、[illegible]タル如ク、[illegible]キ様ルナリ)萬葉[illegible]ガ泣ク、君ナシニシテ」(古義ノ訓)「立チもとほる」(二)自在ニナル。又、思フヤウニ、トトノフ。「[illegible]、もとほらヌ」打消ニ、小兒ナド[illegible]

もとほろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四)　[回]　(隱[illegible]、[illegible])　もとほる(回)ノ延。前條ノ語ヲ見ヨ。古事記、中(神武)「神風ノ、伊勢ノ海ノ、オヒシニ、ハヒ[illegible]、[illegible]ノ、イハヒモトホリ、ウチテシヤマム」同、同六十「稲幹ニ、匍ヒ[illegible]、野老[illegible]」

もとみや　[illegible]　本宮　[illegible]本社[illegible]　同[illegible]。其[illegible]ノ(一)ヲ見ヨ。

もと・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二)　求　索　覓　要　〔目認む、ノ轉〕(一)〔ツキトムル。ミトムル。モトメル。字類抄「求、モトム」萬葉集、十七四十「マツガヘリ、シヒニテ(隣ガ)アレカセ、佐山田ノ、翁ガ其日ニ、母等米逢ハズケム」(二)〔得ムト尋ヌ。探リテ得ムトス。サガス。萬葉集、十六廿「長歌「濡ツ波ノ、寄スル白「[illegible]トゾ、君ガ東マサヌ」伊勢物語、第八段「住[illegible]」(三)〔欲シト請フ。[illegible]　[illegible]、モトムニ萬葉集、十六「[illegible]ノ、タメコソ乳母ハ、求トヘ、乳飲メヤ君ガ、オモ求ラム」[illegible]、[illegible]ニ、乳母ニ、[illegible]ニケルカモ、[illegible]ニ、行カマシモノヲ」(古義ノ訓)　(四)俗ニ、買フ。購フ。狂言

もとめ　(名)　求　(一)モトムルコト。(二)請フコト。アツラヘ。注文。需　「人ノ需ニ應ズ」(三)購フコト。買フコト。

記、[illegible]「マツ都ヘ上リ、[illegible]ヲ求メテ舞ラウト存ズル」

もとめご　[illegible]　[illegible]

もと・める　(動)　求　もとむ(求)ノ口語。

メコ」枕草子、九、第百六段「舞ハ駿河舞、求子」

もとも　(副)　最尤　〔元よりもノ略カ、或ハ云フ、眞ニ通フも(最中ナド)ヲ、最とモ[illegible]〕最ト[illegible]ナル[illegible]ナラム　第一[illegible]勝レテ。イチサキニ。最上ニ。音便ニ、もっとも。名義抄「尤、モトモ、寂、モトモ」字類抄「尤、モトモ、[illegible]」「もとも[illegible]シ」

もと・もと　(名)　元元　損モ益モナキコト。

もと・もと　(副)　元元　モトヨリ。最初ヨリ。[illegible]　元來　由來

もと・ゆひ　(名)　元結　(一)〔結ヒタル髪。モトドリ。萬葉集、二十五十「致キッツ、マスラヲノコノ、[illegible]フレコソ、吾ガ髪結ノ、漬ヂテヌレケレ」(古義ノ訓)謡曲、水無瀬「サル仔細候ヒテ、元結切リ、カヤウノ姿ト罷リナリテ候」(猶ナリ)(二)〔髪ノ髻ヲ結ヒ束ヌルモノ。古ヘハ、絲、又ハ、紙縒、又ハ、紙ヲ折リヒネリテモ用キ、又、平元結ナルモアリツラム。寛永ノ頃マデモ、女ハ細ソキ麻繩ヲ用キ(春[illegible])、農民ハ[illegible]ナリキ　倭名抄、十四十「[illegible]容飾具「[illegible]、毛度由比、以組束髪也」台記、保延二年十二月八日[illegible]、今日[illegible]、不[illegible]紙[illegible]、用紫本結」小大君集「宮ノ御もとゆひ搓リテマヰリ[illegible]、云云、北ノ方失セ給ウテ、云云、物ノ中ヨリ侍ケルヲ見タマフルニモ、云云、乾シワブル(涙ノ)、袖ノ中ニヤ、有ツラン、コレヲゾ玉ノ、緒ニハ搓

ラマシ」(紙縒ニ水ヲ含マセ、日ニ乾シタルヲ知ル)[illegible]記、三十一、[illegible]「[illegible]、[illegible]ヲヒロゲテ、何トヤラン書キツケテ、又、切、元ニ引結ビ[illegible]」[illegible]ノ紙縒ヲ用キルコトトナレリ。(近代世[illegible])長キ紙縒トシテ、米汁水ニ浸シ、更ニ元結[illegible]、[illegible]布巾[illegible]、[illegible]。又、[illegible]ゆひ、又ハ、おきもとゆひトモ云ヒキ。[illegible]テ、[illegible]、竹[illegible]ツ、[illegible]切[illegible]とひ。モットヒ。又、文七もとゆひ、縮もとゆひ、平もとゆひ、[illegible]ひ、ハネもとゆひナド、種種アリ。本朝世[illegible]、[illegible]ノ髻ナリ、紙ヲヒネリテ髪ノ元ヲ結フニヨリ、元結ト云フ」

もとより　(副)　由來　固　本　「本從ノ義」初ヨリ。舊クヨリ。モトモト。元來。古事記、上八廿「我之女者、自本在八稚女之」字類抄「本來、モトヨリ、元來、由來、已上同」

もどり　(名)　戻　(一)モドルコト。カヘルコト。還　退歩　(二)カヘリミチ。カヘリ。歸路　曠野集「藪見知レ、戻リニ折ラン、梅ノ花」(三)鈎ノ端ニ、逆ニ出デタル尖。物ヲ刺シテ、引懸クル用ニ供ツルモノ。逆鈎「釣針ノ戻[illegible]ノ戻」

もどり　(名)　翻筋斗　もんどり(翻筋斗)ニ同ジ。[illegible]集、十[illegible]、[illegible]ナマスニア、山雀ノ、もどり打ツヤウニ、飛ビカヘラレタリケル」

もどり・あし　(名)　戻足　モドル時ノ足。[illegible]集「[illegible]、[illegible]ノ、戻リ脚」

もどり・うち　(名)　戻打　又、もんどりうち(反打)ノ條ヲ見ヨ。

もどり・かけ　[illegible]　戻掛　モドラムトスルコト。歸ラムトスルコト。又、ソノ時。

[illegible]

もどり・かはせてがた　(名)　戻爲替手形　[illegible]

もどり・ぶね　(名)　[illegible]　[illegible]

ル戻船ニ乘テ、[illegible]ニ付ヨト言傳ラル」

もど・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)　戻悖　〔元反るノ略、もどすノ自動〕反ク。サカ[illegible]

もど・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)　[illegible]　[illegible]　[illegible]テ、もどるニハ、アシ屋ニ寢テモ、シラネヲゾスル」「家へ戻る」「[illegible]ガ戻る」「[illegible]ガ戻る」

もどろか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)　斑文　紊　〔もどろくノ他動〕(一)モドロカス。[illegible]八段「色色ノ衣、摺リもどろかしタル、紛ナド着セタリ」(二)紛ラハス。字類抄「文、モトロカス」[illegible]ノ文[illegible]カラシメントテもどろか(さ)シムルニハアラズ」

もどろ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四)　斑文紊　[illegible]かびろくト同趣」(一)斑ニナル。文ノ直ナラヌサマ[illegible]抄「文、モトロク」[illegible]集「モロコシノ、タマツム船ノ、[illegible]」

〜もどろ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二)【斑】文条 斑ニナス。モドロカス。又、身ニ剳青ナス。景行紀、廿七年二月「男女並椎結文身」 史記、周紀「太伯、虞仲、云云、亡如荊蠻、文身斷髮」

もどろ‐み (副) 斑 斑ナル狀、又ハ、亂レ紛ルル狀ニ云フ語。(しどろもどろみノ條參見セヨ) 夫木抄、二十二、衣「ミ狩リスル、カキノネスリノ、衣手ニ、亂レもどろみ、シメル我ガ戀」

もとゐ (名) 【基】 〔本居ノ義、ゐハ所ノ意、田居、雲居ニ同ジ〕 本トスルトコロ。又、根本トスルモノ。ドダイ。名義抄「本、モトヰ、基、モトヰ」 天治字鏡、九十四「陛、毛止井」 詩經、周南、關雎序「周南召南、正始之道、王化之基、是以關雎、樂得淑女以配君子」

も‐なか (名) 【最中】 〔眞中ト通ズ〕 (一)〔正シキ中〕 マンナカ。中心。中央。神武即位前紀「六合之中心乎」 天武紀、下、十一年八月「有虹當于天中央、以向日」 (二)事ノタケナハナルコト。最中。拾遺集、三、秋「水ノ面ニ、照ル月ナミヲ、カゾフレバ、今宵ゾ秋ノ、もなかナリケル」「酒宴ノ最中」 (三)菓子ノ名。餅ヲ薄ク正圓ニ燒キタルヲ皮トシ、二片、相合ハセテ、中ニ餡ヲ込メタルモノ。最中ノ月ニ寄セテ名トス。

〜も‐な・く (連體) ワザハヒナク。凶事ナク。も(凶)ノ條ヲ見ヨ。萬葉集、五 三十七 長歌「平ラケク、安クモアラムヲ、事モナク、喪無モアラムヲ」

〜も‐ぬ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) 【蛻】 〔身脫くノ轉〕 蛇、蟬、ナド、時ヲ定メテ外皮ヲ脫グ。倭名抄、十九 四十 蟲豸類「蛻、毛沼久、蟬蛇之解皮也」 源、三十四、下、若菜、下 七十「蟲ミオトロヘ、云云、もぬけタル蟲ノカラナドノヤウニ」

も‐ぬ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) 最拔 〔諸拔ノ意〕 スキンヅ 他ニ超エ出ヅ。仲間ニ超ユ。拔羣ナリ。ヅヌケル 卓拔 卓越 卓絕

〜もぬけ (名) 【蛻】 〔もぬけがは(蛻皮)ノ略〕 モヌクルコト。又、其皮。ヌケガラ。キヌ。倭名抄、十九 四十 蟲豸類「蛇蛻、一名、龍子衣、信夫乃毛奴介 五月バカリニ、云云、カフノウスヤウニ、蟬ノもぬけヲツツミテ」

もぬけ‐がは (名) 【蛻皮】 前條ノ語ヲ見ヨ。天治字鏡、八「蛻、毛奴介加波、又、蟬皮」

もぬけ‐の‐から (名) 【蛻殼】 ぬけがら(拔殼)ニ同ジ。平家女護島(享保、近松作)二「フシブシコメテカラ竹割リ、二ツニサケノ身、拔レタル ノもぬけの殼」

〜もの (名) 【物】 〔百名ノ略轉ト云フハ、イカガ〕 次條、及、次次條ヲモ參見セヨ。(一)凡ソ、形アリテ世ニ成リ立チ、五官ニ觸レテ其存在ヲ知ラルベキモノ、及、形ナクトモ吾等ノ心ニテ考ヘ得ラルベキモノヲ稱スル語。神代紀、上 廿三「口吐之物」 私記「久知與利止阿比留毛乃」 仁德紀、二十年十月「由瑕ノ、ツツキノ宮ニ、云云、吾カセヲ見レバ、尊クマシモ」 (二)事。「物思フ」「物馴ル」「物淋シ」「物凄シ」「物アラガヒ」「物學ビ」「物怖ヂ」「物ノアハレ」「物ノタメシ」「物ノ心」「物ノ師」「物ニモアラズ」 (三)コトバ。言語。源、四、夕顏 廿四「タダワレドチトシラセテ、ものナドイフワカキオモトノ侍ル」「物イヒ」「物ヲイフ」 (四)シナモノ。又、オクリモノ。物品。土佐日記、二月十六日「タヨリゴトニ、物モ絕エズ得サセタル」 (五)事ノワケ。道理。「彼ノ人ハものノワカッタ人ダ」 (六)或所。出向ヒ行クベキ所。源、五、若紫 五十二「ものヨリオハスレバ、マヅ出デムカヒテ」「物ヘ罷ル」「物ヘ行ク」「物詣デ」 (七)食物。飲食物。源、二、桐壺 九十「物ナトモキコシメサス、朝ガレヒノケシキバカリフレサセ給ヒテ」 (八)接尾語ノ如ク、各語ニ添フル語。「洗もの」「張もの」「ツギもの」「乾もの」「陶もの」「燒もの」「塗もの」「彫もの」「縫もの」「ハキもの」「磨もの」「置もの」「裁もの」「飲もの」「着もの」「負もの」「掛もの」「讀もの」「見もの」「調もの」「蒸もの」「香ノもの」「焚もの」「祇もの」

〜もの (名) 【物】 〔者ノ意ヨリ移ル〕 (一)神ノ異稱。六月月次祭祝詞「…」 祭祝詞「鎮ビ疎ビ來ラン物ニ」 (二)〔人ニマレ、何ニマレ、魂トナレル限リ、又ハ、靈アル物、幽冥ニ屬キタル限リ、其物ノ名ヲ指シ定メテ言ハヌヲ、ものト云フヨリ〕 邪鬼ト訓メリ、又、目ニ見エヌコリ、大凡ニ、鬼(萬葉集)ヲ、もト云フ、魂ニ鬼字 伊勢物語、第廿三段 鬼魅。邪神。妖鬼。物ノ氣。物狂。物ノ怪。物ノ託キタルモノ。史記、齊悼惠王世家「…人怪之、以爲物」 漢書 … 調七十八 …也」

もの (名) 【物】 (一)其物ヲ、直ニ其事ト指シアテテ言ハズ、何事ヲモヒトツニ、ツカネテ云フ語。又、接頭語トシテ用ヰル。もの(物、接頭)ノ條ヲ參見セヨ。(二)兵器。「物部」「物具」「物頭」 物になるトハ、然ルベキモノニナル意。物のきこえトハ、物事ノキコエ、人ギキ、世上ノ評判。源、十六、關屋 四「オボエヌ世ノサハギアリシコロ、物のきこえニハバカリテ」 物のねトハ、(一)物ノコエ。モノノオト。(二)ナリモノノ音。絲竹ノ音。源、六、末摘花 七「もののねニキキツイテタテルニ」 物ならずトハ、物ノ數ニモアラズトノ意。

もの (名) 者 〔物ノ義〕 (一)人。論語、雍也篇「有顔回者、好學、不遷怒、…」 困りもの、惡もの」「馬鹿もの」「タハケもの」「痴もの」「エラもの」「傲もの」 (二)事。…

〜もの (名) ものを、ノ略。古事記、下 …「塗樣テマシ母能、老イニケルカモ」 應神紀、廿二年四月「吉備ナル妹ヲ、相見ツル母能」

もの (接頭) 物 他語ノ頭ニ接キ、漠然トナク、其意ヲ添フル語。「ものアタラシ」「ものアハレ」「もの悲シ」

もの‐あげ‐ば (名) 物揚場 船荷ヲ岸ニ揚グル所。リクアゲバ。荷揚場。

もの‐あたら・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 【物新】 アタラシ。アラタナリ。

〜もの‐あつかひ (名) 【物扱】 事物ヲ取扱フコト。トリアツカヒ。源、五十二、蜻蛉 廿七「ナカナカ物あつかひニ、イトクレシゲナリ」

〜もの‐あはせ (名) 【物合】 物ヲ合ハセテ其優劣ヲ競フ遊戲。即チ、根合、草合、菊合、艶書合、今樣合、香合、(薫物合)、草子合、繪合、扇合、貝合、花合、蟲合ナドノ總稱。紫式部日記「御前ノアリサマ、繪ニカキタル物合ノ所ニゾ、イトヨウ似テ侍リシ」 枕草子、十、第百三十三段、うれしき物「物あはせ、何クレトイドムコトニ勝チタル、イカデカ、ウレシカラザラン」

〜もの‐あはれ (名) 【物哀】 ナントナクアハレナルコト。源、三十八、夕霧「カタノ月ノ、山ノハ近キホド、トメガタウものあはれナリ」

もの‐あひ (名) 【物間】 (一)物ト物トノ間。物ノアハヒ。堀川波鼓(寶永、近松作)下「下人共ハ、物あひヨリ棹棒、杖ヨ窓ヨト、支ユルモ擱トナリ」 (二)彼レト此レトノ隔リ。此彼ノ距離。間隔。狂言記、文藏「タカヒニソレゾト見シヨリモ、物あひ近クナリシカバ、云云」

ものあひ（名）[illegible]

ものあらがひ（名）[物爭] 事ヲアラガフコト。コトバアラソヒ。爭論。諍。源、[illegible]「[illegible]レ侍リヌベケレ」「四十二ノ物諍ひ」（書名）

ものあらがひ（名）軟體動物ノ腹足類ニ[illegible]小[illegible]溝ナドノ淡水ニ棲息シ、時時、水面ニ浮[illegible]十三、[illegible]五「ハチス葉ノ、上ハツレナキ、ウラニコソ、ものあらがひハ、ツクト云フナレ」

ものあんじ（名）物案 思ヒヤソアソコト 物ヲモヒ 心配 [illegible]「[illegible]阿波鳴渡（正德、近松作）上「二年越シニ音ヅレナク、ソレハ[illegible]ノ物案じ、ソレ故ニ此ノ病」

モノイ（名）木乃伊 [illegible] miyā. ノ訛］木乃伊ノ條ヲ見ヨ。

ものいうま（名）物射馬 やぶさめ（流鏑馬）ナドニ馴ラサレタル馬。

ものいぐつ（名）[物射沓] 騎射ニ用ヰル沓。ナメシ革ニテ作リ、爪先ニ[illegible]ヲ十ニトルヲ通例トス。

ものいはず（名）[物不言] おふし（啞）ノ[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]「啞、[illegible]、モノイハズ」

ものいはぬはな（名）[物不言花] 草木ノ花ノ稱（[illegible]人ヲ物言ふ花ト云フニ對シテ云フ語）[illegible]「[illegible]、[illegible]ニ吁バレテ、ウ（コイ）チクレバ、物いはぬ花モ、人招キケリ」

ものいはひ（名）[物祝] イハヒ。イハヒゴトヲ祝儀ヲ慶事。[illegible]、九、下、第七條

ものいひ（名）[物言] （一）物言フコト。「[illegible]」[illegible] クチキクコト。[illegible]「[illegible]」（二）[言葉ノイサカヒ。イヒアヒ。クチアラソヒ。口論。爭論。諍 源、二、[illegible]人ノ、物いひサガナサヨ」「物言トナル」（三）相撲ニ、勝負ニツイテノアラソヒ。

ものいふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）[物言] コトバヲ發ス。口ヲキク。コトトフ。モノガタル。モノマウス。古事記、上[illegible]「言誰來ニ我國ニ而、忍忍如レ此物言」

ものいふはな（名）[物言花] かいごのはな（解語花）ニ同ジ。（もの いはぬはな[illegible]）[illegible]物いふ花ドモ顯レ」

ものいまひ（名）[物忌] 惡シキ語ナドヲ忌ミテ、他ノ語ニ易ヘテ言フコト。イミコトバ。イマヒゴト。拘忌

ものいみ（名）[物忌] （一）或期間、家ニ籠リテ、深ク愼ミテ居ルコト。元來、神ハ穢ヲ惡ミ給フヨリ、神事ニ仕フル者、穢ヲ忌ミ、身ヲ清メ、飲食ヲ愼ミ、觸穢[illegible]、神ノ障リニテ家ヲ出デズ、靜ニ日限ノ過グルヲ待ツナリ。（陰陽家ノ說）齋 荒忌、散齋ハ神事ニ、官人ハ諸司ノ事ヲ執ルコト常ノ如クニシテ、喪ヲ弔ヒ、病ヲ問ヒ、肉ヲ食ヒ、音樂ヲナシ、穢惡ノ事ニ預ルヲ得ザルナリ。（神祇令）。眞忌、致齋ハ祭祀ニ從フモノナリ。齋戒 [illegible] （二）物忌札ノ略。物忌ノ二字ヲ、細ソキ紙ナドニ書キテ、[illegible]（三）天一神、太白神（各條ヲ見ヨ）[illegible]下九「方アキナバコソハ參リ來ベカナレト思フニ、例ノ心ユカヌ物いみニナリヌベカリケリ」

ものいみ（名）[物忌] モト神宮、[illegible]社ニ置カレタル童男、童女ノ職員ノ稱。事朝夕ノ御饌ヲ供フル事ヲ掌ルモノ。[illegible]童男[illegible]伊勢ノ神宮[illegible]奉ルヲ大物忌ト云フ、[illegible]キハ、七八歲以上、十二三歲以下ノ少女ナリ。おら（子良）ノ條ヲモ見ヨ。書言字考節用集、四、人倫門「齋、モノイミ、事ニ神女、本朝諸大社置之所[illegible]」[illegible]大神宮式[illegible]云云、物忌九人、童男一人、童女八人、父九人」儀式、一、平野祭儀「其參祭者、[illegible]御馬了、卽物忌神舞、次、山人和舞」

ものいみのこ（名）[物忌子] 大神宮ノ神樂、又ハ、神饌ニ仕フル童女ノ職員ナドト云フ[illegible]子良、又ハ、御子良、御子良子、おはらおナドト云フ[illegible]大社ニモ置ケリ、伊勢ニテハ、童男ヲモ用ヰタリ 略シテ、ものいみ。此子ヲ介抱スル男子ヲ、物忌父ト云ヒ、女子ヲ館母、母良ト云フ、正シクハ母良ト云フベキナリト云フ。

ものいみのたち（名）[物忌館] かんたち（神館）ニ同ジ。神官齋籠シテ、モノイミスル[illegible]子良[illegible]、[illegible]、[illegible]神道名目類聚抄（正德）二[illegible]ハ伊文字ト讀ムベシ」

ものいみのちち（名）物忌父 前條ヲ見ヨ。[illegible]人」註「禰宜一人、大内人三人、物忌十三人、物忌父十三人、小内人十三人」

ものいみのふだ（名）物忌札 略シテ、ものいみ。其條ノ（二）ヲ見ヨ。

ものいり（名）物入 費用 日本永代藏（貞享、西鶴）一「一門[illegible]」

ものうさ（名）[illegible]ト。源、七、紅葉賀[illegible]「ナグサメントオボセド、カナハヌ物うさニ、イトヒサシウナリニケルヲ、云云」

ものう・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）[物憂] （一）心氣、事ニススマズ。モノグサシ。モノウルサシ。タイギナリ。懶 懶 字鏡[illegible]「[illegible]」[illegible]ミギハノ芹モ、老イヌラシ、今ハものうし、若菜摘ム人」（二）誤リテ、憂シ。ツラシ。

ものうじ（名）[物倦] 又、ものうんじ。物事ニウムコト。物ニアキルコト。名義抄「倦、モノウシ」源、廿二、玉鬘[illegible]「哀ト思ヒシ人ノものうじシテ、ハカナキ山里ニカクレヰニケルヲ」

ものうたがひ（名）物疑 [illegible]コト 猜疑 [illegible]クトモ、絕エテ又見ジ、限リト思ハバ、カクワリナキ物うたがひハ、セヨ」

ものうち（名）[物打] 太刀ナドニテ、物

ヲ打チ切ルトキ、ソノ物ノフルル所、卽チ、切先ニ近キアタリ　狂言記、二、千石 此太刀ノ鍔本、物打、切先ニ名殘リヲ惜シイゾ」

ものうんじ (名) [物倦] ものうじ(物倦)ニ同ジ。源、廿五、螢四十「オシナベテノキハニハ思ハザリシ人ノ、ハカナキ物うむじヲシテ、云云」

ものうらみ (名) [物恨] 物事ヲウラムコト。モノエンジ　源、二十四、上、若菜、上二十二「マダキニ騷ギテ、アイナキ物恨シ給フナナト、イトヨク敎ヘ聞エ給フ心ノウチニモ、云云」

ものうらやみ (名) [物羨] 物事ヲウラヤムコト。宇治拾遺、三、第十六條「サレバ、ものうらやみハ、スマジキ事ナリ」

ものうり (名) [物賣] 物ヲ賣ルコト。アキナヒ。商賣。又、物ヲ賣ル人。商人。[商賈] 宇治拾遺、十一、第二條「萬ヅノ寶物ヲ呼ビ入レテ、云云、此ノ事ヲ、物賣ノヤシウ思ヘドモ」

ものおき (名) [物置] 薪、炭、雜具ナドヲ藏メ置ク小屋。物置小屋。納屋　日本永代藏(貞享、西鶴)二、(貸屋、云云、中ノカカリシ長持一ツ、物置ニモ藏ニモ、見レヌ溜ミニシテ」

ものおぢ (名) [物怖] 物事ニオソルルコト。又、ソノ性質。臆病　源、四、夕顏廿、物おぢヲナンワリナクセサセ給フ御本上(性)ニテ」

ものおぼえ (名) [物覺] 物事ヲ心ニ覺エテアルコト　記憶。記性

ものおもしろ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) [物面白] 物事面白シ。何トナク面白シ。源、三十九、御法八、彌生ノ十日ナレバ、花ザカリニテ、空ノケシキナドモ、ウララカニものおもしろく」

ものおもひ (名) [物思] (一)物事ヲ憂ヘ思フコト。物案ジ。モノヤミ。憂。心配　字類抄、憂、モノオモヒ、長背」仁德紀、三十八年七月「朕比有懷抱ニ聞二鹿聲一而慰レ之」源、一、桐壺五「ナカカナルものおもひヲゾシ給フ」(二)も(喪)ニ同ジ。略シテ、おもひ。綏靖即位前紀、[illegible]、[illegible]私記 美毛乃乎毛比」

ものおも・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 物思 物事ヲ憂ヒ思フ。物案ジヲス　略シテ、ものもふ。萬葉集、八廿二「朝戶アケテ、物念時ニ、白露ノ、置ケル秋萩、見エツツモトナ」

ものかき (名) [物書] (一)文書ヲ書クコト。又、文書ヲ書クニ巧ナル人ニテカキ。(二)文書、記錄ナドノ役人。カキヤク。右筆。筆吏　書手　(三)他人ノ代筆ヲスルコト。又、其人。代書　盛衰記、廿九、新八幡願書事「出家シテ西乘坊信救ト名ヲツキテ、南都ニ便宜ノ物書シテ居タリケル程ニ」

ものかげ (名) [物蔭] 物ノ蔭ニテ見エヌ處。狂言記、緡縄「物かげカラ御ロンヂャレイ」鷹野集 明キ夜ニ、物蔭見タリ、[illegible]ノ隈」

ものがしら (名) [物頭] (一)物ノ長。(二)(物ハ、物部ニテ、武ノ謂ヒカ」ツハモノノ、カシラ。又、武家ニテ、弓組、鐵砲組、ナドノ足輕ノ長。武頭。足輕頭。隊長　武家名目抄、七、職名部附錄、六「按ズルニ、物頭トイヘルハ、一人ノ職名ニアラズ、旗鐵ノ奉行、弓鐵炮ノ頭ナドヲ、スベイヘル名號ニテ、足輕同心ヲアヅカル職ナリ、サレバ、足輕頭トモ、同心頭トモ稱ス、又足輕大將トイヘルモ、コノコトナリ」

ものかず (名) [物數] (一)物品ノ數。好色五人女(貞享、西鶴)二「取リ集メテ、物數二十三」(二)口數。コトバカズ　好色一代女(貞享、西鶴)一、「詰メ開キ少シク物モ付ケ、ムツカシク見セテ、物數イハヌコソヨケレ」

ものかずならぬ (句) [物數不成] カゾフルニ足ラズ。普通ヨリ劣ル。

ものかずへ (名) [物數] (一)物ヲカゾフルコト。(二)白拍子ヲウタフコト。かごふ(數)ノ條ヲモ見ヨ　中[illegible]日記[illegible]日ノ[illegible]モシロキニ、[illegible]歌ウタヒ、物かずへナドスルモオカシ」

ものがた・し・キ・[illegible]・ク(形、一) [illegible] 所行ニ愼ミ深シ。心、律儀ナ[illegible]。謹厚　好色一代女[illegible]西鶴[illegible]ヲ[illegible]テ、隨分物堅キ[illegible]、ジョジョト喰ヒ出[illegible]」

ものかたらひ (名) [物語] [ものかたりあひノ約] ハナシアフコト。モノガタルコト　モノガタリ　宇津保物語、[illegible]二十「女人ノ旅ノ空ニカクレマシニシカバ、物かたらひスベキ人モナキ所ニハ、云云」

ものがたら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) [物語] ものがたりあふノ約　伊勢物語、第二段「ソレヲ、カノマメ男、ウチものがたらひテ」

ものがたり (名) [物語] (一)事ヲ語ルコト。話スコト。ハナシ。談　說話　字類抄、話、モノガタリ、話」 雄略紀、[illegible]以[illegible]爲[illegible]顧謂皇后曰」皇極紀、元年四月「親對語」(二)物語ヲ書ニ記シタルモノ　其書名トス　多クハ作事ノ物語、卽チ、ソノりものがたりナリ。世ニ傳ハリヌル最モ古キモノヲ、竹取物語トス、延喜ノ頃ノモノナリ。宇津保物語、源氏物語ナドモ是レナリ。イササカ據アルヲ作リカヘタルモノニ、伊勢物語アリ。轉ジテ、實錄ナルニモ用キル。榮花物語ノ如シ　又、物語合ト云フコトアリ　說語、モノガタリブミ　モノガタリボン　枕草子(桂宮本)第百九十段「物語ハ、住吉、うつほ」

ものがたりあはせ (名) [物語合] 物合ノ一。左右ニ組ヲ分ケ、物語ノ書ニ歌ナドヲ添ヘテ出シ、其優劣ヲアラソフモノ　榮花物語、三十七、煙の後「物語合トテ、今新シクツクリテ、左右方ワキテ、二十人合ナドセサセ給ヒテ、イトヲカシカリケリ」

ものがたりどころ [illegible] [illegible] [illegible]

ものがた・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [物語] 物事ヲ語ル。ハナシス。モノガタリス。

ものがな・し・シ・キ・シケレ・シク・シク(形、二) [物悲] 物事、何トナク悲シ。ウラガナシ。萬葉集、十九九「春マケテ、物悲しラニ、小夜フケテ、羽ブキ鳴ク鴫、タガ田ニカ[illegible]」古[illegible]ノ[illegible]」

ものかは (名) [物川] 女舞人ノ名稱。下ノ出典ヲ見ヨ　枕[illegible]記、九十五、[illegible]九十七條、物川[illegible]拾、十一、[illegible]二、[illegible]、內[illegible]坊之女樂[illegible]人[illegible]使[illegible]向[illegible]、[illegible]人ハ、昔ハ眞實ニ歌舞シケル也、而ニ雅樂舞人爲ニ行ケレバ、女舞師召ニ上物川ハ下ニ母屋製版ニテ、其內ニ[illegible]、物川[illegible]、何舞ヲ、[illegible]、不[illegible]、[illegible]如何、又云、不[illegible]、次問[illegible]、[illegible]、[illegible]ヲ不[illegible]シテ稱[illegible]物川[illegible]、[illegible]也、次此由ヲ令[illegible]、[illegible]、[illegible]ト云ケレバ、物川ハラハラト逃去ニケリ、伶女樂人ト云云)中古已來絕畢」

ものかひ (名) [物飼] 物ヲ飼フコト。又、其飼フモノ　[illegible]集、廿、[illegible]、云云、[illegible]物ナドモ知ラズ、コロツノ[illegible]ハセ侍レモ、所セク覺エ、ユユシキものかひトルニヨリテ、云云」

ものから (接尾) [物ながらノ略、みながらノから二同ジ] ソノ物事ニハアレド。モノナガラ。ナレドモ。デハアルガ。　古今集、十四、戀、四「今ハトテ、返ス言ノ葉、拾ヒ置キテ、己ガ、ものから、形見トヤ見ン」源、七、紅葉賀[illegible]「ネタトものから、工場ヘテ笑ヒヌ」

ものがら (名) 物柄　物ノ品柄　徒然草、第

八十一段「古メカシキヤウニテ、イタクコトゴトシカラズ、ツヒエモ無クテ、物がらノヨキガヨキナリ」

ものぎき [illegible] 落窪物語、一「ヲカシク、ものぎきヨクイヒツル人カナ」 (二)[物事ヲ聞キサグルコト。又、ソノモノ。シノビ。探偵。 枕草子、二、第十四段「ものぎきニ、宵ヨリ寒ガリワナナキ居リツル[illegible]」云云」

ものきせ (名) 物着 能ノ舞臺[illegible]テ、演技者ニ新ナル装束ヲ着セシムルモノ。

ものぎは (名) [物際] (一)行フベキ物事ノマギハ。 三河物語(大久保彦左衛門)上「ハヤリテ鑓ヲ入レバ、物ぎはニテ鑓ガヌケテ、鑓ガ弱キ物成」 (二)暮ナドノ、世事ノ多忙ナルトキ。 日本新永代藏[illegible]、北條[illegible]「[illegible]ノ節季、物際モ、此ノ内ハ楊弓ノ格 音シヅカニ」

ものきほし (名) 物着星 指ノ爪ニ現ハルル白キ小點。婦人、小兒ナド、衣服ヲ得ルシルシトシテ喜ブ。爪ノ星。[爪花] 俳[illegible]川、[illegible]「[illegible]ヒカケテ見ル、爪の星」

ものぎれ (名) [物切] 物品ノキレテナクナルコト。シナギレ。 狂言記、成上物「其上、名作物ナレバ、物ぎれデ御座ルト申」

ものぐさ (名) [物種] 物ノタネトナル材料。物事ノモト。多クハ草ニ寄セテ云フ。 拾遺集、九、雜、下「種ナクテ、ナキものぐさハ、生ヒニケリ、マクテフコトハ、アラジトゾオモフ」

ものぐさ (名) [物草] 藁草履ノ類ナルベシ。 [illegible]二十六、[illegible]「[illegible]アマタ指シテ、牛物草ヲゾハキタリケル」 松屋叢考、二「ものぐさ、云云、牛物草ハ尻切トモイヒテ、(尻切ハ草ニテ製ルコシ、小中錦ニ見エタレト、革製ハ後ノ事ナルベシ) 脚半ノ方言ニ、足半トヨブモノ也」

ものぐさ (名) [懶] [ものぐさしノ語根] 物事ヲスルニ大儀ナルコト。モノウキコト。又、ソノ性質。又、ソノ人。 撰集[illegible]トテ、隣家ニテ揉ミケリ」「物草太郎」(書名)

ものくさ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) [物臭] 何トナク臭シ。 落窪物語、一「女君ハホドフルママニ、物くさき部屋ニ臥シテ、云云」

ものぐさ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) [物臭し、ノ義カ] モノウシ。大儀ナリ。メンドウナシ。 [illegible]「[illegible]物ウシ」 [illegible]兵ハ、百八十騎ウタレタリ、今ハムカフカタキノアラザレバ、ものぐさひイクサカナトテ、コダカキトコロヘコマカケアゲ、シバラク陣ヲ取ッタリケル」

ものぐさたらう (名) [物草太郎] [擬人語] 懶者ヲ罵リテ云フ語。 紫の一本(天和)白山[illegible]ニテ、[illegible]ル者モ、皆[illegible]ノ物ぐさ太郎ノ初心者ナリ」「物草太郎」(書名)

ものぐさもの (名) 懶者 モノウキ性質ノ人。無性ナルモノ。ナマケモノ。

ものぐるは・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [物狂] ものぐるほし(物狂)ニ同ジ。 撰集抄、三、第六條「凡此上人ハ、ヨロヅものぐるはしきヤウヲナン、シタマヘリケル也」

ものぐるひ (名) [物狂] [鬼祟ニ狂ふ意] キチガヒ 狂氣 顚狂 倭名抄、[illegible]「[illegible]狂、毛乃久流比」 枕草子、十、第百三十二段「世中ニ猶イト心ウキ物ハ、人ニニクマレンコトコソアルベケレ、誰レテフ物ぐるひカ、ワレ人ニサ思ハレントハ思ハン」

ものぐるほ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [物狂] 又、ものぐるはし。狂氣ノ狀ナリ。キチガヒジミテアリ。 枕草子、四、第四十四段「長ソスコシオトリモテ行ク、白山ノ觀音、コレキヤサセ給フナト、祈ルモ物ぐるほし」

ものげな・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 無物氣 [illegible] チイサキ人ノ、ものげなきスガタゾシタル」

ものごころ (名) [物心] 又、[illegible] ル意。世情ノワカル心。世情

ものごし (名) [物越] 物ヲヘダテタルコト。 源、十、賢木「ものごしバカリノ對面ハト、人シレズ待聞エ給ヒケリ」

ものごし (名) [物こなしノ略カ] (一)モノノイヒブリ。コトバヅカヒ。[illegible] ナリ」(詰切同然ハ、言辭不分明ナリシト云フ) 武家[illegible]アッテ、四國ソダチトハシレケル」 (二)身ノコナシ方。ヤウス。行儀。[illegible] 「ものごしガヤサシイ」

ものごと (名) 物事 物ト、事ト。又、一切ノ事物。モロモロノ事。

ものごのみ (名) [物好] 物事ヲスキコノムコト。モノズキ。又、物ヲヨリ好ミスルコト。 狭衣、三、上「[illegible]イト花ヤカニ、ものごのみシ給フ御本性ニテ、云云」

ものごは・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 物強 カタクルシキ狀ナリ。打チトケヌサマナリ。 源、五、若紫「スクヨカニイヒテ、ものごはきサマシ給ヘレバ、若キ御心ニ恥カシクテ、云云」

ものごり (名) 物懲 物ニコリルコト。 源、四、夕顔「カク怪シキ路ニ出テ立チテモ、アヤウカリシ物ごりニ、イカニセント思シワヅラフヘト」

ものさし (名) [物差] [物ヲさしハカル [illegible] ノ長短ヲ差シ計リテ知ル具。竹、又ハ、[illegible] 尺ノ一尺二寸(今ハ一尺二寸五分)ヲ一尺トスルヲ、呉服尺(ごふくざし)トモ云フ)ト云ヒ、専ラ布帛ヲ度ルニ用ヰル。又、曲尺ノ一尺二寸五分(或ハ、一尺一寸七分三厘六毫)ヲ一尺トスルヲ、鯨尺(くぢらざし)トモ云フ)ト云フ。其他、大[illegible]、高麗尺、[illegible] く(尺)ノ條ノ(一)ヲモ見ヨ。 書言字考[illegible] 寸二(舊尺一尺二寸二分弱)爲二一尺一[illegible] 此尺ハ故名」同「鯨尺 以二曲尺一尺二寸五分一(舊尺一尺二寸七分)爲二一尺一以二鯨魚鬚一製レ之故名」

ものさだめ (名) [物定] 物ノ[illegible]、美醜、ナドヲ判定スルコト。シナサダメ。品評。品隲 源、二、帚木「馬ノ頭、ものさだめノハカセニナリテ、ヒヒラキヰタリ」

ものざね (名) [illegible] モノシロ。さね(實)ノ條ヲモ見ヨ

ものさはに (副) [物多] モノノアマタ [illegible] 所成」

ものさび・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [物寂] 何トナクサビシ。ウラサビシ。索莫ナリ。 源、十、榊「西ノ對ニモ渡リ給ハデ、人ヤリナラズ物さびしゲニ、ナガメクラシ給フ」

ものさわが・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二)

物騷　(二)〔物音シテ、サワガシ。世ノ中、騷騷シ　物騷ナリ　物忽ナリ　ヤカマシ〕延慶本、平家物語、一、本、丹波少將殷經西八條へ被召事「夜部ヨリ、世間、物さわがしト承レバ、云云」　源、廿三、初音三「アシタノホドハ、人人マイリコミテ、物さはがしかりケルヲ、云云」　(三)モノイソガハシ。性急ナリ。

もの-し　(名)　物師　(一)其技ニ能ク心得タル者　又、物事ヲ能ク心得テ居ル人。落窪物語、二「長ノ兵、云云、物ヒカヘサセ(折目付ケサセ)タマヘ、イミジキ物しゾ麻呂ハ、トテ、向ヒテアラセタマフ」御物師ノ條ヲモ見ヨ。　(二)事物ヲ、ツヅマヤカニスル人　色道大鑑、延寶「一、物仕、男ニヨラズ女ニヨラズ、功者ニシテ、物事、シナシノ約カニ整フル人ヲサシテ云フ」

もの・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二)　物　〔カヤウニハアルマジキモノヲ、ト人ヲ恨ムル意ヲ云フ語〕　物物シクテ厭ハシ　目障リナリ、氣障リナリ　宇津保物語、初秋、下八十九「御殿油アラハニ點セバ、ものし、イカニセマシト思ボシナハシマスニ」　源、三十一、槇柱四十「御目ノ、イタウ泣キ腫レタルゾ、少シものしけれド」　同、四十四、橋姫六十「ケハヒイヤシク詞ダミテ、骨ナゲニ物馴レタル、イトものしくテ」

もの-したのたふさぎ　(名)　袙　〔裳ノ下ノ犢鼻褌ノ義〕　婦人ノ膚袴、裳ノ下ニ着ルモノ。シタバカマ。　倭名抄、十二九十衣服類「袙、袙子、毛乃之太乃太不佐岐、一云、水子、小袙也」

もの-しづか-に　(副)　物靜　土地ノ閑靜ナル狀、又ハ、態度ノシトヤカナル狀ニ云フ語　本朝若風俗(貞享、西鶴)六「寬閑ニゾ生レ付テ、物靜かに、自カラノ若女カタ」

もの-しり　(名)　物識　博ク物事ノ旨ヲ知リ得テアルコト。又、ソノ人ノ稱。モノシリビト。　博識　龍田祭祝詞「百ノ物知人等ノ卜事ニ出デム神ノ御心ハ、云云」

もの-しり-がほ　(名)　物知顏　物事ノ旨ヲ知リタル風ノ顏ツキ　枕草子、二、第十七段「今參リノサシコエテ、ものしりがほニ、敎ヘヤウナルコトイヒ、ウシロミタル、イトニクシ」

もの-しろ　(名)　物實　物代　ものざね(物實)ニ同ジ　崇神紀、十年九月「此彼國之物實則反之乳、物實、此云、望能志呂」

もの・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變)　物　ソノサマニテアリ。居ル。　宇津保物語、國讓、中廿「親ノものせラレツル時コソ、サテモアリツレ、イカニ心細ク ワビシカラン、云云」

もの・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變)　物　事ヲ爲。(スベテノ動作ニ云フ)　ナス。　源、一、桐壺十「御子トモアマタ隱後ニものし給フ」　同、二、帚木三十「コレハ足ラズ、又サシ過ギタル事ナク物し給ヒケルカナト、云云」

もの-ずき　(名)　物好　(一)格段ナル物事ヲ好クコト。又、ソノ性質　好事　好奇　又、一風カハリタル事ヲスル癖。又、ソノ人。　(二)建築、園藝、衣服、骨董品等ニ、特別ノ趣向ヲ凝ラスコト

もの-すご・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一)　物凄　(一)何トナクスゴシ。何トナク恐ロシク、スサマジ。凄慘ナリ。　延慶本、平家物語、六、本、大臣殿父子關東下給事「美乃國不破關ニモカカリヌレバ、細谷川ノ水ノ音ものすごく音信テ」　(二)非常ニスルドシ。「物凄き腕前」

もの-すさま・じ・ジキ・ジケレ・ジク・ジク(形、二)　物凄　何ントナクスサマジ。荒涼ナリ。凄寥ナリ。寂寞ナリ。　源、十、榊二十「殊ニ慾ク事ナケニテアルヲ見給フニモ、今ヨリハカクコソハト思ヒヤラレテ、ものすさまじくナン」

もの-たち　(名)　物裁　衣服ノ裁縫　源、廿八、野分八十「ものたちナドスル老御達、御前ニアマタシテ、細櫃メクモノニ、綿ヒキカケテ」

もの-たち-がたな　(名)　裁刀　〔物斷刀ノ義〕　衣ヲ縫ヒ作ル時、布帛ヲ斷チ切ル刀。タチモノバウチャウ。　倭名抄、十四四十裁縫具「剪刀、唐云、毛乃多知加太奈、所以裁衣裳也、剪刀ハはさみナリ」

もの-だね　(名)　物種　(一)〔物ノ種〕　物事ノモト　神代紀、上廿「原其物根」　(二)タネモノ。草木ノ種子　蕪村句集、春「初午ヤ、物種賣ニ、日ノアタル」

もの-たらず　(副)　物不足　物ノ不足、又ハ、不十分ナル狀ニ云フ語。

もの-つき　(名)　物憑　物憑　物の怪ノ憑リツクコト。又、ソノ憑リツカレタル人。ヨリマシ。(御産、御名附ノ時ナド)　盛衰記、九、宰相丹波少將申下事「新大納言父子、井ニ俊寬康賴等ガ靈ドモトテ、御物附ニ移ッテ、樣樣ニ申ス事共有リケリ」　今鏡、第八、源氏御息所「ものつきニ、モノウタセテ居サセタマヘリケルコソ、云云」

もの-つくり　(名)　物作　耕作ヲスルコト。農産物ヲ作ルコト。又、ソノ人。　五十年忌歌念佛(寶永、近松作)上「正月ノ貢モ隙ナシ、ものつくりノ事ナレバ、イヤ大根時ノ、綿時ノ」

もの-つけ　(名)　物付　音便ニ、もっつけ。ものおほせ(物負)ノ條ヲ見ヨ。

もの-つつま・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二)　物愼　ナニトナクツツマシ。イカニモ愼マシ。　落窪物語、二「イミジウ物つつましきウチニ、カヤウノ文モマダ見知ラザリケレバ」

もの-づつみ　(名)　物愼　モノ事ヲツツミ隱シテ、言ハヌコト。　源、四、夕顏「世ノ人ニ似ズものづつみヲシタマヒテ、人ニモノ思フ氣色ヲミエンハ、ハヅカシキモノニシ給テ」

もの-とがめ　(名)　物咎　トガメダテヲスルコト　源、五十一、浮舟六十「殿八、イミジクモノトガメシ給ハズ」

もの-ごひ　(名)　物問　モノトフコト。ウラナヒ。卜筮　源、五十二、上「乳母ノモノトヒシテ、サヤウニモ知ラセ給ヒケレバ、ものとひ何ヤカヤト、心シルドチハ、ヤスキ空ナク、云云」

もの・とふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四)　物問　モノトヒヲナス。ウラナフ。　狹衣、二、下八三十「殿ノウチニ、騷シキ物ノサトシ(天變地異)ノアルヲ、ものとはセ給へバ、云云」

もの-どほ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一)　物遠　(一)〔物事オロソカナリ。疎遠ナリ。　空闊　源、七、紅葉賀「オノオノ膝上ニ參リ給へリ、イトシヅカニ、ものどをきサマシテオハスルニ」　(二)マハリドホシ。ウトシ。　迂遠

もの-ども　(名)　者共　多クノ人人。トモガラ　輩　平家物語、十二、六代　世ニウツクシキ若君ヲ、北條殿ノ只今取リ奉ラルルゾヤトテ、者どもヒシヒシト走リ集リケレバ」

もの-ども　(代)　者共　多クノ從者ナドヲ卑シメテ云フ語。　曾我會稽山(享保、近松作)三「ヤアヤア者共、云云、家デモ鹿デモ一疋生取リ」

もの-どり　(名)　物取　他人ノ物ヲ奪ヒトルコト。又、ソノモノ。　盜賊、行助、ナドノ業。　奪掠　太平記、廿七、田樂事「桟敷傾キ、云云、殺、打殺、者共數ヲ不知、カカル紛レニ物取ドモ、人ノ太刀、刀ヲ奪ヒテ逃グルモアリ、云云」

もの-ならはし　(名)　物習　物事ヲナラハスコト。又、學問セシムルコト　古今集、九、羇旅「天ノ原、フリサケ見レバ、云云、此歌ハ昔、仲麿ヲ唐土ニ、物ならはしニ遣ハシケルニ、云云」

もの-ならひ　(名)　物習　物ノ道ヲ習フコト。マナブコト。學問。　欽明紀、元年二月「付百濟國使恩率首信等、發遣學問」

ものなら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［物習］[illegible]ブ。學問ス。名義抄「學、モノナラフ」

ものならふひと［illegible］[illegible]習フ人。學問スル生徒。學生　推古紀、[illegible]

ものなり（名）［物成］（一）田畑ヨリノ收穫[illegible]年貢ノ最高ヲモ云フ。[illegible]トモ云ス。[illegible]石ト云フハ、[illegible]ノ最高ノ[illegible]テ、其米ノ高ハ、コレヨリ滅ズ。因リテ、物百石ヨリ米六十石出ヅルヲ、六つ物成、ナド云フ。五つ物成、四つ物成ノ意モ亦同ジ。三十五石ナルヲ、三つ五分ナド云フ　折木[illegible]

ものな・る・ルル・ルレ・レ・レヨ（自動、下二）［物馴］物事ニ馴ル。物事ニ慣ノ。熟ス。熟練ス。モノナレル[illegible]頭ニ、物なれテイヘルカナト、云云」

ものなれ（名）［物馴］物事ニナレタルコト。又、世故ニタケタルコト　熟練

ものな・れる（動）物馴　前前條ノ語ノ口語。

源、九、葵[illegible]「ものなれノサマヤト君ハオボス」

ものぬし（名）［物主］モノノ持主。又、[illegible]ノ財産ノ所有スルモノ。[illegible]天正記、[illegible]知行物「羽柴孫七郎秀次、江州ノものぬしトシテ」

ものねんじ（名）［物念］物事ヲ堪ヘ忍ブ[illegible]ものねんじシテ[illegible]ドカナル人コソ幸ハ見果テ給フナレナドイフナリ」

ものの（副）殆ド。オホヨソ。[illegible]のの三年モ經ツト」

ものの[illegible]花[illegible]「ケサウダツ筋ナウ心ヤスキものの、サスガニノ給ヒタハブレナドシテ」枕草子、一、第十三段「心得サセ給フモヲカシキものの、ヒガ覺エモシ、ワスレタルナドモアラデ、イミジカルベキ事ト、云云」

もののあはれ（名）［物哀］（一）物ゴトニ心ヲ動カシメ、[illegible]思ヲ誘ノ情趣[illegible]クハ、[illegible]ノ風景[illegible]物ノ[illegible]自然ノ風物ノ[illegible]「春ハタダ、花ノヒトヘニ、咲クバカリ、もののあはれハ、秋ゾマサレル」（二）［有情非情ニツキテ、動ク人ノ心[illegible]日記[illegible]もののあはれモ知ラデ、オノレシ酒ヲクラヒツレバ、早ク往ナントテ」

もののかひ（名）［物］［物ノ交ノ義］金錢ナドヲ借リテ、償フベキ負ヲ負ノバキモノ。物ヲ負ルコト。又、オヒメ　借錢、借金、負債　字鏡[illegible]「債、(毛)乃乃加比」天治字鏡、一三十「債、毛乃乃(加)比」(五ニ誤脱ス、(加)ハコレ狩谷棭齋ノ加ヘタルナリ）持統紀、元年七月「負債」[illegible]

もののぐ（名）［物具］〔裝束抄ニハ衣服、武器、鞍車、諸具ヲ云ヘリ〕（一）調度。道具。[illegible]廿六、雜[illegible]年頃住　侍リケル女ヲ、男思ヒハナレテ、ものの具ナドハコビハベリケレバ、云云」（二）東帶ノ稱　[illegible]門院右京大夫集、上、一「[illegible]ノ頃、[illegible]引ノ御姿、宮ノ御もののぐ召シタリシ御サマナドノ、イツト申ナカラ、目モアヤニ見エサセタマヒシヲ、[illegible]」（三）［兵器ノ稱］專ノ戰ニ用サル調度ナル物。[illegible]調度ノ弓矢、道具ノ槍ナドヲモ云フ）具足。垂仁紀、廿七年八月「令祠官[illegible]」

もののけ（名）［物氣物怪］〔鬼祟の氣ノ意〕[illegible]物ノ怪、[illegible]妖鬼　妖怪　邪氣　榮花物語、十二、玉村菊「御物氣ヤ、又、カシコキ神氣ヤ、人ノ呪咀ナドサマザマニ、云云、タダ御祭祓シキリナリ」

ト云[illegible]（四）貴婦人ノ禮裝[illegible]意）裝束[illegible]マデ一具シタルヲ、「もののぐ着タル女房」

もののおもろ（名）［物心］ものおもろ[illegible]同[illegible]ヌ、人ゾナキ、ものの心ヲ、知ルモ知ラヌモ」

もののぞみ（名）物望[illegible]ト[illegible]八段「正月ナドニハ、タダイトモノサワガシク、物のぞみナドスル人ノ、ヒマナク詣ヅル見ルホドニ」

もののな（名）物名　和歌、俳諧ノ[illegible]ニ、物ノ名ヲ[illegible]ノ語ニ[illegible]シテ、詠ミ入ルルコト。又、隱題。コメダイ。例ヘバ、ほととぎすヲ、古今集、十、物名「来ベキほど、ときすぎすレヤ、待チワビテ」ナドト詠ムガ如シ

もののふ（名）武士［「兵器ノ物」ト云ヒ、ふハ丈夫ノ夫、即チ、物ノ夫ノ意、物ノ具ト同趣］（一）［古ヘ、武勇ヲ職トシテ仕フル武士ノ稱。一部トナリテ物部ト云ヒ、轉ジテハ、凡ソ朝廷ニ仕フル官人ノ稱トナレリ。萬葉集、十八、長歌「毛能乃布ノ、八十伴雄ヲ、マツロヘノ、ムケノマニマニ」（古義[illegible]）同[illegible]「物部ノ、八十氏人[illegible]ルコトナク、ツカヘツツ見ム」（二）ツハモノ。武士。サムラヒ　武勇[illegible]

中ニテ、東遊ニ達シタルモノノ稱ト云[illegible]リ始メテ、物のふしマデ[illegible]」

もののふの[illegible]ク、ソノやヲ八十ニカクル語）（一）八十伴緒、八十氏川、八十氏人ナドノ八十[illegible]八十氏河ニ、下[illegible]ナス」同、十九[illegible]物部能、八十ノ[illegible]萬葉集、廿[illegible]「秋野ニハ、今コソユカメ、母能乃布能、[illegible]「物部之、氏川渡リ、少女ラニ、相坂山ニ、手向草」（三）[illegible]石上[illegible]布留[illegible]社ノ、霧公鳥、今モ鳴カスカ、山ノトカゲニ」

もののふし（名）［物節］近衛ノ舍人ノ

もののべ（名）物部［武士部ノふノ略、二兵器の聚ノ義］（一）武士ノ一部族ト[illegible]ナリタルモノ。武官[illegible]命、天上ヨリ[illegible]ハ、此氏ノ人、御代御代統ベ來ツレバ、[illegible]物部氏ノ[illegible]物部ノ八十氏ト云ヘリトゾ。崇神紀、七年十一月「物部八十手(物部ノ人)所作祭神之物」[illegible]ヘ刑部省[illegible]刑

スル官人。 職員令義解、[illegible]「[illegible]四十人、[illegible]仕丁、帶仗守獄名、[illegible]」

ものの-ほん (名) [物本] 書物。書籍。 さうし(冊子)ノ條ヲモ見ヨ。 雍州府志、七、土産門、下、服器部「書冊、倭俗、書冊、總謂二物本一、以二[illegible]之謂[illegible]物本屋一」

ものはづか・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [物恥] ウラハヅカシ。何トナク恥シ。 源、廿一、少女三十四「カタミニものはづかしく胸ツブレテ、物モイハデ泣キ給フ」

ものは-づけ (名) [物附][物者附] 〔赤イものは、黒イものは、出デスルものは、ナド題ヲ出シテ、答ヲ附ケサスル戯ヲ云フ〕 なぞづけ(謎附)ニ同ジ。 我衣(文化、曳尾庵)「寛保元年ノ冬、なぞ付けトテハヤル、點者ヨリ題ヲ出ス、是ハ今ノ物は附ナリ」

ものはみ (名) 〔物食ノ義ナラム〕 鳥ノ喉ノ中ニ、食物ヲ受ケテ裹ム處ノ名。エブクロ。胃。 嗉 倭名抄、十八、羽族體「嗉、毛乃波美、鳥受食處也」 同、十九、[illegible]「[illegible]、加仁之毛乃波美、在[illegible]腹内[illegible]者也」

ものはゆげ-な (副) [物映氣] ものはゆき狀ニ云フ語。 盛衰記、四十六、義經始終有樣事「忍ヤカニ物申サント思テ、忍ニ如何ニヤト申テ候シカバ、少シ物はゆげニ覺シテ」

ものはゆ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) [物映] 何トナク面ハユシ。何トナク恥シ。

ものはり (名) [物張] 〔布ヲ張リテ、染ムル意〕 (一)紺カキ。染物屋。又、染物ナドシテ仕ヘタル女。(二)アラヒハリスルコト。又、裁縫スルコト。 今昔物語、廿四、第廿七語「尼、已ハ故宰相殿ノ物張ニテナン侍リシ」 十訓抄、上、第三、第三條「オノレハ故殿ノ物はりニテ、オノヅカラ承ハリシナリト云ヒケレバ」

ものび (名) [物日] 〔物、事ノ意〕 五節供、其外、[illegible]日ナドノ稱。遊里ニテハ、[illegible]便ニ、もんびト云フ。 松の葉(元祿)三、一夜かがみ「此身ハ梵天國ニナルトモ、もの日もの日ハ無ニセマイ」 [illegible]錄、四、第十條「女郎定ッテノウル日ヲ、江戸ハ役日、京ハ物日、大坂ハ紋日トイヘリ」

ものふ・る・ルル・ルレ・リ・リ・リヨ(自動、上二) 物古ル。舊クナル。フルブ。 枕草子、四、第三十九段「木立ナド、ハルカニものふり、云云」

ものほし (名) [物干] 洗ヒタル衣、布帛ノ類ヲ、日ニ乾スコト。又、ソノ爲ニ設ケタル處。都會ニテ、多クハ、屋根ノ上ニ作リ掛ケタルヲ云フ。ものほしば。 曬臺 心中重井筒(寶永、近松作)中「屋根[illegible]キ、イツカ思ヒハ山口屋ノ、物干傳ヒ忍ビ來ル」

ものほし・む (動) 物欲 物欲シト思フ。 ほしむ(欲、自動)ノ條ヲ見ヨ。

ものまう (感) 〔物申すノ略〕 人家ノ門ニ音ナヒ、案内ヲ請フニ呼ブ聲。アンナイマウ タノム 略シテ、ものも。 請詞 日本、代[illegible]、[illegible]門ニものまうノ[illegible]、親友[illegible]、侍立門外、呼云[illegible]、[illegible]乃人在[illegible]、 日本風土記(全浙兵制附錄)[illegible]

ものまうし (名) [物申] 〔ものまをしノ音便〕 (一)モノイフコト。コトトフコト。案内ヲ乞フコト。又、其人。 獨宗紀、元年二月「[illegible]、無[illegible]者入則鳴之」 (二)使スルモノ。使者。 持統紀、六年六月「遣二大夫謁者一、詣二四畿内一請レ雨」

ものまう・す・ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) [物申] 〔ものまをすノ音便〕 物言ふノ敬語。コトトフ。消息ス。案内ヲ乞フ。 ものまをす(物申)ノ條參見セヨ。 仁德紀、三十年十月「山城ノ[illegible]宮ニ[illegible]」[illegible]レバ、[illegible]ト云フ物、[illegible]

ものまうす-つかさ (名) [物申司] 納言ノ異稱。納言。 天武紀、下、九年七月「[illegible]納言[illegible]」

ものまうで (名) 〔もの(物)、并ニ、まうづ(詣)ノ條ヲ見ヨ〕 或神佛ヘ詣ヅルコト。モノマヰリ。參詣。 枕草子、二、第廿段「ソレモものまうでヲゾセシ、[illegible]ナドハ、コトニ多クモ聞エサセ[illegible]」

ものまさ (名) [illegible] 尸者。[illegible]、死人ニ[illegible]セシメ置ク者ノ意ツト云フ。尸ハ、死者ノ[illegible]、弔ヒニ來タル人ニ會フ人。 神代紀、下ニ注「以レ鶏爲二尸者一」 口決「尸者者、死衣ニ而謁レ弔」 私記「毛乃萬左止須、死人爾可巳利乎毛乃久良不人也」 舊事紀、三、天神本紀「以レ雉爲二尸者一」

ものまなび (名) [物學] スベテ物事ヲ學ブコト。又、學問スルコト。 [illegible] 世阿彌ニ「物まなび條條」

ものまね (名) [物眞似] (一)人、獸、百禽ナドノ風采、聲音、ナドヲ眞似ル戯レノ技。 [illegible](文明、[illegible])「[illegible]、傀儡、其[illegible]、物まね、色色ニ」 (二)芝居役者ノ身振、聲色、ナドヲマネブコト。(こわいろつかひノ條ヲ見ヨ)

ものまへ (名) [物前] (一)戰爭ノ前。合戰ノ始マル間際。 甲陽軍鑑、六、品第十四「物前ニテ[illegible]タズ無性ニナル人ハ、本ノ[illegible]トニ」 (二)物日ノ前二三日ノ稱。祝ノ入用物ナド調フルニ云フ。 浮世床(文化)二、[illegible]初編、下「物前ニモ苦勞カウスクテ、壽命ガ延ビルヤウダ」

ものまゐり (名) [物參] ものまうで(物[illegible])[illegible]、[illegible]ハ、[illegible]バ」

ものまをし (名) [物申] ものまうし(物申)ニ同ジ。

ものまを・す・ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) [物申] ものまうす(物申)ニ同ジ。 古事記、下(仁德)ハ「山城ノ、ツツキノ宮ニ、ものまをす、アガセノ君ハ、涙グマシモ」

ものみ (名) 物見 (一)[illegible]、又ハ、[illegible]ノ場所ナドヲ見物スルコト。遊觀 「物見車」「物見遊山」「物見高シ」 (二)貴人ノ[illegible]ナドニ、[illegible]ミテ物見ノ爲ニ設ケタル棧[illegible]。(三)[illegible]陣ニ、先ヅ人ヲ遣リテ敵軍ノ動靜ヲ探リ認メシムルコト、又、其人。ウカミ。シノビ。斥候。 北條五代記、八、「物見の武者はまれ有事、物見ノ武者、[illegible]」 (四)見テ美事ナルコト。立派。 醒睡笑、七、[illegible]ノ、世ニ聞レテ物見ナル大屋ヲ持チタマヘルアリ」 (五)編笠ナドノ目ノ向フ所ニ、切リヌキタル如キ穴。 (六)牛車ノ左右ニアル窓。 飾抄、下、車「網代[illegible]、[illegible]物見[illegible]」 [illegible]、一、[illegible]合事「結句、車ノ物見打破、太刀長刀ヲ進ケレバ」

ものみ-ぐさ (名) [物見草] まつ(松)ノ異名。 [illegible]「物見草、松、物見草、[illegible]ニウザサン、すりオリニ、涙ヲダニモ、花ト思ヘバ」

ものみ-ぐるま (名) 物見車 見物ノ爲ニ乘リテ出ヅル車。 源、九、葵ニ「カネテヨリものみぐるま、心ヅカヒシケリ」

ものみだか・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) [物見高] 珍シガリテ、見物スル風ナリ。 狂言記、[illegible]丁聟「サテアノ方ハ、ズト物見高い所デ御座ルニ依ッテ、今日コナタノ御出被レ成ルルト聞タナラバ、サゾ人ガ見マセウ」

ものみだけ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) [物見

[illegible]「[illegible]見[illegible]風[illegible]」[illegible]（貞享、西鶴）一「女へものみだけくテ」

ものみ-やぐら（名）［物見櫓］遠望セムガ爲ニ築キタルヤグラ。トホミヤグラ。[illegible]

ものめか・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）[illegible]ド、今少シ物めかしき程ニナリナバ、云云」

ものめか・す・ス・セ・サ・シ・セ[illegible]物物シク取リ成ス。物物シク見ユルヤウニナス。源、十八、松風廿五「サリトテ、物めかさン程モ、[illegible]侮リ多カルニ、云云」

ものめで（名）［物愛］物事ヲ深ク愛ヅルコト。モノゴノミ。源、十二、須磨八十「物めでスル若キ人ニテ、身ニシミテ哀ニメデタシト見タル」

ものも（感）ものまうモ（物申）ニ同ジ。狂言記、吟増「程ナウコレデゴザル、ものも、才案内」

ものもち（名）［物持］かねもち（金持）ニ同ジ。

ものもの・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）（一）［物ト認ムベク嚴シ］物物シ。物體アリ。立派ナリ。雄偉。榮花物語、十九、布引瀧「御堂ノ、氣高ウ、もののしきカ、新シウ赤ク塗リテ[illegible]フレタルニ」宇津保物語、國讓、中「髪、丈ニ餘リテ、物物しう淸ゲナル人ノ」（二）［相手ヲ物體ラシト價ヲ認ムル意］物體ノシ[illegible]ガ[illegible]シ[illegible]タイサウノシ。謠曲、碇潜「アラもののし、上北面下北面」

ものもひ（名）［物思］［ものおもひノ略］モノモフコト。事物ヲ思案スルコト。[illegible]心[illegible][illegible]、サキモリニ、行クハ誰カセト[illegible]人ノ、見ルガトモシサ、モ乃毋比モセス」

ものも・ふ・ハ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（[illegible]）ものおもふ（物思）ノ略。其條ヲ見ヨ。萬葉集、十五、二十「サ寢ル夜ハ、多クアレドモ、母能毛[illegible]」

ものもらひ（名）［物貰］（一）人ニ食物ヲ[illegible]乞ヒ受ケテ生活スルモノ。[illegible]乞丐[illegible]のもらひ、犬モ見知リテ」物類稱呼、一、人倫「乞人、ものもらひ、江戸ニテ乞食トイフ」（二）麥粒腫（不潔ニ起ル名アル所以カ）不潔物ガ眼緣ニツキ、睫毛腺ノ脂肪分泌ヲ妨ゲ、炎症ヲ起シ、赤キ結節ヲ生ジテ、後ニ化膿スルモノ。瞼腺腫。偸針眼。

ものやはらか-み（副）［物柔］溫和ニ。シトヤカニ。源、二、帚木廿二「律ノ調ベハ、女ノものやはらかゞ搔キ鳴ラシテ、簾ノ内ヨリ聞エタルモ」

ものやみ（名）［物病］ヤマヒ。モノオモヒ[illegible]病[illegible]。疾病。伊勢物語、第四十五段「人ノムスメノ、云云、ものやみニナリテ死ヌベキ時ニ」

ものゆゑ（接尾）物故。モノカラ。モノナガラ。モノデアルノニ。ニモカカハラズ。萬葉集、十九、六十「年ノハニ、來鳴ク毛能由惡、時鳥、キケバ忍バク、逢ハヌ日ヲ多ミ」

ものよし（名）［物吉］（一）イハヒノコトバ。江[illegible]、十[illegible]、[illegible]補[illegible]次侍從ノ事、元日奏、拜、節會、「是物吉之事也」（二）［物好ノ義ニテ、癩病ノ異倒語ナラム、福よしモ同ジ］癩病ノ異稱（関西）[illegible]（元和、安樂[illegible]）「或者、正月二日ノ夜、夢ニ、[illegible]タル體ヲ見、目サメ、ツクヅク案ズルヤウ、カレヲバ物吉ト云フナレバ、仕合ナニハニ物ヨカラウ」

ものよみ（名）［物讀］書物ヲヨムコト。[illegible]間[illegible]好色五人女、西鶴、五「此ノ寄情ハ、我ガ物讀みノオ師匠ナリ、ヨクモテナセ」

ものわかれ（名）［物別］[illegible]テ、別ルルコト。又、話ノ折合ツカズシテ、[illegible]見ヨ）

ものわすれ（名）［物忘］[illegible]コト。遺忘 又、病衰、又ハ、老耄ニテ、甚シク忘ルルニモ云フ。ドウワスレ。健忘 萬代集、十[illegible]、[illegible]、五、[illegible]ナン、世ノ中ニ、我ヒトリスル、ものわすれカハ」

ものわび・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［物侘］物事ノ、ナニトナクワビシ。源、十三、明石三「雨風ヤマズ、神ナリシヅマラデ日比ニナリヌ、イトものわびしきコト數シラズ」

ものわらひ（名）［物笑］世ノ人ノ嘲リ。ワラヒグサ。[illegible]「兎ニモ角ニモ、萬人ノ物笑ひトゾナリニケル」

ものゑんじ（名）［物怨］ウラミ事ヲスルコト。物事ヲ怨ムコト。モノウラミ。源、二、帚木廿九「輕輕シキ物ゑんじスベキニモアラズ」

ものを（辭）意アリテ、事ノ伴ハザルヲ惜ム意ニ云フ語。略シテ、もの。

ものをしみ（名）［物惜］物ヲ惜ムコト。吝嗇ナルコト。枕草子、十、第百三十三段「イカニイヤシク物をしみセサセ給フ宮トテ、云云」

もは（名）［藻葉］（茂キ葉ノ意）常[illegible]テ、藻ト云フ。其條ヲ見ヨ。倭名抄、十七八[illegible]

もはう（名）［模倣摹倣］マネナラフコト。似スルコト。模擬。洞天清錄（宋、趙希鵠）「米南宮[illegible]

もはん（名）［模範］[illegible]倣フベキ範[illegible]手

モハメット-けう（名）［麥哈默教］まほ[illegible]〔二〕木、又ハ、竹ニテ作レル型。

もはや（副）［最早］（今は耶、ノ略轉カ）今トナリテハ。スデニ。モウ。狂言記、[illegible]「コレハコレハ、もはや[illegible]ガナラヌゾ」「最早及バズ最早來ラム」

もはら（副）專純［[illegible]］[illegible]他ノスベキコトヲモ、[illegible]シテスル狀、又ハ、一筋ニ片寄リテ、他ノ義ヲ交ヘヌ狀ニモ云フ語。古言、タウメ。總ベテ。全ク。純一ニ。ヒトスヂニ。一向ニ。一途ニ。今、音便ニ、[illegible]ばら[illegible]「逢フコトノ、もはら絕エヌル、時ニコソ、人ノ戀シキ、事モ知リケレ」

もひ（名）［盌椀］（盛水ノ略、ひノ水ヲ云フハ、沾ツ、漬ル、冷ユナドノ意ト同趣）古ヘノ瓦器。飲ム水ヲ盛ルニ用ヰルモノ。倭名抄、十六[illegible]「[illegible]小盂也」

もひ（名）水[illegible]ル語、[illegible]ノ變ニ移レルガ如シ。[illegible]汲ミテ飲ム[illegible]用ヰル[illegible]敬語ニ、御もひ、御もひ。古事記、下（仁德）五「[illegible]使於水取司[illegible]」

もひき（名）［裳引］裳裾ヲ後ヘヒクコト。萬葉集、十[illegible]、[illegible]、[illegible]バ、裳引シルケム、雪ナ降リソネ」（古義ノ訓）

〜**もひとりのつかさ** (名) 水取司 〔水取(もひとり)の司ノ義。水(もひ)ノ條ヲ見ヨ〕 [illegible]、もんどのつかさ。其條ヲ見ヨ。 倭名抄、五 官名「主水司、毛比止里乃豆加佐」

もひとりべ (名) 水取部 水部 古ヘ、供御ノ水、[illegible]、及、氷水ナドノコトニ從事スル部曲(トモベ)。 常陸風土記、茨城郡「進ニ奉御膳、[illegible]」 [illegible]同式[illegible]、九月九日供奉[illegible]十九人」

〜**も・ふ** (動) 思 おもふ(思)ノ略。 仁徳紀、三十年九月「山背ニ、イシケ島山、イシケシケ、吾ガ[illegible]」 萬葉集、廿「霞立ツ、春ノハジメノ、今日ノゴト、見ムト思ヘバ、樂シトゾモフ」 土佐日記、二月五日「祈リ來ル、風間トもふヲ、アヤナクモ、鴎サヘダニ、浪ト見ユラン」

もふく (名) 喪服 〔喪服ノ湯桶讀、喪主(サウシュ)、喪中(サウチュウ)ナドノ類〕 又、もぎぬ。 内服 服衣 さうふく(喪服)。[illegible]、あさおろも(麻衣)ノ條ヲモ見ヨ。

もぶし (名) 藻伏 魚ノ名、[illegible]、鯉ニ似テ肥エ、首、大キク、鱗、闊ク、尾、鯽ニ似テ、全身薄黑ク、腮ト尾トニ赤ミアリ、大キサ尺許リ、大イナルモノハ二三尺ニ至ル。味、佳ナラズ。一說ニ、次條ノ語ノ下略トモ云フ。

〜**もぶしつかぶな** (名) 藻伏束鮒 〔藻伏束鮒ノ義〕 藻ニ伏シカクレタル一束バカリナル鮒。或ハ云フ、河內國、志紀郡(今、南河內郡)藻伏ノ地ニ產ズル鮒ト。 萬葉集、四 五「奧ヘ行キ、邊ニ行キ今ヤ、妹ガタメ、吾ガ漁レル、藻臥束鮒」

もへう (名) 模表 もはん(模範)ニ同ジ。 晉書、山濤傳「君以道德爲世模表」

モヘル (名) 〔英語、Mohair〕 舶來毛織物ノ名。[illegible]。其條ヲ見ヨ。

もほこ (名) [illegible](藻)ノ異名。 字鏡「梓、毛保己」同五十「褥、毛保己」同五十「蒜草、毛保己」

もほん (名) 摸本 摹本 (一)原本ヲ模寫シタル書物。[illegible] (二)テホン。臨本。 [illegible](宋、米芾) 「[illegible]本、[illegible]所藏本、[illegible]所藏同」

もまた (名) 亦 漢字ノ亦(エキ)ノ字ノ稱。訓ズレバ、是もまた、彼もまた、ノ意ヲナセバ名トシ、又、復(マタ)、等ニ分チテ云フ、

もみ (名) 紅 〔色ヲ、揉ミテ出スモノ、紅(コレナヰ)ヲ染ムルニ、染メテ後、水ニ浸シ、手ニテ揉ミテ色ヲ出ス〕 紅ニテ無地ニ染メタル絹布。緋絹。 井筒業平河內通(享保、近松作)「愁歎ニ振分髮モ生エ立ツもみヤ[illegible]」

〜**もみ** (名) 攤 「錢ヲ手ニテ揉ミテ行フ故ニ云フ」 賭事ノ一。だ(攤)ニ同ジ。

〜**もみ** (名) 鼯鼠 又、もむ。むささび(鼯鼠)ニ同ジ。 倭名抄、十八 毛群類「鼯鼠、毛美」 名義抄「鼯鼠、モミ」 本草和名、下「鼯鼠、毛三」

もみ (名) 蝦蟇 (一)がま(蝦蟇)ノ異名。 [illegible]集「當代ニ、マクバカリアル、蛙ナヤ、吉野ノ山ノ[illegible]もみトゾ云フラン」 (二)〔蝦蟇ヲ料理シテ煮タルモノ〕 應神紀、十九年十月「幸吉野宮、時國樔人來朝之、云云、煮蝦蟆爲上味、名曰毛瀰」

もみ (名) 樅 〔俗ニ椴ニ作ル、天治字鏡、七「樅、毛弁乃木」皮、揉ミタルガ如クナレバ云フカ、或ハ、臣ノ木ノ轉カ〕 松杉科ノ常綠樹ノ名、高サ十二三丈ニ達シ、山地ニ自生シ、皮ニ橫理アリテ同ジカラズ。葉、線形ニシテ、略、榧ニ似テ、實ハ、松毬(マツカサ)ノ如クニシテ細長シ。村

ニテ匣、櫃ノ類ヲ作ル。モムノキ。モミノキ。 倭名抄、[illegible]「[illegible]、毛弁乃木」(日本釋名「妄樅ハ朝鮮ノもえナリ」)

〜**もみ** (名) 籾 〔[illegible]ノ義、[illegible] 籾米ノ合字、殼ニ稜刃アレバナリト云フ〕 (一)もみよね(籾米)ノ略。 倭名抄、[illegible]「[illegible]、毛美」 [illegible] (二)もみがら(籾殼)ノ略。

もみあげ (名) 揉上 鬢ノ毛ノ、耳ノ前マデ、細ソク下リテ生フル所。鬢ノハエサガリ。耳脇毛(ミミワキゲ)。 落穗集、寛永、正保ノ頃、武家ノ下部ガ、[illegible]、松脂ヲ加ヘテ、もみあげノ頰鬚ニツクルト云フコトヲ云ヘリ、コレ鬚奴ガ、鬼鬚ヲ作レルナリ。又、昔昔物語ニ、寛文ノ頃、伽羅ノ油ヲ、ビンノハエサガリニツクルトアリ。(ハエサガリヲ油ニテ揉上ゲテ、鬼鬚ヲ作リタルニ起ル) 洞房語園(元文)「日本堤[illegible]、云云、何レモ面[illegible]中ニ、[illegible]もみあげノ髮自慢ニ、此トシ[illegible]顔ナルモアリ」

もみ・あ・ふ [・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ] (他動、四) 揉合 互ニ揉ム。互ニ摩レ合ヒテ爭フ。 國性爺後日合戰(享保、近松作)[illegible]「[illegible]揉チツ引キツ、揉み合ふ聲」

もみいた (名) 揉板 洗濯物ヲモミツケテ、洗フ板。表面ニ、多クノぎざぎざヲ附ク。洗濯板。

もみうら (名) 紅裏 紅染ノ絹ヲ衣ノ裏トスルコト。又、ソノ裏地。又、ソレヲ裏トシタル婦人ノ服。ベニウラ。こうら(紅裏)ノ條、參見セヨ。 好色二代男(貞享、西鶴)七「皆太夫樣ノ名ドシ、紅裏着ル程可笑シ」

もみうり (名) 揉瓜 又、もみふり。う

りもみ(瓜揉)ニ同ジ。

もみえぼし (名) 揉烏帽子 烏帽子ノ[illegible]、[illegible]シテ、揉ミテ[illegible]タルモノ。兜ノ下ニ折リ疊ミテ用ヰル。[illegible]コレヲ引立ツルヲ、引立烏帽子トモ云フ。 盛衰記、四十二、玉蟲立扇與一射扇事「[illegible]思ヒ、[illegible]引キ立テテ」

もみかは (名) 揉革 古名、ヲシカハ。なめしがは(鞣革)ノ[illegible]。上ヲ削リ、揉ミテ柔クシタルモノ。韋。熟皮。

もみがへし (名) 紅返 べにがへし(紅返)ニ同ジ。

もみがら (名) 籾殼 略シテ、もみ。籾米(モミヨネ)ノ殼。碧ニテ摩リ取リタルモノ。肥料トシ、又、蠶座ニ敷キ用ヰ、鷄卵、陶器、ナド、碎ケ易キモノヲ收ムルニ用ヰル。一名、アラカハ。アラヌカ。スリヌカ。モミヌカ。スクモ。 穀皮 稃 穅

もみくじ (名) 揉鬮 古ク、ヒネリブミ。紙ニ事ヲ書キ、捻リテ文字ノ見エヌヤウニシテ、揉ミ取リテ、シメテ、吉凶ヲ占フモノ。 長町女腹切(正德、近松作)中「錢ノ高、もみ鬮ハ、依方果報、後ニ無理イフマイゾ」

もみくたす (副) 揉朽 〔くたす(朽)ノ條ヲ見ヨ〕 又、もみくちゃす。揉マレテ皺ミタル狀ニ云フ語。(紙ニ、布帛ニ)

もみくちゃす (副) 揉朽 前條ノ語ニ同ジ。

もみぐら (名) 籾藏 米ヲ籾ノママニテ貯ヘ置ク藏。籾ノ貯藏庫。凶歲ニ備フルタメナリ。 北窓雜集、中「天明年中、町方御救ノタメトテ、柳原本所ヘ籾藏トイヘルヲ建給フ」

もみぐるま (名) [籾車] [illegible] 唐箕ノ一名。其條ヲ見ヨ。

もみけ・す [illegible] (一)火ノツキタルモノヲ、揉ミテ消ス。(二)手段ヲメグラシテ、無クナラシム。

もみごめ (名) [籾米] もみよね(籾米)ニ同ジ。

もみさらひ (名) [籾杷] 日ニ乾ス籾ヲ、掻キ散ラス用ノ杷。[illegible]

もみぞめ (名) [紅染] 又、こうぞめ。紅ニ染ムルコト。又、ソノ染メタル布帛。

もみだ・す ・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [揉出] 揉ミテ出ス。揉ミテ出ルヤウニナス。

もみだ・す ・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [黄葉] [令黄葉](使役相動詞)ヨリ語尾ヲ四段ニ轉ズ) 露、霜ノ、紅ニ揉ミ出ス。黄葉セシム。[illegible]ノ、露ナラシ、春日ノ山ヲ、令黄物者」

もみたび (名) [揉足袋] 揉革ニテ作レル足袋。つらぬき(頰貫)、及、かはたび(革足袋)ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]ノ皮ノもみたび、シロガネニテヘリガネワタシ、アクチ[illegible]ニワンゴリなり」

もみだ・ふ ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [黄葉]ニ[もみづノ延] 引キツヅキモミヅ。萬葉集、十五 [illegible]ノ、[illegible]ツル時雨ノ、遂ニ山、時雨ノ雨ニ、毛美多比ニケリ」

もみぢ (名) [黄葉・紅葉] [色]ハ揉ミテ出スモノ、又、揉ミ出ヅルモノ、サレバ、露、霜ノタメニもみいだサルルナリ」 (一)[モミヅルコト。草木ノ葉ノ、霜ニテ、赤ク、又ハ、黄ニナルコト。ヤマノニシキ。萬葉集、十五[illegible]天雲ノ、タユタヒクレバ、長月ノ、毛美知ノ山モ、ウツロヒニケリ」古今集、五、秋、下「もみぢセヌ、常磐ノ山ハ、吹ク風ノ、音ニヤ秋ヲ、[illegible] [illegible]クナリナン、小倉山、秋マツホドノ、名ニコソアリケ[illegible] [illegible]竹[illegible] [illegible]待タムト云ヒシ、[illegible]ノ[illegible]ユ、明日ヨリハ、黄葉カザサム、高圓ノ山」 後拾遺集、五、秋、下「[illegible]モナク、見エコソワタレ、大井河、[illegible]ノ[illegible]降レドモ」 (二)襲ノふすま[illegible] (四)襲ノ色目ノ名、表、紅ニテ、裏、青ナルモノ、一說、表ハ赤ニテ、裏ノ濃キ赤ナルモノ。(五)楓ノ一名。(六)江戸ニテ、鹿肉ノ異名(獸肉ヲ忌ミシ頃ノ隱語) 文政の川柳「御ゾンジノ、紅葉(妓、[illegible])[illegible]もみぢや[illegible]」

もみぢがさ (名) [紅葉笠] 菅笠ノ一種。加賀笠ノ赤色ナルモノカ、日照笠ノ意ニヤト云フ、照ルヲ緣語トス。古今集、五、秋、下「雨降レバ、笠取山ノ、モミヂ葉ニ、行交フ人ノ、袖サヘゾ照ル」ニ因ルト。 松の落葉(元祿)四、四季花笠踊 月ノ笑顔ニ照リヤ、紅葉がさ、ソリャ加賀笠ヨ加賀笠ヨ」

もみぢがさ (名) 紅葉傘 「紅葉笠ヨリ移レル名ニテ、初ハ日傘ナルカト云フ、後ノ、青傘、日傘ナリ」 傘ノ天井ノミ青紙ニシテ、ル雨傘、周圍ヲモ青紙ニシタルヲ、蛇ノ目傘ト云ヒ、[illegible]享保、[illegible]云、天井バカリ青ヲ紅葉ト云ヒ、ぐるりノ青キヲ蛇ノ目ト云ノ、傍ニ紙の目 我衣(文化、曳尾庵) 直享ヨリ、地ハ江戸ノもみぢがさキャシャナリ、天上青紙、青ニサニテ、細ク縁ヲ取リ、云云」

もみぢがさね (名) [紅葉襲] 襲ノ色目ノ名。もみぢ(紅葉)ノ條ノ(四)ニ同ジ。

[illegible]

もみぢがり (名) [紅葉狩] 山野ニ入リナドシテ、紅葉ヲ採リ觀テ賞スルコト。モ[illegible]

もみぢごろも (名) [紅葉衣] 紅葉ガサネノ衣 [illegible]

もみぢづき (名) 紅葉月 陰曆、九月ノ異稱 [illegible]

もみぢどり (名) [紅葉鳥] 鹿ノ異名。[illegible]シグレフル、龍田ノ山ノ、もみぢどり、紅葉ノ玉集[illegible]シグレフリ來テ、知ラレケルカナ」

もみぢのが (名) [紅葉賀] (一)紅葉ノ樹蔭[illegible]テ、賀宴ヲ開クコト。(二)[illegible] がのいはひ(賀祝)ノ條ノ出典ヲ見ヨ。

もみぢのはし (名) [紅葉橋] [古今集、四、秋、上「アマノ川、もみぢヲ橋ニ、ワタセバヤ、タナバタツメノ、秋ヲシモマツ」トアルニ基ヅク] 七夕ノ銀河ノ異稱。 新古今集、十七、雜、中「大ノ川、通フ浮木ニ、コトトハン、紅葉の橋ハ、散ルヤチラズヤ」

もみぢば (名) [黄葉・紅葉] モミヂタル葉。草木ノ葉ノ、霜ニ遇ヒテ、赤ク、又ハ、黄ニ變ハレルモノ。つた(蔦)、ぬるで(白膠木)、にしきぎ(錦木)、はぜ(黄櫨)、はそ(柞)、どうだんつつじ(滿天星)ナド、次第ニ赤シ。楓、最モ後レテ最モ美シ、故ニ、遂ニ、もみぢノ名ヲ專ラニシ、遂ニ、其樹名トスルニ至ル。萬葉集、十五「アシビキノ、山下光ル、毛美知葉ノ、散リノマガヒハ、今日ニモアルカモ」同、同「毛美知婆ハ、今ハウツロフ、若紅葉ガ、待タムト云ヒシ、時ノヘユケバ」

もみぢぶな [illegible]ノ色赤クナリタルモノ。味最モ佳ナリトス。[illegible] ソレモマタ、木ヤドリ木ヤ、紅葉鮒」

もみぢむしろ (名) [紅葉席] 紅葉ノ散リ敷キタルヲ、席ニ見ナシタルモノ。後[illegible]

もみ・づ ・ヅ・デ・ダ・ヂ・デ(自動、四) [黄葉・紅葉] [illegible]集、一、長歌「秋山ノ、木ノ葉ヲ見テハ、黄葉ヲバ、取リテゾ偲ブ」(古義ノ訓) 同、八、二十「秋山ニ、黄反木ノ葉ノ、移リナバ、サラニヤ秋ヲ、ミマクホリセン」

もみ・づ ・ヅル・ヅレ・ヂ・ヂ・ヂヨ(自動、上二) [黄葉・紅葉] 草木ノ葉、霜ニ遇ヒテ、赤ク、又ハ、黄ニ變ズ。[illegible] 下「斯クバカリ、もみづる色ノ、濃ケレバヤ、錦立田ノ、山トイフラン」 萬葉集、十四「長月ノ、白露負ヒテ、[illegible]

もみ・づ ・ヅル・ヅレ・ヂ・ヂ・ヂヨ(自動、上二) [黄葉] [illegible] 「秋山ノ、木ノ葉モ未、赤、暑、今朝吹ク風ハ、霜モ置キヌベシ」 同、十九「春マケテ、斯ク歸ルトモ、秋風ニ、[illegible] 二例[illegible]トモ訓ズベシ。サラバ、前條ノ語ノ例トナリテ、此語ハ消滅スベシ。

もみで (名) [揉手] (一)兩ノ掌ヲ互ニ摺リ合ハスルコト。手ヲスルコト。(商人

ナドノ）孕常盤（寶永、近松作）三「吉次、奥ヨリ揉手ヲシテ」（二）アヤマルコト。謝罪。

もみな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［不味］〔もみハ旨（ウマ）みノ略轉。應神紀、十九年十月「國樔人來朝之、煮蝦蟆爲二上味一、名曰二毛瀰（モミ）一」〕旨（ウマ）カラズ。ウマミナシ。ウマヅシ（瀧内）ウマウモナイ。物類稱呼、五、言語「あぢなし、大和及攝河泉、又ハ、九州ノウチニテ、もみないトイヒ、又もむないトイフ」

もみ・ぬか（名）［穡］〔籾糠ノ義〕スリヌカ。アラヌカ。ぬか（糠）ノ條、及、もみがら（籾殻）ノ條ヲ見ヨ。字類抄「穡、糠、モミヌカ」

もみ・ふり（名）［揉瓜］〔ふりハうりニ同ジ〕うりもみ（瓜揉）ノ條ヲ見ヨ。易林節用集、言語下、食服門「揉瓜、モミフリ」 卯月潤色（寶永、近松作）中「谷カラホリ汲ンデ來テ、云云、組板ニ白瓜、菜刀取ッテ、云云、テキテキシャントもみふりニ」

〜もみ・よね（名）［籾米］［糙米］〔稲ノ穂ヲ揉ミテ、穀ヲ得タルモノノ意、又、搗稲（カチシネ）ト云フハ、穂ヲ搗（カ）チテ、穀ヲ得タルモノノ意〕又、もみよね。略シテ、もみ。古名、アラシネ、カチシネ。米ノ穀ヲ脱セザルモノ。粟穀。倭名抄、十七、稲穀類「糙米、毛美與禰、一云、加知之禰、春稲成、穀之名也」日向風土記「逸、千穂稲、搗籾（モミ）」字類抄「糙米、モミヨネ」

もみ・れうぢ（名）［揉療治］（モミ・リヨウジ）あんま（按摩）ニ同ジ。皇都午睡（嘉永）三編、上「江戸ニテハ、云云、按摩ヲもみ療治」

もむ（名）［攤］〔もみ（攤）ノ條ヲ見ヨ〕賭事ノ、だ（攤）ニ同ジ。倭名抄、四、雑藝類「攤、毛牟」

もむ（名）［鼯鼠］又、もみ。むささび（鼯鼠）ニ同ジ。天治字鏡、八「鼯、毛牟」

も・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［揉］［挼］〔摩ル音〕（一）〔兩手ニテ物ヲ揉ミ摩シ、手ニテ揉ミテ柔カニナス。倭名抄、四、雑藝類「挼、毛無」 宇治保物語、國譲、下「オトドノ御フミ、云云、ホンもみテ打ケヤリ給ヒテ」「手ヲ揉む」「紙ヲ揉む」「菜ヲ揉む」（二）錐ノ柄ヲ兩掌ニテ摩リ廻シテ穿ツ。鑽。字類抄「挼、揉、モム」盛衰記、一、「錐ヲもむ」（三）揉ミ觸レ押シ合フ。兩陣追ヒツ返ヘシツ、ヒシメキ戰フ。混戰。混雜。乱離。陸奥話記「散木使、樹ヨリ、風ニもまルル花ナレバ、散リテモ池ノ、波ゾ織リケル」保元物語、二、白河殿攻落事「門へ押寄セテ、揉ミテ攻メ入レバ」「人ニもまルル」（四）イラツ。イラダツ。アセル。砕心。太平記、三十、薩埵山合戰事「不許容ニケレバ、餘リニ身ヲ揉みテ」「氣ヲ揉む」（五）相撲ニテ、相手ニ、稽古シヤル。

もん（名）［紋］（一）〔文（アヤ）。模様。花文。文彩。源、六、末摘花三十四「興アルもんツキテ、シルキ上着バカリゾアヤシトハ思シケル」「綾ノ紋」「車ノ紋」紋繻子 紋縮緬〕（二）家ノ紋トハ、家家ニ定メテ目標トシテ用キル一種ノ形象。其初ハ衣、袴ノ織模様、染模様ニ、家家一定ノ形ヲ用キタルヨリ起ル、例チ、菊桐ノ御紋モ、御衣ノ織模様ニ起レルナリ。幕ノ紋、旗ノ紋ヨリ、車、鎧、衣服、諸調度、皆、目標トシテ着ク（源平ノ戰ノ頃、幕、旗ナドニツケテ、目標トシタルニ起レルガ如シ）之ヲ紋所トモ云ヒ、其家ニ公ニ定メテ用キルヲ定紋（ヂャウモン）ト云ヒ、又、表（ヘウ）紋、替紋ナドトテ、一二三種ヲ設クルモアリ。紋章。徽號。増鏡、十六、秋の御山「御家ノ紋ノもかうヲ、色色ニ織リタリシニヤ」

もん（名）［文］（一）〔錢ノ價位ノ名。支那、唐ノ開元通寶一箇、重サ一文匁アルヨリ云フ〕錢ヲ算スル單位ナリ、二年十月「百姓…、稲…銀錢一文」（二）足袋ノ長サヲ計ルニ云フ語（錢ヲ並ベテ云フヨリ云フカ）コレ錢ヲ以テ度リ、幾文ト定ム、寛永通寶ト同ジケレバ、此錢、唐ノ開元通寶ニ合ヘリ。大抵、大人ノ足ヲ十文トシ、九文（ココノ）、八文、七文（ナナ）、久、何文何分ナド數フ。襪尺。持統天皇歌軍法（正徳、近松作）一「紫ノ革足袋、云云、九文半デ指先モハイラズ」（三）田地ニ云フ語。くゎん（貫）ノ條ヲ見ヨ。

もん（名）［門］（一）かど（門）ニ同ジ。（朝鮮、支那ノ建築法入リシヨリ設ク）禮記、曲禮、上篇「主人入レ門而右、客入レ門而左」「棟門」「唐門」「城門」「樓門」「楠門」「仁王門」「山門」「中門」大門、九間七戸、朱雀門、七間五戸）諸門 五間三戸）（二）（家ノ意）師ノ家ニ就キテ教ヲ受クルコト。弟子タルコト。門下。揚子法言、揚雄）君子…、…「門人」「門下」見二同門而異戸也」「某ノ門」門ニ入ル」（三）類ヲ分ケテ別ニ掲グルコト。「門ヲ分ツ」「氣形門」「服食門」（四）大砲ヲ數フルニ云フ語。（火門ヨリシテ云フカ）「大砲十門」

もん・うち（名）［紋打］めんち（面打）ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

もん・えふ（名）［門葉］（モン・ヨウ）〔門ハ家、葉ハ子孫ナリ、幹ヨリ葉分レ出ヅル義〕一門ノワカレ。一族。平治物語、一、信頼信西不快事「保元ニ門葉ノ輩、多ク朝敵トナリテ、親類皆梟セラレ」

もん・か（名）［門下］（一）食客。門客。史記、信陵君傳「致二食客三千人一、云云、公子恐二其怒一之、乃誡二門下一」（二）師ノ門ノ下ニアルコト。門人。…「宮崎息…門下…其」

もん・かう（名）［閂搉］（モン・コウ）トガメ。勘當。十訓抄、下、第十、六條…「心ワロキモノニオボシメサルルヤウノアレバコソトテ、…」

もん・かく（名）［門客］（一）カカリビト。食客。…門客…數百、…莫レ不レ畏二服之法興一」（二）一旦來リ屬スル者。譜代ニアラヌ家來。…事「況ヤ汝等ハ一旦從ヒツク門客ニアラズ」

もんか・せい（名）［門下生］門人。弟子。

もん・がまへ（名）［門構］（モン・ゲマエ）かどがまへ（門構）ニ同ジ。其條ノ（二）ヲ見ヨ。

もん・かん（名）［門鑑］門ノ出入ヲ許ス手形。門籍

もむき（名）［腌］むむき（腌）ニ同ジ。字類抄「腌、モムキ」

もん・ぎ（名）［文木］［文尺］足袋ノ長サヲ度ルニ用キル物指。もん（文）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。律原發揮「文尺（モンギ）者、以二曲尺八寸一爲二一尺、用之、其寸七準、合二錢一文徑一、故名」

✣もん・きり・がた（名）［紋切形］（一）紋ノ形ヲ切ル一定ノ型。（二）例トシテノ定メ。キマリ。八笑人（文政、鯉丈）初編、一「愛デ逢ウタハ天ノ與ヘトカ何トカ、紋切形デイイワサ」

もん・く（名）［文句］（一）文章ノ中ノ句。文章ノ詞。宋史、許將傳「析二文句一以爲レ説」（二）✣イヒブン。イヒゲサ。モノイヒ。クドクドシク云フコト。

もん・ぐゎい（名）［門外］（モン・ガイ）（一）モンノソト。禮記、「主人…、凡於…、而拜之門外」（二）物事ノ範圍外。專門以外

もん・ぐゎい・かん（名）［門外漢］（モン・ガイ・カン）專門以外ノ人。其道ニタヅサハラザル者。シロ

ウト。[illegible]

もん-げん (名) 門限 (一)シキミ。禮記、[illegible]「閾、門限也」(二)夜、門ヲ閉ヅル期限。

もん-こ (名) 門戸 (一)門ト、戸ト。カドグチ。家ノ入口。莊子、人間世篇「以爲門[illegible]」(二)[illegible]

もん-ごん (名) 文章 [illegible] 「ソノ[illegible]ノ文字ニ、隙隙ニ中シ交スカラハ」

もん-ざい (名) 文才 ぶんさい(文才)ニ同ジ。源、廿一、少女「何ゴトモ廣キ心知ラヌ程ハ、もんざいマネブニモ、琴、笛ノ調ベニモ、云云」

もん-ざい (名) 問罪 罪ヲセメタダスコト。北史、隋煬帝紀「夏啓承ニ大禹之業、商郊問レ罪、[illegible]」

もん-ざう (名) 文章 ぶんしやう(文章)ニ同ジ 「文章生」文章博士」

もんざう-しやう (名) 文章生 もんじやうのしやう(文章生)ニ同ジ。

もんざう-はかせ (名) 文章博士 もんじやうはかせ(文章博士)ノ條ヲ見ヨ。源、四、夕顔「[illegible]文ノ師ニテ、ムツマシクオボスもんざうはかせ召シテ、願文ツクラセ給フ」

もん-さく (名) 文作 即席ニ可笑シミアル文句ヲ作ルコト。又、其文句 好色一代男、[illegible]「マダ所ヽ所ヽ[illegible]程ニ、後ハ大道ニ出デテ文作、何レカ腰ヲヨラザルハナシ」

もん-さつ (名) 門札 カドフダ。門標。

もん-し (名) 門齒 〔口腔ノ門戸ニ當ル齒ノ意〕上下左右共、八枚ノ前齒。

もん-し (名) 悶死 モダエ苦ミテ死スルコト。モダエジニ。懣死

もん-じ (名) 文字 もじ(文字)ニ同ジ。[illegible]

もんじ-の-ほふし (名) 文字法師 あんしやう(暗證)ノ條ヲ見ヨ。

もん-じん (名) 門人 師ノ門ニアル人。ヲシヘゴ。弟子。門弟。門生。門弟子 [illegible]

もん-じん (名) 問訊 (一)トヒタヅヌルコト。訊問 [illegible] (二)トナフコト。タヅネトフコト。後漢書、[illegible]

もん-じや (名) 文者 學問ヲナシタルモノ。學者 七十一番職人盡歌合、四十七番判「左、[illegible]マコトニ文者ノ作ト聞エテ、云云」

もん-じや (名) 問者 (一)トフ人。質問者。(二)大法會ノ論議ノ際シ、座ニ着キテ、法ヲ講師ニ問フ僧。江家次第、三、正月、御齋會内論議 [illegible] (三)古ヘ、課試(登庸試驗)ニ應ズル者ニ對シテ、論策ヲ質問スルモノ 類聚符宣抄、九、康保五年七月「去月十九日、云云、式部大輔大江朝臣重光朝臣、為其問者」

もん-しやう (名) 門牆 〔正字通「墻、俗牆字」〕もんト、かきト。門口。韓愈、[illegible]「[illegible]、伺候於門牆」

もん-しやう (名) 紋章 もん(紋)ニ同ジ。

もん-じゆう [illegible]

もん-じやう (名) 問狀 問注所、又ハ、引附方ヨリ被告ニ下シテ答辯ヲ出サシムル令狀。其執權ノ名ヲ以テスルヲ問狀御教書ト云ヒ、頭人、又ハ、[illegible]

もんじやう-とくごふしやう (名) 文章得業生 又、もんざうとくごふさう。大學寮ニテ文章生ノ試驗ヲ受ケテ、及第シタルモノ。[illegible]

もんじやう-の-しやう (名) 文章生 又、もんざうしやう。古ヘ、大學寮ニテ、紀傳、詩文ヲ學ビタル學生。源、廿一、[illegible]「[illegible]の生ニ侍リシ時、賢キ女ノタメシヲナン言ヒ給ヘシ」

もんじやう-はかせ (名) 文章博士 又、もんざうはかせ。古ヘ、大學寮ノ博士ノ一。紀傳博士ヲ停メテヨリ此號ヲ置カル、然レドモ、其道ハ同ジ。(大學寮ノ條ヲ見ヨ) 官職祕抄、下「文章博士、令外官、大業中有ニ名譽ニ任レ之」類聚三代格、五、弘仁十二年二月十七日、太政官符、定ニ文章博士官位ニ事、

もんじやう-ほうしよ (名) 問狀奉書 もんじやう(問狀)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]八年七月廿三日、[illegible]

もんじやう-みげうしよ (名) 問狀御教書 もんじやう(問狀)ノ條ヲ見ヨ。吾妻鏡、三十九、寶治二年九月廿日甲子「東中務入道素暹可[illegible]」

もんじやう-ゐん (名) [illegible]

もん-じやく (名) 文籍 ぶんじやく(書籍)ニ同ジ。フミマキ。シヨモツ。源、三十三、藤裏葉「文籍ニモ、家禮トイフコトアルベクヤ」

もん-じゆ [illegible]

もん-じゆ [illegible] 「[illegible]ノ御佛事ノタメニ、云云」(二)山門ノ座主。

モンジユ (名) 文殊 〔梵語、Mañjuśri 曼殊室利(文殊師利)ノ略、妙德、又ハ、妙吉祥ト譯ス〕菩薩ノ一、智慧ノ佛トシ、普賢ト共ニ釋迦ノ二脇士トシテ、常ニ獅子ニ騎レル所ヲ圖ス。[illegible]

モンジユシリ-ボサツ (名) 文殊師利菩薩 [illegible]ノ語ニ同ジ。

モンジユ-ゑ (名) 文殊會 文殊ヲ本尊トシテ、[illegible]ル會。仁明天皇ノ天長十年七月、奈良ノ東大寺、西大寺ノ二寺ニテ行ヒシヲ初トスト云フ。[illegible]

もん-じよ (名) 文書 又、もんぞ。もんぞ。[illegible] 人ノ歎キ願ヒ滿ツベシトナン、もんじよニ云ヘル、マ

コトニシカアルモノナリ」

もんじょ（名）[聞書] 除目ノ、宣旨ヲ記シタル書。俊元物語、一、「[illegible]主上御サンノアマリニ、其夜テモケナリナハレ、正下四位ニナサレケリ、もんじよニ八、宇主七郎以下十六人ノ兒徒、カラメ參ラマハ[illegible]トゾシルサレケル」

もんせい（名）[門生] もんじん(門人)ニ同ジ。門下生。後漢書、袁紹傳「袁氏樹[illegible]四世門[illegible]故吏、徧[illegible]於天下二」

もんぜき（名）[門跡] [門徒・跡ノ統領ノ意ト云フ」（一）宇多天皇、落飾アリテ、仁和寺ニ入リ給ヒ、後ニ、コレヲ御門ノ跡ト申シ、門跡ト稱セシヨリ起リテ、凡ソ、法親王ノ住職シ給フ寺院ノ尊稱トス、コレヲ宮門跡ト云フ。又、攝家ノ猶子ノ法主タルヲ攝家門跡ト云フ、准門跡ト云フハ、一向宗ノ東西兩本願寺等六本山ニ免許アリシ稱ナリ。[illegible]御記、[illegible]廿二年正月十日「[illegible]へ今日諸人參賀、諸門跡、親王大臣以下、云云」（二）高僧ノ門派ノ跡。中右記、天仁元年四月一日「弘法、[illegible]、智[illegible]門[illegible]云云」（三）名門ノ出家。[illegible]之[illegible]、云云

もんせき（名）[門籍] 門ノ通行許可ノ手形。漢書、[illegible]、太后[illegible]、[illegible]亦[illegible]其官、[illegible]門籍、不[illegible]得[illegible]入。」中務省式「凡應レ入二宮闇門一諸司門籍、毎月一日十六日送レ省」

もんぜつ（名）悶絶 悶エテ、氣絶スルコト。[illegible]、[illegible]悶絶、久[illegible]蘇[illegible] 長門本、平家物語、十九、六代御前事「聖ノ前ニ倒レ伏シテ悶絶シケル有樣、誠ニ[illegible]ヘガタゲナリ」

もんぜん（名）[門前] 門ノ前。杜甫、秦州雜詩「車[illegible]何[illegible]、門前百草長」 門前市ヲ成すトハ、出入スルモノノ甚ダ多クシテ、賑ハフ意。盛衰記、三十九、[illegible]、兵[illegible]佐[illegible]三[illegible]中將ト對面アレベキノ由[illegible]ナリ、大名小名、門前成[illegible]市」[illegible]門前[illegible]雀羅を張るトハ、訪ノ人ナク、門前ニ雀ヲ捕ノル羅ヲ張リ得ルホドナルヒシトノ意。(雀羅ノ條、參見セヨ) 夫木抄、三十二、「門ヒキカヘテ、ススミ(メイ)ノアミヲ、カケテケリ、コヤ[illegible]成す、門トミエケリ」

もんぜんばらひ（名）[門前拂] （一）德川時代ノ刑ニ、追放ノ輕キモノ。奉行所等ノ門前ヨリ追拂ヒテ、再ビ歸ルコトヲ許サヌモノ、大小名ニテハ、祿ヲ沒收シテ、屋敷ノ門ヨリ追拂フコト。（二）來訪セル客ヲ、引見セズシテ、空シク玄關ヨリ還ラシムルコト。

もんぜんよみ（名）[文選讀] 文選ノ昔ノ如ク、字音ヲ音讀シタルヲ、マタ訓讀ニスルコト、即チ、日ヲひ、片時ヲかたとき、平等ヲへら、狹布ヲせばぬのト讀ムノ類ナリ。音訓雙擧 宇津保物語、[illegible]開、中「式部大輔ノ集、云云、一度訓ニ、一度ハ音ニ讀マセタマヒテ」平家物語、七、福原落事「袖ニ宿カル月ノ影、千草ニスダク蟋蟀ノキリギリス」

もんそ（名）[門訴] 高官ノ門ニ、越訴ナドスルコト。天明集成絲綸錄、四十八、明和八年五月「門訴ニ加候ハバ、名主、中追放」

もんぞ（名）[文書] 又、もんぞぶみ。もんじょ(文書)ニ同ジ。宇津保物語、藏開、上 八十三「イサイノ又ノ抄物ト云フモノ見給フーテナン、もんぞト云フモノ見給ヘツキヌレバ、云云」

もんそう（名）[門送] 門出ヲ見送ルコト。

もんぞぶみ（名）[文書書] もんぞ(文書)ニ同ジ。宇津保物語、藏開、上 八十三「サルもんぞぶみナドヲサヘ尋ネ出デラレタラン、イトカシコキ事」

もんだい（名）[問題] （一）トヒカクル事柄。題。（二）爭論トナルベキ事件。

もんだふ（名）[問答] 又、もんだふ。問ト答ト。[illegible]

もんだ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）「問答ノ語ヲ活用ス」問答ヲナス。[illegible]曲、安宅「トカクノ[illegible]ノパもんだはズシテ、云云」 狂言[illegible]「ソナイナ事ハもんだひなウモゴザラヌ」

もんだふうた（名）[問答歌] 甲ガ唱ヘ、乙ガソレニ和シタル歌（萬葉集ナドニ）萬葉集、十一、目錄、問答歌二十九首

もんだん（名）[文段] 文章ノ段落。易林本節用集、[illegible]、[illegible]門「文段、モンダン」

もんだん（名）[文談] 學問上ノ談話。保元物語、二、[illegible]「イササカ御心ナヨロシクナハシマシシカバ、フシナガラもんだんシ給ヒケルニ、[illegible]ノウラト易ノ占トノ淺深ヲ論ジ給ヒケリ」

もんち（名）[門地] イヘガラ。門閥。晉書、王[illegible]傳「[illegible]、以門地[illegible]中兵[illegible]」

もんぢゃく（名）[悶着 捫着] 人ノ家ニ、モツレアルコト。イサカヒ。アラソヒ。モメアヒ。紛爭。林逸節用集、雜用「捫撲、モンヂャク」[illegible]、[illegible]、武[illegible]、[illegible]カ[illegible]ヒトシテ、云云、先[illegible]山ノ[illegible]ヲ進退、文武[illegible]捫着六」

もんぢゅう（名）[問注] 問ヒテ注スコト。訴訟。ウッタヘ。著聞集、十六、興言利口「相論ノ事アリテ、六波羅ニテ、問注スベキニ定マリニケリ」沙石集、三、上、第一條「恐レ入リタル由、御披露候ヘトテ、我レト問注ニ負ケテ歸リシヲ」

もんぢゅうしょ（名）[問注所] [illegible]

もんつき（名）[紋付] 衣服ノ背ノ中央、頸ノ下、兩袖ノ後ノ中央、兩前身ゴロノ肩下四寸許リニ、紋所ノ染メ付ケラレタルモノ。前ナルハ水干、狩衣ノ、襖目ノアトミ所ナリ。背ノ紋ハ全部ヲ身ゴロニ縫ヒツケズ、[illegible]縫、[illegible]ッツリ合ハス、其縫目ヲ飾トテ菊綴トス、ココニ紋ヲ染メ出スト云ソ、コレ五所紋、三所紋、七所紋ナドアリ（又、羽織、提燈モアリ）[illegible]紋付ノ[illegible]

もんづくし（名）紋盡 種種ノ紋柄ヲ書キタルモノ。又、コレヲ述ベタツルコト。

もんてい（名）[門弟] もんじん(門人)ニ同ジ。邇步色葉集「門弟」太平記、一、儲王御事「[illegible]ノ門跡ニ御[illegible]アテ、承鎭親王ノ御門弟ト成ラセ給ヒテ、云云」

もんていし（名）[門弟子] もんじん(門人)ニ同ジ。論語、子罕[illegible]、子[illegible]門弟子[illegible]」

もんと（名）門徒 （一）門下ノ生徒。列子、[illegible]「[illegible]之門徒、皆世[illegible]也」[illegible]「允(大、小、大圓丞)同[illegible]門徒可レ任レ之歟」（二）其宗門ニ歸依シテアル人。[illegible]、[illegible]、[illegible]門徒」 平家物語、四、[illegible]ヘの[illegible]坊ノ阿闍梨[illegible]、云云、慶秀ガ門徒ニ於テハ、今夜六波羅ニ押寄セテ打死セヨヤ、トゾセンギシケル」（三）門徒宗ノ略。

もんと（名）主水 もんどり（主水）ノ略。

もんこう [illegible]

「[illegible]人錦、雅、[illegible]、云云、[illegible]、白[illegible]、[illegible]二」

もんどころ（名）紋所 各家ノ紋章。も [illegible]

もんとしゅう（名）門徒宗 佛教ノ一派。[illegible] 信[illegible] もんとしゅう（眞宗）ノ條ヲ見ヨ。

もんとのつかさ（名）主水司 古ク、水 [illegible] 司。[illegible] 宮門 [illegible] 司トテ、[illegible] 水、[illegible] 事ヲ [illegible]

もんどひ（名）門樋 ひのくち（樋口）ニ [illegible]

〜もんどり（名）主水、水取 もひとり（主水）ノ音便[illegible]。名目抄「水取、モムトリ」神武紀、二年二月「主[illegible]」

もんどり（名）翻筋斗〔戻リ、ノ音便〕[illegible] 身ヲ倒[illegible]翻轉シテ、復タ [illegible] ト。モドリ [illegible] ト [illegible] ボがヘリ。[illegible] 太 [illegible] 十七、[illegible] 山ガラノ、サノミもどりヲ、ウツノ宮、都ニ入リテ、イデモヤラヌハ」「もんどりカヘス」もんどり打ツ」

もんどりうち（名）戻打 かへりうち（反打）ノ條ヲ見ヨ。

もんなし [illegible]〔一文無シノ略〕一文ノ錢モ持タヌコト。

〜もんにん（名）文人 漢文、及、詩ヲ作ル人。多クハ、大學寮ノ人ニ云フ。公事根 [illegible] テ御前ニテ講ゼラル」宇津保物語、吹上、上「文人 [illegible] 頭、廿一、少女「もんにん、擬生ナドイフナルコトドモヨリ打チハジメ、スガスガシウシハテ給ヘレバ、[illegible]」

もむにれ（名）[illegible] 或ハ、樅ニ似タル楡ナルベシトモ云フ。[illegible] ギ垂ルヲ云フナリト」

もむのき（名）樅 もみ（樅）ト云フニ同ジ。[illegible]

もんは（名）門派 宗門ノ流派。門流。易林節用集（慶長）下、人倫門「門派、モンハ」

モンパ（名）紋羽〔蕃語ナリト云フ、[illegible]〕綿布ノ一種 [illegible] 多ク [illegible] 織レルモノ。多ク、肩着、[illegible]、足袋ナドトス。紋羽織 [illegible] 紀伊續風土記、十、下、紋羽織、此ノ品、[illegible]「[illegible]ヨリ紋羽ト名ヲ改メ、[illegible]へ出シテ、名品トナル」

もんぱう（名）門牓、門榜（一）門ノカケフダ。門牌。[illegible] 下（宋、[illegible] 紹興十 [illegible]）（二）物品、反、ソノ數ヲ記シタル門鑑。

もんぱつ（名）門閥〔閥ハ功ヲ門ニ掲ゲ記ス札ニイヘカツ〕門地 [illegible] 傳、[illegible] 於門閥、肌膚 [illegible] 於 [illegible]」

もんぱん（名）[illegible]

「共儀ナラバ、御門番ナリ共殺ニ傷付ニテ成ニ下イ」

もんび（名）物日〔ものび（物日）ノ音〕[illegible] ド [illegible]

もんびらき（名）門開 かどびらき（門開）ニ同ジ [illegible] きト申シテ、メデタイモノデゴザル」

もんぶきやう（名）文部卿 明治十八年 [illegible] 現今ノ文部大臣ニ當ル。

もんぷく（名）紋服 紋付ノ着物。

もんぶしやう（名）文部省（一）古ヘ、式部省ヲ改メタル時ノ稱 [illegible] シテ [illegible] 年八月 式部省 [illegible] 文部省二」（二）一國ノ教育行政事務ヲ總轄スル官省。文部大臣 [illegible] 專門、普通、實業等ノ學校、社會教育、宗教、教科圖書、ナドニ關スル事務ヲ掌リ、[illegible] 教育制度、學生思想、國宣史蹟、調査、及、學術研究所、學士院、美術院、圖書博物館ナドヲ監督スル中央官廳。

もんぶだいじん（名）文部大臣 國務大臣ノ一ニシテ、文部省ノ長官。

もんぺ（名）[illegible]「人名、門[illegible] 退ルカ」又、もっぺ。もんぺえ。かるさんニ似、袴ノ [illegible] 如キモノ。俚言集覽 [illegible] もんぺ、出羽ニテ、モモ引ヲイフ」

もんぺう（名）門標 カドフダ。モンサツ。

もんぺえ（名）[illegible] 前前條ノ語ニ同ジ。

もんぼく（名）門僕（一）家ニ仕フル下 [illegible] 到 [illegible]」（二）てんやく（典鑰）ノ唐名。

もんぼふ [illegible]

もんまう（名）[illegible] 學問セズシテ、文字ヲ讀ミ得ヌコト。又、ソノモノ。アキメ [illegible] 法師ニナリタリトモ、非人ニテコソアラメトテ、云云」

もんみんくし（名）問民苦使 古ヘ、諸國ニ遣ハサレテ、民ノ疾苦ヲ、問ハシメラレタル使。續紀、廿一、天平寶字二年九月「西 [illegible]」

もんめ（名）[illegible] 一文ノ目 [illegible]リ起レル語、（寛永錢一文ノ初鑄一匁ナリ）[illegible] 一文ノ目 [illegible] 文ノ一ヲ學者ノ力負ノ考ヘナリ」（一）秤目ニ、貫ヲ千ニ別ケタル一ノ稱。[illegible] 六十 [illegible] 別ケタル [illegible] ドノ [illegible] シテ、日。錢（二）銀目ニ、小判一兩ヲ六十 [illegible]

もんもん（副）悶悶 ウレヘモダユル狀。[illegible]

財門「化蝶、糸（匁）名」（けてふノ條ヲ見ヨ）

もんやぶり (名) 門破 門扉ヲ打チ破リテ闖入スルコト。 色之助草子[illegible] マタシテモ朝比奈ガ門やぶり、金ピラガ人ツブテ」

もんらう (名) 門廊 中門ノ廊。 今鏡、上、第二、「鳥羽の[illegible]ニコモリ居サセ給ヒテ、年ノハジメニモ、門廊ナドサシテ、人モ參ラザリキ」

もんりう (名) 門流 一門ノ分レ。 易林節用集「慶長下、[illegible]門 門流、モンリウ」 新可笑記[illegible]元禄、西鶴]二「新[illegible]、古座二ツニ分リ、[illegible]、云云、古座ノ門流是レヲ見限リ」

もんりょ (名) 門閭 〔閭ハ、村ノ門〕 家ノ門ト、村里ノ入口ノ門ト。 禮記、曲禮、上「[illegible]君出就車云云、車[illegible]、子[illegible]門ハ君[illegible]之手、[illegible]車右就車、門閭溝渠必步」

もんゐき (名) 門閾 門ノシキミ。 漢書、王莽傳「[illegible]曰、黃闡母后之義、思不出乎門閾」 盛衰記、九、善光寺[illegible]上事「十念ヲ唱ヘ祈申シカハ、彌陀如來、云云、長者ノ門閾ニ現ジ給ヒタリケルヲ」

もんゐん (名) 門院 にようゐん(女院)ノ條ヲ見ヨ。「建禮門院」美福門院」

もんゑい (名) 門衞 門ノ守衞。門番。 南史、[illegible]傳「陳軍[illegible]書、死者五千人、[illegible]門衞皆走」

もめ (名) 揉 (一)モメルコト 皺寄ル コト。(二)イサカヒ。アラソヒ。モンチャク 不和 紛擾 葛藤 「もめゴト」

もめん (名) 木綿 草綿ノ果實ノ中ニ生ズルモノ 潔白ニシテ、甚ダ柔ナリ、綿トシテ、衣服、布團ナドニ入レテ、溫ヲ取ル。眞綿ニ對シテ、もめん綿ト云フ コレヲ紡ギテ絲トセルヲ、木綿絲(綿絲)トシ、綿布ニ織ル。(天文年間、薩摩ニ織リ始ムト) 綿花布 張籍詩「蜀客南行過、碧溪ハ木綿花發錦江西」 字類抄「木綿、モメン」

もめん-ガッパ (名) 木綿合羽 かっぱ(合羽)ノ條ヲ見ヨ。 我衣(文化、[illegible])「男子木綿合羽ヲ着ルコトハ、寛文ノ比、有徳者ノ始ル所也」

もめん-たび (名) 木綿足袋 木綿ニテ造リシ足袋。たび(單皮)ノ條ヲ見ヨ。 老人雜話(江村[illegible])「木綿足袋ハ、今ノ[illegible]法ノ如クナルハ、長岡山齋ノ母初メテ製之、山齋ノ茶ノ會ニ出フルル時、足袋ルトテ、ハカレシトゾ」

もめん-づる (名) 黃耆 荳科ノ草本ノ名。古名、ヤハラグサ。カハラサザゲ。わうぎ(黃耆)ノ條ヲ見ヨ。

もめん-はば (名) 木綿幅 織物ノ普通ノ幅 即チ、鯨尺 テ九寸三分、乃至、九寸五分トス。ソノ倍ナルヲ大幅トス。 今宮心中(寶永、近松作)中「キヌヲモ包ム世ヲ包ム、ソノ風呂敷ノもめんはば、身ノナル果コソ」

もめん-わた (名) 木綿綿 草綿ノ果實ヨリ採レル綿 (木綿ノ條、參見セヨ)

も-める・メル・メレ・メ・メ・メヨ (自動、下二) 揉 〔揉まるる(被レ揉)ノ約轉、【[illegible]】ノ例〕 (一)揉マレテ皺寄ル。(二)人ト人トノ間 不和ガ起ル。 軋轢 好色一代男(天和、西鶴)八「始メヨリもめる事ナレバ、ソレヨカロトイフ舞ノ下ヨリ、云云」 氣が揉めるトハ、悶エ憂フ、又、心配スルノ意。 煩思

もも (名) 股 〔相向ク意ノ語カト云フ、向股ト云フモ是レナリ〕 古ク、むむ。脚ノ上部、腰ニ接グ處。 髀 倭名抄、三七手足類「股、毛毛」 字鏡「股、字[illegible]毛毛」 同「髀、[illegible]、髀、[illegible]、股外、毛毛」[illegible]「髀、膝上尻之下、毛毛」

もも (名) 桃 (眞實ノ轉、讚メテ云フカト云フ、又、燃實ノ意カト云フ、或ハ、實ノ多キニヨリ百ノ義カ、沖繩ニテ、むむ) (一)樹ノ名。早ク長ジテ早ク老エ、十年ヲ保チ難シ、尋常、實生ヨリ三年ニテ花實アリ、花ハ、春、開ク、紅ナルヲ常トス、又、白アリ、緋アリ、實ハ、初秋、熟ス、梅ノ實ヨリ大キクシテ、少シ尖リ、皮ニ微毛アリ、味、美ナリ。 倭名抄、十七[illegible]類「桃子、毛毛」 神代紀、上「[illegible]大樹二」 萬葉集、七[三十四]「向峯ニ、立テル桃樹、ナリヌヤト、人ゾササメキシ、汝ガ心ユメ」 (二)草綿ノ果實。(其條ヲ見ヨ) (三)襄、色目ノ名 表ハ唐紅ニシテ、裏ノ紅梅ナルモノ。

もも (數) 百 〔諸ト通ズ、物物ノ意ト云フ〕 (一)十ヲ十倍セル數。百。 字類抄「百日、モモカ」 萬葉集、十二[卅四]「百ニ千ニ、人ハ言フトモ、ツキ草ノ、移シゴコロハ、吾持タメヤモ」「百夜[illegible]」 (二)數多[illegible]ト。[illegible]成ナルコト。 龍田風神祭祝詞「百能物知人等乃」「百世」百千鳥」百敷ノ大宮」百足ル」百取ノ机代ノ物」

もも-いろ (名) 桃色 桃ノ花ノ色、即チ、紅ノ稍薄キモノ 桃紅

ももいろ-おしろい (名) 桃色白粉 古ヘニ云ヒシ經粉(其條ヲ見ヨ)。紅ト白粉トヲ雜ゼテ、薄桃色ニシタルモノ 頬紅ナドニ用キル。 燕支粉

もも-か (名) 百日 (一)日數、百。ヒャクニチ 字類抄「百日、モモカ」 萬葉集、五[illegible]「毛毛可シモ、行カヌ松浦路、今日ユキテ、明日ハ來ナムヲ、何カ障レル」 (二)小兒生レテ百日目。祝ヒテ餅ナド製ス。 いかのいはひ(五十日祝)ノ條ヲ見ヨ。 續古今集、廿、賀「後朱雀院生レ給ヒテ、御ももかノ夜、ヨマセ給ヒケル、云云」

もも-が (名) 鼯鼠 むささび(鼯鼠)ニ同ジ。ももんぐゎあ(鼯鼠)ノ條ヲモ見ヨ。

ももか-いもひ (名) 百日齋 百日間、潔齋シテ身體ヲ淸淨ニスルコト。 治承二年

廿二番歌合「誰ガタメノ、ももかいもひノ、シメナレヤ、アハントイハバ、今モアケテン」

もも-かがり (名) 百篝 いなづま(稻妻)ノ異名。 秘藏抄、上「秋ノ田ノ、穗ナミカガヤク、[illegible]トハ、いなづま也」

もも-かは (名) 桃皮 山桃ノ皮。其煎汁ヲ藥用トシ、又ハ、褐色ノ染料トス。一名、シブキ。 楊梅皮

ももき (名) 烏臟 ももけ(烏臟)ニ同ジ。 名義抄「臟、ヒモキ、ヒムト、[illegible]」[illegible]、ツクリモルベシ」

もも-くさ (名) 百種 クサグサ。サマザマ。千種。 萬葉集、八[卅]「此花ノ、ヒトヨノウチニ、百種ノ、言ゾコモレル、オホロカニスナ」

もも-くさ (名) 百草 種種ノ草。千草。 古今集、四、秋、上「百草ノ、花ノヒモトク、秋ノ野ニ、思ヒタハレン、人ナトガメソ」

もも-ぐさ (名) 百草 まつ(松)ノ異名。 藻鹽草、九、松「松、百草(フルキ物ニアリ)」

もも-くま (名) 百隈 多クノ隈。クマグマ。 萬葉集、廿[卅]「毛母久麻ノ、道ハ來ニシヲ、マタサラニ、ヤソシマ過ギテ、別レカユカム」

ももけ (名) 烏臟 〔むむきノ轉〕 又、ももき。モムキ。鳥ノ五臟。

もも-け (名) 腋毛 鶏ノワキゲノ稱。

ももさか-の-ふね (名) 百積船 多クノ物ヲ積ム大ナル船。 萬葉集、十一[illegible]「百積ノ、船カヅキイルル、ヤウラサシ、母ハ問フトモ、ソノ名ハノラジ」(略解ノ訓、但、古義ニ、百尺ノ義トスレドモ穩ナラズ、ももつみト訓ムベシト見エタリ)

もも-さへづり (名) 百囀 數多サヘヅルコト。 永久四年百首、春「ツレヅレヲ、何ニカケテ

カ、寝メン、ももさへヅリノ、鳥ナカリセバ」

ももしき [illegible]

ももしきの (枕) [illegible] 大宮ニ冠ラスル枕詞。[illegible]

ももしぬの (枕) [百小竹之] み(實、御)ニ冠ラスル枕詞。萬葉集、十三 長歌「百小竹之、三野ノ王」[illegible]

ももしね (枕) 百歳年[illegible] 小竹 [illegible]

ももしり (名) [桃尻] 〔桃ノ實ノ尻ノスワラヌニ譬ヘテ云フト云フ、博多ニテハ、尻ノスワラヌ、ト云フ〕乘馬ノ拙キヲ云フ語。[illegible]

ももぞめ (名) [桃染] 退紅ニ同ジカルベシ。桃色。天智紀、六年閏十一月「桃染布五十八端」[illegible]

ももだち (名) 股立 股ノ、當ル所ヲ裁チ [illegible] 面ニ向フ所ノ明キタルトコロ。ソバ。[illegible] 見ヌレバ」一名、相引。コレヲ摘ミ揚ゲテ帶ニ插ムヲ「股立を取る」ト云フ。(二) 股立ノ端ヲ取ル [illegible]「笛フマバ、ももだちヲ取レ、長袴」

ももたにのぬさ (名) [百谷主] 〔數多ノ谷間ノ水ヲ注ギ入ルル處ナレバ云フ、モト百谷王ノ文字讀。老子、第六十六章「江海所ニ以能爲ニ百谷王ニ者、以ニ其善ニ下ノ之、故能爲ニ百谷王ニ」〕海ノ異名。新六帖、三、海「もも谷の、ぬさトイフナル、海ナレバ、水ノココロニ、ソムク世ゾナキ」

ももたらう (名) [桃太郎] 〔支那ニテ、桃ハ仙木ニテ、邪氣ヲ厭伏シ、百鬼ヲ制スト云ヒ、我ガ國ニテハ物忌ニ用ヰル。神代紀、上 [illegible] 伊弉諾尊、桃ノ實ヲ採リテ雷ニ擲チ給ヒシカバ、雷退キヌ、此用桃避鬼之縁也」ト見エタリ、コレラニ因リテ童話ノ成レルナリト云フ〕童話ノ一。「昔、老夫婦アリ、婆、川ニ衣ヲ洗フ、桃ノ實流レ來ル。攜ヘテ家ニ歸レバ、桃自ラ割レテ、中ニ男子アリ、コレヲ養育シテ桃太郎ト名ヅク。成長シテ強力ナリ、母ニ請ヒテ黍團子ヲトトノヘ、鬼ガ島ニ趣キ寶ヲ得ムトス。行ク行ク犬アリ、團子ヲ賜ハラバ從者タラムト。與ヘツ。又、猿ト雉子トニ逢フ。又、團子ヲ與ヘテ從者トシ、遂ニ鬼ガ島ニ到リ、擊チテ鬼ノ王ヲ擒ニス 鬼ドモ [illegible] 寶ヲ獻ジ、王ノ命ヲ乞フ。桃太郎、寶ヲ受 [illegible]

ももたらず (枕) [百不足] 〔百ニ足ラヌ、五十、八十ノ意〕(一) 五十、八十、ナドニ冠ラスル枕詞。古事記、上「百不足八十坰手ニ隱而侍」萬葉集、十三 長歌「池ノ堤ノ、百不足、五十槻ガ枝ニ [illegible]」(二) い、やナドニ冠ラスル枕詞。萬葉集、一 長歌「百不足、五十日太ニ作リ [illegible]」同、十三 長歌「百不足、山田ノ道ヲ」

ももだる ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [百足] 〔多ク枝ノ茂リ足ルノ意〕[illegible] 數數足リ備ハル。古事記、下(雄略)「毛毛陀流、槻ガ枝ハ、上枝ハ、天ヲオヘリ」

ももち (數) [百] 〔百箇ノ義〕(一) もも(百)ト云フニ同ジ、百。續後紀、十五、承和十二年正月 [illegible]「[illegible] 尾張連濱主ノ獻ジタル歌」堀河百首「ミツももち、ムソヂ [illegible]」(二) アマタ。ヨロヅ。月詣集、十「アカツキノ、ネザメニスグル、シグレコソ、ももちノ人ノ、袖ヌラシケレ」

ももちだる ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [百千足] ももだる(百足)ト云フニ同ジ。[illegible] 神紀、六年二月「千葉ノ、カヅヌヲ見レバ、百千足ル、家庭モ見ユ、國ノホモ見ユ」

ももちどり (名) [百箇鳥] (一) 古今傳授ノ三鳥ノ一。アマタノ鳥。百鳥。千鳥。萬葉集、十六「吾ガ門ノ、榎ノ實モリハム、百千鳥、千鳥ハ來レド、君ソ來マサヌ」源 [illegible] 十四、上、若菜、上「アサボラケノタダナラヌソラニ、ももちどりノコヱモ、イトウララカナリ」(二) ちどり(衛)ノ稱。和泉式部集、四「友ヲナミ、河セニノミゾ、立居ケル、百千鳥トハ、誰カイヒケン」(三) 誤リテ、鶯ノ稱。拾玉集、一、春、鶯「チトセフル、千年ノ松ノ、枝ニ居テ、モモ色トナク、百千鳥カナ」

ももったぶ (名) [臀] 股ノ、肉多キ處。

ももづたふ (枕) [百傳] 〔多クノ處處ヲ歷傳ヒ行ク意ト云フ〕五十、八十、磯、度會ナドニ冠ラスル枕詞。[illegible]「百傳、磐余ノ池ニ、鳴ク鴨ヲ [illegible]」(五十二カク) 同、七「百傳、八十ノ島廻ヲ [illegible]」[illegible]

ももつづり (名) [百綴] 色色ツギアハセタルコト。又、ツヅリノキヌ。三寶繪詞 抄、父子相迎「原憲ガももつづり、顏子ガ一ヒサゴ」

ももて (名) [百手] (一) 色色ノ手ダテ。[illegible] 手ヲ碎キ、アマタノ敵ニカケ向フ」(二) 射術ニ云フ語。矢數二百ヲ百度ニ射ルコト。[illegible]

ももてまと (名) 百手的 百手ニ用ヰル大的。[illegible] 杖ニ立テ、三十三人シテ三十三立ニ射ルト也」

ももざ (名) 百座 古ヘ、公事ノトキ、大炊寮ヨリ供スル飯ノ稱。西宮記、八月「內論議、云云、[illegible] 百度」

ももとせ (名) [百歲] 齡百年ナルコト。ヒャクサイ。又、多クノ年。

ももどり (名) [百鳥] 又、ももちどり。アマタノ鳥。萬葉集、六 長歌「咲ク花ノ、色 [illegible]

メヅラシク、百局ノ、螢ナツカシク」

ももとり-の-つくゑ (名) 〔百取机〕 〔百ハ多ナリ、取ハ持ノ意〕 色色ノ物ヲ多ク持チ設スル机。古事記、下(雄略)「[illegible]持百取之机代物、[illegible]出献」

ももなひと (名) 〔百合人〕 〔ももなひハ、百の合ノ約、此の問、おなひだノ類、とハひとノ略、一説ニ、百之人ノ義ト云フ〕 モモノヒト。百ノ人。又、百ニ當ル人。神武即位前紀「エミシヲ一人、毛毛那比苦、人ハ云ヘドモ、手向ヒモセズ」

ももなりへう (名) 〔百成瓢〕 ひやくなりへうたん(百成瓢箪)ニ同ジ。

ももぬき (名) 股貫 〔股貫履ノ略〕 股ノアタリマデ、貫キ入ルル沓。深履ノ長キモノカ。字類抄「脇抜、モモヌキ」宇治拾遺、九、第五[illegible]「[illegible]高クナセンミタル沓、赤紐ニテ五十バカリナル、太刀ハキ、股ぬきハキテ出テ來タリ」

もものせっく (名) 〔桃節句〕 じやうし(上巳)ノ條ヲ見ヨ。此日、桃花ヲ酒ニ浸シ飲メバ、百病ヲ除キ顔色ヲ益スト云フ。

もものつかさびと (名) 〔百官〕 數多ノ官人。孝徳紀、大化五年二月「置二八省百官一」

もものつけね (名) 〔股附根〕 股ノ内部ノ、下腹ニ接シテ、窪ミテ谷ノ如キトコロ。イヌゴ。鼠蹊

もものゆみ (名) 〔桃弓〕 桃ノ木ニテ作リタル弓。古ヘ、追儺ノ儀式ニ用ヰシモノ。儀式、十、十二月大儺儀「小儺今良、着二紺布衣、緋末額、持桃弓、葦矢、桃杖、碎瓦一」

ももはがき (名) 〔百羽搔〕 はがき(羽搔)ノ條ヲ見ヨ。

ももはばき (名) 〔股脛巾〕 次條ノ語ノ(一)ニ同ジ。宗五大雙紙、公方様御成の様體事「公方様御小者、ももはばき、脚半ハ、十月五日内野ノ御會ヘ御成ヨリ、三月三日マデ被二用候一」

ももひき (名) 〔股引〕 〔股着ノ轉ナルベシ、脚絆ニ對シテ、股マデ穿ク〕 (一)又、ももはばき。兩ノ股ノ部ニ、膚ニ付ケテ穿ク狹キ袴ノ如キモノ。膝ヨリ下ハ脚絆ニ接ス。ハダバカマ。半股引 袴襠 後世ハ、コレヲ猿股引(又、猿股)ト云ヒ、別ニ、脚絆ヲ用ヰズ、[illegible]ニテ連ネテ綿布ニテ製セルヲ專ラ用ヰ、[illegible]絹布ナルヲ[illegible]ト云ヘリ。[illegible]文政、[illegible] セ、[illegible]ノ馬乗ハ、[illegible]股引ノヤウニコシラヘ、云云」 (二)錢二百文ノ稱。二緡投ズレバ、ももひきノ形トナルヨリ云フ。

ももへ (名) 〔百重〕 多クカサナルコト。イヤガ上ニモカサナルコト。千重。萬葉集、四「[illegible]ミ熊野ノ、浦ノ濱木綿、百重ナス、心ハモヘド、タダニアハヌカモ」(古義ノ訓)

ももまゆ (名) 〔桃眉〕 桃ノ實ノ如キ黛ヲ、額ニ二ツオククコト。(童體ニ) 光源院殿御元服記(天文)「御髪亂サルル、御眉ハももまゆ也」

ももんぐゎあ (名) 〔鼯鼠〕 〔又、ももがトモ云フ、ももハもみノ轉、が、ぐゎあハ、鳴ク聲ヲ云フカ〕 (一)古名もみノ轉訛。即チ、ムササビ。又、ももが(關東) 近代世事談(享保、菊岡沾涼)五「[illegible]、世ニ[illegible]モモンガ[illegible]ト云、夜出ル、夜行ノ人ノ炬松ヲ襲テ、コレヲ消、ソノ烟火ヲ喰ク、ヨッテ妖怪ナリト、人コレヲオソル、本草ニ云フ所ノ鼯鼠也、土人コレヲ呼デ、ももんぐゎト號、小兒ヲ怖ノコトハ、コレヨリハジマル」 (二)小兒ノ戯ニ、衣ヲ被ヒ臂ヲ擴ゲテ、鼯鼠ノ翅ヲ張リタル狀シテ、人ヲ威スコト

ももんぢい (名) 〔ももんぐゎあノ轉ニモアルカ、事ハ、鼯鼠、元興寺ノ類ナルベシ〕 (一)俗ニ、尾ノ生エテアルモノヲ云フ語。卑シミ嫌フ意ヨリ、小兒ヲ怖スニ用ヰル。(二)轉ジテ、猪、鹿等ノ肉ノ稱。[illegible]世[illegible]、文化、[illegible]百日[illegible]テヤル[illegible]、其中ノ[illegible]

ももんぢや (名) 往時專ラ猪、鹿等ノ獸肉ヲ賣リタル家。江戸、兩國[illegible]、[illegible]屋、四谷ノ甲州屋、日本橋、四日市ノ[illegible]をゐト三戸アリキ。今ハ豐田屋ノミ存セリ。イヅレモ店前ニ、看板トシテ大行燈ヲカケ、赤ニテ、猪、牡丹ニ、鹿ニ紅葉)トヲカキ、やまくぢらト假名ニテ大キク書ケリ、軒ニ猪、鹿ヲ吊ス(又、獸類數多アリ)。ぼたん(牡丹)、もみぢ(紅葉)ノ條、參見セヨ。(古ヘハ四足ヲ食フヲ忌ミ、賤人ノミ冬時ノ食トセリ)

ももや (名) 〔百矢〕 矢櫃ニ百筋入レタル矢。太平記、十七、山門攻事「本間ト相馬ト二人、云云、白鳥ノ羽ニテハギタル矢ノ、十五束三伏有リケルヲ、百矢ノ中ヨリ只二筋拔イテ弓ニ取副ヘ」

ももやから (名) 〔百族〕 商人ノ異稱。倭名抄、二十四十工商類「商人、阿岐比止、一云、商賈(賈ノ誤リ)、一云、百族、毛毛夜加良」前田本字類抄「百族、モモヤカラ、賣人也」

ももやまだい (名) 〔桃山時代〕 〔桃山ト云フ名ハ、秀吉以後ニ起リタル稱ナリ〕 天正年中ヨリ慶長ノ初マデ、豐臣秀吉ノ、山城國、伏見ノ桃山ニ居城シ、十五年間許リ政權ヲ執リタル時代。

ももゆ (名) 〔桃湯〕 夏ノ土用ニ、桃ノ葉ヲ入レテ、浴スルコト。又、其湯。浮世[illegible]、マダラマダラト持アカズハ、六日ノ菖蒲湯流行ニ後レ、殘暑ノ桃湯踏備ナルベシ」

ももよ (名) 〔百代〕〔百世〕 (一)多クノ年月。長キ年月。[illegible] (二)[illegible]

ももよ (名) 〔百夜〕 多クノ夜。幾夜モ幾夜モノコト。[illegible]「コノ夜ノ、早ク明ケナバ、スベヲ無ミ、秋ノ百夜ヲ、願ヒツルカモ」

ももよぐさ (名) 〔百世草〕 きく(菊)ノ異名。萬葉集、廿「父母ガ、殿ノシリヘノ、母母余具佐、百世イデマセ、我ガ來ルマデ」

ももよせ (名) 〔股寄〕 太刀ノ鞘ノみねノ方ノ、前金。[illegible]「[illegible]ノ太刀ノ、ももよせニゾ射留タル」

ももわれ (名) 〔桃割〕 女ノ結髪ノ一。十八九歳前後ノ娘ノ結フモノ。

もや (名) 〔靄〕〔霧〕〔靄〕 〔濛靄ノ音、ト云フハイカガ〕 霧ノ深キモノ。(霧ニおるト云ヒ、靄ニたつト云フ)ナゴ、[illegible]、天象類「[illegible]、和名岐利、靄(行作靄)、俗ムヤ也」

もや (名) 〔焚木〕 〔燃ス意カ〕 たきぎ(薪)ノ方言。(伊豆、玖須美、伊東)

もや (名) もやひ(舫)ノ略。其條ヲ見ヨ。[illegible]、十七、船、むやみ[illegible]もや共云也」

もや (名) 母屋 〔身屋ノ轉ト云フ〕 (一)〔屋ノ中ニテ、宗トアル處、即チ、古ヘノ寢殿造ニテ、ソノ中央ノ間ニテ、廂ノ内ナル處〕 枕草子、九、第九十八段「簾打チ見テ、母屋ヨリ少シキザリ出デタル」 江家次第、一、元日宴會「身屋、九間内、四面庇代[illegible]之」 (二)木工ノ語ニテハ、凡ソ、家ノ簷ノ内。(三)又、宗ト住居ニ用ヰル家。オモヤ (別

模ナル長屋、物置ナドニ對ス)

〜もや (名) [喪屋] 假リニ、屍ヲ殯メオキテ、種種ノ葬儀ヲ行フトコロ。アラキ。[illegible]

もやう [illegible] (一)[illegible]他ノ模ヲ取リテ、寫シタルモノ。アヤ。[illegible]「萩ノ褶書、白露ガ若松、色色ノ模様好ミ、素人目ニハ、アダニ見ルラン」(二)アリサマ。容[illegible]模様、ナドハ、催ノ訛カ。

もやうがへ (名) [模様替] 大工ノ語。建築ノ設計ノ變換。又、家屋ノ装飾ヲ改[illegible]

もやく・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) (一)アツマリサワグ。ゴタツク。モツレル。[illegible]もやくり出シ、押シテ祝言サセフトアル」(二)ムシャクシャスル。モヤモヤスル。今宮心中[illegible]もやくッテ蒸シ暑キ、材木納屋ニ立チ隠レ」

〜もやし (名) [illegible] モヤシタルモノ。籾米ヲ、十分ニ水ニ浸シテ、筵ニ捲キテ芽ヲ萌シタルモノ。苗代ノ種トス。牙秧 大豆ナルヲ、まめノもやし、ト云フ、五寸許ニ、煮テ食フ。大豆黄卷 麥ニ[illegible]く、白米ヲ蒸シテ飯トシ、けやき(欅)ノ[illegible]モノハ、酒ヲ釀ストキ、麴ニ加ヘテ用ヰ[illegible]

〜もや・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [燃] [もすノ延、もゆノ他動] 燃ユルヤウニナス。モス。タク。ヤク。竹取物語「不死ノ藥ノ壺並ベテ、火ヲツケテ、もやすべキヨシ仰セ給フ」

もや・す [illegible]ゆノ他動) 萌ユルヤウニナス。芽ヲ出サシム。メグマシム。發芽セシム。六帖、一「春雨ノ、降ルニ思ヒハ、消エナクテ、イトド思ヒノ、メヲもやすラン」「豆ヲもやす」「麥ヲもやす」

もやはす (動) [催] もよほす(催)ノ轉。

もやひ (名) [舫] むやひ(舫)ニ同ジ。略[illegible]ノ覽 舶舶ヲ組合セ、中ニもやひヲ入レ、歩ミノ板[illegible]

もやひ (名) [催合] モヤフコト。共共ニナスコト。アヒアヒ。共同 「催合傘」

もや・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) [舫] むやふ(舫)ノ轉。其條ヲ見ヨ。

もや・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) [催合] [もよふノ約ト云フ] (一)[illegible]モチヨル。人人寄合ヒテ共共ニナス。相倶 共同 [illegible]「[illegible]小屋ヲ小路小路もやッテ作リナラベ」 (二)出シ合フ。

もやもや (副) [濛濛] (一)霧ナドニテ、分明ナラヌ狀、又ハ、[illegible]シテ蒸ス如キ狀ニ云フ語。ボヤボヤ。(二)思ヒ煩ヒテ[illegible]ヌ狀、又ハ、焦慮スル狀ニ云フ語。煩悶 (三)[illegible]狀ニ云フ語。[illegible]毛 草ナド[illegible]生ヒタル狀ニ云フ語。バウバウト。

〜もやもや-も-あらず (句) [不便] 不便ナ[illegible]

〜も・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(自動、下二) [燃] (一)[illegible]テ、問ヒシ君ハモ」(二)陽炎ノ氣起ツ。[illegible]ル。焦慮ス。心火 萬葉集、四 「念ハヌニ、妹ガ笑ヒヲ、夢ニ見テ、心ノウチニ、燃ツツゾ居ル」

〜も・ゆ・ユル・ユレ・イ・イ・イヨ[illegible]

〜も・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(自動、下二) [萌] 「芽生ゆノ約轉[illegible]」[illegible]「芽生ケルツモト見ユ」[illegible]木、生ヒ立ツ。メグム。[illegible]「萌、モユ、草木始生也」[illegible]八線ニ、紅ノ、錦ニ見ユル、秋ノ山カモ」

〜もゆらに (副) [もハまニ通ズ、發語ナリ] 玉ノ動キテ、相觸レツツ鳴レ狀ニ云フ [illegible]

〜もゆるつち (名) [燃土] 石炭、泥炭ノ類。天智天皇七年ニ、[illegible]

〜もゆるみづ (名) [燃水] 前條ノ語ヲ見ヨ。

〜もよ (感) [illegible]

もよぎ (名) [萌葱綠] もえぎ(萌葱)ノ轉。[illegible]

もよひ (名) [催] モヨホスコト。[illegible]「宇治[illegible]二行幸セ、鷹ノもよひセラレケリ」

もよほし (名) [催] (一)[モヨホスコト。ウナガシ。催促。宇津保物語、國讓、下「[illegible]御心トオボシ立チタルカ、御もよほしカ」(二)物事ノ、起ラムトスルコト。キザシ。(三)[illegible]は化しと歎く女房「女院ニハ待チツケ聞エサセ給ヒテ、イトドシキもよほしナリ」

〜もよほしがほ [illegible]「空キコウスミワタレルニ、風イトスズシク吹テ、草ムラノムシノコヱゴヱ、もよほしがほナルモ、イトタチハナレニクキクサノモトナリ」

〜もよほしぐさ (名) [催種] 誘引スベキタネ。[illegible]「イヅレヲやナガメツツ、ナゲメ給ヒ、カツハモノ思ヒノもよほしぐさナメリ」

もよほしぜい (名) [催勢] 催シアツメタル軍勢。[illegible]六、正行參 吉野ニ事「今ハスエズヱノ源氏、[illegible]ノ催シ勢ナドヲ向ケテハ、叶フベシトモ覺エズトテ」

もよほ・す・ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) [催] 物事ノ起ラムトス。始マラムトス。キザス。[illegible]

もよほ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [催] [もやふ(催合)ノ他動] (一)[ウナガス。セ[illegible]「軍勢ヲ催す」(二)一般ニ事ヲ起ス。設ケ起ス。始メ行フ。[illegible]

酒宴ヲ催す、舌ヲ催す」(二)課ス。負ス。ハタル。賦課ス。下學、文治元年十一月廿八日「不論庄公、可宛催兵粮、段別五升、非啻兵粮之催、忽以可知行田地」」(四)〔イザナフ。サソフ。誘引ス　源、五、若紫「吹キ迷フ、ミ山オロシニ、夢サメテ、涙もよほす、瀧ノ音カナ」

もより（名）最寄〔最中ニ寄る意〕中心ニ近キ處。近キアタリ。近邊。近傍

もら（名）母良〔おもら(母良)ノ上略〕おら(子良)ノ條ヲ見ヨ。

〔**もら・す**・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）守　もる(守)ノ敬語。マモリタマフ。モリタマフ。萬葉集、十四「アシヒキノ、山ノトカゲニ、鳴ク鹿ノ、聲聞カスヤモ、山田守酢兒」（古義ノ訓）

もら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）漏洩　(一)〔漏ルルヤウニナス。アマシイダス。コボス。源、二、帚木廿六「涙ヲもらしオトシテモ、イトハヅカシク、ツツマシゲニ、マギラハシカクシテ」(二)〔竊ニ他ニ知ラス。(祕事ナド)漏洩　源、四十六、總角五十六「シタニソシリ申スナリト、衞門督ノもらし申シ給ヒケレバ」(三)〔落ス。遺ス。脫ガス。脫　源、四、夕顏五十「コノ程ノ事、クダクダシケレバ、例ノもらしツ」「書キもらす」言ヒもらす」(四)逃ガス。失フ。失逸　「敵ヲもらす」打チもらす」

もらひ（名）貰　又、むらひ。(一)モラフコト。又、ソノモノ。(二)乞食ノモラフ施物ノ稱。又、ソノ貰フ人。乞食。「オもらひ」(三)藝娼妓ナドノ、或座敷ニ勤ムル中ニ、他ノ座敷ヨリ招カルルコト。「もらひガカカル」

もらひ-ご（名）貰子　他人ノ子ヲ貰ヒテ養フコト。又、ソノ子。トリコ。

もらひ-ぢ（名）貰乳　次條ノ語ニ同ジ。

もらひ-ちち（名）貰乳　又、もらひぢ。小兒ノ母ノ乳汁出デザル時、他ノ乳汁ヲ、請ヒ受ケテ育ツルコト。　織留(元祿、西鶴)六「揩粉ニテモ埒アカネバ、もらひ乳ノ不自由サ」

もらひ-どし（名）貰年　厄年ヲ脫レムガタメニ、イクツカ歲ヲフヤスコト。

もらひ-なき（名）貰泣　他ノ泣クニ誘ハレテ泣クコト。陪泣　壽門松(享保、近松作)上「吾妻ハ始終貰ひ泣き、皆ノ衆ハ何笑フゾ」

もらひ-なみだ（名）貰淚　他人ノ泣クニ誘ハレテ流ス淚。　嫗山姥(正德、近松作)二「御道理樣ヤト諸共ニ、貰ひ淚ニクレケレバ」

もらひ-び（名）貰火　類燒シタル火。

もらひ-みづ（名）貰水　他人ノ井水ヲ、貰ヒ汲ムコト。又、其水　續近世畸人傳(寬政、三)熊思孝)三「朝顏ニ、釣瓶トラレテ、貰ヒ水」

もらひ-わらひ（名）貰笑　他人ノ笑ヒニ誘ハレテ笑フコト。　艶容劔本地(寶永、近松作)二「十二人ノコソグリ合ヒ、腰元衆ノもらひ笑ヒ、脇カラ見テノ見事サ」

もら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）貰〔守る(もる)ノ延〕又、むらふ。(一)贈物ヲ受ク。惠ノ洩レタルヲ受ク。請ヒテ我ガ物トス。受贈　(二)他ノ食ヲ受ク。餬　糊口　字類抄「餬、モラフ、或作餬、寄食、口於村閭」」平家物語、二、有王島下事「網人釣人ニ、手ヲ摺リ膝ヲ屈メテ魚ヲ貰ひ」「口ヲ貰ふ」(三)〔漢書、蘇武傳、注「貰、寬也」後漢書、祭遵傳、注「貰、猶レ赦也」〕賴ミ請フ。人ニ事ヲタノム。依賴「書イテ貰ふ」見テ貰ふ」(四)他人ノ物事ヲ引受ケテ、我ガモノトナス。「ソノ喧嘩ハオレガ貰ッタ」

〔**もり**（名）杜　森　〔[illegible]ノ略[illegible]〕[illegible]ノ上ノ、樹村ヲ見[illegible]（木叢ノ義）トアリ、杜ハ社木ノ合字(一)[illegible]神ノ鎭マリマス地ニ、神籬、神樹ナド、木立アルヲ云フ語。神社ノ門ニアル繁キ木立。やしろ(社)ノ條ヲ見ヨ。字鏡「杜、毛利」天武紀、上、元年七月「吾者高市社所居、名事代主神」萬葉集、七「木綿カケテ、齋フ此神社、越エヌベク、思ホユルカモ、戀ノシゲキニ」（古義ノ訓）(二)轉ジテ、泛ク木立ノ繁リタル所。常ニ森ノ字ヲ書ク。(沖繩ニテ、神社ニ森アリ、もいト云フ)萬葉集、十八「鶉ナサナ、吾カ見ル柳、鶯ノ、來居テ鳴クベキ、森ニ早ナレ」

もり（名）守　(一)〔守ルコト。又、ソノ人。守者　萬葉集、十八、長歌「ワタリ持揮、嬬ヒマウケズ」「宮守」關守」野守」道守」津守」(二)特ニ、小兒ニ傅キ守ルコト。又、ソノモノ。コモリ。傅　保姆　狂言記、子盜人「則チ御守リヲ致イテ居リマシタ、何ノ、子ノ守リヲスルモノカ」

もり（名）漏　水ナドノ漏ルコト。　薩摩歌(元祿、近松作)源五兵衞御島巡分船「ソレソ立ツ名ノ、ウキ雲ノ、雨ノもりトテ、濡レテ行ク」

もり（名）銛〔頭、森ノ如クナレバ云フト云フ〕鯨ヲ刺スニ用ヰル具。大イナル鋒ノ頭ニ、左、右、兩鉤アリテ、一ハ長ク、一ハ短シ、樫ノ柄ヲ付ク、鋒ニ綱ヲ付ケテ船ニ繫ギ、拋チテ鯨ニ中ツレバ、柄ハ脫シテ、鯨ノ動クニ隨ヒテ、鋒、深ク肉ニ入リテ拔ケズ、船ハ綱ニ隨ヒテ行クニ任ス。其他、尚、種種ノ製アリ。書言字考節用集、七、器財門「魚扠、モリ、刺魚具」

もり（名）盛　(一)〔盛ルコト。又、盛レル狀。　枕草子、六、第五十一段「まさひろハ豆ヒトもりヲ取リテ、小サウジノ役ニテ、ヤヲラ食ヒケレバ、[illegible]」(二)[illegible]盛リタルモノ。汁ヲツケテ食フ。(東京)

もりかへし（名）[illegible]　モリカヘスコト。

もりかへ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）盛返　[illegible]ド[illegible]。回復ス。挽回ス。捲土重來　大友興廢記、伊奈三位入道義久與合戰「[illegible]勢もりかへし兵庫頭ヲ助ケ、戰ヒ相引ニスル」

〔**もりき・く**・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）漏聞　モレキク。ヒソカニキク。「仄聞ス」　源、五、若紫四十「カルガルシウ、モテヒガメタル事ト、人モヤもりきかンナド、ツツマシケレバ」

もりきり（名）盛切　汁、肴ナド、一度、器ニ盛リテ出シテ、代ナキコト。往時、大器ニ多ク盛リテ膳上ニ出シ、客ナドノ面前ニテ、小器ニ分ケテ出シ、餘分アリシナリ　コノ盛方ヲ銘銘盛ト云フ

もりぐちだいこん（名）守口大根　大根ノ一種。モト河内國、守口町附近ノ產、頭徑凡ソ一寸、長細ソク、長サ二三尺、糟漬、精進トス。細根大根。水蘿蔔

もりころ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）盛殺　[illegible]ヲ用ヰテ殺ス。毒害ス。毒殺

もりずな（名）盛沙　古ク、立沙。儀式ノ時ナドニ、門戶ノ左右ニ、沙ヲ堆ク盛リテ飾レルモノ。又、神輿、貴人ナドノ通行ノ時、大路ヲ淸メ、水ヲ打チ、沙ヲ蒔キ、傍ニ沙ヲ高ク形コク積ミ盛リオクモノ。再ビ蒔カム用意ナルカ。

もりそば（名）盛蕎麥　略シテ、もり。其條ノ(二)ヲ見ヨ。(掛蕎麥ニ對ス)

もりた・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（他動、下二）

守立[illegible]モ[illegible]育[illegible]モリタテル[illegible]
傅育[illegible]
もり[illegible]ノ世[illegible]

⁂もりた・てる（[illegible]）守立[illegible]ノ[illegible]
[illegible]

もりつぶ・す・ス・セ・サ・シ・セ（[illegible]）[illegible]酒ヲ飲マシメ[illegible]ナ[illegible]ノンム[illegible]本宮臣嶋（狂言、竹田出雲等合作）七「私ヤオ前ニもりつぶされ、アンマリツラサニ醉ヒザマシ」

もりはな（名）盛花（生花、投入ナドニ對スル花ヲ插ス一法。淺、水盤ナドヲ用キテ、花ヲ盛リ生クルコト。又、ソノモノ。（古クハ、器ノ泥ニ插セシトゾ）

〜もりは・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）守食ミマモリ、食フ。萬葉集、十六「吾ガ門ノ、榎ノ實モリ喫ム、百千鳥、千鳥ハ來レド、君ゾ來マサヌ」

〜もりべ（名）守部、守戸 山丘、原野、又ハ、陵[illegible]、番人[illegible]、陵戸。萬葉集、十七[illegible]、[illegible]見引ノ、[illegible]山[illegible]、[illegible]張リ、[illegible]ニテ」

もりもの（名）盛物（一）［[illegible]、食ヲ盛リテ膳ニ供ノルモノ。[illegible]、モリモノ」字津保物語、吹上、下[illegible]「ウルハシキもりものヲ四モリ、ヲシキ一ツニスヘテ」（二）佛前ノ供物。菓子、果物ナドヲ盛リ積メルハ、金銀五色ノ紙ナドニテ飾ル。浮世風呂（文化、三馬）二編、上「オ佛壇ヘ、[illegible]物ヲ竝ベ立テ」

もりやく（名）守役 小兒ニ傅キ守ル役。傅ふ（傅）ノ條ヲ見ヨ。

も・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）漏洩泄（一）（隙ヲ透リテ出ヅ。隙ヨリ脱ケ落ツ。コボル。仁德紀、四年二月「[illegible]雨沽、衣被[illegible]居[illegible]」[illegible]、四、下[illegible]「[illegible]、もり出デサヤ[illegible]」（二）（[illegible]メタルガ他ニ知ラル。源、八、花宴「御心ノ内ナリケン事、イカデもりニケン」同、五、若紫[illegible]「人モヤもりキカン」（三）落[illegible]

[illegible]、三[illegible]司召シニもれテ歎キ作リケル頃」

も・る・ル・ル・ル・レ・レ・レヨ（自動、下二）漏洩（一）前條ノ語意ニ同ジ。透リテ出ヅ。（二）竊ニモレル。「水漏る」「雨漏る」「聲漏る」（二）竊ニ他ニ知ル。「[illegible]」（三）落ツ。遺ル。[illegible]

も・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）守［最（モナカ）ノ活用］（一）［何事ニマレ心ヲ付ケテ伺ヒ考ヘ居リ、厚ク心ヲツクツクシヅク。マモル。萬葉集、十三、長歌「三諸ハ、人ノ守山、モト邊ニハ」「人目ヲもる」山田もる」（二）［相寄る義、見るニ通ズ］眼ヲ其的トスル所ニ寄セテハナサズ。見ツメテアリ。

も・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）盛［茂クアラスル意ト云フ］（一）［器ニ入レ滿タス。積ミ入ル。[illegible]紀「[illegible]」「[illegible]盛ル」（二）堆ク積ム。積ミ上グ。堆積「土ヲ盛る」（三）藥ヲヒニ盛リ、調合シテ病ニ用キル。處劑「藥ヲ盛る」（四）寸法ヲ割リ定メテ着ク。（計リテ加フル意）基盤、秤、物差、ナドノ目ニ）

モルチイル（名）［蘭語、Mortier.］きゅうはう（臼砲）ニ同ジ。

モルヒネ（名）莫爾比涅 莫兒比涅［蘭語、Morphine.］あろかろいど（鹽基性ノ窒素ヲ含メル有機物）ノ一種。味苦ク、水ニ溶解セズ、少量ヲ服スレバ睡眠ヲ催ス。醫藥トシテ用キラル。

〜もるめ（名）守目 人ノ見マモルコト。

[illegible]ニ[illegible]
夏モ、サハラマシカバ」

モルモト [illegible]ノ誤。其條ヲ見ヨ。

モルモン [illegible][Mormon]［[illegible]］るされえく市ニ本部ヲ置ク基督敎ノ一派。千八百卅[illegible]、米人[illegible]（Joseph Smith.）ノ創ムルモノ。多妻主義ナリシモ、其風、今ハ[illegible]。

もれ（[illegible]）漏洩 モルルコト。[illegible]

もれう（名）摸稜、摸稜 事ヲ曖昧ニシオクコト。[illegible]

⁂も・れる（動）漏洩 もる（漏、洩）ノ口語。

もろ（接頭）諸［もろもろ（諸）ノ條ヲ見ヨ、朝鮮語、もら］（一）オノオノノ。メイメイノ。「諸神」「諸人」「諸聲」（二）物二ツ相伴フ。フタツノ。雙方ノ。兩方ノ。兩雙「もろ手」「もろ膝」「もろ脛」「もろ肌」「もろ刃」「もろ差」多キニハ、もろもろト云フ。

もろあげ（名）諸擧 あげうた（擧歌）ノ條ヲ見ヨ。神樂歌、杓（古寫本、[illegible]）、[illegible]、今井似閑註「もろあげト云、歌ノ節也」

もろあぢ（名）なろあぢ（[illegible]）ノ[illegible]

もろあぶみ（名）諸鐙 左右ノ鐙。太平記、十六、新田殿湊河合戰事「遙ノ山ノ上ヨリ是ヲ見テ、[illegible]合テ[illegible]シテ、已レガ馬ニ[illegible]」

もろうすあを（名）諸薄青 襲ノ色目ノ名。表裏共ニ、薄青ナルモノ。（雁衣抄）

もろうた（名）諸歌 神樂ノ語。諸擧ノ歌。

ノ本歌ヲ唱ヘケルニ、[illegible]、人長ニテ、もろうたヲ仰ストテ、外山ナルト云フ時仰セケルニモ、云云」

もろかき [illegible]
ノノ結ビ目ニ、輪一ツヲ兩方ニ作ルコ[illegible]

もろかづら（名）諸葛［[illegible]］キテ云フ語、或ハ云フ、楓ト葵トヲカネテ云フ語カ］（一）二葉ノ葵。カモアフヒ。[illegible]バマツ、イトド淚ゾ（もぃ）、もろかづら、イカニ契リ[illegible]儀ニ用キル。あふひかつら（葵桂）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

もろがへり（[illegible]）[illegible]ノ。たか（鷹）、及、かへる（鮑）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

〜もろがみ（名）諸神 モロモロノカミ。[illegible]、神祇「諸神ノ、心ニ今ゾ、カナフラシ、君ヲヤ千代ト、祈ルマコトハ」

〜もろきぶね（名）小サキ舟。はしぶね（端舟）[illegible]

もろぞく（名）諸具足 太刀ヲ佩キ、[illegible]ケ、弓ヲ持ツコト。[illegible]五百騎人、二行ニ列ノ引キ、云云」

もろぐち（名）諸口（一）［諸人ノ言フ口。衆口。[illegible]

ト申ス事ハ、エイナビ給ハヌ事ナリ」（二）馬ヲ引クニ云フ語。二人シテ馬ノ兩口ヲ取引クニ云フ語。二人シテ馬ノ兩口ヲ取ルコト。一說ニ、差繩ヲ差シテ引クコト。平家物語、九、宇治川事「馬共ヲ見ケルニ、思ヒ思ヒノ鞍置カセ、色色ノ鞦掛ケ、或ハ乘口ニ引カセ、或ハ諸口ニ引カセ、幾千萬ト云フ數ヲ知ラズ」

もろ-けい（名）諸敬　德川幕府ノ頃、大名小名ノ上下相交ルニ、會見、書狀ノ書法等ニ、互ニ同等ノ敬意ヲ用ヰルコト。兩敬。一方敬シテ、一方同等ニ敬セザルアリ、コレヲ片敬（カタケイ）ト云フ。

もろ-こ（名）諸子　魚ノ名。もろこばえ（諸子鮠）ノ略。其條ヲ見ヨ。

もろ-こころ（名）諸心　諸人、心ヲ合ハスルコト。落窪物語、四「諸こころニ、何事モシ給ヘトテ、俄ニ迎フレバ、云云」

もろ-こし（名）唐土　〔諸越（ショエツ）ノ地ノ字ヲ文字讀ニセル語　始メ諸物、吳越ノ地ヨリ渡ル、此地ハ交通最モ盛ンニシテ、我ガ年中行事等ノ風習、支那南方ヨリ移レルモノ多シ、亞細亞洲ノ名モ小亞細亞中ノ一小地ニ起ルノ類〕（一）〔唐山。漢土。〕カラ。支那。又、支那ヨリ來レル物事ノ名ニ被ラシムル語。推古紀、十五年七月「大禮小野臣妹子遣於大唐（モロコシ）」同、二十二年四月「佛法自西國至于漢（モロコシ）」「唐土船」唐土文字」（二）もろこしきび（唐黍）ノ略。

もろこし-きび（名）唐黍　常ニ略シテ、もろこし。京ニ、タウキビ。中世、支那ヨリ渡來シタルモノ。黍ノ一種。多ク畠ノ傍ニ植ウ。高サ一丈許リ、莖、粗ニ、葉、長大ニシテ互生ス。夏ニ至リ、莖ノ梢ニ穗ヲ出ス、長サ一尺餘、枝ヲ分チテ、多ク花ヲ生ジ、後ニ實ヲ結ブ。黍ヨリ大キクシテ、皮赤シ、子ヲ碾（ヒ）キテ粉トシ、團子ニ製シテ食フ、もろこし團子ト云フ。又、莖ノ梢ニテ帚ヲ作ル、もろこし帚ト云フ。蜀黍

もろこし-びと（名）唐土人　たうじん（唐人）ノ條ノ（一）ニ同ジ。宇津保物語、藤原君「もろこし人、我ガ國ニ生ヒ出ヅルモノニモ劣ラヌモノカナトテ、ウバヒトリテ、ヰテイヌ」

もろこし-ぶね（名）唐土船　から-ふね（唐船）ニ同ジ。タウセン。伊勢物語、第廿六段「オモホエズ、袖ニミナトノ、騷グカナ、もろこし船ノ、寄リシバカリニ」

もろこ-ばえ（名）諸子鮠　〔子多ケレバ名トスト云フ〕小魚ノ名。淡水ニ產ズ、形、柳ノ葉ノ如ク、長サ二三四寸、頭、小サク平タク、色、薄黑クシテ、鱗、細カク、腹ハ白クシテ、赤ミアリ。近江ノ坂本ナル諸子川、及、森越（モロコ）川、朽木、其他、湖邊ニ多シ。味、甚ダ佳ナリ。略シテ、もろこ。

もろ-ごひ（名）諸戀　〔片戀ニ對ス〕互ニ戀ヒシタフコト。アヒボレ。コヒナカ。相思　六帖、四「ミゴモリノ、神シマコトノ、神ナラバ、我カカタ戀ヲ、もろ戀ニナセ」

もろ-こゑ（名）諸聲　諸共ニ發スル聲。宇津保物語、吹上、下「歌ツクリナトシツツ、ヨミ上ゲテ、琴ニアハセテ、もろこゑニ誦ジ給フ」

もろ-ざし（名）諸差　相撲ナドニ、諸手ヲ、敵ノ兩腋ノ下ニ差入ルルコト。

もろ-さしなは（名）諸差繩　馬ヲ牽クニ、さしさしなは（差差繩、曳ク用）ト、ひきさしなは（引差繩、留ムル用）ト、左右二筋宛ツクルコト。飾抄、下、和鞍、云云、差繩、公卿師（モロ）繩」

もろ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）脆　〔兩（モロ）ニ離レ易キ意カト云フ〕（一）毀（コボ）レ易シ。堅固ナラズ。天治字鏡、一「脆、易斷也、毛呂志」推古紀、十二年四月「甘脆（モロ）」（二）心、クヅホレ易シ。涙ナド、催シガチナリ。源、四十四、橋姬七「山オロシニ、タヘヌ木ノ葉ノ、露ヨリモ、アヤナクもろき、我涙カナ」

もろ-しらが（名）諸白髮　ともしらが（共白髮）ニ同ジ。醒睡笑（元和、安樂庵策傳）六「夫婦諸しらがマデ、ソヒタリシ祖父、先ニタチ」

もろ-ずね（名）諸脛　兩脚ノ脛。左右ノ脛。狂言記、棒縛、「棒、云云、近ク取直イテ、諸脛ヲ打ッテ打ッテ打チナヤイテヤリマスル」

もろた-ぶね（名）諸手船　檝（カイ）二挺立ツル早船ナルカト云フ。又云フ、大小數挺ノ櫂ヲ用ヰルモノナルベシト。神代紀、下四「以熊野諸手船（モロタブネ）載使者稻背脛遣之」

もろ-て（名）諸手　（一）左右ノ手。兩手。雙手（片手ニ對ス）重之集、下「春マキシ、山田ノ苗ハ、生ヒニケリ、もろて二人ハ、引キモウヱテン」（二）もろて（諸手）ニ同ジ。

もろ-ともに（副）諸共　ソロヒテ。トモドモニ。相共ニ。一處ニ。相俱　敏達紀、十二年七月「如此互乘、以備新志俱（モロトモニ）時發船」

もろ-なほ（名）師直　〔香物（カウノモノ）ノ義、高師直（カウノモロナホ）ニ掛ケタル語〕澤庵漬（タクアンヅケ）ノ隱語。

もろ-なり（名）諸成　諸生　灌木ノ名。ぐみ（茱萸）ノ一名。其條ヲ見ヨ。倭名抄、十七「胡頹子、久美、一云、毛呂奈里」

もろ-は（名）諸刃　刀劍ナドノ身ノ、兩邊共ニ刃アルモノ。（片刃ニ對ス）奈良朝ニハ、諸刃ノ劍ハ廢レタリ）兩刃　倭名抄、十三八征戰具「似刀而兩刃曰劍、今按、俗家所持也」萬葉集、十一「劍刀、諸刃ノ利キニ、足踏ミテ、死ニニモ死ナム、君ニ依リテバ」（古義ノ訓）

もろ-はく（名）諸白　〔諸實（モロミ）ヲ漉（コ）シテ、白酒一清シタルモノニテ、濁酒ナラズ、清酒ノ意〕常ノ酒ハ、麴ニハ半搗ノ米、飯ニハ精米ヲ用ヰル、諸白ハ麴、飯、諸共ニ精白米ナルヲ以テ作ル最上等ノ酒ヲ云フ。之ハ元來、蒸米モ麴モ共ニ白春ニシテ、上品ノ製、片白ハ、蒸米ノミ白春ニシテ、麴ハ黑米ヲ用ヰテ製ス。狂言記、目近大名「鮨ノ鮨ヲ頬バッテ、諸白ヲ飲メヤレ」

もろは-ぐさ（名）諸葉草　兩葉草　かもあふひ（賀茂葵）ノ異名。二葉葵。續拾遺集、廿、神祇「もろはぐさ、引キツラネタル、今日コソハ、長キタメシト、神モシルラメ」

もろ-はず（名）諸筈　相撲ノ手ノ一ニ、はず（弭）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

もろ-はだ（名）諸肌　左右兩方ノ肌。兩肌（リャウハダ）。日本永代藏（貞享、西鶴）四「御意ニ任セ久三郎、諸肌ヌギテ鍬ヲ取リ、云云」

もろはだ-ぬぎ（名）諸肌脫　肩ノ兩方ノ肌ヲアラハスコト。大肌ヲヌグコト。前條、及、はだぬぐ（肌脫）ノ條ヲ見ヨ。

もろ-はなだ（名）諸縹　襲（カサネ）ノ色目ノ名。まるはなだ（圓縹）ニ同ジ。

もろ-ひざ（名）諸膝　兩脚ノ膝。太平記、廿六、四條繩手合戰事「馬ノ諸膝薙ガレテ落ル處ニ」

もろ-びと（名）諸人　多クノ人。諸人（ショニン）。衆人　雄略紀、十四年四月「及衆人（モロビト）云、云云」

もろ-ぶし（名）諸臥　モロトモニ臥スコト。衆ト共ニ寢ルコト。

もろ-ほ（名）諸穗　稻ナドノ、皆揃ヒテ穗ヲ出スコト。又、ソノ穗。神樂歌、木綿

[illegible]
シテヨ、コ(カイ)レチ徳モナク」

もろまひ (名) [諸舞] 樂人ノ語。求子、[illegible] ト。其求子ノミヲ舞フヲ片舞ト云フ。

もろみ (名) [諸醪] (みハ滓ニテ、汁ト共(汁ト滓ト諸ナリ)ナルモノノ意ト云フ) 酒ノ滓ヲ漉マザルモノ。醅 又、醬油ニモ云フ。倭名抄、十六「酒醴類、醅、毛呂美」(醅ハ汁滓酒ニテ、にごりざけナリ、醪ノ條ヲ見ヨ)

もろむき (名) [諸向] [illegible] 草ノ名。[illegible] 野ノ、クサハ母呂武吉、カモカクモ、君ガマニマニ、吾ハヨリニシヲ」 (二)草ノ名。うらじろ(齒朶)ニ同ジ。(筑前、肥後、[illegible])

もろむすび (名) [諸結] 紐ノ結ビ方ノ名。をとこむすび(男結)ニ同ジ。源氏、總角「[illegible] 總角ノ紐ノもろ結び、解ケヌ思ヒトナリニケリ」

もろめ (名) [諸目] 兩方ノ目。左右ノ目。[illegible] 兩眼。雙眼

もろもち (名) [諸持] 諸共ニ持ツコト。共同シテ持ツコト。土佐日記、十二月廿七日「カク別レ難クイヒテ、カノ人人ノ口網モ、もろもちニテ、コノ海邊ニテ擔ヒ出セル歌」

モロモット (名) [土撥鼠] 獸ノ名。まもっと(土撥鼠)ノ訛。其條ヲ見ヨ。

もろもろ (名) [諸] [衆ニ通ズ、朝鮮ニテ、もら] アマタナルモノ。多クノモノ。[illegible]

もろもろ (副) [諸] 前條ノ語意ニ同ジ。

[illegible]

もろや (名) [諸矢] (一)はや(甲矢)トおとや(乙矢)トノ稱。一手矢。榮花物語、三十一、殿上花見「今日ヨリハ、子ノ日ノ松ト、梓弓、もろや[illegible]」 (二)[illegible] ヲ射テ、皆中スルコト。カイチュウ。ツノ [illegible] 上人、もろ矢シテ、勝分ノ籌ヲ、心ガクラン」

もろやしろ (名) [諸社] [illegible] モロノ神社。ショシャ。夫木抄、三十四、社「ムソヂ餘リ、國ニ滿チタル、もろ社、世ノタメニコソ、[illegible]ハ崇レケメ」

もろをりど (名) [諸折戸] (一)左右ニ開ク折戸。折戸ノ雨扉ナルモノ。(片折戸ニ對ス) 宇治拾遺、十四、第十條「六條坊門萬里小路[illegible]ニアリタル家ノ、もろをりどノ中ヘオチイリニケリ」 (二)二枚開ノ門ノ稱。海人藻芥、下「武士ノ家ニハ、云云、不立棟門、皆もろ折戸也」

もわけ (名) [藻分] 魚ヲ料理スルトキ、俎上ニテ、魚ノ體ヲ庖丁モテ撫ヅルコト。鳥ニハ鹽分ト云フトゾ。

や

や 五十音圖、也行第一ノ假名。此一行、や、い、ゆ、え、よ、ノ五音ハ、其發聲、喉ヨリ微シ與齒ニ觸ルルガ如クシテ出デ、而シテ母韻ト熟シテ音ヲ成ス。又、やハ、下ニうヲ受クルトキハ、よノ如ク響クコトアリ、やうか(八日)、やうやう(漸)、たいやう(太陽)、ナドノ如シ。

や (名) [谷] たに(谷)ニ同ジ。ヤツ。ヤチ。ヤト。「澁谷」「[illegible]」

や (名) [屋][家][舍] (彌ノ約、重ナル意ト云フ) (一)人ノ住ム所。スミカ。家。[illegible] (四)工ノ家ノ稱。「酒屋」「米屋」[illegible] 商人、[illegible] 號。古ヘノ打殿、張殿、綺殿ノ類ノ如シ。コレヲ屋號ト云フ。生國ノ名ニ取ルアリ、[illegible]、伊勢屋、[illegible]ノ如シ。物ノ名ニ取ルアリ、松屋、虎屋、ノ如シ。福稱ヲ祝シテ取ルアリ、大黑屋、[illegible]ノ如シ。[illegible] 分配[illegible]、天盃大路[illegible]之」 (五)接尾語[illegible]

や (名) [矢][箭] (進ノ義、[illegible] 射ルノ器アリ) (一)武器。弓弦ニ番ヘテ、射遣リテ敵ニ中ツルモノ。矢竹ヲ幹ヲ作リ、本ニ鷲、鷹ナドノ羽三片ヲ着ケ、末ニ鏃ヲ着ク。長サハ己レガ手ニテ十二束ナルヲ法トストスト云フ。倭名抄、十三、征戰具「箭、[illegible]」 神代紀、下「天羽羽矢[illegible]也」 (二)斧ノ、柄無キガ如キ鐵器。堅キ材ヲ割ク時ニ、木口ニ插ミテ、上ヨリ打チ割ルニ用ヰル。(石割リニモ) (三)ひめや(姫矢)ノ略。楔。古事記、上[illegible]代[illegible] 矢而拷殺也」 矢の催促トハ、頻ニイソガス意。矢の使トハ、(一)矢ぶみノ意。(二)矢の催促の使ノ意。矢の一手トハ、二本ニテ、一腰ト云フハ廿五本ナリ。

や (名) [輻] 車ノ具。や(輻)、[illegible] ヲ見ヨ。倭名抄、十一「車具[illegible]」

や (名) [野] (一)の(野)ニ同ジ。[illegible] 上[illegible]
[illegible] 野鄙。又、其人。[illegible]「[illegible]」「文野」

や (數) [八] [よ(四)ニ對ス] (一)四ト四ト合ヒタル。ヤツノ。 (二)凡ソ八ノ數多キ。[illegible]「[illegible] 數ク、八尺ノ[illegible]」此語ヲ彌ノ約ト云フ人アレド、十ノ七八ト云フ意ニテ「七重ノ膝ヲ八重ニ折ル」「七浦」「七瀨」「五百代小田」ナド、皆[illegible]、八ガ彌ナラ[illegible]、[illegible]

や [illegible] [也][耶] (一)[illegible] 指シテ言フ意ノモノ。[illegible]「君や來シ、我や行カンノ、十六夜ニ、槇ノ板戸モ、サヽズ寢ニケリ」 (二)[illegible] 言切リテ問掛クル意ノモノ。[illegible] ギス、木ノ葉隱レノ、聲ハ聞ユや」 (三)並ブル意ノモノ。[illegible] 四十八、寄生「ワリゴや何やト、コナタニモイレタルヲ」 (四)に、は、ノ意ノモノ。[illegible]

や (感) [耶][邪] (一)泛ク感ズルニ發スル聲。ヤア。ヤヤ。ヤヨ。ヤヨヤ。字類抄「哉、ヤ、[illegible]」 (二)言語ノ間、或ハ下ニアリテ、感歎ヲ表ハスモノ。[illegible] 昔ノ、遠カドモ、ネモトカヲロガ、オユニ見エツル」 (三)又、專ラ、呼ビ掛クル意ナルモノ。

 や や や

萬葉集、二十九「石見ノ也、高角山ノ、木ノ間ヨリ、我ガ振ル袖ヲ、妹見ツラムカ」古今集、三、夏「ヤヨや待テ、山時鳥、言ヅテン、ワレ世ノ中ニ、スミワビヌトヨ」「月や」「花や」「行ケや」「打テや」(四)又、專ラ、反語トナルモノ。「思ヒキや」「劣ラマシやハ」(五)「行カバや」「見バや」ナド用キルハ、關一よからむナド云フ語ヲ略シタルニテ、即チ、希フ意ヲナス。(六)驚キ、又ハ、呼ビ掛クル時ナドニ發スル聲。宇治拾遺、十五、第四條「海賊、や、トイヒテ、云云」

〜や (接頭) 彌 〔いやノ約〕カサナリ、タタマルモノニ云フ。や重、や入(シホ)ノ類ナリ。古事記、上、十「夜雲タツ、イヅモ夜へ垣、ツマゴミニ、夜へ垣ツクル、其ノ夜へ垣ヲ」

〜や-あ (感) 〔や(耶)ノ延〕あや(嗟嘆)ニ同ジ。驚キテ歎ク聲。ヤアラ。名義抄「咄、ヤアト」皇極紀、四年六月「中大兄、云云、曰、咄嗟(ヤア)、即共子麻呂等出其不意以劍傷割入鹿頭肩」

や-あがる (助) 〔あがるハ死ヌル意カ、魚ノ死スルニ云フ、又、さかるトモ云フ(畿内ニテ)、又、くさるトモ云フ(出雲ニテ)〕動詞ノ下ニツケテ、動作ヲ賤シ罵ル語。略シテ、やがる。くさる(腐)ノ條ノ(六)ヲモ參見セヨ。「見やあがる」「行キやあがる」「生キやあがる」「涯ミやあがる」

や-あた (名) 八咫 〔やハ彌(イヤ)ノ義〕あた(咫)ノ條ヲ見ヨ。

や-あて (名) 屋充 天皇ノ行幸(ミユキ)ニ充テ給フ殿舎ナドノ裝飾ヲ、分掌セシムルコト。又、伊勢ノ遷宮ニモ云フ。兵範記、仁平二年十二月廿六日「白川押小路殿有ニ行幸ハ云云、次有ニ屋充事ハ各向奉ニ行屋屋ニ云云」

ヤアド (名) 碼 〔英語、Yard.〕英國ノ尺度ノ名。三呎(ヒイト)。我ガ三尺、〇一分七厘五二。又、やあど。訛シテ、やある。

やあとこせ (感) 〔彌常方(イヤトコシヘ)ノ義〕又、ゑ[illegible]とこさ。掛聲ナリ、ヤ、トコセ。東海道中膝栗毛(文化、一九、五編、追加)「順慶町ノ通リ筋カラ、ソレ新町ノ、やあとこさア、コイトサア、チチチチチンチン素見ゾメキハ、阿波座ノカラス」

や-あはせ (名) 矢合 昔、戰鬪ノ初メ、互ニ先ヅ一矢ヲ射交ハス式。敵、身方、兩陣ヨリ進ミテ、互ニ先ヅ敵陣ニ鏑矢ヲ射入ルルコト。ソレヨリ戰ヲ始ム。平家物語、九、二草勢揃事「七日ノ日ノ卯ノ刻ニ、一谷ノ東西ノ木戸口ニテ、源平矢合トゾ定メケル」

〜やあ-やあ (感) やあヲ重ネタル語。ヤウヤウ。狂言記、墨塗女「やあやあ、何ト仰セラル」

やあ-ら (感) 〔らハ添ヘタル語、親愛ノ意〕やあニ同ジ。ヤンラ。ヤラ。狂言記、萩大名「やあら、コナタハイヨイヨ身共ヲ嬲ルト見エタ」

ヤアル (名) 碼 やあど(碼)ノ訛。其條ヲ見ヨ。明治四十二年三月、度量衡ヲ改正シテ、之ヲ採用スルニ至レリ。

やい (感) 〔やよノ轉〕呼ビカクル聲。エイ。狂言記、若市「やい坊主、己レ堪忍ガナラヌ」

や-いう (名) 夜遊 夜游 (一)ヨアソビ。朗詠集、上、春、躑躅「夜遊人欲ニ尋來把ハ寒食家應ニ折得歸ニ」(二)夜中ノ遊宴。三國志、魏志、丁斐傳、注「小壯真當ニ努力ハ年一過往、何可ニ攀援ハ古人思ニ秉ニ燭夜遊ハ良有ニ以也」

や-いう (名) 野遊 野外ヲ遊歩スルコト。ノアソビ。說苑(漢、劉向)「野遊則馳ニ騁弋ニ獵乎平原廣圃ハ格ニ猛獸ニ」浦島年代記(元祿、近松作)龍宮七世鏡「木ノ間ニ幕引渡スやゆふノ體」

や-いくさ (名) 矢軍 兩軍ヨリ矢ヲ射合ヒテ戰フコト。太刀打ナドニ對ス。太平記、九、越後守仲時以下自害事「相近ヅキテ矢軍(ヤイクサ)ヲセントスレバ、矢種皆射盡シテ、云云」

やい-ぐさ (名) 燒草 〔やきくさノ音便〕よもぎ(艾)ノ異稱。名義抄「艾草、ヤイクサ」典藥寮式、中宮職月料「雜、艾(ヤイクサ)四兩」

〜やい-ぐし (名) 燒串 〔やきぐしノ音便〕魚肉ナドヲ貫キテ、炙ルニ用キル串。倭名抄、十四、廚膳具「串、夜以久之、炙宍(宍字ノ誤リ、宍ハ肉ノ譌字)串也」

〜やい-ごめ (名) 燒米 〔やきごめノ音便〕やきごめ(燒米)ノ條ヲ見ヨ。名義抄「糒、ヤイゴメ」宇津保物語、國讓、上、十一「やいごめハ、ヲウナノ齒イタクテカミノコシタル、云云」

やい-じるし (名) 燒印 やきじるし(燒印(ヤキイン))ノ音便。燒印ノ條ヲ見ヨ。平家物語、十、請文事「汝一期ガ間ノ思ヒ出一ツアルベシトテ、花方ガ面ニ、浪方ト云フ燒印(ヤイジルシ)ヲゾセラレケル」

や-いた (名) 矢板 土沙ノ崩壞、又ハ、水ノ浸入ヲ防グタメニ、打込ム板狀ノ杙。

やい-ぢく (名) 燒軸 〔やきぢくノ音便〕筆ノ軸ヲ、トコロドコロ燻シテ、黑クシタルモノ。落窪物語、二「中納言ノミナン、白銀ヲ筆ノカタニ造リテ、やい軸ニ彩色ナシ」

やい-つこ (名) 臣 いやつこ(臣)ノ條ヲ見ヨ。

やい-と (名) 灸 〔燒處(ヤキト)ノ音便〕きう(灸)ニ同ジ。ヤイトウ。ヤイヒ。ヤキヒ。躄柿(群書類從本)文覺上人消息「アツキやいとヲ堪テヤケバ、病ハイユル也」

やい-とう (名) 灸 〔やいとノ延〕前條ノ語ニ同ジ。名義抄「灸、ヤイトフ」隆信集、下「レイナラヌコトアリテ、やいとをナドシタルニ」

やいと-ぎゃう (名) 灸饗 小兒ナドニ、灸ヲスヱタルトキ、襃美ニ出ス菓子。今宮心中(寶永、近松作)中「サレバ踊ラフカ、マソット遊ンデ、やいとぎゃうノ相伴セフカ」

やいと-ばな (名) 灸花 [illegible]

やいの (感) 昔、婦女子ナド、[illegible]用ヰシ語。天神記(正德、近松作)三「[illegible]ツニタントイトシガロ、メヲトヂャやいのト囀ケバ」

やい-ば (名) 刃 (一)燒刃(ヤキバ)ノ音便。謠曲、小鍛冶「御劍ノ刃ノ亂ルル心ナリケリ」(二)刃(ハ)アル刀劍ノ稱。字類抄「刃、ヤイハ」謠曲、調伏曾我「飛ブ鳥ヲモ落スバカリト、面面ニ、刃ノ驗徳ヲ顯シテ」「刃ニカカル」「刃ヲアツル」

やいば-ぐさ (名) 燒葉草 もぐさ(艾)ニ同ジ。

〜やい-ばた (名) 燒畑 〔やきばたノ音便〕古クハ、やきはた。春月、草ヲ燒キテ、其灰ヲ肥トシテ、種ヲ蒔キツクル畠地。粟、稗(ヒエ)、烟草、蕷、能ク生ズ。ヤキマキ。火田。倭名抄、一、田園類「火田、也以八太」

やい-ばり (名) 火鍼 〔やきばりノ音便〕やきばり(燒鍼)ノ條ヲ見ヨ。本草綱目、訓註「火鍼、也伊波里」

やいば-わたし (名) 刃渡 (一)刀劍ニ燒ヲ渡スコト。(湯加減ヲ云フ)長唄、小鍛冶「火加減、湯加減、秘密ノ大事、燒刃渡しハ陰陽相合」(二)鍛ヘアゲタル刀劍ヲ、注文主ニ渡スコト。長町女腹切(正德、近松作)下「定メテオ悅ビニ刃渡しノ御祝儀、才振舞ガアルサウナ」

やい-ひ (名) 燒火 〔やきひノ音便〕やいと(灸)ニ同ジ。會呂利狂歌咄(寬文)二「珠ダニモ、スユルやいひ(一本ととニ作ル)ニ、聲ハセズ、イカニワビシキ、犬ノ長ボエ」

や-いん (名) 夜陰 夜ノクラキ時。夜分(ヤブン)。夜中。劉禪、七夕詩「鸞駕合夜陰、高軒通夕月」平治物語、一、信賴謀反事「夜陰ノ事ナレバ、松明振リ擧ゲサセテ、此馬ヲ見」

やいやい (感) 〔やいヲ重ヌ〕 エイエイ。[illegible]矢波羽衣「やいやい、醉狂ヲ此ノヤウニシテ、狂言ガヨウ有ルマイ、イタヅラモノメ」

やいれ (名) 矢入 [illegible]

やいろ (名) 矢色 [illegible] テ、矢所一寸モノカズ」

やう (名) 陽 (一)いんやう(陰陽)ノ條ヲ見ヨ。(二)地名ニツクル語。[illegible]

やう (名) 洋 [illegible] ダ。オホウミ。大洋。洋海。海洋。

やう (名) 樣 (一)アリサマ。形狀。[illegible] ノ樣ニ」「コノ樣ナル」「斯キ樣ニ思フ」「見ヌ樣ニスル」(二)[illegible] 心ノ趣キコト限リナシ、父母、イトアヤシキ子ナリ、[illegible] ソアレ」「アリ樣ハ」 (三)〔本器ニマネビテ、ソノ樣ニ作レル器ノ義〕〔儀式ニ用キル[illegible]〕[illegible] 三十八、夕霧「三宮ノ、同ジゴト、身ヲヤツシ給ヘル、云云、必ズサシモ、やうノコトト(物トイ)爭ヒ給ハンモ、ウタテアルベシ」

やう (名) 益 〔やくノ音便〕 やく(益)ニ同ジ。

やう (名) 癰 疔ノ類ナル一種ノ腫物。

やう (名) 十 支那人、戯レテ人ノ嗜ムモノヲ云フ語 [illegible]

やう (名) 夜雨 夜、雨ノ降ルコト。又、[illegible]

やう (接頭) 洋 西洋ヨリ入レル物事ニ[illegible]「洋服」「洋紙」「洋食」「洋酒」「洋人」「洋醫」「洋犬」

やうあ (名) 養痾 病痾ノ保養ヲスルコト。[illegible]

やうい (名) 洋醫 〔漢醫ニ對ス〕 西洋方ノ醫者。西洋醫。又、西洋人ノ醫師。

やうい (名) 洋夷 西洋人ヲ卑シメテ云フ語。毛唐。毛唐人。外夷。

やういう (名) 養由 〔養由基ノ略〕 支那、春秋時代ノ楚ノ人。射術ニ長ズ、百歩ニシテ楊ノ葉ヲ射ル、[illegible]百發百中ストゾ。保元物語、一、軍評定事「爲朝ハ七尺バカリナル男ノ、云云、弓ハ養由ヲモ恥ヂザレバ、[illegible]ル」

やういく (名) 養育 ヤシナヒソダツルコト。[illegible]

やうう (名) 陽烏 〔日中ニ三足ノ鳥アリト云フヨリ起ル〕 (一)太陽ノ異名。[illegible] (二)黑鶴ノ一名。玄鶴。本草「陽烏[illegible]」(三)八咫烏ノ異名。[illegible]日本紀[illegible]

やうえい (名) 養營 七十歳ノ異稱。[illegible] 歩色葉集「養營、曰二七十歳一」

やうえん (名) 陽炎陽焰 かげろふ(陽[illegible]

[illegible]

やうか (名) 八日 〔八日ノ延〕 (一)日數八ツ。(二)月ノ第八ノ日、[illegible]

やうか (名) 養家 〔實家ニ對ス〕 養子トナリテ入レル家。

やうかい (名) 洋海 海洋ニ同ジ。

やうかう (名) 洋行 (一)歐米ヘ行クコト。(二)支那ニテ、外國人ノ大商店。

やうがう (名) 影向 [illegible] 本體アリテ、ソノ陰(影)ヲ他面ニ對向セシムルヲ影向ト云フ、[illegible]ノ水面ニ映ズルガ如シ〕 神佛ノ靈ノ降臨スルコト。神佛ノ出現。影向。[illegible] 返牒事「春日大明神、ヒソカニ影向ヲ垂レ」

やうがうしゆ (名) 影向衆 [illegible] 佛教ノ語。菩薩ナド他方ヨリ影向シテ、如來ヲ輔佐スルモノノ稱。法華文句、[illegible]

やうがく (名) 洋學 〔和學、漢學ニ對ス〕 西洋ノ學問。特ニ、西洋ノ語學。

やうがく (名) 洋樂 〔和樂ニ對ス〕 西洋ノ音樂。西洋風ノ音樂。西洋樂。

やうがひ (名) 瑩貝 〔瑩ハ漢音、えい、呉音、やう〕 又、えうがひ。貝ニテ作リ、紙、帛ナドヲ瑩キテ、光澤ヲ出スモノ。

やうがまし [illegible] 假がましトテ、西八條ヘ[illegible]シツツ、[illegible]ヨリオリ」

やうかん (名) [illegible] きんかん(神感)ニ同ジ。[illegible] 感アラタニ、生キテノ恨ミ、死シテノ悦ビアマネシヤ、天滿ツ[illegible]感ゾメデタカリケル」

やうカン (名) 羊羹 〔かんハ、支那音ナルベキカ、或ハ、羹ノ音轉カ、(庚[illegible] 大夫、云云、羊羹不レ遍」トアリ、羊肉ノアツモノナリ、[illegible] 肝糕ニテ(糕ハ餅ナリ)、羹、糕、同音ナレバ、通ハセ用ヰタルナリ。(羹ヲ糕ノ意トシ、菓子ノ名トスト云フ)羊肝トハ、其形色、羊ノ肝ニ相似タレバ云フ、[illegible]ノ如シ〕 (一)蒸菓子ノ名。赤小豆ヲ煮テ、[illegible] (二)黑羽二重ノ羽織ナドノ、古クナリテ色褪メ赤ミヲ帶ビタルヲ云フ。(三)やうかんがみ(羊羹紙)ノ略。竹屋紙。

やうカンいろ (名) 羊羹色 [illegible]

ムン、やうかん色ニイフナ、ナゼナゼ、黒イヤウニゴマカシタ事ヲイフノウラ、やうかん色ヨ」

やうカン-がみ (名) 羊羹紙 略シテ、やうかん。油紙ノ厚クシテ精製セルモノ。色黒ク赤ミアリテ、光ルコト羊羹ノ如シ。日本橋四日市、竹屋ニテ、カマス形ニ作リ、烟草入トシテ賣ル。直ニ竹屋トモ、竹屋紙トモ云フ。(嬉遊笑覽、二ニ、伊勢ノ壺屋紙ノ精ナルモノト見ユ)

やうが・り・ル・レ・フ・リ・レ (自動、良變) 「様かあり」ノ約、様ハ、様子、アリサマ、風情ノ意。發心集、三、第三條ニ「イデヤけうがり、赤々見ス事ソ」トアルモ興かありニテ、其約、けうがり一テ終止シテアレバ、良行變格ニテ、ありト同ジ活用ナリ、此語ト同趣」様子アリ。風情アリ。梁塵秘抄(平安朝ト二、四句神歌、雑「小鳥ノやうがるハ、四十カラメ、ヒハドリ、ツバクラメ」 宇治拾遺、五、第七條「此女房、やうがる脇カナトハ思ヘドモ」

やうが・る (動) 前條ノ語意ニ同ジ

やう-き (名) 陽氣 (一)陽ノ氣。(陰氣ニ對ス、陰陽ノ條ヲ見ヨ) 禮記、月令篇「仲春之月、云云、行ニ冬令、則陽氣不ㇾ勝」 (二)晴レワタリ、打チ開ケ、又ハ、賑ハシク盛ナルコト。快暢。(三)俗ニ、時候。寒暖。

〜**やう-き** (名) 様器 (本様トシテ作ラシムル器ナレバ云フト云フ」金屬製、又ハ陶製ノ儀式ニ用キル食器 又、白木ノ引入ノ造リモノトモ云フ。 源、四十八、寄生八十「シロガネノやうき、瑠璃ノ御杯」 枕草子、八、第九十一段「村上ノ御時、雪ノイトタカウ降リタリケルヲ、やうきニ盛ラセタマヒテ、云云」

やうき-せき (名) 陽起石 (陰痿ヲ醫ストテ名アリ」 鑛物ノ名。支那ニ産ズ、雲母ニ似テ色白キモノナリト云フ。 倭名抄、一四、殿石類「陽起石、一名羊起石」

やう-きひ (名) 楊貴妃 (一)(貴妃ハ女官ノ名」支那、唐玄宗ノ寵妃、弘農ノ楊玄琰ノ女、絶世ノ美人ニシテ、小名ハ玉環ト云フ。(二)名香ノ名。沈ノ一種。

やうきひ-ざくら (名) 楊貴妃櫻 櫻ノ一種。八重ノ中輪、花片ハ紅色ニシテ、先ハ眞白ナリ。モト奈良ノ興福寺ノ僧玄宗、愛セシ故ノ名ナリト云フ。 賀古數(古今茶園(花森、近松作、二、櫻森文「王ニ執田ノ御社ハ、異國ノ美人ト名ニ高キ楊貴妃櫻ヲ御詠アル」

やう-きん (名) 洋琴 びやの(洋琴)ニ同ジ。

やう-ぎん (名) 洋銀 (一)銅、亞鉛、及、にっけるノ合金。色、銀ニ似テ、稍、輕シ。又、洋白。(二)どるらる(弗)ニ同ジ。

やう-きやう (名) 養郷 五十歳ノ異稱。 運歩色葉集「養郷、曰五十歳」

やう-きやう (名) 佯狂 詳狂 イツハリテ、キチガヒヲ裝フコト。 史記、殷紀「紂愈淫亂、云云、箕子懼、乃詳狂爲ㇾ奴」 晋書、故事、宋、胡藩傳、二、朋友傳、曾義發、其十、議ㇾ於陣重、刺史不ㇾ聽、義遂佯狂披髪、走不ㇾ聽ㇾ命」

やう-きゆう (名) 楊弓 (様ノ弓ノ義、様ノ條ノ(三)ヲ見ヨ、楊貴妃ノ事、又、楊ノ枝ニテ作ルナド云フハ、皆附會ナリ」 遊戯ノ具。小弓ト云フモコレカ。 蘇芳ニテ作ル、長サ二尺八寸、矢長サ九寸、的三寸。的ト相去ルコト七間半(京間)、坐シテ射ル。古ヘ、宮女ナド七夕ニ翫ブ、組ヲ分ケテ勝負スルヲ結改ト云フ。後世、花櫚、紫檀、ナドニテ作リ、楊弓ト[illegible]ス、臣[illegible]正月、[illegible](様ノ)弓、[illegible]

やうきゆう-ば (名) 楊弓場 [illegible]ヲ取リテ、楊弓ノ遊戯ヲナサシムル所。ヤバ。楊弓屋。楊弓店。楊弓肆。

やう-ぎよ (名) 養魚 魚ヲ飼養スルコト。 庾信詩「[illegible]」

やうぐう-らく (名) 央宮樂 やうぐらく(央宮樂)ニ同ジ

やう-くん (名) 養君 養育シタル君。ヤシナヒギミ。 平治物語、二、義朝敗北事「[illegible]ノ中ヨリ抱キ取リ奉リシ養君ニテ、云云」

やうぐ-らく (名) 央宮樂 又、やうぐうらく。唐樂ノ名。黄鐘調ノ一。 字類抄「央宮樂、ヤウクラク、黄鐘調」 舞鳴抄、下、黄鐘調「央宮樂、やうくらく、拍子十二、マヒアリ、新樂」

やう-くわ (名) 洋貨 西洋ノ貨幣、又ハ、ソノ貨物。

やう-ぐわ (名) 洋畫 (西洋畫ノ略) 油畫、水彩畫、鉛筆畫ナド、西洋風ノ畫。

やう-ぐわ (名) 陽畫 せいぐわ(正畫)ニ同ジ。ソノ反對ナルヲ陰畫ト云フ。

やう-くわい (名) 洋灰 せめんとニ同ジ。

やうくわ-てん (名) 養花天 はなぐもり(花曇)ノ條ヲ見ヨ。 花品(釋仲林)「牡丹開日多有ニ輕雲微雨、謂ニ之養花天ニ」

や-うけ (名) 家請 家ヲ借ルトキニ立ツル請人。タナウケニン。借家ノ保證人。

やう-けい (名) [illegible] [illegible]

やう-けい (名) 養鷄 鷄ヲ飼養スルコト。 [illegible]

やう-けう (名) 洋教 西洋ノ宗教。 [illegible] やそけう(耶蘇教)ノ條ヲ見ヨ。

やう-げつ (名) 陽月 (爾雅、釋天篇「十月爲ㇾ陽」) 陰暦、十月ノ異名。 [illegible]

やう-けん (名) 洋劍 又、洋刀。さあべる(洋刀)ニ同ジ。

やう-けん (名) 洋犬 西洋種ノ犬。カメ。

やう-げん (名) 揚言顯言 コトアゲ。公ニ言ヒ告グルコト。 [illegible]

やう-こ (名) 養虎 虎ヲ飼養スルコト。 [illegible]

やう-ご (名) 洋語 西洋諸國ノ言語。

やう-こう (名) 洋紅 (英語、Carmine.ノ譯語) 紅色ノ畫料ノ名。舶來ス。墨西哥國ナドノ産ニテ、覇王樹ニ生ズル蟲ノ浸出液ニテ製スト云フ。

やう-こう (名) 陽侯 波ノ神ナリ。淮南子、覽冥訓「陽侯之波」注「陽侯陵陽國侯也、其國近ㇾ水、溺ㇾ死於水、其神能爲ニ大波、有ㇾ所ニ傷害、因謂ニ之陽侯之波ニ也」 海ノ神。 神功紀攝政前紀「飛廉起ㇾ風、陽侯擧ㇾ浪」

やう-こく (名) 養國 六十歳ノ異稱。 運歩色葉集「養國、曰六十歳」

（やうあごな・し 續き）事)ノ音便カト云フ。[illegible]、四十一、[illegible]「其頃、ヨキ姫オハスル、やうあごなき所所ハ、心トキメキニ[illegible]エゴチナドシ給フモアレバ、云云」

やうゴフ (名) [illegible]

え[illegible]。「不可思議兆載永劫ノ[illegible]、[illegible]」

やうさい (名) 洋菜 かんてん(寒天)ニ[illegible]

やうさう (名) 洋裝 「和裝ニ對ス」 西洋風ニヨソホフコト。又、ソノヨソホヒ。[illegible]

やうざう (名) 影像 〔やうハ呉音〕 エスガタ。えいざう(影像)ニ同ジ。

やうさん (名) [illegible] おかひ[illegible]ニ同[illegible]

やうさん (名) 洋傘 かうもりかさ(蝙蝠傘)ニ同ジ。

やうざん (名) 洋算 〔和算ニ對ス〕 西洋法ノ算術。算術ノ條ヲ見ヨ。

やうし (名) 養子 ヤシナヒゴ。トリコ。他人ノ子ヲ養ヒテ、我ガ子ト定ムルモノ。法律上、血族ト同一ノ關係ヲ有ス。養子其女ナルヲ養女ト云フ [illegible]

やうし (名) 洋紙 〔和紙ニ對ス〕 西洋ヨリ舶來スル紙。又、西洋ノ製法ニヨリテ漉キタル紙。西洋紙。

やうし (名) 羊齒 しだ(齒朶)ニ同ジ。

やうじ (名) [illegible] 楊ノ材ニテ作リ、箸ノ如クシテ、一端ヲ叩キテ總ノ如クス、ふさ楊枝トモ云フ。[illegible]、竹、[illegible]ノ如キヲ用キルナリ。(昔、京都下粟田口ノ[illegible]ナレバ、[illegible]ノ[illegible]ヲ[illegible]トス) [illegible]平ラメニシテ[illegible]ノタルヲ下楊枝ト云フ、茶菓子ナド[illegible]ヘテ箸ニ用キルモノ。又、灌木楊枝、[illegible]楊枝(つま楊枝)等アリ。各條ニ註ス。倭名抄、十四「澡浴具「楊枝、溫室經云、七物、其六日、楊枝」」字類抄「楊枝、ヤウシ」 沙石集、三、下、[illegible]セメクヒテ、楊枝ツカフニ、鐘ノコエキコユ」 織留(元祿、西鶴)「延ノ鼻紙ニ豆打ノやうじ取添へ、タバコノ火ニ伽羅ヲタキカケ、云云、[illegible]楊枝ナリ、[illegible]ニハ必ス用キタルナリ)

やうしき (名) 樣式 〔英語、Style. ノ譯語〕 一定ノ形式。又、一定ノシカタ。サマ。カタ。ヒナガタ。方式。

やうしき (名) 洋式 西洋ノ樣式。

やうじさし (名) 楊枝刺 小楊枝ヲ刺シオクモノ。懷中ニ插入スっ。たかふて(誰袖)ノ變ジタルモノ。之ハ切封ノ手紙ノ形ニ作リ、或ハ折居ナドニテ、初ハ紙ナルモアリシガ、後、絹トナリ、女ノ手細工ヲ加ヘテ種種ナル形ノモノ出ヅ。

やうじつ (名) 養實 養子ト、實子ト。又、養家ト、實家ト。(翁草(安永、神澤貞幹)百七十三「養實ノ親疎、法令ノ通リニ行難キ物ナルヲ」

やうじん (名) 洋人 西洋ノ人。又、歐米ノ人。西洋人。歐米人。

やうしんさう [illegible]

[illegible]

やうしんりう (名) 楊心流 柔術ノ流派[illegible]、江戸時代、[illegible]、三浦楊心ノ創メタルモノ。

やうじやう (名) 養生 生ヲ養フコト。飲食物ヲ愼ミナドシテ、健康ナランコトヲ勉ムルコト。攝生。[illegible]「常ニアリキ、常ニハタラクハ、コレ養生ナルベシ」

やうしゆ (名) 洋酒 西洋ヨリ舶來スル酒。又、西洋ノ製法ニヨリテ釀造シタル酒。西洋酒。(日本酒ニ對ス)

やうしゆん (名) 陽春 (一)陽和ナル春。後漢書、仲長統傳「暴風疾雨、云云、陽春時雨、不足以喩其澤」 (二)陰暦、正月ノ異稱。

やうしよ (名) 洋書 西洋ヨリ舶來セル書物。西洋ノ書籍。(漢書、和書ニ對ス)

やうしよく (名) 養殖 飼養シテ蕃殖セシムルコト。「鯉ノ養殖」「養殖蠶」

やうす (名) 樣子 〔正字通「俗以可爲人者爲樣子」〕 (一)サマ。アリサマ。容子。狂言記、石神「[illegible]、樣子ヲ[illegible]ネウトニ存ズル」 (二)カタチ。ナリフリ。姿體。狂言記、[illegible]、是レハイツモヨリ、キラビヤカニナリヤル、此ノ樣子ヲバ、目キキナサレマセイ」 (三)ワケ。シサイ。狂言記、唐人相撲「樣子段段聞キ屆ケタ、云云、暫クソレニ相待ナ候ヘ」 [illegible]形式。

やう・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (他動、左變) 瑩 〔瑩貝ヲ以テミガクナリ、此貝ヲ屈曲ナシ〕 ミガク。ツヤヤカニナス。宇津保物語、[illegible]上「[illegible]ノ、やうじカケタルイウナル、イミジウメデタウ見ユ」 枕草子、五、第四十六段「イミ[illegible]、やうじケル」

やう・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (他動、左變) 養 ヤシナフ。ソダツル。オホシタツ。養育ス。[illegible]ニハ、心ヤスキメノトヲツケテゾ、やうじケル」

やうすあひ (名) 樣子合 フリアヒ。態度。

やうすぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 樣子振 キドル。樣子ヲツクル。勿體ラシキ[illegible]

やうせい (名) 養成 ソダテツクルコト。

やうせき (名) 陽石 陽物ノ形ノ石。[illegible]いんやうせき(陰陽石)ノ條ヲ見ヨ。

やうせつやう (名) [illegible]和樣ノ書風ノ一派。元祿中、京都ノ人、寺井養拙(佐佐木志津摩ノ門人)ノ創メタルモノ。

やうせん (名) 洋船 船尾ヲ特別ニ仕立テ、肋骨ヲ以テ形體ヲ造リテ後、舷腹ヲ張ル製ノ船。即チ、西洋形ノ船。

やうソウ (名) 羊僧 おやうさう(啞羊僧)ノ略、其條ヲ見ヨ。

やうそふ (名) 養祖父 養家ノ祖父。

やうそぼ (名) 養祖母 養家ノ祖母。山槐記、永暦元年十二月四日「美福門院崩事、云云、養祖母不可有錫紵之由、法皇御申、[illegible]」

やうだい (名) 樣體 (一)スガタ。カタチ。ナリフリ。容體。[illegible]「指貫着給ヘルやうだい、[illegible]」 (二)アリサマ。狀

況、樣子。 [illegible]、安宅「汝ハ先ヘ行キ、關ノ樣體ヲ見テ、云云、ネンゴロニ見テ來リ候ヘ」

やうだい-の-ゆめ（句）［陽臺夢］〔陽臺ハ支那ノ山名〕ふざんのゆめ（巫山夢）ニ同ジ。太平記、廿、勾當内侍事「[illegible]花ノ春待チ得タル心地シテ、珊瑚ノ樹ノ上ニ陽臺の夢長クサメ」

やうだい-ぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［樣體振］やうたぶる（樣子振）ニ同ジ。

やうたう（名）［洋刀］又、洋劍 さあべる（洋刀）ニ同ジ。

やうだう（名）［陽道］（一）男子ノ履ムベキ道。禮記、昏義篇「天子理陽道、后治陰德」（二）男子ノ生殖力。禮記、曾子問、注「人年六十無ㇾ妻者、不ㇾ復娶、以陽道絕一也」

やうち（名）家内 一家ノ內。カナイ。又、家族。好色五人女（貞享、西鶴）一「や內證フズ、女房ハ隙ガレド、無理ニ帷子脫カセテ、云云」

やうちん（名）永沈〔やうハ吳音〕ぢやうどをごろく（淨土雙六）ノ條ヲ見ヨ。

やうちやう（名）［羊腸］〔羊腸ノ如ク屈曲シタルヨリ云フ。淮南子、兵略訓、注「羊腸、一屈一伸」〕ツヅラヲリ。坂路ノ屈曲シテ、嶮險ナルコト。九折 戰國策、秦策「西攻ニ修武ハ踰ニ羊腸ハ降ニ代上黨ニ」

やうぢやう（名）［橫笛］〔わうちやくノ音便轉、對馬音（朝鮮音）ト云フハイカガ、橫、吳音、わう、笛、吳音、ちやく、又、やうぢやうノ轉ハやうでう〕又、やうでう。よこぶえ（橫笛）ニ同ジ。字類抄「橫笛、ヰヤウチヤウ」更級日記「箏ノ琴カキナラサレタル、やうちやうノ吹キスマサレタルハ、云云」

やうぢよ（名）［養女］他ノ女ヲ貰ヒテ養フコト。又、ソノ娘。ヤシナヒムスメ。貰娘。養子ノ條ヲ見ヨ。北齊書、孫靈傳「初與陵宿等、取ニ宗子靈氏ハ以爲ニ養女ハ」

やうつり（名）家移 引越ノ轉宅 轉居家移粥ト云フハ、家移ノ時、粥ヲ煮テ祝ヒ、隣家ナドヘモ贈ルモノ。

やうてい（名）［養弟］父母ノ養子ニテ我ガ弟トナルモノ。其女ナルヲ養妹ト云フ。明良洪範、續篇、十四、黑田長政養弟ニ、三左衞門一成ト云フ者アリ」

やうてい（名）［養丁］衞士、仕丁ナドニ給養セムタメ、特別ニ充ツル丁。

やうてい（名）［羊躑］藥草ノ名。ゑのわ（羊蹄菜）ニ同ジ。

やうでう（名）［橫笛］〔橫笛ノ音、王敵ヲ通フヲ避ケテ、云ヒシ語〕やうぢやう（橫笛）ニ同ジ。平家物語、六、小督事「腰ヨリやうでう拔キ出シ、チット鳴ライテ、云云」

やうてきちよく（名）羊躑躅 灌木ノ名。つつじ（躑躅）ニ同ジ。

やうとう（名）［羊頭］羊ノ頭部。羊頭狗肉トハ、羊頭ヲ懸ケテ狗肉ヲ賣ルノ略。表裏一致セザルニ云フ語。卽チ、見カケノミ立派ニテ、實物ノ劣レルモノニ云フ。又、牛頭ヲ懸ケテ馬肉ヲ賣ル。無門關、第六則「懸ニ羊頭ハ賣ニ狗肉ニ」

やうとう（名）［洋燈］ラムプ。

やうとく（名）［陽德］陽ノ德 萬物ヲ生育セシムル德 又、君主ノ德 外德、周禮、春官篇、宗伯、大宗伯「以ニ天產ハ作ニ陰德ハ以中禮ハ防ㇾ之、以ニ地產ハ作ニ陽德ハ以ニ和樂ハ防ㇾ之」

やうとぢ（名）［洋綴］〔和綴ニ對ス〕西洋風ノ綴方。又、ソノモノ。西洋綴。

やうな（名）無益 次條ノ語ノ語根。

やうな・し（形）［益無］又、むやくし。やくなし（益無）ノ音便。無益ナリ。

やうぬり（名）樣塗（一）樣器ヲ胡粉ニテ塗リタルモノ。（二）木ニテ、かはらけ（土器）ノヤウニ作リタルモノ。（後松日記、七七）

やうのたち（名）［陽太刀］〔ゑふノ音、陽ニ近キ故ニ云フ〕ゑふ（衞府）ノ太刀。之ニ對シテ、武太刀ヲ、陰太刀ト云フ。

やうばい（名）楊梅 ヤマモモ。李白詩「江北荷花開、江南楊梅熟」平家物語、三、少將都還「楊梅桃李ノ梢コソ、折知り顏ニ色色ナレ」

やうばいさう（名）楊梅瘡 黴毒ノ一種。全身ノ皮膚、殊ニ面ニ發スルモノ。其膿ノ脂、楊梅ノ實ノ如キ故ニ云フ。

やうばいたうり（名）［楊梅桃李］うるみしゆ（潤朱）、もえぎ（萠葱）、しろ（白）、ナドノ絲ヲ色色絨ニシタルモノ。狂言記、文藏「楊梅桃李ノ左右ノ小手、白檀ミガキノ臑當ニ」

やうはう（名）［陽報］アラハニ報イ來ルコト。淮南子、人間訓「夫有ニ陰德ニ者、必有ニ陽報ハ有ニ陰行ニ者、必有ニ昭名ニ」

やうはう（名）養方 養家ノ方。「養方ノ弟」

やうはく（名）［洋白］やうぎん（洋銀）ニ同ジ。

やうふ（名）［養父］ヤシナヒオヤ。養子ノ、父ト仰グ人。ヤシナヒチチ。義父

其母ナルヲ養母トス。ヤシナヒハハ。[illegible]

やうふう（名）［洋風］西洋ノ風 西洋風（和風ナドニ對ス）「洋風家屋」

やうふく（名）［洋服］西洋風ノ衣服。

やうぶつ（名）陽物 陰莖 男陰。

やうぶつ（名）［養物］養丁ガ、仕丁ナドヲ、給養スルタメニ出スモノ。

やうぶぼ（名）［養父母］養父ト、養母ト。

やうぶん（名）［陽文］又、やうもん。銅、鐵ノ器、又ハ、印章ノ銘ノ文字ナドニ、おきあげ（浮彫）トナリタルモノ。又、凸文。識文。コレニ對シテ刻リ込ミタルヲ陰文、又、凹文、款文ト云フ。

やうぶん（名）［養分］ヤシナヒ。榮養トナルモノ。榮養分。滋養分。

やうへい（名）［養兵］兵卒ヲヤシナフコト。水滸傳、第六十回「養兵千日、用在一朝」

やうぼ（名）［養母］やうふ（養父）ノ條ヲ見ヨ。紀略、後篇、一、延喜七年六月七日「皇大夫人藤原朝臣温子崩、云云、天皇之養母、又爲母也」

やうぼく（名）［陽木］きやら（伽羅）ノ異稱。其條ノ（一）ヲ見ヨ。コレニ對シテ、ぢんかう（沈香）ヲ陰木ト云フ。

やうほん（名）［洋本］（一）西洋ノ書物。西洋本。（二）洋トヂノ書物。

やうまい（名）［養妹］やうてい（養弟）ノ條ヲ見ヨ。享保集成絲綸錄、十八、元文元年八月

「羯鼓錄[illegible]又曹由諸有ル之者二兩モ、鼓亦又ハ羯鼓ニ[illegible]」

やうん [illegible]

やうめい (名) 揚名 (一)名ヲアグルコ[illegible]。(二)[illegible]古ヘ、名目ノ[illegible] 源氏、上、やうめいのすけの事「宇治殿仰云、揚名賜白[illegible]カフ事ノイミジウ形身ノサエノスグレタルゾ、用ナキヤ、内ハ空シトテ、ソノ揚名ヲヤハ名ニハ搔マントスヤ」「揚名ノ介」揚名ノ掾」揚名ノ目」

やうめいがく (名) 陽明學 支那ノ儒學ノ一派。明代ノ學者、王陽明、字、伯安、名守仁、陽明ハ號ナリ、ノ唱ヘタル學說[illegible]、其說、專ラ致知格物、知行合一、良知良能ト云フコトヲ述ブ。人人、生レナガラノ良智ヲ養ヒ育テテ萬事ヲ行フニアリトシ、又、知ト行トハ二ニ非ズ、知ハ行ノ主意、行ハ知ノ工夫ナリトテ、知行合一說ヲ主張セリ。王學。

やうめいけ (名) 陽明家 近衞家ノ稱。昔、陽明門ノ前ニアリケレバ名トス。

やうめいのすけ (名) 揚名介 やうめいノ條ノ二ヲ見ヨ。[illegible]四、夕顏「やうめいのすけナル人ノ家ニナン侍リケル、云云」

やうめいもん (名) 陽明門 大内裏十二門ノ一、宮城ノ東面、待賢門ノ北ノ第一ノ門。[illegible]

やうまう (名) [illegible] 綿羊、山羊ナドノ毛。西域記、二「細絡羅衣、[illegible]羊毛ニ也」

やうもん (名) [illegible] 又、[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

やうやう [illegible]「[illegible]ハ字ノ異音」[illegible]

やうやう (名) 樣樣 [さまざまノ音讀] イロイロ。クサグサ。サマザマ。種種。[illegible]やうやう[illegible]

やうやう (副) 漸 稍ノ轉 (一)[illegible]ユル。シヅカニ。ソロソロト。徐徐。天武紀、上、元年六月[illegible]ムロニ進ミテ。次第ニ。ヤウヤク。[illegible]

やうやう (副) 洋洋 (一)水ノ盛ンナル狀ニ云フ語。[illegible]三、第十一條「アリツル穴ノ方ヘ歸リ行クニ、初ハ安ク通リツル穴、身ノ太クナリテセバク覺エテ、やうやうトシテ穴ノロマデハ出デタレドモ、云云」[illegible](二)廣大ナル狀ニ云フ語。[illegible]

やうやう (副) 揚揚 誇ルカナル狀、又、得意ゲナル狀ニ云フ語。[illegible]

やうやう (感) 呼ビカクル聲。[illegible]

二同ジ。

やうやうし[illegible]ゲナリ。名義抄「[illegible]、ヤウヤウシ」類名抄、上、不[illegible]うやうしト、人ニ言ハレント思ハルベキゾトナン、[illegible]へ侍リシ」

やうやく (副) 漸 [やうやうノ轉] やうやう(漸)ニ同ジ。名義抄「徐、ヤウヤク、漸、ヤウヤク」[illegible]

やうら (名) [illegible] イヤガ上ニモ占フコト。アマタタビ占フ[illegible]ルル、八占サシ、母ハ問フトモ、其ノ名ハノラジ」

やうらう (名) [illegible] 老人ヲ養フコト。又、老人ヲ勞ハリテ物ヲ賜ハルコト。(古ヘ、朝野共ニ、老人ヲ養フノ禮アリ)[illegible]

やうらうさう (名) 養老草 えんれいさう(延齡草)ニ同ジ。

やうらく (名) 瓔珞 [西域記、二「首飾[illegible]」]華鬘ハ身佩ニ瓔珞ニ頭ニ在ルヲ瓔ト云ヒ、身ニ在ルヲ珞ト云フト] 佛像ナドノ、頭、頸、胸、ナドニ[illegible]クル飾、珠玉ヲ絲ニ貫キテ[illegible]ル。[illegible]ヤウラク[illegible]花物語、十七、音樂「光ノ中ノ化佛無數億ニシテ、云云、[illegible]瓔珞ト[illegible]四方ニ光明照ラシ輝ケリ」

やうらく (名) 羊酪 羊乳ノ脂肪ヲ製シ固メタルモノ。[illegible]

やうらくごけ (名) 瓔珞苔 [illegible](愛宕苔)ノ一名。エイザンゴケ。

やうりう (名) 楊柳 [illegible](楊)ニ同[illegible]

[illegible]

やうりうくわんおん [illegible]

やうりうくわんぜおんボサツ (名) [illegible] 十[illegible]ジテ慈悲心ヲ垂レ、諸ノ衆生ノ願樂ス[illegible]ガ如シ、因リテ名ヅクト。像ハ、[illegible]ハ楊柳ノ枝ヲ執リ、左手ハ乳ノ上ニアリテ、大慈悲ノ體ヲナセリ。

やうれ (感) [illegible]

やうれき (名) 陽曆 太陽曆[illegible]

やうろ (名) 楊櫨 落葉灌木ノ名。タニウツギ、[illegible]ツギトモ云フ。

やうわ (名) 陽和 [illegible]ノドカナル[illegible]

やえい (名) 野營 野外ノ陣營。野外ノ宿營[illegible]

やえい (名) [illegible]「胡兵夜[illegible]、夜營多[illegible]」

やえん (名) 夜宴 夜讌 [illegible]ノ酒宴[illegible]

「雪飛移得宜簾春、北醉君王夜宴頻」

やおい　(感)　東京ノ商店ニ入來ル客ヲ迎フル語。今ハ廢レタリ。(京都語ノや、又ハ、御出デやす、ニ相當ス)

やおう　(名)　[野翁]　田野ノ翁。村翁。范成大詩「報道得依日上、野翁播蓋二短篷眠」

やおくり　(名)　[矢送]　昔、戰場ニテ、敵ヨリ射來レル矢ヲ、更ニ身方ヨリ敵ヘ射カヘスコト。甲陽軍鑑、七、品第十六「矢おくりト申シテ、敵方ノ矢ヲ袖ズリノフシヨリ折リカケ、ハシリ羽ヲ一ツモギ、敵方ヘ返スナリ」

やおも　(名)　[八面]　八方ノ方面。又、アラユル方面。ヨモ。ヤモ。八方八面。

やおもて　(名)　[矢面・矢表]　(一)矢ノ飛ビ來ル前。又、其方向。保元物語、二、白河殿義朝被寄夜討事「矢面ニ進ンダル者二騎、射落サレヌ」「やおもてニ立ツ」　(二)龜甲打(組紐ノ)表ニ、龜甲ノ形ヲ出セルモノ(ノ)表ノ稱。七十一番職人歌合、五十一番、組師「やおもてニ、シバシ見エツル、月影ノ、セトニ成ルマデ、更ケメグルカナ」判、組ニ、やおもてト云フ組ヲ、家ノ面ニ當テ、セトマテ月ヲメグラス心バセ、云云。(三)物事ノ表面ニ立ツコト。又、ソノモノ。

やおもて　(名)　[家表]　イヘノ表ノカタ。前條ノ語ノ(二)ノ出典ヲ見ヨ。

やおれ　(感)　人ニ呼ビカクル聲。ヤオノレ。ヤウレ。盛衰記、六、內大臣召兵事「內府ハ打ウナヅキ、涙グミ給テ、やおれ家貞、貞能ヨ」

〜やか　(名)　[八日]　今、延ベテ、やうか。神代紀、下「八日八夜、啼哭悲歌」

〜やか　(名)　[宅]　〔屋處ノ義カ〕又、宅。家。家柄(舍屋)　ヤドコロ。源、四十九、東屋「トノ井人ノ、アヤシキ聲シタル、夜行打チシテ、やかノ辰巳ノ隅ノ崩レ、イト危シ」「家持」

やか　(名)　[驛家]　〔驛家ノ略、やくハ呉音〕驛路ノ驛傳ヲ掌ル所。ウマヤ。但、村居ナキ所ニ、行程、地勢ノ便ニ隨ヒ、別ニ人馬ヲ設ケ置カレシ所カト云フ。エキカ。ヤケ。字鏡抄「驛家、ヤカ」

やかう　(名)　[夜行]　(一)夜行クコト。禮記、內則篇「女子出門、必擁蔽其面、夜行以燭、無燭則止」朗詠集、下「胡候日高冠穎拔、夜行[illegible]」　(二)次次條ノ語ノ略。

やがう　(名)　[屋號]　イヘナ。家ノ稱號。や(屋)ノ條ヲ見ヨ。

やかうれつしや　(名)　[夜行列車]　夜行ク汽車ノ列車。略シテ、やかう。

やがかり　(名)　[矢懸]　射ル矢ノ屆クトコロ。太平記、十七、山門攻事「寄手誠ニ大勢ナリト云共、敵ノ勢ニ機ヲ被呑テ、矢懸リマデモ進ミ得ズ、云云、還攻ニコソシタリケレ」

〜やがき　(名)　[屋垣]　家ノ垣。住吉物語「侍從イカナル人ニカトテ、やがき(透垣ノ隙イ)ヨリノゾケバ、スノコニヨリカカリ給ヘル御姿、コメニモシルク見エケレバ、云云」

やかく　(名)　[野客]　在野ノ士。又、官ニ仕ヘザル人。杜甫、柟樹爲風雨所拔歎詩「野客頻留懼雪霜、行人不過聽竽籟」

やかく　(名)　[野鶴]　野原ニ井ル鶴。杜甫、書堂飲、既夜復邀李尚書下馬、月下賦絕句「久拚野鶴如雙鬢、遮莫鄰雞下五更」

やかく　(名)　[夜鶴]　夜、巢籠リスル鶴。ヨルノツル。梁元帝、燕歌行「沙汀夜鶴嘯羈雌、妾心無趣生離」朗詠集、下「夜鶴眠驚松月苦、曉鶯飛落峽烟寒」

やがく　(名)　[夜學]　夜、學問スルコト。孟郊詩「夜學曉未休、苦吟神鬼愁」謠曲、竹雪「思ヒノ多キ年月モ、ハヤ呉竹ノ窓ノ雪、夜學ノ人ノ燈モ、拂ハバヤガテ消エヤセン」

やかげ　(名)　[家陰]　イヘノカゲ。

〜やかす　(名)　[舍屋]　〔家柄ノ義ト云フ、やけハやかノ轉、酒ヲさか、竹ヲたかト云フ類〕家。屋。倭名抄、十、居宅類「宅、夜加須」推古紀、七年四月「地動、舍屋悉破」天武紀、下、七年十二月「百姓舍屋、毎村多仆壞」

やかず　(名)　[家數]　イヘノカズ。又、一町村內ノイヘノ數。イヘカズ。戸數。

やかず　(名)　[矢數]　(一)矢ノ數。(二)射ヲ學ブモノノ、一時ニ、數千發、差矢ヲ射テ其術ヲ試ミルコト。往時、武士、京都、蓮華王院ニ三十三間堂(江戸ニモ三十三間堂ハ、初、淺草ニアリシガ、元祿十一年燒亡シタルヨリ、深川ニ移リタリ)ノ裏緣側、每間二間、六十六間ノ距離ニ於テ、夏月長日ノ時ニ、百射、千射、或ハ、日矢數ヲナス、殊ニ大矢數ト云フハ、暮ヨリ篝ヲ燒キテ、曉ニ至リ、萬餘發ニ至ルモノナリ。一日ノ日中ノミ射ルヲ、小矢數ト云フ。通矢檢證ノ役人、其數ヲ定メ、他人ヲ射越シタルヲ總一ト云ヒ、弓ノ天下ナド云ヘリ。又、其射ル形ヲ堂形ト云フ。とほしや(通矢)ノ條ヲモ見ヨ。

やかずはいかい　(名)　[矢數俳諧]　〔矢數ハ矢ノ員數ニテ、多クノ意〕早ク多クノ句ヲ詠ミタルヲ勝者トスル俳諧。

やがすり　(名)　[矢絣]　絣ノ一種。カスリゾメニシタル經絲ヲ、次第ニ少シヅツ變ヘテ、恰モ矢羽根ノ如キ形ニ、ガラヲ織リナシタルモノ。

やかぜ　(名)　[矢風]　射放シタル矢ノ、飛ブニヨリテ起ル風。曾丹集「トモシスト、秋ノ山邊ニ、入ル人ノ、弓ノ矢風ニ、紅葉散ルラシ」

やかた　(名)　[屋形]　(一)[舘]　(二)…ノ上ニ、屋ノ形ヲ設ケタルモノ。フナヤカタ。篷庫　枕草子、十二、第百四十八段「船、云云、やかたト云フ物ニゾ乘ルハ」　(二)車ノ上ニ設ケル車ノ屋。車蓋　倭名抄、十一、車具「車蓋、俗用屋形、夜加太」西宮記式、牛車一具、屋形、長八尺、高一尺四寸、廣一尺二寸」　(三)家ノ形ノ模樣、又ハ紋。「やかたニ木瓜(河津ノ紋)」「屋形ノ錦」　(四)貴族ノ居宅ノ稱。殿舍　狂言記、武惡「アレモ御館デハ覺エノ者デゴザレバ」　(五)中古以來、大臣ニ任ゼラレシ者ノ居所ノ稱。後ニ、尊稱トナル、殿ト云ヘムガ如シ。室町ノ世ニ、大名屋形ノ號トケレバ、召仕ノ諸士ニ、烏帽子、直垂、素袍ヲ着セルコトナラズ、故ニ舉リテ此號ヲ望メリ。サレバ此幕府ノ末ヨリ、歷歷ノ大名ニ、屋形號免許ト云フコト始マリ、事ノ尊稱トナレリ。盛衰記、廿六、千葉兄利僧佐事「上總介弘經、云云、屋形ニ歸テ云ヒケルハ、此佐殿ハ、一定日本ノ大將ニ成リ給フベシ」土岐家聞書、惣じて大名の宿所を屋形と申事、元弘建武ノ頃、土岐家ノ濃州小島ノ許ニ行幸アリケル時、行宮ヲ建テタリ、御入洛ノ後コレヲ屋形ト號シテ住ヘリ、丸柱ナリ、是ヨリ大名ノ宿所ヲ屋形ト號ス」(漢文)甲陽軍鑑、二十、品第六「但、片時モ屋形ノ御名代ナレバトテ、諏訪ホッシャウノ御甲バカリ、ユルシマイラセラルルナリ」

やかた　(名)　[屋形]　〔宅形ノ略、舟車ニ云ヘルニ起ル〕假リニ構ヘタル家。假リノ宿所。カリズマヒ。古今集、廿、大歌所御歌「水莖ノ、岡ノ屋形ニ、妹ト我ト、寐テノ朝ケノ、霜(雪イ)ノ降リハモ」夫木抄、三十、屋形「カリやかた、スヤ結バン、廳前ノ、角太河原ニ、今日モ暮シツ」

やかたがう　(名)　[屋形號]　やかた(屋形、第一語)ノ條ノ(五)ヲ見ヨ。元治二年武

やかたおし [illegible] ケアルモノ。

やかたおろ [illegible] ネタルモノ。傾城酒呑合戦(正徳、近松作)二ノ五「常陸甘殿カやかたおろ、紫子ガ峨ニゾ有ニケル」

やかた-づくり (名) [屋形造] 屋形ノ建テザマ。又、屋形ニツクリタルモノ。下露[illegible]リノ[illegible]、行[illegible]ノ御所ヲ始トスルナリ」

やかた-ぶね (名) [屋形船] (一)二階屋形ノアル船。御座船。(貴人ノ乗船トス) [illegible]船ニ(金銀ヲ鏤メタル[illegible]物ナルベシ) (二)遊山船ノ[illegible]、江戸時代、隅田川ノ納涼ニ用ホシナリ。其最モ盛ンナリシハ、享保年中ナリシト云フ。船數、市中ニ百艘モアリキトカ。船ヲアヤツルニハ、舟子、屋形ノ上ヲ歩ミ棹ヲサス。[illegible]小サク造レル船ヲ[illegible]ぶねトスノ、屋ノ上ナラズ船ノ雨稜ノワタリニテ棹ヲサス、棹竿ヲコボス意ノ名カト。紫の一本(天和)下、船「山一丸、日本丸ノ屋ナリ、小関丸ヨリ後ニ造ル、小関丸ヨリ大キサハ屋形ノ八間ニシキリシ故、山一丸ト云」

やかた-まち (名) [屋形町] 屋形、即チ貴人ノ家ノ連リタル町。屋敷町。

や-がため (名) [屋固] 建築セムトスル屋敷ノ、柱立ノ時ニ、凶事ナカレト、祈リ[illegible]儀式。曾我会稽山(享保、近松作)「今日吉日ノ柱立、云云、[illegible]ニウホ向ウヒ、マヅやがためノ[illegible]ノ矢ハ、ツツ、[illegible]フフ、テ向キシ」

やかた-を (名) [屋形尾] 鷹ノ尾ノ羽ノ斑ニ云ノ[illegible]黒キ斑アルモノ。又、町形尾ト云フハ、田ノ町形ノ如キ斑アルモノナリ。萬葉集、十七「矢形尾ノ、鷹ヲ手ニスヱ、三島野ニ、狩ラヌ日マネク、月ゾ經ニケル」

やかち [illegible]

や-かつ-かみ (名) [宅神] 家ヲ守リタマフ神。[illegible]宅神ノ祭、[illegible]ニテハ、二月、十一月ノ上ノ午ノ日(四時祭式)ニ行ヒ、庶人ハ四月ニ行フモノトス。[illegible]スヱ、やかつ神、マツル卯月ニ、ハヤナリヌトカ」

やがて [illegible] [止雖ノ意、止マムトシテ[illegible]] [illegible] (一)[illegible] (二)轉ジテ、ホドナク。マモナク。オッツケ。イマニ。インマニ。早晩。尋。須臾。紫式部日記「物ノ數数書キタル文、柳筥ニ入レテ参レ、やがて返シ給フ」

やか (接尾) 他ノ語ノ下ニ接シテ、状態ヲ云フ語。「速やか」「穏やか」「華やか」「晴やか」「爽やか」「シヅやか」「實シやか」

や-がはえ (名) [彌榮] やノばえ(彌木生)ノ[illegible]ニ見ユ。古事記、下(仁徳)「ツギネフ、山代女ノ、小鍬持チ、打チシ大根、サワサワニ、ナガイヘセコソ、打渡ス、夜岩渡延ナス、來入リマヰクレ」

や-がはり (名) [矢代] 他人ニ代リテ、矢ニ射ラルルコト。陸奥話記「古シヘ[illegible]、八島ノ浦ノ合戰ニ、佐藤次信、御矢代ニ立ケレバ、太夫クロヲ給ヒケル」

[illegible]手續ヲ經ズシテ、夫婦トナルコト。又、夫ノ幼妻ヲ得ルコト。(靈異記、九十二)

やかべ [家部] 古ヘ、[illegible]民部ノ[illegible]。けびと(家人)ニ同ジ。天智紀、三年二月「[illegible]」

や-かま-し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [喧] [噎喧]し、ノ轉ト云フ、或ハ云フ、彌喧しノ義。(一)カシカマシ。カマビスシ。喧擾。狂言記、宗論「アア喧しイ、何事ヂャ」(二)煩ハシク嚴シ。コウルサシ。[illegible]近松作)上「アレヘ見ユルハ親父ヂャナイカ、云云、逃ウテやかまし、要御免ト、神子ノ門ニゾ隠レケル」

や-かん (名) [夜間] [晝間ニ對ス] ヨノマ。ヨルノウチ。夜ノアヒダ。[illegible]

や-かん (名) [射干][野干] (一)支那ノ獸ノ名。狐ニ似テ小サク、能ク木ニ登ル、色、青黄ニシテ、尾、大ナリ。[illegible]狼ノ如シト云フ。[illegible] (二)日本ニテ、狐ノ一名。野狐。野犴。倭名抄、十八「[illegible]」 (三)鳶尾科ノ草ノ名。ひあふぎ(檜扇、第二語)ニ同ジ。射干

や-から (名) [族] [家族ノ義カ] (一)[illegible]

[illegible]キテ、其ノ[illegible]やからヲバ、[illegible]ベシ」「盗人ノやから[illegible]ノやから」

やがら (名) [矢幹] (一)[illegible] (二)[illegible] (三)魚ノ名、[illegible]肥エテ、はも(鱧)ニ似タリ、大イナルハ二三尺、[illegible]文アリ、目、大キク、口、小サク、目トロトノ間ハ、長キ筒ニシテ肉ナク、矢柄ノ如ク、火吹竹ノ如ク、其長サ、大イサ、身ニ齊シ。尾ノ又ノ間ヨリ、一條ノ紅絲ヲ垂ル。腮ノ下ノ鰭、短小ニシテ、尾ニ近ク[illegible]。火箭嘴。(三)相撲四十八手ノ一。一方ガ諸差トナリタルトキ、相手ハマヘブケ[illegible]、其両手ヲ抱キシメ、[illegible]押シカカルヲ、腹ヲ出シ腰ヲスエテ受ケ、左右[illegible]ニテモ得[illegible]、片ヘ振リ出スモノ。

やがら-うを (名) [矢幹魚] 前條ノ語ノ(三)ニ同ジ。

やがら-おとし (名) [矢幹落] 矢ノ鏃ヲ緩クハメタルモノ。射テ中レバ幹ハヌケテ、鏃、肉中ニ残ルト云フ。甲子夜話、廿七「箭ノ鏃ヲユルクハムルヲ矢から落シト云、是ハ射テ中レバ、幹ハヌケテ鏃ハ肉中ニ残リ、必ニ人ヲ害スト云ナリ」

やから-がね (名) [八打鐘] [やつばち(八撥)ノ轉レル語] [illegible]

緒ニテ頸ヨリ胸ニカケタル若衆數人、鉦ヲ打鳴ラシナガラ、輪ニナリテ巡リ踊ルモノ、元ハ歌念佛ノ類ニテ、念佛中シテ、一心不亂ニ踊リタルヨリ移レリト云フ。(人倫訓蒙圖彙、七) ヤッビャウシ。前附句「早イコトカナ早イコトカナ」ヒロゲレバ、風車ナリ、やからかね」

やからぜめ (名) 矢幹責 拷問ノ一。ヤガラニテ打敲キナガラ責ムルモノ。

〜やからびと (名) 族人 一族ノ人。一門ノ人人ノゾクジン。崇峻紀、五年十月「蘇我馬子宿禰聞天皇所詔、恐嫌於己、招聚儻者」ヤカラビト

やき (名) 燒 (一)燒クコト。又、其燒キナシタル狀、「陶器ノ燒」(二)刀ノ刃ヲ燒キテ、徐ニ冷ヤシテ堅クスル法。すぐやき(直燒)、みだれやき(亂燒)ナドアリ。各條ヲ見ヨ。狂言記、長光「太刀、云云、地肌、燒キノ樣體ヲ云ウテ聞カセイ」

やき (名) 夜氣 (一)ヨルノ空氣。夜間ノ氣、又、ヨルノ容子。朱喜、夜詩「獨宿山房夜氣清、一窓沖月共虛明」(二)心ノ靜カナルホ、孟子、告子、上篇「夜氣不足以存、則其違禽獸不遠矣」

やき (名) 夜歸 夜ニ至リテカヘルコト。又、夜カヘルコト。蘇用卿、吹簫觀燈詩「夜歸牛背滿弓刀白、笛聲一聲山月孤」

〜やぎ (名) 柳 やなぎ(柳)ノ略。萬葉集、十四「戀シケバ、來マセ我カセコ、垣内楊疑、末摘ミ刈ラシ、我立チ待タム」

やぎ (名) 野羊 (朝鮮音ノ羊ノ略轉カ、或ハ云フ、野牛ノ音カト) 反芻偶蹄類ニテ、羊ノ屬、山ニ棲ミ、人家ニモ畜フ、舶來ス。毛ハ、黑、白、淡褐、ナルヲ常トス。蹄ハ二ツニ裂ケ、頭ニ二角アリ、中空ニシテ背ヘ曲リ、節アリテ粗ナリ。毛、長ク直シ、牡ハ、腭ノ下ニ鬚アリ。性、羊ヨリ強クシテ馴レ易ク、肉、美ニシテ、乳、皮、皆、用アリ、毛ニテ毛氈ヲ織ル。種類多シ。山羊

〜やきいし (名) 燒石 をんぢゃく(溫石)ノ條ノ(二)ニ同ジ。字類抄「碬、ヤキイシ、磆、砱、同」大鏡、上、時平「餅、云云、ヤキテ、やきいしノヤウニ御身ニ當テテ、モチ給ヘリケル」

やきいひ (名) 燒飯 やきめし(燒飯)ニ同ジ。好色五人女(貞享、西鶴)二「腰掛ヲ列ヘ、花瓶シカセ、童子人レニ燒飯、殺キ楊枝」

やきいん (名) 燒印 銅鐵製ノ印。燒キテ物ニ押ス。ヤキジルシ。燒判。烙印。火印。紀略、前篇、十三、延暦十一年七月「禁桑椹梁橋、但齋宮中所司、燒印用之」

やきいも (名) 燒薯 燒芋 さつまいも(薩摩薯)ヲ炙リタルモノ。(蒸薯ニ對ス) 浮世風呂(文化、三馬)三編、下「今年ハ琉球芋ガ澤山ナ所爲カ、燒芋ガハヤリマス」

やきう (名) 野球 (英語、Base-ball.ノ譯語) 野外競技ノ一。地上ニ正方形ヲ劃シテ、其各隅ニ一、二、三、本ノ四壘ヲ設ケ、一組九人ヅツ二組ニ分レテ、投ゲラレタル球ヲ、棒ニテ打チ、勝負ヲ爭フモノ。競技者中ニ投球者、受球者、壘手、打者等アリテ、攻守互ニ組ヲ換ヘ、九回競技シテ、生還者多キ組ヲ勝トス。

やぎう (名) 野牛 (一)支那ニテハ、兕ト云フ牛ニ似タル獸ノ別名トス。論語、季氏篇「虎兕出於柙」朱注「兕、野牛也」(二)(英語、Bison.ノ譯語) 反芻偶蹄類ニテ、形、牛ニ似テ少シ小サク、肥大ナレド、肩骨高ク、鬣、皮、下顎ニ長毛ヲ有ス。北亞米利加洲ノ原野ニ棲ス。

やきうち (名) 燒討 城砦、市街、船舶、ナドニ、火ヲ掛ケ、又ハ、石火矢、破裂丸、ナドヲ打チ掛ケテ、攻メ討ツコト。火攻。火攻。國八州古戰録、十七、「野州下田四兵、[illegible]、私ノ計ヒナシテ、燒討ニシタル事、將命ヲ恐ザル働ナリ」

やきおいた (名) 燒御痛 [おいたハ、おいたみノ略] 女房ノ詞 やきしほ(燒鹽)ノ異稱。大上臈御名之事、女房詞「ヤキシホ、やきおいた」

やきかがせ (名) 燒串 [燒嗅せノ義] (一)かがし(鹿驚)ノ條ヲ見ヨ。(二)又、やきぐし。(やきしめト云フモコレカ) 節分ノ夜、鬼遣ニ、鰯ノ頭ヲ燒キテ、柊ノ枝ニ貫キ、門戸ニ刺シオクモノ。鬼ニ其臭ヲ嗅セテ、逐フ意ナルベシ。江戸ニテ、ヤキガシラ。地方ニテ、ヤキカガシ。ヤッカガシ。ヤイカガシ。(今モ靜岡縣ニテハ、節分ノ日ニ、赤鰯ヲ柊ヲツケテ軒ニ出ス、やいかがし、やいかがしナド云ヒテ、其名ヲ存ス) 倭訓栞「かがし、云云、信濃ニテ節分ノ夜、鰯、豆ガラヲサスヲ、やつかがしト云フ、燒かがしノ義也」

やきがね (名) 燒鐵 燒金 (一)鐵ヲ火ニ燒キテ、罪人ノ額ナドニ當テテ、刑トシ、又、牛馬ノ尻ナドニ當テテ、標トスルコト。又、ソノモノ。烙鐵。火印。字類抄「鍱、ヤキカネ、鑞、[illegible]也」博多小女郎波枕(享保、近松作)下「重ネテ惡事ヲ止メ灸ノ、顏ニ燒鐵入レボクロ」(二)外科醫ニ、やきばり(燒鍼)ノ類。銅鐵ノ小鍼ヲ燒キテ、瘡中ニ點ジ、腐肉ナド去ルコト。又、熱湯ニ浸シ、熱ニ桑シテ[illegible]、用キ[illegible]、流セ、[illegible]ニ、[illegible]ドノ[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]。やきがね(燒鈔)ノ[illegible]見ヨ、[illegible]。欽冬「やきがねノ、色ニ匂ヘル、山ブキハ、ハカリモ知ラヌ、花ノ色カナ」

〜やきがま (名) 燒鎌 燒キ鍛ヘテ、刃ヲ成シタル鎌。大祓詞「彼方之繁木本乎、燒鎌乃敏鎌以氏、打掃事之如久」

やきがま (名) 燒窯 陶器、磁器ナドヲ燒ク用ヰル竈。

やきがり (名) 燒狩 野、山ナドノ草木ニ、火ヲツケモヤシ、逃レテ去ル禽獸ヲ狩ルコト。燒山狩。新六帖、二「子ヲ思フ、雉ノトダナノ、燒野ニ、ケブリヲ分ケテ、立ツ雉カナ」

やききん (名) 燒金 吹分ケテ、混物ナクシタル純粹ノ黃金。ヤキガネ。純金

やきぎり (名) 燒桐 桐ノ材ヲ燒キテ、木理ヲ洗ヒ出セルモノ、器ニ作ル。焦桐

やきくさ (名) 燒草 よもぎ(艾)ノ異稱。字類抄「艾、ヤキクサ、亦、ヨモギ、五月五日採也」

やきぐし (名) 燒串 (一)魚ナドヲ炙リ燒ク串。(二)音便ニ、やいぐし。やきかがせ(燒串)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

やきぐり (名) 燒栗 焙リヤキタル栗ノ實。宇治拾遺、十五、第一條「田原ニ埋ミ給ヒシ燒栗ユテ栗ハ、形モ變ラズ生ヒ出テケリ」

やきごえ (名) 燒肥 塵埃ナドヲ、蒸燒ニシテ、製シタル肥料。火糞

やきごて (名) 燒鏝 鏝ノ、頭、小サク、柄、長キモノ。火ニ燒キテ、縫目ノ上ヲ押シカワカシ、又ハ、布帛ノ折目ナドヲ押シツケテ、熨斗ノ用トス。

〜やきごめ (名) 燒米 又、やいごめ。新

[illegible]ノ初メノ物ナリ、[illegible]ヲ上メテ、[illegible]ノ上ニ[illegible]ルモノ。味甘シ。稲米 倭名抄、十七[米類]「[illegible]」

やきざかな (名) 焼肴 魚肉ヲ炙リタルモノ。又、ヤキモノ。炙

やきしほ (名) 焼塩 [illegible]ノ[illegible]ニ入レテ、口ヲ塗ヒ、炭火ニテ焼キタルモノ。固マリテ、色、殊ニ白シ。又、壺焼トモ云フ。女房詞ニ、やきおいた。狂言記、宗論「カノ事足ラハヌ御方ヘ参レバ、やき塩一莖デ下サルル」

やきしめ (名) 焼標 焼注連ノ[illegible]。馬ノ尾毛ヲ木ニ挟ミテ焼キ、田畠ニ立ツルモノ。其香ヲカギテ、鹿、猪ナド、其田ヲ荒サズト云フ。[illegible]「[illegible]やきしめ、やきしめトハ、馬ノ尾ヲ木ニハサミテアブラカシテ、田ニタツルヲイフナリ、鹿ニクヘセジガレウ也」

やきす・つ -ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 焼捨 焼キテ捨テオク。ヤキテスツ。[illegible]「[illegible]芳野ノ跡ヤ、霞ムラン、姨ニカヘル、姨子ナクナリ」

やきずみ (名) 焼炭 木ヲ焼キテ造リタル炭。又、燃料ニ供スル炭。

やきぜめ (名) 焼攻 放火シテ攻メタツルコト。火攻メ。太平記、廿七、[illegible]御所[illegible]「四方ヨリ火ヲ懸テ、焼攻ニスベシト聞エシカバ」

やきだち (名) 焼太刀 太刀ト云フニ同ジ。焼キ鍛ヘタルモノナレバ云フ。萬葉集、九「[illegible]太刀ノ、鍔柄オシネリ、シラマユミ、靫トリオヒテ、水ニ入リ、火ニモ入ラムト」

やきだちの (枕) 焼太刀 太刀ノ利シト云フヨリ、[illegible]、身ノ[illegible]ニ着クル[illegible]ヨリ、ト云フ語ニ冠ラスル枕詞。萬葉集、廿[illegible]「[illegible]心モ吾ハ、思ヒカネツモ」同、四[illegible]「[illegible]トイハバ、ワビシミセント、焼太刀乃、隔ツカフコトハ、カラシ[illegible]」

やきだちを (枕) 焼太刀 [illegible]の。利シト云フ語ニ冠ラスル枕詞。萬葉集、十八「夜岐多知乎、トナミノ關ニ、明日ヨリハ、守部ヤリ添ヘ、君ヲトドメム」

やきた・つ -ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 焼立 モヤシタツル。[illegible]ヤク。萬葉集、十一「シカノ海人ノ、煙焼立而、焼ク鹽ノ、カラキ戀ヲモ、吾ハスルカモ」

やきだま (名) 焼玉 はうろく、ひや(火矢)ノ類。其條ヲ見ヨ。焙弾

やきつぎ (名) 焼[illegible] 碎ケタル陶磁器ナドヲ、釉ニテ焼キツケテ接グコト。(繼ギ方ニハ種種アレド、古ヘハ、卵ノ白身ニテツギ、又ハ、白粉ヲ糊ニテネリツクルナリト。コレハ、江戸ニテハ、寛政ノ頃ヨリ起リシト)

やきつ・く -クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 焼付 (一)陶磁器ニ焼付ヲナス。(次條ノ語ヲ見ヨ) (二)鍍金ヲナス。長町女腹切(正徳、近松作)上「目貫ノ性ヨシモ、ツイ焼きつけテ悪性ニ、身ヲ研ギヘラス奉公ヤ」

やきつけ (名) 焼付 (一)陶磁器ノ素焼ニ、釉ヲカケテ焼キ上ゲ、其上ニ彩釉ニテ、模様ナドヲ書キテ、再ビ窯ニ入レテ焼キツクルコト。コレヲ二度窯ト云フ (二)鍍金。宗五大雙紙「太刀、云云、御目貫、丸ノ内ニツブ桐やきつけ」 (三)寫眞術ニ、感光紙ヲ硝板ノ下ニ敷キ、日光ニ曝シテ感光セシメ、陽畫ヲ紙面ニ現ハサシムルコト。

やきつち (名) 焼土 (一)焼キタル土。(二)[illegible]

やきて (名) 焼手 (一)[illegible]。又、ツノテダテ。[illegible] (二)人ノ喜ブヤウニ、言ヒ聞カスルコト。又、其詞。[illegible] (三)ヤキモチヲ焼ク人。嫉妬深キ人。[illegible]餅ハ、此ヤクト云事ニ、餅ヲ添ヘタルナリ」

やきどうふ (名) 焼豆腐 (一)豆腐ヲ方形ニ切リテ、炙リタルモノ。[illegible] し(二本差)ノ條ノ(二)ヲ參見セヨ。七偏人(安政、金鶩)初編、上「田作ニ焼豆腐」 (二)焼豆腐ハ二本ノ串ヲ差シテ炙レバ、江戸時代、武士ヲ嘲リテ云フ語。

やきなだれ (名) 焼頽 陶器ナドノ、釉薬ノ焼ケテ、流レ垂レタルモノ。反也の句「ツボ井ニモ、サガル氷柱ヤ、焼きだだれ」

やきなべ (名) 焼鍋 (一)陶器ノ鍋。(二)座右ニテ、鍋ニテ物ヲ煮ツツ食フコト。

やきなほし (名) 焼直 (一)ヤキナホスコト。(二)ツクリナホスコト。又、ソノ作リ直シタルモノ。

やきなほ・す -ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 焼直 (一)焼キカヘシテ直ス。(二)原形ヲ少シ改ム。從來ノモノヲ作リ變フ。

やきば (名) 焼場 屍ヲ火葬ニスル所。火屋。茶毘所。火葬場。三昧場。化人[illegible]

やきば (名) 焼刃 [illegible]水ニ入レテ、堅クセルモノ。名義抄「刃、ヤキハ」[illegible]

やきばさき [illegible] まざさ(熊笹)ニ同ジ。

やきばた (名) 焼畑 又、やいばた。ヤキマキ。アラマキ。やいばた(焼畑)ノ[illegible]「火田、夜岐波多、[illegible]」名義抄「畑、ヤキハタ」

やきばたらき (名) [illegible] [illegible]方ノ民家ナドヲ焼キ[illegible]。又、火攻。甲陽軍鑑、末書(武家名目抄)「[illegible]山ノ城ヘ働キ[illegible]サルル」

やきばひ (名) 焼灰 モノヲ焼キタル後ノ灰。又、灰ヲ得ル[illegible]

やきはまぐり (名) 焼蛤 生ナル蛤ヲ、殻ノママニテ、松葉、松笠ナドノ火ニテ炙リタルモノ。東海道中膝栗毛(文化、一九)五編、上「大サウニ焼蛤ヲツミ重ネテ出シ」

やきはら・ふ -フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 焼拂 アトカタナキマデ焼ク。又、焼キテ追拂フ。保元物語[illegible]

やきはん (名) 焼判 やきいん(焼印)ニ同ジ。

やきばり (名) 焼鍼 [illegible]古ヘ醫術ニ、[illegible]鍼ヲ焼キテ、患所ニ立ツルコト。又、ソノ鍼。やきがね(焼鐵)モ此類ナリ。火鍼

やぎ-ひげ (名) [野羊鬚] (一)野羊ノ顎下ニ生ズル長キ毛。(二)人ノ鬚ノ、野羊ノ鬚ニ似タルヲ、嘲リテ云フ語。

やき-ふ (名) [焼麩] 麩ヲ炙リテ脹ラカシタルモノ。輕虚ニシテ、方、圓、種種ナリ。食用トシ、魚ノ餌ナドトス。

やき-ふで (名) [焼筆] 畫工ノ下畫ヲカク時ニ、筆トシ用ヰルモノ。檜ノ箸ノ如キモノノ端ヲ燃シテ用ヰル。拭ヘバ消エ易シ。クチフデ。くさきがき(朽木書)ノ條ヲモ見ヨ。土筆 燔筆 貞德文集、下「彩色濃、何ニモ寵仕度候、以面談合可申候間、先焼筆拵參候而、地取可被成候」

やぎふ-りう (名) [柳生流] 劍術ノ一派。室町時代ノ末、大和國、添上郡、柳生村ノ住人柳生新左衞門家嚴、上泉伊勢守(一説ニ和泉守秀綱)ノ門下トナリ、新陰流ヲ學ビ、其子但馬守宗嚴入道石舟齋ト云フモノ柳生流ヲ開キ、其男、但馬守又右衞門宗規コレヲ傳ヘテ、德川氏ニ仕フ。其子柳生重兵衞三嚴、柳生飛驒守宗冬ナド、其流ヲ襲ヒタリ。 明良帶錄(文化、山形豐寬)二、「柳生但馬守、世世劍聖(俗ニ劍術)ヲ以テ御師範ノ家トス、柳生流ト稱シテ一流トス」

やき-ほろぼ-す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [焼亡] 焼キテナクナラシム。焼失セシム。萬葉集、十五「君ガ行ク、道ノ長テヲ、繰リタタネ、也伎保呂煩散ム、アメノ火モガモ」

やき-まき (名) [焼蒔] やいばた(焼畑)、及、やきばた(焼畑)ノ條ヲ見ヨ。字鏡六十「秇、稻也、不耕蒔也、也支萬支、又、阿良萬支」

やき-ミソ (名) [焼味噌] 元ハ、羽子板ノ如キモノノ面ニ、刻ミヲツケ、味噌ヲ付ケテ爐中ノ灰ニ立テテ焼キタリト。今ハ其焼キ方、種種ナリ。 色三味線(元祿、其磧)京之卷「結ビノシニ小板ノ焼みそ」

やき-みやうばん (名) [焼明礬] 明礬ヲ焼キカヘシタルモノ。色、白クシテ塊狀ヲナシ、藥用ニ供セラル。枯礬

や-きん (名) [冶金] 金屬ヲ含ミタル鑛物ヨリ、大仕掛ニ、金屬、又ハ、合金ヲ得ル工業的作業。精錬

や-きん (名) [野禽] 野ニ栖ム禽。野ノ鳥。野鳥 漢書、蒯通傳「大夫種存亡越、伯句踐、立功名、而身死、語曰、野禽殫、走犬亨」

やき-めし (名) [焼飯] 團飯ヲ焼キタルモノ。多クハ三角形ニ握ル。ヤキイヒ。 燕石雜志「火飯、ヤキメシ」 續搢紳正記「我カ拵チタル焼飯ヲ一ツクレケル」

やき-もき (副) [焼燃氣ノ略] 氣ヲ揉ミアセル狀ニ云フ語。イライラ。焦慮

やき-もち (名) [焼餅] (一)炙リタル餅。(二)俗ニ、悋氣(東京) 嫉妬。やきて(焼手)、及、やく(焼、第二語)ノ條ヲ見ヨ。焼くト云フヨリ餅ト云ヒシ語。 假名世說「自慢モ味噌トイヒ、リン氣モ焼餅トド卑ク、云云」 續膝栗毛(文化、一九)三編、上「憩イ男ダ、焼餅喧嘩ヲサセヨウト思ッテカ、云云」

やき-もの (名) [焼物] (一)スヱモノ。セトモノ。土ニテ種種ノ器ヲ造リテ、焼キ成セルモノノ總稱。石焼ト云フハ、堊土ヲ搗キ砕キテ粉トシ、軟土ヲ交ヘ、水ニ漬シ、掻キマゼテ水飛シ、(其上澄ヲ釉トス)其中澄ヲ火ニカワカシ、捏ネテ、手捏、或ハ、旋盤ニテ器ニ造リ、窯ニ入レテ焼ク、コレヲ素焼トス。又、コレニ吳須ニテ畫ナドカキテ、釉ヲカケテ、再ビ焼キ成ス、コレヲ二度窯ト云フ。磁 又、土焼、或ハ、土焼ト云フハ、埴土ヲネヤシ、捏ネテ造ル。其法、粗、石焼ニ同ジ。陶 (二)ヤキザカナ。シホヤキ。炙 易林節用集(慶長)下、食服門「炙物、ヤキモノ」 今昔物語、二十、第十五語「鹿、云云、煎物ニテモ甘シ、焼物ニテモ美キ奴ゾカシト云ヒケレバ」

やきもの-ぐすり (名) [焼物藥] 堊土ノ粉ヲ水ニ渡シ、上澄ヲ取リ、蚊母樹ノ實ノ皮ヲ焼キタル灰ヲ加ヘタルモノ。今ハ、専ラ珪石、石英、石灰、長石ナドニ、種種ノ金屬ノ酸化物ヲ適宜ニ調合シテ製ス。素焼ノ陶磁器ノ上ニ塗リカケテ焼キ成ス、色、透明ナリ、或ハ、繪具ヲ加ヘテ、種種ノ色ヲモ出ス。又、チャワングスリ。ウハグスリ。(前條ヲ見合ハスベシ) 略シテ、くすり。釉

やきもの-し (名) [焼物師] 土ニテ種種ノ器物ヲ焼キ造ル工匠。スヱツクリ。陶人 陶工 傾城酒呑童子(享保、近松作)三「晉羽山ノ焼物師、女房ガ頭ノ鉢打割フレ」

や-ぎやう (名) [也行] 五十音圖ノ中ノや、い、ゆ、え、よ、ノ行ノ名。

や-ぎやう (名) [夜行] ヨメグリ。ヨアルキ。 源、五十、浮舟六十三「アヤシキ下スヲノミ參ラスレバ、夜行ヲダニセヌニト喜ブ」「百鬼夜行」

やき-やまがり (名) [焼山狩] やきがり(焼狩)ニ同ジ。 盛衰記、三十九、頼朝重衡對面事「此間、焼山狩仕リテ、狩場ノ灰ナド喫リテ見苦シク候ヘバ」(版本、焼山狩)

や-きよく (名) [野曲] 野卑ナル音曲。俗曲。又、えいきよく(郢曲)ニ同ジ。 吾妻鏡、十一、建久二年十一月十九日「好方盡ニ野曲ハ、善信候ニ御前、助音太絕妙也」

や-ぎり (名) [矢切] (一)飛ビ來ル矢ヲ切リ拂フコト。 太平記、十四、將軍御進發大渡山崎等合戰事「矢切ノ但馬ニハアラネドモ、切テ落サヌ矢ハナカリケリ」 (二)きのびがへし(忍返)ニ同ジ。 太閤記、十二、山中之城落去之事「大杉之本ヘ走リツキ、切之上ヘ助兵衞眞先上リ、内ヲ見コミ候ヘバ、云云」

やき-ゑ (名) [焼繪] (一)小サキ鏝ヲ、火ニ焼キテ、奉書紙、又ハ、唐紙、花卉蟲魚ノ繪ヲ焼キツクルモノ。桐ノ薄板ナドニモスルコトアリ。(半紙ニハ成リガタシ)焼痕ニ、淡濃アリテ、佳趣アリ、(古クモ焼繪アリキ、同ジ法ナルベシ) 鏝繪。 今物語「やきゑヲメデタクスル由、聞エケレバ、前ニ呼ビテ、檀紙ニやき繪ヲセサセケルニ、何ヲカやき侍ルベキト云ヒケレバ、木ニ霧ヲやけト云ハレテケル」 (二)文字ヲ焼印シタルモノ。 盛衰記、四十三、源平侍遠矢事「十三伏ノ白篦ニ、云云、三浦小太郎義盛ト焼繪シタリケルヲ、云云」

やく (名) [役] (一)エダチ。人民ノ、公ノ用ニ使ハルルコト。公役。(二)夫役ノ金納(役錢)ヨリ轉ジテ、税。賦役。(三)職。役目。職 紫式部日記「御草子ツクリイトナマセタマフ、云云、紙チ集メシタタムルヲやくニテ、アカシクラス」 字類抄「領送使、リヤウソウシ、送流人役也」 (四)其事ニ當リテ爲ベキ務メ。「子ノ役、相作役」 役ニ立つトハ、用ヰニ中ル。役ニ立たぬトハ、用ヲナサヌ。

やく (名) [厄] (一)危キ場合ニ出合フコト。ワザハヒ。災難。 史記、越王句踐世家「夫天與弗取、反受其咎、伐柯者其則不遠、君忘會稽之厄乎」 水鏡、序「今年既ニ七十三ニナンナリ侍ル、二十三ヲ過キガタク相人ナンドモ申シアヒタリシカバ、岡寺ハ厄ヲ轉ジ給フト承リテ、詣デソメシヨリ」 (二)厄年。(其條ヲ見ヨ) 大友興

[illegible]

やく (名) [illegible] 約束。[illegible]シテ約ヲ固クスベシ」(二)ツヅマリ。ツヅ[illegible]

やく (名) 譯 (一)漢字ノ訓。漢字ヲ國語ニテよむコト。又、ソノよみ方。和訓。(二)ほんやく(翻譯)ニ同ジ。史記、[illegible]

やく (名) [illegible] 音便ニやう。エキ[illegible]キキメ。詮。字類抄「益、ヤク」源、十九、薄雲廿「天ノ眼恐ロシク思フ給ヘラルル事ヲ、心ニムセビ侍リツツ、命ヲハリ侍リナバ、何ノやくカハ侍ラン」

やく [illegible] 役 [illegible] (疫病)ニ同ジ。[illegible] 刑法志[illegible]名、武藏之役[illegible]續紀、十二(聖武)、天平九年六月[illegible]

やく (名) 葯 植物學ノ語。雄蘂、花絲ノ頂ニアリテ、花粉ヲ含有セルモノ。多ク[illegible]ナス。

やく (副) 約 おほよそ(大凡)ニ同ジ。「約千人」「約十里」「約一圓」「約九升」

や・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) 燒 (一)[火ニ]燃エテ灰トナル。モユ。萬葉集、十七[illegible]鳴クラ谷ニ(一本、シニ作ル)、打チハメテ、夜氣ハ死ヌトモ、君ヲシ待タム」(古義ノ訓)「家燒く」「山燒く」(二)炙リテ熟ス。「魚[illegible]燒ク、ナシテ成ル。(陶磁器、瓦、炭、ナドニ)(四)日光ニ當リテ、

[illegible]メニ酸化シテ、鏽ビタル如クナル。[illegible]ス。「[illegible]燒く」(七)[思ヒ亂ル。心、懊惱ス。心焦ル。萬葉集、一「八長歌「網ノ浦ノ、海處女等ガ、燒クシホノ、オモヒゾ所燒、ワガ下情」

や・く・ク・ケ・カ・キ・ク (他動、[illegible]) [illegible] (一)[火ニ]炙ル。[illegible]ヲツケテ[illegible]く」山ヲ燒く」(二)火ニ當ツ。炙ル。炙。大鏡、上、時平「冬ハもちひノイト大キナルヲバ一ツ、小サキヲバ二ツやきテ」「魚ヲ燒く」餅ヲ燒く」(三)燒印ヲ押ス。[illegible] (四)陶器、瓦、炭、ナド作ル。(各條ヲ見ヨ)(五)俗ニ、ネタム。嫉妬ス。悋氣ス。妬。(六)[心ヲ]焦ス。[illegible]ココロヲ惱マス。ココロヲ焦ス。萬葉集、四五十「夜ノホドロ、出デツツ來ラク、タビマネク、[illegible]バ吾ガ胸、[illegible]燒如ク[illegible]」(七)[illegible]シテ、タキツケル。[illegible]動テル。ケシカクル。スカス。五常内義抄「[illegible]」やかレッツ、金ノアルホド、取ラレンボ、後ハカナラズ、桶伏ト知レ」 手ヲ燒くトハ、助ケ行フ。思ヲ燒くトハ、爲損ズ。世話を燒くトハ、思ニ焦ル、細カニ心ヲ付クル意。竈ノ下マデ心ヲ用ヰル意。鍋尻やくトハ、[illegible]、寶藏(寛文)四、汁鍋、家ノ内ノ後見ナドタノメルノ、鍋尻やくナド云ヘルヲ思ヘバ、云云」

やく (接尾) 事物ノ狀態ニ云フ語。メク。「カガやく」「ササやく」「ツブやく」

やぐ (名) 夜具 夜着。(安房ニテ夜被)[illegible]搔卷、敷布團、ナド、夜、臥スニ用ヰル具ノ稱。[illegible]シテ、[illegible] 臥具 [illegible]「西行ノ、夜具モ出アレ、紅[illegible]ナ」

やく-い (名) 藥醫 てんやく(典藥)ノ唐名。[illegible]

やく-いもん (名) 藥醫門 門ノ一種。方[illegible]ナキモノト云フ。モト醫師ノ家ニ設[illegible]

やく-えき (名) [illegible]

やく-おとし (名) 厄落 [illegible]ルコト。ヤクハラヒ。宗長手記、下「大永六年十二月廿九日[illegible]ハ役おとしトテ、年ノ數、錢ヲツツミテ、乞食ノ夜行ニ、オトシテ取ラスルコトヲ、オモヒヤリテ、數フレバ、[illegible]ノ、雜人錢、厄トテイカガ、おとしやるべき」又、[illegible]ニ、自ラノ衣服、器物ヲ、山[illegible]ニ捨ツ、コレヲ厄落しト云フ。コレ古ヘノ祓除ノ遺ナリ。

やく-おん (名) 約音 文法ノ語。二音以上ノ音ノ、一音ニ約マルモノ。ちやう[illegible](障子)ノさうぢトナリ、のどけくあらましノもたぐ(擡)トナリ、のどけくあらましノのどけからましトナル類。略シテ、約。

やく-か (名) 藥價 (一)藥種ノ價。杜甫、[illegible] 文[illegible]」(二)醫師ニ拂フ藥代。藥料

やく-かい (名) 譯解 翻譯シテ解釋スルコト。又、ソノ解釋シタルモノ。

やく-かい (名) 厄介 [厄會(厄難會集ノ略)]ノ訛カ、[illegible]云フ、家抱、[illegible]ト」(一)災厄トシテ、人ヲ介抱スルコト。(厄會トノミ云ヒテ、厄會ニカカル[illegible]コト、[illegible]トノミ云ヒテ、最迹ヲ測ル意トシ、案内トノミ云ヒテ、案内[illegible]

やく-かう (名) 藥效 クスリノキキメ。

やく-がく (名) 藥學 [illegible]化學的性質、其製法、及、治療上ノ關係ナドニツキ[illegible]科學。[illegible]

やく-がひ (名) 夜久貝 (一)大隅國ノ屋久島[illegible]ヤクノマダラガヒ。紫貝[illegible]云、掖玖者、西海別島也、出ニ美貝ニ今俗謂ニ之夜句貝ニ」(二)[illegible]、同島[illegible]切リテ酒杯トシ、螺鈿トモス。[illegible]夜光ニかひトモ、[illegible]シテ、[illegible]ハ淡紅ヲ帶ブ。青螺 箋注倭名抄、八「四十錦貝[illegible]子、七、第六十八[illegible]取リテ、ハテニハやくがひト云フ物、男ナドノセンダニウタテアルヲ、御前ニ女ゾ出デテ取リケル」

やく-がへ (名) 役替 役目ヲ轉ズルコト。[illegible]別ノ役ニ替ハルコト。轉役。轉任。[illegible]萬、十五、寛文二年十月十九日[illegible]付ケラルル面面[illegible]四人[illegible]

やく-がみしも (名) 役上下 江戸時代、目見以下ノ格式ノ一。上下ヲ着用シテ出仕スルヲ得レドモ、家督相續ノトキ、[illegible]ニテ、[illegible]受ケザルモノ。[illegible]

格例式、御目見以下、上下役ト申スハ、家督節式共、於躑躅間、被仰渡、候者ヲ上下役ト唱、其餘ハ役上下ト唱申候」

やく-がら（名）［役柄］役目アル身分。又、勤ムル役目ノ筋。役向。傾城島原蛙合戰（享保、近松作）一「判官殿ノ作リ山伏ヲ、十二人マデ見拔ゼシ不眼力、御役がら不相應」

ヤッ-キ
やく-き（名）［躍起］（一）ヲドリアガルコト。ヲドリ立ツコト。（二）イラダツコト。ヤキモキトスルコト。

やく-ぎ（名）［役儀］（一）役目。ツトメ。任務。職掌　傾城島原蛙合戰（享保、近松作）一「官暇モ今ハ先非ヲ悔ミ、役儀ニ不念モ有ルマジ」（二）租稅。課役　諏訪古文書「但三年之内、家ヲ為御作可有候、役義者栗佐起高ホド、新田ガ御申付可被成候」

やく-きん（名）［役金］江戸時代、遠國奉行ナドニ金ニテ給シタル役俸　東徵、上、布衣以上、長崎奉行一人、老中支配、御役金三千兩」

ヤッ-キョク
やく-きょく（名）［藥局］藥劑師、又ハ、醫師ノ藥ヲ調合スル所。頭字韻（清、余照）「藥局」

ヤッキョク-ホウ
やく-きょく-はう（名）［藥局方］藥品ノ基準ヲ定メ、其精粗、量價ナドヲ規定シタル法令。又、藥劑調合ノ方。「日本藥局方」

やく-きりまい（名）役切米　江戸時代、幕府ニテ、賄方ノ下吏ニ給シタル役俸　東徵、下、御目見以下　御賄組頭七人、云云、頭支配、役切米三拾俵、云云」

やく-ぐ（名）［役供］やくそう（役送）ノ條ノ（一）ニ同ジ。

ヤッ-カン
やく-くゎん（名）［約款］契約ノ條款　契約ノ箇條。又、條約。

ヤッ-カン
やく-くゎん（名）［譯官］翻譯、又ハ、通譯ヲナス役人。通事　漢書、百官公卿表「典客、云云、太初元年、更名大鴻臚、屬官有行人譯官」」

やく-げつ（名）［約月］契約ノ限ラレタル月。又、約束セル月。運歩色葉集「約月」

ヤク-ヒョウ
やく-けふ（名）［藥莢］銃砲ニ裝塡シテ發射スルタメ、其内ニ火藥ヲ入レタル金屬製ノ筒。けえす。

やく-げん（名）［約言］約メテ言フコト。又、言ヲツヅマヤカニスルコト。孔穎達、春秋左氏傳序「志而晦、約言示制、推以知例」疏「約少其言」」禮記、坊記「君子約言、小人先言」

やく-ご（名）［譯語］翻譯シタル語。翻譯語。（原語ニ對ス）

やくざ（名）粗ニシテ、役ニ立タヌコト。用ヲナサヌコト。又、ソノモノ。（モト博徒ノ語）不中用　牛馬問、一「物ノ惡キヲやくざト云フ事ハ、博奕ニ三枚ト云フモノヲスルニ、八九ノ數ヲ、高目上上トシテ、十トツマルハ、數ニナラズ、八九三ナレバ、廿ニツマル故、益ニタタズ、ソレヨリ役ニ立ヌ事ヲ云ヒ、スベテ物ノ惡キ事ノ隱語ヲ、八九三八九三ト云ヒハジメタルト也、云云」

ヤク-ザイ
やく-ざい（名）［藥劑］藥ノ品品。又、醫療上ニ用キラルル物質ノ總稱。藥品。藥物。史記、孝武紀「遣方士入海、求蓬萊安期生之屬、而事化丹砂諸藥齊爲黃金矣」（齊ハ劑ニ通ス）左思、魏都賦「瞻大有官、藥劑有司」

やくざい-し（名）［藥劑師］醫師ノ處方箋ニヨリテ、藥劑ヲ調合スルコトヲ業トスル者。其資格ニハ規定アリ。

ヤク-ソウ
やく-さう（名）［藥草］藥トスル草。梁昭明太子、陶潛集序「莊周垂釣於濠、伯成躬耕於野、或貨海東之藥草、或紡江南之落毛」法華經、藥草喩品「三千大千世界、山川谿谷、土地所生卉木、叢林及諸藥草、種類若干、名色各異」

ヤクサム　ヤミワサ
〔やくさ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［不平］（彌苦ノ意カ、或ハ、病倦ムノ略カ）安カラズ。ヤム。ナヤム。ワヅラフ。神代紀、上「且吾意不平」天武紀、下、十四年六月「朕身不和」

やくざ-もの（名）役ニ立タザルモノ。用ニナラヌモノ。やくざノ條ヲモ見ヨ。

やく-し（名）［藥師］（具ニハ、藥師瑠璃光如來、梵名、鞞殺社窶嚕（Bhaiṣajyaguru-vaidūryaprabhāsa.）ト云フ）佛經ニ、如來ノ名。東方淨瑠璃國（瑠璃光土トモ云フ）ノ教主ニシテ、日光菩薩、月光菩薩ヲ脇士トシ、之ヲ藥師三尊ト云フ。コノ如來ハ十二ノ誓願ヲ發シ、人間、天上、有漏ノ苦ヲ醫スト云フ。醫王。藥師如來。藥師佛。醫王善逝　藥師瑠璃光如來本願功德經「彼世尊藥師瑠璃光如來、本行菩薩道時、發十二大願、令諸有情所求皆得」

やく-し（名）［藥司］古ヘ、後宮ニテ醫藥ノ事ヲ掌リタル役所。倚藥、典藥、女孺ナドヲ置ケリ。クスリノツカサ。クスリノシ。中務省式「藥司七人、倚藥一人、典藥二人、女孺四人」職中抄、下、女官「藥司、クスリノシ」

やく-じ（名）［藥餌］くすりト、食物ト。又、クスリ。　陽井子、五溪編「心殘藥餌諸、物鬼蠲之」歐陽修、與王蔡省副書「久處疾、少閒嘗藥餌」

ヤクシ-ケカ
やくし-けくゎ（名）［藥師悔過］藥師如來ニ對シ、罪障ヲ懺悔スルコト。又、ソノ修法。續紀、十五（聖武）、天平十六年十二月「壬辰、令天下諸國藥師悔過七日」

やく-じつ（名）［約日］約束シタル日。

やくし-にょらい（名）［藥師如來］やくし（藥師）ニ同ジ。榮花物語、十七、音樂「念佛シ……樂ニ……八人、……八大菩薩ヲソヘテ、極樂ニ送ルトツゲ給フナリ」

〔やくし-ボトケ（名）［藥師佛］やくし（藥師）ニ同ジ。宇津保物語……五尺ニテ、……ト念ニセ……」

ヤクシオ-ノ
〔やくしほの（枕）燒鹽之　辛キ意ニ云ヒカケ、ラス　ル枕詞。萬葉集、十一「ヤクシホノ辛キ戀ヲモ、ワレハスルカモ」

ヤクシ-ホウ
やくし-ほふ（名）［藥師法］佛教ノ語。密教ニテ藥師如來ヲ祭リ、ソノ眞言ヲ受持シテ、消災除厄ヲ祈ル法　續後紀、十三（仁明）承和十年五月「丙申、又請僧十一口、内裏修藥師法於常寧殿」云云

やくし-ん（名）［躍進］身ヲヲドラセテススムコト。飛ビ出シテ突進スルコト。メザマシク進出スルコト。

やく-じん（名）［疫神］やくびゃうがみ（疫病神）ニ同ジ。歳經記、四、住吉ヶ崎二箇所合戰事「唯追ヒテ物ヲ見ヨト、嘘キゴトシテ、やくじんハノ渡ルヤウニテオシ出ダス」

やく-しゃ（名）［役者］（一）役目アルモノ。職掌アルモノ。役人。武家諸法度「何處ニテ雖行、刑罪、役者之外不可出向」（二）能、歌舞伎ナドノ、技ヲ行フモノノ稱。俳優　好色二代男「日奥、西鶴」「役ノ湯ニ入リ、二罷リテ、役者マジリノ人ゴミ」「能役者」「歌舞伎役者」

やく-しゅ（名）［藥種］藥用ノ料ノ物。キグスリ。藥材。庭訓往來、十一月「設藥之事、藥種高直之間、大藥於料的之事候」

やく-しゅ（名）［藥酒］クスリヲマジヘタルサケ。藥用ノ酒。史記、倉公傳「臣意即以藥酒、盡三石、病已、得之汗出伏地」

やく-じゅつ（名）［譯述］翻譯シテ述作スルコト。又、譯シテ陳述スルコト。

やくしゅや (名) 藥種屋 クスリヤ。藥ヲ[illegible] 北條[illegible]」一「藥方現知ト云フ書物ヲ遺サレテ、今モカルキ事ハ、藥種屋モ調合ノ助ケトハナリヌ」

やくじゅわう (名) 藥壽王 樹ノ名。印度ノ[illegible]山ニ生ズ、[illegible]其皆ヲ聞クトキハ、不老不死ノ徳ヲ得ト云フ。[illegible]ヲ聞ク人、不老不死ノ徳ヲ得タリ」

やくしょ (名) 役所 ツカサ。役人ノ職ヲ行フ所。役場。官衙。公衙。宋史、王能傳「[illegible]丁夫ハ且拜不レ[illegible]役所ニ」

やくしょ (名) [illegible] [illegible]シタル書籍。

やくじょ (副) 躍如 生生トシタル狀、又ハ、ヲドリタツ狀ニ云フ語。躍然 孟子、盡心、上篇「君子引而不レ發、躍如也」

やくしるりくゎうにょらい (名) 藥師瑠璃光如來 [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

やく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 約 (一)ツヅム。ムスブ。タバヌ。ヒキシムル。[illegible] (二)チギル。約束ス。[illegible] (三)[illegible]ツマヤカニス。[illegible]小人先レ言」 (四)數學ノ語。分數ニテ、分母、及、分子ヲ其公約數ニテ割ル。

やく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 譯 (一)或國ノ言語、文章ヲ、他ノ國ノ言語、文章ニテ、意義ノ通ズルヤウ直ス。翻譯ス。(二)トキアカス。解釋ス。[illegible]

やく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 扼 [illegible]中」「扼ヲ扼す」[illegible]

やくそう [illegible]

やくすぎ (名) 屋久杉 [illegible]杉ノ[illegible]屋久島ニ産ズ。幹、葉、共ニ常ノ杉ニシテ、木ニ節多ク、板トシテ、木理、甚ダ美シ、故ニうづらもく(鶉木理)ノ名アリ。一名、サツマスギ。

やくせき (名) 藥石 (石ハ砭石。) 玄應音義「攻レ病曰レ藥、石、古人以レ石爲レ針」 (一)くすりト、いしばりト。列子、楊朱篇「[illegible]」 (二)轉ジテ、ソレヲ用ヰテ療治スルコト。治療。「藥石效ナク」 (三)禪家ニテハ、やまつトモ云ヒテ、夜食ノ粥ノ隱語。[illegible]用ヰル [illegible]午不レ食、故晩食名ニ藥石ハ爲レ療ニ饑渇病ニ也」

やくせん (名) 役錢 江戸時代ニ、商職、車力、米搗キナドヲ業トスルモノニ、毎月、課スル税金。[illegible]

やくせん (名) 藥箋 やくはうせん(處方箋)ニ同ジ。

やくぜん (副) 躍然 やくじょ(躍如)ニ同ジ。

やくそう (名) 役送 (一)昔、饗應ノ物ヲ持チ運ブ役。役供。平家物語、八、征夷將軍院宣事「[illegible]五位一人役送ヲ勤ム」 (二)昔、元服ノ時、冠具ヲ運ビ送ル役。[illegible]五位殿

やくソウ (名) 役僧 寺院ニテ、ソノ事務ヲ取扱フ僧。

やくそく (名) 約束 (一)チギリ。人ト人トノ間ニ、事ノ處置ヲ豫メ定メテ、變ヘマジト誓フコト。約。約定。トリキメ。イヒカハセ。結約。史記、司馬穰苴傳「穰苴則仆表決レ漏、入行レ軍勒レ兵、申ニ明約束ニ」平家物語、[illegible] (二)物事ノ[illegible]定マリ。「前ノ世ノ約束」約束事」

やくそくいうびん (名) 約束郵便 特殊取扱郵便ノ一。[illegible]通常郵便物ニ限リ、郵便官署ト特約シテ、其郵送ノ都度、郵便切手ヲ貼用セズ、一定ノ期間ヲ[illegible]料金ヲ納付スル仕組ノモノ。料金ハ百十瓦、又ハ、其端數毎ニ一錢ナリ。

やくそくてがた (名) 約束手形 手形ノ一。債務者ガ、債權者、若シクハ、其指圖人、又ハ、其手形所持人ニ對シ、一定ノ金額ヲ一定ノ時期ニ於テ支拂フベキコトヲ約束セル手形。略シテ、約手。

やくた (名) 次條ノ語ノ略。

やくたい (名) 藥袋 (一)クスリヲ入ルル袋。(二)馬具。字類抄「藥袋、ヤクタイ、鹿鞍具也」 (三)役ニ立ツコト。シマリ。ラチ。(四)やくたいもなし(無藥袋)ノ略。其條ヲ見ヨ。(五)淫奔女ノ稱 (靜岡縣)

やくだい (名) 藥代 クスリダイ。藥價。

[illegible]ヲ下サレ」

やくたいし (名) 藥袋紙 雁皮紙ノ一[illegible]厚ク掛ケテ漉ク。質、密ニシテ強シ。故ニ[illegible]ズ、因リテ名アリ。土佐ヨリ出スモノハ、[illegible]ハ、黄褐ナリ。秋齋閑筆、上「今ノ世ニ、藥袋紙ト云フモ、キハダニテ染タルモノニテ、蠹ノ入ラヌヤウニトノ爲ナリ」

やくたいもな・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 無[illegible] [illegible]カラズ、因リテ、寄セテ云フト云フ、イ[illegible]テ、やくたい。無益ナリ。道理ナシ。ラチモナシ。[illegible]ト、人皆云フ、如何ト、明智答ヘテ云、やくたいもなき事ヲ云フヤトテ、笑テ止ミニケリトゾ」 吉原雜話(天明)「スベテ古キ事センサクハ、やくたいもなき事ニテ、人ノ語リ傳フルコトニハ、イツハリ多キモノニテ、正シカラヌコト[illegible]」

やくたう (名) 藥湯 (一)せんじぐすり。[illegible] (二)くすりゆ。[illegible]月廿六日、云云、藥湯ヲマフケ、美膳ヲトトノヘ、サマザマニモテナシタテマツル」

やくだか (名) 役高 (一)役扶持ノ高。役ノ高下ナドニヨリテ支給セラルル祿高。(二)永高[illegible]、高五石替ヘ、シテナリタル高。えいらくせん(永樂錢)

ノ條ヲモ見ヨ。　地方凡例錄、一、永高之事「永樂錢文ヲ高五石代ニシテ、其高ヲ役高ト唱ヘ、諸掛リ物等ハ、此高ヲ用ヒ、撿地石高ハ納所高ト呼ビ、年貢ハ納所高ニテ納ム」

やく-たく（名）役宅　役人ノ、其役目上ノ住宅。　賦役錄「町奉行御役宅、數寄屋橋御門內、二千六百二十六坪餘」

やく-だく（名）［約諾］チカヒウケガフコト。約束シテウケヒクコト。又、承知スルコト。　平治物語、一、「若與州下事、云綱ニ語リ給ヘバ、仔細ナシト約諾シテ、云云」

やく-だ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）［役立］役ニ立ツ。用ヰルニ堪フ。間ニ合フ。　狂言記、かねのね「サラバ撞イテ見ヨウ、クヮン、コレハワレ鉦ヂャ、役だつマイ」

やく-だ・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（他動、下二）［役立］役ニ立タシム。用ヰルヤウニナス。ヤクダテル。

やく-ち（名）［役知］江戸時代、京都所司代、大坂城代ナドノ、遠國ノ重キ役人ニ給シタル役俸。　憲教類典、二ノ五、御役、元文三年十一月九日「遠國御役人幷御足高御役料定、千石、御役知千石、甲府勤番支配」

やぐち（名）［矢口］又、やのくち。狩獵ナドノ日算ニテ、始メテ矢ヲ射ルコトノ　ヤビラキ。

〜やぐち-の-まつり（名）［矢口祭］昔、武將ノ、晴ノ狩ニ、山ノ神ヲ祭ルコトト云フ。黑、赤、白、三色ノ餅ヲ供ス、是レヲ矢口餅ト云フ。自ラモ食ヒ、又、微音ニ矢聲ヲ發スト。

やぐち-もち（名）［矢口餅］又、やのくちのもち。前條ノ語ヲ見ヨ。

やく-ぢやう（名）［約定］約束ノキマルコトヲ　契約ヲキムルコト。又、其約束。

やく-づか（名）［厄塚］陰曆十二月、節分ノ夜、京都ノ吉田神祇官ニテ、儀式ヲ行ヒテ庭上ニ築キ、翌年正月十九日ニ至リテ、解キ拂フ塚。

やく-づき（名）［厄月］陰陽家ノ語。厄難ニ遭遇スベケレバ、萬事ニ愼ムベシトスル月。　春記、長曆四年八月廿九日「厄月不ㇾ被ㇾ忌、厄日所ㇾ忌是先例也者、被內內可ㇾ取ㇾ氣色ㇾ歟」

やくづき（名）［役附］役ニツクコト。又、ソノ役目。　本朝若風俗（貞享、西鶴）七「狂言ノ番組、役附ヲ求メテ、其名ヲアラマシニ覺エテ、我國方ノ夜話ノ種トナルモ、上方ニノボリシ德ゾカシ」

やく-づ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［役附］役ニツク。又、役ガ割リアテラル。

やく-て（名）［約手］やくそくてがた（約束手形）ノ略。其條ヲ見ヨ。

やく-ど（名）［灸］［燒所ノ義］又、やくさころ。灸所。キウ。ヤイト。　菅聞集、十六、興、利口「クスリモ候、やく所モ候」

やく-と（副）（一）［役として、ノ略ナルベシ］ツトメトシテ。專ラ。　枕草子、七、第六十四段「上ノ御前ナトニテ、やくと集リテ興メ聞ユルニ、云云」　宇治拾遺、七、第三條「水飯ヲやくと召ストモ、此定ニ召サバ、御太リ、ナホルベキニアラズ」（二）ワザト。ワザワザ。コトサラ。　物類稱呼、五、言語「ワザトト云フ事ヲ、參州、奧州ニテ、やくとう卜云、云云、東武ニテ、やく卜云詞ハ、尾張邊ニテ、ヤワト云フニアタル、云云」

やく-とく（名）［役得］役目ニ付キテ入ル餘分ノ所得。餘祿。ホマチ。

やく-どく（名）［譯讀］外國文ヲ翻譯シテ讀ムコト。特ニ、直譯シテ讀ムコト。又、ソノヨミ方。

〜やく-どし（名）［厄年］（一）陰陽師ノ言フ事ニテ、人ノ一生ニ厄ニ遇フベシトスル年。男女共ニ、十三、二十五、三十七、四十九、六十一、八十五、九十九歲ナリ。（拾芥抄）（二）後世、男ニ、二十五、四十二、六十歲、トシ、女ニ十九、三十三、トシ、俗、甚ヒテ、此年ヲ忌ミ愼ム。其前年ヲ前厄ト云ヒ、翌年ヲ後厄ト云フ。就中、二十三歲、四十二歲ヲ大厄ト云フ。古クハ、男ニ、三十三、女ニ、三十七、七十三ナドモ見エタリ。　宇津保物語、樓上、上卅「左大ドノノやくどしニオハスルトテ、大饗セラレヌハ、云云」　源、十九、薄雲廿「三十七ニゾオハシマシケル、云云、ツツシマセタマフベキ御年ナルニ」

やく-な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［無益］やくたいもなし（無藥袋）ニ同ジ。音便ニ、やうなし。　狹衣、二、上廿「サヤウノナマ公達ノ隱レ二テ、やくなしトテ、三河守ナニカシニツケテ、筑紫へ出ダシ立テテ侍リケル」

やく-なん（名）［厄難］ワザハヒ。サイナン。災厄。　易林（寬、什瞻）「易、厄難、䏘、大厄患ハ、○○門ハ、（見）前大君ニ」

やく-にん（名）［役人］（一）役目アル人。官職ヲ有スル人。官人。官員。官吏。役員。有司。吏　平家物語、二、公卿揃事「諸リニ人多ク參リツドヒ、云云、役人ゾ、アケラレ候ヘトテ、云云」（二）やくしゃ（役者）ノ條ノ（二）ニ同ジ。　松風村雨束帶鑑（元祿、近松作）五「猿ノ役人、面押取ッテ捨テケレバ、恒寂僧都顯レ出デ」

やくにん-かいな（名）［役人改名］芝居ニテ、役者ノ役割。

〜やく-の-はかせ（名）［易博士］えきはかせ（易博士）ニ同ジ。　欽明紀、十四年六月「別勅二醫博士、易博士、曆博士等、宜依ㇾ番上下」

〜やく-の-まだらがひ（名）［夜久斑貝］やくがひ（夜久貝）ノ條ノ（一）ニ同ジ。　倭名抄、十九、龜貝類「夜久貝、夜久乃斑貝」

やく-ば（名）［役場］（一）やくしょ（役所）ニ同ジ。（二）自治團體タル町村ニテ、其町長、村長、及、吏員ノ事務ヲ取扱フ所。「町役場」「村役場」（三）公證人、執達吏ナドノ公吏ノ、事務ヲ取扱フ所

やく-はう（名）［藥方］醫師ノ藥品ヲ調合スルコト。藥ノ處方。藥法　後漢書、百官志「太醫令、一人、六百石、云云、藥丞、方丞、各一人、本注日、藥丞、主藥、方丞、主藥方」

やく-はえ（名）［彌木榮］［彌孫生ノ義］木草ノ枝ノ、イヤガ上ニ、生ヒ榮ユルコト。又、蘗ノ、イヤガ上ニ、出ヒ生デタルモノ。ヘ、ヤザハエ。　中臣壽詞「天皇朝廷仁、茂世仁、八桑枝乃立榮奉仕留倍支」

やく-はふ（名）［藥法］やくはう（藥方）ニ同ジ。　中記、字林「胃氣、致以、藥法、流略、言藥法之」

やく-はらひ（名）［厄拂］（一）身ノ厄難、穢ナドヲ祓ヒ落スコト。ヤクオトシ。（二）モト大晦日、又ハ、節分ノ夜、ナドニ、人家ニ來リ、錢ヲ乞ヒテ、其家ノ厄難ヲ祓フコト。又、ソノ祓フベキ詞ヲ唱フル者。コレニ己レガ齡ノ數程ノ鬼打豆ヲ、紙ニ包ミ錢ヲ添ヘテ與フ。古ヘノ追儺ノ遺風ト云フ。　雜字類編「驅儺、ヤクハライ」　日本歲事記、七「立春ノ前夜、乞人家家ニ行テ、厄拂ト呼ブ、其暮年、厄ニ當ル歲ノ人、錢ヲ出シテ與フレバ、祝詞ヲノベ、終リニ鷄ノ鳴クマネヲス、京都、山城ニ殊ニ多シ、鄙ニモスル所多シ」

やくはり (名) [矢剝] えびら(箙)ノ名所。[illegible]ツラ箙、やくはり尋常ナルニ、箙見ニ[illegible]羽ヲモッテハギタル矢ノ、太サハ箙竹ナドノヤウナルガ、云云」

やくび (名) [役日] 節日、祭日ナドノ事アル日。紋日。ものび(物日)ニ同ジ。本朝若風俗(貞享、西鶴)八「追付ケ紋日ヲ捨ヘ、八日[illegible]八清水観音、役日モ定メ、毎月ムツカシクナリヌベシ」

やくび [illegible] 厄日 [illegible]ケレバ[illegible]シト云フ日。春記、長暦四年八月廿九日「行幸[illegible]ノ、作物ニ厄難ノアリガチナリト云フ日。[illegible]二百十日、二百二十日、八朔、ナドノ類ナリ。

やくひん (名) [藥品] クスリノ品類。又、クスリ。藥味。藥劑。蠶卷詩「多謝藥品」[illegible]病、却老荷、衣缺、避、名」

ヤク・ビヤウ
やくびやう (名) [疫病] [字ノ呉音] エ。エヤミ。エキビヤウ。トキノケ。ハヤリヤマヒ。傳染性ノ惡病ナド、流行病ノ稱。[illegible] 疫癘 字類抄、[illegible]ヤクヒヤウ [illegible]雅、[illegible]

ヤク・ビヤウ・ガミ
やくびやうがみ (名) [疫病神] エヤミノ[illegible]疫病ノ流行セシムルト云フ惡神ノ[illegible] 疫癘 疫鬼 [illegible]鬼ハ俗ニ云フ疫病神、[illegible]」

やくふ (名) [役夫] 古へ、公ノ仕事ニ使用セラルル人夫。エキフ。[illegible]

やくふそく [illegible] 役不足 俳優ナドノ、己レノ役ニ對シテ不滿ヲイダクコト。[illegible]カラ、當次第ニシテ、役不足ヲ云ヒッコナシダヨ」

やくぶつ [illegible]ルモノ。又、クスリ。左傳、昭公十九年「君子[illegible]

やくぶつがく (名) [藥物學] 醫療上ニ必須ノ[illegible]物質ノ[illegible]化學的性質、生理學的作用、用法、及[illegible]ナド[illegible]關スル事柄ヲ研究スル學問。

やくぶん (名) [譯文] 翻譯シタル文章。翻譯文。刊謬正俗附錄(元祿、伊藤東涯)譯文法式[illegible]

やくぶん (名) [約文] 文章ヲ約略シテ簡單ニスルコト。又、ソノ簡單ニシタル文章。孔安國、尚書序「[illegible]」

やくほ (名) [illegible] [illegible]作[illegible] やくえん(藥園)ニ同ジ。

やくほ (名) [藥圃] やくゑん(藥園)ニ同ジ。[illegible]

やくほう (名) [役俸] やくれう(役料)ニ同ジ。

やくほん (名) [譯本] [原本ニ對ス] 翻譯シタル書籍。[illegible]

やくまけ (名) [厄負] 厄年ニ災害ニカカルコト。

やくみ (名) [藥味] (一)藥ノ品品。藥品。[illegible]

やくみだんす (名) [藥味簞笥] ひやくみだんす(百味簞笥)ニ同ジ。

やくみ ミソ [illegible]タルモノ。牡蠣ノちりナドニ用ヰル。

やくめ (名) [役目] [illegible]鑓山伏「大峯、葛城ノやくめヲ首尾ヨウ勤メ、本國へ下ル、云云」

一やくも (名) [八雲] [やハ彌ノ意] イヤガ[illegible]上[illegible]八重[illegible]妻ゴミニ、八重垣作ル、ソノ八重垣ヲ」

やくもおと (名) [八雲琴] [モト出雲國、[illegible]作[illegible]故ニ名ヅクト」琴ノ二絃ナルモノ。太キ竹ヲ二ツ割ニシ、[illegible]長サ三尺六寸[illegible]許リ、二絃ヲ張リ[illegible]ノ。文政中、伊豫ノ人、中山通卿ノ創作シタルモノト云フ。二絃琴。

ヤク・モ・サウ
やくもさう (名) [益母草][茺蔚] 一名、メハジキ 唇形科ノ草本ノ名。原野[illegible]シ。初、地ニ就キテ叢生ス[illegible]かぶと(鳥冠)ニ似テ、薄クヤハラカニシテ、[illegible]アリ。春ノ末[illegible]四五尺、莖ニ稜アルコト麻ノ如シ。葉ハ對生シテ、莖上ノ[illegible]

[illegible]

やくもさす (枕) [八雲刺] 次條ノ語ニ同[illegible]きさほし(坂道)ノ花ノ如シ、後、四稜ノ[illegible]

一やくもたつ (枕) [八雲立] [雲ノ幾重ニ[illegible]出雲[illegible]ハ、ヨシヌノ川ノ、音ニナヅサフ」(古義ノ説)

やくものみち (名) [八雲道] [素戔嗚尊ノ「八雲たつ、出雲八重垣、云云」ノ御歌ニ[illegible]ケル太刀、ツヅラサハマキ、サミ無シニアハレ」[illegible]ル時ヨリ出來ニケリ、云云、アラガネノ地ニシテハ、[illegible]リ聞レ來リテ、今モ八雲の道ニ遊ビ、云云」

やくもめ (名) [役揉] 役人中[illegible]ルコト

やくやく (副) [躍躍] コヲドリスル狀ニ[illegible]

やくよう [illegible] 藥用 [illegible]ルコト。又、藥ヲ用ヰルコト。轉ジテ、[illegible]

やくよけ (名) [厄除] 災厄ヲハラヒ除クコト。ヤクハラヒ。ヤクオトシ。

やぐら (名) [櫓] [矢倉ノ約カ、屋倉カ] [illegible]藏スル用トスルモノ。上代ノ箭カト云

フ。イハヤ。谷倉。物類稱呼、一、天地「岩屋、イハヤ、鎌倉及上總ニテ、やぐらト呼ブ」

〜や-ぐら (名) 〔屋倉〕 くら(藏)ト云フニ同ジ。宇津保物語、祭使「物ハやぐらニ積ミミテ、動カサデアルコソタノモシケレ」

や-ぐら (名) 〔櫓・矢倉〕 〔矢ヲ射ルベキ座ノ義〕 (一)〔昔、武家ノ大門ノ屋ノ上、又ハ、城壘上ノ要所ニ、建テタル建物。展望所トシ、司令臺トシ、又、倉ノ用トス。土藏造ニテ、二階、又ハ、三階ナルアリ。城樓(五階トナレバ天守ト云フ)井樓。倭名抄、十一居宅類「櫓、夜久良、城上守禦樓也」 皇極紀、三年十一月「穿レ池爲レ城、起レ庫儲レ箭」 (二)親船ノ甲板ノ稱。甲板 (三)相撲場ノ表ノ正面ニ、高ク床ヲ設ケ、幕ヲ張リ、太鼓ヲ擊チテ人ヲ聚ムル所。其太鼓ヲやぐらだいこ(櫓太鼓)ト云フ。モト芝居場ニモ設ク。勾欄 (四)相撲四十八手ノ一。敵ノ上手褌ヲ取リテ、腰ヲ撓メ、吊リテ廻ハシテ投グルモノ。(五)火燵櫓ノ略。(六)スベテ、遠キヲ望ムタメニ高ク築キタルモノ。「火見櫓」

やぐら-おとし (名) 〔櫓落〕 相撲取ナドノ結フ髮風。鬢髱ヲ十分ニ三方ニ出シテ、髷ヲ扁ク下ゲテ結フモノ。

やぐら-かいだて (名) 〔櫓垣楯〕 ヤグラノ上ニ、構ヘタル垣楯。かいだて(垣楯)ノ條ヲモ見ヨ。太平記、十四、將軍進發大渡山崎等合戰事「重重ニ構タル櫓かい楯ヲ引破ラント引ケル程ニ、云云」

やぐら-した (名) 〔櫓下〕 (一)ヤグラノモト。櫓ノ下。(二)昔、芝居ニテ、櫓ノ下ノトコロ。卽チ、役者ノ藝名ヲ記セル看板ヲ揭ゲタル場所。

やぐら-だいこ (名) 〔櫓太鼓〕 やぐら(櫓)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。關取千兩幟(明和、近松半二等合作)二「今ノ先、櫓太鼓ヲ打チ出シマシタ」

やぐら-どうづき (名) 〔矢倉土突〕 どうづき(土突)ノ條ヲ見ヨ。

やぐら-どけい (名) 〔櫓時計〕 鐘樓ノ如キ小サキ臺ノ上ニ載セタル時計。

やくら-の-つかさ (名) 〔宰相〕 〔八座の司ノ意〕 はちざ(八座)ノ條ノ(一)ニ同ジ。さんぎ(參議)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。後拾遺集、序「應德ノ始ノ年、云云、やくらのつかさニ備ハリテ、五日ノイトマモ妨ゲナシ」

やく-らん (名) 〔藥欄〕 藥園ノカキ。藥圃ノカコヒ。碧巖錄、第三十九則「僧問雲門、如何是淸淨法身、門云、花藥欄」 芭蕉句集、秋「藥欄ニ、何レノ花ヲ、草枕」

やぐら-もん (名) 〔櫓門〕 城ノ渡櫓ノ下ニアル門。櫓臺ト櫓臺トノ間、卽チ、枡形ノ脇ニアル門。故ニ、一ニ、渡櫓門トモ云フ。又、門ノ上ニ櫓アルモノ。武家ノ門ノ木戸ノ上ニ、板ニテ圍ヒ櫓トス、兵士上リ居テ、防禦、又ハ、望遠ノ用ニ供ス。家屋雜考、四「櫓門ハ城塞ノ物ナレドモ、武士ノ家ノ門ニ、平常トモニ櫓ヲアゲオク事アリ、但、ソノカミ櫓トイヒシハ、板ヲ竝ベタルノミニテ、其造リ極メテ麁ナルモノナリ」

や-ぐるま (名) 〔矢車〕 (一)軸ノ周ニ矢ノ形ノ輻ヲ放射狀ニ取リ付ケタルモノ。風車ナドニ用キル。(二)紋所ノ名。前項ノ形ヲ描キタルモノ。

やく-れい (名) 〔藥禮〕 醫師ニ報ユル藥ノ代。療治ノ禮金。藥錢。狂言記、雷「藥禮ヲ被レ下イ」 諺「醫者ノ藥禮ト深山ノ櫻、取リニ行カレズサキ次第」

やく-れう (名) 〔藥料〕 (一)クスリノ代金。藥代。藥價。(二)藥品ノ材料。

やく-れう (名) 〔役料〕 役目ヲ勤ムルニ附キテ受クル祿。役俸。俸祿 憲廟實錄、四、天和二年四月廿一日「諸番頭、物頭、諸役人ノ役料ヲ、加祿トナシテ賜ハル」

やく-ろ (名) 〔藥爐〕 藥ヲ煎ズルゐろり。白居易、尋郭道士不遇詩「藥爐有レ火丹應レ伏、雲碓無レ人水自舂」

やく-ろう (名) 〔藥籠〕 (一)やろう(藥籠)ノ條ヲ見ヨ。(二)クスリバコ。(漢方醫者ノ) 藥籠中の物トハ、クスリ箱ノ中ノ藥品ノ意。轉ジテ、手ナヅケテ、我ガ身方トシテ置ク人物ナドヲ云フ。唐書、元行沖傳「願以小人備一藥石、可乎、仁傑笑曰、君正吾藥籠中物、不レ可二一日無一也」

や-くわ (名) 〔夜火〕 夜ノ火。夜燃ユル火。歐陽修、聚二地爐一詩「晨灰煖二餘杯一、夜火爆二山栗一」

や-くわ (名) 〔野火〕 (一)のび(野火)ノ條ヲ見ヨ。史記、龜策傳「蒙林者、獸無二虎狼一、鳥無二鴟梟一、草無二毒螫一、野火不レ及、斧斤不レ至」 謠曲、八島「オモシロヤ、月海上ニ浮ンデハ、波濤野火ニ似タリ」 (二)野ヲ飛ブ火。列子、天瑞篇「馬血之爲二轉鄰一也、人血之爲二野火一也」

や-くわ (名) 〔野花〕 野原ニ咲ク花。野ノ花。杜甫、遣意詩「一逕野花落、孤村春水生」

やくわ (感) 蹴鞠ニテ云フ語。ありおゑ(安林聲)ノ條ヲ見ヨ。

や-くわい (名) 〔夜會〕 (一)夜、會合スルコト。夜中ノ集會。(二)夜催ス西洋風ノ宴會。多ク、紳士、淑女ノ會合シテ、舞蹈ナドアルモノ。(三)やくわいむすび(夜會結)ノ略。其條ヲ見ヨ。

や-ぐわい (名) 〔野外〕 野原、郊外。[illegible]

やくわい-ふく (名) 〔夜會服〕 〔英語、Evening dress. ノ譯語〕 婦人ノ洋服ニテ、西洋風ノ夜會ナドニ着用スルモノ。

やくわい-むすび (名) 〔夜會結〕 束髮ノ一種。片側ヨリ卷キアゲテ長ク高ク結ブモノ。略シテ、夜會。

やく-わう (名) 〔藥王〕 藥師如來ノ異名。法華嘉祥疏、二「藥王者、過去世以二藥救一病、因以爲レ名」

や-くわう (名) 〔夜光〕 ヨルヒカルコト。又、ソノヒカリ。王翰、涼州詞「葡萄美酒夜光杯、欲レ飲琵琶馬上催」 「夜光ノ珠」

やくわう-ちゆう (名) 〔夜光蟲〕 原生動物ノ一。透明ニシテ球狀ヲナシ、無數ニ海水中ニ游泳シテ、夜間、燐光ヲ放ツ。しらぬひ(不知火)ノ條ヲモ見ヨ。

やくわう-の-かひ (名) 〔夜光貝〕 〔夜久の貝ノ訛〕 螺ノ類。盃トス。大隅國、屋久ノ島ニ産ズ。やくがひ(夜久貝)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。

やくわう-の-たま (名) 〔夜光珠〕 古ヘ、支那ニテ、隋侯ノ祝元陽ガ蛇ヨリ得タリト云フ珠。暗夜ニ光ルトテ夜光ト名ヅク。或ハ云フ、金剛石ニ、雷閃、太陽ノ光ヲ含マシムレバ、暗夜ニ光ル、是レナラムト。夜光璧 史記、鄒陽傳「故無レ因至レ前、雖レ出二隋侯之珠、夜光之璧一、猶結レ怨而不レ見レ德」

やく-わん (名) 〔搤腕扼腕搤捥〕 腕ヲオサヘニギルコト。痛ク殘念ガル狀ヲ云フ。

[illegible]

やくゎん（名）[illegible]（一）[illegible]似テ[illegible]モノノ稱。元ハ、藥ヲ煮タルカ、今ハ、[illegible]

「[illegible]」鎌倉年中行事、正月五日「藥鑵ナド參時ハ、右ノ手ニテハ、ツルヲ取、左ノ手ニテハ、口ノモトヲ取テ、云云」藥鑵頭トハ、俗ニ禿頭ヲ云フ。キンカアタマ。キンカップリ。ラムプ。（二）[illegible]早イト云フヨリ云フ）物類稱呼、一、人倫「遊女、ウカレメ、云云、奧州、松前ニテやかんトイフ」

やくわり（名）役割 ソレゾレニ役ヲ割リ付クルコト。又、其事ヲ擔任スル人。八笑人（文政、鯉丈）四編、下「定九郎ト勘平ノシテバカリアッテ、役割ガメンダウダ」

やくゐん（名）役員 （一）やくにん（役人）ノ條ノ（一）ニ同ジ。（二）役ヲ擔任スル人。

やくゐん（名）施藥院 又、せやくゐん。せやくゐん（施藥院）ノ條ヲ見ヨ。拾芥抄、中、末、諸司之部「施藥院、云云、[illegible]五位、[illegible]氏先祖、中ニ納諸國藥種ニ賑ニ病人ニ所也」

やくゐんし（名）施藥院使 施藥院ノ長官。世世、丹波氏ヲ以テ之ニ補セラル。[illegible]

やくゑん（名）藥園 藥草ヲ植ヱ作ル畠。[illegible]藥園生八人、云云、藥園師以レ時種蒔收采」

やけ（名）[illegible]（一）燒クルコト。燃ユルコト。又、其[illegible]。（二）[illegible]霞「[illegible]

[illegible]テ振舞フコト。是非ヲ顧ミヌコト。クソヤケ。ヤケクソ。[illegible]ステバチ。自暴自棄。

やけ（名）宅 [illegible]家。ヤ。ヤカ。播磨風土記、印南郡、益氣里、[illegible]宅村、故曰宅村[illegible]家（朝廷）」御家（屯倉）」他語ノ上ニ合スル時ハ、やか（さけ、さか、たけ、たかノ類）ト云フ、即チ、宅橋、家持、[illegible]ノ如シ。

やけ（名）驛家 うまや（驛）ト云フニ同ジ。エキカ。ヤカ。

やけあと（名）燒跡 （一）火事ノアリタル跡。[illegible]（二）ヤケドノ痕。東海道名所記（萬治）一「身ガハリニ立給ヒテ、佛ノ御顔ニ、錢ノ燒痕ツカセ給ヒ」

やけい（名）夜景 夜ノ景色。夜色。杜牧、[illegible]

やけい（名）野景 野外ノ景色。[illegible]

やけい（名）野徑 野逕 野原ノコミチ。ノミチ。ノヂ。[illegible]

やけい（名）野雞 「史記、封禪書「野雞夜雊」集解「野雞、雉也、呂后名雉、故曰ニ野雞ニ」」きじ（雉）ノ異名。[illegible]

やけいし（名）燒石 ヤケタル石。又、燒ケテ熱キ石。燒石に水トハ、イカニ供給シ、又ハ、勞力ヲ費シテモ、少シモ效ナキ意。

やけくそ（名）燒糞 くそやけノ倒語。やけ（燒）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

やけだされ（名）[illegible]他處ヘ脫レ出デタルコト。又、ソノ人。

やけど（名）火傷 [illegible]ニ傷メラレテ腫レ脹ルルモノ。又、熱湯ニ傷メラレタルモ[illegible]

やけの（名）燒野 野火ニ燒ケタル野。[illegible]燒野ノ、跡ノアハレハ」燒野の雉トハ、色ノ黑キモノノ、ナホ一層、黑キニ譬ヘテ云フ語。[illegible]の鴉ニ似タリケリ」燒野のきぎすトハ、雉子ガ燒野ノ雛ヲ救ハムトシテ、己レモ遂ニ燒ケ死ヌト云フ意ヨリ、子ヲ思フ情ノ切ナルコトニ云フ語。太平記、十三、北山殿謀叛事「燒野の雉ノ殘ル叢ヲ命ニテ」

やけば（名）燒場 火災ニテ燒ケタル地。火事ノアリタル場所。燒土

やけはら（名）燒原 （一）燒ケタル野原。ヤケノハラ。（二）家屋敷ナドノ、燒ケタル空地。燒土

やけばら（名）燒腹 〔煽動ノ意、業火ニ燒クル意カ〕棄身ナリテ、分別ナク物事ヲスルコト。又、ヤケヲ起シテ、腹ヲ立ツルコト。ヤブレカブレ。ステバチ。クソヤケ。ヤケクソ。自暴自棄。

やけびと（名）家人 賤民ノ一種。又、家部。本主ノ子弟ノ支族ナドノ、永ク一戸ヲ立ツルコトヲ得ズ、遂ニ本主ニ屬シテ、代代其家ニ驅使セラルルモノ。後ニ、いへのこ、庭子ナド云フハ是レナリ。家人。又、ヤケビトラ。戶令「凡戶、官戶、家人、公私奴婢、[illegible]」[illegible]紀、九年五[illegible]

やけふ（名）[illegible]タル所。[illegible]「アラハニテ、やけふニ見エシ、[illegible]」

やげふ（名）夜業 ヨナベ。夜間ニ業務ニ就キ居ルコト。又、ソノ業務。

やけぶとり（名）[illegible]後、其以前ヨリモ[illegible]ト。火事後、却ッテ事業ナドノ擴張スルコト。ヤケボコリ。

やけぼこり（名）燒誇 （一）燒ケヒロガ[illegible]（二）[illegible]ニ同[illegible]

やけほこ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）燒誇 ホコリカニ燒クル。燒ケヒロガ[illegible]

やけぼっくひ（名）[illegible]（やけぼうぐひノ音便）燒ケタル杭。モエサシノクヒ。モエグヒ。ホタグヒ。燼木

やけん（名）野劍 野行ニ佩ベル劍。のだち（野太刀）ニ同ジ。

やけん（名）野犬 飼主ノナキ犬。のらいぬ（野犬）ニ同ジ。梅堯臣、詩「[illegible]野犬迎レ人吠、山葛掌梨案レ酒時」

やけん（名）藥研 [illegible]ル器、銅ニテ、[illegible]長ク、中、[illegible]ヲ用ヰテ、押シ[illegible]「運ヤ盡ニケン、云云、岸ノ額ノカタ土クヮット崩レ

テ、藥研ノヤウナレ所ヘ、[illegible]ケレバ、云云」

やげん-どほし（名）［藥研徹］藥研ノ如ク彫刻ノ樋［illegible］アル[illegible]。[illegible]中[illegible]ハカセニ、二ツ銘ト云フ御太刀ヲ、二振添ヘテハカセ給フ、藥研通ト云フ御腰物ヲササセ給ヒテ、云云」[illegible]、八[illegible]、云フ刀ハ、其長サ八寸三分ニテアルナレバ、云云」

やげん-ぼり（名）［藥研堀］藥研ノ如ク兩岸ヲナゾヘニ、V字形ニ掘リテ、底ノ狹キ堀　[illegible]、十八、妙林一[illegible]、[illegible]、云云、外ナハノニ[illegible]二[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]マユル、云云、外ナハノ二三ノ丸ヲミハカラヒ、マヅ藥研堀ニホラセ」

やけ-やま（名）［燒山］（一）野火ナドニテ燒ケタル山。又、燒ケツツアル山。夫木抄、五、春、雜「やけ山ノ、ケムリノ末ハ、一ツニテ、カスム[illegible]井ヲ、カヘル雁ガネ」（二）噴火山。くゎざん（火山）ニ同ジ。

⁂**や・ける**（動）［燒］やく（燒）ノ口語。

や-ご（名）［夜具］やぐ（夜具）ノ訛。

や-こう（名）［冶工］冶金ヲナス職工。又、カヂヤ。冶匠　[illegible]「[illegible]、冶工ハ[illegible]」

や-こく（名）［夜國］地球ノ南北兩極ニ近クシテ、一年ノ大半ハ、日光ヲ見ヌ地。

や-こし（名）［家越］ヤウツリ。ヒッコシ。ワタマシ。轉宅「やこしノ蓮月」

やこ-ぜん（名）［野狐禪］（野狐ハ、禪ノ公案、百丈禪師ノ野狐ノ話ニ基ヅク。善意ニハ、寬ヒノッカヌ人物、惡意ニハ、腹ノ解ケヌ人物、又ハ、似而非者ナドノ意ニ用キル）（一）禪ヲ學ビテ未熟ナルニ、自ラ證見セリト慢ズル者ヲ嘲リテ云フ語。　蘇軾、常州太平寺[illegible]亭詩「六花薝蔔林間佛、九品[illegible]石上仙、何似[illegible]鐵拄杖、一時驚殺野狐禪」（二）キネムリ。

や-おたへ（名）［矢答］（一）射タル矢ノ手答。（二）矢ヲ射中テタルトキニ發スル聲　矢サケビ　[illegible]たへスルニハ、カホヲアフノケテ、アアト矢おたへスルナリ、馬ノ足ヲモイダスベシ、云云」

や-おつ-な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）［無止事］やんおとなし（無止事）ニ同ジ。　宇治拾遺、二、第七條「ワレヲラヌやおつなき人ノ御ハナニモコソマヰレ、ソレニハカクヤハセンズル」

や-おと-な・し・キ・ケ・レ・ク・ク（形、一）［無止事］やむごとなし（無止事）ニ同ジ。　謠曲、紅葉狩「やおとなき上臈ノ、幕ウチマハシ屛風ヲ立テ」

や-おほれ（名）［矢零］弓ニツガヘタル矢ノ、指ヨリスベリ落ツルコト。

や-おろ（名）［矢頃］弓ヲ引キ詰メテ矢ヲ放ツベキ程合。又、矢ヲ射遣ルニ、程好キ距離。彀　引滿　宇治拾遺、一、第七條「タシカニ目ヲ合ハセタリ、矢頃ニマハシ寄リテ、ホグシニ引キカケテ、矢ヲハゲテ射ントテ、云云」

や-こゑ（名）［八聲］（一）八タビノ鳴聲。（二）度度ノ鳴聲　特ニ、曉ニ度度鳴ク鷄ノ聲　八聲ノ鳥トハ、曉ニ度度鳴ク鷄。鷄。　壬二集「アラ玉ノ、千年ノ春ノ、始メトテ、八聲の鳥モ、千代祝フナリ」

や-ごゑ（名）［矢聲］やさけび（矢叫）ニ同ジ。　吾妻鏡、十三、建久四年五月十六日「此中令[illegible]鹿給之時、云云、發矢聲（太微音也）」

やさ（名）（鞘ノ倒語）す（酢）ノ異名。（刀ノ鞘ヲ巢ト云フ、酢ノ看板ニ矢アリ）

やさ（接頭）［優］シトヤカナル狀ニ云フ語。「やさ形」「やさ男」「やさ女」「やさ言」

や-ざ（名）［夜坐］（一）ヨル坐スルコト。

[illegible]「[illegible]」（二）[illegible]

や-さい（名）［野菜］畠ニ植エ作リテ、食フベキ草ノ總稱。クサビラ。センザイモノ。[illegible]菜　[illegible]、山[illegible]「[illegible]」

や-ざい（名）［屋財］家ノ道具。かざい（家財）ニ同ジ。

や-さう（名）［夜窗夜窓］ヨルノマド。　孟浩然詩「[illegible]」、[illegible]三十九、[illegible]「[illegible]ノ飢ヲ止、夜窓ノ燈挑テ、聚螢ノ光ニ易フ」

や-さう（名）［野葬］（一）野邊ニ葬ムルコト。[illegible]（二）佛教ノ語。古代印度ノ四葬（火葬、水葬、林葬、土葬）ノ一。尸ヲ野中ニ捨ツルモノ。林葬　西域記、二「一日火葬、積[illegible]焚燎、二日水葬、沈[illegible]流漂散、三日野葬、棄[illegible]林[illegible]」

や-さう（名）［野草］野ニ生ズル草。野邊ニアル草。野ノ草。　管子、修靡篇「今使衣[illegible]皮[illegible]角、食[illegible]野草、飲[illegible]野水、孰能用[illegible]之」朗詠集、上、野草[illegible]錦[illegible]、[illegible]大」

や-ざう（名）［[illegible]］（擬人語）市虎ナドノスルワザ。即チ、帽子ヲ手ニシテ、衣ノ中ニテ拳ヲ作リ、衣ヲ突上グル狀ヲスルコト。（職人、博徒ナドノ）　浮世床（文化、三編）初、上「[illegible]ト、[illegible]ノやざうテ、[illegible]キハヲコスラウトスル」「やざうヲキメル」

〜**や-さか**（名）［八尺］（やハ概數ヲ云フ、尺ハさく（尺）ノ音轉ニテ、長サノ意）長キコト。又、長サニ[illegible]。古事記、上「八尺勾璁」　神代紀、上「八坂瓊之曲玉」　高橋氏文「得二八尺白蛤一貝」　常陸風土記、多珂郡「海有二鰒魚一大如二八尺一」　萬葉集、十[illegible]「[illegible]長歎、吾ガ歎ク、八尺ノ歎キ」（大

キナレタメイキナリ）

や-さがし（名）［家搜］家[illegible]、[illegible]搜索　[illegible]天皇[illegible]「[illegible]、[illegible]、[illegible]、云云」

やさ-かた（名）［[illegible]方］八[illegible]方[illegible]坂方　[illegible]法師（其[illegible]ヲ見ヨ）ノ[illegible]、如一、[illegible]城玄ノ[illegible]元ヲ[illegible]トスルモノ」

やさ-がた（名）［優形］（一）ヤサシキスガタ。ヤサシゲナル形。（二）品ヨク、ナトナシヤカナルコト。ミヤビタルコト　[illegible]記、[illegible]、[illegible]、是ヨリモ下京邊ニ、心やさがたナル御方ガ御座ル」

〜**やさか-どり**（枕）［八尺鳥］八尺バカリノ長キ息ヲツク鳥ノ意ヨリ、いき（息）ニ冠ラスル枕詞。　[illegible]、十四「[illegible]沖ニ[illegible]モ、小舟ノ如[illegible]、[illegible]ク[illegible]ヲ、[illegible]キテ[illegible]」

〜**やさか-に**（名）［八尺瓊］（やさか（八尺）ト、に（瓊）トノ條ヲ倂セ見ヨ）數多ノ玉ヲ、長キ緒ニ貫キ、輪一シタルモノ、上代ハ、コレヲ頸ニカケ、胸ニ垂レテ飾トシタリ。即チ、[illegible]ナリ、勾玉トモ云フ。神代紀、上「八坂瓊之五百箇御統」同、同「八坂瓊之曲玉、[illegible]」垂仁紀、八十七年二月「昔丹波國桑田村有レ人、名曰二甕襲一云云、獸腹中有二八尺瓊勾玉一因以獻レ之」

やさかに-の-まがたま（名）［八尺瓊曲玉］八尺瓊勾玉。八尺瓊曲玉　（やさか（八尺）、に（瓊）、及、まがたま（曲玉）ノ條ヲ見ヨ、一說ニ、彌眞明瓊ノ[illegible]ト云フ」さんしゅのじんぎ（三種神器）ノ條ヲ見ヨ。

〜**やさか・む**・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［瘦］（瘦せ屈む、ノ約ト云フ、折レ屈ムノ、をろ

[illegible]將以不能然」

やさかり (名) [八道行成] やさすかり(八道行成)ノ條ヲ見ヨ。

やさき [illegible] [矢先ノ義] (一) [illegible] (二)矢ノ中ル[illegible] [illegible] ...記、廿一、[illegible] ...モ、矢 [illegible] ヒノマト [illegible] 八サムニ、云云、小兒ノ矢さきハヅレズ、ホシリホシリト當リシ事ヨ」 (四)箭ノ將ニ始マラムト [illegible] 松作)中「壞シヤ來年マデハ、一ツニ殺臥モセウモノ[illegible]

やさけび (名) [矢叫] (一)矢ヲ射テ物ニ中リ、手答ヘシタル時、叫ブ聲。[illegible]首ヲ弓手ニ向ケテ、あうト高ク叫ヒ、[illegible]狩ニハ、仰ギテおうおう、又ハ、おおトたく[illegible]六ヘトゾ。ヤゴヱ 夫木抄、十六、[illegible] (二)又、戰ノ初、遠矢ヲ射合フ時ニ、兩軍高ク發スル聲 [illegible]物語、四、[illegible]多キ、那須ノ御狩ノ、矢叫ニ、逃レヌ鹿ノ、聲ゾ聞ユル」 [illegible]「鬨作リ矢合シテ、源氏ノ方ニハ、トコソ射レ、平家ノ方ニハ、カクコソ射レト、互ニ矢叫ノ聲ノ退轉モナク」 [illegible]記、廿七、[illegible]合戰事「矢叫ノ音、馬ノ[illegible]不聞」

やさ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [羞] (痩ナル)ニ通ズ。他ニ對シテ、引ケ目ヲ感ズル。キハヅカシ。ミスボラシ。心ヅカヒスル。心弱シ。 [illegible]記、下、第三十八段[illegible] [illegible]キニ狎チテ) 源、廿三、初音「[illegible]ドモ、イタク錢リ過ギニケリ、やさしきガニアラネド、エビ[illegible]シテゾツクロヒタマフ」 宇治拾物語、[illegible]、中、五十七「ア[illegible]

やさ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [優] (一)優ナル人ハ、向ヒテ心恥カシキ意ヨリ轉ジテ、優ニ都雅ビタリ。シトヤカナリ。艶ナリ。優美 紫式部日記「やさしき[illegible]、女ニハアラヌカ[illegible]見ユレ」 [illegible]集、[illegible]秋、九月、武衞泉亭小序「サモやさしき住處アリ」 山[illegible]ノ、[illegible]、やさしきかモ、アル住ヒ[illegible]」 (二)[illegible]轉ジテ、[illegible]ラズ。オトナシヤカナリ。スナホナリ。柔和ナリ。温順ナリ。從順 太祇全集、夏「やさしヤナ、田ヲ植ウルニモ、母ノ側」 (三)ナサケ深シ [illegible] [illegible]記、八句連歌、謠「やさしノ殿ノ心ヤナ、云云」 (四)又、轉ジテ、爲ルニ難カラズ。ヤスシ。タヤスシ。容易 (五)ケナゲナリ。殊勝ナリ。 平家物語、七、[illegible]、アナやさし、如何ナル人ニテ渡ラセ給ヘバ、云云」

やさし・が・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [優] ヤサシク思フ。ヤサシク振舞フ。 枕草子、三、第廿八段「何ガシ殿ノトイヒテユクハ、イトヨシ、ケシキハ[illegible]やさしがりテ、知ラズトモイヒ、云云」

やさし・だ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) [優] ヤサシキサマヲナス。 狭衣、一、下「[illegible]舌狹ニノドカハキタルヲ、ワカビやさしだちテイヒナス」

や・さ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [矢刺] 矢ヲ弓ニツク。矢ヲ番フ。矢ヲハグ。 古事記、上、四「八十神看追撥而、矢刺之時」

や・さす・かり (名) [八道行成] (さすハ、將棋ナドヲ指すノ意ニテ、前ヘ遣ルナリ、かりハ、樗蒲子(其條ヲ見ヨ)ナリ、ヤトハ[illegible] [illegible]ノおまヲ、古クハ、馬ト云ヒキ」 (二)古[illegible] 線トヲ引キテ、其上ニテ、二人、互ニ馬ヲ遣リテ、勝負ヲ爭ヒタルモノニモアルカ。又、單ニ、さすかりトモ云ヒ、又、むさしトモ云フ。ヤサカリ。 倭名抄、四、八十[illegible]雜[illegible]、八道行成、[illegible]戲、其局不過、口中加十乂之文、者蓋是」 (二)江戸時代ニ至リテ、十六むさしト[illegible]モノ出來タリ。[illegible]十六指[illegible]ヨ。[illegible]十四、八道[illegible]、[illegible]むさしト云フ、云云、むさしハ馬指ナリ、云云、十六ノ[illegible]」

やさ・ば・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [優] ヤサシキ状ナス。ヤサシダツ。[illegible]下「心ノカザリタルトモガラノ句ハ、姿コトバやさばみタリトモ、誠ノ人ノミミヨリハ、イツハリノミナルベシ」

やさび・る・ル・ル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [優] ヤサシクアリ。ヤサシゲナリ。 木師抄「第八、背モナイサク、やさびれタル物ナレバトテ、ヨハヨハトウツクシビレ、オモシロカラントスレバ、正タイナキヨウニナルコトアル也」

やさ・ぶみ (名) [優書] ケサウブミ。えん[illegible] (艶書)ニ同ジ。

や・さへ (名) [矢支] やふせぎ(射支)ニ同ジ。 江次第抄、三、射禮「各立、侯山形、遶箭、云云、遶箭矢佐比、獲箭的申也」

や・ざま (名) [矢狹間] さま(狹間、第二語)ノ條ヲ見ヨ。箭眼 盛衰記、四十二、[illegible]西海[illegible]事「陸地ヨリ馳セ向フ時ハ、矢間(ヤサマ)[illegible]

[illegible]嘲ケテ謂ノ[illegible]ル」

や・さん (名) [野饌] 野生ノカヒコ。ヤマ[illegible]

や・さんやく (名) [野山藥] さんやく(山[illegible])[illegible]時ノ稱。

やさ・やさ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [illegible]優ニ優シ。[illegible]スガタ[illegible]、[illegible]ノ音ナル[illegible]、[illegible]ハムサムサシ、[illegible]ハやさやさし」

やさ・をとこ (名) [優男] (一)ミヤビヤカナル男。風雅ナル男。ミヤビヲ。 平家[illegible]、[illegible]、[illegible]ノやさ男ニ」 (二)姿ヤサシゲナル男。ヤサ[illegible] [illegible]ノ、大刀ヲ[illegible] [illegible]コ[illegible]、[illegible]ハバ、[illegible]ニモ[illegible]情ヂテ出サンズラン」

やさ・をんな (名) [優女] ヤサシキ女。艶ナル女。 [illegible]、[illegible]二モ、又アルヒノゾやさ女、[illegible]

や・し (名) 介[illegible]ノ名。[illegible]十九、[illegible] [illegible]人部[illegible]

や・し (名) [矢師] ヤハギ。矢ヲ造ル工人。矢人 箭工 [illegible]七、十[illegible]、下、[illegible]凡造[illegible]弓打、[illegible]矢師」

や・し (名) [香具師] 香具師ノ異名。始メ[illegible]四郎ト云ノ者、[illegible]行間ノ元祖ナリシガ、次イデ其類ノモノヲ、スベテ彌四ト稱ス。[illegible]ハ晶玉、蛇遣ヒ、獨樂廻ハシ、居合拔[illegible]、[illegible]からくりナド、路上ニテ見世物ナドヲ興行シテ、往來

ノ人ニ見スルヲ業トスル者ノ總稱トナレリ。幕合拔抄、七 近升町町、やしト唱へ、幽樂、又ハ小商仕候者、追追及增長、云云」

や-し (名) |野史| 在野ノ人ノ編輯セル歷史 民間ニテ編纂セル歷史 外史 野乘 陸龜蒙詩「自愛垂名野史中、寧論抱困荒城側」

や-し (名) |椰子| 椰樹ノ實 椰栗ス。形、桃ノ實ノ如ク、長サ八九寸、徑、四五寸、外皮ハ、黑褐ナリ、內ニ核アリ、大キサ三寸許リ、甚ダ堅シ、椀トスベシ。其內ニ附着セル胚乳ハ、蠟燭、又ハ、石鹼製造ノ原料トナリ、其中心ハ、空ニシテ清水アリ、常ニ飲用トス、甚ダ甘美ニシテ、酒氣アリ。椰子類。此樹ハ、棕櫚科ノ常綠喬木ニシテ、熱地ニ生ズ、形、棕梠ノ如クニシテ大キク、枝ナク、直ニ聳ユルコト五六丈、葉ハ梢ニ簇リテ、鳳尾ノ如シ。花ハ葉間ニ開キ、白クシテ千葉蓮花ニ似タリ。材、堅ク良クシテ、舟車ニ作ル。葉ハ、屋ヲ葺キ、又、編ミテ帆トス。ヤシノキ。椰子樹。椰樹

や-じ (名) |彌次| 「やぢうま(牡馬)ノ條ヲ參見セヨ」 (一)やぢうま(彌次馬)ノ略。其條ヲ見ヨ。(二)ヤジルコト。

や-じう (名) |野獸| 山野ニ棲息スル獸。野生ノ獸類。 史記、淮陰侯傳「野獸已盡、而獵狗亨」漢書、司馬相如傳「自擊熊豕、馳逐野獸」

⁂や-じ-うま (名) |彌次馬| 略シテ、やじ。やぢうま(牡馬)ノ條ヲ見ヨ。

や-じ-からげ (名) ぢんぢばしょりノ類。(靜岡縣ニテハ、やんぢっからげト云フ) あづまからげ(東絡)、及、ぢんぢばしょりノ條ヲ見ヨ。

や-しき (名) |屋敷| (家ノ敷地ノ義、おもしき(百敷)ノ條ヲ見ヨ) (一)家ヲ建ツベキ敷地。宅地。屋敷所。 松屋筆記、五十七、第三十條「宅地ヲ屋敷トイフ事、平治物語、吾妻鏡ナドヨリ後ノ書ニハ、所見オホシ、又、屋舖ト書タルモアリ、品字箋、素問二十一素諳ニ、舖小舍也、市井有店舖、郊野有屋舖、云云、マタ、舖古舖字、今作平聲、舖陳也、設也、云云ト見エテ、舖ト敷ト同義ナレバ、しきト訓ベシ、舖ノ字ヲ用ルハ、アタレリトイフベカラズ」(次次條ノ語、參見) (二)宅ヲ構ヘタル一區ノ地。イヘドコロ。第宅 邸 盛衰記、十、丹波少將上洛事「屋敷ハ昔ニ替ラネドモ、蔀格子モナカリケリ」 (三)武家ノ邸宅。「屋敷風」屋敷言」屋敷勤」 (四)中以上ノ住宅。

や-じ-きた (名) |彌次喜多| (享和、文化年中、十返舍一九ノ作ナル東海道中膝栗毛(徒歩ヲ栗毛馬ニ譬フ)ト云フ書ニ、彌次郎兵衞、北八ノ二人同伴シテ、東海道筋ヲ旅行シテ、滑稽ヲ盡セル事ヲ記セルニ起ル語) 樂シク漫遊旅行スルコト。膝栗毛。

や-しき-どころ (名) |屋敷所| ヤシキノ地所。屋敷トスル土地。 盛衰記、十五、南都騷動始事「父足利太郎俊綱ガ、上野十六郡ノ大介ト、新田庄ヲ、屋敷所ニ申假シガ、云云」

や-し-じゅ (名) |椰子樹| やし(椰子)ノ條ヲ見ヨ。

やしなひ (名) |養| (一)ヤシナフコト。養育スルコト。ハグクミ。 丹波與作(寶永、近松作)上「在所ノ衆ガやしなひデ、ヤウヤウ馬ヲ追ヒナラヒ、今ハ近江ノ石部ノ馬借ニ奉公シマスル」 (二)榮養トナルモノ。榮養物。 平家物語、六、祇園女御事「イモガ子ハ、這フホドニコソ、ナリニケレ、云云、タダモリトリテ、やしなひ(養子ニカケタリ)ニセヨ」 (三)肥。肥料。糞培。

やしなひ-おや (名) |養親| (生ミノ親ニ對ス) 子ヲ貰ヒテ養フ親。ヤウシン。 傾城酒呑童子(享保、近松作)五「其父若黨ヲ人ニカケ、マンマト育テ上ゲサセ、誠ノ親ヨ實子ヨト親シミ寄リ、やしなひ親ノ心ニ滿足セウカ」

やしなひ-ぎみ (名) |養君| 傅育スルトコロノ子。(貴人ナドノ) ヤウクン。 伽羅千代萩(天明、近松貫四)政岡忠臣の段「科ハ晴レヤモ晴レヤラヌ、養ひ君ノ行末ヲ、誰ニ問ベキ樣モナク」

やしなひ-ご (名) |養子| やうし(養子)ニ同ジ。 胡琴教錄、上、師傳相承「往昔少將信綱ハ、狀綱末ノ子ナリ、子息ノ中ニハ最外也、伊賀前司泰綱カやしなひごニ成テ、伊賀大夫トイフナリ」

やしなひ-ちち (名) |養父| やうふ(養父)ニ同ジ。 盛衰記、三十、實盛被討事「實盛ハ仲ガ爲ニハ七箇日ノ養父、危キ敵ノ中ヲ計ラヒ出シケル其ノ志、爭デカ忘ルベキナレバ、云云」

やしなひ-はは (名) |養母| やうぼ(養母)ニ同ジ。やうふ(養父)ノ條ヲ見ヨ。 發心集、六、第三條「カノやしなひ母ノ冷泉殿モ、ノチニハタウトクオコナヒテ、云云」

やしな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) |養| (食なふノ轉カ、なふハ、行フ意、甞なふ、伴なふ) (一)ハグクミ育ツ。生シ立ツ。(動物ニ、植物ニ) 字鏡廿九「餉、饋也、俱也、也志奈不」 仁德紀、十六年七月「ミナソコフ、臣ノ少女ヲ、誰レ揶始擢ム」 (二)守リテ疲レシメズ。安クスル。「心ヲ養ふ」氣ヲ養ふ」 (三)小兒ヲ、宮取リテ親シク食ハス。(東京) 小笠原流躾法書、婚初之次第「男子ヲバ、男養ふベシ、女子ナラバ、女ノ役ナリ」

や-しはい (名) |椰子盃| 椰子ノ實ノ殼ニテ製リタル盃。 下學集、下、器財門「椰子盃、ヤシハイ、椰、木名也、樹之椰子ニ爲レ盃、若以レ毒投レ盃中、酒忽沸涌、令二人無一レ害也」

〔や-しは-ご (名) |玄孫| (彌孫子ノ義ト云フ) 曾孫ノ子。ヒコノコ。今、訛シテ、ヤシャゴ。ゲンソン。 [illegible] 夜之波古」 宇治拾遺、十一、第十條「ソレガ子、孫、ヒコ、やしはごニ至ルマデ、殘リナク取リ殺シハテテ」

や-しゅ (名) |夜襲| 夜、敵ヲ襲フコト。ヨウチ。 三國志、魏志、典韋傳「太祖討呂布於濮陽、布有別屯在濮陽西四五十里、太祖夜襲、比明破之」

や-じふ (名) ならちゃめし(奈良茶飯)ニ同ジ。 物類稱呼、四、衣食「ナラチャ、大和國奈良ニテ、やじふト云、畿內ニテ、ナラチャガユト云、諸國ニテ、ナラチャト稱スルハ、ナラチャメシ也、宇陀法師ニ、タシカナル、夢ヲ掃込ム、椽ノ下、トイフ句ニ、茗粥タク火ノ、夜ハ明ニケリ、ト李由ガ附タリ、云云」 風俗文選、六、古都賦「奈良茶ハやぢふト名ヅケ」

や-しほ (名) |八入| (彌入ノ義、しほ(入)ノ條ヲ見ヨ) (一)幾度モ染汁ニヒタシテ、能ク染ムルコト。又、善ク染マルコト。 萬葉集、十一、卅四「紅ノ、八鹽ノ衣、朝ナ朝ナ、ナルトハスレド、イヤ珍ラシモ」同、十九廿二長歌「クレナ井ノ、八鹽ニ染メテ、オコセタル、衣ノ裾モ」 (二)槭科ノ落葉喬木ノ名。楓ノ屬。春ノ若葉、甚ダ紅ナレバ名トシ、多ク庭際ニ植エテ賞ス、夏ハ、葉、青ク變ズ、樹、大ナラズ。 新六帖、一「見ワタシノ、岡ノやしほハ、散リ過ギテ、長谷山ニ、アラシ吹クナリ」

〔や-しほ-ぢ (名) |八潮路| アマタノしほぢ。しほぢ(潮路)ノ條ヲ見ヨ。 六月晦大祓祝詞「荒鹽之、鹽乃八百道乃、八鹽道之、鹽乃八百會爾座、速開都比咩止云神、云云」

や-しほ-つつじ (名) 灌木ノ名。どうだんつつじニ同ジ。

やしほり (名) [八鹽折] やしほをり(八鹽折)ノ略。次條ノ[illegible]ヲ見ヨ。

やしほをり (名) [八鹽折] (一)[彌醞折(ヤシホヲリ)] [illegible]「八只保手里乃佐介」[illegible]紀、七、[illegible]八醞酒」[illegible]其汁、[illegible]其酒[illegible]汁、亦更[illegible] (二)[illegible]人折ノ義、[illegible]ハ一入、[illegible]人ノ[illegible]ナ[illegible] 又、幾度モ繰リカヘシテ、錬リ鍛フコト。[illegible]「八鹽折之紐小刀(繰リカヘシテ鍛ヒタル刀)」

やしま (名) (一)カマドノ神、即チ荒神(クワウジン)(其條ヲ見ヨ)ノ稱。カマノカミ。字類[illegible]位下」(二)[大ナル釜ノ稱。竹取物語「集リテトクオロサムトテ、綱ヲ引キスグシテ、綱絶ユル、スナハチ、やしまのかなへノ上ニノケザマニ落チタマヘリ」

やしま (名) [八洲八島] やしまぐに(八島國)ノ略。おほやしまぐに(大八島國)ノ條ヲ見ヨ。古今集、序「アマネキオホムウツクシミノ浪、やしまノ外(ホカ)マデ流レ、云云」

やしまぐに (名) [八島國] 略シテ、八島、おほやしまぐに(大八島國)ノ條ヲ見ヨ。萬葉集、六[四十]長歌「百船ノ、ハツル泊リト、八島國、百船人ノ、定メテシ、ミヌメノ浦ハ」

やしん (名) [野心] 〔豺狼ノ子、心山野ニアリテ、馴ラスベカラズ、コレヲ養ヘバ人ヲ害ス、因リテ荒キ心ノ意〕(一)〔馴レ從ハヌ心。背(ソム)クベキ恐ロシキ心。貳[illegible]ノ人ニ服レザル如ク、臣ノ君ニ背キテ謀叛ノ心アルヲ云フ〕史記抄(文明)十二「肉袒ハ、マッハダカニ、我ヲシテやしんモナイヤウニスルゾ」雄略紀、九年[illegible]狼子野心(ノノアラキココロ)[illegible] 又、[illegible]不[illegible]人名[illegible]民猛クシテ野心ヲ[illegible]不[illegible]野心[illegible]小[illegible]」

やしん (名) [野人] (一)朝廷ニ仕ヘヌ人。(二)キナカモノ。野夫。田夫。論語、先進「先進於禮樂、野人也」[illegible] (三)無粋ナル人。無骨ナルモノ。好色一代女、一「同ジ店ノ女(ナ)カラ、是レニ使ル男モ、ムシャウナル野人ニハアラズ」

ヤシャ (名) [夜叉] 〔梵語、Yaksa. 暴惡、又ハ、勇健、ト譯ス〕猛惡ナル鬼神(キシン)。[illegible]牙、肉角アリト云フ。サレド、福德殊勝、諸天ヲモ護衞スト。捷疾鬼 法華玄贊、二「夜叉、此云勇健、飛騰空中」太平記、十七、山門攻事「小鬼リシテ[illegible]形、鬼八、摩醯修羅王、夜叉、羅刹ノ怒レル姿ニ不異」

やじやう (名) [野情] 田舎ノ風情。野趣。又、田野ニ住ム人ノ情。キナカビトノココロ。白居易詩「[illegible]人事[illegible]野情」

やしやう (名) [野釀] 田舎ニテ釀(カモ)ス酒。ヂザケ。村酒。村釀。宋史、蘇舜欽傳「[illegible]野釀[illegible]足以消憂」文同詩「山看與野釀、待我如佳賓」

やしやご (名) [玄孫] やしはご(玄孫)ノ約。其條ヲ見ヨ。

ヤシャびしやく (名) [夜叉柄杓] 〔實ノ[illegible]ノ名。深山ノ大樹、又ハ、ぶな(橅)ナドニ寄生ス。[illegible]古キモノハ、多ク[illegible]んざし(藪山櫨子)ニ似テ、刻ミ少ク、且[illegible]てんのうめノ名モアリ。實ハ楕圓形ニシテ五分許リ、外ニ毛茸アリ。蔦

ヤシャぶし (名) [夜叉五倍子] やまはんのき(山榛木)ノ實。球ヲ成シテ、大キサ、はんのき(榛木)ノ實ニ二三倍ス。煎汁ヲ褐色ノ染料トス。[illegible]「[illegible]やしやぶし、云云、アノ[illegible]ヤウダゼ」

やしゆ (名) [椰子油] 椰子ノ果實ノ仁ヨリ、榨(シボ)リ取リタル油。色白クシテ、豚ノ脂肪ノ如シ。食用ニ供シ、又、石鹸、蠟燭ノ製造ナドニ用キラル。

やしゆ (名) [野趣] 野原ノ趣(オモムキ)。又、田舎ノ趣。田園ノ趣味。野情。野色。杜甫、[illegible]

やしゆ (名) [椰樹] やし(椰子)ノ條ヲ見ヨ。

やじよう (名) [野乘] 〔正字通「晉史曰乘、毛氏曰、乘者、載也、取載事爲名、孟子、離婁下篇「晉之乘、楚之檮杌、魯之春秋、一也」トアリ〕 やし(野史)ニ同ジ。「稗史野乘」

やしよく (名) [野色] 野原ノ景色。又、野景。王勃、秋日別王長史詩「野色籠寒霧、山光斂暮煙」

やしよく (名) [夜色] 夜ノケシキ。夜景。王建、宮詞「下堦夜色涼如水、臥看牽牛織女星」

やしよく (名) [夜食] (一)昔、一日二度ナリシ時、夜ニ入リテ別ニ設クル食事。[illegible]レ日ヒ立ニ、夜食喰フトイフ事カ」(二)今ハ、夜ノ食事。夕飯。バンメシ。晩餐

やじり (名) [illegible] やじりきり(家後切)ノ條ヲ見ヨ。

やじり (名) [鏃] [illegible]又、[illegible]ヤノネ。矢ノ一端、射遣レバ物ニ中ル方ニ付ク[illegible]矢[illegible]ナド、皆鐵ニテ作リ、刃アリ、但シ、平題矢ハ平ナリ。又、鏑矢、蟇目ハ、木ニテ作ル。

やじりきり (名) [家後切] (一)盗人ノ、家、藏ノ壁ナド穿チテ入ルコト。又、ソノモノ。[illegible]人「家尻切、ヤジリキリ」[illegible]冥途の飛脚(正德、近松作)中「此次ハ段段ニ、巾着切カラ家尻切、果ハ首モ、切ラルヽ[illegible]モ笑止ナ」(二)人ヲ罵リテ云フ語。心中天網島(享保、近松作)上「ヤイ[illegible]メ、[illegible]メ、[illegible]切メ」

やじりまき (名) [illegible]ニ同ジ。保元物語、二[illegible]ベヤト思ヒテ、目九ツ指シタル鏑ノメハシラニハ角ヲ立テ、[illegible]シタク射フセテ、箙(ヤジリマキ)[illegible]

やじ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [彌次] 〔やじ(彌次)ヲ作用(ハタラ)カス、やぢうまニ牡馬〕(やじうま(彌次馬)ノ條ヲモ參見セヨ〕 人ノ言動ヲ嘲罵シ、又ハ、妨害ス。

やじるし (名) [矢印] 矢ニ記ス姓名、家紋ナドノ標(シルシ)。(射手ヲ知ラスルタメニ) 箚卷(クツマキ)ノ上、或ハ、羽本(ハモト)ノ下ナドニ、漆、[illegible]

印、又ハ小刀ニテ刻ミツク。 道照恥草「矢さゝろしノ矢、ウルシニテ[illegible]チイサク書シ之」 印陽道鑑、七、品第十六「矢印トイフハ、カミニテ、キヨリ、右ニ中將ヲ二ツニ折テ、其分ニ書也」

やしろ (名) 社 〔神籬（ヒモロギ）ヲ神靈ノ屋ノ代トスル意ト云フ、社ハ土ノ神、(說文、段注「社者、土地之主、土地廣博、不レ可二徧敬一、封二五土一以爲レ社」トアリ)〕 (一)〔古ヘ、神ヲ祀ルニ、地ヲ持ヒ、壇ヲ設ケテ、神位トシタル齋場（ユニハ）。もり(杜)ノ條ヲモ見ヨ。 倭名抄、二十神靈類「地祇、久爾豆加三、或、夜之呂」 天治字鏡、十一「四、社、也志呂」 萬葉集、廿二十「國國ノ、夜之呂ノ神ニ、幣マツリ、アガ戀ヒスナム、妹カナシサ」 (二)後ニハ、神ヲ祀リ置ク家。神社。神祠。

やしろ-だう（ヤシロ・ドウ） (名) 社堂 (一)其建築、神社ト佛堂トヲ折衷シタルモノ。(二)神社ト佛トヲ合ハセテマツリタル殿。 著聞集、五、神祇「其後、云云、コフナバ何トイフソ、ト尋ネケレバ、やしろだうト申スト答ヘケルヲ聞キテ、云云、此ノ堂ハ、神カ佛カナホツカナ、云云」

やしろ-づくり（ヤシロ・ズクリ） (名) 社造 神靈ヲ奉祀スル社殿ノ造方。其祭神ニヨリテ其構造、形式、手法ナドヲ異ニスレドモ、一般ニハ、敷地正面ノ入口ニ鳥居ヲ建テ、鳥居ヲ入レバ參道アリ、參道ノ奥ニ社殿ヲ設ケ、玉垣、瑞垣ナドヲ廻ラス。猶、本殿ノ外ニ拜殿、幣殿、神樂殿、舞殿ナドアルモアリ。又、其形式ニヨリテ、大社造、大鳥造、住吉造、神明造、春日造、八幡造、日吉造、權現造ナド種種アリ。

やじろべゑ（ヤジロベヱ） (名) 彌次郎兵衛 〔與次郎兵衛ノ訛カ〕 人形ノ一種。よぢらうにんぎやう(與次郎人形)ニ同ジ。其條、及、つりあひにんぎやう(釣合人形)ノ條ヲ見ヨ。又、補之助 與次郎兵衛。

やす (名) 〔やすしノ語根〕 (一)〔安寧〕 安泰。 萬葉集、十四「[illegible]」 (二)容易ナルコト。 堀川中納言家歌合「枝弱ミ、亂レやすナル、青柳ノ、絲ノタヨリニ、亂ナヨリコソ」 (三)趣キ勝チナルコト。(四)價ノ安キコト 廉價。「格安ノ物」「割安」

やす (名) 猪魚杖 〔矢簀ノ義カト云フ、蝦夷ニテ、やすト云フモノ、ひしナリト云フ〕 魚ヲ捕ル具。頭、鐵製ニシテ又ナシ、(三股、五股、七股ナドモアリ) 柄、長シ。水中ニ潛メル魚ヲ、上ヨリ刺シテ捕ル。 猪 續山の井(寬文)「淵ニ臨ミ、鮭ヲ突クコソ、やす大事」 和漢三才圖會、廿三、魚獵具「猪、以刺、泥中取魚者也」

や・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(自動、下二) 瘦 瘠 (一)體ノ肉ノ量(カサ)、減ル。身、ホソル。 瘠 字類抄「瘦、瘠、ヤセタリ、ヤス」 萬葉集、十二「ワガ君ニ、ワケハ戀フアシ、鴨ヒタル、ツバナヲ食ヘド、イヤ瘦ニ夜ス」 (二)〔土地ニ、草木ヲ成長セシムル力乏シクテアリ。磽确 不毛 字類抄「墝、ヤセタリ、磽、同、石地瘦、不レ宜二五穀一也」 天智紀、九年十二月「土地磽确(ヤセタリ)」 (三)草木ノ葉、成生セズ、活キモセシ 新六帖、五、おもひやす「イハ山ノ、柴ノ下草、やせヌトテ、思ヒニタヘヌ、程ヲ知ラメヤ」

やす (助動) ナサレ。アソバセ。マセ。 狂言記、首塚「一時モ置カヌ、御歸りやす」

やす-い (名) 安寢 寢（イ）ヲヤスク眠ルコト。安ラカニ眠ルコト。安眠。 萬葉集、十五二十五「吾妹兒ニ、又モアフミノ、安ノ河、安寢（ヤスイ）モ寐ズニ、戀ヒワタルカモ」 同、十五四十「アハ島ノ、アハジトオモフ、妹ニアレヤ、夜須伊モ寐ズテ、吾ガ戀ヒワタル」

やすうけあひ（ヤスウケアイ） (名) 安請合 [illegible]ケアフコト。輕諾

やすうり (名) 安賣 モノヲ安ク賣ルコト [illegible]

やすかた (名) うとう(善知鳥)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible] 夕霧阿波鳴渡(近松作)下「アゝト讃ノ玉ザサラ、諸フ聲ニモ血ノ涙、子ハやすかたノ囀リヤ」

やすかた-の-とり (名) 略シテ、やすかた。うとう(善知鳥)ノ條ヲ見ヨ。

やす-かは（ヤス・カワ） (名) 安河 やすのかは(安河)ニ同ジ。 神代紀、上卅六「日神與二素戔嗚尊一隔二天安河一而相對乃立」

やす・か・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 瘦 〔瘦す屈む、ノ約〕 やさかむ(瘦)ニ同ジ。

やす-きど (名) 安木戸 見世物ナドノ木戸錢ノ安キコト。入場料ノ安キコト。

やすき-ぶし (名) 安來節 モト出雲國ノ中海(ナカノウミ)ニ沿ヘル安來町ノ船頭等ノ謠ヘル始メタル俗謠ノ節。又、其ウタ。イヅモブシ。「安來千軒、名ノ立ツ所、社日櫻ニ十神山」

やすくに (名) 安國 安キ國。泰平ニ治マレル國。浦安ノ國。 中臣壽詞「豊葦原ノ瑞穂ノ國ヲ、安國ト平ケク知召シテ、云云」

やすくに-じんじゃ (名) 靖國神社 明治維新前後ヨリ國難ニ殉ジタル者ノ靈ヲ祭ル別格官幣社。東京、九段上ニアリ、明治二年ノ創建ニシテ、初、招魂社ト稱シ、同十二年今ノ名ニ改ム。又、各地ニモ殉國ノ戰死者ヲ祭レル招魂社アリ。

やずくみ (名) 矢竦 矢ノタメニ、身ガ立チスクミトナルコト。 太平記、廿六、楠正行最後事「右ノホホサキ、左ノ目尻、箆深ニ射フレ

テ、[illegible]バ、[illegible]ハ、[illegible]

やすけ (名) [illegible] (一)[illegible] ノ異名。劇場、又ハ、客商賣ノ人ノ云フ語。又、[illegible] (二)[illegible] ウソ、[illegible] イツハリ、ウソ、[illegible] 九州ニテ、スウゴト云、又彌助トイフ」

やすげ (名) 安氣 ヤスキ容子。安ヤカリサマ。 源、十、榊「何事モ人ニモドキアツカハレヌ(ベキ)際ハ、やすげナリ」

やすけ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 安 やすし(安)ニ同ジ。 萬葉集、十二廿「今ハワレハ、シナンヨ吾ガセ、戀スレバ、一夜一日モ、安毛無（ヤスケモナシ）」

やす・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 安 〔止むノ意〕 (一)〔靜ニシテ快シ 穩ナリ。危カラズ。ヤスケシ。安泰 萬葉集、五、長歌「タマキハル、ウチノ限リハ、平ケク、安クモアラムヲ、事モナクモ」 同、十五三十五「サヌル夜ハ、多クアレドモ、モノモハズ、夜須久ヌル夜ハ、サネナキモノヲ」 (二)〔爲ルニ難カラズ。ムツカシカラズ。苦心淺シ。タヤスシ。ヤサシ。テガルシ。(難しノ反) 易 萬葉集、十五二十「旅トイヘバ、言ニゾ夜須伎、少クモ、イモニ戀ヒツツ、スベナケナクニ」 (三)〔趣キ勝チナリ 輕 萬葉集、四四十「念ハジト、イヒテシモノヲ、ハネズ色ノ、移ロヒ安寸、吾ガ心カモ」 古今集、二、春、下「今日ノミト、春ヲ思ハヌ、時ダニモ、立ツコトやすき、花ノ蔭カハ」 (四)貨物ニ比ベテ、價低シ。廉價 (買と易キ意カ)

やす-だ (名) 安田 肥沃ナル田。地味ノ肥エタル田。肥田 沃田 膏田 又、耕作ニ便ナル田トモ云フ。 神代紀、上三十「神之田有二三處一、號曰二天安田、天平田、天邑幷田一」

やす-だいじ (名) 安大事 爲ヤスキガ如

クニシテ、其質、油斷ノナラヌ大事。平[illegible]台[illegible]セン事、云云、コレコソサスガ安大事ヨ」太閤記、十四、於朝鮮國[illegible]之事[illegible]二付シ、被申ケルハ、此[illegible]ハ安大事ニテ候」

やすたらう (名) 安太郎 [illegible]

やす.ほい (名) 安[illegible] 品[illegible]クシテ、價[illegible]安ク見ユル[illegible]品等ナリ。

やすで (名) 馬陸 [八十手ノ義トイフ] [illegible]蟲ノ名[illegible]長サ八九分、徑一分許リ、狀、蜈蚣ニ似テ小サク、身圓クシテ平ナラズ、背ハ紫黒ニシテ節多ク、左右ノ脚、むかでヨリ多ク、[illegible]コレニ觸ルレバ、首ヲ内ニシテ卷曲スルコト[illegible]ノ如ク、又、錢ノ如シ。因リテ、又、エンザムシ。ゼニムシ。

やすね (名) 安直 直ノ安キコト。價ノ低キコト。安直 安價

やすのかは (名) 安河 [天の安河ノ略、やすハ彌瀬ノ約轉、(八十河トモアリ)五十鈴川ヲ五十瀬川ナラム)瀬ノ[illegible]河ナルハシト云フ」(一)天上ニアリト云フ河ノ名。其河邊ヲ天河原ト云フ。[illegible]

[illegible]ト云ヒ、[illegible]、年ニ一度相逢フコトヲ云フ。萬葉集、十八[illegible]

やすのかほり (名) 安香 [illegible] 又、あんのかほり。びはのかふ(琵琶甲)ノ條ヲ見ヨ。

やすのわたり (名) 安渡 安ノ河ノワタリ[illegible]秋、上「七夕ノ、逢フ瀬ハ絶キ、天ノ川、やすの渡リモ、名ノミナリケリ」

やすまく (名) 休幕 (一)[illegible]ノ幕屋。字類抄「休幕、ヤスマク」榮花物語、十七、音樂「幄シアリ、[illegible]」(二)儀式ノ時、庭上[illegible]リテ、官人ナドノ休息スルトコロ。弘化[illegible]

やすまふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 休 [やすむ(休)ノ延] やすむ(安)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

やすまり (名) 休 ヤスマルコト。ヤスミ。休養。安息。とりかへばや物語、三「イトド心[illegible]、カクイツマデ安ラカニオチフシタルバカリヲ、身ノやすまりニテオハスルニ」

やすまる ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 休 [やすむノ延] 動作ヲヤメテ、イコフ。靜ニ落チツク。又、シヅマル。安息 續紀、三十一、寶龜二年二月、宣命「食國之政ノ平善在ルベキ狀、天下公民ノ息安[illegible]ベキ[illegible]」[illegible]記、下、下卅「我ガ思フ、人ハタソトハ、見ナセドモ、ナゲキノ枝ニ、やすまらぬカナ」「心やすまる」

やすみ (名) 休 (一)ヤスムコト。安ンズルコト。平安ニアルコト。休息。

(二)齋宮ノ忌詞ニ、病。病ムコト。[illegible]

やすみ (名) 八隅 四方八方ノスミズミ。[illegible]シマノ[illegible]

やすみしし [illegible]す、ノ敬語、名詞形)ヲ爲(爲ハすノ連用形)タマフ[illegible]國見之勢シテ」ナドノ類) 即チ、心安ク天ノ下ヲ知ロシメス[illegible]

やすみする [illegible]

やすみ.す スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 平安[illegible]下ヲ知ロシメス[illegible]安ク天ノ下[illegible]村ノ、色モ豐ミケレ」

やすみてぐら (名) 安幣帛 ヤスラカナル幣帛[illegible]祝詞「宇[illegible]幣帛平、安[illegible]幣帛能、足[illegible]幣帛止、云云」

やすみどころ (名) 休所 休息スル場所。休息所。大嘗祭式[illegible]屋一字」

やすみどの (名) 安殿 [天皇ノ天ノ下ヲ安ミシタマフ殿ノ義ト云フ。(安むノ條ヲ見ヨ)」 安ラケク天下ヲ知ロシメス御殿。即チ、天皇ノ政事ヲ執リ給フトコロ。ソノ正殿ヲ大安殿(オホヤスミドノ)ト云ヒ、ソノ北ニアルヲ、小安殿ト云フ。天[illegible]

やすみび (名) 休日 きうじつ(休日)ニ同ジ。

やす.む [illegible]ヲ活用ス、或ハ、家住ノ意カ」(一)ウシロヤスクアリ。ウラヤスクアリ。安心[illegible](二)[illegible]クス。息フ。ヤスラフ。ヤスモフ。休[illegible]

やす.む ム・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 休 (一)休マシム。休息セサス。安泰ナラ[illegible] (二)事ヲ中止シテイコフ。

やすむしろ (名) 安席 [illegible] 安穩ナル座席。仁徳紀、四十年二月「ハシダテノ、サガシキ山モ、ワギモコト、フタリ越ユレバ、安席(ヤスムシロ)[illegible]カモ」

やすん.ず ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(自動、左變) 安 [やすみすノ音便] (一)安クナル。安泰ニナル。名義抄「安、ヤスムス」「心安んず」 (二)安シト滿足ス[illegible]

やすん.ず ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(他動、左變) 安 [やすくすノ音便] 安クナス。安泰ナラシム。「人ノ心ヲ安んず」

やすめ (名) 休 ヤスムルコト、又、ヤ[illegible] 休息[illegible]雀「雞モ羽モ、やすめニオリル、雲雀カナ」

やすめことば (名) 休[illegible]ノ語ヲ見ヨ。

やすめ-ことば (名) [休字] 又、やすめおとば。文中ニアルモナクモ宜シク、意味ナシトスル語。多ク「神ニしアレバ」ナド用ヰル天爾波ノしヲ云フ。(サレド、其實ハ、意アルガ如シ、尙、しノ條ヲモ見ヨ) 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)七「恐レヲシウゴザアレドモト、恐レハやすめ字、惜シイハ定デアラウゾ」

やすめ-どころ (名) [休所] (一) 休ムルトコロ、休マシムル場所。續深集、六「細腰ノ、やすめ處ヤ、夏ノ山」 (二) 〔短歌ニテ、第三ノ句〕 源、廿二、玉蔓「アダ人ト云フ五文字ヲ、やすめどころニウチ置キテ」

❖やす-める (動) [休] やすむ(休、他動)ノ口語。

やす-もの (名) [安物] 價ノ安キ物品。安價ナル物。心中天網島(享保、近松作)上「エエ、流石賣物安物メ、ト性骨見違ヘ魂ヲ奪ハレ、云云」

やす-む・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [休] 〔やすむノ延〕 やすむ(休)ニ同ジ。續紀、三十一、寶龜二年二月、宣命「公民之上乎母廣厚慈而、云云、罷之朋母諸出而休息安母布事無」

〜やす-やす (副) [瘦瘦] 甚ダ瘦セタル狀ニ云フ語。萬葉集、十六卅「痩痩モ、生ケラバ在ラムヲ、ハタヤハタ、鰻ヲトルト、河ニ流ルナ」

やす-やす-と (副) [易易] 甚ダ容易ク。極メテ容易ニ。延慶本平家物語、二、本、中宮御産有事「御産やすやすとナリニケリ」

やすらか-に (副) [安] (一) 安キ狀ニ云フ語。煩ヒナク。タヤスク。ヤスラニ。穩ニ。神代紀、下廿「雖復、安樂、猶有憶鄕之情」 (二) オダヤカナル狀ニ云フ語。ナダラカニ。徒然草、第十段「ウチアル調度モ、昔オボエテやすらかなるコソ、心ニクシト見ユレ」

〜やすらけ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) [安] たひらけし(平)ニ同ジ。ヤスラカニテアリ。大殿祭祝詞「平氣久、安久奉ㇾ護留」

〜やすら-に (副) 安 やすらかに(安)ニ同ジ。催馬樂、夏引「アサギヌモ、ワガメノゴトク、タモトヨク、キヨクカタヨク、コクビ也須良爾、マシキセメカモ、ヌヒキセメカモ」

やすらひ (名) [休] (一) ヤスラフコト。ヤスムコト。ヤスミ。休息。玉葉集、二、春、下「道ノベヤ、木ノ下毎ノ、やすらひニ、待ツラン花ノ、宿ヤクレナン」 (二) タメラフコト。躊躇スルコト。六帖、二「君ヤ來ン、我ヤ行カンノ、やすらひニ、槇ノ松戶モ、ササデ寐ニケリ」 (三) カリソメナルコト。深ク心ヲトメヌコト。新後拾遺集、十、羇旅「やすらひニ、我ガ古鄕ヲ、出デシヨリ、ヤガテ日數ノ、ツモル旅カナ」

やすらひ-ばな (名) [安樂花] 〔やすらかなる花ノ意ニテ、鎭花祭ノ義ナリト、又、寂蓮法師ノ作ト傳ヘラルル此祭ノ歌「やすらぎたるやすらや、云云、やすらいはなや、云云」トアルニ因ルト、或ハ、長和五年三月、高雄ノ法華會ニテ「やすらにはてよ」ト云ヘルヲ、誤リ傳ヘタルモノトモ云フ〕 往時、三月十日(今ハ四月十日)、山城國、紫野ナル今宮神社ニテ行ハレタル祭。賀茂上野ノ村人、異體ノ裝ヲ成シテ踊リ、素袍、烏帽子着テ、刀打チカタグルアリ、笛、太鼓、鉦、鼓ヲ鳴ラスアリ、犀ノ鉾トテ、飾アル傘ヲサス。ソノ囃子詞ニ、やすらひ花よト云フ。夫木抄、三十四、寺「高雄寺、アハレナリケル、ツトメカナ、やすらひばなト、鼓打ツナリ」 日次紀事、三月十日「安樂花、今日安樂花神事、辰刻許、上賀茂南上野村土民着烏帽子素袍、或又爲異體之粧、云云、各異口同音唱安樂花、云云」

〜やすら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [休] (一) ヤスム。イコフ。休息ス。源、四、夕顏二十「花ノ陰ニハ、猶やすらはマホシキニ」 (二) 轉ジテ、進マズ、退カズ、中途ニアリ。タメラフ。タユタフ。イサヨフ。徘徊ス。猶豫ス。躊躇。宇津保物語、俊蔭九十「切ニ、ソソノカシ給ヘド、トカク、やすらひテ、云云」

やすら・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) [休] ヤスラハシム。休息セシム。ヤスマス。著聞集、九、武勇「貞任、クツバミヲやすらへ、シコロヲフリムケテ、云云」

〜や-すり (名) [鑢] 〔彌磨ノ義ト云フ、或ハ云フ、錯ヨリ、イヨイヨ精シク摩ルモノノ意カト云フ。六書故(宋、戴侗)「鑢、錯之精者」トアリ〕 鋸ノ目ヲ立テ、又ハ、金類ヲ磨リ減ラシ、研リ切ルニ用キル具。鋼ニテ刃ヲ細長ク平タク作リテ、兩面ニ、細カキ縱橫打違ヒノ刻ミ目アリ、柄アリ。コスリ。倭名抄、十五八鍛冶具「鑢、夜須利、所以利鋸齒也」 七十一番職人盡歌合、一番、かぢ「恨メシヤ、人ノ心ノ、荒やすり、ヒカキメニダニ、ノゾカレヌカナ」

や-ずり (名) [矢摺] 弓ノ弓束ノ上、矢ノ摺リアタルトコロ。卽チ、握革ト鞢附トノ間ヲ云フ。ソコニ卷キタル籐ヲ、矢摺籐ト云フ。家中竹馬記「馬上ニテ可ㇾ持弓ハ、黑ヌリニ、矢ずり、カブラドウ白クツガヒタル本式也、其外ハ所ㇾ好ニ隨コト也」 武用辨略、三、弓矢「矢摺トハ、矢ノ摺所、革ト木トノ間ヲ云也」

やすり-こ (名) [鑢粉] 金粉ノ細末ニテ、稜角アルモノ。蒔繪ナドニ用キル。

やずり-どう (名) [矢摺籐] 前前條ノ語ヲ見ヨ。

やせ (名) [瘦瘠] ヤスルコト。瘦セテ居ルコト。又、ソノ人。やす(瘦)ノ條ヲ見ヨ。

やせい (名) [野性] (一) 生得ノママノ性質。又、粗野ニシテ鄙シキ性質。野性。鐵起、石門倚待「自笑野夫多野性、當居鄙賤惜宗衝」 (二) 馴レ親シマヌ性質。蘭應物、詩「野性本難ㇾ羈、玩習亦逾ㇾ年」

やせい (名) [野生] (一) 動植物ノ、自然ニ山野ニ生長スルコト。又、ソノモノ。齊民要術(後魏、賈思勰)「芹蘧、云云、並收、野生者」 (二) 前條ノ語ノ(一)ニ同ジ。北史、高允傳「顯祖野生、不ㇾ知ㇾ避忌、高聲言大罵、仲遠怒、其狀如ㇾ是、宜ㇾ之」

やせい (代) [野生] 自稱ノ代名詞。男子ノ謙稱ナリ。小生。拙者。迂生。書言字考節用集、四、人倫門「野生、ヤセイ、卑賤自稱」

やせ-うで (名) [瘦腕] 瘦セテ細ソキ腕。轉ジテ、微力ナル手腕。力ニヘシキウデマヘ。雪女五枚羽子板(寶永、近松作)下「大炊介メガ瘦腕ニテ、赤沼父子ヲ討タントハ、云云」

やせ-うま (名) [瘦馬] (一) ヤセタル馬。謠曲、鉢木「ヨレニヨレタル瘦馬ナレバ」 (二) 農具ノ一。木ヲ以テ梯子形ニ造リ、背ノ當ル所ニ繩ヲ卷キ、荷ナドヲ結ヒ付ケテ負フモノ。

やせ-がまん (名) [瘦我慢] 力ノ足ラヌニ、強ヒテスルコト。力及バザレドモ、強ヒテ我慢スルコト。曾我会稽山(正德、紀海音)「瘦我慢ハ貧ヨリ起ルトテ、近頃見籠ノフルマヒヤト、アザ笑ウテヰタリケル」

〜やせ-か・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [瘦] やさかむ(瘦)ニ同ジ。崇神紀、六年「渟名城入姬命、髮落體瘦、而不ㇾ能ㇾ祭」

〜やせ-からめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [瘦]

ヤセガレテ見ユ。瘦セテ脂氣ノナキヤウニ見ユ。枕草子、三、第廿八段「アマリやせかゝらめきタルハ、心イラレタラント、オシハカラル」

やせ-が・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［瘦枯］ヤセテ脂氣ノ失セタルヤウニ見ユ。沙石集、八、下、第十四條「其夜ノ夢ニ、やせがれタル[illegible]」

や-せき（名）［野蹟］小野道風ノ筆蹟ノ稱。

やせ-ぎす（名）身體ノ細ソリト瘦セタルコト。ヤセガタ。ヤセッポチ。

やせ-こ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下一）[illegible]肉脱ソ[illegible]瘦セコケル[illegible]憔悴[illegible]

やせ-さらぼ・ふ・フ・ヘ・ヘ・ヒ・ヘ（自動、四）［瘦曝］瘦セテ衰フ。さらぼふ（曝）ノ條ノ[illegible]見ヨ 太平記、四、備後山カゲニ、やせさらぼへル、犬馬、オヒハナタレテ、ヒク人モナシ」

やせ-しょたい（名）［瘦所帶］マヅシキ所帶。ユタカナラヌクラシ。貧乏所帶。

やせ-ち（名）［瘠地］草木ヲ成長セシムル力ノ乏シキ地。地味ノ瘠セタル土地。ヤセドコロ。瘠土。不毛。磽确。

や-せつ（代）［野拙］自稱ノ代名詞。男子ノ謙稱ナリ。小生。野生。迂生。

やせっ-こ・ける（動）瘦せこけるノ急呼。

やせっ-こび（名）（こびハこびる（其條ヲ見ヨ）ノ名詞形）瘦セテ細ルコト。

やせっ-ぽし（名）［瘦法師］（ほしハ、ほふしノ略。次條ノ語ニ同ジ。

やせ-ぼ[illegible]（名）[illegible]ハほふしノ略轉）體ノ瘦セタル人ヲ云フ[illegible]

やせ-どうじ（名）[illegible]（どうじハ[illegible]）朝廷ノ儀式ナドノ時、山城國ノ八瀬村ヨリ召サルル牛飼童、又ハ、駕輿丁ノ稱。

やせ-どころ（名）［瘦處］瘦セタル土地。ヤセチ。不毛 磽确 瘠地 瘠土 神代紀、上「[illegible]之田、云云、皆瘠地」

やせ-とほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［瘦通］ハナハダシク瘦ス。新續古今集、十九、誹諧「[illegible]ヘ、[illegible]トハナシニ、[illegible]レバ、やせとほり（八[illegible]ニサク、メル、モノニゾアリケル」

やせ-ば・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［瘦］ヤセタル容子ニ見ユ。瘦セテ見ユル。

やせ-ほそ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［瘦細］瘦セテ、ホソクナル。源、十九、薄雲「[illegible]上)コヨナウやせほそり給ヘレド、カクテコソ、アテニナマメカシキコトノ限ナサモマサリテ、云云」

やせ-ほふし（名）［瘦法師］（一）瘦セタル僧。ヤセパウズ。（二）瘦セタル人。ヤセポチ。（三）身ニ應ゼヌモノヲ好ムニ云フ語。瘦法師ノ酢好ミト云フ諺アリ、下ノ出典ヲ見ヨ。醒睡笑（元和、安樂庵策傳）一「瘦法師の酢このみトハ、ヤセノ寺ハ昔ヨリ禁酒ニテ酒ヲ入レズ、僧ノ中ニ酒ヲコノミ、エコラヘヌアリ、常ニ土工李ヲモチテ行キ通フ、若シ人問フ事アレバ、酢ニテ候トイフ、云云、諺ニイヒナラハシ、やせノ法師ハすこのみヤ」（四）我ガ子ヲ他人ニ謙シテ呼ブ稱。ヤセッポチ。カナボフシ。セガレ。

やせん（名）［野戰］[illegible]ルノイクサ。夜間ノ戰爭。[illegible]

やせん（名）[illegible]

やせん（名）[illegible]

やぜん（名）［夜前］ヨベ。ユフベ。昨日ノ宵。前日ノ夜。前夜。前宵。[illegible]閣天ヨリ御福ヲ放シ下テゴザル」

やせんさく（名）［矢詮索］射放チタル矢ノ主ヲ詮索スルコト。曾我會稽山（享保、近松作）一「[illegible]云云」

やせんぢゅうはう（名）［野戰重砲］野砲ノ一。口徑十糎以上ニシテ、遠大ナル射程ヲ以テ敵ヲ惱マス加農砲ト、口徑十五糎以上ニシテ、破壞力ノ偉大ナル榴彈砲トノ二アリ。

やせんはう（名）［野戰砲］野戰ニ用ヰル大砲。コレニハ、野砲ト山砲ト（各條ヲ見ヨ）トアリ、口徑七糎内外ニシテ、重量ハ輕易ニ、運動モ容易ニシテ、大ナル發射速度ノアルモノ。

やせ-やせ-に（副）［瘦瘦］甚シク瘦セタル狀ニ云フ語。ホソポソ。源、十、榊五十「少シ打チナヤミテ、やせやせにナリ給ヘルホド」

やせ-やぶ（名）［瘦藪］ヤセタル土地ノヤブ。又、見スボラシキ藪。[illegible]ヤ、作リタフレノ、[illegible]」

やせ-らうにん（名）［瘦浪人］ヤセオトロヘタル浪人。見スボラシキ浪人。貧シキ浪人。曾我會稽山（享保、近松作）四「瘦浪人一人カ二人討タントテ、我モ仁田、是モ仁田」

や・せる（動）［瘦］やす（瘦）ノ口語。

ヤソ（名）［耶蘇］（羅甸語、Jesus ノ近代支那[illegible]）[illegible]祖ノ名。いえす。いえすきりすと。

やそ（名）［八十］（一）十ヲ八ツ合セタル數。八十。[illegible]ギタミ行ケバ、近江海、八十ノ湊ニ、鶴（鶴イ）サハニ鳴ク」「八十島」「八十國」「八十隈」「八十氏人」

や-そう（名）［野叟］ヰナカオヤヂ。村ノ老翁。村老 村翁 野老 [illegible]

や-ソウ（名）［野僧］（一）田舍ノ僧。[illegible]野衲 山僧[illegible]

やそ-うぢびと（名）［八十氏人］多クノ氏姓ノ人人。萬葉集、十八「[illegible]モノノフノ、八十氏人モ、ヨシヌ川、タユルコトナク、仕ヘツツ見ム」

やそ-か（名）［八十日］又、やそかび。（一）日ノ數八十。（二）數多ノ日。

やそ-か（名）［八十楫］（かハかぢノ略）數多ノ楫。[illegible]

十二、四七「八十梶カケ、島ガクレナバ、吾妹兒ガ、留レト振ラム、袖見エジカモ」

やそ-かげ (名) 八十蔭　あめのみかげ(天御蔭)ノ條ヲ見ヨ。

〜**やそか-び** (名) 八十日日　やそか(八十日)ニ同ジ。出雲國造神賀詞「八十日日ハ在レ止毛、今日能生日能足日爾、云云」

〜**やそ-がみ** (名) 八十神　數多ノ神。多クノ神神。古事記、上四「遂爲二八十神所レ滅」

〜**やそ-くに** (名) 八十國　(一)數多ノ國。多クノ國國。鎭火祭祝詞「國乃八十國、嶋能八十嶋」(二)多クノ國ノ人人。萬葉集、廿七「夜蘇久爾ハ、ナニハニツドヒ、フナカザリ、アガセム日ロヲ、ミモヒトモガモ」

〜**やそ-くま** (名) 八十隈　ココカシコノ隈。アマタノクマ。クマグマ。スミズミ。モモクマ。萬葉集、十三七長歌「道ノクマ、八十阿ゴトニ、歎キツツ、ワガ過ギユケバ」

〜**やそくま-ぢ** (名) 八十隈路　又、やそくまで。數多ノ隈アル路。神代紀、下五「百不足之八十隈、將隱去矣、汝、隈、此云二矩磨二」

〜**やそくま-で** (名) 八十隈路　前條ノ語ニ同ジ。古事記、上六「百不足八十垧手隱而侍」

ヤソ-けう (名) 耶蘇教　〔やそ(耶蘇)ノ條ヲモ見ヨ〕猶太人、耶蘇基督ノ說キ始メタル宗教。又、基督教トモ云フ。世界三大宗教ノ一ニシテ、最モ多ク歐米諸國ニ行ハル。其宗旨ハ、善智善能ニシテ絕對獨一ノ眞神ト云フモノアリテ、コレヲ在天の父ト云ヒ、耶蘇ヲ其神の子トス。其父ナル神ニヨリテ、人類ノ靈魂ヲ罪惡ヨリ救ヒテ、天國ニ赴カシムルヲ旨トス。耶蘇ハ、我ガ垂仁天皇ノ二十七年ニ生レ、生後四年ヲ西洋ノ紀元元年トス。年三十三ニシテ磔殺セラル。其經典ヲばいぶる(其條ヲ見ヨ)ト云フ、舊約全書ト新約全書(聖書ノ條ヲ見ヨ)トニ分ル。博愛ヲ以テ本旨トシ、神ノ前ニハ、一切ノ人類、皆、平等ナリトス。又、舊教(天主教)ト、新教(獨逸ノ宗教家、Martin Luther. 西紀千五百廿九年ニ之ヲ興ス)トノ二派ノ大別アリ、其外ニモ多クノ分派アリ。洋教。

やそ-さか (名) 八十坂　又、やそぢのさか。年ノ次第ニ積リ行クヲ、坂路ニ譬ヘテ云フ語。落窪物語、三「八十坂ヲ、越エヨトキレル、杖ナレバ、ツキテヲノボレ、位山ニモ」

やそ-さと (名) 八十里　多クノ里。數多ノ里數。續後紀、十九、嘉祥二年三月「萬代爾、大御世成波、如二八十里一域爾介子給布大人波」

〜**やそ-しま** (名) 八十島　多クノ島。アマタノ島島。萬葉集、十五十旋頭歌「ヌバタマノ、夜ワタル月ハ、ハヤモ出デヌカモ、海原ノ、夜蘇之麻ノ上ユ、妹ガアタリ見ム」

やそしま-くだり (名) 八十島下　古ヘ、八十島祭ノ使者トナリテ、下向スルコト。其使者ヲ八十島使、又、八十島祭使トモ云ヒ、其使者ノ神社ニ詣ヅルヲ、八十島詣トモ八十島巡トモ云フ。平治物語、一、「信賴朝臣、八十島下リニ、位ニ敍シ、轉テ從二位シテ、紀伊二位トゾ申シケル」

やそしま-の-つかひ (名) 八十島使　やそしまくだり(八十島下)ノ條ヲ見ヨ。山槐記、永曆元年十二月七日「今日祭陣、可レ被レ勘二改八十島使日時一」

やそしま-の-まつり-の-つかひ (名) 八十島祭使　やそしまくだり(八十島下)ノ條ヲ見ヨ。小右記、寬仁元年十二月十二日「[illegible]八十島祭使[illegible]」

やそしま-まうで (名) 八十島詣　やそしまくだり(八十島下)ノ條ヲ見ヨ。按納言[illegible]伊二位八十島詣ニ、住吉ニテ人人哥ヨミシニ、云云」

やそしま-まつり (名) 八十島祭　又、八十島神祭。古ヘ、天皇卽位シ給ヒテ、大嘗會アリタル翌年、使ヲ難波ニ遣ハシテ、住吉神、大依羅神、海神、垂水神ナドヲ祭リ給ヒタル神事。東宮、中宮ニモ同儀ヲ行フ。臨時祭式「八十島祭、云云、赴二難波津一祭レ之」

やそしま-めぐり (名) 八十島巡　(一)數多ノ島島ヲメグリ行クコト。祐子内親王家紀伊集「久方ノ、月ヲ遙カニ、ナガムレバ、八十島めぐり、見ル心チスル」(二)やそしまくだり(八十島下)ノ條ヲ見ヨ。

〜**やそ-せ** (名) 八十瀨　數多ノ瀨。多クノ瀨。萬葉集、十二五「鈴鹿河、八十瀨渡リテ、誰故カ、夜越エニ越エム、妻モアラナクニ」

〜**やそ-たける** (名) 八十梟帥　〔たける(梟帥)ノ條ヲモ見ヨ〕數多ノタケル。神武卽位前紀「先擊二八十梟帥於國見丘一、破斬之」

〜**やそ-たまぐし** (名) 八十玉籤 八十玉串　〔たまぐし(玉串)ノ條ヲモ見ヨ〕數多ノタマグシ。神代紀、上十「使二山雷者、採二五百箇眞坂樹八十玉籤一」

やそ-ぢ (名) 八十　年ノ數、八十。八十歲。八十年。榮花物語、三十一、殿上花見「今日ゾ思フ、君ニアハデヤ、ヤミナマシ、やそぢアマリノ、年ナカリセバ」「やそぢノ坂」

やそ-ぢ (數) 八十　ヤソ。八十。

やそぢ-の-さか (名) 八十坂　やそさか(八十坂)ニ同ジ。

やそ-つな (名) 八十綱　種々ナル綱。六月晦大祓祝詞[illegible]

〜**やそ-ともの-を** (名) 八十伴緒　〔ともの-を(伴緒)ノ條ヲ見ヨ〕多クノ伴緒、伴緒、長、上首、朝廷ニ仕ヘ奉ル百官。古事記、下(允恭)九十「定二賜天下之八十友緒氏姓一也」大祓祝詞「伴男乃八十伴男乎始氏、官官爾仕奉留人等乃、云云」

〜**やそ-の-ちまた** (名) 八十衢　數多アル路。萬葉集、十二廿「海石榴市ノ、八十衢ニ、立チナラシ、結ビシ紐ヲ、解カマク惜シモ」

〜**やそ-は** (名) 八十葉　葉ノ繁リテ多キコト。又、ソノ葉。仁德紀、三十年九月「川隈ニ、立チ榮ユル、モモタラズ、八十葉ノ木ハ、大君ロカモ」

〜**やそ-よろづ** (名) 八十萬　極メテ數多ノカズニ云フ語。ヤホヨロヅ。神代紀、上七十「于レ時八十萬神、會二合於天安河邊一」

や-た (名) 八咫　やたかがみ(八咫鏡)ノ條ヲ見ヨ。

や-だ (名) 亂暴ナルコト。柔順ナラザルコト。又、ソノ癖。好色[illegible]鹿子、元祿二五、「[illegible]言ハネバ時ニやだカアルヤウデ、隱ウゴザンス程ニヒマス」

や-たい (名) 屋臺　屋アル臺。持運ブベク作レル小サキ家。「祭禮ノ踊屋臺」(大阪ニテ壇尻)「屋臺店」

や-だい (名) 矢代　射手ノ矢ヲ圖ニ代フルニ云フ稱。勝負ナドノタメ、射手ヲ二組ニセムトスルトキ、先ヅ射手ヨリ矢一本ヅツ出サシメ、コレヲ二本ヅツ手ニ取リテ、交叉スル樣ニ振落シ、コレ

[illegible]ニ因リテ、上矢ト下矢トヲ定メ、其ノイヅ[illegible]合戦ノ射手ニテ、上矢ノ組ト下矢ノ組ト二作リ競フ。[illegible]トハ矢代ナリ、矢代ヲフリテ、上矢ノ射手、下矢ノ射手、[illegible]ト云フナリ」

やだいじん (名) [矢大神][矢大臣] (一)ぞ[illegible]ノ[illegible]門ノ[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]録(明和、高瑞宗直)下「寺社ノ門ノ左右ニ、矢大臣トテ弓箭ヲ帯シタル人形アリ」(二)[illegible]人ノ[illegible]ニ腰ヲ掛ケ、チヨツト酒ヲ飲ムコト。其容ヲ、矢大臣ニ似タレバ云フト。

やたいち (名) [矢太一] [やたハ、豆腐ノ異名おかべヲ、田楽ノ六觚太(?)ニモヂリ、其六觚太ノ上略、いちハ、一合ノ下略、並タル豆腐ニ酒一合ト注文スル呼聲] 煮賣酒屋ノ異名。人夫ナドノ云フ卑語。

やたいぼね (名) [屋臺骨] (一)商家ノ家構。(二)身代。身上。

やたいみせ (名) [屋臺店] ささみせ(床店)ニ同ジ。路傍ノ辻賣ノ臺ニ屋根ノアルモノ。浮鋪

やだうなみ (副) [矢障] [やだうハ、矢灘ノ意、其此一矢ノムダニナルヲ云フ語] 矢當ニ。ヤダフナニ。盛衰記、廿一、小坪合戦事「敵一人ヲアマタシテ射事有ベカラズ、弱だうなみ(ナルニ)相引シテ誤スナ」

やたかがみ (名) [八咫鏡][八尺鏡] [やたハ八咫ノ約、あた(咫)ノ條ヲ見ヨ] 又、やたのかがみ。三種神器(其條ヲ見ヨ)ノ一。天照大神ノ天岩戸ニ隠レ給ヒシ時、石凝姥命ノ作ラレタルモノト云フ。天孫降臨ノ時、大神、此鏡ヲ授ケ給ヒテ、コレヲ吾御鏡トシテ、吾ヲ齋キ祭ルガ如ク、イツキマツリタマヘト、宣ヒシモノ。御歴代、宮中ノ殿内ニ奉安アリシ[illegible]是ヲ[illegible]ガ、[illegible]セラレシガ、崇神天皇ノ御代、[illegible]伊勢ノ[illegible]宮ニ[illegible]ラセ給フモノ是ナリ。其形圓ク、[illegible]八寸許ナリシヲ[illegible]ジト云フ。[illegible]テ、其[illegible]シ) 古事記、上「[illegible]八尺鏡云云」

やたがらす (名) [八咫烏] [あた(咫)ノ條ヲ見ヨ] (一)[上古、神武天皇ノ御東征ノ際、熊野ヨリ大和ヘ入ラムトシテ、路ニ迷ヒ給ヒシ時、天照大神ノ遣ハシテ、嚮導タラシメラレシト云フ神烏。] 形様メテ大ナリト云フ、故ニ大烏トモ稱ス。古事記、中「[illegible]八咫烏、故其八咫烏引道」[illegible]其八咫烏ノ[illegible]、[illegible]加ヘテ書キタルナラムト云フ」 古事記、序「神倭天皇、經歴于秋津島、云云、大烏導於吉野二」(二)日ノ中ニ居ルト云フ三足ノ烏。金烏。陽烏。倭名抄、一「[illegible]、今按[illegible]陽烏、云云、頭八咫烏、夜太加良須」(三)朝鮮、臺灣ナドニアリト云フ鳥、腹白ク斑アリ、頭ニ丘色ノ羽毛長シ、怒レバ聳起スト。戴勝鳥

やだけ (名) 矢竹 (一)篠ノ類。形、雌竹ニ似テ細ソク、葉ハ、ちまき(ざさ)(粽笹)ノ如シ。高サ、丈ニ過ギズ、幹、強クシテ、節ノ間長ク、多ク矢ノ幹ニ作ル。古今著聞集、[illegible]百七十八、草木部「[illegible]の、一名のだけ、一名やのたけハ、[illegible]一名[illegible]竹トイフ、云云、長サ七尺八九尺ヨリ一丈[illegible]

やたけごころ (名) [彌猛心] 勇ミニ勇ム心。猛氣。謡曲、八島「弓箭ハ恐レズノやたけ心ノ梓弓、敵ニハ取リ落ヘジト、惜シムハ名ノタメ」

やたけに (副) [彌猛] イヨイヨ猛ク。勇ミニ[illegible] 太平記[illegible]高重最後合戦事「敵ノ兵、鎌倉中ニ充満シテ候ヌル上ハ、今ハ矢長ニ思共、不ㇾ可ㇾ叶候」「やたけニ思フ」心ハやたけにはやる」

やた[illegible] (名) [八多[illegible]] 「八多[illegible]」[illegible]ナラム[illegible]、[illegible]ノ[illegible]物ナドヲ負ヒ[illegible]馬[illegible]云ハズ、行ク路ナ、[illegible]、[illegible]「八[illegible]」アレハコトゴト、宮道ニゾスル」

やたて (名) [矢立] (一)矢ヲ入ルル具。[illegible]平なるに、結びつけてつかはしける「[illegible]ナラヌ、やたてノ竹モ、[illegible]セクセシクテ、[illegible]」(二)[矢ト共ニ立ツルヨリ云フカ] 正シクハ、矢立ノ硯。昔、軍陣ニテ、箙ノ中ニ入レテ携フル硯。今ノ懐中硯ノ類。盛衰記、[illegible]リ矢立[illegible]、所司ヲ招キ[illegible]、廿九、行八幡[illegible]中ヨリ矢立[illegible]出シ、[illegible]」(三)轉ジテ、後世、旅行ナドニ、筆墨ヲ仕込ミテ携フル具。小サキ墨壺ニ柄アリ、柄ノ中ニ筆ヲ籠メテ、帯ニ挟ム。石筆。

やたて (名) [家建] 家ヲ建ツルコト。又、其建テ方。ヤノタテ。[illegible]云云、田舎トハ違ヒテ、家造リモ[illegible]」

やだね (名) [矢種] 箙ニ盛リテアル限リノ矢。又、射盡スベキ矢ノ全部。保元物語[illegible]イテ射向ニ當テ」

やたのかがみ (名) [八咫鏡] [illegible]

やたば (名) [矢束] (一)矢束、[illegible](束)トモ云フ。其條ノ(三)ヲ見ヨ。

やたばね (名) [矢束] [illegible]ニ、之ヲ束ヌル緒。盛衰記、廿六、佐殿[illegible]「若又敵ニモヤト思ヒケレバ、弦モ此モ矢たばねトキ、弓ノ弦シメシテ用心セリ」

やだふなみ (副) [矢[illegible]] やだうなみ(矢[illegible])[illegible]

やたま (名) [八田間] [八ハ多キ意、たハつノ轉ツ] 柱ト柱ト、間ノ[illegible]コト、又、ソノトコロ。古事記、上[illegible]、[illegible]八田間[illegible]、[illegible]トハ、凡テ家ノ柱ト柱トノ中間ヲ云リ」

やたら (副) [矢鱈] 「[illegible]」ムヤミニ。ミダリニ。ワイダメナク。イハレナク。ムチャクチャ。[illegible](文化、三馬)二編、下「今此ノ小僧ガウタッタ唄ハ、やたら[illegible]、アレハ[illegible]ノ唄ダノ」

やたらづけ (名) [illegible]

やたらびゃうし（名）［八多羅拍子］〔八多羅ハ彌足ノ義〕雅樂家ノ語、音樂ノ拍子ヲ、タダ早クスルコト。（定リナキヨシ）體源抄、一七十「八多羅拍子」）

やち（名）［野致］田野ノ風致。田舍ラシキ風景。野趣。野情。魏書、茹皓傳「經構樓館、列於上下、樹草栽木、頗有野致」

やち（名）［屋地］（一）家屋ト、土地ト。（二）屋敷ノ土地。沙石集、六、下、第十八條「サラバトモカクモ女房ノハカラヒニシタガハントテ、屋地ヲ賣リテ、用途五六十貫ガ程アリケルニテ」

ヤチ（名）［谷萢］〔あいぬ語ニテハ、沼澤地ノ意ニテ、葦等ヲ生ズル低濕ノ地ヲ云フ、今、北海道、東北地方、及、長野縣南佐久、新潟縣南蒲原、佐渡島ノ方言ニ、やちト云ヒ、鎌倉近傍ニテ、やつ、又ハ、やと、東京附近ニテ、やト云フハ、皆、同趣、同義ノ語也〕沼澤ノ濕地。俚言集覽「津輕ニテ草アリテ水アル處ヲ、やちトイフ、蓮字ヲ訓メリ」物類稱呼、一、天地「谷、相州鎌倉及上總邊ニテ、やつト呼（扇ガ谷、龜ガ谷、等ナリ）江戸近邊ニテ、やト唱フ（澁谷、瀨田谷、等也）」續猿蓑集（元祿）雜「ソノカミハ、谷地ナリケラシ、小夜砧」

やぢ（名）［爺］おやぢ（親仁）ノ上略。

やぢうま（名）［牡馬］〔おやぢうま（老牡馬）ノ上略語、やぢうま、即チ老馬ハ、役ニ立タヌモノニテ、常ニ若キ馬ノ尻ニツキテ歩クヨリ、尻馬トモ呼バレ、ソノ尻馬ガ雷同ノ意ニ轉ジタルモノト、又、一說ニ、やぢうまハ、やんちゃうまノ略轉ニテ、御シ難キ、ダダヲコネル馬ノ意ト〕（一）おやぢ（親仁）馬ノ略。老イタル牡馬　又、強悍ニシテ御シ難キ馬。松の葉（元祿）三、馬方「春ハゴザセノオツヅラ馬ヨ、

明七歳ノ沖鈴等モニ、云云、日本一ノやちうまカタラバナホヨカロ、云云」（二）轉ジテ、己レノ關係ナキコトニ、附和雷同シテ騷グ者ヲ、嘲リ云フ語。又、彌次馬。志りまひ（尻舞）ノ條ヲモ見ヨ。嬉遊笑覽、四、武事「俗ニ父ヲおやぢト云、やぢハ上略也、牡馬一名父馬ト、云云、今言ニ、やぢ馬トイフハ、人ノ尻舞スル者ヲイヘリ、老馬ノ用ニ立ヌ意ヨリ轉レルカ、但シ、尻馬ニノルトイフヲ誤シニヤ」

やちくさ（名）［八千種］種種多クアルコト　數多ノ種類。チクサ　モモクサ。萬葉集、十九、長歌「時每ニ、イヤメヅラシク、八千種ニ、草木花咲キ、鳴ク鳥ノ、聲モカハラフ」

やちくさのはな（名）［八千種花］サマザマノ花、種種ノ花。萬葉集、廿六「夜知久佐能、波奈八移フ、常盤ナル、松ノサ枝ヲ、我ハ結バナ」

やちしね（名）八千稻　數多ノ稻。履歴大嘗祭祝詞「初穗者、十爾母、稻爾母、千稻八千稻爾引居氏、如横山、打積置氏、云云」

やちしほ（名）［八千入］幾度モ染汁ニ浸シテ染ムルコト。チシホ。新拾遺集、十、哀傷「色深キ、袖ノ涙ニ、ナラフラシ、チシホやちしほ、染ムルモミヂ葉」

やちたび（副）［八千度］アマタタビ。イクドモイクドモ。チタビ。古今集、十六、哀傷「先立タヌ、悔イノやちたび、悲シキハ、流ルル水ノ、カヘリコヌナリ」

やちとせつばき（名）［八千歲椿］〔莊子、逍遙遊篇「上古有ニ大椿者、以ニ八千歲爲レ春、八千歲爲レ秋」ノ故事ニ因ル〕長壽ナルニ云フ語。ヤチヨノタマツバキ。大椿。夫木抄、廿九、椿「君ガ代ハ、カラクレナヰノ、深キ色ニ、やちとせつばき、紅葉スルマデ」

やちまた（名）［八衢］〔彌衢ノ義〕幾ツニモ分レタルチマタ。衢ノ數ノ多キト

コロ。神代ニ、高天原ト葦原中津國トノ間ニアリシト云フ辻ヲ、あめのやちまたト云フ。神代紀、下「八達之衢」萬葉集、二十「橘ノ、蔭履ム路ノ、八衢ニ、物ヲゾ思フ、妹ニ逢ハズテ」古事記、上五十「天之八衢」

やちん（名）［家賃］家ヲ貸借スル料。家屋ノ賃貸料。店賃　房租　天保集成絲綸錄、八十三、寬政二年九月「家屋敷讓渡者ノ儀、家賃其外名前書替等、云云」

やちう（名）［夜中］ヨルノウチ。ヨナカ。夜間　春秋、莊公六年四月「夜中星隕如雨」平治物語、二、常盤落事「夜中ニ出テケレバ」

やちよ（名）［八千代］幾千代。多クノ年代。古今集、七、賀「我ガ君ハ、千世ニ八千世ニ、サザレ石ノ、イハホトナリテ、苔ノムスマデ」八千代玉椿ト八、八千歲椿ト云フニ同ジ。

やちょ（名）［野猪野豬］〔正字通「猪、俗豬字」〕ゐのしし（猪）ニ同ジ　南齊書、五行志「童謠云、野豬雖嗚嗚、馬子空閭渠」

やつ（名）［八］やつどき（八時）ノ略。とき（時）ノ條ヲ見ヨ。曾根崎心中（元祿、近松作）「イカナル夢モ短カ夜ノ、八つニナルノハ程モナシ」

やつ（名）［奴］〔やつこ（奴）ノ略カ〕人、又ハ、物ヲ罵リ呼ブ語。アヤツ。コヤツ。ソヤツ。カヤツ。古事記、上三十「於高天原氷椽多迦斯理而居、是奴也」枕草子、十、第百廿九段、田植女の謠「郭公ヨ、己ヨ、カやつヨ、オレ鳴キテゾ、我ハ田ニ立ツ」今昔物語、廿三、第十六語「駿河、云云、ウルセキ奴ゾカシ」

ヤツ（名）［谷］〔あいぬ語、やちノ轉、沼澤地ノ意〕ヤバラ。やち（谷）ノ條ヲ見ヨ。廻歩色葉集、谷「ヤツ」十六夜日記、永仁三年十月廿九日「アヅマニテ住ム所ハ、月影ノやつ（極樂寺地内ナリ）トゾイフナル」謠曲、景清「コレハ鎌倉龜ガ江ガ谷ニ、人丸トマウス女ニテ候」「扇ガ谷」

やつ（數）八　五ト三ト、合ハセタル數。萬葉集、廿、長歌「…」イヌレドモ、十ホ賜ヘ、…ニシアラネバ…淺田「ミナト田ニ、クグヒ也川ヲリヤ、トロチナヤ、トロチナヤ、也川ナガラ、トロチナヤ」

やつあし（名）［八足八脚］足ノ八ツアルコト。又、ソノモノ。（机、餉ナドノ）古語拾遺、八足机、案ハ…ノ具、…服ノ時、…等ヲ設事アリ、凡其祭ニ與ル官人ノ饗ヲモ、八足ニ置トハシタリ」和漢名目…、…、祭器「八脚机」

やつあたり（名）［八當彌當］〔やたらあたりノ約轉〕誰彼トナク、アタリチラスコト。八方ニ怒リヲウツスコト。

やつうち（名）［八打］紐ノ組方ニ云フ語。

やつうめ（名）［八梅］〔一花ニ八雌蘂アル故ニ云フ〕ざろんばい（坐論梅）ノ異名。

やつか（名）［八束八握八拳］〔や（八）ハ彌ノ意ニテ、凡ソノ數ヲ云フ、つか（握）ノ條ヲモ見ヨ〕束ノ八ツ程ノ意ニテ、丈ノ長キコト。古事記、上五十「天之新巢之凝烟之、八拳垂麻弖」神代紀、上十五「八握劍」同、上廿三「八束穗ニ、長田ノ稻ノ、シナヒ初メケン」新古今集、七、賀「神代ヨリ、今日ノ爲トヤ、八束穗ニ、長田ノ稻ノ、シナヒ初メケン」

やつか（名）［矢束］〔束ハ當字ニテ、矢握ノ義、そく（束）ノ條ノ（三）、及つか（握）ノ條ヲモ見ヨ〕矢ノ長サ。保元物語、一、新院御所各門固事「弓手ノカヒナ馬手ニ四寸延ビテ、矢束ヲ引クコト世ニ越エタリ」夏山雜談、二「矢束ヲサダムルハ、指ヲ己カ左ノ乳ニアテ、左ノ手ヲノバシ、指ノサキノアタルトコロニテ定ムベシ」

やつがしら（名）［八頭］（一）燕雀類ノ鳥ノ名。形、鳩ニ似テ、頭ニ、黃ナル羽、數枚アリテ、羽ノ端ニ黑文アリ、常ニハ伏シテ、鳴ク時ニ揮ヒテ、羽扇ノ如シ。眼ノ邊、背ノ上、紫ニシテ、觜、長ク黑クシ

[illegible]中臼ノ[illegible]
[illegible]
三、林産類「最勝ハやつがしらナリ」(二)〔親芋ノ形ヨリ名ヅク〕紫芋ノ一種。柄、葉[illegible]
モノ、[illegible]用[illegible]

〜やつか-はぎ (名) 八束脛 八掬脛 〔踊提[illegible]
[illegible]シテ、走ルコト疾キ故ノ名ナル[illegible]
たりかはぎ(七束[illegible]トモ云フモ同ジ)上古、我ガ國土ニ住ミシ未開ノ民族。土蜘蛛[illegible]
[illegible]
[illegible]人」

やつかびい (名) 矢[illegible](矢[illegible])ニ同ジ。

〜やつか-ひげ (名) 八束鬚 〔彌提鬚ノ義、つか[illegible]〕八掬[illegible]
[illegible]
須佐之男命、不レ知二所レ命之國一而、八拳須至二于心前一[illegible]
別御子)八拳鬚至二于心前一眞事登波受」(鬚ノ大人シクナレルヲ云フ)

やつか-ほ (名) 八束穗 〔彌提穗ノ義、つか(握)、及、やつか(八束)ノ條ヲモ見ヨ〕
[illegible]稲ニ云フ語。長キ稲穗[illegible]
[illegible]八つかほニ[illegible]
ノ、シナヒソメケン」

やつか-まき [illegible]
[illegible]
ナリ、七ク握サニ分タルベシ、ニフセ長クシテ、矢束延スル事、カブラノカラニ限リタルコトナリ」

やつか・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 窶 ウラヤム。ネタム。ソネム。

〜やつがり (代) 僕 やつがれ(僕)ノ轉。
[illegible]
[illegible]僕ヤツガリ[illegible]下官ヤツカリ

〜やつがれ (代) 僕 〔奴我ノ約〕又、やつがり。自稱ノ代名詞。我ノ謙稱。昔ハ
[illegible]
[illegible]
逆狀一也、云云」允恭紀、七年十二月「皇后、云云、妾[illegible]名ヤツカレイロト[illegible]」

や-つぎ (名) 家繼 家名ヲツグコト。アトツギ。家督相續。又、ソノ人。本朝若[illegible]十五年、今年六
[illegible]

や-つぎ (名) 矢繼 (一)矢ヲ弦ニハメカアルコト。前ノ矢ヲ放チタル後ニ、次ノ矢ヲツガフコト。[illegible]
十二、[illegible]イツノ間ニカ、矢繼ツラン」(二)[illegible]
[illegible]

やっき-と (副) 躍起 〔やくきノ音便〕息込ミ勇ム狀ニ云フ語。[illegible]

やつぎ-ばや-み (副) 矢繼早 (一)矢ツギノ早キ狀ニ云フ語。[illegible]
ヨ射テケリ」保元物語、一、新院御所門固事「大力ノ強弓、矢次早ノ手キキナリ」(二)ツヅケザ
マニ疾ク事ヲナスニ云フ語。

や-つくち (名) 八口 わきあけ(脇明)ノ
[illegible]
ルヲモ云フ。貞丈雜記、三、小袖之部「小兒ハ[illegible]
[illegible]
袖ヲ長クスル事ナシ、是レヲわきあけト云フ也、云云、今ハ八つくちト云フ」

や-づくり (名) 家作 家ノ結構。イヘヅ[illegible]
[illegible]
宮有二屋作家屋當如一而、上下已神妙也」

〜や-つ-こ (名) 臣 〔家之子ノ義〕(一)臣。昔[illegible]仕フル人。[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
官司皆是王[illegible]臣」(二)男女ノ、人ニ賤シク使ハルル者。奴婢。[illegible]
「住吉ノ、小田ヲ苅ラス子、賤カモナキ、奴アレド、妹ガミタメニ、秋ノ田苅ラス」倭名抄「ヒハラモル、布留ノ社ノ、神やつこ、昔來ニケリト、知ルラメヤツモ」續紀、廿一、天平寶字二年九月「常陸國鹿島神奴[illegible]八人[illegible]」

〜や-つ-こ (名) 家人 〔家之子ノ義〕長上ヨリ[illegible]
ニ親シミ仕フルモノ。萬葉集、十八[illegible]
[illegible]
ノ[illegible]
家ノ子ナルヲ云フ)

やっこ (名) 奴婢 〔前條ノ語ノ音便〕(一)下男。下部。(二)〔賤民ノ一。私ノ家ノ奴婢(其條ヲ見ヨ)犯罪ニ因リテ官沒セラレタルモノ。或ハ、蝦夷、三韓ノ俘虜、又ハ、歸化人ナドヨリ成ル。其官ニ屬スルヲ、公奴婢トシ、王臣以下、
スベテノ人民ノ所有ノモノヲ、私奴婢[illegible]
[illegible]
レ、自由ヲ得ズ、又、本主ノ賣買スルヲ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
フ。[illegible]八十七、大同四年七月[illegible]
[illegible]奴大伴國[illegible]」(三)〔人ヲ賤ミ罵リテ[illegible]
[illegible]
紀、十三年九月「何處奴、不レ畏レ除」(四)徒罪ニ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]奴ニ賜ハル事アリ」(仙臺ニテ、雨ニヤッコト云フアリ)(七)江戸時代、下部ノ結髮ノ
[illegible]
[illegible]
ノ。(八)小兒ノはんかうぞり。はんかう(半頭)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。(九)奴僕ノ服ノ紋ニ、釘抜ノ紋アルモノ。(十)
[illegible]
穴アルモノ。(十一)奴豆腐ノ略。其條ヲ見ヨ。

やつこ (代) 〔家之子ノ義〕古ヘ、男女[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

やっこ-あたま (名) 奴頭 江戸時代、武家ノ奴僕(馬ノ口取、槍持ナド)、又ハ、商家ノ丁稚ナドノ[illegible]月[illegible]

代ヲ剃リサゲ、兩鬢ト後頂トニ殘シタル毛ニテ、絲鬢ノ如クニシテ、髻ハ頂後ニ結ブモノ。チョンマゲアタマ。心中重井筒(寶永、近松作)上「盆ニ買ウタル踊リノ髻、奴あたまヲ振リナガラ」

やっお・い (形) ヤハラカシ。(安房、仙臺)

やっおおとば (名) 奴詞　德川氏ノ頃、江戸ニテ、山の手奴、町奴、又ハ、六法者ノ、ツカヒシ言葉。生ヌルキ詞ヲ嫌ヒ、片言ヲ好ム。所謂、關東べいナリ。べいべいおとば。六法詞。名乘詞。もさおさば。卽チ、追付ヲかっつく、引卷ヲひんまく、打立ヲうったて、突出ルヲつんでる、涙ヲなだ、事だヲこんだ、珊瑚珠ヲさごおュ、其外、わんざくれ、ふんぞるべいか、ナサケナヤ若衆女ニ離レまらっテ年久シク便リヤおはりゃまらせぬ、ナドノ類。松の葉(元祿)二、六方詞「伊達モウハキモ命ノ內ヨ、サ、ヤガテ死ヌ死ヌ引ぴけ、うん飮メ、騷ゲ、明日ヲモ知ラヌ身ニ」　紫の一本(天和)下、市谷八幡祭「山ノ手ノ奴ト、人ノマネル男ドモナリ、云云、當世はやり物、はやり詞ト云フモ、皆御旗本、山ノ手筋ヨリ出ル也、ソレヲ堺町ヤ木挽町ニテマネテ、諸人ニ見セテカラ、遠國マデモ知ルナリ」歌舞伎ノ暫ト云フ狂言ナド一、つらね(其條ヲ見ヨ)ト云ヒテ、一種ノ詞ヲ述ブル方アリ、コレモ奴詞ナリ。

やっおだお (名) 奴凧　凧ノ一種。奴ノ筒袖着物ヲ着タル狀ニ作リタルモノ。伊賀越道中雙六(天明、近松半二等合作)七「古木ノ如ク鯱張リ返リ、樹ニド、サリ朽木倒シ、忿リ詰メタル奴だお、緋日ノ切レシ如クナリ」

やっおどうふ (名) 奴豆腐 〔奴ノ衣ノ紋ノ方形ナルニ似タレバ云フ〕生ノ豆腐ヲ、立方形ニ切リテ、水ニ漬シオキ、出シテ辛料ヲ加ヘタル醬油ニ漬シテ食フモノ。冷やおトモ云フ。醬油、鰹魚ニテ煮タルヲ、煮やっおト云フ。

やつおのつかさ (名) 官奴司　みやつおのつかさ(官奴司)ニ同ジ。類聚國史、百七、職官部、主殿寮「平城天皇大同三年正月壬寅、詔曰、云云、官奴司併二主殿寮一」

やっおはいかい (名) 奴俳諧　奴詞ヲ用キタル俳諧。一話一言、十五、やっお俳諧の事「近頃、奴俳諧トテ、人ノシケルヲ見シニ、冬ノ事ナリシニ、雲水ニ、アタマかっぽる、氷カナ、トイフ句ニ、又付ケル、おャつつらさむき、雪ノアケボノ」

やっおひげ (名) 奴髭　武家ノ奴ナドノハヤシタル鎌髭。かまひげ(鎌髭)ノ條ヲモ見ヨ。最明寺殿百人上﨟(元祿、近松作)上「ミゾレマジリノ玉アラレ、云云、奴髭ニ氷柱キテ、奧歯ニカジル唐辛」

やっおやみ (名) 一種ノ腫物。おひね(惡核)ニ同ジ。字鏡集「瘰、シヒネ、ヤッコヤミ、コブ」

やっおらさ (副) 又、やっおろせ。重キモノヲ擧グルトキ出ス掛聲ニ云フ語。諸藝太平記ニ「關東ノ、いノやっおらさ、トアリ。よだれかけ(寬永)「又拍子打ツ、柴垣アミヲウツラウツラト見隠レツツ、やっおろせーウメキザメク」(歌舞伎若衆ノ柴垣踊ニミトレテ)

やつおらま (名) 臣等 〔やつお(臣)ノ條ヲ見ヨ、まハ助辭〕やつお(臣)ト云フニ同ジ。舒明卽位前紀「臣等不レ知二其深一」

やっさ (感) カケゴエ、又ハ、ハヤストキニ出ス聲。䔥陸歌(元祿、近松作)源五兵衛おまん夢分船「やさやっさノカラ櫓ノ音モ、耳ニ悲シク還ザカル」

やつさがり (名) 八下　やつすぎ(八過)ニ同ジ。鳩翁道話、二、下「日ザシヲ見レバ、ハヤ暮スギ、腹ノ時計ハ八つさがり」

やつざき (名) 八割　人體ナドヲ、ズタズタニ切リ割クコト。寸斷。新可笑記(元祿、西鶴)一「其理明カナル時ハ、宮內ガ五體、八つざきニ成シテ、世ノ掟ヲ正シ給ヘ」

やっさもっさ (名) 〔やるさ、もどすさノ略音便、いくさくさノいさくさト同趣、佐渡ニテ、やかもか〕カナタコナタト、爭ヒモツルルコト。上ヲ下ヘノ騷動。ゴタゴタ。イサクサ。紛糾　浮世風呂(文化、三編)二編、下「ソノ上ニノヤ、綿襖ノお粕ハ、カタヅイタ先カラ、出ルノ引クノト、やっさもっさガ盛ッテ、家內中コネ返スハナ」

やつし (名) 俏　(一)ヤツスコト。(二)やつしがた(俏形)ノ略。東海道中膝栗毛(文化、一九)七編、下「アタマハ卷鬢ニテ、芝居ノやつしト云フ髮ナリ」

やつしがき (名) 俏書　字ノ畫ヲヤツシテ書クコト。又、其書キタルモノ。賀古教信七墓廻(元祿、近松作)五「カクシシノンデカクシ文、替字、替名ノやつし書き」

やつしがた (名) 俏形　歌舞伎芝居ニテ、遊冶子、又ハ、美男子ナドニ扮ッ者。芝居ノ役者ノ美少年ノスガタ。略シテ、やつし。　淨

たつしぐるま (名) シノビグルマ。

やつしじ (名) 俏字　ヤツシタル字。畫ヲ省キタル文字。略字。省字　省文

やっしっし (感) カケゴエ、又ハ、ハヤシヲスルトキニ出ス聲。平假名盛衰記(元文、文耕堂等合作)三「櫓ノ音ヲ押シ、押シ、オット心得、やし、し、シシや、しっし、三段ト漕出ス」

やつしろもの (名) 八代物　神ニ奉ル八種ノ代物。又、ヤツモノ。儀式、五、鎭魂祭儀「大膳職造酒司供二八代物一」

やつしろやき (名) 八代燒　陶器ノ一種。肥後國、八代町ノ產。素地、淡褐色ニ、白キ模樣ヲ成セルモノ多シ。寬永九年、細川氏ノ肥後移封ノ後、歸化ノ朝鮮人、上野喜藏ノ長子忠兵衛ト、次子藤四郎トガ、同國八代郡高田鄕ニテ燒キ創メタルモノ。高田燒トモ云フ。

やつ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 俏扮 〔やつるノ他動〕(一)窶ルルヤウニナス。窶ヲヤッヤッシク變フ。目立タヌヤウニ、殊更ニ、麁末ナル裝ヲナス。人ニ忍ブコトアルニ形ヲカフ。アラヌ狀ニカフル。俏毀　微服　源、五、若紫三「アヤシウモ、アマリやつしケルカナ」(二)文字ノ畫ヲ省ク。クヅス。略字。俏字　省文　三世相(貞享、近松作)四「文字一字、云云、やつして書ケバ、佛ノ五體ヲ破ルトカヤ」(三)遊冶キタル姿ニ出立ツ。メカス。ヨソホフ。婚節　(四)勞ス。疲ス。伊呂波打試「姿ヲ作ラバ背品姿ヲ、イヤヨ白姿ヤ身ヲやつす」

やつすぎ (名) 八過　(一)ヤツドキ、卽チ今ノ二時ヲ、過グルコト。ヤツサガリ。淀鯉出世瀧德(寶永、近松作)上「天下ハ夜ナカ八つ過ぎ、廓ハ晝ノ眞中ヤ」(二)フルビカカルコト。色ナドノ褪ムルコト。又、其モノ。ナナツサガリ。浮世風呂(文化、三編)二編、下「甚三紅絹ノ、八つ過ぎカト云フ身ゴロガアッタガ」

やつちゃ (名) 八茶　朝茶子ニ對シテ、八時(午後二時)ニ食フ茶子。又、ソノ飯。(大阪地方ノ方言)あひだくひ(間食)ノ條ヲモ見ヨ。(婦人語ニ、おやつト云フ)浪花襍誌、街迺噂、二「ソレヨリモマダ江戸ニナイコトガアリヤス、暮カラ夜ヘカケテ、日ノ長イ時分ニナリヤスト、晝飯カラ夜食ノ間ニ、又飯ヲ一度喰ヒヤス、是レヲ八つ茶トモ、小書トモイヒヤス、京都ニ

テハ、ケンズイトイヒヤス」

やっちば [illegible]

やっつ (名) 八〔やつノ音便〕やつ(八)ニ同ジ。

やっつ (數) 八〔やつノ音便〕やつ(八)ニ同ジ。

やづつ (名) 矢筒 矢ヲサシ入レテ置ク[illegible]太サ八寸九寸ノ竹可ㇾ然」

やっつける ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下一) [illegible]〔やりつけるノ音便〕[illegible]メテ云フ語。オコナフ。スル。遂行。

やつで (名) 八手 (一)五加科ノ常綠灌木ノ名。叢生ス、高サ丈餘、[illegible]ニシテ、形、掌狀、略[illegible]團扇ノ如シ。冬、小白花、簇リ開ク、[illegible]狀ナリ。花後、實ヲ結ブ、熟シテ黑色トナル。又、テングノハウチハ。金剛纂 八角金盤 (二)次條ノ語ノ略。

やつであみ (名) 八手網 八本ノ手ノアル網、四手網ニ更ニ四本ノ手ヲ添ヘタルモノ。略シテ、やつで。[illegible]

やってくる (動) 遣來 〔佐賀ニテハ、來ルコトヲやるト云フ〕きたる(來)ト云フニ同ジ。此方ヘ來ル。

やってのける (動) 遣除 〔やりてのけるノ音便〕ヤリツケル。ヤリトホス。爲シ遂ゲル。遂行スル。

やっと (副) 〔現とノ轉、力ヲ入ルルヨリ云フ〕(一)辛ウジテ。ヤウヤウノコトデ。エンヤラヤット。セイゼイ。セイサイ。(二)タント。ズット。澤山。[illegible]

やっとう [illegible] 劍術。擊劍。文政の川柳「やっとうニ、マキルヤウナリ[illegible]」

やつどき (名) 八時 略シテ、やつ。昔ノ時ノ名。とき(時)ノ條ヲ見ヨ。

やっとこ (名) 鋏 (一)〔燒床鋏ノ略音便ナラムト云フ〕かなばし(鐵箸)ニ同ジ。[illegible](二)針線、金屬板ナドヲ[illegible]、小細工スル時ニ用ヰル工具、形、鋏ノ如クニシテ、挾部ハ長方形ヲナセルモノ。ヤットコバサミ。

やっとこさ (副) ヤットノコト。辛ウジテ。ヤウヤク。ヤウヤウ。

やっとこせ (副) (一)ヤウヤウ。辛ウジテ。ヤウヤク。(二)重キ物ヲ動カストキナドノ掛聲ニ云フ語。ヤッコラサ。

やっとこせ (感) 〔芸囃子ノ掛聲、[illegible]ノやあとおせノ音便〕踊ノ囃子ニ云フ語。すみよしをどり(住吉踊)ノ條ヲ見ヨ。

やっとこばさみ (名) やっとこ(鋏)ニ同ジ。

やっとな (感) カケゴエニ發スル語。狂言記、文相撲「イヤイヤやっとな、イヤイヤやっとな」同、[illegible]「[illegible]ナガラ手ヲ取テ[illegible]イ、心得タ、ゾリヤ立テ、やっとな、ハア醉ッタサウナ」

やっとん (名) をどり(踊)ノ異名。

やつのくるしみ (名) 八苦 はっく(八苦)ニ同[illegible]八つの苦しみ離レズ」

やつのすぶるつかさ (名) 八統官 [illegible]省ニ同ジ。きゃう(省)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。孝德紀、大化五年正月「[illegible]八省百官」

やつはし (名) 八橋 (一)モト三河國ノ[illegible]ニ、橋八ツ渡セルナリ。コレ、カナタコナタヘ引キワケタル堰ノ流レヲ、越エム料ニカケタル橋ノ、[illegible]八ツアリ[illegible]。[illegible]折レ折レ[illegible]提シテ、[illegible]語、第九段「水ユク川ノ蜘蛛手ナレバ、橋ヲ八ツ渡セルニヨリテナン、八橋トハ云ヒケル」(二)八橋煎餠ノ略。京菓子ノ名。小麥粉、[illegible]糖、[illegible]ナドヲ材料トシテ製シタル煎餠、[illegible]ノ形ニ[illegible]、長方形ヲナス。京都、聖護院ノ名產。(三)名香ノ名。ぢんかう(沈香)ノ一種。

やつはしおり (名) 八橋織 一種ノ絹ノ織模樣ノ名。經緯トモ生絲ヲ用ヰ、方向ノ反對ナル綾織組織ヲ組合ハセテ、方形ノ紋樣ヲ顯ハシタルモノ。初、元祿年間、仙臺藩主伊達綱村、[illegible]命シ、絹地ニ橋形ヲ織レルヨリ名アリト。

やつはしりう (名) 八橋流 (一)箏曲ノ流派ノ一。寬文ノ頃、陸奧國ノ人、八橋檢校城秀ノ創メタルモノ。つくしごと(筑紫箏)ノ條ヲ見ヨ。(二)三味線曲ノ一派。八橋檢校ノ箏曲ヨリ移シ創メタルモノト云フ。大ぬさ、一、三味線之起「加賀都ハ柳川[illegible]、城秀ハ八橋[illegible]トナレリ、ヲ二イタリ三味線ニオキテ、柳川流、八橋流トイフハ是也」

やつばち (名) 八桴 八撥 〔ヤツハ西ノ音〕(一)舞踊ノ名。羯鼓ヲ頸ヨリ胸ニカケテ、左右ノ手ニ兩ノ桴ヲ持チテ、鼓[illegible]

やつはながた (名) 八花[illegible] (一)八方ニ[illegible]、花瓣ノ如キ角ノ八ツアルモノ。[illegible]八[illegible]一條院「今ヤウノアフヒ、やつはながたノ鏡、云云、ソレハキラメケド、クモリヤスクゾアル」(二)[illegible]十文字八[illegible]ニ切ッテ圖ル」

やつはなざき (名) 八花崎 八花形[illegible]八花崎、徑弘一尺四寸」

やつばら (名) 奴原 奴儕 〔ばらハ接尾語ノ複數〕ヤツドモ。ヤツラ。(人ヲ卑メテ云フ) 竹取物語[illegible]やつばらヲ[illegible]ジトノタマヒテ、船ニ乘リテ、云云」

やっぱり (副) やはり(矢張)ノ音便訛。

やつびゃうし (名) 八拍子 (一)あまだれびゃうし(雨垂拍子)ノ異稱。(謠曲ニテ) (二)[illegible]八打[illegible]、拍子[illegible]ミケルニ、羽左衞門家ニ四ツ竹、八ツ拍子ト云ヘルコトアリ[illegible]

やつぶさのうめ (名) 八房梅 梅ノ一種。[illegible]、一蕚ノ内ニ八箇ノ實ヲ結ブモノ。サレド、多クハ落チ

テ、煎スルモノハ一二三ナリト、越後國、北蒲原郡、小島ニアルモノ名高シ、[illegible]梅ヲモ參見セヨ)やつうめ。やつぶさうめ。八房梅[illegible]云云、又一種ヤツムメ、一名やつぶさむめト云アリ、越後ハ梅ト云地、親鸞上人ノ配所ノ寺ニアリ、越後七不思議ノ一ツナリ、一蒂ノ内、八實ヲ結ブ、云云」

やつ-ふぢ (名) [八藤] 織模樣ノ名。 當代裝束抄、表袴[illegible]

やつ-ぼ (名) [矢壺] 矢ヲ射ル時、ネラヒ定ムル所。ヤドコロ。 保元物語、二、白河殿攻落事「思フやつぼヲアヤマラズ、下野守ノ冑ノ星ヲ射削リテ、云云」

や-づま (名) [屋端] 屋ノつま。家ノ軒ノつま。 夫木抄、廿四、沼「見渡セバ、葺カヌやづまモ、ナカリケリ、淺野ノ沼ニ、引ケル菖蒲ヲ」

やつ-まと (名) [八的] 射術ノ語。騎射ノトキ、花、扇、小刀、楊枝等ヲ的ニ八所ニ立ツルコト。又、其的。 小右記、寛弘二年五月十四日「出馬場、左右近衞、射、各二人、又一兵、次令馳三疋馬、次令射八的」

やつ-むね (名) [八棟] 次條ノ語ノ略。 足利治亂記、應永十五年「天子御座ノ殿ヲバ、八棟ニ作リテ、八龍ヲ立テ、金色ニイロドリタリ」

やつむね-づくり (名) [八棟造] 神社、又ハ、城ノ天守閣ナドニ、棟ノ搏風ヲ、四方ニ、二ツヅツ、都合八箇ヲ作リ出セルモノ。略シテ、やつむね。 日光山志、二、新宮權現本社、南向八棟造、五間四方」

やつ-め (名) やつ(奴)ヲ、イタク卑メテ云フ稱。 著聞集、十七、變化「酒ノミ罵リテ云フヤウ、イカデカ、オノレホトノ奴めハ、大臣家ヲバ、忝ク打チ矣ラセケルゾ」

やつめ-うなぎ (名) [八目鰻] [體ノ兩側ニ七箇ノ鰓孔アルヲ誤リ認メテ、眞ノ目ト合ハセテ八目鰻ト云フ] 魚類中ノ圓口類ノ一。うなぎ(鰻)ノ類。寒中ニ卵アルヲ異ナリトス。北國ノ湖河ニ産ズ、形、うなぎノ如クニシテ、赤褐色ナリ。骨格ハ全ク軟骨性ニテ、目ヨリ下ノ兩脇ニ、七箇宛ノ鰓孔並列シ、圓形ノ口ニハ卸金ノ目ノ狀ナル齒ヲ生ジ、舌ニハ更ニ鋭キ強齒ノ櫛比スルアリ、コレラノモノヲ以テ、他ノ魚ノ身體ニ嚙リ付キ、皮ヲ削リ、血ヲ吸ヒ肉ヲ食フトゾ。産卵期ニハ、巢ヲ作ラムタメニ、河底ノ小石ヲ動カシ、其處ニ棲ムト云フ。然レドモ沙ト石トノ必ズ混ジタル部分ヲ選ビ、石ノミヲ周圍ニ片付ケテ、一種ノ壘ヲ築キ、内部ニハ、沙ノミノ平地ヲ作ル。體長、一尺四五寸ニ達ス。食用トシ、又、鳥眼ノ藥トモス。

やつめ-かぶら (名) [八目鏑] [八目鳴鏑] 鳴鏑ノ鏃ニ、穴ノ多クアルモノ。 倭名抄、十三、征戰具「鳴鏑、八目鏑、夜豆女加布良」 神代紀、下、十七「副持八目鳴鏑(又帶頭槌劒)」

やつめ-さす (枕) [八雲立] [やつめハ、八つ雲ニテ、さすハたつト同ジ] やくもたつ(八雲立)ニ同ジ。 古事記、中(景行)四十八「夜都米佐須、出雲建ガ、佩ケル太刀、ツヅラサハマキ、サミナシニアハレ」

やつめ-の-わらんづ (名) [八目草鞋] [目ハ草鞋ノ乳] 又、やつめのわらんぢ。やつめわらんぢ。草鞋ノ乳ノ、八ツアルモノ。(居龍工隨筆) 修驗道ノ山伏ナドノ穿ツモノ。 謠曲、安宅「サテ又八目の草鞋ハ、八葉ノ蓮華ヲ踏マヘタリ」

やつめ-わらんぢ (名) [八目草鞋] 前條ノ語ニ同ジ。 [illegible]つ目わらんぢノ紐[illegible]ハ、[illegible]ノ御修行」

やつ-やつ-し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [窶] [やつれやつれしノ略] 甚ダ窶レタリ。貧シキ姿ナリ。イタクミスボラシ。 名義抄「窶、ヤツヤツシ」(字類抄、同ジ)

や-つ-よ (名) [彌世] アマタノ年。多クノ代。ヤチヨ。 萬葉集、廿、卅二「アヂサヰノ、八重咲ク如ク、彌都代ニヲ、イマセ我ガセコ、見ツツシヌバム」(古義ノ訓)

やつら-の-まひ (名) [八佾舞] [八人ヅツ八列ニ竝ビ舞フ故ニ云フ] (やついつ) (八佾)ニ同ジ。 皇極紀、元年十二月[illegible]大臣蝦夷、立己祖廟於葛城高宮、而爲八佾之儛」

やつ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [窶] (一)[瘦セ連ルル義] 瘦セ衰ヘテ、ヤツシクナル。人ノ形容ノオトロフ。ヤツヤツレル。 憔悴 源、五、若紫「深キ山ノ中ニゾ習入リ給ヒケル、云云、イタウやつれ給ヘレド、云云」 (二)[破レ連ルル義] 狀、惡クナル。事殺ギタリ。衣類ノ萎ビナル。 侘殘 神代紀、下、十「日以憔悴[illegible]之日、[illegible]」 源、四十四、竹河「イトシノビテ、御供ニ人ナドモナク、やつれテオハシケリ」

やつれ (名) [窶] (一)ヤツルルコト。ヤセ衰フルコト。 憔悴 [illegible]「サバカリ物ヲ思ヒシツツ、限ニやつれ給ヘレド」 (二)コトソギタルコト。麁末ニナルコト。 源、九、葵、十三「心ヤマシキヲバサルモノニテ、カカルやつれヲソレト知ラレヌルガ、云云」

やつれ-すがた (名) [窶姿] ヤツレタル姿。憔悴シタル容姿。 源、九、葵、四十「ニビ色ノ御下

[illegible]ソヒヨリモ、ナマメカシサ、マサリ給ヘリ」

やつれ-ば・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [illegible]ヤツレテ見ユ。[illegible] 源、[illegible]「[illegible]マノ、イトやつればみ、タダアリナルヤハアルベキ」

やつ・をる (動) [illegible]

やつ-わり (名) [八割] [illegible]斗[illegible]、八分セルモノ。又、ソノ酒樽。即チ、五升樽。

やつ-を (名) [八岑][八峯] [を(峯)ノ條ヲモ見ヨ] 多クノ峯峯。重リタル峯。 萬葉集、十九「足引ノ、八峯ノ雉、鳴[illegible]」

やつを-の-さと (名) [illegible]

や-て (名) [矢手] [矢ヲ番フ手ノ意カ] めて(馬手)ニ同ジ。 丹生[illegible]、矢手者、右也」

や-てい (名) [野亭] 小休ミ用ノ野中ノ小家。野ニアル小休憩所。 杜甫、奉先劉少府新畫山水障歌「野亭春還雜花遠、漁翁暝踏孤舟立」

や-てう (名) [野鳥] 野ニ棲ム鳥。又、野ニ居ル鳥。 [illegible]

や-と (名) [野渡] 野原ノ川ノ渡場。又、田舍ノ渡場。 [illegible]

ヤト (名) [谷] やち(谷)ノ條ヲ見ヨ。

や-ど (名) [宿] [屋處ノ義] (一)[家] スミカ。我ガ宅。 萬葉集、八、四十「[illegible]、奈良ノ山ナル、黑木モテ、造レル室戸ハ、ヲレドアカヌカモ」 (二)[宿] 宿ルコト。又、宿ラシムルコト。

[illegible] 以 [illegible]
[illegible] 中 [illegible]
[illegible]
ニ對シテ、己レガ家ヲ稱スル語。〔宿サ
ガリ〕(五)奴婢ノ家許請人トナル家
[illegible]
ニ對シテ呼ブ語。[illegible]
[illegible]

やど (名) [屋戸] 家ニ閾スル戸。家ヲトザ
[illegible]
ヌムト云フ人ヲ」(古義ノ訓)

やど [illegible]
ヘノマヘ。オクグヮイ。萬葉集、十四[illegible]
ノ、生ヒタル屋外ノ、夕影ニ、鳴クコホロギハ、聞ケ
[illegible]

やどあづけ (名) [宿預] 江戶時代、地方
ヨリ出府シタル訴訟人ニ私曲アルトキ
[illegible]
[illegible]

やどいり (名) [宿入] やぶいり(藪入)ニ
同ジ。

やどうか [illegible]
[illegible]
云フ間ノコトゴトシケレバ、やどうかト呼ブ」

やどおり [illegible]
[illegible]
行クコト。ヤブイリ。又、ヤドサガリ。
[illegible]

やどがへ (名) [宿替] 宿所ヲカフルコ
[illegible]

やどかり (名) [宿借] (一)家ヲ借リテ住
[illegible]
カンナ。今又、オバケガヒ。海岸ニ生
[illegible]
大小一對ノ螯ヲ有シテ、螢ニ似タリ。
腹ハ少シ長クシテ、蜘蛛ノ如ク、脚ニ爪
アリ、空ナル螺ナドノ殼ヲ借リテ、其中
[illegible]
ニノ如クニシテ、ミナノカラノ内ニヤドル物也、云
云、俗ニ、ガウナトモ、やどかりトモ云」

やどぐるま (名) [宿車] 〔辻車、抱車ナド
[illegible]
[illegible] 又、ソノ車夫。

やどぶ [illegible]
[illegible]
挾ム具、形、鋏、如ク、可拔ノ如シ。
ヤットコ。

やどぶろ (名) [矢宿] [illegible]
[illegible]
[illegible]
どぶろニ矣ルモノ、射ハヅスト云フ事ナシ」

やどぶろ [illegible] やぶ(宅)
ニ同ジ。

やどぶろとぢ (名) [八所綴] 編笠ノ一種。
[illegible]
[illegible]

やどさがり (名) [宿下] 宮女、奴婢、ナド
ノ、暇ヲ乞ヒテ、暫シ己レガ家、又ハ、請
人ノ所ナドニ歸ルコト。ヤブイリ。ヤ
[illegible]
ノ親ニヘ宿下リヲシテ、云云」

やど・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [宿] (一)ヤ
ドルヤウニナス。宿ラシム。泊ムル。
[illegible]
[illegible]
[illegible]
す」 (三)〔トドム。オク。トマラシム。
[illegible]

やどせ [illegible]
幼キ兒。萬葉集、九[illegible]
[illegible]

やどせん [illegible]
錢)ニ同ジ。ヤドチン。宿料。房錢(燕
[illegible]
[illegible]ハ、今夜ノ宿錢」

やどちん (名) [illegible]
ジ。(二)やちん(家賃)ニ同ジ。[illegible]
[illegible]
宿賃ハ相對次第可致由、被仰渡候」

やどちやう (名) [宿帳] [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
出ヅル、コレハ宿帳トテ、旅人ノ國所ヲ記ス事也」

やどな (名) [雇女] [illegible]
[illegible]
居ノ略ト〕一時雇入ルル仲居ノ女。客
[illegible]
客ニ侍ルモノ、(京[illegible])

やどなし [illegible]
[illegible]
[illegible]

ヤトのかみ (名) [夜刀神] 〔谷ノ神ノ意
[illegible]
[illegible]
モ多ク住ミタルナルベシ、故ニ之ヲ名
[illegible]
蛇ノ異稱。[illegible]
[illegible]

やどはかす [illegible]
ヤトハス。ヤトハシム。雇ヒ入レシム。
[illegible]
下人ニ人やとはかし給へ、四五日ガ程ニ歸スベシ」

やとひ (名) [雇] (一)ヤトフコト。又、ヤ
トハレタル人。(二)官署ナドニテ、臨
時ニ雇ヒテ使用スルモノ。

やどひき [illegible]
[illegible]
人ヲ引キテ、宿リヲススムルコト。又、
ソノモノ。キャクヒキ。[illegible]
[illegible]

やと・ふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) [雇傭] 賃ミ
[illegible]
[illegible]
二年三月[illegible]
[illegible]

やどふだ [illegible]
其所ニ宿泊スル人ノ姓名トヲ、記シタ
ル札。太平記、八、山徒寄京都ノ事[illegible]
[illegible]
[illegible]
(二)己レノ姓名ナドヲ記シテ、門口ニ

揚グル札。門標。門札。標札。[illegible]（元祿、西鶴）三「一町殘ラズ法華ノ宿札ヲ出ダシテ、朝暮題目ヲ唱フ」

や-どまり（名）「矢止」鎧ノ名所。胴ノ前面ノ上端ニテ、横ニ左右ニ亙リテ、染革ニテ包メルトコロ。即チ、胸板ノ一端。其ドノサカヲ弦走（ツルバシリ）ト云フ。

や-どめ（名）［矢止］矢ヲ射ルコトヲ、停止スルコト。（又、鐵炮ナドニモ云フ）良將達徳鈔、八、豐公賜二首鎧居勝一書「假令家康、數萬ノ[illegible]ト[illegible]打ツトモ、[illegible]クバ、[illegible]、必ズ[illegible]ニテ打ツ事ナカレト、矢止セシ也」

やど-もと（名）［宿許・宿元］（一）住所。居所。狂言記、簑の目「某ハ宿元ニ大切ナル物ヲ忘レテ參ッタ」（二）宿ル所。宿泊シテ居ル所。（三）奴婢ナドノ宿トスル所。（請宿ノ類）好色一代男（天和、西鶴）二、「香具賣、云云、宿元ヲ聞ケバ、芝神明ノ前」

やど-もり（名）［宿守］（一）其家ノ主人。イヘヌシ。源、十八、松風「やどもりノヤウニテアル人ナ、云云」（二）家ノ留守番。家ノアヅカリ。留守居。源、五十、浮舟九三十「ココノやどもりニテ住ミケル者、云云」

やど-や（名）［宿屋］宿錢ヲ取リテ、旅人ヲ宿スヲ業トスル家。トマリヤド。ハタゴヤ。旅店 旅館 客舍 逆旅

やどり（名）［宿］（一）［ヤドルコト。萬葉集、十五卅「イハタ野ニ、夜杼里スル君、家人ノ、何處ト吾ヲ、問ハバ如何ニ云ハム」（二）［旅ニテ、夜、宿ル家。旅宿。旅宿 萬葉集、十四卅「東路ノ、手兒ノ呼坂、越エカネテ、山ニカ寐ムモ、夜杼里ハナシニ」（三）ほしのやどりノ略。せいざ（星座）ノ條ヲ見ヨ。

やど-り（名）［宿下］やどおり（宿下）ノ略。

やどり-ぎ（名）［宿木］又、ホヤ。ホヨ。松、檜、梅、櫻、桃、梨、桑、槐、[illegible]ノ枝ノ間ニ寄生スル特殊ノ常綠灌木。枝葉ニ生シテ、他木ノ枝ヲ挿シタルガ如シ、花ヲ開キ、實ヲモ結ブ。形状、樹ニ因リテ異ナリ。寓木 寄生 寄木生 倭名抄、廿、木類「寄生、夜止里木、一云、保夜」源、四十八、宿木「やどりぎト、思ヒ出デズバ、木ノモトノ、旅寢モ如何ニ、サビシカラマシ」

やどり-の-つかさ（名）［宿官］古ヘ、太政官ノ外記ナドノ、五位ニ任ジテモ、直ニ顯職ニ任ジ難キ時ハ、暫シ國司ナドニ任ズルモノト云フ。枕草子、八、第九十段「やどりのつかさノ權ノ守」

やど・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［宿］（宿ヲ活用ス、或ハ云フ、宿入る、ノ略ト）（一）［宿トシテ居ル。トドマル。夜、泊ル。旅ニテ、寐ヌ。字類抄「次、ヤトル、宿、舍、寓、已上同」萬葉集、九廿「白鳥ノ、鷺坂山ノ、松カゲニ、宿而行カナ、夜モフケユクヲ」（二）トマル。居ル。古今集、十五、戀「アヒニアヒテ、物思フ頃ノ、我袖ニ、宿る月サヘ、ヌルル顏ナル」（三）星、其座ニ移リ居ル。星次 （四）孕ム。ミモチニナル。孕 「兒宿る」胤宿る」

やど-ろく（名）［宿六］（擬人語、甚六、才六ト同趣）家ノ主人、即チ、亭主ノ譯名。（稍、卑メテ云フ）ぢんろく（甚六）ノ條ヲモ見ヨ。

やど-わり（名）［宿割］泊ルベキ宿ヲ割リアツルコト。嫗山姥（正德、近松作）一「今宵、此ノ宿御泊リト、宿割ノ侍札ヲ張リ」

やど-を-か（名）［宿借］（宿を借らうノ下略、明衣、あかはとり、狩競、かりくら、ト同趣）旅行スル高野聖ノ異名。夜、人家ニ就キテ、宿を借らむト呼ベルヨリ云フ。[illegible]

や-な（名）［簗］（屋魚（ヤナ）ノ義ナドト云フ。）周禮、天官篇、[illegible]「梁、[illegible]也、偃レ水爲ニ關空、以レ笱承ニ其空、云云、[illegible]、以レ簿承ニ其關孔、魚過者、以レ簿承取レ之」簗ハ和字）魚ヲ捕ヘムガ爲ニ、川瀨ニ設クルモノ。木ヲ打チ竝ベテ水ヲ塞キ一部ヲ明ケテ、ソコニ簀ヲ斜ニ張リテ、上流ヨリ流レ來ル魚ヲ、簀ノ上ニ受ケテ捕ル裝置ノモノ。多クハ鮎ナリ。又、魚ノ産卵期ニ因リテ、川ヲ上ルモノヲ捕フルニ設クルヲのぼりやな（上梁）ト云ヒ、下ルニハ、くだりやな（下梁）ト云フ。倭名抄、十五[illegible]釣具「魚梁、夜奈」字類抄「魚梁、ヤナ」神武即位前紀、八、注「梁、此云二揶奈一」夫木抄、三十三、魚梁「ミナセ川、ユクセノ水ノ、くだりやな、春ノヒヨリニ、ハヤサシテケリ」

や-な-あさって（名）やのあさってノ音便轉。

や-なあい（名）［屋内］イヘノウチ。家内。家中 オクナイ。古語ニ、やぬち。運歩色葉集「屋内、ヤナイ」好色一代男（天和、西鶴）六「朝日ヨリ晦日迄ノ勤メ、やない繁昌、云云」

やない-ば（名）［柳葉］（形、垂柳ノ枝ノ撓ミタルニ似タレバ名トス）鐙ノくつおみ、即チ、足ノ乘ル所ノ、マハリノ稱。鐙ノ舌ノ覆輪 今川大雙紙、馬に付く式法之事「鐙ノ名所ノ事、云云、舌コミノマハリヲバやないば、向フヲバ鳩胸ト云也」安齋隨筆、十、鐙名所、云云、鐙ノ端廻リヲやないばト云フハ、柳端ナリ、端ノ左右へ折レ曲リタル形ガ、シダレ柳ノ枝ノタワミタルニ似タレバナリ」

やない-ば（名）［やなぎばさノ音便略］

[illegible]條ノ[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]名目やないばこ[illegible]ナリ、[illegible]トモ云ヘリ」ト見エタリ）[illegible]字考節用集、八、器財門「柳筥、ヤナイバ」

やない-ばこ（名）［柳筥］［やなぎばこノ音便］柳ノ細枝ヲ採メテ編ミ作レル匣ト云フ。蓋アリ、[illegible]、其蓋ヲ物ヲ載スル臺ニ用キル。猶、硯蓋、廣蓋ノ如シ。略シテ、やないば。字類抄「[illegible]、ヤナイバコ」續紀、九、養老六年十一月「銅鋺器一百六十八、柳箱八十二」榮花物語、八、初花「物ノ數、書キタル文、やないばこニ、入レテ[illegible]」[illegible]元年十一月十五日、[illegible]座右、[illegible]世、別ニ、柳ノ細枝ヲ、紙縒ニテ板ト脚トニ編ミ結ビテ、小机ノ形ニ作リテ、物ヲ載スル臺トスルヲ云フ。更ニ、後ニハ、三角ナル白木ノ棒ヲ竝ベテ、板ニテ脚ヲ作レルヲモ云フ。共ニ、冠、鞠、硯、短冊、ナド載スル用トス。

やながは-なべ（名）［柳川鍋］どぢやうなべ（泥鰌鍋）ニ同ジ。守貞漫稿、四、生業、上「鰌汁、云云、骨拔鰌鍋ノ始ハ、文政初メ比、江戸南傳馬町三丁目ノ裡店ニ住居セル萬屋某ト云者、鰌ヲ裂テ骨首及ビ臓腑ヲ去リ、鍋煮ニシテ賣ル、其後、天保初比、横山同朋町ニテ、是モ裡店住ノ四疊許ノ所ヲ客席トシテ賣リ始メ、家號ヲ柳川ト云フ」

やながは-りう（名）［柳川流］三味線ノ流派ノ名。寛永中、江戸ニテ、柳川檢校加賀都ヲ祖トスルモノ。[illegible]大ぬさ、一、三味線之起「寛永ノハジメ、攝州加賀都、城秀トイフ座頭兩人、世ニ三味線ヲ引出ス、二、其規範ナル事、古今ニ獨歩セリ、云云、加賀都ハ柳川撿挍、城秀ハ八橋撿挍トナレリ、今ニイタリ三味線ニオヰテ、柳川流、八橋流トイフハ是也」

や-なぎ（名）［柳・楊］［普通ニハ、柳ヲま

[illegible]

海原、うたばら）矢ノ箆トスベキ木ノ[illegible]シ」（一）【普通ニやなぎト云フハ、志だりやなぎ（枝垂柳）ノコトナリ。本種ハ[illegible]高サ二三丈[illegible]枝[illegible]地ニ至ル、水濕ノ地ニ繁茂シ、又庭園ナドニ植ヱラル。春日、[illegible]先チテ開花シ、色ハ[illegible]果實ハ、熟スレバ[illegible]飛散シテ雪ノ如シ。一名、絲柳。垂柳。[illegible]柳 本草和名、下「[illegible]」[illegible]打ナナビク、[illegible]シ、吾ガ門ノ、柳ノ梢ニ、鶯鳴キツ」（二）【又、[illegible]】楊柳科ノ落葉喬木ノ名。[illegible]多シ。高サ一二丈[illegible]枝硬クシテ起キアガル。古ヘハ採リテ、矢ノ箆トセリ。葉ハ披針形ニシテ、緣ニ鋸齒アリ、[illegible]背白クシテ互生ス。花ハ四月ノ初ニ開ク、尾ノ狀ノ穗ヲナシテ、色白シ、絮ナシ。ネコヤナギ[illegible]。楊柳 水楊 今ハ志だりやなぎ（垂柳）ニ對シテ、專ラ川やなぎトノミ云フ。古ヘモ、やなぎトハ、二種ノ總名ナリシガ如ク、楊ノ字ト、柳ノ字トヲ混シテ用ヰケリ、然レドモ、矢ノ箆トスルハ水楊ナルベシ 本草和名、下「白楊樹皮、也[illegible]加波也奈木」 民部省式、下「凡[illegible]以時採進、兵庫寮[illegible]柳箆四百廿隻[illegible]取強好ニ」（三）やなぎがさね（柳襲）ノ略。 榮花物語、二十八、松の下枝「紅ノイダシウチキニ、柳ノ直衣着タリ」（四）やなぎだる（柳樽）ノ略。 五、酒ノ異名。柳樽ノ條ノ語原ヲ見ヨ）（六）やなぎけん（柳拳）ノ略。

やなぎいろ（名）【柳色】青クシテ白バミタル色。萌白青色。 公任集「若ヨリ、アケノ衣ハ、名ノミシテ、柳色ナル、年ヲ經ルカナ」

やなぎうら（名）[illegible]「[illegible]年ノ程十七八計ナル女房ノ、赤キ袴ニ柳襲ノ五衣着テ、髮深ク艶タルガ、云云」

やなぎうを（名）【柳魚】柳ノ葉ニ似タル魚。（[illegible]ノムツト云フ） 下學集、上、氣形門「[illegible]、ヤナギウヲ」

やなぎがうり（名）【柳行李】（一）やなぎごり（柳行李）ニ同ジ。（二）かはやなぎ（川楊）ノ條ヲ以テ編ミタル器。檉。

やなぎがさね（名）【柳襲】襲ノ色目ノ名。表ハ白ニシテ、裏ハ青ナルモノ。略シテ、やなぎ。[illegible]ノユキ。 亭子院歌合、序「右ハ赤色ニ櫻襲、左ハ青色ニやなぎがさね、云云」

やなぎけん（名）【柳拳】略シテ、やなぎ。とうはちけん（藤八拳）ノ條ヲ見ヨ。

やなぎごし（名）【柳腰】〔柳腰ノ文字讀。埤雅（宋、陸佃）十四、柳「今言宮腰細瘦、謂之柳腰」〕婦人ノ腰ノ細ソキヲ云フ語。ホソゴシ。蜂腰 堀川狂歌集（文化）「色靑ク、氣力無クシテ、柳腰、コウ振ルコトヲ、ナド好ムラン」

やなぎごり（名）【柳行李】〔やなぎがうりノ約轉〕おぶやなぎ（瘤柳）ノ細枝ニテ編ミ造レル箱。枝ノ皮ヲ去リテ白ク光レルヲ揉メテ編ム。楊筬 芭蕉句集、夏「柳行李、片荷ハ涼シ、初眞瓜」

やなぎさう（名）【柳草】ゆわうさう（硫黃草）ニ同ジ。

やなぎさび（名）[illegible]目ノ狀シタルモノ。 謠曲、遊行柳「老イ木ノ柳ノ、髮モ亂ルル白髮ノ老人、忽然ト現レ出デタル烏帽子モ、柳さびタル有樣ナリ」

やなぎだすき（名）[illegible]、やなぎだすき[illegible]レル中ニ、櫻ヲイロイロニ織レリ」

やなぎたて（名）[illegible]たて（楯）ノ條ヲ見ヨ。

やなぎだる（名）【柳樽】（一）〔禁裏ノ女房詞ニ、酒ヲ柳ト云フトゾ、攝津國、内裏ノ地、柳ガ浦ヨリ出デタル故ニ云フト云フ〕酒樽ノ稱。柄樽、角樽、ノ類[illegible]シ、古製ノモノハ、[illegible]八 「柳樽、酒也」 海錄、八、第五十八條、柳樽「[illegible]巻二ニ、當時コノ花、ウス紅葉、疏ノ水ナドイヘバ、酒ノ事ニナレリ、昔、天野、柳、諸白ナド云モ同ジコトニテ、酒トイハデ、其[illegible]酒ノ事ニナレリ、（頭書、柳樽ハ柳ノ木ニテ作レルモノノ由、安齋翁秋草遊物語ニ、[illegible]ノ條ニ見エタリ）又、栗路のつと云、一盃ヲススメシハ、都ノ柳モ、イカデ及ブベカラントゾ、興ニ入侍リシ、コノ柳ト云事ハ、酒ノ事ナリ、[illegible]ニ、酒若柳屋之徹伯ト云フ事見エタリ、之ヲ思フニ、柳屋ニテ酒ヲウル故ニ、酒ヲ柳トイヘルカ、酒ヲウル家ナル故ニ、柳屋ト云フニヤ、何レカ本ナルベシ、今モ酒イルル樽ヲ、柳樽ト云ヘリ、コレ、柳ノ木ニテ結タル樽ト思フハ非ナリ」（二）川柳ノ句ヲ集メタル書。せんりうてん（川柳點）ノ條ヲ見ヨ。

やなぎのいと（名）【柳絲】柳ノ枝。絲ノ如ク細ソク垂ルレバ云フ。リウシ。 萬葉集、十九「我ガ刺（刺カ）セル、柳の絲ヲ、吹キ亂ル、風ニカ妹ガ、梅ノ散ルラム」

やなぎのま（名）【柳間】〔ふすまニ、雪ノ[illegible]〕[illegible]品ニ昇進スレバ、松の間ニ入ルナリ。

やなぎのまゆ（名）【柳眉】（一）[illegible]ノ形ヲ、眉ニ譬ヘテ云フ語。或ハ、柳ノ[illegible]リテ、春ノオモテヲ、フスル宿カナ」（二）りうび（柳眉）ニ同ジ。[illegible]ニ、ソノアサヅマヲモヤヒ船」

やなぎば（名）【柳葉】（一）柳ノ葉。（二）鏃ノ一種。形細長ク、柳ノ葉ニ似タル[illegible]「[illegible]ル穴、タダ一ツアリ」

やなぎばえ（名）【柳鮠】[illegible]形、柳ノ葉ニ似タル故ニ云フ。はえ（鮠）ノ條ヲ見ヨ。

やなぎばこ（名）【柳箱柳筥】やないばこ（柳筥）ニ同ジ。

やなぎはら（名）【柳原】柳ノ數多生ヒ繁リタル野原。 山家集、下「[illegible]影ナラバ、寄クヤ蟬ノ、聲ニナラマシ」

やなぎも（名）【柳葉藻柳藻】水草ノ名。ささも（笹藻）ニ同ジ。

やなぎよもぎ（名）【柳艾】草ノ名。よもぎ（艾）ノ條ヲ見ヨ。

やなくづれ（名）【梁崩簗崩】ヤナノ崩ルルコト。簗ノコハルルコト。 夫木抄、八、鵜河「鵜船オホク、クダス折シモ、瀧川ニ、やなくづれシテ、鮎コタバシル」

やなぐひ (名) 胡籙 〔矢之杙ノ義カ、又、矢口杙ノ略轉カ〕 矢ヲ盛リテ負フ具。箙ニ似テ稍粗ナリ、十矢ヲ差ス。壺胡籙ハ、形、細ク高ク、筒ノ如クナルヲ、壺胡籙ト云ヒ、丈短ク、下ニ盆ノ如キモノアリテ、背ニ棒ヲ添ヘテ矢ヲ立テタルヲ、平胡籙ト云フ。倭名抄、十三、征戰具「籙、夜奈久比、[illegible]、盛矢器也、胡籙、[illegible]、兵戈之具也」[illegible]「廿三年八月、[illegible]之箭負、[illegible]人[illegible]」

やなす (名) 梁簀〔梁簀〕 篠竹ナドヲ編ミテ造レル簀ノ如キモノ。梁ノ空處ニ當テテ、魚ヲ承ケテ捕フルニ用ヰル。簎。倭名抄、十五四漁釣具「簎、[illegible]、夜奈須、[illegible]小也」(簀ノ字ハ簎ノ誤ナリ)

やなせ (名) 〔梁瀬〕 梁瀬 梁ヲ打チ設ケテアル瀬。風政集、下「瀧川、色ヲバ袖ニ、セカレケリ、梁瀬ニトマル、モミヂ葉ノゴト」

やなふ (名) 野衲 〔衲ハ衲衣ニテ、僧衣ナリ〕 (一)ヰナカノ僧。野僧。黄眉、過ニ「[illegible]」 (二)僧ノ謙稱。拙僧。野僧。愚僧。拙衲。書言字考節用集、四、人倫門「野衲、ヤナフ、沙門謙辭」

やなぼこり (名) 〔梁誇リノ意カ〕 魚ナドノ、梁ノ上ヲ、飛ビハヌルヲ云フカ。六帖、三「君マセバ、物モ思ハズ、玉川ノ、瀬ニフス鮎ノ、やなぼこりシテ」

やなみ (名) 屋竝 (一)イヘナミ。立チナラビタル家。津國女夫池(享保、近松作)其の世話、上ノ町、下ノ町、中ノ町ノ[illegible] (二)毎。毎戸。ノキナミ。カドナミ。唐船[illegible]

やなみ (名) 矢竝 箙ニサシタル矢ノ列。又、矢ノ篦ノ、乾濕ニ因リテノ狂ヒナキコト。其狂ヒヲ揉メナホスヲ、矢竝をつくろふト云フ。金槐集、「もののふノ、やなみつくろふ、籠手ノ上ニ、霰タバシル、那須ノ篠原」

やなり (名) 家鳴 家ノ震ヒテ鳴リ響クコト。又、其響キ。織留(元祿、西鶴)一「何ノ事モナイ座敷ヲ、家鳴りガスルト云ヒ出シ、人ノ心ヲ悩マセ、此家ノ[illegible]」「家鳴[illegible]」

やに (名) 脂 〔粘滑ノ約カ、甚シク粘ル義ト〕 (一)樹ノ皮、又ハ、肉ヨリ出ヅル粘アル液。倭名抄、十七、[illegible]具「[illegible]、毛乃夜遍」字鏡、四十六「樠、木乃也爾」「松ノ脂」「桃ノ脂」 (二)烟草ヨリ生ジテ、烟管ノ中ニ生ズル黒ク粘ルモノ。(三)目眵。

やにおし・キ・ケレ・ク・ク (形、二) (一)ネバリケ多シ。(二)クドクドシ。シツッコシ。(三)ヨワヨワシ。モロサウナリ。

やにさが・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 脂下 (一)烟管ノ中ノ脂ガ、雁首ノ方ヘ下ル。(二)烟管ヲ、稍、前下リニ咥ヘテ、雁首ヨリ脂下るヨリ轉シテ、得意然トシテスマスニ云フ語。

やにち (名) 〔松脂ノ粘リテ、取扱ヒ難キヨリ起ル〕 小兒ノワンパクヲスルコト。ヤンチャ。ヤンチャン。

やにっこい (形) 〔やにおしノ音便〕 やにおしノ條ヲ見ヨ。

やには (名) 家場 民居ノアルトコロ。人ノ家居。人里。古事記、中(應神)六「千葉ノ、葛野ヲ見レバ、モモチタル、夜邇波モ見ユ、國ノ富モ見ユ」

やには (名) 矢場 矢ヲ射ル場所。又、射タル其場。平家物語、十一、繼信最後事「サンザンニ射ケレバ、矢場ニ鎧武者十騎許リ射落サル」

やにはに (副) 〔やにはハ、矢場ニテ、其場ニテ、[illegible]ト云フヨリ起リテ、其場ヲモ去ラセズト云フ語カト云フ〕 スグサマ。突然ニ。ダシヌケニ。イキナリ。即時ニ。今昔物語、廿九、第五十四「四人ハ箭庭ニ射殺シタリケリ」

やにれ (名) 〔楡〕 [illegible]、今、にれト云フ。其條ヲ見ヨ。倭名抄、廿、木「楡、[illegible]、夜仁禮」本草和名、上十四「楡皮、也仁禮」

やぬし (名) 家主 (一)一家ノ主人。アルジ。戸主。(二)家ノ持主。家屋ノ所有者。曾野集、[illegible]「妻ナシト、家主ヤクレシ、[illegible]」

やぬち (名) 屋内 〔屋ノうち、ノ約、くにのうち、くぬち、はらのうち、はらぬちノ類〕 家屋ノウチ。家内。家中。萬葉集、十九、四十「櫛モ見ジ、屋中モ掃カジ、草枕、旅行ク君ヲ、イハフトモヒテ」

やね (名) 屋根 〔屋上ノやのへ、ト略シタルガ、更ニやね、ト約マレルナリ、沖繩ニテ、やに〕 雨露ヲ凌グタメ、家ノ上ノ、瓦、茅、柿ナドニテ葺キタル處。屋。屋蓋。屋廬。萬葉集、四「[illegible]ノ屋根ハ、山近シ、明日ノ日トリテ、モチマホリコム」

やねいた (名) 屋根板 屋根ニ葺ク小板。コケライタ。コケラ。クレ。コバイタ。コバ。ソギイタ。フキイタ。

やねこまひ (名) 屋根木舞 次條ノ語ヲ見ヨ。屋竿[illegible]

やねしたぢ (名) 屋根下地 又、のぢ。(壁下地ノ條ヲ見合ハスベシ)柿葺ノ屋根ヲ作ルニ云フ語。先ヅ垂木ノ上ニ板ヲ張リ詰メ、其上ニ細ソキ材ヲ間ヲ置キテ、横ニ竝ベテ打チ、[illegible]、コレヲこまひト云フ、[illegible]貫ト云フ。其上ニ[illegible]葺キ、瓦葺ハ、其上ニ瓦ヲ置クナリ。又、軒先ニ現ハル[illegible]廣木舞ト云フ、古言ニ、のきのすけ(檐)ト云フハ、是レナリ。茅葺ナルハ、垂木ノ上ニ、小竹ナドヲ竝ベテ、繩ニテ絡ヒツク、コレ、古ヘニ云フ、えつり(桟)ナリ、其上ヲ茅ニテ葺クトゾ。(棧ノ條ヲ見合ハスベシ)

やねふき (名) 屋根葺 屋根ヲ葺クコト。又、ソレヲ職業トスル人。ヤネヤ。蓋。[illegible]

やねぶね (名) 屋根船 [illegible] 屋根アル小舟。川遊ニ用ヰル。塵塚談(文化、小川顯道)上「屋形船ノ事、云云、皆小屋形ノミナリ、タダ家根船ハ(本名、日よけ船)、[illegible]多ク有リ、家根船ハ、四五十年已前ハ、五六十艘有リケルヨシ」

やねや (名) 屋根屋 やねふき(屋根葺)ノ條ヲ見ヨ。

やの (名) 矢篦 ヤガラ。の(篦)ノ條ヲ見ヨ。字類抄「箭、ヤノ、箭竹也」新六帖、五、矢「モノノフノ、負フテフやのノ、タムレドモ、猶スグナラヌ、我カ心カナ」

やのあさて (名) 次條ノ語ノ音便。

やのあさって (名) 〔彌ノ明後日ノ義〕 音便ニ、やのあさて、やなあさって。明明後日ノ次ノ日。京都ニテ、五日目ヲ云フ。(一、今日。二、明日。三、明後日。四、明明後日。五、彌明後日)

やのくち (名) [矢口] やぐち(矢口)ニ同 [illegible] 所、弦、祭、山神矢口等、江間殿合ゝ獻、餅給」

やのくちのもち (名) [矢口餅] やぐちもち(矢口餅)ニ同ジ。 吾妻鏡、十三、建久四年 [illegible]

やのさいそく (名) [彌催促] (一)ニ、矢の [illegible] ルコト。シキリニ催促スルコト。

やのじ [illegible] 字ノ如キ形ニ、背ニ結ブモノ。「嫁やのじ」 [illegible] 形、ヤノ字ノ如キ形ニ、背ニ結ブモノ。

やのすけ (名) [彌之助] (槍ヲ振ル奴ノ [illegible] 之助ト云モ、奴ヲフルト云事也」

やのね (名) [矢根] やぢり(鏃)ニ同ジ。 [illegible] 破、鳥舌ニモ非ズ」

やのねいし (名) [矢根石] 矢根ノ形シタル石。石器時代ノ人ノ用ヰタル石造ノ矢ノ根ト云ノ [illegible] 形状ニ大小 [illegible] アリ。 [illegible] 處ノ土中ヨリ得、多ク [illegible] 黒、白、紫ノ水晶ナドアリ、又、緑瑪瑙モアリ。小サキハ一寸許リ、大イナルハ八九寸 [illegible] アリ。天狗ノヤジリ。石砮。石鏃

やのへのこけ (名) [屋上苔] ヤネノウヘノ苔。屋上ノ苔。 倭名抄、廿、苔類「屋遊、 [illegible]

やは (副) 何トテ。何トシテ。イカデ。

やは (副) [和] モノノヤハラカナル状ニ云フ語。 [illegible] リ覺メ候ハンニハ、やは一人モ通レ出ベキ」

やは (副) [illegible] ノ、別ルベキ、アルヲ見ルダニ、悲シキモノヲ」

やば (名) [矢場] (一)ゆば(弓場)ニ同ジ。 [illegible] ヲ、土弓ト云ヒ、大弓場ナルヲ、土弓場 [illegible] 姉ヤ、水茶屋ノ小女ヲ對人ニシテ、云云」

やば [illegible] (一)野飼ノ馬ノウマ。 [illegible] 之野馬ニ遊糸、[illegible] 野馬、陽炎也」 [illegible] カゲロフ。イトユフ。陽炎。 [illegible] 「野馬、カゲロフ」

やばい (名) [野梅] 梅ノ、山野ニ自生スルモノ。花、一重ニシテ白ク、實ヲ取ルヲ主トス。香ハ高シ。ノウメ。 [illegible]

やはう (名) [野砲] 野戰砲ノ一。口徑七糎半、四馬、又ハ、六馬ニテ曳ク。彈 [illegible]

やばう (名) [野望] 主君ナドニ、ソムク [illegible]

やはか (副) [illegible] テカ。ドウシテカ。太平記、十七、山門攻事「太 [illegible] 田殿ナリトモ、やはか你へ候ヤ(ベキ)」「やはか通ガスベキ」 (二)ヨモヤ。萬ニ一ツモ。 [illegible] 仰セラレ候マジ」 (三)ソレニテヤハリ。ヤハリマタ。 曾我物語、九、於二屋形屋形前一討レ者 [illegible]

やはぎ (名) [illegible] ト。又、ソレヲ業トスル工人。矢師。

やはぎべ (名) [矢作部] [illegible]

やはく [illegible] 夜中ニ碇泊スルコト。夜、船ヲ泊スルコト。白居易詩、夜行明月下、夜泊 [illegible]

やは・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) [飢] (餌欲しノ義) ヒダルシ。ヒモジ。饑エタリ。 [illegible] 「空腹ナリ」 神代紀、上 [illegible] 時」

やは・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) [柔軟] (彌淡ノ略) ヤハラカシ。柔和ナリ。ヨワシ。柔弱ナリ [illegible]

やばし・い (形) やばちいニ同ジ。

やは・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [和] ヤハラグル。 [illegible]

やはず (名) [illegible] ヌ、弦ヲ箝メトレ」(古語ノ通) [illegible] 右羽ニ左斜線アリ、左羽ニ右斜線アリ。 [illegible] ナドニ云フ。又、俗ニ、打違ヒタル文。(三)クヒチガヒ。(四)カケモノヲ掛クル具。 [illegible]

やはずかたら (名) [illegible] ず(弭)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

やはずぐさ (名) [illegible] 野ニ自生ス [illegible] 八密着シテ、矢筈狀ヲナス。夏秋ノ候、 [illegible] ヤハズハギ。鶏眼草

やはずにあきぎ (名) [illegible] テ、やはず。又、鬼箭。まゆみ(衛矛)ノ條ヲ見ヨ。

やばたい (名) [illegible] (大和)ノ漢譯語ト云フ」 野馬臺、卽チ、日本ノ稱。略シテ、馬臺。 後漢書、東夷、倭國ニ [illegible] 下學集、上、天地門、野馬臺、ヤマト、ヤバタイ、 [illegible]

日本總名也、支那人呼ニ大和ニ云ニ野馬臺ニ、是以ニ字音ニ讀ニ倭訓ニ也、云云」平家物語、四、南都返牒事「吉外ノ英豪、各、馬臺ノ讖文ニ泣ク」 野馬臺の詩ト云フハ、吉備眞備、入唐シタル時、唐人ノ書キテ出シタリト云フ「東海姫氏國、百世代ニ天工ニ、云云」ノ五言廿四句ノ詩ナリ。文字ヲ交錯回旋セシメテ書キタレバ、讀ム能ハズ、眞備、本國ノ神佛ヲ默禱シケレバ、蜘蛛アリ、紙上ニ落チテ、歩ミテ絲ヲ引ク、絲ニ隨ヒテ全首ヲ讀ミ得タリト。其詩、日本ノ未來記ニシテ、梁ノ寶誌和尚ノ作ト傳フレドモ、何人カノ妄作ナルベシ。(海錄、七)

やはた-ぐろ (名) [八幡黑] 八幡黑革ノ略。モミ革ヲ、黑ク染メテ、甚ダ柔カナルモノ。山城國ノ八幡ノ地ヨリ出ス。

やはた-の-おほがみ (名) [八幡大神] はちまんだいぢん(八幡大神)ノ條ヲ見ヨ。

やばち・い (形) キタナシ(仙臺、安房)又、水氣ナドニ濡ルルニモ云フ。ヤバシイ。

やはだ (名) [柔肌] ヤハラカナルハダ。萬葉集、二十 長歌「靡キアヒシ、妹ノミコトノ、タタナツク、柔膚スラヲ、云云」

やはん (名) [夜半] 子ノ時。夜九ツ時、卽チ今ノ午後十二時。ヨナカ。ヨハ。子夜。莊子、天地篇「厲之人、夜半生二其子、遽取火而視之、汲汲然惟恐二其似一己也」 盛衰記、廿九、礪並山合戰事「五月十一日ノ夜半ニモ成ニケリ」

や-ばん (名) [野蠻] (一)サラニ開化セヌ荒夷。文化ノ開ケザル國、又ハ、人民。(二)轉ジテ、無作法ナルコト。禮儀ヲ知ラヌコト。又、敎育ナキコト。

や-ばん (名) [夜番] よばん(夜番)ニ同ジ。

やはん-らく (名) [夜半樂] 雅樂ノ曲ノ名、平調ノ曲ニシテ舞ナキモノ。唐ノ玄宗ノ作ト云フ。倭名抄、四 曲調類「平調曲、夜半樂」 碧雞漫志(宋、王灼)「明皇自ニ潞州一還ニ京師一、夜半舉ニ兵誅ニ韋后一、製ニ夜半樂、還京樂二曲一」

やは-やは (副) [柔柔] ヤハラカニ。シナヤカニ。ヤハヤハト。ヤンハリト。徐徐ト。源、廿二、玉蔓 廿八「タダ、イト若ヤカニ、オホドカニテ、やはやはトゾタヲヤギ給ヘリシ」

やはら (名) 柔 やはらとり(柔捕)ニ同ジ。浮世物語「明暦萬治頃ニハ、ユクユク八渡奉公、歩若黨ニモナサバヤト思ヒ、居合、やはら、兵法ナンド、云云」

やはら (副) [徐] やをらニ同ジ。ソロソロ。ソロリト。ソット。シヅカニ。ヤハヤハラ。源、十九、薄雲 廿四「やはらツツ引キ入リタマヒヌルケシキナレバ、云云」宇治拾遺、三、第一條「やはら歩ミ寄リテ見レバ、云云」同、七、第五條「起キントシケレバ、やはら手ヲ懸ケテ起シヌ」

や-はら (名) [谷原] (藪原ノ約) やち(谷)ニ同ジ。ヤツ。ヤト。ヤ。

やはらか・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [柔] 容易ク押シ碎キ穿ツベシ。堅カラズ。コハカラズ。ヤハラケシ。

やはらか-に (名) [柔煮] 生貝、赤貝、榮螺、とさぶし、ナドノ類ヲ、大根ニテ能ク叩キ、其大根ヲ小口切ニシテ、米糠少シ加へ、共ニ釜ニ入レテ、一日一夜、焚火ニテ、味醂、醬油ヲ加ヘテ煮ルコト。又、ソノ煮タルモノ。極メテ柔シ。蛸ナルハ同樣ニテ、白豆ヲ入ルト云フ。

やはらか-み (副) [柔軟] (一)[ヤハラカクシテ。ヤハヤハ。柔軟ナリ。名義抄「柔、ヤハラカナリ」和、ヤハラカナリ」催馬樂、貫河「也波良手枕、也波良加爾、寐ル夜ハナクテ」 孝德紀、大化元年七月「溫和之心、云云」(二)[オトナシヤマニ。スナホニ。續紀、廿七詔「問儒、ヤハラカニ」 源、十九、薄雲「淺クハアラジト思ヒナシ給ヘド、イトやはらかにノタマヒテ、鬼神モ荒ダツマジキ御ケハヒナレバ、云云」(三)堅カラズ。頑ナラズ。 謡曲、太平記(元祿)一「牡丹餅ノヤウナやはらかた中へ、又、カキ餅ノ如ク堅イ事ヲ交ゼ」

やはらか-ぼん (名) [軟本] 小說、戲曲、ナド、柔カ味ニ富メル事柄ヲ書キタル本。

やはら-がみ (名) [和紙] ヤハラカナル紙。鼻紙ナドニ用ヰルモノ。御厨子所預道具寸法之事「やはら紙トハ、吉野ノ紙ノ事也、又ヤハラ野紙共云、女中、カネヲ付テロヲフクタメナリ、必ズカネノギン引ト云ナリ」

やはら・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) [和] (一)ヤハラカニナル。シナヤカニナル。狂言記、あかがり「アカギレナドニハ、水ガカカレバ、コトノ外やはらいデヨイト云フ」(二)穩ニナル。和グ。シヅマル。ヤハラブ。國基集「程ナク風やはらぎ、波シヅカニテ」(三)[トケアフ。爭ハヌヤウニナル。睦シクナル。平和ニナル。和解ス。融。名義抄「協、ヤハラク」和、ヤハラク」仁賢卽位前紀「誠懇、溫懇」

やはら・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) [和] (一)ヤハラグヤウニナス。ヤハラカニナス。ヤハス。和解ス。ヤハラゲル。古今集、序「ヤマトウタハ、云云、男女ノ中ヲモやはらげ」 (二)物、一ツニ和合セシム。續紀、十五、天平十五年五月、宣命「上下乎齊倍和氣凡、无動久靜加爾令有爾八、云云」 (三)ワカリヤスキヤウニナス。平易ニナス。翻譯ス。(くちやはらげノ條ヲ見ヨ) 抄石集、三、下、第六條「タダ世ノ常ノ文ノヤウニやはらげテ、アマタノ文ヲ、云云」

やはら-ぐさ (名) (根、柔ナルニ云フ) わらび(蕨)ノ條ヲ見ヨ。

やはら-け・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [柔] やはらかし(柔)ニ同ジ。倭名抄、廿 草類「莫耆、夜波良久佐、一名、加波良佐佐介」

やはら・げる (動) [和] やはらぐ(和、他動、下二)ノ口語。

やはら-じゅつ (名) [柔術] 次次條ノ語ニ同ジ。

やはら-たまくら (名) [柔手枕] ヤハラカナル手枕。催馬樂、貫河「貫河ノ、也波良多末久良、柔カニ、寐ル夜ハナクテ、親サクルツマ」

やはら-とり (名) [柔捕] [太刀打ノ強キヲ用ヰズ、手ニテ鬪フ故ノ名ナルベシ] じうじゅつ(柔術)ノ舊稱。略シテ、やはら。世ニ、柔術ハ明ノ陳元贇ヨリ傳ハレリト云フハ非ナリ、寛永以前ヨリアリ。元贇ノ我ガ邦ニ渡リシハ、萬治二年ニテ、其傳ヘタルモノハ十手ノ術ナルベシ。浪人福野七郎右衞門、磯貝次郎左衞門、三浦與次右衞門等、其傳ヲ受ケ、更ニ工夫ヲ加ヘテ、一術トナス、コレ起倒流ノ初ナリ。(嬉遊笑覽) 今ノ柔術ハ、柔道トモ云ヒ、身心ノ鍛錬ヲ主トシ、併セテ敵ニ對シテ、攻擊、防禦ノ術ヲ修得スルヲ目的トス。其手段トシテ、道場ニ於テ、形ヲ演ジ、亂捕ヲ行ヒ、其勝負ノ原理ヲ探求ス。其種類ハ、柔の形

十五文)、投ノ影(十五文)、[illegible]ノ影[illegible]
[illegible]
アリ。何レモ相手ノ力ヲ利用シテ、之[illegible]
[illegible]氣(やはらとり)一流ノ祖ニシテ、鍛術ノ名人一匹切[illegible]見猿ノ弟子、住新町〈後江戸町〉」丹波與作(寶永、近松作)中、與作ハ取手、やはらとり」

やはら・ぶ・ブ・べ・バ・ビ・ベ (自動、四) 和 やは[illegible](二)[illegible]流レ、目ニ近キ人ノ家居、有サマ、ゲニト見エ、ナツカシクやはらびタル方ナドヲ、静カニ書キマゼテ」

やはらやはら [illegible]やはらか[illegible]タル語) やはら(和)ニ同ジ。今俗ニ、ヤハリヤハリ。謡曲、猿太鼓「鼓ノ聲モ時フリテ、云云、やはらやはら打タウヨヤ」

やはり [illegible]矢張[illegible]意[illegible] (一)ソノママニテ。故ノ姿ニテ。史記抄(文明)、十六「他人ヲ屈テ銭ヲ出テ、我ハやはり[illegible]云フ」(二)[illegible]依然。[illegible]ヲ取ラセラルルハ、ドナタヂヤ、やはり召セ」

やひ (名) 野鄙 (一)地位、身分ノヒクキコト。又、ソノモノ。卑賤。戦国策、趙「[illegible]起於野鄙、而為天子」(二)イヤシキコト。又、ヰナカビタルコト。ゲビタルコト。鄙野。

やびさし (名) 屋庇 家ノヒサシ。ひさし(庇)ノ條ヲモ見ヨ。字鏡「[illegible]、屋比佐之」

やびさ・し (形) 悋格 やぶさし(吝)ニ同ジ。[illegible]

やびつ (名) 矢櫃 矢ヲ納メ置ク蓋アル箱。義経記、四、住吉大物二箇所合戦の事「やびつ一合、セガイノ上ニカラト置キテ、云云」

やびらき [illegible]矢開[illegible](一)[illegible]弓ヲ射ルコト。(二)矢開の祝ノ略。昔、武家ニテ、小兒ノ始メテ[illegible]射タル[illegible]云云」

やひらで (名) 八開手 神拝ニ、手ヲ八度打ツコト。又、拍手ヲ四度スルコト。[illegible]八遍ナリ、[illegible]大嘗祭ニ[illegible]儀式ニ行フ。[illegible]

やひらで (名) 八枚手 八葉盤 八枚ノひらで。又、數多ノひらで。ひらで(枚手)ノ條ヲ参見セヨ。[illegible]手ニトリモチテ、ワレカラカミノ、カラヲギセンヤ」[illegible]

やひろどの (名) 八尋殿 〔八尋ハ彌尋ノ義〕四方數尋モアル殿。古事記、上「於其嶋天降坐而、見立天之御柱、見立八尋殿」[illegible]

やひろはたや (名) 八尋機屋 イヤヒロノ機屋、イクヒロモアル廣キ機織リ屋。倭姫命世記「[illegible]八尋機屋、令天棚機姫神孫八千千姫命[illegible]」

やひろぼこ (名) 八尋矛 長サイクヒロモアル矛。ヤヒロホコネ。ほこ(鉾)ノ條ヲモ見ヨ。古事記、中(景行)九四十「給比比羅木之八尋矛、故受命而行之時、參入伊勢大御神宮[illegible]」

やひろほこね (名) 八尋矛根 (ね、添ヘタル語) 前條ノ語ニ同ジ。續紀、二、大[illegible]

やひろや (名) 八尋屋 イクヒロモアル[illegible]。力經抄、中、是能姫[illegible]八尋屋而遊行」

やふ (名) 八節 〔ふ(節)ノ條ヲ見ヨ〕節ノ八ツアルコト。又、段ノ八ツアルコト。(垣ノ結目ナドノ)又、ソノモノ。武烈即位前紀「オミノ子ノ、ヤフノシバ垣、シタトヨミ、ナヰガヨリコバ、ヤレムシバ垣」

やふ [illegible]野夫[illegible]田夫ノ意)(一)ヰナカ[illegible]村夫。[illegible]

やぶ [illegible]叢之處 (一)〔木草竹ナド、何ニテモ〕彌ガ上ニ生ヒ茂レルトコロ。オドロ。倭名抄、一五 林野類「藪、澤無水日藪、也不」字鏡「[illegible]」「ハルバルニ、琴ゾ聞ユル、島ノ野父原」(二)今、專ノ、竹藪ヲ略シテ云フ。[illegible]竹叢 狂言記、竹ノ子「ソレガシ、やぶヲ數多持チテゴザルガ、當年ハ竹ノ子ガ大分出來テゴザル」(三)塵ナドヲ捨ツルトコロ。[illegible]モノヲスツルトコロ。ゴミタメ。又、[illegible]ツル、藪サヘ無クテ、枯野カナ」藪から棒トハ、突然藪カラ棒ヲツキ出スコトニテ、唐突ナル意。雑兵物語「[illegible]やぶから棒ヲツンダイタヤウニ、何モ附ケナイガ、[illegible]ノニハヨイコンタ」藪蛇ト云フハ、自ラ藪ヲ突キテ、蛇ヲ出シ、ソレニ嚙マルルコト、コレヨリシテ、好ミテ失敗ヲ求メ、窮地ニオチイルノ意。藪(野夫ヲ利カス)ニモ功のものトハ、土民間ニモ智者アル意。

やぶい [illegible]

やぶい[illegible] [illegible]中ナリ)野巫醫ニテ、藥法ニ呪、加持等ヲ加ヘテ療スル意ニテ、拙醫ニ限ラヌ[illegible]「足ハ都ニ住居致ス藪醫者デゴザル」

やぶいも [illegible] ミツバウサウ。(疱瘡ニ似タリ)[illegible]

やぶいり (名) 藪入 [illegible]田舎ニ歸ル意ナリ、野[illegible](七月十六日[illegible])ニ關係アルカ)或ハ云フ、孤獨、又ハ、遠鄕ノ者ハ、藪林(寺)ニ入[illegible]ルニ起ルト、又、大坂北邊ニテ、陰暦五月五日、牛ヲ野ニ放チテ遊バシムルヲ、牛ノやぶいりト云フト云フ、是等ニ原ナルベキカ) 奴婢ノ、一時、暇ヲ得テ、己レガ家ニ歸リテ遊息スルコト、又、女子ノ奉公スルモノ、歳ニ一二度、歸寧スルコト。正月、七月ノ十六日ニ云フ。略シテ、やぶり。ヤドサガリ。ヤドオリ。ヤドイリ。走百病 五元集(其角)「やぶ

入ヤ、牛合點シテ、大原マデ」太祇句選、春「やぶ入ヤ[illegible]鳴ク、[illegible]ノ前」

やぶうぐひす (名) 藪鶯 藪ニ居ルウグヒス。俳[illegible]、春[illegible]ナキ、[illegible]ノ、高[illegible]」

やぶか (名) [illegible] 又、縞蚊、蚊ノ一種、[illegible]形、大ナノ、草木ノ茂レル處ニ多シ、晝出デ夜伏スコト、常ノ蚊ニ反ス、色、黒クシテ、脚ニ白キ斑アリ、刺スコト甚ク、[illegible]無シ、[illegible]近松作[illegible]ノ[illegible]下、[illegible]ノ[illegible]ツキモ」[illegible]ヤ、[illegible]イ、[illegible]ガフ」

やぶかうじ (名) 藪柑子 (一)古名、ヤマタチバナ。又、フカミグサ。今、又、ヤブタチバナ。紫金牛科ノ常綠小灌木、山中ノ樹下ニ生ズ、高サ三五寸、四五葉、互生ス、[illegible]ノ葉ニ似テ[illegible]ク、[illegible]アリ、夏、小白花ヲ開キ、秋、豆大ノ實ヲ結ブ、冬ニ至リテ赤シ。葉、實、冬ヲ凌グ、一名、シシクハズ。紫金牛 又、此種ニテ、葉、實共ニ大ナルハ、[illegible]うじ(釜山柑子)ト云フ、[illegible]牡丹 (二)カラタチバナ。(九州) 百兩金

やぶからし (名) 藪枯 葡萄科ノ宿根蔓草、山野ニ生ズ。春ノ末、宿根ヨリ生ジ、初出ハ、莖、葉、共ニ赤黒色ナリ、稍ク長ズレバ淡綠ニ[illegible]ズ、葉、互生シテ、葉毎ニ鬚アリ、一枝、五葉、鋸齒アリ、夏、甚ダ蔓延ス、晩秋ノ間ニ、枝ノ梢毎ニ、四瓣ノ綠花ヲ開キ、圓キ實ヲ結ブ、熟スレバ黒シ。又、ビンボフカヅラ、ビンボフヅル、ゴヅル[illegible]、又、[illegible]ビ、ボ[illegible]ビ、ボツヅラ。

やぶ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 破 ヤブル

ノ訛。(靜岡縣ニテ、やばく)

やぶくぐり (名) 藪潛 (一)藪ノ中ヲ潛ルコト。又、ソノモノ。(二)牛ノ額小サクシテ、角ノ後ノ方ヘ靡キタルモノ。上品ナリト云フ。(三)にらやまがさ(韮山笠)ノ一名、其條ヲ見ヨ。

やぶくすし (名) 藪藥師 やぶいしゃ(藪醫者)ニ同ジ。誤リテ、やぶやくし。庭訓往來、十一月[illegible]

やぶくろ (名) 藪眫 人ノ往來セヌトコロ[illegible]「アタリハ[illegible]ノ、[illegible]」

やぶ・ける (動) 破 やぶる(破、自動、下二)ノ口語。

やぶさかみ [illegible] 吝 (破レ[illegible]ル意カト) [illegible]

やぶさか・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 吝 [やぶさしヨリ起ル、次條ノ語ヲ參見セヨ] [illegible]「ヤブサカル」慳、「ヤフサカル」吝、ヤブサカル、ヲシム[illegible]「ヤブサカラ」[illegible]「ヤブサカリヲシム」[illegible]惜」

やぶさ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 吝 [やぶさか(吝)ノ[illegible]ヲ見ヨ] ヤブサリナリ。シハシ。ヤビサシ。字類抄「慳、吝、褊、ヤフサシ」名義抄「[illegible]、ヤフサシ、セハシ」字鏡[illegible](疑)、迥也、妬也、也不佐志」

やぶさは (名) 藪澤 やぶト、さはト。サ[illegible]「[illegible]」

やぶさんざし (名) 藪山楂子 虎耳科ノ

[illegible]ニシテ長キ柄ヲ有シ、互生ス。花ハ小形ニシテ淡黄色ヲ呈シ、實、小形ナレ[illegible]熟ス。[illegible]ドリ。キヒコドリジャウゴ。

やぶさめ (名) [illegible]馬 [矢馳馬ノ轉カ] [illegible]ト云フ、[illegible]神事ニ行フ騎射、[illegible]馬[illegible]ニテ、其さくり(決)ノ内ヲ、馬ヲ縱ニ直ニ、駈ニ走ラセナガラ、鏑矢ニテ射ル、板ノ角的ヲ三處ニ立テ、白重籐ノ弓ニ矢[illegible]箭[illegible]馬、武者十二人」[illegible]テ、白河ノ院ノ、やぶさめトイフコト御覽ジケルニ」

やふしまり (名) 八節結 [ふ(節)ノ條[illegible]ヲモ見ヨ] [illegible]ヒトツムルコト。又、ソノモノ。[illegible]下(清輔)三四十「大君ノ、ミコノ柴垣、夜布士麻理、シマリモトホシ、キレム柴垣、[illegible]ケム柴垣」

やぶしらみ (名) 藪蝨 繖形科ノ一年生草本ノ名。春ノ末、苗ヲ生ズ、初ハ色紫ナリ、形、胡羅蔔ノ葉ニ似テ、小サク、毛アリ、夏ハ綠色トナル、莖[illegible]シテ二尺[illegible]、葉互生シ、葉間毎ニ、枝ヲ分チテ、[illegible]枝毎ニ一簇白花ヲ[illegible]状ニ[illegible]生シ、後ニ米粒ノ如キ子ヲ結ブ、毛アリテ、動物ノ體、又ハ、人ノ衣ニ着キヤスシ、故ニやぶしらみノ名アリ。ノニンジン。ヤブニンジン。鶴蝨 竊衣

やぶすま (名) 矢衾 [illegible]立[illegible]ノ列ノ、矢ヲ揃ヘテ射出スコト。或ハ、[illegible]ヲ張リタル如ク、[illegible]シノスキマモナク、一面ニ矢ノトビクル

[illegible]ヲ造ッテ射ケレバ、不[illegible]シテ引退」

やぶ[illegible]き [illegible]

やぶだたみ (名) [illegible]ノ一。枠ニ葉ノアル竹ヲ密ニ結ヒ附ケテ、竹散ノヤウニ見ヘルモノ

やぶたちばな (名) 藪橘 やぶかうじ(藪柑子)ニ同ジ。

やぶたばこ (名) [illegible]草 はなたかな[illegible](天名精)ニ同ジ。

やぶだま (名) 藪玉 藪玉子ノ略。菌ノ名。ほこりだけ(埃茸)ニ同ジ。

やぶたまご (名) 藪玉子 菌ノ名。略シテ、やぶだま。ほこりだけ(埃茸)ニ同ジ。

やぶでまり (名) [illegible] [illegible]木ノ名、[illegible]み(疑)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

やぶにくけい (名) 藪肉桂 本名、カツラ、メッケラ。樟科、常綠樹ノ名。山ニ多シ、高サ三四丈ニ達ス、葉ハ、にくけい(肉桂)ニ同ジク、但シ、三縱道、末マデ通ラズ、横紋アリ、香氣少ク、あきみ(緑)ノ[illegible]ノ[illegible]、[illegible]アリ、六月頃、淡黄色ノ花ヲ[illegible]花序[illegible]開キ、果[illegible]結ブ、[illegible]如クニシテ、三四粒、[illegible]ナシテ[illegible]ル、熟

スレバ、黒クシテ、上ニ白粉ヲ生ズ、薬用トシテ、つづのみ、くろつづ、ナド云フ、[illegible]、又、[illegible]ト云、其[illegible]、ア[illegible]肉桂ニ代ヘテ用ヰル。一名、ツヅノキ。タモ。タマ。ダモ。タブ。天竺桂

やぶにんじん (名) [藪胡蘿蔔] 草ノ名。[illegible]

やぶにらみ [illegible]ノ名。[illegible]見ルニ、睛ノ、常ニ斜ナルモノ。ヨコメ。[illegible]

[illegible]（寛和、一九）初[illegible]「見テヰルハズダ、アノ[illegible]ノ目ヲミタカ、やぶにらめダ」

やぶのうちりう (名) [藪内流] [illegible]ノ一。[illegible]千利休ノ門人[illegible]ノ[illegible]

やぶはら (名) [藪原] 〔はらハ松原、竹原ノはらト同ジ〕草原トシタル藪。又、藪ノアル野原。[illegible]千句（紹巴）「アタリハ野路ノ、畔ノ藪原」

やぶへび (名) [藪蛇] 〔藪ヲ突キテ蛇ヲ出ス、ノ略〕やぶ（藪）ノ條ヲ見ヨ。

やぶまめ (名) [藪豆] 蔓草ノ名。のまめ（野豆）ニ同ジ。

やぶみ (名) [矢文] (一)文書ヲ矢ニ結ビ付ケテ射ア遣ルモノ。射[illegible]八、[illegible]河内[illegible]、[illegible]ヲ射テ、[illegible]嗄ノ事有リ」(二)矢ノ催促ノ手紙。シキリ[illegible]書状。

やぶん (名) [夜分] [illegible] 夜間 [illegible]非子、十過篇「[illegible]好ム音、云云、設ヶ命以[illegible]

やぶめうが (名) [藪茗荷] [illegible]年生草本[illegible]、白[illegible]、[illegible]ヲ生ズ。めうがノ葉ニ似テ、[illegible]上ニ七八[illegible]中心ヨリ、又、[illegible]ヲ出ス。コト[illegible]尺[illegible]、梢ニ、六瓣ノ小白花、[illegible]成シテ開キ、開キ實ヲ結ブ、初、白ク、後ニ緑黒トシテ、熟スレバ、又、白シ。[illegible]ウガサウ。[illegible]

やぶやくし (名) [藪薬師] 〔やぶくすし〕ノ誤讀〕やぶいしゃ（藪醫者）ニ同ジ。

やぶらん (名) [illegible] 草ノ名。ばくもんどう（麥門冬）ノ條ヲ見ヨ。

やぶり (名) [藪入] 〔やぶいりノ略〕やぶいり（藪入）ノ條ヲ見ヨ。類柑子、里居辨[illegible]、其[illegible]門ヲユルシテ、里へ下ルヲやぶりト云フナリ」

やぶ・る・ル・ルレ・レ・レヨ（自動、下二）破敗壊 〔ヤレコボル（破毀）ノ義〕(一)形、崩レコハル。コボル。砕クル。ヤブル。ヤブケル。徒然草、第百八十四段「物ハやぶれタル所バカリヲ、修[illegible]用ヰル事ゾト、若キ人ニ見ナラハセテ、心ヅケンタメナリ」(二)負ク。〔戰ニ、相撲ニ、勝負事ニ、[illegible]〕字治拾遺、十五、第[illegible]條「戰フニ、皇子ノ軍やぶれテ」(三)〔事、亂レ崩ル。成リソコナフ。源、九、葵廿五「除目ノ夜ナリケレト、カクワリナキ御サハリナレバ、皆事やぶれタルヤウナリ」「法破る」約束破る、身代破る」

やぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）破敗毀傷 〔ヤリコボツ（破毀）ノ義〕(一)物ノ傷ヲ[illegible]崩ス、コハス、コボツ。砕ク。ヤブク。

[illegible]利」源、四十六、總角八「サウジヲモ引キやぶりツベキ氣色ナレバ、言ハンカタナク心ヅキナケレド」[illegible]ニ、議論ニ)(三)〔事ヲ犯シソコナフ。[illegible]イム事ノ中ニやぶる戒ハ多カラメド」「法ヲ破る」

やぶれがさ (名) [破笠] (一)笠ノ破レタル[illegible]。やれがさ。[illegible]上[illegible]サセルコトナキ、破れ笠、骨ヲ折リテゾ、君ニ仕ヘシ」(三)菊科ノ宿根草ノ名。山中ニ生ズ。葉ノ大キサ七八寸、破レタル傘ノ如シ。一根ニ一葉ナリ。年ヲ歴タルモノハ、夏、莖ヲ出スコト二三尺、僅ニ三[illegible]生シ、莖ノ頂、[illegible]成シテ、[illegible]色ノ頭狀花ヲ着ク。[illegible]

やぶれかぶれ (名) ヤケ。ステバチ。前後ヲ顧ミズ、自暴自棄、[illegible]ト。[illegible]合戰物語（文明）三、[illegible]シテ一定ナラズ、或ハ破れかぶれ、[illegible]ニ押寄セテ、天罰、火ニモ水ニモナラント云ヒ」

やぶれさうぶ (名) [破菖蒲] [illegible]ノ色目ノ名。表ハ萌葱ニテ裏ノ紅梅ナルモノ。

やぶ・れる (動) [破] やぶる（破、自動、下二）ノ口語。

やへ (名) [八重] (一)八ツ重ナリタルコト。又、ソノモノ。(二)〔彌重ノ義〕幾ツモ重ナリタルコト。又、ソノモノ。[illegible]古[illegible]十年十二月[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]一、[illegible]ハ、[illegible]ノ[illegible]

[illegible]、萬葉集、二[illegible]長歌「アマ雲ノ、八重[illegible]キワケテ、[illegible]リ、[illegible]シツカヘシ、[illegible]フス、日ノ皇子ハ」(三)花[illegible]ニ對ス）後拾遺集、廿、[illegible]、八重菊ニ、[illegible]ヲ、[illegible]キ[illegible]ヘテ、九シナマデ、ウツロハシツル」

やへい (名) [野兵] のぶし（野伏）ノ條ヲ[illegible]

やへがき (名) [八重垣] [illegible]

やへかすみ (名) [八重霞] [illegible]

やへぎり (名) [八重霧] [illegible]原ノ、八重[illegible]、日ヲカサネテゾ、立チマサリケル」

やへぐも (名) [八重雲] [illegible]永久四年百首、秋「[illegible]ハ、アメノオシテノ、八重[illegible]ニ、道フミマヨヘ（一本、マドヘ）、又ヤ踏ルト」

やへざき (名) [八重咲] 重瓣ニ花ノ咲キ[illegible]。又、ソノ[illegible]。[illegible]氏」源、四十四、橋姫廿八「[illegible]ノ八重咲、オモヒヤルヘダテ多ク、哀レナルニ、云云」

やへざくら (名) [八重櫻] (一)櫻ノ一種。ヤヘノ花瓣ナルモノ。昔ハ奈良ニノミアリキ。さくら（櫻）ノ條ノ(一)ヲモ見ヨ。金葉集、五、賀「九ノ重ニ、久シク匂ヘ、八重櫻、ノドケキ春ノ、風ト知ラズヤ」詞花集、一、春「古ノ、奈良ノ[illegible]ノ八重[illegible]ニ[illegible]」(二)[illegible]

やへだたみ (名) [八重疊] [illegible]セ給ヘリ」

神座ニ用ヰラルル上敷ノ筵。卽チ幾重ニモ積ミ重ネタル敷物。神、貴人ノ座トス。〇神代紀、下「鋪設八重席薦、以延內之」

〜やへ-だたみ（ヤエ-ダタミ）（枕）〔八重疊〕 疊ハ幾重ニモ重ネテ作ルヨリ、ヘト云フ語ニ冠ラスル枕詞。萬葉集、十六、長歌「八重疊、ヘグリノ山ニ、ウヅキト、サツキノ程ニ、藥狩リ、仕フル時ニ」

〜やへ-たなぐも（ヤエ-タナグモ）（名）〔八重棚雲〕 幾重ニモタナビク雲。古事記、上、卅六「天津日子番能邇邇藝命、云云、押分八重多那雲而、云云」

やへ-べつ（名）〔家別屋別〕 一軒ゴト。一軒一軒。ヤナミ。こべつ（戸別）ニ同ジ。

やへ-つばき（ヤエ-ツバキ）（名）〔八重椿〕 花ノ重瓣ナル椿。八重咲ノ椿。

〜やへ-なみ（ヤエ-ナミ）（名）〔八重浪〕 幾重ニモ立ツ浪。シキナミ。萬葉集、十九、卅七長歌「アサユフニ、滿チ來ル潮ノ、八重浪ニ、靡ク玉藻ノ」

やへ-なり（ヤエ-ナリ）（名）〔八重生〕 赤小豆ノ類。實ノ色、綠ナリ、或ハ、褐色ヲ帶ブルモアリ。莖、高サ尺許リ、苗、莢、粒、共ニ小サシ。夏ヨリ秋マデ、絕エズ實ル、早ク蒔キタルハ、一年ニ再種スベシ、故ニ名アリ。所用、あづき（赤小豆）ニ同ジ。一名、文豆（ブンドウ）。マサメ。靑小豆（アヲアヅキ）。綠豆

やへ-なり-あづき（ヤエナリ-アズキ）（名）〔八重生小豆〕 前條ノ語ニ同ジ。

やへ-の-しほぢ（ヤエ-ノ-シオジ）（名）〔八重潮路〕 遠キ遠キ海路。遙カナル潮路。新敕撰集、五、秋、下「ワタノ原、八重のしほぢニ、飛ブ雁ノ、ツバサノ浪ニ、秋風ゾ吹ク」

やへ-ば（ヤエ-バ）（名）〔八重齒〕 古名、オシバ。オソバ。常ノ齒ノ傍ニ、又、添ヒテ重ナルヤウニ生ズル齒。ソヒバ。イヤハ。オサヘバ。〇[illegible]箋注倭名抄、二[illegible]「[illegible]齒、於曾[illegible]」

やへ-はたぐも（ヤエ-ハタグモ）（名）〔八重旗雲〕 幾重ニモ旗ノ如クタナビク雲。[illegible]曲、弓八幡「[illegible]宇佐ノ郡、蓮臺寺ノ麓ニ、八幡宮トアラハレ、八重旗雲ヲシルベニテ、云云」

やへ-ひとへ（ヤエ-ヒトエ）（名）〔八重一重〕 櫻ノ一種。きりがやつ（桐谷）ノ條ヲ見ヨ。

やへ-ぶき（ヤエ-ブキ）（名）〔八重葺〕 幾重ニモ屋根ヲ葺クコト。又、ソノモノ。後拾遺集、十六、雜、二「八重葺ノ、隙ダニアラバ、蘆ノ屋ニ、オトセヌ風ハ、アラジトヲ知レ」

〜やへ-むぐら（ヤエ-ムグラ）（名）〔八重葎〕〔彌重葎ノ義〕 （一）歌ニ云フハ、葎ノ繁リタルヲ云フナルベシ。（かなむぐらノ條ヲ見ヨ） 萬葉集、十一、四十六「玉敷ケル、家モ何セム、八重六倉、覆ヘル小屋モ、妹ト居リテバ」 （二）茜草科ノ草木。荒野、及、人家ノ庭前ニモ生ズ。莖、細ソクシテ、長ク延ビ、莖葉共ニ毛アリ。葉ハ、あかね（茜草）ニ似テ、小サク、七八葉、車輪ノ如ク、一處ニ着キテ、八九層ヲ成ス。莖、稍、方ニシテ、亦、あかねニ似タリ。春ヨリ夏ニカケテ、各節ノ葉腋ヨリ花梗ヲ出シテ、白花ヲ開ク。猪殃殃 枕草子、三、第三十三段「草は、云云、やへむぐら、山スゲ、ヤマヰ、ヒカゲ、濱木綿」

やへ-やへ（ヤエ-ヤエ）（名）〔八重八重〕 〔八重ヲ重ネタル語〕 幾重トモナキコト。イヤガウヘニ重ナルコト。後拾遺集、十七、雜、三「オシナベテ、咲ク白菊ハ、八重八重ノ、花ノ霜トゾ、見エワタリケル」 やへやへのおとゝトハ、遙カ間ヲ隔テタル弟ノ意。末弟 大鏡、上、右大臣[illegible]「カクバカリ[illegible]マヒケル中[illegible]ヲ、やへやへの御弟ニテ越エタテマツリタマヘリケル」（今モ、西國ニテ、カク云フ所アリトゾ）

〜やへ-やま（ヤエ-ヤマ）（名）〔八重山〕 幾重ニモ重ナレル山。[illegible]疊 萬葉集、十[illegible]、[illegible]ノ、八重山越エテ、[illegible]、ウノ花ベカリ、鳴キテ越ユラシ」

やへ-やまぶき（ヤエ-ヤマブキ）（名）〔八重山吹〕 ヤヘザキノ山吹。六帖、六、「我ガ宿ノ、八重山ぶきノ、[illegible]ルヲ見ル、春過行クト、見ルゾカナシキ」

や-ほ（名）〔彌帆〕 〔彌ハ重ナル意、本帆ニ對シテ云フト云フ、或ハ云ソ、矢帆〕 船ノ前ヘ出デタレバ云フト、大船ノ舳ニ張ル帆。頭逢 太平記、廿、奧州下向勢逢[illegible]風事「[illegible]、或ハ橫ヲ吹キ[illegible]レテ、彌帆ニテ馳スル舟モアリ、云云」

や-ほ（ヤ-オ）（數）〔八百〕 （一）百ヲ八ツ合ハセタル數。八百（ハッピャク）。（二）〔彌百ノ義〕 數ノ極メテ多キコト。「八百重」八百日」

⁂や-ぼ（名）〔野暮〕〔野夫ノ音轉ト云フ、又、藪者（ヤブモノ）ノ轉略、藪澤ノ人、田舍者ノ意ト云フ、通、粹、ノ反〕 （一）遊郭ニテ、不案内ノモノノ稱。野夫 風流徒然草（自笑）「女郎ノ名ナド付ケタルヲ、メヅラシク、アリガタガルハ、やぼノモノ興ズルモノナリ」 （二）趣味ノ洗練セラレヌコト。世情ニ通ゼズ風雅ノ心ナキコト。又、ソノ人。ブコツ。ブイキ。ブスヰ。不風流。不雅 年年隨筆、四「江戶人、カザリナキ人ノミテ、やぼト云フ、[illegible]註ニ、蒿蘆野老」好色一代女（貞享、西鶴）二「やぼハ嫌ナリ、云云、樣ナル男メニタマタマ逢ヘバ、云云」

やほ-あひ（ヤオ-アイ）（名）〔八百會〕 （一）數多ノモノノ相會スル處。古今神道類[illegible]、廿四、[illegible]八百會拜所」 （二）〔方方ヨリ集リ合フ處。大[illegible]」

〜やほ-か（ヤオ-カ）（名）〔八百日〕 甚ダ多クノ日數。萬葉集、四、三十「八百日行ク、濱ノマサゴモ、吾ガ戀ニ、豈マサラメヤ、沖ツ島守」

〜やほ-かひ（ヤオ-カイ）（名）〔八百穎〕 數多ノ稻。祈年祭祝詞「初穗ヲ[illegible]、千穎八百穎[illegible]」

〜やほ-ほ（ヤ-オ-ホ）（名）〔八百〕 數多ノホコ。萬葉集、十八、廿七長歌「皇神祖ノ、神ノ大御代ニ、田道間守、常世ニワタリ、夜保許持チ、マヰデ來シトキ」

やほ-しね（ヤオ-シネ）（名）〔八百稻〕 數多ノイネ。[illegible]田[illegible]、八百稻千稻[illegible]氏、[illegible]云云」

やぼ-すけ（名）〔野暮助〕〔擬人名〕 やぼ（野暮）ト云フニ同ジ。[illegible]色[illegible]代男（貞享、西鶴）二[illegible]ワケ[illegible]メノニカ、常世ノ[illegible]ヘ開キワケヌ野暮助モアルゾカシ」

〜やほ-たで（ヤオ-タデ）（名）〔八穗蓼〕 數多ノ穗アル蓼。源[illegible]集「[illegible]見レバ、やほたで生ヒテ、荒レニケリ、辛クシテダニ、君ガ訪ハヌニ」

〜やほ-たでを（枕）〔八穗蓼〕 八穗蓼ノ穗ヲ積むト云フヨリ、穗積（ホヅミ）ニ冠ラスル枕詞。萬葉集、十六、廿七「蓼トモ、草ハナ刈リソ、八穗蓼乎、ホヅミノアソガ、腋クサヲカレ」（古義ノ訓）

〜や-ほち（名）〔夜發〕 遊女ノ、甚ダ賤シキモノ。夜行シテ賣ル。マチギミ。タチギミ。ツジギミ。ソウカ。コタカ。パイタ。ヒッパリ。倭名抄、二、五乞盜類「遊女、云云、待、夜而發、其淫奔、者、謂、之夜發、俗云 夜保知」新撰字[illegible]「遊女夜發之長者」

〜やほ-ぢ（ヤオ-ジ）（名）〔八百路〕 アマタノミチ。又、遠キミチ。大祓祝詞「彌乃八百道（ヤホヂ）乃八[illegible]道之[illegible]乃八百會[illegible]、速開都比咩止云神」

やほちゃう（名）［八百長］（モト八百屋長兵[illegible]）[illegible]ベキ伎倆アルニ拘ラズ、巧ニアシラヒ[illegible]勝負ノ争ノコトヲ轉ジテ、凡テ内内申シ合ハセ置キテ争フコト。[illegible]

やほによし（枕）［八百丹吉］（ヤホニハ、多クノ土ノ義、よしハ、助辭）家屋ナドヲ築クニハ、多クノ土ヲ要スルヨリ、築クト云フ語ニ冠ラスル枕詞。古事記、下（雄略）歌「マキムクノ、日代ノ宮ハ、云云、夜本爾余志、イキヅキノ宮」（いハ發語、きづきの宮ハ作築の宮）

やほばしら（名）［彌帆柱］（彌帆ノ義、大帆ヲ張ル上ニ、小帆ヲ張ル意）大船ノ彌帆ヲ掛クル帆柱。斜ニ前ヘ出[illegible]ノ[illegible]百年前、西洋形ノ船ニ、大帆（長方形）ヲ張ル、其上ニ高帆（正方形）ヲ張リタル主檣ノ外ノ、彌帆（長方形）ヲ張リタル副檣ノ稱。ヤホノハシラ。頭桅

やほへ（名）［八百重］幾重ニモ重ナルコト。神代紀、上「可以治[illegible]原潮之八百重也」私記「潮八百重、志保乃也保部」

やほや（名）［八百屋］（雜物繁多ノ意）（一）一切ノ晶物野菜ヲ賣ル商家。又、ソノ人。アヲモノヤ。菜鋪 雅筵醉狂集（元祿）雜「八百屋商、嘘八百」（二）轉ジテ、學問、技藝ナドノ、繁多ニシテ雜駁ナルコト、又、ソノ人。コロツヤ。

やほやばうふう（名）［八百屋防風］はま

ばうふう（濱防風）ノ一名。

やほよろづ（名）［八百萬］[illegible]キコト。ヨロヅ。チヨロヅ。ヤヨロヅ。[illegible]ニ、八百萬、千萬神ノ、神ツドヒ」

やほろ（名）［矢母衣］[illegible]上ヲ蔽フ袋狀ノ母衣。武用辨略、四、射譜「矢[illegible]云物ノ、絹ヲ以テ作、矢ノ[illegible]セジトノ爲也トゾ」

やま（名）［山］（一）（土ノ、平地ヨリ大キク高クナレルモノ）山。[illegible]特ニ、比叡山ノ稱。古今集、十八、雜、下「世ヲ捨テテ、山ニ入ル人、山ニテモ、ナホウキ時ハ、イヅチユクラン」「山法師」山ノ座主」（三）（スベテ、物ノ堆クナレルモノ）堆。[illegible]霰ノ、オドロクカメノ、甲ノ上ニ、イカナル臨カ、山トツモリシ」「山ニ積ム」（四）樂車ノ山鉾ノ[illegible]（京都）[illegible]（樂車）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]織留（元祿、西鶴）六「コアルヒハ風呂屋衆人ヲ忍ビ遣レ[illegible]山ノ貴ルヲ見セケル」（五）行險者ノ仕事。行險 八笑人（文政、鯉丈）四編、下「與一兵衛ハ、少シ此ノ旦那ガ、山ガ有ッテ、ナサル積リダガ、云云」（六）スベテ、物事ノ絶頂。タウゲ。極點。

やま（名）［矢間］又、さま。さま（狹間、第二語）ノ條ヲ見ヨ。盛衰記、三十五、範頼義經京入事「引取リ引取リ放チケル矢、雨ノ足ノ如クニ飛ビ來リケレドモ、甲冑ヲユリ合セ、ユリ合セ、矢間ヲタバヒテ、振舞ヘバ、云云」

やま（接頭）［山］スベテ、モノノ野生ナルモノ、又ハ、恐ロシク、或ハ、肥エタルモノナドニ、冠ラスル語。「山犬」山猫」山桜」山男」山女」

やまあげ（名）［山上］抱擔ノ山、即チ、絕

頂ヲ過グルコト。特ニ、其十二日目ノ[illegible]作）七「孫ノ太市、抱擔モ山上ゲ仕マウタレバ、大役[illegible]ンダ、[illegible]」

やまあざみ（名）［山薊］[illegible]サシ。又、オニアザミ。大薊 倭名抄、十[illegible]

やまあひ（名）［山間］山ト山トノアヒダ。ヤマカヒ。カヒ。サンカン。拾遺集、四、冬、[illegible]あひニ降レル、白雪ハ、スレル衣ノ、ココチコソスレ」

やまあふご（名）［山朸］山樵キ用キル朸。あふご（朸）ノ條ヲ見ヨ。信州川中島合戰（享保、近松作）一「今此ノ國ニ彰澄ス、片山人トナラ柴ノ、腰ニ草鎌、山朸」

やまあらし（名）［山嵐］（一）ヤマジ。山ヨリ吹キオロス嵐。ヤマオロシ。古今集、十九、雜「フルサトノ、吉野ノ山ノ、山あらしモ、寒ク日ゴトニ、ナリユケバ」（二）柔道ノ手ノ一。投ゲ業ノ一種。右手ニテ相手ノ右ノ襟ヲ捉ヘ、左手ニテ右袖ノ肱ノ稍上部ヲ捉ヘ、次第ニ引キ付ケ釣リ上ゲ、相手ノ體ノ浮キ上ガリ來ル時ヲ見テ、其右足ノ踝ヨリ上ニ右足ノ甲ヲアテテ、吾ガ左前隅ニ大キク投グルモノ。

やまあらし（名）［山荒］齧齒類ノ獸ノ名。印度、亞弗利加、及、歐羅巴洲ノ南部ナドニ産ズ。形、鼠ニ似テ、大キサ兎ノ如ク、頭、小サク、[illegible]、肥エ、毛ハ剛クシテ、粗ク、長ク箸ノ如ク、光ル。本、白ク、末、尖リテ黒ク、背ノ刺、最モ長クシテ尺許

[illegible]相觸レテ聲アリ。然レドモ、性、順良ナ[illegible]シ、[illegible]二年巳ノ春、須藤ニ來リテ觀物トス」

やまあららぎ（名）［山蘭］（山ニ生ジテ、[illegible]）こぶし（辛夷）ニ同ジ。又、コブシハジカミ。[illegible]山蘭」催馬樂、妹與我「妹ト我ト、イルサノ山ノ、山あららぎ、手ナトリフレソヤ」也萬安良良支、手ナトリフレソヤ」

やまあり（名）［山蟻］古名、オホアリ。[illegible]

やまあゐ（名）［山藍］大戟科ノ多年生草本、[illegible]山足ノ陰地、森林中ニ多ク[illegible]對生ス。[illegible]尖リ、面深綠ニシテ背淡ク、鋸齒緻紋アリ。古ヘハ、此生葉ノ綠汁ヲ以テ青色ヲ染メ、小忌衣、青摺コレナリ。[illegible]花ヲ開ク、花落チテ小青實ヲ結ブ、大キサ山椒ノ如ク、熟シテ尚青シ。宅根、[illegible]藍色[illegible]長歌「紅ノ、赤裳スソヒキ、山藍モテ、摺レル衣キテ」

やまいぬ（名）［山犬］（一）食肉類ノ一。狼ノ屬、山中ニ棲ム、[illegible]如キ牙アリ。性、猛惡[illegible]

害スルコト狼ノ如ク、唯、脚ニ蹼ナキヲ異ナリトス。[illegible]　本草[illegible]内佛名[illegible]返シ、[illegible]切[illegible]、[illegible]ハ、山犬ノモノトゾナリニケル」(二)犬ノ、山ニ[illegible]ムモノ。

やまいぬ　(名)　〔病犬ノ略〕　病アリテ狂フ犬。狂犬。

やまいも　(名)　[illegible]　やまのいも(薯蕷)ニ同ジ。字鏡五十「署預、山伊母」やまいも鰻にたるトハ、身分卑キモノノ、[illegible]化シテ成リアガル譬ニ云フ語。[illegible]八、第二十八條「[illegible]ニ八成ルニコソ、或ハ蛇ノ[illegible]ニナルトモ、やまのいもの鰻になるトモ云事アリ」

やまう　(名)　夜盲　眼ノ病。とりめ(鳥目)ニ同ジ。

やまうつぎ　(名)　恆山　くさぎ(恆山)ノ古名。字鏡五十「恆山、山宇豆支」

やまうつぼ　(名)　山空穗　狩ナドニ用ヰル粗末ナルウツボナルベシ。[illegible]八、[illegible]「[illegible]ガ方ノ兵共、山靱、竹[illegible]ノアル程コソ防ギケレ、云云」

やまうど　(名)　病人　〔やまびとノ音便〕病メル人。ビャウニン。土佐日記、二月七日「カカルアヒダニ、船君ノやまうど[illegible]本、病者」、モトヨリコチゴチシキ人ニテ、云云」

やまうど　(名)　山人　〔やまびとノ音便〕やまびと(山人)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

やまうば　(名)　山姥　山姑　やまをとこ(山男)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]曲、山姥「サテ[illegible]ノ山姥ヲバ、如何ナル物トカ知ロシメサレテ候フゾ、山姥トハ、山ニ住ム鬼女トコソ、曲舞ニモ見エテ候ヘ」

やまうばら　(名)　[illegible]　〔山茨ノ義ニモアルカ〕　まゆみさう、[illegible]ノ古名。

シシノクビノキ。[illegible]也。[illegible]、名[illegible]、[illegible]

やまうり　(名)　山賣　(一)エモ[illegible]レヌモノヲ、賣リツクルコト。日本永代藏(貞享、西鶴)四「[illegible]、山賣[illegible]、[illegible]ノツキツケ[illegible]、ケケラケイワン、テテンガウ、今時ソノ手々クンベイウ[illegible]」(二)山ヲ賣ルコト。又、ソノ人。山林、金山ナドヲ賣買スル人。雙生隅田川(享保、[illegible]作[illegible]人ノ[illegible]、[illegible]ノ金山賣[illegible]タル、山賣ノ山コカシトハ汝ガコト」

やまうるし　(名)　山漆　(一)うるしのき(漆樹)ノ條ヲ見ヨ。(二)つたうるし(蔦漆)ノ一名。(三)はじ(黃櫨)ノ一名其條ノ(一)ヲ見ヨ。

やまおくり　(名)　山送　野邊ノオクリ。ノオクリ。[illegible]作[illegible]。[illegible]六、第五條「[illegible]フオサヘテ、最後之やまおくりシテ、泣ク泣ク[illegible]トナシ」

やまおろし　(名)　山颪　(一)山ヨリ吹キオロス風。ヤマアラシ。オロシ。ヤマオロシノカゼ。山風ノ、土地ニツキテハ、むこやまおろし(攝津ノ武庫山ヨリ吹キオロス風)ナド云フ。[illegible]九[illegible]「其日マデニハ、山下ノ、風ナ吹キソト、打チ越エテ[illegible]五、[illegible]法ノ聲、山おろしニツキテ聞エクル」(二)[illegible]歌舞伎芝居[illegible]テ、[illegible]ニ、アレ場、化物ノ出、又ハ、波風ノ音、ナドヲ立ツルトキ、大太鼓ヲドロドロト打ツコト。(山風ノ聲ニ擬シテ)

やまが　(名)　山家　〔山處ノ義〕　山ニアル家。山里ノ家。[illegible]七[illegible]「小[illegible]山家、也卡加」[illegible]記[illegible]事「少シヨカラン山が山がニ居タリケル德人アラハ、追ヒ[illegible]シ」[illegible]山家モノ」

やまかがし　(名)　〔次條ノ語ノ轉カ〕　蛇ノ[illegible]。[illegible]、貝[illegible]。[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]

やまかがち　(名)　[illegible]　[illegible]云フ」蛇ノ[illegible]。ロチ。ウハバミ。蟒蛇。[illegible]十九[illegible]「[illegible]蛇、[illegible]加[illegible]、[illegible]也」

やまかがみ　(名)　白斂　[illegible]ト云フ」びゃくれん(白蘞)ノ古名。倭名抄、廿[illegible]「白[illegible]、[illegible]」

やまがき　(名)　山柿　さるがき(猿柿)ニ同ジ。ゑなのがき(ゑなの柿)ノ[illegible]見ヨ。倭名抄、十七五[illegible]、[illegible]也、古今[illegible]、[illegible]キス、[illegible]ノ、[illegible]、[illegible]サニ」

やまがくる・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)　山隱　山ニ入リ隱ル。ヤマゴモリスル。又、山ニテ[illegible]テラレテ見エズナル。古[illegible]下(顯宗)五四十「オキメモヤ、近江ノオキメ、明日ヨリハ、ミ夜隱賀久理テ、見エズカモアラム」

やまがくる・る・ルル・ルレ・レ・レヨ(自動、下二)　山隱　前條ノ語ニ同ジ。[illegible]十四、[illegible]六「山隱れ、消エセヌ雪ノ、ワビシキハ、君マツノ葉ニ、カカリテゾフル」

やまがくれ　(名)　山隱　山ニ隱ルルコト。ヤマゴモリ。又、ヤマノカゲ。又、ソノトコロ。源、十三、明石十三「海ノツラニモ山がくれニモ、時時ニツケテ[illegible]サガスヘキ[illegible]ノ[illegible]」

やまかけ　(名)　山掛　山[illegible]ヲ擂リオロシテ、砂糖[illegible]ノ淳味一テヨク煮タルモノニ掛クルコト。又、ソノモノ。又、つくねいもヲ擂リ、味醂ト酢トヲ少シ入レテ採ミタルヲ、振リカケタルモノ。[illegible]

やまかげ　(名)　山陰　山ノタメニ、陰トナルコト。又、ソノトコロ。山ノカゲ。[illegible]ニ、[illegible]

やまかけざうふ　(名)　[illegible]　[illegible]ナル[illegible]ノ。又、イモカケドウフ。

やまかご　(名)　山[illegible]　[illegible]竹[illegible]、[illegible]代ノ[illegible]ナドヲ附ケ、[illegible]トシテ舁ク網籠。旅ノ山路ナドニ用ヰル。[illegible]、元和[illegible]五月七日[illegible]ノ[illegible]、云云」

やまかぜ　(名)　山風　山ヨリ吹キ下ス風。[illegible]、[illegible]五、[illegible]ノ、山[illegible]、[illegible]絮十五「雨スコシウチソソギ、山颪ヒヤヤカニ吹キタルニ、瀧ノヨドミモマサリテ、云云」

やまかせぎ　(名)　山稼　獵人、木樵ナドノ、山ニ稼ギニ行クコト。又、山ニ行キテ仕事ヲナスコト。又、ソノ仕事。日本新永代藏(正德、北條團水)[illegible]、山かせぎ、其中ヨリ人ヲ惡ミ、上ヲウヤマヒ、云云」

やまがそだち　(名)　山家育　山家ニテ育ツコト。又、ソノモノ。山育[illegible]、[illegible]

やまかた　(名)　山方　(一)山ニ關スル方。又、山林ナド、[illegible]事柄。(二)山ノ方向。又、山ノ地方。

やまがた　(名)　山縣　山ニアルアガタ。山ノ縣。[illegible]ノ[illegible]ヲモ[illegible]見セヨ。古事記、下(仁德)[illegible]、[illegible]ナモ、キビ人ト、共ニシ摘メバ、タヌシクモアルカ」

やまがた (名) [山形] (一)[illegible]布皮、ナド云フモノノ類。[illegible] (二)[illegible]ニアタリテ、山がたヲ立テタリ、云云、山がた及ビ[illegible]

〜やまかたつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [山片附] 山ノ方ニカタヨル。山ニソフ。[illegible]

やまがたな (名) [山刀] 樵夫ナドノ用ヰル刀。[illegible]「割キ鐡リ着テ、ホクソ頭巾ニ山がたなサシテ」

やまがつ (名) [山賤] [山縣ノ人ノ意ト云ノ] (一)山里ニ住ム樵夫、杣人ナドノ稱。シノ、シヅノ、シヅノメ、ヤマビト。[illegible]「[illegible]ネー、やまがつノ、垣根ノウバラ、花咲キニケリ」

やまかづら (名) [山蘰] (一)[illegible]ささのかづら(眞拆蔓)ヲ以テ結ヒタルかづら。上代、神事ニ用ヰタリ。古今集、廿、神遊歌「マキモクノ、穴師ノ山ノ、山人ト、人モ見ルガニ、やまかづらセヨ」 (二)山ノ端ニカカル曉ノ雲。[illegible]「[illegible]やまかづら、アケ行ク雲ニ、郭公、イヅルハツネモ、峯ワカルナリ」

〜やまかづらかげ (名) [山蔓陰] ひかげかづら(蘿葛)ニ同ジ。萬葉集、十四 三十「アシヒキノ、[illegible]」

やまがに (名) [山蟹] 又、いしがに。アカガニ。ベンケイガニ。[illegible]色、赤ク、甲、方形ニシテ、稍、[illegible] 石蟹

やまかは (名) [山皮] 山椒ノ樹皮。からかは(辛皮)ニ同ジ。

やまかは (名) [山川] (一)山ト、川ト。山河。萬葉集、十五「ウルハシト、吾ガ思フ妹ヲ、山川ヲ、中ニ隔ナリテ、安ケクモナシ」 (二)山ノ神ト、川ノ神ト。山川ノ神。神代紀、上八「吾已生、大八洲國及山川草木」此ドニ神ト云フ意ヲ附シテ心得ベシ

〜やまがは (名) [山川] 山ヨリ流ルル川。萬葉集、十五「[illegible]、奈良ノ都ハ、忘レカネツモ」

やまがはざけ (名) [山川酒] [山間ノ流水ハ白濁ナレバ名トス] しろざけ(白酒)ノ異名。色、白ク濁リテ、甘美ナリ。山川ノ白酒。雍州府志、六、土産門、上、造釀部「山川酒、六條坊小路酒屋造之、凡山間流水、多白色、此酒似其色、而甘美、因號之」

〜やまがはの (枕) [山川之] 山川ノ、水あさく、流はやく、岩ニ激シテたぎつ、おと高シ、ナドヨリ、あさ、はやし、たぎつ、おとナドニ冠ラスル枕詞。拾遺集、十四、戀、四[illegible]新撰和歌集、十五、[illegible]山川の、[illegible]早クモ今ハ、思ヘドモ、流レテウキハ、契リナリケリ」 萬葉集、十一「[illegible]ニ出テテ、云ハバユユシミ、山川之、たぎつ心ヲ、塞キアヘテケリ」(略解ノ訓)

後撰集、十八、雜、四「山川の、音ニノミ聞ク、百敷ヲ、ミヲ早ナガラ、見ルヨシモガナ」

〜やまかひ (名) [山峽] 山ト山トノ間。カヒ。山間。萬葉集、十七 「夜麻可比ニ、咲ケル櫻ヲ[illegible]」

やまがへり (名) [山鵥] 鷹ノ、山ニテ、胸ノ羽ノ斑ノ變ハルコト。かへる(鵥)ノ[illegible]ビキノ、山がへりナル、ハシ鷹ノ、サモ見エガタキ、[illegible]

やまがへる (名) [山蛙] かへるノ一種。あかがへる(赤蛙)ニ同ジ。

やまがへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [山鵥] 鷹ノ、山ニテ[illegible]ナレテモ、心オカルル、君ニモアルカナ」

やまかん (名) [山勘] [昔ノ軍略家、山本勘助ノ略稱ニシテ、他人ヲ[illegible]ケテ、おまかす意ト云フ] 相當ノ資本モ持タズ、誇大ナル玄關ヲ張リ、世人ヲ瞞着スルコト。又、ソノモノ。山師。(若越地方ニテハ、虚言ヲやまかんト云フトゾ)

やまかんむり (名) [山冠] 漢字ノ頭ニアル山ノ字ノ稱。岩、岸、岑、崑、崗、嶽ナドノ如シ。やまかむり。山字頭

やまがめ (名) [山龜] いしがめ(石龜)、及、かめ(龜)ノ條ヲ見ヨ。

やまがもの (名) [山家者] 山家ニ住ム民ノ稱。ヤマガノ人。ヤマガツ。山家子。好色一代男、天和、西鶴、四「木ノ端刈ル山家者ナ、ヒビ、アカギレヲナホサセ、云云」

やまがら (名) [山雀] 又、やまがらめ。[illegible]邊ニ黒條アリ、背、灰赤ニシテ、背、胸、[illegible] 夫木抄、廿七、山陵鳥「山がらノ、マハスクルミノ、トニカクニ、持テアツカフハ、心ナリケリ」

〜やまがらす (名) [山鴉] (一)山ニ棲ム鴉。[illegible]キモノハ、シブトガラス。[illegible]十八、雜、四「熊野、云云、頭白キ鳥ノ侍リケレバヨメル、[illegible]」 (二)[illegible]鴉)ノ一稱。其條ヲ見ヨ。

やまがらめ (名) [山雀女] やまがら(山雀)ニ同ジ。拾遺集、七、物名、やまがらめ「[illegible]チバニ、衣ノ色ハ、シミニケリ、秋ノやまがら、めグリコシマニ」

やまがりう (名) [山鹿流] 兵法ノ一派。江戸ノ浪人軍學者、山鹿甚五左衛門高祐(素行ト號ス)、[illegible]武田信玄ノ兵法ノ傳[illegible]甲州流ヨリ分ル。(明暦、萬治、寛文ノ頃ノ年間) 玉露叢話、十四、軍法兵道之次第「山鹿甚五左衛門ハ、[illegible]」

やまき (名) [八卷] (八卷ノ法ノ略)[illegible]八卷[illegible]「法華經ノ、[illegible]、やまきガホヲ、見ルゾ嬉シキ」(八牧ト八卷トヲ掛ク)

やまぎ (名) 山氣 山ヲナス氣質。行險者ノ心。サンキ。投機心。

やまきず (名) 山疵 (山ハ、山出しノ山ニテ、産地ノ意) 陶器、磁器ナドノ、製造ノ時ニ生ジタルきず。

〔やまぎり (名) 山霧 山ニ立ツ霧。萬葉集、十五 十二「ナガ月ノ、時雨ノ雨ノ、山霧ノ、イブセキ吾ガ胸、誰ヲ見バヤマム」古今ノ訓

やまぎり (名) 山桐 胡桃ノ類。さはぐるみ(澤胡桃)ニ同ジ。

やまくさ (名) 山草 (一)山ニ生ズル草。又、特ニ高山ニ生ズル草類。サンサウ。(二)うらじろ(裏白)ノ異稱 しだ(齒朶)ノ條ヲ見ヨ。 織留(元祿、西鶴)一「正月ノ掛鯛ノ山草、少シ枯ルルト思ヘバ、ハヤ蓮賣ル聲」

やまくす (名) 山楠 樟科ノ常綠喬木。暖地ニ自生シ、又、觀賞用トシテ庭園ニ栽培セラル。大木トナリテ高サ四丈許リニ達シ、葉ハ、長倒卵形ニシテ、ゆづりは(讓葉)ニ似テ、背、稍白シ。秋、淡綠色ノ花ヲ開キテ、實ヲ結ブ、大イサ豆ノ如シ。材ハ楠ヨリモ堅ク、老幹ニハ環紋、雲様ヲナスモノアリ。イヌクス。タマグス。アヲクス。トリクス。タブノキ。釣樟。

〔やまぐち (名) 山口 (一)〔ヤマノノボリクチ。山ノ入口。新年祭祝詞「山口坐皇神等能前爾白久、云云」(二)〔スベテ、物事ノ最初。入ル初。第一着手。源、十八、松風 四十「カクコソハ、スグレタル人ノ、山口ハシルカリケレ」湖月抄「物ノハジメヲ、山口ト云フナリト、花鳥ニアリ」(三)狩場ニ入リツク所、(鷹狩ニモ、先ヅ入ル所ヲ山口ト云フ) 亞槐集、二

「荒鷹ノ、心トリカフ、山口ニ、シルクゾ見ユル、今日ノ御狩場」(四)キザシ。前兆。兆候。蜻蛉日記、上、下 九「イチジルキ、山口ナラバ、ココナガラ、神ノ氣色ヲ、見セヨトゾ思フ」(五)杣人ノ、山ノ材ヲ伐リ始ムルコト。(伊勢造宮ノ時モ山口祭アリ)

やまぐちぼん (名) 山口本 おほうちぼん(大内本)ニ同ジ。老人雜話(江村專齋)下「大内介、云云、周防ノ山口ノ城ニ居ル、紙ヲ大明ヘ遣ハシ、書物ヲスラセテ取寄セケリ、今ニ至リテ山口本トモ、大内本トモ云フ」

やまぐちまつり (名) 山口祭 又、やまのくちのまつり。やまぐちのかみまつり。樵夫ガ山ヨリ木ヲ伐リ出ス時、又ハ、獵人ノ狩獵スル時ナドニ、其山ノ口ニテ山神ヲ祀ル祭 皇太神宮文政正遷宮記「文政二年壬午三月七日、巳刻、山口祭」 神宮雜例集、二、心御柱事「或云、大神宮廿年可被造替、十七年孟冬、祭山口并木本神等」

⁂**やまくぢら** (名) 山鯨 猪ノ肉ノ異名。(獸食ヲ忌ミシ頃ノ隱語) 皇都午睡、三編、上「猪鹿ノ肉ヲ、京攝ニテ鹿ト云ヒ、山鯨ト異名スレド、江戸ニテハももんぢい」

やまぐは (名) 山桑 (一)又、ツミ。山中ニ自生スル一種ノ桑。一名、野桑。くは(桑)ノ條ヲ見ヨ。(二)山茱萸科ノ樹ノ名。山地ニ自生スル亞喬木。高サ二丈餘、葉ハ楕圓形ニシテ、山茱萸ニ似テ、淡綠色ナリ。夏、枝ノ頭ニ花梗ヲ抽キ、花ヲ開ク、四片ノ總苞ハ、白ク大ニシテ瓣狀ヲナシ、中ニ小花聚リテ球狀ヲナス。實ハ、桑ニ似テ、秋ノ末、紅熟ス、食フベシ。又、イツキ。ヤマバウシ。四照花。

やまぐるま (名) 山車 山車科ノ樹ノ名

山地ニ自生スル常綠ノ亞喬木。高サ一二丈餘ニ達シ、葉ハ、楕圓形ニシテ、先端尖リ、鋸齒アリ。夏ノ初、枝梢上ニ綠色ノ小花ヲ總狀ニツケ、小豆大ノ乾果ヲ結ブ。樹皮ヨリ鳥黐ヲ製ス。一名、トリモチノキ。モチノキ。

やまげた (名) 山下駄 下駄ノ極メテ粗糙ナルモノ。山桐ナドニテ製ス。我衣(文化、曳尾庵)「山下駄ト云アリ、山ニテ作リテ出ス、下品ナリ、云云、是ハ茶屋ナドヘ客アリ、雨フリテカヘルトキノ、カケナカシナリ、吉原下駄ト云」

やまこ (名) 山子 やまし(山師)ノ條ノ(二)ニ同ジ。太平樂府、無益「白掛山子ハ毎會出、錢類花圖亦不中、空掛常殺身」

〔やまこ (名) (一)猴ノ五百歳ニシテ、毛、蒼黑ニシテ、能ク人ヲ攫ムモノト云フ。ひひ(狒狒)ノ類カ。玃 倭名抄、十八 廿毛羣名「玃、五百歳、則變爲玃、夜萬古」名義抄「玃、ヤマコ」(二)山ノ精、山ノ神。ヤマビコ。スダマ。字鏡集「魑、ヤマノカミ、ヤマコ、スタマ」

やまごえ (名) 山越 (一)〔山ヲ越ユルコト。又、其場所。源、五十、浮舟「オハシマサンコトハ、イト荒キ山ごえニナン侍レド、コトニ程遠クハ候ハズ」(二)江戸幕府時代、關所札(關所手形)ナキモノノ、間道ヲ廻リテ關所ヲ越ユルコト。御定書百箇條「關所難通類、山越等致候者、云云」

やまごえのみだ (名) 山越彌陀 畫題ノ一。山越三尊ノ彌陀。山ヲ畫キ、其山ノ彼方ニ阿彌陀三尊ヲ現ハシ、青綠ノ山水ノ間ヨリ、白雲ノ中ニ現ハレ出ヅル狀ヲ圖セルモノ。(大抵、密畫、濃彩ノモノ)

〔やまごし (名) 山越 山ヲ越スコト。又、

其場所。萬葉集、一 八「山越ノ、風ヲトキジミ、寐ル夜オチズ、家ナル妹ヲ、懸ケテシヌビツ」

やまことば (名) 山言葉 キコリナドノ山ニテ使用スル言葉 北越雪譜、初編、下「深山ニアリテ、常ノナスニハ、山ことば、トイフアリ、云云、米ヲ草ノ實、味噌ヲツブラ、鹽ヲカヘナメ、醬ヲザワウ、雜水ヲゾロ、天氣ノヨキヲ、タカガイイ、風フクヲ、山モセソヨガ、トイフ」

やまごばう (名) 山牛蒡 古名、イヲスキ。商陸科ノ多年生草本ノ名。山林ノ陰地ニ産ス。春、宿根ヨリ生ズ、葉、圓ク、直立スルコト三四尺、葉ハ煙草ノ葉ニ似テ、小サク、末尖ラズ、毛ナク、光リテ互生ス。夏、枝ノ梢毎ニ、三四寸ノ穗ヲナスコト、とらのを(虎尾)ノ穗ノ如クニシテ、五瓣花、綴リ開ク、大イサ三四分、白クシテ、後ニ紅ヲ帶ブ。後、黑紫色ノ實ヲ結ブ。根ハ長キ塊ヲナシテ横ニ延フ、利水ノ藥トス。タウゴバウ。イヌゴバウ。商陸 康頼本草、上 卅六「商陸、ヤマコホウ」 炭俵、夏「五月雨ヤ、露ノ葉ニモル、山ごばう」

やまごんにゃく (名) 草ノ名。てんなんしやう(天南星)ニ同ジ。

やまごもり (名) 山籠 (一)山ニトヂコモルコト。(二)山中ニ隱遁スルコト。(三)〔山寺ナドニ籠リテ、修業スルコト。宇津保物語、藤原君 四十五「比叡ノ堂ニ、云云、山ごもりシ給ヒツルニコソアリケレ」源、三十八、夕霧 三「律師ノ、山籠リシテ、里ニ出デジト誓ヒタルヲ、云云」

やまざきは (名) 山崎派 儒學ノ一派。江戸時代ノ學者、山崎闇齋ノ唱道セシモノ。初、朱子學ヲ主張シ、後、一種ノ神道ヲ唱フ 閑窓學問(明和、大江資衡)上「學門閑窓派、山崎派トハ、山崎嘉右衛門ト云フ人ノ學門ナリ、敬義トモ闇齋先生トモ云フ、モハパラ朱子學ヲ」

タットビテ、人ヲヲシヘミチビキタ[illegible]

〜やまさく [illegible] ノ類。今、なべわり(鍋破)ト云フ。其條ヲ見ヨ。倭名抄、廿[illegible]草類「[illegible]、夜末久佐(佐久ノ誤)」本草和名、上[illegible]「[illegible]、也末佐久」

やまざくら (名) [山櫻] (一)山ニ自生シ[illegible]ク開ク櫻[illegible]本邦ノ[illegible]中、最モ普通ナルモノ。花[illegible]八重ナルモアリ、紅、白二種アリ。各地ノ山中ニ自生ス[illegible]山、最モ名アリ。

やまさくらど (名) [山櫻戸] さくらど(櫻戸)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

〜やまさくらばな (名) [山櫻花] 山櫻ノ花。萬葉集、十七[illegible]「アシヒキノ、夜麻左久良婆奈、一目ダニ、君トシ見テバ、アレ戀ヒメヤモ」

〜やまさち (名) [山幸] 山ノ幸。山ノ獲物。(海幸ニ對ス) さち(幸)ノ條ヲモ見ヨ。古事記、上[illegible]「山佐知母、己ガサチサチ、海幸モ、己ガサチサチ」

やまさつ (名) [山獵夫] 山ノさつを。山ニテ狩スル獵師。ヤマダチ。夫木抄、三十六、[illegible]ガ、ネツフシカキヤ、シケカフン、居待ノ月ノ、イデヨサリスル」

〜やまざと (名) [山里] (一)ヤマガ。山中ニアル村里。山間ノ人里。山村。古今集、六、冬「山里ハ、冬ゾ寂シサ、マサリケル、人メモ草モ、カレヌト思ヘバ」[illegible]山里ニアル別莊。[illegible]三十八、夕霧「宮ス所、物ノケニ[illegible]小野トイフワタリニ、山ざ[illegible]ヘリ」

〜やまざとずみ (名) [山里住] 山里ニ住居[illegible]「コノ山さとずみシ給コソ、イトムウケレ、云云」

〜やまざとびと (名) [山里人] 山里ニ住居スル人。ヤマビト。源、廿一、少女[illegible]「オボツ[illegible]」

〜やまざと・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) [山里] [山里ヲ活用ス] 山里ノ如クア[illegible]ルワカ人ドモハ、サシイラヘン言ノ葉モ覺エテ」

〜やまさは (名) [山多] 「[illegible]、多キ意、コレヲ倒置シテ、さは[illegible]、澤山ト書キ、音讀シテ、たくさんト云フ」多キコト。

やまさはびと (名) [山澤人] 山澤ニ住ム人[illegible]

〜やまさ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) 山フリテ、神神シクアリ。萬葉集、一[illegible]長歌「畝火ノ、コノミヅ山ハ、日ノ横ノ、オホミカドニ、ミヅ山ト、山佐備イマス、云云」

やまし (名) [山師] (一)「鑛山師ノ略」鑛物ヲ掘リアツルカ、失敗スルカヲ、賭シテスル者。又、鑛山ヲ所有シテ、金屬ヲ掘ルヲ業トスル者。カネホリ。坑戸(二)山林ノ立樹ヲ賣買シテ、材ニ伐リ出スヲ業トスル者。(三)日當ナキ事、危キ事ナドヲ犯シテ、萬一ノ大利ヲ得ムト計ル者。ヤマコ。行險者。浮世風呂(文化、[illegible]山師チフ者ア、何ガタアカナ、早ク歸[illegible]許欺師

〜やまし (名) [[illegible](羊蹄菜)ノ條ヲ見ヨ] 草ノ名。[illegible](知母)ニ同ジ。倭名[illegible]ニシ、アリトハ聞ケド、見ルヨシモナシ」

やまし [疚] (一)(なやまし(惱)ニ同ジ。源、廿一、少女[illegible]「ナマ心やましきママニイフ」(二)心中、安ラカナラズ。良心ニ恥ヅル所ア[illegible]

やまし (名) [山風] [山(風)ノ條ヲ見ヨ] 山ヨリ吹キオロス風。ヤマオロシ。西海[illegible]地方ノ[illegible]

やましぎ (名) [山鴫] [田鴫ニ對シテ云フ語] 古名、カヤクキ。カヤクグリ。今、又、ホトシギ。うばしぎ(姥鴫)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。古事談、二、臣節「大殿大饗之時、山鴫ノ[illegible]」

〜やましし (名) [山羊] [山鹿ノ義] かもしか(羚羊)ニ同ジ。かもしし(羚羊)、及、かもしかノ條ヲ併セ見ヨ。[illegible]下、十四年九月「賜二羆皮、山羊皮一、各有レ差」

やました (名) [山下] (一)山ノ下ヤマモト。フモト。(二)〔山したぶノ義ト。〕山したぶノ條ヲ參見セヨ」山ニ於ケル春ノ花、又ハ、秋ノ紅葉ナドノ、色映エテ光リ輝クコト。[illegible]長歌[illegible]ク春べハ、巖ニハ、山下光リ、錦ナス、花咲キヲヲリ」

やましたかげ (名) [山下蔭] ヤマノシタカゲ。山ノフモトノ蔭トナル所。國基集「尋ネ來ル、人モアルヤト、アシヒキノ、山下かげニ、花ゾ殘レル」

やましたかぜ (名) [山下風] 山ヨリ吹キオロス風。オロシ。古今集、七、賀、白雪ノ、

[illegible]シク時ハ、ミ吉野ノ、山下風ニ、花ゾ散リケル」

〜やましたつゆ [illegible] [illegible]ノ露。[illegible]七[illegible]「ヌバタマノ、[illegible]山ヲ、[illegible]エテ、山下露ニ、ヌレニケルカモ」

やましたみづ (名) [山下水] 山下ヲ流ルル水。古今集、十九、長歌

やましほ (名) [山鹽] [illegible]ハ、[illegible]煮テ取ルモアリ。會津ノ田島ノ奥ノ山里ニ、鹽澤ト云フ地ニ、一ツノ井アリ、涌出[illegible]又、[illegible]方ヨリ出ヅル岩鹽モ、是レナリ。

やまし・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [病] ヤムヤウニスル。ヤマヒニカカラシム。字類抄「[illegible]、ヤマシム、病也」

やましゅう (名) [山衆] [illegible]

〜やましろつかひ (名) [山城使] 古ヘ、賀茂祭(陰暦、四月中ノ酉日)ノトキ、山城ノ國守ノ參詣スルモノ。中右記、保安元年四月十五日[illegible]

〜やますが (名) [山菅] 次條ノ語ニ同ジ。[illegible]

〜やますげ (名) [山菅] [illegible]

草類、麥門冬、也末須介」本草和名、上、十「麥門冬、夜末須介」枕草子、四、第四十四段「山タチバナ、ヒカゲ、麥門冬ナド、ウツクシゲニカザリテ、云云」

やますげの (枕) 山菅之 山菅ノ葉ノ繁ク亂レ、且、正シク相對セザルヨリ、みだる、そがひナドノ語ニ冠ラスル枕詞。萬葉集、十二、十「山菅、亂レ戀ノミ、セシメツツ、アハヌ妹カモ、トシハヘニツツ」

やまずみ (名) 山住 山ニ住ムコト。又、山寺ニ住ムコト。又、其モノ。源、三十八、夕霧四十「御山ずみモ、イトフカキミネニ」

やませ (名) 山背山瀬 〔山ノ背ヨリ吹ケバ云フ、出雲ニテハ、南ニ山アリ、故ニ南風ヲ云フ〕おち(東風)ノ異名。(津輕)又、東北ヨリ吹キ來ル風ノ名。蜻蛉日集「カチマケノ、弓ノやませニ、散ルハナノ、マトヰノ外ノ、人モミヨカシ」

やませうびん (名) 又、やませみ。鳥ノ名。かはせみ(魚狗)ノ條ヲ見ヨ。重修本草綱目啓蒙、二十六、水禽類、魚狗、云云、翡翠、カホドリ、やましやうびん、ミヤマソビ、ミヤマシヤウビン」喚子鳥、下「山せうびん、山せみトモ云フ」

やませかぜ (名) 山背風 近江國湖水邊ニテ、春夏ノ風ヲ云フ。物類稱呼、一、天地「近江國湖水ニテ、云云、春夏ノ風ヲ、やませ風、又、ナガセ風、又、セタ風ナド云」

やませび (名) 翡翠 又、やませみ。鳥ノ名。かはせび(魚狗)ノ條ヲ見ヨ。又、ヒスヰ。次條ニ同ジ。

やませみ (名) 翡翠 又、やませび。鳥ノ名。かはせみ(魚狗)ノ條ヲ見ヨ。大和本草、十五、水鳥「魚狗、大小二種アリ、小ハかはせみト云、多シ、云云、是翡翠ナルベシ、云云、山せみトモ云、常ノ川セミニ似テ大也、云云」

やまぜみ (名) 山蟬 くまぜみ(熊蟬)ノ一名。重修本草綱目啓蒙、廿八、化生蟲類、蚱蟬、云云、馬蜩ハムマゼミ、クマゼミ、やまぜみ、云云」

やまぜり (名) 山芹 (一)〔たうき(當歸)ノ古名。倭名抄、廿、草類「當歸、夜末世利、一名、宇末世利、一名、加波佐久」〕(二)ばうふう(防風)ノ一名。其條ノ(二)ヲ見ヨ。(三)又、繖形科ノ草本ノ名。山地濕潤ノ地ニ生ジ、莖ノ高サ三四尺、葉ハ大ニシテ鋸齒鈍ク、秋、白色五瓣ノ花ヲ複繖形花序ニ開ク。根ハ胡蘿蔔ニ似、實ハ、をかぜり(蛇床子)ノ如シ。

本草和名、上、左「當歸、也末世利、一云、於保世里、又云、宇末世里」

やまそだち (名) 山育 山家育。山ニ育ツコト。又、其モノ。山家育。謠曲、大江山「我ハモトヨリ出家ノカタチ、童子モサスガ山育ち」

やまそは (名) 山岨 〔そは(岨)ノ條ヲ見ヨ〕山ノガケ。山ノキリギシ。新六帖、二、山の井「山そはノ、岩根ニハヘル、松ノ根ハ、タヘヌトコ井ノ、井ヅツナリケリ」

やまぞひ (名) 山沿 ヤマニソフコト。又、ソノ場所。「山沿ノ村」山沿ノ田」

やまだ (名) 山田 山ヲ開墾シテ田トシタル所。又、山間ニアル田。允恭紀、廿三年三月「足引ノ、耶麼娜ヲツクリ、山タカミ」萬葉集、十四「足ビキノ、山ノ跡陰ニ、鳴ク鹿ノ、聲キカスヤモ、山田守ラス兒」

やまだい (名) 山臺 芝居ノ演藝中、役者ノ舞臺ニテ使用スル腰掛。開中以下ノ用途ニテ、長方形ノ木匣ノ如キモノ。上ヲ紙ニテ貼ル。

やまたか (名) 山高 (一)江戸時代、山ヨリノ收益高ヲ計リ、其村高ニ組入レ、石高ニ應ジテ、田租ノ外ニ、徵收セル附加稅。地方凡例錄、一「山高之事、村中入會之山有之、山役ノ數ニ付、山高ヲ出シ、本途ノ年貢ヲ出シ、村高ニ結ビ入ル、云云」(二)山高帽子ノ略。

やまたかばうし (名) 山高帽子 前條ノ(二)、及、ばうし(帽子)ノ條ヲ見ヨ。

〔采〕堅キ帽子ノ頂ヲ高ク張リタルモノ、カクシテ、頂ノ中ヲ凹マスベク作レルヲ、中折帽子、略シテ、中折ト云フ

やまだし (名) 山出 (一)山ヨリ運ビ出スコト。山ニテ產ジタル木、薪炭ナドヲ運ビ出スコト。又、ソノ品。(二)田舍者ノ、都會ニ始メテ出デタルモノ。ポット。好色一代女(貞享、西鶴)二「一間ナル小座敷、見好ゲニ住ミ成シ、山出しノ下女ヒトリ遣ヒテ」

やまだち (名) 山立 (一)山中ナドニ潛ミテ、行劫ナドスル浪人。山賊。山客。著聞集、十二、偸盜「奈良坂ニテ、山だち待チマウケテ、布施物皆奪ヒ取リテケリ」(二)カリウド。獵師。サツヲ。ヤマサツ。

やまたちばな (名) 山橘 (一)山ニ生ズル橘ノ樹。野生ノたちばな。萬葉集、四四十「足引ノ、山橘ノ、色ニ出デテ、語ラヒツキテ、アフコトモアラム」同、十九、二十「此雪ノ、消殘ル間ニ、イザ行カナ、山橘ノ、實ノ照ルモ見ム」(二)こうじ(藪柑子)ニ同ジ。(全體、橘ニ似タル故ニ云フ)(三)ぼたん(牡丹)ノ異名。天治字鏡、七十六「牡丹、山橘」

やまたちひめ (名) 山立姬 (野猪ハ、好ミテ、錦斑ノ蟲、即チ、蝮蛇ヲ食フコリ、美稱セシ語ト云フ)ゐのしし(野猪)ノ異名。嬉遊笑覽、八、方術「蟲よけ(毒蟲ニ刺サレタル時)稀薟葉、マタ蒼耳葉ノ汁ヲ絞リテ、胡椒ノ粉ヲトキテ、傷處ニ塗ルニ、唱フル歌アリ、コノ道ニ、錦斑ノ、蟲アラバ、山立ち姬ニ、告ゲテトラセン、山立姬ハ野猪ヲ言フナリ、野猪ハ蛇ヲ食フ、最モまむしヲ好ムト云フ」

やまたづ (名) 〔山鎚ノ下略カ〕(一)山人ノ用キル手斧。(二)轉ジテ、杣人ノ稱。草根集、十四「袖カロシ、此ノ山たづニ、杣板ノ、直ナル道ヲ、夏ヤキニケン」

やまたづ (名) 接骨木 〔くさたづ(接骨草)ニ對ス〕にはとこ(接骨木)ノ古名。

やまたづの (枕) たづのき(接骨木)ノ枝葉、對生スルヨリ、迎ふト云フ語ニ冠ラスル枕詞。古事記、下(允恭)「君ガ行キ、ケナガクナリヌ、夜麻多豆能、迎ヘヲ行カム、待ツニハ待タジ、此云山多豆者、是今造木者也」萬葉集、六「山多頭ノ、迎ヘ參出ム、君ガ來マサバ」

やまだのそほど (名) 山田曾富騰 〔そほどハ、濡人ノ約、雨露ニ濡チテ、山田ニ立テル意ト云フ〕(一)神代ニアリシ久延毘古ト云フ神ノ一名。(崩彦ニテ、久シク濡ヅルママニ、崩ユル意ト云フ)古事記、上、四十六「久延毘古者、於今者、山田之曾富騰者也、此神者、足雖不行、盡知天下之事神也」(二)轉ジテ、やまだのそほづ。そほづ。略シテ、そほづ(案山子)、及、かがし(案山子)ノ條ヲ見ヨ。古今集、十九、誹諧「足引ノ、山田のそほづ、オノレサヘ、我ヲ欲シト云フ、ウレハシキコト」奥儀抄「そほづトハ、田ニおどろかしニ立タル人カタナリ」

やまたべ (名) 山直 古ヘノ部族ノ名。あたひべ(直部)ノ條ヲ見ヨ。

やまだもり (名) 山田守 山田ヲマモルヒト。山田ノ番ヲスル人。夫木抄、十二、秋田「山田もり、イヤネザルラン、カリガネノ、秋ノ夜深ク、鳴キワタルナリ」

やまだりう (名) 山田流 琴曲ノ一派ノ名。檢校山田斗養一ノ創メタルモノ。

[illegible]化十四年四月十日歿、六十一歳) 山田撿[illegible]

[illegible]故、嶺見捉以、白山多和(引:越部嶋(逃上行也)」

やまたわ (名) [山𡺸] 山ノ撓ミタル[illegible]

やまち (名) [山路] ヤマノ道路。ヤマミチ。[山道] 萬葉集、九「朝霧ニ、ヌレニシ衣、ホサズシテ、一人ヤ君ガ、山道越ユラム」

やまちさ (名) (一)山ニ自生セルチサノ木。(二)[木ノ名。さんごじゅ(珊瑚樹)] [illegible] 萬葉集、七「イキノヲニ、念ヘル吾ヲ、山ぢさノ、花ニカ君ガ、ウツロヒヌラム」

やまついも (名) [山芋] やまのいも(山芋)ニ同ジ。倭名抄、十七「芋類、薯蕷、一名山芋。[illegible]」

やまつくり (名) [山造] 柚木ヲ用材ニ造リナスコト。[illegible]

やまづたひ (名) [山傳] ヤマミチヲ傳ヒユクコト。又、山ヲ傳ヒ行クコト。夫木抄、廿七、猿「谷ゴシノ、松ノフル枝ヤ、友猿ノ、やまづたひスル、路トナルラン」

やまつづき (名) [山續] (一)山ノ脈ノツヅクコト。タウゲヅル。丘壟。山脈。(二)山ニツヅクコト。又、ソノ所。俳諧

[illegible]

やまつつじ (名) [山躑躅] (一)山ニ咲ク[illegible]ドモ、人家ニモ栽エラル。高サ四五尺、[illegible]枝ト共ニ毛アリ、四月頃、赤色漏斗形ノ花ヲ開ク、單[illegible]つつじトモ云フ。[illegible]

やまづと (名) [山苞] 山ヨリ持チ[illegible] [illegible]ビキノ、山行キシカバ、山人ノ、ワレニエシメシ、夜麻都刀ゾコレ」 源、十、榊「山づとニモタセ給ヘリシ紅葉、御前ノニ御覧ジクラブレバ」云云」

やまつなみ (名) [山津浪] 大雨ナドニテ、山ノ崖ナドノ、大イニ崩レテオシ出スコト。ヤマヌケ。ヤマクヅレ。

やまつばめ (名) [山燕] 燕ノ一種。[illegible]

やまつみ (名) [山祇] (みハ異靈ノびト通ズ、山之靈ノ義) 山ヲ知リマス神。山ノ主ル神。山ノ神。山神。[illegible]

やまづら (名) [山面] 山ノ表面。山ノオモテ。散木集、九、雜、上「面白カリケル中ニモ、カハムカヒノ山づらイフナリケルガ」云云」

やまづゑ (名) [山杖] (一)山ノ木ニテツクレル杖。(二)山人ノツクレル杖。神樂歌(天治本)杖「アフサカヲ、ケサコエクレバ、ヤマ人ノ、ワレニクレタル、也万川惡ゾコレ」

やまて (名) [山手] (一)山アル地方。ヤマノテ。山地 浦島年代記(元祿、近松作)一「年

人ハ山手、平馬ハ濱手、急ゲ急ゲト追立ヤリ」(二)古ヘ、山ニ關所ナドヲ設ケテ、通行スル[illegible]手、川手、關手、梶別錢ナド云ヘルモノニテ、永祿ノ比ヨリ、運上ト云フ名目ハ、云ヒ出タルナルベシ」(三)次條ノ語ノ略。山ノ稅。山ノ運上。

やまてまいえい (名) [山手米永] (山年貢ノ意)ノ一。村持ノ山ニテ、其山ノ收益ニ應ジ、村中ヨリ納メタルモノ。地方凡例錄、五「山手米永、是ハ山[illegible]」

やまでまり (名) [藪繡毬] 又、やまでまり。へみ(榧)ノ條ヲ見ヨ。

やまデラ (名) [山寺] 山ニアル寺。山中ノ寺院。サンジ。源、五、若紫「十「カノやまでらノ人ハ、ヨロシウナリテ、出デ給ニケリ」

やまと (名) [倭、大和、日本] (大ノ字ハ、美稱、天平勝寶年中、大和ト改ム、此語原ハ、古來種種ノ說アレド、スベテイカガナリ、コレハ山間處ノ約ナルベシ、(たびひと、たびと、ノ類)大和國ハ四方、山ニシテ、中ニ平地アルヲ以テナリ、山背ニ對ス、又、日本ヲやまとト訓ムハ、大和ヨリ移レルナリ」(一)大和國ノ稱。帝都ノアル國ヲ中心トシテ、四方ニ及ビ、奈良朝ノ頃ニハ、外國ニ對シテ、日本ト云ヒシナリ。神武紀ノ初ニ、日本ニテ東征ヲ議セラレシ時、「東有美

[illegible]弘天業、光宅天下、蓋六合之中心乎」ト宣ヒシハ、大和國ヲ指シ給ヒシナリ。[illegible]廻望シ、「猶如蜻蛉之臀呫」ト宣ヒ[illegible]又、同年同月、大和國[illegible] 行)景行[illegible]「青垣山、コモレル、夜麻登シ、美ハシ」 景行紀、十七年三月「タタナヅク、青垣山、コモレル、夜麻登シ、ウルハシ」 (二)皇都ノ稱。神武天皇ヨリ御代御代、帝都ヲやまと(大和國)ト申シ習ヘル故ニ云フ。古事記、下(仁德)[illegible] 又、おほやまと[illegible]ぐに(大八島國)ノ條ヲ見ヨ。神代紀、上[illegible]三年七月「韓國ノ、城ノ邊ニ立チテ、大葉子ハ、ヒレ振ラスモ、日本ヘ向キテ」

やまと (名) [山處] ヤマ[illegible]ヲノ納ト」[illegible]ヒトモト薄、ウナカブシ」

やまとうた (名) [大和歌] 「唐歌」ニ對ス」

うた(歌)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 名義抄「倭歌、ヤマトウタ」 萬葉集、五十「倭詩」 後ニ詩アリシナラム 古今集、序「やまとうたハ、人ノ心ヲ種トシテ、萬ヅノ言ノ葉トゾナレリケル」 伊勢物語、第八十二段「酒ヲ飲ミツツ、やまとうたニカカレリケリ」 續紀、十九、嘉祥二年三月、長歌「夫倭之國、比興詩、先、感、動人情、最在、茲矣」

やまと-うちは(ヤマト・ウチワ) (名) ［大和國扇］ 國扇ノ一種。横廣ク製シ、竹ノ柄モ稍太ク、歌舞伎役者ノ似顔繪ナドヲ貼リタルモノ。松平大和守ノ家中ノ、内職ニ製出シタルモノト云フ。

やまと-うつぼ (名) ［大和靱］ 木、又ハ、竹ニテ編ミ造リ、黒ク塗リテ、毛皮ヲ掛ケザルうつぼ。 供立之日記「やまとうつぼノ事、遠路ヘハ用心ノタメニテ候間、走衆ノマタ小者ニ持セラルベシ」

やまと-がかり (名) ［大和掛］ (南派、大和ノ奈良ニ住ミシ故ニ云フ、京掛ニ對ス) 能樂ニテ、金春(コンパル)ト金剛トノ二流ノ稱。カミガカリニ對シテ、シモガカリ。

やまと-がき (名) ［大和柿］ ごしょがき(五所柿)ニ同ジ 渡邊幸庵對話「御所柿ハ、和州五條トイフ所ヨリ出ル、南都ヨリ上ニ樺(カシ)リテ、大和柿ト改テ、駿州ニモ被ニ移植ヘ今ニ御城下ニモ多アリ」

やまと-がな (名) ［大和假名］ (一)かたかんな(片假名)ノ條ヲ見ヨ。(二)轉ジテ、ひらがな(平假名)。其條ヲ見ヨ。 蕪村句集「大和假名、いノ字ヲ兒ノ、筆始」

やまと-ぐら (名) ［倭鞍・和鞍］ (唐鞍(カラクラ)ニ對ス) 又、わぐら。我ガ國、古來ノ制ナル常ノ鞍ノ稱。 北山抄、五、大嘗會御禊事「五位以上倭鞍、用唐鞍、結唐鞍」 古今要覽稿、百五十一、器財部、和鞍「和鞍トイフハ、皇朝ノ鞍ナリ」

やまと-ごころ (名) ［大和心］ (一)古クハ、漢學ノ力アルヲ漢才(カラザエ)ト云ヒシニ對シテ、我ガ世才ニ長ケタルコト。漢學ノ力ニ頼ラズ、獨リ自ラ活動スルヲ得ル心、又ハ、氣力ノ意ナリ。 今鏡、上、第三、内宴「彼ノ少納言ハ、唐ノ文ヲモ博ク學ビ、やまとごころモカシコカリケルニヤ」 愚管抄、三、一條院「内大臣藤原伊周、人カラ大和心バエワロカリケル人ナリ、からざえハヨクテ、詩ナドイミジウ作リケレド」 菅家遺誡「凡國學所要、雖欲論涉古今究天人、其自非和魂漢才不能闞其閫奥矣」(遺誡ハ、僞書ナリト云フ) (二)轉ジテ、我ガ日本國民ノ固有スル忠君、愛國、尚武、廉潔、義俠ノ精神。日本ノ國體ヲ本位トシテ、外國ノ侮ヲ禦ギ、皇國ノ國光ヲ發揚スル精神ノ活動。又、我ガ國ノ道德ノ精華。ヤマトダマシヒ。和魂。 宣長の歌「敷島ノ、やまとごころヲ、人問ハバ、朝日ニニホフ、山櫻バナ」

やまと-ごたつ (名) ［大和火燵］ おきごたつ(置火燵)ニ同ジ。

やまと-ごと (名) ［日本琴・倭琴・和琴］ 神樂、雅樂ナドニ用ヰル古代ノ樂器。あづまごと(東琴)ニ同ジ。又、ムツノヲゴト。ムツノヲ。スガゴト。倭琴(ワゴン) 倭名抄、四、琴瑟類「日本琴、云云、體似筝而短小、有六絃、俗用倭琴二字、夜萬止古止」 雅樂寮式「和琴一面、長六尺二寸、料絲二兩」 御鎭座本紀「天鈿女命、云云、天香弓興並叩弦(今世謂和琴、其縁也)」 無名抄、上「アル人云、和琴ノオコリハ、弓六張ヲ彈キナラシテ、是ヲ神樂ニ用ヒケルヲ、ワヅラハシトテ、後ノ人ノ琴ニ作リナセルト、申傳タルヲ、云云」

やまと-ことのは (名) 大和言葉 又、やまとことば。我ガ國、固有ノ言葉ヲ用ヰテ詠ム歌。ヤマトウタ。和歌。 源、一、桐壺「亭子院ノ書カセ給ヒテ、伊勢、貫之ニ詠マセ給ヘルやまとことのはヲモ、唐土(モロコシ)ノ歌ヲモ」 夫木抄、三十、國「秋津島、人ノ心ヲ、種トシテ、外ニハ開カヌ、やまとことの葉」

やまと-ことば (名) ［大和詞］ (一)日本國ノ固有ノ言語。和語。日本語。 字類抄「和言、ヤマトコトバ」 (二)ヤマトウタ。和歌。 (一)ノ語ヲ見ヨ。 新拾遺集、十七、雜、中「敷島ノ、大和言葉ノ、花ナクバ、老ノ心ヲ、何ニ染メマシ」 浄瑠璃物語、やまとことば「浄瑠璃、云云、今ヨリ後ハ物言ハジト、オボシメシ、木幡山ニハアラネドモ、タダ口無シ(梔子)トテ音モセズ、御前ノ聞召シ、大和ことばニナゾフヘテ、仰セケルコソオモシロケレ」 新六帖、五、くちなし「木幡山、アルハサナガラ、口ナシノ、宿借ルトテモ、答ヘヤハセン」 (三)日本ノ文章ノ上ニ用ヰル語。雅言。

やま-ところ (名) ［山草薢(ヤマトコロ)］ (山草薢ノ義ニモアルカ) 又、やまち。ちも(知母)ノ古名。其條ヲ見ヨ。 本草和名、上廿「知母、也未止古呂」 字鏡五十九「菖母、山止己呂、一名、野蓼」

やまと-ごゑ(ヤマト・ゴエ) (名) ［倭音・和音］ 呉音(ゴオン)ノコト。

やまと-さう(ヤマト・ソウ) (名) ［大和相］ ヤマトブリノ人相。又、日本人ノ相。 源、一、桐壺廿「帝カシコキ御心ニ、やまとさうヲおホセテ、云云」 河海抄「和國相也」

やまと-しまね (名) ［日本島根］ (一)大八洲(オホヤシマ)ノ古語ノ遺稱。又、やまとしま。アキツシマネ。大日本國(我ガ國ハ、島國ナレバ、島根ト云フ) 萬葉集、廿五十六「イザ子共、狂行(タハワザ)ナセソ、天地ノ、固メシ國ゾ、夜麻登之麻禰ハ」 新拾遺集、七、賀「四方ノ海、浪治マリヌラシ、我ガ國ノ、大和島根ニ、波シヅカナリ」 (二)大和國ノ稱(國ハ、島ノ義) 萬葉集、三、廿四「ナグハシキ、印南(イナミ)ノ海ノ、奥津浪、千重ニ隱リヌ、山跡島根ハ」 同、同、五長歌「手ニ卷カシタル、珠タスキ、懸ケテ偲ビツ、日本島根ヲ」(越前敦賀ニテノ歌)

やまと-すず (名) ［大和鈴］ 蟲ノ名。くさひばり(草雲雀)ノ條ヲ見ヨ。

やまと-だましひ(ヤマト・ダマシイ) (名) ［大和魂］ (一)やまとごころ(大和心)ノ(一)ニ同ジ。又、日本ノ學問。 源、廿一、少女「猶、才ヲ本トシテコソ、大和魂ノ、世ニ用ヰラルル方モ強ウ侍ラメ」 愚管抄、四、鳥羽院「公實ノ、和漢ノ才ニ富ミテ、北野ノ天神ノ御アトヲモ、又、如是... やまとだましひノ勝リテ、云云」 (二)偉大ナル精神。確乎タル意思。嚴然タル剛直ノ念、不撓ノ耐忍力。皇國人ノ廉直勇猛、國民上ノ精神。かみのみち、やまとおころ(大和心)ノ條ノ(二)ニ同ジ。日本膽 神道學則、三則「日本膽」

やまと-つかひ(ヤマト・ツカイ) (名) ［大和使］ けんたうし(遣唐使)ニ同ジ。 夫木抄、三十五、使「今ノ世ニ、アリトハ聞カズ、モロコシノ、フミ學ブテフ、やまとつかひハ」

やまと-とぢ(ヤマト・トジ) (名) ［大和綴］ 書物ノ綴方ノ一。紙ヲ半ヨリ折リテ、折目ノ處ニ孔ヲ穿チ、其孔ニ絲ヲ貫キテ綴ヅルモノ。古キ書籍、皆、此綴方ニテ、即チ、今ノ洋書仕立ニ似タリ。デンエフ 粘葉本、胡蝶裝 胡蝶帖本。 瀬戸口傳、書物之事、樣体「大和綴ト云フハ、紙ヲ二ツ折タル折目ノ形ヲトヅル、一冊、二冊ト云」

やまと-な (名) ［大和名］ (唐名(カラナ)ニ對ス) やまと國風(クニブリ)ノ名。日本ノ名稱。和名。 源内集(頼政本)「此女郎花ノ歌ハ、云云、やまと名ニ、イヒニクキ事ヲコソ、ソヘテハヨメ」

やまと-なでしこ (名) ［和撫子・大和瞿麥］ (唐撫子ニ對シテ云フ語) なでしこノ

[illegible]名 [illegible]ガ、山ガツノ、垣ホニ装ケル、やまとなでしこ」

やまとにしき [illegible] 錦。にしき(錦)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

やまとねこ (名) [倭根子] [illegible] 男女ノ名 [illegible] メス故ニ稱ス」詔命ナドニ、御歴代ノ [illegible] 稱シ奉ル。孝徳紀(大化二年二月)詔ニ [illegible] 天武紀、下(十二年正月)詔ニ「御ニ大八洲ニ日本根子天皇敕命者、云云」續紀、一 [illegible]

やまとびと (名) [大和人] (一)我ガ國ノ人。日本人。(二)大和ノ國ノ人。

やまとぶえ (名) [illegible] 和笛 [illegible] 横笛 [illegible] 樂家錄、十一「御神樂、神樂笛、一名、日本笛」注「或日本笛和」[illegible]

やまとぶみ (名) [大和文] (一)日本ノ文章。和文。日本文。國文。(二)日本ノ [illegible]

やまとべい (名) [大和塀] 塀ノ一種。下ノ長押ヨリ笠木マデヲ、杉ノ皮ニテ張リ、一尺五寸ホド宛オキテ、晒ラシタル竹ノ、押緣ヲ打チツケタルモノ。數寄屋ナドノ庭ニ用ヰル。

やまとへうぐ (名) [大和表具] [illegible]

やまとへうさう (名) [大和裱装] 前條ノ [illegible] 同ジ。

やまとまど (名) [大和窻] 天窻ノ一名。モト廚ノ天窻ノ名ニテ、竈ノ火ノ本ノ [illegible] 家ノ内ノ明リ取リ窓。寛永發句帳「鹿マデノ、月ヲゾ思フ、大和窻」

やまとまひ (名) [倭舞] [大和舞] (一)又、みやびまひ。雅樂ノ一。モト大和國ヨリ出シ故ニ云フ。御即位ノ大禮、十一月ノ鎭魂祭ナドニ行フモノ、歌ノ外ニ笏拍子、笛、篳篥ナドノ樂器ヲ用ヰ、舞人四人、歌人二人、樂器一人ヅツニテ行ス。 古今集、大歌所御歌 [illegible] 「和舞トイフ舞ハ、大和國ヨリ出來ケル舞也、コレニヨリテ、歌ニモ、葛城山トヨメリ、十一月ノ鎭魂ノ祭、大嘗會ノ辰日ノ節會等ノ日、倭舞ヲ奏ス、琴引、歌人等アリ、諸社ノ祭ニモ此舞ヲ舞フ」 三代實錄 [illegible] 內舍人倭舞」 (二)神樂ノ一種。奈良ノ春日神社、其他ノ神社ナドニテ、八人ノ少女ノ榊ヲ持チテ舞フモノ。 江家次第、五、大原野祭「和舞」注「取二榊枝一舞也」

やまとまんざい (名) [大和萬歳] (三河萬歳ニ對ス、大和國ヨリ出ヅル故ニ云フ) まんざい 萬歳ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

やまとみこと (名) [大和御言] やまとお [illegible]

[illegible]

やまとみことうた [illegible] ヤマトコトバニテ、作ル歌。即チ、和歌。 [illegible] マリテ、ナラノ葉ノ名ニ負フ宮ニ留マレリ」

やまとみんぞく (名) [大和民族] [illegible] 民族ナドニ對シ、我ガ [illegible] 系ノ天皇ノ統治シ給フ大日本帝國ノ構成セル中心ノ民族。即チ、高天原ヨリ大八洲ニ移住シタリト傳ヘラルル民族。天孫民族(日向ニ天孫ト共ニ降臨シ [illegible] 日本ヲ建設シタリト見ラル)

やまとめ (名) [和目] 昔、[illegible] 一斤ニ用ヰタル目方、目百八十匁ナ [illegible] シタルモノ。 地方新書「一斤ハ藥種ニテ、大和目ト云アリ、百八十匁ヲ以テ斤トス、云云、百六十匁ヲ唐目ト云ニ對ヘシ名ナランカ、山椒ハ六十匁ヲ一斤トスト云ヘバ、コハ大和目ノ小斤ノ名殘ナルベシ」

やまとめぐり (名) [大和巡] 大和國ノ名所、古跡、神社、佛閣ナドヲ巡グルコト。

やまともじ (名) [大和文字] (からもじ(唐文字)、即チ漢字ニ對ス) 假名文字。かんな(假名)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

やまとよみ (名) [大和訓] 漢字ヲ大和詞ニテ訓ムコト。又、ソノヨミ方。ヨミ。和訓。國訓。 [illegible] ニハ、諸官ノやまとよみ、尤モ可知之」

やまどり (名) [山鶏] 鶉雞類ノ [illegible] 雉子ニ似テ大キク、全身、黄赤ニシテ赤黒斑アリ、頭ニ冠毛アリ、尾ハ雉子ヨリ長ク、黄赤ニシテ粗キ黒斑アリ。雌モ尾長シ。山ニ居リ、能ク闘ヒ、穀物、昆

[illegible]

やまどりあかげ (名) [山鳥赤毛] 馬ノ毛 [illegible] くりげ(紅栗毛)トモ云フ。 倭名抄、十一 [illegible]

やまとりう (名) [大和流] [illegible]

やまどりぐさ (名) いかりさう(碇草)ノ [illegible]

やまどりの (枕) [山鳥之] 山鳥ハ其尾長キ [illegible] を(尾)、又ハ、ひとりぬ(一人寝) [illegible]

やまとゑ (名) [大和繪] [illegible] 我ガ國ノ古來ノ畫風 [illegible] 我ガ國ニ傳ヘテ模倣セシガ [illegible] 獨得ノ想ト技トヲ以テ、其特色ヲ發揮セシヲ、巨勢派ト云ヒテ、大和繪ノ權輿トナス。後、[illegible] ト共ニ、宋畫入リ來リ、水墨ノ閑雅ナルモノトナリ、唐畫次イデ行ハレシ故、艶美ナル [illegible] 土佐繪ニ [illegible] 專ノ大和繪ノ名ヲ稱スルニ至レリ。又、此派ヨリ、住吉派ト云フモ出デ來レリ。

後ノ浮世繪ナド、此流ナリ。すみよし(住吉)ノ條ヲ見ヨ。 住吉物語、中將[illegible]マハシ給ヘハ、ビャウブニやまと繪カキタル、ヒトヨロヒ立テ、[illegible]

やまなか (名) 山中 ヤマノナカ。山中(サンチュウ)。 古今集、一、春、上「ヲチコチノ、タヅキモ知ラヌ、山なかニ、オボツカナクモ、呼子鳥カナ」

やまなし (名) 山梨 (一)薔薇科ノ落葉喬木ノ名。山野ニ自生シ、高サ二三丈、[illegible]一シテ、枝ニ刺多シ　葉ハ橢圓形ニシテ微鋸齒ヲ有シ、春、葉腋ニ梨ニ似タル白花ヲ簇リ着ク　實ハ大ナル豆ノ如シ、味、酸ク澁クシテ、食フニ堪ヘズ　唯、聖靈祭ニ供ス、故ニ聖靈梨ノ名モアリ　又、イヌナシ。鹿梨　(二)〔又、さりんご(小林檎)ノ一名。 倭名抄、十七ニ菓類「楉子、夜末奈之、山梨也」[illegible]「[illegible]やまなしの[illegible]世ノ中ヲ[illegible]テモ、イヅクニカ、身ヲバカクサン、山なしノ花」

やまなすび (名) 防葵 〔山茄子ノ義〕今、ぼたんにんぢん(牡丹人參)ト云フ。其條ヲ見ヨ。 倭名抄、廿、草類「防葵、夜末奈須比」本草和名、上十「房葵、和名夜末奈須比」

やまなみ (名) 山竝 山ノツラナリツナラブコト。又、ソノ狀ニ云フ。連山　連峯 萬葉集、六四十「フタギ山、山竝見レバ、百代ニモ、カハルベカラヌ、大宮ドコロ」

やまなり (名) 山鳴 山ノ鳴ルコト。山ノ鳴動スルコト。 [illegible]五「山鳴ニ事、古今多キ[illegible]ナリ、皆地中[illegible]之所爲ナリ、地中ニ空穴有テ、蒸氣吹發スルニ因テ、聲ヲナスモノアリ」

やまにら (名) 山韮 野生ノ韮。にら(韮)ノ條ヲ見ヨ。

やまにれ (名) 山楡 にれ(楡)ニ同ジ。

やまぬけ (名) 山拔 やまつなみ(山津浪)ニ同ジ。

やまねぐさ (名) 山根草 わらび(蕨)ノ一名。 [illegible]集「山根草、蕨、やまねぐさ、折リテ山路ノ、歸ルサヤ、[illegible]多キ、カザシナルラン」

やまねコ (名) 山猫 (一)猫ノ山野ニ棲息スルモノ。(二)元文、寛保ノ頃ヨリ、寛政ノ頃マデ、江戸、山の手ノ神社ノ附近ニ居タル隱賣婦ノ稱 (化ケテ出ル意トゾ云フ) 嬉遊笑覽、九、娼妓「武野俗談云、深川ノ呼出シ藝子ハ、山猫トイフノ隱ナリ、人住テ、是ヲ呼バ則來ル、常ニ何クニ有ヲ知ラズ」 (三)京都、祇園ノ地ニテ、賣色ノモノノ稱。

やまねコまはし (名) 山猫廻 傀儡子ノ一。江戸時代、箱ヲ頸ヨリ釣リテ胸ニカケ、其箱ノ中ヨリ、エモシラヌ獸ノ人形ヲ出シテ、子供ニ見セアルキテ、錢ヲ乞フモノ。ソノ振舞ハ、腰鼓ヲ叩キナガラ、淨瑠璃ヲ語リ、人形ヲマハス　終リニ山猫ト云フ鼬ノ尾ノ如キモノヲ出シテ、ちちくゎいくゎいトウメキテ、仕舞フト。 臨塚談、上「傀儡師ヲ、江戸ノ方言ニ、山ねこト云フ、人形マハシ也、云云」

やまのいも (名) 山芋　薯蕷 〔里芋ニ對ス〕 又、やまついも。やまいも。薯蕷科ニテ、多年生蔓草ノ一。夏ノ初、苗ヲ生ズ。莖ハ紫ニ、葉ハ綠ニシテ、一尖アリ。あさがほ(朝顏)ノ葉ニ似テ、更ニ光潤アリ。秋、葉ノ閒ニ、穗ヲナシテ、淡紅色ノ小花ヲ開ク。野老(トコロ)ノ穗ニ似タリ、莢ヲ結ビテ、仁、無シ。別ニ、蔓ニ、むかご(其條ヲ見ヨ)ヲ結ブ。根ヲ食用トス。山中自生ノモノヲ自然生ト云フ。根、細ソク圓ク、長キハ七八尺ニ至ル、[illegible]名、山[illegible]家ニ植ウルヲ、ながいも(長薯)ト云フ。根圓ク肥エテ、長サ一二尺ニ至ル。(家山藥)又、つくねいも(佛掌薯)アリ。其條ヲ見ヨ。駱駝芋 倭名抄、十七ニ芋類「[illegible]、一名山芋、夜萬都以毛、俗云、山乃以毛」 名義抄「山芋、ヤマツイモ、俗、山ノイモ」

やまのうつばり (名) 山梁 ([illegible]) 論語「山梁雌雉、時哉、時哉」トアル山梁ヲ誤リ和讀シタル語 雉ノ異名 下ノ出典ヲ見ヨ 松屋筆記、七十[illegible]「[illegible]雉ヲ山梁ト云ヒ、[illegible]」[illegible]集、十ノ巻、連歌ニ、中宮亮仲賓ガ家ニ、人人アマタマカリテ、アソビケルニ、タルキニ鳥ヲサシタリケルヲ見テ『タルキニハ、山のうつばり、サシテケリ』[illegible]ツゲ『軒バニ海ノ、月ヲヤドシテ』海ノ月ハくらげ也、雉ト海月ヲ對シタル連歌也」

やまのかみ (名) 山神 (一)〔山ヲ守リ、又ハ、司ル神。ヤマツミ。山祇。山彦。山靈 倭名抄、二ニ神靈類「山神、夜萬乃加美」 (二)俗語ニ、妻ヲ嘲リテ呼ブ語。山姫ヨリ出デタル語ナラム 狂言記、花子「別ノ義デハナイガ、内ノ山のかみヲ騙シテ、暇ヲ貰ウタ」

やまのくちのまつり (名) 山口祭 〔又、やまぐちのまつり、やまぐちのかみのまつり〕(一)材木ヲ伐ル時、其山口ニテ、山ノ神ヲ祭ルコト。 太神宮式「凡採[illegible]山口及木本、然後採之」 (二)獵人ノ山入ノ初ニモ、此祭ヲ行フ。

やまのて (名) 平地ニ對シテ、山ノアル方。東京市中ニテモ、下町ニ對シテ、山、即チ、臺地ノアル方ヲ云フ。山地 紫の一本(天和)、市谷八幡祭「當世ハヤリ言葉ト云フモ、皆御旗本山の手筋ヨリ出ルナリ」

やまのてやっこ (名) 山手奴 [illegible]スル奴僕ヲ召仕ノハ、徳川[illegible]旗本[illegible]多ク江戸、山の手ノ番町、赤坂邊ニアリシカバ、名トセシナルベシ〕江戸時代ニ、多ク江戸ノ山の手ノ大名、旗本ニ仕ヘタル奴 赤坂ハ江戸山ノ手ナレバ、一名、あかさかやっこ(赤坂奴)トモ云フ。 紫の一本(天和)、市谷八幡祭「祭ニ出ル男ハ、皆旗本衆ニ[illegible]山の手の奴ト、人ノマネル男トモナリ」 絶狩劍本地(寶永、近松作)五「やっこやっこ小奴ニ、山の手奴ノ振リ出シテ」

やまのとね (名) 山刀禰 〔刀禰ハ、山賤ノ長ヲ職トシテ云フ語〕やまだち(山立)ニ同ジ。其條ノ(一)ヲ見ヨ。 兼盛集「旅人行ク間ニ、盗人アヒタリ、旅人ハ、鐘(スリ)モ 鉋(ハタゴ)モ、空シキヲ、早クイマシネ、山のとねタチ」

やまのにしき (名) 山錦 〔其紅葉セル狀ヲ錦ニ譬ヘテ云フ〕もみぢ(紅葉)ノ異稱。 古今集、五、秋、下「霜ノタテ、露ノヌキコソ、ヨワカラシ、山のにしきノ、オレバカツ散ル」

やまのは (名) 山端 (一)山ノハシ。山ノ一端。 伊勢物語、第八十二段「飽カナクニ、マダキモ月ノ、隱ルルカ、やまのはニゲテ、入レズモアラナン」 (二)遠ク望ミテ、山頂ノ空ト境ヲ為スバカリノサカヒ。 萬葉集、十五十「山乃波ニ、月傾ケバ、イサリスル、海人ノトモシビ、沖ニナヅサフ」

やまのべ (名) 山邊 やまべ(山邊)ニ同ジ。 萬葉集、十三十九「山邊ニ、イユクサツヲハ、多カレド、山ニモ野ニモ、サヲシカ鳴クモ」

やまのみかど (名) 山帝 〔藐姑射(コヤ)ノ山

ノ帝ノ略」太上天皇、又、仙[illegible]ノ異[illegible]。せんとう(仙洞)ノ條ヲ見ヨ。

〔やまのみち (名) [東山道] とうさんだう(東山道)ノ古名。其條ヲ見ヨ。 天武紀、下[illegible]

〔やまのゐ (名) [山井] 又、やまゐ。山中ニ[illegible] [illegible]ヒエル、山井ノ、[illegible]ヲ、リナキ思ハナクニ」

やまばち (名) [山蜂] [illegible]。[illegible]ナレバ、大蜂ノ名モアリ。形、あなばち(穴蜂)ニ似テ大キク、首、黒ク、短キ鬚アリ、背、尾、[illegible]、腹、黒シ。[illegible]ハ、山中ノ木石ノ上、又ハ、寺院ノ屋下ナドニ作ル、大イナルハ半鐘ノ如ク、茶褐色ニテ[illegible]ノ中[illegible]迷リ懸ル。大黄蜂 雙生隅田川(享保、近松作)一「ナウ怖ヤト、カッパト投ゲ、花ノ露吸フ山蜂ノ、針有無ニ松若、前後モ泣サケビ」

やまばと (名) [山鳩] (一)〔古ク言フハ、今ノきじばと。其頭ト頸トハ葡萄鼠色ニシテ、背ハ、赤茶色ト黒色トヲ交ヘ、胸腹ハ赤茶色ヲ帯ビ、嘴ハ短ク、翼ハ長シ。[illegible] 倭名抄、十八「[illegible]、夜鳩八止」[illegible]食ヒ合ヒテゾ死ニニケル」 (二)今、あをばと(青鳩)ノ一名。其條ヲ見ヨ。 青鵤

やまばといろ (名) [山鳩色] 染色ノ名。黄ニシテ青ミアル色。麴塵の御袍ノ色[illegible]拜シ、極臈ノ袍ヲ見レバ、イカニモ山鳩色トハ、ヨク

名付ケタルト思ハル」

やまはんのき (名) [山榛木] 樺木科ノ落葉喬木ニシテ、はんのき(榛木)ノ一種。[illegible]ヲやまやぶさ(夜叉五倍子)ト云フ。材ハ薪炭、器具用トナリ、樹皮ト果實トハ染料トナル。赤楊一種

やまひ (名) [病] [illegible] (一)〔ヤマフコト。病ムコト。身ニ、ソコナヘル所アリテ、スコヤカナラヌコト。ワヅラヒ。ビャウキ。ヤモヒ。不例。不快。所勞。異例[illegible]ノ上ニ[illegible] 「[illegible]漢ノ李夫人、昭陽殿ノ病ノ床モカクヤト覺エ」 (二)癖ト云フニ同ジ。「アレガ、アノ人ノやまひダ」[illegible]生レツイテノ[illegible]

〔やまび (名) [山邊] やまべ(山邊)ニ同ジ。 萬葉集、十四「富士ノ夜臨背ニ、吾ガ來ナハ、イヅチムキテカ、妹ガナゲカム」

やまひかぶり (名) [疾冠] やまひだれ(疾垂)ニ同ジ。

やまひぎゃうさん (名) [病仰山] 病ノ甚シクナルコト。又、病ヲ大ゲサニ考フルコト。やまひだかし(病高)ト同意。

やまびこ (名) [山彦] (一)〔天彦ト同趣〕山ノ神。山靈。 字類抄「山神、ヤマビコ」[illegible]集「神無月、シグルル度ノ、山びこニ、紅葉ヲ風ノ、手向ケツル哉」 (二)〔山響ノ約トモ云フ〕山谷ニドニテ、物ノ聲ノ、對面ノ崖ニ當レルガ、返リ應ヘテ響クコト。音聲ノ

[illegible]モ見ヨ。 詞花集、二、夏「山茂ノ、思フル山ノ、ホトトギス、一聲ナケバ、二聲ゾ聞ク」

やまひな (名) りんだう(龍膽)ノ異名。[illegible]

〔やまひだか・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [病高] 病ツノリテ仰山ニナル。又、病[illegible]ヘ、サモコソやまひだかし、ソラメ常ニニヨビ人ナン、コレヲ好ムカハナドイヘド、聞キ入レズ」 宇津保物語、祭使十二「アヤシク、サモアラザリシモノノ、やまひだか(一本、だた)しくナリニタルカナ」

やまひだれ (名) [疾垂] [illegible]ニアル[illegible]ノ字ノ稱。[illegible]等ノ如シ。ヤマヒカブリ。疾字頭

〔やまびと (名) [山人] (一)仙人。其條ヲ見ヨ。[illegible]十、神樂歌、採物、杖「逢坂ヲ、今朝越エ來レバ、山人ノ、千歳ツケトテ、キレル杖ナリ」 (二)山里ノ人。山ニ住ム人。 萬葉集、廿十「足引ノ、山ニ行キケム、夜臨比等ノ、情モシラズ、山人ヤタレ」 (三)山賤。又、樵夫。 古今集、廿、大歌所御歌「マキモクノ、アナシノ山ノ、山人ト、人モ見ルガニ、山鬘セヨ」 七十一番職人盡歌合、十一番、山人「秋寒キ、深山ノ里ニ、[illegible]モ、ガナ、山人、コトシハ秋ヨリサムクナリタルハ」

やまびは (名) [山枇杷] いぬびは(犬枇杷)ノ一名。

〔やまひひらぎ (名) [山柊] 〔枝葉ニ刺アレバ名アリト云フ〕(一)略シテ、ひひらぎ。又、[illegible]キノハグサ。[illegible]年生草本ノ名。山中ニ自生シ、[illegible]ノ末、宿根ヨリ苗ヲ生ズ。高サ一二尺。葉ノ形、柿ニ似テ小サシ、故ニ比叡山ニテ、

柿の葉草ト云フ。七八葉、莖ニ互生ス。[illegible]一二寸、[illegible]寶ハ扁圓ノ萌ニシテ、大キサ二三分、熟スレバ[illegible]如シ、故ニ伊豆ノ天城山ニテハ、數珠根[illegible]ノ古名。又、ハヒシバ。キサノキ。我ガ[illegible]さやきぐさ(海落廻)ナリト云フ。亦、刺アレバ、ひひらぎノ名アリ。(黄芩、ささやきぐさ[illegible]) 「黄芩、比比良木」 本草和名、上廿「黄芩、比比良岐、一名[illegible]」

やまひめ (名) [山姫] (一)山ヲ守リ、又、司ル女神。 千載集、[illegible]錦ヲ、手向ケテモ、チル紅葉ヲ、イカデトドメン」 (二)〔あけびヲ、一ニ山女ト書ク故ノ名ナルベシ〕あけび(通草)ノ異稱。 行宗集、[illegible]して「イガ栗ハ、心ヨワクゾ、落チニケル、コノ山姫ノ[illegible]」

やまひもの (名) [病者] [illegible] 御湯ハスレバ、手中風ガ起ッタトイフ」

やまびらき (名) [山開] (一)盛夏ノ季トナリテ、富士山、大峯、御嶽大、山ナドノ高山ニ[illegible]。又、ソノ日ノ稱。 (二)昔、三月廿一日ヨリ四月十五日マデ、江戸、深川八幡宮[illegible]

當永代寺ノ山門ヲ開キテ、其庭ノ縦覧ヲ許セシコト。殊ニ其初日ヲ云ヘリ。文化の川柳「山開、辰巳ハきせん(貴賤)、群集ナリ」(寶暦法語ニ、長力應ハ、深川ノ辰巳」ノ句アリ、又、辰巳ハ江戸城ヨリノ方角ニテ、深川邊ヲ云ヘリ) 同「八幡モ、上覧アレト、山開」

やまびる (名) 【山蛭】 古名、カサビル。今、又、タニビル。蛭ノ一種。形、大キク、長サ一寸許リ、山谷ノ土石ノ間ニ棲ミ、雨降ルトキハ、枝葉ニ上ル。人ノ足音ヲ聞キテ、觸レ着キ、吸ヒテ害ヲナスコト甚シト云フ。草蛭

やまふ (名) 【病】 〔病むノ延、やまひノ誤用、閏ヲうるふト云フガ如シ〕 やまひ(病)ニ同ジ。名義抄「病、ヤモヘル、ヤマフ」續後拾遺集、十七、雜、下「やまふニワヅラヒケルガ、スコシヲコタリテ侍リケレバ、云云」

やま・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 【病】 「病むノ延、かげろふ(陰)、かげろふ、かくろふ、うつる(移、映)、うつろふノ類」 ワヅラフ。ヤミウレフ。字類抄「病、ヤモフ」 夫木抄、廿九、谷「法ノ眞山ノ、クチカクレナル、ハタツモリ、知ラレヌ戀ニ、やまふ頃哉」

やま-ふき (名) 【櫜吾】 草ノ名。やまふふき(櫜吾)ノ約。其條ヲ見ヨ。

やま-ぶき (名) 【山吹】 〔山振ノ義、細條、風ニ隨ヒテ搖ケバ云フ〕 (一)〔薔薇科〕ノ落葉灌木ノ名。高サ五六尺、莖、細ソク叢生シテ垂リ、莖心、白クシテヤハラカナリ。葉ハ、ゆすらうめノ葉ニ似テ、長ク尖ル。夏ノ初、單瓣五出ノ黄花ヲ開キ、子ヲ結ブ。又、重瓣ナルモアリテ、人コレヲ賞ス、花、稍遲クシテ、子ヲ結ブコト、稀ナリ。カガミグサ 棣棠 棣棠花 萬葉集、十七卅「夜麻扶枳ノ、シゲミ飛ビクク、鶯ノ、聲ヲ聞クラム、君ハトモシモ」宇津保物語、吹上、下「梅、紅梅、柳、櫻、折敷、藤、ツツジ、やまぶき一折敷ニ」 (二)「花ノ、黄金色ナルヨリ云フ」金錢ノ異稱。名義抄「金錢、ヤマフキ、カラヲヒ」字類抄「山吹花、金錢、ヤマフキ」

やまぶき-いろ (名) 【山吹色】 山吹ノ花ノ如キ色。コガネイロ。黄色。曾我物語、一、河津三郎被レ討事「梨子地ニ蒔キタル白覆輪ノ鞍ニ、山吹ノ狄冬色ナルヲ掛ケ」

やまぶき-がさね (名) 【山吹襲】 襲ノ色目ノ名。表ハ、薄朽葉、裏ハ、黄ナリ。源、廿四、胡蝶「鳥ニハサクラノホソナガ、蝶ニハやまぶきがさね賜ハル」

やまぶき-おろも (名) 【山吹衣】 ヤマブキ色ノ衣。又、山吹色ノ衣。吾妻鏡、十、建久元年十二月一日「牛童、赤色山吹衣、指ノ樋」

やまぶき-づけ (名) 【山吹漬】 鮎ヲ三枚ニオロシ、鯛ヲ鑵ヘテ、粕漬ニシタルモノ。岐阜ノ産、最モ名アリ。

やまぶき-にほひ (名) 【山吹匂】 〔にほひ(匂)ノ條ヲ見ヨ〕 襲ノ色目ノ名。又ハ、懷紙ナドニテ、上ヲ山吹色ニシ、下ニ至ル。隨ヒ、次第ニ薄キ色ニシタルモノ。雅亮裝束抄、三「やまぶきのにほひ、上コクテ、下ヘキナルマデニホヒテ、アヲキヒトヘ」

やま-ぶし (名) 【山伏、山臥】 〔山ニ臥シ、野ニ臥ス意〕 (一)〔山ニ宿ルコト。又、山中ノ住居。沙門ノ山林曠野ヲ家トスルコト。源、五十二、手習五十六「アハレ、やまぶしハ、斯ル日ニゾ、ネハ泣カルナルカシ、ト言フヲ聞キテ、我モ今ハやまぶしゾカシ」 (二)〔山ニ臥シ野ニ臥シテ修行スル僧。野伏。宇津保物語、嵯峨院四十「山籠リノ御料ニ、云云、布ノ襖、云云、山臥ドモ召集メテ、飯酒クハセ、乾飯、襖一ヅツ取ラス」又、修驗者ノ稱。俗ニ、法印ト云フ。修驗者ニ二派アリ、一ヲ當山派(眞言宗、三寶院)ト云ヒ、他ヲ本山派(天台宗、聖護院)ト云フ。當山派ハ、順峯(熊野ヨリ吉野ニ出ヅル道ヲ通ルナリ)ト、コレ數百年前ヨリ廢レタリ)ヲタドリ、本山派ハ、逆峯(吉野ヨリ入リテ熊野ニ出ヅル道ヲ通ルナリ)、コレ維新前マデ行ハレシモノ)ヲタドルナリ。其修行スルニ、三月ニナスヲ春峯ト云ヒ、五六月ニナスヲ夏峯、八月ニナスヲ秋峯ト云フトゾ。又、コレニ前鬼、後鬼ト云フアリテ、前鬼ハ、山ニ五戸アリ、本山派ノモノナリ、黑キ頭巾ヲ被リ、頭ニ角アリ、鬼形ナリト云フ、後鬼モ然リト。きざけ(修驗道)ノ條ヲモ見ヨ。百錬抄、十四、文曆一年十月一日「山伏等數百人、云云、曉夕吹法螺、懸鈴、云云」宇治拾遺、一、第五條「ユシクコトゴトシク笈負ヒ、ホラ貝腰ニツケ、錫杖ツキナドシタル山伏ノ、コトゴトシゲナル」

やま-ふところ (名) 【山懷】 山間ノ、窪マリテ、懷ノ如ク入リ籠リタルトコロ。源、四十五、椎本「御有樣、アタラシク、カカル山ふところニ引キコメテハヤマズモガナ」新古今集「見グルシノサマヤ、レイノ山ふところ、云云」

やま-ふふき (名) 【櫜吾】 〔山款冬ノ義、葉、款冬ニ似テ、山谷ノ間ニ生ズレバ云フ〕、やまぶきハ、約メテ云フ語〕 又、やまふき。今、つはぶきト云フ。其條ヲ見ヨ。倭名抄、廿、草類「款冬、夜末布不木、一云、夜末布木(款冬ト混ジタリ)」本草和名、上「款冬、一名、櫜吾、也末布布岐、一名、於保波」

やま-ぶみ (名) 【山蹈】 山路ヲフミユクコト。山アルキ。宇津保物語、貴宮ニ「イトツツシミ給ヒテ、ミタケ、熊野詣デ、ヤンゴトナキカンダチメ、云云、山ぶみシ給ヘル、ニコソアレ」

やま-べ (名) 【山邊】 ヤマノホトリ。山ノベ。ヤマビ。萬葉集、四五十六「久堅ノ、雨ノフル日ヲ、タダヒトリ、山邊ニ居レバ、イブセカリケリ」

やま-べ (名) 【山部】 又、やまもりべ。古ヘ、山林ヲ守ルヲ職トスル部曲。又、ソノ人民。古事記、中、應神「此ノ御世ニ、定メ賜フ海部、山部、山守部、伊勢部ニ也」

やま-へん (名) 【山偏】 漢字ノ偏ノ山ノ字ノ稱。即チ、岐、岬、岡、峠、峰、峽、崎、峥、嶋、嶮、ナドノ如シ。傾城反魂香(寶永、近松作)上「ソモソモ筆ノ、山ノ御屋形ト書くく、山へん二鳥ト書イテハ、嶋トヨム文字ナリ」

やま-ぼこ (名) 【山鉾】 〔祭禮ニ山ヲ出スコトハ、大嘗祭ノ標ノ山ノ移リタルナルベク、鉾ハ固ヨリ儀衛ノ具ナリ〕 車ニ建テル一種ノ飾物。京都ノ祇園祭ニ、町町ヨリ出シテ、三條、四條邊ノ街路ヲ巡行スル飾物。棚ノ上ニ山形ヲ作レルヲ山ト云ヒ、鉾、長刀ナド立ツルヲ鉾ト云フ。其他、船、種種ナル人形ナドヲ作リ、裝飾、美麗ヲ極ム(祇園祭ノ條ヲ見ヨ) ホコヤマ。ヤマ。山棚 宣胤卿記、正十四年八月七日「今日祇園會、依山鉾等、停止云云」

やま-ほととぎす (名) 【山時鳥】 (一)ほととぎす(時鳥)ト云フニ同ジ。其條ノ(一)ヲ見ヨ。(二)〔山ニ居ルホトトギス。萬葉集、十八「メヅラシキ、君ガ來マサバ、鳴ケトイヒシ、夜麻保等藝須、何カ來鳴カヌ」

やま-ぼふし (名) 【山法師】 比叡山延暦寺ノ僧徒。平安朝ノ中葉ヨリ、此寺ニテ養ヒオケル僧兵ナリ。朝廷ニ強訴ヲ遂

ゲ、暴力ヲ振ヘリ。數百年、兵力盛ンナ[illegible]

川ノ水、雙六ノ賽、山法師、コレゾ我御心ニカナハヌモノト、白河ノ院モ仰セナリケルトカヤ」

やまほほき（名）〔やまふふきノ轉〕くゎ[illegible]

[illegible]

やままゆ（名）山眉　〔山ノ端ノ遠クホノカナルヲ、眉ニ喩ヘタルモノ〕山ノ眉ノ如ク見ユルモノ。遠山ヲ稱ス。[illegible]

[illegible]ハ、クロキスヂナシ」

やままゆ（名）山繭　[illegible]モノ[illegible]、常ノ蠶ノ如クニシテ、[illegible]、短ク、頭ニイサリ、櫟、楢、くぬぎ、等ノ葉ヲ食ヒ、四度ノ眠起モ蠶ト同ジ。人家ニモ飼ヒ、[illegible]蠶ヨリ大キクシテ、黃ナリ、絲トシテ、白ク光澤アリ、甚ダ強クシテ、染色ヲ受ケズ。[illegible] 首寄」「シヅノメガ、ヒク山まゆノ、イトセメテ、亂レソムトモ、知ル人ヤナキ」（二）又、此絲ヲ絹絲ニ雜ヘテ織リ成セル絹布。

やまみち（名）山道　〔又、やまぢ〕山ニアルミチ。山ヘ上下スル道。サンダウ。山路。萬葉集、一九「長城ノ、ソノ雪ノ、時ナキガゴト、ソノ雨ノ、隙ナキガゴト、クマモオチズ、モヒツツゾコシ、ソノ山道ヲ」（二）次條ノ略。

やまみちがさら（名）山道頭　模樣ニテ、横ニ連山ノ如キ線ヲ引キタル像。[illegible]ノ如キ略シテ、やまみち。又、其ニ線ヲ畫スルヲ、[illegible]やまみちがさらト云フ、[illegible]ノ如シ、略シテ、にだんやまみち。

やまみづ（名）山水　（一）山ト、水ト。又、山ト水トノ景色。サンスヰ。（二）山ニ出ヅル水。[illegible]

[illegible]」

やまみづてんぐ（名）山水天狗　山水ノ[illegible]クゾ[illegible]、天狗[illegible]ノ如クカクモノ。（圖）。ヘマムショニフダウノ類。嬉遊笑覽、三、上、書畫「ヘマムシ[illegible]

やまむけ（名）山向　神事ニ用ヰル、材料ヲ採ルタメニ、山ニ入ルコト。[illegible]

やまめ（名）寡婦　やもめ（寡婦）ノ轉。其條ヲ見ヨ。榮花物語、十、日蔭蔓「サレド、年頃、尼ニテオハシマセバ、[illegible]ハ、やまめノヤウニテ、オハスレド」史記抄（文明）十八、三十三「清寡婦也、能守、云云、やまめナンナヂアルガ」

やまめ（名）水蠆　蜻蛉ノ卵ノ水中ニ化生セルモノ。即チ、其幼蟲、頭、胸、腹ノ三部ニ分レ、形、略、かまきり（蟷螂）ニ似テ、灰黑ナリ、翅ナク、六脚、細長ク、二脚、吻ニ付キテ、手ノ如ク、背ニ、太鼓ヲ撃ツガ如キ狀ヲナス、故ニ、たいこむし（太鼓蟲）ノ名モアリ。鋸ノ如キロアリテ、水中ノ小魚、昆蟲ナドヲ捕食ス。夏ノ初、水ヲ出デ、蘆、川楊、ナドニ上リ、背、裂ケテ、とんばうトナリ、身ハ蛻トナル。又、ミヅムシ。ミヅバチ。ヤゴ。チンバウキリ。エビムシ。ヤモメ。

やまめ（名）山女　又、やまべ、川魚ノ名。おひかは（追川）ノ類。今、鱒ノ同種トス。大イナルハ一尺ニ及ビ、背ハ綠褐色ニシテ、體側ニ黑キ橢圓形ノ斑アリ、

[illegible]

やまめぐり（名）山廻　山山ヲ巡廻スルコト。又、山山ノ社寺ヲ巡拜スルコト。[illegible]

やまめぶし[illegible]コト[illegible]

やまもせみ（副）山狹　山モ狹キマデニ。[illegible]

やまもと（名）山本　山ノモト。フモト。山下　山麓（山上ヲ末ト云フ）竹取物語、「造麿呂ガ家ハ、山もと近クナリ」

やまもも（名）山桃　楊梅科ノ喬木。暖國ニ[illegible]、庭園ニモ植ウ、高大ニ聳ユルアリ、四方ニ婆娑スルアリ。葉ハ細長ク、ぢんちやうげ（沈丁花）ニ似テ、粗ニ鋸齒アリ、深綠ニシテ、冬、凋マズ。春、葉ノ間ニ黃白色ノ花ヲ着ク、長サ六七分、松ノ花ニ似タリ、別ニ、實ヲ生ズ、形、苺ノ如ク、大キサ三四分ニシテ圓ク、夏ノ末、熟スレバ紫赤色ニテ、生食スベシ、味甘シ、又、鹽漬トモス。皮ヲ藥用トシ、又、桃皮、澁木トモ云ヒテ染料トス。[illegible]楊梅　倭名抄、十七[illegible]、夜末毛毛」本草和名、下[illegible]山桃[illegible]、也末毛毛」

やまもり（名）山盛　器ニ堆ク盛ルコト。又、ソノモノ。タカモリ。

やまもり（名）山守　古ヘ、山ヲ守ルヲ職トスル者。其部ノ民ヲ、山守部トイフ。山部。又、山ノ番人。萬葉集、三四十二「山守ノ、アリケル知ラニ、其山ニ、標結ヒ立テテ、結ヒノ辱シツ」

やまもりべ（名）[illegible]

やまやく（名）山役　江戸時代ノ山ノ租稅。下ノ出典ヲ見ヨ。地方凡例錄、五「山役、[illegible]入會ニ仕來リ、山役ト名付、米金相納ムル類ヲ云、左スレバ、木柴ヲ請シタル節ニ、山役可差出筋ナレ共、[illegible]拘、引付物ト成類、該、又一向之見山不用之場所ニモ、山役差出ス類アリ、是ハ離郷山場等不分明ニ而、[illegible]

やまやけ（名）山燒　山ノ燒クルコト。山火事。又、山ノ火災。一茶句集、春「山燒[illegible]

やまやま（名）山山　（一）アチラコチラノ山。諸方ノ山。中務集「山山ノ、散リヲ分ケテ、[illegible]物事ノ多キコト。ウミヤマ。「話ハ山山アル」「山山ノ御恩ミ」（三）コノ上ナキコト。至極ナルコト。「會ヒタサ山山ナレド」

やまゆり（名）山百合　[illegible]ゆり（百合）ニ同ジ。

やまよせ（名）山寄　道路ナドヲ山邊ニ寄セテツクルコト。

やまよひ（名）山醉　高山ニ登リタルトキ、空氣稀薄ノタメニ醉フコト。

やまる（動）止　（一）〔やめらる（得止）ノ約轉、つとまるノ例〕ヤムルコトヲ得。ヤメラルル。（二）〔やむ（止）ノ延〕トドマル。進マズ。停滯ス。

やまれぐさ（名）[illegible]

やまわけ (名) 山分 (一)山中ヲワケ行クコト。新後拾遺集、十、羇旅「足引ノ、山分ゴロモ」 (二)物ヲ數ヘズニ目分量ニテ分クルコト。二ツ分。折半。兩分。

やまわけごろも (名) 山分衣 山路ヲ分ケ行ク時ニ着ル衣。特ニ山伏ナドノ。古今集、十七、雜、上「宮瀧ノ、瀧ノ白絲、織リタメテ、山わけ衣、織リテ着マシヲ」

やまわらは (名) 山童 化物ノ、山男、又ハ、猩猩ノ類。半人半獸ノモノニテ、九州ノ西南ノ深山ニ居ルト云フ。大イナル猿ノ如ク、直立シテ行キ、毛甚ダ黒シト。又、やまわろ。嬉遊笑覽、[illegible]、化物繪、云云、雪女、カッパ、山わらは、犬ガミ、山姥」西遊記、三、山童、九州ノ西南ノ深山ニ、俗ニ山わろト云フモノアリ、[illegible]ニテモ聞キシニ、云云、其形、大ナル猿ノゴトクニシテ、常ノ人ノゴトク立テ歩行ク、毛ノ色甚ダ黒シ、云云」

やまわらび (名) 山蕨 いぬわらび(犬蕨)ニ同ジ。又、オニワラビ。天治字鏡、七三十「母泉、山和良比、又、鬼和良比」

やまわろ (名) 山獠 やまわらは(山童)ニ同ジ。和漢三才圖會、四十、寓類恠類「山獠、俗云、也末和呂、云云、九州深山中有、山童ヤマワロ」

やまゐ (名) 山井 やまのゐ(山井)ニ同ジ。拾遺集、十七、雜、秋「限リナク、トクトハスレド、足引ノ、山井ノ水ハ、ナホゾ氷レル」

やまゐ (名) 山居 山ニ居ルコト。又、其居所ノ山ズミ。サンキョ。太祇全集、冬「壁マデガ、板デ設ノ、山居カナ」

やまゐ (名) 山藍 やまあゐ(山藍)ノ約。貫之集、四「やまゐモテ、スレル衣ノ、赤紐ノ、長クゾ我ハ、神ニ仕ヘン」

〜**やまゑみ** (名) 黄精 〔山笑ノ義、花ノ初生、房ヲ收メタルガ如シ〕 なるこゆり(鳴子百合)ノ古名。其條ヲ見ヨ。エミグサ。オホエミ。倭名抄、廿、草類「黄精、於[illegible]、一云、夜末[illegible]」本草和名、上十「黄精、阿末奈、一名、也[illegible]美」

やまゑんどう (名) 山豌豆 草ノ名。いたちささげ(莊芒)ニ同ジ。

やまを (名) 山尾 山峯 山ノ高キトコロ。ヤマノミネ。兼好集「[illegible]キナク、絶エズモメシト、[illegible]ナル、山ヲ河セニ、世ブ[illegible]ルカナ」

やまを (名) 山緒 鷹ニ捕ヘラセタル鳥ヲ、柴(白柴)ナドニ結ビ付クル紐。[illegible]玉葉集、冬、雪中鷹狩「ミカリスル、野モセニ雪ノ、フリヌレバ、やまをニタタン、カツラダニナシ」

やまをかづきん (名) 山岡頭巾 をくそづきん(苧屑頭巾)ノ異稱。形、桌頭巾ニ同ジ。布帛ニテ作ル。からむしづきん(桌頭巾)ノ條ヲモ參見セヨ。

やまをしき (名) 山折敷 〔をしき(折敷)ノ條ヲ見ヨ、山ト云フハ、モト山家ヨリ造リ出シタルモノナレバナリ〕 折敷ノ白木ナルモノ。今モ神ニ供ノルニ用ヰル。嬉遊笑覽、[illegible]下、器用「里ハナレタル處ナドニハ、[illegible]モラヌ合子ヲ用ヒタル故ニ、質朴ニ堅固ナルモノヲ、白木合子トイフ、云云、古調和ガ發句ニ、漆刷毛、知ラズニ久シ、山折敷、イマハ正月、神ニ供フルニ、山折敷ハ用フルノミ」

やまをとこ (名) 山男 深山ニ棲ム男性ノ怪物。猩ノ類ナルベシ。山姥、其女ナルニ、山姑ナド云フアリ。豐前國、中津領ノ奥山ニ居リ、又、出羽ノ仙北郡ノ山中ニモ居ルトゾ。身ノ丈六七尺、蝦夷ノ如シ、女ハ丈少シ短シ、腰ニ木ノ葉ヲアミテ着ス。書ニ字書[illegible]用集、五、[illegible]「山[illegible]、[illegible]、深山有ル人、長丈餘、曰山[illegible]、[illegible]、雌曰山姑」

やまをんな (名) 山女 前條ノ語ヲ見ヨ。書言字考節用集、九、人倫門「山女、野女、山姑、本草綱目、[illegible]、雌曰山姑」

やみ (名) 闇 〔光ノ止ミタルニテ、暗キ意〕 (一)暗キコト。クラヤミ。萬葉集、四ノ四十「照レル日ヲ、闇ニ見ナシテ、泣ク涙、衣濕ラシツ、干ス人ナシニ」 (二)夜ノ暗キコト。ヤミヨ。(月夜ニ對ス) 萬葉集、八ノ廿「闇夜ナラバ、ウベモ來マサジ、梅ノ花、咲ケル月夜ニ、出デマサジトヤ」 (三)サキノ見エザルコト。分別ノナクナルコト。大和物語、上「人ノ親ノ、心ハやみニ、アラネドモ、子ヲ思フ道ニ、惑ヒヌルカナ」 (四)亂レテ、道理ノ辨別ナキコト。後拾遺集、六、秋、中「秋ノ月、ツネニカク照ル、モノナラバ、やみニフル身ハ、マジラザラマシ」「世ノ闇」「心ノ闇」 (五)文字ヲ理解セザルコト。アキメクラ。文盲。醒睡笑(元和、安樂庵策傳)二「南無ノ二字、云云、其ノ詠ノ文字ハやみナル男、天神ノ名號ノカカレルヲ見、ナムアミダ佛トヨミ」

やみ (名) 病 ヤムコト。ヤマヒ。病氣。

やみ (名) 矢見 昔、三十三間堂ノ通シ矢ニ、中リ矢ヲ數フル人。五元集、延享新三十三間堂「若衆ヤ、昨夜ノ[illegible]モ、[illegible]リ」

やみあがり (名) 病上 病ムコトノ果テタルコト。病、癒エタルホドノコト。病氣アガリ。病後。病起

やみうち (名) 闇討 (一)闇ノ夜ニ、敵ノ不意ニ出デテ殺スコト。暗殺。闇撃。平家物語、一、殿上闇打事「同ジキ年ノ十一月二十三日、五節、豐明ノ節會ノ夜、忠盛ヲ闇打ニセントゾ議セラレケル」 (二)轉ジテ、不意ニ乘ジテ、他ヲ驚カスコト。「闇打ヲ食ハス」

やみがた (名) 止方 (一)止マムトスル方ニ向フコト。ヤムヲホヒ。[illegible]五、秋、下「秋ノ雨ノ、[illegible]、云云、雲モ、[illegible]ゾ[illegible]、[illegible]フコト。[illegible]、十六、[illegible]ノ病ノ[illegible]、トブラハデアリアリテ、やみがたニ訪ヘリケレバ」

やみかへし (名) 病返 一度、快方ニ向ヒテ、再ビ病ムコト。病氣ノサイカヘルコト。ブリカヘシ。再發。再起 再感

やみからげ (名) 病[illegible] 病ニマトハルルコト。[illegible]ズ病ムコト。病氣ガチナルコト。又、其人。[illegible](享保、近松作)上「病みからげノ[illegible]人」

❖**やみくもと** (副) 闇雲 又、やみくもニ。[illegible]、分別ノナキ状ニ云フ語。ワイダメナク。[illegible]。東海道中膝栗毛(享和、一九)發端「此方ニハ、やみくもと摑ミアウテヰル中」

やみさか・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 病離 ヤマヒ遠ザカル。病勢オトロフ。ナヤミノヘダツ。榮花物語、五、浦浦の別「心モトナク思シナガラ、立チトマラセ給ヒテ、世ノ人、少シ病みさかりテ、上ラセ給フ」

〜**やみしし** (名) 病猪 ヤメルヰノシシ。又、テオヒタルヰノシシ。テオヒジシ。古事記、下(雄略)五三十「ヤスミシシ、吾ガ大君ノ、遊バシシ、猪ノ、夜美斯志ノ、ウダキ畏ミ、云云」

やみじに (名) 病死 ヤミテ死ヌルコト。ビャウシ。病歿。生玉心中(正德、近松作)上「藤平次ガ、イトシイベッカリニ、世話ヲヤヤンデ病み死にノ母樣ノ恩ヲ、ハヤ忘レ」

やみぢ (名) 闇路 (一)闇ノ夜ノ路。ヤミノ夜ニ行ク路。續後撰集、九、神祇「和グル、光ニモマタ、契ルカナ、やみぢハレナン、曉ノ空」

三[illegible]ノ[illegible]。[illegible]闇夜[illegible]月、やみ路近クモ、ナリヤシヌラン」(三)めいど[illegible]ソハン[illegible]メ」

やみつき (名) [illegible]病付[illegible]コト[illegible]ハ[illegible]習[illegible]又、惡風[illegible]ソマルコト。

やみ-つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [病付] (一) [illegible]病[illegible]ワノラヒ[illegible]ク。(二) ナラハシトナル。又、惡風ニソマル。

やみ-どり [illegible]闇[illegible]夜[illegible]探ルガ如ク捕フルコト。ヤミクモニ捕フルコト。メクラヅカミニスルコト。保元物語、三、[illegible]ルナリト云フ」

やみ-のよ (名) [闇夜] やみよ(闇夜)ニ同ジ。桑花咄(貞享、西鶴)三「アトサキカマハヌモノ、闇の夜ニナリゾコナヒノ誑盜、高閒ガ心」

やみ-ぶくろ (名) [illegible]病[illegible]病ヲ入ルル袋ノ[illegible]人ノ[illegible]代男(貞享、西鶴)二「戀ノ病み袋、ツツムトスレド綻ビテ」

やみ-ほほ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) 病耄[illegible]病氣ノタメニホケル。病ミテ耄六スル。心中重井筒(寶永、近松作)中「オマヘガ病みほほけ[illegible]ホ、ほふけ)テ、[illegible]デガナゴザリマシ、[illegible]テオ休ミナサレ」

やみ-め (名) [病眼病目] 眼ヲヤムコト。又、ソノヤメル目。ビャウガン。浮世床[illegible]目ノ赤イ内ハ能イカ、今ニモ[illegible]ナセエ、内ハ闇ダ、云云、病目デ、目ノ赤イ内ヘドウダラウ」

やみ-やみ-と (副) [闇闇] 眼前ニ見ナガラ。ツケモナク。マザマザ。ミスミス。平

[illegible]タマハンコト、第三子孫ノ御亂[illegible]タルベシ」

やみ-よ (名) [闇夜] 闇ノよる。又、月ノ[illegible]バ、闇夜ナス、思ヒマドハヒ、射ユシシノ、心ヲ痛ミ」

や・む・ム・ム・マ・ミ・メ(自動、四) [illegible]止[illegible]休廢熄] (一) [トドマル。トマル。終[illegible]力[illegible]二[illegible]息時モナシ」(二)癒ス。ナホル。治ス。[illegible]見ヌ人戀フル、病ス[illegible]レ、アノ日ナアデハ、[illegible]ナシ」

や・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) [止罷] (一) [トドム。ヤメル。絶ツ。廢ツ。安康即位前紀「大前、小前宿禰ガ、カナトカゲ、カク立チ寄ラネ、雨タチ夜掬ム」(二)癒ス。治ス。[illegible]物語、二、[illegible]師ナリ、[illegible]モノトやめ[illegible]リテン」

や・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [病] [止ム義カト云フ、齋宮ノ忌詞ニ、病、やすみ] 病ニカカル。ヤマヒノニワヅラフ。ナヤム。萬葉集、四五「古ヘノ、人ノタバセル、吉備ノ酒、病バスベナシ、貫簀タバラム」(古義ノ訓)

や・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) [病惱] (一) [病ニヲカサル。患フ。源、四十四、橋姫四十「[illegible]ニ胸ヲ病みテ、ウセニキトナン聞ク」(二)病シク思フ。[illegible]スル。歎キ憂ノ。憂慮ス。「惡政ヲ病む」風俗ノ惡シキヲ病む」

やんが-て (副) [軈] やがて(軈)ノ音便。松風村雨束帶鑑(元祿、近松作)三「今ノ内コソ貸シ[illegible]ナケ、やんがて此方ヘ取リ返ス」

ヤンキイ (名) [Yankee. モト紐育ノ阿蘭陀移住民ガ、英國ノ移住民ヲ呼ビシ Jon (Johnノ意)ノ轉ナル Jankin ノ、更ニ轉ジタルモノ。又、佛蘭西人ガ、移住英人ヲあんぐれえ([illegible]) ト云ヒシヲ、あめりか印度人ノ訛リタルモノ[illegible]

[illegible]とんやんきい(東洋鬼)ト云フ。

やむ-おど-なし・キ・ケレ・ク・ク[illegible] (一)納メテ、やおとなし。轉ジテ、やおつなし。止ム時節ナシ。已ミ難シ。打[illegible]やむおとなき事ニ因リテ、京ヘ人ツカハシ、云云」(二)[illegible]帚木四「やむおとなく、切ニ隱シ給フベキナドハ、云云」[illegible]「イト、やむ[illegible]キ給フアリケリ」同、二、帚木六「元ハ、やむおとな[illegible]レト、世ニ[illegible]ルタツキ少ク、云云」

やんちゃ (名) [嬢ぢゃノ訛、或ハ云フ、やにちゃノ轉] (一)小兒ノ、何事モ、否ヂャ否ヂャト云ヒテ、ワガママニ憤リ狂フコト。略シテハ、ぢゃぢゃト云ヒ、否々否々トモ云ノヨリ、だだをされるトモ云ノ。ヤンチャン。ワヤク。ワンパク。丹波與作(寶永、近松作)上「お姫樣、關東ヘ往ク事ハ、イヤヂャイヤヂャト、やんちゃバカリ御意ナサレ」(二)大人ノ事ニモ移リテ、無理ヲ言通スヲ、ぢゃぢゃばるト云ヒ、(荒レ狂フ馬ヲぢゃぢゃ馬ト云フ)、又、他人ノ話ニ差口シテ妨グルヲ、ちゃちゃを入れるト云フモ、やんちゃノちゃノ濁リタルぢゃナルベシ。[illegible]

やんちゃ-ばう (名) [前條ノ語ヲ見ヨ] やんちゃト云ノ小兒、タダッコ。又、非理ヲ言フ人ノ稱。江戸鹿小路(延寶、不ト)二「火宗火、[illegible]ガ下ノ、やんちゃ坊」

やんちゃん (名) [illegible]サ、やんちゃんガヨウゴザイマスノサ」[illegible]六、下、見鐵「やにちゃ、今ハやんちゃんト云、是ナリ」

やむなむ (副) [illegible]ルデアラウ。名義抄「已已、ヤムナムヤムナム」

ヤンバン (名) [兩班] [兩班ノ朝鮮音、[illegible]朝時代、朝鮮ノ[illegible]官、[illegible]列セ[illegible]

やんはり-と (副) [illegible]和[illegible]フ語。ヤハヤハト。オモムロニ。

やんま (名) [古名、ゑんば、[illegible]、あかゑんばノ語原ヲ見ヨ] (一)ブキッ。トンバウ。(九州) 蜻蛉 [illegible]やんまカヤセ」(二)關東ニテハ、其一種、形、最モ大キク[illegible]色、青綠[illegible]能ク小飛蟲ヲ捕リ食ノ。[illegible]ルヲ、おにやんま(鬼蜻蛉)ト云フ、雌ハ腰ニ一條ノ青筋アリ。馬大頭 又、きやんま(黄蜻蛉)、くろやんま(黑蜻蛉)ア[illegible]

やむ-め (名) [寡婦] やもめ(寡婦)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

やん-や (感) 褒メソヤスニ發スル聲。喝采 狂言記、川越座頭「やんや、やんや、サア與ノ座[illegible]カアキマシタ」

やむやむ・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）オロカナリ。痴愚ナリ。オロカシ。オレオレシ。字鏡三十「諌、痴也、也奈也奈志」

やんら（感）〔やらノ音便〕やあらニ同ジ。ヤラ。外記節、壇「やんらメデタヤ」

やんれ（感）〔やれノ音便〕やよ及やれノ條ヲ見ヨ。平家女護島「享保、近松作」四「御座船ノ棹ノ歌、やんれ、龍頭鷁首ノ黄金ノ楫」

やむな（名）［鰥］やもを（鰥夫）ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、二「男女類、鰥夫、夜無乎」

やめ（名）［止］止ムルコト。トドムルコト。廢止。狂言記、文山立「死スル事ハ、止めニシヨウト思フガ、何トアラウゾ」

や-め（名）矢目　矢ノ中リタルトコロ。矢ノ疵。保元物語、二、白河殿義朝夜討ニ寄ル事「隣事ノ、八郎ノ、イテ矢目見ント云ハンニハ、何トカ其ノ時答フベキ」

※や・める（動）［止］やむ（止、他動、下二）ノ口語。

やも（名）［寡］やもめ（寡）ノ略。靈異記、中、第十六條、訓釋「、乎乃古夜母」

や-も（名）八方〔八面ノ約、よおも（四方）、よも〕やおも（八面）ニ同ジ。繼體紀、七年十二月「示朕心於八方」安閑紀、元年閏十二月「上冠、九垓、旁、八表、制、禮以告、成功」

やもひ（名）［病］やまひ（病）ニ同ジ。さかやもひ（酒病）ノ條ヲモ參見セヨ。散木集、一、春「櫻ニモ、枝サシウハス、桃ナレバ、空サヘ今朝ハ、サカやもひセリ」「舟やもひ」

やも・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［病］やむノ延ナルやまふ（病）ノ轉。字類抄「病、ヤモフ」

やも-め（名）寡婦孀〔屋守女ノ義、獨居シテ家ヲ守ル意ト云フ、又、やむめ、やまめ、やも、トモ云フ〕（一）夫ナキ女。夫ヲ失ヘル女　ゴケ。クッフ　未亡人。後家（貴人ニ）倭名抄、一本「男女類、寡、夜毛女」仁德紀、十六年七月「妾之寡、婦、以終年」（二）又、妻ナキ男、鰥チ、やもをニモ通ジテ云ヘリ。鰥夫　伊勢物語、第百十三段「昔、男やもめニテ居テ」云云　宇津保物語、藤原君「斯ル程ニ、大臣マデニ成リヌ、やもめニテ、エアルマジ、我レ物食ハザラン女得ントオボシテ」云云ニ同、同四十「翁、やもめニテ、ツキナク覺ユレバ」云云

やも-め（名）やまめ（水蠆）ニ同ジ。

やもめ-がらす（名）［病鳥］〔病鴉ノ意、鳴ク聲ノウレハシケレバ云フ〕鳥ヲ罵リ云フ語　腐鴉ト云フニ同シカルベシ　康頼本草、下「鳥、鴉、ヤモメカラス」夫木抄、廿七、鳥「ニクカリシ、やもめがらすモ、ウレシキハ、タダヒトリヌル、アカツキノ空」

やもめ-ずみ（名）［寡居］やもめニテ住ムコト。夫、又ハ、妻ナクシテ居ルコト。獨身ノ生活。源、三十四、上、若菜、上「高キコロザシ深クテ、やもめずみニテ過シツツ」

やもめ-だふし（名）［孀倒］いなおき（稻扱）ノ異名。又、後家倒。昔ハ、おき箸トテ、篠竹ヲ箸ノ如ク作リテ、主トシテ寡婦ガ、掌ニ納メテ稻ヲコケリ。元祿中、泉州高石ノ人、いなおきヲ作リテ、甚ダ便ナリ、寡婦、業ヲ失ヘリトテ、名ヲ得タリト云フ。ゴケナカセ。

や-もり（名）［家守］（一）人ノ家ヲ守ル者。留守番人。看宅人（二）江戸時代、地主ノ土地ヲ支配シ、地代、店賃ヲ取立テテ地主ニ納メ、公用、町用ヲ勤メ、自身番所ニ出デテ、非常ヲ守ルヲ役トシタルモノ。家主。大屋。今ノ差配人ノ類。守貞漫稿、一、人事「家主、戸籍ニハ、主家ト書キ、俗ニ家守也、私ニハ、屋トモ云フ」浮世風呂、文化、二、馬ニ三「ア、下「アレハ私ノ所ノ地面ノ家守ヲ致シテヲリマスガネ、其カミサンガ結ヒマシタヨ」

やもり（名）［守宮］〔家守ノ義〕爬蟲類ノ蟲ノ名。廢屋ノ壁間ナドニ棲ム。形、とかげ（蜥蜴）ニ似テ、稍、小サク、尾、短ク、指ノ端、小珠ノ吸盤アリテ物ニ着ク。背ノ色、灰黑ニテ黑キ斑アリ、夜出デテ小蟲ヲ捕リ食フ。時時、尾ヲ以テ啼ク。壁虎　倭名抄、倭名、蝘蜓ハゐもりニテ、守宮ハやもりニテ、龍子ハとかげナルベシ、水中ニ在リテ、蠑螈ノ水ヲ守ル義ニテ、ゐもりト云ヒ、家ノ牆壁ノ間ニ居ルヲ、屋ヲ守ル義ニテ、守宮ト云ヒ、草ノカゲ、石垣ノ間ナドニ居ルヲ、處陰ト云フナルベシ」

やも-を（名）［鰥夫］〔屋守男ノ義、獨居シテ家ヲ守ル意、沖繩ニテ、鰥ヲゐきが、寡ヲゐなぶト云フ〕又、やむを。妻ナキ男。妻ヲ失ヘル男子。ヲトコヤモメ。ヤモメヲトコ。やもめ（寡婦）ノ條、見合ハスベシ。倭名抄（一本）、男女類「鰥夫、也毛乎」仁德紀、七年九月「里無鰥寡、家有餘儲」

やや（名）［兒］〔ややこ（稚兒）ノ略〕チゴ。アカゴ。ミドリゴ（畿內）嬰兒　俳諧古選、冬「兒ノ親、手笠厭ハヌ、時雨カナ」

や-や（副）稍漸〔彌彌ノ略、又ハ、愈愈ノ略轉〕（一）愈、進ミテ。次第次第ニ。ダンダンニ。漸次ニ。延ベテ、ヤウヤウ。ヤウヤク。ヤヤヤヤニ。古事記、上卅六「天照大御神、稍自戶出而臨坐之時」伊勢物語、第四十五段「六月、云云、夜深ケテ、やや涼シキ風吹キケリ」重ネテモ云フ　萬葉集、五、長歌「シバノクモ、好ケクハナシニ、漸漸ニ、貌クヅホリ」（略解ノ訓）（二）物事ノ程ヲ云フ語。餘程。シバラク。イクラカ。スコシ。〈又、多少、少少、何レ、モ云フ〉古今集、哀傷「物思ヒテ、ややアヘバ、玉ノ、夜渡ル月ニ、キホヒアヘムカモ」源、三十四、上、若菜、上「…、やや待チヒ待リテ、引キアゲタリ」「稍長ジ、稍後レリ」

や-や（感）〔やヲ重ネタル語〕（一）人ヲ呼ビ掛クル聲。ヤヨ。ヤアヤア。蒙求、五、伯樂「伯正ノややト呼ビ申シケレバ」（二）驚ク時ニ發スル聲。オヤオヤ。マアマア。ヤアヤア。宇治拾遺、十五、河内前司「見テ、ややや、コレハ、云云、神佛ナリケリ」

やや-こ（名）稚兒　漸漸子ノ略　略シテ、やや。チゴ。チノミゴ。アカゴ。ミドリゴ。アカンバウ。嬰兒

やや-こ・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）〔稚兒しナリ、大人しノ反〕（一）コマカシ　コマヤカナリ。（彫物ナドノ細密ナルニ）（二）セセコマシ。（込ミ入リテ居ルナドニ）又、複雜ナリ。ワヅラハシ。

ややこ-をどり（名）［稚兒踊］チゴノヲドリ。ヲサナキモノノ踊リ。東海道名所記（萬治、六、五條ノ東ノ橋詰ニテ、やや子をどりト云フコトヲイタセリ」嬉遊笑覽、五、歌舞「やや子をどり、云云、幼キモノノ踊ヲイフ、盆踊ノナラシニヤ」

やや-とも（副）［動輙］次次條ノ語ノ略。和泉式部集、二「何ノ爲、ナレル我身ト、イヒ顔ニ、ややとも物ノ、歎カシキカナ」

ややとも-する-と（副）［動輙］次條ノ語ニ同ジ。

ややとも-すれ-ば（副）［動輙］又、ややとも。ややともすると。ややもすれば（動）ニ同ジ。狂言記、止動方角「ややともすれば、身共ニ世話バカリ燒カセヲルニ依テ、云云」

ややひさみ (副) [稍久良久] 可ナリ久シク。[illegible]

ややまし (形、二) [illegible]病し、ノ義カト云フ」心、惱マシ。ココロ苦シ。傷心 源、廿四、胡蝶「オボストコロ[illegible]「イカガアラント、イトツマシウややましケレド」

ややむ [illegible]むノ略ト云フ」心ナヤム。ワヅラフ。[illegible]ル所ハ下リタルヲ、云云、イトクルシゲニややみテ、クシクオリテヰザリイル」

ややもすれば (副) [動輒] 〔ややハ稍ナリ、少シ意ル意、もハ感動詞、[illegible]テハ、今ハ常語ニ、[illegible]ナドト用ヰル〕 趣キ勝チナル意ニ云フ語。トモスレバ。ドウカスルト。ヤヤモセバ。ヤヤトモスレバ。ヤヤトモスルト [illegible] 上、下卅「マタややもすれば召サレ給ヘバ、心地サヘ、世ニ心シヅカナル折ナク覺エ給フ」

ややもせば (副) [動輒] 前條ノ語ニ同ジ。 紫式部日記「ややもせば、コシハナレヌバカリヲレカカリタル歌ヲヨミイデ」

ややや み (副) [稍稍漸漸] 〔ややノ重ナリタルニ、みノ添ハリタル語〕 やや(稍)ノ條ヲ見ヨ。

ややりやう (名) [良] 〔くろげん(玄)、はたまん(秦)ナドト同趣〕 良ノ文字ヲ、他ノ同音ノ文字ト區別セムタメニ云フ語。コノ良ヲややト訓ムヨリ云フナリ。

やゆ (名) [揶揄|揶揄|邪揄] 〔正字通「揶[illegible]〕 [illegible]ラカフコト。アナドリ、モテアソブコト。[illegible]

やよ (感) [illegible] ヤイ。 新古今集、六、冬「やよ時雨、物思フ袖ノ、ナカリセバ、木ノ葉ノ後ニ、何ヲ染メマシ」 [illegible]「やよ待テ」やよイカニ」 (二)ハヤシ聲。又[illegible] 子折「某ガ思ヒツケタハ、アトデ、ゲニモサアリ、やよ、ゲニモサウヨノト云ウタラバ、ヨウヲリヤロノ」

やよし・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔彌多し、ノ約〕 [illegible]多シ。 古今集、十九、長歌「ワタクシノ、老ノ数サヘ、やよければ、身ハ賤シクテ、年カタキ、云云」 爲家集、八、歳暮「アハレマタ、クレユク年モ、やよければ、老イノ数サヘ、オドロカレツツ」

やよひ (名) [彌生] 〔いやおひノ約轉、水ニ浸シタル稲ノ實ノ、イヨイヨ生ヒ延ブル意、むつき(睦月)ノ條ヲ見ヨ〕 陰曆、三月ノ稱。 字類抄「三月、ヤヨヒ」 [illegible] 前紀 乙卯年春三月甲寅朔己未、徙、[illegible]吉備國」 [illegible]錄、十[illegible]、[illegible]十三條、三月、[illegible]云、彌生也、月令、季春、是月也、生氣方盛、[illegible]、同、傳、同、[illegible]、同、日本釋名、同、[illegible]、同、[illegible]、同」

やよや (感) 〔やよハ、呼ビカクル感動詞、やハ歎歎、又、呼稱ノ意〕 ヤヨイカニ。 源、十三、明石「イブセクモ、心ニ物ヲ、ナヤムカナ、やよやイカニト、問フ人モナミ」 古今集、三、夏「やよや待テ、山時鳥、言傳テン、我世ノ中ニ、住ミワビヌトヨ」

やよろづ (數) [八萬] やほよろづ(八百萬)ニ同ジ。 佛足石歌「此足跡、八萬光リヲ放チ出ダシ」

やら (名) 海ノ、水盡キテ、カツミ、蘆ナドノ生ヒタル處ト云フ。一說ニ、海ノ水[illegible]コロト。 夫木抄、十六、長歌「ハシタテノ、[illegible]キノ夜良ニ、[illegible]、オトシ入レワシ」

やら [illegible]

やらい (名) [illegible] 〔遣(やらひ)ノ誤、入ルヲ防ギテやらふ意〕 竹、木ヲ縦横ニ粗ク組ミタル假リノ垣。モガリ。サカモギ。コマヨセ。[illegible] 延、竹田出雲等合作)二「木戸ハ大入、明日御出デノ[illegible]、竹ノやらひ、[illegible]」

やらい (副) [夜來] 昨夜以來[illegible] 春風相欺得、夜來吹折數枝花」

やらう (名) [野郎|野良] 〔薩摩ニテ、人ヲ罵リ呼ブニ和郎ト云フ、此語、童ノ音便ナルベシ、(童ハ、古ヘハ、冠ヲ放チテ、わらは形ナルヲ、痛ク卑ムル世ナレバ、罵ルコトニ云ヒシナリ) 其和郎ノ、音郎ニ轉ジタルナリ、さやぐノさわぐ、わやくノわわくノ類ナリ〕 (一)薩摩詞ニテ、男子ヲ卑メ呼ブ語ト云フ、又、貴人ニ[illegible]ド郎ヲ[illegible]メテ云フノ[illegible]句(寛永、齋藤德元)[illegible]カタ、やらふハ人ト、イサカヒ[illegible]ハ掘ルナ、花ハやらうゾ、薩摩百合」 (二)承應元年、若衆歌舞伎ノ男色ヲ賣ル甚シキニ因リテ、令シテ前髮ヲ剃リ落サシメ、成人ノ如クナラシメシ者ノ稱。(歌舞伎子ノ條ヲ見ヨ)紫ノ帽子ヲ被リテ、成人ノ姿ヲ隱ス、コレニ因リテ、野郎頭、野郎帽子ノ名起ル、 近代世事談(享保[illegible])[illegible]門、歌舞伎[illegible]、云云、額ヲ[illegible]リテ[illegible]帽子ヲ被リテ、長年ノ形ヲ隱ス、コレヲ野郎ト云フ、野郎ハ、元ト[illegible]ノ[illegible]也」 (三)轉ジテ、直ニ[illegible] (三)[illegible]ヲ見ヨ。(四)やらうあたま(野郎頭)ノ略。[illegible]男子ヲ罵リ呼ブ語。奴。 井沢[illegible]作(正徳、近松作)上「[illegible]口ナ野郎ジャナ」

やらう (名) [野老] (一)田舎ノトシヨリ。[illegible]ニ同ジ。 本朝食鑑、三、[illegible]、土古呂、云云、有[illegible]長鬚、[illegible]之[illegible]、故[illegible]野老ニ」

やらう (名) [illegible] 五、若紫「清ゲナルやらうナドツヅケテ、木立イトヨシアルハ、何人ノ住ムニカト問ヒ給ヘバ、云云」

やらう (句) やらむノ音便。 閑吟集(大永)[illegible]、イザサラバ鳴子ヲカケテ、花ノ鳥追ハウ」

やらうあたま (名) [野郎頭] 〔やらう(野郎)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ〕 (一)昔、男子ノ頭ノ中程ノ髮ノ毛ヲ細ソク剃リタル頭、又、前髮ヲ置キテ中剃[illegible]云フ。後ニハ、大サカヤキヲモ、云フヤウニナレリ。略シテ、やらう。[illegible]程ヲ細ソクソリタリ、又前髮ヲオキテ、中剃シタルモアリ、云云、今ハコレヲ野郎あたまトイフ」 (二)前項ノ移リテ、額ヨリ頂ニワタリ、三邊ノ毛ヲ[illegible]、總髮ヲ束ネ結ヒタル髮、明治以前ノ男子ハ、皆是レナリ、但シ公家、[illegible]、山伏ナドノ總髮ニ對ス。露髮月額。チョンマゲ。

やらうぢだい (名) [夜郎自大] [illegible] 夜郎ハ、支那、西南夷ノ國名、夜郎[illegible]大ナ[illegible]シト云フ故事ニ[illegible] 漢書、西南夷傳

「南東君長以レ十數、夜郎最大、云云、滇王與ニ漢使一言、漢孰ニ與我大一、及夜郎侯亦然、各自以ニ一州王一、不レ知ニ漢廣大一」トアルニ本ヅク」己レノ力量ヲハカラズシテ、仲間中ニ幅ヲ利カス者ニ譬ヘ云フ語。ウヌボレ。夜郎大

やらう-すごろく（名）［野郎雙六｜野良雙六］雙六ノ一種。野郎、卽チ、歌舞伎若衆ノダテ姿ヲ描キ並ベタルモノ。類柑子(寶永)中、朝ニ高下之三吟、傻セタウテ、花モ食ハヌ、花盛リ」コレゾ雨夜ノ、野良雙六」

やらう-だたみ（名）［夜郎疊］緣ヘリヲツケヌ疊。坊主緣バウズベリノ疊。パウズダタミ。

やらう-ばうし（名）［野郎帽子］又、紫帽子。昔、野郎(歌舞伎ノ若衆)ノ剃リタル額ヲ被フタメニツクレル紫ノ帛。後ニハ種種ナル形トナリ、帽子ノ如クニモナレリ。(女形ノ月代ヲカクサムタメナリ) 額帽子。 吉原徒然艸(寶永)五、第九十一段「六時禮讃は法然上人の弟子「澤之丞・萩野澤之丞」ト云フ野老、帽子ノ左右ヲタレテカツキケリ、小紫ヲドリ子ナドノ帽子ノ最初也、元祿ノ初ノ頃ヨリ盛マリケリ」歌舞妓故實「歌舞妓ニテ用ル紫ぼうしハ、ソノカミ島居庄七ト云フ女方始ム、是レひらりとサゲテ着セタル由」

やらう-もち（名）［野郎餅］中ニ餡ヲ入レタル餅。アンモチ。初音草噺大鑑(元祿)一「サル所ノ餅屋、野良餅ト云フ餡餅ヲ仕出シケレバ」

やら-か・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［遣］ヤル。オコナフ。ナス。東海道中膝栗毛(文化、一九)五編、上「旦那ト供ノアシラヒハ、五ニ番狂ハセナシニ、やらかしヤセウゼ」

やらひ（名）［遣］ヤラフコト。逐ヒヤルコト。オヒ出スコト。「鬼遣ひ」

〔**やら・ふ**・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［遣］〔遣る、ノ延〕逐フ。追ヒ拂フ。追放ス。 靈異記、上、第二十[illegible]、訓釋「擯、ヤ良比」 古事記、上「汝不レ可レ住ニ此國ニ乃神夜良比爾、夜良比賜也」 神代紀、上「[illegible]遂ニ之於根國ニ」

やらむ（句）疑フノやト、あらむト、ノ約ナルベシ。音便ニ、やらう。 千五百番歌合、十三、九百三十九番「谷隱レ、木ノ葉ガ下ノ、埋レ水、凍レバやらむ、オトヅレモセヌ」 右京太夫集「何トやらむ、イタク心ノ亂レテ」 夫木集、十三、月「軒バヨリ、影モル月ノ、西ニハヤ、傾クやらむ、窓近クナル」 此語、接尾語ノ如クニ用キル。又、略シテ、やら。 舞曲、[illegible]、烏帽子折「京藤太トやらんハ、見目モ美シイ者」、何やらん見ユル巣トやらんイフ男」誰やらんオトナフ」

〔**やら-ら**（副）〔やはらやはらノ重語ノ略〕サハヤカナル意ニ云フ語。 顯宗卽位前紀「手掌摎亮」注「此云 陀那則擧謀耶羅羅儞」

〔**やり**（名）［遣］ヤルコト。ヤレルコト。 源、四十六、總角卷「カタガタニ、クラスココロヲ、思ヒヤレ、人やりナラヌ、道ニマドハバ」

やり（名）［槍｜鎗｜鑓］〔遣ノ義、尺素往來「遣刀ト見エタリ、鑓ハ遣鐵ノ合字」〕(一)武器ノ一。細長キ劒ニ、甚ダ細長キ樫ノ柄ヲツケテ、兩手ニテシゴキテ突キ遣ルモノ。定制ハ長サ九尺ナレドモ、一丈モ二間モアリ。刃ノ形ニ因リテ、素槍、直槍、鍵槍、管槍、鎌槍、十文字槍、大身槍、ナドアリ。各條ニ註ス。長柄 此モノ、室町時代ノ末ヨリシテ、大名外出ノ行列ニ特有ナルモノトシテ、立テ行カシメテ、主ナル標シルシトシ、武邊道具ノ名ヲ專ラニス。後、信長、秀吉ノ頃ヨリ、槍ヲ以テ働キ、一番槍ヲ武功ノ最上トスルニ至リシ故、槍ヲ稱シテ道具ト云フ。假初ニモ出行スルトキハ、必ズ身ヲ放タズ持チ行クヲ例トス。 太平記、廿五、住吉[illegible]「[illegible]云云、柄ノ長サ一丈バカリニ見エタル、やりヲ、馬ノ手綱ニ引キソヘテ、[illegible]少シモ不ニ擬議ニ懸出タリ」 茅窓漫錄、八十一、鑓來由「和田[illegible]メテ作リ出ス(手[illegible]ノ柄ヲ[illegible]長クシ、[illegible]刀ヲ小サクシタルモノ)」(二)きやうしや(香車)ノ異名。(三)よこやり(横槍)ノ略。

やり-いか（名）［槍烏賊］一名、けんさきいか。烏賊ノ一種。體長一尺四五寸、後方ハ尖リテ劒ニ似、體色、蒼白ニシテ紫褐色ノ斑點アリ、肉ハ味美ナリ、生食シ、又、するめニ製ス、我ガ南海ニ産ス

やり-いだ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［遣出］(一)ススマシイダス。進メ出ス。 平治物語、一、主上六波羅行幸事「館太郎貞康、黑革ノ腹卷ノ上ニ、牛飼ノ裝束シテ、御車ヲ仕ル、上東院ヲカラリト遣り出すホドコソアレ、云云」(二)シハジム。シイダス。略シテ、やりだす。

やり-おとがひ（名）［槍頤］オトガヒノ尖リテ、前ヘツキ出デタルモノ。 釋迦如來誕生會(元祿、近松作)四「サイヅチ頭、鑓おとがひノ、顎ヲトフテ聞キヤラヌカ」

やり-かた（名）［遣方］仕方。方法。［演方］

やり-かへ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［遣返］(一)ススマシテ後、アトヘモドス。 宇治拾遺、八、第一條「禮節ト申シ候ハ、前ニ罷ル人、後ヨリ御出デナリ候ハバ、車ヲ遣りかへしテ、御車ニ向ヒテ、牛ヲカケハヅシテ、云云」(二)改メテナス。シナホス。ヤリナホス。

やり-がんな（名）［槍鉋］かんな(鉋)ノ條ヲ見ヨ。 用明天皇職人鑑(寶永、近松作)一「桶ユヒ、云云、殊ニ刃物ハ鑓鉋ヨリ外、太刀トヤラン、刀トヤラン、手ニ取ッタルコトモナシ」

やり-ぎす（名）［[illegible]］[illegible]

やり-き・る（動）タテキル。タテトホス。又、シオホス。ナシトゲル。成就ス

やり-く（名）［遣句］連歌、俳諧ニ、[illegible]ニ言ヒ附クル句ヲ云フ。下ノ出典ヲ見ヨ。 ひとりごと(天明)「[illegible]、やり句、付句[illegible]ト云フ事侍リ、云云、[illegible]附ケカヌル所ヲ、カロカロトツケノケ侍リテ、程ヨクヤリタルヲヤイヒ侍ラン」

やり-ぐすね（名）［槍藥煉］〔藥煉クスネ、皮、て〕ぐすねひくノ條ヲモ併セ見ヨ」手ニツバキヲツケテ、槍ヲ構フルコト。 備前老人物語「鑓ぐすねシテ、[illegible]シト待チカケタリ」

やり-くち（名）［遣口］物事ノシカタ。ナシカタ。シヤウ。方法。處置。

やり-くら（名）［遣競］互ニ、ヤリカタヲ競爭スルコト。ヤリアフコトヲ競フコト。 望一後千句(寛文)、第七「やりくらヲ、シツノ男ノ、石ツブテ」麻ノ衣ノ、肩ヲ脫ギケリ」

やり-くり（名）［遣繰］ヤリクルコト。種種ニ振リ替ヘテ、都合ヲツクルコト。クリマハシ。 好色一代女(貞享、西鶴)六「女郎ノ子細ヲ知リスギテ、後ニハ遣繰ヲ目論メ、太夫モ是レニ恐レ、客モ氣ノ毒」

✣**やり-く・る**・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［遣繰］種種ニ振替ヘテ用キル。クリアハス。クリマハス。サシクル。運轉ス。拮据

やり-こ・む・ム・ル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［遣込］論ジ詰メテ默ダマラス。言ヒテ屈伏セシム。イヒコムル。ヤリコメル。論破

✣**やり-こ・める**（動）［遣込］前條ノ語ノ口語。

やりしるし [illegible] 小[illegible] 槍ニツケテ標トスル種種ノモノ。一隊、一樣ノ物ヲ用ヰテ、識別ニ便ナラシム。[illegible] 御持鎗ニ、小熊ノタレノ鎗しるし、廿本」

やりすぐ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [遣過] (一)ウシロヨリ來ルモノヲ、前ニ行カシム。[illegible] (二)程度ヲ越エテ、爲ス。[illegible] 源、若菜、上「[illegible]、皆やり過ぐしヌ」

やりす・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) [破捨] 破リテスツ。ヤブリステル。破棄ス。枕草子、十、第百三十三段「ウレシキモノ、云云、人ノやりすてタル文ヲツギテ見ルニ、同ジツヅキ、アマタクダリ見ツヅケタル」

やりそこなひ ヤリソコナイ (名) [遣損] ヤリソコナフコト。シソンジ。シクジリ。失錯

やりそこな・ふ ヤリ-ソコナ・ウ ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) [遣損] ヤリソンズ。シソンズ。シクジル。失錯ス 東海道中膝栗毛(文化)、九、上「ツイやりそこなッタ、イマイマシイ、ハハハハハ」

やりそこね (名) [遣損] ヤリソコナヒ。

やりこん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(他動、左變) 遣損 (一)前前條ノ語ニ同ジ。(二)ツカヒソコナフ。進マセソコナフ。平家物語、十一、門大路渡「渡事、大臣殿ノ牛飼ハ、木曾ガ院參ノ時、車やりそんじテ切ラレタリシ次郎丸ガ弟、三郎丸ニテゾアリケル」

やりだし (名) 遣出 (一)ヤリイダスコト。シハジムルコト。着手スルコト。(二)船ノ舳ニ、前上リニ遣リ出シタル桅桁。又、大船ノ舳先ヘ、突出シテアル斜檣。之ニ三角ノ帆ヲ張ル。

やりだま [illegible] 〔手玉ニ取ルナドノ意カ〕 やり(槍)ト云フニ同ジ。又、[illegible] ツリウリウト鳴ラシ」上杉謙信注進狀「遣返晩八千[illegible] 二處シ、又ハ、處セラルルノ意。又、多クノモノノ中ヨリ選ミ出サレテ、犧牲ニ供セラルルコトニモ云フ。

やりつ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 遣付 (一)ヘコマス。屈伏セシム。[illegible] (二)音便ニ、やッつける [illegible] トホス。ヤリトホス。果ス。遂行ス。

⁂やりつ・ける (動) [遣附] (一)前條ノ語ノ口語。(二)タエズスル。シ馴レル。

やりっぱなし (名) [遣放] やりばなし(遣放)ノ音便。其條ヲ見ヨ。

やりて (名) [遣手] (一)爲ル人。行フモノ。仕手。(二)與フル人。物ヲクルル人。(三)⁂〔花車ノ車ニ因ル語。庭訓往來抄ニ、鳥羽白川ニハ、車ノ遣手ト云フ者アリ」遊里ノくゎしゃ(火車)。くゎしゃ(火車)ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。鴇母 好色二代男(貞享、西鶴)一「古狸ノくにト云フ遣手ノ開山、一切ノ女郎ヲ勸メコミ、賢ウナスモ是ガ業ナリ」[illegible] 手腕アル人。ウデキキ。敏腕家

やりど (名) 遣戶 〔開戶(ヒラキト)ニ對ス、送リ遣リテ開ク故ニ云フ〕 ひきど(引戶)ニ同ジ。源、四十九、宿木「やりどト云フモノ刺シテ、イササカ明ケタレバ、云云」

やりど (名) 槍戶 まひらど(舞良戶)ニ同ジ。和漢三才圖會、八十一、家宅之用「槍戶、俗稱、夜利度、今云、未以良度、俗又用鑓字、多用玄關[illegible]」

やりどこ [illegible]

やりとり (名) [遣取] (一)[illegible]スコト。トリヤリ。交換。贈答。(二)盃ヲトリカハスコト。獻酬。(三)のこぎり(鋸)ノ異名。(木工ノ語)

やりなは ヤリ-ナワ (名) [遣繩] 〔牛ヲ遣ル繩〕 牛ヲ牽ク繩。又、馬、犬ナドヲ[illegible] [illegible] 雖秘、[illegible]遣繩ト云ハ、[illegible]之、八葉車、殿上人[illegible]時用之歟、白布二持ヲ付[illegible]也、[illegible]ヨリハ編シ、長同、[illegible]、云云、遣繩ハ網代車巳下、[illegible]ノ時、可用[illegible]也、[illegible]時、[illegible]以下、殿上、[illegible]用[illegible]也」

やりなほし ヤリナオシ (名) [遣直] ヤリナホスコト。又、ソノモノ。

やりなほ・す ヤリ-ナオ・ス ・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [遣直] シナホス。改メテナス。ヤリカヘル。

やりの・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) [遣退] (一)車ナドヲ、進メテ、其所ヲ去ラシム。[illegible]記、[illegible]、[illegible]車ヲ、門外ニ立タリケルヲ、[illegible]、やりのけヨト責ケレ共、牛飼童不ニ承引ニシテ、惡口シケレバ」(二)[illegible]ヘテ物ヲナシ遂グ。[illegible] (三)巧ニナシ遂グ。ヤ、テノケル。

やりば (名) [遣場] ヤルベキ場所。又、ツカハストコロ。「遣場ニ困ル」

やりはご (名) [遣羽子] はご(羽子)ノ條ヲ見ヨ。オヒバネ。[illegible]女九枚羽子[illegible]松作)中「羽子ノ數數年ノ數、ヨム聲聞ケバ婆マデ、サコソト思ヒやり羽子ハ、正月メキシ景色ナリ」

やりばなし (名) [遣放] 音便ニ、やりっぱなし[illegible]なし。ナシタママニテ、始末ヲセズニ、ウチステテオクコト。[illegible]

やりぶすま [illegible] 槍[illegible]ク隙間モナク、一齊ニ槍ヲ突キ出ス構ヘヲスルコト。[illegible] 小[illegible]、方[illegible] 敵寇ラバ、槍ヲ取リテ、小膝ヲ折リテ待チカク、コレヲ衾を取ると云ヒ、又、槍襖(ヤリブスマ)トモ云フ。[illegible] 常山紀談、十三、大谷吉繼平塚爲廣最後合戰「秀詮(小早川秀秋)ノ裏切ヲモトヨリ悟リケレバ、僅ニ六百餘ノ陣ヲ一手ニナシ、[illegible]

やりふり (名) [槍振] 昔、大名ノ行列ニ、槍持奴ガ、槍ノ[illegible]ク、ソノモノ。俗曲、山谷土手踊「對ノハサン箱、ツキドッコイ槍ふりヂャ」

やりほぐ (名) [illegible] [illegible]チニツギツツ見ツヅケ給ヘル心チ」

やりみづ ヤリ-ミズ (名) [遣水] 流水ヲ[illegible] 庭ノ面ナドニ流シ遣ルモノ。字類抄「[illegible]、ヤリミツ」[illegible] レバ、やりみづニ篝火トモシ、云云」

やりもち (名) [槍持] 昔、武家ニテ、主人ノ外出ノ時ニ、其持槍ヲ持チテ從フ奴。ヤリモチヤッコ。槍持奴 [illegible] 軍鑑、九、下、品第二十七「鐵砲衆ノ一人モ添ヘラレズ、又、鑓持ヲ一人モ召ツレズ、アヤウク候間、云云」

やりもちやっこ (名) 槍持奴 槍持ヲ[illegible]

ル奴　前條ノ語ヲモ見ヨ。（…我国八景ニ鑓持…、近松作）上「供先打チワル鑓ノ、鑓持…ガ絲鬢モ、ハリ退ケ突キ退ケ割ッテノル」

やりよ・す　スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）　遣寄　近クヘ、ススメヨラス。ソバヘ近寄ラス。　枕草子、八、第八十三段「物見ニ急ギ出デテ、云云、白キ笞（シモト）ナド見ツケタルニ、近クやりよする程侘シウ、オリテモイヌベキ心地コソスレ」

やりわき　（名）　槍脇　昔、戰場ニテ、一番槍ナドノ脇ニ居テ、武器ヲ以テ立チ働クコト。又、ソノ人。　…某（享保、佐久間…）「…常ニ弓ヲ持チテ、…浦ガ槍脇ヲ詰メ」

や・る　ル・ルル・ルレ・レ・レヨ（自動、下二）　［破弊］　やぶる（破、下二段）ニ同ジ。ヤレル。　武烈即位前紀「臣ノ子ノ、八節（ヤフ）ノシバガキ、シタドヨミ、地震（ナヰ）ガヨリ來バ、破（ヤレ）ムシバガキ」　神樂歌、採物、篠「篠（ササ）分ケバ、袖コソ也禮メ、利根川ノ、石ハ踏ムトモ、イサ河原（カハラ）ヨリ」

や・る　ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）　［破］　やぶる（破、四段）ニ同ジ。　源、四十、幻廿「カタハナルベキ人ノ御文ドモ、やれバヲシトオボサレケルニヤ」

や・る　ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）　［遣行］　（一）前へ進ムル。行カス。　萬葉集、二十三「ワガセコヲ、大和ヘ遣（ヤル）ト、サ夜フケテ、アカトキ露ニ、我ガ立チヌレシ」「舟ヲ行る」車ヲ行る」　（二）送ル。ツカハス。　名義抄「行、ヤル」　神代紀、下廿「遣（ヤリ）ニ天稚彦於葦原中國ニ」　萬葉集、十四、廿「ワガセコヲ、大和ヘ夜利テ、マツシタス、足柄山ノ、杉ノ木ノ間カ」「歌ヲ書キテ遣る」使ヲ遣る」　（三）除ケテ晴ラス。遣心　信明集「行ク道モ、止ラバ止レ、知ルトテモ、やるべキ事ノ、心ナラネバ」「思ヒヲ遣る」心ヲ遣る」　（四）與フ。與ル。　萬葉集、十八、四廿「吾妹子ガ、心ナグサニ、夜良ム爲、沖ツ島ナル、白玉モガモ」　（五）行フ。スル。　宇津保物語、忠杜セ「スゲナキ遊ビヲ心ヒトツやりテ、コト心ナシ」　（六）他ノ爲ニモノス。　狂言記、三人片輪「イカニモ抱ヘテ遣らウ」「見テ遣ろ」立テテ遣ろ」

や・る　ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）　遣　事ヲ遣リ居クル意カ〕爲　爲（ナ）ス。行爲。　拾遺集、…二、夏「行キやらテ、山路暮ラシツ、時鳥、今一聲ノ、聞カマホシサニ」　續千載集、二、春、下「月影ヲ、霞ニコメテ、山ノ端ノ、マダ明ケやらヌ、東雲ノ空」「やりカケル」やりバナシ」　…をやるトハ、（一）ウマクヤル意。（二）ワケアリゲナル事ヲナス、又、オツナル事ヲヤル意。

やるかたな・し　キ・ケレ・ク・ク（形、二）　［無遣方］　オモヒヲ晴ラシヤルスベナシ。イハウヤウナシ。センカタナシ。　源、七、紅葉賀「胸ノやるかたなき…ヲ、程ヘゲシ…、云云」

やるせな・し　キ・ケレ・ク・ク（形、二）　［無遣瀨］　〔瀨（セ）（第二語）ノ條ヲ見ヨ〕　思ヲ遣ルベキ方ナシ。センカタナシ。　好色五人女（貞享、西鶴）五「戀ニやるせなくサイナマレテ、モダモダトシテ悲シキ有樣、見ルモ哀レ」

ヤルド　（名）　［碼］　英國ノ尺度ノ名。やあど（碼）ノ條ヲ見ヨ。

やれ　（名）　［破］　破（ヤ）ルルコト。又、ソノモノ。ヤブレ。サケ。　本草和名、上四十「敗天公、多（介）加佐乃也禮」「紙ノやれ」揺りやれ」

やれ　（感）　やよ、ニ同ジ。呼ビ掛クル聲。音便ニ、やんれ。　狂言記、鶯「やれ、トウヨク耆、ヤルマイゾ」「やれ待テ」

やれな　（感）　謠物ノ拍子ニ添フル聲。　風俗歌、大鳥「オホトリノ、ハネニ也禮奈（ヤレナ）、霜降レリ、也禮奈、タレカサイフ、チドリゾサイフ」

やれま　（名）　［破間］　ヤブレタルスキマ。コハレタル間隙。　仁徳紀、四年三月「星辰（ホシ）漏壞（ヤレマヨリ）而露床蓐」

やれやれ　（感）　〔やれヲ重ネタル語〕　（一）疲勞シタルトキ、又ハ、仕損ジタルトキナドニ發スル聲。（二）人、又ハ、犬ナドヲ使嗾スルトキニ用キル語。

や・れる　（動）　［破］　やる（破、下二段）ノ口語。

やろ　（名）　［夜露］　夜オクツユ。ヨルノツユ。　杜甫、…詩「…弱…早、…長夜露多」

やろう　（名）　［夜漏］　〔漏ハ漏刻ノ略〕夜ノ時刻ヲ示ス水時計。又、ヨル、漏刻。　顧況、宮詞「月殿影開聞夜漏、水精簾卷近秋河」

やろう　（名）　［藥籠］　〔やくろうノ略、元ハ竹器ナルカ〕　（一）圓キ器。昔、煉リ合セタル藥ナドヲ貯フ、多クハ、堆朱（ツキシュ）ナドナリ。食籠（ジキロウ）ノ小サキヤウノモノ、重ネタルモノ、壺形、棗（ナツメ）形ナド、種種アリ。此器、風ノ入ラヌヤウニト蓋ヲ深クシ、盒ト密着スルト、外面平カニナルヤウニ作ル。又、かぶせぶたニシテ、蓋ト盒ト寄リテ、相合スルヤウニシタル製ナルヲ、藥籠蓋（ブタ）ト云フ。又、インロウ…　林逸節用集、財寶「藥籠、ヤロウ」　（二）古ク、高野聖（カウヤヒジリ）ノ負ヒ行ク笈（オイ）ノ如キモノ、衣類、藥物ナドヲ納レシヨリ云フカ。（東雅、十、器用第十、簡ノ條ヲ見合ハスベシ）　奇異雜談、一、古堂の天井に女をかけおく事「藥籠ヨリ火打鎌燧ヲ取出シ、火ヲトモシ、云云」

やろうぶた　（名）　［藥籠蓋］　いんろうぶた（印籠蓋）ニ同ジ。前條ノ語ノ（一）ヲモ見ヨ。

やわ　（名）　［夜話］　（一）ヨルノ談話。ヨバナシ。　蘇軾、與姜唐佐秀才書「昨日辱夜話、甚慰孤寂」　（二）禪家ニテ、晩間、衆ヲ集メテ、修行上ノ訓話ヲナスコト。又、茶話トモ云フ。　雲中及和尚年譜、應永十三年丙戌、…

…「…、…、…」

やわたり　（名）　［家渡］　家移ルコト。ヤウツシ。ヤガヘ。移徙。轉宅。　今昔物語、廿七、第三十一語「吉キ日ヲ取リテ、渡リケルニ、例ノ作法ノ樣ニハ…」

やゑみ　（名）　［白薇］　又、くろな。ふなはらさう（白薇）。其條ノ（一）ヲ見ヨ。　天治字鏡、七、十六「白薇、夜惠弥、一云、久呂奈」

やゑん　（名）　［野猿］　さる（猿）ニ同ジ。其條（第一語）ノ（一）ヲ見ヨ。　李端、送劉侍郎詩「…夜猿知客恨…」

やをとこ　八男　古ヘ、神事ニ奉仕スル八人ノ童男。次條ヲモ見ヨ。　高橋氏文「八男八女…八乎止古八乎止咩定天、神嘗大嘗…仕奉…、云云」

やをとめ　（名）　［八少女］　神樂ノ舞姫。古ヘ、安房大神ヲ主神（カミ）トシテ、八柱ノ神ニ、八童子（ヤヲトコ）（八男）ト共ニ奉仕セシ八人ノ少女。（伴信友ノ說）轉ジテ、神神ニ奉仕シテ、神樂ヲ舞ヒナドスル八人ノ少女。又、一人ニテモ云フ。　字類抄「八女、ヤヲトメ、稚女、大嘗會供奉人名也」　風俗歌、八乎止女「也乎止女、也乎止女波、云云、神ノ坐ス、高天ノ原ニ、立ツ也乎止女、立ツヤ也乎止女」　古今集註（顯昭）「神樂ニハ巫女ハ常ニナケレトモ、やをとめトテ、八人ノ巫女相具シタリ」　兵範記、仁安…年十一月二十日、大嘗會…「…八女座ニ」

やをら　（副）　〔弱（ヨワ）ノ轉ト云フ、サレド、やはらト云フモ同語ナルベケレバ、柔（ヤハラ）ナルベシ〕　ソロソロト。靜ニ。ヤハラ。徐。　源、三、空蟬「アサマシク覺エテ、トモカクモ思ヒワカレズ、やをら起キ出デテ」　枕草子、四、第三十九段「冬ハ火桶ニ、やをら、立ツル火箸ノオトモ」　大和物語、下「暮レヌレバやをらスベリ入リテ、云云」

い

い　五十音圖[illegible]、也行第二ノ假名。やノ條ヲ見ヨ。い[illegible]、[illegible]いめ、ゆめ(夢)、いるがせ、ゆるがせ(忽)、いばり、ゆばり(尿)、いさぶる、ゆさぶる[illegible]、[illegible]スレバ、[illegible]いハ皆、コノ也行ノいナルベシ。サレド、古來、阿行ノいト其形ヲ別タズ、コノ故ニ、今ハ皆、阿行ノいノ中ニ收メタリ。

ゆ

ゆ　五十音圖、也行第三ノ假名。やノ條ヲ見ヨ。

ゆ　(名)［湯］(一)〔水ノ、火ニ沸キタルモノ〕熱キ水。萬葉集、十六[illegible]「[illegible]鍋ニ、湯ワカセ子ドモ、櫟津ノ、檜橋ヨリコム、キツニアムサム」(二)〔湯ノ意〕煎ジタル湯。源、五十二、手習「物、イササカ參ルコトモアリツルヲ、ツユバカリノゆヲダニ參ラズ」(三)〔溫泉〕イデユ。溫泉。倭名抄、一八河海類「溫泉、由」萬葉集、十四[illegible]「足柄ノ、土肥ノカフチニ、出ヅル湯ノ、ヨニモタヨラニ、子ロガ云ハナクニ」古今集、九、羇旅「但馬ノ國ノ湯ヘマカリケル時ニ」(四)〔ユアミスルコト。浴スルニ用ヰル湯。浴湯　源、二[illegible]、帚木「シモニゆニオリテ、タダ今參ラント侍ルト云フ」「湯ニ入ル」(五)船中ニ漏レ入ル水。船ノ水ノ浸ミ入リテ溜リタルモノ。(忌ミテ倒語ヲ用ヰルナリ)又、ふなゆ。今、アカ。[illegible]クモノハ、淺ナリケリ」(六)小便。ユマリ。(七)金屬ヲ鎔カシタルモノ。俗つれづれ(元祿、西鶴)三、丸鏡、云云、サテハ志ノ深キ鏡ナルベシト、是レヲ湯ニシ鑄型ニ、云云」

ゆ　[illegible]トト云フ。又、ソノ音トモ云フ。今、左手ニテスル押手ト云フモノカ。源、七、紅葉賀「[illegible]ヤカテゆ[illegible]」同、二十四、下、若菜、下「[illegible]ゆノ音、深ク、イミジク澄ミテ聞エ」

ゆ　(名)　柚　[illegible]香科ノ常綠樹ノ名。高サ十尺[illegible]、樹ノ狀、橙橙ニ同ジ、但シ、葉、稍、長クシテ、平タカラズ、本ノ缺[illegible]モ狭小ナリ。夏ノ初、小白花ヲ開ク。ユノキ。ユウ。ユズ。實ヲ、柚子、柚ノ實ナド云フ。香橙ノ如ク、又、蜜柑ノ如ク、稍、[illegible]圓ナリ、色、黃白ニシテ、皮、厚ク、肌、粗シ、味、極メテ酢ク、皮、馨シ。冬間、皮ヲ吸物ノ吸口トシ、汁ヲ酢ノ用トス。柚子　又、花柚ト云フハ、樹小サク、實ハ、蜜柑ノ大キサニテ、皮[illegible]多シ、樹ニ在リテ久シク落チズ、故ニ常柚、常柚ナドノ名アリ、色ノ青キ時ニ、皮ヲ剝ギテ、酒食ノ香氣ヲ助ク、又、花ヲモ用ヰルガ故ニ名アリ。實、熟スレバ食用トセズ。　運情　小柚　倭名抄、十七[illegible]「[illegible]柚、由、似[illegible]橘而酢」宇津保物語、藤原君「マウボル物、日ニ橘一ツ、ゆ三ツ」蜻蛉日記、上、下[illegible]「アシゲナルゆヤ、梨ヤナドヲ、ナツカシゲニモタリテ、食ヒナドスルモアハレニ見ユ」

ゆ　(數)　［五百］〔いほノ約轉〕いほ(五百)ニ同ジ　萬葉集、[illegible]四「[illegible]河ノ上ノ、湯ツ磐ムラニ、草ムサズ、常ニモガモナ、[illegible]」

ゆ・ユル・ユレ・エ・エ(助動)　被、又ハ、被る、ニ同シロキ、イマキノ内ハ、忘ラ[illegible]マジニ」萬葉集、六十「イナミ野ノ、淺茅オシナベ、サヌル夜ノ、ケ長クシアレバ、家シ忍ハ生」(古語ノ[illegible])同、十五[illegible]「妹ヲ思ヒ、寐ノ寢ラ延ヌニ、アカトキノ、朝霧コモリ、カリガネゾ鳴ク」「有ラゆる」「知ラえヌ」

ゆ　(辭)　［從自］(一)よりニ同ジ。又、よ。[illegible]

ゆ　(接頭)　［齋］〔いみノ約〕名詞、動詞ノ上ニ冠ラセテ熟語トスルモノ。神代紀、下[illegible]「[illegible]穗[illegible]、此云[illegible]」「[illegible]種」「齋鍬」「齋マハル」

ゆ-あか　(名)　［湯垢］鐵瓶ナドノ内面ニ、年久シクシテ、湯ヨリ生ジテ着ク白ク固キ滓ノ如キモノ。ユノハナ。(溫泉ノ硫黃氣ニテモ)沫勃

ゆ-あがり　(名)　［湯上］浴ヨリ出デタル時。出浴　井[illegible]中河内通[illegible]「[illegible]湯上リ、姫ニ[illegible]カセ、[illegible]」

ゆ-あたり　(名)　［湯中］闕レヌ溫泉ニ、浴シ、又ハ、過度ニ入浴シタルタメニ、心地ノ不快ニナルコト。

ゆ-あび　(名)　［湯浴］次條ノ語ニ同ジ、[illegible]花物語、十七、[illegible]「[illegible]、空ヨリシテゆあびシ奉リケリ[illegible]始メテ、云云」

ゆ-あみ　[illegible]　(一)湯ヲ身ニ浴ミテ、[illegible]ルコト。湯浴。竹取物語「[illegible]皇子ハ、云云、[illegible]」

ゆ-あ・む・ムル・ムレ・ミ・ミ・ミヨ(自動、上二)　湯[illegible]

ゆ-あらひ　[illegible]

ゆい-ゑ　(名)　［由緖］〔字ノ音、ゆゑノ延、四時ノゑいゑノ類、サレド普通ハゆゐゑ〕ゆゐゑ(由緖)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

ゆ-いり　(名)　［湯入］入浴スルコト。又、溫泉ニ入ルコト。湯浴　入湯　[illegible]九[illegible]「[illegible]時、云云、御寶生ノ湯入リノ心、シヅカナレヤ、トツカハトシテ、アガリ給ヒソ」

ゆう　(名)　[illegible]徳[illegible]心[illegible]レヌコト。イサマシキコト。又、ソノ心。中庸、第二十章「知仁勇三者、天下之達德也」

ゆう　(名)　［雄］(一)ヲス。ヲ。ヲン。牡。[illegible]雌[illegible]對ス[illegible]綏綏」(二)ヲヲシキコト。イサマシキコト。又、ソノモノ。左傳、襄公二十一年「州綽曰、[illegible]」(三)[illegible]ト。又、ソノモノ。漢書、東方朔傳、贊「[illegible]」

ゆう　(名)　［柚］ゆ(柚)ニ同ジ。和漢三才圖

合、八十七、山果類「柚、苔、又」

ゆうかい (名) 融解 (一)トクルコト。固體ノ、温度ノ變化ニヨリテ、液體ノ狀態トナルコト。(二)解クコト。又、溶カスコト。融釋。

ゆうがふ(ユウゴウ) (名) 融合 トケテ一ツニナルコト。又、トカシテ一ツニスルコト。[illegible]、出[illegible]、其[illegible]出金銀[illegible]、火融合之[illegible]金銀」

ゆうかん (名) 勇悍 タケクツヨキコト。勇氣アリテ剽悍ナルコト。又、其性質。[illegible]、兵、此[illegible]也

ゆうかん (名) 勇敢 心タケクシテ、物事ヲオシキリテスルコト。勇氣アリテ果斷ナルコト。又、其性質。莊子、[illegible]「筋力之士矜レ難、勇敢之士奮レ患」

ユウカラ (名) (あいぬ語、ユウカラ、昔譚ノ意) あいぬノ語リ傳フル長編ノ敍事詩。神、及、英雄ノ物語ナリ。神謠

ゆうき (名) 勇氣 イサマシキ心。タケキ意氣。左傳、莊公十年「夫戰勇氣也、一鼓作レ氣、再而衰、三而竭、彼竭我盈、故克レ之」[illegible]、太平記、[illegible]「[illegible]軍事、勇氣未レ忘、天下ノ[illegible]ヲ吞デ、回天ノ力ヲ出サント思ヘル意共ナレバ、云云」

ゆうき (名) 雄氣 ヲヲシキ氣慨。雄大ナル氣質。盛ンナル氣力。徐陵、勸進梁元帝表「[illegible]公[illegible]樹、雄氣[illegible]、張[illegible]兵、風[illegible]」

ゆうくわ(ユウカ) (名) 融化 融和シテ化合スルコト。又、融解シテ變化スルコト。朱德潤、[illegible]谷東路山詩「[illegible]想融化初、元氣下磅礴」

ゆうくわ(ユウカ) (名) 融和 ゆうわ(融和)ニ同ジ。李商隱文「[illegible]、虛室融和」

ゆうけふ(ユウキヨウ) (名) 勇俠 勇氣アリテ、任俠ノ心アルコト。イサマシクテ、男達ノ氣性アルコト。魏武帝、樂府「士[illegible]、[illegible]」

ゆうけふ(ユウキヨウ) (名) 勇怯 勇氣アルコトト、怯懦ナルコトト。又、勇氣アルモノト、臆病ナルモノト。剛臆。國語、吳語「勇怯[illegible]、三軍皆[illegible]以振旅、其聲動天地」

ゆうけん (名) 勇健 (一)強クスコヤカナルコト。武勇ニシテ、強健ナルコト。勁健 後漢書、[illegible]傳「[illegible]」(二)無事息災ナルコト。壯健。(書簡文ナドニ用ヰル)

ゆうけん (名) 雄健 ヲヲシクスコヤカナルコト 雄大ニシテ豪健ナルコト。[illegible]

ゆうけん (名) 雄劍 古ヘ、支那ノ干將ガ造リシト云フ二振リ(雄劍、雌劍)ノ名劍ノ一。其中、雄劍ハ吳王闔閭ニ獻ゼシト云フ。轉ジテ、主ナル太刀。正ノ劍。[illegible]將鑄ニ成二劍、進ニ雄劍于吳王ニ」朗詠集、下「雄劍在腰、拔則[illegible]」[illegible]、雄劍バカリ參ラセテ、雌劍ヲ隱ス故ニ、云云」

ゆうこん (名) 雄渾 詩文ナドノ、力アリテカドノナキコト 勢ヒツヨクシテ、淀ミノナキコト。杜甫、[illegible]岳陽樓一詩、評「[illegible]」

ゆうさい (名) 雄材雄才 ヲヲシキ材器。又、スグレテ雄大ナル才能。宏材。漢書、武帝紀、贊「如ニ武帝之雄材大略、不レ改ニ文景之恭儉ニ以濟ニ斯民、雖ニ詩書所レ稱、何有レ加焉」

ゆうさう(ユウソウ) (名) 勇壯 イサマシクサカンナルコト。勇氣アリテ壯烈ナルコト。後漢書、耿秉傳「秉性勇壯而簡易於事」

ゆうざん (名) 雄山 物ヲ産ゼザル山。産物ナキ山。松屋筆記、八十一、第五十八條「山ニ[illegible]山アリ、云云[illegible]、雄山也、[illegible]」

ゆうし (名) 勇士 猛ク剛勇ナル男子。剛キ武夫。剛ノ者。マスラタケヲ。勇者。孟子、滕文公、下篇「志士不レ忘レ在ニ溝壑ニ、勇士不レ忘レ喪ニ其元ニ」吾妻鏡、一、治承四年八月十九日「[illegible]北條ニ之勇士等、以ニ走湯山ニ爲ニ往還路ニ」

ゆうし (名) 雄志 ヲヲシキココロザシ。又、雄大ナル意氣。オゴコロ。壯志。雄心。後漢書、仲長統傳「[illegible]、曰、若有ニ雄志ニ」

ゆうし (名) 雄姿 ヲヲシキ姿。勇シキスガタ。雄壯ナル容姿。杜甫、[illegible]

ゆうし (名) 雄視 ヲヲシク見ユルコト。又、威力ヲ張リテ他ヲ睨ドスコト。宋史、蘇軾傳、其[illegible]光芒、雄視百代」

ゆうしん (名) 雄心 ゆうし(雄志)ニ同ジ。阮瑀、[illegible]

ゆうしん (名) 勇進 イサミススムコト。勇シク進ムコト。勇氣ヲフルヒオコシテ、前進スルコト。[illegible]「曾無ニ愧色ニ、勇進者但欲レ凌レ人」

ゆうしや (名) 勇者 イサマシキモノ。タケキ人。勇氣アル人。勇士。論語、憲問「仁者必有レ勇、勇者不ニ必有一レ仁」

ゆうしやう(ユウシヨウ) (名) 勇將 イサマシキ大將ツヨキ大將。強將。驍將。魏書、源懷傳「北拓[illegible]中、遠[illegible]、而智臣勇將、力算俱竭」

ゆうしやう(ユウシヨウ) (名) 熊掌 クマノ手ノヒラ。クマノタナゴコロ。支那ニテハ、美味トシテ[illegible]

ゆうしゆつ (名) 涌出 [illegible] 又、[illegible] ワキイデタルモノ。列子、湯問[illegible]

ゆうしゆん (名) 雄俊 才力ナド、[illegible]、雄大ニシテ英俊ナルコト。又、ソノモノ。史記、范雎蔡澤傳、「[illegible]、天下雄俊、弘辯智士也」

ゆうずゐ(ユウズイ) (名) 雄蕊 [雌蕊ニ對ス] 植物學ノ語。花ノ生殖機關ノ一ニテ、花絲ト葯トヨリ成リ、花粉ノ着生スル所。ヲシベ。しべ(蘂)ノ條ノ(一)ヲモ見ヨ。

ゆうせん (名) 涌泉 湧泉 [正字通「湧、俗涌字」] ワキイヅルイヅミ。後漢書、姜詩妻傳「[illegible]有涌泉[illegible]味如江水」

ゆうせん (名) 勇戰 イサマシクタタカフコト イサミ戰フコト 梁書、馮道根傳「道根曰、怯防勇戰、此之謂也」

ゆうぜん (副) [illegible]然 ヤハラギトクル狀、又ハ、快クナル狀ニ云フ語。[illegible]

ゆうソウ (名) 勇僧 あらほふし(荒法師)ニ同ジ。

ゆうたい (名) 勇退 未練ナク身ヲ引クコト。イサマシク官職ナドヲ退クコト。[illegible]

ゆうだい (名) 雄大 ヲヲシクシテ大イナルコト。雄壯ニシテ規模ノ大ナルコ

ト、[illegible]」

ゆう-たん (名) [熊膽] くまのい(熊膽)ニ同ジ。[illegible]

ゆう-たん (名) [illegible] [illegible]ルコト。猶豫セズニ決斷スルコト。[illegible]五[illegible]

ゆう-たん (名) [illegible] [illegible]決斷[illegible]コト[illegible]

ゆう-ちう (名) [illegible] [illegible]クシテ、[illegible]シノ[illegible]コト。又、[illegible]一方ニ[illegible]據[illegible]。[illegible]、[illegible]以[illegible]胸中[illegible]スルコト[illegible]原爭[illegible]衞天下[illegible]退足[illegible]以屈[illegible]強江外[illegible]」

ゆう-ちん (名) [雄鎭] [illegible]シク[illegible]シノ[illegible]スルコト。又、[illegible]國ノ[illegible]。[illegible]

ユウ-ズウ
ゆう-づう (名) [融通] (一)又、ゆづう。ウチトケ通ルコト。停滯スルナク通用スルコト。止觀、七「今有二十意、融通佛法二」任[illegible]」(二)ゆづう(融通)ニ同ジ。

ユウズウ-シユウ
ゆう-づう-しゆう (名) [融通宗] 次條ノ語ノ略[illegible]

ユウズウ-ネンブツ-シユウ
ゆう-づう-ねんブツ-しゆう (名) [融通念佛宗] 佛教ノ一派、華嚴經、及、法華經[illegible]、阿[illegible]ノ他[illegible]、自他ノ稱名念佛[illegible]、五[illegible]相融通シテ、其、平等ノ利益ヲ成スト説ク。融通宗。ねんぶつしゆう(念佛宗)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。

[illegible]之[illegible]

ゆう-ごう (名) [illegible] [illegible]テ[illegible]盛ンニ大イナルハカリゴト。雄大ナル[illegible]

ユウトピア (名) [英語、Utopia.] 何[illegible]ノ[illegible]ノ義ニテ、現實ノ社會ニ慊ラヌ人人ノ夢想セル理想鄕。

ゆう-は [illegible] [illegible]四方ヲ[illegible]シテ[illegible]者トナルコト。又、ソノモノ。[illegible]

ゆう-はん (名) [illegible] 雄大ナル[illegible]。又、勢力ノ[illegible]

ゆう-はん (名) [illegible] [illegible]ゆうしやう(熊掌)ニ同ジ。

ゆう-ひ (名) [熊羆] (一)くまト、ひぐまト。詩經、小雅、谷風之什、大東篇「舟人之子、熊羆[illegible]」(二)[illegible]テ、勇[illegible]アルモノニ喩ヘテ云フ語。[illegible]」

ゆう-ひ (名) [雄飛] 雄鳥ノ飛翔スル意、他ヲ[illegible]シテ、勢盛ニ活動スルコト。(雌伏ニ對ス)後漢書、趙典傳「[illegible]京兆郡[illegible]、[illegible]雄飛、安能雌伏[illegible]」

ゆう-ひつ (名) [雄筆] 雄壯ナル筆ヅカヒ。雄渾ナル筆勢。又、ソノモノ。[illegible]

ゆう-ぶ (名) [勇武] イサマシクタケキコト。勇氣アリテ、武事ニ達セルコト。又、ソノモノ。[illegible]

ゆう-ふく (名) [裕福] 裕ニ富メルコト。

ゆう-ふん (名) [illegible] 又、[illegible]文大付、四巳[illegible]人之耳目[illegible]」

ゆう-べ [illegible] [illegible]「[illegible]

ゆう-へん (名) [illegible] [illegible]章、又、極メテ優レタル[illegible]

ゆう-べん (名) [雄辯] イサマシキ辯舌。スグレタル辯舌。又、辯舌ノ、勢ヨクシテ[illegible]コトミルモノ。[illegible]」

ユウ-モウ
ゆう-まう (名) [勇猛] 又、ゆうみやう。勇氣アリテタケキコト。(次條ヲモ參見セヨ)[illegible]モ、此頭ヲダニ成就シナバ、悲ムベキニ非ズト、勇猛ノ心ヲ發シテ、[illegible]ニテハ[illegible]ニケル也」

ユウ-ミヤウ
ゆう-みやう (名) 勇猛 佛教ノ語。前條ノ語ニ同ジ。法華[illegible]進、[illegible]人[illegible]於深山[illegible]」

ゆう-めい (名) [勇名] イサマシキ名聲。又、勇力アルキコエ。武勇ノホマレ。

ゆう-ゆう-と (副) [悠揚] [illegible]ノドカニ[illegible]之中、其[illegible]也[illegible]、之外、[illegible]也[illegible]」

ゆう-りき (名) [勇力] ゆうりょく(勇力)ニ同ジ。[illegible]ニ勇ム我ガ勇力、[illegible]テ力始メ」

ゆう-りく (名) [illegible] [illegible]

ゆう-りょく (名) [勇力] イサマシキチカ[illegible]

ゆう-わ (名) [融和] 又、ゆうくわ。ヤハラグコト。トケアヒ、ヤハラグコト。

ユウ-ワウ
ゆう-わう (名) [勇往] イサミニイサミテ[illegible]コト。[illegible]

ユウ-ワウ
ゆう-わう (名) [雄黃] 鑛物ノ名。けいくわんせき(鷄冠石)ニ同ジ。

ユウ-イ
ゆう-ゐ (名) [雄偉] ヲヲシクタクマシキコト。[illegible]

ゆ-えい [illegible] [illegible]

ゆ-えん (名) [由緣] ユカリ。ヨスガ。ワケ。由來。由緒。[illegible]

ゆ-えん [illegible] [illegible]油、又、[illegible]ドヲ、空氣ノ供給ノ不十分ナル所ニテ燃ヤストキ、上ル烟ノ、物ニ凝リ着キテ、黑ク煤ノ如ク見ユルモノ。[illegible]ドニ造ル。はいずみ(掃墨)ノ條ヲ見ヨ。東坡[illegible]我會稽山(享保、近松作)四、さら少將道行「サスガ夜道ノカトヤ[illegible]」

ゆえん-ずみ (名) [油煙墨] 油煙ニテ造リタル墨。[illegible]

ゆえん-ひげ (名) [illegible] [illegible]

傷シタル油煙ニテ塗リタル作リヒゲ　薩摩歌(元祿、近松作)上「アモトフモトノ赤松ヲ、打チ割リ松ノ油烟昆、氣味好イ頭ノ播鉢髮」

ゆおも (名) [湯母]　上代、産兒ニ湯ヲ飮マシムル役ノ婦人ト云フ。　神代紀、下三十四「取婦人、爲乳母、湯母、及、飯嚼、湯坐」

ゆか (名) 床 牀 〔寢處ノ意、いめ(夢)、ゆめノ類〕 (一)家ノ内ニ、一段高ク構ヘテ、起キ臥シスル處。寢床。寢臺。帳臺ノ濱床ナドモ是レナリ　源、三十五、若菜「柏木ノ女三の宮を御父帝のあひたまふ所に「宮ヲヒトカウ人人ツクロヒ聞エテ、ゆかノ下ニオロシ奉ル」ゆか、ざに、通ハシ云ヘド、分チテ言ハバ、ゆかハざのノ上ニ疊ヲシキタルモノニヤ」 (二)大工ノ語。家ノ内、面ニ、地ヨリ一二尺高ク根太ヲ亙シ、根太板ヲ張リ、上ニ疊ナドヲ敷キテ、家人ノ常ニ起坐スル處。疊無キヲ板敷ト云フ。地板　蕪村句集「床低キ、旅ノ宿リヤ、五月雨」 (三)劇場、寄席ナドニテ、淨瑠璃語ノ太夫ノ坐スル所。一段高ミノ座。　浮世床(文化、三馬)初編、上「熊公ガ床ヘ這入ノテ語ル時ノ、彦ん兵衞カ三味線ヨ」

ゆか (名) [由加] 〔ゆハ齋ム意、かハみか、ひらか、ノ甕ナリ〕 古ヘ、祭ニ用ヰキタル甕。　倭名抄、十六十九器「瓱、由賀、罋也」　内膳司式「由加十六口」

ユガ (名) 瑜伽 〔梵語、Yoga. 相應ト譯ス〕 (一)主觀、客觀ノ相應融合シテ、一トナリタル境地。　唯識述記、二、本「言瑜伽者、名爲相應、此有五義、故不別翻、一與境相應、不違一切法自性故、二與行相應、謂定慧等行相應也、三與理相應、安非安立二諦理也、四與果相應、能得無上菩提果也、五得果既圓、利生救物、赴機應感、藥病相應、此言瑜伽、法相應稱、云云」 (二)瑜伽三密ノ略　眞言三密ノ觀行　さんみつ(三密)ノ條ヲモ見ヨ。　平家物語、七、山門返牒事「止觀十乘梵風、挑ニ好侶和朝外ハ、瑜伽三密法侶、同時俗於先行昔」

ゆかいた (名) 牀板　牀ニ張ル板。又、ゆかニ張リタル板。牀ノ板。

ゆかう (名) [柚柑] 〔字ノ音、ゆかんノ音便〕 芸香科ノ常綠樹。葉、花、實、柚ニ異ナラズ、但シ、實、甚ダ大キク、香アリテ、柑ニ似タリ。　倭名抄、十七五菓類「柚柑、ユカウ」　易林節用集(慶長)下、草木門「柚柑、ユカウ、橙、同」

ゆかく (動) 〔行くノ延〕 行クコトノ意。　萬葉集、十四「サヲシカノ、フスヤ草ムラ、見エズトモ、兒呂ガ金門ヨ、由可久シ吉シモ」

ゆがく・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) [湯搔]　沸湯ニ暫シ漬ス。煮湯ヲクグラス。ユビク。ちさ、はうれんさう、ナドハ、其後ヲ冷水ニ浸シテ苦汁ヲ去ル。淪

ゆかけ (名) [湯掛]　ゆあみ(湯浴)ニ同ジ。　盛衰記、四十五、内大臣京上被斬事「ゆかけナセハヤトノ給(宣イ)ヒケレバ、近所ヨリ新シキ桶杓(杓イ)ヲ尋ネ出シ、水ヲアゲテ奉ル」

ゆがけ (名) [弓懸] 〔ゆみかけノ略〕 又、ゆみかけ　つるはじき。弓射ル時ニ懸クル革製ノ手袋。卽チ、弓射ルトキ、手指ノ傷マザルタメ、右手ノ指ニ掛ケテ弦ヲ持スル具。革ニテ造ル　タヌキ。タオホヒ。　韘 韝 決 抉 叉、鷹飼ニ用キルヲ、鷹のゆがけ、ト云フ。タカダヌキ。韝　名義抄「決拾、ユカケ、トモ」　流鏑馬次第「ゆがけノ緒ヲバ、例式ノ樣ニマハシテ、手ノコウノカタニ、二所ムスビテトムル也、云云、ゆがけヲ手袋トイフハ、流鏑馬ノ時ノ事也」

ゆかし・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [懷] 〔心、往カムトスル意ト云フ〕 (一)何トナク知ラマホシ。奥ユカシ。心ユカシ。其意、樣ハ、シ、實ヲ知ラマ欲シ、眞相ヲミトドケタシ。目ニ見エヌモノニ心ヲヤル。　字類抄「色、ユカシ」 (二)〔ナツカシ〕 何トナクシタハシ。　源、四十八寄生五十九「栗ナトヤウノ物ニヤ、ホロホロト食ノモ、聞キ知ラヌ心地ニハ、カタハライタウテ、退キ給ヘド、又ゆかしくナリツツ、猶タチヨリ見給フ」

ゆかしがる・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [懷]　ナツカシク思フ。ユカシク思フ　枕草子、七、第六十四段「ソレニヤ、カレニヤナド、オボメキゆかしがり給フ」

ゆかした (名) 床下　床ノ下。緣ノ下

ユガしゅう (名) 瑜伽宗 〔密敎ハ、三密ノ瑜伽ヲ宗トスレバナリ〕 密敎ノ總稱。又、支那ノ法相宗ヲ、印度ニテ、瑜伽宗ト云フ　由ハ、瑜伽ノ條ヲ參見セヨ。　菩提心論心抄、上「瑜伽、大日經宗通名也、謂、大日經等也、此經疏中指二大日經一云二此瑜伽宗一故」

ゆかす (動) [行]　行くノ敬語。ユキ給フ。

ゆかた (名) (一)次條ノ語ノ略。　望一千句(杉田勾當)「傾城ノ、功德風呂ヨリ、上リ來テ、湯かたノ袖モ、匂フカヨヒ路」 (二)今、綿布製ノ單衣ノ、夏時ノ用トスルモノノ總稱。(麻布ノかたびら、ニ對ス)　好色二代男(貞享、西鶴)四、「五月ニ帷子二ツ、單衣一ツ、七月ニ帷子二ツ、ゆかた一ツ」　常盤友夜集、菖蒲浴衣「今日ノハレ着ニ風薫ル、アヤメゆかたノ白重ネ」

ゆかたびら (名) [湯帷子]　浴シテ着ル衣。浴シタル後ニ着ル單ノ衣。ミノゴヒ。ユグ。今、略シテ、ゆかた。明衣 浴衣　榮花物語、廿九、玉飾「御ゆかたびらナガラ、オハシマシタルニ、云云」　倭名抄、十四十湯浴具「明衣、由加太比良」　貞觀古實集「身拭ト申ハ、御湯かたびらト申ハ上リ候」(敬語ナリトノ意)

ゆかなへ (名) [湯鼎]　湯ヲ沸カスニ用ヰルカナヘ。　[illegible]

ゆかのこ (名) [床子]　すのこ(簀子)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

ゆかはあみ (名) [川浴]　沐浴、潔齋ノ、ミソギノハラヒヲスルコト。　崇神紀、四十八年正月「沐浴而祈寐」

ゆかふ (名) 癒合　傷口ナドノ癒エテ、皮膚、筋肉ノ、ヤヤ合フコト。

ゆかま (名) 湯釜 〔茶釜ニ對ス〕 (一)飯ヲ炊グニ用キル釜。 (二)茶會ニ、湯ヲ沸カシテ、茶釜ニ注ツルニ用キル釜

ゆがみ (名) [歪僻] (一)ユガムコト。又、ユガミタル容子。ヒズミ。不正。歪曲。　好色一代男(貞享、西鶴)四、「藤ハ松ニツレテモ、ゆがみハ直ラズ」 (二)ヨコシマナルコト。邪曲　津國女夫池(享保、近松作)一、「棒木ノ中ヨリ東西ニ、引ク繩筋ノゆがみナキ、代代ノ掟テ」

ゆがみ (名) 搖髮 〔ゆれがみノ略〕 馬、獅子ナドノ、タテガミ。　平家物語、九、宇治川「梶原、云云、手綱ヲ馬ノゆがみニ捨テ」

ゆがみ (名) [結髮] 〔ゆひがみノ略〕 髮ヲ結フコト。又、髮ヲ卷クコト。

ゆがみ (名) 靫編 〔ゆぎあみノ約〕 靫ヲ作ルコト。又、ソノ人。

ゆがみもじ (名) [歪文字]　平假名ノくノ字ノ稱。うしのつのもじ(牛角文字)ノ條ヲ見ヨ。

ゆかん (名) 柚柑　ゆかう(柚柑)ノ條ヲ見ヨ。　倭名抄、十七五菓類「柚柑、俗加二音、漢語抄云、柚柑、柚橘也」

ゆがむ・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [蹴 歪僻] 〔搖レ屈む義カ、又ハ、拉ゲ屈む義カ〕

（二）[illegible]テゆがみケレバ」（二）くちゆがむ（喎）ノ條ヲ見ヨ。（三）意志、及、行儀ナド正シカラズ。不正ナリ。 枕双、三、上廿「琵琶モナヲセナド、上ノノタマハセツルヲ、中中ゆがみヌベウゾ侍リケルトノタマヘバ、云云」（四）（聲ナマル。訛ス。 源、四十九、東屋「若ウヨリ去ルアヅマノカノ、遙カナル世界ニウヅモレテ、年經ケレバニヤ、聲ナド、ホドホドウチゆがみヌベク、云云」

ゆが・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）｜歪｜[illegible]ヒヽマス。マガノス。ユガメル。 源、七、紅葉賀廿「シドケナキ姿ニテ、カウブリナド、ウチゆがめテ、云云」

ゆが・める（動）｜歪｜前條ノ語ノ口語。

ゆかもの（名）由加物 [illegible]供ノ[illegible]種ノ稱。特ニ、朝トタトノ閒ニ供フル[illegible]

ゆかり（名）[illegible]（ゆハ所從ノ意、かりハ[illegible]）許ナリ」ヨスガ。ツヅキアヒ。寄ルベ。[illegible] 由緣 緣故 [illegible]

ゆかりのいろ（名）紫色 古今集、十七、雜、上「紫ノ、ヒトモトユヱニ、武藏野ノ、草ハミナガラ、アハレトゾ見ル」[illegible] 其草ノ四方三尺許リノ間ハ、土ノ色、紫色ニナリテ、其邊ニ生フル他ノ草モ、悉ク[illegible]ナド云フモ、コノ紫色ヲ帶ベル菊ナラ[illegible]

ゆかりむつび（名）[illegible] 緣アル者ガ互ニ睦ビ合スルコト。 源、廿一、少女廿「ゆかりむつび、ネヂケガマシキ[illegible]」

ゆかたけ（名）[illegible] 大桶ノ[illegible] 十五器「由賀、甕也、俗人呼二大桶一爲二由加乎介一是」

ゆき（名）｜行｜（一）行クコト。アユムコト。イキ。 萬葉集、十五、六「大君ノ、ミコトカシコミ、大舟ノ、由伎ノマニマニ、宿リスルカモ」「ゆきトカヘリト」（二）旅行スルコト。古事記、下（允恭）「君ガ由岐、ケナガクナリヌ、山タヅノ、迎ヘヲ行カム、待ツニハ待タジ」[illegible]「君ガ行ハ、久ニハアラジ、夢ノワタ、湍トハナラズテ、淵ニアルカモ」（略解ノ訓）

ゆき（名）裄 [illegible]衣ノ背縫ヨリ袖口ニ至ルマデノ長サ。丈ニ對ス）[illegible] 古語拾遺、中、注 宮人ノ[illegible]（二）[illegible]物ノ程度。高サ。（三）又、轉ジテ、いきたけ。其條ヲ見ヨ。「ゆきたけノ知レタル身代」

ゆき（名）｜雪｜（ゆハ齋、きハ潔白ノ義）（一）空中ノ水蒸氣ノ、雲氣ニ遇ヒテ、凍リテ地ニ落ツルモノ、純白ニシテ、形、皆、六出ナリ。ムツノハナ。六出花。六花 [illegible] 古今集、一、春、上「春ノ日ノ、光ニアタル、ワレナレド、頭ノ雪トナルゾワビシキ」「雪ヲ戴ク」（三）女房詞ニ、鱈。（字ノ旁ニ就キテ云フ）

ゆき（名）｜齋忌悠紀由基｜（ゆハ齋庭ナドノゆ、きハ[illegible]）[illegible] 丹波、備中ニテ、交替ニテ行フト。だいじやうさい（大嘗祭）ノ條ニ注ス。 天武紀、下、[illegible]

ゆき（名）｜齋木｜（一）齋木ノ意ニテ、神[illegible]（二）弓ニ作ル木。 神樂歌、弓立「オホギミノ、由支トル山ノ、ワカザクラ」神樂歌[illegible]

ゆぎ（名）[illegible]「[illegible]」古ヘ、[illegible]射具ト云ハムガ如シ」[illegible]テ背ニ負フ器。後ノ箙、胡籙ナドノ類、（此器ヲ造ルヲ、編ムト云ヒシガ、延喜式ニ「[illegible]靫編比濟之」トアリ、姓氏錄ニ「[illegible]首」ト云フ見エタリ）倭名抄、十二、征戰具「步人所レ帶曰レ靫（由岐）以レ箭叉二其中一也」[illegible]「マスラヲノ、由伎トリ負ヒテ、出デテイケバ、ワカレヲ惜シミ、ナゲキケムツマ」

ゆぎ（名）｜由木｜（居木ノ轉）鞍ノ名所、くら[illegible]ノ條ヲ見ヨ。[illegible]腹帶「中ニハ居木ノ轉語ニテ、居木トハ、人ノ乘居ル處ノ木ナレバイフ」

ゆきあかり（名）｜雪明｜雪ノ爲ニ夜ノ明ルキコト。又、雪ノ光（闇夜ニ云フ）雪光 太祇全集「里ヘ出ル、鹿ノ背高シ、雪明かり」

ゆきあたり（名）｜行當｜行キアタルコト又、ソノ處。ツキアタリ。ユキヅマリ。[illegible]「[illegible]ヘハ、此ノ辻ヲ左ヘキレ、行キ當リノ左ノ門ヘ、イヤ[illegible]ヘト」

ゆきあた・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）｜行當｜（一）[illegible]「ヤアココナモノハ、此ノ[illegible]ヲ、ナゼニ行當たる」（二）ハタト、トドマル。ユキ[illegible]作）上「平兵衞ハアト吐息ヲツキ、ハテ[illegible]ニ行きあたッタ、云云」

ゆきあひ（名）｜行合｜（一）（道ノ雙方カラ行キテ出會フコト。互ニ行キテ出會フコト。デアヒ。 萬葉集、九、廿「イ行相ノ、坂ノ麓ニ、サキヲヲル、櫻ノ花ヲ、見セム兒モガモ」[illegible]（二）[illegible]夏、秋、又、冬ノ[illegible]ヲ、刈ル時ニ、成リニケラシモ、萩ノ花吹ク」（三）[illegible]「[illegible]ケン」

ゆきあひあね（名）｜行合姉｜[illegible]異父同母ノ姉[illegible]

ゆきあひきやうだい（名）｜行合兄弟｜異父同母ノ兄弟。[illegible] 松作）三「否トイハバ御座ノ數、二歳デ別レシ妹ナレバ[illegible]」[illegible]「源三位賴政ノ小作立、猪ノ早太トハ行合ひ兄弟」

ゆきあひのそら（名）｜行合空｜夏代ノ暑涼ノ行キカフ空。夏ト秋トノ行キ合ノ頃 新古今集、[illegible]「夏衣、カタヘ涼シク、ナリヌナリ、夜ヤフケヌラン、行合の空」

ゆきあひのま（ユキアイノマ） (名) [行合間] 物ノ、交叉セルアヒダ。組ミ合ハセタル隙間。 新古今集、十九、神祇「夜ヤ寒キ、衣ヤ薄キ、カタソギノ、行き合ひのまヨリ、霜ヤ置クラン」

ゆきあひのもち（ユキアイノモチ） (名) [行合餅] みなおもち(皆持餅)ニ同ジ。 [illegible]、中根東里)「今ノ俗ニ、嫁後三日、行合の餅ト云フアリ、其數五百八十ナル數、[illegible]」

ゆきあ・ふ（ユキ・ア・ウ） ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [行合][行逢] 行キテ、フト出アフ。出會ス。デクハス。 萬葉集、十一「玉桙ノ、道ニ行き相(ユキアヒ)、ヨソ目ニモ、見レバヨキ子ヲ、イツシカ待タム」

ゆきあ・ふ（ユキ・ア・ウ） ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 行合 ユキアハシム。ナラビツラヌ。 古事記、下(雄略)九「マナバシラ、尾由岐阿閇、庭雀、ウズスマリ居テ、ケフモカモ」

ゆきうち (名) [雪打] 雪ヲ摶(マロ)メテ、打付ケ合フ戯。ユキナゲ。ユキガッセン。闘雪。 犬子集「雪打ヤ、サナカラ春ノ、花イクサ」 五元集「雪うちや、ヤリテヲカヘス、小忌衣」

ゆきおこし (名) [雪起] 降雪アラムトスルトキ、コレニ應ジテ起ル雷鳴。

ゆきおに (名) [雪鬼] 雪ノ精。雪女ノ類。 謡曲、雪鬼「ソレ雪鬼トイッパ、本來惡心ノ鬼ニモアラズ、年フル雪ノ高根、深谷ノ岩間ニ凝固テ、自ラ他生ノ人體トナル、其姿ハ女ナリ、云云」

ゆぎおひ（ユギ・オイ） (名) [靫負][靱負] 靫ヲセオフコト。又、ソノ武人。ユゲヒ。ユギヘ。 [illegible]紀、元年二月「[illegible]安[illegible]」注「[illegible]」

ゆきおろし (名) [雪下] (一)山風ニテ雪ヲ吹キ下スコト。 俳諧新題、冬、[illegible]「[illegible]キ尖ル、雪おろし」 (二)芝居ノ鳴リモノノ一。雪フリナドノ場面ニ用キルモノ。剗チ、撥(バチ)ノ先ニ綿ヲ附ケテ、大太鼓ヲ打チツヅクルコト。(三)屋根ナドニ積レル雪ヲ、クヅシ落スコト。

ゆきがかり (名) [行掛] (一)行キカカルツイデ。ユキガケ。 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)四「人アリテ、義ハフルマヒニ行クト云フ、云云、自然天然ト行きがかりニ、取リアヘズフルマヒフルマハルル」 (二)事ニ着手シテ、中止ノデキザルコト。止ムニ止マレヌコト。

ゆきかか・る ・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [行掛] (一)行キニカカル。行キダス。行キハジム。 金葉集、一、春「今ハトテ、越路ニカヘル、雁ガネハ、羽モタユクヤ、行きかかるラン」 (二)ユキテトホリカカル。 曠野集、春「行きかかり、輪羅(ワナ)解イテヤル、雉子カナ」

ゆきかき (名) [雪搔] (一)積レル雪ヲカキ除クルコト。除雪。又、コレヲナス者。 (二)雪ヲカキ澄(サラ)フニ用キル具。

ゆきがき (名) [雪垣] 積雪地方ニテ、冬季、家ノ軒ノ邊ニ丸太ヲ立テカケ、ソレニ簀ナドヲ横ニ結ビツケテ、雪ヲ遮ルモノ。 好色五人女(貞享、西鶴)五「里ハ冬カマヘシテ、云云、降ラヌ先ヨリ雪垣トテ北窓ヲフサギ」

ゆきかく・る ・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [行隱] 行キテ見エズナル。 萬葉集、六八長歌「コギタムル、浦ノコトゴト、往隱る、島ノ埼埼」

ゆきかく・る ・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [行隱] 前條ノ語ニ同ジ。 拾遺集、十五、戀「何方ニ、ゆきかくれナン、世ノ中ニ、身ノアレバコソ、人モツラケレ」

ゆきがけ (名) [行掛] いきがけ(行掛)ニ同ジ。

ゆきかご (名) [雪籠] 芝居ニテ、小サク切リタル紙ヲ、入レタル籠。降雪ノ狀(サマ)ナドヲ見スルニ用キル。

ゆきかぜ (名) [雪風] (一)雪ト、風ト。吹雪。 (二)ユキマジリノ風。フブキ。[風雪] 蜻蛉日記、下、中八「歸リテ三日許アリテ、賀茂ニ詣デタリ、雪風イフカタナウ降リクラガリテ」 (三)雪ノ上ヲ吹キ來ル風。

ゆきがた (名) [行方] 行クベキ方角。ユクヘ。又、行キタル方向。ユクヘ。 發心集、一、第一條「過ヌル頃、カキケツヤウニ失セテ、ゆき方モシラズトカタルニ、云云」

ゆきが・つ ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (自動、下二) 行キ難ク。行キニクシ。ユキカヌル。 萬葉集、廿「橘ノ、ミエリノ里ニ、父ヲオキテ、道ノ長ヂハ、行きかてヌカモ」

ゆきがっせん (名) [雪合戰] ゆきうち(雪打)ニ同ジ。

ゆきがて (名) [雪糅] 雪ノ交リタルコト。ユキマゼ。 後撰集、八、冬「神無月、時雨許リハ、降ラズシテ、雪がてニサヘ、ナドカナルラン」

ゆきかは・る（ユキ・カワ・ル） ・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [行變] モノノ經行キテ、アラタマル。行キテ變ハル。 萬葉集、十一二四「玉ノ緒ノ、ウツシ心ヤ、年月ノ、行き更(カハ)ルマデ、妹ニ逢ハザラム」

ゆきかひ（ユキカイ） (名) [行交] ユキカフコト。ユキチガフコト。ユキキ。ユキチガヒ。

ゆきかひぢ（ユキカイジ） (名) [行交路] ユキカフ路。往復スル通路。ユキキノミチ。 古今集、十六、哀傷「カリソメノ、ゆきかひぢトゾ、思ヒコシ、今ハ限リノ、門出ナリケリ」

ゆきか・ふ（ユキ・カ・ウ） ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [行交] 彼レ行キ、此レ來ル。ユキキス。ユキチガフ。 萬葉集、十二「キリメ山、往反ふ道ノ、朝霞、ホノカニダニモ、妹ニアハザラム」 古今集、三、夏「夏ト秋ト、ゆきかふ空ノ、カヨヒ路ハ、カタヘ涼シキ、風ヤ吹クラン」

ゆきかへ・る（ユキ・カエ・ル） ・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [行返] 行キテ、マタカヘル。ユキキス。往復。 萬葉集、六、[illegible]

ゆきかよ・ふ（ユキ・カヨ・ウ） ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [行通] カヨヒユク。往來ス。カヨフ。 源、六、末摘花三「母ハ、筑前守ノ妻ニテ下リニケレバ、父君ノモトヲ、里ニテ行き通ふ」

ゆぎがらみ (名) [由木搦] 馬具ノ腹帯ノ名。表腹帯(ウハ)ヲツクルトキ、鞍ノ由木(ユギ)(鞍橋(クラボネ)ノ條ヲ參見セヨ)ニ結ヒツクルモノ。 [illegible]、腹帶、由木搦(ユキカラミ)」

ゆきき (名) [往來] (一)往クト、來ルト。ワウライ。往返。 萬葉集、三廿七長歌「久方ノ、天ヅタヒクル、雪ジモノ、往來ツツマセ、イヤトコヨマデニ」 後撰集、十九、離別「君ヲノミ、五幡ト思ヒ、コシナレバ、往來ノ道ハ、遙ケカラジヲ」 (二)ユキキスル道。 續古今集、一、春、上「イヅクニカ、春ノ心モ、トドムベキ、行ききニ咲ケル、山櫻カナ」

ゆきぎえ (名) [雪消] (一)降リタル雪ノ、消ユルコト。ユキドケ。ユキゲ。 (二)降リタル雪ノ、マバラニ消エタル所。處處雪ノ消エタル箇所。ユキマ。 源、四十五、椎本「聖ノ坊ヨリ、ゆきぎえニ摘ミテ侍ルナリトテ、澤ノ芹、蕨ナド奉リタリ」

ゆきぎえづき (名) [雪消月] 又、ゆきげづき。陰暦、二月ノ異稱。 古今要覧稿、二十一、時令部「キサラキ、二月、云云、二月ノ異名アマタアルガ中ニ、ムメツサ月(躬恒祕藏抄)トイヒ、雪消(ユキゲ)月(後鳥羽臣莫傳抄)、梅津(ツキ)月(同上)ト見エタリ」

ゆきぐつ (名) [雪沓] (一)藁ナドニテ作リ、雪中ヲ行ク時ニ用キル履物(ハキモノ)。 萬紫千紅「信濃路ヘ、コシヂト見ユル、ゆきぐつヤ、下駄ニ

ハソリノ、アハスガンジキ」(二)皮ニテ作リ、[illegible]

ゆき-ぐも (名) [雪雲] 雪モヤウアル雲。[illegible]ノ雲。 夫木抄、十八「雪晴レ曇リ、降リモツヅカヌ、雪雲ノ、アフサキルサニ、月ゾサエタル」

ゆき-くら・す [illegible] 行キ行キテ日ノ暮ルルマデ行ク。 萬葉集、十七「[illegible]コシノ海ノ、信濃ノ濱ヲ、由伎久良之、永キ春日モ、ワスレテ思ヘヤ」土佐日記、正月九日「海ハ荒ルレドモ、心ハ少シナギヌ、カクテゆきくらしテ、泊リニ到リテ、云云」

ゆき-く・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 行暮 [illegible] 日暮ル。行キ行キテ日暮ル。 [illegible] 行暮れテ、[illegible] アルンナノマシ」新古今集、十、羇旅「今日ハマタ、知ラヌ山路ニ、行暮れス、イヅレノ山カ、月ハ出ヅラン」

ゆき-ぐれ (名) [行暮] 行キテ暮ルルコト。行キ行キテ、日ノ暮ルルコト。 夫木抄、十八、雪「宿カラン、行クヘモシラズ、久カタノ、アマノ[illegible]ノ、ゆきぐれノ空[illegible]」

ゆき-げ (名) [雪消] [ゆきぎえノ約] 雪ノ消ユルコト。又、ソノ時。ユキギエ。ユキドケ。融雪。 萬葉集、[illegible]「[illegible]、ヨソノミ見ツツ、アリカネテ、雪消ノ道ヲ、ナヅミケルカモ」古今集、六、冬「コノ川ニ、モミヂバ流ル、奥山ノ、雪げノ水ゾ、今マサルラシ」「ゆきげノ若菜」

ゆき-げ (名) [雪氣] 雪降ラムトスル空合。ユキモヤウ。ユキモヨヒ。雪空。雪模。[illegible]四、冬「[illegible]ガマニ、立ツ煙サヘ、小野山ハ、雪げノ雲ト、ミユルナリケリ」

ゆき-げ-ざき (名) [illegible] ゆきもよう(雪[illegible]) [illegible] 比良ヨリ北ハ、雪げざき」

ゆき-げ-ざき (名) [雪景色] 雪ノ降リタル景色。ユキノナガメ。雪景。 類柑子(寶永)「[illegible]ノ中ニ、居ルヤ山家ノ、雪げざき」

ゆき-げた [illegible] 縦ノ桁。其両脇ニアルヲ、耳行桁ト云ヒ、中央ナルヲ中行桁ト云フ。ハシゲタ。[illegible]

ユキゲヅキ
ゆき-げ-づき (名) [雪消月] ゆきぎえづき(雪消月)ニ同ジ。

ゆき-ざかし (名) ゆきざかざし ニ同ジ。 [illegible]

ユキゴイ
ゆき-ごひ (名) [雪乞] 雪ノ降ラムコトヲ、神佛ニ乞ヒ祈ルコト。[illegible] 霜哀、[illegible] 北ノ俳諧モ、カヤウノ時ノ爲ニコソアレ」

ゆき-ごんごん (句) [雪來來] [雪降リ來ヨノ意] 又、ゆきやこんこん。小兒ノ語。雪ト云フニ同ジ。霰ニハ、あられこんこん(霰來來)ト云フ。 嬉遊笑覽、六、下、兒戲「雪こんこ、徒然草(百八十一)、フレフレコ雪、タンバノコユキト云フ事、ヨネツキフルヒタルニ似タレバ、粉雪ト云フ、タマレコユキト云フベキヲ、アヤマリテ、タンバノトハ云フナリ、カキヤ木ノマタニトウタフベシト、アル物シリ申キ、昔ヨリイヒケルニヤ、鳥羽院ヲサナクオハシマシテ、雪ノフルニ、カク仰フレケルヨシ、讃岐ノスケカ日記ニ書タリト有リ、云云、今小兒ガ、雪こんこんト云フコトノモトナリ、云云」一休噺、四「雪やこんこ、あられやこんこ、オ寺ノ柿木ニ、フリヤツモレこんこ、云云」寶永證句帳「雪こんこ、タマレこんこや、シロ[illegible]」

ゆき-ころがし (名) [雪轉] 次次條ノ語ニ同ジ。

ゆき-ころばかし (名) [雪轉] 次條ノ語ニ[illegible]かしカナ」

ゆき-ころばし (名) [雪轉] 兒戲ノ一。雪[illegible] ユキコカシ。ユキマルゲ。ユキマロゲ。[illegible]ル達磨モ、ソレト見ワカズ」

ゆき-さけ (名) [雪裂] 積レル雪ノタメニ、木ノ枝ナドノ裂ケ[illegible] フタモトト、ナリテミユラン」

ゆき-ざさ (名) [雪篠] 紋所ノ名。[illegible] 雪ノ積リタル形ヲ描キタルモノ。[illegible] モチササ。

ゆき-しなに (副) [ゆきしなハ、時(接尾語)ノ條ヲ見ヨ] 行ク路ノツイデニ。ユキガケニ。ユクツイデニ。イキシナニ。「ゆきしなに立寄ル」

ゆき-じもの (副) [雪自物] [じもの(自物)ノ條ヲ見ヨ] ユキノゴトク。ユキメキテ。 萬葉集、[illegible]、長歌「[illegible]ノ上ニ、ク[illegible]ノ、大伴ヒ來シ、雪仕物、ユキキツツマセ、常世ナルマデ」

ユキギシヨウ
ゆき-じゃう (名) 湯起請 古代ノ探湯クカダチ 其作ヲ見ヨ)ノ遺風ニテ、滌ミナドノ實否ヲ糺サムガタメニ、熱湯ニ手ヲ入レシムルコト。又、ソノ起請文。 看聞御記、永享[illegible]年六月五日「地下盗人、[illegible] 四人、今日又令[illegible]湯起請、云云、[illegible]人故、[illegible] 二人書物、地下人結構歟也[illegible]」

ゆき-じる (名) [雪汁] 雪ノ融ケタル水。雪消ノ水。 [illegible]記、[illegible]十四、[illegible] 川、云云、是ハ、[illegible]ノ水ナレバ、[illegible]ヘル事不可有[illegible]」

ゆき-じろ (名) [雪白] (一)矢ノ羽ノ一種。

ゆき-すがら (副) [行] ゆくすがら(行)ニ[illegible]ナドノ白キモノ。[illegible] ズ、別レ路ハ、宿フルサトノ、事ゾ悲シキ」

ゆき-すぎ (名) [行過] 又、いきすぎ。(一)ユキスグルコト。(二)デスギ。ナマイキ。

ゆき-す・ぐ・グル・グレ・ギ・ギ・ギヨ (自動、上二) [行過] 目的ノ所ヲ通リ過グ。ソコヲ經テ先へ行ク。通過。經過。 萬葉集、十四「上[illegible] ヌ、妹ガ家ノアタリ」同、二十「二人行ケド、去過難[illegible]」

ゆき-ずり (名) [行摩] (一)物ニ袖ナドヲ摩リテ行クコト。行キナガラ[illegible] レニナルコト。スレチガフコト。 續後撰集、十一、戀、一「ナゴノ海ヤ、トワタル舟ノ、行きずりニ、ホノ見シ人ノ、忘ラレヌ哉」(二)道ヲユクツイデ。通リスガリ。 [illegible]「[illegible]ゆき[illegible] リニ、一枝ヲリシ、梅ガ香ノ、フカクモ袖ニ、シミニケルカナ」(三)ナホザリ。カリソメ。

ゆき-ぞら (名) [雪空] 雪模ノ空。雪催 [illegible]

ユキタガウ
ゆき-たが・ふ・ハ・ヒ・フ・ヘ・ヘ (自動、四) 行違 ゆきちがふ(行違)ニ同ジ。[illegible] ミ頭ヲフル雪空ノ、春波マジク更ケニケリ」

ゆき-たけ (名) [裄丈] (一)衣ノ裄ト、丈ト。(二)いきたけ(裄丈)ノ(二)ニ同ジ。 薩摩歌(寶永、近松作)中「此ノ誂ヘノ着物モ、[illegible]心得ニ仕立ツレドモ、心ノ底ノゆきたけハ、君モ今[illegible]ハラヌガ」

ゆき-た・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) [行立]

又、いきたつ。(一)行ハレテ成立ッ。(二)クラシ立ッ。生計立ツ。

ゆきだふれ (名) [行倒] 又、いきだふれ。路行キナガラ倒レテ死ヌルコト、ノタレジニ。又、ソノモノ。行路病者。道殣 官中秘策、廿四、「手負ニテ倒レ、常ノ病人、又ハ非人乞食行倒トモ、右ハ心得ニテ書付認候事」

ゆきた・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [行回] 行キテクルリトメグル。進ミメグル。萬葉集、八「…月ヲ行回、カノ、秋ハ、今日フル雨ニ、落カ過ギナム」(古義ノ訓)

ゆきダルマ (名) [雪達磨] 戯レニ、雪ヲ固メテ、達磨ノ像ニ作レルモノ。東都歳事記、四、十一月「霜雪、云云、雪ヲモッテ、市街ヘ達磨、布袋、其餘、色色ノ作リ物ヲナスー」

ゆきちがひ (名) [行交] 行キ交フコト。ユキカフコト

ゆきちがひ (名) [行違] 行キ違フコト。ユキタガヒ 又、ブラソヒ。モメ。紛擾

ゆきちが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 行交。又、いきちがふ 彼レ出テ我レ行ク。ユキカフ。イリチガフ。互ニ出會ハズ。枕草子、一、第三段「トノモリツカサ、女官ナドノゆきちがひタル」隣女集、四、「カリガネト、ゆきちがふナル、ツバクラメ、逢フタノミナキ、音ヲノミゾ泣ク」

ゆきちが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [行違] 事、クヒチガフ。ユキタガフ 齟齬ス。

ゆきぢよらう (名) [雪女郎] ゆきをんな(雪女)ノ類。積雪ノトキ出ヅルト云フ色白キ女ノ怪物

ゆきち・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [行散] 行キテ、分レ散ル。行キテ、散リ散リニ

ナル 「…、四十六、總角「京ニサルベキ所所ニ、行ちりテレ侍ラ、云云、尋ネヲセテ侍ラセタリ」

ゆきづき (名) [雪月] 陰暦、十二月ノ異稱 …「十月、雪月、…月」

ゆきづきよ (名) [雪月夜] 雪ノフリツモレル月夜 又、雪ノアル時ノ月夜 俳諧古選、附錄「…クモノハ、鳥バカリカ、雪月夜」

ゆきつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [行着] 又、いきつく。目的地ニ到着ス。到ル。著ス 宇治拾遺、十、第十八條「今日ノ中ニ行きつきテ云ヘトハナテバ、荒涼ノ使カナト云フ」

ゆきつぶて (名) [雪礫] 雪ヲ握リカタメテ、礫トスルコト。又、ソノモノ。佐夜中山集「雪礫、ウツ子ヤ五ツ、六ツノ花」

ゆきづまり (名) [行詰] 又、いきづまり。ユキヅマルコト。又、ユキヅマル處。ユキドマリ。

ゆきづま・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [行詰] 又、いきづまる。(一)行ク先ガナクナル。行キテ先ガツマル。路、窮マル。(二)語、フサガル。答辯ニ窮ス。

ゆきづり (名) [雪釣] 庭木ナドノ枝ヲ、細繩ニテ竿ニ釣上ゲオクコト 枝ヲ支ヘテ、雪折ヲ防ガムタメナリ。

ゆきつ・る・ル・ル・レ・レ・レヨ(自動、下二) [行連] ツレダチユク。ミチヅレニナル。同行ス 新後拾遺集、十、羇旅「行きつるる、友トナルヨリ、旅衣、立ナ寄ル宿ニ、人モツキツツ」

ゆきどけ (名) [雪融] 雪ノ融クルコト。ユキゲ ユキギエ。拾玉集、一「雪どけノ、雫ノ音ノ、絶エヌルハ、ヨハノ嵐ニ、タルヒシヌラン」

ゆきとど・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [行屆]

又、いきとどく 遍ク、トドク …。… 徹底ス。… 周到 … 草書 … 菜根譚「結構ナバカリデハナイ、何カラ何マデモ、行き届いタ、アノヤウナ御方ハ、天ガ下ニ又ト二人ハおマイ…」 云云

ゆきどまり (名) [行止] 又、いきどまり。ユキドマルコト。又、ユキドマル處。ユキヅマリ 行拔ニ對ス)

ゆきどま・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 行止 又、いきどまる。行キ行キテ行カレズナル ユキヅマル。又、行キテ其處ニ止ル。又、進歩トマル。後拾遺集、一、春、上「ゆきどまる、所ゾ春ハ、ナカリケル、花ニ心ノ、アカヌカギリハ」

ゆきなげ (名) [雪投] ゆきうち(雪打)ニ同ジ。

ゆきなだれ (名) [雪頽] 山ナドノ數丈ノ積雪ガ、春ノ末トナリテ、下ノ方ヨリ融ケユルミテ、大イニ頽レ落ツルコト。ユキクヅレ。略シテ、なだれ。

ゆきなます (名) 雪鱠 魚ノナマスニ、卸シ大根ヲカケタルモノ。庖丁聞書「雪鱠ハ、下ニ魚ヲ盛リ、上ニオロシ大根ヲ置出スヲ云也」

ゆきなやみ (名) [行惱] ユキナヤムコト。

ゆきなや・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [行惱] (一)進ムニ、シブリガチナリ。行クニ、ナヤム 源、廿、胡蝶「氷トヂ、石間ノ水ハ、行きなやみ、空澄ム月ノ、影ゾ流ルル」 (二)ハカバカシク進マズ。

ゆきなりみ (副) [行成] いきなり(行成)ノ條ヲ見ヨ。

ゆきにちどり (名) [雪千鳥] (豆腐殼ノ白キヲ雪ニ、貝ノむきみヲ衣ノ模様ノ千鳥…見立テ…)…ノムキミヲ加ヘテ煮タル汁。

ゆきぬけ (名) [行拔] 又、いきぬけ。行キテ、先キニ拔ケ出ヅルコト。又、ソノ處。トホリヌケ (行止ニ對ス)

ゆきのが (名) [雪賀] 亥、子、丑ノ年ノ冬、即チ、十月、十一月、十二月ニ行フ賀ノ祝ヒ。がのいはひ(賀祝)ノ條ヲモ見ヨ。

ゆきのした (名) [雪下] (一)虎耳科ノ多年生草本ノ名。根ヨリ數葉簇生ス、葉、圓扁ニシテ蝦殼ノ如ク、邊ニ岐アリテ厚シ、面ハ綠紫ニ白紋、紫毛アリ、背ハ毛ナク、淡紫色ナリ。夏、一尺許リノ莖ヲ出ス、紫毛多シ。花、多ク穗ヲナス、二白瓣、長ク垂リ、三紅瓣、短ク上ニ竝ブ。根ヨリ細紅線ヲ出シ、處處ニ小葉ヲ着ク。虎耳草 (二)襲ノ色目ノ名。表ハ白ク、裏ノ紅ナルモノ。(裝束抄) (三)織物ノ名。紫ノ綸白キモノ。(松屋筆記、八十七)

ゆきのしたのこうばい (名) [雪下紅梅] 襲ノ色目ノ名。表ハ白ク、裏ノ紅梅ナルモノ。雅亮裝束抄、三「ゆきのした、白キニ、紅梅にほひテ三、青キヒトヘ」

ゆきのなみ (名) [雪波] なみのはな(浪花)ニ同ジ。

ゆきの・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ(自動、上二) [行延] オチノビテ、進ミ行ク。過ギ行ク。狂言記、宗論「コレハ扨、コレ程ニゆきのびハセマイガ、日モ晩シテゴザル程ニ、宿ヲトリマセウ」

ゆきばかま (名) [雪袴] (主ニ雪國ニテ穿ク故ノ名ナルベシ) 袴ノ一種。たつけ(裁着)ニ似テ、裾ヲ括リタルモノ、

[illegible]

ゆきはな・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）[illegible]ル。ハナレ行ク。夢假集「アラ玉ノ、年フリツモレ[illegible]」

ゆきびより [illegible]
モ[illegible]日和ニシテ、ハヤ北山ハ松ノ葉白ク見ワタシ」

ゆきひら [illegible] 略。守武千句「幾タビトナク、拭フゆきひら」[illegible]ヨリ、猶車レヌルヤ、アトナラン」

ゆきひらなべ（名）[行平鍋・雪平鍋] [illegible]ミテ、行平朝臣ノ名ヲ取レルカ）略シテ、ゆきひら。陶製ノ平鍋。注口（クチ）アリ、手アリ、蓋アリ、白キ釉（クスリ）ヲカク。一話一言[illegible]ヨリ、又土ニモ平椀ノ形チシタルモノニ、汁ウツスベキ口ヲツケ、又トリ手ヲツケテ持ニ便アル器ヲ製[illegible]

ゆきふ（名）[illegible] 行宥 古ヘ、宮符ヲ給シテ、[illegible]使、交付スル符。字類抄[illegible]「行符、ユキフ、[illegible]官符之時、諸司[illegible]之官[illegible]」

ゆきふり（名）[雪降] ユキノフルコト。降雪 又、ユキノフリテアル間。雪中 堀河百首、雪「ふりニ、シラフノ鷹ヲ、アハセテハ、鈴ノ音コソ、シルベナリケレ」

ゆきぶり（名）[行觸] 行キテ觸ルルコト。途中ニテ行キアフコト。ユキズリ。ミ[illegible] 西鶴集「ゆきぶりニ、聞ケバマツテフ、鶉ゾ啼ク、トフベカリケル、草ノ原カナ」

ゆきふりがみ（名）[雪降髪] 馬ノ鬣ノ白キモノト云フ。ユフカミ。夫木抄、七、卯花「山ガツノ、垣根ノカヒニ、ハム駒ノ、ゆきふりがみト、見ユル卯ノ花」

ゆきふ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）[行觸] 行クトキ、フレサハル。萬葉集、十[illegible]

ゆきへ（名）[靫負]（ゆきおひノ約、ゆげひノ轉）ゆげひ（靫負）ノ條ヲ見ヨ。

ゆきボトケ（名）[雪佛] 雪ヲ集メテ、佛ノ像ニ作レルモノ。雪達磨ノ類。[illegible] 拾遺集、十七、釋教「雪ニテ丈六ノ佛ヲツクリ奉リテ、供養ストテ、云云、イニシヘノ、鶴ノ林ノ、ミユキカト、思ヒトクニゾ、アハレナリケル」犬子集、六、冬「御門跡、西カラハドチヘ、ゆき佛」

ゆきま（名）[雪間]（一）降ル雪ノヤミタル間。源、十九、薄雲「ゆきまナキ、吉野ノ山ヲ、尋ネテモ、心ノカヨフ、アトタエメヤハ」（二）雪ノ降リ積リタル間。[illegible]雪ノ中ニテ消エタルトコロ。雪ノアヒダ。古今集、十一、戀、一「春日野ノ、雪まヲ分ケテ、生出クル、草ノハツカニ、見エシ君ハモ」

ゆきまじ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[行雜] ユキテマジリカハス。互ニ雜沓ス。源、四十五、椎本[illegible]「タダ山里ノヤウニ、イトシヅカナル所ノ人モ、ゆきまじらヌ所ニ侍ルヲ、云云」

ゆきまど・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）[行惑] 行ク道ニ惑フ。行クニマヨフ。大[illegible]集「身ノウサハ、消エヌナリケリ、小倉山、ゆきまどひヌル、道ノ空カナ」

ゆきまね（名）[行眞似] 行キタルフリヲスルコト。行キタルマネ。ユクマネ。

ゆきまる（名）[雪丸] 次次條ノ語ノ略。

ゆきまるげ（名）[雪丸] ゆきまろばし（雪轉）ニ同ジ。續虚栗（芭蕉、冬）「君火ヲ焚ケ、ヨキモノ見セン、雪まるげ」

ゆきまるひバチ（名）[雪丸火鉢] [illegible]ノ陶製ノ火鉢。青ト白トノ釉ヲカケタ[illegible]

ゆきまろげ（名）[雪丸] ゆきまるげノ轉。[illegible]

ゆきまろばし（名）[雪轉] [illegible]（雪轉）ニ同ジ。源、廿、朝顏「ヤリ水モイトイタウムセビテ、池ノ氷モ、エモイハズスゴキニ、ワラハベオロシテ、雪まろばしセサセ給フ」

ゆきみ（名）[雪見] [illegible]テ、御供ノ人少少召サルル事」芭蕉句集、冬「イザ行カン、雪見ニコロブ、トコロマデ」

ゆきみがた（名）[雪見形] 石燈籠ノ一形式。[illegible]ルモノ。[illegible]東京ニテ用ヰル[illegible]京、大阪地方[illegible]用ヰラルルハ、六足、又ハ、四足ナリト。

ゆきみぐさ（名）[雪見草] 又、ゆきみさう。うのはな（卯花）ノ異稱。莫傳抄「折ルトテモ、吾ガ袖ヌレジ、ゆきみぐさ、名殘ハ雪ヨ、降ラデ觸レレバ」

ゆきみさう（名）[雪見草] 前條ノ語ニ同ジ。

ゆきみち（名）[行道]（歸道（カヘリミチ）ニ對ス）行クトキノ道。往路。又、行クベキ道。

ゆきみち（名）[雪道] 雪ノ降リ積レル道。雪ノ道。雪路

ゆきみづ（名）[雪水] 雪ドケノ水。ユキゲノ水。昆陽漫錄、雪水「駿州富士山ノ下ノ村ニテハ、[illegible]ニ、[illegible]ヲ作ル、コレ富士ノ雪水ユエナリ、云云」

ゆきみづき（名）[illegible] 異稱。[illegible]集、十一月、雪見月「[illegible]リツル、空ノシルシニ、ゆきみづき、今朝コソ冬ノ、シルシアリケレ」

ゆきみどうろう [illegible]

ゆきむか・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）[行向] ムカヒテユク。デムカフ。萬葉集、十三、廿[illegible]仕ヘキテ、君ガ御門ヲ、ソラノゴト、仰ギテ見ツツ」

ゆきめ（名）[雪盲] 積雪ノ上ニ、日光ノ烈シク反射スルマブシサニ因リテ、起ル一種ノ眼病。其急激ナルハ、急性結膜炎ヲ[illegible]化ヲ生ジ、瞳孔ノ狹窄症ヲ生ズルコトアリ、[illegible]

ゆきめぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[illegible]（一）メグリユク。アチラコチラト歩ミ[illegible] 萬葉集、十七[illegible]野邊ヲ、由伎米具利、君ヲ念ヒテ、タモトホリキヌ」[illegible] 十二、須磨「行めぐりテモ、又、アヒミンコトヲ」

ゆきもちざさ（名）[雪持笹]（一）上ニ雪ノ積リタル笹。雪ヲ戴ケル笹葉。（二）紋所ノ名。ゆきざさ（雪笹）ニ同ジ。

ゆきもどり（名）[行戾] ユキモドルコト[illegible]

ゆきもど・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[行戾] 行キテ、マタ戾ル。ユキキス。往返ス。往復ス。ユキカヘル。

ゆきもやう（名）[雪模樣] [illegible]ノムトス

ル空合。雪ヲ催ス空。ユキゾラ。ユキゲシキ。ユキビヨリ。雪氣。雪天。雪意。

〔ゆき-も-よ-み (副) |雪中| 雪ノ降ル中ニ。あめもよみ(雨中)ノ條ヲ見ヨ。 源、廿、朝顔「カキツメテ、昔コヒシキ、雪もよみ、アハレヲ添フル、ヲシノ浮キネカ」 新古今集、六、冬「草モ木モ、降リ紛ヘタル、雪もよみ、春待ツ梅ノ、花ノ香ゾスル」

ゆき-も-よひ (名) |雪催| ユキヲモヨホスコト。ユキゲ。雪模樣。雪氣色。

ゆ-ぎゃう (名) |遊行| 僧ナドノ、處定メズ、諸方ヲ遊歴スルコト。頭陀。行脚。雲水。 法華經、信解品「遊行遍向本國ニ」 太平記、九、資名卿出家事「其邊ノ辻堂ニ、遊行ノ聖ノ有ケル處ヘオハシテ、可出家ニ由ヲ宣ヒケレバ、云云」

ゆぎゃう-じゃうご (名) |遊行上戸| 酒ニ醉ヘバ、能ク諸所ヲ、ウカレアルク癖。 酒食論「遊行上戸ノ癖トシテ、ヨロボヒヨロボヒアリキツツ、堀エ、川ヤニ落チ入リテ、云云」

ゆぎゃう-しゃうにん (名) |遊行上人| (一) 諸國ヲ遊行スル上人。 滿濟准后日記、應永廿一年五月十一日「齋藤別當眞盛靈、於二加州篠原一出現、逢遊行上人、受十念」 (二) 相模國、高座郡、藤澤ノ遊行寺ノ歴代ノ住職ノ稱。開基、一遍上人ノ法燈ヲ嗣ギテ、四方ニ遊行シテ、勸化スル故ニ云フ。 じしゅう(時宗)ノ條ヲ見ヨ。 德川禁令考、四十二、僧侶作法「遊行上人下沙彌之儀、別名彼慈利ト申候、或ハ又、當時、俗ニ呼テ磬打ト申候」

ゆぎゃう-しゅう (名) |遊行宗| じしゅう(時宗)ノ異稱。其條ヲ見ヨ。 類聚名物考、廿一、佛教部、宗派「時宗、ジシウ、又云、遊行宗」

ゆぎゃう-つち (名) |遊行土| 壁土ノ一種。さびつち(錆土)ノ條ヲ見ヨ。

ゆぎゃう-は (名) |遊行派| 佛教ノ一派。じしゅう(時宗)ニ同ジ。又、特ニ、時宗十二派ノ一タル京都、七條、金光寺(一遍ノ弟子、眞教ノ開基)ヲ本山トスル一派ノ稱。 一遍流義十二派略記、遊行流義「一遍上人、正傳、附法二祖、眞教上人、已云遊行派」

ゆき-やき (名) |雪燒| 輕燒ノ煎餅ノ色白キモノ。 嬉遊笑覽、十上、飮食「雪燒、云云、輕ヤキノ白色ナルヲイフナルベシ」

ゆき-やけ (名) |雪燒| (一) しもやけ(凍傷)ニ同ジ。 狹衣、一、上「雪やけニ足モハレテ、痛マシウオボサルレバ、云云」 (二) 積雪ニ、日ノ強クアタリテ、ソノ反射ノタメ、皮膚ノ燒ケ黑ムコト。

ゆき-やま (名) |雪山| (一) 雪ノ降リ積リタル山。セッザン。セッセン。(二) 雪ヲ集メテ作リタル山。ユキノヤマ。 枕草子、四、第四十四段「シハスノ十餘日ノホドニ、雪イトタカウフリタルヲ、女房ドモナドシテ、云云、庭ニマコトノ山ヲツクラセ侍ラントテ、サブラヒメシテ、仰ゴトニテト云ヘバ、集マリテ作ル、云云、ケフ此山作ル人ニハ、祿賜ハスベシ、雪山ニマヰラザラン人ニハ、同ジカラズ、トドメンナド云ヘバ」

〔ゆき-や・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) |行遣| 行クコトヲナス。行歩ヲ續クル。 伊勢物語、第五十四段「行きやらヌ、夢路ヲタドル、袂ニハ、天ツ空ナル、露ヤオクラン」 源、一、桐壺「限アラン道ニモ後レ先ダタジト、契ラセ給ヒケルヲ、サリトモ打チステテハ、エ行きやらジトノ給ハスルヲ、云云」

ゆき-わ (名) |雪輪| 紋所ノ名。雪片ヲ輪狀ニカタドリ表ハシタルモノ。

〔ゆき-わか・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) |行別| 雙方ニワカレ行ク。別別ノ方ヘワカレ行ク。ハナレワカレテ行ク。ユキワカレル。 萬葉集、二、廿四長歌「哭ノミヲ、泣キツツアリテヤ、モモシキノ、大宮人ハ、去別ナム」

⁂ゆき-わか・れる (動) |行別| 前條ノ語ノ口語。

ゆき-わけ-ごろも (名) |雪別衣| 雪ヲワケユクトキニ着ル衣。 萬代集、六、冬「拂ヘタダ、雪わけ衣、ヌキ薄ミ、ツモレバ寒シ、山風ノ風」

ゆき-わた・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) |行渡| (一) 〔行キテ渡ル〕 ワタリ行ク。 萬葉集、十八、卅四「沖ツ島、イ由伎和多里テ、カヅクチフ、アハビタマモガ、ツツミテヤラム」 同、十三、三十長歌「足ビキノ、山行キ野行キ、直渡、川往キ渡、イサナトリ」(古義ノ訓) (二) モレナクトドク。オチナク到ル。 狂言記、水掛聟「來ルハ來ルハ、モハヤ一面ニ行渡ッタ」

ゆき-わり-さう (名) |雪割草| 櫻草科ノ多年生草本。高サ一二三寸。葉ハ長橢圓ニシテ、裏ニ黄色ノ粉樣物ヲ有シ、短キ莖ニ叢生ス。早春、葉叢ノ間ヨリ花莖ヲ二寸許リ抽キ、頂ニ梅花ニ似タル花ヲ開キ、繖形ニ排列ス。花冠ハ紫紅色、或ハ、白色ノ合瓣冠ナリ。

ゆき-をんな (名) |雪女| 雪ノ夜ナドニ、女ノ姿ニナリテ見ユト云フ雪ノ精。雪ノ怪。雪女郎。 嬉遊笑覽、三、書畫「化物繪、云云、猫マタ、野キツネ、雪女、カッパ、云云」 其角の句「黑塚ノ、マコトコモレリ、雪女」

ゆき-を-めぐらす (句) |廻雪| 〔廻雪ノ文字讀〕 舞ノ手ニテ、袖ヲくるくるト巧ミニ翻スコト。くゎいせつ(廻雪)ニ同ジ。 夫木抄、十八、豐明節會「今宵コソ、雲井ハルカニ、ノボルナレ、雪をめぐらす、天ツヲトメコ」 曹植、洛神賦「飄颻兮若流風廻雪」

ゆき-をれ (名) |雪折| 雪ノ積レル重サニテ、樹、竹ノ枝ノ折ルルコト。又、ソノ折レタルモノ。 [illegible]「[illegible]野ノ竹ノ、雪折ニ、カスムヤケブリ、人ハ住ミケリ」 [illegible]「[illegible]トクル、[illegible]」 可笑記、[illegible]「[illegible]ガ、カニテ、柳ノ枝ニ、雪折れハナシ」

ゆ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) |行|往|征|之|于|逝|適|如| 〔か(處)へ(方)ノ約〕 (一) 〔志ス地ニ向ヒ進ム〕 往ク。オモムク。イク。 應神紀、十三年九月「[illegible]、カゲハシ、[illegible]」 萬葉集、十八、五「[illegible]カ鳴ク、アソマサンテ、フサヘシニ、由可ムト思ヘド、ヨシモサネナシ」 (二) 〔アユム〕 アルク。 天智紀、十年十二月「赤駒ノ、イ喩企憚ル、マクズ原、何ノツテゴト、タダニシエケム」「路行く」 (三) 嫁グ。コシイル。適(漢籍讀ニ) 古事記、[illegible]、仲哀「[illegible]此女適」 (四) 死ヌ。逝(漢籍讀ニ) 伊勢物語、第百廿五段「昔、男ワヅラヒテ、心チ死ヌベクオボエケレバ、ツヒニゆく、道トハカネテ、聞キシカド、キノフケフトハ、思ハザリシヲ」 (五) 成長ス。「年ゆく」年ゆかヌ」 (六) オコナハル。成ル 「心ゆく」言ゆく」善くゆかヌ」 (七) 〔年月時日ナド經過グ〕 萬葉集、十四、廿一「年ニ、フタタビ不行、秋山ヲ、ココロニアカズ、過シツルカモ」 後撰集、三、春、下、彌生に閏月ある年「アマリサヘ、アリテ行くべキ、年ダニモ、ハルニ必ズ、逢フヨシモガナ」 (八) 〔來ル〕 (カシコヨリ、コナタヘ向ヒ進ミ行くナリ) キタル。イタル。(來るニ行くノ意アリ、又、去るニ來るノ意アリ。去るノ條ヲ見合ハセヨ、心ヲカナタニオキテ云フナリ) 古事記、中、神武十「大和ノ、タカサジヌヲ、七由久少女トモ、誰ヲシマカム」 萬葉集、二、二九「衾道ヲ、引手ノ山ニ、妹ヲ置キテ、山路ヲ往ケバ、生ケルトモナシ」 同、六、九長歌「鶯ハフ、春日ノ山ハ、打チナビキ、春去リ往クト、山ノ上ニ、霞タナビキ、高圓ニ、鶯鳴キヌ」(去ルモ來ルナリ)

ゆぐ (名) [湯具] (一)昔、女ノ湯浴スルトキ、裸ニナリテ、陰部ヲ掩フニ着タルモノ。今ノ女褌ノ如キモノナルベシ。(男ナルハ下帯ニテ、ふろふどしト云フ) [illegible] (二)後ニハ、婦人ノ腰ニ纏ヒテ、常用スルモノノ稱トナル。女褌、是レナリ。コシマキ。 宗因千句(寛文)「ホノボノト、赤ゆぐ乾セル、春ノ日ニ、湯ヲアガリ行ク、フリヲシゾ[illegible]」 [illegible]ニトセノウバ、見苦シトテ、幾ニ思付キ、湯具ノ畳リメンノ二布ヲトキハナシ、ソレニ紐付ケテ與ヘシ」(越中褌ハコレニ起ルトモ云フ)

ゆくかた (名) [行方] (一)〔ユクサキノ方角〕行クベキ方向。ユクヘ。ユクテ。 [illegible] (二)心ノハレユク方法。ヤルカタナキ。 [illegible]「[illegible]モナキ、心カナ、戀ハ道ナキ、モノニゾアリケル」

ゆくさ (名) [行] 行クトキ。ユキ。ユキシナ。「ユクサモクサモ」「ユクサクサ」又ハ「ユクサキルサ」トツヅケ用キル。 萬葉集、三、四十「ユク左ニハ、二人ワガ見シ、[illegible]」 [illegible]グレバ、ココロ[illegible]モ」 同、九、廿「ワタツミノ、イヅレノ神ヲ、タムケバカ(古義ノ訓、イノラバカ)往方毛來方毛、フネノハヤケム」 同、三廿「白管ノ、眞野ノ榛原、往左來左、君コソ見ラメ、マノノ榛原」 萬代集、十六、雜、三「トネリコガ、袖モ露ケシ、トモヲカノ、シゲキササフノ、ゆくさきルサニ」

ゆくさき (名) [行先] (一)今ヨリ行カムトスル先。ユクスヱ。將來。以往。 字[illegible] [illegible]

ゆくさくさ (副) 「[illegible]」ノ條ノ語意ヲ見ヨ。 往キ時、來ル時。 [illegible] 萬葉集、廿ニ「青海原、風波ナビキ、由久左久佐、ツツムコトナク、船ハ早ケム」

ゆくさもくさも (副) 前條ノ語意ニ同ジ。ゆくさ(行)ノ條ヲモ見ヨ。

ゆくすがら (副) [行] 行ク路スガラ。ユキスガラ。 夫木抄、三十六、[illegible]「ゆ[illegible]すがら、心モユカズ、別レ路ハ、ナホフセトノ、[illegible]ソカナシキ」

ゆくすゑ (名) [行末] (一)行クベキ先。サシテ行ク先方。ユクテ。 拾遺集、十二、戀「行末ハ、マダ遠ケレド、夏山ノ、木ノ下蔭ハ、立チウカリケリ」 (二)〔物事ノ後來ノ成行〕行ク末ノ方ニ。將來。前途。 字類抄「向後、ユクスヘ」 源、三十九、御法九「宮達ヲ見奉リ給フテモ、ヲノヲノノ御行末ヲ、ユカシク思ヒ聞エケルコソ、云云」 後撰集、廿、賀、哀「[illegible]ヘオク、コトタガハズバ、行末ノ、道遠クトモ、アトハマドハジ」

ゆくせ (名) [行瀬] 水ノ流レ行ク瀬。 萬葉集、六、四十「泉川、往瀬ノ水ノ、絶エバコソ、大宮ドコロ、ウツロヒユカメ」

ゆくて (名) [行手] 〔行く之方ノ略轉〕(一)行キ向フ處。行クサキノ道。前途。 [illegible]集、中「春立ツト、云フバカリミシ、イヅクトテ、ゆく手ニカスム、野邊ノアケボノ」「行手ノ道」「行手ノ山」 (二)〔行ク便。ユクツイデ。ユキガケ。 濱松中納言物語、二「人ギキナドノ、尋常ノサマニ思ヒ給ヒヨフマシカハ、イトカクゆくてニ、ユクリナク[illegible]セサセントハ、思ヒ給ヘヨルベキニモアラズ」 源、五、若紫廿「アナカタハライタヤ、云云、ゆくてノ御コトハ、ナヲザリニモオモヒ給ヘナ[illegible] [illegible]人ハ、汲マネドモ、水ゾ結ブ、山ノ井ノ水」

ゆくとし (名) [行年] 過ギユク年。暮レ行ク年。 古今集、六、冬 [illegible]

ゆくとりの (枕) [行鳥] [illegible] 萬葉集、十三、[illegible]「[illegible]ネリノ子ラハ、行鳥之、羣リテ待」 同、二、三十長歌「去鳥乃、爭ふハシニ、渡會ノ、イツキノ宮ユ」

ゆくは (名) [齋鍬] 齋ミキヨメタル鍬。神事ニ用キル。 [illegible]

ゆくは (名) [的] 〔ゆハいノ轉〕的ノ古語。いくは(的)ニ同ジ。

ゆくはる (名) [行春] 過ギユク春。暮レユク春。 源、十二、須磨廿「咲キテトク、散ルハウケレド、行く春ハ、花ノ都ヲ、タチカヘリ見ヨ」

ゆくへ (名) [行方] 〔往ニシ方ノ反〕(一)行キ向フ方。ユクサキ。ユクノマ。前途。 萬葉集、十五、長歌「由久[illegible]シラニ、アカコロ、アカシノウラニ」 新古今集、十一、戀、一「由良ノトヲ、ワタル舟人、梶ヲタエ、行ヘモシラヌ、戀ノ道カナ」 (二)ユクスヱ。向後。將來。(人ニ云フ) 宇津保物語、俊蔭九廿「ヤカテ此ノスミカニ、朽チヌベキヨリ外ノ行くへモナクナントイヘバ」

ゆくみ (名) [湯汲] (一)湯ヲ汲ムコト。又、ソノモノ。(二)江戸時代、錢湯ニテ、女湯ノ、岡湯ノ傍ニ居テ、客人ノ為メニ湯ヲ汲ムモノ。 浮世風呂、[illegible]「[illegible]、上ニ女湯ノ湯汲ニ[illegible]セバ、湯汲ミノ男、清川[illegible]キテ[illegible]トモ、云云」 同、同「風呂ノ[illegible]ヘトントントン[illegible]」

ゆく[illegible] [illegible] 云ハズ、行路ヲ、ワレハコトゴト、宮道ニゾスル」 萬葉、十五、遣新「玉カツラ、絶エテモヤマジ、行く道ノ、手向ケノ神モ、カケテ誓ハン」

ゆくみづ (名) [行水] 流レユク水。カウ[illegible] [illegible]都ノ、カヘラヌ如ク、吹ク風ノ、見エヌガ如ク」 古今[illegible]

ゆぐん [illegible] [illegible]ノ齋田ヲト定セラレタル國郡。 代始和抄、大嘗會事「拔穗ノ使ハ、九月ニ神祇官人國郡ニ下[illegible]」

ゆくゆく (副) [行行] (一)〔行キツツ。 [illegible]「[illegible]テ、日ハ照リヌ、ゆくゆく惑サン、眞野ノ萱原」「行く行く見ル」 (二)後ニハ。終ニハ。 狂言記、俄道心「料理人モゴザラウ程ニ、行く行くハ、見習ウテ致サウト存ズル」「行く行く変ヘンカ」

ゆくゆくと (副) 滯ルコトナキ狀ニ云フ語。スルスルト。スラスラト。 萬葉集、[illegible](古義ノ訓)、イデ通ヒコネ」(ユクユクト通ヒコネノ意) 拾遺集、六、別「君ガ住ム、宿ノ梢ノ、ゆくゆくと、隱ルルマデニ、カヘリミシハヤ」 源、十、賢木四十「老ノ御ヒガミサヘ添ヒニタレバ、何事ニカハ、滯リタマハン、ゆくゆくと宮ニモウレヘキコエタマフ」

ゆくらか・に (副) 次條ノ語意ニ同ジ。 萬葉集、十二、[illegible]「[illegible]スル、[illegible]人ノ[illegible]、[illegible]妹ガココロニ、ノリニケルカモ」

ゆくらゆくら・に (副) 〔物思ヒシゲキトキ、心モユラユラト、浮キユルク心地ス

ル意〕動キ搖ルル狀ニ云フ語。動キ動キテ、ユタニ、ユタユタ、ユ クラカニ。ユラユラ。ユルユルト。萬葉集、十七ノ長歌「大船ノ、由久良由久良爾、シタコヒニ、イツカモコムト、マタスラム、ココロサブシク」

ゆくり（名）〔緣〕〔ゆかりノ轉カ〕ユカリ。所緣。由緣「ユクリアリテ」「ユクリモナク」ナドツヅケ用ヰタリ。水鏡、中（皇極天皇）「ソノ子ノ父、事ノゆくりアリテ、丹後ノ國ヘ行キテ、宿レル家ニ、云云」大和物語、中「泉大將、云云、酒ナドマヰリヱヒテ、夜イタクフケテ、ゆくりモナク物シ給ヘリ」

ゆくり-か-に（副）〔不意〕ユクリナク。思ヒガケズ。ソゾロニ。何心ナク。ユクリニ。源、廿四、胡蝶廿二「我ガ御心ナガラモ、ゆくりかニアハツケキ事トオボシ知ラルレバ、云云」同、廿九、行幸廿五「ユカシウイヒ聞エ給ヘド、今夜ハ、イトゆくりかなるべケレバ、云云」

ゆくり-な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）不意〔ゆかり無しノ轉ニモアラムカ、ゆくりもなく、ゆくりある、ナドトモ見ユ〕思ヒガケズ。心ナラズ。不意ナリ。率爾ナリ。突然ナリ。何ゲナシ。字鏡抄「卒爾、ユクリナシ、ユクナシ」名義抄「率爾、ニハカニ、ユクリナシ」土佐日記、二月五日「カクイヒテ、ナガメツツクルアヒダニ、ゆくりなく風吹キテ」源、四、夕顔廿二「イザヨフ月ニ、ゆくりなくアクガレン事ヲ、女ハ思ヒヤスラヒ、云云」景行紀、四十年十月「不意之間、倏亡我子」

ゆくり-に（副）〔不意〕思ヒガケナキ狀ニ云フ語。ゆくりかに（不意）ニ同ジ。雄略卽位前紀「不意遭逢、邀軍於三輪磐井側」

ゆ-くゎい（名）〔愉快〕タノシク、ココチヨキコト。又、ウレシキコト。面白キコト。史記、酷吏傳、序論「吏治若救火揚沸、非武健嚴酷、惡能勝其任而愉快乎」

ゆ-くゎん（名）湯灌 納棺ノ前ニ、死體ニ浴セサスルコト 近松、傾城三重帷子（享保、近松作）下「ドコデ死ンデモ、淺マシイ、子供ノ水モ受ケマイ、湯灌、葬禮、誰ガセウゾ」

ゆくゎん-ば（名）湯灌場 昔、借家ノモノノ屍ヲ洗フタメニ、寺寺ニテ設ケアル一坪程ノ建物。家主ハ家ニテ洗フニヨリ、葬式ノ時ニハ、盥ヲ擔ガセテ寺ニ納ム。コレ家主タルヲ標スルナリ。

ゆ-げ（名）〔弓削〕上代、弓ヲ削リ作ルコト。又、ソノ職ノ人。職員令、造兵司「雜工戶[illegible]弓削三十二戶、矢作廿二戶、云云」

ゆ-げ（名）〔湯氣〕湯ヨリ起ツ濕リテ熱キ氣。イゲ。蒸發氣。蒸氣 [illegible]門松（享保、近松作）上「千貫目ノ大釜ノ湯氣デ育タ奴ナレド、今デハ銭貫ノ廻シモナラズ」頭から湯氣を立てるトハ、甚シク怒ル狀ニ云フ語。

ゆ-げ（名）〔遊戲〕〔いうげノ轉〕（一）いうぎ（遊戲）ニ同ジ。榮花物語、廿一、後悔大將「男君、ソレヲモ知ラズ顏ニテ、ゆげシオホヒタルサマモヲカシ」（二）佛敎ノ語。心ニマカセテ、優游自在ナルコト。從容錄、第十六則「金鎖玄關、[illegible]閑遊戲」

ゆ-げた（名）〔湯桁〕湯槽ノマハリノけた。又、湯槽ヲモ云フ。源、三、空蟬十二「オヨビヲカガメテ、十、二十、三十、四十ナドカゾフルサマ、伊豫ノゆげたモ、タドタドシカルマジウ見ユ」孟津抄「六花集ニ、古歌トテ出セリ、イヨノ湯ノ、ゆげたノカズハ、左八ツ、右ハ九ツ、中ハ十六、スベテ三十三アリトイヘリ」

ゆげ-ひ（名）〔靫負〕〔靫負〕〔靫ハ誤用、正シクハ靫、靫負ノ約〕玉篇「靫、箭室也」倭名抄、十三征戰具「步人所帶曰靫、由岐、以箭叉其中也」天押日命、天穗日命ニ陪從シ、大來目部ヲ率ヰテ、日向ニ天降ル、因リテ、大來目部ヲ天の靫負部ト云フ。雄略天皇ノ時、大伴室屋ニ靫負部ヲ賜ヒ、靫ヲ負ヒテ宮門ヲ護ラシム、世世、衞門府ニ官ス 其府ノ屬僚ヲ靫負ト云フ。卽チ、近衞、兵衞、衞門、ノ官ノ稱。訛シテ、ゆきへ。倭名抄、八十五備前國、邑久郡「靫負、由介比」字類抄「靫負、ユケヒ、云二左右衞門二」

ゆげひ-の-すけ（名）〔靫負佐〕ゆげひのつかさノ次官。多クハ、左右衞門ノ權佐ナリ。枕草子、三、第廿八段「似氣ナキモノ、云云、ゆげひのすけノ夜行、狩衣姿モ、イト賤シゲナリ」

ゆげひ-の-つかさ（名）〔靫負廳〕古ヘ、靫ヲ負ヒテ、禁裏ヲ守護スル武官ヲ統ブル役所。卽チ、近衞府、兵衞府、及、衞門府ノ汎稱。就中、衞門府ハ、諸門ノ禁衞、出入、禮儀、時ヲ以テ巡檢スルコトヲ掌ルナリ。倭名抄、五四官名「府、職員令云、近衞府、兵衞府、衞門府、由介比乃豆加佐」皇極紀、四年六月「中大兄、戒衞門府、一時俱鏁十二通門、勿使往來、召聚衞門府於一所、將給祿」

ゆげ-べ（名）〔弓削部〕古ヘ、弓ヲ作ルモノノ部曲。弓ヲ作ルコトヲ業トスル民。垂仁紀、三十九年十月「注、弓削部、神矢作部、云云、并十箇品部」

ゆ-げん（名）〔諛言〕ヘツラヒテ云フコトバ。ヘツラヒノ言。諛辭 [illegible]

ゆ-お（動）〔行〕行クコト。東國ノ訛語。萬葉集、廿三「由古サキニ、浪ナトヱラヒ、シルベニハ、子ヲラ妻ヲラ、置キテラモ來ヌ」

ゆ-おが（名）〔湯桶〕〔おが（大桶）ノ條ヲ見ヨ〕居風呂桶ノ稱 ユブネ。

ゆ-とく（名）〔諭告〕（一）口頭ニテサトシツグルコト。又、ソノモノ。（二）漢文體ノ名。文體明辯 [illegible] 相告之詞、然皆仁人傳言、不假書諭、故今不錄」

ゆ-おて（名）〔弓籠手〕古ク、手纏。又、小手。弓射ルトキ、左手ニ質ノ如ク、肩ヨリ手頸マデヲ被ソ籠手 弦ヲ防ガタメノモノ。綾織物ニテ製シ、唐草ナドノ縫アルモアリ、又、革ニテ製スルモアリ。古クハ、朝廷ノ射儀ニハ、步射、騎射、共ニ用ヰキ。武家ニナリテハ、流鏑馬、笠懸、犬追物ノ馬上ニノミ用ヰタリ。射禮 [illegible]弓小手、弓籠手」

ゆ-おて（名）〔湯鑊〕湯ニテアタタメテ、川ホル鑊。

ゆ-おぼし（名）〔湯翻〕みづおぼし（水翻）ニ同ジ。

ゆさ（名）〔ゆさぶり（搖）ノ下略カ〕田舍ニテ藁ヲモテ編メル器。稚兒ヲ容レテ釣リ置キ、泣ケバユサブリテ泣キヲ止メシム。ユリカゴ。搖籃

ゆ-ささ（名）〔ゆハ五百ノ約轉〕數多ノ笹。萬葉集、十三「ハナハダモ、夜深ケテナ行キ、道ノ邊ノ、湯小竹ガ上ニ、霜ノ降ル夜ヲ」

ゆさ-はり（名）〔鞦韆〕ぶらんこ（鞦韆）ニ同ジ。倭名抄、四、雜藝類「鞦韆、由佐波利、以綵繩懸空中、以爲戲也」字類抄「鞦韆、ユサフリ、ユサハリ」名義抄「鞦韆、ユサハリ」

ゆさは・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）ユサユサト、ウゴカス。袖中抄、十七、ゆさはり「振カ枝ニ、ゆさはりシタフ、鶯ヨ、梅ノムバラニ、シリアヘ

フ〔ハ〕[illegible]ゆ[illegible]ハ、[illegible]、[illegible]ト[illegible]

ゆさぶり（名）[illegible]ノ[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]

ゆさぶ・る・レ・ラ・リ・レ[illegible]ス[illegible]スプル。搖動

ゆ-さまし（名）【湯冷】（一）湯ヲサマスコト。（二）サメタル湯。つくりみづ（𤍠）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]湯ヲサマス[illegible]用ヰル具[illegible]

ゆ-さん（名）遊山[illegible]禪家[illegible]起ル[illegible]十三[illegible]遊山[illegible]門首[illegible]遊山翫水」ナド見エタリ」（一）禪家ニテハ、大事ヲ悟了シ、山紫水明ノ地ニ優遊自適シテ、心ニ一點ノ雲煙モナキ狀態ヲ云ノ[illegible]二[illegible]行、ナド、山ニ遊ビ[illegible]ストヨリ[illegible]ベ、外[illegible]行樂[illegible]二千石「某ニ暇ヲモ請ハズ、イヅ方へゆさんデ候ゾ」（四）キバラシ。ナグサミ。文武五人兄弟、五「組伏セテ、セメテシバシノ、遊山セン」

ゆさん-ぶね（名）【遊山船】（一）船アソビノ船。船遊山スル船。[illegible]少年[illegible]遊山船[illegible]ゆさんぶねナ騷ギ集リテ、シャギリノ音ノ」（二）やかたぶね（屋形船）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

ゆ-ざめ（名）湯冷　浴シタル後、身體ノ熱ノ冷ムルコト。浮世風呂（文化、三馬）初編、下「アア、湯ざめデ寒クナッタ」

ゆさ-ゆさ-と（副）地震ナドノ、家ヲ搖ル狀[illegible]

ゆさり（名）[illegible]タ[illegible]ゆさり[illegible]ノ[illegible]り、大鏡[illegible]ラルベウ候ナレバ、云云」

ゆ-し（名）【諭示】口頭、又ハ、書狀ニテ、サトシシメスコト。又、ソノモノ。（多ク、官廳ヨリ人民ニ對シテ）

ゆ-し（名）[illegible]旨　旨ヲサトスコト。[illegible]

ゆ-し（名）[illegible]（蚊母樹）いす（蚊母樹）ノ古名。又、ゆす。ユシノキ。ユシギ。いす（蚊母樹）ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、廿 [illegible]「柞、[illegible]也」[illegible]中所[illegible]

ゆ-し（名）【諛辭】ヘツラヒテ云フコトバ。[illegible]大[illegible]人之[illegible]」

ゆ-し（名）【遊止】遊歩ノ後、其處ニ止ルコト。[illegible]數百人、[illegible]共ニ[illegible]シ、六字ヲ[illegible]シテ、[illegible]遊止ス」

ゆし-ぎ（名）【柞子木】ゆし（蚊母樹）ニ同ジ。いすのき（蚊母樹）ノ條ヲモ見ヨ。

ゆし-のき（名）柞子木　前條ノ語ニ同ジ。[illegible]コレヤコノ、センバン、[illegible]キノ、由之乃支ノ[illegible]六ノ盤」

ゆ-しゅつ（名）【輸出】[illegible]ゆしゅナリ、輸出、輸入、ナレドモ、姑ク慣用ニ從フ、英語、Export. ノ譯語」交易ニテ、國產ノ貨物ヲ他國へ送リ出スコト。又、他國ノ產ヲ我ガ國ニ入ルルヲ、輸入ト云フ。（以上ハ外國貿易ナリ。）朝鮮、臺灣ナドト、內地トノ間ニ行ハル[illegible]ルヲ、移出、移入ト云フ」又、一旦、輸入[illegible]再ビ輸入スルヲ、再輸入ト云フ。

ゆ-しつ（名）[illegible]聚、コノヒビキニハ、云云、二度ゆしゅつシ給フ事、丸[illegible]

ゆしゅつ-にゅう（名）[illegible]輸出ト、輸入ト[illegible]前條ヲモ見ヨ。

ユジュン（名）由旬　[illegible]由旬、[illegible]Yojana[illegible]古代印度ニテ[illegible]一日ノ行軍ノ里程ナリトス。十六里、或ハ云フ、三十里、又、四十里[illegible]六町[illegible]里[illegible]部者、自古聖王一日軍行也、舊傳、一踰繕那四十里[illegible]里、中由旬五十里、下由旬四十里也」

ゆ-しょく（名）【喩色】喜バシキ顏色。快サウナル、ホツキ。[illegible]

ゆ-しり（名）[illegible]代　齋ミヤヲムル物代[illegible]大嘗祭ニ云フ。中臣壽詞「十一月中都卯日仁、[illegible]

ゆ-す（名）蚊母樹　ゆし（蚊母樹）ニ同ジ。七十一番職人盡歌合、四十二番、楠挽「イカニセン、逢フコトカタキ、ゆすノ木ノ、我ニヒカレヌ、人ノ心ヲ」

ユース（名）【椅子】【倚子】いす（椅子）ノ轉。

ゆ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動）[illegible]

ゆ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）[illegible]四、下、若菜、下「[illegible]ハイト人シゲク、ナホ一度モゆしアンズルイトマモ、心アハタダシケレバ、ヨルヨルナンシカニ、[illegible]ノ心モシメ[illegible]ルベキトテ、云云」[illegible]マケヲ取ル。劣ル。[illegible]

ゆ-ぜ（名）[illegible]ノ條ヲモ見ヨ。

ゆす・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ[illegible]カシテ、アラフ。ススグ。イスグ。浮世風呂（文化、三馬）二編、下「オ糠袋ハ、ア[illegible]ガアト[illegible]

ゆす・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ（他動、四）【結】むすぶ[illegible]

ゆすぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）搖[illegible]ゆさぶる（搖）ノ轉」ユサユサトユリウゴカス。ユタブル。イタブル。ユスル。

ゆず-みそ（名）柚子味噌　柚子ニ[illegible]皮ヲ、[illegible]味噌三十匁ト、砂糖廿匁トヲ入レテ、ヨク擂リ、煮出汁ニテドロドロニユルメ、火ニカケテ一寸煉ル。風呂吹大根ナドニ[illegible]クル、釜ノフタ」枝折リナガラ、柚味噌ニスル」

ゆず-ゆ（名）柚子湯　冬至[illegible]ノ中ニ柚子ヲ入レテ、沸カシタルモノ。風ヲ引カヌタメニナストゾ。東都歲事記、四、十一月「冬至、今日錢湯風呂屋ニテ、柚湯ヲ焚ク」

ゆす-ゆす-と（副）[illegible]狀

ニ云フ語。ユサユサト。ユラユラト。落窪物語、九、「頭ヲ敲チタルニ、死ニタンナリ、ゆすゆすとハタラキテ、云云」

ゆすら (名) [櫻桃] 次條ノ語ノ略。

ゆすら-うめ (名) [櫻桃] (朝鮮ノ俗ニ、移徙樂ト記セシハ、ゆすらナリ、此木ハ花ノ擧リテ動ルルヨリ云フトゾ) 薔薇科ノ落葉灌木。庭際ニ植ヱテ花ヲ賞ス。大ナルハ一丈許リ、小木モ花、實、アリ、枝條、繁茂ス。春ノ末、葉ニ先タチテ蕾ヲ出ス、淡紅ニシテひがんざくら(彼岸櫻)ノ蕾ノ如シ、開ケバ白ク、梅花ニ似テ小サク、蕚ハ櫻ノ如シ。葉モ櫻ニ似テ短ク、鐵文、鋸齒、微毛アリ、實ハ夏ノ半ニ紅熟ス、正シク圓ク、四分許リ、にはうめ(庭梅)ノ實ニ似テ、酸シ、食用トナル。略シテ、ゆすら。山櫻桃　梅桃

ゆすり (名) [搖] (一)ユスルコト。ユリウゴカスコト。(二)オドシテ金錢ナドヲ強ヒ取ルコト。又、ソノモノ。ネダリ。強請　用明天皇職人鑑(寶永、近松作)四「トラレフバ取テ歸ラレヨト、ナカナカゆすりハ食ハザリケリ」(三)ゆすりぢ(搖字)ノ略。

ゆすり-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (ユスリ-ア・ウ) (自動、四) [搖合] 動キ合フ　響動ミアフ　(騒シク物スルニ云フ) 榮花物語、廿六、楚王の夢「ソバヨリ叫ビノノシリ出デテ、僧タチ皆アタリアタリニ加持スレバ、例ノゆすりあひタル樣モ、トヨミニタリ」

ゆすり-がな (名) [搖假名] 假名ノヲドリ字、をどりぢ(踊字)ノ條ヲ見ヨ。

ゆすり-ぢ (名) [搖字] 同字ヲ二字カサネテ書クニ、堂々、寂々、はゝ、すゞし、ナドノ、ゝ、々、ヽ、ゞノ字ヲ云フ。略シテ、ゆすり　又、ヲドリジ。

ゆすり-み・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) [搖滿] 動搖シテ充滿ス。一圓ニサワギタツ。宇津保物語、忠社「殿ノウチゆすりみちテ、山山寺等ニ、云云、祈ラセ給フ」

ゆする (名) [泔] (湯汁ノ轉カ、強飯ヲ蒸シ作レル後ノ湯、此粘アル湯ヲ、泔汁ト云ヒテ、泔坏ニ貯ヘ、櫛ヲ浸シテ梳ルナリ) 髮ヲ梳ルニ用ヰル水。ビンミヅ。字鏡十三「粒、由須留」 同三十「粕、由須留」 同八三十「瀋、米汁也、以可沐頭、由須留」 四季物語、四月「主上、御泔ヲ歴サセ給フテ」 發心集、五、第四條「ゆするを設ケセヨ、物へ行カムト云ヒテ、髮洗ヒケヅリ」

ゆす・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [搖] (一)〔響動ム〕ドヨメク。源、十二、須磨廿「世ゆすりテ、惜ミ聞エ、云云」 同、廿一、少女「ソノ頃、世ニ愛デゆすりケル、云云」 蜻蛉日記、中、上三「愛宕ニナム、淸水ニナド、ゆすりテ、遂ニ尋ネ出デテ流シ奉ル」 (二)ユレル　ユラグ　ユラユラト動搖ス。蹴丸大夫集「シナガドリ、ヰナ山ゆすり、行クボノ、名ノミ流レテ、思ヒワタルカナ」

ゆす・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [搖] (一)〔ユスブル〕ユサブル。人ノ眼ヲサマスタメニ、押シ動カス。搖リ動カス　搖動　名義抄「汰、ユル、ユスル、動、ユスル」 萬葉集、七廿「大海ノ、磯モト由須理、立ツ波ノ、寄ラムト思ヘル、濱ノサヤケク」 (二)オドカシテ、金錢ナドヲ強ヒ取ル　ネダル。強請ス。

ゆす・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [搖] 前前條ノ語ニ同ジ　佛足石歌「御アト作ル、石ノ響ハ、天ニ至リ、地サヘ由須禮、父母ガ爲ニ、諸人ノ爲ニ」

ゆする-あみ (名) [泔浴] (ゆする(泔)ノ條ヲ見ヨ) ゆするヲナスコト。又、髮ヲ洗フコト。欽明紀、六年十一月「勅ニ勞陸海ハ、櫛風沐雨、藉草班荊、云云」

ゆする-つき (名) [泔坏] 泔ヲ貯フル器。[illegible] 古クハ、土器ナリト云フ、後世ハ、漆器、銀器、ナド用ヰル。臺、蓋、アリ。字類抄「泔器、ユスルツキ」 宇津保物語、藏開、中三「ハナチノ[illegible]、ゆするつきノ具[illegible]」 四、庇具目錄「泔坏一口(在レ臺)」(圖ニ、銀器ノ、口徑四寸八分ナルヲ出セリ、今ノ[illegible]ホトノモノナリ、下ザマナルハ、鬢水入ノ類ナリケム)

ゆする-ばち (名) [土蜂] (穴ノ形、泔坏ニ似タレバ名アルカト云フ) アナバチ。ツチバチ。つちはち(土蜂)、及、あなばち(穴蜂)ノ條ヲモ見ヨ。倭名抄、十九三十蟲豸類「土蜂、由須流波知、大蜂之在地中作房者也」

ゆ-ずゑ (名) [弓末] (ゆみずゑノ略) 弓ノ上弭。弓ノ末端。ユハズ。ユハズ。萬葉集、七三「マスラヲノ、弓上フリタテ、カルタカノ、野邊サヘ淸ク、テル月夜カモ」

ゆ-せん (名) [湯煎] 湯ノ熱ニテ物ヲ煮ルコト。ユビクコト。又、蒸氣ニテ物ヲ熱スルコト。重湯

ゆ-せん (名) [湯錢] 錢湯ニ入ル料ノ錢。入浴ノ料金。風呂錢。日葡[illegible]、三十九、四條ニ[illegible]、御弟共、云云、常ニ湯錢、草履ノ價ナンドアルベシ」 筑紫紀行「十一日、城崎郡湯島、云云、入込湯ニハ湯錢ナシ」

ユゼンナ (名) [踰繕那] 天竺ノ距離ノ稱。ゆぢゅん(由旬)ノ條ヲ見ヨ。

ゆせん-みやうじん (名) 湯泉明神 (温泉ヲ單ニ湯ト用ヰタルハ、出雲風土記、大原郡、海潮郷ノ條ニ「東北須我小川之湯淵村、川中溫泉、同川上毛間村、川中溫泉出」ト見エタルニテ明ケシ、又、日本紀竟宴ニモ「出雲湯山」トモアリ) 又、湯泉大明神。[illegible]稱。平家物語、十一、那須與一事「別シテハワガ國ノ神明、日光權現、宇都宮、那須ノ湯泉大明神、願クハ、アノ扇ノ眞中、射サセテタバセ給ヘ」

ゆ-そう (名) [輸送] [正シクハぢゅそうト讀ムベキナリ] 車、又ハ、船ナドニテ、物ヲ他所ヘ運送スルコト。[illegible]

ゆ-そつ (名) 輸卒　ゆちょうゆそつ(輜重輸卒)ノ略。今ハ、輜重特務兵ト云フ。

ゆ-そでん (名) [輸租田] 王朝時代、租稅ヲ官ニ輸納スベキ規定ノ下ニ作ラルル田。此ニ對シテ、神田、寺田、學校田ナド、租稅ヲ納メザルヲ、不輸租田ト云フ　主稅式、上「神田、寺田、云云、爲不輸租田、云云、爲輸租田」

ゆた (名) [雨打雪打] 二階以上ノ建家ニテ、最モ下層ニツケタル差掛ノ建方ヲ、雨打造ト云フ。島林寺用集「爆長ニ下、乾坤門、雨打、ユタ、樓閣ニ階」

ゆ-た (名) [油單] ゆたん(油單)ノ下略。其條ノ(二)ヲ見ヨ。

ゆ-だいこん (名) [湯大根] 素湯ニテ茹デタル大根。風呂吹大根ノ類。

ゆ-たいふ (名) [湯太夫] 錢湯ニ入リナガラ、義太夫節ヲ語ルモノ。文化の川柳「ゆたいふハ、鐵砲キハヘ、浮キアガリ」

ゆたか (名) [豐裕] (一)〔物事ノ滿チ足ルコト。〕富裕。豐饒。竹取物語「コノ子ヲ見ツケテ後ニ竹トルニ、フシヲヘダテテ、ヨゴトニコガネアル竹ヲ見ツクルコト重ナリヌ、カクテ翁ヤウ

ナルゆたかニナリユク」（二）ユルヤカナルコト。[illegible] ニヤ例ギテモ、官モオロカヤ頒ル世ニ、住メル民トテルゆたかナ[illegible]」

ゆたか（接尾）[豐] 十分アル意。タップリ。[illegible]ニ[illegible]ル[illegible]、[illegible]ヲ、見ヨ。「六[illegible]たか[illegible]」

ゆたかおり（名）[由多加織] [illegible]絲ヲ、緯絲ノ代リニ稭ヲ用ヰテ、厚ク織リタル敷物。[illegible]六年[illegible]、[illegible]國、伊[illegible]ノ人、[illegible]ンスルモノニテ、[illegible]ノ者ノ名ナリト云フ。

〜**ゆたか・み**（副）[豐饒] （一）物、足ラヒテ。[illegible]、富[illegible]、[illegible]九[illegible]ハヒ、ゆたかみ經ベキ心ガマヘモ、ニナクシタリケリ」（二）ユルヤカニ。ヤスラカニ。寬[illegible]、[illegible]ツマン、[illegible]ゆたかみ[illegible]トイハマシ[illegible]」

ゆたけ [illegible]丈夫[illegible]、[illegible]アケセベ、サヨ床ノ、ゆたけノフスマ、ヨソニコソ見レ」[illegible]「[illegible]ノ長サト[illegible]枕草子、十二、第百五十四段「夏ウスモノ、カタツカタノゆたけ着タル人」春曙抄「衣服ナドニ、片方ノ行長、ユタカニタチ着ル事アリシニヤ」

〜**ゆたけき**（名）[寬] 廣クユルヤカナルコト。[illegible]トシテオオヤカナルコト[illegible]、[illegible]ノ、[illegible]ノ、[illegible]ノ浦ノ、寬[illegible]ツツ、[illegible]、[illegible]ノ、[illegible]カチル、[illegible]波ニ[illegible]ハ、[illegible]ベクオモホユ」

〜**ゆたけ・し**・キ・ケレ・ク・ク（形、二）[豐] ユタカナル狀ナリ。又、ユルヤカナル狀ナリ。[illegible]也、[illegible]也、[illegible]也、[illegible]也、[illegible]介志」[illegible]、由太介志」萬葉集、八四十九「オホノ浦ノ、ソノ長濱ニ、ヨス

ル波、寬ケテ、思フ此ゴロ」

ゆ・だち（名）[夕立] 〔ゆふだちノ略〕 ゆ[illegible]、夕立長ビク、夜ノ雨」

ゆ・だち（名）[illegible] ゆだて（湯立）ニ同ジ。萬代集、七、神祇「ソノカミノ、タベカリ夢ニ、空ヘレテ、爲サヘノボル、ゆだち宮人」

ゆ・だち（名）[弓立] （一）射手ノ弓射ムトテ、身構ヘシテ立ツコト。[illegible]弓立ト云フ[illegible]タルアヒノ事、[illegible]也」（二）射場ニ出ヅル支度スルコト。[illegible]六帖、五、矢「今日ハミナ、ゆだちノ射手ノ、ホカマデモ、鶴ノ平題前、緩ナレニケリ」

ゆ・たつ（名）[諭達] 官ヨリ人民ニ觸レサトスコト。又、ソノモノニ[illegible]。

ゆ・だて（名）[湯立] （一）又、ゆだち。昔、巫女ノ、神前ニテ行フ式。祈ルコトアレバ、巫女、釜ニ湯ヲ沸シ、熱湯ニ竹葉ヲ漬シテ身ニ浴ミ、體疲レ、心亂ルルニ及ビテ、神ノ託宣ヲ得トス。湯花。ソノ竹葉ヲ、湯笹、又ハ、手草ト云フ。（古ヘノ探湯ノ遺ナリト云フ）金槐集、巫女ガ、御ゆだ[illegible]ノ、ソヨソヨニ、靡キオキフシ、ヨシヤ世ノ中」[illegible]、文安六年九月廿九日「惡田口神明有湯立、[illegible]」（二）昔、神社ノ廣前ニ、大釜ヲ居エ、熱ク湯ヲ沸シ、禰宜ナドノ身ニソソギカクルヲ云フ。是レ、ウブ子ニ代リテソソグニ、ソコナフコトナキ時ハ、ウブ子ニ犯シ過テル罪咎ナキ赤心ヲ表ハシテ、神ノ心ヲイサメ、諸ノ災ヲ除キ、聞クヲメグミサチハハセ給ヘト祈ル意ナルベシ。（三）神樂ノ曲ノ名。[illegible]「弓立」（拾芥抄、湯立）

ゆたて・めし（名）[湯立飯] 沸キタル湯ニ、

[illegible]米[illegible]之、[illegible]之[illegible]湯沐飯ニ注「此云[illegible]ニ」

〜**ゆた・み**（副）[寬] ユルヤカニ。ユッタリト。[illegible]セバ、ソノ夜ハ由多米、アラマシモノヲ」

〜**ゆた・み・た・ゆた・み**（副） 〔ゆたみたノた[illegible]〕[illegible]ニ。（前條ト、たゆたふ（猶豫）ノ條トヲ見ヨ）萬[illegible]、七、[illegible]、[illegible]ニモ[illegible]ニモ、[illegible]古今集、十一、戀、一「イデ我ヲ、人ナ咎メソ、大舟ノ、ゆたのたゆたに、物思フ頃ゾ」

〜**ゆだ・ぬ**・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ（他動、下二）[委] 〔讓ルニ通ズ〕 [illegible]任ス。[illegible]任ス。己レガ事ヲ他[illegible]ス。委任ス。[illegible]紀、廿[illegible]七月[illegible]不[illegible]、[illegible]皇太子」

〜**ゆ・だね**（名）[illegible] [illegible]ノ[illegible]、水、清ケテ淨メタル種籾ノ義] [illegible]種。水口祭ナドシテ、イミキヨメタル苗代ノ種。萬葉集、七八「湯種蒔ク、鑿ノ小田ヲ、求メムト、アユヒ出テヌレヌ、コノ川ノ瀬ニ」（略解ノ訓）同、十五[illegible]「青柳ノ、枝伐リドシ、湯種蒔キ、ユユシキ君ニ、戀ヒワタルカモ」

∴**ゆだ・ねる**（動）[委] ゆだぬ（委）ノ口語。

ゆた・の・た・ゆた・み（副） ゆたみたゆたみノ條ヲ見ヨ。

ゆた・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）〔ゆた[illegible]〔寬〕ヲ活用ス〕 ユタユタト弛ム。タユタフ。ユタユタト[illegible]、[illegible]物語、[illegible]、有王島下事「頭[illegible]ハレテ、皮ゆたひ、身ニ着タル物ハ、絹、布ノワキモ見エズ」云云」

ゆたぶ・る（動）[illegible] 〔ゆさぶる（搖）

ノ轉〕 いたぶる（強請）ニ同ジ。

ゆ・だま（名）[湯玉] 沸湯ノ面ニ湧キアガル[illegible]、[illegible]、[illegible]」六「[illegible]ハ湯玉散ル如ク」

ゆ・たん（名）[油單] 〔油ヲ引キタル單被ナラム〕 （一）器具ノ敷物。簀薦ノ下ナドニ敷ク。倭名抄、十四[illegible]具「油單」枕草子、六、第五十一段「雙盤ノ打敷ヲ踏ミテ立テルニ、[illegible]ゆたん[illegible]」（二）櫃、長持、ナドヲ被フ物。布帛ニテ[illegible]

ゆ・だん（名）[油斷] 〔當字ナリ、コレハ萬葉集、十二[illegible]、ソノ夜ハ由多爾、アラマセバ、[illegible]ト、知ラマセバ、ソノ夜ハ由多爾、アラマシ[illegible]コノ寬ミガ、今モゆったりト云ヒテ、遺リテアリ、ゆだんハ、即チ、コノゆたニノ音便ナリ、今モ土佐國ニテハ、客來リ談[illegible]、[illegible]いませト云フ（東京ニテ、御ゆっくりナリ）古言ヲ存セリ、ゆっくりガおおたりノ意ニ移レルナリ」氣ヲユルベテアルコト。[illegible]、[illegible]ゆたん[illegible]ケテ役ゾ、軍ハアランズラントテ、ゆだむシタリケル所ニ、「俄ニ時ヲ造リアゲタリケレバ」太平記、一、[illegible]用意モ無リケレバ」（油斷ヲ當字ニスルコト、古クヨリノ事ニテ、共語原モ、涅槃經ノ油鉢[illegible]レリトシテ、[illegible]、涅

槃經、廿二「王敕二一臣、持二一油鉢、經二由中一過、莫レ令二傾覆、若棄二一滴、當レ斷二汝命こトアル油鉢ノ油ト生命ヲ斷ツノ斷トヲ拾ヒ摘ミテ、油斷ノ語ヲ捏造セルナリ。言語道斷ナラズヤ」

ゆ-タンポ (名) 湯湯婆 〔稽古槍ノたんぽト、草ノ蒲公英トニ分タムタメニ、ゆヲ加フルナリ〕 たんぽ(湯婆)ノ重言。其條ヲ見ヨ。

ゆだん-もの (名) 油斷者 油斷ヲスル人。又、油斷ノアルモノ。不注意ナルモノ。日本新永代藏(正德、北條團水)五「數銀守ム男モ、是レゆだんものノクセ者ナリ」

ゆ-だめ (名) 弓矯 ゆみため(弓矯)ノ條ヲ見ヨ。名義抄「檠、ユミタメ、ユタメ」

ゆた-ゆた-と (副) モノノ動搖スル狀ニ云フ語。ユラユラト。ユサユサト。ユクラユクラト。動キニ動キテ。太祇全集「ゆたゆたと、敵ヘダテ來ル、雉子カナ」

ゆたり (副) ユッタリ。ユトリ。

ゆだ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 茹煠 〔ゆでらる(被煠)ノ約轉〕 湯ニ煮ラル。ウダル。浮世風呂(文化、三馬)初編、下「ソチラノ人ハ、大分赤ク湯出ッタナ」

ゆ-つ (接頭) 五百箇 〔いほつノ約〕 數多キモノニ付ケテ云フ語。熟語トナス。古事記、上廿八「乃於湯津爪櫛、取二成其童女こ」「湯津楓」「湯津磐村」「五百箇爪櫛」「五百箇眞椿」

ゆ・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ(他動、下二) 煠 瀹 茹 〔湯ヲ活用ス、湯出づノ義〕 篇韻「瀹同レ煠、謂下內二肉及菜湯中一、薄熱出上之」トモ見ユ」 (一)熱湯ニ入レテ暫シ煮ル。ユデル。ウデル。字鏡六「煠、以レ菜入二湯湯一曰

レ煠、煮也、奈由豆」名義抄「煠、ユツ、ナユツ」 催馬樂、大芹「小芹コソ、由天テモムマシ」 (二)湯ノ熱ニテ蒸ス。タデル。 東鑑、三、上四「雪ヤケニ、足モ腫レテ、云云、ゆでツクロヒナトシテ」 (三)ユアミス。湯治ス。浴。 榮花物語、十六、本雫「御風ニヤトテ、ゆでサセタマヒテ」

ゆつ-いはむら (名) 湯津石村 〔五百箇磐群ノ約轉、(いほノ約ナルよノ轉、ゆナリ)〕 數多キ磐ノ簇。ユツハノムラ。古事記、上九「血走、就湯津石村所、成神、云云」 萬葉集、一廿「河ノ上ノ、湯津磐村二、草ムサズ、常ニモガモナ、常處女ニテ」(古言ノ訓)

ゆ-づう (名) 融通 世間ヲ廻リメグルコト。又、ゆうづうニ同ジ。流通。(多ク金錢ニ云フ) 易林節用集(慶長)下、言辭門「融通、ユヅウ」

ゆづう-ねんブツ (名) 融通念佛 又、ゆうづうねんぶつ。其條、及、ねんぶつきょう(念佛宗)ノ條ヲ見ヨ。

ゆ-づか (名) 弓束 古言、ゆみづかノ約。弓ヲ射ルトキ、弓ノ中程ノ、少シ下、左手ニテ握ル處。革ニテ厚ク卷ク。弓ノニギリカハ。又、ニギリ。トリウチ。弣 名義抄、九、弓「弣、ユツカ、ユミツカ」 萬葉集、十一四七「梓弓、弓束卷キ易ヘ、中ニ見ハ、更ニ引クトモ、君カマニマニ」 太神宮長曆官符「梓弓、云云、以鹿角、弣、弓束、以鹿鞁組一丈五尺こ」

ゆつ-かつら (名) 湯津楓 〔ゆつハ、五百箇ノ約〕 枝葉ノ極メテ繁キ楓。かつら(楓)ハ、かへでノ一種ニテ、をかつら、又ハ、ふうトモ云フ。をかつら(楓)ノ條ヲ見ヨ。古事記、上五「鳴女自レ天降到、居二天若日子之門湯津楓上こ」 神代紀、下「門前所、植湯津杜木之杪」注「杜木、此云二可豆邏こ」

ゆ-つき (名) 五百槻 〔ゆハ、五百ノ約〕 いつき(五十槻)ニ同ジ。萬葉集、十一二旋頭歌「ハツセノ、弓槻ガモトニ、吾ガ隱セル妻、アカネサシ、照レルツク夜ニ、人見テムカモ」(古言ノ訓)

ゆ-つぎ (名) 湯次 〔湯坏ノ義〕 ゆとうニ同ジ。東武實錄、寛永三年九月、行幸の日「御内内ノ御膳、云云、御湯次一箇」注「黃金ヲ以テ製ス、蓋アリ」

ゆっくり (副) 緩 急ガズニ。セカズニ。ユルユルト。ユルリ。ユルリト。 嫗山姥(正德、近松作)一「ゆっくりと休息アレト、元ノ賓ノ木シットト下シ」

ゆ-づけ (名) 湯漬 〔ゆづけめし(湯漬飯)ノ略〕 (一)古ヘハ、湯ノ中ニ、飯ヲ漬ケテ食ヒタルモノ。 源、廿一、少女廿「御ゆづけ、クダモノナド、誰レモ誰レモキコシメス」 宇治拾遺、七、第三條(肥えたる人に)「冬ハゆづけ、夏ハ水づけニテ、物ヲメスベキナリ」 (二)飯ニ湯ヲ注ギテ食フコト。(茶漬ニ對ス) 易林節用集(慶長)食服門「湯漬、ユツケ」

ゆったり (副) 寬 ユルヤカニ。ユタカニ。ユタリ。迫ラズニ。オホヤウニ。

ゆつ-つまぐし (名) 五百箇爪櫛 湯津爪櫛 齒ノ極メテ繁キ櫛。又、ゆついつまぐし。ゆつ(五百箇)トつまぐし(爪櫛)トノ條ヲ見ヨ 神代紀、上十三「投湯津爪櫛、此卽化成筍こ」 新續撰集、十三、戀、三「カツ見レト、ナホゾ戀シキ、ワギモコガ、ゆつのつまぐし、如何ササマシ」

ゆつはのむら (名) 湯津磐村ノ略延 其條ヲ見ヨ。夫木抄、廿八、竹「ワタセバ、ナミモ寄ミテ、河ナミノ、ゆつはのむらニ、サトク呉竹」

ゆ-つぼ (名) 湯壺 (一)坩堝ノ一稱。 犬子集、十五、雜、下「鐙ノゆつぼへ、入ルルまろ銕」 (二)溫泉場ナドノ浴槽。ユブネ。

ゆつ-まつばき (名) 五百箇眞椿 〔ゆつハ、五百箇ノ約、まハ、眞ノ意〕 枝葉ノ繁キ椿 古事記、下二十八「サシブノキ、シガ下ニ、生ヒ立テル、葉廣由都麻都婆岐」

ゆ-づら (名) 弓弦 〔ゆづるノ轉〕 ゆづる(弓弦)ニ同ジ。ゆみづる(弓弦)ノ條ヲ見ヨ。古事記、中(仲哀)十四「卽絕二弓絃、詐服」(本居本ノ訓)

ゆづら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 讓 〔ゆづり合ふ、ノ約〕 互ニ相ユヅル。源、二、帚木九「一人二人世ノ中ヲ、云云、上ハ下ニ助ケラレ、下ハ上ニ靡キテ、事、廣キニゆづらふラン」

ゆづり (名) 讓 ユヅルコト。又、ユヅリ與ヘタルモノ。讓與。特ニ、天子ノ位ヲユヅルコト。禪 大學、第九章「一家讓、一國興讓」 源、三十四、上、若菜、上廿「片ハライタキゆづりナレド、コノイワケナキ内親王一人、取リワキテ、ハグクミオボシテ」「禪ヲ受ク」

ゆづり-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 讓合 (一)互ニヘリクダル。相互ニ謙讓ス。(二)互ニ退キテ、他ヲ進メ合フ。(三)互ニ他ノ主張ヲ容レテ、己レノ主張ヲ緩和ス。アユビアフ。互讓ス。

ゆづり-う・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 讓受 他ヨリユヅリ渡サレテ受ク。ユヅラレテ受ケ取ル。

ゆづりうけ (名) 讓受 ユヅリ受クルコト。又、ユヅリ受ケタルモノ。

ゆづり-じゃう (名) 讓狀 所領、財產ナドノ、讓渡ノ旨ヲ記シタル證文。又、己レガ領地ヲ、子弟、其他へ讓與シタル旨ヲ記シタル證文。(年號ヲ記ス) ユヅリブ

ゆづりは (名) [illegible]ノ、ゆづるは[illegible]大楼[illegible] ノ儀ニ此葉ヲ用キテ、父子相譲ル義ニ[illegible] 抄「樹、ユツリハ、杠、同」林逸節用集、草木「楪葉、ユヅリハ」[illegible] 葉、枝、ユヅリハ」 新六帖、六、ゆづる葉、ゆづり葉ノ、トキハノ岡モ、ウツモレヌ、アシクマ山ニ、雪ノ降レレバ」 夫木抄、廿九、樒「コレゾコノ、春ヲムカフル、シルベトテ、ゆづりはカザシ、カヘル山人」

ゆづりぶみ (名) 譲文 ゆづりじやう(譲状)ニ同ジ。[illegible]中将清押アレドモ、弟譲文ヲ手ニ握リテ申上ハ、云云」

ゆづりわたし (名) 譲渡 ユヅリテ他ノ人ヘワタスコト。譲與。

ゆづりわた・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 譲渡 譲リテ、他ノ人ニ渡ス。ジャウトス。譲與ス。[illegible]」

ゆつ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 移 (依移ノ約轉ト云フ」) うつる(移)ニ同ジ。 萬葉集、四「[illegible]」 同、十一「[illegible]吾ガ戀ヒ居ラム」(古義ノ訓)

ゆ・づる (名) 弓弦 又、ゆづら。ゆみづる(弓弦)ニ同ジ。 古事記、中、仲哀紀「[illegible]」

ゆづ・る[illegible](他動、四) 譲 [illegible]ぬニ通ズ」 (一)己レノ物ヲ他ヘ與フ。[illegible] 「寂寥ノ御路、云云、後ノ御ニ、由豆利マツラム、捧ゲ申サム」 宇津保物語、藏開、下「ソノ御ユカリヨスガヲバ、我ガ御位ヲモゆづりテントオボセド」 (二)己レ退キテ他ニ與フ。己レ控ヘテ他ニ授ク。 名義抄「遜、ユヅル」謙、ユヅル」譲、ユヅル[illegible] 源、四十三、竹川「ウチヨリ和琴サシイデタリ、カタミニゆづりテ手フレヌニ、云云」

ゆづるうち (名) 弓弦打 ゆみづるうちノ略」 つるうち(弦打)ニ同ジ。 宇津保物語、藏開、上「[illegible]ゆづるうちヲシツツ、夜メグリスルヤウニナン侍ル」

ゆづるは (名) 譲葉 ゆづりは(譲葉)ニ同ジ。 萬葉集、十四「アドモヘカ、阿自久麻山ノ、由豆流波ノ、含ル時ニ、風吹カズカモ」 儀式、三、[illegible]

ゆつろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 消ユ。盡ク。ナクナル。 字鏡「[illegible]、消、盡也、由豆呂不」

ゆつろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 移 (ゆつるノ延) うつろふ(移)ニ同ジ。 萬葉集、十一「[illegible]ユツリナバ」、思ヒハヤマズ、戀コソマサレ」

ゆ・づゑ (名) 弓杖 ゆんづゑ(弓杖)ニ同ジ。 榮花物語、廿四、若枝「サルベキ御随身ナドノ、イミジウツキヅキシキサマシテ、中門ノホドニ、弓杖ツキテ居タル程ナド、唯繪ニカキタルヤウニ見ユ」

ゆでおほ・す[illegible]

ゆでさやまめ [illegible]

ゆでだこ (名) [illegible]

ゆでたまご (名) [illegible] ニヌキノタマゴ。鶏卵ヲ殻ノママ煠デタルモノ。ウデタマゴ。瀹鶏子(齊民要術) 七偏人(梅亭金鵞)三編、中「貝那ア、瀹玉子ト枝豆ノヲ買ッテ呉レサッシャイ」

ゆでな (名) 煠菜 茹菜 ユデタル菜。[illegible] 今小女[illegible]近松作[illegible]ニシヲシヲト」(大朝本、いで菜ノ様ニシホシホト)

ゆでまめ (名) 煠豆 茹豆 莢ノママナドニテ、ユデタル豆。即チ、煠デタルえだまめノ如キモノ。

ゆでもの (名) 煠物 茹物 煠デタル食物ノ名。又、菜ナドヲ煠デタルモノ。[illegible] 倭名抄、十六[illegible]乃」 庭訓往來、十月「[illegible]」

ゆ・でる (動) 煠 茹 ゆづ(煠)ノ口語。

ゆとう (名) 湯桶 飯後ニ飲ム湯ヲ盛ル器。木造ニシテ、注口アリ、柄アリ、多ク漆塗ニス。ユツギ。 下學集、下、器財門「湯桶、ユトウ[illegible]」

ゆとうおとば (名) 湯桶言葉 又、ゆとうぶんじやう[illegible]

ゆどうふ (名) [illegible] 切リテ、白湯ニテ煮タルモノ。煮出汁[illegible] ニスルコトナリ。此豆腐ヲ細長ク切リタルヲ、姿湯切豆腐ト云ヒ、湯豆腐ヲ胡[illegible] 分、落薬切デハアルマジ、但シ湯豆腐カ」

ゆとうぶんじやう (名) 湯桶文章 ゆとうおとば(湯桶言葉)ニ同ジ。 易林節用集[illegible] 湯桶文章云是也、一字讀云、一字音云也、此類甚多」

ゆとうよみ (名) 湯桶讀 漢語ノ熟語ヲ、[illegible] 方。即チ、湯桶ノ二字ハ、上、訓ニテ、下、音ナリ。其他、[illegible]

ゆどこ (名) 夜床 [illegible] 萬葉集、廿「筑波ネノ、サユルノ花ノ、由等許ニモ、カナシケイモゾ、晝モカナシケ」

ゆどの (名) 湯殿 (一)浴スルニ設ケタル室。[illegible] 枕草子、十一、第百廿七段「御ゆどのノメンダウヨリ[illegible]」

草、一百十八段、雉、松茸、ナドハ、御湯殿ノ上ニツカリタルモ苦シカラズ、ソノ外ハ心憂キコトナリ」

ゆどほし（名）［湯通］（一）太織物、又ハ、銘仙類ナドノ、糊ノ多ク附キタルモノヲ、湯ニクグラセ、糊ノ量ヲ去リテ、質ヲ軟カニシ、光澤ヲ出サシムルコト。（二）現今ハ、羅紗類ナドノ毛織物ヲ、湯ニクグラセテ壓搾シ、其表面ニ小皺ナドノ生ズルヲ防グコト。

ゆトン（名）［油團］紙ヲ厚ク貼リ合ハセテ、油ヲ延キタルモノ。油ノ代リニ漆ヲ塗リタルモアリ。夏ノ敷物トス。

ゆとり（名）〔緩取ノ意カ〕物事ノ間ニ寬ギヲ置クコト。ユルミ。餘裕。俳諧新選、秋「打上ケタ、花火ユユシキ、ゆとりカナ」

ゆとり（名）［淦取］〔湯取ノ義、湯ノ條ヲ見ヨ〕舟中ノ漏水ヲ汲ミ取ル器。アカトリ。アカクリ。スッポン。倭名抄、十一、舟具「淦、由土利、淦、舟中水也」名義抄「淦、ユトリ」

ゆとり（名）［湯取］（一）ゆとりめしノ略。水ヲ多クシテ飯ヲ炊ギ、熟シタルトキ、笊ヲ入レテ其湯汁ヲ汲ミ取リテ、再ビ蒸シタル飯。味淡シ、老人、病人ナドノ食トス。本朝食鑑（元祿、平野必大）一、飯「盛米于釜中、初入水稍多、既熟取出、投淘籮而盪、去湯汁入甑蒸、其氣此謂湯取」（二）浴シタル後ニ、身ヲ拭フ衣。ユカタ。浴衣。

ゆとりめし（名）［湯取飯］前條ノ語ノ（一）ニ同ジ。大和本草、四、糧飯「湯どり飯、朝ノ飯ハ、白米ヲ前夜ヨリ水ニヒタシオキテ、明朝、釜ニ水多ク入テ火ヲタキ、沸トキ米ヲ入、半過熟シタル時、杓ニテクミテ、イカキニアゲ、水ヲシキリニカケテ、ネバリナキホドニヨク洗ヒ、其籠ニカケテ、能ムスベシ、又、ナベニ入テ、下ニ炭火ヲ置テムスモアリ、コレハ飯ノリノ如クニナリ、ネバリテアシシ、セイロウニテムス、ヨシ、晩ノ飯ハ、朝飯過ヨリ、[illegible]水ニヒタシ置クベシ、湯取めしハ脾胃虚ノ人、積聚アル人ニ宜シ、壮人ニハ宜シカラズ」

ゆな（名）［湯女］（一）昔、湯屋ニ置キタル女童。太平記、三十五、北山殿謀反事「延文五年、京都ノ合戦ノ亂ハ、併シナガラ北山入道ノ所行也ト、落書ニモシ、歌ニモ詠、湯屋風呂ノ女童部マデモ、もテアツカヒケレバ、云云」（二）温泉地ノ旅宿ニ居テ、客ニ侍ル婢。和漢三才圖會、七十四、攝津、有馬郡、温泉、在山口庄、云云、湯構ガ二處、曰有二、南名二一湯、北名二二湯」注「大湯女、小湯女各二十人」（三）昔、江戸市中ノ風呂屋ニ置キタル一種ノ娼婦ノ稱。風呂モノ。風呂屋女。明暦年中、新吉原成リシ時、禁制トナリ、悉ク吉原ヘ入レラル、後、マタ出來シガ、寛文中、全ク禁止トナル。（コレ色ヲ賣ル　至リ、大湯女ハ酌ヲ取リ、小湯女ハ垢ヲスルト）慶長見聞集、四、ゆなふろ繁昌の事「天正十九卯年、夏ノ頃カトヨ、伊勢與一トイヒシモノ、錢瓶橋ノホトリニセントウ風呂ヲ一ツ立ル、云云、今ハ町毎ニ風呂アリ、云云、湯女ト云ヒテ、ナマメケル女ドモ廿人、三十人ナラビ居テ、垢ヲカキ、髮ヲソソグ、扨又、其外ニよふしよくタグヒナク、心ザマ優ニヤサシキ女房トモ、湯ヨ茶ヨト云ヒテ、持來リ、戯レ、浮世語リヲナス」

ゆなゆな（名）ノチノチ。將來。萬葉集、九、長歌「由奈由奈ハ、イキサヘタエテ」（由李由李ノ誤ナリト、鹿持ノ説）

ゆに（名）［湯煮］湯ニテ煮ルコト。煠デ煮ルコト。華嚴經私記音義「煮、湯爾」

ユニテリアン（名）〔英語、Uniterian.〕基督新教ノ一派。即チ、三位一體說ヲ排シテ、唯一ノ神格ヲ認メ、人類ハ今日、罪惡ヲ有ストモ、他日ハ必ズ悉ク神ニ救ハレ、永久ニ惡ニ打勝チテ、全宇宙ハ、全ク救ハ[illegible]、惡人モ救ヲ得ト主[illegible]。[illegible]北亞米利加合衆國ニ行ハル。

ゆには（名）[illegible]〔[illegible]〕地ヲ掃ヒ、清メテ、神ヲ祭リ[illegible]ノ行フ所。齋ヒ淨メタル庭。神ヲ祭ル場所。神代紀、下「齋庭、此云踰尼波」[illegible]

ゆには（名）［弓庭］ゆば（弓場）ニ同ジ。儀式、七、十七日觀射儀「前十日、兵部省、云云、於[illegible]家南門弓庭以令調習」

ゆにふ（名）［輸入］（一）運ビ入ルルコト。[illegible]（二）[illegible]（輸出）ノ條ヲ見ヨ。

ゆのあか（名）［硫黄］〔あかハ垢カ〕ゆのあわ（硫黄）ニ同ジ。ゆわう（硫黄）ノ條ヲ見ヨ。本草和名、上、二十「石流黄、由乃阿加」

ゆのあわ（名）［硫黄］〔温泉ノ泡ノ義〕又、ゆのあか。ゆわう（硫黄）ニ同ジ。倭名抄、十一「石流黄、由乃阿和、俗云、由[illegible]」名義抄「石流黄、ユノアハ、ユワウ」

ゆのき（名）［湯器］古ヘ、禁中ノ臺盤所ノ臺盤ノ上ニ、備ヘ置ク器ノ[illegible]、湯ヲ盛ルタメノ器ニシテ、徑四寸六分、銀製ナリト。日中行事「六ノ御盤、御湯のき、一ノ御盤ノ北ノヘリニスフ」

ゆのし（名）［湯熨］布帛ノ皺ナドヲ、湯ニサラシ、又ハ湯ヲヌラシテ熨スコト。

ゆのはな（名）［湯花］（一）硫黄ノ氣アル温泉ノ底ナドニ溜リ着ク滓。其石灰質ナルヲ石灰華（單ニ灰華）ト云ヒ、珪酸質ナルヲ珪華ト云フ、[illegible]シテ、粗鬆ナリ。湯花。（二）ゆわう（硫黄）ノ條ヲ見ヨ。

ゆのみ（名）[illegible]〔[illegible]〕湯茶ヲ呑ムニ用キル磁器。筒形ナリ。

ゆば（名）［湯場］湯ノアル所。又、温泉ノアル所。温泉場。温泉地。

ゆば（名）［弓場］又、ゆみば。弓術ヲ習フ[illegible]設ケタル所。特ニ、古ヘ、内裏ニテ、射術ヲ演習スル設ケタル所ノ稱。紫宸殿ノ前庭ノ西隅ニアリ。イバ。矢場。[illegible]

ゆば（名）[illegible]〔[illegible]〕豆腐ノ液ヲ、[illegible]ニ入レテ煮レバ、上面ニ薄皮ヲ生ズ、ソレヲ徐ニ卷キ取リテ乾シタルモノ。皺ブリテ黄色ヲ呈シ、檀紙ノ如シ。再ビ煮テ食フ。ウバ。豆腐皮　骨董集（文化、京傳）上、下、後、おかべ、豆腐田樂、豆腐上物「俗説ニ、豆腐皮ヲゆばトイフハ、訛ナリ、本名ハうば也、其色、黄ニテ皺アルカ、姥ノ面皮ニ似タル故ノ名ナリトイヘルハ、ミダリゴトナリ、[illegible]ニ、豆腐上物トアルコソ、本名ナルベケレ、豆腐ヲツクルニ、上ニウカム皮ナレバ、サハ云ヘルナラン、略シテ、うふのうはト云ヒ、音便ニハ、文字濁リテ、うばトモ云ヘルヨリ起レル俗説ナルベシ、ゆばト云フモ、うトゆト横ニカヨヘバ、訛シキ訛ニモアラズ」

ゆばいろ（名）［柚葉色］染色ノ名。濃キ綠色、又、黑バミタル綠トモ云フ。

ゆばうし（名）［結帽子］〔木綿帽子ノ訛

ナラム一[illegible]ドニテ、[illegible]
状ノ[illegible]包ム[illegible]人、[illegible]
包ムモノ。かつらまき(纏卷)ノ條ヲモ
見ヨ。[illegible]
[illegible]
ヒ、其包ミクルヲ、かつら包トイフ、云云、西閣夏ニ
アハ、童女ハ物語ナドスル時、白布もめんノ類ニテ、
髮ヲ鉢卷ヲシテ、前ニテ結ヒサグルナリ、古ノ童女
ハ、カクセシニヤ、能狂言ノ女ハ鉢卷ヲスルナリ」

ゆはく (名) [illegible]
[illegible]
ハ膏腴ノ腴ノ國字カ」 土地ノ肥エタル
コトト、痛セタルコトト。又、肥沃ノ地
[illegible]
[illegible]ニイル)

ゆばく [illegible]
[illegible]
心静ニ報切ベシトテ、[illegible]ヲゾ引タリ」

ゆはず (名) 弓筈弓弭 又、ゆみはず。
弓ノ両端、弓弦ヲ懸クル處。[illegible]上
ナルヲ上筈(末弭)トイヒ、下ナルヲ本
筈(下弭)トイフ。略シテ、はずトモ。[illegible]神代紀、
[illegible]
[illegible]
ノムタ、鷹クガ如ク、取リ持タル、弓波受ノ堅キ」

ゆはずのみつぎ (名) 弓弭調 〔射獲タ
ル獸ノ皮ヲ貢スルヲ宗トシテ云フ〕 古
ヘ、弓[illegible]獸ノ肉、又ハ、皮ノ調。
後ニハ、[illegible]、男子ノ奉ル貢物ヲ云ヘ
[illegible]
[illegible]九月「校人
[illegible]也

ゆはた [illegible]
[illegible]
九匹、纈布二十四疋、纈布二十四端」 袖中抄、下、下、
問答、古歌「椿木ノ、ゆはたソムテフ、紫ノ、合ハン合
ハジハ、君ノココロニ」「ゆはた革」

ゆはだおび (名) 結肌帶 婦人ノ懷姙シ
テ[illegible]
シテ[illegible]
トモ云フ。(其[illegible]ヲ見ヨ) [illegible]
[illegible]

ゆばどの (名) 弓場殿 〔正シクハ、ゆみ
ばどのト讀ムナリ〕 又、いばどの。古
ヘ、禁中ノ射術天覽ノ御殿。 鈴芥抄、中、
[illegible]
御覽ズルナリ」 同「賭弓ト申スハ、スベラギ、いばど
のニノゾミ給ヒテ、弓ヲ御覽ズルナリ」

ゆばな (名) 湯花 (一)ゆのはな(湯花)
[illegible](二)ゆだて(湯立)ニ同ジ。

ゆばはじめ (名) 射場始 又、いばはじ
め。ゆみはじめ。古ヘ、禁中ノ射場殿ニ
テ、弓ヲ射初ムル式。又、武家ニテモ、
正月、又ハ、弓場ノ新築落成ノ時ナド
ニ、始メテ試ミル式アリ。 [illegible]射場始、
「ユバハジメ、[illegible]九、十月射場始、十月五日、
[illegible]射弓、廿七丈五
尺」 公事根源、下「射場始、十月五日、ソノ日ハ、天子
弓場殿ニ出サセ給テ、弓ヲ御覽ズレナリ」

ゆはひづな (名) 結綱 ムスビタル綱。
ユハヒタル索 雄略紀、[illegible]年 以[illegible]

ゆは・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 結 〔結ふ
ノ延〕 ユフ。ムスブ。シバル。ユハヘ
[illegible]
ユハフ」 仁徳紀、四十一年三月「以[illegible]
[illegible]

ゆはら (名) 弓腹 〔弓張ノ轉ニテ、弓ノ
[illegible]
[illegible]
及歌「梓弓、弓腹振起シ、シシキハヲ、フタツ手挾ミ、
ハナチケム」(古義ノ訓)

ゆはり (名) 弓張 ゆみはり(弓張)ノ略。
其[illegible]ヲ見ヨ。

ゆばり (名) [illegible]月 ゆみはりづき(弓張
月)[illegible]

ゆばり (名) 尿溲溺 〔湯放ノ轉〕 又、
ゆまり、[illegible]
ノ中ニテ、血液ヨリ泌別セラレタル淡
黄色ノ水[illegible]
體外ニ洩レ出ヅルモノ。小便。セウヨ
ウ。セウスヰ。シト。小遺 倭名抄、三八蓋
[illegible]
ユハリ」 神代紀、上十「小便化爲神、名曰罔象女」

ゆばりつぼ (名) 尿壺 [illegible]同ジ。
字鏡集[illegible]ユバリブクロ、ユバリツボ[illegible]、ユバ
リツホ」

ゆばりぶくろ (名) [illegible] 又、ゆば
りつぼ。いばりぶくろ。[illegible]
胱)ノ古名。其條ヲ見ヨ。 倭名抄、三六臟府
[illegible]不久呂」

ゆひ (名) 結 (一)〔結ブコト。ユフコ
ト〕 又、[illegible]山守
ノ、アリケル知ラニ、其山ニ、標結ヒ立テテ、結ノ恥
[illegible] (二)[illegible]
[illegible]
[illegible]六、上、第二條「ハコヒケル兄之十結ヲ
バ、[illegible]ツル也トテ、ステテ[illegible]ニケリ」

ゆひ [illegible]
(一)早苗ヲ植ウルナドニ、互ニ人ヲ傭
[illegible]
ノ人。今、陸前ニテハ、耕作ヲ互ニ助合
[illegible]
ハム、互ニ背ヲ洗合フヲ、よひコスリト
云フ) 堀河百首「殘リ田ハ、十代ニ過ギジ、明日ハ
[illegible]
ヲ取テ人ノ用ヲキク物ナリ」 (二)村里ナドニ
[illegible]
人組、町村組合ノ如シ。保佐

ゆひ (名) [illegible]
ノゆノ類、牝ハひんノ略、案内、南殿ト
[illegible]
[illegible]

ゆび (名) 指 〔およびノ略轉〕 訛シテ、
いび。又、よび。古クハ、およひ。手足
ノ端ニ、枝ノ如ク出デタルモノ。人ニ
アリテハ、手、足ニ、各、五ツアリ、鳥獸
ノ足ニハ、數、足ラヌモ多シ。 倭名抄、三七
手足類「指、由比、俗云於與比」

ゆひいれ (名) 結入結納 ゆひのふ(結
納)ニ同ジ。イヒイレ。 貞丈雜記、一、祝儀
[illegible]
元ノ御息女ヲ、某ニ申受度トイフ事ヲ、云ヒ入ルル
事、いひいれ也、いトゆト五音通ズル故、ゆひいれト
[illegible]

ゆひがしら (名) 結頭 はちまき(鉢卷)
ノ條ノ(一)ニ同ジ。 義經記、五、義經吉野山

を吉お結ふ法師ナレドモ、常ニ頭ヲ剃ラザリケレバ、二寸バカリ生ヒタル頭ニ、ゆひかきらシテ、四尺二寸アリケル黑漆ノ太刀、云云」

ゆひ‐かた・む（ユイ・カタ・ム）・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）【結固】ムスビカタム。シメカタム。六月月次祝詞「白[illegible]隨ニ道香、荷籠結堅氏」

ゆび‐がね（名）【指金】ゆびわ（指環）ニ同ジ。好色一代男（天和、西鶴）三「積ハ習ハシニ立テ、手ニ指がねヲサヽセ、足ニハ革踏（タビ）ハカセナガラ」

ゆひ‐かのこ（ユイ・カノコ）（名）【結鹿子】かのこしぼり（鹿子絞）ニ同ジ。

ゆび‐きり（名）【指切】（一）兒童ナドノ、互ニ指ヲ出シ、組違ヘテ、引キ放ツコト。又、互ニ小指ヲ曲ゲテ、引キカクルコト。（二）爭（イサカ）ヒナドシテ、中ナホリ、又ハ、心トケタル印ニ、互ニ小指ヲ引キカケテ、堅ムルニスルコト。訛シテ、いびッきり。浮世風呂（文化、三馬）初編、下「喧嘩アスルモンヂヤアネエヨ、指切（イビッキリ）ヲシテ、中ア直ンナ」（三）男女、契ヲ變ヘジ、トノ證トシテ、小指ヲ刃ニテ、切リテ、示スコト。後撰夷曲集、七、戀「ゆび切ヤ、地獄ノ釜ヘ、ポノタリト、落チヨウト云フ、二世ノ契約」

ゆび・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）【湯引】ユヅ。ユデル。ゆがく（湯掻）ニ同ジ。字類抄「[illegible]、ユヒク、煮熟也」名義抄「臑、ユヒク、ニル」[illegible]、ユヒク」運歩色葉集「蒋、ユヒク」

ゆび‐くじき（名）【指抓 指挫】ゆびしッぺい（指竹篦）ニ同ジ。異制庭訓往來、正月「目比、頸引、膝挾、指引、腕推、指抓（ユビクジキ）等」

ゆひ‐くち（ユイ・クチ）（名）【言口】〔いひくち（言口）ノ訛〕言葉ヲ云フロツキ。モノヲ言フロブリ。モノイヒブリ。イヒヤウ。易林節用集（慶長）下、言辭門「言口、ユヒグチ」

ゆひ‐ぐら（ユイ・グラ）（名）【結鞍】二本ノ木ヲ結ビ合ハセテ作リタル鞍ト云フ。又、物ヲ結ヒテ馱スル鞍トモ云フ。倭名抄、十五、鞍馬具「鞍、[illegible]作[illegible]、久良、俗有[illegible]、唐鞍、移鞍、結鞍等名[illegible]」古今要覽稿、百五十七、器財、馬具、結鞍「木ヲ一ツ結合セテ作ル故ニ、名付シナリ、栗原信充曰、荷ヲ結ビ付ル鞍ナレバ、むすび鞍トモ、ゆひ鞍トモイヘルナルベシ」今昔物語、廿八、第三十五語「女、牛ニ結鞍[illegible]云ノ物ヲ置[illegible]、其レニ乘セテ出シタリ」

ゆひ‐げさ（ユイ・ゲサ）（名）【結袈裟】修驗道ノ山伏ノ用ヰル一種ノ袈裟。輪袈裟ニ似テ、細長キ布三枚ヲ縫ヒ合ハセ、所所ニ菊綴ノ如キモノヲ附ケタルモノ。[illegible]ニ不動袈裟トモ云フ。まげさ（眞袈裟）ト云フモ、此類ナルベシ。

ゆひ‐こぶ（ユイ・コブ）（名）【結昆布】結ヒタル昆布。又、ムスビテ煮タル昆布。ムスビコンブ。類聚往來、上「結昆布、ユヒコブ」

ゆひ‐こ・む（ユイ・コ・ム）・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）【結籠】ムスビテ中ヘ入ルル。中ヘ入レテ結フ。宇津保物語、藏開、上「御[illegible]ハ、ウンノオトド、白キ綾ノウチギ一カサネ、同ジキ袴一カサネ、ゆひこめ給ヘリ」

ゆび‐さき（名）指先 指ノ先端。指端。指頭 指尖 好色五人女（貞享、西鶴）二「兩[illegible]ニ乘リナガラ、云云、足ノゆびさきヲ握レバ」

ゆび‐さ・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）【指差】人差指ノ先ニテ差シ示ス。指一テ、ソレト指ス。指點 字類抄「指、ユヒサス」

ゆび‐しッぺい（名）【指竹篦】〔竹製ノ竹篦ニ對シテ云フ〕指ノ力ヲ顯ハスワザ。即チ、一指ヲ他指ヲ以テ張リ反ラシテ、力強ク物ヲ彈キ打ツコト。榮螺（サザエ）ノ蓋ナド打割ルナリ。しッぺい（竹篦）ノ

條ノ（二）ヲ見ヨ。ユビケンキャウ、ユビハジキ。嬉遊笑覽、四、武事「指ハジキハ、指しッぺい也」

ゆび‐ずまふ（名）【指相撲】遊戲ノ一。兩人、互ニ右手ノ四指ヲ組ミテ握リ合ヒ、大指ノミニテ鬪ノ戲レ。相手ノ大指ヲ抑ヘタルヲ勝トス。拇戰

ゆひ‐つ・く（ユイ・ツ・ク）・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）【結附】ムスビツク。[illegible]ハリツク。萬葉集、十五、三十六「ウルハシト、思ヒシオモハバ、下紐ニ、結附モチテ、ヤマズシノバセ」

ゆひ‐のう（ユイ・ノウ）（名）【結納】〔言納（イヒイレ）ヲ結納（ユヒイレ）ト訛リ、又、湯桶讀（ユトウヨミ）ニシタル語ト云フ、或ハ、云フ、漢語ノ結納ノ湯桶讀ナリト〕又、ゆひいれ。兩家、婚姻ノ前ニ、先ヅ金子、布帛、酒肴ナドヲ互ニ贈リ交ハスコト。又、ソノモノ。コレヲ結納ノ證トス。（支那ニテハ、結納（ケツナフ）ハ、婚姻ノ約束ヲ固ムルコトナリ）タノミ。結采 納幣 全國民事慣例類集、婚姻「凡ソ媒介人、周旋ノ上、契約定レバ、結納ト稱シ、家ノ貧富ニ從ヒ、品物ヲ婿家ヘ贈リ、婿家ニ於テ祝宴ヲ開キ、媒介人、幷ニ親族ヲ饗宴シ、新婦迎取ノ式ヲ行フ」北史、周文帝紀「初魏帝、在洛陽、許以馮翊長公主配帝、未及結納、而魏帝西遷、至是詔、帝尙之」

ゆび‐ぬき（名）【指貫】革、又ハ、厚キ紙ナドニテ製セル指環（ユビワ）。衣ヲ縫フトキ、指ニ貫キテ、之ヲ當（アテ）トシテ針ノ端ヲ押ス。今ハ、金屬製モアリ。およびぬき。指韜 指揩 天治字鏡、十二「[illegible]、指貫、由比奴支」

ゆひ‐ばし（ユイ・バシ）（名）【結橋】木ナド結ヒ集メテ作リタル橋。謠曲、錦木「結橋ヤ、埴ノ埋草沈メツツ、乘リ越エ乘リ越エ、云云」

ゆび‐はじき（名）【指彈】（一）つまはじき（爪彈）ニ同ジ。（二）ゆびしッぺい（指竹篦）ニ同ジ。

ゆひ‐はた（ユイ・ハタ）（名）【結[illegible]】[illegible]シテ、[illegible]其[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]

ゆび‐はめ（名）【指環 指鐶】ゆびわ（指環）ニ同ジ。

ゆび‐ひき（名）【指引】遊戲ノ一。二人相對ヒテ、各、同ジ指ヲ屈シテ互ニ引キカケ、力ヲ入レテ、引キ寄セタル方ヲ勝トスルモノ。異制庭訓往來、正月「目比、頸引、膝挾、指引、腕推、指抓等」

ゆび‐まき（名）【指卷】上古、指ニ卷キ飾ル環。今ノ、指環ノ類。ユビワ。指鐶 倭名抄、十四、服玩具「[illegible]、由比萬岐、指鐶也」名義抄「環、ユヒマキ、タマキ」

ゆひ‐め（ユイ・メ）（名）【結目】ムスビメ。ムスビタルトコロ。永久四年百首、雜「野邊ノミ、サビシキ旅ノ、草枕、ヤガテゆひめニ、キリギリスナク」

ゆび‐わ（名）指環 指輪 指ニ貫キテ飾トスル金銀、珠玉ナドノ小サキ環。ユビマキ。ユビハメ。ユビガネ。戒指

ゆひ‐わた（ユイ・ワタ）（名）【結綿】（一）祝物ニ用ヰル眞綿。中央ヲ結ヒ括リタルモノ。賀古敎信七囘忌（元祿、近松作）三、下ニ、撒下ス屆金屋、冬ニハ雪ト結綿屋」（二）島田髷ノ一種。元結ニテ括リタル處ヨリ、後ヘ出デタル部分ヲ、大キクシテ、中央ノクビレタルモノ。（三）紋所ノ名。數枚ノ眞綿ヲ重ネテ、中ホドヲ結ヒタル如キ形ノモノ。

ゆひ‐を（ユイ・ヲ）（名）【結緒】ムスビタル紐（ヒモ）。又、物ヲ結フニ用ヰル緒。宇津保物語、吹上、上「マセノ縦木ニハ、紫檀、横木ニハ、沈、ゆひをニハ、

[illegible]

ゆひたけ [illegible]

ゆびをり（名）［指折］指ヲ折リテ數フルコト。又、多クノ中ヨリ、僅ニ數人ト數ヘアグル程ノ勝レタル人物。屈指

[illegible]

ゆふ（名）［夕］[illegible]云ノニ通ズ」日ノ暮レムトスル時。ユフベ。クレ。晩。タソガレ。ユフグレ。クレ [illegible]

ゆふ（名）［木綿］［楮布ノ略、木皮ヲ以テ造ル故ニ、木綿ノ字ヲ用ヰル、杜仲ノ名、木綿トハ異ナリ、楮ノ木ノ皮ヲ、剝ノ如ク割キタレバ云フ］穀ノ木ノ皮ヲ、幣帛トスルニ就キテ云フ[illegible]、穀（梶）ノ皮ヲ剝ギ、其纖維ヲ蒸シテ、水ニ浸シ、細ク裂キテ絲トシタルモノ、色白ケレバ白木綿トモ云フ。多ク神ノ[illegible]トシテ幣トシ、白和幣トモ云ヒ、又、神饌、御膳、調ノ時ナドノ襷トシ、木綿襷トモ云フ。又、コレニテ織リタル布ヲ栲ト云フ。延喜式ニ、布ニハ若干端トシ、木綿ニハ若干斤ト記シタリ。後ニハ、多ク麻絲ヲ幣トシ、楮ハ專ラ紙ヲ製ク事トナリタリ。又、眞木綿トモ云フ。倭名抄、十三祭祀具「木綿、由布」豐後風土記[illegible]ソメケム」

ゆ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［結］「綬ミヲ締ムル意」（一）折リ曲ゲテ締ム。ムス[illegible]（絲、紐、繩ノ類ニテ）（二）梳リテ、元[illegible]スレ、ゆふタル筆ハ、天下一」

ゆ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［言］いふ（言）[illegible]ユク」

ゆふあがり（名）［夕上］[illegible]魚ノ、夕方ニ市場ニ上ルコト[illegible]ヒツレ、八百屋ニ、月ノ瓜ヲサラブレバ、云云」

ゆふあらし（名）［夕嵐］「ゆふあらしハ、吹キスサム風ナリ」夕ニ、強ク吹ク風。（朝嵐ニ對ス）丁葉集、十五、雜、二「タチノボル、月ノ高嶺ノ、夕嵐、トマラヌ雲ヲ、ナホハラフナリ」

ゆふうら（名）［夕占］ゆふけ（夕占）ニ同ジ。萬葉集、十三、長歌「玉桙ノ、道ニ出テタチ、夕占トヲ、我ガトヒシカバ、夕占ノ、吾ニ告グラク」

ゆふかげ（名）［夕影］（一）夕日ノ影。夕日ノヒカリ。夕陽 萬葉集、十「ユフカゲニ、來鳴クヒグラシ、ココダクモ、日毎ニ聞ケド、アカヌ聲カモ」伊勢物語、第三十七段「我ナラデ、下紐解クナ、朝顏ノ、夕影待タヌ、花ニアリトモ」（二）夕日ニ映ル物ノ形。夕方ノ影。萬葉集、十四「影草ノ、生ヒタル屋外ノ、暮影ニ、鳴クコホロギハ、聞ケドアカヌカモ」（古義ノ訓）

ゆふかげ（名）［夕陰 夕蔭］夕方ノモノノカゲ。又、夕方、物ノ蔭トナル所。萬葉集、十「朝顏ハ、朝露オヒテ、咲クトイヘド、暮陰ニコソ、咲キマサリケレ」

ゆふかけ（名）［木綿鹿毛］馬ノ毛色ノ名[illegible]ハミタルモノ。

ゆふかげぐさ（名）［夕陰草 夕蔭草 夕影草］（一）夕方、物ノ陰ニアル草。又、夕陰ニ生ズル草。萬葉集、四「我ガ宿ノ、夕蔭草ノ、白露ノ、消ヌガニモトナ、思ホユルカモ」（二）あさがほ（牽牛子）ノ異名。藻鹽草、八、槿、[illegible]

ゆふかげどり（名）［夕影鳥］[illegible]（時鳥）ノ一名。藻鹽草、十、時鳥「夕かけどり、是不審、雞歟、時鳥ナラバ夕影歟」

ゆふがし（名）［夕河岸］（一）夕景ノ河岸。（二）夕方ニ河岸ニ到着シタル小魚類。（魚市場ニ）[illegible]「生節、云云、松葉イブシノ面ノ惡イヤツハ、ナアソレ、サウヨ、[illegible]」

ゆふがすみ（名）［夕霞］夕方ニタツかすみ。（朝霞ニ對ス）晩霞［illegible］ノ條ヲモ見ヨ。夫木抄、九、霞「夕がすみ、タナビク山ノ、春ヨリモ、色ノ千種ニ、咲ケルナデシコ」

ゆふかぜ（名）［夕風］夕ニ吹ク風。海岸ニアリテハ、日中ヨリ夕ニカケテ、海面ヨリ陸ニ向ヒテ吹キ、（海風）山間ニアリテハ、谷ヨリ頂ニ向ヒテ吹ク、氣溫ノ低キ方ヨリ、高キ方ニ、空氣ノ流動スルナリ。兩方ノ氣溫平均シテ、ココニ風ヲ生ズ。（朝風ニ對ス）六月晦大祓「朝之御霧、夕之御霧乎、朝風夕風乃吹掃事之如久」萬葉集、十四「[illegible]ヒツモ、[illegible]ワケ、[illegible]居レバ、トモシクモアラズ、秋ノ暮風」（略解ノ訓）

ゆふがた（名）［夕方］日ノクレガタ。ユフグレ。ユフコク。タソガレ。タソガレドキ。バンガタ。ユフツカタ。晩景 黃昏 薄暮 ゆふ（夕）ノ條ヲモ見ヨ。

ゆふかづら [illegible] 在中國ニ註「[illegible]色[illegible]木綿鬘」（二）後世ハ、[illegible]

ゆふかは（名）［夕川］あさかは（朝川）ノ[illegible]ノ川ホルモノ。

ゆふがほ（名）［夕顏］[illegible]色、白シ、肉ヲ薄クヘギ、乾シテ干瓢トス。又、長キモノハ、三四尺ニ至ル[illegible]圓ク長クシテ、大キサ、首、尾、同ジク[illegible]シ、或ハ、中ヲ空ニシ、乾シテ、花瓶トシ[illegible]トス。又、長キモノハ、三四尺[illegible]名モアリ。タソガレグサ。瓠 又、ふくべ（匏）、へうたん（瓢簞）ノ類アリ。各[illegible]モ、[illegible]イヒツルケタルサマコソ、イトロヲシケレ」

ゆふがほべったう（名）［夕顏別當］「我物顏ニ、恣ニ花葉ヲ吸フ意」鱗翅類ノ蟲ノ名。ひとりむし（火取蟲）ノ類ニテ、痩セテ褐色ヲ呈シ、長サ一寸餘、腹部赤色ノ輪紋アリ、口吻ハ頗ル長シ。夕ニ飛ビテ、草木ノ花葉ヲ吸ヒ、殊ニ夕顏ニ集ル。頭、尾、甚ダ雀ニ似タリ、飛ブコト甚ダ猛シ。又、ゆふがほべったう。天蛾

ゆふかみ (名) [木綿髪] 馬ノ鬣ノ白キモノトテ云フ。 枕草子、二、「鬣ハ…云云、薄紅梅ノ毛ニテ、カミ尾ナドモ、イト白キ、ゲニゆふかみトモイヒツベキ」

ゆふかん (名) [夕刊] (湯桶讀ナリ) 新聞紙ノ、毎朝、發刊スル外ニ、夕方ニ又、發刊スルモノ。コレニ對シ、朝ナルヲ、あさかん、又ハ、てうかん(朝刊)ト云フ。

ゆふがらす (名) [夕鴉] 夕グレニ鳴ク鴉。又、暮カタ塒ニカヘル烏。晩烏 晩鴉 (朝鴉ニ對ス) 亞槐集「木ヲメグリ、ネグラニサワク、夕烏、涼シキカタノ、枝ヤアラソフ」

ゆふかり (名) 夕獵 夕方ニスル狩獵。あさがり(朝獵)ノ條ヲ見ヨ。

ゆふきじま (名) 結城縞 下總國、結城地方ヨリ産出スル縞ノ織物。次條、及、次次條ヲ見ヨ。

ゆふきつむぎ (名) [結城紬] 紬ノ一種。下總國、結城地方ノ特産ニテ、細ソキ紬絲ヲ用ヰ、木藍ニテ染メ、緻密ニ織リタルモノ。絣アリ、縞アリ、一見、木綿ノ如クニシテ雅致アリ、地質、堅牢ナルヲ以テ名アリ。 萬金産業袋、四「結城紬、下總ノ國結城ヨリ出ヅル、幅九寸五分、廣ト云フハ、壹尺、丈、五丈四尺、六尺有モアリ、イカニモ強シ」

ゆふきもめん (名) [結城木綿] 下總國、結城地方ヨリ産出スル綿布ノ名。多クハ縞織ナリ。

ゆふぎり (名) [夕霧] 夕ニ立ツ霧。(朝霧ニ對ス) 萬葉集、七廿「シナガ鳥、ヰナ野ヲ來レバ、有間山、夕霧立チヌ、宿ハナクシテ」

ゆふぐも (名) [夕雲] 夕ニタナビク雲。

[暮雲] 後撰千首「夕雲ノ、コブカキ梢ノ、ホトトギス、ヒトムラ雨ノ、フリイデテ鳴ク」

ゆふぐもり (名) [夕曇] 夕ニ空ノ曇ルコト。 大祇全集、紙帳白シ、長閑過ギテノ、夕曇」

ゆふぐれ (名) [夕暮] 夕ノ早ク、暗クナリシホド。日ノ暮ルル頃。夕。日暮レ。ユフマグレ 日暮 薄暮 黃昏 字類抄「晩頭、ユフクレ、薄暮、同」 萬葉集、十二、九「玉勝間、島熊山ノ、夕晩ニ、獨リカ君カ、山道越ユラム」

ゆふくれなゐ (名) [夕紅] 日沒ノ際、西ノ空ノ紅色ニ見ユルモノ。ユフヤケ。晩霞 曛霞 金葉集、一、春「入リ日サス、ゆふ紅ノ、色ハエテ、山下照ラス、岩ツツジカナ」

ゆぶくろ (名) [弓袋] 弓ヲ藏メオク袋。ユミブクロ。弓韜 平家物語、一、鵜川合戰事「マヅ、弓袋ノ料ニトテ、白布五十端、送ラレタリ」

ゆぶくろざし (名) [弓袋差] 次條ノ語ニ同ジ。 吾妻鏡、九、文治五年七月十九日「凡鎌倉出御勢一千騎也、次御輿、注、御弓袋差、御旗差、御甲著等、在御馬前」

ゆぶくろもち (名) [弓袋持] 昔、主人ノ弓ヲ袋ニ入レ、ソレヲ持チテ、騎馬ニテ先驅セシモノ。ユブクロサシ。

ゆふけ (名) [夕食] (朝食ニ對ス、け(食)ノ條ヲ見ヨ) 夕ノ食事。ユフメシ。晩餐 餔 永久四年百首、冬「深山柴、已カカマドニ、取リクベテ、アサケゆふけノ、煙立ツメリ」

ゆふけ (名) [夕占夕卜夕衢占] (けハ卦カ) 古ヘ、夕方ニ、路ナドニ立チテ、往來ノ人ノ語ナドヲ聞キテ、吉凶ヲウラナフコト。夕ニスル辻占。ユフケノウラ。ユフウラ。ミチノウラ。 萬葉集、四五十一「月夜ニハ、門ニ出立チ、夕占問ヒ、足トヲゾセシ、行

カマクヲ欲リ」 同、十一三十「言靈ノ、八十ノ衢ニ、夕占問フ、占正ニ告レ、妹ニ逢ハム由」(略解ノ訓) 同、同「…夕卜ニモ、占ニモ告レル、今夜ダニ、來マサヌ君ヲ、何時トカ待タム」古事ノ訓) 又、たそがれ、黃楊ノ櫛ヲ持チテ、辻ニ出デ、道祖神ヲ念ジテ櫛ノ歯ヲ鳴ラシ、ソコニ見エ來ル人ノ語ニテ、吉凶ヲ定ムルコトアリ。クシウラ 續後拾遺集、七、物名、たまつげのくし「サシ櫛モ、ツゲノ齒ナクテ、吾妹子ガ、ゆふけノトヲ、問ヒゾワヅラフ」

ゆふけい (名) [夕景] 日ノクレ方。ユフグレドキ。夕方。夕刻。晩方。晩景。

ゆふけぶり (名) [夕烟] (朝烟ニ對ス) 又、ゆふけむり。夕方ノケブリ。暮方ニタツ烟 暮烟 新古今集、十、羇、「風吹ケバ、室ノ八島ノ、夕けぶり、心ノ空ニ、立チニケルカナ」

ゆふこく (名) [夕刻] 前前條ノ語ニ同ジ、

ゆふごほり (名) [夕氷] (朝氷ニ對ス) 夕ニハレル氷。 夫木抄、十七、氷「松カゲノ、イハノタムケノ、ゆふごほり、タマヲカケタル、幣カトゾ見ル」

ゆふしも (名) [夕霜] 夕方ニ置リ結ブ霜。 萬葉集、十二「夕霜ノ、消ヌベキニケリ、朝戸出デニ、アト踏ミツケテ、人ニ知ラルナ」 堀河百首、冬「ゆふしもノ、ハダレ霜フル、冬ノ夜ハ、鴨ノウハ毛モ、イカニサユラン」

ゆふざ (名) [夕座] (朝座ニ對ス) 法華八講ナドノ論講ニ、夕方ノ講座。ほっけはっこうゑ(法華八講會)ノ條ヲモ見ヨ。 御堂關白記、長保六年五月廿二日「朝座、云云、御誦了、西對就レ座、入レ夜、夕座了」

ゆふざくら (名) [夕櫻] 夕方ノサクラ。又、暮方ニ眺ムル櫻花。 一茶句集、春「人聲ニ、ホ、トシタヤラ、夕櫻」

ゆふさらず (副) 夕不去 「夕ベヲ去ラズ」ノ約。夕ゴトニ。毎夕。ゆふさらず(夕不去)ノ條ヲ見ヨ。

ゆふさり (名) [夕去] 訛シテ、ゆさり。ユフサルコト。夕ベニナルコト。又、ソノ時分。ユフガタ。クレガタ。 字鏡「晡、申時、由不佐利」 伊勢物語、第六十九段「…二日ト云フ夜、ゆふさりハ歸リツツ」 古今集、八、離別「ゆふさりツ方、歸リナントシケル時」

ゆふさる ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [夕去] (去ハ來ルノ義、さる(去、第二語)ノ條ヲ見ヨ) 夕、來ル。夕ベニナル。 古今集、六、冬「夕されバ、衣手寒シ、三芳野ノ、芳野ノ山ニ、深雪降ルラシ」 金葉集、三、秋「夕されバ、門田ノ稲葉、オトヅレテ、蘆ノ丸屋ニ、秋風ゾ吹ク」 萬葉集、十七「夕さればミヤマヲ去ラズ…來レバ、ミユキ降ル」

ゆふさりつかた (名) [夕去方] 夕去ノ時分。夕暮ノ頃。ゆふさり(夕去)ノ條ヲ見ヨ。 宇津保物語、國讓、中「ソノヒノゆふさりつかた、梨壺モ、トブラヒ聞エ給ハントテ」

ゆふされ (名) [夕去] ゆふさり(夕去)ノ轉。其條ヲ見ヨ。 備中守定綱朝臣家歌合、治暦三年三月十五日「朝マダキ、フル秋霧ニ、ゆふされノ、春ノ霞ハ、立チマサリケリ」

ゆふされば (副) 夕ベニナレバ。夕ハ來レバ。 古事記、中(神武)「畝傍山、晝ハ雲ト居、由布佐禮婆、風吹カムトゾ、木ノ葉サヤゲル」

ゆふしぐれ (名) [夕時雨] (一)夕方ニ降ル時雨。 新敕撰集、十六、雜、一「紅葉バノ、散リカヒクモル、夕時雨、イヅレカ道ト、秋ノユクラン」 (二)名香ノ名。ぢん(沈)ノ一種。

ゆふしで (名) [木綿四手] 木綿ヲ四手トセルモノ。しで(四手)ノ條ヲ見

[illegible]

[illegible] 歌、坊落髪モ無ク)」

ゆふしほ (名) 夕潮 夕方ニ、[illegible]

ゆふしも (名) 夕霜 [illegible] 方ニフル霜。新古今集、十、羇旅「都ニモ、今ヤ衣ヲ、ウツノ山、夕霜ハラフ、ツタノ下ミチ」

ゆふすず (名) 夕涼 夕方ノスズシサ。[illegible] 涼「ケケラナク、鳥ハタタチヌ、夕すずノ、ムクロ葉カゲゾ、ソゾロ風吹キ」

ゆふすずみ (名) 夕涼 夏ノ夕方ニ、外ニ[illegible]涼ムコト。夕方ノ納涼。晩涼。拾遺集、上「夕すずみ、大江ノ山ノ、タマカヅラ、秋ヲカケタル、風ゾコボルル」

ゆふすずめ (名) 夕雀 (一)夕方ノスズメ。[illegible] (二)[illegible]ノ名。[illegible]」

ゆふすみびと (名) 神楽ノ[illegible]ヲ云フ。宵ハゆふすみびとト云ヒ、夜更ケテハ、小夜すみ人ト云フ。(古歌[illegible]、[illegible]ノ說)

ゆふだすき (名) 木綿手繦 木綿襷 木綿ニテ作レル襷。神事ノ時ニ掛クルモノ。[illegible] 云云、ナ離ケソト、我ハ祈レド」 新撰姓氏録、第一[illegible]

ゆふたたみ (名) 木綿畳 木綿ノ布ヲ、[illegible] 日モ君ヲ、カケヌ日ハナシ」

タタムコト。又、ソノタタミタルモノ。[illegible]」

ゆふだたみ (枕) [illegible]木綿ノ布ハ、[illegible]ナレバ云フ、前條ヲ見ヨ」 たむけ、たたかみト云フ語ニ冠ラスル枕詞。萬葉集、六「ゆふたたみ、手向ケノ山ヲ、ケフコエテ、イヅレノ野邊ニ、イホリセム子等」 同、十二「木綿疊、田上山ノ、サナカヅラ、アリサリテシモ、イマナラズトモ」

ゆふだち (名) 夕立 〔ゆふだちの雨ノ略〕 夏ノ夕暮ニ、雲俄ニ起チテ降ル雨。又、天晴レタル時、多ク[illegible]シ。多クハ雷鳴伴フ。コレ空氣中ニ水氣多クシテ、日射ノ強キ時ニ起ル。略シテ、ゆだち。白雨。源、七、紅葉賀「[illegible]ゆふだちシテ、ナゴリ涼シキ宵ノマギレニ、云云」

ゆふだちのあめ (名) 夕立雨 前條ヲ見ヨ。夏、強キ日光ニ因リテ、水蒸氣、昇リ、上部ノ冷カナル空氣ニ冷エテ、急ニ轉倒シテ雨トナリテ降ル。故ニ其前ニ風ヲ生ズト云フ。又、冷カナル空氣ノ、暖キ空氣ニ突入スル場合ニ生ズルコトモアリ。斯ル時ハ、黒雲ノミ[illegible]テ、雨ヲ成サヌコトアリト。萬葉集、十四「[illegible]暮立之、雨降ルゴトニ、春日野ノ、尾花ガ上ノ、白露オモホユ」 夫木抄、廿、山「夕立の、雨シ降レレバ、天ノハラ、イカヅチヤマハ、カキクモリツツ」

ゆふだつ ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) 夕立 〔あけだつ(明立)ノ語原ヲ見ヨ。夕ノ暗キヤウニナリ初ムル意ナリ〕 (一)空、暗クナル。天地暗ク、夕方メク。[illegible]

[illegible]

ゆふたまぐさ (名) 夕玉草 露ノ異名。[illegible]テ、野飼ノ牛ノ、戻リケリ」

ゆふつかた (名) 夕方 ゆふがた(夕方)ニ同ジ。[illegible]」

ゆふづき (名) 夕月 夕暮[illegible]ニ見ユル月。[illegible] ゆふづくよ(夕月夜)ノ條ヲ參見セヨ。萬葉集、十二「足引ノ、山ヲ木高ミ、夕月ヲ、イツカト君ヲ、待ツガ苦シサ」

ゆふづきよ (名) 夕月夜 ゆふづくよ(夕月夜)ニ同ジ。[illegible] 月夜、ユフヅキヨ」

ゆふづく ク・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) 夕付 夕ベニ付ク。夕方ニナル。[illegible] 廿六、常夏「[illegible]夕づけ[illegible]」 同、四十三、竹川「又ノ日、夕づけテ、ココニ參リ給ヘリ」

ゆふづくひ (名) 夕付日 〔夕ベニ近付ク日ノ意〕 夕方ニナル日影。夕日。夕陽。古今集、十[illegible]「[illegible]夕づく日(一本、夜)、サスヤ岡邊ノ、松ノ葉ノ、イツトモワカヌ、戀モスルカナ」 (二)誤リテ、月ノ稱トス。[illegible] 夕附日[illegible]也」

ゆふづくよ (名) 夕月夜 〔唯、夕ノ月ナリ、夜ト云フ語ニ、意ナシト見ル[illegible]〕 [illegible] (月夜ノ[illegible]ヲ見[illegible]) [illegible](曉闇)ノ[illegible]參見セ

[illegible] 陸ニシテ」 萬、十、[illegible]「[illegible]ハナヤカニサシイデタル夕月夜ニ、云云」 金葉集、三、秋「山ノ端ニ、アカデ入リヌル、夕月夜、イツ有明ニ、ナラントスラン」

ゆふづくよ (枕) 夕月夜 〔前條ノ語ヲ見ヨ、夕月夜ハ、ソノ曉ハ闇ナレバ、〕 曉闇ニ、又、影薄キモノナレバ、おぼつかなし、又、暗しニカカル〕 曉、闇、暗シ、入ル、ナドノ語ニ冠ラスル枕詞。[illegible]

ゆふつけ (名) 木綿着 ゆふつけどり(木綿着鳥)ノ略。[illegible] ワカ祭ニ、劣ラヌネヲゾ、ナキテカヘリシ」

ゆふつけどり (名) 木綿着鳥 鶏ノ異名。古ヘ、世ノ中ニ騒亂アル時、[illegible]、鶏ニ木綿ヲ着ケテ、[illegible]ニ至リテ、祭ラセラルト云フ。ゆふつけのとり。略シテ、ゆふつけ。又、訛シテ、ゆふつげどり。八雲御抄、三、下、鶏「ゆふつけどり、付ニ木綿(相坂ニ祓故也)」 古今集、十四、戀、四「アフ坂ノ、ゆふつけ鳥ニ、アラバコソ、君ガユキキヲ、ナクナクモ見メ」 新古今集、十八、雑、下「曉ノ、[illegible]」

ゆふつげどり (名) [illegible] 前條ノ語ノ訛。

ゆふつけのとり (名) 木綿着鳥 前條ニ同ジ。[illegible] アケヌレバ、アカヌ別レト、我レゾナリヌル」

ゆふづつ (名) 〔長庚・夕星〕 〔夕箇ノ義、夕ノ日ニ、ツヅキテ出ヅル故ニ云フ。連濁ニ因リテ、濁音ヲ轉倒ス〕 太白星、即チ、金星ヲ、暮天ニ稱スル語。宵ノ明星。倭名抄、一「景宿類、長庚、太白星、一名、長庚、暮見於西方、爲長庚、〔由不豆〕」 詩經、小雅、小旻之什、大東「東有啓明、西有長庚」毛傳「日既入、謂明星爲長庚」 萬葉集、十「夕星モ、通フ天路ヲ、何時マテカ、仰ギテ待タム、月人男」

ゆふづつの (枕) 〔長庚之・夕星之〕 〔金星ノ夕ニ見ユルヲ、長庚ト云ヒ、朝ニ見ユルヲ、啓明ト云フ、東ニ見エ、又、西ニ見ユルヨリ云フ〕 か行きかく行き、又ハ、夕ト云フ語ニ冠ラスル枕詞。萬葉集、二 三十長歌「夕星之、彼往キ此去キ、大船ノ、タユタフ見レバ」 同、五 九長歌「夕星乃(古義ノ訓)、タベニナレバ、イザネヨト、手ヲタヅサハリ」

ゆふつゆ (名) 〔夕露〕 ユフベノツユ。暮方ニオク露。萬葉集、十 九十「秋芽子ノ、咲キ散ル野邊ノ、暮露ニ、沾レツツ來マセ、夜ハフケヌトモ」

ゆふと (名) 〔夕戸〕 夕方ニトヅル戸。あさど(朝戸)ノ條ヲ見ヨ。

ゆふとがり (名) 〔夕鳥狩〕 〔朝鳥狩ニ對ス〕 夕方ニスル鳥狩。倭訓栞、ゆふとかり「夕鳥狩ノ義、朝鳥狩ニムカヘテイヘリ」

ゆふとどろき (名) 〔夕轟〕 〔とどろきトハ、車ノ圓轉スル意〕 (一)夕方、物音ナドノ轟キ騷グコト。又、ソノ物音。新六帖、一、ゆふべ「カヘルサノ、家路ニ急グ、道ニ出デテ、ゆふとどろきノ、民ノ聲カナ」 (二)戀情ナドノタメニ、暮方、胸ノサワグコトト云フ。堀河百首、戀「暮ヒヌル、戀ノ奴ノ、旅ニテモ、身ノクセナレヤ、夕とどろきハ」

ゆふな (名) 〔夕菜〕 夕ニ食スル魚菜。あさな(朝菜)ノ條ヲモ見ヨ。

ゆふなぎ (名) 〔夕凪〕 あさなぎ(朝和)ノ條ヲ見ヨ。萬葉集、十五 廿「月ヨミノ、光リヲ清ミ、由布奈藝ニ、カコノ聲ヨビ、浦ミ漕グカモ」(古義ノ訓) 夫木抄、十七、千鳥「ゆふなぎノ、アシヤノオキノ、シホ風ニ、サソハレテナク、ムラ千鳥カナ」

ゆふなみ (名) 〔夕波〕 夕方ニ立ツ波。萬葉集、六 四十長歌「ミヌメノ浦ハ、朝風ニ、浦浪サワギ、夕浪ニ、玉藻ハ來ヨル、白沙、清キ濱ベハ」

ゆふなみちどり (名) 〔夕波千鳥〕 夕波ニウカベル千鳥。又、夕波ニ飛ビ立ツ千鳥。萬葉集、三 廿八「淡海ノミ、夕浪千鳥、ナガ鳴ケバ、ココロモシヌニ、古ヘオモホユ」

ゆふにじ (名) 〔夕虹〕 あさにじ(朝虹)ノ條ヲ見ヨ。好色一代男(貞享、西鶴)一「マコトニ時雨モハレテ、夕虹消エカカルベカリノ御言葉、數數ニシテ、云云」

ゆふには (名) 〔夕庭〕 あさには(朝庭)ノ條ヲ見ヨ。萬葉集、十七 廿長歌「朝庭ニ、出デタチナラシ、暮庭ニ、蹈ミタヒラゲズ」

ゆぶね (名) 〔湯船・湯槽〕 (一)浴スル湯ヲ沸シ湛フル大ナル匣。浴槽 浴斛 倭名抄、十四 三十 澡浴具「浴斛、由布禰」 名義抄「沐槽、ユブネ」 (二)昔、船内ニ浴場ヲ設ケ、料金ヲ取リテ入浴セシメタルモノ。骨董集(文化、京傳)、上、行水船居風呂船「小舟ニ居風呂ヲコシラヘ、銚ヲオロシタル大船ノアタリヲ漕アリキ、一人ニ錢ノ極メ、云云、行水船ヨリオモヒツキテ、居風呂船ヲコシラヘ、居風呂船ヨリ、今ノ湯船トイフモノ、出テキシナルベシ」

ゆふばえ (名) 〔夕映〕 夕日ノ光ニ映ユルコト。又、花ナドノ、夕日ニ映ジテ、色、一層、映ユルコト。源、四、夕顔 廿五「夕ばへヲ見カハシテ、女モカカルアリサマヲ、思ヒノホカニ、アヤシキ心チハシナガラ、ヨロヅノナゲキワスレテ、云云」 玉葉集、二、春、下「雲ニウツル、日影ノ色モ、薄クナリヌ、花ノ光ノ、ゆふばえノ空」

ゆふはた (名) 〔結機〕 又、ゆはた。しぼりぞめ(絞染)ニ同ジ。萬葉集、十六 七長歌「頸著ノ、童子ガ身ニハ、結幡ノ、袂著衣、キシ我レヲ」

ゆふばな (名) 〔木綿花〕 木綿ニテ作リタル花。古ヘ、專ラ玩弄トセシモノナラム。又、婦人ノ頭ノ裝飾トモセリ。後ノ削花ハ、此遺風ナリ。又、白木綿花。萬葉集、六「初瀬女ノ、ツクル木綿花、三吉野ノ、瀧ノミナワニ、サキニケラズヤ」同、同十「山高ミ、白木綿花ニ、落チタギツ、瀧ノ河内ハ、見レド飽カヌカモ」

ゆふばなの (枕) 〔木綿花乃〕 木綿ノ美シク榮ユルヨリ、榮ゆ、ト云フ語ニ冠ラスル枕詞。萬葉集、二 二十五長歌「萬代ニ、シカシモアラムト、木綿花乃、榮ユル時ニ、吾大王、ミコノ御門ヲ、神宮ニ、ヨソヒ奉リテ」

ゆふはん (名) 〔夕飯〕 ゆふめし(夕飯)ニ同ジ。書言字考節用集、六、服食門「夕飯、ユフケ、ユフハン」

ゆふはやま (名) 夕ベノ山。(連歌ノ書ニ) 倭訓栞、ゆふばやま「唯夕ノ山ヲイフト說ハ非ズ、必地名ナルベシ、或ハ豐後ニ在トイフ、ゆふは川モ同所ニ在トイフ」(壬二集、上「ゆふは山、谷ノ梢ニ、宿カリテ、雲モ立ツナリ、明ボノノ空」)

ゆふばる ル・レ・フ・リ・レ (自動、四) 〔夕張〕 夕暮ニ、風ナドノ、モノニ滿チ張ルコト。散木集、六、悲歎「走リケルニ、風ゆふばりテ、帆柱折レナドシテ、サワギケルヲ見テヨメル」

ゆふばれ (名) 〔夕晴〕 夕暮ニ、中空ノハルルコト。芭蕉句集「夕晴ヤ、櫻ニ涼ム、浪ノ花」

ゆふひ (名) 〔夕日〕 夕方ノ日影。夕暮方ノ太陽。入日。夕陽 晩陽 夕暉 晩暉 夕曛 字鏡抄「夜陽、ユフヒ」 古事記、下、雄略「マキムクノ、ヒシロノ宮ハ、云云、由布比ノ、日陰ル宮」 萬葉集、十二 廿七「春日野ニ、テレル暮日ノ、ヨソニノミ、君ヲアヒミテ、今ゾ悔シキ」

ゆふひがくれ (名) 〔夕日隱〕 夕日影ノ、タラヌコト。又、ソノトコロ。玉葉集、四、秋、上「暮レヌトヤ、片山陰ノ、キリギリス、夕日がくれノ、露ニ鳴クラン」

ゆふひかげ (名) 〔夕日影〕 夕日ノ光リ。續後撰集、四、夏「里トホキ、田中ノ杜ノ、夕日影、ウツリモアヘズ、トルサナヘカナ」

ゆふひがひ (名) 〔夕日貝〕 貝ノ一種。あさひがひ(朝日貝)ノ條ヲ見ヨ。

ゆふビクニ (名) 〔夕比丘尼〕 夕暮ニ、賣淫ノタメニ出ヅル比丘尼。誹諧家奇人談「名月ヤ、礼ナキ里ヘ、夕比丘尼」

ゆふべ (名) 〔夕方ノ義〕 夕ニナラムトスル頃。暮方。ユフガタ。タソガレ。ヨフベ。(昨夜ヲ云フハ、ゆうべナリ、其條ヲ見ヨ) 名義抄「暝、ユフベ、昏、ユフベ、昏暮、ユフベ、夕、ユフベ、ヨヒ」 天治字鏡、一 六「暝、日沒之見也、暮也、由不戸」 萬葉集、十二 一「夕、吾レ立チ待ツニ、モシクモ、君來マサズバ、苦シカルベシ」(略解ノ訓) 同、十四 三十五「葦ノ葉ニ、夕霧タチテ、鴨ガネノ、寒キ由布敝シ、ナヲバシヌバム」

ゆふまぐれ (名) 〔夕間暮〕 〔まぐれハ目暗ニテ、目ノクレフタガリテ、物ノ見エヌ比ヲ云フ〕 ゆふぐれ(夕暮)ト云フニ同ジ。名義抄「黄昏、ユフマクレ、ユフクレ」 源、五、若紫 卅「夕まぐれ、ホノカニ花ノ、色ヲ見テ、今朝ハカスミノ、立チゾワヅラフ」

ゆふまし (名) 〔夕〕 ユフベ。ユフグレ。

散木集、二、夏「小篠崎、ヌタノネヌナハ、フミシダキ、日モゆふましニ、カハヅ鳴クナリ」

〜ゆふまどひ（名）［夕惑］〔惑ト書ケド、先ヅ寝ノ轉ナルベシ、（たづたづ、たどたど、たづき、たどき、ねづけなし、ねどけたし、ノ類）コレヨリ移リテ、朝眠ルヲ、朝まどひト云フ語、起レリ〕夕方ヨリマドロムコト。夜ヨリ早ク眠ルコト。又、老人ノ[illegible]コト。[illegible]ウマドヒ。謡、六、末摘花「メノトダツ老人ナドハ、曹司ニ入リフシテ、ゆふまどひシタル程ナリ」[illegible]サメ起キテ、今宵ヲ名月ニヤト思ヒ出テ」

ゆふみけ（名）［夕御饌］夕ベニ聞シ召ス御食事。みけ、御饌ノ條ヲ見ヨ。

ゆふみや（名）［夕宮］〔朝宮ニ對ス〕夕方ノ宮内ノ御事。あさみや（朝宮）ノ條ヲ見ヨ。

ゆふめし（名）夕飯　ユフケ。夕方ノ食事。〔[illegible]ハ朝飯ニ對ス〕二食ノ條、見合ハスベシ）晩餐　飾　醒睡笑（元和、安樂庵策傳）八「来ヌ人ヲ、マツ井ノ浦ノ、夕飯ニ、焼キ鹽鯛ノ、身ヲ焦シツツ」

ゆふやくし（名）［夕藥師］又、よひやくし。あさくわんおん（朝觀音）ノ條ヲ見ヨ。

ゆふやけ（名）［夕焼］日沒ノ空ニ、赤ク焼クルガ如ク見ユル霞　夕照　晩霞　日出ノ空ニ起ルヲ朝焼ト云フ。朝霞　曙霞　[illegible]、夕やけヤ、カラ紅ニ、露ングレ」

ゆふやま（名）［夕山］あさやま（朝山）ノ條ヲ見ヨ　[illegible]、四、秋、上「[illegible]レシカモ、雲居遙カニ、響クニノ、夕山出ヅル、月ヲミルラン」

ゆふやまおろし（名）［夕山颪］夕方、山ヨリ吹キオロス風。夫木抄、十八、雪「[illegible]サムキ、夕山颪、フキオチテ、コヨヒハ雪ニ、見ユル空カナ」

ゆうやまかげ（名）［夕山陰］夕山ノ陰ニナリタル所。夕ガタノ山カゲ。玉葉集、三、夏「[illegible]ノ音ニ、スズシキ聲ヲ、アハスナリ、ゆふ山陰ノ、谷ノ下水」

ゆふやまかぜ（名）［夕山風］夕山ノ風。夕ガタノ山風。[illegible]、八、[illegible]、ゆふ山風ノ[illegible]レバ、コヨヒハサラニ、ネンカタモナシ」

〜ゆふやみ（名）［夕闇］〔暁闇ニ對ス〕宵ノ間ニ、月ノ未ダ上ラズ闇ノ間。又、ソノ時。[illegible]ヒヤミ。萬葉集、四「夕闇ハ、道タヅタヅシ、月待ナテ、イマセ我ガセコ、其ノ間ニモ見ム」

ゆぶゆぶと（副）[illegible]　脹レ上リタル狀ニ云フ語。（水氣ナドニテ）ブクブクト。今昔物語、[illegible]ゆぶゆぶとハレタル者」宇治拾遺、十三、第一條「人モスマヌウキノ、ゆぶゆぶとシタル、一町バカリナルウキアリ」

ゆぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［搖］ユスリウゴカス。ユスル。ユスブル　三十二番職人盡歌合、猿曳「花ノ咲ク、カゲニハ寄セジ、ヒク猿ノ、枝ヲゆぶらバ、散リモコソスレ」

ゆぶろ（名）［湯風呂］（一）浴スル湯ヲ沸カス風呂。又、ソノ湯ニ浴スルコト。（二）むしぶろ（蒸風呂）ニ同ジ。

ゆふわたり（名）［夕渡］夕暮ニ、川ナドヲ越エ渡ルコト。新六帖、二、もり「イヅミ川、タわたりシテ、山城ノ、ハハソノ森ニ、宿ヤカラマシ」

ゆべし（名）柚餅子［柚味ノ義］菓子ノ[illegible]味噌、米粉、麺粉、砂糖、ヲ[illegible]ゼテ、柚子ノ汁ヲ加ヘ、固ク搏ネテ蒸シタルモノ。柚餅　御湯殿の上の日記、慶長十二年正月八日「女院ノ御所ヨリ、ゆべしアサアサマキル」料理物語、「[illegible]ゆべしノ仕様、[illegible]ノゴトク[illegible]ヲキリ、實ヲステ、味噌、生姜、胡椒ナド、ヨクスリ[illegible]」

〜ゆほびかなり[illegible]上﨟ノ物事、ハシタナカラズ、奥ユカシキモノナレバ云フ、にほひかなト讀ム[illegible]ノ立ツラン」源、五、若紫「何ノイタリ深キ隈ハナケレド、只海ノオモテヲ見ワタシタル程ナン、アヤシクコト所ニニズ、ゆほびかなる所ニ侍ル」

〜ゆまうで（名）[illegible]　湯詣　湯治　[illegible]料トテ、通り給フ」

ゆまき（名）［湯巻］（一）〔又、いまき。古ヘ、衣ノ上ノ腰ニ卷ク布。湯ヲ[illegible]助クルニ、湯ノカカリテ濡ルルヲ防グモノ[illegible]スケノオトト、[illegible]ズシノ[illegible]、ゆまき[illegible]ニマキル」（乳子ニ[illegible]ミセサスルニ）同、藏開、上、十八「綾ノゆまき御湯槽ノ底ニモ敷キ」紫式部日記「御湯殿ハ宰相ノ君、御ムカヘユ、大納言ノ君、ゆまき姿トモノ例ナラズ、サマコトニヲカシゲナリ」（二）形ノ似タルヨリシテ、女ノ腰帶。ユモジ。（貞享ノ頃マデハ、浴スルニ用キシトゾ）（三）轉ジテ、女褌。

〜ゆまは・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［齋］〔齋イまふ、ノ延、まはるハ、取リマカナフ意〕潔キコトヲ、忌ミ避ケ、[illegible]ム[illegible]

〜ゆま・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［齋］〔前條ノ語原ヲ見ヨ〕モノイミス。齋戒ス。

〜ゆまま・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（自動、下二）[illegible]

ゆまり[illegible]條ヲ見ヨ］轉ジテ、ユバリ。今、小便。イバリ。ゆばり（尿）ノ條ヲモ見ヨ。

〜ゆみ[illegible]ゆめ（夢）ノ訛語。東國ノ[illegible]ノミニ、サネカワタラム、長ケ此ノ世ヲ」（古今ノ[illegible]）

ゆみ（名）［忌］いみ（忌）ノ訛。

ゆみ（名）［弓］〔ゆハ射ト通ズ、射ル物ノ意ト云フ〕（一）〔武器。矢ヲ射遣ルモノ。古ヘハ、槻、梓、ナドノ幹ヲ用ヰル（丸弓）。後世ハ、多クハ、眞竹ヲ割キタル[illegible]ノ材ヲ心トシテ[illegible]ニテ卷ク（伏竹）。長サハ、弓丈ニテ、七尺五寸ナルヲ法トス。（其持主ノ手ノ寸法ニテ、大弓ノ長サ七尺五寸）コレヲ押シ曲ゲ、[illegible]弦ヲ掛ケ、[illegible]、張リ、放ツ、[illegible]リ。弓トモ云フ。其半ナルニ、半弓ナドアリ。倭名抄、十三征戰具「弓、由美」萬葉集、十四[illegible]

〜ゆみかけ（名）［弽］〔弓懸ノ義〕ゆがけ（弓懸）[illegible]

ゆみがた（名）［弓形］圓ノ弧ト弦トニテ[illegible]

開ミタル形。ユミナリ。キュウケイ。

ゆみがへし (名) 弓返 弓射ルトキ、矢ヲ放チテ後、弓ヲ翻シテ、弦ヲ左ノ手ノ外ガハヘ、跳ネ返スルコト。ゆがへし。 高忠聞書「弓返しノハ、大事ノ物射ルニハ、セヌナリ、ソノ故ハ、射ハヅサバ、ヤガテ二ノ矢ヲツガハンタメナリ、弓返しヲシテハ、遅クツガハルルナリ」

ゆみがへり (名) 弓返 又、ゆがへり。弓射ルトキ、矢ヲ放チテ後、弓ノ翻リテ、弦ノ、左ノ肘ヲ、撃ツヤウニナルコト。(禮射ニノミ、軍陣ニハセズ)

ゆみぐみ (名) 弓組 弓ノ兵器ヲ持ツ侍ノ組。弓矢ニテ戰フ部隊。弓手。

ゆみし (名) 弓師 弓ヲ造ルヲ業トスル工人。ユミツクリ。弓人 弓工 人倫訓蒙圖彙、六、職之部「弓師、云云、寺町松原ヨリ下ニアリ、ユカケ同所也」

ゆみそ (名) 柚味噌 味噌ニ、柚子ノ汁ヲ和シテ、砂糖、胡麻、ナドヲ加ヘ、煮テ擂リ雜ゼタルモノ。柚子ノ瓤ヲ去リテ、盌トシタルニ盛ル。ゆだみそ。 易林節用集(慶長)下、食服門「柚味噌、ユミソ」

ゆみだけ (名) 弓丈 又、音便ニ、ゆんだけ。弓ノ長サノコト。即チ、普通ハ七尺三寸、或ハ、七尺五寸ナリ。ゆみ(弓)ノ條ヲモ見ヨ。 夫木抄、廿、山「弓丈ノ、數モ及バヌ、山中ニ、ハルバルヒトリ、妹戀ヒメヤモ」

ゆみだふし (名) 弓倒 矢ヲ射放チタルノチ、弓ヲ伏スルコト。太平記、十二、聖廟御事「番ノ逢手ニ立合テ、雪ノ如キ肩ヲ押袒キ、打チ上ゲテ、引下ヲリ、暫クシヲリテ、堅メタル體、切ッテ放シタル矢色、弦音、弓倒し、五善、イヅレモ[illegible]ク勢ヒアリテ、云云」

ゆみだめ (名) 弓矯 弓材ノ邪曲セルヲ揉メ直ス器。ゆだめ。檃括 倭名抄、十三八弓釧具「檠、(又ハ撓)、由美太米、所以正弓弩也」

ゆみたらう (名) 弓太郎 (一)昔、弓場始ノ時、射手ノ頭ノ稱。又、賭弓ナドニ、弓ノ支配ヲスルモノ。 齋藤親基日記、文正二年正月十七日「御弓場始、ゆたらふ(弓太郎也)、小笠原美濃刑部大輔」 (二)射場ニテ、第一番ニ出ヅル射手。 高忠聞書「御的ノ射手ノサジキノ上リ下リノ事、一番弓太郎、其次三ドメノマヘ弓、其後弓太郎ノ後」

ゆみづ (名) 湯水 (一)湯ト、水ト。 榮花物語、一、月宴「ノ御子ノ母女御ノ、湯水ヲダニモ参ラデ」 (二)惜氣モナク粗末ニスルニ云フ語。 浮世風呂(文化、三馬)四編、上「無益ノコトニ、パッパト湯水ノ様ニツカッテハ、云云」

ゆみづか (名) 弓束 〔弓欛ノ義〕弓ヲ射ル時、握リ持ツ所。今、ゆづか。ニギリガハ。ニギリ。 倭名抄、十三七征戰具「弣、由美都加」 天治字鏡、十二八「弓杷、弓豆加」

ゆみつくり (名) 弓造 ゆみし(弓師)ニ同ジ。 七十一番職人盡歌合、上、十六番、弓つくり「此ユミハ、ツルヲキラハンズルゾ、ニヘオリ、大事ナルベキ」

ゆみづる (名) 弓弦 又、ゆづる。略シテ、つる。弓ニ張ル絲。麻ニテ縒リ作リ、藥煉ヲ塗リテ用キル。ユミノツル。ツラヲ。ツラ。ヲ。 倭名抄、十三八弓釧具「弦、由美都流」 雄略紀、廿三年八月「弓弦」

ゆみづるうち (名) 弓弦打 つるうち(弦打)ノ條ヲ見ヨ。 雄略紀、廿三年八月「合戰而射、蝦夷等、或踊或伏、能避脱箭、終不可射、是以、田代空彈弓弦於海濱上」

ゆみづるぶくろ (名) 弦袋 つるまき(弦巻)ニ同ジ。ツルマキ。 倭名抄、十三八弓釧具「弦袋、由美都流布久路」

ゆみづゑ (名) 弓杖 ゆんづゑ(弓杖)ノ條ヲ見ヨ。 榮花物語、十七、音樂「[illegible]キ衣ノ(一本、ドモ、アリ)イデ来テ、ゆみづゑツキテ、タダウナニウヘバ」古本

ゆみどこ (名) 弓床 多ク、射手ガ、弓ヲ射ムトシテ、隙モナク立チ並ブヲ、床ニ見立テテ云フ語。ユミブスマ。やりぶすま(槍衾)ノ條ヲ參見セヨ。

ゆみとり (名) 弓取 (一)弓ヲ執リ持ツコト。又、ソノモノ。特ニ武夫ノ稱。 ユミトリ 吾妻鏡、四、元暦二年八月廿四日「仍下、日本無雙之弓取也」 (二)勝レタル射手。 盛衰記、四十二、屋島合戰事「播磨一人、弓取一人、打物一人、已上三人、小船ニ乗リ」 (三)相撲ニテ、興行千秋樂ノ日、勝大關ニ代リ、土俵上ニテ、型ニ隨ヒテ弓ヲフル力士。ソノ式ヲ、弓取の式ト云フ。

ゆみならし (名) 弓鳴 めいげん(鳴弦)ニ同ジ。 枕草子、三、第廿八段「瀧口ノゆみならし、クツノオト、ソソメキイヅルニ」

ゆみなり (名) 弓形 ゆみがた(弓形)ニ同ジ。

ゆみば (名) 弓場 ゆば(弓場)ニ同ジ。 爲忠家後度百首、射場始「ママキ射ル、大宮人ハ、今日ヤサハ、冬ノゆみ場ニ、立チハジムラン」

ゆみはじめ (名) 弓始 ゆばはじめ(弓場始)ニ同ジ。

ゆみはず (名) 弓筈 ゆはず(弓筈)ニ同ジ。 倭名抄、十三、征戰具「釋名云、弓末日簫、由美波數」 天治字鏡、十二八「弭、弓波受」 崇神紀、十二年九月「弭調」

ゆみばどの (名) 射殿 ゆばどの(弓場殿)ニ同ジ。 [illegible]

ゆみはり (名) 弓張 (一)弓ヲ張ルコト。又、ソノモノ。ゆはり。 (二)ゆみはりづき(弓張月)ノ略。 倭名抄、[illegible]月、[illegible]八月」 (三)次條ノ語ノ略。

ゆみはりぢやうちん (名) 弓張提燈 提燈ノ一種ノ製ニ、弓ト云ヘル曲リタル竹ヲ以テ、上下ヲ張リ懸ケテ、張リ用キルモノ。ソモトハ馬上提燈ニ起ルカ。略シテ、ゆみはり。 [illegible](享保)一、提灯類「馬ぢやうちん、[illegible]ノ弓ヲカクル」

ゆみはりづき (名) 弓張月 〔釋名「弦、半月之名也、其形、一旁曲、一旁直、若張弓施弦也」〕略シテ、ゆみはり。又、ゆはり。月ノ光ノ、一邊ハ曲リ、一邊ハ直クシテ、弓ニ弦ヲ張レル如キ形ニ見ユル頃ノ稱。半月。弦月。朔(新月)ヨリ望(滿月)ニ至ル間ナルヲ、上の弓張(上弦)ト云フ、陰暦、七、八、九日ノ頃ナリ。望ヨリ晦ニ至ル間ナルヲ、下の弓張(下弦)ト云フ、二十二、三、四日ノ頃ナリ。 平家物語、四、鵺「名ヲモ雲居ニ、アグルカナ、云云、弓張月ノ、イルニマカセテ」 七十一番職人盡歌合、上、十六番、弓つくり「引ハヘテ、永キ夜ナガラ、ナカメバヤ、影モ白木ノ、弓張の月」

ゆみぶくろ (名) 弓袋 ゆぶくろ(弓袋)ニ同ジ。 倭名抄、十三八弓釧具「韔、由美布久路、弓衣也」 字鏡七十「韔、弓衣、弓不久呂」

ゆみぶすま (名) 弓衾 ゆみどこ(弓床)、及、やりぶすま(槍衾)ノ條ヲ見ヨ。

ゆみや (名) 弓矢 (一)弓ト、矢ト。 神代紀、下廿「兄還弓矢而責己鉤」 (二)武器。

[illegible]弓矢ノ[illegible]武[illegible] [illegible]云」(四)イクサ。タタカヒ。弓戰 [illegible] [illegible]レ、云云」弓矢の神トハ、軍ノ神。弓矢の[illegible]顯昔、八百萬代ヲ治ムナル、弓矢の道コソ久シケレ」弓箭取ル身トハ、モノノフ。武人。武[illegible]先陣勤メヨト直ニ仰セタヒタレバ、多クノ人ノ中ニ[illegible]

ゆみやがみ (名) [弓矢神] イクサノ神。武[illegible]いノさ[illegible](軍神)ノ代ヲ見ヨ。

ゆみやとり (名) [弓矢取] ユミトリ。モノノフ。武士。又、好キ武士。武夫 盛[illegible]

ゆみやはちまん (名) [弓矢八幡] (軍神[illegible]八幡[illegible]御前[illegible]弓矢[illegible]誓フ意」(一)略シテ、八幡。弓矢八幡(ヒャクライ)ニ誓フコト。(誓約ノ時ニ云フ語)白癩。[illegible]

ゆみを(ユミヲ) (名) [弓男] ゆみとり(弓取)ノ條ノ(一)ニ同ジ。萬葉集、九九「紀ノ關ノ、ムカシ弓雄(ユミヲ)ノ、鳴矢(ナリヤ)(古義ハ、かぶらト訓メリ)モテ、鹿トリ[illegible]

ナメシ、坂上ニゾアル」(略解ノ[illegible])

ゆんぜい (名) [弓勢] (ゆみぜいノ音便) 弓ヲ引キ張ル力。弓射ル力ノ強サ。弓[illegible]ノハ、イカ計有ナン」

ゆんだけ (名) [弓丈] (ゆみだけノ音便) 又、ゆだけ。ユンツエ。ユツエ。ユミツエ。[illegible]弓ノ長サ[illegible]テ、[illegible]凡ソ己レガ大指ト人差指トヲ張リタルヲ五寸ト定メテ、七尺五寸ヲ弓丈ノ法トス[illegible]詰膝不(ユン)ル[illegible]懸切テ落シ、弓だけ三枚計投タリケル」

ゆんづゑ(ユンヅヱ) (名) [弓杖] (ゆみづゑノ音便) (一)[illegible]杖トシテ[illegible]ルコト[illegible]ゆみづゑ。ゆづゑ[illegible]イテ馬ノ息ヲツガセ給フ處ニ、云云」(二)前條ノ語ニ同ジ。弓場ノ距離ナド度ルニ、一杖、二杖ナド數フ 太平記、三十、住吉松折[illegible]敵ノ打太刀ニ[illegible]テ、弓杖三杖計ゾ飛ダリケル」

ゆんで (名) [弓手] (ゆみでノ音便) (一)弓ヲ持ツ方ノ手、卽チ、左ノ手ノ稱。左手。右手ニハ手綱ヲ持ツ、因リテ、右ヲ馬手ト云フ。保元物語、一、新院御所各門門固[illegible]白河殿攻落事「爲朝是ヲ弓手ニ相請ケテ、ハタト射ル」[illegible]方。左。保元物語、二、白河殿攻落事[illegible]「宅藤九郎ニ弓手ノ太股ヲ射サセ、云云」

ゆんべ (名) よんべノ訛。よべ。[昨夜]

ゆめ (名) [夢] (寢目(イメ)、又ハ、寢見(イミ)、ノ轉ト云フ) (一)古言、いめ。睡レル中ノ物[illegible]

[illegible]古今集、十二、戀、二「[illegible]ヲノミ、思ヒ寢ニ寢シ、ゆめナレバ、我ガ心カラ、見ツルナリケリ」(二)夢ノ如ク、ハカナキコト。傳說ニ、[illegible]ノ世ニ、人ノツラサヲ、見ルゾ悲シキ」

ゆめ (動) [齋] (齋め(齋む、ノ命令形)ノ[illegible]ル[illegible]ヲ定メテアリ、旅行不在中ナドハ、ソレニ手モ觸レズ、愼ミオキシナリ)

ゆめ (副) [努力] (齋め(齋む、ノ命令形)ノ轉音。類聚名義抄「努力、用心也」) 強ク禁止スル意ニ云フ語。[illegible]テ、何ニテモ、[illegible]ル。愼ミ[illegible]テ[illegible]「努力(ユメ)[illegible]」[illegible]ド、今見レバ、山ナツカシモ、風吹クナ努(ユメ)」同、三十[illegible]「[illegible]立莫勤(タツナユメ)」「努力疑フコト勿レ」努力ナ忘リソ」

ゆめ (副) [些] 少シ。イササカ。些(スコ)シ。落窪物語、一「タキモノハ、コノ御袋ミニ賜ハセタリシヲ、ゆめバカリ包ミすキテ作リ[illegible]、云云」榮花物語、四、「見果ぬ夢「此中將ノ君、夢ニ思ボシタラズ」

ゆめあはせ(ユメアワセ) (名) [夢合] (いめあはせノ轉) ゆめはんじ(夢判)ニ同ジ。相夢[illegible](保元、近松作)[illegible]夢判ジナドトハ、カンナギ、陰陽師ノ渡世」

ゆめいささか (副) [夢聊] イササカ。ハツカニ。スコシモ。毫モ。露ホドモ。

ゆめうつつ (名) [夢現] 夢ト、現ト。マボロシニテアルカ、ブラハニテアルカ[illegible]又、[illegible]テオボロゲナル[illegible]云フ[illegible] 伊勢物語、第六十九段「カキクラス、心ノ闇ニ、マドヒニキ、ゆめうつつトハ、今宵サダメヨ」

ゆめうら [illegible]コウラナフコト。夢ノ吉凶ノ判斷。

ゆめがたり (名) [夢語] (一)夢ニ見タ[illegible]ノ、ゆめがたりスル」(二)夢ノ裡ニテ相語ラフコト。小町集「ハカナクモ、枕定メズ、明カス[illegible]

ゆめごこち (名) [夢心地] 夢見ルガ如キ[illegible]マデ、滿チヌラン、夢心地ニモ、思ヒ合セヨ」

ゆめさらさら (副) [illegible] イササカモ。毫モ。露ホドモ[illegible]宇津保物語、俊蔭「[illegible]ノへなん見、渦ノヲバはし[illegible]」

ゆめさわがし シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [夢[illegible]][illegible]語、十五、疑「人人モゆめさわがしくキコエサスルニ、ワ[illegible]

ゆめすけ (名) [夢助] (擬人語) 夢中ニナリテ居ルモノ。ウツツモノ。好色一代[illegible]

ゆめぢ(ユメジ) (名) [夢路] 夢ノ中ニ往來スルコト。古今集、十三、戀、三「夢路ニハ、足モヤスメズ、通ヘドモ、ウツツニ一目、見シコトハアラズ」

ゆめちがへ(ユメチガエ) (名) [夢違] 惡夢ヲ見シトキ、マジナヒヲシテ、禍ヲハラフコト。又、夢合シテ、凶ノ夢ヲ吉ニ變フルコト。[illegible]おそ、うれしかりしか、たどすひにつかはしたりけれぞよめる「寐ヌル夜ノ、かべサワガシク、見エシカ

ド、我ちがふれベ、事ナカリケリ」(夢ヲかベト云フ)

ゆめ-つるみ (名) [夢接] 夢ノ中ニ交接(ツル)ムコト。又、夢ノ中ニ精液ヲモラスコト。 神遺ノ、下、由貴ヲ流美」

ゆめ-とき (名) [夢解] 〔いめときノ轉〕 ゆめはんじ(夢判)ニ同ジ。 更級日記「ゆめときモアハセシカドモ、ソノ事ハヒトツ、カナハデヤミヌ」 とりかへばや物語、一「カタカタノオ、陰陽、天文、いめとき、相人ナド云フコトマデ、道々ハメタルザエドモナリケル」(一本)

ゆめ-どの (名) [夢殿] 大和國ノ法隆寺ニアル聖德太子禪定ノ御室。

ゆめ-の-うきはし (名) [夢浮橋] (一)大和國、吉野川ノ名所ナル夢淵(ユメノワダ)(次條ヲ見ヨ)ニ渡セル浮橋。 源氏物語、夢浮橋ノ條ノ河海抄ニ引きたる本歌「世ノ中ハ、夢のわたりノ、浮橋カ、ウチワタシツツ、物ヲコソ思ヘ」(河海抄ニ、上ニ句ハ序ニテ、うちわたすハ向ヲ見渡スナリト) (二)轉ジテ、夢ノ中ノ通路。 夢 狹衣、二、上、四十「タヅネヨリツルゆめのうきはしゾト、現ノ事トダニ思サレズ」 新千載集、十四、戀、四「俤ハ、見シヲ限リノ、トダエニテ、逢フ夜空シキ、夢の浮橋」

ゆめ-の-わた (名) [夢淵] 〔わたハ曲(ワタ)ノ義〕 大和國ノ吉野川ニアル名所ノ名 淵中ニ奇石多シト云フ 萬葉集、三、三十「吾カ行キハ、久ニハアラジ、夢之和太(代匠記、三、注)、淵トハナラズテ、淵トアリトモ」

ゆめ-はんじ (名) [夢判] 見シ夢ノ吉凶ヲ判斷スルコト。又、其人。ユメトキ。ユメアハセ。 相夢 占夢 傾城島原蛙合戰(享保、近松作)一「同ジク拜見シテ、面面ニ工夫ヲ廻ラス夢判じ、凡慮ノ及バヌ所ナリ」

ゆめ-びと (名) [夢人] 夢ニ現ハレタル人。又、夢ノヤウニ現ハレタル人。 謠曲、夕顏「聞クモ氣疎キ物ノ氣ノ、人失ヒシ有樣ヲ、アラハス今ノ夢人ノ、跡ヨク弔ヒ給ヘトヨ」

ゆめ-まくら (名) [夢枕] (一)夢ノ中ニ、神人ノ靈ノ、枕邊ニ現ジテ事ヲ告グルコト。 源氏色葉集「夢枕」 (二)夢見タルトキノ枕。 新千載集、十五、戀「見ルモウシ、アリシ夜床ノ、夢枕、ナカクヤ人ニ、ナキ別レナン」

ゆめ-まぼろし (名) [夢幻] 夢ト、幻ト。モノノ極メテ無常(ハカナキ)コトヲ云フ語。ムゲン。 濱松中納言物語、三「現ニハ、アラヌ事トゾ、待チ見ツル、夢まぼろしカ、カゲロフカ是(コ)ハ」

ゆめ-み (名) [夢見] 〔いめみノ轉〕 夢ヲ見ルコト 源氏色葉集「夢見」 榮花物語、四、見はてぬ夢「粟田殿夢見サワカシウ坐シ、物ノサトシナドスレバニヤ、云云」「夢見ガワルイ」

ゆめみ-ぐさ (名) [夢見草] 櫻ノ一名。 藏玉集、春「夢見草、櫻、植ヱオキテ、タトヘニヤ見ル、夢見草、明日ヲモ知ラヌ、今日ノ命ヲ」

ゆめみ-づき (名) [夢見月] 陰曆、三月ノ一名。 莫傳抄「夢見月、三月、櫻散ル、初瀬ノ山ノ、夢見月、嵐ノ花ノ、雪ノ中宿」

ゆめみ-どり (名) [夢見鳥] 蝶ノ異稱。支那ノ莊周ガ、夢ニ化シテ蝶トナレリト云フ寓言ニ本ヅキテ云フ語。

ゆめ・みる・ミル・ミレ・ミ・ミ・ミヨ(自動、上一) [夢見] 夢ヲ見ル。ユメム 新古今集、十三、戀、三「忘レテモ、人ニ語ルナ、ウタタネノ、夢みテ後モ、長カラヌ夜ヲ」

ゆめ・む・ムル・ムレ・ミ・ミ・ミヨ(自動、上二) [夢見] 〔前條ノ語ノ轉訛〕 前條ノ語ニ同ジ。

ゆめ-ものがたり (名) [夢物語] 夢ノ如キモノガタリ。ハカナキ物語。ユメガタリ。 謠曲、項羽「口惜シカリシ夢物語ゾ哀レナル」

ゆめ-ゆめ (副) [努力努力] 〔ゆめ(努力)ヲ重ネタル語〕 (一)必ズ。キット。是非トモ。 皇極紀、四年六月「投ニ箱中兩劒於佐伯連子麻呂與、葛城稚犬養連網田曰、努力努力、急須應斬」 (二)心シテ。カマヘテ。心ガケテ。決シテ。ツツシミテ。ツトメテ。 ゆめ(努力)ノ條ヲ見ヨ。 皇極紀、四年四月「授其葉曰、愼莫令人見、以此治之病、無不愈」 源、廿、胡蝶「渡ラシ給フナヨ、ゆめゆめ」 狹衣、二、下、廿「カシコニハ、弱紫ノヒトアツツキニナン、ゆめゆめタガヘタマフナトイヒケレバ」

ゆ-もじ (名) [湯文字] (一)ゆぐ(湯具)ノ女房詞。其條ヲ見ヨ。浴衣。 (二)轉ジテ、今、婦人ノ腰ヨリ膝ノ邊(アタリ)マデ、膚ニ纏ヒテ、陰部ヲ掩フモノ。多クハ白綿布ノ二幅(フタノ)ヲ、横ニ縫ヒツリ、紐ヲツケテ用キル。ユマキ。イマキ。イモジ。脚布(キャフ)。コシマキ。フタノ。女褌。 褌

ゆ-もと (名) [湯元] 〔湯許ノ義カ〕 溫泉ノ涌出(ワキイ)ヅル地ノ稱。 傾城反魂香(寶永、近松作)中、「二代目野かげろふ姿ニ、引引ケバ萬能ノ、藥ノ湯元ト聞クカラニ、四百四病ハ消エモセン」

ゆもと-ざいく (名) [湯元細工] 有馬、箱根、ナドノ溫泉ノ湯元ノ地ニ産ズル挽物ナドノ細工品。

ゆ-や (名) [齋屋] 齋戒(モノイミ)スル家。今ノ籠リ堂ノ類カ。 蜻蛉日記、中、中ニ「寺ノ内ニ着キヌ、ゆやニ物ナド敷キタリケレバ、往キテ臥シ、云云、夜行ヒツレバオリヌ、身ヨワケレバゆやニアリ」

ゆ-や (名) [湯屋] (一)浴(ユアミ)スル所。湯殿。風呂場。 湯堂 浴室 倭名抄、十三、調度具、浴室「俗云、由也」 名義抄「浴室、湯室、ユヤ」 沙石集、八、上、第六條「近代ハ湯屋ニトメ湯シテ、女房入參ラセントテ」 (二)今、市中ニ浴場(ユアミバ)ヲ設ケ、錢ヲ受ケテ、諸人ニ浴(ユアミ)セサスル家。錢湯。錢湯風呂屋。風呂屋。 混堂 昔、看版暖簾ニ矢ノ形ヲ畫キシナリ、弓射(ユイル)(湯入)ノ謎ナリト。 本領曾我(寶永、近松作)二「磯ノクロミヲ木賃風呂ノ、ゆやノ[illegible]」

ゆや-ごんげん (名) [熊野權現] 又、熊野三山。くまのさんしょごんげん(熊野三所權現)ノ條ヲ見ヨ。

ゆや-じゃうるり (名) [湯屋淨瑠璃] 湯ニ入リナガラ、淨瑠璃ヲ語ルコト。又、其フシ。 浮世風呂(文化、三馬)初、下「行々流シテ語ル、サレ共、湯屋淨瑠璃ノ一ノ切(カギリ)語ナリ」

ゆ-やせ (名) [湯瘦] 浴シテ瘦スルコト 榮花物語、廿六、楚王ノ夢「ナゴ共ハ、ゆやせナドイフモノニシテ、日比ハヤマル物ゾカシ」

ゆ-やっこ (名) [湯奴] 湯豆腐ノ一種。奴豆腐ヲ湯煮シタルモノ。

ゆ-やなぎ (名) [檟] かはやなぎ(川楊)ノ異名。やなぎ(楊)ノ條ヲ見ヨ。 字鏡四十九「檟、由也奈木」

ゆや-ぶろ (名) [湯屋風呂] ふろ(風呂)ノ條ヲ見ヨ。 太平記、三十五、畠山關東下向事「歌ニモ詠ミ、湯屋風呂ノ女童部マデモ、モテ扱ヒケレバ」

ゆゆ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [齋齋] 〔ゆゆハ齋齋(イイ)ノ轉、齋ミ愼ム意〕 恐(イマイマ)シ。多ク忌ミ憚ルベクアリ。忌忌シ。(恐ミテモ、嫌ヒテモ云フ) 萬葉集、六、二十長歌「繁ケマクモ、湯湯石恐(ユユシカシコ)シ」 同、十五、二十「青楊ノ、枝キリオロシ、ユダネマキ、忌忌(ユユシキ)君ニ、戀ヒワタルカモ」

ゆゆ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [忌忌] 〔忌忌(イミイミ)し、ノ約〕 (一)〔イミイミシ。前條ノ語ニ同ジ。 古事記、下(雄略)三十「御室(ミモロ)ノ、嚴白檮(イツカシ)ガ本、白檮ガ本、由由斯伎カモ、白檮原嬢女」 (二)イマイマシ。キビワロシ。 (三)〔殊ニスグレタリ。殊ノ外ナリ。甚シ。イミジ。キビシ。オソロシ。エラシ。スサマジ。容易ナラズ。重大。(善キニモ、惡シキニモ) 宇津保物語、樓上、上七

[illegible]云云、[illegible]染十、馬盤、武悪歸ノ仕人、云云、庭ニ下リ立チタルケシキ、マヅゆゆしくゾ見エケル」

ゆゆて (名) [illegible]「御臣ナドニヤトテ、御ゆゆでセサセ給ヒ、云云」

ゆらい [illegible] レバ、學故トゾ謂ヘシ」「由來ヲ聞ク」「由來ヲ糺ス」

ゆらい (副) 由來 モトヨリ。モトモト。元來。劉克莊、跋晩書、詩「門冶如、沐[illegible]不妨、[illegible]」

ゆらが・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 搖 又、ゆるがす。搖グヤウニナス。搖動ス。古[illegible]

ゆら・ぐ グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(自動、四) 搖鳴 〔ゆる(鳴る)音〕[illegible] ユラユラトシテ音ス。ユラメク。ユルグ。瑲瑲[illegible]

ゆら・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 搖 ユルガシム。ウゴカス。ユサブル。ユル。永久[illegible]ゆらさレテクル、ヨリタケノ、一夜モネネバ、コヒシカリケリ」

ゆらみ (副) 搖 〔緒 貫ケル玉ノ、相觸レテ鳴リ響グ音ニ云フ語。又、ゆららみ。もヲ冠ラセテもゆらみトモ云ヘリ。[illegible]

ゆら・ふ フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(自動、下二) タユ[illegible]

ゆら・ぶ [illegible](自動、下二) [illegible] 止ム。ユルムル。盛衰記、四、山門御輿振事[illegible]

ゆらめかし (名) 搖 ユラメカスコト。次條ノ語ノ出典ヲ見ヨ。

ゆらめか・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 搖 ユ[illegible]ノ盛ノ、萬葉ニ、吾ヲイザナヘ、搖ラグ玉ノ緒ト、コレモ、ユラメカシゆらめかして[illegible]アリシカバ」

ゆらめ・く ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 波打ツ[illegible]如ク搖ル。搖[illegible] 名義抄「[illegible]、ユラメク」[illegible]

ゆら・ゆ ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(自動、下二) 搖 搖搖トユルメク。ヒルミ[illegible]搖カレテゆらゆる帶ニ、兒ヲ取ッテ打キツツ、緒ヲ強クコソ締メラレケレ」

ゆら-ゆら (副) 搖搖 (一)カナタコナタヘ搖グ狀ニ云フ語。ユサユサ。[illegible]三、天神本紀「令ニ茲十寶一謂ニ一二三四五六七八九十一[illegible]」(二)ユルヤカニ。ユックリト。ユルユル。曾丹集「クツワムシ、ゆらゆら思へ、秋ノ野ノ、ヤブノ住カハ、ナガキ宿カハ」

ゆら-らか-み (副) 搖 ユラユラト。枕草子、二、第廿段「ソバノカタニ、髮ノウチタタナハリテ、ゆららかなるホド、長サオシハカラレタルニ」

ゆら-ら-み (副) 搖搖 ユラユラト。ユララカニ。萬葉集、十三 八長歌「手ニマケル、玉モ瑲瑲[illegible]、白栲ノ、袖フリミセツ、アヒ思フラシモ」

ゆらり-と (副) 身ヲ搖リ交ハス狀ニ云フ語。盛衰記、廿一、小坪合戰事「綴ハ大力ナレバ、落[illegible]一丈アマリ飛タル緒ヲゆらりと飛ンデ」

ゆらり-ゆらり-と (副) 搖搖 〔ゆらりヲ[illegible]〕[illegible] 謠曲、烏帽子折「モトヨリ好ム大長刀、眞中取ッテウチカツギ、ゆらりゆらりと出テタル有樣」

ゆり (名) 搖 又、ゆれ。震ヒ動クコト。ユルルコト。又、ユスブルコト。狂言、[illegible]

ゆり (名) [illegible] ルリトスルコト。ノチ。萬葉集、十八 九丗「佐由利花、由利モ逢ハムト、下延フル、心シナクバ、今日モ經メヤモ」「ゆりゆり」

ゆり (名) 百合 〔百合ハ佐韋ニテ、ゆりハ韓語ナリトモ云フ、或ハ云フ、花大キク、莖細ソク、風ニ搖レバ云フナリト〕(一)百合科ノ草本ノ名。山ニ自生ス。莖、圓ク、高サ三四尺、直立ス、葉ハ竹ニ似テ、厚ク光ル。夏ノ半ニ、莖ノ梢ニ花ヲ開クコト一二箇、年久シキハ、數十箇ニ至ル、皆、開キテ傍ニ向フ、六瓣、長サ四五寸許リ、鐘樣ニシテ、白キニ黃赤色ノ斑點ヲ有シ、紫ノ蕊ヲ帶ビテ美シ。根ハ、球ヲナシテ白ク、瓣多ク疊ビ重ナリテ蓮花ノ如シ、食用トス。[illegible]名、對シテ、山百合、笹百合、ノ名モアリ。其他、鬼百合、姫百合ナドアリ。各條ニ註ス。倭名抄、廿 草類「百合、由里」(二)[illegible]ノ色目ノ名。表赤ク、裏ノ朽葉ナルモノ。

ゆり (副) 後 より(自)ニ同ジ。又、ゆ。萬葉集、廿[illegible]「カシコキヤ、命カガフリ、明日[illegible]」[illegible]由利ヤ、[illegible] 天平元年八月[illegible]

ゆりあ・ぐ [illegible](他動、下二) 搖上 ユスブリアグル。ユルガシアグ。[illegible]ケレバ、浪打ツ浪モ高クナリケリ、船ハゆり上げ、ユリスヘ[illegible]ヘバ、舟モ串ニ立ツズヒラメイタリ」

ゆりかね (名) 搖籃 えうらん(搖籃)ニ同ジ。

ゆりがね [illegible] 石ヲ淘リ沈メ、沙金ノミ取ルコト。又、其ノ物。良玉集、三「下野ヤ、那須ノ淘金、七斤、[illegible]ゆりがね、イツマデカ、碎ケテ後ニ、沈ミ果ツベキ」

ゆりかへし [illegible]

ゆりす・う ウル・ウレ・エ・エ・エヨ(他動、下二) 搖据 [illegible] 山家集、上、[illegible]ハルレバ月ゾ、ヤドリケル、玉ゆりすうる、蓮ノウキバニ」

ゆり-ゆり (名) 後後 〔ゆり(後)ヲ重ネタル語〕ノチノチ。コレヨリ以後。將來。

ゆりよ・す スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) 搖寄 [illegible]寄セル[illegible]ハニ、ゆりよせテ、カガミニカクル、住吉ノ濱」

ゆ・りる (助) 許 ゆる(許)、ノ口語。

ゆり-わか (名) [百合若[illegible]]セシ傳說ノ人ヨリ起ル」絶大ナル強力。又、強弓ナル人ノ稱トス。[illegible]サチト云ハ百合若ノ事、云云、百合若ノ事、筑紫人

ニテ、玄海ガ島ニ於テ鬼ヲ平グル事、百合若ノ舞ニ見エタリ、然ルニ、奥州ノ島ノ内ニ、百合若島ト云アリテ、云云、又、上ノ好摩山ノ道ニモ、百合若ノ足跡、矢ノ跡トテアリ、此外ニモ、ホホ、チカ見跡カ有、愛カシコニアリ」

〔ゆる (名) 〖百合〗 ゆり(百合)ノ轉。(東國ノ訛語) 萬葉集、廿「筑波根ノ、佐由流ノ花ノ、ユドコニモ、愛シケ妹ゾ、ヒルモケナ…ケ…」

ゆ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 〖搖〗 震ヒ動ク。ユルグ。ユラグ。ユラメク。ユレル。山家集、上、夏「夕立ノ、ハルレバ月ゾ、ヤトリケル、玉ゆりスウル、蓮ノウキバニ」

ゆ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 〖搖〗 (一)震ヒ動カス。ユスブル。淘汰 夫木抄、十四、菊「川波ノ、黄金ヲゆるト、見エツルハ、岸ナル菊ノ、アラフナリケリ」同、廿六、岸「波ニ宿ル、月ヲ汀ニ、ゆり寄セテ、カガミニカクル、住吉ノキシ」 (二)水ニ入レテ搖リ洗フ。又、荒金ヲ碎キ、水ニユリ、樋ニ流シテ取ル。ヨナグ。淘汰「米ヲゆる」「砂金ヲゆる」ゆりワクル」

ゆ・る・ルル・ルレ・リ・リ・リヨ(自動、上二) 〖許〗 許サル。赦免トナル。ユリル。宇治拾遺、十二、第廿一條「法師モ、ゆりニケリ」保元物語、三、大相國上洛事「内内申サセ給ヘドモ、天氣ゆりズ」著聞集、一、神祇「長暦二年ニ、云云、忘狀シテゆりニケルトカヤ」長秋詠藻、下「四位ノ後、昇殿ゆりテ」

〔ゆるが・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〖搖〗 ユルグヤウニナス。震ヒ動カス。ユラガス。ユサブル。ユスル。源、五十一、蜻蛉五十「ケニト思ヒサハギテ、君ヲ引キゆるがすメレバ」枕草子、七、第六十八段「木ノ許ニ寄リテ、引キゆるがスニ、危ガリテ、猿ノヤウニ搖イツキテヲルモヲカシ」

ゆるがせ-み (副) 〖忽〗 (縱ス意、忽諸ノ條ヲ見ヨ) 心ヲ縱シテ。オロソカニ。粗忽ニ。イルガセニ。ナホザリニ。ナゲヤリニ。盛衰記、一、一族官位昇進事「モシ猥

ゆるか-み (副) 〖緩寬〗 ユルヤカニ。ユルク。夫木抄、一、立春「槇ノ戸ヲ、アクレバ春ヤ、イソグラン、袂ニサエシ、風ゆるかなり」

ゆるぎ-の-いた (名) 〖搖板〗 くさずり(草摺)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ゆるぎ-の-いと (名) 〖搖絲〗 鎧ノ胴ニ着ケタル草摺ノ橫縫ノ革紐、又ハ、絲

ゆ・る・ぐ・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) 〖釋〗 トク。クツログ。名義抄「釋、ユルケタリ(古寫本、ユリケタリ)、トク、ユルス、クツログ」

ゆ・る・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(自動、四) 〖搖〗 (一)震ヒ動ク。ユル。ユラグ。ユラメク。ユスルル。字類抄「搖、ユルク」宇治拾遺、八、第三條「此倉、スズロニユサユサトゆるぐ、云云、ゆるぎゆるぎテ、土ヨリ一尺許リゆるぎアガル」「地ゆるぐ」「齒ゆるぐ」「釘ゆるぐ」 (二)〔緩ム。源、廿一、少女四「人ノ御ケシキノ内モ、ゆるがン程ヲコソ待チワタリ給ヘ、云云」 同、三十一、槇柱廿三「寶法ナル人ノ、ゆるぎ所アルマジキヲトテ、云云」

〔ゆる-け・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 〖緩〗 ユルヤカナリ。堀河百首、春「朝マダキ、ゆるけき風ノ、ケシキニテ、香近ナキスト、知フレヌル哉」

ゆる・さく (動) 〖許〗 ゆるす(許)ノ延。ゆるす(縱)ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。

ゆるし (名) 〖許〗 (一)ユルスコト。許可。免許。赦免。(二)師ヨリ弟子ニ、藝術ナドヲ授クル階級ノ稱。かいでん(皆傳)ノ條ヲ見ヨ。「中ゆるし」「奧ゆるし」

ゆる・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 〖緩縱寬〗 (一)ヌルシ。緊シカラズ。ユルヤカナリ。クツロギアリ。沙石集、一、上、第六條「心ヲゆるくシテ、空シク光陰ヲ送ル事ナカレ」(二)濡ケテ薄シ。稀薄 「糊ゆるし」

〔ゆるし-いろ (名) 〖聽色〗 昔、衣服ノ染色ニ、紅色、紫色等ノ淡色ニシテ、禁制ニ及バズ、常人モ着ルベキ色ノ稱。禁色ナラヌ色。(深紅、深紫等ノ禁色ニ對ス) 源、廿二、玉鬘四十五「御料ニアルクチナシノ御ゾ、ゆるしいろナル、ソベタマヒテ、云云」

ゆる・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〖縱〗 (一)ユルヤカニナス。ユルムル。ユルクスル。ユルブル。「心ヲゆるす」「氣ヲゆるす」 (二)〔禁ヲ解ク。自由ニセサス。免〗宥 [illegible] 雄略紀、九年四月「殿、仆甘美内宿禰、遂欲殺之、天皇勅之命、釋」 (三)〔所刑ヨリ放ツ。赦 孝德紀、大化二年三月「諸國流人及獄中囚、一皆放捨」 (四)可シト命ズ。行フトモ宜シトス。許容 允准 神代紀、上「而使、退去、赦許之、乃昇、請之於人、也」宇津保物語、俊蔭「イトマヲゆるしツカハス」 (五)〔諾フ。承知ス。聽可 神代紀、下「… 吾試欲、與、汝換、幸、弟、許諾」 因易之」 (六)〔義務ヲ免除ス。仁德紀、七年八月「課役並免」 既釋三年」 (七)〔見ノガス。逸ス。萬葉集、十七四十五長歌「千鳥フミタテ、追フ毎ニ、由流須コトナク」(儺ニ) (八)〔人ノ儘ニ委ネ任ス。萬葉集、十一「梓弓、引キテ許ズ、アラマセバ、カカル戀ニハ、アハザラマシヲ」

ゆる・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) 〖免〗 ユルスヤウニスル。自由ニセサスル。狂言記、二千石「汝討テ捨テウト思ヘトモ、討ツ太刀モ弱ル、最早許するゾ」

〔ゆる-み (副) 〖緩寬〗 ユルヤカニ。ユルラカニ。榮花物語、廿六、楚王夢「ミゲシノイトコチタウ多カルヲ、イトゆるみヒキユハセタマヒテ、云云」 大鏡、下、道長「村上ノ帝ハ夕申スベキナラズ、云云、ゆるゆるナンオハシマスト、世ニハ申ス」

〔ゆるび (名) 〖緩〗 ユルムコト。ユルヤカナルコト。ユルミ。源、廿八、野分九「タハフレ給フコトノハノ、オモムキニゆるびナキ御ナカラヒカナト、キキキ給ヘリ」

〔ゆる・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ(自動、四) 〖緩弛〗 ゆる [illegible] 同 [illegible] 心ニハ、[illegible] ガナクノミヤ、戀ヒ渡リナム」蜻蛉日記、中、中九「心ノゆるぶヤウニモ無カリシヲバ、云云」 源、廿九、盤十「心ゆるび給フコトモ多カルニ、云云」

〔ゆる・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ(他動、下二) 〖緩弛〗 ゆるむ(他動、下二段)ニ同ジ。ユルヤカニナス。ユルメル。名義抄「搖縱、トキユルフ」「紓、ユルフ」「緩、ユルフ」 萬葉集、十二廿六「梓弓、引キ緩ヘミ、思ヒミテ、既ニ心ハ、因リニシモノヲ」同、同「梓弓、引キテ緩ヘヌ、ますらをヤ、戀チフモノヲ、忍ビカネテム」 源、二、帚木十四「アマリムゲニウチゆるべ、見放ナタルモ、心易クフウタナヤウナレド」

ゆるほ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 〖緩〗 ユルシ。狀ナリ。[illegible]

ゆるま・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 〖緩〗 ユルクナル。ユルヤカニナル。ユルム。

ゆるみ (名) 〖緩〗 ユルムコト。ユルヤカナルコト。ユルビ。

ゆる・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 〖緩弛緩〗 ユルクナル。ユルヤカニナル。クツログ。ユルブ。ユルマル。

ゆる・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 〖緩弛縱〗 (一)ユルムヤウニナス。ユルヤカニナス。クツログル。ユルブル。ユルメル。狂言記、三人片輪「イトシ若衆ノ小鼓ハ、締メツ緩めツ、緩めツ締メツ、チナ、タポツポ、ナルカナフメカ」 (二)溶ク濡ク 「糊ヲゆるむ」

⁂ゆる・める (動) 〖緩〗 前條ノ語ノ口語。

ゆる-やか-み (副) 〖緩寬〗 ユルキ狀ニ云フ語。クツロギテ。キビシカラズ。ユル

ラカニ。[illegible]、ユルヤカナリ(左調)」

〜ゆるゆる [illegible] ウチクツロギテ。ユルリト。 源、廿九、行[illegible] ビタル如モテナシ、云云」

〜ゆるらかみ [illegible] シタルヲ」 蜻蛉日記、下、上四「一正タレナガラ帯ゆるらかみ(一本、ゆるるかみ)テ、アユミ出ヅルニ」

ゆるり (名) [閑爐] 〔嬉遊笑覧、十、下、火爐、(宗五)大雙子、ゆるりハ閑爐ノ音ノ訛レルカ」ト云ヘリ〕 ヰロリ。地火爐。 地爐 大子集(寛永)冬、爐火「寒カラデ、心ゆるりノ、爐火カナ」

ゆるりと (副) [illegible] ゆるゆるニ[illegible]同ジ。 狂言記、居杭「ヤイヤイ、久シウデ來タ程ニ、ゆるりと居テ話ヲセイ」

〜ゆるるかみ (副) [綏寛] ゆるらかみ(綏)ニ同ジ。 源、十二、須磨二十「釋迦牟尼佛、弟子ト名ノリテゆるるかみヨミ給ヘル、マタ世ニ知ラズ」

ゆれ (名) [搖] ユルルコト。震レ動クコト。

⁂ゆれる (動) [搖] ゆる(搖、自動)ノ口語。

ゆわう (名) [硫黃] 〔ゆのあわ(溫泉泡)ノ約轉、黃ノ音ニ紛レ誤ル〕 (一)〔古ク、ユノアワ。ユノアカ。今又、イワウ。〕鑛物ノ名。多クハ、塊ヲナシテ、火山ニ産ズ、性、甚ダ火ヲ發シ易シ、硫酸、火藥ノ製造ナドニ、用多シ。色ノ深黃ナルヲ臈口硫黃ト云フ(石硫黃)。黃ニシテ赤ミアルヲ鵝目硫黃ト云フ(石硫赤)。共ニ、光澤[illegible]ナルヲ上品トス。其青ミアルヲ火口[illegible](石硫青)黃、赤、二種ハ、藥用トシ、[illegible]青キハ下品ニテ

ゆわうぎ (名) [硫黃木] 略シテ、硫黃。つけぎ(附木)ノ條ヲ見ヨ。 書言字考節用集、七、器財門「發燭、ユワウギ」 [illegible]ツケギ。七十一番職人歌合、廿一番「[illegible]」

ゆわうさう (名) [硫黃草] 又、いわうさう。[illegible]山野ニ自生シ、[illegible]根[illegible]高サ[illegible]尺[illegible]葉ハ柳ニ似テ、二[illegible]、或ハ[illegible]、對生、又ハ、輪生ス。莖ノ頂ニ、疎ナル穗ノ狀ヲナシテ、五瓣ノ小黃花ヲ開ク。ヤナギサウ。草連玉。

ゆわかし (名) [湯沸] 藥罐ニ似テ小サキモノ、[illegible]薄ク、湯、甚ダ速ニ沸ク。

ゆわひ (名) [祝] 〔位牌ト音近キヨリ忌ミタルモノ〕 いはひ(祝)ノ訛。 よめむかへの事「御イロナヲサレザルウチハ、ソノヨノ御ゆわひ、御シャク、御ハイゼン、イヅレモトノガタノ御女バウ衆、[illegible]ミヤヅカヒ候」

ゆゐいち (名) [唯一] (一)又、ゆゐいつ。タダヒトツナルコト。コレノミ。無二。 [illegible]唯[illegible]也」 (二)次條ノ語ノ略。 幻住庵記(芭蕉)「神體ハ彌陀ノ尊像トカヤ、唯一ノ家ニハ甚ダ忌ムナル事ヲ、云云」

ゆゐいちしんたう (名) [唯一神道] 又、ゆゐいつしんたう。しんたう(神道)ノ一派。其條ヲ見ヨ。吉田神道。

〜ゆゐいつ (名) [唯一] 〔ゆゐいちノ轉〕 前前條ノ語ノ(一)ニ同ジ。 榮花物語、三十、[illegible]ナホヤケニ、次次ニツカウマツラセ給ヒテ、唯一無二ニオハシマス」

ゆゐかい (名) [遺誡] 又、ゐかい、誡ノ遺[illegible]

ゆゐがい (名) [遺骸] 又、ゐがい。死骸[illegible]ノカバネ。ナキガラ。[illegible]

ゆゐがどくそん [illegible] 天上天下唯我獨尊ノ條ヲ見ヨ。[illegible]語。

ゆゐきん (名) [遺訓] 又、ゐくん。ゆゐかい[illegible]同ジ。[illegible]

ゆゐくん (名) [遺訓] 又[illegible]

ゆゐけう (名) [遺教] 又、ゐけう。臨終ニ言ヒ遺シタル教。又、後代、又ハ、子孫ニノコスコト。特ニ、釋迦ノ[illegible]遺サレタル教。 [illegible]教經、ユイケウキャウ」 續後紀、九、承和七年五月「中納言[illegible]

ゆゐこつ (名) [遺骨] 又、ゐこつ。死後ニノコル骨。死者ノ骨。 易林節用集(慶長)下、言辭門「遺骨、ユヰコツ」

〜ゆゐごん (名) [遺言] 又、ゆゐげん。ゐごん。人ノ今際ニ言ヒ遺ス詞。[illegible] 天智紀、三年十月「[illegible]」 忠杜廿「マシテカノゆゐごんヲ思ヘバ、云云」

ゆゐしき (名) [唯識] 〔梵語、Vijñāna mātratā. ノ譯語〕 佛教ノ語。一切ノ諸法ハ、心ノ作用ニ過ギズトスルコト。

[illegible] 經日ニ唯心ヲ[illegible]佛教ノ語。ゆゐしき(唯[illegible]

ゆゐしんいつたうりう (名) [唯心一刀流] いつたうりう(一刀流)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]ノ由答ケリ、[illegible]心ノ花[illegible]ノ教主ヲ、云云」

ゆゐしよ (名) [由緒] 又、ゆいしよ。[illegible]ノ由來ノ端緒。傳ヘ來リタル事柄。來歷。 [illegible] 退治記「由緒ノ由申シケルニヤ、[illegible]上中村トイフ所ヲモ、同ジク賜ハリテケリ」

ゆゐせき (名) [遺跡] 又、ゐせき。[illegible] 易林節用集(慶長)下、言辭門「遺跡、ユイセキ」

ゆゐちやく (名) [illegible]

ゆゐてい (名) [遺弟] 故人ノ弟子。 撰集抄、一、第八條「山階寺ノ僧ニテ行賀僧都トイフ人イマソカリケル、平備大德ノ遺弟ニテゾ侍リケル」

ゆゐほふ (名) [遺法] 佛教ノ[illegible]遺セシ教法[illegible]

ユヰマ (名) [維摩] 〔梵語、Vimala-kīrti. ノ略〕[illegible]維摩ト云フ、[illegible]印度ノ居士、佛弟子ノ名[illegible]

〜ユヰマ-とう (名) [維摩講] 維摩經ヲ講ズル法會。 萬葉集、八五十「冬十月(天平十一年)皇后宮之維摩講、終日供養大唐高麗等種種音樂ニ」

ユヰマ-ゑ (名) [維摩會] 三會ノ一。古ヘ、十月十日ヨリ七日間、奈良ノ興福寺ニテ維摩經ヲ講ゼラレシ公事。 玄蕃寮式「凡興福寺維摩會、十月十日始、十六日終」 公事根源、下「維摩會、是ハ十月十日ヨリ十六日ニ至ルマデ七ケ日ノ間、興福寺ニテ維摩經ヲ講セラル、十六日ハ大織冠ノ御忌日ナル故也」

ゆゐ-もつ (名) [遺物] 又、ゐぶつ。死者ノ遺セル物。多クハ、記念(カタミ)トシテ贈ルニ云ノ。形見ノ品物。 易林本節用集「遺物、ユイモツ」 [illegible]四十一「[illegible]遺物[illegible]御鏡ハ、先日遺物ヲ、兵部卿法印信縁女(道仁親王母)ニ御尋アリケルニ、取出テ奉タリケル八角ノ大鏡也」

ゆゐ-りゃう (名) [遺領] 死後ニ、ノコサレタル領地。又、ノコサレタル知行所。 吾妻鏡、十八、元久二年七月廿日「尼御臺所御方、女房[illegible]亡夫[illegible]遺領也」

ゆゑ (名) [湯坐] 「湯坐(ユスヱ)ノ約カト云フ」 湯槽ヲ構ヘ居エ、ソコノ湯殿ニ奉仕スルモノ。又、産兒ニ浴(ユアミ)セサスル女。ユエビト。 古事記、中(垂仁)「[illegible]取御母(ミオモ)、定大湯坐(オホユエ)若湯坐(ワカユヱ)[illegible]」 神代紀、下[illegible] 雄略紀、二三年四月[illegible]「湯人此云與衞」(湯坐ノ部ノ民ナラムト云フ)

〜ゆゑ (名) [故] [縁居(ヨリキ)ノ略轉カト云フ] 事ノ起レル理(ワケ)。由。音便ニ、ゆゑん。 古事記、中[illegible]云云」

ゆゑ (接尾) [故] から(故)ノ條ヲ見ヨ。

〜ゆゑ-さはり (名) [故障] サハリ。ササハリ。コシャウ。 宇津保物語[illegible]「ゆゑさはりヲシノギテ、思立給ヘル、云云」

ゆゑ-だ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) [故立] ユエアリゲニナス。事故アルヤウニス。 堤中納言物語、よしなしごと「人ノカシヅク女(ムスメ)ヲ、ゆゑだつ僧、忍ビテ語ラヒケル程ニ、云云」

ゆゑ-づ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [故附] (一)〔ユエアリゲナリ。コシゾク(何ニテモ取ルベキフシアルニ云フ)ユエブ。 源、六、末摘花「[illegible]ゆゑづきたる[illegible]ルワタリハ、御ミミトマリ給ハヌクマナキニ、云云」 (二)大イニ仕付クル。(一藝ナドヲ)

〜ゆゑ-に (接) [故] (一)此の故ニ、ノ略。カルガユエニ。ノタメニ。由(ユヱ)ナレバ。 雄略紀、十三年三月「山ノ邊ノ、小島子嗚嗚(?)、人衒フ」 萬葉集、十三「大舟ノ、思ヒ頼メル、君ゆゑニ、盡クス心ハ、惜シケクモナシ」 (二)ニテアルモノヲ。 萬葉集、十[illegible]人妻ノ、行キ還リナム、モノ由ヱ[illegible]」

〜ゆゑ-びと (名) [湯坐人] ゆゑ(湯坐)ノ條ヲ見ヨ。

ゆゑ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) [故] ゆゑづく(故附)ニ同ジ。

ゆゑん (名) [所以] ゆゑ(故)ノ音便。(漢籍讀ニ) 其條ヲ見ヨ。

〜ゆゑ-ゆゑ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [故故] 故アリゲナリ。由(ヨシ)アリゲナリ。 宇津保物語、俊蔭、上[illegible]ゆゑゆゑし[illegible]ナリ」 源、四十六、總角「御供ノ人人ニモ、故故しきナドシテ、出タシセ給ヘリ」

〜ゆゑ-よし (名) [故由] ユエ。ヨシ。イハレ。オコリ。 萬葉集、九[illegible]長歌「遠キ代ニ、語リツガムト、ヲトメ墓、中ニ造リ置キ、ヲトコ墓、コナタカナタニ、[illegible]ゆゑよし聞キテ、知ラネドモ、新喪(ニヒモ)ノゴトモ、ネ泣キツルカモ」

え

え 五十音圖、也行(ヤギヤウ)第四ノ假名。やノ條ヲ見ヨ。え、よ、(善)、ひえどり、ひよどり、(鵯)、きえ、きゆ、(消)、みえ、みゆ、(見)、等相通ズレバ、是等ノえハ、皆此音ニ屬セリ。サレド、古來、阿行ノえト、假名ノ形ニ別ナシ。因リテ、今ハ、皆、阿行ノえニ併セタリ。

よ

よ 五十音圖、也行(ヤギヤウ)第五ノ假名。やノ條ヲ見ヨ。

〜よ (名) [節間] 竹、葦、ナドノ節(フシ)ト節トノ間。 [illegible] 竹取物語「節ヲ隔テテ、よ毎ニ金アル竹ヲ見ツクル」

〜よ (名) [夜] [節(ヨ)ノ義、日(ヒル)ト日(ヒル)トノ中間ノ意、闇ノやニ通ズ] 日暮ヨリ曉マデノ間。ヨル。ヨサリ。 古事記、中(景行)五十二「カガナベテ、用ニハココノ用、日ニハ十日ヲ」 後拾遺集、十六、雜、二「夜ヲ籠メテ、鳥ノソラ音ハ、ハカルトモ、ヨニ逢坂ノ、關ハユルサジ」 夜を籠めてトハ、夜ノ明ケヌ間ニノ意。晝(ヒ)につぐトハ、晝夜休マズノ意。晝夜兼行。

よ (名) [世] [節(ヨ)ノ義、人ノ生存ノ中間ノ意] (一)天地ノ間。「永キ世」 (二)〔世界ノ上ノ人類ノ種種ノ現象(アリサマ)。即チ、社會。世ノ中。 仁德紀、[illegible]十二月「汝コソハ、世ノ遠人、汝コソハ、國ノ長人」 萬葉集、五[illegible]長歌「此時ハ、如何ニシツツカ、汝ガ代ハ渡ル」 (三)帝王ノ治ムル領國ヲ世界ニ比シテ稱スル語。御宇「世ヲ知ロス」 (四)〔佛〕ニテ、過去、現在、未來、ノ三世アリ。さんぜ(三世)ノ條ヲ見ヨ。 萬葉集、四[illegible]「現世ニハ、人事シゲシ、來世(コムヨ)ニモ、逢ハム吾ガセコ、今ナラズトモ」 (五)時。ヲリ。 大和物語、下「直人(タダビト)ニオハシマシケルよニ、[illegible]ケル時[illegible]」 中務集「現トモ夢トモ分デ、明ケヌルヲ、何レノ世ニカ、マタハ見ルベキ」 (六)時ノ勢。「世ニ逢フ」世ニ勝ク」 (七)〔世情〕男女ノ情。男女ノサカラヒ。 源、四、夕顏「ワカビミルモノカラ、世ヲマダ知ラズニモアラズ」 伊勢物語[illegible]男、女ノ、マダ世經ズト覺エタルガ」 (八)人間ノ俗事。「世ヲ厭フ」世ヲ遁ル」世ヲ捨ツ」 (九)〔年〕年。年齡。 萬葉集、一[illegible]吾ガ代モ知レヤ、[illegible]代ノ、岡ノ草根ヲ、イザ結ビテナ」「千世」萬世」君ガ世」 (十)或時代ノ間。代「足利氏ノ世」德川氏ノ世」 (十一)〔人ノ生ト死トノ間。人ノ現在シテアル命ノホド。生涯。人生。齡。 神代紀、下「妹ハ忘ラジ、世ノコトゴトモ」(齡(ヨハヒ)ノカギリ) 萬葉集、五九「ヒト世ニハ、二度見エヌ、父母ヲ、措キテヤ長ク、吾ガ別レナム」 世に出づトハ、身顯ハレ榮ユ。出世ス。榮達。 世を去るトハ、死ヌ。 世を渡るトハ、生活シテユク。 世を早うすトハ、早世ス。 世が立たぬトハ、世ノ中ガ立チテユカヌ、[illegible]ハ、ツネノ[illegible]常住。 世を知るトハ、男女ノカタラヒヲ知ル意。

よ (名) [illegible]

よ [illegible] 集、廿ノ六十「新シキ、年ノ始ノ、初春ノ、ケフ降ル雪ノ、イヤシケ吉事」

よ (名) 瓣 ハナビラ。ベン。花瓣。萬葉集、八ノ廿「コノ花ノ、一與ノ内ニ、百種ノ、言ゾ隱レル、オホロカニスナ」

よ (名) 餘 (一)アマリ。ノコリ。中庸、「[illegible]不敢不勉、有餘不敢盡」 榮花物語、一、月宴「世ハジマリテ後、コノ國ノ御門、六十餘代ニナラセ給ヒニケレド」「餘ノ事」「餘ノ人」「其餘」「十年ノ餘」(二)[illegible]

よ (代) [illegible] 予、余、吾、台、[illegible] 自稱ノ代名[illegible]

よ (數) 四 〔八ニ對ス〕 ニト二ト合ヒタル數。四ツ。古事記、中 [illegible] 四人、四時。

よ (副) [illegible] より。[illegible] ゆ(從)ノ條ヲ見ヨ。古事記、中 [illegible] ホスにノ意。古事記、中(景行)五十「ハシケヤシ、[illegible]

よ [illegible] 助詞 [illegible] 神代紀、上 十四「汝以、汝所持八坂瓊之曲玉、可、以授予[illegible]」

よ [illegible] 雄略紀、十三年九月「可惜シキ、猪名部ノ匠、懸ケシ[illegible]」 コソ人よ」「月よ花よ」「物ヲ思フよ」「心細サよ」

よ‐あう ヨ‐ヲウ [illegible] 音 [illegible]「積ㇾ善之家、必有二餘慶一、積二不善一之家、必有二餘殃一」 平家物語、二、小松教訓事「積善ノ家ニハ餘慶アリ、積惡ノ門ニハ餘殃止マルトコソ見エテ候へ」

よ‐あかし (名) 夜明 寐ネズシテ曉ニ至ルコト。[illegible] ホシ。徹明 徹夜 徹宵 終宵 萬葉集、十五 [illegible] ヒメラム」

よ‐あきんど (名) 夜商人 [illegible] 店ヲ出シテ商品ヲ賣ル人。夜商賣人。

よ‐あけ (名) 夜明 夜ノアクルトキ。[illegible] ノヒキアケ。アサケ。アケ。アカツキ。[illegible] 四日ノよあけナル [illegible]

よ‐あけ‐がた (名) 夜明方 前條ノ語ニ同ジ。[illegible]

よ‐あそび (名) 夜遊 ヨルアソブコト。夜、遊ビスルコト。浮世風呂、(文化) [illegible] 下、アンマ[illegible]出ルカラ[illegible]シタ」

よ‐あらし (名) 夜嵐 (一)夜吹クあらし。[illegible] マジキ山陰ニ、月待ツホトノウタ[illegible]、カタシク袖ヲ慣フカシ」(二)盗賊ノ異稱。

よ‐ありき (名) 夜步 [illegible] 夜 [illegible] カリツル御よありきノシルシニヤ、イミジウワヅラハセ給ヒテ、ウセ給ヒヌ」

よ‐あるき (名) 夜步 前條ノ語ニ同ジ。催馬樂、[illegible] 夜あるきヲ、[illegible]サリケル、大納言」

よい [illegible] 五「春ナレバ、宜モ咲キタル、梅ノ花、君ヲ思フト、[illegible]

よ‐い (名) 餘意 言外ノ意味。蘇軾、[illegible]

よ‐い (形) 可 (一)許容スベクアリ。可ナリ。ヨシ。(二)要ラヌ。不用ナリ。

よ‐い (形) [illegible]

よい‐かな (感) [illegible] トデアルカナ。ゼンザイ。顯宗紀、二年八月 [illegible]」

よ‐いくさ (名) 夜軍 夜間ニ戰フコト。[illegible]

よい‐さ (感) 又、よいさ。カケ聲。(相撲ナドヲナストキニ)

よ‐いち (名) 世一 世ノ中ノ第一。天下一。日本一。平家物語、九、宇治川事「宇治川早シト雖、生食ト云フ世一ノ馬ニハ、乘ッタリケリ」

よ‐いち (名) 餘一 〔與一トモ書ス〕 十男ニアマリタル稱。那須與一ハ、資高ガ十一男ナレバ云フト。又、コレト同ジク、[illegible] ヒテ十[illegible]トス、人呼ンデ、[illegible]ト云ヒシトカ。

よ‐いち (名) 與市 [illegible]ノ財市、[illegible] 忠臣[illegible]テ、山崎街道ノ與市兵衛[illegible]ノ財布ノ五十兩ヨリ云ヒシトゾ)

よ‐いん (名) 餘韻 [illegible] 後ノ餘波。音響ノアトニ殘レルモノ。列子、[illegible]

よ‐いん (名) 餘胤 ノコレルタネ。後ニ[illegible]

よい‐や (感) [illegible] ハヤシゴエ。「よいや、よいやト相撲ヲ取ル」

よい‐よい [illegible] 云フ。脊髓癆、ベリベリ。浮世風呂(文化、[illegible] ウニ歩ミ來ルハ、俗ニ云フよいよいト云フ病ノ人」

よう (名) 用 (一)モチヰルコト。ツカ[illegible] ケレバ」「用ノ暇ニ」用、多シ」(三)ハタラキ。作用 [illegible] 足ストハ、大小用ヲナスノ意。岩淵夜話、[illegible]

よう (名) 庸 (一)チカラシロ。そ(租)ノ條ヲ見ヨ。(二)勝レザルコト。不凡ナルコト。凡庸 歐陽修、與王荊公書「平生[illegible]」

よう (名) 俑 木製ノ偶人。面目、機發アリテ、甚ダ人ニ似ルモノ。古代[illegible] テ死者ニ添ヘテ埋メタルモノ[illegible] 日、始作俑者、其無後乎」俑を作るトハ、惡例ヲ[illegible]

よう [illegible] 背、ナド [illegible]

瘖ノ(俗、コレヲ疔ト誤ル) 又同種ニ、疽ト云フアリ、上ノ皮、固クシテ牛項ノ皮ノ如ク、初、輕ク見エテ、毒更ニ深ク、遂ク臟ミテ、筋骨マデ腐ル。治シ難シ。倭名抄、三「瘡類、疽、氣ヲ結ビ不レ散也」庸言、孝友ー、序、張士鐵、云云、「母病疽、士鐵吮レ血」

よう (名) 蛹 さなぎ(蛹)ノ條ヲ見ヨ。蔡邕、短人賦「蘭中蛹兮蠶蠋領、視二短人一兮形若レ斯」

よう (數) 四 よ(四)ノ延。雪女五枚羽子板(寶永、近松作)中「羽子板ノ、音ハ娘ノ集マリヤ、笑ヒニ花ノ色濃ル、云云、一ト二タ三イ四う」

よう (副) 善 よく(善)ノ音便。源、三十五、柏木三十「イトようモテシヅメタル上ベヘ、人ヨリゲニ用意アリ」

よう (副) 能 よく(善)ノ音便。其條ノ(五)ヲ見ヨ。狂言記、飛越新發意「扠モ扠モアノナリハ、コノ程ノ所ヲよう飛バイデ、アノナリハ、ナウナウ、ヲカシヤ、ヲカシヤ」「ようスル」

ようい (名) 用意 (一)意ヲモチキルコト。氣ヲツクルコト。ココロガケ。用心。注意。論衡、逆、王充)「賢聖下レ筆造レ文、用意詳審」枕草子、一、第三段「マロビアヒ、刺楠モ落チ、よういセネバ、折レナドシテ、笑フモマタヲカシ」(二)預メ其事ニ備フルコト。設ケ。支度。準備。宇津保物語、初秋三十「女カタチドモ、仁壽殿ニ侍フベキ用意シテアリ」

ようい (名) 庸醫 平凡ノ醫者。技ノ拙キ醫者。ヤブイ。ヤブイシャ。ヤブクスシ。巫醫。陸游詩「庸醫司二性命一、俗子議二文章一」

よういゐ (副) 容易 タヤスク。ヤサシク。テガルク。漢書、東方朔傳「談何容易」

ようえき (名) 溶液 液體ニ、或物質ノ溶解シタルモノ。

ようおん (名) 容隱 (一)隱田ヲ見逃シ舍クコト。又、公田ヲ隱スコト。庭訓往來、三月「容隱之輩、隱田之族、爲二罪科一可レ被レ注進交名二」(二)罪人ト知リツツ見逃スコト。

ようかい (名) 容喙 傍ヨリクチバシヲ容ルルコト。サシデロヲスルコト。

ようかい (名) 溶解 物質ガ液體ニトクルコト。物體ノ分子ガ分散シテ、液體ノ分子間ニ潛入スルコト。

ようかい (名) 鎔解 金屬ノ熱ニアヒテ液狀ニ變ズルコト。トロクルコト。

ようかし (副) 善 〔かしハ意ヲ強ムル語〕イカニシテモ。ナカナカニ。浮世風呂(文化、三馬)二編、下「ホンニカエ、世話燒性ダネエ、オッツケ治リマサァナエ、ようかし治ラウゾイ、滅多ニ治ルコッチヤァネエ」

ようかん (名) 勇敢 ゆうかん(勇敢)ノ轉。字類抄「勇敢、ヨウカン」

ようがん (名) 熔岩 火山ロヨリ、熔ケテ噴出セラレ、冷メテ固マレル岩石。輕石ナドモコレナリ。らば。

ようがん (名) 容顏 カホダチ。カホツキ。カホ。容貌。韓愈詩「秋巴俸薄食口衆、豈有酒食開容顏」字類抄、容顏、ヨウガン」

ようき (名) 容器 物ヲイルルウツハ。

ようき (名) 雍熙 〔雍ハ和ノ義、熙ハ禧ニ同ジ、因リテ和樂ノ意〕天下ノヨク治レルコト。何晏、景福殿賦「規矩即應二乎天地一、擧措又順二乎四時一、是以六合元亨、九有雍熙」

ようぎ (名) 容儀 作法ニ適スル態度。又、ナリカタチ。ナリフリ。ヤウス。ヨウダイ。禮容。雜纂(唐、李商隱)教レ女「溫良恭儉、修二飾容儀一」平家物語、五、富士川事「維盛ハ生年廿三、容儀帶佩、繪ニ畫クトモ筆モ及ビ難シ」

ようききき (名) 用聞 ごようきき(御用聞)ノ條ヲ見ヨ。

ようきぐゎ (名) 用器畫 こんぱそ、定規、ナドヲ用キテ描ク圖畫。コレニ對シテ、花鳥ナドヲ描クヲ自在畫ト云フ。

ようきん (名) 用金 (一)公用ノ金錢。公用ノタメトテ、領地ノ人民ニ課スル稅金。政談集、乾「百姓ニ用金申付候品品之事」(二)武家ノ世ニ、非常ノ事起レルトキ、賢身設筆、八「御用金、云云、凡用金ハ、一年ノ利ヲ加ヘテ下戾サルベキ定メナレバ、云云」

ようきゃく (名) 用脚 又、要脚。錢ノ異名。あし(錢)ノ條ヲ參見セヨ。下學集、下、器財門「用脚、ヨウキャク、云云、錢異名也」

ようぐ (名) 庸愚 凡庸ニシテ、愚癡ナルコト。凡愚。庸劣。太平記、十四、新田足利確執奏狀事「右尊氏云云、遺二道何之罪譴一、經二營離遂不レ得守文一、卑君子所レ恒、庸愚所レ輕也」

ようくん (名) 庸君 凡庸ノ主君。

ようけん (名) 用件 用事。用向。

ようけん (名) 鷹犬 (一)鷹狩ノ鷹ト犬ト。後漢書、楊賜傳「又聞二數微行一、出幸二苑囿一、觀二鷹犬之執一、極二盤遊之荒一」(二)人ニツカハレテ、奔走シ用ヲ足スモノ。野客叢書(宋、王楙)「今人以二掾曹一取二媚上官一、奔走爲レ用者爲二鷹犬一」

ようげん (名) 用言 〔體言ニ對ス〕語學ノ語。語尾ニ活用(變化)アル語。即チ、作用言(動詞)、形狀言(形容詞)等ノ稱。

ようご (名) 用語 モチキルコトバ。使用スル言語。又、ソノ字句。

ようご (名) 擁護 又、おうご。神佛ノ通力ニテ、人、物ヲマモルコト。庇護。おうご(擁護)ノ條ヲ參見セヨ。漢書、陳[illegible]

ようおそ (副) 善 〔よくおそてノ音便〕他人ノ來訪シタル時、謝意ヲ表スル語。ヨウゾ。狂言記、吟聟「コナタニ一ツ習ハウト思ウテ參ッテゴザル、ハテサテ、ようおそヲリヤッタレ」

ようさい (名) 庸才 凡庸ノ才智。ナミナミノチエ。斗筲才。十六國春秋(魏、崔鴻)[illegible]

ようざい (名) 用材 使用スル材木。

ようざい (名) 溶劑 モノヲ溶解スルタメニ用キル液。溶媒。

ようさう (名) 鷹爪 (一)タカノツメ。(二)上等ノ茶ノ異名。[illegible]「凡茶之佳品、最上日二小芽一、如二雀舌、鷹爪一」[illegible]下、[illegible]門「鷹爪、ヨウサウ、[illegible]茶之異名也」

ようさう (名) 癰瘡 よう(癰)ト云フニ同ジ。[illegible]古事談、三、僧行「大僧正(慈信)攻二眼事一、大二條殿治[illegible]以尚死之病也、[illegible]不レ可レ及」

ようさつかた (名) 夜去方 よさりつかた(夜去方)ノ音便略。よ(夜)ニ同ジ。夕方。晩方。土佐日記、二月十六日「今日ノようさつかた、都ヘノボルツイデニミレバ、云云」

ようさり (名) 夜 (一)〔よさり(夜)ノ音便〕よ(夜)ニ同ジ。催馬樂、伊勢[illegible]「人ようさり與宇左利取り、取りシカバ」馬内侍集「來ントテ、來ザリシヲ」(二)昨夜。ユウベ。ヨベ。ヨンベ。夜前。

ようさりかた (名) 夜方 〔ようさりハ、

よさりノ延〕ユフガタノコロ。ユフガタ、バンガタ、ユフコク。[illegible]「サテようさりがた、コト[illegible]」

〔ようさりつかた (名) 夜去方 「よさりつかた」ノ[illegible]。又、「よさりつかた」。よ(夜)ニ同ジ。[illegible]「ようさりつかた、月ノホノカナルニ、タチヨリタマヘリ」

ようし (名) 容姿 ミメカタチ。スガタ。風采。風姿。姿容。[illegible]

ようし (名) 容止 タチヰフルマヒ。動作。擧止。擧措。孝經、聖治章第九「[illegible]作事可レ法、容止可レ觀、進退可レ度」

ようし (名) 用紙 其事ニモチヰル紙。所用スル紙。使用スル紙。料紙

ようじ (名) 用事 用アル事。務ムベキ仕事。用。又、用件。周禮、春官[illegible]、司服「司服掌王之吉凶衣服、辨其名物與其用事」

ようし (名) 勇士 ゆうし(勇士)ノ轉。[illegible]「[illegible]士、ヨウシ」

ようじん (名) 庸人 凡庸ノ人。尋常ノ人。ツネナミノ人。ツネヒト。凡人。常人。庸夫。荀子、哀公篇「所レ謂庸人者、口不レ能レ道ニ善言一、心不レ知ニ色色一[illegible]」

ようじん (名) 用心 (一)心ヲモチヰルコト。[illegible]ルコト。[illegible]「政道忠臣「末代ヨクヨク用心アルベキコト也」 莊子、天道篇「[illegible]日、天王之用心何如」 (二)警メ守リテ怠ラヌコト。戒心。平治物語、二、[illegible]忠致心替事「美濃尾張ノ習ヒ、用心嚴シキ故ニ」

ようじんもん (名) 用心門 用心ノタメニ、設ケタル門。非常門。便門

ようしゃ (名) 勇者 ゆうしゃ(勇者)ノ[illegible]。[illegible]「[illegible]八恐レズノ、ヤタケゴコロノ[illegible]」

ようしゃ (名) 容赦 容捨 〔[illegible]「赦、逭作レ舍、捨、或作レ舍ニ」〕ユルスコト。[illegible]

ようしゃ (名) 用捨 用舍 〔康熙字典「捨、經典、省作レ舍ヒ」〕もちゐるト、すつるト。エラミトリタリ、捨テタリスルコト。取捨。[illegible] 史記、[illegible]北山[illegible]、[illegible]ハ、政ノ善惡ヲ見ニ不レ如、政ノ善惡ヲ見ニハ、賢臣ノ用捨ヲ見ニ不レ如」

ようしゃばこ (名) 用捨箱 一ツノ箱ノ中ヲ、縦ニシキリテ、右ノ方ニ有用ノ書類ヲ入レ、左ノ方ニ用ズミノ書狀ヲ入ルルモノ。

ようしゃびき (名) 用捨引 江戸時代、定免ノ田畠凶作ノ場合、郷帳、割附ヲ、手加減ニテ、取箇ノ幾分ヲ減ズルコト。地方凡例錄[illegible]「[illegible]」

ようじゅ (名) 用儒 凡庸ナル儒者。俗儒。迂儒。中江[illegible]、劉子元[illegible]

ようじゅ (名) 榕樹 あこう(榕)ニ同ジ。南方草木狀(晋、嵇含)「榕樹南海桂林多植レ之」

ようしょ (名) 用處 用所 (一)用事ノアル場所。(二)モノノ用ヰル場所。又、用事。(三)大小用ヲスル所。便所。用場。廁。

ようしょ (名) 傭書 人ニヤトハレテ、文字ヲ書クコト。又、人ヲヤトヒテ字ヲ書カシムルコト。後漢書、班超傳[illegible]

ようしょうらく (名) 勇勝樂 雅樂ノ曲ノ名。平調曲。字類抄「勇勝樂、ヨウショウ」

ようしょく (名) 容色 カホバセ。ミメカタチ。[illegible]

ようしょく (名) 容飾 容儀ヲトトノフルコト。ミメカタチヲカザルコト。史記、孔子世家[illegible] 詠集、下「[illegible]君事ニ容飾ハ君見ニ金聲ニ無ニ顏色ニ」

ようす (名) 容子 サマ。アリサマ。ナリフリ。又、樣子。容子合ひトハ、擧止動作ノ狀態ノカナフ意。

ようす・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 擁 (一)カカフル。イダク。抱擁ス。擁抱ス。[illegible] (二)[illegible]

ようず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (他動、左變) 用 モチヰル。使用スル。[illegible]クロハセントテ、細工ニ給ヘルヲ、オソクモテクル、云云、一日ノ日ハツケズ有シカバ、オホイトノ(忠平)ニコノヨシキコシメシテ、ワガムカノヨリようずるヲ、アエ物ニケフバカリツケヨト、云云」

ようすい (名) 用水 灌漑、或ハ、防火ノ用、或ハ、飲料ナドノ用ニトテ、溝、又ハ、樋ニテ遠クヨリ導ク水。太平記、七、千劔破城軍事「山ノ[illegible]ニ用水有ベシ共[illegible]候ハズ」

ようすいぼり (名) 用水堀 用水ヲ湛ヘオク堀。又、用水ヲ引ク爲ニ設クル堀。

ようすいをけ (名) 用水桶 火災ノ備ヘニ、水ヲ貯ヘオク桶。テンスヰヲケ。皇極紀、三年十一月「毎レ門置ニ盛レ水舟一、木鉤數十、以備ニ火災一」(盛水舟ハ、後世ノ用水桶ナルベシ)

ようせき (名) 容積 [illegible]ノ積。中[illegible]依リテ方[illegible]ニ容レ得ル數、[illegible]積[illegible]。

〔ようせずば (副) 能不爲 ヨクセズバ。ヨクセバ。ツルクシタラ。ヒョットシタラ。源、二、帚木「ようせずば、アキタキコトモアリナンヤ」

ようそ (名) 擁疽 ようト、そト。[illegible]。淮南子、人間訓「擁疽發ニ於指一、其痛遍ニ於體一」

ようぞ [illegible] 心中重井筒(寶永、近松作)中「兄ノ主人ネマヨリ出、ヤア[illegible]ようぞ、[illegible]モニ話サウ、サアココヘトヨビカクレバ、云云」

ようそく (名) 壅塞 フサグコト。又、フサガルコト。[illegible]「防ニ護壅塞一以備ニ水潦一」

ようたい (名) 壅滯 フサガリ、トドコホルコト。[illegible]滯。[illegible]

ようだい (名) 容體 (一)容子。ナリカタチ。又、樣儀。容儀。[illegible]顏色貌、辭令順」(二)[illegible]ノ容子ヲツクロフコト。修邊幅。「容體振ル」(三)病ノ重キ輕キノ狀。病狀。

ようだいぶる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 容體振 容子ブル。モッタイブル。氣ドル。外見ヲテラフ。[illegible]、百事シゲニ、取リツクロフ

ようたし (名) 用達 〔用足しノ義〕(一)役所、貴族ノ邸ナドニ出入シテ、其買入物ナドノ用ヲ辨ズル商人ノ稱。ゴヨウタシ。(二)用事ヲ辨ズルコト。「用達ニ行ク」(三)大小便ヲスルコト。

ようだつ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 用立 モチヰナル。役ニ立ツ。ヤクダツ

ようだつ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二)

[用立] (二)其事ニ用キル。使用。(三)他ノ用ニ供フ。貸ス。貸與。

ようだん (名) [用談] 用アル時ノ談。用向ノ相談。(雜談ニ對ス) 浮世風呂(文化、三馬)四、上「私ハ品川[illegible]」

ようたんす (名) [用箪笥] 座ノ傍ニ置キテ、雜用ノ物ナド入レ置ク小サキ箪笥。浮世風呂(文化、三馬)二、上「[illegible]餅ヲ食ッテヤシタ、スルト延公ガ、コウお浮ヤ、ソコノ用箪笥カラ、金ヲ出シテクダセヘト云フ」

ヨウ・タン・ボウ
ようたんぼう (名) [醉坊] 酒ニ醉ヒタルモノヲ嘲リ云フ語。ヨヒドレ。醉客。

ようち (名) [夜討] 夜、紛レテ、不意ニ敵陣ヲ襲ヒ攻ムルコト。ヨゼメ。ヨガケ。夜討。夜襲。保元物語、一、新院御所各門門固事「利ヲ得ルコト、夜討ニ如クコト侍ラズ」

ようちがけ (名) [夜討掛] 夜ニ紛レテ、不意討ヲスルコト。夜襲ヲシカクルコト。謠曲、夜討曾我「御說ノ如ク、イツヲイツトカ定メ候ベキ、今宵[illegible]ウズルニテ候」

ようちう (名) [膺懲] [illegible]「[illegible]」

ようつぎ (名) [用次] 用事ヲ取次グモノ。取次。古ク、マウシツギ。[illegible]

ようと (名) [用途] (一)ツカヒミチ。モチキドコロ。書言字考節用集、八、言辭門「用途、ヨウト」(二)ぜに(錢)ノ異稱。下學集、下、[illegible]「[illegible]用途、[illegible]云云、錢異名也」

ようど (名) [用度] イリメ。イリカ。カカリ。入費。費用。[illegible]業、用度不足、請收銀錫造白金及皮幣以足用」

ようとう (名) [蠅頭] ハヘノカシラハ、小サキモノ故ニ、物ノ小サキニ譬ヘテ云フ語。[illegible]

ようにん (名) [容認] 許容シテ、ミトムルコト。可トシテ許スコト。認容。

ようにん (名) [傭人] ヤトハレタル人。ヤトヒニン。ヤトヒビト。

ようにん (名) [用人] (一)ハタラキアル人。有用ナル人。要人。太平記、三十九、大内介降參事「此人ニ過ギタル御用人アルマジ」(二)大名、貴族ノ家ニテ、家老、年寄ナドノ次ナル役目。內外ノ雜事、出納ノ事ナドヲ支配ス。御用人。(三)一家ノ事ヲ擔任シテ、其用ヲ辨ズル役。

ようば (名) [用場] 大小用ヲスル所。便所。用所。廁。雪隱。

ヨウ・ホウ
ようはう (名) [用方] モチキカタ。ツカヒカタ。次次條ノ語ニ同ジ。

ヨウ・ボウ
ようばう (名) [容貌] カホカタチ。ミメカタチ。スガタ。禮記、祭義篇「民[illegible]其顏色、而不與爭也、[illegible]其辭貌、而衆不生慢易焉」

ヨウ・ホウ
ようはふ (名) [用法] モチキカタ。ツカヒカタ。使フ方法。用方。使用法。

ようひつ (名) [用筆] (一)使用スル筆。(二)筆ヲ用キル方法。筆ヅカヒ。三國志、魏志、劉劭傳、注「[illegible]」

ようふ (名) [傭夫] ヤトヒハル人夫。

ようふ (名) [傭婦] ヤトヒタルヲンナ。

ようふ (名) [庸夫] 凡庸ノヲトコ。ツネナミノヲトコ。庸人。凡人。凡夫。戰國策、秦策「叱呼駭三軍、而身死於庸夫、此皆乘至盛不返道理也」

ようふ (名) [庸布] チカラシロノヌノ。庸役ニ代ヘテ奉ル紵布。麻布ノ稱。庸ニ奉ル布。(租ノ條ヲ見ヨ)[illegible]「[illegible]」

ようふ (名) [孕婦] ハラミヲンナ。ミモチヲンナ。姙婦。孕女。[illegible]「[illegible]」

ようぶ (名) [用武] 武ヲモチキルコト。用兵。史記、[illegible]「[illegible]、其中小、不過數百里、田地薄、四面受敵、此非用武之國也」

ようべ (名) [昨夜] [illegible](昨夜)[illegible]「[illegible]ケムカモ」

ようへい (名) [用兵] 兵ヲモチキルコト。用武。又、兵ヲモチキル法。[illegible]

ようへい (名) [傭兵] 俸給ヲ受ケテ、ヤトハレタル兵士。雇兵。

ようへい (名) [傭聘] ヤトヒテ、迎ヘ入ルルコト。請ヒテ、ヤトヒ入ルルコト。

ようへい (名) [擁蔽・壅蔽] フサギオホフコト。又、ソノモノ。禮記、內則篇「女子出門、必擁蔽其面」[illegible]

ようへい (名) [壅閉] フサギトヅルコト。左傳、昭公元年「勿使有所壅閉湫底、以露其體、茲心不爽、而昏亂百度」

ようべん (名) [用辨] 用ノ辨ズルコト。用事ノ濟ムコト。又、用ヲ濟マスコト。

ようべや (名) [用部屋] (一)江戸ノ幕府ニテ、老中、若年寄ナドノ政務ヲ執リシ所。御用部屋。(二)大名ノ老臣ナドノ、其藩ノ政務ヲ執リシ所。

ようま (名) [夜間] [ようハ、よ(夜)ノ音] よる(夜)ト云フニ同ジ。(安房)

ヨウ・マドヒ
ようまどひ (名) ゆふまどひ(夕惑)ノ訛。

ようむ (名) [用務] ツトメ。用事。

ようん (名) [餘蘊] ノコルタクハヘ。ノコシ藏ムルコト。又、アマリ。ノコリ。[illegible]「[illegible]」

ようむき (名) [用向] (一)用事ノオモムキ。(二)用件。用。浮世風呂(文化、三馬)四、上「ハテ、ツカフタメノ御金ダカラ、用向ノ[illegible]」

ようめい (名) [容面] [ようめんノ讀癖] 面目ト同ジ。カホカタチ。ミメ。容貌。[illegible]ようめい、ケシウハアラヌ人人[illegible]

ヨウ・ヨウ
ようやう (名) [illegible] (一)[illegible] (二)[illegible]

ようやく (名) [踊躍] ヲドリアガルコト。ヨロコビイサムコト。活潑ニ行動スルコト。謠曲、鉢木「ヨコヌヒノ、チギレタル古腹卷ニ、錆ビ刀ようやう[illegible]ニヨコタヘ」[illegible]

ようよ (副) [容與] オモムロニ動作スル狀ニ云フ語。ユッタリト。史記、司馬相如傳「[illegible]」

ようよう (副) [雍容] 靜カニ和ギタル狀ニ云フ語。又、落着キテ、ユッタリトシタル狀ニ云フ語。史記、司馬相如傳「[illegible]臨邛、從車騎、雍容閒雅甚都」

ようよう (名) [illegible]

ようよう (感) 褒ムル聲。いよいよノ條ヲ見ヨ。一心二河白道(元祿、近松作)一「ようよう若衆ノ陽山サマ、ヤッチャトホメカヘセバ」

ようりつ (名) [擁立] [illegible] 其位置ニ立ツルコト。モリタツルコト。

ようりょう (名) [容量] 其中ニ容レ得ベキ物ノ量。內容ノ分量。

ようりょく (名) 用力 [illegible] 功用 [illegible]

ようれい (名) 用例 用方ノ例 [illegible]

ようれつ (名) 庸劣 凡庸ニシテ、劣等ナルコト。又、ソノモノ。庸愚。 [illegible]

ようろ (名) [鎔鑪] 金屬ナドヲ鎔解スル [illegible]

ようわ (名) 鎔和 金屬ナドヲ鎔カシテ混和スルコト。トカシマゼルコト。

ようわ (名) [雍和] ヤハラギ樂シムコト。ムツビヤハラグコト。後漢書、馬皇后紀「致二 [illegible]

よえい (名) [餘榮] 死後ニノコル光榮 [illegible] 榮ニ「死シテ餘榮アリト謂フベシ」

よえい (名) [餘裔] (一)ノチノチスヂ。後裔 [illegible] (二) 末流 [illegible]

よおうのがく (名) [餘姚學] (王陽明ハ [illegible]) めいがく(陽明學)ニ同ジ。

よえん (名) [餘炎] (一)ノコリノホノホ。[illegible]

よえん (名) [illegible]

ヨオそ (名) [沃素] (英語、Iodine.ノ譯) 又、沃度。元素ノ一、鉛黑色ノ板狀結晶體ニシテ、稍、金屬光澤アリ、百十四度ノ熱ニテ溶ク、常溫ニテハ徐徐ニ昇華ス。水ニ溶ケ易カラザレドモ、あるこほるニ溶ケ易シ。溶液ヲ澱粉溶液ニ加フレバ、濃靑色ノ沈澱ヲ生ズルヲ以テ、澱粉ノ鑑識ニ用キラル、

ヨオド (名) [沃度] (英語、Iodine.ノ譯) 前條ノ語ニ同ジ

よか (名) [四日] (一)月ノ第四ノ日。ヨッカ。(二)日數四ツ。[illegible] 祇「十日アマリ、よかト云フ夜ノ、ミトヒラキ、踊クル御代ハ、カクゾ樂シキ」

よか (名) [餘暇] アマルイトマ。ヒマ。[illegible]

よか (句) 善かり、善かる、ノ略 [illegible] 語、四「左ノオホイ殿ノ上ニ申シ給ウテ、よかナリト宣ハバ、渡リ給へ、云云」枕草子、一、第四段「セウソコヲスルニ、よかンナリトハ誰レカハイハン」

よかい (名) [豫戒] アラカジメ警戒スルコト。前方ヨリイマシムルコト。

よかう (名) [illegible]

よかう (名) [餘香] アトマデノコレルカヲリ。ウツリカ。餘薰。大鏡、上、時平「思 [illegible]

よがけ (名) [夜驅] よぜめ(夜攻)ニ同ジ。關八州古戰錄、八「天文ノ初ノ比、云云、岩淸城へ兼テ不意ニ兵ヲ發シ、黑羽ノ城へ夜驅ヲナス」

よか・し (動) (避く(自動、四)ノ活用ニ擬シテ) よく(避)ト云フニ同ジ。[illegible]

よがしら (名) [與頭] くみがしら(組頭)ノ [illegible]

よかぜ (名) [夜風] ヨル吹ク風。[illegible] 集、七、秋、下「鳥羽玉ノ、夜風ヲサムミ、古鄕ニ、衣打ツラシ」アル人ノ、衣打ツラシ」

よがたり (名) [世語] 世上ノ事ノ物語。セケンバナシ。ウキヨバナシ。ウキヨガタリ。世話。街談。[illegible]

よがたり (名) [夜話] 夜ニ語ルコト。又、ソノ話。夜話。和泉式部日記「ハカモナキ、夢ヲダニミデ、アカシテハ、何ヲカ夏ノ、夜語ニセン」[illegible] ガミノ、タダメノマヘニ、スギシ昔ヲ」

よがせん (名) [夜合戰] ヨルノ戰爭。夜イクサ。應仁記、一 [illegible] 丘ニ夜合戰ハ不叶ト、引退テ [illegible] 云云」

よがなよひて (句) [illegible] 夜 [illegible]

よかは (名) [夜川] 夜中ノ川。(鵜川ナドニ云フ) [illegible]

よかはり (名) [世變] 時世ノ變ハルコト。[illegible]

よかん (名) [餘寒] 春ニ殘リテマダ去ラヌ寒サ。[illegible]

よがら (名) [世柄] (世故カト云フ) 世間ノ狀態 [illegible]

よがらす (名) 夜鴉 夜中ニ鳴ク鴉 [illegible] ノ鳥。萬葉集、七廿五「曉ト、夜鳥鳴ケド、此山上ノ、[illegible]

よが・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [善] (一) [illegible] (二) [illegible] クナンナド、コトよがるヲ、更ニウケヒキ給ハネバ、[illegible]

よが・る・ルル・ルレ・レ・レヨ (自動、下二) [夜離] 夜、[illegible] 「我心、心ニモアラデ、ツラカラバ、よがれン床ノ、形見トモ [illegible] ク袖ノ、手枕ニ、よがれヌモノハ、淚ナリケリ」

よがれ (名) [夜離] (一) [illegible] 夜ノ [illegible] テカ、時鳥、タダココニシモ、寐タル聲スル」(二) 來ル夜ニ對ヘテ、來ヌ夜ノ稱。神樂歌、小 [illegible]

よかれあしかれ (句) ヨクモアレ、アシクモアレ、物ノ中庸ヲ云フ語。

よき (名) 〔雪〕 ゆき(雪)ヲ云フ。東國ノ訛。萬葉集、十四「[illegible]ヒトツケス、伊香保ノネロニ、フロ與伎ノ、行キスギガテヌ、妹ガ家ノアタリ」

よき (名) 〔斧〕 (横切ノ意、鐇ニ對ス) をの(斧)ニ同ジ。稍、小サキモノニ云フ。たつき(鐇)ノ條ヲ參見セヨ。倭名抄、十五「[illegible]、與岐」 [illegible]十四、六「あふごナキ、身トハ知ル知ル、思ストテ、ナゲき伐リ積ム、人ハよきカハ」

よき (名) 〔善好〕 よし(善、好)ノ條ヲ見ヨ。古今集、十七、雜、上「古ヘノ、シヅノヲダマキ、賤シキモ、よきモ盛リハ、アリシモノナリ」

よき (名) 〔豫期〕 アラカジメ何時ト待チツクルコト。ココロマウケ。ココロマチ。アテ。カクアルベシト、心ニ待チマウクルコト。カネテ期スルコト。

よぎ (名) 〔豫議〕 アラカジメ協議スルコト。前以テウチアハスルコト。

よぎ (名) 〔餘儀〕 餘ノ儀。外ノ事柄。太平記、四十、南禪寺與三井寺確執事「即山門ヘ牒送シテ、四箇ノ大寺ノ安否ヲ可定由、已ニ往日ノ堅約ナリ、何ノ餘儀ニカ可及」

よぎ (名) 〔夜着〕 衾ノ一種。其製、衣ノ如クニシテ大キク、厚ク綿ヲ入レテ、夜寢ルニ着ルモノ。被衾 [illegible]寶德元年四月九日「花園殿ヨリ葛籠二荷、云云、小よぎ一ツ御本所エ參」 心中宵庚申(享保、近松作)中「サシ覗ケバ、夜着ニ包レテ起臥モ、偕ミ苦シキ老イノ坂」

よきぢ (名) 〔避道 避路〕 避クベキミチ。ヨケミチ。マハリミチ。ヨギミチ。萬葉集、七「[illegible]ミワノサキ、[illegible]ミモエズ、浪ダチヌ、イヅクユカム、[illegible]」

よぎな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 〔無餘儀〕 止ムコトヲ得ズ。避クベカラズ。ヨンドコロナシ。狂言記、布施ない「是非トモ御ニ參ツテクレイト仰セラレテ、よぎなうコレヘ參リ」

よぎみち (名) 〔避道 避路〕 前前ノ語ニ同ジ。[illegible]三十[illegible]、[illegible]「サテモ、カノ語ハよぎみちナカナルヲ、御子ノサキバカリハ、ヒキタスケキコエテンヤト、ホホエミ給テ、云云」

よきん (名) 〔預金〕 (一)郵便局、銀行ナドニ、金ヲアヅクルコト。又、ソノ金。アヅケ金。アヅカリ金。所託金 (二)アヅカリタル金。受託金

よきょう (名) 〔餘響〕 音聲ノ絶エタル後ニ、猶、殘リタルヒビキ。餘音。[illegible]

よきょう (名) 〔餘興〕 祝宴ノ席ナドニテ、儀畢リテ後ニ、歌舞ナドニテ興ヲ添フルコト。字類抄「餘興、ヨキョウ」

よぎり (名) 夜霧 夜、立ツ霧 (朝霧ト云フモアリ) 萬葉集、六「鳥玉ノ、夜霧ノ立チテ、清マザルニ、テレル月夜ノ、見レバ悲シサ」

よぎりがくり (名) 〔夜霧隱〕 ヨギリニカクルルコト。又、ソノトコロ。萬葉集、十「年ニアリテ、今カマクラム、鳥玉ノ、夜霧隱ニ、トホ妻ノ手ヲ」

よぎりおもる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 宵霧ノ中ニコモリ隱ル。萬葉集、十「[illegible]バタマノ、宵霧隱リ、遠クトモ、妹ガ傳ヘハ、ハヤク告ゲコソ」(古義ノ訓)

よぎ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔過〕 (過切ノ略) (一)避キテ行キ過グ。立寄ラズシテ行ク。トホリユク。名義抄「過、ヨギル、マグ」 (二)行キツイデニ、其所ニ立寄ル。訪問スル。雄略紀、廿三年八月「行至[illegible]、過家」 [illegible]、五、若紫「よぎりオハシマシケル由、只今ナン人申スニ、云云」

よく (名) 〔欲 慾〕 事ヲ望ミ物ヲ貪ル情。飽クナク得ムト思フ心。[illegible]「嗚呼、惟天生民、有欲無主乃亂」 [illegible]、廿、石橋合戰事「欲ハ身ヲ失フト云ヘリ」

よく (名) 〔翼〕 (一)ツバサ。ハネ。羽翼。つばさ(翼)ノ條ヲ參見セヨ。く、蟬[illegible]ナド、蟲ニモ用ヰル。[illegible]有鳥焉、其名爲鵬、背若太山、翼若垂天之雲」 (二)[illegible] (三)二十八宿ノ一。其條ヲ見ヨ。タスキ。 (四)中軍ノ左右ノ軍。史記、李牧傳「李牧多爲奇陳、張左右翼撃之」

よ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔避〕 次條ノ語意ニ同ジ。避ク。六帖、二「久方ノ、天ツ空ヨリ、影見レバ、よくル所ナキ、秋ノ夜ノ月」 [illegible]「カズシテ、雨キ行ク春ヲ、タダテアフバ、今年バカリノ、秋ヲよかナン」

よ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) 〔避〕 (一)其物ニ會ハジト片寄ル。傍ヘ退ク。避ケテ他ニ移ル。萬葉集、十五「君ヲ思ヒ、アガ戀ヒマクハ、アラ玉ノ、立ツツキゴトニ、與久流日モアラジ」 同、九十「家人ノ、使ナルラシ、春雨ノ、與久列ド吾レヲ、濡ラスト思ヘバ」「よけテ行ク」 (二)防グ。「火災ヲよく」

よ・く・クル・クレ・キ・キ・キヨ (自動、上二) 〔避〕 前條ノ語意ニ同ジ。避ク。六帖、[illegible]「[illegible]人ヲモよきズ、鳴ク蛙、此ノ夕影ハ、惜シクヤハアラヌ」 古今集、二、春、下「吹ク風ニ、アツラヘツクルモノナラバ、此ノ一本ハ、よきよト言ハマシ」

よく (副) 〔善〕 (善し、ノ副詞形) (一)ネンゴロニ。クハシク。ツマビラカニ。萬葉集、一「淑キ人ノ、良シト吉見テ、好シト云ヒシ、芳野吉見ヨ、淑キ人ヨキミ」「よく考フ」 (二)上手ニ。巧ミニ。萬葉集、十二「吾ガ命ヲ、長ク欲シク、偽リヲ、好スル人ヲ、トラフバカリヲ」 (三)全ク。ソノ儘ソックリ。サナガラ。正シク。萬葉集、二十「[illegible]、足痛グ吾ガセ、ツトメタブベシ」 (四)好ミテ。ヤヤモスレバ。トモスレバ。浮世床(文化、三馬)初編、下「コノ調市ハよくイタヅラヲシヤアガル」「よく病ム」 (五)事ニ堪ヘテ。難キヲトホシテ。能 克「よく堪ス」「よく破ル」 (六)シバシバ。タビタビ。詩經、衞風[illegible] 史記[illegible]

よく (接頭) 〔翌〕 次ニ來ル。(但シ、過去ニ用ヰル、未來ナルニハ明ヲ用ヰル) [illegible]「翌日」「翌月」「翌年」 [illegible]

よくあさ (名) 〔翌朝〕 アクルアサ。ヨクテウ。次ノ朝。ツトメテ。後朝。

よくあつ (名) 〔抑壓〕 抑制シテ、逼迫スルコト。オサヘツクルコト。[illegible]

よくあつ (名) 〔抑遏〕 オサヘトドムルコト。抑制スルコト。[illegible]

よくい (名) 浴衣 ユカタ。入浴スル時、又ハ、入浴後ニ着ル單衣。ユカタビラ。[illegible]

よくい (名) 〔薏苡〕 古名、ツシダマ。タマヅシ。草ノ名。春、種ヲ下シ、叢生ス、高サ四五尺、葉ハ互生シ、形、あぶらきび(唐黍)ノ葉ニ似テ、狹ク短ク、川穀ノ葉ニ異ナラズ。夏、葉ノ間ニ實ヲ結ブ、形、川穀ヨリ細小ナリ、實ノ上ニ花アリ、あんばんきび(南蠻黍)ノ花ニ似テ、小サシ。實、熟スレバ、淺褐微黑ニシテ、中ニ自ラ穴アリテ貫クベシ。仁ハ、麥ニ似テ廣ク白シ、薏苡仁ト云ヒテ、藥

用トス。鳩安[illegible]

よくいにん (名) [illegible] 前條ノ[illegible]見[illegible]「音ヅレテよくいにんト茴香トヲノボスル事アリシ」

よくかい (名) 欲界 〔梵語、Kāmadhātu.〕 [illegible]欲界ノ[illegible]佛語ノ[illegible]「[illegible]故ニ、必シモ欲界ノ外ニ浄土ヲシメ給ハズ」

よくかく (名) 浴客 入浴ニ來ル人。

よくがま・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 慾 ヨクバルヤウナリ。ヨクバリノ嫌ヒアリ。ヨク深クアルラシ。謡曲、佐佐木「アア慾がましヤ、生食ニマシタル[illegible]八候」

よくく (名) 欲火 佛教ノ語、[illegible] 情ノ盛ンナルヲ、火ニ譬ヘタル語。楞嚴[illegible]

よくげつ (名) 翌月 ソノ次ノ月。アクル月。[illegible]「翌月、ヨクケツ」

よくさん (名) 翼贊 翊贊 カヲソヘタスクルコト。タスケタスクルコト。輔佐。三國志、蜀志、董允傳「允内侍[illegible]」[illegible]

よくし (名) 抑止 オサヘトドムルコト。抑制スルコト。[illegible]「[illegible]大陸平也」

よくしつ (名) 浴室 ユドノ。フロバ。[illegible]

よくじつ (名) 翌日 ソノ次ノ日。アクルヒ。翌。ソノ明日。書經、召誥篇「越翌[illegible]」[illegible]

よくしん (名) 欲心 貪欲ノ心。ムサボル心。[illegible]

よくじゃう (名) 欲情 前條ノ語ニ同ジ。易林節用集(慶長)上、言辭門「欲情、ヨクシャウ」

よくじょう (名) 沃壤 肥エタル土地。沃土。沃地。肥土。肥壤。[illegible]

よくす (名) 横臼 〔よおうすノ約〕 横廣ニ作リタル臼。ヒラタキ臼。古事記、中(應神)七十四「擊ニ口鼓ニ爲レ伎而、歌曰、カシノフニ、余久須ヲツクリ、余久須ニ、醸ミシ大御酒、ウマラニ、キコシモチ食セ、マロガ父」

よくしゅ (名) 浴主 禪家ニテ、浴室ヲツカサドル役僧。知浴。易林節用集(慶長)上、人倫門「浴主、ヨクス、在僧家」 庭訓往來、十月「[illegible]、堂頭和尚、東堂西堂、云云、浴主」

よく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 浴 (一)アブ。アム。又、ユアミス。沐浴ス。論語、先進篇「[illegible]、云云、浴乎沂、風乎舞雩、詠而歸」 (二)ウク。カウムル。(恩惠ナドヲ) 禮記、儒行篇「澡身而浴徳」

よく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 善能 (一)〔モルルトコロナクス。十分ニス。萬葉集、十二「疑ヘル、心イブカシ、コトバカリ、吉爲吾ガセコ、逢ヘル時ダニ」 (二)巧妙ニスル。(三)ナシ能フ。ナシ得ル。

よくせい (名) 抑制 オサヘトドムルコト。オサヘテトリシマルコト。抑遏。[illegible]

よくせう (名) 沃饒 地味ノ肥エタルコト。肥エ、肥饒。[illegible]

よくせき (副) 已ムヲ得ザルニ。[illegible] 餘儀ナク。ヨクヨク。[illegible]「ヨクヨクノ意ニ同ジ」「よくせき無ケレバ仕方ガナイ」「よくせきノ事ダ」

よくせずむ (副) 不爲善 モシカスレバ。ヒョットシタラ、[illegible]、ようせずだ。宇津保物語、藏開、上「思ヒ惡ムベカリ人モエアラジヤ、よくせずだ、法師ニモナリナントスヤトテ」

よくそん (名) 抑損 オサヘテ、ヒカヘメニスルコト。慢心ヲ抑ヘオトスコト。史記、管晏傳「其[illegible]去、云云、其[illegible]大自抑損」

よくたい (名) 翼戴 翊戴 タスケテ、イタダクコト。左傳、昭公九年「文之伯也、豈能改[illegible]物、翼戴天子、而加之以共」

よくだちま (副) 夜降 夜ノ深クル狀ニ云フ語。夜中過ギテ。夜フケテ。萬葉集、十九「夜具多知爾、ネザメテヲレバ、河瀨トメ、心モシヌニ、ナク千鳥カモ」

よくだ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) 夜降 夜更ケニナル。夜深クナル。夜ノフケル。萬葉集、十「風吹キテ、河浪起チヌ、引船ニ、ワタリモ來マセ、夜ノたたヌ間ニ」 同、十九「夜降チテ、鳴ク川千鳥、ウベシコソ、昔ノ人モ、シヌビ來ニケレ」

よくたん (名) 翌旦 ソノ次ノアサ。アクルアサ。翌日ノ朝。翌朝。

よくち (名) 沃地 肥エタル土地。肥土。沃土。肥壤。[illegible]「民、多[illegible]」

よくおん (名) 欲[illegible] 「欲[illegible]六欲[illegible]」

よく[illegible] (名) 浴[illegible] フロバ。入浴スル所。

よくてう (名) 翌朝 ソノ次ノアサ。アクルアサ。翌旦。運歩色葉集「翌朝、ヨクテウ」

よくでん (名) 沃田 地味ノ肥エタル田地。肥沃ナル田。美田。良田。[illegible]

よくど (名) 沃土 肥沃ナル土地。よくち(沃地)ニ同ジ。國語、魯語「沃土之民不材、[illegible]」

よくとく (名) 欲得 貪欲ト、利得ト。又、欲スル心。運歩色葉集「欲得、ヨクトク」

よくとし (名) 翌年 次條ノ語ニ同ジ。

よくねん (名) 翌年 ソノ明年。アクルトシ。ヨクトシ。易林節用集(慶長)上、乾坤門「翌年、ヨクネン」

よくねん (名) 欲念 よくしん(欲心)ニ同ジ。

よくばう (名) 欲望 物ヲホシガリノゾムコト。又、ソノノゾミ。

よくばん (名) 翌晩 ソノ次ノ晩。ソノ明クル日ノ晩。アクル晩。翌夜。

✣よくばり (名) 欲張 ヨクバルコト。又、ソノモノ。貪欲。浮世床(文化)二編、中「[illegible]」

✣よくば・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 欲張 欲心[illegible]。貪欲[illegible]。浮世風呂(文化、三馬)四編、中「ケフモエライ[illegible]サヂャア、ソンナニ[illegible]ハイイ」

よく-ふか（名）[慾深] 慾ノ深キコト、慾心ノ深キコト。又、ソノモノ。

よく-ブツ（名）[浴佛] くゎんぶつ（灌佛）ニ同ジ。[illegible]

よくぼり（名）[欲慾] ヨクバルコト。又、ソノモノ。ヨクバリ。貪欲。浮世風呂（文[illegible]）「[illegible]中、ソ是ハレン浮世チ、サカイ、ナンボモ欲惚リシテ、溜メテカエイハイ」

よく-ぼ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[欲慾] [illegible]一物ヲ欲ばるト云ノハ、云云、よくほるト云フ重語ナリ、欲ノ字、スナハチほるナリ」物ヲ得ムト欲ス。ムサボル。[illegible] 貪欲。[illegible]「[illegible]物ヲよくばルト云ノハ何ノ字ゾ、欲ヲ書也」

よ-くん（名）[餘薰]（一）アトマデノコルカヲリ。ウツリカ。餘香。蘇軾詩「帳空蝗冷發餘薰」（二）アマリノヒカリ。餘光。餘徳。平治物語、一、[illegible]

よ-くん（名）[餘醺] イマダ醒メヌ酒ノカヲリ。[illegible]

よく-め（名）[欲目] 好キタル情ニ片寄リテ、好シト認ムルコト。「親ノ欲目」

よく-や（名）[翌夜] ソノ次ノ夜。ソノ明クル日ノ夜。アクル晩。翌晩。

よく-や（名）[沃野] 地味ノ肥エタル田野。戰國策、秦策「[illegible]沃野千里、[illegible]天府、天下之雄國也」

よく-やう（名）[抑揚] 上ゲ、又、下グルコト。アゲタリ、サゲタリスルコト。アゲサゲ。アゲオロシ。（文章ニ、人ニ、評ニ、音聲ニ）頓挫。[illegible]

[illegible]「左手抑揚」

よくゆ-の-ぎゃうほふ（名）[浴油行法] 聖天ノ像ニ、熱油ヲ注ギテ、祈ル修法。

よく-よく（副）[illegible]（一）念ニ念ヲ入レテ。綿密ニ。ツラツラ。ツクヅク。著聞集、八、好色「[illegible]シクナリテ後ハ、云云、能ク能ク拵ヘオキテ、男歸リニケリ」（二）よくせきニ同ジ。丹波與作（寶永、近松作）道中雙六「見レバ見ル程コイチャニ、[illegible]身ハ、よくよくデアラウ」よくよくの事トハ、已ムコトヲ得ヌ事ノ意。よくよくせきノ事。

よく-よく（副）[翼翼]（一）ツツシミテ、ウヤウヤシキ狀ニ云フ語。[illegible]狀ニ云フ語。[illegible]（四）多キ狀ニ云フ語。張衡、東京賦「京邑翼翼」（五）[illegible]レタル狀ニ云フ語。詩經、小雅、[illegible]（六）壯健ナル狀ニ云フ語。[illegible]小雅、[illegible]（七）美シキ狀ニ云フ語。[illegible]

よく-よく（接頭）[翌翌] ヨクノ、マタヨク。ツギノ、マタツギ。「翌翌月」「翌翌年」

よくよく-げつ（名）[翌翌月] ソノ翌月ノ翌月。ツギノツギノ月。サライゲツ。

よく-ら・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）[欲] ヨクバルヤウナリ。ヨクガマシ。好色一代男（[illegible]）「清水[illegible]テ、今日計リハ千日ニ向フトカヤ、欲らしナカラスグニコユ」

よく-りう（名）[抑留] オサヘテトムルコト。強ヒテ引キトドムルコト。宋史、[illegible]「延慶本、平家[illegible]抑留[illegible]」

[illegible]處抑留之條、是一山之大訴也」

よ-くゎ（名）[豫科] 本科ニ入ルマデ[illegible]科。又、ソノ級。[illegible]

よ-くゎ（名）[餘花][餘華] 春ノ氣候ニ、遅レテ咲ク花。オソザキノ花。[illegible]

よ-くゎう（名）[餘光]（一）アマリノヒカリ。史記、甘茂傳「貧人女與富人女會績、貧人女曰、我無以買燭、[illegible]」[illegible]「浮雲擁蔽、將障白日之餘光」（二）オカゲ。餘蔭。庇蔭。[illegible]風而望餘光者、蓋亦有年矣」

よ-げ（副）[善氣] ヨササウ。ヨキヤウ。源、四十九、東屋「コレ唯ウシロヤスキコトヲトリ中也ト、イトオホクよげニイヒツヅクルニ」

よ-けい（名）[餘計]（一）アマリ。餘分。アマリテ用ナキコト。[illegible]（二）必要以上ナルコト。イタヅラナルコト。ムダ。言辭門「餘計、ヨケイ」

よ-けい（名）[餘慶] 先祖ノ功徳ノ報ニ、其子孫ニ來リ添ハル吉事。易經、文言「積善之家、必有餘慶、積不善之家、必有餘殃」

よ-けう（名）[餘教]（一）ソノ人ノ遺シ置キシ教ヘ。他ノ教義。[illegible]（二）アトニ殘シタルヲシヘ。荀子、堯問篇「今之學者、得孫卿之遺言餘教、足以爲天下法式表儀」[illegible]「[illegible]接取シ給ハンニソ、云云」

よ-けく（副）善く、ノ延。萬葉集、五「[illegible]」「イツシカモ、人トナリ出デテ、アシケクモ、與家久モ見ムト」古今集、十九、誹諧「マメナレト、何ソハよけく、刈萱ノ、亂レテアレド、アシケクモナシ」

よ-げつ（名）[餘孽][餘蘖]（一）一家滅亡シテ、ワヅカニノコリタル子孫。滅餘ノ子孫。[illegible]

よ-けふ（名）[餘業]（一）ノコリノワザ。[illegible]（二）本業以外ノ業。[illegible]人餘業、得備宿衛」

よけ-みち（名）[避路] 避クルミチ。避ケノガルル道。ヨキミチ。ヨキヂ。

よ-けむ（句）善カラム。神代紀、上「[illegible]」[illegible]サケ見レバ、白眞弓、ハリテカケタリ、夜道ハ將吉」

よ-げん（名）[豫言][預言] 預メ推シ量リテ言フコト。[illegible]後漢書、[illegible]「[illegible]」

よ・ける（動）[避] 避く（下二段）ノ口語。

よ-こ（名）[横]（一）左右ヘ廣ガレル向キ。竪ト打違フ筋。又、其長サ。（上下ノ竪ニ對ス）緯。[illegible]、四十年十月「[illegible]」（二）左右ノ傍。傍。「横面」「横向」（三）よこいと（横絲）ノ略。經

よ-ご（名）[豫後] 醫師ノ語。病人ヲ診察シテ、豫定スル爾後ノ病ノナリユキ。

よ-ご（名）[餘五] 餘五將軍ノ略。よいち（餘一）ノ條ヲ見ヨ。

よこ-あな（名）[横穴]（一）横ニ穿テル穴。（二）古墳ノ一種。山麓、丘腹ナドニ、横ニ穴ヲ掘リ、墓壙トセルモノノ稱。

よこ-あひ（名）[横間][横合] 横向ノ處。横ノ方。傍。太平記、八、四月三日合戰事「島津、小早川ガ横合ニ懸ルヲ見テ」（二）其モノ以外。

よこ-あめ (名) 横雨 ヨコブリニ降ル雨。[illegible]ニシタガフ、横雨ノ、音疾タビカ、フリスサブラン」

よこ-ありき (名) 横步行 ヨコニブルク [illegible]

よこ-いた [illegible] 板ニテ敷キ、他ハ竪板ヲ用ヰル)

よこ-いと (名) 横絲 ぬきいと(緯絲)ニ同ジ。緯ノ條ヲ見ヨ。略シテ、よこ。

よ-おえ (名) 夜越 又、よおし。夜間ニ越エユクコト。夜越ユルコト。(山ナドヲ)萬葉集、十二[三十五]「鈴鹿河、八十瀬ワタリテ、誰レユエカ、夜越ニ越エム、妻モアラナクニ」

よこ-がく (名) 横額 〔竪額ニ對ス〕 横ニ長キ額。がく(額、第一語)ノ條ノ(一)[illegible]フ三字ヲ、横額ニ書キイダサレケレバ、云云」

よこ-がけ [illegible] ルコト。又、ソノモノ。 百日曾我(元祿、近松作)一「矢ヨリモ早ク飛ビ來リ、腰ノツガヒヲ、横がけニ、ザップトカケテゾ落シケル」

よこ-がは (名) 横川 (一)横ニ流ルル川。(二)川ノ字ヲ、横ニスレバ三ナリ」支那ノ數目、三ノ異名ニテ、一ヲ旦底ト云フ類ナリ。(三)拳ノ語。三ヲ云フ。

よこ-がほ (名) [illegible] 側面 心中天網島(享保、近松作)上「障子ニウツルニ人ノ横顔、エエ、クラハセタイ、踏ミタイ」

よこ-かみ (名) [illegible] マルメ、よ・かみ [illegible]ノ女房

よこ-がみ (名) 輴 〔横上ノ義カト云フ〕 [illegible]

よこ-がみ [illegible] 山[illegible]綜、此間以之作合旨、彼」付、輴猶横上ニ」

よこ-がみ (名) [illegible]

よこがみやぶり [illegible] 辨ヘズ強ヒテナスコト。理不盡ニ事ヲ行ノコト。[illegible]又、ソノモノ。[illegible]モ見ヨ。[illegible]倒行逆施

よこ-ぎ (名) 横木 (一)横ニワタセルル木。(二)車ノ後ニ、横ニ亙セル木。軫

よこぎりのざ (名) 横切座 古ヘ、[illegible]ノ時、參議ノ坐スル席。 江家次第、九、官奏「大臣着陣、大辨同着横切座ニ」

よこ-ぎ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 横切 横ニ過ル。横過[illegible]青山ヲ、[illegible]雲ノ、イチジロク、吾レトヱマシテ、人ニ知ラユナ」

よこ-ぎ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 横切ル。横ニ切レ過グ。[illegible]ノ光ニ、よこぎれテ、渡ルアキサノ、音ノ寒ケサ」

よ-こく (名) 與國 黨與セシ國。同盟ノ國。仲間ノ國。[illegible]

よ-こく (名) 豫告 豫メ告ゲ知ラスコト。

よこ-ぐし (名) 横櫛 櫛ヲ髮ニ斜ニサスコト。又、ソノ櫛。

よこ-ぐも (名) 横雲 日ノ出ヅル頃、東[illegible]頃ニモアリ。 夫木抄、十九、[illegible]「山ノ端ノ、よこぐも走リ、ワタリツツ、線ニ見ユル、曙ノ空」

よこ-ぐも・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 横曇 ヨコニタナビク雲ノタメニ曇ル。 夫木抄、二、[illegible]「河上ヤ、マタよこぐもる、ウスミドリ、波ヨリカスム、ヨドノアケボノ」

よこ-ぐるま [illegible] ト。又、道理[illegible]

よこ-ぐるわ (名) [illegible] 曲輪 [illegible]ミ馬ダシノ事、付タリよこぐるわノ事」

よ-ごこち (名) 世心地 世ノ中ノ人ノ、病ムココチ。 雜集抄、七、第三條「其里ニ世心地ヲビタタシクハヤリテ、尊卑シヅ無心病オリケリ」

よこ-ごと (名) 横言 ざんげん(讒言)ニ同[illegible]九「[illegible]ミカモ、アハヌ日マネク、月ノヘヌラム」(古義ノ訓)

よ-ごころ (名) 世心世情 (一)色ヲ好ム心。[illegible]心ヅケル嫗、イカデ、心情ケアラン男ニ逢見テシガナト思ヘド」(二)俗意ニテ、男女ノ情。

よこ-さ (名) [illegible] 横ト云フニ同ジ。[illegible]

よこ-ざ (名) 横座 (一)カミクラ[illegible]上席。又、横手ノ座。[illegible]主人ノ[illegible]坐スル所ト[illegible]ルト見ユル鬼、横座ニ居タリ」

よこ-さし (名) 横刺 次條ノ語ノ略。 字類抄「横刺、ヨコサシ」

よこさし-ぶみ (名) 横刺文 古ヘ、太政[illegible]

よこ-さ-ま (副) 横 〔さハさま(樣)ノ略〕 よこさま(横方)ニ同ジ。

よこ-さび (名) [illegible] 横ニアルモノ。さび(錆)ノ條ヲ見ヨ。

よこさびのまほ [illegible]

よこ-さま (名) 横方 (一)正シカラザル[illegible]

よこさま-あめ (名) [illegible] 降ル雨。ヨコアメ。 源、廿八、野分ハ「道ノホド、よこさま雨イトヒヤヤカニフキイル」

よこさま-ま (副) 横方 又、よこさまま。横ノ方ヘ。正シカラズ。ヨコサニ。

よこ-ざん (名) 〔横棧〕 板戸ノ上下ノカマチノ、ナカラニアル横ノ棧。

〜よこ-さら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 〔横行〕 〔さらふハ去るノ延〕 横ニアルク。〔蟹〕行 古事記、中(應神)「コノ蟹ヤ、イヅクノ蟹、モモヅタフ、ツヌガノカニ、余許佐良布」

よこ-さる (名) 〔横猿〕 〔さる(猿)ノ條ヲ見ヨ〕 雨戸ナドノ、横ニ戸締ヲナスモノ。

〜よこし (名) 〔□〕 よこ(横)ニ同ジ。成務紀、五年九月「以東西爲日縱、南北爲日横」

〜よこし (名) 〔脾〕 〔胃ノ横ニアレバ名トス、食物ヲ運化スル器、漢法ニ、脾主レ化レ穀ト云ヘリ〕 脾ノ古言。倭名抄、三「臟府類「脾、與古之」 字鏡「脾、與己志」

よこし (名) 〔汚〕 (一)ヨゴスコト。(二)アヘモノ(和物)。(女房詞) 䡄耳雙紙「侍ナドノ詞ニ聞キニクキハ、云云、あへものヲよこし」

よこし (名) 〔夜越〕 又、よごえ。(一)夜ヲ越スコト。夜ドホシ。ヨモスガラ。〔徹夜〕〔通宵〕 散木集、二、春「昔ガタメ、夜こしニツメル、ナナクサノ、ナヅナノ花ヲ、ミテ忍ビマセ」(二)ヨル、山、河ナドヲ越スコト。

よこ-しぐれ (名) 〔横時雨〕 ヨコサマニ降ル時雨。夫木抄、十六、時雨「風ワタル、ミネノ木ノ間ノ、よこしぐれ、モル山ヨリモ、シタ染ソムラン」

〜よこし-の-みち (名) 〔横道〕 東西ヘ通ズル街道。ヨコノミチ。陌 倭名抄、十七、道路類「東西曰陌、日本紀私記云、與古之乃美知」 名義抄「陌、ヨコシノミチ、阡、タチシノミチ」

〜よこし-ま (名) 〔邪〕 〔横狀ノ轉、さかさま(逆)、さかしまノ類〕 正シカラザルコト。ヨコサマ。横道。字類抄「邪、ヨコシマ」 安康紀、元年二月「信根使主之詭」 神功皇后紀「西北有山、帶雲横」

よこし-ま (名) 〔横縞〕 〔縱縞ニ對ス〕 縞ノ横ニ織リタルモノ。又、ソノ布帛。

〜よこしま-かぜ (名) 〔邪風〕 ワルキ風。作物ニ害アル風。萬葉集、五、九「長歌「大船ノ、思ヒタノムニ、思ハヌニ、横しま風ノ、ニハカニモ、覆ヒ來タレバ」ニ古言ノ訓〕

よこしま-ごと (名) 〔邪言〕 正シカラザル言語。よこしま(邪)ノ條ヲ見ヨ。

よこしま-さ (副) 〔邪〕 〔横方さノ轉カト云フ〕 又、よこさまさ。横ノ方へ。正シカラズ。正直ニナク。

〜よこ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔讒〕 〔横ヲ活用シタル語カ〕 事ヲ曲ゲテ、横サマニ人ヲ悪シク言フ。枉ケテワルク云フ。ソシル。シコツ。讒言ス 字鏡「讒、與己須」 萬葉集、十二、四「人言ノ、讒すヲ聞キテ、玉梓ノ、道ニモ逢ハズ、タエニシ吾妹」ニ古言ノ訓〕 催馬樂、葦垣「葦垣マカキ、カキワケテ、フミ越スト、すヒ越スト、ハレ、フミ越スト、誰カ、誰カ此事ヲ、親ニ中シ與已之申シシ」 應神紀、九年四月「武内宿禰弟甘美内宿禰、欲廢兄、即讒言于天皇」

よこ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔寄來す意カ〕 送リ來タス。オコス。致 狂言記、とおんさう「ソレハオレガヂャ、よこしヲロ」

よご・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔汚〕 〔よごるノ他動〕 (一)清キモノヲ、ケガス。ケガシキタナクス。ヨゴルルヤウニス。(二)和フ。狂言記、鬮阿彌「同ジク八ツレ尺八、イヤイヤソレハ、鬮阿彌ガ御尺八ヲよごすナリ」 マブス。糝ゼ合ハス 「胡麻デよごす」

よこ-ずき (名) 〔横好〕 其業以外ノモノヲ、好ムコト。其道以外ノ事ヲ好ムコト。雜俳、□□、享保、風木付「白玉ニ膨ウツル、梅ノ下水、横ずきノ、人ノ齡ヤ、鶴ノ千年」「下手ノ横好」

よこ-ぞ-はう (名) 〔横外方〕 よこそつぽ(横外方)ト云フニ同ジ。(其處ヲ打ツニ云フ) 浮世風呂、文化、三編、四、中「是レガマタ、□□□志ノ□□□□デ□□ネエ、直サマ横ぞ ほうダ」

よこた (名) 〔□〕 よこ(横)ト云ノニ同ジ。よこ、ち。「ママヨ三度笠、よこたニ被リ」

よこ-だい (名) 〔横題〕 俳諧ノ題名ノ一。下ノ出典ヲ見ヨ。正風芭蕉流□□□□□集、竪題、横題之事、並落題詞書之事「題ニ竪横トイフコトアリ、先ヅ月、雪、花、時鳥、雁、鶯、鹿、紅葉ノ類、ミナミナ竪題ナリ、是レ本題ノ題ナレバナリ、歌、連歌ニセヌ題ハ、皆俳諧ノ題ナリ、踊リ、角力、エビス講ノ類、是レヲバ横トハ云フナリ」

よこ-だき (名) 〔横抱〕 横ニシテ抱クコト。横サマニ抱クコト。盛衰記、十七、祇王祇女佛前事「入道自ラ横抱ニ抱キテ、帳臺ノ内ヘ入リ給フ」

よこ-たけ (名) 〔横竹〕 よこぶえ(横笛)ノ異稱。夫木抄、三十二、笛「我ガ戀ハ、マタ吹キ馴レヌ、よこたけノ、ネニタツレドモ、アフ方モナシ」

よこ-たづな (名) 〔横手綱〕 〔横褌ノ義〕 フンドシヲ締メタル横幅ノ、腰ニマトヒタルトコロ。太平記、十八、金崎城落事「綱手ヲ己ガ横手綱ニ結付ケ、海上三十餘町游イデ、云云」

よこ-たて (名) 〔横縱〕 よこト、たてト。又、よこ絲ト、たて絲ト。タテヨコ。

よこ-たは・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 〔横〕 〔次條ノ語ノ轉〕 ヨコホル。ヨコヲル。横ニ臥ス。横ニナル。ヨコタフ。字類抄「横、ヨコタハル」 謡曲、熊野「煙ノ末モ霞ムモ、旗雲ノよこ、たはる、北斗ノ星ノ前ナキ、云云」

〜よこ-たは・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 〔横〕 〔横倒るノ轉ト云フ〕 前條ノ語ニ同ジ。源、三十二、藤裏葉「□□よこたはれタル松ノ、木高キ程ニハアラヌニ、云云」 枕草子、七、第六十二段「□イナルもの、云云、よこ□たはれ□□□」

よこ-た・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) □□ノ□□ニ同ジ〕 前□□□ノ語ニ同ジ。□□□□遊□、花□ヤ、□□□□□たふ、アマノガハ」

よこ-た・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 〔横〕 〔横伏ふるノ義〕 (一)横ニナス。横ニ伏セオク。ヨコタヘル。(二)横ニシテ持ツ。南史、□□□「ヒ□□□」(三)横ニ帶ブ。佩ブ。「刀ヲ横たふ」(四)シカト持ツ。□□抄、三、第九條「我執ヲノミよこたハ□」

よこ-たふし (名) 〔横倒〕 ヨコニ、タノスコト。太祇全集、水仙ヤ、疊ノ上ニ、横倒し

⁂よこ-た-へ-る (動) 〔横〕 前前條ノ語ノ口語。

よこ-ちやう (名) 〔横町〕 よこまち(横町)ニ同ジ。芝居、冬「□賣ノ、横町サガル、□吹カナ」

よこ-づけ (名) 〔横附〕 (一)横サマニ附クルコト。側面ヲ直接ニ附クルコト。「汽船ガ横附ニナル」(二)其場ヘ、スグニ附クル。「車ヲ横附ニスル」

よこ-づち (名) 〔横槌〕 さいづち(木槌)ノ條ヲ見ヨ。字鏡集「槌、ヨコヅチ、サイヅチ」

よこ-づつぱう (名) よこぞつぽうノ訛。

よこ-づな (名) 〔横綱〕 〔手綱(腹帶)ヨリ起レル名カ、或ハ云フ、信長ガ堯ノ綱ヲ採リテシメサセタルニ起ルト〕 相撲力士ノ大關ノ數度全勝セル者ニ加フル榮稱。其品物ハ、一斗五升ノ糯ニテ採ミ柔ケタル麻ノ、三貫五百目ナルト、晒布六反、皮、一六號ト云フ太キ針金三丈五尺ヲ納ヒテ綱トシ、四手ヲ垂ラシタル

モノ。總長八九貫目程ナリトカ。コレ相撲ノ家、吉見宿禰ノ後裔タル五條氏ニ屬セル相撲ノ司吉田追風ヨリ、力士ノ大關ノ中ノ技量ナル者ニ授ケテ、腰ニ纏ハシメ、[illegible]トセシム。寛延二年八月、奧州、津輕郡、中津山村ノ産、丸山權太左衞門ヲ横綱免許トセルヲ、其初トセリ（同年長崎ニテ客死ス、年三十七）次ハ仙臺ノ谷風梶之助ナリ。（或ハ谷風ヲ初トスト）

よこっぱら（名）|横腹|〔よこっぱら、ふとっぱら、あさはらナドト同趣〕よこはら（横腹）ノ急呼語。其條ヲ見ヨ。

よこて（名）|横手| 横ノ方。傍側 夫木抄、三十八、神樂「ユフテグラ、手ニ取リカザル、韓神ノ、ワワよこてニ、ススメツルカナ」

よこで（名）|横手|（一）左右ノ掌ヲ横ニ、合セ拍ツコト。甚タシク感ジ、又ハ、思ヒ當ルコトナドアルトキ、兩ノ掌ヲ打合ハスルコト。「横手ヲハタト打ツ」（二）よこがみ（横上）ニ同ジ。

よごと（名）|壽詞|〔善言ノ義〕壽ギ祝フ詞。イハヒノコトバ。賀詞 字類抄「壽詞、ヨゴト」孝德紀、白雉元年二月「使百官人等奉賀」天智紀、十年正月「進於殿前奉賀正事」持統紀、四年正月「天神壽詞」神祇令「凡踐祚之日、中臣奏天神之壽詞」[illegible]

よごと（名）|吉事|〔まがごと（禍事）ニ對ス〕吉キ事ナルコト。善ナルコト。古事記、下、雄略「[illegible]」[illegible]

よことぢ（名）|横綴| 册子ヲ横ニ長ク綴ツルコト。横本ニ仕立ツルコト。

よことび（名）|横跳| 横サマニ跳ビ走ルコト。よこっとび。[illegible]

よこどひ（名）|横樋|〔たてどひ（縦樋）ニ對ス〕横ニ取リツケタル樋。

よこどり（名）|横取| ヨコドルコト。傍ヨリ非理ニ取去ルコト。横奪

よこど・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）|横取| 傍ヨリ非理ニ取リ去ル。横行 源、十四、澪標「三十ノ院ヨリ御ケシキアランヲ、ヒキタガヘ、横どり給ハンヲ、カタジケナキコト思スニ、云云」

よこなば・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）|横訛| よこなまる（横訛）ノ轉。允恭紀、四十二年十一月「未習風俗之言語、故訛畝傍山謂宇泥咩、訛耳成山謂瀰瀰」

よこなまり（名）|訛| 言語ノ、横サマニ訛ルコト。又、ソノ言語。

よこなま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）|訛| 訛シテ、よこなばる。なまる（訛）ト云フニ同ジ。神武即位前紀「訛、此云與許奈磨盧」

よこな・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）|横臥| 臥ス。體ヲ横ニスル。ヨコタハル。

よこぬひ（名）|横縫| 鎧ノ草摺ト胴トヲ縫合セタル絨絲。曾我物語、六、朝比奈五郎力ヲ入レ、大力ニヒカレテ、よこぬひ、草摺コラヘズシテ、一ドニ切レテ朝比奈ハ、後ヘドウド倒レケリ」

よこね（名）|横根|〔形ニ因リテ名トスト云フ〕べんどく（便毒）ニ同ジ。黴毒性ノ[illegible]腺炎 時慶卿記、文祿二年六月廿三日「横

よこはき（名）|伏突|〔横佩ノ義〕太刀ノ異名。[illegible]

よこばしり（名）[illegible] ヨコバシルコト。夫木抄、三十六、蟹「イカニセン、[illegible]、デ、アシガラヤ、よこばしりスル、人ノ心ヲ」

よこばし・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）|横走|（一）横ニ走ル。又、横ニアルク。横行 夫木抄、廿七、蟹「よこばしる、[illegible]ノ蟹ノ、雪フレバ、アナ寒ゲニヤ、イソギ隠ルル」（二）正道ニ由ラズ、横サマニ行ク。

よこばひ（名）|横這| 横サマニ這フコト。

よこばら（名）|横腹| 又、よこっぱら。横ノカタノ腹。ワキバラ 丹波與作[illegible]（近松作）中「アイタ、アイタシコ、横腹ヲ蹈ミクサル」

よこひき（名）|夜興引| 冬、夜獵スルコト。ヨコヒクコト。又、ソノモノ。蕪村句集「夜興引ヤ、犬ノ咎ムル、塀ノ内」

よこひ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）|夜興引|〔夜、犬ヲ牽キテ、狐ナドヲ獵ルヨリ名ツク〕獵師ノ語。冬ノ夜、山中ニ入リテ獸類ヲ獵ル。ヨコヲヒク。

よこひだ（名）|横襞| 横ニツケタル襞。

よこひやうご（名）|横兵庫| 女ノ髮風ノ名。ひやうごわげ（兵庫髷）ノ條ヲ見ヨ。歷世女裝考、三、兵庫といふ髮の風[illegible]ノ比マデモ、遊女ニハ此風ノコリテ、上﨟ノモノラオホカタハ、横兵庫ナラザルハナカリシニ、云云」

よこぶえ（名）|横笛| ワウテキ。ワウヂャク。ワウチャウ。ヤウヂャウ。ヤウデウ。笛ノ、横ニ用キテ吹クモノ。（竪ニ吹ク尺八、洞簫ナドニ對ス）歌口ノ外ニ、七

孔アリ、[illegible]

よこ[illegible]（名）[illegible] 武家時代ノ役、訴訟ノ法ノ時、公事奉行ノ傍ニ在リテ、裁判ノ是非ヲ監察セシモノ。

よこぶり（名）|横降| 雨ナドノ、風ニ吹カレテ、横サマニ降ルコト。

よこへうぐ（名）|横表具| 書畫ノ軸物ヲ、横ニ長ク表具スルコト。又、其物。

よこほん（名）|横本| 横ニ長ク綴ヂ作リタル書物。横綴ノ本。横册。

よこほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）|横|〔横ヲ活用セル語、ほるハ、くづほる、とどほる、いきどほるナドノほるト同趣〕又、よこをる。よこたはる（横）ニ同ジ。土佐日記、二月十一日「東ノ方ニ、山ノよこほれルヲ見テ、云云」古今集、廿、東歌「甲斐ガ嶺ヲ、サヤニモ見シガ、ケケレナク、よこほり伏セル、サヤノ中山」新拾遺集、九、羇旅「旅人ノ、[illegible]ほりセル、山越エテ、月ニモ幾夜、別レシツラン」

よこまち（名）|横町| 大通ノニ對シテ、横ニアル町。ヨコチャウ。横丁 好色一代男、[illegible]ノ[illegible]ニ留メラレテ、又、西ノ横町ヘマハルモヲカシ」

よごみ（名）|夜込| 夜間、敵地ニ忍ビ入リテ、アラシマクルコト。[illegible]

よこみち（名）|横路|（一）路ノ左右ニ通

レルモノ。横徑 (二)本道ヨリ支ルル路。ワキミチ。エダミチ。支路 [illegible] (三) 違ヒタル方向。正筋ナラヌ [illegible]。[illegible]「[illegible]へソレル」(四)邪ナル筋。横道。邪道。

よおむき (名) 横向 (一)傍ヘ向フコト。傍視 (二)物ノ側面。側面

よおめ (名) 横目 (一)眼球ノミ動シテ傍ヲ見ルコト。ソバメ。ワキミ。ナガシメ [illegible] 流眄 [illegible]「[illegible]」[illegible] (二)他ニ心ヲ移スコト。アダシ心ヲ持ツコト。メウツシ。宇治拾遺、九、[illegible] (三)〔横目附ノ略〕武家ノ役名、行跡、事務ノ非ヲ監督スルモノ。目附 [illegible] 十三、品第四十、上「ソレニハ横目ノ入所、横目ノ中カヌルナバ、定マリナウシテ、[illegible] 小分限分別ナキ者ニ關ア、物カクス目付横目ヲ、[illegible] 心ノ科ニ申付ベシト宜フ也」(四)監察スルコト。又、ソノ人。 織留(元祿、西鶴)六「家久シキ年寄ヲ翠ニ付ケテ、假ニモ小宿バヒリヲサセズ」(五)よおめあふぎ(横目扇)ノ略。相撲集「秋來ヌト、古キ扇ヲ、忘レナバ、マタ張リカヘヨ、よおめナラヌニ」(六)筋ノ横ニ通レルモノ。

よおめ (名) 夜籠 ヨル、ヲ籠メテナスコト。 新六帖、二、獵「明ワタル、モト山トホク、セコタテテ、夜おめノ鹿ノ、行方ゾナキ」

よおめあふぎ (名) 横目扇 板扇ノ板ノ木理ノ、斜メナル扇。[illegible]

よおめつけ (名) 横目附 武家時代ノ役名。諸士ノ擧動ヲ監察シ、其非違ヲ糺[illegible]

[illegible]スルヲ掌ルモノ。略シテ、よおめ。

よおもくろく (名) 横目錄 〔竪目錄ニ對ス〕 二ツ折ノ折紙ニ書キタル目錄。(モト、下輩ヨリ貴人ニ奉ルニ用ヰタリ) 貞丈雜記、九、書札之部「今時、貴人ヨリ下輩ヘハ、竪目錄ヲ用ヒ、下輩ヨリ貴人ヘハ、横目錄ヲ用フルトイフ說アリ、古ハ、竪目錄、横目錄トイフ名目ナシ、云云、太刀、馬ノ目錄ト、手本、万疋ナトノ折紙ハ、[illegible]」

よおもじ (名) 横文字 [illegible] 横ニ書キ綴リ、行ク體ノ文字。即チ、梵字、西洋文字等。 [illegible]

よおもの (名) 横物 〔竪物ニ對ス〕 軸物ナドノ、横表具ニシタルモノ。又、書畫ノ、横額、又ハ、卷物ナルモノ。横幅 横方幅 横披 横卷

よおもり (名) 夜籠 (一)〔ヨゴモルコト〕。夜深キコト。夜中ニテアルコト。ヨフカ。深夜 深更 [illegible]「[illegible]、夜隠ニ、出テ來ル月ノ、光リ乏シキ」 (二)さんろう(參籠)ニ同ジ。

よおも・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 夜籠 〔夜ヲ籠ムノ自動〕 夜深クアリ。夜、マダ明ケズ。[illegible]中ニ、アシタノ原ヲ、越エ來レバ、マタよおもれル、心チコソスレ」

よおも・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 世籠 〔世ハ齡ノ意〕 年若キ人ノ、行末ノ齡ノ多キコト。オヒサキ長クアリ。生先遠ナリ。年長ケズ。富春秋。[illegible]、四十六、[illegible]本「[illegible]ニ[illegible]」 [illegible] ヲ思ヘル親達モ、世おもりテ過ス年月コソ、アイナ

ダノミニ、行末心ニクク思フラメ」 他動ニ、源、五十二、[illegible] ガトナン、見給ヘ侍ル」

よおや (名) 横矢 矢ヲ側面ヨリ射ルコト。又、其矢。 太平記、十七、山門攻事「横矢ニ射シラマサレ、田中、白鳥ノ官軍ニカケタテラレ」

よおやま (名) 横山 横ハレル山。長ク連レル丘陵。 祈年祭祝詞「荷前ハ、皇大御神ノ大前ニ、横山ノ如ク打積ミ[illegible]、云云」

よおやますみ (名) 横山炭 和泉國、横山莊[illegible]村、又、光ノ[illegible]ノ地ヨリ産ズル炭。色白キ故、白炭トモ云フ。又、枝炭 細炭 [illegible]ズ、當ノ[illegible]モココヨリ燒出スト) えだずみ(枝炭)ノ[illegible] 新六帖、六、すみがま「何トシテ、イカニ[illegible]、白クハユランニ」

よおやまべろ (名) 横山[illegible] [illegible] [illegible]ノ[illegible] ココヤマノホトリ。[illegible] 十四、[illegible]「イモヲコソ、アヒ見ニコシカ、マヨヒキノ、與許夜麻[illegible]ノ、シシナスオモヘル」

よおやり (名) 横槍 敵ト相戰フ所ノ横合ヨリ、槍ヲ入レテ突キ掛ルコト。横槍ヲ入れるトハ、傍ヨリ他人ノ事ニ[illegible]スルコト。

よお・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 汚 キタナクナル。不淨ニナル。ケガル。ヨゴレル 相撲集 早苗引キ、モスソよおるト、云フ田子モ、我ガゴト袖ハ、シホドカラジナ」

よおれ (名) 汚 (一)ヨゴルルコト。又、ヨゴレタル痕。ケガレ。[illegible] 旅ノよおれノアカツキハ、七ツ立チカ八ツ立チカ」(二)ヨゴレタル箇所。

よおれんぼ (名) 横戀慕 ヌシアル人ニ、横合ヨリ思ヒヲカクルコト。 信州川中島[illegible]

合戰(享保、近松作)一「臨カラ邪戀ノ横恋慕、此ノ姫[illegible]セリ」

よお・れる (動) 汚 よおる(汚)ノ口語。

よおろ (副) 夜頃 數夜コノカタ。(日頃、年頃ノ如シ) [illegible] 書サセテ、今日ゾウスカニ、ホノメ[illegible]ツル」

よおわ (名) 横輪 魚ノ名。めおか、又、うづわがつを(渦輪鰹)ノ條ヲ見ヨ。

よおわたし (名) 横[illegible] [illegible]みち(水[illegible]) [illegible]ニ横ギリテ、向フヘ渡スコト [illegible]

よおゑ (名) 横[illegible] [illegible] [illegible]シタル縫ノ幅 [illegible] [illegible]間、云云、横縮據跡ヲカカルル」

よおゑ (名) 夜聲 夜中ノ聲、高エテ聞ユル[illegible]。又、夜中、高聲ノ詩。[illegible]集、十七「ホトトギス、夜聲ナツカシ、アミササバ、花ハ過グトモ、カレズカ鳴カム」[illegible] 五十「[illegible]ナ、カマ、タマヘ、夜聲ハ、ナサメクシモゾ、カシカマシキ、ナド言ヒツツ寢ヌ」

よおた・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 横 よおほる(横)ノ條ヲ見ヨ。ヨコタハル。

よお・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 横折 ヨコニヲレマガル。 [illegible]集 [illegible]ノ原、ツラナリ[illegible]ル、行[illegible]ハ、[illegible]、[illegible]カフテ、[illegible]折れニケリ」

よさ (名) 夜 よ(夜)ト云フニ同ジ。外記節、[illegible]「夜さノ泊リハ、ドコガ泊リゾ」

よさ (名) 蕭 ヨキコト。ヨキサマナルコト [illegible]集、十[illegible]「マケ長ク、川ニ向キ立ナ、アリシ袖、コヲヒマトナム、ト思ヘガ苦シ」 [illegible]

よざい (名) [illegible]付 [illegible]付ト[illegible] [illegible]、不[illegible]、故[illegible]

[illegible]（二）其外 [illegible]

よざい（名）［餘財］アマリタル財貨。又、[illegible] 不三相分資一也、[illegible]良道一而不三相教誨一也」

よざい [illegible]

よさう（名）［豫想・預想］預メ推シ量リ想フコト、[illegible]スルコト。

よざかり [illegible] 今盛 [illegible] 盛リノ程ハ、イササカ忽ニ申ス者ナシ」（二）若盛 [illegible] 同シ [illegible] タヘヌ事ニテ、入道殿世盛リニテ失セラレヌ」

よざくら（名）［夜櫻］（一）夜ニ觀ル櫻ノ花。又、[illegible] 觀ルコト [illegible] 二、花シヤヒトリ [illegible] 中ノ町ニ、櫻樹ヲ植エ、周圍ニ竹ヲ以テ垣ヲ造リ、[illegible]、夜、火ヲ照シテ、櫻花ヲ遊客ニ觀物セサスルモノ [illegible] ノアリシヲ、夜露ニアテタキトイヘル顚ニテ、コト起レリ、後、地ヘウヱシモ、鉢ヨリ地ヘオロシタリト [illegible] 云フ [illegible] 夜櫻ウハキデ通フ、朋夫ノ名取ノトホリモノ」

よささ（名）［好］ヨキ程ラヒ。ヨキサマ。[illegible] 小 [illegible]、ササナミヤ、志賀ノ [illegible] 女ノ [illegible] トコセノ、ミイトコセニセムヤ」（古寫本）

よさし（名）［寄任］ヨサスコト。又、マケ、任務。[illegible] 任」

よさ・す [illegible] ［所任・依任］[illegible]

よさん

ヨ・サ・スラ
よさづら [illegible]

[illegible]
[illegible]

知る、ノ知らす、ノ如シ）事ヲ其人ニ、[illegible]

ひさお（瓢）ノ古名。神代紀、上十「天吉葛、此云 [illegible]」

よざと・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）［夜聰］いざとし（寐聰）ニ同ジ。メザトシ。博多小女 [illegible] ヤ、夜ざとさ [illegible] 共セナイ

よさま（名）［好様］好キヤウ。源、九、葵十八「人ノ御タメニハ、よさまノ事ヲシモ言ヒ出デヌ世ナレバ、マシテコレハ、イト能ク言ヒナシ、云云」

よさみ（名）［依網］[illegible]

よさむ（名）［夜寒］秋ノ夜、[illegible] クナレルコト。新古今集、五、秋、下「キリギリス、よさむニ秋ノ [illegible]」

よさん（名）［豫參・預參］（一）其事ニ預ルコト [illegible] ノ數ノ内ニ入ルコト。參着ノ人數ニ入ルコト。參會。參候。太平記、廿四、山門 [illegible]

よさん（名）[illegible]（一）預メ量リ數フルコト [illegible]（二）國家、又ハ、地方自治團體ナドガ、次ノ [illegible] 豫メ計算スルコト。又、ソノ計算。

よさめ（名）[illegible]

よさり（名）[illegible] 又、ゆふさり。よ（夜）ト云フニ同意 [illegible] 二、帚木七「オヤノ家ニコノよさりナンワタリヌル」

よさりつかた（名）［夜方］[illegible] さりつかた [illegible] ヒタレドキ、バンガタ [illegible] テ夜さかりつかた、コナタニワタリ給ヘルホドニ」

よさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［寄］よそる [illegible] ホシトフ、コナノシラネニ、アホシタモ、アハノヘシ [illegible]

よし（名）［由・因］（一）事ノオコリ。ユエ。ココロ。イハレ。ワケ。ユカリ。[illegible] 與之コサルラシヤ、與之コサルラシヤ」（コソアルラ [illegible] アル人」（二）ヨルベ。ヨスガ。チナミ。由縁 [illegible]（三）[illegible] 方法 [illegible] ムナ [illegible]

よし（名）［正］ヤムルコト。ヨスコト。

よし（名）［依］より（寄）ト云フニ同ジ。[illegible] 葉集、九「木ノ國ニ、ヤマズ通ハム、妻ノ杜、妻依來 [illegible]

よし（名）[illegible]［葦ノ惡ニ通フヲ忌ミ [illegible]、よしあしハ、言フ人カラノ、言ノ葉ゾカシ」住吉社歌合「汀ナル、汐道ニ茂フ、蘆荻ハ、よしトゾ見ユル、ヨサノ浦人」住吉社歌合設（役設）「難波ワタリニハ、あしトノミイヒ、東ノ方ニハ、よしト云フナル [illegible]

よし（名）［餘師］師トナスニ、アマリアルコト [illegible] 學餘師」（書名）

よし（名）[illegible]（二）ソノ餘ノ人。ソレ以外ノモノ。

よし（名）[illegible]

よ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）［好・佳］（一）程ニ適フ。ワロカラズ。ヨロシ。（二）［理］[illegible]（三）[illegible] カラズ。ウルハシ。ウツクシ。［美］（四）[illegible] シ、ノ反（五）タフトシ。貴「位よし [illegible] 分よし」（六）キキトドケタリ。承知シタリ。許スベシ。滿足ナリ。可 儀式、一 [illegible]（七）［易］[illegible] ラズ。易 源、三十四、上、若菜、上廿「此御事、定マリタラバ、仕ウマツリよくナンアルベキ」「見よし」聞キよし」（八）［友善］シ。交リニ睦シキ心 [illegible]

〔よし (副) 縱〔可シト贊スル意〕心ニハ叶ハネド、セム方モ無ケレバトテ、打任スル意ヲ云フ語。タトヒ。サモアラバアレ。ヨシ、シンバ、ママヨ。古今集、十一「タラチネノ、母ニ知ラエズ、吾ガモタル、心ハよしエ、君ガマニマニ」 枕草子、五、九十段「よし貴時ハ知ラズ、今宵ハ（…）」 古今集、四、秋、上「荻ノ葉、下ニヌカント、取レバ消ヌ、よし見ン人ハ、枝ナガラ見ヨ」

よ-じ (名) 〔餘事〕 外ノ事。又、餘力ニテナス事。 莊子、讓王篇「帝王之功、聖人之餘事也、非所以完身養生也」「餘事ニ翫ラハス」

ヨシ-アリ-ガホ
よし-あり-がほ (名) 〔由有顏〕 ユヱヨシノアリサウナル顏ツキ。譯アル顏ツキ。 謠曲、伏見「昔ノ伏見ノ翁ノ、萬歲ニ任セテ此里ニ、今モカハラテ此國カ、よしあり顏ニ持チタル花ヲ」

よし-あり-げ (名) 〔由有氣〕 ユヱヨシノアル容子。子細ナルワケノアルヤウス。

ヨ-シユウ
よ-しう (名) 〔餘臭〕 アマリタル、ニホヒ。アトニ、ノコレルクサミ。 南史、到溉傳「到溉何有餘臭、遂擾作貴人」云云、初溉祖彥之、初以擔糞自給、故世以此譏云」

ヨ-シユウ
よ-しう (名) 〔餘醜〕 殘レルワルモノ。 儲光義、送李雲南伐蠻詩「餘醜隔西河、咽喉亂行蹤」

ヨ-シユウ
よ-しう (名) 〔豫修〕 (一)預メ學ヲ修ムルコト。(二)ぎゃくしゅ(逆修)ノ條ヲ見ヨ。

よし-か (副) モノヲトリワクル狀ニ云フ語。トハ云フモノノ、ソレヨリハ。イヤ、シカシナガラ。 排窮搖卯月紅葉、寶永、近松作)中「參ラシャレト云フモアリ、よしかオカシャンセ、云云、ト云ウテ出ソルモ常ナレト、云云」

よし-がき (名) 〔葦垣〕 あしがき(葦垣)ニ同ジ。其條ノ(一)ヲ見ヨ。

よし-きた (副) 他ニ對シテ諾ベナフトキ

ニ云フ語。「よしきた、合點ダ」「よしきた、攻メカカレ」

〔ヨシ-キライモノ
よし-きらひもの (名) 〔吉棄物〕 〔惡棄物〕ニ對ス〕祓ニ云フ語。手ノ爪ノ稱。よしはらへ(善祓)ノ條ヲ見ヨ。 神代紀、上十三「吉爪棄物、足爪凶棄物」

よし-きり (名) 〔葦切〕 小鳥ノ名。形、鶯ニ似テ大キク、色モ似テ、腹ノ下、白ク、尾、稍、長シ。夏、葦原ノ中ニ居テ、莖中ノ蟲ヲ捕リ食フ。鳴クコト殊ニ喧シク、けけしけけしト云フガ如シ。一名、ヨシハラスズメ。ヨシスズメ。ヨシムシリ。ギャウギャウシ。 蘆虎 剖葦

よし-ご (名) 〔葦子〕 葦ノ若芽。アシヅノ。アシワカ。 蘆芽 蘆錐 蘆筍

〔よし-ごさる-らめ (句) 〔由おそ有るらめノ約、又、よしおさるらし卜云フアリ〕 由來アルラシ。ワケアルラシ。 萬葉集、十四「志太ノ浦ヲ、朝漕グ船ハ、由ナシニ、漕グラメカモヨ、余志佐流良米」(古義ノ訓)

よしこの-ぶし (名) 〔よしこの八囃ス聲〕 小唄ノ一種。七、七、七、五、ノ四句ヨリ成ル。(囃子ノ詞ヨリ起リシト)即チ「勤メスル身ハ、田毎ノ月ヨ、ドコヘ誠ガ、ウツロヤラ」「鳴イテ居ルノヲ、面白サウニ、ハタデ見テヰル、籠ノ蟲」ノ類。

ヨシ-ゴイ
よし-ごゐ (名) 〔葦五位〕 五位鷺ノ一種。形、小ニシテ、嘴、正直ニ細長ク、頭ハ灰黑ニテ、背ハ暗褐ナリ。夏季、葦ノ間ニ巢ヲ作リテ産卵ス。アシゴヰ。煩惱鷺。

よし-ず (名) 〔葦簾 蘆簾〕 〔すハ簀ニテ、すだれノ事ナリ〕 あしすだれ(葦簾)ノ條

ヲ見ヨ。 倭訓栞「あしすだれ、蘆簾也、俗ニよしずト云ヘリ」「葦簾張」「葦簾圍」

ヨシ-ズ-ガコイ
よし-ず-がこひ (名) 〔葦簾圍〕 次條ノ語ニ同ジ。

よし-すずめ (名) 〔葦雀〕 よしきり(葦切)ノ異稱。ヨシムシリ。 書言字考節用集、九、氣形門「鶺鴒、ヨシムシリ、ヨシススメ」

よし-ず-ばり (名) 〔葦簾張〕 掛茶屋ナドニ、葦簾ヲ張リテ圍ムコト。又、ソノモノ。ヨシズガコヒ。「江戸川堤ノ葦簾張」

ヨシ-ダ-カン
よし-だ-くゎん (名) 〔吉田官〕 元ト、諸國神社ノ神職ハ、スベテ京都ノ吉田社ノ被官ニテ、中臣大祓、三種大祓、六根清淨大祓、又、陰陽行儀ナドノ、神道ニ關スル傳授ヲ受ケ、神主ノ職ヲ許サレ、其上ニテ、其社其社ニ奉仕セリ。コレヲ吉田官ト云フ。吉田神道ニ同ジ。 雍州府志(天和)二、神社門、上「齋場所在吉田山、云云、吉田卜部家主、我邦事、凡二十二社之外、所在日本國之大社小社神職、皆自此家下令、敍官位等執奏之」

よし-たけ (名) 〔葦茸〕 葦ノ根ニ生ズル菌。

ヨシダ-シントウ
よしだ-しんたう (名) 〔吉田神道〕 ゆゐいつしんたう(唯一神道)ニ同ジ。しんたう(神道)ノ條、及、さいぢゃう(齋場)、第一語)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

よ-じつ (名) 〔餘日〕 (一)其期限マデニ、尚、ノコレル日。殘餘ノ日數。 穀梁傳、文公六年「閏月者、附月之餘日也、積分而成於月者也」(二)ホカノ日。後ノ日。他日。異日。 列子、仲尼篇「公子牟默然良久、告退曰、請待餘日」

〔ヨシ-ズ-ク
よし-づ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 〔由付〕 由アリゲニ見ユ。 源、六、末摘花四「琴ヲゾ、云

云、父ミコノ、サヤウノ方ニ、イトよしづきテ物シ給ヒケレバ」 大和物語、中「イトよしづきテ、ヲカシクイマスカリケレバ、嬉フ人モイト多カリケレド」

よしつね-ばかま (名) 〔義經袴〕 〔義經、陣中ニ穿クモノ〕 裾ニ紐ヲ通シタル袴。

ヨシ-ツネ-リユウ
よしつね-りう (名) 〔義經流〕 源義經ノ兵法ヲ傳ヘタリト云フ流儀。 倭訓外書、九、戰略、六「唐ノ諸葛孔明流、義經流、楠正成流ナド、イヒ傳ルハイカガ、云云、義經流、正成流トイフハ、偽以名將ノ上手ヲセシ其名ヲイヘリ」

よし-ど (名) 〔葦戸〕 葦簾ヲ張リタル戸。

よ-じと (名) 〔夜尿〕 ねせうべん(寢小便)ニ同ジ。 運歩色葉集「夜尿、ヨジト」

よし-な (名) 〔由無〕 〔よしなし、語根〕 ユヱヨシノナキコト。理由ナキコト。 新六帖、五「カヨヒクト、ヨソニハ人ニ、見エナガラ、よしなや何ト、ツレナカルラン」

〔よし-な・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 〔無由〕 關係ナシ。緣ナシ。故ナシ。ツマラヌ。クダラヌ。 枕草子、二、第十四段「よしなき者ノ名ノリシテ來タルモ」 榮花物語、一、月宴「世ノ末ニよしなき事ノ出デ來テ、人ノソシリヲ負ヒタマフコトト、歎カシゲニシタマフ」 拾遺集外「年ヲヘテ、よしなき秋ノ、クレニミテ、紅葉ノ色ノ、ウラメシキカナ」

よしなし-ごころ (名) 〔無由心〕 ユヱヨシノナキココロ。ツマラヌオモヒ。スズロゴコロ。 更級日記「今ハ昔ノよしなし心モ、クヤシカリケリトノミ思ヒ知リハテ、云云」

〔よしなし-ごと (名) 〔無由言〕 クダラヌコトバ。ツマラヌコト。スズロゴト。漫言。 堤中納言物語「よしなしごと」

〔よしなし-ぶみ (名) 〔無由文〕 ユヱヨシナキフミ。ツマラステガミ。 榮花物語、廿七、衣の珠「よしなし(くィ)文ウチカキ、ウチワタリノ宿

直ノヲリナド、ハカナキ事アリシヲ、云云」

よしなしもの (名) [無由物] ユヱヨシナキモノ、ツマラヌモノ。無用ナルモノ。 宇治拾遺、十三、第一條「コノ石ハ、女ドモコソよしなしものト思ヒタレドモ、我ガ家ニモテイキテ、ツカフベキヤウノアルナリ」

よしなしものがたり (名) [無由物語] ユヱヨシナキモノガタリ。ツマラヌモノガタリ。トリトメナキ世間バナシ。ムダバナシ。スズロモノガタリ。雜話。管談。漫語。 狹衣、三、中「今ハタダ佛ニ向ヒ奉リテ、念佛ノミクワセ給ヘバ、世中ノよしなし物語ヲ御耳ニテ申人モ侍ラズナドカタルモ、云云」

よしなしわざ (名) [無由業] ユヱヨシナキワザ。ツマラヌシワザ。スズロナルワザ。 宇治拾遺、十、第十條「人人、ナドカクハスルゾ、よしなしわざスルトイヘド、云云」

よしなに (副) 〔なハ、あんな、おんなノなニテ、樣ノ意〕 コキヤウニ。好キ程ニ。不都合ナキヤウニ。 好色二代男、元祿、西鶴、五、「成程首尾能ク合ヒ、互ニよしなに申シ成シテ、其夜首尾サセケル」 心中刃ハ氷ノ朔日、中、近松作「此上其方ガ心入、國ヘハよしなに言ヒ遣ッテ、云云」

よしのがみ (名) [吉野紙] 大和國ノ吉野郡丹生郷ヨリ産ズル一種ノ紙。極メテ薄ク、天具帖ニ似テ劣ル。漆ヲ漉スニ用ヰルガ故ニ、「漆漉シ」ノ名モアリ。

よしのぐさ (名) [吉野草] 〔吉野ハ其名所ナル故カ〕 櫻ノ異稱。 藏玉集「吉野草、櫻一」

よしのくず (名) [吉野葛] 大和ノ吉野ヨリ産ズル葛粉。佳品ナリトス。

よしのごほり (名) [吉野氷] 菓子ノ一種。吉野葛ニ砂糖ヲ加ヘテ、固メテ製シタルモノ。色、白ク、氷ノ如シ。

よしのざくら (名) [吉野櫻] 〔大和ノ吉野山ノ櫻ガ元ナルベシ〕 山櫻ノ一種。花、葉ニ先ダチテ開キ、多ク單、[illegible]テ、葉ヨリ蘂ニカケテ靑シ。染井吉野。

よしのしづか (名) [吉野靜] 龍膽科ノ多年生草ノ名。山野ニ自生シ、高サ一尺許リ、葉ハ澤桔梗ニ似テ大キク、春ノ末、紫黄、及、赤ノ點アル白色ノ花ヲ開ク。

よしのずし (名) 吉野鮨 〔大和、吉野ノ名物ナレバ云フ〕 釣瓶鮨ニ同ジ。

よしのてう (名) [吉野朝] なんてう(南朝)ニ同ジ。其條ノ(一)ヲ見ヨ。

よしのぬり (名) [吉野塗] 漆器ノ一種。大和ノ吉野郡下市ナドヨリ産ズ。大抵、椀ニテ、黒漆ヲ塗リ、外側ニ、朱漆ニテ木芙蓉ナドヲ描ク。

よしのびな (名) [吉野雛] 束帶シタル男女立像ノ雛人形。

よしのほうへい (名) [由奉幣] 神宮ヘ天皇ノ御卽位アルベキ由ヲ奉告セラルル幣帛。 代始和抄「由の奉幣ト云フハ、御卽位アルベキ由ヲ、伊勢太神宮ニ申サレンカタメ、神祇官ニ行幸アリテ、奉幣使ヲ立テラルル事也」

よしばみ (名) [由] ユヱヨシノ、ソレトアラハルル容子。 源、六、末摘花廿六「ザレクツガヘル今ヤウノよしばみヨリハ、コヨナウオクユカシク思シワタルニ、トカウソソノカサレテ、云云」

よしばむ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [由] 由アリゲニ見ユ。ミエヲスル。イロケヲツクル。 源、七、紅葉賀廿七「内侍ハネビタレド、イタクよしばみ、ナヨビタル人ノ」 沙石集、三、第二條「サマザマニモテナセドモ、よしばみテ、イト物モ食ハズ」

よしはら (名) [葦原] ヨシノ生ヒ繁リタル原。葦ノ生ゼル處。[illegible]ノ條ノ(一)ヲ參見セヨ。

よしはらがひ (名) [葦原貝] いがひ(貽貝)ノ一名。(江戸ノ方言)

よしはらことば (名) [吉原詞] 江戸ノ遊里ナル吉原ニテ用ヰタルコトバ。サトコトバ。オイランコトバ。下ノ出典ヲ見ヨ。 吉原[illegible]「里詞ハ、イカナル遠國ヨリ來レル女ニテモ、此言葉ヲツカフ時ハ、鄙ノナマリヌケテ、元ヨリ居タル遊女ト同ジニ聞ユ、云云、サレバ、なんせ、おんす、見んす、ナドヲ始メトシテ、餘國ニ聞ザル詞多シ、云云、里詞ノ一ツ二ツヲ[illegible]ニ記ス、おいらん、姉女郎ノコト、ごてさん、御亭主、兄さん、茶屋付宿ノ息子、ぬし、客人ヲ始メテ敬スル語、やぼ、不案内ノ人、すい、案内シレル人、さと、やぼト同意、さし、差合有テ逢カタキ客、げびぞう、サモシキコト、おかん、正月中ノ節ノ食、[illegible]、二階ノ窓格子、まがき、郷ト落間トノ間ニ建ツル格子戸、附金、格子ヨリ茶屋ヘ贈ル金、役所、見世ノコト、内所、親方ノ居ル所」(以上、節文) 吉原詞ハ、元來、京都ノ島原詞ノ移リタルナリト云フ。 浮世物語(明暦)二「傾城ぐるひ當見ル事谷ノ戸出ヅル鶯ノ、初音ナポロノ聲ヲ出シ、又、きさんしたか、はやういなんし、云云、其声コレヘささんせヨ、云云、ヒトツのまんし」 好色二代男(貞享、西鶴)一「里ノ童ノ花荒ラスヲ、ソレ暫シ、枝折ル事ハ嫌ヨト、江戸ノ吉原言葉ヲ聞クニ猶ユカシク、仕事ヲ休メテ是レヲ見ルニ、云云」

よしはらすずめ (名) [葦原雀] 〔或ハ云フ、葦割ノ訛ナリ、葦ヲ割リ、莖中ノ蟲ヲ食フヨリ云フト〕 (一)よしきり(葦切)ニ同ジ。(二)江戸、吉原ノ遊郭ニ出入シテ、其内情ヲ知リ居ル人ニ喩ヘテ云フ語。又、サトスズメ。

よしはらへ (名) [善祓] 己レガ身ノ穢レヲ、[illegible]コト[illegible]罪アリシ者ニ、罪ヲ祓ハシムルヲあしはらへト云フ、共ニ、祓具ヲ出サシム。又、罪ニ因リテ二ツヲ負ハスルモアリ。[illegible]同ジ。はらへ(祓)ノ條ヲモ見ヨ。 [illegible]「吉爪棄物ハ以足爪ニ爲ニ凶爪棄物ニ」(吉凶ト手爪ニ爲ニ吉爪棄物ハ以足爪ニ爲ニ凶爪棄物ニ) 吉服ト云フト同意ナリ、棄物トハ、祓ヒテ棄ツルモノノ義、以上、祓具ノ外ニ、御身ニ生ヒタルモノマデ棄テシメツルナリ[illegible]

よしび (名) [好] よしみ(好)ニ同ジ。 雄略紀、九年七月「[illegible]」 同、十年[illegible]「善修ニ和好ニ」 私記「與志比」 同「今復結レ好」

よしふ (名) [餘執] 佛教ノ語。前世ヨリ現世ニ殘リタル執着。又、心中ニ殘リテ、離レザル執念。 [illegible]六日、作文ヲトゲオコナヒケリ、題ハ、翫庭識月長、云云、序ハ、大内記[illegible]書キケル、[illegible]朗詠シケリ、ムカシノ御餘執、猶オハシマスニヤ」

よしふ (名) [餘習] (一)後ニ殘リタル習慣。 [illegible] (二)佛教ノ語。煩惱ヲ斷ズルモ、猶ノコリノ習氣、身ニ存ズルコト。[illegible]

よしふ (名) [豫習] アラカジメ習フコト。先キニ學ビ習フコト。演習。

よしほ (名) [夜潮] 夜間ノウシホ。ヨルノシホ。 [illegible]「夜ニ入ル潮モ、ケチヤラデ、イソヤノカタニ、モユル螢火」

よしみ (名) [好] (一)相善ミスルコト。

交リノ親シミ。ヨシビ。(二)ユカリ。因縁、縁故。長門本、平家物語、十六、木曾義仲合戰事「父多胡先生義賢ガ好ニテ、上野國ノ勇士、足利ガ一族以下、皆木曾ニ從付ニケリ」

よしむ ([illegible]) [善] ヨシトスルコト　是認スルコト　推古紀、十二年四月「人皆有心、心各有執、彼是則我非、我是則彼非」

よ‐しん (名) [餘震] 地震ノユリカヘシ。

よ‐しん (名) [豫審] 法律ノ語。裁判所ニテ、刑事被告事件ヲ、公判ニ附スベキカ、免訴スベキカヲ定ムルタメ、其事ニ關シテ豫メ審理スルコト。又、ソノ調。「豫審廷」豫審判事」豫審免訴」

よ‐じん (名) [餘燼] (一)モエノコリノ火モエノコリ。モエサシ。遺燼。(二)敗餘ノ兵ニ喩ヘテ云フ語。左傳、成公二年「請收合餘燼、背城借一、敝邑之幸、亦云從也」

よ‐じん (名) [餘人] 外ノ人。他ノ人。他人。論語、子張篇、何晏注「餘人雖有小仁、時唯同移、時不變」保元物語、一、新院被召移義事「杯ケテ今度ノ大將ナバ、餘人ニ仰セ附ケラレ候ヘ」

よし‐むしり (名) 鳥ノ名。よしきり(葦切)ノ異稱。ヨシスズメ。書言字考節用集、五、氣形門「鷦鷯、ヨシムシリ、ヨシスズメ」

よしん‐ぞ (接) [縦] (縦ぞノ音便) 縦、然ナストモ。ヨシヤ。カリニ。假令。「よしんぞ勝チタリトモ」よしんぞ行クトシテ見テモ」よしんぞアルニモセヨ」

〔よし‐も (副) [縦] (もハ感動詞ノ感歎語) ヨシマア。萬葉集、十一 三十五「數フル、遠津大浦ニ、ヨルナミノ、縦もヨシトモ、憎カラナクニ」

よし‐や (副) [縦] 縦、ニ感動詞ノやヲ添ヘタルモノ。(是非モナシノ意)假令。ヨシヨ。ヨシエ。古今集、十五、戀、五「吉野川、よしや

人コソ、ツラカラメ、早ク云ヒテシ、コトハ忘レジ」

よ‐じゃう (名) [餘情] 言外ノ風情。餘韻。用賀時、暮滿同詩清、聞勝有餘情」

よしや‐がかり (名) [吉屋掛] よしやふう(吉屋風)ニ同ジ。好色一代男(貞享)、西鶴)四「ヨキ風ノ大男、褄高ク裾取ッテ、大小よしやがかりニ、編笠深ク召サ、差シ覗ル其頃ハ正月十六日」

よしや‐ぐみ (名) [吉屋組] 町奴六法男達ノ組ノ名。ろくぼふ(六法)ノ條ヲモ見ヨ。略シテ、よしや。徒つれづれ(元祿、西鶴)一「よしや組モ若ザカリノ昔、大小の神祇組モ、天ノ岩戸ノ神ナル此御時、云云」

よしや‐ふう (名) [吉屋風] 吉屋組ナドノ町奴ノ風體、言語、服飾ナド異風ニシテ、伊達ナリシトゾ。よしやかかりニ。

よ‐しう (名) [餘宗] 其他ノ宗旨。他宗。沙石集、一、下、第十條「極樂ハ境ヒ無邊ニシテ、餘教、餘宗ヲ習フ輩ヲモ、攝取シ給ハンコソ、云云」

よし‐よ (副) [縦] (よハ感動詞ノ感歎語) よしや(縦)ニ同ジ。忠岑集、補遺「吉野山、よしよツレナク、忍バレヨ、耳梨山ノ、知ラズ顔シテ」

よ‐じょう (名) [餘剰] じょうよ(剰餘)ニ同ジ。吾妻鏡、六、文治二年二月二日「三萬餘匹絹、小附乃貢滿足、殆不知剰餘」

よ‐しょく (名) [餘色] ほしょく(補色)ニ同ジ。

〔よし‐よし (副) [縦縦] (よし(縦)ヲ重ネタル語) イカナリトモヨシ。ママヨ。宇津保物語、初秋 四七「心ザシハ、泉ヨリマサリナン、よしよし見給へ、マメヤカニカウ宣ヒ、云云」

〔よし‐よし‐し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [由由] 由アリゲナリ　ユエユエシ。宇津保物語、樓上、上 三十八「今モ田舍ビズ、よしよししくカハラカナル所ツキシテ、云云」源、四十八、寄生 九十六

「見目モ、ナホ、よしよしく清ゲニゾアル」

よ‐じらう (名) [與次郎] (一)京都ニテ乞食ノ頭ノ稱。新年ニ鳥追トナルモノヲ敲與次郎ト云フ。とりおひ(鳥追)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。雍州府志、八、古蹟門、上、悲田院「今乞人爲長居之、呼謂與次郎、稱鳥追、募錢、米兩資之」(二)次條ノ語ノ略。

よ‐じらう‐にんぎゃう (名) [與次郎人形] (敲與次郎ノ踊ル狀ニ似タレバ名トスト云フ) 又、彌次郎兵衛。紙作リノ小人形ニ、笠ヲ着セ、細キ串ヲ、兩方ノ腕ノ下ニサシテ、末ノヒラキタル所ニ、オモリヲツケテ、人形ヲ指ノ先ニ立タスレバ、オモリニツリアヒテ立ツ。笠人形。又、をどろん(踊ラウノ音便ト云フ)。をんどれ。つりあひにんぎゃう(釣合人形)ノ條ヲ參見セヨ。

よしろ‐ぐさ (名) [夜白草] 支那唐ノ代、沈香亭ノ前庭ニ牡丹アリ、朝ハ深碧、暮ハ深黃、夜ハ白色ナリ、因リテ其名出ヅ」大豆ノ異名。又、一說ニ、ぼたん(牡丹)ノ異名。藻玉集「夜白草、大豆、靈ノ田ニ、雪トハ見エズ、夜白草、カリソメノ間モ、花ノタバエ、是レヲぼたんト云フ說アリ、大ニ不審、以歌可ニ了簡こ」

〔よし‐ゑ (副) [縦] (ゑハ感動詞ノ感歎語) よしや(縦)ニ同ジ。萬葉集、十一 六十「足千根ノ、母ニ知ラセズ、吾ガモタル、心ハ吉惠、君ガ隨意」

〔よし‐ゑ‐やし (副) [縦] (ゑやハ歎辭、しハ助詞) 縦ヤ然ハ、アレ　タトヒ　略シテ、ゑゑや　其條ヲモ見ヨ。萬葉集、二 十八、長歌「能咲八師、浦ハ無クトモ、縦畫屋師、瀉ハナクトモ」同、十二 四 里人モ、謂ヒツグガネニ、縦咲也思、戀ヒ

テモ死ナム、誰ガ名ナラメヤ」

よしをか‐ぞめ (名) [吉岡染] けんぱふぞめ(憲法染)ノ條ヲ見ヨ。雍州府志、七、土產門、下「吉岡染、西洞院四條吉岡氏人、始染黑茶色、故謂吉岡染、倭俗稱事如法行之、稱憲法、斯染家吉岡氏、毎事如此、故世稱憲法染、此人得劍術、號吉岡流、而行于今也」

よしをか‐りう (名) [吉岡流] 劍術ノ一派ノ名。慶長ノ頃、吉岡憲法ノ創メタルモノ。けんぱふぞめ(憲法染)ノ條、及、前條ノ出典ヲ見ヨ。

よ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [止] (やむ(止)ノ他動) 止ム。ヤムル。トドメル。

〔よ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [寄] チカヨラス、コナタヘ來サス　ヨセル　萬葉集、十四 九「庭ニタツ、麻テコフスマ、今夜ダニ、ツマ余之コサネ、麻テコフスマ」

〔よ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (自動、下二) [寄] 寄る、ニ同ジ。[歸] 萬葉集、十七 廿「白浪ノ、余須流イソマヲ、コグ船ノ、カヂトル間ナク、思ホエシ君」新敕撰集、六、冬「里ノアマノ、定メヌ宿モ、埋モレヌ、よする渚ノ、雪ノ白波」

よ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 寄 (一)寄ルヤウニナス。引キテ近ヅクル。ヨセル　萬葉集、十四「タコノ浦ニ、寄セ綱ハヘテ、與須禮ドモ、アニクヤシヅノ、ソノ顏ヨキニ」「車ヲ寄す」舟ヲ寄す」人ヲ召シ寄す」　(二)因ニ引付ク。縁ニ掛ク。カコツク。寄託。「月ニ事寄セテ」松ニ寄する祝」　(三)送ル。贈ル。寄贈。源、四十三、竹川 八十「勝チ給ハン方ニ花ヲよせテン」同、五十二、手習 八十「導師佛ニよせ奉ル」　(四)集ム。ヒトツニナス。聚結。(五)〔コトヅク。依賴ス。神代紀、下 三十四 二「豐玉姫命、寄玉依姫、而奉報歌ニ」　(六)〔擬ノ

…十一四、…寄、…思」 又、歌ノ題ニ、寄レ松歌、寄レ花戀ナドトアルノ類。(七)算術ノ語。若干ノ數ヲ一ツニス。加フ」

よすが (名) [因縁便] 〔寄處ノ意カト云フ〕 チナムトコロ。タヨリニスルトコロ。タノミ。ユカリ。ヨルベ。タヨリ。 [illegible] 萬葉集、三十長歌「言問ハヌ、モノニハアレド、我妹子ガ、入リニシ山ヲ、因處トゾ思フ」

よすがら (副) [終夜] 〔夜盡ノ意〕 夜盡キ天明クルマデ。宵ヨリ朝マデ。ヨモスガラ。ヨヒトヨ。ヨドホシ。通宵 [illegible]「…よすがら神佛ヲイノル」

よすぎ (名) [世過] スギハヒ。ヨワタリ。渡世。送生 浮世床(文化、三馬)二編、下「金銭ニカカハルガ、世ノ習俗、情俗トモニ身過、世過サ」

よ・す・ぐ・グル・グレ・ギ・ギ・ギヨ (自動、上二) [善過] 過度ニヨシ。善キニ過グ。ヨスギル。

よすてびと (名) 世捨人 (一)僧ノ異稱。出家。桑門 [illegible]「…ヨステヒト」 (二)世ノ中ヲ見ステタル者。隱者。隱士 [illegible]「…世捨人、山科ヤ音羽里ニ居ヲシメ」

よすみ (名) [四隅] 方形ナルモノノ四方ノ隅。又、諸方ノ隅。スミズミ。 芭蕉句集、秋「入ル月ノ、アトハ机ノ、四隅カナ」

よそめか・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 〔ようそノ略〕 容子メカス。重重シクヨソホフ。ヨウダイブル。キドル。 [illegible]「…小野ノ好古ノ朝臣ノ、大貳ニテモロコシノ人ノよそめかいテ落チツクモト、言ハレケルニ」

よせ (名) [寄] (一)事寄スルコト。因アリトスルコト。寄託 (二)心ヲ寄スルコト。任ズルコト。頼ミ。寄任 信任 源氏…「世ノ人ノ思ヘルよせ重クテ、覺エコトニ…上達部」 (三)一ツニ集ムルコト。聚結 (四)又、よせせき。ひとよせせき(人寄席)ノ略。其條ヲ見ヨ。(東京)

よせ (名) [寄] 圍棊ニ云フ語。終局ニ臨ミテ、端端ノ殘リタル目ニ、ハネカケ出ヅベキ所、又ハ、押フベキ所ナドヲ、詰メ寄スルコト。古クハ結をさすト云ヘリキ。先手ニサセバ、一目ヅツノ得トナル。 碁聖圖碁式(正治)「半番過ル程ヨリ、結ヲ心ニカケテ、云云、所詮勝負ハ結ニヨリ、能クサセバ、二十目ナドノ負ヲサシよするナリ」

よせ (名) 畑ノ畦ノ稱。(伊豆)

よせあし (名) [寄足] 敵ヲセメヨスルコト。ヨセテ。 [illegible]、五、忠信吉野山ノ合戰ノ事「其日ハ執行ノ代官ニ、川クラ法師ト申シテ惡僧有リ、よせあしノ先陣ヲゾシタリケル」

よせい (名) [餘生] アマルイノチ。ノコリ少キヨハヒ。餘命。餘齡。餘年。殘年。 杜甫、贈華陽柳少府詩「餘生如過鳥、故里今空村」 [illegible]

よせい (名) [餘情] (一)よぜう(餘情)ニ同ジ。 [illegible] (二)〔コノ語、モトせんじやう(僭上)ナリシヲ、略シテ、せぜうト云ヒ、ソレヲ世情ノ文字ニアテテ、よせいト湯桶讀ニシタルヲ、更ニ餘情ノ文字ヲナシタルモノ〕 外見ヲカザルコト。ミエヲハルコト。景色ヲソフルコト。 好色一代男(天和、西鶴)一「身ニ兵部卿袖ニ燒キカケ、イタヅラナル餘情、大人モ恥カシク、女ノ心ヲ動かさせ…」 [illegible]「…羽衣ノ松ハ、天女ノ戯レヲ、三保ニタトヘテ、駿河ノ名アル、盛ノ…よせいノ、イヤ高ク、見下ス岸ノ夜守リ」

よせうた (名) [寄歌] 和歌ノ一體。そへうた(諷歌)ニ同ジ。

よせうゑ (名) [寄植] 盆栽ノ上ニ云フ語。同種、又ハ、異種ノ木ヲ、數本相依ラシメテ植ウルコト。又、ソノ植エタルモノ。

よせがき (名) [寄書] 書畫ナドヲ、數人一枚ノ紙、又ハ、帛ナドニ、寄セ集メテ書クコト。又、ソノモノ。

よせか・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [寄掛] (一)其方ヘ凭ラス。モタス。ヨセカケル。 萬代集、十六、雜三「…バ、賤シ岩根ニ、よせかけテ、賤ガ手スサブ、谷ノ下水」 (二)オシカクル。攻メカクル。ヨセカケル。 謠曲、夜討曾我「寄せかけテ、打ツ白波ノ音高ク、鬨ヲ作テ騒ギケリ」

よせかける (動) [寄掛] 前條ノ語ノ口語。

よせかへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [寄返] 寄セテハ、又、カヘル。寄セテ、又モトヘ返ル。 夫木抄、十一、萩「よせかへる、波ノ花招、ミダレツツ、シドロニウツル、ママノウラハギ」

よせき (名) [礜石] ひせき(砒石)ノ條ヲ見ヨ。ネズミコロシ。 本草「礜石、一名、太白石、生漢中山谷及少室」

よせぎ (名) [寄木] 次條ノ語ノ略。

よせぎざいく (名) [寄木細工] 種種ノ材ヲ細カク削リ、寄セテ密ニ接ギ合ハセ、什器ナドノ上ニ美シク種種ノ形象ヲ作リ出スモノ。略シテ、寄木 [illegible]

よせぎれ (名) [寄切] 呉服店ニテ、布帛ノ切賣ニシタル殘餘ヲ、種種取集メタルモノ。キレノ寄セ集メタルモノ。

よせ・く・クル・クレ・コ・キ・コヨ (自動、加變) [寄來] ヨセテクル。寄セ來ル。 萬葉集、十五「イヘヅトニ、貝ヲヒリフト、沖ベヨリ、寄せ久流…」 [illegible]

よせざん (名) [寄算] 算術ノ語。若干ノ數ヲ一ツニ寄セ合ハスルコト。加算

よせせき (名) [寄席] 又、よせ。ひとよせせき(人寄席)ノ略。其條ヲ見ヨ。

よせだいこ (名) [寄太鼓] (一)せめだいこ(攻太鼓)ニ同ジ。 [illegible]「…旗の乗足、外ニハ味方ノ寄せ太鼓、…ドット鬨ノ聲」 (二)〔見物人ヲ寄セ集ムル意〕 芝居、見世物ナドノ、開場ニ打ツ太鼓。人寄太鼓。 古今夷曲集、九「よせ太鼓、日ハテレツクト、打出ツル、波ノ音マテ、河原モノカナ」

よせつぎ (名) [寄接] 又、ヨビツギ。つぎき(接木)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]「よせ接ぎノ、枝ヤ連理ノ、玉椿」

よせつ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [寄附] ヨセツカス。ヨセコサス。

よせつける (動) [寄附] 前條ノ語ノ口語。

よせづな (名) [寄綱] モノヲ引キヨスル綱。 萬葉集、十四「…ノ浦ニ、…、ヨスレドモ、アニクヤシヅノ、ソノ顔ヨキニ」

よせて (名) [寄手] 〔手ハ人ノ意〕 攻メ掛ル方ノ軍勢。寄セ來ル部隊。攻軍 平治物語、二、六波羅…「寄手ノ大將軍ハ誰人ゾ、云云」

よせなべ (名) [寄鍋] 煮出汁ヲ少シ辛メニ作リ、平タキ鍋ニ、サト…鳥賊、松茸、筍、[illegible](テモ)ナドヲ、適宜

ニ切リタルモノ、及、鷄肉、海老、竹輪、白瀧、茹デタル銀杏ナドヲ、配合ヨクナラベ、上カラ前ノ煮出汁ヲカケ、青味ニ三葉、或ハ、芹ナドヲ加ヘ、火ニカケナガラ食スルモノ。

よせ-ば (名) [寄場] (一)人ナドヲ集メ置クトコロ。(二)江戸時代、無宿ノ人ヲ集メテ、入レ置ケルトコロ。人足寄場。むしゅくしま(無宿島)ノ條ヲ參見セヨ。

よせ-ばしら (名) [寄柱] 枛、馬ヲ寄セテ繋グ柱。トツナギ。むまよせ(駒寄)ノ條ヲ參見セヨ。 倭名抄、十五「杙、具、枛、與勢波之良、繫馬柱也」名義抄「枛、ヨセハシラ」

よせ-ひだ (名) [寄襞] 褲上下ノ袴ノ襞ヲ眞中ニ寄セタルモノ。又、其仕立ノ袴。すぐひだノ條ヲモ參見セヨ。

よせ-びゃうし (名) [寄拍子] 攻メヨセダイコヲ打ツ拍子。 謠曲、綾鼓「打テヤ打テヤト攻鼓、よせ拍子トウトウ、打チ給ヘ打チ給ヘトテ、シモトヲ振リ上ゲ責メ侍レバ、云云」

よせ-ぶみ (名) [寄文] (一)人ニ遣ル文書。投書。寄書 (二)寄進、又ハ、寄託ノコトヲ、書シテ證トスル文書。 今鏡、第六、旅寢のとこ「ソノ家正トイフガ、親ノ讓リタル所ヲ、取リ給ヒケルヲ、カラク思ヒケルホドニ、よせ文ヲ奉レ、預ケンナド侍リケレバ、云云」

よせ-みや (名) [寄宮] 多クノ小社ヲ、一ツニ寄セ集メテ祀リタル社。 續無名抄(延寶、岡西惟仲)中「邪神、淫祠ノホコラヲコボチ、云云、名正シカラヌ社ヲ、一ツニ寄セテ、よせ宮ト名ヅク」

よ-せん (名) [豫選 預選] アラカジメエラビ定ムルコト。シタエラビ。 周書、宣帝紀「若欲入仕、皆聽預選、降二等授官」

よ-せん (名) [餘喘] (一)ノコリノイノチ。餘命。餘生。殘喘。(二)死ニ臨ンデ、猶、息ノアルコト。死際ノ息。イマハノ呼吸。殘喘 隋書、劉炫傳「[illegible]其心、後人不見、其[illegible]始及、餘喘、[illegible]胸臆」

よせむね-づくり (名) [寄棟造] 四隅ノ棟ヲ、一箇所ニ寄セ集メタル屋根ノ造。又、大棟ト四ツノ隅棟トヨリ具ヘタル屋根ノ造。

よ-ぜめ (名) [夜攻] 夜、攻撃スルコト。夜イクサ 夜ガケ。夜討 [夜襲] 信長公記、六、永祿十二年九月八日「西搦手之口ヨリ夜攻ニ可仕之旨、被仰出」

よせ-もの (名) [寄物] 料理ノ一種、魚類ノすりみ、麥粉、葛粉、百合、葛粉ナドヲ調合シ、味ヲツケテ煮熟シ、寒天ニテカタメ、羊羹ノ如クニシタルモノ。

よ・せる (動) [寄] よす(寄)ノ口語。

よ-そ (名) [餘所] (一)ホカ。他所。遠キ所。外處。別處 萬葉集、十八「天雲ノ、外ニ雁鳴キ、聞キシヨリ、ハダレ霜フリ、サムシ此夜ハ」(二)我ガ事ナラズト疎遠ニスルコト。 萬葉集、六「昔シコソ、外ニモ見シカ、吾妹子ガ、奥ツキト思ヘバ、ハシキ佐保山」 古今集、十五、戀、五「久方ノ、天ツ空ニモ、住マナクニ、人ハよそニゾ、思フベラナル」(三)己レヲ中心トシテ、ソレヨリ外ノモノヲ、差別シテ云フ語。 萬葉集、十四「カミツケヌ、伊奈良ノ沼ノ、オホヰ草、與曾ニ見シヨハ、今コソマサレ」

よ-そ (數) [四十] 十ヲ四ツ合ハセタル數。四十。ヨソヂ。 源、三、空蟬五「トヲ、ハタ、ミソ、よそナト數フルサマ、云云」

よそ-いき (名) [餘所行] (一)餘所ヘ出行クコト。ヨソユキ。外出。他出。他行 (二)外出ノトキ用キル衣服、品物ナドノ稱。ヨソユキ。ハレギ。

よそ-がま・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [餘所] ヘダテアルサマナリ。ウトキサマナリ。 曾我物語、六、虎指ニ五十郎ニ事「よそがましく心ヲ隔テ給フモノカナ」

よそ-ぎき (名) [餘所聞] (一)ヨソノキコエ。人ニ聞カルルコト。人ギキ。外聞。(二)ヨソニテ聞キ居ルコト 靖親集「よそぎきニ、年シヘヌレバ、ウトカラズ、心ナレ[illegible]モ、タノマルルカナ」

よ-そく (名) [豫測] アラカジメ、ハカルコト。カネテ、推測スルコト 逆睹

よそ-げ-に (副) [餘所氣] 餘所ノサマニ。ヨソヨソシク。ヘダテガマシク。知ラズ顏ニ。 新古今集、六、冬「モミヂバハ、オノガ染メタル、色ゾカシ、よそげニオケル、ケサノ霜カナ」

よそ-ご (名) [餘所子] 他人ノ子。ヨソノ子。 榮花物語、三十九、布引瀧「今一人、仁和寺ノ宮ニ奉ラセ給ヘリ、チリタル調ナドモイト多クオハシマス、同ジ程、よそ子ノヤウニウマセサセ給ヘリ」

よそ-ごと (名) [餘所事] 餘所ノ事、外ノ事。我ガ身ニ關係ナキ事 他事 [illegible]太平記、元祿二「[illegible]八云ヒナカラ、餘所事ニモ思ハレズ」

よそ-だ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) [餘所立] ヨソヨソシキ容子アリ。ヨソゲニモノス。除外ニモノス。 山家集、下「草茂ミ、澤ニヌハレテ、フス鴫ノ、イカニよそだつ、人ノ心ゾ」

よそ-ぢ (數) [四十] (一)よそ(四十)ニ同ジ。 源、三十四、上、若菜、上「[illegible]コモノよそ[illegible]、す」(二)年齡ノ數、四十。四十歳。ヨソトセ。 宇津保物語、國讓、下「年四十ニ三ツ足ラネド、イトアテハカニ、コメキテ、ラウタゲナル顏シテ、云云」

よそ-づら (名) [匏葛] 瓠ノ古名。よさづら(匏葛)ニ同ジ。

よそ-とせ (名) [四十年] よそぢ(四十)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

よそ-ながら (副) [乍餘所] (一)ソトニ居ナガラ。ヨソニテハアレド。我ガ方ニアラヌモノカラ。 後撰集、二、春、上「よそながら、惜シキ櫻ノ、匂ヒヲナ、誰ワガ宿ノ、花ト見ルラン」(二)ウチツケナラヌモノカラ。直接ナラネド。間接ナガラ。 [illegible]十四、[illegible]「よそながらモアケクレニツケテ、[illegible]ニすホ[illegible]ヤリトブラヒ給フヲ[illegible]、云云」

よそ-ばうり (名) [夜蕎麥賣] よたかそば(夜鷹蕎麥)ノ條ヲ見ヨ。

よそ-ひ (名) [裝] (一)ヨソフコト。ヨソホヒ。 神代紀、下「[illegible]リケリ」神功攝政前紀「皇后爲男束裝、征新羅」(二)轉ジテ、有樣。カザリ。ヨソホヒ。

よそ-ひ (接尾) [具裝] (一)(よろひ(具)ノ轉) 衣服、調度ナドノ、一式揃ヒタルヲ數フル語。ソロヒ。ヨロヒ。具。 天武紀、下、朱鳥元年正月「賜[illegible]具、[illegible]云云、布一百端」(二)器物ニ盛リタル飲食物ヲ數フル語。 心中宵庚申(享保、近松作)中「[illegible]ヲ中ガサニ三よそひ」

よそひ-ぐさ (名) [裝草] 菊ノ異稱。

よそ-びと (名) [餘所人] ホカニ居ル人。他人。ヨソヨソシキ人。他人 榮花物語、三、樣樣の悦「大納言殿、コレヲバよそひとノヤウニ思シテ」

よそ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [裝] (一)ヨソホフ。トリヨソフ。支度ス。 萬葉集、十二「夢ニ見テ、衣ヲ取リ着、裝束間ニ、妹ガ使ゾ、先立チニケル」 神功紀、四十六年三月「備船舶、而」

後遺契」源、十三、明石「御舟よそひテ參レルナリ」(二)カザリトトノフ。容儀ヲヲサム。[illegible]裝[illegible]ナゾ身容裝、クシゲナル、黄楊ノ小梳モ、[illegible]モハズ」(古義ノ訓)(三)食器ニ物ヲ盛ル。[illegible]三種シテ、平非ノ汁ニテ參ラセタリ」

よそ・ふ・フル・フレ・ヘ・ハ・ヘ・ヘヨ(他動、下二)[illegible]
[illegible]ニ」古今集、十九、誹諧「イトコナリケル男ニよそへテ、人ノ言ヒケレバ」(二)指スコトヲ、アラハニ言ハズ、他事ニ託ス。寄セ比ブ。寄セ添フル。準擬 源、一、桐ナゾラフ。寄セ添フル。[illegible]「[illegible]ノソナキ」

よそへ(名)比 ヨソフルコト。ナゾラフルコト。源、四十八、寄生「イトカタハライタク、カタジケナキ御よそへニコソハ侍ルナレ」

よそへ-ごと(名)擬言 そへごと(諷言)ニ同ジ。

よそ-ほか(名)餘所外 [よそト、ほかト]ノ[illegible]よそ(餘所)トイフニ同ジ。[illegible]

よそほ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二)裝[illegible]リ。枕草子、七、第六十四段「イト物物シウ清ゲニ、よそほしゲニ、下襲ノ尻長ク、所狹ク候ヒ給フ」源、

よそほし・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(自動、下二)十八、松風「イトよそほしくサシ歩ミ給フ程」

よそほひ(名)裝(一)[ヨソホフコト。カザリトトノフルコト。名義抄「裝、ヨソホヒ」裝、ヨソホヒ」佛足石歌「コノ御跡ヲ、マバリマ[illegible]武紀、下、八年十月「僧尼等威儀、及法服之色」(二)アリサマ。樣子。平家物語、九、三草勢汰事「旅ノ空ノよそほひ、御心苦シケレドモ、云云」

よそほ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四)裝 [よそふノ延]支度スル。用意スル。トリヨソフ。[illegible]裝束ク。衣服ヲ身ニツク。カザリトトノフル。裝飾ス。

よそ-み(名)餘所見 (一)[illegible]忘レテ他ヲ見テアルコト。ワキミ。ワキメ。傍見 [illegible]者ハ、突キ倒サレ踏ミコロバサレ、云云」(二)餘所ニ見ノガスコト。見テ見ヌフリスルコト[illegible]モ合點ニシテ、人ノ手ニ障リ、腰ヲ扣ク程ノ事ハ、餘所[illegible]云云」

よそ-みみ(名)餘所耳 キクトモナク、耳ニ入ルコト。ヨソナガラ聞キ込ムコト。ホノカニ聞クコト。側聞 仄聞 [illegible]ヨリ、秋ハ悲シキ、モノト知リニキ」

よそ-め(名)餘所目 (一)[餘所ナガラ見ルコト。萬葉集、十二「玉梓ノ、道ニ行キアヒテ、外目ニモ、見レバヨキ子ヲ、イツシカ待タム」(二)外ヨリ見ルコト。ヲカメ。傍觀 新古今集、二、春、下「チリマガフ、花ノよそめハ、吉野山、[illegible]「高砂ノ、尾上ノ花ノ、よそめコソ、消エアヘヌ松ノ、[illegible]見エケレ」(二)餘所事トシテ見ルコ

よそ-もの-どころ(名)裝物所 古へ、節會ナドノ折、紫宸殿内ニテ、主上ノ御裝束[illegible]

よそ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)[illegible]山高[illegible]

よそ-ゆき(名)餘所行 よそいき(餘所行)ニ同ジ。

よそ-よそ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二)[illegible]餘所餘所[illegible]リ。狹衣、二、下「時時ナド參リテ、イトカウガウシク、よそよそしからン御モテナシニテハ、云云」[illegible]「這入リハセイデ、よそよそしいアリサマナ」

よそ-よそ-ま(副)餘所餘所 (一)[餘所[illegible]ク。[illegible]シニテモ[illegible]思ヒノ外ノ[illegible]ガ、ヤスカラズモ侍ルベキカナ」(二)[餘所ナガラ。餘所ニテハアレド。ソレトハナシ[illegible]榮花物語、十二、玉村菊「古ゾ、イトド戀シキ、[illegible]別別[illegible]別レ別レ[illegible]「[illegible]リシ、事ナ忘レソ」(四)山ノ高大ナル狀、又[illegible]山ノ高ク聳ユル狀[illegible]

よそり(名)寄 ヨソルコト。チカヨルコト。寄リ添フコト。又、依リ隨フモノ。萬葉集、四十八「春日野ノ、山邊ノ道ヲ、與曾理ナク、通ヒシ君ガ、見エヌコロカモ」

よそり-づま(名)寄妻 ヨソルツマ。チカヨルツマ。依リ隨フ妻。萬葉集、十四「ヒトネロニ、イハルモノカラ、[illegible]ネロニ、イサヨフ雲ノ、余曾里都麻ハモ」

よそ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)寄 (一)寄リ添フ。身ニ作フ。隨身ス。轉シテ、よさる。萬葉集、十三長歌「荒山モ、人シ依スレバ、余所留トゾ云フ」(古義ノ訓)同、十四「ニヒタ山、ネニハツカナナ、吾ニ余曾利、間ナル兒等シ、[illegible]ヨセル。萬葉集、廿「シラナミノ、與曾流ハマベニ、ワカレナバ、イトモスベナミ、ヤタビ袖フル」

よた[illegible]ラヌコトヲ、ヤリチラスノ意。

よ-たう(名)[illegible]ニ押入ル盜人。夜客 謠曲、熊坂「山賊、夜盜ノヌス人ラ高荷ヲ落シ、里通ヒノ下女ヤハシタノ者マデモ、ウナ[illegible]トラレ泣キ叫ブ」

よ-たう(名)與黨 (一)黨類ニ與スルモノ[illegible]ノ人ナンド、尙尋沙汰有テ」(二)身方ノ黨派。特ニ、政府ニ與スル黨派。

よ-たう(名)餘黨 [illegible]黨ノ、敗レテ殘レルモノ。殘黨。後漢書、吳漢傳「卽夜發ニ精兵[illegible]

よ-たう-の-つみ(名)餘桃罪 [支那、衞ノ彌子瑕、其君ニ寵愛ヲ受ケタル故事ヨリ出ヅ。韓非子、說難篇「昔者彌子瑕、有[illegible]食桃而甘、不盡、以其半啗君、君[illegible]

嬌僻、眉車、久嘗昭レ我以二餘桃一、故彌子之行、未レ變二於初一也、而以二前之所一レ以見レ賢、而後獲レ罪者、愛憎之變也」君寵ノ久シクノミ難キニ喩ヘ云フ語。　平治物語、一、「信頼ノ卿ノ不義不法ノ事、見ル人目ヲ驚キ、聞ク者耳ヲ驚カス、彌子瑕ニモ過ギ、安祿山ニモ超エタリ、餘桃ノ罪ヲモ恐レズ、只榮華ノ思ニノミ誇リケル」

よたうむし（名）夜盗蟲 〔土中ニアリテ、夜間ニ出デテ蔬菜ヲ食ヒ荒ラス故ノ名〕夜盗蛾ノ幼蟲ノ名。長サ一寸二三分、二對ノ腹脚アリ、色多クハ緑ナリ、動クコト、尺取蟲ノ如ク、後、土中ニ入リテ蛹トナリ、越年シテ夜盗蛾トナル。

よたか（名）夜鷹 （一）〔梟ノ類ニ、林中ニ棲ミ、晝伏シ、夜出デ、寐鳥ヲ驚カシ捕ヘ食フ、鳴キテ怪ヲナストモ云フ〕怪鴟　倭名抄、十八四十羽族名「怪鴟、與多加、晝伏夜行、鳴以爲怪者也」字鏡、五「鴟、伊比止與、又、與太加」（二）今、江戸ニテ、夜發、ノ異名。（賣女ノ最モ賤シキガ、夜行シテ賣ル、價廿四文ノ倍、四十八文ヲ、四十八鷹ニ寄セタル隱語ト云フ）サウカ。辻君。芝姫　富士石、延寶「鷂ヲ、夜鷹ヤスラン、今日ノ月」

よたか（名）夜鷹 鷹匠ノ、鷹ヲ眠ラシメヌタメニ、拳ニ載セテ夜行スルコト。斯クスレバ、鷹、聲ヲ發セズト云フ。　夫木抄、廿七、鷹「狩リクラス、カタ野ノミ野ノ、秋風ニ、夜たかツナギテ、月ヤ見ルラン」

よたかそば（名）夜鷹蕎麥 夜商人ニテ、街上ニ荷ヲ擔ヒ、行燈ニテ風鈴ヲ鳴ラシ、「蕎麥」ト長ク呼ビテ賣リ行クモノ。（コノ商人ノ荷フ架上ニ、鷹棚ト云フアリ、鷹匠、左手ニ鷹ヲ載セテ、此棚ニ器ヲ置キテ、右手ニテ蕎麥ヲ食ヒタルヨリ起ルト、或ハ云フ、夜發ヲ得意トスル夜商人ナレバ名アリトモ云フ）ヨソバウリ。フウリンソバ。ヨタカリパキリ。　守貞漫稿、五、生業、下「蕎麥賣、云云、擔賣ヲ京坂ニテ夜啼饂飩ト云ヒ、江戸ニテハ夜鷹蕎麥ト云フ、夜たかハ土妓ノ名、彼ノ徒專ラ食レ之ニ據ル」

よたく（名）餘澤 先人ノ殘セル恩惠。餘德。　何晏、景告文「獲二霑餘澤一、蒲二位于朝一」

よだけ（名）弓丈 衣服ニ云フ語。ゆだけ（弓丈）ニ同ジ。　山家集、下「よだけタツ、袖ニタグヘテ、忍ブカナ、袂ノ瀧ニ、オツル涙ヲ」

〔よだけ（名）節竹 節アル竹。節多キ竹。　古事記、中、崇神二八十「伊呂志河之河邊之節竹」

〔よだけ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）〔彌長し、ノ義カ〕（一）イヨダッサマナリ。イヨヤカニタッサマナリ。非常ナリ。タイサウナリ。コトゴトシ。　山家集、上「煙立ツ、富士ノ思ヒノ、爭ヒテ、よだけき戀ヲ、スルガヘゾ行ク」源、廿九、行幸「何クレノ儀式ヲ、御心ニハイトモオモホサヌ事ナダニ、自ラよだけくイカメシクナルヲ」（二）大儀ナリ。億劫ナリ。　源、廿九、行幸九「オホヤケニ、ツカフル人トモナクテ、コモリ侍レバ、ヨロヅウヰウヰシウ、よだけくナリニテ侍ル」

〔よただ（副）終夜 〔夜轉ノ略〕ヨモスガラ。夜ドホシ。　古今集、十一、戀「サミダレノ、空モトドロニ、ホトトギス、何ヲ憂シトカ、夜ただ鳴クラン」同、十二、戀二「ワガゴトク、物ヤカナシキ、ホトトギス、時ゾトモナク、よただナクラン」

よただどり（名）終夜鳥 ほととぎす（時鳥）ノ異稱。（前條ノ出典ヨリ出ヅ）

よだち（名）夜立 夜中ニ出立スルコト。夜、旅立ツコト。　玉葉集、八、旅「朝明ケノ、山分衣、ヌレテケリ、深キよだちノ、露ノシメリニ」

よだつ（名）與奪 （一）アタフルコトト、ウバフコトト。　晉書、祖納傳「好、學不、倦、從善如流、官使任名一代之典、宣時與奪、一時之偶也」「生殺與奪」（二）其職ニ代ハルコト。讓リ與フルコト。又、子ニ職ヲ讓ルナドニモ云フ。（奪ノ字ハ帶說ナリ）　職原抄、上、太大臣「是依二關白與奪一也」藏人頭、中「職事卜壁有二指合一者、次第次第、次人可二與奪一」往來、八月「奉行人、得二差符與奪一、云云、遣下知」

よだ・つ（動）彌立 彌立つ、ノ略。其條ヲ見ヨ。　思ひの儘の日記、藤原良基「薄井ニゴク物ノネ、身の毛モよだちテ、イハンカタナシ」

〔よだ・つ（動）〔よハえノ轉〕役立つ、ノ東國ノ訛語。　萬葉集、十四、二十「大君ノ、ミコトカシコミ、カナシ妹カ、手枕離レ、欲太知キヌカモ」

よだは・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）塗 まみる（塗）ニ同ジ。　名義抄「塗、ヨダハル、マミル」

よだん（名）豫斷 アラカジメ判斷スルコト。前以テ判定スルコト。

よだん（名）餘談 ホカノハナシ。本筋ナラヌ談話。必要ナラヌ談話。　陸游、與趙都大書「借於餘談、而繹二誉其一二」

よだんくわつよう（名）四段活用 次條ノ語ニ同ジ。

よだんのはたらき（名）四段活用 又、よだんくわつよう。語學ノ語。規則動詞ノ第一類ノ語尾變化ノ一稱。（篇尾ノ語法指南ノ動詞ノ條ヲ見ヨ）

よたんばう（名）醉坊 〔擬人語、醉倒れニ、坊ヲ添ヘタル語〕又、よたんぼ。ナマヨヒ。ヱヒタフレモノ。略シテ、よた。

よたもの（名）（一）役ニ立タヌ者。手ノツケラレヌ者。ヤクザモノ。（二）ナマケモノ。怠惰者。（伊豆、富戸）

よたよた（副）足許ノ定マラヌ状ニ云フ語。ヨロヨロ。ヨチヨチ。ヒョロヒョロ。

よたよたあゆみ（名）ちょこちょこあゆみ、ノ條ヲ見ヨ。

よたらう（名）與太郎 〔擬人語〕愚者ノ稱。オロカモノ。バカモノ。アハウ。鈍漢　俊徒曲集、一、佐保姫ノ「モシ顛ヲ、メサルナラ、與太郎ヤ、如何ナフマシ」

〔よたり（名）四人 人ノ數四ツ。ヨッタリ。　雄略紀、九年三月「以汝四卿、拜爲大將」

〔よだり（名）涎 〔よよむ口ヨリ垂リ出ヅルシヅクノ意〕（一）今、よだれ。口ヨリ、唾液ノ、自ラ出デテ、頤ニ垂ルルモノ。小兒、牛、馬、或ハ、貪欲ノ念、ナドヨリ、意ハヌニ出ヅ。垂ルヲくるト云フ　倭名抄、三、病類「涎、唾液」字鏡「涎、太利、又、与波志留」名義抄「涎、ヨダリ、ハナタリ」神代紀、上、十「以唾自和咨」

よだれ（名）涎 前條ノ語ノ（一）ニ同ジ。　運歩色葉集「延、ヨダレ」涎をくるトハ、繰リ上グルコトヲスル意。

よだれかけ（名）涎掛 （一）小兒ナドノ頤ノ下ニ掛ケテ、涎ヲ受ケシムル布帛。（二）のどわ（喉輪）ノ一名。　運歩色葉集「嗌、ヨダレカケ、喉輪」庭訓往來、六月「涎掛、注、喉輪之義」

よだれくり（名）涎繰 ヨダレノイヅルコト。又、ソノ人。ヨダレタラシ。　菅原傳授手習鑑、延享、竹田出雲等合作、四「次ハ十五ノ涎くり、ボンヨボンヨト親父ガ手招キ」

〔よち（名）同齡 オナジ年齡ノコロホヒノ小兒、　萬葉集、十四、廿「此ノ河ニ、朝菜洗フ兒、

汝モ吾モ、余知ヲゾ有テル、イデ見タバリニ」

よ-ち (名) 興地 [輿ノ如ク萬物ヲ載スル] 地ノ義。淮南子、原道訓「以レ天爲レ蓋、以レ地爲レ輿」] 大地ノ總稱。地球。史記、[illegible]

よ-ち (名) [餘地] (一)アマリタル土地。[illegible] (二)[illegible] 餘裕 [illegible]

よ-ち (名) [豫知] アラカジメ知ルコト。マヘカタヨリシルコト。前知

よ-ぢ (名) [攀] よづ(攀)ノ條ヲ見ヨ。

ヨヂウム (名) 妖頓 妖顛 [羅甸語、Iodium. 英語、Iodine.] 藥品ノ名。暗紫黑色ノ金屬光澤アル板狀結晶體シテ、刺戟臭ヲ有ス。水ニハ極メテ溶ケ難ケレドモ、有機溶劑ニハ、能ク溶ク。其溶液ノ色ハ、溶劑ノ種類ニヨリテ異ナリ。又、沃度。沃素

よ-ぢか・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [世近] [世ハ齡ノ義] 齡ノ末ニ近シ。餘年短シ。源、三十四、下、若菜、下卅「今ハムゲニ世ぢかくナリヌル心チシテ、物心細キヲ、云云」

よ-ちゐ (名) [同齡兒] [同ジ齡之子ノ轉] [illegible]ナドシノ子 [illegible]集、五[illegible]、長歌、[illegible]ガ、云云、[illegible]ト、手タヅサハリテ、遊ビケム、トキノサカリヲ、留ミカネ、云云」

よ-ぢん (名) [餘塵] (一)アトニノコル塵。後塵。(二)古人ノ餘風。遺塵。宋史、南唐李氏世家「心味[illegible]、[illegible]父兄之德育、[illegible]日月、以[illegible]、[illegible]退[illegible]之[illegible]、[illegible]」

よ-ぢゅう (副) [夜中] ヨモスガラ。ヨスガラ。暮方ヨリ曉マデ。ヨドホシ。[illegible]

よ-ちょ (名) [輿語] 重キ物ヲ擧グルトキ[illegible]

よぢ-よぢ (副) ヨロメク狀ニ云フ語。ヨタヨタ。ヒョロヒョロ。ヨロヨロ。

よぢり-すぢり (副) カナタコナタニ、體ヲ捩ヂル狀ニ云フ語。スヂリモヂリ。宇治拾遺、五、第七條「左右ノ手ニテ尻ヲカカヘテ、イカニセンイカニセント、よぢりすぢりスルホドニ」

よぢ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [捩] [攀ノ活用カ] 捩ル。モヂル。ネヂル。ヒネル。宇治拾遺、三、第六條「ソノ後ニヤ、良秀ガよぢり不動トテ、今ニ人人メデアヘリ」

よぢ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [捩] スヂル、ネヂル。ネヂルル。ヨヂレル。

⁂**よ・ぢる** (動) [攀] よづ(攀)ノ口語。

⁂**よぢ・れる** (動) [捩] よぢる(捩)ノ口語。

よぢ-をざし (名) [緻] をざし(緻)ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、十六[illegible]「緻、[illegible]」

よつ (名) [四] (一)又、よっつ。とき(時)ノ名。其條ヲ見ヨ。(二)又、よ、つ。左右上下ニナスコト「紙ヲよつニタタム」(三)よつがひ(四番)ノ略。相撲ニ右四トイフハ、雙方、右ノ手ヲ脇ヨリ下手ニ差入レテ構ノルコト、左四、コレニ準ズ。

よ-つ (數) 四箇 又、よっつ。二ツヲ二ツ合ハセタル數。古事記、上四「次生、伊豫之二名島、此島者身一而有面四」四つヲ道ふト、ハ、雨手、雨足ニテ這フ意。匍匐 四つヲ組むトハ、兩人、兩手ニテ組[illegible]。前[illegible]語ノ(三)ヲ參見セヨ。

よ・つ・[illegible] (一)高キモノニ、取リスガル。スガリ[illegible]記、中、序、訓釋「攀、ヨヂテ」「樹ノ枝ニ攀ヅ」(二)ケハシキニノボル。「山ニ攀ヅ」

よ・づ・ヅル・ヅレ・ヂ・ヂ・ヂヨ (他動、上二) [捩] ネヂル。ヒネル。クネリマガラス。萬葉集、九[illegible]、[illegible]リテ引キ[illegible]、打[illegible]ガカザスベキ、花咲ケルカモ」同、十九、四十八「青柳ノ、上枝[illegible]リ、[illegible]ハ、君ガ宿ニシ、千年ホグトゾ」

よつ-あし (名) [四足] (一)足ノ四ツアルコト。四脚 [四脚ノ机] (二)[illegible]ノ略 [illegible]四足アリ、上中門[illegible]、云云、[illegible]ノ事、四足、上中門不レ可レ有レ之」枕草子、一、第四段「東ノ門ハ四つ足ニナシテ、ソレヨリ御輿ハ入ラセタマフ」(三)けだもの(獸)ノ異名。畜生。(四)人ヲ罵リ呼ブニ用ヰル語。心中天網島、享保、近松作)中「太兵衛メニ請出サルル嘲リ女ノ四足メニ、心ハユメユメノコラネドモ、云云」

よつあし-もん (名) [四足門] [四脚門] 常ノ門ノ左右ノ圓キ二柱ノ外ニ、更ニ前後四隅ニ添柱ヲ設ケテ屋根アルモノ(柱、合ハセテ、六本)大臣以上ノ家ニ建テラル。總門ト中門トノ間ニアリ。又、よつあしのもん。略シテ、よつあし。

よつ-えだ (名) [四肢] 又、よつあし。ゑゑ(四肢)ニ同ジ。[illegible]色[illegible]「四肢、ヨツエダ」

よっ-か (名) [四日] よか(四日)ノ音便。

よつ-かど (名) [四角] (一)四スミノ角。(二)よつつじ(四辻)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

よ-づかは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二)

よ-つぎ (名) [世繼] (一)家ノ名跡ヲ繼グコト。家督スルコト。アトツギ。アトトリ。[illegible] (二)世繼トナルベキ子。相續人。嗣子。(三)帝王ノ御代御代ノ事ヲ、繼繼ニ語ルコト。又、ソノ記[illegible]書[illegible]ノオクレ給ヘルハ惡キコトナリトゾ、世繼ノ翁ノ物語(大鏡)ニハイヘル」「世繼物語(榮花物語)」

よっ-く (副) [能] よく(能)ノ音便。[illegible]コヲ、よっく聽ケ」

よ-づ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [世付] (一)[世ノ交ハリ]ニ馴ル。宇津保物語、國讓、下[illegible]「故殿、イタヅラニナスナト、宣ヒシモノヲ、斯ク世づきニモノシ給フナル喜ビ申サント宣ヒ」、云云」(二)[世情ヅク。人情ヲ知ル。ナマメク。色ヅク。[illegible]、[illegible]ツケルな[illegible]、三十四、上、若菜、上「よづきテアラセント思ハンな子持タラハ、同シクハ、彼ノ人ノアタリニコソハ、觸レハハセマ欲シケレ」同、五、若紫十六「アナ今メカシ、此君ヤよづいタル程ニオハスルトゾオボスラン、云云」(三)世間ニツク。世俗ニツル。堤中納言物語、むしめづる姬君「齒黑ツケネバイトよづかズ、化粧シタラバ清ゲニハアリヌベシ」徒然草、第廿三段「衰ヘタル末ノ世トハイヘド、猶九重ノ神サビタル有樣コソ、世づかズメデタキモノナレ」

よ-つじ (名) [四辻] (一)よつつじ(四辻)ノ條ノ(一)ニ同ジ。(二)[illegible]ノ、背後ノ縱橫ノ結ノ所。よつつじ(四辻)ノ條ノ(二)ヲ參見セヨ。

よつ-おろ (名) [四白] 馬ノ毛色ノ名。四足ノ毛ノ白キモノ。[踏雪馬] 倭名抄、十一「牛馬毛、四[illegible]白[illegible]、[illegible]、踏雪馬」

よっそろう (名) 〔善候〕 オモカヂ、トリカヂナドノ、善クソロヒタルヲ云フ、歎辭。

よつだけ (名) 〔四竹〕 竹片ヲ、兩掌ニ二枚ヅツ握リテ、掌ヲ開合シテ、曲節ニ合ハセテ、打チ鳴ラシ用ルモノ。相用竹 好色二代男(貞享、西鶴)二、女郎文リノ作意、四竹ノ拍子ニ合ハセテ、其ノ頃ノハヤリ唄」 本朝若風俗(貞享、西鶴)五「承應元年、云云、其比長崎ヨリ、一平ト云ヘル者アリ、四竹ト云フ物ヲ作リ、手ノ子ナウツ事ヲ云云」

よつだて (名) 四立 矢ノ羽ノ四方ニ羽ヲ着クルコト。四羽ノ中、走羽ト云フハ、ドノ方ナリ、上ノ方ヲ甲ト云フ、又、箆ノ左右ニ矧ギタルヲ外懸、弓摺ナドト云ヒテ分クルナリ。利雁矢、鏑矢、雁股ナドハ、コノ四つ立ナリト。

よったり (名) 〔四人〕 よたり(四人)ノ音便。史記抄(文明)九四十「正夫人ノ子ノ、同母兄弟ハ、よッたりアルガ、長子カラ次第ニ立タレドモ、云云」

よつぢ (名) 〔四乳〕 乳房ノアトノ四ツアル猫ノ皮。三味線ニ張ルニ佳トス。

よっつ (名) 〔四〕 よつ(四)ノ音便。

よっつ (數) 〔四箇〕 よつ(四箇)ノ音便。

よつつがひ (名) 〔四番〕 相撲ノ手ニ、雙方兩手、互ニ敵ノ締込ヲ取リテ組ムコト。略シテ、よつ。四身。

よつつじ (名) 〔四辻〕 (一)路ノ、四方ニ分レテ、十字形ヲナセル辻。縱横ノ辻。略シテ、よつじ。ヨツツド。十字路。十字街。(二)〔結目ハ上ニ角出デタレバ、四辻ト云フカト云フ〕 ふんどしノ、背ノ尻ノ上ニ、結ビタル所。略シテ、よつじ

よつ。又、三つトモ云フ。著聞集、十、相撲強力、中納言伊通卿、云云、四辻ヲ取リテ、前ヘ強ク引カレタリケレバ、頭モヲレヌバカリニ覺エテ、ヤガテウツブシニ倒レニケリ、オトド興ザメ給フ」

よって (接) 〔因〕 因りてノ音便。

よつで (名) 〔四手〕 (一)互ニ諸手ヲサシテ取組ムコト。(相撲ニ)又、其手。 譬喩尽(寶永、近松作)上「抱キツイタ、アチモ放カラズ、四つ手ニ組ミ、云云」 (二)次條ノ語ノ略。續猿蓑集、春「白魚ヲ、フルヒ寄セタル、四手哉」 (三)次次條ノ語ノ略。

よつであみ (名) 〔四手網〕 漁具。方形ノ網ノ四隅ヲ竹竿ニテ張レルモノ。水底ニ沈メテ、繩ニテ引上ゲテ、魚ヲ捕ル。略シテ、よつで。晉

よつでかご (名) 〔四手駕籠〕 竹ヲ四柱トシ、又、竹片ニテ編ミ作レル粗ナル駕籠。やまかごヨリ小サク、小サキ垂アリ。略シテ、よつで。篠輿 竹輿

よってたかって (句) 〔寄りて集りて〕ノ音便 一大勢集リテ。皆デ寄リテ

ヨット (名) 〔英語、Yacht.〕 輕快ヲ旨トシテ造リタル小型ノ洋船。帆、又ハ、蒸氣機關ヲ備ヘ、遊航、又ハ、競走ニ用ヰル。快走船。

よつどき (名) 〔四時〕 今ノ十時。(午前、午後トモ) やつどき(時)ノ條ヲ見ヨ。

よつのうみ (名) 〔四海〕 四方の海、ノ誤。後撰集、序「よつの海、浪ノ聲聞エズ」

よつのたから (名) 〔四寶〕 〔たから(寶)ノ條ヲ參見セヨ〕 士、農、工、商ノ稱。

よつのを (名) 〔四絃〕 〔四絃ナルヨリ云フ〕 びは(琵琶)ノ異名。玉葉集、十八、雜、

五「人ノ許ヘ琵琶ヲ贈リツカハシケル人ニ代リテ、よつのをノ、シラベニツケテ、思ヒ出デヨ、半ノ月ニ、我モ忘レジ」(半月ハ琵琶ノ異名)

よつばひ (名) 〔四這〕 兩手兩足ニテ這フコト。匍匐 好色二代男(貞享、西鶴)二「四つ這ひニナリテ、神馬ドハシャリマセイト云フモ有リ」

よっぱらひ (名) 〔醉人〕 酒ニ醉ヒタル人。ヨヒドレ。エヒグルヒ。醉漢。

よっぱら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自、四) 〔醉〕 酒ニ醉フ。泥醉ス。沈醉。爛醉

よつばり (名) 〔夜之尿ノ約、出雲ニテよばりト云フ〕 いばり、同ジ。ネセウベン。遺尿 醒世恒言、夜溺、ヨッバリ」

よっぴいて (副) 〔能く引きて、ノ音便〕 弓ヲ十分ニ引キシボリテ。引滿 雪歩色葉集「勁弩射」 平家物語、十一、那須與一事「與一、鏑ヲ取ッテツガヒ、よっぴいて、ヒョウト放ツ」

よつびし (名) 〔四菱〕 紋所ノ名。たけだびし(武田菱)ノ條ヲ見ヨ。

よっぴて (副) 〔夜一夜ノ約訛〕 ヨモスガラ。ヨスガラ。ヨドホシ。終夜 通宵

よつびゃうし (名) 〔四拍子〕 能樂ニ、大鼓、小鼓、太鼓、笛ノ四ツノ稱。 翁草「凡ノ地ハ、皆太夫、四拍子ニ隨テ、夫ニ合ハスヲ專ニス」

よっぽど (副) 〔餘程〕 〔よほどノ音便〕 よほど(餘程)ノ條ヲ見ヨ。 中記抄(文明)十九ニ十「諸方ヲアルイテ、スネ苦行ヲスルゾ、よッほど天下ヲメグリタゾ」

よっぽど (副) 〔善程〕 〔よきほどノ音便〕 宜シキ程合ニ。程ヨク。適宜ニ。 中庸抄(元和寛永ノ頃)下「よッ程ニトレバ、百姓ガ其人ノ民ニ成リタガルゾ」 同「過モセヌ足ラヌヤウモナウよッ程ニ行フゾ」

よづま (名) 夜妻 シノビヅマ。カクシ女。カクシヅマ。或ハ、遊女ヲモ云フカ。夜、會フ女ノコトカト云フ。催馬樂、何爲「イデテユカバ、鎖ハアリクト、叱サイナメド、與川邊サダメツヤ、サキムダチヤ」

よつまぐさ (名) 〔四間草〕 ひのき(檜木)ノ異名。 鹽玉集 四間草、檜、コノ時ハ、四ツモ八角モ、オサマリヌ、四間草ニモ、花ハ咲キケリ」

よつみ (名) 〔四身〕 (一)衣服ノ仕立方ノ名。にんだち(本裁)ノ幅ヨリ襟ヲ取リ、衽ヲつきみぬひニスルモノ。(三身、反、本裁ニ對ス) (二)相撲ノ手ノ名。よつつがひ(四番)ニ同ジ。

よつめ (名) 〔四目〕 (一)紋所ノ名。よつめゆひ(四目結)ノ略。(二)結方ノ名。よつめむすび(四目結)ノ略。

よづめ (名) 〔夜詰〕 夜中詰メ居ルコト。夜間ノ詰番。夜番。宿直。 良子日記、云云、四「前田利常公御代ニハ、御咄之衆トテ、云云、毎夜御夜詰ニ罷出デ、四方山ノ事ドモ咄シ申ス」

よづめ (名) 〔夜爪〕 ヨル爪ヲトルコト。(凶事アリト云ヒテ忌ム)

よつめがうし (名) 〔四目格子〕 目ノ方形ナル格子。

よつめがき (名) 〔四目垣〕 竹ヲ、粗ク縱横ニ組ミテ、其隙ヲシテ、方形ヲナサシメテ結ヒタル垣。

よつめぎり (名) 〔四目錐〕 錐ノ刃ニ四稜アルモノ。方錐 (三目錐ニ對ス)

よつめおろし (名) 〔四目殺〕 碁ニ、敵子ノ四方ノ線ヲ斷チテ取ルコト。綴五 書言字考節用集、八、言辭門「殺五、ヨツメコロシ」注

「[illegible]」

よつめむすび (名) [illegible] [illegible]ナドノ[illegible]方ノ名。[illegible]ヲ[illegible]シテ[illegible]ノ[illegible]シテ、よつめ。

よつめゆひ ヨツメ・ユイ (名) 四目結 (一)紋所ノ名。[illegible]。略シテ、よつめ。[illegible]「四目結、[illegible]」

よつもの (名) 四物 四種ノ武具。(鉈、鎌、熊手、槌、鋸、金材棒、鉞ノ七ツヲ七つ物ト云フ、ソノ中ノ四ツヲ云ヒシナ[illegible]、九、[illegible]古ニ三ツ物、四ツ物、七ツ物ナドイフ事モ聞エタリ」

よつものなり (名) 四物成 物成ノ、百[illegible]十出ノル[illegible]、又、其[illegible]のなり(物成)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。俚言[illegible]百石ノ初ヲ搭テ四十石アルヲ四物成ト云フ」北[illegible]九代記、四、北條氏[illegible]五ツ取所ヲバ、一ツユルシ、四つ地頭納ムベシ」

よつもん (名) 四門 昔、吉原ノ遊郭ニテ、夜ノ四ツ時(今ノ午後十時)、拍子木ヲ打チテハノテ、大門ヲ閉ヅルコト。[illegible]

よつやとんび (名) 四谷[illegible] 昔、江戸[illegible]つ谷、とんびナリ」(吉原ノ花魁、新宿ノ女郎)

よつゆ (名) 夜露 夜、結ブ露。ユフベノツユ。「夜露ニ濡ル」

よづる ヨ・ズル (名) 夜鶴 よるのつる(夜鶴)ニ同ジ。謡曲、綾鼓「サナキダニ、闇ノ夜鶴ノ老イノ身ニ、思ヒヲ添フルハカナサヨ」

よつわりおび (名) [illegible] [illegible]

よつわりびし (名) 四割菱 紋所ノ名。さいはひびし(幸菱)ノ條ヲ見ヨ。

よつゐ ヨツ・イ (名) 四居 (一)[illegible]ヲ[illegible]状ニスルコト。[illegible]記、三十五、[illegible]宇治河ニ事「四居ニ乗リコボレテ[illegible]セヨ」(二)[illegible]背ノ[illegible]。「相撲 テ」 相撲今昔物語、四、背ヲトルヲ四つ[illegible]ト云ヒ、[illegible]ト云フ」

よて (名) 四手 相撲ノ四種ノ手。下ノ[illegible]古法 四十八手之古法ニ四手アリ、頭ヲ以テスルコト反、手ヲ以テスルコト捻、腰ヲ以テスルコト投、足ヲ以テスルコト掛、右四手ヨリ十二手ヅツ四十八手ト成」

よて (接) 因 因リテ、ノ略。[illegible]石集、一、上、第三條「勝縁ノカヲハナレテハ、シュツリノ望トゲガタシ、仍都ノ中ノ大小ノ神祇ハ申ニ及バズ、云云」

よてい (名) 豫定 アラカジメ定ムルコト。前以テ決定スルコト。後漢書、申屠剛傳[illegible]

よてい (名) 輿丁 車輿ヲカツグモノ。[illegible]丁[illegible]」

よてき (名) 餘滴 ノコリノシヅク。餘瀝。残滴。[illegible]」

よてふ (名) [illegible] 一、人倫「奥ノ南部ニテ、末子ヲよてふトイフ」

よでふはん ヨジョウ・ハン (名) [illegible] [illegible]ト半疊一枚トヲ敷ケル室。[illegible]四方ナリ。京都東山ノ銀閣ノ方丈ノ東北ニ[illegible]ナリ、茶室ノ四疊半、コレニ本ヅクト。今、[illegible]

よてん (名) 四天 〔黄檗宗ノ語ナリト云フ」(一)短キ上着ノ、膝ホドナルニ、腰ノ處ニテ四ツニ裂ケタル如ク製セルモノ。(二)轉ジテ、歌舞伎狂言ニ用ヰル[illegible]ノ名[illegible]ル服裝トナル。白、黒ノ二種アリ。又、[illegible]化、[illegible]ニ出ノル[illegible]忠信ノ吉野山道行、[illegible]ト云フハ、イカガ。(三)せりだし(迫出)[illegible]ヲ見

よでん (名) 餘田 かんでん(閑田)ノ條ノ(一)ニ同ジ。沙石集、一、下、第十條「淨土宗ノ[illegible]田ヲトル間、社僧、神官等イキドヲリ申」

よと (名) 夜音 〔よおとノ略〕[illegible]夜音ノ、ルモノオト。萬葉集、四「梓弓、爪ヒク夜音ノ、[illegible]」

よど (名) 淀、澱 (水ノ寄所ノ義カ、曲ト通ズ[illegible])[illegible]テ、浪ナド立タズ、水ノトドマル所。水ノヨドム處。ヨドミ。倭名抄、一「河海類[illegible]」

よどう (名) 輿同 同意シテ與力スルコト。[illegible]

よどがはつつじ ヨドガワ・ツツジ (名) 淀川躑躅 [illegible]んつつじニ同ジ。

よとぎ (名) 夜伽 夜中ニ伽ヲスルコト。[illegible]、上「家内ノ者ガ代リ代リニ夜伽ニ参ル」

よこく (名) [illegible] [illegible]

よこく (名) [illegible] [illegible]

よぞく (名) 餘殃 ノコリノ害殃。又、後マデノコル災禍。[illegible]

よどこ (名) [illegible] [illegible]夜床モ荒ルラム、ソコ故ニ」[illegible]「[illegible]、夜床ハ山ト、ナリヌベシ、秋ノ夜ヲヘテ、ヌル人モナミ」

よどごひ ヨド・ゴイ (名) [illegible] 淀川[illegible]

よどせ (名) 淀瀬 ヨドミタル瀬。流水ノ淀フトコロノ瀬。萬葉集、十七「長歌「泉ノ河ノ、[illegible]」

よどで (名) [illegible] あさとで(朝戸出)ノ條ヲ見ヨ。

よどぬひ ヨド・ヌイ (名) [illegible] [illegible]スル事ノ裁切[illegible]モノ。煙草入、袋物等ヲ作ルニ用ヰル。

よどの (名) [illegible]

よどぶね (名) 淀舟 山城國ノ淀川ヲ通[illegible]ノ浦ヘト急ギ候、淀舟ヤ、水野ノ原ノ曙ニ、云云」

よどほし (名) [夜通] ヨモスガラ。ヨスガラ。ヨヒトヨ。ヨビテ。終夜。通宵

〜**よどま・す**・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) [淀] 淀むノ敬語。不通ミタマフ。澁リトドコホリタマフ。萬葉集、十一 三十四「言トクバ、中ハ淀マセ、水無川、絶ユナフコトヲ、有リコスナ勤」

よどみ (名) [淀澱] (一)〔ヨドミタル所。ヨド。ヲドミ。倭名抄、一 八 河海類「澱、與止美」 拾遺集、四、冬「谷川ノ、よどみニ結ブ、氷コソ、見ル人モナキ、鏡ナリケレ」 (二)シブリトドコホルコト。澁滯「言葉ニよどみナク」

よど・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [淀澱] 〔よどヲ活用ス〕 (一)〔淀トナル。流水滯フ。字類抄「淀、澱、ヨトム」萬葉集、一 廿七「ササナミノ、志賀ノ大曲、與杼六トモ、昔ノ人ニ、マタモアハメヤモ」 (二)〔澁リトドコホル。タユム。澁滯 凝滯 萬葉集、五 十一「松浦河、七瀬ノ淀ハ、澱ムトモ、我ハ與騰麻ズ、君ヲシ待タム」「言葉よどむ」 (三)水底ニ沈ミ溜ル。ヲドム。沈澱

よどやがは (名) 淀屋革 〔大坂ノ淀屋古庵ト云フモノ、古舶來ノ品ヲ珍藏シタルヨリ名ヅクト云フ〕革ノ一種、菖革(菖ノ如ク、青漆ニテ紋ヲ摺レル革)ノ類ニテ、極印モテ模樣ヲ打チ出シ、黑漆ニテ括染ニセルモノ。

よどり (名) [世取] ヨツギ。アトトリ。相續人。後嗣 貝原飛脚、正德、近松作「父御前ノ思案デ、ココノ世どりニ償ヒシカ」云云

よど・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [攀] よづ(攀)ニ同ジ。謠曲、歌占「劍樹地獄ノ苦シミハ、手ニ劍ノ樹ヲよどれハ、百節ニ碎ス」

よな (感) 〔感歎ヲアラハスよトなトノ重言〕 感歎ヲアラハス語。延ベテ、よなう。又、よの。住吉物語「片時モワスレなルコトハナケレドモ、ハカナキ世ノ中ノ辭ニテよな」謠曲、鉢木「イテ夜、佐野ニテ申セシよな、云云、イテ其ノ時ノ鉢ノ木ハ、梅松櫻ニテアリシよな」

よなう (感) よなノ延。又、よの。謠曲、石橋「謂ヲ聞ケバ有難ヤ、タダ世ノ常ノ行人ハ、左右ナウ渡ラヌ橋よなう」狂言記、粟阿彌「昔語ノ粟阿彌陀佛ニ、言葉ヲ交スモ尺八故、古今ニ通ズ心よなう」

〜**よなか** (名) [夜中] 夜ノ最中。ヨルヨナカ。中夜 夜半 崇峻即位前紀「是日、夜半、佐伯連丹經手等、圍穴穗部皇子宮」 萬葉集、七 廿「サ夜フケテ、夜中ノカタニ、オホホシク、呼ビシ舟人、泊テニケムカモ」榮花物語、四、見果てぬ夢「サツキノ六日ノ日、御ヨロコビ申アリテ、ソノよなかニゾ、二條殿ニカヘラセタマフ」

よなが (名) [夜長] 夜ノ長キコト。又、ソノ程。謠曲、吳服「吳織漢織ハ歸レドモ、鷄ハマダ鳴カズヤ、夜長ナリト待チ給へ」

〜**よなき** (名) [夜啼][夜鳴] (一)夜中ニ啼クコト。(小兒ナドノ) 萬葉集、十二 廿「我ガセコニ、戀フトニシアラジ、ミドリゴノ、夜哭ヲシツツ、寐ネガテナクハ」 (二)夜中ニ鳴クコト。(鳥ナドノ) 萬葉集、二十 十「朝日照ル、佐太ノ岡べニ、鳴ク鳥ノ、夜鳴變ラフ、コノ年ゴロヲ」

よなきうどん (名) 夜啼饂飩 よたかそば(夜鷹蕎麥)ニ同ジ。(京阪ニテ)

よな・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下二) 淘 〔米上ぐ、ノ約カ〕 (一)米ヲ水ニ淘リ淅グ。ユリワクル。淅ス。(二)水ニユスリテ、洗ヒ分クル。ユリワクル。淘汰

〜**よなぐら** (名) [米藏][米倉] 又、よねぐら。イナグラ。コメグラ。廩 倭名抄、十二 廿 居宅類「廩、與奈久良、一云、伊奈久良」

✣**よなげる** (動) [淘] 前前條ノ語ノ口語。

よなどり (名) [善名鳥] 〔善知ノ字ニ因リテ云ヒシナルベシ〕 善知鳥ナラムト云フ。文鳥 藻鹽抄、下「ママラヲノ、エンヒナ鳥ヲ、ウアブレ、ニ、タヽクヽ、若ヘよな鳥、山よな鳥トハ、うとうト云鳥ヲイフナリ」

よなひきん (名) [除荷金] 俳優ニ、本給金ノ外ニ、給スル金。(割増ナド)

よなふ (名) [豫納] 前以テ納ムルコト。

よなべ (名) 〔夜ヲ日ニ竝ベテスル義〕 夜ヲ延ベテ時間ヲ補フコト。夜ニ入リテ仕事スルコト。ヨシゴト。ヨナベシゴト。夜作 油工 浮世風呂(文化、三馬)三編、上「着物ナドモ、云云、夜業ニツイデ置ケバ」

よなほし (名) [世直] (一)世竝ノ凶シキヲ吉キニカヘスコト。(二)世間ノ不景氣ヲ直スコト。

よなみ (名) [世竝] 世上ノ成行ノ程。時勢。

よなん (名) [四男] しなん(四男)ニ同ジ。

〜**よなむし** (名) [米蟲] こめのむし(米蟲)ノ(一)ニ同ジ。倭名抄、十九 四十 蟲豸類「蛄䗣、與奈無之、今穀米中小黑虫也」

〜**よなよな** (副) [夜夜] 〔夜間夜間ノ約、あさなあさなノ語原ヲ見ヨ〕 夜毎ニ。毎夜。マイバン。ヨルヨル。仁德紀、三十八年七月「毎夜自菟餓野有聞鹿鳴」遊仙窟「夜夜空知心失眼、朝朝無便投膠漆」

よならひ (名) [夜習] 夜中、學問ナドヲ習フコト 本朝若風俗(元文、西鶴)「十フシハ彌生ノ四日ノ空、朧ゲナル暮方ヨリ、夜習ひノ心懸ハ、明日ノサラヘ書キヲ互ニ恥ヂヌ、云云」

よならひ (名) 世習 世間ノ習俗。世ノ中ノ習。夫木抄、三十六、言語「イカニセン、タダナホザリノ、世習ニ、タノマヌ中ヲ、ナゲク心ハ」

よならべて (副) [夜竝而] ひならべて(日竝而)ノ條ヲ見ヨ。

よな・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [世馴] (一)〔人情世態ニ馴ル。ヨナレル。源、廿四、胡蝶「スコシ打世なれタル人ノアリサマヲダニ、ミシリ給ハネバ」 (二)世情ニ馴ル。

✣**よなれる** (動) [世馴] 前條ノ語ノ口語。

〜**よに** (副) [世] 〔よも、よもやニ通ズ〕 (一)ホとタウニ。實ニ。到底。下ニ打消語ノ來ルモノトス。よも。萬葉集、廿 十八「我カツマハ、イタク戀ヒラシ、飲ム水ニ、影サヘ見エテ、世ニ忘ラレズ」(世ノ中ニ、忘レラレヌコトノ、多クアルカ中ニモ、取リワキテ忘レラレズノ意) (二)決シテ。キット。必ズ。後拾遺集、十六、雜、二「夜ヲコメテ、トリノソラネハ、ハカルトモ、よに逢坂ノ、關ハユルサジ」

よにげ (名) [夜逃] 夜中ヒソカニ逃亡スルコト。夜間ノ出奔。平治物語、三、牛若奥州下事「年來ノ昔ニハ坂ラシ、同ジクハ高倉カナトナランドテ、女、夜逃シテ奥へ下ル程ニ、云云」

よになしもの (名) 無世者 世ノ中ニ存在ヲミトメラレザルモノ。義經記、二、伊勢三郎義經の臣下に初めて成る事「ホニ逢ウタル人ニテゾアルラン、我モ人モ世になしものノ、チウジャウニ逢フ事、常ノ習ヒナリ」

よにん (名) 餘人 よぢん(餘人)ニ同ジ。

よにんばり (名) 四人張 四人ガカリニテ、張ルホドノ強弓 義經記、五、忠信吉野山合戰事「鏑卷ヨリカミ十四束ニタブタブト切リタルヲ、ツ(ツカ)ミザシニ指シテ、頭高ニ負ヒナシ、滋包ミノ弓ノ九尺ニ有リケル四人張ヲ杖ニツキ、代木ニノボリテ申シケルハ、云云」

〜**よにも** (副) [世] よに(世)ト云フニ同ジ。萬葉集、十四「筑波嶺ノ、岩モトドロニ、落ツル水、代爾モタユラニ、我カ思ハナクニ」

よ-よ (副) [世世] 〔よゝ(世)ノ重言〕ハナハダシク。コノウヘナク。宇治拾遺、九、第一條「道則オモフヤウ、よゝよゝネンゴロニモテナシテ、心ザシアリツル郡司ノ妻ヲ、云云」

よ-めけ [illegible] 夜[illegible] 闇夜ニマギレテ、[illegible]ノ[illegible]コト

よね (名) [illegible] 稻ノ花ね。[illegible]ノ[illegible]ト[illegible]ナリト云ノ、[illegible]ナリ(善)ト云フガ如シ」イネ。シネ。タネ。[illegible](米)同ジ。倭名抄、十七「米類「米、與禰」本草和名、下四十「稻米、多多與禰」土佐日記、二月八日「人、鮮ナル物モ[illegible]、よねシテカヘリゴトス」金葉集、九、雜、上 和泉式部、「石山ニマヰリケルニ、云云、アヤシノ賤ノ女、ガ、よね[illegible]作レナリ[illegible]」

よね (名) 女郎。「[illegible]ノ義、遊女ノ異名、[illegible]女ヲカノ、しよねト云フ」 [illegible]ニ[illegible]、昔ハコナノ町ノよねタチハ、皆氣モ張モツヨイハイノ、キンピラダンベイ」(キンピラムスメノ意) 好色一代男、[illegible]、今ノ時花太夫、金巾引キテモ、九日ヤ七日ニハ、逢フ事稀ナル姉[illegible]、云云」

よね-かはりう ヨネカワ・リュウ (名) 米川流 香道ノ一派。京都ノ人、米川三右衛門常伯ノ創メタルモノ(寛文ノ頃)。香道[illegible]傳書「米川流トイフハ、米川常伯、俗名紅屋三右衛門トイフ者ナリ、京都市間人、[illegible]任下[illegible]、云云、[illegible]寺ノ[illegible]トイフ人ノ門人ナリ、後、一流ヲ建立シテ、米川流トイフ、[illegible]門院ヘ[illegible]、致[illegible]」

よね-か・ふ ヨネ・カ・ウ (ハ・ヒ・フ・ヘ・ヘ)(他動、四) [糴] 米ヲ買フ。字鏡「糴、買米也、[illegible]加不」

よね-ざは-つむぎ ヨネザワ・ツムギ (名) [米澤紬] 羽前國、米澤ノ地方ヨリ産ズル紬。

よね-だんご (名) [米團子] 米ノ粉ニテ、製シタル團子。[illegible]、竹田出雲合作ノ八[illegible]ナリ月代ヘ、[illegible]ミノ[illegible]、[illegible]月ノ[illegible]チ出ヅル」

よ-ねつ (名) [餘熱] (一)熱氣ノノコリタルコト。ホトボリ。[illegible] (二)[illegible]暑氣ノ[illegible]ヤウマルコト。[illegible]

よね-の-いはひ ヨネ・ノ・イワイ (名) [米祝] 〔八十八ヲ合スレバ米ノ字トナル〕ベイジュ。八十八歳ノ賀ノ祝。米年ノ祝。

よねブツ (名) 夜念佛 又、よねんぶつ。夜、唱フル念佛。謡曲、隅田川「数キヲトドメ聲澄ムヤ、月ノ夜念佛モロトモニ、心ハ西ヘト一筋ニ」七十一番職人盡歌合、四十九番、放下「無常聲、人聞ケーゾ、[illegible]ノ、[illegible]ハシバメグル、月ノよねぶつ」

よね-へん (名) 米偏 [illegible]、米偏ニ同ジ。[illegible]生[illegible]田川(享保、近松作)四、狂女道行「サレバ難波ノ色里偏ニ、車偏屋ノ小里トイフテ、人ノ習マヌよねへん(米ニ女郎ヲカケタリ)ナルガ」

よね-まじり (名) 遊女ニ交際スルコト。女郎買ヲスルコト。傾城反魂香(寶永、近松作)中「屈ンデキルホドナラバ、里通ヒモよねまじりモ、アタマカフセズカヨシ」

よね-マンヂュウ ヨネ・マンジュウ (名) [米饅頭] 〔常ノ饅頭ノ饂飩粉ナルニ對ス〕饅頭ノ米ノ粉ノ餅ニテ餡ヲ包ミタルモノ。形、圓ク長ク、兩端尖ル。ソノ尖端ニハ餡ナシ、故ニ味ナキヲよねまんぢゅうノあとさきト云フ。コノ饅頭ハ、江戸、淺草待乳山、聖天ノ表門石坂ノ下ニテ、鶴屋ノ娘およねノ製スルトコロナリト。柴の一本(天和)待乳山「此待乳山ノ麓聖天町ニテ、よねまんぢうヲ商フ、根本ヲ伊勢鶴ヤ、ワヒト鶴ヤトテ、鳥居ノ兩方ニ立、鶴屋ト云フ茶子屋也、[illegible]カヨム、根本ハ、鶴ノ鶴ヤ、生ミヌラン、よねまんぢうハ、玉子ナリケリ」

よ-ねん (名) [餘念] 外ニ移ル心。ホカノ[illegible]。[illegible]

よ-ねん (名) [餘年] よせい(餘生)ニ同ジ。[illegible]

よ-ねんブツ (名) [夜念佛] よねぶつ(夜念佛)ニ同ジ。

よ-の (名) [四幅] (一)布帛ナドノ、幅ノ四ツアルコト。又、ソノモノ。ヨハバ。(二)よのぶとん(四幅布團)ノ略。俳諧古選、附錄「四布五布、身ノ隠家ノ、ふとん哉」

よ-の (感) よなニ同ジ。

よ-の-おとど (名) 夜御殿 よるのおとど(夜御殿)ニ同ジ。

よ-の-かため (名) 世固 世ノ棟梁、世ノ重鎮。又、ソノ人。榮花物語、三十六、根合「カクサマザマトメテタク、世ノかためトナラセ給フベキ一ノ人タチ、イデオハシマシケルモノヲ」

よ-の-ぜん (名) 四膳 本膳ノ外ニ、ソレニ添ヘテ出ス第四ノ膳。宗五大雙紙、上、注「四の御膳ヲ、公方ニハ與の御膳ト申シ候」

よ-の-つね (名) [世常] 世ノ中ノ常ニテ、異狀ナラヌコト。世間並ナルコト。ツネテイ。世間ナミ。尋常。名義抄「尋常、ヨノツネ、トコトハ」萬葉集、八十九「尋常 聞クハ苦シキ、喚子鳥、聲ナツカシキ、時ニハナリヌ」

よ-の-つね・ぶ (ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ)(自動、上二) 世常 ヨノツネノヤウナリ。[illegible]松中納言物語、三「疾クワタラセ給ヘト、セメテタビタビアレバ、セメテシブァンで、サバカリニテハ、よのつねびウタテケレバ、渡リタマヒテ、云云」

よ-の-とほひと ヨ・ノ・トオヒト (名) [世遠人] 遠キ昔ヨリ存在スル人。最モ長壽ナル人。よのながひと。[illegible]仁徳紀、[illegible]コソハ、[illegible]、ナコソハ、國ノ長ヒト」

よ-の-なか (名) [世中] (一)世上ノ時勢、人情ナドヲ汎ク通ジテ稱スル語。世間。世上。人間。名義抄「人間、ヨノナカ」萬葉集、十[illegible] [illegible] 空蟬ハ「世の中ヲ、マダ思ヒ知ラヌ程ヨリハ、戯レバ[illegible]ノ山ノ、中ニ落ツル、吉野ノ川ノ、ヨシヤ世の中」

よ-の-なか-ごこち (名) 世中心地 [illegible]

よ-の-ながびと (名) [世長人] イノチ長キ人。長壽ナル人。よのとほひと。古事記、下(仁徳)「ナコソハ、余能那賀比登」

よ-の-ばかま (名) [四幅袴] 裾短キ袴。室町時代ニ、足輕、[illegible]ナド穿ケリト。太平記、三十一、[illegible]先陣八十一揆ト[illegible]、小手ノ袋、四幅袴、笠符ニ至ルマデ、一色ニ皆赤カリケレバ、殊更耀テゾ見エタリケル」

よ-の-ひと (名) [世人] 〔後宇多院ノ御諱世仁ヲ避ケタル語〕又、よひと。世間ノ人。世ノ中ノ人。セジン。[illegible]、十六、姉氏部、[illegible] 後宇多院御名世仁ノ[illegible]、世人ノ字ヲ、よのひとト云、或ハよびとト[illegible]、云云」

よ-の-ブトン (名) [四幅布團] 布團ノ、表、裏、各、四幅ヅツニテ製セルモノ。

よ-の-め (名) [夜目] 夜間ネムルベキ日。狂言記、[illegible]、[illegible]アノ坊主ハ、よのめガネノレメト見エタ、[illegible]、夜目モ寝ズ」

よ-の-め-さ-の-め (名) [夜目朝目] 〔さのめハあさのめ(朝ノ目)ノ略〕前條ノ語ヲ強メタル語。

よは (名) 夜半 〔夜間ノ半ト云フ、常ニ夜半ナドト記ス〕（一）〔夜、又、夜ト云フニ同ジ〕 名義抄「夜、ヨハ、ヨヒ」 [illegible]十四年八月[illegible]（二）夜ノ[illegible]ケマル時 六帖、[illegible]夜ノ、よはニナルマデ、マツ人ノ來ヌ」

よは (名) 餘波 ナゴリ。トバシリ。 [illegible]「[illegible]ノ餘波」

よはう (名) 四方 [illegible]よはう。四邊。四角。 更級日記「エモイハズ大キナル石ノよはうナル中ニ、穴ノアキタル中ヨリ出ヅル水ノ、清クツメタキコトカギリナシ、富士山ハコノ國ナリ」

よはう (名) 餘芳 （一）ノコリノニホヒ。餘香。餘薰。 [illegible]（二）ノコリノホマレ。 [illegible]

よはう (名) 豫報 アラカジメ知ラスルコト。前以テ報知スルコト。「天氣豫報」

よばう (名) 豫防 アラカジメフセグコト。前以テコバミ守ルコト。 易經、下彖傳「水在火上、既濟、君子以思患而豫防之」

よばう (名) 望 名望ト、聲望ト。ホマレ。 晉書、馬隆傳「[illegible]當時諸公[illegible]久補外、還朝不得要官」

よばう (名) 輿望 世間一般ノ人望。

よはく (名) 餘白 文字書キタル紙ノアマリ。（文ノ前後ナドニ）アキシロ。

よはず (名) 弭筈 矢ノ筈ノ端ニ、直ニ筈ヲ作リツケニシタルモノ。 運歩色葉集「弭筈、ヨハツ」注「矢之頭、其マヽ曰剗筈也」

よはだ (名) 夜肌 ヨルノハダ。ヨルノ皮膚。 六帖、五「ヒトリネノ、夜はだノ寒サ、シリソメテ、昔ノ人ゾ、今モコヒシキ」

よばたらき (名) 夜働 （一）夜中ニ勞動スルコト。又、ソノ勞動。ヨナベ。夜業。夜作。（二）夜中ニ戰フコト。ヨイクサ。夜戰。 [illegible]「夜襲ヲ云ノ、又、夜働トモ云フ」

よばなし (名) 夜話 又、ヤワ。ヨル談話スルコト。又、ソノ談話。ヨガタリ。 醒睡笑、元和、安永[illegible]「似合うたのこみ、夜咄しスル衆ノ仲間ドモ、供シテ行クニ」

よばな・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二） 世離 世間ニ遠ザカル。 宇津保物語、菊宴「[illegible]アヤシク、ナドカ、世ばなれタル住ヒハシ給フ」

よばはり (名) 喚 モノヲヨブコト。

よばはりつぎ (名) 喚次 大追物ノ役ノ名。下ノ出典ヲ見ヨ。 射鏡、四「よばはり次ノ事、エボシカケフシ、行縢ノハキ、[illegible]」

よばは・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四） 喚 よばふ（呼）ノ延。 延慶本、平家物語、[illegible]中、宇治合戰事「木ニ上テ呼ばはれト云ケレバ、云云」

よはひ (名) 齡 齒 〔世延ノ義カ、或ハ、生ノ間ノ意カ、又、世間ノ樺ナラムト〕 人ノ身ノ、世ニ生キテ歷行ク間。年。年齡。イノチ。壽命。 字類抄「齒、ヨハヒ、[illegible]」 [illegible] 得浦島子「ウラシマノ、ココロニカナフ、ツマヲエテ、カメノ世渡比ナ、トモニソヘケル」

よばひ (名) 婚 私通 ヨバフコト。男、女、相呼ヒテ情ヲ通ズルコト。 [illegible] 竹取物語「闇ノ夜ニ出デテ穴ヲ抉リ、ココカシコヨリ覗キ、[illegible]ナン、よばひトハ云ヒケル」（よばふノ條ヲ見ヨ） 又、接頭語ノさヲ冠セテモ云ヘリ。 [illegible]「コモリクノ、初瀬ノ國ニ、左結婚ニ、吾ガ來レレバ」

よはひぐさ (名) 齡草 〔齡ヲ延ブル草ノ義、きくゐ（菊水）ノ條ヲ見ヨ〕 菊ノ異名。 [illegible]「よはひ草、菊」

よはひ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變） 齒 並チナラブ。同列トナル。ナカマトシテ交ル。伍ス。 左傳、隱公十一年「寡人[illegible]」 「齒、ヨハヒ、ハクキ、ツラナル」

よはひびと (名) 齡人 天皇御元服ノ時、公卿第一ノ老人ノ、御酒ヲ奉ルモノ。 年中行事歌合、四十五番、左、御元服「君ガ代ノ、イク チトセヲカ、よはひ人ノ、ハツモトユヒニ、[illegible]ラシ」注「よはひ人トイヘルハ、天子御元服ノ時、上壽トテ、現任ノ公卿ノ中ニ、第一老年ノ人ヲ撰テ、御酒ヲ[illegible]シメ、[illegible]獻ズル事ノ有也」

よばひぶみ (名) 婚文 ヨバヒ、即チ、[illegible]ケサウブミ。艶書。 [illegible]「斯クヤモメニテアレバ、ホレボレシキヲ、女人求メシメントスルニ、よばひぶみノヤマト歌ナキハ、人アナヅラシムルモノナリ、ワカ一ツ作リテトノ給」

よばひぼし (名) 流星 〔[illegible]行スルコト、男ノ女ニ就クカ如キ意ト云フ、或ハ云フ、呼星ノ義、奔ルトキ音アレバ云フト〕 りうせい（流星）ノ（一）ニ同ジ。 倭名抄、一、景宿類「流星、一名、奔星、與八比保之」 名義抄「流星、ヨハヒホシ、奔星、同」 舒明紀、九年二月「戊寅、大星從東流西、便有音似雷、時人曰、流星之音」 夫木抄、十九、星「[illegible]ソラノ、よばひぼし、翔ルレバ出デテ、光シルラン」

よば・ふ・フ・ヘ・ヘ・ヒ・ヘ（他動、四） 呼喚 （一）よぶ（呼）ノ延。[illegible] 皇極紀、三年七月「陳酒菜六畜於路側、而使呼曰、新富入來」 古今集、十一、戀、一「打チ佗ビテ、よばはン聲ニ、山彥ノ、答ヘヌ山ハ、アラジトゾ思フ」 [illegible]（二）男求婚スルニ、女應ズレバ、己レガ名ヲなのるナリ、コレよばふコトヲ云フ。接頭語ノさヲツケテ、さよばふト云ヒ、又、[illegible]よばひ[illegible] 靈異記、中、第三十三縁、訓釋「伉儷、與波不」 [illegible]

よばん (名) 夜番 トノヰ。夜ノ當番。ヤバン。 宇津保物語、國讓、中 五十四「内ノ上モ、イカデトクナリニナ、夜ノ人ニキンヒカセテ聞カン、よばんニモノセズバ、[illegible]、云云」

よばり (名) 夜尿 〔夜ノ尿ノ略〕 ねせうべん（寢小便）ニ同ジ。 醒睡笑（元和、安樂庵策傳）八、「[illegible]今夜ハ泊エテ、夜尿仕リテト申シタレバ、我カ物ト、[illegible]ニ立テノミテ、[illegible]」

よば・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四） 呼 よぶ（呼）ニ同ジ。 赤染衞門集「昔ノ人アラマシカバ、近キ程ニテ、よばらマシナドイヒテ、云云」

よば・るルル・ルレ・レ・レヨ(受身相、動) [被呼] 人ニ呼ビカケラル [illegible] 招カル、ヨバレル。 土佐日記、十二月廿五日「守ノ館ヨリ、ヨビニ文モテ來レリ、よばれテ至リテ、日ヒトヒ夜ヒトヨ、トカク遊ブヤウニテ、云云」

よば・れる (動) [被呼] 前條ノ語ノ口語。

よひ (名) [宵] [illegible] 夜間ノ約カト云フ [illegible] よ(夜)ト云フニ同ジ。ヨハ。ヨル。 允恭紀、八年二月「我ガ夫子ガ、來ベキ宵ナリ、ササガニノ、蜘蛛ノオコナヒ、コヨヒシルシモ」萬葉集、十七、長歌「キヨキセニ、朝欲比毎ニ、立ツキリノ」同、十四 [illegible] 落チタギチタル、白浪ニ、蛙鳴クナリ、朝ナ夕毎ニ 六帖、五「草枕、結ブトシケン、よひよひハ、解ケザリキヤハ、下ノ入紐」 (二)夜ニ入リテ程經ヌ時 初夜 初更 (夜中ト曉トニ對ス) 名義抄「夕、ヨヒ、ユフベ」萬葉集、十三、長歌「七月ノ、七日ノ夕ハ、我モ悲シモ」同、十四 [illegible] 作ム [illegible] 初夜サラズ、妻問フ萩ノ、散ラマク惜シモ」同、十二「明日ヨリハ、ヒトヒツツアラム [illegible] 初夜ヨリ、ヒモトケ [illegible] 時出ツル、宵ノ叢雲、サエカヘリ、更ケユク風ニ、霰降ルナリ」

よひ (名) 醉 ゑひ(醉)ノ轉 [illegible] 下戸ナレト、サイツ [illegible] 夜ノ、盃ニ、ナロリト酒ノ、よひモ見エケリ」「醉ヲ醒マス」

よひ (名) [結] ゆひ(結)ノ訛。

よび (名) [呼] (一)ヨブコト。招クコト。 [illegible] 十四、高櫻 [illegible] 尋ネ知ラデモアリヌベキ事ナレド、然ハエ思ヒ棄ツマジキワザナリケリ、呼びニヤリテ見セ奉ラン、憎ミ給フナヨ」 (二)芝居ニテ、幕切レテ、きゃぎり終リタルトキ、次ノ幕ニ出ヅル役者ノ立者ヨリ開中マデノ名ヲ、何某丈ト高ク呼ブコト。一幕限ノ見物人、コレヲ聞キ、名高キ役者ノ名ヲ聞ケバ、留リテ次ノ幕ヲ見物スト。

よび (名) [指] ゆび(指)ノ訛 萬葉集、八 [illegible]

よび (名) [豫備] (一)アラカジメソナフルコト [illegible] 前以テ用意シ [illegible] 子、十二 [illegible] (二)よびえき(豫備役)、又ハ [illegible] 豫備兵ノ略 各條ヲ見ヨ

よびあ・ぐグル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下二) (一)聲ヲ上ゲテ呼ブ。コビタツ。呼上 (二)コビアゲル。 (二)コビテ上ラシム。ヨビアゲル。「土俵ニ關取ヲよびあぐ」

よびあ・げる (動) [呼上] 前條ノ語ノ口語

よびあつ・むムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 呼集 ヨビアツメル。 マネキテアツム 召集 [illegible] 廿二 [illegible] 「口惜シカラヌ人人モ、京ヨリナリボヒキタルナドヲ、タヨリニツケテ、よびあつめナドシテ、サフラハセシモ、云云」

よびあつ・める (動) [呼集] 前條ノ語ノ口語。

よびあ・ふフ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [呼合] 互ニ聲立テテ招ク。ヨビカハス。又、互ニ招待ス。招待シアフ。

よびい・くクル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) [呼活] 死シタルモノヲ、名ヲ呼ビテ活キカヘラシム 好色五人女 貞享、西鶴 [illegible] 限リノ樣ニ見エシガ、云云、息ノ通フヲ摑ミニシテ、呼び生けケルニ、何ノ仔細モナク正氣ニナリヌ」

よびいだ・すス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [呼出] 又、よびいづ。呼ビテ出デシム。呼ビテ來ラシム。召シ出ス。召喚ス。 狂言記、

[illegible] 「ノサ君ヲ喚び出し申シ付ケマセウ」

よびい・づヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ(他動、下二) 呼出 前 [illegible] 「コノワタリニ時時出入ハスト聞ケド、前ニハよびいでヌ人ノ、云云」

よびい・るルル・ルレ・レ・レ・レヨ(他動、下二) 呼入 ヨビイル マネキイル。 後撰集、十二、戀、四「人ノモトニマカリテ侍ルニ、よびいれネバ、スノコニフシアカシ、云云」

よびい・れる (動) [呼入] 前條ノ語ノ口語

よびえき (名) [豫備役] 現役ヲ終ヘタル者ノ服スル兵役 陸軍ハ四年四月(現役ト七年四月)、海軍ニテ四年トス。

よひかうしん (名) [宵庚申] 庚申待ヲナス日ノ宵。 心中宵庚申(享保、近松作)下「コリャ松ヨ、今日ハ五日宵庚申、甲子ガ近イ」

よびか・くクル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) [呼掛] 聲ヲカケテ呼ブ。ヨビカケル。 狂言記、宗論「アレヘ、ヨササウナル道ヅレガ行カル、よびかけ道ヅレニ致サウト存ズル」

よびか・ける (動) [呼掛] 前條ノ語ノ口語。

よびかは・すス・セ・サ・シ・セ(自動、四) [呼交] よびあふ(呼合)ニ同ジ。 萬葉集、十七、長 [illegible] 港ノスドリ、朝ナギニ、潟ニアサリシ、潮ミテバ、 [illegible] トモシキニ、見ツツ過ギユキ」

よびかへ・すス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [呼返] ヨビテカヘラシム。マネキテモドス。ヨビモドス。召還 萬葉集、十六「ワガセコヲ、ナコセノ山ノ、喚子鳥 [illegible] 夜ノノケメトニ」 夫木抄、十五、九月 [illegible] ノコリナク、峯ノモミヂモ、散リニケリ、秋よびかへせ、山ノヤマビコ」

よびぐ・すスル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) [呼具] ヨビテツルル。マネキテトモナフ [illegible] ケレバ、見ント思フゾ、法師バラ呼び具しテコ、トノタマヒケレバ、云云」

よひごし (名) [宵越] [illegible] 一茶句集「宵越しノ、豆腐明リニ、霰哉カナ」「宵越ノ金」 前日カラモチコスコト。

よびこ・すス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [呼越] ヨビテコサシム [illegible]

よびこ・むムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) [呼込] ヨビテヒキイル。又、ヨビテヒキヨス。 落窪物語、一「落窪ノ君モ、コレヲ今サヘよびこめ給ノコトト [illegible] へバ」

よびこ・める (動) [呼込] 前條ノ語ノ口語。

よびごゑ (名) [呼聲] モノヲ呼ブ音聲 [illegible] 呼バフ聲 アビキスト、アゴ整フル、アマノ呼聲」 呼聲高しトハ、評判ノアガル意。

よびざけ (名) [呼酒] むかへざけ(迎酒)ニ同ジ。

よひざめ (名) [醉醒] 酒ノ醉ノ醒ムルコト [illegible] 「醉醒ノ水」

よびしほ (名) [呼鹽] 鹽辛キモノノ鹽氣ヲ淡クスルタメニ、更ニ鹽ヲ振リマクコト。又、ソノ鹽。

よびじやう (名) [呼狀] よびだしじやう(呼出狀)ニ同ジ。

よびす・うウル・ウレ・ヱ・ヱ・ヱヨ(他動、下二)

呼据、ヨビテ居ラシム、招キテ坐セシム。竹取物語「カノウレヘセシタクミラヲバ、カクヤ姫よびすゑテ、嬉シキ人ドモナリトイヒテ、云云」

よびずて（名）［呼捨］人ヲ呼ブニ、殿、又ハ、様ナドノ敬ヲ添ヘズ、單ニ姓名ノミ呼ブコト。ヨビツケ。「人ヲ呼ビ捨ニスル」

よひだくみ（名）［宵工］前ノ晩ニ計畫スルコト。前夜ノモクロミ。

よびだし（名）［呼出］（一）呼出スコト。召喚。（二）揚屋茶屋ニテ、遊女屋ヨリ、遊女ヲ招クコト。（三）よびだしやっこ（呼出奴）ノ略、其條ヲ見ヨ。

よびだしぐは（名）［呼出桑］種紙ヨリ掃キ落シタル蟻蠶ヲ、其撒布セル籾殼ノ上ニ這ヒ出サシメムタメ、蒔キ與フル細末ニ切リタル桑ノ葉。

よびだしじやう（名）［呼出狀］官ヨリ人ヲ呼出ス文書。呼狀。召狀。召喚狀。

よびだしやっこ（名）［呼出奴］相撲場ニテ、各取組ミ毎ニ、東西ノ力士ノ名ヲ呼ビテ、土俵ノ上ニ上ラシムル役ノ者。前行司。略シテ、よびだし。

よびだ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、下二）［呼出］ヨビテ出デシム。マネキテコサス。狂言記、蚊相撲「ソチヲ呼出すモ、別成事デモナイ」同、八句連歌「作聲ヲイタシ、喚び出しマセウズ」

よびた・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（他動、下二）［呼立］特ニ聲揚ゲテ呼ブ。萬葉集、廿、「マスラヲノ、欲妣多天シカバ、サヲ鹿ノ、ムナワケ行カム、秋ノ萩原」同、九、四廿「明日ノ夕、逢ハザラメヤモ、アシビキノ、山彦トヨメ、呼立鳴クモ」（古義ノ訓）

よひづき（名）［宵月］宵ノ間ノミ見ユル月。初夜ノ頃ノ月。後撰集、夏「ナレド、影コソ涼シ、よひ月ノ、夕立過グル、アトノ庭カナ」

よびつぎ（名）［呼次、喚次］呼ビツグコト。運歩色葉集「喚次、ヨヒツキ」

よびつぎ（名）［呼接］又、よせつぎ。つぎき（接木）ノ一法。其條ヲ見ヨ。

よひづきよ（名）［宵月夜］宵ノ間ノミノ月夜。宵月ノ夜。ユフヅキヨ。俳諧古選、夏「宵月夜、門ニ添乳ノ、暑サカナ」

よびつ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［呼附］（一）呼ビテ來ラシム。呼ビ寄ス。ヨビツケル。枕草子、六、第五十八段「サブラヒ人よびつけ、物ナドイヒタルケハヒモ、イトヲカシ」（二）呼ビ馴ル。ヨビツケル。

よびつ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（他動、四）［呼次、喚次］相傳ヘテ呼ブ。人傳ヲカケテ呼ブ。傳呼。新六帖、六、呼子鳥「コブコ鳥、ヨベバよびつぐ、山彦ヲ、何カイフヘト、人ノ聞クラン」良將達德錄、八、小田原陣浮田秀家「御前ヲ退キ、二丁程歸リカカリシ處ニ、追追ト呼びつがレケレバ、秀家、云云、御前へ出テケレバ、云云」

よびつけ（名）［呼附］（一）ヨビツクルコト。（二）よびずて（呼捨）ニ同ジ。

よひっぱり（名）［宵張］ヨヒヰ。夜ヲ深カシテ遊ビナドシテ、早ク眠ニ就カヌコト。浮世風呂、二、文化、三編、上「宵ばりノ朝寐坊トキテヰルカラ、人ヲ集メテ面白クモネエ芝居話ヲ、ベエンベエントシテ、云云」

よひつぶ・る・ル・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［醉潰］ゑひつぶる（醉潰）ニ同ジ。

よひつぶれ（名）［醉潰］又、ゑひつぶれ。ゑひどれ（醉人）ニ同ジ。

よひと（名）［世人］よのひと（世人）ニ同ジ。世間ノ人。神代紀、下、三十「世人不レ債ニ失針（此其緣也）」（通釋ノ訓）榮花物語、二、花山「イト大人大人シキ御選ムスメノ程ナドヲ、よひと内内ニハ聞ユベカメレド、云云」

よびと・む・ム・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［呼止］ヨビテトマラシム。ヨビトメル。

よびとめる（動）［呼止］前條ノ語ノ口語。

よひとよ（副）［夜一夜］ヨスガラ。ヨモスガラ。ヨドホシ。ヨッピテ。一晩ヂュウ。終夜。通宵。土佐日記、十二月廿五日「日ヒトヒ、夜ひと夜、トカク遊ブヤウニテ、明ケニケリ」源、五、若紫、二十「夜ひとよ、風フキアルルニ、云云」

よびとよ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［呼響動］ヨビゴエノ、ヒビキトドロク。古今集、廿、東歌、ひぐらし「杣人ハ、宮木ヒクラシ、足引ノ、山ノ山彦、よびとよむナリ」

よびとよ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［呼響動］ヨビゴエヲ、ヒビキトドロカス。呼ビテ響カス。萬葉集、六、四十長歌「秋去レバ、山モ動響ニ、サヲ鹿ハ、妻呼合響」

よびどり（名）［呼鳥］ヲトリ。媒鳥。

よびと・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［呼取］ヨビテ來ラシム。呼ビ寄ス。呼ビ迎フ。竹取物語「翁ヲよびとりテ云フヤウ、云云」宇治拾遺、二、第五條「用經、馬搭ヘタル童ヲ呼び取りテ、馬ヲバ御門ノ脇ニ繫キテ、云云」

よひどれ（名）［醉人］「ゑひつぶれ（醉潰）ノ略轉、博多ニテ、よひとう」酒ニ醉ヒテ倒レタルモノ。ヨッパラヒ。エヒグルヒ。ヨタンボ。［醉漢　醉客　醉人］

よびな（名）［呼名］〔あざな（字）ノ條ヲ見合ハスベシ〕其人ノ實名ノ外ニ、特ニ別ニツクル名。常ニ稱フル名。通リ名。讃岐典侍、内侍、ナドノ類、其女ニ實名アル外ノ名ナリ。又、名歌ナド詠メルニ因リテ、褒メテ他ヨリツクル事アリ、「待宵の小侍從」「物かはの藏人」ナドノ類ナリ。又、諱ル意ナルハ、假名ナリ。

よひなき（名）［宵鳴］ヨヒニ鳴クコト。毛吹草「宵鳴モ、イカデ嫌ハン、時ノ鳥」

よびぬり（名）［呼塗］壁ナドニ、荒ヌリヲ施シタル後、直ニ木舞ノ裏ヨリ土ヲ塗ルコト。

よひね（名）［宵寢］宵ノ時刻ヨリ寢ルコト。ハヤネ。［早眠］

よびね（名）［呼値］取引所ニテ、一定ノ單位ニ對スル直段。即チ、何圓何拾錢ト呼ビテ、賣買スルヨリ云フ語。

よひのみやうじやう（名）［宵明星］ユフヅツ。［長庚］きんせい（金星）ノ條ヲ見ヨ。

よびはな・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（他動、四）［呼放］ヨビゴエテ、他ノ方ヨリ離レシム。源、三十六、柏木「殿ニワタリ給フ時モ、云云、君ダチハ、カリフゾ、よびはなちて、見奉リ給フ」

よひぶ・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）［呻吟］〔によひぶすノ略カ、或ハ、其誤カ、呻吟ノ條ヲ見合セヨ〕ウメキフス。ウナリ伏ス。異本、徒然草、第八十七段「[illegible]ニよひぶしタルヲ求メ出テテ、舁キモテ來ツ（光廣自筆本、によびふしタルヲ、其他、によびトセル本、多シ）」

よびへい（名）［豫備兵］豫備役ノ兵士。

よひま（名）［夜間］ヨルノアヒダ。又、宵ノアヒダ。加茂保憲女集「冬河ノ、渡ノよひまニ、氷レルヲ、風モテ織レル、綾カトゾ見ル」

よひ-まつり (名) 宵祭 神社ノ本祭ノ前夜ノ祭。宵宮。よみや(夜宮)ニ同ジ。

よひ-まどひ (名) 宵惑 宵ヨリ眠タクナルコト。[illegible]「[illegible]イヨイヨ[illegible]テアレテ、宵まどひせズ、[illegible]居タリ」

よび-みづ (名) 呼水 水ヲミチビクタメニ、別ニ水ヲ注込ムコト。又、ソノ注込ム水。(井戸ノ喞筒ナドニ)

よひ-みや (名) 宵宮 本祭ノ前夜ノ祭。ヨヒマツリ。よみや(夜宮)ニ同ジ。

よび-むか・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 呼迎 よびよす(呼寄)ニ同ジ。

よび-むか・へる (動) 呼迎 前條ノ語ノ口語。

よび-もど・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 呼戻 よびかへす(呼返)ニ同ジ。

よび-もの (名) 呼物 人氣ノ的トナルモノ。噂ノ高キモノ。評判モノ。

よび-や (名) 呼屋 あげや(揚屋)ニ同ジ。守貞漫稿、十九、娼家、上「呼屋、京坂ニ在レ之、江戸ニハ昔ヨリ此名ヲ聞ズ、呼屋ハ京坂トモニ、娼子位ノ遊女ヲ迎ヘルノ小楼ヲ云也、鹿子モ迎フル也、太夫及ビ天神ヲ迎フ事能ハズ」

よび-やう (名) 餘病 本病ノ外ノ病。

よひ-やくし (名) 宵藥師 ゆふやくし(夕藥師)ニ同ジ。朝觀音ノ條ヲモ見ヨ。

よひ-やみ (名) 宵闇 [あかつきやみ(曉闇)ニ對ス] 宵ノ夜、月ノ未ダ上ラズシテ、宵ノ闇ノ暗キコト。ヒフヤミ。

よび-よ・す・ス・ス・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 呼寄 呼ビテ招キ來タス。招キヨス。ヨビムカフ。ヨビトル。招致 招來 竹取物語「[illegible]ヘ、[illegible]中ニよびよせ[illegible]」

よび-よ・せる (動) 呼寄 前條ノ語ノ口語。

よひ-よひ (名) 宵宵 (一)多クノ宵。ヨヒゴト。毎宵 毎夜 毎晚 萬葉集、十二「タダニ、吾ガ立チ待ツニ、ソコバクモ、君ガ來マサズハ、苦シカルベシ」古今集、十一、戀一「宵宵ニ、ヌギテワガヌル、狩衣、カケテ思ハヌ、トキノマモナシ」(二)よひ(宵)ヲ強メテ云フ語。伊勢物語、第五段「人シレヌ、ワガ通路ノ、關守ハ、よひよひゴトニ、打チモネナナン」

よひ-ら (名) 宵 [「ら」ハ、親愛ノ語、多ク次條ノ語意ニカク] よひ(宵)ト云フニ同ジ。六帖、六「アカネサス、晝ハコチタシ、アヂサヰノ、花ノよひらニ、アヒ見テニガナ」

よ-ひら (名) 四片 花瓣ノ四ツアルコト。紫陽花ニ云フ語 新六帖、六「宵ノマノ、露ニ咲キソフ、紫陽花ノ、よひら二月ノ、影ゾ見エケル」

よひら-の-はな (名) 四片花 [花ノ四瓣ナルヨリ云フ] あぢさゐ(紫陽花)ノ異名 前條、及、前前條ノ語ヲモ見ヨ。

よび-りん (名) 呼鈴 人ヲ呼ブ時ニ鳴ラス鈴、又ハ、電鈴。

よひ-ゐ (名) 宵居 宵ニ久シク起キテ居ルコト 夜居 源、三十四、上、若菜、上「宵居ナドモ、例ナラズ、人ヤ咎メン、云云」

よ・ふ (動) 醉 ゑふ(醉)ノ轉 中記抄(文明)十七「喝喝トハ、魚ノゴミニようテ、口ヲ開テアンケトシテ、ヲルナルゾ」 船によふトハ、船ノ動搖ノ爲ニ、心悶亂シ、頭痛ミ、吐逆ス。苦船 注船 車によふトハ、車ノ動搖ノタメニ醉フ。注車 駕籠によふト[illegible]

よふ (接尾) モノノ滯リ、又ハ、ワダカマル狀態ニ云フ語。ただよふ、もさよふ、まよふ、つたよふ、かがよふ、ナドノ類。

よ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ(他動、四) 呼喚 [よよト聲スル意ト云フ] (一)聲立テテマネク。[illegible] (二)マネキテ、マチウク。招待ス。アゲル。招請 欽明紀、五名喚テ、袖ゾ振リツル」 (三)稱フ。皇極紀、三年十一月「入鹿、年十一月「律守連奉、敕問ニ成任那、故遣召之、云云」「客ヲよぶ」「藝人ヲよぶ」呼び寄ス」 (三)稱フ。名ヅク。云フ。稱 皇極紀、三年十一月「入鹿、云云、稱ビテ男女、曰王子」「名ヲ何ト呼ぶ」

よ-ふう (名) 餘風 ノコレルフリ。ノコリタルスガタ 遺風 [illegible]、公共[illegible]

よ-ぶか (名) 夜深 よふけ(夜深)ニ同ジ。狂言記、牛馬「一ノ杭ニ繫カウト存ジテ、夜深ニコサレドモ罷出デタ」

よ-ふかし (名) 夜ヲ深カシテ眠ニ就カヌコト。オソク寐ヌルコト

よ-ぶか・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 夜深 夜、深ケテアリ。更闌 拾遺集、[illegible]「[illegible]、鳴キテ行クラン、時鳥、淀ノワタリノ、マダ夜ぶかきニ」古今集、十三、戀三「[illegible]クシケ、明ケハ君ガ名、立ナスヘキ、夜深、コシヲ、人見ケンカモ」

よ-ふけ (名) 夜深 夜ノ深ケタル時。ヨブカ。深更 深夜

よぶ-こ-どり (名) 呼子鳥 (呼戀鳥ニテ、友ナド呼ビ戀ノル如ク、其夜鳴ク意カト云フ、萬葉集、[illegible]古ヘ[illegible]戀ノ[illegible]鳥ハ、霍公鳥、蓋シヤ鳴キシ、吾ガ戀フルゾト同、[illegible]大和ニハ、鳴キテカ來ラム(行カム)、呼兒鳥、象ノ中山、呼ビゾ越ユナル」ノ類ノ歌ヲ以テ知ルベシ」[illegible]霍公[illegible]、大和[illegible]、明治ナリシナラムト云フ。山城ノ京トナリテ、[illegible]、喚、呼、ト云フヲ縁ニ、歌ニ詠メルナルベシ。(古今集[illegible]ト[illegible]ノ說アレド、比古婆衣ノ說ニ據レリ) 萬葉集、十[illegible]、[illegible]鳥ノ、[illegible]中、霍公鳥ノ、歌廿七首中[illegible](八[illegible]山ノ[illegible])、八[illegible]山[illegible]エテ、喚子鳥、今ヤ[illegible]來ル、[illegible]ノ[illegible]ク[illegible]トヨメル、同、廿七首中、[illegible](霞ノ[illegible]、八[illegible]山[illegible]エテ、ホトトギス、[illegible]ノ花[illegible]、鳴キテ[illegible]來ヌ(略[illegible]ノ訓)トヨメリ

よぶ-こ-どり (名) 呼子鳥 一名、郭公鳥。深山ニ棲ム。形、はいたか(鷂)ニ似テ、大イサ鳩ノ如シ。全身、黑文、灰黑、相雜ハリ、腹ハ、淡黃ニシテ白黑文アリ、尾ハ灰赤ニシテ白點アリ、目ノ邊、薄赤クシテきざアリ、觜、尖ル。指ハ、前後、各、二、尖リテ黑シ。卵ヲ葦切ナドノ巢ニ產ムコト、霍公ニ似タリ。鳴聲、物ヲ喚ブガ如シ。フフドリ。ホホドリ。カンコドリ。ツツドリ。鳲鳩 布穀鳥

よぶ-こ-の-ふえ (名) 呼子笛 鷹[illegible]相圖シテ、人ヲ呼ブ[illegible]吹ク小笛 略シテ、よぶこ。[illegible]、[illegible]十[illegible]「ハヤ裏門ニ呼子の笛、時分ハヨシト兩人ハ、拍子木合ハセテ、云云」

よ-ぶすま (名) 夜衾 ヨルノフスマ。ヨルヤルフスマ 住吉物語「夜モ明ケヌレバ、[illegible]ニオハセシ所ヲ見レバ、何ナル[illegible]よぶすまモナク[illegible]

よ-ふね（名）夜船（一）〔夜中ニ行ク舟〕夜航　萬葉集、十五「吾レノミヤ、夜船ハ漕グト、思ヘレバ、沖ベノ方ニ、檝ノ音スナリ」同、十六「吾ガセコニ、ウラ戀ヒヲレバ、天ノ河、夜船漕グナル、檝ノ音聞ユ」（二）ぼたもち（牡丹餅）ノ異名。（イツツクヤラ知レヌト云フ謎ト云フ）

よ-ふべ（名）夕　ゆふべ（夕）ノ轉。名義抄「早晩、ヨフヘ、ユフクレ」暮、ヨフヘ、ユフヘ」

よ-ふん（名）餘憤　殘リタルイキドホリ。孔融、與張玄書「一寫鼠子、以洩餘憤乎」

よ-ぶん（名）餘分　アマリ。餘計。易林節用集、上、言辭門「餘分、ヨブン」

〜**よ-べ**（名）昨夜〔夜方ノ義カト云フ〕顧ミテ、過ギシ夜ノ方、昨日ノ夜。ヨウベ。ヨンベ。ユウベ。ユンベ。夜前。昨晩。字類抄「宿、夕、ヨヘ」萬葉集、四、五十八「ヌバタマノ、昨夜ハ歸シツ、今宵サヘ、吾ヲ歸スナ、路ノナガテヲ」（略解ノ訓）土佐日記、正月九日「よべノ榮ヲ、云云、昨ワザヲシテ、錢モモテコズ」（流布本）

よ-へい（名）餘弊　餘敝（一）後ニノコル弊害。（二）後マデノコル疲弊。末々癒エザル疲弊。戰國策、齊策「夫伐與國、使仇敵制其餘敝、而名醜而實危、爲王弗取也」

よ-ほど（副）餘程　半過グル程。ダイブ。ダイブン。頗ル。音便ニ、よッぽど。大半。狂言記、針立雷「扨モ扨モ痛イモノヂャ、サリナガラ今ノ針デ、痛ミカよほどナホッタ」

✤**よぼ-よぼ**（副）老人ノヨロボヒ歩ム狀ニ云フ語。トボトボ。ヨロヨロ。ヨタヨタ。ヨヂヨヂ。踉蹌　醒睡笑（元和、安樂庵策傳）二「老人ノよぼよぼト入ル者ヲ待チテ」

〜**よぼろ**（名）膕〔弱折ノ約轉カト云フ〕又、よをろ。ひかがみ（膕）ノ古名。其條ヲ見ヨ。倭名抄、三、手足類「膕、與保呂、曲脚中也」宇津保物語、樓上、下「御髮ハ、よぼろ過ギ給ヘリ、サガリバ、イト清ラナリ」

〜**よぼろ**（名）丁〔膕ノ義、脚力ヲ役フ意、今ノ人足ト云フハ、ムカ如シ〕古制ニ、國中ノ男子、二十一歳ヨリ六十歳マデノ稱。民ノ役ハルルモノ。公用ノ役使ニ出ダスニ就キテ云フ。丁、正丁、成丁、丁男、丁年、課丁、皆、此意ナリ。夫。人夫。人足。下部。役丁　字類抄「丁、ヨホロ」武烈紀、三年十一月「發信濃國男丁、作城像於水派邑」萬葉集、廿「同造丁、早部使主三中」顯輔集「ミツギモノ、運ブよほろシ、多ケレバ、道モサリアヘズ、逢坂ノ關」

〜**よぼろ-くぼ**（名）〔膕窪ノ義〕ひかがみ（膕）ニ同ジ。仁德紀、六十五年「各有手足、其有膝而無膕、力多以輕捷」

よぼろ-すぢ（名）膕筋　膕ニアル大ナル筋。字鏡「膞、與保呂乃筋、腳之後大筋」今昔物語、五、第一語「膕筋ヲ斷タレバ、可逃キ樣无シ」

〜**よ-ま**（名）四間　四坪ノ廣サニ造リタル間。義經記、六、鬼一法眼事「行ナク謡海來リ、四間ナル所ニ入レテ、サマザマニモテナシ申シケルハ」

〜**よ-まぜ-み**（副）夜交　隔夜ニ。一夜オキニ。盛衰記、三十九、重衡酒宴事「二人、毎夜ニ參ルベケレ共、云云、夜まぜニ參リテ、宮仕セヨ」

よ-まはり（名）夜廻　夜、路ヲ巡リテ警ムルコト。夜警。行夜　盛衰記、廿七、聖僧川合戰「夜討ニモコソ寄スレトテ、夜廻リヲ始メテ、云云、手手ニ續松捧テ、川ノ耳ヲ見廻ケルニ、云云」

よ-まひ-ごと（名）〔世迷言ノ義カ〕獨語シテ、ツブヤクコト。狂言記、茶盃拜「明暮何ヤラよまひごとバカリ云ウテ、涙ヲ流シ」

よみ（名）讀（一）讀ムコト。（二）訓。（其條ヲ見ヨ）（三）讀。く（句）ノ條ヲ見ヨ。

〜**よ-み**（名）黄泉〔夜見ノ義、暗キ處ノ意、夜ノ食國ヲ知ロシメス、月讀命ノ、よみモ夜見ツ、闇、道ズ〕人ノ死シテ、其靈魂ノ行ク處ト云フ、死ニシ人ノ行キテ居ル國。魂ノ行ク國。死ヌレバ屍ヲ地ニ埋ムルヨリシテ、下津國トモ、下邊トモ云ヒ、見エズナルヲ、闇に入ルト云フ。人ノ死シテ、魂ノ、幽冥ニカクルヲ、夜見ヘ行クト云ヒナラヒタレバ、よみがへるト云フハ、即チ、いきかへるナリ。黄泉の障ナド云フモ、唯、後生ノサハリト云ハムガ如シ。ネノクニ。ヨミヂ。ヨモツクニ。ヨミノクニ。冥土。幽界。九泉。冥府。泉下　萬葉集、九、長歌「遠津國、黄泉ノ界ニ、蔓フ葛ノ、各ガ向キ向キ、天雲ノ、別カレシ行ケバ」同、同、長歌「シシクシロ、黄泉ニ待タムト、隱沼ノ、下延ヘ置キテ、ウチ嘆キ、妹ガ去レバ」

✤**よみ-あ-ぐ** -グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）讀上　聲、高ク、讀ム。朗讀ス。ヨミアゲル。源、廿一、少女「カタチイトキヨゲナルヒトノ、コハヅカヒ物物シク神サビテ、よみあげタルホド、イトオモシロシ」

よみ-あげる（動）讀上　前條ノ語ノ口語。

よみ-あは-す -スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）讀合　兩書ヲ讀ミテ、クラベ合ハス。（誤リヲ正スナドニ）

よみ-あはせ（名）讀合　ヨミアハスルコト。互ニ讀ミテ、校合スルコト。

よみ-あやまり（名）誤讀　文字ノ音、又ハ、訓ヲアヤマリ讀ムコト。即チ、惡寒ヲあくかん、輸出ヲゆしゅつト云フ類。

よみ-い-る -ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）讀入　[illegible]云、ナミダトドメガタクテ、よみいリテオハシマス」

よみ-い-る -ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（他動、下二）讀入　詩歌ナドニ、物名ヲ讀ミコム。狂言記、三人百姓「三國ノ國ノ名モ讀み入れ、歌ヲ一首詠ミマセイトノ御事ヂャ、急デ御請ヲ申上イ」

よみ-うた（名）詠歌　作リタル和歌。

〜**よみ-うた**（名）讀歌　樂府ノ歌曲ノ如ク聲ヲ詠メズ、直讀ニ讀ム如ク謳ヒシモノカト云フ。古事記、下（允恭）廿四「歌曰、コモリクノ、泊瀬ノ山ノ、云云、又歌曰、コモリクノ、泊瀬ノ川ノ、云云、此二歌者、讀歌也」

よみ-うり（名）讀賣　江戸時代、世上ノ變事ナドヲ、繪入リノ摺物ニシテ、讀ミナガラ賣リ行キシモノ。又、ソノ人。即チ、瓦版、大坂落城、仇討、心中、大火ナド、新奇ノ事ヲ摺リテ讀ミ賣リシト。好色二代男、[illegible]「夜サヘ[illegible]」[illegible]與兵衛おかめ末期の道行「此ノ身ノ果テヲ讀み賣りニ、[illegible]ツケテ田舍マデ、唄ヒ流サン蜆川」

よみ-かき（名）讀書　書ヲ讀ムコト、字ヲ書クコト。又、學問。

よみ-かた（名）讀方　ヨムベキ方法。

〜**よみ-がへ-る** -ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）蘇〔黄泉ヨリ還ル義ト云フ〕死シタル者ノ再ビ生ク。生キ出ヅ。生キカヘル。蘇生ス。囘生。復活。復生。字類抄「蘇、活、息、ヨミカヘル」字鏡、六十「蘇、甦字同、更生也、與彌還」萬葉集、三「ワタツミノ、沖ニ持チ行キテ、放ツトモ、ウレムゾコレガ、死還生ナム」（古義ノ訓）

よみ-ガルタ（名）讀骨牌　讀ミテ、取

リ(合)ノカルタ、[illegible]取退無盡御仕置之事、輕キ賭之寶引、よみがるた打候者、三十日手鎖[illegible]六十[illegible]

よみきり (名) 讀切 (一)ヨミキルコト。(二)寄席ナドニテ、講談、落語ナドノ、一回ニテ終ルモノ。小說[illegible]ハノ(連續セザルモノ)ニ[illegible]

よみき・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 讀切 讀ミテ全ク終フ。讀ミ終ル。[illegible]

よみくせ (名) 讀癖 習慣ニテ、其物事ニ限リ、一種異ナル讀法アルモノ。即チ、冷泉、達智門、施藥院、春宮、定考、視告朔、大元帥法、ナドノ如シ。

よみくち (名) 讀口 和歌ノ名人ノ稱ト云フ。又、ソノ歌。假名札、(長明)上「千載集ニハ予ガ歌一首入レリ、サセル重代ニモアラズ、よみくちニモアラズ」

よみくち (名) 詠口 詩歌ナドノ詠ノ風調。ヨミブリ。無名抄(長明)上「よみくちニ至リテハ、俊賴ニハ及ブベクモアラズ」

よみさ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 讀止 ヨミヲハラズニ、ヤム。ナカラニシテ讀ミノコス。宇津保物語、樓上、下「[illegible]サラニミセ奉リ給ハズ、オホヤケモカノよみさし給フ文、キカマホシウシ給ヘド、トカウノガレ申給テ、云云」

よみ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 好 嘉 好シトス。愛ヅ。音便ニ、よみんず。名義抄「好、ヨミス」「嘉、ヨミス」

よみせ (名) 夜見世 (一)夜、街上ニ床店ヲ出シテ、物賣ルコト。夜肆 夜市 (二)江戶吉原ナドニテ、夜、見世ヲ張ルコト。嬉遊笑覽、九、娼妓、下「一日未刻ニ、夜みせ、昔ハナカリシニ、享保十七年御願申上御赦免アリテ、同十一月一日ヨリ始ル、中略迄半日ナリシカ、今ハ定リタル事ナシ、灯火夜ヲ欺キ、白晝ノ如シ」

よみぞめ (名) 讀初 新年ニ、書ヲ讀ミ始ムルコト。[illegible]吉書ノ次ニ、册子ノ讀初トテ、女子ハ文正草紙ヲ讀シトナリ、今モアル大家ニ、ソノ古例殘リテアリ」

よみた・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 讀立 キハダタセテ讀ム。聲、高ラカニ讀ミアグ。ヨミタテル。

よみた・てる (動) 讀立 前條ノ語ノ口語。

よみた・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 讀囘 クリカヘシヨム。イクタビモヨム。今物語、十一「滿座感歎シテ、此ノ歌よみためテ、主モ稱美ノ餘リニ、國ノ所ヒトツ、云云」

よみち (名) 夜路 夜中ニ路ヲ行クコト。夜行 萬葉集、三十「天ノ原、フリサケミレバ、シラマ弓、張リテカケタル、夜路ハヨケム」

よみぢ (名) 黃泉 よみ(黃泉)ニ同ジ。源、三十八、夕霧「ニハカニウチツヅクベカナルよみぢノイソギハ、サコソハチギリキコエシカト、イトツレナク聞エテ、云云」

よみぢがへり (名) 黃泉歸 ヨミガヘルコト。蘇生。津國女夫池(享保、近松作)三「ヤア生キテ居テクレタカ、出カシタ出カシタ、誠ノよみぢ歸リゾト、母モ御臺モスガリツキ、云云」

よみぢどり (名) 黃泉鳥 [illegible]ノ異名。拾芥抄、上、末、物忌部「郭公初鳴時ノ歌、コミナ鳥(一本、ヨミヂ鳥)、我カキモト(一本、木ノモト)ニ、鳴ツナリ(一本、ナキツトリ)、人マデ(一本、人ミナ)聞キツ、ユクタマモアラジ」

よみづ (名) 夜水 夜間、田ヘ引ク水。俳諧新選「裸身ニ、稻妻請ケル、夜水カナ」

よみつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 讀付 常ニ讀ム。讀ミ馴ル。源、廿二、玉鬘「[illegible]ヨロヅノサウシ歌枕、云云、ソノ内ノ言葉ヲトリ出ルニ、讀つきタル筋コソハ、ツヨウハカハラザルベケレ」

よみづと (名) 黃泉苞苴 メイドヘノミヤゲ。[illegible]

よみて (名) 讀手 (一)文書ヲ讀ム人。[illegible]云、世話[illegible]よみ人ノ[illegible]云云」(二)詩歌ヲ巧妙ニ讀ムモノ。(三)歌骨牌ニテ、上ノ句ヲ讀ム人。

よみど (名) 黃泉門 黃泉ノ入口。神代紀、上「泉門塞大神也」

よみながし (名) 讀流 ヨミナガスコト。

よみなが・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 讀流 ヨドミナク、ツヅケ讀ム。[illegible]下「昔如金色從阿鼻獄トイフワタリヲ、心ボソゲニよみながし給ヘル、イヒ知ラズ悲シキニ、云云」

よみなし (名) 讀做 ヨミナラフコト。

よみな・す・ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) 讀做 ヨミテナラフ。マネテヨム。

よみなら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) 讀習 ヨミテ學ビナス。ヨミテ熟練ス。源、四十四、橋姬十「法文ナドヲよみならひ給ヘバ」

よみのくに (名) 黃泉國 アノヨノクニ。よみ(黃泉)ノ條ヲ見ヨ。

よみはな (名) 宿花 カヘリザキノ花。二度咲。字類抄「妖花、ヨミハナ、宿花、同」易林節用集(慶長)上、草木門「宿花、ヨミハナ」

よみびと (名) 讀人 其歌ヲ詠ミタル人。作者。源、十五、蓬生七「フルウタトテモ、オカシキヤウニエリイデ、題ヲモ讀人ヲモアラハシ心エタルコソ、ミドコロモアリケレ」「讀人知ラズ」

よみびとしらず (名) 讀人不知 敕撰集ナドニテ、作者ノ不明ナルモノカ、又ハ、事故アリテ氏名ヲ憚ルモノナドニ[illegible]必分別、是[illegible]之失歟、讀人不知ト書事可有[illegible]一ハ誠不知作者歌、一ハ雖書名字世以難知其人、下賤卑陋之輩、一ハ詞ニ有憚歌等也」[illegible]讀人不知トハ、有三樣、一ハ不知、二ハ雖知[illegible]凡卑[illegible]名、[illegible]

よみほん (名) 讀本 (一)讀ミ習フベキ書物。(二)兒童婦女ノ讀ム本。[illegible](曲亭主人)「文政中ハ、云云、合卷ノ作編ヲ求ル書賈等、年年ニ多カリケレバ、よみ本綴ルニイトマナカリシナラン」(三)[illegible]草子ノ類。[illegible]十三條、合ヒ出本、繪草子ノ[illegible]、云云、昔ハ[illegible]ヘテ讀本三百部程スリシガ、今ハ千モ二千モスル也」

よみん・ず (動) 好 よみす(好)ノ音便。

よみもの (名) 讀物 (一)讀ムベキ物。即チ、書物。狂言記、文藏「よみ物ニトリノハ、庭訓カ式狀カ」(二)講談師ノ演ズル標題。

よみや (名) 夜宮 宵宮 〔前夜ノ宮籠リノ意ト云フ、或ハ、云フ、齋夜ノ轉カト〕祭日ノ前夜ニ祭事ヲ擧ノルコト。ヨヒミヤ。ヨヒマツリ。小都[illegible]記、二「六月十四日、山王御祭禮ノ前日ナリ、俗ニ世俗宵宮ト云フ」

よみやぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 讀破 〔文字ノ訓讀〕どくは(讀破)ニ同ジ。

よみわた・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 讀渡 (一)文書ヲ讀ミテ聞カス。「罪人ニ罪狀ヲ

誦讀す」(二)遍ク諸書ヲ讀ム。

よ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) |數| カゾフ。古事記、上「吾殖 其上、走乍讀度」 萬葉集、四「白妙ノ、袖解キ更ヘテ、還リ來ム、月日ヲ讀ミテ、往キテ來マシヲ」 古今集ノ詞、同、十一「時守ノ、打チ鳴ス鼓、數見レバ、時ニハナリヌ、會ハナクモアヤシ」 古今集ノ調、同、十八「メハタマノ、夜渡ル月ヲ、幾夜ヲト、食ミツツ妹ハ、吾レ待ツラムゾ」 宇津保物語、藤原君「宇ニ二階積ミテモテキタリ、アツカリドモよみトリテ、棚ニスヘテ置ル」

よ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) |讀誦| 〔前條ノ語ノ意ノ轉〕 (一)物ヲ數フル如ク、ツゾツゾニ唱フル。聲立テテ唱フル。 (二)定リテアル詞ヲ、今マネビテ口ニ言フ (三)講ズ 〔講釋師〕 (四)解ス サトル。了解ス 國性爺合戰(正德、近松作)千里が竹「和藤内此トモ聽セズ、讀めタリ、扨八異國ノ虎狩ナ、云云」

よ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) |詠| 〔心ニ思フコトヲ、條條トカゾヘアグル意〕 思フ事ヲ數ヘ立テテ言ヒ出ヅ。(歌ニ) ツクル。 宇津保物語、吹上、下「九十「歌作リナドシツツよみアゲテ、琴ニアハセテ、諸聲ニ誦ジタマフ」

よんどころ (名) |所由| 〔よりどころ(據り處)ノ音便〕 由緣ノアルトコロ。由緒ノ存スルトコロ。 推古紀、十二年四月「是以貧民、則不ㇾ知ㇾ所ㇾ由(一本、ヨルトコロ、又、セムスベ)」

よんどころな・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) |無據| 〔據り處なしノ音便〕 (一)已ムコトヲ得ズ。餘儀ナシ。|不得已| (二)謂ハレナシ。所以ナシ。

よんのおとど (名) |夜御殿| よるのおとど(夜御殿)ノ音便 其條ヲ見ヨ 徒然草、第廿三段「夜の御殿ノヲバ、搔燈疾ウヨナドイフ、マタメテタシ」

よんべ (名) |昨夜| よべ(昨夜)ノ音便。其條ヲ見ヨ。 ユンベ 垂仁紀、八十八年七月「昨夕、刀子自然至ㇾ於臣家」 私記「昨夕、與毛倍」 土佐日記、正月廿二日「よんべノトマリヨリ異泊ヲ追ヒテ行ク」 六帖、五「雨ザハリ、常スル君ハ、久方ノ、よんべノ由ニ、懲リニケンカモ」

よめ (名) 娵 〔呼女ノ意カト云フ、男ノ父母ヨリ呼ブ語、他ノ息子ニ對ス〕 (一)|息男ノ妻。婦。媳| 子婦 息婦 倭名抄、二「婦、子之妻也、婦、與女、字鏡「娵、呂女」 伊呂波字類抄「女、婦女」 兄妻曰ㇾ姻、與女、婦也、與女 秋茄子よめニ食ハスナ、コチノアタマよめニ食ハセヨ」 (二)女子ノ婚姻シタル頃ノ稱 新婦 (三)よめがきみ(娵君)ノ略。其條ヲ見ヨ。

よめ (名) 夜目 (一)夜、燈ノ光ニテ、物見ルコト。 萬葉集、十「ウグヒスノ、春ニナルラシ、春日山、霞棚引ク、夜目ニ見レドモ」 榮花物語、廿三、駒競「月曇リモナク顯ケルニ、女房ノナリ袖口、夜めニモ著ク」 清□公集「□□リカ、□モヤスラン、よめニテモ、著キハ人ノ、心トゾ見シ」 夫木抄、十八、雪「天ノ原、カキクフカリテ、降ル雪ヲ、よめニハアカキ、月カトゾ見ル」 吾吟我集、七、世話「築山ノ、石燈籠ノ、夜目遠目、笠ノ内コソ、風情ヲ見レ」 諺「夜目、遠目、笠ノ内」ハ此三ツニテ婦人ヲ見レバ、美シク見ユ」 (二)〔夜、眠ニ就クコト〕朝ノ目ノ覺メタルヲ朝目ト云フニ對ス) 名義抄「夜目、ヨメ」 大殿祭祝詞「御床都比能佐夜伎、夜女能伊須呂伎伊都都志伎事無久」

よめ (名) 夜眼 〔節目ノ義〕 又、やかん。馬ノ左右ノ前脚ノ中間節ノ背部ニアル白キ黜。 倭名抄、十一、牛馬體「夜眼、與米」

よめ (名) |鼠| 〔よめのきみノ略〕 ねずみ(鼠)ノ異名。神經ニテハ、大晦日一夜ギリ、鼠ノコトヲいみぬうさ、嫁ノ君トモ云フ 物類稱呼、二、動物「ねずみ、關西ニテ、よめ、又、よめがきみトイフ、云云、遠江國ニハ、年始

よめあつかひ ヨメ・アツカイ (名) |娵扱| ヨメノ如ク取扱フコト 榮花物語、二、月宴「御元服、四の宮ノ夜、ヤガテ參リタマフ、御門、后ノ、御よめあつかひノホド、イトヲカシクナンミエサセ給ヒケル」

よめい (名) |餘命| よせい(餘生)ニ同ジ。 向秀、思舊賦「悼二嵇生之永辭一兮、顧二日影一而彈レ琴、託二運遇於領會一兮、寄二餘命於寸陰一」

よめいり (名) |娵入| 女子ノ、娵トナリテ、夫ノ家ヘ行クコト。嫁グコト 略シテ、よめり 嫁 傾城島原蛙合戰(享保、近松作)二「葛西郡司高重カ、秘藏娘ノ琵琶ノ姫、右馬允景久ト、妹脊ノ緣ノ許嫁、云云、嫁入ハ何時ゾ」

よめがきみ (名) |娵君嫁君| 〔夜目が君ノ意カ〕 ねずみ(鼠)ノ異名 (俳諧ニテ) 正月三ケ日ノ間ノ鼠ナリト云フ。略シテ、よめ 俳諧五節句(元祿)「よめが君、三ケ日ノ間ノ鼠也」 季吟撰、師走の月に「燒松モ、初子ノ今日ヤ、嫁が君」 へんつく(元祿)「明クル夜ノ、ホノカニ嬉シ、嫁が君」(除夜ノ吟ナリ)

よめがさら (名) |娵皿| (一)介ノ名。殼、皿ノ如ク、大イナルハ、徑、一寸、形種種ナレドモ、多クハ橢圓形ナリ。チドリガヒ 石蜐 頂、尖リテ、少シ曲リタルヲ、雀貝ト云ヒ、潮ニ曝レテ紅ナルヲ、花貝ト云ヒ、白キヲ、牢屋貝ト云フ。 (二)草ノ名。溝ノ傍ニ多シ。蔓生ニシテ、葉、互生ス、纘アリテ物ニ纏フ。夏、花アリ、粟ノ花ニ似テ白シ、實モ粟ニ似テ、熟スレバ、皮ノ正中ヨリ横ニ放レ落ツ、形、椀ノ如シ 合子草

よめがはぎ (名) 娵萩 〔娵が薺蒿ノ略カ〕 よめな(娵菜)ニ同ジ。

よめがひ ヨメ・ガイ (名) |娵貝| あさひがひ(朝日

貝)ノ一名。

よめくら (名) |夜盲| 又、やまうり、とりめ(鳥目)ニ同ジ。

よめぐり (名) |夜巡| よまはり(夜廻)ニ同ジ 行夜 宇津保物語、藏開、下「夜ハ、□モ見エ侍ラデ、馬ニ乘リテキツツ、ユヅルウチナリツツ、よめぐりスルヤウニナン侍ル」

よめご (名) 娵御 娵ヲ敬ヒ呼ブ稱。ゴレウ 好色一代男(貞享、西鶴)五「□□ク□ク、如何ナル人ノ娵子(一本、媳子)ニモ恥カシカラズ」

よめごれう ヨメ・ゴリョウ (名) 娵御寮 娵御前 前條ノ語ニ同ジ。 假名手本忠臣藏(寛延、竹田出雲等合作)九「本半ノ□ヒヲ晴ラサン爲、今宵一夜ハ娵御寮ヘ、□□□ノ□□流シ、云云」

よめぢよ ヨメ・ジョ (名) |娵女| よめ(娵)ト云フニ同ジ。(親愛ノ意ヲ含ム) 艷容女舞衣(安永、竹本三郎兵衞等合作)中「宮ハネバナラヌ事モアレド、□□□□よめぢよノ手前、□□□□□ニクイ」

よめとめ (名) |四目十目| 男女ノ緣組ニ、一方ノ年齡ヨリ數ヘテ、他方ノ年齡ガ四年目、又ハ、十年目ニ當ルコト 即チ、三ツ違ヒ、若シクハ、九ツ違ヒナルハ、忌ミ嫌フモノナリトスル俗說。よめ(夜目)ノ條ノ(一)ヲ參見セヨ。

よめどり (名) 娵取 娵ヲ娶ルコト 娶 名義抄「娶、ヨメトリ、メトル」

よめな (名) |娵菜| 〔よめハ、姬ノ如ク小サキ意〕 古名、ウハギ。オハギ。今、ヨメガハギ。又、野菊。草ノ名。田野ニ多シ。のぎょんぎくニ似テ、嫩苗、食フベシ。夏、莖ヲ出スコト一二尺、葉、紫黑ヲ帶ビ、梢ニ淡紫花ヲ開ク、單瓣ニシテ、菊花ノ如シ 鷄兒腸 又、苗葉、微毛ア

リテ、莖ニ着ケル葉ニ刻ミアルモノヲ、をさおよめなト云フ。菁蒿

よめのこ (名) 嫁子 夜目ノ見エルモノナレバ云フカ」ねずみ(鼠)ノ異名。略シテ、よめ。又、よめがきみ。 夫木抄、廿七、鼠「よめの子ノ、子(一本、小)鼠イカガ、ナリヌラン、アナウツクシト、オモホユルカナ」定頼卿集、尼上の蓮の念珠を鼠の食ひたりけるを見て「よめのこノ、ハチスノミヲ、クヒケルハ、罪ウシナハン、トヤオモフラン」

よめ-の-ごき (名) 娵合器 どんぐり(團栗)ノ殼ノ稱。 物類稱呼、三、生植「橡實、ドングリ、云云、ドングリノ蒂ヲ、江戸ニテ、よめのごきトイフ、伊勢ニテ、こめのごきトイフ」

よめり (名) 娵入 よめいり(娵入)ノ略。嫁 狂言記、どもり「某ガよめりシタ時ノ手道具ガゴザル」 隣疁歌(元祿、近松作)中「今日ハ御縁付ノ嫁メカアルト承リ、才出ハ申ス私カ、才前ノよめりヲオメオメト、知ラヌト申スハ一分立タズ」

よめ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 娵入 よめいる(娵入)ノ略。トツグ。嫁ス。 史記抄(文明)二、百「注ニ、陳嫂ト云ハ、陳カラよめりタゾ、陳ハ婚氏ナルホドニゾ」

よめ・る (助) 讀 「過去相ヲ云ヘル動詞」其心ガ推知セラレルヤウダ。ワカル。

よも (名) 四方 (四面(ヨオモ)ノ約、八方(ヤモ)ノ條ヲ見ヨ) 前後左右ノ方。メグリ。マハリ。諸方。 履中紀、四年八月「達二四方志一」 雄略紀、廿年冬「四隣(ヨモ)之所二共識一也」「四方ノ山山」「四方ノ海」

よも (副) (得も、ノ意カト云フ) 事實ハ實驗セザレバ、タシカナラネド、推シテ信シテ決スル意ニ云フ語。ヨモヤ。マサカニ。(下ニ反語ヲ用ヰル) 枕草子、四、第四十四段「御トクイナナリ、更ニよも語ラヒトラジナド笑フ」 和泉式部日記「月サシイデヌ、イトアカシ、云云、ソノオハスル所ニ、スヱタマヘ、よもサキザキ見タマフラン人ノヤウニハアラジ」 謠曲、竹生島「比良ノ嶺(ネ)オロシ吹クトテモ、沖漕グ船ハ、よも盡キジ」「よも行クマジ」よもアラジ」

よも-いり (名) 四方入 すみきりがく(隅切角)ノ條ヲ見ヨ。

よもぎ (名) 艾 〔善燃草(ヨモキ)ノ義〕 草ノ名。山野ニ自生ス。莖、直立シテ白ク、高サ四五尺、葉ハ分レテ五尖ヲナシ、面、深綠ニシテ、背ニ白毛アリ。若葉ハ餅ニ和シテ食フベシ。(餅草ノ名モアリ) 秋、葉ノ間ニ穂ヲ出シテ、細花ヲ開ク、實、累累トシテ枝ニ盈ツ。葉ノ背ノ白毛ヲ採リテ、艾(モグサ)ニ製シ、又、印肉ヲ作ル料トス。ヤキクサ。ヤイグサ。 倭名抄、廿草木「蓬、一名艾、與毛木」 本草和名、上、五十「艾葉、一名、醫草、與毛岐」

よもぎ (名) 蓬 葉ハ、柳ニ似テ、微毛アリ、夏ノ初、莖ヲ出スコト一二尺、莖ノ梢ニ、枝ヲ分チテ、十數ノ花、集リツク、形、きつねあざみノ花ニ似テ、小サクシテ淡黄ナリ、後ニ絮トナリテ飛ブ。ウタヨモギ。 字類抄「蓬、ヨモキ」 萬葉集、十八 十三長歌「アヤメ草、余母疑カヅラキ、酒ミヅキ、遊ビナグレト」 六帖、六、よもぎ「我モフリ、よもぎモ宿ニ、繁リニシ、門ニ音スル、人ハ誰レゾモ」

よもぎ-が-かど (名) 蓬門 又、よもぎのかど。(一)蓬ニテ葺キタル門。又、蓬ナドノ生ヒ茂リタル門。 新六帖、六、よもぎ「世ニシアラバ、行キカフ人モ、イカバカリ、よもぎが門ニ、市ヲナサマシ」 (二)轉ジテ、貧者、又ハ、隱者ナドノ家ノ門、又、ソノ家。よもぎがやど。よもぎのすみか。よもぎふのやど。蓬戸。

よもぎ-が-しま (名) 蓬島 又、よもぎのしま。ほうらい(蓬萊)ノ條ノ(一)ニ同ジ。 [illegible]、廿三、[illegible]古ヘモ、名ノミ聞キシ、ワタツ海ノ、[illegible]

よもぎ-が-そま (名) 蓬杣 蓬ノ生ヒ茂リテ、杣山ノ狀ナルトコロ。 後拾遺集、四、秋、上「ナケヤナケ、よもぎがそまノ、蟋蟀(キリギリス)、過ギ行ク秋ハ、ゲニゾ悲シキ」

よもぎ-が-ねや (名) 蓬閨 蓬ノ生ヒ茂レル家ノ寢所(ネドコロ)。 夫木抄、三十二、枕「露シゲキ、蓬が閨ノ、ヒマトヂテ、フルキ枕ニ、秋風ゾ吹ク」

よもぎ-が-ほら (名) 蓬洞 蓬萊ヨリ轉ジテ、仙洞御所ノ異名。 續古今集、廿、賀「世ヲ照ラス、蓬が洞ノ、月影ハ、秋ツ島根ノ、奥モ曇ラジ」

よもぎ-が-やど (名) 蓬宿 又、よもぎのやど。よもぎふのやど(蓬生宿)ニ同ジ。 永久四年百首、秋「ヒトリスム、よもぎがやどニ、秋キテハ、蛬コソ、トモニナキケレ」

よもぎ-の-かど (名) 蓬門 よもぎがかど(蓬門)ニ同ジ。 蜻蛉日記、中、上「宿見レバ、蓬の門モ、サシナガラ、アルベキモノト、思ヒケンヤゾ」 新敕撰集、十八、雜、三「霜ガレノ、蓬の門ニ、サシコモリ、ケフノ日影ヲ、見ヌガ悲シサ」

よもぎ-の-しま (名) 蓬島 又、よもぎがしま。蓬萊(ホウライ)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

よもぎ-の-まろね (名) 蓬丸寐 荒レタル宿ニ丸寐スルコト。 源、四十九、東屋「カカル蓬の丸寢ニナラヒ給ハヌ心地ニ、云云」

よもぎ-の-や (名) 蓬矢 蓬ノ莖ニテ作レル矢。其葉ニテ羽ヲモ矧グ。さうこほうし(桑弧蓬矢)ノ條ヲ見ヨ。 太平記、十三、北山殿謀叛事「若君生レサセ給ヘリ、云云、桑ノ弓引人モナク、蓬の矢射ル所モナキアバラ屋ニ」

よもぎ-の-やど (名) 蓬宿 よもぎふのやど(蓬生宿)ニ同ジ。 榮花物語、九、石蔭「よもぎのやどヲ打チハラヒ、玉ノウテナト思ヒツツ、云云」 [illegible]十六、[illegible]

よもぎ-ふ (名) 蓬生 蓬ナドノ草ノ生ヒ茂レル地。 [illegible] 源、十五、蓬生「カカル御使ノ、よもぎふノ露ワケ入リ給フニツケテモ、云云」 千載集、八、[illegible]ニトマラン、[illegible]生ノ、思ヒシヲルル、[illegible]カナ」

よもぎ-ふ-の-やど (名) 蓬生宿 又、よもぎのやど。よもぎがやど。蓬ナドノ生ヒ茂レル宿。 新古今集、十四、戀、四「人ゾウキ、タノメヌ月ハ、メグリ來テ、昔忘レヌ、蓬生の宿」

よもぎ-もち (名) 蓬餅 又、よもぎもちひ。くさもち(草餅)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

よもぎ-もどき (名) 〔艾擬ノ義〕 草ノ名。古名、クロクサ。アリクサ。今、又、ひきよもぎ。(其條ノ(二)ヲ參見セヨ) ナシグサ。蓬蒿。鬼油麻。消蒿

よも-すがら (副) 終夜 〔夜もすがら、ノ意、よすがらノ條ヲモ見ヨ、ひねもす(終日)ニ對ス〕 晝ニツヅキテ、夜モ亦夜通シ。暮ヨリ曉マデ。ヨスガラ。ヨヒトヨ。ヨドホシ。ヨノビテ。終宵。通宵。徹宵。徹夜。 字類抄「竟夜、ヨモスガラ、終宵、通夜、同」 履中即位前紀「其、太子宮、通夜火不滅」 土佐日記、正月廿八日「よもすがら雨ヤマズ」 古今集、十六、哀傷「[illegible]露ヤ置クラン、よもすがら、通ヘル袖ノ、ヒヂテ乾カヌ」

よも-つ-くに (名) 黄泉國 〔黄泉之國(ヨモツクニ)ノ轉〕 よみ(黄泉)ニ同ジ。 神代紀、上、三十「伊弉諾尊追伊弉冉尊、入二於黄泉一」

よもつ-ひぐひ (名) 黄泉火食 次條ノ語ニ同ジ。 靈異記、中、第七緣「黄竈火物(大ハ火ノ誤)黄食」 神代紀、上、十「吾已食泉之竈矣、云云、泉

泉之竈、此云豫母都俳遍比」

〜**よもつ-へぐひ**（名）|黄泉戸喫|〔黄泉之火食ノ義、へぐひハ、竈食ノ意、博多ニテ、親友ヲへぐひどうしト云フ〕又、よもつひぐひ。黄泉ノ國ノ竈ニテ、煮炊キタルモノヲ食フコト。古事記、上「伊邪那美命答曰、悔哉不速來、吾者爲黄泉戸喫」

〜**よも-の-うみ**（名）|四方海|〔爾雅、釋地篇「九夷八狄、七戎六蠻、謂之四海」〕四方ノウミ。又、四方ノ海ノ中、卽チ、國。雄略紀、九年五月「折衝四海」紫式部集「よもの海ニ、鹽燒ク海人ノ、心カラ、ヤクトハカカル、ナゲキヲヤツム」

よも-や（副）よもノ條ヲ見ヨ。生玉心中、上「正德、近松作、中「コンナ所ニよもやトハ存ジナガラ」

よも-やま（名）|四方山|（一）四方ノ山山。堀河百首「四方山ノ、冬ノ氣色ニ、ナルママニ、小野ノ炭竈、煙立ナ增ス」（二）四方八方ノ轉。天ガ下。世上。榮花物語、二、花山「今年ハ、世ノ中ニ疱瘡ト云フモノ出來テ、四方山ノ人、上下、病ミノノシルニ、云云」（三）俗ニ、種種雜多ナルコト。イロイロ。サマザマ。（次條ノ語ノ訛）神樂歌、採物、弓「陸奥也島ノ、守リニ頼ム、梓弓、神ノ寶ニ、今シツルカナ、今シツルカナ」拾遺集、十、神樂歌「よも山ノ、人ノ寶ト、スル弓ヲ、神ノミマヘニ、今日タテマツル」太平記、十八、瓜生擧旗事「宇都宮美濃將監ト、天野民部大輔ト寄合シテ、四方山ノ雜談ノ次ニ、家家ノ旗ノ紋共ヲ云沙汰シケル處ニ、云云」神樂歌ヨリ轉ジテ、山と頼むト云フ語アリ。竹取物語「船ニ乘リテハ、楫取ノ申スコトヲコソ、高キ山トモ頼メ」

〜**よ-も-や-も**（名）|四面八面|四方八方。欽明紀、十六年二月「名流四表八方」

よ-やく（名）|豫約|アラカジメ約束スルコト。前以ッテ約束スルコト。

よ-やどり（名）|夜宿|ヨルトマルコト。赤染衞門集「かたがたにきたる人の、このお物をいだしたればつゞめていひたる　よやどりノ、アシタノ原ノ、女郎花、ウツリカニテヤ、人ハトガメン」

よ-ゆう（名）|餘裕|アマリアリテユタカナルコト。ユルヤカニユタカナルコト。クツロギアルコト。アリアマルコト。孟子、公孫丑、下篇「我無官守、我無言責也、則吾進退、豈不綽綽然有餘裕哉」

よ-よ（名）夜夜。夜ヲ重ヌルコト。每夜。每晚。千載集、十三、戀、三「我カ二、ヌル夜モナクテ、別レヌル、よよノ手枕、イツカ忘レン」

よ-よ（名）|代代|（一）代ノ重ナルコト。累代。歷世。世世。ダイダイ。セイセイ。「代代ノ跡」代代ニ傳フ」（二）〔男、女、仲違ヒテ〕別別ニ世ヲ歷ルコト。伊勢物語、第廿一段「己ガよよニナリニケレバ、疎クナリニケリ」古今集、十三、戀、三「白川ノ、知ラズトモ言ハジ、底淸ミ、流レテ世世ニ、スマント思ヘバ」

〜**よ-よ**（副）〔涎ノよ、是レナリ〕（一）口ノシマリ惡シク、言葉、唾、涎ナドノ、漏レ出ヅル狀ニ云フ語。（二）水ノ垂リ落ツル狀ニ云フ語。源、三十六、横笛「タカウナヲツト握リモチテ、シヅクモよよニ、クヒヌラシ給ヘバ」酒ノ垂ルニモ云フ。徒然草、第八十七段「サシウケサシウケ、よよト飲ミヌ」

〜**よ-よ**（感）〔前條ノ語ノ轉、泣ケバ、淚、涎、垂レバ云フト云フ〕泣ク聲。オイオイ。源、四、夕顏「見奉ル人モイト悲シクテ、オノレモよよト泣キヌ」榮花物語、廿七、衣珠「殿ノ御前、サクリモよよニ泣カセ給フ」六帖、四「君ニ因リ、よよよよよよト、よよよよト、ネヲノミゾ泣ク、よよよよよよト」蜻蛉日記、中、上「イミジウ、サクリモよよト泣キテ、云云」

よよ-えんがく（名）|ヨヨ|〔菩薩、菩提ト同趣。緣覺ノ省字、寫經ニ用キル」

よよし（名）|四十四|連歌ナドニテ、四十四句ヲ連ネテ、一聯トシタルモノ。連歌百韻、第八十五韻「四十四連歌ハ、百韻四折ノ中ノ三折ヲ除テ、初後ノ二折ヲ、合セタルモノナレバ、百韻ニ四ノ物ハ、四十四句ノ内ニ、四アリテモ、苦シカラズト云フ人アリ、又、百韻ニ四ノ物ハ、四十四、連歌ニハ二ナリト云フ人アリ」

〜**よよ・む・ム・メ・マ・ミ・メ**（自動、四）〔よよハ、明カナラヌ發音ニ云フ語〕老人ノ齒ノ落チタル口ツキニテ、唇動キテ、言出デテ、聲アヤナシ。萬葉集、四「百年ニ、老舌出デテ、與余牟友、我ハ厭ハジ、戀ハ益ストモ」

〜**よ-ら**（名）|夜|〔よニ、親愛ノ助辭ヲ添ヘタルモノ〕よ（夜）ト云ノ同ジ。萬葉集、十二「久カノ、天ノ河津ニ、舟浮ケテ、君待ツ夜等ハ、明ケズモアラヌカ」同、同、四「此夜等ハ、小夜深ケヌラシ、カリガネノ、聞ユル空ニ、月立チワタル」

〜**よ-らし**（句）〔善ニ、助動詞ノらしノ添ヒタルモノ〕ヨイラシイ。古事記、中（神武）「オサカノ、オホムロヤニ、人サハニ、云云、今伐タバ、余良斯」同、同（應神）「イザ子ドモ、野蒜摘ミニ、蒜摘ミニ、云云、イササバ、余良斯ナ」

よら-は・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）ヨレカラマル。マツハル。狹衣、一、下「綱ドモノよらはれタルヲ、ト引キカク引キ、二十人バカリ立チサマヨヒ」夫木抄、六、藤花「藤浪ノ、よらはれヌレバ、紫ノ、マキソメキタル、松カトソ見ル」

より（名）|寄|（一）寄ルコト。アツマリ。集合。（二）膿物ナドノ餘毒ノ、一處ニ固結セルモノ。結毒。

〜**より**（名）|縒|ヨルコト。又、ヨリアハセタルモノ。萬葉集、十二、卅四「片縒ニ、絲ヲゾ我カヨル、我カセコカ、花橘ヲ、スカムトモヒテ」

より（辭）（一）第一類ノ天爾波。此ニ起リテ、彼ニ移リワタル意ヲ云フ語。ヨ。ユ。ユリ。カラ。從。自。古事記、中（景行）「吾心恒念自虛翔行」[illegible]「[illegible]メモヨ、近江ノオキメ、明日用利ハ、ミ山カクリテ、見エズカモアラム」萬葉集、廿、[illegible]「[illegible]ニ天降リシ、皇祖ノ、神ノ御代欲利」古今集、十七、雜、上「咲キ初メシ、時より後ハ、ウチハヘテ、世ハ春ナレヤ、色ノ常ナル」萬葉集、十七「ワガ夫子ヲ、吾カ松原欲、見ワタセバ、海人少女ドモ、玉藻刈ル見ユ」同、三、四「[illegible]北ノ、野坂ノ浦從、[illegible]船出シテ、長島ニ行カム、浪立ツナユメ」「天より地ニ降ル」「昨日より今日マデ」（二）又、比ベテ科ヲ定ムル意ナルモノ。於。「コレより善シ」「彼より勝ル」「海より深シ」（三）コレノミト限ル意ノモノ。和泉式部日記「カレハテテ、我より外ニ、問フ人モ、アラシノ風ヲ、イカガ聞クラン」古今集、四、秋、上「ヒグラシノ、鳴ク山里ノ、夕暮ハ、風より外ニ、訪フ人モ無シ」（四）〔をノ意ヲナスモノ。古事記、上[illegible]萬葉集、[illegible]長歌「[illegible]白雲ノ間、渡フ月ノ」後拾遺集、十七、雜、三「女友ダチノ山よりタハブレテ侍リケレバ、云云」土佐日記、正月十七日「水底ノ、月ノ上より漕グ舟ノ、棹ニ障ルハ、桂ナルベシ」後拾遺集、十二、戀、二「門ノ前より忍ビテ渡リ侍リケルヲ、云云」萬葉集、[illegible]「三ツ山、野邊從行ク道ノ、コキダクモ、荒レニケルカモ、久ニ有ラナクニ」（五）〔までノ意ヲナスモノ。萬葉集、十三、[illegible]長歌「ツギネフ、山背道ヲ、人ヅマノ、馬從行クニ、オノ夫ノ、歩從行ケバ」

より（辭）コレより、ソレより略。「より長キ間」（多ク外國語ノ飜譯ニ用ヰル）

〜**より**（接尾）|度|〔時時ノよりナリ〕たび（度）ニ同ジ。シキリニ。崇峻即位前紀「軍衆三度驚駭」推古紀、廿六年八月「十餘霹靂」千載集、十八、誹諧「トモシシテ、ハコネノ山ニ、アケニケリ、二より三より、アフトセシマニ」夫木抄、十六、時鳥「訪フ人モ、無キ山里ノ、村時雨、二より三より、驚カスカナ」信明集「アケニケリ、影メヅラシキ、マス鏡、フタよりミより、ネコソナカルレ」

よりあは・す（ヨリアワス）スル・スレ・セ・セ・セヨ（自動、下二）寄合ヒ、タガヒニヨリアフ。寄リ集ル。榮花物語、卅八「…ナクモ、タダナラズ聞ユ」

よりあは・す（ヨリアワス）スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）［縒合］ヒネリテアハス。拾遺集、一、春「青柳ノ、花田ノ糸ヲ、より合セ、絶エズモ鳴クカ、鶯ノ聲」

よりあひ（ヨリアイ）（名）寄合（一）ヨリアフコト。集ルコト。集會（二）徳川氏ノ制ニ、旗本ノ禄高三千石以上ニシテ、非役ノモノノ稱。若年寄支配ナリ。

よりあひ-しゆう（ヨリアイシュウ）（名）寄合衆　鎌倉時代、執權、又ハ、評定衆ナドト共ニ、國政ヲ評議シタル役。武家名目抄、職名、五、上、按、寄合衆トイヘルハ、執權及評定衆ト共ニ、國政ヲ評議セルツカサニテ、北條一家ノ内、其任ニアタレル人、タマサカニ補任セラルル所ナリ　北條九代記、下、嘉元三年乙巳「宗宣、從四位下、陸奥守ニ任ジ、四月、寄合衆、同修、京下奉行ニ」

よりあひ-ぜい（ヨリアイゼイ）（名）寄合勢　ヨリアヒタル軍勢。烏合ノ衆。

よりあ・ふ（ヨリアウ）フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）寄合　互ニ寄ル。相集ル。集合ス。會合。萬葉集、十五「…ダック夜、カケタナ與甲安比、アマノ河、コグ舟人ヲ、見ルガトモシサ」

より-いと（名）［縒絲］　カナ絲ニ對ス）絲ノ筋ヲ幾本カ合ハセテ、縒リカケタルモノ。字類抄「綸、ヨリイト」　薩摩歌（元祿、近松作）中「五ニ心懸ケ袖ノ、縒ニ縒リ…」

より-う（ヨリュウ）（名）餘流　本流ヨリ分レタル流。支流。分流。薩戒記、…寄流相不…、…競相參

より-うど（名）寄人、又、よりびと、和歌所、記録所、ナドニ、召サレテ、事ヲ執ル職。キニン。隆信集「和歌所ノよりうどニ參リテ、…云云」

より-おや（名）［寄親］〔寄子ニ對ス〕くみがしら（組頭）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

よりかかり（名）［凭掛］曲彔。キョクロク　靠椅。墨祕抄、上、八何有詩ノ…ノ自後ナルガ、第ノ帽子ニ、紫檀ノよりかかりニ、虎皮ヲ松下ノ石巖ニ敷キテ」

より-かか・る ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［凭掛］モタレ掛ル。凭ル。憑ル。　枕草子、五、第五十段「御前ニ人多クサフラヘバ、ヒサシノ柱ニよりかかりテ、女房ト物語シテヰタルニ、云云」

より-か・く クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［縒掛］ヒネリカクル。　古今集、一、春、上「青柳ノ、絲よりかくる、春シモゾ、亂レテ花ノ、ホコロビニケル」　榮花物語、十七、音樂「御髮ハ生マレサセ給ヒテノ後、一二三度許リソラセ給ヘレバ、イミジウスヂホソウメデタウ、ナヨナヨトよりかけタルヤウニテオハシマス」

より-かぐ・る ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）雙方ヨリ寄合ヒテ、マグハヒス。萬葉集、九「長歌、夏蟲ノ、火ニ入ルガコト、水門入リニ、船コグゴトク、歸香具禮（ヨリカグレ）、人ノ言フトキ」（宣長ノ訓）

より-き（名）［寄木］岸ナドニ流レ寄リタル材木。竹ナルヲ寄竹ト云フ

より-き（名）［與力］（一）チカラヲアタフルコト。助勢。　平家物語、一、鹿谷事「サテ與力ノトモガラタレダレゾ、云云、武士ニハ多田ノ藏人行綱ヲ始メトシテ、北面ノ者共多ク與力シテケリ」「神佛ノ與力」（二）助勢ノタメニ、附屬セシムル兵士。　翁草、第百四十條「與力、同心ノ號、中古ハ大家ノ旗下ニ屬スル大名ヲ誰某ノ與力ト云、武士ノ隊長ニ從フ者ヲ同心ト云フ」（三）寄子ノ轉、寄親（ヨリオヤ）ニ對ス〕徳川時代ニ、諸奉行、所司代、城代、大番頭、書院番頭ナドノ配下ニ在リテ、同心ヲ指揮セシ者。

より-くぢら（ヨリクジラ）（名）［寄鯨］死鯨ノ、海邊ヘ漂ヒ寄レルモノ。或ハ、鯨ノ、誤リテ沙洲ニ上リテ乾死セルモノ。多クハ、まっかう鯨ノ、鯱ヲ逐ヒ來リテ上レルモノヲ云フ。　本朝食鑑、九、江海無鱗…寄鯨…數百長鯨…上…不得…乾死、其…浦村大喜…之」

より-くづ（ヨリクズ）（名）［選屑］ヨキ者ヲヨリ取リタルアトノくづ。ヨリッカラシ。

より-こ（名）［寄子］〔寄親ニ對ス〕配下ノモノ。又、奉公人ノ稱。　塙…文書、北條氏政下知状「就…蒲原在城…申付寄子試拾騎預ケ置候」

より-この-み（名）選好　好ムモノヲヨリトルコト。ヨリドリ。エリゴノミ。

より-す（名）［寄洲］　河海等ノ岸ニ、泥沙ノ、波風ニ搖リ寄セラレテ生ジタル洲。

より-ずまふ（ヨリズモウ）（名）［寄相撲］〔人寄ノ義、見物人ヲ寄セ集ムル意〕又、よせずまふ。勸進相撲ナドニ、外ヨリ寄リ來ル者ニ、飛入セシメテ取ルモノ。相分チテ勸進方、寄方（ヨリカタ）、寄手ト云フ。トリテ。　義殘後覺（文祿、卯軒）山城内野、勸進相撲、勸本ノ取手ニハ、立石、伏石、荒波、云云、三十人許アリケリ、寄（ヨリ）ニハ、京邊五畿内、拥ハ諸國ヨリ集リテ掛ケレドモ、流石ニ勸進相撲ヲ取ル程ノ者ナレバ、何ニテモ取勝ナケリ、寄手ノ人人ニハ、口惜シキ哉」　相撲大全「寛永元年、云云、寄相撲ト名付ケ、四谷鹽町ニテ晴天六日興行ス、勝ニ勝小結ニ一人ヅツ、云云、元祿十三年六月乳ノ中、高野川赤ノ宮ニテノ相撲組ヲ記ス、二、寄方ニモ勸進方ニモ、各二人ヅツアリケリ」

より-だうぐ（ヨリドウグ）（名）［寄道具］人ヲ捕縛スルニ用キル具。さすまた、そでがらみ、つくぼう、ナドノ總稱。トリダウグ。

より-たけ（名）［寄竹］岸ナドニ流レ寄リタル竹。竹木ナルヲ寄木ト云フ。　古今抄、三十二、笛「よりたけノ、君ニ寄リケン、コトゾウキ、一ヨノフシニ、ネノミナカレテ」

より-だし（名）［寄出］相撲ノ手ノ一。四ツニ組ミ、相手ヲ追込ミ、土俵ギハ…、土俵外ニ出スコト。

より-っからし（名）［選餘］モノヲ選リ取リタルアマリ。ヨリクヅ。

より-つき（名）［寄付］（一）ヨリックコト。（二）庭園ニ設ケタル腰掛。又、茶室ノ待合。（三）取引所ニテ、最初ノ手合。

より-つ・く ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）寄付　近ヅク。…ヨリツク。遊仙窟「求守、ヨリツク」源、四十四、橋姫「イトド寂シク、よりつかン方ナキママニ、云云」後撰集、十、戀、二「節ナクテ、君ガタエニシ、白絲ハ、よりつきガタキ、物ニゾアリケル」（二）取引所ニテ、立會初メノ手合セノ成リ立ツ。

より-づな（名）［縒綱］ヨリテ作レル綱。ナヒタル綱。　夫木抄、廿一、橋「ウキ橋ニ、竹ノよりづな、ウチハヘテ、ヲ…ナラブル、フジノ川浪」

より-づる（名）［寄弦］巫（ミコ）ナドガ、口寄ニ際シ、弓ノ弦ヲ鳴シテ、神ヲ降スコト。

よりて（接）［因・仍・依］デアルカラ。ソレ故ニ。ソノ故ニ。ソレデアルカラ。カルガ故ニ。…便ニ、よ…。　千載集、序「…敎大師ハ、ワガタツ杣ノコトバヲノコセリ、よりて世世ノ帝モ、コノ道ヲバステ給ハザルヲヤ」

より-ど（名）［針魚］ハリヲ。ヨロヅ。今、云フさより（鱵魚）ナリト。　大膳式、上「與里刀魚」主計式、上「與理度魚鮨二斤」

より-どころ（名）據　寄所ノ義（一）〔ヨルヘキ所、ヨルヘ〕　枕草子、二、第十四

段「カタハラナル子ドモノ心チニモ、親ノヒルネシタルハ、より所ナク、スサマジクゾアリシ」(二)據リテ本トスル所。オコリ。根據。

よりどり (名) [擇取] えりどり(擇取)ニ同ジ。

よりなげ (名) [寄投] 相撲ノ手ノ一。上手、下手ヲ引キテ寄リユキ、相手ノコラヘタルトキニ、投グルコト。

よりみよって (句) [選擇] エラビタルウヘニモ、エラビテ。エリニエリテ。

よりぬき (名) 擇拔 えりぬき(擇拔)ニ同ジ。

よりぬく・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 擇拔 えりぬく(擇拔)ニ同ジ。

よりのり (名) [纓海苔] 伊豆ノ西南岸ナル伊濱ニ產ズル海苔。海岸ノ堅石ニツキテ、太陽ニ乾キタルヲ、人ノ手ニテ纓リテ採ル 増訂豆州志稿、七、土產「海苔、云云、一種、潮海苔、捻海苔(雲見村ヨリ出ヅ、卷テ指ノ大サノ如シ)等アリ」

よりば (名) [寄場] 人ノ寄リアツマル場所。人ノ蝟集スル所。

よりば (名) [寄羽] 水ナドニヌレテ、寄リアヒタル羽。新後撰集、四、秋、上「歸ルサノ、袖ヌラスラシ、鵲ノ、よりばニカカル、天ノ川浪」

よりばのはし (名) [寄羽橋] かささぎのはし(鵲橋)ノ(一)ニ同ジ。前條ノ語ヲモ參見セヨ。新敕撰集、四、秋、上「鵲ノ、よりばの橋ヲ、ヨソナガラ、待渡ル夜ニ、ナリニケルカナ」

よりびと (名) [寄人] (一)よりうど(寄人)ノ條ヲ見ヨ。(二)口寄スル人。下ノ出典ヲ見ヨ 謠曲、葵上「寄人ハ、今ゾ寄リクル、長濱ノ、アシ毛ノ駒ニ、手綱ユリカケ」謠曲拾葉抄、廿、葵上「寄人ハ、巫神共、降童トモ云ノ、或ハ、生靈死靈ヲ祈ル時、彼靈ノカハリニ、童子ヲソナヘ置テ祈ツケ降參サスル事ナリ、或ハ、靈ヲ人形ニ作リ、ワラニテ、馬ナドコシラヘ、カノ人形ヲノセテ祈リ終リテ後、川ニ流ス事モ有リ」

よりふす・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) [寄伏] 側ニ寄ル。字鏡、八「傍、倚也、因也、附也、倚伍也、近也、與留、又、與利布須」源、廿六、常夏「ホノ上ムトクナル今日ノ署カハシサカナ、無禮ノ罪ハ許サレナンヤトテ、よりふし給ヘリ」

よりふね (名) [寄船] 海邊ニ、風ニフキヨセラレタル船。吾妻鏡、廿八、寬喜三年六月六日「海路往反船、或遭逆風、或漂自然破損之時、所所地頭等、稱寄船、無左右押取之由、依有其聞、雖爲先例、諸人之歎也」

よりぼう (名) 寄棒 長サ六尺程ノ堅木ノ棒。人ノ刃物ヲ拂ヒオトシ、又ハ、タタキ伏セナドスルニ用ヰルモノ。今宮心中(寶永、近松作)中「久三ハ例ノ寄持一ツ、より棒ヒッサゲ、戸ノ木明ケ、クグリ開イテツット出デ」

よりまし (名) [神子] [神靈ノ憑坐ノ義カ] 神降ノ時、神靈ノ憑ル所ノ童。ミコ。巫。平家物語、三、許文事「コハキ御物怪ドモアマタ取入リ奉ル、よりまし明王ノ縛ニ掛ケテ、靈顯レタリ、云云、新大納言成親ノ卿ノ死靈、西光法師カ惡靈、鬼界カ島ノ流人共ノ生靈ナンゾト申シケル」盛衰記、十、中宮御産事「躍リ狂フ御よりましノ縛共モ、少シ打シメリタリ」

よりみ (名) [寄身] 相撲ノ手ノ一。身ノ敵ニ寄リ進ムコト。

よりみち (名) [寄道] 用達ノ序ニ立寄ルコト。又、其ミチ。ミチヨリ。

よりみづ (名) 乾菓子ノ名 新粉餅ヲ算木ノ形ニシテ、細長クヒネリタルモノ。白絲餅ノ江戸ノ稱。

よりめ (名) [縒目] ヒネリメ。縒リタルトコロ。新敕撰集、十五、戀、五「六ノ緒ノ、よりめゴトニソ、昔ハ、引ク少女子ノ、袖ヤフレツル」

よりも (名) [寄藻] 浪、風ナドニ吹寄セラレタル藻。謠曲、松風「是ハ磯邊ニ寄藻カク、海士ノ捨草イタヅラニ、朽チマサリ行ク袂カナ」

よりよく (名) [餘力] アマルチカラ。未ダ他ヲナシ得ルチカラ。論語、學而篇「弟子入則孝、出則弟、云云、行有餘力、則以學文」

よりより (副) [度度] [度ヲ重ヌ]ヨリ ヲリヲリ。トキドキ。時時。字類抄「時時、ヨリヨリ」神代紀、下「冀時時復相憶而、勿棄置也」持統紀、五年二月「汝時時遣大舍人問訊」

よりわく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [擇分] モノヲ、擇リテ區別ス。簡別。

よる (名) [夜] [夜ニ、るノ親愛ノ助辭ノ添ヒタルモノ、ら、ろニ同ジ] 又、よら。よ(夜)ト云フニ同ジ。ヨウマ。萬葉集、五十「現ニハ、逢フ由モナシ、ヌバ玉ノ、よるノイメニヲ、ツギテ見エコソ」同、十五廿「旅ニアレト、よるハ火トモシ、ヲル吾ヲ、闇ニヤ妹カ、戀ヒツツアルラム」

よる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [因緣由] (一)因ス。モトヅク。屬ク。歸ス。(二)タヨル。カカル。身ヲ寄セカク。モタレカカル。依賴。寄。凭。倚。(三)託ル。憑ク。憑「神、人ニ憑る」(四)本トス。賴ミトス。守ル所トス。據「古人ノ說ニ據る」「山ニ據る」「城ニ據る」木ニ緣リて魚を求むトハ、テダテトメアテト相應ズシテ、ツマリ功ヲナシ難キニ云フ語。孟子、梁惠王、上篇「以若所爲、求若所欲、猶緣木而求魚也」

よる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [寄] (一)[近] 近ヅク。近ク添フ。接近 允恭紀、十一年三月「イサナドリ、海ノ濱藻ノ、よるトキドキヲ」(二)〔アツマル。ヒトツニナル。集 萬葉集、十八「波ミテバ、ヒコノワラマニ、よる見ノ、マ十ト」コヒニゾ、トシハヘニケル」(三)〔…〕偏 萬葉集、四四十「今更ニ、何ヲカオモハム、ウチナビキ、ココロハ君ニ、よりニシモノヲ」(四)〔ナビキ從フ〕萬葉集、十九「ウノ花ヲ、クタスナガメノ、水ハナニ、よる木積ナス、よらむ子モカモ」同、一長歌「天地モ、よりテアレコソ」(五)〔モタレカカル〕凭 源、八、花宴「妻戸口ニナハシテ、寄リ居給ヘリ」(六)〔片端ニ近ヅク〕カタヨル。 源、二、帚木「ヤヤよりかゝり給ヒテ、見エヤトオボセド」狂言記、米市「マヅ何ウテ見ヨ、トットソチヘ寄ッテ居リヤレ」(七)タタマル。カサナル。年老ユ 新後撰集、廿、賀「代代ノ跡ニ、備立迹ユル、老ノ波、よりケン年ハ、今日ノ爲ウモ」(八)〔踏マガラ訪問ル。ヨギル。過ル 萬葉集、十九、長歌「朝ドモニ、御立タシマシテ、サシ…磯ノ崎崎、コギハテム」(九)〔考ヘカ及ブ〕思ヒツク。 新古今集、十、羈、中「…浪ノ音ヲ、思ヒモよらデ、宿ノカリケリ」(十)寄進セラル。寄贈セラル。宇治拾遺、八、…、云云、ソノ寺ニ莊ナトヤ寄スベキト仰セツカハス、聖ウケタマハリテ、云云、カカル所ニ莊ナド寄リヌレバ、別當ナニクレナト出テ來テ、ナカナカムツカシク、罪得カマシク候」

よる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [搖] ゆる(搖)ノ轉。武烈卽位前紀「臣ノ子ノ、八重ノ柴垣、下響ミ、地震ガ搖ラバ、破レム柴垣」

よる・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [搓縒] (一)〔交ヘテネヂアハス。寄セテネヂル〕細ミテ卷キツカス。字類抄「縒、ヨル、縒糸」字鏡「搓、與留」萬葉集、四五十「玉ノ緒ヲ、沫緒ニ搓リテ、結ベレバ、アリテノチニモ、逢ハザラメヤモ」「繩ヲ縒る」「絲ヲ縒る」「コヨリヲ縒る」(二)紕フ。又、皺ヨル。字類抄「紕、ヨル、縮紕」古今集、十九、誹諧「蟬ノ羽ノ、ヒトヘニ薄キ、夏衣、馴レバよりナン、物ニヤハアラヌ」腹を縒る、又、腹の皮

[illegible]

よ・る・ル・ル・レ・レ・レヨ(自動、下二) 〔經〕 ネヂレマトフ。ヨヂルル。(絲ナドニ)

よ・る・ル・ル・レ・レ・レヨ(自動、下二) ツカル。[illegible] よれタル痩馬ナレバ、打テドモアフレドモ、先ヘハ[illegible]

よ・る (動) 〔擇〕 〔える(擇)ノ轉〕 エラブ。

よるがほ (名) 〔夜顏〕 草ノ名。[illegible]、月華。花白ク、九、十月頃、盛ンナリ。

よるのおとど (名) 〔夜御殿〕 [illegible]御座[illegible]。主上ノ御寢所。古ヘ、清涼殿中ノ北ニアリ。ヨノオトド。ヨンノオトド。ヨルノオマシ。 宇治拾遺、六、第九條「此女よるのおとゞヨリ出デテ、立テルナレバ、[illegible]ソロシケナリ。[illegible]夜御殿」

よるのおまし (名) 〔夜御座〕 前條ノ語ニ同ジ。 源、五、若紫「イノチダニトテ、よるのおましニ入リ給ヒヌ」

よるのころも (名) 〔夜衣〕 (一)夜着ル衣。(二)〔ネマキ〕 寢衣。 [illegible]、十二、[illegible]「蒲人ノ、[illegible]袖ニ、クラベ[illegible]、夜路ヘダツル、夜のころ[illegible]」 古今集、十七、雜、上「[illegible]ノ、よるの衣ハ、ウスケレド、移香コクモ、匂ヒヌルカナ」 よるのころもをかへす、[illegible]戀ヒシキ人ヲ夢ニ見ルトテ、[illegible]寢所ニ[illegible]人ノ[illegible]物語セシニ、夜るの衣をかへしてぞぬるト云フ事ハ、裾ノ方ヲカヘシテ着ル事ニヤ、又、[illegible]カヘシテ着ルヤト聞タリシニ、中中ニ、夜るのころもを、かへさすハ、裏サエ袖ハ、ヌラサジモノヲ、[illegible]、幸ニ[illegible]居タルニテ、答ヘシカバ、當座興ニ入タリ」 古今集、十二、戀、二「イトセメテ、戀ヒシキ時ハ、ウバ玉ノ、夜の衣を、かへしてぞヌル」

よるのつる (名) 〔夜鶴〕 [illegible]、よづる。親[illegible]

よるのとの (名) 〔夜殿〕 狐ノ異名。婦人、[illegible]、十二、[illegible]夜の[illegible]タル[illegible]ナリ」

よるのにしき (名) 〔夜錦〕 美シキ錦モ、夜、衣テハ、更ニ映エザル故、其效ナクシテ惜シキモノニ喩ヘ云フ語。にしき(錦)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。

よるのもの (名) 〔夜物〕 夜寢ルトキニ用ヰルモノ。夜着、布團ナド。 伊勢物語、第十六段「コノ友ダチヲ見テ、イトアハレト思ヒテ、夜のものマデオクリテ詠メル」

よるはすがらに (副) 〔[illegible]〕 ヨモスガラ。終夜。すから、及、よもすがら(終夜)ノ條ヲ見ヨ。

よるひかるたま (名) 〔夜光珠〕 やくゎうのたま(夜光珠)ニ同ジ。 萬葉集、三、三十「夜光る、玉ト云フトモ、酒飲ミテ、心ヲヤルニ、豈シカメヤモ」 新千載集、三、夏「夜ひかる、玉トゾ見ユル、[illegible]、アシヘノ淺ニ、マジル[illegible]ハ」

よるひる (名) 〔夜晝〕 夜ト、晝ト。晝夜。 神代紀、上「六合之中常闇、而不知晝夜之相代」(通釋ノ訓) 萬葉集、四「夜晝ト、イフ別知ラズ、吾ガ戀フル、ココロハケダシ、夢ニ見エキヤ」

よるひる (副) 〔夜晝〕 夜モ晝モ。夜トナク晝トナク。タエズ。常ニ。始終。日夜。 枕草子、一、第十三段「[illegible]トモノモトヲ仰セフレテ、コレガスエハイカニト仰セラルルニ、スベテよるひる心ニカカリテ、オボユルモアリ、云云」

よるべ (名) 〔寄方〕 賴ム縁アルアタリ。[illegible]ル方。タヨルトコロ。ヨスガ。ユカリ。[illegible] 萬葉集、十八、長歌「[illegible]ハマシテ、射水[illegible]」 [illegible]廿二、玉葛「オノオノ我ガ身ノよるべト頼マンニ、イト頼モシキ人ナリ」

よるべのみづ (名) [illegible] 依[illegible]、神ノ依リ給フ水也」 (一)天詔(アメノノリト)[illegible]ク水。其水ニ[illegible]ソゲバ、神ノ[illegible]ノ映ルト云フ。あめののりおと(天詔)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]八年九月[illegible] (二)[illegible]ノ御手洗ノ水。 [illegible]四十、幻「[illegible]よるべの水ニ、ミクサヰメ、ケフノカザシヨ、名サヘ忘ルル」 續千載集、十二、戀、二「神垣ヤ、よるべの水モ、名ノミシテ、祈ル契リノ、ナド淀ムラン」

よるよなか (名) 〔夜夜中〕 (一)夜ト、夜中ト。 榮花物語、廿五、峯月「御クダモノ、タビゴトニ、よるよなかワカズ、タテマツラセタマフ」 (二)〔晝晝中ニ對ス〕 夜ノ最中。よなか(夜中)ト云フニ同ジ。

よるよる (副) 〔夜夜〕 よなよな(夜夜)ニ同ジ。 萬葉集、十「[illegible]ガ宿ニ、[illegible]キタル梅ヲ、ツクヨミ、夕見セム、君ヲコソ待テ」(略解ノ訓)

よるゐ (名) 〔餘類〕 アマルタグヒ。ナカマノスエ。討チモラサレタル仲間。餘黨。殘黨。 漢書、翟方進傳「趙明依阻槐里環隄、[illegible]」

よれい (名) 〔餘齡〕 よせい(餘生)ニ同ジ。 蘇軾詩「吾衙便歸老、亦足[illegible]餘齡」

よれき (名) 〔餘瀝〕 アマルシヅク。ノコリノシタタリ。餘滴。 史記、滑稽傳、淳于髡「侍酒於前、時賜餘瀝、奉觴上壽」

よれつ (名) 〔餘烈〕 アマレルヒカリ。又、古人ノ[illegible]。 [illegible]「由、此知通世祖得公侯之美、長孺之餘烈也」

よれよれ (副) [illegible]

よろき (名) [illegible]

よろく (名) 〔餘祿〕 餘分ノ所得。餘分ノ[illegible]。 [illegible]

よろ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下一) 〔蹌〕 よろめく(蹌踉)ニ同ジ。

よろこば・し・シキ・シケレ・シク・シク・シ(形、二) 〔可喜〕 喜ブベクアリ。快ク嬉シ。ヨロコ[illegible]

よろこば・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔喜〕 ヨロコブヤウニスル。喜バシム。

よろこび (名) 〔喜悅〕 (一)ヨロコブコト。[illegible] 神代紀、下「中心[illegible]、何日忘之」 [illegible]トホギ。イハヒ。祝ヒゴト。賀。 [illegible]「[illegible]祗殺喜ビニハ思ヒ給フレ」 (三)禮ヲ云フコト。 [illegible]の道トハ、下向ノ道ノ意。 盛衰記、十一、小松殿[illegible]トモ、人ニモ[illegible]ズ、左右ナク[illegible]ニモ不[illegible]、[illegible]給フ」

よろこびがらす (名) 〔喜鴉、喜烏〕 ウレシサウニ鳴ク烏。からすなき(烏鳴)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

よろこびまうし (名) 〔申慶〕 けいが(慶賀)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 古ヘ、任官、敍

位ノ禮ヲ申上グルコト。宇津保物語、國譲、中七「左ノ大臣、大宮ノ御モトニ、よろこび申しニ參リ給ヘリ」

よろこ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ(自動、四) 喜|悅|歡 欣|慶|賀 〔宜しぶノ義〕 心ニ快ク感ズ。嬉シク思フ。コロコボフ。夫木抄、三十六、述懐「よろこぶモ、歎クモアダニ、過グル世ヲ、ナドカハイトフ、心ナルラン」 神代紀、下三「繁ニ蹔衣帶、且喜且慟」 [illegible]十九、崇峻紀二年三月「天地ノ、神モ悅比、海山モ、色聲カハシ」云云、「遲ノ鶴、命ヲ長ミ、淵ニ出デテ、歡舞テ」云云」

よろこ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ(自動、上二) 喜賀 前條ノ語ニ同ジ。皇極紀、元年三月「新羅遣賀騰極使、與弔喪使」 神代紀、上四「陽神不悅曰、吾是男子也、理當先唱、云云」 景行紀、四年二月「意所不快」

よろこぶ・くも(名) 慶雲 〔文字讀ノ語〕 又、けいうん。メデタキ兆ノ雲。祥瑞ノ雲。ムラサキノクモ。卿雲。景雲。瑞雲。大和抄、十九、雲「諸人ノ、仰クノミカハ、君カ代ハ、空ニよろこぶ、雲モアリケリ」

よろこぼ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 可喜 よろこばし(可喜)ニ同ジ。續紀、三十、神護景雲三年十一月、宣命「有禮志、與呂許保志止奈毛見流」(白雉鹿ノ出現ニ) 大井川行幸和歌序「岩浪ト共ニ、よろこぼしき心ゾ、立チカヘル」

よろこぼ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 喜 よろこぶ(喜)ノ延。伊勢物語、第十四段「よろこぼひテ思ヒケラシトゾ、言ヒ居リケル」

よろ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 宜 (一)心ニ相應ヒテ、アカヌトコロナシ。打合ヒテ、相應シタリ。結構ナリ。スグレタリ。神樂歌、宮人「宮人ノ、オホヨソ衣、膝通シ、着ノ宜シモヨ、オホヨソ衣」 雄略紀、六年二月「泊瀬ノ山ハ、出立ノ、與盧斯企山、走出ノ、與盧斯企山ノ」 (二)〔可シトスベシ〕 大概ヨシ。ヨキホドナリ。應神紀、廿二年四月「淡路島、イヤフタナラビ、赤豆島、イヤフタナラビ、豫呂辭枳島島」 源、二、帚木四「ズイブンニよろしきモ、オホカリトミ給ヘレド」云云」 (三)〔善シ〕 不都合ナシ。源、二、帚木四十五「哀レノコトヤ、よろしく聞エシ人ゾカシ」 (四)病癒ユ。千載集、十七、雜、中「病アリテ、東山ナル所ニ侍リケルヲ、よろしくナリテ後、イカガト人ノトヒテ侍リケル」

よろし・い(形) 宜 〔宜しきノ音便〕 要ラヌ。不用ナリ。ヨイ。ヨシ。

よろしく(副) 宜 〔宜し、ノ副詞形〕 良方ヲホシ合ハスル意ヲ云フ語。べしニ宜行、應致、當定ナド、種種ノ字アルヲ辯ヘムタメノ符ニ、宜ト讀ミ習ヘル漢籍讀ニテ、意味ナキ語ナリ。神代紀、下「宜且遣雉問之」

よろし・なべ(副) 宜並 〔よろしハ、寄ル意、なべハ、並ぶ義〕 稜威言別、八「互ニ親ク依並ブ意ノ言ナリ」 相依リ並ビテ。親シクヨリソヒテ。萬葉集、一 廿三 長歌「耳高ノ、青菅山ハ、背面ノ、大御門ニ、宜名倍、神サビタテリ」 藤原宮ニ云ヘリ) 同、三 廿二「宜奈倍、吾ガ夫ノ君カ、負來ニシ、此ノ夫ノ山ヲ、妹トハ喚バジ」

よろし・め(名) 宜女 ヨロシキヲンナ。ウツクシキヲンナ。美人。佳人。麗婦人。繼體紀、七年九月「カスガノ國ニ、クハシ女ヲ、アリト聞キテ、與慮志謎ヲ、アリト聞キテ」

よろし・やか(副) 宜 モノノヨロシキ狀ニ云フ語。濱松中納言物語、三「約ルルコトナキツレヅレモ見ミ、又、よろしやかナル御サマナラバ、カカル山ノ末ニ、鳥獸ノ中ニマジリ給ヘルモ、アタラシキ思ヒハヨロシウヤアラマシ」

よろづ(名) 針魚 はりを(針魚)ニ同ジ。さより(鱵魚)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。ヨロド。ヨリド。倭名抄、十九 龍魚類「針魚、波利乎、一云、與呂豆」 字鏡抄「針魚、ヨロト」

よろづ(名) 萬万 〔次條ノ語ヲ見ヨ〕 (一)數ノ甚ダ多キコト。允恭紀、四年九月「氏ニ萬姓、更ガ萬姓」 (二)スベテノ事。萬事。源、十、椎本四十「ユルシタマヘト佛ヲ念ジ聞エ給フニ、よろづヲナグサメ給フ」

よろ・づ(数) 萬万 〔よろハ、具ノ意ト云フ、つハ箇ナリ〕 千ヲ十倍セル數。萬。

よろづ(副) 萬 スベテ。ミナ。コトゴトク。讃岐典侍日記「よろづ果テヌレバ、廿五日、世ノ中ノ諒闇ヌギアハル」「萬善シ」

よろ・つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 踉蹌 よろめく(踉蹌)ニ同ジ。丹波與作(寶永、近松作)中「門柱ニ腰骨ウチ、よろつきナガラニラミ付ケ、ドウズリメ、覺エテケツカレ」

よろづ・たび(副) 萬度 イクタビトナク。アマタタビ。千度。萬葉集、廿 長歌「與呂頭多比、カヘリ見シツツ、ハロバロニ、別レシ來レバ」

よろづ・とせ(名) 萬歳 (一)多クノ年月。萬年。(二)〔ヨロヅヨ〕 バンゼイ。バンザイ。萬世。又、御世ノ長久ヲ祝シテ云フ聲。雄略紀、五年二月「天皇乃與皇后、上車歸、呼萬歲曰、樂哉、人皆獵禽獸、朕獵得善言而歸」 新千載集、十、神祇「萬とせ、千トセヲウタフ、聲スナリ、神モ久シク、世ヲ守ルラシ」

よろづ・の・あに(名) 萬兄 一番年上ノ兄。ソウリャウノ兄。長兄。伯兄。伯氏。榮花物語、三、樣樣の悅「カノよろづの兄君、タダ今、三位中將ト聞ユ」

よろづ・の・おとうと(名) 萬弟 一番年下ノ弟。末弟。榮花物語、三、樣樣の悅「御オトトモ、萬の御おとうとニオハスレド、イカナルフシヲカ見奉ルラン、云云」

よろづ・や(名) 萬屋 (一)ヨロヅノ物ヲ商フ店。又、ソノ人。(二)轉ジテ、學問、技藝ナドノ、繁多ニシテ雜駁ナルコト。又、ソノ人。ヤホヤ。

よろづ・よ(名) 萬代 萬世 (一)〔數限リナク續ク世〕 チヨ。ヨロヅトセ。千歲。バンセイ。推古紀、廿年正月「御空ヲ見レバ、豫呂豆余ニ、斯クシモガモ、千世ニモ、斯クシモガモ」 (二)御世ノ永久ニ續クベキヲ、祝ヒ奉リテ云フ語。ヨロヅトセ。バンゼイ。マンザイ。バンザイ。朗詠集、下、帝王「萬代ト、三笠ノ山ゾ、呼フナル、天ガ下コソ、樂シカルラシ」

よろ・ひ(名) 具 具フコト。又、ソロヒタルモノ。

よろ・ひ(名) 鎧|甲|冑 〔具ひノ義、身ニ具ふノ意〕 (一)〔戰ニ着ル衣〕。古ヘ、革ニテ作ル、後世ハ、多クハ、札ト云フ薄キ鐵片ヲ絲ニテ綴シテ綴リテ作ル。其鎧ノ袖ノ、冠板(即チ、上ヨリ第一ノ板)ニ附キタル札ヲ、一の板、其次ヲ二の板、順次、三、四、五、六の板ト云フ。又、草摺ノ胴ニ附キタル札ヲモ、一の板ト云ヒ、同ジク順次、二、三、四の板ナド云フ、鎧ノ胴板ヲモ、一の名、二の板ト云フ。倭名抄、十三 征戰具「甲、與呂比」 字鏡「冑、與呂比」 靈異記、下、第九縁、訓釋「鉀、ヨロヒ」 崇神紀、十年九月「乃脫甲而逃之」 古事記、中、應神二十「陪代兵士、衣中服鎧」 (二)又、具足、胴丸、腹卷、桶側胴、ナド云フモノニ對シテ稱スルモノハ、袖、籠手、膝鎧等ノ具備シタルヲ云ヒ、殊ニ、胴ハ、前、後、左、ノ三面ヲリテ、右ハ、脇楯ヲ當ツ。大將ノ用ナリ

よろ・ひ(接尾) 具 モノノソロヒタルニ云

フ語。ソロヒ。對。舒明紀、四年七月「賜[illegible]尼具[illegible]大[illegible]小[illegible]以[illegible]、[illegible]」蒼[illegible]物語、四「イト清ゲニシナキタル[illegible]一具、久、姫君ノ御料ナル一領、云云」

よろひいた (名) [illegible] 幅狹キ板ヲ幾枚モ、胄ノ[illegible]ノ様ニ、横ニ[illegible]ケテ、日除、又ハ、雨避ナドトスルモノ。シコロイタ。ハイタ。ガラリイタ。

よろひおや (名) [illegible] 昔、男子ニ、初メテ[illegible]ヲ着用セシムル人ノ稱。具足親[illegible]伊[illegible]式雜書、六「男子初メテ鎧着ニハ、吉日ヲエラビ、[illegible]アルヘシ、[illegible]人ヲ頼ミテ鎧親トシテ、其ノ人[illegible]着セシムル也」

よろひがた (名) 鎧形甲形 古へ、五月五日ノ騎射ニ、近衞ノ官人ノ着用セル服。布、絹ナドニテ、鎧ノ形ニ造リ、金、銀[illegible]ヲ装飾ス。[illegible]式[illegible]射、云云、金[illegible]形、云云、[illegible]布中形、[illegible]布背形」

よろひぐさ (名) 鎧草 (一)〔びゃくしの(白芷)ノ古名。其條ヲ見ヨ。カサモチ。ミラネグサ。倭名抄、廿[illegible]草類「白芷、加佐毛知、一云、[illegible]比久佐」(二)[illegible]ぼたん、牡丹ノ異名[illegible]俳[illegible]時記[illegible]草、夏[illegible]よろひ草、牡丹ノ一名ナリ」

よろひづき (名) 鎧突 鎧ヲエリ上ゲコヅクコト、カク搖リ動セバ、矢ニ中リテモ、裏ヲカクコトナシト[illegible]平治物語、[illegible]義朝[illegible]北[illegible]常ニ鎧づきヲセヨ、裏カカスナト言ヘバ、云云」太平記、三十二、神南合戰事「[illegible]ト入亂レテ切合フ、太刀ノ鍔音、鎧突、山彥ニ響キ、云云」

よろひつくり (名) 鎧作甲作 ヨロヒヲツクルコト。又、ソレヲ業トスル人。ヨロヒシ。[illegible]紀[illegible]年九月「正七位上山背甲作客小友等二十一人、訴冤ニ雜戶[illegible]

除[illegible]山背甲作四字[illegible]同、九、[illegible]六[illegible]月[illegible]伊[illegible]合七十[illegible]雜[illegible]雜[illegible]不[illegible]雜戶之色[illegible]除[illegible]公戶[illegible]」

よろひど (名) 鎧戸 よろひいた(鎧板)ヲ取付ケタル戶 (洋風ノ家屋、汽車ノ窓ナドノ) 鎧戶。ガラリ戶。

よろひどほし (名) 鎧通 戰陣ニ、太刀、脇指、ノ外ニ佩ブル小サク短キ刀。敵ト組ミタルトキ刺スニ用ヰル。此刀ハ馬手ノ上帶ニ指スモノナレバ、馬手差ノ名モアリ。又、俗ニ九寸五分、又、頸掻刀。剝刀[illegible]幸若舞曲、[illegible]「[illegible]井ノ六郎、云云、九寸五分ノ鎧どほしヲ馬手ノワキニサイタリケリ」本朝甲[illegible]中[illegible]馬手指[illegible]云云、刃ノ長サ九寸五分、云云、[illegible]カキ、或ハ敵ノ[illegible]ノ[illegible]ヘ徹ルミエグルナリ、故ニ鎧通トモ號クル也」

よろひびたたれ (名) 鎧直垂 直垂ノ一種。尊卑ニ因リテ、色ト地トニ差アリ。錦ナル錦、生絹、練絹、ナドニテ製ス。錦ナルハ、大將ノ鎧ノ下ニ着ルモノ。袴、短ク、裾ト袖トノ端ヲ括緒ニテ括ル 戰袍 盛衰記、三十五、巴關東下向事「巴ハ都ヲ出ケル時ハ、紺村紅ニ千鳥ノ鎧直垂ヲ著タリケルガ、云云」

よろひまど (名) 鎧窓 よろひど(鎧戶)ヅキノまど。

よろひむし (名) 甲蟲 背ニ堅キ甲殼ノアル蟲類ノ總稱。即チ、翅類ノ昆蟲。カブトムシ。

よろひむしゃ (名) 鎧武者 甲冑ヲ着ケタル武者。盛衰記、廿二、衣笠合戰事「射ラレテ斃ルナラバ、鎧武者左右ノ堀ト沼トヘハネ落サレ」

よろひもち (名) 鎧餅 昔、武家ニテ、年

ノ始ニ、床ノ間ナドニ具足ヲ飾リテ、其前ニ供ノル鏡餅[illegible]具足餅。

よろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 具 〔寄合ふノ義〕足リ調フ。ソナハル。揃フ。具足ス。全備ス。[illegible]集、一、長歌[illegible]二八、[illegible]山アレド、取リ與呂布、天ノ香具山、登リ立チ」

よろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 鎧 〔身ニ具ふ意〕鎧ヲ着ル。擐甲。保元物語、三[illegible]院御[illegible]或ハ甲冑ヲ鎧ふタル兵ナレバ、目モ昏レ心モ迷ヒテ、泣キ悲シムモ理ナリ」

よろぼし (名) 弱法師 次次條ノ語ノ略。

よろぼ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 踉蹌 ヨロヨロ歩ム。ヨロメク。ヨロケル。源、十三、明石「[illegible]立居モアサマシウよろぼふ」仁德紀、三十年十一月「河ノ隈隈、豫呂朋譬行クカモ」

よろぼふし (名) 弱法師 ヨロメク法師。コロコロスル法師。又、ヨロコロスル乞食坊主。略シテ、よろぼし。謠曲、弱法師「ヨロメキ歩ケバ、弱法師ト名付ケ給フハ理ナリ」

よろん (名) 輿論 〔類書纂要、輿論、輿、衆也、謂衆人之議論一〕世上ノ多人數ノ相同ズル論。公論。世論。梁書、武帝紀「[illegible]定[illegible]得[illegible]之輿論[illegible]一本作[illegible]」

よろめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 踉蹌 蹈固メ難キ狀ニテ歩ム。歩ミノタシカナラズ、コロコロスル、ヨロヨロク、ヨロボフ。ヨロケル。(老人、病人、醉人、ナドニ) 蹣跚 狂言記、笠の下「ヨロリヨロリト、よろめきワタル地藏坊ガ、踊ッタヲ見サイノ」

よろよろ (副) 踉蹌 ヨロメキ行ク狀ニ云フ語。身ヲ左右ニ搖レシメテ歩ム。ヨロコロ、ヒョロヒョロ、ヨチヨチ、ヨチヨチ、ヨボヨボ 蹣跚 謠曲、安宅「よろ

よろト[illegible]、イタハシキ」

よわいひ (名) 弱飯 〔強飯ニ對ス〕水ニテ[illegible]。ヒメイヒ。

よわがた (名) 弱肩 〔肩ハ、ツガヒメニテ折レ屈ム故ニ、弱ト云フト云フ〕弱シ、肩[illegible]六月[illegible]

よわき (名) 弱氣 取引所ノ語。相場ノ先先、下落スベシト[illegible]スルコト。

よわぎん (名) 弱吟 謠曲[illegible]、[illegible]ノシナヤカニ、且、ハナバナシク、めりかりオモシロク謠ふ謠ひ方。

よわげ (名) 弱氣 ヨワキ容子。ヨワキケブリ。源、四、夕顏「[illegible]よわげニナキ[illegible]ヘバ」

よわごし (名) 弱腰 〔腰ハ、ツガヒメニテ折レ屈ム故ニ、弱ト云フト云フ〕(一)弱キ腰。弱弱シキ腰。(二)態度ノ強硬ナラザルコト。腰ノ弱キコト。

よわごし (名) [illegible] 〔弱腰ノ義〕古[illegible]ビシバリ、今又、オビシ[illegible]ノ上ノ左右ノ、細ソク虛胸ナル處。又、帶ヲ締ムル所[illegible]記、四、土佐坊[illegible]土佐カよわ腰ムズト抱キ、云云」

よわ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 弱 〔蒲折レ撓レノ意、若し通ズト云フ〕力量少シ。破レ易シ。保チ難シ。モロシ。強カラズ。スコヤカナラズ。[illegible]ハシ、尫、ヨハシ」欽明紀、五年十一月「此敵強大、我國微弱」「力弱し」「心弱し」「身弱し」

よわたし (副) 夜亙 夜ドホシ。ヨモスガラ。終夜。[illegible]集[illegible]八、長歌[illegible]ヒルクラシ、欲和多之聞ケド、聞クゴトニ、心動キテ」(古義ノ訓)

よわたらひ（名）〔世渡〕次條ノ語ニ同ジ　撰集抄、二、第四條「よわたらひノトモシク侍リシママニ、カク罷成タリト聞ユメレドモ、云云」

よわたり（名）〔世渡〕又、よわたらひ。世ヲ過シ行クコト。ヨスギ。スギハヒ。ナリハヒ　クチスギ　渡世　營業　處世　送生　生計　夫木抄、廿一、橋「水マサル、沼ノ船橋、トモスレバ、ウキ世渡リニ、袖ヌラシツツ」

よわたる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔夜渡〕（一）夜中ニ中天ヲ渡リ行ク（月ニ云フ）萬葉集、十八[四十]「ヌバタマノ、欲和多流月ヲ、幾夜フト、ヨミツツ妹ハ、ワレ待ツラムゾ」同、三[二十四]「コラガ家路、ヤヤ間遠キヲ、ヌバタマノ、夜渡月ニ、キホヒアヘムカモ」新千載集、四、秋、上「天ノ原、雲ナキ空ニ、ヌバタマノ、夜渡る月ノ、入ラマクモ惜シ」（二）夜ヲ過ギ行ク　萬葉集、十二[三十九]「アラタマノ、年ノ經往ケバ、アトモフト、夜渡る吾ヲ、問フ人ヤ誰」新後拾遺集、四、秋、上、秋風ニ、夜わたる雁ノ、音ニ立テテ、涙ウツロフ、庭ノ萩原」

よわね（名）〔弱音〕ヨワヨワシクシテ、負ケムトスル聲。意氣地ナクナリタル物イヒ「よわねヲ出ス」よわねヲ吐ク」

よわみ（名）〔弱味〕ヨワキ氣味。又、ヨワキ所。弱點。吉野都女楠（正德、近松作）一「淺ヒ九體チヂメドモ、弱味ヲ見セジト、大口アケ」

よわむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）〔弱〕ヨワクナス。ヨワラス。史記抄（文明）四[六十]「二ニナッテ、秦ヲよわめウトスルゾ」

✣**よわむし**（名）〔弱蟲〕ヨワキ人ヲ罵リテ云フ語。浮世風呂（文化、三馬）二編、下「アイサ、弱蟲ガ世話ナシデ、能ウゴザイマス」

よわめ（名）〔弱目〕ヨワルキザシ。ヨワク見ユルヲリ。源、三十八、夕霧[四十六]「御ココチマドヒニケルヲ、サル弱めニ、例ノ物ノケノ引キ入レ奉ルトナン見給ヘシ」「弱目ニツケコム」

よわよわ・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）〔弱弱〕甚ダヨワキ状ナリ　極メテヨワキヤウニ見ユ　イツモヨワサウナリ　盛衰記、廿二、宗遠値二小次郎二事「弱弱しく語ルナラバ、指殺シテ、平家ノ覺エマサラントモヤ思フラン」

よわり（名）〔弱〕ヨワルコト。オトロヘ。

よわりめ（名）〔弱目〕ヨワリタル氣。ヨワリタルキハ。ヨワリタル時。「弱目ニツケコム」弱目に祟目（タタリメ）トハ、不運ニ不運ガ重リテ、不仕合ナル意。泣面ニ蜂。

よわる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔弱〕（一）ヨワクナル。オトロフ。衰弱　源、四、夕顔[十一]「ムゲニよわるヤウニシ給フ」千載集、五、秋、下「サリトモト、思フ心モ、蟲ノ音モ、よわりハテヌル、秋ノ暮カナ」（二）勢ナクナル。ツカル。衰微スル。疲弊（三）俗ニ、困ル。困殺

よゐ（名）〔夜居〕夜、起キテ居ルコト。多ク僧、加持、修法ナドノタメニ。名目抄、「夜居、護持僧、候二間、加持」（二間ハ清涼殿中ノ二間ヲ云フ）源、三十五、柏木[九]「夜居ノ加持ノ僧ナドノ心チスレド、云云」

よゐ（名）〔餘威〕アマリノ威光。ノコレル威勢　賈誼、過秦論「始皇既没、餘威震于殊俗」

よゐん（名）〔餘韻〕〔餘韵〕アマルヒビキ。又、ノコルアヂハヒ。餘情。

よをり（名）〔節折〕古ヘ、陰暦、六月、十二月ノ晦日ノ公事。天皇、皇后、東宮、行ハセ給フ。神祇官ヨリ御贖物ヲ奉ル、命婦、荒節（アラヨ）、和節（ニコヨ）ノ竹ヲ以テ、玉體ノ御丈ヲ量リ奉ルコト五度、（一、御身丈、二、左右ノ肩ヨリ足マデ、三、左右ノ御手、胸ノ中ヨリ指末マデ、四、左右ノ腰ヨリ足マデ、五、左右ノ膝ヨリ足マデ）コレヲ御形代ニ移ス、畢リテ竹ヲ河原ニ持行キテ、水ニ流ス、（一二）荒節、和節ハ、御贖物ノ衣ノ名ト云フ）北山抄、二、晦日御祇官奉荒世和世御贖事「延和二年六月、節折如例、但依穢、神祇官不參」公事根源、六月、「節折ト申、竹ノ節ヲ其中ノ尾ノ上ニ置ク、節折ノ命婦、竹ヲモテ參リテ、御丈ヨリ始メテ、所所ノ寸法ヲトリ果テテ、宮主ニ切リアテガハセテ、御祓ヲツトムルナリ、荒節、和節トテ、二度アリ」

よをろ（名）〔膕〕よぼろ（膕）ノ轉。其條ヲ見ヨ。榮花物語（古寫本）三十三、着るは佗しと歎ク女房「御髪（ミグシ）ハよをろバカリニテ、黑キ御衣イミジウアハレナリ」宇治拾遺、六、第九條「よをろ（一本、よほろ）筋ヲ斷タレタレバ、逃グヘキヤウナシ」

ら

ら　五十音圖、良行（ラギャウ）第一ノ假名。此一行ノ假名、ら、り、る、れ、ろノ五音ハ、其發聲、舌ヲ卷キ上齶ヲ擦リテ出デ、母韻ト熟シテ成ル。日本語ニテハ、此五音ノ、一語ノ首ニアルコト無シ。らノ音ハ、下ニう、又ハ、ふ（うト呼ブモノ）アルトキハ、ろノ如ク響クコトアリ、らうじん（老人）、らふそく（蠟燭）ノ如シ。

ら（名）〔羅〕（一）ウスモノ。ウスハタ。ウスギヌ。甚ダ薄ク織リタル絹布。今、絽ト云フモノ、此ノ轉カ。倭名抄、十二、錦綺類「羅、良、一云、蟬翼」源、十、榊[二十九]「日日ニ供養セサセ給フ御經ヨリ始メ、玉ノ軸、らノ表紙」（二）鳥ヲ捕フル網。トリアミ。韓愈、送温處士序「以禮爲羅、羅而致之幕下」

ら（名）〔騾〕牡ノ驢馬（ウサギウマ）ト常ノ牝馬ト交リテ生メルモノ。體軀、小サク、強健ニシテ、勞役ニ用ヰラル、然レドモ、更ニ孳殖スルコト無シ。ラバ。又、牡馬ト牝驢馬ト交リテ生メルヲ駃騠ト云ヒ、弱クシテ、使用ニ適セズ。倭名抄、十一、牛馬類「騾、驢父馬母所生也」[illegible]

ラ（名）〔羅〕〔男陰〕〔まら（魔羅）ノ上略〕まら（魔羅）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。倭名抄、三、莖垂類「玉莖、男陰名也、屌（羅字ノ俗、尸ニ从フ和字ナリ）、[illegible]良」

ら（接尾）〔等〕〔等ノ略ト云フ〕（一）名詞、代名詞、ニ添ヘテ、物事ノ數アルヲ示ス接尾語。其數ノ限リヲ上ゲ列ヌルニモ云ヒ、（コレヲ内等（ナイトウ）ト云フ）其外ニモアルヲ略スルニモ云フ、（コレヲ外等ト云フ）ナンド。ナド。「我等」彼等」少女等」コレら」ソレら」又、物事ヲ大凡ニ指シテ云フ意ニモ用ヰル。字類抄「等、ラ、類也、輩也」萬葉集、五[三十八]「富人ノ、家ノ子ドモノ、着ル身ナミ、腐シ棄ツラム、絹綿良ハモ」神樂歌、採物、篠「コノ篠ハ、イヅコノ篠ゾ、舍人等ガ、腰ニサガレル、鞆ノ篠（ササ）」「ココら」アチら」幾ら」今日ら」（二）又、轉ジテ、人一人ニモ云フ。允恭紀、八年二月「花グハシ、櫻ノメデ、コトメデバ、早クハ愛デズ、吾ガ愛ヅル古等」（衣通郎姬ヲ云フ）

ら（接尾）〔り、れ、ろニ通ズ〕語ノ末ニツケテ云フモノ。普通、意味ナキモアリ、又、親愛ノ意アルモアリ。萬葉集、廿[十七]「ユコサキニ、ナミナトヱラヒ、シルベニハ、子ヲ等妻ヲ等、オキテ等モキメ」同、十[三十七]「ヒサカタノ、天ノ河津ニ、船ウケテ、君待ツ夜等ハ、アケズモアラヌカ」古今集、十九、誹諧「佗しらニ、猿ナ鳴キソ、足ビキノ、山ノカヒアル、今日ニヤハアラヌ」同、四、秋、上「里ハアレテ、人ハ舊リニシ、宿ナレヤ、庭モ籬モ、秋

ノ野らナルニ拾遺集、十八、雜、賀「岩ノ上ノ、松ニタトヘン、君君ハ、世ニ稀レらナル、渾ゾト思ヘバ」[illegible]

ラアケン（名）〔蘭語、Laken.（布ノ意）〕[illegible]

らい（名）鳥ノ名。あはうどり（阿房鳥）ノ一名。其條ヲ見ヨ。[illegible]天翁、らい、九州ニテ、らいト云、土佐國ニテ、トウクラウト呼、丹後ニテ、あはう鳥ト云」

らい（名）〔雷〕イカヅチ。かみなり（雷）ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]

らい（名）〔禮〕〔らいハ呉音〕れい（禮）ニ同ジ。字類抄「禮、ライ」謠曲、卒都婆小町「サラバ、ナト禮ヲバ爲サデ、敷キタルゾ」云云

らい（名）〔來〕現在ヨリノチ。未來。將來。[illegible]

らい（名）〔籟〕風ノ物ニ觸レテ發スル聲。孔ヨリ發スルヒビキ。又、笛ノ音。謠曲、[illegible]「千丈萬丈ノ旗ノアシ、天ニ色メキ地ニ響ク、籟ノ聲モ驚シ」「人籟」天籟」地籟」松籟」竹籟」

らい（名）〔癩〕〔品字箋（清、虞德升）「癩、惡疾也」〕らいびゃう（癩病）ニ同ジ。關東ニテ、ナリンバウ。北陸、奥羽ニテ、ドス。備中ニテ、お大名。出雲ニテ、クノヒ。土佐ニテ、ナリ。熊本ニテ、ウチナリ。天刑病。

らい（名）〔耒〕鋤、又、ソノ柄。史記、淮陰侯傳[illegible]

らい（名）〔罍〕瓶ニ似タル形ニテ、雲雷ノ模様ヲ描ケル器。水ヲ盛リ、又、酒ヲ容ルルニ用ヰル。正字通「罍、畫雷、酒器、又、盥[illegible]

らい（名）〔羅衣〕ウスモノニテ仕立テタル[illegible]「羅衣鷺[illegible]組綺解粉」朗詠集、下「外人不ν識承ν恩處、唯有₌羅衣染₌御香₋」

らい（接頭）〔來〕次ニ來ヘキ。キタル。禮記、月令[illegible]「來年」來月」來日」來世」來春」

らい（接尾）〔來〕コノカタ。以來。韓愈、[illegible]「古來」十年來」[illegible]

らい-い（名）〔來意〕（一）來リタル趣旨。詣レ來リタルワケ。詩經、商頌、那篇、序ニ[illegible]助₌祭者之來意₋也」（二）來狀ノ中ノ趣意。

らい-いう（名）〔來遊來游〕キタリアソブコト。詩經、大雅、卷阿篇「豈弟君子、來游來歌、以矢₌其音₋」

らい-いう（名）〔來由〕因リテ來リタルワケ。來リタル理由。來歷。白居易、詩「何罪遣₌君居₌此地₋、天高無ν處問₌來由₋」

らい-う（名）〔雷雨〕雷、鳴リテ、雨降ルコト。易經、下象傳「天地解而雷雨作」文德實錄、十、天安二年四月「天陰雷雨、夜雨雹」

らい-えつ（名）〔來謁〕來リテマミユルコト。來リ訪レテ、面謁スルコト。史記、留侯世家「張良從₌外來謁₋」

らい-えふ（名）〔來葉〕〔詩經、商頌、長發篇「昔在中葉」毛傳「葉、世也」〕らいせい（來世）ニ同ジ。晉書、江逌傳「高祖當[illegible]」

ライオン（名）〔獅子〕〔英語、Lion.〕しし（獅子）ニ同ジ。

らい-が（名）〔來賀〕來リテイハフコト。[illegible]

らい-が（名）〔來駕〕來リ訪フコト、ノ敬語。易林節用集（慶長）上、言辭門「來駕、ライカ」

らい-がう（名）〔來迎〕（一）衆生ヲ極樂淨土ニ引接セムガタメニ、佛ノ來降スルコト。又、佛、菩薩ノ靈ノ、現ハレテ來リ迎フルコト。觀無量壽經「化ニ作五百化佛、[illegible]」（二）高山ノ頂ナドニテ、曉ニ東方ニ彩雲ノタナビキタル中ニ、薄墨ニ輪ノ形シタルモノ昇リ、其中ニ朦朧ト人影ノ如キモノノ見ユルコト。彌陀ノ來迎ナリト云フ。廿六夜ノ月ノ昇ル前ノ雲ニモ云フ。

らいがう-うり（名）〔來迎會〕ごらいがう（御來迎）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

らいがう-ばしら（名）〔來迎柱〕寺ノ本堂ニテ、佛像ヲ安置スル附近ニアル圓柱。須彌壇ノ四隅ノ柱ナド是レナリ。日本新永代藏（正德、北條團水）二、「後ノチ、三十日タタヌニ、本堂ノ來光（迎ノ誤）柱ユガミ」

らい-かく（名）〔來格〕〔書經、堯典篇「格₌于上下₋」注「格、至也」又、同、舜典篇「帝曰、格、汝舜」注「格、來也」〕キタリイタルコト。又、祭祀ナドニ、神靈ノ下降スルコト。[illegible]

らい-かく（名）〔來客〕らいきゃく（來客）ニ同ジ。[illegible]

らい-ぎ（名）〔來儀〕（一）來リ到ルコト。

[illegible]（二）來ルコト、ノ敬[illegible]

らい-きゃく（名）〔來客〕又、らいかく。訪ヒ來レル客。マラウド。來賓。賓客。

らい-くゎ（名）〔雷火〕（一）イナヅマ。イナビカリ。[illegible]（二）雷ヨリ起リタル火災。[illegible]

らい-くゎい（名）〔磊塊〕石ノカタマリ。[illegible]轉ジテ、胸中ノ不平ナドヲ云フ。[illegible]

らい-くゎい（名）〔磊嵬〕[illegible]也、嵬ハ高不平也[illegible]大ナル狀ニ云フ語。韓愈、記夢詩「隆樓傑閣磊嵬高、天風飄飄吹我過」

らい-くゎい（名）〔來會〕來リ會スルコト。會合ノ席ニ來リ集ルコト。左傳、昭公十二年[illegible]

らい-くゎん（名）〔來觀〕來リ觀ルコト。[illegible]

らい-くゎん（名）〔禮冠〕三山冠ニ珠玉ノ飾アルモノ。御卽位ナドノ大禮ノ正服ヲ着クル時ニ被ムル冠。支那製ナリ。[illegible]さんさんくゎん（三山冠）ノ條ヲモ見ヨ。

らい-くゎん（名）〔雷管〕金屬ヲ以テ帽子形ニ作リ、内面ニ雷管剤ヲ塗リツケ、銃

砲弾ノ薬莢底部中央ニ装備シテ、火薬ヲ炸発セシムル発火装置。

らいぐゎん (名) 雷丸 菌ノ一種。竹林ノ土中ニ生ズ。大ナルハ栗ノ如ク、小サキハむくろじ(無患子)ノ如ク、重クシテ堅實ニ、外、黒ク、内、白シ。薬用トス。 唐書、地理志「金州漢陰郡、云云、土貢、云云、雷丸」 遊宦紀聞「楊中行得異疾、毎發語、腹中有小聲應之、道士曰、此應聲蟲也、但讀本草、取不應者治之、讀至雷丸不應、遂頓服數粒而愈」

らいげ (名) 來下 下リ來ルコト。降リ來ルコト。 寶物集、四十四、戒賢論師事「既ニ自殺セントシ給ヒケルニ、天人來下シテ告ゲテ云ク」

らいけい (名) 來詣 來リテ參詣スルコト。來リ詣ヅルコト。

らいげつ (名) 來月 今月ノ次ニ來ベキ月。コムツキ。クルツキ。 李氏刊誤(唐、李涪)「祈、祈宮、用來月六日癸亥」

らいけん (名) 來獻 來リテタテマツルコト。來廷シテ獻上スルコト。 漢書、武帝紀「匈奴歸漢使者、使來獻」 太平記、三十九、高麗人來朝事「返牒ヲバ不被書、只來獻ノ報酬トテ、鞍馬十匹、鎧二領、云云、高麗ヘゾ送リ被著ケル」

らいげん (名) 來現 來リアラハルルコト。アラハレ來ルコト。 謠曲、白髭「殊更今宵ハ、天燈、龍燈神前ニ、來現ノ時節ナレバ」

らいこ (名) 雷鼓 靁鼓 (一)雷神ノ持ツト云フ太鼓。 枚乘、七發「沌沌渾渾、狀如奔馬、混混庉庉、聲如雷鼓」 (二)八面ノ鼓。一說ニ、六面ノ鼓。古ヘ、支那ニテ、天神ヲ祀ルトキニ用キシモノト云フ。 周禮、春官、大司樂「雷鼓、雷鼗、孤竹之管、雲和之琴瑟、雲門之舞、冬日至於地上之圜丘奏之」

らいこう (名) 雷公 イカヅチ。カミナリ。雷。又、イカヅチノカミ。雷神。 淮南子、俶眞訓「若夫眞人、云云、使風伯、臣雷公、役夸父」 倭名抄、一「神靈類「雷公、伊加豆知」」

らいこう (名) 來貢 來朝シテ貢物ヲ奉ルコト。 史記、孔子世家「使各以其方賄來貢」

らいこう (名) 來寇 來リテアタスルコト。來リ攻ムルコト。

らいさう (名) 癩瘡 癩ノカサ。癩病ノデキモノ。 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)一「アル者正月二日ノ夜、夢ニオモヒヨラズ、我ガ身ニ癩瘡イデキタルテイヲ見、云云」

らいさつ (名) 來札 らいぢやう(來狀)ニ同ジ。 杜甫、送段功曹歸廣州詩「衡面思來札」

らいさん (名) 禮讚 三寶ヲ禮拜シテ、其功德ヲ稱讚スルコト。 盛衰記、十七、祇王祇女佛前事「六時ノ禮讚、聲澄テ、胡蝶ノ念佛イト貴シ」 著聞集、十六、興言利口「念佛禮讚ナドハテテ」

らいさん (名) 禮參 神佛ニ詣デテ拜禮スルコト。 曾我物語、十二、虎出逢呼入事「彼方此方立チ廻リ見ケレバ、中ニ幽カナル聲ニテ、日中ノ禮參ノ勸モ果テヌト思シクテ」

らいし (名) 來示 書狀ニテ言ヒ越シタルコトノ敬稱。御申越シ。來諭。來命。 歐陽修、與[illegible]書「久不得書、日與無逸弟想望、忽捧來示、云云」

らいし (名) 耒耜 農具ノ一、スキ。 禮記、月令篇「乃擇元辰、天子親載耒耜、措之于參保介之御間、帥三公九卿諸侯大夫、躬耕帝藉」

らいし (名) 禮師 七僧ノ一。三禮師。法會ナドノ讚經ノハジメニ、聲ヲアゲテ三禮ノ唄ヲ唱フル者。 三禮。

〔らいし (名) 禮紙 (一)カケガミ。書狀ノ上ヲ卷ク白紙。更ニ其上ニ包紙ヲ用ヰル(ひねりぶみニ云フ)包紙。空紙。

字類抄「禮紙、ライシ、書札禮紙」 拾玉集、五「禮紙ニ紅梅ノ摺紙ヲシタレバ、云云」 平家物語、三、足ずりの事「鬼界ガ島ノ流人少將成經、康頼法師赦免、トバカリ書カレテ、俊寛ト云フ文字ハナシ、禮紙ニゾアルラントテ、禮紙ヲ見ルニモ見エズ」 (二)俗ニ誤リテ、書物ノ端。

らいし (名) 雷子 江戸時代、男子ノ髮ノ結ヒ方ノ一。

〔らいし (名) 櫑子 罍子 酒器ノ一。高坏ニ似テ、縁、高ク、内ハ朱漆、外ハ黒漆ニテ、螺鈿ナドニシ、蓋アルモノト云フ。或ハ、果、菓、ナドヲモ盛ル。 倭名抄、十六「漆器類「櫑子、櫑、音雷、酒器也」」 字類抄「櫑、ライシ」 源、三十六、横笛「コノ筍ノ櫑子ニ、云云」

らいぢう (名) 雷獸 きてん(木貂)ニ同ジ。 山海經、大荒東經「東海中有流波山、云云、其上有獸、云云、其聲如雷、其名曰夔、黃帝得之、以其皮爲鼓、橛以雷獸之骨、聲聞五百里、以威天下」 駿國雜志、五十一「雷獸、云云、生捕來」

らいぢつ (名) 癩疾 らいびやう(癩病)ニ同ジ。

らいぢつ (名) 來日 未來ノ日。來ム日。 禮記、曲禮、上篇「生與來日、死與往日」

らいしふ (名) 來集 來リアツマルコト。 禮記、月令篇「仲秋之月、云云、四方來集、遠鄉皆至」

らいしふ (名) 來襲 來リオソフコト。

らいしん (名) 來信 他ヨリ報ジ來リタル音信。 皮日休詩「釣公來信自松江」

らいぢん (名) 雷神 イカヅチノカミ。鬼ノ如キ姿シテ、虎ノ皮ノ褌ヲ纏ヒ、太鼓ヲ輪形ニ連ネテ負ヒ、手ニ桴ヲ持チタルヲ圖ス。佛寺ノ樓門、左右ニ、風神、雷神ト云フ立テルアリ。雷公 宋

史、禮志「州縣祭社稷、風伯雨師雷神、爲小祀」 盛衰記、廿四、南都合戰事「或ハ力士變化ノ斗藪ヲ貯ヘ材ヲ運ビ、或ハ冬天ノ仙人雷力ヲ起シテ大木ヲ擔ハシ、或ハ雷神鬼形ノ化ヲ碎キテ蟷螂ヲ下シキ」

らいぢん (名) 癩人 らいにん(癩人)ニ同ジ。癩者。

らいしゃ (名) 雷車 カミナリ。雷鳴。〔雷火ノ軋ヲモ見ヨ〕 陸游、喜雨詩「雷車殷殷南山陽、電光燁燁北斗傍」

らいしゃ (名) 來車 車ニ乘リテ來リ訪フコト。轉ジテ、來訪ノ敬稱。來駕。

らいしゃ (名) 來者 (一)訪問シ、キタルモノ。訪ヒ來ル人。 左傳、隱公六年「善鄰以勸來者、猶懼不蔇、況不勸乎」 (二)將來ニ出デ來ルモノ。我レヨリ後ニ生ルル人。後進者。後生。後輩。 論語、子罕篇「子曰、後生可畏、焉知來者之不如今也」

らいしゃ (名) 癩者 癩病ヲ患フ人。癩人。 和解本、元亨釋書、十三、釋忍性傳「サルコロ、奈良坂ニ癩病ノ者アリ、云云、ソノ癩者、マサニ臨亡ノ時、誓テ曰ク、云云」

らいぢやう (名) 來狀 他ヨリ送リ來レル書狀。來書。來札。來信。來簡。

らいぢやうとう (名) 賴政籐 〔源賴政ノ弓ノ籐トリト傳フ〕弓ノ籐ヲ卷キタルモノノ一種。 貞丈雜記、十、弓矢之部「源三位賴政カ、ヌエト云フ妖物ヲ射フレシ弓ナバ、雷上動ト名ヅケ、二ツノカブラ矢ヲバ、水破、兵破ト名ヅケタリ、云云、愚者ノ考ニ、雷上動ハ賴政籐成ベシト」

らいしゅん (名) 來春 又、らいはる。來ム年ノ春。來ルベキ春。來陽。明春。

らいしょ (名) 來書 らいぢやう(來狀)ニ同ジ。 杜甫、[illegible]「[illegible]流轉、來書細作行」

らいじよ（名）雷序　狂言、又ハ、芝居ニテ、神、王、怪物ナドノ、神通ニ、莊嚴ナル仕手ノ進退スル場合ニ用ヰル囃子

らい・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動）（變）禮　敬ヒテ拜ス。ヲガム。信長物語、五、貝ノ底事句讀コレ拜ヲ見テ頭モノ得ヲ、素ヲ禮スベキ瑞相メデタシトテ、事ヨリドリア、コレヲ禮シテ通ラレケルガ」

ライス・カレエ（名）〔英語、Curry and rice. 又、Curried rice.〕又、かれえらいす。西洋料理ノ一種。牛肉ヲ大切ノママ、鍋ニテ水カラ煮、コレニ人參ト馬鈴薯トヲ細カニ切リテ加ヘ、氣長ニ弱火ニテ煮込ミ、汁ヲ半分位ニ煮詰メテそうぷヲ作リ、次ニ、ふらい鍋ニばたヲ溶カシ、玉葱ノ細カニ切リタルモノヲ狐色ニイタメ、前ノそうぷノ肉ヲ取出シ、細カニ切リテ共ニイタメ、かれえ粉ヲ適宜ニ加ヘ、前ノそうぷヲ入レ、弱火ニカケ、凡一時間位煮テ、めりけん粉ヲ溶キ加ヘ、鹽、胡椒ニテ味ヲツケ、鍋ノ下シ際ニ、牛乳少量ヲ加ヘテ掻混ゼ、炊キタテノ飯ヲ皿ニ盛リテ、其レヲカク

らい・せ（名）來世　佛教ノ語。さんぜ（三世）ノ條ヲ見ヨ

らい・せい（名）來世　未來ノ世。ノチノヨ。後世。將來。書言、仲尼之語、孔子曰放、築于南巣、惟有慙徳、曰予恐來世以台爲口實」

らいせい・もん（名）〔羅城門〕らじやうもん（羅城門）ニ同ジ。宇治大納言物語、中「らいせい門ノヘンニテ、御輿ヲトメテ、タクミヲ召シテ、仰セフレケルヤウ、云云」

らいせ・がね（名）來世金　來世ノ冥福ヲ祈リテ、佛ニ捧グル金。夕霧阿波鳴渡、正

徳、近松作、下「アノ金ヲアノ世ヘ遣ル、見レカボンノ來世金デナト、言ヒ話録レハ、云云」

らい・せき（名）〔雷石〕落雷ノタメニ沙粒ノ熔ケ合ヒテ生ジタル管状ノ石。

らい・ぞく（名）〔來屬〕らいふく（來服）ニ同ジ。

らい・そん（名）〔來孫〕（疎遠ナレドモ、呼ベバ乃チ來ル孫ノ意ト云フ）玄孫ノ子。即チ、己レヨリ五代ノ孫。爾雅、釋親篇「玄孫之子爲來孫」倭名抄、二「子孫類　來孫、玄孫之子爲來孫、今按、五代之孫也」

らいだ（名）〔懶惰〕懶惰ノ誤讀。

らい・だう（名）禮堂〔一〕寺ニテ、禮拜、讀經スル所。禮拜堂。字類抄「禮堂、ライタフ」〔二〕金堂ノ前ノ堂ノ名。文德實錄、十、天安二年四月九日「是夜、昔見寺火、金堂、禮堂、盡爲灰燼」

らい・だん（名）〔來談〕訪ヒ來リテ話スコト。宋書、張暢傳「若辭以通、可如來談」

らい・ち（名）〔畾地〕アキチ。アマリタル地。餘地。狂言記、富士松「アノ松ヲ植ウル程ノらいちガアル、アノ松ヲ身共ニ呉レマイカ」

らい・ちやう（名）來聽　來リキクコト。來リテ聽聞スルコト。

らい・てい（名）〔雷霆〕〔霆ハ、雷ノ烈シキモノ〕イカヅチ。カミナリ。ハタタガミ。易經、繫辭、上傳「剛柔相摩、八卦相盪、鼓之以雷霆、潤之以風雨」

らい・てう（名）〔來朝〕外國人ノ、此國ノ朝廷ヘ使者トシテ來ルコト。來聘。詩經、小雅、采菽之什、采菽篇「君子來朝、何錫予之」

らい・てう（名）雷鳥　らいのとり（雷鳥）ノ

條ヲ見ヨ。

らい・でん（名）〔雷電〕カミナリト、イナヅマト。書言、……以鼠、……十四語「雷電霹靂シテ、寺ノ柱ヲヲノノカス」

らい・でん（名）〔禮殿〕はいでん（拜殿）ニ同ジ。康富記、文安元年四月十三日「……在所、……禮殿燒亡」……御殿所拜殿……」

らい・でん（名）〔來電〕他ヨリ電報ノ來ルコト。又、ソノ來着シタル電報。

らい・ぞう（名）來同　來リ集ルコト。詩經、……「淮夷來同、莫不率從、魯侯之功」

らい・どう（名）〔雷同〕〔禮記、曲禮、上篇「毋雷同」注「雷之發聲、物無不同時應者、人之言當各由己、不當然也」〕思慮ナク他ノ論ニ同意スルコト。アドウツコト。ワケモナク、アヒヅチウツコト。荷合。後漢書、桓譚傳「略雷同之俗語、詳通人之雅謀」（雷八雷ニ同ジ）

らい・のふ（名）〔來納〕來年ノ年貢ヲ、今年中ニ上納スルコト。庭訓往來、十二月「現物色代之儀、來納過上ノ……」

らい・にん（名）〔癩人〕癩病ノ人。ライジン。……四十四、癩人法師口說……事「乞者ノ癩人法師共也、……聞タル癩人ノ、……語ヲ聞バ」

らい・ねん（名）〔來年〕〔去年、今年ニ對ス〕次ニ來ベキ年。今年ノ次ノ年。クルトシ。コムトシ。明年。孟子、滕文公、下篇「如知其非義、斯速已矣、何待來年」

らい・の・とり（名）〔雷鳥〕〔鵰鳥〕又、らいてう。高山（信州ノ御嶽、乘鞍ケ岳、蓮華山、槍ケ岳、加賀ノ白山ナド）ノ頂、這松ノ間ニ棲ム。大キサ常ノ雌雞ノ如クニシテ、羽色、黃黑斑、又ハ、淺紅、頭ハ、白毛ヲ雜フ。眼ノ上ニ美シキ赤斑アリ、嘴ノ下白ク、全脚、及、指マデ、淺褐色、……、白毛ヲ生ズ。冬ハ、全身、白ク……。高ク飛ブコト能ハズ。松……「シラ山ノ、松ノ木カゲニ、カクロヘテ、ヤスラニスメル、らいの鳥カナ」北越ト日記ヲ書キ……、雷除ノ守トスト云フ）

らい・はい（名）〔禮拜〕〔梵語、Vandana.（伴談、又ハ、和南）ノ譯語〕禮シテ拜ムコト。ヲロガムコト。ヲガムコト。佛道ニテハ、兩膝、兩肱ヲ地ニ着ケ、低頭合掌ス。頂禮。（支那ノ基督教……、……日曜日ヲ禮拜日ト云ヒ、月曜日ヲ禮拜一……、……土曜日ヲ禮拜六ト云フト……本名云……伴談、……云……名……佛……僧尼傳」

らい・はう（名）〔來訪〕我ガ家ヘ來リ訪フコト。運歩色葉集「來訪、ライハウ」

らい・はかせ（名）〔禮博士〕古ヘ、大學寮ニテ、禮記ヲ教授セシ博士。はかせ（博士）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

らい・ばん（名）〔禮盤〕〔禮版〕佛殿ノ本尊ノ前ニアリテ、佛ヲ禮拜スルタメニ陞ル高壇。前ニ經机アリテ、經卷ヲ載ス。字類抄「禮版、ライバン、亦作盤」枕草子、六、第五十八段「佛ノキラキラト見エ給ヘル、云云、らいばんニムカヒテ、云云」江家次第、十一、御佛名「導師……、導師就禮盤」

らい・はる（名）〔來春〕又、らいしゅん。來ム年ノ春。來ルベキ春。來陽。明春。心中天網島、享保、近松作、上「今年中、來春三月頃マテ、私ニ逢フテ下ンシテ、云云」

らいひん (名) [來賓] 客トシテ來ルコト。又、ソノ客。來客　禮記、月令篇「季秋之月、云云、鴻鴈來賓、爵入大水爲蛤」

らいびやう (名) 癩病　古言、カタヰ。癩菌ニヨリテ起ル傳染病ニシテ、最モ醜キモノ。表皮ニ赤色ノ斑紋ヲ生ジ、痒キコト甚シク、乾キテ白ク、薄キ痂ヲ生ジ、眉毛、睫毛等、脱落シ、次第ニ深クシテ、後ニ全身腐爛ス。フクコシ。モノコシ。カタヰ。ナリンバウ。ドス。カハタモノ。癩疾。天刑病。癩ノ條、參見セヨ。　增補下學集、上、二、支體門「癩病」醫心方、三、第廿、凡癩病、皆是惡風及犯觸忌害得之、初覺皮膚不仁、或淫淫苦癢如虫行、云云」

らいふ (名) [雷斧] 一種ノ石器。らいふせき(雷斧石)ニ同ジ。

らいふ (名) [來附] 次條ノ語ニ同ジ。

らいふく (名) [來服] マツロフコト。來リテ服從スルコト。來附。來屬。歸服。歸順。　史記、高帝紀、贊「敦封内、而四夷致貢、施德諸侯、而八戎來服」

らいふく (名) [來復] 一旦去リタルモノ、又、元ニ復ルコト。「一陽來復」

らいふく (名) [禮服] (朝服ナドニ對ス) 古へ、即位式、大嘗會、元日節會ナドノ大儀ニ着用セシ正裝。天子ノ禮服ヲ袞冕ト云フ。皇太子、親王、内親王、女王、内命婦、及、文武官ノ位階ナドニヨリテ其制、色等ヲ異ニスレドモ、大體、禮冠、大袖、小袖、裳、褶、表袴、大口、綬、玉佩、笏、襪、烏皮舃等ヲ以テ皆具トス。鎌倉、室町時代ニハ直垂ヲ以テ正裝トシ、江戸時代ニハ、侍從以上ハ直垂、四品ハ狩衣、大夫ハ大紋、重役ハ布衣、無位無官ノ士ハ素襖ヲ以テ禮服ト定ム (衣服令ニ、禮服ノ冠ハ、冠ト書シ、朝服ノ冠ハ頭巾ト書ス。又、武官ハ、元日、又ハ、即位ノ儀ニハ、武禮冠、裲襠ヲ着ル。コレヲ禮服トス) 名目抄「禮服、大袖則是也、袞冕、玉佩、綬、舃、寃、已上禮服具也」中務内侍日記「らいふくメサレテ、大床子ニ主上渡ラセオハシマス」

らいふく (名) [萊菔] だいこん(大根)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。　埤雅(宋、陸佃)「萊菔能制麪毒」本草「萊菔、一名、蘆葩、乃根名、上古謂之蘆葩、中古轉爲萊菔、後世訛爲蘿蔔」

らいふせき (名) [雷斧石] (雷神ノ用キタリト云フカ、雷雨ト共ニ天ヨリ落チタルモノト考ヘタルニヤ) 太古ノ民ノ刃物ニ用キタルモノトテ、往往、土中ヨリ得ル一種ノ石器。石斧トモ云ヒ、鉞ノ形シタリ。質、堅密ニシテ、形、平タク長ク、一邊ハ薄クシテ刃ヲナス。大小アリ、長サ一寸許リヨリ、七八寸ニ至ル。黑、褐、灰、綠、等、種種アリ。略シテ、雷斧。カミナリノマサカリ。テングノマサカリ。　佐渡志、五、物産「霹靂碪、方言雷斧石、其形扁長ニシテ、本ハ厚ク末ハ薄ク、刃アルニ似タリ、小ナルモノハ長サ一二寸、大ナルモノハ長サ六七寸、性堅ク、肌緻密ニシテ、試金石ノゴトシ」

ライフル (名) [英語、Rifle] 志んじようじう(施條銃)ト譯ス。其條ヲ見ヨ。

らいへい (名) [來聘] らいてう(來朝)ニ同ジ。　春秋、僖公三十年「天王使宰周公來聘」

らいぼん (名) [擂盆] すりばちニ同ジ。　類聚名義集「擂盆、ライホン、禪宗曰擂鉢」

らいめい (名) [來命] 他ヨリ申シ越シタル書ノ敬語　陳琳、答東阿王書「來命」

らいめい (名) 雷鳴 (一)雷、鳴ルコト。カミナリ　本朝世紀、久安二年三月九日「夜半大雨、雷鳴霹靂」 (二)轉ジテ、大イナル音響ヲ云フ　楚辭、卜居篇「黃鐘毀棄、瓦釜雷鳴」

らいめい (名) [雷名] (一)世ニ鳴リ渡ル名聲。「久仰雷名」 (二)他人ノ名ノ敬稱。

らいもん (名) [雷文] いなづま(稻妻)ノ條ノ(二)ニ同ジ。模樣ニ渦卷ノ曲線ニテ成レルモノ。(回、即チ、雷字ノ古文、方形ノウヅマキ、回ノ字ナリトモ云フ)　松屋筆記、百六、第百九條「雷文ハ雷字文ナルベケレド、マタ雷氏(唐時代ノ琴匠)ノ斷文ナドヨリイヒケンモ知ルベカラズ」

らいやう (名) [來陽] らいきゆん(來春)ニ同ジ。

らいゆ (名) [來諭] 來狀ニテノ諭言。　劉孝綽、酬陸長史詩「來諭竊雖並、比質非所任」

らいよけ (名) 雷除 (一)カミナリヨケ。避雷　武江年表、七、此年間(文化)記事「文化ノ始ヨリ淺草寺、七月十日ノ四萬六千日參ニ、赤キ唐黍ヲ雷除トテ商フ事始ル」 (二)ひらいしん(避雷針)、及、ひらいちゆう(避雷柱)ニ同ジ。

らいらい (副) [磊磊] (一)石ノ多ク集レル狀ニ云フ語　楚辭、九歌篇、山鬼「采三秀兮於山間、石磊磊兮葛蔓蔓」 (二)胸中ノ闊達ナル狀ナドニ云フ語。　方岳詩「身後誰嘵嘵、胸磊磊、命中不帶印纍纍」

らいらいせせ (句) [來來世世] サキノ世モ、又、ソノサキノ世モ。幾度モ繰リ返ス來世。未來永劫。

らいらいらくらく (句) [磊磊落落 礧礧落落] らいらく(磊落)ニ同ジ　晉書、石勒載記「大丈夫行事、當礧礧落落如日月皎然」

らいらく (名) 雷落　カミトケ　カミトキ。カンドキ。カンドケ。ラクライ。雷ノ、地ニ落ツルコト。

らいらく (副) [磊落] 人ノ所行ノ、公ニ顯ハシテ、匿サズ爲ル狀、又ハ、氣質ノ、打開ケテ、細事ニ拘ハラヌ狀ナドニ云フ語。磊磊落落　後漢書、秦彭傳「神韻高、六印磊落、台從當、蘭組流離」

らいりん (名) [來臨] 我ガ家ヘ來ルコト。(敬語)　書言故事(宋、胡繼宗)、四、稱呼類「謂人曰來臨」　運歩色葉集「來臨、ライリン」

らいれき (名) 來歷　來由。由來。由緒。履歷　來レル次第。其物事ノ年月ヲ歷雜來。　雜纂續(宋、王銍)、無見識「買、來問、來歷」　太平記、四、備後三郎高徳事「兵士共ハ敢テ其來歷ヲ不レ知、思咎ル事モ無リケリ」

らいわう (名) [來往] ユキキスルコト。往來。　潘岳、西征賦「徒觀其鼓、桃園、綸、漏、唯レ綱、乖レ餌出入、擬レ投來往」

らう (名) [靈] りやう(靈)ニ同ジ。　源、九、葵廿「コノ御イキスダマ、故父オトドノ御らうナドイフモアリト聞キ給フニツケテ、云云」

らう (名) [勞] (功勞ノ意) (一)勤メイタヅキ。年功　ホネヲリ。事情ヲ積ムコト。　論語、爲政篇「色難、有レ事弟子服ニ其勞ニ、有ニ酒食ニ先生饌、曾是以爲レ孝乎」　源、廿、朝顏九「年月ノらう數ヘラレ侍ルニ、云云」　同、四十六、總角四「宮仕ヘノらう」　大和物語、上「女モ、イト、らうアル人ナリケリ」　源順集「勸解由判官ノ勞六年、古ヘニナズラフルニ、カク沈メル人ナシ」 (二)らうきやう(勞症)ノ略　其條ヲ見ヨ

らう (名) [領] りやう(領)ニ同ジ。　源、十三、明石廿六「ヨシキヨガらうジテ、云ヒシ氣色モ、メザマ

シウ、年ゴロ心ヅケテアランヲ、云云」

らう (名) [illegible] 年オイタルコト。トシヨリタルコト。又、ソノモノ。老人。禮記、[illegible]

らう (名) 郎 (一)男子ノ稱。若者。唐書、房玄齡傳「[illegible]人多矣、未レ有レ如二此郎一者、當レ爲二國器一」 (二)男子ノ生レタル順序ニ隨ヒテ、數字ノ下ニ付ケテ名ニ呼ブ語。「太郎」「次郎」「三郎」「十二郎」 (三)轉ジテ、一般ニ、大小、先後ニモ用ヰル。「坂東太郎」「筑紫二郎」「四國三郎」「天一太郎」「八專二郎」「土用三郎」 (四)婦人ヨリ、其夫、又ハ、情夫ヲ呼ブ語。[illegible]

らう (名) 廊 殿外ノ細長キ屋。ほそどの(細殿)ニ同ジ。アユミドノ。廊下。[illegible]

らう (名) 牢 ヒトヤ。罪人ヲ捕ヘテ籠メ置ク室。牢屋。獄屋。囚獄。獄。囹圄。[illegible]

ラウ (名) 羅宇 〔初、支那ノ西南、安南ノ西北ナル老撾(Laos)國ノ黑斑竹ヲ渡シテ用ヰシニ起ル〕 烟管ノ火皿ト吸口トノ間ヲ接グ竹管。矢竹ヲモチヰル。又、らうだけ。ラオダケ。サヲ。烟管竹。[illegible] 又、「羅宇」ハ「煙草スフ、煙管ノらうハ、スグナモジ、ユガミ文字トゾ、見ユル雁首」

らうあ (名) 諒闇 りやうあん(諒闇)ノ[illegible] ノ儀式有樣、言ハン方ナクオドロオドロシウ、内ニモ東宮ニモ皆御服アルベケレバ、諒闇ダチタレド」

らうあう (名) 老嫗 年オイタル女。オウナ。ババ。老婆。老媼。[illegible]

らうあう (名) 老鶯 春過ギテ、ナホ鳴ク鶯。晩春ノうぐひす。殘鶯。晩鶯。

らうあん (名) 諒闇 りやうあん(諒闇)ニ同ジ。榮花物語、七、鳥邊野「天ノ下らうあんニナリヌ、ハカナクテ、年モ暮レヌ」

らうあらため (名) 牢改 昔、其役ノモノガ、牢中ヲ巡視シテ、不都合ノコトナキヤウ、改メ檢スルコト。又、ソノモノ。牢内改トモイフ。[illegible] 之品ニテモ無レ之哉トノ事也」

らういつ (名) 勞逸勞佚 ホネヲリト、安樂ト。勞苦ト、安逸ト。[illegible]

らういん (名) 老陰 「老陽ニ對ス」 陰ノキハミナルコト。陰ノ氣ノ最モ老イテ、其極ニ至レルコト。周易ニテハ、六ノ數ヲ云フ。又、鬱積セル陰氣。[illegible] 寒天ニ諸木花咲クコト有トハイヘドモ、云云」

らうう (名) 老嫗 らうあう(老嫗)ニ同ジ。[illegible]

らうえい (名) 朗詠 (一)詩歌ヲ、ホガラカナル聲ニテ誦スルコト。[illegible] (二)和漢ノ詩賦ノ有名ナル對句ヲ取リ、一種ノ節ヲツケテ謠フコト。又、ソノウタヒモノ。平安朝ノ中頃ヨリ謠ヒ始メラレテ、今樣ト共ニ、ウタハル。今ノ詩吟ヲヤハラゲタルガ如シ。元來、嵯峨天皇以來、詩文專ラ行ハレテ、詩ヲ朗詠セシガ、醍醐天皇ノ頃ヨリ、和歌大イニ起リテ、歌ヲモ朗詠セリ。字類抄「朗詠、ラウエイ」謠曲、敦盛「今[illegible]」

らうえう (名) 老幼 オイタルト、ヲサナキト。老人ト、子供ト。老若。老少。[illegible]

らうえき (名) 勞役 身體ニテ役務ヲ服スルコト。又、身體ヲツカフ骨折リワザ。[illegible]

らうえん (名) 狼煙狼烟 〔語原ハ、のろし(狼燧)ノ條ヲ見ヨ〕 敵ノ襲來ナドノ時、身方ニ知ラスルタメ、其合圖ニ、藥、生柴ナドヲ燒キテ、打擧グル烟。トブヒ。ノロシ。狼火。[illegible]

らうおう (名) 老翁 年ヨリタル男。オキナ。老叟。[illegible]

らうか (名) 良家 りやうか(良家)ニ同ジ。字類抄「良家、ラウカ」

らうか (名) 廊下 ホソドノ。ワタドノ。[illegible]

らうか (名) 老茄 茶入ノ一種。形、茄ニ似タルモノ。訛シテ、らうきや。

らうがい (名) 勞咳 らうきやう(勞症)ニ同ジ。[illegible] 人皆ツタゼ、ドウセマタ、アノテヤヒノ氣ニ入ラウトスレバ、直サマ勞疲ダ、知レタ事サ」藥性論、款冬花「[illegible]君主[illegible]肺氣、心促急熱乏、勞欬連連不[illegible]」

らうかう (名) 勞效 勞力ヲ費シテ效果ヲ擧グルコト。ホネヲリ。テガラ。

らうかう (名) 老巧 久シク經驗ヲ積ミテ、物事ニ巧ナルコト。老練。老熟。

らうかく (名) 老革 〔革ハ兵革ノ革ノ義、老兵ト云ハムガ如シ〕 オイタルツハモノ。老武者。老兵。[illegible]

らうかく (名) 浪客 一定ノ住地、職業ナド無キ人。ウカレビド。浮浪者。浪人。書言字考節用集、四、人倫門「浪客、ラウカク」

らうかばし (名) 廊下橋 (一)ケハシキ道路ナドニ架シタル廊下ノ如キ橋。國花萬葉記、二、下「通天橋、東福寺ノ内ニアリ、廊下橋也」 (二)城内ニ設ケル橋、[illegible]ニ形作リナシ、側面ヲ壁、竹束ナドニテ、塀ナドニシツラヒ、狹間ヲ設ケテ、敵ノ矢ヲ防グ、用トセシモノ、

〰らうがは・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [亂] 〔字ノ音ノ音便〕ミダリガハシ。ムサクルシ。亂雜ナリ。源、四、夕顏「らうがはしき大路ニ立チナハシマシテ、云云」蜻蛉日記、下、上「前栽ヲらうがはしく燒キタメルカナ」

らうがへ (名) [牢替] 囚人ヲ、一ノ牢獄ヨリ他ノ牢獄ニ移スコト。牢獄秘錄、牢屋敷見廻リ之事「名主下法ニ究ル時ハ、牢内ニテ手鎖、兩ホダニテ、外之牢ヘ牢替申付ル也」

らうかん (名) [琅玕] (一)寶石ノ名。玉ノ、美ニシテ、色、眞珠ニ似タルモノト云フ。コレニハ五色アリト云フ。即チ、其靑色多キヲ靑琅玕、又ハ、碧琅玕ト云ヒ、多ク勾玉ニ用ヰル。コレヲ暗所ニテ見レバ、漆黑光澤ナレド、明光ニ透シ見レバ、綠色明徹ナリ。書經、禹貢篇「雍州、云云、厥貢惟球琳琅玕」孔安國傳「琅玕、石而似珠」字類抄「琅玕、ラウカン」(二)竹ノ異名。王貞白、洗竹詩「有時記得三天事、自向琅玕節上書」

らうがん (名) [老顏] 年オイタル人ノ顏色。老人ノ顏。王九思、詩「病愁破老顏」

らうがん (名) [老眼] オイテ衰ヘタル眼力。老者ノ眼。オイノメ。又、老イテ遠視トナリタル眼。遠視眼。楊萬里、晩望詩「病身似怯春來風、老眼還疑雨後虹」朗詠集、下「老眼易迷殘雨裏、春情難繫夕陽前」謠曲、鸚鵡小町「老眼ト申シ、文字モサダカニ見エワカズ候」

らうがんきやう (名) [老眼鏡] 老眼ノ者ノ用ヰル眼鏡。玉ヲ凸ニ磨リ造ル。

らうき (名) [老耆] 古ヘ、大寶令制ニハ、六十六歲以上ノモノ、後、天平寶字二年以後ハ、六十五歲以上ノモノノ稱。調庸ヲ免除セラルルモノナリ。老丁、

周防國玖珂郡玖珂郷延喜八年戸籍「戸主、大人今古、年陸拾陸歲、老耆」

らうき (名) [老氣] 年舊リタルモノノ氣力。老人ノ氣魄。杜甫、送韋十六評事充同谷防禦判官詩「子雖軀幹小、老氣橫九州」

らうき (名) [牢記] カタク記憶スルコト。シッカリト心ニオボエ置クコト。強記。

らうき (名) [癆氣] らうがい(勞咳)ニ同ジ。らうさう(勞瘵)ノ條ヲ見ヨ。陰德太平記、三十二、杉原忠興死去事「忠興、其比ヨリ、癆氣ノ樣ニフラフラト煩ケルカ、同三年元龜ノ春ニ至テ、中風發シテ、竟ニ卒去セラレニケリ」

らうき (名) 老騏 老驥 〔騏、驥ハ、千里ノ馬〕年オイタル駿馬。轉ジテ、年オイタル英傑ニ譬ヘテ云フ語。魏武帝、樂歌「老驥伏櫪、志在千里、烈士暮年、壯心未已」

らうきう (名) [老朽] オイクツルコト。年トリテ役ニ立タヌコト。又、其人。オイボレ。老廢。歐陽修、與王宣徽大尉書「老朽之人、富在汝陰田畝、與農夫野叟相賀」

らうぎん (名) [朗吟] ホガラカニ詩歌ナドヲウタフコト。朗詠。朱熹、醉下祝融峰詩「濁酒三杯豪氣發、朗吟飛下祝融峰」

らうぎん (名) [勞銀] 勞動ノ賃錢。

らうきやう (名) [老境] 年オイタル境界。トシヨリ。晩年。陸游、書感詩「可憐老境驚蕭瑟、常在荒山破驛中」

らうきやく (名) [老脚] 年オイタル人ノアシ。又、老人ノアユミ。老足。楊萬里、寒食將諸子遊翟園詩「兒童健走儘從渠、老脚微酸半要扶」

らうぎよ (名) [撈魚] 〔撈ハ水中ノ物ヲ取

ルナリ〕魚ヲ撈ルコト。イサリ。アサリ。スナドリ。撈漁 漁撈

らうく (名) [勞苦] ホネヲリ。苦勞。勞又、イタヅキ。荀子、王霸篇「必自爲之、然後可、則勞苦耗顇莫甚焉」

らうく (名) [老軀] 年オイタルカラダ。老體。老身。

らうくたし (名) [牢朽] 牢ニテ朽ツルコト。又、牢ニテ死スルコト。牢死。獄死。史記抄(文明)十五、四十九「縲絏獄中トハ、籠くたしニナッテ、獄中デハツルゾ」

らうくん (名) [郎君] (一)年若キ男子ノ敬稱。ワカトノ。トノゴ。李商隱、詩「郎君官貴施行馬、東閣無因得再窺」(二)妻ヨリ夫ヲ、又ハ、情婦ヨリ情夫ヲ云フ語。

らうくわ (名) [狼火] トブヒ。ノロシ。らうえん(狼煙)ノ條ヲ見ヨ。

らうくわい (名) [老獪] 久シク經驗ヲ積ミテ、狡猾ナルコト。物事ニ馴レ、世故ニ通ジテ、ワルガシコキコト。老狡。

〰らうげ (名) [勞氣] イタヅキ。ヤマヒ。所勞。病氣。源、五十三、夢浮橋「らうけ俄ニ發リテ、イタクナンワヅラフ」

らうげつ (名) [朗月] 光ノホガラカナル月。スミワタリタル月カゲ。魏文帝、與朝歌令吳質書「白日既匿、繼以朗月、同乘共載、以遊後園」平家物語、三、大臣流罪事「鳴海潟、潮路遙ニ遠見シテ、常ハ朗月ヲ望ミ、浦風ニ嘯キ」

らうけん (名) [老健] (一)年オイテスコヤカナルコト。歐陽修、與沈待制書「世言、春寒、秋熱、老健、爲此三者、終是不久長之物也」

(二)文章ノ句法、書畫ノ筆力ナドノ、老練ニシテ勢ヒヨキコト。[illegible]「黄白山曰、杜便不雅、於老健中[illegible]」

らうこ (名) [牢固] カタキコト。堅固ナルコト。堅牢。杜氏易林、十四、恆之第九十六、咸「金城鐵郭、千年牢固、完全不虧、聖人安處」

らうこ (名) [狼顧] 心常ニ危ミ懼レテ、狼ノ如ク、後ノミフリカヘリ、落チツカヌコト。晉書、宣帝紀「魏武察帝有雄豪志、聞有狼顧之相、欲驗之、乃召使前行」

らうご (名) [浪語] まんげん(漫言)ニ同ジ。杜甫、贈陸詩「緊書元浪語、悲絕說山薇」

らうご (名) [老後] 年オイテノノチ。易林節用集(慶長)上、言辭門「老後、ラウゴ」平家物語、七、齋藤別當討死「實盛河内ノ畠山ヨリ上リ候シ事、老後ノ恥辱、唯此事ニ候(覺一本、老後ノ[illegible])」

らうこう (名) [老功] 老人ノ年功。又、經驗ヲカサネテ熟練セルコト。老練。易林節用集(慶長)上、言辭門「老功、ラウコウ」

らうこう (名) [勞功] ホネヲリ。イタヅキ。こうらう(功勞)ニ同ジ。易林節用集(慶長)上、言辭門「勞功、ラウコウ」

らうごく (名) [牢獄] ヒトヤ。牢屋。獄屋。囹圄。晉書、天文志「七星、天之貝也、主西方、主獄事、云云、昴明、則天下牢獄平」

らうごし (名) [牢輿] 昔、囚人ヲ送ル輿。

らうこつ (名) [老骨] 年オイタル體ノ骨。又、年オイタルモノ。老體。老軀。虞集、詠貧士詩「老骨寒不寐、夜長況聞風」

らうざ (名) [老者] らうざん(老人)ニ同ジ。大鏡、上、序「イト、キヤウアル事イフ老者ダカナ、更ニコソ信ゼラレネトイヘバ、云云」

らうさい (名) 老歳 らうねん(老年)ニ同ジ。

らうさい (名) 癆瘵 らうがい(癆咳)ニ同ジ。らうしやう(癆症)ノ條ヲ見ヨ。書言故事(宋、胡繼宗)十、果實類「一片入レ口沈痾痊」注「沈痾、[illegible]也、[illegible]」(貞享、西鶴)四「下ニ焦ガルル思ヒ、火動トナッテ、癆瘵ニ身ヲ苦シメ」

らうざいばら (名) 薔薇ノ一種。葉ハ小サクシテ山椒ニ似、花ハ大キクシテ牡丹ニ似タリ。ボタンイバラ。

らうさう (名) 狼蹌 歩キブリノ不安定ナルコト。ヨロメクコト。蹣跚。柳宗元詩「[illegible]」

らうさう (名) 老莊 支那ノ老子經、及、莊子ト云フ書。又、ソノ學説。道家ト云フ。其學説ハ、虛無ヲ以テ天地萬物ノ本源トシ、無爲ヲ以テ教義ノ極致トスルモノニシテ、儒家ノ孔子ノ教ト大イニ異ナリ。莊老 晉書、郭象傳「象字子玄、少有才理、好老莊、能清言」

らうさうのがく (名) 老莊學 老子、莊子ノ説ヲ祖述スル學問。前條ノ語ヲ參見セヨ。金史、顯宗孝誠皇后傳「后好詩書、尤喜老莊學、純淡清懿、造次必於禮」

らうさく (名) 勞作 ホネヲリ働クコト。又、ホネヲリワザ。勞動

らうざん (名) 老殘 古ヘ、オイテ、疾病ニカカリタルモノ、調庸ヲ全免セラル。政事要略、五十七、交替雜事「老殘帳」

らうざや (名) 牢鞘 德川時代、牢屋ノ

[illegible]ノ外ニ[illegible]、[illegible]出入可レ爲レ致候」

らうし (名) 牢死 入牢中ニ死ヌルコト。獄屋ニテ死去スルコト。獄死

らうし (名) 老死 年オイテ死ヌルコト、オイジニ。莊子、胠篋篇「民至ニ老死一而不ニ相往來一」延慶本、平家物語、三、本、大政入道他界事「今年六十四ニゾ成給ニケル、云云、老死ト云ヘキニ非レドモ、宿運忽ニ盡テ、云云」

らうし (名) 浪死 イタヅラニ死ヌルコト。イヌジニ。ムダジニ。徒死。通鑑、隋紀「[illegible]作ノ無ノ向[illegible]浪死歌」

らうし (名) 浪士 らうにん(浪人)ニ同ジ。文久紀事、六、十二月「文久二年」九日、浪士之內有志之者取扱、[illegible]、御手[illegible]付候[illegible]下之」

らうじつ (名) 老實 事ニナレテマメヤカナルコト。老巧ニシテ堅實ナルコト。

らうしん (名) 勞神 〔莊子、徐無鬼篇「勞ニ君之神與レ形ヒ」心ヲ勞スルコト。心ヲクルシムルコト。心配スルコト。

らうしん (名) 老親 年オイタルオヤ。岑參[illegible]「更作ニ東征賦一、知ニ君有ニ老親一」

らうしん (名) 老臣 (一)年オイタル臣。又、老功ノ臣。杜甫、蜀相詩「三顧頻煩天下計、兩朝開濟老臣心」太平記、一、御告文事「御前ニ候ヒケル老臣、皆悲啼ヲ含マヌハ無リケリ」 (二)身分重キ臣。からう(家老)ニ同ジ。

らうしん (名) 狼心 殘忍性ヲオビタル心。宋言教文「念ニ秦關之百二一難レ遏ニ狼心一、笑ニ齊容之三千一不レ如ニ雞口一」

らうじん (名) 良人 りやうじん(良人)

ノ條ノ(一)ニ同ジ。字類抄「良人、ラウジン」

らうじん (名) 老人 年老イタル人。トシヨリ。[illegible]

らうじんせい (名) 老人星 又、らうじんきょくせい(南極星)ノ異名。其條ヲ見ヨ。[illegible]

らうしや (名) 牢舍 (一)牢屋。書言字考節用集、一、乾坤門「牢舍、牢屋、俗作ニ籠屋一」 (二)入牢スルコト。入獄「牢舍申付ク」

らうしやう (名) 老將 (一)年トリタル大將。老將軍。史記、高祖紀「懷王諸老將、皆曰、項羽爲レ人、僄悍猾賊」 (二)年久シク經驗ヲ積ミテ、軍事ニタケタル大將。宿將。

らうしやう (名) 勞傷 苦勞シテ、心ヲ傷ムルコト。庭訓往來、十一月「閑居䑛氣、愁歎勞傷、鬪ニ失食、深更夜食」

らうしやう (名) 勞症 病ノ名。肺ノ、結核ニ罹レルモノ。卽チ、結核性ノ肺病ノ、咳ヲ發シテ、體、次第ニ勞ル。勞。勞氣。勞咳。肺勞。癆瘵 けっかく(結核)ノ條ヲモ見ヨ。柳多留、[illegible]、二、ろうしやう[illegible]

らうじやく (名) 老弱 年ヨリト、コドモト。老若。孟子、[illegible]「[illegible]」太平記、[illegible]、廿八、[illegible]弱婦女ニ至ルマデ、廿萬人ヲ土ノ穴ニ入テ、云云」

らうじやく (名) 狼藉 (一)らうぜき(狼藉)ニ同ジ。運歩色葉集「狼藉、ラウジャク、[illegible]」 (二)[illegible]狼藉[illegible]

ノ略。めつもん(滅門)ノ條ヲ見ヨ。運歩[illegible]三、七、十一(午日)、四、八、十二(酉日)、天火亦同、大[illegible]タ大禍、滅門、狼藉、設日ハ四節ノ惡日、云云」

らうしゆ (名) 老手 老練ナルコト。モノナレタル腕マヘ。又、ソノ人。蘇軾詩「老手王摩詰、窮交孟浩然」

らうじゆ (名) 老壽 年オイテイノチナガキコト。長壽。長生。長命[illegible]

らうじゆ (名) 老儒 年ヨリテ學識アル儒者。宿儒。[illegible]

らうじゆう (名) 郎從 家ノ子。ラウドウ。家人。家來。平家物語、七、木曾山門牒狀事「其資財ヲ奪ヒ取ッテ、悉ク郎從ニ與ヘ、云云」

らうじゆく (名) 老熟 年久シク經驗ヲ積ミテ、物事ニ熟練スルコト。老巧成熟。老練。

らうしよく (名) 老職 大名ノ家老ノ職。又、幕府ノ老中ノ職。

らう・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 老 (一)年オユ。年長ク。詩經、鄘風、女曰雞鳴「宜言飮酒、與子偕老」 (二)仕ヲ辭シテ退ク。致仕。[illegible]

らう・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 勞 イタヅク。ホネヲル。ハタラク。國語、越語「天道盈而不レ溢、盛而不レ驕、勞而不レ矜ニ其功一」

らうす ロウ・ス **らう・す**・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）〔勞〕（一）イタヅカス。ホネヲラス。ハタラカス。左傳、僖公三十二年「勞師以襲遠、非所聞也」（二）ナグサム。ネギラフ。慰問ス。禮記、月令篇「勞農勸民、毋或失時」

らう・ず ロウ・ズ ・ブル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）〔領〕りやうず（領）ニ同ジ。源、十八、松風四「身ヅカラらうずる所ニ侍ラネド、又知リ傳ヘ給フ人モナケレバ、云云」同、五十、浮舟三十八「因幡守ナルガらうずる莊ニ、ハカナウ作リタル家ナリケリ」

らうすい ロウ・スイ（名）〔老衰〕オイテ身ノオトロフルコト。老耄。荀子、正論篇「老衰而㧡」謠曲、雨月「老衰ノ眠リ深キ夢ニ歸ル古ヲ、松ガ根枕シテ共ニイザヤマドロマン」

らうすい ロウ・スイ（名）〔老悴〕オイテ憔悴スルコト。年トリテヤツルルコト。謠曲、檜垣「老悴衰ヘ形モナク、露命窮マッテ霜葉ニ似タリ」

らうすい ロウ・スイ（名）〔狼燧〕らうくわ（狼火）ニ同ジ。運歩色葉集「狼燧、ラウスイ」

らうせい ロウ・セイ（名）〔牢晴〕オダヤカニ好クハレタルコト。又、ソノ天氣。

らうせい ロウ・セイ（名）〔朗晴〕ホガラカニ好クハルルコト。又、ソノ天氣。快晴。

らうせい ロウ・セイ（名）〔老生〕（一）年オイタル書生。老書生。三國志、魏志、管輅傳「夫老生者、見不生、常譚者見不譚」（二）老人ノ謙稱。

らうせい ロウ・セイ（名）〔老成〕〔老練成功ノ略〕（一）オトナビタルコト。左思、吳都賦「老成奕世、躍馬疊跡」（二）モノナレタルコト。梁灝、謝恩詩「也知年少登科好、爭奈龍頭屬老成」

らうせいじん ロウセイ・ジン（名）〔老成人〕經驗ヲツミ

テ事ニナレタル人。老巧ノ人。又、オトナビタル人。詩經、大雅、蕩之什、蕩篇「雖無老成人、尚有典刑」

らうせう ロウ・シヨウ（名）〔老少〕老年ト、少年ト。年ヨリト、ワカモノト。史記、貨殖傳、潁川南陽「出不遠千里、不擇老少、皆、爲富厚也」平家物語、四、南都返牒事「親父忠盛昇殿ヲ許サレシ時、都鄙ノ老少、皆蓬戸ノ瑕瑾ヲ惜ミ、云云」

らうせうふぢやう ロウシヨウ・フ・ジヨウ（句）〔老少不定〕老イタルモ少キモ、死期定マラザルヲ云フ。人ノ命數ハ甚ダハカナキコト。觀心略要集「世人之習也、於老少不定之境、成千秋萬歲之執」謠曲、夜討曾我「老少不定ト聞ク時ハ、若キ命モ頼マレズ、老イタルモ殘ル世ノ習ヒ」

らうぜき ロウ・セキ（名）〔狼藉〕〔釋文「狼、藉、艸而臥、去則穢亂」〕（一）ミダリガハシキコト。物ノミダレタルサマ、又ハ、器具ナドノ、算ヲ亂シタル状ニ云フ語。史記、滑稽傳「日暮酒闌、合尊促坐、男女同席、履舃交錯、杯盤狼藉」平家物語、六、紅葉事「或夜、野分ハシタナウ吹イテ、紅葉皆吹キ散ラシ、落葉頗ル狼藉ナリ」（二）又、らうぜやく。理不盡ニ他ヲ犯スコト。亂暴。後漢書、張酺傳「放縱狼藉」下學集、下、態藝門「狼藉、注「人之狂亂、如狼所藉草散亂也」」盛衰記、二、上皇臨幸六波羅事「是又平家ノ狼藉ノ第二ノ度也」「狼藉ニ及ブ」狼藉者」

らうぜきもの ロウセキ・モノ（名）〔狼藉者〕亂暴ナル所行アル者。亂暴者。狼藉人。義經記、二、鬼一法眼事「洛中ニコレホドノ狼藉者ヲ、誰ガハカラヒトシテ、門ヨリ内ヘ入レケルゾ」

らうぜん ロウ・ゼン（副）〔朗然〕ホガラカナル状ニ云フ語。晉書、衛玠傳「驃騎將軍王濟、云云、嘗語人曰、與玠同遊、冏若明珠之在側、朗然照人」

らうぜん ロウ・ゼン（副）〔琅然〕らうらう（琅琅）ニ

同ジ。蘇軾、與米元章書「兒子於何處得寶月觀賦、琅然誦之、老夫臥聽之、未半躍然而起」

らうそう ロウ・ソウ（名）〔老叟〕トシヨリ。オキナ。老翁。老爺。後漢書、劉寵傳「有五六老叟、尨眉皓髮、自若邪山谷間出」

らうソウ ロウ・ソウ（名）〔老僧〕年オイタル僧。老衲。韓愈、與孟尚書書「潮州時、有一老僧、號大顛、頗聰明、識道理」著聞集、十六、[illegible]「作ノ山ノ峯ヨリ、ヤン事ナキ老僧出デ來テ」

らうそく ロウ・ソク（名）〔老足〕老人ノ足。又、老人ノ歩ミ。老脚。謠曲、遊行柳「遊行ノ聖トハ、札ノ御所望ニテ候カ、老足ナリトモ、今少シ急キ給ヘ」

らうそだい ロウ・ソダイ（名）〔老措大〕年オイタル書生。そだい（措大）ノ條ヲモ見ヨ。

らうたい ロウ・タイ（名）〔老態〕年オイタル容子。王禹偁、揚州寒食詩「老態厭春華、病身變宿醒」

らうたい ロウ・タイ（名）〔老體〕オイタルカラダ。年寄ノ身。老身。老軀。二曲三體人形圖（應永、世阿彌）「老體、閑心遠目」

らうだい ロウ・ダイ（名）〔老大〕〔少小ニ對ス〕老人ニナリタルコト。杜甫、送高三十五書記詩「男兒功名遂、亦在老大時」

らうだい ロウ・ダイ（代）〔老臺〕目上ノ人ヲ敬シテ云フ對稱ノ代名詞。賢臺。尊臺。

らうたいじん ロウ・タイ・ジン（名）〔老大人〕（一）老人、長者ノ敬稱。（二）他人ノ老父ノ敬稱。

らうたう ロウ・トウ（名）〔潦倒〕〔潦ノ音、老ニカヨヒテ、潦倒ヲ老衰ノ意トス〕（一）老衰スルコト。又、零落スルコト。蘇軾、姪安節遠來夜坐詩「嗟予潦倒無歸日、今汝蹉跎已半生」嵇康、與山巨源絕交書「足下舊知、吾潦倒麤疎、不切事情」朗詠集、下「昔爲京洛聲華客、今作

江湖潦倒翁」（二）モノゴトニコセコセセザルコト。又、容姿ノ温藉ナル状、又ハ、擧動ノ縦漫ナル状ニ云フ語。[illegible]

らうたう ロウ・トウ（名）〔莨菪〕（一）ヲメキグサ。オホミルクサ。はしりどころ（[illegible]）ニ同ジ。（二）誤リテ、[illegible]。（[illegible]ノ形、[illegible]草ノ花ニ似タレバナリ）

らうたう ロウ・トウ（名）〔老黨〕〔若黨ニ對ス〕昔、武士ノ中ニテ、相當ノ年輩ノ者ノ稱。夏山雜談、四「老黨、若黨トイフ名目ハ、古昔、武士ノ黨「紀、清兩黨ノ如キ也」ノ者ノ中ニ、然ルベキ者ヲ老黨トイフ、其次ヲ若黨トイヒシトナリ」

らうだう ロウ・ドウ（名）〔郞黨〕〔郞ハ黨ノ當字ニテ、使ハルルモノ、卽チ、武士ノ黨ノ者ノ中ニテ、然ルベキモノヲ老黨ト云ヒシニ起ル、其次ナルヲ若黨ト云ヒキ〕らうどう（郞等）ニ同ジ。平家物語、七、篠原合戰事「[illegible]ニ來テ[illegible]タリ」

らうたが・る ロウタ・ガ・ル ・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）ラウタク思フ。カハユガル。源、四、夕顏四十六「三位ノ君ノらうたがり給ヒテ、カノ御アタリサラズ」

ラウだけ（名）〔羅宇竹〕らう（羅宇）ノ條ヲ見ヨ。

らうた・し ロウ・タ・シ ・キ・ケレ・ク・ク（形、一）〔勞甚し、イタハル意ヨリ移ル〕イタハシ。アイラシ。カハユラシ。〔可憐〕可愛 宇津保物語、菊宴「[illegible]らうたしト思ヒシ子ヲ（二本、ト）モ失ヒテ」延慶本平家物語、二、中、高倉宮御子達事「打ナビグマセタマヒケルゾらうたき」源、一、桐壺六「無禮シト思ホサデ、らうたうシ給ヘ」同、九、葵十「イトらうたケナルトモノスソ、云云」

らうだめ (名) [牢溜] 徳川時代ニ、入牢中ノ病人ヲ移シオキタル所。

らうちやう (名) [老丁] 大寶令制ニ、六十一歳以上ノ男子。[illegible]

らうちやう (名) [勞帳] 古ヘ、奉公ノ年數、及、功勞ナドヲ記シテ、官ニ昇ルベキ官吏ノ名ヲ記セル帳簿。除目ノ時ニ處處ヨリ提出ス。[illegible]「サテ内竪所ノ勞帳ヲトリテ、次第ニコレヲ任ズ」

らうちやう (名) [牢帳] 徳川時代ニ、入牢者ノ姓名ヲ記シオキタル帳簿。一話一言(大田南畝)廿一、[illegible]

らうぢゆう (名) [老中]「宿老衆ノ義」徳川幕府ノ制ニ、執政第一ノ職。天下ノ機密ヲ掌ル。朝家ノ大臣、鎌倉ノ執權、室町ノ管領ノ如シ。初ハ奉書連判、又ハ、奉書連判衆ト云ヘリ。加判之列。宿老　閣老　執政　御老中。[illegible]

らうぢよ (名) [老女] (一)年オイタル女。ラウニョ。老婦。姥。古樂府、捉搦歌「老女不嫁只生口」謠曲、姨捨「姨捨ノ山ハ老女ガ住ミ處」(二)武家ノ奧向ニテ、侍女ノ長タル職。

らうてつ (名) [老耋]「說文」年八十曰レ耋」左傳、僖公九年ニ老耋 杜注「七十曰レ耋」ノ二說アリ」オイボレテアルコト。又、ソノ人。老耄。[illegible]

らうどう (名) [勞動] ハタラキ。ホネヲリ、カヲツクスルコト。勞働。[illegible]

らうどう (名) [郎等] [らうたう、郎黨] ワカモノ。家ノ子。ケライ。郎從。郎黨。從者　下作、上、人倫門「郎等[illegible]作徒」山槐記、治承三年三月三日「郎等五人相具、又、郎從十人相從、郎等ハ近侍ノ者、郎從ハ外様ノ者等」平家物語、一、殿上闇打「人、家ノ郎等、云云、家貞トイフ者アリ」

らうどく (名) [朗讀] ホガラカニヨミアグルコト。李商隱、與陶進士書「有婦朗[illegible]而中有失字壞句、不見本義者」

らうどひ (名) [牢問] (拷問)ニ同ジ。

らうないあらため (名) [牢内改] らうあらため。又、らうもん。ガヲ[illegible]らたる(牢改)ニ同ジ。

らうなぬし (名) [牢名主] 又、牢内名主。徳川時代ニ、囚人ノ長ニシテ、牢内ノ雜事取締ヲ命ゼラレタルモノ。在牢囚人ノ中ヨリ之ヲ選ブ。南撰要集、寛政十二年八月の達「新入之モノ有之節ハ、云云、右之モノヘ遣[illegible]之候モノハ無之哉之旨、牢名主ヨリ相尋致シ[illegible]候モノヘ承合、云云」

らうなふ (名) [老衲] [衲ハ僧衣] らうそう(老僧)ニ同ジ。[illegible]老衲供[illegible]。邵棠、道經ニ柘溪靜林寺ニ詩「老衲不[illegible]斜陽送ニ客舟ニ」[illegible]世事、黃花紅葉自秋風」

らうなふ (代) [老衲] 老僧ノ用ヰル自稱ノ代名詞。

らうにん (名) [浪人] (一)土地ヲ持タズ、戸籍ニ入ラズ、諸國ヲ流浪スル人。浮浪人。遊民。柳宗元、李赤傳「李赤、江湖浪人也」類聚三代格、七、齊衡二年六月廿五日、太政官符「[illegible]ニ括浪人ニ事」(二)後ニ、主家ヲ去リ、仕官、職祿ヲ失ヒ、各地ヲ流浪スル士人。浪士。[illegible]

らうにやく (名) [老若] (一)老人ト、ワカキ者ト。老弱。老幼。[illegible]老ヰ、ラウニャク」謠曲、熊野「老若男女、貴賤都鄙」(二)徳川幕府ノ老中ト、若年寄ト。

らうぬけ (名) [牢脫] 囚人ノ、ヒソカニ牢ヲ脫ケテ逃ルルコト。又、ソノモノ。ラウヤブリ。脫監　脫獄　破獄　御仕置例類集、三ノ十二、寛政六寅年十一月、云云、備中國倉敷村ニ而牢致シ候無宿[illegible]吉外一人、并相牢之モノ共、牢抜致シ候一件」

らうねん (名) [老年] オイタルトシ。又、トシ寄リタルコト。又、ソノモノ。高年。老歳。高齢。[illegible]老年百病交攻、[illegible]此閑僻、在レ安」

らうのう (名) [老農] (一)年オイタル農夫。[illegible]曲「自笑民風間老農、微行不レ遣近臣從ニ」(二)年久シク經驗ヲ積ミテ、農事ニ熟達シタル農夫。論語、子路「[illegible]レ學レ稼、子曰、吾不レ如ニ老農ニ」

らうば (名) [老婆] オイタル女。オウナ。ババ。老女。老婦。老嫗。老媼。姥。[illegible]錄、第二十四則「[illegible]老婆不レ守ニ本分ニ」

らうはい (名) [老憊] 年オイテ憊ルルコト。年寄リテツカルルコト。唐書、卓行傳、陽城「[illegible]自稱ニ多病老憊、不レ堪ニ奔[illegible]ニ」

らうばい (名) [狼狽] [連文釋義(清、王言)]「狼前ニ足長、後ニ足短、狽前ニ足短、後ニ足長、狼無レ狽不レ立、狽無レ狼不レ存、若相離則進退不レ得矣」ト云フヨリ出ヅ」アワツルコト。ウロタヘサワグコト。[illegible]

らうばい (名) [老梅] (一)久シキ年ヲ經タル梅ノ樹。(二)[illegible]ノ一種。

らうばしん (名) [老婆心] クダクダシキマデニ、思ヒ過シヤル心。深切ナルココロ。略シテ、婆心。老婆心切。[illegible]

らうばのち (句) [老馬之智] [韓非子、說林、上]「管仲、隰朋從ニ於桓公ニ而伐ニ孤竹ニ、春往冬反、迷惑失レ道、管仲曰、老馬之智可レ用也、乃放ニ老馬ニ而隨レ之、遂得ニ道行ニ」トアルヨリ出ヅ」事物ハ、各其特長アルヲ喩ヘテ云フ語。平家物語、九、老馬「[illegible]山ニ迷ヒタランズル時ハ、老馬ニ手綱ヲ打チカケ、先ニ追立テユケ、必ズ道ヘ出デウズルゾトコソ教ヘ候ヒシカ」

らうばらひ (名) [牢拂] 牢屋ノ罪人ヲ悉ク放ツコト。好色一代男(天和、西鶴)四「御法事ニ付キ、[illegible]ノ牢拂ひ、[illegible]」

らうひ (名) 勞費 勞力ト、費用ト。[illegible]成帝紀[illegible]射堂、計用四十金、以[illegible]乃止、云云」

らうひ (名) [浪費] ミダリニ使ヒツヒヤスコト。ムダヅカヒ。[illegible]花費[illegible]萬里[illegible]

らうびやう (名) [老病] トシヤミ。老衰ヨリ起ル病。[illegible]記、[illegible]制[illegible]老者不[illegible]、[illegible]者不レ視、[illegible]云云」

らうふ（ロウフ）(名)【老父】(一)年オイタル父。父、其謙稱。易林節用集(慶長)上、人倫門「老父、ラウフ」(二)らうぢん(老人)ニ同ジ。史記、留侯世家「有一老父、衣褐、至良所、直墮其履圯下、顧謂良曰、孺子下取履」

らうぶつ（ロウブツ）(名) 老物。フルビタルモノ。朽チタルモノ。老朽ノ(人ニモ云フ)。晉書、宣穆張皇后傳「帝嘗臥疾、后往省病、帝曰、老物可憎、何煩出也、后慙恚不食、將自殺」

らうぶつ（ロウブツ）(名)【粮物】又、らうもつ。らうまい(粮米)ニ同ジ。粮料。易林節用集(慶長)上、食服門「粮物、ラウブツ」

らうブツ（ロウブツ）(名) 老佛 (一)老子ト、釋迦ト。(二)道教ト、佛教ト。唐書、傅奕傳「入殿中、抗老佛論」

らうへい（ロウヘイ）(名) 老兵 (一)年オイタル兵士。晉書、謝奕傳「失一老兵、得一老兵、亦何所在」(二)軍事ニ老熟シタル兵士。

らうべう（ロウビョウ）(名) 廊廟 朝政ヲ執ル御殿。廟堂。戰國策、秦策「式於政、不式於勇、式於廊廟之内、不式於四境之外」

らうほ（ロウホ）(名) 老鋪 老舗 シニセ。數代、承續ギ來レル商店。

らうほ（ロウホ）(名)【老圃】多年、耕作ニ從事シテ、はたけヲツクルコトニナレタル人。農事ニ長ケタル者。老農。論語、子路篇「樊遲請學圃、曰、吾不如老圃」

らうぼ（ロウボ）(名) 老母 年寄リタル母。年寄リノ母親。列子、力命篇「吾嘗三戰三北、鮑叔不以我為怯、知我有老母也」

らうまい（ロウマイ）(名)【粮米】糧食ノ米。カテノ飯米。糧米。ラウブツ。ラウモツ。林節用集、財寶「粮米、ラウマイ」

らうまう（ロウモウ）(名) 老耄 〔禮記、曲禮、上篇「七十曰老、而傳、八十九十曰耄」〕オイボルルコト。年オイテホクルコト。又、ソノ人。列子、天瑞篇「人自生至終、大化有四、嬰孩也、少壯也、老耄也、死亡也」

らうもつ（ロウモツ）(名)【粮物】らうまい(粮米)ニ同ジ。粮料。盛衰記、十八、文覺流罪事「伊豆ヘ趣シテ、國ノ土産、道ノ粮物ニモ所望シ給ヘカシ」

らうもん（ロウモン）(名)【勞問】ネギラヒ、トフコト。慰問。後漢書、黄憲傳「前至袁閎所、未及勞問、逆曰、子國有顏子、寧識之乎、云云」

らうもん（ロウモン）(名)【牢問】又、らうどひ。江戸時代、牢屋ニ拘禁セシ囚人ヲ訊問シテ、犯罪事實ヲ自白セシムル一種ノ方法。刑罪大秘録、牢問之事「吟味方與力同心、牢屋敷江罷越、云云、與力聞之」

らうや（ロウヤ）(名)【牢屋】牢、ト云フニ同ジ。ヒトヤ。獄舍。監獄。江都管轄秘鑑、五「牢屋ニケ所御座候ニ付、毎ケ月切ニ四人ドモ入替ヘ」

らうや（ロウヤ）(名)【老爺】トシヨリ。オヤヂ。ヂヂ。ヂイ。老人。老翁。老夫。

らうやう（ロウヨウ）(名)【老陽】〔老陰ニ對ス〕陽ノ極ミナルコト 陽ノ氣ノ最モ老イテ、其極ニ至レルコト。周易ニテハ、九ノ數ヲ云フ。らういん(老陰)ノ條ヲモ見ヨ。

らうやく（ロウヤク）(名)【良藥】又、りやうやく。效能アリテ善良ナル藥。ヨロシキクスリ。平家物語、十一、腰越事「倩事ノ心ヲ案ズルニ、良藥口ニ苦シ、忠言耳ニ逆フ、善言ナリ」

らうやくにん（ロウヤクニン）(名)【牢役人】牢ヲ守ル役人。獄卒ヲ監視スル役人。獄吏。

らうやしき（ロウヤシキ）(名)【牢屋敷】牢屋ヲ構ヘタル一區域ノ土地。昔、江戸ニテ、江戸町奉行ニ屬ス。御觸書寬保集成、九「出火之節、牢屋敷ヘ火移リ候ヘバ、切ハナシ、本所回向院ニ立退セ申候」

らうやぶり（ロウヤブリ）(名)【牢破】囚人ノ、牢ヲ破リテ逃ルルコト。又、ソノ囚人。ラウヌケ。【脱監】【脱獄】【破獄】京都町奉行所向大概覺書、二「牢破り御仕置ノ儀ニ付御書付、云云」

らうゆう（ロウユウ）(名)【老雄】年オイタル英雄。

らうらい（ロウライ）(副)【老來】年寄リテコノカタ。老年ニナリテ以來。[illegible]

らうらう（ロウロウ）(名)【浪浪】流浪ニ同ジ。[illegible]

らうらう（ロウロウ）(副)【浪浪】流ルル狀、又ハ、サマヨヒ行ク狀ニ云フ語。屈原、離騷「攬茹蕙以掩涕兮、霑余襟之浪浪」

らうらう（ロウロウ）(副)【老老】甚シク老イタル狀ニ云フ語。ヨボヨボ。トボトボ。盛衰記、三十一、青山琵琶流泉啄木事「最愛ノ母、老老トシテ、庭ニ杖ツキ走出テ、云云」

らうらう（ロウロウ）(副)【朗朗】ホガラカナル狀、又ハ、サヤカナル狀ニ云フ語。世說新語、容止篇「時人目夏侯太初、朗朗如日月之入懷」

らうらう（ロウロウ）(副)【勞勞】疲レテアル狀ニ云フ語。李白、[illegible]、勞勞[illegible]」昨日は今日の物語(寛永)上「イカニモ顏色衰へ、らうらうトシタル人、武田法眼ヘ參リ、チト氣根ノ落ツル御藥ヲ申シ受ケ度イトイフ」

らうらうし（ロウロウシ）・シキ・シケレ・シク・シク(形、二)【良良しカ】ラウタシ。愛ヅベシ。ケダカクシテ美シ。【可愛】枕草子、六、第五十段「大納言殿ハ、モノモノシウ淸ゲニ、中將殿ハイトらうらうしく、イヅレモメデタキヲ見奉ルニ」

らうらうじ（ロウロウジ）・ジキ・ジケレ・ジク・ジク(形、二)〔勞勞ノ意ヲ活用ス〕又、りやうりやうじ。物ニ巧者ナリ。事ニ馴レタリ。イタツカハシ。【更事】枕草子、七、第六十八段「カタクナニハアラデ、サヤウノ事ニ、らうらうじかりケルガ」源、三十一、槙柱[二五]「男君達、十ナルハ、云云、イトらうらうじう、物ノ心、ヤウヤウ知リ給ヘリ」

らうらん（ロウラン）(名) 老懶 年寄リテ、モノウキコト。韓愈詩「老懶無鬬心、久不事鉛槧」

らうりょく（ロウリョク）(名)【勞力】力ヲ勞スルコト。ホネヲリ。ハタラキ。荀子、非十二子篇「故勞力而不當民務、謂之姦事」

らうるい（ロウルイ）(名)【老羸】オイテ身ノオトロフルコト。又、ソノモノ。老衰。孟子、公孫丑、下篇「凶年饑歲、子之民、老羸轉於溝壑」

らうれい（ロウレイ）(名)【老齢】オイタルヨハヒ。老年。高年。高齡。楊萬里、詩「[illegible]」

らうれい（ロウレイ）(名)【狼戾】(一)狼ノ如ク慾深クシテ道ニモトルコト。貪戾。漢書、嚴助傳「閩越王狼戾不仁」(二)多クシテ散亂スルコト。狼藉。太平記、廿四、朝儀中行事事「公家ハ道ヲ日狼戾セシカバ、[illegible]」

らうれう（ロウリョウ）(名)【粮料】カテ。食料。飯米。供物。平家物語、五、文覺荒行事「道路ノ粮ニ候ヘバ、土産、粮料如キノモノモ大切ニ候」

らうれん（ロウレン）(名)【老練】年久シク經驗ヲ積ミテ、物事ニ熟練セルコト。老巧。

らうろう（ロウロウ）(名)【牢籠】(一)〔籠〕シミ困ルコト。ナヤムコト。源、三十四、下、若菜、下[七十四]

「[illegible]レテ、斯ル折ノらうらうナラズバ、エマキルマジク、ケハヒ[illegible]思フモ」[illegible]テ、[illegible]（二）[illegible]ルコト。獄中ニ囚ハレ居ルコト。（三）人ヲ[illegible]ルコト。手ノ内[illegible]マルメコムコト[illegible]」

ラオ （名） らう（羅宇）ノ條ヲ見ヨ。

ら-おり （名） ［羅織］ ウスク織リタル絹布。絹ノウスモノ。

ら-かい （名） ［螺階］ 螺旋狀ニ構ヘタル階段。螺旋式ノハシゴ。

〔ら-がい （名） ［羅蓋］ ウスモノニテ作リタルきぬがさ。竹取物語「立テル人トモハ、裝束ノ清ラナルコト物ニモ似ズ、飛ブ車ヒトツ具シタリ、らがいサシタリ」

ラ-カン （名） ［臘乾］ 〔字ノ廣東音ト云フ〕[illegible]、Rook（[illegible]）ham（股）、[illegible]シタル豚ノ股ノ肉ヲ、火[illegible]燻ヘテ固メタルモノ。はむノ條ヲモ見ヨ。

ラカン （名） ［羅漢］ （一）阿羅漢ノ略。其條ヲ見ヨ。榮花物語、三十、鶴林「摩耶夫人[illegible]如ニ造リ給ヒシタ、五百ノ羅漢、[illegible]ノ流シキ」[illegible]法ノ道ヲ知ル、羅漢ニ仕ヘケル」（二）らかんだい（羅漢臺）ノ略。

ラカン-しよう （名） ［羅漢松］ 又、らかんまつ。イヌマキ。くさまき（草槙）、及、まき（槙）ノ條ヲモ見ヨ。

ラカン-せき （名） ［羅漢石］ 又、らんかんせき。らかんいし。羅漢ノ姿シタル石。築山庭造傳、上「菩薩、羅漢ヲ庭石ニ配スルコト、庭造ノ法ナリトセリ」

ラカン-だい （名） ［羅漢臺］ 江戸ノ歌舞伎劇場[illegible]觀客席ノ一部[illegible]花道ノ附際ヨリ一間程舞臺側ニ入込ミテ、一段小高ク設ケラレタル下等ノ見物席ヲ云フ。本舞臺ニ於ケル役者ノ姿ヲ、何レモ側面ヨリノ外ハ見ルコト能ハズ、又、土間、桟敷ノ見物ヨリ之ヲ[illegible]ムレバ、羅漢ノ侍坐セルニ似タルヨリ名アリ。寶暦頃ヨリ、文化文政期ノ終リ頃マデ存シ、近世ニ至リテ亡失セリ。略シテ、羅漢。文化の川柳「大當リ、羅漢デサヘモ、五百出シ」

ラカン-はく （名） ［羅漢柏］ あすはひのき（羅漢柏）ニ同ジ。

ラカン-まき （名） ［羅漢槙］ まき（槙）ニ同ジ。

ら-き （名） ［邏騎］ 斥候ノ騎兵。モノミノタメ巡邏スル騎兵。唐書、[illegible]傳「將走[illegible]至、[illegible]騎[illegible]所[illegible]」

ら-き （名） ［羅綺］ ウスモノト、アヤギヌト。綺羅。左思、蜀都賦「[illegible]」太平記、廿、[illegible]羅綺ニタモ堪ヘザル實ハ、春ノ風一片ノ花ヲフキ殘スカト疑ハル」

ら-ぎやう （名） ［良行］ 五十音圖ノ第九ノ行ノ名。即チ、ら、り、る、れ、ろ、ナリ。

らぎやう-へんかく （名） ［良行變格］ 語學ノ語。動詞ノ活用ノ變體ナルモノ。有り、居り、侍り、在り、ノ四語ニ限ル。即チ、良行ノ音ニテ、り、る、れ、ら、り、れト變化シ、終止形ハりニテ、他ノ良行ニ活用スル動詞ノるナルト異ナリ。あり（有）、をり（居）、ナドノ條ヲモ見ヨ。

ラ-ぎり （名） ［羅切］ らせつ（羅切）ノ條ヲ見ヨ。

らく （名） ［樂］ （一）身心ノ安クシテ樂シキコト。安樂。[illegible]「一期[illegible]樂、不レ知ニ樂是苦因ニ」（二）タヤスキコト。ヤサシキコト。[illegible]「[illegible]」（三）[illegible]んざいらく（千秋樂）ノ略。（芝居ニ）（四）らくやき（樂燒）ノ略。（五）さいばら（催馬樂）ノ略。（催馬樂入綾、上）

らく （名） ［洛］ （一）らくやう（洛陽）ノ略。張[illegible]「四合[illegible]洛[illegible]」（二）ミヤコ。京都ニ。名義抄「洛、ミヤコ」[illegible]「入洛」「上洛」「洛中」「洛外」

らく （名） ［落］ らくだい（落第）ノ略。きふだい（及第）ノ條ヲ見ヨ。「及落」

らく （名） ［酪］ 又、にうのかゆ。牛、羊等ノ乳ヲ製煉シタルモノ。凝リテ[illegible]ケタルガ如ク、味、甚ダ甘シ。ソノ、牛乳ヲ製煉シタルヲ、牛酪ト云フ。[illegible]。ばた。[illegible]鹿也、木皮三寸、氷厚六尺、食、肉而飲、酪」[illegible]十六[illegible]「酪、[illegible]牛羊乳[illegible]」

〔らく （接尾） 〔るノ延言〕 モノノ狀態ヲ云フ語[illegible]他語ニ接シテ副詞トス。萬葉集、七[illegible]「[illegible]滿テバ、入ヌル礒ノ、草ナレヤ、見らく少ナク、戀フらくノ多キ」「ウラムらくハ」「ウタガフらくハ」「イフナらく」「イヒケらく」「オソらく」「オイらく」

らぐ （接尾） モノノ狀態ヲ云フ語。他語ニ接シテ動詞トス。ヤウニナル。「イララぐ」「ウスらぐ」「キララぐ」「ササらぐ」「ヤハらぐ」

らく-あそび （名） ［樂遊］ タノシミ、アソブコト。氣樂ニ遊ブコト。好色一代男、[illegible]和、西鶴）七「今日[illegible]ト定メ、云云」

らく-アミ （名） ［樂阿彌］ 〔擬人語〕 世俗ヲ離レ、安樂ニ暮ラスモノ。[illegible]記（[illegible]）一、江戸より大磯まで「[illegible]」ダサヌ、トビノリナレバ、云云、樂阿彌シレ者ニテ、[illegible]好色一代男（大和、西鶴）三「[illegible]立寄リテ見メグル」

らく-いち （名） ［樂市］ 昔、市場ノ税ヲ徴收セズシテ、自由ニ賣買スルヲ得シメシ市。[illegible]ハ男山、今コソ樂阿彌ト、云云、タノシミヲ極メ」

らく-いん （名） ［落胤］ おとしだね（落胤）ニ同ジ。字類抄「落胤、ラクキン」

らく-いん （名） ［烙印］ やきいん（燒印）ニ同ジ。[illegible]

らく-いんきよ （名） ［樂隱居］ [illegible]ニ譲リテ、安樂ニ暮ノスコト。又、ソノ人。又、ソノ住居。櫻陰比事（元祿、西鶴）一「乾坤ノ[illegible]云云」

らくいん-ばら （名） ［落胤腹］ 身分卑シキ女ノ腹ニ生レタルコト。又、ソノ子。[illegible]衰記、三十二、惟高惟仁位論事「一ノ宮ハ落胤腹、名[illegible]」

らく-えい （名） ［落英］ オチタルハナブサ。落花。[illegible]

らく-えき （名） ［絡繹］ 人馬ナドノ、絶エズツラナリツヅクコト。馬融、長笛賦「[illegible]絡繹、[illegible]也」

らく-えふ （名） ［落葉］ おちば（落葉）ニ同ジ。[illegible]

らくえふ-しよう （名） ［落葉松］ 又、からまつ。ふじまつ（富士松）ニ同ジ。大和本草、十一、[illegible]ニ多キ[illegible]」

らくか (名) 落下 オチクダルコト。オツルコト。

らくか (名) 落痂 疱瘡、癒エテ、カサブタニ作ルコト。

らくがき (名) 落書 〔落書ヲ文字讀シテ、意ヲ轉ズ〕門、壁ナドニ、嘲弄、關著ノ語、又ハ、畫ナドヲ書キチラスコト。又、ソノ書キチラセルモノ。イタヅラガキ。ムダガキ。樂書 漫題 槇山の井(寛文)「落書ヲ、セントヤ壁ニ、筆ツムジ」

らくがん (名) 落雁 (一)雁ノ、列ヲナシテ、地ニ下ラムトスルコト。杜甫、晩行口號「落雁浮寒水、饑烏集戍樓」謡曲、善知鳥「平沙ニ子ヲ生ミテ、落雁ノ、ハカナヤ親ハ隠ストスレド」江陽日記、明應九年八月十五日「堅田落雁、峯アマタ、越エテ越路ニ、先チカキ、カタダニナビキ、落ル雁ガネ」(二)〔支那ノ軟落甘ノ和製ノモノト云フ。乾菓子ニ、初ハ黒胡麻ヲ加ヘ、ソレガ斑點ヲナスコト、落雁ノ如クアリシカバ名アリト〕乾菓子ノ名。乾飯ノ粉ヲ少シ炒リテ、砂糖ノ煎汁ニカマキゼ、模ニ入レテ、種種ノ形象ニ作レルモノ。炒米糕 槇山の井(寛文)「落雁ヲ、見セヌ霞ヤ、[illegible]」[illegible](近松作)上「落雁、カステラ、羊羹ヨリ、菓子盆ハコブ腰元ノ」

らくき (名) 落暉 〔説文「暉、光也」〕沒スル日。イリヒ。ユフヒ。落日。夕陽。落陽。落照。斜陽 杜牧、九日齊山登高詩「但將酩酊酬佳節、不用登臨恨落暉」

らくき (名) 落葵 蔓草ノ名。つるむらさき(蔓紫)ニ同ジ。

らくきよ (名) 落居 〔おちゐるノ音讀〕(一)事ノ落チ居ルコト。キマリノツクコト。オチツキ。謡曲、舩辨慶「[illegible]、不會ノ由、既ニ落居シ、カナク、云云」(二)裁判ノ決スルコト。落着。落許。謡曲、鐘太鼓「先ヅ先ヅ落居ノアラン程、夫ノ代リニ籠者サセ、ソノ在所ヲ糺サン」(三)事ノ騷動ナク、本所ニ安ムズルコト。(安堵スル義)

らくく (名) 落句 漢詩ノ絶句ニテ、結句ノ稱。律ニテハ、最後ノ二句ヲ云フ。りつ(律)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。滄浪詩話「詩有發端、有落句、落句、結句也」

らくくわ (名) 落花 落華 チリバナ。散リ落ツル花。飛花。落英。王維、寒食汜上詩「落花寂寂啼山鳥、楊柳青青渡水人」

らくぐわい (名) 洛外 らくちゅう(洛中)ノ條ヲ見ヨ。大和事始、一、天地「都ノ中外ヲ謂テ洛中、洛外ト云」太平記、一、頼員回忠事「京中、洛外ノ武士トモヲ六波羅ヘ召集メ、云云」

らくくわしやう (名) 落花生 又、らくくわせい。荳科ノ一年生草本ノ名。元祿ノ末、支那ヨリ渡リシト。(近代世事談)莖、葉、共ニ扁豆ニ似テ、高サ一尺内外、黄色ノ花ヲ開キ、受精後、其花梗ハ、延長シテ地面ニ向ヒ、遂ニ地中ニ入リテ、繭ノ如キ莢果ヲ結ブ。莢ノ形、そらまめ(蠶豆)ニ似テ、稍、ネヂレ、大キサ寸餘、灰白色ニシテ、文理、堆シ。炒リテ皮ヲ剝ケバ、中ニ二三子アリ、淡褐色ニシテ、味、香美ナリ。ナンキンマメ。タウジンマメ。落地生。新潟縣ニテハ土豆、長崎ニテハさうはッせん 華夷通商考、二、福建省土産「落花生(炒テ食ス、所所ニアリ)」

らくくわせい (名) 落花生 前條ノ語ニ同ジ。

らくくわん (名) 落款 〔落成ノ款識ノ義〕書畫ノ落成ノ證トシテ、作者自ラ其姓名、字號ナドヲ記シ、若シクハ、ソノ雅號ノ印ヲ捺スコト。又、ソノモノ。書畫雛助「畫成リテ名ヲ題スルニ、一幅ノ内ニ恰好ノ所アリ、落款其所ヲ失スレバ、全局ヲ損スト畫人云ヘリ、又、畫ゴトニ花押ヲツケシハ徽宗ナリ」

らくくわん (名) 樂觀 〔悲觀ニ對ス〕(一)凡テ、物事ヲ樂シムベク、又ハ、快樂ナリト觀ズルコト。(二)樂天觀ヲ懐クコト。

らくくわりうすい (名) 落花流水 落ツル花ト、流ルル水ト。落花ト、流水ト。落花流水の情トハ、男女互ニ相思フ情。朗詠集、上「落花不語空辭樹、流水無心自入池」

らくけい (名) 落慶 佛家ニテ、らくきやう。新築、又ハ修繕ノ工事ノ落成シタルヲヨロコビ、又、ソノ祝賀。鎌倉北條九代記、一、鶴ケ岡八幡宮[illegible]小林ノ北ノ山ヲ點ジテ、宮所ヲ造營シ、鶴ケ岡八幡宮ヲ[illegible]」

らくけい (名) 烙刑 火焙ノ刑。

らくげつ (名) 落月 山ノ端ナドニ、沒セムトスル月。西ニ傾ク月。杜甫、中宵詩「飛星過水白、落月動沙虚」

らくご (名) 落語 オトシバナシ 元祿、寶永ノ頃、彦八ト云フモノ、輕口咄ニ長ズ、寶永以降、落語ハ廢絶セムトセシヲ、天明年中、烏馬等、再興セリト 只誠埃錄、二百二「近來、江戸ニオイテ、落語中興ノ祖ハ、立川談州樓、烏亭焉馬老人ナリ」

らくご (名) 落伍 隊伍ヨリ後レ離ルルコト。一團中ヨリ後レハヅルルコト。

らくご (名) 落後 仲間ニハヅレテオクルルコト。人後ニ落ツルコト。

らくさ (名) 落差 瀑布、又ハ、流水ノ如ク、水ガ高所ヨリ低所ニ落下シ、若シクハ、流下スル時、其落下、若シクハ、流下ノ高差ヲ云フ。一ニ水頭トモ云フ。

らくさい (名) 樂歳 豐作ニシテ、タノシキ年。豐年。孟子、梁惠王、上篇「樂歳終身飽、凶年免於死亡」

らくさう (名) 落想 オモヒツキ。カンガヘ。着想。杜甫、白帝城最高樓詩[illegible]

らくさうこう (名) 落霜紅 樹ノ名。うめもどき(梅擬)ニ同ジ。

らくさく (名) 落索 飲食物ノ殘リモノ。下學集、下、飲食門「落索、日本俗、呼殘羹冷炙、爲落索也」

らくさつ (名) 落札 〔落札ノ音讀〕入札ノ、己レガ手ニオチタルコト。己レガ入札ニ定マリタルコト。當籤。

らくじ (名) 樂事 タノシト思フ事ガラ。愉快ナル事。謝靈運、擬魏太子鄴中集詩序「天下良辰、美景、賞心、樂事、四者難并」

らくじ (名) 落字 ヌケジ。書キ、又ハ、組ミ漏シノ字。脫字。易林節用集(慶長)上、言辭門「落字、ラクジ」

らくじつ (名) 落日 イリヒ。ユフヒ。夕陽。斜陽。落暉。落照。杜甫、越王樓歌「樓下長江百丈清、山頭落日半輪明」謡曲、羽衣「落日ノ紅ハ、蘇命路ノ山ヲウツシテ、云云」

らくしんぷ (名) 絡新婦 ぢよらうぐも(女郎蜘蛛)ニ同ジ。

ラクシャ (数) 洛叉 落叉 〔梵語、Lakṣa〕數ノ名。十萬ヲ云フ。玄應音義、廿三

「落文、又言ニ名說ハ此篇ニ十萬ニ」盛衰記、十二、一院[illegible]

らくしゃう（名）［落掌］らくしゅ（落手）ニ同ジ。

らくじゃう（名）［落城］（一）城ノオチイルコト。陥落。[illegible]（二）轉ジテ、物事ヲ維持スル能ハズシテ、人手ニ渡スコト。

らくしゅ（名）［落手］手ニ入ルコト。請取リタルコト。落掌。入手。

らくしゅ（名）［落首］（落書ノ訛ト云フ、或ハ、落書ノ一首ノ意カ）詠者ノ名ヲ隠シテ、諷刺、又ハ、嘲弄ナドノ意ヲ含メテ詠メル一種ノ戯歌。又、落書トシテ詠メル歌。略頌 林材叢談、略頌 今ノ世ニ落首ト云フハ、略頌ノ事ナルヘシ。甲子夜話、十一「明暦ノ火ノ後、武家ノ始、町方マデモ[illegible]シキドサレ金ナリ、云云、其時ノ落首、客キ雅樂、心盡ノ、豐後ドノ、江戸ニハズント、伊豆バヨカロウ、雅樂ハ酒井忠清、豐後ハ阿部忠秋、伊豆ハ松平信綱ナリ」

らくしょ（名）［落書］（一）おとしぶみ（落文）ニ同ジ 紀略、後篇、三、天德三年七月「今夜仁壽殿前落書云、云云」小右記、寛弘五年八月「去五日落書闌門出、云云、有天下事、道俗事、上達部以下堪合皆載、云云、往古來今、未有如此之落書」（二）落書ノ意ヲ、門、屏ナドニ、書キ捨ツルコトヲ、落書ト云フ。平治物語、三、大路渡誅掛獄門事「源義朝の首の獄門に懸けられたるに 下野ハ、木ノカミニコソ、成リニケレ、ヨシトモ見エヌ、上ヅカサカナ、或者、此落書ヲ見テ、申シケルハ、云云」

らくしょく（名）［落飾］髮ヲ剃シテ佛門ニ入ルコト。（王公ナドノ身分アルモノニ云フ）落髮 剃髮 大慈恩寺三藏法師傳[illegible]、十三、寛仁元年四月廿九日、[illegible]太上天皇、依不[illegible]、年四十二」

らくすけ（名）［樂助］〔擬人語〕氣樂ナルモノ。織留（元祿、西鶴）二「隠居リノ樂助」

らくせい（名）［落成］作リテ成就スルコト。デキアガリ。竣功。東園友聞（元）「東平富人新居落成、邀丘吾人[illegible]一言以贈」

らくせう（名）［落照］夕日ノ光リ。落暉。駱賓王詩「[illegible]落照、入泰差歩障引朝霞」

らくせき（名）［落籍］（一）名前ヲ除キテ身ヲ引クコト。大慶右識補（明、[illegible]）「唐書宗方荒宴、軍士落籍者衆、皆聚山澤爲盜」（二）特ニ、娼妓ナドヲ、妓籍ヨリ名ヲ除キテ、廢業セシムルコト。ミウケ。贖身。

らくせき（名）［絡石］灌木ノ名。ていかかづら（定家葛）ニ同ジ。

らくせん（名）［落選］選擧ニハヅルルコト。當選セザルコト。

らくソウ（名）［落僧］墮落シタル僧。破戒僧。甲陽軍鑑、品第四十八、第十八「サナクバ落僧、落僧ノ隔有ルマジ」

らくそん（名）［落蹲］雅樂ノ曲ノ名。ふそり（納蘇利）ノ條ヲ見ヨ。宇津保物語、藏開、下三十七「宮アコ君らくそん、イチアコ君陵王」

らくだ（名）［落墮］だらく（墮落）ニ同ジ。源氏色葉集「落墮、フクダ」

らくだ（名）［駱駝］（一）〔反芻偶蹄類ノ獸名〕亞細亞、及、亞非利加洲ニ産ズ。形、馬ニ似テ大キク、高サ八尺許リ、頭、羊ニ似テ長ク、頸ノ長サ、四尺許リ、頭ヨリ蹄マデ一丈許リ、胸ヨリ尾本マデ九尺許リ、全身、褐色、脚、高クシテ、二三節アリ、背ニ[illegible]（[illegible]）ナルト、一箇（亞非利加産）ナルトアリ。性、順良ニシテ、能ク重キヲ負ヒ遠キニ行キ、殊ニ胃臟ノ一部ナル瘤胃ニ、多クノ養分アリテ、之ニ液體ヲ貯ヘ、任意ニ出シテ飲ムヲ得、故ニ、炎熱、飢渇ニ堪フ。橐駝 [illegible] 推古紀、廿六年八月、[illegible]」（二）文政年中、駱駝ワタリテ、見世物トナル。ソレヨリ俗ニ、長大ニシテ使用ナラヌモノ、又ハ、形大キクシテ、鈍ナラヌヤウノモノヲ云フ稱。堅カラヌ炭ヲ、らくだ炭トモ云ヘリ。（三）鮫ヲ切賣ニシタルモノノ稱。[illegible]九、[illegible]文政年中、云云、鮫ヲ切賣ニシテ、コレヲモらくだト云フ」（四）能ク夫婦連立チテ歩クコトノ稱。（大阪）

らくたい（名）［落胎］人工ニヨリテ、胎兒ヲ母體ヨリ産ミ出サシムルコト。又、ソノ兒。墮胎。紀略、後篇、四、天德三年二月十三日「右兵衛陣前、[illegible]落胎ノ[illegible] 卅日穢」

らくたい（名）［落帶］琵琶ノ磯（其條ヲ見ヨ）ヲ張ル革。樂家錄、九、琵琶之名所「落帶、是張磯革之名也」盛衰記、三十一、青山琵琶流泉啄木事「此琵琶ノ造リ樣、云云、虎ノ皮ノ撥面落帶ナリ」

らくだい（名）［落題］詩、歌ナド、詠メル心ノ、其題ノ旨ニ合ハヌモノ。ばうだい（傍題）ノ條ヲモ見ヨ。下學集、下、態藝門「落題、ラクダイ、詩歌所言」

らくだい（名）［落第］略シテ、落。きふだい（及第）ノ條ヲ見ヨ。白居易、送常秀才詩「笑倚看花眼、春風落第心」

らくだいも（名）［駱駝芋］やまのいも（薯蕷）ノ異稱。

らくたく（名）［落託］〔史記、酈生傳、注「[illegible]、落託、[illegible]」〕らくはく（落魄）ニ同ジ。

らくだずみ（名）［駱駝炭］[illegible]（土竈炭）ニ同ジ。らくだ（駱駝）ノ條ノ（二）ヲ參見セヨ。

らくたん（名）［落膽］力ヲオトスコト。ガッカリスルコト。ヤキモキ。失膽。[illegible]

らくち（名）［樂地］安樂ナル場所。安樂ナル土地。樂土。樂境。樂園。[illegible]

らくちしゃう（名）［落地生］らくくわしゃう（落花生）ニ同ジ。

らくちゃう（名）［落丁］〔或ハ、落帖ナドトモ記ス〕書物ヲ綴ヅルトキニ、紙ヲ綴ヂ洩ラシタルモノ。[illegible]

らくぢゃく（名）［落着］[illegible]（一）オチツクコト。物事ノ定マリ決スルコト。[illegible]（二）江戸時代、訴訟事件ノ判決ノ稱。[illegible]

らくちゅう（名）［洛中］ミヤコノウチ。京都ノ市街ノ中。京中。其外ヲ洛外ト云フ。京都。太平記、十七、[illegible]「吉野ノ帝ハ、洛中ヘ臨幸モ不成、云云」

らくてう（名）［落潮］オチシホ。ヒキシ

ホ。退潮　うきほ(滿)ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]」

らく-てつ (名) 烙鐵　やきがね　燒金ノ條ノ(一)ニ同ジ。名物六帖、三、器財箋「烙鐵、ヤキガネ、行厨集、烙鐵[illegible]」

らく-てん (名) 樂天〔厭世ニ對ス〕天ヲ樂シムコト　自己ノ境遇ニ滿足シテ、苦悶セヌコト　世ノ中ヲ樂觀スルコト。カクノ如ク現實世界ヲ觀ズルコト。樂天觀ト云フ。孟子、梁惠王、下篇「以レ大事レ小者、樂レ天者也、以レ小事レ大者、畏レ天者也」

らくてん-くゎん (名) 樂天觀〔厭世觀ニ對ス〕前條ノ語ヲ見ヨ。

らく-ど (名) 樂土 (一)安樂ナル場所。安樂ナル土地　樂地　樂境　樂園　詩經、碩鼠「逝將レ去レ女、適二彼樂土一、樂土樂土、爰得二我所一」(二)安樂ナル國土。法華經、序品「[illegible]」

らく-のう (名) 酪農　牛羊ヲ畜ヒテ、專ノ乳酪、煉乳ナドノ製造ヲ業トスル農夫。

らく-ば (名) 落馬　馬ニ乘リタルヨリ落ツルコト。安房ニテ、まんだり。[illegible]平家物語、四、橋合戰事「宮ハ宇治ト寺トノ間ニテ、六度マデ御落馬アリ」

らく-はく (名) 落魄〔集韻、韻會「魄、闔各切(タク)」、落魄、貧無二家業一」又、史記、酈生傳、注「索隱曰、案、鄭氏云、魄、音薄」〕オチブルルコト。姑ク慣用音ニ從フ〕零落　落託　淪落　史記、酈生傳「好二讀書一、家貧落魄、無三以爲二衣食業一、爲二里監門吏一」

らく-ばく (副) 落莫、落寞〔資治通鑑、唐紀、文宗「涯待之殊落莫」注「落、冷落也、莫、寂莫也、落莫、唐人常語」〕サビシキ狀ニ云フ語。寂莫　[illegible]

らく-はつ (名) 落髮　らくしょく(落飾)ニ同ジ。北史、魏宗室河南王曜傳「遂以落髮爲二沙門一」紀略、後編、一、延長三年三月「三品綏子內親王、落髮」

らく-はん (名) 落帆　帆ヲオロスコト。何遜、宿二南洲浦一詩「解纜及二朝風一、落帆依二暝浦一」

らく-ひつ (名) 落筆　筆ヲ下シテ書クコト　書キ始ムルコト。下筆。杜甫、[illegible]

らく-ぼく (名) 落木　葉ノ散リタル木。[illegible]杜甫、登高詩「無邊落木蕭蕭下、不盡長江滾滾來」

らく-めい (名) 落命　イノチヲオトスコト。死ヌルコト。捐命

らく-やう (名) 落陽　イリヒ。ユフヒ。落日　夕陽　落暉　落照。

らく-やう (名) 洛陽〔支那、隋唐ノ世ニ、帝都ハ河南道ニアリテ、洛陽ト云ヒシヨリ移レル名稱ナリ〕略シテ、洛。平安城(延暦遷都ノ時、今ノ京都)ハ、初、中央ノ朱雀大路ヨリ東ヲ左京トシ、唐土ノ洛陽ニ比シ、西ヲ右京トシ、長安ニ類ス。後ニ左京ノミ存セリ。其中ヲ洛中ト云ヒ、外ヲ洛外ト云フ。地方ヨリ上リ入ルヲ上洛、又ハ、入洛ト云フ。ミヤコ。花洛　京洛　京都。[illegible]「洛陽」云云、爾雅ニモ、山南水北ヲ陽ト云、洛ハ洛水ノ北ニ有故ニ、洛陽ト名付トアリ、今、日本ノ都ハ、水ナケレドモ、後周成王ノ都ヲ洛水ノ南ニ築キ給ヒシ其例ニ因テ、洛陽ト云フナルベシ」拾芥抄、中、末、京程部「京都坊名、東京(號二洛陽城一)、西京(號二長安城一)」法然上人行狀畫圖、三十三、「公儀ノ行、洛陽ニシテ年ヒサシ、[illegible]ニオモムキテ田夫野人ナリ[illegible]メン事、年來ノ本意ナリ」

らくやう-くゎ (名) 洛陽花 (一)牡丹ノ異名。[illegible]「竟名二洛陽花一」(二)ヤマトナデシコノ異名。なでしこ(撫子)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

らく-やき (名) 樂燒〔聚樂燒ノ略〕豐公、京ノ聚樂第ニアリシ時、千利休ガ朝鮮ノ陶工朝次郎(又、長次郎トモ書ス、歸化ノ韓人阿米夜ノ子)ニ命ジテ、其地ノ土ヲ以テ燒カシメ、聚樂ノ二字ヲ底ニ印セシメタルニ起ル〕略シテ、樂。手づくねノ土燒ノ陶器。多クハ茶碗ナリ。質、脆クシテ白ク、釉ニ赤、黑、ノ二種アリ、貫乳細カシ、赤ハ黃土ヲ塗リ、黑ハ加茂川石ヲ碎キ細末トシタルモノヲ塗ル。形、奇古、風雅、人ニ愛セラル。京都ノ產、今諸處ニテモ模造ス。雍州府志「樂燒陶器、樂燒代代[illegible]樂燒トハ、聚樂ト云フコトノ略語也、祖也、朝鮮國人也、[illegible]元祖也、云云」

らく-らい (名) 落雷　かみなりノオツルコト。空中電氣ト地上電氣トノ間ニ急劇ナル放電ノ起ル時ニ生ズル現象。樹木、其他、高キ物ノアル所ニ起リ易シ。カンカミトキ。カミトケ。カントキ。カントケ。ライラク。百練抄、四、一條天皇「正暦四年七月廿日、雷落二美福門下一、燒二火付柱合[illegible]」

らく-らく (副) 樂樂　身、心、安クシテ苦ミナキ狀ニ云フ語。安易　[illegible]「二期ノウチヲ、らくらくト過ギウズル事ノ嬉シサ」

らく-らく (副) 落落 (一)落莫トシテ寂シキ狀ニ云フ語。左思、詠史詩「落落窮巷士、抱レ影守二空廬一」(二)度量ノ宏大ニシテ、[illegible]拘泥セザル狀、[illegible]

らく-らく (副) 犖犖 (一)人ヨリ超絕セル狀ニ云フ語。[illegible]中丞書「惟閣下心事犖犖、與レ俗殊不レ同」(二)事ノ分明ナル狀。[illegible]

らく-るゐ (名) 落淚　ナミダヲオトスコト。流ルコト　墮淚　零淚。[illegible]命詩「對レ鏡不レ梳レ頭、倚レ窻空落淚」[illegible]長)上、言辭門「落淚、ラクルイ」

らく-ゑん (名) 樂園　愉快ナル庭園。又、安樂ナル所。樂土　極樂　ぱらだいす。

ら-けい (名) 蘿徑　ツタカヅラノ生ヒ茂レルコミチ。[illegible]

ら-げつ (名) 蘿月　ツタカヅラヲ照ラス月。[illegible]テ、蘿月ノ寂ヲ妨ケル程ニ、云云」

ラケット (名)〔英語、Racket.〕ろおんてにすニテ球ヲ打ツニ用ヰル具。木ニテ枠ヲ作リ、中ヲ強キ獸ノ腸ヨリ製セル線條ニテ張リタル杓子狀ノモノ。

ら-ご (名) 亂碁　らんご(亂碁)ノ略。[illegible]セ給ヒテ、勝タセ玉ヘルカチワザ、云云」

ら-こく (名) 羅穀〔穀ハ、シボヲ出シテ織リタル絹布〕うすぎぬト、あやぎぬト。ウスモノ。ウスギヌ。[illegible]「公主貴人妃以上、[illegible]十六色」

[illegible]分遣ハセ給テ、羅鼓ノ御袖ヲホシアヘズ」

ラ-とく（名）［羅斛］〔暹羅斛、古ヘハ、暹羅[illegible]〕[illegible]ノム[illegible]、用ヰル[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ヲモ見ヨ。

らごせい（名）[illegible]星」又、らごふやう[illegible]

らこん（名）[illegible]根、[illegible]ノ稱、男根ニ[illegible]。實雜談（天文）二「裸根、陰莖トモニ、ヌケオチタリ」

らさい（名）［羅齋］[illegible]、[illegible]。[illegible]打供ニ[illegible]。山門ハ不レ知何處羅齋去」 月江印和尚錄「不レ露ニ自己ニ遮ヲ齋供ハ只要衆生破ニ吝慳一」

らざう（名）［亂聲］又、らんせい。らんざう。らんざう（亂聲）ニ同ジ。

ら・し・シキ・シクレ・シク・シツ [illegible]其状、相似タル意ヲ云フ[illegible]。用法、接尾語ノ如シ。推古紀、廿年[illegible]、大君ノ、使ハス羅志枳」萬葉集、六四十長歌「ウベシコソ、見ル人ゴトニ、語リツギ、偲ビケ良思吉」 男らし[illegible]らし」人らし」

らし（助動）〔らむトかしトノ合カ、此語、語尾ノ變化ナシ〕輕ク推シ測リテ定ムル意ヲ云フ助動詞 サダカニハ知ラレネド、十ニ八九ハソレナラム。ラシイ。サウナ。[illegible]、元年十一月[illegible]ヲソネヲ過ギ、[illegible]。萬葉集、一ハ長歌「朝獵ニ、今立タス良思、夕獵ニ、今立タス良之、御執ノ、梓ノ弓ノ、ナカ弭ノ、音スナリ」「行クらし」櫻、散ルらし」歌、降ルらし」

らし・い（形）らしきノ音便。「カハイらしい」「メヅらしい」シヲらしい」

ら-ふう（名）［羅袖］（一）ウスモノノ袖。[illegible]（二）[illegible]女、又ハ、妓女ノ異名。[illegible]

ら-ふん-ばん（名）［羅針盤］（一）ふぁくばん（磁石盤）ニ同ジ。（二）おんばん。

ラシャ（名）［羅紗］〔葡萄牙語、Raxa. 又、Raixa. 或ハ蘭語、Lakon rassen.〕モト西洋舶來ノ毛織物、羊毛ノ精ナルモノニテ、厚ク密ニ織リ、種種ノ色ニ染ム。多ク衣服ニ用ヰル。哆羅絨　尤の草子（寛永[illegible]）「[illegible]物の品品、らしゃノ羽織ニ、チャマルノ袴」芭蕉句集、冬「雪ノ日ヤ、羅紗ノ羽織ニ、タタキ粉」

ら-しゃう（名）［羅城］京城ノ外郭。ソトグルワ。くるわ（曲輪）ノ條ノ（一）ヲモ見ヨ。天武紀、下、八年十一月「初置ニ關於龍田山、大坂山一、仍難波築ニ羅城一」

ら-しゃう-もん（名）［羅城門］又、らいせいもん。古ヘ、京都ノ外郭ノ正南ニ設ケタル門。二重閣、七間、戸五間。此樓上ニ鬼住ミタリト傳フレドモ、盜賊ナリシナルベシ。紀略、前篇、十四、弘仁七年八月十六日「夜大風、倒ニ羅城門一」 有職抄、二「朱雀中門「羅城門、七間、戸五間、二閣、朱雀ノ大路ノ南面ノ大門ナリ、云云、羅城門ヲ立テ門ト讀ス」

ラシャで（名）［羅紗手］銀地ニ識印モテ模樣ヲ出シ、ソノ模樣ノ所ヲ軟カニ脹ラマセ、羅紗ノ如クナシタル革。

ラシャ-めん（名）［羅紗綿］（一）めんやう（綿羊）ニ同ジ。（二）[illegible]西洋人ノ妾トナリタル日本婦人ヲ、卑シメテ云フ語。（紅毛人ハ、常ニ綿羊ヲ犯スト、說アリハ、

[illegible]代用ノ女ノ義[illegible]）

ら-ふく（名）［羅織］罪ナキ人ヲ罪ニ陷ルルヤウニ、イロイロト造リ構フルコト。[illegible]、招ニ集無賴數百人ハ令ニ共告ニ事、共爲ニ羅織一」

らそ（名）［絡子］又、らくそ。[illegible]ノ小サキ袈裟。くゎら（掛絡）ニ同ジ。

ラセイタ（名）［羅脊板］〔葡萄牙語、Raxeta.〕古ク、西洋ヨリ舶來セル毛織物。羅紗ニ似テ、毛、短ク、薄ク、地、厚ク太ク積ミテ織目ノ見ユルコト、[illegible]如シ。畢札縷 和漢三才圖會、廿七、[illegible]世板、フセイタ、[illegible]也」

ら-せつ（名）［羅切］〔まら（魔羅）ノ條ヲ見ヨ〕陰莖ヲ切リ去ルコト。[illegible]自宮[illegible]勢 和漢三才圖會、十、[illegible]、寺、俗云[illegible]切[illegible]」皇帝紀抄、七、承元元年二月十八日[illegible]上人、云云、搦取上人等ハ或被[illegible]切、或[illegible]其身一」

ラセツ（名）［羅刹］〔梵語、Rākṣasa.（男性）Rākṣasī（女性）羅叉娑、欒叉、惡鬼ノ名〕佛經ニ、人ヲ食フ魔ニテ、黑身、朱髮、獸牙、鷹爪、碧眼、ナリト云フ鬼。食人鬼。捷疾鬼。速疾鬼 [illegible]、廿五[illegible]、此鬼[illegible]爪[illegible]、食人血肉、[illegible]」太平記、廿八、[illegible]、何ナル惡鬼羅刹モ、是ニハ過ジト見エタリケル」

ラセツ-にち（名）［羅刹日］大凶ナリト云フ日（陰陽家ナドノ）[illegible]、下、名[illegible]刹日ハ不ル宜ニ[illegible]百事ハ必有ニ殃禍一」

ら-せん（名）［螺旋］（一）[illegible]ノ殼ノ[illegible]ノ如ク旋レル筋。（二）ねぢ（螺旋）ニ同ジ。

ラセン（名）［羅氈］〔蘭語、Rassen. 或云フ、羅紗毛氈ノ意ニ[illegible]〕舶來ノ毛織[illegible]

[illegible]、花[illegible]染ム。卓ノ敷物ナドトス。

らそう（名）[illegible]東京」金[illegible]（宋、[illegible]之）「[illegible]、[illegible]東京」

ら-たい（名）［裸體・倮體］アカハダカ。マルハダカ。スハダカ。唐書、張說傳「裸體[illegible]」

ら-ち（名）［羅致］羅ニテ鳥ヲ捕ル如クニ人ヲ引キ寄スルコト。[illegible]「以ニ[illegible]羅、[illegible]羅而致ニ之[illegible]下一」

らち（名）［埒・埓］〔守ノ音〕馬場ノ周圍ノ柵。又、馬場ノ[illegible]。[illegible]「凡[illegible]」[illegible]月十[illegible]日[illegible]」

らち-あ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）埒明 「モト加茂ノ競馬ノ、[illegible]人ノ待チ佗ビテ、言ヘル語ニ起ル」仕事ノハカドル。キマリノツク。狂言記、鐘ノ音「身ドモガアレヘ參ッタラ、如何樣ノ六ヅカシイ事ガ有ル共、埒明くるコトデ御座ル」

らちくちもない（形）ラチモナク、取締ナシ。

らち-もな-し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）〔臈次ノらっちトナリ共略〕又、らっちもなし。次第順序ナシ。亂雜ナリ。

ら-ちゅう（名）［裸蟲・倮蟲］（一）ハダカムシ。羽毛ノナキ蟲[illegible]人ノ異名[illegible]。孔子[illegible]、六[illegible]十、而人爲ニ之長一」

ラヂウム（名）〔[illegible]、Radium〕[illegible]ヲ有ス、化學[illegible]

ノ一ッ普通ハ臭化らぢゅうむトシテ得ラル、ソノ放射線ハ寫眞ノ乾板ニ作用シ、空氣ニ電氣ヲ傳導スル性質ヲ附與ス。又、人體ニ作用スル故、醫療ニ利用セラル。西暦千八百九十八年、佛蘭西ノきゅりい(Curie.)夫妻ノ發見ニカカル)

らっきょう (名) 薤 [辣韮ノ轉] 古名、オホミラ 今、又、サトニラ。ねぎ(葱)ノ類 畑地ニ栽培セラルル百合科ノ多年生草本。葉、根ヨリ叢生スルコト一二尺、ねぎヨリ狹ク細ソク、三稜ニシテ、内、空シ。秋、數莖ヲ出シ、小紫花、簇リ開ク、にら(韮)ノ花ヨリ大キクシテ觀ルベシ。實モにらニ似テ、根ハのびる(野蒜)ノ如シ、旁ニ多ク子根(卽チ、鱗莖)ヲ生ズ、漬ケテ食用トス、臭氣甚シ。タマムラサキ

らっくゎい (名) 亂廻 [静岡縣ニテハ、らっかいトイフノ] クルヒマハルコト。アレマハルコト。ラッパ。亂暴。

らっと (名) 蝲蛄 蝦ノ一種。ざりがに(蝲蛄)ニ同ジ。

ラッコ (名) 獵虎 [蝦夷語ノ音譯] 哺乳類ノ海獸ノ名。氷海ノ産、蝦夷海ニ多シ。魚介類、昆布等ヲ食トス、大ナルハ五六尺、形、河獺ニ似テ鬚アリ、前趾、尾、共ニ短ク、後肢ハ長ク後方ニ向ヒ、鰭狀ヲナシ、趾間ニ蹼アリ。毛色、暗褐ニシテ、極メテ柔軟ナリ、四方ニ摩スルニ順逆ナシ、毛皮ノ最上品トシテ、價極メテ貴シ。油糟(寛永)雜「アチヘ向ケン、コチヘ向ケンケ」ヤハラカナ、らっこノ皮ヲ、ナデテミテ」

らっさい (名) 辣菜 つけもの(漬物)ニ同ジ。[illegible]

らっし (名) 臈次 [臈次ノ音便] 臈ノ次第 又、法[illegible]ヲ見ヨ] 又、らっし。臈ノ次第。又、法臘ノ位次。長幼ノ順序。年ノ次第。名目抄「臈次、ラッシ」林逸節用集、雜用「臈次、ラッシ」庭訓往來、十月「挂答之道俗、臨時之客人、任人數、云點心云 布施物、以臈次可沙汰 給上下之品こ」

らっしもな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 無臈次 [臈次ノ音便] 臈ノ次第モ無シ。物ノ次第モナシ。長幼ノ順序モナシ。混雜ナリ。轉ジテ、らちもなし。易林節用集(慶長)上、言辭門「無臈次、ハフ、シモナイ」

らっそく (名) 蠟燭 らふそく(蠟燭)ノ音便 其條ヲ見ヨ。林逸節用集、財寶「蠟燭、ラッソク」今川大雙紙、上、蝋式法の事「二人ノ役者、チャウチンヨリ取出シテ、左ニ立役執リチガヘテトボス也、扨らっそくハ白カルベシ」

らっぱ (名) 亂波 [昔、夜討ナドスル素破ヲ、亂波ト云フ、敵ヲ恐レズ荒レマハル意、後ニ旗本奴ノ六法ヲ振ルト云フ、是レナリ、訛シテ、旗本奴ヨリ町奴ニ移ル、此謂ハ亂舞(能ノ)ト同趣ナリ] 又らっぴ。ランクヮイ。アラクレモノ。暴客。無頼漢。すっぱ(素破)ノ條、參見セヨ。北條五代記、九、關東の亂波智略の事「其比らっぱト云クセ者オホク有シ、是ラノ者盜人ニテ、又、盜人ニモアラザル心カシコク、ケナゲニテ横道ナル者共ナリ、或文ニ、亂波ト記セリ、但正字オボツカナシ、俗ニハ、らっぱトイフ、サレ共此者ヲ、國大名衆扶持シ給ヒヌ、是ハイカナル子細ゾトイヘバ、此亂波、我國ニ有盜人ヲヨク穿鑿シ、云云、已レハ他國へ忍ビ入、山賊、海賊、夜討、強盜シテ、物取事カ上手ナリ、才智アリテ謀計調略ヲメグラス事、凡慮ニ及バズ」假名草子、師門物語「向フ者ヲバ、らっぴ、らんくゎい、掛ル者ヲバ、ユウオンツバゼメ(戰ニ云フ)」(亂飛、亂廻カ轉訛カ)

らっぱ (名) 喇叭 [梵語ナリトノ説ハ、多分、[illegible]喇叭ノ鳴ル聲ヲ、ラヷ(Rava)ト稱スルヨリ、[illegible]セシナルベシ、梵語ニアラズ、(高楠順次郎ノ說)] 管樂器ノ名。軍器ノ一、銅、眞鍮ナドニテ作ル、管ニシテ、吹ク方ハ細ソク、其端ハ闊ク開キテ、聲ヲ大ナラシム。唐人笛。正字通「喇叭、軍中吹器、云云、俗謂之號筒こ」國性爺合戰、正徳、近松作「千里ガ竹、セメ鼓セメダイコ、らっぱチャルメラ高音ヲソラシ、ヒャウヒャウトコソ鬪エケレ」

らっぱくゎん (名) 喇叭管 (一)耳ノ喇叭管ハ、咽頭ヨリ中耳ニ通ズル管。咽頭ニ於ケル開口部ハ著シク開キテ、恰モ喇叭狀ヲナス。(二)女子ノ生殖器ノ一。子宮喇叭管ハ、卵巢ヨリ卵子ヲ子宮ニ送ル筋肉ノ細ソキ管。骨盤外側壁ニ於テ卵巢ノ附近ヨリ始マリ、子宮ニ達シ、其底部ニ開口シ、形、喇叭ニ似タルニヨリテ名ヅク。輸卵管トモ云フ。

らっぷ (名) 亂舞 らんぶ(亂舞)ノ條ヲ見ヨ。林逸節用集、雜用「亂舞、ラップ」狂言記、二千石「御一門ノ衆中ニモ、上ニハツメサシャレマスル、スハらっぷ也ナリマスルト、下座へ下ガラシャリマスルノカ、見ツラウ存ジテ、云云」

らつわん (名) 辣腕 スゴキウデマヘ。辛辣ナル手腕。ウデキキ。辣手。

らでん (名) 螺鈿 (一)屋久貝、蝶貝、鸚鵡貝、ナドノ殼ノ裏面ヲ、種種ノ形象ニ切リ、器物ノ面、殊ニ、漆器ノ面ニ嵌メ込ミテ、飾トスルモノ。色、白ク、紫緑ヲ帶ビテ美シ。後ニハ、鮑ノ殼ヲモ用ヰル。アヲガヒ。スリガヒ。ヒラテガヒ。癸辛雜識(宋、周密)「[illegible]、賈似道ノ作、螺鈿卓面屏風十副こ」宇津保物語、吹上、下[廿四]「らでんノ[illegible]、[illegible]ム。[illegible]貝、[illegible]」榮花物語、八、はつ花「若キ人人ハ、織物ノ唐衣ナド紺ロニチキロ[illegible]ノ左右ノ[illegible]」

ラテンご (名) 羅甸語 拉丁[illegible] [Latin] 古ヘ、羅馬ノ盛時ニ、[illegible]中心トシテ行ハレシ拉丁民族ノ一方言、十七世紀ノ頃マデ、學術、外交語トシテ、南歐羅巴ノ諸國ニ用ヰラレシガ、今ハ死語トナリ、ろおまかさりっく教、及、學術上ノ用語トシテ用ヰ[illegible]

らと (名) 羅斗 をゐなう(水囊)ノ條ヲ見ヨ。名物六帖、[illegible]、器財箋、[illegible]「羅斗、キヌフルヒ、(幼學須知)」

らぞう (名) 羅洞 [illegible]カヅラノ這ヒ[illegible]トヘル洞窟。太平記、三十七、[illegible]志賀寺上人事「[illegible]ハ三千ノ宮女ノ中ニ、容色[illegible]ニ勝レタランヲ、一人伴ヒ、羅洞ノ中ニ[illegible]、夜モスガラ[illegible]ノ聲ニ[illegible]ハレバ、ナトカ[illegible]ヲ失ハデ候ベキ」

らに (名) 蘭 [蘭ノ音、らぬノ轉] 又、らん。草ノ名。ふぢばかま(藤袴)ノ條ノ(一)ニ同ジ。源、三十、藤袴五「らにノ花ノ、イトオモシロキヲ、モタマヘリケルヲ、云云、オナジ野ノ露ニヤツルル、ふぢばかま、アハレハカケヨ、カゴトバカリモ」[illegible]らにモカレ、萌モ枯レニシ、秋ノ野ノ、萌エニケルカナ、佐保ノ山ヅラ」

らみ (接尾) モノノ狀態ヲ云フ語。他語ニ接シテ副詞トス。「ツブらみ ワヒシらみ」

らば (名) 騾馬 ら(騾)ニ同ジ。

ラバ (名) [英語、Lava.] ようがん(熔岩)ニ同ジ。

らはい (名) 羅拜 ツラナリテ拜スルコ

[illegible]

らはい (名) 螺杯螺盃 屋久貝ニテ作リタル杯。[illegible]

らばん (名) [illegible] 古ヘ、朝廷ニテ、大射ノトキ、射場ノ標。樹テヽ旗[illegible] 大射[illegible]

らひ (接尾) モノノ狀態ヲ云フ語。他語ニ接シテ名詞トナル。「ホトらひ」ヰサらひ」ワタらひ」ナカらひ」

ラピス (名) 羅甸語、Lapis infernalis.ノ略】せうさんぎん(硝酸銀)ニ同ジ。

らふ (名) 臘 [臘ニ通ズ、干祿字書「臘、俗作臘」臘ハ、古代支那ニ於ケル冬至後、第三ノ戌ノ日ノ祭。轉ジテ、年ノ意トナル】(一)出家スル者、髮ヲ剃リ受戒シテヨリ、一夏九旬ノ間、安居勤行ノ經ルヲ云フ。コレヲ年臘、法臘、僧臘、戒臘ナドト云フ。僧ノ位ハ、受戒後ノ臘ノ數ニ因リテ次第ス、之ヲ臘次ト云フ。(僧ノ歲ヲ記スルニ、俗年幾許、法臘幾許ト云フ。臘ハ安居ノ功ヨリ數フ)又、在俗ノ人ニモ、年功ヲ積ムコトニ稱フ。極臘、上臘、中臘、下臘ト云フハ、上位、中位、下位ト云フガ如シ 玄應音義、十四「大安居、[illegible]四月十五日、至八月十五日也、[illegible]至十二月、安居、今言臘近是也」[illegible]「極臘」[illegible]上臘」中臘下臘」(二)只、身分ノ貴キヲ上臘ト云フ。(三)女房ノ通稱。一位、二位、三位ノ典侍ヲ云フ 公卿ノ女ヲ小上臘ト云フ。

らふ (名) 臘 [前條ノ語原ヲ見ヨ] 陰曆、十二月ノ異稱。[illegible]「臘月」「臘餘」「容臘」

らふ (名) 蠟 [illegible] 蜂ノ[illegible]、蠟ヲ[illegible]シ、又ハ、諸器ノ模型ヲ作リ、又ハ、器具ニ塗ルナド、種種ノ用ヲ成ス物。白色、或ハ、淡黃色ニシテ、凝リテ塊ヲ成ス。種類多シ。蜜蜂ノ巢ヨリ採ルヲ、眞ノ蠟トス。サレド、今、多クハ、うるし(漆)ノ木ノ實ヲ搗キ、蒸シテ搾リ取ル。其他、はぜうるし(黃櫨漆)、こかのき(古柯樹)、ノ實ヨリモ取ル、其法、大抵同ジ。獸脂、鯨油、ヨリモ取ル。(いぼた蠟、みつ蠟、こかのき、ノ條、見合ハスベシ) 倭名抄、十五「蜜蠟、蜜蜂所成也」 蠟ヲ嚙むが如しトハ、詩文ナドノ平凡ナル[illegible]喩フル語。 楞嚴經「當橫陳時、味如嚼蠟」

らふ (名) 鑞 金類ノ器ヲ接グトキニ鎔シテ用ヰルモノ。はんだ鑞、錫鑞、眞鍮鑞、銀鑞、鉛鑞、ナドナリ。銲 釬

らふ (名) 羅布羅敷 ツラナリナラブコト。ツラナリシクコト。又、アマネク行キワタラシムルコト。 晉書、庾亮傳「臣宜下移鎮暨陽之石城下、[illegible]布江西上」

らふ (名) 蘿蔔萊菔 [らふくノ略] オホネ。大根。 碧巖錄、第三十則「僧問趙州、承聞和尚親見南泉是否、州云、鎮州出大蘿蔔頭」

らふ (接尾) モノノ狀態ヲ云フ語。他ノ語ニ接シテ動詞トス。「タメらふ」ナゾらふ」ネギらふ」ハヂらふ」ヤスらふ」飾らふ」饗シらふ」

らふがみ (名) 蠟紙 紙ノ色、蠟ニ似タルモノ。又、蠟ヲ、染ミ込マセタル紙。藥種屋ニテ、朱ナド包ミ賣レリ。

らふく (名) [illegible] (一)[illegible]ニ同ジ。[illegible]

らふぐゎ (名) 蠟畫 あぶらゑ(油畫)ニ同ジ。 [illegible]

らふけち (名) 臈纈 古ヘ、絹物ナドヲ染ムルニ、其出スベキ模樣ノ所ニ、蠟ヲ塗リテ地ヲ染メ、模樣ノミヲ、白ク染メ拔キタリシモノ。 內藏寮式「[illegible]云、夾纈、臈纈各二疋二丈」

らふげつ (名) 臘月 [臘ノ條ヲ見ヨ、臘ハ臘ト通ズ] 陰曆、十二月ノ異稱。臘月。 唐書、曆志「[illegible]元年十一月改元、云云、以十二月爲臘月」 關八州古戰錄、八、太田三樂齋[illegible]小田城ニ事「常州ノ小田讃岐入道天庵、其家ノ吉例トシテ、每年臘月晦日ノ夜、云云」

らふじ (名) 臈次 (一)臘ヲ積ミタル年次。又、法臘ノ次第 沙石集、三、下、第五條「大小ノ戒相モ知ラズ、犯制ノ行儀モ辨ヘス、ワツカニ臈次ヲ數ヘ、空シク供養ヲウクル僧ニナリハテテ、云云」(二)らっし(臈次)ニ同ジ。

らふじつ (名) 臘日 一年中ノ最終ノ日。オホツゴモリ。オホミソカ。オホトシ 除日。大晦 [illegible]用集、二、時候門「臘日、ラフジツ」注「說文、冬至後三戌爲臘、風俗通、夏曰嘉平、殷曰淸祀、周曰大蜡、漢改爲臘、臘者獵也、言田獵取獸、以祭祀其先祖也」

らふしてう (名) 蠟嘴鳥臘觜鳥 (一)しめ(鵐)ニ同ジ。(二)あとり(獦子鳥)ニ誤用ス。 字鏡 六十「獦子鳥、又云、臘觜鳥、阿止利」

らふ…なし [illegible] 和、安[illegible])一「クンヅコロンヅ[illegible]たかりツル[illegible]

らふずみ (名) [illegible] 鐘ノ銘ナドヲ搨取ルニ用ヰル墨。製法、[illegible]ヲ火ニ[illegible]、[illegible]ヲ入ル。其灰墨ハ、油煙墨ト稱スルモノニテ、六匁五分ニ、白蠟十九匁ヲ加フルナリ。(冬ノ量、夏ハ少シ減ズ)又、赤キハ紅ヲ入ル、火ニ[illegible]セバ、色黃トナレバ、[illegible]ノ熱キウチニ、忍ビテ手ノ中ニ[illegible]セ、紙ヲ指ニテ押シマゼ押シマゼス。坊間、賣ルモノ、[illegible]ナレバ、[illegible]六ノ[illegible]ヲ併セ見ヨ) 半鐘墨。石花墨

らふせき (名) 蠟石 珪酸質ノ鑛物ノ名、火山ノ凝石ナリ。質、ヤハラカク、多クハ、半透明ニシテ、色ハ、種種ナリ。石筆、印材ナドニ用ヰル。凍石 靑田石

らふそく (名) 蠟燭 音便ニ、らっそく。火ヲトボス具。紙縒ヲ[illegible]心ヲ作リ(燭心)トシ、蠟ヲ油ニ煉リタルヲ、[illegible]心ニ塗リカケ、乾シテ又塗リ、數回ニシテ成ル。コレヲ卷掛、又ハ、生掛ト云フ。スベテ、コレヲ塗リ作ルヲ、かけるト云フ。形、圓ク長クシテ、蠟ノ分量ニ因リテ、太キ、細ソキ、數等アリ、量ニ因リテ幾匁掛ト云フ。又、粗製ナルハ、葦ノ莖ニ、燈心ヲ卷キテ心トシ、牛脂、鯨脂ノ蠟ヲ、筒ニ流シ込ミテ作ル、コレヲ、筒掛、又ハ、生蠟ナドト云フ。西洋製ナル、[illegible]綿絲ノ心トシ、製法モ異ナリ [illegible]

散ス、九條家ニ、倭名抄、十二[四]燈火部「蠟燭」 太平記、卅三、大森彦七事「其國ノ者共兎角シテ起上リ、蠟燭ヲ灯テ見ルニ、云云」 職員令義解、主殿寮、云云、燈燭ニ謂、油火爲燈、蠟火爲燭也」」

らふそくび（名）［蠟燭火］蠟燭ニテ點ス火。（油火ニ對ス）

らふぢ（名）［蠟地］布、又ハ、紙ノ地合ノ、蠟ヲ引キタル如ク、光澤アリテ、滑カナルモノ。 世間尋用、元祿、西鶴、五「其後十枚還ギノ蠟地ノ紙ニ、御兎箋ノ名印マデ記ルシタルヲ贈リケルニ、云云」

らふづけ（名）［蠟付］蠟ニテ接ギタルコト。又、ソノモノ。［釬］［銲］

らふのき（名）［蠟木］はぜ（黄櫨）ノ異名。其條ノ（一）ヲ見ヨ。

らふばい（名）［蠟梅臘梅］〔臘月開キテ、其香、梅ノ如キ意ト云フ。羣芳譜ニ「人言、臘時開、故以臘名非也、爲色正似黄蠟耳」〕蠟梅科ノ落葉灌木。正保年中、支那ヨリ渡來セリト。叢生ス。高キハ丈ニ至リ、枝、葉、對生ス、葉ノ長サ四五寸、狹クシテ尖ル、肌、粗糙ナリ。冬時、九瓣ノ花ヲ開ク、皆、下ニ向フ、蕚、綠ニ、瓣、細長クシテ尖リ、黄白ニシテ光リ、蜜蠟ノ色アリ。中ニ、小瓣、九出シ、紫黑色ナリ、香、多シ、稀ニ實ヲ結ブ、長サ寸餘、内ニ數子アリ。カラウメ。ナンキンウメ。ランウメ。 書言字考節用集、六、生植門「蠟梅、ラフバイ、カラムメ、一名黄梅」 活法、本州、梅類「以其與蜜脾同時、香又相近、色酷似蜜梅故名」

らふはち（名）［臘八］陰暦十二月八日ノ稱 此日、釋迦牟尼、成道ノ日ナレバ、禪林ニテハ、前日ノ黄昏ヨリ徹夜、坐禪シ、八日ノ曉ニ至リテ止メ、道場ヲ莊嚴ニシテ佛成道會ヲ行フ。 農桑衣食撮要（元、魯明善）「臘八日取、猶存、併研極細、壓、同上、不生蟲」 武林舊事「寺院送面、靜粥、謂臘八之佛供」

らふはちがゆ（名）［臘八粥］〔モト禪家ニテ、臘八ノ日ニ、粥ヲ食スルヨリ云フ〕オコトジル。うんざうのかゆ（溫糟粥）ニ同ジ。 俳諧歲事記、四「十二月、溫糟の粥（八日）、臘八粥」注「釋尊成道ノ日也、本朝ノ五山ニ於テ、此ノ義アリ、又、唐山ニテモ、十二月八日、都ノ諸寺ニ於テ浴佛會ヲナシ、或ハ、七寶五味ノ粥ヲ贈レ、コレヲ臘八粥ト云フ由、所見アリ」

らふびき（名）［蠟引］布帛、紙ナド一、蠟ヲ塗リタルコト。又、ソノモノ。水ノ染入ルヲ防グト。

らふり（名）［臘裏］臘月ノ期間。陰曆十二月ノ中 太平記、十二、神泉苑事「火鉢ニ炭ヲ多クフコサセテ、障子ヲ立廻シ、火氣ヲ内ニ被籠タレバ、臘裏風光宛如春三月也」

ラベイカ（名）［羅面琴］〔葡萄牙語、Rabeca. 又ハ、「Rabecao.」〕絃樂器ノ一。絃三筋ニテ、弓ニテ彈クモノ。昔、葡萄牙人、渡セリ。即チ、今ノ鼓弓、是レナリ。西洋ニテハ、後ニ四絃トス、今ノ「ばいおりん」ナリ）今ノ三味線ハ、此ノ一變セルニテ、弓ヲ捨テテ、琵琶ノ撥ヲ用ヰタルナリトモ云フ。 淺草川舟行の記（寶永明暦ノ頃、神田定賢）「琉球國ハ、云云、三味線ハ蛇皮、小弓ハらべいかト云ヘリ」

らほつ（名）［螺髮］〔ほつハ、髮ノ呉音、髮ノモノ、渦卷キタル貌ヲ、法螺貝ノ狀ニタトヘタル語〕佛像ノ髮ノ、螺ノ殼ノ筋ノ如ク、縮ミ旋レルモノ。 淨住子（北齊、竟陵王子良）「得佛紺青螺髮相ニ」 沙石集、二、第八條「螺髮ハ出家ノ形ナリ」

らま（名）［羅摩］ヲガミ。かがいも（蘿藦）ニ同ジ。 廣益地錦抄、五「蘿藦、多年ナリ、冬ハ枯レテ、春、宿根ヨリ生ズ、葉細長クアック、兩對ニシテ、裏ニウス白ク筋アリ、根ヲホリテ、火ニアブリ食ス、甚甘シ、云云、花ハミルニタラズ」

ラマ（名）［喇嘛］〔英語、Lama. 喇嘛ハ西藏語ニテ、無上、又ハ、勝者ノ義〕西藏、蒙古ナドニ行ハルル喇嘛教ノ僧ノ首。大和尚。長老。西藏ニテハ、達賴喇嘛ヲ大宗トス、コレヲ活佛ト云フ。達賴喇嘛、班禪喇嘛ノ條ヲモ見ヨ。

〜らま（接尾）〔らモまモ、共ニ親愛ノ意アリ〕語調ヲトトノフルニ用ヰル接尾語。 武烈卽位前紀「驕事驕慢、都無臣節」 顯宗卽位前紀「天萬國萬押磐尊御裔僕是也」 續紀、一、文武紀、元年八月「天皇大命良麻止詔」

らまう（名）［羅網］（一）鳥ヲ捕ル網。トリアミ 曾我物語、九「羅網にとどめたまふ事唯羅網ノ鳥、餌ヲ含ム魚ノ如シ」（二）寶珠ヲ綴シテ網トナシ、掛ケ渡シテ裝飾トセルモノ。寶網。 榮花物語、十七、音樂「又、一佛世界ト見エタリ、池ノメグリニ、植木アリ、枝毎ニ皆羅網カカレリ、葩柔カニシテ、風無ケレトモ動ク」

らまうとう（名）［羅網燈］アミ燈籠。羅網ニテ飾レル燈籠。前條ノ語、參見セヨ。 榮花物語（古寫本）十九、御裳着「らまうとうトハ、或ハムラゴノ組、色色ニシテ結ビワタシ」

ラマけう（名）［喇嘛教］〔らま（喇嘛）ノ條ヲ見ヨ〕佛教ノ一派。眞言宗ニ類スル祕密佛教ニシテ、西藏ヲ中心トシテ、蒙古、及、滿洲地方ニ行ハル。西曆七百四十七年、北印度ノ巴特瑪薩巴斡ノ創ムル所、其高僧ヲ喇嘛ト云ヒ、六字ノ觀音ヲ信仰シテ、唵、摩、尼、鉢、特、米、吽ノ六字ヲ唱ヘテ、極樂ニ往來セムコトヲ旨トス。西曆十三世紀後半ニ新派起リテ、漸ク盛ントナリ、之ヲ黄衣派、或ハ、黄帽派、又、黄教ト云ヒ、舊派ヲ紅衣派、或ハ、紅帽派、又、紅教ト云フ。

ラミイ（名）［苧麻］〔馬來語、Rami.〕蕁麻科ノ植物ニシテ、からむし（苧）ニ似、東印度ノ原産、歐洲ニ多ク栽培セラレ、我ガ國ニテモ、近年、多少栽培セラル。ソレヨリ採リタル纖維ヲ、らみ絲ト云ヒ、魚網、布帛ヲ製造スル材料トス。

ラム（名）〔英語、Rum.〕糖蜜ヲ稀釋シテ醱酵セシメ、蒸溜シテ製シタル一種ノ火酒。多ク西印度諸島ニ産ジ、貯藏久シキニ隨ヒ、香、風味ヲ加フト。

ら・む・ム・メ（助動）動作ヲ推シハカリ云フ意。助動詞。「行クらむ」「語ツらむ」「見ルらめ」「アルらめ」

らん（名）［亂］（一）ミダルルコト。辨別ナクナルコト 論語、郷黨「唯酒無量、不及亂」 「亂ニ始マリ、亂ニ終ル」（二）世ノミダレ。戰爭。騷動。 左傳、隱公四年「臣聞以德和民、不聞以亂、以亂、猶治絲而棼之也」「國ノ亂」

らん（名）［襴］古名、スソツキ、縫腋ノ袍、又ハ、直衣ノ裾ノ左右ニ、襴ノ如ク着クル横幅ノ帛。 倭名抄、四、衣服具「襴、音闌、俗云如字」注「後魏胡服、便於鞍馬、遂施裾於衣、爲橫幅、綴於下、謂之襴」

らん（名）［欄］（一）オハシマ。テスリ。欄干。（二）書籍、又、新聞紙ナドノ紙面ノわく。即チ、其文字ノ周

闌ノ節、[illegible]也、自三六帖二卽用二闌干、後或以二花爲レ隈二「闌內」「闌外」
(三)新聞、雜誌ナドノ、記事ニ應ジテ、區分シタル紙面。「[illegible]欄」

らん (名) **鸞** [正韻]「鸞、神鳥也」支那ニテ、想像ノ鳥ノ名。五彩ノ具ヘ、鳳ニ似テ、青色多シ。見ハルレバ、天下安寧ナリト云フ。又云フ、鏡ニ向ヒテ己レノ影ヲ見レバ、鳴キテ舞フト。鸞鳥。字鏡抄「鸞、フム」瑞應圖云[illegible]「鸞、神之精、鳳皇之佐也」初學記 雄曰鳳、雌曰凰、[illegible]

らん (名) **蘭** (一)又、らに。ふぢばかま(藤袴)ノ條ノ(一)ニ同ジ。(二)(蘭蒿草ノ略) アララギ。ぎやうぢやにんにく(茖葱)ノ條ヲ見ヨ。(三)又、蘭科ノ草ノ名。多ク山地ニ自生スル常綠草本ナリ。葉、根ヨリ叢生シテ、細長ク、高サ一尺ニ至ル、冬、枯レズ。秋、莖ヲ出スコト一尺許リ、一莖ニ數花、五生シ、秋ノ初ヨリ半マデ開ク、外ニ瓣八、上、左、右ニ開キテ、背ヘ反リ、內ニ瓣八、相合ヒテ、前ヘ出デ、稍、垂ル、共ニ靑黃ニシテ紅線アリ、下一瓣ハ、下ヘ反卷シ、黃白色ニシテ紅點アリ、香氣、高遠ニシテ、甚ダ愛スベシ。多クハ支那種ニシテ、常ニ盆栽トス。春蘭ニ對シテ秋蘭ノ名モアリ、駿河ヨリモ出ヅ、因リテ、駿河蘭ノ名モアリ。ヲラン。建蘭 漳蘭 漢武帝、秋風辭「蘭有レ秀兮菊有レ芳、懷二佳人一兮不レ能レ忘」大膳職式「蘭、十把」(四)蘭科ノ植物ノ汎稱。

ラン (名) **蘭** おらんだ(阿蘭陀)ノ略。「蘭人」「蘭學」「蘭書」「蘭文」「蘭學」「蘭方」

らん-あく (名) **亂惡 濫惡** ミダリガハシク、亂暴ニシテ惡シキコト。[illegible]

らん-い (名) **襤衣** ヤブレゴロモ。ヤブレタルコロモ。ボロキモノ。ウヅラゴロモ。ツヅレ。敗衣。敝衣。

ラン-い (名) **蘭醫** 阿蘭陀ノ醫術。又、蘭方ノ醫師。下ノ出典ヲ見ヨ。武江年表(寬政十二年)七「曳尾庵ノ我衣ニ、蘭學醫ノ始祖トセルハ、中川淳庵、志筑カリシカド果サズ、其後、與千侯ノ作醫前野良澤(號、蘭化)ニ半ヒラケタリ、其門人杉田玄白、宇田川玄隨、桂川甫周、大槻玄澤ニイタリ、大イニ苦心シテ、此道ナレリト云ヘリ」

らん-うめ (名) **蘭梅** [香、建蘭ノ如クナレバ名アリト云フ] らふばい(蠟梅)ニ同ジ。

らん-か (名) **爛柯** [述異記(梁、任昉)「晉時、王質伐レ木至、見二童子數人棊而歌一、質因聽レ之、童子以二一物一與レ質、如二棗核一、質含レ之、不レ覺レ飢、俄頃童子謂曰、何不レ去、質起視、斧柯盡爛、既歸無二復時人一」斧の柄朽つト云フモ、此ニ基ヅク] 碁ヲ圍ミテ時ノ移ルヲ忘ルルコト。陸游詩「[illegible]爛柯」

らん-か (名) **欄架 懶架** [支那、魏ノ曹操、欹案ヲ作リ、臥シナガラ書ヲ見タルニ因リテ、名ヅクト] 中古ノ調度。後ノ見臺ナリト云フ。林逋、春日懷[illegible]詩「一榻竹風欹懶架、半軒花月[illegible]」

らん-かい (名) **亂階** (一)亂ノ起ルモトヰ。詩經、小雅、小旻之什、巧言篇「彼何人斯、居二河之麋一、無レ拳無レ勇、職爲二亂階一」(二)をつかい(戯階)ニ同ジ。太平記、十九、本朝將軍補任兄弟無二其例一事「其外、宗徒ノ一族四十三人、或ハ堂外ノ[illegible]ニ宿リ、俗骨忽ニ雲泉ノ雲ヲフミ、或ハ亂階ノ[illegible]ニ依テ、廟ヲ立ロニ[illegible]」

らん-かう (名) **濫行** ミダリナルオコナヒヲスルコト。不都合ナル行爲。不行跡。[illegible]「[illegible]醜名ヨブベキニアラズ、イトカライコトナリ」

ラン-がく (名) **蘭學** おらんだノ學問。又、おらんだノ醫學。我ガ國ニ於テ、蘭學ハ明和年中ニ起ル。初、新井君美、德川幕府ノ命ヲ蒙リ、羅馬、和蘭ナドノ人ニ就キテ、其國ノ事情ヲ問フ、次ギテ、醫官桂川甫筑、儒官青木文藏、西川如見ナド、蘭人ニ從ヒ、其言語、或ハ、醫術、曆術ヲ學ブ。コレ本邦蘭學ノ濫觴ナリ。爾後、前野良澤、杉田玄白、大槻玄澤ナド出デテ、漸ク世ニ傳ハルト。蘭學階梯(天明、大槻玄澤)[illegible]トハ、卽チ和蘭ノ學問ト云コトニテ、阿蘭陀ノ學問ヲスルコトナリ、云云、吾カ東、單ヘニ蘭ト唱ヘ、蘭學、蘭書、蘭人ナド稱スルハ、上略ノ辭ニシテ、其本ヲ失フニ似タレドモ、惟其呼ヘ易キニ取ルナリ」蘭學事始(杉田玄白)上「今時、世間ニ蘭學ト云フ事專ラ行ハレ、志ヲ立ツル人ハ、厚ク學ビ、無識ナル者ハ、漫リニコレヲ誇張ス、其初ヲ顧ミ思フニ、昔シ翁(杉田玄白)ガ輩二三人、不圖、此業ニ志ヲ興セシ事ナルカ、ハヤ五十年ニ近シ、今頃、カク迄ニ至ルベシトハ、露思ハザリシ、云云」近世名家[illegible]、一、海上隨鷗「海上隨鷗因幡人也、初稱稻村三伯、爲鳥取藩醫員、一日見蘭學階梯、感奮立志、卽乞假東遊江都、問業於大槻玄澤、與四方俊秀、砥礪切偲、竟能殫究蘭學之奧、嘗以世未有蘭學辭書、可使後進者[illegible]、云云、戮力揖修、數年成書、上諸官權、世所謂江戶波爾麻是也、云云、來寓京都、大唱蘭學、名振于一時」

らん-かふ (名) **卵甲** 雛卵ノ白身ニテ造リタル一種ノ鼈甲。べつかふ(鼈甲)ノ條ヲモ見ヨ。

らん-かん (名) **欄檻 欄干 闌干** オハシマ[illegible]

らん-かん (副) **闌干** (一)涙ノ、トメドモナク流ルル狀ニ云フ語。白居易、長恨歌「玉容寂寞淚闌干、梨花一枝春帶レ雨」(二)モノノ、縱橫ニ散リミダルル狀ニ云フ語。左思、吳都賦「金鎰磊砢、珠琲闌干」(三)日月ナドノ光輝ノアザヤカナル狀ニ云フ語。古樂府、善哉行「月沒參橫、北斗闌干」

ランカン-せき (名) **羅漢石** [らんかんハ、らかんノ音便] らかんせき(羅漢石)ノ條ヲ見ヨ。淨瑠璃物語、花ぞろへ「花園、云云、池ノ中ニハ、立石、伏石、流石、佛ノマナブらんかん石、云云、石ノ數ヲゾタタマセケル」

らん-き (名) **嵐氣** 山中ニ立ツ霧。[illegible]詩「嵐氣[illegible]」

らん-ぎく (名) **蘭菊** (一)馬鞭草科ノ草本ノ名。又、だんぎく、高サ七八寸、葉ハ、櫻ニ似テ、厚ク狹ク小サク、對生ス、枝、繁クシテ、夏、葉ノ間ニ、細ソキ莖ヲ出シ、淺紫花ヲ聚繖花序ニ開クコト穗ノ如シ。(二)蘭ノ花ト、菊ノ花ト。轉ジテ、秀美ナルモノノ相並ビタル譬ニ云フ語。漢武帝、秋風辭「蘭有レ秀兮菊有レ芳」[illegible]、四、[illegible]「契リ深カルベカリケルニ、云云」

らん-きやう (名) **鸞鏡** 又、らんけい。鸞鳥ノ形ヲ裏面ニ刻ミタル鏡。[illegible]

代、女道士上眞妃ハ、贈道士李榮詩「鸞鏡去去無消息、鸞鏡朝朝減容色」」

らんぎゃう（ランキャウ）（名）［亂行］ミダリナル行跡。不都合ナル行爲。不行跡。濫行。逕歩色葉集「亂行、ランギャウ」盛衰記、二、其盛打殿下御隨身事「コレゾ平家ノ亂行ノ初メトハ聞エシ」

らんぎゃく（名）［亂逆］又、らんげき。ムホン。謀反。

らんぎょく（名）［亂曲］亂曲 謠曲ノ一種、短文句ノミニテ獨吟ナドニ謠フモノ。書言字考節用集、八、言辭門「亂曲、ランギョク」

らんぎり（名）［卵切］蕎麥切ニ、鷄卵ヲ加ヘタルモノ。ランメン。

ラングウン-まい（名）［蘭貢米］緬甸ノ都、蘭貢（Rangoon）ヨリ輸出スル米。

らんぐひ（ラングイ）（名）［亂杙］（一）杙ヲ、次第ヲミダシテ、繁ク地ニ打込ミタルモノ。繩ヲ張リテ、敵ノ進入ヲ防グル用トナス。盛衰記、三十五、高綱渡宇治河事「河ノ底ニ入リ、ヤヤ久シク沈ミクグリテ、亂杙、逆茂木引落シ、云云」（二）次條ノ語ノ略。

らんぐひば（ラングイバ）（名）［亂杙齒］亂杙ノ如ク不揃ナル齒。齒ノ重リ生ヒテ、正シカラヌモノ。不正齒。浮世床（文化、三馬）初編、中「ロハ耳ノ脇マデ割ケテ、齒ハ亂杭齒」

らんぐん（名）［亂軍］入リミダレタル戰ヒ。亂戰。混戰。浪戰。

らんぐゎい（ランガイ）（名）［欄外］（一）テスリノ外。欄干ノ外。庾信、爲梁上黄侯子與婦書「欄外將花、居然俱笑」（二）書籍、雜誌、文書ナドノ輪郭ノ外。

らんけい（名）［蘭契］きんらんのちぎり

（金蘭契）ニ同ジ。字類抄「蘭契、ランケイ」

らんけい（名）［鸞鏡］（一）らんきゃう（鸞鏡）ニ同ジ。太平記、十八、比叡山開闢事「其光天ニ懸レル事、百錬ノ鸞鏡ノ如シ」（二）音樂ノ十二律（ジフニリツ）ノ一。其條ヲ見ヨ。

らんげき（名）［亂逆］らんぎゃく（亂逆）ニ同ジ。ムホン。逆亂。叛亂。逕歩色葉集「亂逆、ランゲキ」

らんご（名）［亂碁］賭事ノ戲。石彈キ、ノ類。其方法、詳カナラズ。チキリ。納メテ、らご。今鏡、下、第七、ありす川「甍盤所ノ方ニハ、サザレ石撒キテ、らんごヒロフ宮ナド聞エケル」圓融院扇合「宮ノ御方ニ上オハシマシテ、らご取ラセ給ヒテ、勝々セ給ヘル勝チワザ、云云」

らんごく（名）［亂國］國ノミダルルコト。又、國ヲミダスコト。又、ミダレタル國。禮記、禮運篇「大夫具官、祭器不假、聲樂皆具、非禮也、是謂亂國」盛衰記、四、山王垂跡事「亂國ノ基カ、淺マシトモ云フモ疎カナリ」

らんさう（ランソウ）（名）［卵巢］婦人生殖器ノ一。子宮ノ兩側ニ、各、一箇アリテ、胎卵ヲ藏スル處。

らんさう（ランソウ）（名）［蘭草］ふぢばかま（藤袴）ノ條ノ（一）ニ同ジ。詩經、鄭風、溱洧篇、疏「士與女方適野田、執芳香之蘭草、兮」

らんざう（ランゾウ）（名）［亂聲］又、らんじゃう。らざう。樂ニ、笛、鉦、鼓ヲ盛ンニ合奏スルコト。舞樂ニモアリ、競馬、相撲ノ勝方ニテモスルコトアリ。源、廿五、螢廿「勝チ負ケノらんざうドモ、ノノシルモ、夜ニ入リハテテ、何事モ見エズナリハテヌ」教訓抄、一、羅陵王「舞出時、吹新樂亂聲、但常ニ用小亂聲也」

らんざう（ランゾウ）（名）［濫造］ミダリニ製造スルコト。粗末ニツクルコト。「粗製濫造」

らんざつ（名）［亂雜］ミダレマジルコト。又、トリミダシテアルコト。混雜。雜亂。梁、簡文帝、眼明囊賦「明金亂雜、細實交陳」

らんさん（名）［襴衫］スソツケノコロモ。なほし（直衣）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。天治字鏡、十二、八ウ「襴衫、上乃單衣」

らんし（名）［亂視］視線ノミダルルコト。物ヲ視ルトキ、眸定（ヒトミ）マラズシテ、正シク視ル能ハザルコト。又、ソノ目。

らんしん（名）［亂心］心ノミダレタルコト。モノグルヒ。キチガヒ。狂氣。左傳、昭公二年「爾有亂心無厭、國不女堪」

らんしん（名）［亂臣］（一）國家ヲミダシ、君父ヲソコナフ臣。逆臣。孟子、滕文公、下篇「昔者禹抑洪水、而天下平、云云、孔子成春秋、而亂臣賊子懼」神皇正統記、四「亂臣賊子トイフモノハ、ソノハジメ心言葉ヲツツシマザルヨリ出デ來ルナリ」（二）天下ヲヨク治ムル臣。書經、泰誓、中篇「予有亂臣十人」、蔡注「治、亂曰亂」

らんじん（名）［亂人］（一）國家ヲミダス人。莊子、盜跖篇「湯放其主、武王殺紂、云云、湯武以來、皆亂人之徒也」（二）キチガヒ。狂人。國語、周語「無過亂人之門」好色一代男、元祿、西鶴「…涙雨袖ヲ貫キ、…ヲ持チナ、神ヲ恨ミ佛ニ歎キ、亂人トナリテ、恐シヤ恐シヤ、云云」

ランじん（名）［蘭人］阿蘭陀（オランダ）國ノ人。

らんしゃ（名）［亂射］矢、又ハ、彈丸ナドヲ、ムヤミニ發射スルコト。的ヲタシカニ定メズシテ、ムヤミニ射ルコト。

らんしゃ（名）［鸞車・鑾車］天子ノ御料ノ車。鸞輿。鑾輿。元稹、頌詩「鳳輦迎風乘、紫閣ハ鸞車避、日轉彤闈こ」

らんじゃ（名）［蘭麝］蘭花ト麝香トノ香。又、ヨキカヲリノ香。晉書、石崇傳「崇盡出其婢妾數十人、以示之、皆蘊蘭麝、被羅縠」…物語、藤原…、小只…「…ノ匂ヒニ引キカヘ…」…「…蘭麝ノ…」

らんしゃう（ランシヤウ）（名）［卵生］又、らんせい。佛教ニテ、四生（シシャウ）（胎生、卵生、化生、濕生）ノ一。鳥ナドノ如ク、卵殼內ニアリテ體ヲ形成シテ、後、出生スルモノ。大乘義章、八、末「如諸鳥等、依於卵殼、而受形者、名爲卵生」

らんしゃう（ランシヤウ）（名）［濫賞］ミダリニ賞ヲ行フコト。又、ソノ賞。書經、旅獒篇、蔡傳「無德賞、賞或加於小人、爵賞得之、反以爲恥」

らんしゃう（ランショウ）（名）［蘭省］らんせい（蘭省（ランシャウ））ニ同ジ。枕草子、四、第四十三段「蘭省花時錦帳下ト書キテ、末ハイカニイカニトアルヲ、云云」

らんしゃう（ランショウ）（名）［濫觴］〔孔子家語、三、三恕篇「江始出於岷山、其源可以濫觴」、荀子、子道「…」物覽「岷山之江、初發源於濫觴」〕物事ノハジマリ。オコリ。モト。ミナモト。起源。…世南、…「…」、保元物語、一、左大臣殿上洛事「守…盡其深致、…之濫觴、倭人不知之結構歟」

らんじゃう（ランジヤウ）（名）［亂聲］（一）らんざう（亂聲）ニ同ジ。平家物語、四、嚴島御幸事「樂屋ニ亂聲ヲ奏シ、諸卿列ニ立テ、諸衛陣ヲ引キ」（二）名乘ヲアグルコト。又、トキノコエヲ立ツルコト。公事根源、下、七月「相撲、云云、廿八日召合アリ、云云、勝ノ方、亂聲アリ」北条略記、廿二、寬平五年九月五日條「舍友立、…調舞、亦令亂聲、八時因…亦亂聲、即射…其前如…」

らんじゃたい（名）［蘭奢待］〔朱子語錄「王導嘗謂胡僧曰、蘭奢、胡語之褒譽也」蘭奢、蘭若ナリ、待ハ遇ナリ、寺ニテ、アヘシラフモノノ意ツト云フ」〕奈

良ノ東大寺、正倉院御藏ノ黄熟香(長サ凡五尺餘、徑一尺四寸、三貫五百目)ニ、聖武天皇ノ付ケタマヒシ稱。三字ノ中ニ、各、東大寺ノ字アリ、故ニ東大寺トモ云フ(蘭ノ東ヲ東ト見ルハ、椿ヲ木ト見ルガ如シ、析字ナドニアルコトナリ)寛正六年九月、足利義政、其一部ヲ切リ、天正二年三月、織田信長、其一部ヲ切ル。(一寸八分立方、二ツ) 丁子色葉集、蘭奢名「蘭奢待、ランシャタイ、名香也、自南都東大寺出、蘭奢待中有東大寺之字二」 吉野都女楠(正德、近松作)三「敵ニ向フタビゴトニ、帝ヨリ賜ハリシ蘭奢待ノ名香、内甲ニタキシメン、云云」

らんしゅ (名) 【亂酒】 無作法ナル酒盛。又、過渡ニ酒ヲ飲ムコト。 易林節用集、優長下、言辭門「亂酒、ランシュ」

らんじゅく (名) 【爛熟】 (一)果ノ熟シスギタルコト。又、ソノモノ。又、肴ノ煮エクタレタルモノ。 熟爛。 蘇軾詩「櫻桃爛熟滴』堦紅」 (二)度ヲ超エタル程ニ熟知スルコト。 陸游詩「世態十年看爛熟」

らんじん (名) 【蘭守】 名香ノ名。ぢん(沈)ノ一種。

ラン-スイ
らんすゐ (名) 【嵐翠】 山ニタツ靄ノミドリ色。翠色ノ嵐氣。 白居易、少室東巖詩「三十六峯晴、雪消嵐翠生」

ラン-スイ
らんすゐ (名) 【濫吹】【亂吹】 ミダリナルコト 亂暴 源平盛衰記、濫吹、ランスイ 注「爲亂之儀也、海人藻芥、下「近日、奉行頭人等内内ノ云次フ樣、濫吹、濫妨、傍若無人ノ事也、委ノ字ハ、限天子ニ事也、云云、如此事、當世以外亂吹也」

ラン-スイ
らんすゐ (名) 【爛醉】【亂醉】 エヒミダルルコト。甚シク酒ニ醉フコト。泥醉。 陸游詩「醉歸…市、自拔長刀…」

らんせい (名) 【亂世】 ミダレタル世。イクサノ世ノ中。戰亂ノ世。 荀子、榮辱篇「人之生固小人、又以遇亂世得亂俗、是以小重小也、以亂得亂也」 神皇正統記、四「果シテ今マデノ亂世ノ基ナレバ」

らんせい (名) 【欄井】 井桁ノアル井戶。 謠曲、金札「深キ井桁ヲ切ルナルハ、欄井ノ釣瓶繩」

らんせい (名) 【濫製】 ミダリニ粗末ニ作ルコト。 濫造

らんせい (名) 卵生】 又、らんしゃう。卵ニテ母體ヨリ生ズルコト。卽チ、鳥、魚、蟲ナドニ云ヒ、人、獸ノ胎生ニ對ス。 禮記、樂記篇「胎生者不殰、卵生者不殈」 注「内敗曰殰、殈、裂也」 運歩色葉集「卵生、ランセウ」

らんせい (名) 【蘭省】 又、らんしゃう。(一)古へ、支那ニテ、文書、奏事ナドヲ掌リシ役所。又、御史府。尙書省。蘭臺 白居易、廬山草堂詩「蘭省花時錦帳下、廬山雨夜草庵中」 (二)我ガ邦ニテハ、太政官ノ唐名トス。後ニハ、辨官ノ異名。 職原抄、上「太政官、唐名尙書省、又云蘭省、雜、修、官之唱異、近代稱辨官也」 夫木抄、三十三、錦「らむせいノ錦ノ色モ、イカナラン、カサ(タイ)ヘニホヘル、山ザクラカナ」

ラン-ショウ
らんせう (名) 【蘭蕉】 (一)蘭ト、芭蕉ト。善キモノト、惡シキモノトノ譬ニ云フ。(二)草ノ名。だんどく(檀特)ノ漢名。ソノ條ヲ見ヨ。

らんせきけいえん (名) 【蘭蓿桂筵】 詩歌、管絃ナドノ如キ風流ナル筵席。(蘭モ桂モ、共ニ香氣アル草木ナルヨリ云フ) 太平記、十三、藤房卿遁世事「蘭蓿(席イ)桂筵ノ御遊、猶頻リナリケレバ、云云」

ランセッタ (名) 〔葡萄牙語、Lanceta. 蘭語、Lancet.〕 はばり(刃針)ニ同ジ。

らんぜん (副) 【爛然】 さんらん(燦爛)ニ同ジ。 粲然。 史記、三王世家、贊「…」 傳「…らんせ、た、紅…鐵ヲイヘリ」 臣守レ義、文辭爛然、甚可レ觀也」

らんぞく (名) 【亂賊】 國家ヲミダスワルモノ。 叛亂ヲ起ス者。ムホンニン。 禮記、禮運篇「盜竊亂賊而不作、故外戶而不閉」

らんだ (名) 【懶惰】【嬾惰】 〔嬾ハ懶ニ同ジ〕 オコタルコト。ナマケ。ブシャウ。 陶潛、責レ子詩「阿舒已二八、懶惰故無レ匹」 字類抄「懶惰」

らんだい (名) 【蘭臺】【蘭臺】 (一)らんしゃう(蘭省)ノ條ノ(一)ニ同ジ。(二)太政官ノ唐名。 三代實錄、三十、元慶元年正月九日「右大臣某、…抗表、云云、伏望補…式辨於蘭臺、導…愚忠於樞密」 (三)辨官ノ唐名。 太平記、一、俊基朝臣…事「俊基ハ、云云、蘭臺ニ召仕レテ、官、蘭臺ニ至リ、職、職事ヲ司レリ」

ラン-トウ
らんたう (名) 【蘭湯】 蘭ヲ入レテ沸シタル浴湯。 建内記、文安元年五月五日「蒲節幸甚幸甚、沐…蘭湯、…蒲酒祝著如例」

ラン-トウ
らんたう (名) 【鸞刀】 〔正音、レンタウ〕 肉切リ庖丁。 太平記、廿、結城入道墮地獄事「俎ノ上ニ推ヒラメテ、鸞刀ニ鐵ノ魚箸(マナバシ)ヲ取副テ」

ラン-トウ
らんたう (名) 【鸞刀】 鋒(キノサキ)ニ、鸞ノ聲ニ似タル音ヲ發スル鈴ヲ附ケタル刀。古へ、支那ニテ、祭祀ノ牲ヲ之ニテ斷ツ。其聲、和シテ節ニ中ルト。 禮記、郊特牲篇「割刀之用、而鸞刀之貴、貴其義也、聲和而後斷也」

ラン-トウ
らんたふ (名) 【卵塔】【蘭塔】 〔禪林象器箋、二、殿堂門「卵塔、忠曰、無縫塔、形似鳥卵、故云卵塔」〕 (一)墓石。石塔ノ圓形ニシテ、鳥ノ卵ニ似タルモノ。無縫塔。 林…鐘「雲居禪師、云云、於宗覺塔之東作卵塔」 太平記、三十三、將軍御逝去事「身ハ忽ニ化シテ、…數片ノ…トナナトヒ、骨ハ空シク留リテ、卵塔一掬ノ塵トナリニケリ」 娥歌加留多(正德、近松作)…イカサマ子細アラン…ソメ…(二)…卵塔場

ラントウ-バ
らんたふば (名) 卵塔場 前條ノ(二)ニ同ジ。

らんちき (名) 【亂痴氣】 イリミダルルコト。混雜ナルコト。又、イサカヒ。喧嘩。ランチキサワギ。

らんちきさわぎ (名) 【亂痴氣騷】 前條ノ語ニ同ジ。

ランチュウ (名) 【蘭蟲】 〔俗ニ、阿蘭陀ノ蟲ノ意ト云フモ非ナリ、或ハ、卵蟲、ng ching yü.〕ノ支那音ノ轉訛ナラム〕 金魚ノ一種。體ノ肥エタルモノ。マルコ。蘭鑄。 龍睛魚 金鯰

ラン-チョウシ
らんてうし (名) 【亂調子】 調子ノトトノハヌコト。破格ノ調子。亂調。 國性爺合戰(正德、近松作)九仙山「國ノ大事ヲ前後左右ニ千筋ニ、兜ノ星ヲ輝カシ、太鼓ヲ打チ亂調子」

ランテルン (名) 〔英語、Lantern.〕 らんぷ(洋燈)ニ同ジ。

ランドセル (名) 〔蘭語、Ransel.ノ訛〕 はいなう(背囊)ニ同ジ。

らんどり (名) 【亂取】【亂捕】 (一)敵地ニ亂入シテ、物品ヲ掠メ取ルコト。 甲陽軍鑑、九、上、品第廿三「海尻ヘ御馬ヲヨセラルルトノ定アリ、コヤオトシ、亂取イタシ、カツダヲ仕、下下イサムコトカギリナシ」 (二)柔道ニテ、相手ヲ制シ、又ハ、押ヘ、投ゲナドシテ、其法ヲ習スルコト。 …心得「…ニハ、形、亂取ノ二種アリ、…亂取ハ…テ、甲胃ヲ著シタル者ヲ押ヘンガ爲メ、始メテ其法ヲ設ケタルモノナリ(始メハ、形ノ亂捕ナリシモ)」

らんにふ（ラン・ニフ）(名) [亂入] ミダレ入ルコト。妄リ押入ルコト。林[illegible]用集、[illegible]「亂入、ランニウ」百練抄、五、保安四年七月十八日「[illegible]亂入京中」保元物語、二「[illegible]左右ナク亂入ノ條、[illegible]ナリトテ、云云」

らんにふ（ラン・ニフ）(名) [闌入][闌入] 又、らんにふ。割符ナキニミダリニ門ニ入ルコト。入ルベカラザル場所ニ入リ込ムコト。字類抄「闌入、ランニフ」易林節用集(慶長)上、言辭門「闌入、ランジフ」安閑紀、元年四月「謹專爲皇后、[illegible]伊甚[illegible]闌入之罪」

ランニャ (名) [蘭若] [梵語、Araṇya 阿蘭若ノ略、其條ヲ見ヨ] 又、れんにゃ。寺院ノ稱。練若。精舍。杜甫、大[illegible]詩「巫山不見[illegible]山遠、松林蘭若秋風晩」

ラムネ (名) [英語、Lemonade. ノ訛] 夏季ノ清涼飲料ノ一種。水ニ、酒石酸、重曹、砂糖水、檸檬汁ナドヲ混ジテ作ル。

らんぱい (名) [亂盃] 順次ナク、杯ノヤリトリスルコト。座ノ順序ニヨラズシテ、ミダリニ獻酬スルコト。又、ミダリナルサカモリ。家中竹馬記「取チガヘノ時ハ、云云、初メハ次第ニ參ルヲ同盃ト申ス、後ハカヘテササルルヲ亂盃ト申ス」

らんばう（ラン・ボウ）(名) [濫妨][亂妨][亂暴] アレマハルコト。アバレルコト。又、無法ナル行爲。吾妻鏡、十五、建久六年八月六日「地頭後藤左衛門尉基清、致濫妨狼藉之由、云云、[illegible]聞子細」

らんぱう（ラン・ポウ）(名) [蘭方] 阿蘭陀ヨリ傳ヘタル醫術。又、蘭醫ヨリ傳ヘタル醫方。漢方ニ對シテ云フ。近世名醫傳、中、福田浩齋「偶讀[illegible]氏所譯和蘭內科書、論病理及治法、甚悉、乃試之果驗、於是始講究蘭方」「蘭方樞機(文化、小森玄良譯)」和蘭局方(大槻玄澤等譯)」

らんばこ (名) [覽筥][覽箱] [御覽筥ノ略] 文書ヲ入レテ、貴人ノ御覽ニ供フル筥。籐ニテ編ミ作ル。後ニハ宣旨ナドヲモ入ルルニ用ヰタリ。ツヅラバコ。ツヅラノコリ。名目抄、雜物部「覽筥、ランバコ」平家物語、八「[illegible]院宣ヲバ覽筥ニ入レラレタリ、兵衛佐殿ニ奉ル」

らんばつ (名) [亂罰] 理由ナクシテ罰セラルルコト。又、亂暴ナル仕打ヲ云フ。[illegible]記、七「日本國[illegible]イカナルコトニヲ作フン、忽ニ斯ル[illegible]ノ亂罰ニ預ル[illegible]、云云」

らんばつ (名) [濫伐] ミダリニ山林ナドノ木ヲキルコト。「山林ノ濫伐」

らんぱつ (名) [濫發] ミダリニ發スルコト。目的モナク無闇ニ發射スルコト。

らんぱつ (名) [亂髮] 散リミダシタルカミ。ミダレガミ。亂鬢。曹植、七啓「收亂髮、含[illegible]蘭澤、形[illegible]服、含[illegible]幽若」

らんび (名) [藍尾][婪尾] [藍ハ婪ニテ、貪ル意] (一)古ヘ、宴會ノトキ、杯ヲ漸漸ニ巡シツツ、最後ニ至ルトキ、三盃ツヅケテ飲ムコト。其酒ヲ、藍尾酒ト云フ。仇池筆記(宋、蘇軾)「以酒巡匝爲婪尾、一作藍尾、云云、至末坐者、連飲三杯、爲婪尾酒」台記、久安二年二月十一日「大內記長光、於[illegible]上謝座[illegible]、飲藍尾一如常」(二)轉ジテ、最終。最後。楊萬里詩「橋際婪尾春、[illegible]打頭清」

らんぴ (名) [濫費] ムヤミニツヒヤスコト。ムダヅカヒ。浪費。

ランビキ (名) [蘭引] [葡萄牙語、Alambique.] 酒類ナドヲ蒸溜セシムル器。阿蘭陀ノ製ヲ傳フ。其形、鍋ノ上ニ、又一ツノ鍋ヲ蓋トシ、其上ニ冷水ヲ盛ル、下ノ鍋ヨリ蒸氣昇リテ、蓋ノ裏面ニ達スレバ、水ノ爲ニ冷エテ露トナリ、其裏ノ一方ニアル口ヨリ流レテ出ヅ。蒸露鑵。物類品隲(寶曆、平賀源內)一、水部、薔薇露「和名バラノツユ、云云、此ノ物、らんびきヲ以テ取ル[illegible]ナリ」

らんぴつ (名) [亂筆] ミダリニ書キツケタルコト。又、ミダレタルカキザマ。

らんびん (名) [亂鬢] らんぱつ(亂髮)ニ同ジ。

らんびゃうし（ラン・ビヤウシ）(名) [亂拍子] 猿樂、能樂ナドニテ、小鼓ノミニテ奏スル一種ノ曲。[illegible]リト[illegible]仰タルヲ、云云」

らんぶ (名) [亂舞] [[illegible]、秦伯[illegible]「聞[illegible]之亂、宋注、亂、樂之卒章也」] (一)古ヘ、五節ノ舞ノ後ナド、殿上人等ノ、今樣ノ如キ短歌ヲ作リテ、謠ヒ舞ノコト。[illegible]、云云」(二)又、らっぷ。後ニ、能ノ演戲ノ間ニ、ひとさしトテ舞フモノ。元祿太平記、四十七「[illegible]、社人等ニ[illegible]ケレバ、亂舞可相催ナド申シケレド、云云」(三)踊リ狂フコト。「狂喜亂舞」

ラムプ (名) [洋燈] [英語、Lamp.] (一)洋風ノ燈火器。多ク硝子製ニテ、石油ヲ入ルル器ニ口金ヲ嵌メ、之ニ心ヲ貫キテ火ヲ點ジ、筒狀ノ火屋ヲサスモノ。石油ヲ用ヰル。らんてるん。(二)俗ニ、禿頭。ヤクヮンアタマ。キンカアタマ。

らんぷ (名) [襤褸] ツヅレ。ボロ。ボロ[illegible]

らんぷ (名) [懶婦][懶婦] (一)ナマケ女。[illegible] (二)[illegible]織ナドノ名アリ、機織ヲ怠レル懶婦、コノ聲ニ驚クト云フ俚語ニヨリ、懶婦ヲ[illegible]

らんぽん (名) [藍本] [出藍ノ意トモ出デタル語カ] げんぽん(原本)ニ同ジ。粉本。[illegible]

らんま (名) [欄間] 天井ト鴨居トノ間ニ、採光、或ハ、通風ナドノタメニ、格子、又ハ、透シ彫リ、ナドニシテ、飾リタルモノ。

らんま (名) [亂麻] ミダレモツレタル麻。又、コゲテカリタル絲。[illegible]

らんまん (副) [亂漫] 世ノミダレタル狀ニ云フ語。[illegible]記、廿七「天下[illegible]死事、[illegible]ニ[illegible]世亂ノ[illegible]ト云ヒナガラ、心ウカリケル事共也」

らんまん (副) [爛漫][爛熳] (一)花ノ咲キミダレタル狀ニ云フ語。[illegible]「百[illegible]爛漫」(二)明カニ現ハレ見ユル狀ニ云フ語。蘇軾詩「天眞爛漫是吾師」

らんみゃく (名) [亂脈] 亂レテ辨別ナキコト。亂レテ筋ノ立タザルコト。

らんめん (名) [卵麪][卵麵] 蕎麥切ニ、鷄卵ヲ加ヘタルモノ。ランギリ。

らんもん (名) 【亂文】 らもん(羅文)ノ轉。其條ヲ見ヨ。[illegible]「大臣ニ、タテ蔀コソ、伏シニケレ」庭ハらんもん、蔀ハ[illegible]形ニシテ」[illegible]隨身四人ト、らんもんニアゲサセタマヘリシハ、輕輕シカリシワザカナ、云云」

らんもん (名) 【欄門】 透模様アル門。平家物語、三、少將都還事「家ハアレドモ、欄門破レテ、蔀、遣戸モ絶エテナシ」

らんよ (名) 【鸞輿】【鑾輿】 (鸞、鑾、通用ス。)說文「鸞、赤神靈之精也、赤色五采、雞形、鳴中五音、頌聲作則至」同「人君乘車四馬、鑣八鑾(鸞鈴ノ合字)、鈴象鸞鳥之聲、和則敬也」 天子御乘用ノ御輿ノ稱。 班固、西都賦「乘鑾輿、備法駕、帥羣臣、披飛廉、入苑門」三代實錄、十二、貞觀八年閏三月朔日「鑾輿幸太政大臣東京染殿第、觀櫻花、王公已下及百官從行」太平記、三十九、光嚴院禪定法皇行脚御事「玉體ヲ臨衣草鞋ニヤツシ、鑾輿ヲ跣行ノ徒步ニ易テ、迢迢ト此ノ山中迄、分入セ給タレバ、云云」

らんよ (名) 【籃輿】 ヤマカゴ。竹作リノ乘物。 晉書、孝友傳、孫晷「父難於風波、每行乘籃輿、晷躬自扶侍」

らんよう (名) 【濫用】 妄リニモチヰルコト。「職權濫用」

らんり (名) 【亂離】 ミダレテ、人人ノ散リハナルルコト。 杜甫、樓上詩「戀闕勞肝肺、論材愧杞柟、亂離難自救、終是老湘潭」

らんりん (名) 【亂倫】 人倫ヲミダスコト。人ノ道ニ背キミダスコト。破倫。 世說、方正篇「玩雖不才、義不爲亂倫之始」

らんりんばう (名) 【蘭林房】 古ヘ、宮中ノ式乾門内ノ東ニアリテ、御物、御書等ヲ納メオカレシ所。 字類抄「蘭林房、御書所[illegible]書所」[illegible]也」

らんりう (名) 【蘭陵】 [illegible]陵王)ノ[illegible]。其[illegible]又、さへづり(詠)ノ[illegible]ナモ[illegible]ニ「らんりう[illegible]」

らんる (名) 【襤褸】 ボロキレ。ツヾレ。又、破衣。ボロキモノ。[illegible]〈左十二年「[illegible]藍縷、以啓山林」[illegible]、敝衣也」(揚氏方言ニハ、此文ヲ襤褸ト記ス)

らんれきさう (名) 【[illegible]】 ぎやうぢやにんにく(茖葱)ニ同ジ。略シテ、蘭。

らんゐ (名) 【闌遺】 牛馬ナドノ、小屋ヲ脱シテ、妄リニ放逸スルコト、財貨ノ遺失スルコト。又、ソレラノモノ。 廐牧令「凡闌遺之物、五日内申所司」[illegible]闌遺及財物等」

らめ (助動) らむノ變化。其條ヲ見ヨ。

〜らもん (名) 【羅門】 窓格子。欞子。 枕草子、七、第六十四段「スイガイ、らもん(春曙抄)、ススキナドノ上ニカイタル蜘蛛ノス」 盛衰記、三十五、義經院參事「法皇ハ中門ノ羅門ヨリ叡覽ア[illegible]」

らもん (名) 【羅文】 〔羅綺ノ織文ノ意〕(一)ウスギヌノアヤ。李羣玉詩「沅水羅文海燕回」 (二)硯ノ異名。 蘇軾、萬石君羅文傳「中書舍人羅文、久典書籍、助成文治」 (三)戶、又ハ、蔀ノ上ニ付ケテ、飾トスルモノ。多クハ細ソキ木ヲ、三條、斜ニ打違ヘテ作ル。轉ジテ、亂文トモ云フ。西園寺家車圖ニ、細ソキ木ヲ菱形ニ打チ違ヘタルニ亂文トアリ。(好古叢誌、二) 今モ門扉ノ上ニ作ルコトアリ、又、室内ノ欄間ト云フモ是レナリ。 倭名抄、十、門戶具「[illegible]、刻木爲羅文而施之於戶上也」

〜らゆ (助動) 【被】 らる(被)ノ古語。

らりこっぱひ (名) 【亂離骨灰】【羅利骨灰】 [illegible]ナルコト。東海道中膝栗毛(享和、一九)初編、發端「ヤイヤイヤイ、コイツメガ、亭主ヲ羅利骨灰ニシヤアガル」

らりう [illegible] りト[illegible]陵ノキヌ、更ニタダ人トハ見エ給ハズ候」

らりようわう (名) 【蘭陵王】 又、らんりうわう。舞樂ノ曲ノ名。支那、北齊ノ蘭陵王長恭ノ出陣ノ舞ト云フ。略シテ、蘭陵。又、陵王。さへづり(詠)ノ條ヲ見ヨ。 字類抄「[illegible]陵王、[illegible]」

らる (名) 【羅縷】 ウスキ布帛。 字類抄「[illegible]」

〜ら・る・ルル・ルレ・レ・レ (助動) 【被所見】 他ヨリ動作ヲ仕掛ケラレテ、我レ、受身トナル意ヲナス助動詞(瑞尾ノ語法指南ノ助動詞ノ條ヲ見ヨ) 字類抄「被、ラル、ラレ、見、所、同上」 雄略紀、十四年四月「不[illegible]」「立てらる 代せらる 見らる」

ら・る・ルル・ルレ・レ・レ (助動) 【得】 動作ノ、己レガ力、能ク爲シ得ル意ヲナス助動詞。(瑞尾ノ語法指南ノ助動詞ノ條ヲ見ヨ)「遂ケらる 立てらる」

られつ (名) 【羅列】 ツラナルコト。ナラブコト。又、ツラネナラブルコト。 古詩、雞鳴「鶏鶉七十二、羅列自成行」

り

り 五十音圖、良行第二ノ假名。らノ條ヲ見ヨ。

り (名) 【里】 (一)[illegible]ノ制ニテ、[illegible]。(二)[illegible]三十六町[illegible]。古ヘ、[illegible](凡ソ今ノ六町)六ト六ノ數ハ、陰陽ニ、一、三、五、七、九、ヲ天ノ陽數トシ、二、四、六、八、ヲ地ノ陰數トス、六ハ地數ノ最中ナレバ、六ヲ用ヰルナリト云フ[illegible]六町トシ、其半ヲ半道ト云フ。今モ奧州ニテハ、古ヘノ六町ナルヲ小道、又ハ、下道(坂東道、關東道トモ)ト云ヒ、三十六町ナルヲ大道ト云フ、[illegible]七里ヶ濱、上總ノ九十九里濱ナドハ、小道ニ依ル名ナリ。太平記、十三、[illegible]事ニ、「[illegible]ヨリ京ヘマデ七十六里トセシハ、大道ナリ」同、三十九、芳賀兵衞入道軍事ニ、宇都宮ヨリ武藏國マデ坂東道八十里トセシハ小道ナリ。中世ニ、又、四十町、四十八町、五十町、六十町、七十二町ナルモアリキ。いちり(一里)ノ條ヲ參見セヨ。 雜令「凡度地五尺爲步、三百步爲里」(今ノ五町ニ當ル) 東大寺造立供養記「文治二年、云云、木津至于海七里」注「三十六町爲一里」 (四)航海者ノ、海上ニ用ヰルヲ海里(カイリ)ト云フ。其條ヲ見ヨ。

り (名) 【浬】 かいり(海里)ニ同ジ。

り (名) 【哩】 まいる(英里)ニ同ジ。

り (名) 【理】 (一)支那哲學ニテ、現象ノ器ニ對シテ、宇宙ノ本體。[illegible]之物、莫不有理」 (二)コトワリ。物事ノスヂ。ワケ。道理。[illegible]

天下之理得矣」續紀、廿二、天平寶字三年六月「事不ㇾ合ㇾ理、好ㇾ是自ㇾ惡ㇾ殘」「理ヲ非ニマゲル」

り (名) 利 (一)便好キコト。都合ヨキコト 史記、蘇世家「秦服ニ其勞一而趨受ニ其利一」「我ニ利アリ」 (二)戰ニ勝ツコト。勝利。史記、陸侯傳「秦[illegible]成ニ天下一」「利ヲ失フ」 (三)得分。利益。利德。カガ。クボサ。マウケ。史記、趙世家「[illegible]百倍」「商ノ利」 (四)利息。利子。史記、貨殖傳「以ニ什一之利一、居無ㇾ何、則致ニ[illegible]、食貨志「自ㇾ是不ㇾ得ㇾ錢者、不ㇾ納ニ利矣一」

り (名) 痢 〔集韻「痢音利、瀉也」〕 りびゃう(痢病)ニ同ジ。

り (名) 吏 官衙ニ務ムル人。役人。官吏 史記、晉楚世家「五官皆吏」後漢書、元帝紀「多文法吏、以ニ刑名一繩ㇾ下」

り (名) 厘 (一)俗ニ、釐ヲ略シテ、厘ト書シ、りんトモ呼ブ。小數ニテハ、一ノ百分ノ一。又、尺度ノ名目ニテ、分ヲ十ニ分テル一ツ。十毛 (二)秤目、或ハ、銀目ニ、分ヲ十ニ分テル一ツ。十毛 (三)新貨ニ、一錢ヲ十ニ分テル一ツ。十毛。

り・ル・レ・ラ・リ (助動) 過去(現在完了)ノ意ヲ云フ助動詞。意ハ、つ、ぬ、たり、ニ同ジ。但シ、規則動詞ノ第一類ノ第三變化(正格、四段活用ノ已然形)ニノミ添ヘテ用キル。「行ケり」押セる」立テれバ」逢へらム」住メり」取レる」ノ如シ。(篇尾ノ語法指南ノ助動詞ノ條ヲ見ヨ)

り (接尾) モノノ端邊ヲ云フニ用キル語。他ノ語ニ接シテ名詞トス。「へり」ホトり」「アタり」トホり」

り (接尾) 意ナクシテ添フル語。他ノ語ニ接シテ名詞トス。「ミギり」ナメクヂり」

り-あげ (名) 利上 (一)質物、借錢ノ、期限満チタル時、利息ノミ拂ヒテ、更ニ期限ヲ延バスコト。上利 (二)利率ヲ高クスルコト。(利下ニ對ス)

り-あい (名) 理合 理ノオモムキ。道理ノ程。條理

り-あひ (名) 利合 りそく(利息)ニ同ジ。五十年忌歌念佛(寶永、近松作)中「利合ハ兩デ二十四五貫目ト、目ヲ合スル二人カ仲」

り-いう (名) 理由 スヂ。スヂミチ。ユヱ。ワケガラ。ワケ。ヨシ。

りう (名) 柳 支那、古代ノ天文學ニテ、二十八宿ノ一。南方ニアル星宿。又、ヌリコボシ。倭名抄、一、天文門「二十八宿、云云、柳、ヌリコホシ、リウ」

りう (名) 流 (一)藝術ニ、特ニ、其家、其人ニテ立ツル方法。又、ソノ系統 謡曲、鸚鵡小町「形ノ如ク、我レ等モ其ノ流ヲコソ學ビ候ヘ、云云、衣通姫ノ流ト聞エツルモ小町ナリ」「新陰流、通念流、小笠原流」 (二)其モノヽ、他ト異ナリテ特有ナル一種ノ氣風。又ハ、容態。「西洋流、東洋流」「日本流、支那流」 (三)或語ノ下ニ附シテ、其等級、品位、ナドノ意ヲホス語。「一流ノ人物」「上流社會」

りう (名) 龍 りょう(龍)ニ同ジ。たつ(龍)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。又、りょう。 鎗權三重帷子(享保、近松作)上「龍ノ駒ニモ蹉跌キ」

リウ (數) 六 (字ノ唐音) ムツ。六。(拳ノ語、其條ヲモ見ヨ) 冥途飛脚(正徳、近松作)中「拳ノ手品ノ手モタユク、ロマセ、サイ、トウライ、云云、ハマ、サンキウ、ゴウ、りう、スム井」

りう (接尾) 旒 旗ノ類ヲ數フルニ云フ語。觀世音寺資財帳「布縷幡壹流」「白旗一旒」

りう-あ (名) 流亞 〔廣韻「亞、次也、就也」〕 同ジ流レヲクム人。タグヒ。トモガラ。亞流 晉書、[illegible]傳、論「[illegible]之流亞、夏侯湛[illegible]其友也」

りう-あん-くゎ-めい (句) 柳暗花明 柳ハ繁茂シテ暗ク、花ハ爛漫トシテ明キコトニテ、田舍ノ春色ナドヲ云フ。陸游詩「山重水複疑ㇾ無ㇾ路、柳暗花明又一村」

りう-い (名) 留意 ココロヲトドムルコト。注意スルコト。史記、刺客傳、荊軻「太子避ㇾ席而頓首曰、燕秦不ニ兩立一、願先生留ㇾ意也」

りう-いん (名) 溜飲 飲食物ガ胃中ニ滯リテ消化シ難ク、酸キ液ヲ釀シ、時時、其液ヲ吐キ出ス病。胃部、張ルガ如ク感ジ、食欲、大イニ減ジ、食道焦グルヤウニ覺ユ。飲食物ノ不養生、運動不足ナドヨリ起ル。ムネヤケ。酸敗液。胃酸過多症。溜飲が下る、溜飲を下げるトハ、胸ガスキテ、サハヤカニナル、又、鬱憤ヲ晴ラス意。留飲

りう-えい (名) 柳營 〔細柳ノ陣營ノ義、モト漢ノ將軍周亞夫、細柳ト云フ所ニ營シテ、號令嚴明ナリキト云フ故事ヨリ出ヅ〕 (一)將軍ノ居所ノ稱。幕府。太平記、三十九、道譽大原野花會事「柳營庭前ノ花、紅紫ノ色ヲ交テ」 (二)直ニ、將軍ノ稱。將軍家。吾妻鏡、十五、建久六年十一月十九日「試任[illegible]、令ㇾ專ニ柳營護持一給歟之由、云云」

りう-えう (名) 柳腰 (一)柳ノ枝ノ、シナヤカナル狀ニ云フ語。庾信、和ニ人日晚景宴ニ昆明池一詩「上林柳腰細、新豐酒徑多」 (二)柳ノ枝ノ如ク、シナヤカナル腰。ヤナギゴシ。美人ノ腰ノ形容ニ用キル語。温庭筠、[illegible]

りう-かう (名) 流行 (一)ナガレユクコト。又、ユキワタルコト。孟子、公孫丑、上篇「孔子曰、德之流行、速ニ於置郵一而傳ㇾ命」 (二)世ニ行ハルルコト。ハヤリ。左傳、僖公十三年「天災流行、國家代有、救ㇾ災恤ㇾ鄰道也」續紀、廿二、天平寶字四年五月「[illegible]」

りう-かう-せい-かん-ばう (名) 流行性感冒 いんふるえんざ(流行性感冒)ニ同ジ。

りう-かう-せい-なう-せき-ずい-まく-えん (名) 流行性腦脊髓膜炎 傳染病ノ一。流行性ノ腦脊髓膜炎、一種ノ菌ニヨリテ起リ、惡寒、發熱、頭痛、眩暈、意識ヲ失ヒ、譫語、全身諸筋肉ノ痙攣ナドヲ來タス。小兒ニ多ク、冬季ニ流行ス。

りう-かう-びやう (名) 流行病 ハヤリヤマヒ。傳染シテ、一時、流行スル疾病。トキノケ。時疫。疫病。天行病。時行病

りう-がく (名) 留學 外國ニ在留シテ學問スルコト。續紀、三十三、寶龜六年十月「吉備[illegible]」

りう-かん (名) 流汗 汗ヲ流スコト。又、ナガルルアセ。史記、倉公傳「奴之病得ㇾ之流汗數出、灸ㇾ於ㇾ火而以出見ニ大風一也」

りう-ぎ (名) 流儀 (一)藝術ニ、特ニ其流ニ傳ヘ來ル儀。易林本節用集(慶長)上、言辭門「流儀、リウギ」 (二)物事ノシカタ。ヤリカタ。シグアヒ。

りう-きう-いも (名) 琉球芋 琉球薯 〔モト琉球ヨリ渡來セシヨリ云フ〕 さつまいも(薩摩薯)ニ同ジ。書言字考節用集、六、生植門「琉球薯、リウキウイモ」 雜字類編「甘藷、り

りうきうおもて (名) 琉球ヲ産ズル表ノ一種。琉球ニ産ズルモノ。燈心草ノ、太サ一分餘ノモノニテ織ル。今、常ニハ、内地ニテ、七島藺ニテ織レルモノヲモ稱ス。九州、四國ニ多ク産ズ。莖太キヲ以テ織ルハ、下品ナレドモ、甚ダ堅シ。疊ノ上包ニトモス。七島表。

りうきうがすり (名) 琉球絣。さつまがすり(薩摩絣)ノ條ヲ見ヨ。

りうきうカン (名) [琉球羹] サツマイモノヨセモノ。(料理通、三篇)

りうきうぐみ (名) [琉球組] 「組ハ組歌ノ略」三味線ノ唱歌ノ名。本手ノ一。琉球組ノ外ニ、鳥組、飛驒組ナドアリ。其レニ次ギテ成レル破手ト云フ。絲竹初心集「當文下、文祿ノコロホヒ、石村檢校ト云フ琵琶法師アリ、心タクミニシテ、器用無双者也、アルトキ琉球ノ島ニ渡リケルニ、カノ島ニ小弓トイヒテ、絲三筋ニテナラス物有、云云、其ノ後、石村、京都ニカヘリテ、同ジク模樣ヲヤツシ、此三味線ヲ作リ出セリ、琉球ノ島ヨリ得テクルトイフ心ニテ、琉球組トイフ事ヲツクリオケリ」

りうきうごま (名) [琉球駒] 小鳥ノ名。てうせんごま(朝鮮駒)ノ一名。

りうきうしゆ (名) [琉球酒] あはもり(泡盛)ニ同ジ。

りうきうしゆろちく (名) [琉球棕梠竹] くわんおんちく(觀音竹)ノ一名。

りうきうちく (名) 琉球竹 ごさんちく(五三竹)ノ一名。布袋竹ノ條ヲ見ヨ。

りうきうつむぎ (名) [琉球紬] 紬ノ一種。琉球ヨリ産ズルモノ、上品ニテ珍重シテ珍トス。

りうきど (名) [劉寄奴] 菊科ノ小草。あきのきりんさう(秋麒麟草)ニ同ジ。

りうきん (名) [琉金] (琉球産ノ金魚ノ意) 金魚ノ一種。其條ヲ見ヨ。

りうぐう (名) [流寓] サスラヒテ他郷ニ住ムコト。後漢書、廉范傳「范父遭喪亂、客死於蜀漢、范遂流寓西州」

りうくわ (名) [硫化] 化學ノ語。硫黄ト他ノ原素ト化合スルコト。

りうくわう (名) [流光] (一)カガヤキ照ラス光。魏文帝、濟川賦「美玉昭以曜晰、明珠灼灼而流光」文選、謝莊、月賦「若夫、氣霽地表、雲斂天末、洞庭始波、木葉微脱、菊散芳於山椒、雁流哀於江瀨、升清質之悠悠、降澄輝之藹藹、列宿掩縟、長河韜映、柔祇雪凝、圓靈水鏡、連觀霜縞、周除冰淨、君王乃厭晨歡、樂宵宴、收妙舞、弛清縣、去燭房、卽月殿、芳酒登、鳴琴薦」(二)流光 (三)水流ニウツル光。又、波ニ隨ヒテナガルル月影。劉孝綽、望月詩「流光照漭瀁、波動映淪漣」(三)ウツリユク光陰。流年。李白詩「前川與流光、飄忽不相待」(四)德ヲ後世ニ傳フルコト。後漢書、左雄傳「流光垂祚、永世不刊」

りうぐゎん (名) [流丸] ソレテ飛ブ彈丸。ナガレダマ。ソレダマ。流彈。荀子、大略「流丸止於甌臾、流言止於智者」

りうくわんぢやう (名) [流灌頂] ながれくわんぢやう(流灌頂)ニ同ジ。

りうくわゑん (名) [柳花苑] 舞樂ノ曲ノ名。雙調ニテ、桓武天皇ノ御時、唐ヨリ傳ハルト云フ。源氏、八、花宴「頭中將、云云、りうくわゑんト云フ舞ヲ、コレハ今少シウチスグシテ、云云」教訓抄、六「柳花苑、云云、本名柳花苑云云(而天皇内宴之日、有御定、改書、怨字苑字也)」

りうげ (名) [流外] 「流内ニ對スル」りうげのくわん(流外官)ノ略。其條ヲ見ヨ。

りうけい (名) [流刑] (一)るざい(流罪)ニ同ジ。(二)又、るけい。モト島地ノ監獄ニ幽閉シテ、定役ニ服セシメザル刑。重罪ノ主刑トシテ、無期ト有期トアリシガ、新刑法ニハ之ヲ廢セリ。

りうけつ (名) [流血] ナガルル血。又、血ヲナガスコト。荀子、議兵「兵不血刃、遠邇來服」戰國策「伏屍百萬、流血千里」

りうげのくわん (名) 流外官 「流内官ニ對ス」本官ノ下司ナル内舍人、官學ナド、スベテ相當ノ位ナキ官。略シテ、流外。唐律疏義「唐、長孫無忌等」「非供、已上謂流外官、吏部流外官以下、有流外出身者」

りうげん (名) [流言] 又、るごん。無根ノ說ヲイヒフラスコト。根無シ言ノウハサ。浮言。詩經、大雅、蕩之什、抑「流言以對、寇攘式内」書、金縢「管叔及其群弟、乃流言於國」空華日工集、康曆三年十一月七日「與府君語、及關東事、余曰、勿聽流言」

りうご (名) 輪鼓 「或ハ、輪子、立鼓、立瓠、輪鼓ノ音便、林檎ノ語ノ如シ」(一)雜藝ニ用ヰルモノ。其形、上下闊ク、中窄ク、細腰鼓ノ如キモノ。即チ⧗ノ如キモノ。倭名抄、四、雜藝具「輪鼓、本朝相撲記云、輪鼓二人、諸雜藝之中、弄輪鼓之者二人也、云云、其形如細腰鼓、而輪轉於絲上」新猿樂記「品玉、輪鼓、八玉」(放下ナドノマハスモノ、クビレタル所ニ、緒ヲ卷キテ、空中ニ投ゲテ、緒ニ承ケマハスモノナルベシ) (二)紋所ノ名。輪鼓ニ象レルモノ。曆林問答集、三、第四十二條、唐衣集「椅子、又、輪鼓」(三)特ニ、紡績ノ紡錘ニ取附ケ、之ニ調絲ヲ纏ヒテ、紡錘ヲ廻轉セシムルモノ。

りうごう (名) [林檎] りんご(林檎)ニ同ジ。倭名抄、十七、菓類

りうごづか (名) [輪鼓柄] 刀ノ柄ノ、中クビレテ、輪鼓ノ形シタルモノ。

りうごひきりやう (名) [輪鼓引兩] 紋所ノ名。輪鼓ノ中ニ、二筋ヲ引キタルモノ。

りうさ (名) [流沙] 又、りうしや。さばく(沙漠)ニ同ジ。書經、禹貢「導弱水至于合黎、餘波入于流沙」

りうさん (名) [硫酸] 硫黄ト酸素トノ化合物。純粹ナルハ、無色無臭ニシテ、精稠ナル液體ニシテ、硫黄、若シクハ黃鐵鑛ヲ燒キテ、亞硫酸瓦斯ヲ作リ、硝酸ノ蒸氣ト共ニ大イナル鉛室ニ導キ、其室内ニ水蒸氣ヲ通ジテ製ス。酸性強クシテ、金、白金ヲ除ク外、スベテノ金屬ヲ腐蝕シ、種種ノ工業上、重要ナルモノナリ。

りうざん (名) [流產] 胎兒ノ、既ニ形ヲナシタレドモ、月數、滿タズシテ、死シテ生ルルコト。ウミナガシ。半產 小產 其未ダ形ヲ成サズシテ墮ルルヲ血流ト云フ。文保記、生產穢「附流產穢、流產者、月以前也、四ケ月、計日者八十八日、是流產也」

りうざん (名) [流竄] 罪ニヨリテ、遠地ニ追放セラルルコト。シマナガシ。又、遠地ニサスラヒサクレルコト。北史、魏附帝紀「流竄者、云云」北史、裴信傳

りうさんだん (名) [榴散彈] 砲彈ノ一種。彈ノ中ニ小サキ球形ノ彈子數十箇ヲ込

メテ炸藥ヲ裝置シ、破裂スルト共ニ、彈子ヲ射出スベク作レルモノ。野戰ニ用ヰル。ザクロダマ。ハレツダマ。榴彈。

りうさん-どう（リユウサン-ドウ）（名）［硫酸銅］銅ト硫酸トノ化合物。美麗ナル靑色ノ結晶ヲナス。たんばん（膽礬）ノ條ヲモ見ヨ。

りうし（リユウ-シ）（名）［柳絲］ヤナギノ枝ノイトノ如ク細ソキモノ。ヤナギノイト。細ソキモノニ喩ヘテ云フ語。柳條。白居易、楊柳枝詞「人言柳葉似愁眉、更有愁腸似柳絲」

りうし（リユウ-シ）（名）［流矢］（一）ナガレヤ。ソレヤ。流箭。荀子、彊國「雖白刃扞乎胸、則目不見流矢」（二）飛ビクル矢。司馬相如、喩巴蜀檄「觸白刃、冒流矢、義不反顧」

りうしつ（リユウ-シツ）（名）［流失］流レテ失スルコト。

りうじ-の-まつり（リユウジ-ノ-マツリ）（名）［臨時祭］（りうじハ、りぬじノ音便）りんじのまつり（臨時祭）ニ同ジ。寶方集「石淸水ノりうじのまつりノツカヒニテ、云云」

りうしん（リユウ-シン）（名）［留心］心ヲトドムルコト。留意。注意。史記、袁盎傳「用道術者不殺無罪、而留心於無辜、唯大夫留心」

りうじん（リユウ-ジン）（名）［流人］（一）他國ニ流寓スル人。莊子、徐無鬼篇「子不聞夫越之流人乎、去國數日、見其所知而喜」（二）又、るにん。島流ノ刑ニ處セラレタル人。孟浩然、洛陽訪袁拾遺不遇詩「洛陽訪才子、江嶺作流人」

りうしやう（リユウ-シヤウ）（名）［留省］古ヘ、國學生ナドノ、考試ヲ經テ及第スレドモ、敍位、任官ノ事ナク、式部省ニ留メオキ、選ヲ待チテ敍位、任官スベキモノ。後紀、廿一、弘仁二年四月「其散位位子、留省之徒、不直本司常

りうしゆ（リユウ-シユ）（名）［留守］又、るす。アトニ留マリテ守ルコト。又、其人。中記、晉世家「留守、從曰撫軍」[illegible]太子、留守」

りうしゆつ（リユウ-シユツ）（名）［流出］ナガレイヅルコト。又、アフレイヅルコト。

りうじよ（リユウ-ジヨ）（名）柳絮　ヤナギノ花ノ、絮ノ如キモノ。ヤナギノワタ。杜甫、漫興詩「顚狂柳絮隨風舞、輕薄桃花逐水流」

りうすゐ（リユウ-スヰ）（名）［流水］（一）ナガルルミヅ。ナガレミヅ。ナガレ。詩經、小雅、沔水篇「沔彼流水、其流湯湯」（二）車ノ異名。後漢書、馬后紀「車如流水、馬如游龍」。第廿七條、市流水云事。りうすゐトハ何ゾ、車ノ一名ヲ流水ト云、巡ル姿、水流ニ似タルカ故ニ、若シ是ヲ云歟」

りうせい（リユウ-セイ）（名）［流星］（一）ヨバヒボシ。夜中、中天ヲ急速度ニテ過グル星。小天體ニシテ、大氣トノ摩擦ニヨリテ光ヲ發シ、其痕白シ。ナガレボシ。ハシリボシ。史記、樂書「常有流星經於祠壇上」續紀、十、神龜五年九月、壬戌（廿九日）夜流星、長可二丈、餘光照赤、四斷、散落宮中」同、三十四、寶龜七年一月「是夜有流星、其大如盞」（二）烽火、花火ナドノ、光ノ奔リテ星ノ如キモノ。流星火　藥の一本（天和）兩國川遊「シダレ柳ニ大櫻、云云、りうせい玉火ニ牡丹ヤ」

りうせつ（リユウ-セツ）（名）［流說］無根ノ說ヲ云ヒフラスコト。又、ソノ說。ウハサ。流言浮言。荀子、致士篇「流言、流說、流事、流謀、流譽、流愬、不官而衡至者、君子愼之」

りうせん（リユウ-セン）（名）［流泉］（一）ナガルル泉。又、ナガルル水。詩經、大雅、生民之什、公劉篇「相其陰陽、觀其流泉」（二）琵琶ノ秘曲ノ名。[illegible]三十一、「高山流水[illegible]」[illegible]ト八此等也」

りうせん（リユウ-セン）（名）［流箭］りうし（流矢）ニ同ジ。[illegible]（拜）驃騎[illegible]流箭所中死」

りうそ（リユウ-ソ）（名）流蘇［張衡、東京賦「飛流蘇之騷殺」李善注「流蘇、五采毛、雜之以爲馬飾而垂之」］ふさ（總）ノ條ノ（一）ニ同ジ。晉書、衞恆傳「縱肆阿那、若流蘇懸羽、靡靡綿綿」

りうぞく（リユウ-ゾク）（名）［流俗］（一）昔ヨリノナラハシ。禮記、射義「幼壯孝弟、耆耋好禮、不從流俗、修身以俟死者、不在此位也」（二）世上一般ノ俗人。世人。歐公戲[illegible]「[illegible]流俗之未悟、獨超然而先覺」（三）世上一般。ヨノツネ。拾遺集、十八、雜、賀、りうぞくノ、色ニハアラズ、梅ノ花、珍重スベキ、モノトコソミレ」

りうぞく（リユウ-ゾク）（名）［流賊］揚所ヲ定メズ、諸方ヲワタリ歩キテ、害ヲナス盜賊。明史、流賊傳、序「明之亡、亡於流賊、而其致亡之本、不在於流賊也」

りうたい（リユウ-タイ）（名）［留滯］トドマリ、トドコホルコト。停滯スルコト。史記、平準書「日者、大將軍攻匈奴、斬首虜萬九千級、留蹛無所食、[illegible]」

りうたい（リユウ-タイ）（名）［流體］流動體。又、液體。こけいたい（固形體）ノ條ヲ見ヨ。

りうたん（リユウ-タン）（名）［龍膽］龍膽科ノ多年生草本。りんだう（龍膽）ニ同ジ。字類抄「龍膽、リンタウ、リウタン」古今集、十、物名、りうたんの花「我ガ宿ノ、花踏ミシダク（チラスイ）、トりうたん（鳥打タン）、野ハナケレバヤ、ココニシモクル」

りうだん（リユウ-ダン）（名）［流彈］ナガレダマ。ソレダマ。流丸。名物六帖、三、器財箋「流彈、[illegible]」

りうだん（リユウ-ダン）（名）［榴彈］砲彈ノ一種。りうさんだん（榴霰彈）ニ同ジ。

りうだん-はう（リユウダン-ハウ）（名）［榴彈砲］曲射砲ノ一。榴霰彈ヲ込メテ、臼砲ヨリモ小射角ヲ以テ打チ出ス大砲。加農砲ノ平射砲ナルニ對ス。短加農。

りうち（リユウ-チ）（名）［留置］トドメオクコト。

りうちやう（リユウ-チヤウ）（名）［流暢］［流ルル如ク暢ブ］スラスラトシテ澁ラヌコト。ナダラカ。

りうちゆう（リユウ-チユウ）（名）［流注］ナガレソソグコト。又、ナガシ込ムコト。

りうぢゆう（リユウ-ヂユウ）（名）［留住］（一）トドマリスムコト。陳琳、飲馬長城窟行「作書與內舍、便嫁莫留住」（二）るぢゆう（留住）ノ條ヲ見ヨ。

りうつう（リユウ-ツウ）（名）［流通］（一）ナガレカヨフコト。ツカヘズトホルコト。滯ノザルコト。列子、仲尼篇「子心六孔流通、一孔不達」（二）遍ク世ニ行ハルルコト。鹽鐵論（通有）「[illegible]百貨物流通、[illegible]」

りうてい（リユウ-テイ）（名）［流涕］ナミダヲナガスコト。落涙。垂涕。列子、力命篇「吾君又安得此位而立焉、云云、獨竊之流涕、是不仁也」文德實錄、五、仁壽三年十二月「流涕不禁」

りうてう（リユウ-テウ）（名）［留鳥］四季ヲ通ジテ一地方ニ棲息スル鳥ノ稱。やまどり、きじ、すずめ、雷鳥、ナドノ類。

りうてう（名）【柳條】（一）ヤナギノエダ。柳枝。[illegible]

りうてん（名）【流轉】又、るてん。ナガレウツルコト。ウツリカハルコト。杜[illegible]

りうでん（名）【流電】イナヅマ。イナビカリ。[illegible]、物ノ迅速ナルコトニ譬ヘ[illegible]

りうでん（名）【流傳】世ノ中ニヒロガリ傳ハルコト。[illegible]

りうと（副）【りうハ、りん（凜）ノ音便】（一）富有ニテ、時メキタル人ナドノ形容ニ云フ語。リント。嬉遊笑覽、六、下、就弄「此ゴロ富有ナル人ヲ云フニ、りうとシテト云コトハヤレリ」（文政ノ頃）（二）立派ニシテ綺[illegible]ナル状[illegible]ニ、[illegible]刀ハキメルシ、形ハりうとシテヰルカラ、ナカナカ素一歩ノ御客トハ見エネエ」

りうどう（名）【流動】（一）ナガレウゴクコト。[illegible]（二）轉シウツルコト。ウゴキ[illegible]

りうどうたい（名）【流動體】又、流體ヲ液體。こけいたい（固形體）ノ條ヲ見ヨ。

りうない（名）【流内】［流外ニ對ス］次僚ノ[illegible]

[illegible]品、視従七品ハ以除、[illegible]

りうないのくゎん（名）【流内官】［流外官ニ對ス］各官衙ノ長官ヨリ主典錄一至ルマデ、各相當ノ位階アルモノ。安齋隨筆、三「流内流外被官被接等の官「諸官ニ流内の官、流外の官、被官、被接の官ノ差別アリ、云云、譬ヘバ、今中務省ノ一官ヲ以テ云ハム、流内トハ本官（中務）ノ長官卿ヨリ以下、主典錄マデ、各相當ノ位階アルヲ云フ、流外ト云フハ、本官（中務）ノ下司（内舍人）ナレドモ、相當ノ位階ナキモノヲ云フ」

りうにん（名）【留任】アトニトドマリテ、事務ニ任ズルコト。轉任、又ハ、辭任セムトシテ、中止スルコト。宋書、劉穆之傳「[illegible]西伐、司馬休之、中軍將軍道憐知留任、而事無大小、一決於穆之」

りうねん（名）【流年】過ギ行ク年。去リユク年。流光。方干、途中別孫璐詩「流年莫[illegible]」

りうは（名）【流派】（一）ナガレノスヂ。[illegible]ノスヂ。張文宗、詠水詩[illegible]（二）りウギノ分レ。リウ。派。分派。

りうばう（名）【流亡】サマヨヒサスラフコト。又、其人。亡命。詩經、大雅、召旻之什、[illegible]

りうび（名）【柳眉】ヤナギノ葉ノ如ク、細ソクシテ美シキマユ。美人ノ眉ヲ稱スル語。ヤナギノマユ。柳葉眉。李商[illegible]

りうび（名）【[illegible]】[illegible]

りうふう（名）【流風】（一）ソヨソヨ風、微風。（二）古ヘヨリノ教化、[illegible]人ノ遺シシ美風。[illegible]

りうぶん（名）【[illegible]文】おうぶん（[illegible]文）ノ誤讀。其條ヲ見ヨ。

りうへい（名）【流弊】以前ヨリ傳ハレル惡シキナラハシ。[illegible]也」新論（梁、劉勰）「[illegible]之流弊、一至于斯[illegible]」

りうべつ（名）【留別】［送別ニ對ス］旅立ツ人ノ、後ニ留マル人ニ別レヲ告グルコト。蘇軾、詩題「彭城遊逍堂留別子瞻兄二首」

りうべん（名）【流眄】りうめん（流眄）ニ同ジ。

りうほ（名）【留保】トドメテ、保持スルコト。保留。

りうぼく（名）【流木】山ナドヨリ、川水ニヨリテ、下ヘナガシ下ス木。ナガシギ。又、タダヨヒ、ナガルル木。ナガレギ。[illegible]

リウマチス（名）【僂麻質斯】［英語、Rheumatism.］病ノ名。人體ノ筋肉、又ハ、關節等ニツキテ、甚ダ痛ミテ、腫レ赤ミヲ現ハシ、[illegible]モノ、[illegible]テ起リ、原因ハ不明ナリ、[illegible]

りうみん（名）【流民】[illegible]

りうん（名）【[illegible]】[illegible]

りうん（名）【利運】利ヲ得ル運。好運。[illegible]

りうんばう（名）[illegible]化物ノ一[illegible]ケラ、フラリ火、りうんばう、サカガミ、身ノモダチ」

りうめん（名）【流眄】［眄ハ漢音べん、與[illegible]］又、りうべん。[illegible]

りうもん（名）【流紋】[illegible]太キ經緯ノ絲ヲ用ヰテ、織リナシタル絹織物。江戸時代ニハ、[illegible]五「絹布類、流[illegible]」

りうよう（名）【流用】融通シテ用ヰルコト。都合ニヨリ、カヘテ用ヰルコト。

りうらく（名）【流落】[illegible]也」又、流落ハ、流[illegible]く。オチブルルコト。零落スルコト。落魄。淪落。史記、[illegible]

りうらん（名）[illegible]ト又、他人ノ[illegible]

りうり (名) [流離] サスラフコト。サマヨフコト。居所ヲ失ヒテ、諸方ヲマヨフコト。流浪。 漢書、劉向傳「怨氣感、衍陰陽、因之以饑饉、物故流離、以十萬數」

りうりやう (副) [瀏亮][瀏喨] 笛ナドノ樂器ノ音ノ、清クシテ朗カナル狀ニ云フ語。 陸機、文賦「詩緣情而綺靡、賦體物而瀏亮」

りうれい (名) [流例] 慣ヒ來レル例。舊例。先例。 晉書、[illegible]代王妃[illegible]道士[illegible]樂[illegible]詩「別有衆中稱黠帝、天上人間少流例」

りうれい (名) [流麗] 流暢ニシテ、ウルハシキコト。 蘇軾、和子由[illegible]書詩「端莊雜流麗、剛健含婀娜」

りうれん (名) [留連] 一所ニ久シクトドマルコト。逗留。滯留。 杜甫、漫興詩「留連戲蝶時時舞、自在嬌鶯恰恰啼」 懷風藻、遊獵、曝光「隱山、壯士且留連」

りうれん (名) [流連] 遊ビツヅクルコト。遊樂ニ耽リテ、家ニ歸ルヲ忘ルルコト。(次條ノ語ヲモ參見セヨ) 孟子、梁惠王、下篇「先王無流連之樂、荒亡之行」

りうれんくわうばう (句) [流連荒亡] 〔孟子、梁惠王、下篇「從流下而忘反、謂之流、從流上而忘反、謂之連、從獸無厭、謂之荒、樂酒無厭、謂之亡」〕遊興ニ耽リテ、家ニ歸ルヲ忘ルルコト。轉ジテ、物事ニ耽リ溺ルルコト。 孟子、梁惠王、下篇「流連荒亡、爲諸侯憂」

りうろ (名) [流露] 又、るろ。內情ナド、スッカリアラハルルコト。又、眞相ヲ盡ク表ハシ示スコト。「天眞流露」

りうゐき (名) [流域] 降水ノ一ノ河川ニ集ル區域。川ノ受水區域。「利根川流域」

りえう (名) [俚謠] 俗閒ニ流行スル謠。サトビウタ。俗謠。俚曲。俚歌。民謠。 韓維詩「却嗟我輩多暇日、俚謠褻語何其曉」

りえき (名) [利益] (一)得分。利分。利得。マウケ。カガ。クボサ。(二)益ニナルコト。タメニナルコト。(三)身ノ便ニナルコト。

りえん (名) [離宴][離筵] 別レノサカモリ。訣別ノ宴。別宴。

りえん (名) [離緣] 夫婦、養父子等ノ閒ノ緣組ヲ絕ツコト。緣ヲ切ルコト。離婚。 大江俊矩記、寬政十年十一月三日「入夜、屋敷おかめ病氣ニ付、自分望ニヨッテ、新四郎離緣之上、心儘ニ養生致シ度ニ付、云云」「離緣狀」

りえんじやう (名) [離緣狀] 離緣スル妻ニ、其由ヲ記シテ與フル證書。去狀。離別狀。後、俗ニ、其文ヲ三行半ニ記スモノトス。三行半。休書

りか (名) [俚歌] りえう(俚謠)ニ同ジ。 蘇軾詩「要知太守情、孤客不惜陽春和俚歌」

りかい (名) [裏海] ウチウミ。內海。又、陸地ニ閉マレタルみづうみ。 海防纂要「在裏者、則穩、在外洋、則[illegible]、此[illegible]之利[illegible]也」

りかい (名) [理解] (一)理ヲ說キ分クルコト。(二)ノミコムコト。合點スルコト。會得スルコト。了解。 宋史、林光朝傳「南渡後、以伊洛之學倡東南者、自光朝始、然未嘗著書、惟口授學者、使之心通理解」

りがい (名) [利害] 利ト、害ト。利益ト、損害ト。得失。利病。 易經、繫辭、下傳「遠近相取、而悔吝生、情僞相感、而利害生」

りかう (名) [履行] 法ノ如ク執リオコナフコト。フミオコナフコト。 晉書、段灼傳「[illegible]修明、可以[illegible]其[illegible]者[illegible]施行」

りかく (名) [釐革] 〔書經、堯典篇「允釐百工」ニ注「釐、治也」〕治メアラタムルコト。カヘアラタムルコト。改革。釐改。 北史、魏[illegible]「[illegible]以積、可依地理、舊名一皆釐革、小者并合、大者分置之」

りがく (名) [理學] (一)物理學、天文學、化學、地質學、生理學、解剖學、博物學等ノ總稱。(二)ぶつりがく(物理學)ノ特稱。(三)哲學ノ一稱。特ニ、支那、宋代ノ哲學ヲ云フ。(主トシテ理氣心性ヲ研究スル故ニ)

りかのかんむり (句) [李下之冠] スベテ、嫌疑ヲ招キ易キ行爲ハ、避クベシトノ意。くわでんのくつ(瓜田之履)ノ條ヲモ見ヨ。

りがふ (名) [離合] ハナルルト、アフト。又、ハナスト、アハスト。合離。 史記、曆書「至子日當冬至、則陰陽離合之道行焉」

りがふめいじ (名) [離合迷字] 漢字ノ偏ト旁トヲ分析シ、或ハ、其二字ヲ合ハセテ、一成語トシテ、迷字(卽チ謎)ヲ作ルコト。例ヘバ、貨泉ノ泉ノ字ヲ分チテ、白水眞人トナシ、(離迷字)、棗ノ字ヲ四十八トナス類。(合迷字) 漢代ノ一種ノ古トニ始マルト云フ。ナゾコトバ。析字 下ノ出典ヲ見ヨ。 晉書、藝術傳、索紞傳「內中有人、肉字也」 濟異錄「以弱爲蟹、弓米八今謂米、日八木、菜曰草木中人、乃其類」

りかん (名) [利感][利勘] 便利ニ考ヘタルコト。又、利益ニ基ヅク考ヘ。 正月揃、五、紙屋正月「奉書ノモミ足袋モ、利感ナル事ナリ」

りかん (名) [離閒] 他ノ交リノ閒ヲ放チ隔ツルコト。 晉書、[illegible]傳「小[illegible]」

りき (名) [力] チカラ。力量。(仙臺ニテハ、人ノ力ニ通用ス)「りきガアル」

りき (名) [理氣] 理ト、氣ト。太極ト、陰陽ト。支那、宋代ノ哲學ニテ、理ヲ宇宙ノ本體トシ、氣ヲ其現象トス。 朱子語類「太極者、理也、陰陽者、氣也、所乘之機也、氣行則理亦行」 同「天地之間、有理有氣、理也者、形而上之道也、生物之本也、氣也者、形而下之器也、生物之具也、是以人物生、必稟此理、然後有性」

りき (名) [利器] (一)銳利ナル兵器。 後漢[illegible]「[illegible]兵利器[illegible]」(二)便利ナル器。利用スベキウツハ。 莊子、胠篋篇「國之利器、不可以示人、彼聖人者、天下之利器也、非所以明天下也」(三)使用ニ立ツ才器。 後漢書、虞詡傳「志不求易、事不避難、臣之職也、不遇槃根錯節、何以別利器乎」

りきう (名) [利休] (一)茶人、千宗易ノ號。(二)轉ジテ、昔、京坂地方ニテ、遊女ノ巧者ナルモノノ稱。ちらし(散)ノ條ヲ見ヨ。 增補[illegible](明曆)上官之部、金太夫「優レテキャシャニハアレド利休ナリ」

りきう (名) [犂牛] マダラウシ。毛色ノ駁ナル牛。 論語、雍也篇「犂牛之子、騂且角、雖欲勿用、山川其舍諸」

りきうげた (名) [利休下駄] 日和ノ下駄ノ一種。木地ノママニテ、薄キ二枚齒ヲ入レタルモノ。

りきがく (名) [力學] 物理學ノ一分科。物體ノ運動、及、コレニ作用スル力ニ就イテ論究スル學。重學。

りきし (名) [力士] (一)體力強キ人。力

者。チカラビト。力人　史記、[illegible]世家「[illegible]、鼎、雨陸下因爲之、此特一力士之事耳」(二)相撲ヲ行フ者。相撲。相撲取。[illegible]、稿橋、相撲「力士取レ對上レ揖、東西各自二其方、皆長身大髑、背脊如鐵」(三)こんがうりきしノ略。次條ノ語ヲモ參見セヨ。著聞集、十、相撲強力、形體[illegible]、強力雙人、雷土ノカタチヲアラハシテ、力士ノ名ニ求カト見タリ」

りきしまひ (名) 力士儛 金剛力士ニ假裝シ、鉾ヲ執リテ、舞フコトナルベシト云フ。佛法守護ノ天神ノサマナリ。吳樂ニ、力士ト云フ舞アリ。萬葉集、十六 廿八「池カミノ、力士儛カモ、白鷺ノ、桙クヒ持チテ、飛ビワタルラム」

りきじん (名) 力人 (一)チカラビト。膂力アル人。左傳、宣公十五年「獲二杜回、秦之力人也」(二)力士。相撲取　十訓抄、中、第七、第廿六條「卽チ五人ノ力人ヲシテ、山ヲ掘リ牛ヲ引クニ、サカシキ山、タヒラカナル道ニナリヌ」

りきしゃ (名) 力車 (一)ちからぐるま(力車)ニ同ジ。(二)じんりきしゃ(人力車)ノ上略。其條ヲ見ヨ。

りきしゃ (名) 力者 (一)古へ、剃髪シタル一種ノ中間ヤウノモノ。輿昇(コシカキ)、駕丁(カゴカキ)ノ類。剃髪シタレドモ、眞ノ法師ニ非ズ。故ニ禪家ニテハ、其長ヲ兄部(コノカウベ)ト云フ。力者法師。後ニ訛シテ、陸尺(ロクシャク)。平家物語、三、法皇御遷幸事「御車ニ召サレケリ、公卿、殿上人、一人モ供奉セラレズ、北面ノ下臈ト、サテハ金行(コンギャウ)ト云フ御力者バカリゾ參リケル」海人藻芥、中、僮僕事「力者十二人、牛飼一人、白丁一人」(二)相撲取ノ稱。チカラビト。力士。蕪村句集、秋「飛ビ入リノ、力者怪シキ、角力カナ」

りきしゃほふし (名) 力者法師 前條ノ語ノ(一)ニ同ジ。[illegible]「[illegible]法師、力者法師[illegible]」

りきでん (名) 力田 又、りょくでん。耕作ニ骨折ルコト。又、古へ、田ノ事ニ勤功アルモノ。續紀、十七、天平十九年五月「力田外從五位下前部寶公」同、同、天平勝寶元年五月「孝子順孫、云云、力田人各七位敍位一階」

りきふとうちょう (名) 裏急後重 シブリバラ。下痢ニシテ、澁リテ善ク通ジガタキモノ。結痢

❖りき・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 力 〔力(リキ)ヲ活用ス〕(一)力ヲ入ルル。イキム。(二)力ノ強キ狀ヲ示ス。イバル。勢ヲ張ル。假名手本忠臣藏、寬延、竹田出雲等合作)十「りきんデ見テモ、森(イシカメ)ノヂダンダ及バヌコト」

りきん (名) 利金 (一)利益ノ金。マウケノ金。(二)利息ノ金。利子。利銀。

りきんぜい (名) 釐金稅 〔商品ノ價格百分ノ一、卽チ、釐ヲ獻納セシムル意〕支那ニテ、清朝ノ末ニ、普通ノ關稅以外ニ、國內通過ノ商品ニ賦課徵收セシ特殊稅。釐捐

りきゅう (名) 離宮 又、りぐう。天子出遊ノ地ニ設ケテアル宮殿。外ツ宮(トツミヤ)。漢書、枚乘傳「修治上林、雜以離宮」續紀、三、慶雲二年三月「車駕幸倉橋離宮」

リキュウル (名) 〔佛蘭西語、Liqueur.〕洋酒ノ一種。混成酒ニテ、蒸溜水、及、酒精ニ、種種ノ植物性えきむ、香油、砂糖ナドヲ混ゼテ造リタルモノ。

りきょく (名) 俚曲 田舍ノ歌曲。りえう(俚謠)ニ同ジ。

りきりゃう (名) 力量 人ノチカラノ程(ホド)。又、物事ヲ爲シ得ルチカラノ程。

りく (名) 陸 クガ。ヲカ。陸地。(海ニ對ス) 易經、[illegible]、漸卦「九三、鴻漸于陸」

りく (名) 離苦 佛教ノ語。離別ノ苦ミ。あいべつりく(愛別離苦)ノ條ヲ見ヨ。

りく (數) 六 ムツ。ムッツ。ロク。易經、繫辭、下傳「兼三才而兩之、故六」

りくあげ (名) 陸揚 船荷ヲ陸ヘ揚グルコト。ミヅアゲ。

りくぐう (名) 離宮 りきゅう(離宮)ニ同ジ。

りくうん (名) 陸運 陸地ノ上ニテハコブコト。又、陸上ニ於ケル運送。(海運ニ對ス) 北史、崔昂傳「水漕陸運、云云、遂爲常式」

りくかい (名) 陸海 (一)陸ト、海ト。海陸。班固、西都賦「陸海珍藏、藍田美玉」(二)〔海ハ帶說(タイセツ)ノ語〕多ク產物ノ生ズル陸地。漢書、東方朔傳「漢興去三河之地、止霸產以西、都涇渭之南、此所謂天下陸海之地」

りっかう (名) 陸行 陸路ヲ行クコト。(舟行ニ對ス) 莊子、秋水篇「水行不避蛟龍者、漁父之勇也、陸行不避兕虎者、獵夫之勇也」

りくがふ (名) 六合 天地四方ヲ合ハセテ云フ稱。卽チ、上下四方ナリ。六極。宇宙。列子、黃帝篇「夫至信之人、可以感物也、動天地、感鬼神、橫六合而無逆者」神代紀、上「六合之內常闇、而不知晝夜之相代」論語、內外篇「日月ハ六合ヲ照ラセドモ、云云」

りくぎ (名) 六義 (一)又、ろくぎ。古ヘノ漢詩ノ六種ノ風。卽チ、風(フウ)(歌事、國ブリヲアラハス)、雅(ガ)(政事、正シキノリヲ述ブ)、頌(シヨウ)(成功、德ヲホム)、賦(フ)(布義、アリノママニ[illegible])、比(ヒ)[illegible]、興[illegible]。[illegible]雅、六日、頌」(二)和歌ノ六種、[illegible]古今集序ニ、六義トシテ、諷歌、かぞへ歌、準歌、譬歌、徒言歌、[illegible]歌ノ六ツヲ擧ゲタレド、大方、詩ノ六義ニ適ハズ。古今集、眞名序「和歌有六義、一日風、二日賦、三日比、四日興、五日雅、六日頌」(三)りくしょ(六書)ニ同ジ。其條ノ(一)ヲ見ヨ。

りくきゅう (名) 六宮 支那ニテ、皇后ノ一宮殿ト、夫人ナドノ五宮殿トノ稱。又、皇后ト五夫人トノ稱。周禮、天官篇、內宰「以陰禮教六宮」鄭注「六宮、後五前一、云云、王后六宮、[illegible]」[illegible]「六宮ノ[illegible]」

りくぐん (名) 六軍 又、六師。天子ノ率ヰ給フ軍勢ノ稱。支那、三代ノ周ノ制、一萬二千五百人ヲ一軍トシ、其六箇ノ軍ヲ、天子ノ率ヰル兵數トス。大國ノ諸侯ハ三軍ナリ。周禮、夏官、司馬「凡制軍、萬有二千五百人爲軍、王六軍、大國三軍、次國二軍、小國一軍」

りくぐん (名) 陸軍 一國陸上ノ軍備。海軍ニ對シテ、陸上ノ戰闘ニ依リテ、國家ヲ防衞スル諸機關ノ總稱。

りくぐんきゃう (名) 陸軍卿 明治十八年、官制改革以前ノ陸軍大臣ノ稱。

りくぐんしゃう (名) 陸軍省 陸軍一切ノ事ヲ總管スル省(ノカサ)。

りくぐん-だいじん (名) 陸軍大臣 國務大臣ノ一。陸軍省ノ長官。陸相。

りく-くわ (名) 六花 (一)雪ノ異稱。ムツノハナ。六出。六出花。歐陽修詩「[illegible]九淵圖、葬設六花繁」 (二)古ヘノ陣法ノ名。李衛公問對(唐、李靖)中「太宗曰、云云、靖所制六花陣法、出何術乎、靖曰、臣所本、諸葛亮八陣法也」

りく-けい (名) 六卿 支那、周代ノ六大臣。卽チ、大宰、大宗伯、大司馬、大司寇、大司徒、大司空、ノ稱。書經、甘誓篇「大戰于甘、乃召六卿」

りく-けい (名) 六經 六ツノ經書。けいしよ(經書)ノ條ヲ見ヨ。六藝。六籍。莊子、天運篇「丘治詩書禮樂易春秋六經、自以爲久矣」

りく-げい (名) 六藝 (一)古ヘ、支那ニテ、士以上ノモノノ學修スベキ六ツノ技藝。卽チ、禮、樂、射、御、書、數、ノ六種ノ藝ノ稱。史記、孔子世家「太史公曰、云云、自天子王侯、中國言六藝者、折中於夫子、可謂至聖矣」 (二)六經ニ同ジ。けいしよ(經書)ノ條ヲ見ヨ。史記、伯夷傳「夫學者載籍極博、猶考信於六藝、詩書雖缺、然虞夏之文可知也」

りく-こく (名) 六穀 又、ろくこく。六ツノ穀物。卽チ、本邦ニテハ、稻、粟、稗、麥、豆、黍、ノ稱。支那ニテハ、區區ナリ。周禮、天官篇、膳夫「凡王之饋、食用六穀、膳用六牲」鄭注「六穀、稌、黍、稷、粱、麥、苽」

りく-こく-し (名) 六國史 日本ノ上代ニ於ケル六種ノ國史。共ニ漢文ニテ書シ、官撰ニ成レルモノ。卽チ、日本書紀(神代ヨリ持統天皇マデ)、續日本紀(文武天皇ヨリ桓武天皇ノ延曆十年マデ)、日本後紀(延曆十一年ヨリ淳和天皇マデ)、續日本後紀(仁明天皇一代)、文德實錄(文德天皇一代)、三代實錄(清和、陽成、光孝ノ三天皇)ノ六種ナリ。

りく-ざう (名) 六贓 (ざう(贓)ノ條ヲ見ヨ) 支那、唐代、及、我ガ國、平安朝時代ノ六種ノ贓。下ノ出典ヲ見ヨ。唐律疏議(唐、長孫無忌等)四「在律正贓、唯有六色、強盜、竊盜、枉法、不枉法、受所監臨、及坐贓、自外諸條、皆約此六贓爲罪」獄令、集解、廿三「凡徵贓者、雖正贓見在、但有因犯所得者、可免、卽與六贓稱異」

りく-さん (名) 陸產 (海產、水產ニ對ス) 陸地ニ產出スルコト。又、其モノ。禮記、郊特牲篇「恆豆之菹、水草之和氣也、其醢、陸產之物也、加豆、陸產也」

りくさん-ぶつ (名) 陸產物 陸上ニ產ズル物。(海產物、水產物ナドニ對ス)

りく-し (名) 六師 (說文「二千五百人爲師」りくぐん(六軍)ノ條ヲモ見ヨ) 支那ニテ、天子ノ率キル兵數。卽チ、六軍ナリ。書經、胤征篇「惟仲康、肇位四海、胤侯命掌六師」孔傳「仲康命胤侯、掌王六師、爲大司馬」

りく-じ (名) 六事 六種ノ事柄。卽チ、人トシテ心ガクベキ慈、儉、勤、愼、誠、明、ノ六種ノ性行。小學紺珠(宋、王應麟)「六事、慈、儉、勤、愼、誠、明」

りく-しん (名) 六親 父、母、兄、弟、妻、子、ノ稱。六戚。一說ニ、父、子、兄、弟、夫、婦、ノ稱。又、父、子、從父昆弟、從祖昆弟、曾祖昆弟、族昆弟、ト。老子、第十八章「大道廢有仁義、智慧出有大僞、六親不和有孝慈、國家昏亂有忠臣」義經記、八、秀衡が子共判官殿に謀叛の事「六親不和ニシテ、三寶ノ加護ナシ」

りく-しやう (名) 陸相 陸軍大臣ノ異稱。

りく-しやう (名) 陸商 陸運ヲ事業トスル商人。(海商ニ對ス)

りく-じやう (名) 陸上 陸地ノ上。(水上、海上ナドニ對ス)「陸上競技」

りく-じやう (名) 六情 (一)六種ノ感情。卽チ、喜、怒、哀、樂、愛、惡、ノ稱。白虎通「喜怒哀樂愛惡謂六情」 (二)廉貞、寬大、公正、姦邪、陰賊、貪狠、ノ稱。漢書、翼奉傳「五性不相害、六情更興廢」

りくしゆつ-くわ (名) 六出花 略シテ、六出。ゆき(雪)ノ異稱。(六瓣ノ花ノ形ニ似ル故ニ云フ) ムツノハナ。六花。埤雅「雪六出而成花、雹三出而成實」

りく-しよ (名) 六書 (一)又、六義。支那文字ノ成立、及、使用ニ六樣ノ區別アルコト。字形ニ就キテ六書ト云ヒ、字義ニ就キテ六義ト云フ。卽チ、上、下ノ字ノ如キ、事ヲ指示スモノヲ指事ト云ヒ、日、月ノ字ノ如キ、物ノ形ニ象ルヲ象形(又ハ形象)ト云ヒ、共ニ文ナリ。又、江、河ノ字ノ如キ、水偏ハ形ニテ、工、可ハ名ニ呼ブ聲ナリ、コレヲ形聲(又ハ、象聲)、又ハ諧聲ト云フ。武ハ止戈ノ合字、信ハ人言ノ合字ニテ、コレヲ會意ト云ヒ、共ニ字ナリ。以上ノ四ツヲ造字ノ本トス。又、右ノ文字ヲ別ニ使用スル法ニ、轉注ト假借トアリ、轉注ハ轉運灌注ノ義ニテ、文字ノ本義ヲメグラシ用キルナリ。例ヘバ、令ハ會ノ意ノ字ニテ、法令ノ義ナルヲ、法令ノ如クナラシムルヨリ、使令ノ意トシ、法令ハ吏長ノ民ニ命ズルヨリ、其命ズル吏長ヲ令トシ、長ハ會意ニシテ、諧聲ノ字ニテ、久遠ノ義ナルヲ、長短ノ長トシ、長幼ノ長トシ、又、長トスルガ如キ、又、假借ハ、其事物ノ字ナキニ因リ、同音ノ字ヲ借リ用キルモノニテ、竹ノ節ヲ、操ノ節トシ、朋ハ、モト、鳥ノ名、也ハ、女陰ナルヲ、借リテ以テ助辭トスルガ如シ。(狩谷棭齋ノ轉注ノ說ナド、又、他ニ黃以周ノ轉注ノ說アリ) 漢書、藝文志「周官保氏、掌養國子、敎之六書、謂象形、象事、象意、象聲、轉注、假借、造字之本也」周禮、地官篇、保氏、鄭注「六書、象形、會意、轉注、處事、假借、諧聲也」 (二)りくたい(六體)ニ同ジ。

りく-す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 戮 罪アル者ヲ刑シコロス。誅戮ス。左傳、成公二年「人不難以死免、其君、我戮之不祥」

りく-せい (名) 陸棲 陸上ニスムコト。(水棲ニ對ス)「陸棲動物」

りく-せい (名) 六牲 支那、古代ノ六種ノ牲。卽チ、馬、牛、羊、豕、犬、雞、ノ稱。周禮、天官篇、膳夫「凡王之饋、食用六穀、膳用六牲」鄭注「六牲、馬、牛、羊、豕、犬、雞」

りく-せき (名) 六籍 りくけい(六經)ニ同ジ。晉書、陳邵傳「篤志好古、博通六籍」

りく-せん (名) 陸戰 陸地ニ於ケルタタカヒ。陸上ノ戰爭 (海戰、水戰ニ對ス) 漢書、[illegible]「趙人[illegible]、不能陸戰」

りくせん-たい (名) 陸戰隊 海軍陸戰隊ノ略。陸上ニテ戰鬪セムガタメ、軍艦ノ兵士ノ上陸シテ編成シタル軍隊

りく-ぞく (副) 陸續 引キツヅク狀ニ云フ語。ヒッキリナシニ。ゾクゾク。陸游詩「竹作[illegible]」

りく-たい (名) 六體 (一)漢字ノ六種ノ書體。卽チ、古文、奇文、篆書、隸書、繆

書、[illegible]ノ稱。六書。 漢書、藝文志「六體者、古文、奇字、篆書、隷書、[illegible]」 [illegible]

りくたう (名) 六韜 〔韜ハ、ツツミ藏ス[illegible]〕 支那ニテ、兵書ノ名。周ノ太公望ノ撰セリト云フ書。即チ、文韜、武韜、龍韜、虎韜、豹韜、犬韜ノ六卷、六十篇ヨリ成ル。又、前漢ノ張良ガ、黄石公ヨリ受ケタリト云フ兵書ノ三略(上略、中略、下略ノ三卷ヨリ成ル)アリ。 [illegible]「[illegible]鬼一法眼行武藝六韜曰ニ七書ニ云云」 義經記、二、鬼一法眼ガ[illegible]ノ卷物ノ中ニ、鐵卷シタル虎韜ニ入リタル六韜兵法[illegible]

りくたうさんりゃく (名) 六韜三略 (一) [illegible]ヲ見ヨ。 [illegible] (二)轉シテ、秘傳ノハカリゴト。又、秘術。奥ノ手。虎ノ卷。

りくち (名) 陸地 水ニ蔽ハレザル土地。クガ。ヲカ。クガヂ。クニガ。クヌガ。 [illegible]

りくちく (名) 六畜 〔畜、集韻、敕六切(チク)、說文「田畜」也。正韻「許六切(キク)[illegible]」〕 六種ノ家畜。即チ、牛、馬、羊、雞、犬、豕、ノ稱。 [illegible]

りくちん (名) 陸沈 〔莊子、則陽(唐、陸德明)「陸沈、司馬云、常ニ顯而反隱、如ニ無レ水而沈ニ也」〕 (一)賢人ノ俗間ニ隱ルルコト。 [illegible] (二)滅亡スルコト。亡ブルコト。

りくつ (名) 理屈 〔理窟ノ意ニテ、理ノアツマル所ノ義〕 (一)コトワリ。スヂ。道理。理。 晉書、張憑傳「帝(簡文帝)召與語、歎曰、[illegible]理窟」 (二)頑ニ條理ヲ守リテ言張ルコト。又、コジツケノ理由。 [illegible]

りくてう (名) 六朝 (一)支那ニテ、吳(三國ノ)、東晉、宋、齊、梁、陳(以上南朝)ノ六朝ノ稱。(吳ハ、初、鎭江ニ都シ、後、建康、即チ、今、南京ニ移ル)皆、相繼ギテ、今ノ南京ノ地(應天府)ニ都シタレバ、合稱ス。 宋史、張守傳「建康自六朝爲帝王都、江流險闊、氣象雄偉」 (二)六朝體ノ書學。書家ノ云フ六朝トハ、北朝ヲ主トシテ(北魏ヲ中心トシテ)、時代ハ隋マデ含ムナリ。羅振玉ノ六朝精英モ、北魏ガ主ニテ、隋マデ集メタリ。

りくてん (名) 六典 〔典ハ經ナリ、法ナリ〕 支那、周ノ代、國ヲ治ムル六ツノ法典。即チ、治典、教典、禮典、政典、刑典、事典、ノ稱。 周禮、天官冢宰「大宰之職、掌建邦之六典、以佐王治邦國」 小[illegible]、宋、[illegible]治典(天官、冢宰)、教典(地官、司徒)、禮典(春官、宗伯)、政典(夏官、司馬)、刑典(秋官、司寇)、事典(冬官、司空)、[illegible]

りくでん (名) 陸田 ハタ。ハタケ。畑。(水田ニ對ス) [illegible] 類聚國史、百五十九、田地、天長[illegible] 口分田ハ[illegible]

りくとく (名) 六德 (一)人ノ守ルベキ六種ノ德。即チ、禮、仁、信、義、勇、智、ノ稱。一說ニ、知、仁、聖、義、忠、和、ノ稱。又、婦人ノ六德ハ、柔順、清潔、不妬、儉約、恭謹、勤勞ヲ云フ。 周禮、地官[illegible]「知、仁、聖、義、忠、和」 小學紺珠[illegible]「六德、禮、仁、信、義、勇、智」 (二)佛教ニテハ、梵語、薄伽梵(Bhagavān)即チ、世尊ノ六ツノ德。 增補下學集、下之三、數量門「六德(自在德、熾盛德、端嚴德、名稱德、吉祥德、尊貴德)」

りくば (名) 六馬 天子ノ車ニ用キル六頭ノ馬。六驥。六飛。六龍。 書經、五子之歌「予臨兆民、懍乎若朽索之馭六馬、爲人上者、奈何不敬」

りぐひ (名) 利喰 利子ノ重リフユルコト。利息ノ加ハルコト。 心中二枚繪草紙(寶永、近松作)中「御人觸トモ讒ヘマセヌ、我等ガ借ノ商賣ノ、元手モ利ぐひノ月ヲドル」

りくふ (名) 六府 (一)〔府ハ天地ノ藏ノ意〕財用ノ出ヅル六ツノモノ。即チ、水、火、金、木、土、穀ノ稱。 書經、大禹謨「地平天成、六府三事允治」 [illegible]「六府、即水火金木土穀也」 (二)りくゑふ(六衞府)ノ略。其條ヲ見ヨ。 三代實錄、四十五、元慶八年四月廿一日「天皇御紫宸殿、大臣已下侍、六府奏番奏[illegible]」

りくへい (名) 陸兵 (一)陸上ノ兵卒。(二)陸軍ノ兵士。

りくへい (名) 六柄 人君ノ政ヲナスニ、注意スベキ六種ノ事項。即チ、生、殺、貴、賤、貧、富、ノ稱。 [illegible]「[illegible]王之治天下也、云云、因用其六柄[illegible]」

りぐん (名) [illegible] ムレヲハナルルコト。 [illegible]

リクン-カムイ (名) 〔あいぬ語、Rin-Kin-Kamui〕 又、りきんかむい。樺太島ニ棲ム獸ノ名。鹿ニ似テ大キク、靑ク、雙角アリト云フ。オホシカ。麋。

りくり (副) 陸離 [illegible]也」 [illegible]狀、又、光ノ入リミダレテ、ウツクシキ狀ニ云フ語。 [illegible]上下」「光彩陸離」 (二)美好ノ狀ニ云フ語。 [illegible]

りくりつ (名) 六律 〔六呂ニ對ス〕 音樂、十二律中ノ、陽ノ聲ニ屬スル六ツノ音。ぢふにりつ(十二律)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]「五聲六律十二管、還相爲宮也」

りくりゃう (副) 陸梁 [illegible] 正義[illegible]故曰陸梁[illegible] ドリマハル狀、又、クルヒハシル狀ニ云フ語。 [illegible]

りくりょ (名) 六呂 〔六律ニ對ス〕 音樂、十二律中ノ、陰ノ聲ニ屬スル六ツノ音。ぢふにりつ(十二律)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

りくりょく (名) 戮力 〔戮ハ、合ハスル義〕 力ヲ合ハスルコト。相共ニツトムルコト。協力。 [illegible]

事ニ詔「強戰力而濟」之、人和天且和、民足君可」足」

りくろ (名) 陸路 陸上ノ路。クガヂ。(海路ニ對ス) 李頻、石詩「亂山無陸路、行客在孤舟」

りくゎ (名) 理科 理學ノ學科。又、理學ニ關スル科目。

りくゎい (名) 理會 道理ヲ會得スルコト。合點。 世說新語(劉宋、劉義慶)政事「時人以謂、山濤不學孫吳、而闇與之理會」

りくゑふ (名) 六衞府 王朝時代、左右近衞府、左右衞門府、左右兵衞府ノ六ツノ衞府ノ稱。六府。 源、三十四、上、若菜、上「六十ノ御馬四十疋、左右ノ馬ヅカサ、六衞府ノ官人、カミヨリツギツギニ曳キトトノフルホド、云云」

りけん (名) 利權 利益ヲ占有スル權利。 白居易、詩「能革此弊、待君秉利權」

りけん (名) 利劍 鋭利ナル劍。スルドキツルギ。 老子、第五十三章「服文采、帶利劍、厭飲食」 般若心經秘鍵「文殊利劍、絶諸戲論」 太平記、十七、日吉神託事「衣ノ袖ヲ結テ肩ニカケ、降魔ノ利劍ヲ提テ、云云」

りげん (名) 里諺 俚諺 俗間ニ行ハルルコトワザ。卑俗ナルコトワザ。 漢書、賈誼傳「里諺曰、欲投鼠而忌器、此善諭也」 韓琦、晝錦堂詩「非薄方册今後著俚諺」

りげん (名) 俚言 俗間ノ野卑ナル言語。サトビコトバ。土地ノ訛言。俗言。俚語。俗語。 左思、魏都賦「非鄙俚之言所能具」 「俚言集覽」(書名)

りげんせう (名) 俚言抄 こくぶかい(國字解)ニ同ジ。

りこ (名) 利己 (一)オノレニ利スルコト。一己ノ利益ノミヲハカルコト。自利。(二)道德學上、自己ノ幸福ヲ以テ、生活ノ規準トセムトスル觀念。(他人ノ利害ニ關セズ)「利己主義」「利己心」

りご (名) 俚語 俗間ノイヤシキコトバ。サトビタルコトバ。俗語。俚言。 五代史、郭崇韜傳「俚語曰、騎虎者勢不得下」

りこう (名) 利口 (一)巧ニ物言フコト。口サキノハタラキノ、スグレタルコト。 論語、陽貨「惡利口之覆邦家者」 菅家集、十六「與言利口」 (二)サカシキコト。カシコキコト。サトキコト。利發。怜悧。 (寬永)雜「りこうナ駒ニ、ノリテモドレリ」

りこうものがたり (名) 利口物語 輕口ノオトシバナシノ類。 古事談、五、神社佛寺「鳥羽法皇御熊野之時、アツサナゲサメサセ御坐サントテ、御前ニ祇候之人人、利口物語可仕ト、少少利口物語ナド令申之間、云云」

りこん (名) 利根 (利ハ鋭利ノ利、根ハ根器、卽チ、天性ノ意、鈍根ニ對ス) 利發ナル性質。カシコキ心。上根。 法華經、方便品「有佛子心淨柔軟、亦利根」 狂言記、數猿「サテサテ、利根ナ物ヂャ」

りこん (名) 離恨 人ト離別シタル恨ミ。離別ノ怨恨。別恨。別愁。離愁。 李白詩「明晨掛帆席、離恨滿滄波」

りこん (名) 離婚 婚姻關係ヲ解キテ離別スルコト。エンキリ。離別。 世說新語(劉宋、劉義慶)德行、上篇「子敬云、不覺有餘事、唯憶與郗家離婚」

りこんびゃう (名) 離魂病 睡眠中ニ、無意識ニ起キ出デテ、或動作ヲナシ、又ハ、諸方ヲ徘徊ナドスル一種ノ精神病。目醒メテ後、毫モ、ソノ事ヲ知ラズト云フ。 蘆屋道滿大内鑑(享保、竹田出雲)四「退イテ分別スルニ、離魂病トイフ病有リ、云云」

りさい (名) 罹災 災禍ニカカルコト。災害ヲ被ルコト。殃ニアフコト。

りざい (名) 理財 (一)金錢ノ用キヲ取締ルコト。有利ナル結果ヲ得ルヤウ、財貨ヲ整理スルコト。經濟。 易經、繫辭、下傳「理財正辭、禁民爲非曰義」 (二)(英語、Economy.ノ譯語) 人生生活ノ維持、發達ヲ目的トスル財貨ニ關スル計畫。

りざいがく (名) 理財學 經濟行爲ノ法則ヲ研究スル學問。經濟學。

りさう (名) 理想 (一)オモヒドホリ。ノゾミドホリ。考ヘツケタル最善ノモノ。又、今日ノ我ガ心ニテ、想像シ得ル限リ此上ナキコト。(二)(英語、Ideal.ノ譯語) 哲學上ニテ、吾人ノ理性ヲ以テ想像セル最善ノ目的。卽チ、秩序アル道程ヲ經テ、必ズ達シ得ベキ合理ノ目的。到達セムト考フル終局ノ點。人生究極ノ目的。又、理性ニ因リテ、此上ハアルマジト想像セル、最善ニシテ最美ナル究極ノ目的。將來ノ目安。

りさうりう (名) 離想流 槍術ノ一派。石野傳一氏利(慶安頃ノ人)ヲ祖トスルモノ。 武藝小傳、七「石野傳一源氏利者、始號二一齋、云云、氏利自少年好槍術、云云、與習有年、一旦似然悟其妙、備前卿大相撲曰、氏利槍術究極、可謂古今獨歩也、自今可號離想流也、云云」

りさげ (名) 利下 利率ヲ引キ下グルコト。(利上ニ對ス)

りさつ (名) 利札 無記名ノ公債證書、又ハ、債券ナドニ接續シテ、ソノ利子ヲ受取ル時ノ證トナスモノ。リフダ。

りさん (名) [illegible]

りざん (名) 離山 (一)他トハナレテ聳ユル山。孤立セル山。ハナレヤマ。孤峯。孤嶺。 [illegible]記、九、[illegible]「御坂ヨリ五十餘町ヲ去テ、一ノ離山アリ」 (二)寺ヲハナルルコト。寺院ヲ出デ去ルコト。 盛衰記、九、[illegible]一人モ殘ラズ離山シテ、此役ニ息ツキ居タリ」

りし (名) 利子 りそく(利息)ニ同ジ。

りし (名) 律師 りっし(律師)ニ同ジ。 源、十、榊九「故母御息所ノ御セウトノ、りしノ籠リ給ヘル坊ニテ、法文ナドヨミ、云云」

りし (名) 吏事 官吏ノ事務。官吏トシテ執行スベキ事柄。 後漢書、馬援傳「今上好吏事、動如古度」

りじ (名) 理事 (一)法人、其他ノ社團ニテ、外部ニ對シテハコレヲ代表シ、内部ニ在リテハコレガ業務ヲ執行スル機關。(二)日本銀行條例、南滿洲鐵道會社法等ニヨリ、特ニ設置ヲ命ゼラレタル職名。「日本銀行理事」「南滿洲鐵道株式會社理事」 (三)モト陸軍軍法會議ノ構成員ノ一ニテ、會議ニ於テ審判スベキ事件ノ豫審ヲナスヲ主タル職務トセシモノ。

りしう (名) 離愁 離別ノ愁傷。離恨。別恨。別愁。 [illegible]

りしやう (名) 利生 (利益衆生ノ義) 佛經ノ語。衆生ニ利益スルコト。又、ソノ利益。 南海寄歸傳、二「修行利生之門、貴在存乎通濟」 太平記、五、時政參籠榎島事「[illegible]島ノ辨才天ノ御利生、又ハ、過去ノ善因ニ感ジテケル故也」

りしやう（名）［[illegible]］[illegible]生死ヲハナルルコト。倶舎論、十三「得世第一法[illegible]」

りしゅ（名）［[illegible]］[illegible]（[illegible]酒）ニ同ジ。試酒。

りじゅん（名）［利潤］利益。利澤。マウケ。[illegible]

りしょく（名）［利殖］利ヲ得テ財産ヲ漸次ニ增殖スルコト。財産ヲ增スコト。

りす（名）［栗鼠］［字ノ音ノ轉］きねずみ（木鼠）ニ同ジ。

りす・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、サ變）［利］利益ヲ得シム。タメニナルヤウニス。易經、下經、坤卦「直方大、不習、无不利」

りすう（名）［里數］道程ヲ、一里、二里トカゾフル數。ミチノリ。里程。り（里）ノ條ノ（二）ヲ參見セヨ。史記、張儀傳「一日行三百餘里、里數雖多、然而不費牛馬之力」

りすい（名）［利水］水ノ通ヒヲ善クスルコト。水利ヲヨクスルコト。

リスリン（名）ぐりせりんノ略。其條ヲ見ヨ。

りせい（名）［里正］ムラヲサ。村長。又、庄屋。杜甫、兵車行「去時里正與裹頭、歸來頭白還戍邊」續淨徭（大寺正信院文書、三十五帙）「鳴俣里戶坪拾漆、云云、里正丸上部小刀良」

りせい（名）［理政］治ムルコト。マツリゴト。政治。理治。延慶本、平家物語、三、本、行賞大神宮八幡兩宮事「天下之機、已當于於理政」

りせい（名）［理性］［英語、Reason. ノ譯語］人ノ本來具有スル知ノ能力。人ノ理法ニ從ヒテ、思惟、判斷スル智ノ能力。（想像ニ對ス）「理性ノ判斷」

りせい（名）［[illegible]］[illegible]

りせう（名）［離礁］暗礁ニ乘リ上ゲタル船艦ナドノ、浮キテソコヲ離ルルコト。

りせき（名）［離籍］戶主ノ意ニ反スル家族ヲ、其戶籍ヨリ除クコト。

りそ（名）［理訴］理ノ正シキ訴ヘ。道理ニカナヒタル訴訟。盛衰記、四、白山神輿登山事「若シ日代師經ニ被枉、理訴ヲ非ニ被處者、云云」

りそく（名）［利息、利足］（息、增息ノ意）金錢ノ借用ニ對シテ拂フ報酬ノ金。コノシロ。利。利金。利合。利平。利子。息。北史、[illegible]傳、[illegible]「歲、利息、以本爲計」伊能文書、松前傳兵衞借用證文「但利足者本金拾五兩付、壹ケ月ニ金[illegible]分宛ニ相定申候」

りぞく（名）［里俗］サトノナラハシ。其土地ノ風習。村俗。李賀、昌谷詩「珍壤割繡段、里俗祖風義」

りた（名）［利他］他人ヲ利スルコト。己レヲ捨テテ、他人ニ、利益、幸福ヲ與フルコト。（自利ニ對ス）觀無量壽經、上「自利利他力圓滿」

りたい（名）［理體］形而上ノ本體。萬有ノ本體。又、理性。大職冠（正德、近松作）一「サトリノ佛性ヲ如意寶珠ニタトヘ、法性ノ理體ヲサシテ玉ト名付」

りだい（名）［里內］又、さとだい。さとだいり（里內裏）ニ同ジ。皇后年表、一「貞治四年、關白良基公着見、以此時爲里內之始」

りたう（名）［利刀］スルドキカタナ。切レ味ノヨキ刀。ワザモノ。孔叢子「秦王得西戎利刀、切玉如割木」

りだう（名）［[illegible]］村里ノ[illegible]國道以外ノ、公共ノ道路。

りたく（名）［利澤］（一）利益ト、恩澤ト。[illegible]時」（二）りじゅん（利潤）ニ同ジ。

りたつ（名）［利達］出世。立身。榮達。孟子、離婁、下篇「由君子觀之、則人之所以求富貴利達者、其妻妾不羞也」

りたん（名）［履端］［曆ノハジメノ義。左傳、文公元年「先王之正時也、履端於始、舉正於中、歸餘於終」ヨリ出ヅ］元日ノ稱。元正。三始。端日。下學集、上、時節門「履端、リタン、正月履ニ一切之事端、故曰履端也」初學記、歲時部、下、[illegible]元日、正始之初、有識之士、於此觀禮樂」

りだん（名）［離檀］寺院ト檀家ト、關係ヲ斷チテハナルルコト。寺社法則、下、文化十四年八月十六日「寺檀之間柄ハ、元來相對之義ニ付、御領主ヨリ離檀等御申付候筋ニテハ有之間敷候間、引移御申付次第、且差支之譯等、云云」

りち（名）［律］りつ（律）ニ同ジ。音樂ニテ、秋冬ノ調。コレニ對シテ、春夏ノ調ヲ呂ト云フ。源、二、帚木「りちノシラベハ、女ノモノヤハラカニカキナラシテ、云云」

りち（名）［理致］道理ニカナヒタル趣致。事ノワケ。道理。晉書、王衍傳「衍[illegible]理致淸遠、將以德擧[illegible]」

りち（名）［吏治］人民ノヲサメカタ。又、官吏ノ取扱フ政治。官治。史記、秦始皇紀、贊「繁刑嚴誅、吏治刻深、賞罰不當、賦斂無度」

リチイ（名）［荔枝］［荔枝ノ支那音、Li-chi. 南方音、Lai-chi.］れいし（荔枝）ノ條ヲ見ヨ。倭訓栞「りちい、荔枝ノ唐音ナリトイヘリ、我邦ニテ、種ヲオロシ生タルハ、[illegible]ニ似タリ、[illegible]近シ」

りちぎ（名）［律儀］［律ハ法律、儀ハ儀則ノ義］又、りつぎ。固ク禮儀道理ヲ守ルコト。義理ヲヨク守ルコト。コクメイ。謹厚。實直。大藏法數「行住坐臥、於此四[illegible]」

りちぎもの（名）［律儀者］律儀ノ人。正直ナル人。天鼓（元祿、近松作）三「此金目丸生レ付テりちぎもの、グドングチニシテ、トシハ廿七ナレ共、心ハミツ子同然ニテ、云云」

りちぶん（名）［[illegible]］りつぶん（[illegible]）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

りちゃう（名）［里長］ムラノヲサ。村長。里正。[illegible]「凡均令、云云、里長、[illegible]」

りつ（名）［律］（一）又、りち。音樂ノ調子。陰ニ屬スル呂ニ對シテ、陽ニ屬スル音調ヲ云フ。[illegible]（十二律）ノ條ヲ見ヨ。（二）刑ニ處スル制。律令格式ノ條ヲ見ヨ。（三）漢詩ノ一體。八句ヨリ成ルモノ。其第一、第二ノ句ヲ破題（起聯）、又ハ、發句ト云ヒ、第三、第四ヲ頷聯（前聯）、又ハ、前聯ト云ヒ、第五、第六ノ句ヲ頸聯（腰聯）、又ハ、後聯ト云ヒ、第七、第八ノ句ヲ結句（尾聯）、又ハ、落句ト云フ。而シテ頷聯ト頸聯トハ、必ズ對句ヲ用ヰル。又、其一句ノ字數ニ因リテ、五言律（五律）、七言律（七律）アリ、又、聯句ノ十數句ニ及ブヲ排律ト云フ。（數人シテノ聯句アリ）律詩。文體明辨「律詩[illegible]」

起聯ハ又名ニ發句、三四名ニ頷聯、五六名ニ頸聯、七八名ニ尾聯、又名ニ落句、云云」(四)〔梵語、Upa-raksa.(優婆羅叉)ノ譯語〕かいりつ(戒律)ニ同ジ。 六祖壇經、一、「本律者、外國名優婆羅叉、此翻名律、律、制之法名、之中律、律猶法也」 (五)りっしゅう(律宗)ノ略。其條ヲ見ヨ。

りつ (名) 〔率〕 割合。步合。比較ノ數。 晉書、天文志「以圖畫乘之、律約之」

りつあん (名) 〔立案〕 (一)工夫ヲ付クルコト。下組ヲスルコト。(二)文案ヲ作ルコト。

りつい (名) 〔立意〕 主意ヲ立ツルコト。又、立テタル主意。 史記、刺客傳、贊「其義、或成、或不成、然其立意皎然、不欺其志」

りっか (名) 〔立夏〕 二十四氣ノ一。其條ヲ見ヨ。 禮記、月令篇「立夏之日、天子親帥三公九卿大夫、以迎夏於南郊」

りつが (名) 〔律雅〕 音樂ノ調子ノ上品ナルモノ。 太平記、廿七、田樂事「心モ空ニ成ヌルニ、律雅調冷ク、颯聲耳ヲ清シ、云云」

りつがく (名) 立樂 立チテ奏スル音樂。

りつぎ (名) 律儀 (りちぎ(律儀)ノ條ヲモ見ヨ) 佛教ニテ、戒律ヲ持シテ、儀則ヲ嚴守スルコト。 大乘義章、十「言律儀者、制惡之法、說名爲律、行依律戒、故號律儀、[illegible]」

りっきゃく (名) 〔立脚〕 脚ヲ立ツルコト。又、場所ヲ占ムルコト。立場ヲ定ムルコト。 [illegible]「[illegible]立脚」」

りっきゃくち (名) 〔立脚地〕 自己ノ位置ヲ占ムル場所。又、タチバ。立脚點。

りっくゎ (名) 〔立花〕 花枝、樹葉ヲ大瓶ニ插ミ、山水ノ景象ヲ模シ見ハス一種ノ技藝。(いけばなト異ナリ) 三具足ノ花瓶ナドニ插シテ、佛前ニ供スルニ始マル。京都、六角堂ノ住持池の坊ニ起リ、其第十二世專慶ハ、康和年中、立花ノ道ヲ正ス、世人、宗匠ト呼ブ。第廿六世專順、生花ヲ始ム、寶曆十一年、江戸ニ始メテ行ハル、華道ト云フ。 槐記、享保十年正月九日「詩モ立花モ、スキニテアレドモ、何ノ益ナキコトナリ」

りっくゎん (名) 〔律管〕 てうしぶえ(調子笛)ニ同ジ。 晁沖之、贈[illegible]詩「陰房風日不可到、律管吹盡灰無蹤」

りっけん (名) 〔立憲〕 憲法ヲ立ツルコト。國家統治ノ大法タル憲法ヲ樹立スルコト。「立憲政體」立憲政治」

りつげん (名) 〔立言〕 言ヲ成スコト。後世ノ誡、又ハ、教訓トモナルベキ立派ナル言ヲ、シカト立ツルコト。又、ソノ言。 左傳、襄公廿四年「古人有言曰、死而不朽、何謂也、云云、大上有立德、其次有立功、其次有立言、雖久不廢、此之謂不朽」

りつご (名) 〔律語〕 音律的ニ綴リタル言語、又ハ、文章。韻語。韻文。

りっこう (名) 〔立后〕 公式ニテ、皇后ヲ册立スルコト。キサキダチ。 史記、孝文紀「有司請立皇后、云云、上爲立后故、賜天下鰥寡孤獨、窮困、及、年八十已上、孤兒九歲以下、布帛米肉各有數」 中右記、嘉承二年閏十月九日「前齋院(白河皇女令子)、准后儀(鳥羽)可有立后事」

りっこく (名) 〔立國〕 新ニ國家ヲ建立スルコト。獨立國ヲ樹立スルコト。建國。 荀子、富國篇「量地而立國、計利而畜民」

りっさう (名) 〔葎草〕 (一)かなむぐら(葎草)ニ同ジ。

(二)からはなさう(唐花草)ノ異名。其條ヲ見ヨ。

りつざう (名) 〔立像〕 (坐像ニ對ス) 又、りふざう。立チタル貌ノ像。 釋氏要覽、下、病篇「無常堂內置一立像、金薄塗之」

りつざう (名) 〔律藏〕 〔梵語、Vinaya.(毘奈耶)ノ譯語〕 佛教ノ語。三藏ノ一。佛教中ノ戒律ニ關スル法言ヲ結集シタルモノ。さんざう(三藏)ノ條ヲモ見ヨ。

りっし (名) 〔律師〕 (一)ヨク戒律ヲ解スルモノ。戒律ノ師範。 涅槃經、三「如是能知佛法所作、善能解說、是名律師」 (二)僧官ノ一。僧都ニ次ギテ、正、權、アリ、五位ニ准ズ。約メテ、りし。 續紀、一、二年三月壬午「詔以惠施法師爲僧正、智淵法師爲少僧都、善往(往イ)法師爲律師」

りっし (名) 〔律詩〕 りつ(律)ノ條ノ(三)ニ同ジ。 唐書、杜甫傳、贊「至宋之問沈佺期等、研揣聲音、浮切不差、而號律詩、[illegible]」

りっし (名) 〔立志〕 ココロザシヲ立ツルコト。一定ノ目的ヲ立テテ、コレヲ行ハムト志スコト。又、ソノ志。 孟子、萬章、下篇「聞伯夷之風者、頑夫廉、懦夫有立志」 年山紀聞(安藤爲章)五、立志「中人以上ト生レテ、志ヲ立テザルハ、奴僕ニヒトシカルベシ、云云」

りっしう (名) 〔立秋〕 二十四氣ノ一。其條ヲ見ヨ。 禮記、月令篇「立秋之日、天子親帥三公九卿諸侯大夫、以迎秋於西郊」

りっしん (名) 〔立身〕 (一)身ヲ世ニ立ツルコト。官職ニ擧ゲ用ヰラルルコト。出世。〔發跡〕〔榮達〕〔顯達〕 孝經、開宗明義章第一「夫孝始於事親、中於事君、終於立身」 (二)初位ノ稱。くらゐ(位)、及、うひかうぶり(初冠)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 冠位通考「初位、又名ニ立身、云云」注「立身トハ、無位ノ人、ハジメテ身ヲタテテ入色スル意ノ名ナリ」

りっしんべん (名) 〔立心偏〕 (一)漢字ノ偏ニアル心、卽チ、忄ノ字ノ稱。性、怪、恨、悅、情、ノ如シ。豎心旁 (二)情人ノ異名。(情字ノ偏ニ基ヅクカ)

りっしゃ (名) 〔豎者〕〔立者〕 (豎ハ竪ノ俗字、正音ジュ、りつハ、[illegible]音ナリ、論場ニ義ヲ立テテ、問者ノ難ニ答フル者ヲ、豎義トモ、又、豎者トモ云フ) 佛教ノ語。天台宗ニテ、大會ノ論議ノ時、義ヲ立テ、質問者ノ難詰ニ答フル僧ノ稱。又、二十講ヲ經タル僧。又、叡山東塔ノ三十講、西塔ノ二十八講ヲ遂行シタル者。卽チ、論場ノ試驗ニ及第シタル僧ノ稱。 [illegible]デ任叙シタル人、老年ノ後、此豎者ヲ勤ムルヲ鶴退ト云フ」 [illegible]

りっしゅう (名) 律宗 佛教ノ八宗ノ一。正シクハ戒律宗。佛ノ制戒ヲ躬行實踐スルコトヲ主義トス。略シテ、律 支那ニテハ、三國ノ頃、中印度ヨリ來リタル曇柯迦羅ヲ初祖トシ、本邦ニテハ、天平勝寶六年來朝シタル鑑眞和尚ヨリ傳ヘ、東大、招提ノ二寺ヲ本處トシテ、大イニ弘通セリ、其後、一時、衰ヘ、鎌倉時代ニ大悲、興正ノ二人、再興セシガ、再ビ衰ヘ、今ハ大和ノ唐招提寺ヲ總本山トシテ、僅カニ其末寺ヲ統ベルニ過ギズ。 八宗綱要、上、律宗「問、何故名律宗乎、答、名爲所依、故名律宗、云云」

りっしゅん (名) [立春] 二十四氣ノ一。其條ヲ見ヨ。禮記、月令篇「立春之日、天子親帥三公九卿諸侯大夫、以迎春於東郊」

りっしゅんだいきち (名) [立春大吉] (主ニ曹洞宗)ニテ、長サ六寸二三分、幅四寸一二分ノ紙片ニ此四字ヲ記シ、寺院、堂舍ノ入口ノ左右ニ貼ル符札。立春早旦ニ、消災吉祥陀羅尼ヲ加持ス、道元禪師ノ所傳ナリト云フ、或ハ云フ、立春大吉ハ表裏同形ノ文字ニテ、道家ノ符祝ナリト。眞言宗ニハ、摩訶吉祥ト書ス。(摩訶ニハ大、多、勝ノ三義アリト云ノ) 我衣(文化、曳尾庵)「禪寺ノ門ノ札ニ、立春大吉、此四文字、表裏ナシ」

りっしょう (名) [立證] 證據ヲ立ツルコト。

りっしょく (名) [立食] (一)西洋風ノ饗應ニ、飲食ヲ卓上ニ供ヘ置キテ、衆客ノ自ラ就ク任スルモノ。(二)立チナガラ食事ヲスルコト。タチグヒ。

りっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) [律] タダス。ノリトシテタダス。法則ニ從ハシム。「他ヲ律す」

りっすいのち (名) [立錐之地] 錐ヲ立ツル處。轉ジテ、少シノ土地。置錐之地。史記、留侯傳「如、孫叔敖之賢、楚相ハ盡、忠爲、廉、以治、楚、楚王得、以霸、今死、其子無、立錐之地、貧困負、薪以自飲食」 莊子、盜跖篇「堯舜有、天下、子孫無、置、錐之地」 書言字考節用集、一、乾坤門「立錐之地、リスイノチ、言貧無、産業、謂、之無、立錐之地」

りつぜん (副) [慄然] ヲノノキフルフ狀ニ云フ語。ブルブル。ワナワナ。晉書、王湛傳「湛因剖、析玄理、微妙有、奇趣、云云、濟(湛ノ兄ノ子)云云、懍然、其ニ不、覺慄然、心形俱肅」

りっソウ (名) [律僧] 律宗ノ僧。庭訓往來、十月「[illegible]律僧、[illegible]工法師等也」 太平記、十一、金剛山寄手等被誅事「[illegible]律僧ニテ、律僧ノ[illegible]、云云」

りったい (名) [立體] 數學ノ語。形、位置、長サ、幅、及、厚サヲ有シ、ソノ境界ハ面トナレルモノ。卽チ、物體ノ占ムル空間ノ一部分。

りったいし (名) [立太子] 公式ヲ以テ、皇太子ヲ立テサセラルルコト。立坊。立儲。百練抄、七、天萬元年六月廿七日「於關白第定立太子事」 續紀、廿、天平寶字元年四月辛巳「遣内舍人藤原朝臣雄、中衞二十人迎大炊王立爲皇太子」

りっとう (名) [立刀] 漢字ノ旁ニアルリノ字ノ稱。卽チ、刀ナリ。刈、列、利、別、刻、則、前、剛、劇、剤、ノ字ノ如シ。侍刀。運歩色葉集「立刀」(一本、リウタウ)

りっちょう (名) [立丁] 古ヘ、公ノ役ニ就ク丁壯。役ニ出ヅル丁。三代實錄、四十七、仁和元年二月五日「事力、立丁、皆、民之重役、雖貧不堪其苦、流離他境、雖加撫育、去多歸少」

りっちょ (名) [立儲] 〔儲ハ副君ナリ、儲君ノ義。後漢書、安帝紀、贊、注「儲嫡、謂太子也」〕 儲君、卽チ、皇太子ヲ立テサセラルルコト。立太子。立坊。

りっとう (名) [立冬] 二十四氣ノ一。其條ヲ見ヨ。禮記、月令篇「立冬之日、天子親帥三公九卿大夫、以迎冬於北郊」

リットル (名) 〔佛蘭西語、Litre〕 佛蘭西國ノ容量ノ名。めえとる法ニ因ル體積ノ單位ナリ。我ガ五合五勺餘ニ當ル。

りっぱ (名) [立破] 〔能立能破ノ意〕 佛教ノ語。己レノ信義ヲ立證シテ、他ノ論說ヲ破却スルコト。法然上人語燈錄「凡ソ立破ノ道ハ、マヅ所破ノ義ヲ、ヨク心得テコソ、破スルナラヒナルニ、云云」

りっぱ (名) [立派立羽] 〔一派ヲ立ツルニ云フ、又、鳥ノ羽ヲ立テタルニ比ス〕 [illegible]コト。イカメシキコト。[illegible]

りつぼう (名) [立坊] りふばう(立坊)ニ同ジ。

りっぽう (名) [立方] (一)數學ニテ、同ジ數三ツノ連乘積。(二)方形ナル物ノ、上下、四方、皆、同ジ寸法ナルモノ。マスガタ。サイノメ。(平方ニ對ス)

りっぽうこん (名) [立方根] 數學ノ語。かいりふほう(開立方)ノ條ヲ見ヨ。

りっぽう (名) [立法] 法律ヲ定メ立ツルコト。漢書、刑法志「聖人既躬明哲之性、必通天地之心、制禮作教、立法設刑」

りっぷく (名) [立腹] ハラヲタツルコト。イカリ。怒。甲陽軍鑑、六、品第十四「五左衞門ト申者、卅七八マデ己ハ何ヒセズシテ、人ノ[illegible]ヲ申ストテ、信玄公、立腹マシマシ、云云」

りつぶん (名) [律文] (一)韻律ノアル文章。韻文。(二)法律ノ條文。

りつぶん (名) [率分] 又、りちぶん。同ジ類ノ二ツノ量ヲ比較シタル其相互間ノ率。江家次第、五、圓宗寺最勝會事「用途料依例、以諸國所進年料率分內所請如件」

りつぶんしょ (名) [率分所] 又、そつぶんしょ。古ヘ、大內裏内ノ東北部ニアリテ、非常ノ用ニ供スルタメ、大藏省ニ收納セル調物ノ中、十分ノ二ヲ分チテ貯藏セシ[illegible]。

りつぶんどう (名) [illegible] 又、そつぶんどう。[illegible] 道忠臣「村上ノ御時、云云、率分堂ニ草ノ繁レルトハ、諸國ノ貢物ノ來ラヌ由ナルベシ」

りつめい (名) [立命] 天命ヲ全ウシテ、人爲ヲ以テ害セラレザルコト。孟子、盡心、上「[illegible]」

りつりょう (名) [律令] 律、次條ノ語ヲ見ヨ。「[illegible]」 天武紀、下、十年二月「[illegible]」

りつりょうきゃくしき (名) [律令格式] 古ヘノ制度ノ稱。又、ソヲ記シタル書。律ハ、刑罰ノ制ヲ記シタル書ナリ、天下ノ人、罪ヲ犯ス時ハ、コレニ因リテ罰ス。令ハ、天下ノ法令ヲ記シタル書、淡海公以下、奉敕ノ撰ナリ、義解ハ、右大臣夏野ノ編ナリ、後、天智天皇ノ近江ノ令(廿二卷)ハ、今傳ハラズ。格ハ、令ニ漏レタルコトヲ、時務ニ從ヒテ、別敕ヲ下シテ制ヲ立テラレシモノ、冬嗣、氏宗、時平等、奉敕シテ撰ス、今、僅ニ存ス。式ハ、朝廷ノ禮儀ヲ定メラレタル書、弘仁、貞觀、延喜ノ三ニアリ、冬嗣、忠平等、奉敕シテ撰ス。本朝文粹、八、弘仁格序「蓋聞、律以懲肅爲宗、令以勸誡爲本、格則量時立制、式則補闕拾遺、四者相須、足以垂範」

りつりょ (名) [律呂] 〔漢書、律歷志、上「律十有二、陽六爲律、陰六爲呂」〕 六律六呂。音律。音調。調子。[illegible]りつ(十二律)ノ條ヲモ見ヨ。晉書、律歷志、上「律呂[illegible]」 拾芥抄、上、末、音樂部「平調(律呂、金管也)」

りつ-れい (名) 〔律令〕〔史記、杜周傳「前主所ノ是、著ハシテ爲ㇾ律、後主所ノ是、疏シテ爲ㇾ令」〕(一)ノリ。オキテ。法令。(二)臺灣總督ノ發スル命令。其管轄内ニ於テハ、法律ト同等ノ效力アルモノ。

りつ-れい (名) 〔立禮〕起立シテ行フ禮。天武紀、下、十一年九月「自今以後、跪禮、匍匐禮並止之、更用難波朝廷（孝德）之立禮」

りつ-ろん (名) 〔立論〕議論ヲ構成スルコト。又、構成シタル論。漢書、敍傳「述趙充國辛慶忌傳第三十九、營平皤皤、立功立論」

り-てい (名) 〔里程〕ミチノリ。里數

リ-ト (名) 〔吏道吏吐〕〔吏文ノ句讀ニ用キル文字ノ意、吏道ハ當字ナリ、新羅時代（千數百年前）ニ、漢文ノ句讀ノ場所ニ、助詞トシテ使用セラレタル古語ヲ意味ス〕朝鮮ニテ、漢字ノ音訓ヲ假リテ共國語ヲ記スモノ。漢語ニ交ヘテ記スコト、我ガ宣命ノ如シ。恰モ萬葉假名ニ類ス。（諺文トハ異ナリ）朝鮮版大明律、跋（後小松天皇應永二年、支那明洪武廿八年）「本朝三韓時、薛聰所造方言文字、謂之吏道」（薛聰ハ新羅神文王ノ時ノ人、本朝天武天皇ノ頃ニ當ル）

り-とく (名) 〔利得〕マウケ。トク。カガ。クボサ。利。利益。利德 戰國策、燕策「今臣爲足下使、利得十城」

リトマス (名) 〔英語、Litmus.〕種種ノ地衣類ノ植物ヨリ得ル紅紫色ノ染色液。あゐかり液ヲ加フレバ青色ニ變ジ、之ニ酸ヲ加フレバ、復、赤色ニ變ズ。故ニあるかり性、又ハ、酸性反應ノ試驗ニ用キル。「リトマス試驗紙」

り-どん (名) 〔利鈍〕(一)銳（スルドキ）ト、鈍（ニブキ）ト。

三國志、吳志、呂蒙傳、注「兵有利鈍、戰無百勝」(二)利發ナルト、愚鈍ナルト。(三)事ノ運ト、不運ト。諸葛亮、後出師表「臣鞠躬盡瘁、死而後已、至於成敗利鈍、非臣之明所能逆覩也」易林節用集（慶長）上、言辭門「利鈍、リドン」

り-にゅう (名) 〔離乳〕ちばなれ（乳離）ノ條ヲ見ヨ。

り-はい (名) 〔離杯〕ワカレノサカヅキ。別杯。賈島詩「凝愁對孤燭、昨夜飲離杯」

り-はい (名) 〔離配〕配下ヲハナルルコト。又、寺院ガ他ノ寺院ノ支配下ヲハナルルコト。寺社法則、下、文化十二年四月「妙心寺離配之義、同家（戶田氏女正家）ヨリ懸合有之、云云、一體、離末、離配之義ハ、共寺起立等ニモ寄、一派仕來ヲ以可取計儀ニ付、云云」

り-ばい (名) 〔利倍〕利息ニ利息ヲ生ズルコト。白居易、策林「廳、病而化速、利倍而功帳」太平記、一、關所停止事「富祐ノ輩ガ利倍ノタメニ畜積メル米穀ヲ點撿シテ、云云」

り-ばい (名) 〔利賣〕利ヲ得テウルコト。マウケテ賣却スルコト。吾妻鏡、四十三、建長五年十月十一日「被定利賣直法」

り-はつ (名) 〔利發〕〔利口發明ノ義〕サカシキコト。カシコキコト。恰悧 甲陽軍鑑、六、品第十四「利發ニテ、瞳病ナル者ハ、人ノ機ニ入テ走リ廻リ、近付多シ」

り-はつ (名) 〔理髮〕(一)髮ヲ理（ヲサ）メ結フコト。傅咸、櫛賦序「大才治世、猶櫛之理髮、理髮不可無櫛、治世不可無才」(二)昔、元服、又ハ、裳（モ）着ノ時、頭髮ノ末ヲ剪リ、又ハ、結ビナドシテ調フルコト。又、ソノ人。（加冠（カクワン）ノ條ヲ見ヨ）西宮記（故實叢書本）廿、親王元服「天皇出御、親王着座、云云、引入進、理髮進、攏髮出了、親王退、引入退、親王拜」浦島年代記（元祿、近松作）二「御初冠トノセンジニテ、云云、理髮給

仕ノ卿相雲客、軾（ヒザツキ）ニ列座シテ、今ヤ今ヤト待チ給フル」(三)今ハ、散髮ヲ刈リヲサムルコト。

りはつ-てん (名) 〔理髮店〕理髮ノ業ヲ營ム家。トコヤ。サンパツドコ。散髮店。

り-はふ (名) 〔理法〕ノリトスベキ道。ノリ。ミチ。原理法則。韓詩外傳（漢、韓嬰）六「莫不理法、則公道達而私門塞、公義立而私事息」

り-ひ (名) 〔理非〕道理ト、非理ト。道理ニカナフト、カナハザルト。是非。太平記、三十五、青砥左衞門事「青砥左衞門是ヲ見テ大ニ忿リ、沙汰ノ理非ヲ申シツルハ、相撲殿ヲ奉思故也」

り-びん (名) 〔理鬢〕昔、加冠ノ時、鬢髮ヲ調フルコト。又、其人。玉海、嘉應二年四月廿三日「此日故攝政殿若君、於近衞第有元服事、云云、次理鬢人參進、如形理鬢、調雜具等退下」

り-びゃう (名) 〔痢病〕腸ノ病。大便絕エズ瀉（クダ）リテ、腹、痛ムモノ。クソヒリノヤマヒ。シリフリ。痢。痢患。其色赤キヲ、古ク血糞（チクソ）ト云フ。アカナメ。アカバラ。赤痢 白キヲ、古ク滑（ナメ）ト云フ、ビャクリ。白痢 又、赤白痢ヲ古ク尻垂（シリオテ）ト云フ。重下 倭名抄、三「病類「痢、音利、久曾比理乃夜萬比、言出漏之利也」百練抄、十六、建長元年七月六日「天皇痢病御惱、云云」

りふ (接尾) 〔粒〕米、丸藥、ナドノつぶヲ數フル語。開見後錄（宋、邵博）「靈丹一粒」

り-ふ (名) 〔嫠婦孀婦〕ヤモメ。夫ナキ婦人。寡婦。詩經、小雅、小旻之什、巷伯篇、毛傳「昔者顏叔子獨處于室、鄰之嫠婦、又獨處于室」釋文「嫠婦、寡婦也、依字作嫠」

り-ぶ (名) 〔吏部李部〕(一)支那ノ役所ノ名。モトハ尙書省ノ一部、近代ハ獨立シテ、戶、禮、兵、刑、工ノ五部ト共ニ、一

省ヲ成セリ。舊唐書、職官志、「〔…〕」、常侍曹二爲吏部曹、主選擧祠祀事」(二)式部省ノ唐名。りほう（吏部）ニ同ジ。

りふ-えい (名) 〔立纓〕〔垂纓、卷纓ニ對ス〕冠ノ具。えい（纓）ノ條ヲ見ヨ。

りふ-ぎ (名) 〔竪義立義〕〔竪ハ正音、ジュナレドモ、今、慣用音ニ從フ〕佛教ノ語。古ヘ法會ノトキ、論場ニテ探題ノ出シタル論題ニ對シテ、義ヲ立ツルコト。又、其僧。りつしゃ（竪者）ノ條ヲモ見ヨ。玄蕃寮式「凡興福寺維摩會、云云、其竪義者、探題試之、及第者即敍滿位、云云、興福、藥師兩寺維摩、最勝會竪義、及第僧等、云云」

りふ-ぐゎん (名) 〔立願〕神佛ニ祈願ヲ立ツルコト。願懸。願立。平家物語、一、願立事「母上、此御立願ノ御事、人ニモ語ラセ給ハネバ」

りふ-ご (名) 〔立鼓〕りうご（輪鼓）ノ條ヲ見ヨ。

りふ-ざう (名) 〔立像〕りつざう（立像）ノ條ヲ見ヨ。（坐像ニ對ス）

り-ふじん (名) 〔理不盡〕理ヲツクサズシテ、押シテスルコト。理ヲ犯シテ人ニ迫ルコト。テゴメ。玄蕃寮式「凡諸寺以別當爲長官、以三綱爲任用、擇由與不得、共署連判、及依理不盡、負物等之狀、一同京官、共署不之狀、令〔…〕」

り-ふだ (名) 〔利札〕りさつ（利札）ニ同ジ。

りふ-ばう (名) 〔立坊〕〔坊ハ春宮坊ノ坊ナリ〕りったいし（立太子）ニ同ジ。

りふ-ぶ (名) 〔立部〕支那ニテ、伶人ノ堂下ニ在リテ、立チテ樂ヲ奏スル組。之ニ對シ、堂上ニ在リテ、坐シテ奏スル組

ヲ坐部ト云フ。唐書、禮樂志「分[レ]樂爲[二]二部[一]、堂下[illegible]坐部[illegible]」

りふん (名) 利分 (一)利益トナル分。[illegible] (二)利息。利子。太平記[illegible]

りふりふ リユウ・リユウ (名) 粒粒 ヒトツブ、ヒトツブ。スベテノツブ。楊基詩「山人送[レ]我山田米[illegible]」粒粒辛苦ト云フ。李紳、憫農詩「鋤禾日當[レ]午、汗滴禾下土、誰知盤中餐、粒粒皆辛苦」

りへい (名) 利平 りそく(利息)ニ同ジ。建武以來追加、諸人借物事「錢主與[二]借主[一]相談之[illegible]」

りへい (名) 利病 〔後漢書、羊續傳「候[二]民利病[一]」注「損[レ]於[レ]人曰[レ]病、益[レ]於[レ]人曰[レ]利」〕 りがい(利害)ニ同ジ。得失。[illegible]

りへい (名) 利兵 鋭利ナル兵器 スルドキキレモノ。荀子、議兵篇「堅甲利兵、不[レ]足[二]以爲[一レ]勝、高城深池、不[レ]足[二]以爲[一レ]固」 太平記、十一、「金剛山寄手[illegible]堅甲利兵、徒ニ[illegible]ノ[illegible]ニ擬カレテ、滅亡ヲ[illegible]日ノ中ニ得タル事、云云」

りべつ (名) 離別 (一)人ト別ルルコト。別離。分袂。[illegible] (二)離縁。

りべつじやう リベツ・ジヨウ (名) 離別狀 りえんじやう[illegible]

りほう (名) 吏部 又、りぶ。式部省ノ唐名。[illegible]

「[illegible]時」文徳實錄、七、齊衡二年正月「松影四入[二]式部[一]、云云[illegible]」

リボン (名) 〔英語、Ribbon〕 [illegible]ノ[illegible]、絹絲、其他、材料ニテ薄ク[illegible]リ、衣類、帽子ナドノ縁ニ用ヰ、又、女子ノ髪、小サキ容器ナドノ飾ニモ用ヰル。

りまつ (名) 隷末 末寺ノ、其本寺ヨリハナルルコト。寺社法則、下、文化十二年四月「一、[illegible]末、[illegible]之儀ハ、其寺建立等ニモ[illegible]、一[illegible]來ヲ以可[二]取計[一]儀ニ付、云云」

りまはし リ・マワシ (名) 利廻 利息ヲ得ムタメニ、金ヲ他ニ貸シ出スコト。利殖ヲ叶ルコト。好色二代男(貞享、西鶴)三「今ノ大夫[illegible]云、溜リ金アルヲ、サル揚屋利廻シニ貸シ、云云」

りまはり リ・マワリ (名) 利廻 有價證券ノ利子、又ハ、配當金ノ、該證券ノ時價ニ對スル割合ヲ云フ。「利廻リガヨイ」

りまんきゆう (名) 利滿弓 又、李萬弓。半弓ノ名。朝鮮ノ利滿子ノ傳フル所ト云フ。鯨[illegible]ニテ作ル、長サ二尺許リ、高メニネラヒテ矢ヲ放チ、空中ニ半弧ヲエガカシメテ的ニアツルモノ。

りみん (名) 里民 サトビト。村里ノ人民。其土地ノ民。村民。邑民。太平記、五、「關大事「農ヲ勸ムル里民モ、夫ニ被[レ]執テ是ヲ舁」

りむ (名) 吏務 役人ノツトメ。又、國司ノ執ル事務。台記、仁平元年二月四日「近江國、云云、件國[illegible]吏務、云云」

りん (名) 輪 (一)車ノ輪。莊子、天道篇「[illegible]輪、徐則甘而不[レ]固、疾則苦而不[レ]入、不[レ]徐不[レ]疾、得[二]之於手[一]、而應[二]於心[一]、口不[レ]能[レ]言、有[レ]數存[二]焉於其間[一]」「二輪車」四輪ノ車」 (二)花ノ圍ミ。花冠。又、花ヲ數フル語。四季物語、五月「花[illegible]

ノりん三ツ四ツ舉リステテ行ヌ」「梅一輪」菊三輪」 (三)(覆輪ノ略) 衣服ノ緣。別ノきれニテ縁ヲ取リタルモノ。襴ナルモ、縁ナルモ、袘ナルモ云フ。下學集、下、絹布門「輪、リン、衣具也、[illegible]」 [illegible]ハ同朋衆ハ小袖ノりんニ、何ニテモ唐物ヲサシタル由申候」貞丈注「小袖ノエリ、袖口ニふくりんヲトル也、へりヲトル事ナリ」 (四)指貫ノ裾ノ紐括。

りん (名) 厘 り(釐)ノ條ヲ見ヨ。

りん (名) 燐 〔燐ヲ本字トス、粦ハ俗字、〕 說文「粦、兵死及牛馬之血、爲[レ]粦、鬼火也」 (一)キツネビ。オニビ。燐火。イウレイビ。陰火。淮南子、氾論訓「老槐生[レ]火、久血爲[レ]燐、人弗[レ]怪也」[illegible]「[illegible]露百日、則爲[レ]燐」 ほたる(螢)ノ條ヲ見ヨ。 (二)非金屬元素ノ一。

りん (名) 痳 〔淋病ノ合字〕 シバユバリ。病ノ名。痳菌ノ感染ニヨリテ、尿道爛レ、小便ニ膿ヲ交ヘ、快適セヌモノ。痳病。痳疾。

りん (名) 匳 〔正音、れん〕 クシゲ。鏡、櫛ナドヲ納ルルハコ。又、香匣(カウバコ)。香合(カウガフ)。字類抄「匳、リン、俗云、綸行、香具也」

リン (名) 鈴 〔字ノ唐音〕 (一)れい(鈴)ニ同ジ。盛衰記、十九、文覺入定京上事「銅ノ鈴(リン)ヲ以テ、云云、是ヲ鳴ス」 (二)今、又、佛具ノ一、響銅ニテ作リテ、小サキ鉢ノ如シ、仰ケテ、小サキ棒ニテ、縁ヲ打鳴ラス。眞俗佛事編、二、「[illegible]鈴、是レモ亦佛前ノ鳴物ナリ、其形、鈴ノ屬ナレバ稱[レ]之、唐音ヲ用テ鈴(リン)ト呼ブナリ、密家ニハ、此ヲ金(カナマリ)鋺ト云フ」

りんいう リン・ユウ (名) 鄰佑 隣佑 家ノ鄰(トナリ)ニ住ム人。鄰人。無冤錄「死無[二]親屬[一]、許[三]鄰佑地主防正甲[illegible]官[illegible]佑[illegible]也、[illegible]相助之[illegible]、[illegible]佑[illegible]」

りんいふらく リン・ユウ・ラク (名) 林邑樂 雅樂ノ一。[illegible]、林邑樂、來[二]自[illegible]比樂[一]故也」

りんう (名) 霖雨 [illegible]「凡[illegible]、自[二]三日[一]以往爲[二]霖[一]」[illegible] 書「若歲大旱、用[レ]汝作[二]霖雨[一]、啓[二]乃心[一]、沃[二]朕心[一]」文[illegible]」

リンうち (名) 鈴打 鈴打時計、[illegible]鈴アリテ、時ヲ打鳴ラス仕掛アル時計。

りんえい (名) 林永 [illegible]ニテ、モト、[illegible]故ニ云フ」江戸時代、私有林[illegible]ル租稅。林役。林稅。[illegible]之事「又、空地ニ新林仕立、百姓持ニナレバ、林木等相應ノ年貢申付事也」

りんか (名) 鄰家 隣家 トナリノイヘ。[illegible]爲[二]通計[一]也」

りんが (名) 臨河 林歌 〔[illegible]〕 舞樂ノ曲ノ名。[illegible]曲ニテ、竹園ノ間ニ、樹[illegible]リテ、[illegible]舞ヒシ故ニ、林歌ト云フト」 舞樂ノ曲ノ名。平調ノ高麗樂ノ一。倭名抄、四、曲調類「臨河、[illegible]、林歌」[illegible] 舞「左右舞及人數裝束、右舞、林歌(舞人四人)、袴(常裝束也)、[illegible]」

りんかう リン・コウ (名) 鄰好 隣好 トナリノ[illegible]。又、トナリトノ、ヨシミ。仲好クスルコト。[illegible]人」

りんかう リン・コウ (名) 鄰交 隣交 トナリトノマジハリ。[illegible]國ト國トノ交際。[illegible]

りん-かう (名) [臨幸] 行幸アリテ、其場ニノゾミ給フコト。イデマシ。臨御。唐書、儒學傳、序「貞觀六年、云云、數臨幸、觀釋菜こ」名目抄「臨幸、リンカウ、御幸同之」「臨幸ヲ仰グ」

りん-かう (名) [臨行] 人ノ行キテ、其場所ニノゾムコト。盛衰記、廿八、經正竹生島詣、附仙童琵琶事「頭ハ御下、臨行シテ、供養ノ素念ヲ果シ給ヘト、云云」

りん-かう (名) [輪講] 數人、順番ニ講釋スルコト。順講。日本教育史資料、六、薩摩藩、明善館學規、輪講式、教授、助教、授讀、理位、生徒左右、及下端坐、各拈鬮、以次而講、云云」

りん-がく (名) [林學] 又、山林學。林業ニ關スル理論、方法ヲ、研究スル學問。

りん-かん (名) [林間] ハヤシノアヒダ。森林ノ中。白居易、送王十八歸山、寄題仙遊寺詩「林間煖酒燒紅葉、石上題詩掃綠苔」

りん-かん (名) [臨監] 其場所ニノゾミテ取締ルコト。韓維、山水略錄詩「有寒高下且十數、如以等位相臨監」

りん-かん (名) [輪姦] 多クノ男ガ、次次ニ一人ノ女ヲ強姦スルコト。木魚講。

りん-き (名) [悋氣] 人ノ上ヲ悋ミネタムコト。又、夫婦ノ間ノ嫉妬。リンコ。ヤキモチ。易林節用集(慶長)上、言辭門「悋氣、リンキ」鸚鵡波集(寬永、西武)一「小尻トガメノ、喧嘩出來タリ若衆ノ、りんきヤ酒ノ、醉心地」

りん-き (名) [臨機] 事ヲ處理スルニ、其場合ニ應ジテナスコト。南史、梁宗室傳「吾自臨機制變、勿多言」「臨機應變」「臨機ノ處置」

りん-ぎ (名) [稟議] (稟ハ筆錦切、正音ひん) 官廳、會社ナドニテ、特ニ會議ヲ開ク程ノ事項ニテアラザルトキ、主事者ガ文案ヲ作成シ、長官、又ハ、重役間ニ廻附シテ、其承認ヲ求ムルコト。

りんき-おうへん (句) [臨機應變] 機ニ臨ミ、變ニ應ズ。場合ニ任セテ、適宜ニ事ヲ行フ。史記、游俠傳、評林増「晉、後令ハ臨機應變、手ニ此可ニ見」

りんき-こう (名) [悋氣講] 婦人、寄リ合ヒテ、互ニ悋氣ヲ語リアフコト。又、ソノ集會。好色一代女(貞享、西鶴)三「今宵モマタ長蠟燭ノ立チキルマデ、悋氣講アレカシト勸メ」

りん-きん (名) [𣏾] りんご(林檎)ノ類。べにりんご(紅林檎)ノ條ヲ見ヨ。

りん-ぎょ (名) [臨御] (一)りんかう(臨幸)ニ同ジ。(二)天子ノ其位ニアリテ、國家ヲ治ムルコト。晉書、康帝褚皇后傳「帝加元服、禮成德備、當陽親覽、臨御萬國」

りん-くゎ (名) [燐火] 燐ノモユル火。オニビ。アヲビ。キツネビ。イウレイビ。陰火。庾信、連珠賦「磐魂不返、燐火宵飛」

りん-くゎう (名) [燐礦] 多量ニ燐酸ヲ含メル礦石。我ガ國ニテハ、南洋ノ諸島ニ、燐ヲ含メル海鳥ノ糞ノ、珊瑚礁ノ炭酸石灰ト化合シテ成レルモノアリ、之ヲ糞化石ト云ヒ、人造肥料ノ原料ニ用ヰル。

りん-くゎく (名) [輪郭] (一)メグリノスヂ。又、メグリノソトガハ。メグリ。マハリ。後漢書、董卓傳「壞五銖錢、更鑄小錢、云云、錢無輪郭文章、不便人用」(二)外表ノカタチ。オモテノ形。又、カホダチ。

りん-くゎん (名) [輪奐] (禮記、檀弓、下篇「美哉輪焉、美哉奐焉」注「輪、輪囷、言ニ高大、奐、言ニ衆多」) 高大ニ美盛ナルコト。(家造ナドニ云フ) 劉禹錫、…「安成王…」

りん-げつ (名) [臨月] 孕ミテ產ムベキ月。ウムガツキ。ウミガツキ。ウミヅキ。宋書、始安王休仁傳「廷尉劉晏婦、臨月迎入後宮」

りん-けん (名) [臨檢] 其場所ニノゾミテ檢査スルコト。後漢書、董卓傳「帝疑賦恤有虛、乃親於御前自加臨檢」

りん-げん (名) [綸言] (禮記、緇衣篇「王言如絲、其出如綸、王言如綸、其出如綍」) 天子ノオホセ。ミコトノリ。舊唐書、…「…」後紀、十二、延曆廿三年十月「違綸言、深合罪責」綸言汗の如しトハ、綸言ハ一度發セラレテハ返ラズノ意。盛衰記、十、…出王子事「天子ハ不虛言、綸言如汗、出再不歸トコソ承」

りん-こ (名) [悋子] (嫉ヒナル女ノ義ト云フ) りんき(悋氣)ニ同ジ。(安政時代ノ流行語) 江戶ノ獸洒落語、嫉ニナリンシ子、松田ノおりん子」

りん-こ (副) [凜乎] りんぜん(凜然)ニ同ジ。書經、五子之歌「予臨兆民、凜乎若朽索之馭六馬、爲人上者奈何不敬」

りん-ご (名) [林檎] (一)古ク、リウゴウ。薔薇科ノ落葉樹。高サ丈餘、枝、葉ニシテ、廣ク茂ル。春、新葉ヲ出ス、形、楕ニシテ、細鋸齒アリ、春ノ末、五瓣ノ白花ヲ開ク、或ハ、淡紫ヲ帶ブルモアリ、海棠ノ如クニシテ、大イサ一寸許リ、數蔕、簇リ開ク。夏ノ末、實熟ス、大イサ一寸許リ、正圓ニシテ光ル、其頭、紅ニシテ、本ハ淺綠ナリ、核ハ梨ノ如シ。あかりんごニ對シテ、あをりんごト云フアリ。林逸節用集、草木「林檎、リンゴ」常經語彙「りむごヤナシヤ、クハバヤナ」(二)近年、西洋種ヲ渡ス、實、甚ダ大ニシテ美、味モ亦甚ダ佳ナリ。タウリンゴ。セイヤウリンゴ。アップル。苹果。平果。

りん-ごく (名) [隣國] 境界ヲ接スル國。トナリグニ。左傳、文公元年「好事隣國、以衞社稷、忠信卑讓之道也」下宿物語、三、晏子譏卑「鄰國ニ賢人アルハ、敵國ノ憂ト云ヘリ」

りん-さい (名) [輪栽] 互交、輪番ニ、種種ノ作物ヲ植エツクルコト。年年、土地ヲ轉ジテ、作物ヲ栽培スルコト。輪作。

りんざい-しゅう (名) [臨濟宗] (臨濟ハ、元ト、支那、鎭州(今ノ河北省正定縣)ノ地名、濟水ニ臨ムヲ以テ寺ノ名トス、又、宗派ノ名トシ、或ハ義玄禪師ノ通稱トス) 佛教ノ語。禪宗ノ一派。唐ノ臨濟院ノ義玄禪師ニ始マリ、我ガ國ニテハ、文治三年、僧榮西(千光國師)、再度入宋シテ、法ヲ虛庵懷敞禪師ニ承ケ、建久二年歸朝シテ弘ム。現今ハ十四本山アリテ、各派何レモ寺號ヲ以テ派名トナシ、各ニ管長ヲ置ク。釋門事物紀原、初…「臨濟宗、後鳥羽天皇、文治三年四月、榮西和尚(後ニ千光國師ト諡ス)入宋シテ、黃龍南禪師ノ法流ヲ繼承シ、建久二年四月歸朝シテ、京都建仁寺ニ居リ、始メテ此宗ヲ弘ム、今建仁寺派ト稱スル者是ナリ」

りん-さう (名) [林葬] 屍ヲ林中ニ放置シテ、野獸ニ施スコト。やさう(野葬)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

りん-ざう (名) [輪藏] てんりんざう(轉輪藏)ノ略。其條ヲ見ヨ。太平記、廿四、天龍寺供養事「方丈、法堂、輪藏、云云」

りん-さん (名) [燐酸] 又、正燐酸。燐酸

[illegible]有實、骨皮、皮、石ナドニテ、樹幹中ニ集ニテ、粘液トナリタルモノヲ放置シテ得ル結晶、無色透明ニシテ、苦味ニ富ミ、水ニ溶解シ、又、[illegible]易シ。其稀薄液ハ、往往、強壯劑トシテ用ヰラル。

りんさんぶつ (名) 林産物 森林ヨリ産ズル物。各種建築ノ用材、薪炭材、木炭、護謨、漆、其他果實、菌、等ノ類。林産。

りんし (名) 綸旨 綸言ノ旨。(宣旨ノ條ヲ見ヨ) 綸宣。綸綍。陶弘景、與梁武帝書「[illegible]」「綸旨所謂始同、瑞璞御寶ニ臨、世以來、[illegible]此理ニ一」朝野群載、十七、諸寺、嵯峨御修法事、右依ニ綸旨、在ニ今日ニ舉ニ廿口伴侶ニ可レ奉レ修ニ不動法一者」

りんし (名) 綸絲 (りんげん(綸言)ノ語原ヲ見ヨ) 前條ノ語ニ同ジ。絲綸。

りんし (名) 臨時 其時ニノゾミテスルコト。不時。三國志、魏志、[illegible]臨時[illegible]未可得[illegible] 近衞府式「凡威儀及行幸所ニ有臨仕者、收ニ於府中、臨時出用」

りんしきゃく (名) 臨時客 (一)臨時ニ來レル客。(二)古へ、正月ノ初、攝關ノ家ニテ、大臣以下ノ上達部(カンダチメ)ヲ招キ請ジテ行フ饗宴。管絃ノ遊ビナドアリ。江次第抄、二、正月「大臣家大饗、又臨時客者、大饗以前先行之、若不ニ及請客一、而不時客來之由也、故號ニ臨時客一云云、上古三公皆有ニ臨時客一」

りんしさい (名) 臨時祭 例祭ニアラズシテ、臨時ニ執行フ祭。(疫神、祈雨ナドニ) リンジノマツリ。臨時祭式、臨時祭「凡常祀之外應ニ祭者、隨ニ事祭一之」

りんしのまつり (名) 臨時祭 (一)前條ノ語ニ同ジ。(二)社ニアリテ、恆例ノ本祭ノ外ニ執行フ祭 特ニ、山城ノ賀茂ノ神ノ臨時の祭ハ、舊クハ、陰暦、十一月、下ノ酉ノ日ノ祭ニシテ、北ノ祭ト云ヒ、[illegible]石清水ナルハ、陰暦、三月中ノ午ノ日、又、南祭ト云ヒ、祇園ナルハ、陰暦、六月十五日ナリ。[illegible]りんじのまつり[illegible] 山抄、二、十一月「下酉日、賀茂臨時祭事」

りんしゃ (名) 臨寫 [illegible] (宋、[illegible]「臨摹書、紙在レ旁、觀ニ其大小濃淡形勢、而學之、若ニ臨ニ淵之臨一」) もしゃ(摸寫)ノ條ヲ見ヨ。臨書 [illegible]「[illegible]人書ノ曰、云云、以不ニ臨寫一故也」

りんしゃう (名) 臨牀 病牀ニノゾムコト。病者ノ寢床ノ側ニ行クコト。(主ニ醫者ニ云フ)「臨牀講義」

りんしう (名) 臨終 (命終ノ時ニノゾム意) 死ニノゾムコト。イマハ。末期。後漢書、鄭玄傳「臨終、勅ニ其子ニ曰、[illegible]」[illegible] 榮花物語、三十、鶴林「臨終ノ折ハ、風火マヅ去ルガ故ニ、動熱シテ苦ミ多カリ」

りんしょ (名) 臨書 人ノ手跡ノ手本ヲ傍ニ置キテ、見ツツ字ヲ書キ習フコト。テナラヒ。臨摹。臨寫。[illegible]「山谷野[illegible]臨書」

りんしょう (名) 林鐘 (一)音樂ノ調子ノ名。十二律(ジフニリツ)ノ一。其條ヲ見ヨ。禮記、月令篇「季夏之月、云云、其音徵、律中ニ林鐘一」(二)陰暦、六月ノ異名 易林節用集(慶長)上、時候門「林鐘、リンショウ、六月異名」

りんしょく (名) 吝嗇 極メテ、金錢、又ハ、物品ヲ惜シムコト。ヤブサカナルコト。シハキコト。ケチナルコト。吝。易經、說卦傳「坤爲ニ地、爲ニ母、爲ニ布、爲ニ釜、爲ニ吝嗇、爲ニ均、云云」

りんしょく (名) [illegible] [illegible]其特徴[illegible]

リンズ (名) 綸子 [illegible] [illegible]二似テ、厚クシテ光リ、滑ニシテ精ナリ[illegible]

りんそん (名) 燐寸 まっちニ同ジ。

りんせい (名) 稟性 (ひんせい(稟性)ノ誤讀) ひんせい(稟性)ノ條ヲ見ヨ。

りんせい (名) 稟請 (康熙字典「稟、毛氏曰、今俗以ニ白事一爲ニ稟、古無ニ此義一」) ひんせい(申請)ニ同ジ。

りんせき (名) 臨席 其席へ出ヅルコト。

りんせき (名) 悋惜 吝惜 物ヲ、ヲシムコト。又、シハキコト。[illegible]仲長之[illegible]傳「有ニ過則改、無ニ所ニ吝惜一」

りんせつ (名) 鄰接 隣接 トナリ合ヒテ、ツヅクコト。接近スルコト。三國志、吳志、諸葛恪傳「四郡鄰接、周旋數千里、山谷萬重」

りんせつ (名) 臨說 (一)琴ノ手ノ一。リン。(二)音樂ノ調子ニ、古調ヲ擬ヘズ、新ニ作リ出デタルモノ。體源抄、十一、末「臨說、大慈佐、二、林哥」

りんせん (名) 綸宣 りんし(綸旨)ニ同ジ。太平記、十二、兵部卿親王流刑事「行ニ證於世輕、綸宣被レ傷[illegible]死刑[illegible]竹園之名一」

りんせん (名) 林泉 木立、泉水ノアル庭。北史、韋敻傳「所ニ居之宅、枕ニ帶林泉、對ニ翫琴書、蕭然自逸、時人號爲ニ居士一焉」文德實錄、五、仁壽三年二月「常在ニ東山舊居、耽ニ愛林泉一」

りんせん (名) 林錢 りんえい(林永)ニ[illegible]ナレドモ、國ニハ林錢ト銘ルモ有」

りんぜん (副) 凜然 寒氣、威光、ナドノ[illegible]

りんせんじばん (名) 臨川寺版 五山版ノ一。室町時代、山城國、嵯峨ノ臨川寺ニテ開版セシ書籍。漢籍、及、禪宗ノ語錄類、最モ多ク古シ。

りんそう (名) 林藪 (一)はやしト、やぶト。後漢書、儒林傳、序「四方學士、多懷ニ協圖書、遁ニ逃林藪、自是莫不ニ抱負墳策、雲會ニ京師一」(二)物事ノ多ク集マル處ニ譬ヘテ云フ語。[illegible]

りんだう (名) 龍膽 龍膽草 (字ノ音、りうたんノ轉、強盜(ガウタウ)、がんだう、庚申(カウシン)、かんしんノ類) (一)又、りうたん。りゅうたう。古名、エヤミグサ。ニガナ。ミガナ。ヤマヒコナ。タツノイグサ。龍膽科ノ多年生草本ノ名。莖、二三尺、葉ハ、竹ノ如クニシテ、對生ス、故ニ、笹龍膽、トモ云フ。秋ノ半ニ、莖ノ梢、葉ノ間每ニ、三五花ヲ開ク、筒狀ニシテ、末、五ツニ分ル、晝ハ展ビ、夜ハ收マル、青碧色ニシテ、斑點アリ、又、白花ナドアリ、類多シ。此花葉ノ形ヲ、模樣、紋所トシ、龍膽唐草、笹龍膽ナド云フ。康賴本草、上、草部四「龍膽、リンタウ、又加奈、爾加奈」源、三十八、夕霧四「枯レタル草ノ下ヨリ、りんだうノ、我ヒトリノミ心長ウハヒイデテ」枕草子、三、第三十四段「カルカヤ、りんだうハ、枝ザシナトモムツカシゲナレド」(二)紋所ノ名。前項ノ草ノ葉ト花トニ象リタルモノ。

りん-たふ（リン・トウ） (名) 〔輪塔〕 〔ごりんのたふ(五輪塔)ノ略〕 ごりん(五輪)ノ條ヲ見ヨ。 謠曲、老松「マヅ社壇ノ體ヲ拜ミ奉レバ、北ニ峨峨タル青山アリ、云云、左ニ火焔ノ輪塔アリ」

りん-だめ (名) 〔簷揉・厘揉〕 れいてんぐ(簷等具)ニ同ジ。 名物六帖、三、器財箋「厘子、簷等、リンタメ」

りん-ち (名) 〔臨池〕 〔王羲之、與レ人書「張芝臨レ池學レ書、池水盡黑」トアルヨリ起ル、張芝ハ後漢ノ人、世ニ草聖ト稱セラル〕 手習（テナラヒ）ノ異名。書道。筆道。

りん-ぢやう（リン・ヂヤウ） (名) 〔臨場〕 其場所ニノゾムコト。臨席。 後漢書、劉表傳、論「臨レ場決レ敵、則悍夫爭レ命、深謀高議」

りん-づけ（リン・ヅケ） (名) 〔厘附〕 めんつけ(免附)ニ同ジ。下ノ出典ヲモ見ヨ。 地方要集錄「厘附ト申スハ、高ニ觸ツ幾分幾厘ト割付ケ候故、厘附トモ申候、是ヲ免附トモ、免相トモ申候」

りん-でふ（リン・ジヨウ） (名) 〔臨帖〕 手本ヲ見ツツ、文字ヲ書キ習フコト。又、其手本。臨本。 沈周詩「閑翻二酒券一供二臨帖一、靜借二牙籤一記二讀書一」

りん-てん (名) 〔輪轉〕 (一)輪（ワ）ナリニメグルコト。輪ノ如クメグルコト。 淮南子、原道訓「天運地滯、輪轉而無レ廢、水流而不レ止、與二萬物一終始」 (二)古ヘ、正月、女官ノ相互ニ輪轉シテ、敍爵セラルルコト。コレニハ大輪轉ト小輪轉トアリ。大輪轉トハ、女司、主殿女官、御手洗女官、学縫女官、闈司、主水、東豎子ナドノ敍爵セラルルヲ云ヒ、小輪轉トハ、闈司、主水、東豎子ナドノ敍爵セラルルヲ云フ。(江家次第、一、三、正月) 公事根源、上、正月、女敍位「是ハ女房ノ位階ヲ敍セラルル事ニテ、隔年ニ行ハル、其儀、大カタハ敍位ニ同ジ、大りんてん、小りんてん、キリクヒノ中文、ウツボ助文ナドイフ物アリ、云云」

りんてん-き (名) 〔輪轉機〕 具一ハ輪轉印刷機。一種ノ精巧ナル印刷機械ニシテ、版面、押紙面、共ニ圓筒形ヲナシ、コノ兩圓筒接觸シナガラ廻轉スル間ニ、長キ卷紙ニ、一時ニ兩面ノ印刷、又ハ、二色以上ノ印刷ヲナスコトヲ得ルモノ。又、其刷リアガリノ紙ハ、所要ノ大サニ折リ疊マレテ出ヅルヲ以テ、新聞紙、雜誌等ノ印刷ニ、賞用セラル。

りん-と (副) 〔凜〕 〔凜、說文「寒也」韻會「凄清也」〕 (一)寒氣ノキビシキ狀ニ云フ語。 陸機詩「遺涼清且凜」 (二)リリシキ狀、又ハ、容貌、態度ナドノ、嚴（イカメ）シキ狀ニ云フ語。りうと。 宗因千句「奢ラレニケリ、若ヤガレケリ」琛鋸ヲ、りんと作リテ、錦着テ」 好色五人女(貞享、西鶴)三「年ノ程三十四五ト見エテ、首筋立チノビ、目ノハリりんとシテ、云云」 (三)キチント。十分。 日本永代藏(貞享、西鶴)一「一匁二分、りんとアルコトヲヨロコビ、云云」

りん-とう (名) 〔輪燈〕 天井ヨリ吊シ下グル輪狀ノ燈。多ク佛前ニ供フ。 廣弘明集、三十六、陳文帝藥師齋懺文「十方世界、若二輪燈一而明朗」 書言字考節用集、七、器財門「輪燈、リントウ」

りん-どう (名) 〔輪胴・輪筒〕 車輪ノおしき(轂)ノ稱。其條ヲ見ヨ。

りん-どく (名) 〔輪讀〕 數人、輪番ニ書ヲ讀ムコト。

りん-どり (名) 〔厘取〕 厘附取ノ略。昔、田租ヲ取ルニ、厘附ニシテ、何升何合ノ何分何厘ト、端米アラシメテ取リ立テシコト。津取。 香取神宮古文書集、六、香取大禰宜上給勘定目錄「戌年分此取、米八十六石五斗四升二合、但、六ツ壹分八りん取」

リンネル (名) 〔英語、Linen.ノ訛〕 亞（ア）麻（マ）、又ハ、麻ノ纖維ノ、白ク晒シタルモノニテ織リタル薄地ノ織物。夏服地、卓掛ナドニ用キル。

リンパ (名) 〔淋巴〕 〔羅甸語、Lympha.ノ音譯語〕 次條ノ語ニ同ジ。

リンパ-えき (名) 〔淋巴液〕 生理學ノ語。高等動物ノ身體組織中ニアル無色透明ノ液。血液ノ如ク、淋巴管中ヲ流レテ、身體ノ榮養ヲ輔ク。略シテ、淋巴。

リンパ-くゎん（リンパ・カン） (名) 〔淋巴管〕 生理學ノ語。前條ノ淋巴液ト、腸間ニテ製出セラレタル乳糜トヲ吸收シテ、之ヲ靜脈ニ輸送スル管。血管ノ如ク全身ニ分布ス。

リンパ-せん (名) 〔淋巴腺〕 〔せん(腺)ノ條ヲ見ヨ〕 生理學ノ語。數多ノ淋巴管ヲ受ケ入レ、又、ソレヲ出ス處。卽チ、淋巴液ノ會流スル所ノ腺。皮質、及、髓質ヨリ成ル圓形、又ハ、楕圓形ノ腺ナリ。

りん-ばん (名) 〔輪番〕 (一)マハリバン。順番。 遼史、營衞志「契丹兵四千人、毎日輪番、千人祗直」 (二)寺院ヲ輪次交替ニ番守スル役僧。特ニ、眞宗ニテ、各地ニ於ケル本願寺ノ別院ヲ取締ル役僧。

りん-びやう（リン・ビヤウ） (名) 〔痳病〕 古言、シバユバリ。痳菌ニヨリテ傳染スルモノ。先ヅ交接ニ因リテ、一種ノ黴菌ヲ尿道ニ受ク、男子ニ在リテハ、陰莖ノ尿道ニ痒痛ヲ覺エ、ソノ分泌液膿、尿道ヲ塞ギテ放尿シガタク、又、尿意アリテモ十分ニ出デズ、出ヅレバ痛シ。甚シクナレバ、腎臟炎、睾丸炎等ヲ起ス、婦人ニ在リテハ、多ク膣ヲ侵サレ、亦尿道ニ入ル、之ヲ痳病ト云フ。痳疾。略シテ、痳。

りん-ぺん (名) 〔鱗片〕 (一)うろこノ片。 (二)鱗狀ノ細片。

りん-ぽう (名) 〔輪寶〕 (一)元ハ、天竺ノ兵器。佛具トス。金銅ニテ作リ、車輪ノ形シテ、八方ニ鋒端ヲ出ス、コレヲ用ヰテ加持スレバ、旋轉崩潰シテ、一切ヲ威伏スト云フ。又、轉輪王ノ位ニ卽ク時、天ヨリ感得セシト云フ寶器。王ノ遊行スル處、必ズ前進シテ、四方ヲ制伏ストモ云フ。 倶舍論、十二「東方忽有二金輪寶一現」 (二)山伏ノ紋所。法衣ニツク。前項ノ器ヲ象リタルモノ。

りん-ぽう (名) 〔輪鋒〕 紋所ノ名。前條ノ佛器ヲ象レルモノ。輪寶ヲ構成スル鋒ノ數ニ因リテ、五輪鋒、六輪鋒、八輪鋒ナドアリ。三河、田原ノ三宅氏ノ定紋トス。 [illegible]「輪鋒ハ劍ノ鋒ヲ八方へ出シ、中ニ輪ヲ入スタル故、輪鋒ト云也」

りん-ぼつ (名) 〔淪沒〕 (一)水中ナドニ、シヅムコト。沈沒。 史記、封禪書「[illegible]商周、傳宋之社亡、鼎乃淪沒、伏而不レ見」 (二)オトロヘ亡ブルコト。 江淹、傷愛子賦「惜[illegible]襄宗之淪沒、恐人之希構」

りん-ぽん (名) 〔臨本〕 りんでふ(臨帖)ニ同ジ。 孟公題跋「率更所レ書黃神休存二其半一、云云、王子敬好寫二此賦一、決非二一本一、殆率更臨本耶」

りん-ぽゑ（リン・ポヱ） (名) 〔輪補繪〕 「補繪（ホヱ）ノ條ヲ見ヨ」 表具ニ云フ語。今、てんちまはしトモ云フ。兩縁ヲ細ソク取リ附クル表具ノ作方。又、略シテ、輪補。 易林節用集(慶長)上、財寶門「輪補繪、リンホヱ、畫」 茶道裝具

書、表其相偽の眠事「輪補補トイフハ、道補補ノゴトク、一字ノ中ハ兩[illegible]ソクイナ[illegible]ノ、[illegible]ノリ[illegible]分[illegible]今[illegible]ノ[illegible]也」

りんまい（名）【粟米】ふちまい（扶持米）ニ同ジ。

りんめい（名）【綸命】りんげん（綸言）ニ同ジ。[illegible]六十、[illegible]已ニ綸命ヲ蒙ルーハ、甲ヘテハ如何ナル[illegible]候ベキ」

りんも（名）【臨摹】臨寫シタルモノト、摹寫シタルモノト。[illegible]十七「宋番易張世南宦游紀聞云、云云、今人皆謂ニ臨摹ハ爲ニ一[illegible]不[illegible]同」

りんや（名）【林野】はやまト、のはらト。[illegible]森林ト、原野ト。[illegible]川之作、詩[illegible]林野、陶[illegible]在[illegible]」

りんらく（名）【淪落】オチブルルコト。沈淪[illegible]零落スルコト[illegible]野」

りんり（名）【倫理】（一）人倫ノ道。人ノ道。人道。道德。ごりん（五倫）ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]「凡音者、生ニ於人心ニ者也、樂者、通ニ倫理ニ者也」（二）倫理學ノ略

りんり（副）【淋漓】（一）水、又ハ、血、汗、ナドノ滴ル狀ニ云フ語。韓愈、赤藤杖歌「赤龍拔[illegible]血淋漓」（二）元氣、横溢セル狀ニ云フ語。杜甫、奉ニ先劉少府新畫山水障ニ歌「元氣淋漓障猶濕、眞宰上訴天應泣」

りんりがく（名）【倫理學】〔英語、Ethics.ノ譯語〕人ノ行爲ニ關シテ、其善惡ノ標準ヲ考究シ、及、道德ニ關スル事ヲ研究スル學。倫理。

りんりつ（名）【林立】林ノ樹木ノ如クナラビ立ツコト。「[illegible]林立」

りんりん（副）（一）鈴、鳴ル聲、又ハ、鈴ノ響ク狀ニ云フ語。謠曲、野宮「松蟲ノ音ハ、りんりんトシテ」長唄、浪枕月淺妻「鈴モりんりんフリ[illegible]ミ」（二）[illegible]ギ[illegible]テ[illegible]音ナドニ云フ[illegible]ル通リ、身ドモ茶ノ湯ニ好イタニヨッテ、奥ノ間ニ湯ガりんりんト沸リスマイテアル」（三）歌ヲ唄フ聲ノ、コキニ云フ語。

りんりん（副）【凜凜】寒氣、又ハ、威光、ノ鋭キ狀ニ云フ語。凜然。凜乎。潘岳、寡婦賦「夜漫漫以悠悠兮、寒凄凄以凜凜」常磐友後集、小[illegible]「[illegible]りんりんウルハシキ」

りんりん（副）【轔轔[illegible]】車ノキシル聲ヲ形容シテ云フ語。詩經、秦風、車鄰篇「有ニ車鄰鄰、有ニ馬白顛」楚辭、九歌篇、大司命「乘ニ龍兮轔轔、高馳兮沖天」

りんりョ（名）【律呂】りつりョ（律呂）ノ音便。其條ヲ見ヨ。

りんれつ（副）【凜冽】寒サノ烈シキ狀ニ云フ語。李白賦「嚴冬慘切、寒氣凜冽」

りんわう（名）【輪王】てんりんぜうわう（轉輪聖王）ノ略。其條ヲ見ヨ。續後紀、十九、嘉祥二年十二月「陛下、仁超ニ飛帝、德覆ニ輪王、既有ニ驗ニ因果ニ而不ニ疑」

りんゐん（名）【稟院】古ヘ、民部省内ニアリテ、諸國ノ租米、庸米ヲ領納シ置ク所。宮衞令「[illegible]鑰、[illegible]、民部廩院等、令ニ衞士守ニ」彈正臺式「凡巡ニ民部廩院米ニ車馬、云云」

りんゑ（名）【輪廻】（一）衆生ノ、無始以來、六道ノ生死ニ旋轉スルコト、車輪ノ轉ジテ、窮リナキガ如キヲ云フ　るてんりんゑ（流轉輪廻）ノ條ヲモ見ヨ。法華經、方便品「以ニ諸欲因緣、墜ニ墮三惡道、輪ニ廻六趣中、備受ニ諸苦毒ニ」榮花物語、三十、鶴林「天上ノ樂シミモ、[illegible]、[illegible]ニ」（二）未練ガマシキコト。執着心ノ深キコト。[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]深ク、言フ氣ハサラサラ無イモノヲ、云云」（三）和歌ノくわいぶん（廻文）ニ同ジ。庭訓往來、二月「[illegible]、打[illegible]、[illegible]」

りめん（名）【裏面】物事ノ表ニ現ハレザル方面。ウラ。内面。（表面ニ對ス）

りもつ（名）【利物】（一）古ヘ、稻、粟ナドヲ貸シテ得ル利息ト、ソノ貸シタル物ト。雜令「凡出擧、兩情和同、私契[illegible]、利[illegible]正倍、任人私借、利物自貸、勿人[illegible]」（二）萬物ニ利益ヲ與フルコト。又、佛敎ニテハ、一切衆生ニ利益ヲ與フルコト。西[illegible]、一致、利ニ物[illegible]」[illegible]二條「利光有物ノ御メグミ、返返モ忝ク侍リキ」

りやう（名）【量】（一）物ノ嵩。秤目。論語、郷黨篇「唯酒無ニ量、不ニ及ニ亂」（二）嵩ノ多キ少キヲ知ル具。量器。枡。（長短ヲ度、輕重ヲ稱、多少ヲ量）書經、舜典篇「協ニ時月ニ正ニ日、同ニ律度量衡ニ」（三）心ノ、物事ヲ受ケ容ルルコト。度量。程子遺書「或人問、量可ニ學乎」「量宏シ」量狹シ」

りやう（名）【糧】カテ。食糧。又、兵糧。論語、衞靈公篇「在ニ陳絶ニ糧、從者病、莫ニ能興ニ」

りやう（名）【良】（一）ヨキコト。又、ヨキモノ。論語、[illegible]「子貢曰、夫子溫良恭儉讓以得ニ之」（二）りやうみん（良民）ノ略。續紀、八、養老四年八月「壬午、令ニ都下四十八寺、一日一夜讀ニ藥師經ニ、免ニ官戸十一人ニ爲ニ良」

りやう（名）【令】〔令義解「令、謂ニ敎令ニ也、敎以ニ法制ニ、令ニ其不ニ相違越ニ、故曰ニ令也」〕りつりやうきやくしき（律令格式）ノ條ヲ見ヨ。續紀、二、大寶元年三月「始依ニ新令、改制ニ官名位號ニ」

りやう（名）【領】（一）[illegible]、[illegible]ノ名[illegible]頭、首ノ[illegible]。[illegible]云云、[illegible]」（二）[illegible]領地。（三）[illegible]ノ官[illegible]大領ヲ長官トシ、少領ヲ[illegible]。[illegible]紀、七[illegible]年正月「凡郡以ニ四十里ニ爲ニ[illegible]以下、四里以上[illegible]中郡、[illegible]小郡、[illegible]大領、少領[illegible]」

りやう（名）【[illegible]】[illegible]タマシヒ、[illegible]。又、[illegible]ノケ。祟ヲナスモノ。ラウ。[illegible]柏木「ウラナヒヨリケン女ノりやうコソ、マコトニサル御シフ（ウィ）ノ、身ニソヒタルナラバ、云云」

りやう（名）【涼涼】〔涼ハ俗字〕スズシキコト。又、スズシサ。涼氣。梁、簡文帝、詠[illegible]「[illegible]」

りやう（名）【兩】（一）秤目ノ名。古クハ沙金、又ハ、煉金ニテ、秤ノ目方一兩。又、銖ヲ二十四合ハセタル稱。[illegible]大兩ノ一兩トシ、十六兩ヲ斤トス。（小判一兩ハ沙金目方一兩、黄金一枚拾兩）（二）今、藥種ノ秤目ニ、四匁ノ稱。（四チ、古ヘノ大兩ノ一兩ナリ）或ハ藥種ニ因リテ、四匁三分ナルアリ、四匁四分、又ハ、五匁ナルモノアリ。（三）金ノ重量ノ單位ノ稱。六十四匁。又、舊キ金貨ニ、分ヲ四ツ合ハセタル稱。即チ、十六銖。（銀ノ六十匁）（四）舊キ銀貨ニ、四匁三分ノ稱（元和以後、一[illegible]、[illegible]貫文、後ニ六[illegible]）

りやう（名）【利養】利欲ヲ貪リテ、我ガ身ヲヤシナフコト。法華經、序品「貪ニ著利養ニ、雖ニ復[illegible]、而不ニ通ニ利」[illegible]集、二、[illegible]

「コノ心ヲワキマヘズシテ、ミダリガハシク名聞利養ノ識ナリトイヘル事、甚ダ愚ナリ」

りゃう (數) 兩 (一)フタツ。二。史記、高祖紀「壯士行、何畏、乃前、拔、劍撃斬、蛇、蛇遂分爲兩、徑開」延慶本、平家物語、五、本、永觀律師事「兩三年ノ内ニ造リ終シカバ」(二)モロ。雙方。「兩ノ袂」(三)布帛二端ヲ云フ。四 左傳、閔公二年「重錦三十兩」杜注「三十兩、三十匹也」

りゃう (接尾) 輛 兩 車ヲ數フルニ云フ語。詩經、召南、鵲巣篇「之子于歸、百兩御之」傳「兩、一車也、一車兩輪、故謂之輛」

りゃう (接尾) 領 領アルモノヲ數フルニ云フ語。圖書寮式「細布衣十二領、袴十二腰」「時服一領」「鎧一領」「具足五領」

りゃうあん (名) 諒闇 亮闇 諒陰 亮陰 (諒ハ信ナリ、闇ハ默ナリ、物言ハザルコト、謹愼ノ意) 又、らうあん。天子ノ、父母ノ喪ニ服シタマフ期間ノ稱。又、天子、喪ニコモラセラルル間ノ稱。倚廬ニマスコト十三日、心喪ニ服セラルルハ、一年。又、天子ノ御忌中、上下四民モ心喪スルモノナリ。ミモノオモヒ。ミオモヒ。ミアガリノホド。禮記、喪服篇「高宗、諒闇三年不言、善之也」論語、憲問篇「書云、高宗、諒陰三年不言、何謂也」綾鳩郎位前紀「以諒闇之際、盛福自由」壓添揚襲鈔、八、諒闇事「國主ノ崩ニ限テ、諒闇共諒陰共云也、諒陰ナバ、まことにもだすト讀也、諒ニ陰トハ、天子ハ日日、萬民ノ訴ヲ斷給フベキヲ、一向ニ默、不聞食故也」

りゃうい (名) 良醫 醫術ニ巧ナル醫者。名醫。左傳、成公十年「夢疾爲二豎子、曰、彼良醫也、懼傷我」太平記、廿、諸葛孔明事「士卒ドモ是ヲ聞テ、如何ナル良醫ト云共、アハヒ四十里ヲ阻テ、暗ニ敵ノ脈ヲ取知ル事ヤアルベキ」

りゃういう (名) 良友 善良ナル友人。タメニナルトモダチ。益友。荀子、性惡篇「得良友而友之、則所見者、忠信敬讓之行也」

りゃういう (名) 領有 我ガ物トシテタモツコト。所領スルコト。占有。

りゃういく (名) 涼燠 (爾雅、釋言篇「燠、煖也」) 暖サト、寒サト。寒暑。春秋 太平記、十二、神泉苑事「堅門彼」止雜穢、其後、涼燠數改テ、門墻漸不全」

りゃういふ (名) 領邑 領スル土地、人民ノ稱。知行所。領地。

りゃうえん (名) 良緣 似ツカハシキ緣組。ヨキ緣組。

りゃうか (名) 良家 又、らうか。家柄ノヨク正シキモノ。又、身分ノヨキ家筋。史記、外戚世家、竇太后「呂太后時、竇姬以良家子入宮侍太后」

りゃうか (名) 兩下 屋根ノ造リ方。まや(兩下)ノ條ヲ見ヨ。

りゃうかい (名) 領海 公法上、港灣、内海ナドト共ニ、其國ノ四面ノ海岸ヨリ外、六哩(三里、即チ、着彈距離ヲ以テ標準トス)ニ及ブマデノ海面。其國ノ主權ノ下ニアリト認メラレ、其領有トス。コレヨリ外ノ海ヲ公海ト云ヒテ、各國、自由ニ使用シ、航海スルコトヲ得。領水。

りゃうかい (名) 兩界 (一)二ツノ世界。兩方ノ世界。(二)密敎ニテ、胎藏界ト金剛界トヲ云フ。兩部。こんがうかい(金剛界)、及、たいざうかい(胎藏界)ノ條ヲ見ヨ。今鏡、上、第二、みのりのし「タダ日毎ニ法華經一部、兩界ナド行ヒ侍ルヲ、云云」

りゃうかい (名) 領解 りゃうくゎい(領會)ニ同ジ。元中、淺禮所論理、幼稚領、從、師授、經史、過、日領解」

りゃうかう (名) 良好 ヨキコト。善良ナルコト。又、ソノモノ。

りゃうかく (名) 領格 文法ノ語。名詞、代名詞ノ所屬ヲ言ヒアラハス格。所有格(西洋文法ニテ)

りゃうかく (名) 兩角 兜ノ前立ノ一種。左右ニ角ヲツケタルモノ。

りゃうがけ (名) 兩掛 昔、旅行ニ携フル行李ノ、天平棒ニテ、兩端ニ掛ケテ擔フベキモノ。又、ソノ行李。

りゃうがへ (名) 兩替 金銀ト錢トヲ替フルコト。又、甲ノ貨幣ト乙ノ貨幣トヲ取替フルコト。キリカヘ。兌銀 織留(元祿、西鶴)二「其外ノ兩替ドモ、黃金ノ山ヲ見セルニ」御觸書集覽、天保十三寅年七月朔日「右ノ趣、兩替渡世之モノ迄モ、不洩樣可申聞候」

りゃうがへや (名) 兩替屋 切賃ヲ受ケテ、兩替ノ事ヲ業トスル商家。カケヤ。兌銀鋪 錢莊 享保集成絲綸錄、三十六、正德二辰年二月「兩替屋ヨリ外商賣之町人共、堅取ヤリ仕間敷候」雜字類編、銀店「りゃうかへや」

りゃうがま (名) 兩鎌 槍ノ一種。かまやり(鎌槍)ノ條ヲ見ヨ。

りゃうがん (名) 兩眼 左右ノ眼。雙眼。白居易、白髮詩「書魔昏兩眼、酒病沈四肢」

りゃうき (名) 量器 マスメヲハカル器。マス。りゃう(量)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。

りゃうぎ (名) 兩儀 又、二儀。陰陽ノ二氣。たいきょく(太極)ノ條ヲ見ヨ。易經、繫辭、上傳「易有太極、是生兩儀」三代實錄、二、貞觀元年四月「勅、使、從二品、以兩儀、延長、均、兩儀、以分遠」

りゃうきせん (名) 兩桅船 えくうねる、及、きみさはかた(君澤形)ノ條ヲ見ヨ。

りゃうぎん (名) 兩吟 (獨吟ニ對ス) (一)連歌、俳諧ナドヲ、二人シテ附ケ合フコト。狂言記、寶かづき「是非止メガタクハ、世帶ヲ營ムスキズキニ、其ガト兩吟ニスルデアラウ」(二)芝居ニテ、立唄ト二枚目トノ兩人ガ、舞臺ニ現ハレテウタフコト。

りゃうきゃう (名) 兩卿 德川氏ノ家門ノ一。さんきゃう(三卿)ノ條ヲ見ヨ。

りゃうきゃくき (名) 兩脚器 製圖器ノ一。こんぱす(混撥子)、及、ぶんまはし(規)ノ條ヲ見ヨ。

りゃうきょく (名) 兩極 南極ト、北極ト。各條ヲ見ヨ。晉書、天文志「北極出地三十六度、南極入地三十六度、兩極相去一百八十二度半」

りゃうぐ (名) 靈供 靈前ノ供物。ほとけニソナフル供物。

りゃうくゎい (名) 領會 解シサトルコト。ノミコムコト。合點。會得。了解。領解。向秀、思舊賦「悼嵇生之永辭兮、顧日影而彈琴、托運遇於領會兮、寄餘命於寸陰」

りゃうけ (名) 領家 古ヘ、莊園ヲ預リ司レル役人。公文、田所、總追捕使ノ三職ヨリ成ル。莊司。庄官。庄家(後ニ庄屋ニ移ル) 源賴朝、之ト並ヘテ、地頭職

ヲ置ケリ。太平記、三十五、齋所左衛門事「武威ノ聲ノニヤサレニ依テ、[illegible]ノ傳ヲ傳ハズ」

りやうげ（名）［靈氣］ もののけ（物氣）ニ同ジ。宇津保物語、國譲、上三十「靈ナドニヤ坐スラントナン、物トフニハ、りやうげトゾ」

りやうげ（名）［領解］ 佛教ノ語。法ヲ聞キテ會得シタル[illegible]。[illegible]「[illegible]今[illegible]世尊所說」

りやうけい（名）［兩敬］ 往時、大名小名ノ交際ニ、格段ナル緣故ナドアリテ、訪問、面會、書通、ナドニ、互ニ同等ナル敬禮ヲ用ヰシコト。其一方ノミヨリ敬スルヲ、片敬（ヘンケイ）ト云フ。

りやうけい（名）［良計］ 善良ナルハカリゴト。良策。良圖。三國志、魏志、曹仁傳「頓ニ兵堅城之下、以攻ニ必死之虜、非ニ良計ニ也」

りやうけう（名）［涼轎］ 禪家ニテ、長老ノ乘ル手輿。下學集、下、器財門「涼轎、禪家所ニ乘」

りやうげつ（名）［良月］ 陰暦、十月ノ異名。左傳、莊公十六年「不可使ニ共叔無ニ後於鄭一、使下以十月入上曰、良月也、就盈數焉」

りやうげのくゎん（名）［令外官］ 内大臣、中納言ナド、スベテ、大寶令ニ記載セラレザル官。官職難儀、令外官トハ、云云、大寶元年、官位令ヲ定ラレ候時ニ、職員令ニノセザルヲ以、令外ト申也、大寶以前、其號アル官モ、令ノ時、除カレタルハ令外也

りやうこ（名）［兩虎］ 二匹ノ虎。又、匹敵スベキ武士ナドニ喩ヘ云フ語。戰國策、秦策「虎者戾蟲、人者甘餌、今兩虎爭ニ人而鬪、小者必死、大者必傷、子待ニ傷虎ニ而刺ニ之、則是一擧而兼ニ兩虎ニ也」太平記、廿、[illegible]北條次郎時行ハ波打キハヲ步セ落ケルヲ、伊豆五郎助久、係趾テ取組ンデ落ニケリ、兩虎相戰テ互ニ亡ビ、命ヲ[illegible]名ケリ」

りやうこ（名）［良賈］ 善良ナル商人。ヨキアキビト。史記、老子傳「吾聞之、良賈深藏若虛」

りやうこ（名）［良戶］ 良民ノ戶（イヘ）。

りやうこう（名）［良工］ 善良ナル工人。巧ナル工匠。墨子、尚賢、中篇「今王公大人有ニ一衣裳、不能制也、必藉良工ニ」

りやうごく（名）［領國］ 所領ノ國。領地。

りやうこし（名）［兩腰］ 刀ト、脇差ト。だいせう（大小）ノ條ノ（三）ヲ見ヨ。室町殿物語、九、好晴暗往還「少譽界ノヨキ人、衣裳、兩腰ナド、物數寄ニ拵ヘタル人ヲ見テハ、云云」

りやうこんがう（名）［兩金剛］ にわう（二王）ニ同ジ。其條、及、こんがうりきし（金剛力士）ノ條ヲ見ヨ。

りやうさ（名）［良佐］ 忠良ナル輔佐ノケライ。唐明皇、春晩宴詩序「罷ニ呂酒ニ命ニ英賢ニ、有ニ文苑之高才、拔ニ知之良佐ニ」

りやうさい（名）［良妻］ 一家ノ爲ニナルヨキツマ。ヨキツマ。善良ナル妻。史記、魏世家「家貧則思ニ良妻ニ、國亂則思ニ良相ニ」

りやうざい（名）［良材］ ヨキ材。ヨキ材木。國語、周語「夫周高山廣川大藪也、故能生ニ之良材、而幽王蕩以爲ニ魁陵糞土溝瀆、其有ニ悛乎」

りやうざう（名）［兩造］ （造ハ至るノ義、兩爭者共ニ法廷ニ至ルノ意） 原告ト、被告ト。訴訟人ト、相手方ト。書經、呂刑「兩造具備、師聽ニ五辭ニ」

りやうさく（名）［良策］ りやうけい（良計）ニ同ジ。唐書、薛登傳「願陛下降ニ明制、頒[illegible]良策ニ」

りやうさつ（名）［兩札］ 元ト、兩位ノ札、門チ、右兩札、左兩札、打兩札、ナドノ賞幣ノ稱。

りやうさつ（名）［諒察］［亮察］ 諒（マコト）トシ想ヒ遣ルコト。[illegible]、[illegible]不[illegible]、[illegible]「言、惟吾子[illegible]」

りやうざんは（名）［靈山派］ 又、りやうぜんは。佛教ノ語。時宗十二派ノ一。京都、靈山正法寺ヲ本山トシ、遊行上人第十一世ノ弟子國阿上人（元和ノ頃）ヲ祖トスルモノ。今ハ派名ヲ稱セズ。一遍流十二派略記「靈山流、遊行十一代上人弟子國阿、住京都東山正法寺、號靈山派」

りやうし（名）［良士］ （一）ヨキサムラヒ。善良ナル武士。書經、秦誓「番番良士、旅力既愆、我尚有之」（二）ヨキ男子。韓非、顯學「語於梁王曰、某非良士、某非良士」

りやうし（名）［良師］ ヨキ師匠。善良ナル先生。史記、梁孝王傳「褚先生曰、云云、諸侯王當ニ爲置良師、傅相、忠言之士ニ」

りやうじ（名）［令旨］ 又、れいじ。東宮、三宮（太皇太后、皇太后、皇后）ノ命令ヲ記シタル文書。後世、女院、親王、諸王ナドノ皇族ノ命令ヲモ云ヘリ。名目抄、諸公事「令旨（リヤウジ）、春宮、四宮、女院等仰也、又、親王等之所ニ命、同稱ニ」平家物語、四、源氏汰事「君モ思シ立タセ給ヒテ、令旨ヲ賜ヒツル程ナラバ、云云」

りやうじ（名）［領事］ 外務省ニ屬スル官吏ノ一。本國ト、條約、通商セル外國ノ海港、又ハ、都府ニ置キテ、通商交通ニ關スル條約ノ監視、兩國ノ經濟關係ノ調査、在留自國人民、及、艦船ノ保護監督ヲ掌ル。[illegible]事、一區域ヲ管轄シ、總領事、[illegible]事、[illegible]ヲ[illegible]、又、[illegible]事、[illegible]ニ事故アル時ハ、[illegible]代理ヲ任命ス。又、外國人ガ一國ノ依頼ヲ受ケテ、[illegible]事ノ事務ヲ執ルモノヲ、名譽領事ト云フ。

りやうしう（名）［涼秋］ （一）スズシキアキ。秋ノ[illegible]。[illegible]「秋九月、[illegible]外[illegible]、夜不[illegible]」[illegible]「[illegible]秋、云云、涼秋」（二）陰暦九月ノ異稱。

りやうしう（名）［領袖］ （一）衣ノ領（エリ）ト、袖ト。（二）（衣ノ領ト袖トハ、人ノ目ニ立ツ所ナレバ、衆人ノ儀則トナリ、頭目トナルモノニ喩フ）頭立ツ人。カシラ。ヲサ。首領。晉書、胡母輔之傳「[illegible]伴ハ如[illegible]不[illegible]、[illegible]後ノ領袖也」

りやうしう（名）［領收］ ウケヲサムルコト。ウケトルコト。「領收書」

りやうじつ（名）［良日］ 事ヲ行フニヨキ日ガラ。又、メデタキ日。吉日。吉辰。良辰。佳辰。禮記、[illegible]「[illegible]、[illegible]、其[illegible]用此良日、及良日、夫人[illegible]」

りやうしん（名）［良辰］ 前條ノ語、及、きちにち（吉日）ニ同ジ。陶潛、歸去來辭「富貴非ニ吾願、帝鄕不ニ可期、懷ニ良辰ニ以孤往」本朝文粹、十二、[illegible]「[illegible]可惜過ニ良辰ニ」

りやうしん（名）［兩親］ フタオヤ。父ト、母ト。父母。二親。[illegible]「[illegible]英小集、兩親間[illegible]不平安」

りやうしん（名）［兩心］ ふたごころ（二心）ニ同ジ。貳心。貳志。晉書、[illegible]傳「外内顧望、接[illegible]兩心ニ」

りやうしん（リヨウ・シン）(名) [良心] 物事ノ是非善惡ノ判別ヲ、己レガ利害ノ外ニ、正シクサバク天賦ノ心。吾等ガ自己ノ行爲ヲ、道德上、善ナリヤ惡ナリヤヲ自覺スル本來ノ心。孟子、告子、上篇「牛山之木嘗美矣、云云、雖存乎人者、豈無仁義之心哉、其所以放其良心者、亦猶斧斤之於木也」 關尹子、五鑑篇「故我之良心、受制于情、我之本情、受制于物、可使之去、可使之來」

りやうじん（リヨウ・ジン）(名) [良人] (一)又、らうじん。ヨキ人。善人。詩經、大雅、蕩之什、桑柔篇「維此良人、弗求弗迪」 (二)妻ヨリ夫ヲ稱スル語。ヲツト。ツマ。亭主。孟子、離婁、下篇「其妻告其妾曰、良人出則必饜酒肉而後反」 (三)平民ノ稱。良民 (賤民ニ對ス) 戶令「凡良人及家人、被壓略充賤、云云」

りやうしやう（リヨウ・シヤウ）(名) [良將] ヨキ大將。カシコキ大將。智謀ノスグレタル大將。名將。史記、廉頗傳「廉頗者趙之良將也」

りやうしやう（リヨウ・シヤウ）(名) [良相] 賢良ナル宰相。賢明ニシテ良キ大臣。史記、魏世家「家貧則思良妻、國亂則思良相」

りやうしやう（リヨウ・シヤウ）(名) [良匠] ヨキ工匠。ヨキウデマヘアル職人。良工。唐書、魏徵傳「朕方自比於金、以卿爲良匠而加礪焉」 淮南子、主術訓「故良匠不能斲金、巧冶不能鑠木」

りやうしやう（リヨウ・シヤウ）(名) [糧餉][糧饟] (正韻「饟、與餉同」) カテ。カレヒ。糧食。飯米。又、兵粮。漢書、食貨志「男子力耕、不足糧饟、女子紡績、不足衣服」

りやうじやう（リヨウ・ジヤウ）(名) [領狀] 書狀ノ旨ヲ領承スルコト。又、承知スルコト。著聞集、二、釋敎「領狀ノ請文書キテ奉ル」 白河文書、四月七日、斷份の狀「中務伊豫前司二之處、無左右申領狀候」

りやうじやうのくんし（リヨウ・ジヤウ・ノ・クンシ）(名) [梁上君子] (下ノ漢書ノ出典ニ因ル) 盜人ノ異稱。後漢書、陳寔傳「時歲荒民儉、有盜夜入其室、止於梁上、寔陰見、乃起自整拂、呼命子孫、正色訓之曰、夫人不可不自勉、不善之人未必本惡、習以性成、遂至於此、梁上君子者是矣、盜大驚、自投於地、稽顙歸罪」 岡太府、延文元年十一月一日「梁上鄕亂入情隣第」

りやうしゆ（リヨウ・シユ）(名) [領主] (一)領地ノ主。又、莊園ノ所有者。豐後國田數「豐後國直入等注申「國崎東郡千六百三十八町內、武藏鄕三百町、宇佐宮領、領主神官名主等、云云」 (二)江戶時代、國主、城主ト區別シテ、無城ノモノニテ、陣屋ト稱スル居館ヲ有スル小大名ノ稱。武家諸法度「私領百姓ノ訴論ハ、其領主ノ裁斷タルベシ、事若、他領ニ係ルニオイテハ、或ハ兩地ノ領主、互ニ相通ジ、或ハ支配ノ頭人、各相會シテ議定スベシ、云云」

りやうじゆせん（リヨウ・ジユ・セン）(名) [靈鷲山] (梵語、Grdhrakūṭa.(耆闍崛)ノ譯語、山頂、鷲ニ似、又、山中ニ、鷲多キ故ニ名ヅクト) ワシノミヤマ。ワシノミネ。ワシノタカネ。靈山。印度、摩揭陀國、王舍城ノ東北ニアリテ、佛ノ說法セシ場所ナリト云フ。法華文句、一、上「耆闍崛山、此翻靈鷲、亦曰鷲頭」 孝德紀、大化四年二月「造靈鷲山像、累積鼓爲之」

りやうじよ（リヨウ・ジヨ）(名) [諒恕] 事情ヲ思ヒヤリテユルスコト。同情シテ咎メヌコト。

りやうしやう（リヨウ・シヨウ）(名) [領承] ウケタマハルコト。承知スルコト。醒睡笑(元和、安樂庵策傳)一「都ハイヅレモ同樣ナル家作リナリ、ヨクヨク目印ヲセヨト教フル、心得タリト領承セシガ」

りやうしよく（リヨウ・シヨク）(名) [糧食] (周禮、地官篇、廩人、注「行道曰糧、謂糒也、止居曰食、謂米也」) カテ。飯米。糧米。食料。又、兵糧。左傳、襄公八年「楚師遼遠、糧食將盡」 後漢書、吳漢傳「諸郡甲卒、但坐費糧食」

りやうそ（リヨウ・ス）(名) [良朱] 猪ノ一種。字類抄「良朱、リヤウス」

りやう・す（リヨウ・ス）スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) [諒] マコトトシテ推察ス。モツトモト思フ。諒トス。諒察ス。詩經、鄘風、柏舟篇「母也天只、不諒人只」

りやう・す（リヨウ・ス）スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) [領] 次條ノ語ニ同ジ。

りやう・ず（リヨウ・ズ）ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(他動、左變) [領] 又、らうず。りやうす。(一)受ケテ有ツ。所領ス。榮花物語、廿七、衣珠「君達ノ珍ラシガリテ、りやうじ給ヘルコソ、イミジウ哀レニトテ、又打泣カセ給ヘバ、云云」 (二)自己ノ所有トシテ治ム。我ガ物ト占ム。占領ス。

りやうせいどうぶつ（リヨウ・セイ・ドウブツ）(名) [兩棲動物] 水陸共ニ棲息スル動物。兩棲類ニ屬スル動物。卽チ、蛙、山椒魚ノ類ナリ。

りやうせいばい（リヨウ・セイ・バイ）(名) [兩成敗] 雙方ヲ成敗スルコト。兩方ヲ罰スルコト。松屋筆記、九十三、第五十一條「喧嘩兩成敗、甲陽軍鑑、十五、廿七丁ウ、云云、上杉退治ノ道中路次法令御掟書ニ、喧嘩口論、堅停止之上、若於違背之輩ハ、不論理非、雙方共可誅罰、云云」

りやうせいるい（リヨウ・セイ・ルイ）(名) [兩棲類] 動物ノ分類ノ一稱。多クハ卵生ニシテ四肢ヲ有シ、皮膚柔カニシテ裸出シ、呼吸ハ肺ニテ爲シ、鰓ヲモ兼有シテ、鰓ノミニテ行フモアリ。前前條ノ語ヲモ見ヨ。

りやうぜつ（リヨウ・ゼツ）(名) [兩舌] 佛敎ノ語、十惡ノ一。兩方ノ人ニ對シテ、相違スル言ヲ爲スコト。又、兩邊ニ向ヒテ、是ヲ說キ、非ヲ說キ、他ヲシテ鬪諍セシムルコト。二枚舌。[離間語] 大乘義章、七「言乖彼此、謂之爲兩、兩朋之言依於舌故曰兩舌」 書言字考節用集、十、言辭門「十惡、殺生、偸盜、邪婬、妄語、綺語、惡口、兩舌、貪瞋、癡」

りやうせん（リヨウ・セン）(名) [良賤] 良民ト、賤民ト。賤民ハ、古ヘ、良民ノ下ニ屬セシメタル民。りやうみん(良民)、及、せんみん(賤民)ノ條ヲモ見ヨ。職員令「大宰府、帥一人、掌、云云、田宅、良賤、訴訟、云云」

りやうぜん（リヨウ・ゼン）(名) [兩全] 二ツナガラ全キヲ得ルコト。雙方トモ異條ナキコト。晉書、周處傳「忠孝之道、安得兩全、旣辭親事君、父母復安得而子乎」 錦繡段「臣子道、忠孝兩全難」

りやうぜんは（リヨウ・ゼン・ハ）(名) [靈山派] りやうざんは(靈山派)ニ同ジ。

りやうそうし（リヨウ・ソウ・シ）(名) [領送使] 古ヘ、流刑ニ處セラレタル人ヲ、配所ニ押送スル役。字類抄「領送使、リヤウソウシ、送流人役也」 獄令「凡流移人、云云、差領送使人、在路稽留、云云」

りやうそくそん（リヨウ・ソク・ソン）(名) [兩足尊] (佛ハ、兩足ヲ有スル有情中ノ最モ尊貴ナレバ云フ) 如來ノ尊號。法華玄贊、三「佛於二足多足無足一切中尊、云云、故言兩足尊」 觀無量合觀物語、第九「夫法花ハ入リ難キノ妙典、無一無二ノ眞文ナリ、靈鷲山ノ砌ニハ、世尊兩足尊ノ本懷ヲ顯ハシ、鶴林涅槃ノタニハ、鷲子目連コノ憂悲ヲ抱ク」

りやうたい（リヨウ・タイ）(名) [糧袋] 兵糧ヲ入レテ、腰ナドニツクル袋。飯袋。糧囊。糒袋。

[illegible]

りやうたう（名）［兩刀］（一）往時、武士ノ常ニ帶ビタル刀ト脇指トノ稱。大小。[illegible]「[illegible]刀ヲタバサム」（二）兩刀遣ノ略。左右ノ手ニ、大小ノ刀ヲ用ヰテ鬪フコト。

りやうたう（名）［裲襠］武官、大儀ノ時ニ、袍ニ用ヰル服。兩ノ袖無ク、胸ト背トニ當テテ着ル。ウチカケ。（挂甲ノ條ヲ見ヨ）[illegible]、三十八、[illegible]、裲襠、[illegible]背者、胸之上著之背也、凡其[illegible]也、云云」

りやうだう（名）［糧道］兵糧ヲ仕送ル道。糧食ヲ運ブ道。史記、蘇秦傳「[illegible]攻楚、齊魏各出銳師以佐之、韓絕其糧道」常山[illegible]

りやうだう（名）［兩道］（一）二ツノ道。二道。「文武兩道」（二）和歌ノ道ト、蹴鞠ノ道ト。

りやうたうろんぱふ（名）［兩刀論法］［英語、Dilemma. ノ譯語］論理學ノ語。でぃれんまノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

りやうだく（名）［領諾］きょうだく（承諾）ニ同ジ。

りやうたん（名）［兩端］（一）兩方ノハシ。本末ノ端。論語、子罕篇「有鄙夫、問於我、空空如也、我叩其兩端而竭焉」[illegible]（二）二心。貳志。史記、韓世家「[illegible]楚之伐韓[illegible]」（三）二樣ノ事。[illegible]三國志、[illegible]、法官[illegible]正、不宜有兩端」

りやうだん（名）［兩斷］二ツニ[illegible]「[illegible]刀兩斷」

りやうたんさいはい（名）［兩段再拜］神拜ノ一法。敬禮ノ最モ厚キモノ。再拜ヲ更ニ重ク二度スルコト。即チ、先ヅ再拜シ、祈念シ畢リテ、又再拜シテ退クモノトス。北山抄、一、正月、[illegible]兩段再拜[illegible]「本朝之風、四度拜神、謂之兩段再拜、[illegible]再拜也、云云、仍稱兩段也」

りやうち（名）［良知］人ノ性ニ、天然ニ備ハリテ、學バズシテ、物事ヲ善ク知リ得ル力。良能。孟子、盡心、上篇「人之所不學而能者、其良能也、所不慮而知者、其良知也」

りやうち（名）［領地］領シテ居ル地。封地。食邑。徳川氏ノ世ニ、大名ノ所有地。[illegible]、三ノ七、拜借「明暦三丁酉年十二月、云云、西國、四國、中國、領地、稱ニ[illegible]所之大名[illegible]於帝鑑之間、雁之間、大廊下、拜借金被仰付、云云」

りやうち（名）［領置］領收シテオクコト。

りやうち（名）［領知］（一）領有シテ、支配スルコト。太平記、三十五、新將軍歸洛事「數百箇所ノ大庄ヲ領知ス」（二）受持チテ掌ルコト。保元物語、三、爲朝渡鬼島事「穴ヲ掘リテ、領知別チテ其穴ニ入リ、云云」

りやうぢやうこ（名）［兩杖鼓］（二本ノ杖（枹）ニテ兩面ヲ打ツヨリ名ヅク）かっこ（羯鼓）ノ一名。教訓抄、九「羯鼓、又兩杖鼓」

りやうて（名）［兩手］左右ノ手。モロテ。兩ノ手。二手。雙手。兩手に花トハ、二ツ一時ニ、左右優劣ナキモノヲ持ツニ云フ。

りやうてん（名）［兩天］（一）晴天、雨天ニ

[illegible]用ヰル[illegible]（二）[illegible]横ニ貫キ、兩端ヲアラハシ、共ニ、定紋、花形ナドノ飾ヲツケタルモノノ稱。（中ニテ繼グヤウニセシモアリ）守貞漫稿、十一、[illegible]りやうてんト云、[illegible]（三）りやうてんびん（兩天平）ノ略。其條ヲ見ヨ。

りやうてん（名）［兩點］（一）古ヘ、漢籍ノ讀法ニ、音ト訓トヲ併セテ、ヨミタリシコト。例ヘバ、「渺渺」ヲ、べうべうと、又ハ、はるかなると讀ム類。（二）漢籍ニテ句讀ト返點トノ稱。

りやうてんそう（名）［兩傳奏］（二人ナルヨリ云フ）武家ノ職名。てんそう（傳奏）ノ條ノ（二）ニ同ジ。御當家令條、二「禁中方之儀、長橋局、兩傳奏江伺之」

りやうテンビン（名）［兩天平］（一）天平ト云フニ同ジ。兩端ニ懸クレバ云フ。（秤ニ、釣針ニ）（二）俗ニ、事ヲ兩樣ニ引掛ケテオクコト。一ヲ失フトモ、一ヲ得ル意ナリ。略シテ、兩天。持兩端

りやうど（名）［領土］領有スル土地。又、一國ノ主權ノ下ニ屬シテ、他國ノ侵犯ヲ許サザル土地ノ區域。國際法上ニ於テハ、沿岸海モ領土ノ一部トス。領地。

りやうど（副）［兩度］フタタビ。二度。長門本、平家物語、十五、室山合戰事「平家、室山水島兩度ノ軍ニ打勝テ、云云」

りやうとう（名）［兩統］二ツノ皇統。太平記、十七、義貞輩事「御治世兩統ノ聖運モ、新田足利多年ノ忠モ、云云」

りやうとう（名）［兩頭］（一）[illegible]本末[illegible]玉篇金[illegible]蛇二兩頭」（二）頭ノ二ツアルコト。[illegible]八月[illegible]兩頭ノ[illegible]」

りやうとうのへび（名）［兩頭蛇］蛇ノ一種。尾ノ端、太クシテ、首ノ如キ形ヲナセルモノト云フ。岐頭蛇。枳首蛇。新書（漢、賈誼）「孫叔敖爲兒、出遊還、憂不食、母問其故、泣曰、今日見兩頭蛇、[illegible]、母曰、今蛇安在、[illegible]他人又見、已埋之矣、[illegible]汝不死、吾聞、有陰德者必有陽報、云云」

りやうとく（名）［兩得］（一）一時ニ二樣ノ利ヲ得ルコト。一石兩鳥。一箭雙鵰。晉書、束晳傳「一擧兩得、外實内寬、增廣窮人之業」（二）雙方共ニ利ヲ得ルコト。

りやうなふ（名）［領納］ウケ容ルルコト。ウケ收ムルコト。神皇正統記、一「[illegible]大倭トイフ事ハ、異國ニモ領納シテ書傳ニ載セタレバ、云云」

りやうにく（名）［粱肉］ヨキ米ト、肉ト。轉シテ、ウマキ食物。美味。美食。史記、[illegible]傳「[illegible]」[illegible]上篇「食必粱肉、衣必文繡」

りやうにせんせき（名）［良二千石］［支那、漢代ニテ、一郡ノ太守ノ年俸二千石ナリシヨリ起ル］良ク其領内ヲ治ムル地方長官ノ異稱。漢書、[illegible]「[illegible]庶民所以安其田里、而亡[illegible]、政平訟理也、與我共此者、其惟良二千石乎」

りやうにん（名）［兩人］フタリ。二人。關尹子、一字篇「兩人射相遇、則巧拙見、兩人奕相遇、則勝負見、兩人道相遇、則無可無不可、云云」

りやうにん (名) [良人] (一)尋常ノ人民。孝德紀、大化元年八月「良人法」 りやうみん(良民)ノ條ヲ見ヨ。(二)又、りやうぢん 妻ヨリ夫ヲ稱スル語、ツマ、テイシュ。

りやうねん (名) [梁年] 〔梁ヲ上ゲ、柱ヲ竪ツルヲ、忌ム年ノ義〕 酉ノ年ノ事ナリト云フ。 百練抄、五、延久元年己酉二月十日「依レ當ニ梁年一今年不レ可レ作ニ內裏一之由、被レ定レ之」

りやうのう (名) [良能] 人ノ性ニ、學バズシテ、天然ニ具得セル能力。りやうち(良知)ノ條ヲ見ヨ。本能。 孟子、盡心、上篇「人之所ニ不レ學而能一者、其良能也」

りやうは (名) [兩刃] 諸刃ニ同ジ。 雪女五枚羽子板(寶永、近松作)上「兩刃ノ劍ニテ人ヲ切ルニ」

りやうば (名) [良馬] ヨキ馬。名馬。駿馬。駿足。 詩經、鄘風、干旄篇「孑孑干旄、在浚之郊、素絲紕レ之、良馬四レ之」

りやうばい (名) [良媒] 善良ナル媒妁人。良キナカウド。 詩經、衞風、氓篇「匪ニ我愆一レ期、子無ニ良媒一、將子無レ怒、秋以爲レ期」

りやうはう (名) [兩方] フタカタ。二ツノ物事。雙方。兩方面。 運歩色葉集「兩方、リヤウハウ」 長門本、平家物語、十六、高綱宇治川渡事「軍兵二手ニ、宇治勢多兩方ヨリ都へ入ル」

りやうはふ (名) [良法] ヨキ方法。ヨキシカタ。 荀子、王制篇「故有ニ良法一而亂者、有レ之矣、有ニ君子一而亂者、自ニ古及レ今、未ニ嘗聞一也」

りやうばん (名) [兩番] 德川幕府ノ職名。古クハ大番ト書院番ト。後、書院番ト小性組番トノ倂稱。兩御番トモ云フ。さんばんがしら(三番頭)ノ條ヲ見ヨ。 有司勤仕錄、御書院番頭「古ハ大番、御書院ヲ以テ兩番ト號ス由、今ハ御書院、御小性組ヲ兩番ト云」 東鑑記聞、二、「書院組與頭、以ニ書院番頭一稱ニ兩番頭一、稱ニ其組一亦云ニ兩番組一也」

りやうひつ (名) [良弼] 〔說文「弼、本作レ弻、徐諧曰、㐁舌也、舌柔而弱剛、以レ柔从レ剛、輔弼之意」正字通「弼、與レ弻同」類篇「弻、同レ弼」〕 善良ナル輔弼ノ臣。良キ輔ケトナル家臣。 書經、說命、上篇「恭默思レ道、夢帝賚ニ予良弼一、其代ニ予言一」

りやうぶ (名) [兩部] (一)兩ノ部。 漢書、尹翁歸傳「河東二十八縣、分爲ニ兩部一」 (二)りやうぶしふがふ(兩部習合)ノ略。其條、及、しんたう(神道)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。(三)佛經ノ語。密敎ノ胎藏界ト金剛界ト。各條ヲ見ヨ。 沙石集、一、上、第一條「胎金兩部、陰陽ニ官ドル時」

りやうぶ (名) [令法] 〔古へ、令シテ、葉ヲ饑饉ニ備へシメタレバ、名トスト云フ、或ハ料蒲ナド書ス〕 又、りやうぼふ。ハタツモリ。令法科ノ樹ノ名。山茶ノ屬、山野ニ自生ス。高サ一丈餘、樹皮、灰白ニシテ、葉ハ、橢圓、又ハ、倒卵形ニシテ、柔カニシテ細鋸齒アリ、五七葉、枝ノ端ニ聚リツク。若葉ハ飯ニ雜へテ食フベシ、令法飯ト云フ。秋、枝ノ梢ニ、四五寸ノ穗ヲナシ、五瓣ノ小白花、垂リ開ク。實、圓ク小サク、熟スレバ褐色ナリ。植木師ニテ、木ぶし。[山茶科] 大和本草、十二、雜木類「山茶科、リャウボフ、ハタツマリ、救荒本艸ニノセタリ、和名れうほふト云、饑饉草ニ、令法ハ、ハタツマリト云木ノ事也、古歌ニ多シトイヘリ、云云、凶年ニ飢民葉ヲトリ、煮テ食ス」

りやうふう (名) [涼風] 〔淮南子、墜形訓「東南曰ニ景風一、南方曰ニ巨風一、西南曰ニ涼風一」〕 スズカゼ。夏ノスズシキ風。 禮記、月令篇「孟秋之月、云云、涼風至、白露降」

りやうふう (名) [良風] ヨキナラハシ。善良ナル風俗。(惡風ニ對ス)

りやうぶけっかい (名) [兩部結界] 佛敎ノ語。金剛界、及、胎藏界ノ兩部ノ曼荼羅ニ似セテ、結界地トナシタル處。卽チ、兩部ノ深意ヲ以テ組立テ設ケタル結界ナリ。けっかい(結界)ノ條ヲモ見ヨ。 盛衰記、四十、弘法入唐事「君御一門ノ餘執ニ引カレテ、西海ノ旅ニ趣給ヘル上ハ、敵ノ爲ニ捕レ御座歟、水底ニ沈ミ給ベキカ、大師入定ノ靈場也、兩部結界ノ道場也、云云」

りやうぶしふがふ (名) [兩部習合] 〔密敎ノ金剛界ト胎藏界トノ兩部ヲ、我ガ國ノ神道ニ合ハスル意〕 しんたう(神道)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。略シテ、兩部。 續無名抄、中「兩部習合ノ神道ハ、弘法傳敎等ノ智識、佛法ヲ以テ神道ニ合シ、胎金兩部ヲ陰陽ニ配シ、神佛ノ本地一體トス」

りやうぶしんたう (名) [兩部神道] しんたう(神道)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。 玉勝間、四、兩部神道「ホウシノ仕フル社ヲ兩部ト云フ、又、別ニ兩部神道ト名ノル一ナガレモアリ、云云」

りやうぶた (名) [兩蓋] 懷中時計ノ外蓋ノ兩面トモ、金屬製ニテ蓋トナルモノ。(片がらみニ對ス)

りやうぶん (名) [領分] 領有スル區域內。領スル分內。德川氏ノ制ニ、萬石以上ヲ領分ト云ヒ、目見以上ニ知行ト云ヒ、以下ニ給知ト云フ。領地。[封地]

りやうべん (名) [兩便] (一)雙方ノ便利。 [illegible]「[illegible]便、[illegible]」 (二)二便。大便ト、小便ト。大小便。

りやうぼ (名) [良謨] 〔謨ハ、大キナルはかりごと〕 善良ナルハカリゴト。良キ籌略。 書經[illegible]、[illegible]謨、[illegible]、良[illegible]」

りやうほう (名) [良朋] ヨキトモ。善良ナル朋友。良友。 詩經、小雅、[illegible]之什、常棣篇「每有ニ良朋一、況也永歎」 「存合在ニ原、兄弟急難、每有ニ良朋一、況也永歎」

りやうほだ (名) [兩絆] 〔ほだハ、ほだしノ略〕 刑具ノ一。兩足ニ絆ヲカクルコト。 牢獄秘錄、牢屋敷見廻リ之事「牢內、云云、名主不法ニ究ル時ハ、牢內ニテ手錠(又罪ニ依リ後へ手錠)、兩ほだニテ、外ノ牢へ替申付ル也」

りやうまい (名) [糧米] 食糧ノ米。カテノ米。飯米。

りやうまつ (名) [糧秣] 兵糧ト、マグサト。「糧秣廠」

りやうみん (名) [良民] (一)善ク身ヲ修メ、法ヲ守ル民。(無賴ノ民ナドニ對ス) 續紀、八、養老四年六月「今西隅等賊、怙レ亂逆レ化、屢害ニ良民一」 (二)尋常ノ人(卽チ平民ナリ)ヲ、賤民(其條ヲ見ヨ)ニ別チテ云フ稱。常ノ戶籍ニ編セラルル者ナリ。又、良人。略シテ、良トモ云ヒ、其男女ヲ、良男、良女ト云フ。平民。 職原抄「官戶ハ、云云、注「官人良民、罪ニ坐シテ沒官セルモノ、又、家人、奴婢、主人家ノ人ヲ犯シ生ル子ナドナレバ、良ニヤヤ差アル者ナリ」

りやうめ (名) [量目] ハカリメ。秤ノ目方。リャウモク。カケメ。 [illegible]開始[illegible]兩ノ量目ヲ定メン[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]セテ前ニ召シ、云云」

りやうめん（名）［兩面］フタカタノオモテ。表ト裏ト。二方。[illegible]「[illegible]兩面[illegible]、六[illegible]」

りやうめんおび（名）［兩面帶］くぢらおび。[illegible]兩[illegible]ノ[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]兩[illegible]ノ、[illegible]ツ、間ノ月[illegible]

りやうもく（名）［量目］りやうめ（量目）ニ同ジ。

りやうや（名）［良夜］（一）ヨフケ。深夜。[illegible]「[illegible]良夜乃闌[illegible]良夜[illegible]深也」（二）月色ノヨキ夜。特ニ、中秋ノ夜ノ稱。良宵。[illegible]白風高、如[illegible]良夜何」徒然草、第二百三十九段「八月十五日、九月十三日ハ、婁宿ナリ、此宿、淸明ナルユヱニ、月ヲモテアソブニ良夜トス」

りやうや（名）［良冶］ヨキカヂヤ。伎倆ノスグレタル鍛工。列子、湯問篇「良弓之子、必先爲箕、良冶之子、必先爲裘」

りやうやう（名）［兩樣］フタツノ容子。フタイロ。フタミチ。フタツ。楊萬里、[illegible]詩「香味比來無兩樣、人情畢竟愛親栽」

りやうやく（名）［良藥］又、らうやく。效驗アル藥。妙藥。良劑。晉書、王坦之傳「良藥苦於口而利於病」良藥口に苦しトハ、良キ藥ヲ飮メバ、口ニ苦ケレドモ、病ニ效驗アル意。孔子家語、六本「良藥苦於口而利於病、忠言逆於耳而利於行」

りやうゆう（名）［兩雄］フタリノ英雄。[illegible]「[illegible]兩雄不俱立、[illegible]久相持不決、百姓[illegible]」

りやうよく（名）［兩翼］（一）左右ノツバサ。[illegible]（二）左右ノ[illegible]兩翼[illegible]

りやうらめく・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）〔りやうらハ、りやうろう（玲瓏）ノ轉カ〕金玉ナドノ觸レ合ヒテ、鳴ル狀ニ云フ語。リヤラメク。中務內侍日記「玉佩ノヲトカヤ、ミチニりやうらめきテ」

りやうりつ（名）［兩立］雙方ナラビ立ツコト。史記、張儀傳「凡天下彊國、非秦而楚、非楚而秦、兩國交爭、其勢不兩立」

りやうりん（名）［兩輪］車ノ左右ノ輪。轉ジテ、人ノ、互ニ相待ッテ事ヲナスニ喩ヘテ云フ語。劉孝威、甘泉宮歌「[illegible]、扇動兩輪風」

りやうりやう（副）［喨喨］奏樂ノ、ホガラカナル音ニ云フ語。嚠喨

りやうりやう（副）［兩兩］ニッヅツ。コレモカレモ。雙方。史記、天官書「魁下六星、兩兩相比者曰三能」陵雲集、和[illegible]祭酒賦三朱雀衰柳作詩「皇風[illegible]上楊柳、兩兩三三[illegible]道斜」

りやうりやうじ・ジキ・ジケレ・ジク・ジク（形、二）［勞勞］らうらうじ（勞勞）ニ同ジ。とりかへばや物語、三「ウツクシキカタチノ見マホシキガ、りやうりやうじう物ヨワゲニネタゲナル」

りやうろくハラ（名）［兩六波羅］ろくはらたんだい（六波羅探題）ノ條ヲ見ヨ。太平記、一、武家繁昌事「同（承久）三年ニ、始テ洛中ニ、兩人ノ一族ヲ居テ、兩六波羅ト號シテ、西國ノ沙汰ヲトリ行ハセ、京都ノ警衞ニ備ラル」

りやうゐき（名）［領域］領地ノ區域。卽チ、統治權ノ及ブ一定ノ範圍。

りやうゐん（名）［兩院］貴族院ト衆議院トノ稱。兩議院。「兩院協議會」

りやうゑん（名）［梁園・梁苑］〔漢文帝ノ王子、梁孝王ノ築ケル東苑、ココニ賓客ヲ修メ、四方ノ豪傑ヲ招キテ宴遊セル故事ニ出ヅ〕親王。諸王家。異稱。又、皇族。たけのその（竹園生）ノ條ヲモ見ヨ。杜甫、寄李白詩「[illegible]梁園夜、行歌泗水春」

りやく（名）［略］（一）ハカリゴト。策。計。史記、李將軍傳「[illegible]、程不識皆[illegible]名將、然匈奴畏李廣之略」（二）ハブクコト。又、ハブキタルモノ。「中略」

りやく（名）［利益］（一）益ヲウルコト。爲ニナルコト。又、利得。（二）佛ノ力ニヨリテ授カル利。利生。法華文句記、六之三「功德利益者、只功德一而無異、若分別者、自益名功德、益他名利益」盛衰記、四十七、長谷觀音[illegible]「[illegible]師[illegible]、斯ル目出施無畏薩埵ニテ、信心渇仰ノ人、利益空キ事ナケレバ、云云」

りやくかい（名）［略解］又、りやくげ。アラマシノ解釋。又、ソノ解釋ヲ記シタル書。魏武帝註孫子序「訓說況文煩富、行於世者、失其旨要、故撰爲略解焉」

りやくき（名）［略記］アラマシ記スコト。又、省略シタル記事。[illegible]「略[illegible]」

りやくぎ（名）［略儀］りやくしき（略式）ニ同ジ。運步色葉集「略儀、リャクギ」

りやくくん（名）［略訓］萬葉集ニ於ケル漢字使用法ノ一。漢字ノ訓ヲ略セルモノ。下ノ出典ヲ見ヨ。萬葉用字格、例言「此集ニ、記紀ノ[illegible]、云云、又、[illegible]略訓[illegible]アリ[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]トモ、又、[illegible]」

りやくげ（名）［略解］りやくかい（略解）ニ同ジ。[illegible]

りやくげん（名）［略言］言葉ヲハブキテ云フコト。又、ハブキテ云フ言葉。略語。略說。略論。

りやくご（名）［略語］言葉ヲハブクコト。又、ハブキタル言葉。長々シキヲ嫌ヒテ、[illegible]ニセル[illegible]日本[illegible]、日本[illegible]略語ハ、コトバヲ[illegible]、[illegible]トシ、かすみかくれ[illegible]トシ、[illegible]たちなびくヲたなびくトシ、文出ヲ筆トシ、云云、前略有、又、略語ニシテ轉語ヲ兼ネタルモ多シ」

りやくごふ（名）［歷劫］〔歷ハ經ナリ、劫ハ[illegible]〕こふ（劫）ノ條ヲ見ヨ。若干ノ劫ヲ經ルコト。長年月ヲ經過スルコト。法華經、[illegible]門品「弘誓深如海、歷劫不思議」

りやくさう（名）［略裝］略儀ノ服裝。（正裝ナドニ對ス）

りやくじ（名）［略字］略シテ、アヤマル文字。畫ノ匣、亂ノ乱ノ如シ。省字。省文。中陵漫錄（文政）十二「略字、凡、文字ヲ略シテ書ク時ハ、心得ベシ、[illegible]クハ理ニ[illegible]ヨシ、[illegible]」[illegible]、一、[illegible]五山ノ僧ノ頃、寫本抄錄ナドヲスルニ便捷ヲ先トシテ、字畫ヲ省略シ、[illegible]ニ作リ、[illegible]ニ作リ、[illegible]ニ作ル[illegible]少カラズ」

りやくしき（名）［略式］（一）正式ノ手續ヲ省略シタルコト。又、ソノ方式。略式裁判（二）ハブキタル儀式。略儀。略定。（正式ナドニ對ス）

りやくしやう（名）［略章］略式ノ勳章、又ハ、徽章。

りゃく-しゃく (名) [略彴] 〔廣韻「彴、横ㇾ木渡ㇾ水也」〕一本ノ木ヲ渡シテ作リタル橋。丸木ノ一本橋。獨木橋 蘇軾、游ニ蔣山一詩「略彴橫ニ秋水一、浮屠插ニ暮峯一」 碧巖錄、第五十二則「趙州、久響ニ趙州石橋一、到來只見ニ略彴一」

りゃく-しゅ (名) [略取][掠取] カスメ取ルコト。ウバヒトルコト。

りゃく-じゅ (名) [略綬] 略式ノ綬。じゅ(綬)ノ條ヲ見ヨ。

りゃく-じゅ (名) [略頌] (一)りゃくしょう(略頌)ニ同ジ。(二)らくしゅ(落首)ニ同ジ。 著聞集、七、能書「大内十二門ノ額、南面三門ハ弘法大師、云云、道風朝臣、大師ノカカセ給タル額ヲ見テ、難ジテ云ヒケル、美福門ハ田ㇾ廣シ、朱雀門ハ米雀門ト、略頌ニ作リテ嘲リ侍リケル程ニ、ヤガテ中風シテ、手ワナナキテ、手跡モ異ヤウニ成ニケリ」

りゃく-じゅつ (名) [略述] アラマシヲ述ブルコト。簡單ニ陳述スルコト。

りゃく-しょう (名) [略頌] 蒙求ナドノ如ク、人ノオボエヤスキヤウニ作レル一種ノ詩。 奧州後三年軍記、上、剛臆の座「今度、殊ニ臆病ナリト聞ユルモノ、スベテ五人アリケリ、コレヲ略頌ニ作リケリ、云云」

りゃく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) [略] (一)ハブク。簡單ニス。 禮記、孔子閒居篇「三無(無聲之樂、無體之禮、無服之喪)、既得略而聞ㇾ之矣」 (二)攻メ取ル。又、カスメトル。こうりゃく(攻略)ノ條ヲモ見ヨ。 左傳、宣公十五年「晉侯治ニ兵于稷一以略ニ狄土一」

りゃく-せつ (名) [略說] アラマシヲ說クコト。大略ヲ說キアカスコト。

りゃく-そく (名) [略則] アラマシノ規則。大體ノ法則。概則。

りゃく-だつ (名) [掠奪] 〔申鑒(漢、荀悅)「奧道而取ㇾ之、謂ニ之掠奪一」〕カスメウバフコト。ムリニウバヒトルコト。掠。掠劫。劫掠。 [illegible]

りゃく-ぢゃう (名) [略定] りゃくしき(略式)ノ條ノ(二)ニ同ジ。 大鏡、中、伊尹「九條殿ノ御遺言、云云、御葬送ノ沙汰ヲ、ムゲニ略定ニ書キ置カセ給ヘリケレバ、云云」

りゃく-でん (名) [略傳] アラマシノ傳記。簡單ニ記シタル傳記。 寶雲和尚語錄「寶雲和尚略傳、還孫寶慶住持比丘、簡撰」

りゃく-どく (名) [略讀] 〔精讀ニ對ス〕疎略ニヨムコト。大體ヲヨムコト。又、省略シテ讀ムコト。 南史、梁鵠傳「取ニ史傳各一卷一授ㇾ之、云云、鵠略讀具擧、[illegible]之」

りゃく-ばい (名) [略賣] 略取シテウルコト。又、人ヲカドハカシテウルコト。カドハカシ。 漢書、外戚傳、上「竇后兄長君、弟廣國字少君、年四五歲時、家貧爲ㇾ人所ニ略賣一」 賊盜律「凡略ㇾ人略ニ賣人一爲ニ奴婢一者、遠流、爲ニ家人一者、徒三年、爲ニ妻妾子孫一者、徒二年半」

りゃく-ばう (名) [略帽] 略儀ノ帽子。正帽ニアラザル略式ノ帽子。

りゃく-ひつ (名) [略筆] (一)文句ヲ省略シテ書クコト。略文。(二)字ノ畫ヲ省略シテ書クコト。略字。

りゃく-ふく (名) [略服] 正服ニアラザル服裝。略儀ノ衣服。(正服ニ對ス) 守貞漫稿、十五、女服「晴服、略服ニモ、縮、小紋トモニ縮緬ハ必ラズ引返シ裏、上田島、絹縞ナドハ薄色絹、近年用ㇾ之、又從來黑裏ヲ用フ」

りゃく-ぶん (名) [略文] 文句ヲハブクコト。又、ソノハブキタル文章。

りゃく-へう (名) [略表] 大略ニ表示スルコト。又、アラマシニシタル表。 漢書、敘傳、下、述地理志、第八「略表山川、彰其剖判」

りゃく-みゃう (名) [略名] 姓名ヲ順序ニ列ネ記スコト。 軍防令「凡行軍敍勳、云云、即勘色目、同、而傳歩少異者、皆以次略名」

りゃく-りょ (名) [掠虜] カスメテ、トリコニスルコト。 太平記、十七、山門牒送南都事「役行氏直等、逃散之亡將、東汲之降卒也、云云、在薄疾二分作逆、劫略州縣、掠虜民吏」

りゃく-れき (名) [略曆] 〔本曆ニ對ス〕曆ノ中ノ、要用ノミヲ擧ゲテ記シタルモノ。簡略ニシタルコヨミ。

りゃく-れき (名) [略歷] アラマシナル履歷。又、簡略ナル履歷書。

りゃく-ろん (名) [略論] 大要ヲ摘ミ述ベテ論ズルコト。又、ソノ論。 漢書、禮樂志「擧司馬相如等數十人、造爲詩賦、略論律呂、以合八音之調、作十九章之歌」

りゃん (名) [兩] 〔兩刀ヲ帶ブル兩ヲ、次條ノ音ニカヨハシタル語〕二本差ノ侍ヲ嘲リテ云フ語。(商人ノ語) 八笑人(文政、瀧亭鯉丈)五、中「何所ノ侍カ知ラネエガ、シカツベラシイ帶刀ガ、腰ヲカケテ居ルシ」

りゃん (數) [兩] 〔字ノ唐音〕拳ノ語。フタツ。二。けん(拳)ノ條ヲ見ヨ。

りゃら-め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) りゃうらめくノ條ヲ見ヨ。 中務内侍日記「御鍋ニヒウチ形ノカラカネヲ付ラレタレバ、フゲンノ如クニ、りゃらめきナラセ給フ」

りう (名) [龍] (一)又、りょう。タツ。リウ。想像上ノ神靈ナル動物トシ、ヨク、雲ヲ起シ、雨ヲ呼ブト云フ。其鱗アルヲ蛟龍ト云ヒ、翼アルヲ應龍、角アルヲ虬龍、角ナキヲ螭龍ト云ヒ、未ダ天ニ昇ラザルヲ蟠龍ト云フ。何レモ鱗蟲ノ長トシ、多ク天子ニ關スル物事ニ比シテ用ヰル。たつ(龍)ノ條ヲモ參照セヨ。 [illegible]也、云云、雲從ㇾ龍、風從ㇾ虎」 (二)〔周禮、夏官篇、廋人「馬八尺以上爲ㇾ龍」〕りゅうめ(龍馬)ノ略。 蘇軾詩「肉鬣汗血盡龍種」

りう-あく (名) [隆渥] 君恩ノ高ク厚キコト。優渥。 唐書、[illegible]

りう-うん (名) [隆運] 隆昌ナル運命。又、サカンナル機運。盛運。 [illegible]

りう-えう (名) [龍腰] 琴ノ名ドコロ、下(腰部)ノ兩方ヨリ、彎曲ニクリ込ミタル所。今ノ琴、多ク是レナシ。 [illegible]腰ハ下女腹トモ云フ、[illegible]長サ二尺六寸、中墻[illegible]サ八寸、[illegible]長サ八寸八分」 獸偖品目、四、琴、名所「下女腹、下ナル兩方ヨリ、クリコミタル所ヲ云」

りう-おん (名) [隆恩] 君恩ノ高キメグミ。高恩。 [illegible]

りう-が (名) [龍駕] 天子乘用ノ車駕。天皇ノミクルマ。龍車。輦輅。 屈原、九歌、雲中君「龍駕兮帝服、聊翺遊兮周章」 太平記、三、主上御ニ没落笠置一事「翌日ニ龍駕ヲ廻シテ、六波羅へ成シ進ラセントシケルヲ、云云」

りう-かく (名) [龍角] 箏ノ名所。槽(器ノ本體ノ木)ノ表ノ小木ヲ架シテ、絃ヲ乘スル所。下ノ出典ヲ見ヨ。 樂家錄、八、箏之名所「龍角、註「是木爲承絃之高木、乘ㇾ絃者也」

りう-がん (名) [龍顏] 〔史記、高祖紀「高祖爲ㇾ人、隆準而龍顏」トアルニ基ヅク、天子ノ容貌、御顏ノ意トス〕又、りょうがん。天子ノ御顏。てんがん(天顏)ニ

[illegible]ノ[illegible]ノミ[illegible]、[illegible]
[illegible]
[illegible]、[illegible]ハシマニ[illegible]

りゅうがん (名) 〔龍眼〕 〔實ノ形、龍ノ眼ニ似タレバ名トスト〕 (一)熱地ニ產ズル[illegible]、[illegible]小喬木ノ名、高サ十五六尺[illegible]、葉ハ[illegible]テ互生シ、小葉ハ[illegible]ニテ全[illegible]、花ハ五瓣黃色ニシテ小形、果實ハ球形ニシテ、剛毛アリ、恰モ南天ノ實ノ如ク、一朶ニ簇リ垂ル。素乾ニシテ舶來ス。形、荔枝ヨリ小サク、六七分、皮ニ微細紋アリ、茶褐色ナリ、內空シクシテ、正中ニ一核アリ、枇杷ノ核ノ如シ、其中ノ肉ヲ藥用トシ、龍眼肉ト云フ、味、荔枝ニ異ナラズ、或ハ、生ナルヲ砂糖漬、蜜漬トモス。 圖書南海志「大曰龍眼、次名人眼、小者名鬼眼、俗不識別、總謂龍眼」 (二)櫧ノ一種。葉ハ、あかがしノ如クニシテ、長サ七八寸、鋸齒無クシテ、厚シ。葉ノ間ニ實ヲ結ブ、龍眼ノ如シ、皮薄ク、熟セズシテ落ツ。(倭名抄、十三ニ祭祀具ニ、龍眼木ト云フモノ、是レカ) 只栗往來「菓子者、荔枝、龍眼、胡桃、榧實、榛、栗子、云云」

りゅうき (名) 〔隆起〕 タカクオコルコト。高クモチアガルコト。 後漢書、張衡傳「陽嘉元年、復造候風地動儀、以精銅鑄成、員(圓)徑八尺、合蓋隆起、形似酒尊」

りゅうき (名) 〔[illegible]旗〕 〔昔、支那ニテ、交龍ヲ畫ク故ニ云フ〕 天子ノ御旗 支那清朝ニテハ、龍ヲ畫キテ龍旗ト云へリ。 [illegible]、[illegible]所、[illegible]、八[illegible]」 太平記、廿、義貞[illegible]山門[illegible]早[illegible]一[illegible]、以遠合[illegible]竹、[illegible]、[illegible]位、[illegible]」

りゅうき (名) 〔龍葵〕 コナスビ。いぬほ[illegible]、[illegible]ノ(一)[illegible]、[illegible]
和本草、九、雜草類「龍葵、コナスビ、一名イヌホウヅキ、[illegible]ヒタイ[illegible]、[illegible]、[illegible]
ル[illegible]、[illegible]」

りゅうぎん (名) 〔龍吟〕 (一)龍吟調ノ略。下無(シモム)音樂ノ十二律(ジフニリツ)ノ一。(其條ヲ見ヨ) ほうおん(鳳音)ノ條ヲモ見ヨ。 [illegible]記、三十七、[illegible]谷又子寄ニ[illegible]戶口ニ事、斯ル亂ノ世中ニ、龍吟、[illegible]ノ曲ヲ調ベ、詩歌管絃ノ興ヲ催ス事ノ面白サヨ」 塵袋抄、七、第廿五條「龍吟調、此云下無調」 (二)橫笛ノ異稱。(モト羌人、龍ノ鳴聲ヲ聞キ、ソレニ似セテ造ルト云フ、故ニ名トス) 體數訓抄、十一、下、吹物、[illegible](ワウチヤク)笛者、又名龍吟、又名龍鳴、又名羌笛」

りゅうぐう (名) 〔龍宮〕 ワタツミノミヤ。ワタツミノクニ。海中、龍王ノ居ル所ト云フ。ウミノミヤコ。タツノミヤ。龍宮城。 龍宮淨土。 法華經、提婆達多品「爾時、文殊師利、坐千葉蓮花、大如車輪、俱來菩薩、亦坐寶蓮華、從於大海娑竭羅龍宮、自然湧出」 李商隱詩「大海龍宮無限地」 太平記、廿五、自伊勢進寶劍事「安二百王鎮護ノ崇廟ノ神、龍宮ニ神勅ヲ被下テ元暦ノ古ヘ海底ニ沈シ寶劍ヲ被ニ召出ニタル者也」

りゅうぐうのいとまき (名) 〔龍宮絲卷〕 介ノ名。古製ノ絲卷ニ似タル故ニ云フ。

りゅうぐうのおとひめのもとゆひのきりはづし (リユウグウ-ノ-オトヒメ-ノ-モトユイ-ノ-キリ-ハズシ) (名) 〔龍宮ノ少姬ノ元結ノ切外ノ義〕 あまも(甘藻)ニ同ジ。 安房ニテ、菅藻(スガモ)ノ一名ト云フ。 重修本草綱目啓蒙、十六、水草類「海藻、大葉藻、アマモ、云云、カナクヅ、りうぐうのおとひめのもとゆひのきりはづし、モバ(雲州、讃州)」

りゅうげ (名) 〔龍華〕 〔梵語、Puspa-nāga(弗那伽)ノ譯語〕 龍華樹ノ略。彌勒[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]、[illegible]
五十六億七千萬年ヲ經テ、[illegible]、[illegible]、[illegible]
此土ニ出生シ、華林園中、龍華樹下ニ於テ成道シ、三タビ法ヲ說キテ、[illegible]ノ說法ニ漏レタル衆生ヲ濟度スト云フ。之ヲ龍華ノ曉、龍華下生の曉、龍華三會、龍華下生三會、ナドト云フ。 大日經疏、七「彌勒[illegible]、[illegible]、[illegible]、其[illegible]云[illegible]、[illegible]、[illegible]」 [illegible]記、廿四、[illegible]、[illegible]、金剛十六丈ノ[illegible]佛ハ、云云、[illegible]ノ後、[illegible]、[illegible]也、五十六億七千萬歲ノ後、人壽八萬、龍華三會ノ時マデモ、[illegible]身ノ如來トコソ拜シニ、云云」

りゅうげそう (リユウ-ゲ-ソウ) (名) 〔龍牙草〕〔龍芽草〕 普通ニくまつづら(馬鞭草)トスルハ誤ニテ、きんみづひき(金水引)ト云フ宿根草ナリ。(其條ヲ見ヨ) 重修本草綱目啓蒙、十二、隰草類、馬鞭草、云云、龍牙草ハ卽救荒本草ノ龍芽草、一名瓜香草ナリ、和名キンミヅヒキ、又、シシヤキグサ(同名多シ)、クソボコリ(土州)、トモ云、葉ハ紫藤ノ葉ノ如ニシテ鋸齒アリ、云云」

りゅうけつ (名) 〔龍闕〕 〔說文「闕、門觀也」〕 宮闕ノ敬稱。宮城ノ御門。鳳闕。 朗詠集、下「鳳池後面新秋月、龍闕前頭薄暮山」

りゅうげゑ (リユウゲエ) (名) 〔龍華會〕 (一)りゅうげ(龍華)ノ條ヲ見ヨ。(二)三井ノ園城寺ニテ、彌勒ヲ本尊トシテ、每年一度、良日ヲ選ミテ修スル大法會。 本朝續文粹、十一、園城寺龍花會緣起「我大伽藍、須ニ修ニ龍華會ニ以爲ニ値遇慈尊之葉ニ」 (三)くゎんぶつゑ(灌佛會)ノ異稱。 諸國年浪草、四、上、四月「灌佛、浴佛、佛生會、龍華會、佛誕[illegible]、[illegible]、廿火、五雜水[illegible]、四月八日ハ釋迦降誕ノ日ナレトモ、釋迦ヲ浴シ奉リ、當來彌勒ニ逢ヒ奉ル結緣トスレバ、四月八日ヲ、スクニ

りゅうこ (名) 〔龍虎〕 (一)たつト、とらト。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]」 (二)[illegible]、[illegible]
ノ。[illegible]、[illegible]
五[illegible]子[illegible]也」 (三)[illegible]ヘ、[illegible]
ハタッ(スヽ)キニ譬フ。 [illegible]、[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]之[illegible]」 龍虎ノ爭ト[illegible]、[illegible]
等ノ力アルモノ、相下ラズシテ爭フ意。

りゅうこしゃ (名) 〔龍骨車〕 〔[illegible]ノ[illegible]〕 水ヲ彈キ出シテ火災ヲ消ス具。大ナル匣ノ上ニ、橫木アリ、中ニ仕掛アリテ、橫木ヲ上下スレバ、[illegible]、[illegible]、龍吐水。 [illegible]、[illegible]、[illegible]ノ、[illegible]、[illegible]掘キニケリ」

りゅうこつ (名) 〔龍骨〕 (一)前世界ニ棲息セシ象類ノ動物ノ骨。往往、諸州ノ土中ヨリ掘リ得。タツノホネ。 本草[illegible]、下[illegible]「龍骨、[illegible]保[illegible]」 (二)[illegible]ぎりがほら(開切骨)ニ同ジ。

りゅうこっしゃ (名) 〔龍骨車〕 〔形、龍ノ骨ノ如シトテ名ヅク〕 水ヲ汲ミ上ゲテ田ニ注グ器械。全體、車輪ノ狀ナナシ、一本ノ軸ノ周圍ニ、板ヲ以テ水ノ入ルベキ箱狀ノモノヲ、數多取附ケ、之ヲ踏ミ廻シテ、水ヲ汲ミ上グ。又、長キ桶狀ノ中ニ、方ナル木ノ鍔ヲ、多ク連續シテ回轉スルヤウニ取附ケ、兩人相對シテ、仕掛ヲメグノセバ、數十ノ木ノ鍔、[illegible]、[illegible]リテ水ヲ揚グ。 [illegible]車。 [illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]溝、南[illegible]可[illegible]」 [illegible]、[illegible]、龍骨車、ヒクキ處ヨリ高キ田畠ニ水ヲアゲルヒノナリ、[illegible]一尺ニモ、又一尺二四寸ニモ、[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ナル[illegible]キ木ヲ以、九尺ニモ二間ニモ、[illegible]、[illegible]、[illegible]上一方ヲ明テ、水ヲツクル小板ヲカラグリ付ル」

りゅうこつぼく（名）［龍骨木］覇王樹（サボテン）ノ一種。草木性譜、天、仙人掌、附、龍骨木、南國ノ産ニシテ甚寒ヲ畏ル、冬暖室ニ藏」

りゅうぞう（名）［龍藏］（一）佛教ノ語。龍宮ノ經藏。禪宗鏡錄、龍樹於龍宮、龍藏所未有底」（二）ふんれう（南鐐）ニ同ジ。下ノ出典ヲ見ヨ。浮世床、文化、十年、二編、下「龍藏カ金物ヲシテ、注「龍藏トハ、南鐐一片ノ事也、フンドウノ紋、風呂敷ヨリ出デタル詞」

りゅうぞう（名）［龍象］［梵語、Nāga.（那伽）ヲ龍、又ハ、象ト譯ス、故ニ智行兼備ニシテ、自在ノ威力アル聖者ニ譬ヘ云フ］智德ノスグレタル高僧。又、僧ノ敬稱トモス。大智度論、三、那伽、或名龍、或名象、是五千阿羅漢、諸阿羅漢中、最大力、以是故言如龍如象、水行中龍力大、陸行中象力大」正法眼藏、道元、佛教卷「七百ノ高僧モ、カタヲ比セズ、天下ノ龍象、アトヲタヅヌル分ナキガ如シ」

りゅうぞうとうばん（名）［龍像纛幡］御卽位ノ儀式ニ庭前ニ立テ用ヰル幡ノ一。二本アリテ、東方ナルハ、赤地ノ綾ニ金色ノ龍ノ像ヲ畫キ、西方ナルハ、黃地ノ綾ニ靑龍ヲ畫キタルモノニテ、左近衞府ノ軍旗トス　左近衞府式「龍像纛幡一流、社、加、鼓、其桙預前儲備」

りゅうさく（名）［龍作］［書經、舜典篇「帝曰、龍、云云、命汝、作納言、夙夜出納朕命惟允」トアルヨリ出デタル語］中納言ノ異名。雲州消息（藤原明衡）下、本「依蒙龍作之官」」

りゅうし（名）［龍姿］スグレタル容姿ヲ、龍ニ喩ヘテ云フ語。後漢書、朱祐等（功臣）傳、賛「咸以龍姿、鬱起同寄、光武、也」

りゅうし（名）［龍趾］箏ノ名ドコロ。兩腕端ノ下ニアル木。卽チ、二ツノ足ナリ。下ノ出典ヲ見ヨ。樂家錄、八、箏之名所「所名、云云、龍趾、下ナル二ツノ足ナリ」歌儛品目、四、箏「龍趾」注「足在兩腕端之下一木也」

りゅうしゅう（名）［龍集］［龍ハ星ノ名、集ハ次ルナリ、卽チ、此星ハ一年ニ移ルコト一次、故ニ一年ヲ龍集ト云ヒテ、年ノ終ニ用ヰル、王莽、銅權銘「歲在大梁、龍集戊辰」］今ハ意義ナク、年ヲ揭ゲタルトニ記ス語。何承天、天寶「龍集有次、星紀乃分」「明治幾年、龍集、某月」

りゅうじん（名）［龍神］雨ト水族トヲ司ルト云フ海神。佛經ニテ、龍王ニ八種アリ、八大龍王（其條ヲ見ヨ）ト云フ。龍王。法華經、序品「四衆龍神、瞻察仁者」盛衰記、七、和歌德事「祈ル禱リモ叶ヒツツ、龍神感ミヲ顯ハシテ、當社ノ御ニ附ケ寄セケリ」

りゅうしゃ（名）［龍車］りゅうが（龍駕）ニ同ジ。懷風藻、七夕「鳳駕飛二天路、龍車越二漢流一」

りゅうしゃ（名）［隆車］［隆ハ高キナリ］大キクシテ高キ車。陳琳、檄二豫州一文「欲」以二螳螂之斧一禦中隆車之隧上」

りゅうしょう（名）［隆昌］サカンナルコト。隆盛ナルコト。盛昌。任昉、宣德皇后令「隆昌季年、勤」王始著」

りゅうじょうこし（句）［龍驤虎視］［驤ハ擧ルナリ］卽チ、龍ノ擧ルガ如ク、虎ノ視ルガ如キ意］勢ノ盛ンナルヲ云フ。又、轉ジテ、志氣ノ高遠ナルヲ云フ。三國志、蜀志、諸葛亮傳、評「亮之素志、進欲」龍驤虎視、苞二括四海一、退欲」跨二陵邊疆一、震中蕩宇内上」

りゅうしゅ（名）［龍鬚］タツノクチヒゲ。龍ノ鬚ノ繩ニテ身ヲ縛リ、水ニ入レバ、轉タ緊シク轉タ痛シト云フヨリ、利養ノ身ヲ害スルニ譬フ。止觀、五「龍鬚繩、身入水轉痛」

りゅうしゅ（名）［龍手］箏ノ名ドコロ。上ノ方ノ足ヲ云フ。下ノ出典ヲ見ヨ。樂家錄、八、箏之名所「所名、云云、龍手、上ナル二ツノ足ノ名也」歌儛品目、四、箏「龍手」注「足端之足也」

りゅうしゅん（名）［隆準］［りゅうせつノ誤讀］次次條ノ語ヲ見ヨ。

りゅうせい（名）［隆盛］りゅうしょう（隆昌）ニ同ジ。漢書、文三王傳、賛「梁孝王雖以愛親故、王膏腴之地、然會漢家隆盛、百姓殷富」

りゅうせつ（名）［隆準］［準ハ鼻梁ナリ］誤リテ、りゅうしゅん。高キ鼻。隆鼻。又、高キ鼻バシラノ通リタル人相。史記、高祖紀「高祖爲人、隆準而龍顏」注「（集解）文穎曰、準、鼻也」（索隱）始皇蜂目長準、蓋鼻高起、文穎說是、高祖感龍而生、故其顏貌似龍、長頸而高鼻」

りゅうぜつはん（名）［龍舌枰］［集韻、枰、ははさもちひ（母子餠）ニ同ジ。荊楚歲時記、（梁、宗懍）「三月三日、取鼠麴汁、蜜和、粉、謂之龍舌枰、以厭時氣」」

りゅうぜつらん（名）［龍舌蘭］石蒜科（マンジュシャゲ）ノ多年生草本。仙人掌ノ類。めきしこ國ノ原産ニテ、葉ハ、株ニ叢生シ、葉ノ全體、綠色ナルト、黃色ノ輪アルトノ二種アリテ、披針狀箆形ヲ呈シ、何レモ葉ノ緣ニ硬キ刺アリテ、鋸齒ノ如シ、數十年ニシテ帶黃綠色ノ花ヲ圓錐花序ニ咲キ、實ヲ結ビテ枯ルト云フ。葉ノ纖維ハ織物、製紙ノ原料トナリ、花莖ヨリハ汁ヲ採リテ釀酒ノ料トス。

りゅうぜん（名）［龍涎］（一）香ノ一種。下ノ出典ヲ見ヨ。類書纂要「龍涎無香、其氣近于臊、能發衆香、故人用之以和香」（二）次條ノ語ノ略。類書、云、香似龍涎（白）」

りゅうぜんかう（名）［龍涎香］まっかう鯨ノ腹、殊ニ、腸ノ中ニ病的ニ生ズルモノ。凝リテ松脂ノ如ク、白キアリ、淡赤キアリ、黑、白、雜レルアリ、香料ニ加ヘ用ヰル。略シテ、龍涎。

りゅうたい（名）［隆替］りゅうてい（隆替）ノ條ヲ見ヨ。

りゅうだう（名）［龍膽］又、りうたん。草ノ名。りんだう（龍膽）ニ同ジ。

りゅうたつぶし（名）［隆達節］俗謠ノ名。文祿ノ頃、泉州、堺ノ日蓮宗顯本寺ノ僧、隆達、謠ヒ始ム。小唄ノ祖トス　寬文ノ頃、三味、及、一節切（ヒトヨギリ）ニ合ハセテ、盛ンニ流行セリ。其唄ノ文句ニ「やぶれすげがさ、しめをかされて」トアルヨリ、すげがさぶしトモ云フ。近代世事談、三、態藝門、隆達節「隆達ハ日蓮宗ノ僧也、泉州堺顯本寺ノ院内ニ住セシガ、ユヘアッテ還俗シ、大坂吳服屋高三氏（ザフ）ノ家ニ入テ、終ニ商人トナレリ、常ニ音曲ヲ好ミ、小歌ノ一流ヲウタヒ出ス、ソノ唱雅ヤサシク、人ノ心ヲヤハラケ、教訓ニモナリタルヨシ、世ニ隆達節ト稱ス、一節切モ同ジ」

りゅうたん（名）［龍膽］又、りゅうだう。草ノ名。りんだう（龍膽）ニ同ジ。

りゅうぢん（名）［龍陣］陣立ノ名。下ノ出典ヲ見ヨ。鬪戰記、五「八陣之圖、龍之陣ノ事、此陣ハ山ヲ前ニ當テ、後ニ河ノ流ヲ當テ可」取」

りゅうづ（名）［龍頭］（一）たつがしら（龍頭）ニ同ジ。（二）鐘ノ上ニ、龍頭ノ形シタルモノ。梁ニ懸クル紐トス。鐘紐（トンテ）。謠曲、道成寺「思ヘバ此ノ鐘恨メシヤトテ、龍頭ニ手ヲカク飛ブゾトミエシ、ヒキカヅキテゾ失セニケル」

りうづまき (名) [龍頭卷] 懐中時計ナドノ製ニ、頭ニアル紐(ツマミ)ヲヒネリテ、ぜんまいヲ卷クベク作レルモノ。

りゅうてい (名) [龍蹄] 又、りょうてい。極メテスグレタル馬。リュウノコマ。 [駿馬] [駿驎] [良駿] 下學集、上、[illegible] 信西二議事「此ノ龍蹄ヲ以テ、如何ナル強陣ナリトモ、ナドカ破ラデ候ベキ」平家物語、七、倶利伽羅落事[illegible]

りゅうてい (名) [隆替] (爾雅、[illegible]) サカンナルコトト、オトロフルコトト。盛衰。興廢。 [illegible]

りゅうてき (名) [龍笛] (モト西羌ノ人、龍ノ鳴聲ヲ聞キ、ソレヲマネテ造リシニ因ルト云フ) 又、わうぢゃく。雅樂ニテ、横笛ノ稱。 [illegible]

りゅうとう (名) [龍燈] (一)海中ノ燐火ノ、時トシテ、燈火ノ如ク連リ光リテ現ハルルモノ。磐城ノ閼伽井岳ノ火、最モ名アリ。 [illegible] 龍燈杉 枝幹屈曲シテ、龍ノ臥セルガ如ク、實ニ數百歳ノ樹ナリ、コノ所ヨリ海上ニウカブ龍燈ヲ拜スルガ故ニ名トス、龍燈ハ正月元日ヨリ三日、又八六日、風靜カニ波穩カナルトキ、大宮ノ沖手ニ現ズ」 (二)社頭ニ奉納スル神燈。 一葉集 五月雨ヤ、龍燈アゲル、番太郎」

りゅうとうげきしゅ (名) 龍頭鷁首 りょうとうげきしゅ(龍頭鷁首)ノ條ヲ見ヨ。

りゅうとうた (名) [龍頭太] 神祭ノ行列ニ出ヅル天狗ノ假面ヲ被リ、鳥兜(トリカブト)、水干、奴袴(ヌバカマ)ニテ裝ヒタルモノ。

りゅうとうだび (句) [龍頭蛇尾] 又、りょうとうだび。[illegible]意ニテ、言動ノ首尾一貫ノ力ナキニ喩ヘ云フ。 [illegible]「龍頭蛇尾」傳燈錄、廿一「可レ惜、龍頭翻成二蛇尾一」

りゅうどすい (名) [龍吐水] (一)龍骨車(リュウコシャ)。(二)ミヅハジキ。ミヅデッパウ。 [illegible] 云云」

りゅうのう (名) [龍腦] (一)龍腦香科ノ常綠喬木ノ名。南洋ノすまとら、ぼるねおナドノ諸島ニ產シ、高サ十餘丈ニ達シ、葉ハ卵形ニシテ、厚ク、閉クシテ光リ、花ハ黃色ノ合瓣花冠ニシテ、總狀ニ排列シ、香氣高シ。果實ハ一ツノ種子ヲ含ム。(二)モト支那ヨリ舶來スル藥品ノ名。樟腦ヲ製煉シタルモノト云フ、又、杉類ノ樹ノ脂ナリト。或ハ又、南洋諸島ノ原產ノ龍腦香科ニ屬スル植物ノ樹幹ヨリ採ル無色透明、葉狀ノ結晶物トモ云フ。形、梅花片ノ如ク、輕浮、潔白、透明ナルヲ上品トシ、コレヲ片腦(ヘンナウ)トモ稱ス。今渡ハ、色ノ潤ミタルアリ、亦、上品ナリ。和產ニ、樟腦ヲ燒キカヘシ、反腦(ヘンナウ)ト稱シテ僞リ賣ル。龍腦香

りゅうのうかう (名) [龍腦香] 前條ノ語ノ(二)ニ同ジ。 倭名抄、十二「香名類、龍腦香」 [illegible] 本草、[illegible]「龍腦香、クスノキノヤニ、本草ニ云、[illegible] 之日本所所有レ之、木中結如二白雪一」

りゅうにょ (名) [龍女] 龍王ノ女(ムスメ)。龍宮ニ居ルト云フ仙女。オトヒメ。 謠曲、采女「龍女カ如ク我モハヤ、變成男子ナリ」

りゅうのこま (名) [龍駒] 極メテスグレ

[illegible] 宇津保物語、初秋「イハユル龍の駒トイフトモ譲ランニ、[illegible]」

りゅうのひげ (名) [龍鬚] ばくもんどう(麥門冬)ノ條ヲ見ヨ。 物類稱呼、三、生植「麥門冬、[illegible]ヒゲ、[illegible]ゼウナヒゲト云、[illegible]りうのひげト云」

りゅうはい (名) [龍背] 箏ノ背ノ稱。下ノ[illegible]

りゅうび (名) [隆鼻] 高キ鼻。バシラ。又、高キ鼻、隆準。 [illegible] 注、日月之所、出、其人[illegible] 大口」

りゅうびしゃ (名) [龍尾車] 低キ地ノ水ヲ、高キ地ニ引キ揚グル一種ノ器械。 [illegible] 云云、低キ所ノ水ヲ高キ所ヘヒキ上ル器具ナリ」

りゅうびだう (名) [龍尾道] (唐ノ大明宮ノ正殿(本名、含元殿)、龍首山ノ東趾ニアリ、而モ殿前ノ道、透迤トシテ屈曲シ、恰モ龍ノ蛇行スルガ如キ故ニ、龍尾道ト云フ、コレヨリ起ル) 又、たつのをのみち。殿前ノ道。次條ノ語ヲモ見ヨ。 王堤、宮闕[illegible] 注、含元殿前升レ殿之道、自レ下而上、爲二陂陀斜道一不レ疏二小級一透迤屈曲、凡七轉、自レ上望レ下、宛如二龍尾下垂一故名二龍尾道一」 後紀、八、延曆十八年正月「壬子、大極殿前龍尾道上構二作借殿一」 同、廿一、弘仁二年七月「丁未、大極殿龍尾道上有二雲氣一狀如レ烟、[illegible]」

りゅうびだん (名) [龍尾壇] 古ヘ、大極殿ノ前庭ニアリシ階段、左右ノ昇降スルトコロヲ、東西ノ龍尾道ト云フ、東ニ蒼龍樓アリ、西ニ白虎樓アリ。前條ノ語ヲ見ヨ。 著聞集、十七、怪異「延長八年七月十

[illegible]ルガ、ソノ跡、化シテ龍トナリニケリ、同ジキ廿日、[illegible]

りゅうびん [illegible]

りゅうびんむしろ (名) [illegible] りゅうびんトイフ」[illegible] 花むしろ[illegible]

りゅうふく (名) [龍伏] 龍伏の式ノ略。工匠ノ語。家ノ柱下ノ礎石ヲ、居エ初ムル儀式。定礎式。 [illegible] 伏之式禮、地礎(イシズヘ)ノ次第ハ、先ヅ月ノ生氣(シャウキ)ノ方ヨリ初テ杜石ヲ据、夫ヨリ順ニ右ヘ[illegible] 氣ニ當ル方ノ礎ノ元ニ祭壇ヲ設、又外ニ一所祭壇ヲ設ケ、兩所ニ御供物ヲ具フルナリ」

りゅうめ (名) [龍馬] (周禮、夏官、司馬「[illegible] 馬八尺以上爲レ龍」) 又、りょうめ。極メテスグレタル馬。高サ八尺五寸、長頸ニシテ、骼上ニ垂毛アルモノ。 [illegible] 「大鵠雞帝(仁德)之時、龍馬西見、是以自レ古迄レ今、[illegible]」

りゅうめい (名) [龍鳴] (りゅうてき(龍笛)ノ條ヲ見ヨ) よこぶえ(横笛)ノ異名。 續教訓抄、十一、下、吹物「横(ワウヂャク) 笛者、又名龍吟、又名龍鳴、又名笙笛」

りゅう-もん (名) 【龍文】 (一)龍ノ模樣。史記、單田傳「衣以二五彩龍文一」 (二)駿馬ヲ云フ。 (三)轉ジテ、將來有望ナル小兒ヲ云フ。北齊書、楊愔傳「人曰、此兒駒齒未ㇾ落、已是我家龍文、更十歲後、當ㇾ求二之千里外一」

りゅう-もん (名) 【龍紋・龍文・龍門】 〔綾文ノ訛〕白絹ノ織物ノ名。地、厚ク強ク、緯絲多クシテ、織目、斜ニ高ク、光澤ナラズ、卽チ、有文ノ綾ナリ。(無紋ナル平絹ニ對ス) 紫綢 萬金産業袋、四、唐物類「龍紋(紫紬ニ幅一尺六寸位、丈三丈二三尺ヨリ六七尺マデモアリ、トビサヤヨリ地ガカニテ、ツヤ也、染ツヤオモハシケラズ」 絹布重寶記「龍門、尺巾、逈モノ也」 好色二代男(貞享、西鶴)五「マタ十八九ナル大振袖ノ娘、云云、供ノ下女二人、共ニ龍門ノ大幅、白鷺縮ニ梅ノ落葉ナド散ラシタル帶ミルゾカシ」

りゅう-もん (名) 【龍門】 龍門ハ支那ノ地名。とうりゅうもん(登龍門)ノ條ヲ見ヨ。史記、李斯傳「禹鑿二龍門一通二大夏一」 李白、上二韓荊州一書「一登二龍門一則聲價百倍」

りゅう-やう (名) 【龍陽】 〔支那、戰國ノ時、魏ノ安釐王ノ幸臣ニ龍陽君ト云フモノアリシ故事ニ因ル(戰國策、魏策)〕 又、りょうやう。ワカシュ。カゲマ。又、男色。 孌童 阮籍詩「昔日繁華子、安陵與二龍陽一」 松屋筆記、六十六、第六十八條、男色ノ事「海人藻芥ニ見エ、カラ國ニハ、龍陽君殤子瑕ヲハジメ、史記、漢書ニ侫幸オホカリ」

りゅう-りん (名) 【龍鱗】 (一)タツノウロコ。又、其形シタルモノ。 (二)轉ジテ、劣者ガ、依ッテ以テカトタノムベキ偉大ナル英主ナドニ譬フ。 鳳翼 驥尾 後漢書、光武紀「從二大王一於二矢石之間一者、其計固望下其攀二龍鱗一附中鳳翼上以成中其所上レ志耳」 (三)轉ジテ、松ノ古ビタル幹ノ皮ニ喩ヘタル語。 王維、訪二呂逸人一詩「閉ㇾ戶著ㇾ書多二歲月一、種ㇾ松皆老作二龍鱗一」 (四)陣立ノ一。太平記、廿六、四條縄手合戰事「續、虎韜ニ連テ圍メバ、虎韜ニ分レテ相當リ、龍鱗ニ結ビテ蒐レバ、龍鱗ニ進ンデ戰フ」

りゅう-りゅう (副) 【隆隆】 (一)勢ノ盛ンナル狀ニ云フ語。揚雄、解嘲「且吾聞二之、炎炎者滅、隆隆者絕一」 (二)音聲ノ大ナル狀ニ云フ語。 漢書、五行志「聲隆隆如ㇾ雷」

りゅう-ろう (名) 【龍樓】 〔屋根ニ、銅龍ノ飾アリシ故ニ云フ〕 又、りょうろう。 (一)宮殿ノ樓門ノ稱。 漢書、成帝紀「上嘗急召二太子一出二龍樓門一不二敢絕一馳道二」注、張晏曰、門樓上有二銅龍一若二白鶴、飛廉之爲ㇾ名也」 太平記、五、大塔宮熊野落事「此君元ヨリ龍樓鳳闕ノ內ニ長トナラセ給ヒテ」 (二)轉ジテ、皇太子ノ稱。 拾芥抄、中、本、官位唐名部、唐名大略「春宮、云云、龍樓」

りゅう-わう (名) 【龍王】 龍屬ノ王。りゅうぢん(龍神)ニ同ジ。北史、西域傳「波知國在二鉢和西南一云云、有二三池一、傳云、大池有二龍王一、次者有二龍婦一、小者有二龍子一、行人經二之設二祭、乃得ㇾ過」

りゅう-を (名) 【隆汙】 時勢ノ盛ンナルコトト、衰フルコトト。盛衰。隆替。

りょ (名) 【呂】 音樂ニテ、陰ニ屬スル音律。漢書、律曆志「律十有二、陽六爲ㇾ律、陰六爲ㇾ呂」 十訓抄、上、第四、第九條「タダ打聞ハ呂ノ調ニテ、律ノ聲ヲヒクベキヤウモナケレバ、御失錯ト、云云」 ぢよふにりつ(十二律)ノ條ヲ見ヨ。

りょ (名) 【旅】 〔周禮、地官篇、小司徒「五卒爲ㇾ旅」注「旅、五百人」〕 モト支那ニテ、五百人ノ軍隊ノ稱。轉ジテ、弘ク軍隊ノ意ニ用キル。(振旅ノ條、參見セヨ) 書經、大禹謨篇「禹拜二昌言一曰、兪、班ㇾ師振ㇾ旅」

りょ (名) 【虜】 〔集韻「虜、籠五切、音魯」ナレバ、ろヲ正シトスレド、今ハ通音ニ從フ、說文「虜、獲也」漢書、樊噲傳、注「生獲曰ㇾ虜」〕 (一)トリコ。イケドリ。又、イケドルコト。史記、項羽紀「豎子不ㇾ足二與謀一、奪二項王天下一者、必沛公也、吾屬今爲二之虜一矣」 (二)エビス。又ハ、奴隷。(罵リテ云フ) 史記、李斯傳「嚴家無二格虜一」注「虜、奴隸也」

りょう (名) 【龍】 りゅう(龍)ノ條ヲ見ヨ。

りょう (名) 【陵】 (一)ヲカ。詩經、小雅、天保篇「如ㇾ岡如ㇾ陵」 (二)〔玉篇「陵、冢也」國語、齊語「陵爲二之終一」注「以爲ㇾ葬也」後世、專ラ天子ノ墓ヲ云フ〕 ミササギ。

りょう (名) 【綾】 あや(綾)ニ同ジ。其條ノ(一)ヲ見ヨ。 枕草子、十、第百三十二段「コノ藏人ニナレル壻ノ、りょう(イ、れう)ノウヘノハカマ、スハウガサネ、黑半臂ナド、イミジウアザヤカニテ」

りよう (名) 【利用】 モチキルニ便利ナルヤウニスルコト。又、利益ニナルヤウニモチキルコト。應用。便用。 易經、繫辭、上傳「利用出入、民咸用ㇾ之、謂二之神一」

りょう-い (名) 【陵夷】 陵ノ次第ニ夷カニナル如ク、人ノ道ノ次第ニ衰フルコト。漢書、成帝紀「陵夷無二以經ㇾ道帝王之道、日以陵夷」 易林節用集(慶長)上、言辭門「陵夷、リョウイ」

りょう-うん (名) 【凌雲・陵雲】 雲ヲシノグコト。轉ジテ、俗塵ノ世外ニ超然タル狀ナドニ云フ語。 漢書、揚雄傳「往時武帝好二神仙一、相如上二大人賦一、欲二以風一、帝、反縹縹有二陵雲之志一」 懷風藻、詠二孤松一詩「隴上孤松翠、凌雲心本明」

りょう-が (名) 【龍駕】 りゅうが(龍駕)ノ條ヲ見ヨ。

りょう-が (名) 【凌駕・陵駕】 オシシノグコト。他ヲ壓シテ、ソノ上ニ出ヅルコト。 魏書、徐紇傳「時人惮二之、必相陵駕」

りょう-かく (名) 【稜角】 カド。角ノ先端。 梅堯臣、寄溪石詩「水鳥立二稜角一、潭魚游二穴罅一」

りょう-がん (名) 【龍顏】 りゅうがん(龍顏)ノ條ヲ見ヨ。

りょう-き-でん (名) 【綾綺殿】 (一)古ヘノ禁中殿舍ノ名。宜陽殿ノ北ニアリ、御沐浴、御服著御ノ所トス。 拾芥抄、中、宮城部「綾綺殿、七間四面、宜陽殿ノ北ニアリ」 (二)今、宮城內、賢所ノ後方ニアル御殿。御齋服、御衣更ノ所トス。

りょう-くゎ (名) 【菱花】 (一)ヒシノハナ。王建、野池詩「野池水滿連二秋堤一、菱花結ㇾ實蒲葉齊」 (二)鏡ノ異名。昔ハ、裏ニ多ク菱花ヲ鑄付ケタレバ云フ。 飛燕外傳(漢、伶玄)「姹好奏二上三十六物一以賀、有二七尺菱花鏡一奩」

りょう-けい (名) 【菱形】 數學ノ語。四邊ノ長サ等シクシテ、相對スル邊ノ平行セル斜方形。ヒシガタ。斜角

りょう-こ (名) 【龍虎】 りゅうこ(龍虎)ノ條ヲ見ヨ。

りょう-こ (名) 【陵戶】 賤民ノ一。其條ノ(二)ヲ見ヨ。古ヘ、山陵ヲ守ラシメシ民戶。其初ハ、犯罪者ナドヲ、徒刑ニ處シ、歷代ノ山陵ノ掃除ナドニ使役セシメシガ、代代、其陵ノ部民トナル。又、守戶ト云フモノアリ、陵戶ノ足ラザル時、近傍ノ民ヲ充テテ守ラシメシモノ。陵戶、陵民ナレバ、守戶モ同ジ類ノモノナリシナラム。 持統紀、五年十月「先皇陵戶者、置二五戶以上一云云、若陵戶不ㇾ足、以二百姓一充、免二其傜役一、三年一替」 延喜式「凡山陵者、置二陵戶五烟一令ㇾ守ㇾ之、云云、其兆域垣溝、若有二損壞一者、令二守戶修理一、專當官人巡加二檢校一」

りょう-こく (名) 【陵谷】 〔詩經、小雅、十月之交篇「高岸爲ㇾ谷、深谷爲ㇾ陵」〕 をか

ト、たにト[illegible]シテ、上下、高低ナキノ[illegible]云フ。[illegible]

りようこつ (名) 龍骨 りゅうこつ(龍骨)ノ條ヲ見ヨ。

りようしう (名) 龍舟 天子ノ乘ラルル御船 [illegible] りょうとうげきしゅ(龍頭鷁首)ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]

りようしふ (名) 龍集 りゅうしゅふ(龍集)ノ條ヲ見ヨ。

りようじやうこし (名) 龍驤虎視 りゅう[illegible](龍驤虎視)ノ條ヲ見ヨ。

りようしやうにち (名) 龍生日 〔竹ヲ龍ト見タテテ、ソレヲ植ウル日ノ義〕 ちくすゐじつ(竹醉日)ニ同ジ。

りようしよう (名) 龍鍾 (一)「龍ト鍾トノ二字ヲ合ハスレバ、癃ト云フ音トナル、癃ハ衰弱ノ状ナリ」老病ノスガタ。劉克莊、老病詩「今日龍鍾扶一杖、乃公安得不龍鍾」(二)涙ノ垂ルルコト。岑參、逢入京使詩「[illegible]雙袖龍鍾淚不乾」(三)[illegible] (四)「[illegible]竹之名、龍鍾、[illegible]」竹ノ異名。[illegible]竹杖化龍事也」

りようじよく [illegible] 陵辱 シノギハ

ヅカシムルコト。恥辱ヲ與フルコト。[illegible]

りようせうくわ (名) 凌霄花 〔箋注倭名抄、十[illegible]、[illegible]附木而上、高數丈、故云凌霄」〕 のうぜんかづら(陵苕)ニ同ジ。[illegible]

りようぜつ (名) 龍舌 (一)タツノシタ。(二)鐵ノ一種。

りようせん (名) 龍潛 タツノヒソムコト。轉ジテ、賢明ナル人ノ隱遁シテ居ルコト。南史、沈約[illegible]

りようだて (名) 龍立 (一)龍ノ形ニ作リタル兜ノ前立。タツガシラ。(二)能樂ニテ、龍神ナドノ頭ニ戴ク龍ノ形シタルモノ。

りようち (名) 陵遲 (一)ヲカノ次第ニ低クナルコト。荀子、宥坐篇「百仭之山、任負車登焉、何則陵遲故也」(二)道ノ衰ヘスタルルコト。禮義ノ衰ヘタルコト。詩序、小序、大車「禮義陵遲、男女淫奔」

りようち (名) 凌遲 支那ノ唐以後ニ於ケル極刑ノ名。其四肢ヲ斷チ、次ニ其吭ヲ絶チテ慘殺スルモノ。ナブリゴロシ。元史、刑法志「死刑、斬、凌遲處死」

りようてい (名) 龍蹄 りゅうてい(龍蹄)ノ條ヲ見ヨ。

りようとう (名) 龍頭 (一)龍ノカシラ。タツガシラ。(二)次條ノ語ヲ見ヨ。十訓抄、下、第十、第五十八條「龍頭ニ伴[illegible]笛ヲ吹ク、鷁首ニハ笛吹ナクテ、工樂ヲセズ、人コレヲ笑ヒケリ」

りようとうげきしゆ (名) 龍頭鷁首 「[illegible]モ鷁モ、水ニ溺ルルコトナキモノナレバ、之ヲ船首ニ飾ル」又、りょうとうげきしゅ。貴人ノ乘ラセラルル船ノ稱。二雙ヲ一對トシ、各屋形アリ、一雙ノ[illegible]ハ龍ノ頭、他ニハ鷁ノ彫物アリ。古ヘハ庭ノ池ナドニモ用ヰラレキ。元來、貴人ノ御船ニ、龍ハ水ヲ得テ[illegible]シ、鷁ハ風ヲ得テ疾ク飛スルガ故ニ、舳先ニ龍頭鷁首ヲ彫リテ飾トシ、禁厭トスルナリ。龍舟 淮南子、本經訓「龍舟鷁首、浮吹以娯」注「鷁、水鳥也、[illegible]」[illegible]「[illegible]ノ釣殿ニ、云云、龍頭鷁首[illegible]、コトゴトシウシツラヒ[illegible]ダタセテ、サル大キナル池ノ中ニサシイデタレバ」

りようとうだび (句) 龍頭蛇尾 りゅうとうだび(龍頭蛇尾)ノ條ヲ見ヨ。

りようば (名) 龍馬 りゅうめ(龍馬)ノ條ヲ見ヨ。

りようはい (名) 陵廢 〔下ノ者、上ヲ陵ギテ權威衰廢スル意〕オトロヘスタルルコト。保元物語、一、左大臣殿上洛事「[illegible]改ニ諸儀陵廢ニ、可[illegible]有ニ政道ニ之[illegible]、云云」

りようはん (名) 凌犯陵犯 下ノ者、上ヲシノギヲカスコト。周禮、地官、司徒「其[illegible]、其[illegible]出入相陵犯者、云云」

りようぶ (名) 凌侮陵侮 アナドリ、ハヅカシムルコト。凌辱。[illegible]

りようぼ (名) 陵墓 ミササギト、ハカト。又、ミササギ。天子ノミハカ。後漢書[illegible]

[illegible]

りようめ (名) 龍馬 [illegible]ヲ見ヨ。萬葉集、廿、[illegible]「[illegible]高直ニ買トリテ、イタハリカヒケレバ、龍馬ニテゾアリケル」

りようやう (名) 龍陽 りゅうやう(龍陽)ノ條ヲ見ヨ。

りようら (名) 綾羅 あやト、うすものト。[illegible]

りようり (名) 鯪鯉 [illegible]鱗、鯉ニ似ル故ニ名トスト」イシゴヒ。[illegible]物。體、三尺許リ、肥エテ、頭、小サク、四脚、短ク、尾、長ク、[illegible]、頭、背、脚、皆、三角ノ甲、相重ナリテ[illegible]甲、最モ堅ク、他ヨリ襲ハルレバ、コレヲ立テテ、腹ノ[illegible]シテ居リ、[illegible]蟻ヲ[illegible]トス。[illegible]用トス。本草「鯪鯉、一名龍鯉、一名穿山甲、形似[illegible]」

りようりやく (名) 陵轢 りょうれき(陵轢)ノ條ヲ見ヨ。

りようりよう (副) 稜稜 (一)カドカドシキ状、又ハ、嚴正方直ナル状ニ云フ語。[illegible] (二)[illegible]ニ云フ語。[illegible]

りようれき (名) 陵轢 [illegible] シノギ、フミツケニスルコト。凌辱スルコト。史記、[illegible]

りょうろう (名) 【龍樓】 りゅうろう(龍樓)ノ條ヲ見ヨ。

りょうわう (名) 【陵王】 (一)舞樂ノ曲ノ名。蘭陵王ノ略。 倭名抄、四「二十曲調樂、陵王、有レ囀」 楽家錄、廿八、樂曲調法、中華曲、沙陀調、陵王、禮字和字」 (二)前項ノ舞樂ニ用キル假面。 樂家錄、三十九、舞面「陵王、中面」

りょうゐ (名) 【稜威】 〔漢書、李廣傳、「威稜憺二乎鄰國一」注「神靈之威曰レ稜」〕 イツ。鋭キイキホヒ。尊嚴ナル威光。我ガ國ニテハ、天皇ノ御威光ヲ云フ。ミイツ。 南史、梁武帝紀「稜威直指、勢踰二風電一」

りょえん (名) 【閭閻】 〔說文「閭、里門也、閻、里中門」〕 (一)ムラザト。村里。 邑里。 史記、甘茂傳、賛「甘茂起二下蔡閭閻一、顯二名諸侯一、重二彊齊楚一」 (二)村里ノ人。 史記、李斯傳、賛「李斯以二閭閻一歷二諸侯一入事レ秦」

りょオマチ (名) 病ノ名。りうまちす(僂麻質斯)ノ條ヲ見ヨ。

りょかう (名) 【閭巷】 村ノチマタ。又、ムラザト 民間 史記、游俠傳、序「至レ如二閭巷之俠一、脩二行砥一レ名、聲施二於天下一」 盛衰記、二六、清水寺緣起事「閭巷ノ說ヲ爲レ被二諾仰一」

りょかう (名) 【旅行】 旅ニ出デ行クコト。ミチユキ。征旅。逆旅。羇旅 禮記、曾子問篇「練不レ羣立一、不二旅行一、君子禮以飾レ情」 今昔物語、廿五、第四語「此ル旅行ニ參テ、云云」

りょかく (名) 【旅客】 又、りょきゃく。タビビト。旅人。行人 行客 羇客 征夫 遊子 易林(漢、焦贛)「路多二枳棘一、步刺二我足一、不レ利二旅客一」 盛衰記、四十五、内大臣關東下向事「松吹風高ケレバ、旅客睡覺易シ」

りょがん (名) 【旅雁】 遠キ所ヘ飛ビ行ク雁。ユクカリ。征雁。 張玛、岳陽晚景詩「晚景寒鴉集、秋風旅雁歸」 新國集、一「思羇若(?)於晚鐘、旅雁愴二於路難一」 謡曲、熊野「霜モ旅雁ノ横ル、北斗ノ星ノ曇ナキ、云云」

りょく (名) 【綠】 色ノ、ミドリナルコト。ミドリイロ。綠色。 杜公瞻、同心芙蓉詩「一莖孤引綠、雙影共分紅」

りょく (名) 【力】 りき(力)ノ條ヲ見ヨ。

りよく (名) 【利欲】 己レヲ利セムト貪ル欲心。利益ヲ貪ル欲情。 晉書、劉伶傳「利欲之感情、俯觀萬物擾擾焉、若二江海之載一レ浮萍一」

りょくいん (名) 【綠陰】 木ノ青葉ノ陰。 戴復古、惜春詩「臨」塔一蕭然 春酒、明日池塘是綠陰」

りょぐう (名) 【旅寓】 タビノヤドリ。トマリ。旅次。旅泊。 司空圖、寄二永嘉崔道融一詩「旅寓雖レ難レ定、乘レ閑是勝遊」

りょくえき (名) 【力役】 (一)ホネヲルカセギ。アラシゴト。勞動。(二)エダチ。官ヨリ課セラレテ勤ムル勞役。 孟子、盡心、下篇「有二布縷之征、粟米之征、力役之征一」 荀子、富國篇「罕レ興二力役一、無レ奪二農時一」

りょくかう (名) 【力行】 ツトメテ行フコト。努力シテ行フコト。 史記、儒林傳、申公「爲レ治不レ在二多言一、顧力行何如耳」

りょくがく (名) 【綠萼】 又、綠萼梅。梅ノ一種。あをぢくのうめ(青軸梅)ニ同ジ。今、訛シテ、玉萼トモ云フ。 梅譜(宋、范成大)「綠萼梅、好事者比二仙家綠華一」

りょくがん (名) 【綠眼】 ミドリ色ノまなこ。アヲキ眼玉。碧眼 李白詩「幽州胡馬客、綠眼虎皮冠」

りょくさう (名) 【力爭】 力ヲツクシテアラソフコト。 杜甫、柟樹爲二風雨所一レ拔歎詩「幹排二雷雨一猶力爭、根斷二泉源一豈天意」

りょくさう (名) 【綠草】 アヲアヲシタル草。ミドリ色ナル草。アヲクサ。 翠草 碧草 梁昭明太子、七契「碧樹初蕊、綠草含レ滋」 本朝文粹、上、紀長谷雄、春色無二邊畔一詩「四面紅花隨二岸限一、寸(?)綠草繞レ難レ名」

りょくさく (名) 【力作】 又、りきさく。努力シテ作ルコト。又、ツトメテハタラクコト。又、ソノモノ。 論衡(漢、王充)「精學不レ求レ貴、貴自至矣、力作不レ求レ富、富自至矣」

りょくじ (名) 【綠兒】 大寶令ノ制ニ、三歲以下ノ小兒ノ稱。ミドリゴ。 東大寺正倉院文書、廿二、美濃國大寶二年戶籍、下下戶主小麻呂、云云、眞山 注「年三、綠兒」

りょくしゃ (名) 【力者】 りきしゃ(力者)ノ條ヲ見ヨ。

りょくしゅ (名) 【綠酒】 綠色ヲ含メル酒。良キ酒ヲ云フ。 梁武帝、碧玉詩「碧玉奉二金杯一、綠酒助二花色一」 本朝文粹、一、秋日閑居賦「露濕二荒巷一、由打二幽栖一、清弄閑來、綠酒將攜」

りょくじゅ (名) 【綠樹】 青葉ノ茂レル樹。アヲアヲト繁茂セル樹木。 王維、題二崔處士林亭一詩「綠樹重陰蓋二四鄰一、青苔日厚自無レ塵」 朗詠集、上「青苔地上消二殘雨一、綠樹陰前逐二晚涼一」 謠曲、竹生島「綠樹影沈ンデ、魚樹ニ上ルケシキアリ」

りょくしょく (名) 【綠色】 色ノ、ミドリナルコト。ミドリイロ。 方干、雪詩「風柳細條黏不レ得、春(?)綠色暗隨レ難」

りょくすゐ (名) 【綠水】 ミドリ色ナル水。碧水 儲光羲、同二武平一一遊二湖一詩「舟尋二綠水一宵將半、月映二青林一人未レ歸」

りょくせん (名) 【力戰】 チカラノ限リタタカフコト。力鬪 後漢書、馮衍傳「衍率二吏士七千許人一、力戰連日、弩矢盡、城陷」

りょくたい (名) 【綠黛】 アヲ色ノマユズミ。ミドリノマユズミ。翠黛。 陸游、中(?)詩「綠黛曉(?)白雪如レ玉(?)」

りょくたい (名) 【綠苔】 アヲアヲシタルコケ。アヲゴケ。青苔。綠蘚 許渾、遂(?)歸(?)古(?)「百年便作萬年計、岩畔古(?)生綠苔」

りょくちく (名) 【綠竹】 ミドリナル竹。アヲキタケ。アヲダケ。翠竹。 詩經、衞風、淇奥「瞻二彼淇奥一、綠竹猗猗」 朗詠集、下「烟消二門外一青山近、露重二窓前一綠竹低」

りょくちゃ (名) 【綠茶】 〔紅茶ニ對ス〕 茶ノ嫩葉ヲ摘ミテ製シタル茶。ミドリノチャ。(常ニ用キル茶ヲ云フ) 綠茗

りょくぢょ (名) 【綠女】 大寶令ノ制ニ、三歲以下ノ少女ノ稱。 東大寺正倉院文書、廿、下總國葛飾郡大島鄉戶籍、寄(?)巳九年「女孔王部刀自賣、參(?)眞、綠女」

りょくでん (名) 【力田】 又、りきでん。農作ニツトムルコト。 戰國策、秦策「今力田疾作、不レ得二煖衣餘食一」

りょくはつ (名) 【綠髮】 ミドリノカミ。黑クシテ艷アル髮。ミドリノクロカミ。翠鬢。 范仲淹詩「羅妙(?)而暖(?)、丹臉綠髮新」

りょくばん (名) 【綠礬】 硫酸第一鐵ノ異名。皁礬 ろうは(綠礬)ノ條ヲ見ヨ。之ヲ燒キタルヲべんがらト云フ。絳礬

りょくひ (名) 【綠肥】 くさごえ(草肥)ニ同ジ。

りょくひん (名) 【綠蘋】 〔蘋ハ、かたばみも〕 ミドリ色ノウキクサ。青萍。青蘋。 白居易、池上詩「池上(?)綠蘋合、(?)白蘋(?)」

りょくぶ (名) 【綠蕪】 ミドリナル草ノ繁茂セルコト。アヲアヲト草ノ茂ルコト。

りくめい (名) [illegible]

りくもん (名) [illegible]條ノ(二)ヲ見ヨ。

りょくや (名) 綠野 ミドリ色ノ野原。アヲアヲト草ノ茂レル原野。[illegible]

りょくら (名) 綠蘿 ミドリ色ノツタ。青キツタ。碧蘿。[illegible]「綠蘿ノ垣、翠黛ノ山、繪ニカクトモ筆モ及ビ難シ」

りょくりん (名) 綠林 (一)ミドリノハヤシ。アヲアヲシタル森林。[illegible] 小山詩「月色寒潮入二剡溪一、清猿叫斷綠林西」 (二)支那、新ノ王莽ノ世ニ、新市ノ人、王匡、王鳳等ノ無頼ノ徒數百人、荊州今ノ湖北省、當陽縣ノ綠林山ニ隱レテ、強盜ヲナシシニ起ル。後漢書、劉玄傳ニ[illegible] 盜人ノ異名。綠林ノ豪客。 李涉、遇レ盜詩「綠林豪客夜知レ聞」

りょぐわい (名) 慮外 (一)オモヒノホカ。意外。案外。 源、梅枝、河海抄ニ「江家云、弘法大師御時以往、無二假名一歟、日本紀中、假名日本紀有之由、慮外令見知何[illegible]致シマセウ、是ハ慮外デゴザル、チャウトゴザル」 (二)慮外ノ無禮。ブシツケ。不敬。 今昔物語、廿六、第四話[illegible]セノ慮外ノ[illegible]メニ、射殺シ候ヒシ男ノ子ノ小男コソ、殿ニ候ナレ」

りょかく (名) 虜獲 [連文釋[illegible]「生得曰レ虜、斬首曰レ獲」] イケドリト、ウチクビト。又、イケドリテ、クビヲキルコト。

りょくゎん (名) 旅館 タビノヤドリ。ハタゴヤ。ヤドヤ。旅舍。旅亭。旅宿。[illegible]「雜行衣薄、旅館曉來落月寒」 吾妻鏡、一、治承四年九月三日[illegible]」

りょけん (名) 旅券 旅中通行ノ手形。又、海外ヘ旅行スル者ニ對シ、其旅行ヲ許可シ、又ハ、身分ヲ證明シテ、外務大臣ヨリ下附スル文書。旅行免狀。旅行券。護照。護票。

りょこん (名) 旅魂 旅ニテノ心。旅人ノタマシヒ。旅情。客情。 本朝文粹、十四[illegible]

りょさう (名) 旅裝 タビノヨソホヒ。旅行ノ裝束。タビサウゾク。旅支度。

りょじ (名) 旅次 [左傳、莊公三年「一宿爲レ舍、再宿爲レ信、過レ信爲レ次」] タビノヤドリ。旅泊。旅宿。 蘇軾、與二謝民師一書[illegible]

りょしう (名) 旅愁 タビノウレヘ。旅行中ノウサ。客愁。羇愁。 蘇軾、與二朱康叔一書[illegible]旅愁甚辛甚辛」

りょしう (名) 虜囚 トリコ。トラハレビト。捕虜。俘虜。 白居易詩[illegible]

りょじん (名) 旅人 タビビト。旅行スル人。客子。遊子。征夫。旅客。 易經、下經、旅卦、上九「鳥焚二其巢一、旅人先笑、後號咷」

りょしゃ (名) 旅舍 りょくゎん(旅館)ニ同ジ。 溫庭筠、上二首座相一啓「通津加レ數、旅舍偶レ懷」

りょじゃう (名) 旅情 タビノココロ。[illegible]

りょしゅく (名) 旅宿 タビノヤドリ。又、ソノ宿屋。ハタゴヤ。ヤドヤ。旅館。[illegible]

りょしょ (名) 旅所 りょかう(旅行)ニ同ジ。 易林節用集(慶長)上、言辭門「旅所、リョショ」

りょすい (名) 旅帥 (一)支那、周代ノ軍制ニテ、兵士五百人ヲ統率スルモノ。下大夫ヲ以テ之ニ任ズ。後世、多クコレニ[illegible] 云、校尉各五人、云云、毎校尉有二旅帥二人一」 (二)大寶令ノ制、兵士百人ヲ統率スルモノ。 職員令[illegible]云云、校尉五人、旅帥十人」

りょだん (名) 旅團 陸軍ノ編制上ノ名。歩兵旅團、騎兵旅團、砲兵旅團、ナドアリ。普通、二箇聯隊ヨリ成ル一部隊。

りょちゅう (名) 旅中 タビシテアル間。旅行中。羇旅中。客中。

りょてい (名) 旅程 タビノ行程。旅行ノ道ノリ。[illegible]

りょてい (名) 旅亭 りょくゎん(旅館)ニ同ジ。 吾妻鏡、一、治承四年九月四日[illegible]

りょてん (名) 旅店 りょくゎん(旅館)ニ同ジ。 朗詠集、下「赴二征路一獨行之子、旅店猶扃」

りょはく (名) 旅泊 [泊ハ止マルナリ] 旅ノヤドリ。旅次。 蘇軾、與二孫志同一書「旅[illegible]」

りょ[illegible] [illegible]「[illegible]過ノ分返納ノ儀ニ付達、云云」

りょもん (名) 閭門 [次條ノ語ヲ見ヨ] 里ノ門。村ノ門。里門。 漢書、于定國傳「始[illegible]」

りょり (名) 閭里 [支那、周代ノ制ニ、二十五家ヲ里トシ、コレガ周圍ノ門ヲ閭ト云ヘリ] ムラザト。村里。村落。 淮南子、主術訓「内不レ知二閭里之情一、外不レ知二山澤之形一」 太平記、六、宇都宮事「閭里ノ民、屋舍ヲ閉ヅ」

りょりつ (名) 呂律 りつりょ(律呂)ニ同ジ。[illegible] 平家物語、三、大臣流罪事「耳ヲ敲ツトイヘドモ、更ニ滿衢ヲ分ケテ、呂律ヲ知ルコトナシ」

りょりょく (名) 膂力 旅力 [說文「膂、脊骨也」] ウデノチカラ。腕力。又、筋肉ノ力。[illegible]「汝膂力過レ人、自行捉來」

りらく (名) 里落 [落ハ聚落ノ義] [illegible]村落[illegible]ムラザト。村里。村邑。邑里。

りらく (名) 離落 [落ハかきひノ義] マガキ。カキ。籬墻。[illegible]

りらん (名) [illegible]「能ク人ノ好惡ヲ知リ、能ク世ノ理亂ヲ鑒ミ、貪慾ナク邪見ナク、一切ヲ憐ミ十善ヲ行ズ」

りり (副) 離離 (一)草木繁茂セル狀、或ハ、果實、又、穀物ノ實ノリテ、下[illegible]

垂ルル狀ニ云フ語。 賈岸、上陽宮詩「莓苔離離」 詩經、小雅、白華之什、湛露篇「其桐其椅、其實離離」〔二〕雲ナドノ長ク續ク狀ニ云フ語。 張衡、思玄賦「倚招搖攝提以低回…雲離離」〔三〕並ビ列ナル狀ニ云フ語。 國性爺合戰〔正德、近松作〕四「石上ニ甚盤ヲ据ヱ、黑白二ツノ石ノ數、三百六十一目ニ、離離タル馬目、連連タル雁行」

り-り・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）〔律律〕〔凜凜〕 オゴソカナリ。嚴シ。嚴美。 七偏人（金鵝）二編、中「スッキリトシテ凜凜しい拵ヘヲ」

り-りつ（名）〔利率〕 利息ノ步合。 卽チ、元金ニ對スル利息ノ割合。

り-りゅう（名）〔驪龍〕〔爾雅、釋畜篇「小領盜驪」疏「驪、黑色也」〕 クロイロノ龍。 莊子、列禦寇篇「今宋國之深、非直九重之淵也、宋王之猛、非直驪龍也」 本朝文粹、三、「得驪龍之珠」〔莊叟著書之處、驪龍睡之淵〕

り-れき（名）〔履歷〕 人ノ、今マデ履ミ歷テ來リシ事柄。人ノ來歷。 封氏聞見錄（唐）「…將來履歷也」

り-ろ（名）〔棗櫨栗蘆〕 すゅろさう（棕櫚草）ニ同ジ。

り-ろん（名）〔理論〕 物事ノ理ノミヲ論ジ究ムルコト。（經驗、實驗ニ對ス） 鄙谷詩「理論知誰越、化徒得李類」

り-わう（名）〔李王〕「支那、明代ノ文學者李攀龍ト王世貞トヲ併稱セシ語」 又、王李。 こぶんぎがく（古文辭學）ノ條ヲ見ヨ。 病間偶話、上、「…有二太宰純者一、最後善識二…其非一、排斥李王二家…」

り-ゐん（名）〔吏員〕 官員。官吏。職員。 後漢書、光武紀「各實二所部、省二減吏員一」

り-ゐん（名）〔梨園〕〔唐ノ玄宗皇帝ガ、梨園ニ於テ、俳優ノ技ヲ學バシメシ故事ニ因ル〕 俳優ノ異名。又、演劇界。 唐書、禮樂志、十二「玄宗旣知二音律一、又酷愛二法曲一、選二坐部伎子弟三百一、敎二於梨園一、聲有二誤者一、帝必覺而正之、號二皇帝梨園弟子一、宮女數百、亦爲二梨園弟子一」 本朝文粹、九、詩序、人事「…」 梨園弟子之袋、舞唱、詞、一事一物、…〔其中〕 太平記、四、藤房卿事「主上北山殿ニ行幸成テ、御賀ノ舞ノ有ケル時、堂下ノ立部、袖ヲ飜シ、梨園ノ弟子、曲ヲ奏セシム、…」

りゐん-でい（名）〔梨園子弟〕 役者。俳優。（前條ノ出典ヲ見ヨ）

る

る 五十音圖、良行第三ノ假名。らノ條ヲ見ヨ。

る（名）〔流〕 又、りう。るざい（流罪）ノ條ヲ見ヨ。 獄令「凡犯二流以下一、聽レ除免官當一、云云」

る（名）〔縷〕〔一〕イトスヂ。又、ホソキ絲。 柳宗元、種樹郭橐駝傳「…」〔二〕絲ノ如ク細ソク續クモノ。 … 集、長江詩「孤城…如レ縷」

る・ルル・ルレ・レ・レ（助動）〔被〕〔所見〕 他ヨリ働キ掛ケラレテ、我レ受身トナル意ヲナス助動詞。四段、奈行變格、良行變格ノ活用ノ動詞ノ未然形ニツク。四段ノ「打タる」「押サる」奈行變格ノ「往ナる」「死ナる」良行變格ノ「有ラる」ノ如シ。 らる（被）ノ條ヲモ併セ見ヨ。（語尾ノ語法指南ノ助動詞ノ條ヲ見ヨ） 皇極紀、二年十一月「開二山背大兄王等、惣被レ亡二於入鹿一」

る・ルル・ルレ・レ（助動）〔得〕〔一〕己レガ力、能ク爲シ得ル意ヲナス助動詞。「讀マる」「行カる」「忍バる」ノ如シ。（讀ムコトヲ得、行クコトヲ得、忍ブコトヲ得、ノ意。尙、語尾ノ語法指南ノ助動詞ノ條ヲモ見ヨ）〔二〕能相ノ意ノ一轉シテ、自ヅトセザルヲ得ザルヤウニナルヲ云フ語。 古今集、十五、戀、五「月夜ニハ、來ヌ人待タる、カキクモリ、雨モ降ラナン、佗ヒツツモ寢ン」

る（接尾） モノノ狀態ヲ云フ語。他語ニ接シテ動詞トス。「醉る」「寶る」「痛る」「欲る」〔欲食〕

る-い（名）〔流移〕 罪人ヲ、ナガシ、又ハ、他ヘウツスコト。 唐六典（唐、玄宗皇帝）「流移之人、皆不レ得レ棄二放妻妾一、及私遁還一」 獄令「凡流移囚、在レ路有二婦人產一者、云云」「流移人」

るい-にん（名）〔流移人〕 流移ニ定メラレタル人。 獄令「凡流移人、太政官量配」

ルウダ-さう（名） へんるうだ（芸香）ニ同ジ。うんかう（芸香）ノ條ヲモ見ヨ。 和漢三才圖會、九十三、芳草類、「芸婆草、俗云、留宇太、蓋語也、能治二瘧疾一、…惡氣、俗呼二芸婆草一耳」

ルウフル（名）〔蘭語、Roeper.ノ訛〕 遠キ人ヲ呼ブニ、聲ヲ通ハスル器。蘭人ノ製ヲ傳フ。銅製、形、喇叭ノ如ク、長サ三尺餘、口ニ當テテ呼ブ。訛シテ、ろうふる。呼筒。

ルウブル（名）〔留〕〔露語、Rubl.英語、Ruble.〕 露西亞國ノ貨幣、及、其價格ノ單位。我ガ一圓二錢二釐三毛餘ニ當ル。

る-き（名）〔留記〕 書キトメテ置ク日記。 庭訓往來、十二月「大介稅所留記文書」

る-き（名）〔流記〕 寺院ノ什寶、及、所領ナドノ資財ヲ記錄セルモノ。 大安寺伽藍緣起并流記資財帳「…」

る-きん（名）〔鏤金〕 金屬製ノ器ニ、花鳥、山水ナドノ圖ヲ鏤リ刻ムコト。又、ソノ細工。ざうがん（象眼、第二語）ノ條ヲ見ヨ。 天武紀、下、朱鳥元年四月「鏤金器」

る-けい（名）〔流刑〕 又、りうけい。るざい（流罪）ニ同ジ。 百練抄、四、康平六年十二月十八日「一季一度、不レ可レ行二流刑一」

るこう-さう（名）〔留紅草〕〔縷紅草〕 旋花科ノ草本ノ名。熱帶亞米利加ノ原產。莖ハ細ソキ蔓ヲナシ、長サ數尺、葉ハ羽狀ニ分裂シ、裂片ハ絲狀ヲナス。夏、葉腋ニ花梗ヲ出シ、漏斗狀ノ緣邊五裂セル紅花ヲ開ク。鑑賞用ニ栽培ス。蔦蘿。 和漢三才圖會、九十六、蔓草類「留紅草、俗稱、木字未詳」 … 花譜「…六月開花、縷紅草、花ノ色極紅、葉〔蔦〕テ少ク、龍五鬚ニシテ形ナ〔朝顏〕ニ似タリ、云云」

る-こく（名）〔鏤刻〕〔爾雅、釋器篇「金謂二之鏤一、木謂二之刻一」〕 ホリキザムコト。又、ホリモノ。彫刻。 輟耕錄（明、陶宗儀）二十五、宋太宗留意翰墨、淳化中、出二御府所藏、命二侍書王著一臨搨、以二棗木一鏤刻、爲二十卷一」

る-こく（名）〔漏刻〕 ろうこく（漏刻）ノ條ヲ見ヨ。 字類抄「漏刻、ルコク」

る-ごん（名）〔流言〕 りうげん（流言）ノ條ヲ見ヨ。

る-ざい（名）〔流罪〕〔書經、舜典篇「流二共工于幽州一」注「流、放也」蔡注「流、遣之遠去、如二水之流一也、放、置二之於此一、不レ得二他適一也」〕 文字讀ニシテ、流罪、流人、ト云フ、遠島ニ從スコトモアリ、何ニモアレ、流人ノ配所ヲ島ト云ヒシガ如シ〕 刑ノ名。ハナツツミ。 神龜元年

三月ノ間ニ[illegible]中古[illegible]信濃[illegible]伊豆[illegible]安房[illegible]常陸[illegible]佐渡[illegible]土佐ノ[illegible]ト云フ。徒ヨリ重ク、死ヨリ輕シ、放チテ其地ニ置キ、他ニ遷ラシメズ。徳川氏ノ制ナルハ、遠島ノ條ニ註ス。シマナガシ。流刑。 [illegible]九、[illegible]六[illegible]以下、罪囚見徒、威從ニ原免ニ 盛衰記、十八、文覺流罪事「此僧(文覺)ヲ京中ニ置テハ惡カリナントテ、伊豆國ヘ流罪ニ[illegible]云云」

るし (名) 僂指 僂ハ曲ケ屈スル義ニ指ヲ折リテ數ヲカゾフルコト。 荀子、儒效篇「[illegible]有[illegible]人之称、不能僂指也」

ルシャナ (名) 盧遮那 びるしゃな(毘盧遮那)ノ略。其條ヲ見ヨ。 續紀、十七、天平勝寶元年四月、詔「三寶乃奴止仕奉流天皇羅我命、盧舎那像能大前仁奏賜部止奏久」

ルシャナブツ (名) 盧舎那佛 びるしゃなぶつ(毘盧遮那佛)ノ條ヲ見ヨ。 續紀、十七、天平勝寶元年四月、太政官[illegible]盧舎那佛像[illegible]同、同、同年十二月 河内國大縣郡乃智識寺南[illegible]盧舎那佛[illegible]云云」

るしん (名) 瘻人 痀瘻病ノ人。クグセノ人。セムシ。

るしゅつ (名) 縷述 コマゴマト述ベ説クコト。詳細ニ述ブルコト。 宋史、天文志「有不容不縷述而申言之者」

るしょ (名) 流所 配流セノレタル所。 謫所。配所。 續紀、十四、天平十三年九月、天下罪人、云云、其在流所、生子孫、云云」

るす (名) 留守 (一)又、りうしゅ。古へ、天子、外ニ出デ給ヘル時、トドマリテ宮ヲマモル官。留守官。 儀制令「凡車駕巡幸、及[illegible]官五位以上[illegible]留守者、不在辭迎之限」 (二)主人、他行ノ家ヲ守ルコト。 著聞集、十六、興言利口「ソコノ留守スル男、ククリヲカケテ鹿ヲ取リケル程ニ、云云」「留守ヲスル」「留守番」「留守[illegible]」 (三)[illegible]不在[illegible] [illegible]下ニ始めて成る事「アルジニテ候モノ、るすニテ候ガ、今宵、夜更ケテコソ來リ候ハンズレ」

るすくゎん (名) 留守官 前條ノ語ノ(一)ニ同ジ。ルスノツカサ。 續明紀、四年十一月[illegible]留守官[illegible] 公式令「凡車駕巡幸、京官留守[illegible]」

るすしよ (名) 留守所 るすどころ(留守所)ニ同ジ。 盛衰記、四、白山神輿登山事「同九日(安元三年二月)、留守所ヨリ牒状アリ」

るすしき (名) 留守職 鎌倉幕府ノ頃、奥州ノ地頭ヲ支配セシ職。其權限、守護ノ如シ。文治六年三月、頼朝、其家人伊澤左近將監家景ヲ、始メテ此職ニ補ス。以後、伊澤氏世襲シテ、留守ヲ氏トス。奥州ハ頼朝ガ直領ノ心ニテ、留守ト稱セシメシナリト云フ説アリ。 吾妻鏡、十、文治六年三月十五日「左近將監家景[illegible]伊澤[illegible]陸奥國留守職[illegible]之由被仰下[illegible]民庶之愁訴[illegible]可申達之旨、所被仰付也」

るすどころ (名) 留守所 又、るすしよ。古へ、國衙ニ國守在國セザル時、目代ガ留守シテ、國政ヲ執行スル所。 沙汰未練書「留守所者、國國府國衙沙汰所也」

るすね (名) 留守寐 留守シナガラ寐ルコト。 [illegible]三重帷子ニ享保、近松作「下ニ一人留守寐ノ床ノ内、心モ澄ミテ目モ冴エテ」

るすふだ (名) 留守札 不在ノ旨ヲ記シテ、門口ナドニ掲ゲオク札。 一茶句集、冬「留守札モ、ソレナリニシテ、冬ゴモリ」

ルスン (名) 呂宋 るそん(呂宋)ノ條ヲ見ヨ。

るすゐ (名) 留守居 (一)主人、他行シテ家ヲ留守スルコト。 [illegible] (二)[illegible]武家ニ、城、屋敷、ノ留守ノ役。 [illegible]「留守居」「西丸留守居」 (三)大小名ノ主人ノ在國中ニ、江戸ノ屋敷ヲ留守スル役。後ニハ、轉ジテ、專ラ、幕府ニ係ル公用ヲ辨ジ、及、諸大名トノ交際ヲ掌ル役。進奏吏。行人。 [illegible]五、留守居役始事[illegible]「私在國ノ内ハ、家老共ノ内二人ヅツ留守居トシテ、御當地ニ差置、云云」

るせつ (名) 縷説 事コマカニ述ブルコト。縷言。縷述。

ルソン (名) 呂宋 (一)呂宋國ヨリ渡セル一種ノ陶器ノ稱。るそん。るそん。(二)花草ノ名、菊撫子ノ異種。るそん。ろくそん。

るちやう (名) 流帳 古へ、流人ノ名、及、流シ場ナドヲ記シタル帳簿。 庭訓往來、八月「可流刑者被記流帳」

るぢゅう (名) 留住 又、りうぢゅう。大寶令制ノ流罪ノ一。雜戸、陵戸ナド、流ヲ犯ストキハ、杖刑ニ處シ、配所ニ發セズ、當地ニ留メテ三年居作セシムルコト。婦人モ亦此ニ准ズ。 獄令「流人至配所、居作者、並給官糧、加役流准此、若留住居作、及徒役者、並食私粮」

るちゅう (名) 流注 (流轉スル意) 腫物ノ名。深ク、肉内ニ發シ、熱ナクシテ膿ミ、體中ニテ、屢、處ヲ變フ。治シ難シ。 書言字考節用集、五、肢體門「流注、ルチウ」

るづ (名) 流徒 (一)流罪ト、徒罪ト。 獄[illegible]

るづう (名) 流通 又、りうつう。水ノナガルルガ如ク諸方ニ弘マルコト。 最勝王經[illegible]

るつぼ (名) 坩堝 [illegible] 金屬ヲ鎔スニ用ヰル壺。其使用ノ目的ニヨリテ、粘土、黒鉛、錬鐵ナドニテ製リ、大キサ種種ナリ。烈火ノ中ニアリテ、損セズ、壞レズ。 書言字考節用集、七、器財門「坩堝、ルツボ」[illegible]

るてん (名) 流轉 (一)りうてん(流轉)ニ同ジ。(二)〔佛教ノ語〕ウツリメグルコト。有爲法ノ因果相續シテ、水ノナガルルガ如ク、絶エズ轉變スルコト。即チ、一切ノ凡夫、善惡ノ業ヲ作リテ、三界、六道ノ間ヲ輪廻スルコト。 [illegible]五十二[illegible]

るてんりんゑ (句) 流轉輪廻 佛經ノ語。人ノ生死、事物ノ興亡、善惡ノ應報ナド、三界、六道ノ間ヲ移リ行キテ休マズ、車輪ノ廻リテ始終ナキガ如シト云フ語。略シテ、輪廻。前條ヲモ見ヨ。

るにん (名) 流人 流罪ニ行ハレタル人。ハナレビト。ナガサレビト。るざい(流罪)ノ條ヲ見ヨ。 獄令「凡流人、科斷已定」 平家物語、三、有王島下り事「[illegible]二、鬼界カ島ノ流人ドモ、二人ハ召シ還サレテ都ヘノボリヌ」

る-はい (名) 〔流配〕 はいる(配流)ニ同ジ 續紀、九、神龜元年三月「定二諸流配遠近之程一」

る-ばん (名) 〔露盤〕 ろばん(露盤)ノ轉。其條ヲ見ヨ。 字鏡抄「露盤、ルハン、塔具也」

ルビ (名) 〔英語、Ruby.〕 次條ノ語ト關係アリ、四ぱいんと、又ハ、四ほいんとノ下活字ヲだいやもんどト云ヒ、五ぽいんと活字ヲぱある(眞珠)ト云フ」 (一)活字ノ大キサヲホス一種ノ名。即チ、七號活字ニ相當スルモノ。 (二)轉ジテ、活版ノ漢字ノ傍訓。「總るび附」

ルビイ (名) 〔英語、Ruby.〕 るうび。鋼玉石ノ一種、紅色ヲ帶ビテ美ナリ、寶石トシテ珍重セラル。紅寶石 紅玉(コウギョク)

ルピイ (名) 〔留〕 〔英語、Rupee.〕 英領印度ノ貨幣ノ單位。 我ガ國ノ約六十五錢餘ニ當ル。

る-ふ (名) 〔流布〕 世ニ聞エ弘マルコト。世ニ言ヒフラスコト。 法華經、囑累品「汝等應下當二一心、流二布此法一廣令中增益上」 延慶本、平家物語、一、本、後二條關白殿滅給事「佛法、云云、我山ニ流布シ給テ、諸宗ノ明德ヲ囀シテ、云云」

る-ふ-ぼん (名) 〔流布本〕 弘ク世ニ行ハルル本。通行本 (寫本、異本ナドニ對ス)

る-また (名) 〔殳〕 〔片假名ノ「ル」ト「又」ノ字トノ意〕 漢字ノ旁(ツクリ)ニアル殳ノ字ノ稱。段、殺、殼、殿、毀、穀、毆、ノ如シ。 (又ヲさまたト云フニ對ス)

る-らう(ルロウ) (名) 〔流浪〕 又、りらう。サスラフコト。サマヨフコト。浪浪。浮浪。 流離 魏書、孫紹傳「流浪之徒、決心、竊校今彊敵窺レ時、逆家伺レ隙」 号林節用集(慶長)上、言辭門「流浪、ルラウ」 今昔物語、廿六、第十二語「國至ノ孫カ

ク流浪シテ行キケル程ニ、云云」

る-らく (名) 〔流落〕 りうらく(流落)ノ條ヲ見ヨ。

ルリ (名) 〔瑠璃〕 〔梵語、Vaidūrya.(吠瑠璃)ノ略、青色寶、又ハ、遠山寶(遠山ハ須彌山ノ異名、其產地ナリ)ナド譯シ、透徹スルモノノ稱ト云フ〕 (一)〔佛書ニ、七寶ノ一、玉(ギョク)ノ類。白、赤、黑、黃、青、綠、縹、紺、紅、紫等、種種ナリト云フ。又、瑠璃色ノ硝子ノ擬製ノモノモアリ。 翻譯名義、一「吠瑠璃、寶名也、或云 毘瑠璃、或但云 瑠璃、云云、其寶青色瑩徹有レ光、凡物近レ之皆同一色、帝釋髻珠、云云」 (舍利、青色而如二玉石一也) 本草綱目、八「大秦國(波斯)出二金銀琉璃一」 宇津保物語、吹上、下「金銀、るりシテ、造リミカキタルオトドワタ殿、云云」 「瑠璃光如來」 「瑠璃佛」 (二)專ラ、紺瑠璃ノ稱。 紺碧ニシテ光輝アリト云フ。 (三)色ノ名。 紺ノ明(アカル)キモノ。紺碧。 (四)瑠璃鳥ノ略。

ルリ-がひ(ルリガイ) (名) 〔瑠璃貝〕 介ノ一。朝日(アサヒ)貝(ガヒ)ニ似テ、殼ハソレヨリ大キク、一寸餘、四段ノ螺旋アリテ、圓ク膨レ、瑠璃色ニシテ、細ソキ纖脈ト皺トアリ。日中ハ海中ニ沈ミ、薄暮ヨリ水面ニ浮ブ。

ルリ-くゎう-にょらい(ルリコウニョライ) (名) 〔瑠璃光如來〕 又、瑠璃光佛。藥師瑠璃光如來。 やくし(藥師)ノ條ヲ見ヨ。 藥師瑠璃光如來本願功德經「東方去レ此過二十殑伽沙等佛土一有二世界一名二淨瑠璃一」 佛號 藥師瑠璃光如來」

ルリ-くゎう-ブツ(ルリコウブツ) (名) 〔瑠璃光佛〕 前條ノ語ニ同ジ。やくし(藥師)ノ條ヲ見ヨ。

ルリ-くゎん-おん(ルリカンノン) (名) 〔瑠璃觀音〕 又、香王觀音。三十三觀音ノ一。面貌端正ニ

シテ、一莖ノ蓮華ニ乘リテ水ニ浮ビ、左ノ手ニ蓮華ヲ持ツ、像ヲ畫ク 佛像圖彙、三十三觀音「瑠璃觀音、出二香王觀音自在天身、見二請大乘經中現ノ(觀音經ニ見ヱタリ)」

ルリ-こん (名) 〔瑠璃紺〕 く、紺瑠璃 るり(瑠璃)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 衣食住記「染メハ、るり紺、紺桔梗」

ルリ-さう(ルリソウ) (名) 〔瑠璃草〕 又、るりくさ。山野ニ自生スル紫草(ムラサキ)科ノ多年生草本。莖ノ高サ七八寸許リ、葉ハ長楕圓形ニシテ互生シ、莖、葉共ニ軟毛アリ、夏、總狀花序ヲナシテ、藍碧色ノ五裂花冠ヲツク。庭園ニ栽培スルハ、色種種ナリ。

ルリ-てう(ルリチョウ) (名) 〔瑠璃鳥〕 略シテ、瑠璃。燕雀類ノ鳥ノ名 大イサ雀ニ似タリ。大、小ニ種アリ。大瑠璃鳥ハ鶲(ヒタキ)科ニ屬シ、頭、背、翅、紺碧(ルリ)色ニテ、頰ヨリ胸ニ至ルマデ黑ク、腹、白ク、嘴、脚、尾、蒼色ナリ。小瑠璃鳥ハ鶲(ノゲ)科ニ屬シ、頰ヨリ、胸、腹ニ亙リテ白ク、翼、尾、黑シ。共ニ圓滑能ク囀ル。 竹林鳥 和漢三才圖會、四十三、林禽類「瑠璃鳥、俗云留里、云云、其聲圓滑、如レ曰 知與昆比、知與昆比二」

る-る (副) 〔縷縷〕 (一)ツブサニ。事細カニ。又、ヒトスヂゴトニ。 宋史、食貨志「縷縷而積レ之、寸寸而成レ之」 (二)細ソクシテ絕エザル狀ニ云フ語。 「香煙縷縷タリ」

る-る (助動) 〔被〕 る(被)ノ條ヲ見ヨ。

る-る (助動) 〔得〕 る(得)ノ條ヲ見ヨ。

る-ろ (名) 〔流露〕 りうろ(流露)ニ同ジ。

るゐ(ルイ) (名) 〔類〕 (一)品オナジキコト。又、ソノモノ。タグヒ。トモガラ。 書經、舜典傳「帝釐二下土一方設居レ方、別レ生分レ類」 文德實

錄、四、仁壽二年二月「撰二集古今文書一以レ類相從」 (二)(ヤ)シツケ 萬葉集、廿、註「姉オモトハ、るゐ盛クナリテ、エ出デタタズ」 類ハ友ヲ以テ集マルト、同氣相求ムル意 史記、伯夷傳「同明相照、同類相求」

るゐ(ルイ) (名) 〔誄〕 〔桂名〕 誄、累也、累二列其事一而稱レ之也」 人ノ死ヲ弔ヒテ、生前ノ功德ヲ稱述スル詞。シノビゴト。シヌビゴト。 禮記、檀弓、上篇「公曰、非二其罪一也、遂誄レ之、士之有レ誄、自レ此始也」 續紀、三三、寶龜元年四年十一月「從四位上當麻眞人智德、率二誄人一奉レ誄、諡曰 倭根子豐祖父天皇二」 文武天皇

るゐ(ルイ) (名) 〔壘〕 トリデ。小サキ城。コジロ。砦。 禮記、曲禮、上篇「四郊多レ壘、此卿大夫之辱也」 壘ヲ摩スト八、敵壘ニ接近シテ、旗ヲナビカスコト。 我ガ軍ノ優勢ヲホス意。コレヨリ、人ノ詩文ヲ稱揚シテ、韓柳の壘を摩すナドト云フ。 左傳、宣公十二年「許伯曰、吾聞、致レ師者、御靡レ旌、摩レ壘而還」

るゐ(ルイ) (名) 〔累〕 ワヅラヒ。ウカリアヒ。煩累。係累。 莊子、至樂篇「髑子所レ言、皆生人之累也、死則無レ此矣」 續紀、六、靈龜元年九月「纏二累道一麗、寄レ闕二脫屣一」

るゐ-えふ(ルイヨウ) (名) 〔累葉〕 〔葉ハ、世ノ義〕 るゐせい(累世)ニ同ジ。 後漢書、耿弇傳、論「耿氏累葉、以二功名一自終」 中右記、大治四年六月二日「歷道累葉、家定有二祕說一歟」

るゐ-か(ルイカ) (名) 〔累加〕 カサナリクハハルコト。次第ニ增スコト。(累減ニ對ス)

るゐ-か(ルイカ) (名) 〔累家〕 るゐけ(累家)ニ同ジ。

るゐ-か(ルイカ) (名) 〔類家〕 同族ノ家。一族ノ家。 太平記、十七、山門牒送南都事「南都者陪二股肱之氏寺也、須レ致二藤氏類家之祈願二」

るゐかん [illegible] ナミダヲナガスベキ [illegible]「[illegible]」太平記、廿一、天下時勢粧事「腐鳥ノ翅ヲ鎩レタルガ如ク [illegible]」

るゐく (名) [類句] (一)語句、若シクハ、風情ノ似通ヒタル句。(二)和歌、俳句ノ各句、又ハ、和歌ノ下ノ句ノ頭字ノ同音ナルモノニテ、類聚シタルモノ。

るゐくわ (名) [illegible] 類焼ノ火。他ヨリ燃エ移リタル火。運歩色葉集「類火」 太平記 [illegible]

るゐくわん (名) 涙管 [illegible] アリテ、上下二管(小涙管)ニ分レ、開口シテ涙液ヲウケ、又、合シテハ一管トナリ(鼻涙管)、[illegible] 涙液ヲ排泄スル管。

るゐけ (名) [累家] 又、るゐか。代代傳ハル家。[illegible] 累代 [illegible]「[illegible] 累家ノ佳名ヲ失ハン事、口惜シカルベシ」

るゐけい (名) [累計] 小計シタル額ヲ、全部、合ハセテ計算スルコト。又、ソノ計算額。累算。總計。

るゐけい (名) [類型] 形ノ同ジキコト。又、類似ノ形式。

るゐげつ (名) [累月] 多クノ月ヲカサヌルコト。連月。[illegible] 運歩色葉集「累月、ルイゲツ」

るゐげん (名) [illegible] 累加 [illegible]

るゐご (名) [類語] (一)意義ノ類似セル語。[illegible] (二)[illegible] 類聚シタルモノ。

るゐざ (名) [累坐] 他ノ罪ニ連レテ、罪ニ陥ルコト。マキゾヘ。連坐。

ルヰザ (名) [擂茶 擂茶 櫑茶] (挽茶ノ團片ニシタルヲ、入レテ來リシ故ノ名ナラム) 又、るゐさ。るゐさ。中世、支那ヨリ舶來セシ一種ノ茶入壺ノ名。其形、口ノ造リ伸ビテ、周ニ菊座ノ如キ圓形アリ。スベテ燒物ナド一線ニ、疣ヲ並ベメグラシタルモノ。書言字考節用集、七、器財門「擂茶、ルイザ、貯茶器、其制象擂槌之頭、故云爾」[illegible] 此名ハ唐ニテハ、煎茶ノ茶ヲスリテ用ルト也、ソノ擂木ヲ櫑木ト云テ、[illegible] 廻リニ [illegible] アリテ、マルキ物也、サルニヨリテ、其形木ニ [illegible] テ云銘也」

るゐさい (名) [累歳] るゐねん(累年)ニ同ジ。沈炯、太極殿銘序「此殿鼎造、累歳未成」

るゐさん (名) [累算] るゐけい(累計)ニ同ジ。

るゐし (名) [誄詞] 死者ノ生前ニ於ケル功徳ヲ述ブルコトバ。

るゐし (名) [類字] 形ノ似通ヒタル文字。

るゐし (名) 類似 (東方朔、七諫「同音者相和兮、同類者相似」) 似寄リタルコト。似通ヒタルコト。「類似症」

るゐしぞく (名) [類親族] (類ハ、同類、又、一族) 知人ノ意。同類ト、親族ト。[illegible]

るゐしち (名) [累七] [illegible] 書言字考節用集、二、時候門「累七、ルイシチ、人亡毎七日 [illegible]」

るゐじつ (名) [累日] 多クノ日ヲ累ヌルコト。連日。[illegible]「[illegible] 不可ニ倉卒、艱難之業、當累日也」(也、一本作月) [illegible]

るゐしん (名) [累進] (一)シキリニ進ミノボルコト。次第ニ昇進スルコト。累遷。(二)價格ヤ數量ノ増加スルニツレテ、比率ノ上リススムコト。「累進税」

るゐしん (名) [類親] 族類。親族。親類。今昔物語、廿九、第廿四語「女、京ニモ上リナント思ヘドモ、京ニモ類親モナク、[illegible] 共モ無ケレバ、云云」

るゐじん (名) [誄人] シノビゴトヲ述ブル人。誄詞ヲヨム人。[illegible] 一月「從四位上當麻眞人智德、率ニ誄人ニ奉レ誄」

るゐじんゑん (名) [類人猿] 動物學上、哺乳類中、人似猿科ニ屬スルモノノ、猩猩、手長猿、黑猩猩等ノ稱。[illegible] 顔面、四肢ナド人間ニ類似シ、智力ヨク發達ス。

るゐしやう (名) [類症] 或病ニ類似シタル病。類似症。(眞症ニ對ス)

るゐじやく (名) [羸弱] ツカレヨワルコト。又、カヨワキコト。[illegible]「[illegible] 最比共羸弱 [illegible]」

るゐじゆ (名) [類聚] [illegible] 禮記、樂記篇「方以レ類聚、物以レ羣分」 類ノ同ジキヲアツメ [illegible]

るゐじゆう (名) [類從] 類ニシタガヒテ、分チ集ムルコト。類聚。「群書類從」

るゐしよ (名) [類書] (一)似寄ノ書籍。同種類ノ本。類本。(二)同ジ類ノ書冊ヲ集メテ、一大部冊トナシタルモノ。

るゐせう (名) [illegible]

るゐす ル・スレ・セ・シ・セヨ [illegible]「院ノ人人、るゐしテ往ニケリ」

るゐすゐ (名) [類推] [illegible] 類似ノ點ニヨリテ、他ヲ推シ及ボスコト。又、同類ノモノトシテ推論スルコト。漢書、終軍傳「明聞之徵、[illegible] 各以類推」

るゐせい (名) [累世] 世ヲカサネタルコト。歴代。累代。[illegible]

るゐせう (名) [類燒] 失火ノ家ト共ニ燒クルコト。他ノ失火ノタメニ共ニ燒失スルコト。[illegible]

るゐせき (名) [illegible]

るゐせつ (名) [縲紲 縲絏] (縲ハ黑索、紲 [illegible]

ハ紲ト同ジク、ツナグコト」縲目ニカカルコト。縛セラレテ、獄ニ入ルコト。〔論語、公冶長篇「雖在縲紲之中、非其罪也」〕

るゐ-せん (名) [累遷] シキリニ官途ノウツリ進ムコト。累進。〔晉書、裴秀傳「累遷散騎常侍」續紀、廿四、天平寶字六年九月「累遷至中納言兼文部卿神祇伯」〕

るゐ-せん (名) [淚腺] 眼球ノ上外部ニアリテ、淚液ヲ分泌スル管。上下二管ニ分レ、血液ヨリ淚液ヲ搾リテ、結膜、角膜ヲ濕潤ス。

るゐ-せん (名) [類船] 同類ノ船。又、連レダツ船。（一說ニ、難波船ト云フハ、イカガ）〔平家女護島、享保、近松作、四「才船ヘモノ問ハウ、鬼界ガ島ノ流人歸洛ノ船ハ、何處マデ參リシゾ、類船ナドハナサレズカ」〕

るゐ-そ (名) [累祖] 累代ノ先祖。〔晉書、涼武昭王傳「憑累祖餘烈、義不細辭以稽大務」平家物語、七、福原落事「況ンヤ汝等ハ一旦從ヒツク門客ニアラズ、累祖相傳ノ家人ナリ」云云〕

るゐ-そう (名) [羸瘦] 〔集韻「瘦、所救切、同瘠、臞也」トアレバ、るゐさうナルベシ、今ハ慣用音ニ從フ〕ツカレヤスルコト。ヤセオトロフルコト。〔後漢書、趙孝傳「孝弟禮爲餓賊所得、孝聞之、卽自縛詣賊、曰、禮久餓羸瘦、不如孝肥飽」云云〕

るゐ-ぞく (名) [類族] （一）タグヒ。同類。〔易經、上象傳「天與火同人、君子以類族辨物」〕（二）同族。親族。〔書言字考節用集、四、人倫門「類族、ルイゾク」〕

るゐ-だい (名) [類題] 和歌、俳句ヲ、春、夏、秋、冬、雜、ナド、其題ニ因リテ類聚シタルモノ。古今六帖ナドノ如シ。

~るゐ-だい (名) [累代] 代ヲカサネタルコト。歷代。累世。奕世。〔晉書、惠帝紀「累代之寶」宇津保物語、吹上、下「累代ノ宣旨シキコト多ク、るゐだいノタトヘニモヤナラン」〕

るゐ-てう (名) [累朝] 代代ノ朝廷。又、代代ノ天子。〔王逢詩「海濱布衣、常侍累朝」〕

るゐ-ねん (名) [累年] 年ヲ累ネタルコト。每年每年。連年。累歲。〔歐陽修、與薛少卿公期書「日足之疾、初未少損、蓋累年若此」文德實錄、八、齊衡三年九月「從國累年荒廢」〕

るゐ-ば (名) [羸馬] ツカレタル馬。又、ヤセタル馬。〔杜牧詩「羸馬倦投宿」〕

るゐ-べつ (名) [類別] 類ヲ以テ別ツコト。ルキワケ。クチワケ。ブワケ。種別。〔易林節用集、（慶長）上、言辭門「類別、ルイベツ」〕

るゐ-ほん (名) [類本] 同ジ種類ノ書。似寄ノ書物。類書。

るゐ-やく (名) [類藥] 似寄リタル方劑ノ藥。又、似寄リタル效能アル藥。

るゐ-らん (名) [累卵] 卵ヲ積ミ重ヌルコト。極メテ倒レ易ク危キコトニ云フ。〔史記、范雎傳「秦王之國、危於累卵、得臣則安、然不可以書傳也、臣故載來」〕

るゐ-るゐ-と (副) [纍纍・累累] 〔正字通「纍、俗作累」〕（一）志ヲ得ザル狀、又ハ、憊レテウナダレタル狀ニ云フ語。〔史記、孔子世家「東門有人、云云、纍纍若喪家之狗」〕（二）カサナリアヒタル狀ニ云フ語。〔禮記、樂記篇「故歌者、上如抗、下如隊、云云、纍纍乎、端如貫珠」〕

るゐ-れい (名) [類例] 同ジタグヒノ先例。

るゐ-れき (名) [瘰癧] 腫物ノ名。結核菌、淋巴腺內ニ入リ、其中ニ結核性ノ病變ヲ起ス。腺、大トナリ、軟トナリ、次第ニ周ノ淋巴腺ニヒロガリ、互ニ癒着シテ、大ナルぐりぐりトナリ、耳ノ下方ヨリ頸ノ兩側ニ數珠ツナギトナル。此頸部ノ淋巴腺ノ慢性腫脹ハ、豌豆、或ハ、鳩ノ卵程ノ大キサトナル。コレマタ膿ヲモツコトモアリト。〔書言字考節用集、五、肢體門「瘰癧、ルイレキ」〕

るゐ-ゑん (名) [類苑] 類ヲ以テ蒐集シタル書。又、其文章。〔南史、劉峻傳「使撰類苑、未及成、復以疾去」「古事類苑」〕

れ

れ　五十音圖、良行第四ノ假名。らノ條ヲ見ヨ。れハ、其下ニ、う、又ハ、ふ(うト呼ブモノ)アレバ、りょト呼ブコトアリ、れうり(料理)、れふし(獵師)ノ如シ。

れ　(接尾) 〔らト同ジク親愛ノ意アル語〕代名詞ニ接シテ一熟語トナルモノ。「これ」「かれ」「それ」「あれ」「われ」「おのれ」「なれ」「たれ」

れい (名) [靈] 〔大戴禮、曾子天圓篇「陽之精氣曰神、陰之精氣曰靈」〕（一）タマ。タマシヒ。靈魂。魂魄。〔諸葛亮、出師表「治臣之罪、以告先帝之靈」宇津保物語、藏開、上「先祖ノ御靈ノ、我ヲ待チ給ノナリケリト思シテ」云云」「神佛ノ靈」「亡キ父母ノ靈」〕（二）奇シク尊キコト。又、ソノモノ。〔書經、泰誓「惟天地、萬物父母、惟人、萬物之靈」「靈寶」「靈藥」「靈山」「靈水」「靈木」「靈像」〕

れい (名) [禮] 〔說文「禮、履也、所以事神致福也」禮ハ、禮ノ古文〕（一）ゐやゐやし。キヤ。五常ノ一。人倫ノ交際ニ、心ニ敬ヒ、行儀ニ則ヲ守ル道。禮儀。〔左傳、文、二、傳「君子謂、仁足以長人、嘉會足以合禮」論語、八佾篇「禮與其奢也、寧儉」「禮ヲ正ス」〕（二）人ニ會ヒ、敬ヒテ拜スルコト。ジギ。拜禮。〔著聞集、十九、草木「季ニ貞信公ノマサシク手ヅカラ植ヱ給ヘル名木アリ、ヨリテカレニ禮ヲ致スナリ」「禮ヲスル」〕（三）辱キニ報イムトスル心ヲ表ハスコト。謝禮。致謝。（四）轉ジテ、報イムト贈ル物。禮物。報酬。〔論語、陽貨篇「禮云禮云、玉帛云乎哉」〕

~れい (名) [例] （一）ヌメシ。ナラハシ。シキタリ。又、アト。カギリ。〔杜預、春秋左氏傳序「其發凡以言例、皆經國之常制」三、五、雄略紀、廿三年四月「百濟調賦益於常例」天武紀、下、六年六月「若有犯者、必入不赦之例」〕「例ヲ引ク」「例ニ因リテ」（二）イツモノコト。常ニシツケタルコト。〔竹取物語「カクヤ姫、れいモ月ヲアハレガリ給ヒケレトモ」云云　狹衣、四、上「夏ツカタヨリ母上ナヤマシゲニシタマフヲ、れいモ暑病ニハサノミコソハト」云云〕「例ノ事」「例ノ如ク」例ならずトハ、病ム。不例。又、常ナラヌ意。〔源、四、夕顏「例ならぬ事ニテ、御前近クモ、エ參ラヌツマシサニ」云云〕

れい (名) [令] （一）オホセ。イヒツケ。命令。下知。〔書經、冏命「發號施令」韓非子、內儲說「下皮相、喪令」〕（二）縣ノ長官。（三）古ヘ、平準署(其條ヲ見ヨ)ノ長官〔續紀、廿四、天平寶字六年正月、戊子、云云、外從五位下伊賀忌寸吉備麻呂爲右平準令」〕（四）古ヘ、坊(其條ノ(一)ヲ見ヨ)ノ長官。〔孝德紀、大化二年正月「凡京每坊置長一人、四坊置令一人、掌按檢戶口、督察姦非」〕

れい (名) [零] （一）算術ノ語。一、十、百、

千、萬、等ノ十五法[illegible]クナシ[illegible]零七十」或ハ、〇ノ標ヲ以テ之ニ代フ。「三百〇八」「三〇五、〇七〇」令抄、用令、第[illegible]也」（二）一ノ下ニテ、數、無ク、空ナルコト[illegible]無[illegible]ハシタ。ハンパ。ノコリ。「斷簡零墨」

れい（名）癘 [illegible]「癘、疫也」エヤミ。ハヤリヤマヒ。疫癘。疫病。流行病 史記、倉公傳[illegible]時病[illegible]」

れい（名）隷 （一）奴隷ノ上略。メシツカヒ。下男 [illegible]（二）漢字ノ一種ノ書體ノ名。れいしよ（隷書）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

れい（名）鈴 佛具ノ一、鐘ニ似テ甚タ小サク、風鈴ノ稍大ナルモノニテ、上ニ柄アリ、内ニ舌アリテ垂ル、振リテ、相觸レシメテ鳴ラス。りんト云フハ唐音ニテ、禪家ニ始マル 字類抄「鈴、レイ、法具也」平家物語、十、高野巻事「花ノ色ハ林霧ノ底ニ綻ビ、鈴ノ音ハ尾上ノ雲ニヒビケリ」

れい（名）蠡 （一）〔説文「蠡、蟲齧ニ木中ニ也」〕木ヲカム蟲。孟子、盡心、下篇「孟子曰、何以言ニ之、曰、以追蠡」（二）ひさご（瓢）ニ同ジ。又、一説ニ、ドブガヒノ貝殼ナリトモ云フ 漢書、東方朔傳「語曰、以管闚天、以蠡測海」類聚[illegible]

れい（接頭）令 〔令ハ善ノ義〕（一）物事ノ善キ意ヲ示スタメニ、冠ラスル語。詩經、大雅、卷阿「令聞令望、豈弟君子」同、魯頌、閟宮篇「魯侯燕喜、令妻壽母」（二）他ノ人ノ一家ノモノノ上ニ冠ラスル敬稱。[illegible]

[illegible]

れいあい（名）令愛 他人ノ娘ヲ敬ヒ云フ[illegible]

れいい（名）禮意 （一）敬禮ノ心モチ。禮儀ノ心。敬意。漢書、雋不疑傳「深接以禮意」（二）禮ノ精神。禮儀ノ眞意。書序、[illegible]「施行」[illegible]或據禮文、或取禮意」

れいい（名）靈異 奇異ニ尊キコト。スグレテフシギナルコト。神異。靈妙。[illegible]人物變化、名搜神記、凡三十卷」

れいう（名）靈雨 降ルベキ時ニ降ル善キ雨。不思議ナル雨。詩經、鄘風、定之方中「靈雨既零、命彼倌人」

れいう（名）靈烏 クスシキカラス。尊ク不可思議ナル烏 傅休奕、相風賦「上稽天道陰陽之運、表以靈烏、物象其類」

れいおく（名）靈屋 靈ヲ祀レル屋。タマヤ。オタマヤ。靈廟。

れいかい（名）靈界 〔肉界ニ對ス〕精神、及、其作用ニ關スル範圍。精神界。

れいかう（名）厲行 キビシクオコナフコト。嚴重ニ實行スルコト。「時間勵行」

れいかう（名）藜藿 藜ノあつもの。粗末ナル食物ニ云フ語。莊子、讓王篇「孔子窮於陳蔡之間、七日不火食、藜羹不糝、顔色甚憊」

れいかく（名）例格 タメシトナレルオキテ。格式。

れいがく（名）禮樂 禮法ト、音樂ト。禮儀ト、音樂ト。支那ノ古代ニ於テ、禮ハ以テ社會ノ秩序ヲ定メ、樂ハ以テ人心ヲ感化スル作用アルモノトシテ、[illegible]。孝經、廣要道章ニハ「移風易俗、莫善於樂、安上治民、莫善於禮」トアリ。禮記、樂記篇「樂者天地之和也、禮者天地之序也」論語、[illegible]刑罰不中、刑罰不中、則民無所措手足」

れいかた（名）禮方 諸禮ノ法。こぶつ（故實）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

れいがへし（名）禮返 他ヨリ受ケタル禮ニ對シ、カヘシムクユルコト。返禮。[illegible]

れいかん（名）靈感 神佛ノ奇異ナル感應 元亨釋書、廿八、[illegible]

れいかん（名）靈鑑 神佛ノ靈妙ナル照覽。宋書、樂志[illegible]

れいがん（名）冷眼 冷淡ニ見ヤルコト。又、ソノ眼ツキ。陳師道詩「冷眼尚堪看細字、白頭寧復要時名」

れいき（名）冷氣 氣候ノ冷カナルコト。又、冷カナル空氣。梅堯臣、戲酬高員外鮑魚詩「冷氣射屋汗收領、使我所[illegible]」

れいき（名）例規 例トスル規則。又、慣例ト、規則ト。

れいき（名）癘鬼 厲鬼 〔正韻「厲、鬼也」〕疫病ナドヲ發セシムル惡神。ヤクビャウガミ。左傳、昭公四年、杜注「癘、惡氣也」左傳、昭公七年「今夢黃熊入于寢門、其何厲鬼也」續紀、廿一、天平寳字二年八月「疾疫厲鬼、不入家中」

れいぎ（名）禮儀 禮ヲ行フ儀。禮ノ作法、[illegible]

れいきう（名）[illegible]

れいきん（名）[illegible]

れいきゃう（名）靈境 れいち（靈地）ニ同ジ。[illegible]

れいきゃう（名）[illegible] 不可思議ナル[illegible]奇異ナル事。[illegible]

れいきゃく（名）冷却 十分ニヒエルコト。又、十分ニヒヤカスコト。

れいぎょ（名）囹圄 囹圉 〔初學記「囹、領也、圄、禦也、所以領錄囚徒、禁禦之也」〕又、れいご。ヒトヤ。牢屋。牢獄。禮記、月令篇「命有司、省囹圄、去桎梏」[illegible]囹圄ト名ヅケテ、國ヲ治ムルソナヘトスル」

れいく（名）靈區 れいち（靈地）ニ同ジ。[illegible]文集、四、記、見國山廟記「久鎮名法、曾登此山[illegible]」

れいぐ（名）靈供 佛前、又ハ、死者ノ靈前ニ供フル膳供。[illegible]眞俗佛事編「人界ノ食ハ、餘趣ニイタラズ、故ニ七七日ノ内ハ、れいくヲソナヘテ亡魂ヲタスクベシ」

れいく（名）麗句 美シキ文ノ語句。作句。[illegible]

れいく（名）儷句 〔廣韻「儷、並也」〕ニつゐく（對句）ニ同ジ。詩轍、一、[illegible]對ヲ用ユルト用ヰザルトノ二ツアリ、對無キヲ散詩

ト云、對ノ用ユル儷句ト云、云云、ソレヨリ唐ニ推移リ、其儷句ヲ其儘ニ用ヰ、云云」

れい-ぐう (名) 【禮遇】 (一)禮ヲ正シテモテナスコト。 蘇軾、與[illegible]書「謝[illegible]禮遇優隆、[illegible]之句、有加於前日」 (二)皇室ヨリ受クル特別ノ待遇。 禮遇停止

れい-ぐう (名) 【冷遇】 冷淡ナル待遇。ソマツナルアツカヒ。ブアシラヒ。

れい-くゎい (名) 【靈怪】 クスシク怪シキコト。不思議ニシテ怪シキコト。又、ソノモノ。 [illegible]

れい-ぐゎい (名) 【例外】 一般通例ノ原則ニアテハマラヌコト。規則ノ外。ナミハヅレ。トリノケ。格外。

れい-くゎく (名) 【藜藿】 〔儀禮、公食大夫禮篇「牛藿」注「藿、豆葉也」〕 あかざト、まめノ葉ト。又、あかざノ葉ト、まめノ葉ト。轉ジテ、粗食ヲ云フ語。 韓非子、五蠹篇「堯之王天下也、茅茨不翦、采椽不斲、糲粢之食、藜藿之羹、冬日麑裘、夏日葛衣」 平家物語、灌頂卷、小原御幸「[illegible]藜藿深クトザセリ、雨[illegible]ガトボソノ[illegible]ホストモイヒツベシ」

れい-くゎん (名) 【禮冠】 らいくゎん(禮冠)ニ同ジ。

れい-けい (名) 【令閨】 〔令ハ善ノ義〕 他ノ妻ヲ敬ヒテ云フ語。ウチカタ。令室。

れい-けい (名) 【令兄】 〔令ハ善ノ義〕 他ノ兄ヲ敬ヒテ云フ語。アニゴ。 蘇軾、與[illegible]書「近得見ニ令兄提擧、[illegible]」

れい-けい-でん (名) 【麗景殿】 古ヘノ禁中殿舍ノ名。綾綺殿ノ北、宣耀殿ノ南、承香殿ノ東北ニ位シ、西、弘徽殿ニ對ス。

皇后、中宮、女御等ノ御在所ニ充テラレタリ。 紀略、後篇、十三、治安三年二月廿五日「亥時、麗景殿東立蔀有放火、卽撲滅之」

れい-げつ (名) 【令月】 (一)ヨキ月。 儀禮、士冠禮「令月吉日、始加元服」 盛衰記、廿八、源氏追討使事「嘉辰令月、歡ビ極マリナシト祝ヘドモ」 (二)陰暦、二月ノ異名。 張衡、歸田賦「於是仲春令月、時和氣淸」 古今要覽稿、二十一、時令「又、二月ヲ仲陽トイヒ、又令月トミエタリ」

れい-けん (名) 【靈劍】 靈妙ナル劍。靈德アル劍。 [illegible]文帝、[illegible]寶劍銘「[illegible]」 延慶本、平家物語、六、末、靈劍等事「神代ヨリ傳タリケル靈劍三アリ、云云」

れい-げん (名) 【靈驗】 (一)神佛ノ通力ニ現ハルル奇シキ驗。神佛ノ靈妙不可思議ナル感應。 大日經疏、九「此尊有靈驗、故所作善事皆成」 延慶本、平家物語、一、末、山門大衆座主奉ニ取返ニ事「七社權現ノ靈驗ノ新ニオハシマス忝ケナサニ、云云」 (二)利益。利生。

れい-げん (名) 【例言】 圖書ノ首ニ、其大體ヲ述ブルコトバ。凡例ニ述ブル言。

れい-げん (名) 【黎元】 〔書經、堯典篇「黎民」蔡傳「黎、黑也、民首皆黑、故曰黎民」トアリ、一般ノ人民ハ冠ヲ着ケヌ故ニ云フト、又、一說ニ、黎民ハ庶民、元ハ善ニシテ、善人ノ意ト。又、元ハ首ナリト〕 人民。萬民。黎首。黎庶。黎民。 漢書、谷永傳「使天下黎元、咸安家樂業、不苦踰時之役、不患苛暴之政、不疾酷烈之吏」 續紀、廿二、天平寶字四年六月「疾疫流行、黎元飢苦」

れい-ご (名) 【冷語】 アザケルコトバ。ヒヤカスコトバ。ニガクチ。 外史檮杌「湯在庭以財結權貴、曰、不欲其以冷語沮我耳」

れい-ご (名) 【囹圄】 れいぎ(囹圄)ニ同ジ。

れい-こう (名) 【例貢】 古へ、諸國ヨリノ常例ノ貢進。例進。 三代實錄、五十、仁和三年二月九日「停ニ諸國例貢梨子、大棗、[illegible]子、[illegible]、[illegible]之物、元不立制」

れい-こく (名) 【例刻】 常ノキマリノ時刻。イツモノ刻限。例時。

れい-こく (名) 【冷酷】 情愛ナキコト。人情薄クシテムゴキコト。不人情。無慈悲。薄情。

れい-こん (名) 【靈魂】 不可思議ナル精神。卽チ、肉體ノ外ニ、別ニ精神的實體アリト思惟セラルルモノ。タマシヒ。魂魄。 [illegible]東方朔、七諫「何山石之[illegible]兮、靈魂屈而偃蹇」 平治物語、三、頼朝[illegible]事「ソレコソ[illegible]平ノ靈魂ヨ」

れい-さい (名) 【靈犀】 〔神獸ト云ハルル犀ノ角ノ中心ニハ、穴アリテ、兩方相通ズルヨリ云フ〕 相互ノ衷情ノ、暗ニ疏通投合スルコトノ喩ヘ。 李商隱詩「身無彩鳳雙飛翼、心有靈犀一點通」

れい-さい (名) 【零碎】 (一)オチクダクルコト。又、ソノモノ。 白居易詩「[illegible]碎」 (二)カケ。ハシタ。アマリ。 水滸傳、第一回「把ニ此零碎銀兩ニ賞了」 (三)オチコボレ。零餘。 舊唐書、[illegible]紀「[illegible]府除舊錢、有折色零碎」

れい-さい (名) 【零細】 甚ダコマカナルコト。極メテ僅カナルコト。微細。微塵。

れい-さい (名) 【例祭】 各神社ニテ、恆例トシテ行フ祭禮。(臨時祭ナドニ對ス)

れい-さい-し (名) 【靈綵絲】 かりろく(訶黎勒)ノ條ヲ見ヨ。

れい-さう (名) 【禮裝】 儀式ニ於ケル服裝ノヨソホヒ。又、禮服ヲ着用スルコト。

れい-ざう (名) 【[illegible]】 [illegible]

れい-ざま (名) 【例樣】 [illegible]。常ノサマ。 枕草子、五、第五十段「ヌリゴメノフタマナル處ヲ、コトニシツラヒシタレバ、例ざまナラヌモヲカシ」

れい-し (名) 【令旨】 (一)支那ニテハ、皇太后ノ命令。 [illegible] (二)りやうじ(令旨)ニ同ジ。

れい-し (名) 【荔枝】 (一)無患子科ノ常綠小喬木ノ名。支那ノ原產ニテ、高サ十四五尺ニ達シ、葉ハ羽狀複葉、小葉ハ頂尖リ、花、花被ヲ有セズ、果實ハ[illegible]ニシテ[illegible]、形、小サキ鷄卵ノ如ク、外皮ニ、[illegible]ノ如キ[illegible]アリ、色、赤シ、皮ノ厚サ、肉、核、味、共ニ龍眼ニ似タリ。リチイ。種子ノ肉質ノ假種皮、食用トナル。 白居易、荔枝詩「[illegible]」 (二)つるれいし(蔓荔枝)ノ略稱。其條ヲ見ヨ。

れい-し (名) 【靈芝】 菌ノ一種。一名、マゴジャクシ。さいはひだけ(幸茸)ノ條ヲ見ヨ。 班固、靈芝歌「因ニ露寢ニ兮產ニ靈芝ニ、象ニ三德ニ兮[illegible]」

れい-じ (名) 【例時】 (一)常ノキマリノ時刻。一定ノ時刻。 (二)佛寺ニテ、夕刻、時ヲ定メテ勤行スルコト。例時の作法トモ云フ。天台宗ニハ、引聲法、夕例時ノ稱アリ。 [illegible]

れい-じ (名) 【靈時】 〔說文「時、天地五帝

所。其址。祭場。[illegible]名記志。[illegible]
ニ名 其祭行[illegible]也。[illegible]
祭場。[illegible]

れいしう (名) [illegible] [illegible]。[illegible]

れいしう (名) [illegible]、不可思議ニシテ尊キケモノ。麟鳳ノ類、仁獸、神獸。

れいしき (名) [禮式] 禮儀ノ儀式。禮儀ヲ行フ法式。禮法。作法。[illegible]「二ツヲ下ヘオロシ、一ツヲ組ヘドウトオキ、禮式ノホコソケ、サヤトニ方スル」

れいしつ (名) [illegible] 生レツキ清ク美シキ資質。[illegible]

れいしつ (名) [令室] [令ハ善ノ義] 他ノ妻ノ敬ヒテ云フ語。ウチカタ。令閨。[illegible]

れいしふ (名) [論噬符] れいちふ(論噬符)ニ同ジ。

れいしん (名) [例進] れいこう(例貢)ニ同ジ。[illegible]

れいしん (名) 靈神 (一)靈驗アラタカナル神。[illegible] (二)大名ノ父祖ヲ、神ニ祭ル時、京都ノ吉田家ニ願ヒテ、附スル號。明神ハ許サレズ。[illegible]

れいじん (名) [麗人] ウルハシキ人。杜[illegible]

れいじん (名) [隷人][隸人] (一)罪人。罪ヲ犯セルモノ。[illegible]

[illegible]ノ者。[illegible]

れいじん (名) [泠人][伶人] [泠ハ伶ニ通ズ] がくにん(樂人)ニ同ジ。左傳、成公九年[illegible]

れいじんさう (名) [伶人草] 古名、タチマチグサ。毛茛(キンポウゲ)科ノ多年生草本、山中陰地ニ生ズ。葉ハ一根ニ叢生ス、形ハ鳥兜(トリカブト)ニ似テ、色淺ク岐多ク、白毛アリ、夏、方莖ヲ出シ、秋ニ至リ、高サ二三尺ニ達ス。葉ハ互生ス。花ハ穗ヲナシテ、雙鸞菊ノ花ニ似タリ、故ニ名アリ、淡紫、又ハ、黃白色ノモノアリ、後、莢果ヲ結ブ。有毒植物ナリ。牛扁

れいしゃ (名) [禮者] 年賀ニマハルモノ。年禮スル人。拜年客 [illegible]カラハイル、禮者アリ」「門禮者」

れいしゃ (名) [靈社] (一)奇(クス)シク尊キヤシロ。靈驗アラタカナル神社。[illegible] (二)祖先ノ靈ヲ祀レル神社。祖廟。宗廟 [illegible]氏ニテモ、經晃卿ノ薨日八十一月十六日ナリ、靈社ノ[illegible]祀ハ、云云、明年四月ニ[illegible]、云云」

れいじゃう (名) [禮讓] 禮ヲナシテ、人ニヘリクダルコト。論語、里仁篇「不能以禮讓爲國乎、如禮何」

れいじゃう (名) [禮狀] 謝禮ノ書狀。

れいじゃう (名) [令狀] 命令ノ書狀。特ニ、[illegible]拘引狀、拘留狀[illegible]ヲ發スル逮捕狀ナドノ總稱。

れいしゅ (名) [醴酒] [釋名「醴、禮也、釀之一宿而成、醴有酒味而已也」] アマザケ。コサケ。ヒトヨザケ。[illegible]

れいしゅ (名) [黎首] れいげん(黎元)ニ同ジ。[illegible]

れいじゅう (名) [隷從] 部下トシテ從ヒツクコト。又、ソノモノ。家來。

れいしょ (名) [黎庶] [庶ハもろもろ、多數ノ人ノ義] れいげん(黎元)ニ同ジ。[illegible]

れいしょ (名) [隷書][隸書] 漢字ノ一種ノ書體ノ名。秦ノ時、程邈、古篆ノ難キヲ一變シテ作リ、奴隸ニモ學ビ易カラシム、故ニ名トス。是レ、今ノ楷書ニ似タルモノナリ、コレヲ古隷ト云フ。(秦ノ末ニ始マリテ、漢ニ至リテ盛ンニ行ハル)又、後世、別ニ一種、八分ニ似タルモノ起ル、今、コレヲ、隷ト云フ。[illegible]

れいしょ (名) 鈴杵 [illegible] ドノ金剛杵(コンガウショ)ノ形ヲ柄トシテ作リタル鈴。行道ノ時ナドニ用キルモノ。盛衰記[illegible]

れいしょう (名) [例證] 例ヲ引キテ證明スルコト。又、ソノ例。

れいしょく [illegible] 人ノ心ニ合フヤウニ色ヲ善クスル義 [illegible]

れいしょく (名) [illegible]

れいしょく (名) [麗色] (一)艶麗ナル顏色。又、美シキ顏。[illegible] (二)氣晴レテ、ウララカナル景色。[illegible]

レイス (名) [線帶] [英語、Lace. モト羅甸語、Lacium. 又ハ、Laqueus. ヨリ出ヅ] 絲ヲ平面ニ絡リ合ハセ、ソノ粗密、大小ニヨリテ、種種ノ模樣ヲ現ハシタルモノ。多ク白木綿絲ニテ製ス。帽子、衣服、其他ノ裝飾ニ用キル。

れい・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動) [illegible]

れい・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) [令] 命令ヲ下ス。イヒツク。申シツク。左傳、文公十八年[illegible]

れいすう (名) [禮數] 名位ニ相當スル禮儀。地位ニ相當スル禮儀、又、待遇。[illegible]

れいすい (名) 冷水 ヒヤミヅ。ツメタキ水。[illegible]四十四、三種寶劍事「冷水[illegible]

れいずゐ (名) [靈瑞] クスシクメデタキ徴シルシ。法華文句、四、上「[illegible]靈瑞、三千年一現」[illegible]記、廿八、仙竜琵琶事「明神納受シ給ヘバ、靈瑞更ニ新タナリ」

れいせい (名) [勵精][厲精] ハゲムコト。漢書、宣帝紀「其[illegible]天下、與士大夫、勵精更始」

れいせい (名) [厲聲] 聲ヲハゲマスコト。聲ヲ張リアグルコト。「厲聲疾呼」

れいせい (名) [冷靜] 落チツキテシヅカナルコト。沈着ニシテ動ゼザルコト。

れいぜい (名) 冷泉　冷泉節ノ略。淨瑠璃節ノ名目。十二段草子ノ中ノ「更科冷泉モロトモニ」ノ所ノ節ヨリ起ル。(居龍工隨筆) 音曲口傳書、冷泉節の事「コレハムカシ、淨瑠璃姫物語十二段ノ文句ノウチニ、扨モヤサシノれいぜいヤトイフ所ヘ付タル節ナリ、名フシユヘ、今ノ世マデ傳リモチユル也、コノワケヲシラヌ人、冷泉節トテ、別ニ音曲ノアルヤウニ覺ヘタル人モアレバ、序ナガラシルシ置也」

れいぜいけ (名) [冷泉家] 和歌一派ノ家柄。藤原定家卿ノ流ヲ傳ヘタルモノ、又、飛鳥井家ハ藤原雅經ニ起ル。代代、歌道、蹴鞠ノ師範家ニシテ、歌御會ノ御題ハ、兩家ノ中ヨリ奉リシト云フ。諸家家業記、和歌「冷泉ハ五條三位俊成卿ノ子孫ニ而、定家、家隆之流ヲ傳ヘ、歌道相傳シ、世世精傳授ト稱シ候家ニ而、別ニ他家ヨリ之傳流ヲ不被受、父子代代相傳之籍、被取傳候」

れいせう (名) [冷笑][冷咲] アザワラフコト。ニガワラヒ。セセラワラヒ。崔鶯、山路見[illegible]詩「曉紅[illegible]、獨立空山冷咲春」

れいせき (名) [靈跡][靈蹟][靈迹] メデタキ尊キアト。クスシキ事跡ノアリシ地。

其案略記、改年、延暦廿四、八月廿六日「[illegible]使求法、[illegible]靈跡、往登天台[illegible]」

れいせつ (名) [禮節] (一) れいぎ(禮儀)ニ同ジ。[illegible]語、[illegible]之節、威儀之則」[illegible]禮節ノ先蹤、朝廷ノ禮節ニハ似モ似ヌ事ナレバ、云云」 (二) 手紙ノ文ノ末ニ書ク敬ヒノ語。海人藻芥、下「[illegible]敬ヘキ高貴ナトナラバ、以此旨可令披露給ト書テ、禮節ナバ、恐惶トモ、又ハ、恐恐トモ可書也、云云」

れいせん (名) 冷泉　ツメタキイヅミ。冷水ノ湧キ出ヅルモノ。徐賁、遊靈隱天竺二寺詩「丹井冷泉[illegible]到、兩山[illegible]名」

れいせん (名) [靈泉] 尊ク不可思議ナルイヅミ。又、溫泉ノ美稱。魏書、高祖紀「起[illegible]文石室、靈泉殿於方山」

れいぜん (名) [靈前] (一) 死者ノタマシヒノ前。魏書、夏侯夬傳「三月上巳、諸人相率、至夬靈前一酌飲」 (二) 神ノ御前。

れいそく (名) [令息] [令ハ善ノ義] 他ノ子息ノ敬稱。御子息。

れいそく (名) [蠡測] [漢書、東方朔傳「以蠡測海」トアルヨリ出ヅ] 貝殼ニテ、海水ヲ汲ミ乾スコト、轉ジテ、事ヲ成シ得ザルニ喩フル語。又、識見ノ狹キニ云フ。李商隱詩「[illegible]蠡測、文章若管窺」

れいぞく (名) [隷屬] ツキ從フコト。支配ノモトニアルコト。又、テシタ。ケライ。隷從。唐書、回鶻傳「六都督七州、皆隷屬」

れいそん (名) [令孫] [令ハ善ノ義] 他人ノ孫ノ敬稱。錢起詩「嬀節昔高尚、令孫嗣清徽」

れいそん (名) [例損] 古ヘ、田租納付ノ際、毎年、定例トシテ損分ヲ免ジ、或ハ又、調、庸ニ關シテ、死亡、篤疾、老衰、

服侍等ニ對シ、全免、若シクハ半免スル等、通例ノ事項、ヨリテ減損セシコト。「主計式、下、依例所損、以例損」

れいだい (名) [禮代] ゐやぢろ(禮代)ニ同ジ。

れいだい (名) [靈代] たましろ(靈代)ニ同ジ。

れいだい (名) [靈臺] (一) 心　精神　靈府　莊子、庚桑楚篇「[illegible]不足以滑成、不可内於靈臺」 (二) 四方ヲ望ム臺ウテナ。詩經、大雅、文王之什、靈臺篇「經始靈臺、經之營之」 (三) 天文、雲氣、天候ナドヲ望ム臺。後漢書、馬融傳、注「靈臺、望氣之臺也」

れいだい (名) [例題] (一) 數學ノ語。例トナルベキ問題。(二) 練習ノタメニ例トシテ設ケタル問題。

れいだう (名) [戾道] 道ニモトルコト。枕草子、七、第六十四段「ミヅカラモテマウテコヌシモベハ、イトれいだうナリトナンミユルトテ、云云」

れいたん (名) [黎旦][黎且] [黎ハ天色ノ黑キ義、黎ニ同ジ] 夜ノアケガタ。未明。拂曉。昧爽。史記、南越傳「犂旦、城下皆降伏波」注「[illegible]也」月令[illegible]黎旦、天將明」

れいたん (名) [冷淡] 念ニカケヌコト。熱心ナラヌコト。ツレナキコト。スゲナキコト。李中詩「共誰皆見[illegible]、冷淡少知音」

れいち (名) [靈地] 神社、佛閣ナドアル尊キ地。神佛ノ靈アリト信ゼラルル地。神聖ナル地。靈境。靈區。靈場。靈域。盛衰記、八、法皇三井灌頂事「靈井ノ水ヲ結ビ上、五瓶ノ智水トシテ、佛法最初ノ靈地ニテゾ、傳法灌頂ヲバ遂サセ給ケル」

れいちく (名) [靈竹] れいてき(靈笛)ニ

同ジ。[illegible]十八、[illegible]妙法[illegible]トテ[illegible]ヒケル笛ナリ」

れいちふ (名) [詥擬符] [詥ハ類篇「術也」、言也、擬ハ、擬ナリ、符ハ、札ノ意ニテ、己レガ思ヲ證スル義] 描寫ナル文ヲ、立派ナリト、世間ヘ吹聽スルコト。詥噬符。顏氏家訓、[illegible]北齊[illegible]文章[illegible]、[illegible]巧拙、[illegible]不[illegible]、[illegible]歸ニ[illegible]但成學士自足ト爲ル人、必ズ天才ハ勿強操筆、[illegible]」

れいちやう (名) [令長] 祭事ヲ主宰スル人。論語、八佾篇「入太廟、毎事問」[illegible]孔子十一條「孔子、大廟ニ入リテ、マツリコトニシタガフトキ、事ゴト、彼ノ令長ニ問ハズトイフ事ナシ」

れいちやう (名) [靈長] 靈妙不可思議ナル力ヲ有スルカシラ。[illegible]並用、冠水德之靈長」「人ハ萬物ノ靈長ナリ」

れいぢやう (名) [靈場] れいち(靈地)ニ同ジ。[illegible]靈場[illegible]、[illegible]山門[illegible]權現之靈場也」

れいぢやう (名) [令孃][令娘] [令ハ善ノ義] 他ノ娘ノ敬稱。ムスメゴ。令愛。

れいてい (名) [令弟] [令ハ善ノ義] 他ノ弟ヲ敬ヒテ云フ語。オトトゴ。嘉祐、送從弟歸河朔詩「故鄕何可到、令弟獨能歸」

れいてう (名) [靈鳥] 奇シク尊キ鳥。尊ク不可思議ナル鳥。禰衡、鸚鵡賦「惟西域之靈鳥兮、挺自然之奇姿」

れいてう (名) [藜藋] [藋ハあかざノ一

積、其[illegible]六ノ八、矢[illegible]ナリ、相[illegible]アリト聞ル[illegible]云[illegible]ノ[illegible]共[illegible]之[illegible]花タリシ身ナレドモ、今ハ麥畝ノ草トナル」

れい-てき (名) [靈笛] 尊ク不可思議ナルフエ。又、ソノ音[illegible]。 [illegible]記、十八、仙[illegible]ノ中ニ[illegible]シメ[illegible]ヒテ、云云」

れい-てん (名) [零點] (一)溶度ノ所。寒暖計ニテハ、氷ノ凍ルヲ云フ。(二)點數ノ皆無ナルコト。得點ノ全ク無キコト。

れい-てん (名) [禮奠] 〔奠ハ薦ムルナリ〕 神佛、又ハ、死者ノ靈前ニ供物ヲ捧ゲテ祭ルコト。又、ソノササゲモノ。 唐明堂樂[illegible]中[illegible]展[illegible]、扶[illegible]二十、延久五年四月廿七日[illegible]公家[illegible]致[illegible]」

れい-てん (名) 禮典 祭祀、饗宴ニ關スル法則。禮儀ノキマリ。禮儀ニ關スル制度。禮法。 周禮、天官冢宰「大宰之職、掌建邦之六典、以佐王治邦國、云云、三日、禮典、以和邦國、以統百官、以諧萬民」

れい-てん (名) 例典 シキタリノサダメ。一定ノ法則。典例

レイ-テング (名) [釐等具] 〔字ノ唐音〕 秤ノ、甚ダ小サクシテ、釐、毫、ノ少量ヲ、ハカルニ用ヰルモノ。略シテ、れいてん。約メテ、れてぐ、又、りンダメ。 享保集成絲綸録、三十四、正德四年正月 れいてんぐ、[illegible] 雍州府志、七、土產門、下、權衡、云云、權衡倭俗稱伊氏年具、中華人今謂釐等具、倭俗[illegible]伊氏年具、[illegible]」

れい-ど (名) 零度 度數計算ノ起點ニテ一度以下ノ度。(寒暖計ナドノ)

れい-とく (名) 令德 〔令ハ善ノ義〕 ヨキ德、美德。又、人道ニ[illegible] [illegible]記、下「聖[illegible]德、以之可知」

〔**れい-ならず** (句) [不例] 又、ふれい。平常ノ如クナラズ。又、尋常ノ状ナラズ。轉ジテ、病ム。 源、三十四、下、若菜、下「大方ノ人ハ、ナホれいならずナヤミワタリテ、云云」

れい-な・る・ルル・ルレ・レ・レヨ (自動、下二) 例[馴] 物ニ馴ルル。

れい-にち (名) [例日] 又、れいぢつ。イツモノ通リノ日。キマリノ日。又、毎日。日日。 運歩色葉集「例日、レイニチ」

れい-ねつ (名) 冷熱 (一)ツメタキト、アツキト。(二)冷淡ト、熱心ト。 白居易詩「但問適意無、豈論官冷熱」

れい-ねん (副) 例年 年年ノ定メトシテ。年毎ニ。毎年。イツモノ年。 易林節用集(慶長)上、乾坤門「例年、レイネン」 看聞御記、應永廿九年正月十五日「石井村風流、自例年結構也」

れい-ば (名) [冷罵] アザケリノノシルコト。ヒヤカシノノシルコト。嘲罵

れい-ば (名) [禮馬] 行列ノ供ノモノガ、一番先頭ニ牽キ行ク馬。 貞丈雜記、十三、馬之部「禮馬ノ事、諸家當用抄ニ云ク、一番ニ供ノ先ヘ引ク馬ヲ、禮馬ト申スナリ」

れい-はい (名) [靈牌] ゐはい(位牌)ニ同ジ。 和爾雅、五、器用門「靈牌、レイハイ、位牌也」 和漢三才圖會、十九、佛供器「靈牌、書釋氏戒名、安佛前者、俗謂之位牌、與儒門神主同義也」

れい-はい (名) [禮拜] 又、らいはい。敬禮シテ拜スルコト。ヲガムコト。 沈約、[illegible]

れい-はう (名) [禮砲] 軍艦、軍隊、砲臺ナドヨリ、敬意ヲ表スニ[illegible]其數ト、發スベキ場合ト、[illegible]定アリテ、天[illegible]皇族ニ對シテ行フヲ、[illegible]其數二十一發、外國ノ帝王、皇族、大統領ニ對シテモ之ヲ行フ、其他、官職ニヨリテ、五發乃至十九發ナド、種種アリ。

れい-ばう (名) [令望] 〔令ハ善ノ義〕 ヨキ名望。ヨキホマレ。善キキコエ。 詩、大雅、生民之什、巻阿篇「顒顒卬卬、如圭如璋、令聞令望、豈弟君子、四方爲綱」

れい-ばう (名) [禮貌] 禮儀ノアルカタチ。禮儀正シキ容貌。禮容 孟子、告子、下「[illegible]之致敬、以有禮、則就之、禮貌衰、則去之」

れい-ぼう (名) [禮帽] 儀式ノ時ニ用ヰル帽子。まるくはっとモ其一ナリ。

れい-はふ (名) [禮法] 禮儀ヲ行フニ就キテノ法式。禮儀ノキマリ。禮式。禮儀作法。 莊子、天道篇「禮法度數、刑名比詳、治之末也」 [illegible]「[illegible]禮法士、知我有施去」

れい-ひやう (名) [冷評] 冷語ヲ以テ批評スルコト。又、ヒヤカシノ批評。

れい-ふ (名) [靈府] 〔靈魂ノ納マル府ノ義〕 精神ノトドマル所。卽チ、心。靈臺 莊子、德充符「[illegible]富、云云、不可入於靈府」

れい-ふ (名) [靈符] 靈驗アル不可思議ナル札。クスシキシルシノオフダ。 秦山集、六「靈印、靈符、皆出於仙家、[illegible]國[illegible]來也」

れい-ぶ (名) [禮部] (一)支那、隋代以後、禮式、祭祀、貢擧ナドノ事ヲ司リタル役所。 唐六典、四、禮部「禮部尚書、侍郎之職、掌天下禮儀、祠祭、燕饗、貢擧之政令、其屬有四、一日禮部、[illegible]

れい-ふく (名) [禮服] 又、らいふく。儀式ノ時ニ[illegible]、男子用ニ、[illegible]、各條ヲ見ヨ。明治以後ハ、[illegible]直垂、直衣、狩衣、[illegible]等ヲ[illegible]装束。 世事百談、[illegible]上下[illegible]ニハ、オシナベテ、麻上下ヲ着用スルコトナリ」

れい-ぶ-しやう (名) [禮部省] 天平寶字二年、一時、治部省ヲ改稱セシ名。[illegible]ニ復セシメタリ。 續日本紀、廿一、天平寶字二年八月、治部省、[illegible]」

れい-ぶつ (名) [禮物] れいもつ(禮物)ニ同ジ。

れい-ぶつ (名) [靈物] れいもつ(靈物)ニ同ジ。

れい-ぶん (名) [令聞] 〔令ハ善ノ義〕 好キ評判。善キキコエ。ホマレ。令名 書經、[illegible]之命「[illegible]」 漢書、[illegible]「[illegible]功名[illegible]令聞不忘、今衍幸逢寬明之日、云云」

れい-へい (名) [禮聘] 禮儀ヲ厚クシテ、人ヲ招聘スルコト。 南史、陶弘景傳「[illegible]招之、[illegible]以[illegible]、[illegible]加[illegible]聘[illegible]不出」

れい-へい (名) [例幣] 朝廷ヨリ、毎年ノ例トシテ、幣帛ヲ神ニ奉ゼラルルコト。又、ソノ幣帛。伊勢ナルハ神嘗祭ナリ。又、德川氏ノ世ニハ、日光ノ東照宮ヘモ遣ハサル。其使ヲ例幣使ト云フ。 公事根源、九月、例幣「例幣トハ、伊勢大神宮ヘ幣ヲ奉ラセ給フ、毎年ノ御事ナルニヨテ、例幣トハ申ス也」

れいへい-し (名) [例幣使] 前條ノ語ヲ見ヨ。光臺一覽、一「四月朔日、云云、今日、日光ノ東照宮ヘノ例幣使、京登宮也、百有餘年、每年有奉幣使ナレバ、今ハ例幣使ト申習シタリ」

れいべう (名) [靈廟] (一)祖先ノ靈ヲ祀レル宮殿。タマヤ。靈屋。[illegible] (二)そとば(卒堵婆)ニ同ジ。翻譯名義集、七「浮圖此云[illegible]」

れいべう (名) 靈猫 じゃかうねこ(麝香猫)ニ同ジ。本草「靈貓、一名靈狸、一名香貍[illegible]」

れいほう (名) [靈峰] 神佛ヲ祀リテ、アラタカナル峰。クシキ山。靈山。靈嶽。蘇軾詩「靈峯山上寶陀寺」

れいまい (名) 令妹 [令ハ善ノ義] 他人ノ妹ノ敬稱。イモウトゴ。

れいまはり (名) [禮廻] 謝禮ノタメニ、諸方ヲ廻リ步クコト。回禮。

れいまゐり (名) [禮參] (一)謝禮ニ參ルコト。(二)特ニ、祈願成就ナドノ謝禮ノタメニ、神佛ニ參詣スルコト。オレイマヰリ。カヘリマウシ。賽報。

れいみん (名) [黎民] [れいげん(黎元)ノ條ヲ見ヨ] 人民。萬民。黎庶。黔首。書經、舜典篇「帝曰、棄、黎民阻飢、汝后稷播時百穀」續紀、廿三、天平寶字五年八月[illegible]黎民[illegible]下至諸國黎民、皆捨田園、皆施佛地」

れいむ (名) [靈夢] 神佛ノ示現スル奇異ナル夢。[illegible]物語、二、[illegible]「靈夢ヲ蒙リテ」

れいめい (名) [黎明] [黎ハ天色ノ黑キ義] 夜ノヒキアケ。アケガタ。ヨアケ。未明。拂曉。昧爽。史記、高祖紀「沛公乃夜引兵從他道還、更旗幟、黎明圍宛城三匝」

れいめい (名) [令名] [令ハ善ノ義] (一)ヨキ名。ヨキ名稱。嘉名。佳名。(二)ヨキ名聲。ヨキホマレ。令聞。令譽。[illegible]

れいめう (名) [靈妙] 常人ノ智ヲ以テ思議スベカラザルコト。奇異ニシテ勝レタルコト。[illegible]

れいもつ (名) 禮物 (一)又、れいぶつ。祭祀ノ儀式ヲ行フタメニ用ヰル品物。[illegible] (二)禮儀ト、文物ト。[illegible] (三)謝禮ノ贈物。進物。女殺油地獄(享保、近松作)中「禮物ハ大方三十兩」

れいもつ (名) [靈物] 又、れいぶつ。靈異ナル物。不思議ナルモノ。クシビナルモノ。[illegible]

れいやう (名) [例樣] 常ノサマ。普通ノサマ。竹取物語「カクヤ姬スヱンニハ、れいやう(ツネノヤウ)ニハミニクシトノタマヒテ」

れいやう (名) 羚羊 [羚羊] 羊ノ一種。支那ニ產ズ。形、稍、大ナリ。其角ヲ舶來シテ藥用トシ、羚羊角ト云フ。又、かもしか。其條ヲモ見ヨ。爾雅、釋獸[illegible] 下學集、上、氣形門「羚羊、レイヨウ、カモシシ[illegible]」

れいやく (名) [靈藥] 奇異ナル效驗アル藥。神藥。[illegible]

れいよ (名) [零餘] アマリ。ハシタノ數。殘餘。剩餘。[illegible]

れいよう (名) [禮容] れいばう(禮貌)ニ同ジ。史記、孔子世家「孔子爲兒[illegible]」

れいよし (名) [零餘子] ぬかご(零餘子)ニ同ジ。ヌカゴ。本草和名、下[illegible]

れいらう (名) [令郎] [令ハ善ノ義] 他ノ子息ヲ敬ヒテ云フ語。御子息。令息。類書纂要「稱人子曰令子、又曰令嗣、令郎」

れいらく (名) [零落] [說文「草枯曰零、木枯曰落」] (一)草木ノ葉ナド凋ミ零ツルコト。[illegible] (二)人ノオチブルルコト。落魄。[illegible] (三)人ノ死シタルコト。[illegible]

れいらく (名) [醴酪] (一)乳汁ヲ煮沸シテ製シタル漿。禮記[illegible] (二)一種ノ甘キ酒。

れいり (名) [伶俐 伶利 怜悧] [正字通「今方言謂黠慧曰伶俐」[illegible]] サカシキコト。リコウ。聰明。[illegible]

れいれい (副) 冷冷 [illegible]スズシク感ジタル狀ニ云フ語。[illegible]

れいれいと (副) [illegible]

れいろう (副) 玲瓏 (一)[illegible]ノサヤカナル狀ニ云フ語。[illegible] (二)麗ハシク輝ル狀ニ云フ語。[illegible] (三)玉ナドノ透キトホリ、又、明カナル狀ニ云フ語。[illegible]

れう (名) [料] (一)[其所用ニ供ノル物ノ意] マウケ。マケ。[illegible] (二)價ノ代。代金。(三)爲。平治物語、[illegible]

れう (名) [寮] (一)昔、省ノ被官ノツカサノ稱。[illegible] (二)學校、寺院ナドニテ、學生ノ寄宿スル所。[illegible] (三)茶寮[illegible]

れういう (名) [僚友] 同ジナカマ。同僚。[illegible]

れうかい (名) [了解] ワケノワカルコト。ノミコムコト。會得。合點。

れうかん (名) [僚艦] 同僚ナル軍艦。同ジ艦隊ニ屬スル軍艦。

れうきん (リョウキン) (名) [illegible] 料金 [illegible]物ノ使用[illegible]ル代金[illegible]

れうきゃく (リョウキャク) (名) [料脚] 錢ノ異稱。れうそく(料足)ニ同ジ。

れうかく (リョウカク) (名) [寥廓] [寥ハ空ノ義] オホゾラ。中天。[illegible]

[illegible]已翔ニ乎寥廓之宇、而羅者猶視ニ乎藪澤ニ

れうけん (リョウケン) (名) [料簡] [三大部輔注、四「料者量也、簡也、簡擇同」左傳六、簡車馬也、即量裁選擇之義] (一)思案スルコト。考ヘ計ルコト。後漢書、呂強傳「強欲ト先誅ニ左右貪濁者ニ大[illegible]人[illegible]中[illegible]千石能否ニ[illegible]、陛下信ケニ[illegible]、コレハ[illegible]候[illegible]ノ[illegible]ヘ[illegible]ルスコト[illegible] 堪忍 了簡 宥恕 [illegible]世相[illegible]、近松作[illegible]ヒカレ行ク、料簡モナキ、風情ナリ」「料簡スル」

れうご (リョウゴ) (名) [了悟] ヨクサトルコト。合點。理解。悟了 [illegible]「[illegible]了悟[illegible]」[illegible]、中局促鳥在[illegible]籠」 運歩色葉集「了悟、レウゴ」 傳法正宗記、二十一祖偈「泡幻同無礙、如何不ニ了悟ニ」

れうさ (リョウサ) (名) [僚佐・寮佐] 輔佐ノ役人。下役。晉書、孟嘉傳「九月九日温遊ニ龍山、寮佐畢集」

れうざい (リョウザイ) (名) [料材] 建築ナドニ必要ナル材木。材木。盛衰記、廿四、南都合戰同燒失事「或ハ力士變化ノ牛來テ、料材ヲ運ビ、或ハ久米ノ仙人、通力ヲ起シテ、大木ヲ飛シ、云云」

れうし (リョウシ) (名) [寮試] 古ヘ、大學寮ニテ學生ヲ試ミルコト 大學寮ノ試驗。[illegible]文章、一、[illegible]安[illegible]、[illegible]有[illegible]試ニ之嗟ニ」 源、廿一、少女「タダ四五月ノウチニ、云云、今ハ寮試受ケサセントテ、云云」

れうし (リョウシ) (名) [料紙] (一)其所用ノ料トスル紙。[illegible] コレ[illegible] ル」 (二)半紙ノ稱。(仙臺)

れうしゃ (リョウシャ) (名) [illegible] [illegible]、[illegible]泉水[illegible]、[illegible]初ナルコト。考ヘナクテスルコト。(一)假ソメ、ケザマシキコト。卒爾 [illegible]

[illegible]「[illegible]王ノ難ハ、何共聊爾ナキ人デ、人君トモ見ヘヌ人ヂャゾ」「聊爾ニ行フベカラズ」「聊爾ノ申條」 (二)麁相[illegible] 粗忽 [illegible]安宅[illegible]山伏[illegible]聊爾ノ申シテ、[illegible]二[illegible]付キ申シ、酒ヲ一ツ參ラセウズルニテアルゾ」

れうしばこ (リョウシバコ) (名) [料紙箱] 料紙ヲ入レオク箱 一尺四方ニテ、深サ三寸五分、黑漆塗ニテ蒔繪ヲ施シ、文庫ノ用ヲナストモ、[illegible]室内ノ裝飾トモス。[illegible]事、[illegible]ろだなのおきものの[illegible]トコニれうしばこ」

れうしょ (リョウショ) (名) [料所] 所用ノ料トスル地。[illegible]記、四十六、[illegible]中[illegible]ノ御[illegible]料所アリ 太平記、三十九、神木入洛事 河口庄ヲバ、一圓ニ家中ノ料所ニゾナシタリケル」

れうしょう (リョウショウ) (名) [了承] 領承スルコト。承知スルコト。ノミコムコト。

れうす (リョウス) [了] (自動、左變) (一)納得ス。ウケイルル。サトル。南史、蔡撙傳「撙少而仕官、未[illegible]有不[illegible]了事之目ニ」 (二)ヲハル。完了ス。終了ス。[illegible]、王彪之傳「頃日來欲レ使ニ人閒ニ聞ニ卿此謀ニ意始得レ了」

れうす (リョウス) [療] (他動、左變) イヤス。病ヲ治療ス。周禮、天官[illegible]、[illegible]「[illegible]醫[illegible]療[illegible]」 [illegible]、十一、大臣所勞事「治スルハ佛體ナリ、療するハ[illegible]ナリ、云云、爭

れうせう (リョウショウ) (名) [illegible] [illegible]ハ[illegible] [illegible]

れうぜん (リョウゼン) (名) [瞭然] ハッキリシタル狀ニ云ノ語。明白[illegible]「[illegible]一目瞭然」

れうそく (リョウソク) (名) [料足] [料ハ物ノ代、足ハ錢] 錢ノ異稱。アシ。要脚。料脚 大乘院寺社雜事記、康正[illegible]年五月廿一日[illegible]五貫、料足五貫文進之」「料足一貫正」

れうぞく (リョウゾク) (名) [寮屬・僚屬] 下役。下ノ官吏。屬官。屬僚。[illegible]國志、吳志[illegible]太子、云云、寄待接寮屬、略用布衣之禮」

れうち (リョウチ) (名) [料地] 所用ノ地。其使用ニ充ツル土地。用地。

れうち (リョウチ) (名) [了知] ウケタマハリ知ルコト。了承スルコト。會得スルコト。朱[illegible]詩「了知[illegible]外得[illegible]」 天平十七年正月「[illegible]唯識[illegible]了[illegible]知[illegible]」

れうぢ (リョウヂ) (名) [療治] 病ヲ癒スコト。治療。北史[illegible]延[illegible]、[illegible]云云、[illegible]療治」 後紀、廿一、弘仁[illegible]月十七日「[illegible]療[illegible]治[illegible]驗」

れうとうのゐのこ (リョウトウノイノコ) (句) [遼東豕] [下ノ例ノ故事ニ出ヅ] 世間ヲ知ラズシテ、唯ダ己レ一人自得スルモノノ喩ニ云フ語。遼豕 後漢書、朱浮傳「往時、遼東有ニ豕、生ニ子白頭、異而獻之、行至ニ河東、見ニ[illegible]豕皆白、懷[illegible]慚而還、若以ニ子之功、論ニ於朝廷、則[illegible]遼東豕也」

れうとく (リョウトク) (名) [了得] 了リウルコト。又、納得シタルコト。會得。李易安詞[illegible]細雨[illegible]到黄昏點點滴滴、這次第怎一箇愁字了得」

れうにん (リョウニン) (名) [illegible] [illegible] これうにん[illegible]人)ノ條ヲ見ヨ。

れうはふ (リョウホウ) (名) [療法] 治療ノ方法。[illegible]ノシカタ。療方。治療法

れうふ (リョウフ) (名) [illegible] [illegible] りゃうふ(兩法)ノ[illegible]

れうもん (リョウモン) (名) [寮門] 古ヘ、寮ニ設ケラレタル門。源、廿一、少女「[illegible]大學[illegible]日ハ、れうもんニ上達部ノ御車ドモ、數知ラズ集ヒタリ」

れうやう (リョウヨウ) (名) [療養] 療治ト、養生ト。又、病氣ノ保養。[illegible]

れうらん (リョウラン) (名) [繚亂] [繚ハ纏也] 百花咲キ亂ルルコト。又、散リ亂ルルコト [illegible]

れうり (リョウリ) (名) [料理] (一)ハカリヲサムルコト。ハカラヒトトノフルコト。杜甫、[illegible]「[illegible]料理スル」 (二)食物ヲ割キテ、煮燒シ、味ナド添フルコト。饌ヲ作リトトノフルコト。又、其トトノヘタル饌。割烹 [illegible] 鳥[illegible]之[illegible]丁[illegible]大[illegible]式[illegible]女[illegible]、云云、[illegible]料理目別供之」

れうりぎく (リョウリギク) (名) [料理菊] 菊ノ一種。花ニ苦味薄ク、食用トスベキモノ。花ノ大キサ一寸許リ、筒咲ニシテ、端ハ五岐ニ分レ、丁子ノ如ク、花心無ク瓣ノミ。培養シタルハ、甘クシテ佳ナリ。甘菊

れうりちゃや (リョウリヂャヤ) (名) [料理茶屋] れうりや(料理屋)ニ同ジ。[illegible]女、[illegible]料理茶屋ニテ、[illegible]ノカバヤトル[illegible]」

れうり-にん (名) [料理人] 料理ヲ業トスル者。庖丁人。庖丁者。庖丁。廚人。廚夫。狂言記、餓鬼道心「コレコレ料理人、餓ニ客ガアル、コノ鱠ハ鱠、鯛ハ燒物ニ、背切ニシテタモレ」當流節用料理大全「料理人當時庖丁指南」

れうり-ばかま (名) [料理袴] 料理人ノ、正式ノ料理ノトキ着用スル袴。心中宵庚申(享保、近松作)上「魂ハ武士ナレド、三十餘年、町人ニ業モ婆モ染ミツキシ、料理袴ヲカリソメニ」

れうり-や (名) 料理屋。客ニ酒肴ヲ供フルヲ業トスル家。レウリヂャヤ。料理店。割烹店。酒肉店。酒樓。旗亭。寛天見聞記「深川土橋二軒茶屋、大音寺前ニ田川屋、是等ハ文化ノ頃ヨリ流行セシ料理屋也」

れう・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [料理] 〔字ノ音ヲ活用ス〕料理ヲナス。食物ヲ調ヘ作ル。後撰夷曲集(寛文)二「吉野川、見所オホシ、ト云フコトハ、大キナ鮎ヲ、料るユヱカモ」ト褒狂歌集、春、廻ヘキシれうゐ、イマヤキミノミ、ソノトモトモ、ノゾミノミキヤ、マイルウレシキ」寛政の川柳「牛ノ刀デ、熊坂ハ、れうらレル」

れう-れう (副) [寥寥] (一)物淋シキ状ニ云フ語。寂寥。寂寞。劉長卿詩「寥寥一犬吠、桃源一」菅家集、十「蘭若寥廻久、寥寥臥ニ草廬ニ」(二)ヒロビロトシテ空虛ナル狀ニ云フ語。左思、詠史詩「寥寥空宇内、所講在玄虛ニ」(三)數少クシテ疎ナル狀ニ云フ語。

れう-れう (副) [了了] 分明ナル狀ニ云フ語。晉書、天文志「今日出、于東ハ冉冉轉上、及其入ニ西、亦復漸漸稍下、都不ニ繞ニ邊、北去了了如ニ此」性靈集、十「一鳥有ニ聲人有ニ心、聲心雲水俱了了」

れう-ゑん (副) [遼遠] ハルカニトホキ狀ニ云フ語。悠遠。迢遠。楚辭、九章、抽思「惟郢路之遼遠兮、魂一夕而九逝」

レエル (名) 〔英語、Rail〕汽車、電車、馬車鐵道等ノ道ニ布ク條鐵。軌條。

れき (名) [曆] こよみ(曆)ニ同ジ。易經、下彖傳「君子以治ニ厤、明ニ時」(厤ハ曆ノ古文)

れき (名) [礫] 〔說文「礫、小石也」〕小サキ石。張衡、西京賦「礌若・礥礫」注「石細者曰ニ礫」

れき-いう (名) [歷遊] 處處ヲヘメグリアソブコト。巡遊。遊歷。

れき-えふ (名) [歷葉] ヨヨ。代代。歷代。

れき-さつ (名) [轢殺] 車輪ニテヒキコロスコト。

れき-し (名) [曆師] 曆ヲ造ル人。府門備考、十三、淺草「諸國曆師及當曆人、左ノゴトシ、云云」

れき-し (名) [歷仕] 歷代ノ天子ニヒキツヅキ事フルコト。晉書、李憙傳「憙自ニ歷仕ハ雖ニ清非ニ異、樂、而家無ニ儲積ニ」

れき-し (名) [歷史] 歷代ノ史。志(史)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。年代記。

れき-し (名) [轢死] 車輪ニヒカレテ死ヌルコト。

れき-じつ (名) [曆日] 曆ニ定メタル日。又、曆。太上隱者詩「山中無ニ曆日ハ寒盡不ニ知ニ年」

れき-しやう (名) [曆象] 曆ニヨリテ、天體ノ運行ヲ算スルコト。又、天體ノ運行、星辰ノ氣象ナドヲ云フ。天文。書經、堯典「欽若ニ昊天ハ曆ニ象日月星辰ハ敬授ニ人時ニ」

れき-じゆつ (名) [曆術] 日月ノ運行ヲ測リテ、曆ヲ作ル術。史記、歷書「歷術甲子篇」(歷、曆ニ通ズ) 三代實錄、四、貞觀二年閏十月「依ニ日分小餘不足ハ不ニ得ニ合朔ハ謂ニ之曆術ハ理苦ニ當ニ然ニ」

れき-すう (名) [曆數] (一)日月運行ノ度數ヲ測リテ、曆ヲ作リ、時ヲ授クル術。書經、洪範篇「四五紀、一日歲、二日月、三日日、四日星辰、五日、曆數」職員令、陰陽寮「頭一人、掌ニ天文、曆數、風雲氣色ニ云云」(二)天ノメグリアハセ。運命。命數。天運。論語、堯日篇「堯日、咨爾舜、天之曆數、在ニ爾躬ニ」

れき-せい (名) [歷世] れきだい(歷代)ニ同ジ。晉書、陶璜傳「東宮勁材、歷世不ニ貧」

れき-せい (名) [曆生] 古ヘ、陰陽寮ニアリテ、曆術ヲ學ブ學生。職員令、陰陽寮「云云、曆生十人、掌ニ習ニ曆」

れき-せい (名) [瀝青] ちゃん(瀝青)ニ同ジ。宋稗(宋、朱輿)四、宮殿「作ニ灰韛ニ」注「內以ニ瀝青ニ、合之、厚三寸許」

れき-ぜん (副) [歷然] 又、れきねん。明白ナル狀ニ云フ語。アキラカニ。分明ニ。アリアリト。探玄記、一「不ニ礙ニ事相歷然差別ニ」太平記、三十、慧源禪門逝去事「因果歷然ノ理」

れき-だい (名) [歷代] 歷來リシ代代。ダイダイ。歷世。累世。晉書、衞恆傳、隸文好古、世傳丘墳、歷代莫ニ發、眞僞靡ニ分」三代實錄、四、貞觀二年十月十五日「歷代以降、未ニ彼ニ收公ニ」

れき-だう (名) [曆道] 曆術、曆數ニ關スル學問。又、ソノ道ニタヅサハルモノ。扶桑略記、六、天平七年四月「陰陽曆道、天文漏剋」

れき-てう (名) [歷朝] 代代ノ朝廷。又、代代ノ天皇。舊唐書、袁朗傳「歷朝首爲ニ佐命ニ鄙之、不ニ以ニ爲ニ伍」

れき-にん (名) [歷任] 次第ニ種種ノ官職ニ任命セラレテ、勤務シ來ルコト。續紀、廿二、天平寶字四年正月「歷ニ任內外ハ至ニ中納言ニ」

れき-ねん (名) [歷年] 年ヲ經ルコト。又、年年。歲歲。連年。書經、召誥篇「有夏服天命ハ惟有ニ歷ニ年」

れき-ねん (名) [曆年] (一)トシ。コヨミ。歲月。(二)曆ニテ定メタル一年。卽チ、太陽曆ニテハ三百六十五日、又ハ、三百六十六日(閏年)ヲ云フ。

れき-はう (名) [歷訪] 處處ヲヘメグリオトヅルルコト。南史、王曇首傳「常遣ニ曇首ニ心左右ハ歷ニ訪同里人士ニ」杜甫詩「歷ニ訪ニ唐同ハ曆ニ訪明賢ハ論ニ遠識ニ」

〔れき-はかせ (名) [曆博士] 又、りゃくはかせ。古ヘ、陰陽寮ノ官、曆數ノ事ヲ掌ル。コヨミノハカセ。職員令「陰陽寮、云云、曆博士一人、掌ニ造ニ曆及教ニ曆生等ニ」續後紀、五、承和三年七月「有ニ曆博士二人ニ」

れき-はふ (名) [曆法] 日月ノ運行、曆數ニ關スル法。又、コヨミヲ造ル法。晉書、李淳風傳、云云、十觀初、與ニ傅仁均ニ爭ニ曆法ハ議者多附ニ淳風ニ」(歷、曆ニ通ズ)

れき-めい-ちやう (名) [歷名帳] 次條ノ語ニ同ジ。讀史管抄「文章生外國歷名帳、云云」

れき-めい-ぼ (名) [歷名簿] 又、歷名帳。姓名ヲ書キツラネタル帳簿。名帳。名簿。軍防令「凡兵士以上、皆造ニ歷名簿ニ通ニ」

れき-らん (名) [歷覽] 一一見ルコト。一一目ヲトホスコト。陶潛詩「從弟敬遠詩「歷ニ覽千載書ハ時時見ニ遺烈ニ」續紀、廿六、天平寶字五年二月「以ニ餘閑ニ歷ニ覽前史ニ」

れき-れき (名) [歷歷] 〔歷代相傳ノ家柄ノ意カ〕世ニ著シク貴キ家柄。又、其人。貴族。好色一代男(貞享、西鶴)三「ココハト甲人ニ尋ネケレバ、歷歷ノ遊ビ所ト語ル」

れき-れき (副) [歷歷] 一一分明ナル狀ニ云フ語。アリアリト。イチジルク。杜甫、歷歷詩「歷歷開元事、分明在ニ眼前ニ」(二)物

ノ行儀ヨク竝ブ狀ニ云フ語。古詩(文選)「[illegible]」

れきれき (副) 瀝瀝 風、又ハ、水ナドノ音ニ云フ語。[illegible]

れきろく (副) 轣轆 「傳雅、車軌ン道、謂ニ之轣轆ニ」 車ナドノキシル音ニ云フ語。[illegible]

れこ (代) これ(是)ノ倒語。おやゆび(親指)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

レコオド (名) 〔英語、Record.〕(一)記錄。[illegible]前例、從前ノ記錄以上ニ出デ、或ハ、未曾有ナル事ヲナシタルヲ、れこおどを破るト云フ（競技ナドニ）(二)蓄音器ノ平圓盤ノ音譜。

レダマ (名) [illegible]えにしだト同類ニシテ、洋語ナリト云フ〕 荳科ノ常綠亞灌木。モト舶來種、暖地ニ栽培セラル。高サ六七尺、梢ニ細ソキ氣條ヲ出ス、綠ニシテ、略、えにしだノ莖ニ似タリ。葉ハ細小ニ、夏ノ初、蝶形ノ黃花ヲ開ク、綠豆ニ似テ繁ク、莢モ相似タリ。鷹爪

れち (名) 列 次條ノ語ニ同ジ。宇津保物語、[illegible]「巳ノ時ニゾれち引クベウ作ル」思の儘の日記「太政大臣れちニハ加ハラデ、云云」

れつ (名) 列 (一)く、れち。ツラナルコト。[illegible]行列。論語、季氏[illegible] 紫式部日記「[illegible]列ニモ立ナ給ハザリケリ」(二)共犯。盜賊ノ語。

れっか (名) 裂罅 サケメ。ワレメ。

れっき (名) 列記 ナラベシルスコト。

れっきと (副) 歷 〔れきノ音便〕 身分、家柄等ノ高キ狀ニ云フ語。[illegible]

れっきゃう (名) 列強 竝立セルモロモロノ強國。強大ナル列國。

れっきょ (名) 列居 ツラナリ居ルコト。竝ビ居ルコト。太平記、廿四、天龍寺供養ノ事「三百餘人、[illegible]ノ上ニ列居シテ、山門ヲ[illegible]」

れっきょ (名) 列擧 ツラネアゲテ示スコト。一一ナラベタツルコト。

れっくゎ (名) 烈火 ハゲシク熾リ立ツ火。猛火 [illegible]

れっけん (名) 列見 古ヘ、毎年、二月十一日、太政官ニテ行ハレタル公事。かうぢゃう(定考)ノ條ヲモ見ヨ。掃部寮式「凡太政官、二月十一日列見、八月十一日定考、立ニ床子ニ肆ニ鋪設ニ」 公事根源、二月「列見、十一日、上卿、辨、少納言、外記、史ナド參リテ、太政官ニテ行ヘル公事ナリ、六位以下ノ才能アル者ヲエラビテ、式部、兵部ノ二省ヨリ率シテ參レルヲ、上卿ノソレヲ召シヨセテ、器量、容儀ヲミル意ナリ」

れっこう (名) 列侯 多クノ諸侯。史記、高祖紀「六年論功、與ニ諸列侯ニ剖レ符行レ封」

れっこく (名) 列國 ツラナリタテル國國。左傳、莊公十一年「列國有レ凶、稱レ孤禮也」

れつざ (名) 列座 ツラナリスワルコト。其座ニ列スルコト。列席。後漢書、劉盆子傳「盆子坐ニ正殿中、[illegible]」

れっさん (名) 列參 連レ立チテ至ルコト。平家物語、[illegible]「[illegible]如何ニ、内侍共ハ、只今何事ノ列參ゾヤト宣ヘバ、云云」

れっし (名) 烈士 節操ノ正シキ士。莊子、[illegible]

[illegible]

れつじ (名) 列次 ツイデ。順序。次第。[illegible]

レッシかんだんけい (名) 列氏寒暖計 かんだんけい(寒暖計)ノ條ヲ見ヨ。

れつじつ (名) 烈日 アツサハゲシキ日。烈シク照リツクル日。[illegible]

れっしゃ (名) 列車 (一)ツラナルクルマ。[illegible] (二)機關車、客車、貨車ナドノ連結シテ、一聯ヲナセル汽車。「上列車、下列車、幾時發列車」

れっしゅく (名) 列宿 天上ニ列レル多クノ星宿。列星。史記、天官書「[illegible]五行、天則有列宿、地則有州域[illegible]日月光太[illegible]列宿[illegible]」

れっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 列 ツラナル。ナラブ。禮記、禮運篇「夫禮必本ニ於天ニ、殽ニ於地ニ、列ニ於鬼神ニ」

れっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 列 ツラヌ。ナラブ。禮記、禮運篇「先王秉ニ蓍龜ニ、列ニ祭祀ニ、瘞繒、宣ニ祝嘏辭說ニ」

れっせい (名) 列世 代代。世世。歷代。歷世。累代。

れっせい (名) 列聖 〔獨斷(漢、蔡邕)「[illegible]巳故前帝、爲ニ歷ニ擧先朝諸帝ニ、則曰ニ列聖ニ、[illegible]日ニ祖宗ニ」〕 代代ノ天子。ヨヨノヒジリ。列皇。累帝。南史、宋武帝紀「陛下不レ規ニ列聖之遺物ニ、何以[illegible]」[illegible]詔「經ニ列聖ニ而難レ値、鍾ニ治世ニ而偶來」

れっせき (名) 列席 れつざ(列座)ニ同ジ。[illegible]

れっそ (名) 烈祖 〔烈ハ功ナリ、業ナリ〕

功烈アル祖先。功業ノ大イナル先祖。[illegible]

れっそ (名) 列祖 列代ノ祖先。歷代ノ[illegible]

れっそ (名) 列訴 多人數、打揃ヒテ出訴スルコト。太平記、四十、南禪寺與三井寺確執事「六月十八日(貞治六年)園城寺ノ衆徒蜂起シテ、公武ニ致ニ列訴ニ事アリ、云云」

れっそつ (名) 列卒 [illegible]ニ同ジ。[illegible]

れっとう (名) 列島 ツラナレル多クノ島。竝ビ續キタル多數ノ島嶼。

れつぢゃうふ (名) 烈丈夫 義烈ナルマスラヲ。烈夫。烈士。史記、伍子胥傳、論贊「隱忍就レ功、非ニ烈丈夫ニ孰能致レ此哉」

れつぢょ (名) 烈女 列女 節操ノ堅固ニシテ氣性ノハゲシキ婦人。固ク操ヲ守ル女。烈婦。戰國策、韓策「非ニ獨聶政之能ニ、乃其姉者列女也」[illegible]

れつでん (名) 列傳 多クノ人ノ傳ヲ列記セルモノ。でん(傳)ノ條ヲモ見ヨ。史記、太史公自序「扶ニ義俶儻ニ、不レ令ニ己失ニ時、立ニ功名於天下ニ、作ニ七十列傳ニ」

レッテル (名) 〔蘭語、Letter.〕(一)文字。(二)手紙。手束。(三)商標。店名ナドヲ記シテ、商品ニ貼ル紙片。

れっとう (名) 劣等 [illegible]コト。下等。(優等ニ對ス)

れっぱい (名) 劣敗 いうしょう(優勝)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

れっ-ぱん（名）［列藩］（はん（藩）ノ條ヲ見ヨ）モロモロノ藩。晉書、[illegible]「[illegible]先代苗裔、[illegible]不レ替、或列藩九服、式序三王官」

れっ-ぷ（名）［烈婦］れつぢょ（烈女）ニ同ジ。

れっ-ぷう（名）［烈風］（一）ハゲシク吹ク風。強風。暴風。晉書、[illegible]、四門穆穆、納于大麓、烈風雷雨弗レ迷」（二）[illegible]氣象學上ニテハ、樹ノ大幹ヲ動カスモノ。強風ヨリ強ク、颶風ヨリ弱シ。

れつ-りつ（名）［列立］ツラナリ立ツコト。江家次第、十、[illegible]次、[illegible]近仗起、王卿列立[illegible]下ニ」

れつ-れつ（副）［烈烈］ハゲシキ狀、又ハ、勢ノ盛ンナル狀ニ云フ語。詩經、商頌、長發「[illegible]有レ虔秉レ鉞、如二火烈烈一」

れつ-れつ（副）［冽冽］〔字彙「冽、寒氣嚴也」〕寒サノハゲシキ狀ニ云フ語。凜冽。凜凜。陶潛詩「冽冽氣遂嚴」

レテグ（名）［羻等具］秤ノ一種。れいてんぐ（羻等具）ノ約。其條ヲ見ヨ。

〔れに-ㇱ（名）［檑子］〔字音、れいしノ轉〕れんㇱ（檑子）ニ同ジ。倭名抄、十五、[illegible]具「檑子、禮遜之、惢閒子也」

れふ（名）［獵］〔廣韻「獵、取レ獸也」爾雅、釋天篇「春獵爲レ蒐、夏獵爲レ苗、秋獵爲レ獮、冬獵爲レ狩」〕（一）鳥獸ヲ捕フルコト。即チ、山ノ獵。事物紀原（宋、高承）「尸子曰、宓犧之世、天下多レ獸、敎レ人以レ獵」（二）誤リテ、スナドリ。イサリ。（川獵ヨリ轉ジタルカ）漁。和字正濫鈔、五「獵師、レフシ、云云、コレハ、山ニテ獸ヲカルモノヲコソイフヲ、音ニイヒツレバ、世ニハ、スナドリスル者ヲ云ヘリ」

れふ-き（名）［獵騎］ウマユミ。きしゃ（騎射）ニ同ジ。續紀、九、神龜元年五月「子弟兵士、

れふ-く（名）［獵狗］れふけん（獵犬）ニ同ジ。史記、蕭相國世家「諸君知レ獵乎、曰、知レ之、知ニ獵狗一乎、曰、知レ之、云云」

れふ-くゎん（名）［獵官］〔獵ニ獲物ヲ爭フニ譬フ〕官職ヲ獲ムト爭フコト。

れふ-けん（名）［獵犬］獵ニ用ヰル犬。カリイヌ。獵狗。西京雜記、[illegible]、劉[illegible]「[illegible]年有二[illegible]獵犬、[illegible]、獵所、打、[illegible]日、[illegible]獵ノ古文）

れふ-ㇱ（名）［獵師］（一）獵ヲナス者。カリウド。獵者。獵人。獵夫。白居易詩「[illegible]語不レ可レ聞、[illegible]、れふㇱニモ、アラヌ我コソ、[illegible]フコトナ、照射ノ松明ノ、[illegible]エコカレヌレ」庭訓往來、四月「獵師、狩人」（二）誤リテ、漁リヲナス者。アマ。アマビト。イヲトリ。漁人。漁夫。漁師。

れふ-じん（名）［獵人］獵ヲナス者。カリウド。獵者。獵師。獵夫。[illegible]、頭陀付請「[illegible]中[illegible]鹿[illegible]、天明恐[illegible]獵人[illegible]」

れふ-しゃ（名）［獵者］獵ヲナス者。カリウド。獵師。獵人。獵夫。東遊記（寬政、橘春暉）一、熊突「飛驒境ノ山中ノ人ニ出合テ、熊ヲ取ルコトヲ聞ニ、其獵者モ亦勇猛ナリ」

れふ-じゅう（名）［獵銃］獵ニ用ヰル小銃。

れふ-す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［獵］狩ヲナス。又、スナドル。日本通史、三十八、天長七年十月「天皇幸ニ于北野一、獵ニ鶉雉一」

れふ-せん（名）［獵船］スナドリノ舟。イサリブネ。漁船。漁舟。和漢船用集、六、河舟「江湖獵船 凡而中ノ獵船、ソノ大ナル者、五六十石程ノ舟ニスグベカラズ、云云、獵船ト云ハ、大船、小船ニアラズ、[illegible]

れふ-ば（名）［獵場］（一）狩獵スル所。狩場。（二）スナドリスル所。漁場。

れふ-ふ（名）［獵夫］れふㇱ（獵師）ニ同ジ。[illegible]、六ヒ、[illegible]夫冒[illegible]、[illegible]

れふ-ぶね（名）［獵船］れふせん（獵船）ニ同ジ。山家集、下「宇治川ノ、早瀬落舞フ、れふぶねノ、潛キニチガフ、鯉ノ村マケ」

れん（名）［廉］（一）潔白正直ナルコト。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、云云、[illegible]、[illegible]、有レ立レ志」（二）安直。安價。[illegible]

れん（名）［連］（一）ツレ。ナカマ。トモ。伴。「書生連」娘連」（二）ツラナリタル物、又ハ、編ミタルモノヲ數フル語。「數珠一連」鰹節二連」（三）鷹一羽ヲ一連ト云ヒ、二羽ヲ二連ト云フ。（鷹尻、下）又、一聯トモ書ス。西鶴[illegible]、[illegible]、天保三年、獲白兎隱一聯、不レ知レ所レ得之處二」

れん（名）［輦］（一）鳳輦、又、葱花輦ノ略。てぐるま（輦）ノ條ヲ見ヨ。北山抄、九、行幸「[illegible]、云云、[illegible]御[illegible]於[illegible]中御前二」（二）れんしゃ（輦車）ニ同ジ。儀式、一、春日祭儀「此[illegible]女、[illegible]、[illegible]共行列也」

れん（名）［簾］スダレ。ミス。白居易詩「遺愛寺鐘欹レ枕聽、香爐峯雪撥レ簾看」

れん（名）［聯］（一）細長キ板、又ハ紙ニ、書畫ヲカキテ、柱、壁ナドニ懸ケテ、飾トスルモノ。ハシラカクシ。ハシラカケ。柱聯。（二）漢詩ノ律ノ對句。聯句。りつ（律）ノ條ノ（三）ヲ見ヨ。

れん（名）［蓮］ハス、又、ハスノハナ。レ[illegible]

[illegible]（[illegible]）ノ[illegible]

れん-あい（名）［戀愛］コヒシタフ男女間ノ愛情。コヒ。愛戀。

れん-い（名）［漣漪］漣漪、漣モ漪モ、サザナミ、漪ハ、古ク漪ニ通ズ。サザナミ。小波。細波。詩經、魏風、伐檀「坎坎伐レ檀兮、寘二之河之干一兮、河水淸且漣猗」[illegible]、[illegible]、[illegible]、荷花[illegible]、我[illegible]川[illegible]、[illegible]、月[illegible]」

れん-いん（名）［連陰］連日ノクモリ。毎日ノ陰天。[illegible]、[illegible]「白虹[illegible]日、連陰不レ雨」

れん-いん（名）［連印］數人連名シテ、印ヲ押スコト。連判。連署。[illegible]係在獄中手留、文政三庚辰年十一月廿二日「我[illegible]共、[illegible]門[illegible]連印之封、[illegible]共[illegible]枚、[illegible]ニテ[illegible]」

れん-う（名）［連雨］連日ノアメ。幾日モフリツヅクアメ。ナガアメ。霖雨。淫雨。陳必復、[illegible]上詩「[illegible]上少、[illegible]」

れん-えふ（名）［蓮葉］ハチスノハ。ハチスバ。ハスバ。荷葉。史記、龜策傳、序「余至二江南一、觀二其行事一、問二其長老一、云、龜千歲、乃游二蓮葉之上一」[illegible]記、二十八、小[illegible]局事「別レニシ三位通盛卜、一佛[illegible]土ノ蓮葉ニ[illegible]ヘ」

れん-えん（副）［瀲灩］波ノ靜カニタダヨヒ動ク狀ニ云フ語。又、波ノ溢ルル狀ニモ云フ。杜牧、題[illegible]安[illegible]樓詩「鳴軋江樓角一聲、微陽瀲灩落二寒汀一」

れん-か（名）［輦下］〔てぐるまノ下ノ義〕天子ノ御ヒザモト。皇居ノ地。輦轂ノ下。京師。京都。蘇軾、答二劉貢父一書「某江湖之人、久留二輦下一、如レ在二樊籠一、[illegible]佳思一也」

れん-か（名）［廉價］直段ノ安キコト。

れん-か（名）［連枷］からざを（連枷）ニ同

[illegible]

れんが（名）連歌 ツラネウタ。又、ツヅクルウタノミチ。（其條ヲ見ヨ）三十一字ノ和歌ヲ、二人シテ、應答シテ作ルモノ。コレニハ二樣アリテ、一人、五七五ノ一句（發句）ヲ出セバ、他ノ一人、七七ノ一句（脇句、附句）ヲ附ケ、或ハ其反對ヲナスヲ短連歌、又ハ、一句連歌ト云ヒ、此ニ對シテ、發句ヲ出シ脇句ヲ附ケ、更ニ五七五（第三）、七七（第四）、ト連ネ行クヲ長連歌ト云フ。一句ハ連繫シ、第三ハ意味ノ隔ガルヲ法トス。長連歌ノ最末句ヲ擧句ト稱シ、普通、二人以上ニテ興行ス。一句連歌ハ平安朝ニ榮エタリシガ、連歌ノ部ハ金葉集ニ始メテ見エ、其末年ニ至リ、長連歌ノ歌仙三十六句、五十韻、百韻ヲ連ヌルアリ、又、賦物、（其條ヲ見ヨ）起リ、其式、甚ダ繁ナリ。鎌倉時代トナリテハ、柿本、栗本トテ、兩樣ニ分レテ流行セシガ、應安ノ頃ニ二條良基、連歌ノ式目ナル連歌新式ヲ著ハシテヨリ、大イニ盛ンニナリタリ。此ヨリ智蘊、宗砌、行助、能阿、心敬、專順、宗伊、宗祇、兼載、專碩、宗長、肖柏、宗牧、宗養、ナド相繼ギテ、世ニ大イニ行ハレス。然レドモ宗祇ノ吾妻問答ヲ述ベテヨリ、代代ノ花の下宗匠ト云フ者、イヨイヨ出デテ、イヨイヨ煩瑣ナル法則ヲ作リシヲ以テ、其道却テ退歩セリ。譬ヘバ、四時ノ景物ヲ詠ミ入ルルヲ季ト云ヒ、句ニ因リテ、其景物ノ相侵スヲ去嫌ト云ヒテ忌ミ、同ジ語ノ重複スルヲ指合ト云ヒテ禁ズ。此ノ如ク煩瑣ナルモノニシタレバ、遂ニ衰ヘ

[illegible]一夜モスガラ歌ヨミ、連歌ナドシ、云云」

れんかう（名）連衡〔衡ハ横ナリ、七國[illegible]代ニ、[illegible]六國ニ說キテ、[illegible]トセシコト。連横。（合從ニ對ス）史記、[illegible]天下[illegible]合從連衡、以攻伐[illegible]」

れんがし（名）連歌師 連歌ニ巧ニシテ、一家ヲナセルモノ。連歌ノ宗匠。七十一番職人盡歌合、下、六十六番「連歌師」

れんがふ（名）聯合 連合 二ツ以上ノ物ノツラナリアフコト。クミアフコト。

れんぎ（名）連木〔擂木ノ唐音カト云フ〕又、れいぎ。レンギ。スリコギ。擂槌 女重寶記（元祿）一「れんぎ、コカラシ」

れんきん（名）廉謹 イサギヨク、ツツシミ深キコト。史記、申屠嘉傳[illegible]爲丞相、皆娖娖廉謹、備員而已」 文德實錄、五、仁壽三年十二月、[illegible]卒、云云、爲人廉謹、而短才辯ニ」

れんぎやう（名）練行〔身心、道術ナドヲ〕鍛錬苦行スルコト。扶桑略記、五、文武天皇三年三月「役行者、云云、居伊豆嶋、夜爲練行ニ」

れんく（名）聯句 （一）りつ（律）ノ條ノ（三）ヲ見ヨ。（二）正字通「聯、詩家聯句、謂兩人合吟前後相聯也」詩ノ一技。二人、又ハ、二人以上相寄リテ、一篇ノ詩ヲ作ルコト。支那ニテハ、漢ノ武帝、群臣ヲ會シ、柏梁臺ノ落成ノ詩ヲ作ラシメシニ始マル。我ガ國ニテハ、平安朝時代ニ始マリ、五言多ク、初ハ五韻ナリシガ、鎌倉時代ニナリテハ、三十韻、五十韻、多キハ、百韻ノモノモアリキ。韻脚ハ一ナレドモ、意ハ、各人ノ隨[illegible]

れんく（名）連句 詩歌、俳諧ニテ、幾句モ續ケテ作ルコト。又、ソノ句。[illegible]故、下「和漢連句ハ、歌ト詩トヲ聯句スルナリ、和漢ニハ、擧句漢タルベシ、漢和ニハ、和句タルベシ」落玖波集、十九、雜體「連句連歌、六條内大臣歸依寺ノ家ニ御幸アリテ、[illegible]連句ニ、云云」

れんぐわ（名）連火 漢字ノ下ニ、點ノ四ツ並ブモノ。火ノ字ノ[illegible]ナリ。烈、烝、無、然、煮、蒸、照、熱、燕、ノ如シ。

れんぐわ（名）煉瓦 次條ノ語ヲ見ヨ。

れんぐわせき（名）煉化石 瓦ノ一種。粘土ニ沙ヲ混ゼテ、水ニテ煉リ固メ、乾燥セシメタル後、窯ニテ燒キタルモノ。燻ブラズ堅シ。積ミテ家ヲ造リ、垣ヲ築キ、又ハ地ニ敷ク。又、煉瓦。火磚

れんくわん（名）聯關 くわんれん（關聯）ニ同ジ。

れんげ（名）蓮華 （一）ハスノハナ。法華經、從地涌出品「此諸佛子等、云云、不染世間法、如蓮華在水」 法華[illegible]、云云、外國稱芬陀利、此翻爲蓮華」 宇津保物語、俊蔭「アヤシウ、蓮花ノ花園ヨリト云フ人ノアリツレバ」 今昔物語、十二、第三十九話「池ノ水ノ上ヲ踏テ、蓮華ニ乘テ、西ヲ指テ去ヌ」（二）ちりれんげ（散蓮花）ノ略。（三）れんげさう（蓮華草）ノ略。

れんけい（名）連繫 ツラネツヅクルコト。ツナガリツヅクコト。

れんげう（名）連翹 古名、イタチグサ。イタチハゼ。木犀科ノ落葉灌木ノ名。[illegible]似テ小サシ。花落チテ、葉ヲ生ズ、形、楕圓ニシテ尖リ、鋸歯アリ、三葉、或ハ、互[illegible]ニシテ生ズ。實熟シテ黃ナリ、二ツニ裂ク、藥用トス。コレハ木本ノモノナリ。又、藤本ノモノアリ、たにわたしトモ云フ、多ク庭際ニ植ウ、枝長ク垂ル、花アレドモ、實ヲ結ブコト稀ナリ。

れんげえ（名）蓮華衣〔蓮華ノ如ク清淨無垢ノ衣ノ意〕袈裟ノ異名。[illegible]

れんげざ（名）蓮華坐 結跏趺坐ノ稱。大日經不思議疏、上[illegible]右足先著左股上、左足次著右股上[illegible]

れんげざ（名）蓮華座 佛像ノ蓮座。蓮華ノ形ヲ作リタルモノ。蓮座。華嚴經「一切諸佛世界、悉見如來坐蓮華寶師子之座ニ」

れんげさう（名）蓮華草 草本ノ一年生草ノ名。原野、所在ニ多シ。春、苗ヲ生ズ、葉ハ、羽狀複葉ニテ、さいかち（皂莢樹）、又ハ、ゑんじゆ（槐）ノ初生ノ葉ノ如クニシテ、兩對ス。枝、莖、地ニ布キテ、蔓ノ如シ。節ノ上ニ莖ヲ出シ、春夏ノ交、頂ニ淡紫紅色ノ細小花ヲ開ク、形、稍、蓮花ニ似タリ。其多キ處ハ、滿地ニ蔓リテ、錦ヲ敷クガ如シ。花後、莢果ヲ結ブ、黑クシテ三稜アリ。略シテ、れんげ。ゲンゲ。ゲンゲバナ。レンゲバナ。ゲゲバナ。ゲゲ。紫雲英

れんげざう-せかい（名）［蓮華藏世界］〔寶蓮華ノ所成ノ土ナレバ、名ヅクト〕略シテ、華藏世界。又、華藏界。ごくらく（極樂）ノ條ノ（一）ニ同ジ。

れんげ-だい（名）［蓮華臺］略シテ、華臺。蓮華ノ臺座。卽チ、佛、菩薩ノ常座。

れん-けつ（名）［廉潔］名利ヲ貪ラズシテイサギヨキコト。淸廉潔白ナルコト。孟子、盡心、下「衆「居」之似」忠信、行」之似」廉潔」」

れん-けつ（名）［連結］（一）ツラネムスブコト。結ビ合ハスルコト。唐書、常袞傳「西蕃云云、數入寇、若相連結、以乘」無」備、其變不」測」（二）交リヲ結ブコト。提攜。後漢書、竇融傳「出入貴戚、連」結閭里豪傑」以」任俠」爲」名」

れん-げつ（副）［連月］月每ニツヅキテ。每月。累月。後漢書、光武紀「蕃獲、其軍實輜重車甲珍寶、不」可」勝算」、學」之連月不」盡」

れんげ-つつじ（名）［羊躑躅］又、オニツツジ。ウマツツジ。石南科ノ落葉灌木。山野ニ自生シ、高サ五六尺ニ達ス。花ハ大形樺色ニシテ、培養セルモノニハ、黃色、又ハ、赤色ナルモアリ、有毒ナリ。葉ハ纖毛アリ、鋸齒ヲ有ス。

れんげ-なす（名）［蓮花茄子］又、れんげなすび。げんげなすび。ちゃせんなす（茶筅茄子）ノ條ヲ見ヨ。

れんげ-マダラ（名）［蓮華斑］牛ノ毛色ノ名。あめすだれ（黃牛簾）ノ條ヲ見ヨ。

れんげ-わうぢゃう（名）［蓮華往生］昔、日蓮宗ノ不受不施派ナドニテ、大イナル蓮華、寺ノ本尊前ニアリテ、極樂ニ往生セムト願フモノハ、大金ヲ寺ニ納メ、

此蓮華ノ眞中ニ坐シテ、題目ヲ唱ソレバ、僧侶、親類ノ者、周ニテ太鼓ヲタタキ、題目ヲ合唱スル中ニ、蓮華ノ瓣、自然ニ閉ヅ、暫クシテ開ケバ、其人往生シ居ルト云フコト。或武士、蓮華ノ臺ニ座ヲ占メムトスルニ、中央ニ穴アリ、所持ノ鏡ヲ敷キテ其上ニ坐ス、瓣閉ヅルニ際シ、穴ヨリ槍ニテ突殺スベキ企ナリシガ能ハズ、事明白ニナレリトノ傳說アリ。出定笑語、附錄、二「寬政ノ始ニ、ズカノ不受不施ノ輩、ト總國ニ於テ黨ヲ集メ、蓮華往生ト云フコトヲシテ、愚人ヲ歸依サセタコトガアル」

れん-ご（名）［連語］二ツ以上ノ語ノツラナリテ、一語ヲナセルモノ。

れん-ご（名）［聯碁］圍碁ニテ、數人二組ニ分レテ、一局ヲ交互ニ打ツモノ。

れん-こう（名）［聯亙連亙］ツラナリワタルコト。長クツラナリツヅクコト。歐陽修、叢翠亭記「增巒之絡繹聯亙、卓然三十六峯、皆可以坐而數之」

れん-こく（名）［輦轂］（一）てぐるま（輦）ト、おしき（轂）ト。各條ヲ見ヨ。又、天子乘用ノ車輿。（二）次條ノ語ノ略。晉書、劉毅傳「輦轂過」而明不」繩」於輦轂」」

れんこく-の-もと（名）［輦轂之下］〔輦轂ハ天子ノ車輿ヲ云ヒ、轉ジテ、住ス地、卽チ、京都ノ意〕皇居ノアル地。天子ノオヒザモト。ミヤコ。京師。略シテ、輦轂。保元物語、一「今度一行、今得、宿衛輦轂之下」」司馬遷、報任安書「得」待」罪輦轂之下」」

れん-こん（名）［蓮根］蓮ノ地下莖。蔬トシテ食フ。紅蓮ノモノハ、肥大ニシテ、黑ミアリ、味佳ナリ。白蓮ノモノハ、細ソクシテ白シ。ハスノネ。ハスネ。藕

本朝食鑑、三、水菜「蓮根、俗名、蓮根倉、藕也、云云」

れん-さ（名）［連鎖］二ツノ物ヲツラヌルクサリ。又、ツラナリツヅクコト。南史、夏侯詳傳「今除」金根連鎖」、自餘新器、悉用」堅陶」」

れん-ざ（名）［連坐］（一）同ジ席ニ列スルコト。又、ソノ人。（二）マキゾヘ。他ノ犯罪ニ隨伴シテ、罪ニ問ハルルコト。罪ノカカリアヒ。連累。史記、商君傳「卒定」變法之令」、令」民爲」什伍」而相收司連坐」」

れん-ざ（名）［蓮座］蓮華ノ臺座。れんげざ（蓮華座）ニ同ジ。ハスノウテナ。王勃、保跡寺詩「蓮座神容儼、松崖聖跡餘」

れん-さい（名）［連載］ツヅケテノスルコト。連續シテ登載スルコト。

れん-さう（名）［聯想］〔英語、Association. ノ譯語〕心理學ノ語。一ノ觀念ニ、他ノ觀念ノ、聯絡隨伴シテ生ズルコト。又、ソノ精神ノ作用。或ハ又、觀念ノ伴生ニ因リテ生ズル心ノ現象。卽チ、大ト云フ觀念ヨリ、小ト云フ觀念ヲ呼ビ起シ、白ト云フ觀念ヨリ、黑ト云フ觀念ヲ呼ビ起シ、晴ト云ヘバ曇ヲ想ヒ起ス類。

れん-さく（名）［連索］物ト物トヲ連結スル繩。又、繩ナドニテ結ビツヅクルコト。太平記、三十九、自太元攻日本事「二三萬人、云云、皆被」生捕」、身ヲ縲紲ノ下ニ苦シメテ、縈ヲ連索ノ絃ニ貫レタリ」

れん-さつ（名）［憐察］アハレミテ思ヒヤルコト。憫察。韓愈、與」鄂州柳中丞」書「閣下其亦憐而察之」」

れん-ざん（名）［連山］ツラナル山山。杜甫、秋野詩「遠岸秋沙白、連山晚照紅」

れん-し（名）連枝（一）ツラナル枝。梁、

簡文帝詩「江南蓮花開、紅光覆碧水、色同心復同、藕異心無異」〔一〕「枝ヲツラネテ、本ヲ同ジウスルノ意」同胞ノ兄弟。（貴人ニ云フ）ツラナルエダ。蘇武詩「骨肉緣枝葉、結交亦相因、四海皆兄弟、誰爲行路人、況我連枝樹、與子同一身」保元物語、三、「一院ト御連枝ナリ」太平記、三十六、仁木京兆參南方事「主上、上皇御連枝ノ兄弟ナレバ、散散ニ成テ、云云」盛衰記、八十五、第八十七條「兩貴ノ兄弟ヲ連枝トイフゾ、歌ニつらなりし枝トヨメリ」（三）眞宗ニテ、法主ノ一族ノ稱。眞宗故實傳來抄、下「今連枝ニ御ざアリ、御門主ノ御子ヲ連枝ト名ヅケ、其御子ヲ門主ノ御子トシ給フヲ、准連枝ト云フ」

れん-し（名）［廉士］淸廉ナル士。莊子、天運篇「衆人重」利、廉士重」名、賢士尙」志、聖人貴」精」」

れん-じ（名）［連辭］論理學ノ語。命題ノ主辭ト賓辭トノ連絡ヲアラハス語。例ヘバ「鯨ハ獸ナリ」「鯨ハ魚ニアラズ」ノ「ナリ」「アラズ」ノ如キ是レナリ。繫辭。

れん-じ（名）［連字］（一）同ジ文字ヲツラヌルコト。例ヘバ、野野、寂寂ノ如シ。（二）熟字ノコト。

〰れん-じ（名）［欞子］〔欞ハ欞ニ同ジ、正音、れい、音便ニ、れんト云フ〕又、れにじ、窓ニ設ケタル格子。古制ナルハ、細ソキ材ヲ横ニ少シ透間アルヤウニ並ブルナリ。宇津保物語、樓上、下「れんじスベキトコロニハ、白ク、靑ク、黃ナル木ノ沈ヲモチテ、イロイロニ造ラセ給フ」古事談、二「南殿中門ノ連子」

れん-しう（名）［練修］ネリヲサムルコト。サラヒカヘスコト。

れん-じつ（副）［連日］日日續キテ。日日每日。後漢書、王符傳「晝日連日、暮夜不休」（注）「連日累月、連日瞻視」

れんじ-の-まひ（名）［伶人の舞ノ略轉カ］觀「一頭如鬼拉、遊時久方芳林露、連日瞻望」

トスノ[illegible]スルコト。[illegible]

れん-じ[illegible]（名）[illegible] 學問、又ハ、技藝ヲ[illegible]ネナノフコト。ケイコスルコト。[illegible]

れん-じゃ（名）〔輦車〕轅ヲ腰ノアタリニ當テテ、手ニ持チテ牽ク車。テグルマ。輦輿。[illegible]十巻」注「輦車人挽行、以載兵器也」扶桑略記、廿三、裡書、寛平九年七月三日「丙子、卯二點、皇太子[illegible]

れん-じやう（名）〔連聲〕又、れんせい。他ノ聲ニ連レテ、發音ノカハルコト。即チ、ん（む）、及、つ（[illegible]便ニテ、促聲トナルモノ）、ぬ（音便ニテ、鼻聲トナルモノ）ノ三音ハ、其後聲ガ、下ニ來レル他ノ母韻、又ハ、半母韻（又、子韻）ト連ナリ合ヒテ、音轉シテ、一種、異ナル聲トナル。例ヘバ、ぜんあく（善惡）ノぜんなくトナリ、えんいん（延引）ノえんにんトナリ、うんうん（云云）ノうんぬんトナリ、いんえん（因緣）ノいんねんトナリ、あんをん（安穩）ノあんのんトナリ、ほついい（發意）ノほっちトナリ、けつえき（闕腋）ノけってきトナリ、ぜつおん（舌音）ノぜっとんトナルガ如シ。[illegible]「文字ノ四隅ニ濁點ヲ付ルコトハ、法家ノ點圖ニモ[illegible]メナリ。訓點復古、上「連聲并音便」

れん-じやう（名）〔戀情〕コヒ慕フ情。戀シト思フ心。コヒゴコロ。王粲詩「征夫[illegible]」

れん-じやう-の-たま（名）〔連城璧〕〔連城[illegible]〕ハ多ク[illegible]ノ趙ノ惠王ノ、楚ノ和氏ヨリ得テ藏セル名玉ノ名。秦ノ昭王ノ十五城ヲ以テ易ヘムコトヲ請ヒシヨリ名アリ。[illegible]

れん-じやく（名）〔連借〕連名ニテ物ヲ借ルコト。連帶借用。

れんし

れん-じやく（名）〔連尺〕〔連索〕〔連着カトモ云フ〕（一）物ヲ負フニ用ヰル具。二片ノ板ニ繩ヲ架ケ、背ニ付ク。又、麻縄ナドニテ、肩ノ當ル處ヲ、幅廣ク組ミテ作リタル荷繩。[illegible]（二）れんぢやく（連着）ノ條ノ（二）ニ同ジ。[illegible]「[illegible]れんじやくアキナヒシテ居ケル者アリ」

れん-じやく（名）〔連雀〕古名、カラスズミ。燕雀類ノ小禽、山中ニ棲ミ、冬、春、羣リ來ル。雀ヨリ稍大キク、もず（百舌鳥）ヨリ小サク、全身、灰紅色ニシテ、首ニ冠毛アリ。嘴、黑ク、尾モ黑クシテ、末ハ深紅ナリ。兩翼ハ、風切ノ色、黑クシテ、末ハ深紅ニ、端ハ白シ。コレヲ緋連雀ト云フ。十二紅。又、形、稍、大キクシテ、風切ノ末、黃白深紅[illegible]、尾ノ端ノ黃ナルアリ。コレヲ黃連雀ト云フ。十二黃。倭名抄、十八、羽族名「連雀、[illegible]雀也、時時[illegible]云云、雀之[illegible]也」

れん-じやく（名）〔[illegible]〕ふうてう（風鳥）ノ小ナルモノ。其條ヲ見ヨ。重修本草綱目、[illegible]三十三、林禽[illegible]云云」

れん-じゆ（名）〔連珠〕〔聯珠〕（一）タマヲツラヌルコト。又、ツナギツラネタルタマ。宋書、符瑞志「日月如合璧、五星如[illegible]」

れんし

[illegible]、文[illegible]、讀論、假託ヲ主トスル一種ノ文體。[illegible]

（二）ごもくならべ（五目並）ニ同ジ。

れん-じゆつ（名）〔憐恤〕〔憐卹〕〔恤ハ貧者ヲ賑ハス義、卹ハ恤ニ同ジ〕アハレミヲカケテ物ヲメグムコト。

れん-じよ（名）〔連署〕數人相連レテ姓名ヲ記スコト。連名。官府ノ文書ナドニ[illegible]シテ、強ニ與力ヲ衆徒ニ乞」

れん-じよう（名）〔連勝〕シキリニカツコト。ウチツヅクルコト。[illegible]

レンズ（名）〔英語、Lens.〕兩面トモ球面、又ハ、一面ハ球面ニシテ一面ハ平面ナル透明體ヲ云フ。普通ノハ硝子ヲトギ磨キテ作ル。中央ノ厚キヲ凸れんぜト云ヒ、其薄キヲ凹れんぜト云フ。共ニ光線ヲ屈折セシメテ、前者ハ之ヲ集メ、後者ハ之ヲ發散ス。眼鏡、光學器械ナドヲ造ルニ用ヰル。

れん-ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（自動、左變）〔練〕熟練ス。馴レテ居ル。書言、[illegible]「八日、[illegible]師」傳「[illegible]師、所」任必良、士卒必練」源、四十八、寄生「[illegible]すりなー、れんハこゝろ心十[illegible]ハ、ニヤ、我カタメ、人ノタメモ、心ヤスカルマジキコトヲ、云云」

れん-せい（名）〔連聲〕（一）聲ニ連ルルコト。（二）れんじやう（連聲）ニ同ジ。

れん-せつ（名）〔廉節〕清廉ナルミサヲ。潔白ナル節操。節廉。荀子、君道篇「[illegible]利者退、而廉節者起」

れんせ

れん-せん（名）〔[illegible]〕[illegible]

れん-せん（名）〔連錢〕模樣ノ名。錢ガタヲ並ベタルモノ。又、ソノ形ノ紋。大石[illegible]

れん-ぜん（名）〔連[illegible]〕[illegible]ノ[illegible]ナル[illegible]

れん-ぜん-あしげ（名）〔連錢葦毛〕〔連錢トハ、其斑ノ圓紋相ツラナルコト、大イナル錢ノ如クナレバ云フ〕馬ノ葦毛ニ、淺濃ノ灰色ノ圓キ斑アルモノ。又、葦毛馬ノ、年ヲ積ムニシタガヒテ、漸々ニ圓キ斑ノ、肩、尻ナドニ出テ來ルモノ。連錢驄。倭名抄、十一、牛馬毛「色有[illegible]淺斑駁[illegible]」[illegible]六條判官爲義、云云、連錢葦毛ナル馬ニ、[illegible]

れん-せん-さう（名）〔連錢草〕又、ツボクサ。かきどほし（垣通）ノ漢名。[illegible]

れん-ぞく（名）〔連續〕引キツヅクコト。長ク絕エヌコト。[illegible]「[illegible]夜之恆長[illegible]ヲ上リケレドモ、云云」

れん-たい（名）〔連帶〕〔聯帶〕ツラナルコト。ツヅキテハナレヌコト。潘岳、冊魏公九[illegible]

れん-たい（名）〔聯隊〕軍隊ノ編制上ノ名。普通ハ二箇、若シクハ、三箇大隊ヨリ成リ、聯隊長ハ大佐、又ハ、中佐ノ指揮下ニアル一團ノ軍隊。

れんた

れん-だい（名）［簾臺］（一）前方ニ御簾ヲ懸ケオク上段ノ座敷。江家次第、正月、元日宴會「身屋ニ北行構ニ簾臺ニ」（二）貴人ノ他行ノ時、又ハ、婚禮、際、床飾ニ用ヰル衝立。古事談、一「上前ニ宮御座在所、其間立…屏風、…」

れん-だい（名）［輦臺・連臺］昔、川ヲ渡ルトキ、人ヲ載スルモノ。板ニ棒二本ヲツケテ擔フ。諸國道中袖鏡「大井川、云云、川越大勢カカリテ、れんだいニテ越モアリ、水ノ多少ニヨルユヱ、川越ノチンセン定ラズ」、「輦臺渡シ」

れん-だい（名）蓮臺。ハチスノウテナ。蓮華座。華臺。往生要集、上、本「信ニ知草庵暇目之間、便是蓮臺結跏之程」枕草子、五、第五十段「九品蓮臺ノ中ニハ、下品トイフトモ、云云」

れんたい-き（名）［聯隊旗］陸軍ノ步兵、騎兵ノ軍隊ニ限リ、其聯隊ヲ表示スル軍旗。天皇ヨリ聯隊長ニ親授セラル。

れんたい-げん（名）［連體言］語學ノ語。用言ノ活用ノ、體言ニツラナルベキモノ。連體形ノ語。

れん-たう（名）［鸞刀］［說文「鸞、臞也、一曰、切肉鸞也」（段氏、作ニ一曰、切肉也ニ）］らんたう（鸞刀）ノ條ヲ見ヨ。

れん-だう（名）［輦道］（一）鳳輦ノ通行スル道。車駕ノ通路。輦路。馳道 史記、孝武紀「乃立神明臺、井幹樓度五十餘丈、輦道相屬焉」（二）宮城內ノ道 司馬相如、上林賦「高廊四注、重坐曲閣、華榱璧璫、輦道纚屬」

れん-たつ（名）［練達］事ニ熟練シテ、通達シ居ルコト。白居易、李宗河滑南合制「宗河學古修己、練達道理」「練達ノ士」

れん-たん（名）［煉丹 鍊丹］（一）古ヘ、支那ニテ、道士ナドガ、仙術ヲ以テ丹砂ヲ煉リ、不老不死ト云フ藥ヲ造ルコト。晉書、葛洪傳「號曰葛仙公、以其鍊丹祕術授弟子鄭隱」（二）ネリグスリ。煉藥。（三）靈氣ヲ丹田（臍下三寸ノ所）ニ畜ヘネルコト。又、ソノ修養。

れん-たん（名）［煉炭］石炭ノ粉末ヲ煉リ固メタルモノ。石炭ノ代用トス。

れん-ち（名）［廉恥］［廉ハ、清潔ノ義］心潔クシテ恥ノ感情ノ強キコト。廉潔ニシテ羞恥ノ心アルコト。荀子、榮辱篇「爭ニ飲食、無ニ廉恥」續紀、廿二、天平寶字三年六月「竊見ニ內外官人景迹、曾無ニ廉恥、志在ニ貪盜ニ」

れん-ちゃく（名）［戀着］戀ヒ慕フコト。深クホレコムコト。法華經、譬喩品「諸子幼稚、未レ有レ所レ識、戀ニ着戲處ニ」

れん-ぢゃく（名）［連着］［當字ニテ、連翦、又ハ、連雀トモ書ク］（一）馬ノ鞦ニ、絲ノ總ヲ數多ツラネ着クルコト、又、ソノモノ。今ハ、總鞦（其條ヲ見ヨ）ト云フ。レンヂャクノシリガイ。字類抄「連着、レンチャク、鞦具也」太平記、三十九、芳賀兵衞入道軍事「黑鵇毛ナル馬ニ、連翦ノ鞦懸ケタルハ」（二）連着商ノ略。物ヲ負ヒテ步ク商人。又、物ヲ荷ヒテ賣リ步ク商人。誤リテ、れんざく。嬉遊笑覽、十一、商賈「物ヲ背負フ具ヲれんぢゃくトイフ、云云、れんざくハ假字タガヘリ、スベテ何ニヨラズ、負ヒ又ハ荷ヒテアリク商人ヲ、れんぢゃくトイヒシ事見エタリ」

れんぢゃく-の-しりがい（名）［連着鞦］前條ノ語ノ（一）ヲ見ヨ。

れん-ちゅう（名）［簾中］（一）スダレノウチ。簾內。葛長庚、水村霧詩「起從ニ水面ニ峯戀ニ、恍似ニ簾中見ニ畫屛ニ」著聞集、六、管絃歌舞「備前命婦、簾中ニテ箏ヲ彈ジケル」（二）簾ノ內ニ居ル婦人方。盛衰記、十二、師長熱田社琵琶事「琵琶、云云、簾中、堂上、目ヲアヤニシテ、如何ナル祕曲ヲカ彈ジ給ハンズラント被レ思ケルニ、云云」（三）公卿、大名ノ室ノ尊稱。…「御簾中、…、…御簾…、…ト申候、御…以後、御簾中ト唱」

れん-ぢゅう（名）［連中］［連衆ノ義］ツレ。ナカマ。クミ。夥伴 伴侶 七偏人（梅亭金鵞作）二編、中「隱居ヲ…ギノボルニ、例ノれんぢう、用意ノ酒ヲ飲ミ始メ、云云」

れんちゅう-いりたち（名）［簾中入立］（一）古ヘ、男子ニシテ、禁中ノ臺盤所ニ出入スルヲ許サルルコト。又、ソノ人。略シテ、いりたち。禁秘御抄、階下、中、臺盤所「以…之人…稱…入立、…簾中入立也」（二）古ヘ、男官ニテ、敕許ヲ得テ、禁中ニ入リテ女房ト同席スルコト。

れん-ちょく（名）［廉直］（一）正直潔白ナルコト。禮記、樂記篇「廉直勁正、莊誠之音作、而民肅敬」十訓抄、中、第六、第廿九條「廉直ト云フハ、云云、スベテ直シキヲ宗トシテ、マガレル心ナキナリ」（二）價ノ安キコト。又、ヤスキアタヒ。ヤスネ。安價。安値。廉價。春渚紀聞（宋、何遠）「就ニ廉直ニ取ニ此馬ニ以代ニ步ニ」

れん-ど（名）［輦戶］ひらきど（開戶）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。明月記、元久元年十一月八日「蹴戶ノ引開、輦戶ハ立ニ通寄西內作簡二」

れん-とび（名）［連飛 蓮飛］輕業ノ一種。又、輕業ノ人形トモ云フ。雍州府志、八、古蹟門、上、芝居「移今四條河原、云云、傀儡之外、雲舞、幻術、連飛、輪脫、蜘小插、水操、云云、是近世之流風也」京都御役所向大概覺書、一、京四條芝居問數幷名代之事「れんとび、唐人與左衞門、云云」嬉遊笑覽、五、歌舞「連飛、或ハ蓮飛トモ書リ、イツレカ擇ヘガタシ、落陽集（延寶中、俳書）ニ、輕藝ハ蓮ノ實ヨリモ事起レリ、云云、又、小兒ノ…ニモ、…ト云フ、…ト…、…ノ…トリテ、れんとび買シトアリ、輕ワザ人形ニヤ」

れん-にう（名）［煉乳］又、れんにゅう。こんでんえみるく（煉乳）ニ同ジ。

レン-ニャ（名）［練若］［梵語、Āranya.（阿練若）ノ略］らんにゃ（蘭若）ニ同ジ。菅家…集、二、…寺ノ…ニ…シメ…、…帝利フノゾム…太平記、廿四、依山門嗷訴公卿僉議事「北ニハ城中ニ練若アリ、數十ノ堂塔甍ヲ雙ベ」

れん-ねん（副）連年。年年續キテ。毎年。後漢書、馮衍傳「臣幸得侍帷幄、執…連年、而知…淺、無…以補…萬分」文…中、…人詩「皇城一去關山遠、閭閻連年音信稀」

れん-ぱい（名）［廉賣］ヤスウリスルコト。

れん-ぱい（名）［連敗］シキリニヤブルルコト。マケツヅクルコト。

れん-ぱい（名）［連俳］（一）連歌ト、俳諧ト。又、連歌ト、俳句ト。新可笑記（元祿、西鶴）二「總ジテ連俳、立花、ヒトリ狂言、カヤウノ類ハ銘銘ノ自慢」（二）俳諧ノつけあひ。（つけあひノ條ヲ參見セヨ）和漢文操、三、連歌之俳諧トモ、或ハ俳諧之連歌トモ、云云、連歌ノ情ノハコビヲナラヒ、コレヨリ俳諧ノ姿ノウツリヲ傳ヘテ、連俳一座ノ附合アランニハ、云云」

れん-ぱう（名）［聯邦］憲法、又ハ、條約ニヨリ、數國合シテ、一國ヲ組成シ、主權ヲ有スルモノ。

れん-ぱつ（名）［連發］（一）ツヅケテ放ツコト。ツルベウチ。北史、崔彭傳「彭連發數矢、皆應弦而落、突厥莫不歡服」（二）繼續シテ起ルコト。漢書、弘恭傳「拜讓州刺史、云云、而廣川王國、羣輩不道、賊連發不得」

れん-ばん（名）［連判］數人連名シテ判ヲ

押スコト。連印。家中竹馬記、連判與裏判事[illegible]「云云、[illegible]ト云ハ、裏ヨリスカシ見レバ、文ノ端ノ方也」

れんばんちゃう（名）[連判帳] 事ノ由ヲ、書物ニ記シテ、連判シタルモノ

れんびん（名）[憐憫] れんみん（憐愍）ニ同ジ [illegible] 師之人ハ賢其乏食」

れんぶ（名）[練武] 武藝ヲネルコト。續後紀、一、天長十年四月「大長元年有[illegible]五月五日[illegible]太后[illegible]之日[illegible]也、[illegible]不可[illegible]所以改用四月廿七日」

れんぷ（名）[蓮府] 〔南史、庾杲之傳ニ、王儉、云云、用杲之爲衞將軍長史、安陸侯蕭緬與儉書曰、盛府元僚、實難其選、庾景行、杲之ノ字汎綠水依芙蓉、何其麗也、時人以入儉府爲蓮花池ニトアルニ基ヅク〕大臣ノヤシキ。又、大臣ノ異名（想夫憐（サウフレン）ノ條ヲモ見ヨ）[illegible]

れんぺい（名）連袂聯袂 タモトヲツラヌルコト 相伴フコト [illegible]

れんぺい（名）[練兵] てうれん（調練）ニ同ジ [illegible]

れんぼ（名）[戀慕]（一）コヒシタフコト。[illegible]

[illegible]小唄ノ名 [illegible]「タベタベニ身ハ淺草ノ、露ヲ踏ミ分ケアノ吉原ニ、シドロモドロト君故タドル、れんぼ、レレレツレ」

れんぽ（名）[蓮步]〔南史、齊廢帝東昏侯紀、鑿金爲蓮華、以帖地、令潘妃行ニ其上、曰、此步步生蓮華也ノ故事ニ基ヅキテ云フ語〕美人ノシナヤカナルアユミ方ノ美稱 金蓮步 [illegible]

れんぽ（名）[練步] 古ヘ、節會ノ時ノ作法トシテ、内辨ナドノ、足ヲ一所ニ踏ミ定メソソ步ミシコト [illegible]

れんぽう（名）[連峯] ツラナレルミネ。

れんぽながし（名）[戀慕流]〔又、鈴菩挑（レイボナガシ）ト書ス〕虛無僧ノ尺八ノ曲名。本曲十八曲アリト。

れんま（名）[鍊磨] ネリミガクコト。手慣レテ巧ニナルコト。熟練

れんみん（名）[憐愍] アハレムコト。不愍ニ思フコト 憐憫 [illegible]「如來憐愍衆生、爲設方便」[illegible]

れんみゃう（名）[連名] 又、れんめい。姓名ヲツラネ記スコト。連署

れんめい（名）[連名] 前條ノ語ニ同ジ。[illegible]

れんめい（名）[連盟 聯盟] どうめい（同盟）ニ同ジ [illegible]

れんめん（副）[連綿 連緜] ツヅキテ絕エ

[illegible]

れんもん（名）[蓮門]〔蓮邦、卽チ、極樂淨土ヘ往生セムコトヲ願求スル宗門ノ義〕佛敎ノ語。ぢやうどしゅう（淨土宗）ノ異稱。蓮門小淸規、下「蓮門銘文、幷引、云云、[illegible]」

れんや（副）[連夜] マイバン。每夜。[illegible]

れんよ（名）[輦輿] れんしゃ（輦車）ニ同ジ。[illegible]

れんようげん（名）[連用言] 語學ノ語。用言ノ活用ノ、他ノ用言ニツヅクナルベキモノ、連用形ノ語

れんらく（名）[連絡 聯絡] ツヅクコト ツラナルコト。又、互ニ相關連スルコト。[illegible]「萬狀不可名、起伏互連絡」

れんらくくゎんびんのがく（名）[濂洛關閩學]〔濂溪ハ周茂叔ノ鄕里、洛陽ハ程明道、程伊川兄弟ノ故鄕、關中ハ張横渠、閩中ハ朱熹ノ鄕地ナレバ云フ〕そうがく（宋學）ニ同ジ。

れんり（名）[廉吏] 廉直ナル官吏 [illegible]

れんり（名）[連理]（一）樹ノ枝ノ、又ト（マタ）ナレルモノ [illegible] 華之外、槐樹二枝、連理而生、二幹一心、以蕃根本」（二）男女ノ契（チギリ）ノ深キニ譬フル語 [illegible]記、四、[illegible]事 夫人連理ノ御契、可久遠トナルヘシ」

れんりつ（名）[聯立] ツラナリ立ツコト。ナラビ立ツコト。

れんりのえだ（名）[連理枝] ひよくれんり [illegible]トナラント、天ノ河ノ星ヲサシテ、云云」

れんるゐ（名）[連累] れんざ（連坐）ノ（二）ニ同ジ。

れんれん（副）[連連] ヒキツヅキテ。[illegible]

れんれん（副）[漣漣] 涙ノ、キハマリナク出ヅル狀ニ云フ語 [illegible]

れんれん（副）[戀戀] 切ニコヒシタフ狀ニ云フ語。史記、范雎傳「公之所以得無死者、以綈袍戀戀、有故人之意[illegible]」

れんれん（副）[瀲瀲] 小波ノ起ル狀ニ云フ語 [illegible]

れんろ（名）[輦路] れんだう（輦道）ニ同シ [illegible]

れんろ（名）[輦輅]〔釋名「天子所乘曰輅」〕王輅、[illegible]也 天子御乘用ノ車 [illegible] 太平記、十一、還幸事「[illegible]ノ次ニ一勢一勢引分テ、[illegible]輅ヲ中ニシテ、シヅカニ小路ヲ打タリ」

レモン（名）[檸檬]〔英語、Lemon.〕香櫞ノ類、[illegible] 東南亞細亞地方ノ原産ニテ、[illegible]尖リ、鋸齒アリ、互生ス。花ハ白色五瓣ニシテ柑子

ノ花ニ似、果實ハ橢圓形黄色ニシテ、芳香アリ。西洋ヨリ其果ヲ舶來ス。其汁ヲ砂糖ト和シテ飲ムヲ、れもねえどト云ヒ、果皮ヨリ油ヲ採ル

れろ-れろ (名) 〔三國志、魏志、張遼傳ニ、遼[illegible]力過レ人、云云、數有二戰功一、遷[illegible]、上「張遼止レ啼」ノ舊注ニ曰ク、「江東小兒啼恐レ之ニ曰、遼來遼來、無二不レ止者一」ト アルト同類ノ語ナリ〕 舌ニテ、上唇ヲ撫デ彈クコト。べろべろニ同ジ。 牛馬問、一「嬰兒ヲ愛シ、舌ヲ鳴ラシテ、れろれろト云フ」

ろ

ろ 五十音圖、良行(ラギャウ)、第五ノ假名。らノ條ヲ見ヨ。

ろ (名) 【爐】 床ヲ穿チテ火ヲ置ク處。煮燒ノ用トシ、又、暖ヲ取ル。ヰロリ。ヰルリ 〔[illegible]除夕詩「守レ爐消二夜興一、停レ燭待二春風一」[illegible]爐ニハ、南蠻ノ紫ヲ焚ク」〕

ろ (名) 瘻 〔說文「瘻、頸腫也」〕 頸ノ邊ニ出ヅル腫物。るいれきニ同ジ。 倭名抄、三「瘻、[illegible]、頸腫也、瘻ハ頸下ノ瘤ナリ」

ろ (名) 絽 〔羅ノ轉カト云フ〕 古言、ウスハタ。ウスモノ。絹地ノ織物。緯絲數本ヲ平織トシ、次ニ經絲ノ一部ヲ互ニ捩マセ、極メテ薄クシテ、織目ニ、細ソク隙ヲナス。夏ノ衣ナドトス。羅 〔[illegible]記「絹、六丈物、八丈モノ等、云云」〕

ろ (名) 廬 〔集韻「廬、粗屋總名」〕 イホリ。イホ。カリヤ。粗末ナル小屋。草庵。 〔[illegible]〕

ろ (名) 【艣・艪・櫓】 (一)櫂ノ類。古ヘノ舟ノ櫂ニ、大小ノ別アルモノニヤ、詳ナラズ。字音ニテ云フナレバ、後ノモノナルベシ。(二)後ノ轉ニテ、艪。又ハ、船ノ傍ニアリ、一丈許リノ長キ樫ノ材ニテ作ル。中程ニ穴アリ、艪臍(ロベソ)ニ嵌メテ、上端ヲ艪繩ニテ舟床ニ繫ギ、押セバ、下端ニテ水ヲ撥シ舟ヲ進ム。其唐風ニテ上品ナルヲ、唐艪ト云フ 〔南史、呂僧珍傳[illegible] 倭名抄、十一「舟具、[illegible]」 枕草子、十二、第百四十八段「舟、云云、モロ共ニろト云フ物押シテ、歌ヲイミジウウタヒタル」 源順集「ろモ楫モ、舟モ通ハヌ、天ノ川、タナバタ渡ル、程ヤ幾尋」〕

ろ (名) 【驢】 〔正字通「驢、長頰額修、尾有二褐白黑三色一、以二午及五更一初而鳴、協二漏刻一」〕 ろば(驢馬)ニ同ジ。

ろ (辭) 東國ニテ、動詞ノ命令形ニ添フル語。 塵袋、十「阪東ノ人ノコトバノスヱニ、ろノ字ヲツクルコトアリ、[illegible]セろト云フ」 萬葉集、廿[illegible]、旅ノマル寢ノ、紐タエハ、我ガ手トツケ呂、コレノ針持シ[illegible]ろ」

ろ (接尾) (一)親愛ノ意アリテ、言語ノ下ニ添フル語。嶺(ネ)ろ、尾(ヲ)ろ、兒(コ)ろ、ナドノ類。(二)意味ナク、語調ノタメニ添ノル語。 古事記、下、雄略「日下江ノ、入江ノハチス、花ハチス、身ノ盛リ人、羨(トモ)シキ呂カモ」

ろ-あし (名) 【艪脚】 (一)艪ヲ漕グ時、艪ノ水中ニツカリタル部分。(二)艪ヲ漕ギ行キタル後ニ、波ノ搖ク痕(アト)。

ろ-いろ (名) 蠟色 〔らふいろノ約轉〕 ろいろぬり(蠟色塗)ノ略。漆器製作上ノ一工程 蠟色漆ニテ塗リ上ゲ、其上ヲかしを炭(縹木ノ條ヲ見ヨ)、及、角粉(鹿角ヲ燒キテ粉トセルモノ)ニテ研ギテ、光リヲ出セルモノ。ロヌリ。

ろいろ-うるし (名) 蠟色漆 蠟色塗ニ用ヰル漆汁。生漆ニ少シモ油類ヲ加ヘズシテ、精製シタルモノ、黑色ヲ帶ビシムルタメ、適宜、水酸化鐵ヲ加フ

ろいろ-ぬり (名) 【蠟色塗】 略シテ、蠟色。前前條ノ語ヲ見ヨ。

ろう (名) 【婁】 二十八宿ノ一。タタラ。西方ニアルモノ。 史記、天官書[illegible] 「天文門、婁、二十八宿、云云、婁、タタラボシ、ロウ」

ろう (名) 【隴】 (一)小高キ丘。 孔稚圭、北山移文「鳴騶入レ谷、鶴書赴レ隴」 (二)支那ノ古ヘノ地名。今ノ甘肅省、隴西縣ノ地トハ、隴ヲ得テ蜀(今ノ四川省)ヲ望ムトハ、貪リテ飽クコトナキヲ云フ語。又、隴ヲ平ゲ、蜀ヲ望ムトモ云フ 後漢書、岑彭傳「敕二彭書一曰、兩城若下、便可下將レ兵南擊中蜀虜上、人苦レ不レ知レ足、既平レ隴、復望レ蜀」 李白、古風[illegible]

ろう (名) 【陋】 イヤシキコト。鄙劣ナルコト。又、見ニクキコト 論語、子罕篇「子欲レ居二九夷一、或曰、陋如レ之何、子曰、君子居レ之、何陋之有」 唐書、盧杞傳「杞有二口才一、體陋甚、鬼貌藍色、不レ恥二惡衣一」「其心實ニ陋ナリトス」

ろう (名) 【籠】 らう(牢)ト云フニ同ジ。ヒトヤ。籠舍。獄舍。 太平記、十三、兵部卿宮薨御事「宮ノ坐(マシ)マシケル籠ノ御所ヘ參タレバ」

ろう (名) 【樓】 (一)〔タカドノ。二階ノ屋〕 倭名抄、十「居宅類、樓、太加止乃、一云、[illegible]」 宇津保物語、樓上、下[illegible]ナリ」「樓ニ登ル」 (二)城ノモノミヤグラ、[illegible]

ろう 漏 〔說文「漏、以レ銅受レ水、刻[illegible]」〕 ろうこく(漏刻)ノ略。其條ヲ見ヨ。 [illegible]

ろう-あ (名) 聾啞 [illegible] いんあ(暗啞)ニ同ジ

ろう-えい (名) 【漏洩】 (一)水ナドノモルコト。又、水ナドヲモラスコト [illegible] (二)密事ヲモラスコト。又、密事ノモルルコト [illegible]

ろう-おく (名) 【陋屋】 セマキ家。イブセキ家。ムサクルシキ家屋。イブセキ小屋。又、自分ノ家ノ謙稱。 [illegible]

ろう-かう (名) 【陋巷】 セマキチマタ。イブセキチマタ。ムサクルシキ町。 論語、雍也篇「賢哉回也、一簞食、一瓢飲、在二陋巷一、人不レ堪二其憂一、回也不レ改二其樂一、賢哉回也」

ろう-かく (名) 【樓閣】 タカドノ。モノミ臺。樓臺。樓榭。 杜牧、念二昔遊一詩「李白題レ詩水西寺、古木回レ巖樓閣風」 太平記、三十七、楊國忠事「中ニ五城ヲ峙テ十二ノ樓閣アリ」

ろう-ぎ (名) 【螻蟻】 (一)けらト、ありト。 莊子、列御寇篇「在レ上爲二烏鳶食一、在レ下爲二螻蟻食一」 (二)轉ジテ、ツマラヌ者ナド、謙遜ノ意ヘテ云フ語。 史記、伍子胥傳[illegible]

ろう-ぎん (名) 朧銀 又、おぼろぎん。しぶいち(四分一)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

ろうき、[illegible]

ろうき [illegible] ルコト。又、二階ズマヒ。杜甫、收京詩 [illegible]

ろうく [illegible] 背也、[illegible] 又、くる。せむし(傴僂)ニ同ジ。

ろうくゎ (名) [illegible] 花 花介ヲ行フコト [illegible] 花化ヲ[illegible]コト

ろうぐゎ (名) 弄瓦 〔瓦ヲ與ヘテ、オモチャニセシムル義、詩經、小雅、祈父之什、斯干「乃生女子、載寢之地、載衣之裼、載弄之瓦」毛傳「瓦、紡塼也」トアルヨリ出ヅ〕女子ノ生ルルコト。(弄璋ニ對ス)「弄瓦ノ慶」

ろうぐゎん (名) 弄丸 丸ヲ手ニトリテ、種種ニモテアソブコト。又、ソノ技藝。シナダマ。タマトリ。莊子、徐無鬼篇「市南宜僚弄丸、而兩家之難解」字類抄「弄丸」

ろうけつ (名) 樓闕 說文「闕、門觀也」徐注「中央闕而爲道、故謂之闕」[illegible] ノアル門。樓門。[illegible]

ろうげつ (名) 朧月 オボロヅキ。澹月。[illegible]「暗ヲ晴レヤラヌ、朧月ノ薄曇リ」

ろうげつ (名) 弄月 月ヲ眺メテタノシムコト。宋史、周敦頤傳「頤之言曰、自再見周茂叔、[illegible]」[illegible]

[illegible]

ろうけん (名) 陋見 イヤシキ意見。[illegible] 云フ。卑見。鄙見。鄙懷。

ろうこ (名) 螻蛄 けら(螻)ニ同ジ。[illegible]

ろうこく [illegible] 謂之鏤、木謂之刻」〕(一)金、又ハ木ニ、文字、繪畫、ナドヲエリキザムコト。[illegible] (二)轉シテ、文章ヲ推敲、修飾スルコト。[illegible]

ろうこく (名) 漏刻漏尅 〔ろう(漏)ノ條ノ語原ヲ見ヨ。又、ろこく、略シテ、ろう。〕ミヅドケイ。古へ、時ヲ測ル器。銅壺アリ、漏壺ト云フ、蓋ニ孔アリ、箭ヲ挿シ立ツ、漏箭ト云フ、箭ノ幹ニ四十八ノ刻ミアリ、是レ漏刻(時刻)ナリ。其水扱、他壺ヨリ、水、漏リ滴リテ入リ、其刻ノ溜ルニ隨ヒテ、箭、次第ニ上リテ、刻ミ見ハル。一晝夜、四十八刻ニシテ、一時ヲ四刻トス、一時ノ初刻ヲ一刻、又ハ、一點ト呼ビ、以下次第ニ、二點、三點ナド呼ブ。或ハコレヲ、ひとつ、ふたつ、みつ、トモ云フ。例ヘバ、「寅の一點」午の二點」子一つ」丑三つ」ノ如シ。別ニ、夜漏アリ、一夜ヲ、戌、亥、子、丑、寅、ノ五更トシ、一更ヲ、五刻、又ハ、五點トス。鼓ヲ撃ツ、[illegible]九(陽ノ陽數)ニ始マリ、時每ニ相倍シテ撃ツ。後世、子、午、ノ時ヲ、九つ、ト云ヒ、丑、未ヲ、八つ、寅、申ヲ、七つ、卯、酉ヲ、六つ、辰、戌ヲ、五つ、巳、亥ヲ、四つ、ト云フハ、九ヲ相倍シ、二九、十八、三九、二十七ナルヲ、各、十ノ位ヲ[illegible] 三代 [illegible]

ろうこくはかせ (名) 漏刻博士 古へ、陰陽寮ノ官。トキモリノハカセ。守辰丁ヲ率ヰ、漏刻ノ節ヲ伺ヒ、時ニ鼓ヲ撃チ、刻ニ鐘ヲ撃タシム。(前條ノ語ヲモ見ヨ) 官位令「從七位、云云、漏刻博士」[illegible]

ろうさいぶし (名) [illegible]節 〔[illegible]ニ、ろうさい始メシモノト云フ。[illegible]いハ[illegible]ニテ、流行病ノ名、此唄ヲ聞ケバ、[illegible]ニマサルノ義ト、蓋シ[illegible]流行ノ際ニ、此唄起リシ故ノ名ナラムカ〕略シテ、弄齋。元和、寛永頃ニ流行セシ小唄ノ節ノ名。隆達節ニ次ギテ、小唄中、最モ古クシテ、當時大イニ流行セリ。「異本洞房語園「郎細」昔昔物語「籠齋」我衣「朗齋」嬉遊笑覽「弄齋」トアリ」唄ノ文ハヤリタシ、我ガ身ハ書カズ、物ヲ云ヘカシ、白紙ガ」(小歌惣まくり所載)

ろうさう (名) 綠衫 〔字ノ音、ろくさんノ音便〕又、ろくさん。古へ、六位ノ官人ノ着ル綠色ナル袍。(深綠ナリ) ロウサウノウヘノキヌ。字類抄「綠衫、ロクサウ、ロウサウ」伊勢物語、第四十一段「イト淸ラナルろうさうの袍ヲ、云云」榮花物語、三十一、殿上花見「綠衫ノ袍[illegible]ニ、金シテ[illegible]カキタルニ、[illegible]ヲ着タリ」裝束雜事抄、[illegible]下袍事「六位袍、綠衫、[illegible]

[illegible]ヲ[illegible]ニ[illegible]タル物也」

ろうし (名) 鏤梓 〔梓ハあづさ、古へ、[illegible]〕書物ヲ木版ニ附スルコト。上梓。印行。

ろうしつ (名) 陋質 イヤシキ性質。下[illegible]

ろうしふ (名) 陋習 イヤシキナラハシ。

ろうしゃ (名) 聾者 耳ノキコエザル不具者。[illegible]

ろうしゃ (名) [illegible] 〔[illegible]〕用ヰルト云フ」牢ニ入ルルコト。又、[illegible]シコメテ[illegible]ル人。[illegible]「科人ノ事ニテ候間、ヤガテ籠者サセテ候」

ろうしゃ (名) 籠舍 (一)ろう[illegible]ニ同ジ。牢獄。ヒトヤ。獄屋。[illegible] (二)前條ノ語ニ同ジ。[illegible] 司代(浦上)籠舍ニ」

ろうしやう (名) 弄璋 〔璋、卽チ、圭ヲ半分ニシタル玉ノ笏ヲ與ヘテ、弄トスル義、詩經、小雅、祈父之什、斯干「乃生男子、載寢之牀、載衣之裳、載弄之璋」[illegible]〕男子ノ生ルルコト。(弄瓦ニ對ス) 太平記、十三、北山殿謀叛事「御産事故無シテ、云云、歡喜ノ眉ヲ開キ、弄璋ノ御慶、天下ニ聞エテ、云云」

ろうしやう (名) 樓上 タカドノノ上ノ[illegible]。又、タカドノノ上ノ[illegible]。[illegible]

ろう-じやう（名）［籠城］（一）城ニ楯籠リ守ルコト。城守。 圓太曆、觀應元年十月十七日「一色相憲上松浦黨井草野等ハ如ニ形籠城、將軍[illegible]參向」 （二）轉ジテ、家ニ籠リ居ルコト。

ろう-しゆく（名）婁宿 星座ノ名、二十八宿ノ一。婁 [illegible]（[illegible]本保季六、上、八月十五日、九月十三日ハ婁宿也、此宿、清明ナル故ニ、月ヲモテアソブニ良夜トス、云云」

ろう・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）［聾］ 聽覺ヲ失フ。つんぼニナル。ミミシフ。 宋書、[illegible]之[illegible]、不聾不癡、不成姑公」

ろうず（名） 商賣ノ賣物ノ損ジタルモノ。賣物ノコハレ。又、イツマデモ賣レヌモノ。ウレノコリ。青物屋ニテ、きずものヲずわみト云フ。 [illegible]貨「ろうずモノ」

ろう・ず・ズル・ズレ・セ・ジ・セヨ（他動、左變）［論］ ろんず（論）ノ音便 公任集「ソノ頃、すけただトモロ共ニ詠ミテ、劣リマサリヲろうじケル」

〔**ろう・ず**・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）［弄］ モテアソビス。アザケル。嘲弄ス。 蜻蛉日記、下、上「御喜ビナドオコスル人モ、カヘリテハろうずる心チシテ、ユメ嬉シカラズ」 源、十、[illegible]「殊ニ輕メろうぜラルルニコソ」

ろうず-もの（名） ロウズトナリタルモノ。ろうずノ條ヲ見ヨ。ナグレモノ。

ろう-せい（名）漏聲 水時計ノ水ノモル聲。 杜甫、奉和賈至舍人早朝大明宮詩「五夜漏聲催曉箭、九重春色醉仙桃」

ろう-せつ（名）漏泄 ろうえい（漏洩）ニ同ジ。 漢書、趙廣漢傳「[illegible]」

ろう-せん（名）［漏箭］ 水時計ノ箭。ろうこく（漏刻）ノ條ヲ見ヨ。 本朝續文粹、八、[illegible]「[illegible]也」

ろう-せん（名）［樓船］ 樓アル船。屋形船。 史記、平準書「治樓船、高十餘丈、旗幟加其上、甚壯」 台記、康治元年二月廿八日「法皇[illegible]樓船、[illegible]、於河中[illegible]雨注舟中」

ろう-たい（名）［陋態］ ミグルシキ姿。イヤシキサマ。醜狀。醜態。

ろう-だい（名）［樓臺］ （一）樓ト、臺ト。 史記、[illegible] 本朝麗藻、下、儀同三司「[illegible]樓臺在[illegible]」 （二）臺ノ上ニ屋根アルモノ。屋根アルタカドノ。（露臺ニ對ス）

ろう-だん（名）［壟斷］ （一）高キ丘ノ切レタルトコロ。（二）〔孟子、公孫丑、下篇「古之爲ν市也、云云、有ニ賤丈夫一焉、必求ニ龍斷一而登ν之、以左右望而罔ニ市利一、人皆以爲ν賤」（龍ハ壟ニ同ジ）ト云フ故事ニ因ル〕市利ノ獨占。ヒトリジメ。

ろう-てう（名）［籠鳥］ カゴノトリ。籠ノ中ニ飼ヒタル鳥。籠禽。轉ジテ、人ノ、身體ヲ拘束セラレテ、自由ニナラザルヲ譬ヘテ云フ語。 [illegible]「[illegible]」

ろう-でん（名）［漏電］ 電流ノ漏ルルコト。

ろう-と（名）［漏斗］ じやうご（漏斗）ニ同ジ。 三才圖會、[illegible]「漏斗鈞升、云云」

ロウ-ハ（名）［綠礬］ 〔字ノ唐音、ろくばんノ音便略〕鑛物ノ名。學名ハ硫酸第一鐵。人造モ多シ。明礬ニ似テ、淡綠色ナリ、染料、塗料、防腐劑、黑いんきノ製造原料トス。アヲミヤウバン。

ろう-ほ（名）［壟畝・壠畝・隴畝］ （一）ウネ。又、ハタケ。 戰國策、齊策「使曹沫釋其三尺之

劍、而操銚鎒、與農人居壟畝之中、則不若農夫」 （二）ヰナカ。田舍。又、民間。 史記、項羽紀「[illegible]起隴畝之中、三年遂將五諸侯」

ろう-まう（名）［聾盲］ 耳ノキコエザル者ト、目ノ見エザル者ト。ツンボト、メクラト。 莊子、逍遙遊「瞽者無以與乎文章之觀、聾者無以與乎鐘鼓之聲、豈唯形骸有聾盲哉」

ろう-もん（名）樓門 樓ノアル門。二階造ノ門。樓閣。 [illegible]記、四、[illegible]「八王子ノ御前ヨリ二宮樓門マデ渡施造連テ可ν進」

ろう-らく（名）［籠絡］ 己レガ智術中ニ人ノ心ヲ包メコムコト。 宋史、胡安國傳「中丞許翰曰、自蔡京得政、士大夫無ν不ν受其籠絡」

ろう-れつ（名）［陋劣］ 心イヤシクシテ、キタナキコト。卑劣ナルコト。 蘇軾、[illegible]「[illegible]陋劣」

ろう-ろう（副）［朧朧］ ボンヤリシタル狀、又ハ、ウスアカルキ狀ニ云フ語、オボロニ。ホノカニ。朦朧。 [illegible]「[illegible]」

ろ-えい（名）露營 野天ニ陣營ヲ張ルコト。又、ソノ陣營。野陣。野營。 [illegible]「[illegible]」

ロオス（名）〔英語、Roast.ノ訛、燔肉ニ用キル肉ノ義〕（一）最上等ノ食用獸肉。燔肉トスルニ適スルモノ。 （二）特ニ、牛肉ノクラシタ。即チ、背ノ鞍ノアタル所ノ肉ニテ、最モ美味トセラル。

ロオマ-けう（名）［羅馬教］ 〔英語、Roman Catholic.〕天主敎ニ同ジ。耶蘇舊敎。羅馬法王ヲ敎主ト仰グモノ、てんしゆけう（天主教）ノ條ヲ見ヨ。

ロオマ-じ（名）［羅馬字］ 〔英語、Roman letters ノ譯語〕古代伊太利、羅馬ノ國字。現今、歐米[illegible]ニ用ヰラルル ABC ナドノ廿六文字ヲ云フ。

ロオマ-さうじ（名）［羅馬數字］ 〔英語、Roman numerals.ノ譯語〕モト羅馬ニ始マリ、今モ廣ク世界ニ行ハルル一種ノ數字。

I（一）	VI（六）	L（五十）
II（二）	VII（七）	C（百）
III（三）	VIII（八）	D（五百）
IV（四）	IX（九）	M（千）
V（五）	X（十）	

ロオマンス（名）〔英語、Romance.〕 ろまんすニ同ジ。

ロオン-テニス（名）〔英語、Lawn-tennisノ略〕 庭球。長方形ノ芝生ナドノ場ヲ二分シテ、中央ニ網ヲ張リ、二人ヅツ（又ハ一人ヅツ）兩組ニ分レ、らけつとニテ互ニ一箇ノ球ヲ打チ込ミ合ヒテ、勝負ヲ決スル遊技。其競技場ヲ、こおとト云フ。

ろ-か（名）［艪歌］ フナウタ。艪ヲ押シナガラウタフ歌。欸乃。

ろ-かい（名）［艪櫂］ ろト、かいト。又、ろ、かいナド船具ノ稱。 [illegible]「[illegible]子ドモ、艪櫂ヲフリ上ゲ打タントス」

ろ-かう（名）［魯縞］ 古ヘノ支那ノ魯國（今ノ山東省）ト云フ地ヨリ產出シタル薄キ絹。 史記、[illegible]「强弩之末力、不ν能ν穿魯縞」

ろかう-ちや（名）路考茶 染色ノ名。寶曆ノ頃ノ一種ノ茶色染ナリ。當時、女

彩ノ [illegible] 着タルヨリ始マレリ。

ろ-かく (名) [蘆角] (角ハ、モト支那ノ軍中ノ樂器) 蘆ノ葉ニテ作リタル笛。ア [illegible]「忘レヌ花ノ昔ヲ慕ヒ、蘆角一聲ノ心ヲヤハラゲ」

ろ-かす (名) [illegible] 銀、銅ナドヲ [illegible] 精錬スル時ニ生ズル滓。灰吹ノ滓。

ろ-かん-せき (名) [爐甘石] 鑛物ノ名。炭 [illegible] 小、一ナラズ、質、ヤハラカニシテ、碎ケ易ク、形、泡立チタルガ如シ。色ハ白キヲ上品ナリトシ、黄、又、青ナルモアリ、[illegible] 事ノ [illegible] シテ [illegible] 取ル [illegible] シテ碎ケ易シ、狀アハダチタルヤウナリ、云云」

ろ-きつ (名) [illegible] 橘 [illegible] ニ同ジ。ハナタチバナ。白居易詩「盧橘子低山雨重」[illegible]

ろ-ぎん (名) 路銀　路用ノ金錢　旅費　ロセン　路費 [illegible] 路銀モ皆ナコセ　博多小女郎波枕(享保、近松作)中 路銀マデ下サルルオ心ソムクハ猶不孝」

ろ-ぎょ (名) 魯魚 [抱朴子、內篇、遐覽「諺曰、書三寫、魚成レ魯、虛成レ虎」] 文字ノ誤。ノ語 [illegible] 古今上奏の日「四月十八日之儀、但六日ハ書寫之失敗、十八日ト六日之字 [illegible] 是也」

ろ-ぎょ (名) [illegible] 魚　すずき(鱸) [illegible] 同ジ [illegible]

ろく (名) 祿　一、官ニ仕フル者ニ給セ [illegible] 物 [illegible] 扶持米 [illegible] 式部省式「凡五位以上、云云、其十二月卒者、[illegible] 賜ハル物 [illegible] ノハナムケナドノ使ニ、ろくナド取ラセヌ」

ろく (名) 陸 (一) (圓くノ音便、まんろくノ略) 物ノ形、面、ノ歪ナク正シキコト。準的。又、マンロク。マロク。公平。滿足 [illegible] コレハコボレ物ヂャ、ろくナ所ニ置イテ下サレ」「陸ヲ見ル」「不陸」「陸墨」(二) 物事ニ正シキコト。眞面目。(下ニ反語ヲ用ヰル) [illegible] 陸ナコト [illegible] 近松作) ニ起ルカトモ云フ) トハ、アグラカクコト。平坐。趺坐。狂言記、八句連歌「ソレナラバ、ろくに居サシメ、心得マシタ、ユルサセラレイ」

ろく (名) どく (毒) ノ訛。(伊豆ノ玖須美)

ろく (數) [六] ムツ。りく(六)ニ同ジ。

ろく (接尾) 動搖スル意ヲ云フ語。他語ニ接シテ動詞トス。「オドろく」「カビろく」「スズろぐ」「タジろぐ」「マジろく」「モドろく」「クツろぐ」

ろく-アミダ (名) [六阿彌陀] 江戶市中、及、其近在ニアリシ六箇所ノ阿彌陀佛 [illegible] コノ阿彌陀佛ニ、春秋二季ノ彼岸ニ歷拜スルヲ、六阿彌陀詣ト云フ [illegible] 行ハル。コレニ左ノ如ク、山の手、西方、北方、ノ三箇所アリ。其第一、山の手ハ、一番、麴町十丁目法心寺(四谷門外了學寺)、二番、四谷寺町西念寺、三番、青山北町高德寺、四番、同町善光寺、五番、青山南町 [illegible] 六番 [illegible] 寺 [illegible] 布 [illegible] 寺 [illegible] 第三、北方ハ、北 [illegible] 南足立郡沼田村延命院(今、恵明寺)、北豐島郡西ヶ原無量寺、同田端與樂寺、上野廣小路常樂院、下谷 [illegible] 常光寺 [illegible] (足立郡ノ地頭) ニ嫁ス、確執アリテ離緣トナル、娘入水シテ死ス、腰元十二人、亦入水ス、六退ニ別レシハ、病死セシモノノ出生地ナリト云フ [illegible] 木ヲ得テ六體ヲ作ラス、コレ行基菩薩ノ作ナリト云ヘト [illegible] 川柳「ろくあみだ、嫁ノ噂ノ、捨テドコロ」

ろく-アミダまうで (名) [六阿彌陀詣] 前條ノ語ヲ見ヨ。

ろく-えう (名) [六曜] 陰暦ニテ、先勝、友引、先負、佛滅、大安、赤口、ノ六ツノ星ニアタル日ヲ云フ。安政雜書萬曆大成、孔明六曜日 [illegible] 先勝日(正月、七月)、友引日(二月、八月)、先負日(三月、九月)、佛滅日(四月、十月)、大安日(五月、十一月)、赤口日(六月、十二月)、右六曜ノクリヤウハ、何月ト有ル其月ノ星ヲ朔日トシ、二日、三日ト左ヘ順ニクル也、云云」

ろく-えふ-せい (名) [六曜星] 紋所ノ名。うめばち(梅鉢)ノ條ヲ見ヨ。

ろく-かい (名) [六界] ろくだう(六道)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

ろく-がう (名) [おくぎやう(御供饗)ノ訛] 三方ニ似タルモノニテ、供物ナドヲ盛ル器　クギャウ　[illegible] 用供饗、クキャウ、云云、[illegible] ニテ、ろくごう、[illegible] ろくごう

ろく-かく (名) [六角] 角ノ六ツアル [illegible] 古事談、四、神社佛寺、六角ノ小堂、道ノ中心ニアタレリ、是聖德太子ツクリ給ヘル六角ノ小堂也」

ろく-かく (名) [illegible]

ろく-かく-さい (名) [illegible] 如ク [illegible] 又 [illegible] (適宜 [illegible]) 同ジ　鹿角菜

ろく-かく-さい (名) [鹿角菜] ふのり(布海苔) 同ジ [illegible]

ろく-か-せん (名) 六歌仙 [illegible] 僧正遍昭、在原業平、文屋康秀、喜撰法師、大友黑主、小野小町、ノ六人ノ歌仙ノ稱。古今和歌集ノ序文ヨリ出ヅ [illegible] 代ノ古ヘ、云云 [illegible] ヲ撰ビ、二聖、六歌仙ヲ始メトシテ、其ノ外ノ人人」

ろく-かふ (名) [六甲] 曆ノ語。六十干支ノ中ニ、甲子、甲戌、甲申、甲午、甲辰、甲寅ノ六ツノ稱。コレハ各一旬ノ首ニ在リテ、他ノ九干支ヲ綜ブルガ故ニ云フ。倘、下ノ出典ヲ見ヨ。[illegible]「十干十二支ヲ [illegible] 終レル樣、九ニ視セル如キノ、今ハ六十甲ト稱スレド、古クハ六甲ト云ヘリ、其ハ甲子、甲戌、甲申、甲午、甲辰、甲 [illegible] 五行大義三 [illegible] 戌亥 [illegible] 未 [illegible] 甲配 [illegible] ナリ) [illegible] リ) 干支 [illegible] 故六 [illegible] ト有ニテ知ルベシ」

ろくぎ (名) [六義] りくぎ(六義)ノ條ヲ見ヨ。 「名目抄、[illegible]」「六義、風、賦、比、興、雅、頌」[illegible]

ろくぎ (名) 六議 王朝時代ノ刑法ノ語 即チ、議親、議故、議賢、議能、議功、議貴ノ六種ノ資格ナリ。下ノ出典ヲ見ヨ。 律疏「六議、一日、議親 原注 謂皇親及皇帝五等以上親、及太皇太后、皇太后四等以上親、皇后三等以上親 二日、議故 原注 謂故舊 三日、議賢 原注 [illegible] 四日、議能 原注 謂有大才藝 五日、議功 原注 謂有大勳功 六日、議貴 原注 謂三位以上」

ろくきやう (名) [六境] 佛教ノ語 六識(眼、耳、鼻、舌、身、意)ノ認識スル六ツノ對境 即チ、色境、聲境、香境、味境、觸境、法境ノ稱

ろくぐ (名) [六具] 六種ノモノヲ以テ、一揃トスル武具、即チ、鎧ノ胴、籠手、袖、脇楯、臑楯、臑當、ノ稱。コレヲ具トモ云ヒ、又、具足トモ云フ (異說、多シ) 「太平記、[illegible] 六具ヲシカタメタル兵數百人」

ろくぐん (名) [六軍] りくぐん(六軍)ノ條ヲ見ヨ。

ろくくやう (名) [六供養] 佛前ニ、閼伽(水器ノ名)、華、塗香、飯食、燒香、燈明ノ六ツヲ供フルコト。コノ六種ノモノハ、布施、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧ノ六度ヲ表スルモノト云フ

ろくくわ (名) [六花] 雪ノ異名 りくくわ(六花)ニ同ジ。

ろくぐゑつ (名) [六月] 年ノ第六ニ當ル月 水無月 林鐘 詩經、小雅、彤弓之什、六月篇「六月棲棲、戎車既飭」

ろくくわんおん (名) [六觀音] 佛教ノ語。六種ノ觀音 即チ、千手觀音(又、大悲觀音ト云フ、地獄道ノ能化者トス)、聖觀音(又、大慈觀音ト云フ、餓鬼道ノ能化者トス)、馬頭觀音(又、師子無畏觀音ト云フ、畜生道ノ能化者トス)、十一面觀音(又、大光普照觀音ト云フ、修羅道ノ能化者トス)、准胝觀音(又、天人丈夫觀音ト云フ、人道ノ能化者トス)、如意輪觀音(又、大梵深遠觀音ト云フ、天道ノ能化者トス)、是レナリ。 菩提心義「天台止觀私記、引請觀音經六觀音[illegible]、六字章句二、[illegible]今世所云六觀音、以千手如意輪等、替六觀音、亦是私附會之說、文非智者說也」 枕草子、九、第百八十八段「佛ハ、云云、千手、スベテ六觀音、云云」

ろくけい (名) [六經] りくけい(六經)ニ同ジ。けいしよ(經書)ノ條ヲ見ヨ。

ろくけいざら (名) [六圭皿] (圭ハかど(廉)ナリ) 六角ノ皿。

ろくけん (名) [祿券] 祿ニ代ヘタル公債證書。

ろくこく (名) [六穀] りくこく(六穀)ニ同ジ。

ろくこくかう (名) [六國香] からあはせ(香合)ノ條ヲ見ヨ。

ろくこくし (名) [六國史] りくこくし(六國史)ニ同ジ。

ろくこつ (名) [肋骨] (一)アバラボネ。胸部ヲ構成シテ、肺、及、心臟ナドヲ擁護スル骨。細長ク弓形ニテ、左右各十二箇アリ。(二)モト陸軍ノ軍服ノ、表衣ノ前ニ着ケタルあばらぼねノ如キ形シタル一種ノ飾。

ろくこん (名) 六根 (根ハ能生ノ義、六境ニ對シテ、迷ヒノ六識ヲ生ズレバ六根ト云フ) 佛教ノ語 眼、耳、鼻、舌、身、意、ノ六知覺ノ稱 法華經、法師功德品「以是功德、莊嚴六根、皆令清淨」 無量壽經「[illegible]六根清徹、無諸惱患」「六根清淨」

ろくごん (名) 六言 六言詩ノ略。六字ニテ一句ヲナス漢詩ノ一古體。ぜっく(絶句)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 文體明辯「按、六言詩昉於漢司農谷永」

ろくさい (名) 鹿柴 鹿砦 さかもぎ(逆茂木)ニ同ジ 鹿角柴 王維、輞川詩序「余別業在輞川山谷、其遊止有[illegible]鹿柴、木蘭柴」

ろくさい (名) 「六采」 さごろく(雙六)ニ同ジ。 倭名抄、四、雜藝具「雙六子、一名六采」

ろくさい (名) [六齋] (次條ノ語ヨリ轉ズ、六才ナドト借字ス) 一箇月ノ中ニ、一、六、二、七、三、八、ノ日ナド、預メ、日數六日ヲ定メテ、事ヲ爲ルコト 月ニ六度ト言ハムガ如シ。轉ジテ、三齋、八齋、十二齋ナドノ稱モアリ、皆其意ナリ 次條ノ語ヲモ見ヨ。

ろくさいにち (名) [六齋日] (齋トハ梵語、Posabha.(逋沙他)、不過中食ノ義、古ヘ、印度ニテハ、此六箇日ハ、四天王ガ人ノ善惡ヲ伺フ日ナリトシテ、諸事ヲ愼ミ、殊ニ正午ヲ過ギテ一切食事ヲ絶テバ齋日ト云フ) 在家ニテ、佛戒ヲ持シ、一月ニ六度、齋戒スル日。之ヲさいにち(齋日)トモ云フ 即チ、陰暦ニ、毎月、八日、十四日、十五日、二十三日、二十九日、三十日、ナリ。之ニ、一日、十八日、廿四日、廿八日、ヲ加ヘテ十齋日ト云フ。各日ニ各佛ヲ念ズレバ、罪ヲ滅ストス 又、此日、俗ニ、[illegible]ヲ見ル、故ニ、殺生ヲ禁ズトス。寺院ニテモ、參詣人ノ爲ニ、佛事ヲ修ス。ムヨリノイミ。(諸藝ノ稽古ノ日ナド、毎月、幾日幾日ト定ムルヲ、幾齋ト云フハ、誤用) [illegible]「月八日、十四日、十五日、二十三日、二十九日、三十日、諸天衆會日」四天王[illegible]佛[illegible]日[illegible]心「身守ル心、諸天齋日伺ニ人善惡ニ云云」 持統紀、五年二月「[illegible]六齋[illegible]」 [illegible]「身一ツニテ、三代ノ御門ノ御後見ヲセサセ給ヒテ、六十餘國、六齋日ニ殺生ヲ留メサセタマフ」

ろくさいねんブツ (名) [六齋念佛] 空也宗ニテ、一月中ノ六齋日ニ、念佛ニ節ヲツケテ唱へ、鉦ト太鼓トヲ持チテ、互ニ打チテ囃スコト。 空也上人繪詞傳、下「上人、云云、ソレヨリ閑國在々所々ニテ、毎月齋日ゴトニ太鼓鉦ヲタタキ、念佛唱へ、[illegible]往生スル人ノアル時ハ、太鼓鉦ヲタタキテ念佛ヲ申、在家無緣ノ弔ナシ給フナリ、是ニ依テ、俗呼ビテ六齋念佛ト云ヒ傳へタリ」

ろくさいば (名) [六歳齒] 人六歳ニ達シタル時ニ、生ヒテ來ル奥齒 智齒ヨリ三番目ニテ、拔ケ代ハルコトナシ。奥齒ノ第一番目ノモノ、永久齒ナリ。然レバ齒ノ中ニテ最モ大キク、最モ大切ナルモノ 食物、此齒ニ因ラザレバ、眞ニ味フルコト能ハズ。第一大臼齒。(醫語)

ろくざう (名) [六藏] (馬方ノ名ヨリ起ルカ) ウマカタ 馬丁 馬ノヘタウ 俳諧六日飛脚「關コスヤ、六藏カヒク、[illegible]」

ろくさん (名) [綠衫] ろうさう(綠衫)ノ

……[illegible]ヲ見ヨ。

ろくし……[illegible]……八十タル六六……[illegible]……日没、初夜、中夜、後夜、晨朝、日中、……[illegible]……

……[illegible]……六時……ノツトメニモ、タダ称名ヲ心ニカケテ、ハチスノ上ノ露ノネガヒヲバ、サシ置キテナン、ネンジ奉リシ」

ろくじ (名) [六字] ろくじのみやうがう(六字名號)ノ略。南無阿彌陀佛ノ六字ノ稱。……[illegible]……二十九……[illegible]……行ヲ六字ニツヅメテ、愚癡暗鈍モ唱ヘラルルニ便リアリ」……[illegible]……三字……[illegible]……ワスレテ、共ニ西ヘ……[illegible]……シ、六字ヲ稱シテ、コノ草庵ニ遊止ス」

ろくじ (名) [錄事] (一)記錄ヲ掌ル役。書キ役。書記。……[illegible]……(二)陸海軍ノ軍法會議ノ屬官。故ノろくじゆ(主理)ニ同ジ。(三)御歌所ノ屬官。

ろくしき (名) [六識] ……[illegible]……梵語、Pariṇāma(婆唎惹爾)ノ譯語、心ノ異名ニテ、了別ノ義、心境ニ對シテ了別スル故ニ識ト云フ」佛教ノ語。六境ヲ認識スル六種ノ心識。即チ、眼識、耳識、鼻識、舌識、身識、意識、是レナリ。……[illegible]……

ロクジダウ
ろくじだう (名) [六時堂] 佛教ノ語。晝夜六時ノ勤行ヲ修スル堂舍。……[illegible]……百廿段「天王寺ノ伶人申シ侍リシハ、云云、イハユル六時堂ノ前ノ鐘ナリ」

ロクジノミヤウゴウ
ろくじのみやうがう (名) [六字名號] 略シテ、六字。題目ノ南無阿彌陀佛ノ六字ノ稱。……[illegible]……アル役ノ學ニ、

ロクジユウ
ろくじふ (數) [六十] 十ヲ六倍ニセル數。……[illegible]……

ロクジユウシケ
ろくじふしけ (名) [六十四卦] 又、ろくじふしけ。……[illegible]……ウマツリ給フ」……周易ノ卦ノ八卦ヲ、八度轉廻シタルモノ。古ヘ、支那ノ伏羲氏、易ノ八卦ヲ作リ、周ノ文王、之ヲ廣メテ六十四卦トナス。其卦名ハ、乾、坤、屯、蒙、需、訟、師、比、小畜、履、泰、否、同人、大有、謙、豫、隨、蠱、臨、觀、噬嗑、賁、剝、復、无妄、大畜、頤、大過、坎、離、咸、恆、遯、大壯、晉、明夷、家人、睽、蹇、解、損、益、夬、姤、萃、升、困、井、革、鼎、震、艮、漸、歸妹、豐、旅、巽、兌、渙、節、中孚、小過、既濟、未濟、是レナリ。……[illegible]……伏羲氏之王天下也……[illegible]……八卦以通……[illegible]……六十四卦、卦之始具、其道益……」

ロクジユウヨシユウ
ろくじふよしう (名) [六十餘州] モト日本全國ノ稱。即チ、畿內、七道、六十六國ニ、壹岐島、對馬島ヲ併セタルモノ。……[illegible]……元祿、近松作……二「他人ニモユカリニモ、六十餘州ニ一人トモ、知ル人持タヌ身トナレリ」

ロクジユウロクブ
ろくじふろくぶ (名) [六十六部] (モト日本六十六部ヲ書寫シ、日本六十六箇國ヲ遍歷シテ、ソノ靈場ニ、各一部ヅツ納メシニ起ル) 法華ノ行者ノ、日本全國ノ國分寺、又ハ、一ノ宮ヲ巡拜シ、法華經ヲ唱フル者ノ稱。轉ジテ、廻國ノ修行者。後世ハ、鉦ヲ叩キ、又ハ、鈴ヲ振リ、或ハ、厨子入ノ佛像ヲ背負ヒナドシテ、戸毎ニ錢米ヲ乞ヒ步……[illegible]……ノ大典、其國ノ靈場ニ納ル六十六ケ國、古六十六部ノ經文ヲ納メン願ニテアリシナリ」

ろくしん (名) ……[illegible]…… りくしん(六親)ニ同ジ。

ろくしんとう (名) [六親等] 六世ヲ隔テタル親族關係ノ等級。しんぞく(親族)及、しんとう(親等)ノ條ヲモ見ヨ。

ロクシヨウ
ろくしやう (名) [綠青] (一)(鑛物ノ名。炭酸銅(銅ノ酸化物)ナリ。土中ニ生ジ、塊ヲナス。蝦蟆ノ背ノ如キ疣アリ、或レハ、內ニ……アリ、色ノ綠黑ナルヲ上品トス。又、綠ナルモアリ、畫料トス。一名、孔雀石。又、人造ナルニ對シテ、石綠青(砒素ノ化合物)トモ云フ。石綠。倭名抄、十三「圖繪具「綠青、俗音祿省」本草「祿青、生山之陰、銅坑中、乃銅之祖氣也」(二)人造ナルハ、銅ニ醋ヲ施シ、火ニ暖メ、青キ銹ヲ生ズルヲ、削リ取リテ水飛ス。亦、畫料トス。大和ノ奈良ニ產ズ 天然ノモノト別チテ、奈良綠青ト云フ 銅青

ろくしやく (名) [陸尺][六尺] [力者ノ轉] (一)輿、又ハ、駕籠ヲ舁クモノ。(貴人ノ)輿丁 梅園日記、四「ろくしやくハ力者ヲ訛レル也、云云」岩淵夜話別集、下「乘物ニ乘テ行クニ、リモ……恰好モ揃タル六尺ガ、跡先ニ、人シテカツギ、云云」(二)轉ジテ、下部、下男ノ稱。東海道名所記(萬治)一「六尺ヲ呼ビテ文ヲツカハシ、云云」醒睡笑(元和、安樂庵策傳)二「京ニテ、乘物ヲカキ、或ハ、庭ニテ働ク男ヲ、六尺トハナド云フラン」

ろくしやく (名) [漉酌] (一)關東方言ニテ、酒ヲ造ル大ナル桶ヲ云フ。(物類稱呼)……[illegible]……

ろくしやくおび ……[illegible]…… 六尺帶……[illegible]……シノ兵兒帶。即チ、長サ六尺ノモノ。……[illegible]……

ろくしやくそで (名) [六尺袖] 「片方ニ尺、兩方ニテ六尺アルモノ」おほふりそで(大振袖)ノ稱。ふりそで(振袖)ノ條ヲ見ヨ。……[illegible]……一尺五寸、左右……[illegible]……六尺……[illegible]……小唄「タンダフレフレ六尺袖ヲ」

ろくしやくぼう (名) [六尺棒] 樫ナドノ棒ノ、長サ六尺許リナルモノ。防禦ノ用トス。

ろくしゆ (名) [六趣] (趣ハ趣キ向フ義、即チ、衆生ノ、其業因ノ差別ニヨリテ、趣向スル六所ヲ云フ) ろくだう(六道)ニ同ジ。法華經、方便品「以諸欲因緣、墮……[illegible]……輪廻六趣中、備受諸苦毒」……[illegible]……語、一、第六語「此ク說給フ時ニ、大衆六趣ニ……」

ろくしよ (名) [祿所] 古へ、節會ナドノ時、王卿以下ニ賜ノ祿ヲ、大藏ヨリ撤出シ來リテ、積ミ置キタル場所。……[illegible]……行事、上、自……[illegible]……祿所……

ろくじやう (名) [鹿茸] ふくろづの(袋角)ニ同ジ。……[illegible]……四十九段……アテテ嗅グベカラズ、小キ蟲アリテ、鼻ヨリ入リテ、腦ヲハムトイヘリ」

ろくしようじ (名) [六勝寺] 白河、鳥羽、崇德、近衞ノ四天皇、及、待賢門院等ノ御願ニヨリテ、建立セラレタル勝ノ字ノツク六ツノ寺。即チ、法勝寺、尊勝寺、

最勝寺、延勝寺、圓勝寺、成勝寺、是レナリ。(京都ノ白河ニアリ) 壒嚢鈔、十七、第二條「法勝寺ハ白川天皇ノ御願、云云、尊勝寺ハ堀河院御願、云云、圓勝寺ハ鳥羽院后待賢門院御願、云云、最勝寺ハ鳥羽院御願、云云、成勝寺ハ崇徳院御願、云云、延勝寺ハ近衛院御願、云云、以上六箇寺、皆勝ノ字アルニ依テ、六勝寺ト云也」

ろくじらいさん (名) 六時禮讃 念佛ノ行者ガ、晝夜六時ニ、阿彌陀佛ヲ禮拜讃歎スルコト。 徒然草、第二百廿七段「六時禮讃ハ、法然上人ノ弟子安樂トイヒケル僧、經文ヲ集メテ、作リテツトメニシケリ」

ろく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 錄 シルス。書キトム。記載ス。 王羲之、蘭亭記「列敍時人、錄其所述」

ろく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 勒 (一)ホリキザム。彫リツク。 梁簡文帝、楚王廟碑「鑿石勒文、事昭神掌」「石ニ勒す」「銘ヲ勒す」 (二)治ム。スブ。率ホル。 後漢書、光武紀「親勒六軍、大陳戎馬」

ろくずみ (名) 陸墨 〔陸ノ條ヲ見ヨ〕 すみなは(墨繩)ニ同ジ。

ろくすゐなう (名) 漉水嚢 みづぶるひ(漉水嚢)ニ同ジ

ろくそっぱう (副) ロクニ。アマリ。十分ニ。 浮世風呂(文化)三編、下「手前細工ノ亭主ダカラ、トウデろくそっぱうナ事ハネエ筈ダ」

ろくそんわう (名) 六孫王 天皇ノ第六ノ皇子ノ御子ノ稱。清和天皇ノ第六ノ皇子貞純親王ノ長子源經基ヲ、六孫王ト稱ス。桓武天皇ノ第五ノ皇子葛原親王ノ御子平高棟ヲ、五孫王ト稱スルモ、是レナリ

ろくたい (名) 六體 (一)和歌ノ六種ノ體。即チ、長歌、短歌、旋頭歌、混本歌、折句、沓冠ノ稱。 奥義抄、上、上「和歌六體、云云、出喜撰式」 (二)りくしよ(六書)ニ同ジ。 漢書、藝文志「又以六體試之」云云、六體者、古文、奇字、篆書、隸書、繆篆、蟲書

ろくだい (名) 六代 平維盛ノ子ノ六代ハ、平正盛ヨリ六代ノ孫ナレバ名ヅク。

ろくだい (名) 六大 〔地、水、火、風、空、識ノ六法ハ、一切ノ法界ニ周遍シテ、一切ノ物ヲ造作スル故ニ大ト云フ〕佛教ノ語。宇宙ニ於ケル一切萬象ノ六種ノ本體。即チ、地大、水大、火大、風大、空大、識大、是レナリ。 仁王經、觀空品「色受想行識空、十二入十八界空、六大法空」

ろくだう (名) 六道 〔地獄、餓鬼、畜生、阿修羅、人間、天上ハ、衆生輪廻ノ道途ナレバ、六道ト云フ〕(一)佛說ニ、冥土ニアリテ、六界ヘ行キ別ルル道。或ハ、六趣。六界トハ、地獄(瞋恚ノ煩惱ト行爲トニ因リテ得)、餓鬼(貪欲ノ煩惱ト行爲トニ因リテ得)、畜生(愚痴ノ煩惱ト行爲トニ因リテ得 以上ヲ三惡道ト云ヒ)、修羅(憍慢ノ煩惱ト行爲トニ因リテ得)、人間(五戒ヲ持チタル功德ニ因リテ得)、天上(十善ヲ守リタル功德ニ因リテ得 以上ヲ三善道ト云フ)ノ稱 法華經、序品「六道衆生生死所趣」 大智度論、三十「六道、善有上中下、故有三善道、天、人、阿修羅、惡有上中下、故地獄、畜生、餓鬼道」 今昔物語、九、第三十六語「人死シテ別ニ六道ニ可生シ」 (二)童子ノ遊戲 地上ニ大路小路ノ線ヲ作リ、其内ニ錢ヲ置キ、他ノ錢ヲ投ゲウチテ中ツルコト (和泉、尾張、上野、奥州ナドニテノ稱) 大阪ニテ六、京都ニテ六指(嬉遊笑覽、四、下)、江戸ニテ疵打、又ハ、疵(物類稱呼)、長崎ニテ筋打。

ろくだうせん (名) 六道錢 佛葬ニ、死者ヲ葬ムル時、棺中ニ入ルル錢六文ヲ云フ。六道能化ノ地藏ヘノ賽錢ノ意カ、或ハ云フ、三途川ノ渡錢ナリト。今、專ラ、紙錢ヲ用ヰル 瘞錢(支那ノ俗ニ、壙中ニ錢ヲ埋メテ、死者ノ用ニ供スル風アリ、或ハ之ニ倣ヒシモノカ)

ろくだうのうげ (名) 六道能化 (一)六道ノ衆生ヲ教化スルコト。又、ソノ菩薩。 謠曲、愛宕空也「南無ヤ地藏大菩薩、六道能化ニテマシマセバ、迷ヒノ衆生ヲ導キ給ヘ」 (二)地藏菩薩ノ異稱。

ろくだうのちまた (名) 六道衢 六道巷 〔六道ノ條ノ(一)ヲ見ヨ〕 次條ノ語ニ同ジ 保元物語、二、義朝弟共誅せらるゝ事「不覺ノ長ノ先立タンモ、本意ナク思ヒ侍レバ、先立テ中候フ、六道の衢ニテ、必ス參リ合ヘク候」

ろくだうのつじ (名) 六道辻 又、ろくだうのちまた。佛教ニテ、六道ヘ通ノト云フ辻ノ稱。六道ヘ行ク分レ路。又、昔、京都ノ火葬場、鳥邊山ヘ行ク路ノモ云ヘリ(次條ノ語、參見セヨ) 謠曲、熊野「六道の辻トカヤ、實ニオソロシヤ此道ハ、冥途ヘ通フモノナルヲ」 雍州府志、四、寺院門、上「珍皇寺、云云、元稱寶皇寺、小堂安地藏幷小野篁像、庭多石地藏、此處世稱六道、傳言、毎處有通冥途之路、故小野篁自此處親行六道而歸也、云云」

ろくだうまゐり (名) 六道參 昔、七月九日ニ、京都、東山ノ六道辻ノ珍皇寺ニ詣デテ魂迎ヘセシコト。(前條ノ語、參見セヨ) 玄峰集、風雪、秋「九日ノ六道まゐり、小野篁ノ冥道ニカヨヘル道ナリトテ、洛中ノ貴賤、詣デテ、槇ノ葉ヲモトメテ、魂ヲ迎フルシルシトシ侍ル」

ろくたま (副) ろくに(陸)ニ同ジ。

ろくだん (名) 六段 箏ノ曲名 筑紫箏ノ組ト云フモノ、六分段アリ、彈法同ジキガ如クニシテ、皆異ナリ、唱ナシ

ろくだんめ (名) 六段目 〔昔ノ淨瑠璃ハ六段ニ作リ終ノルコリ云フ〕何ニテモコレヲギリト云フ意ノ語。梵天國ト云フト同例ナリ。オシマヘ。終末。 江戸八百韻(延寶)「對決ノ場、カラヘ涼シト六段目、日モ西山ニ、傾キテ」 吉原三茶三幅一對(延寶)「御年モ、ハヤ五六段目マデ語リツケタマヘバ」

ろくち (名) 陸地 りくち(陸地)ニ同ジ。 東海道名所記(萬治)三「船頭答ヘテ曰ク、昔ハ山ニ續キタル陸地ナリシガ、云云」

ろくちく (名) 六畜 りくちく(六畜)ニ同ジ。牛、馬、羊、犬、雞、豕ノ六畜ヨリ馬ヲ除キタルヲ、五畜ト云フ 易林本節用集(慶長)上、數量門「六畜、ロクチク、牛、馬、犬、羊、雞、豕」

ろくぢざう (名) 六地藏 (一)六道ニ現ハレテ、衆生ヲ濟度スルト云フ六種ノ地藏菩薩。即チ、延命、寶處、寶手、持地、寶印、堅固意、是レナリ 書言字考節用集、十、數量門「六地藏、ロクヂザウ、延命、寶處、寶手、持地、寶印、堅固意」 寂照堂谷響集、十、六地藏「今詳六地藏、皆以地藏菩薩、寶處菩薩、寶手菩薩、持地菩薩、寶印手菩薩、堅固意菩薩、名六地藏也」 (二)六ヶ所ニ安置セル地藏ノ稱 狂言記、六地藏「コレニ六地藏ヲ作ラセウト申ス談合キハマテゴサル」 實隆公記、文明十四年七月廿四日「參六地藏…」

ろくぢん (名) 六塵 〔淨心ヲ汚ニ故ニ塵ト云フ〕 佛教ノ語 色、聲、香、味、觸、

法ノ六境ヲ云フ。コレニヨリテ六種ノ[illegible]ノ心ノ[illegible]ナ[illegible]。[illegible]
ヽ[illegible]九段「マコトニ安存ノ道、ソノ根[illegible]ク、[illegible]遠シ、六塵ノ樂欲多シトイヘドモ、ミナ厭離シツベシ」

ろくぢやう（ロクヂヤウ）（名）[六杖]　かたなきぬ[illegible]ニ同ジ。

ろくつう（名）[六通]　佛教ノ語。三乘ノ聖者ノ所得ストスフ六種ノ通力。即チ、天眼通、天耳通、知他心通、宿命通、身如意通、漏盡通ノ六種ノ神通ノ稱。ろくじんづう（六神通）ノ條ヲモ見ヨ。［法華[illegible]、中[illegible]天眼通、三天耳通、三知他心通、四宿命通、五身如意通、六漏盡通」倶舍論、廿七「通有六種、一神境智證通、二天眼智證通、[illegible]他心智證通、[illegible]宿住隨念智證通、六漏盡智證通」］

ろくてうし（ロクテウシ）（名）[六調子]　音樂ニテ、六ツノ調子。即チ、大食調、壹越調、平調、雙調、黄鐘調、盤渉調、是レナリ。［[illegible]八「六調子トスハ、[illegible]雙調、黄鐘調、平調、盤渉調、壹越調ヲ云フ」ニ大食調ヲクハヘタルナリ」］

ろくでうせん（ロクデウセン）（名）[六條錢]　足利將軍義政ノ、京都六條河原ニテ鑄サセタル錢。種種ノ形アリト云フ（宇野宗明記）

ろくでうどうふ（ロクヂヨウドウフ）（名）[六條豆腐]　初、京都、六條邊ニテ製出シタレバ、六ノトスフ」豆腐ヲ、薄ク切リテ片トシ、鹽ニ塗シ、陰乾ニシタルモノ。凝リ固マリテ、色、黄白ナリ。削ミ、又ハ、削リテ酒ニ浸シ、又ハ、吸物ノ上ニ加ヘ用ヰル。略シテ、六條。腐乾（行廚集）豆腐乾（小品考）［書言字考節用集、六「六條豆腐」[illegible]「六條豆腐、水氣、陰乾者、爲京師六條寺人所作、爲故名」］

ろくでなし（名）　ヨカラヌモノ。ヤクニタタヌモノ。ノラクラモノ。

ろくでもない（形）　不吉ナリ。不良ナリ。

ろくど（名）[六度]　[illegible]ニ六種アル故ニ、六度ト云フ」ろくはらみつ（六波羅蜜）ニ同ジ。［[illegible]、仁王經、上「六度四攝一切行」舍利讃歎（慈覺）「六度ノ中ニ勝レタル、布施波羅蜜勸メンヤ」］

ろくとう（名）[陸頭]　牛ノ頭ノ平ナルモノ。相牛ノ法ニ於テ、勝レタル相トス。［[illegible]、竹田出雲[illegible]合作[illegible]牛、渡[illegible]子モ及バヌ色ツヤ、天角地眼、一黒直頭、耳小齒チガフ、アッパレ御牛候フヨ」］

ろくなん（名）[六男]　古ヘ、大嘗會ノ供奉人ノ名。冠、赤狩衣、白袴ナドヲ着ク。

ろくに（副）[陸]　［此語ノ下ニハ、否定語ノ來ルモノトス」ヨクモ。タシカニ。滿足ニ。十分ニ。ロクロク。ロクタマ。［ろくに知リモセズ」ろくに見モセズニ」］

ろくによ（名）[六如]　［世間一切ノ法ハ、如レ夢、如レ幻、如レ泡、如レ影、如レ露、如レ電ノ意ニ因ル」佛教ノ語。金剛經ノ所謂、如レ夢、如レ幻、如レ泡、如レ影、如レ露、如レ電ノ意ニ因ル」佛教ノ語。ろくゆ（六喩）ノ條ヲ見ヨ。

ろくぬすびと（名）[祿盗人]　才能ナクシテ官ニ居ルモノ、或ハ、不勤、無能ノモノノ、空シク祿ヲ受クルヲ罵リテ云フ語。穀盗人。ゴクツブシ。素餐

ろくのうを（ロクノウヲ）（名）[六魚]　魚ノ名。おつ（鯱）ノ異名。（仙臺ニテ、領主、伊達陸奥守ヲ憚リテ云フ）

ろくば（名）[六馬]　りくば（六馬）ニ同ジ。

ろくはうことば（ロッポウコトバ）（名）[六方詞]　[illegible]江戸ニアリシ俠客ノ六ツノ團體ニテ、[illegible]

ろくはうもの（ロッポウモノ）（名）[六法者]　ろくぼふもの（六法者）ノ條ヲ見ヨ。

ろくはらたんだい（名）[六波羅探題]　［六波羅ハ、次條ノ語ノ略、たんだいハ、探題ノ條ヲモ見ヨ］又、六波羅奉行、六波羅守護。鎌倉幕府ノ職名。京都警衛トシテ、京都ノ六波羅ニ設ケシ府。京都ノ外、畿内、中國、南海ノ政刑ヲ掌リ、且、兵馬ノ權ヲモ統ブ。其地ハ、加茂川ノ東、六波羅蜜寺ノ所在ノ地トス。承久ノ役後、南北兩六波羅ノ廳ヲ置キキ。其南方ニアルヲ南殿、北方ニアルヲ北殿トモ云フ。

ろくはらみつ（名）[六波羅蜜]　波羅蜜ハ、梵語、Paramitaニテ、究竟、又ハ、到彼岸ナドト譯シ、菩薩ノ大行ヲ云フ」佛教ノ語。六種ノ波羅蜜、即チ、檀波羅蜜（布施ト譯ス、以下同ジ）、尸羅波羅蜜（持戒）、羼提波羅蜜（忍辱）、毗梨耶波羅蜜（精進）、禪波羅蜜（禪定）、般若波羅蜜（智慧）、是レナリ。菩薩ハ、此六法ヲ修シテ、自利利他ノ大行ヲ究竟シ、涅槃ノ彼岸ニ到ル。はらみつ（波羅蜜）ノ條ヲモ見ヨ。［法華經、序品「爲[illegible]菩薩、説應六波羅蜜、令得阿耨多羅三藐三菩提、成一切種智」］

ろくふ（名）[六府]　く、ろ、ぶ。六衞府ノ略。左近衞、右近衞、左衞門、右衞門、左兵衞、右兵衞ノ六衞ノツカサノ稱。名目[illegible]

ろくぶ[illegible]　[illegible]

ろくぶぎやう（名）[六[illegible]]　[illegible]六[illegible]毛（享和、一九）二編、中「六部ガ一人、巡禮二人」

ろくふ（名）[六府]　漢方醫ノ、[illegible]ろくざうろつぷ（臟腑）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。［[illegible]、[illegible]、心[illegible]、[illegible]六[illegible]］

ろくぼふ（ロクボフ）（名）[六法]　［又、六方］一萬治、寛文ノ頃、江戸ニアリシ男達、黨ノ稱。鶺鴒組、吉屋組、[illegible]組、[illegible]大小神祇組、[illegible]ドナ[illegible]、之レヲ六法男達ト云ヒ、町町ヲ徘徊セリ。コレ等ノモノヲ、六法者トモ云ヘリ。二二歌舞伎ニテ、演者ノ、揚幕ヨリ花道ニカカリ、揚幕ニ入ル時、手ヲ振リ、高ク足踏ミシテ躍リ行ク一種ノ所作。六法男達ノ風采ヨリ起ル。［[illegible]六法トイフ風俗ハ、ムカシ信州[illegible]ノ武門ヨリ出タル人、役[illegible]、京[illegible]古や山左衞門トイヘル武士ノ浪人モノ、出雲國ノ巫女、[illegible]北野ニテ[illegible]ケルニ、[illegible]山左衞門トヒトツニ[illegible]風俗[illegible]見セケルヨリ[illegible]ケルトナン、江戸ニテハ丹前トイヒ、大坂ニテハ出端トイフ」云云］

ろくぼふことば（ロッポウコトバ）（名）[六法詞]　又、六方[illegible]ことば、[illegible]（奴詞）ノ條ヲ見ヨ。

ろくぼふもの（ロッポウモノ）（名）[六法者]　[illegible]（町奴）、及、前前條ノ（一）ヲ見ヨ。

ろくまい（名）[祿米]　昔、祿トシテ給與シタル米。扶持米。［[illegible]］

ろくまいびやうぶ（ロクマイビヤウブ）（名）[六枚屏風]　[illegible]

ぶ(屏風)ノ條ヲ見ヨ。

ろく-まく (名) [肋膜] 肋骨ノ膜。即チ、肋骨ニ沿ヒテ胸壁ノ内面ニ密着シ、更ニ肺ヲ蔽フ膜。一名、胸膜。

ろくまく-えん (名) 肋膜炎 肋膜ニ發生スル炎症。始メ感冒ノ症狀アリテ、呼吸困難、及、胸痛ヲ感ズルモノ。

ろく-み (名) [六味] 五味ニ淡味ヲ加ヘタルモノ。ごみ(五味)ノ條ヲ見ヨ。 書言字考節用集、十、數量門「六味、ロクミ、五味加ㇾ淡」 大藏法數「凡調ニ和飲食之味ㇾ、各有ㇾ所ㇾ宜、先出ニ此之六種ㇾ、雖ニ苦行之人不ㇾ耐ㇾ於味ㇾ、然益ニ色力ㇾ、亦由ㇾ於此ㇾ、所謂身安道隆、故有ニ六味之須ㇾ也」

ろく-む (名) [六夢] 六種ノ夢。即チ、正夢(普通ノ夢)、噩夢(愕キタル時ニ見ル夢)、思夢(思ヒアリテ見ル夢)、寤夢(目ノ醒ムル時ニ見ル夢)、喜夢(喜ビタル時ニ見ル夢)、懼夢(懼レタル時ニ見ル夢)是レナリ。 周禮、春官宗伯、占夢「掌ニ其歲時觀ニ天地之會ㇾ、辨ニ陰陽之氣ㇾ、以ニ日月星辰ㇾ占ニ六夢之吉凶ㇾ」

ろく-めい (名) [鹿鳴] 鹿ノ鳴クコト。 詩經、小雅、鹿鳴之什、鹿鳴篇「呦呦鹿鳴、食ニ野之苹ㇾ」

ろくめい-さう (名) [鹿鳴草] 〔詩經、小雅、鹿鳴篇「呦呦鹿鳴」ノ句ニ據ル〕 はぎ(萩)ノ異稱。鹿ノ妻問フ由ニ歌ニハ詠メバ云フ。 倭名抄、廿、草類「鹿鳴草、萩、波木」

ろくめい-の-えん (名) [鹿鳴之宴] 古へ、支那ニテ、官吏登用試驗ニ及第シテ、都ニ上ル時ニ催ス酒宴。詩經、小雅、鹿鳴篇ノ詩ヲ歌フ故ニ云フ。 唐書、選擧志「懷ㇾ牒自列ニ于州縣ㇾ、試已、長吏以ニ鄉飲酒禮ㇾ會ニ屬僚ㇾ、設ニ賓主ㇾ、陳ニ俎豆ㇾ、備ニ管絃ㇾ、牲用ニ少牢ㇾ、歌ニ鹿鳴之詩ㇾ」 事物紀原、宋、胡繼宗、八、科第類「都邑蕭ニ新學人ㇾ、爲ニ鹿鳴宴ㇾ、云云、禮部貢院ニ引ㇾ試、詩、刑家鳴ニ送士ㇾ、選ㇾ試ㇾ所、菅、晴、時ニ我蔬ㇾ、章句何燦煌、相公胡殿立、工部歌ニ鹿鳴ㇾ、禮終歌已闋、相送拜ニ于庭ㇾ」

ろく-もつ (名) [祿物] 祿トシテ賜フ物。又、當座ノ賜物。特ニ、布施ノ錢。 庭訓往來、九月「佛布施、非被物、祿物等用意、輕賤也」

ろく-もん (名) [六門] (一)古ヘノ禁裏ノ六ツノ門。即チ、中立賣御門(西御門)、堺町御門(南御門)、清和院御門(東御門)、水流御門(東北御門、又、石藥師御門)、今出川御門(北御門)、乾御門(北面御門)、是レナリ。又、新在家御門(蛤御門)、下立賣御門、寺町御門ヲ三門ト云フ。(鳳闕見聞圖說) (二)轉ジテ、御門ヲ衞ル職名。御門守衞。

ろくもん-せん (名) [六文錢] 紋所ノ名。一文錢六ツヲ二行ニナラベタル形ノモノ。眞田氏ノ家紋トス。むつれんせん(六連錢)ノ條ヲモ見ヨ。

ろく-やた (名) [六彌太] 〔豆腐ヲおかべト云フヨリ、をかべニモヂリ、岡部六彌太ニカク〕 とうふ(豆腐)ノ異名。

ろくや-をん (名) [鹿野苑] 〔梵語、Mrga-dāva.ノ譯語、鹿多ク住スレバ云フ〕 中天竺、波羅奈國ニアリシ園ニテ、釋尊、成道ノ後、始メテ說法シテ、憍陳如等五人ノ比丘ヲ濟度セシ所ト云フ。鹿林。施鹿林。シカノソノ。カセギノソノ。 西域記、七「波羅痆斯國大林中、有ニ窣堵波ㇾ、是如來昔與ニ提婆達多ㇾ、俱爲ニ鹿王ㇾ斷ㇾ事之處、云云、仙以ニ此林ㇾ爲ニ施鹿藪ㇾ、因而謂ㇾ之施鹿林ㇾ、鹿野之號自ㇾ此而興」 謠曲、春日龍神「四諦ノ御法ヲ說キ給ヒシ鹿野苑モココナレヤ」

ろく-ゆ (名) [六喩] 〔金剛般若經「一切有爲法、如ニ夢幻泡影ㇾ、如ㇾ露亦如ㇾ電、應ㇾ作ニ如ㇾ是觀ㇾ」トアル六ツノモノニ喩フル義〕 宇宙ノ萬象ノハカナキコトヲ、夢ト、幻ト、泡ト、影ト、露ト、電トニ譬ヘテ云フ語。六如。 太平記、廿七、玄慧法印未ㇾ切[illegible]源禪師ガ戒ニ思テ、自此詩ノ奥ニ紙ヲ繼テ、六喩般若ノ眞文ヲ寫シ、彼ノ追善ニゾ被ㇾ擬ケル」

ろく-よく (名) [六欲] 六根ニヨリテ起ル欲。即チ、色欲、形貌欲、威儀姿態欲、語言音聲欲、細滑欲(男女ノ皮膚ノ)、人相欲ノ稱。ろくぢん(六塵)ノ條ヲモ參見セヨ。 十訓抄、上、第三、第十五條「微妙ノ音聲ヲ出ダシテ、實相無漏ノ大海ニ、五塵六欲ノ風ハ吹カネドモ、隨緣眞如ノ波ノ立タヌ時ナシト仰セケル」

ろくよく-てん (名) 六欲天 佛教ノ語。三界中ニテ、欲界ニ屬スル六ツノ天ヲ云フ。即チ、四天王天(持國天、增長天、廣目天、多聞天)、忉利天、須夜摩天、兜率天、樂變化天、他化自在天ノ稱。略シテ、欲天。 今昔物語、五、第廿一語「六欲天皆動ス」

ろく-ろ (名) [轆轤] (一)車井戸ノ上ニ懸ケテ、釣瓶繩ヲ掛クル具。車輪ノ形シテ、軸アリ、旋轉ス。 倭名抄、十五、造作具「轆轤、俗云、六路、圓轉木機也」 (二)ロクロガナ。轆鐵。(三)ロクロダイ。旋盤。(四)車地。マンリキ。(五)傘ノ具。形、小サキ臼ノ如ク、孔アリテ、柄ニ貫キ、周ニ刻ミアリ、傘ノ衆骨ヲ此ニ聚メ、上下、開閉セシムルモノ。傘轆。

ろくろ-がな (名) 轆轤鉋 木地細工、錫器、ナドノ圓キ挽物ヲ造ル具。繩ニテ軸ヲ轉ジ、木ヲ裁チテ、器ヲ作ルモノ。又、横ニ軸ヲ設ケ、革紐ヲ絡ヒ、紐ヲ引ケバ、軸、旋ル、軸ノ端ニ器ヲ着ケ、刀ヲ以テ、器ノ旋ルニ當テテ彫リ刳ル。椀、盆、筒、壺ナドヲ造ル。ロクロギリ。マハシギリ。 倭名抄、十九、[illegible]「[illegible]鑽[illegible]、[illegible]加奈、[illegible]之具刀也、[illegible]」

ろくろ-ぎり (名) [轆轤錐] まひぎり(舞錐)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

ろく-ろく (副) [錄錄、碌碌] 役ニ立タザル狀。又、何モ爲出スコトナクテ居ル狀ニ云フ語。 史記、平原君傳「毛遂曰、公等錄錄、所謂因ㇾ人成ㇾ事者也」 歐陽修、與ニ李方叔ㇾ書「不ㇾ有ㇾ益ニ於今ㇾ、必有ㇾ益ニ於後ㇾ、決不ニ碌碌與ニ草木ㇾ同腐也」

ろく-ろく (副) [陸陸] 〔陸ノ條ヲ見ヨ〕 又、ろくに。眞面目ニ。十分ニ。(下ニ反語ヲ用ヰル) 心中重井筒(元祿、近松作)上「三十日ノ一月ヲ、セメテ三日ハろくろくニ、寢物語モアレカシト」「ろくろく見ヌ」「ろくろくカマハヌ」

ろくろく-ぎょ (名) [六六魚] 〔其一條ノ鱗、六六、三十六片アル故ニ云フ〕 又、六六鱗。さひ(鯉)ノ異名。

ろくろ-くび (名) [轆轤頸] ヌケクビ。妖怪ノ名。頸甚ダ長クシテ伸ビ縮ミスルモノト云フ。飛頭蠻。 陳孚(元)、安南使事詩「[illegible]如[illegible]、頭飛似ニ轆轤ㇾ」 書言字考節用集、五、肢體門「飛頭蠻、ロクロクビ、飛頭獠、同、轆轤頸、同」 好色二代男、貞享、西鶴、二「ろくろくびノ脫ケテ、髑髏ノ崩橋ニ出テ」

ろくろく-りん (名) [六六鱗] さひ(鯉)ノ異名。前前條ノ語ヲ見ヨ。 陸游詩「[illegible]六六鱗」

ろくろ-ざいく (名) [轆轤細工] 轆轤鉋ニテ種種ノ器具ヲ作ルコト。又、其細工物。ロクロビキ。ヒキモノザイク。

ろくろ-し (名) 轆轤師 ろくろかた(轆轤鉋)ニテ挽物ヲ作ル工人。ヒキモノシ。旋工。 宇津保物語、吹上、下「[illegible]、蘇枋、紫檀ナドモ」

[illegible]

ろくろ-だい [illegible]〔轆轤臺〕陶器ノ圓形ノモノヲ造ル具。木ノ圓キ盤ノ下ニ軸アリテ旋ル、上ニ陶土ヲ載セ、足ニテ盤ヲ旋ハシ、手ニテ[illegible]具、[illegible]旋ル[illegible]、押シ、[illegible]、種種ノ形ニ作ル。旋盤

ろくろ-びき (名)〔轆轤挽〕ろくろざいく[illegible]〔轆轤細工〕ニ同ジ。[illegible]「紫檀ノ折敷ハタチ、紫檀ノろくろびきノ杯ドモ」

ろ-くゎ (名)〔濾過〕水ナドヲコスコト。水ナドヲ濾シテ、混淆物ヲ去ルコト。

ろ-くゎ (名)〔爐火〕キロリノ火。[illegible]「[illegible]爐火ハ猶不ㇾ差」(爐、爐ニ通ズ)

ろ-くゎ (名)〔蘆花〕アシノハナ。アシノホ。[illegible]

ロ-クヮイ (名)〔蘆薈〕〔正シクハ蘆薈(ロエ)ト讀ム、羅甸語、Aloe.ノ音譯字〕南阿弗利加ニ産ズル百合科ニ屬スル常綠灌木ノ名。葉ハ肉厚ク細長シ、花莖ヲ抽キ、黄色穗狀ノ花冠ヲ着ク。葉ノ液ヲ搾リテ、胃藥ニ用ヰル、煎ジテ黑クシテ、肌、細カク、光リアリ、味、苦シ。

ろ-くゎく (名)〔鹵獲〕敵ノ軍用品ナドヲ分捕スルコト。又、其品。戰利品。[illegible]

ろく-ゐ (名)〔六位〕くらゐ(位)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

ろくゐ-の-くらうど (名)〔六位藏人〕古ヘ、六位ニテ、藏人所ノ官吏タルモノ。重代ナル諸大夫ノ中ヨリ四人ヲ選任シ、其座次ハ、位階、年齒ヲ論ゼズ、補任ノ新舊ニ依ル、極臈、氏次、氏藏人、新藏人ナドト名ノク。[illegible]、下ノ出納ヲ見ヨ。又、六位ノ藏人ノ、每日交代ニ一人ヅツ出仕シテ、朝夕ノ供御、及、雜事ヲ勤ムルヲ、日下臈ト云フ。官職祕抄、下「六位藏人、云云、重代者補ㇾ之、雖二重代一放埒者不ㇾ聽ㇾ之、近代不[illegible]也」[illegible]「めでたきもの「六位の藏人コソナホメデタケレ、イミジキ君達ナレドモ、エシモキ給ハヌアヤヲリモノヲ、心ニマカセテキタル、アヲ色スガタナド、イトメデタキナリ」

ろくゐ-の-つかさ (名)〔六衞司〕次條ノ語ニ同ジ。竹取物語[illegible]、六衞のつかさ合セテ二千人ノ人ヲ、竹取ガ家ニツカハス」

ろく-ゑふ (名)〔六衞府〕ろく、ふ(六府)、及、ゑふ(衞府)ノ條ヲ見ヨ。六衞司。左右京職式「凡六衞府[illegible]人等、不ㇾ得[illegible]入ㇾ市」

ろくゑん-さう (名)〔鹿苑草〕又、ろくをんさう。ふなはらさう(白薇)ノ一名。其條ノ(一)ヲ見ヨ。重修本草綱目啓蒙、八、山草類「白薇、フナワラ、ロクヱンサウ、云云」

ろ-けい (名)〔路徑〕ミチ。コミチ。徑路。太平記、三十六、仁木京兆參南方事「[illegible]」

ろ-けん (名)〔露顯〕〔露見〕(一)祕シタル事ノアラハルルコト。(多ク惡事ニ云フ)[illegible]

(二)ところあらはし(露顯)ニ同ジ。

ろ-こ (名)〔盧胡〕ころ(胡盧)ニ同ジ。[illegible]

ロ-ご (名)〔露語〕〔露ハ、Russia.ノ日本譯タル露西亞ノ下略〕露西亞國ノ國語。

ろ-こつ (名)〔露骨〕アラハナルコト。ムキダシ。アリノママ。ウチツケ。[illegible]

ろ-こん (名)〔露根〕樹木ノ根ノ、地上ニアラハレタルモノ。ネアガリ。張籍詩「古樹露根堪ㇾ繫ㇾ馬」

ろ-ざ (名)〔露坐〕屋根ナキトコロニ坐スルコト。野天ニ安坐スルコト。後漢書、[illegible]新編鎌倉志、五、大佛[illegible]佛、長七八丈、云云、無二堂宇一而露坐突兀」

ろ-さい (名)〔邏齋〕〔邏齋〕〔邏ハめぐる、四方ヲ托鉢シテめぐり歩キ、齋ヲ受クル意〕又、らさい。天竺ニテ、人ノ門ニ立チ、歌ナドウタヒテ食ヲ乞ヒ、糊口スルモノ。托鉢。又、乞兒ノ異名トモス。[illegible]「[illegible]」

ろさい-ぢち (名)〔邏齋乳〕〔前條ノ語ヲ見ヨ〕モノヒヂチ。他人ノ乳ヲ貰ヒテ、兒ニ飲マシムルコト。夏山雜談、三「小兒ノ母ニ乳汁ナクテ、モラヒ乳ニテ育ルヲろさい乳ト云フナリ、按スルニ、佛氏ノ外ニ出テ食ヲ乞ノ、[illegible]ト云フ、モラヒ喰ヲろさいト云フハ、是ナルベシ」

ろ-さう (名)〔邏齋〕(一)ろさい(邏齋)ニ同ジ。(二)人ノ處ニテ、物食フコト。[illegible]

ろ-さう (名)〔魯桑〕モト支那ヨリ渡セル[illegible]

ろ-し (名)〔路次〕(一)ミチスヂ。又、ミチノツイデ。路スガラナルコト。行路。[illegible]

(二)[illegible]

ろ-し (名)〔鸕鷀〕う(鵜)ニ同ジ。杜甫、[illegible]

ろ-しう (名)〔呂州〕[illegible]ニ同ジ。生玉心中(正德、近松作)上「忍ブ戀路ヲセキダイノ、女臈男臈ハ呂州ノ姿」

ろ-じん (名)〔路人〕ミチユクヒト。往來ノ人。路生。許渾、經二秦始皇墓一詩「一種青山秋草裏、路人唯拜二漢文陵一」

ろ-しゃ (名)〔廬舍〕〔野ニアルハ廬、市ニアルハ舍〕人家。小家。又、驛舍。史記、項羽記[illegible]

ろ-しゅう (名)〔呂宋〕〔此語ハ、[illegible]ノ頃、[illegible]ト呼ベルガ如キ通人語ニテ、[illegible]ノ呂ノ字ヲ取リテ、[illegible]ト云ヒシナリト、外骨ハ云ヘリ〕又、呂州。ふろやもの(風呂屋者)ニ同ジ。[illegible]

ろしゆく (名) [露宿] のじゆく(野宿)ニ同ジ。淮南子、道應訓「破レ鼓折レ枹、弛レ弓絶レ絃、去レ舍露宿、以示平易こ」

ろしゆつ (名) [露出] アラハレイヅルコト。又、アラハシ出スコト。ムキダシ。〔營多遷、新月題詩 太液池邊看月時、好風吹動萬年枝、誰家玉匣開新鏡、露出清光些子兒〕

ロすけ (名) [露助] 〔露西亞語一、露國人ヲ Russkii. ト云フヲ、日本化シタル語、日本人ヲ、やぽんをきいト云フ類〕露西亞人ヲ嘲リ呼ブ語。日露戰爭當時ニ始マル。

ろすゐ (名) [蘆錐] 〔尖リテ錐ニ似タルヨリ云フ〕アシノメ。アシノメバエ。蘆芽 元稹詩 朕荷ニ田地、蘆錐短、存ニ一枝條」柳眼低ニ本朝文粹、一、居處 蘆錐之穿、沙捕日、浪ニ

ろせい (名) [路生] 〔生ハ、生キテ居ル人ノ義〕ろじん(路人)ト云フニ同ジ。路傍ノ人。謠曲、草子洗小町「聖德太子ハ救世ノ錫鬪、片岡山ノ飢ヲ路生ニ弘メ給フ」

ろせいのゆめ (名) [盧生夢] かんたんゆめのまくら(邯鄲夢枕)ノ條ヲ見ヨ。

ろせん (名) [路錢] りよひ(旅費)ニ同ジ。太閤素生記 木栗三十匹ヲ與へ、暇ヲクルル、是ヲ路錢トシテ淸洲ニ至リ、云云」

ろせん (名) [艪栓] 艪ノ早緒ヲカクルモノ。つく(船ノ)ノ條ヲ見ヨ。ロヅク。

ろぞく (名) [蘆粟] 近年、支那ヨリ渡セル植物。さたうもろこし(蘆粟)ノ條ヲ見ヨ。

ロソン (名) [呂宋] 花草ノ名。るそん(呂宋)ニ同ジ。

ろだい (名) [露臺] (一)屋根ナキ臺。漢書、文帝紀「嘗欲レ作ニ露臺、召レ匠計レ之、直百金、上曰、百金中人十家之產也、吾奉ニ先帝宮室、常恐レ羞レ之、何以臺爲」(二)宮殿ニテ屋根ナキ場禁中ノ紫宸殿ト仁壽殿トノ間、仁壽殿ト承香殿トノ間ナドノ簀子ノ稱。上ニ天蓋アリテ明ヲ取ル故ニ、其下ノ簀子ハ雨露ヲ承ク (錦所談、一) 公事根源、十一月、豐明節會「舞姬、上リ、五度袖ヲカヘシテ歸入ル、云云、節會ノ程、露臺ノ亂舞ナリ」

ろだん (名) [爐壇] 眞言宗ナドニテ、護摩法ヲ修スル時、護摩ヲ焚ク壇。護摩壇。ごま(護摩)ノ條ヲモ見ヨ。延暦本、平家物語、二、末、文學兵衛佐に相奉る事、ナキコナ人ノ旅人ハ、爐壇ノ煙リニ心ヲスマシ、云云」

ろぢ (名) [路地] 〔ミチスヂニテ、屋根ナキ地カト云フ、路次ノ條ヲモ見ヨ〕(一)門內、庭上、ノ通路。(二)東京ニテ、市街ノ人家ノ間ノ狹キ路。京ニ、途子。

ろぢ (名) [露地] 〔ミチスヂニテ、庭ニ通フ處カ〕(一)屋根ナドノ覆ナキ地。青天井ノ土地。居家玉集「石英玄黃、弱、方於露地安置、夜間揭、著令、得、星月氣こ」(二)ろぢ(路次)ノ條ノ(二)ニ同ジ。茶話指月集、上「宗易、露地ノ樹ハ、凡ソ松竹、シタ木ニハ葉菊ヲウヘタリ」(三)三界ノ火宅ヲ離レタル境ニ譬ヘテ云フ語。法華經五收卷、一「界外露地、所授大白牛馬、是一乘義也」

ろぢアンドン (名) [露地行燈] 角行燈ノ低ク小サキモノ。茶室ノ庭ヲ持チアルクニ用キル。底ノ板ニ燈臺ヲ置ク。古へノあんどんナリ。翁草(安永、神澤貞幹)五「古老ノ物語ニ、云云、行燈ナドト云モノアレ共、今ノ如ク鋼手ヲ中ニ釣ルハ、近キ事ナリ、昔ハ路次行燈ノ如ク、底板ニ燈臺ヲ置キタルナリ、中ニ釣ルハ、小堀遠州ノ丸行燈ヲ仕出シ給フヨリ始リ、角ナルニモ、中ニ釣ルコトニナレリ」

ロヂウム (名) 〔英語、Rhodium.〕〔金屬元素ノ一〕白色ニシテ、金屬的光輝アリ、極メテ堅クシテ脆シ。金ぺんノ尖端ヲ作ルニ用キラル。白金鑛中、又、金鑛中ニ稀ニ存ス。

ろぢがさ (名) [路地笠] 茶人ノ、待合ヨリ、數寄屋ノ間ヲ通フニ、雨ノ時用キル法性寺笠ナドノ大イナル竹ノ皮製ノモノ。紐ニテ頤ニ結フコトヲセズ、手ニテカザスノミナリ。

ろぢぐち (名) [路地口 露地口] 路地ノ出入口。雪女五枚羽子板(寶永、近松作)中「玄關カラハ人目アリ、ソレ露地口ノ錠明キヤヤ」

ろちやうこつ (名) [顱頂骨] 頭蓋骨ノ一。頭蓋ノ上部ヲ構成スル左右一對ノ骨。扁平、方形ニシテ、前ハ前頭骨ニ接シ、後ハ後頭骨ニ接シ、下ハ顳顬骨ニ接ス。

ろづく (名) つく(船ノ)ニ同ジ。艪栓。

ろてい (名) [路程] ミチノ遠近ノホド。ミチノリ。行程。旅程。

ろてき (名) [蘆笛] あしぶえ(蘆笛)ニ同ジ。胡笳。袁楠、竹枝詞「我家南家得、小姑、蘆笛聲聲吹、鷓鴣こ」

ろてき (名) [蘆荻] あし、をぎト。各條ヲ見ヨ。杜荀鶴、漢岸秋思詩「秋風忽起溪灘白、雪落岸邊蘆荻花」

ろてん (名) [路店] 大道店。ほしみせ(干見世)ノ條ヲ見ヨ。

ろとう (名) [路頭] ミチノホトリ。ミチバタ。曾我物語、三十、木曾山門諜狀事「仍密懷、路頭之難こ」路頭に迷ふトハ、タツキノ道ヲ失ヒテ、甚シク困窮スルニイフ。十訓抄、上「一人ノ親ガ路頭ニ迷はウヂャアルメエカ」

ろどん (名) [魯鈍] 智ノニブキコト。オロカナルコト。愚鈍。〔晉書、…〕居不レ擇ニ鄙教、有レ所レ闕、何爾魯鈍之甚也」

ろなう (副) [無論] 〔論なく、ノ略音便〕又、ろんなう。イフマデモナク。勿論。無論。源、五十一、蜻蛉四「傍ニ人ノ失セ給ヒツラン所ハ、ろなう騒ガシク」蜻蛉日記、上、下ハ「ろんなう、サヤウニゾアラント、推シハカラルレド」

ろなは (名) [艪繩] 舟ノ床ヨリ艪ノ上ノ端ニ繫クル繩。ハヤヲ。

ろぬり (名) [蠟塗] ろいろニ塗ルコト。ろいろ(蠟色)ノ條ヲ見ヨ。

ろは (名) 〔只ト云フ字ヲ、片假名ノ二字ニ分析シテ讀ミタル語〕タダ。無代價。代價ヲ要セザルコト。「ろは臺」

ろば (名) [驢馬] うさぎうま(兎馬)ニ同ジ。驢ノ條ヲ見ヨ。世說、劉宋、臨川王義慶排調第二「諸葛令…」

ろばう (名) [路傍] ミチノホトリ。ミチバタ。杜甫、搜馬行「…」遺路傍ニ」元亨釋書、上、元亨釋書 表「今決陌路遺壁、照乘夜光、久委ニ諸子路傍 矣」

ろばた (名) [爐邊] ろへん(爐邊)ニ同ジ。

ろはだい (名) 〔ろはノ條ヲ見ヨ〕公園ナドニ備ヘツケタル共同椅子。

ろばん (名) [露盤] 〔露ヲ承クル盤ノ義〕轉ジテ、ろばん。又、承露盤トモ云フ塔ノ頂ニ高ク立ツルモノ。銅製ニテ、多ク層ヲナス、輪ヲ貫キタルガ如シ。又、相輪塔ノ最下部ニアル方形ノ臺、

[illegible]

ろ-ひ (名) 路費 [illegible]中ノ費用。路用。旅費。[illegible]

ろ-びゃう-き (名) 枕指子 [illegible]ヲコグ拍子。[illegible]今モ弘誓ノ艪拍子ニ、法ノ玉鉾、エイエイ」

ろ-びらき (名) 爐開 茶人ノ家ニテ、陰暦、十月朔日ニ、風爐ヲ閉ヂテ、地爐ヲ開キ用ヰルコト。(初亥ノ日ナリシナリト云フ、爐塞ニ對ス、其條ヲ參見セヨ) [illegible]十月朔日[illegible]、今日爐ヲ開キ、三月三十日爐ヲフサグ、店ニテ今日爐ヲ開キ、爐中ニテ肉ヲアブリ饗ス、[illegible]だんろ[illegible]トイフ、[illegible]人、[illegible]日ヨリ爐ノ開キ、賓客ト茶ヲ喫ス」蕪村句集、冬「爐びらきや、雨中庵ノ、アラレ酒」

ろ-ふ [illegible] モノノ狀[illegible]云フ語 他語ニ接シテ動詞トス。「臈ろふ」(カク)「松ろふ」(マツ)モトホろふ」ウツろふ」蔭ろふ」

ろ-ふさぎ (名) 爐塞 茶人ノ家ニテ、陰暦、三月晦日ニ、地爐ヲ閉ヂテ、風爐ヲ用ヰルコト。(爐開ニ對ス) 改正月令博物筌、三月晦日、爐閉 又爐塞トモカケリ、茶人ノ爐ヲフサグ也、オヨソ茶湯ノ法、十月ヨリ今月晦日限リニシテ、四月朔日ヨリ風爐ナリ」蕪村句集、春「爐ふさぎや、床ハ維摩ニ、掛ケ替ル」

ろ-ぶち (名) 爐緣 (一)爐ノホトリ。ロバタ。爐邊 (二)爐ノ緣トスル木匡(ワク)。

ろ-ブッ (名) 露佛 ぬれぼとけ(濡佛)ニ同ジ。

ろ-へう (名) 路標 ミチシルベ。道標

ろ-べそ [illegible] 小サク[illegible]タルモノ。艪ノ孔ニ嵌メテ、搖ス度トス。トベソ。ロマラ。[illegible]

ろ-へん (名) 爐邊 ゐろりノホトリ。ロブチ。ロバタ。[illegible]

ろ-ぼ (名) 鹵簿 [illegible]簿、裴古切、通音、ボ。宮衞令、集解[illegible]鹵、楯也、簿、文籍也」康熙字典、鹵簿、漢官儀、天子車駕次第、謂ニ之鹵簿、兵衞以ニ甲盾ニ居ニ外爲ニ前導、皆著ニ之簿ニ」 天子車駕ヲ出ス次第。行幸ノ行列。唐書、儀衞志、上「唐制、天子居日衙、行日駕、云云、出入則扈鉀、庭設樂、宮備鹵簿」宮衞令「凡鹵簿内、不得横入」云云」天武紀、下、七年四月「千市皇女平然病發、薨ニ於宮中、由此鹵簿(ミユキノツラ)、既停不得幸行」

ろ-まう (名) 鹵莽 (鹵ハ、鹽分多クシテ耕作ニ適セザル地、莽ハ、草莽ノ地) (一)土地ノ荒レスサブコト。又、ソノ土地。(二)事ヲナスニ、粗略ナルコト。ゾンザイ。莊子、則陽篇「長梧封人問ニ子牢ニ曰、君爲ニ政焉勿ニ鹵莽、治ニ民焉勿ニ滅裂ニ」

ロマンス (名) 〔英語、Romance.〕又、ろおまんす。小說。物語。情話。傳奇。

ろ-マラ (名) 艪牡 ろべそ(艪臍)ニ同ジ。五元集拾遺、夏「アレアレト、ろまらハヅレテ、ホトトギス」

ろん (名) 論 (一)アゲツラヒ。事ノ理(スヂ)ヲ述ブルコト。後漢書、馮衍傳「明君不ニ惡切慤之言、以測幽冥之論ニ」三代實錄、四、貞觀二年十月十五日「直假之論」「論ヨリ證據」(二)漢文體ノ一、自分ノ意見ヲ述ブルモノ。文體[illegible]

[illegible]ニ、[illegible]論[illegible]ノ一。諸法ヲ論ズルモノ。さんざう(三藏)ノ條ノ(一)ヲモ見ヨ。[illegible]答決擇諸法性相[illegible]舍、此正名ニ論、論諸法ニ故」論無くトハ、「言フマデモナク。ろなう。ろんなう。勿論。更級日記「ろんなく、モトノ國ニコソユクラメ」

ろん-い (名) 論意 [illegible]論ノ趣意。[illegible]論ノ意味。論旨。

ろん-かく (名) 論客 ヨク議論スル人。議論ヲ好ム人。議論ズキ。議論家。

ろん-ぎ (名) 論議 論ジハカラフコト。義理ヲ論ジ合フコト、(次條ノ語ヲモ參見セヨ) 荀子、非相「聞見之不ニ衆、論議之卑」

ろん-ぎ (名) 論義 論議 論謗 (一)問答シテ、諸法ノ理否ヲ分別スルコト。[illegible]三十六「樂ニ論議ニ者、處ニ五淨居ニ」 (二)古ヘ、宮中ニテ、御齋會ノ結願ノ日(毎年正月十四日)ナドニ、大極殿(物忌ノ時ハ南殿)ニテ、高僧等ノ行ヒシ經文ノ要義ヲ問答議論スル儀式。コレヲ内論義トモ云フ。後紀、廿二、弘仁四年正月「戊辰(十四日)最勝王經講畢、迎ニ高學僧十一人於殿上ニ論議、施ニ御被ニ」(三)眞言、天台宗ニテ、教義ヲ問答スルコト。叡山ノ六月會(傳教大師忌日ニ行フ會式)ノ時ナドアリ。(四)歌ニツキテ、論議スルコト。略シテ、ろぎ。大鏡、中、伊尹「殿上ニ歌ろぎト云フコト出デ來テ、云云、イカガもだふ(問答)スベキナド、云云」

ろん-きう (名) 論究 物事ノ理ヲ論ジキハムルコト。北齊書、文宣帝紀「施用猶未ニ盡ニ善、可ニ令ニ羣官更加ニ論究ニ」

ろん-きつ (名) 論詰 アゲツラヒ、ナジルコト。云ヒコメルコト。

ろん-きふ (名) 論[illegible] [illegible]ヲ[illegible]ボスコト。又、[illegible]事ニ[illegible]コト

ろん-きょ (名) 論據 議論ノヨリドコロ。

ろん-ぐゎい (名) 論外 [illegible]論ノホカ。議論ノ範圍外。論ズルニ及バヌコト。(二)論ズルホドノ價値ナキコト。

ろん-けつ (名) 論結 議論ヲムスブコト。又、議論ノ收結スルコト。

ろん-ご (名) [illegible] 支那ノ經書ニテ四書ノ一。孔子ノ說ケル教、幷ニ、其言行ヲ記シタルモノ。漢代ニハ、[illegible]、齊[illegible]、魯論語、及、古論語ノ三種アリ、其中、齊論ハ齊人ノ傳フル所、魯論ハ魯人ノ傳フル所、古論ハ孔子ノ舊宅ノ壁中ヨリ出ヅル所トス、古齊ノ二論語ハ早ク亡ビテ、魯論獨リ今ニ傳ハル [illegible]「論語者、孔子應ニ答弟子時人、及弟子相與言、而接聞於夫子之語也、當時弟子、各有所記、夫子既卒、門人相與輯而論纂、故謂之論語」

ろん-こう (名) 論功 勳功ヲ論ジ定ムルコト。史記、[illegible]不[illegible]用文[illegible]子論ニ功、可乎」「論功行賞」

ろん-こく (名) 論告 (一)己レノ考ヘヲ說キノブルコト。(二)檢事ガ被告ノ罪ヲ論定シ、且、求刑スルコト。

ろんご-よみ (名) 論語讀 (ろんごノ論語ノ條ヲ見ヨ) 論語ヲ讀ムコト。又、ソノ人。論語讀みの論語知らずトハ、論語ハ讀ミ了ヘテモ、其事ヲ身ニ行ハズト云フ意。諸藝太平記(元祿)「世ノ中ニ、學問ヲバ

シナガラ、惡キ振舞ヒノ人ヲ見テ、凡夫ノ口ヨリ、論語よみの論語志らずト申シ候ヘドモ、云云」

ろん-さう（名）〔論爭〕論ジアラソフコト。

ろん-ざう（名）〔論藏〕佛教ノ語。さんざう(三藏)ノ一。其條ノ(一)、及、ろん(論)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

ろん-さく（名）〔論策〕時事ノ問題ナドニ就キテ、方策ヲノベタル論文。文章軌範（宋、謝枋得）五、序論「評騭閒深之文、場屋中、日晷有限、巧遲者不如拙速、論策結尾、略用此法、主司亦必以異人待之」

ろん-し（名）〔論旨〕議論ノ主旨。議論ノ趣意。論意。陶弘景、與武帝啓「論旨所謂殆同璅說神寶、曠世以來、莫繼斯理」

ろん-し（名）〔論士〕議論スル人。論者。

ろん-しゃ（名）〔論者〕議論スル人。又、議論ヲ好ム人。杜甫、洗兵馬詩、評「許顗云、中興略有、寄意全無、議論而論者以得直刺諷宗歩歩文致、殊傷子美之志」

ろん-しやう（名）〔論匠〕古ヘ、正月ノ御齋會ノ竟日ニ行ハルル論議(内論議)ニ列スル講師、及、問者ノ總稱。名目抄、諸公事言說篇「論匠、ロンシャウ」江家次第、正月、御齋會竟日「僧綱以論匠交名付藏人、令奏之」

ろん-しよ（名）〔論所〕(一)又、ろんしよ。論ジ爭フトコロ。論點。(二)論ジ爭フ土地。係爭ノ土地。太平記、三十五、北野通夜物語事「各歸テ後、兩方談合シテ、或ハ和談シ、或ハ僻事ノ方ハ私ニ負ケテ、論所ヲ去渡シケル」

ろん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(他動、左變)〔論〕又、ろうず。アゲツラフ。論ヲナス。理ヲ說ク。禮記、王制篇「凡官民材、必先論之、論辨然後使之」魏徵詩「功名誰復論」三代實錄、四、貞觀二年閏十月廿三日「論之於術」

ろん-せつ（名）〔論說〕事ヲ論ジ、又ハ、說明スルコト。又、ソノ文。禮記、文王世子篇「大司成論說在東序」

ろん-せん（名）〔論戰〕議論ヲタタカハスコト。互ニ論ジ合フコト。

ろん-そう（名）〔論奏〕(一)事ノ是非善惡ヲ論ジテ、奏聞スルコト。唐書、劉仁軌傳「河南道安撫大使任瓌、上疏有所論奏、仁軌見其藁輒毀」(二)大寶令制ニ、國ノ大事ニツキ、太政官ヨリ奏狀ヲ奉ルコト。(奏狀ノ條ヲモ見ヨ) 公式令「論奏式、太政官謹奏、云云」北山抄、六「論奏事、皆　山陵、増減官職、公卿依病不上、公卿斷流罪以上等類也」

ろん-だい（名）〔論題〕議論スベキ問題。又、論文ノ題。

ろん-たう（名）〔論討〕(一)互ニ論ジ鬪フコト。(二)タヅネハカルコト。意見ヲ鬪ハセ評議スルコト。論究。北史、齊文宣帝紀「施用猶未盡善、群官可更論討新令」

ろん-だん（名）〔論壇〕公衆ノ議論スル場所。又、ソノ社會。言論界。

ろん-だん（名）〔論斷〕論ジテ斷案ヲ下スコト。論ジテ裁斷スルコト。

ろん-てい（名）〔論定〕論ジテ決定スルコト。禮記、王制篇「論定然後官之、任官然後爵之」

ろん-てん（名）〔論點〕議論スル箇所。議論ノ要點。論所。

ろん-なん（名）〔論難〕議論シテ非難スルコト。漢書、朱雲傳「既論難、連拄五鹿君、故諸儒爲之語曰、五鹿嶽嶽、朱雲折其角」

ろん-にん（名）〔論人〕武家時代、訴訟ノ被告人ノ一稱。訴ヘラレタルモノ。(訴人ニ對ス) 建武以來追加、諸國守護人非法條條「取論人先日散狀、召出守護代并論人等、可究遂行難澁之旨趣」

ろん-ぱ（名）〔論破〕論ジテ言ヒヤブルコト。說キヤブルコト。

ろん-ばく（名）〔論駁〕(論駮)〔駮ハ駁ニ通用ス〕論ジテ其非ヲ攻擊スルコト。唐書、齊澣傳「論駮及三品以下、皆擇　進古道」

ろん-ぱふ（名）〔論法〕議論ノシカタ。議論ノ方法。又、論理ノ法則。

ろん-ぱん（名）〔論判〕(一)論ジテ理非ヲ別ツコト。易林節用集(慶長)上、言辭門「論判、ロンパン」(二)イヒアラソヒ。爭論。

ろん-ぶん（名）〔論文〕事物ヲ論議スル文。論議ヲ書キ述ベタル文章。議論文。

ろん-べん（名）〔論辯・論辨〕事ノ理ヲ論ジワカツコト。意見ヲ陳ベ說クコト。禮記、王制篇「凡官民材、必先論之、論辨然後使之」

ろん-ぽう（名）〔論鋒〕議論ノホコサキ。議論ノイキホヒ。

ろん-り（名）〔論理〕(一)議論ノスヂ。論意ノスヂミチ。(二)次條ノ語ノ略。

ろんり-がく（名）〔論理學〕〔英語、Logic.ノ譯語〕モト哲學ノ一部トセリ。即チ、思想ノ形式的法則(概念、判斷、推論)、及、其研究法ヲ究ムル學。略シテ、論理。

ろ-めい（名）〔露命〕ツユノイノチ。ハカナキ命。易林節用集(慶長)上、言辭門「露命、ロメイ」平治物語、一、信西出家由來事「劍ノ先ニ懸ッテ、露命ヲ草上ニサラス」太平記、四、呉越軍事「醫師治スレ共不痊、露命已ニ危ク見ヘ給ケル處ニ」

ろ-よう（名）〔路用〕旅ニモチヰル金錢。路銀。路費。東海道中膝栗毛(享和、一九)二編、上「サノ、パリ路用ヲトラレテシマヒマシタ」

ろ-れつ（名）〔臚列〕「玉篇、臚、陳也」ツラヌルコト。ナラベツラヌルコト。

∴ろ-れつ（名）〔呂律ノ訛ト云フ〕物言フ調子。常ニ、ろれつがまはらぬ、ナド云ヒテ、醉人、小兒、ナドノ言葉遣ヒノサハヤカナラヌニ云フ。浮世風呂(文化、六年)三編、下「ろれつモ廻ラネエ錯ニ、云云」

ろ-ゐ（名）〔蘆葦〕ヨシ、アシ。三國志、呉志、徐夫人傳「宜伐蘆葦以爲泭、佐船渡軍」

わ

わ　五十音圖、和行第一ノ假名。此一行ノ假名、わ、ゐ、う、ゑ、を、ノ五音ハ、其發聲、喉ヨリ輕ク脣ニ觸レテ出デ、而シテ、母韻ト熟シテ成ル。わハ、下ニ、うヲ受クレバ、をノ如ク呼ブコトアリ、わう(王)、わうごん(黄金)ノ如シ。

わ（名）〔輪〕〔わハまニ通ズ、まろし、まどかノ義〕(一)スベテ、長キモノヲ曲ゲテ、圓クシタルモノ。輪。環。櫻、稲、地藏九億萬里第四、足和輪　指輪　脛ノ輪　(二)車ノ左右ニアリテ、軸ヲ貫キテ、廻ラシテ車ヲ進ムル具。形、圓ク平タシ。周ノ曲レル木ヲ輞ト云ヒ、中央ニアリテ軸ヲ貫ク處ヲ轂ト云ヒ、輞ヨリ轂ヘ聚マリテ指ス許多ノ細ソキ材ヲ輻ト云フ。倭名抄、十一、車具「輪、和、車脚所以轉運也、輞、加保利、車輪郭曲木也、轂、良古加美、轂、車乃古之岐、俗云筒、輻所湊也、輻、夜」華嚴經私記音義、轂、輞、

ト、己之岐下、矢也 [illegible] 用「稿、タガ、云云、畿内近國及九州四國ニテ、わト云（同、工匠、桶ノわ入トイフ）、江戸ニテたがトイフ」

わ （名）倭　和　〔倭ト和ト、音通ナレバ、好字ニ改メシナリ、玉篇「倭、烏禾切、國名」ト見エタリ〕ヤマト。日本。支那ニテ稱セル號ナリ。漢書ノ地理志ニ、夫樂浪海中有倭人、分爲百餘國ト注「倭、是國名」ト見エ、後漢書ノ東夷傳ノ中ニ、倭ノ傳アリテ、倭在韓東南大海中、依山島爲居」ト見ユ。昔、我ガ國人、彼ノ國ニ到ル、唐人、汝ガ國ノ名稱ハ如何ニト問ヘルニ、自ラ東方ヲ指シテ、和奴國耶（我ノ國カ）ト答ヘシヲ、國名ト聞キチガヘテ、倭トシタリ（釋紀、元元集）ト云フ舊說アレド、信ジ難シ。初、我ガ畿内ノ一國ナルやまとノ、大倭ノ字ヲ用ホノトシカ、後、大和ノ字ニ改メツレ、後ハ大日本ノ稱トモナリ、（やまとノ條ヲ見ヨ）多クハ、種種ノ語ニ、接頭語ノ如ク用ホラル、卽チ、和琴、和學、和歌、和書、和船、ナド是レナリ。三國志、魏志、東夷傳、魏在帶方之南（東西以海爲限、南與倭接）日本書紀口訣（忌部正通）「大平勝寳改爲大和」

わ （名）和　（一）ヤハラグコト。平グコト。中庸、第十章「君子和而不流」（二）和睦。タヒラギ。ナカナホリ。成。戰國策、秦策「天下有變、王割漢中以爲和、楚、楚必畔天下而與王」「和ヲ結ブ」「和ヲ乞フ」（三）數學ノ語。二ツ以上ノ數ヲ合ハセテ得ル一ツノ數ヲ、コレ等ノ數ノ和ト云フ。

わ （名）回　曲　マハリ。メグリ。周圍。永久四年百首、春「アハレシヤ、燒野ニモレシ、峰ノわノ、ムラ草カクレ、雉子ナクナリ」

わ （代）吾　我　〔漢語、我ト暗合ス〕自稱ノ代名詞。多クハわれト云フ。ア。アレ。あ（吾）ノ條ヲモ見合ハスベシ。古事記、上[九]「和ガ心、ウラスノ鳥ゾ、今コソハ、千鳥ニアラメ」同、中 [illegible] 萬葉集、十四 [illegible]「此御酒ハ、和ガ御酒ナラズ」萬葉集、十四 [illegible] ヲ、馬越シカネテ、心ノミ、妹ガリヤリテ、和ハココニシテ」同、廿[五]「和ガ妹子ガ、シヌビニセヨト、ツケシヒモ、絲ニナルトモ、和ハ解カジトヨ」

わ （感）〔舟渡せ乎ノを二通ズ〕誘フ聲。古事記、中（仲哀）五「[illegible]海ノ海ニ、[illegible]セナ和」神武卽位前紀 [illegible] 萬葉集、十三[二十]長歌「ハシキヤシ、鳥羽ノ松原、[illegible]ワク子ドモ、率和イデ見ム」（略解ノ訓）

わ （接頭）吾　わが（吾）ト云フニ同ジ。親愛ノ意ヲアラハス語。宇治拾遺、三、第一條 [illegible] ラズナリヌ」古事談、二、王道臣節「黑器物ヲバヒキソバメテ、皆啜クヒテ、只今ゾ人心地スルトテ、イモヲバわ殿ヨソヘトテ、授、師光」盛衰記、五、成親已下被召捕事「カク宜フ和入道ハ」

わ （接尾）曲　回　〔輪ト同語〕山、川、海ノ曲線ノ地形、又ハ、水ノ屈曲回旋スル所ナドヲ表ハス二云フ語。萬葉集、二、[八]長歌「石見ノ海、ツノノ浦回ヲ、ウラナシト、人コソミラメ」「島曲」「川曲」「郭曲」「外曲」「内曲」

わあ （感）驚キタル時ナドニ發スル聲。ヤ。狂言記、名取川「わあ、コレハ大キナ川ヘ出タ」

わ-あぶみ （名）輪鐙　鐙ノ一種。輪形ニナリタルモノ。カラアブミ。鹽泥、六「輪鐙（一名舌無鐙、或唐鐙）輪抄云、鐙、古所謂輪鐙、多舌無舌、只輪計也、而名鞍束抄云、唐鞍ハ舌ナシ、只輪バカリト見エタリ、近代、鐙ヨキタメニ舌アルヨシ」

わあ-わあ （感）多人數、喧シク物ヲ言合フ聲。ワイワイ。ワヤワヤ。ガヤガヤ。

わい （感）哩　〔わいハ國訓〕はノ轉延。狂言記、伯母が酒「今年ハ酒が好イわいヤイ」

わい-おく （名）矮屋　低ク小サキ家。又、[illegible]」レノ家ノ謙稱。[illegible]

わい-かぢ （名）脇楫　脇梶　〔わきかぢノ音便〕船ノ、[illegible]。和 [illegible] 脇楫ニテ、ろノコトヲイヘリ」平家物語、十一、逆櫓事「[illegible]ニ一チガヘ、わいかぢ入テ、ドナタヘモ易シヤスイヤウニシ候ハバヤ」

わい-く （名）矮軀　セノ低キカラダ。

わい-ざつ （名）猥雜　ミダリガハシク入リ亂レタルコト。マゼコゼニナルコト。亂雜。[illegible]

わい-じん （名）矮人　丈ノヒクキ人。書言故事（宋、胡繼宗）五、愚昧類「矮人日、[illegible]」矮人の觀場トハ、矮人ガ多クノ人ノ中ニ立チマジリテ、劇場ナドヲ見物スル義ニシテ、徒ニ當推量スルコトニ云フ。

ワイ-シャツ （名）〔英語、White shirt.ノ訛〕洋服ノ下ニ着用スルしやつ。

わい-せう （名）矮小　丈ノヒククシテ、チヒサキコト。チビ。短小。

わい-せつ （名）猥褻　淫レテ、ミダリガハシキコト。淫猥。

わい-だち （名）脇立　わきだち（脇立）ノ音便。けふぢ（挾侍）ノ條ヲ見ヨ。

わい-だて （名）脇楯　〔わきだて（脇楯）ノ音便〕鎧ノ一部。大鎧ノ胴ノ右脇ノ隙ニ當ツルモノ。ワキアテ。運歩色葉集「脇楯、ワイダテ」保元物語、一、主上三條殿行幸附官軍勢汰事「赤地ノ錦ノ直垂ニ、折烏帽子引立テ、脇楯（立イ）バカリニ太刀帶イタリ」

わい-だ・む・ム・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）辨別　わきだむ（辨別）ノ音便。其條ヲ見ヨ。[illegible] 也」

わい-たん （名）矮短　丈ノヒクキコト。ヒククシテミジカキコト。[illegible]

わい-だめ （名）辨別　〔わきだめ（辨別）ノ音便〕ワカチ。ケヂメ。區別。差別。[illegible]

わい-て （副）別　わきて（別）ノ音便。其 [illegible] 參リコン、わいてモチカキマモリドモコソ、イトオソロシケレ」

わい-なん （名）淮南　〔支那、漢ノ淮南王劉安、始メテ製セリト云ノ二拠ル〕又、淮南王。豆腐ノ異名。山堂肆考（明、彭大翼）「淮南王安始爲豆腐、乳腐、名日、豆腐 [illegible]」

わい-へ （名）我家　又、わぎへ。わいハ、ん。ワガ家。催馬樂、我家「[illegible] ハ、何ソサカエムヤ、和伊戸ラゾ、トミセムヤ」

わい-へん （名）我家　〔わぎへ、（我家）ノ音便〕催馬樂ノ歌曲ノ名。催馬樂、我家「和伊戸ハ、[illegible]ノセ、垂レタルヲ、大君來マセ、婿ニセム、御肴ニ、何ヨケム、[illegible]」

わい-ら （代）〔われらノ音便〕オノレラ。汝等。ソナタダチ。傾城 [illegible] 近松作）一「[illegible]人ツレイ挨ヒトハ、ボンノ男ノ出入、わい等ガ知ルコッチャナイ」

わいらうわん （名）化物ノ名。嬉遊笑覽、三、書畫「化物繪、云云、わいらうわん、目一ツ坊、云云、是ラ其サマニヨリテ作リタル名多カリ」

ワイル-ぴやう （名）〔西紀千八百八

十六年、獨逸ノ醫師わいる(Weil)ノ始メテ記述セシニ因リテ名トス」一種ノ傳染病ノ名　初、高熱ヲ發シ、二三日目頃ヨリ徐ニ下ル。同時ニ眼ニ充血シ、頭痛甚シク、腰ヌケテ、立ツ能ハズ、全身ニ黃疸出デ、眼マデモ黃ニナリ、鼻血、吐血、下血シ、徐徐ニ心臟衰弱シ、高熱ニ因リテ口舌龜裂ス。病原ハ黴菌ニテ、濕地ニアリ、水仕事スル者ノ傷ナドヨリ入ル。又、野鼠ノ體內ニアルモノヨリモ傳染ス。多クハ肝臟內ノ血球中ニ居ルトゾ。(稻田龍吉ノ說)

わい-ろ (名)【賄賂】不正不義ナル贈物。マヒ。マヒナヒ。袖ノ下。音物(インモツ)。苞苴。　南史、陳、張貴妃傳「閹宦便佞之徒、內外交結、轉相引進、賄賂公行、賞罰無常、綱紀瞀亂矣」

わい-わい (感)　わあわあニ同ジ。

わい-わい・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二)〔分分(ワキワキ)し、ノ音便〕キハヤカナリ。ハキトシタリ。分明ナリ。明白ナリ。　武烈即位前紀「法令分明(ワイワイシ)」　垂仁紀、廿六年八月「雖撿二校其國之神寶一、無二分明(ワイワイシク)申言者一」　持統即位前紀「及レ長辯(ワイワイシクテ)有二才學一」

わう(オウ) (名)【王】(一)オホキミ。一國ノ君主ノ稱號。支那ニテハ、周ノ代マデハ、總王ノコトナリシガ、周ノ末ニ、諸侯モ王ト稱セシヨリ、漢ノ代ニナリテ、總王ノ子ヲ諸侯トナシタルヲ、諸侯王トテ某王ト云ヒシヲ、我ガ朝ニ採ラレタルナリ。　書經、金縢篇「公曰、體、王其罔レ害」詩經、大雅、文王之什、皇矣篇「王赫斯怒、爰整二其旅一」(二)帝號、出デ來テヨリ、帝ヨリ一等下レル稱號(親王、藩王ノ類)　左傳、僖公廿五年「今之王、古之帝也」(三)祖父、祖母ナドヲ尊稱シテ云フ語　爾雅、釋親篇「父之考爲二王父一、父之妣爲二王母一」注「加レ王者、尊レ之」(四)道德ヲ以テ天下ヲ率キルモノノ稱。(霸ニ對ス)　孟子、公孫丑、上篇「以レ德行レ仁者王、王不レ待レ大」(五)天子ノ子孫、曾孫等ノ、親王、又ハ、諸王ナドト申ス。明治以後ハ、五世以下ノ皇族ヲ云フ。又、朝鮮李王家ノ長ヲモ云フ。(親王(シンワウ)ノ條ヲモ見ヨ)　皇室典範、第三十一條「五世以下ハ男ヲ王、女ヲ女王トス」(六)わうしやう(王將)ノ略。(將棋ニ)　塵添壒囊抄、二、第三十七條「將棊ノ馬ニ、玉ヲ王ト云ハ何ノ故ゾ、兩王イマサン事ヲ忌テ、必ズ一方ヲ玉ト書ク、是手跡家ノ口傳ト、云云」(七)長(ヲサ)。カシラ。「花ノ王」獸ノ王」蜜蜂ノ王」(八)人名ノ下ニツクルモノ。「梅王」松王」

わう(オウ) (名)【往】ムカシ。去リ行クコト。又、過ギ去リシ方。過去。　荀子、解蔽篇「不下以二少頃干一之胸中上、不レ蔽レ往、不レ閔レ來、無二邑憐之心一」

わう-いつ(オウ・イツ) (名)【橫溢】ヨコサマニ、アフルルコト。アフレ流ルルコト。

わう-え(オウ・エ) (名)【黃衣】又、くわうえ。黃色ノ僧服。特ニ、喇嘛新敎ノ僧ノ着ル黃衣。　僧史略、上「後周忌聞二黑衣之讖一、悉屏二黑色一、着二黃色之衣一」山堂肆考、明、彭大翼、「僧舊着二黑衣一、元文宗寵二愛僧欣笑隱一、賜以二黃衣一、其徒後皆衣レ黃」

わう-か(オウ・カ) (名)【王家】又、わうけ。帝王ノ御家筋。　書經、金縢篇「王執レ書以泣曰、其勿二穆卜一、昔公勤二勞王家一、惟予沖人弗レ及レ知」

わう-が(オウ・ガ) (名)【枉駕】(駕(ノリモノ)ヲ枉(マ)ゲテ來ル意)人ノ訪ヒ來ルコト、又、訪問スルコト、ノ敬語。オイデ。　三國志、蜀志、諸葛亮傳「此人可二就見一、不レ可二屈致一也、將軍宜二枉レ駕顧一レ之」

わう-かう(オウ・コウ) (名)【橫行】(一)ヨコサマニ行クコト　杜牧、詠蟹詩「莫レ道無心畏二雷電一、海龍王處也橫行」(二)恣ニ押シ歩クコト。わうぎやう　莊子、盜跖篇「盜跖從卒九千人、橫二行天下一、侵二暴諸侯一」

わう-がく(オウ・ガク) (名)【王學】〔王ハ、王陽明ノ王ナリ〕やうめいがく(陽明學)ニ同ジ。

わう-かくまく(オウ・カクマク) (名)【橫膈膜】 體中、胸腔ト腹腔トノ境ニアル筋肉ノ膜。其作用ハ、吸息ノ時、胸腔ヲ擴張シテ腹腔ヲ壓迫シ、呼息ノ時ハ之ニ反ス。

わう-ぎ(オウ・ギ) (名)【黃耆】ヤハラグサ。ヤハラササゲ。モメンヅル。荳科(マメ)ノ多年生草本ニテ、山地ニ生ズル藥草ノ名。春、舊根ヨリ叢生ス、直立シテ、二三四尺、莖ハ蔓狀ヲナシ、葉ト共ニくららのき(苦參)ニ似テ、毛アリテ淡綠ナリ。夏、梢ノ葉ノ間ニ、淡黃綠色ノ花ヲ開ク、形、あづき(赤豆)ノ花ノ如シ。後、短キ莢ヲ結ブ。根ノ、ヤハラカニシテ、綿ノ如キモノヲ藥用トシ、上品トス。(綿黃耆)又、根ノ、硬(コハ)キモノヲ下品トス。(木黃耆)　倭名抄、廿、草類「黃耆、夜波良久佐」　重修本草綱目啓蒙、七、山草類「黃耆、ワウギ、一名百藥綿、云云」

わうき-せんり(オウキ・センリ) (名)【王畿千里】(畿ハ、帝都ノ四方五百里以內ノ地ヲ云フ)　古ヘ、王城ノ四方千里ノ地。即チ、帝王ノ直轄地ハ、方千里アルコト。(支那ノ一里ハ、我ガ六町許リ)　周禮、夏官篇、職方氏「乃辨二九服之邦國一、方千里曰二王畿一」　拾芥抄、上「一、疑問云、庄保郡等其差別幷字訓如何、云云、答曰、云云、郡、說文曰、天子地方千里、分爲二百縣一、縣有二四郡一、云云、今按、一郡長百里(三百步爲二一里一)、廣又百里也、方百里者有二一百一、故王畿千里、內有二百郡一也、文選、魯靈光殿賦云、百郡之廉孝者、晉二王畿方千里地一也、周曰、天子地已千里也、諸侯以二何地一爲二封國一乎、二百里、三百里、周公曰依二成王論一、半ノ一、男國、是則如二王畿千里一、晉有二一百一也、其中公千里、天子畿、其九十九爲二諸侯卿大夫之地一也、故周禮又云、以封二畿內諸侯一、以二畿外一封二畿外諸侯一、是也」

わう-きふ(オウ・キユウ) (名)【迮給・庭給】〔字義、詳ナラズ〕牙儈(スアヒ)ノ類ナリ。　庭訓往來、四月「庭給仲人等尤大切也」　古寫本、庭訓抄、注「庭、少也、言中人自二兩方一摘二取人一也」

わう-ぎん(オウ・ギン) (名)【黃芩】脣形科ノ多年生草本ノ名。享保中、朝鮮ヨリ渡來シ、大和ノ宇陀ニ植ウ。又、野生ノモノモアリト。春、苗ヲ生ズ、高サ一二尺、一根ニ叢生ス。葉ハ披針狀ニテ、長サ一寸許リ、對生シ、秋、莖ノ末ニ長サ四五寸許リノ穗ヲナス。花ノ長サ一寸許リ、本ハ細筒ニシテ端ハ五瓣ニ分レ、白、又ハ、紫色ナリ、青ミアルモアリ、蕚中ニ四ノ小黑子アリ。根ハ黃色ニシテ藥トナル。コガネバナ。コガネヤナギ。又、わうごん。猶、やまひひらぎ(山柊)、及、ささやきぐさ(薄落廻)ノ條ヲ見合ハスベシ。

わう-ぎやう(オウ・ギヨウ) (名)【橫行】わうかう(橫行)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

わう-きう(オウ・キユウ) (名)【王宮】王ノ居所。又、帝王ノ宮殿。　周禮、天官篇、小宰「國有二常刑一、乃退以二宮刑一憲二禁于王宮一」

わう-くわ(オウ・カ) (名)【王化】王者ノ德化。君王ノ感化。　詩序、小序、周南、關雎篇「周南召南、正始之道、王化之基」　本朝文粹、二、意見封事、意見十二箇條「澆風漸扇、王化不レ行」

わう-くわ(オウ・カ) (名)【王瓜】からすうり(烏瓜)ノ條ヲ見ヨ。　禮記、月令篇「孟夏之月、云云、王

[illegible]

わうぐゎ (名) [illegible] ヨコ一ノスルト[illegible]

わうくゎん (名) [往還] (一) ユキカヘリ。[illegible]リツレバ、タダ殘殿ヒトツノミ」 (二) 往來スベキ道。[illegible] 往道。 [illegible]ノ物イヒ聲ニ耳、殊更ココハ往還ゾヤ」

わうげ (名) [王氣] 王者タルベキ品位。帝位ニツクベキ相。次條、參見セヨ。 [illegible]衣、二、上四十「コレハ今ヨリ樣コトニ、わうげゾツカセ給ヘル御ケシキニゾト云フモ、ヲカシカリケリ」

〰わうげ-づ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [王氣付] 貴キ容子ニ見ユ。品位アリテ氣高ク見ユ。 [illegible]はや物語、一、[illegible]云云、御カタチナドモ、わうげづきテケダカク、云云」

わうげふ (名) [王業] 君王タルモノノ大業。帝王ノ國ヲ統べ治ル業。王者ノ事業。 諸葛亮、後出師表「先帝慮漢賊不兩立、王業不偏安」云云 延慶本平家物語、三、本、新院民をおはれみ給ふ事 イツモ御ネザメガチニテ、王業封ガタキ事ヲ、トカク思食ツヅケケル」

わうこ (名) [往古] 又、わうご。オホムカシ。上古。振古。 史記、[illegible]傳「[illegible]彼誠知所處、不自重其死、雖往古烈士、何以加哉」 經國集、廿「詳稽往古之執、今可行於當[illegible]」

わうご (名) [往古] 前條ノ語ニ同ジ。 [illegible]集、往古」 謠曲、雷電「有リ難ヤコノ山ハ、往古ヨリ佛法最初ノ御寺ナリ」

わうこう (名) [王公] 王ト、公ト。 墨子、尚賢、上「今者、王公大人[illegible]、政於國家、皆欲國家[illegible]」

[illegible]云之信」

わうこく (名) [王國] (帝國ニ對ス) 王ノ統治スル國家。[illegible]世、[illegible]此下國一

わうごん (名) [黄金] (一) コガネ。キガネ。金。 [illegible] (二) [illegible]七判金[illegible]。 [illegible]月天皇造佛像、以上黄金二百兩[illegible]、七、[illegible]所ハ、信長公ノ時ノ始トス、[illegible]金一枚ハ、大概重サ四十目餘ナリ」「黄金十枚拜領」 (三) 馬代ノ目錄ナドニ、黄金十兩ナドト記スハ、大判金ニテ云フ、即チ、其一枚ニ當ル。スベテ式正ノ書物ニハ、小判ノ數ハ用ヰズト云フ。(夏山雜談、五)

わうごん (名) [黄芩] わうぎん(黄芩)ニ同ジ。 草木育種後編、下、藥品「黄芩、和名ヤマヒヒラギ、俗ニ、コガネヤナギトイフ、花ニ白ト碧トアリ、享保年中、丹羽先生(阿部)、甲州ヨリ採リ得、官園ニ上ル、又漢種モ、享保年間、唐山ヨリ來ル」

わうごん-じだい (名) [黄金時代] (英語、Golden age. ノ譯語) 社會ノ進歩、最高ノ域ニ達シ、百般ノ事物、悉ク足リトトノヒテ、些ノ缺ケタルコトナシト考ヘラルル時代。

わうごん-じゆ (名) [黄金樹] (近年、米國ヨリ輸入セルかたるぱーをべしおおさ(英語、Catalpa speciosa.)ト云フ樹ニ名ヅケシモノ 價値、黄金ニ比スベシトテノ名ナリト) 凌霄花科ニ屬シ、本邦ノきささげ(楸)ニ甚シク似タル落葉喬木。北亞米利加ノ原產。葉ハ廣卵形ニシテ全緣、花ハ白色ニテ小サク、圓錐花序ニ着キ、花梗ニ[illegible]、堪ヘ、朽チ難シ。然レドモ寒氣ニ害ヲ被ル事ナシ。樹ハ柱、枕木ナドトシテ可ナリ、家具ノ材ナドニハ劣レリ。本邦ニテハ、はなきささげト云フ。

わうごん-ばい (名) [黄金梅] 梅ノ一種。花ノ細クシテ黄ナルモノ。

わうさ (名) [王佐] 王者ノタスケ。帝王ノ補佐。 漢書、董仲舒傳、贊「劉向稱董仲舒有王佐之材、雖伊呂亡以加」

わうさい (名) [往歳] わうねん(往年)ニ同ジ。 左傳、僖公六年「往歳鄭伯[illegible]子陳」

〰わうさい (名) [黄菜] さはやけ(黄菜)ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、十六「[illegible]黄菜、[illegible]、俗云、[illegible]佐以、[illegible]云、人作黄菜、常所[illegible]也、黄菜[illegible]佐波夜介」(蘿蔔ノ蘖ナリ) 本草和名、下九三十「温菘、又、作黄菜」 内膳司式「蘿蔔黄菜」(蕪菁ノ[illegible]ナリ)

わうさつ (名) [横冊] ヨコトヂノ本。

わうし (名) [王氏] 天皇ノ御子孫ニテ姓ヲ賜ハラヌ者。王姓。 三代實錄、一、天安二年十一月十一日「天皇即位之日、擇王氏女有容儀者二人、充褰御帳之職、因而賜爵、他皆效此」 平家物語、一、祇園精舍事「始メテ平ノ姓ヲ賜ヒテ、上總ノ介ニナリ給ヒシヨリコノカタ、忽チニ王氏ヲ出デテ人臣ニ連ナル」 太平記、九、足利殿御上洛事「我ハ源家累葉ノ族ナリ、王氏ヲ出テ不遠」

わうし (名) [王師] (一) 王者ノ軍隊。帝王ノ軍勢。官軍。天兵。 詩經、周頌、閔予小子之什、酌「於鑠王師、遵養時晦、時純熙矣、是用大介」 (二) 王者ノ師匠。帝王ノ師範。

わうし (名) [横死] 殺害、又ハ、災害ナドニテ死ヌルコト。非命ノ死。非業ノ死。

變死ニ[illegible](病死ニ對ス) [illegible]

わうじ (名) [皇子] 又、くゎうし。天子ノ御子。ミコミヤ。 神武紀「王子[illegible]甲寅、立為皇子」 [illegible]

わうじ (名) [王子] (一) 帝王ノ子。王ノ子。 [illegible] (二) 親王ノ宣下ナキ皇族ノ男子。 [illegible]王ニ立皇太子」

わうじ (名) [王事] 帝王ノ御上ニ關ハル事ガラ。又、皇室。 詩經、小雅、鹿鳴之什、四牡「四牡騑騑、[illegible]王事靡盬、我心傷悲」 謠曲、[illegible]「[illegible]ナノ御事ヤ、我等ヒノ凡夫トシテ、神佛ノ事ノ惡ミヲ受クル、云云」

わうじ (名) [往時] 往ニシ時。過ギ去リシ時。ムカシ。以前。コノカタ、往日、 [illegible]「往時文[illegible]人生此日[illegible]」

わうじ (名) [往事] 往ニシ事。過ギ去リシ事柄。 史記、[illegible]「[illegible]」 朗詠集、下、往事「[illegible]」

〰わう-シキ (名) [黄鐘] ([illegible]ハ、朝鮮音、わうしぐノ轉ト云フ) 又、わうしやう。黄鐘調ノ略。十二律ノ一。其條ヲ見ヨ。 禮記、月令「律中黄鐘」 鄭注「黄鐘、律之始也」 源氏、四十四、橋姫「わうしきテウニシラベテ」

わうしつ (名) [王室] (一) 帝王ノ御家筋。王家。 書經、蔡仲之命「[illegible]乃攸績、睦乃四鄰、以蕃王室、以和兄弟」 (二) 皇室。帝室。 (三) 轉シテ、國家。 [illegible]「[illegible]王室惟康」

わうじつ (名) [往日] (一) 往ニシ日。過

ギ去リシ日　先日　過日　曩日。禮記、曲禮、上篇「生與₂來日₁、死與₂往日₁」（二）ムカシ。往昔、曩昔。白居易詩「今日心情如₂往日₁」

わうしん（オウシン）（名）【往信】當方ヨリ通信ヲ發スルコト。又、ソノ通信。（返信ニ對ス）

わうしや（オウシヤ）（名）【王者】帝王タルモノ。左傳、文公六年「古之王者、知₂命之不₁ν長、是以竝₂建聖哲₁」宇多天皇御記、仁和三年六月「又曰云、與₂下同階₁雖₂明王者不₁ν擇、政者、徑₂佐世言₁」太平記、廿七、雲景未來記事「然ニ今ノ王者、此明器ヲ傳フル事無テ、位ヲ践御坐事、誠ニ下位共雖₂中₁」

わうしや（オウシヤ）（名）【横斜】ナナメニナルコト。傾クコト。ハスカヒニナルコト。林逋詩「疎影横斜水清淺、暗香浮動月黃昏」

わうしやう（オウシヤウ）（名）【王將】將棋ノ駒ノ長タルモノ。四方、四隅ヘ一格ヅツ自在ニ動クコトヲ得。敵ノ駒ニ攻メラレテ、動キ能ハザルニ至レバ、負トナル。ぎよくしやう（玉將）ノ條ヲモ見ヨ。毛吹草「王將モ歩ノモノ」日本風土記（全浙兵制附錄）五、象棋「象棋、彼國設₂名正棋₁、呼音少₂世₁、云云、棋子兩傍、各有₂二王將、一箇玉將、一箇玉將、各馬主₂其次序₁」

わうじやう（オウジヤウ）（名）【王城】王者ノ宮城。帝王ノ宮居。都。左傳、僖公十一年「揚拒泉皐伊雒之戎、同伐₂京師₁、入₂王城₁、焚₂東門₁」盛衰記、廿二、佐藤太將門中違事「昔將門カ、東八箇國ヲ打靡テ、凶賊ヲ集メ、王城ヘ攻入ベシト聞ユ」

わうじやう（オウジヤウ）（名）【往生】（一）〔淨土ヘ往クヲ、往ト云ヒ、彼土ノ蓮華ノ中ニ化生スルヲ、生ト云フ〕佛經ノ語。現世ヲ辭シテ、極樂淨土ヘ往キテ生ルルコト。觀無量壽經「願₂生₁彼國₁者、發₂三種心₁、卽便往生」（二）死ヌルコト。拾遺物語、月江集「寶永、近松作」中「子ハ賢子ナリ、嫁掛リ、明日ガ日、往生申シテモ、骨ヲ拾フテ眞實ニ、泣イテクレルハ與兵衞トソナタ」（三）轉ジテ、無理ニ壓シツクルコト、（或ハ、云フ、アフジヤウ、懊狀ノ語ヨリ出ヅト、其條ノ語ヲ參見セヨ）「往生ヅクメ、無理往生」（四）閉口スルコト。困ルコト。悲觀。

わうしやうらく（オウシヤウラク）（名）【皇麞樂】又、わうさうらく。舞樂ノ曲ノ名。樂家錄、廿八、樂曲訓法、中華曲、平調、皇麞、和字志役字、一名海老葛」龍鳴抄、下、平調「皇麞、ワウサウ、云云」

わうじやく（オウジヤク）（名）【尫弱】【尪弱】ヒヨワキコト。カヨワキコト。柔弱。唐書、裴懷古傳「懷古尫弱不₂能₁ν騎、宛₂轉山谷間₁、僅達₂幷州₁」續紀、三十七、延曆二年六月「每₂多尫弱全不₁ν堪₂戰₁」著聞集、十六、興言利口「治部卿サブラヒ、ウマノ尤某、云云、尫弱ノ體ニテ、物食ヒテ居タリケルガ、云云」

わうしよう（オウシヨウ）（名）【黃鐘】わうしき（黃鐘）（十二律）ノ條ヲ見ヨ。禮記、月令篇「仲冬之月、云云、其音羽、律中₂黃鐘₁」

わうしよくき（オウシヨツキ）（名）【黃蜀葵】とろろあふひ（黃蜀葵）ニ同ジ。

わうすゐ（オウスイ）（名）【黃水】〔色、黃ナレバ、云フ〕胃ヨリ吐キモドス水。膽汁ナルベシ。源平盛衰記、四、義經都落事「船底ニヒレ伏シテ、黃水ヲツクコソ悲シケレ」

わうすゐ（オウスイ）（名）【王水】〔水ノ王者ノ意〕強硝酸ト強鹽酸トノ混合液。金、白金ナドノ如キ、普通ノ酸ニテハ溶解シ難キモノヲモ、溶解シ得ル性アリ。

わうせい（オウセイ）（名）【王政】王者ノ自ラ執ル政治。帝王ノマツリゴト。又、帝王ノ親裁セラルル政治。（霸者ノ政治ナドニ對ス）孟子、梁惠王、下篇「夫明堂者、王者之堂也、王欲₂行₁王政₁、則勿₂毀之矣₁」「王政復古」

わうせい（オウセイ）（名）【旺盛】「正韻、旺、光美也」極メテ盛ンナルコト。隆盛。盛大。盛旺。

わうせい（オウセイ）（名）【横政】暴虐ナル政治。ヨコシマナルマツリゴト。暴政。孟子、萬章、下篇「横政之所₁ν出、横民之所₁ν止、不₂忍₁居也」

わうせい（オウセイ）（名）【黃精】なるさゆり　鳴子百合（一）ニ同ジ。

わうせうくん（オウシヨウクン）（名）【王昭君】樂曲ノ名。倭名抄、四、曲調類「性調曲、王昭君、式部卿貞保親王、白居八部中、所₂移吹₁、横笛也」拾芥抄、上、末、音樂部「性調、王昭君、無₂舞」

わうぞく（オウゾク）（名）【王族】王者ノ一族。又、帝王ノ一門。左傳、成公十六年「苗賁皇言₂於晉侯₁曰、楚之良在₂其中軍王族₁而已」

わうそん（オウソン）（名）【王孫】（一）帝王ノ子孫。又、貴族ノ子弟。貴公子。史記、淮陰侯傳「母怒曰、大丈夫不ν能₂自食₁、吾哀₂王孫₁而進ν食」注「王孫、如ν言₂公子₁也」杜甫、哀王孫詩「竹根在₂邑龍在ν野、王孫善保千金軀」（二）つくばねさう（衝羽根草）ニ同ジ。（三）猿ノ異名。漢ノ王延壽ノ王孫賦、及、宋ノ柳宗元ノ憎₂王孫₁文ナドニ載セタリ。

わうだい（オウダイ）（名）【往代】往ニシ代。ソノカミ。イニシヘ。ムカシ。往世。晉書、段灼傳「刻₂石書₁ν勳、垂₂示無窮₁、宜₂追述往代₁與ν發」太平記、廿四、依₂山門嗷訴₁公卿僉議事「治承ノ往代ニ、平相國淸盛公、天下ノ權ヲ執テ、云云」

わうだい（オウダイ）（名）【皇帝】（一）わうだいはぢんらく（皇帝破陣樂）ノ略。次條ノ語ヲ見ヨ。（二）くわうてい（皇帝）ノ讀癖。

わうだいはぢんらく（オウダイハヂンラク）（名）【皇帝破陣樂】舞樂ノ曲ノ名。唐ノ玄宗皇帝、國ヲ平ゲテ即位スル時、作ラシメタリト傳フ。（文明抄）、名、武德太平樂、略シテ、皇帝。字類抄「皇帝破陣樂、ワウダイハヂンラク」

わうだう（オウダウ）（名）【王道】帝王ノ國家ヲ統治シ給フ道。王者ノ世ヲ治ムル正シキ道。（霸道ニ對ス）書經、洪範篇「無ν偏無ν黨、王道蕩蕩、無ν黨無ν偏、王道平平」平治物語、一、信賴信西不快事「君臣トモニ自然ノ誤セアラバ、天下ノ亂ヲ、王道ノ滅亡、コノ時ニアルベシ」

わうだう（オウダウ）（名）【横道】〔韻會「横、不ν順ν理也」〕（一）ヨコミチ。又、ヨコシマナルコト。正道ナラザルコト。法苑珠林「横道作ν賊、劫₂奪人衣₁」「鬼神ニ横道ナシ」（二）不正ト知リナガラ行フコト。横着。

わうだつ（オウダツ）（名）【横奪】無理ニウバヒトルコト。ヨコドリ。ワウリヤウ。說苑（漢、劉向）「財有ν所₂歸者、非ν所₂以横奪₁也」

わうだん（オウダン）（名）【横斷】ヨコ、切斷スルコト。又、ヨコギルコト。三國志、魏志、公孫瓚傳「擁₂黑山之衆₁、陸₂梁冀州₁、横₂斷絕後₁」

わうだん（オウダン）（名）【黃疸】キバムヤマヒ。病ノ名。膽汁、鬱積シテ、血中ニ轉入スルニ因リテ發ス。皮膚、眼、爪、溺、皆黃色トナリ、食氣ナク、漸クニ衰弱疲勞ス。倭名抄、三、病類「黃病、一云黃疸、岐波夫夜万比」

わうち（オウチ）（名）【王地】帝王ノ統ベ治ムル領地。王者ノ土地。王土。曾我物語、○○○○「○○○、生₂王地₁、食₂草₁被₂容₁」平家物語、二、教訓事「普天ノ下、王地ニ非ズト云フ事ナシ」

わうちやく（オウチヤク）（名）【横笛】又、ヤウデウ。ヤウヂヤウ。わうてき（横笛）ニ同ジ。ヨコブエ。類聚名義抄、十一、下「横笛者、又名₂龍吟₁」

わうちゃく（名）[枉惑] [illegible] 押シツヨク、道理ナキコト。知リツツ、私ヲ行フコト。又、ナマケ。怠惰。

わうちゃくもの（名）[横着者]〔枉惑者ノ轉ト云フ〕(一)知ラヌ振シテ、私ヲ行フモノ。ズルキモノ。又、ナマケモノ。[illegible]「[illegible]長光ハアノ横着者トラヘテクレイ」(二)イタヅラモノ。(京都)

わうぢょ（名）[皇女] わうにょ(皇女)ニ同ジ。續行紀、四年二月「第六皇女[illegible]」

わうて（名）[王手] 將棋ニテ、直ニ王將ヲ襲ヒ掛カル手。浮世風呂(文化、三馬)初編、下「コッチハ王ヲ取リヤスッ、ソレ王手」

わうてう（名）[王朝] (一)王ノ朝廷。天子ノ朝廷。[illegible] (二)王朝時代ノ略。帝王ノ親シク政ヲ執リタマフ時代。多クハ平安朝時代ヲ云フ。

わうてき（名）[横笛] よこぶえ(横笛)ニ同ジ。唐書、禮樂志「[illegible]横笛、云云」

わうど（名）[王土] わうち(王地)ニ同ジ。[illegible]

わうど（名）[黄土] (一)黄色ノ土。(二)くゎうど。繪具ノ一。あかつちニテ製スル帶黄赤色ノ粉末。其水飛シタルヲ、粒わうどト云フ。丹石。運歩色葉集「黄土、ワウド」 重修本草綱目啓蒙、三、土類「黄土ハ、山ツチノ色ノ黄ナルモノナリ、今黄土ト云フテ、

藥用トシ、水飛シテ繪ノ具トス」

わうどう（名）[illegible] 又、[illegible] しんちゅう(眞鍮)ニ同ジ。

わうなん（名）[横難] 不慮ノ災難。[illegible]

わうに（名）[黄丹] 皇太子ノ御禮服ノ色。紅花ト支子トヲ以テ染ム。(後松日記、六) 衣服令「皇太子禮服、[illegible]黄丹衣、[illegible]、云云」法曹至要抄、中、黄丹事「彈正式云、支子染深色、可レ濫ニ黄丹ニ者、不レ聽レ服用ニ云云」

わうに（名）皇女 又、わうぢょ。わうにょ。天子ノ御娘。ヒメミコ。ヒメミヤ。後水尾院當時年中行事、下「十六歳ノ時、皇女ハ、ビンソギアリ、云云、皇女ハ近代大略ハ比丘尼ナリ」

わうにょ（名）[王女] 又、わうぢょ。(一)王ノ御娘。(二)皇族ノ女ニテ、内親王ノ宣下ナキヲ申ス語。女王。

わうにょうご（名）[王女御] 皇女、又ハ、王孫女ニテ女御ニナラセ給ヘル方。源、廿一、少女「王女御ニテサブラヒ給フ」河海抄「朱雀院皇女昌子内親王(冷泉院女御)、世稱號ニ王女御ニ」

わうねん（名）[往年] 往ニシ年。過ギ去リシ年。先年。往歳。左傳、文公十七年「往年正月、[illegible]也」釋氏往來、二月「予往年[illegible]」

わうのはな（名）[王鼻] 假面ノ、赤ク塗リテ、鼻ノ突キ出デタルモノ。猿田彦ノ神ノ相ナリト云フ。舞樂ノ貴德ノ面ナリ。[illegible]神祇門「王鼻、ワウノハナ、猿田彦鼻長、今世謂ニ[illegible]、其面貌[illegible]假面ニ謂ニ之王鼻ニ」

わうは（名）[王霸] 王業ト、霸業ト。又、

王道ト、霸道ト。又、王者ト、霸者ト。[illegible] 太平記、四、呉越軍事「西伯囚ニ羑里ニ、重耳走ニ翟ニ、皆以[illegible]」

わうばい（名）[黄梅] 木ノ名、[illegible]。支那原産ニテ、高サ五七尺。莖ハ、叢生シ、葉ハ、複葉ニシテ三小葉ヨリ成リ、小葉ハ披針形ニテ全緣。春ノ半ニ、六瓣筒狀ノ黄花ヲ開ク、梅花ニ似タリ。花、終リテ、葉生ズ。迎春花

わうはう（名）[黄袍] くゎうはう(黄袍)ニ同ジ。はう(袍)ノ條ヲモ見ヨ。

わうばう（名）[横暴] ヨコシマナルコト。ワガママニ振舞フコト。[illegible]

わうばく（名）[黄蘗] (一)きはだ(黄蘗)ニ同ジ。(二)黄蘗ノ皮ヨリ製シタル染料、又ハ、藥用ノ稱。倭名抄、十四、染色具「黄蘗、一名、黄木、岐波太」

わうばくし（名）[黄蘗紙] 黄蘗ノ染料ニテ、染メタル紙。古ヘ、戸籍帳ナドニ用ヰタリ。民部省式「凡籍者、國毎[illegible]、其所[illegible]紙染ニ黄蘗ニ必[illegible]堅厚、不如法[illegible]」

わうばくしゅう（名）[黄蘗宗] 佛教ノ一派。禪宗ノ臨濟派ヨリ出デタル宗派。明ノ黄蘗山萬福寺ノ僧隱元、我ガ後光明天皇ノ承應三年ニ歸化シテ、之ヲ弘ム。隱元(隆琦禪師)官許ヲ得テ、寛文元年、山城ノ宇治ニ一字ヲ建テ、支那住山ノ地名ヲ襲ヒテ、黄蘗山萬福寺ト號

セ[illegible]、今、[illegible]宗ノ大本山トシテ、[illegible]。[illegible]「黄蘗宗」吹塵錄、三十二、社寺、天王寺勸化ニ付、京[illegible]黄蘗宗、[illegible]」

わうばくどうふ（名）[黄蘗豆腐] [illegible] 赤大豆(赤小豆ノ一種、秋小豆)ノ汁ニ[illegible]黄ナルモノ。

わうばくれうり（名）[黄蘗料理] 「[illegible]黄蘗宗ノ寺ニテ、調理スル齋ニ云フ」ふちゃれうり(普茶料理)ニ同ジ。ふさ(普茶)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

わうはふ（名）[王法] 國王ノ法令。帝王ノ國家統治ノ法則。史記、日者傳「事ニ私利ニ、枉ニ主法ニ、獵ニ農民ニ、以ニ官爲ニ威、以ニ法爲ニ機」

わうばん（名）[黄幡] 陰陽家ノ六ツ八將神ノ一。軍陣守護ノ神トス。其年ノ此神ノ在ス方角ニ向ヒテ、弓始メヲナスヲ吉トス。はっしゃうじん(八將神)ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]吉、餘無ニ咎也」

わうばん（名）[椀飯][埦飯][垸飯]「わうハわぬノ音便、垸ハ埦ノ訛、強飯(常飯)ノ[illegible]飯トナリ、粘リテ土器ニ盛リ、[illegible]ニ名トス」(一)[illegible]ノ膳部、[illegible]字類抄[illegible]埦飯、ワウハン」[illegible]十八、寄生十八「垸飯五十具、其手ノ錢、わうばんナドハヨノツネノヤウニテ、云云」(二)酒食ノ盛大ナルフルマヒ。盛ンナル饗宴。鎌倉、室

町幕府ノ頃ハ、臣下ヨリ將軍ニ獻ジタリ」 大饗應 盛饌。 吾妻鏡、八、文治四年正月六日「上總介義兼獻垸飯、相副馬五疋」 (三)垸飯振舞ノ略。江戸時代ニハ、正月、家ノ主人、家族、親族ヲ集メテ、饗應スルコト。新年第一ノ祝儀トシタリ。

わうばんぶるまひ (名) 垸飯振舞 前條ノ語ノ(三)ニ同ジ。セチブルマヒ。 昔々物語(享保)「昔(萬治、寬文頃カ)ハ、大身、小身、云云、町人マデモ、正月ハ垸飯振舞トテ、親類縁者子共迄不殘呼集メ、ソレゾレニ酒食分限相應ニ結構ニシテ、日出度キ言ヒノシリ、酒盛シ快ク遊ブ」

わうひ (名) 横披 ヨコモノ。かけもの(掛物)ノ條ヲ見ヨ。 名物六帖、三、器財箋「横披、ヨコモノ、與繇、横披始於米芾父子」

わうひ (名) 王妃 (一)國王ノ妃。キサキ。(二)我ガ國、皇族中、王ノ御配偶。

わうふ (名) 王父 〔爾雅、釋親篇「父之考、爲王父」〕 故人ニナリタル祖父ノ尊稱。オホヂ。オホヂ。 禮記、曲禮、下篇「祭王父曰皇祖考、王母曰皇祖妣」

わうふく (名) 往復 (一)ゆきト、かへりト。又、ユキカヘリ。ユキキ。往返。往還。 列子、天瑞篇「不化者往復、其際不可終」 (二)ヤリトリ。往來。應酬 「手紙ノ往復」 (三)道路 街路 通路 陰中治亂記、中、應永廿三年十月二日、其夜、往復ノ道路ヲ掘切テ、鹿垣ヲ結ヒワタシ」 (四)マジハリ。交際。

わうぶん (名) 横文 ヨコモジ。歐米ノ横書キノ文字。蟹行文字。

わうふるぎやう (名) 王不留行 〔箋注倭名抄、十九、草類「此物性走而不住、雖有王命、不能留其行、故名」〕 又、わうふりうかう。草ノ名。だうくゎんさう(道灌草)ニ同ジ。

わうへい (名) 横柄 〔横行權柄ノ略〕 オゴリタカブルコト。倨傲 狂言記、入間川「スレバ、サイ前わうへいニ云ウタハ、尤ヂャナア」

わうへん (名) 往返 往反 ゆきト、かへりト。又、ユキカヘリ。ユキキ 往復。往還 魏文帝、與吳質書「鍵書疏往返、未足解其勞結」 百鍊抄、七、久安二年四月廿日「左中將隆長朝臣、乘風流車、往反大路」

わうぼ (名) 王母 〔爾雅、釋親篇「父之妣、爲王母」〕 故人ニナリタル祖母ノ尊稱。ババ。オホバ。 禮記、曲禮、下篇「祭王父曰皇祖考、王母曰皇祖妣」

わうぼふ (名) 王法 佛法ヨリ、國王ノ法令ヲ稱スル語。即チ、帝王ノ執持スベキ正法。又、佛法ニ對シテ、常ノ政治ヲ云フ。共ニ國家安穩ヲ旨トスレバ云フ。 愚管抄、六(後鳥羽)「佛法ヲ信ズベキヤウ、王法ヲ重ク守リ奉ルベキヤウナド、云云」 鷹智國師語錄、二、示五條大外記「佛法王法都盧一致、所謂王法之外、別無佛法、佛法之外、別無王法」 平家物語、一、殿下乘合事「コレモ末世ニナリテ、王法ノ盡キヌル故ナリ」 太平記、廿七、雲景未來記事「トテモ王法ハ、平家ノ末ヨリ本朝ニハ盡キハテテ、武運ナラテハ立ツマジカリシヲ、云云」

わうまうにち (名) 往亡日 〔往キテホロブル日ノ義〕 舊暦ニ、凶日ノ名。一年ニ十二日アリ、出行、出陣ナド忌ムベシトス。略シテ、往亡。 吉記、治承四年四月一日「來十二日、公家御衰日、往亡日、道虛日、忌夜行日也」 盛衰記、廿八、頼朝義仲中惡事「今日往亡日也、明日可遂合戰カ」 假名暦略注「わうまう日、漢字往亡、此日專ラ出行ニ忌日也、特ニ入學、元服、嫁娶、屋作、移徙、出門、船乘、又ハ財寶ヲ納メ、醫師ヲ招ギ、病ヲ治シ、結婚等ニ用フベカラズ、大ニ惡シ」

わうまし (名) 黄麻紙 又、くゎうまし。黄麻ノ皮ヲ以テ漉キタル紙。支那、唐時代ヨリ詔勅ヲ書クニ用ヰシ故、黄麻ト云ヘバ、直ニ詔書ノ意トナル。又、常ノ經卷ニモ用ヰル。略シテ、黄麻。 唐會要「開元三年十月、始用黄麻紙寫詔、至上元三年、以制敕施用黄麻」 杜甫詩「黄麻似六經」 東大寺正倉院文書、四十四「法華經寫經所、用黄染凡紙參寫、寫黄麻紙表紫綺緣軸」

わうみん (名) 王民 王土ニ住スル人民。國王ノ民。オホミタカラ。皇民。 盛衰記、廿五、西京座主祈禱事「率土ノ濱、皆王民、遠民何疎、近民何親、普德ヲ施バヤ」

わうみやうぶ (名) 王命婦 皇族ニテ命婦トナラレタルモノ。 源、五、若紫「ヒルハツクヅクトナガメクラシテ、クルレバ、わう命婦ヲセメアリキタマフ」 細流抄「王氏ノ命婦也、云云」

わうめい (名) 王命 帝王ノ命令。王者ノイヒツケ。 書經、蔡仲之命篇「率乃祖文王之彝訓、無若爾考之違王命」 平家物語、十、戒文事「就中、南都炎上ノ事ハ、王命ト申シ武命トイヒ、君ニ仕ヘ世ニ從フ法遁レ難ウシテ、云云」

わうやう (副) 汪洋 (一)ヒロビロシタル狀ニ云フ語。 蘇軾詩「新秋忽已晴、九閒衛汪洋」 (二)ユッタリトシタル狀ニ云フ語。 劉孝威詩「風神灑落、容止汪洋」

わうよぎよ (名) 王餘魚 〔越王、鱠ヲ作リ、其半ヲ水ニ棄ツ、ソノモノ魚トナルト云フ俗說ニ起ル〕 (一)〔かれひ(鰈)ニ同ジ〕 本草、異魚圖贊「雙側比目、片側王餘」 汪俗云、越王鱠、魚未盡、因以殘半、棄水中、化爲魚、遂無其一面、故曰王餘也」 [illegible] 保、名稱也、[illegible] 於江、化爲此魚、[illegible] 魚」 倭名抄、十九、龍魚類「[illegible]」 比」 (二)鱠殘魚ノ異名 古雅、十九、[illegible] ノ一名、王餘魚ト云ノ、云云、古ノ時ニハ、[illegible] 王餘魚トイヒシナリ、或人、[illegible] ノ大ナル者、マタ鱠殘ノ名アルニヨリテ、終ニ王餘ノ名ヲ附會セシト見エタリ」

わうらい (名) 往來 (一)ユキキ。ユキカヘリ。往返。 易、繫辭、上傳「往來不窮、謂之通」 (二)ユキキスベキ道。街道。往還。道路 詩經、小雅、小旻之什、巧言篇「往來行言、心焉數之」 (三)應酬ノ書翰ノ文案ヲ記シ集メタル書ニ名ヅクル語。(禮尚往來ノ意) 多ク手習ノ手本ノ文ニ記ス。尺素往來、明衡往來、庭訓往來、消息往來ナドナリ。後ニ轉ジテ、商工等ノ用語ヲ連ネ記シテ、手本ノ文トスル書ノ名トナル。即チ、商賣往來、番匠往來、ノ類ナリ。 謠曲、安宅「笈ノ中ヨリ往來ノ卷物一卷取リ出シ」 (四)音信。訪問 贈答 平家物語、四、南都牒狀事「入道相國ノ謀ニ、近江米二千石、北國ノ織延絹三千匹、往來ノ爲ニ山門ヘ寄セラル」 萬葉集ニ、往來歌トアルハ、贈答ノ歌ナリ。 (五)熱ノ差引キ。「惡熱往來」

わうらいもの (名) 往來物 前條ノ(三)ニ關スルモノノ書籍。

わうりん (名) 黄燐 一名、白燐。燐ノ一種。白クシテ蠟狀ヲ呈シ、空氣中ニテ自然ニ發火シ、燐光ヲ放ツ。有毒ナリ。せきりん(赤燐)ノ條ヲモ見ヨ。

わうりやう (名) 横領 他ノ物ヲヨコドリスルコト。オシドリ。横奪 曾我物語、

一、[illegible]八、芥子ホドモ殘ラズ擺猶スル間」[illegible]二派ハ黄龍一時之昌也」

わうりう (名) 黄龍 [illegible]ノ語ノ略。[illegible]

わうりうしう (名) 黄龍宗 「黄龍派トモ云フ」、今ノ支那、江西省修水縣ニアル山ノ名、慧南禪師ココニ住セシ故ニ、宗法ノ名トナル」支那ニ於ケル禪ノ七宗ノ一。宋ノ黄龍慧南禪師ノ宗風ヲ唱フル一派。慧南ハ、臨濟七世ノ法孫ニシテ、晩年、黄龍山ニ住シ、所謂、黄龍三關ノ手段ヲ以テ、學人ヲ接得ス。我ガ榮西禪師ハ、此派ノ禪ヲ傳ヘ、略シテ、黄龍。

わうれん (名) 黄連黄蓮 古名、カクマグサ。毛莨科ニ屬スル多年生ノ草ノ名。山地ニ自生ス、葉ハ、芹ノ如クニシテ、厚ク堅ク光リテ、冬枯レズ、春ノ初、莖ヲ出ス、高サ四五寸乃至一尺許リ、其端ニ數多ノ白花ヲ生ス、花、終リテ新葉ヲ生ジ、舊葉枯ル。花後、十許リノ莢ヲ結ブ、黄色ノ小子アリ。根ヲ藥用トス。倭名抄、廿、草類「黄連、一名王連、加久末久佐」大和本草、六、藥類「黄連、常州ノ山産ヲ佳也、云云」

わうろく (名) 女王祿 〔女ノ字ヲ讀マヌヲ例トス〕古ヘ、正月八日(白馬節會ノ翌日)、及、十一月中ノ巳日(新嘗祭ノ翌日)ニ、女王ニ祿物ヲ賜ノ式。紫宸殿ノ庭ニテ行フ。名目抄「女王祿、不讀女字、儀也」内裏式、上「正月八日、賜女王祿式」

わうわう (副) 往往 時時。又、處處ニ。間間ニ。チラホラ。史記、五帝紀、論贊「往往稱黄帝堯舜之處、風敎固殊焉」字類抄「往往、トコロトコロ」「往往見ユ」「往往アリ」

わうわく (名) 枉惑 ヨコシマナルコト。心ノ枉レルコト。[illegible]長)上、吉祥門「枉惑、ワウワク、无道義」沙石集、八、上、第四條「ミダリニ枉惑スベカラズ」

わうゐ (名) 王位 帝王ノクラヰ。王タルモノノ位。書紀、[illegible]延慶本、平家物語、二、本、法皇御灌頂事「是程、王位ヲカロシムベキ樣ヤアル、口惜事哉」

わうゐ (名) 王威 帝王ノ威光。王者ノ威嚴。盛衰記、八、法皇三井灌頂事「若王威ヲ王威トセズバ、何ノ佛法カ我朝ニ興隆スベキ」

わおのれ (代) 我己 罵リテ云フ對稱ノ代名詞。ナンヂ。宇治拾遺、十、第六條「クビ刀ヲアテテ云フヤウ、わおのれガ、人ノ命ヲタチ、ソノシシムラヲ食ヒナドスル者ハカクゾアル」

わおん (名) 倭音和音 (一)ごおん(吳音)ニ同ジ。ヤマトゴエ。漢音ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。(二)支那本土ノ字音ニ對シテ、日本ノ漢音、吳音ノ稱。名義抄、一、首「凡此書音、皆以吳音、任意抄也、云云、朱音者正音也、墨點者和音也」自娯集、二、譯字用倭音之論「中古以來、用中華之文字、而其音不合于國俗之口舌、故不可用也、於是以華音轉移之、倭音ハ云云」

わおもと (代) 我御許 女ニ對シテ云フ對稱ノ代名詞。今昔物語、廿九、第三十五語「我レ所得シタル吾ノ、和御許ノ子ハ不被取ラマシ」

わか (名) 倭歌和歌 (一)ウタ。やまとうた(歌)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。古今集、假名序「夫和歌者、託其根於心地、發其花於詞林者也」萬葉集、五「九年、書殿餞酒日倭歌」拾遺集、五、賀「内裏ニテ子日セサセタマヒケルニ、殿上ノヲノコドモ和歌ツカウマツリケル」類聚國史、三十一、大同三年九月、戊戌、神泉苑行幸「令右朝臣賀是臨作和歌」(二)コタヘウタ。カヘシウタ。[illegible]

わか (名) 若 (一)わかし(若)ノ語根。落窪物語、二「イハンカタナクテ、アナわかト思ハンコト恥カシケレド、イカガハセントテ、云云」(二)〔若音兒ノ略〕若音ノ役ヲ見、延年舞ニテ、若音ノ役ヲ勤ムル兒。謡曲、安宅「モトヨリ辨慶ハ三塔ノ遊僧、舞延年ノ時ノ若」

わか (接頭) 若 ヲサナキ。年長ケヌ。若キ。幼稚。古事記、上、四十「和加クサノ、ツマモタセラメ」萬葉集、九、二十「遠ツ人、松浦ノ川ニ、和可ユツル、妹ガ袂ヲ、ワレコソマカメ」同、十七、四十長歌「和可クサノ、アユヒタヅクリ」「若君、若宮、若松、若木、若葉、若枝、若人、若道」

わか (接尾) 若 〔和氣ノ轉カ、又、若者ノ意カ〕人名ノ下ニ用ヰル語。「牛若、乙若」

わが (連體) 我吾 〔わ(吾)ノ條ヲモ見ヨ〕又、あが。(一)己レノ名ニ代ヘテ呼ブ語。萬葉集、九、二長歌「ウナヒヲトメノ、オクツキヲ、吾ガ立チ見レバ、永キ世ノ」(二)親ミテ云フ語。萬葉集、十八、十「橘ノ、下照ル場ニ、殿立テテ、サカミヅキイマス、和我大君カモ」

わかあゆ (名) 若鮎 ワカキアユ。小ナル鮎。略シテ、わかゆ。太祇全集「若鮎ヤ、水サヘアレバ、岩ノ肩」

わかい (名) 和解 ヤハラギトクルコト。ナカナホリ。和睦。アツカヒ。仲裁。媾話。調停。漢書、西南夷傳「遣大中大夫蜀郡張匡、持節和解」

わかいしゅ (名) 若衆 (一)若盛リノ男女。狂言記、老武者「コノアタリノ若い衆ガ、才稚兒ノ事聞キ及ウデ、云云」(二)町内ノ若者ノ團體ノモノ。其町内ノ種種ナル世話ナドスルモノ。卽チ、睦連中ノ類ナリ。(三)商店ナドニテ、小僧ヨリ年長ケテ、中年ナルモノノ稱。

わかいもの (名) 若者 商家ナドニテ、少年ノ手代ナドノ稱。又、其家ニ立働ク年若キ雇人。

わかうど (名) 若人 年、尙、若キ人。ワカビト。少年。宇津保物語、[illegible]「ソワウノ君トテ、ヨキわかうど、アテ宮ノ御方ニサブラフニツキテ、云云」

わかえ (名) 若枝 若キえだ。ミヅエ。嫩枝。[illegible]七、[illegible]ケテコソ、藤ノ若枝(うら葉ィ)モ、春日榮エメ」

わか・え (動) 若 わかゆ(若)ノ條ヲ見ヨ。萬葉集、四、「ワトヒコハ、常世ノ國ニ、住ミケラシ、昔見シヨリ、若エシニケリ」

わかえびす (名) 若夷 昔、年ノ初ニ祭ル夷三郎ノ像。元日ノ夜深キ時ヨリ、像ヲ版木ニ刷リテ、呼ビテ賣リ歩ク。又、其呼ビ聲。醒睡笑(元和、安樂庵策傳)八「わかえびす、わかえびすト呼ブ、云云、ケニモわかえびす殿モ、オフクロガナウテハイカデアラン」

わかえびすこう (名) 若夷講 昔、江戸ニテ、正月廿日ニ行フ夷講ノ稱。

わかおひすがた (名) 若生姿 若若シク育チタル盛リノ姿。又、ヲサナキスガタ。隆信集、下「人ノムスメノイハケナキヲ見テ、ニゲナキ心ヲカケツツ、云云、ナホコノわかおひすがた忘レ難カリケレバ、云云」

わがおほきみ (名) 吾大君 又、わおほきみ。當代ノ天皇ノ敬ヒ申シ奉ル語。萬葉集、一、七長歌「ヤスミシシ、わがおほきみノ、アシタニハ、トリナデ給ヒ」

わかおもと (名) 若御許 年若キ女房。榮花物語、十六、本ノシヅク「法師ノ居所ニ携ハセ侍ラン、若御許達ノ物ゲヒシ給ノ、[illegible]」

〔わが-かど (名) [我門] 催馬樂ノ歌曲ノ名。 催馬樂、我門「和可可止ニ、上裳ノ裾濡レ、下裳ノ裾ヌレ、朝菜摘ミ、夕菜摘ミ」

〔わがかど-を (名) [我門乎] 催馬樂ノ歌曲ノ名 催馬樂、我門乎「和可可止乎、トサンカウサン(左方ニ右方ニ)、ネル男、由コサルラシヤ、由コサルラシヤ」(由コソアルラシヤノ意)

わか-かへで (名) [若楓][若雞冠木] (一)楓ノ若木。又、若葉ノ萌エ出デタル楓。ワカカヘルデ。 蕪村の句「若かへで、學匠書ニ、眼ヲサラス」 (二)襲ノ色目ノ名。表ハ薄萌葱ニテ、裏ノ薄紅梅ナルモノ。又、表ハ薄青ニテ、裏ノ紅ナルモノトモ云フ。

わかがへり (名) [若返] ワカガヘルコト。

〔わか-がへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [若返] 再ビ若キ狀トナル。(老人ナドニ) ワカユ。ワカヤグ。コマガヘル。ヲチカヘル。 萬葉集、十一 三十「朝露ノ、消ヤスキ我ガ身、老イヌトモ、マタ若反、君ヲシ待タム」

〔わか-かへるで (名) [若楓] 〔かへるでのき(蝦手木)ノ條ヲ見ヨ〕 わかかへで(若楓)ニ同ジ。 萬葉集、十四 廿五「子持山、和可加敝流氏ノ、紅葉マデ、寢モト吾ハ思フ、汝ハアドカ思フ」

わか-がみ (名) [若髮] ワカキ時ノ髮。若キモノノ頭髮。 源、廿三、初音 十「イニシヘ、サカリト見エシ御わかがみモ、年頃ニ衰ヘ行キ」

〔わか-き (名) [若木][若樹] 生ヒテ未ダ多ク年ヲ經ザル木。 萬葉集、八 四十「去年ノ春、イコシテ植エシ、吾ガ宿ノ、若樹ノ梅ハ、花咲キニケリ」

わか-ぎ (名) [若氣] わかげ(若氣)ニ同ジ。 平治物語、一、義朝被レ討六波羅ニ事「誠ニ惡源太、若氣(わかげィ)ノ致ストコロナリ」

〔わか-ぎみ (名) [若君] 貴人ノ男兒ノ尊稱。又、ヲサナキ主君。 幼君 源、九、葵 四十五「朝ニハわか君ノ御モトニ、御文奉リ給フ」

わ-がく (名) [倭學][和學] 日本ノ和歌、文章、歷史、有職、等ニ關スル學問。國學。皇學。(漢學、洋學ニ對ス) 經國大典、三、禮典、譯語「漢學、蒙學、倭學、女眞學、並錄經國大典」 松屋筆記、九十二「國學、倭學、漢學、唐學、云云」

わ-がく (名) [和樂] 〔洋樂ニ對ス〕 日本ノ音樂。邦樂。

わか-くさ (名) [若草] (一)〔芽出シノ草。 新草 嫩草 春草 萬葉集、十一 廿「振リ分ケノ、髮ヲ短ミ、春草ヲ、髮ニタクラム、妹ヲシゾ思フ」 (二)若キ女ヲ譬ヘ云フ語。 伊勢物語、第四十九段「ウラ若ミ、ネヨゲニ見ユル、若草ヲ、人ノ結バン、コトヲシゾ思フ」 (三)襲ノ色目ノ名。表ハ薄キ青ニテ、裏ノ濃キ青ナルモノ。

〔わかくさ-の (枕) [若草] 〔初生ノ草ハ、多クハ二葉ナレバ、配偶ニ寄セテ云フト云フ〕 配偶(夫妻)ノ枕詞。 古事記、上 四十二「和加久佐能、妻持タセラメ」 仁賢紀、六年九月「弱草吾夫何怜矣」註「古者以弱草喩夫婦、故以弱草爲夫」 伊勢物語、第十二段「武藏野ハ、今日ハナ燒キソ、わか草の、つまモコモレリ、我モコモレリ」

わか-げ (名) [若氣] 又、わかぎ。若者ノ早ル氣象。少年ノ血氣。無分別ナル考ヘ。 少年銳氣 平治物語、二、義朝被レ討六波羅ニ事「誠ニ惡源太、わかげ(わかぎィ)ノ致ストコロ也」

〔わか-ご (名) [若子] ヲサナキ兒。チゴ。ワクゴ。嬰兒。 清寧卽位前紀「幼子星川皇子」

わか-ごくゎい (名) [和歌御會] うたごくゎい(歌御會)ノ條ヲ見ヨ。 吾妻鏡、三十三、延應元年九月三十日「入レ夜於御所ニ有和歌御會こ」

〔わか-ごま (名) [若菰] 〔わかごもノ轉〕 次

條ノ語ヲ見ヨ。 源、廿五、螢 四十「ニホトリニ、影ヲナラブル、わかごまハ、イツカアヤメニ、引キワカルベキ」

〔わが-こま (名) [我駒] 催馬樂ノ歌曲ノ名 催馬樂、我駒「イテ我駒、早ク行キコセ、眞土山、待ツラム人ヲ、行キテ早見ム」

〔わか-ごも (名) [若菰] 又、わかごま。若クシテ、ナヨヤカナル菰。芽立チノ若キ菰。 古今集、十五、戀、五「山城ノ、淀ノわかごも、カリニダニ、コヌ人タノム、ワレゾハカナキ」

〔わかごも-を (枕) [若菰] 〔菰ハ若キウチニ刈リテ用ヰルヨリ云フト云フ〕 かりト云フ語ニ冠ラスル枕詞。 萬葉集、三 四十長歌「馬竝メテ、御獵立タセル、弱薦乎、獵路ノ小野ニ、云云」(代匠記ノ訓)

わか-ざかり (名) [若盛] ワカキサカリ。青年ノ血氣盛ンナルコト。世盛リ。壯年。 萬代集、十四、雜、一「散ル花ハ、後ノ春トモ、マタレケリ、マタモクマジキ、わかざかりハモ」

わか-さぎ (名) [若鷺] 硬骨類ノ魚ノ名。形、はえ(鮠)ニ似テ、眼、口異ナリ、大キサ一二寸許リニテ、背ハ淡黃色、腹ハ銀白色ニシテ、體側ニ淡黑色ノ縱筋アリ、河海ノ際ニ產ズ。春月ニ多シ。常陸ニテ、櫻魚ト云ヒ、白ク乾シタルヲ出ス。 公魚 本朝食鑑、七、鱗、鰙、訓 波加佐木、近世有 曝乾若者、又倶稱 佳味也、江東別有 若鷺者、相似非 一種、此亦美 賞之こ 物類稱呼、二、動物「和加佐幾、ワカサギ、云云、常陸ニテ、サクラウヲ、若狹ニテ、アマサギト云、云云、常州櫻川ニ櫻魚ト云フ有、是江戶ニテイフわかさぎ也」

わかさ-ぬり (名) [若狹塗] 漆器ノ一。若狹ノ小濱ニ產ズ。支那ノ存星ノ遺風ヲ摸シタルモノニテ、文、亂雲ノ如ク、金銀色ヲナシテ、溜塗、或ハ、青漆ノ中ニ

見ハレ、頗ル雅致ニ富ム。

わか-さん-じん (名) [和歌三神] 住吉ノ表筒男命、中筒男命、底筒男命、ノ三神ノ稱、又、住吉神、玉津島(衣通姬)、天滿宮ノ三神トシ、又、衣通姬(玉津島)、柿本人麿、山邊赤人、ノ三人ノ歌聖ノ稱トモス。コレヲ和歌ニ聖トモ云ヒ、和歌ノ神トシテ祭ル。 書言字考、中、和歌兩部 住吉三神、表筒男、中筒男、底筒男、三聖、人丸、赤人、衣通姬」 橘守部白品、下「和歌三神、住吉社、天滿宮、玉津島姬ノ三柱タル事、後奈良院ノ御記ニアリ」 類聚名物考、十八、神祇部、九、和歌三神、近世ノ人云フ、堂上地下ニヨリテ祭ル所ノ三ノシナアリ、地下ノアガムル所ハ、人丸明神、赤人、天滿宮、云云」

わ-かざり (名) [輪飾] 注連繩ヲ輪ニ作リテ、稻穗ノ端ヲ垂レタルモノ。新年ノ飾ニ用ヰル。ワジメ。

わか・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [若弱] 〔若、弱、音通ズ、古今韻會「今人謂弱爲若」〕 (一)〔物、未ダ成リトトノハズ。又、未ダ成リ固ラズ。 推古紀、三十六年三月「汝肉稚之」 古事記、上「國稚如浮脂こ」 ワカシ。 少 稚 穉 幼 嫩 字鏡 六十「稚、稚、和可志」 舒明紀、四年十月「愛シキ、吾カ倭利枳子ヲ、オキテカ行カム」(愛ゼラレタル八歲ノ皇子ヲ云フ) 持統卽位前紀「少名」 (二)年、多ク長ケズ。ヒワカシ。 (三)ワカザカリナリ。(わくおハ、脇ニ抱ク兒、コレヨリ若シ) 少壯「年若壯ンナリ」 (四)ヤハラカシ。

わか-じに (名) [若死] 年若キ間ニ死ヌルコト。早世。 夭死 夭折 殤 愚管抄、六、順德「左衞門督通季、云云、中納言ニテ若死ヲシテ、待賢門ノ時、外戚フルマヒモエセズ」

わか-しほ (名) [若潮] 潮ノ滿干ニ云フ語。

おほきみ(大君)ノ條ヲ見ヨ。

わかしゅ (名) [若衆] (一)ワカモノ。ワカウド。又、ワカイシュ。(二)昔、男子ノ、未ダ元服セズ、前髪アリテ、年長ケ成ラヌ者。後法興院記、文明十七年六月廿九日「見[illegible]」

わかしゅ [illegible] 若衆 (又、上略シテ、[illegible]) 男色 [illegible]ド略シテ、若道ト云フ」[illegible]。モト若衆歌舞伎ノ少年ニ、人溺ルルアリ、[illegible]ヲ剃ラシム、因リテ野郎ノ名起ルトカ。かげま(陰間)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。[illegible]若衆ノ、稽古ナ酒ノ、酔心地」

わかしゅ-がた (名) 若衆形 昔、芝居ニテ、女ラシキ男形ニ、扮装スルモノ。本朝若風俗[illegible]若衆形ニナリシナリ[illegible]トイフハ、半立役ニシテ、役ヲキメ、お姫サマヲカコフテノ、セリフユヘ、大方立役ヘヌケタリ」

わかしゅ-かぶき (名) 若衆歌舞伎 昔、若衆ノ、出演スル歌舞伎。[illegible](嵐道)一女ノ舞ヲ、[illegible]メナレズ、其ノチ、若衆歌舞伎ト云フコトヲ始メテ、麗シキ少年ニ舞ハセケレバ」

わかしゅ-がみ (名) 若衆髪 わかしゅまげ(若衆髷)ニ同ジ。

わかしゅ-だう (名) 若衆道 [上略シテ衆道、又、中略シテ轉音ニ若道ト云フ] 若衆ノ道。衆道。男色ノ道。ふんしょく(男色)ノ條ヲモ見ヨ。

わかしゅ-ぢょらう (名) 若衆女郎 昔、若衆男ノ装ヒニテ、客ヲ取リタル遊女ノ稱。色道大鏡[illegible]「近ゴロ、傾城ノ端女ニ若衆女郎ト云フアリ、云云[illegible]ヒロマレリ、是衆道ニスケル者ヲモ引入レンノ謀ナランカ、サレ[illegible]ニトリアヒタル親ヲ見立テテスルト見ユ」

わかしゅ-まげ (名) 若衆髷 江戸時代ニ、十一二歳乃至十五六歳ノ少年ノ結ヒシ髷。前髪ヲ置ク。ワカシュガミ。

わか-しらが (名) 若白髪 年、尚、壯ナルニ生ズル白髪。[illegible]白髪。[illegible]永、近松作)中、紋盡し「照ル月ニ、鉢叩奴ガ、若白髪」

わか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 沸 (一)沸クヤウニナス。字鏡「[illegible]」又、[illegible]萬葉集、十六「[illegible]ニ、湯和可世子等、[illegible]ヨリコム、狐ニアムサム」催馬樂[illegible](古[illegible]本)眉止之女「大御酒和可世、万由止之女」 (二)トノカス。トロカス。トカス。鎔 天智紀、九年九月「造水碓而冶鐵」

わが-せこ (名) 我夫 (親ミテ云フ) せこ(兄子)ノ條ヲ見ヨ。

わか-たいふ (名) 若大夫 芝居ニテ、座元ノ大夫ノ子。大夫ノ條ノ(五)ヲ見ヨ。

わか-たう (名) 若黨 年若キ郎黨。従者ノ侍。従僕ノ輕キモノ。又、武士ニ仕フル凡下ノ二刀ヲ帶スルモノ。傔従 延慶本、平家物語、二、本、山門[illegible]事「一人當千ノハヤリ男ノ若黨三百餘人相具シテ」

わか-たか (名) 若鷹 鷹ノ一歳ナルモノ。たか(鷹)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。倭名抄、十八[illegible] 西園寺公經、[illegible]百首「片藪ニ、ムスボホルトモ、ヘヲササン、心モシラヌ、ツミノわか鷹」

わか-たけ (名) 若竹 其年ニ生ヒタル竹。芽ノ若キ竹。コトシダケ。新竹 嫩竹 源、廿四、胡蝶「今更ニ、イカナラン世カ、若竹ノ、生ヒハジメケン、根ヲバ尋ネン」

わが-たたみ (名) [illegible] [illegible]

わかだち (名) 若立 伐リ、又ハ、幹ノ枯レタル根株ヨリ生ズル枝。若枝。ヒコバエ。ワカメ。[illegible]木抄、十六、[illegible]「カレタテル、[illegible]ノクヒゼノ、わかだちニ、色ヅクトミシ、蔭サヘチリヌル」

わか-だ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) 若立 若芽生ズ。芽出ヅ。若枝サス。ヒコバユ。枕草子、七、第六十八段「直カラヌ桃ノ木わかだちテ、イトシモトガチニサシイデタル」

わか-ダンナ (名) 若檀那 若旦那 (一)主人ノ長子。小檀那。(大檀那、親檀那ニ對ス) [illegible](元禄、近松作)上[illegible]「[illegible]、氣ヲ[illegible]ヘテヤラント[illegible]セラレ、云云」 (二)富豪ノ子弟ノ敬稱。

わかち (名) 別分 ワカツコト。差別。區別。[illegible]ハ、ハジメ面白ク聞ユレドモ、取リ寄リテ面白クナズ、コレ上手下手ノわかちナリ」

わか・つ・ツ・テ・タ・チ・テ(他動、四) 別分 [わかるノ他動] (一)一ツ一ツニナス。ハナス。分ク。[illegible] (二)分ケ定ム。判斷ス。判 [illegible]物語、十二、[illegible]施ス事、皆君成人ノ後、清濁ヲ分たセ給ヒテノ上ノ事ニコソ有ルニ」 (三)分ケテ宛テワタス。配賦 榮花物語、三十七、煙の後「わかちケン、煙ノ後ノ、カタミダニ、ナキ世ハマシテ、悲シカリケリ」

わか・づ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 若附 ワカク見ユ。ワカヤグ。

わか-づの (名) 鹿茸 [若角ノ義] ふくろづの(袋角)ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、十八[illegible]

わが-つま (名) 我夫 郎君 妻ヨリ夫ヲ呼ブ語。コチノヒト。

わが-つま (名) 我妻 夫ヨリ妻ヲ呼ブ語。允恭紀、廿四年六月「ワガタタミユメ、コトヲコソ、タタミト云ハメ、和賀都麻ハユメ」

わかづり (名) [illegible] [illegible]る、ト通ズルカ] 機ノアヤツル處。カラクリ。アヤツリ。倭名抄、十四[illegible]「[illegible]、ワカツリ」

わか-づ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 機 ヲコツル。アヤツル。カラクル。(前條ノ語、參見セヨ) 名義抄「[illegible]、ワカツル、オコツリ」

わか-づ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) 誘 をこづる(誘)ニ同ジ。[illegible]紀、廿一年六月「誘致」

わかて (名) 若手 若キ人。若キ働キ手。又、ワカモノ、[illegible]

わか-どころ (名) 和歌所 村上天皇、天暦五年、始メテ置キ給ヘル職。長官ヲ別當ト云ヒ、次官ヲ開闔ト云フ。又、寄人等ノ職アリ、和歌ヲ撰集スル時、置カル。[illegible]御筆宣旨奉行文」

わか-どしより (名) 若年寄 徳川幕府ノ制、[illegible]

石以上、若年寄四人ニ不同ニ、云云、寛永十八年癸酉三月廿三日始置、西丸若年寄貳人、同上」

わか-どの (名) 若殿 (一)ワカギミ。ヲサナキ主君。幼君。幼主。 異本、伯父之巻「大殿ハ上リ給ハズ、若殿許リ御上洛候」 (二)家督スベキ主君。世子

わか-とのばら (名) 若殿儕 若殿原 若キトノバラ。若侍タチ。 平家物語、九、坂落事「殿ノ手ニモ、武藏相摸ノ若殿原、面モフラズ命モ惜マズ、此處ヲ最後ニ攻メ戰フ」

わが-とも (名) 我友 〔白樂天ガ愛シテ友トシタルヨリ云フ〕 竹ノ異稱。此君 本朝文粹、十一、冬夜守庚申同賦修竹冬青 藤敦 凡竹之爲物也、萬葉自茎、晉長抽竹、江騎兵參軍王子猷、稱此君、唐太子賓客白樂天、愛而爲我友」 千載集、十、賀「わが友ト(ニイ)、君ガミカキノ、呉竹ハ、千代ニ幾代ノ、影ヲ添フラン」

わか-な (名) 若名 幼時ノ名。ヲサナナ。童名。幼名 世間子息氣質(正德、江島其磧)五「親ノ若名ヲ讓リ、玄右衞門トテタマカナル性ヨシ」

わか-な (名) 若菜 〔若ハ新ノ意〕 (一)初春ノ蔬菜頃ノ總名 萬葉集、八 十九「明日ヨリハ、春菜摘マムト、標シ野ニ、昨日モ今日モ、雪ハ降リツツ」 (二)往時、正月ノ上ノ子ノ日ニ、禁中ニテ、内膳司ヨリ、其年ノ七種ノ新菜ヲ羹トシテ奉ツルモノ。能ク萬病ヲ除クトス。(子ノ日ニ引キ行ク小松ナドモ、其若芽ヲ食フニテ、若菜ナリ) 後ニ人日ノ事トナル。(七種、及、會供ノ條、見合ハスベシ) 宇津保物語、藏開、下 三十五「わかなナド調ジテ、御ネノ日ニ參ラセント、云云」 公事根源、正月「延喜十一年正月七日ニ、後院ヨリ七種ノ若菜ヲ供ス、云云、正月七日ニ七種ノ若菜ヲ食スレバ、其人萬病ナシ」

わかな-がり (名) 若菜狩 〔かる(狩)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ、櫻狩ト同趣〕 若菜ヲ尋ネ求メテ採ルコト。 藻鹽草、十六、狩「わかなかり、紅葉狩、螢狩」

わか-なご (名) 若魚子 魚ノ名。ぶり(鰤)ノ一歳ノモノ。 物類稱呼、二、動物「鰤、ブリ、コノ魚ノ小ナルモノヲ、江戸ニテ、わかなごト云、五畿内及西國四國ニテ、わかなト云」

わか-なへ (名) 若苗 若キ苗。特ニ、稻ナルヲ早苗ト云フ。 蜻蛉日記、中、上 七「アマタわかなへノ生ヒタリシヲ、トリ集メサセテ」

わかなへ-いろ (名) 若苗色 (一)〔染色ノ名。若苗、卽チ、早苗ノ如キ青色。 源、四十八、寄生 七十四「濃キ袿ニ、ナデシコト覺シキ細長、わかなへいろノ小袿キタリ」 (二)襲ノ色目ノ名。表裏共ニ、薄青色ナルモノ。

わが・ぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ (他動、下二) 綰 綰 〔わぐ(綰)ノ延〕 撓メ曲ゲテ輪ニス。ワガネル。 字類抄「綰、ワカヌ」 大和物語、上「イト香バシキ紙ニ、キレタ(ナイ)ル髪ヲ少シ搔イわがねテ包ミタリ」 著聞集、十九、草木「根合セ、云云、長根五筋ヲわがねテ、云云」

わか-ね (名) 若音 (一)若キ鳴キ聲。タドタドシキ鳴キ聲。 夫木抄、二、鶯「宿ノ、シメソムル、クレ竹ニ、マダ節ナレヌ、わかね鳴クナリ」 (二)〔遊僧ノ翁聲ニ對ス〕 延年舞ニテ、兒ノ、高音ニテ歌ナド謠フコト。又、ソノ役。 觀應三年周防國仁平寺本堂供養日記 延年舞次第、六番若音、幸松殿、直垂花櫻」

わが・ぬる (動) 綰 わがぬ(綰)ノ口語。

わか-ば (名) 若葉 生ジテ未ダ久シカラヌ草木ノ葉。芽出シノ葉。新葉。嫩葉 源、五、若紫 六「初草ノ、若葉ノ上ヲ、見ツルヨリ、旅寢ノ袖モ、露ゾカワカヌ」

わが-はい (代) 我輩 ワガトモガラ。ワレワレドモ。吾人。吾等。吾曹。吾儕。

わか-ばえ (名) 若生 ワカメ。若枝。ヒコバエ 萬葉集、山陰ニ、オヒシラケタル、椿ノ、わかばえ出ヅル、春モアリケリ」

わかば-さ・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 若葉刺 (さすハ、きざす、めざす、ナドト同趣) 若葉、萌エ出ヅ。 源、三十四、上、若菜、上 五十「わかばさす、野邊ノ小松ヲ、引キツレテ、モトノ岩根ヲ、祈ル今日カナ」

わか-ばやし (名) 若囃子 又、馬鹿囃子。囃子ノ一種。享保ノ頃、武藏葛西金町、香取明神ノ神主能勢環、村内ノ若者ヲ集メテ、若囃子ト云フ一風ノ囃子ヲ教ヘ、祭禮ニ出ス。後、寶曆三年、千住ニ賣女屋ノ許可アリ、代官伊奈半左衞門、若者共ノ遊興ヲ憂ヘテ、大イニ彼ノ囃子ヲ獎勵シテヨリ盛ンニナリ、寶曆十二年ヨリ江戸ノ山王、及、神田明神ノ祭禮ノ山車ニ用キラレタリ。然ルニ千住ノ賣女屋、營業ノ邪魔ナルヨリ、罵リテ此若囃子ヲ馬鹿囃子ト云ヒショリ、一般ニ馬鹿囃子ノ名、弘マレリ。若殿樣ヲばかとのさまナド云フガ如シ。此囃子ニハ、大太鼓一人、締太鼓(付太鼓)二人、ちゃんぎり(摩鉦)一人、笛合一人、別ニ手替三人ニテ、囃子八枚ト云ヒ、後ニ祭禮終日ニ付キ、大太鼓、ちゃんぎり、手替各一人、笛手替二人ニテ、一組合十二人トナルト云フ。其拍子ニハ、鎌倉拍子、品川拍子ナドヲ取リテ擊テリ。

わか-びと (名) 若人 又、わかうど。ワカキ人。ワカモノ。 伊勢物語、第四十段「昔ノわかびとハ、サルスケル物オモヒヲナンシケル」

わか・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) 若 若ク見ユ。ワカヤグ。 源、五、若紫 六十三「御年ヨリモわかびテナマメキ給ヘレバ、云云」

わが-ふ (名) 和合 (一)ヤハラギアフコト。互ニ睦シク交ルコト。 管子、幼官「畜之以道、則民和、養之以德、則民合、和合故能習、習故能偕」 (二)兩家ノ男女ヲ合ハセテ、婚姻セサスルコト。 爾雅、釋詁篇「敆、郃、云云、合也」注「皆謂對合也」疏「音、和合也」 (三)次條ノ語ノ略。

わがふ-じん (名) 和合神 略シテ、和合。其像ハ、蓬頭ニシテ笑面、身ニ綠衣ヲ着、左手ニ鼓ヲ擎ゲ、右手ニ棒ヲ執ル。支那ノ僧、寒山、拾得ノ像ノ稱ナリト云フ。(二人、道行高深ニシテ、一寺ニ同居シ、投契タリ、面目相似タリ) 南京繪ノ和合神ト云フモノ、卽チ和合生萬福、日進太平錢、隨亭高学昔、萬事吉兆圖ト題セリト云フ 支那ニテハ、婚禮ノ時、此神ヲ祀ルト云フ。我ガ俗間ニハ、仙人メキタル男女ノ、花ナド持チテ、向ヒ立テルヲ圖ス。コレ古事記ノ上ニ記セル八千矛神ト須勢理毘賣神トヲ識シタルトカ。 蔣雲志餘「和合神、卽萬回哥哥」蔣士銓、忠雅堂集、詩 和合二詩「寒山拾得兩禪師、常同向、央無言顏、石鼓遊、影非見之、俗本寫作和合婆」

わがふ-そう (名) 和合僧 〔梵語、Saṃgha.(僧伽)ヲ一ニ和合ト譯シ、和合僧ハ梵漢雙擧ノ語、僧ハ元來三人以上和合シテ、佛法ヲ修行スレバ名トス〕 又、和合衆。 そう(僧)ト云フニ同ジ。 盛衰記、廿四、佛法破滅ト、佛法修行ノ和合僧ヲ破シ、諸果ノ尼ヲ殺シテ三逆ヲ犯シ、云云」

わが-へ (名) 我家 〔わがいへノ略〕 又、わぎへ。己レガ家 萬葉集、五 十八「春ノ野ニ、

鳴クヤ鶯、ナヅケムト、和何鶯ノ國ニ、梅ガ花サク」

わが-ホトケ (名) [吾佛] あがほとけ(吾佛)ノ條ヲ見ヨ。

わか-まつ (名) [若松] (一)若キ松。生ヒテ未ダ多クノ歳ヲ經ズ松。小松。 萬葉集、十四「[illegible]ノ、ソヒノ若松、限リトヤ、君ガ來マサヌ、ウラモトナクモ」 (二)新年ノ祝ニ用ヰル小松。(三)襲ノ色目ノ名。まつがさね(松襲)ニ同ジ。ワカミドリ。

わが-まま (名) [我儘] 我ガ思フママニ振舞ノコト。氣儘。自恣。專恣。恣意。 榮花物語、廿九、玉飾「オノオノわがままニミガキタテ、云云」 今鏡、下、紫のゆかり「父オトドわがままナル御心ニテ、ヒカヒカトキ事モシタマヒケル」

わが-み (代) [吾身] (一)又、あがみ。自稱ノ代名詞。ワレ。オノレ。 宇津保 わが身ノ事ハ、人ニ聞ヘ[illegible]」 (二)轉ジテ、對稱ノ代名詞。卑賤ノ親シキ者ニ用ヰル。ナンヂ。ソチ。ソナタ。 盛衰記、三、左右大將事「或時、有子トク參テ、唯一人御前ニ候ケルヲ、我身ハ[illegible]ノ者カト有 御尋ケレ共、云云」

わか-みづ (名) [若水] [若ハ新ノ意] 古ヘ、立春ノ日、宮中ノ主水司ノ、天皇ニ奉ル水ノ名。春立チカヘリテ、草木、皆若ギカヘルニタグヒテ、君ニモ若ヤギカヘラセ給ハムコトヲ祈ルナリ。又、年中行事ニ、前年ノ生氣ノ方ノ井ヲ封ジテ、立春ノ早旦ニ、汲ミテ用ヰル水。一年ノ邪氣ヲ除クト云フ。立春水。後世ハ、元日ニモ用ヰル。 榮花物語、廿八、若水「若水シテ、イツシカ御湯ドノマヰル、ヨロヅ皆春ノ心ツキテ、云云」 年中行事歌合、四番「春ヲ得テ、ケフタテマツル、若水ニ、千歳ノ影ヤ、マヅ浮ブラン」 散木集、元 立春ノ朝ニ、云云、君ガタメ、ミタラシ川ヲ、わかみづニ、掬ブヤ千代ノ、初ナルラン」

わか-みどり (名) [若綠] (一)松ノ若葉。 宇津保物語、藏開、上「[illegible]若綠、フタバニ見ユル、姫松ノ、[illegible]」 (二)[illegible]ノ色目ノ名。まつがさね(松襲)ニ同ジ。

わか-みや (名) [若宮] (一)皇子ノ、幼クマシマスヲ申ス稱。 源、七、紅葉賀「若宮ノ御參ヲ、ワリナクオボツカナガリ、云云」 (二)親王家、又ハ、王家ノ御世繼ノ御方ヲ申ス稱。又、一般ニ、皇族ノ御子ヲモ申ス。(三)本宮ノ祭神ノ子ヲ、其境内ニ祀ル社。 八幡宇佐宮御託宣集、若宮、貞觀十八年「大菩薩宮ノ[illegible]御子[illegible]給、其名若宮神」 二十二社註式「若宮八幡四所御事、若宮、仁德天皇」 (四)新宮ノ稱。本宮ヲ別地ニ勸請シテ祀ル社。 吾妻鏡、一、治承四年十月十二日「[illegible]石清水ヲ[illegible]由比[illegible]、號之下若宮」

わ-かん (名) [和奸・和姦] 男女相語ラヒテ姦通スルコト。相對不義。合意上ノ姦通。(強姦ニ對ス) 僧尼令集解「雜律云、和奸本條、無婦女罪名ニ者、與男子同」

わ-かん (名) [和漢・倭漢] (一)日本ト、支那ト。からト、やまとト。 倭名抄、序「倭漢之書」 [illegible] 保元物語、一、[illegible]定事「和漢ノ先蹤、朝廷ノ禮節ニハ似モ似ヌ事ナレバ、云云」 (二)和學ト、漢學ト。 源順文「[illegible]」 保元物語、一、新院御謀叛思召し立つ事「宇治左大臣頼長ト申スハ、云云、人柄モ左右ニ及バヌ上、和漢共ニ人ニ勝レ、云云」 (三)わかんれんく(和漢聯句)ノ略。其條ヲ見ヨ。

わか-むしや (名) [若武者] 若年ノ武者。年若キ武士。之ニ對シ、老年ノ武者ヲ、老武者ト云フ。 保元物語、二、白河殿攻落事「與次ハ若武者ナリ、盛重ハ老武者ナル上、云云」

わかん-どほり [illegible]王家ノ[illegible]ト云フ」 皇子ノ血統。又、皇族ノ血統。 源、廿一、少女「わかんどをり腹ニテ、貴ナル方ハ、劣ルマジケレド」 宇津保物語、梅花笠「御メノト三人、一人ハわかんどをり、二人ハ大貳ノ娘」

わかん-むり (名) [ワ冠] [片假名ノ「ワ」ノ字ニ似タレバ云フ] 又、ヒラカムリ。漢字ノ頭ニアル冖ノ字ノ形。即チ、冠、冢、冤、冥、冪、ノ類。

わか-むらさき (名) [若紫] 紫ノ、色ノ淡キモノ。ウスムラサキ。淡紫。 源順集「藤波ノ、カカレル岸ノ、松ハ老イテ、若紫ニ、イカデサクラン」

わか-むらさき (名) [若紫] 草ノ名。むらさき(紫)ノ異名。其條ヲ見ヨ。 後拾遺集、十六、雜、二「武藏野ハ、袖ヒツバカリ、分ケシカド、若むらさきハ、タヅネワビニキ」

わかん-れんく (名) 和漢聯句 連歌、又ハ、俳諧ノ句ト漢詩ノ句トニテ、交互ニ連ネテ聯句ヲ作ルコト。又、ソノ聯句。即チ、先ヅ發句ヲ出シ、脇句ニ五言ノ詩句ヲ附ケ、交互ニ續クルモノ。詩ハ韻ヲフム。之ニ對シ、詩句ヲ頭トシ、脇句ヲ附ケ、交互ニ連ヌルヲ漢和聯句ト云ヒ、詩、句共ニ韻ヲフム。略シテ、和漢。 空華日工集、康暦元年十一月二日「和漢聯句始用、云云、凡吾國俗、普例和漢聯句、漢有韻和無韻、今則新立此和亦押韻、進后以 起句[illegible]余大[illegible]兩人[illegible]人相推追不已、[illegible]句日、半[illegible]分[illegible]日、進后次日、木ノ葉モ庭ハ、ツモル紅、大[illegible]日、[illegible]池[illegible]錦、云云」 同、永徳二年十月十三日「和漢聯句、[illegible]殿發句日、松ハタテ、ヌキハ紅葉ノ、錦カナ、府君命對句於余、余日、秋山[illegible]如[illegible]、云云」

わか-め (名) [若芽] 今年、生ヒタル芽。

生ヒ[illegible]ノ[illegible]ヤ[illegible]、[illegible]

わか-め (名) [若布・和布] 「わかきめノ略。又、わけめノ轉カトモ云フ。め(海布)、[illegible](昆布)[illegible]ニ見ヨ、[illegible]名」 靑布。和布。[illegible]。海藻ノ名。淺キ海中ノ石上ニ生ズ。形、略、昆布ニ似テ、羽狀ニ分裂シ、薄ク狹ク、長サ一二尺、色靑シ。食用トス。 稚海藻 萬葉集、十六「[illegible]ノ、[illegible]ハ、人ノムタ、荒カリシカド、吾ガムタハ和海藻」(古義ノ訓) 大膳職式、下「稚海藻三兩」

わか-もち (名) 若餅 正月ニ、日ノ出ヅル[illegible]ク餅。[illegible]、小サキ餅。 [illegible]日ノ[illegible]ニ搗クメ、わかおちトイフノミ、[illegible]雜記[illegible]、[illegible]搗クナルヘノソズ、倍ニ[illegible]ノ大小ヲイフ時、小サキヲ若キトイフ、コレ小ノ言葉ヲ忌ミテイフ」

わか-もの (名) [若者] 年若キ人。ワカウド。若年者。少年。 平治物語、二、[illegible]事「頭殿、篠原堤ニテ、若者ドモハ下リヌルカト宣ヘバ、各コレニ候ト答ヘラレシニ、云云」

わが-もの-がほ (名) [我物顔] 己レガ所有ノ物ノ如クアツカフ面持。 夫木抄、九、夏「夏ノ夜ハ、光涼シク、澄ム月ヲ、わがもののがほニ、[illegible]」 盛衰記、四十一、[illegible]「[illegible]ノ内ニ下リ居テ、我物がほニ[illegible]」

わか-やか-に (副) [若] 若キ狀ニ。[illegible]。ワカヤギテ。 [illegible] 源、十二、須磨「[illegible]わかやかナルケシキアルサブ、[illegible]ヒノ人ナリケリ」

わかやぎ-だ-つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) [若立] 若ク見ユルヤウ、裝ノ、若ヤグヤウニ見セカク。 枕草子、二、第廿段「安親ノ宰相ナドモ、わかやぎだちテ、スベテタフトキ事ノ限リニモアラズ」

〜わかや・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ(自動、四) [若] 年若キ狀トナル。ワカヤカニナル。ワカガヘル。ワカユ。又、若キヤウニ見ユ。源、五十二、手習「コシ折レ歌コノマシゲニ、若やぐケシキドモハ、イトウシロメタウ覺ユ」

〜わかや・る (動) タヲメテアリ。ヤハラカナリ。古事記、上、廿「アハ雪ノ、和加夜流胸ヲ、栲ヅヌノ、白キタダムキ、ソ叩キ、云云」

わか-ゆ (名) [若湯] 正月ニナリテ、始メテワカス湯。

〜わか-ゆ (名) [若鮎] (わかあゆノ約) 鮎ノ子。小鮎。萬葉集、五、廿「松浦川、下島ノ浦ニ、和可由釣ル、妹等ヲ見ラム、人ノトモシサ」

〜わか・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(自動、下二) [若] 若クナル。ワカヤグ。萬葉集、六、卌「イニシヘユ、人ノ言ヒ來ル、老イ人ノ、變若チフ水ゾ、名ニ負フ瀧ノ瀨」 新敕撰集、七、賀「菊ノ露、わかゆバカリニ、袖觸レテ、花ノアルジニ、千代ハユヅラン」 古今集、十九、長歌「君ガ八千代ヲ、わかえツツ見ン」

わか-らう (名) [若老] わかどしより(若年寄)ニ同ジ。

わからずや (名) [沒分曉漢] 事物ノ道理ヲ解セザルモノ。沒理漢。無分曉漢。

わかり (名) [分] ワカルルコト。サトルコト。合點。領會。了解。

〜わ-がり (名) [我許] ワガモト。又、ワガ家。萬葉集、八、三十二「久方ノ、天ノ河瀨ニ、船浮ケテ、コヨヒカ君ガ、我許來マサム」

わか・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [別分] 〔分クノ自動、別けらるノ約轉カ〕 (一)心ニ解シ知ル。會得ス。合點ス。了解 字鏡 卅三「諒也、和加留」 (二)〔又、はかる〕離ル。別ニナル。萬葉集、四、四十五「衣手ノ、別今夜從、妹モ吾モ、甚ク戀ヒムナ、逢フ由ヲナミ」(古義ノ訓)

わか・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [別分] 〔我離るノ義〕 (一)〔一ツ一ツニナル〕ハナル。別ニナル。神代紀、上「天地未レ剖、陰陽不レ分、渾沌如二鷄子一」 (二)ハララク。チラバル。離散 (三)〔離レテ、相見ガタクナル〕又、死別レ、或ハ、生別レトナル。訣別 三國志、吳志、呂蒙傳、注「士別三日、卽更刮目相待」 萬葉集、十五、四十四「世ノ中ハ、常カクノミト、和可禮ヌル、君ニヤモトナ、吾ガ戀ヒ行カム」「親ニ別る」夫ニ別る」 (四)出デテ支ヲナス。支分 「幹ヨリ分る」本道ヨリ分る」

わかれ (名) [別] (一)ワカルルコト。ハナルルコト。 (二)〔イトマゴヒ。離別。訣別 萬葉集、十五、卅五長歌「夢ノゴト、路ノソラヂニ、和可禮スル君」「旅ノ別」夫婦ノ別」別ヲ送ル」別ヲ告グ」 (三)出デテ支ヲナセルコト。支脈 旁系 「家ノわかれ 血筋ノわかれ」 別を送るトハ、旅立ツ人ヲ見送ル意。送別

わかれ-じも (名) [別霜] 春ニ於ケル最後ノ霜。卽チ、八十八夜頃ニ置ク霜。ワスレジモ。

わかれ-ぢ (名) [別路] (一)〔人ト別レテ行ク路。古今集、九、羇旅「糸ニヨル、モノナラナクニ、別れ路ノ、心細クモ、思ホユルカナ」 (二)〔死別ルル路。冥途へ行ク路。榮花物語、九、岩蔭「死出ノ山ナル、別れ路ハ、イキテ見ルベキ、カタモナシ」 (三)マタニナレルミチ。エダミチ。ヨコミチ。岐路

〜わかれ-の-くし (名) [別櫛] 古へ、齋王ノ、都ヨリ伊勢ノ齋宮へ立タセ給フ時、帝、御手ヅカラ其御髮へ、櫛ヲ刺シツカハシ給フコト。又、ソノ櫛。(櫛ニテ髮ヲ梳ルニ、後へハカヘラヌモノナレバ、カクハ行フト。コレ、歸リ給フナ、都ノ方へ向キ給フナ、トノ謎ナリ) 源、十、榊「御門、御心ウゴキテ、わかれの御くし奉り給フ」

✣わか・れる (動) [別] わかる(別)ノ口語。

〜わか-わか・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [若] 甚ダ若ク見ユ。極メテ若ヤカナリ。轉ジテ、ばかばかし。落窪物語、一「アナわかわかしノ書寐ヤ」 源、九、葵、三十「カク心ヨリホカニわかわかしき物思ヒヲシテ、ツキニウキ名ヲ流シハツベキコトトオボシ」

わか-わか-と (副) [若若] 若ヤカニ。蜻蛉日記(異本)中「フミ、云云、わかわかと書キタリケリ」

わか-をとこ (名) [若男] (一)年若キ男。大和物語、上「公平ノムスメ、云云、備前守信明、マダわか男ナリケル時ニナン、初ノ男ニシタリケル」 (二)能面ノ一種。松蟲、女郎花、ナドヲ演ズル時、普通ノ男體ニ用キル。

わか-をんな (名) [若女] (一)年若キ女。 (二)能面ノ一種。熊野、松風、ナドヲ演ズル時、普通ノ女體ニ用キル。

わか-をやま (名) [若女形] 芝居ニ云フ語。をやま(女形)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

わき (名) [脇腋掖] 〔左右ニ別きノ義カ〕 (一)〔胸ノ側面ニテ肩、腕、ノ下。倭名抄、三、四「身體類、腋、和岐」 天治字鏡、一、十二「腋、和支」 (二)〔衣ノ一部。腋ニ當ル所。倭名抄、十二、廿「衣服具、腋、古呂毛乃和岐」 (三)〔カタハラ。カタヘ。傍 神代紀、上、廿三「天手力雄神侍二磐戶側一」「わきニ居ル」 (四)能、狂言ニ、仕手ノ相手ヲ演ル者。脇師。(仕手ノ條ヲ見ヨ) 習道書(永享、世阿彌)「脇ノ爲手ノ心得ベキ條條、マヅ初ニ出デテ、開口ヨリ其題目ノ謂レヲ分明ニ云ヒヲサメテ、一番ノ事ヲナス事、コレ脇ノシテノ一人一心ノ態役ナリ」 (五)關脇ノ略。相撲ニテ、最手脇 今昔物語、廿三、第廿二語「左ノ相撲人、云云、最手ニ立テ、腋ノ者ヲモ不[illegible]テ、脇ニ走(下ノ誤カ)ニケリ」 (六)芝居ニテ、立者(其條ヲ見ヨ)ニ列坐スルモノ。

〜わき (名) [別] ワクコト。ケヂメ。ワカチ。神代紀、上「天下恆闇、無二晝夜之殊一」 萬葉集、四、四十八「夜晝ト、言フ別知ラズ、吾ガ戀フル、心ハケダシ、夢ニ見エキヤ」(略解ノ訓)

わき (名) [沸涌] (一)ワクコト。ワキ上ガルコト。 (二)刀ノ刃ノ燒入ト地トノ境ニ、研ニ因リテ生ズル斑文ヲ沸、匂ト云フ。燒入ノ硬キ部ハ白ク光リテ見ユ、(地ノ部ハ軟ナレバ黑ミアリ)是レ沸ナリ。斑ノ大ナルアリ、刀身ノ平面ヲ斜ニ凝視スレバ、微細ニシテ星雲ノ如ク、霞ノ如キハ匂ナリ。此沸、匂アル部分ハ、硬質脆性ナル刃部ト、軟質韌性ナル心部トノ中間ニアリテ、性質ノ激變ヲ避ケ、漸ヲ以テ甲ヨリ乙ニ移ルタメノ媒介ナリ。沸、匂アル刀ハ銳利ナリ、然ル故ハ、刀身ノ平面ニ凹凸アルニ因ル、刀身ノ平面ト粘性ナル肉トノ固着ヲ防ギ、抵抗ヲ減ズルガタメナリ。

わ-き (名) [和氣] ノドカナル氣。オダヤカナル氣色。禮記、祭義篇「有二和氣一者、必有二愉色一、有二愉色一者、必有二婉容一」

わ-ぎ (名) [和議] 和睦ノ評議。仲直リノ相談。宋史、高宗紀「復以二廷臣一主二和議一」

わき-あけ (名) [腋明] (一)〔袍ノ製ノ名。はう(袍)ノ條ヲ見ヨ。闕腋。枕草子、三、第廿八段「ウヘノキヌわきあけニテ、云云」 (二)幼童、婦女ノ衣ニ、袖ノ、腋下ニ合フ所ヲ、縫ハズシテ置クコト。左、右、各、四

ソナレバ、八日トモ云フ。今ハ專ラ身ニ[illegible]、[illegible]おろノ方ノアキヲ云ノ。[illegible]西鶴）三「イマダ脇明ノ娘、齒モ染メズ」

〔わきあけ-の-おろも（名）［缺掖闕腋］〔腋明の衣ノ義〕けってき（闕腋）ニ同ジ。けうり袍ノ條ヲ見ヨ。［illegible］十一［illegible］「缺掖、和岐阿介乃古路毛」

わき-あて（名）［脇當］鎧ノ一部。わいだて（脇楯）ニ同ジ。［illegible］、ワキアテ。注「於陣中、又脇引云事歟、之由也」

わき-いれ（名）［脇入］袋ノ中ニテ、隔ヲシテ、更ニ、他ノモノヲ入ルルトコロ。

わき-うり（名）［脇賣］室町時代ニ、自己所有ノ店ハナクシテ、他ノ店ヲ借リナドシテ物ヲ賣ルコト。又、ソノ人。集古文書、三十二、天正十二年下知狀「米之坐事、脇賣於二撰者一、前前ヨリ今以如有來、可加成敗之狀如件」

わき-が（名）［腋臭］古ク、有臭。又、ワキクソ。人ノ腋下ニ、脂肪分ノ汗ヲ出シテ、臭氣甚シキモノ。原因詳明セズ、健康ノ青年ニ多ク、性慾、及、精神作用ト關係アルモノノ如シ。貴人ノ前、嚴格ナル場ニ出ヅル時、殊ニ惡臭ヲ放ッコトアリ。此汗ト普通ノ汗ト比ブルニ、腋ナルハ多量ノ脂肪成分ヲ含ム、小兒ニナク、若キ人ニ多ク、老人ハ消滅スト。沖繩ニテわちくさト云フ。胡臭。狐臭　浮世床（文化、三馬）二編、下「オレガ、イツ狐臭カアル」　瘍科秘錄、八、體氣「體氣ハ又狐臭、胡氣、腋氣、腋臭、慍羝等ノ名アリ、俗ニわきがト云フ、身體ニ一種ノ臭氣アリテ、腋下ヨリ發泄シ、常ニ汗ニ化シテ觸ヒ、醗酵シテ臭氣ヲ醞成スルナリ」

わき-がかり（名）脇懸　脇ノ者ガ關係スルコト。又、當事者以外ノ者ヲ相手トスルコト。[illegible]ナレバ、[illegible]ハルル佛ガ、若輩ラシウナンノ脇がかりナサレウ」

わき-かぢ（名）［脇楫］［脇梶］わいかぢ（脇楫）ノ[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]十一、[illegible]二艘ノ立テチガヘ、脇楫ヲ入レテ、トナタヘ[illegible]シヤスイヤウニシ候ハバヤ」

わき-かへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［沸返］（一）水、逆卷ク。タギル。涌返　蜻蛉日記、上、下「水ハ石ガチナル中ヨリ、わきかへり行ク」（二）甚シク沸キタツ。ワキ[illegible]ワク。（三）心ミタサレズ、激シク動搖ス。沸騰　千載集、十八、雜、下、短歌「最上川、瀬瀬ノ岩カド、わきかへり、思フ心ハ、多カレト」

わき-きゃうげん（名）［脇狂言］（一）能狂言ニテ、祝言ノ狂言。狂[illegible]、三本柱、後書「シテ言葉、仕形共ニ格別工夫肝要ノヨシ、云云、脇狂言ノ趣意ハヅレ不申候樣、心得肝要ノ事」（二）昔、江戸ノ歌舞伎芝居ニテ、十一月ノ顏見世興行ノ時、二番叟ノ後ニ演ズル狂言ニ又、前狂言トモ云ヒ、酒呑童子、七福神ナドアリ。ワキヲドリ、トモ云フ。戲場年中鑑、下、十一月「脇狂言、其家家ニ持狂言アリ、至テノ雅ナルモノナリ」

わき-く（名）［脇句］連歌、俳諧ノ第二ノ句。卽チ、下ノ句。盛衰記、三十七、景時秀句事「鞠子川、ケレバゾ波ハ、アガリケル、云云、カカリアシクモ、人ヤ見ルラン、ト附ケ給ヒ、イカニ發句、脇句、イヅレ増サレリトゾ仰セケル」

わき-くさ（名）［腋臭］又、わきくそ。わきのか。わきが（腋臭）ニ同ジ。

〔わき-くさ（名）腋草　ワキノ下ノ毛。ワキゲ。萬葉集、十六「童ドモ、草ハナカリソ、八穗蓼ヲ、穗積ノ朝臣ガ、腋草ヲカレ」（略解ノ訓）

〔わき-くそ（名）［腋臭］［illegible］。わき[illegible]（腋臭）ノ古[illegible]。[illegible]名抄、[illegible]、人[illegible]「[illegible]氣ハ又謂ニ之狐臭、如ニ狐狸之氣一也」名義抄「胡臭、ワキクソ」醫心方、十六「狐臭、ワキクソ」

わき-げ（名）腋毛　腋ノ下ニ生ズル毛。古名、ワキクサ。

わき-おし（名）［脇輿］輿ノ傍ニ添フルコト。又、輿ノ傍。コシワキ。[illegible]伸）「傾郡ハ美女ヲ伴ヒ[illegible]リケレバ、仲光モ[illegible]ニわきおしニ參リ、云云、御暇申シ[illegible]ルガ」

わき-ざ（名）脇座　能舞臺ノ名ドコロ。舞臺ニ向ヒテ右ノ方ニテ、卽チ、脇柱ノ後方ニアル脇師ノ着座スルトコロ。狂言記、腰折「退テゴザル、マッコナタハ[illegible]敷ヘ[illegible]ラセラレイ、心得タ[illegible]わき座ヘ着」

わき-ざし（名）［脇指］［脇差］（一）佩カズシテ、腰ノ上帶、又ハ、懷ニ指ス刀。打刀、腰刀、鍔通ナドノ總稱。鎌倉實記、寶德元年四月七日「失火、わきざし、備光、一文字、吉光三腰失」太平記、十三、兵部卿宮薨御事「腰刀、云云、刀ノ鋒一寸餘折テ失セニケリ、淵邊其刀ヲ投捨、脇差ノ刀ヲ拔テ、云云」（二）後ノわきざし（懷劍、隱劍、合口ナドト呼ブモノ）ハ、腰刀ノ變ジタルモノ。其長サハ、八九寸ヨリ一尺七寸位マデノモノニテ、おおりハ圓シ、コレヲ中脇指ト云ヒ、二尺以上ニ及ビタルモノヲ、大脇指ト云フ。大內問答（類從本）「脇ざしノ事ハ、隱劍ト申シテ、人ニ見セザルヤウニ、自然ササレ候カ」（三）〔おしざし（腰指）ノ條ノ（二）ニ同ジ。宇津保物語、藤原君二十「庄物オクラシメテ、中嬢ニわきざしラウチシテ乞ハシメン」

わき-おし（名）［脇師］わき（脇）ノ條ノ（四）ヲ見ヨ。明良帶錄、世職「四座猿樂、進藤、福王、

わき-おま（名）［脇島］本島ニ附屬セル島。[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ヲ立[illegible]。[illegible]、コレヲ八丈島ノ脇島ト[illegible]、[illegible]八」

わき-おゃうめん（名）［脇正面］〔脇師ノ着座スル處ヨリ、ソノ正面ニ當ル故ニ云フ〕能舞臺ニテ、向テ左、仕手柱ト目付柱ト、[illegible]、又、橫正面。[illegible]山伏、注「シテ、わき正面ニテナノル」

わき-ぞなへ（名）［脇備］陣立ノ法。本陣ノ右左ニ備フル軍勢。甲陽軍鑑、九下、品第廿七「晴信公御右ノ脇備ニ仰付ラルル子細ハ」

わき-だち（名）［脇立］又、わいだち。けふお（挾侍）ノ條ヲ見ヨ。

わき-た・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（他動、四）［沸立］［涌立］ニエタツ。ニエカヘル。沸騰ス。烈シクワキ出ヅ。ワキカヘル。

わき-だて（名）［脇楯］わいだて（脇楯）ノ條ヲ見ヨ。盛衰記、三十四、法住寺合戰事「錦ノ鎧直垂ニ、脇楯バカリニ、云云」

〔わき-だ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［辨別］［辨］〔別ヲ活用ス〕又、わいだむ。差別ス。ワカツ。區別ス。應神紀、九年四月「親辨無罪、後死、不晚也」

〔わき-だめ（名）［辨別］ワキダムルコト。差別スルコト。區別。言便ニ、わいだめ。神功攝政前紀「日夜有別」

〔わき-づき（名）脇几　脇机　オシマヅキ。けふそく（脇息）ニ同ジ。古事記、下、雄略記「和岐豆紀ガシタノ、イタニモガ、アセヲ」

わき-つけ（名）［脇附］江戸幕府ノ頃、書狀ノ名宛ノ左下ニ記ス文字。身分ノ等

級、内リテ、参ハ人御中、人人御中、御宿所、進覽、進之候、ナド卜次第ス、返書ノ脇附ハ、尊答、貴報、御報、御返報、御返事、ナド卜次第ス、下輩ヘハ、脇附ナシ、コレヲ、一ニ、打付書(ウチツケガキ)トモ云フ。

わき-つぼ (名) 腋壺 腋ノ下ノクボミタル所。又、ワキノ下。古事談、四、勇士「腰刀ノ束ニ、クスネ絲卷キタル、腋つぼニサシ」

わき-つめ (名) 脇詰 又、わきふさぎ。衣服ノ八口(ヤツクチ)ヲ縫ヒ塞グコト。又、ソノ縫ヒ塞ギタル衣服。昔ハ年增女ノ着ルモノトス。故ニ、單ニつめトモ云ヒテ、年增女ノ意ニ云フ。傾城反魂香(寶永、近松作)上「十七八ナル脇詰ノ、後結ビモ格別ニ、云云」

わき-て (名) 脇手 脇ノアタリ。横ノ方面。側面。ワキ。

〜**わき-て** (副) 別 〔並(ナ)べて、ノ反(ウラ)〕取リワケテ。殊ニ。別段ニ。格別ニ。格段ニ。特ニ。後撰集、六、秋、中「イツトテモ、月見ヌ秋ハ、ナキモノヲ、わきて今宵ノ、メヅラシキ哉」

わき-で (名) 脇手腋手 相撲ニテ、關脇ワキ。日本靈異記、七、相撲內取 最手、今之關取也、助手、今之關脇、又曰 之腋手こ」

わき-デラ (名) 脇寺 本寺ノ傍ニアリテ、ソレニ附屬セル寺。又、禪寺ノ塔頭(タッチュウ)。ワキバウ。子院 甲陽軍鑑、十八、品第四十八「甲州府中穴山小路ニ、新立寺卜申日蓮宗ノ寺アリ、是ニ脇寺十四五有」

〜**わき-ど** (名) 脇戸腋戸 中央ノ扉ノ傍ニ設ケタル戸。又、門ノ脇ノ入口。今昔物語、十六、第廿語「築垣ヲ築廻シテ、脇戸ヲシテ、云云、脇戸ヲ開テ、金尾丸脇戸ノ此方ニ立テ、云云」

わき-のう (名) 脇能 〔古クハ、脇ヲツトムル人ニ重キヲ措ク故ニ云フト云フ、一說ニ、翁ノ脇ニ當ルヨリ云フト〕能樂ヲ數番演ズル時、第一番ノ能ノ稱。卽チ、高砂、老松、東方朔ナド、主トシテ神事物ナリ。習道書(永享、世阿彌)「サレバ、能ノ序破急ノ事、脇能ハ序ナリ」

わき-の-ごぜん (名) 腋御膳脇御膳 古ヘ、禁中ノ節會ノ時、天子ノ召サセラル儀式ノ供御。晴御膳(ハレノゴゼン)ニ次ギテ、御厨子所ヨリ四盤奉ル。江家次第、正月、供御藥「此外稱二腋御膳一、自二御厨子所一供二御齒固具こ」

わき-の-ㄙた (名) 脇下腋下 手ノ肩ニ接スル所ノ、下ノ窪ミタル所。ワキツボ。腋(ワキ)。增補下學集、上、支體門、腋、ワキノシタ、腋、ワキノシタ」

わき-ばう (名) 脇坊 わきでら(脇寺)ニ同ジ 甲陽軍鑑、十八、品第四十八「新立寺ニテ脇坊十五間ノ間ニ、云云」

〜**わき-ばさ・む**・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) 挾腋挾 (一)腋ノ下ニ挾ム。萬葉集、二、三十九長歌「ミドリ兒ノ、云云、鳥穗(鳥德カ)ジモノ、腋挾持チ、吾妹子ト、二人吾ガ寐シ」(略解ノ訓) (二)身ニ、シカト着ク。掌握ス 皇極紀、三年正月「挾(ワキバサム)閑謐社稷之權」

わき-ばしら (名) 脇柱 だいゐんばしら(大臣柱)ノ條ヲ見ヨ。

わき-ば・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) イタハル。イツクシム。落窪物語、一「スベテ、イトアシキモノ知ラヌ主モタリテ、わきばみすモフ君ニ、マサラセントオモヒツル」

わき-ばら (名) 脇腹脇肋 (一)腹ノ傍。ヨコハラ。ソバハラ。好色二代男(貞享、西鶴)四「わき腹ヲ見給へバ、火傷アリアリト」 (二)別腹 妾腹。メカケバラ。傾城反魂香(寶永、近松作)上「乙ノ姬君銀杏ノ前ハ、御愛子ナレトモ脇腹ユヱ、御臺所ヲ憚リ給ヒ」「脇腹ノ子」

わき-ひら (名) 側邊 そばひら(側平)ニ同ジ。カタハラ。ワキ。

わき-ふさぎ (名) 脇塞 わきつめ(脇詰)ニ同ジ。好色一代女(貞享、西鶴)六「其女、未縮袖ノ一重ナル脇ヲ、ヲ着テ手ヅカラ紙帛數包ヲ抱ヘ」

〜**わぎ-へ** (名) 我家 〔わがいへノ約〕又、わいへ。我ガ家。己レガ家。古事記、下(仁德)「吾カ見ガホシ國ハ、葛城、高宮、和藝幣(ワギヘ)ノアタリ」景行紀、十七年三月「和藝幣(ワギヘ)ノ方ユ、雲居起チ來モ」萬葉集、五、廿「吾ガ屋ノ、宿キクナベニ、梅ノ花、和企幣ノ園ニ、咲キテ散ル見ユ」

わき-ぼね (名) 脇骨 體ノ脇ヲカコム骨。カタハラボネ。アバラボネ。肋骨(ロクコツ)。名義抄「肋、ワキボネ、タスケノホネ」

わき-ま・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 辨 〔別(ワキ)ヲ活用ス、まふハ行フ意ニテ、ゐやまふ、ふるまふナド卜同趣〕 (一)別ク。ワカツ。辨別ス。ワキマヘル。名義抄「別、ワキマフ、ワカツ」中庸、第十九章「宗廟之禮、云云、序所‐以辨二貴賤一也」源、廿六、常夏五「タソガレ時ノオボオボシキニ、同ジ直衣ドモナレバ、何トモわきまへラレヌニ」 (二)償フ。返辨ス。カヘス。又、人ノ物ヲ負ヒテ、カヘス。元、幾何カヲ借リタルニ付キ、今ハ幾何カニアタレバ、慥ニカヘスト分別ス。今昔物語、廿八、第三十一語「我カ君、罷返テ、月ノ內ニ辨へ切候ヒナント云フヲ、守更ニ不レ信シテ云ク、云云、只今有心ニテカク辨へ畢テヨト」

わき-まへ (名) 辨 (一)ワキマフルコト。辨別。(二)ツクノヒ。アガナヒ。辨濟。今昔物語、廿八、第三十一語「イカニモ命ノ候ハンゾ、後ニモわきまへシテモ候ベキ」

✣**わき-ま・へる** (動) 辨 わきまふ(辨)ノ口語。

わき-み (名) 傍視 傍ヲ見ルコト。ヨソミ。ヨソメ。ワキメ。アカラメ。本朝若風俗(貞享、西鶴)三、二「一人ノ男、脇見シテ、通リ、何事ニモアリ、女ノ業ヲ見ル事ナシ」

〜**わぎ-み** (代) 吾君 對稱ノ代名詞。敬ヒ親ミテ云フ。ワガキミ。萬葉集、三、二「言ノ山ノ、峯ノ白雲、朝ニケニ、常ニ見レドモ、メヅラシ吾君(ワギミ)」(古義ノ訓) 今昔物語、十九、第四語「和君ノ御スルヲ尋ネテ行キタル様ニテ、云云」

わき-みち (名) 脇路 (一)エダミチ。コミチ。岐路 傍徑 本朝若風俗(貞享、西鶴)二、「甲近クナリテ、脇道ヨリ挑燈持テ、云云」 (二)正道ニアラザル方面。方向ノ違ヒタル方。方角チガヒ。

わ-きん (名) 和金 金魚ノ一種。身長ク尾短ク、まるこ(丸子)ヨリ壯健ナルモノ。尙、きんぎょ(金魚)ノ條ヲ見ヨ。

わき-め (名) 傍目 (一)わきみ(傍視)ニ同ジ。(二)傍カラ見ルコト。ヲカメ。傍觀。「傍目モフラズ」 大職冠(正德、近松作)三「サレバイノ、わき目ニサヘ餘ルモノ、女房ノ身ニ成テ、見ガ批怨ナルモノカ」

〜**わぎ-も** (名) 吾妹我妹 〔わがいもノ約〕妻、又ハ、廣ク一般ニ、女ヲ親ミテ云フ語。ワガイモ。我ガイモウト。ワギモコ。萬葉集、十五、廿六「山川ヲ、中ニヘナリテ、遠クトモ、心ヲ近ク、オモホセ和伎母」

〜**わぎも-こ** (名) 吾妹我妹 〔わがいもこノ約〕 (一)我ガ妹子。妻、又ハ、廣ク女ヲ親ミ呼ブ語。雄略卽位前紀、顯宗 皇后曰、吾妹(ワギモ)、汝雖二親昵一、朕畏二眉輪王一」萬葉集、一、廿「吾妹子ヲ、イザミノ山ヲ、高ミカモ、日本ノ見エヌ、國遠ミカモ」 (二)神樂歌ノ歌曲ノ名。神樂歌、臨時祭、和捻設古ニヤ、一夜ハダフレ、アヒゾ、アヤマリニシヨリ、トリモトラレズ、トリモトラレズ」

〔わぎもこ・に (枕) 〔吾妹子爾、我妹子爾〕 吾妹子ニ[illegible]ト云フ意ニテ[illegible]ト云フ[illegible]。 萬葉集、十二「吾妹子爾、相市(アフチ)ノ花ハ、散過ギズ、今咲ケル如、アリコセヌカモ」同、十「吾妹兒爾、相坂山ノ、ハタススキ、穂ニハ咲キ出ズ、コヒワタルカモ」

わ・ぎやう (名) 〔和行〕 五十音圖ノ第十ノ行ノ名。即チ、わ、ゐ、う、ゑ、を、ノ稱。

わ・ぎよ (名) 〔髙苣〕 訛シテ、くゎきょ。ちさ(髙苣)ノ條ヲ見ヨ。

〔わぎら・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 〔和〕 和グヤウニス。和ゲシム。 繼體紀、廿三年四月、近江毛野臣、推問所、奏、和解相疑」

わ・ぎり (名) 〔輪切〕 大根、牛蒡、瓜、ノ類ヲ、横ニ切ルコト。切口、輪ノ狀ヲナス。

わき・ろ (名) 〔脇艪〕 艫艪ノ力ヲ助ケムタメニ、別ニ舷端ニテ用ヰル艪。

わきわき・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 〔分明、分分〕 又、わいわいし アキラカナリ。キハヤカナリ。フンミャウナリ。 舒明即位前紀「既分明、有二見事一」

わき・ゑ (名) 〔脇繪〕 三幅對ノ掛物中、兩脇ニ掛クル繪。ほんぞん(本尊)ノ條ヲモ見ヨ。 太平記、三十七、新將軍京落事「六間ノ會所ニハ、大紋ノ疊ヲシキナラベ、本尊、脇繪、花瓶、香爐、鑵子、盆ニ至ルマデ、一樣ニ皆置キ調ヘテ」

わき・を・かく (句) 〔挿脇〕 ホコリカニ物言フ狀ニ云フ語。腕ヲサスル。ウデマクリス。 丹後守爲忠家百首「サリトモト、わきをかくコソ、ウレシケレ、コシラヘエタル、ケシキシルシモ」新六帖、五「ネタゲナル、賤ガアサデノ、タマダスキ、謐ニムカヒテ、わきをかくラン」

わく (名) 〔籰〕 〔字ノ音〕 (一)絲ヲ絡[illegible]其間[illegible]。[illegible] 後拾遺集、十八、雜「クル人モ、ナキオク山ノ、瀧ノ絲ハ、水ノわくニゾ、マカセタリケル」 (二)轉ジテ、木、竹ノ細ソキ材ヲ、器具ノ骨トシ、又ハ、緣トスルモノ。カマチ。框。 木格 木匡「戸ノ[illegible]ノ框、額ノ框」

わ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 〔湧沸涌〕 〔曲トナリテ上ル意カ〕 (一)水、地中ヨリ噴キ出ヅ。噴出ス。 (二)水、火氣ニ過ヒテ熱クナル。ニユ。 (三)鑠ク。鎔ク。(金類ニ) 鑠 (四)盛ンニ起リ來ル。發起。 伊勢集「ウキコトノ、カクわくトキハ、涙川、目ノ前ニコソ、落チタマリケレ」「事、沸く議論、沸く」 (五)自然ニ生ル。生フ。ウマル。ムス。發生「蟲、わく」 (六)芝居ニ云フ語。うなる(唸)ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。

〔わ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 〔別〕 次條ノ語意ニ同ジ。 天武紀、下、八年五月「不レ別ニ同異一」 萬葉集、五ノ六「打靡ク、春ノ柳ト、我ガ宿ノ、梅ノ花トヲ、イカニカ和可ム」 新古今集、十六、雜、上「メグリアヒテ、見シヤ夫レトモ、わかヌ間ニ、雲ガクレニシ、夜半ノ月影」 拾遺集、九、雜、下「春秋ニ、思ヒミダレテ、わきカネツ、時ニツケツツ、移ル心ハ」

わ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 〔別分〕 〔わかるノ他動〕 ワカツ。ハナス。區別ス。思慮辨別スル。 夫木抄、二十二、霞「山ノハハ、分けヨルママニ、アラハレテ、カスミヲコムル、マツノムラ立」

わ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(他動、下二) 〔綰〕 〔曲[illegible]〕 マグル。字類抄「曲、ワケタリ」

〔わく・ご (名) 〔若子〕 (一)ヲサナゴ。幼子。[illegible] 萬葉集[illegible]「ウルハシキ、十羽ノ松原、少子ドモ、イザワ出テ見ム、[illegible]」 (二)若キ人ヲ賞メテ云フ語。若年ノ男。少壯。ワクゴ。[illegible]前紀「水クヘコモリ、水ソソグ、鮪ノ和俱吾ヲ、アサリツナ猪ノ子」 萬葉集、十一、旋頭歌「山城ノ、久世ノ若子カ、ホシトイフ吾ヲ、アフサワニ、吾ヲホシト云フ、山城ノ久世」(古義ノ訓) 同、十四ノ廿「ツムガ野ニ、鈴ガ音聞ユ、カムシダノ、殿ノ奈可知シ、トガリスラシモ(或本歌曰、和久胡シ)」

わく・せい (名) 〔惑星〕 〔一處ニ定住セズシテ、常ニ其位置ヲ轉ヘフル故ニ、惑ト云フ〕 いうせい(遊星)ニ同ジ。

わく・せき (副) あくせく(齷齪)ノ轉訛。

わく・て (名) 〔籰手〕 籰ノ手。籰ノ脚。又、わく(籰)ニ同ジ。 新六帖、五、絲「ワレカクテ、わくてノ絲ノ、絲メグリ、命長クモ、年ノヘヌラン」

わく・でき (名) 〔惑溺〕 マドヒオボルルコト。迷ヒコミテ本心ヲ失フコト。 世說(劉宋、劉義慶)「惑溺」「女色ニ惑溺ス」

わ・くん (名) 〔和訓〕 漢字ニ和語ヲアテテ讀ムコト。又、ソノ讀ミ方。くん(訓)ノ條ヲ見ヨ。訓讀。國訓。 徂徠集、十九、題[illegible]「曰和訓、曰譯、無甚差別、但和訓出於古昔搢紳之口、云云、譯[illegible]」

〔わぐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) 〔綰〕 ワグ。 ワガヌ。 宇治拾遺、十二、第十二條「薄色ノ衣、云云、搔イわぐみテ、脇ニ挾ミテ、云云」

わく・もん (名) 〔或問〕 〔或ハ問ふノ義〕 文章ニテ、假リニ或人ノ問ヲ以テ起シ、コレニ答ヘテ、己レガ論ヲ記スモノ。

わ・ぐら (名) 〔倭鞍、和鞍〕 〔唐鞍ニ對ス〕 [illegible]

わくら・ば (名) 〔病葉〕 〔別くる葉ノ義〕 (一)夏山ノ、木ノ葉ノ色ヅキタルモノ。 (二)常磐木ノ中ニ、タマタマ變色アルヲ云フ。ソレヨリ、たまたまアルコト、[illegible] 青葉ノ中ニ、[illegible]タリ、[illegible]、葉ヲ蟲ノ[illegible]ト云フトカ云ヘレド、イカガ」

〔わくらば・に (副) 〔邂逅〕 〔別クル計、人多キ中ヲ云フ意〕 タマサカニ。希ニ。偶然ニ。不意ニ。ユクリナク。ヒョクリト。 萬葉集、九、挽歌「人トナル、事ハ難キヲ、わくらばニ、ナレル吾身ハ」 同、五、[illegible]「わくらばニ、人トハアルヲ」 六帖、三「わくらばニ、問フ人アラバ、須磨ノ浦ニ、モシホタレツツ、ワブト答ヘヨ」

わく・らん (名) 〔惑亂〕 マドハシミダスコト。又、マドヒミダルルコト。 莊子、繕性篇「附之以文、益之以博、文滅質、博溺心、然後民始惑亂、無以反其性情而復其初」

わ・くゎう (名) 〔和光〕 〔威德ノ光ヲ和グルノ義〕 佛菩薩ガ衆生濟度ノタメニ、其無漏智ノ光ヲ和ゲ、種種ノ身ニ現ジテ、此世ニ現ハルルコト。次條ノ語ヲ見ヨ。 [illegible]「和光下同現身也」 盛衰記、廿二、[illegible]、第二八八幡大菩薩、其君ヲ守リ給フ和光ノヒカリトオボエタリ」

わくゎう・どうぢん (句) 〔和光同塵〕 老子、第四章「和其光、同其塵」前條ノ語ヲ[illegible]

モ見ヨ」(一)我ガ智ノ光ヲ隱シテ顯ハサズ、俗塵ノ中ニ混シテ時ヲ知ルコト。又、佛光ヲ和ゲテ、世俗ノ塵埃ニ同ズト云フ意。佛教ニテハ、人以上ノモノノ、其本位ヨリ去リテ、人ノ形ヲ取リ、縁ヲ人ニ結ブヲ云フ語。(二)佛菩薩カ、衆生濟度ノタメニ、其無漏智ノ光ヲ和ゲ、世ノ塵埃ニ同ジテ、此世ニ現ハルルコト。本地垂迹ト云フモ、此意ナリ　止觀、六之二「和光同塵、結縁之始、八相成道、以論其終」　沙石集、一、上「[illegible]ハ和光同塵コソ、諸佛ノ[illegible]ノ極ナレ」　千載集、廿、神祇「ミチノベノ、塵ニ光ヲ、やはらげテ、神モ佛モ、ナノルナリケリ」

わくわく (副) 悶エテ心ノオチツカザル狀、又ハ、心ノ動搖スル狀ニ云フ語。　釋迦如來[illegible](元祿、近松作)五、[illegible]シャ[illegible]ノ道スガラ、心わくわくセキカクル、跋提河ニゾ着キ給フ」

わけ (名) 譯　[別ノ義]　(一)理ヲ說キ分クルコト。ユヱ。意義。義理。　狂言記、茶盡拜「妾モウケ持チマシタ肴ニ、小歌ヲ唄ハセラレ、わけハ知ラネドモ聞キマショ」(二)コトノモト。ユヱ。イハレ。仔細。理由。　曾根崎心中(元祿、近松作)觀音廻り「何モ聞カシセヌカ、貴樣ハ何ヤラ譯ノ聞イ事アッテ、云云」(三)郭ニテ、ワケ。ワケシリ。　好色一代女(貞享、西鶴)一「マシテヤわけノヨキ女郎ニ身ヲ捨ツルハ、道理ゾカシ」

わけ (名) 分　(一)分クルコト。ワカチ。ケヂメ。區別。差別。(二)モト、村中小區分ノ稱。　日本國郡沿革考、一、總說「一村中、亦因民之所[illegible]區別、倣稱之爲字、或小名、[illegible]之以組、曰某組、又曰某坪、某分、云云」(三)相撲ニ云フ語。ひきわけ(引分)ノ略。其條ヲ見ヨ。(四)藝妓、娼妓、酌婦、ナドガ、其玉代、又ハ、花代ヲ、抱主ト、二ツワケニスルコト。　好色一代女(貞享、西鶴)六「身ノ置所無クテ、居物宿ニ行キテ、分ノ勤メモ恥カシ、云云、分トハ、其花代、宿ト二ツニ分クルナルベシ」　嬉遊笑覽、九、下、傀儡「月ハヒトツ、カゲハ二ツトイフ事アトレリ、分ーハ、其半分ナルベシ」

わけ (名) 別 和氣　國造、稻置ナドノ類ニテ、古ヘ、諸國ノ處處ニアリテ、其地ヲ治ムル職。後ニ、尸トナリ、又、氏トモナリタリ。　古事記、中(景行)「自其餘七十七王者、悉別賜國國之國造、亦和氣及稻置縣主也」　景行紀、四年二月「七十餘子、皆封國郡、各如其國、故當今時、謂諸國之別者、即其別王之苗裔焉」　同、廿六、天平神護元年三月「從六位上藤野別眞人廣虫女等三人、賜姓吉備[illegible]」

わけ (代) 和氣　(一)(我ト通ズ)　我レノ自稱ノ代名詞。謙稱ニモ用ヰル。ヤツガレ。ワタクシメ。　萬葉集、四「我カ君ハ、わけヲバ死ネト、思ヘカモ、逢フ夜逢ハヌ夜、フタユキスラム」同、同「黑木取リ、草モ刈リツツ、仕ヘメド、イソシキ和氣(我)ト、ホメムトモアラズ」(二首、略解ノ訓)　(二)(吾君兄ノ約、元ハ崇メタル語ト云フ」下ザマノ者ヲ云フ對稱ノ代名詞。汝。(戲レテ云フ意アリ、又、言ヒカヘシテ、我ノ意ニモ用ヰタリ)　萬葉集、八、廿「戲奴(變云、和氣、汝ナリ)ガタメ、吾ガ手モスマニ、春ノ野ニ、拔ケル茅花ゾ、食シテ肥エマセ」(古義ノ訓)

わげ (名) 髷　[綰げタル意]　又、まげ。昔、男子ノ結髮ニ云ヒシ語。髻ノ餘髮ヲ束ネテ頂後ヘ曲ゲテ、再ビ頂前ヘ曲ゲカヘスモノ。頂後ナル所ヲ一ト云フ、側面ヨリ見レバ、一ノ字ノ右端ニ似タレバナリ。頂前ノ尖ヲはけ、又ハ、はけさきト云フ、刷毛ニ似タレバナリ。女ノ島田髷ナドニモ、いち、はけノ稱ヲ用ヰル。　賤の小手卷(享和、森山孝盛)「豆本多ト云ハ、至極髮ヲツメテ、尤少クシテ、わげヲイカニモ小サク、豆粒ノ如ク結フタルナリ」

わげ (名) 和解　(一)外國語ノ翻譯。くわげ。やはらげ(日和ノ條ヲ見ヨ)。(二)漢文ヲ、假名交リ文ニ寫シ解クコト。

わけあひ (名) 譯合　ワケ。ワケガラ。スヂミチ。意味。理由。

わけい (名) 槍、又ハ、刀ニテ戰フ時、身方ノ者ガ、側面ヨリ、弓、又ハ、鐵砲ニテ、敵ヲ射ルコト。

わけがら (名) 譯柄　[がら(柄)ハ、物ノ容子ヲ云フ語]　前前條ノ語意ニ同ジ。

わけぎ (名) 分葱　葱ノ類。葉、細ソク、根、白シ、實ヲ結バズ、苗ヲ分ケテ植ウ、故ニ名アリ。冬、枯レズ、故ニフユキトモ、フユネギトモ云フ　冬葱

わゲサ (名) 輪袈裟　袈裟ノ一種。略製ノモノニテ、幅、二寸許リ、環ノ如ク作リ、頸ニ懸ケテ、前ヘ垂ル。天台、眞言、眞宗ナドニテ用ヰル。モト眞言派ニテ護摩ヲタク時、襷トセシモノナリト云フ。一名、修持袈裟。種子袈裟　白川院[illegible]輪袈裟[illegible]　[illegible]代セ縫ヒカ、[illegible]輪袈裟ノシルシデゴザル[illegible]　千本櫻(延享、竹田出雲等合作)三「[illegible]不便不便ト維摩ノ、首ニハ輪袈裟、手ニ衣、手向ノ文モ阿耨多羅」

わけざと (名) 分里　[わけハ郭詞ニテ、わけしりノわけ、わけ(分)ノ條ノ(四)、及、次條ヲモ見ヨ]　色町ノ稱。ワケアル里。遊所。色里。狹斜　好色一代女(貞享、西鶴)五「茶屋トハイヘド、此處ニハ一軒ニ七八人ヅツモアリテ、衣類ノ仕出シヨキ人相手ニ、分里ノ事モ聞キオボエ、云云」　長唄、京鹿子娘道成寺「戀ノわけざと、武士モ道具ヲフセアミガサデ」

わけしり (名) [通知分知]　わけ、(其道ノ味ヲ能クワキマヘタル義)　郭ノ詞。其道ヲ解スルコト。又、ソノ人。諸わけ。粹。通人。　色道大鏡(延寶)一「わけしり、粹ト云フマテノ言也、富貴ノ味ヲヨクワキマヘタルト云フ心ナリ、是ヨリ出テ、和氣ヲタツルトモ、諸和氣ヲ乳ストモイフ」

わけて (副) 別　又、わきて。殊ニ。別シテ。トリワケテ。コトサラニ。特ニ。　關八州繫馬(享保、近松作)一「[illegible]見レバ、[illegible]シテ、わけてハドウモ申サレズ」

わけどり (名) 分取　分ケテ、各自ニ取ルコト　信州川中島合戰(享保、近松作)五「信濃一國九分五分ノ分け取り、云云」

わけならす (他動、四) 分平　野山ナドノ雜草ヲ、蹈ミ分ケ平ラス。

わけはない (形) 又、わけがない。タヤスイ。ナンデモナイ。容易ナル狀ナリ。

わけふ (名) 和協　ヤハラギカナフコト。調和スルコト　左傳、襄公十一年「寡人有弟、不能和協、而使餬其口於四方」

わけへだて (名) 別隔　親疎ノ差別。人ニヨリテ區別スルコト。差別ヲツクルコト。　[illegible]ナガレモノ[illegible]わけへだて、[illegible]神カケテ、イツカクルワヲ離レナンコト」

わけまへ (名) 分前　分ケ宛ツル分。トリマヘ。トリブン。ワリマヘ。まへ(前)ノ條ヲモ見ヨ。

わけめ (名) 分目　(一)分ケタル箇所。區別シタル點。(二)物事ヲ分ケ定ムル機。ワカレメ。　關八州繫馬(享保、近松作)[illegible]

[illegible]

わげもの [illegible] 檜、杉、ナドノ極メテ薄キ板ヲ曲ゲテ、圓キ器ヲ作レルモノ。[illegible] 皮、櫻ノ皮、ナドヲ細ソク切リテ綴ヅ。[illegible] 檜物 [illegible] 曲物

わ・ける (動) 別 わく(別、下二段)ノ口語。

わ-こ (名) 若子 小童ノ美稱。(貴人ニ)[illegible] 若子様ノ、氣ヲ簒ハレ、性根ヲトラレ」

わ-こ (名) 息男 〔若子ノ略〕又、あこ。往時、半民ヨリ上族ノ子息ヲ稱セシ語。仙臺、安房ニテハ、男子ノコト。盟紋輪(不角)「わこノ抱守リ、椅着タ馬」

わ-ご (名) [illegible] 和 [illegible] 日本ノ言葉、日本語。[illegible] ワゴ、日本稱名、[illegible]

わ-こう (名) 倭寇 〔支那ニテ唱ノル語〕吉野朝ノ頃ヨリ、二百餘年間、我ガ邊民ノ、朝鮮、支那ノ海岸ヲ侵ンシ寇、其頭ハ、西國邊ノ野武士ナリト云フ、航海スル状ハ、數百千人、七八百石積ノ和船ヲ乗シ、八幡大菩薩ノ旗ヲ翻シ、(ヨリ支那人ハ、之ヲ八幡船ト呼ビキ)彼地ニ赴キ、上陸スルヤ掠奪、極リナシ、故倭寇來ノ一語、兒女ヲシテ啼ヲ止メシメシト云フ 松浦、五島、天草ナド[illegible] リキ、後ニハ支那亡命ノ徒、大イニ加ハリシト云フ。永祿ノ頃ニ至リテ衰フト。(天文中ヲ、最モ甚シトス)[illegible] 明史、日本[illegible] メテ、其賊酒ヲ奪フ、故ニ其賊船ヲ稱シテ、八幡船ト[illegible]

わ-お-おほきみ (名) 吾期大君 〔かノ音、お、和シテ(トナル)〕わ、おほきみ(吾大君)ト云フニ同ジ。萬葉集、一廿長歌「ヤスミシシ、吾期大王、高照ラス、日ノ皇子」(古義ノ訓)續紀、十五、天平十五年五月「ヤスミシシ、和[illegible] ノ、[illegible] 酒マツル」

わ-こく (名) 倭國和國 〔わ(和、倭)ノ條ヲモ見ヨ〕日本國 ヤマト 和朝、倭[illegible] 國、[illegible] 千里」下學集、上、天地門「倭國、指日本國」徒然草、第百九十九段「横川ノ行宣法印ガ申シ侍リシハ、唐土ハ呂ノ國ナリ、律ノ音ナシ、和國ハ單律ノ國ニテ、呂ノ音ナシ、ト申シキ」

わこく-もち (名) 和國餅 餅ノ一種。江戸、和國橋ノ側ナル餅屋ヨリ製リ出シタルモノ。[illegible] わこくばしト云フ名ハ、餅屋出來テヨリノ稱ナリト見ユ、江戸砂子ニ、堺橋、堀江町ヨリ新材木町ヘ渡ル、[illegible] 小左衛門ト云者カケシトゾ、トアリ、享保ゴロハ未ダ此稱ハアラズ、寶暦中ヨリ餅ヤ出來シカ、明和初年、千柳點ニ、わこく餅、クジニマケタカ、タント喰、トアリ」

わ-ごくゎう (名) 輪後光 ごくゎう(御光)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

わ-ごぜ (代) 我御前 又、あごぜ。對稱ノ代名詞。女子ヲ親ミテ呼フ、一用ヰル。ワゴリョ。平家物語、一、妓王事「入道、云云、サテわごぜハ、今様ハ上手ニテアリケルヤ」

わ-おと (名) 和事 〔荒事ニ對ス〕芝居ノ男[illegible]

わ-とん (名) 和[illegible] 日本國民固有ノ心[illegible] 又、大和心、[illegible] ノ條ヲモ見ヨ。[illegible] 一[illegible]

わ-ごん (名) 倭琴和琴 ヤマトゴト。ノツノヲ。アヅマゴト。字類抄「倭琴、ワコン」宇津保物語、藏開、上「中務ノ宮ニわごん」

わ-ごりょ (代) 我御料 〔わごれうノ約〕對稱ノ代名詞。多ク婦人ニ用ヰル。ワゴゼ。ワゴレウ。狂言記、水掛聟「誰ガスルカト思ヘバ、わごりょガスルカ」

わ-ごれう (代) 和御料 〔我御料ノ義〕前條ノ語ニ同ジ。狂言記、武惡「イヤイヤ、不案内ナ程ニ、和御料カラ行カシメ」

わ-さ (名) 早稻 わせ(早稻)ノ轉。熟語ニ用ヰル。「わさ田」わさ苗」わさ穗」

わ-さ (名) 輪差 紐ナドノ端ノ方ヲ、輪狀ニ出シテ結ビタルモノ。ワナ。

わざ (名) 態事所爲 (一)爲ル事。ハタラキ。仕事。シワザ。神武卽位前紀「戰勝而無驕者、良將之行也」(二)勤メトンテ行フ事。家事ヲ營ムコト。作業。業 崇神紀、十三年二月「敎化流行、衆庶樂業」(三)事ヲ行ヒ、物ヲ作ルニ、學ビテ得ル方法。技術 天治字鏡、一四「伎、和佐」(四)佛事ノ法要。伊勢物語、第七十七段「ソレ失セ給ヒテ、安祥寺ニテ、御わざシケリ」古今集、十一、[illegible] 出雲寺ニ、人ノわざシケル日」(五)コト。有樣。源、二、桐壺卅五「ココヨナク思シナグサムヤウナルモ、アハレナルわざナリケリ」

わざ-いひ (名) 早[illegible] 早稻ノ米ヲ炊ギテ[illegible] ゲテ、植エシ田ヲ、刈ル早飯ハ、一人ナルベシ」

わ-さう (名) 和裝 〔洋裝ニ對ス〕日本風ノ[illegible]

わざ-うた (名) 謠歌童謠 〔神爲歌ノ義〕(一)時ノ異變ヲ、善惡トモニ、神ノ諭ヘシメ[illegible] 又、人ノ口ヲ借リテ、神ノ歌ハセタマヘリト云フ歌。字類抄「偲歌、ワザウタ」天治字鏡、三十「謡、徒歌也、徒謠[illegible] 三[illegible]」(二)[illegible] ク流行シテ、人人ノウタフ歌

わさ-うり (名) 早瓜 〔わさハ早稻ノ義〕ワセノウリ。早出ノ瓜。撮壤集、上、年中行事、五月[illegible] 早瓜 事」

わざ-くれ (名) ツレヅレナルママニナス事。戯ニナス事。イタヅラナル事。(次條ノ語、參見セヨ)俗曲、關寺小町「待ツ身ナリャコソ、繰ミ算、忍ブソノ夜ノ、わざくれカ」

わざ-くれ (感) 遊戲惡戲 (一)ムネトハ思ハデ、カリソメ 思ノ意[illegible] サモアラバアレ。ワンザクレ。俳諧(正保)「我モ昔ハ、[illegible] ヲ、後[illegible] ンノわざくれ一寸先ハヤミ、云云、アストモアレカクモアレ、今日ノ樂コソウレシケレ」[illegible](享保)「夢ノ浮世ノ、露ノ命ノ、わざくれ、成リ次第ヨノ、身ハ成リニ[illegible] 下、遊女狂男「思フニハ、忍ブルコトモ、わんざくれ、負ヒニシ金ハ、サモアラバアレ」(二)如何ナリトモ、成ルニ任スト、身ヲ投出ス如キ意ニ云フ語。[illegible] 日本永代藏[illegible] 五十兩[illegible] ラメ算用捨テテ、わざくれ心ニナリ」 [illegible]

(慶長)「吉原町ノ近所ニ、又、橋一ツ有、此ハシモトヘ踏ミカカリテハ、思案ニモ及バズ、わさくれト云ヒテ、皆人渡ルユヘ、わさくれ橋ト云フ」(安永年中、小網町ノ堀ヲ埋メテ亡ビタリ)

わさ-さ (名) |醨| 〔早酒ノ略ト云フ〕 新酒。又、未ダ漉サザル酒トモ云フ。 字類抄「醨、ワササ、酒未漉也」 易林節用集(慶長)上、食服門「醨、ワササ、早酒也」

わさ-だ (名) |早稲田| 〔わせだノ轉〕 ワセノ稲ヲツクル田。 萬葉集、八 五十「吾ガ蒔ケル、早田ノ穂立チ、造リタル、蘰ゾ見ツツ、偲バセ我ガ背」(古義ノ訓) 同、九 十六「石ノ上、振ノ早田ノ、穂ニハ出デズ、心ノ中ニ、戀フルコノゴロ」 新勅撰集、五、秋、下「片岡ノ、杜ノ木ノ葉モ、色ヅキヌ、わさ田ノヲシネ、今ヤ刈ラマシ」

わさ-づの (名) 杖ノ頭ニ鹿ノ角ヲ着ケタルモノト云フ。又、鹿ノワカヅノ。 夫木抄、七、賀茂祭「わさづのヲ、肩ニカケタル、皮衣、今日ノミアレヲ、待チワタリケリ」 七十一番職人盡歌合、四十九番、はちたたき「ウラメシヤ、タガわさづのゾ、昨日マデ、コウヤコウヤト、イヒテトハヌハ」

わざっと (副) ザット。アラマシ。大略。

わざ-と (副) |態| 〔業トシテノ意カ〕 (一) コトサラニ。ワザワザ 源、二、帚木、十「わざと傚ヒ學バネドモ、云云」 (二) 心ヲ用ヰテ。シヒテ。故意ニ。 狭衣、三、上 六十「アイキャウヅキ給ヘル御心ザマニテ、わざとヘダテ奉リ給フ事モナカリケリ」 (三) トリワケ。ワケテ。特別ニ 源、十、胡蝶、六十「御手ナドノ、わざとカシコウコソモノシ給フベケレ」 (四) 心バカリ。スコシバカリ。ココロザシ。

わざと-がま・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) |態| 故サラメキタリ。ワザトラシ 源、十七、繪合「カネテヨリヤ、オボシマウケケン、イトわざとがましカメリ」

わざと-だ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) |態| 故サラメキテ見ユ。又、ワザトラシク振舞フ。 枕草子、十二、第百五十六段「前ナル人ニモトラセズ、わざとだちテ、小舎人童ノツキヅキシキヲ、身チカクヨビヨセ、ウチササメキテ」

わざとめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) |態| 故サラメキテ見ユ。ワザトラシク見ユ。 源、四十一、匂宮 十二「イトスサマジキ霜枯ノ比ホヒマデ、思シ捨テズナド、わざとめきテ、香ニメヅルオモヒヲナンタテテ、云云」

わさ-なへ (名) |早苗| さなへ(早苗)ト云フニ同ジ。 夫木抄、七、早苗「わさなへモ、植時スグル、程ナレヤ、シデノ田長ノ、聲ハヤメタリ」

わさ-のぼ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) |早稲上| 早苗ノ田植、果ツ。サノボル。サナボル。(早上ノ條、參見セヨ)

わざはひ (名) |禍災殃| 〔神爲ヲ活用ス。はひハ、なりはひ、さきはひ、けはひナドト同趣〕 マガゴト。凶シキ象。災難。 左傳、宣公十六年「天火曰災」 史記、孔子世家「君子禍至不懼、福至不喜」 杜弼、檄梁文「城門失火、殃及池魚」 名義抄「災、ワサワイ、禍、ワザハヒ、トガ」 神代紀、上 十四「[illegible]災異」私記「和坐巳比」 神武即位前紀 廿「餘妖尚梗」 仁徳紀、六十七年十月「妖氣」 禍は口より起るト、言語ト飲食トヲ愼メト云フ意。 事文類聚、後集、十九「病從口入、禍從口出、存亡之機、開闔之術、口與心謀」 大方便經「人生世間、禍從口生」

わさび (名) |山葵| 〔惡障疼ノ略、辛キ意〕 十字花科ノ草ノ名。深山ノ幽溪ニ生ズ。苗ハふき(蕗)ノ如ク、葉圓ク、五尖ニシテ鋸齒アリ、稍、葵ニ似タリ、黄緑ニシテ光ル。春、別ニ莖ヲ出ス、高サ尺餘、本ニ小尖葉、互生シ、上ニ四瓣ノ白花、長穂ヲナシテ開ク、後ニ莢ヲ結ブ。根ハ、地黄、又ハ、石菖ノ根ニ似テ大キク、

味極メテ辛ク、味ヲ助クル常食トス。伊豆ノ田方、賀茂二郡ノ山中ニ生ズルヲ第一トス。今、諸國ニモ移シ作ル。 山薑葵 倭名抄、十六 九 菜類「山葵、和佐比」 本草和名、下 十九「山葵、和佐比」 延喜式「山葵、ワサヒ」

わさび-おろし (名) (一) 山葵、生薑、ナドヲ擦リオロス器。銅ニテ作ル、形、小サキ箕ノ如ク、面ニ粗キ爪刺ヲ刻リ起ス。オロシガネ。オロシ。 薑擦子 書言字考節用集、七、器財門「薑擦、ワサビヲロシ」 (二) 菖蒲革ニアル鋸齒ノ如キ文。

わざ-びと (名) |俳人| (一) 俳優ヲスル人。役者。俳優。 神代紀、下 十「俳人」私記「和左比止」 天武紀、下、朱鳥元年正月「俳優等、賜ニ祿有レ差」 (二) 隼人ノ別稱。古ヘ、踐祚、大嘗祭ナドノ時ニ、琴、笛、拍子等ニテ、風俗ノ歌舞スルモノ是レナリ。はやびと(隼人)ノ條ヲ見合ハスベシ。

わざ-びと (名) |業人| 技術ノ勝レタル人。

わさ-ぼ (名) |早穂| 早稲田ノ稲穂。早稲ノ穂。 萬葉集、八 五十「吾妹子ガ、ナリトツクレル、秋ノ田ノ、早穂ノ蘰、ミレドアカヌカモ」

わざ-まへ (名) |技前| 人ノスルコトノ、ハタラキ。ウデマヘ。テナミ。伎倆。

わ-さん (名) |和讚| 〔和語ノ讚文ノ義、漢讚、梵讚ニ對ス〕 佛經文ノ漢語ナルヲ、和語ニ譯シテ謠フモノ。即チ、主トシテ、佛德ヲ讃歎シテ謠フ律文ニシテ、多クハ七五調ニテ、四句ヲ以テ一段トシ、數十段ニモ及ブ。元來、梵語ノ伽陀(Gātha)ハ、四句の偈ト云ヒ、天竺ノ讃美歌ナリ、之ヲ梵讚ト云ヒ、コレガ漢譯シタルモノヲ漢讚ト云ヒ、又、邦語ニ移

シタルモノガ和讚ナリ。(其前ニ讃歎アリ) 佛前ニテ謠フ今様歌ト云フモ是レナリ。今様歌ノ以呂波歌ハ、七音五音ヅツノ四句ヨリ成リテ、絶句ノ詩ノ調ノ和讚ナリ。其他、千觀ノ作ノ彌陀和讚、源信作ノ來迎和讚、一遍上人作ノ別願和讚ナドアリ。 極樂記、千觀傳「作阿彌陀佛和讚二十餘行、都鄙老少以爲口實、[illegible]往往而多」 彌陀和讚(千觀作)「彌陀ノ誓ニ、救ハレテ、來世ハ蓮ノ、上ニシテ、此身ハ聖ヲ、友トスル、人身フタタビ、受ケガタシ」 菩提心集、上「和讚トテ、日本詞ヲ本トシテ、作レルモアリ、云云」

わ-さん (名) |倭産 和産| 日本ニ産ズル品。日本産。日本國ノ産出。 六六部集(平賀源内)放屁論、後編「コレマデ倭産ニナキ産物」

わ-ざん (名) |和讒| ざんげん(讒言)ト云フニ同ジ。(モト、讒言ナル由ヲ言ヒ解ク義ナルガ、一轉シタルナリト云フ)一說ニ、相共ニ讒言スル意ト。サカシラ。ワンザン。 下學集、下、態藝門「和讒、ワザン」 保元物語、三、「[illegible]幼少ノ御後、失事、哀レ賢キ事シ給フ頭殿カナ、是ハ淸盛カ和讒ニテゾアルラン」

わ-ざん (名) |和算| 日本從來ノ算術ノ稱。即チ、算盤ヲ用ヰテ行フモノ、(洋算ニ對ス) [illegible]算式「唐算、和算ノ二品アリ、云云、和算ト云ハ、球盤ノコトナリ、是モ日本ノ法ニハアラズ、明ノ算法統宗ニ其圖出タリ」

わ-さんぼん (名) |和三盆| 〔和製ノ三盆白ノ義〕 さんぼん(三盆)ノ條ヲ見ヨ。

わさ-もの (名) |早物| 野菜ナドノ、其季節ニ先ダチテ出來ル物。ハシリモノ。

わざ-もの (名) |技物業物| 刀劍ナドニテ、名工ノ鍛ヘテ、最モ鋭キモノノ稱。 快劍 利刀 長唄、小鍛冶「淸光、[illegible]、國シキ、若手ノわざもの、切レモノト、四方ニ其名ハ、響キケリ」

わざ-わざ (副) 態態 〔わざヲ重ヌ〕業[illegible]シキ狀、又、事事シキ狀。云ノ[illegible]コトサラニ。別段ニ。[illegible]故[illegible]ケサセラレタ」「わざわざ御丁寧ニ」

わざ-わざ-し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [illegible]故[illegible]ノシク見ユ。[illegible]何カハ わざわざしう構へ給ハズトモアリナン」

わさ-わさ-と (副) 心ノ落チツカヌ狀ニ云ノ[illegible]クワク (明月記[illegible]近松作)虫「瘤ヲ上グレバ妻ノお篠、ニコヤカナル緑ノ眉、笑[illegible]ノ目元わさわさト、サ[illegible]イコトウナ云云」

わざ-をき (名) 伎樂 〔神爲痴態ノ轉トワザヲコ 云フ、わざ、神わざ、わざ歌(童謠)ノわざナリ、をきハ可笑シト通ズ〕又、わざをぎ。神憑カンガカリ、可笑シキ態ワザ。天照大神ノ天岩戸[illegible]籠リタマヒシ時、其前ニテ天鈿女命ノ爲シタル態ヲ云フ。かみあそび(神遊)ノ舞ヲ併セ見ヨ。神代紀、上「[illegible]女[illegible]命、[illegible]云云、巧作俳優」 古事記、上「[illegible]神懸[illegible]出胸乳、裳緒忍垂於番登也、爾高天原動而八百萬神共咲」

わざ-をき (名) 俳優 〔孔子家語、相魯篇「俳優侏儒、戯於前」神代紀ニ、わざをきニ俳優ノ字ヲ充テタルニ因リテ、(前條ノ語ヲ見ヨ)誤用セル語ナリ〕 又、わざをぎ。種種ノ、面白ク可笑シキ事ヲナシテ、舞ヒ、且、歌ヒナドシテ、神人ノ意ヲ和ゲ樂シマシムル技。又、ソノ技ヲ演ズルモノ。ハイイウ。役者。

わし (名) 鷲 [illegible]鳥ノ名。最モ猛ク強クシテ、鳥類ノ上ト稱セノル[illegible]形、甚ダ大キク、嘴モ大キク鋭ク、背ト翅ト ハ、黒クシテ白キ斑アリ、[illegible]ハ白クシテ[illegible]嘴、[illegible]、脚、黄ナリ。深山ノ大樹ニ棲ミ、飛翔力強ク[illegible]、魚、[illegible]、狸、犬、ナドヲ摑ミテ食トシ、或ハ時ニ小兒ヲモ捕リ食フ。鴟ヲおほわしト云フニ對シテ、コレハ小鷲トモ云フ。其他、いぬわし、をじろわし、ナドアリ。[illegible]名抄、十八[illegible]名[illegible]、[illegible](一本、和之)」[illegible]保和之[illegible]、古和之[illegible]名義抄「[illegible]、コワシ、ワシ、[illegible]、ワシ、オホワシ」字[illegible]「[illegible]、和志」萬葉集、十六廿葉頭歌「澁谷ノ、二上山ニ、鷲ゾ子産ムト云フ、サシ羽ニモ、君ガ御爲ニ、鷲ゾ子ウムト云フ」

わ-し (名) 和紙 にほんし(日本紙)ニ同ジ。(唐紙、洋紙ニ對ス)

わし (代) 私 わたくし、わたしノ略。(稍、高ブリ用キル) 傾城酒呑童子(享保、近松作)四「わしガ事ハ構ハズトオイテ下サンセ」

わし (感) 語調ノタメニ、添ヘテ云フ語。ヨシ。ヤシ。 萬葉集、十六廿長歌「ハシタテノ、[illegible]ノ酒屋ニ マヌフルル奴和之、サヘヒタテ、率テ來ナマシヲ、マヌラルル奴和之」

わ-じ (名) 和字 (一)日本ノ文字。假名。國字。[illegible]近日音、和字漢字、共以[illegible]、[illegible]親王御筆[illegible]之」 (二)日本ニテ作リタル漢字。辻、峠、樫、榊、樒、ナドノ類。ツクリジ。

わ-じつ (名) 和實 芝居ノ男形ニテ、和事ト實事トヲ兼ヌルモノ。卽チ、堅クナク、輕クナク、折衷シタルモノヲ云フ。

わし-づかみ (名) 鷲摑 鷲ノ、モノヲ摑ム如ク、アラアラシク無手トツカムコト。「手拭ヲわしづかみニシテ」

わし-づくり-の-たち (名) 鷲造太刀 太刀ニ、鷲ノ形ヲ、金具、又ハ、蒔繪ニシテ [illegible]ケタルモノ[illegible]、四十[illegible]太刀ヲ給リ、云云」

わし-の-みね (名) 鷲峯 又、わしのやま。天竺、伽毘羅衛國ニアル釋迦ノ法華經ヲ說キシト云フ鷲峯山ヲ、文字讀ニシタル語。りゃうぢゅせん(靈鷲山)ノ條ヲモ見ヨ。千載集、序「鹿苑、わしのみねノ深キ御法ヲサトルニシモアラズ」

わし-の-みや (名) 鷲宮 (一)鷲ノ神ヲ祀レル宮。[illegible]大明神社。(二)武藏國、幸手宿ニ[illegible]土師宮ト云フアリ、其宮ノ別當[illegible]龍守宮ト書セル額アリ、ソノ字ハ鷲宮ノ草書ヲ見誤リテ讀メルモノト云フ。[illegible]はじのみや(土師宮)ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]錄、十、第六十五條「六月廿一日ニ、冠山老侯ヘアガリシニ、御話ニ仰ラレシハ、土師ノ宮ノ別當ニ、龍守宮トイヘル楷字ノ額アリ、コレハ鷲宮ト草書ニ書タルヨリ、龍守ト見誤リシナルベシト也」

わし-の-やま (名) 鷲山 前前條ノ語ニ同ジ。 後拾遺集、廿、釋放「わしの山、ヘダツル雲ヤ、深カラン、常ニスムナル、月ヲ見ヌカナ」

わ-しふ (名) 和習 (一)日本風ノクセ。漢語漢字ノ、日本限リノ用法ニ云フ。[illegible]下かつま、十四、如此長聞、スベテ[illegible]ヒマル人ノ、手ヲ書ケルニモ、詩文ヲ作レルニモ、和習和習ト常ニイフコトナルヲ、云云」 (二)日本ノ習慣。日本ノナラハシ。國風。

わじま-ぬり (名) 輪島塗 漆器ノ一種。能登國、鳳至郡、輪島町ニ產ズ。朱漆、黑漆、ナドノ食器類多ク、質、堅牢ナリ。應永ノ頃、根來塗ヲ傳ヘタルモノト云フ。

わ-しん (名) 和親 ヤハラギシタシムコト。又、兩國ノ間ニ、公ニ禮ヲ修メテ交ルコト。[illegible]記[illegible]在閨門之內、父子兄弟同[illegible]

わ-しめ (名) [illegible] [illegible]ノ[illegible]ニ用キル注連繩ノ一種。藁ニテ小サキ輪ニ作リ[illegible]掛ケ[illegible]、[illegible]江戸ニ[illegible]輪注連ヲ少シ大形ニ精製シ、云云、飾リトナシタルヲ、床ノ間、或ハ、座敷ノ內、然ルベキ柱ナドニ掛ルコト、風流ヲ好ム家ニ專ラ用[illegible]之」

ワジャウ (名) 和上 和尙 〔梵語、Upādhyāya.(鄔波陀那、又ハ、鄔波闍那)、親教師ノ義、依止師ト譯ス、又云フ、天竺ニテハ、我ガ師ヲ鳥社ト云ヒ、于闐國ニテハ、和社、又ハ、和闍(Khosha)ト云ヒ、中央亞細亞ニテハ、[illegible]社 Hwah-she ト云ヒ、Upādhyāya ハ其轉訛ナリト云フ、夫レヨリ支那ノ和尙(Hwo-shang)ヲ生ジタリト云ヘリ〕をしゃう(和尙)ノ條ヲ見ヨ。和上ハ、我ガ國ニテハ、專ノ法相、眞言、律宗ニテ用キル語ナリ [illegible]南海寄歸傳、三「[illegible]和尙[illegible]也、[illegible]博士、諸名ニ鳥社、斯非典語、若依梵本經律之文、咸云鄔波馱耶、[illegible]北方[illegible]國[illegible]、[illegible]驛、一「[illegible]方時俗語、非[illegible]典[illegible]」 [illegible]、下、[illegible]元年六月「[illegible]律[illegible]及四[illegible]上」 續紀、廿四、[illegible]七年五月、大和上[illegible]物化、和上[illegible]

わ-じゅく (名) 和熟 (一)ヤハラギ睦ムコト。 明良洪範、十二「サテ內藤ハ伊達ト兼松ノ和熟ヲ調ントシ」「家內和熟」 (二)農作物ナドノ十分熟スルコト。 左傳、昭公元年「國無道而年穀和熟、天贊之也、鮮不五稔」

わ-じゅん (名) 和順 (一)氣候ノ、時節ニシタガフコト。[illegible]下、[illegible]天下和順、日月淸明、風雨以時」 (二)ヤハラギシタガフコト。[illegible]記[illegible]在[illegible]之中、長幼同聽之、則莫不和順」

わしよ (名) 和書 和文ノ書物。國書。漢書、及、洋書ニ對ス。

わしりで (名) 趨出走出 〔這入リニ對ス〕(一)立チハシルコト。又、立チ出ヅルコト。出デ立ツコト。(二)〔はしりで(走出)ノ條ノ(一)ニ同ジ。門ヲ出デテ見ヤルトコロ。雄略紀、六年二月、泊瀬ノ山ハ、云云、和斯里出ノ、宜シキ山」(宮ノ御門ノ前向)

わしる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 走奔趨 はしる(走)ニ同ジ。字類抄「趍、趨、ワシル」西園寺公經、百首「身ヲ知レバ、ツカレニフサヌ、狩ノ鳥、羽ノ重レテ、ヨニハわしりス」

わゑるし (名) 笑印 笑繪ノ隱語。

わ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 和 (一)ヤハラグ 睦ミ馴ル くはす。禮記、禮運篇「父子篤、兄弟睦、夫婦和、家之肥也」(二)調子合フ「八音、相和ス」(三)應ズ。同ズ。易經、上經、中孚卦「鳴鶴在ㇾ陰、其子和ㇾ之」

わ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 和 他ノ詩歌ニ答ヘテ作ル(詩歌ヲ)。萬葉集、二十九「御名部皇女奉ㇾ和御歌」十訓抄、中、第五、第二條「大納言、感ゼサメテ驚キテ、コレヲ和シタリ給フ」

わ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (自動、下二) 座 〔おはすノ略轉〕オハス。來ル。イラセラル。オジャル。狂言記、吟聟「今日ハ最上吉日、聟ノわするゲナ、掃除ナドヲイヒツケ、云云」

わ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (自動、下二) 令忘 忘るノ敬語。忘レタマフ。萬葉集、十二廿九「吾妹子ヤ、吾ヲ忘ラスナ、石ノ上、袖フル川ノ、タエムト思ヘヤ」同、十四廿七「ウチヒサス、宮ノ我背ハ、大和女ノ、膝枕ク毎ニ、吾ヲ和須良須ナ」

わすら・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) 被忘 ワスラル。ワスラレル。齊明紀、四年十月「山越エテ、海渡ルトモ、オモシロキ、イマキノ内ハ、倭須羅婆マジニ」萬葉集、五廿六「アマザカル、ヒナニ五年、住ヒツツ、都ノ手振、和周良延ニケリ」

わすら・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 被忘 前條ノ語意ニ同ジ。古今集、十一、戀、一「わすらるる、時シナケレバ、アシタヅノ、思ヒ亂レテ、ネヲノミゾナク」拾遺集、十四、戀、四「わすらるる、身ヲバ思ハズ、誓ヒテシ、人ノ命ノ、惜シクモアルカナ」萬葉集、廿六「我ガ妻ハ、イタク戀ヒラシ、飲ム水ニ、影サヘ見エテ、世ニ和須良禮ズ」

わす・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 忘 オボエヲ失フ。記憶ヲナクス。失念ス。萬葉集、廿廿「和須良牟ト、野行キ山行キ、我レ來レト、我ガ父母ハ、忘レセヌカモ」

わす・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (他動、下二) 忘 覺エタルヲ失フ。記憶ヨリ外ス。ワスレル。古事記、中(神武)ハ「ミツミツシ、久米ノ子等ガ、垣モトニ、植ヱシ薑、ロヒビク、吾ハ和須禮ジ、ウチテシヤマム」

わすれ-がたみ (名) 忘形見 〔忘れ難み、ノ意ヲ、形見ニ掛ケテ云ソ〕(一)見テハ忘レ難キ記念ノ物事。古今集、十四、戀、四「厭カデコソ、思ハン中ハ、離レナメ、ソヲダニ後ノ、忘れがたみニ」狹衣、三、中六十「忍草、見ルニ心ハ、慰マデ、忘れがたみニ、漏ル涙哉」(二)父、死シテ、母ノ胎中ニ殘レル兒。遺腹 源、五十一、手習廿「ナドわすれがたみヲダニ、トドメ給ハズナリニケント、戀ヒシノブ心ナリ」

わすれ-がひ (名) 忘貝 〔忘ルルヲ空シキ、比ス〕(一)二貝ノ名。うつせかひ(空貝)ニ同ジ。身ノ無クナリテ放レタル貝。萬葉集、一廿七「大伴ノ、美津ノ濱ナル、忘貝、家ナル妹ヲ、忘レテ思ヘヤ」(古義ノ訓) 同、十五四十「秋サラバ、我船泊テム、忘貝、寄セ來テ置ケレ、沖津白波」(二)又、蛤ノ類。殼、深ク、堅、筋アリテ深ク入ル。斑ハ、黑色、又ハ、褐色ナリ。瀬戸内海ナドニ多ク産ズ。毛吹草、三、讃岐「忘貝、鉛ノナリニテ紋アリ」貝盡浦之錦、上、忘介、蛤類、ウイフカク、タツニ筋ニクフカク入リ、シホフキ介ニ似テ別也」

わすれ-ぐさ (名) 忘種 ウレヘヲ忘ルル料ノモノ。後撰集、十三、戀、五「思ハントト、我ヲタノメシ、言ノ葉ハ、忘れぐさトゾ、今ハナルラシ」

わすれ-ぐさ (名) 忘草 〔詩經、衞風、伯兮篇、集傳「諼草、食ㇾ之令ㇾ人忘ㇾ憂」トアルヲ、文字讀ニ因リテ作レル語ナラム〕(一)くゎんざう(萱草)ノ古名。諼草 倭名抄、廿草類「萱草、一名、忘憂、和名、和須禮久佐、俗云、如二加無人佐一」萬葉集、十二廿四「萱草、吾紐ニ付ク、香具山ノ、古リニシ里ヲ、忘レムガタメ」今昔物語、三十一、第廿七語「萱草ト云フ草コソ、ソレヲ見ル人思ヒヲバ忘ルナレ、然レバ彼ノ萱草ヲ墓ノ邊ニ殖エテ見ント、思ヒテ殖エテケリ」(二)又、烟草ノ異稱。(亦、憂ヲ忘ルル義)(三)忍草。其條ノ(二)ヲ見ヨ。(連歌ニ)

わすれ-ざき (名) 忘咲 かへりざき(返咲)ノ條ノ(一)ニ同ジ。

わすれ-ゑも (名) 忘霜 わかれゑも(別霜)ニ同ジ。井華集(几董)春「花過キテ、吉野出ル日ヤ、忘れ霜」

わすれ-ばな (名) 忘花 カヘリザキノ花。カヘリバナ。クルヒザキ。狂花 蕪村句集、冬「タンポポノ、わすればなアリ、路ノ霜」

わすれ-みづ (名) 忘水 野中ナドノ、絶エ絶エニテ、人ニ知ラレヌ水ノ稱ト云フ。金葉集、八、戀、下「メヅラシヤ、岩間ニ淀ム、忘水、イク世ヲスギテ、思ヒイヅラン」同、同「ウトマシヤ、木ノ下蔭ノ、忘れ水、イクラノ人ノ、影ヲミツラン」新古今集、十三、戀、三「霧深キ、秋ノ野中ノ、忘れ水、絶間ガチナル、頃ニモアル哉」

わす・れる (動) 忘 わするる(忘)ノ口語。

わすれ-ゐ (名) 忘井 人ニ忘レラレタル井。[illegible]萬葉集、八、[illegible]キニ、イサ[illegible]ヘビロシ、忘井ノミヅ[illegible]

わすれ-を (名) 忘緒 牛ノ[illegible]附クル、ソレヲ結ブニ用ヰル緒。幅三寸五分、長サ一丈二尺。大緒。[illegible]「牛ノ[illegible]テ、忘緒ニテ可ㇾ結ㇾ之、次ニ牛鞦忘緒ノワナヲ左ニアテテ、イタクツヨカラヌ程ニ結ㇾ之」

わせ (名) 早稻 疾稻ノ約轉、倭名抄、十七、稻穀類「早稻、和世」(一)稻ノ一種。最モ早ク熟スルモノ。粒、稍、小サク、味、淡シ。コレニ次ギテ熟スルヲ、中手(中稻)ト云ヒ、最モ遲ク熟スルヲ、奥手(晩稻)ト云フ。其ニ、粒、大キク、味、美ナリ。此三種ノ別ハ、粳、糯、及、他ノ諸穀ニモ通ジテアリ。倭名抄、十七、稻類「早稻、和勢」萬葉集、十六「少女ドモ、行合ヒノ早稻ヲ、刈ル時ニ、ナリニケラシモ、萩ガ花咲ク」(古義ノ訓) 同、十四九「ニホドリノ、葛飾和世ヲ、饗ストモ、ソノカナシキヲ、外ニタテメヤモ」(二)轉シテ、スベテ早ク熟スルモノ。又、わさ。又、早わせト用ヰタルハ、萬葉集、十二「チモスマニ、殖エシモシルク、出テ見レバ、屋前ノ早芽子、咲キニケルカモ」(古義ノ訓) 夢花物語、二十六、根合「早少女ノ、山田ノ代ニ、オリタチテ、イソゲヤ早苗、ナ變(紀伊國)ノはやわせ」

わせい (名) 和製 日本ニテ作リタル物ニホンデキ。日本製。

わせ-いちご (名) 早莓 莓ノ一種。ノさいちごニテ、最モ早ク熟スルモノ。いちご(莓)ノ條ヲモ見ヨ。

わせ-だ (名) 早稻田 又、わさだ。早稻ノいねヲウエタル田。

わせ-たけ (名) 孟宗竹 孟宗竹ノ和名。古今要覽稿、三百七十七、草木部「竹類ニ、孟宗竹、和名わせたけトイフ文ニヨル時ハ、云云」

わ-せん (名) [illegible] 日本國ノふね。我ガ[illegible]國在來ノ造ノ方ノ船。

わ-せん-ぢょう（ワ-センジョウ）(代) [illegible] ソコ。ソコたト[illegible]。[illegible]一、[illegible]、わせハ[illegible]イカデコノ[illegible]ノスムゾ」

ワセリン (名) [illegible]、Vaseline ノ訛] 白色、又ハ、黄色、半透明ニシテ、軟膏ヤウノ物。[illegible]油ヲ分留シテ[illegible]、軟膏、[illegible]、ナドヲ製スル材料トナル。

✤✤わせ-る (動) [座] [わす(座)ノ口語] 來ルノ敬語。オイデナサル。(靜岡縣ニテハ、旦那ガわせらレタト云フ)

わ-ソウ (名) 和僧 和合セル僧衆 [illegible]

わ-ソウ (代) [我僧] 僧ヲ親ミテ云フ語。御僧。貴僧。わばふ[illegible]十八、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ノ御使ヲ可、歌事ヤハアル、云云」

わ-ぞく (名) [倭俗] [和俗] 日本ノ風俗。本邦ノ習俗。[illegible]日[illegible]正月元日、[illegible]倭俗[illegible]云云、[illegible]

わ-ぞく (代) 我俗 俗人ニ對シテ云フ對稱ノ代名詞。オマヘ。ナンヂ。盛衰記、三十六、鷲尾一谷案内者事「問ヒ給ヒケルハ、抑和俗ハ[illegible]ノ[illegible]人ゾ、[illegible]國ノ[illegible]カ、云云」

一わた (名) [海] [渡ル意ト云フ、[illegible]、ホタイ、朝鮮語、パタ] うみ(海)ニ同ジ。[illegible]神、[illegible]、[illegible]記、七年十一月、有[illegible]外[illegible]國、自當[illegible]歸伏」萬葉集、一六「アリネヨシ、對馬ノ渡リ、渡中ニ、ヌサ取リ向ケテ、ハヤカヘリコネ」「わたノ原」「海ノ底」「海神」

二わた (名) [曲] [回所ノ轉] 曲ルトコロ。曲リダカマル處。曲リテ水ノ淀ム處。曲リタタナハリタル處。神武即位前紀ニ「[illegible]ガ行キハ、久ニハアラジ、夢ノ和太、瀬トハナラズテ、淵トアリトモ」同、一卋「ササナミノ、滋賀ノ、大和太、淀ムトモ、昔ノ人ニ、又モアハメヤモ」枕草子、十、第百十六段「七わたニ、曲レル玉ノ、緒ヲヌキテ、蟻通トハ、知ラズヤアルラン」「川曲」「水曲」

三わた (名) [腸] 腸ノ條ヲ見ヨ。萬葉集、五、長歌「ミナノ和多、カグロキ髪ニ、[illegible]」大[illegible]「小[illegible]ノわた」

四わた (名) 綿 [腸ノ義ト云フ、內ニ籠レバ云フカ、絮ハ、衣類ニ入レタルわたヲ云フ] 古ヘ、綿ハ、スベテ絹綿ナリ、もめんわたハ遙ノ後ニ渡リ來レルナリ。木綿ハ、後紀、八、ニコレバ、延曆十八年七月、參河ニ漂着セシ崑崙人ノ綿種ヲ傳ヘ、類聚國史(百九十九、殊俗部)ニ、延曆十九年四月ニ、崑崙人ノ齎ス所ノ綿種ヲ、紀伊、淡路、阿波、讃岐、伊豫、土佐、及、太宰府、ナドノ諸國ニ賜ヒテ殖ウトアレド、中絶シタリ。後ニ秀吉、征韓ノ時、持歸リンナリ。衣わた、[illegible]わた、[illegible]わた、ナド[illegible] [illegible]十二、[illegible]「[illegible]和太」[illegible]五八三「富人ノ、家ノ子ドモノ、着ル身無ミ、腐シ棄ツラム、[illegible]八モ」同、三「シラヌヒノ、筑紫ノ綿ハ、身ニツケテ、イマダハキネド、アタタケクミユ」綿ニ針を包むト[illegible]、小人ノ交ヘ、外、慇ニシテ、內、敵心ヲ懷クト云フ意。

✤✤わたい (代) [私] わたし(私)ノ音便。下賤ノ女子ナドノ俚語。

わ-だい (名) [話題] 談話ノ題材。ハナシノ題目。

わた-いた (名) [綿板] [illegible]、衣服ノ綿入ノ綿ニ似ル故ニ云フ」物ノ間ニ差入レタル

わた-いり (名) [illegible] [illegible]ノ[illegible]ヲ、[illegible]ナ[illegible]。林鐘用集(慶長)上、食服門「[illegible]、ワタイリ」今川大[illegible]、下、[illegible]ノ[illegible]上ニ[illegible]也」

わた-いれ (名) [綿入] [illegible]、衣ノ、表裏アリテ、中ニ綿ヲ籠メタルモノ。多ノ衣トス。袈衣 其衣ノ絹布ナルヲ小袖ト云ヒ、綿布ナルヲ布子ト云フ。[illegible]字類抄、[illegible]、[illegible]、[illegible]和太入」[illegible]字[illegible]用[illegible]、六、服[illegible]門「[illegible]、綿入」

わ-だいおう（ワ-ダイオウ） (名) [和大黃] 藥ノ名。ゑのね(羊蹄菜)ノ條ヲ見ヨ。

わ-たう（ワ-トウ） (代) [吾達] ナンヂラ。オマヘラ。ソノ方ラ。[illegible]字治拾遺、十四、第八條、[illegible]ヤヤ、わたう、連歌ダニツガヌトツケタルゾカシ、ト言ヒタリケレバ、云云」

わ-だうし（ワ-ドウシ） (名) [和唐紙] 唐紙ニ摸シテ漉キタル紙。文化文政ノ頃、中川儀右衞門ト云フ人、江戸、深川、扇橋ニテ漉キタリ、縱十間、橫五間ノ紙ヲ製セントス。(好古叢誌、三篇) 椎の實筆、三十四、和唐紙製祖碑「世ニ和唐紙トイヘルハ、山城ノ人、朝正亭[illegible]、字ハ中川儀右衞門ヌシノ始メタクミ出サレシナリ、此ヌシ若カリシ比、云云、文政十二己丑ノ初秋ニ、深川、扇橋ノ邊ニ廣地ヲカハレ、[illegible]十[illegible]、[illegible]五[illegible]ノ紙ヲ製シテ、[illegible]紙ト稱タリ、云云」

わた-うち (名) [綿打] (一)綿打弓ノ略。綿弓。綿ヲ打ツ器。[illegible]二十六、[illegible]工具[illegible]綿弓、ワタウチユミ、[illegible]、云云、以竹[illegible]、長可四尺許」(二)打綿ヲ作ルコト。又、ソレヲ作ルヲ業トスル者。彈花匠。

わた-うるか (名) [腸鯎鮍] うるか(鯎鮍)ノ條ヲ見ヨ。

わた-おも (名) [海上] (夏山雜談、三「海[illegible]、海上、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]」[illegible]ベシ、萬葉集ニ、綿の庭トアレバナリ」) かいめん(海面)ト云フニ同ジ。

わた-か (名) [腸香ノ義ト云フ] 硬骨類ノ魚ノ名、近江ノ湖ニ多シ、形、[illegible]ニ似テ、大キサ五七寸、[illegible]ク、春ノ初、[illegible]、[illegible]、[illegible]、苦ン、[illegible]ヲ佳トス。又、わたこ。[illegible]黃[illegible]魚、[illegible]七八寸、[illegible]口小サクシテ齒ナシ、云云」

わだかまり (名) [蟠] (一)カガミ伏スコト。マガリクネリテ伏スコト。(二)心ノ曲リクネリタルコト。邪曲。私曲。(三)トドコホリ。「何ノわだかまりモナク」

一わだか-ま-る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [蟠] [曲トナリテ屈マル義ト云フ] 又、わだかまる。渦ノ如ク、曲トナリテ屈ミ居ル。トグロマク。(蛇、蛟ナドニ) [illegible]

わた-がみ (名) [海神] [わたおも(海面)ノ語原ヲ見ヨ] わたつみ(海神)ニ同ジ。

わた-がみ (名) [illegible] 肩上ノ義、かたト讀マズ、わたトヨム例ナリト云フ、(軍用記)下ニ肩當トテ、革ニ綿ヲ包メルモノヲ當ツルナリ」(一)鎧ノ胴ノ名ドコロ、胴ヲ前肩ニ懸ケテ釣ルモノ、即チ、

背ノ押付ノ板ヨリ、前ノ胸板ヘツヅケテ、胴ヲ釣ルナリ。又、背面ノ上ヨリ出デ、左右ノ肩ニ亙リテ、前面ノ矢止ニ紐ニテ懸クルナリ。たかひも(高紐)ノ條ヲ見ヨ。 太平記、三十二、京軍事「組ンデ勝負ヲセント、鎧ノ綿噛ヲ掴ンデ、云云」 幸若舞曲、和田酒盛「常盤丸ノ鎧ノ袖、四人シテ持ナケルヲ、綿噛ツカンデ引立テ」 (二)頭髮ノ後方。ウシロガミ。 謡曲、[illegible]「教経、舟ヨリ飛ンデオリ、菊王ガわたがみツカンデ、舟ノ船ニ投ゲ入レ給ヘバ、云云」

わた-ぎぬ (名) [綿衣] わたいれ(綿入)ニ同ジ。絮衣 字鏡「襖、絮衣、和太支奴」 天治字鏡、四「襖、絮衣、和太己呂毛」 今昔物語、十九、第十三語「我ガ着ケル綿衣ヲ脱テ、取ラセテケリ」

〔**わだ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ**(自動、四) [縊][自經] [わなくノ轉] クビル。ククル。 皇極紀、二年十一月「自經俱死」

〔**わだ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ**(自動、四) [戰] [わななくノ約轉] ワナナク。フルヒワナナク。 垂仁紀、四年九月「心裏戰不知所如」

わたくし (名) [私] [我盡し、ノ轉カト云フ] (一)公事ナラヌコト。公ニ對ス」表立タヌコト。自分ノ上ノ事。 孟子、滕文公、上篇「遂及我私」 枕草子、四、第四十四段「御返事ニ、カシコマリノ由申シテ、わたくしニハ、云云、ト聞エサセタレバ」 金槐集、下「旅ヲ行キシ、跡ノ宿守、己己ニ、わたくしアレヤ、今朝ハイマダ來ヌ」 (二)自己ノ利ヲ計ルコト。私曲 左傳、昭公二十年「無信多私」「私ヲイトナム」

わたくし (代) [私] 自稱ノ代名詞。此語、今、最モ口語普通ノ用トシ、尊長ヨリ同輩ニ通ジテ、謙シテ用ヰル 義經記、五、忠信吉野山合戰事「わたくしラハ何ノヰコン候ハネバ、云云」 狂言記、宗論「私ハアノ者ノ弟デゴザル」

わたくし-あきなひ (名) [私商] 本職ヲ疎カニシテ、ヒソカニ別ノ商賣ヲスルコト。 五十年忌歌念佛(寶永、近松作)中「私商ニ、赤穂鹽買ウテ損ヲシテ」

わたくし-ありき (名) [私步] 私用ノタメノ他行。又、シノビアルキ。 曾我物語、五、三浦與一を頼みし事「今度ハ思ヒトドマリテ、わたくしありきヲ狙ヒタマヘ」

わたくし-ごと (名) [私事] (一)私ニカカハル事柄。シジ。(公事ニ對ス) 源、十六、関屋「例ノ中納言ノ君ノわたくしごとノヤウニテ、云云」 (二)カクシゴト。ミソカゴト。祕密ノ事柄。密事。シジ。

わたくし-ざま (名) [私樣] 私事ニ屬スル方面。公ナラヌコト。内内ナルコト。 源、廿一、少女「コレハ御わたくしざまニ、ウチウチノコトナレバ」

〔**わたくし-もの** (名) [私物] 自分一己ノ專有物トシテ、大事ニスルモノ。 源、一、桐壺「わたくしものニオボホシカシヅキ給フコト限リナシ」 同、四十九、東屋「わたくしものニ思ヒカシヅカマシヲ」 榮花物語、一、月宴「帝モ我ガわたくしものニゾ、イミジウ思ヒキコエタマヘリケル」

わた-くり (名) [腸刳][腸鐁] 鏃ノ一種。其左右ニ倒ナル尖アルモノ。 逐歩色葉集「腸刳、矢根」 貞丈雜記、十、弓矢之部「トガリ矢ニ似タル矢ヲ、わたくりト云事ハ、トガリ矢ノ形、兩方ニサカサマニヒゲ有、云云」

わた-くり (名) [綿繰] (一)木綿ノ實ヲ繰リテ、核ヲ攪キ去ルコト。 和漢三才圖會、三十六、女工具「攪車、和太久利」 俳諧古選「綿くりヤ、嵯峨ニモ浮世、アレバコソ」 (二)次條ノ語ノ略。 好色二代男(貞享、西鶴)一「片荷ニハ槇骨ノ障子、綿繰、半弓、割松ナド買物シテ、云云」

わたくり-ぐるま (名) [綿繰車] 木綿ノ實ヲ繰リテ、核ヲ攪キ去ル具。木製ニテ、軸ニテ轉ズ。略シテ、わたくり。攪車 和漢三才圖會、三十六、女工具「木綿攪車、云云」

わた-げ (名) [綿毛] 綿ノ如キ柔カナル毛。ニコゲ。ウブゲ。フクダゲ。毳

わた-こ (名) [綿子] (一)綿入レノ衣。(小兒ノ衣ナドニ) (二)眞綿ヲ布帛ニツツマズ、縫作リテ着ルモノ。紙子ノ條ヲ見ヨ。 日本新永代藏(正徳、北條團水)五「柔紫ノ小袖、綿子ハ餘寒ノ心ヅカヒ」

わたし (名) [渡津] 古言、わたり。ワタスコト。川、海ニ、舟ニテ人ヲ渡シ通路ヲナス所。フナワタシ。ワタシバ。 金葉集、三、秋「大井河、ヰゼキノ音ノ、ナカリセバ、紅葉ヲシケル、わたしトヤ見ン」

わたし (代) [私] わたくし(私)ノ略。(馴レ親ミ用ヰル)

わたし-がね (名) [渡金] (一)火ノ上ニ亙シテ魚肉ナド炙ルニ用ヰル鐵具。てっきう(鐵橋)ニ同ジ。 (二)耳盤ノ上ニ亙シテ、鐵漿ノ具ヲ載スル銅器。常ナルハ、眞鍮板ニテ横長ク作ル。 女郎花物語「黒棚ニハ、元結ノ箱、云云、わたし、御歯黒箱ナド」

わたし-こみ (名) [渡込] 相撲ノ手ノ一。敵ノ足ヲ外ヨリ抱キ込ミテ、寄出シ、又ハ、引倒スコト。

わたし-ば (名) [渡場] 川、海、ノ渡ノアル所。ワタリバ。渡船場。渡口 渡頭 渡津

わたし-ぶね (名) [渡舟] 渡場ニテ、人、又ハ、物ヲ渡ス舟。ワタリブネ。渡船。 續後拾遺集、十六、雜、中「君ガ代ニ、アブクマ川ノ、渡し舟、昔ノ夢ノ、タメシトモガナ」

〔**わたし-もり** (名) [渡守] 又、わたりもり。渡舟ヲ遣ル舟子。渡場ノ船頭。川守。渡子 渉人 津人 仁德紀、[illegible] 伊勢物語、[illegible]「わたしもり、ハヤ舟ニ乘レ、日モ暮レヌト云フニ、云云」 古今集、四、秋、上「久カタノ、天ノカハラノ、わたし守、キミワタリナバ、梶カクシテヨ」

わた・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [渡][度][濟] (一)〔水ノ上ヲ過ル〕此岸ヨリ彼岸ヘ遣ル。越エシム。 宇津保物語、俊蔭「ソノ川ヨリ孔雀出デ來テ、ソノ川ヲわたしツ」「人ヲ渡す」「海ヲ渡す」「唐山ヘ渡す」 (二)濟度ス。 永久四年百首「人わたす、三世ノ佛ノ、舟ノ開ケバ、昔ノ罪モ、今ハ消エナン」 元輔集「世ヲわたす、聖ヲサヘヤ、ナヤマサン、深キ罪ヒノ、ナラズナリナバ」 (三)〔兩ノ物ノ上ニ掛ク。マタガラス。架 萬葉集、十八、三十四長歌「橋ダニモ、和多之テアラバ、ソノ上ユモ、イユキ渡ラシ」「板ヲわたす」 (四)端ヨリ端マデ引張ル。互 「綱ヲわたす」 (五)〔此地ヨリ彼地ヘ送リ移ス。移從 神代紀、上、四「此三神、云云、皆渡於紀伊國也」「神輿ヲ渡す」 (六)〔我ヨリ彼ニ授ク。交付 古事記、上、卅三「速須佐之男命乞、度天照大御神所纏[illegible]八尺勾璁之五百津之美須麻流珠」「金子ヲ渡す」「人手ニ渡す」 (七)〔遍クス。ツックル。 仁德紀、三十年十一月「ツギネフ、山城女ノ、木鍬持チ、ウチシ大根、サワサワニ、汝ガイヘセコソ、ウチ和多須、云云」 (八)〔受ク。 (九)見渡ス。ミヤル。うちわたす(打渡)ノ條ヲ併セ見ヨ。 拾遺集、十七、雜、秋「舟岡ノ、野中ニ立テル、女郎花、渡さヌ人ハ、アラジトゾ思フ」

〔**わた-せ** (名) [渡瀬] 又、わたりせ。川ノ徒涉スベキ淺瀬ノ所。 字鏡、卅七「灘、淺水曰灘也、和太世」 堀河百首、千鳥「霧立チテ、わたせモ見エヌ、佐保川ノ、シルベハ夜半ノ、千鳥ナリケリ」

わた-だね (名) [綿種] 木綿ノ實。 白綿子

わただね-あぶら (名) [綿種油] 木綿ノ實

[illegible]ヲ[illegible]取リタル[illegible]　ワタ[illegible]ゾ[illegible]うみ[illegible]ノ[illegible]ヲモ見ヨ。

わたたび（名）[illegible]　[illegible]木ニ[illegible]草ノ古名[illegible]　[illegible]　[illegible]云フ、わろハわさびノわトは同ジ、ただれハ[illegible]ノ義ト[illegible]也」

わたたび（名）[蒟醤]　植物ノ名。今ノふうとうかづら（風藤葛）ナルベシ。蒟醤ノ一種。風藤葛ハ九州、四國、紀伊、伊豆ナドノ海濱ニ産シ、其莖、蔓延シテ生ズト。倭名抄、廿[illegible]「蒟醤、和太大非」本草和名、上[illegible]「蒟醤、[illegible]和多多比」　康頼本草、上廿「蒟醤、和多多比、マタタヒ、其子如[illegible]、[illegible]寸、[illegible]色如[illegible]瓜[illegible]」

わだち（名）[轍]　[illegible]輪立ノ義カト云フ」車ノ[illegible]ル[illegible]ノ痕。車轍。車軌。新六帖、一「小車ノ、道ノヲノ松、ハヤトモセ、わだちモ見エズ、日ハ暮レニケリ」

わたつうみ（名）〔次條ノ語ヨリ轉ズ〕うみ（海）ト云フニ同ジ。六帖、六「わたつうみノ、沖中ニ火ノ、離レ出テテ、[illegible]ユト見エシハ、蜑ノ漁火」

わたつみ（名）[海神]〔つハ、之、みハ、靈ノびト通ズ、或ハ云フ、海ツ海ノ重言カト〕（一）海ヲ領スル神。カイジン。ワタツミノカミ。ワタガミ。倭名抄、二十「[illegible]、和太[illegible]美乃加美」古事記、上「次生[illegible]海神、名大綿津見神」神代紀、上「少童、此云和多都美」[illegible]二[illegible]海神綿津見神ヨリ轉シテ、[illegible]海[illegible]萬葉集、一「[illegible]海ノ、豐旗雲ニ、入日サシ、今宵ノ月夜、[illegible]照リコソ」[illegible]ノ訓[illegible]

わたつみ（名）[綿摘]　（一）綿畠ニテ、ワタヲツムコト。又、ソノ人。蕪村句集、秋「[illegible]摘ヤ、[illegible]草ノ花ヲ、見テ休ム」（二）昔、江戸ニテ[illegible]賣女ノ一[illegible]、モトハ、[illegible]ニ[illegible]綿ヲ延シ、小袖ノ中入綿、又ハ、綿帽子ナドヲ作ル[illegible]、表面ノ[illegible]トシテ、密ニ淫ヲ賣リタル女ヲ稱セシナリ。サレドコレハ寶永[illegible]年[illegible]ル。吉原つれづれ草（寶永）ニ「傾城ヨリ茶屋者ハオトリ、茶屋者ヨリ綿摘ハオトリ、綿つみヨリ比丘尼ハオトリ、云云」（用捨箱、中）ト見エタリ。敎令類纂、初集「寶永二乙酉年九月、云云、町中[illegible]公人ト[illegible]ゾラヘ、又綿摘抔ト名付、[illegible]、不屆候」

わたどの（名）[渡殿]　二ツノ建物ノ間ニアリテ、コレヲ續クル橋ノアル廊下。渡廊。橋廊。廻廊。ホソドノ。又、壁渡殿、反渡殿アリ。わたりどの（渡殿）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]、一、桐壺「[illegible]ヨリ[illegible]リハ、打橋、わたどの、ココカシコノ道ニ、アヤシキワザヲシツツ」

わたなか（名）[海中]　海ノ中。海上。萬葉集、七四十「ナゴノ海ヲ、朝漕ギ來レバ、海中ニ、水手ゾ喚ブナル、アハレソノ水手」（略解ノ訓）

わたに（名）[腸煮]　鮑ノ肉ニ、其腸ヲ加ヘテ煮タルモノ。

わたぬき（名）[綿拔]　綿入ノ綿ヲ拔キテ給トスルコト。又、ソノモノ。又、其給ヲ解キ放チテ、單衣トシタルヲ解分衣ト云フ。今、引解。ヒノトキ。字鏡、[illegible]「[illegible]、未[illegible]架衣也、合乃古呂モ、和太奴支」（[illegible]、[illegible]給）近代世事談、一、綿貫「昔ハ、今ノゴトク四季折折ノ衣服ナク、綿ヲヌキテ給トシ、又トキハナシテ、解分衣トイヘリ、今云フ、引とき也」[illegible]のすさび（享保、[illegible]）「[illegible]カリシ頃マデハ、皆人、云云、夏ハ綿ぬき小袖ヲ着ニシ、今ハ又、わたヲ、ナトニシテ着ヌルヲ、マノアタリニ見タリ、云云」

わたぬき（名）[腸拔]　魚ノ腸ヲ拔キ去ルコト。又、ソノ拔キ去リタル魚。

わたのそこ（名）[illegible]　[illegible]

わたのはら（名）[海原]〔はらハ廣キ意〕海ノ上。ウナバラ。オホウミ。滄溟。古今集、九、羈旅「わたの原、八十島カケテ、漕ギ出デヌト、人ニハ告ゲヨ、蜑ノ釣舟」

わたのみやけ（名）[内官家]　うちつみやけ（内官家）ノ條ヲ見ヨ。

わたばうし（名）[綿帽子]　カブキワタ。眞綿ヲ摘ミヒロゲテ作レル帽子。モト老官女ノ用ト云フ。明和、安永ノ頃マデハ、武家ノ婦女、禮服ノ時ハ勿論、他行ノ時モ被リ、皆丸綿ノ白ナリキ。後ニ、婚禮ニ、新婦、被リテ頭面ヲ掩ノ[illegible]被衣ヨリ移レルナリ。[illegible]ノ[illegible]ヒタヒワタ、架帽。又、其形、圓キヲ丸綿ト云ヒ、細長キヲ船綿、又、丁潤、又、古今綿ト云フ。赤、紫、淺葱、うこんノ色ナドニ染メテ用ヰキ。（武田信玄ハ黃綿帽子ヲ着用セシト）又、うなぎわたアリ。其條ヲ見ヨ。[illegible]（[illegible]）丸十二三ノ時、綿帽子ヲ被キタルニ、[illegible]クヨリ見ツケテ、サンザンニ叱ラレシ、此年マデ、サノミ頭巾ヲモセヌハ、此高恩ナリ（[illegible]ノ具ナルヲ知ル）近代世事談、一、綿帽子「官女ノ老イタル人、[illegible]ヲ被カンタメ、[illegible]ヲ被ル、綿わた、被わたトモ云フ、又、[illegible]ノ如クカブル、ヘニ名トス、[illegible]ノ富士の紀行、[illegible]ハ永享ノ頃ノ人ナリ）ニ、雲ヤソレ、雪ヲイタダク、富士ノ根モ、トモニ老セヌ、綿ぼうしカナ」

わたばうしぐも（名）[綿帽子雲]　綿帽子ノ如ク、フハリトシテ、大イナルサマノ雲ヲ云フ語。

わたばうしゆき（名）[綿帽子雪]　ぼたゆきニ同ジ。

わたばな（名）[綿花]　綿ニテ拵ヘタル造花。男踏歌ノ時ニ插頭スモノト云フ。[illegible]モ、カザス人ガラニ見ワカレテ、云云」

わたまし（名）[移徙]〔渡座ノ義〕　轉居ノ敬語。トノウツリ。遷徙。[illegible]三十一、[illegible]

わだま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[蟠]　わだかまるニ同ジ。[illegible]「蟠、ワタマル、ワタカマル」

わだん（名）[和談]　和睦ノ相談。話合ヒテ和解スルコト。[illegible]

わたゆみ（名）[綿弓]　繰綿ヲ彈キ打チテ、打綿トスル具。形、竹弓ノ如ク、弦ハ、古クハ、牛ノ筋ヲ用ヰ、今ハ、鯨ノ筋ヲ用ヰル。[illegible]　[illegible]九月[illegible]　近代世事談、[illegible]、[illegible]ヲ以テ[illegible]、[illegible]テコレヲ作ル、[illegible]ス、小サキ[illegible]ヲ以テコレヲ[illegible]クニ、一日ノ[illegible]、[illegible]十九斤二十片ヲ打ツ也、ソノ昔ハ、小サキ竹ノ弓ヲシテ、半斤ホドノ綿ヲ一日ノ所作トス」

わた・ら・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）[令渡]　渡るノ敬語。渡リタマフ。神代紀、下八「ミ谷二和柂邏須」萬葉集、十八三十四長歌「[illegible]ダニモ、渡シ[illegible]アラバ、其上ユモ、伊行キ[illegible]タヅサハリ」　又、いヲ加ヘテ用ヰタルハ、[illegible]神代紀、下「ヒナツなノ、[illegible]」萬葉集、九[illegible]

わたらひ（名）[渡]　世渡スルタメノワザ。

生活スルタメノ業務。世渡ノワザ。ナリハヒ。スギハヒ。活計 生計 孝徳紀、大化二年三月「自ヒ營ヲ求ム活ヲ」大和物語、中「年頃わたらひナドモ、イトワロクナリテ、家モコボレ、使フ人ナドモ、徳アル所ニイキツツ、云云」

わたらひぐさ（名）渡種 渡世ノタヅキ。渡世ノ方法。ナリハヒノ手タテ 世業 船債集、下「玉クシゲ、フタミノ浦ニ、住ムアマノ、わたらひぐさハ、ミルメナリケリ」

わたら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）渡（一）渡ル、ノ延 萬葉集、十二[illegible]月ノ、惜シケドモ、隠ヒ來レバ」（略解ノ訓）（二）生計ヲナス 生活ヲナス 活計 齊明紀、五年十月「蝦夷、云云、食肉存活」

わたり（名）邊 あたり（邊）ニ同ジ。ホトリ 其邊 催馬樂、山城「山城ノ、狛ノワタリノ、瓜作リ」源、三十六、柏木「心ハエナガラ、此ノわたりオゴメキテ語リナス」

わたり（名）徑〔渡リノ義〕物ノ端ヨリ端マデノ距離 サシワタシ 直徑 名義抄「徑、ワタリ」字鏡「圍、[illegible]也、和太利、廿八乃ノ許カ）徑三尺五寸」

わたり（名）渡 濟 津（一）〔ワタルベキ處〕ワタシ ワタシバ 渡船場。倭名抄、十「濟、[illegible]和太利」景行紀、廿七年十二月「柏濟」[illegible]此云和多利」神功攝政前紀「近江ノ海、瀬田ノ和多利ニ、潜ク鳥、目ニシ見エネバ、イキトホロシモ」（二）渡ルコト。讃岐典侍日記「廿一日、御わたりト定マリヌ」（三）外國ヨリ舶來セルコト。「古渡ノ品」（四）舟ノワタリイタ。わたりいた（渡板）ノ條ヲ見ヨ。（五）中間小者ノワタリモノ。（六）圍碁ニテ、甲ノ石ト乙ノ石トヲ連絡セシムタメニ、其間ニ石ヲ打ツコト。わたりをつけるトハ、交渉スル、挨拶スル意。

わたりに舟トハ、其場合ニ最モ都合ヨキ意。謠曲、[illegible]、妙法蓮華經、藥王品「如子得母、如渡得船」、コハ渡りに舟ヲ得タリトヤ」

わたり（名）菌ノ一種。有毒ノモノト云フ。今昔物語、廿八、第十八語「人ノ必ズ死ヌル事ハ、茸ノ中ニ和太利ト云フ茸コソ、人ソレヲ食ヒツレバ、醉ウテ必ズ死ヌル」

わたりあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）渡合（一）〔人ト人トノ間ヲわたるノ義〕アタリアフ。カカリアフ。夫木抄、廿四、河「君ニカク、わたりあひカカハ、ナガラヘテ、オモフ心ノ、アセズモアルカナ」（二）相戰フ。キリアフ 太平記、三十一、八幡合戰事「[illegible]タル播ノガハト投棄テ、三尺五寸ノ小長刀、莖短ニ取テ渡合ふ」

わたりいた（名）渡板 舟ヨリ岸へ互シテ、渡リ歩ムニ供フル長キ板 アユミイタ 板道 跳板

わたりかせぎ（名）渡稼 此處彼處ト渡リ歩キテ稼グコト。

わたりがは（名）渡河 渡川 ミツセガハ。さんづのかは（三途河）ニ同ジ。古今集、十六、哀傷「泣ク涙、雨ト降ラナン、わたり川、水マサリナバ、歸リ來ルガニ」

わたりがゆ（名）渡粥 粥ヲ振舞フコト。おうばん（椀飯）ノ條ヲモ見ヨ。源順集「宰相中將タァマツル後涼殿ノ光武[illegible]ミヲヘタル日、わたりがゆノ饗、多キニ設ケテ、云云」

わたりこしやう（名）渡小性 江戸時代、大名、旗本ニ渡リ奉公ヲナシタル美童ノ小性。嬉遊笑覽、九、下、男寵「寶永ゴロニハ、渡り小性トテ、大名、旗本ニテ美童ヲ抱ヘシ事ナリ、耳袋ニ、或老人、八十餘ニテ、予ガモトへ來リ噺シケル、我モ卅年ノ頃ハ、渡小性イタシ、今ノ主人[illegible]譜代ニモ無之、若キ時ハ、美少年ナリシト云ヘリ、紅顏美少年、半死白頭翁ヲ思ヒ出シテヲカシ、ト有リ」

わたりざけ（名）渡酒 [illegible]來ノ酒。[illegible]保[illegible]ノ[illegible]ヤ、わたり酒」

わたりしやう（名）渡莊 渡庄 [illegible]ノ莊園。盛衰記、四、殿下御母立願事「紀伊國田中庄ハ、殿下ノ渡庄ナリケレドモ、八王子ニ御寄附アリ」

わたりせ（名）渡瀬 又、わたりで。わたせ（渡瀬）ニ同ジ。天治字鏡、六「瀬、[illegible]和太利世、又、加太」古事記、中（應神）七十「チハヤビト、ウヂノワタリニ、和多理是ニ、タテルアヅサユミ、マユミ、射キラムト、云云」萬葉集、十二[illegible]ニ見エコト、大和路ノ、度瀬毎ニ、手向ゾワガスル」

わたりぞめ（名）渡初 橋新ニ成レル時、コレヲ祝ヒテ、式ヲ行ヒ、始メテ渡ルコト。開通[illegible]

わたりで（名）渡出 又、わたりせ。わたせ（渡瀬）ニ同ジ。仁德卽位前紀「チハヤビト、宇治ノワタリニ、和多利涅ニ、タテル梓弓、マユミ」

わたりどの（名）渡殿 又、わたどの。古ヘノ建築ニテ、殿舍ト殿舍トノ間ニ架スル廊ノ如キモノ。柱ノミニテ壁ナキヲ、透渡殿、又ハ、透廊トイヒ、左右ノ壁、又ハ、板壁ナルヲ、壁わたどのト云ヒ、ソリハシナルヲ、そりわたどのト云フ。ハシラウ。ワタリラウ。ホソドノ。[illegible]云云」

わたりどり（名）渡鳥 時候ニ因リテ、遠所ヨリ海ヲ渡リテ來リ、又、歸ル鳥 鶴、雁、燕、四十雀ナドノ類。候鳥 俳諧新選、秋、上ニ、道デ逢ウタカ、渡り鳥」

わたりば（名）渡場（一）渡ルベキ場所。

（二）[illegible]夜ソフケニケル

わたりびと（名）渡人 ワタリ奉公ナドスル人。ワタリモノ。ワタリニン。

わたりぶね（名）渡舟 わたしぶね（渡舟）ニ同ジ。天治字鏡、五「舸、以小舟安於江河也、[illegible]」[illegible]抄、三十三、船「紀伊ノ海ノ、由良ノ門アルク、渡り舟、吾カミサキヨリ、イデカヒモナシ」

わたりぼうこう（名）渡奉公 譜代ニアラズシテ、諸家ニ移リテ仕フルコト。又、此處彼處ト渡リ歩キテ奉公スルコト。浮世物語（寛文）一、浮世房なりたちの事「ユクユクハ渡り奉公、徒若黨ニモササバヤト、云云」

わたりもの（名）渡物（一）外國ヨリ海ヲ渡リテ舶來セル貨物 舶來品 舶載貨（二）主人ヨリ渡ル扶持米、給金ナドノ稱。（三）往時、若黨、仲間、小者、ナドノ、年時ヲ定メテ主家ヲ更ヘテ奉公スル者。渡奉公スル者。略シテ、わたり。ワタリニン。（四）ねりもの（煉物）ニ同ジ。寶石、珊瑚、ナドニ擬ヘテ煉リ造レルモノ。からふど玉ノ如キ、海外ヨリ渡來セル故ニ云フ。（五）〔大路ヲ渡ルニツキテ云フ〕ねりもの（邌物）ニ同ジ。[illegible]

わたりもり（名）渡守 わたしもり（渡守）ニ同ジ。倭名抄、[illegible]「渡子、和太利毛利、俗云、和太之毛利」[illegible]渡シテアラバ、云云」

わたりやぐら（名）渡櫓 櫓臺ト稱スルモノヲ、左右ノ石垣ニマタガラセテ築キタルやぐら。昔、城内ト枡形トノ界ニ

[illegible]

わたりらう（名）渡廊　わたどの（渡殿）[illegible]

わた・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[illegible]（一）水ノ上ヲ越ス。此岸ヨリ彼岸ヘ移ル [illegible] トモ、オモシロキ、イマキノウチハ、忘ラユマジニ」「川ヲ渡ル」「海ヲ渡ル」「唐ヘ渡ル」（二）一方ヨリ一方ヘ [illegible] 行ク。又 [illegible] 日ヲ送ル [illegible]「此処ヨリ彼処ヘ移ル」[illegible] 源、廿一、少女三十「御前ヲわたらセテト定メ給フ」同、四十八、寄生三十「ナホイカデ忍ビテわたりナン」「神輿渡ル」（四）遍クアリ。ツヅク。萬葉集、四四十「心ニハ、思ヒ渡ド、由ヲナミ、ヨソニノミシテ、歎キゾ吾ガスル」更級日記「オソロシゲニク [illegible] わたれり」「晴レ渡る」[illegible]（六）[illegible]（七）授ク [illegible] ル。「給金、渡る」扶持米、渡る」（八）行く、又 [illegible] 歩キ [illegible] ハ、未ダ中宮ニテ渡らセ給フ時ナリ」

わだ・わたと（副）戦戦　恐レ震フ状ニ云フ [illegible] 恐ロシクテ、わだわだとノルハレナカラ、云云」

わちがひ（名）[illegible]（一）[illegible]（二）紋所ノ名。前項ノ形ニ象レルモノ。[illegible] ノ如、歎、蜘手、檜笠ニ、七八度ガ程ゾ當タリケル」[illegible] トシテ、云云」

わちゅう（名）和衷　和中　〔中ハ衷ニ同ジ〕人ノ心ヲ和グルコト。

わちゅうけふどう（句）和衷協同　〔書經、皐陶謨「同寅協恭和衷哉」トアル [illegible]〕心ヲ合ハセ、力ヲ協ハセテ事ヲナスコト。

わちゅうさん（名）和中散　散藥ノ名、[illegible] 霍亂、眩暈（メマヒ）、又ハ、[illegible] 近江國、栗太郡、梅木村ノ名産ナリ。[illegible] 茶屋トテ、和中散ノ賣藥アリ、云云」

わづかに（副）僅纔　〔はつかに（僅）ノ轉〕（一）ハツカニ。カツガツ。カラウジテ。エイヤット。名義抄「僅、ワツカニ」「纔、ワツカニ」華嚴經私記音義「僅、和豆可爾」「纔、和都可爾」古事記、上五十「三度蹉、乞不許、然遂纔得 [illegible] 程ナリ」（二）スコシバカリ。イササカ。此 [illegible] 更級日記「山ノ方ヨリ、わづかに [illegible]」「僅一日ヲ隔テ [illegible] 人」

わづき（名）別　ワカチ。ケヂメ。ワキ。區別。差別。萬葉集、一 [illegible] 長キ春日ノ、晩レニケル、和豆肝知ラズ、ムラキモノ」

わっさり（副）モノヲナスニ、心輕クシテ、爽快ナル狀ニ云フ語。サハサハト。サッパリ。狂言記、三本柱「[illegible] 方ハ、何事モわっさりトシテ、[illegible] シヨイノ」

わっさ　わっさ（感）[illegible] テ、騷グ聲。ワッショワッショ。

わっ　わっ（感）[illegible] 同ジ。

わっそくまかく（句）〔わっそくハ斜直（ハスタ）ノ [illegible]〕[illegible] ノ下ヘカケテ、太刀ナドヲ背負フコト [illegible] ルト申スハ、マボリカケタル如クニ、右ノ肩ヨリ左ノ脇ノ下ヘ [illegible] イデ、奥ヘクダラセ給ヒケリ」

わっち（代）私　〔わし、わっし、わっち、トノ轉ジタル語〕奴詞（ヤツコトバ）[illegible] ワタクシ。此語、寶延ノ頃ヨリ町家ノ娘、妻、下女、娼妓、[illegible] ナド [illegible] ノ代名詞 [illegible]

わっと（副）（一）聲ヲ、急ニハリアゲテ云フ狀ニ云フ語。ドット。太平記、廿九、小清水合戰 [illegible]（二）[illegible] 泣キ出ス狀ニ云フ語。太平記、廿一、鹽冶判官讒死事「五ツニナル小人、太刀ノ影ニ驚テ、わっと泣イテ、母御ナウトテ、空シキ人ニ取附タルヲ、云云」

わっぱ（名）童　〔わらはノ轉訛〕（一）童子ヲ罵リ呼ブ稱。又、童子 [illegible] ノ卑稱 [illegible] わっぱガ科モノガルベシ」（二）[illegible] 強暴ナル者ヲ、罵リテ云フ語。[illegible] 近松作）四「役

奴、[illegible] ニ聞ク不敵ノわっぱヨナ」

わっぱさ [illegible] 地獄、コノ沼中ヲ、何ヲわっぱとオシャルゾ」

わっぷ（名）割賦　〔わりふノ音便〕割リ宛テテ賦ルコト。配分。配當。配賦。

わっぷ（名）割付　〔わりふノ音便〕江戸時代、[illegible]

ワッフル（名）〔英語、Waffle〕[illegible] 西洋菓子ノ一種、[illegible] ノ如キモノヲ [illegible] 二ツ折リ、中ニ [illegible] ナドヲ包ミタルモノ。

わづらは・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）煩　（一）煩フベクアリ。厭ハシ。ウルサク、メンダウナリ。イトハシ。名義抄「煩、ワツラハシ」[illegible] 桐壺四「コノ御方ノ御イサメヲノミゾ、ナホわづらはしう、心苦シウ思ヒ聞エサセ給ヒケル」（二）キヅカハシ。心ヅカヒナリ。源、五、若紫「サマコトナル夢ヲ見給ヒテ、アハスル者ヲ召シテ問ヘバ [illegible] キ事ナン侍ルト云フニ、わづらはしく覺エテ、云云」（三）イリクミテアリ。繁雜ナリ。

わづらはしが・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）煩　ワヅラハシク思フ。イトハシク思フ。[illegible] ノミヒマナカリツ [illegible] ヲカシクテ、ヒキソバメテ [illegible] 云云」

わづらは・す ・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [煩] 煩ハシクナス。苦シメナヤマス。又、苦勞ヲカク。手數ヲカク。面倒ヲカク。ワヅラハセル。惱殺 左傳、僖公三十年「若亡ニ鄭而有ニ益於君一、敢以煩ニ執事一」 天治字鏡、三ノ十八「爛、惱、和豆良波須」

わづらは・せる (動) [煩] 前條ノ語ノ口語。

わづらひ (名) 煩 (一)ワヅラフコト。思ヒナヤムコト。[惱] 神代紀、上、十四「煩 神」 (二)〔心ノ惱ミトナルコト。苦勞ノタネ。ホダシ。累 字類抄「累、ワツラヒ」 源、三十四、下、若菜、下、十五「ヒビキ世ノ常ナラズ、イミジク事ドモソギステテ、世ノわづらひアルマジクト、ハブカセ給ヘド」 (三)ウルサキコト。メンダウナルコト。 十訓抄、上、第四、第三條「ヤガテ打立テカラメニ行クホドニ、思ヒモヨラヌホドナリケレバ、わづらひナクカラメテ歸ル」 (四)病。疾病。 御湯殿上の日記、慶長三年十一月八日「御わづらひノ御祈禱ニ、武田兵庫守ヒキメヲ射參ラセ候」

わづら・ふ ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [煩] 〔侘ぶノ略、誘つらふ、あつらふ、諫つらふ、へつらふナドノ類、つらふハ(疑)ノ條ヲモ見ヨ〕 (一)事、障リ滯リテ思ヒ苦ム。艱ミ思フ。又、拘ハリ泥ム。モダユ ナヤム。[惱] 名義抄「煩、ワツラフ、累、ワツラフ」 古詩、焦仲卿妻「阿兄得ニ聞之一、悵然心中煩」 萬葉集、五ノ八、長歌「心ハモエヌ、カニカクニ、思ヒ和豆良比、泣ノミシ泣カユ」 (二)病ニササヘラレ、清清シカラズ。病ム 水鏡、中(文武天皇)「二年(慶雲)ト申シシニ、世ノ中ノ心地オコリテ、わづらふ人多カリシカバ、云云」 宇津保物語、藏開、下、十一「脚病ノわづらひテナン、日頃イトマブミテ奉リテ參ラズ侍ル」

わ-てう (名) [和朝] (わ(倭)ノ條ヲ見ヨ) (一)我ガ日本國ノ朝廷。(二)わこく(和國)ニ同ジ。本朝。 本朝若風俗(貞享、西鶴)四「モロコシ人モ、カクハ通ヘル事モアリ、和朝ノ人モ、月見バト、チギリテ出シ、云云、トハヨメリ」

わ-ど (名) [倭奴] 又、わぬ。モト支那人ノ、我ガ日本ヲ稱スル語。支那人ハ元來、我ガ國ヲ倭トノミ云ヒキ。後漢書ノ倭ノ傳ニ「倭奴國、云云、倭國之極南界也」トアリ、何處カハ解スベカラネド、筑紫ノ地名ヲ指セリト見ユ。然ルヲ唐書ノ日本傳ニ「日本、古倭奴也」ト誤リ記シタルヨリ起レルナルベシ。然シテ奴ノ字ニ因リテカ、我ガ國ヲ侮リテ稱スル意ニ用ヰラル わ(倭)ノ條ヲモ見ヨ。 三國志、魏志、東夷傳「倭人在ニ帶方東南大海之中一、云云、末盧國(肥前國、松浦)、云云、伊都國(筑前國、怡土郡)、云云、奴國(儺縣)、云云」

わ-とう (名) [話頭] (一)話ノイトグチ。話シクチ。 鶴林玉露(宋、羅大經)「陳了翁日與ニ家人一會食、食已、必舉ニ一話頭一、令ニ家人答一」 (二)ハナシノ事柄 即チ、問題ノ要領、公案ノ宗旨ナドヲ云フ。 碧巖錄、第四十九則「聖(三聖)云、一千五百善知識、話頭也不レ識」 遠羅天釜(白隱禪師)「須ラク知ルベシ、話頭モ稱名モ、總テコレ悟佛知道ノ助因ナルコトヲ」

わ-どう (名) [和銅] ヨク鍛ヘタル銅。ニギアカガネ。熟銅。 續紀、四、和銅元年正月「武藏國、秩父郡獻ニ和銅一、詔曰、云云、東方武藏國自然作成和銅出在、云云」

わどう-せん (名) [和同錢] 元明天皇ノ慶雲五年正月、武藏國ノ秩父郡ヨリ和銅ヲ獻ゼシカバ、和銅元年ト改元セラレ、同二月、催鑄錢司ヲ置カレ、此時、鑄サセタマヒシ錢ト傳ノ。其文ニ、和同開珎(和銅開寶ノ省字ナリト云フ)トアリ。コレニ二種アリ、其一ハ、字體甚ダ古雅ニテ、古和同ト稱ス、銀錢多ク、銅錢少シ。其二ハ、字體ハ正格ニテ、改鑄和同ト稱ス、銅錢(一文錢)アルノミ。(和同開珎ハ年號ニアラズトノ說アリ) 文昌堂錢譜、一、正品和同開珎「古和同開珎、元明天皇和銅中所ニ鑄、字文明坦、製作精妙、云云、後世鑄錢、初必鑄ニ和同錢、錢質大異、製作亦粗、比ニ之古和同一、品格甚下云」 泉彙、上、日本錢、凡和同錢ハ本邦ノ鋼ニテ、殊ニ錢文マデモ鑄ルノ始ナレバ、後世、錢座免許アリテ、始テ錢ヲ鑄ル時、必ズ先ヅコレヲ鑄ルトナリ」 泉貨鑑、五、諸國錢「和同開珎錢、云云」

わ-どく (名) [倭讀] [和讀] 漢文ヲ和語ニ譯シ、上下顚倒シテ讀ムコト。 「和讀要領」(書名、享保十三年、太宰純著)

わ-どの (代) [吾殿] 對等ノ代名詞。 對等ナルモノニ云フ。 大鏡、下、道長「わ殿ノ闕キワカセタマヘバ、イトド今少シ申サマホシキナリ」 盛衰記、三十七、則綱討ニ盛俊一事「和殿 並ニ 覩キ人人ヲモ、宥申サン」

わ-ど・る ・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [輪取] 輪状ニナル。圓クナル。

わ-な (名) [係蹄] [羂] 〔輪縄ノ略カ、或ハ云フ、輪綱ノ略ト〕 (一)〔縄ナドヲ輪ニシタルモノ。禽獸ノ脚ニ係ケテ、引ケバ縮マル如クシテ捕ル。 倭名抄、十五ニ 畋獵具「蹄、和奈」 天治字鏡、四ノ十九「罥、和奈」 神代紀、下、二十「有ニ川雁一嬰ニ羂困厄一」 神武即位前紀ニ「宇陀ノ高城ニ、鴫和奈張ル」 萬葉集、十四ノ五「足柄ノ、ヲテモコノモニ、刺ス和奈ノ、カナルマシヅミ、兒ロ吾レ紐トク」 (二)輪ニ縮ヌルコト。「元結ヲわなニ結ブ」 (三)他ヲ陷ルルタメノハカリゴト。オトシアナ。計略。

わ-な (名) [輪奈] 〔前條ノ語意ニ同ジ、輪奈ハ當字〕 わなびろおど(輪奈天鵞絨)ノ略。びろおど(天鵞絨)ノ條ヲ見ヨ。

わな-おり (名) [羂織] 〔絲ヲわな、即チ、環狀ニ浮シテ織ル故ニ云フ〕 びろおど(天鵞絨)ニ同ジ。

わな・く ・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [縊] [自經] 〔羂ヲ活用セル語、頂ぐ、綱ぐノ類〕 自ラ縊ル。頸ククル。ワナク 自經ス 垂仁紀、五年十月「何得ニ面縛、自經而死耳一」 顯宗即位前紀「遂入ニ播磨國縮見山石室一而、自經死」

わな-てん (名) [輪奈天] 〔わな(輪奈)ノ條ヲ見ヨ、天ハ天鵞絨ノ略〕 天鵞絨ノ條ヲ見ヨ。ケキラズビロオド。

わなな・か・す ・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [戰慄] ワナナクヤウニス。ワナナカシム。フルハス。戰慄セサス。 源、六、末摘花、十二「サヘヅル春ハト、カラウジテわななかし出デタリ」

わななき (名) [戰慄] ワナナクコト。フルフコト。戰慄。 宇津保物語、國讓、下、四「心ソエ良カラザリケレト宣ヘバ、水ノわななきシテ、汗ニシトドニヌレテ、カガマリ伏シ給ヘレバ」

わななき-ごゑ (名) [戰聲] ワナナキタル聲。フルヒ聲。 宇治拾遺、九、第六條「サラバ仕レ、トイハレテ、程ナクわななき聲ニテウチイダス」

わななき-で (名) [戰慄手] ワナナキタル手ニテ書キタル筆跡。小野道風ノ書ノ、戰慄キテ、書ケルガ如キニ云フ語。フルヒデ。フルヒフデ。書法ニ、顫掣筆トテアリト云フ。(觀鵞百譚) 著聞集、七、能書、道風が弘法大師の書ける額の字を難じ謗りたれば「ヤガテ中風シテ、手わななきテ、手跡モ昔ヤウニナリニケリ」(掃部ノ字ヲ、誤解セシヨリ起リシ事ナルベシト云フ) 桂川地藏記(弘治)上「色紙所望、道風之細手、金岡之筆勢、云云」

わなな・く ・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [戰慄]

(一)恐レテ、身、ワナワナト震フ。ヲノノク。戰慄(センリツ)ス。 名義抄「慄、ワナナク」[illegible] 字鏡七十「悚、慄也、和奈奈久[illegible]」[illegible] (二)震動ス。(音聲ナドニ) 源、廿九、行幸十「御聲ノわななくモ、ヲコガマシケレド、云云」 (三)騒ギ亂レテ、落チ[illegible]ノ[illegible]ノトコシバリヲ、フツフツト切リテケレバ、大路中ニハクトヒキオトシツ、下臈ノ物見人ドモ、わななきサワギ、アザ笑フコトカギリナシ」

わなな・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) ソソクル。ホツルル。ホドクル。端ヨリ解クル。 [illegible]糸ナドニ云フ) 枕草子、四、第四十三段「イトサダスギ、フルブルシキ人ノ、裝ナドモ、ワレニモアラネバヤ、トコロトコロわななきチリボヒテ、云云」

わなのき (名) ワナニスル木。羂(ワナ)ニ作ル木。 字鏡[illegible]「[illegible]、和奈乃木」

わなびろおど (名) 輪奈天鵞絨 略シテ、わな。けきらずびろおどニ同ジ。びろおど(天鵞絨)ノ條ヲ見ヨ。

わなみ (代) 吾儕 同輩ニ對シテ用キル自稱ノ代名詞。ワレ。吾輩。吾曹。 運歩色葉集「吾儕、ワナミ」 字類抄「儕、ワナミ」

ワナン (名) 和南 「梵語、Vandana.(槃談、畔睇)、我禮、致敬、敬禮ナドト譯ス、又、梵語、Vandami.(槃那寐)ハ、動詞ノVande. ノ第一人稱單數ノ自動詞、若シクハ他動詞ニシテ、同ジク和南、禮拜ノ意ナリ」 佛教ノ語。稽首、禮拜、敬禮ノ意。禪家ニテハ、をなトモ云フ。 南海寄歸傳、三「言和南者、梵云畔睇、或云畔彈南、譯爲敬禮、但爲採語不切、喚和南矣」 翻譯名義集(宋、法雲)四「槃那寐、名出聲論、或名槃談、此云禮」

[illegible]」

わなり (名) [illegible]

わなわな (副) 戰戰 身ノワナナク狀ニ云フ語。ワダワダト。ブルブル。 平家物語、[illegible]、わなわな[illegible]

わに (名) 鰐 [illegible]義、其口[illegible]云フ) 神代紀ナドニ云ヘルハ、鮫ノ一種ニテ、大イナルモノ、鱶ノ類ナラム。鰐ハ、熱地ニ產スル爬蟲類ノ動物、水、陸、共ニ活ク、形、蜥蜴(トカゲ)ノ如クニシテ、四肢短ク、趾間ニ蹼(ミヅカキ)アリ、大ナルハ二丈餘ニ至ル、全身ニ甲アリ、尾最モ長ク、喙、三尺、齒ハ刃ノ如ク、性、極メテ猛惡ナリ。 倭名抄、十九、龍魚類「鰐、和仁、似鼈有四足、喙長三尺、甚利齒」 出雲風土記、意宇郡、安來鄕「[illegible]和爾所[illegible]」 古事記、上「[illegible]於岐島、云云、欺海和邇」 神代紀、下、二十二「遣二一尋鰐魚(ワニ)一以奉レ送焉」

わにあし (名) 鰐足戾脚 人ノ歩ム足風ニ云フ語。兩足ノ頭ノ、内ノ方ヘ向ク癖アルモノヲ、うちわに(内鰐足、内鰐膝)、又ハ、内鎌(ウチカマ)ト云ヒ、ソノ外ヘ向クヲ、そとわに(外鰐足、外鰐膝)、又ハ、外鎌(ソトカマ)ト云フ。鰐足。 增補下學集、上、支體門「戾脚、ワニアシ、[illegible]足」 同、上「[illegible]」 新猿樂記、十三娘者、中[illegible]也、云云、[illegible]脚」

わにぐち (名) 鰐口 (一)古クハ金鼓(コンク)。佛殿ノ前簷ニ懸クル器。青銅製、鐵製ナドモアリ、大小種種ナレドモ、常ナルハ徑一尺許リナリト。形、鉦(フセガネ)ヲ兩面合ハセタルガ如ク、下、裂ケテ横長キ口アリ、前ニ布縄ヲ垂レ、詣ヅルモノ、縄ヲ取リテ撃チ鳴ラス。神、佛、混合シテヨ[illegible]ワニグチ一謠曲、山姥、間狂言「[illegible]ニカケテアル鰐[illegible]ロガナル」 神道名目類聚抄、三、宮殿「今鰐口ト云モ[illegible]」 [illegible] (貞享、西鶴)五「是非トモニ臭イ物、鰐口ノ小ヨシガ[illegible]」 [illegible]松作)上「神ニハアラヌ紙様ト、世ノわにぐちニノルバカリ」 (四)鞍ノ名ドコロ。前輪ト後輪(シヅワ)トノ磯ノ下 即チ、山形ト反對ノ側ノ、刳リ込ミア[illegible]曲ヲナセル部分ノ稱。 [illegible]本記「くらニサカわにロ入ルル事、苦シカラズ」

わにざめ (名) 鰐鮫 (一)鱶(フカ)ノ一種。鱶(フカ)鮫(サメ)ナラムカ。一說ニ、わにざめハ、動物學ノ種類ニアラズシテ、人ヲ食フ鮫ノ意ト。(二)鮫(サメ)ノ一種。山陰道ニテハ、單ニわにト云フ。又、猫鮫、即チ、さざいわり(虎頭鯊)ヲ榮螺(サザエ)わにト云フ。又、頭ノ鉏(スキ)ノ先ニ似タルヲ鉏(スキ)わにト云フ。

ワニシ (名) 假漆 [英語、Varnish ノ訛] 又、わにを。略シテ、にを。西洋風ノ塗料。土瀝青、若シクハ各種ノ樹ノ脂ヲ、乾性油、油精、又ハ、てれびん油ナドニ溶ツシテ製ス。其用、漆ノ如シ。

ワニス (名) 假漆 前條ノ語ニ同ジ。

わにふだう(ワ-ニユウドウ) (代) 我入道 吾入道 入道ニ對シテ云フ對稱ノ代名詞。 長門本平家物語、二、西光法師被召取事「わ入道モ忠盛ノ嫡子トテ云ヒシカドモ、十四五迄ハ敍爵ヲダニモシ給ハズ」

わにょうばう(ワ-ニヨウボウ) (代) 我女房 吾女房 婦人ニ對シテ云フ對稱ノ代名詞。 沙石集、三、下、第三條「誠ニヤ、わ女房ノナゲキヲ、法師トブラハズトテ、惱ミ給フナルトイヘバ、云云」

わ・にる・ニル・ニ・レ・ニ・ニ・ニヨ (自動、上一) ゑぐ[illegible] 「ゑぐむトイフ事ヲ、云云、陝西ニテわにるト云フ」

わぬ [illegible]

わぬ (代) 我 わた(我)[illegible]同ジ。 [illegible]「[illegible]畏ミ、出テ來レバ、和奴トリツキテ、云ヒシ子ナハモ」

わぬけ (名) 輪拔 輪脱 身ヲ跳ラセテ、輪ヲクグリ拔クルコト。又、ソノ輕業。 [illegible]

わぬこく (名) 倭奴國 わ(倭)ノ條ヲ見ヨ。

わぬし (代) 吾主 對稱ノ代名詞 同等ナルモノニ云フ。 今昔物語、廿七、第四十話「我レ和主ノ爲ニ[illegible]ト成ラン」

わのり (名) 輪乘 馬術ノ語。環ノ如ク馬ヲ乘リマハスコト。[illegible]「[illegible]、クルリクルリノ輪乘リニ[illegible]」

わはう(ワホウ) (名) 和方 我ガ國在來ノ醫法、漢方、洋方ニ對シテ云フ。 [illegible]「和方ト稱スルモノハ、吾邦、古昔ニ用ル處ノ方劑ニシテ、ママ諸所ニ傳フル也」

わはは (感) 大口ヲアケテ、笑フ聲。哄笑スル聲。 狂言記、二千石「メデタウ、笑ウ[illegible]ノズ、云云、コレヘツット寄レ、マダヨレ、わはは」

わび (名) 侘 [わぶ(侘)ノ條ヲ見ヨ] (一)ワブルコト。思ヒワヅラフコト。 萬葉集、四、「今ハ吾ハ、和備ゾシニケル、生キノヲニ、思ヒシ君ヲ、ユルサク思ヘバ」 (二)閑居ヲ樂ムコト。又、ソノ處。 [illegible]集 口切ノ時分、宗易、サル侘ノ方ヘ[illegible]

ラレケレバ」(三)シブミ。地味。サビ。閑寂。續の原句合、冬、判(莇花)、梅ノわび、根ノ鐵モ、折ニフレ時ニタガヘバ、何モ久人ヲ從カシム」

わび (名) 詫 わぶ(侘)、及、わぶ(詫)ノ條ノ語原ヲ見ヨ。詫ブルコト。過チヲ謝スルコト。又、ソノ[?]辭。

わび・い・る ・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) |詫入| ンキリニ詫ブ。偏ニ陳謝ス。

わびうた (名) |侘歌| ワビシキココロヲ詠ミタル歌。思ヒワヅラヒタル心情ヲウタヒタル歌。「行[?]……わびうたナド書キテ、ヤレドモ、返シモセズ、云云」

わびごと (名) 侘言 ワブルコトバ。ワビシキ言葉。ハカナキ言葉。カコチゴト。愚癡。源、三十、藤袴七「何トナケレド、サマザマナル人人ノ御わびごとモ多カリ」

わびごと (名) 侘事 ワビシキ事柄。思ヒワヅラフノ事。「[?]集 侘事 ワビゴト」 散木集、九、雜、上「アヤシトヤ、人ハ見ルラン、わびごとヲ、タテヌキニシテ、織ル身ト思ヘバ」

わびごと (名) |詫言| (一)アヤマルコトバ。謝罪スル言葉。[?] 狂言記、武惡、「[?]モ、トモモ御[?]申シタレ共、云云」(二)辭退スル言葉。コトワリノコトバ。狂言記、三人夫「百姓ノ身デ御座レバ、終ニ歌抔詠ダ事ハ御座ラヌ、是ハナ、御免ヲ申上マスル」

わびごと (名) |詫事| アヤマルコト。謝罪ノ事柄。ワビ。|陳謝| 狂言記、[?]、「何トカわび事ハ成リマスマイカ」

わびごゑ (名) |侘聲| 思ヒワビテ發スルコエ。又、ワビシゲナル聲。大和物語、中「曉ハ、ユフツケ鳥ノ、わびごゑニ、オトラヌネヲゾ、ナキテカヘリシ」

わびざれ (名) |侘戲| 思ヒワビテスルザレゴト。蜻蛉日記、中、上「女房ニカケモノコヒタレバ、サルベキ物ヤタチマチニ覺エザリケン、わびざれニ、青キ紙ヲ柳ノ枝ニムスビツケタリ」

わび・し ・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) |侘| (一)侘ブベクアリ。ワブル思ヒアリ。心細ソシ。悲觀シタル心中ノ狀態ヲ表ハス。[?]難儀ナリ 萬葉集、十二「[?]ハネズ、吾ハ故ナミ、立ツ波ノ、數(シバシバ)和備思、カクテ來ジトヤ」(二)侘ビシクシテ靜ナリ。モノサビシ。ウラサビシ。|幽寂| 古今集、四、秋、上「山里ハ、秋コソ殊ニ、わびしけれ、鹿ノ鳴クネニ、眼ヲサマシツツ」

わびしむ ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) |侘| 侘シキ思ヒヲセサス。侘シガラス。又、困ラス。宇治拾遺、十四、第十一條「ヨク侘びしめテ後ニ、置キタル算ヲサラサラトオシ毀チタリケレバ、笑ヒサメニケリ」

わびじゃう (名) |詫狀| 謝罪ノ意ヲ記シタル書付。オコタリブミ。タイジャウ。過狀。謝罪書 あやまりじゃうもん(誤證文)ノ條ヲモ見ヨ。

わびしら・に (副) |侘| [らハ助辭、さかしら(賢良)ノ語原ヲ見ヨ] 侘ビシキ狀ニ。ワビシ氣ニ。ワビシサウニ。古今集、十、物名「命トテ、露ヲタノムニ、難ケレバ、物わびしらニ、鳴ク野邊ノ蟲」 新[?]葉集、下、秋「秋ノ[?]、ナド侘芝良丹、聲ノスル、侍ミシカゲニ、露ヤモリユク」

わびすけつばき (名) |侘助椿| [豐太閤、征韓ノ時、從軍セシ何ノ侘助、齎シ歸レルヨリ名トスト] 椿ノ一種。花一重ニシテ赤ク、小輪ニテ美ナリ。筒ニ咲キ、細カナル白星更紗アリ。一名、胡蝶ト云フ。(增補地錦抄)

わびずまひ (名) |侘住| 侘ビシキ住居。モノウキスマヒ。|幽居| |閑居| 續俳家奇人談「[?]見ルコトヲ、[?]レヤ田[?]ノ、侘住居」

わびつらふ ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 侘[?] [つらふ(爭)ノ條ヲ見ヨ] ワビズマヒヲス。幽居ス。

わびと (代) |我人| 下輩ニ對シテ云フ對稱ノ代名詞。ソナタ。アナタ。ナンヂ。平家物語、十一、[?]最後「[?]ト云フわ人トモコソ、伊勢國鈴鹿山ニテ山立シ、妻子ヲモハグクミ」

わびなき (名) 侘鳴 ワビテ鳴クコト。侘シサニ鳴クコト。又、侘シサウニ鳴クコト。萬葉集、十四、秋[?]「秋萩ノ、散リ過ギユケバ、サヲ鹿ハ、和備鳴セムナ、見ネバトモシミ」

わびね (名) |侘寢| 侘シキ思ヒニテ寢ルコト。侘ビツツ寢ルコト。[?]村句集、冬「嵐雪ト、布團引キアフ、わびねカナ」

わびびと (名) |侘人| (一)[ワビシキ人。]世ヲハカナミテアル人。淋シク暮ス人。心細ソク住ム人。萬葉集、十五、十七「惑人ノ、アナ心ナト、思フラム、秋ノ長夜ヲ、ネザメシテノミ」古今集、五、秋、下「侘人ノ、ワキテ立チヨル、木ノモトハ、頼ム蔭ナク、紅葉散リケリ」(二)物事、心ニカナハデ、セム方ナキ人。志ヲ得ザル人。拾遺集、八、雜、上「司申シニ給ハラザリケル頃、云云、わび人ハ、ウキ世ノ中ニ、生ケラジト、思フコトサヘ、カナハザリケリ」(三)[オチブレタル人。逆境ニアル人。零落セル人。ワビモノ。宇津保物語、俊蔭廿「身ノ得モナクテ、久シクナリニシカバ、云云、わび人ハ、月日ノ數ゾ、知ラレケル、明暮ヒトリ、空ヲナカメテ」今昔物語、廿三、第廿四、男、片腹ヲ[?]テ、己ハ侘人ニ候フ、云云、御衣ヲ一ツ二ツ下シ候ハント思給フル也」

わびもの (名) |侘者| 前條ノ語ノ(三)ニ同ジ。沙石集、六、下、第十五條「何ナル人ゾト問フニ、内ニ籠ケルハ、わびものノ[?]日ニテ侍ルガ、云云」

わびゃくダン (名) |和白檀| 木ノ名。びゃくだんのき(白檀木)ニ同ジ。

わ・びる (動) 侘詫 次ノ二語ノ口語。

わ・ぶ ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ(自動、上二) 侘 [うらわぶ(心侘)ノ略、わぶノ字ヲ用ヰルハ書ニガ、義自ラ異ナリ、其別ヲ辨ヘズ、詫ハ、玉篇「誇也」集韻「誑也」詫ハ、玉篇「[?]也、欺罔也」詫ハ、增韻「[?]也、信佐也、[?]也」玉篇「憑依也」離騷、注「侘、立也、傺、住也、[?]憂思失ノ意、佐立而不能前也」ト見ユ] (一)[志ヲ失ヒ、望ヲ絕タレ落魄ス。悲觀シテ日ヲ送ル。爲ム方ナク差迫リテアリ。思ヒワヅラフ。古事記、中、第三段、訓 侘「[?]」萬葉集、十五、[?]「[?]ヒヂノ、數ニモアラヌ、我故ニ、思ヒ和夫ラム、妹ガカナシサ」 詞花集、七、戀、上「わびヌレバ、強ヒテ忘レント、思ヘドモ、心弱クモ、落ツル淚カ」(二)[モノ悲シク思フ。ハカナク思フ。心滅入ル。萬葉集、四「小夜中ニ、友呼ブ千鳥、物思フト、和備居ル時ニ、鳴キツツモトナ」(三)[淋シク暮ラス。古今集、十八、雜、下「都人、イカニト問ハバ、山高ミ、ハレヌ雲居ニ、わぶト答ヘヨ」(四)心ニ憂ノ。困却ス。ツラク思フ。大和物語、下「國ノ司、民疲レ國ホロビヌベシトナンわぶるト聞シ召シテ、云云」(五)零落シテアリ。タヅキ乏シ。拾遺集、八、雜、上「古ヘハ、散レリシカド、わびヌレバ、舍人ガ衣モ、今ハ着ツベシ」(六)困ズ。コマル。蜻蛉日記、「夜モスガラ、[?]ヨリケニ、鳴クナクゾ、槇木ノ板戸ヲ、タタキわびツル」更級日記「心細ク悲シクテ、ナガメアカシわびテ、云云」(七)侘シク靜ナルヲ樂ミテ住ム。|幽居| 謠曲、松風「須磨ノ浦ハ、ツヘヒ身ナラネバ、何クヲ宿ト定ムベキ、其ノ上、此ノ須磨ノ浦ニ心アラン人ハ、ワザトモわびテコソ住ムベケレ」

わ・ぶ ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ(他動、上二) 詫 [字

ハ侘ブ[illegible]テ、言偽ニ作レルモノ、ナス[illegible]心ノ[illegible]侘ブル心[illegible]侘ビ歎キテ[illegible]ヲ請フ。過チヲ謝ス。アヤマル。ワビ[illegible]」

わふう (名) 和風 (一)ノドカナル風。[illegible]春ノ風。春風 (二)日本ノ風。日本流。(洋風ナドニ對ス)

わふうらく (名) 和風樂 舞樂ノ曲ノ名。[illegible]

わふく (名) 和服 日本從來ノ衣服。ニホンギモノ。(洋服ニ對ス)

わぶん (名) 和文 我ガ國ノ文章。日本語ニテ綴リタル文章。國文。(漢文、及、歐文ナドニ對ス) [illegible]

わぶる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 侘 わぶ(侘)ノ語意ニ同ジ。ワビシク思フ。[illegible]「[illegible]、わぶれトテ、マダサカ行カヌ、心コソスレ」

わへい (名) 和平 〔詩經、商頌、那篇「既和且平、依我磬聲」〕和ギ平グルコト。平和。和解。禮記、樂記篇「故樂行而倫清、[illegible]」[illegible]

わへい (名) 話柄 だんぺい(談柄)ニ同ジ。[illegible]

わぼく (名) 和睦 (一)ヤハラギムツムコト。和合。和熟。左傳、襄公八年「晉君方明、[illegible]」(二)[illegible]和親。[illegible] 太平記、三十、薩埵山合戰事「[illegible]ヲヤスルト、突ジ頻[illegible]」謠曲、昭君「サレバ互ニ和睦シテ、云云」

わほふし (代) 我法師 法師ニ對シテ云フ對稱ノ代名詞。[illegible]「ハサミツメテ、わ法師メガ人アナヅリシテ、人コソアラメ、オモテヲナラベタルモノニ、心ウツシテ、ネタキメミスルニ、物ナラハカサン、云云」

わほん (名) 和本 日本風ニ綴ヂタル本。[illegible]ノ日本式ナル本。(洋本ニ對ス)

わみさご (代) 我[illegible] 尊長者ヲ視ミテ云フ對稱ノ代名詞。今昔物語、廿七、第三十七語「コノ立テル[illegible]ノ木ハ、和尊ノ目ニハ見ユヤ」

わみやう (名) 倭名 和名 日本ニテ稱スル名。日本名。「倭名類聚抄(略シテ、倭名抄)」

わん (名) 灣 海水ノ陸地ニ入リ込ミタル處。入江。入海。浦。[illegible]「夜深[illegible]、[illegible]月明」

わん (名) 椀 マリ。食物ヲ盛リ分ケテ、食フ器。供スル器。土焼ナルニ埦、或ハ、盌ト記シ、木造ニ椀、金造ニ鋺、石焼ニ碗ト記ス。多クハ、木製挽物ニテ、漆塗ニテ、蓋アリ。昔ノハ大ニシテ、一人前モリキリナリト。倭名抄、十六、九器類「盌、亦作椀、[illegible]」[illegible]「[illegible]、口、徑八寸六分、深三寸、中椀一口、徑七寸八分、深二寸」

わん (接尾) 椀 椀ニ盛リタル飲食物ノ數ヲ云フニ用ヰル語。[illegible]

わんきう (名) 椀久 〔大坂ノ豪商椀屋久[illegible]〕[illegible]

わんきん (名) 腕巾 汗拭ヒ。汗フキ。

わんきょく (名) 彎曲 弓ナリニマガルコト。圓クカガマルコト。[illegible]

わんくつ (名) 彎屈 弓ナリニマガリカガマルコト。

わんぐり (副) 口ヲ大キク開ク狀ニ云フ語。アングリ。浮世床(文化、三馬)二編、下「南無ト目ヲネブッタバカリデ、オ飯ヲわんぐり」

わんげつ (名) 彎月 (一)カタワレヅキ。ミカヅキ。ユミハリヅキ。弦月。書言字考節用集、二、乾坤門「[illegible]、ミカヅキ、云云、下弦、[illegible]月、又云、纖月」 (二)陣立ノ一種。兵士ヲ弦月ノ形ニ列ネタルモノ。太平記[illegible]、七「ヨキ軍法者ナレバ、魚ハアミヲ以テ亡スト云義ニマカセ、[illegible]ニ備ヘテカカル」

わんざくれ (感) わざくれノ音便。其條ヲ見ヨ。凱陣八島[illegible]「[illegible]、何ノ事カ思ハレウ、わんざくれ、命モロ共トハ思ヘドモ」

わんざん (名) 和讒 (一)わざん(和讒)ノ音便。其條ヲ見ヨ。[illegible]「[illegible]にて訪はれし事、今ニハジメヌ[illegible]カわん讒トハ云ヒナカフ、コトニカカリヤ見エヌルフヤ、ト申シ合ヒケル」 (二)無理無法ヲ云フコト。難題。[illegible]

わんさわんさ (副) 物見ノ場所ニ、大勢込ミ合ヒテ、押シ寄スル狀ニ云フ語。

わんしゃ (名) 腕車 じんりきしゃ(人力車)ニ同ジ。

わんじゅ (名) [illegible] [illegible]花ハ[illegible]、刀豆形ノ莢果ヲ結ブ。内ニ三四子[illegible]念珠[illegible] 計ニテ扁ク、赤ク黑ク、光有リテ堅硬ナリ、念珠ニ用ユ、唐ニテ槵珠ト云ハ、ツブニテ作ル念珠ノ事ナリ、佛[illegible]ニアリ、[illegible]ちノ實ヲわんじゅト呼ハ非ナリ」

わんづ (名) 豌豆 ノラマメ。今、ゑんどう(豌豆)ト云フ。其條ヲ見ヨ。

わんづか (副) 僅 わづか(僅)ノ音便。加增曾我(寶永、近松作)二「メラウ義ハ、コノ丁稚トわんづかバカリ[illegible]」

わんづさう (名) 豌豆瘡 [illegible]ノ如クレバ名トス。[illegible]「天平七年閏十一月、是歲年頗不稔、自夏至冬、天下患豌豆瘡、[illegible]」

わんどう (名) 船ノ舵床ノ溝。舵ヲ[illegible]、舵ノ身木ヲ嵌メ入ルル所。又、マルクチ。

ワントウニュウ (名) 和奴唐 〔支那語ノ[illegible]〕長崎ノ語、黑船ノ[illegible]作リタル人形ノ顔ノ、婦人ノ面ノ如クナルヲ云フ。

ワンパ (名) 忘八 〔支那ニテハ、[illegible]、孝、悌、忠、信、禮、義、廉、恥、ノ八

德ヲ忘レタルモノト傳ヘラレテ、忘八トモ云フ、又、同國ニテハ、王姓多キ故ニ、王某忘八ト惡口シタル者アリテ、遂ニ王八ト呼ビ、侮蔑ノ稱トナレリ、サレドモ、鼈ヲ云フガ專ラナリト云フ、又、明代ノ小說家ハ、忘八ヲ以テ、以上ノ八德ヲ忘レタル者ノ意ニ用ヰシヨリ、本邦ニテハ、遊女屋ノ主人くつわノ當字ニ用ヰル」(二)支那ニテ、鼈ノ異稱。(三)無賴ノモノニ對シテ、罵詈スル語。又、孟八郎トモ云フ。〔傾城禁短氣〕二「忘八、其國ニテ、狡兒ヲ罵リテ、わんハト云フ、唐山ノ俗語ニ、無頼人、狡猾ノモノヲ烏龜忘八ト云フコトアリ、云云、忘八ハ仁義禮智孝悌忠信ノ八字ヲ忘レタル也」五代史、前蜀世家、「王建、[illegible]云云、少無賴、以屠牛盜驢販私鹽爲事、里人謂之賊王八」

わんばう（名）〔縕袍〕　又、わんぽ。をんばう。ヌノコノ綿入。ドテラ。轉ジテ、ソマツナル衣服。〔鑓山姥〕(正德、近松作)四「金銀衣類ハイフニ及バズ、身ニ纏ヒシ古わんばう」

わんぱく（名）〔腕白〕(枉惑ノわわく、わやく、わんぱくト移リタル語)　小兒ニ云フ語。思慮ナキ無理ノ言ヒ事。ワルサヲナスコト。ヤンチャ。又、ソノ兒。ワガママナル子。平假名盛衰記(元文、文耕堂等合作)二「ヨウオトナシカロゾ、其ノ腕白サ、意地ワルデ、ドウモカウモ成ルコッチャゴザリマセヌ」

わんぱち（名）　惡シキ性質ノ者。狡兒。(東國ノ方言)

わんぽ（名）〔縕袍〕　わんばう(縕袍)ニ同ジ。加增曾我(寶永、近松作)二「身代モイシクナッテ、わんぽ一枚ニハナッタレ共、云云」

わんもり（名）〔椀盛〕　ちゃわんもり(茶碗盛)ニ同ジ。

わんりき（名）〔腕力〕　次條ノ語ニ同ジ。浮世色競集「腕力、ワンリキ」

わんりょく（名）〔腕力〕(一)腕ノ力ニテ、人ニ手向フコトニ、ウデダテ　チカラヅク。ウデヅク。(二)又、わんりき。ウデノチカラ。腕ノ力量。范成大詩「強裁尺素答相思、兩肘膨脝腕力微」

わんわん（名）　小兒語。犬ノ稱。(啼聲ヨリ云ヒタル語)　浮世風呂(文化、三馬)初編、上「わんわんノババ、チイヲ、噛マウトシタヨ」

わんわん（副）〔唁唁〕　犬ノ啼ク聲ニ云フ語。(筑前ニテ、びょんびょん、びょうびょう、安房ニテ、きゃうきゃうト云フ)

わめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四)〔喚叫喚〕　[わハ、口ヲ開キテ發スル聲、めくハ、動詞ヲ作ル接尾語]　大聲ヲ發ス。ドナル。叫ブ。ヲメク。運歩色葉集「喚叫、ワメキサケブ」名義抄「喚、ワメク」　平常經(寶永、近松作)二「人ガ何ノ[illegible]取ラフトわめくヲ、男ハ半分[illegible]キ」

わもじ（代）〔吾文字ノ義〕　對稱ノ代名詞。ソナタ。オマヘ。ソモジ。

わや（名）〔枉惑ノ略カ〕(一)馱目。イケヌコト。(二)ワンパク。ヤンチャ。(三)無茶。無理ナルコト。[illegible]女五枚羽子板(寶永、近松作)中「此讒キヲ見ルカラハ、請モ了簡モアルヘキコト、此上ハわやニスル、取戻ヒテクレンズト」

わやう（名）〔和洋〕　日本ト、西洋ト。又、日本風ト、西洋風ト。「和洋折衷」

わやう（名）〔和樣〕(一)日本ノ風。日本流。日本式。(二)書風ノ名。からやう(唐樣)ノ條ヲ見ヨ。槐記、享保十二年閏正月廿八日「日本ニテハ、尊圓ヲ和樣ノ祖ト仰ク事ニ候ヤ」　浮世床(文化、三馬)初編、上「デモ醫者ノ表札ハ、和樣ニ[illegible]ノサキモ想ハレ」

わやく（名）〔枉惑〕〔わうわくノ略、わわくノ轉〕(一)無理ナル言ヒ事。小兒ノワンパク。ヤンチャ。無道。無茶。日本西王母(元祿、近松作)五「投扱、イヅレモハわやナ人カナ」(二)人ヲ欺キタブラカシナドスル者ヲ云フ。

わやく（名）〔和譯〕　外國ノ言葉、文章ナドヲ、日本ノ言葉、又ハ文章ニ翻譯スルコト。又、ソノ翻譯シタルモノ。國譯。

わやく（名）〔和藥〕〔漢藥、洋藥ニ對ス〕　日本ノ醫術ニ用ヰル藥。和製ノ藥。尺素往來「硫黃、[illegible]之和藥[illegible]御所持之間、云云」

わやくちゃ（副）　ムチャクチャ。無理無體。

わやくもの（名）〔枉惑者〕〔わやく(枉惑)ノ條ヲ見ヨ〕　ワンパクモノ。ヤンチャモノ。手アマシモノ。昨日は今日の物語「ソレハ何トシテナルゾト問ヘバ、カノわやくものノ云フ樣ハ、云云」

わやわや（副）　人語ノ喧シキ狀ニ云フ語。ワイワイ　ガヤガヤ　喧鬧、喧嗷　好色五人女(貞享、西鶴)四「早オシツメテ、二十八日ノ夜半ニ、わやわやト火宅ノ門ハ車長持ヒク音、云云」

わよ（名）〔和與〕(一)和ギテアタフルコト。又、昔、田宅ヲ授ケ與フルコト。其書付ヲ和與狀ト云ヒ、其地ヲ和與地ト云ヒ、スベテ其物ヲ和與物ト云フ。式目抄、三「和與ハアマナイ與ル也、財寶ニテモアレ、田地ニテモアレ、眞筒、發氣シテヤルヲ和與ト云」尺素往來「本領之事、云云、和明寄進、佛陀施入、他人和與、庶子割分之地者、不可有[illegible]之儀」(二)相與ニ和解スルコト。和談スルコト。盛衰記、三十七、則綱討盛俊事「我ヲ助給タラン人ヲバ、爭カ我モ助奉ラデ有ベキ、云云、和與シ[illegible]トモ[illegible]トテモ[illegible]」

わよじゃう（名）〔和與狀〕　[illegible]　(一)ヲ見ヨ。[illegible]「如[illegible]五月廿四日和與狀者、[illegible]云云、且爲[illegible]守和與狀、[illegible]可致[illegible]」

わら（名）〔藁〕〔和和良ニテ、散亂ノ義〕　稻ノ莖ヲ刈リ乾シタルモノ。俵ヲ作リ、席ヲ織リ、繩ニナヒ、鞋ヲ編ムナド用多シ。通ジテ麥ノ莖ニモ云フ。わわら。　字鏡、[illegible]「[illegible]」[illegible]注倭名抄、九「稻[illegible]具「藁、和良、不良也」[illegible]、和良、[illegible]」萬葉集、廿、長歌「フセイホノ、マキイホノ內ニ、直土ニ、藁解キ敷キテ」

わらうだ（名）〔圓座〕　わらふだ(圓座)ノ音便。略シテ、わらだ。エンザ。承安二年經盛家歌合[illegible]「[illegible]わらうだ」

わらうづ（名）〔藁履〕　わらぐつ(藁履)ノ音便。略シテ、わらづ。名義抄「[illegible]耳、ワラウツノチ[illegible]履、ワラウツ」[illegible]物語、廿六、[illegible]、內ノ大殿ナドハ、御わらうづト云フ物ハカセ給ヒ」

わらか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)〔笑〕(一)ワラハカス。ワラハシム。(二)冷靜ニトリアツカフ。パカニスル。

わらがうし（名）〔藁合子〕　藁ニテ盒子ノ如キ形ニ編ミテ、門松ニ結ビツケ、ソノ中ニ供物ヲ入レタルモノ。

わらがみ（名）〔藁紙〕　藁ノ纖維モテ漉キタル紙。藁半紙ノ類。

わらく（名）〔和樂〕　くゎらく(和樂)ニ同ジ。

わら・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二)〔散亂〕〔散ハ通ズ〕　亂レ散ル。ハララク　ホログ　宇津保物語、吹上、上、「諷ノ布ノわらけタル」(增補雅言集覽、校本、わわけトス)

わらぐつ (名) [illegible] わらぐつ [illegible] テ作ル履 [illegible] 抄 [illegible] ニテ、草履ヲハキ、笠ヲキテ、所所ヲ尋ネ行ク」

わらぐみ (名) 藁組 つかなみ(藁𥝱)ニ同ジ。

わらこんがう (名) 藁金剛 こんがうざうり(金剛草履)ノ條ヲ見ヨ。

わらごも (名) 藁薦 アラゴモ。藁ニテ編ミタル薦。袖中抄、十四、さふのすがごも「藁テ、アミタルヲバ[illegible]トイヒ[illegible]六地藏ヤ、ココニわらごも(一本、アラゴモ)ガ垂レテアル」

わらさ (名) 魚ノ名。ぶり(鰤)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]、鰤、ブリ、云云、稍大ニナリタルヲ、江戸ニテ、わらさトヨブ」

わらざ (名) 藁座 ゑんざ(圓座)ニ同ジ。著聞集、十六、興言利口「サイボウ一ツ、讃岐わらざ一枚ヲモチテ、イソギサキダチテ、云云」

わらざうり (名) 藁草履 藁ニテ編ミツクレル草履。俗つれづれ(元祿、西鶴)四「散緒ノ[illegible]、洒落タルヤウニ思ハレ、云云」

わらは (名) 童 ワラベ。ワランベ。童兒(仙覺)又、赤子。(安房)[illegible]稱呼、一、人倫「小兒、ヲチゴ、云云、奥羽ニテ、わらはト云ヒ、又、ぼコトイフ、(わらはハ童男也)」

わらしべ (名) 稭 (藁蕊ノ義カ)又、わらすべ。藁ノ穗ノ心。ワラミゴ。シベ。

わらす・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) アザケル。ノノシル。名義抄「嘲、ワラス、アザケル」

わらずさ (名) 藁苆、藁寸莎 又、わらづた。すさ(寸莎)ノ條ヲ見ヨ。

わらすぢ (名) [illegible] わら[illegible]ニ同ジ。今昔物語、十六、第廿八語「藁筋一ツガ大柑子三ツニ成ヌル事ト思テ、木ノ枝ニ結ヒ付テ、云云」

わらすべ [illegible] ニ同ジ。宇治拾遺、七、第五條「握ラレタル物ヲ見レバ、わらすべト云フモノ、タダ一スヂ握ラレタリ」

わらだ (名) 圓座 わらうだ(圓座)ノ略。

わらぢ (名) 草鞋 わらんぢ(草鞋)ノ略。[illegible] 耳 [illegible]、六十三、亂人投ゲ身事「母、少キ者共ガ着タル小草鞋、杖ナンドハ有テ、其人ハナシ」

わらぢがけ (名) 草鞋掛 ワラヂハキテ歩ムコト。ワラヂバキ。あしだかけ(足駄掛)ノ條ヲ見ヨ。

わらぢくひ (名) 草鞋食 草鞋ノハナヲズレ。ワラヂズレ。肉刺 金葉集、十、雜、下、連歌「和泉式部ガ賀茂ニマヰリケルニ、わらうづニ足ヲくはレテ、紙ヲ卷キタリケルヲミテ、云云」古川[illegible]能因ハ、わらぢくひマデ、氣ガツカズ」

わらぢざけ (名) 草鞋酒 別ルルニ際シ、草鞋ヲ穿キテ飮ム酒。又、別ニ臨ミテナス酒盛ノ稱。別宴 離宴 松屋筆記、五十四、第十九條「[illegible]酒、[illegible]書ニ、[illegible]島殿上ヘ被仰上、御入部ノ御[illegible]ニ、柳川ヘ被[illegible]候、終日ノ御酒宴ニテ御打送候、わらぢ酒迄御[illegible]候、云云、按ニ、わらぢ酒ハ相別ノ時、藁履ヲハキタル時ニ呑酒ヲイフ也、云云、わらぢ酒モ、心ハオナジク臨別ノ酒盛也」

わらぢずれ (名) 草鞋摩 前前條ノ語ニ同ジ。

わらぢせん (名) 草鞋錢 ワラヂヲ買フ錢。轉ジテ、僅カノ旅費。

わらぢむし (名) 草鞋蟲 〔形、わらぢニ似タリ、せきだ蟲ト云フモ同意〕古名、[illegible]

わらづ (名) [illegible] わらうづ[illegible]ノ略。[illegible]

わらぐつ(藁履)ノ條ヲ見ヨ。

わらづた (名) 藁苆、藁寸莎 又、わらずさ。すさ(寸莎)ノ條ヲ見ヨ。

わらづつみ (名) 藁包 次條ノ語ニ同ジ。

わらづと (名) 藁苞 (一)藁ニテ編ミ作レル苞。又、其苞ニ包メル物。アラマキ。ワラヅツミ。苞苴 (二)轉ジテ、賄賂。毛吹草[illegible]、[illegible]モ傾ク、賄カナ」

わらにんぎやう (名) 藁人形 藁ヲ束ネテ人ノ形ニ作レルモノ。藁人 芻人 薩藩舊記、上「播柄ヲ立、其陰ニ藁人形ニ鎧冑ヲ着セ、弓、鑓、太刀、長刀ヲ持セ立置キ、云云」

わらは (名) 被髮 〔わわら端ノ略、額髮ノ下端ナドノ、わわらゝ亂レ垂リテアル狀ヲ云フ〕(一)男女兒ノ、髮ヲ束ネズシテアルモノ。髮ヲ散シオクコト。若髮、髮髮放、是レナリ。童丱。(二)成人シテモ、元服セヌモノ。(三)童子ナラズトモ、大人ナレバ、大わらはト云フ。古ヘ、武士ノ兜ハ、髻ヲ放チテ被ルナリ、故ニ戰場ニテ、兜ヲ脫シテ鬪フヲ、大童になるナド云ノ、是レナリ、即チ、散髮ヲ云フ。

わらは (名) 童 〔男女兒ハ、被髮ニテアレバ〕[illegible]兒[illegible]ベ[illegible]ニ抱ク程ナルヲ、たわらはト云フ。[illegible](二)〔召仕ノ童男女。源、四、夕顏「童ナルスズシノヒトヘ襦、長ク着ナシタルわらはノ、ヲカシゲナル[illegible]」(三)特ニ、[illegible]ノ條ヲ見ヨ。(四)シモベ。メシツカヒ。古代、下賤ノ者ハ、大人モ披髮ナリシカ、古畫ニ、牛飼童ナド、大髭ニ披髮ナル姿見エタリ。健兒童、牛飼童、京童、八瀨童子ナドモ[illegible]

わらは (名) 豎子 〔周禮、天官、內豎、注「豎、未ダ冠セザル者之官名」〕童ニテ、天子ノ御許ニ近ク仕ヘ奉ルモノ。倭名抄、[illegible]官名「內豎(豎ノ[illegible])」[illegible]年十一月[illegible]人、[illegible]

わらは (代) 妾 〔被髮放ノ被髮ナル義、少女ノ稱ナリシナラム〕婦女ノ自稱ノ代名詞。謙遜シテ云フ。ヤツコ。妾 [illegible]治物語、三、常盤六波羅參事「先ヅわらはヲ失ハセ給ヒテ後、子供ノハ[illegible]」

わらはあそび (名) 童遊 兒童ノアソビ。又、小兒ノシヤアソビ。[illegible]、二十六、[illegible]ノ御わらはあそびノ名殘ノダニ思ヒ出テ給ハズ、

わらはおひ (名) 童生 童ノ生立。子供ノ時ヨリノ成長。枕草子、四、第四十三段「御前ニ人人多クツドヒテ、云云、仲忠ガわらはおひノ

アヤシサヲ、切ニ仰セラルルゾ、ナド言ヘバ、云云」

わらは-か・す（ワラワ-カ・ス） ・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔令笑〕 又、わらかす。笑ハシム。ワラハセル。 盛衰記、三、備中南事「康頼ト申ハ、オカシキ事ヲ云ツヅケテ、人ヲわらはかし侍ルゾカシ」

わらは・ぐ（ワラワ・グ） ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（自動、下二）〔童氣〕 童ノ如ク見ユ。 源、廿、朝顔廿「チイサキハ、わらはげテ喜ビハシルニ」 榮花物語、十一、蕾花「御隱レ遊ビノ程モ、わらはげタル心チシテ」

わらは-ごこち（ワラワ-ゴコチ） （名）〔童心地〕 次條ノ語ニ同ジ。 源、二、帚木五十「わらはごこちニ、イトメデタクウレシト思フ」

わらは-ごころ（ワラワ-ゴコロ） （名）〔童心〕 コドモゴコロ。ヲサナゴコロ。又、子供ノ心持。ワラハゴコチ。 源、五十三、夢浮橋五十「少シヲヨズケシママニ、カタミニオモヘリシわらはごころヲ思ヒイヅルニモ、夢ノヤウナリ」

わらは-ごと（ワラワ-ゴト） （名）〔童言〕 子供メキタル詞。小兒ラシキ詞。 萬葉集、十一廿「アヂキナク、何ノタハコト、今更ニ、小童言（ワラハゴト）スル、老人（オイヒト）ニシテ」

わらは・し（ワラワ・シ） ・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）〔可笑〕 笑フベシ。ヲカシ。 四季物語、正月「神ノ御カホノホドモ、エミヲフクマセ給ハント、わらはしきモノカラ、云云」 盛衰記、十一、重盛與入道-問答事「癪濟マシタリト、笑はしくゾ思ハレケル」

わらは-すがり（ワラワ-スガリ） （名）〔童縋〕 (一)童ガ幾人モ、順次ニ前ノ者ノ後帶ニ縋リテ繫ガルコト。又、ソノ遊戲。(二)急流ヲ渡ル時、順次ニ他ノ弓ノ末筈ナド縋リテ繫ガルコト。 盛衰記、十五、宇治合戰事「推流サレテ笑ハルナ、弓ノ本弭、童すがりニ打チ掛ケヨ」

わらは-ずまひ（ワラワ-スマイ） （名）〔童相撲〕 コドモズマフ。子供ト子供トノ相撲。 三代實錄、五、貞觀三年六月廿八日「天皇御二前殿一、覽二童相撲一ハ云云、如二相撲節儀一」 著聞集、十、相撲強力「延長六年閏七月六日、中ノ六條院ニテ童相撲ノコトアリ」

わらは-ずゐじん（ワラワ-ズイジン） （名）〔童隨身〕 童ノ隨身。隨身ヲツトムル童子。 源、十四、澪標「御車ヲハルカニ見ヤレバ、云云、河原ノオトドノ御例ヲマネビテ、わらはずゐじんヲ賜ハリ給ヒケル」

わらは-てんじやう（ワラワ-テンジヨウ） （名）〔童殿上〕 古ヘ、禁中ノ作法ヲ見習ハムガタメ、貴人ノ子ノ、聽サレテ殿上ニ奉仕セシコト。又、ソノ人。 とりかへばや物語「大殿ニ生ヒ出テ給ヒシ若君モ、今ハオトナニナリ給ヒテ、童殿上ナドシテアリキ給フ」

わらは-な（ワラワ-ナ） （名）〔童名〕 童子ノ時ノ名。ヲサナナ。幼名。 宇津保物語、國譲、中五十「童名コレコソト召シシガ、今ハ宮ノ藏人ニ侍ルナナン、參リキタリ」

わらは-なき（ワラワ-ナキ） （名）〔童泣〕 童ノ如ク泣クコト。 多武峯少將物語「アフコトノ、難クトテダニ、ナグサマデ、わらはなきニゾ、我モ泣カルル」

わら-ばひ（ワラ-バイ） （名）〔藁灰〕 藁火ノ後ノ灰。

わらは-べ（ワラワ-ベ） （名）〔童部〕 〔わらは（童）ノ條ヲ見ヨ、べハ、羣（ムレ）ノ約〕 (一)童子等。子供等。音便ニ、わらんべ。約メテ、わらべ。 倭名抄、二十老幼類「侲子、和良波倍」 日本釋名、中、人品「童、イマダ冠キザルヲ云」 (二)召仕ノ童男女。僮 源、五、若紫九十「對ニ、わらはべ召シニツカハス」

わらは-べいじう（ワラワ-バイジユウ） （名）〔童陪從〕 童ノ、陪從タルモノ。 宇津保物語、梅花笠廿七「タダノホナガ、ハカマ、童陪從ナドニモタマフ」

わらは-まひ（ワラワ-マイ） （名）〔童舞〕 童子ノ舞。童子ノスル舞。チゴマヒ。 枕草子、五、第四十六段「わらはまひノ夜ハ、イトヲカシ、燈臺ニムカヒタルカホドモ、イトラウタゲニ、ヲカシカリキ」

わらは-め（ワラワ-メ） （名）〔童女〕 女ノワラハ。少女。 枕草子、五、第四十六段、たまめかしきもの「ヲカシゲナル童女（ワラハ）ノ、ウヘノ袴ナド、ワザトニハアラデ、ホコロビガチナル汗衫（カザミ）バカリ着テ、云云」

わらは-やみ（ワラワ-ヤミ） （名）〔瘧〕 〔童病ノ義、搜神記「昔顓頊氏有二三子一、死而爲二疫鬼一、一居二江水一爲二瘧鬼一、一居二若水一爲二魍魎鬼一、一居二人宮江一、善驚二人小兒一、爲二小鬼一」瘧鬼、小兒也ト云フ、（太平御覽）又、慄（ワラ）ク病ノ義ニテ、オコリフルフヨリ云フト〕 病ノ名。ワナナヤミ。エヤミ。瘧（ギヤク）。今、おこり（瘧）ト云フ。其條ヲ見ヨ。 倭名抄、三十病類「瘧病、衣夜美、一云、和良波夜美」 名義抄「瘧、エヤミ、ワラハヤミ」 源、五、若紫二「わらはやみニワヅラヒタマヒテ、ヨロヅニマジナヒ加持ナドヲセサセ給ヘド、驗ナクテ、アマタタビオコリ給ヒ、云云」 堤中納言物語、蟲めづる姫君「蝶ハ捕フレバ、わらはやみセサスナリ」

わらひ（ワライ） （名）〔笑嗤咲〕 〔わらふ（笑、四段）ノ條ノ語原ヲ見ヨ〕 (一)笑フコト。ヱムコト。ヱミ。 今昔物語、五、第十三語「或ハ咲ヒノ内ニモ、聡シキ思ヒアリ、或ハ慈ミタル形ニモ、瞋レル心深シ」 (二)アザケリ。モノワラヒ。 韓愈、應二科目一時與レ人書「其濶瀏、不レ能二自致二乎水一、爲二擯糲之笑一者、蓋十八九矣」

わらび（ワラビ） （名）〔蕨〕 水龍骨科（ノキシノブ）ノ羊齒類ノ草本ノ名。山野ニ自生ス。春、舊根ヨリ嫩莖ヲ叢生ス、初、卷曲シテ拳ノ如シ、早蕨ト云ノ、煮テ食ヒ、又ハ、乾藏、鹽藏ス。長ズレバ、葉、展ビ開キテ鳳尾ノ如ク、ぜんまい（薇）ノ葉ヨリ、小密ナリ、莖ノ長サ三四尺、老イタルヲ箒トス。根ニテ、蕨の粉、蕨餅、蕨繩、ナドヲ作ル。各條ヲ見ヨ。 倭名抄、十七野菜類「蕨、和良比」 本草和名、下「蕨、和良比」 字鏡「蕨、薇、和良比」 六帖、六「春立テ、萌ユトモ見エヌ、草ノ葉ヲ、誰レカわらびト、名ヲツケソメケン」

わらび （名）〔藁火〕 藁ノ燃ス火。 俳諧選、冬「水鳥ヤ、藁火燒キサス、カタアカリ」

わらひ-い・る（ワライ-イ・ル） ・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔笑入〕 イタク笑フ。 狹衣、一、下十「ギフギフトコトサラメキ、わらひいりツツ、シハブキシ入ルモアリ」

わらひ-がほ（ワライ-ガオ） （名）〔笑顏〕 笑ヲフクメル顏。ヱガホ。エビスガホ。 [illegible]、三、[illegible]事「人ノ笑フニ笑ハズバ、[illegible]ニ似タリト思ヒ、共ニ笑ひ顏シテゾ笑ヒケル」

わらひ-ぐさ（ワライ-グサ） （名）〔笑種〕 笑フベキ事ノ種。モノワラヒノ材料。笑資。 源、廿九、行幸二十「近江ノ君見ルコソ、ヨロヅマギルレトテ、タダわらひぐさニツクリ給ヘド、云云」 狂言記、吟聟「オモフサマ笑草ヲ、ヲスヘテヤリマセウ」

わらひ-ごと（ワライ-ゴト） （名）〔笑事〕 笑フベキ事柄。笑ヒテスム輕キ事件。

わらひ-さか・ゆ（ワライ-サカ・ユ） ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ（自動、下二）〔笑榮〕 ゑみさかゆ（笑榮）ニ同ジ。 竹取物語「カクヤ姫、暮ルルママニ思ヒワビツル心地、わらひさかえテ、翁ヲ呼ビトリテイフヤウ」

わらひ-ざま（ワライ-ザマ） （名）〔笑樣〕 笑フ時ノ樣子。ワラヒヤウ。 八笑人（文政、鯉丈）二編「ムムン、智慧ノネエ笑ひざまダア」

わらひ-じやうご（ワライ-ジヨウゴ） （名）〔笑上戸〕 醉ヘバヨク笑フ癖ノ人。酒客（サケノミ）ノ、醉ヘバ笑フ癖アルモノ。（怒上戸、泣上戸ニ對ス）

わらひ-だけ（ワライ-ダケ） （名）〔笑茸〕 菌（キノコ）ノ一種。全體、褐色ヲ呈シ、肥沃ノ地ニ叢生シ、有毒菌ナレバ、食ヘバ酩酊セル狀トナリ、興奮

ノ極、笑ヒ狂ヒテ止マヌモノト云フ。又、舞ヒ耳。踊リ耳。笑而(避暑錄話)

わらび-で (名) 【蕨手】 (一)早蕨ノ形ノ、拳ヲ擧ゲタルガ如キヲ云フ語。蕨拳 袖中抄「春ノ野ニ、いんぎん講ノ、始マリテ(ト云フ句ニ)、握ヲスルカヤ、擧グルわらびで」 (二)物ノ形ノ、早[illegible]ノ如ク[illegible]ルモノ、(神輿ノ欅角ノ飾、華足、ナドニ云フ)

わらび-なは (名) 【蕨繩】 次次條ノ語ヲ見ヨ。袖中抄、思フママニハ、イハレザリケリ(ト云フ句ニ)、水打テド、ナマジメリナル、蕨繩」

わらび-の (名) 【蕨野】 蕨ノ生エテアル野。[illegible]付集、秋、蕨野ヤ、イザ物見カン、[illegible]

わらび-のこ (名) 【蕨粉】 蕨ノ根ヲ碎キ、白ムヲ取リテ、水飛シタルモノ。糊トシ、又ハ、わらび餅ニ作リ食フ。其後ノ根ノ筋ヲ繩ニナヘルヲ、わらびなはト云フ。色黑ク、能ク水ニ堪フ。[illegible] 草綱目啓蒙、十九、柔滑類「蕨、云云、山人、根ヲ掘リ、製シテ粉トス、コレ蕨粉ナリ、一名山粉、[illegible]、俗名わらびのこ、古歌ニ、ムラサキノチリト云、云云、巳ニ粉ヲ採リタル流筋ヲ乾シテ繩トナスヲ、わらびなはト云、色黑クシテ、能ク水ニ耐ユ」

わらび-のり (名) 【蕨糊】 蕨粉ニテ製シタル糊。前條ノ語ヲ見ヨ。

わらひ-ばなし (名) 【笑話】 笑ヒナガラ話スコト。又、笑フベキ話。笑話

わらひ-ボトケ (名) 【笑佛】 傅大士ノ俗稱(大士ハ、支那、六朝時代、梁ノ道士ニテ、輪藏ヲ創メシ人、常ニ微笑セル狀ヲナセバ、名トス) 狂言記、鏡男「扨モ扨モ機嫌ヨイ顏カナ、是ハ正眞ノ北野ノ笑佛ヲ見ル樣ナ」一葉付集、秋、[illegible]ノ[illegible]指シテ笑ひ佛カナ」

わらひ-ぼん (名) [illegible] [illegible]ノ[illegible]、[illegible]ト云フ、[illegible]代ノ[illegible]、マクラ[illegible]ノ、[illegible] [illegible]ノ[illegible]」

わらび-もち (名) 【蕨餠】 又、わらびもちひ。蕨ノ粉ヲ、葛煉ノ如ク製シテ食フモノ。黑[illegible] [illegible]記、[illegible]大夫コレハ[illegible]ト申スモノデゴザルガ、云云」 東海道名所記(萬治)三「新坂ハ、わらびもち名物ナリ、葛ノ粉ニテツクリ、豆ノ粉ヲマブシテ、旅人ニススムルニ、往來ノ人ヒダルサマギレニ、蕨餠ナリト思ヒテ、云云」

わらび-もちひ (名) 【蕨餠】 前條ノ語ニ同ジ。[illegible]行(天文、[illegible])、佐夜ノ山モ近ン、日坂トカイフ茶屋ニ休ミテ、アトナル荷物ナト待ホド、此山ノ名物ナリトテ、蕨もちゐト云フモノ、シスマシテ出シタリ、云云、年タケテ、マタクフベシト、思ヒキヤ、蕨もちゐモ、命ナリケリ」

わらひ-ゑ (名) 【笑繪】 春畫。マクラヱ。

わら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 【笑・嗤・咲・哂】 【咲・莞・粲・噱・咍】 〔顏ノ散クル意ト云フ、笑ハ、ヲカシキ也、嗤ハ、ワラヒグサニスル也、咲ハ、笑ノ古字、哂ハ、ソノト笑フ、咲ハ、ドット笑フ、莞ハ、ホホヱミ笑フ、粲ハ、歯ヲ出シテ笑フ、噱ハ、フキ出シテ笑フ、咍ハ、アザケリ笑フ〕 (一)喜ビ樂ミテ聲ヲ立ツ。ヱムアマリニ聲ヲ出ス。[illegible]、[illegible]「[illegible]、[illegible]、人不[illegible]其笑」 古事記、上「八百萬神共、咲」 (二)ホコロブ。ヒラク。咲ク。[illegible]キ花咲ク」

わら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 【笑・嗤・哂】 嘲リテ笑フ。[illegible]前條ノ語原ヲ見ヨ」 孟子、梁惠王、上「以五十步笑百步、則何如」 [illegible] 紀、元年正月「始取嘗、[illegible]天下[illegible][illegible]ヲ笑ふ」

わらふ-かど (名) 【笑門】 微笑スル門戸ノ[illegible]ニテ、和氣藹藹[illegible]家[illegible][illegible]わらふかどニハ[illegible]來ルト云フ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible] 戸ニハ、自ラ[illegible]來ルト云フ[illegible] [illegible] 集、七、世話「ミミヅクデ、多ク掃リヌル、小鳥コソ、笑ふ庭へ、福來たるナレ」

わら-ぶき (名) 【[illegible]】 藁ニテ屋根ヲ葺クコト。又、ソノ葺キタル家。草葺。(瓦葺、[illegible]ナドニ對ス) 草舍 [illegible]、[illegible]、西鶴)五「昔藁葺ノ所ハ、板庇ト成リ、月漏ルト云ヘベ、不破關屋モ、今ハ瓦葺ニ、云云」

わら-ふだ (名) 【圓座】 〔藁蓋ノ義、平カナルヲ云フカ、或ハ、[illegible]〕 ⓒ、わらうだ。ゑんざ(圓座)ニ同ジ。倭名抄、十四、坐臥具「圓座、[illegible][illegible]、圓[illegible]也」[illegible]草子、[illegible]、[illegible]四十四段「雪ノ山、云云、わらふだノ程ナン侍ル」

わら-ふで (名) 【藁筆】 又、わらふみて。ワラシベ(稭)ニテ作リタル筆。木[illegible]、三「信富傳聲、竃[illegible]ハ云云、其[illegible]也[illegible]用[illegible]、大抵似ニ筆[illegible]」[illegible]、[illegible]、近松作[illegible]、[illegible]野わけろふ[illegible]ノ具[illegible]、クマ筆、わら筆、[illegible]引十筆」

わら-ブトン (名) 【藁布團】 綿ノ代リニ藁ヲ入レタル布團。

わら-ふみて (名) 【藁筆】 前前條ノ語ニ同ジ。倭名抄、十二[illegible]文書具[illegible]、[illegible]筆、和良不美天」

わらべ (名) 【童】 わらんべ(童)ノ略。わらはべ(童部)ノ條ヲ見ヨ。又、わらは。[illegible]紀、[illegible]年三月「將二[illegible]童子[illegible][illegible]上ニ」

わら-みご (名) 【[illegible]】 藁稈心藁楷 藁ノゐん。ワラシベ。みご(稈心)ノ條ヲ見ヨ。

わら-むしろ (名) 【藁筵】 藁ニテ織リ作リタルむしろ。[illegible][illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、云云、[illegible][illegible]皆[illegible]之、[illegible]家乾[illegible]包[illegible]、又代[illegible]、其用[illegible]多也」

わらんぢ (名) 【草鞋】 〔次條ノ語ノ轉〕 藁ニテ作レル履。緒、甚ダ長ク、左右ニ各一ツ、又ハ、二ツノ乳アリ、足ニカラミツケテ用ヰル。わらんづ。わらぢ。遊歩[illegible]、[illegible]、[illegible]、大[illegible] [illegible]事「アヤシゲナル帽皮踏巾草鞋ヲ召テ」 [illegible]八、[illegible]、[illegible]八[illegible]ニ[illegible]ル鞋ナリ、[illegible]皮[illegible]ト通用セヨト令ニ見ユ、ヤッコ等ハ常ニ用ヰキ」

わらんづ (名) 【草鞋】 (一)わらぐつ(藁履)ノ[illegible]便。又、わらうづ。倭名抄、十二[illegible] 履襪類「[illegible]、和良久豆」 平家物語、二、座主ながしの事「わらんづナド云フモノヲ、シバリハヒテ」 (二)わらうづ(草鞋)ニ同ジ。[illegible][illegible]、[illegible]宗[illegible]、八日ノわらんづハ、八葉ノ蓮華ヲ踏マヘタリ」

わらんべ (名) 【童】 わらはべ(童部)ノ音便。約メテ、わらべ。[illegible]集、一、第[illegible]條[illegible]門乞食、云云、物ヲ乞フ聞ニ、わらんべドモ、イクラトモナク、尻ニ立チテ笑ヒノノシル」

わら-や (名) 【藁屋】 藁葺ノ家。クサヤ。草舍 茅屋 [illegible]字[illegible]目[illegible]、[illegible]、乾坤[illegible][illegible] (莊子)、草亭(遊仙窟)、ワラヤ」 今昔物語、廿四、第廿三語「世ノ中ハ、トテモカクテモ、スゴシテン、ミヤモわらやモ、ハテシナケレバ」

わら-らか-み (副) 【笑】 ニコヤカナル狀ニ云フ語。笑ヒ[illegible]シテ。笑ハムトスルホドナルヲ。大鏡、下、道長「わららかみ愛敬ヅキ、ナツカシキ方ハ、マサラセ給ヘリ」 狹衣、三、中、三十四「眉目ノ、イトわららかみテ、ラウタゲナルハ、云云」 源、三十一、眞木柱三十四「大將ノオカシヤカニ、わららかなるケモナキ人ニ、添ヒ居タラムニ、云云」

わら-わら-と (副) 柔カニ亂レタル狀ニ云フ語。バラバラト。ハラハラギテ。(靜岡縣、皮、[illegible]羽地方ニテハ、アワアワ、急ギ走[illegible]マ[illegible]ノト) [illegible]本、[illegible]、[illegible]、阿波守宗親發道心事「ヤセクロミタル法師ノ、紙ギヌノキタナキガ、わらわらと破レタルガ上ニ」

わり (名) [理] 〔おとわりノ上略〕 本義ヨリ轉ジテ、容子ノ意　宇治拾遺、四、第十條「我ハ人ノ、わり、ありなしモエ知ラズニ、只分ハ正シキ人ナラバ、コノ人人わりなき者ノ容體カナト言合ハセツルニ、少シモ似給ハネバ、云云」

わり (名) [割] (一)割リ分ツコト。又、割リタルモノ。(二)割合。割前。割當。率。(三)商家ニテ、金錢ノ算ニ云フ語。即チ、百分ノ十ノ稱。コレヲ十ニ分テルヲ分ト云ヒ、分ヲ十一分テルヲ厘ト云フ。百圓ニ付キ、「三割五分七厘」ナド云フハ、三十五圓七十錢ナリ。(四)ひきわりむぎ(碾割麥)ノ略。ひきわり(碾割)ノ條ヲ見ヨ。(五)割合ノヨキコト。「ソノ方ガ割ダ」

わり-あ・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) [割宛] 分ケテ宛テガフ。配當ス。ワリアテル。ワリツク。分配ス。

⁂**わり-あ・てる** (動) [割宛] 前條ノ語ノ口語。

わり-あひ ワリ-アイ (名) [割合] (一)割算ニテ割リテ出デタル高。比。率。步合。(二)ク

わり-あひ-に ワリアイ-ニ (副) [割合] (一)思ヒノ外ニ。案外ニ。わりに。(二)比較的、比較。(三)ワリアテ。ワリマヘ。

わり-ある (連體) 〔わりなしノ反〕 此容子ノ有ルカト云フ意。嘲ル語。宇治拾遺、四、第十條、所司ガ居タリケル前ヲ、忠恨ト云フ隨身、コトヤウニテネリ通リケルヲ見テ、わりある隨身ノ姿カナト忍ビヤカニ云ヒケルヲ、云云」

わり・い (形) [惡] 〔わるいノ轉〕 わろし(惡)ノ條ヲ見ヨ　浮世床、文化、三馬、初編、上「江戸ッ子ノ評判記ガわりい」

わり-いん (名) [割印] 文書、券狀、ノ類ナド、二枚ヘ互シテ印ヲ押セルモノ。印ノ文、割レテ二ツトナリ、割符ノ如ク、後ノ證トス。割ナルヲ、割判ト云フ。オシキリ。半印。分契　名物六帖、三、器財、一「半印、ワリイン(明律正宗)」

わり-りう ワ-リュウ (名) [和流] 又、わやう(和樣)。からやう(唐樣)ノ條ヲ見ヨ。風俗通 安永、荻野喜內)和樣の名 近來、文學ニシテ、和流ノ書家モ、唐樣ニ倣テ書札ヲ潤色ス」

わり-かうがい ワリ-コウガイ (名) [割笄][割髮搔] 刀劍ノ具。かうがい(髮搔)ノ條ヲ見ヨ。

わり-がき (名) [割書] 本文ノ閒ニ、注ヲ割リ入レタルモノ。割注(ワリチュウ)。(鼇頭(カシラガキ)ナドニ對ス) 挿注。夾注

わり-ガラゐ (名) [割唐子] 女ノ結髮ノ一種。唐子ノ形ノ變ジタルモノニテ、昔、年增ノ婦人ノ結ヒシナリ。嬉遊笑覽、一、下、容儀「結ビ髮ニハ、わりがらゐ、カ、クル返シ、クシ卷、田螺蝦姑、めうと曲、唐人曲、オバコムスビ、樂屋結ナドナリ」

わり-き (名) [割木] 割リサキタル薪。タキモノ。マキ。好色一代女(貞享、西鶴)三「或ルハマタ割木ヲ其價ニ取リ」

わり-ぐり-いし (名) [割栗石] 〔栗石(クリイシ)ノ條、參見セヨ〕 略シテ、わりぐり。地形ヲ固ムル時、礎ノ下ニ突キ入ルル小石、又ハ、石片。

わり-ご (名) [破子] 〔器內ニ隔アレバ、割子ノ意ナリ〕 (一)〔又、餉笥(カレヒケ)。食物ヲ入ルル器。檜ノ白木ノ小サキ折櫃ヤウノモノニテ、一枚板ノ蓋アルモノノ內ニ、多クノ隔(ヘダテ)アリテ、麁造ナリ、其日限リ用ヰテ、カケナガシニス。今ノをりノ如シ。堤中納言物語、貝合「行事具、摺子、破子、和利古、有隔之器也」土佐日記、正月七日「今日わりご持タセテ來タル人、云云」(二)破子ニ入レタル食物。宇治拾遺、四、第十五條(大隅守事)「式六堂ノ邊ニテ、ヒルわりご(晝餉)食フニ、云云」

わり-ごみ (名) [割込] (一)割込ムコト。閒ニ押入ルコト。(二)芝居ノ一桝ノ內ニ、同伴者ニアラザル人ト共ニ坐スルコト。根奈志具佐、抑モ芝居ノサカンナル、云云、割込ハ近所ノ膝ヲイタメ」

わり-ご・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) [割込] 閒ニ押シ入ル。押シ割リテ入リ込ム。

わり-ざん (名) [割算] 算術ニ、若干ノ數ヲ、若干ノ數ニ割リ分ツコト。即チ、一ツノ數ガ、他ノ數ノ何倍ニ當ルカヲ見出ス算法。除法。除算

わり-ざや (名) [割鞘] 刀劍ノ鞘ノ、表ト裏トノ色ノ異ナルモノ。長門本、平家物語、一、五節夜闇擊事「備前作リノ三尺五寸有ケルわり鞘ノ太刀、脇ニハサミテ、云云」

わり-ざやく (名) [割笏] 笏拍子(シャクビャウシ)ニ同ジ。はうゐ(拍子)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

わり-だか (名) [割高] 他ニ比ベテ高キコト。割合ニ高價ナルコト。(割安ニ對ス)

わり-だけ (名) [割竹] 丸竹ノ先ヲ幾ツカニ割リタルモノ。昔ハ、夜警ノ用具トシ、又、罪人ヲ叩クナドニ用ヰタリ。菅原傳授手習鑑(延享、竹田出雲等合作)一「カシコマッタト荒島主稅、割竹振リ上ゲタチカカル」

わり-だし (名) [割出] ワリダスコト。割リ始ムルコト。又、ソノ起點。

わり-だ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [割出] (一)起算ス。算出ス。(二)某事ヲ抜キ出キテ表ヘ出ス。(三)割算ニテ答ヲ出ス。

わり-ちゅう (名) [割注][割註] 割書キノ注。ワリガキ。閒注。挿注

わり-つ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) [割付] 割リ分ケテ、宛テ行フ。ワリツケル。配賦。分賦

⁂**わり-つ・ける** (動) [割付] 前條ノ語ノ口語。

わり-な・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 〔わりハ切ナル意、なしハ甚しノ義、又、道理(コトワリ)なし、ノ略ト云フ、分(ワキ)モ無シ、ナドノ意〕 (一)ワイダメナシ。餘リニ甚シ。無理ナリ。スヂナシ。又、分別ナシ。續古今集、十八、雜、中「わりなしヤ、人コソ人ト、言ハズトモ、ミヅカラ身ヲヤ、思ヒスツベキ」源、四、夕顏四十「物怖ヂヲ、わりなくシ給ヒシ御心ニ、センカタナウ」古今集、十二、戀、二「わりなくモ、寢テモ覺メテモ、戀シキカ、心ヲイヅチ、遣ラバ忘レン」夫木抄、三十、庵「山賤ノ、庵ハ茅(カヤ)ノ、ヌケメヨリ、わりなく漏ルル、春ノ雨カナ」善キコトニモ云フ。沙石集、三、第二條「六年ノ未進ノ物ノ、三年ハ許シテケリ、わりなき情ナリ」(二)ヨムドコロナシ。餘儀ナシ。セムカタナシ。アルマジキ事ヲ、強ヒテスルサマナリ。源、一、桐壺廿「上ズメカシケレド、わりなくマツハサセ給フアマリニ、云云」(三)ヒトトホリナラズ。殊ノ外ナリ。源、六、末摘花四「わりなうフルメキたる鏡臺、カラクシゲ、カカゲノ匣ナド、取リ出デタリ」

わり-バオリ (名) [割羽織] せざきばおり(脊割羽織)ニ同ジ。

わり-ばし (名) [割箸] 一本ノ杉箸ニ、割目ヲ入レタルモノ(使用シタルモノナラヌヲ證セムタメナリ)用ヰル時、割リテ二本トス。

わりはん (名) [割判] わりいん(割印)ノ條ヲ見ヨ。

わりびき (名) [割引] (一)割合ヲ以テ引クコト。即チ、一定ノ代價、又ハ、賃金ヨリ、其幾分ヲ減ズルコト。(割增ニ對ス) (二)縮小シテ見ル。内端ニ見ル。(三)手形割引ノ略。手形ノ割引トハ、未ダ滿期日ニ達セザル爲替手形、又ハ、約束手形ヲ、額面金額ヨリ、滿期日マデノ利子ヲ差引キタル金額ニテ、銀行ノ買ヒ入ルルコト。コノ差引キタル利子ヲ、割引料ト云フ。又、一旦、割引シタル手形ハ、更ニ他ノ銀行ヘ再ビ割引ヲ依賴スルコトヲ得。コレヲ再割引ト云フ。

わりびきれう (名) [割引料] 手形割引料。前條ノ(三)ヲ見ヨ。ワリビケ。

わりびけ (名) [割引] 前條ノ語ニ同ジ。

わりひざ (名) [割膝] 左右ノ膝頭ヲ、稍、外方ニ離シ、開キテ坐ルコト。[illegible]「[illegible]、其三ツ指、わりひざ取繕ア、[illegible]ノタイコ持ヂャト思召セ、カタイ顔遊バシテモ、云云」

わりびし (名) [割菱] 紋所ノ名。たけだびし(武田菱)ニ同ジ。

わりふ (名) [割符] (一)木片ニ、事ヲ證スル文ヲ記ス、コレヲ符ト云フ、コレヲ二ツニ分チテ、一片ヲ留メ、一片ヲ與ヘテ、後日、相合ハセテ、信據トスルモノ。ワリフダ。符節。符契。近代世ニ云フ[illegible]、竹ノ長サ六寸ニ[illegible]ヲ二ツニ割リ、[illegible]合竹付ト云フ[illegible]、竹使符ヲ作リテ、[illegible]郡守ニアタフルト也、コレ割符ノハジメ也」[illegible](享保、近松作)一「御前通路ノ割符ノ札」(二)古ヘ、かへぜに(替錢)、即チ、兩替ニ用ヰシ手形。[illegible]

わりふだ (名) [割札] (一)わりふ(割符)ノ條ノ(一)ニ同ジ。(二)わりびき(割引)ノ札。

わりぶた (名) [割蓋] 二枚以上ヨリ成リ、相合シテ一ツノ蓋トナルモノ。茶道筌蹄[illegible]

わりふどし (名) [割褌] はだのおび(膚帶)ニ同ジ。次條ノ語ヲ見ヨ。

わりふんどし (名) [割褌] (一)四尺許リノ一幅ノ布ヲ、中ニ二ツニ割リテ、用ヰル下帶ナルベシ。ふんどし(褌)ノ條ヲ見ヨ。[illegible] (二)今ハ、常ノふんどし(褌)ヲ云フ。

わりふ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [割振] わりつく(割付)ニ同ジ。ワリアツ。配分ス。配賦ス。分賦ス。略シテ、ふる。

わりまし (名) [割增] 一定ノ額ニ、幾分ヲ增シ加フルコト。(割引ニ對ス)

わりまつ (名) [割松] 細カニ割リタル松ノ薪。好色五人女[illegible]「[illegible]二ツ、[illegible]二枚、横島ノ蒲團ヒトツ、火鉢ニわりまつ燃ヤシテ」

わりまへ (名) [割前] 割合ヒタル一人前。割リ分テル一部。ワケマヘ。配當。

わりむぎ (名) [割麥] 碾割麥ノ略。ひきわり(碾割)ノ條ヲ見ヨ。

わりもどし (名) [割戻] ワリモドスコト。

わりもど・す・ス・セ・ソ・シ・セ(他動、四) [割戻] 受取リタル金ノ中、幾分ヲ元ヘ戻ス。又、割リアテテ返ス。

わりもの (名) [割物] 割リイダスモノ。割算ナドニテ計算スルモノ。狂言記、賓目「ムツカシイ割り物デモ、仰セ付ケラルルカト存ジテ御座レバ、コレハ何ヨリ心安イ事デ御ザル」

わりやす (名) [割安] 他ニ比ベテ安キコト。割合ニ安直ナルコト。(割高ニ對ス)

わる (名) [惡] (一)わるし(惡)ノ語根。(二)ワルモノ。惡徒。

わ・る・ルル・ルレ・レ・レヨ(自動、下二) [割破] (一)碎ケ離ル。分ル。裂ケコハル。ヤブル。ワレル。金槐集「大海ノ、磯モ轟ニ、ヨル波ノ、われテ碎ケテ、サケテ散ルカモ」 (二)[心ミダル。心緒ミダレテマトマラズ。萬葉集、十一[三十四]「高山ユ、出デ來ル水ノ、岩ニ觸リ、破テゾ思フ、妹ニアハヌ夜ハ」(略解ノ訓) (三)打チアク。内情ヲ暴露シテ、カクサズ云フ。[illegible](享保、近松作)三、[illegible]ニ知ラセ、イッソわれテ出ヨウカ」 (四)仲ラヒマトマラズ。不和トナル。甲陽軍鑑、二十二、品第六十二「善家ノ各傍輩中、不和ニシテ仕置ノ首尾不合、云云、公方家ノ[illegible]ノ作ト二ツニわれ」

わ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [割破] (一)[離シ分ツ。碎ク。コハス。ヤブル。紫式部日記「御ホトギ、十六ニアマレバわる」 山家集「マサキわる、ヒダノタクミヤ、イデヌラン、ムラサメスギヌ、カサトリノ山」 (二)[若干ノ數、又ハ、量ヲ分ケ定ム。宇津保物語、藤原君「[illegible]ノメグリニシタルヲナン、割りツ賜ヘリケル」「二ツニ割る」「十二割る」 (三)割算ヲナス。除。 (四)ワケヲコマカニ言ヒ[illegible]ヒロゲルノ意。(芝居ニ)

わるあがき (名) [惡足搔] [illegible](足搔)ノ條ヲ見ヨ」わるふざけ(惡巫戲)[illegible]四「コレ小太郎、チョット郡村マデイテ來ルホドニ、すトナシウシテ待ッテ居ヤ、惡あがきセマイゾ」

わるがしこ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) [惡賢] 性質惡シクシテ、才智アリ。狡猾ナリ。奸智ニ長ケ[illegible]

わるぎ (名) [惡氣] (一)惡意。害意。俗[illegible]是レニモ惡氣マハシテ、云云」(二)[illegible]

わるくち (名) [惡口] 人ヲ惡シザマニ言フコト。又、ソノ言葉。ザフゴン。惡口。惡言。惡語。狂言記、伊文字「ソレハコレニ限ラズ、皆人毎ニ、惡口ヲ云フモノヂャ」

わるさ (名) [惡作] (一)惡キ爲合。惡キサマ。(二)善カラヌ戲レ事。イタヅラ。堀川[illegible]「[illegible]、イタクナ泣キソ、わるさスル故」 (三)ワンパクナル子。イタヅラ[illegible](延享、竹田出雲等合作)四「コレハマアマア、才師匠樣デゴザリマスカ、惡さヲオタノミ申シマス」

わる・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) [惡] (一)わろし(惡)ニ同ジ。アシ。(二)ツタナシ。マヅシ。ミニクシ。

わるじゃれ (名) [惡洒落] 又、わるざれ。アシキシャレ。ワルフザケ。タチノ良カラヌ戲レゴト。[illegible]マサナゴト」

わる-だつしや (名) [惡達者] 度ヲ過ギテ巧ミナルコト。又、ソノモノ。

わる-ち (名) [惡血] あくち(惡血)ニ同ジ。

わる-ぢゑ(ワルジエ) (名) [惡智慧] ワルガシコキ智慧、奸智、邪智。 織留、元祿、西鶴、三、二「タトヘバ、イカナル惡智惡ヲモッテ、トヤカクイヘルニシテ、借リタル物一タビハ取ラズニナク事ナシ」

わる-び・る・ルル・ルレ・レ・レヨ (自動、下二) [惡怯] わろびる(惡怯)ニ同ジ。 當世記、四十三、殿下侍遠大事 名ヲ此時ニ失テ、必名ヲ後ノ世ニ留メヨ、東國ノ坂原ニ、わるびれテ見ユナ」

⁘**わる-び・れる** (動) [惡怯] 前條ノ語ノ口語。

わる-ふざけ (名) [惡戯] 過度ニフザケルコト。又、ソノフザケ。ワルアガキ。 浮世風呂(文化、三馬)二編、上「春助サンノへボ将ト、飲六サンノ惡ふざけニハ、オソレルネエ」

わる-もの (名) [惡者] (一)〔わろもの(惡者)ニ同ジ。又、拙キ者。下手。 源、二、帚木廿「上手ハ、イト勢ヒ異ニ、わるものハ、及バヌ所多カメル」 (二)惡事ヲナシテ人ヲ害スル者。惡漢。 菅原傳授手習鑑(延享、竹田出雲等合作)四「其ノ松王トイフ奴ハ、三ツ子ノ内ノ惡者」

わる-よひ(ワルヨイ) (名) [惡醉] 酒ノ中毒ニテ、胸ワルク、頭痛ヲ覺エ、且、嘔吐ヲ催シ、眩暈ヲ來スモノ。翌日マデ治マラヌハ、二日醉ナリ。

われ (名) [破] (一)ワルルコト。又、ワレタルモノ。又、陶器ナドノ割レタル小片。 著聞集、十一、畫圖「伊豫入道、云云、幼少ノ時、父ノ家ノ中門ノ廊ノ壁ニ、カハラケノわれニテ、不動ノ立チ給ヘルヲ書キタリケルヲ、云云」 (二)勝負ナシノ相撲。アヒコ。モチ。 懷子集、明、?、相撲ニ、破ヤ見ユラン、河津ガケ」

われ (代) [我][吾][余][予] 〔本語ハ、わナリ、れハ添ヘタル語、らノ條ヲ見ヨ、吾れ、彼れ、誰れ、モ同趣、韓語、ウリ(我)〕 (一)又、ア。アレ。ワ。自稱ノ代名詞。文章上、普通一用ヰルモノ。 神功紀以前紀「イザ阿ハナ、和例ハ」 繼體紀、七年九月「妹カ手ヲ、倭例ニマカシメ」 萬葉集、一、廿七「古ヘノ、人ニ和禮アレヤ、サザナミノ、古キ都ヲ、見レバ悲シキ」 古事記、中「佛ヲ、ウチナキヤ、和禮ニオトレル、人ヲ多ミ、渡サムタメト、ウツシマツレリ、ツカヘマツレリ」 (二)他ノ身ノ己レヲ指シテ、對稱ノ代名詞ニモ用ヰル。ソノ人自身。 大鏡、下「?、申サセ給ハテ、われ夜ノ御殿ニ入ラセ給ヒテ」 著聞集、九、武勇「今ハ、われガ侍レバ、トコソ、忠盛朝臣ニハ仰セゴトアリケレ」 (三)他ノ人ヲ賤シメテ云フ語。ナンヂ。ナレ。 宇治拾遺、十四、第一條「われ、此馬ノ口引キテタベ」

我ヲかへるトハ、本心ニカヘル、又、蘇ルノ意。われ先ヲトハ、ワレオクレジト、又、ワレガチニノ意。 平家物語、五、富士川事「取ル物モ取リアヘズ、われ先ヲ、われ先ヲトゾ落チ行キタル」 われ知らずトハ、思ハズ、又、無意識ニノ意。我とはなしヲトハ、ワレ知ラズ、又、思ハズニノ意。 古今集、三、夏「ホトトギス、われとはなしヲ、ウノ花ノ、ウキ世ノ中ニ、鳴キワタルラン」 我にもあらずトハ、(一)ワレ知ラズ、又、ワレトハナシニノ意。(二)不本意ナガラノ意。

われ-おもしろ (句) [我面白] 自身ノミ面白クシテ、人ノコマルヲ云フ語。

〰**われ-か** (名) [我] われかひとか(我人)ノ略。 其條ヲ見ヨ。 源、四、夕顔廿「コノ女君イミジクワナナキマドヒテ、イカサマニセント思ヘリ、汗モシトドニナリテ、われかノ氣色ナリ」

〰**われ-がしこ** (副) [我賢] 己レ一人カシコブリテ。ワレハガホニ。ワレサカシラニ。 源、三十四、下、若菜、下三十「又コヨナクマサリニタルノヤト、セメテわれがしこニコチナシ給ヘバ、女房ナトハスコシツキシロフ」

われ-がち (副) [我勝] 思ヒ思ヒニ競ヒテ。ワレオトラジト。ワレサキニ。 好色一代女(貞享、西鶴)三「男ト云フモノ見タコトモナキ女房、人ヨリ我れ勝ちヲサシ出デ、云云」

われ-がね (名) [破鐘] (一)ワレ目ノアル鐘。ヒビノ入リタル鐘。 狂言記、鐘音「五大堂へ參リ、聞イテミマシタガ、何トヤラ、破鐘ノ?ゴザル」 (二)キハメテ大ナルダミ聲ニ譬ヘ云フ語。ワレナベ。 當時代記、元祿、近松作、四、鬼子「われがねノ樣ナル聲、カラカラト笑ヒ、ヤア安康ノアンゴウ頬、云云」

〰**われか-ひとか** (名) [我人] 我レカ人カ明カナラヌコト。自他ノ區別モツカヌ程心亂ルルコト。轉ジテ、果然タルコト。略シテ、われか。 和泉式部集、二「人ノ許ニ、忘レ草、シノブ草ツツミテヤルトテ、物思ヘバ、われか人かノ、心ニモ、コレトコレトゾ、シルク見エケル」

〰**われから** (名) [破殼ノ義(ワレカラ)] 海ニ住ム蟲ノ古貝ノ破レタル殼ナドノ、藻ニ附ケルモノトモ、小蟲、小蝦ナドトモ云ヘド、小貝ナリトノ說、可ナラムカ。(古今集、十五、戀、五「蜑ノ刈ル、藻ニ住ム蟲ノ、われからト、ネヲコソ泣カメ、世ヲバ恨ミジ」(我故(カラ)ト言ヒ掛ク、顯昭ノ注「和布、海苔ナドニ附キタル小貝ナバ、われからト云フ」) 伊勢物語、第五十七段「戀ヒワビヌ、海人ノ刈ル藻ニ、ヤドルテフ、われから身ヲモ、クダキツルカナ」 齋宮女御集「知ラナクニ、忘ルルモノハ、オボツカナ、藻ニスム蟲ノ、名ニコソアリケレ」御返し「忘ルラン、藻ニスム蟲ノ、名ヲ問ハバ、カヒモアルゾト、海人ハ告ゲマシ」(鐘響、一、コノ返し、舊本家集ニヨリテ補ヒタリ)

〰**われ・じ・ジキ・ジケレ・ジク・ジャ** (形、二) 我 ワレメク。ワレラシ。己レラシ。 萬葉集、十九、四十一「立チ別レ、君ガイマサバ、磯城島ノ、人ハ和禮自久、イハヒテ待タム」

〰**われ-だけく** (副) [我猛] 得意トナリテ勢タケク。自慢シテ。オモアガリテ。自負シテ。 源、二、帚木「カシコクヲシヘタツルカナトオモヒ給ヘテ、われだけくイヒソシ侍ルニ」

〰**われ-て** (副) [破] 思ヒアマリアフレテ、胸ノ破レクダクル如キニ云フ語。アナガチニ。オシテ。タッテ。強ヒテ。 伊勢物語、第六十九段「二日ト云フ夜、男、われて逢ハントイフ、女モ、云云」 古今集、十九、誹諧「宵ノ間ニ、出デテ入リヌル、三日月ノ、われて物思フ、比ニモアルカナ」 六帖、一「三日月ノ、われてハ物ヲ、思フトモ、ヨニ二度ハ、出ヅルモノカハ」

〰**われ-と** (副) [我] ワレミヅカラ。ヒトリデニ。オノヅカラ。自然ニ。 萬葉集、十一、九三十「アシガキノ、中ノニコグサ、ニコヨカニ、我共笑(ワレトヱ)マシテ、人ニ知ラユナ」

われ-なべ (名) [破鍋] (一)破レタル鍋。破レ目ノアル鍋。(二)夫婦ノ諍(アラソ)ヒナガラ、共ニ住ムヲ云フ諺。「われなべニトヂ蓋」 (三)われがね(破鐘)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

〰**われ-ぼがほ**(ワレワガオ) (名) [我者顔] 我ハ斯クゾト誇ル顏。我レコソハト、鼻ニカケテ自慢スルコトニ云フ語。得意ガホ。自慢ガホ。鼻ヲ高クスルコト。 源、廿一、少女四五十「冬ノ初メ、朝霜ノムスブベキ菊ノ籬、われはがほナル柞原、ヲサヲサ名モ知ラヌ深山木ドモノ」

われ-ひと (名) [吾人] ワレモ人モ。ワレト人ト。自他。 謠曲、道成寺「其ノ時ノ女ノ執心殘ッテ、マタ此鐘ニ障碍ヲナスト存ジ候、我れ人ノ行功モ、カヤウノタメニテコソ候へ、云云」

〰**われ-ぼめ** (名) [我褒] ミヅカラヲホムル

[illegible]コト。ミボメ。ジマン。自負。自讃。[illegible]トアハレナリ」

われめ (名) 破目 破レタル痕。破レタ[illegible](陶器ナドノ)ヒビ。裂[illegible]

われもかう (名) 吾木香 我毛香 〔和木香ノ意ナルベシ〕古名、アヤメタム。エビスグサ。薔薇科ノ草ノ名。[illegible]葉ハ數十葉叢生ス、形、藤ノ葉ノ如ク、排生シテ、鋸齒アリ、秋月、叢中ヨリ數莖ヲ出ス、高サ二三尺、葉、互生ス。枝又ヲ出シ、端ニ[illegible]花ヲ生ズ、簇リテ珠ヲナスコト、筆頭菜ノ如シ、色、多クハ、紫黑色ナリ、又、紅、白、粉紅、等ノ品アリ。根ヲ藥用トス。地楡 [illegible]木香、和禮毛加字、草名、吾木香、五木香、我木香」 狹衣、三、中「[illegible]嵯峨野ノ、露拂二見シ、われもかう、秋シモオトル、匂ナリケリ」 久安六年百首「野邊ゴトニ、人モ許サヌ、われもかう、コヤ今樣ノ、ムサノコトクサ」

われら (代) 我等 〔らハ接尾語、ら(等)ノ條ヲ見ヨ〕ワレタチ。ワガトモガラ。余輩 吾輩 吾曹 吾儕 源、十五、蓬生「われらモエコソ念ジハツマジケレト、云云」

わ・れる (動) 破 わる(破、下一)ノ口語。

わろ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 惡 (一)又、わるし。善カラズ。惡シ。(よし、よろしノ反) 源、三、空蟬「言ヒタツレバ、わろきニヨレルカタチヲ、イトイタウモテツケテ」(二)拙シ。劣リタリ。枕草子、十一、第百三十九段「わろきモノハ、コトバノモジ、アヤシクツカヒタルコソアレ、タダモジ一ツニ、アヤシクモ、云云」

わろびと (名) 惡人 (一)ワルキ人。ワルモノ。ワロモノ。アクニン。惡徒。(二)身分イヤシキ人。卑賤ノ者。賤者。

わろ・び・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [illegible]又、わろぶる。物[illegible]テ、付トナク屈ス。又、醜キ狀トナル。臆シテ見苦シクナル。[illegible] 保元物語、二、[illegible]事カヤウニ[illegible]共ハ、わろびれ[illegible]ミエズ」

わろ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ(自動、上二) 惡 惡キ狀ニナル。惡ク見ユル。 源、六、末摘花十「イトカウ、アマリムモレタランハ、心ヅキナク、わろびタリト、中將ハマイテ心苛レシケリ」 濱松中納言物語、四「露ノ殘リモナクわろびタル世ヲアリ顔ヒテ、サルベク樂シカルベキヨスガ求メテ、云云」

わろもの (名) 惡者 (一)ワルキ者。ヨカラヌモノ。アクニン。(二)〔劣リタル者〕下手。 源、二、帚木三十「スベテ、男モ女モ、わろものハ、纔ニ知レル方ノ事ヲ、殘リナク見セツクサント思ヘルコソ、イトホシケレ」

わ・わく (名) 枉惑 「わうわく(枉惑)ノ略」稚子ノ足ズリナドシテ、イワケナキ態スルコト。ワヤクヲ云フコト。横着ナルコト。 黑谷上人語燈錄、五七「わわくニ物クルハ、罪ニテ候カ」 竹馬抄(類從本)「或ハ目タレヲ見、或ハわわく心ノミ侍ル程ニ、一スヂニ、ヤハラカニ、ウルハシキ人ヲバ、人ノイヤシムル也」 袋草紙、三、四十「長能云、枉惑ノヤツ也」

わわ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 囂 ワメク。サワグ。 言元梯二十「騷、サワグ」注「飄囂」

わわ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) 散亂 破レミダル。ホツレミダル。ホツルル。ホホケル。ハラハク。ワワクル。 字類抄「緘、ワワク、ソソク」 萬葉集、五、三十長歌「綿モナキ、布カタギヌノ、海松ノゴト、和和氣サガレル」 宇津保物語、祭使二十「上ノキヌノわわけタルニ、下襲ノ半臂モナク、太カタビラノ下ノキヌ着テ、云云」

わわく・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [illegible]ル。[illegible]十二、[illegible]シテ、云云、嚴正ナル由ヲ人ニ語リ、或ハ人ニモイハセ、わわくリケルガ、云云」

わわ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [illegible] ウマビスシ。ヤカマシ。サワガシ。[illegible]六、秋の深山、隨身ドモわわしくノノシレバ、御輿ヲオサヘ[illegible]云云 [illegible]オヂャレ、何トシテわわしうオジャルゾ」わわしう申ス女ニワメカレテ、云云、[illegible]リテ、太郎ハ山デ鎌腰ヲ切ルゾ」 同、殺蝗「蝗、キャアキャア、申シ申シ、わわしうゴザル」わわしくバわわしいト、初カラオシャッタガヨウオリャル」

わわらば (名) 「散亂葉」ワワケホツレタル葉。 萬葉集、八、[illegible]消サズタバラム、秋芽子ノ、ウレ和和良葉ニ、オケル白露」

わゐん (名) 和韻 他ノ詩ノ韻ニ傚ヒテ、更ニ詩ヲ作リテ答フルコト。人ノ出シタル詩ヲ倡詩ト云ヒ、其レト同韻ノ詩ヲ和韻ト云フ。倡詩ノ韻字ノ通リニ、次第ニ位置スルヲ、次韻ト云フ。尙、惡ク云ハバ、起承結等ノ句ノ韻字ヲ、先後ニ易ヘズ用ヰルヲ、次韻ト云ヒ、其韻ヲ用ヰレドモ、必シモ次セザルヲ、用韻ト云フ。次韻。ほす(步)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 珊瑚鈎詩話(宋、張表臣)「前人作レ詩、未レ始ニ和韻ヲ、白[illegible]元白皆二[illegible]相唱和、始依韻、而多至千言、[illegible]」

わゑ (名) 猥穢 キタナキコト。ケガレタルコト。又、キタナキモノ。汚物。 十訓抄、中、第七、第十一條「林懷ガ護法ナリトテ、腹ヲタタキテ、雜穢ヲカリイダスト見ル、夢サメテ腹イユ、わゑムシロニミテリ」

わをとこ (代) 我男 又、わをのこ。男ニ對シテ云フ對稱ノ代名詞。ワヌシ。 字[illegible]リケレバ、ネタキコトカナ、わをとこ殺ニアリシ時ハイハデ、此處ニテカクイフハ惜キ事ナリ」

わをんな (代) 我女 [illegible]ノ代名詞。[illegible]召サネ、ナドわをんなガサタガトイフベキコトカ」

ゐ

ゐ 五十音圖、和行第二ノ假名。わノ條ヲ見ヨ。

ゐ (名) 井 〔集る(其條ヲ見ヨ)ノ語根〕水ノ集ル所ノ義、ふどト云フハ、井處ノ義(竈處、臥處ノ類)〕(一)泉、又ハ、流レ水ノ、飲用水ヲ汲ミ取ル所。即チ、走井、山井、流井ナドノ類。 夫木抄、廿六、井「ワキテソノ、アカツキ契ル、法ノ井ハ、流レクム身ト、ナルガタフトサ」(二)〔地ニ穴ヲ掘リテ、飲水ヲ湛ヘテ汲ム所。ホド。ホリホド。 [illegible]ピナス、夢エシ君ガ、掘リシ井ノ、石井ノ清水、代メドアカヌカモ」

ゐ (名) 堰 〔前條ノ語意〕水ノ流ヲ塞ギテ、用水ヲ湛ソル處。ホセキ。セキ。 [illegible]集、十四、[illegible]イカホロノ、八坂ノ堰ニ、タツ虹ノ、アラハロマデモ、サ寢ヲサ寢テバ」

ゐ (名) 亥 〔家ノ義〕(一)干支ノ名。其條ヲ見ヨ。(二)時ノ名。其條ヲ見ヨ。(三)方角ノ名。えと(干支)ノ條ヲ見ヨ。 爾雅、釋天「太歲、云云、在亥、曰大淵獻」

ゐ（名）〔居〕 ヰルコト。ヲルコト。又、スワルコト。又ハ、ソノ座席。 神代紀、下「鋪二設八重席薦一以延内之、坐定、因問二其來意一」

ゐ（名）〔豬・猪・豕〕〔頸、居スワリタレバ云フカト云フ〕（一）野猪、家猪、ノ總名。ヰノコ。 後拾遺集、十四、戀、四「刈藻カキ、臥ス猪ノ床ノ、イヲ安ミ、サコソネザラメ、カカラズモガナ」（二）今、專ラ、ヰノシシ。

ゐ（名）〔蛜蝛〕 蟲ノ名。延ベテ、ヰイ。今ノ、たひのゑ（鯛餌）。其條ヲ見ヨ。メキ。 倭名抄、十九、蟲豸類「蛜蝛、俗用二蛜蝛二字一、其貌似レ蜘而大者也」

ゐ（名）〔藺〕〔席ニシテ居ル意カト云フ〕又、サギノシリサシ。延シテ、ゐい。燈心草科ノ草本ノ名。原野ノ濕地ニ生ズ。葉ハ、圓莖ノ如ク、甚ダ直ク長ク、三四尺ニ達シ、密ニ叢生ス。夏、莖ノ上部ニ花梗ヲ出シ、分岐シテ淡褐色ノ細花、簇リツク。刈リテ席ニ織リ、又、笠ナドニ編ム。ノスズキ。ソロヰ。トウシンサウ。又、ヰグサ。ほそゐ（細藺）、ふとゐ（太藺）、アリ。 倭名抄、廿、草類「藺、爲、鷺尻刺、似レ莞而細、堅、宜レ爲レ席」 名義抄「藺、ヰ、ヰクサ」 字鏡、七上「藺、知比佐支井」

ゐ（名）〔緯〕〔經ニ對ス〕ヨコ。又、ヨコイト。轉ジテ、横線。 左傳、昭公廿四年「嫠不レ恤二其緯一、而憂二宗周之隕一、爲レ將レ及焉」「緯度」

ゐ（名）〔威〕〔集韻「威、尊嚴也」〕嚴ニシテ畏ルベキ所アルコト。イキホヒ。威光。 書經、金縢篇「今天動レ威、以彰二周公之德一」 盛衰記、十九、文覺頼朝對面事「寛シテ威ナキモ身ノ難也、猛ニシテ猛キモ人ノ怨ナリ」

ゐ（名）〔胃〕（一）古名、クソブクロ。クソワタブクロ。今又、ヰブクロ。體中、飲食ヲ受ケテ消化セシムル機、腹ノ上部左側ニ位シ、肺、心、ノ下ニアリ、膜嚢ニシテ横長シ、向ッテ左上ニテ食道ヲ受ケ、右上ヨリ十二指腸ニ通ズ。ソノ食道ニ接スル所ヲ噴門ト云ヒ、十二指腸ニ接スル所ヲ幽門ト云フ。 史記、倉公傳「此病得也、内藏二於腸胃之間一」（二）二十八宿ノ一。和名、エキヘ。西方ニアルモノ。 史記、天官書「胃、爲二天倉一」正義「胃三星」

ゐ（名）〔帷〕 四方ニ引キマハシタル幕。トバリ。タレギヌ。 潘岳、秋興賦「庭樹槭以灑落兮、勁風戻而吹レ帷」 帷を下すトハ、帳帷ヲサゲテ其中ニ居テ、書ヲ講ズルコトニテ、講釋シ、教授シ、塾ヲ開ク、ナドノ意。 史記、董仲舒傳「以レ治二春秋一、孝景時爲二博士一、下レ帷講誦、弟子傳以レ久次相受レ業」

ゐ（名）〔蝟〕〔玉篇「蝟、似二豪豬一而小」〕はりねずみ（針鼠）ニ同ジ。 重修本草綱目啓蒙、三十五、鼠類「猬、クサフ、ハリネズミ、云云、人ヲ見レバ、頭脚ヲ隱サン爲メニ、俄カニ縮屈シテ、栗毬ノ如シ、故ニ毬ト名ク」

ゐ（動）〔居〕 ゐる（居）ノ條ヲ見ヨ。

ゐ（動）〔率〕 ゐる（率）ノ條ヲ見ヨ。

ゐ（接尾）〔圍〕〔韻會「一抱謂二之圍一」〕太サヲ量ルニ云フ語。ヒトカカヘ。凡ソ六尺位ナリ。 莊子、人間世篇「見二櫟社樹一、其大蔽レ牛、絜レ之百圍」 太平記、三十九、道譽大原野茶會事「本堂ノ庭ニ、十圍ノ花木、四本アリ」

ゐあい（名）〔畏愛〕 畏敬シテ親ムコト。オソレ、且、親ムコト。

ゐあい（名）〔遺愛〕（一）生前ニ愛シタルモノ。 北史、薛聰傳「聰除二都督齊州刺史一、政存二簡靜一、卒二於州一、吏人追思、留二其所一坐樹、以存二遺愛一」 太平記、四十、中殿御會事「圓融院波津ノ古風ヲ仰デ、人皆柿本ノ遺愛ヲ戀ルノミナラズ、云云」（二）古人ノ仁愛ノ遺風ガアラハレテアルコト。又、ソノ人。 左傳、昭公廿年「及二子產卒一、仲尼聞レ之出レ涕曰、古之遺愛也」

ゐあか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔居明〕 オキテ居テ夜ヲアカス。ソコニ居テ夜ヲアカス。 萬葉集、二、八「居明テ、君ヲバ待タム、ヌバタマノ、ワガ黒髮ニ、霜ハフルトモ」

ゐあく（名）〔帷幄〕〔帷ハ、玉篇「幕也、帳也」集韻「幔也」釋名「帷、圍也、所二以自障圍一也」幄ハ、玉篇「帳也」廣韻「大帳」小爾雅「覆帳謂二之幄一」釋名「幄、屋也、以レ帛衣レ板施レ之、形如レ屋也」〕（一）トバリ。タレヌノ。幕。 史記、封禪書「賜二列侯、甲第、僮千人、乘輿斥車馬帷帳器物、以充二其家一」（二）軍中ノ帳、轉ジテ、陣營。軍營。 史記、留侯世家「運二籌策帷幄中一、決二勝千里外一、子房功也」（三）大元帥ノ軍事ヲ圖ル事ヲ計畫シ給フ所。大本營。（四）參謀ノ官。謀臣。帷幄ノ臣。 後漢書、郎顗傳「陛下[illegible]於萬機帷幄之政一」注「帷幄謂二謀謨之臣一也」

ゐあつ（名）〔威壓〕 威光、又ハ、威力ヲ以テ、人ヲ壓服スルコト。

ゐあは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（自動、下二）〔居合〕 其時、正ニ其場ニ居ル。丁度、其席ニ居ル。ヰアハセル。

ゐあは・せる（動）〔居合〕 前條ノ語ノ口語。

ゐあひ（名）〔居合〕 劍術ノ一派。居ナガラ、刀ヲ抜キテ敵ト立合フ術。狹キ所ニテ、甚ダ長キ刀ヲ抜クナド、スベテ、自在ニ刀ヲ抜キ差シスルヲ術トス。江戸時代ノ初、林崎重信ニ起リ、コレヲ利方ト云フトイフ。 書言字考節用集、八、言辭門「居合、ヰアヒ、注、劍術、林崎重信所レ始也、又、謂二之利方一」 人倫訓蒙圖彙、三、能藝部「居合、ゐあひハ太刀討ノ根元ナリ、兵法トイフハ、敵ニ向テ太刀ヲアハスルハ、腰ヨリ抜出シテノ上也、抜ズシテ兵法有ルベカラズ、然レバ、抜ヲ第一トス、長短ノ打物ニヨテ、抜ヤウ品品有、又ハ所ノ廣狹、地形ノ高下ト、座シタルト立タルトアリ、敵ニ其色ヲサトラセズ、柄ニ手ヲカクルヨリ、抜イダス遲速ニヨッテ、勝負ノ二道ココニアレバ、イカデカ學ズシテアランヤ、諸流多キ中ニ、關口流、其名高シ」 好色一代男（貞享、西鶴）二「其頃ハ抽手、居合ハヤリテ」 居合を抜くトハ、居ナガラ刀ヲ抜ク意。 [illegible]錄、八、第六十八條、伯耆流居合「居合をぬく事、ムカシ諸流アリ、礫洲イヘルニハ、壁（切符ノ壁ナリ）ニテ常常稽古スルカヨキトイヘリケレバ、オノレ即カノ壁ヲ拵ヘ試ミタリ、ソノ流儀ハ片山伯耆流ト云ヘリ」

ゐあひぬき（名）〔居合抜〕 居合ヲナスコト。又、ソノワザ。又、ソノモノ。香具師ナド、路傍ニテ餘興トシテ演ジタリ。 香具師一件、乍恐以書付御答奉申上候「十三香具ト申職業ハ、云云、居合抜ヲ以賣藥仕候居合抜、獨樂廻、云云」

ゐあん（名）〔慰安〕〔集韻「慰、音尉、同レ慰、安レ之以撫二其情一也」〕ナグサメヤスムズルコト。キヤスメスルコト。 漢書、車千秋傳「數問九多、羣下恐懼、思下欲寛二廣上意一、尉中安衆庶上」正字通「慰、通作レ尉」

ゐあを（名）〔位襖〕〔位ニヨリテ染色ヲ異ニスル襖ノ意〕 あを（襖）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。 近衞府式「少將已上、龍蕃ニ位襖、横刀、靴、云云、將監已下府生已上、龍鬼纓、位襖、白布帶」

ゐい（名）〔藺〕〔藺ノ延〕 ゐ（藺）ト云フニ同ジ。 内膳司式「尾張國、藺伊[illegible]」

ゐい (名) [遺意] 先人ノノコシタル志。又、故人ノノコシタル意思。 後漢書、劉愷傳「[illegible]、致二國弟憲一、遁亡七年、所レ守彌篤」

ゐい [委蛇] [委移] [illegible]蛇之蛇、亦作委移」 (一)クネクネト曲リタル狀ニ云フ語。 楚辭、九歌「[illegible]」 (二)オチツキハラヒテ、アセラヌ狀、又ハ、ユタリセル狀ニイフ語。 [illegible] (三)恐ル恐ル歩ムトキノ狀。 [illegible]」

ゐい・あは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 〔ゐいハ、[illegible]ノ延、ゐノ作ヲ見ヨ〕 ヒキホアハスル。

ゐいう (名) [畏友] 畏懼シテ崇敬スベキ友人。 [illegible]之、使ニ人若[illegible]友之[illegible]、不敢[illegible]一毫不善[illegible]」

ゐうか・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 居浮 すみうかる 住浮 ニ同シ。 [illegible]行「昔ヨリ住ミツキタル里人ノ、今更ゐうかれンコソ、彼ノ伏見里ナラネドモ、荒レマク惜シク思ユレ」

ゐえき (名) [胃液] 胃腺ヨリ分泌スル無色透明ナル消化液。蛋白質ヲぺぷとんニ變ゼシムル作用アリ。

ゐおう (名) [威應] 威光ノ他ニ感應スルコト。威嚴ノ他ニ及ボスコト。 盛衰記、十九、文覺[illegible]面事「性稟ヤウニシテ人ニ威應ナシ」サレバ威應アリテ穩シカランニハ[illegible]殿ヲ見奉ルニ、心[illegible]穩シテ威應ノ相御坐ス」

ゐおん (名) [遺恩] 故人ノノコサレタル恩惠。又、故人ヨリ受ケタル恩澤。 後漢書、[illegible]十九、[illegible]「爭デカ遺恩ヲ忘レ、忽チニ反むアランヤ」

ゐかい (名) [位階] クラヰノシナ。ノぶ(位)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]六、[illegible]六、[illegible]月「[illegible]五位以上[illegible]、以[illegible]次」

ゐかい (名) [遺誡] ゆゐかい (遺誡) ニ同ジ。 後漢書、[illegible]」

ゐがい (名) [遺骸] ゆゐがい (遺骸) ニ同ジ。ナキガラ。死骸。亡骸。 白居易、七德舞「亡卒遺骸散帛收、饑人賣子分金贖」

ゐかいちやう (名) [居開帳] 他ノ地方ノ寺院ニ出デズシテ、其本地、又ハ、本寺ニテ行フ開帳。例へバ、淺草寺ノ觀世音ノ開帳ノ如キ類ナリ。(出開帳ニ對ス) 德川禁令考、四十二、享和二年「居開帳差免度儀、御書面[illegible]行[illegible]、[illegible]之儀、外ニ差障モ無之候ハバ、云云、[illegible]不[illegible]候儀ト存候」

ゐかう (名) [遺香] アトニノコレルカヲリ。ウツリガ。遺薰。殘香。餘香。

ゐかう (名) [遺稿] 死後ニノコリタル草稿。死者ノ生前ニ書キオキタル原稿。 沈約、[illegible]六常集序「[illegible]遺稿必[illegible]、[illegible]改存[illegible]多」

ゐがう (名) [位號] クラヰノトナヘ。位ノ稱號。 續紀、二十六、大寶元年三月「始依二新令一、改二制官名、位號一云云、改二位號一進レ爵、各有レ差」

ゐかがま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [居屈] 坐リテ屈マル。 太平記、十三、兵部卿薨御事「宮ハ半年バカリ牢ノ中ニ居屈まらせ給ヒタリケレバ」

ゐかく (名) [威嚇] オドスコト。オドカスコト。威迫。脅嚇。

ゐかく・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [illegible]

ゐがさ (名) [藺笠] 藺ニテ編ミ作リタル笠。 [illegible]

ゐカタル (名) [胃加答兒] 胃ノ粘膜ノタダルル病。暴飲暴食、又ハ、不消化物、若シクハ、腐敗物ナドヲ食ソコリ起ル。嘔吐、下痢、腹痛、又、便秘ナドヲ起シ、或ハ、發熱スルコトモアリ。

ゐかは・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [居替] カハリテ居ル。 [illegible]四十六、[illegible]「[illegible]曉方ノゐかはりタル聲ノ、イトタフトキニ、云云」

ゐかひ (名) [猪養] [猪甘] 古へ、官ノ御料ニ供スル家猪ヲ飼ノ職。 古事記、下、安康[illegible]「答曰、我者山代之猪甘也」

ゐかひ (名) [居飼] 院ノ御廐、又ハ、家司ノ別當ノ下ニアリテ、牛馬ヲ預ルモノ。 名目抄、院中「舍人、居飼」 吾妻鏡、廿三、建保六年五月廿七日「行列、居飼四人(二行)、云云」

ゐかん (名) [遺憾] ノコリヲシキコト。心ノコリノスルコト。殘念。 杜甫、遣悶「[illegible]、[illegible]曰、首尾結構、無二[illegible]遺憾一」

ゐがん (名) [胃癌] 胃ノ腑ニ生ズル惡性ノ腫物。かく(膈)、及、がんしゅ(癌腫)ノ條ヲ見ヨ。

ゐがら (名) [藺柄] ほそゐ(細藺)ノ條ヲ見ヨ。

ゐき (名) [域] [廣雅、釋詁[illegible]域、園也」周禮、[illegible]注「域、界也」[illegible]サカヒ。又、ソノ區域。 [illegible]

ゐき [illegible] (一)[illegible] (二)[illegible]人物。 [illegible]

ゐき (名) [遺棄] スツルコト。ステオクコト。 [illegible]

ゐき (名) [illegible] ナガヤリニスルコト。ウチスツルコト。 [illegible]

ゐき (名) [illegible] ヨセアツメテ、節類ワケシシルスコト。

ゐき (名) [位記] 敍位ノ旨ヲシルシタル文書。 續紀、二十、大寶元年三月「始停[illegible]、[illegible]位記」 [illegible]九月[illegible]位記」 [illegible] 開集、五、和歌[illegible]、[illegible]ノ[illegible]給テ、俗都ニナシタマヒケルヲ、玄賓、位記ヲ木ノ枝ニサシハサミテ、和歌ヲ書キツケテ、云云」

ゐぎ (名) [居木] [尻ノハマリ居ル木ノ意] 鞍ノ上、尻ノ當ル所。鞍瓦。 [illegible]記「[illegible]上ノ事、クラボネハ兩ノゐぎノ兩ニ[illegible]」

ゐぎ (名) [威儀] (一)禮ノ細カナル法則。 中庸、[illegible]廿七「[illegible]禮儀三百、威儀三千」 (二)容儀、動作ノイカメシキコト。 詩經、大雅、生民之什、假樂「威儀抑抑、德音秩秩」 儀禮[illegible] 凡儀[illegible]、[illegible]也、[illegible]威儀、故曰[illegible]「威儀容堂」 (三)佛教ニテ、坐作進退ノ威德アリ、儀則アルコト。因リテ、行、住、坐、臥ヲ四威儀ト云

フ。法華經、序品「又見具戒威儀無缺」

ゐき-ぐゎい（イキ・ガイ）（名）［域外］〔域内ニ對ス〕サカヒノソト。區域ノ外。境外　[illegible]文帝、護國寺銘「功超域外、道過寰中」

ゐ-ぎ-し（イギシ）（名）［威儀師］僧ノ職。法會、授戒ナドノ時ハ、儀式ノ事ヲ掌リ、衆僧ノ進退作法ヲ指揮スルモノ。治部省式「凡威儀師已上井從威儀師、及諸國講讀師補任帳各一卷」狹衣、一、上「廿一仁和寺ニ何ガシ威儀師、云云」

ゐき-ない（イキナイ）（名）［域內］〔域外ニ對ス〕サカヒノウチ。區域ノ內。境內。

ゐ-きゃく（イキャク）（名）［違格違却］〔格式ニ違フ意〕フツガフ。フラチ。書言字考節用集、八、言辭門「違格、格則格式也、見二職原抄一、又用二違却字一」薩摩歌（寶永、近松作）一「スレバ入ラヌ化粧ワザ、何トモ違格千萬ト、云云」

ゐ-きょく（イキョク）（副）［委曲］〔說文「委、隨也」徐鉉曰「曲也、从禾垂穗、委曲之貌」トアリテ、詳悉ノ義〕クハシク。ツバラニ。委細。論語、公冶長篇、集解「乞之四隣以應求者、用意委曲、非爲直人」鮑照、詩「備聞十帝事、委曲兩都情」南史、何遠傳「能委曲用意」

ゐ-く（イク）（名）［畏懼］オソルルコト。戰國策、秦策「嗟乎、貧窮則父母不子、富貴則親戚畏懼」

ゐ-ぐさ（イグサ）（名）［藺草］ゐ（藺）ノ條ヲ見ヨ。

ゐ-ぐせ（イグセ）（名）［居曲］舞ノ作ナハヌ能ノ曲例ヘバ「井筒」「安宅」ナド。

ゐ-ぐち（イグチ）（名）猪口　菌（キノコ）ノ名。秋、多ク濕地ニ生ズ、蓋（カサ）ノ面、褐色ニシテ、端、反（ソ）リ卷クコト、猪ノ口ノ如シ。裏ハ黃白ニシテ、刻ミナク、滑ニシテ孔アリ。毒アリ。羊肚菜　黃蕈　書言字考節用集、六、生植門「[illegible]、イグチ、本草、[illegible]生山中、黃色而[illegible]」和漢三才圖會、百一、芝栭類「羊肚菜、俗云爲久知、按、今云兎口（ウサギ）乎、八月中、遍到多生、其猪頭褐色、端曲把、裏黃白色、細刻、滑而有孔、如蜂巣、有毒、不可食」

ゐ-ぐつ（イグツ）（名）［藺履］緒太草履（ヲブトザウリ）（其條ヲ見ヨ）ノ裏ツケザルモノ。ウラナシ。榮花物語、十七、音樂「僧ドモノ、形清ゲニ、云云、十、二十人續キ立チタリ、コノナリドモ、樣樣イミジウツキヅキシクシテ、ゐぐつドモヲハキタリ」

ゐ-くび（イクビ）（名）猪頸〔古代ノ兜ノ錏（シコロ）ハ、大ニシテ、肩マデ覆ヒ、頸ノクビレナシ、猪ノ頸（クビ）ノ如シ〕（一）人ノ頸ノ、短クシテ、猪ノ如キモノ。增補下學集、上、二、支體門「猪頸（キクビ）」（二）兜ヲ少シアフノケテ着ル狀ニ云フ。（敵ノ矢モ刀モオソレヌ勇ナドニ）保元物語、二、白河殿義朝夜討被寄事「黑革縅ノ鎧ニ、五枚冑ヲ猪頸ニ着」

ゐ-ぐひ（イグイ）（名）［居食］活業（スギハヒ）ナクテ、居ナガラ、食糧ヲ盡スノミナルコト。坐食　櫻陰比事（元祿、西鶴）一「孫曾孫（ヒマゴ）マデ居食ニシテモ、コノ貯ヘ盡クル世アラジ」

ゐ-ぐひ（イグイ）（名）［堰杙］堰（キセキ）ニ打チ竝ブル杙。字鏡四十九「杙、井久比」古事記、中（應神）七十「依網（ヨサミ）ノ池ノ、韋具比打チ、云云」應神紀、十三年九月「依網ノ池ニ、云云、委區比ツク」

ゐ-くん（イクン）（名）［偉勳］拔羣ノ功。偉功。

ゐ-くん（イクン）（名）［遺訓］又、ゆゐくん。遺言ノ訓（ヲシヘ）。遺誡　國語、周語「肅恭明神、而敬事耇老、賦事行刑、必問於遺訓、而咨於故實」

ゐ-くん（イクン）（名）［遺薰］ゐかう（遺香）ニ同ジ。

ゐ-ぐら（イグラ）（名）［居座］網代（アジロ）ノ番人ノ、坐リテ居ル場所。堀河百首、冬「氷魚ノ寄ル、タビニゾ拂フ、田上ヤ、ゐぐらニ打テル、網代木ノ布」

ゐ-くゎいやう（イカイヨウ）（名）胃潰瘍〔潰瘍ハ、爛レ損ズルコト〕胃ノ粘膜ノ腐爛スル病、心臟病、黴毒、結核、胃ノ外傷ナドヨリ起リ、胃部ノ劇痛ヲ感ジ、食後ニ胃痛ヲシ、赤褐色ノ吐血ヲナシ、暗褐色ノ糞便ヲ排出スルモアリ。

ゐ-くゎう（イコウ）（名）［威光］勢ノ畏レ敬フベキコト。又、人ヲシテ畏敬ノ念ヲ起サシムル德ノ力。犯シ難キ威嚴。威勢。參同契（漢、魏伯陽）「金復其故性、威光鼎乃燒」太平記、廿六、執事兄弟奢侈事「一時モ更ニ絕エザル佛法常住ノ燈モ、威光ト共ニ消ハテヌ」

ゐ-くゎくちゃう（イカクチョウ）（名）［胃擴張］胃囊ノ擴張スル病。暴食、慢性胃加答兒、胃癌、胃ノ幽門狹窄ナドニヨリテ、胃筋ノ衰弱弛緩スルヨリ起ル。胃部ノ壓覺、食慾缺乏、噯氣（オクビ）、嘈囃（ムネヤケ）、胃痛、食後大量ノ嘔吐、又ハ、便祕ナドアリ。

ゐ-くゎん（イカン）（名）［偉觀］偉大ナル觀物。見ゴトナルミモノ。壯大ナルミバエ。

ゐ-くゎん（イカン）（名）［尉官］陸海軍武官ノ大尉、中尉、少尉ノ稱。（將官、佐官ニ對ス）

ゐ-け（イケ）（名）［藺笥］又、ゐゐけ。藺ヲアミテ作リタル飯ヲ盛ル笥。名義抄「藺笥、ヰケ」四時祭式、下「炊、云云、盛、藺笥、納、[illegible]、葉」儀式、二、踐祚大嘗祭「河內國、藺笥廿合」

ゐ-けい（イケイ）（名）［畏敬］オソレウヤマフコト。大學「之其所畏敬而辟焉」

ゐ-けい（イケイ）（名）［遺計］（一）ハカリゴトヲ死後ニノコシ留ムルコト。遺策。（二）遺漏アルハカリゴト。又、ハカリゴトニ遺漏アルコト。遺計、[illegible]漢書、[illegible]

ゐけい-ざい（イケイザイ）（名）［違警罪］〔[illegible]ト[illegible]〕掟ニ違フ罪。即チ、舊刑法ニテ、司法警察官ノ處分シ得ル拘留、又ハ、科料ニ相當スル輕キ罪。今ノ警察犯處罰令ニヨリテ罰スル罪ニ當ル。

ゐけい-れん（イケイレン）（名）［胃痙攣］胃ニ痙攣ヲ起スコト。即チ、胃ノ收縮、及、弛緩ガ、一定ノ調節一テ急速ニ反復シ來ルナリ。

ゐ-けう（イキョウ）（名）［遺敎］ゆゐけう（遺敎）ニ同ジ。漢書、地理志「其民有先王遺敎」

ゐ-げげ（イゲゲ）（名）［藺下下］〔下下（ゲゲ）ノモノノ穿（ハ）ク藺草履ノ意〕履物（ハキモノ）ノ名。藺ニテ作リタル草履。昔、女ナドノハキタルモノ。ゐげげ（下下）ノ條ヲ見ヨ。キノゲゲ。キコンガウ。安齋隨筆、前編、七「げげ、ワラノげげト云ハ、常ノワラザウリ也、ゐのげげト云ハ、藺ガラニテ作リタルざうり也」成氏年中行事、正月「同廿三日、鶴岡御社參、云云、御參役、御輿ノ左ノ方ヨリ廻テ、御いげげヲメサセ申」

ゐ-げた（イゲタ）（名）［井桁］（一）井ノ緣ヲ、木ニテ方形ニ組ミタルモノ。（井筒ニ對ス）井欄　謠曲、[illegible]「深キ井桁ノ切ルナルハ、欄井ノ釣瓶繩」（二）紋所ノ名。井桁ノ形ヲ菱形ニ描キタルモノ。種類多シ。

ゐ-げふ（イギョウ）（名）［遺業］死後ニノコセル事業。故人ノノコシタル事業。漢書、鄧陽傳「今天子新據先帝之遺業、左規山東、右制關中」

ゐ-げふ（イキョウ）（名）［偉業］偉大ナル事業。大業。鴻業。丕（ヒ）業。

ゐけん（[illegible]）[[illegible]] 威光ト、權柄ト。威勢ト權力ト。[illegible] 政權ハ移ニ流世安ニ」師古注「今ハ政權當時ニ於己ニ」

ゐけん（名）[違憲]（一）オキテニ違背スルコト。違法。後漢書、第五倫傳「寛以ニ法則傷ニ恩、私以ニ親則違ニ憲」（二）憲法ニ違反スルコト、又、憲法政治ニ違フコト。

ゐけん（名）[遺賢] 世間ニ見出サレズニ、民間ニ居ル賢人。書經、大禹謨「野無ニ遺賢ニ萬邦咸寧」

ゐげん（名）[遺言]（一）ゆゐごん（遺言）ニ同ジ。[illegible]「[illegible]遺言ニ」[illegible]内藏ヲヒラキ、親類中立合是ヲアラタメ、ソレゾレニ[illegible]ノゐげん、云云」（二）故人ノノコシオケル言。禮記、緇衣篇「人而無ニ恆、不可以爲ニ卜筮ニ、古之遺言與、[illegible]」吾妻鏡、二、治承五年二月四日「平相國薨、云云、遺言云、[illegible]以後、可ニ有ニ葬之儀ニ云云」

ゐげん（名）[威嚴] イカメシキコト。威光アリテ、オゴソカナルコト。史記、循吏傳、序「奉職循理、亦可以爲治、何必威嚴哉」

ゐげん（名）[違言] 條理ニ違背セル言葉。又、サカラフ言葉。左傳、隱公十一年「鄭、息有ニ違言ニ」杜注「以ニ言語ニ相違恨也」

ゐこ（名）[遺孤] 死後ニノコシタルミナシゴ。ワスレガタミ。遺子、遺兒。三國志、[illegible]「[illegible]有ニ存者ニ遺孤老弱」

ゐご（名）[圍碁・圍棊] 碁ヲ打ツコト。一名、手談。[illegible] 徒然草、第百十一段「圍碁、雙六好ミテ明シ暮ス人ハ、云云」

ゐご（[illegible]）[遺語] 古ヘノノコレル語、[illegible]

ゐご（[illegible]）[違期] 期限ニ違フコト。日限ヲ經過スルコト。保元物語、三、爲朝生捕リ流罪ニ[illegible]以前ノ事ハ合戰ノ習ナレバカナシ、事既ニ違期セリ」

ゐこう（名）[偉功] スグレタル手柄。

ゐこう（名）[遺功] 死後ニマデノコリトドマリテアルテガラ。

ゐごこち（名）[居心地] ヲルココロモチ。居ル具合。又、スミゴコチ。ヰゴコロ。

ゐごころ（名）[居心] 前條ノ語ニ同ジ。俳諧新選、秋「一ツ家ノ、居心問ハン、花野原」

ゐこぞ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[居擧] 殘ラズ集マリ坐ル。ヰアツマル。發心集、八、第十一條「興福寺ノカタニハ、人多クゐこぞりテ、イミジウ賑カナリ」

ゐこつ（名）[遺骨] 又、ゆゐこつ。死者ノホネ。火葬シテアトニノコリタル骨。通鑑、陳文帝紀「齊人收ニ永安上黨二王遺骨ニ葬ニ之」

ゐごばん（名）[圍碁盤] ごばん（碁盤）ニ同ジ。宇治拾遺、三、第五條「湯ブネニ湯桶ヲ下ニ取リ入レテ、ソレガ上ニ圍碁盤（流布本、圍ノ字ナシ）ヲ、ウラ返シテオキテ、筵ヲ引キオホヒテ」

✧✧ゐこぼ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）[居溢] アフルルホド、充滿シテ居ル。

ゐこぼ・れる（動）[居溢] 前條ノ口語。

ゐこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）[居籠] 中ニ居ル。中ニスワリコム。大鏡、下、道長「居こみたりツル人モ、皆クヅレ出ヅル程ニ、云云」

ゐこ・む・[illegible]（他動、下二）[居籠] 中ニ[illegible]。[illegible]ハ、ナカナカニゐこめラレズ」

ゐこん（名）[遺恨]（一）ノコリヲシトウラムルコト。[illegible]念。遺憾。杜甫、[illegible]「到レ今有ニ遺恨ニ不レ得レ窮ニ扶桑ニ」（二）永ク心ニ仇トシ思フコト。[illegible]宿怨。[illegible]物語、一、殿下乘合事「幼キ者ニ恥辱ヲ與ヘラレケルコソ、遺恨ノ次第ナレ」

ゐこんがう（名）[藺金剛] 藺ニテ作リタル履物ノ名。こんがうざうり（金剛草履）ノ[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]伊勢守貞陸「クラヰノ人ハ、ゐこんがうタルベシ、アシダハ黑塗、草履ハシモベガタノ事ナリ」

ゐさい（名）[偉才] 偉大ナル才能。ト器ノスグレタルコト。又、其人。謝朓、酬德賦序「右衞沈侯、以ニ冠世偉才ニ眷ニ予以ニ國士ニ」

ゐさい（副）[委細] クハシク。ツブサニ。委曲。太平記、廿七、雲景未來記事「此所ヘ尋來給ヘバ、委細ノ物語ヲ申也」

ゐざい（名）[遺財] 故人ノノコシタル財產。遺產。古[illegible]、三、脩行「房中可ニ然弟子後見ナドヲ召寄セテ、令ニ注ニ遺財等ニ」

ゐさいしょうちのすけ（名）[委細承知之助]（擬人語）萬事ヲ承知シテ居ルコト。（領承ノ詞ニ云フ）又、早呑込ミシテ、委細承知シマシタト、口癖ニ云フ人ヲモ云フ。早呑込。略シテ、承知之助。

ゐざいそく（名）[居催促] 其座ヲ去ラズ催促スルコト。スワリ込ミテ催促スルコト。浮世風呂（文化、三馬）三編、下、跋「例ノ懶惰ニテ、去年モ竟ニ間ニ合ハズ、執レコトシノ[illegible]ホニト、强ニ從イタル居催促」

ゐさう（名）[遺草] ゐかう（遺稿）ニ同ジ。[illegible]

ゐざかや（名）[居酒屋] 店內ニテ酒ヲ飲マスル酒屋。[illegible]「居酒屋ヤ、愛相ニ植エシ、庭ガラシ」

ゐさく（名）[遺策]（一）策略ニ遺漏ノアルコト。[illegible]（二）故人ノ遺シタル策。[illegible]

ゐさく（名）[違作] 作物ノ實リ惡シキコト。作柄ノ違フコト。不作。凶作。

ゐざけ（名）[居酒] 居酒屋ニテ酒ヲ飲ムコト。又、ソノ酒。[illegible]「居酒飲マント、頰カブリ」

ゐさふらふ（名）[居候] 他人ノ家ニ住ミテ、養ヒヲ受クル者。略シテ、[illegible]。寄食者。食客。浮世風呂（文化、三馬）二編、下「[illegible]里ヘ行テ、居候ニナ[illegible]」

ゐざま（名）[居樣] 坐リタル容子。ヰズマヒ。坐作。

ゐさん（名）[遺產] 人ノ死後ニノコリタル財產。又、ノコシタル財產。遺財。

ゐさん（名）[違算]（一）算當ノチガヒタルコト。勘定チガヒ。（二）[illegible]ノハヅルルコト。又、計畫ノ相違スルコト。アテチガヒ。ケントウチガヒ。

ゐさん（名）[胃酸] 胃液中ノ酸類。[illegible]飲[illegible]食ナドノ時、多ク出ヅ。

ゐざんまい (名) ゐざまトゐずまひトノ混訛。スワリヤウ。

ゐさらひ (名) 【臀】〔膝行ノ延ト云フ〕身ノ、坐ル時、席ニ着ク處。即チ、尻。ヰシキ。ケツ。オキド。 倭名抄、三、身體類「臀、井佐良比、坐處也」 名義抄「尻、ヰサラヒ、シリ」 增補下學集、上、二、支體門「臀、サラヒ、シリ」

ゐさり (名) 【未底犂底】〔膝行ルガ如キ義ト云フ〕犂ノ底ノ、土ニ着ク處。トコ。 倭名抄、十五、田獵耕具「未底、爲佐利」

ゐさり (名) 【膝行】ヰザルコト。坐リナガラ行クコト。 運歩色葉集「膝行、イサリ」 兼盛集、戀「アフコトノ、カタゐさりスル、ミドリ子ノ、タタン月ニモ、アハジトヤスル」

ゐざり (名) 【躄】〔前條ノ語ニ同ジ〕足ノ立タヌ不具。カタハ。コシヌケ。躄者。 和漢三才圖會、十、人倫之用「躄、ヰサリ、コシヌケ、俗云爲左利」 狂言記、三人片輪「高札ノ面ニツイテ、參ッタ躄デゴザリマス」

ゐざりうを (名) 躄魚 硬鰭類ノ魚ノ名。長サ三寸内外、背ハ側扁セルモ、腹ハ肥大シ、口ハ稍大キク、斜ニ上向ス。鱗ナク、體面ニ小瘤小刺アリ。第一背鰭ハ三ツニ分レ、最前方ノモノハ竿狀ヲナシ、先端ハ二裂シテ、小葉ヲ着ケタル如シ。色、種種多ケレドモ、普通ハ暗灰色ニシテ、黑褐色ノ斑アリ、我ガ國、南海ノ沿岸ニ產ズ。一名、ツリンボ。

ゐざ・る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 【膝行】〔膝行る、ノ義〕(一)坐リナガラ進ミ行ク。膝行ス。 宇治拾遺、[illegible]、上ノ御ユカノハシノ方ニゐざり入リテ、東向キニオハス」 (二)尻ヲ地ニツケテ進ミ動ク。 宇治拾遺、二、第一條「ウチゐざりゐざり折リツツ、三町ヲサナガラクヒツ」 (三)〔水、少量ニシテ、舟アシ遲シ。 土佐日記、二月九日「舟ヲヒキツツ上ボレドモ、川ノ水ナケレバ、ゐざりニノミゾゐざる」

ゐし (名) 【遺志】生前ノ志。故人ノノコシタル意志。 高允、郡國建學表「申ニ祖宗之遺志、興ニ周禮之絕業ニ」

ゐし (名) 【遺子】死後ニノコシタル子。ワスレガタミ。遺孤。遺兒。遺胤。

ゐし (名) 【遺址】昔、建物ナドノアリタルアト。遺跡。址跡。 袁皓、梵林寺詩「梵林遺址在ニ松蘿ニ、四十年來兩度過」

ゐし (名) 【遺矢】〔廣韻「屎、本作レ矢」〕居ナガラ大小便ヲモラスコト。ホビタリ。 史記、廉頗傳「趙使還報王曰、廉將軍雖レ老、尚善飯、然與レ臣坐、頃之三遺矢矣」

ゐし (名) 【位子】古ヘ、大寶令ノ制ニ、内六位以下、八位以上ノ嫡子、年齡二十一以上ニシテ任官ナキモノヲ、每年、京國ノ官司、勘試シテ三等ニ分チ、就官セシメシヲ云フ。 續紀、四、和銅元年四月「制、良人位子、无蔭之日、浪入ニ常選ニ、白丁官名、預ニ良人例ニ、此色且多、是由ニ式部不ニ察之過ニ焉、今宜ニ按覆搜實、申知ニ其式部史生已上、若能知ニ其白首者、免ニ其罪ニ、終隱執不ニ首者、准ニ律科ニ罪、亦其位子准ニ令、嫡子唯得ニ自用ニ、庶子不ニ合、今即兼用、此亦式部違ニ令、若其庶子雖ニ授ニ位記ニ、皆追ニ還本色ニ、但其才堪ニ時務ニ、欲ニ從ニ良人例ニ者聽之、云云、又、諸位子良人堪ニ省名籍ニ、皆令ニ本部染ニ記、臨ニ用式部乃下ニ本部ニ追召セ之ニ」

ゐし (名) 【闈司】古ヘ、後宮ノ管鑰ナドヲ掌リタル女官ノ司。尚闈、典闈、女孺ナドヲ置ク。 後宮職員令「闈司」 同義解「掌ニ宮閤管鑰、及出納之事ニ」

ゐじ (名) 【遺兒】(一)ゐし(遺子)ニ同ジ。(二)遺棄シタル兒。ステゴ。棄兒。

ゐじ (名) 【遺事】(一)古ヘヨリノコサレタル事柄。 崔瑞堂、正月十五日詩「舊家遺事今宵見、楚郭明燈幾處張」 (二)死後ニノコリタル事柄。

ゐじ (名) 【位次】位階ノ高下ニ依ル座席ノ次序。席次。席順。 史記、陳丞相世家「以ニ絳侯勃ニ爲ニ右丞相ニ、位次第一」 公式令「凡文武職事散官、朝參行立、各依ニ位次ニ爲ニ序」

ゐじか・る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) スワル。坐ス。(畿内) 物類稱呼、五、言語「居ルト云フ事ヲ、云云、畿内ニテ、ゐじかるトイフ」

ゐしき (名) 【居敷】〔居敷く、ノ名詞形〕座。席。座席。 神功紀、四十九年三月「敷ニ草爲ニ坐、恐見ニ火燒ニ」

ゐしき (名) 【遺式】昔ヨリ、ノコリ傳ハレル方式。 宋書、孝武帝紀「禮ニ九疑於營唐ニ、祀ニ蓬萊於渤海ニ、皆前載流訓、列聖遺式」

ゐしき (名) 【違式】掟ニソムクコト。 宋史、呂蒙傳「借ニ官舩ニ作ニ酒、以ニ私貨ニ往ニ河東ニ貿易、及ニ違式ニ」 刑部省式「凡格式立ニ制、不ニ定ニ其罪ニ、律有ニ本條ニ依ニ律罪ニ之、不ニ然ニ違式科ニ」

ゐしき (名) 臀 〔居底ノ義、底ヲゐしきト云フ〕 國語、周語、注「臀、尻也」 韻會「臀、底也」 易經、上經、困卦、注「臀、最處ニ底下ニ」 ヰサラヒ。尻。オキド。 浮世風呂(文化、六、馬)三編、下「イカイコト尻ヲオ並ベダ」

ゐしきあて (名) 【臀當】〔居底當ノ義〕衣服ノ裏ノ臀ノ當ル所ニ、ツクル切地。シリアテ。

ゐし・く ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 【居敷】ザマヅキ、スワル。シャガム。 狂言記、投殺「醉ハ致シマセヌガ、暫ク居敷いテ居リマシタニ依ッテ、シビリガキレマシタ」

ゐしつ (名) 【違失】アヤマツコト。シクジリ。失敗。過失。 後漢書、[illegible]「[illegible]以ニ仁賢ニ、無ニ使ニ幽遠有ニ違失ニ」

ゐしつ (名) 【遺失】トリオトスコト。ワスルルコト。遺忘。 史記、鄒陽傳「其指微深妙、多所ニ遺失ニ」 扶桑略記、[illegible]、神護景雲三年六月「次第之此[illegible]遺失矣」

ゐしつ (名) 【委悉】クハシク細カナルコト。ツマビラカニツクスコト。 北史、韓顯宗傳「著作之任、國書是司、[illegible]臣自委悉」

ゐしづま・る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 【居鎭】座ニ居リ鎭マル。座ニオチツク。 神代紀、下「於是[illegible]八重席薦、以延內之坐、定、因問ニ其子意ニ」

ゐしふ (名) 【蝟集】はりねずみノ毛ノ如ク、多ク寄リ集マルコト。タカルコト。 命安期賦「[illegible]以天[illegible]、[illegible]蝟集而鱗襍」

ゐしん (名) 【遺臣】主君滅亡シテ、アトニノコリタル舊臣。亡國ノ臣。又、前朝、又ハ、先代ヨリノコレル家來。

ゐしん (名) 【威信】威光ト、信實ト。又、威光ヤ、信用。 後漢書、郭伋傳「聞ニ伋威信、遠自ニ江南ニ、或從ニ幽冀ニ、不ニ期俱降ニ」

ゐしん (名) 維新 〔詩經、大雅、文王之什、文王篇「文王在レ上、於昭ニ于天ニ、周雖ニ舊邦ニ、其命維新」〕(一)萬事、新規ニナルコト。(二)明治維新ノ略。明治元年ニ於ケル政道ノ大改革。

ゐしん (名) 【偉人】偉大ナル人。世ニ傑

出シタル人。大人物。巨人。偉器。三國志、[illegible]

ゐしゃ (名) [illegible] 也。ナクナメク、ケルコト。[illegible]

ゐじゃく (名) 胃弱 胃ノヨワリタル病。

ゐしゅ (名) 遺珠 「莊子、天地篇「黄帝遊乎赤水之北、登乎崑崙之丘、而南望還歸、遺其玄珠」ヨリ出ヅ」(一)ノコサレタル珠。[illegible]何」(二)世人ニ知ラレズシテ、取リ殘サレテアル詩歌ナドノ傑作。

ゐしゅく (名) 畏縮 オソレチヂムコト。オヂケルコト。チヂミアガルコト。[illegible]

ゐしゅく (名) 萎縮 ナエチヂムコト、シナビタルコト。又、衰ヘシボムコト。

ゐじゅん (名) 違順 意ニ滿タザル境遇ト、意ニ適フ境遇ト。徒然草、第二百四十二段「違順ニ使ハルルコトハ、ヒトヘニ苦樂ノ爲ナリ」

ゐしょ (名) 遺書 (一)死後ノタメニ書キノコサレタル文書。カキオキ。遺言狀。棠陰比事、宋、桂萬榮「遂呼ニ族人ニ爲ニ遺書ハ、悉以ニ財屬ニ女」(二)亡逸シタル書籍。佚書。漢書、成帝紀「謁者陳農使、使ニ求ニ遺書於天下ニ」(三)先賢ノ著ハシテ、後代ニノコサレタル書物。遺著。陶潛、感ニ士不遇ニ賦「奉ニ上天之成命ニ、師ニ聖人之遺書ニ」

ゐしょ (名) 位署 古ヘ、官位、姓名ヲ連ネテ公文ニ書スル法。官ト位ト相當スルトキハ、官ヲ上ニシ、中納言[illegible]位、某ノ如シ。官位相當セザレバ、位ヲ上ニシテ、位、高ク、官、卑キハ、行ノ字ヲ[illegible]、正二位行[illegible]ノ如シ。官、高ク、位、卑キハ、守ノ字ヲ置フ、從四位、守、[illegible]ノ如シ。[illegible]ハ、相當ノ官ヲ上ニシテ、餘官ハ、高クトモ下トス、中納言、兼、彈正尹、從二位ノ如シ。其書法ヲ位署書ト云フ。署銜 著聞集、五、和歌「披講ノ時、コレヲ披キ見ルニ、位署讀ニ題ハカリヲカキテ、云云」[illegible]位署、官位姓名ヲ書連ルコトヲ位署ト云フ、和歌トモニ、書法ノアルコトナリ」

ゐしょう (名) 稱唯 「稱唯ハ、讓位ト音相近キ故、忌ミテ逆ニ云フ」召シニ應ジテ、おおト答フルコト。いしょう(稱唯)ノ條ヲモ見ヨ。

ゐしょがき (名) 位署書 前前條ノ語ヲ見ヨ。

ゐしょく (名) 遺囑 ゐぞく(遺囑)ニ同ジ。寂室和尚行狀「遺無ニ復可ニ口、遺囑遺偈」

ゐしょく (名) 委囑 又、ゐぞく。ゐたく(委託)ニ同ジ。

ゐしょく (名) 居職 工匠ナドノ業ノ如ク、其家ニ坐リ居テ仕事ヲスルコト。又、其職業。坐職。

ゐじ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) ニジリヨル。ネヂヨル。ジリジリト寄ル。

ゐしろ (名) 居城 きょじょう(居城)ニ同ジ。甲陽軍鑑、十、下、品第三十三「其ウヘ、四郎勝賴ガ居城ニテ、次ノ日マテ亂取オホシ」

ゐ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 委 [illegible]

ゐ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 慰 ナグサム。イヤハル。[illegible]

ゐすがた (名) 居姿 ヲルスガタ。キズマヒ。又、スワリタルスガタ。吉野忠信(寶永、近松作)三「ヤド屋入ノトビ足、座敷ハヌキアシシヅヤカニ、居姿ハ[illegible]ソホヒハ、云云」

ゐすくま・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 居竦 居ナガラ、スクマル。其場ニスクミテ、動カレズ。ヰスクム。

ゐすく・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 居竦 前條ノ語ニ同ジ。榮花物語、廿四、若枝「女房達ゐすくみテ、タツココチイトワビシ」

ゐすぐり (名) 居勝 我ガ陣中ニ、敵ノ混入セルヲ慮リ、豫テノ諜合ニヨリ、急ニ居スワリテ、擧動不審ナルモノヲ見出スコト。太平記、三十四、和田夜討事「夜討、強盜ヲシテ歸ル時、立勝リ居勝リト云事アリ、是ハ、約束ノ聲ヲ出シテ、諸人同時ニ颯ト立、颯ト居、カクテ、敵ノ紛レ居タルヲエリ出サン爲ノ謀ナリ」

ゐずまひ (名) 居住 「たたずまひニ對ス」スワリタル狀。キザマ。キスガタ。坐作。名義抄「坐作、キスマヒ」枕草子、七、第六十八段「其、云云、オトリタル人ノゐずまひモ、カシコマリタルケシキニ、ゴバンヨリハスコシトホクテ」

ゐすわり (名) 居坐 (一)キスワルコト。進マズ退カヌコト。進退セザルコト。(二)取引所ノ語。相場ガ、ソノママニシテ變ハラヌコト。

ゐすわ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 居坐 (一)[illegible]セズ。(二)モノノ、ソノママニテ變ハ[illegible]セズ。

ゐすゐ (名) [illegible]

ゐせい (名) 遺世 「世ニ遺フル義」死スルコト。死亡。死去。捐館 [illegible]

ゐせい (名) 威勢 イキホヒ。特ニ、タケク勇シキ勢ヒ。イサマシキコト。[illegible] 賊徒ニ軍敗ラレ、云云」

ゐせい (名) 遺制 後世ニ遺レル制度。古ヘノ制度ノ今ニ遺レルモノ。[illegible] 左氏傳序「上以遵周公之遺制、下以明將來之法」

ゐせい (名) 遺精 病ニ因リテ、夢ノ中ニ、又ハ、睡レル中ニ、精液ヲ洩ラスコト。又、夢ニ接シテ、洩ラスモアリ。夢想。夢遺。

ゐせう (名) 遺詔 帝王ノ遺言。史記、秦始皇紀「更詐爲丞相斯受始皇遺詔沙丘、立子胡亥爲太子」[illegible]

ゐせき (名) 堰 「堰塞くノ名詞形、正韻「壅水爲埭曰堰」」田ノ用水ヲ、土木

ニテ塞キ止メタル處。溢ルレバ開キ、涸ルレバ閉ヅ。井手　倭名抄、一「河中塞」　後拾遺集、六、冬「落チツモル、紅葉ヲ見レバ、大井川、ゐせきニ秋モ、トマルナリケリ」

ゐ-せき（イ-セキ）（名）［偉績］偉大ナル功績　大功　偉功　偉烈　不績。不烈。　與師道、…南陽王…詩「…仁惟不…、偉…無…前」

ゐ-せき（イ-セキ）（名）［遺跡］［遺迹］（一）ムカシノアト　舊跡。古跡。　孔穎達、周易正義序「若…此…之説、遺跡可…尋」…風…序「…心文…、…古人之遺跡…想…風月之舊遊」（二）死者ノ跡目。　例相續人。又、故人ノノコセル領地　例書、四「大名方、御旗本、死後之家相續者、遺跡ト唱、存命之内、家相續者、家督ト唱候事」

ゐ-せ・く（イ-セ・ク）・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［堰］水ヲセキトム。キセキヲ作リテ水ヲ塞ギ止ム。字鏡、二十「堰、井世久」

ゐ-せん（イ-セン）（名）［緯線］地球ノ表面ニ、赤道ニ平行シテ引ケル假想上ノ線。即チ緯度ヲホス線。ゐど（緯度）ノ條ヲモ見ヨ。

ゐそ（イソ）（名）ゐさふらふ（居候）ノ條ヲ見ヨ。

ゐ-ぞう（イ-ゾウ）（名）［遺贈］法律ノ語。遺言ヲ以テ自己ノ財産ヲ他人ニ贈與スルコト。

ゐ-ぞく（イ-ゾク）（名）［遺囑］又、ゐしょく。死者生前ノタノミ。死後ノ依賴。

ゐ-ぞく（イ-ゾク）（名）［委囑］又、ゐしょく。マカセタノムコト。委託。

ゐ-ぞく（イ-ゾク）（名）［遺俗］古ヘヨリノコリ傳ハレル風俗。　孟子、公孫丑、上篇「紂之去二武丁一未久也、其故家遺俗、流風善政、猶有二存者一」

ゐ-ぞく（イ-ゾク）（名）［遺族］死者ノ後ニノコレル親族。人ノ死後ノ家族。　元好問詩「販婦庸兒識二名姓一、故家遺族只…冠二」

ゐ-そん（イ-ソン）（名）［遺存］アトマデモ遺リ存スルコト。後マデモ遺リトドマルコト。　陸…、…斷…、…二…要か遺存…得…二十一於千百一」

ゐ-ぞり（イ-ゾリ）（名）［居反］相撲ノ手ノ一。雙方立上ガルトキ、腰ヲ落シテ、両手ニテ相手ノ両股ヲ抱ヘコミ、身ヲ反ラセナガラ、後ヘ投グルコト。ブッダンガヘシ。

ゐ-たい（イ-タイ）（名）［遺體］父母ノノコシオケル體。即チ、己レノ身。　禮記、祭義篇「曾子曰、身也者、父母之遺體也、行二父母之遺體一、敢不レ敬乎」

ゐ-だい（イ-ダイ）（名）［偉大］スグレテ大ナルコト。大キクテリッパナルコト。

ゐ-たく（イ-タク）（名）［委託］ユダネタノムコト。マカスルコト。委囑。依賴。

ゐ-たく（イ-タク）（名）［遺澤］後ニノコレル恩澤。又、死後ノメグミ。　宋書、孝武帝紀「…以二…躬、…二…永…業、…前…遺澤、…無…底心二」

ゐ-たく（イ-タク）（名）［居宅］［きょたく（居宅）ノ湯桶讀］きょたく（居宅）ニ同ジ。

ゐ-たけ（イ-タケ）（名）［居丈］坐シタル時ノ身ノ高サ。　榮花物語、十一、若花「今年過キバ、ゐたけニモナリヌベカメリ」

ゐたけ-だか-に（イタケ-ダカ-ニ）（副）［居丈高］（一）氣ヲ張ル狀ニ云フ語。居丈ヲ高ク聳カシテ。　榮花物語、二十六、楔合「カタホニ、モノシタマハン人ノ、ゐたけだかニ髮スクナニテ、倚子ノオマシニノボリ給ハンハ、云云」（二）怒ヲ含メル狀ニ云フ語。イキリ立チテ。イキマキ荒ク。

（…）物語、六、「…が杯十…に…しぬ…、…ゐたけだかニナリ、云云、ト高聲ナリケレバ」

ゐ-たたまら-ぬ（イ-タタマラ-ヌ）（句）其場ニコラヘテ居ラレズ。ジット辛抱シテヲラレナイ。　浮世風呂（文化、三馬）三編、上「ソレカラ、居たたまられえカラ、下ガラウト云ッタラノ、云云」

ゐたち（イタチ）（名）［居立］坐リ、又ハ、立ツコト。起居坐ッタリ立ッタリスルコト。タチヰ。

ゐ-た・つ（イ-タ・ツ）・ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）［居立］（一）タチヰス。スワリ、又ハ、立ツ。　宇津保物語、國讓、上五「民部卿ハ、頻ニムコトリシタランヤウニゐたちテ、殿ヘモ物シ給ハデ、タダコノ君ノ事ヲイソギ給フ」（二）親シク其事ヲ行フ。世話ス。おりたつ（下立）ニ同ジ。　宇津保物語、國讓、上六「サル人ノ心ニイレテ、ゐたちテシ給ヒケル事ナレバ、云云」

ゐ-だつ（イ-ダツ）（名）［遺脫］ヌケオチルコト。モルルコト。ゐろう（遺漏）ニ同ジ。

ヰダ-てん（イダ-テン）（名）［韋駄天］［違駄天］［梵語、Skanda.音譯シテ塞建駄ト云ヒ、略シテ建駄トモ云フ、韋駄天ハ建駄天ノ誤寫ナルベシト］又、韋駄天神。佛法守護ノ神。武裝シテ劍ヲ持ス。魔王、佛舍利ヲ奪ヒテ逃グ、此神、追ヒテコレヲ取ル、故ニ、俗ニ、疾ク走ル神トス。　翻譯名義、廿五「違陀天、譯二翻梵音一云二私建陀提婆、私建陀此云…陰也、提婆云レ天也、但建違相濫、故今家誤耳」　宣明…、…集、十、捷疾鬼…二佛牙一「客曰、…聞、佛涅槃時、捷疾鬼…取二佛牙一一雙一時、韋駄天、急追而取、去二唐代一…授二南山宣律師一云云」　…記、八、法皇二三非苑項事「毘沙門天王ノ御子ニ、韋駄天ト申將軍ニ對面シテ、云云」

ヰダてん-ばしり（イダテン-バシリ）（名）［韋駄天走］韋駄天ノ如ク走ルコト。（前條ノ語、參見セヨ）

…シテ、…ニ走ルコト　…、「…、…ヲ持チ…」、…ニ走リ、…間…（…松作）一ニ段ノボリニ、…ル、…町ニ所見モタメズ飛ンデ來ル」

ゐ-たなり（イ-タナリ）（名）［埣］たなりノ條ヲ見ヨ。

ゐ-ち（イ-チ）（名）［位置］（一）竝ビタル所。置キタル狀、ホバショ。　實和寶書（宋）「道士…、…禪仙書…、其本末位置有…序」（二）位。地位。

ゐ-ぢ（イ-ジ）（名）［維持］［維ギ持ツ意］モチコタフルコト。モチコタヘ。　平…、…

ゐちこ-まめ（イチコ-マメ）（名）［…］圓クシテ玉ノ如キ豆。　倭名抄、十七、豆類「珂孚豆、非知古末女、…、…似、玉而可レ愛、故以名レ之」　名義抄「珂孚豆、ヰチコマメ」　「…、…二…實…、…徳與刑、以…持之…也」

ゐ-ちゃう（イ-チヨウ）（名）［帷帳］［急就篇、注「自レ上而下覆…二之帳、帳者張也、在レ旁…繞謂二之帷、帷者圍也」］とばり（帳）ニ同ジ。タレギヌ。マク。　史記、高祖紀「夫運…籌策帷帳之中、決二勝於千里之外、吾不レ如二子房一」

ゐ-ちゃう（イ-チヨウ）（名）［胃腸］キブクロト、ハラワタト。胃ト、腸ト。腸胃。「胃腸病」

ゐ-ぢゃうふ（イ-ジヨウフ）（名）［偉丈夫］偉大ナル男子。スグレテ立派ナル壯士。又、身體ノタクマシキ男子。偉男子。　宋史、范祖禹傳「祖禹字淳甫、一字夢得、其生也、母夢二一偉丈夫被レ金甲一入レ寢室一曰、吾漢將軍、云云」

ゐ-ぢゅう（イ-ジユウ）（名）［居住］［きょぢゅう（居住）ノ湯桶讀］きょぢゅう（居住）ニ同ジ。　運歩色葉集「居住、イナウ」

ゐ-ちょ（イ-チヨ）（名）［遺著］（一）後ノ世ニノコサレタル著書。遺書。（二）人ノ死後ニノコサレタル著書。

ゐぢよ(イ・ジヨ) (名) 【遺女】 死後ニノコサレタル女子。ワスレガタミノ女ノ子。 左傳、襄公十二年「先守［illegible］」

ゐぢよく(イ・チヨク) (名) 【遺敕】 後ノ世ニノコサレタル敕命。［illegible］ 其［illegible］記、［illegible］

ゐぢよく(イ・チヨク) (名) 【違敕】 敕命ニタガフコト。 ［illegible］記、［illegible］、自今以後、不得［illegible］、若有違者、［illegible］、仍［illegible］任、［illegible］「［illegible］雅」敕解却、其非求者、以三違敕罪二」

ゐつう(イ・ツウ) (名) 【胃痛】 胃ノイタミ。又、ソノ病。シャク。サシコミ。胃痙攣。

ゐつき(イ・ツキ) (名) 【居着】 ホックコト。ソコニ住ミツクコト。

ゐつ・く(イ・ツ・ク) ク・ケ・カ・ト・ケ(自動、四) 【居着】 (一)【來テ、ソノママニ居ル。 枕草子、十一、第百三十九段「更ニイヒ給ハザリケリト云ヒニイキヽル ガ、ヤガテゐつきテモノイフナリ」 (二)居定マル。住ミ馴ル。住ミツク。 宇治［illegible］遺、三、第十五條「イカナル事ニカ、此ノ塚ノ傍近クハ、ゲスナドモエゐつかズ、ムツカシキ事アリト言ヒ傳ヘテ、大カタ人モエ居つかネバ、云云」

ゐづつ(イ・ズツ) (名) 【井筒】 井桁ノ、形、圓キモノ。圓キヰドガハ。井欄［illegible］ 伊勢物語、第廿三段「ツツゐづつ、ゐづつニカケシ、マロガタケ、スギニケラシナ、イモ見ザルマニ」

ゐつづけ(イ・ツズケ) (名) 【居續】 (一)永ク一處ニ居テ家ニ歸ラヌコト。 浮世風呂(文化、三馬)三編、下「何デモ、朝、ムックリ起キルカラ、晩マデ、私ガ内ニ居續けタ」 (二)特ニ、妓樓ナドニテ、連日續ケテ遊興スルコト。流連。 新內、明烏夢泡雪「オ前ノ客衆ハ、聞ケバユフベカラ居つづけニゴザンスゲナ」

ゐづな(イ・ズナ) (名) 【井綱】 又、ゐどづな。つるべなは(釣瓶繩)ニ同ジ。

ゐで(イ・デ) (名) 【井手】 〔堰止(キトメ)ノ約ト云フ〕ゐせき(堰)ニ同ジ。堰。 萬葉集、七七「泊瀬川、流ルル瀬ノ、瀬ヲ早ミ、井堤(ヰデ)越ス波ノ、音ノサヤケク」 同、十四二十「伊香保呂ノ、八坂ノ堰堤(ヰデ)ニ、立ツ虹ノ、アラハロマデモ、サ寢ヲサ寢テバ」

ゐでのかはづ(イデ・ノ・カワズ) (名) 【井手蛙】 山城國、綴喜郡ノ井手村ノ蛙。名物ナリ。他ノ蛙多キ所ニ放テバ、衆蛙、音ヲトドムト云フ。(夏山雜談、二)

ゐでのしたおび(イデ・ノ・シタ・オビ) (名) 【井出下帶】 〔大和物語ニ、内舍人ノ、山城國ノ井手ノ邊ニテ、幼キ女子ニ、帶ヲ解キテ與ヘタリシニ、年ヲ經テ、ソレヲ印ニ、ソノ女子ト契リヲ結ビタリトアル故事ヨリ出デタル語〕 男女離別シテ、後再ビ遭遇シテ、契リヲ結ブコト。 新六帖、五、帶「今更ニ、結ブ契リモ、積マレズ、人ニトケケル、ゐでのしたおび」

ゐでん(イ・デン) (名) 【位田】 大寶令ニ定メラレタル田制ノ一。即チ、位ニ付ケテ給セラルル田。一品、八十町ヨリ、以下次第ニ減ジテ、四品、四十町ニ至リ、正一位、八十町ヨリ、從五位、八町ニ至ル。 田令「凡位田、一品八十町、二品六十町、三品五十町、四品四十町、正一位八十町、從一位七十四町、正二位六十町、從二位五十四町、正三位四十町、從三位三十四町、正四位廿四町、從四位廿町、正五位十二町、從五位八町(女減三三分之一二)」 田令集解「其職田位田者、得ニ職位ニ之日即授、死闕之日即收、不レ待ニ班田年一也」

ゐでん(イ・デン) (名) 【遺傳】 〔英語、Heredity. ノ譯語〕 遺(ノコ)リ傳ハルコト。特ニ生物ノ形狀、性質ナド、一般ニ子孫ニ傳ハリテ、其祖先ニ類似スルコト。

ゐと(イ・ト) (名) ［illegible］ 又、井戸、［illegible］ノ一［illegible］ノ陶器［illegible］ナリ［illegible］井戸燒)ノ條ヲモ見ヨ。

ゐど(イ・ド) (名) 【井戸】 (一)〔［illegible］(井)ト云フニ同ジ。 ［illegible］「田中井戸、田中ノ井戸ニ、光レル［illegible］、摘メ摘メ吾子な［illegible］ 後撰集、三、春下「都人、來テモ折ラナン、蛙鳴ク、縣(地名)ノゐどノ、山吹ノ花」 (二)今ハ、專ラ掘(ホリ)井戸ヲ云フ。 (三)井戸茶碗(チャワン)ノ略。ゐどやき(井戸燒)ノ條ヲ見ヨ。 ［illegible］十圖巻、三十一、［illegible］、茶盌、チャワン、云云、高麗茶碗ニ上品ノ云云、有ニ井戸茶碗［illegible］不一、大抵有ニ細［illegible］文［illegible］」

ゐど(イ・ド) (名) 【居所】 〔ゐどころノ下略〕 ヰシキ。シリ。オヰド。臀。

ゐど(イ・ド) (名) 【緯度】 或地點ト地球ノ中心トヲ連ネ結ブ直線ガ、赤道面トナス角度ヲ云ヒ、該地點ヲ通リ、赤道ニ平行ナル平行圈ヲ緯線ト云フ。地球上ノ或地點ヲ通ル子午面ト、基準子午面トノナス角度ヲ經度ト云ヒ、兩極ヲ通ル大圈ヲ經線ト云フ。地球上ノ或地點ノ位置ハ、コノ緯度ト經度トニヨリテ示サル。緯度ハ赤道ヲ以テ零度トナシ、赤道ヨリ北ナルヲ、北緯(ホクヰ)ト云ヒ、南ナルヲ、南緯(ナンヰ)ト云フ、各、九十度アリ。經線ハ、モト大抵、各國ノ首都(ミヤコ)ノ地ヲ基準子午線トシタリシガ、明治十八年、亞米利加合衆國ノ都わしんとん府ニ開カレタル萬國子午線會議ニ於テ、英國ぐりにっちノ天文臺ヲ通過スル線ヲ以テ基點トシ、之ヲ本初子午線(即チ零度)ト定メ、之ヨリ東ナル經度ヲ、東經(トウケイ)ト云ヒ、西ナルヲ、西經(セイケイ)ト云フ、各、百八十度ニテ、一周シテ相［illegible］、［illegible］、三百六十度ニテ、即チ、地球ヲ、東西ニ一周スルナリ。(度ノ條、見合ハスベシ)

ゐどがは(イド・ガワ) (名) 【井戸側】 井ノ中ニ埋メテ、四［illegible］、土ヲ止ムルモノ。［illegible］、長大ナル桶ノ如クニシテ、上下貫ク、深キハ［illegible］ヲ重ヌ。其土上ニ出ヰテ甚ダ低キヲ、假粧側(ケシャウガハ)ト云フ。即チ、井筒、井桁ナリ。

ゐどがへ(イド・ガエ) (名) 【井戸替】 ゐどさらへ(井戸浚)ニ同ジ。 好色［illegible］代男［illegible］、六、今日井戸替ヘノ、［illegible］ノ佛ニ［illegible］レト、云云」

ゐとく(イ・トク) (名) 【威德】 嚴(オゴソ)カニシテ犯シ難キ德ト、威光アル德。又、威ト、德ト。 史記、秦始皇紀、贊「善哉、乎［illegible］萬民之［illegible］、而以ニ威［illegible］天下、天下懷服［illegible］、甘五、天慶四年［illegible］月「此［illegible］世［illegible］力、威德ニ［illegible］」

ゐとく(イ・トク) (名) 【遺德】 後ノ世ニノコサレタル恩德。故人ノノコシタル德。 莊子、盜跖篇「［illegible］、云云、今長大美好、人見而悅之者、此吾父母之遺德也」

ゐどく(イ・ドク) (名) 【遺毒】 アトニノコサレタル害毒。 漢書、［illegible］仲舒傳「其遺［illegible］、至ニ今未ニ滅」

ゐどぐるま(イド・グルマ) (名) 【井戸車】 井戸ノ上ナル横木ニ吊シ、井戸繩ヲカケテ、釣瓶ヲ上下セサスル滑車。 出世景淸(貞享、近松作)一「水コソ家ノ寶ナレ、メグレヤマハレ井戸車」

ゐどこ(イ・ドコ) (名) 【居所】 次條ノ語ノ略。

ゐどころ(イ・ドコロ) (名) 【居所】 居所(ヰドコロ)。居ル所。座、オマシ。又、スマヒ。住居。略シテ、ゐどこ。 枕草子、十、第百廿七段「御前ニソヒフシテ、御帳ノ内ヲ居所ニシテ、女房トモヲヨビ使ヒ」

ゐどゐろ (名) 臀 〔居所ノ義、坐リツク所ノ意、居敷ト云フニ同ジ、下略シテ、ゐど〕 ヰサノヒ。シリ。ヰシキ。ヰド オヰド。 福富草紙〔足利時代〕「タラヒニ水汲ミ入レテ、ゐどゐろヲヒタシ、云云」

ゐどさらへ (名) 井戸浚 井ノ水ヲ汲ミ乾シテ、塵ナドヲ浚フルコト。ヰドガヘ。淘井。

ゐどちやわん (名) 井戸茶碗 ゐどやき(井戸燒)ノ條ヲ見ヨ。

ゐどづな (名) 井戸綱 又、ゐづた。つるべなは(釣瓶繩)ニ同ジ。

ゐどながし (名) 井戸流 井戸端ニ設ケタルナガシ。

ゐどなは (名) 井戸繩 つるべなは(釣瓶繩)ニ同ジ。

ゐどばた (名) 井戸端 井戸ノキハ。ヰドノホトリ。井戸ノ周圍。江戸砂子、三「井戸端ノ、櫻アブナシ、酒ノ醉ヒ」

ゐどほり (名) 井戸掘 井戸ヲ掘リ作ルコト。又、ソレヲ業トスルモノ。ヰドヤ。ヰホリ。淘井漢 井工

ゐどや (名) 井戸屋 井戸ヲ掘リ、又、其内ヲ浚フヲ業トスルモノ。ヰドホリ。

ゐどやかた (名) 井戸屋形 井戸ノ桁ノ上ヲ蔽フ屋形。井戸小屋。

ゐどやき (名) 井戸燒 肥後國ノ燒物師、井戸新九郎ノ燒キタル磁器 略シテ、井戸 其茶碗ナルヲ井戸茶碗ト云フ。

下ノ出典ヲ見ヨ。 筑前國續風土記、廿七、土産「磨取茶器、慶長役ハ、朝鮮軍ノ時、加藤主計頭淸正、役ノ國ニテ茶器ヲ製スル者ヲ連レ來リ、肥後ニテ茶器ヲ作ラシム、其者ノ名ヲ、井戸新九郎ト號セラル故、其製セシ器ヲ井戸燒ト云フ、云云」

ゐな (名) 維那 〔維ハ綱維ノ義、衆僧ヲ統ブルコト、那ハ梵語、羯磨陀那(Karmadāna.)ノ略、知事、又ハ、授事ト譯ス、梵漢兩擧ノ語ナリ〕 又、ゐの。ゐなふ。禪林ニテ、六知事ノ一。衆僧ノ進退、威儀、ナドヲ掌ル役僧。 南海寄歸傳、四「若云、維那者非也、維是唐語、意道綱維、那是梵音、略去羯磨陀字」 敕修百丈淸規、四「維那、綱維衆僧、曲盡調攝」云云」 永平淸規〔道元〕坤「維那、梵語羯磨陀那、此云悅衆、凡僧中事並主之、云云」

ゐなか (名) 田舍 〔田居中ノ上略ト云フ、又、小鄙處ノ約カト、伊豫國、宇摩郡ノ東方ニテハ、田ノ中ヲたいなか、田の路ヲたいみちト云フトゾ〕 都會ナラヌ地ノ稱。都ヨリ離レタル地方。鄙。在鄕。 仁德紀、二十年十月「貢牛貢田器、將往田舍」 萬葉集、三十「昔コソ、難波居中ト、言ハレケメ、今ハ都ト、都ビニケリ」〔神龜四年二月、難波宮再造成レリ〕

ゐなかあるき (名) 田舍步 田舍ヲメグリアルクコト。ヰナカワタラヒ。ヰナカマハリ。アガタアリキ。

ゐなかうど (名) 田舍人 ゐなかびと(田舍人)ノ條ヲ見ヨ。 太平記、廿三、土岐頼遠參合御幸致狼藉事「道ヲ過ル田舍人共是ヲ聞テ」

ゐなかかせぎ (名) 田舍稼 都市ノ人ノ、地方ニ行キテ稼グコト。ヰナカワタラヒ。ヰナカマハリ。

ゐなかかたぎ (名) 田舍氣質 ヰナカビ

トノ有スル特別ナル性質。

ゐなかがふし (名) 田舍合子 田舍ニテ用ヰル合子。がふし(合子)ノ條ヲモ見ヨ。 盛衰記、三十三、光隆卿向木曾許事「イツシカ田舍合子ノ大キニ尻高ク底深キニ、云云、飯ノ黑ク籾交リナリケルヲ堆ク盛リ上ケテ、云云」

ゐなかくさし・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 田舍臭 ヰナカジミテアリ。ヰナカビトノ風アリ。ヰナカメキタリ。ヒナビタリ。

ゐなかことば (名) 田舍詞 ヰナカビトノ用ヰル言葉。ヒナビタルコトバ。

ゐなかざぶらひ (名) 田舍侍 又、ゐなかざむらひ。田舍ニ住ミ居ル侍。田舍武士。田舍武者。 著聞集、十七、變化「アルゐなか侍ノ申ケルハ、此事トドメン、イトヤスキ事也」

ゐなかしばゐ (名) 田舍芝居 田舍稼ヲスル役者ノ、田舍ニテ演ズル芝居。 古今役者大全、一、田舍芝居の事「田舍芝居ノ第一ニタツハ、伊勢ノ古市ナリ、毎年正月末ヨリ五月マデハ、二軒ハアルトテモ、一軒モナキ事ハナシ」

⁂**ゐなかしみる・ミル・ミレ・ミ・ミ・ミヨ** (自動、上二) 田舍染 ヰナカビトノヤウニナル。田舍風ニ染ミル。ヰナカダツ。ヰナカメク。ヰナカブ。ヒナブ。

ゐなかしるこ (名) 田舍汁粉 〔御膳汁粉ニ對ス、汁粉ノ條ヲ見ヨ〕 汁粉ノ一種。つぶし餡ヲ用ヰルモノ。 守貞漫稿、五、生業、下「汁粉賣、云云、コシ粉アンノ別ニ、全體ノ赤小豆ヲ交ヘタルヲ、鄙汁粉ト云」 守部午睡、三編、上「善哉ヲ汁粉、餅ノ入タルヲ田舍汁粉」

ゐなかせかい (名) 田舍世界 ゐなか(田舍)ト云フニ同ジ。 更級日記「一代ニ一度ノ見物ニテ、ゐなかせかいノ人ダニ見ルモノヲ」

ゐなかそだち (名) 田舍育 田舍ニテ生育スルコト。又、其生育シタルモノ。

ゐなかだち (名) 田舍立 〔次條ノ語ノ名詞形、尙、だつ(接尾)ノ條ヲモ參見セヨ〕 ヰナカメキタルコト。又、田舍出ナルコト。 著聞集、十七、變化「コノヌシハゐなかだちノモノナレバ、サダメテ、ヤウアリテコソイフラメト思ヒテ、云云」

ゐなかだつ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 田舍立 〔だつ(接尾)ノ條、參見セヨ〕 ヰナカラシクアリ。ヰナカメキテアリ。ヰナカメク。 枕草子、五、第五十段「ゐなかだち、事ソギテ、云云」

ゐなかつぺゐ (名) 田舍兵衞 〔權兵衞ノ語原ヲ見ヨ〕 次條ノ語ニ同ジ。

ゐなかつぽう (名) 田舍者 〔ゐなかびとノ急呼訛ナルベシ(在鄕ぼうノ類)〕 田舍人ヲ嘲リ呼ブ語。ゐなかつぺゐ。ざいごつぺゐ。ざいごべゐ。田夫 田舍漢

ゐなかなまり (名) 田舍訛 くになまり(國訛)ニ同ジ。 長唄、越後獅子「オ國名物ハサマザマアレド、田舍訛ノ片言交リ、シラウサニナル言ノ葉ヲ、雁ノ便リニ屆ケテホシヤ」

ゐなかのつき (名) 亥中月 〔亥刻、卽チ、夜ノ十時頃ニ上レバ云フ〕 陰曆、二十日ノ夜ノ月ノ稱。ハツカノツキ。

ゐなかびと (名) 田舍人 〔ゐなかうどトモ云フハ、音便ナリ〕 田舍ニ住ム人。ゐなかうど。ヰナカモノ ヰナカノヒト。 倭名抄、二十四、微賤類「田舍兒、井奈加比止」 源、十三、明石廿八「イトロ惜シキキハノゐなか人コソ、云

[illegible]ノフフ[illegible]ナレ

ゐなか・びる イナカ・ビル [illegible] 田舎[illegible]。[illegible]ノ[illegible]ノ 日本[illegible]

ゐなか・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ イナカ・ブ (自動、上二) ［田舍風］ ［田舍帶ぶノ約］ ヒナブ。サトブ。ヰナカメク。ヰナカジム。ヰナカビル [illegible]「[illegible]ゐなかびズ、[illegible]ウチヤソレテ、コトサラニゐなかびモテナシ給ヘルシモ、云云」

ゐなか・ぶし イナカ・ブシ (名) ［田舍武士］ [illegible]ゐなかざむらひ(田舍侍)ニ同ジ [illegible]作)上「侍モ知ラヌ田舍武士、コレ珍重ノオ慰ミ」

ゐなか・ほふし イナカ・ホウシ (名) ［田舍法師］ 田舍ニテ修業セル法師。今昔物語、十一、第[illegible] 田[illegible]法師ノ[illegible]センニ、不[illegible]也

ゐなか・ま イナカ・マ (名) ［田舍間］ (一)〔京間ニ對シテ云フ〕曲尺六尺ヲ以テ一間トスルモノ。けん(間)ノ條ヲモ見ヨ。碩鼠漫筆[illegible]安政[illegible]川[illegible]村)十五、京間[illegible]田舍間[illegible]ノ說ニ、京間[illegible]古代ヨリノ制ト思ヘド、未ダ其所出ヲシラズ、且、方六尺五寸ヲ京間ト稱ヒ、方六尺ヲ田舍間ト稱フ」(二)一般ニ田舍ノ宰[illegible]秋[illegible]ノ、ウスベリ寒シ、菊ノ宿」

ゐなか・まはり イナカ・マハリ (名) 田舍廻 諸方ノ田舍ヲ廻ルコト。又、其人。ヰナカアルキ。

ゐなか・マンヂュウ イナカ・マンジユウ (名) ［田舍饅頭］ 〔ゐなかまんぢう〕ト同意、汁粉(シルコ)ノ條ヲ見ヨ〕 [illegible]ツボー餡ヲ入レタル饅頭

ゐなか・ミソ イナカ・ミソ (名) ［田舍味噌］ 麥麴ニテ製造シタル味噌

ゐなか・むき イナカ・ムキ (名) ［田舍向］ ヰナカビトノ趣好ニ適スルコト。又、ソノモノ。

ゐなか・むしや イナカ・ムシヤ (名) ［田舍武者］ ゐなかざぶらひ(田舍侍)ニ同ジ。十訓抄、上、第四、[illegible]ノ中ニ、[illegible]ノ、十[illegible]ケモアハレモ知ラヌアリケリ」

ゐなか・め・く・ク・ケ・ウ・キ・ケ イナカ・メ・ク (自動、四) 田舍風ニ見ユ。ヰナカブリニ見ユ。ヰナ[illegible] ヰナカジミル [illegible]享、西鶴)七「諸人ノ座セル片隅ヨリ、田舍めきタル男ノ、舞臺ニアガリ、云云」

ゐなか・もの イナカ・モノ (名) ［田舍者］ 田舍ニ住ム人。ヰナカビト。田夫 野人 村夫 村漢 田舍漢 十訓抄、下、第十、第三十三條「此ノ歸狀ハ、田舍[illegible]ノ前ニアラズ、[illegible]ナドノ書キタルニコソ、尋ネヨ、ト仰セラレケレバ」 狂言記、麴の酒「身共ノ田舍者ヂヤ、ト思ウテ、言ヒカケヲシヲルカ」

ゐなか・もの イナカ・モノ (名) ［田舍物］ 田舍ニテ作レル物 田舍ノ製造品。又、趣味ノ乏シキ物 枕草子、八、第七十二段「色トリタル遣戶、廚子、何モゐなかものハイヤシキナリ」

ゐなか・や イナカ・ヤ (名) ［田舍家］ ヰナカノイヘ。村舍 村家 田家 公任集「春ゐなか家ニ、遊ビシタル所ニ、マラウドノ來テ、云云」

ゐなか・やくしや イナカ・ヤクシヤ (名) ［田舍役者］ ヰナカ芝居ニ出ヅル役者 田舍廻リノ俳優、諸藝太平記(元祿)八「田舍役者ノ初上ゲ」

ゐ・ながら イ・ナガラ (副) ［坐居然］ 坐(スワ)リタルママニテ。立チ働キセズニ。景行紀、十二年十二月「坐(ヰ)[illegible]平[illegible]其國[illegible]」 伊勢集「すヒ國ノ、我ガ宿ニダニ、吹キコズバ、ゐながらヨソノ、花ヲ見マシヤ」 孟子、滕文公、上篇「經界既正、分ㇾ田制ㇾ祿、可二坐而定一也」

ゐ・なが・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ イ・ナガ・ル (自動、下二) 「居流」 列坐ス ヰナム。ヰナラブ 幸

ゐなか・わざ イナカ・ワザ (名) ［田舍業］ 田舍ノシワザ。田舍物ラシキコシラヘ。源、十二、須磨[illegible]「[illegible]六ノ[illegible]、[illegible]ノ具ナド、[illegible]ゐなかわざ[illegible]ナシテ、云云」

ゐなか・わたらひ イナカ・ワタライ (名) ［田舍渡］ 田舍マハリシテ、ナリハヒスルコト、又、ヰナカマハリ。ヰナカアルキ。ヰナカカセギ。伊勢物語、[illegible]段「ゐなかわたらひシケル人ノ子ドモ、井ノモトニ出デテ遊ビケルヲ、云云」

ゐ・なし イ・ナシ (名) ［居做］ 居ナラフコト 都合[illegible]生十[illegible] 老人雜話、下、「信長、知行ナト附ケラレ、云云、禁中ノ居なし善クナリタリ」

ゐ・なほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ イ・ナオ・ル (自動、四) ［居直］ (一)改メテ坐リテ容ヲ正ス。キズマヒヲ正シクス。源、三十五、柏木三十「御息所、スコシ居ザリ出テ給フケハヒスレバ、ヤヲラゐなほり給ヒヌ」 (二)俄カ[illegible]態度ヲ改ム [illegible]抄、三、一條「コノ儀ニサブラハバ、イマハナガクカヤウノ事モ申候マジ、心ウク、クチヲシキコトニ仰セラレカナ、ト申サセ給ケル時、いなほらせ給テ、云云」

ゐ・な・む・ム・メ・マ・ミ・メ イ・ナ・ム (自動、四) ［居竝］ 次條ノ語ニ同ジ 宇津保物語、藤原君[illegible]「[illegible]トモゐなみテ、競ウスモノ、カトリヱル」

ゐ・なら・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ イ・ナラ・ブ (自動、四) ［居竝］ スワリナラブ。ナラビテスワル。ヰナガル。ヰナム。列坐ス 宇治拾遺、十、第一條「殿上人ゐ竝びテ待ツ程ニ、云云」

ゐ・なり イ・ナリ (名) ［居成］ モトノママニテ居ルコト。ソノママニテ居ルコト。ヰツキナルコト 夫木抄、四、花「今朝見レバ、花モ杉生ニ、ナリニケリ、風ハゐなりニ、吹クト見ツレト」

ゐ・にん イ・ニン (名) ［委任］ (一)ユダネマカスルコト [illegible]館」(二)法律語。當事者ノ一方ガ、法律上ノ事柄[illegible]シ、相手方之ヲ承諾スルコトニヨリテ成立スル契約。

ゐにん・じやう イニン・ジヨウ (名) ［委任狀］ 委任ヲナス者ガ、其委任ノ事柄、權限、ナドヲ記載シテ、被委任者ニ附與スル文書。

ゐ・ぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ イ・ヌ (他動、下二) ［率寢］ [illegible] 其寢ス、同寢ス 古事記[illegible]代紀、下[illegible] 我ガ[illegible]、[illegible]ハ忘ラジ、世ノコトゴトモ」

ゐ・ぬき イ・ヌキ (名) ［居退］ 〔居退(ヰノ)き、ノ轉ナラム〕 住マヘルママ、他人ニ讓リ渡シテ、タチノクコト。

ゐ・ね イ・ネ (名) ［往寢］ 前前條ノ語ヲ見ヨ

ゐ・ねう イ・ニヨウ (名) ［圍繞］ (一)トリカコムコト。トリマクコト [illegible]ニ圍繞セラレテオハセシ人ノ、云云」 (二)佛法ノ儀式ニ、衆僧、佛ノ周圍ヲ右旋(ウ)ニ廻リテ敬禮スルコト。遶佛繞行。行道。法華文句、[illegible]「提婆達多、外道ナド云フラン者ダニ、今宵ノ御聲ニハ、ミナゐねうスラント覺ユルニ、云云」

ゐ・ねう イ・ニヨウ (名) ［遺尿］ 睡眠中ニ小便スルコト イビタリ ヨツバリ ネセウベン

ゐ・ねぶり イ・ネブリ (名) 居眠 次次條ノ語ニ同ジ。[illegible]抄[illegible]睡「ヰネブリ」 著聞集、十六、興言利口「定讚ガ下人、[illegible]ノ方ノ御[illegible]ノホトリニ、いねぶりシテ」

候ヒケルガ、云云」

ゐねぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [居眠] 次次條ノ語ニ同ジ。 狂言、泣尼「居眠テバカリ居テ、又ソノツレヲ云ヒ居ルカ」

ゐねむり (名) [居眠] 又、ゐねぶり。坐リナガラ眠ルコト。坐睡

ゐねむ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [居眠] 又、ゐねぶる。坐リナガラ眠ル。

ゐのあし (名) 織模 〔兩端ノ形、猪ノ蹄ニ似タレバ云フ、猪爪ト云フモ同ジ〕 機ノ具。織リ成セル布帛ヲ卷クモノ。關西ニ、ヰ、ツメ。キヌマキ。 倭名抄、十四「織機具、縢、機之卷、縢音也、井乃阿之」

ゐのうちのかはづ (名) [井中蛙] 井戸ノ中ノ蛙。せいてい(井底)ノ條ヲ見ヨ。 莊子、秋水篇「井蛙不可以語於海」

ゐのうへりう (名) [井上流] 古砲術ノ一流。寛永中、井上外記正繼ノ創メシモノ。 海鑑録、十、第二十二條、砲術流派、云云、井上流、元祖井上新右衞門」 近代世事談、二、器用門、鐵砲「羅山文集ニ云フ、井上氏正繼、此術ニ長ジ、巧ヲ運ラシテ奇ヲ呈ス、製様機アリ、尋常ノ及所ニアラズ」

ゐのき (名) 猪牙 〔きハきば(牙齒)ノ略〕 ヰノシシノキバ。

ゐのき (名) [居退] 居退クコト。又、住ミタル家ナドヲ其儘ニシテ立退クコト。

ゐのく・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [居退] 居所ヨリ退ク。其場ヲ離ル。又、住家ヲ其儘ニシテ立去ル。タチノク。 今昔物語、二十六、第四語「我ガ知ル女ニハ非リケレバ、サレバコソト思ヒテ居去ケル程ニ、云云」

ゐのくち (名) [堰口] キセキヨリ水ヲオトス口。堰ノ落口。

ゐのくづち (名) [牛膝] ゐのこづち(牛膝)ニ同ジ。 倭名抄、廿、草類「牛膝、和名、ゐ乃久豆知、節似牛膝、故以名之」

ゐのげげ (名) [繭下下] 草履ノ一種。ゐげげ(繭下下)ニ同ジ。

ゐのこ (名) [亥子] 又、玄猪。十月ノ節日ノ稱。十月ハ亥ニ建ス、其亥ノ日、亥ノ刻ニ、上下、餅ヲ食フ、之ヲ亥子餅ト云ヒ、萬病ヲ除クト云フ。或ハ云フ、猪ハ多子ナレバ、子孫繁昌ヲ祝スト。古ヘ、禁中ニテハ、內藏寮ヨリ奉リ、嚴重の餅ト云フト云フ。(玄猪ノ音ノ訛カ) 二中歷、九、節日由緒「十月亥子、可忘隨集六、十月亥日作餅食之、其人無病也」 看聞御記、應永廿四年十月十七日「今夜亥子也」

ゐのこ (名) [猪子] 〔子ハ添ヘタル語、意ナシ、鹿子ニ同ジ、(龜ヲかめの子ト云フ)〕 ゐ(猪)ト云フニ同ジ。ヰノシシ。又、フルモチ。 武烈卽位前紀「餉ノ稚子ヲ、アサリ出ナ、偉能古」

ゐのこづち (名) [牛膝] 〔家槌ノ義カト云フ〕 又、ゐのくづち。莧科ノ宿根草ノ名。春、苗ヲ生ズ、方莖ニシテ青紫色ナリ、高サ二三尺、節アルコト、牛ノ膝、鶴ノ脚ノ如シ。葉ハ、圓クシテ尖リ、匙ニ似テ、兩兩、對生ス。秋、節ノ上ニ、穗花ヲ開ク、大イサ一分餘、五瓣綠色ナリ、細子ヲ結ブ。莖葉、及、根ヲ藥用トス。又、フシダカ。コマノヒザ。ツナギグサ。牛膝。 典藥寮式、山城國三十二種、云云、牛膝苦參各廿五斤」 重修本草綱目啓蒙、十一、隰草類「牛膝、フシダカ、イノコヅチ、イノクヅチ、エノコヅチ、エノコロツチ、云云」

ゐのこもち (名) [亥子餅 猪子餅 玄猪餅] 又、敬語ニ、御嚴重餅。ゐのこ(亥子)ノ條ヲ見ヨ。又、碁石程ノ大キサ一、丸メテ押シ扁メタル猪の子餅ヲ、なりぎり、又ハ、おなりぎりト云ヒテ、昔、將軍家ヨリ、紙ニ包ミテ、臣下ニ賜ハリシト云フ。 二中歷、八、供膳歷「亥子餅七種粉、大豆、小豆、大角豆、胡麻、栗、柿、糖」

ゐのこり (名) [居殘] ヰノコルコト。アトマデ止マリ居ルコト。

ゐのこ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [居殘] 勤務ナドニテ、定刻ヨリ後マデ止マリ居ル。アトマデ殘ル。

ゐのしし (名) [猪] 〔猪の獸ノ義、獸ノ條ヲ見ヨ〕 本名、猪。哺乳動物中、偶蹄類ノ一。豚ニ似テ、腹、小サク、脚、長ク、全身、黑褐色ナリ。年ヲ歷タルハ頗ル大ナリ、牡ハ、上顎、左右ニ牙アリテ、上ヘ向ヒテ曲ル、怒レバ背上ノ毛立チ、牙ニテ人物ニ觸ル。山ニ棲ミ、春夏ノ夜、出デテ、野鼠、樹皮、草根、種子、又ハ、田圃ノ蚯蚓ヲ掘リ食フ、故ニ損害ヲナスコト多シ。性、眠ヲ好ム、冬ハ、深山ニ穴ヲ穿チテ、枝茅ヲ覆ヒテ居ル。其肉、甚ダ美ナリ。クサヰナキ。野猪 崇峻紀、五年十月「有獻山猪、天皇指猪詔曰、云云」 本朝食鑑、十一、獸「野猪、和名久佐井奈岐、今稱伊乃之志」 物類稱呼、二、動物「野猪、いのしし、牡ヲ四國ニテ、うのかトヨブ、牝ヲ、かるいト云フ、兒ヲ江戸ニテ、瓜ばうトイフ、畿內ニテ、おぶりおトヨブ」

ゐのししだけ (名) [猪茸] 菌ノ名。ししたけ(猪茸)ニ同ジ。

ゐのししむしや (名) [猪武者] 〔猪ハ頸短キ故ニ、急轉スルコト能ハズ、眞向ニ前進シテ、左右ヲ顧ミザルヨリ云フ〕 駈引ナク、謀ナク、一途ニ敵ヘノミ進ム慓敢ノ武者、進ムコトヲ知リテ退クコトヲ知ラザル武者ニ云フ。猪武 猪突 保元物語、二、白河殿夜討事「又ナキ剛ノ者、ウタカハ破リノ猪武者ナルガ」 平家物語、十一、逆櫓事「サヤウニ片趣ナルヲバ猪武者トテ、好キニハセズ」

ゐのしりぐさ (名) 天名精 〔猪尻草ノ義、臭氣甚シケレバ云フ〕 菊科ノ草本ノ名。野生ニ多シ、地ニ就キテ叢生ス。葉ハ、烟草ニ似テ小サク、鋸齒、皺毛、臭氣アリ、長サ尺餘、夏秋ノ間ニハ、莖、高サ二三尺、葉、互生ス、葉間ニ短梗ヲ出シテ、花ヲ開ク、野菊花ノ心ノ如クニシテ、綠ナリ。實モ臭氣アリ、粘液ニヨリテ種子ヲ撒布ス。ヤブタバコ。イヌノシリ。ハマタカナ。 本草和名、二、草部「天名精、波太久佐、又、稱伊奴乃志利、久九、一名天蔓菁」 倭爾雅、七、草木門「天名精、イノシリグサ、ヤブタバコ、云云」

ゐのつな (名) [紼] 又、ウシノツナ(牛綱)。牛ノ鼻ヅラニ通シテ、牽ク綱。 名義抄「紼、ヰノツナ、ハナクリナハ」

ゐのつめ (名) [猪爪] 機ノ具。ゐのあし(織　)ニ同ジ。

ゐのとき (名) [赭魁] 今、ニガカシュウ。薯蕷科ノ蔓草ノ名。葉ハ、ががいも(羅藦)ニ似タリ。葉掖ニ、數多ノ疣狀突起ヲ有スル零餘子ヲ着ク。根ハさるとり(菝葜)ノ如ク、皮、紫黑ニ、肉、黃

[illegible]

ゐのはな（名）[猪鼻] [illegible]形、相似[illegible]
ゐのはなたけ(猪茸)ノ異名。(安房、奥州)

ゐのふ（名）[胃府] [illegible]同ジ。胃の腑に落ちつくトハ、納得ユク、合点ユクノ意。[illegible]「[illegible]胃の腑に落ちつくやうに、とっくりと承らん」

ゐのへ（名）[井上]〔へハ、上ノ約、尾上、をのへノ類、への條、參見セヨ〕井ノ邊。井ノブチ。井戸ノ邊。甲斐國 井上、井乃倍 萬葉集、七廿[illegible]「[illegible]ニ、道ハアレド、君ニ逢ハムト、タモトホリクモ」

ゐのんど（名）[蒔蘿]〔猪喉ノ義、臭氣ヲ云フカト云ヒ、或ハ云フ、本草ニ生佛誓國ニ一名、慈謀勒」ナドアレバ、外國語ナラムカト〕繖形科ノ一年生、又ハ、二年生ノ草本 高サ二三尺内外ニ達シ、葉ハ茴香ニ似テ細ソシ 夏、黄色ノ小花ヲ、複繖形花序ニ着ク 東印度ノ原産ニシテ、園地ニ培養ス 實ハ橢圓、藥用ニ供シ、葉莖ヲ香味料トス。

ゐのめ（名）[猪目]〔猪ノ眼ノ形、相似タリ〕建築、彫刻ノ裝飾ニ作ル心臟形ノ孔ノ名 門扉、經机ノ側面ナドニ、横ニ橢圓ニシテ、上方ヲ圓キ山形ニス、多クハ其中ヲ、竪線(タテスヂ)、彫透(ホリスカシ)ニシテ、緑色ニ塗ル、猪目透ト云フ 眼象 [illegible] 四 [illegible] ゐのめ彫リタル[illegible]

ゐはい（名）[違背] タガヒソムクコト。

モトルコト。違反スルコト。禮記正義序[illegible]

ゐはい（名）[位牌] 木牌ニ、死者ノ諡(オクリナ)、法名ナドヲ記シテ祀ルモノ。靈牌[illegible] 下學集、下、器財門[illegible]位牌、古無[illegible]「[illegible]位牌ノ位ハ[illegible]ズ、其ノ人ノ滿位下位ヲ知ラ[illegible]ニ、後ニ位某、乃至律師ナドト、姓名、官位ヲ書キ顯ハシタリト見エタリ、禮儀尊敬ノ爲ニ、位ヲ書キタル故ニ、位牌ト云ナルヘシ」

ゐはいじょ（名）[位牌所] 位牌ヲ安置セル所。大德寺[illegible]

ゐはいちぎゃう（名）[位牌知行] 先代ノ知行ノ後ヲ、繼ギ承クル知行 [illegible] 西鶴)二「親ノ讓リノ金銀ニテ、身ヲ過ギケルハ、武士ノ位牌知行取 テ暮ラスニ同ジ」

ゐはいびたひ（名）[位牌額] 牛ノ毛色ノ名。あめすたれ(黄牛簾)ノ條ヲ見ヨ。

ゐはう（名）[遺芳] (一)ゐくん(遺薫)ニ同ジ 曹植、七啓「[illegible]遺芳射越」(二)後世ニノコレルカウバシキ事跡、又ハ、名譽 [illegible] (三)後世ニノコレル筆ノ跡。遺墨。

ゐはう（名）[彙報]〔玉篇「彙、類也」〕アツメタル報知。色色ノ報知。雜報。

ゐはう（名）[位袍] (一)又、クラヰギヌ。當色(タウジキ)ノ袍、即チ、位階ニヨリテ定式ノ色ニ染メタル袍。大寶令ノ定メニハ、一位ニ位ハ深紫、三位ハ淺紫、四位ハ深緋、五位ハ淺緋、六位ハ深緑、七位ハ淺緑、八位ハ深縹、初位ハ淺縹トス。後、[illegible]位以上ハ[illegible]リ。[illegible]トハ一位ヨリ初位マデ各定リタル袍ノ色アリ、其位ノ袍ヲ[illegible]イフ也」「今日[illegible]」(二)天皇ノ服御シ給フ黄櫨染ノ袍。禁秘御抄、中[illegible]

ゐばう（名）[遺忘] (一)ワスルルコト。莊子、盜跖篇「此六者、天下之至害也、皆遺忘不知察」(二)支那、古代ノ刑法ノ名 周禮、秋官、司刺[illegible]

ゐばう（名）[威望] 威光ト、名望ト。又、權威ト、人望ト。宋史[illegible] 神皇正統記[illegible]「次男宗盛、云云、内大臣ニ任ズ、天性父ニモ兄ニモ及バザリケルニヤ、威望モイツシカオトロヘ」

ゐはく（名）[威迫] オドシセマルコト。オソレシムルコト 威嚇 威脅 脅迫。

ゐばく（名）[帷幕]〔周禮、天官篇、幕人、注「在レ旁曰レ帷、在レ上曰レ幕」[illegible]〕ヒキマクト、引キマクト。ゐあく(帷幄)ニ同ジ。太平記、十六、兵庫海陸寄手事「左中將義貞、云云、和田御崎ニ帷幕ヲ引セテ控ヘラル」

ゐばしょ（名）[居場所] ゐどころ(居所)ニ同ジ。

ゐはつ（名）[遺髪] 死者ノ形見ニノコレル髪。カタミニ留メオキタル毛髪。

ゐはふ（名）[遺法] 後世ニノコレル法則。古人ノノコシタル法。江總、攝山棲霞寺碑「[illegible]遺法末明、五怖之災[illegible]宗、遂[illegible]西羅之境」扶桑略記、廿四、延長五年十二月廿七日「遺法弟子、不、勝二戀慕之至一」

ゐはふ（名）[違法] 法ニ違フコト。

ゐはん（名）[違犯] 法律、又ハ、命令ヲ犯スコト。說苑、(漢、劉向)君道篇「刑法違犯」

ゐはん（名）[違反] タガヒモトルコト。

ゐばやし（名）[居囃子] 能樂ニテ、一番ノウチ、舞フベキ部分ヲ、仕手ノ舞ナクシテ、謠ト囃子トニテ演奏スルモノ。

ゐば・る・ル・レ・ラ・リ・レ [illegible] 威[illegible]ノ[illegible]見ヨ。

ゐび（名）[委靡] [illegible] ナエシヲルルコト。[illegible]リチヂムコト。衰フルコト。[illegible]

ゐびた・る・ルル・ルレ・レ・レヨ(自動、下二) [居浸] ハヒリコミ、ヒタル。イリビタル [illegible]

ゐびゃう（名）[胃病] 胃ニ[illegible]病ノ總稱。多クハ、慢性ノ胃加答兒ナルヲ云フ。

ゐふ（名）[位封] 王朝時代、大寶令ノ制ニ、諸王、諸臣ノ三位以上、位階ニ從ヒテ賜ハリタル食封ヲ云フ [illegible]年ニハ、四位マデニ改メシモ、大同三年、大寶ノ制ニ復ス [illegible]月十九日、太政官謹奏「應レ賜ニ位封一依ニ令條一事」

ゐふ（名）[委付] ゐたく(委託)ニ同ジ。神皇正統記[illegible]「[illegible]君ニゾ、委附シ申サセ給ヒケル」

ゐ-ぶ（イ-ブ）（名）【慰撫】ナグサメ安ンズルコト。ナグサメイタハルコト。 漢書、匡衡傳「建…令二慰撫一讓レ位、上親以二詔書一慰撫、不レ許」

ゐ-ぶ（イ-ブ）（名）【威武】勢ノタケキコト。猛クシテ勇マシキコト。又、威力 武威 孟子、滕文公、下篇「富貴不レ能レ淫、貧賤不レ能レ移、威武不レ能レ屈、此之謂二大丈夫一」 續紀、廿一、天平寶字二年八月「振二威武一欽二仰仁風一」

ゐ-ふう（イ-フウ）（名）【威風】威光ノ、人ニ及ブコト。又、嚴（オゴソカ）ニシテ犯シ難キ容子。 後漢書、左雄傳「謂レ殺二害不辜一爲二威風一」 本朝三國誌、享保、近松作、三「威風ニ靡ク民草ノ、…威風凜凜」

ゐ-ふう（イ-フウ）（名）【遺風】後世ニノコレルナラハシ。又、後世ニノコレル教化。 史記、呉太伯世家「歌レ唐曰、思深哉、其有二陶唐氏之遺風一乎」

ゐ-ふく（イ-フク）（名）【遺腹】父ノ死後ニ生レタル子。ワスレガタミ。遺子。遺兒 遺孤 史記、李廣傳「當戸有二遺腹子一名レ陵」

〜**ゐ-ふく**（イ-フク）（名）【威福】威光ヲ以テ人ヲ脅シ、福徳ヲ以テ人ニ施スコト 漢書、刑法志「朝無二威福之臣一、邑無二豪桀之俠一」

ゐ-ふく（イ-フク）（名）【威服】威光、又ハ、威力ヲ以テ服從セサスルコト。 史記、秦始皇紀「巡二行郡縣一以示レ彊、威二服海内一」

ゐ-ふく（イ-フク）（名）【畏服】オソレシタガフコト。又、オソレシメテ、從ハスルコト。 漢書、魏相傳「遷二河南太守一、禁二止姦邪一、豪彊畏服」

ゐ-ぶくろ（イ-ブクロ）（名）【胃袋】〔餌袋（エブクロ）ノ訛ナラムカ〕ゐ（胃）ト云フニ同ジ。

ゐ-ふたぎ（イ-フタギ）（名）【韻塞】〔ゐんふたぎノ略〕ゐんふたぎ（韻塞）ノ條ヲ見ヨ。 枕草子、九、第九十七段、きたりがはなゐもの「ゐふたぎ（ゐんふたぎ）ノアケ、疾ウシタルモノ」 中務集「堀川中納言、ゐふたぎノ所ニ召シタリケルニ、云云」

ゐ-ぶつ（イ-ブツ）（名）【遺物】（一）又、ゆゐもつ。死者ノノコシタル物。カタミノモノ。 玉葉、廿九、延寶六年十二月二日ニ、東福門院（後水尾后和子）ノ御遺物トシテ、御手鑑、御掛物（大覺院殿白筆白讃）、御屏風一雙（雅樂助筆）、十炷香具ヲ進ゼラル」 （二）オトシモノ。ワスレモノ。 宋史、李穀傳「行路得二遺物一、必訪二主歸一レ之」

ゐ-ぶん（イ-ブン）（名）【遺文】故人ノノコシタル文章 杜預、春秋左氏傳序「其例之所レ重、舊史遺文、略不二盡擧一、非二聖人所一レ脩之要一故也」 朗詠集、下「遺文三十軸、軸軸金玉聲、龍門原上土、埋レ骨不レ埋レ名」

ゐ-へん（イ-ヘン）（名）【違變】タガフルコト。ヘンガヘ。 謠曲、錦戸「金打セサセ候、モノトモ其儀違變ナク候處ニ」「約定違變」

ゐ-ぼく（イ-ボク）（名）【遺墨】死後ニノコレル書、又ハ、畫。故人ノ書畫。 梅堯臣、觀二宋中道書畫一詩「錄二其眞蹟尚可レ觀、歐褚遺墨非二因一レ模」

ゐ-ボトケ（イ-ボトケ）（名）【居佛】坐像ノ佛。 昨日は今日の物語「トカクタチ佛ヲゐ佛ニモ、ダンナ計ラヒニシテ、云云」

ゐ-ぼん（イ-ボン）（名）【違犯】〔ぼんハ呉音〕又、ゐはん。法度ヲタガヘオカスコト。

ゐ-ま（イ-マ）（名）【居間】常ニ起キ臥シスル室（ヘヤ）。室間。坐間。居室 便室 紙上應聲「二之間、三之間、居間、又云座間」

ゐ-まう（イ-モウ）（名）【蝟毛】はりねずみノ毛刺（ケバリ）。事多クシテ、イソガハシキヲ、蝟毛の如しト云フ。 漢書、賈誼傳「高皇帝瓜二分天下一以王二功臣一、反者如二蝟毛一而起」

ゐ-まく（イ-マク）（名）【帷幕】ゐばく（帷幕）ニ同ジ。

ゐ-まじ・る（イ-マジ・ル）・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【居交】交リ居ル 雜居ス 玉葉集、十一、戀、三「セチニオボエケル女ノ人ニ、ゐまじりテ侍リケルヲ」

ゐ-ます（イ-マス）（名）【居戽】喞筒（ポンプ）、又ハ、鼈車（スッポン）ナドニテ、沒ミタル船中ノ淦ヲ、船ノ外ヘ流レシムル樋（トヒ）ヲ云フ。

〜**ゐまち-づき**（イマチ-ズキ）（枕）【居待月】居待ノ月ノアカキヨリ、あかしト云フ語ニ冠ラスル枕詞 萬葉集、三ノ十五、長歌「座待月、アカシノ水門ユハ、夕サレバ、シホヲミタシメ」

ゐ-まち-の-つき（イ-マチ-ノ-ツキ）（名）【居待月】〔坐シテ出ヅルヲ待ツ月ノ意ト云フ〕十六夜月（イザヨヒノツキ）ノ條ヲ見ヨ」陰暦、十八日ノ夜ノ月 「立待、寐待ニ對ス」 新六帖、一「我ノミゾ、ネラレザリケル、カルモカク、居待月ノ、程ハヘヌレドモ」

ゐまはり（イマワリ）（名）【居廻】居ル處ノ周圍。モヨリ。アタリ。其近邊。附近。

ゐ-まは・る（イ-マワ・ル）・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【居廻】輪ナリニ居竝ブ。 宇治拾遺、一、第三條「我ガ居タル空虚木ノ前ニゐまはりヌ」

ゐ-みん（イ-ミン）（名）【遺民】（一）往時ヨリノコリタル民。 左傳、閔公二年「衛之遺民男女七百有三十人」 （二）前朝ノ滅亡セシ後、義ヲ守リテ新朝ニ仕ヘヌ民。即チ、亡國ノ人民ナドヲ云フ。 左傳、襄公廿九年「其周德之衰乎、猶有二先王之遺民一焉」

ゐん（イン）（名）【院】（一）家ノ周垣アルモノ。 增韻「有二垣墻一者曰レ院」 （二）宮殿、官舍ノ號。 源、五十二、手習「故朱雀院ノ御領ニテ、宇治ノ院ト云ヒシ所、此ワタリナラン」「高陽院」「冷泉院」「河原ノ院」「諸ノ院」 （三）〔中世以後、上皇ノ御所ノ稱。初ハ、佛門ニ入リ給ヘルニ

申シ、後ニハ、然ラヌヲモ申ス 源、十三、明石「院ノ帝、御前ノ階ノ下ニ立タセ給ヒ」 同、廿一、少女「院ノ御所」「院ノ北面」 （四）〔又、直ニ、上皇ノ御身ヲモ申シ奉ル 源、廿一、少女「院ハ見苦シキ事ニ思ボシ宜ヘド」 同、十、榊「院ノ上、オドロオドロシキ御惱ミニハアラデ」 上皇、一時ニ、二三所オハシマス時ハ、順ニ、本院（ホン）（又ハ、一院（イチ））、中院（チュウ）、新院（シン）、ナドト別チ申ス。又、皇太后ノ佛門ニ入リ給ヘルニハ、何某門院ト尊號ヲ奉リ、女院（ニョウ）ナドトモ稱ス （五）〔梵語、Arama（羅摩）ノ譯語〕寺ノ號トスル語。 釋氏要覽、上、居處「院、梵云二僧伽藍摩一」 又、古ヘ、貴人、多クハ菩提寺ヲ建ツ、因リテ、直ニ其寺號ヲ、其人ノ法名ニ冠ラセテ號トセリ。後ニハ轉ジテ、寺ヲ建テヌニモ、身分アル人ナレバ、法名ノ上ニ冠ラスル號トス。院號。 （六）人ノ集マル大ナル家ノ稱。「議院」「病院」

ゐん（イン）（名）【尹】彈正臺ノ長官。風俗ヲ肅清シ、内外ノ非違ヲ彈奏スル事ヲ掌ルモノ。 職員令「彈正臺、尹一人、掌下肅二清風俗一、彈二奏内外非違一事上」

ゐん（イン）（名）【員】〔說文「員、物數也」〕ヒトカズ。人人。 史記、平原君傳「願君卽以レ遂備レ員而行矣」「銀行員」「會社員」

ゐん（イン）（名）【韻】（一）聲音ノ末ノ韻（ヒビキ）。（二）アラユル漢字ヲ、其韻ノ相應ズル者ニテ類別スル稱。古クハ、二百七韻（廣韻）ニ分テリ、後、合シテ、百六韻（平水韻）トス。又、別ニ、聲調ノ似タルニ因リテ、平聲（ヒャウシャウ）（上平、下平ノ二ツニ分チ、上平ニハ一東、二冬、三江、四支、五微、六魚、七虞、八齊、九佳、十灰、十一眞、十二文、

十三元、十四寒、十五刪、下平ニ、一先、二[illegible]、三肴、四豪、五歌、六麻、七陽、八庚、九青、十蒸、十一尤、十二侵、十三覃、十四鹽、十五咸ノ三十韻）、上聲ニ、一董、二腫、三講、四紙、五尾、六語、七麌、八薺、九蟹、十賄、十一軫、十二吻、十三阮、十四旱、十五潸、十六銑、十七篠、十八巧、十九皓、廿哿、廿一馬、廿二養、廿三梗、廿四迥、廿五有、廿六寢、廿七感、廿八琰、廿九豏ノ廿九韻）、去聲ニ、一送、二宋、三絳、四寘、五未、六御、七遇、八霽、九泰、十卦、十一隊、十二震、十三問、十四願、十五翰、十六諫、十七霰、十八嘯、十九效、廿號、廿一箇、廿二禡、廿三漾、廿四敬、廿五徑、廿六宥、廿七沁、廿八勘、廿九豔、三十陷ノ三十韻）、入聲（一屋、二沃、三覺、四質、五物、六月、七曷、八黠、九屑、十藥、十一陌、十二錫、十三職、十四緝、十五合、十六葉、十七洽ノ十七韻）ノ四大別トス、コレヲ四聲ト云フ。又、或ハ、上、去、入、ノ三聲ヲ合シテ、平韻ニ對シテ仄韻ト云フ。コノ四聲ヲ、單ニ、ゐん（聲）トノミモ云フ。又、假名ノ濁點ノ符號ヲモ、ゐん（聲）ト云フ。朝野羣載、二「[illegible]賦」注「以三五色[illegible]下知有聲人[illegible]、[illegible]、依次用之」

ゐんがう（名）【院號】（一）昔、退位ノ天子、又ハ、皇太后、准母、ナドヲ稱シ奉ル尊號。嵯峨天皇ノ御讓位後、嵯峨院ニ遷居セラレシニ始マル。後一條天皇以後ハ、在位ニテ崩御アリシニモ、院ト稱セラル。又、一條天皇ノ時、皇太后詮子ヲ東三條院ト號セシヨリ、女院ノ始トス。中半代略記、嵯峨ニ「承和元年八月、丁亥、遷二嵯峨院一[illegible]

[illegible] 先者ニ興フル[illegible]（二）[illegible]ニシテ、其寺院ヲ建立セシ施主ハ、歿後、其寺院名ヲ取リテ附セシガ、後ニハ、一般ノ亡者ノ尊稱トシテ、法名ニ附ス。稱呼私辨「院號、其始非二天子一不レ稱、中古藤原氏[illegible]時、[illegible]公號二法興院一、是其始也、至二足利尊氏一、號二等持院一[illegible]院、是其始也」久昌寺法式、以二香火寺名一[illegible]中古之[illegible]近世[illegible]院號[illegible]殿字[illegible]有二官[illegible]院號一不レ得レ加二殿字一」

ゐんがく（名）【韻學】漢字ノ音韻ニ關スル學。韻鏡ノ學。音韻學。文會雜記、一、上「春臺ハ、殊ノ外ニ字ヲ嗜好アリテ、云云、韻學ハ[illegible]ニ精シカリシ也」

ゐんがた（名）【院方】上皇、法皇、女院ノ方。夢鏡、第十、あすか川「カカレバ、イツシカ院方、内方ト、人ノココロココロモヒキ別ルルヤウニ、ウチツケコトドモ出デ來タリ」

ゐんぎ（名）【院議】貴族院、又ハ、衆議院ナドノ決議。

ゐんきやう（名）【韻鏡】〔韻ノ、鏡ニ映ルガ如キ意〕（一）漢字ノ音韻ノ事ヲ記シタル書。張子儀、校正韻鏡、序「余昔有二志斯學一、[illegible]師承、既而得下友人授二指微韻鏡一[illegible]」[illegible]光韻鏡、索隱「韻鏡者音韻之譜也」（二）其音韻ノ事ヲ究ムル學。

ゐんきやく（名）【韻脚】【韻腳】漢詩、又ハ、賦ノ句脚ニ韻ヲフムコト。又、其フミタルモノ。又、其韻。能改齋漫錄（宋、吳曾）「唐開元二十年、王邱知貢擧、[illegible]賦、始有二八字韻腳一、所レ謂風日雲野軍國清肅八字也」

ゐんきう（名）【院宮】上皇、法皇、女院、及ビ、三后、東宮、ナドノ稱。又、其院宮ニ賜ハル年給ヲ、院宮ノ給ト云フ。[illegible]望三某官一[illegible]目錄一枚、右當年御給所レ請如レ件」[illegible]記、十二、[illegible]院宮ノ如クニテゾアリケル」

ゐんぐわ（名）【院畫】〔院ハ、宋代ノ御前書院ナリ〕昔、支那ノ宮廷ノ御畫所ノ畫。畫院ノ繪畫。ぐわゐん（畫院）ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]

ゐんぐわい（名）【員外】〔定員外ノ義〕又、ゐんげ。（一）カズノホカナルコト。定メタル人員ノ外。其定員外ニ設ケタル官ヲ、員外郎トモ云ヘリ。後、員外郎ハ常職トナリ、郎中ノ下位トス。唐書、百官志「初太宗省二内外官一、定制爲二七百三十員一、曰、吾以レ此待二天下賢材一足矣、然是時已有二員外置一、其後又有二特置一、同二正員一」曾我物語、八、[illegible]「祐經が屋形ハ、[illegible]きし事、高キニ登ラザレ、賤シキヲ謗リ笑ハザレト云フ本文ヲ捨テテ、我等ヲ員外ニ思ヒ給フ故ナリ」（二）員外官ノ略。大寶令制定ノ正員ノ外、臨時ニ置ケル官。續紀、八、養老二年八月「從五位下[illegible]爲二員外少輔一」

ゐんげ（名）【院家】〔宇多天皇、落飾シテ仁和寺ニ入リ、門跡ト稱セラレシ時、所從ノ貴族モ出家シテ、寺中ノ小院ニ住ミ、院家衆ト稱セシニ始マル〕（一）堂上方ノ子弟ニシテ、出家シテ、門跡ニ附屬スル寺中ニ住ムモノノ稱。應仁記、下、洛中大焼之事「山門ノ諸院家ハ、梶井ノ御所、云云」（二）寺格ニテハ、門跡寺ノ別院ニテ、本寺ヲ扶翼スルモノ。故ニ、門跡寺ニハ必ズ院家アリ、餘人代リテ其職ヲ司ルヲ

院代ト云フ。又、院家ニ准ゼシモノヲ准院家ト云フ。[illegible]

ゐんげ（名）【員外】ゐんぐわい（員外）ニ同ジ。

ゐんご（名）【韻語】漢文體ノ一。一定ノ韻字ヲ各句ノ末ニ置キ、句法ヲ[illegible]聲律ヲ調ヘ作リタル文章。韻ヲフミタル文章。詩、賦、銘、頌、ナドノ類。[illegible]「下ノ出典ヲ見ヨ」[illegible]六、韻語、時文ノ別アリ、云云、韻語ト云フハ、韻字ヲフミタル文ナリ、賦、贊、銘、頌ノ類ノ如キ、是レナリ」

ゐんざん（名）【院參】上皇、又ハ、法皇ノ院ノ御所ヘマヰルコト。盛衰記、十三、入道[illegible]院參シテ、右ノ趣[illegible]想ヲ奏聞ス」

ゐんざんしゆう（名）【院參衆】江戸時代、諸家ノ中ヨリ交替ニ、院ノ御所ヘ參候シテ、事務ヲ執リタルモノ。[illegible]

ゐんし（名）【院司】上皇ノ院ノ司。ヰンノツカサ。類聚國史、三十一、帝王、天長九年四月癸酉「幸二紫野院一、御二釣臺一、院司獻レ物」源、十四、[illegible]ラセ給ヒ、ゐんしトモナリテ、云云」

ゐんし（名）【院使】院ヨリノ御使。仙洞使。[illegible]

ゐんし(インシ) (名) 韻士 風雅ノ人。風流韻雅ノ士。詩歌ヲ作ル人。文人。雅客。

ゐんじ(インジ) (名) 韻事 [風流韻事ノ略] 詩文ヲ作ルコト。又、風雅ナル事柄。

ゐんじ(インジ) (名) 韻字 ゐん(韻)ノ條ヲ見ヨ。 王儉、禮記[illegible]文「韻字弘選、[illegible]」 和漢[illegible]「五句[illegible]、七句[illegible]ノ物ハ、韻字タリトモ可[illegible]也」

ゐんじゃう(インジヤウ) (名) 院掌 院宮ノ雜仕ノ稱。 拾芥抄、中、末、院司部「[illegible]、公文、院掌等在之」

ゐんじゅ(インジユ) (名) 院主 (一)寺院ノアルジ。住持。寺主。 三島宮御鎭座本緣「七十五代崇德院御宇、云云、[illegible]ヲ以テ院主トシ、[illegible]供寺ヲ主リ、何レモ妻帶供僧云」 類聚大補任、弘長二年十一月廿九日「菩提山、自院主坊失火」 (二)禪林ニテハ、監寺ノ舊名。監寺ハ六知事ノ一ニシテ、寺內ヲ監督シ、衆僧ヲ總領スル役僧ナリ。監院 院宰。 釋氏要覽、下、住持「主事四員、一監寺、古云、監寺、總領之稱、所以不[illegible]寺院主者、[illegible]長老云云」

ゐんじょ(インショ) (名) 韻書 音韻學ニ關スル書籍。韻鏡ノ書。 張子[illegible]、韻鏡序「不出四十三轉、而無天下遺音、其製以韻書、自一東以下、各集四聲、列[illegible]定位、[illegible]光韻鏡下、韻鏡[illegible]、昔者六經有韻、而無韻書、云云、唐宋時韻書大成」

ゐんず(インズ) (名) 員數 [ゐん(員)ノ條ヲ見ヨ] 數。スウ。タカ。又、カズノ中。 盛衰記、十九、關件[illegible]八員事「サレバ、八百部ノ功、既ニ終ヘ給ヒナバ、本意ヲ遂ゲ給フベキ員數ナリ」

ゐんせい(インセイ) (名) 院政 天皇、御讓位ノ後、猶、仙洞ニテ政ヲ執ラセ給フコト。白河天皇、先帝ノ遺志ヲ繼ギ、御讓位後、猶、政ヲ院中ニ聽カセラレシニ始マル。 神皇正統記、白河天皇「天下ヲ治メタマフ事十四年、太子(堀河)ニ讓リテ尊號アリ、世ノ政ヲ始メテ院中ニテシラセ給フ、後ニ出家セサセ給ヒテモ、猶其マヽニテ、御一期ハスゴサセマシマシキ」

ゐんせい(インセイ) (名) 隕星 [隕ハ落ナリ] 隕石。卽チ、中天ヨリ地上ニ落下スル流星。 左傳、僖公十六年「春、隕石于宋五、隕星也」

ゐんせき(インセキ) (名) 隕石 又、天隕石。宇宙ニ散在セル細微ナル小天體ノ、時トシテ、空中ヨリ落下スルモノ。成分ハ、主トシテ、鐵ト石質トヨリ成ル。ホシイシ。 左傳、僖公十六年「春、隕石于宋五、隕星也」 [illegible]、三十二、[illegible]三年六月「往往隕石於京師、其大如柑子、[illegible]乃止」

ゐんぜん(インゼン) (名) 院宣 院政ノ時代ニ、院中、卽チ、上皇ヨリ發セラル宣旨。 神皇正統記、白河天皇「此御時ヨリ、院宣、廳ノ御下文ヲ、オモクセラレシニヨリテ、在位ノ君、又位ニソナハリ給ヘルバカリナリ」 太平記、二、俊基朝臣再關東下向事「承久ノ合戰ノ時、院宣書タリシ咎ニ依テ、光親卿、關東ヘ召下サレシカ、云云」 [illegible]「院宣トハ、院法[illegible]也、[illegible]所也ト可[illegible]也、云云、院宣[illegible]也、以[illegible]時執筆[illegible]也」

ゐんたい(インタイ) (名) 院體 畫院ノ繪ノ風體。ゐんぐゎ(院畫)、及、ぐゎゐん(畫院)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible](明、夏文彥)、張武賀、云云、其[illegible]、今世稱院體者、是也」

ゐんだい(インダイ) (名) 院代 (一)門跡寺ニ屬スル院家ノ寺務ヲ、代リテ司ルモノ。(二)虛無僧ノ住ム寺院ノ住持。

ゐんだり(インダリ) (名) 相殺 [居たりノ音便ナラム、ハネルニ因リテ濁ル(我張る、がんばる)、そのままノ意ナルベシ] 交換シテ、互ニ損得ナキコト。ゴブゴブ。

ゐんちゅう(インチユウ) (名) 院中 院ノ御所內。又、院ノ御所。 盛衰記、三、一院御出家事「院中ニ近ク召仕ハルル公卿、殿上人以下、北面ノ輩ニ至マデ、程程ニ隨テ官位俸祿、云云」 貞丈雜記、四、官位之部「院トハ天子御位ヲノガレ給フヲ申ス也、云云、御所ヲバ院ノ御所、仙洞、仙院ナドト申シ、御所中ノ事ヲバ、院中、洞中ナドト云ヒ、云云」

ゐんツウ(インツウ) (名) 員子 [員ハ圓ニ同ジ、つう(子)ハ、支那ノ近代音] 金錢。金子。 好色一代男、天和、西鶴、六、前代未聞ノ[illegible]「ヒ、男ハヨシ、ゐんつうハ有リ、親ハ無シ、浮世ハ[illegible]」

ゐんでん(インデン) (名) 院殿 院殿號ノ略。武家時代、將軍、及、身分ノ貴キ人ノ死後、被名ノ院號ニ、更ニ殿ノ字ヲ添ヘテ用キルモノ。モトハ天皇、大臣、ナドノ院號ニ、簡別セムタメニ殿字ヲ添ヘシニ基ヅクト云フ。ゐんがう(院號)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。 本光國師日記、[illegible]、三、[illegible]院殿[illegible]小林[illegible]「大永四年三月廿六日、實門代[illegible]院殿[illegible]通[illegible]公[illegible]門小林[illegible]」

ゐんない(インナイ) (名) 員內 [員外ニ對ス] カズノウチ。物ノ數ノ內。カゾヘノウチ。

ゐんのごしょ(インノゴシヨ) (名) 院御所 上皇ノ宮。仙洞。仙洞御所。霞ノホラ。綠ノホラ。 平治物語、一、院の御所仁和寺ニ御幸事 貞丈雜記、四、官位之部「院トハ、天子御位ヲノガレ給フヲ申ス也、又ハ太上天皇、太上上皇ナドト申奉ル、御所ヲバ院の御所、仙洞、仙院ナドト申シ、云云」

ゐんのちゃう(インノチヤウ) (名) 院廳 院ノ政廳。上皇ノ政ヲ聽キ給フ所。又、女院ニモアリキ。長官ヲ別當トシ、其下ニ、執事、年預、判官代、主典代ナドノ官人ヲ置ク。 洞院家記、十、御幸始次第「紀久長、保元後院廳年預廳御厨子所預」 職原抄、後附 院司、大別當(大臣、公卿、清華之人任之)、執事(參議之人任之)、年預(同前)、判官代(諸大夫任之)、[illegible]任之)、官人、云[illegible]官、代字[illegible]院中[illegible]

ゐんのつかさ(インノツカサ) (名) 院司 ゐんじ(院司)ニ同ジ。

ゐんふたぎ(インフタギ) (名) 韻塞 [韻塞ぎノ義] 又、ゐんふたぎ。文學ノ上ノ戲。左右、座ヲ分チ、古詩ノ韻字ノミヲ共ニアテ出ス。人人、コレヲ推當テテ、韻字ヲ塡メテ出ス。然ル後ニ、元ノ韻ヲ顯ハシテ引合ハセ、其相合ヘルヲ勝トス。 枕草子、九、第百五段「アソビハ、云云、小弓、ゐんふたぎ、碁」 西宮記、臨時、三、御[illegible]韻事

ゐんぶん(インブン) (名) 韻文 又、ゐんご。詩、歌、賦、ナドノ稱。(散文ニ對ス) 作文[illegible] 散文中ニ韻文アリ、韻文中、散文アリ [illegible] 押韻セザルヲ散文ト云、押韻ノ文ヲ韻文ト云」

ゐんほん(インホン) (名) 院本 [院ハ、金、元時代ニ、倡優ノ居ル所、院本ハ、其演唱スル所ノ本ノ義] 芝居狂言ノ筋ヲ書ケル書。腳本。又、淨瑠璃本。 [illegible]院本雜劇、諸宮調、院本雜劇、其實一也、國朝院本雜劇、始釐而二之 [illegible]中井竹山、九、[illegible]淨瑠璃ハ、御當代ニ起リタルナリ、云云、淨るり本ト云フハ、唐山ニテ、所謂院本也」

ゐんもり(インモリ) (名) 院守 院ノ號アル殿舍ナドノ番人。 源、五十二、手習三「院守、僧都、知リ給ヘリケレバ、云云」

ゐむら(イムラ) (名) 居村 (一)其村所在ノ地ノ稱。同村ノ地ニテ離レテアルヲ出村ト云フニ對ス (二)自己ノ住居スル村。

ゐめい(イメイ) (名) 遺命 遺言ノオホセ 臨終

ノ時、ノコセル命令 [illegible]
月三日 [illegible] 違命者、云云」

ゐめい（名）〔違命〕命令ニタガフコト。 大傳、[illegible]公二年[illegible]、不可、違命不孝」

ゐめい（名）〔威名〕威光ノアル名聲。又、威力ト、評判ト。威勢 [illegible] 不 [illegible] 擬撥地曰、竊伏威顏、聞之公子威名、顔突」

ゐもん（名）〔慰問〕ナグサメミマフコト。 後漢書、宋均傳「帝使中黄門慰問」 續紀、廿、天平寶字[illegible]年十月 [illegible]

ゐもり（名）〔居守〕其處ニ居テ守ルコト。 夫木抄、十二、秋田「谷フカミ、ソシロノ田井ニ、ゐもりシテ、マレニソダテル、ヒヅチボノイネ」

ゐもり（名）〔井守〕兩棲類中ノ有尾蟲ノ名。井泉、池沼ナドニ棲ム。形、やもり（守宮）ニ似テ、尾、平タク、色、黒ク、腹、赤シ。長サ三四寸許リ、四肢、蹼アリ、性、靜ナリ。黒燒ニシテ媚藥トストイフ。蠑螈 好色五人女、貞享、西鶴[illegible]「是レハ只今汲ミ上ケシ井守ト云ヘル物ナリ、其方ハ知ラズヤ、此蟲、竹ノ筒ニ籠メテ煙ト成シ、戀フル人ノ黒髮ニ振掛クレバ、彼方ヨリ思ヒ付ク事ゾ」

ゐもり-の-くろやき（名）〔蠑螈黒燒〕ゐもりノ雌雄ヲ、黒ク燒キタルモノ。其粉ヲ振リカクレバ、男女ヲシテ、戀慕ノ情ヲ起サシムト云フ。一說ニ、ゐもりの黒燒きハ、やもりの黒燒きノ誤ナリト。 倭訓栞、後編、ゐもり、やもり、とかげ、云云、今世、男女ノ中ノ事ニツキテ、水中ノゐもりヲ黒燒ニ製スルヨシイヘルハ、據タガヘルナルベシ」

ゐもり-の-しるし（名）〔井守印〕井守ノ血ヲ女ノ臂ニ塗リオクコト。男ニ接スレバ消ユト云フ。一說ニ、とかげ（蜴蜥）ノ誤ナリト。 [illegible] 守宮ノ [illegible] 參見セヨ。 新六帖、五「アハレヌ、ツクル心ノ、ヨシソナキ、ゐもりのしるし、ソレト見ナガラ」

ゐや（名）〔禮〕〔敬ト通ズ〕敬ノコト。ウヤ。禮。 欽明紀、元年六月「有司以禮收葬」

ゐや（名）〔居家〕スマヒスル家。住家。 方丈記「我心ト一ツノ庵ヲ結ブ、云云、タダゐやバカリヲ構ヘテ、ハカバカシク屋ヲツクルニ及バズ」

ゐやうちゃう（名）〔横笛〕〔わうちゃう（横笛）ノ轉〕よこぶえ（横笛）ニ同ジ。 字類抄「横笛、ヰャウチャウ」

ゐやく（名）〔違約〕約束ニタガフコト。 史記、項羽紀「[illegible]約王、漢」

ゐやじ（名）〔禮代〕〔ゐやじろノ略〕ゐやじろ（禮代）ノ條ヲ見ヨ。 出雲國造神賀詞「朝日乃豐榮登爾、神乃禮白利、臣能禮白登」

ゐやしき（名）〔居屋敷〕常ニ居住スル邸宅。ゐぢゅう（居住）ニ同ジ。 落穗集追加、四、制外の家の事「慶長五年、御當家天下御一統ノ以後ハ、御當地ニ於テ、諸大名衆ノ義ハ、何レモ居屋敷ヲ願ヒ、拜領アラレ、家作等ヲモ被致ルル中ニ」

ゐやじり（名）〔禮物〕〔禮表ノ約ト云フ〕次條ノ語ヲ見ヨ。

ゐやじろ（名）〔禮代〕又、れいだい。禮トシテ贈ル物。禮物。又、ゐやじり。略シテ、ゐやじ。禮幣 類聚國史、三十四、延暦廿四年二月「禮代乃幣帛」 古事記、下（安康）廿四「其妹之禮物、令持押木之玉縵」 出雲國造神賀詞「朝日乃豐榮登爾、神乃禮白利、臣能禮白登」

ゐやな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）〔無禮〕禮無シ。ナメシ。ブレイナリ。不作法ナリ。失禮ナリ。 應神紀、三年十一月「是歲百濟 [illegible]

ゐやひ（名）〔居合〕ゐあひ（居合）ノ訛 其條ヲ見ヨ。 傾城反魂香（寶永、近松作）上「氣ヲセケバ、ナホ物イハレズ、心ヲ仕方ノ腕マクリ、リキミ、ソリ打チ、ゐやひノ眞似」

ゐや・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（他動、上二）〔禮〕キヤマフ。ウヤマフ。禮ス。敬禮ス。 古事記、中 [illegible]

ゐやまひ（名）〔禮〕キヤマフコト。禮スルコト。敬禮 天智紀、九年正月「宣朝廷之禮儀與行路之相避」

ゐやま・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）〔敬〕〔禮ヲ活用ス〕うやまふ（敬）ニ同ジ [illegible] 紀、七年二月「[illegible] 禮神 [illegible]」

ゐややか・に（副）〔禮〕ウヤウヤシク。禮儀正シク。恭敬 土佐日記、二月十五日「家ノ人ノ出デ入リ、ニクゲナラズゐややかなり」

ゐやゐや・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）〔禮禮〕〔禮ヲ重ヌ〕うやうやし（恭）ニ同ジ。恭敬 源、三十一、槇柱五十「アナカシコト、ゐやゐやしク書キナシ給ヒケリ」

ゐゆ（名）〔慰喩・慰諭〕ナグサメナダムルコト。氣ヲ安ムルコト。 漢書、東方朔傳「朔因著論、設客難、己用位卑、以自慰諭」 允恭紀、七年十二月 [illegible]

ゐよう（名）〔威容〕威嚴ノアル容姿。 華陽國志（晉、常璩）「杜軫[illegible]」

ゐよげ-み（副）〔居善氣〕キゴコチノヨササウナル狀ニ云フ語。 俳諧新選、春「若草ヤ、居よげみ見ユル、鶴ノ脚」

ゐらう（名）〔遺老〕（一）生キノコリタル老人。 [illegible]

ゐらう（名）〔慰勞〕[illegible]

ゐらっ-しゃ・る（動）居るノ敬語。いらっしゃる（被爲入）ノ條ノ（三）ヲ見ヨ。

ゐらん（名）〔違亂〕タガヒミダルルコト。秩序ノ紊亂スルコト。又、法ヲミダスコト。 [illegible] 子孫マデ違亂アルマジキ由ノ御下文給テゾ下ケル、ワリナキ勸賞ニコソ」

ゐり（名）〔遺利〕トリノコサレタル利益 [illegible]

ゐりう（名）〔遺留〕（一）死後ナドニ、ノコリトドマルコト。又、ノコシトドムルコト。 [illegible] （二）物品ヲ所有者ノ置キ忘レタルコト。 [illegible]

ゐりゃう（名）〔遺領〕故人ノノコシタル領地。 吾妻鏡、三十三、延應二年四月十二日「故匠作遺領事、未分、死去之間、云云」

ゐりょう（名）〔威稜〕いつ（稜威）ニ同ジ。又、天子ノ御威光。 漢書、李廣傳「名聲暴於夷貉、威稜憺乎鄰國」

ゐりょく（名）〔威力〕威光ニテ抑フルコト。又、人ヲオソレシムル力。 晉書、劉琨傳「志[illegible]」 [illegible] 記、廿六、應和[illegible]年八月 [illegible]

ゐる・ヰル・ヰレ・ヰ・ヰ・ヰヨ(自動、上二) 居 (一)其處ニアリ。スワル。居リ。住ム。萬葉集、十一 十三「朽網山、夕居雲ノ、ウスラガバ、我ハ戀ヒムナ、君ガ目ヲホリ」 拾遺集、十三、戀、三、「アシビキノ、葛城山ニ、ゐる雲ノ、タチテモ居テモ、君ヲコソ思ヘ」 (二)集マリ止マル。集 源、三十四、下、若菜、下「契リオカン、コノ世ナラデモ、ハチス葉ニ、玉ゐる露ノ、ココロヘダツナ」 枕草子、八九、第百十三段「僧ニ蠅ノゐタル」 (三)船、沙ニ着キテ行キヤラズ。今、スワル。舟膠 倭名抄、十一、船類「淺、膠流」 萬葉集、十一 十四「ミサゴヰル、渚ニ座船ノ、夕潮ヲ、待ツラムヨリハ、吾コソマサメ」 代匠記ノ訓) 散木集、五、羇旅「鳥羽トイヘル所ニテ、舟ノゐテ下ラザリケルニ、云云」

ゐる・ヰル・ヰレ・ヰ・ヰ・ヰヨ(自動、上二) 齭齼 酸キモノナド食ヒテ、齒ウク。うく(浮)ノ條ノ(七)ヲモ見ヨ。倭名抄、三十 病類「齭、波井留、齒傷醋也」

ゐる・ヰル・ヰレ・ヰ・ヰ・ヰヨ(他動、上一) 以將率帥 身ニ副ヘ着ク。引キ連ルル。ヒキヰル。作フ。萬葉集、十六 十上「橘ノ、寺ノ長屋ニ、吾ガ率宿シ、ウナヰバナリハ、髪上ケツラムカ」 佛足石歌「我モマヰデム、モロモロヲ率テ」 源、二、帚木 四十上「此子ヲモ、モテカシヅキ、ゐテ歩ク」 易經、上經、師卦「長子帥師」 左傳、僖公廿六年「凡師能左右之曰以」 雜纂、唐、李商隱「不適時宜、將男女赴席」 史記、孔子世家「昭公率師撃平子」

ゐるり (名) 圍爐裏 〔ゐろりノ訛〕 ゐろり(圍爐裏)ノ條ヲ見ヨ。運歩色葉集「圍爐裏、イルリ」

ゐるゐ (名) 遺類 ノコレルヤカラ。又、撃チ洩ラサレタル徒類。史記、高祖紀「項羽嘗攻二襄城一、襄城無二遺類一、皆阬レ之」

ゐれい (名) 威靈 威嚴アル神靈。又、威光。威勢。漢書、敍傳「柔遠能邇、爓爓威靈」

ゐれい (名) 違例 (一)常例ナドニタガフコト。百練抄、四、長曆三年六月廿六日「前祭主佐國配流伊豆國、依二神事違例一也」 (二)例ニ違フコト。病ムコト。(貴人ニ云フ) 看聞御記、應永廿三年九月廿日「予依二違例一不レ參」

ゐれいせん (名) 威靈仙 くがいさう(九蓋草)ノ異名。重修本草綱目啓蒙、十五、蔓草類「威靈仙、云云、和名、クガイサウ、或ハ、クカイサウトモ云フ」

ゐれつ (名) 威烈 オソロシキ威力。非常ナルイキホヒ。威光。後漢書、度尚傳「桂陽宿賊、渠帥卜陽潘鴻等、畏二尚威烈一、徙入二山谷一」

ゐれつ (名) 遺烈 後マデノコレル功績。梁簡、梁高士碣「刊二貞石一以識二遺烈一」

ゐろう (名) 遺漏 ノコリモルルコト。脫ケタルコト。遺脫。南齊書、陸澄傳「澄待二儉語畢一、然後談二所遺漏一數百千條、皆儉所レ未レ覩」

ゐろく (名) 位祿 (一)位ト、祿ト。官位ト、俸祿ト。位秩。(二)古ヘ、位ノ高下ニヨリテ賜ハリタル祿。續紀、三十七、延曆元年十二月「未レ得二解由一者、宜下奪二位祿食封一以懲中將來上」 公事根源、中、二月「位祿定、是ハ奉公ノ勞ニヨテ、群臣百官ニ祿ヲタマフ事ナリ、一ノ上、陣ノ座ニツキテ、位祿ノ文ヲ見ル、大辨、目錄ヲ書ク、ソノ外、コトナル事ナシ」

ゐろくさだめ (名) 位祿定 古ヘ、毎年二月中旬、公卿、陣ノ座ニ集マリテ、位祿ヲ賜フベキヤ否ヤヲ協議セシ式。前條ノ語ヲモ見ヨ。江家次第、五、二月「位祿定、二月中旬可レ行レ之、一上有レ障者、依レ讓次人行レ之」

ゐろり (名) 圍爐裏 ゐ(爐)ト云フニ同ジ。訛シテ、ゐるり。地爐 和漢三才圖會、三十一、庖廚具「爐、比太岐、地爐、又名二圍爐裏一」

ゐわく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 居分 ワカレテ居ラス。ワカレテスワラシム。枕草子、七、第六十八段「其日ニナリテ、皆、カタウドノ男女ゐわけテ、殿上人ナド、ヨキ人人多ク居ナミテアハスルニ、云云」

ゐゐ (感) 唯唯 いい(唯唯)ノ條ヲ見ヨ。漢書、東方朔傳「非有先生伏而唯唯」

ゐゐん (名) 委員 選擧、又ハ、任命ナドニヨリテ事ヲ委任セラレタル役。

う

う 五十音圖、和行、第三ノ假名。わノ條ヲ見ヨ。うさぎ、をさぎ(兎)、うそ、をそ(獺)、うけら、をけら(朮)、うや、ゐや(敬)、うゑ、うう(飢)、等、相通ズレバ、是等ノうハ、和行ノうナラム。サレド、假名ノ形ヲ別チ得ザレバ、今ハ、皆、阿行ノうニ併セタリ。

ゑ

ゑ 五十音圖、和行、第四ノ假名。わノ條ヲ見ヨ。此音ハ、ふ(うノ如ク呼ブモノ)ニ連ルトキハ、よノ如ク呼ブコトアリ、ゑふ(醉)ノ如シ。

ゑ (名) 餌 (一)鳥、獸、蟲、魚、ナドヲ誘フ食。又、ソレ等ヲ飼フタメノ食物。エサ。エバ。ヲギエ。エジキ。(人ニモ云フ)ウチカヒ 〔犬、鷹、〕 倭名抄、十五 四「畋獵具、餌、恩、具、食二禽獸魚鳥一也」 [illegible]「鈎、取…餌」 源順集「ゑ[illegible]ル、君ガハシタカ、シモカレノ、野ニナ放チソ、早ク手ニスヱ」(首尾ニゑヲ詠メル歌) (二)轉ジテ、人ヲ誘ヒ招クタメニ提供スル金錢、利益、ナドノ稱。漢書、賈誼傳「適足以餌二大國一耳」

ゑ (名) 繪畫 〔ゑハ繪ノ吳音、画ハ畫ノ省字〕 物ノ形象ヲ、紙、又ハ、帛ナドニ寫シアラハシタルモノ。グ。繪畫。字鏡抄「繪、畫、エ」 出雲風土記、秋鹿郡「惠曇郷、此處者國稚美好、有二國形如レ畫鞆一哉、云云、故云二惠伴一(神龜三年、改二字惠曇一)」 萬葉集、廿 十「我ガ妻モ、畫ニ書取ラム、暇モガ、旅行ク吾ハ、見ツツ偲バム」

ゑ (名) 會 〔ゑハ會ノ吳音、集合ノ意〕 人ノ、多ク集マリテ、祭禮、佛事、ナドスルコト。會。集會。宇津保物語、藤原君、十「東山ナル寺ノ塔ノゑシ給フベシト云フ」 榮花物語、十七、音樂「サキザキノ御堂ノ會ニ、萬ハ皆シツクサセ給ヘレト、云云」 大鏡、[illegible]

ゑ (名) 慧 〔ゑハ慧ノ吳音〕 (一)智慧。サトリ。(二)佛教ノ語。事理ニ通達シ、疑念ヲ斷ズル作用。唯識論、九「云何爲レ慧、於二所觀境一簡擇爲レ性、斷レ疑爲レ業、謂觀二得失俱非境中一、由レ慧推求、得二決定一故」 太平記、二、三人僧徒關東下向事「戒、定、慧ノ三學ヲ兼備シ給ヘル一人ノ沙門オハシケリ」

ゑ (名) 穢 〔ゑハ穢ノ吳音〕 ケガラハシキコト。キタナキコト。又、ソノモノ。ケガレ。汙穢。左傳、昭公元年「若子之羣吏、處不レ辟レ汙」疏「若二穢之汚一レ物也」

ゑ (助) 飢 〔うゑノ約〕 うう(飢)ノ條ヲ見ヨ。古事記、中(神武)九「タタナメテ、イナサノ山ノ、木ノ間ヨモ、イユキマモラヒ、戰ヘバ、吾ハ

ヤ惑ヌ」推古紀、廿一年十二月「シナテル、カタヲカ山ニ、飯ニ惑テ、コヤセル、ソノ旅人アハレ」

ゑ 惑ノ 苦キ感動ノ聲。 天治本、十年十二月「芹ノモト、吾ハ苦シ衛」萬葉集、四十二「山ノ端ニ、アヂムラサワギ、行クナレド、吾ハサブシ惑、君ニシアラネバ」 同、十一廿六「タラチネノ、母ニシラエズ、我ガセタル、心ハ苦事、君ガマニマニ」

ゑあはせ (名) 繪合 左、右、方ヲ分ケテ、各、繪ヲ出シテ、其優劣ヲ闘ハスル戯。 源語、十七、繪合（巻名）」吾妻鏡、廿、建暦二年十一月八日、有二繪合之儀一」

ゑいし (名) 衛士 又、ゑじ。護衛ノ士卒。 史記、項羽紀「樊噲、盾入二軍門一、交戟之衛士、欲止不内、樊噲側二其盾一以撞二衛士仆一レ地」

ゑいじゅ (名) 衛戍 〔説文「戍、守レ邊也」〕 軍隊ガ一地方ニ永久駐屯シテ、警衛スルコト。戍衛 戍守 「衛戍病院」

ゑいしょ (名) 衛所 (一)番兵ヲ置キテ守衛スル所 明史、兵志「明制度、云云、衛所之兵疲二於番上一」 (二)特ニ、敷設水雷ノ場面ヲ監理シテ其水雷ノ發火ヲ掌ル所。

ゑいせい (名) 衛星 遊星ニ陪ヒテ、其周圍ヲ巡ル天體ノ總稱。地球ニ陪フモノ一ツ、即チ、月ニ、其他、木星ニ九ツ、土星ニ十、火星ニ二ツ、天王星ニ四ツ、海王星ニ一ツアリ。ソヒボシ。陪星。

ゑいせい (名) 衛生 呼吸、飲食、衣住、ナドニ注意シ、身體ノ健康ヲ保チ、強壯ナラムヲ勉ムルコト。養生。 莊子、庚桑楚「願聞二衛生之經一而已矣」

ゑいそつ (名) 衛卒 (一)ゑいへい(衛兵)ニ同ジ。 漢書、百官表「衛尉、掌二宮門衛屯兵一、云云、屬官有二衛士令丞一」 (二)王朝時代、大宰府ニ設置シ、雜役ニ從事セシメタル卒。一年毎ニ交替セシメ、租庸ヲ免ジ、米鹽ヲ給セリ。 延喜式、云云、「衛卒料二萬二千四百束」

ゑいへい (名) 衛兵 守衛ノ兵卒。番兵。衛卒 晉書、百官志「左右衛將軍、各一人、正二品、云云、掌二衛兵及内外八鎮兵一」

ゑいぼう (名) 衛矛 灌木ノ名 まゆみ(衛矛)ノ條ヲ見ヨ。

ゑいん (名) 會陰 〔兩陰ノ會スル所ノ義〕 ありのとわたり(蟻門渡)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 書言字考節用集、五、肢體門「會陰、トワタリ、兩陰之間、會陰、同」

ゑいり (名) 繪入 書物、又ハ、文書ノ處處ニ、本文ノ事ニ關シタル繪ヲ加ヘタルモノ。出像 雍州府志、七、土産門、下、繪草子「倭俗、以二國字假名一作之書、謂二之草子一、畫二草子之畫一、稱二繪草子一、或謂二之繪入一」

ゑうまいしゃ (名) 繪馬醫者 ゑまいしゃ(繪馬醫者)ノ條ヲ見ヨ。 織留(元祿、西鶴)四「世間ニ繪馬醫ト云フ事、仔細ヲタヅネケルニ、云云、歩行ノ時ハ繪馬ヲ見テモ日ヲ暮セシガ、云云」

ゑえん (名) 會厭 ひさ(會厭)ノ條ヲ見ヨ。

ゑえんなんこつ (名) 會厭軟骨 ひさ(會厭)ノ條ヲ見ヨ。

ゑが (名) 垣下 又、ゑんが。ゑんがのざ(垣下座)ノ略。其條ヲ見ヨ。 宇津保物語、俊蔭二十「カヅケモノ、ゑがノ親王タチニ、赤朽葉ノ花文綾ノ小袿、云云」

ゑかう (名) 回向 廻向 〔回事(誦經)向理(眞如)ノ略、即チ、己レガ所修ノ功德ヲ回轉シテ、期スル所ニ趣向セシムル義〕 (一)己レガ行フ善行功德ヲ他ニ施與シテ、淨土ニ往生シ得ルヤウトセムト願フコト。 大乘義章、九「言二回向一者、回二己善法一、有レ所二趣向一、故名二回向一」往生論註、下「回向者、回二己功德一、普施二衆生一、共見二阿彌陀如來一、生二安樂國一」 源、四十六、總角十八「中門ノモトニヰテ、イト尊クツク、ゑかうノスヱツカタノ心バエ、イトアハレナリ」 (二)讀經シテ、亡靈ノ菩提ヲ追福スルコト。 保元物語、三、云云、「北方身投給事」「靈タチニモ回向セントテ」 (三)誦經了リテ、其功德ヲ一般衆生ニ向ハシムルタメニ、誦スル文ヲ、回向の文ト云フ。例ヘバ、「上來經咒ヲ諷誦ス、資フ所ハ、報地ヲ莊嚴セムコトヲ」ト云ヘル類。

ゑかがみ (名) 繪鑑 古畫ヲ集メテ帖トセルモノ。てかがみ(手鑑)ノ條ヲ見ヨ。

ゑかき (名) 畫人 畫師 畫ヲカクヲ業トスル人 エダクミ エシ。畫家 畫工 崇峻紀、元年三月「畫工白加」 推古紀、十二年九月「定二黃書畫師、山背畫師一」

ゑかきべ (名) 畫部 (一)ゑし(畫師)ニ同ジ。 (二)大寶令ノ制ニ、畫工司ニ屬シテ、繪畫ノ事ヲ学リタルモノ。 職員令「畫工司、云云、畫師四人、畫部六十人」

ゑが・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 畫 (一)繪ニ書キ取ル。又、繪ヲ書ク 字類抄「畫、ヱカク」 著聞集、十一、畫圖「仁和寺御室、云云、ソノ御所ニ、金岡筆ヲフルヒテ、繪書けル中ニ、殊ニスグレタル馬形ナン侍ルナル」 (二)轉ジテ、寫ス。描キ出ス。描寫ス (文章ニモ云フ)

ゑがのざ (名) 垣下座 ゑんがのざ(垣下座)ニ同ジ。

ゑがのところ (名) 垣下所 ゑんがのざ(垣下座)ニ同ジ。 宇津保物語、祭使四十「カクテ、ゑがの所ノ物ノネイダシテ、遊ビアカシテ」

ゑがひ (名) 餌飼 餌ニテ飼ヒツクルコト。(放飼ニ對ス) 運歩色葉集「餌飼、エガヒ」

ゑがひ (名) 繪貝 遊戲ノ具。貝ノ兩殼ノ内ニ、繪ト歌トヲ別別ニ書キテ、兩方ヲ合ハセ取ルモノ。天暦ノ頃、始メテ行ハルト云フ。貝合ノ類ナリ。

ゑがほ (名) 笑顔 笑ミヲ含メル顔。ニコニコ顔。 心中天網島、中、「…ノヒガホ、ニコニコ顔」 近松作ニト、イカナニ、コリトゑ顔モ見セズ

ゑがら (名) 餌殻 動物ノ與ヘタル餌ノ食ヒ殘リ。 著聞集、廿、魚蟲禽獸「アハレニフシギニ思フホドニ、中一日アリテ鷹、ゑがらノ見エケレバ、エブクロニ鶉鷄ノ斐鳥ノハラヲ、ヲノガ嘴ニ貫キテ、死ニテアリケリ」

✣**ゑがらっぽ・い** (形) 蘞蔹 〔訛シテ、いがらっぽい〕 ゑぐし(蘞)ニ同ジ。

ゑぎぬ (名) 繪衣 昔、采女ノ着タル表衣。表ハ白練ニテ、雲ニ椿ノ花ノ彩色ヲ施シ、裏ハ生絹ニテ萌葱色ナルモノ。

ゑぎぬ (名) 繪絹 繪ヲカク料トスル白キ生絹。生練 本朝畫史(元祿、狩野永納)五、附錄「畫絹、…片織、色尚白…傳之…、近松作上…、天ヲ礬シ地ヲ刷シ、…ノヒロゲ」

ゑぐ (名) 會供 (一)古へ、正月七日ノ節會ノ供 後撰集、十九、古歌云、ゑぐトハ、越州若菜ノ名ナリ、會供ト書ナリ、正月七日、白馬節會ニ、始テ若菜ヲ奉レバ、會供ト云」 (二)ゑぐのわかな(會供若菜)ノ略

〜ゑぐ（名）草ノ名。葉ハ繭ニ似テ小サク、根ニ、白ク小サキ芋アリテ、味少シクエグシ。くろぐわゐ（黑慈姑）ノ類ト云フ。或ハ云フ、水邊ニアリテ、芹ニ似タルモノナリト。萬葉集、十「君ガタメ、山田ノ澤ニ、ゑぐ摘ムト、雪消ノ水ニ、裳ノ裾濡レヌ」同古義「ゑぐハ芹ノ類ナリ」詞花集、十、雜、下「賤ノ女ガ、ゑぐ摘ム澤ノ、薄氷、イツマデ經ベキ、我身ナルラン」

ゑぐいも（名）蘞芋　里芋ノ屬。二種アリ、一ハ、子、常ノ如クニシテ細長シ。一ハ、生薑ノ如ク塊ニ附生ス。共ニ、味エグシ。善ク煮レバ食フベシ。

〜ゑぐ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）蘞　蘞（酸）（ゑぐる意カト云フ）又、ゑがし。苦シク喉ヲ刺戟シテ、イライラスル如キ風味アリ。卽チ、芋莖ノ生ナルガ如キ味アリ。エガラッポイ。エゴイ。倭名抄、十七、六蓏類「酸、惡久之」名義抄「酸、エクシ」

ゑぐ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）刳（ぐしハ、めぐし、おおろぐし（情具之）、ナドト同趣）エグル如キ氣味アリ。心苦シ。

ゑぐのな（名）會供菜（一）次條ノ語ノ略。（二）芹ノ事ナリトモ云フ。（連歌ノ書ナドニ）

ゑぐのわかな（名）會供若菜　略シテ、會供　會供の菜　古へ、正月七日ノ節會ニ用ヰル七種ノコト。詞花集、一、春「消エバ、ゑぐの若菜モ、摘ムベキニ、春サヘ晴レヌ、ミ山邊ノ里」忠度集「雪分ケテ、ゑぐの若菜モ、生ヒニケリ、今日ノタメトハ、イカデ知リケン」

〜ゑくぼ（名）靨　（笑窪ノ義）（一）人ノ質ニ、笑ムトキ、頰ノ邊ニ、指ニテ押シタルガ如キ、小サキ窪ミヲ見ハスモノ。倭名抄、三「靨、惡久保、面小下也」字鏡「靨、惡久保」（二）あはた（痘痕）ノ異名（嘲リテ云フ）「ゑくぼノ鈴成リ」

ゑくも（名）繪雲　繪、又ハ、模樣ニ、金銀泥、又ハ、繪の具ナドニテ、洲濱形ノ雲ノ象ヲ作レルモノ。又、雲ノタナビケル模樣ヲ描キタルモノ。（色紙、短册ナドニ）コレヲ源氏物語ヲカケル繪ニノミアリト心得テ、源氏雲トモ云フ。又、鳥の子紙ニ、此模樣ヲ表ハシタルヲ、雲紙ト云フ。俳諧故集「屋根ナキハ、源氏ノ繪雲、朧雲」

ゑぐり（名）刳　エグルコト。御所櫻堀川夜討（元文、三好松洛等合作）三「誰トハ知ラズ、信夫ガ脊骨障子越シ、グット指イテ一トゑぐり」

ゑぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）抉刳（鐫リ刳ル、ノ略ト云フ）突キ入レテ廻ハシ穿ツ。クジル。女殺油地獄（享保、近松作）下「刺テハゑぐり、拔テハ切ル」

ゑげ（名）會下　（法會ノ下ニ列スル義）又、ゑか。佛敎ノ語。禪家ナドニテ、師ノ膝下ニテ修行スル所　門下ト云フニ同ジ。又、弟子ノ、一寺ヲ持タズシテ、學寮ニ居ルモノ。下學集、下、言辭門「會下、エゲ」注「會下者、以ニ參禪參學ニ爲レ本、法問商量而立レ法、云云」知鑑禪師年譜「康永元年壬午、師十四歲、在ニ東山東海會下ニ云云、貞治五年己巳、師二十一歲、在ニ東山ニ和尙會下ニ擢ニ任侍客寮ニ」醒睡笑ニ元和、安樂庵策傳）七「アル舞マヒノ、奥州ニ下向スルアリシ道ニテ、會下ノ寺ニトマル」

ゑげがさ（名）會下傘　會下僧ノ用ヰル傘。狂言記、祐善「我ガ荒増ノ木トゲテ、會下傘ヤ友トナルラン」

ゑげソウ（名）會下僧　師匠ノ會下ノ僧。又、學問僧。狂言記、二言「見ハ若ギ同…」…「僧谷ヨリ出ヌル會下僧ニテ候」…治）五「會下僧一人、ココヲ通リケルニ、云云」

ゑげん（名）慧眼　惡眼　佛敎ノ語。五眼ノ一。現象界ノ差別相ヲ見ル肉眼ニ對シテ、一切ノ迷執ヲ離レテ、實在界ノ眞理ヲ見ル作用ヲ有スル眼識ヲ云フ。思益經、三「其眼者、見ニ何法ハ答曰、若有ニ所見、不レ名ニ慧眼ニ慧眼不レ見ニ有爲法ハ不レ見ニ無爲法ニ」無量壽經、下「慧眼見レ眞、能度ニ彼岸ニ」…訓抄、七、三、第十五條「法門ヲ沙汰シテコソ慧眼ハ開ク事ニテ侍レ」

ゑご（名）衞護　又、ゑいご。ツキソヘテマモルコト　左右ヲカタメマモルコト　護衞　太平記、廿七、雲景未來記事「將軍ト申スハ、弓矢ノ長者ニテ、海内ノ衞護ノ人也」

✣ゑご・い（形）蘞　ゑぐし（蘞）ノ口語。

ゑごころ（名）繪心　畫ヲカク心得。又、繪畫ヲ理解スル心得。繪ノタシナミ。

ゑご・し（形）蘞　ゑぐし（蘞）ノ轉。

ゑことば（名）繪詞　繪ヲ說明スルタメニ、書キ添へタルコトバ。ゑまきもの（繪卷物）ノ條ヲモ見ヨ。明月記、天福元年三月廿日「源氏繪詞內府被レ書、一昨日二三卷書出被レ送、手跡尤宜歟」

ゑこひ（名）餌乞　餌ヲ欲シガルコト。源順集「餌乞スル、君ガハシ鷹、霜枯ノ、野ニナ放チソ、早ク手ニスヱ」

ゑコフ（名）壞劫　佛經ノ語。四劫ノ一。災禍起リテ、三千大千世界、及、一切ノ生類ノ破壞セラルト云フ時。まこふ（四劫）ノ條ヲモ見ヨ。俱舍論記、十二「二十四劫…」

ゑおよみ（名）繪曆　文字ノ代…ニテ記シタル略曆。メクラゴヨミ。

ゑおゑお（副）身體ノ肥エテ、…デブデブ。浮世風呂、三編、下「大キナ腹ダヨノウ、我レナガラ、ナゼコンナニゑおゑおスルダラウ」

ゑさ（名）餌　ゑ（餌）ニ同ジ。

ゑざう（名）繪像　畫像　人物ノ姿ヲ繪ニ寫シタルモノ。ニセヱ。エスガタ。グヮザウ。肖像。平家物語、灌頂卷、小原御幸事「左ニ普賢ノ繪像、右ニ善導和尙、竝ニ先帝ノ御影ヲカケ、云云」

ゑざうし（名）繪草紙　繪雙紙　〔草雙紙〕ノ條ヲ見ヨ、昔ノ雙紙物語…分ツタメノ名カ）（一）插繪ノアル草紙。草雙紙。繪本。モトハ、婦女、小兒ノ娛樂ノタメニ、種種ノ繪ニ、平假名文ナドニテ、解說ヲ書キ、板ニ刻リ、摺リタル小本ナリ。其表紙ノ黃色ナルモノ出デ、コレヲ黃表紙ト云ヒ、享保ノ頃、鱗形屋（江戶、大傳馬町、繪雙紙問屋）ニテ、萌葱色トシタリシ故、靑本ト云ヒ、今年ノ新板ヲ、翌年、黑表紙ニシテ出スヲ、黑本ト云ヒ、又、丹色表紙ニシタルヲ、赤本ト云ヒ、寬永ノ頃ヨリ元祿ニ亙リテ、卷中ノ插繪ニ、丹、綠靑、及、黃ノ三色ヲ以テ、筆ニテ彩色シタルヲ、丹綠本ト云フ。其後、前編、後編ノ作出來テ、合卷物ト云ヒ、半紙摺トナル。ゑいれ（繪入）ノ條ヲモ參見セヨ。嬉遊笑覽、三、書畫「…文、延寶ノ頃）ノ繪雙紙ハ、唐紙表紙ニテ、土佐淨瑠璃、本文ハ金平ナドノ本ニテアリシ」正章千句（正

保」九「今日ヨリハ、イロハチリヌル、假名月」シグルル窓ニ、開ク指矮紙」（二）錦繪。「續草紙屋」

ゑ・さがし（名）〔繪搜〕カクシヱ。繪ノ中ニ、心付カヌ他ノ形、又ハ、文字ヲカキイレテ、搜シアツルコト。又、ソノモノ。

ゑ・さし（名）〔[illegible]〕（一）[illegible]。鷹ノ飼トスベキ小鳥ヲ、[illegible]竿ニテ差シ捕ノルコト。又、ソレヲ職トスル人。江戸幕府ニハ、此役アリキ。又、小鳥ヲ擒竿ニテ捕ルヲ業トスルモノ。運步色葉集「餌指、ヱサシ」狂言記、餌差十王「諸額ト申ス餌差デゴザル」

ゑ・さし・ざを（名）〔餌差竿〕餌差ノ用ヰル竿。長サ二三四間ニテ、先端ニ黐ヲ附ス。本朝二十四孝「明和、近松半二等合作」三「見レ此ノ竹モ其ノ本ハ、竹ニ雀ト離レヌ中、今餌差竿ト成ル時ハ、鳥ノタメニハ怨敵」

ゑ・さん（名）〔畫贊カ〕カケモノ。軸物。カケヱ（掛畫）。

ゑ・し（名）〔繪師〕繪ヲカクヲ業トスルモノ。又、畫工ノ職。ヱカキ。畫家。畫工。字類抄「畫師、ヱシ、繪師」雄略紀、七年七月「畫部因斯羅我」宇津保物語、[illegible]上、下「ゑし召シテ、ツクルベキヤウ仰セ給フ」

ゑ・じ（名）〔衞士〕（一）古ヘ、諸國ノ軍團中ヨリ、京ニ召サレ、年每ニ交番シテ、禁闕ヲ衞ルモノ。衞士府ニテコレヲ統ブ。軍防令「凡兵士向」京者、名ニ衞士」同「衞士、一年[illegible]」（二）誤リテ、仕丁ノ稱。御垣守。御篝火。詞花集、七、戀、上「御垣守リ、衞士ノ燒ク火ノ、夜ハモエ、晝ハ消エツツ、物ヲコソ思ヘ」

ゑ・しき（名）〔會式〕佛敎ノ語。法會ノ儀式。又、寺ニ、佛事[illegible]。今、多クハ、日蓮宗ニテ、十月十三日（八日ヨリ始マル）、日蓮ノ忌日ニ修スル佛事ヲ云フ。日蓮ハ弘安五年十月、武藏國[illegible]ニテ寂ス、コレ十三日ナリ、其前夜ヨリ御影供ナリ、訛シテ御命講トモ云フ。此日、日蓮ノ像ノ頂ニ、赤白ノ綿ヲ三枚[illegible]、[illegible]トス。[illegible]年中[illegible]四、十月「八日、法[illegible]、御影供法[illegible]、又會式トイフ、當月十三日ハ、宗祖日蓮上人ノ忌日タルニヨリテ、法會ヲ修ル所ナリ、今日ヨリ十三日マデ修行アリ、俗ニお命講トイフハ、御影供ノ轉訛セルナリ」

ゑ・じき（名）〔壞色〕〔梵語、Kaṣāya. ノ譯語〕靑、黃、赤、白、黑ノ五正色ヲ避ケテ、他ノ不正色ヲ以テ染壞スル故ニ云フ。もくらんじき（木蘭色）ノ條ヲ見ヨ。遺敎經「汝等比丘、當ニ自摩ニ頭、以捨ニ飾好、著ニ壞色衣、執ニ持應器、以乞自活」行事鈔、中之三「四分云、壞色者、若青黑木蘭也」

ゑ・じき（名）〔餌食〕（一）餌トスル食物。ヱ。エバ。又、食物。御伽草子、猫の草子「田作ニ鯡、乾鮭ナドヲ、朝夕ノゑじきニハイカガ」（二）貪婪ナル慾望ノ犧牲トナルモノ。

ゑじ・ふ（名）〔衞士府〕此府、左右（左衞士府、右衞士府）アリ、禁裏ヲ警衞シ、隊仗ヲ檢校シ、且、衞士ヲ統督セシ役所。弘仁二年十一月廿八日、左右衞士府ヲ改メテ、左右衞門府トナセリ。職員令「左衞士府、督一人、掌、禁衞宮掖、檢ニ校隊仗、以時巡檢、衞士名帳及差科、夫備陣設、車駕出入、前驅後殿事」

ゑ・しやく（名）〔會釋〕（一）會得シテ、心ノ中ニ釋然ト解キ得ルコト。又、相會ヒテ、打チトケ語ラフコト。（二）佛敎ニテハ、法門ノ難義ヲ會得解釋スルコト。說法明眼論「一言會釋、一坐飲酒」（三）ウナツクコト。（四）轉ジテ、禮スルコト。アイサツ、[illegible]、[illegible]、云云」（五）[illegible]

ゑしや・ぢやうり（句）〔會者定離〕〔遺敎經「世皆無常、會必有離」〕佛敎ノ語。世ノナラヒトシテ、會フモノハ、必ズ離ルルコト。[illegible]、[illegible]、生者必滅、會者定離ト云フコトワリハ、コレニテ侍ナリ」盛衰記、四十、中將入道、水[illegible]「生者必滅、會者定離ハ浮世ノ習ヒナレバ、云云」「入道ノ弔、當座ノ會釋ト見タリ」

ゑ・ず（感）〔怨〕ゑんず（怨）ノ略。其條ヲ見ヨ。宇津保物語、國讓、上、五十「アル時ハ、アハレニ心グルシゲニ、アル時ハ、ニクゲニゑじ給フ」

ゑ・すがた（名）〔繪姿〕ゑざう（繪像）ニ同ジ。本朝二十四孝（明和、近松半二等合作）四「昧ニ繪姿カケマクモ、御經讀誦ノ鈴ノ音」

ゑずぐるし・い（形）年長ケタルモノノ、若作リスルサマナリ。又、年長ケタル童兒ノ、幼兒ノ如クアマヘル狀ナリ。（京都ノ語）

ゑ・スゴロク（名）〔繪雙六〕雙六ヨリ移リタル戲。紙ニ縱橫ノ線ヲツケテ、其區內ニ、各、種種ノ繪ヲカキ、又、各、一二三等ノ數字ヲ記シオキ、其內ニ振出ト云フ所アリ、上リト云フ所アリ、數人集マリテ、各、己レガ名ヲ記シタル札ヲ振出ニ置キ、代ル代ル骰ヲ振リ、其面ニ出デタル數ヲ、區內ノ數字ニ合ハセテ、其示ス所ニ札ヲ移シ、早ク上リニ移リタルヲ勝トス。淨土雙六、官職雙六、道中雙六、其外ニ新作ノ物、種種アリ。[illegible]一千句（杉田勾當）「鑑フコソ、唯妙樂ノ、花ノ樣、ヰキヒネモス、打ツ繪よご六」（コレ淨土雙六ナリ）

ゑせ・のき（名）[illegible]

ゑ・ぜに（名）〔繪錢〕繪ヲ鑄出シタル方孔[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、祭事、其他、慶賀ナドノ揭合ニ、記念トシテ鑄タルモノ。又、[illegible]、[illegible]ナドニ鑄タルモノ多シ。繪ハ惠比須、大黑天、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]等、[illegible]リ、或ハ名號、[illegible]、其他、[illegible]アリ。地方凡例錄、十一「日本錢ニ繪錢トテ、大黑錢、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、丸[illegible]、其外、[illegible]、[illegible]アリ、敦レノ代ニ鑄タルヤ、通用錢ニ非ズト見エタリ、繪錢共、戲ニ鑄タル物ニヤ、其譯不ㇾ知、云云」

ゑ・そ（名）〔壞疽〕病ノ名。身體內ノ臟腑、又ハ、腐敗菌等ノ侵入ニアヒ、器官ノ一部、腐リタダレテ、甚ダ[illegible]ノ又、凍瘡ノ甚シキカ、腐リテ壞疽トナルコトアリ。壞死。[illegible]

ゑ・そ（名）〔鰄〕〔笑壺ノ義、又、えそトモ書ス、其首、笑見セヨ〕喉[illegible]魚ノ名西海ニ多シ。形、かます（魳）ニ似テ、身、丰タク、頭、尖リ、上吻、長サ一寸許リ、鐵ノ如シ。眼ト吻ト相通リ、腮下ニ長キ鰭アリ、腹下ニ三尖ノ鰭アリ、尾、狹ク、岐ナシ。[illegible]長[illegible]ヨリ尺[illegible]ル。かまぼこ（蒲鉾）トスベシ。箭魚。[illegible]

ゑそら・ごと（名）〔繪空事〕繪ハ、寫生ノミニテハ、見ドコロ無シトテ、實形ニ多ク作意、又ハ、想像ヲ加ヘテ、寫スモノナルヲ云フ。丹[illegible]過實[illegible]、[illegible]

露國「ソノ物ノ寸法ハ、ブンニスギテ、オホキニ書キテ候コト、イカデカ實ニハ、サハ候ベキ、アリノママノ寸法ニ書キテ候ハバ、ミトコロモナキモノニ候ユヱニ、ゑそらごとト八申スコトニテ候」

ゑた・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（エタ・ク）(自動、四)　(一)ゑづく(嘔)ニ同ジ。(二)あへぐ(喘)ニ同ジ。

〜ゑだくみ（エダクミ）(名)　[畫工]　ゑかき(畫人)ニ同ジ。崇峻紀、元年三月「畫工白加」　官位令「正六位(上階)畫工正、從七位(下階)畫工佑」

ゑだくみのつかさ（エダクミノツカサ）(名)　[畫工司]　古ヘ、中務省ニ屬シ、繪畫、彩色、等ノ事ヲ司リタル所。正、佑、令、史、各、一人、畫師四人、畫部六人、等ヲオク。ヱドコロノツカサ。職員令「畫工司、正一人、云云」

ゑだこ（エダコ）(名)　[繪凧]　たこ(凧)ノ條ヲ見ヨ。

ゑぢく（エジク）(名)　[繪軸]　繪ノ軸物。繪ヲ書キタル掛軸。かけもの(掛物)ノ條ヲ見ヨ。

ゑぢぐち（エジクチ）(名)　[繪地口]　祭禮ナドニ飾ル繪ヲカキタル行燈ノ地口。ぢぐちあんどん(地口行燈)ノ條ヲ見ヨ。浮世風呂(文化、三編、四編、上)「ワザトコジ付ケタ地口ヲ書クカ、戲作本ノ題トスル所、又行燈ノ地口ハ繪地口ト申シテ、アレハ繪ヲ表トシテ、繪カラ拵ヘル地口デ」

ゑちごかたびら（エチゴカタビラ）(名)　[越後帷子]　越後國ヨリ產ズル上布、又ハ、縮ノ帷子。駿臺雜話、「自三六月朔日、越後帷、至三七月六日二着ナリ」

ゑちごじし（エチゴジシ）(名)　[越後獅子]　(一)越後國、蒲原郡ノ神社ニ行ハルル里神樂ノ獅子舞ノ稱。(二)又、同國、西蒲原郡、月潟村(今ノ秋津村)地方ヨリ出ヅル子供ノ獅子舞。モトハ夏ノ初ヨリ出デテ、諸國ヲ巡リ、秋ノ末ニ歸ル。一二三ノ小童、小サキ獅子頭ヲ被リテ、跳リ廻リ、逆立チ、逆反リ、ナドシ、種種ノ技曲ヲナス。一ニ角兵衛獅子ト云フ。始メテ率キ來リシ者ノ名カ。(三)長唄ノ曲ノ名。

ゑちごじやうふ（エチゴジヨウフ）(名)　[越後上布]　越後國ヨリ產ズル上布。地合清爽ニシテ緻密ナリ。品位最モ良シ。

ゑちごちぢみ（エチゴチジミ）(名)　[越後縮]　越後國ノ魚沼、刈羽、頸城、ノ諸地方ヨリ產ズル苧布、からむしノ內ノ白肉ヲ績ミテ織リ、灰汁ニテ煮テ、雪中ニ晒ス。絕品トス。特ニ、同國小千谷町邊ヨリ產ズル故ニ、小千谷縮トモ云フ。紵布　信州川中島合戰(享保、近松作)一「イザ拜殿ヘモ一所ニト、手ヲ取レバ取リ替ヘ、越後縮ノ雪洒落ハ、京モ及バヌ手ザハリニ、云云」　萬金產業袋、四、夏物類「越後縮、幅九寸、丈武丈七八尺、女物長尺、三丈武尺ノ餘マテモ有、云云、尤越後縮ホド上品下品有ハナシ」

ゑちごりう（エチゴリユウ）(名)　[越後流]　(一)軍學ノ一派　越後ノ上杉謙信ノ遺流ヲ汲ムモノノ一稱。謙信流。集義和書、十一、義論之四「問、甲州流、越後流、信州流ナド申侍ルハ、如何、云、三家ノ中ニテ、將ノスグレタルハ景虎ナリ、云云」　(二)宇佐美駿河守ヲ祖トセル軍學ノ一派。越後ノ人、澤崎主水ノ唱ヘシモノ　武術流祖錄、兵學「越後流、澤崎主水、越後人也、習二兵法加治薔爪齋景明、最得二精妙、云云」

ゑつ（エソ）(名)　[鱭魚]　魚ノ名。此魚、川ニ上ルコト鮎ノ如シ、一年ニテ死ス。大ナルハ一二尺、體、銀色ニシテ、狹ク長ク、刀刃ノ如シ。背ノ方、少シ厚ク、腹ノ方、漸ク薄ク、首ヨリ次第ニ狹クシテ、尾、尖ル　上唇ノ堅骨、兩吻ニ餘リテ出デ、左右ノ鰭、皆、細ソク分レテ、麥ノ芒ノ如シ。重修本草綱目啓蒙、廿九、魚類「鱭魚、ゑつ、ウバヱツ、云云、ゑつハ筑後柳川及ビ肥前諫早江ニアリ、海ヨリ河ニノボル者、故ニ河海ノ間ニテ取ル」

ゑづ（エズ）(名)　[繪圖]　國郡、家宅、園庭ナドヲ平面ニ描キタル圖。易林節用集(慶長)下、食服門「繪圖、ヱズ」　吾妻鏡、九、文治五年九月十四日「件兄弟、暗注二進兩國繪圖一云云」

ゑづき（エズキ）(名)　[噦]　エヅクコト。聲ヲ出シテ食物ナドヲ吐クコト。又、空シクヱヅクヲ、空ゑづきト云フ。禮記、內則篇「不三敢噦」　噦喝咳、欠伸跛倚睇視二

ゑづ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（エズク）(自動、四)　[噦嘔吐]　〔ゑハ聲、つくハ衝き上ぐる義〕食物ナドヲ嘔ク。モドス。ヱタク。嘔吐ス。大同類聚方、一「惡豆岐美味堂理」　體源抄、四「管ノ中ニヒラクモノアリケルヲ、咽ニ呑ミ入レテケリ、ムセテ、ゑづきマドヒケル」

ゑづ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（エズク）(自動、四)　[餌付]　餌ヲ食フヤウニナル。(籠ノ鳥ナドニ)

ゑつけん（エツケン）(名)　[越權]　越權ニ同ジ。

ゑつそ（エツソ）(名)　[越訴]　をつそ(越訴)ニ同ジ。

ゑつちゆうふんどし（エツチユウフンドシ）(名)　[越中褌]　ふんどし(犢鼻褌)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ゑつにいる（エツニイル）(句)　[笑壺に入る]〔笑壺に入るノ義〕(一)場都合ヲアハセル。ばつヲアハセル。(二)心ニ、ヒトリヨロコブ。

ゑつぼ（エツボ）(名)　[咲壺笑壺]　笑ニ興ジテ、最中ナルコト。笑ヒ興ズルコト。盛衰記、三十四、知康鼓能事、樣樣亂舞シテ、ヲウフウ音ヲ擧テ、ヨク一時笑タリケレバ、其座ニアリケル大名小名、興ニ入テ、えつぼノ會ナリケリ」　又、人ノ快ク笑フコトヲ、ゑつぼに入るト云フ。今昔物語、廿四、第廿二語「其ノ舞ヲ見クト見ケレバ、女房共、皆ゑつぼに入りニケリ」　下學集、……「……、法皇モゑつぼに入らせすハシマシ」

〜ゑつらか・す・ス・セ・サ・シ・セ（エツラカ・ス）(他動、四)　[嘲]　アザケル。靈異記、中、第廿七緣、訓釋「嘲咲、惡都良可志阿倉凡」

ゑでほん（エデホン）(名)　[繪手本]　繪ヲ學ブニ用キル手本。繪ノ手本。

ゑてんらく（エテンラク）(名)　[越天樂]　雅樂ノ曲ノ名。或ハ、越殿樂トモ云フ。倭名抄、四、曲調類「平調曲、越天樂、一本天作殿」　龍鳴抄、下「越殿樂、エテンラク」

ゑど（エト）(名)　[穢土]　〔淨土ニ對ス、即チ、凡夫ノ住ムケガレタル土地ノ義〕(一)佛經ノ語。ケガレタル世界。即チ、此世。現世。娑婆。娑婆世界。觀經妙宗鈔、上「堪忍穢土、多受二衆苦一」　盛衰記、三十八、俊谷述二發穢土一井返狀事「老少前後者、穢土之習也」　(二)糞ノ異名。宇治拾遺、二、第八條「鳥ノ飛ビテ通リケルガ、ゑどヲシカケケルヲ、晴明、キト見テ、云云」

ゑとき（エトキ）(名)　[繪解繪說]　繪ノ上ノ事柄ヲ、說キ明カスコト。又、ソノ文言。又、ソノ人。例ヘバ、佛畫ヲ揭ゲ、其趣意ヲ說キ、又ハ、琵琶ニ合ハセテ語ル(烏帽子、小素襖ニテ)ナドハ、コレ昔、俗人ノナシタルコトナリ。後ニハ勸進比丘尼ノスルコトトナレリ。看聞御記、永享五年九月三日「繪解參、未聞之間、召合解、更無二感興一、甚比興事也」　艷道通鑑(正德)「歌比久尼、昔ハワキバサミシ、文匣ニ卷物ヘレテ、地獄ノ繪說シ」

ゑとく（エトク）(名)　[會得]　又、くゎいとく。意味ヲ覺リ得タルコト。ノミコムコト。合點スルコト。了解。了得　書言字考節用集、九、言辭門「會得、エトク」

ゑどころ（名）繪所　畫所　(一)古ヘ、禁中ニテ、繪ノ事ヲ掌ル司。[illegible]（二）中世以後、佛畫ナドヲ畫ク畫家ノ稱。又、[illegible]大寺大社ニ屬シテ、繪畫ノ事ヲ掌リタル所。[illegible]（三）德川幕府ノ役所、繪畫ノ事ヲ司リタル所。敬シテ、御繪所ト云フ。[illegible]

ゑどころのあづかり（名）繪所預　次次條ノ語ニ同ジ。[illegible]文和三年七月[illegible]所預、得ノ言之何、云云」

ゑどころのつかさ（名）畫所司　ゑだくみのつかさ（畫工司）ニ同ジ。東大寺正倉院文書成巻之[illegible]用雜書、天平寶字二年四月十日、畫所司長上從七位下上村主牛甘」

ゑどころのべったう（名）繪所別當　繪所ノ長官。五位ノ藏人、任ゼラル。榮花物語、一、月宴「九ノ頭ニハ繪所別當藏人少將濟時」西宮記、臨時、四、下「畫所、有二別當一（五位藏人）」

ゑども（名）繪鞆　鞆ヲ繪ニカキタルモノ。家紋ニアリ。ともゑ（鞆繪）ノ條ヲ見ヨ。

ゑとり（名）餌取　〔鷹、鷄ナドノ餌ニスル肉ヲ取ルノ義〕牛馬ヲ屠リテ、其皮肉ヲ賣ルヲ業トスルモノ。屠者　倭名抄、二十四「[illegible]屠兒、惠止利、屠二牛馬肉一取二鷹鷄餌一之[illegible]今ノ畫家ニ[illegible]ケレバ、ゑ[illegible]ノ取ル[illegible]云ム」

ゑどりぼん（名）畫取本　ゑどり、即チ、色彩ヲ施シタル本。又、色刷シタル書物。くさざうし（草雙紙）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]ゑどりぼんト稱ヘシモノノ、[illegible]ナルニテ、丹[illegible]ヲ任カセニ、彩ルトモナク[illegible]ジテ一」

ゑどる・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）繪取　（一）色ヲ付ク。イロドル。彩色ヲ施ス。着色　設色　傅彩　書言字考節用集、九、言辭門「彩色、エトル」[illegible]中[illegible]記「ツクツクニハ、クモハクノヤウニゑどり候テ、キクシノブナド[illegible]ニリキア、金ハク白ハクニテ、ウツクシキゑどり候」（二）轉ジテ、書キタル字ノ上ヲ、再ビ繕ヒ塗ル（墨ニテ）又、書キタル物ノ上ヲ、筆ニテ撫ヅ。ナゾル。ナドル

ゑなく・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）呻吟　〔ゑハ泣ク時、出ス聲〕氣息ヲ吹キ棄テテ、心和グ。ウメク。ウナル。ニヨブ。呻吟ス　字鏡、九「呼、出ニ氣息一心、呻吟也、惠奈久、又、佐萬與不、又、奈介久」同、同「嗚、喘息聲、惠奈支須」同、八十五「[illegible]呻、惠奈久」名義抄「[illegible]呻、ヱナキ」嗚、喘息聲、ヱナキ」

ゑにす（名）槐　〔槐子ノ臭〔首〕〕略シテ、ゑを。今、ゑんじゅ、其條ヲ見ヨ。倭名抄、廿、木類「槐、惠爾須」名義抄「槐、ヱニスノキ、槐、ヱムス」字鏡、四十「[illegible]、槐木目死、惠爾須乃木」

ゑにち（名）慧日　惠日　佛教ノ語。佛智ノ能ク世ノ盲冥ヲ照ラスヲ日ニ譬ヘタル語。無量壽經、下「慧日照二世間一、消二除生死雲一」[illegible]讃佛偈「慧日照二千界一、慈雲覆二萬生一」謡曲、大會「一佛乘ノ嶺ニハ、眞如ノ慧日マトカナリ」

ゑぬ（名）狗　〔飼犬ノ約、古ヘ專ラ、犬ノ子ヲ、[illegible]、鶴、鶴トセシ[illegible]ト云フ、又、鳴聲ヨリ云フトモ云フ〕犬ノ子。イヌコロ。ヱヌコロ。チンコロ。小犬　倭名抄、十八、毛群名「[illegible]、[illegible]犬子也」字類抄「狗、エイヌ、エヌ、獣、エイヌ」

ゑぬのこぐさ（名）狗尾草　〔小犬ノ草[illegible]ノ義〕ゑのころぐさ（狗尾草）ノ古言。倭名抄、廿、草類「狗尾草、[illegible]古[illegible]」

ゑのぐ（名）繪具　繪ノ彩色ニ用ヰル料ノモノ。藍、紅、くちなし等ハ、植物ニ生ジ、雌黄、代赭、綠青等ハ、鑛物ニ出ヅ。ヱノゴ　顏料　畫料　書言字考節用集、七、器財門「繪具、エノグ」大乘院寺社雜事記、康正二年五月廿一日「十六善神繪具代五貫文、御衣繪代七百文」

ゑのこ（名）狗　犬ノ子。子犬（西國）松屋筆記、二十一「イヌ、ゑのこ、定家卿[illegible]百日、又言ニ、ハシ鷹ノ、木ヰトル雉ノ、オチハマリ、鼻ツケカヌル、ゑのこ犬カナ、云云、按ニ、ゑのこハゑぬのこノ略語ナリ」平家物語、十二、六代事「ノゾイテ見レバ、白イゑのこノ、庭へ走リ出デタルヲトラントテ」

ゑのこぐさ（名）狗尾草　次次條ノ語ニ同ジ。名義抄「狗尾草、ヱノコグサ」

ゑのころ（名）狗　〔ろハ意味ナクシテ添ヘタル語〕いぬのこ。いぬころ。犬ノ小サキ子。子犬。狂言記、子盜人「ムカヒ殿ノゑのころハ、未ダ目ガアカヌ、コロコロ」

ゑのころぐさ（名）狗尾草　古名、ゑぬのこぐさ。又、ゑのこぐさ。原野ニ自生スル禾本科ノ一年生草本。高サ一二尺。苗、穗、共ニ、粟ニ似テ小サシ。穗ハ狗子ノ尾ノ如ク、其色ニ、紫ト綠トアリ。地ノ肥瘠ニ因リテ、大小アリ、實ヲ結バズ。重修本草綱目啓蒙、十二、隰草類「狗尾草、ヱヌノコグサ、ヱノコグサ、ゑのころぐさ、トウトウグサ、云云、一名、[illegible]」

ゑば（名）餌　〔ばハ食（ハ）ノ略カ〕鳥獸ナドヲ誘ハムトテ食ハスル餌。（人ニモ云フ）エサ。書言字考節用集、六、服食門「餌、エバ、[illegible]、食也、[illegible]也」保元物語、二、白河殿攻落事「我等ハゑばヲ求ムル鷹ノ如シ」

ゑはう（名）惠方　〔吉方ノ當字〕としとくぜん（歳德神）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]、七十六、歳德の方、[illegible]、俗ニゑはうト云、吉方ト書ク事、伊勢守ノ記、寛正六年八月、今出川殿大人[illegible]ノ所ニ見エタリ、吉ヲゑトヨム事、住吉ヲすみのえト讀ニ同ジ」[illegible]

ゑはうまゐり（名）惠方參　えはうまゐり（惠方參）ニ同ジ。

ゑはがき（名）繪葉書　郵便葉書ノ裏面ニ、繪畫ヲ描キ、又ハ、印刷シタルモノ。

ゑはす・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）醉　他ヲ醉ハシム。[illegible]　宇津保物語、樓上、下、六十七「イミジウ笑ヒタマヒテカンタウハ、ナカタダコソハサイナマメトテ、物モオボエズゑはしたまへリ」源、三十二、梅枝「御使ヘ[illegible]ネトドメサセ給ヒテ、イタウゑはし給フ」

ゑひ（名）醉　（一）酒、又ハ、乘物ナドニ醉フコト。紫式部日記「[illegible]レキコエ給ノモ、コヨナキ御ゑひノマギレナリト見ユ」「醉ニ乘ジテ」醉ノ紛レ」（二）或物ニ對シテ、心恍惚トナルコト。後拾遺集、廿、雜「[illegible]長ナル、[illegible]トセカケテ、知ラザリキ、醉サメテコソ、嬉シカリケレ」

ゑひぐるひ（名）醉狂　醉ヒ狂ノコト。又、ソノモノ。ヨヒドレ。ナマヨヒ。ヨッパラヒ　醉人　醉漢　醉客　書言字考節用集、九、肢體門「酗、醉狂、エヒグルヒ」延慶本平家物語、三、本、[illegible]共ニ酒ニ醉[illegible]

リ、云云、醉狂トハ云ナガラ、サシモヤ有ベキ」

ゑひ-ごこち（エイ-ゴコチ）(名)［醉心地］又、ゑひごころ。醉ヒタル心モチ。源、八、花宴「ゑひごこちや例ナラザリケン、云云」

ゑひ-ごころ（エイ-ゴコロ）(名)［醉心］前條ノ語ニ同ジ。謠曲、紅葉狩「我ナガラ無明ノ酒ノゑひ心、マトロムヨモナキウチニ、云云」

ゑひ-ごと（エイ-ゴト）(名)［醉言］酒興ニ乘ジテ云フ言葉。醉語。土佐日記、十二月廿六日「手取リカハシテ、ゑひごとニ、心ヨゲナル事シテ出テニケリ」

ゑひ-さまた・る（エイ-サマタ・ル）ル・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二)［醉狀亂るノ略カト云フ］酒ニ醉ヒテ亂ル。亂醉。天治字鏡、四「酩酊、惡比佐萬太留」武烈紀、八年三月「沈湎于酒」菅家集「相撲ノ歸リアルジスルニ、醉キモ、ナクテ今年ハ、數サシツ、ゑひさまたれテ、今日ハ歸リメ」

ゑひ-ざめ（エイ-ザメ）(名)［醉覺］［醉醒］酒ニ醉ヒテ、方ニ醒ムルコト。又、其醒メタル時。酒後 書言字考節用集、九、言辭門「酒後、エヒザメ」淀鯉出世瀧德、四、近松作ノ上「酒醒ノ氣ハ上ル、グットセイテ勝二郎」

ゑひ-し・る（エイ-シ・ル）ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二)醉痴 酒ニ醉ヒテ、物ヲモ覺エヌヤウニナル。泥醉シテ正體ナクナル。源、廿一、少女「大將、盃さシ給ヘバ、イタウゑひしれテヲルカホツキ、イトヤセヤセナリ」

ゑひ-だふれ（エイ-ダフレ）(名)醉倒 甚シク酒ニ醉ヒテ倒ルルコト。又、ソノモノ。

ゑ-びつ（エ-ビツ）(名)［繪櫃］繪ノアル曲物ノ飯櫃。飯櫃形ニテ、蓋ハ横長ノスミキリガクナリ。後ニハ楕圓形ナル檜ノ曲物ニ蓋アリ、木地ニ桃、柳、菊、ナド描キタルハ、春秋ヲ兼ネタルナリ。俳諧五節句(貞享二)「三月三日、云云、桃ノ繪櫃(内桃)、木地ノ繪ニ桃柳ヲエガク、櫃ノ内ニ草ノ餅ニ赤飯ヲ入ル、御臺匙ト云フ物添フ、九月九日、菊ノ繪櫃、云云」今様姿(寛文)「若草ノ、餅モコモレル、繪櫃カナ」

ゑひ-つぶ・る（エイ-ツブ・ル）ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二)醉潰 甚シク酒ニ醉フ 正體ナク醉ヒテ倒ル。エヒシルル。泥醉ス。酩酊

ゑひ-つぶれ（エイ-ツブレ）(名)［醉潰］又、よひつぶれ。次條ノ語ニ同ジ。

ゑひ-どれ（エイ-ドレ）(名)［醉人］(醉潰れノ略轉)甚シク酒ニ醉ヒテ、正體ナキコト。又、ソノ人。エヒツブレ。エヒダフレ。

ゑひ-なき（エイ-ナキ）(名)［醉泣］人ノ癖ニ、酒ニ醉ヒテ泣クコト。又、ソノ泣クモノ。泣上戸。酒悲 萬葉集、三、十「賢シト、物言フヨリハ、醉飲ミテ、醉哭スルシ、マサリタルラシ」同、同三十「默然居リテ、サカシラスルハ、酒飲ミテ、醉泣スルニ、尚如カズケリ」大和物語、下「人人モヨク醉ヒタル程ニテ、ゑひなきイトニナクス」

ゑ-びら（エ-ビラ）(名)［繪枚］［繪片］繪ノアル片。びら(片)ノ條ヲ見ヨ。

ゑ-ふ（エ-フ）(名)［會符］昔、目標ニ、飛脚荷物ノ、狀箱ノ先ナドニ立ツル札。御觸書御書付留、五「百姓町人賣荷之分、宮門跡方、堂上方、其外、重キ家柄之會符、手寄ヲ以借受、往來イタシ候分有之趣相聞候」

ゑ-ふ（ヨ-ウ）(名)［衛府］(ようト讀ムヲ例トス)(一)王朝時代ニ、近衛府、兵衛府、衛門府、等ノ稱。各、左右ニ分レテ、六府ナリ、コレヲ六衛府トモ云フ。禁裡ノ護衛ニ任ゼシ官府。兵部省式「凡諸儀所、須器仗者、衛府別貯庫」三代實錄、十八、貞觀十二年十二月廿五日「諸衛府官人舍人、云云」「衛府ノ督」「衛府ノ佐」(二)衛府ニ出仕スル武官ノ稱。枕草子、五、第四十五段、めでたきもの「下襲ノシリヒキチラシテ、ゑふナルハ、今スコシヲカシウ見ユ」

ゑ・ふ（ヱ・ウ）フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四)醉［ゑハ酒氣ヲ吹キ出ス聲］(一)酒ノ氣ニ、熱ヲ發シテ、精神亂ル。ヨフ。最勝王經古點「醉、食不」古事記、中(應神)五七十「須須許理ガ、釀ミシ御酒ニ、我醉比ニケリ、コトナグシ、ヱグシ酒ニ、我惡比ニケリ」常陸風土記、香島郡 設酒、云云、アラサカノ、神ノ御酒ヲ、タケト、言ヒケバカモヨ、ワガ惡比ニケム」(二)舟、車、駕籠ナドノ乘物ノ動搖ニ因リテ、頭痛、吐氣ヲ催ス。苦船 苦車 苦轎 衆集ノ氣ニ壓ルルニモ云フ 今昔物語、廿八、第二語「未ダ車ニモ不乘ザリケル者共ニテ、云云、三人乍ラ醉ヌレバ」(三)魚ノ腐肉ナドヲ食ヒテ、熱ヲ發ス。(鰹、鮪ナドノ中毒ニ云フ)(四)迷フ。惑フ。屈原、漁父辭「衆人皆醉、我獨醒」(五)物事ニ本心ヲ失フ。文中子「心醉三六經ニ」

ゑ-ぶくろ（エ-ブクロ）(名)［餌袋］(一)鷹ノ餌ヲ入ルル器。エツボ。後ニハ、人ノ食ヲ盛リテ携フルニ用キタリ。宇津保物語、樓上、上二八十「銀ノ小鷹ヲ作リテ、金ノスキゑぶくろニ入レテ」金葉集、九、雜、上「退羽ウツ、眞白ノ鷹ノ、ゑぶくろニ、招餌モササデ、カヘシツルカナ」落窪物語、一「物給ヘト云ヒニヤリタレバ、ゑぶくろ二ツシテ、ヲカシキサマニシテ入レタリ」(二)鳥ノ嗉。又、鳥ノ胃。(又、人ノ胃ノ腑ヲモ云フ)

ゑ-ふご（エ-フゴ）(名)［餌畚］(一)猿曳ノ、猿ニ與フル米ナドヲ入ルルモノ。モトハ鷹ノ具ナラムカ。書言字考節用集、七、器財門「餌畚、エフゴ」(二)魚ヲ釣ルニ用キル餌ヲ入ルルモノ。今、びくト云フ。新竹齋物語(貞享)三「申ノ刻バカリ、宇治ニ着ク、タコソ魚釣ニヨケレ、竿ヨ餌ふごト取出ス程ニ、云云」

ゑふ-づかさ（ヨウ-ズカサ）(名)［衛府司］(一)衛府ニ仕フル人。衛府ノ官人。宇津保物語、藏開、下五十「スズロナル酒飲ハ、ゑふづかさノスルワザナリケリ」(二)衛府ノ役所。衛府ノ官廳。

ゑ-ふで（エ-フデ）(名)［畫筆］［繪筆］畫ヲカクニ用キル一種ノ筆。グヮヒツ。新可笑記(元祿)、西鶴二ニ「大佛ノ胸ナル鷺ノ事、御繪[illegible]アリシニ、何トナク[illegible]セシコトヲ[illegible]ス」

ゑふ-の-かみ（ヨウ-ノ-カミ）(名)［衛府督］衛府ノ長官ノ總稱。即チ、近衛府ノ大將、兵衛府、衛門府ノ督ヲ云フ。伊勢物語、第八十七段「コノ男ノ兄モ、衛府のかみナリケリ」

ゑふ-の-すけ（ヨウ-ノ-スケ）(名)［衛府佐］衛府ノ次官ノ總稱。即チ、近衛府ノ中、少將、兵衛府、衛門府ノ佐ヲ云フ。源、三十四、下、若菜、下七五「舞人ハゑふのすけトモノ、カタチ清ゲニ、云云」

ゑふ-の-たち（ヨウ-ノ-タチ）(名)［衛府太刀］［陽ノ太刀ナド記ス］古ヘ、衛府ノ官人ノ佩ク太刀。鞘ニ蒔繪シテ、身モ細ソク作リ、飾太刀ナリ。元來、兵仗ノ用ナリシガ、後ニ儀仗ノ用トナレリ。野太刀。野劒。平家物語、四、信連合戰事「[illegible]ノ狩衣ノ下ニ、萌黄匂ノ腹卷ヲ着テ、衛府の太刀ヲゾ帶ヒタリケル」

ゑ-ぶみ（エ-ブミ）(名)［繪蹈］江戸時代、宗門改メニ、ふみゑ(蹈繪)ヲ蹈マシメタルコト。[illegible]草、六、長崎の事「踏繪ノ事、是レ[illegible]ニ限ル事ナリ、云云、長崎ノ町町ヘ、奉行所ヨリ其ノ繪ヲ渡サル、段段ニ踏ンデ、次次ヘ相廻スナリ」

ゑ-ほかゐ（エ-ホカイ）(名)［繪行器］ゑびつ(繪櫃)ニ同ジ。昔、八朔ニ、乳母ヨリ其養君ナドヘ贈ル行器ナリ。下ノ出典ヲ見ヨ。日次紀事、八月 朔日「云云、京俗、今日家家乳母、以ニ行器一雙、贈ニ其所ニ保養之女兒ニ、行器内盛ニ[illegible]、藤花則[illegible]赤小豆ニ者也」

ゑぼし（名）［烏帽子］　えぼうし（烏帽子）、及、えぼし（烏帽子）ノ條ヲ見ヨ。

ゑほん（名）［繪本］　（一）插畫ノアル書物。繪草紙。（二）［illegible］ノ手本。エデホン。［illegible］「一、［illegible］古キ上手ドモノ書キタル繪本ノ中ニ」

ゑま（名）［繪馬］　祈願ナドノタメニ、馬ヲ額面ニ書キテ、神佛ニ奉ルモノ。眞ノ馬ヲ奉ル能ハザルニ代フル意ト云フ。古ヘ、神社ヘ神馬ヲ獻ズル略儀ニ、櫪飼御馬ト云フコトアリキ。（其條、参見セヨ）後ニ略シテ、繪馬トナリシナリト云フ。今ハ、種種ノ書畫ナルヲモ、ゑまト云フ。［illegible］

ゑまいしや（名）　繪馬醫者　［外見、病家ヲ見舞フ如ク見セテ外出シ、實ハ附近ノ社寺ノ繪馬ナド見アリクヨリ云フ］　又、ゑうまいしや。ハヤラヌ醫者ヲ嘲リテ云フ語。［illegible］「［illegible］醫者ノ、イトト日ガツヤ、［illegible］」

ゑまき（名）［餌撒］　（一）餌ヲ撒布スルコト。（二）鷹匠ノ部下ニテ、鷹場ヘ飼付クル雁、鴨ノ餌ヲ撒クヲ職トスルモノ。

ゑまきもの（名）［繪卷物］　繪ニ詞ヲ書キ入レテ卷物トシタルモノ。繪詞ヲ書キ添ヘタル卷物。卷軸紙。略シテ、繪卷。［illegible］

ゑま・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［笑咲］　咲ムベクアリ。エマハシ。エムベシ。［illegible］ル人、イトゑましう思ヒ奉ルベシ」

ゑま・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）［笑ム］　ゑむ（笑）ノ敬語。［illegible］ラニ、［illegible］ト云フベシヤ［illegible］

ゑま・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［餲］　［訛シテ、います］　水、又ハ、湯ニ漬シテ、餲ムヤウニナス。フヤカス。フヤケサス。「麥ヲゑます」

ゑまだう（名）［繪馬堂］　神社、佛閣ニテ、繪馬ノ額ヲ揭ケ置ク建物。又、繪馬殿。［illegible］

ゑまは・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［笑］　咲ハシ。咲ムベクアリ。エマシ。エムベシ。［illegible］

ゑまひ（名）［笑咲］　エマフコト。笑ムコト。エミ。又、エガホ。［illegible］

ゑま・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［笑］　笑むノ延。萬葉集、十七$^{四十}_{五}$長歌「心ニハ、思ヒホコリテ、ゑまひつつ、ワタル間ニ」

ゑみ（名）［笑咲］　（一）笑ムコト。笑顏。［illegible］（二）ノ［illegible］ミテ、口ヲ開クコト。熟シテワルルコト。夫木抄、三十二、刀「手ニ［illegible］ク」ノ内ナル、刀すソロシ」

ゑみがほ（名）［笑顏］　［illegible］「［illegible］ニ何心ナキ御ゑみがほゾ、イミジウウツクシキ」

ゑみぐさ（名）［咲草］　［花ノ初生、脣ヲ收メタルガ如シ］　（一）［あまどころ（甘野老）ノ古名。又、アマナ。女萎。［illegible］（二）なるこゆり（鳴子百合）ノ一名。黄精　（三）ぼたんぐさ（牡丹草）ノ古名。女萎

ゑみこだ・る・ル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［笑傾］　［ゑだる（傾）ノ條ヲ見ヨ］　笑ミテ傾ク。ワラヒコケル。［illegible］タダ此世ノ人ノ如シ」

ゑみさか・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ（自動、下二）［笑榮］　笑ミテ顏色榮ユ。ワラヒテ樂シサウニ見ユ。古事記、上$^{三十}_{九}$「旭ノ、惡美佐迦延來テ、云云」竹取物語「カクヤ姫、暮ルルママニ、思ヒ侘ビツル心、ゑみさかえテ、云云」

ゑみひろご・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［笑廣］　大口ヲ開キテ、笑フ。源、四十八、寄生「［illegible］女バラ、物ノウシロニ近ツキ來リテ、ゑみひろごりテヰタリ」さりかへばや物語、一「イトイミジト思ヒテ、ゑみひろごりテ、云云」

ゑみまが・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［笑曲］　眉曲ゲテ笑ム。萬葉集、十九$^{+}$長歌［illegible］チニ、［illegible］眉根ヲ、［illegible］見ツツ、ヲトメラカ［illegible］云云」

ゑみま・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）［笑設］　［まくハ、まうく（設）ノ約］　思ヒ設ケ［illegible］ヘ、ゑみまけ［illegible］シゲニ思ヒタル狀、云云」

ゑみゃう（名）［慧命］　（一）佛教ノ語。佛法ノ命脈。天台四教儀［illegible］トス、慧命ハ、即チ、法身ノ壽命ノ義［illegible］スル法燈ヲ繼ゲ、絕ナントスル慧命ヲ繼ンコト、云云」（二）びく（比丘）ノ敬稱。行事鈔、下［illegible］

ゑみわ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［笑割］　［笑み割るノ義、訛シテ、いみわる］　栗毬、果實ナド、十分ニ熟シテ、裂クル。ハゼル。エム。エミタレル。

ゑみわれ（名）［罅裂］　エミワルルコト。きれつ（龜裂）ニ同ジ。

ゑみ・わ・れる（動）［罅裂］　前前條ノ語ノ口語。

ゑみゑみ・と（副）［笑笑］　笑ム狀ニ云フ語。笑ミヲ含ミテ。ニコニコト。萬葉集、十七、變化「光ノ中ニ、年ヨリタル翁ノ、ゑみゑみとシタル形ナアノハシテ見エケリ」今物語「ゑみゑみと笑ヒテ、云云」

ゑ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［笑咲］　［口ヲ開カムトスル義、ゑらぐ（歡喜）ニ通ズ］　（一）心ニ愛ヅルコトアリテ、顏ニアラハレテ、ニコヤカニナル。笑ヒヲ含ム少シ笑フ。ホホヱム（聲ヲ發セズニ、ニコニコスル）字鏡「［illegible］、笑貌、和良不、又、［illegible］」

莊嚴ニ私記音義「笑、咲字」萬葉集、九 長歌「花ノゴト、咲テ立テレバ」(二)花、咲ク。蕾ホコロブ。古今集「花ノゑめルヲ見レバ、誰モフカシト見ルラメド、云云」

ゑ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四)〔笑む〕〔笑むノ義〕裂ケ開ク。(栗毬ナド)イミワル。罅裂ス 字類抄「罅、ヱム」倭名抄、十七菓具「罅栗罅也、罅、惡女利」右京大夫集「栗モゑみ、オカシカルラント、思フニモ、イテヤユカシヤ、秋ノ山里」

ゑん (名)〔圓〕(一)マロキコト。又、マロキ形 韓非子、飾邪篇「圓、猶知、平、設、規而知圓」(二)數學ニテ、一ツノ定マリタル點ヨリ、何レノ點モ、皆相等シキ距離ニアル曲線ニ依リテ圍マレタル平面形。(三)本邦ノ貨幣ノ單位ニテ、錢ノ百倍。

ゑん (名)〔寃寃〕〔正字通「寃、俗冤字」〕無實ノ罪。ナキナ。ムジツ。ナキトガ。ヌレギヌ。寃罪。史記、淮陰侯傳「通曰、吁乎、寃哉烹也、上曰、若教韓信反、何寃」

ゑん-あう (名)〔鴛鴦〕〔玉篇「匹鳥、雄曰鴛、雌曰鴦」〕(一)鳥ノ名。支那產ニテ、日本ニナシ。をしどりノ類ニテ、劍羽ナク、羽色モ美シカラズ。詩經、小雅、都人士之什、白華篇「鴛鴦在梁、戢其左翼」重修本草綱目啓蒙、三十六、水禽類「鴛鴦、詳ナラズ、云云、をしどりト訓ズルハ非ナリ、をしどりハ紫鴛鴦ナリ」(二)常ニ誤リテ、をしどり。本邦ノ所謂をしどりハ、支那ノ紫鴛鴦、又ハ、鸂鶒ナリ。をし(鴛鴦)ノ條ヲ見ヨ。

ゑんあう-の-ふすま (句)〔鴛鴦衾〕〔鴛鴦ハ、常ニ偶ヒテ、ムツマシケレバ云フ〕男女トモネスルフスマ 曾我物語、五、鴛鴦の劍羽事「鴛鴦の衾ノ下、ナツカシゲニ戲レケリ」

ゑん-いう (名)〔園囿〕〔說文「囿、苑有垣也」〕曰、禽獸有囿〕草木ヲ植エ、又、禽獸ヲ畜フトコロノその。ソノ。園苑。孟子、滕文公、下篇「棄田以爲園囿、使民不得衣食」太平記、三十五、北野通夜物語事「太宗ハ春蒐、命ヲ園囿ノ間ニ任ス」

ゑん-いう-くゎい (名)〔園遊會〕多クノ客ヲ招キテ、園內ノ庭上ニ摸擬店、演藝場ナドヲ設ケテ、饗應スルモノ。

ゑん-いん (名)〔遠因〕間接ノ原因。又、遠キ原因。コレニ反スルヲ、近因ト云フ。梁武帝、斷酒肉文「佛教爲法、本存遠因」

ゑん-いん (名)〔援引〕〔說文「援、引也」廣雅「援、牽也」〕ヒクコト。ヒパルコト。公羊傳序「援引他經、失其句讀」後漢書、竹書傳、序論「有更相援引、希附權彊者」

ゑん-えん (副)〔蜿蜒〕(一)ウネウネトシテ、長クツラナレル狀ニ云フ語。陸游、觀長壽堤詩「蜿蜒其長高隆隆、截如長城限羌戎」(二)ウネウネトシテ、ワダカマル狀ニ云フ語。史記、司馬相如傳、大人賦「驂赤螭靑虬之蚴蟉蜿蜒」

~ゑん-が (名)〔垣下〕略シテ、ゑか。ゑんかいざ(垣下座)ノ條ヲ見ヨ。源、四十八、寄生七十九「左ノオホイ殿ノシタマヒケルママニトテ、六條院ニテナン有ケル、ゑんがノミコタチ、上達部、大饗ニ劣ラズ、云云、集ヒ給ヒケル」

ゑん-かう (名)〔遠行〕(一)トホキニユクコト 孟子、公孫丑、下篇「予將有遠行」扶桑略記、廿七、正曆三年十二月四日「歎我遠行、過通消息」(二)轉ジテ、死ヌコト。死去。長逝。增補下學集、下、一、態藝門「遠行、ヱンカウ、死去」

ゑんかう-きんこう (句)〔遠交近攻〕遠キニ交リヲ結ビ、近キヲ攻ムルコト 遠國ニ親ミ、近國ヲ伐ツコト 史記、范雎傳「王不如遠交而近攻、得寸、則王之寸也、得尺、亦王之尺也、今釋此而遠攻、不亦繆乎」

ゑん-かく (名)〔遠隔〕トホクヘダタルコト。李白詩「雲陽一去已遠隔、東山有水之北沈」

ゑんが-の-ざ (名)〔垣下座〕古ヘ、饗應ナドノ時、正客以外ノ相伴ノモノ、又ハ、舞樂ナドノ時ニ、舞人、樂人ナドノ着座スル所。此外、公事ノ時モアルコトナリ。地下ノ座ニテ舞ナドニツク所ナリ。常上ニハ見エズ、故ニ晴ダタヌコトヲ、垣下の舞ト云ヒシガ、俗ニ緣の下の舞ト云フハ、垣下ノ轉カ、緣の下の力持モコレナルベシ。エガ。エガノザ。エガイモト。名目抄「垣下座、云地下座也」江家次第、六、石淸水臨時祭「公卿着垣下座、暮年公卿或不取之、雖不取若垣下座」

ゑんがん-きやう (名)〔遠眼鏡〕らうがんきやう(老眼鏡)ニ同ジ。

ゑん-き (名)〔遠忌〕又、をんき。三年忌以上、五十年、百年ナドノ遠キ年忌。又、遠關日。山槐記、治承四年十一月廿二日「今日故女房遠忌也、仍向東山堂修佛事」實隆文集、十八、說「遠忌日說、云云、本朝國俗、三年忌後、有七年忌、有十三年忌、有二十三年忌、有二十五年忌、有三十三年忌、是流例也、云云、僧周鳳夢語集、載遠忌之事、曰、大藏經五千餘函、無遠忌之事、則震旦天竺共不修之、云云」

ゑん-きう (名)〔圓丘〕圓形ノ陵。又、古ヘ、天子、天ヲ祀ルタメニ郊野ニ設ケタル圓形ノつか。唐書、禮樂志「冬至祀昊天上帝于圓丘、以高祖神堯皇帝配東方」本朝續文粹、二、朔旦冬至、詔「是以圓丘迎日、賀南至於一隅」

ゑん-きん (名)〔遠近〕(一)トホキト、チカキト。ヲチコチ。遠邇。遐邇。史記、十八、將軍將侍「將相遠近、莫能任力」藝文類聚「大將軍王相不論遠近」(二)遠キ所ノ人ト、近キ地ノ人ト 墨子、大取篇、其不同、害遠近之謂也」(三)年月、日時ノ先後。杜預、春秋左氏傳序「記事者、以事繫日、以日繫月、以月繫時、以時繫年、所以紀遠近別同異也」

ゑん-きやう (名)〔遠境〕遠ク離レタル國ザカヒ。又、遠隔ノ土地。遠所。絕域。韓非子、用人篇「固金城於遠境」盛衰記、三十、平家延曆寺踏書事「隔境遠境郡三條數國」

ゑん-きよく (名)〔婉曲〕オダヤカニシテ、角ダタザルコト。又、遠廻シニ言ヒテ、露骨ナラザルコト。文章軌範(宋、謝枋得)三、序「議論精明而斷制、文勢圓活而婉曲」

ゑん-ぐん (名)〔援軍〕スクヒノ兵。助勢。援兵。南史、梁紀、辛未、援軍各退散」

ゑん-くゎう (名)〔圓光〕マルキ形ノ光。又、ごくゎう(御光)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。觀無量壽經「彼佛圓光如百億三千大世界」佛牙舍利記「忽圓光現於上、呼侍衞爲識」

ゑん-くゎつ (名)〔圓滑〕マルクシテ、ナメラカナルコト。ナメラカニシテ、カドダタヌコト。スラスラトスルコト。蘇軾、竹閣詩「鶴爽難圓滑、混沌恢三復爽」

ゑん-けい (名)〔圓形〕マルキカタチ。マルガタ。

ゑん-けい (名)〔遠景〕遠方ノ景色。夢溪筆談(宋、沈括)「董源善畫、尤工秋嵐遠景」

ゑん-げい (名)〔園藝〕庭ヲ作リ、又ハ、蔬菜、花卉、果樹ナドヲ栽培スル技術。

ゑんけん（名）〔遠見〕トホミ。トホク見［illegible］

［illegible］

ゑんげん（名）〔淵源 淵原〕物事ノ由リテ來ルトコロ。ミナモト。根源。本原。［illegible］古今［illegible］溫故知新、通達國體」

ゑんげん（名）〔怨言〕ウラミノコトバ。ウラミゴト。怨［illegible］人也［illegible］

ゑんげんだう（名）〔袁彥道〕（晉ノ世ノ博奕ニ巧ナリシ人ノ名）博奕ノ異名。［illegible］少時［illegible］云云、［illegible］名ハ［illegible］

ゑんご（名）〔援護〕タスケマモルコト。

ゑんご（名）〔怨語〕ゑんげん（怨言）ニ同ジ。

ゑんこう（名）〔猿猴〕（一）手長猿。謠曲、草紙洗小町「古ノ猿丸大夫ノ流レ、ソレハ猿猴ノ名ヲ以テ、ワガ名ヲヨソニ立テントヤ」竹取物語［illegible］永）上「ゑんこうガ、水ニスメル月影ヲ取ル所ヲ染メタル袷ヲ着」（二）猴類ノ總名。韓愈、赴江陵［illegible］（三）猿（去）トモ云フ語ヲ嫌ヒテ、ゑんこうトモ云ヒ、又、えて、又ハ、えてこうナドト云フ。

ゑんこうさう（名）〔猿猴草〕毛茛科ノ多年生ノ水草。濕地、又ハ、沼澤ニ自生シ、葉ハ菲蓬草ノ如クニシテ圓ク、葉柄長ク、花莖、長ク延ビテ、［illegible］小ナル［illegible］花［illegible］

ゑんごく（名）〔遠國〕〔近國ニ對ス〕又、をんごく。遠方ノ國。トホク離リタル國。又、カタヨリ遠キ國。邊陬。［illegible］

ゑんごくぶぎやう（名）〔遠國奉行〕又、をんごくぶぎやう。德川氏ノ頃、京都、大坂、伏見、駿府、ナドノ町奉行、及、長崎、箱館、佐渡、新潟、日光、山田、ナド遠國ニアル幕府直轄ノ地ニ於ケル政務ヲ取扱ノタメニ、派遣セラレタル奉行ノ總稱。德川禁令考、三十三、地方官吏勤方、寬政三亥年九月「遠國奉行、評定所江出座之儀、寬永之度、相達候趣モ有之處、イツトナク發足前一度、出座而已之樣ニ相成、見習之證モ無之候、云云」

ゑんこん（名）〔怨恨〕ウラムコト。ウラミ。［illegible］凡天下禍篡怨恨、可使毋起者、以相愛生也」

ゑんさ（名）〔怨嗟〕ウラミ、ナゲクコト。杜甫、古柏行「志士幽人莫怨嗟、古來材大難爲用」

ゑんざ（名）〔圓坐〕くるまざ（車座）ニ同ジ。晉書、阮咸傳「大盆盛酒、圓坐相向、大酌更飲」

ゑんざ（名）〔圓座〕ワラフダ。ワラザ。ワラウダ。藁、或ハ、蒲、菅、藺、ナドノ莖葉ニテ、渦ノ如ク圓ク平タク組ミタル褥。圓草褥　蒲團［illegible］倭名抄、六十坐臥具「圓座、云云、一云、和良布太」雅亮裝束抄、一「ゑんざトイフハ、シトネノヤウナルモノノ、圓ニテ、ヘリバカリノ發リタルナリ」山槐記、治承四年二月十九日「讓位[illegible]、仰三下藏人一時、可敷二圓座一云云」

ゑんざい（名）〔寃罪〕無實ノ罪。ナキトガ。ヌレギヌ。寃。

ゑんさう（名）〔圓相〕（一）マルキ形ヲ云フ。完全圓滿ノ義ニテ、宇宙ノ本體ヲ表示シタルモノ。故ニ、禪家ニテハ、悟リノ對照トシテ提示ス。碧巖錄、第六十九則「南泉、歸宗、麻谷、同去禮拜忠國師、至中路、南泉於地上畫一圓相、云、道得卽去、歸宗於圓相中坐」（二）昔、京都ノ五山ノ僧等ガ、錢一貫文ヲ云ヒシ語。類聚名物考、二百五十八、調度部、十五、貨財「京都五山ノ僧、ムカシハ漢籍コノミ、詩作ナド心カケシ故、コトニ風流ナルコトトセシガ、錢ノ數ヲヨムニ、異名ヲツケテイヘリトコソ、云云、錢一貫文ヲ圓相、圓相ハ是一圓相ニテ、一貫ナリ、マロキニヨリテカク名付シナリ」

ゑんざうり（名）〔圓座賣〕圓座ヲ賣ルモノ。［illegible］の一本（天和）下、白山權現「此祭ハ每年有、云云、芝居芝居ノ圓座うり、錢取ル」

ゑんざがき（名）〔圓座柿〕柿ノ一種。實ノ形、肥エテ圓ク、帶ノ着ケル所、肉起リ、瘤ヲナスモノ。蓋柿　和漢三才圖會、八十七、山果類「柿、云云、圓座柿、形大肥濶、附［illegible］肉起作［illegible］、所謂［illegible］蓋柿乎」

ゑんざづる（名）〔圓座蔓〕草ノ名　うまおやし（馬肥）ニ同ジ。

ゑんざん（名）〔遠山〕トホヤマ。トホクニ見ユル山。遠方ニアル山。杜甫、東屯北崦ノ詩「遠山回白首、戰地有黃塵」盛衰記、十一、靜憲入道問答事「遠山ノ籠居、イト不便ナリ」

ゑんざむし（名）〔圓座蟲〕やすで（馬陸）ニ同ジ（西京）倭名抄、八［illegible］蟲豸名「馬陸、云［illegible］」

ゑむし（名）〔餌蟲〕ゑかひ（沙蠶）ニ同ジ。［illegible］

ゑんし（名）〔遠視〕（一）トホクヲミルコト。トホミ。［illegible］（二）ゑんしがん（遠視眼）ノ略。

ゑんじ（名）〔遠邇〕〔遠邇〕トホキト、チカキト。遠近。［illegible］呼、明王愼德、四夷咸賓、［illegible］」

ゑんじ（名）〔遠寺〕トホクニアルテラ。太平記、五、大塔宮［illegible］ノ寺［illegible］タヲ送ル遠寺ノ鐘」

ゑんしう（名）〔圓周〕數學ノ語。一定ノ長サノ直線ノ一端ヲ固定シオキ、他端ヲ一平面上ニ同ジ向ニ一周セシムルトキ生ズル圓形、卽チ、圓ヲ圍メル曲線

ゑんしうアンドン（名）〔遠州行燈〕（小堀遠州（遠江守政一）ノ創意ニヨル）あんどん（行燈）、及、まるあんどん（丸行燈）ノ條ヲ見ヨ。和漢三才圖會、三十二、家飾具「遠州行燈、云云、近世［illegible］、［illegible］下［illegible］、內皆不［illegible］、外皆［illegible］、［illegible］小堀遠江守政一始制之、故俗曰遠州行燈」

ゑんしうりう（名）〔遠州流〕（一）茶道ノ一流。小堀遠州（遠江守政一）ヲ流祖トシタルモノ　寬永、正保間ノ人、削髮シテ、宗甫ト號ス）茶［illegible］集、茶人系譜「小堀遠江守、諱政一、號孤篷［illegible］宗甫、［illegible］以、稱三宗匠ト、遠州流ノ祖也」（二）又、生花ノ一流。小堀遠州ヲ流祖トスルモノ。挿華故實集、上、諸流區の論「遠州流トイフハ、小堀遠江守ヲイフ」

ゑんしがん（名）〔遠視眼〕遠クノ物ハ視

易クシテ、近クノ物ハ見難キ眼。老人ニ多キ故、老眼トモ云フ。（近視眼ニ對ス）略シテ、遠視。又、遠眼。

ゑん-しつ（名）圓實〔圓頓一實ノ略〕佛教ノ語。一行ニ一切行ヲ圓融シ、一位ニ一切位ヲ圓具シテ、頓速ニ成佛スルヲ圓頓ト云ヒ、此理、一ニシテ二ナク、眞實ニシテ虛妄ナラザルヲ、實ト云フ。卽チ、天台圓教ノ教理ヲ稱スル語。盛衰記、廿八「竹生島詣事」「或ハ祕密瑜伽ノ道場アリ、或ハ止觀圓實ノ學窓アリ」

ゑん-しん-りよく（名）遠心力　きうしんりよく（求心力）ノ條ヲ見ヨ。

ゑん-じやく（名）婉嫋〔嫋ハ、佩文韻府「嫋、而灼切、弱也」〕カヨワキコト。太平記、廿二、隆資物語事「三千ノ美人、云云、窈窕タル婉嫋、綺羅ニダモタヘザル體ナレバ、云云」

ゑん-じやく（名）圓寂〔梵語、Nirvāṇa.（涅槃）ノ義譯、圓滿寂滅スル義〕僧ノ死ヌルコト。入寂。遷化。滅度。寂滅。寶積經、五十六「我求圓寂、而除欲染」李白、地藏菩薩讚「焚蕩淫怒癡、圓寂了見佛」花營三代記、應永三十二年二月二十七日「戊辰、御方御所樣、申剋御圓寂、十九歲、道號鞏山、法名道奈、號長得院殿」

ゑん-じゆ（名）槐〔ゑにすノ轉訛〕古名、ゑにす。荳科ニ屬スル落葉喬木ノ名。直ニ聳ユルコト數丈、又、四方ニ繁茂スルモアリ。莖ニ刺アリ。葉ハ羽狀ニ排列シ、藤ノ葉ノ如クニシテ、細ソク、微白毛アリ。夏秋ノ交、花ヲ開ク、豆ノ花ニ似テ大キク、白クシテ黄ヲ帶ビ、總狀花序ニ排列ス。後ニ莢ヲ結ブ、長サ二寸餘、內ニ小扁子アリ。材、堅實、文理アリテ美シ。建築、又ハ、器具用ニ供セラル。キノキ。エスノキ。名義抄「槐、エニスノキ、櫰、エムス」字類抄「槐、エンス」康賴本草、上「槐實、和名不知之美（木藤カ）、又、惠ム之山乃美、加仁惠乃美、惠倶乃岐乃美」

ゑん-しゆう（名）圓宗〔圓頓一實ノ旨ヲ宗トスル故ニ云フ〕モト華嚴經所說ノ圓融具德ノ法門ヲ稱セシガ、後、天台宗ノ興ルニ及ビ、遂ニ天台宗ノ一稱トナル。續後紀、四、承和二年十月「己丑、延曆寺僧、傳灯大法師位光定等言、天台一門、已立圓宗、大乘三學、流傳本朝」盛衰記、四、山王垂跡事「圓宗守護之靈神、王城鎭護之靈社也」

ゑん-じゆきやう（名）圓珠經〔論語、注疏解經序、疏「論者綸也、云云、此書可以經綸世務、云云、圓轉無窮、故曰輪也」本朝文粹、九、夏日陪右親衞源將軍初讀論語、康保三年夏、云云、初讀論語、云云、先聖微言、圓通如明珠」〕論語ノ異稱。菅家文草、一、王度讀論語竟聊命盃酌「圓珠初一轉、學家遂丁年」

ゑん-じゆく（名）圓熟　物事ニヨク熟練セルコト。熟シナルルコト。圓悟禪師語錄、一「見、夏文彥、古人筆法圓熟、用意精到、初如率易、而愈玩愈佳、今人雖極工緻、一覽而意盡矣」

ゑん-じよ（名）援助　タスクルコト。タスケ。助勢。後漢書、耿弇傳「代令張純、據城反畔、乃招迎匈奴、烏桓、以爲援助」

ゑん-しよう（名）遠稱　文法ノ語。代名詞ノ四稱ノ一。遠キモノヲ指示スル語。あれ、かれ、かしこ、ナドノ類。猶、ゐん語尾ノ語法指南ノ代名詞ノ條ヲ見ヨ。

ゑん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）怨

ウラム。怨ミ言ヲ言フ（主ニ男女間ニ係ニ）約メテ、ゑず。源、二、帚木「スベテヨロヅノコト、ナダラカニ、ゑんずベキ事ヲバ、見シレルサマニホノメカシ」同、十五、蓬生「ヤンゴトナクシモ、思ヒ聞コエ給ハジナド、ゑんじウケヒケリ」

ゑん-すゐ（名）遠陲〔廣韻「陲、邊也」增韻「陲、疆也」〕都ヨリトホキ地。僻遠ノ土地。又、トホキクニザカヒ。

ゑん-すゐ（名）淵醉〔淵ハ深ナリ、深ク醉フ意〕昔、禁中ニテ、正月、十一月ノ五節ノ時、及、臨時ノ大禮ナドノ後ニ、藏人頭以下ノ殿上人ヲ召サレ、殿上ニテ酒宴ヲ催シ、管絃歌舞ヲ彈奏シ、歡樂ヲ盡サシメタルコト。右京大夫集「五節ノ比、霜夜ノ有明ニ、宮ノ御方ノゑんすゐニテ、云云」永昌記、長治二年正月三日「壬申、參大內、可有殿上淵醉、頭辨以下參入、夜半始」

ゑん-すゐ（名）圓錐　數學ノ語。一直線ガ常ニ一定點ヲ通リ、且、一定ノ圓周上ヲ動クトキニ生ズル面ヲ、圓錐、又ハ、圓錐面ト云ヒ、圓錐面ト底面トニテ限ラレタル立體ヲモ、圓錐、又ハ、圓錐體ト云フ。

ゑん-せい（名）遠征（一）トホク出デ行キテ攻ムルコト。魏叔倫詩「王者應無敵、天兵動遠征」（二）、爾雅、釋言篇「征、行也」遠方ヘ行クコト。遠行。遠逝

ゑん-せい（名）遠逝（一）遠方ヘ行クコト。遠征。史記、司馬相如傳「雜遝膠葛以方馳兮、騷擾衝蓯其相紛挐兮、滂濞泱軋麗以林離、鑽羅列聚叢以蘢茸兮、衍曼流爛壇以陸離、徑入雷室之砰磷鬱律兮、洞出鬼谷之堀礨崴魁、遍覽八紘而觀四荒兮、朅渡九江而越五河、經營炎火而浮弱水兮、杭絕浮渚而涉流沙、奄息蔥極泛濫水嬉兮、使靈媧鼓瑟而舞馮夷、時若薆薆將混濁兮、召屏翳誅風伯而刑雨師、西望崑崙之軋沕洸忽兮、直徑馳乎三危、排閶闔而入帝宮兮、載玉女而與之歸、舒閬風而搖集兮、亢鳥騰而壹止、低回陰山翔以紆曲兮、吾乃今日睹西王母暠然白首、戴勝而穴處兮、亦幸有三足烏為之使、必長生若此而不死兮、雖濟萬世不足以喜、回車朅來兮、絕道不周、會食幽都、呼吸沆瀣兮餐朝霞、噍咀芝英兮嘰瓊華、僸侵潯而高縱兮、紛鴻涌而上厲、貫列缺之倒景兮、涉豐隆之滂沛、馳游道而脩降兮、騖遺霧而遠逝」（二）轉ジテ、死スルコト。長逝

ゑん-ぜん（副）全然　マルデ。丁度。

ゑん-ぜん（副）宛然　サナガラ。アタカモ。

ゑん-ぜん（副）婉然　シトヤカナル狀ニ云フ語。シナヤカ。法書要錄（唐、張彥遠）「婉然若樹、穆若清風」

ゑん-そ（名）遠祖　トホツオヤ。先祖。祖先。元祖。始祖。鼻祖。後漢書、　紀「朕得　奉　之序、寄遠祖之思」

ゑん-そう（名）淵藪〔淵ハ魚ノ聚ガル所、藪ハ獸ノ集マル所〕事物ノ寄リ集マル所。淵叢。書經、武成篇「爲天下逋逃主、萃淵藪」

ゑん-そく（名）遠足　歩行ヲ馴サムガタメニ、トホキ路ヲ歩ムコト。又、運動ノタメニ遠方マデ歩行スルコト。甲子夜話、三十九「…ニ誠セ置シ寬政ノ始メ遠足ヲ命セラレシコトヲ役錄ス」

ゑん-だい（名）遠大　志ノトホク大ナルコト。規模ノ大ナルコト。謝朓、爲王敬則謝詹「臣本布衣、不謀遠大」

ゑん-たう（名）遠島（一）トホク陸地ヨリ離レタル島。太平記、廿四、依山門嗷訴公卿僉議事「追放其身於遠島」（二）シマナガシ。刑ノ名。德川時代ノ制ニ、追放ヨリ重ク、死罪ヨリ輕シ。古刑ノ遠流ニ當ル。各地方ノ便宜ト罪ノ輕重トニ因リテ、伊豆ノ七島（八丈）、薩摩ノ七島、肥後ノ天草島、佐渡、隱岐、壹岐、等ア リ。御定書百箇條、御仕置仕形之事「一、遠島、江戸ハ流罪之者ハ、大島、八丈島、三宅島、新島、神津島、御藏島、利島、右七島之內江遣ス、京、大坂、西國、中國ヨリ流罪之分ハ、薩摩、五島之島島、隱岐國、壹岐國、天草郡江遣ス、但田畑、家屋敷、家財共欠所」

ゑん-たう（名）圓壔　數學ノ語。一直線ガ一定直線ニ常ニ平行ニ、且、一定圓周

上ヲ動クトキニ生ズル面ヲ、圓壔、又ハ、[illegible]ト云ヒ、平行[illegible]ナルヲ[illegible]ト云ヒ、[illegible]ニテ限レタル[illegible]。又ハ、[illegible]。

ゐんち (名) [illegible] [illegible]

ゐんち (名) 園池 ソノト、イケト。史[illegible]

ゐんちゃう (名) 圓頂 マロキイタダキ。又、坊主。僧侶[illegible]。太平記、廿四、依山門嗷訴公卿僉議事「適 公家武家歸佛法、太善事ヲ修セバ、方袍圓頂ノ身トシテハ、共ニ可悅事ニテコソアルニ、云云」

ゐんづうだいし (名) 圓通大士 〔圓通ハ[illegible]〕[illegible] 太平記、十六、瑞夢事「将軍夢覺テ見給ヘバ、山鳩一ツ、鵯ノ形ノ上ニアリ、彼此偏ニ圓通大士ノ擁護ノ威ヲ加ヘテ、[illegible]可、將夢想ノ告也ト思召ケレバ、云云」

ゐんてい (名) 淵底 (一)淵ノ底。水底。[illegible] (二)事ノ極マル處 ドンゾコ 下學集、下、[illegible] 淵底、エンテイ、[illegible]也 著聞集、十[illegible]「[illegible]今ヲカンガミテ、ソノ淵底ヲアナクラセ給フ」

ゐんてい (名) 園丁 ニハツクリ。ウエキヤ。[illegible] 陸[illegible]、秋懷詩「園丁傍架摘黄[illegible]、村女沿[illegible]」

ゐんてん (名) 圓轉 (一)マルク廻轉スルコト。(二)滯リナク自由自在ナルコト。[illegible]

ゐんてん (副) 宛轉 (一)動作ノユルヤカナル狀。[illegible] (二)玉ナドノコロガル狀ニ云フ語。[illegible]

ゐんと (名) 遠圖 ゐんぼう(遠謀)ニ同ジ。左傳、襄公廿八年「遠圖者忠也」

ゐんどう (名) 豌豆 〔のらまめ(野豆)ノ條ヲ見合ハスベシ〕ノラマメ。ノマメ。豆科ノ二年生蔓草。高サ四五尺、秋、種ヲ下シテ、翌年夏、實熟ス。葉ハ羽狀ニ排列シテ、[illegible]ニ似テ、小葉ハ圓ク、白ミヲ帶ブ。葉ノ頭毎ニ、細ツキ鬚アリ、春、白、又ハ、紫色ノ蝶形花ヲ開ク、ふぢまめ(藤豆)ノ花ニ似テ大ナリ。花後、莢果ヲ結ブ。豆ハきのろまめ(白豆)ノ大キサニテ、略、方形ニテ、黑褐色ナリ。又、白花ナルハ、豆、圓クシテ白ク、莢ヲ併セテ食フベシ、さやゐんどう(莢豌豆)ト云フ。又、烏のゐんどう、雀のゐんどう、唐ゐんどう、濱ゐんどう、ナドアリ。字類抄「豌豆、エントウ」倭名抄、十七、豆類「[illegible]、本草[illegible]云、豌豆、一名野豆、乃良末女」倭爾雅、六、米穀門「豌豆、エントウ、ノラマメ、胡豆、戎菽、回鶻豆、畢豆、青小豆、青斑豆並同、或云野豆」物類稱呼、三、生植「豌豆、ゐんどう、[illegible]ニテ、ノラマメト云、東國ニテ、ゐんどうト云、伊勢ニテ、ブンドウト云、上總ニテ、ゐんブトイフ」

ゐんどうさう (名) 豌豆瘡 又、わんづさう。疱瘡ノ古名。名物六帖、四、人事箋「豌[illegible]」

ゐんどうまめ (名) 豌豆豆 豌豆ノ重言。

ゐんどん (名) 圓頓 [illegible] 圓、頓ハ[illegible]、頓[illegible]ノ語。天台宗ノ教義ニテ、功德圓滿ニテ成佛ノ頓速ナルコト。[illegible] 狀事 延[illegible]、[illegible]寺ハ、門[illegible]ニツニ相分ルトイヘドモ、學スル所ハ、コレ圓頓一味ノ教門ニ同ジ」

ゐんば (名) 蜻蛉 蜻蛉ノ古名。轉ジテ、やんま。倭名抄、十九、蟲豸類「[illegible]、蜻蛉之小而黄也、[illegible]赤卒、蜻蛉之小而赤也、阿加[illegible]」字類抄「赤卒、エンハ」

ゐんば (名) 遠馬 馬ヲ遠方マデ乘リ廻スコト。トホノリ。[illegible] 月、還馬、馬術稽古ノタメ、早馬ニ鞭打テ、府外ノ[illegible]佛ニ[illegible]シ、或ハ草傍ノ所ニイタル」

ゐんばう (名) 遠望 ハルカニ見ヤルコト。トホミ。遠見。遠視。武元衡、登闕[illegible]

ゐんばう (名) 怨望 〔望モ、うらむナリ〕ウラミヲカクルコト。ウラメシクオモフコト。史記、[illegible]「此日怨望、居常鞅鞅、羞與絳灌等列」

ゐんぱう (名) 遠方 トホキカタ。遠ク隔リタル地。論語、學而篇「有朋自遠方來」

ゐんび (名) 婉美 シトヤカニテ、ウツクシキコト。婉麗。

ゐんぴ (名) 猨臂 猿臂 〔正字通「猿、俗猨字」〕猿ノヒヂノ如キ長キヒヂ。史記、李將軍傳「廣爲人長猨臂、其善射亦天性也」

ゐんぷ (名) 怨府 〔府ハ物ノ集マル處〕衆人ノ怨ミノアツマルトコロ。怨嗟ノ[illegible]。[illegible]「[illegible]香不[illegible]怨府」

ゐんぺい (名) 援兵 救ヒノ軍勢。タスケノ兵隊。[illegible]

ゐんぽ (名) 園圃 〔園ハ草木ヲ植ウル處、圃ハ野菜ヲ作ル處〕ソノ。ハタケ。又、田圃。田園。墨子、非攻、上篇「今有一人入人園圃、竊其桃李、衆聞則非之」

ゐんぼう (名) 遠謀 サキザキマデノハカリゴト。遠大ナル計略。遠圖。左傳、莊公十年「肉食者鄙、未能遠謀」

ゐんま (名) 繪馬 ゑま(繪馬)ノ音便。

ゐんまん (名) 圓滿 (一)十分ニ滿チ足ルコト。物ノ十分ニ滿チ足ルコト、[illegible] (二)角立タズシテ、オダヤカナルコト。又、マロクヲサマルコト。

ゐんみゃう (名) 圓明 理智圓滿シテ、明カニ悟ルコト [illegible]

ゐんもん (名) 轅門 〔周禮、天官篇、[illegible]〕[illegible] 昔、天子、他處ニ止宿スル時、護衞ノ兵車ヲ仰向ケニ並ヘテ、轅ヲ向合ハセタル故事ニヨル〕ぐんもん(軍門)ニ同ジ。周禮、天官、掌舍「[illegible]」

之門同之名ハ云云、政事宮城門ニ」史記、高祖紀、「羽旨上見、沛公、樊噲入ニ轅門ニ」太平記、四十、「車駕御留事、衛兵百騎、計名具シテ、轅門ノ警固ニ相構ノ」

ゑんやう（名）〔遠洋〕陸地ヨリトホク隔タリタル海。遠海。「遠洋航海」

ゑんゆう（名）〔圓融〕〔圓ハ、圓滿、周圓ノ圓、融ハ、融通、融和ノ融〕又、ゑんにう。佛教ノ語。諸法ノ互ニ相融通シテ無礙自在ナルコト。諸法本具ノ理性ニヨリ、萬法ヲ遍ク融通ナラシムルコト。煩惱即菩提、生死即涅槃、娑婆即寂光ナド、是レ圓融ノ妙趣ナリ。 楞嚴經、四、「如來、觀ニ地水火風本性圓融、周ニ徧法界、湛然常住ニ」謠曲、雲平「圓融ノ法モ、盛リナキ、月ノ櫻川モ見エタリヤ」

ゑんらい（名）〔遠來〕遠方ヨリ來レルコト。 晉書、范汪傳「汪既至、溫謝ニ其遠來意ニ」杜甫、渼陂行「岑參兄弟皆好ニ奇、攜ニ我遠來遊ニ渼陂ニ」

ゑんりやう（名）〔圓領〕又、まるえり。衣ノ圓キ領。くびかみ（領曲）ノ條ヲ見ヨ。

ゑんりやく（名）〔遠略〕（一）遠大ナル策略。遠謀。遠圖。 陸機、辨亡論「洪規遠略」（二）遠方ノ國ヲ攻ムルハカリゴト。 後漢書、蘇竟傳「武帝情存ニ遠略ニ」

ゑんりよ（名）〔遠慮〕（一）トホキオモンパカリ。預メ善ク考ヘ計ルコト。深キ用心。 左傳、襄公廿八年「君子有ニ遠慮、小人從レ邇」（二）轉ジテ、人ニ對スルニ、心ヲ用ヰテ、控ヘ目ニスルコト。キガネスルコト。キヅカヒ。〔謙退〕 狂言記、罪人「夫ハ一段ト能カラウ、遠慮ナシニ言テ見ヨ」 政談秘書、三、遠慮「一、火事之節、屋敷危儀ニ候ハバ立退、其後支配方マデ可ニ申達ニ候、尤遠慮ナク火防可ニ申事」（三）刑ノ名。ひつそく（逼塞）ノ條ヲ見ヨ。 政談秘書、三、遠慮「一、門ヲタテ、クグリ引寄可ニ罷在ニ、不レ叶用事、又ハ病氣之節、不ニ目立ニ樣ニ通路可レ有レ之事、云云」

ゑんるゐ（名）〔遠類〕親類ノ、緣ノ遠キモノ。緣ノ遠キ親類。 發心集、六、第五條「八幡別當賴清ガ遠類ニテ、永秀法師ト云者アリケリ」

ゑんろ（名）〔遠路〕トホミチ。トホキミチ。長途。長程。 周賀、送ニ僧歸ニ寺詩「遠路歸ニ寺、殘時常到レ城」

ゑんろ（名）〔圓顱〕〔顱ハ頭ノ骨ナリ〕マルキアタマ。バウズアタマ。圓頂。

ゑんわう（名）〔冤枉、寃枉〕〔寃ハ、俗字、枉ハ事實ヲ曲グルコト〕ムジツノツミ。ナキトガ。ヌレギヌ。冤罪。冤。 李白詩「皇穹雪ニ冤枉、白日開ニ昏氛ニ」獄令「凡死罪雖ニ已奏報、猶訴ニ冤枉、事有ニ可レ疑、可ニ推覆ニ者、以ニ狀奏聞ニ」

ゑんを（名）〔怨惡〕ウラミニクムコト。怨憎 墨子、尚同、上篇「內者、父子兄弟作ニ怨惡、離散不レ能ニ相和合ニ」

ゑもとゆひ（名）〔繪元結〕いれもとゆひ（入元結）ニ同ジ。ひらもとゆひ（平元結）ノ條ヲモ見ヨ。 貞丈雜記、八、調度之部「イレモトユヒ、又、大モトユヒトモ云、今ハ繪もとゆひト云、フトクタタミ、兩端ニシンヲ入レテ、金箔ニテダミテ、色色ノ色ニテ松竹鶴龜ナドヲ繪ク也」

ゑものがたり（名）〔繪物語〕物語ブミニ、繪ヲ插シタルモノ。插繪ノアル物語本。繪草紙。 石清水物語、上「姫君ノ御許ヘモ、ヲカシキ繪物語ナド奉リ給フ」 濱松中納言物語、三「御心ナグサメニ、人ノ見ルナル繪物語ナドダニ、カカル奧山ニハ、イヅコノカハ見エン」

ゑもんふ（名）〔衞門府〕古ヘノ武官ノ府。禁中ノ諸門ヲ衞リ、其出入ヲ察シ、時ヲ以テ巡警スルコトヲ掌ル。四等ノ官ヲ、督、佐、尉、志、トシ、左右ニ分レテ、左衞門府、右衞門府トス。ユゲヒノツカサ。外衞。金吾。 倭名抄、五、官名「兵衞府、衞門府、由介比乃豆加佐」 釋日本紀、十九、秘訓「衞門府、ユケヒノツカサ」 職原抄、下「左右衞門府、唐名金吾、又云ニ監門ニ」

ゑやう（名）〔繪樣〕繪ニ、物ノ樣ヲ寫シタルコト。又、ソノモノ。又、繪ノ下ガキ。シタエ。 源、廿四、胡蝶「…、…ノ波ノ綾ニ紋ヲ交ヘタルナド、物ノ繪やうニモ書キトラマホシキニ」 菅家文草、七、樹木目錄所記「凡作ニ樹之途、專依ニ繪樣ニ」 長秋記、保延元年六月廿一日「自ニ御所ニ下ニ給佛畫繪樣ニ、前日依ニ下官ニ、畫師時所ニ…繪樣ニ」

ゑらぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（自動、四）〔歡喜、嘻樂〕〔笑む義、嘻ハ、大イニ笑フナリ〕笑ミ榮エ樂ム。樂ミ笑フ。悅樂ス。 神代紀、上「…一「イカンゾ天鈿目命カクゑらぐヤトオボシテ、云云」 雄略紀、二年十月「歡喜盛讌」 更、「眞人、續紀、廿六、天平神護元年十一月宣命「由紀、主基ノ黑紀白紀ノ御酒ヲ、赤丹ノ穗ニ給ヘゑら伎」 貞觀儀式、鼓吹儀「答鼓、ゑら伎入」

ゑらふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）ユリトヨム。ユリウゴク。動搖ス。 萬葉集、廿、十二「ユコ先ニ、浪ナトゑ良比、シルベニハ、子ヲラ妻ヲラ、置キテモ來ヌ」

ゑらふそく（名）〔繪蠟燭〕蠟燭ニ、種種ノ畫ヲ書キ飾リタルモノ。畫燭

ゑらゑらに（副）〔笑笑〕〔笑むニ通ズ〕（一）〔嘻樂〕グ狀ニ云フ語。ケラケラ。エミエミ。 萬葉集、十九、四十長歌「千年壽ギ、ホギキトヨモシ、惡良惡良爾、仕ヘマツルヲ、見ルカタフトサ」（二）心ニ歡喜スル狀ニ云フ語。酒飲ミテ、上機嫌ノ容子ニ云フ。

ゑらん（名）〔壞亂〕佛教ノ語。くわいらん（壞亂）ニ同ジ。 盛衰記、廿八、「…竹…事、天女ノ所化也ト說ルルハ、此鶯ノ事也、…ヨリ出生セル故ニ、劫火ノ焚燒ニモ壞亂セズ、云云」

ゑり（名）（一）〔彫〕エルコト。キザミホルコト。 狹衣、三、上「ヤガテ扇ノヒマモナク書キナサレタル文字樣、ゑり深ウワケ讀ウレタルナド、云云」（二）矢筈ノ名ドコロ。弦ヲ受クルタメニ、彫リクボメタル所。

ゑりいし（名）〔碑〕〔鐫石ノ義〕石ニ文ヲ鐫リタルモノ。文章ヲ彫刻セル石。碑。 天智紀、八年十月「辛酉、藤原內大臣薨」注「日本世記曰、內大臣、云云、碑曰、春秋五十有六而薨」

ゑりいた（名）〔彫板〕書畫ヲ刻リタル板。はんぎ（版木）ノ條ヲモ見ヨ。

ゑりきる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔彫切〕ホリキリヌク。 平家物語、九、一二懸事「平家ノ方ノ馬ハ、飼フハ稀ナリ、乘リシゲシ、船ニ久シウタテタリケレバ、ミナ彫りきッタルヤウナリケリ」

ゑりつく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）〔彫附〕エリツクル。キザミツクル。彫刻ス。 佛足石歌「コキ人ノ、マサ目ニ見ケム、御足跡スラヲ、我ハエ見ズテ、石ニ惡利都久、玉ニ惡利都久」

ゑりとほす・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔彫通〕彫リテ穿ツ。 宇治拾遺、一、第七條「折敷ヲ、鼻サシ入ルバカリゑりとほして、云云」

ゑる・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）〔嘲〕アザケル。アザケリ笑フ。アザワラフ。嗤笑ス。 字類抄「嘲、エル」 字鏡「嗤、嗤、相戲調也、惡留」

ゑる・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）〔彫、鐫〕〔割るニ通ズ〕刻リツク。チリバム。キザム。エグル。彫刻ス。 名義抄「刻、エル、鐫、エル、」

ホレ、嗤、ヱシ、[illegible]、ヱル。字鏡「[illegible]」

ゑわらひ（エワライ） (名) 笑、ヱミワラフコト。ヱミワラヒ。 狹衣、一、下「[illegible]メノトノ、心ユキテ、モノイヒ、ゑわらひナドスルヲ聞クニ、云云」 源、二、帚木、二十五「衣ノ音ナヒ、ハラハラトシテ、若キ聲ドモ憎カラズ、サスガニ忍ビテ、ゑわらひ（ゑナシィ）ナドスルケハヒ、コトサラビタリ」

ゑわら・ふ・フ・へ・へ・ヒ・へ（エ・ワラ・ウ） (自動、四) 笑 ヱミワラフ。ワラフ。 兒女子、九、第九十一段「御フトリツギ、タチヰフルマフサマナド、ツツマシゲナラズ、モノイヒゑわらふ（ゑみわらふィ）」

を

を 五十音圖、和行、第五ノ假名。わノ條ヲ見ヨ。

を (名) 牡 雄 (一)動物ニテハ、精子ヲ行シテ、子ヲ生ズル性ヲ具フルモノ。をす。男 牡 雄 陽 コレニ對シ、受精シテ、ソノ子ヲ孕ミテ産ム性ヲ具フルモノヲめト云フ。めす。女 牝 雌 陰 人、禽、獸、蟲、魚、介、皆、此ノ兩性アリ、又、植物ニモアリ。卽チ、雄蘂ヲ有スルモノヲ、をト云ヒ、雌蘂ヲ有スルモノヲ、めト云フ。 神代紀、上「古天地未剖、陰陽不分、[illegible]」 (二)專ラ、人ノを。ヲトコ。ヲノコ。男子。男 名義抄「男、ヲ、ヲノコ」 古事記、上「[illegible]吾カ大國主コソハ、遠ニシイマセバ」「賤ノを」マスラを」山田守ルを」をノワラハ」

を (名) 夫 男ノ配偶ノ古言。ヲヒト。ヲウト。ヲット。ツマ。夫 良人 倭名抄、[illegible] テ、郡麻（配偶）ハナシ」「前夫」後夫」

を (名) 緒 (一)絲、紐、ナド、長クシテ物ヲ結ヒ、又ハ、垂レナドスベキモノノ總名。 倭名抄、十五「[illegible]」 名義抄「緒、ヲ」 古事記、中「[illegible]所、著、針麻者、云云、唯遺麻者、三勾耳」 (二)履ニ着ケテ、足ニ懸クル緒。ハナヲ。履絲 倭名抄、十二「履緒[illegible]」 (三)樂器、又ハ、弓ニ張ル絃。絃 宇津保物語、俊蔭「琴三十作リテ、云云、此女ニ、を掻リスゲサセテ登リヌ」 萬葉集、二十「[illegible]引リズシテ、[illegible]ハグルワザナ、シルト[illegible]ハナクニ」「琴ノを」四ツノを」 (四)物事ノ長キ續キ。 萬葉集、十九「アラ玉ノ、年ノ緒長ク、吾ガ思ヘル、子ラニ戀フベキ、月近ヅキヌ」「[illegible]ノを」息ノを」

を (名) 麻 (一)麻ノ異名。其條ノ(一)ヲ見ヨ。 倭名抄、十四「[illegible]具 麻、乎、一云、阿佐」 (二)麻、又ハ、からむし（苧）ノ莖ヲ水ニ漬シ、蒸シテ粗皮ヲ去リ、其織維ヲ績ギテ絲トシタルモノ。今、コノをト別チテ、からむしヲ眞麻ト云フ。

を (名) 尾 〔小ノ義、動物體中ノ細ソキモノノ意〕(一)〔禽、獸、蟲、魚、ノ尻ヨリ長ク出デタルモノ。シリヲ。シッポ。 倭名抄、十八「[illegible]尾、乎、鳥獸尻長毛也」 萬葉集、十一「[illegible]足引ノ、山鳥ノ尾ノ、シダリ尾ノ、長長シ夜ヲ、ヒトリカモ寐ム」 (二)山ノ裾ノ引延ヘタル處。（次條ヲ見合ハスベシ） 山尾 古今集、一、春、上「山櫻、我カ見ニ來レバ、春霞、峯ニモ尾ニモ、立チカクシツツ」 [illegible]傳「[illegible]山之尾五城ニ」 (三)凡テ、動物ノ尻尾ノ如ク引延ヘタルモノノ稱。「紙ノ尾」[illegible]ノ尾」 (四)ヲハリ。スヱ。シリ。 [illegible]「人[illegible]ノ[illegible]秋ノ、ダベウナ[illegible]」 心中[illegible]作）下「ソレハ兄御ト談合シテ、[illegible]ノ尾ハミセヌ」

を (名) 峯 丘 山ノ高キ處。ミネ。 前條ノ語ノ(二)ヲ見合ハスベシ。 神代紀、上「八丘八谷」 皇極紀、三年六月「向ツ尾ニ、立テル夫等ガ、和稀コソ、我ガ手ヲトラメ、云云」

を (名) 魚 いを、うを（魚）ノ略。各條ヲ見ヨ。 古事記、下「[illegible]すフをヨシ、シビツクアマヨ、シガアレバ[illegible]」 古事記傳、四十三「オフをヨシハ、大魚ヨナリ」「白きし水を」

を (辭) (一)第一類ノ天爾波 事ヲ處分スル意ノモノ。下ハ、必ズ他動ノ動詞ニ接ス。 古事記、上「少女ノ、鳴スヤ板戸ヲ、オソブラヒ」「書を讀ム」字を記ス」橋を造フ」 (二)又、下、自動ノ動詞ニ接シテ、よりノ如キ意ヲナスモノ。 萬葉集、廿四、長歌「イヤ遠ニ、國乎來離レ」「家を離ル」國を去ル」人を別ル」世を隱フ」 (三)又、動作ノ行ハル地位ヲ示ス意ノモノ。亦、下、自動ノ動詞ニ接ス。 古事記、下（仁德）「青丹ヨシ、奈良ヲ過ギ、小楯、大和ヲ過ギ」「路を行ク」門を過グ」家を繞ル」

を (辭) (一)第三類ノ天爾波、思フニ違ヒテ、意ノ返ル意ヲナスモノ。ノヲ。「春トハナリツルを」願ハザリシを」行カジト思フを」 (二)〔ものをノ意ヲ含ミタルモノ。 萬葉集、六、三十「オモホエズ、來マセル君乎、佐保川ノ、カハヅ聞カセズ、カヘシツルカモ」 古今集、十六、哀傷「ツヒニ行ク、道トハカネテ、聞キシカド、キノフケフトハ、思ハザリシを」

を (辭) (一)にノ意ノモノ。 仁德紀、五十年三月「我レ烏聞ハスナ、云云、倭ノ國ニ雁子産ト、我レハ聞カズ」 履中卽位前紀「[illegible]坂ニ、遂フヤ少女爲、路問ヘバ、タダニハノラズ、當麻徑ヲノル」 允恭紀、十一年三月「トコシヘニ、君モ遇ヘヤモ、イサナドリ、海ノ[illegible]」 (二)[illegible]意ノモノ。 古事記、中（景行）「[illegible]」 古今集、[illegible]「[illegible]レテを行カン、小夜ハフクトモ」 (三)事ヲ重ク思ハスル[illegible]云フ意ノモノ 萬葉集、十九「別レナバ、心悲シケム、吾ガ衣、下ニ乎着マセ、直ニ會フマデニ」 (四)[illegible] 古今集、十三、戀、三「人ハイサ、我ハ無キ名ノ、惜シケレバ、昔モ今モ、知ラズトを言ハン」

を (感) 廣ク感情ニ發スル聲。言語ノ間ニ用ヰルハ、「見ツツを行カン」心ニを思ヘ」若ナダニ[illegible]ヘ[illegible]所ノ[illegible] 又、[illegible]ノ下ニアルハ、「我ハサ[illegible]心ニ[illegible]」

を (感) 〔諾ニ通ズ〕 諾フ聲。う（諾）ノ條ヲモ見ヨ。 [illegible]三日櫻の木のもとにて、[illegible]射る「心ニモ、イルヒノ弓ハ、山ナラヌ、花ノアタリニ、をトゾ答フル」（射芝ヲ山ト云フニカケ、的ノ中リヲ、邊ニカク）

を (感) 呼 呼ブ聲。 萬葉集、七「[illegible]宇治川ヲ、船渡セ呼ト、喚ヘドモ、聞エザルラシ、楫ノ音モセズ」

を (接頭) 小 (一)〔チヒサキ、又ハ、コマカキ狀ニ云フ語。小。 古事記、下（顯宗）五十五「淺茅原、[illegible]谷ヲ過ギテ、百傳フ、[illegible]ノグモ、オキメクラシモ」「を川」を舟」 (二)少シ、又ハ、イササカノ意ヲ云フ語。 後撰集、九、戀、一「をヤミセズ、雨サヘ降レバ、溝水ノ、増ルラントモ、思ホユルカナ」「を暗シ」 (三)〔[illegible]ナキ意[illegible]トシテ、名詞ニ冠ラスルモノ。（常ニ小ノ字ヲ當ツ） 萬葉集、七、旋頭歌「住吉ノ、小田苅ラス子、奴カモ無キ、奴アレド、妹ガ御爲ト、私ノ田苅ルモ」（古義ノ訓）「を籬」を稻」を田」を野」

をあい (名) 汙穢 〔穢ハ於廢切、音、あい、烏廢切、音、わい〕ト。をわい(汙穢)ニ同ジ 後漢書、仲長統傳「共ニ穢之行、淪哲之罪、猶何多焉」(汙、濊通用ス) (二)身體ヨリ排泄シタルモノ。糞尿。

をあい (名) 汙埃汚埃 チリ。ホコリ。

をあさ (名) 雄麻 麻ノ雄ナルモノ。あさ(麻)ノ條ヲ見ヨ。 大和本草、六、民用草類「大麻、云云 雄ナル者ヲ只麻ハ又牡麻ト云、實ナシ」

をあはせ (名) 緒合 琴、琵琶ナドヲ合奏スルコト。ヒキアハセ。 新六帖、五「我ヨハヒ、タツル琴柱ノ、緒合ノ、タダセメニノミ、セメモユクカナ」

をいくさ (名) 男軍 〔女軍ニ對ス〕男子ニテ組織セル軍隊。 神武即位前紀八「又於二女坂一置二女軍、男坂置二男軍一」

をう (名) 翁 おう(翁)ノ條ヲ見ヨ。

をううつと (副) 蓊鬱 〔音韻假字用例ニ據レバ、おううつナルベシ〕 おううつと(蓊鬱)ノ條ヲ見ヨ。

をうさい (名) 于思 〔うさい(于思)ノ音轉〕 うさいおう(于思翁)ノ條ヲ見ヨ。

をうし (名) 牡牛 牛ノ牡ナルモノ。ボギウ。 狂言記、牛馬「風枯木ヲ吹バ晴天ノ雨ト、女牛吟ズレバ男牛鬪テ、云云」

をうと (名) 夫 〔をひと(夫)ノ音便〕 をっと(夫)ノ古言。 倭名抄、二十九「夫妻類 夫、乎宇止二本、乎布度」、後夫、宇波乎、伊蘇乃乎宇止」

名義抄「夫、ヲフト、ヲトコ」

をうな (名) 女 〔をみな(女)ノ音便〕 ヲンナ。ヲミナ。ヲナゴ。女子。婦人。

古事記、中、第三十四段、訓注「孃、ヲウナ」 古今集、序「タトヘバ、繪ニカケルをうなヲミテ、云云」

をうなご (名) 女子 ヲミナノコ。ヲンナゴ。ヲミナゴ 女子。女性。 源、廿七、篝火「人見ルマジクテ、コモリヰタランをうなごヲ」

をうなめ (名) 妾 〔をうなハ、をみな(女)ノ音便〕 をむなめ(妾)ノ條ヲ見ヨ。 字鏡集「妾、ヲウナメ」

をうま (名) 牡馬 又、をむま ヲスノ馬。ヲトコウマ。 易林節用集、(慶長)上、氣形門「牡馬、ヲウマ」

をうをう (感) ナキ叫ブ聲。 宇治拾遺、四、第六條「此足ノカハリニ、我カ足ヲキレ、云云、をうをうトヲメキケレバ」(板本、おうおうニ作ル)

をえ (名) 小江 小サキ江。 萬葉集、十六、三十「長歌「オシテルヤ、難波ノ小江ニ、廬作リ、云云、難波ノ小江ノ、始垂ヲ、辛ク垂レ來テ、云云」

をえ (動) 瘁 をゆ(瘁)ノ條ヲ見ヨ。

をえつ (名) 嗚咽 ナキムセブコト。ムセビ泣クコト。ススリナキ。 南齊書、王儉傳「儉生而僧虔、儉父ノ遇害、儉ニ叔父僧虔所養、數歲襲ニ前爵章侯ハ拜ニ受茅土、流涕嗚咽」 太平記、十七、白魚入レ船事「暫ク嗚咽ノ袖ヲゾヌラサレケル」

をか (名) 岡陵阜 〔峯處ノ義ト云フ〕 地ノ少シ高キ處。山ノ低クシテ平カナルモノ。又、山脈ノ斷エタルガ本ニテ離レタル小山ヲモ云フ。 倭名抄、一、三山谷類「丘、岡、乎加」 字鏡、三十六「坵、小陵曰レ岳、乎加」 同七十四「大阜曰レ陵、乎加」 古事記、下(雄略)六、三十「少女ノ、イ隱ル岡ヲ、金鉏モ、イホチモガモ、スキ撥ヌルモノ、故號ニ其岡ハ謂ニ金鉏岡ニ也」 萬葉集、廿、二十七長歌「玉鉾ノ、道ニ出立チ、乎可ノサキ、イタムル毎ニ」

をか (名) 陸 〔前條ノ語意ニ同ジ〕(一)海ニ對シテ、地ノ方。クガ。クニガクヌガ。 夫木抄、廿五、潟「鳴海潟、をかヲメグリテ、ユク人ハ、鹽ノヒトニ、何カカタラン」 (二)風呂場ノ、湯槽ノ外、ナガシ場。アラヒ場。 浮世風呂(文化、三馬)二編、下「をかへ出ルト、流シノ男、留桶ト小桶二ツヘ、湯ヲ汲ンデオキ、背ナカヲナガシニキタリ」

をか (名) 傍 〔前前條ノ語意ニ同ジ〕 其場ニ係ハラズ、カタハラニ離レテアルコト。カタハラ。ソバ。「をか見」をか目」

をかい (名) 小櫂 〔をハ接頭語〕 かい(櫂)ト云フニ同ジ。 萬葉集、十三、廿長歌「サニヌリノ、小舟モガモ、玉纏ノ、小櫂モガモ」

をがき (名) 男餓鬼 ヲトコノ餓鬼。男性ノ餓鬼。(女餓鬼ニ對ス) 其條ヲモ見ヨ。 萬葉集、十六、廿「寺寺ノ、女餓鬼マヲサク、大神ノ、男餓鬼タバリテ、ソノ子ウマハム」(古義ノ訓)

をかきつ (名) 小垣内 〔をハ接頭語〕 かきつ(垣内)ト云フニ同ジ。 萬葉集、九、三十二長歌「小垣内ノ、麻ヲ引干シ、妹ナネガ」(古義ノ訓)

をかく (動) 和 をか・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) ヤハラグ。又、マズル。和スル。 天治字鏡、十二、十「稠和、加太久乎加久、稀和、志智爾乎加久」

をがさ (名) 小笠 〔をハ發語〕 かさ(笠)ト云フニ同ジ。 萬葉集、十六、廿七長歌「菅笠小笠、吾カウナゲル、珠ノ七條、取リステモ」

をがさがけ (名) 小笠懸小笠掛 〔遠笠懸ニ對ス〕 又、をかさかけ。騎射ノ式ノ一。かさがけ(笠懸)ノ條ヲ見ヨ。 吾妻鏡、三、壽永三年五月十九日「於二杜戶松樹下一有二小笠懸一、是土風也」 小笠懸由來之記「小笠懸ノ來歷ハ、伏鳥ヲ射ルヨリ初タル也、然バ伏鳥ノ引目ニテ射タリ共、苦シカルマジキ事歟」

をかさき (名) 丘岬 小高キ處ノ崎ヲ[illegible] 新撰[illegible] 注[illegible]

をかざき (名) 岡崎 次條ノ語ノ略。 檢亭筆記「岡崎ハ足ニテ拍子ヲウツモノニテ、云云、テンテツトンノ類ナルヘシ」

をかざきぢょろしゅ (名) 岡崎女郎衆 江戶時代、寬文ヨリ元祿ニカケテ、一節切、又ハ、三味線ニ合ハセテ、專ラ唄ヒタル小唄。三河國ノ岡崎ノ唄ニヤ。今ノ、箏、三味線ヲ習フ手始メニ彈ク短キ曲即チ「岡崎女郎衆ハ、ヨイ女郎衆」トイフ類ナリ。 長唄、元祿花見踊「タンダ振レ振レ六尺袖ノ、而モカノコノ岡崎女郎衆」

をかざきづきん (名) 岡崎頭巾 くまさかづきん(熊坂頭巾)ノ類ナルベシ。 寶藏(寬文、山岡元隣)二「逢夜ヤ心丸頭巾、ワカレヲ急グ鳥ノ聲コソツラニクケレ、露ハ後ニ、をかざき頭巾、備ヲ荷フモ、カウ頭巾、云云」

をかざきはっちゃうみそ (名) 岡崎八丁味噌 味噌ノ一種。三河國、岡崎市ノ八丁ヨリ產ズル玉味噌 色、稍黑ク、持ヨシ、略シテ、八丁味噌 又、岡崎味噌

をかざきをどり (名) 岡崎踊 モトハ岡崎女郎衆ノ小唄ニ連レテ、足ニテ拍子ヲトリナガラ、フミヲドレルモノナラム。後ニハ、小唄ノ節ノ名トナル。をかさきぢょろしゅ(岡崎女郎衆)ノ條ヲモ見ヨ。 ひそめ草(正保)上、筑紫琴、小歌ノをかざきをどりナドノミニテ、彈キマハレバ、云云」

をかさだけ (名) 高山ニ自生スル列當科ノ寄生隱花植物ノ一。多ク日光、其他ノ高山ノみやまはんのきノ根ニ寄生

ス。莖ハ柱狀ノ肉質ニシテ、大イナルハ尺餘、葉ハ鱗片狀ニシテ互生ス、莖葉共ニ黄褐色ナリ、夏、莖ノ上端ニ黄紫色ノ唇形花ヲ穗狀ニツク、乾燥シテ藥用トス。キムラタケ。オニク。にくずようノ[肉蓯蓉]ノ條ヲモ見ヨ

をがさはら-びし (名) [小笠原菱] 紋所ノ名。さんがいびし(三蓋菱)ニ同ジ。

をがさはら-りう (名) [小笠原流] (一)武家禮式ノ一派。足利義滿ノ時、小笠原長秀ノ定メタル所ト云フ、弓馬ノ故實、兼ネテ饗應、元服、婚禮、等ノ禮式ヲ行フ。別ニ伊勢流アリ。(二)馬術、及、射術ノ一派。鎌倉時代ノ初、小笠原長清ヲ流祖トシ、其七世ノ孫、貞宗ノ大成シタルモノ。(三)兵法ノ一派。小笠原氏隆ノ創メタルモノ。同志宗話、六、察ズルニ、云云、信州流トイヘルハ、小笠原流ノ事ナルガ、小笠原軍術、モッハラ雲氣煙等ノ怪異ヲ記シ、浮屠妄浮ヲ正トシ、多クハ附會、信用ニ不足」

~をかし (名) [犯] 罪ヲ犯スコト。犯罪。源、十三、明石五「サキノ世ノ報イカ、此世ノをかしカ、神佛アキラカニマシマサバ、コノ憂ヘヤメ給ヘ」

をかし (名) [可笑] (一)ヲカシキコト。滑稽ナルコト。笑フベキコト。著聞集、十六、興言利口「スズロナル法師ヲトラヘテ、をかしノモノニツクリナシテ、云云」(二)能ノ間(アヒ)狂言(狂言師ノ役ナリ)。習道書(永享、世阿彌)「抑をかしトハ、必ズ數人ノ笑ヒドヨメク事、俗ナル風體ナルベシ、笑ノ中ニ樂ヲ含ムト云フ、云云、是レをかしノ上手ト云ヘリ」

~をか-し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [可笑][可咲] [痴(ヲコ)愚ト通ズ」(一)ヲコナリ。痴(ヲコ)ナルガ如ク見エテ、笑フベシ。[illegible] 字鏡 [illegible] 阿、咲聲也、時夜鳴、痴(ヲコ)乎加志」(二)イブカシ。怪シ。不思議ナリ。枕草子、三、第廿八段「イミジク見エテ、をかしきスヂナド立テタルコトハナクテ、タダアルヤウナルヲ、云云」

~をか-し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [可愛] 物ヲ愛(メ)ヅル時ハ自ラ笑(エ)マルルヨリ轉ジテ、愛ヅベシ。賞スベシ。褒ムベシ。オモシロシ。(かなしニ、愛し、面白しノ二義アルガ如ク、咲、笑ノ字ニ、喜樂ト侮弄トノ二義アリ、わらふモ、マタ二義ヲ兼ネタリ) 宇津保物語、祭使九「イカメシキ釣殿ツクラレテ、をかしき舟ドモオロシ、浮橋渡シ、云云」源、十、榊四十「カウヤウノ折コソ、をかしき歌ナド出デ來ルヤウモアレ、サウザウシヤ」眞名伊勢物語、下「昔男、妹乃最可咲(イトヲカシ)有乎見而、云云」

をかし-が・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [可笑] ヲカシト思フ。伊勢物語、第九十八段「イトカシコクをかしがり給ヒテ、使ニ祿賜ヘリケリ」

をか-しね (名) [陸稻] 「をね(稻)」ノ條ヲ見ヨ」をかぼ(陸穗)ニ同ジ。

をか-じようき (名) [陸蒸氣] (陸ノ蒸氣船ノ義) 又、蒸氣車、汽車ノ俗稱。

をか-しら-つき (名) [尾頭附] 頭ト尾トノ附キタル儘ノ魚。神供、或ハ、祝ヒ事ニ用ヰルニ云フ。

~をか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [犯][冒][侵][干] [illegible] ハ、イカナル罪ヲをかしテ、カク悲シキメヲ見ルラン」(二)愼ミテスマジキ事ヲ、強ヒテス。凌グ。推シテス。[illegible] 神代紀、下 [illegible] (三)攻メ入ル。侵略ス。[illegible] 加須」欽明紀、五年十一月「本非(ヲカ)侵(ヲカ)害 其國」(四)氏ヲ冒ス。他ノ姓ヲ名告ル。漢書、衛青傳「冒姓爲衞氏」續紀、廿九 [illegible] 年五月、或取 [illegible] 姓、復用 [illegible]」

~をか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [犯][奸] スマジキワザナルヲ、スルヨリ云フ語。強ヒテ淫ス。轉ジテ、婚グ。姦通ス。雄略紀、九年二月「凡河内直香賜、云云、奸(ヲカス)其采女」欽明紀、廿三年七月「奸(ヲカス)其婦女」

をか-せ (名) [麻桛] 麻ヲ絡(マト)フ桛(カセ)。又、苧(ヲ)ヲ纏ヒカクル桛。天治字鏡、十二、九廿「桛、乎加世」

をか-だ (名) [陸田] 又、りくでん。はた(畠)ニ同ジ。(水田ニ對ス)

をか-たいふ (名) [岡大夫] わらびもち(蕨餅)ノ異名。

をがたまの-き (名) [招靈(ヲキタマ)ノ轉、神靈ヲ招禱奉ルモノナレバ云フト云フ」古今傳授、三木ノ一。榊(サカキ)ノ異名ナリト云フ。(天岩屋戸ニ隱リマシシ天照大神ヲ、招ギタテマツル勾玉ヲカケタルヨリ名アリト云フ」古今集、十、物名 [illegible] 授ニ御賀玉木ト唱ヘ來レリ、ソレニハ譯ノアル事ナ [illegible] ヘリ、云云、をがたまハ招靈ノ義、云云」

をがたまの-き (名) [黄心樹] 暖地ニ自生スル木蘭科ノ常綠喬木。高サ六七十尺ニ達シ、葉ハ長楕圓形、又ハ、倒卵形、全緣ニシテ厚ク、光澤アリ、三五月ノ候、稍、紫色ヲ帶ビタル白質ノ花ヲ開ク、木蓮ニ似テ小サシ、實ハ大イサ二寸許リ、簇生シテ初冬ニ至ル。觀賞用トシテ、庭園、神苑ナドニ栽培ス。

をか-ぢ (名) [小楫] (小ハ發語) かぢ(楫)ニ同ジ。萬葉集、九廿長歌「鹽見ノ崎ニ、サニヌリノ、小船ヲマケテ、玉櫂ノ、小楫シジヌキ」

をがち-いし (名) [雄勝石] 陸前國、桃生郡、雄勝濱ニ産ズル石。色黑シ、玄昌石トモ云ヒ、硯トシテ妙ナリ。又、石盤、敷石トシ、屋瓦ニモ代フベシ。

をか-づき (名) [鼯鼠] [尾平タク大キク、卷キテ頭ニ被(カヅ)クヨリ云フ] 獸ノ名。むささび(鼯鼠)ニ同ジ。[illegible]

~をか-つつじ (名) [茵芋] (一)名、ニッツジ。石南科ノ灌木、ツツジノ一種。花ノ赤キモノ。本草和名、上「茵芋、和名乎加都都之」和名抄、廿ニ同シ。字鏡 [illegible]「崗躑躅」夫木抄、六、躑躅「フリハヘテ、折ニキタレバ、コマ錦、紅深キ、をかつつじカナ」(二)有

毒植物ノ一。深山幽谷ニ自生スル草本狀ノ常綠灌木。高サ一二尺、葉ハ長橢圓形ニシテ、對生、又ハ、輪生狀ヲナス。春、莖頭ニ花梗ヲ出シ、綠白色ノ小花、簇生ス。果實ハ熟スレバ紅ク、香氣アリ。ミヤマシキミ。

をかつぴき (名) 陸引　をかひき(陸引)ノ音便。其條ヲ見ヨ。

をかつら (名) 楓　一名、ふう。又、かつら。金縷梅科ノ落葉喬木ニシテ、かへで(楓)ノ一種。高サ二三丈、葉ハ掌狀ニシテ三裂シ、稍、もみぢノ葉ニ似ル。春、新葉ト共ニ雄花ト雌花トヲ頭狀ニ出シ、色、黃褐色ヲ呈シ、雌花ハ球果ヲ結ブ。秋、紅葉シテ美ナリ。倭名抄、廿六木類「楓、乎加豆良」名義抄「楓、ヲカツラ」

をかづり (名) 陸釣　陸ニ居テ魚ヲ釣ルコト。(舟ナル沖釣ニ對ス) 五元集、秋「岡釣ノ、ウシロ姿ヤ、秋ノ暮」

をかととき (名) 桔梗　ききやう(桔梗)ノ古名。倭名抄、十七野菜類「苻䔲、乎加土土木」本草和名、上三十八「桔梗、一名、苻䔲、乎加止止岐」

をかとらのを (名) 岡虎尾　草ノ名。とらのを(虎尾)ノ條ノ(二)ニ同ジ。

をかのべ (名) 岡之邊　ヲカノホトリ。ヲカノアタリ。ヲカビ。ヲカベ。新古今集、十七、雜、中「岡のべノ、里ノアルジヲ、タヅヌレバ、人ハ答ヘズ、山オロシノ風」

をがは (名) 小川　細ソキ流レ川。コガハ。細流　小流　月清集、二「カカル世ニ、契リアリテゾ、逢坂ノ、小川ノ末ハ、君ニマカセン」

をかばしよ (名) 岡場所　「公娼ノ苦海ニ對シテ、陸場所ノ義ナラム」德川時代ニ、官許ノ新吉原以外ニ、市内各地ニ散在セシ私娼ノ巢窟。(一時ハ、其數廿二ケ所、私娼四千餘人アリキト云フ) 安永、天明ノ頃、盛ンニシテ、寬政ニ禁ゼラレシガ、再ビ起リテ、天保ニ、復、禁ゼラレタリ。浪花襍誌、街迺噂、二「新町ハ江戸ノ吉原ノゴトク、御免ノ場所デムリヤス、其ノ外、江戸デ云フ岡場所ト云フヤウナガ、幾等モアリヤス」明和の川柳「岡場所デ、アリンスナドハ、ヅ橫柄」洒落本、當賀川拜見(天明)序「予ハ岡場所ニ眼ヲサラシテ、諸語ノ穴ヲサグルト云フモ」

をがはら (名) 牡瓦　古ク、ツツミガハラ。今、又、丸瓦。筒瓦。ナマコガハラ。屋根ヲ覆フ瓦ノ、竹筒ヲ、二ツ割リニセルガ如クシテ、ウツブセニ葺クモノ。甌 疏瓦 筩瓦 之ニ對シテ、凹面ヲ上ニ向ケテ葺キ、又ハ、平タクシテ仰グモノヲ、牝瓦、又、メナマコガハラ、平瓦(仰瓦)ト云フ。俯仰相連ネテ葺ク。天治字鏡、十二世「筩瓦、男瓦」倭名抄、十六居宅具「牡瓦、乎加波良」

をかび (名) 岡邊　又、をかのべ。をかべ(岡邊)ニ同ジ。古事記、下(雄略)三十六「嬢女逢ニ道、即見ニ幸行ニ而逃ニ隱岡邊ニ」萬葉集、十七、十八「ホトトギス、鳴キテ過ギニシ、乎加備カラ、秋風吹キヌ、ヨシモアラナクニ」(古義ノ訓)

をかひき (名) 陸引　〔傍ニ居テ、手引スル義〕江戸時代ニ、捕吏ニ使ハルル賤シキ者。町同心ノ手先。テサキ。ヲカッピキ。メアカシ。耳目。德川禁令考、廿八、捕盜使、寶曆九卯年十一月廿七日「町人之中ニ存知候者、召連罷越候而ハ、岡引之筋ニ相聞ヘ可ニ申候得共、岡引ト申候ハ、平人ニ而モ、科人ニ而モ、惡者一人差定、岡引ト名附、手引爲ニ致、云云」

をかぶら (名) 陸步 陸邊步　文化ノ頃、江戸、深川仲町ノ遊里ニ、陸上ヨリ通ヒシコト。(コノ遊里ニ通フモノ、多クハ、川筋ノ舟ニ依リシニ對シテ、特ニ云フ) 春色梅兒譽美(天保、爲永春水)三「嗚呼廟鏡ノシノビゴマ、君 官以合ノホドヲハカリテ、ヨロシクをかぶらノ足を洗ヒ、云云」

をかべ (名) 岡邊　又、をかび。ヲカノホトリ。ヲカノベ。萬葉集、十四、二十五「ミヤシロノ、緖可敞ニ立テル、カホガ花、ナ咲キイデソネ、コメテシヌバム」同、十四四「ホトトギス、來鳴キトヨモス、岡部ナル、藤波ミレバ、君ハ來ジトヤ」

をかぼ (名) 陸穗　稻ノ、畠ニ植エ作ルモノ。粳米、秈米、共ニ作リ、亦、早稻、中手、奧手、アリ。形、水田ノモノト同ジケレドモ、味佳ナラズ。又、ヲカシネ。ハタケイネ。早稻　本朝食鑑、一、穀「稻、秈、陸者曰ニ岡穗、又稱ニ岡稻、俱不ニ宜、惟民貧可ニ足」

をがませ (名) 爲拜　かいちやう(開帳)ニ同ジ。(京、攝地方ノ方言) 武邊大秘錄、六、開帳附錄「拜萬日等之事「京都御役所計ニ而相濟、寺社奉行衆江不ニ相屆ニ分ハ、開帳ト稱シ候事不ニ相成、只爲ニ拜ト可ニ書事、云云」

をかみ (名) 傍見陸見岡見　又、をかめ。他ノ所作ヲ、傍ヨリ見テ居ルコト。ヨソメ。傍觀

をがみ (名) 拜　ヲガムコト。ヲロガムコト。禮拜スルコト。

をがみ (名) 齋　〔拜ノ義カ〕經ヲ誦マシメ、法要ヲ營ミ、齋會ヲ設クルコト。トキ(齋)。カタゾナヘ。サイ。齋會。敏達紀、十三年九月「屈ニ請三尼、大會設齋」孝德紀、白雉二年三月「請ニ十師等、設齋」

をがみ (名) 男神　〔めがみ(女神)ニ對ス〕ヲトコノ神。陽神。神代紀、上「陽神先唱曰、ヶ哉遇可美少女焉」

をがみ (名) 尾髮　馬ノ尾ト鬣ト。盛衰記、三十四、東國兵汰事「三戶立チノ馬、云云、太ク逞シキガ、尾髮アクマデタリタリ」

をがみうち (名) 拜擊　次條ノ語ニ同ジ。謠曲、鞍「向フ者ヲバ拜み打ち、又廻リアヘバ車切」

をがみぎり (名) 拜切　〔刀ヲ兩手ニ執リテ、頭上ニ構ヘ、拜ム狀ニ切リ下グルコトリ云フ〕眞向ニ刀ヲ振リカザシテ切ルコト。ヲガミウチ。太平記、二、唐崎濱合戰事「坂本樣ノ拜み切、八方ヲ拂テ火ヲ散ラスニ(坂本樣ハ、坂本ニテ比叡山ヲ拜ムガ如ク眞向ナルコト)

をがみたふ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 拜仆 拜倒　ヒタスラ懇懃ヲ乞ヒテ、我意ニ從ハシム。

をが・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 拜　〔をれがむノ略〕(一)〔古ク、をれがむ。をろがむ。身ヲ折リ屈メテ禮ス。ヌカヅク。ジギヲスル。今、佛禮ニ隨ヒテ、合掌スルヲ云フ。名義抄、拜、ヲカム」源、四、夕顏廿「南無當來ノ導師トゾをがむナル」神代紀、下廿七「海神迎拜延入、慇懃奉慰」(二)見るノ敬語。

をかん (名) 惡寒　醫師ノ語。寒氣立ツコト。ゾクゾク身體ニ寒サヲ感ズルコト。和爾雅、三、身體門「惡寒、ヲカン」「惡寒發熱」

をかめ (名) 傍見陸目岡目　をかみ(陸見)ニ同ジ。ワキメ。「岡目八目」

をかめはちもく (名) 岡目八目　碁ヲ圍ムニ、互ニ勝タムトアセリ、心ニ冷靜ヲ

失ヒテ違ヘド、岡目、傍目チ、傍觀者ハ、靜ニ考フルガ故ニ、當局者ヨリハ、八目程ク眼ニ見ユト云フ意。

をが・める（動）［拜］見ルニ見ル。相當ノモノナリ（女ノ顔ナドニ）

をかもち（名）［岡持］桶ノ平タクシテ、蓋、皮、手アルモノ。食物ノ盛リタル器物ナドヲ入レテ持運ブニ用キル。

をかやき（名）［岡燒］己レニ關係ナキニソネムコト。岡燒餅。法界悋氣

をかやきもち（名）［岡燒餅］前條ノ語ニ同ジ。浮世風呂、文化、三編、四編、上「己レノ好キ好キダカラ、をかやきもちハ、イラネエ事ダガ」

をかゆ（名）［陸湯］あかりゆ（上湯）ニ同ジ。浮世風呂、文化、三編、大意「…ト洗ヒ流メテ陸湯ノ出ヒレバ、云云」江戸繁昌記、六、混堂「陸湯、謂之陸湯こ」

をがら（名）［麻幹］あさがら（麻幹）ニ同ジ。曾丹集「夏萩ノ、麻ノをがらト、アダ人ノ、心カロサト、イヅレマサレリ」

をき（名）［招］をく（招）ノ名詞形。

をぎ（名）［荻］草ノ名。水邊、及、原野ニ生ズル禾本科ノ多年生草本。匍匐根ハ地中ニ蔓延シ、節每ニ萊葉ヲ抽キ、高サ五六尺ニ達ス。葉、花、共ニ茅ニ似テ長大ナリ。莖ハ蘆ニ似テ、節ノ間短ク、肉、厚ク、中ノ孔、狹シ。花ハ初、淡紫ニテ、後ニハ白シ。倭名抄、廿、草類「荻、乎木、字鏡、五十荻、乎支」萬葉集、十四「ニ妹ナロカ、ツカフ河津ノ、ササラ乎疑、アシトヒトコト、語リヨラシモ」

をぎ（名）［雄樹男木］（一）雄花ノミヲツクル樹ノ、雄ナル樹ナツ（草ニモ云フ）、雌樹ニ對シテ（二）工匠ノ語。木ノ食合ノ凸狀ヲナスモノノ稱。コレニ對シテ、凹狀ナルヲ女木ト云フ。

をぎえぶし（名）［荻江節］めりやすノ一派。安永ノ頃、荻江露友ヨリ始マル。めりやす（女里彌壽）ノ條ヲモ見ヨ。

をぎかぜ（名）［荻風］荻ヲ吹ク風。和泉式部日記「寢覺メネバ、聞カヌナルラン、荻風ハ、吹カザラメヤハ、秋ノ夜ナ夜ナ」

をきなは（名）［招繩］鷹ノ具。鷹ヲ招クルニ繫グ繩。下ノ出典ヲ見ヨ。鷹故實抄「喚蹕、ヲキナワ」注「經緒ト同物也、小鷹ニ經緒ト云、大鷹ニ喚蹕ト云也」和訓栞、をきなは「大鷹ニ云フ詞、小鷹ニハヘをトエフ、同物ニテ、招繩ノ義ナリ」

をぎのりう（名）［荻野流］古砲術ノ一派。荻野六兵衞安重（元祿三年歿）ヲ流祖トスルモノ。砲術系譜、十、第廿二條、砲術流儀「荻野流、元祖荻野六兵衞安重」

をぎはら（名）［荻原］荻ノ生ヒシゲレル原。源、三十九、夕霧「荻原ヤ、軒端ノ露ニ、ソボチツツ、八重立ツ霧ヲ、分ケゾ行クベキ」狹衣、三「中ナウキ身ニハ、秋モ知ラルル、荻原ヤ、末越ス風ノ、昔ナラネドモ」

をぎむし（名）［尺蠖］［招蟲ノ義、屈伸スルコト、招クガ如シ］（一）［しゃくとりむし（尺取蟲）ニ同ジ。倭名抄、十九、蟲名「蚇蠖、乎岐無之」（二）をぎむしねり（尺蠖練）ノ略。舞樂ノ足ブミノ練方ノ一。をぎむしノ歩ムニ譬ヘテ云フ語。江家次第、一、元日節會作法「…足踏…也」…七…尺蠖…ノ如クヤウニスル如ク、每歩足ヲアゲテオロスヲ、タトヘタル也」

をきゑ（名）［招餌］鷹ヲ招キ寄スル餌。拾遺集、七、物名、おしあゆ「ハシ鷹ノ、をきゑニセント、構ヘタル、オシアユガスナ、鼠トルベク」

を・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［招］マネキ寄ス。ヨビヨス。ヲビキヨス。マネク。萬葉集、十七、長歌「…」催馬樂、眞山「高山ニ、鷹ヲ鷹ヲ放チアゲ、乎久ヲ無ミ、アハレ、ヲクヲナミ、ハレ」萬葉集、十九「月立チシ、日ヨリ乎伎ツツ、打思ヒ…」古事記、上…云云」神代紀、下「…招…」

をぐき（名）［小岫］［をハ發語］くき（岫）ト云フニ同ジ。萬葉集、十四「…ノ、乎具佐可、立チ別レ、去ニシ宵ヨリ、夫ロニ逢ハナフヨ」

をぐし（名）［小櫛］［をハ接頭語］くし（櫛）ト云フニ同ジ。萬葉集、九「君ナクバ、ナゾ身ヨソハム、クシゲナル、黃楊ノ小櫛モ、トラムトモ思ハズ」（古義ノ訓）

をくそ（名）［苧屑］又、ほくそ。ヲノ屑。麻絲ノ屑。

をくそづきん（名）［苧屑頭巾］からむしづきん（枲頭巾）ノ條ヲ見ヨ。寶曆（寬文、山岡元鄰）二「賤山ガツノ、ムクツケキモ、心ナ亂ス、苧ノ屑頭巾、思ヒノ淵ニアコガレテ、云云」

をくぢら（名）［牡鯨］ヲスノ鯨。くぢら（鯨）ノ條ヲ見ヨ。鯨。書言字考、節用集、三、氣形門「鯨、ヲクジラ」

をぐつ（名）［麻鞋］又、まがい。麻ニテ作レル鞋。後世、軍用トス。倭名抄、十二、履襪類「麻鞋、乎久豆、以麻作之」本草和名、上…「…乎久都乃之岐」齊正奉式…時、用麻鞋」

をぐな（名）［童男小男］［曲頸ノ約略カト云フ］古ヘ、男女トモ、…ハ、…額ニ…髮ヲ…、項…ノ義ノ如シ…、…男ノ兒…二…代紀…代

をぐら・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）［小暗］少シクラシ。ウスグラシ。ホノグラシ。更級日記「ワケテトフ、心ノホドノ、見ユルカナ、木陰をぐらき、夏ノシゲリヲ」源、四十九、宿木「…山ノカタをぐらくテ、ナニノアヤメモ見エヌニ」

をぐらじる（名）［小倉汁粉］白餡ノ汁粉ノ中ニ、小豆、又ハ、…豆ヲ、粒ノママ入レタルモノ。

をぐら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［小暗］カキクラス。クラマス。源…只知ラヌ…ノミコソ、心をぐらすモノナレ」…記「をくらし給フニココロウキトテ、云云」

をぐらのしきし（名）［小倉色紙］黃門藤原定家、嘗テ山城國ノ小倉ノ山莊ニテ、百人、一首ヅツノ和歌ヲ、色紙ニ書キタルモノノ稱。世ニ珍玩ス。

をぐるま（名）［小車］（一）［をハ接頭語］くるま（車）ト云フニ同ジ。（歌詞）風雅集、四、夏「山モトヤ、木ノ下メグル、小車ノ、靡ウゴカヌ…ゾスズシキ」…六…のをくるま…ザス、ナキノ…風ノ、カシコサニ、…ヒカリ…ミチヌル、小車ノ跡」（二）菊科ノ多年生草本ノ名。原野、園圃ノ間ニ自生シ、莖、高サ一二尺、莖、披針形ニテ細長ク、微毛アリ、互生ス。夏、莖ノ梢ニ、枝ヲ分チテ、單瓣ノ花ヲ開ク、大キサ錢ノ如ク、心、黃ナリ、形、菊花ニ似テ、瓣、甚ダ細

ソン 旋覆花 旋覆花 和爾雅、七、草木門「旋覆花、ヲクルマ、一云沸草、滴滴金」云云 重修本草綱目啓蒙、十、隰草類「旋覆花、ヲグルマ、ノグルマ、キツネノタハコ、云云」

をぐろ（名）【小畔】〔をハ發語〕くろ（畔）ト云フニ同ジ。あぜ（畔）ノ條ヲ見ヨ。散木集、秋「山里ハ、ハレセヌ霧ノ、イブセサニ、小田ノをぐろニ、鶉鳴クナリ」「をぐろノ事」

をけ（名）【桶】〔次條ノ語ヲ轉用シテ名ヲ存スト云フ〕木製ノ圓キ器。杉、又ハ、檜ノ細長キ板ヲ竝ベメグラシテ側トシ、板ノ底アリ、箍ニテ締ム。柄アルモアリ。古クハ板ヲ曲ゲテ作リ、曲物ノ如シ。多クハ鉉ヲツケテ提ゲント。幾内ニテハ、タゴ水ヲ入レテ運ブ具トス。倭名抄、十六、木器類「桶、乎計」今昔物語、廿六、第十七語「白ク新キ桶ニ水ヲ入テ持來テ、此答共ニ入ル」「水をけ」「火をけ」「腰をけ」「味噌桶」「手をけ」

をけ（名）【麻笥】績麻ヲ入ルル器。薄板ヲ曲ゲテ作ル。今ノをおけ。靈異記、下、第十九縁「調麻笥、乎介」萬葉集、十三、長歌「處女等ガ、麻笥ニ垂レタル、績麻ナス」同、十四、廿三「麻苧等ヲ、遠家ニフスサニ、績マズトモ、アスキセザメヤ、イザセヲドコニ」四時祭式、上「麻笥、一合」

をけがは（名）【桶側】桶ノ側ニ用ヰル板。

をけがはどう（名）【桶側胴】具足ノ一種。胴ノ製、打延ベニシタル金胴ニシテ、其形、桶側ニ似、左ノ脇ハ、蝶番ニテ屈伸シ、右ノ脇下ニテ十分ニ合フヤウニシタルモノ。袖モナク、草摺モナシ。コレニ草摺ト袖トヲ附ケタルモノヲ、桶側胴の鎧ト云フ。幸若舞曲、高館「クロカネヲ厚サ五分ニキタハセタルヲ、桶皮胴ト名ヅケテ、云云」中古甲冑製作辨、下、身甲之事「桶け輪胴ハ、天文、永祿ノ頃ヨリ、二テ造初メシト見ユ」

をけがんな（名）【桶鉋】つきかんな（突鉋）ニ同ジ。かんな（鉋）ノ條ヲ見ヨ。桶刀

をけじり（名）【桶尻】和船ニテ、艫舳（艫）ノ底板）ノ端ニテ、戸立ノ附ク所

をけつ（名）【惡血】病ナドニヨリテ、變質シタル血液。ワルチ。クロチ。アクチ。書言字考節用集、五、肢體門「惡血、ヲケツ」

をけつこう（名）【烏骨鷄】鷄ノ一種。をこけい（烏骨鷄）ノ訛。

をけび（名）【桶火】火桶ノ火。和泉式部續集、上「火桶ニヒトリヰテ、向ヒヰテ、ミルニモカナシ、ケブリニシ、人ヲ桶火ノ、灰ニヨソヘテ」

をけぶせ（名）【桶伏】昔、江戸、吉原ニテ、遊興費ヲ拂ハザル遊客ニ行ヒシ私刑。大ナル桶ニ、一ツノ窓穴ヲアケ、之ヲ其客ニカブセ、路傍ニ据ヱテ辱カシメ、揚錢ノ支拂ヲ督ハシメタルモノ。吾嬬明和ノ頃マデ行ハレタリト云フ。吾嬬物語（寛永）「ヤカレッツ、金ノアルホド、取ラレンホ、後ハカナラズ、桶ぶせト知レ」浮世物語（明暦）一「揚錢ニツマリテ、桶ぶせトナリ、云云」江戸土産咄（貞享）「終ニハ吉原ニテ桶ぶせニナリ、ヤウヤウ友達ノ蔭ニテ逃レカヘリ、云云」明和の川柳「をけぶせト、入替ニスル、座敷牢」

をけもの（名）【牡】ヲスノケモノ。倭名抄、十八、毛群類「牡、乎介毛乃、畜父也」

をけや（名）【桶屋】桶、井戸側、ナドノ類ヲ作リ、又、修繕スル工人。又、ソレヲ賣ル家。又ハ、人。ヲケユヒ。桶匠 世間學者氣質（明和）一「桶屋ハ領分ノ山カラ槇ヲ取寄セ、藪カラハ青竹ヲ切出サセ、桶屋ヲ手間デ呼付ケ、一度ニ三十モ五十モ作ラセ、云云」

をけゆひ（名）【桶結】桶ヲ結ヒクル者。人倫訓蒙圖彙、六、桶結師「桶結、輪ガヘニフレメグル言葉、所所ニテカハリアリ」

をけら（名）【朮】又、うけら。藥草ノ名。さうぢゅつ（蒼朮）ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、廿、草類「朮、乎介良」本草和名、上、十六「朮、白朮、乎介良」天武紀、下、十四年十月「白朮」萬葉集、十四、八「戀シケバ、袖モ振ラムヲ、武藏野ノ、宇氣良カ花ノ、色ニ出ナユメ」（代匠記ノ訓）

をけらのもちひ（名）【朮餅】追儺ノ夜ニ供フル餅。四季物語、十二月「追儺ノ夜ハ、朮の餅、鶫ノ鳥ナド燒キ奉リ、御門ノ御マハリニ奉レバ、是モ物ノ怪、エヤミ、ヤラヒヌベキ本文侍ルトナン」

をこ（名）【痴】〔可笑ハ、此語ノ轉ト云フ〕アハウラシキコト。バカゲタルコト。オロカ。バカ。タハケ。古事記、中（應神）三十七「我ガ心シ、最痴許ニシテ、今ゾ悔ヤシキ」源、七、紅葉賀、廿七「冠ナド打チユガメテ走ランウシロデ、思フニ、イトをこナルベシ」「をこノ者」をこガマシ、をこメク」をこガル」尾籠ト當字シテ、尾籠ト音讀ニモセリ。又、支那、後漢ノ頃ノ南蠻ニ、烏滸ノ國アリ、其風俗ニ、理非ヲ顚倒シテ、笑フベキ事多シ、其語、暗合シテ、後ニハ混淆セリ。三代實錄、三十八、元慶四年七月廿九日「内藏寮撰、長尾末漏、伎善ニ散樂、令ニ人大咲、所ニ謂烏滸人近之矣」本朝文粹、三、村上御製、辨ニ散樂「嶋滸來朝、自爲ニ解頤之觀こ」

をこがまし・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）【痴】（一）〔バカナル狀ナリ〕。アハウラシ。バカラシ。タハケタリ。源、三、空蟬七「イカニゾ、をこがましき事モコソト、オボスニ、云云」同、三十八、夕霧七十「イヨイヨウトキ御ケシキノマサルヲ、をこがましき御心カナト、カツハツラキモノカラアハレナリ」徒然草、第百七十五段「酒、云云、スズロニ[illegible]セツレハ、[illegible]ハ、[illegible]人モ、心ニ任[illegible]人トナリテ、をこがましく云云」（二）サカナリ、デカシタテナリ[illegible]

をこがる・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）痴痴ニ思ヒナス。オロカトナス。宇治拾遺、六、第十二條「此ノ聞ク男ドモ、をこがり嘲リテ、云云」

をごく（動）【動】〔おおく（動）ノ轉〕うおく（動）ニ同ジ。重之集「笹蟹ノ、蜘ノ旗手ノ、をごく哉、風ヲ命ニ、思フナルベシ」

をごけ（名）【麻小笥】古ク、麻笥、績ミタル麻ヲ盛ル器、檜ノ片板ノ曲物ナリ、績桶。字類抄「麻笥、ヲコケ」

をごころ（名）【雄心】又、ゆうしん。ヲシキココロ。タケダケシキ心。男ミキ心。萬葉集、十二、四「アメツチニ、少シイタラヌ、マスラヲト、思ヒシ我レヤ、雄心モナキ」

をこじ（名）〔貌ノ痴ナル義〕魚ノ名。今、をこぜト云フ、次條ヲ見ヨ。倭名抄、十九、魚類「鰧、乎古之」字鏡、七十「魟、似レ鱉、乎己自」

をこし（名）【峯越】峯ヲ越スコト。夫木集、四、花「生駒山、アタリノ雲ト、見ルマデニ、をこしノ櫻、北咲キニケリ」

をこぜ（名）【鰧】〔をこじノ轉〕古名、をこじ。硬鰭類ノ魚ノ名。形、甚ダ醜シ。身、河豚ニ似テ長サ三寸許リ、全身、鱗無ク、灰色ニシテ赤文アリ、面、虎猫ニ似テ、稜アリ、背ニ、長キ刺アリテ尾ニ連ル。尾、長クシテ赤シ、腮ノ後ノ鰭、長クシテ、亦、赤シ。海藻中ニ棲ム。肉ハ美ナリトス。虎魚

をこそづきん（名）【苧屑頭巾】からむしづきん（枲頭巾）ニ同ジ。

をゐた・る [illegible]「[illegible]」 [illegible]

アヒ[illegible]テ[illegible]ウサウヤ[illegible]

をこっけい (名) 「[illegible]」 [illegible] 又、うこっけい。鷄ノ一種。支那ノ原産ニシテ、[illegible] 紫黒ニシテ、高ウテズ、[illegible]、脚、共ニ黒ク、羽、細カニシテ白ク、尨犬ノ毛ノ如ク、又、雜色ナルモアリ、趾ノ數多ノ、八指ナルアリ、[illegible]、[illegible]

[illegible]

イロアリ、トサカモ赤シ」

をゐつり (名) [illegible] ヲコツルモノ。アヤツリ。操縦。 字類抄「[illegible]、ヲコツリ」

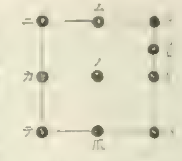
をゐつ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [illegible] ワカツル。アヤツル。操縦ス。 字類抄「[illegible]、ヲコツル」 名義抄「[illegible]、ワカツル、ヲコツリ」

をゐづ・る・ル・レ・フ・リ・レ(他動、四) 誘 〔招〕 釣ルノ轉ツト云フ、機巧ト通ズルカ」 欺キイザナフ。ダマンテソビキダス。ソソノカス。ワカヅル。又、利ナドヲ與ヘテ誘フ。 名義抄「誘、ヲコツル、コシラフ、サソフ、アザムク、カドフ」 神武即位前紀「盛設二宴饗一、誘[illegible] [illegible]、[illegible]、[illegible] [illegible] サスガニ、此文ノ、ケシキナク、をゐづり取ランノ心ニテ、アザムキ申シ給ヘバ、云云」

をゐと (名) 〔讒〕 シコヅルコト。ザンゲンスルコト。 名義抄「讒、ヲコト、シコツ」

をゐとてん (名) 乎古止點 昔、漢文ヲ訓讀スルトキ、今ノ如ク送假名ヲ振

[illegible] コトナク、其字ノ[illegible] [illegible] 點ヲ[illegible]ト[illegible] 上、[illegible]ノ方[illegible] ヲ字ニ象リ、譬ヘバ、「書」ノ字トシテ、其右ノ上ニ點アレバ、「書く



[illegible]、其次ギノ點アレバ、「書くをゐと」ト讀ム、餘ハコレニ倣ヘ。其初ノ[illegible] 取リテ「をゐと」[illegible]、名ノク、今[illegible]、[illegible]、返リ[illegible]、遊存[illegible]、ナド云フハ、此遺ナリ。又、てにをはト云フ語モ、此圖隅ノ假名ヲ、左下ヨリ、左肩、右肩、下ヘト、左ヨリ右ニメグリテ、讀ミタリ。[illegible] 其てにをは[illegible]、文字ノ四[illegible]上下ニ、[illegible]、ヲ[illegible] [illegible] 龍[illegible] 讀リシコトナレバ、云云、然ルニ片假字ノ出來ニケルヨリ、人人便利ニ[illegible]、貴古リ點ハ[illegible]、[illegible]行ルル樣ニハ成ケン」

をゐ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ(自動、上二) 次條ノ語ニ同ジ。 十訓抄、上、第一、第四十四條「[illegible] 大夫[illegible]、イフモノアリケリ、云云、世ノツネナラズ、をゐびタル者ナリケリ」

をゐめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 痴ナル狀ニ見ユ。又、戯ル。 戯 [illegible] 源、四十六、總角「[illegible] 昔物語ナドニ、殊更ニ、をゐめきテ作リ出テタル物ノ、譬ヘニコソハナリヌベカメレ」

をゐめ・く (動) 〔蠢動〕 〔おおめく(蠢動)ノ轉〕 おゐめく(蠢動)ノ條ヲ見ヨ。

をこゑ (名) 〔鳴呼繪 漫畫〕 可笑シキ狀ヲカキタル繪。オドケヱ。ザレヱ。トバヱ。マングヮ。戯畫。 今昔物語、廿八、第三十六語「比叡ノ山ノ無動寺ニ[illegible]阿闍梨、云云、只世ニ並ビナキ鳴呼繪ノ上手ト云フ名ヲ立テテ、云云」

をゐをゐ・し・[illegible] [illegible] カニ[illegible] [illegible] 千騎ヲ從ヘントテ、十七騎ノ勢ヲ具シテ、一日路サ[illegible]

をさ (名) 〔長〕 「長兒貌ノ約ト云フ」 (一)一族ノ人ノ上ニ立チテ、ソレヲ統ブル人。カシラ。チャウ。首。 名義抄「長、ヲサ」 土佐日記、正月十八日「コノ[illegible]、少シヨロシト聞キテ、船ノ長シケル翁、月日ノ[illegible] [illegible]メル、云云」 千五百番歌合[illegible] [illegible]、さきケル野ベニ、つ[illegible]、よ[illegible]、一[illegible] 立チヌナリ」 (二) 其中ニテ、第一ニ勝レタルモノ。「鯛ハ魚ノをさ」

をさ (名) 筬 [illegible] ヲ[illegible]ム意ナリト」 (一)[illegible]ノ具、細ソキ薄キ竹片ヲ、密ニ列ネテ作リ、形、櫛ノ如キモノ。コレヲ長方形ノ框ニ入レ、經絲ヲ其目ニ通シテ[illegible]へ、緯絲ヲ通ス度ニ、コレヲ壓シテ、布帛ノ織目ヲ密ナラシム。 倭名抄、十四、[illegible]具「筬、乎佐」字類抄「筬、ヲサ、織具也」 [illegible]、三、[illegible]「筬ハ、[illegible]尺ニテ一尺三寸ノ筬ヲ、ル樣ニ仕立ヘシ、[illegible]ヲ八寸幅ノ筬ヲ入テ用ル時ハ、[illegible]ノ[illegible]ヘ[illegible]ルルナリ」 古今集、十五、戀、五「須磨ノアマノ、鹽燒衣、をさヲ荒ミ、マドホニアレヤ、君ガ來マサヌ」 (二)せびくぢらノ、齒ノ如キモノノ稱。形、相似タル故ニ云フ。(せびくぢら、及、くぢらノ條、見合ハスベシ)

ヲサ (名) 〔譯語通事〕 「[illegible]語ニテ、「語司」ノ音讀」 他國ノ語ヲ國語ニ通ハスルコト。又、ソノ人。通事。通辯。通譯。 名義抄「譯、ヲサ、ヲサム、サヘヅル」 靈異記、上、第三[illegible]、[illegible]、乎佐」 古事記、序[illegible] 貢、府無二空月一」 崇神紀、十二年三月「異俗重レ譯來」

[illegible]

をさおい [illegible]

をさない(幼兒)ニ同ジ。 義經記、一、正門坊[illegible] オシコメラレテ、今マデ頭ヲサシ出シ[illegible] 螢草(明應)「おさあい(あひ)ヤ、イト遊ビツツ、笑ファ[illegible]

をさあい (形) 幼 「[illegible]」 [illegible] をさなし(幼)ニ同シ。 [illegible] い若マデモト、云ヒモアヘズ」 秋夜長物語「十六七バカリニ見エサセ給フをさあい人の御事ヤ」

をさかき [illegible] [illegible]人。 人倫訓蒙圖彙、六、職部「[illegible]、竹ヲモッテ、[illegible] [illegible]ハレリ」

をさぎ (名) [illegible] うさぎ(兎)ニ同[illegible] [illegible]ハリ、ヲサヲサモ、[illegible]ヘ[illegible]故ニ、[illegible]ニコロハエ[illegible]

をさきぎつね (名) 尾裂狐 俗間ニ、言ヒ傳フル怪物ノ一種。其形狀、狐ニ似テ、色白ク、大キサ二十日鼠程ナリト。尾ノ頭二ツニ裂ケタルノ因テ、をさき狐ト云フ。或ハ大[illegible]ノ村名ヨリ出デタルトモ云フ。別ニ白狐、[illegible]狐、ナドノ名モアリ。動物學上ニテハ、いたち(鼬)ノ一種ナリトモ云フ。コレヲ飼ヒ[illegible] ムレバ、能ク飼主ノ命ニ從ヒ、種種ナル神變不可思議ノ作用ヲナスト云ヒ、此モノヲ遣ノノ、をさきづかひト云フ。きつねつかひ(狐遣)ノ條ヲモ見ヨ。

をざさ (名) 〔小笹〕 〔をハ接頭語〕 ささ(笹)ト云フニ同ジ。 狹衣、二、下十八「ソヨ更ニ、

嶺ムニモアラヌ、小笹サヘ、末葉ノ霜ノ、消エモハテヌヨ」新古今集、三、夏「小笹フク、シヅノマロヤノ、カリノ戸ノ、明方ニナク、時鳥カナ」

をささ-はら (名) 【小笹原】 小笹ノ生ヒシゲレル原。 詞花集、一、春「モエイヅル、草葉ノミカハ、小笹原、駒ノケシキモ、春メキニケリ」

をさし (名) ワヅラハシキコト。ウルサキコト。 名義抄「喧噪、ヲサシ、サクサクシ」

をさ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 長 (一)オトナビテアリ。 (二)(立チマサリテアリ。 宇津保物語、藤原君七「ソレヲ知ラズ顏ニテ交ラヒ給フ御心ノ賢ク、政をさしくテ」

をざし (名) 【鮍】〔魚刺ノ義〕 魚ヲ竹串ニ刺シ貫キテ乾シタルモノ。今ノめざしノ類。又、ヨヂヲザシ。 倭名抄、十六ノ七鳥魚類「鮍、乎佐之、一云、與知乎佐之、以竹貫魚」 名義抄「鮍、ヲザシ、ヒチヲザシ」 字鏡集「鮍、ヨチヲザシ」 主計寮式「與治(治ノ誤)魚刺」

をさ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 【食】 食すノ敬語。食ヒ給フ。メス。キコシメス。 萬葉集、四廿五「古ヘノ、人ノ令食有、吉備ノ酒、病メバスベナシ、貫簀賜ラム」(略解ノ訓)

をざ・す・ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) 【建】〔尾指すノ義〕 北斗星ノ斗柄、指シ向フ。斗柄、十二箇月ニ、十二支ノ方角ニ移リテ指ス。毎月、初昏ニ指ス所ヲ、其月ノ支トス、其寅ノ方ヲ指ス時ヲ、建寅トシ、コレヲ陰暦正月トス。十二月ハ丑、十一月ハ子ナリ。(北斗、及、破軍星ノ條ヲ見ヨ) 鶡冠子「斗柄指東、而天下知春」 和漢三才圖會、一、天部「北斗、云云、劒鋒時時替、以可知時刻及月建、以毎昏時、劒鋒所指方、知月建、節氣令所旺也、如正月黄昏則指寅、二月昏則指卯(正月爲寅月、二月爲卯月)、謂之月建」

をさな-あそび (名) 【幼遊】 ヲサナ子ノ遊ビ。兒戯。 雙生隅田川(享保、近松作)四「幼遊びノブリブリヤ、毬杖、手毬、突羽根ノ、云云」

をさ-ない (名) 【幼兒】 ヲサナキコト。ヲサナゴ。チゴ。又、ソノモノ。をさあい。ヲサナゴ。チゴ。稚兒。稚子。 狂言記、富士松「カナ法師、云云、扨モ扨モをさないハ、何ヲ仰シャレウモ存ゼヌ事デゴザル」 吾吟我集(寛政)七「手ガ入レバ、足モ入リケリ、をさないノ、親ノユガケヲ、タビニ直シテ」

をさな-おひ (名) 【幼生】 ヲサナキ時ノオヒタチ。ちごおひ(兒生)ニ同ジ。 住吉物語、中「納言ノ宮腹ノ姫君コソ、をさなおひメデタク、二葉ノ小萩ヲ見ル心地セシカ」

をさな-がほ (名) 【幼顏】 ヲサナキ時ノ顏ツキ。チゴガホ。稚顏。

をさな-げ (副) 【幼氣】 ヲサナキサマ。イトケナキサマ。 枕草子、八、第七十四段「うつくしきもの「八ツ九ツ十バカリナルヲノコノ、聲をさなげニテ文ヨミタル、イトウツクシ」

をさな-ご (名) 【幼子】 ヲサナキ子。チゴ。子供。稚兒。 新六帖、四「をさなごノ、ハルノハジメノ、イタダ(マイ)キニ、司位ハ、ソナヘアゲツツ」

をさな-ごこち (名) 【幼心地】 次條ノ語ニ同ジ。 源、二、帚木四十「思ヒノ外ナレド、をさなごこちニ深クシモタドラズ、云云」

をさな-ごころ (名) 【幼心】 ヲサナキ心。コドモゴコロ。ヲサナゴコチ。稚心。 源、十七、繪合四「ソコハカトナク、アハレト見奉リ給ヒシ御をさな心モ、タダ今ノコトトオボユルニ」

をさ-な・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) (一)長長シカラズ。未熟ナリ。 物ヲ取統ブル才ナシ。オロカナリ。 【不賢】【不肖】 字類抄「不肖、ヲサナシ」 神功攝政前紀「吾婦女之加以不肖」 仁徳即位前紀「我雖不賢、豈棄先帝之命、輒從弟王之願乎」 宇津保物語、國讓、中廿一「ハカナキ事ヲ、心一ツニ思ヒテ、ハカナクナル時ハ、イトをさなしヤ、ヨウ心シ給ヘ」 景行紀、四十年六月「天皇不肖、且國不平」 (二)齡甚ダ長ケズ。イワケナシ。イトケナシ。年ユカズ。幼少ナリ。 【幼】 名義抄「幼、ヲサナシ」「稚、ヲサナシ」 宇津保物語、俊蔭四「イカデ、コレ養ハント思フ心ツキテ思ヘド、サル幼き程ナレバ、ナデウ事ヲモエセズ」

をさな-すがた (名) 【幼姿】 ヲサナキ時ノ姿。チゴスガタ。ワラハスガタ。

をさな-そだち (名) 【幼育】 次條ノ語ニ同ジ。ヲサナオヒ。チゴソダチ。

をさな-だち (名) 【幼立】 ちごおひ(兒生)ニ同ジ。 平治物語、三、頼朝遠流に宥めらるる事「家盛ガをさなだちニ少シモ違ハズト聞ケバ」

をさな-な (名) 【幼名】 ヲサナキ時、假ニ稱スル名。元服シテ實名ヲ定ム。ワラハナ。エウミャウ。童名。小字。幼字。 書言字考節用集、四、人倫門「小字、ヲサナナ」 四季草、秋草、上、姓名「古ハ小童ニをさな名アリ、ワラハ名トモ云ヒ、元服已前ノ名也、何丸、何千代丸ナドト云フ名也、是貴賤トモニ同ジ、元服ノ日、何太郎、何次郎ト名ノリテ、實名ヲ付クルナリ」 伊賀越道中雙六(天明、近松半二等合作)六「此ノ書付ハ、鎌倉八幡宮ノ氏地ノ生マレ、をさな名ハ平三郎」

をさな-なじみ (名) 【幼馴染】 幼時ヨリナジムコト。又、ソノナジメル人。 小町踊、ちらし七夕「カハラヌヤ、をさなじみノ、女夫星」

をさな・びる・ビル・ビレ・ビ・ビ・ビヨ(自動、上二) 【幼稚】 次條ノ語ニ同ジ。 住吉物語「御カヘリ、云云、イソギ開キテ見給ヘバ、手ナドをさなびれテ見エケレド、云云」

をさな・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ(自動、上二) 【幼】 ヲサナキ狀ナリ。ヲサナキ様ニ見ユ。 狹衣、二、上九「心ウカリケリナド怨ミ給ヘル色、をさなびテ美シゲニ見エ給フ」

をさな-め (名) 【幼目】【稚目】 ヲサナキ時ニ見タルコト。 盛衰記、三十、實盛被討事「但其ハ、一年少目ニ見シカバ、白髮ノ糟尾ニ生タリシカバ、今ハ殊外ニ白髮ニ成ヌラン」

をさ-ふね (名) 【長船】 (一)備前國、邑久郡ノ長船村(今ノ同郡行幸村)ニ住スル鍛工ノ打テル刀劍ノ稱。一條天皇ノ頃、正恒ト云フヲ祖トス。世世、名工多クシテ、其名高シ。 南海治亂記、三、老父夜話雜記「備中ノ國松山ノ城主石川左衛門尉モ、刀ヲ作ルコトヲ好ミ、云云、備前ノ長船ヨリ良工ノ鍛冶ヲ召シテ、鎚ヲ打セテ自ラ刀ヲ造、後後、上工ニ成テ、其作、世ニ遁レリ、サテ又備前長船ハ、數十人皆相定ト銘ス、天正ノ末ニ洪水シ、夜中ニ大河ノ堤没シテ、長船町男女數十人威ク没ス、長船鍛冶、於是絶ス」 (二)女ノ髮風。丸髷ノ左右ニ鬢ヲ大キク出シタルモノ。モト二十歳前後ノ婦人結ヒタルモノ。(嬉遊笑覽、一、下)

をさまり (名) 【治】 (一)ヲサマルコト。齊ヒシヅマルコト。「家ノをさまり」亂ノをさまり」 (二)カタヅキ。マトマリ。ヲハリ。終結。「身ノをさまり」議論ノをさまり」をさまりガツク」 (三)入ルルコト。收納。「年貢ノをさまり」地代ノをさまり」

をさま・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 【治】 (一)治メテ成ル。齊ヒシヅマル。 大學「家齊而后國治」「家をさまる」亂をさまる」 (二)正シクナル。【修】 大學「心正而后身修」「心をさまる」

をさま・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 【收】〔前條ノ語意ノ轉〕 (一)集マリ入ル。 (二)全ク入ル。【納】 「年貢をさまる」刀、鞘ニをさまる」

(三)終ヘル。果ツ。カタヅク。落着ス。終、[illegible]ナクナル。源、二、帚木「三月ハアリアケニテ、光モをさまれるものから[illegible]フヨリ、イト忍ビガタケレバ、アマリニをさまらズ、亂レ[illegible]コソ、ハシタナル」

をさ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 治 〔長ヲ活用ス〕(一)〔其所ニ居ヱ安ンズ。トトノヘ鎭ム。名義抄「治、ヲサム、御、ヲサム」[illegible]紀[illegible]共[illegible]天下[illegible]世[illegible]をさむ[illegible](二)善ク靜ス。(三)正シクシテ守ル。修 中庸「[illegible]十九章」治國其如示諸掌乎」「身ヲをさむ、心ヲをさむ」(四)ツクロフ。ナホス。修復ス。修理[illegible]「家ヲをさむ」「堤ヲをさむ」(五)善ク學ビ習フ。攻學 周禮、春官、大宗伯「治其大禮」「[illegible]術ヲをさむ」(六)〔病ヲ治ス。治療ス。[illegible]

をさ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 斎 (一)宮ヲ造リテ、齋キ祭ル。古事記、上「其神者、能治我前者、吾能共與相作成」(二)養育ス。ヤシナフ。續紀、四、慶雲四年七月、宣命「人祖乃意能賀弱兒乎、養治事乃如久、治賜比、慈賜來業止[illegible]」[illegible](三)刑罰[illegible]處分ス。(四)スブ。統治ス。三國志、魏志、武帝紀、注「孫盛異同雜語曰、治世之能臣」

をさ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 收 〔前條ノ語意ノ轉〕(一)我ガ方ヘ取リ入ル。[illegible](二)終ノ[illegible]シマフ。カタヅクル。終 名義抄「收、ヲサム」[illegible]差シ入レテオク。藏「家財ヲ倉ニをさむ」「刀ヲ鞘ニをさむ」[illegible](六)トラフ。捕縛ス。[illegible]宜無罪、女反收之」(七)舞ニテ、手ヲ我ガ身ノ方ヘ曲ゲ縮ム。ヒク。(差すニ對ス)[illegible](八)心フオチツカス。[illegible]

をさむし (名) 〔[illegible]〕〔其形、似ル故ニ云フ〕やすで(馬陸)ニ同ジ。エンザムシ。[illegible]

をさむる-つかさ (名) 治部省 おさむ[ぶ]のつかさ(治部省)ニ同ジ。倭名抄、五、官名「治部省、乎佐牟留都加佐」

をさめ (名) 納 ヲサムルコト。終フルコト。ヲハリ。結局 狂言記、船渡聟「モーツ参リマセヌカ、モハヤ下サレマスマイ、其ナラバ納めニ致シマセウ」「酒宴ノをさめ」「官ノをさめ」

をさめ (名) 長女 古ヘ、下司ノ老女ノ稱ト云フ。タウメ。刀自、女宮 倭名抄、二[illegible]

をさめ-がほ (名) 納顔 トリスマシタル顔。アハテヌ樣子。[illegible]

をさめ-つくる-つかさ (名) 修理職 をさめりしき(修理職)ニ同ジ。倭名抄、五、官名「修理職、乎佐女豆久流豆加佐」

をさめ-どの (名) 納殿 金銀、衣服、調度、何ニヨラズ納メ置ク所。又、古ヘ、宮中ニテハ、宜陽殿ノ中ニアリテ、累代物ヲ納メオク所。[illegible]

をさめ-ふだ (名) 納札 又、なふさつ。其條、及、せんじやまゐり(千社参)ノ條ヲ見ヨ。

をさめ-もの (名) 納物 (一)稅。租稅。[illegible](二)神社、佛閣ニ奉納スル品物。

をさ-ゆづる (名) 備弦 〔藏め弓弦ノ義ト云フ〕うさゆづる(儲弦)ノ條ヲ見ヨ。神功皇后紀[illegible]

をさを (名) 小棹 〔をハ接頭語〕 さを(竿)ノ條ノ(一)ニ同ジ。萬葉集、十四、長歌「サニヌリノ、小船モガモ、玉マキノ、小棹モガモ、朝ナギニ、イカキ渡リ、ユフシホニ、イコギ渡リ」

をさ-をさ (副) 物事ヲ、指シ詰メテ慥ニハ言ハズ、大方ニ定メテ云フ語ト云フ。オホカタ。大抵。アマリ。[illegible]ナドハ、「あまり立チ後レモセズ、あまり人モ無イ」ト解スベシト云フ。此語、下、必ズ打消ス語ニ接ス。[illegible]

をさをさ・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 幹了 [illegible]リ。又、立チ優リタリ。カヒガヒシ。[illegible]

をし (名) 食 〔食すノ條ヲ見ヨ〕 食スコト。飮食スルコト。[illegible]

をし (名) 鴛鴦 〔雌雄、相愛しノ義ト云フ〕鴛鴦ノ條、見合ハスベシ〕水鳥、秋來リ、春去ル。[illegible]

を・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 〔小ノ活用ニテ、小サキヲ愛憐スト思フ義ト云

フ」(一)愛ヅベシ。イックシ。ヲカシ。古今集、四、秋、上「カクバカリ、をしト思フ夜ヲ、イタヅラニ、寐テアカスラン、人サヘゾ憂キ」萬葉集、一十長歌「香具山ハ、畝火(山)ヲ男志ト、耳梨(山)ト、相爭ヒキ」(畝火ハ女山、香具山ト耳梨山トハ男山、三山ヲ擬人視シタル語、此事、風土記ニ見ユ。)同、十七九「梅ノ花、イツハヲラジト、イトハネド、咲キノ盛リハ、惜しきモノナリ」後拾遺集、一、春、上「ヨソナガラ、をしき櫻ノ、匂ヒカナ、誰レ吾ガ宿ノ、花ト見ルラン」(二)愛デテ思ヒ捨テ難シ。失ハムヲ恐ル。可惜 雄略紀、十三年三月「ヤマノベノ、コジマコ故ニ、人ネラフ、馬ノ八匹ハ、喭思ケクモナシ」萬葉集、十九四十七「大宮ノ、内ニモ外ニモ、メヅラシク、降レル大雪、ナ踏ミソネ乎之」

をし (感) 偖躍ノ聲。おしノ條ヲ見ヨ。

をしう (名) [汙臭汚臭] ムサクロシク、イヤナルニホヒ。惡臭。

をしか (名) [麞] [小鹿ノ義カ、麋ニ對スル] のろ(麞)、及、くしか(麢)ノ條ヲ見ヨ。 本草和名、下八「麞、乎之加」

をしか (名) [小牡鹿] [をハ發語] 牡鹿ト云フニ同ジ。ヲスノ鹿。サヲシカ。後ニハ、牝牡ニ通ジテ云フ。 萬葉集、四十四「夏野行ク、小牡鹿ノ角ノ、束ノ間モ、妹ガ心ヲ、忘レテ思ヘヤ」同、八四十二「此岡ニ、小牡鹿踏ミオコシ、ウカネラヒ、カモカクスラク、君故ニコソ」同、十四十「山邊ニハ、サツヲノネラヒ、恐ケト、小牡鹿鳴クナリ、妻ノ眼ヲ欲リ」(古義ノ訓)

をしかのその (名) [牡鹿苑] ろくやをん(鹿野苑)ノ譯語。ソノ條ヲ見ヨ。 心中二枚繪草紙(寶永、近松作)上「笛ニ誘ハレ妻戀フル、牡鹿のそのノ法ノ道キ」

をしかは (名) [韋] [食皮ノ義ニテ、收ムル意ニモアラムカ] もみかは(揉革)ニ同ジ。なめしがは(鞣革)ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、十五 調度具「韋、乎之加波、柔皮也」天智紀、元年正月「韋 一千張」

をしかも (名) [鴛鴦鴨] をし(鴛鴦)ニ同ジ。 拾遺集、雜、上「をし鴨ノ、色ニウツロフ、池水ニ、ソレトモ見エヌ、萩ノ萎葉」

をしき (名) [折敷] [古ヘ、柏、又ハ、椎ナドノ葉ヲ折リ敷キテ、食物ヲ盛リタレバ云フ] 飯器ヲ載スル具、片木作リノ角盆。又、白木造リノ隅切角ノ盆。脚アルヲ、足打のをしきト云フ。 [食盤] 萬葉集、十九四十「スメロギノ、遠御代御代ハ、射布折、酒飲ムト云フゾ、此朴」 宇津保物語、藤原君、四十「宮内ノ君ニ、をしきシテ物マヰレリ」 拾遺集、七、物名、くちば色のをしき「足引ノ、山ノ木ノ葉ノ、オチクチバ、色ノをしきゾ、アハレナリケル」

をしきうを (名) [折敷魚] 硬骨類ノ魚ノ一種。近江ノ湖中ニ産ズ。身平タク薄ク、鱗細カク、大キサ三四寸ノモノ。魴 重修本草綱目啓蒙、廿九、魚類「魴魚、ヲシキウヲ、ヲシキボテ(江州)、ヲキボテ、ヲキザコ、云云」

をしげ (名) [惜氣] 惜シキサマナルコト。 和泉式部續集「トドマレト、思フトイカデ、知リニケン、をしげナクナク、オツル涙ヲ」

をしけ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) [惜] をし(惜)ニ同ジ。 源、廿四、胡蝶七「ムラサキノ、ユヱニ心ヲ、シメタレバ、淵ニ身ナゲン、コトヤをしけき」萬葉集、九卅六「カクノミシ、戀シワタレバ、タマキハル、命モ吾ハ、惜雲ナシ」

をしげなく (副) [無惜氣] ヲシキケブリノナキ狀ニ云フ語。ヲシゲモナク。

をしどり (名) [鴛鴦] をし(鴛鴦)ニ同ジ。 萬葉集、十一「妹ニ戀ヒ、寐ヌ朝明ニ、男爲鳥ノ、コヨトビ渡ル、妹ガ使カ」多識編、四、禽部「鴛鴦、於志登里、異名黄鴨(綱目)、匹鳥」

をしね (名) [小稻] [をハ發語、或ハ云フ、食稻ノ約] いね(稻)ト云フニ同ジ。 續古今集、五、秋、下「白露ノ、晩稻ノをしね、打拂キ、田中ノ井トニ、秋風ゾ吹ク」新勅撰集、五、秋、下「片岡ノ、杜ノ木ノ葉モ、色ヅキヌ、早稻田ノをしね、今ヤ刈ラマシ」 此語、遲稻ノ約ニテ、晩稻ノ事ナリトモ云フ。サレド晩稻ノ晩稻、早稻田ノ晩稻ト云フベクモアラズ。俊頼朝臣ノ歌ノ「憂キ身ニハ、山田ノおしね、押シ籠メテ、世ヲヒタスラニ、恨ミワビヌル」ハ押シニ掛ケタレバ、おノ假名カトモ思ヘド、同朝臣ノ歌ニ「葛飾ノ、早稻田ノをしね、コキタレテ、ナキモ絶エシト、盡キヌナミダカ」トアリ、假名遣亂レタル頃ナレバ、信ズベカラズ。

をしのふすま (名) [鴛鴦衾] 鴛鴦ヲ刺繡シ、又ハ、畫ケル衾。又、婚禮ノ時ノ衾。鴛鴦ハ雌雄ムツマジキヨリ、男女共寢スル衾ニ譬ヘテモ云フ。 壬二集、中「霜モラヌ、鴛ノ衾ノ、オホヒ羽モ、千代フ重ヌル、宿ノ池水」

をしは・ふ・フル・フレ・ヒ・ヒ・ヒヨ (他動、上二) [提撕] ていせい(提撕)ニ同ジ。 天治字鏡、十二卅六「提撕、乎志波不」

をし・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) [教] [愛む、ト通ズト云フ] 爲スベキヤウニ覺シ知ラス。告ゲ示ス。導ベヲナス。訛シテ、をしゆ。 古詩、焦仲卿妻「十三教汝織、十四能裁衣」名義抄「喩、ヲシフ、誨、ヲシフ、訓、ヲシフ、教、ヲシフ」詞花集、八、戀、下「マダ知ラヌ、事ヲバ如何ガ、教ふベキ、人ヲ忘ルル、身ニシアラネバ」久安六年百首、冬「ケサシモヤ、スハノ氷ノ、ヒマワレテ、をしふるコマノ、蹤ナヅムラン」「學問ヲをしふ」「藝ヲをしふ」「路ヲをしふ」

をしへ (名) [教] ヲシフルコト。ヲシフル事柄 シルベ、其道ニ導ク方法。教育、學問、宗旨ナドヲモ云フ。 源、五、若紫廿「人ノをしへノママニ、稀ニタヅネ入リ侍リツレド、云云」玉葉集、十九、釋教「シナジナニ、ヒモトク法ノ、教ニテ、今ゾサカリノ、花ハ開クル」 趙岐、孟子題辭「夙喪其父、幼被慈母三遷之教」 管子、弟子職「先生施教、弟子是則」 孟子、梁惠王、上「寡人願安承教」「聖人ノをしへ」「佛ノをしへ」

をしべ (名) [雄蕊] [めしべ(雌蕊)ニ對ス] 又、ゆうずゐ。しべ(蘂)ノ條ヲ見ヨ。

をしへぐさ (名) [教草] (一)教ヘノ種トスルモノ。教フル材料。(二)鷹ノ、追ヒ落シタル鳥ノ在ル草原ヲ、羽ヲ引キテ教フルコト 元可法師集、鷹狩「御狩ハニ、木ヰトルタカノ、をしへ草、シケミモ鳥ノ、隱レガゾナキ」

をしへご (名) [教子] 弟子。門人。 鈴屋集五「甲斐國人、萩原元克トブラヒ來テ、オノガをしへごニナレルガ、國ニカヘル時、云云」

をしへどり (名) [教鳥] [とつぎをしへどり(嫁教鳥)ノ略] せきれい(鶺鴒)ニ同ジ。 草根集、十五「庭ニキテ、サカナキ事ヲ、教ヘ鳥、昔ノムシロノ、露ナハラヒソ」

をしへる (動) [教] をしふ(教)ノ口語。

をじま (名) [小島] 小サキ島。おじま(小島)ニ同ジ。 新古今集、十、羇旅「松ガネノ、をじまガ磯ノ、小夜枕、イタクナヌレソ、蜑ノ袖カハ」

をし・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) (一)愛シト思フ。深ク愛ス。愛ヅ。イックシム。 允恭紀、四十二年十一月、新羅人、恨愛京城傍耳成山畝傍山」 孝德紀、五年三月「大臣謂長子興志曰、汝愛身乎」 續後撰集、二、春、中「をしむベキ、庭ノ櫻ハ、盛リニテ、心ゾ花ニ、マヅウツリヌル」

[illegible]二年二(一)[illegible]ノ[illegible]惜ア[illegible]ク思フ、惜[illegible]意) 晉書、陶侃傳「大禹聖者、乃惜二寸陰一、至二於衆人一、[illegible]」 [illegible]ヲをしむ、[illegible]ヲをしむ[illegible] (二)[illegible]ト思ヒテ、欲スル情、切ナリ。失ハムヲ恐ル。吝。慳。 [illegible]「悋、ヲシム」 安閑紀、元年七月「味張忽然悋惜、欺二[illegible]使一曰[illegible]ヲをしむ[illegible]をしむ」

をしん (名) 惡心 ムカツクコト。胸ワルクシテ、嘔吐ヲ催スコト。 和蘭[illegible]、三、身體門、附、病名「惡心、ヲシン、ムネワルシ」

をしむらくは (副) 惜 惜シキコトニハ。殘念ナルコトニハ。

をしめ (名) 緒締 珠ニ穴アルモノ、袋、巾着、印籠、煙草入、ナドノ二條ノ緒ヲ通シテ、相壓シ締ムル用トス。玉、石、介、角、又、木ナドニテモ作ル。又、緒止。 [illegible]文、元[illegible]、[illegible]下物ツブノ[illegible]めニバヘノクゥラ、[illegible]巾着ハ、[illegible]ノヨキサケ物ナリ」

をしもの (名) 食物 〔をす(食)ノ條ヲ見ヨ〕 食ス物。クヒモノ。食物。 推古紀、廿一年十二月「皇太子視之、與二飲食一、即脫二衣裳一、覆二飢者一」 持統紀、三年正月「己巳、賜二百官人等食一」

ヲシヤウ (名) 和尚 〔梵語、Upādhyāya、鄔波陀耶ノ轉、親教師、力生ナドト譯ス、舍利弗問經ニ「蓋師之力、生二長法身一」 又、近誦ト譯ス、同經ニ「弟子年少、不レ離二於師一、常逐近、受レ經而誦」トアル、因ルナラム、猶、わじやう(和上)ノ條ヲモ見ヨ〕 (一)佛家ニテ、師ノ義。禪宗ニ和尚ト云ヒ、天台宗ニ和尚ト云ヒ、眞言宗ニ[illegible]、又、[illegible]ト云ヒ、法相宗、律宗ニ和尚ト濁ル。或ハ僧位トス。大和尚ハ法印ニ同ジク、和尚ハ法眼ニ同ジ。又、僧侶ノ尊稱トモス。 [illegible] (二)茶道ノ宗匠ノ稱。(又、弓馬、槍、劍ノ師匠ニモ云フ) 僧俗ニカカハラズ稱ス。下ノ[illegible]ヲ見ヨ 近代世事談、[illegible]、一、「[illegible]、茶の湯[illegible]ヲ[illegible]シ、[illegible]ヲ[illegible]ビタルモノ也、ヨッテ宗匠タル人ヲ、和尚ト云フナリ」 (三)轉ジテ、上首ノ遊女ノ稱。かたおと[illegible]門ノ姉ハ、小田原ノ北條氏政ノ妾ニテ、名ヅケラレテ、をしやうト云フ」

をしゆ (動) 教 をしふ(教)ノ訛。 書言字考節用集、八、言辭門「教、ヲシユ」

をぢよく (名) 汚辱 〔玉篇「汚、从レ于者今文」〕 ケガシ、ハヅカシメラルルコト。又、ケガシ、ハヅカシムルコト。 淮南子、說山訓「以二潔白一爲二汚辱一」 [illegible]

をしろのうま (名) 尾白馬 馬ノ尾ノ白キモノ。 玉篇「駹、馬尾白」 倭名抄、十一、牛馬毛「駹馬、乎之路乃宇麻、馬尾白也」

をす (名) 牡雄 を(牡)ト云フニ同ジ。

をす (名) 小簾 〔をハ發語〕 スダレ。す(簾)ト云フニ同ジ。(歌詞ニ) 萬葉集、十一、三十旋頭歌「玉垂ノ、小簾ノスゲキニ、イリカヨヒ來ネ、タラチネノ、母ガ問ハサバ、風トマヲサム」

をす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 食 〔居す、ノ義、居ル、ノ敬語、爲、敬語せす、爲ノ敬語なすトナルガ如シ、居タマフノ自動ヲ、他動トス。當字ニ食ノ字ヲ用ヰル、見ノめす、着ノけすノ類ナリ〕 (一)治メ行ヒタマフ。シロシメス。シノメス。統治シ給フ。 古事記、上卅「汝命者所レ知二夜之食國一矣」 [illegible] 同、十八「吾ガ大君ノ、聞シ食ス、天ノ下ニ」(古義ノ訓) 同、十八[illegible]ノ、聞シ食ス、國ノマホラニ」 (二)轉ジテ、食フノ敬語。タベタマフ。又、飲ミタマフ。メシアガル。 萬葉集、[illegible]「空蟬ノ、命ヲ惜ミ、浪ニ濡レ、イラコノ島ノ、玉藻刈リ食ス」 [illegible]紀、十九年十月「釀メル大御酒、旨ラニ、聞コシモチ食セ」 (三)着タマフ。 [illegible]

をす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 熟 揉ミテ、柔カナラシム。ナメス。 仁賢紀、六年九月「今倭國山邊郡額田邑熟皮高麗、是其後也」

をすくに (名) 食國 天皇ノ知シメス國。又、天皇ノ治メ行チタマフ國。 萬葉集、六 廿「ヤスミシシ、吾ガ大君ノ、御食國ハ、日本モココモ、同ジトゾ思フ」(古義ノ訓) 同、十七四、長歌「皇ノ、乎須久國ナレバ、ミコトモチ」

をすげ (名) 小菅 〔をハ接頭語〕 又、さすげ。すげ(菅)ト云フニ同ジ。 新後撰集、四、秋、上「夕暮ハ、淺羽ノ野路ノ、露ナガラ、小菅亂レテ、アキカゼゾ吹ク」

をすさ (名) 苧莎 麻苧ヲ寸莎トスルモノ。すさ(寸莎)ノ條ヲ見ヨ。

をすず (名) 小鈴 〔をハ接頭語〕 すず(鈴)ノ(一)ニ同ジ。 萬葉集、十九卌長歌「遠近ニ、鳥フミタテテ、白塗ノ、小鈴モユラニ、アハセヤリ」

をすすき (名) 小薄 〔をハ接頭語〕 すすき(薄)ト云フニ同ジ。 六帖、六「年經トモ、我レ忘レメヤ、逢坂ノ、[illegible]ノをすすき、オヒハテヌトモ」

をせ (名) 夫 [illegible]

をせぐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) おせぐ[illegible]ヲ見ヨ。

をそ (名) 虚言 噓 〔空ニ通ズ、空言ナリ〕 イツハリ。今、ウソ。 [illegible]、十四卅八「鷄トフ、大乎价鳥ノ、正デニモ、來マサヌ君ヲ、コロクトゾ鳴ク」 同、四「[illegible]ハ、月モ經ナクニ、戀フトイハバ、乎价ロト吾ヲ、思ホサムカモ」(ろハ助辭) 奥儀抄、五「或人云、東ノ國ノ者ハ、そらごとヲバ、をそごとト云フナリ」(うさぎ(兎)ヲをさぎ、うつつ(現)ヲをつつト云フ類ナリ)

をそ (名) 獺 〔魚食ノ略轉〕 今、カハウソ。かはうそ(川獺)ノ條ヲ見ヨ。又、山をそ、海をそ、アリ。 倭名抄、十八、毛[illegible]「獺、乎曾」 本草和名、下、「獺、乎曾」

をそ (名) 惡阻 つはりノ(二)ヲ見ヨ。 [illegible]心阻[illegible]也 [illegible]雅、三、身體門「惡阻、ヲソ、ツハリ」

をそね (名) 小确 〔をハ接頭語〕 そね ト云フニ同ジ。

をそはる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 教 〔教へらるノ約轉、すてらる(被棄)ノすたるノ類〕 教ヘヲ受ク。ヲスハル。(東京)

をそろ (名) 虚言 噓 〔ろハ助辭〕 をそ(虚言)ト云フニ同ジ。

をだ (名) 小田 〔をハ發語〕 た(田)ト云フニ同ジ。(歌詞ニ) 倭名抄、五九東山郡「小田、乎太」 萬葉集、七卅旋頭歌「スミノエノ、小田ヲ刈ラス子、奴カモナキ、奴アレド、妹ガミタメニ、アキノ田刈ラス」 新古今集、十六、雜、上「折ニアヘバ、コレモサスガニ、哀ナリ、小田ノ蛙ノ、夕暮ノコヱ」

〰をだえ（名）［緒絕］緒ノ絕ユルコト。ヲノキルルコト。萬葉集、十六廿「白玉ノ、緒絕ハマコト、然レドモ、其緒マタヌキ、人モテイニケリ」

をだかりづき（名）［小田刈月］陰曆、九月ノ異稱。藻玉集、九月、小田刈月「サビシサヘ、鴫立ツ暮ノ、露シケミ、袖打拂フ、小田刈の月」

をだき（名）［男瀑］〔女瀑ニ對ス〕二條ノ瀑布ノ中、其水勢强クシテ大ナルモノ。風俗文選、六、西銘「髮ノ花、女瀧男瀧ノ、飾リカナ」

をだく（名）［汙濁汚濁］をぢょく（汚濁）ニ同ジ。

をだけ（名）［雄竹］〔雌竹ニ對ス〕（一）まだけ（眞竹）ニ同ジ。（二）竹ノ雄ナルモノト云フ。志林（宋、蘇軾）「竹有二雌雄一、雌者多レ筍、故種レ竹當レ擇二雌者一、凡欲レ識二雌雄一、當レ自二根上第一枝一觀レ之、有二雙枝一者爲レ雌、卽出レ筍、若獨枝者、是雄竹耳」

〰をたけび（名）［雄誥男建］雄雄シク叫ブコト。神代紀、上廿「奮二稜威之雄誥一、發二稜威之嘖讓一」注「雄誥、此云二烏多稽眉一」

〰をだち（名）［小太刀］小サキ太刀。コダチ。萬葉集、九卅六長歌「アシズリシ、キガミタケビテ、モコロヲニ、負ケテハアラジト、カキ佩キノ、小太刀トリ佩キ、トコロヅラ」

をたて（名）［折立］〔をりたてノ略〕又、をりたて。織物ナドノ裏張リシタルヲ折立テテ、箱ノ四隅ニ入ルルコト。又、ソノモノ。榮花物語、十六、本雫「經函ハ紫檀ヲモテ、色色ノ玉ヲ綾ノ紋ニ入レテ、云云、唐ノ紺地ノ錦ノコモンナルヲ、をたてニセサセタマヘリ」

をだて（名）［苧經］〔麻絲ヲ經絲ニシテ織ルヨリ云フ名ナラム〕蓙筵ノ類ナルベシ。嬉遊笑覽、十一、商賈「江戶ニモ、今ヨリ二十年バカリ先マデハ、桜賣ノ攜ハ、ミナ苧だてニ、桜ト云ヒシヲ包ミテ、イタダキタルモノナリシ」

〰をだて（名）［小楯］〔をハ、接頭語〕をたて（楯）ノ條ノ（一）ニ同ジ。古事記、中（應神）一七十「シナダユフ、ササナミヂヲ、スクスクト、我ガイマセバヤ、コハダノ道ニ、アハシシ少女、ウシロデハ、小楯ロカモ」

をだはらだんがふ（名）［小田原談合］次條ノ語ニ同ジ。關八州古戰錄、十七、秀吉公湯本着陣事「小田原ノ本城ヘ落ミシカバ、氏政父子、畑、湯本、石橋、米神ヘモ出張シテ防戰ヲ遂ヘキヤノ旨、評義セラレケル處ニ、云云、虛虛ト日ヲ送ケルハ、惰ナカリシ次第ナリ、云云、サレバ其比、關東ノ俚俗、果敢果敢シカラヌ評議ヲバ、小田原談合ト云觸シテ、今ノ世マデノ常談ニ傳ヘ、此時ニ起レル事ナリトゾ」

をだはらぢゃうちん（名）［小田原提燈］提燈ノ、形、甚ダ細長クシテ、筒ノ如ク製セルモノ。疊ミテ携フルニ便ナリ。天文中、相摸國、小田原ノ甚左衞門ト云フモノ、同國關本ノ最乘寺山中ノ材ニテ製出ス。コレ靈山ノ木ニテ、狐狸ノ怪ヲ避クト云ヒテ、大イニ流行セシト云フ。新編相摸國風土記稿、廿四、小田原宿「土產、提燈、俗ニ小田原挑燈ト稱スルモノ、是レナリ、古ヘ當町ニ住ル甚左衞門ナルモノ、關本最乘寺山中ノ木材ヲモテ始テ製ス」

をだはらひゃうぢゃう（名）［小田原評定］〔天正十八年、豐臣秀吉ニ攻メラレ、相摸ノ北條氏、小田原ニ籠城セシ時、降ラム、降ラジ、ノ評定、久シク決セザリシニ起ルト云フ〕俗ニ、談合ノ久シクナリテ、終ニ決セヌモノ。小田原談合。ムジナ評定。松屋筆記、九十、第四十三條、小田原評定「北條氏直、群將ニシテ物ニ決斷ナク、豐臣ヲシテ評議セシムレド、空ク摩滅ノミニテ、其實ニ用ヰル事能ハズ、遂ニ破滅セリ、世ニコレヲトリテ、不成ノ評議ヲ小田原評定ト云ヘリ」同、百、第十七條「俗ニ、評議ノマチマチニテ決セザルヲ、略稱ヲ多クテ、山ヘ船ヲ擧ルトモ、又小田原評定トモイヘリ」

をだふか（名）［男踏歌］をとこたふか（男踏歌）ニ同ジ。

をだまき（名）［苧環苧手卷］〔麻手卷ノ義〕（一）績苧ノ卷子。其形、外圓ク、內虛ニシテ、環ノ如クナレバ云フ。古今集、十七、雜、上「古ヘノ、シヅノをだまき、賤シキモ、ヨキモ盛リハ、アリシモノナリ」（二）介ノ名。イトカケガヒ。蜷ニ似テ小サク、介殼ハ塔狀ヲナシ、外面ノ縱筋ハ太クシテ、白絲ヲ卷キタルガ如シ。（三）毛茛科ノ多年生草本ノ名。山中ニ生ズ。春、舊根ヨリ叢生ス。葉ハ、牡丹ニ似テ小サシ。夏、莖ヲ出ス、葉、互生シテ、葉ノ間ニ枝ヲ分チ、枝ノ梢ニ、五瓣ノ紫花ヲ開ク、花中ニ、紫色ノ瓣聚マリテ、筒ノ如クニテ滿開セズ。一枝ニ三花ヲ生ジテ垂ル。イトクリ。耬斗菜

をだまき（名）枝モ葉モナキ枯木ヲ云フト云フ。狹衣、三、上二「谷深ミ、立ツをだまきハ、我レナレヤ、思フ心ノ、朽チテヤミヌル」

をだもり（名）［小田守］〔をハ、發語〕たもり（田守）ト云フニ同ジ。曾我物語、四、虎を具して曾我へ行きし事「鹿ノ音近キ野邊ゴトニ、蟲ノ聲聲モノスゴク、哀ヲ催ス小田守ノ、庵サビシキ木枯マデ、心ヲヤラヌ方ハナシ」

をだやもり（名）［小田屋守］田ノ庵ヲ守ル人。吳竹集「をだや守トハ、田ノ庵モル人也、ヒタト云フ物ヲ鳴ラシテ、鹿ヲ追フナリ」

をち（名）［變若］〔をつ（變若）ノ名詞形〕（一）［變若］ツルコト。元ヘモドルコト。初ヘ返ルコト。萬葉集、十七五十長歌「鷹狩リニ、チドリフミ立テ、追フゴトニ、ユルスコトナク、手放レモ、ヲチモカヤスキ」（鳥ノ本ノ手ヘ返ルコト）同、廿四十「我宿ニ、咲ケル梅子、哈ハセム、ユメ散ルナ、彌乎知ニ咲ケ」（返リ返リテ絕エズ）（二）ワカガヘルコト。變若ツルコト。

〰をち（名）［菥蓂芸薹］あぶらなの古名。倭名抄、十七、野菜類「菥蓂、乎知」本草和名、下九「芸薹、乎知」

〰をち（代）［遠彼］〔隔路ノ義〕（一）トホキ所。アチ。アナタ。カナタ。萬葉集、七三十「眞土付ク、越ノ菅原、ワガ苅ラズ、人ノ苅ラマク、惜シキ菅原」源、十三、明石三十「ハルカニモ、オモヒヤルカナ、シラザリシ、浦ヨリをちニ、ウラヅタヒシテ」同、五十、浮舟六三十「川ヨリをちナル人ノ家ニキテ、オハセントカマヘタリケレバ、云云」古今集、八、離別「白雲ノ、八重ニカサナル、をちニテモ、思ハン人ニ、心隔ツナ」（二）時ノ隔タレルコト。以往　貫之集、四「昨日ヨリ、をちヲハ知ラズ、百年ノ、春ノ初ハ、今日ニゾアリケル」（以前）萬葉集、十五「此頃ハ、戀ヒツツモアラム、玉櫛笥、明ケテ乎知ヨリ、スベナカルベシ」（以後）

〰をぢ（名）〔小父ノ略、轉名〕父之兄曰二伯父一、（爾雅、釋親篇）父之昆弟、先生爲二世父一、後生爲二叔父一〕（一）父ノ兄弟。惡シク別テバ、其兄ヲ兄をぢ（伯父）、弟ヲ中をぢ（仲父）、次ヲ弟をぢ（叔父　季父）ト云フ。倭名抄（一本）父母類「伯父、爲乎遲、仲父、奈賀都乎遲、叔父、季父、於止乎遲」字鏡「阿伯、父之兄、江乎地、阿叔、父之弟、乙乎地」同十「伯父、乎知」仲哀紀、二年正月「娶二叔父彥人大兄之女大中姬一爲レ妃」（二）母ノ兄弟。惡シク別テバ、其兄ヲ大舅ト云ヒ、弟ヲ小舅ト云フ。コレヲ併セテ、母方のをぢト云フ。倭名抄（一本）父母類「母之昆弟爲レ舅、母方乃乎知」

推古紀、三十二年四月「除則自三蘇我一出之、大臣(馬子)亦爲三除則一」 (三)轉ジテ、老人ヲ敬ヒ [illegible] 引ノ、山田守ル翁ガ、置クカビノ、下コガレノミ、我知、木ヤハ削ル、マキヤハ削ル、木削ル乎知」

をちかた (名) [遠方] 又、をつかた。(一)アチラノ方。アチカタ。アチラ。アナタ。アノ方面。名義抄「以往、ヲツカタ」 [illegible] (二)遠キ方。[illegible] 萬葉集、十三廿長歌「コモリクノ、泊瀬ノ川ノ、乎知可多二、妹等ハ立タシ、コノカタニ、云云」

をちかたびと (名) [遠方人] (一)遠キ方ノ國ノ人。[illegible] (二)旅人ヲ云フ。(連歌) [illegible]

をちかため (名) [遠方目] [をちかた見ル目ノ義] ヤブニラミ。スガメ。眇目。[illegible]

をちかへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [變若返] [をつ(變若)ノ條ヲ見ヨ] (一)初ヘ返ル。元ヘモドル。ヲツ。夫木抄、二、鶯「色[illegible] 誰ガタメカ、佐保ノ川原ニ、をちかへり鳴ク」新敕撰集、三、夏「ヤヨヤマタ、來鳴ケミソラノ、時鳥、五月ダニコソ、をちかへりツレ」(二)若返ル [illegible]

をぢき (名) [小父君] [illegible]

をぢご (名) [小父御] をぢ(小父)ノ尊稱。[illegible] 二、一手遊バサレイ」

をちこち (代) [遠近・彼此] (一)ココカシコ。カナタコナタ。アチコチ。ソチコチ。[illegible] (二)昔ト、今ト。[illegible] 「眞玉付、彼此兼ネテ、言ヒハイヘド、アヒテ後コソ、悔ニハアリトイヘ」同、十二廿五「眞玉就、還乞兼ネテ、[illegible]」

をちこちびと (名) [彼此人・遠近人・彼方此方人] ヲチコチノ人。ソチコチノ人。[illegible]

をぢぢゃ・ひと (名) [小父人] [をぢ[illegible]るひとノ約略、親愛ノ意ヲ含ム] をぢ(小父)ニ同ジ。狂言記、文相撲「イツゾヤ、をちをちひとカラ[illegible]」

をちつかた (副) [已降] [遠之方ノ義] ソレヨリノチ。ヲチ。以往。以後。以下。續紀、廿一、天平寶字二年八月、戊申、[illegible]

をつかみ (名) [小攫] をつかみ(小攫)ノ音便。發心集、一、第一條「ミレバ頭ハをつかみトイフホドヲキタル法師ノ、キタナゲナル」

をちど (名) [越度] (一)又、をつど。法律ノ[illegible]、古ヘ、關門、[illegible]、津[illegible]ヲ由ラズ、法ヲ破リテ、間道ヲ行クコト。制度ニ

[illegible] 越度者各加二一等一「不レ由二門爲レ越」 居家必用、[illegible] 集、雜用「越度、ヲチド」 (二)轉ジテ、過失ノ[illegible] シソコナヒ。アヤマチ。十訓抄、上、第一、第廿九條「公事ニツキテ、失禮ヲモシ、タダウチアルフルマヒニモ、越度ノ出來ヌルハ、口ヲシキコトナリ」[illegible] 鞍ヲ打欠キ、犬子所ヘ打出デ候、主膳(太田)ムツムキニ [illegible] (三)討[illegible] 經)「昨日之樣躰無二越元一候、殊ニ宮ノ下ニハ、てお[illegible]」

をぢな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [怯] [おぢなし(怯)ノ轉] (一)おぢなし(怯)ニ同ジ。名義抄「怯、オチナシ、劣、オチナシ」 天治字鏡、十二「怯、乎知奈之」 古事記、下(清寧)四十二「大匠、袁遲那美コソ、スミカタブケレ」 (二)轉ジテ、鈍ク弱シ。[illegible] 我ニ劣レル、人ヲ多ミ、云云」

をちみづ (名) [變若水] ワカヤギノ泉ノ[illegible] ワカガヘル水。をつ(變若)ノ條ヲ見ヨ。飲メバ、若ガヘルト云フ水。月ノ中ニアリト信ゼラルト。萬葉集、四六三十「我ガ袂、[illegible]」 同、十三、長歌[illegible] 月ヨミノ、持タル越水、イ取リ來テ、君ニ[illegible]リテ、[illegible]シムモノ[illegible]

をちめ (名) [條目] [をちハ、をちをち(條

條)ノ條ヲ參見] でうもく(條目)ニ同ジ。

をぢやちぢみ (名) [小千谷縮] をぢやちぢみ(越後縮)ニ同ジ。專ラ、越後國、北魚沼郡、小千谷町地方ヨリ出スモノヲ[illegible] エスク國ノナラヒニヤ」

をぢょく (名) [汗濁・汚濁] 又、をだく。ケガルルコト。ケガレニ濁ルコト。濁ニ染ムコト。又、ヨゴレ。

をちをち (名) [條條] [小路ヲ重ヌル語カ、或ハ緒路ノ意ト云フハ、イカガ] 箇條ヲ一ツ一ツ分ケテ云フ[illegible] クダリ。スヂスヂ。カドカド。デウデウ。[illegible]

を・つ・ツル・ツレ・チ・チ・チヨ (自動、上二) [變若] (一)初ヘ返ル。元ヘモドル。ヲチカヘル。[illegible] ヌベシ」(二首トモ次項ノ意ヲ兼ヌ) (二)ワカヘル。[illegible]

ヲッカ (名) [火酒] 洋酒ノ名。[illegible](火酒)ノ條ヲ見ヨ。

をつかい (名) [越階] 位階ヲ越エテ進ムコト。從三位ヨリ、正三位ヲ歷ズシテ、直ニ從二位ニ昇ルナド。ランカイ。俗ニ、公[illegible]をかい晴れて、又、[illegible]テ、[illegible]ナド云フモ、此語ナリト

云フ　盛衰記、四十一、頼朝叙二正四位下一事「元暦元年三月廿八日ノ除目ニ、兵衛佐頼朝、正四位下ニ叙ス、云云、モト從五位下ナレバ、已五階ノ賞ニ預ル、勳功ノ越階、其例アルニ依テナリ」

をつかみ（名）〔小攫ノ義カ、或ハ押攫ノ略ト云フ〕剃リタル頭ノ髮ノ、攫ミ得ルバカリニ生ヒタル程ヲ云フ語。又、久シク剃ラズシテ、長ク生ヒタル髮。殊更ニ生シ立ツルヲ、立髮（タテガミ）ト云フ　古今著聞集、三、僧行「首、をつかみ（つかも イ）ト云フホドニ生ヒタル法師ノ、云云」　著聞集、十七、變化「髮をつかみナル法師一人、臥シタリケリ」　今物語「法師ノマコトニアヤシゲナルガ、頭ハをつかみニ生ヒテ、カミギヌノホロホロトアル打着タルガ、云云」

をつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）〔躍踊〕をどる（踊）ニ同ジ。名義抄「踊、ヲトル、ヲツク、躍、ヲツク、ヲトル」字類抄「踏、ヲツク」

をつけはれて（副）をつかい（越階）ノ條ヲ見ヨ。

をつけん（名）〔越權〕又、をつけん　權限ヲ越ユルコト。

をつさま（名）〔和尚樣〕をしやうさま（和尚樣）ノ略。（靜岡）

をつそ（名）〔越訴〕又、をつそ　訴フベキ司ニ由ラズ、順序ヲ越エテ、其上官ニ訴ヘ出ヅルコト。（次條ノ語ヲ參見セヨ）　下學集、下、態藝門「越訴、ヲツソ」　類聚三代格、十二、延喜五年十一月三日、太政官符、應レ禁二云云、辨二定訴訟一事、若所レ斷違レ理者、隨即越二訴於上官一」

をつそぶぎやう（名）〔越訴奉行〕鎌倉室町幕府ノ職名。卽チ、本奉行ノ裁判遲滯シ、又ハ、偏頗ノ處置アルトキ、控訴セシムルタメニ設ケタル役。　關東評定傳、二、文永元年「越後守平實時、三番引付頭、六月十六日爲二二番頭一十月廿五日爲二越訴奉行一」　武家名目抄、職名、十二、下「按、越訴奉行ハ、本奉行ノ沙汰、或ハ遲滯シ、或ハ偏頗ノ事アル時、訴訟人、越訴ヲイタスベキ爲ニ、設ラレシツカサニシテ、云云」

ヲッチ（名）おっち（袂時計）ニ同ジ。

をつつ（名）〔現〕うつつ（現）ノ古言。其條ヲ見ヨ　萬葉集、五、卅三長歌「神ナガラ、神サビイマス、奇御魂、今ノ現ニ、貴キロカモ」　同、十七、四十長歌「古ヘユ、今ノ乎追通ニ、カクシコソ、見ル人イトニ、カケテシノバメ」

をづつ（名）〔尾筒〕（一）馬ノ尾ヲ包ム袋。ヲブクロ。（二）獸類ノ尾ノ上ノ聞ク脹レタル所。　曾我物語、八、新田乘二猪事「新田ハ習ヒシ手綱ノ樣、腰モ切レヨト挾ミツケ、をづつヲ手綱ニ取リ、云云」　國性爺合戰（正德、近松作）二、千里が竹「猛虎、云云、尾筒ヲ摑ンデ跳返シ、打伏セ打伏セ、怯ム處ヲ乘懸リ、云云」

をっつあん（名）（一）叔父（ヲヂ）サマ。（二）爺（ヂヂ）サマ。

をつと（名）〔夫〕〔夫人（ヲヒト）ノ轉ナルをうとノ急呼〕古ク、夫。ヲヒト。ヲウト。妻ノ配偶者。妻ト連添フ男。夫（ツマ）。テイシュ。良人。夫君。　易經、上、彖傳「夫夫、婦婦、而家道正」　平家物語、六、小督事「夫ヲ想ウテ戀フトヨム、想夫戀ト云フ樂ナリケリ」

をつど（名）〔越度〕〔をちどノ轉〕をちど（越度）ニ同ジ。運歩色葉集「越度、ヲツト」

をつとせい（名）〔膃肭臍〕〔蝦夷語トスルハ誤ニテ、字音をっとつせいノ略ナリ、蝦夷語ニテハ、おんねぶ、又ハ、うねうト云フ、正シクハ、膃肭ハ海獸ノ名ニシテ、膃肭臍ハ、其海獸ノ陰莖ト睾丸トヲ臍ニ連續シテ採リタル藥品ノ名、故ニ、本名ハ膃肭獸トスベキナリ〕（一）哺乳類ノ海獸ノ名。海驢（アシカ）ニ似テ、頭ハ小サク圓ク、四肢ハ鰭狀ヲナシ、前肢ハ步行游泳ノ用ヲナシ、後肢ハ機用ヲナス。背ハ暗紫褐色ニシテ、柔軟、美麗ナリ。牡ノ體長ハ六七尺、牝ハ其半バニシテ、肉ハ食用ニ供ス。毛皮ハ、毛ノ厚サ三四分、軟毛ノ間ニ、硬毛アリテ、老イタルハ、霜降ニ見ユ。南北兩半球ノ溫寒帶ノ島嶼ニ棲息シ、十月頃、北海ヲ出デタルハ、或ハ南下シ、或ハ北亞米利加ノ沿岸ヲ回游シテ、舊地ニ歸ル。大海ヲ回游スルコト二千浬ニ及ブト云フ。膃肭獸　書言字考節用集、五、氣形門「膃肭、ウニウ、云云、其陰名二膃肭臍一」　蝦夷風俗記、四、産物「膃肭獸、云云、膃肭ハエゾ地、ヲシマ、マツマヘノ海中ニ在、夷人舟ニ乘テ射取ル、最乏シ」（二）膃肭獸ノ腎、又、海狗腎（カイクジン）。或ハ、膃肭獸ノ陰莖ト睾丸ト臍トヲ連ネテ取レルモノト云フ。我ガ國ニテハ陰莖ヲ用ヰ、支那ニテハ、睾丸ヲ用ヰ、滋補ノ藥トス。　和漢三才圖會、三十八、獸類「膃肭臍、云云、毛色似レ狐、尾形似レ魚、足形似レ狗而無二前兩足一、呼二其外腎一曰二膃肭臍一、連レ臍取レ之也、云云、補二中益一腎氣一、暖二腰膝一、又治二驚狂癇疾一」　書言字考節用集、五、氣形門「膃肭臍、ヲットセイ、海狗外腎也、連レ臍而取レ之、故云レ爾」

をつねん（名）〔越年〕トシヲコスコト。去年ヨリ今年ニ越ユルコト。翌年ヲ迎フルコト。超歲。　黃滔詩「有レ人曾見二洞中仙一、纔到二人間一便越年」　太平記、廿六、四條繩手合戰事「師直、師泰ハ、淀八幡ニ越年シテ、猶諸國ノ勢ヲ待チ調ヘテ、河内ヘハ向フベシト議シケルガ」

をづのふえ（名）〔小角笛〕クダノフエ。クダブエ。クダ。せうかく。はらのふえ（大角）ノ條ヲ見ヨ。

をつべしよ・る（他）〔折歷〕又、をっぺす　をりへす（折歷）ノ口語。

をっぺ・す（動）〔折歷〕前條ノ語ニ同ジ。

をづめ（名）〔小集樂〕〔つめハあつまりノ約ト、一說ニ、をへらト訓ズ、諸說アレド詳カナラズ、歌ノ左注ニ「鄕里男女、衆集野遊、云云」トアリ、古ヘ歌垣（ウタガキ）、嬥歌（カガヒ）ト稱ヘタルノ類ヲ、攝津地方ニテ、然カ稱ヘタル〕村ノ男女、日ヲ期シテ多ク一地ニ集マリ、歌舞シテ遊ブコト　萬葉集、十六、十七「墨ノ江ノ、小集樂ニ出デテ、マサメニモ、己妻（オノヅマ）スラヲ、鏡ト見ツモ」（古本ノ訓）

をづる（名）〔峯蔓、岳蔓〕たうげづる（峠蔓）ニ同ジ。

をて（名）〔彼〕〔をちノ東國語〕をち（遠）ノ條ヲ見ヨ。　萬葉集、十四、五「足柄ノ、乎氐モ此面（コノモ）ニ、サスワナノ、カナルマシヅミ、コロ我レヒモトク」　同、同、十「筑波嶺ノ、乎氐モコノモニ、守（モリ）ベスヱ、母コモレドモ、魂ゾアヒニケル」

をでい（名）〔汙泥、汚泥〕キタナキドロ。ドブドロ。　淮南子、說山訓「琬琰之玉、在二汚泥之中一、雖二廉者一弗レ釋」（汙、汚、通用ス）　詩含神霧「齊之地、處二孟春之位一、海岱之間、土地汙泥」

をてふ（名）〔男蝶、雄蝶〕（一）をすノ蝶。（二）折形ノ名目。めてふ（女蝶）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

をてん（名）〔汙點、汚點〕（一）ヨゴレノ附キタル所。シミ。汙染。（二）惡シキ箇所。キズ。缺點。瑕疵。

をてもこのも（名）〔彼面此面〕カナタ、

コト[illegible]をとこ[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

をと (代) 彼方 をち(遠)ニ同ジ。古事記、下(清寧)[illegible]「大宮ノ、彼方ツハタデ、隅傾ケリ」(古事記傳、四十三「彼方ツハタデハ彼方ノ端手ナリ」)

をとこ (名) 男 [illegible]「男、丈夫也」[illegible]小之子ノ[illegible]少男ノ意、をとめモ、小之女ニテ、相對ス、ひこ、ひめ、ノ如シ」(一)童ト翁トノ間ナル若ク盛リナル男。ワカザカリノ男子。(をとめニ對ス) 少男 壯夫 [illegible]「アナニヤシ、エ[illegible]男[illegible] 神代紀、上[illegible]「イザナキノミコト[illegible]」[illegible]コトキモ、アリコシモノヲ」 (二)後ニ、老幼ヲイハズ、凡ク、男ノコ 男子。(女ニ對ス) 男 古事記、中[illegible]「男ニハ、ナリ[illegible]メ、モノノフノ、乎等古乎美奈ノ、花匂見ニ」易經、[illegible] (三)夫。ヲウト。ヲット。妻ノ配偶者。良人。夫 良人 倭名抄、二「夫妻類「夫、乎宇止、乎止古」 崇神紀、十年九月[illegible]「夫、從[illegible]婦ニ從ニ大坂ニ共入」土佐日記、正月七日「ヨキ人ノ、男ニツキテ、下リテ住ミケルナリケリ」宇津保物語、藤原君「マダ御をとこナキ九ノ君アリテ」(四)男達。男子トシテノ面目。俠 「をとこヲ立ツル」(五)下部。下男。奉公スル男子。奴隷 [illegible] (六)ミソカヲ。マヲトコ。情夫。密夫。「カクシ男」 男ニナルトハ、元服スル意。成人。[illegible]

をとこ (名) 小床 「をハ接頭語」 ネドコ。ヨドコ。とこ(床)ト云フニ同ジ。萬葉集、十四「キヘ人ノ、マダラブスマニ、綿サハダ、入リナマシモノ、妹ガ乎杼許ニ」(古語ノ詞)

をとこ-いっぴき (名) 男一匹 一人前トシテ[illegible]男ノ意。[illegible]ひゃくくゎん(裸百貫)ノ條、參見セヨ。

をとこ-おび (名) 男帶 〔女帶ニ對ス〕 男ノシムル帶。[illegible]、主トシテ、角帶ヲ云フ。[illegible]十四、男服、下、男子帶の[illegible]「今世、男帶長一丈、幅一寸八九分ヲ普通トシ、二寸ヲ廣キ物トシ、一寸七分ヲ狹ミトス、鯨尺也」

をとこ-おや (名) 男親 男ノ親。父。父親。(女親ニ對ス) [illegible]「中將[illegible]少將モアマリナレドモ、男親ニ從ヒタルゾトヨナド云フヲ、母宮聞キ給ヒテ、云云」

をとこ-がた (名) 男方 〔女方ニ對ス〕 男ノ方。男ノ側。男子ノ方ノ組。 源、七、紅葉賀[illegible]「御前ナドニテモ、をとこ方ノ御遊ビニマジリナドシテ、云云」蜻蛉日記、中、下[illegible]「例ノヤウニテ、フト渡リナンナド、をとこ方ニハ定ムルヲ、女方ニハ、云云」

をとこ-がた (名) 男形 〔女形ニ對ス〕 歌舞伎ノ俳優ノ、專ラ男子ニ扮ツモノ。立役、敵役ナドアリ。

をとこ-ぎ (名) 男氣 男ラシキ氣象。又、男達ノ心。俠氣 (女氣ニ對ス) [illegible]「散ル時ハ、男氣ノアリ、山櫻」卯月潤色(寶永、近松作)上「父様ハ男氣ノ思ヒ詰メアルベキカ」

をとこ-ぎみ (名) 男君 男ノ御方。男ノ公達。コレニ對シテ、女ノ尊稱ヲ、をんなぎみ(女君)ト云フ。 源、九、[illegible]「男君ハトク起キ給ヒテ、女君ハ、サラニ起キ給ハヌ朝アリ」

をとこ-きんだち (名) 男公達 男ノキンダチ。 宇津保物語、樓上、上[illegible]「御方ノをとこ[illegible]をとこぎらひ (名) 男嫌 女ノ、男ヲ嫌フコト。又、ソノ女。(女嫌ニ對ス) 好色一代女(貞享、西鶴)一「男嫌ひヲスルハ、人ノモテハヤシテ、時花ル時コソ」

をとこ-ぐるひ (名) 男狂 男ニ狂フコト。女ノ色狂ヒスルコト。[illegible]女(貞享、西鶴)三「イヤイヤ、奥様ニ、男ぐるひナドシタト思ハレマシテハイカガ、ト出テ行ク」

をとこ-げいしゃ (名) 男藝者 遊客ニ附キテ其機嫌ヲトリ、又ハ、酒席ヲ取持チテ、興ヲ助クルナドヲ、業トスルモノ。タイコモチ。マッシャ。(女藝者ニ對ス) [illegible]「男[illegible]呼ビマセウ、云云、[illegible]ニシヤセウカ、男藝者ニシヤセウカ」

をとこ-ごころ (名) 男心 〔女心ニ對ス〕 (一)男ノ心。男ラシキ心情。又、變リ易キニモ云フ。 心中大鑑[illegible](享保、近松作)上「外ニハハット聞キ難ク、思ヒガケナキ男心、木カラ落チタル如クニテ、云云」(二)男ヲ持タムトスル心。色氣。 落窪物語、一「落窪ハ、云云、男心ハ見エザリツト宣ヘバ、云云」

をとこ-ざか (名) 男坂 神社、佛寺ナドアル山ノ二筋ノ道ノ中、表ノ坂道。多クハ急峻ナリ。旁ヨリ迂回シテ、緩カニ作レル坂ヲ、女坂ト云フ。

をとこ-ざかり (名) 男盛 男子ノ、年齡ノ壯ナル頃。(女盛ニ對ス) 壯年 [illegible]「[illegible]及壯」[illegible]

をとこ-さび (名) 〔をとめさびト同趣〕 男ラシクナルコト。男メクコト。ヲトコランキソブリ。萬葉集、五、長歌「マスラヲノ、遠刀古佐備スト、劍太刀、腰ニトリ佩キ、サツ弓ヲ、手握リ持チテ」

をとこ-じもの [illegible] 男[illegible] [illegible](自物)ノ條ヲ見ヨ〕 男ニテアリナガラ。ヲトコナガラ。又、じものハ、意味ナク用ヰタル語トモ云フ。 萬葉集、[illegible]

をとこ-じょたい (名) 男所帶 又、をとこぜたい。男ノミニテ所帶ヲ持ツコト。

をとこ-す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 男 (一)男ト情ヲ通ズ。大和物語、中「此ノ筑紫ノ女、シノビテ男シタリケリ、云云、聞ク男ナリト聞キテ[illegible]男[illegible]。男[illegible]ク振舞フ。 [illegible]「[illegible]リ、男ヲタテン者、本人ノ歸レト云トテ、モドリテ、侍ガ何カニテをとこせんヤ、男子ガ男子ヲスケダチスルトテ、死ヌマジキト極ル者、誰カアルベキ」

をとこ-ぜたい (名) 男世帶 をとこじょたい(男所帶)ニ同ジ。 [illegible]「[illegible]トカクハ男世帶ニシテ、住ミ所ノ[illegible]ニ極メテ、[illegible]ニ借リテシテ」

をとこ-だて (名) 男達 〔男立ノ義〕(一)務メテ信義ヲ行ヒ、然諾ヲ重ンジ、男子タル面目ヲ押立ツルコト。氣力ヲ倚ヒ、義ノタメニハ、身ヲ捨テテ人ヲ救フコト。任俠 其女ナルヲをなごだて(女達)ナド云フ。女俠 [illegible]四、人倫門「伉俠、ヲトコダテ、遊俠、同上」(二)又、其人。俠客 [illegible]一代男[illegible]「[illegible]トステをとこだて」(古開氣法ナリ)

をとこ-たふか (名) 男踏歌 〔女踏歌ニ對ス〕 又、をたふか。たふか(踏歌)ノ條ヲ見ヨ。源、廿三、初音[illegible]「コトシハ男たうかア

リ」 年中行事歌合、八番「踏歌節會、同(正月)十四日、云云、男踏歌ノ事ニテ侍ベシ」

をとこ-づかひ (名) 男使 昔、陰曆、四月、上ノ申ノ日、山城國ノ平野祭ノ御使ニ、上卿、辨、内侍ヲ向ケラル、其上卿ノ稱。又、陰曆、二月、十一月ノ上ノ申ノ日、大和國ノ春日祭ニモ、上卿、内侍ヲ向ケラル、其内侍ヲ女使ト云フ。賀茂祭ニモ女使ノ稱アリ。 拾遺集、五、賀、ハジメテ平野祭ニ男使タテシ時、ウタフベキ歌詠マセシニ」

をとこ-で (名) 男手 (一)男ノ書キタル文字。男子ノ筆蹟。ヲトコモジ。 (二)漢字ノ稱。又、男文字。眞字。平假名ヲ、女手、女文字ト云フ。かんな(假名)ノ條ヲモ見ヨ。 宇津保物語、國讓、中四十七「次ニをとこ手放チガキニカキテ、同ジ文字ノサマザマニカヘテカケリ」 (三)男ノ力 男ノ仕事ヲナスコト。 麥林集(乙由)「男手ニ、タタムモ悲シ、夜着蒲團」

をとこ-なき (名) 男泣 男ノ、心ニ堪ヘカネテ、泣クコト。(口惜シキニモ、感泣ニモ) 好色一代男(貞享、西鶴)七「見タテラルルガ口惜シイト、男泣きニシテ歸ルヲ、云云」

をとこ-ばしら (名) 男柱 橋ノ左右ノ柱。又、橋ノ兩端ニ立ツル稍大ナル柱。橋ノヒラキ柱モ是レナリ。又、階ノ端ニアルニモ云フ。ヲバシラ。 字鏡八十「欄柄、橋梁之左右之柱、乎止古柱」 太神宮諸雜事記、二、康平二年九月十二日「四面高欄、御階男柱等、今度初所被擧莊也」 筆の靈、後編、五十七「開柱ノ如ク、他ノ柱ヨリハ高ク上ニ出モシテ、ムネトアル柱ヲ男柱ト云リ、ソハ其頭ノ狀ヨリ呼ベデ、其柱ノ用ノ方ヨリ云タル稱ナリ」

をとこ-ひじり (名) 男聖 (一)ぞくひじり(俗聖)ニ同ジ。 (二)男寡ニテ通スモノ。一生、妻ヲ娶ラザル男。 盛衰記、四十四、[illegible]八歲子亡事「夫妻ニ緣ナキ身也、今ハ男聖ニシテ、二人ノ若ヲ育マンズレバ、更ニ外ノ妻有マジ」

をとこ-ひでり (名) 男旱 女ニ、心ニ適ヒシ男ノ乏シキコト。(女旱ニ對ス) 好色一代女(貞享、西鶴)二「コノ廣キ都ノ町ニ、男日照ハセマジ、又外ニモト思フ折節」

をとこ-ぶり (名) 男振 男ノカホカタチ。男子トシテノ風采。 好色二代男(貞享、西鶴)一「男ぶりノヨキ役者ヲ、太鼓持ニシテ、云云」

をとこ-へし (名) 男郎花 敗醬科ノ多年生草本ノ名。山野ニ自生シ、高サ四五尺、形、大サ、女郎花ニ似、莖葉共ニ、稍、大キク、下部ノ葉ハ、深ク三裂シ、或ハ、稍、羽狀ニ分裂ス。秋、白色小形ノ花ヲ、複繖花序ニ排列シテ開ク。嫩葉ハ食用トナル。オホッチ。ヲトコメシ。をみなへし(女郎花)ノ條ヲモ見ヨ。 重修本草綱目啓蒙、十一、隰草類「敗醬、云云、時珍說クトコロノ者ハ、白花ノ者ヲ指ス、卽男郎花ナリ、又南樓花ニ作ル」

をとこ-まさり (名) 男勝 女子ノ氣象ノ、ヲヲシクテ、男子ニモ勝レルコト。又、ソノモノ。女丈夫。 長町女腹切(正德、近松作)下「人ノ切ッタト我ガ切ッタハ、傷改メニアラハレテ、コナタノ詮議ムヅカシイ、急所ヲ教ヘテ、下サレト、男勝リノ自害ノ體、云云」

をとこ-まひ (名) 男舞 (男裝ノ舞ノ義) (一)昔、歌女ノ、男ノ裝ヒシテ舞ヒシ一種ノ舞ノ名。白水干ヲ着テ、立烏帽子ヲ被リ、白鞘卷ノ太刀ヲ佩キ、今樣歌ヲウタヒテ舞フ。附物ノ樂器ハ、笛、鼓(雅樂ノ三ノ鼓、猿樂ノ大鼓)ト銅拍子トナリ。鳥羽院ノ頃、藤原通憲入道、新侍シテ、島千歳、若前ト云フ二人ノ歌女ニ舞ハシメタルヲ始トス。(徒然草ニハ、磯禪師トス) 後ニ假初ノ宴ナドニテ、烏帽子、太刀(附物ナク)、水干、袴、ノミニテ、舞ヒ出デタルヲ、白拍子ト云フ。又、ソレヲ舞フ女ノ稱トモナレリ。(鳴物ナキ素拍子ナリ、能ノ仕舞(素舞)ノ類ナリ) 平家物語、一、妓王事「白拍子、云云、始メハ水干ニ立烏帽子、白鞘卷ヲサイテ舞ヒケレバ、男舞トゾ申シケル、然ルヲ中頃ヨリ烏帽子、刀ヲ除ケラレテ、水干バカリ用ヰタリ、サテコソ白拍子トハ名ヅケケレ」 (二)能ノ舞ノ一種。囃子ノ稍早キ舞ニテ、現在物ニテ、盛久、籠釣ナド、其他)ノ仕手男ノ、長絹、素袍、直衣、ナド着テ舞フ直面ノ舞ヲ云フ。囃子ニ太鼓ヲ用ヰズ、五段ニ舞フヲ正式トス。 (三)歌舞伎ニテ、男子ノ舞フ舞。(女舞ニ對ス) 歌舞伎事始、一「男舞、古代、笹尾新太夫、云云」

をとこ-みこ (名) 男御子 男ノ御子。ヲノコミコ。ヲトコミヤ。又、皇子。(女御子ニ對ス) 宇津保物語、[illegible]院、「をとこみこタチハ、ナ率テモノシ給ヒソ」

をとこ-みこ (名) 男神子 男ノカンナギ。覡。 梁塵秘抄、神社歌、東ニハ、女ハナキカ、をとこみこ、サレバヤ神ノ、男ニハツク」

をとこ-みや (名) 男宮 をとこみこ(男御子)ニ同ジ。 宇津保物語、藏開、上四十「をとこ宮タチニハ淺香ノ折敷、云云」

をとこ-みやうり (名) 男冥利 男ニ生レタル甲斐アルコト。男子ニ生レタル冥利。 博多小女郎波枕(享保、近松作)上、長者經[illegible]剃サン、詞遣ヘテ下サンスナエ、男冥利、商ヒ冥利、[illegible]ニツキタノカ」

をとこ-むすび (名) 男結 紐ナドノ結ビ方ノ名。卽チ、左右兩端ノ中、左ノ方ヲ右ノ方ノ上ニオキ、右ノ方ニテ輪ヲ作リ、左ノ端ヲ其輪ニ通シテ一回廻シテ再ビ輪ニ入レ、右ノ端ニ力ヲ込メテ引キ締ムル結ブモノ。モロムスビ。

をとこ-めかけ (名) 男妾 男ニシテ、婦人ニ抱ヘラレテ夜伽ヲナスモノ。 [illegible]「中[illegible](文化、一九、八編、下、男めかけノ口リアレガ、トウヂャイナ」

をとこ-もじ (名) 男文字 (一)「古ヘ、多ク男子ノミ使用セシ故ニ云フ」平假名ヲ、女文字ト云フニ對シテ、眞字、卽チ、漢字ノ稱。ヲトコデ。 土佐日記、正月廿日「(安倍仲麿ノ和歌)カノ國ノ人聞知ルマジクオボエタレド、事ノ心ヲ男もじニ狀ヲ書出シテ、云云、知ラセケレバ、云云、思ヒノ外ニナン愛デケル」 曾我會稽山(享保、近松作)一「中[illegible]ガ、男文字ニ和訓ヲ付ケ、テニハ巧ミニ讀ンダリケリ」 (二)男ノ書キタル文字。男子ノ筆蹟。ヲトコデ。

をとこ-やま (名) 男山 モト攝津國ノ池田ニテ釀シ出シタル酒ノ銘。

をとこ-やもめ (名) 男鰥鰥 男ノヒトリモノ。妻ノナキ男。ヲノコヤモ。ヤモヲ。やもを(鰥夫)、及、やもめ(寡婦)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。 天治字鏡、九「鰥、男也毛女」 槍權三重帷子(享保、近松作)下「男やもめノ蛆ワク住居、鳥ノ上ニモ嶽カレテ、云云」

をとこ-ゆ (名) 男湯 錢湯、溫泉、ナドニテ、男子ノ入浴スル湯。其女ノ入浴ス

ルヲ、をんなゆ(女湯)ト云フ。[illegible]一[illegible]中[illegible]ハ、[illegible]リ[illegible]ノ如ク、[illegible]ス、[illegible]男湯女湯ト並ビ有テ、此二ツノ入ロヲ、云云」

をとこ・らし・シキ・シケレ・シク・シク・シ(形、二) 男 〔女らしニ對ス〕(一)男トシテノ[illegible]、[illegible]アリ、男トシテフサハシキ状ナリ。ヲヲシ。(二)女ニモ拘ラズ、男ノ氣質ニ類ス。男子ニ類似ス。

をとこ・ゑ (名) 男繪 男ノ筆ヲカキタル繪。女ナルヲ、をんなゑ(女繪)ト云フ。榮花物語、八、根合「琵琶弾カセタマヒ、繪ナドイトメデタクカカセタマフ[illegible]ナド、繪師恥カシウカカセタマフ」

をどし (名) 縅 〔緒通しノ略、縅ハ絲威ノ合字〕ヲドスコト。鎧ノさね(甲裝)ヲ、絲、又ハ、革ニテ綴ルコト。又、ソノモノ。[illegible]緋縅、黒糸縅ノ鎧ニ、白星ノ冑ヲ著」「緋をどし」小櫻をどし」卯ノ花をどし」

をどしげ (名) 縅毛 其並ベタル状、毛ヲ伏セタルガ如キ故、毛ト云フ〕鎧ヲヲドシタル絲、又ハ、革。(絲毛、又ハ、毛トノミモ云フ。縅 甲縅 [illegible]十七、山門[illegible]ヘ共、[illegible]カラ[illegible]ハ、云云」

をど・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 縅 〔緒通すノ略、縅ハ絲威ノ合字〕源仲綱ノ歌「伊勢武者ハ、皆ひをどしノ、鎧着テ、宇治ノ網代ニ、懸リケル哉」(氷魚ニ言ヒ掛ケタリ)[illegible]、絲、又ハ、革ニテ綴ル。甲裝ヲ綴リテ鎧ヲ作ル。保元

[illegible]

をとつひ (名) 一昨日 〔遠之日ノ轉ト云フ〕又、をとつひ。昨日、前日、イツサクジツ。[illegible]萬葉集十七「山ノカヒ、ソコトモ見エズ、ヲトツ日モ、昨日モ今日モ、雪ノフレレバ」

をととし (名) 一昨年 〔遠年ノ轉ト云フ〕去年ノ去年。イッサクネン。前前年 [illegible]前年ノ、サキツ年ヨリ、今年マデ、戀フレドナゾモ、妹ニアヒガタキ」

をととひ (名) 一昨日 〔をとつひ(一昨日)ノ轉〕前前日ノ條ヲ見ヨ。[illegible]一昨日、ヲトトヒ」和泉式部日記「思フ事、ナクテ過グシシ、をととひヲ、昨日ト今日ニ、ナスヨシモガナ」

をとひめ (名) 少姫 〔乙姫ト書クハ非ナリ〕をとめ(少女)ニ同ジ。其條ノ(一)ヲ見ヨ。夫木抄、十八[illegible]リナキ雲ノ上ニ[illegible]リニ、見ツルカナ、天ツをとひめ、舞ノ姿ヲ」

をどみ (名) 沈澱 〔よどみ(淀)ノ轉〕よどみ(淀)ニ同ジ。出雲國造神賀詞「若水沼間能、彌若叡爾御若叡坐、須須伎振遠止美乃水乃」

をど・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 沈澱 〔よどむ(淀)ノ轉〕又、おどむ。よどむ おどむ(淀)ノ條ヲ見ヨ。

をとめ (名) 少女 〔小之女ノ轉、をとこ(男)ノ條ヲ見ヨ、或ハ云フ、小姫ノ義カト、乙女ト書クハ非ナリ〕(一)若キ女ノ未ダ人ノ妻トナラヌモノ。若ク盛リナル女。ムスメ。ヲトヒメ。(をとこニ對ス) 倭名抄、二「男女類 少女、乎止米」名義抄「少女、ヲトメ」神代紀、上「遇可美少女焉」注「少女、此云烏等咩」古事記、中「[illegible]大和ノ高佐士野ヲ、七行ク媛女ドモ」同、中(應神)「木幡ノ道ニ、遇ハシシ[illegible]」(二)[illegible]ノ[illegible]女。ムスメ。オホコムスメ。[illegible]萬葉集、十三「山ノ邊ノ、御井ヲ見ガテリ、神風ノ、伊勢ヲトメドモ、アヒ見ツルカモ」同、九[illegible]ニ出テ、玉藻刈ル、海ヲトメドモ[illegible]」

をとめ (名) [illegible] をとめ(少女)ニ同ジ。[illegible]ヤマトノ謡どめシテ、云云」

をとめ・こ (名) 少女子 ヲトメナル子。女ノ子。ヲトメ。少女 萬葉集、十二「劍刀[illegible]ハ、同ジココロニ、シバラクモ、止ムトキモナク、見ムトゾ思フ」永久四年百首「をとめ子ガ、雲ノ上ニモ、袖フレバ、日カゲニマガフ、霜ノ白菊」夫木抄、三十五「未通女 チルユキニ、ミトセハスギテ、をとめ子ノ、ソデノ色マス、モモシキノ庭」

をとめ・さび (名) 〔さびハさぶノ名詞形、さぶ(然)ノ條ヲ見ヨ〕少女ノヤウニフルマフコト。少女ブリスルコト。萬葉集、五「[illegible]少女ラガ、[illegible]佐備スト、[illegible]ニ卷カシ、白妙ノ、袖振リカハシ」琴歌譜、埴安扶理「ヲトメドモ、乎止女佐比須ト、カラ玉ヲ、袂ニ纏キテ、乎止女佐比須モ」夫木抄、廿八、[illegible]サス、日カゲノカツラ、チヨカケテ、をとめさびすモ、イハフココロカナ」

をとり (名) 囮媒鳥 〔招鳥ノ略、說文「囮、鳥者、[illegible]生鳥、以來之、名曰囮」〕(一)鳥ヲ繋ギ置キテ、他鳥ヲ誘ヒ捕フルニ用キルモノ。テテレ。ヨビドリ。媒鳥 倭名抄、十五「媒鳥、[illegible]」長門人、能招引野雉一者、乎度利」字鏡、四「[illegible]」[illegible]云、テテレトハ、トトリト云フ語ノ轉ゼシニ似タリ、云云、をとりトイフモノハ、招引之[illegible]ニ似タリ」(二)轉ジテ、他ノモノヲ誘ヒ寄スルタ

[illegible]

を・とり (名) 雄鳥 〔雌鳥ニ對ス〕ヲスノトリ。鳥ノヲス。音便ニ、をんどり。倭名抄、十八[illegible]「きぎすのをとり、河ギシノ、をとりをルべキ、所アラバ、[illegible]」

をどり (名) [illegible] (一)躍ルコト。[illegible]跳ヌルコト。(二)ひよめき(顖門)ニ同ジ。ヲドリコ。和漢三才圖會、十二、[illegible]「[illegible]」身體和名集「ヲトリコ、ヲドリ、ヲンドリ、顖門」(三)高利貸ナド、貸金ノ、利息ヲ二重ニトルコト。[illegible]、貸借期ヲ其月ノ廿五日トシテ、期日マデニ返済ノ能ハザル場合、ソノ月ノ利息一ヶ月分ヲ取リタル上、アトノ五日間ノ利息モ、一ヶ月分トシテ取ルコト。カカル場合ノ、利息ガをどるト云フ。

をどり (名) [illegible] 〔踊躍ノ語意〕舞ノ一種、[illegible]ニ合ハセテ、手振リ、足踏ミ鳴ラシ、[illegible]身振リシテ舞フモノ。踏舞 看聞御記、永享四年七月十六日「念佛[illegible]」[illegible]成錦[illegible]、四十五、[illegible]七月[illegible]合、おどり[illegible]、[illegible]おどりナトハ、[illegible]其外、四人[illegible]おどり[illegible]モノ[illegible]

をどり・かか・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 躍懸 躍リ上リテ、相手ヲ[illegible]。[illegible]ル [illegible]

をどり・くどき (名) 踊口說躍口說 クド

キノ一種。下ノ出典ヲ見ヨ。色道大鑑(延寶)八「踊口說、船歌トカハリ、上手下手サマザマアル事也、をどりのくどきト云フ事、昔トカハリ、中比ヨリハ、殊外、高上ニナリニタリ、コノくどきノ詞ニ、假道ヲ先ダテ、佛敎ヲシメシ、又、神道ヲアラハス詩歌ノ心ヲフクマセ、且、和漢ノ古事ヲ引出スコトオホカリ、詞サヘオボユレバ、誰モイフベキ事ナメレド、音聲、息繼、拍子合ニ、上手下手アリテ、品品ワカテリ」

をどり-こ (名) 踊子 (一)踊ヲスル少女。舞子。舞兒 又、をどりて。去來發句集、秋「踊子ヨ、翌ハ畑ノ、草拔カン」 (二)享保、元文ノ頃ヨリ、江戸兩國ノ橫山町橘町邊ニ、踊子全盛ナリ、コレ町娘ノ三絃歌舞ヲシテ、所所ニ呼バレ、果テハ情ヲ賣レルモノ。明和以後、町藝者トナル。(金曾木) 奴師勞之(大田南畝)「女藝者ノ事ヲ、昔ハをどり子ト云フ、明和安永ノ頃ヨリ藝者ト呼ビ、者ナドトシャレタリ」 嬉遊笑覽、五、歌舞「中村勘之丞ノ手舞ノ中ニ、テブリノヨキ事ヲエラビテ、ヱガホノおかつトイヒケル女ニ敎ヘテ、後ニ袖トメケレド、人ミナをどり子トゾ云ケル、おかつガ妹松野トイヒケル、其藝ヲ續ケリ」 (三)どぢゃう(泥鰌)ヲ云フ モト僧侶ノ隱語 (ヨク踊リ跳ヌル故ノ名ナルベシ)

をどり-こ (名) 顖會 (踊所ノ義) ひよめき(顖門)ニ同ジ。其條、及、をどり(踊、第一語)ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ。

をどりこ-さう (名) 續斷 又、ハミ。オニノヤガラ。路傍自生ノ脣形科ニ屬スル多年生草本。高サ一二尺、莖方形ニシテ、中空シ 葉ハ卵狀心臟形ニテ尖リ、鋸齒アリ、長柄ヲ有シ、對生ス。花期ハ三四月頃ナリ、花ハ脣形花冠ニシテ、葉腋ニ叢生シ、色ハ白、或ハ、帶紫色ナリ をどりごうトモ云フ。野芝麻

をどり-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 躍込 トビ上リテ、內ニ入ル。トビコム。

をどり-ごゑ (名) 踊聲 踊リヲ踊リナガラ謠フ聲。俳諧新選、秋「雲月ヤ、門ニ稚キ、踊リごゑ」

をどり-じ (名) 踊字 ゆすりじ(搖字)ノ條ヲ見ヨ。疊字 假名ナルヲ搖假名ト云フ。

をどり-つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 躍リ上リテ、相手ニ飛ビツク 今昔物語、廿九、第三十一語「今一丈許不ニ踊着ズシテ、虎、海ニ落入ヌ」

をどり-ねんブツ (名) 踊念佛 鼓、かね、ナドヲ打チテ、踊リナガラ念佛ヲ唱フルコト。くうやねんぶつしゅう(空也念佛宗)ノ條ヲ見ヨ。又、時宗ニテモスルナリ。老人雜話、乾「或人、一遍上人ヲ嘲テ云、踊念佛ヲナスハ、佛ノ踊躍歡喜ト云ヘル意ナルベシ、然レドモコレノミニテ、成佛イブカシト云、上人、和歌ヲ以テ答云、跳ネバハネ、踊ラバヲドレ、春駒ノ、法ノ道ニハ、早キバカリゾ」 世事百談、ほうさい念佛「寬永ヨリマヘカタ、ほうさいトイヘル僧アリテ、踊念佛ヲシケルガ、云云」

をどり-ば (名) 踊場 (一)踊ヲナス場所。俳諧新選、秋「踊場ニ、遣水ホシク、思ヒケリ」 (二)建築ノ語。階段ノ中途ニ設ケタル休ミ場「踊場足代」

をどり-やたい (名) 踊屋臺 祭禮ノ邌物ニ、屋臺ヲ曳キ、其上ニテ踊ヲ演ジツツ行クモノ。(東京) 古ヘ、江戸山王、神田ノ祭禮ノ附祭ノをどりやたいト云フアリ、其屋臺ノ上ニ、娘子供ノ手踊スルナリ、コレニ伴フ三絃、笛、太鼓等ノ囃子ハ、別ニ底ナキ屋臺ヲ昇カセ、其內ニ入リ、歩リキナガラ奏シツツ行ク。コレヲ底拔屋臺ト云フ。我衣「元祿ノ頃ヨリ、云云、一間ニ九尺程ニ床ヲ作リ、手摺高欄ヲ付テ、ソノ內ニ人形ヲ二ツ、或ハ三ツスヱテ、裾ニ幕ヲ張リ、幕ノ內ニ、鐘、太鼓、笛等ノ鳴物ヲ入テ、ハヤス」 守貞漫稿、二十四、夏冬「六月十五日、江戸山王祭禮、云云、踊屋臺ト云ハ、云云、破風屋根、或ハ、雨障子屋根ニ、四柱廻リニ欄アリ、四面ニ棧ヲ組ミ肩昇也、正面ニ、踊リ子ト云テ、女子ヲ芝居ノ扮ニ仕立、腰ヲ掛ケ、上覽場、其他然ルベキ所ニテ狂言ス」

をど・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 踊躍跳 (一)〔足ヲ擧ゲテ跳ヌ。飛ビアガル。ヲツク。名義抄「躍、ヲトル、跳、ヲトル、踊、ヲトル」 字鏡、十「踏、足而踊、乎止留」「蹈、乎止留」 萬葉集、五 四十 長歌「靈剋、命絕エヌレ、立乎杼利、足ズリサケビ」 (二)〔身ヲ擧ゲテ上ル。詩經、大雅、文王之什、旱麓篇「魚躍于淵」 神代紀、上 四十「小男、云云、則跳躍ニ其頰」 (三)動キ起ツ。「心をどる」 (四)踊ヲナス。踏舞 狂言記、水論聟「雨乞ニハ踊ノ踊ラウ、云云、若イ者共ガ、踊らうト云ウテ、踊ノ稽古スルヤラ」 (五)利息、二重ニトル。をどり(踊、第一語)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。 (六)アシズリシテ歎ク。

をどろん (名) 踊 〔をどらうノ音便轉〕 又、をんどれ。よぢらうにんぎゃう(與次郎人形)ニ同ジ。

をど-をど (副) おどおどノ轉。

をとをとし (名) 赤箭 〔しハしじ(羊蹄菜)カ、獨莖ニテ大枝葉ナシ〕 草ノ名。かみのや(赤箭)ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、廿六 草類「赤箭、乎止乎止之、加美乃夜加良」(加良ハ衍字) 本草和名、上 十「赤箭、云云、一名、鬼督郵、云云、一名、鬼箭、乎止乎止之、加美乃也」

をなが (名) 尾長 金魚ノ一種。尾ノ長キモノ。きんぎょ(金魚)ノ條ヲ見ヨ。

をなが-ざる (名) 尾長猿 猿ノ類。亞細亞洲、亞非利加洲、又、亞米利加洲、ニモ產ズ。性、強悍ニシテ、丈高キハ二三尺ニ至リ、色、黃褐ニシテ、尾ハ身ヨリ長クシテ、力有ルト無キトアリ、種類多シ。果然 重修本草綱目啓蒙、三十五、寓類怪類「果然、オナガザル、トウザル、云云、形ハ猴ニ同ジクシテ黑褐色、尾ハ身ヨリ長クシテ、端ニ岐アリ、云云」

をなが-どり (名) 尾長鳥 (一)雞ノ一種ニテ、雄ノ尾ノ甚ダ長キモノ。ながをどり(長尾鶏)ノ條ヲ見ヨ。 (二)ふうてう(鳳鳥)ノ條ヲ見ヨ。運歩色葉集「尾長鳥、ヲナガドリ」 爲忠集「飛ビカフニ、障ルヤツラキ、尾ながどり、シダキテ折ルル、松ノ上枝」

をなご (名) 女子 〔をんなごノ略〕 (一)女ノ子。女ノ子供。メノワラハ。女兒。 (二)ヲンナ。婦人。女性。狂言記、法師物狂「をなごノ事ヂヤ程ニ、マダ程遠ウハ行クマイ、急イデ追ッカキャス」 (三)下女ノ稱。下婢。

をなご-だて (名) 女俠 女ノ俠客。をとこだて(男達)ノ條ヲモ見ヨ。好色一代男(貞享、西鶴)七「高島屋ノをなごニ呼ビカケラレテ、云云、御方カラト名モナキ文一ツ」

を-なみ (名) 男波 〔女浪ニ對ス〕 波ノ打寄スルニ、一度ハ高シ、コレヲをなみト云フ。女波ノ條ヲ併セ見ヨ。體源抄「昔岐伯黃帝ニ、波聲、造、鼓、右桴音高、比之男波ハ左桴音低、比之女波」 行宗集「鴨鳥ノ、群レヰテ騷グ、入江ニハ、オノガ羽風ニ、をなみ立ツラシ」

をなめ (名) 妾 〔をむなめノ略〕 をむなめ(妾)ノ條ヲ見ヨ。欽明紀、廿三年七月「何

變ニ女、以敢、禍乎、如何不過命也、[illegible]衰」

をなめ (名)〔牝牛〕めうし(牝牛)ノ方言。(伊豆綱代、下田以西、出雲飯梨地方)

をなもみ (名) なもみノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

をぬ (名)〔小野〕をの(小野)ト云フニ同ジ。古事記、中(景行)五十「サネサシ、相摸ノ小野ニ、燃ユル火ノ、ホ中ニ立チテ、トヒシ君ハモ」

をねぢ (名)〔男螺旋・牡螺旋〕ねぢ(螺旋)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。(女螺旋ニ對ス)

をねづたひ (名)〔峯嶺傳〕山ノをね、即チ、山脈ヲ傳ヘ行クコト。さんみゃく(山脈)ノ條ヲ見ヨ。

をの (名)〔斧〕木ヲ伐ル具。鉞ニ似テ小サシ。ヨキ。倭名抄、十五六工匠具「斧、乎能、一云、與岐」天治字鏡、十二十三「斧、乎乃」雄略紀、十三年九月「揮、斧鬪、材」萬葉集、十四廿一「佐野山ニ、打ツヤ乎能音ノ、遠カドモ、ネモトカ子ロガ、面ニ見エツル」斧を入るトハ、斧ノ手ワザヲ森林ニ施ス義ニテ、材木ヲ伐ル意。

をの (名)〔小野〕〔をハ發語〕又、をぬ。の(野)ト云フニ同ジ。(歌詞ニ) 古今集、十一、戀、一「淺茅生ノ、小野ノ篠原、忍ブトモ、人知ルラメヤ、云フ人ナシニ」

をのこ (名)〔男子〕〔男の子ノ義、女の子ニ對ス〕(一)男。ヲトコ。ナンシ。ダンシ。男性。倭名抄、二十二男女類「男、乎乃古」名義抄「男、ヲノコ、ヲ」神代紀、上四「吾是男子、理當ニ先唱ニ」萬葉集、六廿「士ヤモ、ムナシカルベキ、萬ツ代ニ、語リ繼グベキ、名ハ立タズシテ」(略解ノ訓) (二)男ノ子。ムスコ。源、廿二、玉鬘七「ムスメドモモをのこドモモ、所ニツケタルヨスガドモ出デ來テ」(三)奉公スル男。下男。郎從。源、四、夕顔六「コノ宿守リナルをのこヲヨビテ、問ヒ聞ク」「舍人をのこ」雜色をのこ」(四)人名ノドニ附ケテ呼ブ語。(日下ノ者ニ云フ) 徒然草、第百八十四段「縫ハリテ、某男ニ張ラセ候ハン、サヤウノ事ニ心得タル者ニ候」

をのこかんなぎ (名)〔覡〕男ノカンナギ。ヲトコミコ。ヲカンナギ。かみなぎ(巫)ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、二五十乞盜類「覡、乎乃古加牟奈岐、男祝也」

をのこご (名)〔男子子〕(一)男ノ子。神代紀、上三十「如有清心、者、必當生男矣」(二)ヲトコ。男子。男性。源、廿一、少女五十「をのこごニハ、ウチトクマジキモノナリ」

をのこはらから (名)〔男同胞〕男ノ兄弟。源、廿一、少女四十「心ニマカセテモ、エ見侍ラジ、をのこはらからトテ、近クモヨセ侍ラネバ」

をのこやもめ (名)〔鰥〕〔をのこやもめノ略〕をとこやもめ(鰥)ノ條ヲ見ヨ。ヤモヲ。靈異記、中、第十六緣、訓釋「鰥、乎乃古夜母」

をのゝえ (名)〔斧柄〕斧ニツケタル柄。柯 (次條ノ語ヲ參見セヨ) 倭名抄、十五六工匠具「柯、乎乃乃江、一云、布流、斧柄名也」

をのゝえくつ (句)〔斧柄朽〕〔晉ノ王質、山中ニテ仙童ノ碁ヲ圍ムヲ見、歲月久シキニ渉リテ、遂ニ其攜フル斧ノ柄、朽チタリト云フ故事ニ因ル〕暫時ト思フ間ニ、年月ノ久シク經過スル意、又ハ、年月ノ久シクナル意ニ用キル。(爛柯ノ條ヲ見ヨ) 續古今集、廿、賀「君ガ代ハ、斧の柄朽ちシ、山人ノ、千度カヘラン、時モカハラジ」

をのゝく (自動、四)〔戰慄・戰栗〕〔わなゝくノ轉〕恐レテ震フ。ブルブルフルフ。ワナナク。名義抄「慄、ヲノノク、懾、ヲノノク、戰、ヲノノク、ワナナク、フルフ」天治字鏡、十二「懾、懼也、伏也、乎乃乃久」[illegible]

をのへ (名)〔尾上〕〔峯の上ノ略〕山ノ高キ處。山ノ峯。山ノイタダキ。山上。山巓。山頂。萬葉集、十九十「今日ノ爲ト、思ヒテシメシ、足ビキノ、峯上ノ櫻、カク咲キニケリ」催馬樂、高砂「乎乃戸ニ立テル、シラタマツバキ」

をのりう (名)〔小野流〕(一)佛教ノ語。古義眞言宗ノ一派。弘法四世ノ法孫、聖寶ヲ始祖トシ、聖寶六世ノ孫、仁海ガ、京都、醍醐ノ小野ニ於テ弘メタルモノ。一ニ小野密派。元亨釋書、三、醍醐寺仁海傳「醍醐之側小野之地、海營密壇之席、四衆受業之者多、世稱ニ小野密派ニ」(二)劍術ノ一派。小野二郎右衛門忠常(徳川幕府、旗本、寛文五年十二月七日歿)ヲ祖トス。武術流祖錄、刀術「小野流、小野二郎右衛門忠常」

をのわらは (名)〔男童〕〔女童ニ對ス〕(一)男子ノ童。男ノ子供。ヲノワラハベ。土佐日記、正月廿二日「年ココノツバカリナルをのわらは、年ヨリハ、ヲサナクゾアル」(二)側使ヒノ男子。宇津保物語、田鶴村鳥廿七「ヲノコノヤモメニテ、をのわらは使ヒテ居給ヘリ」

をのをれかんば (名)〔斧折樺〕山地ニ自生スル樺木科ノ落葉喬木。高サ三丈ヨリ五丈ニ達ス。葉ハ廣卵形ニシテ尖リ、鋸齒アリ、五月頃、黃褐色ノ穗狀ノ單性花ヲ開ク。實ハ十月頃、二寸餘ノ穗ヲナシテ成熟ス。樹皮ハ帶綠楮黑色ニシテ厚ク、老樹ハこるく層ヲナス。日光、會津、等ノ山中ニアリ、材、甚ダ堅クシテ、斧モ折ルルバカリナリトテ名アリ。[illegible]、ナドトス。略シテ、を[illegible]ニテ、[illegible]ミネバリ。

をは (名)〔尾羽〕鳥ノ尾ト、羽ト。(次次條ノ語ヲ參見セヨ) 萬葉集、十七「打[illegible]」[illegible]

をば (名)〔伯母・叔母〕〔小母ノ略轉、伯母ハ年上ノをば、叔母ハ年下ノをば〕(一)支那ニテハ、父ノ兄ノ妻ヲ伯母、父ノ弟ノ妻ヲ叔母ト云ヘリ。爾雅、釋親篇「父之兄妻爲ニ世母、父之弟妻爲ニ叔母」安齋隨筆、十六「伯母、叔母、同上(事實、今昔)ニ曰ク、父之兄妻爲ニ伯母、父之弟妻爲ニ叔母」(二)父ノ姉妹(伯母、姑姉)、叔母(姑妹)。又、母ノ姉妹ヲモ云フ。(從母、姨) ヲバコ。はくぼ(伯母)、及、しゅくぼ(叔母)ノ條ヲモ見ヨ。倭名抄、二十父母類「伯母、乎波、父之姉也、叔母、和名同上、父之姉妹爲ニ姑」靈異記、中、第三十二緣、訓釋「姑、乎波」堤中納言物語、花櫻折る少將「人ノ御文傳フル事ダニ、伯母上イミジク言フモノヲ」

をはうちからす (句)〔尾羽打枯〕〔セト[illegible]、鷹ノ尾羽ヨリ出デタル語〕浪人ナドノ零落シテ、賤シキ姿トナリタルニ喩ヘタル語。最明寺殿百人上臈(元祿、近松作)下、をの木「身ハスミ染ノスミ衣、サナガラ雪ノ一フデガラス、をはうちかれし修行ノ旅」

をばこ (名)〔叔母子〕をば(叔母)ト云フニ同ジ。

をばご (名)〔伯母御〕をば(伯母)ノ尊稱。ヲバギミ。狂言記、伯母酒「コチノ伯母御ノヤウナ吝イ人ハゴザルマイ」

をはし (名)〔小橋〕チヒサキ橋。コバシ。景行紀、十八年七月、朝倉ノ、御木ノサ烏歷志、マヘツ臣、イ渡ラスモ、御木ノサ烏歷志」

をばしら (名) 男柱 (一)をとばしら(男柱)ニ同ジ。(二)橋ノ左右ノ邊ニアル大ナル齒。ホトリバ。ヲトコバシラ。 神代紀、上「伊弉諾尊不聽、陰取湯津爪櫛、牽折其雄柱以爲秉炬而見之者、云云」

をばしり (名) 蹻 又、をはしり 足ヲ小股ニシテ走ルコト。又、ソノ急ギ足。 字鏡「蹻、踦也、躡也、乎波志利」

をはせ (名) 玉莖 (はせ(玉莖)ノ條ヲ見ヨ) 又、をはせ。男子ノ陰部。マラ。陽物。陰莖。男莖。玉根。

をはせがた (名) 男莖形 ハリカタ。をはせノ形ニ似セテ作レルモノ。はりかた(張形)ノ條、及、はせ(玉莖)ノ條ヲモ見ヨ。 古語拾遺「以牛宍置溝口、作男莖形以加之」

をばぢゃひと (名) 小母人 (をばといふひとノ約略、親愛ノ意ヲ含ム) 小母ノ敬稱。 狂言記、伯母酒「扨モ扨モ伯母ぢゃ人ノ自慢メサルル通リヂャ」 心中天網島(寶永、近松作)上「舅ハ伯母聟、姑ハ伯母ぢゃ人、親同然」

をばな (名) 尾花 (穗ニ出デタル狀、獸ノ尾ニ似タレバ云フ) 又、袖波草。薄ノ花。芒花。 萬葉集、廿十「タカマトノ、乎婆奈フキコス、秋風ニ、ヒモトキアケナ、タダナラズトモ」 同、八、旋頭歌「芽子ノ花、乎花、葛花、ナデシコノ花、ヲミナヘシ、又藤バカマ、朝貌ノ花」 後紀、十七、大同三年九月「イカニ吹ク、風ニアレバカ、オホシマノ、乎波奈ノ末ヲ、フキムスビタル」 後撰集、七、秋、下「誰聞ケト、ナク雁ガネゾ、我ガ宿ノ、尾花ガ末ヲ、過ギガテニシテ」

をばなあしげ (名) 尾花葦毛 馬ノ毛色ノ名。あしのはなげ(葦花毛)ニ同ジ。 [illegible]「秋、駒ノ中ニ、尾花あしげノ、見ユルカニ、秋夜ノ駒ヲ、引ニヤアルラン」

をばないろ (名) 尾花色 枯尾花ノ如キ色。白ニ薄黑キ色ヲ帶ビタルモノ。 宇津保物語、菊宴六十「尾花色ノ強飯ナドマキル程ニ、雁鳴キテ渡ル」

をばなのかゆ (名) 尾花粥 (尾花色ノ粥ノ意、榮花物語ニ、尾花色ノ強飯ト云ヘリ、又、宇津保物語、菊宴六十ニ「をばな色ノ強飯ナドマキル」ト見エタリ) 又、をばながゆ。尾花色ノ粥。古ヘ、禁中ニテ、疫癘ヲ除クマジナヒニ、八朔ニ用ヰシモノナリト云フ。古クハ、薄ノ黑燒ニシタルモノヲ、粥ニ入レタリト云フ。後ニハ、黑燒ニシ、或ハ、米ノ粉ヲ黑胡麻ニ煉リ交ゼ用ヰシトゾ。 海人藻芥、中「八月朔日、小花粥、内裏仙洞以下、令用給、良藥ト云云、改粥調法、薄ヲ黑燒ニシテ、粥ニ入合ス也」 風呂記、八月一日「尾花粥ト云事ハ、ライレキ有テ、七月廿七日ノ諏訪ノミサ山ノ神事ノ時、尾花ヲ取テ置テ、其ヲ黑ヤキニシテ認ルナリ」 [illegible]供御調進次第、八月朔日「おばなの御かゆ、米ヲヒキワリテコシラユル也、大小ノ御ハチニ九分メ程二ツ參ル也、おばなヲクロヤキニシテ、御カユノ中ヘイテ、ヨクマゼテ、ウスミソ色ニシテ參ル也」

をばなり (名) 小放 (をハ發語、はなりハうなゐはなりノ略) 古ヘノ女兒ノ髮風。はなり(放)ニ同ジ。うなゐ(髫)ノ條ヲ見ヨ。 萬葉集、九、長歌「葦屋ノ、ウナヒ處女ガ、八歳兒ノ、片ナリノ時ユ、小放ニ、髮タクマデニ、ナラビヲル」(略解ノ訓)

をはばり (名) 尾羽振 (芒端ノ闊リ張リタル義ト云フ) 劍製ノ太刀。即チ、諸刃ニテ、鋒ノ方ノ張リタル劍。(鋒ノ尖リタル[illegible]) 古事記、上「故所拔之刀名、謂天之尾羽張」

をばむこ (名) 小母壻 父ノ姉妹ノ壻。小母ノ夫。姑夫 又、母方ナルニモ云フ。姨夫。 [illegible]、云云」

をはんぬ (句) 畢 (をはりぬ(畢)ノ音便) ヲハリタリ。シマヘタリ。 神代紀、上「[illegible]」 宇津保物語、俊蔭「千人ノ首[illegible]ノウナシキニヨリテ、汝ガ命ヲユルシをはんぬ」 [illegible]布本) 吾妻鏡、三十四、仁治二年九月三日「奈古又太郎[illegible]、早可申入之[illegible]」

をばやし (名) 小林 (をハ接頭語) はやし(林)ト云フニ同ジ。 皇極紀、三年六月「烏麼野始ニ、吾レヲ引入テ、セシ人ノ、面モ知ラズ、家モ知ラズモ」

をはり (名) 終畢 (一)ヲハルコト。スエ。ハテ。シマヒ。 名義抄「季、ヲハリ、スエ」 新六帖、一「クレハテヌ、年ノをはりニ、[illegible]テ、サダメカネタル、ワガヨハヒカナ」 (二)死ヌルコト。終焉 宇治拾遺、四、第六條「イミジク終リトリテコソ、ウセニケレ」「をはりノ烟」

をはりだいこん (名) 尾張大根 尾張國ノ諸郡ニ出ヅル大根ノ、甚ダ大ナルモノノ稱。同國、西春日井郡、春日村ノ字宮重ノ産、殊ニ美味ナリ、因リテ宮重大根ノ名アリ。最モ大ナルモノハ、海部郡、甚目寺町、字方領ノ産ニシテ、方領大根ノ名アリ。ヲハリダイコ。 芭蕉句集、冬「三十里、尾張大根ノ、話カナ」

をはりはつもの (名) 終初物 ヲンザノハツモノ。其期節ノ最終ノ果物ナドヲ、初物ノ如ク貴ブコト。又、ソノモノ。

をはる ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 終畢了卒竟 (尾ヲ活用ス) (一)限リトナル。至ク末ニ至ル。果ツ。濟ム。シマフ。 名義抄「迄、ヲハル、畢、ヲハル、竟、ヲハル、訖、ヲハル、終、ヲハル、了、ヲハル」 大學「未有好義其事不終者也」 史記、孔子世家「[illegible]」 [illegible]感傳「官事未易了也」 萬葉集、廿十長歌「アリメグリ、事シ乎波良バ、ツツマハズ、歸リ來マセト、イハヒベヲ、床邊ニスヱテ」 崇峻紀、二年五月「[illegible]」 (二)死ヌ。ミマカル。終焉 [illegible]記、[illegible]、上「君子曰終、小人曰死」

をひ (名) 甥 (男生ノ略カト云フ) 兄弟、姉妹ノ生メル男ノ子。めひ、姪ニ對ス。姪 倭名抄、二「兄弟之子[illegible]甥、乎比」 名義抄「姪、ヲヒ、メヒ」 字鏡「甥、乎比」 成務紀、四十八年三月「[illegible]」

をびく ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 誘 (招き引く、ノ義) 欺キテ、ソソノカシ出ス。スビク。ダマシサソフ。 長門本、平家物語、[illegible]、師高ヲをびき出シテ、[illegible]べキ由ヲ、支度シタリケル」

をひご (名) 甥御 をひ(甥)ノ敬稱。 狂言記、おんくゎい「イヤ、急グホドニ早コレヂャ、モノモ[illegible]、内ニオヂャルカ」

をひぢは (名) ひぢはノ條ヲ見ヨ。

をひと (名) 夫 (夫人ノ義) をっと(夫)ト云フニ同ジ。ヲウト。ヲット。良人。 [illegible]紀、四十[illegible]月「[illegible]、夫婦之道、古今[illegible]」

をひとめ (名) 夫婦 メヲト。フウフ。 [illegible]「[illegible]夫、倍云乎比止[illegible]也」

をひのくつ (名) 烏皮沓 黑キ皮沓。 [illegible] 前條ノ語ヲ見ヨ。

をひも (名) 雄紐 (雌紐ニ對ス) いれ

ハ、ヒも(八紐)ノ條ヲ見ヨ。

をひも (名) 小紐 したひも(下紐)ニ同ジ。古事記、中(仁德)[illegible]

をひれ (名) 尾鰭 魚ノ尾ト、鰭ト。又、[illegible]ニアル鰭。をひれをつける トハ、事實以外ニ、種種ノ事ヲ添ヘ加フル[illegible]ヲツケル[illegible](元祿、近松作)衣裳合狀「夜ハシラシラト、七ツダウグ、アケ六ツ、五ツ五代ノ北條家、四ツ世ノ中、三ツウロコ、[illegible]ひれをつけテゾリタリケル」

をふ (名) 麻生 麻ノ生ヒタル地。[illegible]集、十二「サクラヲノ、麻原ノ下草、早ク生ヒバ、妹ガシタヒモ、トカザラマシヲ」

をふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(自動、下二) 終畢 [illegible]二同シ。[illegible]天地ト、共ニ終ヘント、思ヒツツ、ツカヘマツリシ、心タガヒヌ[illegible]行キメグリ、ウヤマヒマツリ、我ガ世ハ平間ム、コノ世ハ平間ム[illegible]」

をふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 終畢 卒[illegible] (一)極メ盡ス。果ス。遂グ。濟マス。成ス。ヲヘル。[illegible]ヲフ」[illegible]時月立ナ、春ノ來タラハ、カクシコソ、梅ヲ招リツツ、樂シキ平信メ」[illegible]十九、[illegible]内ノ、樂シキ終バ、梅ノ花、手折リヲキツツ、遊ブニアルベシ」(略解ノ訓) 祈年祭祝詞「皇御孫命ノウヅノ[illegible]ヘマツニクトイル」[illegible]重二大后ハ故不ヽ覺」(二)シマヒマデ、シトグ[illegible]

をぶくろ (名) 尾袋 唐鞍ノ具。馬ノ尾ヲ包ムニ用ヰル長キ布袋。尾筒。馬尾[illegible]雜、馬の尾袋之寸法「布フタノヌイ合テ、尾サキヲマルムルヤウニヌフベシ、オノ下ハ長サ一尺八寸ニシテ、ククリヲ入ルルヤウニヌフテ、云云」

をふさ (名) 緒總 玉佩ノ下ニ垂ル飾アル緒。綬 おんもの(佩)ノ條、參見。

をぶさ (名) 〔尾房ノ義〕 鳥ノ尾ノ名ド[illegible]倭名抄、十八[illegible]手不從、[illegible]ル[illegible]ニ、[illegible]ハシ[illegible]をぶさノ[illegible]ハカリミテ」

をふし (名) 小柴 〔ふし(柴)ノ條ヲ見ヨ〕 をしば(小柴)ニ同ジ。夫木抄、十五、作「片岡ノ、をふしマジリニ、生ヒ茂ル、ハハソノ小[illegible]初モミチセリ」

をぶし (名) 雄節 〔めぶし(雌節)ニ對ス〕 ほんぶし(本節)ニ同ジ。

をぶち (名) 小斑 〔をハ發語〕 ぶち(斑)ト云フニ同ジ。後拾遺集、十八、雜[illegible]斑ノ駒モ、野ガフニハ、荒レコソ增レ、懷ク物カハ」

をぶつ (名) 汙物 汚物 ケガレタルモノ。キタナキモノ。不潔ナルモノ。

をふと (名) 夫 〔をひと(夫)ノ轉〕 ヲットト[illegible] 良人。倭名抄、二[illegible]「夫、乎布度」

をぶと (名) 緒太 次條ノ語ノ略。

をぶとざうり (名) 緒太草履 鼻緒ノ太キ繭ニテ造リタル草履。略シテ、をぶと[illegible]

をぶね (名) 小舟 一葉 チヒサキ舟。コブネ。倭名抄、十一[illegible]古事記、下(仁德)「ナキベニハ、[illegible]ラク、クロザヤノ、マサヅコワギモ、國ヘクダラス」[illegible]十九「長歌「フセノ海ニ、小船ツラナメ、眞楫カケ」

をへな・い (形) 〔をヘハ終ヘナリ〕 (一)スルコト能ハズ。「始末ニをへない」 (二)事、失策ノヤウナリ。(伊豆、富戸)

を・へる (動) 終 をふ(終、他動)ノ口語。

をぼこ (名) おぼこノ條ヲ見ヨ。

をほ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) 〔終ふるノ他動、終へすノ轉ニテ、下二段ニ變ズ〕 終フル。全ウス。遂グ。完[illegible]紫式部日記[illegible]事「サテハ敵ナリト見課セテ、馳歸リケルガ、云云」 此語、熟語ニ用ヰタルモノ多シ。「爲をほす、[illegible]をほす」

をほそ (名) 鰯 〔尾細ノ義カ〕 いわし[illegible]ノ婦人[illegible]。又、おほそ。[illegible]

をぼね (名) 尾骨 馬ノ尾ノ根。倭名抄、十一[illegible]

をま (名) 牡馬 ヲトコノ馬。をうま。倭名抄、十一[illegible]

をまき (名) 緒卷 (一)ちきり(縢)ニ同ジ。[illegible]

をまく (名) 男幕 〔女幕ニ對ス〕 男[illegible]ノ縫樣ハ伏縫ナリ、乳付ノ幅上ヲ、一寸二分[illegible]、左右ノ端モ、一寸宛折[illegible]シト。まく(幕)、及、めまく(女幕)ノ條ヲモ見ヨ。

をまつ (名) 雄松 〔雌松ニ對ス〕 クロマツ。まつ(松)ノ條ヲ見ヨ。狂言記、萩大名「アレハを松デゴザリマスル」 好色五人女(貞享、[illegible]雄アリ、雄ナル者ハ、皮ノ色黑シ、故ニクロマツト呼ブ、[illegible]云云」

をみ (名) 小忌小齋 〔をいみノ略〕 (一)[illegible]大嘗[illegible]ノ時ニスル齋戒。其小忌ノ役ヲ勤ムルモノヲ、小忌の人ト云ヒ、其男子ヲ、小忌の公達ト云フ。卽チ、小忌の人ハ、小忌衣ヲ着ケテ、特ニ齋戒ヲ嚴重ニシテ、神膳ナドニ奉仕ス。其齋戒ヲ嚴重ニセズ、小忌衣ヲ着ケザルヲ、大忌ト云フ。おほみ(大忌)、及、あらいみ(荒忌)ノ條ヲモ見ヨ。西宮記、十一、新嘗會「小忌、王卿以下著二青摺布袍[illegible]云云、[illegible]小忌衣ヲ著タ人ノ[illegible]五、第四十六段「ナマメカシキモノ、云云、火トリノワラハ、小忌の公達モ、イトナマメカシ」[illegible]

例裡也、不着二小忌一、謂二之大忌一、對二小忌一之稱歟」大嘗會儀式具釋、六「大忌トハ齋戒スル諸司ノ中、嚴密ニ齋戒スルヲ小齋ト云、訓ヲ借テ小忌トモカク、大抵ニ齋戒スルヲ大齋ト云、訓ヲ借テ大忌トモカク、然ルヲ衣服ノ名ト心得テ、小忌ト大忌ハ、身幅ヲ以、差別スルナドト云ル說アルハ誤ナリ、云云、昔、大嘗、新嘗等ノ時ハ、トヲ以テ小忌ノ人ヲ定メラル、トニ合ザル人ハ皆大忌ナリ」「をみノ夜」をみノ衣」をみ人」（二）〔次次條ノ語ノ略〕源、四十、幻「五節ナトイヒテ、云云、御叔父ノ頭中將、藏人少將ナド、小忌ニテ、青摺ノ姿ドモ、淸ゲニメヤスクテ、云云」裝束抄、下、小忌「小忌ト云ハ、神事ノ衣服也、白布ヲ張テ、山藍ト云草ニテ形木ヲ摺シ物也、云云、何レモ山藍ニテ摺シ物ナレド、臨時祭ノ舞人ノ着スルヲバ、靑摺ト名付、大嘗會ノ時ハ、小忌ト云、小忌、靑摺ハ同事ナレド、裁縫ノヤウ替レリト云」

をみ（名）〔麻績〕〔をうみ（麻績）ノ略〕麻ヲ績ムコト。

をみごろも（名）〔小忌衣〕小忌ニ用ヰル服。袍ノ上ニ着ル。白布ノ靑摺ニテ、製、狩衣ノ如ク、右ノ肩ニ、二條ノ赤紐ヲツケ、袖ノ中央ニ紙縒ヲ垂ル。豐明節會ニモ用ヰル。又、白麻ニ山藍ニテ、花、鳥、蝶ナドノ模樣ヲ摺リツケ、肩ニ赤紐ヲ垂レカケ、冠ニ日蔭蔓ヲツクルナリ。其衣ノ丈、腰マデニテ、袖ハ一幅ナリ。大嘗祭、豐明節會ナドニ、祭官、又ハ、女官、舞妓ナド用ヰル。アヲズリノコロモ。前前條ノ語ノ（二）ヲモ見ヨ。名目抄、雜物「小忌、又號二靑摺一」金葉集、九、雜「源頼家ガモノ申ケル人ノ、五節ニ出テ侍リケルヲ聞テ、マコトニヤ、アマタカサネシ、をみ衣、トヨノアカリノ、クモリナキ世ニ、トヨミテ遣シタリケレバ、返シニヨメル、日影ニハ、ナキ名立ケリ、をみ衣、キテ見ヨトコソ、イフベカリケレ」公任集「をみ衣、袂ニキツツ、石淸水、心ヲナベテ、クマズモアラナン」

をみな（名）〔女〕〔をみハ小身ノ義、なハ大人ノなノ如シト云フ〕女。音便ニ、ヲウナ。ヲンナ。字鏡、廿五「娃、宇豆久志乎美奈、女、乎美奈」天治字鏡、三廿二「姐、美女曰、宇□久志支乎美奈、姐、乎美奈」靈異記、下、第三十九緣、訓釋「嫗、遠三奈」古事記、下（雄略）三十「アグラヰノ、神ノミテモチ、ヒクコトニ、舞スル女美那、トコヨニモガモ」萬葉集、廿十「秋野ニハ、今コソ行カメ、モノノフノ、乎等古乎美奈ノ、花ニホヒ見ニ」

をみながみ（名）〔女神〕紙ニテ人形ヲ作リテ晴ヲ祈ルモノト云フ。照照坊主ノ類。蜻蛉日記、下、下七「斯ル雨ニ、云云、をみな神ニハ、衣縫ヒテ奉ルコソヨカナレ、云云、イデ試ミンカシトテ、雛ノ衣三ツ縫ヒタリ」草縁集「をみな神、祈リシ竹ノ、雛衣、晴ルベクナリヌ、五月雨ノ空」

をみなご（名）〔女子〕女ノ子。女兒。雄略紀、元年三月「與二一夜一而脈、遂生二女子一云云」

をみなへし（名）〔女郎花〕（一）〔花ノ色、美女ヲモ壓ス意カト云フ、イカガ、此草、水中ニ插スコト二三日スレバ、液出デ、異臭アリ、醬ノ腐レルガ如シ、故ニ漢名ニ敗醬ノ名アリ〕又、チメグサ。敗醬科ノ多年生草本ノ名。山野ニ自生シ、春、舊根ヨリ生ズ。莖、圓ク、高サ三四尺、葉ハ羽狀複葉ニシテ對生シ、恰モ菊ノ葉ニ似テ、岐、深ク、毛アリ。夏秋ノ間ニ、花、枝ノ梢ニ簇リ生ズ。蕾ハ粟粒ノ如ク、深黃色ナリ、開ケバ、五出ニシテ、色淡クナル。今、訛シテ、をみなめし。秋ノ七草ノ一トス。〔敗醬〕又、相似テ、白花ナルモノヲ、男郎花、又、をとこめしト云フ。古名、オホツチ。オホトチ。倭名抄、廿、草類「女郎花、乎美那閉之」萬葉集、四四十三「娘子部四、咲澤ニ生フル、花カツミ、カツテモ知ラヌ、戀モスルカモ」同、廿十一「乎美奈弊之、秋萩シヌキ、小牡鹿ノ、露ワケ鳴カム、高圓ノ野ゾ」同、八、廿六旋頭歌「芽之花、乎花葛花、瞿麥之花、姫部志、又藤袴、朝貌之花」（二）又、をみなへし。襲ノ色目ノ名。表ハ經靑、緯黃ニシテ、裏ノ靑ナルモノ。七八月頃ニ着用ス。源、廿八、野分「紫苑ナデシコノ濃キウスキ袙ドモニ、をみなへしノカザミナド、云云」雅亮裝束抄、三「をみなへし、オモテヲミナベシ、ウラミナアヲシ、クレナヰノヒトヘ」

をみなへしづき（名）〔女郎花月〕陰曆、七月ノ異稱。藏玉集「女郎花、鶴、文披月、七夕月、女郎花月、云云、七夕ノ、契ノ色ニ、タタヘテヤ、名ヲエシ事モ、をみなへし月」

をみなめし（名）〔女郎花〕前前條ノ語ヲ見ヨ。謠曲、女郎花「コレナル野邊ニ、をみなめしノ今ヲ盛リト咲キ亂レテ候」

をみね（名）〔小峰〕〔をハ發語〕みね（峰）ニ同ジ。萬葉集、十四六「武藏嶺ノ、乎美ネミカクシ、忘レ行ク、君ガ名カケテ、吾ヲネシ泣クル」

をみびと（名）〔小忌人〕大嘗會ナドニ、トニ合ヒテ、神事ニ仕ヘ奉ル人。をみ（小忌）ノ條ノ（一）ヲモ見ヨ。公任集「をみ人ノ、ユフカタカケテ、行ク道ヲ、同ジ心ニ、誰レナガムラン」

をん（名）〔雄〕を（雄）ノ音便訛。其條ヲ見ヨ。（關西）ヲス。

をんあんぱふ（名）〔溫罨法〕布片ナ、溫湯、又ハ、硼酸水ナドノ溫水ニ浸シ、患部ヲ溫メテ、疾病ヲ治スル方法。あんぱふ（罨法）ノ條ヲモ見ヨ。

をんえき（名）〔瘟疫溫疫〕ハヤリノ熱病。エヤミ。疫病。雜病記聞、一、時疫「時疫、又疫癘トモ云ヒ、溫疫トモ云ヒ、溫病トモ云フ、流行熱病ノ事ナリ、此病、其傷寒ニ似タレドモ、實ハ異ナリ」牛山活套、上、時疫「云云、時疫、傷寒ノ病ハ、役疾ノ類ニシテ、一般ニ流行スル熱病ナリ、多ハ溫熱ノ邪ニ中リ、或ハ山嵐ノ瘴氣ニ感ズル也」

をんが（名）〔溫雅〕穩和ニシテ優雅ナルコト。又、柔和ニシテ、雅量アルコト。南史、王奇傳「奇少好學、手所二抄寫一二千許卷、及長通和溫雅、人不レ見二喜慍之色一」

をんかう（名）〔溫坑〕床下ニ長坑ヲ設ケ、中ニ火氣ヲ通ハセテ、室內ヲアタタムル裝置。をんどる。唐書、高麗傳「窶民盛冬作二長坑一熅レ火以取レ煖」

をむかひ（名）〔峯向〕〔を（峯）ノ條ヲ見ヨ〕ムカヒノ峯。萬葉集、八五十二長歌「足引ノ、山鳥コソハ、峯向ニ、妻ドヒストイヘ、ウツセミノ、人ナルワレヤ、云云」

をんがん（名）〔溫顏〕ヤサシキ顏付キ。溫和ナル顏色。和顏。漢書、韓王信傳「爲レ人寬和自守、以二溫顏遜辭一承レ上接レ下」平安物語、十一、腰越事「コノ時ニ當ッテ、長ク溫顏ヲ拜シ奉ラズ」

をんき（名）〔溫氣〕又、うんき。アタタカミ。アツサ。暖氣。暑氣。論衡（漢、王充）「火與二溫氣一同、水與二寒氣一類」

をんき（名）〔遠忌〕ゑんき（遠忌）ニ同ジ。盛衰記、三十九、千壽伊王事「中將第三年ノ遠忌ニ」

をんけ（名）〔冤家〕（一）佛經ニ、宿生ノ怨讎、今、來リテ情人トナリ、我ガ道心ヲ礙ヘ、我ガ出離ヲ防グルコト。（二）和歌ノ上ニ、男女ノ戀慕スルコト。

をんこ（名）〔溫故〕故キ事ヲ溫ネ知ルコト。又、昔ノ事柄ヲ研究スルコト。論語、爲政篇「溫レ故而知レ新、可三以爲二師矣一」

をんこう（名）〔溫厚〕（一）ヤハラカクシ

テ、オダヤカナルコト。[illegible]天地温厚之氣、始於東北、而盛於東南、此天地之盛德氣也、此天地之仁氣也」(二)温順ニシテ、[illegible]篤實ナルコト。漢書、[illegible]「又之徒、皆以[illegible]」

をんごく (名) [遠國] 又、ゑんごく。トホキ國。書言字考節用集、二「遠國、ヲンゴク」保元物語、二、謀叛人各召捕事「近習ノ人人、或ハ遠國ヘ流ナ行キ」狂言、知章「ケニケニ遠國ノ人ニテマシマセバ、シロシ召サヌハ御コトワリ」

をんごくがた (名) [遠國方] 遠國ト云フニ同ジ。前條ノ語ヲ見ヨ。狂言記、名取川「コレハ遠國方ノ者デゴザル」

をんごくぶぎやう (名) [遠國奉行] ゑんごくぶぎやう(遠國奉行)ニ同ジ。

をんざ (名) [穩座、穩坐] [をんハ正音、おんハ慣用音] (一)オチツイテヰルコト。又、クツロギ居ルコト。蘇軾詩、寄米有ニ、飽飲八鐘穩坐二「歸家穩坐」 (二)えんのざ(宴座)ノ條ヲ見ヨ。

をんざのはつもの (名) [穩座初物] をはりはつもの(終初物)ニ同ジ。

をんし (名) [遠志] 草ノ名。ひめはぎ(姫萩)ノ條ヲ見ヨ。字類抄「遠志、ヲンシ」

をんしう (名) [怨讎、怨讐] 又、ゑんしう。怨ミテ讎トスルコト。沙石集、五、上、第三條「時貸諍論シテ、或ハ鬪志ヲ起シ、或ハ怨讎ヲ結ビ」

をんしつ (名) [溫疾] をんえき(溫疫)ニ同ジ。保元物語、三、爲朝生捕被ニ遠ニ流罪ニ事「平家ノ侍筑後守家貞、云云、有漏ノ身ナレバ病ミ出シテ、衣裕ナトシテ溫疾大切ノ間、云云」

をんしつ (名) [溫室] (一)アタタカキ室。又、溫暖ナラシムル設備アル室。漢書、霍光傳「使ニ從官出買ニ鷄豚ノ語ニ殿門、內以温常、霍後設九賓溫室ニ」(二)佛教ノ語。浴室ニ同ジ。續資治集、五十二、金剛峯寺奏狀「就中、溫室之偏、當山一寺ハ奇現ニ奇怪ニ」(三)外氣以上ノ高溫度ヲ常ニ保チテ植物ノ培養、開花、發芽等ニ便ナラシムル設備アル建物。

をんしふ (名) [溫習] [溫ハ冷メヌヤウニあたたむる義] サラフコト。習ヒカヘスコト。復習。袁凱詩「朝向ニ春園ニ志游術、暇時ニ靜案ニ同溫習」

をんじやう (名) [溫情] 情愛ノ厚キコト。ナサケ心ノ深キコト。又、ソノ心。

をんじやく (名) [溫石] (一)支那ノ山東省、膠東道、掖縣ヨリ出ヅル石。色青白ニシテ、潤膩、玉ノ如シ。(山東通志)日本ニテハ、石ノ一種。白クシテ少シ青ミアリ、ヤハラカナルモノ。一名、蛇紋石。本草一家言、四、石「溫石、和漢俱呼、其上品者、色淡靑、質細膩、有ニ光澤ニ可ニ以彫刻印篆ハ奥州二本松藥師山所ニ産者是也、此卽山東通志所ニ載者、云云」 (二)今、一種ノ石ヲ方形ニ切リ、火ニ燒キ、綿ナドニ包ミ、冬日、用ヰテ體ヲ暖ムルモノ。ヤキイシ。增訂豆州志稿、七、土石「溫石、ヲンジャク、熱海ヨリ出ヅルヲ最トス、自然ニ鹹味ヲ具ス、增、是レ鑛泉中ノ加爾基暫達等、凝結シテ石ニ化シタル也、之ヲ以テ腹痛、積聚等ヲ慰シテ效アリ」

をんじやくいし (名) [溫石石] 石ノ一種。信濃國、高遠ノ山中ヨリ出ヅ。質、堅ク黑ク、切リテ溫石ニ用ヰテ效アリトス。

をんじゆん (名) [溫順] 人ノ性ノ、穩ニシテ人ニ逆ハヌコト。詩經、大雅、生民之什、卷阿篇「顒顒卬卬」疏「孫炎曰、顒顒、體貌溫順也」

をんじやう (名) [蜻蜓] [雄尉さんぼカト云フ] 出雲ニテ特ニ水上ヲ飛翔スル大ナル雄さんぼヲ、をんじやうト云ヒ、兒童ハ雌さんぼヲ用ヰテコレヲ釣ルト。

をんせん (名) [溫泉] 古言、ユ。イデユ。泉ノ熱氣アルモノ。諸國ニ涌出ス。多少鑛物ノ氣アレバ、其質ニ因リテ、人、常ニ浴シテ、病ヲ醫ス。[illegible]溫泉ハ而無ニ寳火ハ其故何也」天武紀、下、十三年十月「大地震、云云、伊豫溫泉沒而不ニ出」

をんぞうゑく (名) [怨憎會苦] 佛教ノ語。八苦ノ一。我ノ怨ミ憎ムベキ人ニモ、又、忌ミ嫌ノベキ事物ニモ會スル苦ミ。涅槃經、十二「怨憎會苦、所ニ不ニ愛者而共聚集ニ」法華經、譬喩品「愛別離苦、怨憎會苦、如ニ是等種種諸苦」十訓抄、下、第九、第五條「抑、人間ノ八苦ノ中ニハ、怨憎會苦トイヘルハ、物ノウラメシキナリ」

をんたい (名) [溫帶] 地球ノ上ニテ、熱帶ト寒帶トノ間ノ地方、卽チ、赤道ヨリ、南、北、各、緯度廿三度半(回歸線)ヨリ、六十六度半(極圈)ニ至ルマデノ間ナリ。此間、氣候、寒熱ノ中ヲ得タリ。

をんたう (名) [穩當] [轉ジテ、おんたう(穩當)] (一)オダヤカニ、其當ヲ得ルコト。相應シテ無理ナキコト。(二)轉ジテ、人ノ性ノ柔順ニシテ物ニ逆ハヌコト。をんと。溫順

をんだん (名) [溫暖] アタタカナルコト。

をんてき (名) [怨敵] 佛教ノ語。ウラミアル仇。我ヲ怨ミテ、敵意ヲ構ヘ、仇ナサムトスルモノ。アタカタキ。金光明經、二「怨國怨敵、與ニ如ニ此念ニ」扶桑略記、廿三、延

[illegible]

をんと (名) [穩口] [illegible]略言] 性質、溫順ナルコト。[illegible]博多小女[illegible]女ハ[illegible]ナリ」

をんど (名) [溫度] アタタカサノ程度。

をんど (名) [音頭] 次條ノ語ノ略。狂言記、[illegible]ヤイ其便ナ奴、をんどガウタウタラ、舞ワシマセイ、云云、をんどノウタフヲ知ルマイ」

をんどり (名) [雄鳥] [めんどり(雌鳥)ニ對ス] をとり(雄鳥)ノ音便。略シテ、をんどう(多ク鶏ニイフ) 書言字考節用集、五、氣形門「雄、ヲントリ、鳥之父也」

ヲンドル (名) [溫突] おんどる(溫突)ノ條ヲ見ヨ。

をんどれ (名) [踊] よぢらうにんぎやう(與次郎人形)ノ條ヲ見ヨ。

をんな (名) [女] (一)[をみな(女)ノ音便。女。をうな。ヲナゴ。メノコ。婦人。女子。女人。女性。名義抄「女、ヲムナ」字類抄「女、ヲムナ」神代紀、上「乾坤之道相參而化、所以成ニ此男女ニ」景行紀、十二年十月「有ニ女人ハ曰ニ速津媛ニ」男系、上傍、坤道成女 (二)ハシタメ。下女。婢 (三)をんなで(女手)ノ略。かんな(假名)ノ條ヲ見ヨ。(四)カクシ女。情婦。「女ガ出來タ」女になるトハ、成人ノ女トナル意。

をんないしや (名) [女醫者] ぢよい(女醫)ニ同ジ。世間娘氣質(享保、其磧)二「異樣ナル疾モ、男モタセバ大方ハナホル物ト、氣ノ通リタル女醫者ノ申サレシハ、道理ト思ヒ侍ル」

をんな‐おび (名) 女帶 (男帶ニ對ス) 婦人ノシムル帶。上古ハ鯨尺ニテ幅二寸許リニテ、脇ニ結ビ、片膝ニ垂ラシタリト云フ。此種類ニ、腹おび、片側おび、晝夜合せおび、クヂラおび、丸おび、ナドアリ。 春臺獨語(太宰純)「婦女ノ帶、云云、廣サ僅ニ鯨尺二寸ハカリ、[illegible]心トシテ[illegible]結ナドイルルコトナシ」 槍播三重帷子(享保、近松作)上「[illegible]トシテ、二重廻リノ女帶、致シタ事ゴザラヌト、同ジク庭ニ投ゲ出ダス」

をんな‐おや (名) 女親 ハハオヤ。メオヤ。母 (男親ニ對ス) 宇津保物語、嵯峨院「女親ナバ、イカニセヨト思ノゾ、昔ワスレタルカト宮ヘハ、云云」小中村本)

をんな‐かうぶり (名) 女冠 女ノ位。女子ノ位階。又、をんなかうむり。 宇津保物語、國譲、下「宮、云云、をんなかうぶり、階越エテ、内侍ノカミ、三位ノ加階シ給フ」

をんな‐がく (名) 女樂 女ノ奏スル音樂。女樂。 源、三十四、下、若菜、下「サモアル事ナレド、女樂ニエコトマゼデナン遁ゲニケルト、傳ハランモコソ惜シケレ、云云」

をんな‐がた (名) 女方 (男方ニ對ス) 女ノ方。女ノ側。女子ノ組。 源、四、夕顔「イカナル事ニカト心得カタク、女がたモ、アヤシウ、樣タガヒタル物思ヒヲナンシケル」

をんな‐がた (名) 女形 (男形ニ對ス) 歌舞伎ノ俳優ノ、專ラ女ニ扮ツモノ。寛永中、女歌舞伎禁ゼラレテ、若衆歌舞伎トナリ、其若衆ノ中ニ、女ノ打扮スルモノノ稱。江戸ニテハ、承應元年、上方ノ芝居ノ役者、右近源左衛門、市村座ヘ下リテ始メシトゾ。ヲヤマ。且、專ラ、其技ノ主タル者ニ扮ツヲ、たてをやまト云ふ。正旦 又、處女ニノミ扮ツヲ、おすめがたト云フ。小旦。 淀鯉出世瀧徳(寶永、近松作)上「狂言役者ヘ花公ヤラ貢子ヤラニ参テ、女形ヲ致シタ」 人倫訓蒙圖彙、七、狂言大夫「女形ノ中ニテ、器量ヨク、ケイコウテ名ヲトルコ、其座ノ最上大夫トスルナリ、三十ヨリ四十ニオヨビテハ、クッシャガタトイフ」

をんな‐かづら (名) 女葛 又、おんなかづら。せんきゅう(川芎)ノ條ヲ見ヨ。

をんな‐がな (名) 女假名 ひらがな(平假名)ノ稱。かんな(假名)ノ條ヲ見ヨ。

をんな‐かぶき (名) 「女歌舞伎」 女ノ演ズル歌舞伎。おくにかぶき(於國歌舞伎)ノ條ヲモ見ヨ。 孝亮宿禰記、慶長十三年二月廿日「向二西條女歌舞伎一令二見物一、數萬人羣集、[illegible]」

をんな‐かみゆひ (名) 女髮結 女ニテ、女ノ髮ヲ結フヲ業トスルモノ。家家ニ行キテ結フ。天明、寛政ノ間ヨリ起リシモノナリ。其以前ハ、女ミヅカラ己レガ髮ヲ結ヒキ。 天保集成絲綸錄、八十一、寛政七年十月「前前ヨリ女髮結ト申、女之髮ヲ結ヒ、渡世ニイタシ候モノハ、云云」 賤者考、下「此二十年來(寛政以來)、女髮結トイフ者出來タリ、遊女ハ此女ニノミ結スルコトノヨシ、此已前ヨリ、女髮結アリシコトニヤ、予(小川顯道)シラズ、此比ハ江戸町町、其日稼ノ婦女迄モ、結スル事ニ成ケリ」

をんな‐ぎ (名) 女氣 女ノ、シトヤカニ、ヤサシキ心根。女心。(男氣ニ對ス)

をんな‐ぎみ (名) 女君 又、めぎみ。ヒメギミ。をとこぎみ(男君)ノ條ヲ見ヨ。 落窪物語、二「女君ノ例ナラズ思ヒタルハ、コノコト聞キタルナメリ」

をんな‐きんだち (名) 「女君達」 女ノキンダチ。貴族ノ娘。(男君達ニ對ス) 宇津保物語、貴宮「宮、女君だち、過キタマヘル折ナレハ」

をんな‐ぎらひ (名) 女嫌 男ノ、女ニ接スルヲ嫌フコト。又ソノ男。(男嫌ニ對ス) 本朝若風俗(貞享、西鶴)一、目錄「日本ニ隱レモナキ女嫌ひノ事」

をんな‐くじ (名) 女公事 女ノ訴ヘ出デタル公事。 沙石集、七、下、第十六條「妻丸ハ、イミジク今マデ相ツレタリ、ナサケ有ケリトテ、女公事バカリシテ、男公事ハユルサレデ、モトノゴトク家ニ置レタリケリ」

をんな‐ぐるひ (名) 女狂 女色ニ溺レテ他ヲ顧ミヌコト。 好色一代女(貞享、西鶴)六「三十三所ヲ廻ル者ガ、若クテ女狂ひニ氣ヲ成スガ故ニ、コナタヲ呼ウデ参タ」

をんな‐ぐるま (名) 女車 人給ノ車ヲ云フ。女房ノ乘リタル牛車。 狭衣、一、上「タソガレ時ノ程ニ、一條大宮ノホドニ過ヒタル女車、云云」 今昔物語、廿八、第二語「一人ガ日ク、下簾ヲ垂レテ、女車ノ樣ニテ見ンハ如何ニ」

をんな‐げいしゃ (名) 女藝者 げいしゃ(藝者)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。(男藝者ニ對ス) 三養雜記、二「吉原ノ女藝者ト云フモノハ、寶曆ノ頃、扇屋ノ歌扇ト云フ者ニ始マレリ」

をんな‐ご (名) 女子 (一)女ノ子。ヲミナゴ。ヂョシ。 宇津保物語、梅花笠「一人ニアタル女ごナン内ニサブラフ」 源、四十二、紅梅「ヒトニマサラント思フをんなごヲ、宮ヅカヘニ思ヒ絶エテハ、何ノ本意カハアラン」 (二)をんな(女)ニ同ジ。婦人。

をんな‐ごこち (名) 女心地 次條ノ語ニ同ジ。 源、十四、澪標「世ニ傳ヘル御覺エノ程モ、女心地ニ任セテ限リナク語リツクセハ」

をんな‐ごころ (名) 女心 (一)女ノ心。女ノ、シトヤカニ、ヤサシキ心根。婦人ノ思慮。女心地。(男心ニ對ス) [illegible]、女[illegible]「[illegible]少シ操リノサハリアル、人間ヲ[illegible]ト思ヒケル[illegible]カ、女心ノハカナサハ、都ヲ關リアクガレ出デテ、云云」 (二)男ノ、女ニ執着スル心。 著聞集、五、和歌「仁俊ハ女心アル者ノ、ソラヒジリタツル」

をんな‐ざか (名) 女坂 をとこざか(男坂)ノ條ヲ見ヨ。

をんな‐ざかり (名) 女盛 又、をなおざかり。女ノ、年若ク、最モ美シキ頃。(男盛ニ對ス) 好色一代女(貞享、西鶴)六「サモアルベキト氣ヲ付ケテ見シニ、過ギニシ頃、ワレ女盛リニ[illegible]シ頃ニ、マザマザト生ウツシナル面影」

をんな‐し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 女 女ノヤウナリ。女ラシ。 源、廿八、野分二十「イト、オホドカニ女しきモノカラ、ケシキヅキテゾオハスルヤトテ、云云」 同、三十八、夕霧七十「イト貴ニ女しう、ナマメイタルケハヒシ給ヘリ」

をんな‐しょたい (名) 女所帶 女ノミニテ持ツ所帶。男氣ナキ所帶。

をんな‐せつぶん (名) 女節分 江戸時代、正月十九日ニ、女ノ、京都、吉田ノ疫神詣ヲナスコト。 俳諧歲時記、正月、女節分、十九日、是モ吉田ノ疫神詣也」

をんな‐だいふ (名) 女太夫 (一)昔、賤シキ者ノ妻女ナドノ、かどづけセシ者ノ稱。編笠ヲ被リ、三絃ヲ彈キ、人家ニ就キテ、錢ヲ乞フ。 賤者考、下「ソノ人品卑シカラズ、[illegible]モヨシ、[illegible]リシテ、居合セシ人人、[illegible]、女太夫ナリト評判セリ、云云」 (二)義太夫ナドヲ語ル女ノ太夫。女ノ太夫。

をんな‐だて (名) 「女達」 (男達ニ對ス) 女ニテ、男達ノ如キ振舞ヲナスコト。

人、ソノモノ、女ノ[illegible]

をんなだてらに（オンナ・ダテラ・ニ）（副）（をんなだてらノ條ヲ見ヨ）女ニ似ツカハシカラヌ事ニ云フ語。例ヘバ、女ノ股火ノ如キ類ナリ。

をんなたふか（オンナ・トウカ）（名）女踏歌 男踏歌ニ對ス、をとこたふかノ條ヲ見ヨ。

をんなたより（オンナ・タヨリ）（名）女便 女ノタヨリ。又、女ノタヨリトスル人。 宇津保物語、國讓、上廿「ヒトリ侍ルハラカラナドヲコソ、女たよりニハスレバ、云云」

をんなたらし（オンナ・タラシ）（名）女蕩 婦女ヲダマシテ弄ブコト。又、ソノ男。

をんなづかひ（オンナ・ズカイ）（名）女使 をとこづかひ（男使）ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]、十四、雜、一「院位サリセ給ヒニケル年ノ四月、祭ノ頃、[illegible]大納言三位ノモトヨリ、女使セシ世ノ事ナドイヒテ、云云」

をんなづきん（オンナ・ズキン）（名）女頭巾 女ノ被ル頭巾。そでづきん（袖頭巾）ノ條ヲ見ヨ。

をんなで（オンナ・デ）（名）女手 （一）女子ノ書キタル筆蹟。ヲンナモジ。（二）〔平假名ノ稱。かんな（假名）ノ及、をとこで（男手）ノ條ヲ見ヨ。 蜻蛉日記、上、上廿五「女手ニテ書キ給ヘリ、男ノ手ニテコソ苦シケレ、云云」

をんなとうぐう（オンナ・トウグウ）（名）女春宮 皇女ノ皇太子。東宮ノ位ニ立チ給ヘル皇女（ヒメミコ）。 とりかへばや物語、四「儲君（マウケノキミ）モオハシマサズニヨリテコソ、女春宮モ立チ給ヒシカ、云云」 續紀、十三、天平十年正月「立阿倍内親王、爲皇太子」

をんなどころ（オンナ・ドコロ）（名）女所 女バカリ住ミタルトコロ。（禁中ナドニ）或ハ、女ノ、萬ヅハカラフ所ト云フ。（花鳥餘情） 源、三十八、夕霧七十「女所ニテ、シドケナク萬ヅノコトナラヒタル人ノウチニ、云云」

をんなひでり（オンナ・ヒデリ）（名）女旱 男ノ、好マシク思フ女ノ乏シキコト。（男旱ニ對ス）

をんなぶみ（オンナ・ブミ）（名）女文 女ノ書キタル手紙。ヲンナデノ手紙。 源、二、帚木二十「サルママニハ、マンナヲ走リ書キテ、サルマジキドチノ女ぶみニ、牛バスギテ書キスクメタル、云云」

をんなぶり（オンナ・ブリ）（名）女振 女ノカホカタチ。女トシテノ風采、行儀ニ、をんなっぷり。

をんなほふし（オンナ・ホウシ）（名）女法師 あま（尼）ノ條ノ（一）ニ同ジ。 今昔物語、廿四、第六語「留守ニ可レ死氣ナル女法師一人居タリ、ソレニ、昨日此ニ坐シケル人ハト問ヘバ、女法師ノ云ハク、云云、院ノ御使ノ云ハク、云云、女法師ノ云ハク、云云」

をんなまひ（オンナ・マイ）（名）女舞 （一）まひびめ（舞姬）ノマフ舞。（二）歌舞伎ニテ、女ノ舞フ舞。（男舞ニ對ス） 歌舞伎事始、一「女舞之事、云云、抑、女舞トイヘルハ、二代目ノ國女ガ弟子ニ、柏木トイヒシモノ、一舞ヲ工夫シ、小鼓ナシニ大鼓ヲ用ヒ、謠ヒモノモ元祖國女ガ作リシ神歌ノ艷風ヲヤメ、平家物語、源平盛衰記ノ事跡ヲ文句ニ綴リ、大ツヅミニ合セタリ」

をんなみこ（オンナ・ミコ）（名）女御子 女ノ御子。ヒメミコ。ヲンナミヤ。（男御子ニ對ス） 宇津保物語、梅花笠二「宮ヨリ始メ奉リテ、女みこタチアマタ、北ノ方、アナタコナタ合セテ九所（ココノトコロ）」 源、一、桐壺廿「女御子タチ二所、コノ御腹ニオハシマセド」

をんなみや（オンナ・ミヤ）（名）女宮 皇女。内親王。ヒメミヤ。ヒメミコ。公主。 宇津保物語、藏開、下八「四五人女君達、女宮ヨリハジメ奉リテ、方方ノ君ダチ五人ツドヒオハシマス」

をんなみやうり（オンナ・ミョウリ）（名）女冥利 女トシテ生ルル冥利。女ニ生レタル甲斐。

をんなむすび（オンナ・ムスビ）（名）女結 紐ナドノ結ビ方ノ一。をとこむすびノ左右ニ、わなヲ出ダスモノ。[illegible]ハコレト異ナリ。（男結ニ對ス）

をむなめ（オムナ・メ）（名）[illegible]〔嫗妻ノ義カ〕人、をなめ。をうなめ。ソバメ。メカケ。[illegible]。 倭名抄、二[illegible]「[illegible]」 景行紀、四十年十月「有レ從二王之妾（ヲムナメ）一」

をんなもじ（オンナ・モジ）（名）女文字 眞名（マナ）、即チ、漢字ヲ男文字（ヲトコモジ）ト云フニ對シテ、平假名（ヒラガナ）ノ稱。ヲンナデ。かんな（假名）ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]「[illegible]德文字ノ數、云云、ソレハ異國ノ名筆、是ハ流レノ女文字、[illegible]色メクいろは假名」 [illegible]字二、以使二于女童、其便則草書」

をんなやくしや（オンナ・ヤクシャ）（名）女役者 女子ノ役者。女ノ俳優。女優。

をんなやもめ（オンナ・ヤモメ）（名）女寡婦 やもめ（寡婦）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

をんなゆ（オンナ・ユ）（名）女湯 をとこゆ（男湯）ノ條ヲ見ヨ。 柳樽（明和）三篇「女湯ノ、方ヘハラセル、血ノ道」 同、四篇「女湯ヘ、すきたすきたト、ダイテ來ル」

をんならし・シキ・シケレ・シク・シク（オンナ・ラ・シ）（形、二）女〔男らしニ對ス〕（一）女トシテノ氣性態度アリ。シトヤカナリ。（二）男ナルニ拘ラズ、其狀、女ニ似タリ。軟弱ナリ。柔弱ナリ。メメシ。

をんなわざ（オンナ・ワザ）（名）女業 女ノ爲スワザ。ヲンナシゴト。 一谷嫩軍記（寶暦、並木宗輔等合作）[illegible]

をんなわらは（オンナ・ワラワ）（名）女童 （一）女ノワラハ。女ノ子供。コムスメ。メノワラハ。[illegible] 土佐日記、十二月二十一日「マダ幼キ童ノコトナレバ、人人笑フニ、アリケル女童（ヲンナワラハ）ナン、コノ歌ヲヨメル」 （二）女ト、わらはト。女コドモ。婦女子。

をんなわらべ（オンナ・ワラベ）（名）女童 前條ノ語ニ同ジ。 昔語質屋庫（文化、馬琴）初編、五「惟喬、惟仁ノ[illegible]ハ、由ルカタモナキ小説[illegible]、俗間ノ謠曲ニサヘ作リシカバ、天晴ナル故事トココロ得、婦女童（ヲンナワラベ）ハ、サモアリケント思フナルヘシ」

をんなゑ（オンナ・エ）（名）女繪 女ノ姿ノヱガキタル繪。をとこゑ（男繪）ノ條ヲ見ヨ。 源、四十六、總角[illegible]「ヲカシゲナル女繪ドモノ、云云」

をんねん（オン・ネン）（名）怨念 ウラミノオモヒ。ウラミ。 保元物語、三、崩御事「マノアタリ御怨念ノ致ス處ト、人申シケリ」「死靈ノ怨念」

をんのざ（オン・ノ・ザ）（名）穩座 又、をんざ。えんのざ（宴座）ノ條ヲ見ヨ。

をんのれ（オン・ノレ）（名）斧折 〔をのをれノ訛〕をのをれかんば（斧折樺）ノ條ヲ見ヨ。

をんば（オン・バ）（名）穩婆 とりあげばば（取上婆）ニ同ジ。産婆。助産婦。 [illegible]正日[illegible]」

をんぱう（オン・ポウ）（名）縕袍 又、わうばう。布子ノ綿入。ドテラ。 論語、子罕篇「子曰、衣二敝縕袍一、與下衣二狐貉一者上立、而不レ恥者、其由也與」

をんびん（オン・ビン）（名）穩便 （一）オダヤカナルコト。アラダテヌコト。 [illegible]「[illegible]非施行、實不二穩便一」 平家物語、十一、[illegible]

事「鎌倉殿ノカヘリ聞召サレンズル所モ、穏便ナラズ」(二)手數ノカカラヌコト、テガル。 寛天見聞記「ココニ五軒ノ娼家アリ、云云、ア穏便ナル遊場ニシテ、藝者モナシ、高笑、大聲ヲ禁ジ、云云」

をんぷう (名) 【温風】 夏ノ末ニ吹ク風。 禮記、月令篇「季夏、云云、温風始至、蟋蟀居壁、鷹乃學習、腐草爲螢」

をんめいでん (名) 【温明殿】 うんめいでんニ同ジ。 書言字考節用集、一、乾坤門「温明殿、ヲンメイテン、禁中綾綺殿東」

をんや (名) 【温野】 アタタカキ野原。温野ニ骨ヲ禮ストハ、人死シテ、ソノ靈魂、天ヨリ下リ來リ、自己ノ死骨ニ花ヲ散ラシ、コレヲ撫デサスリテ、生前ニ善業ヲナセル恩ヲ謝スル意。 平治物語、二、信頼最後事「温野に骨を禮せし天人ハ、平生ノ善ヲ悦ビ、寒林ニ骸ヲ打チシ靈鬼ハ、前世ノ惡ヲ悲シム」

をんりやう (名) 【温良】 オダヤカニシテ、善良ナルコト オダヤカニスナホナルコト。 論語、學而篇「夫子温良恭儉讓以得之」 漢書、兒寬傳「寛爲人温良有廉知自將」

をんりやう (名) 【怨靈】 (一)死靈ナドノ、怨ヲ報イムトシテ祟ルモノ。怨讐ノ念ヲモテル亡靈。 林逸節用集、雜用「怨靈、ヲンリヤウ」 平家物語、三、頼豪事「怨靈ハ、カク昔モオソロシカリシ事ドモナリ」 (二)借金ノ催促人。借金取。債鬼。(芝居者ノ語)

をんる (名) 【遠流】 トホキ邊地、又ハ、島嶼ニ流罪ニスルコト。シマナガシ。るざい(流罪)ノ條ヲモ見ヨ。 書言字考節用集、八、言辭門「還流、ヲンル」 續後紀、七、承和五年十二月「宜降死罪一等處之遠流、仍配流隱岐國」

をんわ (名) 【穏和】 性質ノ、オダヤカニ和ギテアルコト オトナシキコト

をんわ (名) 【温和】 (一)アタタカニ、ヤハラギタルコト。温順(氣候ニ) 漢書、西域傳「前皆地平温和」 朗詠集、下、薛道衡之詞、四時獨宜温和之天」 (二)オチツキテ、オダヤカナルコト。柔和。(人ノ氣象ニ) 宋史、郭晉傳「昭度性温和、頗能延譽時輩」

をんをん (副) 【温温】 人ノ性質ノ、オトナシクシテ、ヤサシキ狀ニ云フ語。 詩經、小雅、小旻之什、小宛篇「温温恭人、如集于木」

をめい (名) 【汚名】 ケガレタル名。恥ヅベキ評判。不名譽。臭名。 管子、中匡「入者不說、出者不譽、汚名滿天下」

をめきぐさ (名) 【莨菪】 (叫喚草ノ義カ、根ヲ食ヘバ狂フトゾ、此草ヲ、たばこトスルハ誤ナリ) 毒草ノ名。古名、オホミルクサ。はしりどころ(莨菪)ノ條ヲ見ヨ。 重修本草綱目啓蒙、十三、毒草類「莨菪、オニシルグサ、オホミルグサ、ヲメキグサ、云云」

をめきさけぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 大聲ヲアゲテウメク。大聲ニテサケビ呼ブ。ウメキワメク。 延慶本、平家物語、二、本、成親等被免事「天ニ仰ギ地ニ臥テ、又をめきさけぶ」 讚岐典侍日記「御手ヲトラヘテ、をめきさけび給フ」

をめく・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 【叫喚】 〔をハ聲ナリ、わめくニ通ズ〕 大イニ叫ブ。高クヨビタツ。ワメク。ウメク。 平家物語、二、小松教訓事「取ッテ伏セテをめかセヨ、云云、一聲二聲をめかレケル」 宇治拾遺、二、第十二條「寒ノ物具モ知ラズナドシテ、をめき叫ビ合ヒタリ」

をもくるるに (副) 【輪轤然】 〔をもハ輪ノ意、くるるハ久流久流ノ略、輪ヲ旋ト巡ラス義〕 輪ヲ宛轉循環スル狀ニ云フ語。 神代紀、上、十一「輪轤然、解其左髻所纏五百箇統之瓊綸」

をもの (名) 【食物】 〔食物ノ略ト云フ〕 食ス物 クヒモノ。ショクモツ。ヲモノ。 神武即位前紀「天皇嘗二嚴瓮之粮、勒兵而出」

をものだな (名) 【膳棚】 〔食物棚ノ義〕 川次ノ供御ヲ置ク棚。

をや (名) 【小屋】 又、おや。小サキ家。コイヘ。セウオク。 古事記、中、神武「葦原ノ、シゲコキ葺夜ニ、菅疊、彌清敷キテ、ワガ二人ネシ」 萬葉集、十三、三十四長歌「刺シ燒カム、少屋ノシキヤニ、搔捨テム、破薦ヲ敷キテ」(古義ノ訓)

をや (辭) (一)〔第三類ノ天爾波ノをニ、感動詞ノやノ添ハリタルモノ。モノヲ。〕 ナルモノヲ何トテ。 萬葉集、七、三十八「廣瀬川、袖ツクバカリ、淺キ乎也、心深メテ、吾ガ思ヘラム」 沙石集、四、下、第五條「淺心集ニ侍ルをや」 (二)第一類ノ天爾波ノをニ、疑問ノやノ添ハリタルモノ。 新拾遺集、十二、戀、二「逢フニダニ、カヘン命ハ、悲シキニ、ウキ人故ニ、身をや捨ツベキ」 (三)一ツノ事ヲ擧ゲテ、他ヲ推シハカリ定ムルニ云フ語 上ニ「いはむや」ヲ作ヒ、「おいて」ニ續ケテ云フ。いはむや(況)ノ條ヲモ見ヨ。 延慶本、平家物語、一、本、師高可被罪科之由人人被申事「何況ヤ君臣ノ國ニオイテをや」

をやく (名) 【烏藥】 烏藥ト云フ常綠灌木ノ根ヨリ製スル藥ノ名。うやく(烏藥)ニ同ジ。 字類抄「烏藥、ヲヤク、藥名也」

をやしろ (名) 【小社】 小サキヤシロ。小社。 散木集、九、雜、上「イノルコト、七ノをやしろ、コウコウト、コトナハセヨク、クチハシルナリ」

をやす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 【瘁】 〔瘁ゆノ他動〕 瘁ユルヤウニナス。ヨワラス。 仁徳紀、五十五年「被蛇毒而多死亡」(私記ノ

訓) 欽明紀、廿三年六月「毒害民」 ヲヤシソコナヒ 〔瘁〕 ヤウニナス。ヘツラフヤウニス。 名義抄「媚、ヲヤス、コブ」

をやま (名) 【小山】 又、おやま。小サキ山。短キ山。 拾遺集、五、賀「カマフ野ノ、玉ノをやまニ、住ム鶴ノ、千年ハ君ガ、御代ノ數ナリ」

をやま (名) 〔承應ノ頃、江戸ノ人形遣、小山次郎三郎、巧ニ處女ノ姿ヲツカヒテ、小山人形ノ名、起リシヨリ出ヅ〕 (一)アヤツリ人形ノ女形。 樂屋圖會拾遺、下、おやま人形「コノ道ニ妙ヲ得タルハ、イニシヘ小山次郎三郎トイフモノ、女ノ人形ヲヨクツカヒ、マコトニ生ルガゴトシ、コトノハニ、ケイセイ遊女ヲサシテ、おやまト呼ユヘニ、一切女カタノ人形ヲ、おやま、おやまトイイナセリ」 (二)歌舞伎ニ女形ノ稱。ソノ大立者ナルヲ、立をやま、少女ナルヲ、わかをやまト云フ。 物類稱呼、一、人倫「遊女、ウカレメ、云云、江戸ニテハ、をやまト云名ハ、戲場ニノミ有」 守貞漫稿、十九、娼家、上「江戸ニテ芝居ノ女形ヲ於山トモ云也、… 女形ノ上品ナ、たておやまト云也、立於山也」 (三)遊女ノ異名。(畿内邊、眉黛ヲツクルコト、遠山ノ如クスル故ナリ) 東海道中膝栗毛(文化、一九)八編、中「道頓堀、云云、ウシロニ坂町アリ、をやま妓子ノナマメキ行カフサマ、賑カ也」 守貞漫稿、十九、娼家、上「於山、妓品ノ名目ニ非ズ、京坂ノ俗ハ、太夫、天神ノ二妓ヲ除キ、其他ハ官許非官許ノ賣女トモニ、遊女ノ惣名ヲおやまト云也」

をやまぐるひ (名) いうぢょぐるひ(遊女狂)ニ同ジ。 心中天網島(享保、近松作)中「女房子供ノ身ノ皮ハギ、其金デをやま狂ひ、云云」

をやまだ (名) 【小山田】 〔をハ發語〕 やまだ(山田)ト云フニ同ジ。(主ニ歌詞ニ) 萬葉集、十四、四十「子夜師田ノ、池ノ堤ニ、サス柳、ナリ

モナラズモ、汝ト二人ハモ」

をやみ (名) 小止 〔をハ發語〕ヲヤムコト。止ムコト。源、十三、明石「アサマシクをやみナキ頃ノ氣色ニ、イトド空サヘトヅル心地シテ」散木集、六、哀「をやみセヌ、涙ノ雨ハ、カカレドモ、キニハトマラヌ、物ニゾアリケル」

をやむ・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 小止 〔をハ發語〕(一)やむ(止)ト云フニ同ジ。新古今集、二、春、下「春雨ノ、ソボフル空ノ、をやみセズ、オツル涙ニ、花ゾ散リケル」夫木抄、九、夏夜「雨をやむ、雲ノ薄ミヲ、行ク月ノ、カゲオボロナル、夏ノヨノ空」(二)トギル。中絶ス。

をゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ(自動、下二) 瘁 オトロヘ弱ル。病ム。衰弱ス。古事記、中(神武)「御軍皆遂(ヲエ)伏、云云、其呉伏御軍、悉寤起之」神武即位前紀「神吐毒氣、人物咸瘁(ヲエヌ)」

をらち (名) 雄埒 流鏑馬(ヤブサメ)ノ馬場ノ埒ハ南方ニアリテ、其中、射手ノ弓手、即チ、的ノ方ニ結ヒタル高キ埒ヲ雄埒ト云ヒ、其右手ノ方ニ結ヒタル低キ埒ヲ雌埒ト云フ。流鏑馬次第「埒ハ兩方ニアルベシ、メ埒、を埒トイフ、を埒ハ高ク、メ埒ハ低カルベシ」

をり (名) 節 折 〔折目(ヲリメ)ノ義〕(一)其場ニ當ル時。タビ。コロ。トキ。場合。時節。時。允恭紀、元年十二月「當(ヲリ)此時、季冬之節、風亦烈寒」宇津保物語、俊蔭、六十「君ニハトモカクモ言ハデ、カノをりニ使フベキモノドモモトメテ、云云」續古今集、十一、戀、一「袖ノ上ノ、人メシラレシ、折マデハ、ミサヲナリケル、我ガ涙カナ」(二)ヒャウシ。トタン。機。機會。

をり (名) 折 (一)折ルコト。(二)片木(ヘギ)板ヲ折リ曲ゲテ、方形ニ作レル粗ナル小匣。進物ナドニ用ヰル。古ヘノ折櫃ナリ。三内口決、酒宴ノ時、折ノ物、合三合一度ニ出之候、「折詰」折ノ物」(三)又、ソレニ入レタル物ヲ數フル語。「餡、十折」

をり (名) 檻 〔居(ヲ)リノ義〕(一)猛獸、狂人、罪人、ナドヲ籠メ置カムガタメニ、堅固ニ造レル圍。字類抄「檻、圈牢」天武紀、下、四年四月「制ニ諸漁獵者ニ、莫レ造ニ檻穽ニ」徒然草、第百廿一段「走ル獸ハ檻ニコメ、云云」(二)駒ナドヲ籠メオク埒、又ハ、柵ナドノ稱。

をり・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、良變) 居 〔居有(キア)りノ約轉〕(一)其處ニアリ。ヰル。天治字鏡、二「居、乎利」名義抄「踞、ヲリ、ヰル、坐、ヲル、ヰル、蹲、ヲリ、ヰル」晉書、祐本傳「天下不レ如レ意、恆十居ニ七八ニ」萬葉集、十六、廿四「琴龍門ノ、作レル小田ヲ、食ム鳥、瞼腫レテ、幡幡ニ居(ヲリ)」神武即位前紀、廿八「人多ニ、入リ烏利トモ、人多ニ、來入リ烏利トモ、ミツミツシ、久米ノ子ラガ、云云」顯宗即位前紀「俱就ニ室外ニ、居ニ乎下風ニ」(二)夜寐ネズニ起キテ居ル。ヨアカス。徹夜ス。萬葉集、十一、廿九「眞袖モチ、床打チハラヒ、君待ツト、居(ヲリ)シアヒダニ、月傾キヌ」

をりあかす・ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) 居明 起キテ居テ夜ヲアカス。キアカス。萬葉集、十八、三十「乎里安加之、コヨヒハ飲マム、ホトトギス、明ケムアシタハ、鳴キワタラムゾ」拾遺集、十七、雜、秋「イザカクテ、居リ明シテン、冬ノ月、春ノ花ニモ、劣ラザリケリ」

をりあげ (名) 折上 天井ナドノ張リ方ノ一。格(ガウ)天井ノ中ニ、更ニ又細カニ碁盤ノ目ナリニ、組入レテアルヲ小組格(コグミガウ)天井ト云ヒ、其天井ノ、四方ノ板壁ニ添ヘテ、曲線ヲ以テ上方ニ押シアゲタルヤウニナリ居ルヲ、折りあげト云フ。紙上[illegible]氣(富麗、溝口林卿)「二重折上格天井、折上格天井」日光山志、五「御拜殿、云云、正面ノ御本間、御天井、折揚二重ノ格天井、其内ヘ岩絹書ニテ、丸龍ノ彩色、其形奇異ナリ」

をりあし・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 折悪 折ワルシ。時機ワルシ。アヤニクナリ。〔折好しノ反〕源、四十四、橋姫廿「をりあしく參リ侍リニケレド、ナカナカ嬉シク」

をりあひ (名) 折合 ヲリアフコト。相互ノ間、和合スルコト。又、雙方ノ交リ。ナカラヒ。「家内ノをりあひ」

をりあふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) 折合 互ニ和合スル。相互、和熟ス。互ニ鎮マリテ居ル。オチツク。ヤハラグ。(爭ナド)又、アユミアフ。互讓。

をりいって (副) 折入 ヒタスラ。切ニ。タッテ。ゼヒニ。ワリイッテ。

をりいる・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 折入 (一)折リテ中ヘ入ル。ヲリコム。(二)深ク心ヲ盡ス。衷曲。(三)詞、又ハ、意義ヲ、ハサミ入ル。ヨミ込ム。狂言記、三人百姓「今度ハ汝等ガ名ヲ折入れテ、三人シテ一首ヨメト仰セ出サレタ、急イデヨミマセイ」

をりうづ (名) 折櫃 をりびつ(折櫃)ノ音便。其條ヲ見ヨ。嬉遊笑覽、二、下、器用「をりうづハ、檜ノウス板ヲ折曲ゲ箱ニ作ル、形ハ四角、六角、サマザマナリ、今ハコレヲ折ト云フ、足利家ノ頃ノモノニモ、書ノ折ト書タレバ、コレモ近世ノ稱呼ニハアラズ、折うづニ肴物、餅、菓子、何ニテモ盛、檜ノ板ヲウヒ敷四スミニ作リ、花ナトヲ立テ飾トス、蓋アリ、御前ヘハ取テ出ス」

をりえぼし (名) 折烏帽子 〔折るハ、モト遠キ道ヲ行ク時、又ハ、忙シキ節ナドニナシタルナリ〕立帽子ニ對シテ、スベテ、頂ヲ折リ伏セタル烏帽子ノ總稱。其中、右ノ方ヘ折レタルモノト、左ノ方ヘ折レタルモノトアリ。風折烏帽子、侍烏帽子ナドモアリ。各條ヲ見ヨ。吾妻鏡、廿、[illegible]「[illegible]」拾遺、廿、月草花「別當ハ道ノホドノワリナサニ、をりえぼし二白ヒミミレト云フモノ打着テ」貞丈雜記、三、烏帽子之部「上古ノ折えぼしハ、右ノコフサビナリ、ウマクヤハラカニテ、[illegible]ヲ折リテ、折えぼしニシタル也、サレバマネキモ([illegible]ナル所ヲ云也)、フタヘニナリテ、袋ノ如シ、其ノ袋ノ如クナル内ヘ、髮ノモトドリヲ入レテ、カブリシナリ」

をりえり (名) 折襟 〔たちえり(立襟)ニ對ス〕洋服、又ハ、わいしゃつノ襟ノ、外側ヘ折ルルヤウニ仕立テタルモノ。

をりかく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 折懸 (一)折リテ引キカク。梁塵秘抄、二句神歌「賤ノ男ガ、簾なりかけテ、干ス衣、云云」(二)折リサシテ置ク。折リテ共儀ニナ、置ク。保元物語、一、親治等被生捕事「宗徒ノ者共十六人搦メ捕リテ、基盛射向ノ袖ニ立タル矢トモ折かけ、郎等數多ニ手ヲ負ハセ、云云」(三)折リカヘシヨセカク。タタミカク。新古今集、二、春、下「岩根コス、清タキ川ノ、ハヤケレバ、浪をりかくる、岸ノ山ブキ」(四)折リ取ラムトシテ、中途ニテ止ム。俳諧新選、春「折リカケシ、藤ヤブラリト、捨ナガラ」

をりかけがき (名) 折掛垣 竹藪ナドヲ折リ撓メテ、ソノママ垣トスルモノ。(用捨箱)クネガキ。菅家後集「山里ノ、をりかけがきノ、梅ノ花、イカナル人ノ、見ジトイフラン」

をりかけどうろう (名) 折掛燈籠 細ソク削レル竹ヲ、二本打違ヘ、折リ撓メ、其四端ヲ方形ノ板ノ四隅ニ刺シ、紙ヲ張リテ燈籠トセルモノ。上ハ、窄ク、下、開キタリ。盆ノ魂祭ニ供セシナリ。好

色ル人ナニ[illegible]、[illegible]ヰ人ノ歌ル[illegible]ト テ、云云、[illegible]ニ、[illegible]セハンク 花[illegible] 物[illegible]ト[illegible]ス、百合ハ折かけ、[illegible]カナ」

をりかさな・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [折重] 多人數カサナル　カサナリ合フ。タタマル。[illegible]、たかだか、スズキ兄弟テドリニセヨ、太刀モカタナモイルベキカトテ、をりかさなりて、ヒシメイタリ」

をりかさ・ぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ(他動、下二) [折重] 折リテ重ヌ。タタミ重ヌ。 新拾遺集、十八、雜、上「色カハル、シタ葉ヲカケテ、秋萩ノ、[illegible]ノニシキハ、をりかさねツツ」

をりかた (名) [折形] (一)目錄、又ハ、進物ヲ包ム紙ノ折リ樣。(二)料理ノ添ヘ物、藥味ナドヲ入レタル小サキ紙包ミ。 風俗文選、十、[illegible]「[illegible]、大根ハ、君臣佐使ノ付合ナルヲ、越路ノ國ニ、胡椒ノ粉ノ折形ヲ備ヘ」(三)紙ヲ折リ疊ミテ、種種ノモノノ形ヲ作ルコト。又、ソノモノ。折紙細工。 嬉遊笑覽、六、下、翫弄「折形ノ蝶、云、[illegible]、折形ノ、舟流サバヤ、カキツバタ」

をりがね (名) [折金] 刀ノ鞘ノ帶止(オビドメ)。おびどめ(帶止)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 甲州流歩騎必用、一「鐺手指ハ、折金ヲ鐺(コジリ)ノキハニ仕付テ、頭ノコジリノカヘ向ケタルモヨシ、子細ハ、下緒ニテ折金ヘ引キカケ止レバ、鞘オチヌ故也」刀劍略說「折金、一ニ負金ト云、今ハ牛角ヲ以テ作ルモノ多キ故、逆角ト云ヒ、返角ト云、古代ハ金具ナル故、折金トイヘリ」

をりかへし (名) [折返] (一)ヲリカヘスコト。又、ソノヲリメ。 浮世床、文化、三編、下「雨手デ、羽織ノ折返しヲ、ズウイトシゴイテ、襟先ヲグット引ッパッテ」(二)書簡ノ返答ヲ、引返ヘシテ、スグニ遣ルコト。

をりかへ・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) [折返] (一)折リテ二重ニス。ヲリカサヌ。 萬葉集、十三、長歌「白栲(シロタヘ)ノ、吾カコロモデヲ、折返シ、ヒトリシ寢レバ、ヌバタマノ」(二)再ビス。繰返ス。反復スル。 宇津保物語、[illegible]「[illegible]曲ノメデタト云フ手、をりかへしアソバス」

をりかみ (名) [折紙] (一)折リタル紙。(二)奉書紙、鳥子紙、ナドヲ、横ニ二ツニ折リタルモノ。文書、目錄、鑒定(メキキ)ノ證書、ナド記スニ用ヰルモノナリ。きりかみ(切紙)ノ條、見合ハスベシ。折狀(ヲリジヤウ)。折文(ヲリブミ)。 吾妻鏡、五、文治元年十二月六日「可被申行罪科之由、雖被載名於折紙、被書下御中納言二」同、六、文治二年正月八日「自今以後者、可令停止等閑儀也、且御使在折紙遣之、敢勿違失、故下」又、物事ノ慥ニ證明セラルルヲ、折紙附ト云フ。(書畫、刀劍、骨董、ナドノ)

をりかみだうぐ (名) [折紙道具] (一)折紙ツキノ、貴重ナル道具。 雪女五枚羽子板(寶永、近松作)中「聞クアリテ家内ニハ、折紙道具失タリト、家來ハ面面身聞キニ、云云」(二)保證ツキノスグレタル品物。

をりかみだち (名) [折紙太刀] 折紙ツキノ名作ノ太刀。 長町女腹切(元祿、近松作)上「刀屋[illegible]トテ、云云、折紙太刀ノ御用マデ」

をりかみつき (名) [折紙附] をりかみ(折紙)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

をりかみもの (名) [折紙物] (一)折紙附ノモノ。(二)大小刀ノ價ノ、金四枚以上ノモノ。其以下ナルヲ札物(フダモノ)ト云フ。

をりから (副) [時柄] 其時ニ。丁度其節。ヲリシモ。 源、二、帚木三十二「萬ノコトニ、ナドカハサテモト覺ユルをりから、時時思ヒワカヌバカリノ心ニテハ、ヨシバミ情ダタザランナン、云云」

をりく (名) [折句] (一)和歌ノ一體ニ、題ノ[illegible]ヲ、假名ヲ、每句ノ首、又ハ、尾ニ置キテ詠ムモノ。又、每句ノ首尾ニ詠ミ込ムモアリ、コレヲ沓冠(クツカフリ)ト云フ。 袖中抄、上の上「和歌六體、云云、折句歌、五字アルコトヲ、每句ノカミニオクナリ」悅目抄「折句ノ詞トイフモノアリ、五文字アルモノノ名ヲ、五句ノ上ニスヘテヨメルナリ、小ノノ小町ガ、人ニ琴ヲカリニヤルトテ、ヨメル歌、こトノハモ、ときハナルヲト、たノマナン、まツハミヨカシ、ヘテハチルヤト、カヘシ、こトノハハ、とコナツカシミ、はナヲルト、なベテノ人ニ、しラスナヨユメ、是ハ、琴たまヘトイフモジヲ、句ノウヘニオキタル也、ヘンジニ、琴はなしトノ上ニオキテ、カヘシタルナリ」謠曲、鸚鵡小町「ソレ歌ノ樣ヲ尋ヌルニ、長歌、短歌、旋頭歌、折句、誹諧、混本歌、云云」(二)俳諧ニテ、かむりづけ(冠附)ノ一稱。まへくづけ(前句附)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]「後世、前句付ノ外ニ、折句トイヘル名目アリ、其樣ヲ聞ケバ、一句ノ上、五文字ヲ、題[illegible]ノカタヨリ出シ、中七文字、下五文字ノ、作者ヨリ[illegible]セイフナルコシ」

をりくぎ (名) [折釘] 又、をれくぎ。釘ノ頭ヲ折リ曲ゲテ作レルモノ。柱ナドニ打着ケテ、物ヲ懸クルニ用ヰル。

をりぐ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) [折具] 折リテ手ニ持ツ。タヲリテ携フ。 平家物語、灌頂卷、大原御幸事「爪木ニ蕨折り具しテ候ハ、鳥飼中納言維實ノ娘、云云」(覺一本)

をりく・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ(他動、下二) [折燻] をりたく(折焚)ニ同ジ。 織留(元祿、西鶴)二「宿ニ歸レバ要柄野小野ノ萩柴折りくべテ」

をりぐわし (名) [折菓子] 折詰ニシタル菓子。 其角句「折菓子ヤ、非番ニナリテ、雛ノタケ」

をりこと (名) [折琴] 折リタタムヤウニ作レル琴。 方丈記「傍ニ箏、琵琶、オノオノ一張ヲタツ、イハユル折琴、ツギ琵琶コレナリ」

をりこみ (名) [折込] (一)ヲリ込ムコト。又、ヲリ込ミタル[illegible]。(二)俳諧ノ語。課題ノ二文字ヲ、一句ノ中ニ詠ミ込ムモノ。一字ヲ頭ニ置キ、一字ヲ中ニ插ムモノ、或ハ、首尾ニ置クモノ(天地ト云フ)、又、二字共ニ句中ニ插ムモノ、ナドアリ。

をりこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) [折込] 折リテ中ニ入ル。中ヘ向ケテ折ル。 女房[illegible]「男ノ衣裝、云云、ソノ疊ミ樣ノ事、兩方ノ端ヲ內ヘ折込みテ疊ミ候」

をりごも (名) [折薦] 折リ返シテ編メル薦ト云フ。 掃部寮式「御帖[illegible]、折薦八重帖一枚、云云、悠紀御膳所、[illegible]折薦帖八枚、折薦短帖八枚、云云、付二內膳司一」

をりしき (名) [折敷] 折敷の構(カマヘ)ノ略。射擊ナドノ時、右足ヲ屈シテ尻ノ下ニ當テ、左ノ膝ヲ立テテ構フルコト。

をりし・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [折敷] 左膝ヲ立テ、右足ヲ尻ノ下ニ敷ク。

をりし・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) [折敷] 折リテ敷ク。(樹ノ枝ナドヲ) 宇津保物語、菊宴、下「二十「モミヂをりしきテ、云云、尾花ノ強飯ナドマキルホドニ、風吹キテワタル」

をりしも (副) [時] 其時ニ當リテ。ヲリカラ。丁度其時。 源、四十三、竹川八十「折しも、例ノ少將侍從ノ君ノ、御ザウシニ來リケルヲ」

をりしりがほ (名) [折知顏] 時季ヲ知リタル顏ツキ。時節ヲ知リタルラシキ容子。 源、九、葵八十「御前ナド參リ集ル程、をりしりがほナル時雨ウチソソギテ、云云」

をりすけ (名) 〔折助〕 江戸時代、武家ニ使ハレタル下部。上方ニテ、奴。 浮世風呂、二、上(文化、三馬)[illegible]、[illegible]ヒ満メテ湯ヲ浴ビレバ、旦那サマモ、折助モ、孰レガ孰レヤラ」 嬉遊笑覧(文政)中「[illegible]ノ總名折助トイフ、明和ノ頃、流行ノ歌ニ、折助殿ハナゼオソイ、ワラジガデキヌカ御門ドメカ」 神代餘波(弘化、齋藤彦麿)中「下男ヲ俗ニ、オシナベテ折助ト云ヘレド、モトハ一人ノ名ニテ、ムカシ武家屋ハレノ下男ノ中ニ、赤坂邊住居ノ折助トモ、赤坂奴トモイヒテ、モテヘヤサレシガ、今ハ通稱ニナリシ也」

をりすゑ (名) 折居 紙ノ折方ニテ種種ノ物ヲ作ルコト(鶴、三方、船ナド)。をりかた(折形)ノ條ノ(三)參見セヨ 伊呂[illegible]居(享保)「女子ノ遊、折すゑノ鶴、鍬形ノ兜」

をりすゑえぼし (名) 〔折居烏帽子〕 〔をりすゑハ、折リ疊ム意〕 さむらひえぼし(侍烏帽子)ノ條ヲ見ヨ。

をりそ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (自動、下二) 〔折添〕 折リテ添ヘ加フ。 好色五人女、貞享、西鶴、五「里ハ冬構ヘシテ、萩柴折り添へテ」

をりた・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 〔折焚〕 柴ナドヲ折リテ、火ニ焚ク。折リテクベル。 新古今集、八、哀傷「オモヒ出ヅル、をりたく柴ノ、ユフ煙、ムセブモ嬉シ、忘レガタミニ」 かへし「オモヒ出ヅル、をりたく柴ト、聞クカラニ、タグヒシラレヌ、ユフ煙カナ」

をりたた・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 〔折疊〕 折リ返シテ重ヌ。タタム。

をりたて (名) 〔折立〕 をたて(折立)ニ同ジ。 後松日記、八「打亂ハ黑塗、松喰鶴ヲ蒔ク、銀ノ緒口、高蒔繪ノ折立アリ」

をりた・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 〔折回〕 道ヲ折リマハル。ヲリメグル。 萬葉集、四「[illegible]、打廻(貞長ノ謂)里ニ、アル時ヲ、[illegible]デゾ人ハ、待テド來ズケル」(打ハ折ノ誤リト云フ) 同、十一「神奈備ノ、打廻(貞長ノ謂)埼ノ、石隠ニ、コモリテノミヤ、吾ガ戀ヒ居ラム」(同上)

をりつきかっせん (名) 〔折附合戰〕 攻メ寄スル敵軍ノ、先陣ハ到着シテ、後陣ノ未ダ至ラザル内ニ、此方ヨリ急ニ攻メカカルコト。

をりづめ (名) 〔折詰〕 折箱ニ、種種ノ食品ヲ詰ムルコト。又、ソノ詰メタルモノ。「折詰ノ鮨」「折詰辨當」

をりづる (名) 〔折鶴〕 ヲリスヱノツル。紙ヲ折リテ作リタル鶴ノ形。(七夕ノ笹ナドニツク) 俳諧新選、秋「折鶴ノ、羽モ動クヤ、今朝ノ秋」

をりでほん (名) 〔折手本〕 折本ニ作レル手本。(習字ナドノ)

をりど (名) 〔折戸〕 蝶番アリテ、半バニテ折リ疊メルヤウニ作リタル戸。其左右二枚ナルヲ諸折戸、一枚ナルヲ片折戸ト云フ。 紙上履氣(寶暦、溝口林卿)「折戸、ヲリド」 玉海、建久三年二月十四日「今日午刻、使已下歸三參於西面鎖戸二」

をりどころ (名) 〔居所〕 (一)居ル場所。ヰドコロ。ヰバショ。ヲリバショ。居所。(二)ミヤ。ゴテン。宮。 言元梯(大石千引)六ー「宮、ヲリトコロ、居所」

をりのこ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔折殘〕 折リツクサズニ殘シ置ク 芭蕉句集、春「里ノ子ヨ、梅折殘せ、牛ノ鞭」

をりは (名) 〔折羽〕 〔おりは(下端)ノ轉〕 おりは(下端)ノ條ヲ見ヨ。 曾根崎心中(元[illegible]、[illegible]作)上「[illegible]ロシトテ[illegible]ハヤ、をりはノ[illegible]ヒ日三六ノ、十八九ナル顔ヨ花」

をりばこ (名) 〔折箱〕 をりびつ(折櫃)ニ同ジ。

をりはし (名) 〔折端〕 俳諧ノ語、連句ノ一折ノ初表、又、コレニ對スル初裏ノ終リノ句ヲ云フ。即チ、歌仙式ニテ云ハバ、初表第六番目、又、初裏第十二番目ノ句ヲ折端ト云フ。 燕石雜志、二「[illegible]の其俳諧ノ附合ニ、裏表ノヲハリノ短句ヲ、折端ト云フ」

をりはし (名) 〔折箸〕 一本ヲ、二ツニ折リ曲ゲテ造レル箸 續後紀、十九、嘉祥二年三月「ミドリ兒ノ、ヲサナ語ニ、折箸ノ、本末知ラズ、亂レ絲ノ、亂レテアレト、云云」

をりは・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 〔節延〕 時ヲ長ク延バス。時ヲ長クツヅクル。 古今集、三、夏「足引ノ、山時鳥、をりはへテ、誰カ勝ルト、ネヲノミゾ鳴ク」 [illegible]忠集、夏、ほととぎすを「早苗取ル、頃シモ小田ニ、をりはへテ、打チシキリ鳴ク、田歌鳥カナ」

をりはや・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 折リ切ル。幾度モ切リキザム 細カニキザム。 はやす(第四語)ノ條ヲ見ヨ。

をりびつ (名) 〔折櫃〕 檜ノ薄板ヲ折リ曲ゲテ作レル匣。四角、六角、種種アリ、蓋アリ、今、肴、餅菓子、何ニテモ盛ル。菓子ナドヲ入ルル小サキ器ヲ折ト云フハ、此名ノ遺レルナリ。音便ニ、をりうづ。又、ヲリバコ。 源、一、桐壺「其日ノ御前ノをりびつ」云云 山家集、下、詞「五葉ノ下ニ、二葉ナル小松ドモノ侍リケルヲ、子日ニアタリケル日、をりびつニ引キソヘテ遣ス」

をりびつもの (名) 〔折櫃物〕 折櫃ニ入レタルモノ。音便ニ、をりうづもの。 源、一、桐壺「ソノ日ノ御前ノをりびつ(をりひづイ)もの、籠物ナド、右大辨ナン、ウケタマハリテ、ツカウマツラセケル」 [illegible]、上、[illegible]「[illegible]十枝、をりびつ(をりひづイ)物ヨソヂ、中納言ヲハジメ奉リテ、サルベキ限リ、トリツヅケ給ヘリ」

をりふし (名) 〔折節〕 〔をりモふしモ、時限ヲ示ス語〕 (一)〔差當ル時時〕 場合。機會。 源、八、花宴「中宮ノカクテオハスルヲ、をりふしゴトニ安カラズオボセド」 (二)時節。時候。 貫之集「ヤミ起キテ、今日カ明日カト、待ツ程ノ、をりふし知ルハ、涙ナリケリ」

をりふし (副) 〔折節〕 (一)〔差當ル時折〕 時ニサシアタリテ。ソノトキチャウド。 名目抄「時節、ヲリフシ」 源、[illegible]「[illegible]心得テ打シナト」 盛衰記、十三、[illegible]「[illegible]召タク思召ニ、折節參リアヘル事、[illegible]」 (二)トキドキニ。タマサカニ。 好色五人女(貞享、西鶴)五「折節ハ假寝ノ親シ、ハカナト[illegible]ノツイデニ[illegible]切リ、浮世ノ野寺ニ暮シテ、云云」

をりふ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 〔折伏〕 折リ倒ス。折リテウツムケニス。

をりふばこ (名) 〔折文匣〕 折リ疊ミ得ルヤウニ造リタル文匣。 大江俊光記、元祿十年二月十一日「播磨里ドリニ付、樂見廻ニ參、云云、折文匣、日向ヘ、中ノ文匣オ進ヘ、爲二年玉一送給了」

をりへ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔折反〕 ヘシヲル。折リテヘス。ヲッペス。ヲッペシヲル。

をりぼね (名) 〔折骨〕 (一)馬ノ三頭ノ、隆起セル骨。 曾我物語、一、同酒盛事「還鳴シテ、おノをり骨ニ、ツミツハフリト射ケレバ」 (二)こしぼね(腰骨)ニ同ジ。 義經記、六、忠信最

後事「冥途マデ持ツ刀ヲバカクスルゾトテ、柄ヲ心モトヘサシコミ、鞘ハをり骨ノ下ヘツキ入レテ」

をりほん（名）|折本| 綴チズシテ、折リ疊ムヤウニシタル書。（法帖、手本ナド）經本。摺本 卷物ナリシ書籍ヲ、卷クコトヲセズ、折リタタムヤウニ、シタルモノ。紙ニ裏打チシテ、適宜ニタタミテ帖トシ、初ノ處ト終ノ處トヲ糊付ニシ、ヒログレバ、ワナトナリテ、一帖悉クヒロガリテ、風ニモ旋轉スル、一葉ノ紙ノ如キヲ旋風葉（讀書敏求記）ト云ヒ、又、鳥子紙ナド數枚重ネテ、二ツニ折リ（表裏ニ字ヲ書ク）、又、其幾折ヲモ重ネテ、表紙ヲ前後ト背トニアテ、折目ヲ糊付ニシタルヲ、粘葉本（通雅）ト云ヒ、コレヲ綴ヂタルヲ大和綴ト云フ。又、紙ノ文字アル方ヲ表ニシ、二ツニ折リテ數枚重ネテ、其末ヲ一ツニ綴ヅ、コレヲ綴本ト云ヒ、又、一枚毎ニ袋ノ如ク見做サルルモノ、コレヲ袋草子ト云フ。藤原清輔ノ袋艸子ト云フモ、コレナルベシ、郎チ、現在ノ仕立ナル綴本ナリ。又、胡蝶裝（通雅）ト云フハ、コレニ反シテ、文字アル方ヲ內ニシテ二ツニ折リ、折目ノ方ヲ糊付ニシテ、二枚ヅツアケテハ讀ム、紙ノ端、ヒラヒラスルコト蝶ノ翅ノ如クナルベシ。（或ハ云フ、胡蝶裝ハ粘葉ナリト）此仕立、我ガ邦ニハナシ。貞丈雜記、十六、書籍之部「卷物ハ、ヨム時、クリヒロゲテ便リ惡キ故、折本、トヂ本ニスルナリ」 難波江、二、書籍沿革「卷本子、摺本（折本トモ）、云云」

をりまじ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）|折交| 折リテマゼ合ハス。萬葉集、十四十「梅ノハナ、シダリ柳ニ、折雜ヘ、花ニ手向ケバ、君ニ逢ハムカモ」（花ハ神ノ誤リトス、古義）

をりまつ（名）|折松| 押折リタル松ノ枝。薪トス。禁祕御抄、上、下侍事「三間、有二炭櫃一四面敷レ疊、以二作日亂遊所一也、如二折松一於二此所一也」 夫木抄、十六、冬「イタヅラニ、をり松燒キテ、深ケシ夜モ、ナホ九重ノ、內ゾ戀シキ」

をりめ（名）|折目| （一）物ノ折リタル所。折際 運歩色葉集「折目、ヲリメ」 新六帖、六「散ルヲ我レ、惜ミモチタル、後マデモ、をりめハツケジ、櫻ウスヤウ」（二）衣、袴ナド、折リタル痕。（三）坐作進退ノ行儀。タチヰフルマヒ。雪女五枚羽子板（寶永、近松作）上「馬鹿慇懃ノ頑侍、卷舌ノ武禮、折目正シキ正月詞」

をりめだか（名）|折目高| （一）折目ノ、目立ツホドニ、高クアラハレテアルコト。東海道中膝栗毛（文化、一九）六編「馬士、荷歩持マデモ、洗濯布子ノ粘コハキナ、をりめ高ニキナシテ、云云」（二）行儀正シキコト。起居振舞ノ固苦シキコト。日本新永代藏（正德、北條團水）三「行儀ツヨク、折目高ニシカケケルヲ」「折目高ニ振舞フ」

をりよ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）|折好| 時機ヨシ。好都合ナリ。場合ヨシ。（折惡シノ反） 拾玉集、三「旅サス、野路モ山路モ、月サエテ、をりよき旅ノ、草枕カナ」

をりわる・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）|折惡| 時機ヨロシカラズ。場合ワルシ。惡シキ都合ナリ。（折好しニ對ス）

をりをり（副）|時時|折折| トキドキニ。ヲリフシ。節節。萬葉集、二十三長歌「君ト時時、イデマシテ、遊ビ給ヒシ、ミケムカフ、キノベノ宮ヲ」 源、一、桐壺「サルベキ御遊ビノ折折、何事ニモ故アル事ノ節節ニハ、マヅマウノボラセ給フ」

をりをりて（副）|居居| 〔ありありて（有行）ト同趣〕久シク住ミ居テ。住ミナガラヘテ。萬葉集、十六、九廿長歌「イトコ汝兄ノ君、居居而、モノニイ往クトハ、韓國ノ、云云」

を・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）|居| 〔をり（居）ノ轉〕をり（居）ニ同ジ。運歩色葉集「居、ヲル」 東海道名所記（萬治）三「世ノ中ニ鬼ハナイモノジヤト、樂阿彌ハカンジテをる」

を・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）|折| 折リ返スガ如ク、タタナハル（浪ニ云フ） 萬葉集、七廿五「今日モカモ、沖津玉藻ハ、白浪ノ、八重折ガ上ニ、亂レテアラム」 中務集「白浪ノ、をるカト見エテ、ヲチカタノ、岸ノマニマニ、咲ケル卯ノ花」

を・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）|折| （一）押シ屈ムル。撓メ曲ゲテ二重ニナス。タタム。マゲカサヌ。名義抄「折、ヲル」「指ヲをる」「膝ヲをる」（二）〔マゲテハナシトル〕モギトル。手折ル。萬葉集、十八三十七「雪ノ上ニ、照レル月夜ニ、梅ノ花、乎理テ贈ラム、愛シキ兒モガモ」（三）折リテ作ル。（烏帽子ニ、扇子ニ） 幸若舞曲、烏帽子折「我ガ所望ノ如ク、烏帽子ヲバ折ラセ參ラセテ」 指ヲ折ルトハ、數フル意。|屈指| 膝ヲ折ルトハ、從ヒ屬ク意。|屈膝| 我ヲ折ルトハ、挫ケ從フ意。|屈服|

を・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）|折| （一）屈ミ曲リテ、二重トナル。古今集、廿、東歌「小餘綾ノ、磯立チナラシ、磯菜摘ム、メザシ濡ラスナ、沖ニをれ浪」（居レヲ折レニ掛ク）（二）〔曲リテ斷ユ〕ヲレル。齊明紀、四年十一月「登レ樓而謀、夾膝自斷」 後拾遺集、四、秋、上「秋風ニ、折レジトスマフ、女郎花、幾度野ベニ、オキフシヌラン」（三）曲リテ岐ヲナス。又、曲リテ行ク。源、廿九、行幸「朱雀ヨリ五條ノ大路ヲ、西ザマニをれ給フ」（四）〔氣挫クル。負ク。|屈服| 源、廿四、胡蝶八「女房タチモ、ケニ春ノ色ハ、エオトサセ給フマジカリケリト、花ニをれツツ、聞エアヘリ」 著聞集、十一、書圖「僧正コトワリニをれテ、云フ事ナカリケリ」「我ガをるる」（五）收益ノ金額、元手ノ二倍トナル。

をれ（名）|折| ヲルルコト。又、折レタルモノ。「木ノをれ釘ノをれ」

をれ（接尾）|折| 舞曲ノ一節一節ヲカゾフル語。源、八、花宴「立チテ、ノドカニ袖カヘス所ヲ、ヒトをれ氣色バカリ舞ヒタマヘルニ」

をれかがみ（名）|折屈| 身體ノ折レ屈ムコト。又、人ノ起居フルマヒ。（他人ニ應待スルナドニ）「をれかがみガヨイ」

をれかぎ（名）|折鎰| 鑰ノ一種。鐵ノ棒ノ折レ曲リタル如キモノ、即チ、閉チタル戶ニ差入レテ、內ノ關ヲ鉤ギ取ル鑰。カラリギ 鉤匙

をれかへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）|折返| （一）折レテ、モトノトコロニカヘル。新六帖、一、嵐「アラシ吹ク、野ナル草木ノ、をれかへり、ヤスクモ見エヌ、世ノ習ヒカナ」（二）折レ旋ル。（舞ナドニ） 宇津保物語、藏開、上十一「夜目ニモシルクゾト聞エ給ヘバ、中納言、萬歲樂をれかへり舞ヒ給フ」（三）折レニ折レル。全ク折レル。

をれかが・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）|拜| 〔折屈むノ略〕をかむ（拜）ニ同ジ。

をれくぎ（名）|折釘| （一）折レ碎ケタル釘。釘ノ折レタルモノ。（二）をりくぎ（折釘）ニ同ジ。蕪村句集、春「折釘ニ、烏帽子カケタリ、春ノ宿」

をれくち（名）|折口| （一）折レタル所。折目ニ同ジ。俳諧、新五、冬「折口ハ、サスガニ生シ、冬木立」（二）俗ニ、喪ニ逢ヒタル

…兒ニ、東京人ノ(俗語)

をれ-おだ・る ルル・ルレ・レ・レヨ(自動、下二) 折傾 折レ傾ク。おだる(傾頽)ノ條ヲモ見ヨ。辨内侍日記、下「マシテ、ムネノリカマハザラメヤハヤハトテ、をれおだれ、身ヲナキニナシテ罷タリシ、不思議ニヲカシク興アリ」

をれ-こま・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 折込 ミゴモラス。ハラマス。懷胎セサス。浮世床、文化、二篇、上、下「己ガ伯母御ノ息子ガ、旅客ニ來テ年々親ト出歩テ、をれこましたモンダカラ、スグニ親ガウラモラッテ、夫婦ニシタ」

をれ-め (名) 折目 物ノ折レタル所。折レ目。折際

をれ・る (動) 折 をる(折、下二)ノ口語。

をろ (名) 岡 〔をハ高キ處、ろハ接尾語〕をか(岡)ノ條ノ(一)ニ同ジ。萬葉集、十四廿「アハ乎呂ノ、乎呂田ニ生ハル、タハミ蔓、引カバヌルヌル、吾ガ言ナ絶エ」

をろ (名) 緒 〔ろハ接尾語〕を(緒)ト云フニ同ジ。萬葉集、十四廿「マガナシミ、寐レバ言ニ出、サ寐ナヘバ、心ノ緒呂ニ、乗リテカナシモ」

をろ (名) 尾 〔ろハ接尾語〕を(尾)ト云フニ同ジ。萬葉集、十四廿「山鳥ノ、乎呂ノ極尾ニ、鏡カケ、トナフベミコソ、汝ニヨソリケメ」萬代集、十、戀、二「ヤマツ鳥、をろノナカヲノ、フカガミニ、カカル心ヲ、見ルヤトホツマ」

をろ (名) 悪露 産後ノオリモノ。おりもの(下物)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

をろが・む ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 拜 〔をれがむノ轉、折れ屈む義ト云フ〕をがむ(拜)ニ同ジ。身ヲ屈メテ俯ヒ伏ス。神代紀、下廿七「迎拜」私記「訓ニ拜爲ニ乎加無ト言ニ乎…寛保、卷一 續古記、廿…正月「ウシコミテ、仕ヘマツラム、烏呂餓頭テ、仕ヘマツラム」萬葉集、三十三「…塵ソモノ、伊…ヒ拜、罷ナミ、イハヒモ…ホリ」

をろ-た (名) 岡田 〔ろハ接尾語〕丘陵ノ上ニアル田。高地ニアル田。高田。をろ(岡)ノ條ヲ見ヨ。

をろ-ち (名) 大蛇 〔をニろノ接尾語ヲ添ヘテ尾ノ義、ちハ靈ナリ、尾アリテ畏ルベキモノノ義〕蛇ノ、極メテ長大ナルモノ。ウハバミ。大蛇。倭名抄、十九九蟲豸類「蛇、乎呂知」古事記、上二十五「高志之八俣遠呂智、毎年來喫」神代紀、上十五「八岐大蛇」崇峻紀ノ退治セラレタル、一身ニシテ八頭八尾アリシ大蛇)景行紀、廿八年十月「山神、膽吹山 化二大蛇一當道」

をろ-の-はつを (名) 尾端尾 山鳥ノ、尾ニ一ツノ長キ尾アリ、コレヲ、山鳥ノをろのはつをト云フトゾ。萬葉集、十四廿「山鳥ノ、乎呂能波都乎ニ、鏡カケ、トナフベミコソ、汝ニヨソリケメ」

を-わい (名) 汙穢 汚穢 又、をあい。をゑ。ケガラハシキコト。ヨゴレタルコト。又、キタナキモノ。汚物。史記、秦始皇紀、「滌蕩汙穢、黔首國立」書、以禮…天下…、除…而…二刑戮…除…去收祭汙穢之罪…使…各…其…里…」扶桑略記、廿四、裡書、延喜十九年六月廿四日「坤巽辰戌近陵有…汙穢…」

を-ゑ (名) 麻殖 〔をうゑノ略〕麻ヲ殖ウルコト。又、ソレヨリ起レル名稱。倭名抄、五十南海郡、阿波國、麻殖、乎惠 古語拾遺「天日鷲命之孫、造…木綿及麻幷織布…仍令…天富命率…日鷲命之孫…求…肥饒地…遣…阿波國…殖…穀麻種…其裔今在…彼國…當…大嘗之年…貢…木綿、麻布、及種種物…所以郡名爲…麻殖…之緣也」神名式、下 阿波國麻殖郡忌部神社、或號…麻殖神…或號…天日鷲神…」

を-ゑ (名) 汙穢 汚穢 前前條ノ語ニ同ジ。字類抄「汙穢、ヲヱ」

をを (感) 唯唯 おお(唯)ノ條ヲ見ヨ。

をを・し シキ・シク・シ・シケ・シカ・シク(形、二) 雄雄 剛シ。男ラシ。イサマシ。勇壯ナリ。…ニ對ス) 雄拔 天智紀…士卒…雄壯、…故更取…壁…」徒然草、… 「イデヤ、ワガ心ノ、ヨロヅニイフカヒナク、ををしき心ノナクテ、親ニモヒトヘニ任セテ、…」

ををつ (名) 南風 みなみかぜ(南風)ニ同ジ。運歩色葉集「南風、ヲヲツ」

ををり (名) 撓 タワムコト。タワムコト。萬葉集、十八四十「…我ガ花、咲キノ乎乎入ヲ、見ヨトカモ、ツクヨノ淸キ、(戀ヒマサラクニ(古義ノ訓)

ををりにををる ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 撓撓 タワワ…ナルホド、茂リニ茂ル。タワワニタワム。花ナドノ滿開ニ云フ) 萬葉集、六四十「春去レバ、乎呼理爾乎呼里、鶯ノ、鳴ク我ガ島ゾ、ヤマズ通ハセ」

をを・る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 撓 枝、葉、トヲヲニナル。タワミマガル。シナヒタワム。タワワニ茂ル。又、花ノ多ク咲クヲ、ををなむト云フ。萬葉集、九廿長歌「ヲグラノ嶺ニ、開キ乎乎流、櫻ノ花ハ、山高ミ」同、六廿長歌「春邊ニハ、花咲キ乎遠里、秋去レバ、霧立チワタル、ソノ山ノ」同、十三廿長歌「春サレバ、花咲キ乎呼里、秋ヅケバ、ニノホニモミツ」

大言海

大尾

語法指南（日本文典摘錄）

假名音

○五十音圖　平假名　片假名

五十音圖

平假名

	阿ノ段	以ノ段	宇ノ段	衣ノ段	於ノ段
阿行	あ	い	う	え	お
加行	か	き	く	け	こ
左行	さ	し	す	せ	そ
多行	た	ち	つ	て	と
奈行	な	に	ぬ	ね	の
波行	は	ひ	ふ	へ	ほ
末行	ま	み	む	め	も
也行	や	い	ゆ	え	よ
良行	ら	り	る	れ	ろ
和行	わ	ゐ	う	ゑ	を

假名ニ、變體ノモノ多ケレド、此ニハ略ス。

片假名

ア	イ	ウ	エ	オ
カ	キ	ク	ケ	コ
サ	シ	ス	セ	ソ
タ	チ	ツ	テ	ト
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ	イ	ユ	エ	ヨ
ラ	リ	ル	レ	ロ
ワ	ヰ	ウ	ヱ	ヲ

あ、い、う、え、おノ縱ノ行ヲ阿行ト名ヅケ、か、き、く、け、こノ行ヲ加行ト名ヅク。其以下、左行、多行、奈行、波行、末行、也行、良行、和行、皆之レニ倣へ。

あ、か、さ、た、な、は、ま、や、ら、わ、ノ横ノ段ヲ阿段ト名ヅケ、い、き、し、ち、に、ひ、み、い、り、ゐ、ノ段ヲ伊段ト名ヅク。以下、宇段、衣段、於段、皆、之レニ倣へ。

○單音、母韻、發聲、熟音　阿行ノ五音ハ、喉ヨリ單一ニ出ヅ、コレヲ單音ト名ヅク。加行以下、九行ノ諸音ハ、其行毎ニ、各、其音ヲ呼ビ發ス一種ノ聲アリテ、コレヲ發聲(Consonant.)ト名ヅケ、單音、ソノ韻トナリ、發聲ト單音ト、相熟シテ、始メテ音ト成ル。此故ニ、加行以下ノ九行四十五音ヲ、熟音(Syllable.)ト名ヅク、單音ハ、斯ク、發聲ノ韻トモナルガ故ニ、亦、母韻(Vowel.)ノ稱アリ。

○單音、熟音、又ハ、發聲(子韻トモ云フモノ)ノ名稱、及、假名ト洋字トノ發聲、母韻ノ辯、委シクハ、文典ニ讓ル。

○發聲ノ、喉、舌、齒、鼻、等ニ關スル辯モ、語法ニ用ナケレバ、此ニ略ス。

五十音圖ノ中ニ、阿行ノい、う、えト、也行ノい、えト、和行ノうト、同形ノ字、重出ス。コノ各二音ハ、各、甚ダ相近ケレバ、古來、字ヲ相通ハシテ用ヰ來レリ。サレド、阿行ナルハ、單音ニテ、也行、和行、ナルハ、別ニ其各行ノ發聲アル熟音ナレバ、各、相異ナルベキ理アリト知ルベシ。(其證例ノ委シキコトハ、文典ニ讓レリ。)

又、今世、口語ノ發音ニテハ、和行ノゐ、ゑ、をハ、其發聲、默シテ、韻ノミ發シ、單音ノい、え、おニハ異ナラズ。然レドモ古ヘハ、明カニ其發音ヲ別テリ、サレバコソ、別ニ、其假名モアルナレ。

半母韻　然レドモ、也行ノ音ノ發聲ハ、甚ダ單音ノいニ似テ、和行ノ音ノ發聲ハ、甚ダ單音ノうニ近ク、更ニコレニ母韻ヲ添ヘテ、二母韻、相重ナリテ發スルモノノ如シ。サレバ、拗音ノきゃ、きゅ、ちょ、くゎ、等(下ニ詳ナリ)ノ韻トモナル。此故ニ、也行、和行ノ音ヲ、半母韻(Semi vowel.)トモ名ヅク。

○鼻聲、促聲　五十音ノ外ニ、二ツノ聲アリ、ん(平假名)ン(片假名)ト、ツ(片假名)トナリ。んハ、鼻ヨリ出デテ、撥ヌルガ如キ聲ナレバ、鼻聲ト名ヅク。此聲、獨リ出デズ、必ズ他ノ音ノ下ニ附キテ出ヅ。ねんおろ(懇)、ぬきんづ(抽)、ぶんてん(文典)、ノ如シ。ツハ、口ニ促マルガ如クシテ出ヅル聲ナレバ、促聲ト名ヅク。此聲モ、獨リ發スルコト能ハズ、必ズ他ノ二音ノ間ニ挾マリテ發ス。もッとも(最)、うッたへ(訴)、まッたし(全)、ノ如シ。此ツハ、多行ノ音ノ、ツト、形、相似タレド、其聲、全ク異ナリ、因リテ、上音ノ下右傍ニ、片假名ニテ標シテ、コレヲ分ツ。

○濁音、半濁音　五十音ノ外ニ、又、一種ノ熟音アリ、コレヲ濁音、及、半濁音ト云フ。是レ亦、其各行ニ、一種ノ發聲アリテ、母韻ト相熟シテ發ス。然レドモ、之レヲ記スベキ假名ナクシテ、濁音ハ、他ノ假名ノ右肩ニ、二點ヲ加ヘテ用ヰル、其數、二十アリ。半濁音ハ、圈點ヲ加ヘテ用ヰル、其數、五ツアリ。左ノ如シ。

濁音
- 加行　が、ぎ、ぐ、げ、ご、　佐行　ざ、じ、ず、ぜ、ぞ、
- 多行　だ、ぢ、づ、で、ど、　波行　ば、び、ぶ、べ、ぼ、

半濁音　波行　ぱ、ぴ、ぷ、ぺ、ぽ

濁音、半濁音ニ對シテ、標點ナキ時ノ假名ノ音ヲ、清音（セイオン）ト云フ。濁音ノ發スルヲ、「濁ル（ニゴ）」ト云ヒ、ソレヨリシテ、清音ヲ發スルヲ、「清ム（ス）」ト云フ。

濁音、半濁音ニ、本濁（ホンダク）ト、連濁（レンダク）トノ別アリ。本濁トハ、此音ノ自然ニ發スルモノナリ。みづ（水）、かぜ（風）、にじ（虹）、ぱんや（斑枝花）ノ如シ。連濁トハ、二語、相連ルトキ、下ノ語ノ、此音ニ變ズルコトアルニ云フ。即チ、やま（山）ト、かは（川）ト、連レバ、やまーがはトナリ、さと（里）ト、ひと（人）ト、連レバ、さとーびとトナリ、かた（堅）ト、かみ（紙）ト、連レバ、かたーがみトナリ、おもひ（思）ト、はかる（量）ト、連レバ、おもんーぱかるトナルガ如シ。今世ノ口語ニテハ、濁音ノじ、ぢト、ず、づト、別無クナレリ。然レドモ、其相異ナルベキ理ハ、其同行中ノ他ノ音ノ發聲ニ比シテ知ルベシ。（今モ、四國、九州邊ニハ、其別ヲ存セリ。）

○拗音　拗音（エウオン）モ、亦一種ノ熟音ニシテ、亦、清濁アリ。此音モ、記スニ字無クシテ、假名二字ヲ連ネ用ヰテ記ス。尋常ニ記スモノ、下ノ如シ。

此拗音ノ「きャ、きュ、きョ、」「ぎャ、ぎュ、ぎョ、」又ハ、「しャ、しュ、しョ、」「じャ、じュ、じョ、」一等ト相對セシメテ、「か、く、こ、」が、ぐ、ご、又ハ、「さ、す、そ、」「ざ、ず、ぞ、」一等ノ音ヲ、直音（チヨクオン）ト稱ス。（其他ハ、準ヘテ知ルベシ。）拗音ハ、發聲ト、半母韻ト、相合シテ成ル。而シテ、其各行ノ發聲ハ、其直音ノ發聲ニ同ジ。此音ハ、二字相連ネテ寫スガ故ニ、書記ノ上ニテ、動モスレバ、直音ノ二字ナルト、紛ヒ易シ。因リテ、上音ノ下右傍ニ、片假名ニテ標シテ別ツ。いしーや（石屋）、いしーャ（醫者）ノ如シ。

加行	きャ	きュ	きョ
	ぎャ	ぎュ	ぎョ
左行	しャ	しュ	しョ
	じャ	じュ	じョ
多行	ちャ	ちュ	ちョ
	ぢャ	ぢュ	ぢョ
奈行	にャ	にュ	にョ
波行	ひャ	ひュ	ひョ
	びャ	びュ	びョ
	ぴャ	ぴュ	ぴョ
末行	みャ	みュ	みョ
良行	りャ	りュ	りョ
和行	くワ	（餘ハ略ス）	
	ぐワ		

○以上、鼻聲、促聲、濁音、拗音、ノ事ニ就キテハ、古今ニ變アリ、中外ノ音ニ異ナル所アリ、且、假名ノ成形等ニ至リテモ、大イニ論ズベキ事アレド、辭書ニ用無ケレバ、スベテ略セリ。

○轉呼音　假名ヲ、其本分ノ音ニ呼バズシテ、他ノ音ニ轉呼スルコトアリ、コレヲ轉呼音（テンコオン）トス。

○はノ假名ヲ記シテ、わノ如ク轉ジテ呼ブコトアリ。又、ひ、ふ、へ、ほ、ヲ記シテ、い、う、え、お、ノ如ク呼ブコトアリ。是レハ發聲、默シテ、母韻ノミ發スルナリ。此轉呼音ハ、他ノ音ノ後ニア

リテ發ス、開口ニ發スルコトナシ。

いは(岩)　いひ(飯)　くふ(食)　うへ(上)　かほ(顔)
くは(桑)　かひ(貝)　すふ(吸)　はへ(蠅)　しほ(鹽)
あはし(淡)　あたひ(價)　ゆふべ(夕)　かなへ(鼎)　ほのほ(焰)
かはる(變)　たひら(平)　あやふし(危)　かへる(歸)　おほし(多)

○阿ノ段ノ音、衣ノ段ノ音(清、濁、共ニ)ハ、下ニ、う、又ハ、ふ(轉呼音ノ)ヲ承クレバ、於ノ段ノ音ノ如ク轉呼スルコトアリ。是レハ、發聲ヲ存シテ、母韻ヲ變フルナリ。此轉呼音、開口ニモ發シ、他ノ音ノ後ニテモ發ス。左ノ如シ。

あうむ(鸚鵡)　あふみ(近江)　……　えう(要)　えふ(葉)
かうべ(首)　さかふ(逆)　きやう(京)　けうし(教師)　けふ(今日)
さうし(草紙)　さふらふ(候)　しやう(性)　せうと(兄人)　せふ(妾)
たうげ(峠)　たふとし(貴)　ちやう(町)　てうづ(手水)　てふ(ト云フ)
なう(腦)　そなふ(備)　……　ねうはち(鐃鈸)　……
はうむる(葬)　はふ(法)　ひやう(評)　へう(瓢)　……
まうす(申)　まふ(舞)　みやう(明)　めうが(蘘荷)　……
やうか(八日)　……　……　……　……
らう(牢)　とらふ(捕)　りやう(兩)　れうり(料理)　うれふ(憂)
わう(王)　……　くわう(光)　……　ゑふ(醉)

○其委シキコトハ、文典ニ讓ル。尚、第一卷ノ索引指南ノ條ヲ見ヨ。

連聲　又、む、及、つ(音便ニテ促聲ト爲リ)、ぬ(音便ニテ鼻聲ト爲リ)ノ音ハ、其發聲ヲ、下ニ來レル他ノ母韻、又ハ、半母韻(又ハ子韻)ト合ハセテ、轉呼セシムルコトアリ。コレヲ連聲ト云フ。

さむーゐ(三位)　おむーやうーし(陰陽師)
ほっーい(發意)　けっーいん(厥陰)　けっーてき(闕腋)　ぜっーとん(舌音)
ぜんーあく(善惡)　ぎんーなん(銀杏)　えんーにん(延引)　うんーぬん(云云)
いんーねん(因緣)　まんーねふ(萬葉)　くゎんーのん(觀音)　さんーによう(算用)
げんーな(元和)　しんーのう(親王)　りんーね(輪廻)　あんーとん(安穩)

又、き、く、ノ音ヲ、促聲ノ如ク轉呼スルコトアリ。亦、連聲ナリ。

せきーけう(石橋)　せきーかう(石膏)　せきーこく(石斛)
はくーか(薄荷)　かくーけ(脚氣)　がくーかう(學校)　にくーけい(肉桂)

○轉呼音ハ、元ト、一種ノ音便ナルベケレド、書ニ筆スル上ニテ、音便ハ、音ヲ變フレバ、字ヲモ變フルニ云ヒ、轉呼音ハ、音ヲ變フレド、字ヲ變ヘヌニ云フ。是レ相異ナル所ナリ。

○右ノ外ニ、通音、通韻、ノ事、音便ニ、聲音ノ延、約、略、加、轉、等ノ事アリ。然レドモ、是レ等ハ、音ヲ變フレバ、字ヲモ變ヘテ記スモノニテ、各一箇ノ語ト見做スベク、卽チ辭書ニハ、各自ニ揭ゲ出スモノナルニ、今、其理由ノミ說カムモ、不用ナルベシ。因リテ茲ニハ略セリ。

○漢字ノ字形、音韻、等ノ事、一切不用ナレバ、略セリ。

言　語

此篇ニハ、八品詞ノ目ヲ、名詞、動詞、形容詞、助動詞、副詞、接續詞、天爾遠波、感動詞、ト立テタリ。此他ニ、接頭語(Prefix.)、接尾語(Suffix.)、ア

リ。又、國語ニ、一種特別ナル發語、枕詞アリ、其ヲ逐ヒテ說クベシ。

國語ノ代名詞、數詞、ハ、文中ニアリテ、其位置、用法、正ニ、名詞ト異ナラザレバ、名詞ニ附屬スベキモノナリ。又、國語ノ形容詞ハ、語尾ノ變化モアリ、法(Mood.)モアリテ、文章ノ末ヲモ結ブコト、恰モ動詞ノ如ク、西洋ノ形容詞トハ、甚ダ異ナルモノナリト知ルベシ。又、助動詞モ、語尾ノ變化ヲモ法ヲモ具ヘテ、而シテ、其狀ノ動詞ノ如キアリ、形容詞ノ如キアリ、サレバ、固ヨリ舊說ノ如ク、天爾遠波ノ中ニ混ゼシベムキニアラズ、サレバトテ、コレヲ動詞ニ附屬セシメ難キコトモアリ、因テ獨立セシメタリ。分詞ハ動詞ノ法ノ中ニアリ。洋語ノ前置詞ト云フモノ、我レニアリテハ、多クハ名詞ノ後ニアリテ、位置、正ニ相反セリ、卽チ、名詞ノ後ニ付クベキ同趣ノ語ト共ニ、天爾遠波ノ中ニアリ。國語ニハ、冠詞無シ。

洋語ニ、名詞ノ格(Case)ト云フモノ、我ガ、が、の、に、を、等ニ當ルガ如クナレドモ、我ガ、が、の、に、を、等ハ、同語ノ上ニモ、所用ノ場合ニ因リテ、種種ノ意義ヲ起シ、彼ノ謂ハユル格ニ當ルモアリ、當ラヌモアリ、サレバ、が、の、に、を、等ヲ取リテ、概シテ格ナリト定ムベキニアラズ。故ニ、天爾遠波トテ、別ニ一門ニ立ツナリ。

又、我ガ名詞、代名詞ニハ、洋語ニ謂ハユル男、女、中ノ性(Gender)無シ。又、單、複ノ數(Number)モ、種種ノ接頭語、接尾語、ナド添ヘ、或ハ、同語ヲ重ネナドシテ、其別ヲ示スコトナキニシモアラネド、各語ノ用法、區區ニシテ、サラニ、一定ノ通則ナク、又、區別セズシテモ、前後ノ文勢ニテ、單複ヲ意解シ、且、區別シテモ、コレニ應ズル動詞、形容詞、等ニ、其影響ヲ及ボスコトナシ、故ニ特ニ說クコトヲ要セズ。動詞、形容詞ニモ、性モ、數モ、人稱(Person)モ無シ。

○一箇ノことば(Word.)ニ、名詞、動詞ナド云フ如ク、詞ノ字ヲ當ツルハ妥當ナラズ、體言、用言、ナド呼ベル言ノ字、正ニ相當レリ。サレド

今ハ姑ク本文ノ如シ。

名　詞（體言）

名詞ハ、有形、無形ノ事物ノ名稱ヲ云フ語ナリ。例ヘバ、日、月、牛、馬、聲、色、黑、白、禍、福、憂、樂、等ノ如シ。其中ニ、人名、地名、其他、一事一物ニ限レル名稱ナバ、固有名詞ト名ツク。賴朝、義經、池月、磨墨、髭切、膝丸、武藏、相摸、富士、利根、等ノ如シ。コレニ對シテ、固有ナラヌ、其他ノ一切ノ名詞ヲ、普通名詞ト云フ。

(一)普通、固有、ノ別、英語ノ如キハ、書記ノ上ニ、頭字ヲ用ヰルト、用ヰザルト、ナドノ定メアレド、國語ニテハ、サル事モナシ。但シ、辭書ノ採集ニ區別シ、又、地名、姓氏、等ニ(松林、遠山ナド)、普通ト紛レ易キモノナドモアレバ、注意シテハアルベキナリ。

(二)國語ノ名詞ニハ、洋語ノ如キ男、女、中ノ性モ無ク、單複數ノ別ニモ、一定ノ則無ク、又、名詞ノ格ト云フモノノ意義モ、別ニ天爾遠波アリテ、其語ニ存スレバ、本文ノ外ニハ、別ニ說クベキ事モナシ。但シ、熟語トナルトキ、稀ニ、其語尾、或ハ、全體ヲ變ズル者アリ、たけ-むら(竹叢)ノたか-むらトナリ、ふね-ばた(舟端)ノふな-ばたトナリ、き-かげ(樹陰)ノこ-かげトナルガ如シ。然レドモ、斯ク變ズル語、甚ダ少キノミナラズ、其變ズベキ語モ、アラユル場合、皆變ズルニアラズ、慣用スル所、定マリアリテ、一般ノ通則ナラズ。而シテ、其變化シ、慣用スルホドノモノハ、皆、一熟語トシテ辭書ニ擧ゲタリ。サレバ、今ハ別ニ說カズ。

○代名詞　代名詞ハ、名詞ノ一種ニテ、事物ノ名ニ代ヘテ、其レ

ヲ指シテ云フ語ナリ。例ヘバ、人、事、物、地位、方向、等ノ、各、其名アルニ代ヘテ、「我レ」「汝」「是レ」「夫レ」「此處」「彼方」ナドト云フガ如シ。

人ニ就キテ用キル代名詞ヲ、人代名詞ト云フ。而シテ、其稱スル人ノ位置ニ因リテ、別ヲ起ス、コレヲ人稱ト云フ。其人稱ノ第一ナルヲ自稱トス、話ス人、自ラ、己レガ名ニ代ヘテ用キルモノナリ、卽チ「我、行カム」ノ我ノ如シ。第二ナルヲ對稱トス、我レト相對シ、我ガ話シ掛クル人ノ名ニ代ヘテ云フモノナリ、卽チ「我レ、汝ト倶ニ行カム」ノ汝ノ如シ。第三ナルヲ他稱トス、二人ノ間ニ話シ出ス、他ノ人ノ名ニ代ヘテ云フモノナリ、卽チ「我レ、汝ト倶ニ彼ヲ訪ハム」ノ彼ノ如シ。又、別ニ、不定稱アリ、他稱ノ中ニテ、其レト定メヌ人、又ハ、其名ヲ知ラヌ人ノ名ニ代ヘテ云フモノナリ、卽チ、「誰ヲカ訪ハム」誰レニカアラム」ノ誰ノ如シ。

自稱	對稱	他稱	不定稱
われ	なむぢ	かれ あれ	たれ (だれ)

人代名詞ノ尋常ナルモノハ、右ノ如シ。此外ニモ、古今、雅俗、尊卑ニ用キ分クルモノ、尙、甚ダ多シ。左ニ、其中ノ若干ヲ擧グ。

（自稱） 吾（吾ガ妻）、吾（吾ガ君）、吾（妹とあれと、いるさの山）、麿、朕、妾、僕、己レ、某、余、身、ナド。

（對稱） 汝（汝が待つ君）、汝（なれをしぞ、あはれと思ふ）、汝、汝、吾主、御身、御事、吾殿、御邊、君、其許、ナド。

（他稱） 彼（彼ハ誰）、こやつ、かやつ、あやつ、ナド。

（不定稱） 誰（誰ガ、誰ソ）、某、何某、ナド。

右ノ外、漢文、書狀文、口語ノ上ナドニハ、尙多シ。委シクハ文典ニ讓レリ。

（二）事、物、地位、方向、等ニ就キテ用キル代名詞ニハ、近稱、中稱、遠稱、不定稱、ノ別アリ。近稱ハ、最モ近キニ云フ、是、此處、此方、ノ如シ。中稱ハ、稍、離レタルニ云フ、其、其處、其方、ノ如シ。遠稱ハ、遠キニ云フ、彼、彼處、彼方、ノ如シ　不定稱ハ、其レト定メヌ、又ハ、知ラヌニ云フ、何、何處、ノ如シ。

		近稱	中稱	遠稱	不定稱
事物		これ こ	それ そ	あれ かれ あ か	いづれ (どれ) なに
地位		ここ	そこ	あしこ かしこ あそこ	いづこ (どこ) いづく
方向		こなた	そなた	あなた かなた	いづかた (どなた)
		こち	そち	あち	いづち (どち)

（三）凡ソ、代名詞ハ、名詞ノ地位ニ代ハリテ立ツモノナルニ、こ、そ、あ、か、等ヲ、天雨遠波ノのト連ネテ用キルトキニハ、別ニ一種ノ

第一表　動詞ノ語尾變化……法

規則動詞（正格）

	第一變化卽本體 直說法（截斷・終止） Indicative mood.	第二變化 分詞法（連體） Participial mood, or Verbal adjective.	第三變化 接續法 已然 Subjunctive mood (if) Perfect.	第四變化 接續法 未然 Imperfect.	第五變化 折說法（中止・連用）Participle, present. 熟語法（連用）Compound form. 名詞法（假體・名詞）Gerund.	第六變化 命令法（希求・命令） Imperative mood
第一類（四段活用）						
	(一)(行)ゆ·く	ゆ·く	ゆ·け	ゆ·か	ゆ·き	ゆ·け
	(二)(押)お·す	お·す	お·せ	お·さ	お·し	お·せ
	(三)(分)わか·つ	わか·つ	わか·て	わか·た	わか·ち	わか·て
	(四)(飛)と·ぶ	と·ぶ	と·べ	と·ば	と·び	と·べ
	(五)(讀)よ·む	よ·む	よ·め	よ·ま	よ·み	よ·め
	(六)(去)さ·る	さ·る	さ·れ	さ·ら	さ·り	さ·れ
			ど	ば		
第二類（下二段活用）						
	(一)(得)う	うる	うれ	え	え	えよ
	(二)(受)う·く	う·くる	う·くれ	う·け	う·け	う·けよ
	(三)(任)まか·す	まか·する	まか·すれ	まか·せ	まか·せ	まか·せよ
	(四)(立)た·つ	た·つる	た·つれ	た·て	た·て	た·てよ
	(五)(兼)か·ぬ	か·ぬる	か·ぬれ	か·ね	か·ね	か·ねよ
	(六)(歷)ふ	ふる	ふれ	へ	へ	へよ
	(七)(勤)つと·む	つと·むる	つと·むれ	つと·め	つと·め	つと·めよ
	(八)(覺)おぼ·ゆ	おぼ·ゆる	おぼ·ゆれ	おぼ·え	おぼ·え	おぼ·えよ
	(九)(恐)おそ·る	おそ·るる	おそ·るれ	おそ·れ	おそ·れ	おそ·れよ
	(十)(植)う·う	う·うる	う·うれ	う·ゑ	う·ゑ	う·ゑよ
			ど	ば		
第(三類)（上…）						
	(一)(生)い·く	い·くる	い·くれ	い·き	い·き	い·きよ
	(二)(落)お·つ	お·つる	お·つれ	お·ち	お·ち	お·ちよ
	(三)[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

不規則動詞

(變格)

	(六)(懲)	こ・る	こ・るる	こ・るれ	こ・り	こ・り	こ・りよ
	(五)(報)	むく・ゆ	むく・ゆる	むく・ゆれ	むく・い	むく・い	むく・いよ
第四類(上一段活用)	(一)(鑄)	いる	いる	いれ む	い む	い	いよ
	(二)(着)	きる	きる	きれ む	き む	き	きよ
	(三)(似)	にる	にる	にれ む	に む	に	によ
	(四)(乾)	ひる	ひる	ひれ む	ひ む	ひ	ひよ
	(五)(見)	みる	みる	みれ む	み む	み	みよ
	(六)(居)	ゐる	ゐる	ゐれ む	ゐ む	ゐ	ゐよ
第一類(加行變格)	(來)	く	くる	くれ む	こ む	き	こよ
第二類(左行變格)	(爲)	す	する	すれ む	せ む	し	せよ
第三類(奈行變格)	(往)	い・ぬ	い・ぬる	い・ぬれ む	い・な む	い・に	い・ね
	(死)	し・ぬ	し・ぬる	し・ぬれ む	し・な む	し・に	し・ね
第四類(良行變格)	(有)	あ・り	あ・る	あ・れ む	あ・ら む	あ・り	あ・れ
	(居)	を・り	を・る	を・れ む	を・ら む	を・り	を・れ
	(侍)	はべ・り	はべ・る	はべ・れ む	はべ・ら む	はべ・り	はべ・れ
	(在)	いまそか・り (いますか・り)	いまそか・る	いまそか・る む	いまそか・ら む	いまそか・り	いまそか・れ

○欄上ニ(四段活用)、(下二段活用)ナドト横ニ記シ、又、欄右ノ直說法、分詞法ノ下ニ(截斷、終止)、(連體)ナドト括弧內ニ記シタルハ、スベテ、舊稱、又ハ、世稱トノ對照ナリ。○文ノ三様ノ掛リ結ビノ事ハ、文章論ニ屬スベキコトトシタレバ、動詞ノ處ニテハ說カザルナリ、故ニ、表中ニ共記載ナシ。

○此表ハ、從來用言活用圖トテアルモノトハ、名稱、次第、甚ダ異ナル所アリ。又、舊圖ニハ、各變化ニ連續スベキ助動詞、天爾遠波ヲ、一一各欄內ニ分載セルヲ、此圖ニハ除ケリ。是等ノ事ハ、委シク此動詞ノ條ノ末ニ辯ジオケリ。

第一表ノ說明

〇前表中、規則動詞ノ各類中ニ、又、各、數種アルコト、(一)(二)(三)等ノ標ニテ知ルベシ。而シテ、其各種ノ處ニ擧ゲタル動詞ハ、其同種中ノ一語ヲ採リテ、例トシテ擧ゲタルモノト知ルベシ。例ヘバ、規則第一類ノ(一)ノゆく(行)ハ、其語尾、く・く・け・か・き・けトナル、是レト同ジク、おどろく(驚)、はく(吐)、きく(聞)、かく(書)、ふく(吹)等、枚擧スベカラズ。是レ等ノ語尾、皆、く・く・け・か・き・けトナル。又(二)ノおす(押)ト同ジキハ、かもす(醸)、うつす(移)、いだす(出)、かへす(返)、けす(消)ナド、皆是レニテ、其、其語尾ノ變化ハ、す・す・せ・さ・し・せナリ。而シテ、語尾ノ濁音ナルモノ、皆同ジ。以下、第二類、第三類、第四類ニ亙リテ、皆、此定ナリト知ルベシ。

〇不規則動詞ハ、アラユル動詞ノ中ニ就キテ、僅ニ八語(從來ハ九語)アルノミナレバ、表中ニハ、ソノアル限リヲ擧ゲタリ。サレバ、規則動詞ノ方ノ、各種中ニ、一語ヅツ抽キテ擧ゲタルトハ、異ナル所アリト知ルベシ。

〇表中、各變化ノ中ニ、往往、同形ノモノノ重出セルアリ。然レドモ、是レ等ハ、形ハ同ジケレド、其意義ハ異ナルモノナリ。其異ナル所以ハ、同ジ段ノ他類ノ變化ニ照シテ見バ、其形ヲ異ニスルモノアルニテ知ルベク、且、他ノ助動詞、天爾遠波、等ニ連續スル通則ニ至リテモ、各異ナル所アリ。尚、後ノ助動詞、其他ノ條ニ說クベシ。

〇表ノ第五ノ段ニ、折說法、熟語法、名詞法ノ三法ヲ、併セテ當ツルコトトナリタルハ、表ノ方ニ省略シタル所アルニ起レリ。正シクハ、表ニ二段ヲ增シテ、全表ヲ八段トシ、段每ニ一法ヅツ當ツベキナリ。然レドモ、今ハ、表ノ面ノ尨大トナラムヲ恐レ、又、語尾ノ變化ヲ諳記セシメムニ、長クナラムヲ恐レ、簡ニ從ヒテ、略キテ、三法ヲ一處ニ當ツルコトトセリ。且、其變化ノ形、規則、不規則ノ八類ニ亙リテ、三法、共ニ各同ジクモアレバナリ。

〇各動詞ノ語尾ノ變化ヲ、其語尾ノミヲ採リテ、左ノ如ク稱呼スベシ。且、各變化ヲ、此表ニ據リテ諳誦スレバ、其則ヲ記憶シ易シ。

規則動詞ノ

- 第一類ノ
  - く・く・け・か・き・けノ變化
  - す・す・せ・さ・し・せノ變化
  - つ・つ・て・た・ち・てノ變化
  - ふ・ふ・へ・は・ひ・へノ變化
  - む・む・め・ま・み・めノ變化
  - る・る・れ・ら・り・れノ變化
- 第二類ノ
  - う・うる・うれ・え・え・えよノ變化
  - く・くる・くれ・け・け・けよノ變化
  - す・する・すれ・せ・せ・せよノ變化
  - つ・つる・つれ・て・て・てよノ變化
  - ぬ・ぬる・ぬれ・ね・ね・ねよノ變化
  - ふ・ふる・ふれ・へ・へ・へよノ變化
  - む・むる・むれ・め・め・めよノ變化
  - ゆ・ゆる・ゆれ・え・え・えよノ變化
  - る・るる・るれ・れ・れ・れよノ變化
  - う・うる・うれ・ゑ・ゑ・ゑよノ變化
- 第三類ノ
  - く・くる・くれ・き・き・きよノ變化
  - つ・つる・つれ・ち・ち・ちよノ變化
  - ふ・ふる・ふれ・ひ・ひ・ひよノ變化
  - む・むる・むれ・み・み・みよノ變化
  - ゆ・ゆる・ゆれ・い・い・いよノ變化
  - る・るる・るれ・り・り・りよノ變化
- 第四類ノ
  - いる・いる・いれ・い・い・いよノ變化
  - きる・きる・きれ・き・き・きよノ變化
  - にる・にる・にれ・に・に・によノ變化
  - ひる・ひる・ひれ・ひ・ひ・ひよノ變化
  - みる・みる・みれ・み・み・みよノ變化
  - ゐる・ゐる・ゐれ・ゐ・ゐ・ゐよノ變化

不規則動詞ノ

- 第一類　く・くる・くれ・こ・き・こよノ變化
- 第二類　す・する・すれ・せ・し・せよノ變化
- 第三類　ぬ・ぬる・ぬれ・な・に・ねノ變化
- 第四類　り・る・れ・ら・り・れノ變化

意義ヲ起シ、其名詞ニハ代ハラズシテ、其名詞ノ上ニ立チテ、唯、其名詞ヲ指シ示スコトアリ、是レヲ指示代名詞(Demonstrative)トイフ。例ヘバ、常ノ代名詞ナレバ、「人ハ」「花ヲ」ナドノ「人」「物」ニ代ハリテ、「是ハ」「其ヲ」トナルニ、指示代名詞ハ、其「人」「物」ヲ存シテ、更ニ、其上ニ立チ、「此ノ人ハ」「其ノ花ヲ」ト、其「人」「物」ヲ指シ示ス意ヲナス。而シテ、是レニモ、近稱、中稱、遠稱、不定稱、ノ別アリ。

近稱	中稱	遠稱	不定稱
この	その	あの かの	いづれの (どの)

數詞 數詞ハ、名詞ノ一種ニテ、事物ノ數ヲ云フ語ナリ。其用法、文中ニアリテ、正ニ名詞ニ同ジ。

ひとつ　ふたつ　みつ　よつ　いつつ　むつ　ななつ
やつ　ここのつ　とを　はたち　みそぢ　よそぢ　いそぢ
むそぢ　ななそぢ　やそぢ　ここのそぢ

又、語末ノ「つ」「ち」「を」等ヲ去リテ、接頭語(末ニ說ケリ)ノ如ク用ヰルコトアリ。

一夜　二道　三筋　四時　五枚　六言　七種
八里　九返　十度　二十年　三十文字　四十年　五十返
八十氏人

此他ニ、五十、五十、百、百、千、萬、ナドアリ。重用シテハ、五十、五百、八百、八千、百千、五百萬、八百萬、千千、千萬、ナドアリ。然レドモ、是レ等モ、多クハ熟語ニ用ヰル。

幾十　百年　千種　萬代　五百枝　八百重　八千度　百千度

又、漢語ナルハ、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、百、千、萬、億、兆、等アリ。

○數詞ノ原形ハ、元來、ひと、ふた、み、よ、ナドニテ、接頭語ノ如キモノナルベク、コレニ、箇、或ハ、箇ノ接尾語ノ加ハリテ、名詞ノ如クナリタルナラム。然レドモ其原形ハ、一般ニ用ヰガタキ事セアリ。因リテ姑ク本文ノ如クニシテ、名詞ニ屬セシメタリ。他ノ百、千、等、亦然リ

○洋語ニ、順序數詞(Ordinal)ト云フモノ、我ガ數詞ニハ無シ。(第一、二號、三番、四ツ目、ナド、他語ヲ添ヘテ形作ルモノヲ以テ、之レニ當ツルモノアルハ、誤レリ。)

動　詞(用言、作用言、活語)

動詞ハ、名詞ノ後ニ附キテ、其動作ヲ云フ語ナリ。例ヘバ、「花、飛ぶ」「蝶、鷲く」「春、去る」「夏、來る」ノ「飛ぶ」「鷲く」「去る」「來る」ハ、「花」「蝶」「春」「夏」ノ動作ヲ云フガ如シ。又、希ニ、現象ノ云フモノアリ。例ヘバ、「此ニ人あり」「志、其父ニ似る」ノ「あり」ト、「似る」トハ、「人」ト、「志」トノ現象ヲ云フガ如シ。

○動詞ノ性　アラユル動詞ヲ、其性質ニテ別チテ、自動性ト、他

動性トノ二種トス。

自動性　自ラ動作シテ、他ノ事物ヲ處分スルコトナキ意ノモノヲ、自動性トス。例ヘバ、「花、飛ぶ」蝶、驚く」ノ「飛ぶ」驚く」ノ如シ。其動作、ソノママニテ通ズ。自動性ノ動詞ヲ略シテハ、自動詞トモ云フ。

他動性　動作ノ、他ノ事物ヲ處分スル意アルモノヲ、他動性トス。例ヘバ、「蠶ハ、絲ヲ吐く」蜂ハ蜜ヲ釀す」ノ「吐く」釀す」ノ如シ。コレヲ、唯、「蠶は、吐く」蜂は、釀す」トノミ云ヒテハ、其意、未ダ全ク通ゼズ、必ズ、「何を」ト問ハルベシ。然ルトキハ、其處分スベキモノヲ擧ゲテ、「絲を」或ハ、「蜜を」ト答ヘズハアルベカラズ、而シテ後ニ、其意ヲ全ウス。他動性ノ動詞ヲ略シテハ、他動詞トモ云フ。

○國語ノ動詞ニハ、自動ノ上ニモ、完了語(Complement.)ヲ要スルアリ、(父に似る、馬に乘る、ノ類)、他動ノ上ニモ完了語、一ツニテ足ルアリ、(絲を吐く、蜜を釀す、ノ類)、二ツヲ要スルアリテ、(志を父に似す、物を馬に載す、ノ類)、自、他ニ、各、單複ノ別アリ。然レドモ、是レ等ノ解、辭書ニ用ナケレバ、略セリ。詳ナルハ、文典ニ讓ル。

○語根、語尾、變化　動詞ハ、其動作ノ意ヲ、數樣ニ現サムトシ、又ハ、他ノ語ニ連續セムトスルガ爲ニ、其語ノ末ヲ變フ。例ヘバ、

ゆ・く(行)　ゆ・け　ゆ・か　ゆ・き　まか・す(任)　まか・する　まか・すれ　まか・せ

此ノゆ、又ハ、まか、ノ如ク、變ハラザル部ヲ、語根(Root.)ト云ヒ、く・け・か・き、又ハ、す・する・すれ・せ、ノ如ク、變ハル部ヲ、語尾ト云ヒ、而シテ其變ハルコトヲ、變化ト云フ。又、一音ノ動詞ハ、其全體ヲ變フ。例ヘバ、

う(得)　え　ふ(歴)　へ　く(來)　こ　き　す(爲)　せ　し

○規則動詞、不規則動詞　アラユル動詞ノ變化ノ狀モ、亦、種種ナリ。其狀ノ異同ヲ類別スレバ、八類トナル。其中ノ四類ニハ、所屬ノ動詞多クシテ、他ノ四類ニハ、所屬ノ動詞、甚ダ少シ。其多キ方ニ屬スルヲ、規則動詞ト名ヅケ、少キ方ニ屬スルヲ、不規則動詞ト名ヅク。其別、左ノ如シ。

規則動詞(正格)

第一類(四段活用)　六種　　第二類(下二段活用)　十種

第三類(上二段活用)　六種　　第四類(上一段活用)　六種

第四類ノ中ニ變體ノモノアリ、後ニ言フベシ。

不規則動詞(變格)

第一類(加行變格)　一種　　第二類(左行變格)　一種

第三類(奈行變格)　一種　　第四類(良行變格)　一種

○規則第一類(四段活用)　此類ノ變化ニ屬スルモノハ、表ニ示

セルガ如ク、六種ニ限ル。此各種ノ動詞ハ、其語尾ノ變化ヲノミ唱フレバ「く・く・け・か・き・け」す・す・せ・さ・し・せ」つ・つ・て・た・ち・て」ナドトナリテ、其變化ノ語路、口調、相似タレバ、同類トス。以下、第二、三、四類ノ各種モ、スベテ此規定ニテ、其語尾ノ變化ノ口調ノ相似タルニ因リテ、類聚シタルモノナリ。而シテ、表ニ擧ゲタル動詞ハ、其各種中ノモノヲ、一語ヅツ擧ゲタルナリ。又、アラユル動詞ノ中ニテ、此第一類變化ニ屬スルモノ、最モ多シ。因リテ、之レヲ第一トス。

規則第二類（下二段活用）此類ノ變化ニ、十種アリテ、其狀ハ、「う・うる・うれ・え・え・えよ」く・くる・くれ・け・け・けよ」す・する・すれ・せ・せ・せよ」ナドト、其口調ヲ同ジウス。此變化ニ入ル動詞ハ、第一類ニ次ギテ多シ。因リテ、コレヲ第二トス。

規則第三類（上二段活用）此類ノ變化ハ、六種ニ限ル。其變化ノ狀、上半ニテハ、「く・くる・くれ」つ・つる・つれ、」ナドトナリテ、第二類ト相同ジケレド、下半ハ、いノ韻ニテ、「き・き・きよ」ち・ち・ちよ」ナドトナリテ、第二類ノえノ韻（「け・け・けよ」て・て・てよ」）トナルト異ナリ。此類ノ變化ノ動詞、甚ダ多カラズ、故ニ、コレヲ第三トス。

規則第四類（上一段活用）此變化モ、六種ニ限ル。此變化ハ、下半ニテハ、「き・き・きよ」ひ・ひ・ひよ」ノ如ク、第三類ニ似タレド、上半ニテハ、「きる・きる・きれ」ひる・ひる・ひれ」ナドトナリテ、相異ナリ。此類ノ變化ノ動詞ノ數、僅ニ十數語ニ出デズ。因リテ、コレヲ第四トス。

○第四類變化ハ、元來、語數モ極メテ少キノミナラズ、他ノ助動詞（らむ、らし、べし、ナド）ニ連續スルニモ、他類ト變則ナルコトアリ、或ハ、不規則動詞ニ入ルベキモノナラムカ。尙、委シクハ、文典ニ讓ル。

然レドモ、口語ニアリテハ、規則動詞第三類ノいく（生）、おつ（落）、しふ（强）等ヲ、いきる、おちる、しひる、ナドトスルガ、定リナリ。（關東、近畿ヲ初トシテ、全國六七分ハ然リ。次ノ變體モ同ジ。）サテ此口調ニ從ヒテ、別ニ出來レリト覺シキあきる（厭）、うじる（增長）、たいぢる（退治）、たりる（足）、ナドモアリ。是レ等ノ變化ハ、正ニ此第四類ノ變化ト同ジクシテ、其語モ頗ル多シ。

變體（下一段活用）又、規則動詞第二類ノう（得）、うく（受）、まかす（任）、等ヲモ、口語ニテハ、える、うける、まかせる、トセリ。此口調ニ從ヒテ、別ニ出來レルける（蹶）、いせる（揩縫）、はせる（裂）、はねる（放場）、もめる（所揉）、ナドモアリテ、其語、亦、多シ。此類ノ語尾ノ變化ハ、「ける・ける・けれ・け・け・けよ」せる・せる・せれ・せ・せ・せよ」ねる・ねる・ねれ・ね・ね・ねよ」ナドトナリテ、其韻

ニ、いトえトノ差ハアレド、其變化ノ狀ハ、規則動詞ノ第四類ニ似タリ。因リテ、其類ノ變體トス。

○不規則第一類（加行變格）　此變化ハ、唯、一種ニテ、且、く（來）ト云フ動詞一語ニ限ル。其變化ハ、「く・くる・くれ・こ・き・こよ」トナリテ、其狀、頗ル規則動詞第三類ナル（一）ノいく（生）ニ似タレドモ、下半ノ、「き・き・きよ」トハナラデ、「こ、き、こよ」トナルガ、不規則ナルナリ。

不規則第二類（佐行變格）　此類ノ變化モ、唯、一種ニテ、其語モ、す（爲）、ノ一語ニ限ル。此類ノ變化ハ、「す・する・すれ・せ・し・せよ」トナリテ、規則動詞第二類ノ（三）ノまかす（任）ニ似タレドモ、下半ハ「せ・し・せよ」ニテ「せ・せ・せよ」トナラヌガ變格ナリ。（從來、御座すモ、此類ニ屬スルモノナリシガ、今、暫ク削リタリ。其理ハ、辭書ヲ見ヨ。）

不規則第三類（奈行變格）　此變化モ、唯、一種ニテ、亦、いぬ（往）、しぬ（死）、ノ二語ノミナリ。（但シ、助動詞ノぬ、コレニ同ジ。）此變化ノ狀ハ、上半、「ぬ・ぬる・ぬれ」ハ規則動詞第二類ナル（五）ノかぬ（兼）ニ似タレドモ、下半ノ「な・に・ね」ハ、第一類變化ノ口調ニ似タリ。又、アラユル動詞中ニテ、六變化ヲ、殊體ニテ具備スルハ、此類ノ變化ニ限ル。

不規則第四類（良行變格）　此變化モ、亦一種ニテ、其語ハ、あり（有）、をり（居）、はべり（侍）、いまそかり（在）、ノ四語ニ限ル。（但シ、助動詞ノなり、たり、せり、けり、めり、ノ類、コレニ同ジ。）此類ノ語尾ノ變化ハ、甚ダ規則動詞第一類ノ（六）ノさる（去）ニ似タレドモ、彼レハ、「る・る・れ・ら・り・れ」トナルニ、此レハ、「り・る・れ・ら・り・れ」トナルガ異ナリ。且、凡ソ日本ノ動詞ハ、其本體、うノ韻ニ終ハルヲ通則トスルニ、此一類ノミハ、いノ韻ニ終ハルヲ、殊ニ異ナリトス。

以上、不規則四類ノ動詞ハ、合セテ八語ナリ。アラユル動詞中ニテ、此不規則類ニ入ルベキハ、僅ニ此八語ニ限ルト知ルベシ。凡ソ、不規則動詞ハ、四類共ニ、其變化ノ狀、規則動詞ト異ナルコト、上ニ言ヘルガ如クナルノミナラズ、他ノ助動詞ト連續スル通則ニ至リテモ、皆、多少、規則動詞ト異ナル所アリ。尙、後ノ助動詞ノ條ニ說クヲ見ヨ。又、不規則動詞ノ四類ノ順序ハ、五十音ノ順ニ依ル。

○動詞ノ法　動詞ノ變化ニ因リテ、語氣ニ、種種ノ態度ヲ生ズ、コレヲ法ト云フ。其法、七種アリ、卽チ、

(一)直說法（終止形）　(二)分詞法（連體形）
(三)接續法　(四)折說法（中止形）

(五)熟語法(連用形)　(六)名詞法(名詞形)

(七)命令法(命令形)　(第一表ト參照スベシ)

○此法ノ事ニ就キテハ、國語ト、洋語トノ間ニ、其趣ヲ異ニスルコトアリ、委シクハ、末ニ辯ズベシ。又、法ト云フモノハ、語氣ノ態度ナレバ、法ト稱セムヨリハ、態ノ字ヲ當テテ、直說態、命令態、ナドトセバ、妥當ナラム。然レドモ、今ハ姑ク改メズ。又、從來、截斷言、連體言ナドト、言ノ字ヲ當テタルモ、妥當ナラズ。此事モ、後ニ言フベシ。

今、左ニ、規則動詞ノ四類中ヨリ、各一語ヲ出シテ、七種ノ法ヲ說明カスベシ。他ハ之レニ準ヘテ知ルベシ。

(一)直說法(終止形)　動作ヲ、ソノママニ說キテ、文章ノ末ヲ結ブ法ニテ、コレヲ動詞ノ本體トス。例ヘバ、

書ヲ讀む　事ヲ勤む　花落つ　月ヲ見る。

尋常ハ、此ノ第一變化ノ直說法ヲ以テ、文章ノ末ヲ結ブ。然ルニ、文中ニ、天爾遠波ノぞ、や、か、ノ入ルトキハ、第二變化ヲ直說法トシテ結ブ。例ヘバ、

書ヲぞ讀む　事ヲぞ勤むる。　花ぞ落つる。　月ヲぞ見る。
書ヲや讀む　事ヲや勤むる。　花や落つる。　月ヲや見る。
何ヲか讀む　何ヲか勤むる。　孰レか落つる。　何ヲか見る

又、天爾遠波ノこそノ入ルトキハ、第三變化ヲ直說法トシテ結ブ。例ヘバ、

書ヲこそ讀め　事ヲこそ勤むれ。　花こそ落つれ。
月ヲこそ見れ、

右ノ如ク、ぞ、や、か、ヲ結ブニ、第二變化ヲ用ヰ、こそヲ結ブニ、第三變化ヲ用ヰルコトハ、諸ノ動詞、又ハ、形容詞、助動詞、スベテ然リ。

○右ノ三種ノ結法ノ事ハ、文章論ニテ說クコトトシタレバ、動詞ノ條ニテハ、委シクハ言ハズ。尙、文典ニ詳ニス。

(二)分詞法(連體形)　コレハ他ノ名詞ノ上ニ連ル法ニテ、即チ、動詞ノ分レテ、形容詞ノ形容法(後ニ云フ)ノ如クナルモノナリ。例ヘバ、

已レガ讀む書、　我ガ勤むる事、　花、落つる時。　月ヲ見る人、

或ハ、獨立ニモ用ヰテ、

讀む書。　勤むる人。　落つる花、　見る物。

此法ハ、其下ニアルベキ名詞ヲ含ミテ (Understood.)、直ニ名詞ノ如ク用ヰルコトアリ。例ヘバ、

讀む(事)ト書く(事)トヲ學ブ。　人ノ勤むる(狀)ニ倣フ。
花ノ開く(頃)ヨリ、落つる(頃)マデ。　見る(事)ヲ好マズ。

(三)接續法　此法ハ、豫想ノ語句ヲ設ケテ、他ノ主トスル語句ニ、接續附加セシムル時ニ起ルモノニテ、下ニばヲ加フ。而シテ其中ニ、「已ニ然ル」ニ云フト、「未ダ然ラズトスル」ニ云フトノ別

アリテ、コレヲ已然、未然ト云フ。（第一表ト參照スベシ）

已然（已然形）

多ク書ヲ讀めむ　能ク智識ヲ增ス。
事ヲ勤むれむ　功、成ル。
花落つれむ　實生ズ。
月ヲ見れむ、物ヲ思フ。

未然（未然形）

多ク書ヲ讀まむ　能ク智識ヲ增サム
事ヲ勤めむ　功成ラム。
花、落ちむ、實、生ゼム。
月ヲ見む、物ヲ思ハム。

此ノ已然ナルハ、意義、一轉シテ「讀ムニ、」「勤ムルニ、」「落ツルニ、」「見ルニ、」ナドノ意ヲナスコトアリ「善ク見れむ、誤ナリキ、」ナドノ如シ。又「讀ムニ因リテ、」「勤ムルニ因リテ、」「落ツルニ因リテ、」「見ルニ因リテ、」ノ意ヲナスコトアリ、「智ヲ增スハ、書ヲ讀めむナリ、」ノ如シ。

(四)折說法（中止形）　此法ハ、文章ノ閒ニアリテ、其意ヲ、暫シ言止シ置キテ、其後ニ來ル他ノ動詞ノ法ニ照應シテ、其意ヲ共ニスルモノナリ。例ヘバ、

書ヲ讀み、道ヲ學ブ。　事ヲ勤め、功ヲ成ス。　花、落ち、鳥、啼ク。
月ヲ見、且、古ヘヲ懷フ。

コレ等ヲ、句每ニ分タバ、「書ヲ讀む、又、道ヲ學ブ、」「事ヲ勤む、又、功ヲ成ス、」ナドト直說スベキヲ、姑ク、「讀み、」「勤め、」ト言止シテ、下ノ「學ブ、」又ハ、「成ス、」ニ照應シテ、直說ノ意ヲ終フルモノナリ。

此法、又、數語、連用スルコトアリ、又、數語ヲ隔テテ照應スルコトアリ。例ヘバ、

書ヲ讀み（讀む又）事ヲ勤め（勤む又）理ヲ究め（究む而シテ）說ヲ立て（立つ、而して）、詳ニ、コレヲ文章ニ著し（著す）、又、コレヲ印行し（印行す、且）、弘ク、コレヲ世ニ示す。

其他、尙、種種ニシテ、凡テ、其下ニ來ル語ト、意ヲ共ニス。「事ヲ勤め（たる）、功ヲ成し（たる）、能ク其名ヲ揚げたる人。」「夙ニ起き（て）、夜ニ寐ねて、財ニ富み（たれむ）、且、學ニ長けたれむ、」

○此法、舊說ニテハ、連用言トシテ、次ニ說ク熟語法ト混ジタリ。サレド、「勤め行フ、」「落ち入ル、」ナドト用キル「勤め」「落ち」ト、「我レハ勤メ、彼レハ怠ル、」「花落チ、鳥啼ク、」ナドト用キル「勤め」「落ち」トハ、其用法、太ダ異ナリ、一ハ、全ク熟シテ一語ノ如クナレド、一ハ、各自ニ動作シテ、「或ハ勤メ、或ハ怠ル、」「此レハ落チ、彼レハ啼ク、」ノ意トナレバナリ。又云フ、折說ノ字面ハ、直說法ニ對シテ付シタルモノナレド、未ダ此法ノ意ヲ盡サザルガ如シ。適當ナル語ヲ得バ改ムベシ。

(五)熟語法（連用形）　他語ト組立テテ一熟語トスル時ノ法ナリ。

例ヘバ、「落ツ」ト「入ル」トヲ組立ツルトキ、「落ツ入ル」トハナラデ、「落ち入ル」トナルガ如シ。

他ノ動詞ト組立ツルモノハ、

讀み果ツ　勤め爲ス　落ち入ル。　み渡ス。

又、數語ヲ連ヌルアリ。

讀み聞せ奉ル　飛び立ち去ル。　打ち連れ立ち給ノ。

他ノ名詞ト合フモノハ、

讀み人。　勤め事。　落ち葉。　み物。

又、形容詞ト合フコトモアリ。

讀み憂シ。　勤め難シ。　落ち易シ。　み苦シ。

○此法ヲ、從來、連用言ト云ヘリ、他ノ用言（動詞）ニ連ル故ノ稱ナリ。然レドモ「讀み人」「落ち葉」ノ如ク、名詞ト連リテ熟語トナルモノモ、全ク是レナレバ、（此ノ讀み、落ち、等ヲ名詞ナリト云フハ、背ハレズ。）必ズ用言ニ連ルトノミ言ヒ難シ。因リテ今ハ、別名ヲ下セリ。

但シ、不規則動詞ノ第二類（左行變格）ナルすト、同ジク第四類（良行變格）ナルありトハ、他語ヲ冠シテ熟語トナルコトナシ。「釣りす」「狩りす」「喜びあり」「隔てあり」ナドト連リテモ、其上ナルハ、名詞法ニテ、「釣リヲす」「狩リヲす」「喜ビノある」「隔テノある」ノ意トナル。

（「隔てあり」「分ちあり」「任カセあり」ナドト、熟語法ニ用キルハ、誤ナリ。）

尚、其辭ノ詳ナルコトハ、文典ニ讓ル。

（六）名詞法（名詞形）　動詞ノ、名詞トナル法ナリ。例ヘバ、

讀みヲ覺ユ。　勤めヲ怠ル。　落ちヲ拾フ。　花みニ行ク。

（七）命令法（命令形）　此法ハ、他ニ動作ヲ命ズルモノナリ。例ヘバ、

書ヲ讀め。　事ヲ勤めよ。　落ちよ。　みよ。

○此法ハ、變化ノ類ニ因リテ、よヲ添フルアリ、添ヘヌアリ。（讀め、ヲ「讀めよ」「讀めや」ナドトモ用キルコトアルハ、感動詞ノよ、や、ヲ添ヘタルナリ。又、「讀みね」ナド添フルハ、助動詞ノぬノ命令法ナリ。）又、今ハ添フレドモ、古ヘハ添ヘザリシモアリ。（「勤め、モロモロ」「馬、暫シ止め」「早ク手ニ居ゑ」「見ニ來」「吉ク爲」ナド。）委シクハ、文典ニ讓ル。

○

（洋語ノ動詞ニ Mood.（姑ク、英語ニテ記ス、下、皆同ジ）ト云フモノ、即チ、此篇ニ云フ動詞ノ法ナリ。然レドモ、彼我ノ語性ニ就キテ、頗ル其趣ヲ異ニスルコトアリ。又、洋語ノ動詞ニハ、Voice.（口氣ト譯ス）Tense.（時ト譯ス）ト云フモノアルガ、我ガ動詞ニテハ、是レ等ノ意義ハ、他ノ助動詞ト連帶關係シテ、始メテ起ルガ故ニ、今ハ、助動詞ノ條ニテ説クコトトセリ。左ニ是レ等ノ異同ヲ辯ゼム。

Mood. ト云フ語ヲ、辭書ニ據リテ、其意義ヲ求ムルニ、「動詞ノ變化ニ因リテ生ズル語氣ノ態度ナリ」トアリテ、一動詞ノ其語體ヲ變ジテ成ルモノナリ。

羅甸語ノ動詞ニハ、直説法、可成法（Potential.）、接續法、命令法、不定法、名詞法、分詞法、等アリテ、其法ハ、スベテ一動詞ノ語體ニ具備スルモノ

ニテ、其語體ヲ變ジナドシテ、能ク衆法ヲ現ハシ、他ノ助動詞ナド添ヘテ成ルニアラズ。而シテ右ノ諸法ノ中ニテ、直說法、接續法、命令法、名詞法、分詞法、等ハ、我ガ動詞ニ云フト、粗同ジク、共ニ、語體ヲ變ジテ成ル。然ルニ、其不定法ト云フモノハ、動詞ノ單行スル時ノ法ナルガ、我ガ動詞ニハ無シ。又、可成法ト云フモノモ、事ヲ爲シ得ル意ヲ云フ法ナルガ、亦、我ガ動詞ニハ無シ。但シ助動詞ノる、らる（讀マる、勤メらるノ如シ）ヲ添フレバ、其意ニ充ツル事ヲ得ベシ。西洋諸國ノ文法ハ、大率、羅甸ノ文法ニ傚ヒテ作リシモノナリト云フ。英國ノ動詞ニモ羅甸語ノ如ク、直說法、可成法、接續法、命令法、不定法、及、分詞法、名詞法、（此二法ハ、法トハセズシテ、單ニ分詞ト立ツルモノ、往往アリ。）等ヲ立ツ。然ルニ、其可成法ハ、動詞ノ體ノ變化ニハアラデ、動詞ノ前ニ、別ニ助動詞ヲ加ヘ、又、接續法モ、多クハ、動詞ノ前ニ、別ニ接續詞ヲ加ヘテ、其意義ヲ成サシメ、其可成、接續、ノ意義ハ、動詞ノ語體ニハ存セズシテ、添ヘタル助動詞、接續詞ノ方ニ存スルモノノ如シ。（我ガ接續法ノ末ノだモ、他語ヲ加フルニ似タレドモ、尙、前ニハアラデ、後ニアリテ語尾ヲ補フモノニテ、且、變化スルコトモ無シ。猶、命令法ノ末ノよノ如シ。）サレバ、英國ノ動詞ニ云ヘル可成法、接續法ハ、其語體ニハ具ヘヌヲ、他語ヲ加ヘテ、羅甸ノ法ニ擬シテ作爲セルナリ　是レ等ハ、英國ノ語學者ガ、無用ノ摸擬ト云フベク、既ニ其國ノ學士中ニモ、コレヲ法ナラズト論ズルアリ　然ルニ、今日、洋文法ヲ以テ、國文法ヲ論ズルモノノ、「讀マる」勤メらるナドヲ、可成法ト立ツルアリ、亦、右ノ謬見ヲ遺傳セルナリ。或ハ云フ、英國ノ助動詞ハ、動詞ト密着スルモノニテ、其、前ニ居リ、後ニ居ルヲ問ハズ、合シテ一語ト見ルベキナリト。今、姑ク、英國ノ動詞ハ、或ハ然ラムトストモ、我ガ助動詞ハ、大イニ異ナルモノニテ、變化アリ、法アルコト、粗、動詞ニ同ジク、例ヘバ、「勤メらる」ト云ヘバ、直說法トナリ、「勤メらる

る」ト云ヘバ、分詞法トナリ、勤メらるれえ ト云ヘバ、接續法トナル。サレバ、此ノらるヲ、助動詞ナラズトシテ、「勤メらる」ト密着セル「勤ム」ノ可成法ナリトセバ、其變化ノらるる、らるれえヲバ、如何ニカセム。法ニ法アリト云フコトヤアルベキ。扨、又、我ガ動詞ニハ、熟語法ト云フモノアリテ、彼レニハ絕エテ無キガ如シ。凡ソ是レ等ノ事ハ、東西ノ語性ニ、天然ノ差異アリテ存スルモノタルコトヲ覺ルベシ。

Voice. ハ、口氣ト譯スベクシテ、辭書ニ據レバ、「動詞ノ、一種ノ變體ニシテ、以テ、文主（サブゼクト）ト動詞ノ動作トノ關係ヲ指別セシムル別體ナリ。」トアリ。此口氣ニ二樣ニ分レテ、能相（ハタラキカケ）（Active.）、所相（ウケ）（Passive.）ト云ヒ、羅甸語ニテハ、動詞ノ語體ニ、此ノ二樣ノ變ヲ具セリ。然ルニ、我ガ動詞ニテ、此ノ能、所、ヲ言ハバ、例ヘバ、「打ツ」傳フ」ノ、能相タルハ論ナケレドモ、其所相ヲ寫シ出サムトスレバ、別ニ助動詞ノる、らる（亦、變化アリ、法アリ）ヲ添ヘテ、「打タる」傳へらる」ナドトセズハアルベカラズ。而シテ其能相ノ意義ハ、所相ニ對シテ生ズルモノナレバ、今ハ、助動詞ノる、らるノ條ニ至リテ說クコトトセリ。（英語ノ動詞ニモ、所相ハ、前ニ助動詞ヲ添ヘテ言フガ多シ。）

Tense. ハ、時ト譯シテ、亦、動詞ノ動作ノ、現在ナルト、過去ナルト、未來ナルト、ヲ示スニ就キテ起ル、一種ノ轉化ニテ、是レモ、羅甸語ノ動詞ニテハ、其語體ニ、コノ轉化ヲ具セリ。我ガ動詞ニテモ、「打ツ」傳フ」ノ現在ナルハ論ヲ待タザレド、過去ヲ寫シ出サムトスレバ、助動詞ヲ加ヘテ、「打チたり」傳へき」ノ如クシ、未來モ、助動詞ヲ加ヘテ、「打タむ」傳へむ」ナドトスルナリ。（此たり、き、む、等、亦、皆、變化アリ、法アリ。）因リテ、是レ、亦、助動詞ノ條ニ說クコトトセリ。（英語ノ如キハ、過去ノ轉化ヲ、動詞ノ體ニ具スルアリ、或ハ、前ニ助動詞ヲ添ヘテ示スモアリ、而シテ、未來ハ、率ネ、助動詞ヲ加フルガ如シ。）

畢竟ズルニ、單ニ「打ツ」傳フ」ト云フ語ヲ指セバ、一ノ動詞ト呼ブベキノミ。抑、單ニ、打ツ、傳フ、ト云フ語ナルガ、所相ノ「打タる」傳へる」ニ對スレバ、能相ノ名目ヲ生ジ、過去、未來ノ「打チたり」傳へむ」等ニ對スレバ、現在ノ名目ヲ生ズルナリ。而シテ、其所相ト云ヒ、過去、未來、ト云フ意義ハ、スベテ、助動詞ノ方ニ存スルコトナレバ、是レ等ノ事ハ、動詞ノ語體ノ轉化ニ生ズルモノトハ見ズシテ、他ノ助動詞ノ條ニ說カムトスルナリ。

○

(一)從來、用言ノ活用ニ、四段、上一段、上二段、下二段、等ノ名稱アリ（第一表ノ欄上ニ記セルモノ）其四段活用ト云フハ、例ヘバ、ゆく(行)ト云フ用言ハ、其語尾、か・き・く・け、ト活用シテ、五十音圖ニ照セバ、其圖ノ上ヨリ四段ノ諸音ニ當ルガ故ニ命名セルニテ、是レハ其理アリトセム。然ルニ、き(着)ノきる・きれ、ト活用スルヲ、上一段活用ト名ヅケ、いく(生)ノ語尾ノ、き・くる・くれ、ト活用スルヲ、上二段ト名ヅケ、うく(受)ノ語尾ノ、くる・くれ・け、ト活用スルヲ、下二段ト名ヅクルナドハ、妥當ナラザルガ如シ。ソハ、「き、」又ハ、「き、く、」又ハ、「く、け、」ノ音コソ、五十音圖ノ上ノ一段、又ハ、上ノ二段、又ハ、下ノ二段ナレ、其他ノ「きる、きれ、くる、くれ、」ナドトアル「る、れ、」ヲバ、如何ゾ措キテ言ハザル。ソモ、コノ「る、れ」ハ、附屬物ノ如ク、等閑ニ視ルベキモノナラザルベシ。凡ソ、用言ノ正格、變格、八種ノ活用ノ中ニテ、コノ「る、れ、」ノ活用ナキモノハ、僅カニ、四段活用ト、良行變格ト、ノ二種アルノミ。其他ノ六種ハ、皆、コノ「る、れ、」ヲ以テ、要用ナル活用ヲ現ハシ、殊ニ、上一段活用ニ至リテハ、コノ「る、れ、」無ケレバ、(古格ハ、姑ク措キ)第一ニ、用言ノ本體タル截斷言(終止形)ヲ形作ルコトヲ得ズ（「ぞ、る、」「こそ、れ、」ナドト、概略ニ「掛リ、」「結ビ、」ヲ呼ブモ、用言ニ、此音ノ活用多キヲ知ルベシ。）又、希求言(命令形)ヲモ、活用ト見ルトキハ、よノ音ヲモ、活用中ニ加ヘザルヲ得ズ（よ無ケレバ、希求言ヲ成サザルモノモ、少カラズ）此ノ如ク論ジテ、抑、從來、命名ノ趣意ニ本ジテ、正シク稱呼セムトセバ、加行上一段活用ノ、き・きる・きれ・きよ、ヲバ、「加行上一段、良行下二段、也行一段活用、」ナドト呼ビ、良行下二段活用ノ、れ・る・る・るれ・れよヲバ、「良行下二段、重複顛倒、及、也行一段活用、」ナドト呼バズバ、他ノ四段活用等ニ對シテ、其命名ノ鈞合ヲ失ハム。サレバトテ、斯ル冗長ナル名稱ハ、採ルベクモアラズ、此ノ故ニ、今ハ四段、一段、ナドト云フ意味アル命名ニハ從ハズシテ、單ニ、第一類、第二類、第三類、第四類、等ノ名ヲ命ゼリ。又、其順序モ、舊圖ナルハ、四段活用、最モ、五十音圖ノ順ニ適當スルガ如ク、且、其所屬ノ用言モ數多ケレバ、之レヲ第一トシタルナルベク、而シテ、次下ハ、五十音順ニ據リテ次第セルナルベシ。然レドモ、今ハ、四段、一段、等ノ名稱ヲ用ヰヌコトニモアレバ、其活用ニ所屬スル用言ノ多少ヲ以テ、順序ヲ改メ、四段活用ヲ第一類トシ、下二段活用ヲ第二類トシ、上二段活用ヲ第三類トシ、上一段活用ヲ第四類トセリ。又、既ニ、正格活用ノ名稱ヲ改メタル上ハ、變格活用モ、舊稱ヲ存シ難ケレバ、亦、第一類、第二類、第三類、第四類トセリ。但シ、其順序ハ、舊キニ從ヘリ。

從來ノ活用五階圖ハ、五十音圖ノ段ヲ標準トシテ、先ヅ、四段活用、一段活用、等ノ名ヲ定メ、抑、其活用ノ最モ博キ四段活用ノ音(か、き、く、け、等)ヲ基本ト立テテ、他ノ活用ヲ、コレニ從ヘシメテ、製セシモノナルベシ。サレバ、ゆか(行)ヲ基トシテ、他ノいき(生)、うけ(受)、等ノ未然言ト云フモノ、第一階ニ居ルナリ。然レドモ、凡ソ、用言ノ本體ト云フモノハ、ゆく(行)、いく(生)、うく(受)、ニテ、即チ、截斷言ト云フモノナレバ、先ヅ、某ノ用言トテ、取出シテ記サムニハ、截斷言ヲ第一ニ置クベキ理ナ

ラム。然ルニ、舊圖ニテハ、其本體タルベキモノ、第三階ニ居ルコトトナリテ、體裁宜シカラズ是レ等モ、畢竟ズルニ、五十音順ヲ基トシ、四段活用、等ノ目アルガ故ニ、之レニ從ハザルヲ得ザルニ起レルナリ。然レドモ本篇、既ニ、四段活用、等ノ名稱ヲ用ヰザレバ、今ハ、其順序ヲ改メテ、截斷言ヲ第一ニ置ケリ而シテ、後ノ形狀言、助動詞、等ノ表モ、皆、之レニ傚ハシメタリ。殊ニ、活用ナキ助動詞ノなむ(願ノ)、じ(不)ノ如キハ、表ノ第一階ニ置キテ、下ヲ空白ニスル方、體裁好キヲ見ルナリ(舊圖ノ體ニ製スレバ、第三階ニアリテ、上下、空白トナル。)且、又、三種ノ「掛リ、」結ビ、」ヲ說カムニモ、其活用ノ第三階、第四階、第五階ニアラムヨリハ、第一階、第二階、第三階ニアラム方、太ダ善カルベケレバ、今ハ、連體言、已然言、ト云フモノヲ、第二階、第三階ニ上ゲテ、截斷言ニ次ガシメ、而シテ、第一階、第二階ニアリシ未然言、連用言ト云フモノヲ、ソノママ、下ニ下ゲタリ。又、希求言ハ、舊圖ニハ、略ケルガ多シ。然レドモ、其活用ノ體ノ異ナルモノモアルガ上ニ、奈行變格(死ね)ノ如キ、甚ダ迷ヒ易キモノモアレバ、今ハ、下ニ一階ヲ加ヘテ載セタリ。而シテ、第四階、第五階、第六階ノ順序ニハ、理由ナシ。唯、上ヨリ讀下シ諳誦セムニ、口調語路ノ好カラムニ從ヘリ。

又、從來、五階ノ名稱ヲ、未然言、連用言、截斷言(又、終止言)、連體言、已然言、トセリ。是レ等ノ名稱、好カラヌニモアラネド、尙、論ズベキコトアリ。先ヅ、其本語ニ、用言ト云フ名ヲ付シテ、又、其活用ニ、未然言、連用言、ナドト、言ノ字ヲ付スルハ、言中ニ言アルコトトナリテ、甚ダ初學ノ迷ヒヲ惹キ易シ。本篇ニ用ヰタル法ノ字トテモ、適當ナリトハ言ヒ難ケレド、(態ノ字、當ラムト云フコトハ、前ニ說ケリ。世ニ形ノ字ヲ當ツ。)尙、迷ヒヲ避クルニ足ラム。又、文ノ「掛リ、」結ビ、」ノ如キモ、「ぞ、や、か、こそ、ノ掛リハ、已然言ニテ結ブ、」ナドト云フ

コトトナルモ、不都合ナリ。既ニ、連體トハ、他ノ體言ニ連ル語ナリト釋キテ、又、ぞ、や、かノ「掛リ」ヲ結ブ(截斷ス)ト云ヒ、已然ハ、過ギ了レル意ヲ云フト釋キテ、又、こそノ「掛リ」ヲバ、現在ノ意ニテ結ブコトトモナル。齟齬極マレリ。

又、第二階ハ、連用言トモナリ、體言トモナルニ、連用言ト定稱スルトキハ、差支ヘアルベシ。又、舊圖ニハ、各階ノ欄內ニ、助動詞、天爾遠波、等ヲ、一一插入シタレド、用言ノ活用ノミ說カム場合ニハ、甚ダ錯雜ヲ起スヲ覺ユ。サルハ、未然言ノ下ニ、「ゆかず」ナドアリテハ、唯、ゆくト云フヲ、現在ニ打消ス意ノモノナレバ、未然ト云フ命名ニ違ヒ、截斷言ノ下ニ、「ゆくべし」ナドトアリテハ、連ル所アリテ、截斷ト云フ意ニ合ハズ。連體ハ、體言ニ連ルト云フニ、「ゆくなり」ナドトアリテハ、助動詞ニモ連ル意トナリテ、初學ヲシテ、甚ダ惑ハシム。

右ノ如クナレバ、此篇ノ表ノ各階ニハ、一切、意義アル名稱ヲ付セズ、階ノ名稱トシテハ、單ニ、第一變化、第二變化、第三變化、第四變化、第五變化、第六變化、ト稱呼セシムルコトトセリ。而シテ「ぞ、や、かノ掛リ」ハ、第二變化ニテ結ビ、「こそ、ノ掛リ」ハ、第三變化ニテ結ブ、トヤウニ稱ヘシメムトス。又、各變化ト、助動詞等トノ、連體ノ則ニ至リテハ、下ニ、別表ニ掲ゲテ、唯、某助動詞ハ、動詞ノ第幾變化ニ連續ス、トノミ說キ、此場合ニハ、絕エテ動詞ノ變化ノ意義ヲ言ハズ。而シテ、直說法(截斷言)、分詞法(連體言)、ノ如キ意義アル稱呼ハ、階ノ稱呼ノ外ニ立テテ、其階ヲ、直ニ何何法(何何言)ナリトハ言ハズシテ、直說法ニハ、第一變化ヲ用ヰ、接續法ノ已然ニハ、第三變化ヲ用ヰ、未然ニハ、第四變化ヲ用ヰ、或ハ、折說法ニハ、第五變化ヲ用ヰ、熟語法ニモ第五變化ヲ用ヰル、ナドト稱ヘシメムトスルナリ。

第二表　形容詞ノ語尾變化……法

	語根	第一變化 即本體	第二變化	第三變化	第四變化	第五變化
	熟語法 Compound form.	直說法(終止) Indicative mood.	形容法(連體) Adjective form.	接續法 已然 Subjunctive mood.(it) Perfect.	接續法 未然 Subjunctive mood.(it) Imperfect.	折說法(中止) Participle, Present. 副詞法(連用) Adevrb.
第一類 クシキ活用	(善)よ	よ・し	よ・き	よ・けれ	よ・く	よ・く
	(高)たか	たか・し	たか・き	たか・けれ (え)	たか・く (だ)	たか・く
	遠 とほ	とほ・し	とほ・き	とほ・けれ	とほ・く	とほ・く
第二類 シク活用	(惡)あし	あ・し	あ・しき	あ・しけれ	あ・しく	あ・しく
	(樂)たのし	たの・し	たの・しき	たの・しけれ (え)	たの・しく (だ)	たの・しく
	(同)おなじ	おな・じ	おな・じき	おな・じけれ	おな・じく	おな・じく

○各欄内ニ、三語ヅツ擧ゲタレド、各類ニ、各、三種アルニアラズ、唯、同變化ノモノヲ、三語ヅツ出セルマデナリ。

○欄上ノ「ク・シ・キ活用」シク・シ・シキ活用、」又、欄右ノ終止、連體、等、括弧内ノ名目ハ、舊稱トノ對照ナリ。又、表中ニ、同形ノ變化ノ重出セル事、又、第五階ニ、折說法、副詞法、トテ、併セテ當テタル事、等ノ辯ハ、前ノ動詞ノ表(第一表)ノ裏面ノ說明ニ準ヘテ知ルベシ。

○舊圖ト、位置、名稱、ノ變ハレルコトモ、亦、動詞ノ條ニ辯ジタルニテ知ルベシ

○第一類ノ變化ヲ「形容詞ノし・きノ變化」ト稱スベシ。第二類ノ變化ヲ「形容詞ノし・しきノ變化」ト稱スベシ。(語路惡シケレバ、略ニ從フ。僅ニ二類ナレバ、覺ユルニ難カラズ。)

形容詞(形狀言)

形容詞(ケイヨウシ)ハ、名詞ノ後ニ附キテ、其形容、性質、情意、等、ヲ云フ語ナリ。例ヘバ、「山、高し」海、深し」ノ「高し」深し」ハ、其形容ヲ云ヒ、「是レ、善し」彼レ、惡し」ノ「善し」惡し」ハ、其性質ヲ云ヒ、「會フハ、嬉し」別ルルハ、悲し」ノ「嬉し」悲し」ハ、其情意ヲ云フガ如シ。

○語尾ノ變化　形容詞モ、亦、語尾ヲ變化シテ、文章ノ末ヲモ結ブ。然レドモ、其變化ノ狀、動詞トハ甚ダ異ニシテ、二類ニ別ル。

第一類　一種　　第二類　一種

○第一類變化　此類ノ變化ハ、唯、一種ニシテ、其狀、し・き・けれ・く・く、ト變化ス。表ニ擧ゲタル三語、皆、同種ナリ。第二類ナルモ、然リ。

○第二類變化　此類ノ變化モ、唯、一種ニシテ、其狀、し・しき・しけれ・しく・しく、ト變化ス。第一類ノ語根ヲ疊用スルモノハ、率ネ變ジテ、第二類變化トナル。例ヘバ、とほし(遠)、おほし(多)、かろし(輕)、等ハ、第一類變化ナルニ、「とほとほし、」おほおほし、」かろがろし、」トナレバ、第二類變化トナルガ如シ。其他、いまいまし(忌)、うやうやし(恭)、くだくだし(煩瑣)、をゝし(男)、めめ

し(女)、ナド、疊ミテ云フ語モ、率ネ、然リ。

○おほきし(大)ト云フ形容詞ハ、おほきき、おほきけれ、ト用ヰタルヲ見ズ、又、すむやけし(速)ヲ、すむやけけれ、ト用ヰタルヲモ見ズト云フ。是レ等ハ、變化ノ闕ケタル不成語ナルカ、或ハ、古書ニ、偶、其用例ノ存セザルモノカ。又、副詞ノすこし(少)ヲすこしき、すこしく、ナドト、形容詞ノ如ク用ヰルコトアルハ、誤用ナラム、サルハ、すこし、ヲ直說法ニ用ヰタルヲ見ザレバナリ(すこしけれト云フベクモアラズ。)其他、尙、委シキコトハ、文典ニ讓ル。

(法)　形容詞ノ法ハ、動詞ノ法ト、大イニ似テ、少シ異ニシテ、分詞法、名詞法、命令法、無クシテ、別ニ、形容法(ケイヨウハフ)、副詞法(フクシハフ)アリ。(但シ、形容法ハ、分詞法ト、粗、同ジキモノナリ。)卽チ、

(一)　直接法(終止形)　　(二)　形容法(連體形)
(三)　接續法　　(四)　折說法(中止形)
(五)　副詞法(連用形)　　(六)　熟語法

左ニ、形容詞ノ法ヲ、大略ニ說カム。ソノ動詞ノ法ト同ジキモノハ、相準ヘテ知ルベシ。

(一)直說法　文章ノ末ヲ結ブ法ニテ、コレヲ形容詞ノ本體トス。

例ヘバ、

行ヒ、善し。　名、高し。　誇ルハ、惡し。　見ルハ、樂し。

尋常ノ直說法ハ、右ノ如シ。若シ、文中ニ、天爾遠波ノぞ、や、か、又ハ、こそ、ノ入ルトキハ、第二變化、又ハ、第三變化ヲ用ヰルコト、亦、動詞ノ如シ。例ヘバ、

香ぞ好き。　聲ぞ高き。
香や好き。　聲や高き。
何レか好き。　何レか高き。
香こそ好けれ。　聲こそ高けれ。
誇ルぞ惡しき。　見ルぞ樂しき。
誇ルや惡しき。　見ルや樂しき。
何レか惡しき。　何レか樂しき。
誇ルこそ惡しけれ。　見ルこそ樂しけれ。

(二)形容法(連體形)　他ノ名詞ノ上ニ連ル法ナリ。例ヘバ、

色ノ好き花。　峯ノ高き山。　行ヒ、惡しき人。　心、樂しき時

或ハ、獨立ニモ用ヰテ、

好き色。　高き山。　惡しき心。　樂しき時。

又、下ニアルベキ名詞ヲ含ミテ、直ニ、名詞ノ如クニモ用ヰル。

例ヘバ、

香ノ好きヲ愛ヅ。　山ノ高きニ登ル。
善きト惡しきトヲ別ツ。　樂しき、悲しき、樣樣ナリ。

(三)接續法　形容詞ノ接續法モ、亦、動詞ノ接續法ト、全ク相同ジキモノニテ、又、已然、未然、ノ別アリ、其意味モ、相準ヘテ知ルベシ。例ヘバ、

已然（已然形） 未然（未然形） 已然（已然形） 未然（未然形）

善ければ、 善くば、 惡しければ、 惡しくば、

高ければ、 高くば、 樂しければ、 樂しくば、

其他ノ用法、率ネ、動詞ノ接續法ノ如シ。

（四）折說法（中止形） 文章ノ中間ニテ其意ヲ言止（イヒサ）シテ、下ノ語ニ照應スルコト、動詞ノ折說法ニ同ジ。相準ヘテ解スベシ。例ヘバ、

性質善く、品行修マル。 山高く、海深シ。

惡しく、且、賤シ。 樂しく、又、喜バシ。

是レ、亦、句毎ニ云ハバ、「性質、善し。品行、修マル。」「山、高し。海、深し。」ナドト云フベク、或ハ、「品行、修マリ、性質、善し。」「海、深く、山高し。」トモ云フベキナリ。

數語、相連リ、又、數語ヲ隔テテ、他ノ種種ノ語ニ照應スルコトアルモ、動詞ノ折說法ニ同ジ。例ヘバ、

心、善く（善し。又）行ヒ、正しく（正し。又）、其功モ、甚ダ高し。

丈、高く（高き 又）、骨逞しき人。 幅、廣く（廣ければ 又）、丈、長ければ、

〇舊說ニテハ、此法、並ニ、次ノ副詞法ヲ、共ニ、連用言ト稱シテ、相別タ[illegible]然レドモ、副詞法ハ、「善く修マル」樂しく思フ」ナドト、「修マル」思フ」[illegible]副ヒテ、其意ヲ言ヒ添フレドモ、折說法ハ、各自、獨立ノ意ヲ言ヒテ、文、句、ヲ結バヌマデノモノナリ。混ズベキニアラズ。

（五）副詞法（連用形） 形容詞ノ變ジテ、副詞トナルモノナリ。（副詞ノ事、後ニ擧グ。）例ヘバ、

善く修マル。 高く昇ル。 惡しく變ハル。 樂しく思フ。

甚しく實シ 全く無シ 遠く道ニ見ユ 淺く中ニ流ル。

又、副詞法ハ、動詞ノ、あり（ある・あれ・あら）ト連リテ、例ヘバ「善く-あり」惡しく-ある」善く-あれ」無く-あらむ」ナドト用ヰラルトキ、ソノくトあト約（ツヅマ）リテ、「善かり」惡しかる」善かれ」無かれ」善からむ」無からむ」ナドトナルコト、常ナリ。

扨、又、ソノ「善からむ」無からむ、」ナド、更ニ約リテ「善けむ」無けむ」トモナリテ、一種、異樣ノ語尾ヲナシ（けめト變化セズ）、又、「善からむ」善かれど、」ナドモ、再ビ約リテ「善けむ」善けど」トモナル。但シ、此用法ハ、古ク、且、稀ニシテ、形容詞一般ニハ用ヰ難シ。

（六）熟語法 他語ト合シテ、熟語トナル法ニテ、語根ヲ用ヰル。然レドモ、形容詞中、此法ヲ成サザルモノモ多シ。左ニ、其例ノ若干ヲ擧グ。

第一類變化ニテ、

吉詞（ヨゴト）。 長歌。 高山。 遠野。 淺瀨。

高光ル。 遠離（ザカ）ル。 近寄ル。 薄暗シ。 細長シ。

第二類變化ニテ、

悪し様　同じ事　嚴し鋒。　可憐し妹。　賢し女。
顯し身。　空し車。　空し烟　長長し夜。　嬉し涙。

又、「無シ」ハ、第一類變化ナレバ、「神無月」正無言ナドト用キルハ、尋常ナルニ、或ハ「友無し千鳥」根無し言」耳無し山」ナドトモ用キルハ、特例ナリ。（又、「空車」可惜事」ナドノ空、可惜ハ、生得ノ接頭語ナルベク、第二類變化ノ語根ノしヲ去リテ用キタルニハアラザルベシ。

○語根　形容詞ノ語根ヲ、稀ニ、直説法ノ如ク用キルコトアリ。

アナ憂、(シ)世ノ中。　アナ畏、(シ)人ニ語ルナ。　アナ尊、(シ)。
アナ憂、(シ)ヤ。　アナ畏、(シ)ヤ。

○又、語根ヲ、稀ニ、名詞ノ如ク用キルコトアリ。ソノ句ナルハ、句ヲ、一團ノ語ト見ルナリ。（第一類天爾遠波ノのノ條、見合ハスベシ。）

面白ノ春ノ夜。　アラ難有ノ御心。　怨しノ心。　口惜しノ事。
恥しノ事。　怪しノ法師。　アナ恐しノ事。　あさましノ世ヤ。

又、「無シ」ハ、「味氣無ノ世ノ中」暇無ノ身」面無ノ狀ヤ」ナドトモ用キ、又ハ、「來ル人無しノ宿ノ庭」御身モ、甚クノ甲斐無しニテハ無ケレド」ナドトモ用キルハ、異ナリ。

○又、語根ニ、さト云フ接尾語ヲ添ヘテ、文ノ末ヲ結ブコトアリ。但シ、第一類天爾遠波ノし、か、がノ下ニ限ル。

音の清亮さ。　人の無情さ。　聞クが悲しさ。　言ノが侘しさ。

以上、常ニ、和歌ニ用キル。散文ニハ、多クハ、更ニ、よヲ添フ。

逢ヒタルコトの嬉しさよ。　捨テラレムコトのあさましさよ。

○又、語根ニ、みト云フ接尾語ヲ添ヘテ、副詞ノ如ク用キルコトアリ。

苫ヲ粗み、我ガ、衣手ハ、露ニ濡レツツ。　名ヲ睦しみ。
瀬ヲ速み、岩ニ塞カルル、瀧川ノ。　山高み。
君ヲやさしみ。　月清み。

其意ハ、「苫粗キガ故ニ濡ル、」瀬速キガ故ニ塞カル、」ナドナリ。（苫を、瀬を、等ノをハ、感動詞ナリ。）但シ、此用法ハ、和歌ノ上ニ多シ。

○從來ノ語學書ニハ、多クハ、形狀言ノ「深-み」高-み」重-げ」惡-げ」善-さ」惡シ-さ」ニ名詞トナルモノ」ナドノみ、げ、さヲ、形狀言ノ活用ナリトシテ說ケルガ多シ。サレド、是レ等ハ、一種ノ接尾語ノ、形狀言ノ語根ニ添ハリテ、體言トナルニテ、活用ニハアラジ。サレバ、形狀言ニハ限ノデ、「有リ-げ」物思ヒ-げ」思ハズ-げ、」或ハ、「逢フ-さ」離ル-さ」行ク-さ」來-さ」歸ル-さ」入ル-さ」ナド、作用言ニモ付ケリ。是レ等ヲモ、活用ナリトハ云ハルマジ。げハ、氣ナリ、さハ、狀ナリ、みモ、狀ヲ云フ語ナリ。又、「降リみ、降ラズみ」蹈ミみ、蹈マズみ」ナドト用キルみハ、「試ル」ト云フ作用言

第三表　助動詞ノ變化……法

此表中ノ變化竝ニ法ノ名目ノ事、其他、大體、スベテ前ノ〔第一表〕詞ノ語尾變化表、〔第二表〕形容詞ノ語尾變化表、ト同ジト知ルベシ。

助動詞ニハ、熟語法、名詞法、ヲ成サヌモノ多ケレバ、省ケリ、希ニアルハ、本文ニ記ケリ。

		第一變化 直說法(終止)	第二變化 分詞法(連體)	第三變化 已然 接續法	第四變化 未然 接續法	第五變化 折說法(連用中止)	第六變化 命令法(希求命令)	
使役	1	しむ	しむる	しむれ ども	しめ む	しめ	しめよ	押サしむ」受ケしむ」見しむる」ノ如シ。
	2	•す	する	すれ ども	せ む	せ	せよ	•押サす」死ナする」行カせよ」ノ如シ。
	3	•さ・す	さ・する	さ・すれ ども	さ・せ む	さ・せ	さ・せよ	•受ケさす」立テさする」見させ」ノ如シ。
受身	4	•る	るる	るれ ども	れ む	れ	れよ	•押サる」打タるる」ニ(被レ押、被レ打)ノ如シ、
	5	•ら・る	ら・るる	ら・るれ ども	ら・れ む	ら・れ	ら・れよ	•受ケらる」立テらるる」被レ受、被レ立)ノ如シ。
能力	6	•る	るる	るれ ども	れ む	れ		•押サる」打タるる」ニ(得レ押レ之、得レ打レ之)ノ如シ。
	7	•ら・る	ら・るる	ら・るれ ども	ら・れ む	ら・れ		•受ケらる 立テらるる (得レ受レ之、得レ立レ之)
指定	8	なり	な・る	な・れ ども	なら む	なり		押スなり」受クルなり」(〕名詞ニ、「月なり」花なり」
	9	•た・り	た・る	た・れ ども	た・ら む	た・り	た・れ	•名詞ニ「父たり」子たり」漢語ニ「寂莫たり」ノ如シ。
打消	10	ず	ぬ	ね ども	ず む	ず		押サず」受ケぬ」起キねど」ノ如シ。
	11	ざ・り	ざ・る	ざ・れ ども	ざ・ら む	ざ・り	ざ・れ	押サざり」受ケざる」有ラざれ」ノ如シ。
過去	12	つ	つる	つれ ども	て む	て	てよ	押シつ」受ケつる」有リて」ノ如シ。
	13	ぬ	ぬる	ぬれ ども	な む	に	ね	押シぬ」受ケぬる」有リなバ」行キにシ」ノ如シ。
	14	た・り	た・る	た・れ ども	た・ら む	た・り		押シたり」受ケたる」打チたる」ノ如シ。
	15	•せ・り	せ・る	せ・れ ども	せ・ら む	せ・り		•名詞ニ「罪せり」工夫せる」〔〕副詞ニ「高クせり」詳ニせる」ノ如シ。
	16	•り	る	れ ども	ら む	り		•規則動詞ノ第一類ニ「押せり」行ケる」青々… …ける」ノ如シ。○接續法ハ…

	番號	第一變化 直説法(止終)	第二變化 形容法(體連)	第三變化 接續法 已然	第四變化 接續法 未然	第五變化 折説法(中止) 副詞法(連用)	
	17	け・り	け・る	け・れ ど	*け・ら	け・り	押シけり」受ケける」ノ如シ。〇*接續法トナラズ。
未來	18	む	む	*め			押サむ」受ケむ」ノ如シ。〇*接續法トナラズ。
	19	け・む	け・む	*け・め			押シけむ」受ケけむ」ノ如シ。〇*接續法トナラズ。
推量	20	ら・む	ら・む	*ら・め			押スらむ」受クらむ」ノ如シ。〇*接續法トナラズ。
	21	め・り	め・る	め・れ ど		め・り	押スめり」受クめり」見ユめる」ノ如シ。
詠歎	22	な・り	な・る	な・れ ど			押スなり」受クなり」靜スなり」見ユなる」ノ如シ。
希望(ノゾミ)	23	な・む					押サなむ」有ラなむ」ノ如シ。〇此語、變化ナシ。

〇*印ノ變化ハ、此表ニハ、スベテ不用ナレド、文ノ結ビトナルモノモアレバ、姑ク、加ヘ置ク。委シキ事ハ、文典ニ讓ル。

	番號	第一變化 直説法(止終)	第二變化 形容法(體連)	第三變化 接續法 已然	第四變化 接續法 未然	第五變化 折説法(中止) 副詞法(連用)	
指定	24	べ・し	べ・き	べ・けれ ど	べ・く ど	べ・く	押スべし」受クべき」ノ如シ。
比況	25	•ご・と・し	ご・と・き		ご・と・く ど	ご・と・く	•天爾遠波ノが、の、ニ「押スがごとし 花ノごとき」
打消	26	ま・じ	ま・じき	ま・じけれ ど	ま・じく ど	ま・じく	押スまじ」受クまじき」ノ如シ。
	27	じ					押サじ」受ケじ」見じ」ノ如シ。〇此語、變化ナシ。
過去	28	き	し	しか ど			押シき」受ケし」行キしかば」ノ如シ。
推量	29	ま・し	ま・し	ま・しか ど			押サまし」受ケまし」行カましかば」ノ如シ。
	30	らし	*らし	*らし			押スらし」受クらし」〇*形容法、接續法トナラズ。

〇助動詞ハ、何レノ動詞ニモ連ルベキ通則ナルニ、其中ニ、然ラヌモアリ、表中、•印アルモノ、是レナリ、委シクハ、尚、本文ニ說クベク、又、次ナル第四表ヲモ參見セヨ。

〇欄内ノ空ナルハ、其變化ノ闕ケタルモノナリ。但シ、變化、尚アレド、奇僻ナルハ省ケルモノアリ。

○前表ノ外ニ、助動詞ニ似タルモノ。

て・む(て・め)「行キてむ」打チてむ」ナドト用ヰルてむナリ。是レハ、過去助動詞ノつ(12)ノ第四變化ナルてニ、未來助動詞ノむ(18)ヲ連ネタルナリ。(めハむノ變化ナリ。)是レヲ一ノ助動詞トスルモノアルハ、重複ナリ。尚、此表、幷ニ、次ノ第五表ノつ(12)ノ條ヲ見ヨ。

て・き(て・し)「行キてき」打チてし」ナド用ヰルモノナリ。 是レモ、前項ニ云ヘルつノ第五變化ナルてニ、過去助動詞ノき(28)ヲ連ネタルニテ、一語ナラズ。(しハきノ變化ナリ)

な・む(な・め)「行キなむ」有りなむ」ナド用ヰルなむナリ。是レモ、過去助動詞ノぬ(13)ノ第四變化ナルなニ、未來ノむヲ連ネタルニテ、一語ナラズ、前前項ノてむニ準ヘテ知ルベシ。(「行カなむ」有ラなむ」ナド云フ希望ノなむ(23)トハ固ヨリ異ナリ)

に・き(に・し)「行キにき」有りにし」ナド用ヰルモノナリ。是レモ、前項ニ云ヘルぬノ第五變化ナルにニ、過去ノきヲ連ネタルニテ、一ノ助動詞ニハアラズ。

せ・む(せ・め) 是レハ、爲ト云フ動詞ノ第四變化ナル爲ニ、未來ノむヲ連ネタルナリ。是レヲ一ノ助動詞ノ如ク見タルモノアルハ、太ダ誤レリ。

けむ 「善けむ」無けむ」可けむ」ナドト、形容詞ノ語根ニ連レルガ如キけむナリ。是レハ「善からむ」無からむ」可からむ」ナドノ約マレルガ如キモノニテ、又、一種異樣ノモノナリ。(けめト變化セズ)尚、前ノ形容詞ノ條ニ說ケリ。

かり 「善かり」惡シかり」ナドノかりナリ。是レハ「善く・有り」惡しく・有り」ノ約マレルナレバ、別チ見テ知ルベシ。尚、前ノ形容詞ノ條ニ說ケ

リ。

なり 「明なり」靜なり」詳なり」ナドノなりナリ。是レハ、副詞ノ「明に」靜に」詳に」ナドニ「有リ」ノ約マレルナレバ、別チテ見テ、其意義ヲ知ルベク、指定ノなり(8)ニ似テ、稍、異ナル所アリ。(詠歎ノなり(22)トハ、固ヨリ異ナリ)尚、本文ノなり(8)ノ條ニ說ケリ。

あらし、たらし、ならしノ類 是レ等ハ「ある・らし」たる・らし」なる・らし」ナドノ約マレルナレバ、相別チテ知ルベシ。

春めく、學者ぶる、議論かまし、男らし、行キたし 是レ等ノ「めく」ぶる」がまし」らし」たし」ノ類ハ、スベテ、接尾語トシタリ。

第四表　動詞ト助動詞トノ連續

規則動詞

	第一類	第二類	第三類	第四類
第一變化	(行)ゆく (押)おす (分)わかつ (飛)とぶ (讀)よむ (去)さる 20 らむ　21 めり　22 なり　24 べし　26 まじ　30 らし	(得)う (受)うく (任)まかす (立)たつ (兼)かぬ (歴)ふ (勤)つとむ (覺)おぼゆ (恐)おそる (植)うう 20 らむ　21 めり　22 なり　24 べし　26 まじ　30 らし	(生)いく (落)おつ (強)しふ (恨)うらむ (報)むくゆ (懲)こる 20 らむ　21 めり　22 なり　24 べし　26 まじ　30 らし	(鑄)いる (着)きる (似)にる (乾)ひる (見)みる (居)ゐる 20 らむ　21 めり　22 なり　24 べし　26 まじ　30 らし
第二變化	ゆく おす わかつ とぶ よむ さる 8 なり	うる うくる まかする たつる かぬる ふる つとむる おぼゆる おそるる ううる 8 なり	いくる おつる しふる うらむる むくゆる こるる 8 なり	いる きる にる ひる みる ゐる 8 なり
第三變化	ゆけ おせ わかて とべ よめ され 16 ・り(る・れ・ら)	うれ うくれ まかすれ たつれ かぬれ ふれ つとむれ おぼゆれ おそるれ ううれ	いくれ おつれ しふれ うらむれ むくゆれ こるれ	いれ きれ にれ ひれ みれ ゐれ
第四變化	ゆか おさ わかた とば よま さら 1 しむ　2 ・す(せ)　4 ・る(れ)　6 ・る(れ)　10 ず(ぬ・ね)　11 ざり　18 む(め)　23 なむ　27 じ　29 まし	え うけ まかせ たて かね へ つとめ おぼえ おそれ うゑ 1 しむ　3 ・さす　5 ・らる　7 ・らる　10 ず(ぬ・ね)　11 ざり　18 む(め)　23 なむ　27 じ　29 まし	いき おち しひ うらみ むくい こり 1 しむ　3 ・さす　5 ・らる　7 ・らる　10 ず(ぬ・ね)　11 ざり　18 む(め)　23 なむ　27 じ　29 まし	い き に ひ み ゐ 1 しむ　3 ・さす　5 ・らる　7 ・らる　10 ず(ぬ・ね)　11 ざり　18 む(め)　23 なむ　27 じ　29 まし
第五變化	ゆき おし わかち とび よみ さり 12 つ(て)　13 ぬ(な・に・ね)　14 たり　17 けり　19 けむ　28 き(し・しか)	え うけ まかせ たて かね へ つとめ おぼえ おそれ うゑ 12 つ(て)　13 ぬ(な・に・ね)　14 たり　17 けり　19 けむ　28 き(し・しか)	いき おち しひ うらみ むくい こり 12 つ(て)　13 ぬ(な・に・ね)　14 たり　17 けり　19 けむ　28 き(し・しか)	い き に ひ み ゐ 12 つ(て)　13 ぬ(な・に・ね)　14 たり　17 けり　19 けむ　28 き(し・しか)

不規則動詞

第一類	第二類	第三類	第四類
(来)く 20 らむ 21 めり 22 なり 24 べし 26 まじ 30 らし	(為)す 20 らむ 21 めり 22 なり 24 べし 26 まじ 30 らし	(往)いぬ (死)志ぬ 20 らむ 21 めり 22 なり 24 べし 26 まじ 30 らし	(有)あり (居)をり (侍)はべり (在)いますかり ・らむ ・めり ・なり ・べし ・まじ ・らし
くる 8 なり	する 8 なり	いぬる 志ぬる 8 なり	ある をる はべる いますかる 8 なり 20 ・らむ 21 ・めり 22 ・なり 24 ・べし 26 ・まじ 30 ・らし
くれ	すれ	いぬれ 志ぬれ	あれ をれ はべれ いますかれ
こ 1 志む 3 ・さす 5 ・らる 7 ・らる 10 ず(ぬ・ね) 11 ざり 18 む(め) 23 なむ 27 じ 29 まし 28 ・き し・しか	せ 1 志む 3 ・さす 5 ・らる 7 ・らる 10 ず(ぬ・ね) 11 ざり 18 む(め) 23 なむ 27 じ 29 まし 28 ・き し・しか	いな 志な 1 志む 2 ・す(せ) 4 ・る(れ) 6 ・る(れ) 10 ず(ぬ・ね) 11 ざり 18 む(め) 23 なむ 27 じ 29 まし	あら をら はべら いますから 1 志む 2 ・す(せ) 4 ・る(れ) 6 ・る(れ) 10 ず(ぬ・ね) 11 ざり 18 む(め) 23 なむ 27 じ 29 まし
き 12 つ(て) 13 ぬ(な・に・ね) 14 たり 17 けり 19 けむ 28 ・き し・しか	し 12 つ(て) 13 ぬ(な・に・ね) 14 たり 17 けり 19 けむ 28 ・き し・しか	いに 志に 12 つ(て) 13 ・ぬ(な・に・ね) 14 たり 17 けり 19 けむ 28 き(し・しか)	あり をり はべり いますかり 12 つ(て) 13 ぬ(な・に・ね) 14 たり 17 けり 19 けむ 28 き(し・しか)

第四表ノ說明

○前表中ノ諸動詞、及、其諸變化ハ、全ク前ノ「第一表」動詞ノ語尾變化表、ニ同ジ。

○此表ノ上ニテハ、動詞ノ法（直說法、接續法等）ノ事ヲバ、一切言ハズシテ、只某助動詞ハ、某動詞ノ第幾變化ニ連續ス、トノミ說クナリ。

○動詞ノ第六變化ニハ、連ルベキ助動詞無ケレバ、省ケリ。

○表中ノ各欄内ノ、上部ニアルハ動詞ニテ、下部ナルハ助動詞ナリ。其連續ノ狀ハ、例ヘバ「ゆく・らむ」「ゆく・めり」「ゆく・なり」或は「おす・らむ」「おす・めり」「おす・なり」ナド、各欄内ニテ、何レノ動詞、助動詞ヲモ、互ニ相連續セシメテ解スベシ。

○助動詞ノ頭ニ付セル數字ハ、前ノ「第三表」助動詞表、ノ中ノ各助動詞ノ頭ニ付セル數字トノ合印ナリ。

助動詞ニハ、同形ノモノアリテ、迷ヒ易ケレバ、數字ノ合印ニ注意シテ、善ク第三表ニ照シテ見分クベシ。例ヘバ「8ノなり」ハ、指定ノなりナリ、「22ノなり」ハ、詠歎ノなりナリ、「4ノる」「5ノらる」ハ、受身ノる、らるナリ、「6ノる」「7ノらる」ハ、能力ノる、らるナルガ如シ。

○助動詞ノ下ニ、り（る・れ・ら）、す（せ）、る（れ）、ず（ぬ・ね）、ぬ（な・に・ね）ノ如ク、括弧内ニ記セルハ、其變化ナリ。但シ、此表ニハ、其變化ノ殊ニ惑ヒ易クト思ハルルモノノミヲ出セリ。其餘ナルハ、スベテ、數字ノ合印ヲ以テ、前ノ「第三表」助動詞表、ニ對照セシメテ、知ルベシ。

○[き][し][しか][ぬ]ナド、方線ヲ加ヘタルハ、連續セヌ標ナリ。連續セヌモノヲモ、斯ク殊更ニ擧ゲタルハ、他ノ例ニ比ベテ、其異同ヲ見易カラシメムトテナリ。

○スベテ、此表ノ助動詞連續ノ通則ハ、最初ノ規則動詞第一類ノ五變化、五欄内ニ記シタルヲダニ、覺エ得バ足レリ。他ノ各類ハ、押並ベテ、是レト同樣ナリト、先ヅハ心得ベシ。而シテ、其希有ノ異則ナルモノノミニハ、特ニ●ヲ記シタレバ、●印ノ所ニ、特ニ心ヲ付クベシ。

○規則動詞ノ第四類ニテハ、其第一變化ニテ「居る・らむ」「煮る・らし」「見る・べし」「似る・べし」ナド、連續スルヲ通則トス。（表ニモ出セルガ如シ）然ルニ、第四變化ニテ「居・らむ」「煮・らし」「見・べし」「似・べし」ナド連ルコトモアリ。其事ハ、本文ニ辨ジオケリ。

○助動詞ノ形容詞ニ連續スルモノ、一ツアリ、卽チ、形容詞ノ第二變化ニテ「善き・なり」「惡しき・なり」ト連ルモノ是レナリ。（8ノなりナリ）サレド、是レハ、「善き」「惡しき」ヲ、名詞トシテ連續セシメタルニテ、「月・なり」「花・なり」ナド、名詞ニ連レルト同ジモノト知ルベシ。今、別ニ表ニ揭ゲズ。

又、形容詞ノ語根ニ「善・かり」「惡し・かり」「善・けむ」「無・けむ」ナド連スルかり、けむアリ。此事ハ、前ノ形容詞ノ條、及、「第三表」助動詞表、ノ裏面ノ說明ニ就キテ知ルベシ。

○右ノ外ノ委シキ事ハ、本文ニ說ケルヲ見テ知レ。

第五表　助動詞ト助動詞ノ連續

	使役 1 しむ・2 す・3 さす	受身・能力 4 る・5 らる・6 る・7 らる	指定 8 なり	指定 9 たり	打消 10 ず	打消 11 ざり	12 つ
第一變化	しむ・す・さす → 20 らむ・21 めり・22 なり・24 べし・26 まじ・30 らし	る・らる・る・らる → 20 らむ・21 めり・22 なり・24 べし・26 まじ・30 らし	なり	たり	ず → 22 なり	ざり	つ → 20 らむ・21 めり・22 なり
第二變化	しむる・する・さする → 8 なり	るる・らるる・るる・らるる → 8 なり	なる → 20 らむ・21 めり・24 べし・30 らし	たる → 8 なり・20 らむ・21 めり・24 べし・26 まじ・30 らし	ぬ → 8 なり	ざる → 8 なり・20 らむ・21 めり・24 べし・30 らし	つる → 8 なり
第三變化	しむれ・すれ・さすれ	るれ・らるれ・るれ・らるれ	なれ	たれ	ね	ざれ	つれ
第四變化	しめ・せ・させ → 5 らる・7 らる・10 ず(ぬ・ね)・11 ざり・18 む(め)・23 なむ・27 じ・29 まし	れ・られ・れ・られ → 10 ず(ぬ・ね)・11 ざり・18 む(め)・23 なむ・27 じ・29 まし	なら → 10 ず(ぬ・ね)・11 ざり・18 む(め)・27 じ・29 まし	たら → 1 しむ・10 ず(ぬ・ね)・11 ざり・18 む(め)・23 なむ・27 じ・29 まし	ず	ざら → 1 しむ・18 む(め)・23 なむ・29 まし	て → 18 む(め)・23 なむ
第五變化	しめ・せ・させ → 12 つ(て)・13 ぬ(な・に)・14 たり・17 けり・19 けむ・28 き(し・しか)	れ・られ・れ・られ → 12 つ(て)・13 ぬ(な・に)・14 たり・17 けり・19 けむ・28 き(し・しか)	なり → 12 つ・17 けり・19 けむ・28 き(し・しか)	たり → 12 つ・17 けり・19 けむ・28 き(し・しか)	ず	ざり → 12 つ・17 けり・19 けむ・28 き(し・しか)	て → 17 けり・19 けむ

此表、別ニ説明ヲ用ヰズ、ヽベテハ、前ノ第四表ノ説明ヲ代用シテ解スベシ。

又、善ク第三表ニモ參照シテ見ルベシ。

古書ニ用例アレドモ連續ノ稀有奇僻ナルハ、省ケルモアリ。

第三變化ハ、連續スルモノ無ケレバ、此表ニハ不用ナレドモ、變化ノ中間ニテ脱セムハ、體裁好カラザレバ、姑ク加ヘ

希望	詠歎	推量	推量	未來	未來	過去	過去	過去	過去	過去
23 なむ	22 なり	21 めり	20 らむ	19 けむ	18 む	17 けり	16 り	15 せり	14 たり	13 ぬ（30 らし・24 べし・22 なり・21 めり・20 らむ）
	なる（30 らし・21 めり・20 らむ）	める（30 らし・20 らむ・8 なり）	らむ	けむ	む（8 なり）	ける（30 らし・20 らむ・8 なり）	る（30 らし・21 めり・20 らむ・8 なり）	せる（30 らし・21 めり・20 らむ・8 なり）	たる（30 らし・24 べし・21 めり・20 らむ・8 なり）	ぬる（8 なり）
	なれ	めれ	らめ	けめ	め	けれ	れ	せれ	たれ	ぬれ
						けら（10 ず）	ら（29 まし・27 じ・23 なむ・18 む(め)・10 ず(ぬ・ね)）	せら（29 まし・18 む(め)）	たら（29 まし・23 なむ・18 む(め)・10 ず(ぬ・ね)）	な（29 まし・23 なむ・18 む(め)）
		めり（28 き(し・しか)・12 つ）				けり（28 き(し・しか)・12 つ）	り（28 き(し・しか)・19 けむ・17 けり・13 ぬ(な・に)・12 つ(て)）	せり（28 き(し・しか)・19 けむ・17 けり・12 つ）	たり（28 き(し・しか)・19 けむ・17 けり・12 つ）	に（28 き(し・しか)・19 けむ・17 けり・14 たり）

第六變化ハ、全ク不用ナレバ省ケリ。

此表、前ノ第三表助動詞變化表ニ比ベテ、24以下ノ助動詞ヲ省ケルハ、連續スルモノナケレバナリ。但シ、べき、ごとき、まじき、し、等ノ、なり(8)ニ連ルコトハアリ。又べ・けむ、べ・かり、まじ・かり、ナドモアリ。其事ハ、前ノ第三表第四表ノ裏面ニ説明セルヲ見テ知ルベシ。

ノ活用ナリト混ズベキニアラズ。

○

〇英語ノ Adjective ハ、大抵、名詞ニ冠ラセテ、其形狀、性質ヲ云ヘリ、我ガ形容詞モ、名詞ノ形狀、性質等ヲ云フハ、相同ジケレドモ、語ノ成立ニ至リテハ、甚ダ相異ナリテ、語尾ニ、變化アリ、法アルコト、動詞ノ如クニシテ、且、常ニ、名詞ノ後ニ居テ、文ノ末ヲモ結ベリ。(羅甸、佛、獨、等ノ形容詞ニハ變化アリ、且、或ハ、名詞ノ後ニ用キルモアリ。然レドモ共ニ、文ノ末ヲ結ブコトハ無キガ如シ。)サルヲ、彼ノ文法ヲ以テ我ガ文法ヲ論ズルモノ、彼ノ語法ノ、先入シテ主トナレルガ故ニ、之レヲ肯ハズシテ、徒ニ「高キ」深キ」ハ、Adjective. ナリ、「高ク」深ク」ハ、副詞ナリ、「高シ」深シ」ノシハ、一箇ノ助動詞ノ如キモノナリトシテ、各自、別語ナリト誤認シ、一語ノ語尾ノ變化ナルコトヲ曉ラザルモノ多シ。サレド、「高キ」深キ」ヲ、獨立ニ用キテ名詞ニ冠スル時(卽チ、形容法)コソ、Adjective. トモ言ハルレ、「日本ノ高キ山、」太平洋ノ深キ處、」ナドト言ヒ、又ハ、「山ゾ高キ、」海ゾ深キ、」或ハ、「山コソ高ケレ、」海コソ深ケレ、」ナドト文ヲ結ブナドハ、如何ニカセム。又、「高ク、」深ク、」ヲ獨立ニ用キテ、「高ク昇ル、」深ク思フ、」ナドト云フ時(卽チ、副詞法)ニコソ、副詞トモ云フベケレ。若シ、「山高ク(卽チ、折說法)、海深シ、」ト言ハバ、如何ニカスベキ、「高ク」ト云フ副詞ニテ、「深シ」ノ意ヲ調停ストイフベキカ、「高ク深シ」ト云ヒテ、爭デカ語ヲ成スベキ。我ガ形容詞ハ、斯カル一種ノ特性アルモノナレバ、別ニ、本文ノ如キ規定アルナリ。尚、本文ニ說ケル所ヲ玩味シテ覺レ。

〔國語ニテ生得ノ Adjective. ヲ求メバ、新(ニヒ)、初、眞(マ)、御(ミ)ナド云フ、類ノ語ナラム。サレド、是レ等ノ語ハ、何レノ名詞ニモ、冠ラスベキニアラズ、其慣用ニ限レル所アリ。且、獨立ニハ用キズ、必ズ熟語トナリテ文中ニ出ヅ。故ニ、今ハコレヲ接頭語トシタリ。

〔又、洋語ノ Adjective. ニ云フ階級ニDegree.ト、其語體ヲ變ジテ成ルモノナレド、我ガ形容詞ニハ、此事無シ。コレヲ「譯セム」ニハ、「是レヨリ善シ」「最モ善シ」ナドトモスベケレド、ソノヨリ、最モハ、別語ヲ用キルナレバ、形容詞中ノ一則トシテ說クベキモノナラズ。

助動詞

助動詞ハ、動詞ノ變化ノ、其意ヲ盡サザルノ助ケムガ爲ニ、別ニ其下ニ附キテ、更ニ、種種ノ意義ヲ添フル語ナリ。例ヘバ、「行キたり、」眠リぬ、」語ラず、」言ハむ、」打タしむ、」ナドノたり、ぬ、ず、む、しむ、ノ如シ。又、他ノ助動詞ニモ附クコトアリ、「行キたりき、」打タしめらる、」ノき、らる、ノ如シ。又、名詞、又ハ形容詞、(其形容法ヲ名詞ト見ルモノ、)或ハ、副詞ニ附クモノモアリ、「月なり、」花なり、」善キなり、」惡シキなり、」父たり、」子たり、」時雨せり、」紅葉せり、」强クせり、」詳ニせり、」ナドノなり、たり、せり、ノ如シ。是レ等ハ、一箇ノ動詞ノ如キ意義ヲモ成セドモ、獨立シテ文ノ冒頭ニ用キラルルコト無ク、常ニ、必ズ、他語ノ下ニ附キテ文中ニ出ヅルモノナレバ、尚、助動詞タリ。

○「行キ交(カ)フ、」爲(シ)難(カ)ヌ、」言ヒ過(ツ)ス、」讀ミ止(サ)ス、」馴レ初(ソ)ム、」ノ「交フ、」難ヌ、」過ス、」止ス、」初ム、」ナドハ、獨立ニ用キタルヲ見ザレバ、助動詞ナルガ如クナレドモ、其意義、十分ニ動作ヲ言ヘバ、尚、動詞タルベシ。

助動詞ハ、其語、大抵、短縮ナレドモ、變化アリ、法アリテ、又、能

ク、文章ノ末ヲ結ベリ。而シテ、其意義變化ノ狀ハ、動詞ニ似タルアリ、形容詞ニ似タルアリ、又、或ハ、感動詞ノ如キモアレド、尙、變化アリ、又、其一二ニ、無變化ノモノ(Defective.)モアレド、亦、尙、能ク、文章ノ末ヲ結ベリ。

助動詞ノ數、凡ソ三十アリ。第三表ニ於テ、其三十語ヲ載セテ、其意義ト變化ト法トノ狀ヲ示セリ。其變化ト法トノ趣ハ、動詞、形容詞ノ變化ト法トニ、異ナルコト無ケレバ、表中ノ名稱ノ相同ジキモノハ、相對照セシメ、相準ヘテ覺ルベシ。因リテ、此ニハ複說セズ。

但シ、各助動詞ノ意義ニ至リテハ、後ニ、更ニ、逐條ニ說クベシ。又、動詞ト助動詞ト連續スル法則、又ハ、助動詞ト助動詞ト連續スル法則ハ、第四表、第五表、ニ就キテ知ルベシ。(各表ニ附セル說明ヲモ見ヨ。)

○使役ノ助動詞　尋常ニ

尋常　使役

變化	規則動詞 第一類	規則動詞 第二類	規則動詞 第三類	規則動詞 第四類	不規則動詞 第一類	不規則動詞 第二類	不規則動詞 第三類	不規則動詞 第四類
第一變化	押ス	受ク	報ユ	着ル	來ク	爲ス	死ヌ	有リ
第四變化	押サ　しむ　す	受ケ　しむ　さす	報イ　しむ　さす	着(キ)　しむ　さす	來(コ)　しむ　さす	爲(セ)　しむ　さす	死ナ　しむ　す	有ラ　しむ　す

ハ、「押ス、」「受ク、」「報ユ、」ナドト云フヲ、他ヲ使役シテ此動作ヲ爲サシムルニハ、「押サす、」「受ケさす、」「報イしむ、」ナドト云フ。コノしむ、す、さす等ヲ、「使役(シエキ)ノ助動詞」トス。

(1)しむ　上ノ三語、使役ノ意ヲ云フコト、相同ジクシテ共ニ、

(2)す　動詞ノ第四變化ニ連ル。但シ、しむハ、アラユル動詞

(3)さす　ニ連レドモ、すハ規則動詞ノ第一類ト、不規則動詞ノ第三類ト、第四類トニ連リ、さすハ、其他ノ各類ニ連ルコト、上ノ表ノ如シ。(此ノ語ト動詞ト連續シテ熟語トナルトキハ、使役相ノ動詞ヲ形作ル。)

「行カしめ畢ンヌ、」言ハせ盡ス、」受ケさせ侍リ、」ナドト用ヰルハ、熟語法ナリ。「使ハしめ、」(俗ニ、「見セしめ」懲ラしめ」)ナドハ、名詞法ナリ。又、古クハ、「知ラしめ、」見しめ、」ナドト、よヲ添ヘズシテ、命令法トシタルモ見ユ。

○受身ノ助動詞　「押ス、」打ツ、」報ユ、」ハ、我レヨリ他ノ上ニ、働キ掛クル動作ナルヲ、他ノ共動作ヲ起シテ、我レ受身トナルトキハ、る、らる、ト云フ助動詞ヲ加ヘテ、「押サる、」打タる、」報イらる、」ナドト云フ。コノ彼我ノ動作ヲ、働掛(ハタラキカケ)、受身(ウケミ)、或ハ、能相(ノウサウ)、所相(シヨサウ)ト云フ。

(4)る　上ノ二語、受身ノ意ヲ云フコト、相同ジ。而シテ、共ニ、

(5) らる　象動詞ノ第四變化ニ連ル。但シ、其中ニ、るハ、規則動詞ノ第一類ト、不規則動詞ノ第三類ト、第四類、トニ連リ、らるハ其餘ニ連ルコト、下ノ表ノ如シ。(コノ語ト動詞ト連續シテ、熟語トナルトキハ、受身相ノ動詞ヲ形作ル。)

能相(ハタラキカケ) (Active)　所相(ウケミ) (Passive)

	規則動詞 第一類	規則動詞 第二類	規則動詞 第三類	規則動詞 第四類	不規則動詞 第一類	不規則動詞 第二類	不規則動詞 第三類	不規則動詞 第四類
第一變化	押ス	受ク	報ユ	着ル	來	爲	死ヌ	有リ
第四變化	押サる	受ケらる	報イらる	着らる	來らる	爲らる	死ナる	有ラる

「言ハれ侍リ、」「報イられ候フ」ナドハ、熟語法ナリ。又、「西光、切ラれノ事、」(平家)「共謂ハれ、無キニアラズ、」ナドハ、名詞法ナリ。

西洋ノ動詞ニテハ、能相、所相ハ、他動詞ニノミアリテ、自動詞ニハ、無キガ如シ　然ルニ、國語ノ動詞ニハ、自、他、共ニ、之ヲ用ヰル　委シクハ、文典ニ說クベシ。

又、己レガ心ヨリ、己レニ動作ヲ起シカケラルル意ヲナスコトアリ、「昔シ懷バる、」「行末ノ考へらるる、」ナドノ如シ。是レ等ハ、自所相トモ云フベシ。

○敬語　使役、受身、ノ助動詞ハ、絕エテ使役、受身、ノ意無クシテ、唯、他ノ動作ヲ敬ヒ言フ語トナル事アリ、コレヲ敬語ト云フ。而シテ使役ノ方ハ、大抵、「給フ、」「座ス、」ナドト云フ語ト共ニ用ヰル。例ヘバ、「位ニ卽カせ給フ、」「行カせ給フ、」「起キさせ座ス、」或ハ、「君ニモ殊ニ喜バる、」「釋尊ノ言ハるるニハ、」「師ノ考へらるるヤウ、」ナドノ如シ。是レ等、「卽キ給フ、」「行キ給フ、」「起キ給フ、」「喜ビ給フ、」「言ヒ給フ、」「考へ給フ、」ナドト云フト、太異ナシ。(書狀ノ文ニ、被レ遊、被レ下、ナドト用ヰルモノ、是レナリ。)又、重ネテ用ヰルハ、一層重キ敬語ナリ。「行カせらる、」「召サせらる、」「棄テさせらる、」ノ如シ。但シ、「殿より、使、隙なく、給はせて、子安貝、とりたるかと、問はせ給ふ、」(竹取)ナドハ、「問はせ」ニ、使役ノ意アリ。或ハ、「猶、それ、舞はせさせ、給へと、集て申まとひしかど」(枕草子)ナドト用ヰタルモ、「舞ハせ、」ニ、使役ノ意アリテ、其以下、敬語ナリ。(コノ語ト動詞ト連續シテ、熟語トナルトキハ、崇敬相ノ動詞ヲ形作ル。)

○或ハ云フ、貴人ハ、何事ヲ爲ムニモ、自ラ手ヲ下スコト無ク、他ヲ使役シテ爲サセ、又ハ、他ニ爲ラルルヨリシテ、此ノ如キ敬語ハ、出デタリト云フ　然ルトキハ、自ラ使役　受身、ノ緣ナキニアラズ

○又、生得ノ敬語アリ、「聞ス、」「聞ス、」「立ス、」「通ス、」「知ス、」「知ス、」思

ス」、ナド、尙多シ。是レ等ハ、規則動詞ノ第一類(す・す・せ・さ・し・せ)ニ變化スル語ニテ、辭書ニハ、既ニ、各自、一語トシテ擧ゲタレバ、爰ニハ論ゼズ。

○能力ノ助動詞　尋常ニハ、「押ス、」「讀ム、」「受ク、」「堪フ、」ナドト云フ動作ヲ、更ニ、「己レガ力、能ク爲シ得ル」意ニ云フトキハ、る、らる、ト云フ助動詞ヲ加ヘテ、「押サる、」「讀マる、」「受ケらる、」「堪へらる、」ナドト云フ。其意ハ、「押スコトヲ得、」「受クルコトヲ得」ト言ハムガ如シ。コレヲ「能力(Potential.)ノ助動詞」トス。(前條、受身ノ助動詞ト、形、全ク相同ジケレドモ、相混ズルコト勿レ。)

		尋常 第一變化	能力 第四變化
規則動詞	第一類	押ス	押サる
	第二類	受ク	受ケらる
	第三類	報ユ	報イらる
	第四類	着ル	着らる
不規則動詞	第一類	來ク	來らる
	第二類	爲ス	爲らる
	第三類	死ヌ	死ナる
	第四類	有リ	有ラる

(6)る　上ノ二語、能力ノ意ヲ云フコト相同ジ。共ニ、動詞ノ

(7)らる　第四變化ニ連ル。但シ、るハ、規則動詞ノ第一類ト、不規則動詞ノ第三類ト、第四類、トニ連リ、らるハ、其餘ノ各類ニ連ルコト、上ノ表ノ如シ。(コノ語ト動詞ト連續シテ熟語トナルトキハ、能力相ノ動詞ヲ形作ル。)

○指定ノ助動詞　次ニ擧グルなり、たり、べし、等ハ、事物ヲ指シ定ムル意アレバ、コレヲ「指定ノ助動詞」トス。

(8)なり　指定解説スル語ニテ、「にて、あり」ノ意ナリ。(語原ハ、「に、あり」ノ約レルナルベシ。)此語、動詞ニ連ルトキハ、必ズ、其第二變化ニ連ル。例ヘバ「押スなり、」「受クルなる、」「報ユルなれ、」「爲ルなれど、」ナドノ如シ。

○此語ハ、詠歎ノ意ヲ云フ助動詞ノ(22)なりト、混ジ易シ。指定ノなりハ、口語ニ寫セバ、「押スぢや、」「行クぢや、」ナドノ意ヲナシ、詠歎ノなりハ、「押スわい、」「行クわい、」ナドノ意ヲナス。因リテ、「ぢやなり、」「ワイなり、」トモ云ヒテ、コレヲ分ツ。且、他ノ動詞ト連ル規定モ、此條ノなりハ、其第二變化ニ連リ、詠歎ノなりハ、第一變化(不規則動詞ノ第四類ノミハ、其第二變化ニ)ニ連ル。尙、前ノ第四表ヲ見テ辨別スベク、後ノ(22)なりノ條ヲモ見ヨ。

此語、又、獨立動詞ノ如ク、直ニ、名詞、副詞、ニモ作ヒテ、指定解説ノ意ヲ云フ。「月なり、」「花なり、」「是レなり、」「夫レなり、」「宜なり、」「然なり、」ノ如シ。

此語、又、形容詞ノ第二變化ニモ連ル。「善キなり、」「惡シキなり、」ノ如シ。(是レハ、其第二變化ナル形容法ヲ、名詞トシテ連ヌルモ

ノノ如シ。)

○又、靜なり、明なり、詳なり、ナドト云フなりハ、此條ノなりト、似テ異ナルモノニテ、靜ニ、明ニ、詳ニ、ナドト云フ副詞ノにノ下ニ、動詞ノありノ約リテなりトナレルナリ。(此事、倘、副詞ノ條ニ言フベシ。)サレバ、ソノなりハ、尋常動詞ノありト、勢力同ジクテ、「靜ならシム、」ナドハ、使役ノ助動詞ニモ連スベク、又、「いつよりも、今宵の月は、さやかなれ、秋のなかばも、[illegible]」(仲文)ナドト命令法ニモ用ヰルベシ。サルニ、此條ノなりハ、然ルコト能ハズ。倘、第三表、第五表ヲ見テ知ルベシ。因ニ云フ、助動詞ノ、「あらじにも」、「ごとく、なり」ト、連ネテ用ヰルコトアリ、是レモ「ごとく、に、あり」ノ約レルナルベシ。

(9)たり　此語ノ意義モ、「にて、あり、」ト指定スルモノナリ。語原ハ、「と、あり」ノ約レルナルベシ。此語ハ、名詞ニノミ連リテ、動詞ニハ屬カズ。例ヘバ、「あくれど、五日のあかつきに、せうとたる人、外よりきて、」(かげろふ日記)其他、「父たり、」「子たる、」「君たり、」「人たる、」ナドト、常ニ用ヰル。又、漢籍讀ニ、「峨峨たり、」「寂莫たり、」ナドト用ヰルモ、「と、あり」ノ約レルニテ、亦、此語ナリ。

(24)べし　心ニ推シ量リテ定ムル意ノ語ナリ。「斯クアルべし、」「我レ行クべし、」ノ如シ。又、强ク指定シテ、命令スル意ヲモナス。「疾ク行クべし、」「速ニ來べし、」ノ如シ。此語ハ、衆動詞ノ第一變化ニ連ルヲ規定トスレド、不規則動詞ノ第四類ニノミハ、其第二變化ニ連ル。

○又、コノべし、及、(20)らむ、(30)らし、等ハ、規則動詞ノ第四類ニ連ルトキ、尋常、其第一變化ニ、「見ルべし」「居ルらむ」「煮ルらし」ナドト連ルニ、又、或ハ、「見べし、」「居らむ、」「煮らし、」ナドトモ連ルコトアリテ、甚ダ異ナリ。倘、其委シキハ、文典ニ譲レリ。

○又、此語ハ、尋常ノ形容詞ト同ジク、「べ、けむ、」「べ、かり、」ナドトモ用ヰル。其用法ハ、形容詞ノ條ニ説ケルニ準ヘテ知ルベシ。

(10)ず　動作ヲ、ソノママニ打消ス語ナリ。「押サず、」「受ケず、」ノ如シ。此語ハ、アラユル動詞ノ第四變化ニ屬ク。此語ハ、又、動詞、名詞、ヲ履ミテ熟語法ヲナス。「絶エず行ク、」「飽カず思フ、」「降リ試、降ラず試、」「問ハず語、」「知ラず顏、」ノ如シ。又、地名ニ、「親知ラず」ナドトアルハ、名詞法ナリ。

○此語ノ變化ノぬ、ねヲ、過去ノ助動詞ノ(13)ぬ、ね、ト別チテ、「打消ノぬ、ね、」ト云フ。又、古クハ、「飽カぬ、」「得ぬ、」ナドヲ「飽カに、」「言ヘバ得に、」ナドト用ヰ、又、「行カぬニ、」「言ハぬニ、」ナドヲ「行カなくニ、」「言ハなくニ、」ナドト延ベテ用ヰタルアリ。(委シクハ、文典ニ云ハム。)

(11)ざり　前條ノずト、動詞ノありトノ約レルモノニテ、他ノ動

詞ニ連ル規定モ、ず、ニ同ジ。「押サざり」「受ケざる」ハ、即チ、「押サず、あり」「受ケず、あり」ノ約ナリ。直說法ニ用ヰタルハ、「朱雀院は、御子たち、おはしまさざり、ただ、王女御と聞えたる御腹に、云云」(榮花物語、月宴)ノ如シ。(コノ語ハ、一ノ助動詞トシテ、舉グルマデモ無キヤウナレド、今、姑ク存ス。)

(26)まじ　推シ量リテ打消ス語ニテ、ずノ豫定ナリ。「押スまじ」「受クまじ」ノ如シ。此語、衆動詞ノ第一變化ニ屬キ、唯、不規則動詞ノ、第四類ニノミハ、其第二變化ニ屬ク。

(27)じ　前條ノ語ニ同ジクテ、其意、稍、強キガ如シ。諸動詞ノ第四變化ニ連ル。「押サじ」「受ケじ」ノ如シ。此語、希ニ、熟語法ヲモナス。「今夜(コヨヒ)のみ、相見て後は、逢はじものかも」(萬葉)「みだりよ人を、寄せじものをや」(後撰)其他「負ケじ魂」ナドハ常ニモ云ヘリ。此語ハ、本體アルノミ、變化ナシ。(サレド、ぞ、や、か、又ハ、こそ、ノ結法(ムスビ)トハナルガ如クモ思ハル。其事ハ、文典ニ讓ル。)

○過去、未來、ノ助動詞　「押ス」「受ク」トテフハ、其動作ノ最中(モナカ)ナルニ云フ。扨、其動作ヲ、既往ニ就キテ云フトキハ、「押シき」「受ケたり」ナド云ヒ、又其動作ヲ、未然ニ就キテ云フトキハ、「押サむ」「受ケむ」ナド云フ。此ノ如キ動作ノ差違ヲ、動詞ノ時(トキ)ト云ヒ、其差違、現在(ゲンザイ)、過去(クワコ)、未來(ミライ)、ノ三樣ニ分ル。

現在　現在トハ、現ニ、今、動作スルヲ云フ。「押ス」「受ク」「生ク」「着ル」ノ如シ。

過去　過去ノ意義、三種ニ分ル。

第一過去(現在完了)ハ、動作ノ方(マサ)ニ終ハリタルヲ云フモノニテ、つ、ぬ、たり、ノ三助動詞ヲ用ヰル。即チ「押シつ」「押シぬ」「押シたり」「受ケつ」「受ケぬ」「受ケたり」「生キつ」「生キぬ」「生キたり」「着つ」「着ぬ」「着たり」ノ如シ。此三語ノ意、相同ジ。又、コレト同意ナルニ、「押セり」「罪せり」ナド云フり、せり、アリ。末ニ說クベシ。

第二過去(過去)ハ、動作ノ過ギテ程歷シヲ云フモノニテ、助動詞ノけり、き、ヲ用ヰル。例へば、「押シけり」「押シき」「受ケけり」「受ケき」ノ如シ。此二語ノ意モ、相同ジ。

第三過去(過去完了)ハ、第二ヨリハ、一層程歷タリシヲ云フモノニテ、第一過去、第二過去、ノ助動詞ヲ重用ス。即チ、第一ノつ、ぬ、たり、ノ第五變化ナルて、に、たり、ト、第二ノけり、き、トヲ重ネテ、「押シてけり」「押シにけり」「押シたりけり」「押シてき」「押シにき」「押シたりき」ノ如シ。而シテ其意モ、皆、相同ジ。

未來　未來ハ、未ダ起ラザル動作ヲ云フモノニテ、助動詞ノむ、ヲ用キル。「押サむ、」「受ケむ、」「生キむ、」ノ如シ。又、第一、第二、第三過去、共ニ、其動作ハ、過去ナルベキヲ、推測シテ未來ニ云フコトアリ。

卽チ、

第一過去ニテハ、つ、ぬ、たり、ノ第四變化ナルて、な、たら、ニ、未來ノむ、ヲ重ネテ、「押シて、む、」「押シな、む、」「押シたら、む、」「受ケて、む、」「受ケな、む、」「受ケたら、む、」ナドト云フ。

第二過去ノけり、き、ニハ、別ニ、助動詞ノけむヲ用キテ、「押シけむ、」「受ケけむ、」「生キけむ、」ナドト云フ。

第三過去ニテハ、第一過去ノつ、ぬ、たりノ第五變化ナルて、に、たり、ニ、前ノけむヲ重ネテ、「押シて、けむ、」「押シに、けむ、」「押シたり、けむ、」「受ケて、けむ、」「受ケに、けむ、」「受ケたり、けむ、」ナドト云フ。　以上、數様ノ時ヲ、表ニ示スコト、上ノ如シ。

	現在 (Present.)	第一過去 (First past.)	第二過去 (Second past.)	第三過去 (Third past.)
	押ス　受ク　生ク　着ル	押シ　受ケ　生キ　着 ― つ（て、て）　ぬ（な、に）　たり（たら、たり）	押シ　受ケ　生キ　着 ― けり　き	押シ　受ケ　生キ　着 ― て　に　たり ― けり　き
未來 (Future.)	押サ　受ケ　生キ　着 ― む	押シ　受ケ　生キ　着 ― て　な　たら ― む	押シ　受ケ　生キ　着 ― けむ	押シ　受ケ　生キ　着 ― て　に　たり ― けむ

○上ノ表ニ揭ゲタル動詞ノ「押ス」ハ、四段動詞ノ第一類ナリ、「受ク」ハ、其第二類ナリ。「生ク」ハ其第三類ナリ。「着ル」ハ其第四類ナリ。而シテ、現在ハ皆、其動詞ノ第一變化ナリ。未來ニ接スルハ、皆、其第四變化ナリ。其餘ニ接スルハ、皆、其第五變化ナリ。表ニ就キテ、其各變化ト助動詞トノ連續ノ例ヲ覺ルベシ。尙、前ノ第四表ニ照シテ見ヨ。但、又、不規則動詞ニテハ、ぬ、き、(し、しか)ノ連續ニ就キテ、異則アレバ、表ノ混雜セムコトヲ恐レテ、茲ニハ揭ゲズ。其異則ノ事ハ、次ニモ云フベク、前ノ第四表ヲモ參考シテ覺ルベシ。

又、此外、古文ニテハ、「成リに、たり、」「變ハリに、たり、」或ハ、「宮より、あす俄ニ御迎ヘにと、宣はせたりつれば、心あわたたしくて、」(若紫)「打忘れたりつる古への御事をさへ、」(椎がもと)「年月歴たりぬれど、あかざりし夕顏を、つゆ忘れ給はず、」(玉鬘)ナド、第一過去ナルヲ、互ニ重用セルモアリ。或ハ「けり、つる」ナド、第二過去ニ、第一過去ヲ連ネタルモアリ。或ハ、「けり、き」ナド、第二過去ヲ、互ニ重用セルモアリ。(此事、次ニ云フベシ。)サレド斯ル用法ハ、今ノ普通文ニハ奇僻ナルベクヤ。

(12) つ　動作ノ果テテ止(トドマ)ル意ヲ云フ語ナリ。(語原ハ、止(ト)、意、通フナルベシ。)此語、アラユル動詞ノ第五變化ニ屬ク。但シ、此語ハ、多ク他動詞ニ屬キ、次條ノぬハ、多ク自動詞ニ屬ク。「暮ラシつ、」「暮レぬ、」「明カシつ、」「明ケぬ、」ノ如シ。「つノ音ハ、

銳ニシテ、ぬノ音ハ、軟ナルガ故カ。）サレド一定ニハ言ヒ難シ、先ヅハ概則ナリト知ルベシ。

○自動ニ、「鳴キつる」有りつる」來つる」ト連ネタルモアリ、或ハ、他動ニ「浮寢爲つラム」トモ連ネ、「旅寢爲ぬべシ」トモ連ネタルナドモアレバ、一樣ニハ定メカヌレド、先ヅハ本文ノ如シ。次次條ノたりハ、（此つノ變化ノてトありト、約ルナレド、）自、他共ニ連ル。

○「押シて、む」見て、む」ナドノ「て、む」ヲ、往往、一語トシテ說キタルモアレド、表ニモ揭ゲタルガ如ク、其てハ、つノ變化ニテ、コレニ未來ノむヲ添ヘテ用キルモノナレバ、コノ篇ニハ別ニ一箇ノ助動詞トハセズ。

(13)ぬ　不規則動詞ノ「往ヌ」ヨリ變ジタル語ナルベク、（變化ノ不規則ナル狀モ全ク同ジ。）動作ノ往キ畢レルヲ云フ語ニテ、其意、つニ同ジ。此語モ、衆動詞ノ第五變化ニ連レド、（多クハ、自動詞ニ連ル。尙、前條ヲ見ヨ。）不規則動詞ノ第三類ナル「往ヌ」死ヌ」ノミニハ、全ク連ラズ。尙、前ノ第四表ヲ見ヨ。此語ノ第六變化ナル命令法ハ、「押シね」受ケね」生キね」ナドト用キルモノナリ。

○此條ノぬト「往ヌ」トハ、同根ヨリ生ジタル語ナレバ、連續セヌモ理ナリ。又、「死ニぬる」ナドハ、連續スベキガ如クナレド、古書ニ用例アルヲ見ズ。希ニ、「死ぬる」ナドトアルハ、「死ぬる」ナルベキヲ、僻讀シタルナルベシト云フ。

○此語ノ命令法ニ、過去ノ意ナシ、ト云フ說モアレド、尙、微ニ、其意ヲ含メルガ如シ。「往キね」取りね」ノ如キ、口語ニ寫サバ、「行ッテしまへ」取ッテしまへ」ナルベシ。

○此語ノ變化ノぬ、ねヲ打消ノぬ、ねト別チテ、「過去ノぬ、ね」、或ハ、「畢ノぬ、ね」ト云フ。

（又、「押シな、む」受ケな、む」ナドノ「な、む」ヲ、一語ト見ルモノモアレド、然ラズ。此ぬノ變化ノなニ、未來ノむヲ連用シタルナリ。表ヲ見テ知ルベシ。又、其「な、む」ハ、希望ノ(23)なむトモ混ジ易シ、「過去ノな、む」ト云フベシ。（天爾遠波ニモ、なむト云フ語アリ、混ジ思フコト勿レ。）

(14)たり　「て、あり」ノ約レルニテ、「押シたり」受ケたり」ナドハ、「押シて、あり」受ケて、あり」ナリ。而シテ、其てハ、前前條ノつノ變化ナレバ、スベテ、つト同意ナリト知ルベシ。熟語法ニ、「爲たり顏」（俗ニ、似たり貝）ナドトモ用キル。此語モ、衆動詞ノ第五變化ニ連ル。

○此たりヲ、前ノ(9)たりニ別チテ、彼レヲ「指定ノたり」トシ、コレヲ「過去ノたり」トス。

(15)せり　「爲て、あり」ト云フ程ノ意ニテ、亦第一過去ノ意ヲナス語ナリ。（語原ハ、「爲、あり」ノ約レルナルベシ。）此語ハ固ヨリ爲ト云フ動詞ノ意ヲ含メルモノナレバ、獨立動詞ノ如キ力ヲナシテ、他ノ動詞ニハ屬カズ、甚ダ餘ノ助動詞ト異ナリ。例ヘバ、「蓋爾爲有」殿造せり」團居せる夜ハ」家居シせれバ」其他、「罪せり」導せり」歎息せり」工夫せり」烈シクせり」詳ニ

せり」ノ如シ。サレド尙、全ク獨立シテ文ノ冒頭ナドニ、用キラルルコト無ク、必ズ他語ノ下ニ屬キテ文中ニ出ヅルモノナレバ、尙、助動詞タリ。

○此語古クハ、「庵せり、けむ」何せり、き」何せり、つる」ナドト、第一、第二過去ト重用セルモ見ユ。

(16)り　此語ハ、規則動詞ノ第一類ニ限リテ屬ク助動詞ニテ、且、其第三變化ニ屬ク。卽チ、「行ケり」押セり」別テり」ノ如シ。是レ等ノ意義ハ、「行キ、て、あり」押シ、て、あり」ナドト解スベクシテ、亦、「行ク」押ス」等ヲ、第一過去ニ云フナリ。規則動詞第一類ノ六種ノ語ニ連續セシメテ、左ノ表ヲ示ス。(尙、前ノ第三表、第四表ニ照シテ見ヨ。)

直說法(終止形)	分詞法(連體形)	接續法 已然	接續法 未然	折說法(中止形)
第一變化	第二變化	第三變化	第四變化	第五變化
行ケり	行ケる	行ケれ	行ケら	行ケり
互セり	互セる	互セれ	互セら	互セり
別テり	別テる	別テれ	別テら	別テり
飛べり	飛べる	飛べれ	飛べら	飛べり
澄メり	澄メる	澄メれ	澄メら	澄メり
去レり	去レる	去レれ	去レら	去レり
		む	む	

○「行ケ」「互セ」「別テ」「飛べ」「澄メ」「去レ」ハ、スベテ規則動詞第一類ノ第三變化ナリ。

○接續法ノ已然ニテハ、「難波潟に、人のゆけれど、おくれゐて」、未然ニテハ、「天の川、橋、互せらえ」滄浪ノ水、淸メらバ以テ纓ヲ濯フベシ」ノ如シ。(「忘貝、よせ來て置けれ」ナドハ、命令法ナルベシ。)是レ等ノ用法、皆、古シ。

○此語、古クハ、「咲ケり、つる」咲ケり、き」給へり、き」讃メり、ける」ナドト、第一、第二ノ過去ヲ重用シタルモ見ユ。

、此助動詞ハ、規則動詞ノ第一類ニ限リテ屬クモノナリ。サルヲ、誤リテ、其第二類ナル「受ク」「堪フ」「終フ」ナドノ變化ニモ屬ケテ、「受ケり」「堪へり」「終へり」ナド混用スルコト往往アリ、注意スベシ。又、「立ツ」「添フ」「染ム」(自動)ナドハ、規則動詞ノ第一類ナレバ、「立テる家」松ニ添へる石」赤ニ染メる衣」ナドト屬クルコト論無ケレド、規則動詞ノ第二類ナル「立ツル」「添フル」「染ムル」(他動)ヲ「家ヲ立テる」石ヲ松ニ添へる」衣ヲ赤ニ染メる」ナドト云フコトアルハ、口語調ニテ、文章調ニアラズ、混ジ思フコト勿レ。

(17)けり　つ、ぬ、たりヨリ、一層、程、歷シ時ノ示ス語ニシテ、一語原ハ、「來、あり」ノ約レルナルベシ。)コレヲ第二過去トス。此語、諸ノ動詞ノ第五變化ニ連ル。

此語、時トシテハ、過去ノ意ハ薄クシテ、唯、語氣ニ念ヲ入レテ言フ意ヲナス。「秋は來に、けり」天つ星とぞあやまたれける」ナドヲ、口語ニ寫セバ、「秋が來た、わい」まちがへられるわい」ト云フマデノ意ナリ。殊ニ、「心なりけり」我身なりける」ナド

ト、「なり、けり」ト用ヰタルハ、唯、推シテ說明スル意ヲナス。古ク「何何なりけりき」ナドト用ヰタルアルモ、けりハ、說明ノけりニテ、きニ、過去ノ意アルナルベシ。

(28)き　前條ノけりト、語意同ジクシテ、第二過去ヲ云フ語ナリ。此語ノ變化ハ、き、し、しかニテ、衆動詞ノ第五變化ニ連ルヲ通則トスルニ、唯、不規則動詞ノ第一類、第二類ニ於テハ、き、し、しか、相分レテ、其第四變化ニモ連ルヲ、殊ニ異則ナリトス。左ニ、表ニ掲ゲテ示ス。倘、前ノ第四表ニ參照スベシ。

不規則動詞

	第一類	第二類
第四變化	來(コ) し / しか	爲(セ) し / しか
第五變化	來(キ) し / しか	爲(シ) き

表ニ掲ゲタルガ如ク、「來(キ)し」「來(キ)しか」又ハ「來(コ)し」「來(コ)しか」ト、何レニモ連ル。而シテ「來(コ)し」「來(コ)しか」ト用ヰタル方、例、多シ。扨、「來(キ)き」「來(コ)き」ト用ヰル例、サラニ見當ラズ。又、「爲(シ)き」ト「爲(セ)し」「爲(セ)しか」ト、相分レテ連リ、而シテ、「爲(シ)し」「爲(シ)しか」又ハ、「爲(セ)き」ナドト用ヰタル例、更ニ無シ。

○コノき、し、しかハ、餘ノ動詞ニテハ、其第五變化ニ連ルヲ通則トス。サレバ、規則動詞第一類ノ「押ス」申ス」ナドノ第五變化ハ、「押シ」申シ」ナレバ、スベテ、「押シ、き」押シ、し」押シ、しかバ」申シ、き」申シ、し」申シ、しかバ」ナドト、連ヌベキ規定ナリト知ルベシ。(倘、前ノ第四表ヲ見ヨ。)サルヲ「押ス」申ス」ノ第三變化ナル「押セ」申セ」ニ連ネテ、「押セ、し」押セ、しかバ」申セ、し」申セ、しかバ」ナドト誤用スルコト多シ。心ヲ付クベシ。(「押セ、き」申セ、き」トハ云フベカラザルニテ覺レ。且、「痩セ、き」痩セ、し」失セ、き」失セ、し」ナドト、第二類ナルハ、共ニ相連ル一照シテモ見ヨ。)

○且又、尋常直說法ニテ文ヲ結ブ時ハ、「押シき」申シき」見き」ナドトナルベキヲ、「押シし」申シし」見し」ナドト結ブコトアルモ、誤ナリト知レ。

○又、此語ノ變化ノしニ、第二類天爾遠波ノか(歟)ノ添ヒタルト、又ハ、其第三類ノがノ添ヒタルトアルヲ、此きノ變化ノしかト混ジテ誤解スルコトアリ。注意スベシ。即チ「我コソ行キしか」ナドハ、此變化ノしかナリ、「何時ノ程ニ行キしか」(歟)、或ハ、「行キし、が、逢ハザリキ」ナドノか、がハ、天爾遠波ノか、がナリ。思ヒ分クベシ。

接續法

已然	未然
櫻の無かりしかば	櫻の無かりせば
夢と知りしかば	夢と知りせば
我が行けりしかば	我が行けりせば
衣なりしかば	衣なりせば

(「世の中に、絶えて櫻の、無かりせば」(古今)「夢と知りせば、覺めざらましを」筑波根に、我が行けりせば、霍公鳥」(萬葉)「吾妹が、衣なりせば、下に着ましを」(萬葉)ナドト云フせアリ。コレハ、コノき、し、しかノ變化中ノモノニテ、即チ、「しかバ」ト「せバ」ト相對シテ、接續法ノ已然、未然ナラムト思ハル。サラバ此語ハ、き、し、しか、せ、ト變化ストスベケム。此事、先輩ノ論及、アリヤ、ナシヤ。姑ク私案トシテ云フ。)

(18)む　未來ヲ云フ語ニテ、アラユル動詞ノ第四變化ニ屬ク。

（「行かま欲シ」「聞かま欲シ」「見ま憂キ」ナドト、未來ノ意ヲ云ノモアリ）、此語ノ第五變化トシテ、熟語法ト見ルベキカ。（但シ、折說法、名詞法、トハナラズ。）又、萬葉集ニ、「戀ひまく思ふ」「見まくあかけむ」「吹かまくをらず」、古今集ニ「見まくほしさよ」「見まくのほしき」唐錦、「たたまく惜しき」伏見の里の、「あれまくも惜し」ナドトアルまくモ同意ニテ、此まヲ延ベタルマデノ語ナルベキカ（義門師ハ、コノまく、まくヲ、推量ノ(29)ましノ轉ノ如ク說カレタレド、イカガ。尙、ましノ條ヲ見ヨ。）

(19)けむ　第二過去ノけり、きノ未來ニ推測シテ云フ語ナリ。（語原ハ、けりノ變化ノけらト、未來ノむトノ約レルモノナラム。）此語、各動詞ノ第五變化ニ屬ク。

（推量ノ助動詞　らむ、めり、まし、らし等ハ、事物ヲ推量スル意アリ。コレノ「推量ノ助動詞」トス。）

(20)らむ　未然ヲ推量スル語ナリ。「押スらむ」受クらむ」ノ如シ。此語ハ、各動詞ノ第一變化ニ屬キ、唯、不規則動詞ノ第四類ニノミ、其第二變化ニ屬ク。

○此語、規則動詞ノ第四類ニ連ルニ、異則アリ。前ノ(24)べしノ條ヲ見ヨ。

(21)めり　語原ハ、「見え、あり」ノ約レルナルベク、事物ノ狀態、然見ユ、ト推量シテ云フ語ナリ。（口語ニ、「あるとみえる、」「ないとみえる」ナドノ意。）此語、動詞ノ第一變化ニ連ル。「我おとらじとやうの事、爲出づ、めり」（寄生）「紅葉亂れて流る、めり」（古今）「濡る、める人に、着せてかへさむ」（伊勢物語）「秋も往ぬ、めり」ノ如シ。但シ、不規則動詞ノ第四類ニノミハ、其第二變化ニ屬ク。

(29)まし　未來ノ推シ定メ、又ハ、然セムトスル意ヲ云フ語ニテ、まハ、未來ヲ云フむノ轉ナルベシ。サレバ、むト同ジク、各動詞ノ第四變化ニ連ル。此語ノ接續法ナル　ましかバ」ノ出ヅルトキハ、其末ヲ、又、ましト結ブヲ概則トス。「まして、龍を捕へたらましかむ、又、おともなく、我は害せられなまし」（竹取）「人知れず、絶えなましかむ、わびつつも、無き名ぞとだよ、言はましものを」（古今）ノ如シ。

接續法	
已然	未然
塞かましかむ	塞かませむ
有らましかむ	有らませむ
知らましかむ	知らませむ

○「飛鳥川、しからみ渡し、塞かませば、流るる水も、のどかにあらまし」（萬葉）、大舟に、妹のるものに、有らませば、はぐくみもちて、行かましものを」（同）「斯くばかり、戀ひむとかねて、知らませば、妹をば見ずぞ、あるべかりける」（同）ナドノませハ、此ましノ變化中ノモノナルベク、ませノせハ、ましノしト、同趣ノ音ニモアリ。卽チ、「ましかバ」ト「ませバ」ト相對シテ、接續法ノ已然、未然ヲナスモノナラムカ。（義門師ハ、「行カま欲シ」ナド云フまニ、爲ノ添ハレルナラム、ト言ハレタ

レド、コノセニ「爲ル」ト云フ力アリトモ思ハレズ。又、「知ラま爲ル」有ラま爲レバ、」ナドト用キタル例モナシ。）

(30)らし　輕ク推量スル語ナリ。「押スらし」受クらし」ノ如シ。此語ハ、不規則動詞ノ第四類ニノミハ、其第二變化ニ連レド、其他ノ動詞ニハ、スベテ、其第一變化ニ連ル。此語ニ、變化ナシ。

○但シ、此らしハ、一體ニテ、ぞ、や、か、又ハ、おその結法ヲナス。委シキコトハ、文典ニ説カム。又、規則動詞ノ第四類ニ連ルニ、異則アリ、前ノ(24)べしノ條ヲ見ヨ。

○詠歎ノ助動詞

(22)なり　なト云フ感動詞（後ニ云フベシ）ニ、語尾變化アルモノニテ、動作ヲ言ヒ終ヘタル餘意ニ添ヘテ發スル語ナリ。コノなりハ、動詞、助動詞ノ第一變化ニ屬クコト、「秋の野に、人まつむしの、聲爲、なり」小夜深き、雲居の雁も、音爲、なり」やがて鹿の音、聞ゆ、なり」今とては見えず、なるを」花の衣になりぬ、なり」ノ如クニテ、前ノ「指定ノなり」（其條ヲ見ヨ）ノ、第二變化ニ屬クト異ナリ、一文中ニ用キ分ケタルハ、「男も爲、なる日記といふものを、女もしてみむとて爲る、なり」（土佐）ノ如シ。詠歎ナルハ、「爲」（第一變化）ニ連リ、指定ナルハ、「爲ル」（第二變化）ニ連ル。但シ、不規則動詞ノ第四類ニテハ、コノなりモ、其第二變化ニ連ル。

○サレバ、不規則動詞ノ第四類ニテハ、詠歎ナルモ、「有ルなり」（有ルわい）ト連リ、指定ナルモ、「有ルなり」（有ルぢや）ト連リ、又、規則動詞ノ第一類、第四類ニテモ、其第一變化、第二變化、形、相同ジケレバ、詠歎ノ「行クなり」着ルなり」（行クわい、着ルわい）、指定ノ「行クなり」「着ルなり」（行クぢや、着ルぢや）、共ニ同ジ姿ナレバ、善ク其意義ヲ考ヘテ相別ツベシ。

○希望ノ助動詞

(23)なむ　願ヒ、又ハ、吩咐フル意ヲ云フ語ニテ、「押サなむ」受ケなむ」生キなむ」有ラなむ」ナドト用キルハ是レナリ。此語ハ、語尾變化ナキノミナラズ、古クハ、「行カな」言ハな」トノミモ云ヒタレバ、願フ意アル感動詞ナルベクモ思ハルレド、倘、文ヲ結ベバ、助動詞タルベシ。此語、動詞ノ第四變化ニ連リ、而シテ、「希望ノなむ」或ハ、「願ノなむ」又ハ、「あつらへノなむ」ナドト云ヒテ、過去ノぬノ變化ニ起ルな、む（動詞ノ第五變化ニ連ルモノ）ト別ツ。

○サレド、規則動詞ノ第二類、第三類、第四類ハ、其第四變化、第五變化ノ形、共ニ相同ジケレバ、「受ケなむ」生キなむ」着なむ」何レモ、「願ノなむ」トモ解セラレ、「過去ノなむ」トモ解セラルルコトアリ。能ク其意義ヲ分チテ解スベシ。

○比況ノ助動詞

(25)おとし　比ブル意ヲ云フ語ニテ、多クハ、天爾遠波ノの、がノ下ニ連ルコト、他ノ助動詞ト異ナリ。「山の、おとし」「海の、おとき」「此(カク)の、おとき」「聞クが、おとく」「善キが、おとし」ノ如シ。又、古クハ、「見ルが、おと思フ」「秋の、おと涼シ」ナドト、副詞法ニ用ヰタルアルモ、異ナリ。

(此語ノ變化ハ、形容詞ノ變化ノ如クナレドモ、其第三變化ニ「おとけれ」ト用ヰタル例ヲ見ズ。又「おとく、は」「おとく、たり」ナドト用ヰルコトアルモ、他ノ形容詞ニ無キコトナリ。(「疾く、は」ナドモ、希ニハアルカ。)

○

凡ソ、此篇ニ助動詞トシタルモノ、從來ノ語學書中ニハ、スベテ天爾遠波ノ中ニ混ジテ說ケリ。然レドモ、是レ等ノ語、皆、變化ヲ具シ、法ヲ具シ、或ハ、希ニ變化ナキモノモアレド、其語、皆、能ク文章ノ末ヲ結ブ。既ニ變化アリ、法アリ、又、能ク文章ヲ結ブモノ、コレヲ天爾遠波ノ中ニ混ズベキニアラズ。サレド、是レ等ノ語、變化アリ、法アリ、又、能ク文ヲ結ベドモ、獨立ニハ用ヰラレズ、必ズ他語ノ下ニ就キテ、其意ヲ補助スル用ノモノナレバ、固ヨリ、動詞ニハアラズ。因リテ今ハ、助動詞トシテ、一門ニ立テタリ。而シテ、が、の、に、を、も、ぞ、こそ等ノ、變化モナク、言語ノ間ニアリテ、上下ヲ承接スルモノノミヲ存シテ、天爾遠波ノ一門トセリ。又云フ、助動詞ハ、洋文典ニテハ、動詞ノ條中ニ附說スルモノ多シ。然レドモ、邦語ノ助動詞ハ、變化ト法トヲ具シテ、其數モ多ク、其規定モ繁ナルモノナレバ、一門ニ立ツベキ價値アリ、且、別門ニ立テテ說ク方、學ブ者ニモ便ナラムト思ハル。因リテ今ハ此ノ如シ。

○

○前ノ動詞ノ條末ニ於テモ、國語ト洋語トノ間ニ、動詞ニ天性ノ異同アルコトヲ論ジタリ。サルニ、世ノ洋文法ニ據リテ國文法ヲ作ルモノ、動モスレバ、淺了ノ見ヲ以テ、此ニ助動詞トシテ說ケル「打たる」「食はる」「打たつ」「教へき」「打タむ」「遂ゲむ」等ノる、らる、つ、き、むナドヲ、動詞ノ語尾變化ト斷定シ、動詞ノ Voice, Mood, Tense, 等トシテ說キテ、確ク執リテ動カザルガ多ケレバ、今、反復シテ其說ノ理ナキヲ辯ゼム。

右ノ助動詞ドモヲ、動詞ノ語尾變化ト見ルトキハ、第一ニ、其變化ノ稱呼ニ就キテ、甚ダ辯別ニ苦シムコトアリ。ソハ、先ヅ、「打つ」ト云フ動詞ノ變化ハ、つ、て、た、ち、ナリナドトシテ、更ニ、又、ソノ Passive voice ノ「打たる」ニ、る、るる、るれ、れノ變化ヲ起シ、又、ソノ Potential mood ノ「打たる」ニモ、る、るる、るれ、れノ變化ヲ起シ、又、ソノ Past tense ノ「打ちつ」ニモ、つ、つる、つれ、てノ變化ヲ起シ、又、ソノ Future tense ノ「打たむ」ニモ、む、め、ノ變化ヲ起スナド、其他、尚、幾多ナルコト、擧グルニ堪ヘズ。是レ等ヲ、スベテ一動詞ノ語尾ノ變化ナリトスルトキハ、一動詞ニ、數十百樣ノ變化ヲ起スニ至ル。而シテ、右ノ諸變化ハ、皆、各自ニ、直說法、接續法、命令法、等ノ諸法ヲ成スガ故ニ、(前ノ第二表ヲ見ヨ。)「打たれよ」ト云ヘバ、Passive voice ノ Imperative mood ヲ起シ、「打たるれ」ト云ヘバ、Potential mood ノ Subjunctive mood ヲ起シ、「打ちてよ」ト云ヘバ Past tense ノ Imperative mood ヲ起ス等、其餘皆然リ。然ノミナラズ、各助動詞ハ、又、各自ノ變化ヲ以テ、他ノ助動詞ニモ、互ニ連續スルガ故ニ、(前ノ第四表ヲ見ヨ)其連續スルモノヲモ連ネテ、一動詞ノ變化ト見ザルヲ得ズ(一連續ハ語尾ナリ、二連續以上ハ語尾ナラズト區別スルハ、難カラム)サレバ、「打たれしめよ」「打たれしめられたりしかど」「打たれしめざるべからず」ナドト、屢屢常用スルモノニ至リテハ、如何ニカ、コレニ命名スベキ。右ノ如クナレバ、Mood ニ、Voice ヲ生ジ、Voice ニ、Mood ヲ生ジ、

Tense ニ、Mood アリ、Mood ニ、Mood ヲ重ヌルニ至ル、豈ニ亦解スベカラザル煩ナラズヤ。既ニ動詞ノ篇末ニモ論ジタルガ如ク、英文法ノ如キハ、羅甸文法ノ模擬ニ出デタルモアレバ、重複變化ノ不都合モアレド、羅甸文法ノ如キハ、一動詞ノ變化ニ、法モ、口氣モ、時モ、具備スルモノナレバ、然ル紊亂ノ不條理モ無ク、又、初ヨリ、其國語ノ天性ニ隨ヒテ立テタル文法ナルベケレバ、然ル不條理ノ起ルベキ謂ハレモ無カルベキナリ。畢竟ズルニ、國語ノ特性ヲ善クモ推究セズシテ、唯、徒ニ此レヲ彼レニ合ハセムトスレバコソ、サル牽强説モ起ルナレ。況ンヤ其説ノ如クストモ、Mood, Voice, Tense. ト云フ語原ノ意義ニ於テ、既ニ其大本ヲ失ヘバ、强ヒテコレヲ立ツトモ、洋文法ノ忠臣トモ爲リ難カラムヲヤ。

コノ故ニ、國語ニハ、國語特性ノ制ヲ立テテ、動詞ト助動詞トヲ甄別シ、抑、國語ノ助動詞ハ、變化ト法トヲ具シ、且、助動詞ト助動詞ト相疊用スル定則モアリ、而シテ、受身ト云ヒ、打消ト云ヒ、過去ト云ヒ、未來ト云フガ如キ意義ハ、助動詞ノ其語體ニ生得スト説キ去ラバ、何ゾ然ル紛絲ノ紊レヲ起サム。各國、天然ノ言語ニ、各、差違アルベキハ、理ノ當ニ然ルベキ所ニシテ、其間ニ惑ヒヲ入ルルニ足ラズ。唯、其國語、天然ノ性ニ隨ヒテ、語法ヲ制定スベキナリ。彼レニアレバトテ、我レニ模擬捏造シ、彼レニ無ケレバトテ、我レニ甄表セザルハ、其見、亦陋ナラズヤ。

(和蘭人、初、佛語、獨逸語ヲ混用シテ、基本ノ國語無カリキ。百數十年前、其國ノ學者相集リ、既ニ獨立國タル上ハ、一定ノ國語無カルベカラズト議シテ、乃チ、羅甸文法ニ據リテ、新ニ文法ヲ定メ、名詞ノ格ヲ、六格ト建テテ、施行セリ。サルニ、コレヲ實際ニ使用スルニ至リテ、不都合ナルコトドモ多カリシカバ、更ニ審議セシニ、全ク蘭語ニハ、六格ヲ具ヘヌモノト再議シテ、因リテ、減ジテ四格トシタリトナリ、此事、和蘭ノ某ノ辭書ノ序ニ見エタリト、往年、某學士ニ聞ケルコトアリキ。洋文法ヲ以テ國文法ヲ論ズル者、留意スベキコトナリ。

副詞

副詞ハ、常ニ動詞ニ副ヒ、又、形容詞ニ副ヒ、又、或ハ、他ノ副詞ニモ副ヒテ、其意味ヲ種種ニ言ヒ添フル語ナリ。例ヘバ、「只管、思フ」「暫し、留ル」「甚だ、高シ」「最も、遙ニ、見ユ」ナドノ、「只管」ハ、思フ狀態ヲ示シ、「暫し」ハ留ル程ヲ言ヒ、「甚だ」ハ、高キ度ヲ指シ、「最も」ハ、「遙ニ」ノ距離ヲ定ムルガ如シ。

○副詞ノ種類　本體ノモノハ、上ニ舉ゲタル外ニ、「必ず、有リ」「既に、成レリ」「嘗て、聞ケリ」「許多、見ユ」「恰も、好シ」「最、麗ハシ」「頗ル詳ニ、知ル」ナドト、舉ゲ盡シ難シ。

副詞ニハ、疊ミタルガ如キ語多シ。しばしば(屢)、つらつら(熟)、ほとほと(殆)、なかなか(却)、やうやう(漸)ノ如シ。殊ニ、形狀、聲音ヲ云フモノニ多シ。「戸ヲほとほとと叩ク」「涙ヲはらはらと落ス」「からからと笑フ」「さめさめと泣ク」ノ如シ。又、同語ヲ重用スルコトアリ、「かくかく(斯斯)」「しかしか(然然)」「いといと(最)」「いよいよ(彌彌)」「げにげに(實實)」ノ如シ。

副詞ニハ、に、らに、かに、らかに、やかにナドト云フ接尾語ヲ用ヰルモノ多シ。「既に」「終に」「凡に」「豈に」「更に」「殊に、」或ハ「つばら

に（詳）」つぶらに（圓）」のどかに（長閑）」しづかに（靜）」たひらかに（平）」あきらかに（明）」すみやかに（速）」すこやかに（健）」ノ如シ。

又、にニ終ハルモノノ中ニ、不規則動詞ノ「有リ」ニ連レルトキ、にトありト約リテ、なりトナルモノアリ。「新なり」明なり」靜なり」詳なり」ノ如シ。是レ等ノ語尾ノ變化ハ、即チ「有リ」ニ同ジ。

○名詞ヲ副詞ニ用ヰルモノハ、「今、來ム」今日、行ク」明日、來ラハ」半、成レリ」二日、待チテ」ノ如シ。其下ニ、にヲ添ヘテ用ヰルハ、「常に」時に」故に」誠に」日に」月に」ノ如シ。又重用スルハ、「時時」夜夜」數數」、又ハ、「年年に」日日に」ノ如シ。

漢語ヨリ入レルハ、「大抵、成レリ」一切、知ラズ」終日、勤ム」再三、問フ」ノ如シ。其下ニ、にヲ添フルハ、「一切に」別に」實に」丁寧に」專一に」ノ如ク、又重用スルハ、「年年」日日」度度」次第次第に」ノ如シ。

形容詞ノ副詞法ハ、皆、副詞ニ用ヰラル。「高く、昇ル」疾く、走ル」惡しく、ナル」樂しく、思フ」ノ如シ。此類ニテ、「能く」輙く」夙く」甚く」宜しく」ノ如キハ、全ク副詞ノ如クナレリ。又、重用スルハ、「善く善く」疾く疾く」ノ如ク、或ハ、語原ヲ重用スルハ、「細細」久久」深深」ノ如シ。

動詞ヲ副詞ニ用ヰルハ、「曰はく」宣はく」願はくは」恐らくは」疑ふらくは」思ふに（願）」打付けに」亂りに（妄）」頻りに」詮ずるに」案ずるに」絶えて」敢へて」總べて」返りて（却）」譬へは（例）」言はは」言はむや（況）」ノ如シ。又、重用スルハ、「行く行く」泣く泣く」益す益す」代る代る」返へす返へす」取り取り」次ぎ次ぎ」取り取りに」次ぎ次ぎに」ノ如シ。

○熟語ヲ副詞ニ用ヰルハ、「元より（固）」何れか（孰）」如何でか（爭）」何處にぞ（焉）」一重に（偏）」殊更に（故）」身づから（躬）」己づから（自）」餘りさへ（剩）」請ひ願はくは（冀）」欲しいままに（恣）」無いが代に（蔑）」稍もすれは（動）」ナドナリ。

○副詞ノ用法　同語ヲ重用シテ、「最最、好シ」疾く疾く、行ケ」ナドト云フハ、其意ヲ強クスルナリ。又、「尙、暫し、待ツ」唯、只管に、賴ム」夙に、早く、起く」嘗て、屢、見タリ」雪ノ間無ク、時無ク、降ル」月に、日に、關守無クバ」ナドト重用スルハ、其意、二ツナガラ、下ノ動詞、形容詞ニ係ル。

又、間ニ他ノ語句ヲ隔テテ係ルハ、「熟、事ノ由ヲ考フルニ」暫し、時ノ移ルヲ待チテ」ノ如シ。又、動詞ノ下ニ用ヰルモノハ、「待ツコト暫しナリ」行クベキカ（問）否」我ヲ恨ム勿」色ニ出ヅ勿」努力」ノ如シ。コノ勿ハ、必ズ、動詞ノ第一變化ニ屬ク。「我ヲ恨ムな」人ヲ忘ルな」色ニ出ヅな」來な」爲な」ノ如シ。但シ、不規則動詞

ノ第四類ノミハ、其第二變化ニ屬ク。「有ルな」「居ルな」ノ如シ。

○コノなハ、感動詞ノなト迷ヒ易シ、心スベシ。又、「恨ムル勿レ」「忘ルル勿レ」「出ヅル勿レ」「來ル勿レ」「爲ル勿レ」ナドト用ヰル勿レハ、「無クアレ」ノ約レルモノナリ。混ズルコト勿レ。

又、「な、そ、」ト云フ二語ニテ動詞ヲ挾ミテ、禁止スル意ヲ云フ副詞アリ。「な行キそ」「な受ケそ」「な落チそ」ノ如シ。或ハ、「努力な語リそ」「現はな言ヒそ」「甚くな侘ビそ」ナドト、他ノ副詞ト共ニ用ヰ、或ハ、「人な甚く侘ビサセ奉ラセ給ヒそ」(竹取)ナドトモ用ヰ、或ハ、熟語ヲ中斷シテ、「吹キな散ラシそ」ナドトモ用ヰル。此副詞ハ、スベテ動詞ノ第五變化ヲ挾ムヲ通則トスルコト、上ノ諸例ノ如シ。然ルニ、不規則動詞ノ第一類、第二類ニテハ、其第四變化ヲ挾ミテ、「な來そ」「な爲そ」ト用ヰルヲ異則ナリトス。(第五變化ニテ、「な來そ」「な爲そ」ナドトハ用ヰズ。)

(古クハ、「雲な棚引キ」「人モな忘レ」「音無シトな侘ビ」ナドト、そ無クモ用ヰタルヤウナリ。)

又、上ノ意ヲ承ケテ下ニ移スモノアリ。「齡ハ老イヌ、然ハアレド」ナドトナリ。其他「斯く」「抑も」「さて」ナド、皆、然リ。又、元來ハ、上ノ意ヲ承クベキモノヲ、意、輕ク、文首ニ用ヰルモノアリ。「夫れ」「抑も」「凡そ」ノ如シ。

又、副詞ニハ、其生得ノ意味ヲ、其下ノ語ニ移シテ、反應セシムルモノアリテ、反語、打消ノ語、推量ノ語、疑問ノ語ナド、各、一定ノ用法ヲ起サシム。是レ等、慣用ノ法ニ據リテ用ヰルベキナリ。例ヘバ、

「え行カジ」「いさ知ラズ」「をさをさ見エズ」「よも思ハジ」「さらさら無シ」「豈知ラムヤ」「縱ひ行クトモ」「よし見ルトモ」「蓋し是レナラム」「若し行カバ」「寧コレヲ取ラム」「如何ハセム」「爭で知ラム」「幾何アラム」「疑ふらくは是レナラム」「焉ぞ取ラム」ノ如キ、枚擧スベカラズ。

○以上、副詞ノ解、稍、繁ニ渉リテ、他ニ比スレバ、不倫ナルガ如シ。然レドモ、副詞ニハ、迷ヒ易キモノモ多ケレバ、今ハ此ノ如シ。

○コノ副詞ト云フモノ、從來、國學諸哲ノ論及セルモノ、ヲサヲサ見エズサレバ、此一類ノ語ニハ、某ノ詞ト、名稱ヲモ付セズシテアリ。唯、富士谷成章氏ガ「かざし抄」ニ、かざしト名ヅケタル一類ノ語中ニ、往往、此副詞ヲ混ジテ論ジタルアレド、尙、甚ダ詳悉ナラズ。サレバ此條ハ先哲ノ說ノ據ルベキナクシテ、創定ニ係レルコト多シ。

接續詞

接續詞ハ、語、句、又ハ、文、ノ間ニ入リテ、ソレヲ續ギ合スル語ナリ。例ヘバ、「月、又、花」「春、過ギタリ、さて、夏、來ル」ノ如シ。

漢籍讀ニ用ヰルハ、「コレヲ求ムルカ、抑、コレヲ與フルカ」「秦カ、漢カ、將、近代カ」「多クシテ、且、旨シ」ナドトアリ、書狀ノ文ニ、

尤、旁、將又、ナドト用キルモノモ、是レナリ。

動詞ヨリ來レルニハ、及ビ、並ニ、尋デ、ナドアリ、亦、漢籍讀ノ用法ナリ。皆狀文ニ就テ、隨テ、依テ、ナドモアリ。熟語ヲ用キルハ、「或ハ(有ル謂ハ)」「斯くて」「然れど」然して(而)「若しくは」さりながら「然のみならず(加之)」かるがゆゑに(故)「何となれど」是に於てノ如シ。是レ等モ、漢籍讀ノ用法ナルガ多シ。

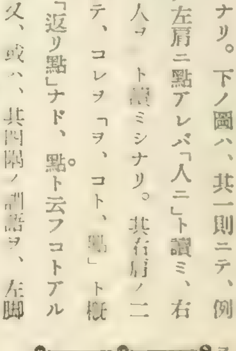
○「月と日と」「山も川も」「蝶や花や」ナドノと、も、やナドモ、其用法ニ因リテハ接續詞ノ意ヲナスコトモアリ。然レドモ、今ハ、類ヲ以テ天爾遠波ノ部ニ收メタリ。

○此接續詞ト云フモノ、舊說ニテハ、スベテ天爾遠波ノ中ニ雜ヘタリ。然レドモ、別ニ一種ノ意義アルモノニテ、混ジ難キ事アリ。因リテ、今ハ、別門ニ立テタリ。

天爾遠波

天爾遠波(略シテ、天爾波)ハ、言語ノ中間ニ居テ、上下ノ語ヲ承接シテ、種種ノ意義ヲ達セシムル語ナリ。例ヘバ、「宇治山の僧喜撰は、詞、幽にして、初め、終り、確ならず、言はゞ、秋の月を見るに、曉の雲に逢へるが如し、」ノの、は、て、ど、を、に、に、が、ノ如シ。

○古クハ、漢文ヲ譯讀スルニ、後世ノ如ク、送リ假名ナド付クルコトハ無クシテ、文字ノ四方、四隅、中央等ニ、點ヲ付シテ、其點ニ、一定ノ則ヲ立テテ、譯讀セシナリ。下ノ圖ハ、其一則ニテ、例ヘバ、人ノ字ノ左肩ニ點アレバ「人ニ」ト讀ミ、右肩ニ點アレバ、「人ヲ」ト讀ミシナリ。其右肩ノ二點ノ訓語ヲ採リテ、コレヲ「ヲ、コト、點」ト概稱セリ。(今モ、「返リ點」ナド、點ト云フコトアルハ、其遺ナリ。)又、或ハ、其四隅ノ訓語ヲ、左脚ヨリ左肩へ、右肩ヨリ右脚へ循リテ讀メバ、「テ、ニ、ヲ、ハ」トナルヲ採リテ、其概稱トモセリ。是レ天爾遠波ト云フ語ノ起因ナリ。



天爾波ハ、其形、多クハ短小ニシテ、且、獨立シテハ用ヲ成サズ。然レドモ、常ニ、文中所在ニ居テ、上下ノ語ヲ連絡セシメ、互ニ呼應シテ共意義ヲ通ジ、他語ノ方向ヲ示シ、意旨ノ導キ、自他ヲ區別シ、彼此ヲ分合シ、言語ノ位置、顚倒ストモ、其所在ニ就キテ指示ノ任ヲ盡スナド、關節ノ筋ノ如ク、門戶ノ樞ノ如シ。アラユル天爾波ヲ、其用法ニ因リテ、三類ニ大別シ、而シテ逐次ニ共意義ヲ說クベシ。

第一類　名詞ニ屬クモノ。

(A)が　の　(B)の　がつ　(C)に　(D)を　(E)とと

(F)へ　(G)より　からより　(H)まで

第二類　種種ノ語ニ屬クモノ。

(I)は　ば　(J)も　(K)ぞ　し　(L)なむ　なも　(M)こそ

(N)だに　(O)すら　(P)さへ　(Q)のみ　(R)ばかり

(S)や　(T)か

第三類　動詞ニ屬(ツ)クモノ。

(U)む　(V)と、とも　ど、ども　(W)がよを　(X)て　(Y)で

(Z)つつ

第一類　此類ノ天爾波ハ、名詞ニノミ屬ク。コレヲ、「名詞ノ天爾波」ト云フベシ。

(A)がの　上ニ名詞ヲ承ケテ、下ハ動詞ニ係リ、其動作ヲ起ス所ノ名詞ヲ、特ニ擧ゲ示ス意ノモノナリ。例ヘバ、「斯くと誰が言ふ」我れをば君が、思ひ隔つる」白雪の、かかれる枝に、鶯の鳴く」行交ふ人の、花をたむくる」ノがのノ如ク、「言ふ」思ふ」鳴く」手向く」ノ動作ヲ起スハ、「誰」君」鶯」人」ナルコトヲ、特ニ指示ス。又、下、形容詞ニ係リテ「待つ人の無き」空ののどけき」聞くが樂しき」無きが多し」ナドト云フモ、用法、同ジ。

○コレヲ、羅甸語ニ謂ハユル名詞ノ Nominativus Casus.（主格）ナリトスルハ、恰當ナラズ。國語ニテ、彼ノ主格ニ相當スベキ純粹ナルモノハ、「鳥、啼キ」花、落ツ」ナド、天爾波無クシテ用キル「鳥」花」等ノ位置、是レナリ。コレニ、がのヲ加ヘテ、「鳥が啼く」花の落ツル」ト云ヘバ、がのヲ加ヘタル程ノ意味ハ、隨ッテ起ルナリ。卽チ、本條ニ說ケル所ノ如シ。倘、委シクハ、文典ノ文章論ニ讓ル。

(B)のが　共ニ、名詞ト名詞トノ關係ヲ示スモノナリ。而シテ、共意義モ、種種ナリ。

(一)　所有ノ意ヲ示スモノハ、「人の物」君が世」ノ如シ。或ハ、下ノ名詞ヲ略シテ、「萬葉集に入らぬ古き歌、みづからのをも、奉らしめ給ひ」此歌は、柿本の人麿がなり」ナドトモ用キル。

(二)由ル所、係ル所、ヲ示スモノハ、「櫻の花」梅が香」世の中」天が下」ノ如シ。是レモ、下ノ名詞ヲ省キテ用キル。「世の常のとや思ふらむ」今の主人(アルジ)も、前(サキ)のも、手取交はして」ノ如シ。

○以上ノ二ツハ、羅甸語ノ Possessivus. 又ハ英語ノ Genitive case.（持格）ニ當ルガ如クナレド、次下ナルハ、又、種種異樣ノ意義ヲナス。

(三)「にて、ある」ノ意ヲ示スモノハ、「おれの歌卷」それが人人」ノ如シ。

(四)「に、ある」ノ意ヲ示スモノハ、「越(コシ)の白山」蝦夷が千島」ノ如シ。

(五)「と、いふ」ノ意ヲ示スモノハ、「富士の山」佐渡が島」ノ如シ。

(六)「の如き」ノ意ヲ示スモノハ、「花の顏」露の命」父が佛あり」ノ如シ。

又、「結ぶの神」行かむの心」思ふが中に」重きが上の」ナドト用キルハ、上ノ語ノ分詞法、形容法ヲ名詞トシテ用キルナリ。又、

「都よりの音信(オトヅレ)」明日(アス)までの命」君への諫」行きての後」されのみの事」多くの人」面白の夜」口惜しの事」忘れじの行末」或ハ「君や來む、我れや行かむの、猶豫(イサヨヒ)ふ待つ人の、來むや來じやの、定めなければ」是れは謀反の輩を落さじが爲の謀なり」ナドト、種種ノ語句ヲ名詞トシテ、接尾語ノ如ク屬(ツ)クコトモアリ。而シテ、是レ等ハ、皆、其上下ノ係屬ヲ示ス意ヲナス。

○前條ノが、のハ、名詞ト動詞トノ間ニ立ツモノナリ。此條ノの、がハ、名詞ト名詞トノ間ニ立ツモノナリ。語形、同ジケレド、思ヒ紛フルコト勿レ。又、第三類ノ天爾波ニモ、が、のアリ、感動詞ニモ、がアリ、混ズベカラズ

○つ　のニ似テ、上下ノ語ノ係屬ヲ示スモノナリ。然レドモ、用法古ク、且、慣用ニ局(カギ)レル所アリテ、一般ニ用ヰ難シ。其例、左ノ如シ。

「天つ風」國つ神」上つ毛野(ケノ)」下つ總(フサ)」遠つ祖(オヤ)」近つ淡海(アフミ)」内つ國」中つ國」外(ト)つ國」沖つ風」種(タナ)つ物」澪(ミヲ)つ串(クシ)」

(C)に　動詞ノ動作ノ、移リ亙ル所ヲ示スモノナリ。而シテ、其意義、數種ニ分ル。

(一)　相對スルモノヲ指スハ、「人に與フ」師に問フ」ノ如シ。

○コレハ羅甸語ノ格ノ Dativus(與格)ニ當ルガ如シ。然レドモ、次ナルハ、又、種種ナリ

(二)　地位ヲ示スモノハ、「机に載ス」都に住ム」山に近シ」水に遠シ」ノ如シ。

(三)　比ブル意ナルハ、「人に劣ル」我レに優ル」昨日に增シテ」ノ如シ。

(四)　差抑ヘテ云フとノ如キモノハ、「木、石に成ル」水ヲ湯にナス」花ヲ雪に見テ」ノ如シ。

(五)　接續詞ノ意ヲナスとノ如キモノハ、「日に月に」尾花が風に庭の月影」ノ如シ。

(六)　添フル意ナルハ、「月に村雲」花に嵐」ノ如シ。

又、重用スル動詞ノ間ニ入リテ、まだノ意ヲナスモノアリ。「降りに降ル」聞キに聞キ、語リに語ル」ノ如シ。

(七)　「にて」に於て」ナドノ意ナルハ、「道に聽キテ途に說ク」朝に道ヲ聞キテ、夕に死ストモ」ノ如シ。

(八)　「の爲に」に因りて」ナドノ意ナルハ、「花見に行ク」多キに驚ク」人手に死ヌ」人に擊タル」ノ如シ。

(九)　「に就きて」ナドノ意ナルハ、「行フに好シ」悟ルに易シ」ノ如シ。

○此外ニ、「明ニ」詳ニ」時ニ遠クニ」案ズルニ」ナドノニハ、副詞ノ接尾語ト見タリ。又、第三類ノ天爾波ニモ、ニアリ

(D)を　事物ヲ處分スル意ヲ示スモノニテ、必ズ、他動詞ニ係

ル。「書を讀ム」字を記ス」飯を食フ」水を飲ム」ノ如シ。
○コレハ、羅甸語ノ Accusativus. 或ハ英語ノ Objective case.（賓格）ニ當ツベキガ如シ。

又、自動詞ニ係ルモノハ、其意義、異ナリ。「國を去ル」人を別ル」ノ如キハ、よりノ意ヲナシ「路を行ク」門を過グ」ノ如キハ、其動作ノ行ハルル地位ヲ示スマデナリ。（第三類天爾波ニモ、感動詞ニモ、をアリ。）

（E）と　指ス所アル天爾波ニテ、其意義、數種アリ。

（一）　指定スル意ヲ示スモノハ、「コレと定ム」ソレと思フ」ノ如シ。

又、一文、一句ヲ、名詞ト見テ承クルハ、「雪降ル、と見ル」人ハ無シ、と云フ」我レハ行カジ、と思フ」アリヤ、と問フ」無キカ、と疑フ」ノ如シ。

又、「此ニ、と」是レナ、と」我レハ、と」彼レゾ、と」斯く、と」誰がいふ」忘草、何をか種、と思ひしよ」ナドト用ヰルハ、略文、略句ヲ承ケタルナリ。

（二）「の如く」ノ意ナルハ、「雪と散ル」霜と消ユ」此川に、紅葉と浮きて、さしかへる」月日のみ、流るる水と、早ければ」ノ如シ。

（三）「として」ノ意ナルハ、「花と見ル」霜と置ク」ノ如シ。

（四）又、重用スル動詞ノ間ニ入リテ、またノ意ヲナスコトアリ。「アリとアル」秋風の、吹きと吹きぬる」山の端に、入りと入りぬる、月なれや」ノ如シ。

此語、動詞、形容詞、助動詞ヲ承クルトキハ、其直說法、又ハ、命令法、等ノ、意ノ切ルル所ヲ承クルヲ則トス。サレバ、「落ツ、とは見れど、音の聞えぬ」黒鳥の下に、白波を寄す、とぞいふ」海賊、追ひ來、といふ」濡る、とは無しよ」心憂し、と宣ふ」日は暮れぬ、と思ふは、云云」ナドト、尋常、直說法ヲ承クルヲ通則トシテ、扨、又、「花ゾ落ツル、と」花コソ落ツレ、と」花落チヨ、と」ナド、ぞやかノ直說法、こそノ直說法、命令法、等、皆、其意ノ切ルル所ヲモ承ク。（但シ、「恨みて歷る、と、人や見るらむ」出づる、とも、入る、とも見ゆる」一聲よ、明くる、と聞けど、時鳥」ナドト用ヰルハ、間ニアルベキ名詞ヲ略ケル筆法ナリ。混ズルコト勿レ。）

此語、又、上略ノ筆法ニテ、語句ノ首ニ用ヰルコトアリ。「と見、斯ウ見」とモスレバ」とニ斯クニ」とバカリ思フ」ノ如シ。是レ等、皆、上ニアルベキ語句ヲ略ケルナリ。

（副詞ノ接尾語ニ用ヰル「ほとほとと叩ク」からからと笑フ」ナドノとモ、指

定スル意アリ、此條ノとヨリ出デタルモノナリ。

○と 是レハ、指定スル意ハ、前項ノとニ同ジケレドモ、用法ハ甚ダ異ニシテ、語句ヲ並ブルコト接續詞ノ如シ。(漢字ノ與ノ字ニ當レリ。)而シテ、全ク、上ノ語ニ附着シテ、下ニ、再ビ、第一類ノ天爾波ヲ履ム。例ヘバ、「鄒と魯と戰フ」「月と花とノ眺メ」「内と外とニアリ」彼レと此レとヲ比ベテ」「京と難波とへ趣カム」ナドノ如シ。

又、「書ヲ讀むと、字ヲ書クと」嬉シキと、悲シキと」疾く明けぬると、遲く暮るると」ナドト用キルハ、例ノ名詞ヲ略ケルナリ。又、數語ヲ連ネテモ用キル。「流れ木と、立つ白波と、燒く鹽と」ノ如シ。

○コノとハ幾語重ナリテモ、必ズ加フルヲ則トス。然ルニ、二語以上ナルヲバ、常ニ略スルコトアルハ、非ナリ。例ヘバ、「鹽酸と硫酸ノ鹽類ヲ注グ」ナドト記ストキハ、「鹽酸ト硫酸ノ鹽類とヲ注グ」ノ意トモナリ、「鹽酸ノ鹽類と硫酸ノ鹽類とヲ注グ」ノ意トモナリテ、大ナル誤ヲ生ズベシ。

(F)へ 方向(ムキ)ヲ示ス天爾波ナリ。例ヘバ、「前へ進ム」左へ向フ」奥へ深シ」西へ長シ」ノ如シ。此へハ、方向ヲ示スモノニテ、前ノにノ地位ヲ示スモノト別ツ。一文中ニテ用キ分ケタルハ、「僧正遍昭が許に、奈良へまかりける時」但馬の國へまかりける時に、二見の浦といふ所にとまりて」ノ如シ。

○コノへトにトヲ混用スルコトアリ、心スベシ。サレバ、「前に進ム」左に向フ」ハ非ナリ、「前へ進ム」左へ向フ」ナルベシ。(方向) 又、「山へ登ル」舟へ乘ル」ハ非ナリ、「山に登ル」舟に乘ル」ナルベシ。(地位) 然レドモ、にノ方ハ、方向ニ用キタルコト無キニシモアラズ、「東の方に行きて、住む所求むとて」陸奥の國にすずろに行き至りにけり」下野にまかりける女に、竹生島にまうで侍りける時に」ナドトアリ。サレバ、へハ、方向ニ限リ、にハ、地位ニモ、方向ニモ、通ハシ用キルトスベキカ。

(G)より から 共ニ、二ツノ間ニ移リ行ク意ヲ示スモノニテ、地位ニモ、時ニモ云フ。(漢字ノ自從、等ノ字ニ當ル。)「人より受ク」敵より奪フ」彼方より來ル」後より襲フ」天より地ニ落ツ」夫レより程歷テ」去年(コゾ)より今年マデ打續キテ」ノ如シ。又、下、名詞ニ接スルモアリ。「此處(ココ)より東ノ方ハ」咲き初めし、時より後は」ノ如シ。

「明日(アス)からは若菜摘まむと」明けぬから、船を引きつつ上れども」時鳥、まだ鳴かぬから、待たるべらなる」ノ如シ。(ゆゑよノ意ナルからハ、コレト異ナリ。ソハ、接尾語ノ中ニ收メタリ。)

○コレハ、羅甸語ノ Ablativus casus. (奪格) ニ當ツベキカ。次ナルハ、英語ノ前置詞ノ Than ノ意ナリ。

○より 是レハ、比ベテ科(シナ)ヲ定ムル意ヲ示シテ、前ノよりト異

ナリ。「山より高シ」コレより善シ」命より惜シ」彼レより後ル」ノ如シ。又、「かねてより」今までよりは」獨見むより人と見む」憂きはものかは、戀しきよりは」ナドト用キルハ、間ニ語句ヲ省ケルナリ。又、下、名詞ニ接スルアリ。「花より先と知らぬ我が身は」「鳥より先に鳴き始めつる」ノ如シ。又、意義、一轉シテ、其物事ニ限ル意ヲナス。「我レより外に、人あらじ」風より外に、訪ふ人も無し」ノ如シ。更ニ、略シテハ、「枕より(外ニ)、また知る人も、無き戀を」ノ如シ。

(H)まで　至リ及ブ意ヲ示スモノナリ。例ヘバ、「筑紫までまかる」都まで送りまうして」行先の事まで思し知らして」ノ如シ。又、意、稍、轉ジテ、さへノ意ヲナスコトアリ。「天の川、冬は空まで、こほるらし」跡まで見ゆる、雪のむらぎえ」ノ如シ。又、「至る程ま」ノ意ヲナス。「斯くまで精しき」さまで思はむ」花と見るまで、雪ぞ降りける」月と見るまで、降れる白雪」物や思ふと、人の問ふまで」ノ如シ。(是レハ、間ニ、程ト云フ語ヲ略シタルモノニテ、卽チ、程ノ意ヲナスモノナルベシ。)

○第二類　此類ノ天爾波ハ、上ニ、各種ノ語ヲ承ケテ、其意ヲ、下ナル動詞、形容詞、等ニ通ズ。其承クル所ノ語、一定セザレドモ、亦、慣用ノ用法アリテ、妄リニ承クベカラズ。左ニ、逐條ニ、其意義ヲ釋キ、且、其用例ヲモ、若干、揭グベケレバ、其承クル所ノ種種ナルヲ見ルベシ。

(I)は　事物ヲ、各自ニ差別スル意ノモノナリ。例ヘバ、「人は去リ、我レは留マル」柳は綠ニ、花は紅ナリ」見ルは善シ、行キはセズ」善キは取ラム」樂シクは思フ」學バムは好シ」行カズはアルベカラズ」取リテは見ム」斯クマデは無シ」然はアレド」如何はセム」是レヨリは高シ」我レコソは見メ」京へは行カム」我レノミはアリ」花トは見ム」ノ如シ。(感動詞ニモ、はアリ、混ズベカラズ。)

○ば　音便ニテ、前項ノはヲ濁ルモノナリ。例ヘバ、「コレヲば取ラム、カレヲば捨テム」行カズンばアラズ」爲セズンばアルベカラズ」ノ如シ。(第三類天爾波ニモ、ばアリ。)

(J)も　事物ノ、同ジ狀ナルヲ並列スル意ノモノニテ、接續詞ノ如シ。(漢字、亦ノ字ニ當ル。)「をととしも、こぞもことしも、をととひも、きのふもけふも、吾が戀ふる君」行クもアリ、歸ルもアリ」行キもセズ、歸リもスマジ」長キもアリ、短キも見ユ」善クもアラズ、惡シクもナシ」父トも思ヒ、師トも仰グ」寐テも思フ」我レニも許セ」家へも歸ラズ」東ヨリも來ル」ノ如シ。(感動詞ニモ、もアリ。)

(K)ぞ　多クノ中ニテ、一ツヲ指ス意ノモノナリ。(「夫」ト指シテ云フ語ノ、濁シルナラム。「諦そ、な行キそ」ナドト、清ミテ云フ語モ、卽チ是レナラム。)此語ノ、文中ニ入ルトキハ、其文末ノ動詞、形容詞、助動詞、等ノ結法(Conjugation.)ニハ、必ズ其第二變化ヲ用キルコト、左ノ用例ニ就キテ知ルベシ。(前ノ動詞、形容詞、助動詞ノ各條ノ表ヲ參見セヨ。)

「花ぞ落ツル」月ぞ澄メル　行クぞ善キ」行キぞワヅラフ」長キぞ勝ラム」早クぞ過グル」然ぞ覺ユル」コレヲぞ取ルベキ」我ガ世トぞ思フ」見テぞ知ル」見テモぞ思フ」我レハぞ戀フル」西へぞ行カム」袖サヘぞ照ル」　去年ヨリぞ見シ」ノ如シ。

又、指シ示ス意ニテ、言語ノ末ニ居ルコトアリ。

「思ふがおさは、思ふらむや、ぞ、」斯くあるは、世のつねぞ」物思ふおろぞ」思ふばかりぞ」妹待つらむぞ」鳴きわたらむぞ」ノ如シ。

又、同ジ用法ナレド、上ニ、疑フ語アルトキハ、詰問スル意トナルアリ。

「誰れ聞けと、鳴くかりがねぞ」言フハ如何ニぞ」何トスルモノぞ」誰ガ子ぞ」ノ如シ。(誰そ、ト清ムモ、コレナリ。)

こしぞ　ぞニ似テ、指ス意アリ。用法、古シ。

「神し知らなむ」道し無けれど」歎きしまさる」獨し寐れど」猶し慕ばゆ」今し散るらむ」身にしあれど」散らでし止まるものならど」國はしも、さはにはあれど」無きにしもあらず」待ちにし待たむ」舟をしぞ思ふ」音のみし泣かゆ」かかれさてしも」我れとし言へば」ノ如シ。(過去助動詞ノきノ變化ノしト紛ヒ易シ、心スベシ。)

但シ、其下ヲ結ブ動詞、形容詞、助動詞ハ、常ノ如ク、第一變化ヲ用キルコト、ぞニ異ナリ。(前ノ用例ヲ見ヨ。)又、「時しもあれ」今日しもあれ」ナドト用キタルガアルハ、あれノ上ニ、おそヲ省ケルナルベシ。又、「今しはし」斯くのみし」戀ひしわたらむ」ナドト、重用セルモアリ。

○コノしヲ、從來、「休メ詞」ナドト稱シテ、意無キ天爾波トセルハ、誤リナラム。指ス意アリテ、ぞニ似タルコト、前ノ用例ヲ味ヒテ知ルベシ。歌ノ五文字ノ句ニ、「身にしあれど」ナドト加フルコト常ナルガ、コレ不用ノ語ナラバ、「字餘リ」ニ加フルニ及ブマジ。必ズ、其意義ヲ添ヘズシテハ、カナハヌ場合ナレバ、加フルナルベシ。

(L)なむ　ぞニ似テ、緩ク指ス意ノモノナリ。(此語、散文ニ多ク、歌ニハ少シ。)此語モ、文中ニ入ルトキハ、其末ヲ結ブ動詞、形容詞、助動詞、スベテ、其第二變化ヲ用キルコト、ぞニ同ジ。

「我れなむ行くべき」おれなむそれなる」無きなむまさされ

る」善くなむ見ゆる」またなむ來べき」斯くなむある」風になむ散る」これとなむ定むる」人をなむ恨むる」過はでなむ往ぬる」
○なも　なむに同ジ。「神になもありける」ナドト用キル。是レナリ。

(M)こそ　多クヲ捨テテ、一ツヲ取ル意ノモノナリ。（語原ハ、「是ハ其ナリ」ト云フ程ノ意ナリト云フ。）コノ天爾波ノ、文中ニ見ハルルトキハ、其末ヲ結ブ所ノ動詞、形容詞、助動詞ノ直說法ハ、スベテ、其第三變化ヲ用キル。左ノ用例ヲ見ルベシ。（尚、前ノ動詞、形容詞、助動詞ノ各條ノ表ヲ參見セヨ。）

「人こそ見えね」路こそ無けれ」行くこそ好けれ」行きこそすれ」樂しくこそ覺ゆれ」貧しきこそ憂けれ」斯くこそ思へ」またこそ過はめ」えこそ行かざれ」行きてこそ見め」花をこそ見れ」舟にこそ乗れ」ありとこそ見ゆれ」然もこそは見め」行かでこそあれ」されどこそ禁めつれ」相見むことをのみこそ思へ」人知れずこそ思ひそめしか」わか君をだにこそは形見とも見たてまつれ」

(N)だに　輕キヲ擧ゲテ、餘ノ重キヲ、言外ニ引證スル意ナリ。（語原ハ、「唯ニ」ノ約ニモアラムカ。）「憂き身をば、我れだにいとへただ、そをだに同じ、心と思はむ」（新古今）「夢のこと、なりにし君を、夢にだに、今は見るだに、難くもある哉」（六帖）「母御息所は、かげだにおぼえ給はぬを、松の雪だに消えなくに」さらに、入れだに入れず」見だにおくり給へかし」今暫しだにおはせなむ」女御とだに言はせずなりぬる」鳥にだに如カザルベケムヤ」

又、「蔓草だも猶除クベカラズ、況ャ君ノ寵弟ヲヤ」ナドノだもハ、だにもノ略訛ナリ。

(O)すら　やはり なほナドト云フ意ナリ。（語原ハ、「夫」ノ轉ニテ、指ス意アルベシ。）サレド、中古ヨリハ、だにト同意ニモ云ヘリ。

「こととはぬ、木すらいもとせ、有りとふを、ただひとり子に、あるが苦しさ」（萬葉）草木すら、春にはなべて、逢坂の」春日すら、長居しつると」我ガ身すら容レラレズ」

(P)さへ　重キガ上ニ、又、添ヒ加ハル意ニテ、（語原ハ、「添」ノ轉カ、或ハ、「其上」ノ約ナラムトモ云フ。）だにトハ、引證ニ、交互輕重ノ差アリ、混ズベカラズ。

「現には、さもこそあらめ、夢にさへ、人目をもると、見るがわびしさ」（古今）「梓弓、おして春雨、けふ降りぬ、あすさへ降らむ、若菜摘みてむ」（古今）「まけてはやまじの御心さへ

そひて」行交ふ人の、袖さへぞ照る」召にさへおさたりつるを」涙をさへおぼして臥したり」

(Q)のみ　一アリテ、二無キ意ヲ云フ。

「我レのみ知ル　歎キのみシテ」思フのみナリ」好キのみ取ル」悲シクのみ思フ」サテのみアラムヤ」斯クのみアラバ」言ハデのみアルベキカ」家ニのみアリ」人ヲのみ賴ム」我レトのみ知ル　前へのみ進ム」

漢籍讀ノ上ニ「而已」耳」ナドト訓ジテ言切ルハ、下略ノ法ナリ。

(R)ばかり　意、粗、のみニ同ジ。(語原ハ、「量」ニテ、量ノ限レル意ナラム。)

「今日ばかりこそ、田鶴も鳴くなる」我レばかりアリ」歎クばかりナリ」憂クばかり思フ」夫レトばかり知ル」斯クばかりアラム」(ほどノ意ヲナスばかりハ、接尾語ニ入ル。)

(S)や　(T)か　上ノ二語(即チ、や、か)ハ、共ニ、指シテ疑フ意ノモノナリ。此二語、文中ニ入ルトキハ、共下ヲ結ブ所ノ動詞、形容詞、助動詞ハ、共ニ、共第二變化ヲ用キルヲ定則トス。左ノ用例ニ就キテ知ルベシ。(尙、前ノ動詞、形容詞、助動詞ノ各條ノ表ヲモ見ヨ。)

「春や來ル　花や咲ク」月やは物を思はする」戀ひやわたらむ」行キやスル」惜しくやはあらぬ」白キや花ナル」知ラズやアル」斯クや思フ」花ヲや見ム」人ニや逢ハム」生キモやスル」散ラデやアルベキ」

「誰レか見ルベキ」夫レかアル」孰レか勝レル」何處ニかアル」何處へか行カム」何ヲか取ル」何トかスベキ」四年バカリか歷ニケム」何時マデか待タム」如何デか知ラム」

又、二語、共ニ、語ノ末ニ居テ、言切ルコトアリ。多クハ、問ヒ掛クル意ヲナス。

「有リや」無シや」聲ハ聞ユや」思ヒ出ヅや」夫レト言ハムや」來ムや來ジや」

「我レか」人か」有ルか」無キか」聞ユ

	規則動詞 第一類	規則動詞 第二類	規則動詞 第三類	規則動詞 第四類	不規則動詞 第一類	不規則動詞 第二類	不規則動詞 第三類	不規則動詞 第四類	形容詞 第一類	形容詞 第一類	形容詞 第二類	形容詞 第二類
第一變化	押スや	受クや	報ユや	着ルや	來クや	爲スや	死ヌや	有リや	善シや	無シや	惡シや	樂シや
第二變化	押スか	受クルか	報ユルか	着ルか	來ルか	爲ルか	死ヌルか	有ルか	善キか	無キか	惡シキか	樂シキか

ルか「出ヅルか」

や、か、ノ、動詞、形容詞、助動詞ノ下ニ連ルトキハ、やハ、必ズ、其第一變化ニ連リ、かハ、必ズ、其第二變化ニ連ルヲ定則トス。前ノ用例、並ニ、前ノ表ニ因リテ知ルベシ。助動詞ハ、前ノ助動詞表（第三表）ニ就キテ、其第一變化ト、第二變化ト、ニ連ネテ解スベシ。

○[illegible]ノ動詞、助動詞ニハ、其別ヲ誤リ易シ。「得や」「得ルか」「經や」「經ルか」「來や」「來ルか」「爲や」「爲ルか」「行カずや」「行カぬか」「行キきや」「行キしか」ナドト、必ズ、其第一變化ト、第二變化トヲ用ヰ分クベシ。「得ルや」「經ルや」「來ルや」等、皆、非ナリ。但シ、やノ第二變化ヲ承ケタルアラバ、ソハ大抵、感動詞ノやナリト知レ。

や、か、共ニ感動詞ニ、同形ノモノアリ、注意スベシ。

又、や、か、共ニ、疑フ意ノ語ナレド、上ニ、他ノ疑辭アルトキハ、例ヘバ、「幾何かアル」如何ニか思フ」何ヲか取ル」誰レナルか」何トスベキか」何處ニアルか」ナドト、下ニ、更ニ、かヲ加フルハ常ナレド、斯ル場合ニ、やヲ加ヘタル用例、サラニ無シ。コレヲ異ナリトス。

○「幾何やアル」如何ニや思フ」何ヲや取ル」誰レナルや」何トスベキや」何處ニアルや」ナドハ、スベテ非ナリ。但シ、「幾何ゾや」何カアラムや」ナドハ、感動詞ナリ、混ズベカラズ。

第三類　此類ノ天爾波ハ、上、下、共ニ、動詞、或ハ、形容詞、助動詞ニ接ス。コレヲ、「動詞ノ天爾波」ト汎稱スベシ。

(い)ば　甲ノ語句ト、乙ノ語句ト、ヲ連絡セシムルニ用ヰル天爾波ニテ、甲、原因トナリテ、乙、其當然ノ結果ヲ成ス意ヲ云フ。然シテ、其用法ニ、二樣アリ。動詞、形容詞、助動詞ノ第三變化ニ接スルトキハ、既定ノ意ヲ成シ、第四變化ニ接スルトキハ、未定ノ意ヲ成ス。例ヘバ、

「年歷れば、齡は老いぬ、然はあれど、花をし見れば、物思ひもなし」(古今集)「花見れば、心さへにぞ、移りける」(同)「一度ニ、バット放せば、敵、三百餘人、ヤニハニ打殺されし」(太平記)「水至りて清ければ、大魚棲まず」人衆ければ、天に勝つ」ナドハ既定ニ用ヰ、「櫻花、散らば散りなむ」(古今集)「待つとし聞かば、今歸り來む」(同)「鶯の、谷より出づる、聲なくば、春來ることを、誰か知らまし」(同)「戀しくば、來ても見よかし」ナドハ、未定ニ用ヰラレタルガ如シ。

又、既定ノ方ヲ「風吹けば、え出でたたず」(土佐日記)「波、風、止まねば、同じ處にあり」(同)「てる月を、弓張としも、いふことは、山の端さして、いればなりけり」(忠岑集)ナドト用ヰルトキハ、「吹くに因りて」止まぬに因りて」いるに因りて」ノ

意ヲ成ス。然レドモ、倘、原因、結果ヲ云フ。

(V)と、とも ど、ども 此四語、共ニ、上ノ語ノ意ヲ議スル天爾波ナリ。と、ナルハ、「穂に出でたりと、かひや無からむ」あまたは寐ずと、ただ一夜(ヒトヨ)のみ」ノ如ク、どナルハ、「問へど答へず」逐へど去らず」ノ如シ。(皆、漢字、雖ノ字ノ意ナリ。)コノと、又ハ、どニ、もヲ合シテ、「穂に出でたりとも」あまたは寐ずとも」問へども」逐へども」ナドト、用ヰルコト常ナリ。コノもハ、感動詞ノ如キモノナリ。而シテ、とハ、今世、普通用ナラズ、一般ニハ、とも、ど、どもヲ用ヰル。扨、コノ天爾波共ハ、何レモ同意義ナレド、動詞ノ第一變化

		規則動詞				不規則動詞					形容詞	
		第一類	第二類	第三類	第四類	第一類	第二類	第三類	第四類		第一類	第二類
未定	第一變化	押スとも	受クとも	報ユとも	着ルとも	來(ク)とも	爲(ス)とも	死ヌとも	有リとも	第四變化	善クとも	惡シクとも
既定	第二變化	押セど ども	受クレど ども	報ユレど ども	着レど ども	來レど ども	爲レど ども	死ヌレど ども	有レど ども	第三變化	善ケレど ども	惡シケレど ども

ニ連ルトキハ、清音ニテ、未定ノ意ヲ成シ、其第二變化ニ連ルトキハ、濁音トナリテ、既定ノ意ヲ成ス。是レ其別ナリ。例ヘバ、「受クとも」爲(ス)とも」有リとも」ナドハ、未定ナルニ云ヒ、「受クレど」爲レど」有レども」ナドハ、既定ナルニ云フガ如シ。

又、形容詞ニモ、其第四變化ト、第三變化トニ連リテ、未定ト既定トヲ別ツ。而シテ、其意、全ク同ジ。上ノ表ノ如シ。

又、助動詞モ、前ノ助動詞ノ條ノ第三表ニ於テ、其變化ノ動詞ニ似タルモノハ(1ヨリ23マデ)、其第一變化ニテ、ともニ連リ、第二變化ニテ、ど、どもニ連リ、又、形容詞ニ似タルモノハ(24以下)、其第四變化ニテ、ともニ連リ、第三變化ニテ、ど、どもニ連リテ、各、未定、既定ノ別ヲ成スコト、正ニ、動詞、形容詞ニ同ジ。第三表ニテ、連續セシメテ、解スベシ。

○「受クとも」爲(ス)とも」有リとも」ナドトナルベキヲ、動モスレバ「受クルとも」爲ルとも」有ルとも」ナドト用ヰルハ、非ナリ。或ハ、とヲ略シテ「受クルも」爲ルも」有ルも」ナドト用ヰ、又、或ハ、「善クとも」惡シクとも」ナルベキヲ、「善クも」惡シクも」ナドト用ヰルハ、愈、非ナリ。注意スベシ。もノミニテハ、雖ノ字ノ意ヲ成サズ。

(W)が、よ、を 三語、共ニ、思フニ違ヒテ意ノ反ル意ヲ云ヒ、皆、動詞、形容詞、助動詞ノ第二變化ニ連ル。「四尺ノ屏風、云云、立

てたるが、上より見ゆる穴なれど、のぼるべくもあらず」(寄生)「春とはなりつるが、空はまだ寒きに」「庭の面は、まだかわかぬに、夕立の、空さりげなく、するめ月哉」(新古今)「ただ後れじと思ひつるに、人目も知らずはしられつるを」(枕草子)「つひに行く、道とはかねて、聞きしかど、きのふけふとは、思はざりしを」(古今)「行かじと思ふを、いかでさはいふぞ」かくまであるを、むげに失はむは本意ならず」

(X)て　事、終ハリテ、後ニ移ル意ヲ云フ。例ヘバ、「春過ぎて、夏來たるらし」「雨降りて、地固マル」「日暮レて、路遠シ」ノ如シ。(漢字ノ而ノ字ニ當ル。)此語ハ、過去ノ助動詞ノつノ第五變化ナルてナレド、稍、趣ヲ變ズル所アリテ、接續詞ノ如クニモ用キラルレバ、別ニ揭ゲテ、天爾波ニ列ネタリ。又、形容詞ノ第五變化ニ連ネテ、「水、近クて、風涼シ」心、嬉シクて、獨リ笑ム」ナド卜云ヒ、打消ノずニモ連ネテ、「君來ずて、年は暮れにき」ナド卜云フハ、皆、其間ニアルありヲ略セルナルベシ。

○左ノ數語ハ、此條ノてヲ、他語卜重用スルモノナルガ、慣用、久シクシテ、一ノ天爾波(或ハ接續詞)ノ如クナレリ。類ヲ以テ、此ニ列ヌ。

にて　第一類天爾波ノにト、助動詞ノつノ變化ノてトニテ、其間ニ略語アルナリ。「に於て」ナドノ意ナルハ、「京にて過フ」田舍にて見ル」「に因りて」ナドノ意ナルハ、「筆にて書ク」水にて洗フ」「にありて」ナドノ如キハ、「頭ハ人にて、身ハ魚ナリ」家ハ昔にて、人ハアラズ」「に爲シて」ナドノ意ナルハ、「月影ヲ、色にて咲ケル、卯ノ花ハ」ノ如シ。

して　「ありて」「て」ノ意ナルハ、「長クして細ソシ」斯クして別ル」巧ミニして速カナリ」答ヘズして去ル」「もて」「にて」ノ意ナルハ、「米(ヨネ)して返リ事ス」飯粒(イヒボ)して鯛釣ル」人ヲして送ラシム」二人して、結ビシ帶ヲ、一人して」

にして　「にありて」「にて」ノ意ナリ。「都にして過ヒケル人」人にして鳥ニ如カザルベケムヤ」

とて　第一類天爾波ノとト、助動詞ノつノ變化ノてトノ間ニ、略語アルナリ。「と言ひて」ナドノ意ナルハ、「サリとて」アレバとて」と思ひて」ナドノ意ナルハ、「花見ニとて出デ立ッ」書ヲ讀マムとて机ニ凭ル」

(Y)　で　打消ノ助動詞ノずト、前條ノてト約レルナリ。サレバ、動詞ノ第四變化ニ連ルコト、ずニ同ジ。「行カでアリ」歸ラでアラナム」ノ如シ。

(Z)つつ　過去ノ助動詞ノつヲ重用スルモノニテ、動詞ナ「行ク

行ク泣ク泣クニナドト重用シテ副詞トスルト、用法、同ジ。例ヘバ、「行キつつ見ル」雪ハ降リつつアリ」ハ、「行キつ行キつ見ル」降リつ降リつアリ」ト云ハムガ如シ。

○

第一類ナル名詞ニ屬ク天爾波ハ、羅何名詞ノ格ト云フモノニ似タリ。羅何名詞ノ格ハ、語尾ノ變化ニテ成レリ。我ガ第一類天爾波モ、名詞ノ語尾ノ變化ト見テ、之レヲ格ト立テムモ、可ナルガ如シ。サレド、我ガ天爾波ニハ、意義ニ異様ナルモノモアリテ、羅何ノ格ト合ハヌモ多ク、縦ヒ合ハズトモ、我レハ我レニテ、名詞ノ格ヲ、特ニ數種ニ創制セムモ、然ルベケレド、扨、其夥多ナル意義ノアル限リ、悉ク之レヲ格ト立テムモ、妥當ナラザルヲ覺ユ。且、羅何ノ格ノ變化ハ、名詞ノ種類ニ因リテ、其體ヲ異ニスルモノモアリテ、固ヨリ離ルベカラザルモノナレバ、(殊ニ、餘國ノ名詞ノ格ヲ示スニ形ナク、無形ノ地位ニテ、則ヲ立ツルモノノ如キハ、)名詞ニ就キテ、類ヲ以テ規定ヲ立ツルモ、其理ナレドモ、我ガ天爾波ニハ、特ニ、一定ノ成形アリテ、且、何レノ名詞ニモ一様ニ接スベク、コレヲ名詞ノ語尾變化ト見テモ、何レノ名詞モ、其變化ハ、が、の、に、を、と、へ、より、まで、等ニテ、千篇一律、サラニ異様アルコトナシ。サレバ、羅何ノ格ハ、足ノ如ク、其名詞ニ生得シテ離ルベカラズ。我ガ天爾波ハ、履ノ如ク、脱シテ、衆ニ通用スルコトヲ得ベシ。且、コレヲ別語トスル方、其意義ヲ說クニモ、錯雜ヲ避クルコトヲ得テ、教フルニモ、學ブニモ、共ニ便捷ナルガ如ク思ハル。因リテ、今ハ本文ノ如シ。

第二類天爾波ハ、洋語ニテ言ヘバ、副詞ニ似タルモアリ。前置詞、接續詞ノ趣ナルモアリ、或ハ、名狀スベカラザルモアリ。然レドモ、其文中ニ立チテ、上ニ種種ノ語ヲ承ケ、下、動詞、形容詞等ニ係リテ、其意義ヲ達スルコトハ、何レモ、略、同趣ナルモノニテ、サラニ、相別チ難シ。此一類ノ語、實ニ國語ノ言類中ニテ、一種殊様ノモノタリ。

第三類天爾波ハ、上下、皆、動詞、形容詞、助動詞ニ係ルモノニテ、スベテ其接續法ト立テムモ、可ナルモノノ如シ。然レドモ、尚、分離シテ、何レノ動詞、形容詞、助動詞ニモ、通用連續セシムベキコトハ、第一類ノ如シ。(書中、此類ノ天ヲ、獨リ別ニ、接續法ト立テタルハ、動詞、形容詞、助動詞ノ其變化ニ着キテ、離ルベカラザル語姿ナレバナリ。)

扨、以上三類ノ語ハ、皆、固ヨリ、獨立ニハ用ヰラレズ。而シテ、其他語ニ係ル規定ニ差異コソハアレ、其語姿ノ成立ヲ概見スルニ、三類共ニ、究竟、同臭味ノモノタリ。因リテ、今ハ、類ヲ以テ別チテ、天爾波ノ一部門ニ總ベタリ。

(本文、天爾波ノ外ニ、ながら、がてら、がてね等、從來、天爾波中ニアリシモノ、尚アリ。是レ等、本篇ノ類別ニ從ヘバ、種種ノ語ニ屬クモノナレバ、第二類中ニ入ルベキニ似タレド、今ハ、甄別シテ、接尾語中ニ收メタリ。サルハ、第二類ノ天爾波ハ、其語、全ク、上下ノ語ニ粘合セズシテ、試ミニ、コレヲ文中ヨリ加除セムニ、唯、其語ニ有テル意義ノ加除アルノミニテ、原文、サラニ移動スルコト無ク、上下、ソノママ連絡シ、依然トシテ、文ヲ成スベシ。前ニ揭ゲタル例語、例句中ニ就キテ、加除シテ試ミバ、必ズ其然ルヲ知ラム。然ルニ、ながら、がてらノ類ハ、全ク、其上ナル語ニ粘合シテ、語勢ヲ變ゼシメ、之レヲ加除セムトスレバ、原文ニ移動ヲ起サザルヲ得ズ。是レ其別ナリ。尚、後ノ接尾語ノ條ヲ見ルベシ。

感動詞 (ニ詠歎)

感動詞(カンドウシ)ハ、喜、怒、哀、樂、等、凡ソ人情、感動スル所アリテ發スル聲

ナリ。例ヘバ、「あら喜バシ」最も畏シ」悲シキかな」ナドノ、あらもかなノ如ク、スベテ、其言ヲ述ブルノミニテハ、意ヲ盡サザルニ添ヘテ、發スルモノナリ。

感動詞ハ、汎ク、種種ノ感情ニ通ジテ云フナリ。専ラ、一感情ニ局リテ云フアリ、其用法モ、言語ノ上ニ立ツアリ、中間ニ入ルアリ、下ニ添フアリ、而シテ、他語ニ連續スルニ就キテ、亦、各、一定ノ慣用法アリ。左ニ、感動詞ノ著シキモノヲ擧ゲテ、其用例ノ若干ヲ示サム。

○言語ノ上ニ立ツモノハ、

あ　ああ　「ああかしこしや」

あら　「あら熱や」あら無慚や」

あな　「あなうらやまし」あな苦し」あなかしこ」

あはれ　「あはれ、あなおもしろ」あはれ、さも寒き年哉」

いで　思ヒ起ストキニ發ス。「いで我れを、人なとがめそ」いで、御消息聞えむ」いで何ぞ、とて取りて見れむ」

いざ　誘ヒ立ツルトキニ發ス。「鏡山、いざ立寄りて、見て行かむ」いざ汲み見てむ、山の井の水」いざ櫻、我れも散りなむ」いざさせたまへ」

やよ　呼ビカクル聲ノやトよトヲ重ネテ云フナリ。「やよ如何に、行方も知らぬ」やよいづかたへ、行きにけむ」やよや待て、山時鳥言傳てむ」

○言語ノ中間、或ハ、下ニ入ルモノハ、

も　「からくも我れは、老いにける哉」玉にもぬける、春の柳かも」世ははやも、春にしあれや」ひとりかも寢む」雪かも降れる」移りも行くか」知らずもあるかな」いとも畏し」家やもいづく」花とやも見む」またも來む」時しもあれ」無きにしもあらず」草のはつかに、見えし君はも」いやとほざかる、我が身かなしも」三笠の山に、出でし月かも」人は來ぬかも」枕さびしも」忘れかねつも」行方知らずも」春立つらしも」

や　「花とかや見む」年はや歷なむ」否や思はじ」取りやかはさむ」戀ひやわたらむ」夢路にさへや、生ひ茂る」我れはもや、やすみし得たり」ありがのた世や」あなあやにくの、春の日や」行きぬとかや」行きけるぞや」吾嬬とや」立つを、暫しやと召しよせて」大原や、をしほの山」更科や、姨捨山」難波津に、開くやこの花」時鳥、啼くや五月の」いとやすらかなる御ふるまひなりや」耳馴れ侍りけりやと聞え給ふ」いみじくぞあるや」にほひぞ人に似ぬやと、打ちささめきて」あぢきなや」惜むともかたしや」恨みつべしや」思しやる方ぞ無きや」

動詞、形容詞、助動詞ノ、第二段天爾波ノや（疑ヒノ）ノ下ノ結法トナルトキハ、必ズ、其第二變化ヲ用ヰ、又、之レニ反シテ、其他ノ、動詞、形容詞、助動詞ノ下ニ屬クトキハ、必ズ、其第一變化ニ屬クヲ規定トスルコト、前ニモ述ベタルガ如シ。サルニ、此條ノやハ、其場合ニ因リテ、種種ナリ。是レ天爾波ノやト、感動詞ノやトノ別ナリ。倘、善ク、用例ヲ見テ覺ルベシ。

言ヒカクル意ナルハ（よノ如シ）、「匂ふや馨るやと」みな人は、花や蝶やと、いそぐ日も」「海賊やといひて、扇を投げすて」「行ケや、打テや」

接續詞ノ如ク用ヰルハ、「箏や琵琶や、笙の笛、篳篥など、吹きあはせたるを」

反語ニ用ヰルハ、「思ひきや」ひとり行かむや」況ンヤ（言ハムヤ）コレヲや」人ニシテ、鳥ニダニ如カザルベケムや」

又、「行かむ、や」見む、や」ナドハ、閉ニ「よからむ」ナドト云フ語ヲ略シタルニテ、即チ、希フ意ヲナス。

を　古キ感動詞ナリ。「年頃を、住みし所を、名にし負へむ」昔も今も、知らずとを言はむ」香をだよにほへ」濡れてを行かむ」心にを思へ、苦をあらみ」瀬をはやみ」その八重垣を」妹待つ我れを」月夜清きを」船わたせをと、呼ぶ聲の」

○言語ノ下ニ添フモノハ、

か　「玉にもぬける、春の柳か」空蟬の、よにも似たるか、櫻花」のごかよもあるか」

かな　前ノかニ、なヲ重用シタルモノ。「夜半の月かな」水の聲かな」年を經るかな」見ゆるかな」樂しきかな」いどかゝるかな」思はるるかな」　以上、動詞、形容詞、助動詞ニ添フトキハ、必ズ共第二變化ニ添フ。

かし　念ヲ推シテ云フ意ノモノ。「さばかりぞかし」見ゆるぞかし」見ゆかし」聞ゆかし」いとよう覺えたりかし」難かるべしかし」あはれなりかし」さは思ひつかし」打ちひそみぬかし」行き給ひけむかし」知らずかし」さるけはひもありきかし」思ふ心の、殘るらむかし」おほやけの世繼とぞ、言ひ侍りしかしな」斯くぞ覺え侍るかし」絶えずなむおはしますめるかし」えおこそせざれかし」思へ知れかし」疾く行けかし」いざたまへかし」　三種ノ直說法、命令法、等、スベテ、語句ノ切レタル後ニ添フ。

な　「彼れぞ聟の少將な」蟬の聲、聞けむかなしな」恨みつべしな」我れは戀ひむな」忘れじな」知らずな」契りきな」移りにけりな」惡しとおこそ思ひたれな」心憂くておこそおはしたれな」いくそと問へな」老いにけるよな」去りたるよな」

を　「いかがはせむを」風、あらあらしう吹きたるを」かくるるま

でに、かへり見しはや」

又、疑ヒノや、かニ添ヘテ、反語ニ用キルハ、「我れ鶯に、おとらましやは」再びとだに、來べき春かは」思ひはつべき、涙かは」

よ　呼ビカクル聲ナリ。「月よ」花よ」我れこそ、人よ」こころぼそさよ」行ケよ」鳴ケよ」物を思ふよ」忘れで待ち給へよ」高砂うたひしよ」人の知らぬよ」忘れずよ、またかはらずよ」又、「我れはよ」妹はよ」夢かとよ」頃かとよ」ナドハ、間ニ、語ヲ略セルナリ。

が　専ラ、希フ意ニ云フ。「老いず死なずの、藥もが」あな戀ひし、今も見てしが」伊勢の海、あそぶ海士とも、なりにしが」

がな　前ノがニ、なヲ重用シタルモノ。「妻呼ぶ聲を、聞きしがな」得てしがな」見る由もがな」長くもがな」無くもがな」

がも　前ノがニ、もヲ重用シタルモノ。「常にもがもな」人にもがもや」

ゑ　古キ感動詞ナリ。「我れはさぶしゑ」我れは待たむゑ」

感動詞ニハ、重用スルモノ多シ。「やよ」かな」がな」がも」等ハ、前ニ擧ゲタルガ如シ。其他、「あなや」いざや」いでや」やよや」行けよや」いつはなも」見せはやな」老いにけるよな」常にもがもな」人にもがもや」かくるるまでに、かへりみしはや」今更に、雪降らめやも」ナドト、擧グルニ勝ヘズ。

尋常ノ語モ、感情ニ發シテ、感動詞トナルコトアリ。「こは」こはそも」いかに」こはいかに」さても」ノ如シ。

○「行かばや」見ばや」ノ類ノ「ばや」ヲ、從來、別ニ一語トセリ。サレド、「行かば」見ば」ハ、接續法ノ未然ニシテ、其間ニ、「よからむ」ナドト云フ意ヲ略シテ、希望ノ意ハ、其略セル語ニアルナルベシ。因リテ本篇ニハ、やノ條ニ收メタリ。又、「おとらましやは」來べき春かは」ナドノ「やは」かは」ヲモ、一語トセルガ多ケレド、是レ等ノや、かハ、疑ノ意ノ天爾波ノや、かニテ、其下ノは、もノ方ニ、反語トナル意アルモノナラム。又、「ひとりかも寐む」出でし月かも」ナドノかモ、疑フかニテ、もニ感情アルナリ。因リテ、是レ等モ、皆、は、もノ條ニ入レタリ。

○副詞ノな、天爾波ノが、を、は、も、や、か、等ニ、感動詞ト同形ノモノアリテ、動モスレバ混淆ス。注意スベシ。

○

○此篇ニ、感動詞ト云フモノ、從來ノ語學書ニハ「詠歎ノ詞」或ハ「なかめ」ナドト稱シテ、スベテ、天爾波ノ中ニアリ。サレド、別ニ自ラ、一類ノ語ナレバ、此ニ集メテ、一門ニ立テタリ。

○洋文典ノ譯語ニ、歎息詞(Exclamation.)、或ハ、間投詞(Interjection.)ナド云フモノ、即チ、感動詞ナリ。其間投ト云フハ、言語ノ間、所在ニ投ゲ入ルベキモノナレバナリ。(投間詞ナルベシ。)サルニ、我ガ感動詞ハ、言語ノ上ニ居リ、中ニ入リ、下ニ添フナド、其用法ニ、各、規定アリテ、而シテ、他語ニ移動ヲ及ボスコトモ少カラズ。宜シク慣用ノ法ニ從フベシ。妄リニスベキニアラズ。

枕詞

枕詞ハ、言語ヲ、一種異様ニ用キルモノニシテ、其用法ハ、某ノ語ヲ言ヒ出デムトスルトキ、他ノ某ノ語ヲ冠セシムルモノナリ。例ヘバ、山、引く、黑き、ナドト云フ語ヲ言ヒ出ヅル時、其上ニ、「足引の山」「梓弓引く」「ぬばたまの黑き」ナドト、置クガ如シ。

枕詞ハ、古代ノ用語ニシテ、其用ハ、專ラ、歌ノ口調ノ足ラザルヲトトノヘムトスルニ起リテ、且ハ、言辭ヲ飾ルモノナリト云フ、然レドモ、諸ノ言語、皆、枕詞ヲ冠セシムベキニアラズ、諸ノ言語、皆、枕詞トシテ用キルベキニアラズ、某ノ語ニハ、某ノ語ヲ冠スト、自ラ局レル所アリ。足引のト云フ枕詞ハ、山ト云フ語ニ用キ、ぬばたまのト云フ枕詞ハ、黑きト云フ語ニ用キルナドニテ、其所用モ、唯、其冠スベキ語ニ係ルノミニテ、他語ニハ關セズ。又、之レヲ用キルト用キザルトハ、其場合ニ因ルノミニシテ、一定ノ則アラズ。而シテ、古代ノ用語ナルガ故ニ、其意義、詳ナラザルモノモ多シ。

枕詞ノ意義ハ、解スベキト、解スベカラザルトアリ。「高光る日」「天飛ぶや雁」「刈菰の亂る」「梓弓引く」「玉櫛笥開く」「菅の根の長き」ナドハ、其意義知ラルベシト云ヘドモ、「久方の天」「玉鉾の道」「足引の山」「百敷の大宮」ナドハ、強ヒテ解キタルモアレド、諸説區區ニシテ、到底、定メ難ク、辨ヘ難シ。サレバ、深ク其意義ヲ求メズシテ、唯、某ノ枕詞ハ、某ノ語ニ用キルモノトノミ知リテ、先ヅハ事足リヌベシ。

枕詞ハ、多クハ、上古ノ用キニ出デテ、降リテモ、奈良ノ朝ノ頃ニ、言ヒ出デタリト見ユルモ少シ。今ニ傳ハレルモノ、其數、數百アリ、而シテ、今世ニ在リテモ、和歌ニハ、專ラ之レヲ用キレドモ、文章ニハ、其體ノ古キモノニノミ用キル。

○枕詞ヲ冠スルハ、名詞、動詞、形容詞、副詞、等ニ限ルガ如シ。名詞ニ係ルモノハ、「久方の天」「あらがねの土」「たらちねの母」「ちはやぶる神」「百敷の大宮」「玉鉾の道」「あらたまの年」ノ如シ。動詞ニ係ルモノハ、「天雲のたゆたふ」「刈菰の亂るる」「篠の目の忍ぶ」「梓弓引く」「玉櫛笥開く」ノ如シ。形容詞ニ係ルモノハ、「ぬばたまの黑き」「眞木柱太き」「菅の根の長き」ノ如シ。副詞ニ係ルモノハ、「あさもよし」「ほがらほがらと」「つがの木の、いやつぎつぎ」ノ如シ。又、數語ニ通用スルアリ、梓弓ハ、引く、張る、射る、末、本、等ニ用キ、十寸鏡ハ、照る、磨く、清き、等ニ用キ、玉櫛笥ハ、開く、蓋、奥、等ニ用キルガ如シ。又、地名ニ係ルモノハ、「空見つ大和」「鷄が鳴く東」「細波や滋賀」「神風の伊勢」「あをによし奈良」ノ如シ。此類、尚多シ。

○枕詞ハ、一語、五音ノモノ、最モ多ク、上ニ列擧セルモノニ就キ

テ知ルベシ。希ニハ、三音、四音、又ハ、六音ノモノアリ。三音ナルハ、「千葉の葛野(カドノ)」ナドナリ、四音ナルハ、「空見つ大和」「押照る難波」「不知火(シラヌヒ)筑紫」「新治(ニヒバリ)筑波」「春日(ハルビ)のかすが」「名細(ナグハ)し吉野」ナド、六音ナルハ、「木の暮闇(コノクレヤミ)卯月」「牡牛(コトヒウシ)の三宅」「櫂(カヂ)の音(オト)のつばらつばらに」ノ如シ。

「かきくらし雨ふる川」、「みなと入りの、蘆分小舟」、「さはり多み」、「波間より、見ゆる小島の」、「はまひさ木、久しくなりぬ」、「足引の、山鳥の尾の、しだり尾の、長長し夜」、ナド、十餘音ニモ餘レルヲモ、枕詞トスル說モアレド、是レ等ハ、詩ニ謂ハユル興比ノ體ニテ、枕詞ニハアラジ。又、「吾妹子(ワギモコ)に、衣かすがの、よしき川、よしもあらぬか、妹が目を見む」、是レ等モ「吾妹子」ヲ枕詞ナリト云ヒ、或ハ、「吾妹子に衣」マデヲ枕詞ナリトモ云ヘド、然ルトキハ「よしき川」ヲモ、「よしもあらぬ」ノ枕詞トセズハアルベカラズ。是レ等モ興、或ハ、言ヒ掛ケナルベシ。

○枕詞ヲ略シテ用ヰルコトアリ、「久方の(天ノ)昼」「ぬばたまの(黒キ)夜」「足引の(山ノ)木ノ間」「足引の(山ノ)嵐吹く夜」ノ如シ。又、「たらちねの母」「百敷の大宮」ナルヲ、「たらちねは、かかれとてしも」「百敷や、古き軒端」ナド、其枕詞ヲ、直ニ母大宮トシテ用ヰタルモアリ。是レ等、枕詞ヲ久シク言ヒ馴レテ、終ニハ、直ニ其下ノ語ニ代ヘ用ヰルニ至レルナリ。「春日(ハルビ)のかすが」「飛鳥(トブトリ)の明日香(アスカ)」ナルヲ、枕詞ノ字ヲ取リテ、直ニ、春日(カスガ)、飛鳥(アスカ)、ト讀ムニ至レルモ、是レナリ。

○又、語路ニ因リテ、他語ニ移スコトアリ。「天飛ぶや輕(カル)の路」ハ、雁(カリ)ヲ輕ニ轉ジ、「梓弓入る」ハ、射るヲ入るニ轉ジ、「津の國の、何は思はず」ハ、難波ヲ何はニ轉ジ、「山城の常(トハ)に相見む」ハ、鳥羽ヲ常ニ轉ジ、「陸奥の忍ぶ」ハ、信夫ヲ忍ぶニ轉ズルガ如シ。

○又、語、句、ヲ隔テ用ヰタルアリ。「ぬばたまの、甲斐の黒駒」「梓弓、おして春雨、今日降りぬ」「朝開き、入江艪ぐなる、櫂(カヂ)の音(オト)の」「足引の、この傍山(カタヤマ)」ノ如シ。

○縣居ノ翁ノ冠辭考ニ云フ、こを、或人は、「まくら詞」といへるを、荷田大人は、「からむりことば」といひつ。實に、枕詞とては、古きみやび言とも聞えず、(略)物を上に置くことを、冠らすといふも、古へ今に通れる語なれど、これによれり、(略)公望が日本紀私記に、かの「いすぐはし」「ちはやぶる」などやうのことをば、發語と書て侍り、されど、枕詞てふ語は、延喜、承平などの御時まではなくて、後にいひ出でしたりけり。源氏の物語に、「云云、の事を枕ことして」と書けるは、古きことを猶(ヤ)もて、今の思ひをいふ故の語なり。此冠辭は、こを本として、下の意をいふにあらず、ただ、歌の調へのたらはぬをととのへるより起りて、かたへは、詞を飾るものにて、いはれ異なり。かの「枕ざうし」「歌枕」などいふを思へど、その頃にいへりしたり。(下略)

○枕詞ノ用法ハ、實ニ國語ニ特別ナルモノニテ、名詞、動詞、形容詞、副詞、等、其冠スベキ語モ、種種ニシテ、其所用モ、唯、其冠スル語ニノミ係リテ他語ニ係ラズ。故ニ、文章上、言類ノ分解(Parsing.)ニ當リテハ、二語

ヲ一熟語ト見テ解クベキモノトスベシ。

接頭語　發語

接頭語(Prefix.)ハ、常ニ他語ノ頭ニ接キテ、熟語トナリテ、其意義ノ添フル語ナリ。サレバ、固ヨリ獨立ニハ用ヰラレズ。接頭語ノ數、甚ダ多カノズ、又、一定ノ慣用法アリテ、何レノ語、皆、冠スベキニアラズ。今、左ニ、其著シキモノヲ擧ゲテ、其用例ノ一斑ヲ示サム。

初春　初花　初音　初穗　「初事」「初冠」　初學」初立つ」　「新參り」「新枕」「新墾」　「小車」「小舟」「小川」「小篠」「小止む」「小暗し」「小家」「小松」「小路」「小暗し」「小高し」「御代」「御位」「御心」「御燈」「大御、御、御」　眞心　眞白　眞直中」「素腹」「素肌」「素顏」「生絹」生紙」生藥　僻目」僻事」僻讀ミ」「曲者」曲舞」曲事」えせ者」えせ車」えせ法師　「幾年」幾世」幾久し」「異國」異人」「諸手　諸人　諸聲　彌增す」彌遠し」彌高し」「逸先」逸早し」「ほの見ゆ」ほの聞ゆ」ほの暗し」「屢たたく」屢吹く」ナドナリ。

漢語ノ「不義」不本意」無位」無慈悲」第一」第二」當年」當代」數人　數年　諸事　諸昔　衆人　衆僧ナドモ、接頭語ナリ。

發語　某語ヲ親ミ言ハムトスルトキ、首ニ加ヘテ發スル聲ナリ其聲、皆、一音ニシテ、親愛、又ハ、美稱ノ意義アリ。或ハ、稍、其下ノ語意ヲ强クスルガ如キモノアリ。而シテ、其用例、亦、局レル所アリ。左ニ、其著シキモノヲ示ス。

「さ夜」さ衣」さ男鹿」さ渡る」さ迷ふ」

「み吉野」「み熊野」「み山」「み空」「み雪」「み坂」「み岬」

「を簾」「を田」「を野」

「け劣る」「け亮ぐ」「け壓る」「け短し」「け長し」「け近し」「け恐し」「け疎し」

「い行く」「い向ふ」「い座す」「い渡る」「い通ふ」「い囘る」

「た忘る」「た比ぶ」「た謀る」「た走る」「た徘徊る」「た靡く」「た弱し」「た易し」「た遠し」

「か易し」「か弱し」「か黑し」「か細そし」

接尾語

接尾語(Suffix.)ハ、常ニ他語ノ尾ニ接キテ熟語トナルモノニテ、他語ヲ名詞トスルアリ、動詞トスルアリ、形容詞トスルアリ、副詞トスルアリ。而シテ、亦、漫用スベカラズ。スベテ、慣用ノ例ニ據ルベシ。

○他語ニ接キテ、名詞トスルモノハ、

ども(共)　物事ノ數アルヲ總ベテ云フ。次ノ二語モ同ジ。「物ども」「事ども」「調度ども」「馬ども」「舟ども」「男ども」

たち(達)　專ラ人ニ云フ。「皇子たち」「親たち」「大臣たち」「公たち」「友だち」

ばら(儕)　亦、人ニ云フ。「殿ばら」「法師ばら」「女ばら」「奴ばら」

どち　互ニ夥伴ナル意ヲ云フ。(俗ノどしハ、此轉ナリ。)「友どち」「女どち」「我れどち」「思ひどち」「思ふどち」「思はむどち」「若きどち」「年歷ぬるどち」「さるべきどち」「さるまじきどち」(千代ノどち)

ら(等)　「我れら」「汝ら」「是れら」「夫れら」「少女ら」「成信重家ら、出家し侍りける比」

など　「月花などのながめに」「貴き賤しきなど、さまざまにて」「院の御さじきより、千賀の鹽釜などやうの御消息、をかしき物など、持てまゐりかよひたるなども、めでたし」(枕草子)

(此語ハ、名詞ト合シテ、下ニのをも等ヲ履ムコト、他語ヲ副詞トスルなど(後ニ擧グ)ノ、直ニ動詞ニ係ルト異ナリ。又、「など思ふらむ」ナドノなどハ、眞ノ副詞ナリ。混ズベカラズ。

以上、二語ハ、物事ノ數アルヲ示シ、而シテ、其數ノ限リヲ列ネタルニモ云ヒ(內等)、其外ニモアルヲ略スルニモ云フ(外等)。

げ(氣)　以下ノ三語、皆、事物ノ形狀、情態ヲ云フ。「人げ」「外げ」「心ありげ」「物思ひげ」「思はずげ」「惡げ」「重げ」「惜しげ」

さ(狀)　「遠さ」「深さ」「善さ」「惡しさ」「悲しさ」「嬉しさ」「逢ふさ」「離るさ」「行くさ」「來さ」「歸るさ」「入るさ」

み(狀)　「深み」「高み」「青み」「赤み」「重み」「輕み」「無み」

○此ノさトみトニ就キテハ、形容詞ノ語根ノ條ニモ、說ケルコトアリ、尙、其條ヲ見ヨ。

か(日)　日ヲ數フルニ云フ。「二か」「五か」「二十か」「三十か」「五十か」「百か」「幾か」

べ(邊)　邊ヲ云フ。「山べ」「川べ」「磯べ」

べ(部)　羣ヲ云フ。「忌べ」「物のべ」「下べ」

へ(方)　方角ヲ云フ。「後へ」「行へ」「片へ」

へ(重)　重ヲ云フ。「三へ」「十へ」「二十へ」「千へ」「幾へ」

わ(曲)　隱リタル所ヲ云フ。「浦わ」「川わ」「外わ」「內わ」「郭わ」

り　たり(人)　人ヲ數フルニ云フ。「一り」「二り」「三たり」「四たり」「幾たり」

て(人)　人ヲ云フ。「射て」「讀みて」「爲て」

○英語ノ「何輩」「何等」「一箇」「二號」「三番」「四荷」「五匹」「六枚」「七帖」

八束」九段」十通」ナドト用キルモノ、皆是レナルベシ。

○他語ニ接キテ、動詞、又ハ、形容詞トスルモノハ、

めく　自動詞トシテ、「その如くなる」ナドト云フ意ヲナス。變化ハ規則動詞ノ第一類(四段活用)トナル。「今めく」時めく」春めく」唐めく」物化めく」山里めく」時雨めく」ほのめく」

めかす　めくノ他動ナリ。變化ハ、規則動詞ノ第一類(四段活用)ナリ。「今めかす」時めかす」色めかす」物めかす」ほのめかす」

ばむ　状態のそれとあらはるる」意ヲ云フ。自動詞ニテ、規則動詞ノ第一類ノ變化(四段活用)トナル。「心ばむ」けさうばむ」老いばむ」けしきばむ」枯ればむ」由ばむ」

がる　「と思ふ」ナドノ意ヲナス。自動詞ニテ、規則動詞ノ第一類ノ變化(四段活用)トナル。「嬉しがる」ゆかしがる」悲しがる」賢がる」寒がる」あはれがる」艶がる」情がる」懇がる」

ぶ　自動詞ニテ、「その如くにてあり」ナドノ意ヲナス。變化ハ規則動詞ノ第三類(上二段活用)トナル。「大人ぶ」古ぶ」田舎ぶ」鄙ぶる」都びて」翁びて」けさうびて」尋常びたり」おとさらびたる」

がまし　形容詞第二類ノ變化トナリテ、「の如し」に似る嫌ひあり」ナドノ意ヲ云フ。「隔てがまし」かおとがまし」烏滸がまし」散樂がまし」

○其他、尙、アルベシ。希フノ意ノ「行キたし」見たし」(形容詞第一類變化)其狀ナル意ヲ云フ。「男らし」女らし」(同第二類)其風スル意ノ「學者ぶる」利口ぶる」(規則動詞第一類)ノたしらしぶるナドモ、是レナリ。

○他語ニ接キテ、副詞トスルモノハ、

がてら　語原ハ「糅て雜ふる」ノ意、事ノ彼此ニ渉ル意ヲナス。「秋の野も見給ひがてら、雲林院に詣で給へり」けしきも見がてら、雪を打拂ひつつ」山川を、導しがてら、まづや渡らむ」脱ぎかへがてら、夜こそは着め」かたみがてらよ、着なむとぞ思ふ」我が宿の、花見がてらよ、來る人は」御子日がてら、まゐり給へかし」

ながら　語原ハ、「長ら」ニテ、延ブル意アルベシ。

○「そのまま」それおめよ」ノ意ナルハ、「一年は、存ながらよも、暮れななむ」昔しながらの、山櫻哉」おおながら、かしづきすゑて」御簾の内ながら、宣ふ」御子ども、六人ながら、引連れて」枝ながら、見よ」

○「なれども(乍)」ノ意ナルハ、「我が心ながら、かかる筋におほけなく」心ながら、胸いたく」身ながら、心にまかすまじくな

ば」身の程にもあらずながら」春ながら、雪ぞ降りつつ」さりながら」思ひながら」しかしながら」
○「つつ」又ハ、「且」ナドノ意ヲナスハ、「歩ミながら見ル」讀ミながら考フ」

がてに 「難氣に」ノ約レルニテ、事ノ成リ難クアル意ヲ示ス。「白露の、溜ればがてに、秋風ぞ吹く」「沫雪の、溜ればがてに、碎けつつ」などか我が身の、出でがてにする」時鳥、我が宿をしも、過ぎがてに啼く」行きがてにのみ、などかなるらむ」歸りがてにして、別れを惜しむ」

ばかり(許) 「計」ノ義ニテ、程限ヲ云フ。（第一類天爾波ニ同語アレド、用法、異ナリ。）
○程ノ意ナルハ、「ひえの山を、はたちばかり、重ねあげたらむ程して」「我ればかり、物思ふ人は、またもあらじ」「我ればかり、我れを思はむ、人もがな」あかつきばかり、憂きものはなし」櫻ばかりの、花無かりけり」三年ばかり經て」いかばかり」「人に思はれむばかり、めでたき事はあらじ」泣きぬばかり言へば」よるべとすばかりに」死ぬばかりなる」死ぬるばかりに」人目に見ゆるばかりに」 動詞、助動詞、ノ第一變化、第二變化、何レニモ連續ス。

○頃ノ意ナルハ、「宵打過ぎて、子の時ばかりに」今宵ばかりや、と待ちけるさまなり」その日ばかりに、御迎へにまゐり來む」八月十五日ばかりの月に」人相ばかり」何時ばかり」

から 「故に」ノ意ナリ。古言、故ノ轉ナラム。（よりノ意ノからト異ナリ。）「いとふびんなる人から、仲忠の朝臣こそ、ひとしくなむ、形心身のざえ侍り」（宇津保物語）「聞き馴れ侍りける耳からにや」をしむから、戀しきものを」吹くからに、なべて草木のしをるれば」相見むからに」取りしからに」さるからに」

ごとに(毎) 語原は、「異に」ノ意カ、物事ノ、各、然ル意ヲ示ス。「春ごとに咲く」咲くごとに見る」人ごとに言ふ」年ごとに」日ごとに」

づつ(宛) 一箇、二箇ノ箇ヲ重ネタル語ナラム。各、宛ノ意ヲ示ス。「とりのこを、十づつ十は、重ぬとも」袈裟、衣、など、すべてひとくだりの程づつ、ある限りの大とくたちに賜ふ」下もみぢ、一葉づつ散る、木のもとに」かたはしづつ、見るに」少しづつ語り聞えたまふに」

まにまに 打任スル意ヲ示ス。「任に」ヲ重用シテ約メタル語ナレド、別ニ一種ノ用法ヲナス。「秋霧の、晴るるまにまに、見渡せむ」聲のまにまに、尋ぬるは」語るまにまに聞く」欲しきまに

まに取る」山風の吹きのまにまに」
など(抔)「何ど」ノ中略ナラム。一ニ定メズ、大略ヲ指シ示ス意ノモノナリ。(他語ヲ名詞トスルなどハ、前ニ擧ゲタリ。)「何事ぞなど問フ」行くべしなど言ふ」悲しなど言はむかたなし」馬になど乘りて」
がり(許)「…の許に」ノ意ナリ。「文ハ大輔がり遣れ、と宣ふ」紀の有恆がり行きたるに」若草の、つまがりとへむ」妹がり行けむ供の者具して、國司のがり向ひぬ」女のがり行きて」撫子を人のがりつかはしける」(「伊豆の守の女にて居たりけるがりに、文やる」故左衞門がりは、後に物などつかはしたれむ」)
すがら「盡くるまで」ノ意ナリ。「夜すがら、いをねず」春の日すがら、またぞ忘れぬ」夜もすがら眠らず」(「夜はすがらに、起き居つつ」秋の夜を、聲もすがらに、あくる松蟲」)。
すがら「ながら」ノ意ナリ。(直從ノ約カ)「行くすがら、心もゆかず」秋霧の、立ちぬるすがら、心あてに」路すがら」身すがら」佩せる太刀すがら」
○以上、共著シキモノナリ。又、「夜ノ明クルおろ、起キ出デテ」元祿十年おろ起リタル」老ユルほど壯ナリ」半ほど大ナル」足ルくらゐ取ル」馬ハくらゐ捷シ」出來タルだけ送ル」是レだけアル」ナドト用キル頃、程、位、丈モ、是レナリ。
○「明に」靜に」誠に」常に」丁寧に」深切に」頻りに」盛りに」案ずるに」或ハ、「はらはらと」ほとほとと」ナド、副詞ノ語末ニ用キルに、又ハ、とモ、接尾語ナルベシ。
○右ニ云ヘル他語ヲ副詞トスル接尾語ノがてら、ながら、から、だかり等ハ、天爾遠波ノがら、だに、さへ、のみ、ばかりナドト、同趣ノモノナルガ如ク見ユレド、用法異ナリ。委シクハ、前ノ天爾遠波ノ條末ニ辯ジオケリ。

○

右、語法指南ハ、日本文典中ノ、此辭書ノ使用セムニ、要アリト思ハルル所ノミヲ、摘錄シタルモノナリ。サレバ、若シ、コレヲ一部ノ文典ト認ムルコトモアラバ、必ズ、事足ラズ思フ所モアラム、唯、善ク摘錄ナルコトヲ察スベシ。但シ、始終、條條ノ敍述ニ於テ詳略、釣合ハヌガ如ク見ユル所モアレド、助動詞、天爾遠波等ニ至リテハ、頗ル錯雜セルモノナレバ、敍述モ亦簡ナルコト能ハズ。言フベキホドノ事ハ、言ハザルヲ得ザルニ因レリ。又、此意ヲモ諒セヨ。(完)

後記

大言海四卷刊行成るを告ぐ。昭代の盛事、學界の慶幸たらざらんや。昭和七年十月其の第一卷を出ししより、此に至りて殆ど三年、或は遲刊の評なきにあらざらんも、これ啻に複雜窮りなき印刷と校正との精確嚴正に意を致せること豫測に過ぎしためのみにあらず、特に原稿の校勘に念を盡し、更に出典の檢討に心を注ぐこと、卷を逐うて益々大なりしに因れるなり　抑も予を以て之を看るに、既に拙序にも說きしが如く、歐米諸國、大辭書逐次刊行の迹を顧みて、大言海印行の進捗、これに比して決して遲きに失せりとなすべからず。然れども、心私かに讀者の翹望に反きし所、定めて少からざるべきを感じ、退いて自己の材能の乏しきを歎じ、努力の猶未だ足らざりしものあるを憂へずんばあらず。且夫れ殊に辭書の業たる、固より巧遲は拙速に優れるを信じ、本書有終の美を濟さしめんがため、專ら出典の考證と擧例の增補とに時を移したり。　これら二點の彫琢を加ふることを以て、せめて原著者に對して校勘者の責任を果たす所以なりと考へたればなり。畢竟延刊に至れるは、原著者が最終琢磨の手の及ばざりし所を、幾分たりとも修補する最善の方法を講せし結果にして、これ予輩が偏に著者景仰の衷情に出でしに外ならざるな

り。

著者曾て舊版言海に跋して、その末に西諺を添へて云へらく、"There is nothing so well done, but may be mended." と。蓋し著者の意、當時に在りて言海の決して完全無缺なるを思はず、いくばくか修訂を要すべき點の存すべきを察したるに外ならざるなり。從ひて著者の寛宏を懷へば、必ずや予輩が多少の修補を容るるに吝ならざるべきを信ずと雖も、退いて念ふに、言葉の海より拾ひし玉を磨かんと欲して、却て、新に瑕瑾を生ぜしむるに至らざりしか、之を危ぶまざる能はず。

舊本の跋語は、言海編纂の由來と苦心とを縷述せし所の名文として知らるれば、文長きに渉るといへども、予輩の心情これを割愛するに忍びず、卽ち細字を以て載錄して、往事を追懷するの料に供せり。尚、續古今集の序文及び賀歌に出でたる言海といふ書名の典據等、亦併せ掲げて參考に資す。

校勘と校正とを擔任董督せるは、多年著者の爲めに編輯を助けて功績ある大久保初男翁なること、先づ第一に特筆せらるべきなり。印刷の統制と進行とにつきては、恒に冨山房編輯部長長谷川福平氏の細心周到なる努力を得たることを忘るべからず。昭和七年一月以降、檢覈及び校合に關する佐藤榮七氏の盡瘁は、本書の完成に與かりて多大の力ありと爲すべく、伊藤文一氏が、之より先き昭和六年一月

以來、終始恪勤、補完の事に當りしこと亦多とすべきなり。又、原田幹氏が殊に病軀を推して協力に辛勞したるが如き、歲月短きも感謝の意切なり。其他、文學士篠田隆治氏は昭和七年四月より、青池竹次氏は同八年十月より、各能く其の分擔の業を果たせり。尚、二三新補の助手のそれぞれ其任務を全うしたるあり。次に京都に在りて、予が督勵の下に事に從ひし者前後四人あり、歲月の長短亦一ならずと雖も、冨山房内の諸員と相呼應して、亦幾分の力を竭くしたる所なきにあらず。曰く、文學士市川隆二氏、曰く、同三ケ尻浩氏、曰く、同池上禎造氏、曰く、同予が長男秀一。

予、大言海第二卷の中部以後の檢校に參與せるに當りて、原著者の所說を考察して、或は語原語釋に、或は語史語例に、往往異見あるを免れざりしと雖も、一に故人の考案を尊重して、敢て妄りに改竄を加へず、僅かに魯魚の誤を正ししに止まれり。若し夫れ、匡輔せし所にして、或は著者の原意に戾り、而も學理に反くものあらば、其の責全く予に歸すべし。予、國語辭書の事に執して、平常研鑽を怠らずと雖も、經驗甚だ淺しとなす、敢て先進の大著校査の任を承けて、却て自ら啓發せる所少からざりしを感ぜり。幸に驥尾に附して、些か學界に對して貢獻に資するを得しもの、主として令兄故如電先生の知遇と、令嗣茂雄君の厚誼とに基づく。而して予が一身に在りて、書齋裡に師弟切磋し、父子提携して斯業に勤しむの好機を與へられたる

は、予の感激に堪へざる所なり。　冀はくは他日、何人か更に大言海の遺珠を拾ひて之を磨くの時運到來して、謙虛なる原著者の初志に從ひつつ、絶えず修補の業を繼ぎ、以て漸次完成の域に進むる學者の出づるあらんことを。

終に臨みて銘記せざるべからざるは、冨山房主坂本嘉治馬氏が、大言海の著者を遇せしこと甚だ厚く、其編纂と校勘と校正とに對して完全なる理解を有し、深厚なる同情を捧げ、以て老先生の學術的良心を滿足せしめんことに努め、以て老先生の積德を傷くるなからんことを望みだるの一事なりとす。　蓋し之が爲めに、坂本氏が出版者として耐忍する所少からざりしを推知す。　坂本氏が敢て之を意とせず、克く老軀を提げ心力を費して、欣然、斯書の完成に邁進したるは、人人の周知する所なり。　其の氣魄と誠實とに對して、予輩亦、著者及び其後繼者と共に、銘肝の念太だ深きことを宣べざるを得ず。　今や將に冨山房創立五十年を祝せんとするに當り、茲に大言海四卷の刊行成就して、同書肆の出版沿革史上に陸離たる光彩を添ふるに至りたるは、何人も慶讃措く能はざる所なるべし。

昭和十年八月

新村出

ことばのうみ の おくがき

先人、嘗て、文彦らに、王父が識語なりとて語られけるは、「およそ、事業は、みだりに興すことあるべからず、思ひさだめて興すことあらば、遂げずばやまじ、の精神なかるべからず。」と語られぬ、おのれ、不肖にはあれど、平生この識語を服膺す、本書、明治八年起稿してより、今年にいたりて、はじめて刊行の業を終へぬ、思へば十七年の星霜なり、ここに、過去經歷の跡どもを、おほかたに書いつけて、後のおもひでにせむとす、見む人、そのくだくだしきを笑ひたまふな。

明治七年、おのれ、仙臺にありき、こは、その前年、文部省のおほせをうけたまはりて、その地に宮城師範學校といふを創立し、校長を命ぜられて在勤せしをりなりけり。さるに、この年の末に、本省より特に歸京を命ぜられて、八年二月二日、本省報告課（明治十三年に、編輯局と改められぬ。）に轉勤し、ここにはじめて、日本辭書編輯の命あり、これぞ本書編輯着手のはじめなりける。時の課長は西村茂樹君なりき。

その初は、榊原芳野君とともに、編輯のおほせをかうむりたりしに、幾ほどなくて、榊原君は他にうつりて、おのれひとりの業とはなりぬ。後に聞けば、初め、辭書編輯の議おこれる時、和漢洋を具備せる學者數人、召しあつめられむの計畫にて、おのれは、那珂通高君の薦めなりきとか聞きつる。又これよりさきに、編輯寮にて語彙を編輯せしめられしに、碩學七八人して、一二三年の間に、わづかに「あ、い、う、え」の部を成せりき。横山由清君もそのひとりなりしに、再擧ありと聞かれて、「語彙の編輯、議論にのみ日をすぐして成功なかりき、多人數ならむよりは、大槻一人にまかせられたらむには、却て全功を見ることあらむ。」といはれたりとなり。此事、横山君の直話なりとて、後に、清水卯三郎君、おのれに語られぬ。此業の、おのれひとりの事となれるは、かかる由にてやありけむ。

初め、編輯の體例は、簡約なるを旨として、收むべき言語の區域、または解釋の詳略などは、およそ、米國の「ヱブスタル」氏の英語辭書中の「オクタボ」といふ節略體のものに傚ふべしとなり。おのれ、命を受けつるはじめは、壯年鋭氣にして、おもへらく、「オクタボ」の注釋を翻譯して、語ごとにうづめゆかむに、この業難からずとおもへり。これより、從來の辭書體の書數十部をあつめて、字母の順序をもて、まづ古今雅俗の普通語とおもふかぎりを採收分類して、解釋のありつるは併せて取りて、その外、東西洋おなじ物事の解は、英辭書の注を譯してさしいれたり。かくすること數年にして、通編を終へて、さて初にかへりて、各語を逐ひて見もてゆけば、注の成れるは凡く成りて、成らぬは成らず、語のみしるしつけて、その下は空白となりて、老人の歯のぬけたらむやうなる所、一葉ごとに五七語あり。古語古事物の意の解きがたきもの、説のまちまちなるもの、八品詞の標別の下しかぬるもの、語原の知られぬもの、動詞の語尾の變化の定めかぬるもの、假名遣の據るところなくして順序を立てかたきもの、動植物の英辭書の注解に據りたりしものの、仔細に考へわくれば、物は同じけれども、形狀色澤の、東西の風土によりて異なるもの、其他、雜草、雜魚、小禽、魚介、さては、俗間通用の病名などにいたりては、支那にもなく、西洋にもなく、邦書にも徴すべきなきが多し。かく、一葉毎に、五七語づつ、注の空白となれるもの、これぞ此編輯事業の盤根錯節とはなりぬる。筆執りて机に臨めども、いたづらに亡羊の歎をおこすのみ、言葉の海のただなかに櫂緒絶えて、いづこをはかとさだめかね、ただ、その遠く廣く深きにあきれて、おのがまなびの淺きを耻ぢ責むるのみなりき。さるにても、興せる業は已むべきにあらず、王父の遺誡はここなりと、更に氣力を奮ひおこして、及ぶべきかぎり引用の書をあつめ、又、有識に問ひ、書に就き、人に就き、ここに求め、かしこに質して、おほかたにも解釋し、傍、又、別に一業を興して、數十部の語學書をあつめ、和洋を參照折衷して、新にみづから文典を編み成して、終にその規定によりて語法を定めぬ。この間に年月を徒費せしこと、實に豫想の外にて、およそ本書編成の年月は、この盤根錯節のためにつひやせること過半なりき（この間に、他書の編纂校訂など命ぜられ、又、音樂取調掛兼勤となりしことも數年なり

き。）解釋をあなぐれる事につきて、そのひとつふたつを言はむ。某語あり、語原つまびらかならず、外國語ならむとうたがひあり、或人、偶然に、それ、何人か、西班牙語ならむといへることありといふ、さらばとて、西英對譯辭書をもとむれど得ず、何某なる西班牙語を知らむ、君その人を識らば添書を賜へ」とて、これを得て、その人を訪ふ、不在なり、ふたゝび訪ひて遇ひぬ。「おのれは深くは知らず、さらば、君が識れる人に、西語に通ぜる人やあらむ、」「某學校に、その國の辭書を藏せりとおぼゆ、」「さらば添書を賜へ、」とて、さらにその學校にゆきて、遂にその語原を、知ることを得たりき。捕吏の、盜人を蹤跡する詞に、「足がつく」「足をつける」といふことあり、語釋の穿鑿も相似たりと、ひとり笑へる事ありき。その外、酒宴談笑歌吹のあひだにも、ゆくりなく人のことばの、ふと耳にとまりて、はたと膝打ち、さなりさなりと覺りて、手帳にかいつけなどして、人のあやしみをうけ、又、汽車の中にて田舍人をとらへて、その地方の方言を問ひつめて、はては、うるさく思はれつることなど、およそ、かかるをこなる事もしばしばありき。すべて、解釋の成れる後より見れば、何の事もなきやうにみゆるも、多少の苦心を籠めつる多かり。

おのれは漢學者の子にて、わづかに家學を受け、また、王父が蘭學の遺志をつぎて、いささか英學を攻めつるのみ、國學とては、さらに師事せしところなく、受けたるところなく、ただ、おのが好きとて、そこばくの國書を覽わたしつるまでなり。さるを思へば、そのはじめ、かかる重き編輯の命を、おほけなくも、いなまずうけたまはりつるものかな、辭書編輯の業、碩學すらなやめるは、これなりけりと思ひ得たるにいたりては、初の鋭氣、頓にくじけて、心そぞろに畏れを抱くにいたりぬ。また、局長には、おのれが業のはかどらぬを、いかにか思はるらむ、怠り居るとや思ひをるらむ、などおもふに、そも、局長西村君は、そのはじめ、この業をおのれに命ぜられてより、ひさしき歲月をわたれるに、さらに、いかにと問はれし事もなく、うながされし事もなし、その意中推しはかりかねて、つねにはづかしく思へりき。さるに、明治十六年の事なりき、阿波の人井上勤君、編輯局に入り來られぬ、同君、さきに局長に會はれし時に、局中には學士も博士たちもあらむ、何がし、なにがし、と話しあはれたる時、局長のいはるるに、「ここに、ひとり、奇人こそあれ、大槻なにがしといふ、この人、儒家なる學問たるに、一に辭書の業は、よしらへてあるやうなり、かれに一大事業をまかせてより、今は殆ど十年に近きに、なほ、倦まずして打ちかかりてあり、強情なる士にこそ」と、話されぬと、井上君入局して後に、ゆくりなくおのれに語られぬ。おのれ、この話を聞きて、局長の意中も、さてはと感激し、また、その、「強情をとこ」の月旦は、おのれが立てつるすぢを洞見せられたりけり、「人の己れを知らざるを憂へず」の格言もこれなりなど思ひて、うれしといふもあまりありき。げにや、そのかみの官衙のありさまは、倏忽に變遷する事ありて、局も人も事業も、十年の久しきに繼續せしは、希有なる事にて、おのれがこの業に、輦下熱鬧の市街のあひだにありて、十年の間、火災に燒けのこりたらむがごとき思ひありき。そも、この業の成れるは、おのれが強情たといはおほけなし、ひとへに、局長が心のよせひとつに成りつるなりけり、西村君は、實にこの辭書成功の保護者（Patron）とやいはまし。

そのかみは、官途も、今のごとくにはあらず、奔走榮達の道も、今よりは、たはやすかりきとおぼゆ、同僚は、時めきて遷れるも多し、おのれに親しく榮轉を勸めたりし人さへも、ひとりふたりにはあらざりき、されど、かかる事にて心の動く時は、つねに王父の遺誡を瞑目一思しぬ。明治十一年六月、おのが父にておはする人、七十八歲にして身まかられぬ、老い給ひての上の天然の事とはいへ、いまさらの事にて、哀しきことかぎりなし、今よりは、難義の教を受けむこともかなはずと思へば心ほそし、辭書の成稿を見せまゐらせむの心ありしかども、そのかひもなし。この後、幾ほどなき事なりき、同鄕なる富田鐵之助君、龍動（ロンドン）に在勤せられて、「來遊せよかし、おのれ、いかにもして扶持せむ、」など、厚意もて言ひおこせられたり。君の我を愛せらるること、今にはじめぬ事ながらと、感喜踊躍して、さて思へらく、かかる機會は多く得べからず、父の養ひはすでに終へつ、おのれは次子たり、家兄は存せり、家の祀、母のやしなひ、託すべき人あり、また妻もなく子もなし、幾

年にてもあれ、海外に遊びてあられむ程はあらむ、いづこにも青山あらむ、海外にて死にもせよ、さらば、この上に、何をか、事業をとゞめてゆかむ、そのほかに、すなはちこの辭書なるあり、いよいよ不遇にして已みなむ、ともあらず、かく思ひなりて、さて、その頃、おのれは本郷に住めり、父を養はむため、營みつる屋敷なりけり、かかる事の用にとならば、なき靈もいたみ給はじ、など思ひさだめて、やがて、そを賣りて、一千餘金を得、これに蓄儲を加へなどして、旅費をとゝのへて、さて、ひたふるに辭書の成業をいそぎぬ。されども、例の盤根錯節は、たはやすく解けやらず、今はこうじにこうじて、推辭せむか、緩遲せむか、棄てむ、棄てじ、の妄念、幾たびか胸中にたたかへぬ、されど、かかるをりには、例の遺誡を思ひ出でて、しばしば思ひしづめぬ。かくて心のみはやりて、こころならずも日をすぐせる中に、當時、紙幣洋銀の差大に起りて、備へつる腰纏は、思ひはかりし半ばかりとなり、幾程なく富田君も歸朝せられて、いよいよ呆然たり、さてこそ、この願望は、顚妄想の夢とは醒めたれ。およそ、この辭書編輯十年間は、おのれが旺壯の年期なりしを、またくこの事業の犠牲とはしたりき、善く世と推しうつりたらましかば、かばかり沈滯もせざらましを、今は已みなむ。然はあれど、又つらつら人の上を顧みおもふに、時めかしつるも、變遷しぬるも、さてその十數年間、何の業をかなせると見れば、黄粱一夢、鴻爪刻船のさまなるも多かり、我には、數ならねど、此十年間の事業は痕をとどめたり、相乘除せば、さまで歎ずべくもあらじ、まして、箕裘を繼ぎつる上は、この文學の道にかくてあらむは、おのれが分なり、さるにても、世の操觚の人は、史文に、綺語に、とかく花も實もありて、聲聞利益を博せむ方にのみ就くに、おのれは、かかる至難にして人後につき、名も利も得らるまじきうもれ木わざに半生をうづみつるは、迂闊なる境涯なりけり。されど、この業、文學の上に、誰か必用ならずとせむ、必用なる業なれど人は棄てて就かず、おのれは人の棄てつる業に殉せり、いささか本分に酬ゆるところありともせむかし。本篇、引用の書にいたりては、謹みて中外古今碩學かたまものを拜す、實に皆その辛勤の餘澤なり、家に藏せる父祖が遺著遺書のめぐみ、また少からず

編輯中の質疑にいたりては、[illegible]、横山由清、小中村清矩、[illegible]、佐藤誠實、等諸君の教、[illegible]なり、[illegible]言海とつけられしは、佐藤誠實君の考選にいでたり。稿本の浄書をはじめつるは、明治十五年九月にて、局中にて、中田邦行、大久保初男、二氏、この編輯事業につけられ、校字寫字は、おほかたこの二氏の手に成れり。さて、初稿成れりし後も、常に訂正に從事して、その再訂の功を終へたるは、實に明治十九年三月二十三日なりき。

さて、局長西村君は、前年轉任せられ、おのれも、十九年十一月に、第一高等中學校教諭、古事類苑編纂委員などに移りて、本書出版の詮義なども、聞く所あらず。ひととせ故文部大臣森有禮君の第に饗宴ありし時、おのれも招かれて、宴過ぎて後に、辻新次君と鼎坐して語しも、をりにも、君は、多年苦心せる辭書、出版せばや、などと、大臣、親しく、言ひいでられつる事もありしか、編輯の拙き、出版にたへずとにや、或は資金の出所なしとにや、その事も止みぬ。かくて、稿本は、文部省中にて、久しく物集高見君が許に管せらるるときゝしが、いかにかなるらむ。はてはては、いたづらに紙魚のすみかともなりなむなど、思ひいでぬ日とてもあらざりしに、明治二十一年十月にいたりて、時の編輯局長伊澤修二君、命を傳へられて、自費をもて刊行せむには、本書稿本全部下賜せらるべしとなり、まことに望外の命をうけたまはりて、恩典、枯骨に肉するおもひあり、すなはち、私財をかきあつめて資本をそなへ、富田鐵之助君、及び同鄕なる木村信卿君、大野清敬君の賛成もありて、いよいよ心を強うし、踊躍して恩命を拜しぬ。かくて、編輯局の命にて、かならず全部の刊行をはたすべし、刊行の工事は同局の工場に託すべし、篇首に、本書は、おのれ文部省奉職中編纂のものたるを明記すべし、そこばくの獻本すべし、などいふ約束を受けて、十月二十六日、稿本を下賜せられ、やがて、同じ工場にて、私版として刊行することとはなりぬ。

刊行のはじめ、中田大久保の二氏、閑散なりしかば、家にやとひて、活字の校正せむことを託しぬ。稿本も、はじめは、初稿のままにて、ただちに活字に付せむの心にて、本文のはじめなる數頁は、實にそのごとくしたりしが、

數年前の舊稿、今にいたりて仔細に見もてゆけば、あかぬ所のみ多く出できて、かさねて稿本を訂正する事とし、挍訂塗抹すれは、二氏淨書してただちに活字に付し、活字は、初より二回の挍正とさだめたれは、一版面、三人して、六回の挍正とはなりぬ。かくてより、今年の落成にいたるまで、二年半の歳月は、世のまじらひをも絶ちて、晝となく夜となく、ただこの訂正挍合にのみ打ちかかりて、更に他事をかへりみず。さてまた、篇中の體裁も、注釋文も、初稿とは大に面目をあらためぬ

本書刊行のはじめに、編輯局工場と約して、全部、明年九月に完結せしめむと豫算したり　又、書林は、舊知なる小林新兵衞、牧野善兵衞、三木佐助の三氏に發賣の事を託せしに、豫約發賣の方法よからむとすすめらるるにしたがひて、全部を四冊にわかちて、第壹冊は三月、第二冊は五月、第三冊は七月、第四冊は九月中に發行せむと假定しぬ　さるに、此事業、いかなる運にか、初より終まで、つねに障礙にのみあひて、ひとつも豫算のごとくなることあたはず、遂に完結までに二年半をつひやせり、今、左にその障礙のいちじるしきものをしるさむ。

明治二十二年三月にいたりて、編輯局の工場を、假に印刷局につけられたるよしにて、その事務引きつぎのためにとて、數十日間、工事の中止にあひ、さて、二十三年三月にいたりて、編輯局の工場は、終にまたく廢せられぬ。これより後は、一私人として、さらに印刷局に願ひいでずてはかなはず、その出願には、規則の手續を要せらるる事ありて、豫算にたがへる事もおこりしかば、編輯局にうれへまうす事どもありしかど、今はせむかたなしとて卻けられぬ、稿本下賜の恩命もあれは、しひて違約の愁訴もしかねて、それより、家兄修二、佐久間貞一君、益田孝君などの周旋を得て、とかくの手つづきして、からうじて再着手とはなれり、此の間も、中止せられぬること、六十餘日に及びぬ　又、この前後、公用刊行の物輻湊する時は、おのれか工事は、さしおかれたる事もしばしばなりき。かく、數度の障礙にはあひつれど、この工事を他の工場に託せむの心は起らざりき、さるは、同局の工事は、いふまでもなき事ながら、植字に挍正に、謹嚴精良なる事、麻姑を雇ひて癢處を搔くが如く、また他にあるべくもあらざれはなり、見む人、本書を閲きて目止めよかし、

さてまた、本書植字の事、原稿の上にては、さまでとも思はざりしが、さて着手となりて見れば、假名の活字は、異體別調のものなれば、寸法一一同じからず、その外、くさぐさの符號など、全版面に、およそ七十餘とはなり、つかひわけあり、植字挍正のわづらはしきこと、熟練のうへにてもはかどらず、いかに促せどもすすまず。又、辭書のことなれば、母型に無き難字の、思ひのほかに出できて、木刻の新調にいとまをつひやせる事、甚だ多し　およそ、これらの事、豫算には思ひもまうけぬ事どもにて、すべて遲延の事由とはなりぬ　又挍正者中田邦行氏、腦充血にて、二十二年六月に失せられぬ、本書の業につきては、その初より、大久保氏とともに、助力おほかたならず、多年、篇中の文字符號に熟練せる人を失ひて、いといとこうじぬ。また、去年の春、流行性感冒行はれ、年の末より今年にかけて、ふたたび行はれ、おのれも、挍正者も、植字工も、この前後再度の流行に、數日間臥しぬ。また、去年の十月、おのが家、壁隣の火に遇へり。また、挍正者大久保初男氏、その十一月、德島縣中學校教員に赴任せられて、ためめる、臂を失ひていよいよこうじぬ、およそこれらの事、皆此書の遭厄なり　これより後は、先人の舊門たる文傳正興氏に託して、挍正の事を擔任せしめぬ。

遭厄の中に、もとも堪へがたく、又成功の期にちかづきて、大にこの業をさまたげつるは、おのれか妻と子との失せつる事なりけり。爰には不用にもあり、くだくだしうもあれど、おのれの身に取りては、この書の刊行中の災厄とて、もとも後の思ひでとならむ事なるへければ、人の見る目にも恥ぢず記しつけおかむとす。去去年十一月に生れたるおのが次女の「ゑみ」といへる、生れてよりいとすこやかなりしが、去年十月のはつかばかりより、感冒して、後に結核性腦膜炎とはなれり　醫高松氏か病院に、妻小婢(いそ)と共に託せしに、病性よからずして心をなやましぬ　朝夕に行きては、いたはしき顔をまもり、歸りては筆を執れども、心も心ならず。十一月十六日の、まだ宵のまに、まさに原稿の「ゆ」の部を訂正して、筆のおし手の「ゆしあんずるに」ゆのねふからすましたり」などいふ條を推敲せるをりに、小婢、病院よりは

せかへりきて、家に入りて、物をもいはず、そのまま打伏し聲立てて泣く、病の危篤なるを告ぐるなり、筆をなげうち、蹶起してはしりゆけば、煩悶しつつやがて事切れぬ。泣く泣く屍をいだきて家にかへり、床に安して、さて、しめやかに青き燈の下に、勉めてふたたび机に就けば、稿本は開きて故の如し、見れば、源氏の物語、若菜の卷の「さりとも、琴ばかりは彈き取り給ひつらむ、云云、晝はいと人しげく、なほ、ひとたびもゆしあんずるいとまも、心あわただしければ、夜夜なむしづかに、云云、」ゆしは「搖ること」なり、「あんずる」は「按ずる」にて、「左手にて絃を搖り押す」なり、又、紅葉の賀の卷、「箏の琴は、云云、いとうつくしう彈き給ふ、ちひさき御程に、さしやりてゆし給ふ御手つき、いとうつくしければ」、おのれが思ひなしにや、讀むにえたへで机おしやりぬ、この夜一夜、おのれが胸は、ゆしあんぜられて夢を結ばず。死にし子、顏よかりき。をんな子のためには、親、をさなくなりぬべし、など、紀氏の書きのこされたりつるを、さみし思へることもありしに、今は、我身の上なり、實なり、など思ひなりぬ。この小兒の病に心を痛めつるにや、打ちつづきて、家のうちに、母にておはする人をはじめとして、病に臥すもの、五人におよびぬ。妻なる「いよ」なげきのなかにも、ひとり、かひがひしく人人の看病してありしが、妻も、遂にこの月のすゑつかたより病に臥しぬ。初は、何の病ともみとめかねたるに、數日の後、腸窒扶斯なりとの診斷をききて、おどろきて、本郷なる大學病院に移して、また、晝に夜にゆきかよひて病をみ、病のひまをうかがひては、歸へりて校訂の業に就けども、心はここにあらず、洋醫「ベルツ」氏も心をつくされけれど、遂に十二月廿一日に三十歲にてはかなくなりぬ。いかなる故にてか、かかる病にはかかりつらむ、年頃善く母に事へ我に事へ、この頃の我が辛勤を察して、よそながら、いたく心をいため、はた、家政の苦慮を我におよぼすまじと、ひとり思ひなやましてまかなひつつありける狀なりしに、子のなげきをさへ添へつれば、それら、やうやう身の衰弱の種とはなりつらむ、さては、子の失せつるも、衰弱せる母の乳にやもとゐしつらむ、ああ、今の苦境も後にいつか笑ひつつ語らはむ、などかたらひたりしに、今はそのかひなし。半生にして伉儷を喪ひ、重なるなげきに、この前後數日は、筆執る力も出でず、強ひて稿本に向かへば、あなにく、「ろ」の部「ろめい」（露命）などいふ語に出であふご袖の露なる、卷を掩ひて寢に就けば、角枕はまた淚なり、そも、かかるめめしくをぢなき心を、ことごとしう書いつけおかむは、人わらはれなるわざにて、はぢがましきかぎりなれど、この頃の筆硯の苦、人情の苦に、窮措大が囊中の苦さへ、湊合しつる事なれば、後にこの書を見むごとに、おのれひとりが思ひやりにせむとてなり、讀まむ人は、あはれとも見ゆるし給へや。本篇刊行の久しき年月のうちに、おもひまうけぬ災害の竝び臻れること、上にいへるがごとくなれど、誰人かおのれが心事をおしはかりえむ、されば豫約せし人人は、もとより內情を知らるべきならねば、いつも、きびしく遲延をうながされて、發行書林の店頭には、每回の督責狀、うづだかきまでにたりぬ、書林は又おのれを責めぬ、その督責狀なりとて持てくるをみれば、文面もさまざまにて、をかしきもあるがなかに、「大嘘槻（おほうそつき）先生の食言海」などしるしつけられつるもありき。おのれは、まさしく約束をたがへぬ、ひとへに謝するところなり、計畫のいたらざりしは、身を恨むる外あるべからず。そもそも、初より、豫約といふ事せしこと、かへすがへすもあやまりなりき、豫約だにせざりせば、かかるあざけりにあふこともあらじを、など悔ゆれどもせんなし。されど、責めらるるつらさに、夜もふくるまで筆は執りつつ、責めらるるくるしさに、及ぶかぎりは、印刷の方にも迫りつつ、それだにかく後れたり、責められざらましかばいかにかあらまし、など思へば、豫約せしことも、僥倖なりきとも思ひなしぬ。さて、內外の苦情は、身ひとつにあつまりきて、陳謝に陳謝をかさねて、遁るべき道なくなりつつ、又、ふたとせあまりがほどの坐食に、儋石の儲なきにも至りつつ、今はせむすべなくて、さては、篇中、およそ七八分より末は、いそぎにいそぎて、十分なる重訂もえせず、不用なるめりと思はるる語、又は、注に引ける例語のふたつみつあるなどは、愛を割きてけづりて、（篇首の數頁は、初稿のままなり、篇末、又かくのごとし、されば、前後の詳略の、釣りあはぬところも、又、符號などのそろはぬ所も出できつらむ）ひとへに、完結の一日もはやからむことをの

み期しぬ。されば、初には、附錄として、語法指南、字音假名づかひ、名乘字のよみ、地名苗字などの讀みかたきもの、和字、譌字、又は、諺、など添へむの心なりしかど、（語法指南のみは、篇首に按せつ）今はしばらくここにとぢめて、再版の時を待つこととはせり。されど、初は、全篇の紙數、およそ一千頁と計りしが、大に注釋を增補する所ありて、全部完成のうへにては、紙數、二割ほどは殖えつらむ、これを乘除とも見よかし。

辭書は文教のもとゐたること、論ずるまでもなし、その編輯功用の要は、この序文にくはしければ、さらにも言はず。されば、文部省にても、夙くよりこの業に着手せられぬ、語彙の擧は、明治の初年にあり、その後、田中義廉、大槻修二、小澤圭二郎、久保吉人の諸氏に命ぜられて、漢字の字書（本邦普通用の漢字を三千ばかりに限らむとて採收解釋せるもの）と普通の日本辭書とを編せられつる事もあり、こは、明治五年より七年にかけての事なりき、さて、明治八年にいたりて、おのが言海は命ぜられぬ。世はやうやう文運すすみたり、辭書の世に出でつるも、今はひとつふたつならず。明治十八年九月、近藤眞琴君の「ことばのその」發刊となれり、二十一年七月に、物集高見君の「ことばのはやし」、二十二年二月に、高橋五郎君の「いろは辭典」も刊行完結せり。近藤君は、漢洋の學に通明におはするものから、その教授のいそがはしきいとまに、かかる著作ありつるは、敬服すべきことなり。この著作の初に、おのれが文典の稿本を借してよとありしかば、借しまゐらせつれば、やがて全部を寫されたり、されば八品詞その外のわかちなどは、おのれが物と、名目こそは、いささかかはりつれ、そのすぢは、おほかた同じさまとはなれり。そのかみ、君をはじめとして、横山由清、榊原芳野、那珂通高、の君たちに會ひまゐらせつるごとに、「言海はいかに、」と問はれたりき、成りたらむには、とこそ思ひつるに、今は皆世におはせず、寫眞にむかへども、いらへなし、哀しき事のかぎりなり。物集君は、故高世大人の後とて、家學の學殖もおはするものから、これも、教授に公務に、いとまもあるまじくも思はるるに、綽綽餘裕ありて、そのわざを遂げられつること敬服せずはあらず。近藤君の著と共に、裨益多かりかし。「いろは辭典」は、その撰を異にして、通俗語、漢語、多くして、動詞などは、日語のすがたにて擧げられたり、童蒙のたすけ少からじ。三書おのおの長所あり。おのれが言海、あやまりあるべからむこと、言ふまでもなし。されど、體裁にいたりては、別におのづから、出色の所なきにしもあらじ、後世いかなる學士の出でて、辭書を編せむにも、言海の體例は、必ずその考據のかたはしに供へずはあらじ、また、辭書の史を記さむ人あらむに、必ずその年紀のかたはしに記しつけずはあらじ。自負のとがめなきにしもあらざるべけれど、この事は、おのれ、いささか、行くすゑをかけて信じ思ふところなり。

おのれ、もとより、家道裕ならず、されば、資金の乏しきにこうじて、物遠き語とては漏しつる、出典の書名をはぶきつる、圖畫を加へざりつる、共にこの書の短所とはなりぬ、遺憾やらむかたなし。そも、おのれが學の淺き才の短き、この上に多く立ちまさりて、別にしいでむ事とてもあるまじけれど、今の目のまへにてもあれ、資本だに繼がば、これに倍せむほどのもの、つくりいでむは難からじなど、かけておもふ所なきにしもあらず。されど、我が國の文華は、開けつるがごとくみゆれど、いまだ開けず、資金をつひやして完全せしめむには、價を增さずはあるべからず、今の文化の度にては、物の品位に對して廉不廉などの比較は、おきていはず、ただ書籍なんどいはむものに、そこばく圓といふ金出さんずる需用家の多からむとは、かけても望みえず。されば、たとひ資本を得たりとも、收支の合はざらむわざは、をこなりけりと思ひなりて、志を出費の犧牲として、さて已みつるなり。むかしの侯伯には、食前方丈侍妾數百人をはぶきて、文教の助けとある浩瀚の書を印行せしもありき、今の世にはありがたかり。ここにいたりて、韓文公が宰相への上書をおもひいでて、あはれ、力ある人の一宴會の費もがな、などいやしげなるかたゐ心もいでくるぞかし、やみなむやみなむ、學者の貧しきは、和漢西洋、千里同風なりとこそ聞けれ、おのれのみつぶやくべきにあらず。さりながら、この業、もとより、このたびのみにして已むべきにあらず、年を逐ひて删修潤色の功をつみ、再版、三版、四五版にもいたらむ、天のおのれに年を假さむかぎりは、斯文のために撓むことあるべからず

今年一月七日、原稿訂正の功、まつたくをへて、からうじて數年の辛勤一頓と、さて、今月に入りて、全部の印刷も、遂に全く大成を告けぬ、ここに、多年の志を達して、かつは公命に答へたてまつり、かつは父祖の靈を拜して、いささか昔日の遺誡に酬い畢はんぬ。

明治二十四年四月　　　　平　文　彦

この文、もと、稿本の奥に書きつけおけるおのれがわたくし物にて、人に示さむとてのものならず、十七年があひだの艱、忘れやしぬらむ、後の思ひでにやせむ、とて筆立てしつるものなるが、事實を思ひいづるにしたがひて、はかなき述懐も浮びいづるがまにまに、ゆくりなくも、いやがうへに書いつけもてゆけるはてはての、かうもくだくだしうはなりつるなり、さて、本書刊行の成れるに及びて、跋文なし、人に賴まむ暇はなし、よしよし、この文を添へもし削りもして、その要とある所を摘みて跋に代へむ、など思ひはかりたりしに、今は、日に日に刊行の完結を迫られて、改むべき暇さへ請ひがたくなりたれは、已むことを得ずして、本に年月を歴へて、淨書もえせずして、全文をそのままに物することとはなりにたり、さればこの文を讀むことあらむ人は、ただその心して讀み給へかし、もし、さる事の心をも思ひはからず、打ちつけに讀み取りて、ただ一部の書を作り成し得たれはとて、世に事事しき繰言もする人哉、心のそこひこそ見ゆれ、などあながちに我をおとしめむ人もあらば、そは、丈夫を見ること淺き哉、と言はむ、ただ、かへすがへすも、ゆくりなき筆のすさびと見てほほかし給へ。

讀古今集序

いにしへのことをも、筆の跡にあらはし、行きてみぬ境をも、宿たがら知るは、ただこの道なり。しかのみならず、花は木ごとにさきて、つひに心の山をかざり、露は草の葉よりつもりて、言葉の海となるしかはあれど、難波江のあまの藻汐は、汲めどもたゆることなく、筑波山の松のつま木は、拾へどもなほしげし。

同、賀

敷島ややまと言葉の海にして拾ひし玉は
みがかれにけり　　　　後　京　極

There is nothing so well done, but may be mended.

「大言海」第四卷奥附

定價金七圓五拾錢

昭和十一年九月十二日印刷
昭和十一年九月十五日發行
昭和十二年四月二十日八十版發行
昭和十二年十二月十日八十一版發行
昭和十三年一月二十日八十三版發行
昭和十三年十月十五日八十六版發行

著者　故大槻文彦

右相續者　東京市荒川區日暮里町二丁目一六番地　大槻茂雄

發行者　東京市神田區神保町一丁目三番地　合資會社冨山房

右代表者　合資會社冨山房社長　坂本嘉治馬

印刷者　東京市牛込區榎町七番地　平野喜代松

印刷所　東京市牛込區榎町七番地　大日本印刷株式會社榎町工場

發行所　東京市神田區神保町一丁目三番地　合資會社冨山房

電話神田(25)自一七一一番至一七一八番　電信略號（ヤマフ）　振替貯金東京五一二番